文學博士 大槻文彦著

大言海

第一卷

あ——き

東京
富山房發行

序文

大槻博士の言海刊行せられしより茲に四十有餘年、その惠澤に浴せるもの蓋し限りなかるべし。ひとり國語の研究と國文の解釋とに從事する者のみならず、諸科の學徒、一般の讀書子、國語の語詞につきて、その意義その用字その起源その沿革その用例を知らんと欲する者、廣汎にして而も簡素、正確にして以て信憑すべき辭書を求めて、誰か言海を擧げ言海を用ゐざりし者あらんや。言海以來現はれし所の大小幾多の辭書、もとより進步の蹟さばかり顯著なるものありとは云へ、いかなる辭書か、敢て言海に負ふところ少しとせんや。卽ち言海世に現はれてより言辭の學大に進むと稱すべし。

本邦にありてかかる劃期的大辭典たる言海の刊行が完了したりし明治二十四年のころは、十九世紀の末期に方り、恰も歐米諸國に於ても大辭書の陸續世に現はれ、世界の辭書史中にても光彩盛なりし年代に屬せり。卽ち大辭書の出現は東西正にその機運を同じうせしものと云ふべきなり。案ずるに、ウェブスターの名辭書に後るること六十年、グリムの獨逸辭書の初刊を隔つること四十年、リットレーの佛語辭書の刊了を去ること二十年、大槻博士の言海は世に出でしものなるが、顧みれ

ば、著名なるマレーが新英辭典の創刊は、言海初刊第一册の前年に現はれ、米國に於てはウェブスターの改訂第三版の大册、スタンダード辭典の巨册、センチュリー辭書の十二大册、いづれも皆この言海刊行年間の前後に出でたり。　語源辭書にありては、英のスキートの著、獨のクルーゲの作、共に言海を遡ること十年内外なり。　かくの如き幾多の辭書、刊行の年數、編纂の歲月、協力の多少、自力の程度、規模の廣狹、成果の優劣、元より種々異同あるを免れずと云へども、言海初刊の際における本邦辭書界の幼稚なりし有様を思へば、かくの如き歐米幾多の名辭書がそれぞれ自他の國國に於て擧げたりし功績に比例して、言海が我が國語界と讀書界とに與へし偉大なる影響は決して遜色あるものにあらざるを知るなり。

今や故博士が二十年間の偉業たる大言海世に出でんとす。　その間、編纂の辛勞に關しては博士手記の苦心談の本書に添ふあり、以てその一斑を窺ふに足るべく、或は既に、識者の洩れ聞きて知悉する所少しとせざれども、予輩をして獨のグリム、佛のリットレー、共にその精力の老博士に及ばざりしものあるを想はしめずんばあらざるなり。　マレー等の新英辭典が立案後三十年にしてその初册を刊し、爾後四十年にして昭和三年西紀一九二八年を以て漸く十卷十二大册を刊了し、その精到に於て古今に絕し東西に冠たるの概あるは、固より協心戮力の程度同一の談にあ

らざれば、或は以て論外となすべからんも、大言海の四大册が實質に於て編者が殆ど獨自の努力に成りし業績なるを思へば、予輩はその精根その氣魄に對して敬仰の念更に大ならざるを得ざるなり。

大言海が語源の考究に力を盡ししことは、亦著者の苦心談中に詳にせり、別に予の贅言を要せざる所とす。　語源考につきて著者獨創の確說の以て後世の典據とすべきもの頗る多きは亦說くを須ゐず。　これらの卓越せる點につきて、言海が過去四十有餘年の間、我が國語界、讀書界に光明を放ちたりしが如く、大言海が向後永く學術界の指針を供すべきこと固より疑を容れざるなり。

更に回顧すれば、言海出版完了の翌年なる明治二十五年、予は中學の課程を卒へて高等の學校に進みしが、そのころ此の辭書を父より買ひ與へられし予の喜びは譬ふるに物なかりしを覺ゆ。　後年同じ著者の廣日本文典の發刊直後これを購ひて熟讀せしは、予が大學に入りて言語の學に志して一年生のをりなりしが、言海を繙きし際の嬉しさはそれにも勝りたりき。　さて、これよりは五年の後、かれよりは十年の後、明治三十五年以降數年の間、初度の國語調查委員會に在りて、予がかの言海、この廣日本文典の著者として多年景仰したりし老博士に親炙するに至りしは、三十歲未滿の一靑年として感激の情なき能はざりしなり。　今にして三十年前の

昔を憶へば、當年の博士が風貌眼前に髣髴たるものあり。更に遡りてはその舊著たる外來語原考を讀み、新に和蘭字典文典の譯述起原に關する講演を聽き、予が青年期に於て少からざる裨益を得しことは言ふに及ばず、程經て國語の語源に關する博士後年の論說を參考するに至れる頃には、予も亦いつしか語源語史の考證に親しみ、普く東西の辭書の上に興味を感ずること深きに及びぬ。從ひて、昭和三年の春、博士の他界せられしや、予が亦多年親炙して蘭學史料の見聞に請益する所少からざりし令兄如電翁の囑に由りて、故關根正直博士に附驥して、大言海印刷の擧に參與して敢て微力を加ふるに至りしも、因緣決して淺近なりとせざるなり。且つ予今年渡歐の際、我邦將來の國語大辭典編纂の大擧に備へんと欲し、先づ新英辭典の來歷を稽査したりしに、歸朝の後幾ばくもあらずして大言海初册刊行の盛運に遭ひたるは亦偶然なりとせず。夫れかくの如く奇しき因緣の重なるを感ず、是れ予輩の敢て僭越を顧みず、畏敬せる先覺者の大著に對して蕪文を序する所以なり。即ち一は以て國語界と讀書界との爲に此の大辭典の刊行を慶讚し、一は以て予輩後進學徒の奮勵を期せんとするなり。

大言海が著者獨自の力に成れるところ、獨創の考究に由れるところ最も多きこと前述の如しと云へども、令嗣茂雄君の後語にも見ゆべきが如く、尙ほ編輯を補助

せし少數の人々なかりしにあらざるなり。就中、予輩の特筆せざるべからざるは、大久保初男翁が、四十年前の昔、舊刊の言海の編輯及び校正に參加せられし閲歴と七十に垂んとする老齡とを以て、更に今刊の大言海の編纂補助竝に印刷校正に終始殆ど一貫して盡瘁し、尚ほ引續きて不斷の努力を加へられつゝあることにして、予輩この涙ぐましき辛勞に對して、多大なる敬意を表せざるを得ず。

京都　新村　出

昭和七年十月二十三日

大言海刊行緒言

亡弟文彦増訂せる言海を刊行するに臨み、何か一言せんと考思中感得したる一事あり、嘉永二年先人磐溪に修復二兒歌と題せる詩あり、修はおのれ如電にて時年五歳なり、復は文彦三歳なり、其句に、大兒如白石、着着不後人、小兒如黑石、步步只顧身と、げにや子を知るは親に若くは無しと古語あり、能くも幼稚の二兒を見透されたり、白石は姑く棚に上げ、黑石の方を見るに、成人の後に學問着實にして、言海官撰の時も只一人して矻矻十餘年、今回の増訂も明治四十五年に稿を起して亦十餘年、其間瀕死の疾のために一年有餘筆を止む、此増訂は意を語原に置き、廣く雅俗內外の群書に涉り、新舊を引證して折中立說、其說皆步步顧身より出づるなり。

言海増訂中、從來十有餘年、其成稿は阿、加、佐の三行に至る、以下多行より利行に至る筆記抄錄數十帖、猶未だ淨書成らず、凡そ國語の概數は阿、加、佐の三行にて全體三分の二を占むる者なり、されば功一簣に虧くの恨みありといふべし、其印行の完成を待たずして此世を去りしは遺憾此上も無し。

大久保初男といふ男は姻族なり、文部編纂の時の寫字生なり、其後大學古典科國文を卒業し、數縣中學に教鞭を執る、其東京に歸り來るや、時恰言海増訂の初めに當れ

ば、直に文彦の座右に増語の助手として居る亦十有餘年、毎時其持論も聞き其手心も知りつらん、されば筆記抄錄を整理せんも、さのみ苦にはあらじと思はる。

おのれ如電は八十餘歳、着着後人の老脚いかでか掃業の勞に堪へん、仍て校監の事は一切關根新村の兩博士に囑したり、共に其父君より交誼ある所謂通家の好み、此方より懇請し、彼方も亦快諾せられたり、故に其全稿を校刊するも亦遠きにあらざるべし、聊記して言海再刊の緒言に充つ。

昭和五年二月

八十六翁大槻如電識

本書編纂に當りて

文學博士　大槻文彦

初、編輯の體例は、簡約なるを旨として、收むべき言語の區域、または解釋の詳略などは、およそ、米國の「エブスター」氏の英語辭書中の「オクタボ」と云ふ簡略體のものに倣ふべしとなり。おもへらく、「オクタボ」の注釋を翻譯して、語ごとに埋めゆかむに、この業難からずとおもへり　これより、從來の辭書體の書、數十部をあつめて、字母の順序をもて、まづ古今雅俗の普通語とおもふかぎりを採取分類して、解釋のありつるは併せて取りて、その外、東西洋おなじ物事の解は、英辭書の注を譯してさしいれたり。　かくすること數年にして、通編を終へて、さて初にかへりて、各語を逐ひて見もて行けば、注の成れるは夙く成りて、成らぬは成らず、語のみしるしつけて、その下は空白となりて、老人の齒のぬけたらむやうなる所、一葉ごとに五七語あり、古語古事物の意の解きがたきもの、動植物の英辭書の注解に據りたりしもの、仔細に考へわくれば、物は同じけれども、形狀色澤の、東西の風土によりて異なるもの、其他、雜草、雜魚、小禽、魚介、さては、俗間通用の病名などにいたりては、支那にもなく、西洋にもなく、邦書にも徵すべきなきが多し。　かく、一葉ごとに、五七語づつ注の空白となれ

るもの、これぞ此編輯業の盤根錯節とはなりぬる。　筆執りて机に臨めども、いたづらに望洋の歎をおこすのみ。　言葉の海のただなかに櫂緒絶えて、いづこをはかとさだめかね、ただ、その遠く廣く深きにあきれて、おのがまなびの淺きを恥ぢ責むるのみなりき。　さるにても、興せる業は已むべきにあらず、王父の遺誡はここなりと、更に氣力を奮ひおこして、及ぶべきかぎり引用の書をあつめ、又有識に問ひ、書に就き、人に就き、ここに求め、かしこに質して、おほかたにも解釋し、旁、又、別に一業を興して、數十部の語學書をあつめ、和洋を參照折衷して、新にみづから文典を編み成して、終にその規定によりて語法を定めぬ。　この間に年月を徒費せしこと、實に豫想の外にて、およそ本書編成の年月は、この盤根錯節のために、つひやせること過半なりき。

解釋をあなぐる事につきて、そのひとつふたつを言はむ。　某語あり、語原つまびらかならず、外國語ならむの疑ひあり。　或人、偶然に「そは何人か、西班牙語ならむといへることあり」といふ。　さらばとて、西英對譯辭書をもとむれど得ず。「何某ならば西班牙語を知らむ」「君、その人を識らば添書を賜へ、」とて、やがて得て、その人を訪ふ。不在なり、ふたたび訪ひて遇へり。「おのれは深くは知らず」「さらば、君が識れる人に、西語に通ぜる人やあらむ」「某學校にその國の辭書を藏せりとおぼゆ」「さらば添書を

賜へ、」とて、さらに、その學校にゆきて、遂にその語原を知ることを得たりき。捕吏の、盗人を蹤跡する詞に、「足がつく」「足をつける、」といふことあり。語釋の穿鑿もこれに相似たりと、ひとり笑へる事ありき。その外、酒宴談笑、歌吹のあひだにも、ゆくりなき人のことばの、ふと耳にとまりて、はたと膝打ち、さなりさなりと覺りて、手帳にかいつけなどして、人のあやしみをうけ、又、汽車の中にて田舍人をとらへ、その地方の方言を問ひつめて、はては、うるさく思はれつることなど、およそ、かかるをこなる事もしばしばありき。すべて解釋の成れる後より見れば、何の事もなきやうにみゆるも、多少の苦心を籠めつる多かり。

余は、日に夜に語原を研究してあり、この事、苦心中の苦心なれば、語原の研究に就きては、更に、若干條を述べむ。

一語に數義あるものは、その最も古き意義を、語原とすべきは勿論なるが、その語に、古義あるに心づかず、轉轉したる意義につきて考ふることあるを、最も恐るる所とす。又その數異義あるを、時代を以て、何れを先、何れを後と定むること、亦容易なるわざならず、又その意義の轉じたるは、如何なる理由に因るか、その遷れる徑路を示さずはあるべからず、是れ亦苦しむ所なり、

爰に「ばさら」と云ふ語あり。その出典を集めたるに、數異義ありて、先づ古きに、二

義あり、その語原と認むるは、跋折羅(バサラ)、梵語にて、金剛石のことなり、その二は、獨鈷、三鈷、五鈷を跋折羅といふ。

翻譯名義集に「金剛石、梵語、跋折羅。」傳敎大師將來目錄に「五鈷、跋折羅、一口、三鈷、跋折羅、一口。」倭名抄、十三の二丁、僧坊具「三鈷、大日經疏云、獨鈷、三鈷、五鈷、跋折羅、千手經曰、若爲(セ)降伏一切大魔神者、當(バ)於跋折羅手。」無常經云、金剛智杵碎邪山、永斷無始相纏縛。」

鈷とは眞言にて、行を修する時用ゐる金屬製の具にて、大さ、手に握るばかりのもの、首尾、鋒の形を成し、一鋒なるを獨鈷と云ひ、三鋒なるを三鈷、五鋒なるを五鈷と云ふ。

然るに、南北朝の頃、足利氏の將士の衣服、飮食、遊興に過差の奢侈を縱にするに、「ばさら」と云ふ語あり。　江戸時代に及びては、放逸無類なるを「ばさら」と云へり。　この語、前の金剛石、獨鈷の跋折羅と同語なるか、さるにても餘りに、至硬と至軟との差あり。或は後なるは文選の註に、「婆娑、放逸貌」とある婆娑なりと云ふ說もあれど、「ら」を如何にせむかと、案じ煩ふこと久しかりき。

建武式目「近日號婆佐羅、專好過差、云云、風流服飾無不驚目。」

太平記、二十四、天龍寺建立事「そぞろなるばさらに耽りて、身には五色を粧(カザ)り、食には八珍を盡し、茶の會、酒宴に若干の費を入れ、傾城田樂に無量の財を與へしかば、云云。」

寫本洞房語園(享保)「萬治寬文の頃、町町に六法男達といふ者徘徊して、云云、吉原へ入込み、拔折羅狼藉の事共、度度に及ぶ。」　天和笑委記、六「ばさらを好む伊達女。」

然るに、平安朝の頃、雅樂舞樂に笛を吹く、調子、舞を舞ふ手振に、本法の外に出でて、味あるやうに吹き、又舞ふ事を「ばさら」と云ふと云ふことを見出したり。

續教訓抄（文永）十一に、友正が笛を白河院聞こしめし、褒めたまひて、「下薦の笛ともなく、ばさらありて仕るものかな」。 體源抄（大永）九、舞の事「萬人屬目見之、不美何の興かあらむや、ばさらあり、しなあり、振舞はむとすれば、拍子を違へ、又拍子を不乖（ソムカ）とすればばさらなし、云云、此兩事を兼ねて、めでたく見むこと、云云、誠にありがたきなり」。

右の笛、舞の「ばさら」を、中間に入れて解せられたり。

第一、金剛石は至つて堅きもの。

第二、獨鈷等の名に移りたるは、堅きを以て、如何なる煩惱をも碎き、天魔をも打ちすゑて降伏せしむる意。

第三、舞笛の名に移りたるは、本法を破りて、以外の技をすること。

第四、常軌を逸して、過差なる奢侈に耽ること。

第五、又轉じて放縱無賴なる振舞すること。

此の如く、語の時代轉義を次第して、始めて、第五の語原は第四にして、第四の語原は第三、次第に溯りて根本語原の金剛石となり、至硬より至軟に四轉して、意義變遷の徑路、整然分明なるを得たり。 至堅を語原とし、轉轉して終に「ばさら」を好む伊達女など、お轉婆娘の意となり、又「ばさける」などいふ語を生ずるに至る。 語義の變遷、奇なり妙なりといふべし。 植物名、動物名の語原を究むるなどには、先づその物の野

生にあるか、無きかを考へ、野生にあらば本邦固有のもの、無くば外來のものとし、又、その物の名の何時頃の書に、始めて見えたるかを思はずはあるべからず。 これを研究の標準とす。 然して、外國より入れたるは、藥用の必要とせしものなることも、考慮の中に置くべし。

山椒を「はじかみ」と云ふ。 これは野生あり、語原は罅裂子なり。 生薑渡りて、吳のはじかみと云ひき、 辛きこと、椒の如くなれば名づけたるなり。 本草和名に乾薑、久禮乃波之加美」とあるは、天治本新撰字鏡、七の三十六丁に「干薑、久禮乃椒」とあり、これを藥用としたるは、倭名抄、藥名類に「乾薑丸、干薑散」とあるにて知らる。 同書、鹽梅類に「乾薑、保之波之加美」ともあれば、食物の加藥ともしたるなり。 後に藥用の必要として、その苗を取寄せて、土に植ゑたるに因りて、醫心方、三十の二丁に、「土薑」とあり、外來種なること知るべし。

梅も野生になし。 初め支那より烏梅を取寄せて、藥用としたるなり。 因りて、字音にて烏梅と云ひき。 倭名抄、藥名類に「烏梅丸」あり。 醫心方、五の四十丁に、「烏梅」と見ゆ。 後にその苗木を取寄せて、植ゑつけて、烏梅の木と云ひしが、直ちに樹の名となりしなり。

銀杏の成る「いちよう」といふ樹あり。 この語の語原、幷に假名遣は、難解のものと

して、語學家の腦を惱ましむるものにて、種種の語原說あり。この語の最も古く物に見えたるは、一條禪閤兼良公（文明十三年八十歲にて薨ず）の尺素往來に、「銀杏」とある、是れなるべし。文安の下學集にも、「銀杏、異名鴨脚、葉形、如鴨脚」とあり。字音の語の如く思はるれど、如何なる文字か知られず。黑川春村大人の碩鼠漫筆に「唐音、銀杏の轉ならむ」などあれど、心服せられず。降りて、元祿の合類節用集に至りて、「銀杏、鴨脚子」と見えたれど、是れも如何なる字音なるか解せられず、正德の和漢三才圖會に至りて、「銀杏、鴨脚子、俗云、一葉」とあり。始めて、一葉の字音なること見えたり。然れども、一葉の何の義なるか、不審深かりき。賀茂眞淵大人の冠辭考、「ちちのみの」の條にも、「いてふ」と見ゆ。假名遣は合類節用集か、三才圖會かに據られたるものならむか。語原は說かれてあらず。さて和訓栞の後編の出でたるを見れば（明治後に出版せらる）「いてふ、一葉の義なり、「ちえ」反「て」なり、各一葉づつ別れて叢生せり、因て名とす」と、始めて解釋あるを見たり。十分に了解せられざれど、外に據るべき說もなければ、余が曩に作れる辭書「言海」には、姑らくこれに從ひて「いてふ」としておきたり。然れども、一葉づつ別るといふこと、衆木皆然り、別に語原あるべしと考へ居たりしこと、三十年來なりき。

然るに、二三年前、支那に行きて歸りし人の、偶然の談に「己れ支那の內地を旅行せ

し時、銀杏の樹の下に立寄り、路案内する支那人に樹名を問ひしに「やちやお」と答へたり。我が邦の「いちよう」と聲似たらずや』と語れるを聞きて、手を拍ちて調べたるに、鴨脚の字の今の支那音は「やちやお」なり。（支那にては、この樹を公孫樹と云ひ、又、鴨脚とも云ふ）是に於て、案ずるに、この樹、我が邦に野生なし、巨大なるものもあれど、樹齢七百年程なるを限りとす。されば鎌倉時代、禪宗始めて支那より傳はりし頃、彼我の禪僧、相往來せり。その頃、實の銀杏を持ち渡りたる者ありて、植ゑたるにて、その時の鴨脚の宋音「いちやう」（今の支那音「やちやお」は、その變なり）なりしものと知り得たり。その傍證は、實の銀杏を「ぎんあん」（音便にて、ぎんなん）と云ふも、宋音なり。實の名、宋音なれば、樹の名の宋音なるべきは、思ひ半に過ぐ。畢竟するに、尺素往來の「いちやう」の訓、正しきなり。是れにて、三十年來の疑ひ釋然たり。因りて、この樹名の語原は、鴨脚の宋音にて、假名遣は「いちやう」なりと定むることを得たり。

右と同時に、行脚（アンギヤ）といふ宋音語あり。鴨脚（イチヤウ）と比ぶるに、脚に「きや」「ちや」の差あり。是れは、その傳へたる地方の音に因つて異なるなり。今も支那の地方に因つて、脚の音に「きや」といふあり、「ちや」といふあり。禪宗の臨濟宗、曹洞宗に用ゐる漢語に、同語にて宋音の異なるもあり。林逸節用集、安の部、雜用に「行脚（アンギヤ）」と見ゆ。

又、泥中に棲息する魚に「どぢよう」と云ふあり。この語の語原は、何なるか、假名遣

も「お」なるか「じ」なるか究めがたくして、是れ亦、國語學者の苦しむ所なり。

先づ、假名遣につきては、土佐人は、日常言語の發音に「ぢ」「じ」の區別を現存す。嘗て、その國人に「どぢやう」の發音を聞きしに、「ぢ」なりと答へき。この語は、文安の壒嚢抄の一に「鰌、土長」と見えたるを最も古しとす。因つて舊版の「言海」には「どぢやう」としたり。長享二年の賦魚鳥連歌にも「友どちや、うちむれ霞む野に出でて」などとあり。されどその原は、如何なることか、解せられざりき。

明應の林逸節用集には、魚偏に丁の字に、ドジヤウと傍訓してあり。東京市中の飮食店の暖簾看板には、一定して「どぜう汁」と書す。

語原につきては、本草の泥鰌の轉なりと云ふ說などあり。されど、本草などいふ書中の語の、我が民間の通用語となるべき謂れなく、且つ「ぢ」「じ」の違ひもあり、或は泥生、又は土生の說などもありて、歸着する所を知らざりき。

然るに、高田與淸大人の松屋筆記の三に、「泥鰌、泥津魚の義なるべし」とあるを見て、驚きたり。この魚、外來のもののならず、開闢よりありしもののなるべければ、字音の語ならず、國語なるべきことに、おぞくも早く思ひつかざりき。我が思考力の斯くも鈍なるかと、恥ぢ思ひぬ。

この語、泥津魚なるべきこと、動かすべからず。且、この語に之の意なる「つ」のある

に因りて、古語なるを知る。古くは清音にて、「とろつうを」なりしこと疑ひなし。我が古語に、首音の濁るものなきは、一般の通例なるに、これは濁り、又「つ」は天つ風、沖つ波、など清音なるべきが如くなるにも拘はらず、これは濁り、又「ろ」を略し、「うを」を「を」といふなどにつきて、高田大人の說を、尙詳細に敷衍すべし。

元來、泥といふ語は、盪けたる意にて、清音なるなり。今も、とろとろなど云ふ。日本後紀、延曆十五年八月に「遊獵登勒野」、類聚國史、三十二、天長六年十月に「幸泥濘池、羅獵水鳥」(今の山城の、みどろの池、又、みぞろの池)とある、いづれも清音なり。「とろ」の濁音となれるは、水を冠らせて、「みどろ」と用ゐ、連聲にて濁れるを、(水嵩、水草、血みどろ、汗みどろの如く)その「み」の略せられて、「どろ」の濁音のみ存せるなり。「とろ」の「ろ」を略するは、「をろがむ」(拜む)が「をがむ」となり、「こころもち」(心持)が「ここち」となる例あり。「つ」は、前に擧げたる壒囊抄に「土長」とあり、賦魚鳥連歌に「友どち」とあれば、室町時代までは、清音なりしと思はる。然れども、濁るは、「嚴之靈(雷)」を、奈良朝時代の佛足石の歌に、「伊加豆知」とある例もあり、「うを(魚)」を「を」といふは、倭名抄に、「白魚、之呂乎、」(康頼本草に、「白魚、之呂宇乎」とあり)「針魚、波利乎」とあり。

右の旨に因りて、この魚の名の語原は、泥之魚にて、それが「どろつを」と濁り、又轉じて「どぢやう」の假名遣を定むることを得たり。又「ざうさ(造作)」、「旅費を「道中ざうさ」な

どいひ、力を費さぬことを「ざうさない」といひ、この「ざうさ」と云ふ語は、種種に用ゐられて、造作の字を書けり。この語の材料を集めたるに、意義凡そ三轉せり。

第一、造作は、家を造ること。

明月記、天福二年八月五日に「京中大火、自翌日皆造作」。沙石集、弘安三の上、北條泰時が住所の修繕に「民の煩ひを思ひて、遂に造作なかりけり」。

第二、家を造る費用より轉じて、直ちに、

入目、入費のこと。渡邊幸庵對話(寶永の記、この人、正德元年、百三十歳にて歿すに、水戸光圀卿に朱舜水の言「御庭之西湖、相違有」之旨難じ、云云、悉く直し候は、造作なる事に候。」

色三味線(寶永)に「水風呂より湯風呂が德なれど、これをこしらへることを造作に思ひ、云云。」

第三、出費の辱きを謝する意より移りて、人の饗應に會へるに、挨拶に云ふ語となる

御造作でござりました。仙臺にて、人よりの贈物を謝する通語として、「おいたみをかけまして、おきのどく。」

第四、出費なき意より轉じて、「ざうさない」は、容易(タヤス)しの意となる。無造作(ムザウサ)と云へば、力を費さぬ意なり。

家を建てて後、敷居、鴨柄などを取付け、疊建具など入るるを「ざふさく」といひ、造作などと字を當つれど、是れは、雜作の字なるべし。　作の字の音、造る意なる時は、卽各反なり。

すべて、前人の説を取り、その事を言はずして、我が著作に記すは、剽竊なり。　何書何人の説なること擧げずはあるべからず。　さるに、何某の説と定めかぬるものありて、編纂中の一の苦心となれり。

初、某氏の説ならむと認めたるものの、諸書を閲しゆく中に、それより前なる他書に、それを見出し、又、更にそれより前なるより見出すことあり。　又、同時なる諸書に、互に出でたるもあるは、伴信友大人、橘守部大人、鹿持雅澄大人の説などに多し。是れ等、暗合なるべけれど、何れを創説と定むべきなく、此の如きもの、殊に少からず。　かかる事情あるのみならず、余が見聞の狹き、更にその前、その他の書にあらむも知るべからず。　因つて、凡そ、元祿以後の書なるは、特別なるものの外は、何人の説なりと記さず。「と云ふ」として自説ならぬを標しおくこととしたり。　實に已むことを得ざればなり。

伊勢物語に、富士山の事を、「その山は、此處(京都)に譬へば、比叡の山を二十(ハタチ)ばかり重ねあげたらむほどして、形(ナリ)は「しほじり」のやうになむありける、」とある。　この「し

ほじり」といふを、古くより、難解の語として、種種の說あるは、人の知る所なり。然るに、名古屋の天野信景大人の隨筆なる「鹽尻」に、この語を、鹽濱にて鹽を燒くに、沙を聚めて堆を成し、これに潮水を浸し、日に曝らす、これを「しほじり」と云へり、富士の形に似たりと解かれたり。（されど、「しほじり」の「しり」の語原、解すべからず、然して、この說を、その隨筆の開卷第一に記し、且、その書名とせられたるは、この語釋を創見と思はれたるかと思はれ、人も然、思へるやうなり。）

天野大人は、享保十八年、七十三歳にて歿せられぬ。（大人の名の信景は「さだかげ」と訓むと、名古屋市史の編者堀田璋左右氏語られき。）

同時の正德年中の風流後日男册子に「女房は、御所方に奉公せしとて、今に、そのうつりあつて、しほらしく、すりこ鉢のうつむけてあるを、富士山と見立て、形は「しほじり」のやうにと、よろづに、きやしやなる言ひかた云云」ここに、鹽燒くしほじりとはあらねど、已に鉢を伏せたる形と云ひてあり、しほじりは、難波の川尻の事などいふ說には、遙に立ちまさりたり。

さるに、豈圖らむや、この頃より遙に二百五十年前に、この說あらむとは。　應永十三年の古今序注に「富士山に多くの名ある中に、しほじり山と云ふ、云云、海士の鹽たるるに、砂をたれはてて後、打ちこぼす沙を「しほじり」となむいふ。　彼山、その

しほじりの姿に似たり、故に、しほじり山といふ、云云、伊勢物語に云云」こあり、(比古婆衣、十九)ここに「砂をたれはてて後、打ちこぼす沙」と云へる、卽ち「鹽後（シホジリ）の沙」にて、後（シリ）の語原は、是れなり。 沙を大笊（オホザル）などやうの物に盛りて、覆へし棄つるに因つて、鉢を伏せたらむ如き形を成すなるべし。 當時の製鹽法、略知るべし。

語原、或は、鹽代（シホジロ）の轉ならむも知るべからず。 日本後紀、大同二年八月、伊勢神宮の告文に、「禮代（ヰヤジロ）の大幣帛」出雲國造神賀詞に「神の禮自利（ヰヤジリ）」とあり。 是れは、試みに言ふのみ。 されば、天野大人の「鹽尻」の說は、古今序注と暗合にもあるべけれど、創見とはせられず。 (製鹽法の違ひは、古今に變遷あるなり。)

和訓栞、前編、しほじり「伊勢物語に、不二の山の事を、形（ナリ）は「しほじり」のやうにてと書けり。 海人の潮たるる砂をたれはてて後、打ちこぼしたるを、鹽尻と云ふ。 今もいふ詞にて、鹵坵也と云へり、」とあるは全く、古今序注の說なり。

帶說。

帶說といふ事あり。 支那にて或語に、不用の語を附帶せしめて用ゐることなり。
この帶說に心付かずして、語原を考ふるに、迷ひし事あり。

風雨。 易經に「潤ㇾ之以二風雨一」極めて古き書なれど、風の字は帶說のやうに思はる。

緩急。 緩なると急なるとなれど、唯、危急なる意にも用ゐらる。 史記、袁盎傳「今、公、

常從數騎、一日有緩急、寧足恃乎」。
利害の利、早晩の早も、帶說なることとあり。
翡翠　翡は鳥の羽の赤きなり。翠は青きなり。水鳥の、やませびを翡翠と云ひ、又翠鳥といふよりして、唯、綠なる意となり、綠髪を形容して、翡翠の髪狀など云ひ、純綠なる玉を翡翠玉と云ひ、翡は帶說となる。

異物志云、翠鳥、赤而雄曰翡、青而雌曰翠。

國家、自家。　家の字を帶說とする場合多し。

睡覺。　支那北京邊の音、睡むること。

虎狼。　朝鮮の音、虎のこと。

帶說の語、尙あり。　この帶說といふものを考ふるに、支那語には「た」「きふ」「こく」などに、同じ發音のもの、極めて多く、耳に聞きて紛ひやすければ、猶「言緩急之急」などいふ心にて、急といふに「緩急のきふ」、國といふに「國家のこく」と、氣づくる爲に、附して言へるなるべし。　然して、字に書きて、目に見する場合には、言ふを要せざれど、元來、談話の語なるが、書記にも移りたるならむ。　我が邦にても、金山寺、徑山寺（共に支那の寺名）を耳に聞きては、聞きわけがたければ、「かね金山」「こみち徑山」など云ひ、人名に「すけ」といふ字、種種あれば、「ほ輔」「じよ助」など云ひ、その他「くろ玄」「もと元」「はた秦」「すす

む晉」など言ひわくること、皆談話の上の事なるにて知らる。（近き頃の唱へに、「きみ公」「そろ侯」、候にはあらざれど）

謠曲の猩猩に、「これは、唐土(モロコシ)かね金山の麓、揚子(ヤウス)の里にかうふうと申す民にて候」など云ふも、舞臺にて、口に謠ふに因るなり。

我が邦にても、二字の熟語に、各その意義あるを、一字を無意義に用ゐるやうになりし語あり。亦、帶說の姿をなせり。語原を研究するに、心得べきことなり。

與奪(ヨダツ)。生殺與奪の權など云ひて、與へ又奪ふ意なるを、奪を無意味にして、唯、讓り與ふる意にのみ用ゐらるることあり。子に職を讓るなどにも云ふ。

職原抄、太政官。左大臣、「關白之人、爲㆓左大臣㆒時、右大臣、行㆓一上(イチノカミノコト)事㆒、是依㆓關白與奪㆒也、」一上は、上卿(シヤウケイ)の一の義にて、左大臣の異稱なり。太政官中の事を、一切統領すればなり。海人藻芥(アマノモクヅ)中、「權中座於㆑有㆓指令㆒者、次第次第、次人可㆓與奪㆒。」

東常緣の宗祇に贈れる消息に、「拾遺、後撰、愚老書寫之本云、貴老へ與奪侯。」（東野州拾唾、北邊隨筆、初編三）

離合迷字。

支那にて離合迷字といふことあり。一字の偏と旁とを離し、或は二字合はせて一字として、迷字（謎）を作るなり。我が邦にも、語原ならで、字源を考ふるにつきて、この事を念頭に置かずはあるべからず。

絶妙の字を分けて、色絲少女として、黃絹幼婦と云ひ、（世說、捷悟）貨泉の泉を取りて、

白水眞人と云ふなど、離迷字なり　六十一歲を華甲と云ふは、華の字の中に、十の字六つ、一の字一つあればなり（本卦回なり。甲は十干の甲、雙井（井井）を八十とし、来を四十八とするなど同じ。是れ等は、合迷字なり　中井積德先生履軒の、その著、通語の末に、その氏を隱して、「檻泉二箇、左壅右涸」とせられたるは、二井の左右なくて、中井なるなり。

貴族の家に、裁縫受持の婢を、針妙（シンミョウ）と云ふ。今も宮中に召仕はるる者に、この稱ありと聞けり。普通には、お針と云ふなり　この針は解せらるれども、妙とは如何に。針仕事に優れたるに云ふ意にもあるまじと考へ居たりしに、醒睡笑（元和）の三自墮落の談に、或檀那寺に參り、暫く雜談して立去るに、明日、無菜の齋（トキ）を申さむと云へば、庫裡から「めう」が楚忽に出で、言ひける、「幸の事や、明日は、お坊樣の精進の日ぢや」とあり。この「めう」は妙にて、少女の合迷字なり。梵妻の隱語なり。この妙の、專ら針仕事する者に、針を冠らせて、針妙と云へるなり　僧侶の隱語の、普通語となりしを悟り得たり。

ウルユスと云ふ賣藥あり。片假名書きの看板の、今も、場末の生藥屋などに掲げてあるなり。この藥名、片假名なれば、阿蘭陀藥ならむと思ひ、遍く和蘭の辭書を探りたれども得ず。然るに、何ぞ圖らむ、離迷字ならむとは。この藥は、緩和の下劑な

れば、腸内を「空(ムナ)シウス」の心にて、「空」の字を三分して作りたる名なるを知りて、捧腹絶倒せり。ウツホを〓の字に作れると、好對なり。明和、安永、天明の頃、幕府の老中、田沼玄蕃頭、全權の驕奢にて、和蘭の器物を愛玩したるに因りて、一時、蘭器、蘭藥など、大に流行せり。その頃、賣れゆきの好からむを圖りて、蘭藥めきたる名を附したるものとおぼゆ。(又、一説に、蘭醫ウルユス氏の處法によるとも云ふ。)

米を離して八木(ハチボク)とし、社木を合して杜(モリ)とし、土杯を坏(ツキ)、緣木を椽(エン)(緣側)、風木を凩(コガラシ)、風巾を凧(イカノボリ)、十じ(十字)を辻、文メを匁、(唐ノ開元通寶ノ一文ノ目方)又手を扠(サテ)、船尾木を梶、肉の雪白なる魚を鱈、東海の魚を鰊とするなど、枚擧すべからず。字を省きたるは、春日部を春部(カスカベ)、五十日嵐(イカアラシ)を五十嵐(イガラシ)なども、少からず。

倒語。

「あたらし」と云ふ形容詞は、惜むべしの意なり。可惜事(アタラコト)など、今もいふなり。「新しき」意なる形容詞は、「あらたし」なるべきを、「あたらし」といふは、平安朝の頃より紛ひたるにて、奈良朝以前には、言はざりし語なりと云ふ。この「らた」の「たら」となりたるは、「あらたし」の發音滑らかならざれば、發しやすきに從へるものか、とにもかくにも、顚倒なり。

萬葉集、二十の十一丁(一本)「年月は、安良多安良多に、相見れど、我が思ふ君は、飽き足らぬかも。」

催馬樂新年「安良多之支年の初に、かくしこそ、仕へまつらめ、萬代までに」尊圓法親王御筆、鍋島侯爵所藏（書苑、七ノ二）

古今集二十、大歌所「あたらしき年の初にかくしこそ千歳をかねて樂しきをつめ。」

文字には、定考と書きて、倒さまに、「かうぢやう」と讀むが讀例となり居るなり。是れは、倒讀にあらず、讀例なり。この讀例は「ぢやうかう」と讀めば、上皇とも聞ゆるを憚りてなりと云ふ。然る時は、平安朝の頃より「ぢやう」「じやう」「かう」「くわう」の音、既に混淆したりしものか。

定考とは、六位以下の官員に、加階せしめむが爲に、その人物、行跡を定め考へらるる儀なり　稱唯といふ語、是れも「いしよう」と倒讀すべき讀例なり。是れは、漢文法に稱唯と書きて、それを「稱」唯と讀むなれば、「稱」唯の意にて、そのまま「いしよう」と云ふなるべし。

「おおと申す」とは、敬ひて應へて「おお」と聲を發することとなり。

山城の太秦の牛祭祭文（惠心僧都の作と云傳ふ。寛仁元年、七十六歲にて寂す）に、「僧坊の中に忍入て、物取る世古盜人」とあり、「こそこそ」「こそこそどろばう」「こせこせ」「こせつく」など云ふは、この世古の倒さになりたるものなるべきか、又は頭に「こ」を加へて「こせこせ」が「こそこそ」とつづまりたるものか。

舊本今昔物語、二十七ノ十八語に「格子の迫の塵ばかりありけるなり、此板、こそこそとして入りぬ。」

宇治拾遺、六、觀音經、化蛇、「蛇(クチナハ)云云、谷より岸の上ざまに、こそこそとのぼりぬ。」

ぐりはま(名)、又、ぐれはまといふ。　江戸時代の初より行はれし語にて、蛤(ハマグリ)の倒語なり。　物事の喰違ふ意に云ふ。　蛤は、兩殼の合口は、極めて密接するものにて、逆にすれば合ふことなし。

佐夜中山集、(寛文)宗因「ありがひも、何ぐりはまの、生御魂(イキミタマ)、老後の述懷の作かと云ふ。

男子の鬢毛生際(ハエギハ)の剃付(ソリツケ)の風に、外へ圓く弓形なるを、「はまぐり」と云ふ。　これと反對に、内へ剃込むを「ぐれはま」といふ。

(柳亭筆記、二)

俳諧破邪顯正(延寶)に「清水の瀧を、瀧の清水などと言はば、作意にもなるべし。　祇園林を、林祇園とは言はれまじ、云云。　是を連歌にては芋の山(山の芋の倒)とて、大きに嫌ふ。　俳諧にては、ぐりはまと云ふ。」

連歌俳諧に、「今宵の月」を「月こよひ」「をちこちの野邊」を「野邊のをちこち」と云ふを難ずる者あり。　東花坊の十論に「畠山左衞門佐」を「助左衞門」とすれば、農夫となり、「商賣往來」を「往來商賣」とすれば、道中飛脚か雲助か。」

最近の物の注釋には困却すること尙多し。　たとへば、飛行機の如き、骨折りて調べて、その構造など記すに、半年過ぎぬに、その製造全く變ず。　かくては、二年も經なば、辭書の解は誤となりて、却つて人を惑はすこととなるべし。　その外、郵便規則の如き、頻繁に改正せられ、酒醬油の如き、日日、新製法起る。　されば、此の如きものは、漠然と記し置くこととせんとす。　飛行機は、人の乘りて空中を飛行する機械、とやう

にして、その專門の書に讓るべし　目前の物事は、現在、その道の人に聞かば知られむ。　辭書は、古き書を讀み、不審なる語にあへる時、引きて見るといふこと多ければ、余は、古き語に力を致すべし。　新しきには、作者、自らその人あるべし。　語原硏究の話、一寸思ひつきたるところ、此の如し。（大正四年十一月記）

大言海第一卷の發刊に際して

父翁文彥が言海（ことばのうみ）を世に出ししは明治二十四年の春にして、今を去る四十二年の昔なりき。爾後、二十有餘年が間は、何等の訂正增補をも施さずして過ぎたりしが、明治四十五年の春、坂本嘉治馬氏の懇切なる勸めによりて、これが增訂に意を決し、尋いで六合館主林平次郎、冨山房社長坂本嘉治馬の兩氏と出版の契約を結びしより、その編輯室を己が住居なる根岸御行の松の下なる雨松軒に置き、語詞の採擇と語原の考證とを始むるに至りぬ。これ畏くも　明治大帝の神去り給ひし年にして、父翁六十六歲の夏なりき。

爾來、夙に起き夜半に寢ね、或は群書を博搜し、或は親友に質問し、又材料を新聞雜誌中に求め、應對會談の裡に探り、片言隻語をも忽せにすることなく、ひたすら躬ら編纂に努めたりき。かくて阿行、加行、佐行の三行は訂正增補の稿を完了したりしが、多行以下の增訂は纔かに原稿を作り了りたるのみにて、未だその淨書を見るに及ばずして、昭和三年二月十七日、八十二歲にて白玉樓中の人となりしは、いと口惜しかりけり。初め父翁の大言海の編輯に取り掛るや、その編輯の補助として文學士松平

圓次郎氏、濱野知三郎氏これに與り、大正三年の夏には大久保初男氏、沖繩より歸り來りて參加せられたり。かくて大正八年の暮に至るまでは、主として語詞の採擇に從事し、翌春より漸く原稿を整ふるに至りしが、往年の言海は專ら普通語の辭書として編纂せしを、今この大言海はその單純なる增補にはあらで、古語雅言の外、今言俗語はいふも更なり、普く新古の外來語に及び、語詞の擴充頗る廣汎なる範圍に亙れるものとす。殊に語原の闡明は父翁の最も力を盡しし所にして、出典の徵證、年代の指示に意を致したること亦甚大なりき。かくの如くにして、阿行の如きは稿を改むること五回、加行、佐行、亦これに次げり。大正十二年の春、松平、濱野の兩氏辭せられし後は、編纂を補助する者大久保氏一人となり、その後、川瀨重憲氏に囑せしことありしも、氏は程なく群馬縣に赴任せられたれば、大久保氏の勞ますます加はりぬ。かくて昭和三年春、父翁歿せし後には、大槻如電自ら編輯を督し、新に關根正直、新村出の兩博士に指導を乞ふこととなり、爾來、兩博士監督の下に大久保氏、專心原稿の整理に從事し、活版に附するに及べり。曩に原稿の淨書につきては舍弟大槻正二、姪中村浪子、同靜子これを擔任せしが、今活版の校正に際しては高野暢、高木好次の二氏加はりて、これに力を注がれたり。高木氏は昭和五年の秋、辭せられしが、尋いで翌

昭和六年正月十二日、不幸の日は再び來り、如電が八十七歳を以て、この世を去るに遭へり。この後は大久保氏一人專ら原稿の整理に從ひ、校正には高野氏主としてこれに當り、新に伊藤文一、佐藤榮七兩氏の參加を得て、遺漏なきを期し、晝夜兼行以て終結を急ぎたり。

然るに昨年十一月、林平次郎氏の七十一歳を以て他界するあり、今年五月、關根老博士の七十三歳の齡にて身罷らるるあり、痛傷更に加はりたりしが、かかる不幸うちつづく裡にも、今茲に第一巻の刊行を見るに及びしは、不肖茂雄の身にとりて、喜悦極りなき所なり。乃ち直にこの書を父祖の墓前に捧げて以てその靈を慰めんと欲す。これ偏に編輯を補助せられ、校正を擔任せられし各位の賜物なることは固よりのことにて、感銘する所最も大なり。その他、父翁が直接また間接に裨益を受けし幾多の先哲前賢、先輩辱知に對しても謹んで感謝の意を表せざるを得ず。出版に關しては林、坂本の兩氏が二十有餘年の長きに亙りて表せられたる懇篤なる情誼を深謝し、又冨山房編輯部主任文學士長谷川福平氏及び同出版部員杉山榮一氏の細心なる注意を多謝するものなり。又組版は言海と同形の四六二倍判なれども、從來の三段を四段となし、使用活字は五號、八ポイント、六ポイント以下二十二種、その他を

加ふれば三十種を越えたり。かかる煩雜極りなき印刷の遂行に關して、終始盡瘁せられし日清印刷株式會社の社員及び整版工、印刷工、その他の諸氏に對しても、その勞苦を多とするものなり。

昭和七壬申歳秋季皇靈祭の日雨松軒に於いて

大槻茂雄しるす

凡例

(一) 此篇ニハ、古言、今言、雅言、俗言、方言、訛言、其他、漢語ヲ、初トシテ、諸外國語モ、入リテ通用語トナレルハ、皆收メタリ、然レドモ、甚シキ古言ハ、漏ラセルモアリ、且、漢語ハ、普通和文ニ上ルモノヲ限リトセリ、方言ハ、國語調査會ノ調査ノヲ取リテ、諸國邊土ノモノハ、漏ラセルモノ多シ、

(二) 篇中、高尙ナル、學術ノ專門語、又ハ、地名、人名、等ノ固有名稱ハ取ラズ、但シ、固有名ナレドモ、神佛ノ名、禁闕、宮殿ノ稱、官署ノ號、其他、器物ノ名等ノ、常ニ書册ニ見ハルルガ如キハ取レリ、

(三) 熟語ハ、熟シテ別ニ一義ヲ、起スモノヲ取レリ、「あか-がひ(赤貝)」「いし-ばひ(石灰)」「やま-どり(山鳥)」ノ如シ、而シテ、「まつ-やま(松山)」「すぎ-ばやし(杉林)」「はる-かぜ(春風)」「くろ-くも(黑雲)」ナドハ收メズ、語每ニ解スベケレバナリ、漢語、外國語ナルモ然リ。

(四) 從來ノ辭書ニハ、語ト句ト、ノ別ナク、「あし-の-うら(足之裏)」「あふぎ-の-ぢがみ(扇之地紙)」ナドヲモ出シタレド、是レ等ハ、自ラ三語ナルベク、其語ヲ各條ニ就キテ見バ、解セラルベシ、サレバ、此類、一切除ケリ。　但シ、句ノ如クニテ句ナラズ、一熟語トナリテ、別ニ一義ヲ成セルモノハ、如何ニ長クトモ、皆擧ゲタリ、「あま-の-がは(天河)」「よめ-が-さら(介名)」「きつね-の-かみそり(草名)」「たひ-の-むこ-げんぱち(魚名)」「けくに-もの-まうす-まうちぎみ(申食國政大夫)」ノ如シ、其長キハ、「りゅうぐう-の-おとひめ-の-もとゆひ-の-きりはづし(海藻名)」ヲ極トス。

(五) 動詞ノ熟語モ、別ニ一意ヲ、成セルヲ取レリ、「こころ-う」(心得)「おち-いる(落入)」「こころ-みる」(心見)「さか-のぼる」(逆上)ノ如シ、而シテ、「あゆみ-ゆく(歩行)」「よみ-をはる(讀了)」「かき-しるす(書記)」「うち-な

らす(撃鳴)ナドハ收メズ、箇箇ニ意ノ解セラルベケレバナリ。

(六) 名詞、又ハ漢語ニ、す(爲)ト云フ、動詞ヲ添ヘテ、「志をりす」(栞)「志るべす」(導)「ぎろんす」(議論)「くふうす」(工夫)ナドト用ヰルコトアリ、是レ等、一箇ノ動詞ノ如クナレドモ、斯クナサバ、諸ノ名詞、漢語、皆、動詞トナルベキヲ以テ、今ハスベテ擧ゲズ、「志をりヲす」「ぎろんヲす」ト箇箇ニ解スベキナリ。但シ、「つみす」(罪)「ものす」(物)「なみす」(無)「けみす」(撿)「げす」(解)「かんず」(感)「おくす」(臆)「ぐす」(具)「こうず」(困)ノ如キハ、善ク熟シテ一語ノ如クナリタレバ、擧ゲタリ。

(七) 同語ナレドモ、其意義、甚シク變ジテ、別語ノ如クナレルハ、別條ニ擧ゲタルモアリ、例ヘバ、「鐘」モ、「鉦」モ、「金」ト同語ナレド、「五金ノ總名」ト、「つりがね」ト、「たたきがね」トハ、義甚ダ同ジカラズ、又、「合フ」ト「逢フ」トハ、同語ナルベケレド、一ハ「共ニナル意」ニテ、一ハ「相見ル」意トナル、此類ハ、皆、別條トシテ掲ゲタリ。

(八) 「不可思議」「以心傳心」「旁若無人」「老少不定」ノ類ハ、句ナレドモ、毎ニ、音讀ニテ通用シテ、普通辭書ニ、收ムベキモノナルガ如シ、因リテ句トシテ出セリ。

(九) 和語、漢語、諸外國語ノ別ナク、スベテ、假名ニテ記シテ擧ゲタリ、其音ノ順序ニ據リテ、採ルニ便ニセムトテナリ、而シテ、其頭字ヲ、五十音ノ順ニテ列ネ、其第二字、第三字、第四五字以下モ、スベテ、五十音順ニテ列ネタリ。

(十) 也行ノ「い」「え」ト、和行ノ「う」トハ、阿行ノ「い」「う」「え」ト、形同ジクシテ別チ難ケレバ、スベテ、阿行ノ中ニ收メタリ、故ニ、「おゆ」(老)「つひゆ」(費)ノ「ゆ」ハ、也行ノ順ニ居テ、「おい」(老)「つひえ」(費)ノ「い」「え」ハ、阿行ノ順ニ入リ、「うう」(植)「すう」(居)ノ「う」ハ、阿行ノ列ニアリテ、「うゑ」(植)「すゑ」(居)ノ「ゑ」ハ、和行ノ列ニ

入レリ。

(十一) 濁音、半濁音ハ、スベテ、其清音ノ次ニ列ネタリ。

(十二) 鼻聲ノ「ん」ト、促聲ノ「ツ」トハ、常ノ音ナル「む」又ハ「つ」ト、固ヨリ、異ナルモノナレバ區別セリ、サレド五十音外ノ假名ニテ、其順序ノ定ムベキナシ、因リテ、今ハ、舊慣ニ隨ヒテ、「ん」ヲ「む」ノ次ニ列ネ、促聲ノ「ツ」ヲ常ノ「つ」ノ次ニ置ケリ、索引ニモ自ラ便ナルベシ。

(十三) 「い、ゐ、ひ」「え、ゑ、へ」「お、を、ほ」「わ、は」「う、ふ」「じ、ぢ」「ず、づ」等ノ別、其他、「あふぎ(扇)」「おふし(啞)」「をうな(女)」「さふらふ(候)」「たふる(倒)」「たふとし(貴)」「けふ(今日)」「てうづ(手水)」「めうが(蘘荷)」等ノ假名遣、スベテ區別セリ、委シクハ、後ノ索引指南ニ擧ゲタルヲ見ヨ。

(十四) 俗言、方言等ニハ、語原詳ナラズシテ、假名遣ノ確定シガタキモ、稀ニハアリ、「げぢげぢ」(蚰蜒)「どぢやう」(泥鰌)ノ「ぢ」「ぢや」ノ如シ、サル語ハ、今回、決定シテ擧ゲテ、其由ヲ記シ置ケリ

(十五) 「ははき(箒)」「かはほり(蝙蝠)」「かはほね(骨蓬)」ハ、今世、音便ニ唱フルヨリ考フレバ、甚ダ異ナルヲ覺ユ、因リテ、「まをす(申)」ヲ「まうす」トスル例ニ倣ヒテ、姑ラク「はうき」「かうもり」「かうほね」トシテモアゲタリ。

(十六) 洋語ノ「ウニコオル」(一角)「メエトル」(佛尺)「フウト」(英尺)ノ如キハ、「ウニコール」「メートル」「フート」ト記ス方、可カルベケレド、五十音外ノ音符アリテハ、假名ノ索引順序ヲ、定ムルニ困ム、因リテ、今ハ、假名ニテ記セリ。

(十七) 音便ニテ撥ヌル音ハ、皆「ん」ト記セリ、「つきさく」ノ「つんざく」トナリ、「あきうど」ノ「あきんど」トナリ、「みなみ」ノ「みんなみ」トナリ、「わらはべ」ノ「わらんべ」トナレル類ナリ、而シテ、「ゆきけむ」「ゆく

らむ」ナドハ、「む」トセリ、「けめ」「らめ」トモ變化スレバナリ。

(十八) 漢字音ニ就キテハ、阿行ノ「い、う、え」ト、也行ノ「い、え」ト、和行ノ「う」トノ別、判然タリ、卽チ、伊、因、郁、(阿行)以、胤、育、(也行)有、(阿行)宇、(和行)衣、英、焉、謁、(阿行)延、營、緣、悅、(也行)等ノ如シ、然レドモ、假名ノ形、別チ難ケレバ、今ハ皆、阿行ノ中ニ混ジ入レタリ、サレド、和行ノ爲、院、域、惠、衛、遠、越等ハ、固ヨリ別テリ。但シ、烏、永、詠、榮、垣等ハ、姑ラク舊慣ノ假名遣ニ因リテ、「え、えい、えん」トモセリ。

(十九) 要、陽、雄、容ノ類ハ、スベテ約メテ要、陽、雄、容トセリ。

(二十) 歌、和、階、快、庚、光、隔、郭、葛、滑、咸、觀等ノ直音、拗音(濁音ナルモ共ニ)ハ、固ヨリ、別チタレドモ、下、化、減、源、決、月等ハ、皆、直音ニテ「げ、げん、げつ」トセリ。

(廿一) 陽、庚青三韻ト、江、肴、豪ノ三韻ノ漢音(上聲、去聲ノ同韻ノモノニ、通ジテ云ヒ、濁音モ之レニ倣フ、下皆同ジ)トニ屬スル字ノ初發ノ音ハ、スベテ、「阿ノ段」ノ音トセリ、卽チ、櫻、江、相、唐、囊、包、陽、郎、黃、京、靑、丁、評、明、兩、光等ノ如シ。

又、尤ノ韻ノ一部ナルハ、「伊ノ段」ノ音トセリ、尤、求、州、儔、柔、流等ノ如シ。

又、東ノ韻ノ一部ナルト、虞ノ韻ナルトハ、「宇ノ段」ノ音トセリ、隅、芻、通、風、雄、弓、終、中、隆ノ如シ。

又、蕭ノ韻ナルト、肴ノ韻ノ呉音ナルトハ、「衣ノ段」ノ音トセリ、遙、敎、蕭、朝、饒、飄、猫、寮等ノ如シ。

又、東、冬、蒸ノ三韻ナルト、尤ノ韻ノ一部ナルト、江、豪ノ二韻ノ呉音ナルトハ、「於ノ段」ノ音トセリ、膺、侯、宗、東、農、朋、蒙、容、樓、興、承、寵、氷、龍等ノ如シ。

入聲ニテ、緝ノ韻ナルハ、「伊ノ段」ノ音トセリ、揖、急、集、蟄、入、立等ノ如シ。

葉ノ韻ナルハ、「衣ノ段」ノ音トセリ、葉、業、妾、蝶、獵等ノ如シ。

合ノ韻ナルト、洽ノ韻ノ漢音ナルトハ、「阿ノ段」ノ音トセリ、押、洽、雜、塔、納、法、蠟等ノ如シ。

又、洽ノ韻ノ呉音ナルハ、「於ノ段」ノ音トセリ、劫、法ノ如シ。

(廿二) 芭蕉、紅梅、襖、發昭(紀長谷雄ノ名)等ノ蕉、紅、襖、昭ノ尾韻ヲ「を」トスルコト、往往、古書ニ見エタリ、此類、古代ノ用法トシテ擧ゲ、又、別ニ、芭蕉、紅梅等ヲモ擧ゲタリ。

(廿三) 尚、水、追、回、遺、類等、「宇ノ段」ノ音ノ尾韻ハ、皆「ゐ」トシ、其餘、愛、海、才、體、快、永、計、世、亭、寧等ハ、皆「い」トセリ。

以上、スベテ、漢字音ノ紛レ易キモノハ、後ノ索引指南ノ條ニ、類ヲ以テ集メテ示セリ、就キテ見ルベシ。

(廿四) 眞、文、元、寒、刪、先(上聲、去聲、ノ同韻ノモノ、之レニ同ジ)ノ六韻ニ屬スル字ノ尾韻ハ、舌内音ト稱シテ、皆、ぬ或ハ「に」ナルコト、讃岐、蘭、緣、錢、紫苑、等ノ讃、緣、錢、苑、ノ如シ、又、侵、覃、鹽、咸(上聲、去聲、同ジ)ノ四韻ナルハ、脣内音ト稱シテ、皆、む或ハ「み」ナルコト、三郎、三位、陰陽師、燈心、汗衫、等ノ三、陰、心、衫ノ如シ、然ルニ、今ノ世ニテハ、皆通ジテ「ん」トセリ、此篇モ、索引ニ便ナラシメムト、姑ラク眞、文、侵、覃等トセリ。

(廿五) 漢語ヲ、漢音ニ讀ムアリ、呉音ニ讀ムアリ、此篇、一ニ習慣ニ從ヒテ擧ゲタリ、布衣、布衣、飲食、飲食、利益、利益、變化、變化、和解、和解、法體、法度等ノ如シ。

(廿六) 發音ノ假名ノ、音ノママナルハ、別ニ標セズ、「さらふ」(虎斑)「そこひ」(内障眼)ノ如シ、轉呼シテ發音スルモノニハ、振假名ヲ付ク、とらふ(捕)そこひ(底)ノ如シ、其他、けふ(今日)てうな(手斧)ゐあひ(居合)あふぎ(扇)あふぐ(仰)いはほ(巖)あはひ(間)くはへ(加)はへ(蠅)ナド、皆記セリ、又、あが

なふ(贖)「いはふ」(祝)「あらふ」(洗)等ノ「な、は、ら」ハ、常ニ「の、お、ろ」ノ如クモ發音スレドモ、尚「な、わ、ら」ト發スル方、俗ナルガ如クニテ、却リテ正シクモアリ、又「あがなひ」「いはひ」「あらひ」ト云フ時ニモ通ハスベケレバ、今ハ、皆「な、は、ら」ノママニセリ。

(廿七) 字音ノ發音モ、「おう」「をう」「こう」「とう」「ゑョう」「ちュう」ノ如キハ附セズ、「あふ」「わう」「くヮう」「きャう」「げう」「でう」ノ如キハ、皆附セリ、但シ、「きう」「ゑふ」等ノ「き、ゑ」ハ、「きュ、ゑュ」ノ如ク發音スレドモ、其音相近ケレバ、今ハ別ニ附セズ。(後ノ索引指南ヲ見ヨ)

(廿八) 動詞、形容詞、助動詞ハ、皆、其本體ニテ擧ゲテ、其下ニ、語尾ノ變化ヲ示セリ、例ヘバ、「ゆ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ」「た・つ・ツル・ツレ・テ・テ・テヨ」「あか・し・キ・ケレ・ク・ク」「け・り・ル・レ」ノ如シ、其ノ片假名ナルハ語尾ニテ、

●以下ハスベテ變化スルモノト知ルベシ、又、一音ノ語ハ、全體ノ變化ヲ擧グ、「す・スル・スレ・セ・シ・セヨ」「ず・ヌ・ネ」「き・シ・シカ」ノ如シ。

(廿九) 動詞、形容詞、助動詞ハ、其本體ノミヲ擧ゲテ、其變化シタル語ヲ擧ゲザレバ、「ゆく」ハアリテ「ゆか」「ゆけ」ナドハ無ク、「あかし」ハアレド、「あかき」「あかく」ナドハ無ク、「けり」ハアレド、「ける」「けれ」ナドハ無シ、況シテ、ゆか・むゆき・ぬゆか・るゆか・ずナドハ無シ、是レ等ノむ、ぬ、る、ずハ、卽チ、助動詞ノ本體トシテ、別ニ擧ゲテアリ、但シ、動詞ノ名詞トナレルハ出セリ、「おもひ」「あぢはひ」「かち」「まけ」「のぞみ」ノ如シ、又、形容詞ノ全ク副詞トナレルモ出セリ、「まッたく」「たやすく」「いたく」「よろしく」ノ如シ、又、形容詞ノ「あかし」「あかき」ヲ音便ニ「あかい」トシ、「あかく」ヲ「あかう」トスルナドハ、固ヨリ一一擧ゲズ、唯、變ジテ別ニ一義ヲナセルモノノミヲ擧ゲタリ。

一音ノ語ノ變化ハ紛ヒ易ケレバ、一一出セルモアリ、動詞ニテハ、「く」(來)ノ「くる・こ・き」ノ如ク、

「う」(得)ノ「うる・え」ノ如ク、「ふ」(歷)ノ「ふる・へ」ノ如ク、助動詞ニテハ、「ず」(不)ノ「ぬ・ね」の如ク、「き」ノ「し」ノ如シ。

(三十) 規則動詞第二類(下二段活用)ニテ、「うく・うくる・うくれ・うけ」(受)「やす・やする・やすれ・やせ」(痩)ナドト語尾ヲ變化スルモノヲ、口語ニテハ、「うける・うけれ・うけ」又ハ「やせる・やせれ・やせ」(下一段活用)ト云フガ定マリナリ、サテ、此口調ニ從ヒテ出來レリト覺シキ「ける・けれ・け」(蹴)ヲ初メトシテ、後世ニ成レル「くける・くけれ・くけ」(カガリテヌフ)「いせる・いせれ・いせ」(シワヨセテヌフ)等アリ、サルニ、今更ニ是レ等ノ語尾ヲ改メテ、「くくる」「いする」ナドトスベクモアラズ、而シテ、斯ク語尾ノ變化スル語、今世普通ニ使用シテ、用アルモノ甚ダ多ケレバ、辭書ニ收メザルベカラズ、因リテ、今ハ姑ラク規則動詞第四類ノ變體(下一段活用)トシテ、即チ、「きる・きれ・き」(着)「にる・にれ・に」(似)等ノ同類ニ收メタリ、コハ、韻ハ異ナレド、變化ノ狀ハ、全ク同ジケレバナリ(此事、四卷ノ語法指南ノ動詞ノ變化ノ條ニモ說ケリ、就キテ見ルベシ、次項ノ事モ然リ、)

(卅一) 又、規則動詞ノ第三類(上二段活用)ニテ、「おく・おくる・おくれ・おき」(起)「おつ・おつる・おつれ・おち」(落)ナドト變化スル動詞ヲモ、口語ニテハ、「おきる・おきれ・おき」又ハ「おちる・おちれ・おち」(上一段活用)ト云ヘリ、此口調ニ從ヒテ後世ニ成レル「かうじる・かうじれ・かうじ」(增長)「たいぢる・たいぢれ・たいぢ」(退治)ナドアリ、是レ等モ、省キガタキガ多ク、又、「かうずる」「たいづる」ナド、改ムベクモアラズ、因リテ此類ハ、皆、規則動詞第四類(上一段活用)、即チ「きる・きれ・き」(着)「ゐる・ゐれ・ゐ」(居)等ノ同類トセリ、韻モ、變化ノ則モ、全ク相同ジケレバナリ

(卅二) 「きたる」(來)ト云フ動詞ハ、「來(キ)」ト「有(ア)リ」トノ約レルナルベク、而シテ、ソノ「あり」ハ、不規則動詞

（變格良行活用）ナレバ、ソレト同ジク、「き、たり」ヲ本體トスベキナレド、今ハ變ジテ「きたる」ヲ本體トスルガ故ニ、規則動詞（正格加行活用）ニ改メタリ、又、「かをる（薫）」「おざる（御座）」モ、其原ハ、「かをり（香居）」「おざあり（御座有）」ニテ、不規則動詞ナレド、今ハ變ジテ、規則動詞トナレルコト、正ニ「きたる」ニ同ジ。　又、「かもす（釀）」ノ「かも」ハ、「かむ（釀）」ノ名詞法ノ「かみ」ノ轉ナレバ、其變化ハ、「する・すれ・せ・し」トナルベキ規定ナレド、變ジテ「す・せ・さ・し」ノ變化トナレリ。　又、「おる（降）」ハ、「るる・るれ・り」ノ變化ナレド、「あま（天）」ト約リテ、「あもる（天降）」トナルトキハ、「る・れ・ら・り」ノ變化トナリ、又、「いなす（令往）」ハ、「いぬ（往）」ノ第四變化ノ「いな」ニ、助動詞ノ「す」ノ添ハリタルニテ、其變化ハ、「する・すれ・せ」トナルベキニ、變ジテ「す・せ・さ・し」ノ變化トナレリ。　又、「でく（出來）」ハ、「いで（出）」「く（來）」ノ約レルニテ、「く」ハ、不規則動詞、「くる・くれ・こ・き」ノ變化ナレド、（でこむ、でこず、トハナラズ）「くる・くれ・き・き」ノ變化トナレリ。　此類、尚、多シ、皆、其變ジタル方ニ收メタリ。

（卅三）　形容詞ノ「おほきし（大）」「すむやけし（速）」ノ語尾ノ變化ニ、異ナルコトアリ、四巻ノ語法指南ノ形容詞ノ條ヲ見ヨ。（「すこし（少）」ト云フ語モ然リ、）

（卅四）　「もちゐる（用）」ト云フ動詞ハ、「もち（持）」ト「ゐる（以）」ト、ノ熟語ナルコト、疑フベクモアラズ、サレバ、此書ニハ、其語尾ノ變化ヲ、「ゐる・ゐれ・ゐ」（規則動詞第四類）ノ方ニ定メタリ、抑モ、此語ノ語尾ニ就キテハ、語學家ノ間ニ、異説紛紛タレバ、今、煩ヲ憚ラズ、左ニ衆説ヲ擧ゲテ、其考據ヲ述ブベシ。

和字正濫鈔（二ノ廿四）用、もちゐ　此假名、いまだ慥なる證を勘がへず、常ゝかやうにかけり、是正字ならば、はたらく時、もちうといふべし、ゐとう、五音の故なり、もちゆとはいふべからず、ゆはいと通ず、　○「和訓栞」（前篇）もちゐ　用を

よめり以隣(モチヰ)の義なるべし、もちうともいへり、以を實語に用ゐたるは、論語の不使大臣怨乎不以(モチヰ)の如き是也、一説に藤原經衡集に、宇治殿にて、もちひをおこすとて、さかなには何もあれども、此中に、心につかず、是をもちひよと返しにも、「心もちひ」とよみ入たり、されば、もちひ、もちうのかななるべし、ともいへり、○「古言梯」もちゐる(もちう)此假字見えず、しばらく是による。 村田春海云、もちひ、もちうは、俊頼の歌に「我をもちひのます鏡」と餅にいひかけたるに、しばらくよりてあるべし、ゐの假字とせんは、據なき説なり、○「古事記傳」(十七ノ四) 用の假字は、源仲正家集に、元日饗「千代までも、影をならべて、逢見んと、祝ふ鏡の、用ひざらめや」(夫木集、三十二に載れり、又、後なれど、藤原經衡家集にも、此ノ(コヽ)同ジ人、宇治殿にて、餅(モチヒ)をおこすとて「肴には、何もあれども、此中に、心につかず、是を用ひよ」かへし「君が代を、心用ひの、うれしきは、いかなる人の、なさけなるらん」と餅(モチヒ)に云かけたるに依て定めつ、(仲正は後撰集の作者なれば、いまだ假字の亂れざりしほどなり、もちひ、もちふ、もちふると活用(ハタラ)く言にて、戀強(コヒシヒ)などと同格の活き也) ○「山口栞」(中ノ四十一) もちふといふ詞の活きさま、又、そのかなの事、世の人さまぐ\にさだめこしを、古事記傳十七巻に、源仲正の歌を引證しての明辯出てより、誰も、さぞとしれるなるべし、(俊頼朝臣の歌にも「けふよりは、われをもちひの、ます鏡、うれしきかげを、うつしてぞみる」とあれば、記傳の考、いよいよ信從すべし)たゞし閑居友に「ふつにもちゐることなかれとは、いましめ玉はず」とある如く、かの吉水僧正の比は、これを和行一段の活の格につかひしならんと、かつはおもひよりて、猶考ふれば、倘、ふるくよりも、しか活かせるためしありき、蜻蛉日記に「夢をも、佛をも、もちゐるべしや、もちゐるまじや」とあるを、みるに、べしといふ辭、まじといふてにをはへる文字よりかゝれるは、必一段の活き言なる例なり、かくて、おもへば、夕霧巻に、「人の御名を、よさまにいひなほす人は、かたきもの也、そこに心清うおぼすとも、しかもちゐる人は、すくなくこそあらめ、こころうつくしきやうに、聞えかよひ給ひて、倘、ありしままならんこそよからめ」とあるも、ゐ文字、本より誤りにはあらで、かの「夢をも、佛をも、もちゐるべしや、もちゐるまじや」と同例なりけり、されば、此物語は、古本を見あはせて、人人のとかく按合するにも、ここのかはれるはなし、と聞えたる、そもそも、此夕霧巻、あるは閑居友などのは、ゐをゐとあやまれるならん、ともいへど、いはれぬべけれど、かげろふ日記なるは、いかでさいはん、此理り、よく明むべし、和語嶺、七(一丁)「病おもけれど、藥を用ゐるが如し」と見えたるなども、これらに考へ明むべし、倘活語雜話、三篇

ノ末ニモ用ゐるニ斷定シタル文アリ）○中島廣足ノ「增補雅言集覽（五十五ノ十四）もちふ（用）餅にいひかけたる歌、ここにあるが如し、もちふと活きたる例は見えず、俊頼集「我をのみ、世にももちひの、かがみ草、さきさかえたる、かげぞうかべる」もちい 蜻蛉日記「夢をも、佛をも、もちいるべしや、もちいるまじや、とさだめよと也」（此假字如何考フベシ）群書類從中の新撰字鏡、連字部（百七）嘲調（毛知遊）大同類聚方、用の下、皆由と見えたり、三四ヶ所、布とも見えたるもあれど、傳寫の誤もあるべからず、多きかたにつくべし、此書、大同の敕撰はいかがあらん、舊事記などの僞書のたぐひにて、いと古き僞書なるべくおぼしけれど、假字の證にはとるべくや、もちゐ、源（蜻蛉、卅二）「た丶人、はた、あやしき女、世にふりにたるなどを、もちゐるたぐひおほかり」此語かく和行一段の活の格につかひし事、蜻蛉日記、また閑居友などを引て、山口栞（四十一）にくはしくいへり、用をもちゐるの假字に定めたるを、持率るの義とせる廣道說は誤也、用をもちゐるといふ格にする時ハ、義門說の如く、一段の活となれり、率ハ中二段なれば、さらにかなはず、ただし、改正圖には、率を一段活に置たり、さらぞかなふべくや、○村田了阿が「俚言集覽」モチヰは、持と以との二語にて、一言にはあらず、其證は〔日本紀一書〕于時、權用他姫婦以、乳養皇子焉、此世取乳母養兒之緣也、これ「用某以」三字は、モチヰテとよめる也、〔本書〕には、豐玉姫將其女弟玉依姫來到とあり、又〔一書〕には、遣女弟玉依姫以來養者也、又〔一書〕には、留其女弟玉依姫持養兒、又別どころに、〔一書〕即遣一尋鰐以、奉送焉、とあり「將云云來」とあるは、キテキタリとよみ、「遣云云以來」は、マタシテキテキタリ、とよみ「留云云持」はトドメテモテ、とよめり、此持字は、用をモチとよめる意にて、何れも、同事を文を異にしてあれども、用將持三字はモチとよみ、又將以二字はキとよみ、又將來と以來と同語勢なるをもて「用他姫婦以養」は、モチヰテとよめるを知るべし、（然るを、舊點に用字を、トリとよめるは、非なり）是等、みな、用を毛知爲と、古くよりつかひたる意也、かくの如く、モチヰは一語にあらず、持と、以と二言の連語にて本は佛書より出しなり、〔佛說觀無量壽經〕瓔珞盛漿、持用上王、〔法華經信解品〕如斯等事以用供養、〔法苑珠林（十三）因緣部〕言、一切難捨無過己身、我等今日不能捨心持用相與〔同上（十六）求婚〕時諸獸中有一牛王、向於牸虎而說偈言、世人皆取我之糞、持用塗地爲淸淨、是故端正賢牸虎、應當取我以爲夫〔同上（十四）誕孕〕如因果經云、菩薩處胎垂滿十月、身諸支節及以相好、皆悉具足、夫人憶入園遊觀、王勅後宮端正采女、凡有八萬四千、以用侍摩耶夫人〔同上（十六）求婚〕食粮罄盡、王子遊獵、殺捕諸蟲、以用活命〔同上（十七）離俗〕偈

言太子以右羅網指萬字千輻輪相現金色柔輭清淨手用摩馬王捷陟頭、同上(三十二)法施前達乗者、爾時世尊而説偈曰三千大世界、珍寶滿其中、以此用布施、所得功徳少、同上(二十九)優劣佛説華聚陀羅尼經云、佛言、若復有人、持以七寶、須彌山等、於一劫中、布施聲聞辟支佛、不如有出家在家人、能持一錢以用布施初發菩提心人、得福德多、とあり古へは佛法盛に行はれし故に、持用以用の連語を、書紀にもつかひ給ひしなり、其がいつとなく、皇國の一語のやうに、人人思ふ事になりし也、又、韓非子說林老馬之智可用也、佩文韻府道字引作老馬之智可師也、周禮旅師注師猶也とあり、師は率と同じく、又、率は、ヰとも、ヒキヰとも訓り、(ヒキヰも、一語にはあらず、本、引と以との連語なり)然れど、師、帥、率、用、四字、皆同じくヰと訓ずべし、左右曰以の以を、古來ヰの假字也、論語佛肸以中牟畔とあるを、說苑立節佛肸用中牟之縣畔とあり、國語魯語魯人以莒人先濟、注以用也、とあれど、これ、用字をヰと訓ずべき證也、又、將率の將、ヒキヰともモツともよめど、用、以、將、三字、同じくヰともモチヰとも訓ずべし、又國語、吳語勾踐用帥二三之老とあり、假字遣ひの徵に唐山の書を引もいかがなれども、義訓は互通のものなれば、此方の假字遣ひにも徵すべし、つれ〳〵草、五(七十七)ある有職の人、白きものを衣たる日は、火ばしをモチヰル、くるしからず、と申されたり、又(八十一)錢を奴のおとくしてつかひ用ものとしらば、ながく貧苦をまぬかるべからず、君の如く、神の如く、おそれたふとみて、おたがへモチヰルことなかれ、とあり、契沖氏の說に、用、モチヰ、常にかやうにかけり、といはれたる所の常は、つれ〳〵草などをいへるなるべし、餅をモチヒの假字は、字鏡、倭名鈔に見えて正し、然るに今の世に、定家假字遣、倭字通例書などいふ物には、餅をモチヰ、飯をイヰとあり、(定家假字遣には、ヒの部に、用、モチヒテ、又、ヰ部に用、モチヰル、と兩出せり)是等を見れど、夫木集も、經衡集も、倶に、餅をモチヰに誂りて、用は、毛知爲なるも、知るべからず、然れど、餅にかけたりとて、波行の活用とも一定しがたし、因りて姑らく契沖氏に從て毛知爲の假字とせり、谷川氏は、倭訓栞に、經衡集の餅に寄たる事を一說に引ながら、其書の文には、毛知爲のかたを取てつかはれたり、扨又、活用は和行にて、モチヰ、モチウといふべし、急居の訓、ツキヰなるを、ツキウと訓る例なり、○榊原芳野氏が說(洋々社談五十五號)に曰く、古事記傳(十七)に、源仲正の集を引て、用字の活用を、は行中二段の者とす、元亨建武前よりは、は行中二段の活も雜じれりと見えて、伏見院天皇薫物合の文中、用ふの語あり、されど、用を餅にいひかけたるは、所謂雙關にして、假借の音

なるさど、即、「あしびきの山居(ヤマヰ)」を病(ヤマヒ)といひなし、「今や今や」を「うまやうまや」と通ぜしと同じ、且、假字の違なしともいひがたき時代の歌なれば、かた〴〵たしかなる證とは爲難し、然れど、中島萩原二氏の和行一段の語とは定められしなり、さるを、蜻蛉日記の「用ゐるべしや、用ゐるまじや」の一語にては、信難(ウケガタ)しとて、後世の中二段に據れる書ども、此頃は、かつ〳〵見ゆれど彼の用ゐるの例は諸書に多し、蜻蛉日記の文章のやすらかならぬと誤多きは、人の知る所なれば、疑あらんは理なれど、我が一わたり見し書の中にも、一段なる例證猶多し、其外に用ゐとのみあるは、數へがたきまであれど、かくては確ならず、古き書には、宇治拾遺物語(十四)「唐綾一ッをば、唐には、美濃五匹がほどにぞ用ゐるなる」(俗本、ゐをひに作る、古寫本は、ゐに作れり)又、寂蓮自筆の薫集類抄、(貞丈挍本、群書類從本、皆同じ)には、「少しなりとも、黒方を用ゐるべきなり、」又、公事根源(中)「孝經、禮記、毛詩、尙書、論語、周易、左傳、年年めぐりてもちゐる」又、神皇正統記(一)「文字をもちゐる事は、之より始れり」又、古本遍照發揮性靈集(四)の傍訓に、「能書(ハ)必用(ニ)好(ヨル)筆(ヲ)」とあり、されば、中古までは、漢文を讀むにも、用ひ、用う、用ゆなどの訛はなかりしと見えたり、此頃、ふと見出でたるだま、かくあれば猶其證いくらもあるべし、されど、其活用を知らんには、上の書どもにて足りなんかし。

右ノ説ドモヲ參考スルニ、「もちゐ、もちゐる」トスル説、着着考證アリテ、動カスベカラザルガ如シ、「もちゆ」ハ、固ヨリ論ズルニ足ラズ、「もちひ、もちふ」ノ考據モ甚ダ弱キガ如シ、何トナレバ、「もちふ、もちふる」ト用ヰタル證、一ツモ出デザルノミナラズ、其ノ「もちひ」モ、榊原氏村田氏ノ考ニ據レバ、「いひかけ」トモ訛トモ言フベケレバナリ、又「もちゐ、もちう」ノ説モ承ケラレズ、サルハ、「もちう、もちうる」ト用ヰタル證モ、サラニ無ケレバナリ、崇神紀ニ、急居此曰菟岐宇トアレバトテ、異ナル語ヲ取リテ證トスルハ、確ナラザルノミナラズ、急居ヲ「つきう」ト云フコト、唯本書ニ一處見エタル異例ニテ、此他サラニ見エズシテ、後ノ諸書ニハ、スベテ、音便ニ、「つきゐる」トノミ用ヰタリ、サレバ、「もちゐる」「つきゐる」「ひきゐる」等ノ語ハ、共ニ、其語尾ハ、「ゐる・ゐれ・

「ゐ」の變化ナリト斷定スベシ。

（卅五）「あきらか（明）」「しづか（靜）」「つまびらか（詳）」ナド云フ一類ノ語ハ、ソノマヽニテハ用ヰラレズ、必ズ下ニ「ヿ」ヲ添ヘテ、始メテ用ヲナス、故ニ、此篇ニハ、「あきらかヿ」「しづかヿ」ナド、一一「ヿ」ヲ添ヘテ、副詞トシテ擧ゲタリ、又、此ノ「ヿ」ニ「あり」ノ添ハリテ、「あきらかなり」「しづかなり」トナルコトアリ、此類一一擧ゲズ、擧グルニ堪ヘザレバナリ、（四卷ノ語法指南ノ助動詞ノ「なり」幷ニ副詞ノ條ヲ見ヨ。）

（卅六）語別ハ、略語ノ標ヲ以テ、各語ノ下ニ記セリ、例ヘバ、（名）ハ名詞ナリ、（代）ハ代名詞ナリ、（動）ハ動詞ナリ、（形）ハ形容詞ナリ、（助動）ハ助動詞ナリ、（副）ハ副詞ナリ、（接）ハ接續詞ナリ、（辭）ハ天爾遠波ナリ、（感）ハ感動詞ナルガ如シ、又、動詞ノ下ニ、（自動）（他動）ナド記セルハ、自動詞、他動詞ナリ、（四）（下二）等ハ、規則動詞（正格）四段活用、下二段活用ナリ、（形、一）ハ形容詞第一類ナリ、凡ソ、是レ等ノ事ノ詳ナルハ、四卷ノ語法指南ヲ見ルベシ、又其略語符號等ノ解ハ、スベテ後ノ索引指南ニ委シ

（卅七）動詞ハ、スベテ、本體（第一變化、終止形）ニテ擧ゲタレバ、「生ク」「避ク」ナド云フ語モ、

い・く・ク・ケ・カ・キ・ケ（自動、四）　　よ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ（他動、四）

い・く・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ（他動、下二）　　よ・く・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ（他動、下二）

い・く・クル・クレ・キ・キ・キヨ（自動、上二）　　よ・く・クル・クレ・キ・キ・キヨ（他動、上二）

右ノ如ク三樣ノ語、皆、「いく」「よく」ノ同形ニテ出ヅ、サレバ、動モスレバ、迷フコトアルベシ、善ク其下ナル語尾ノ變化、幷ニ（自動）（他動）（四）（下二）（上二）等ヲ見テ思ヒワクベシ、注釋ノ文中ニモ、

紛レ易キハ、皆(自動、四)(他動、下二)ナドト記セリ、心ヲ付クベシ、サレド注文ノ中ニテ、自他ノ甚ダ迷ヒ易キハ、第二變化(連用形)ヲ用ヰタルモアリ、「つどふ」つどふる(集)「たがふ」たがふる(違)ノ如シ。

(卅八) 篇中、毎語ノ下ニ、直ニ標出セル漢字ハ、雅俗ヲ論ゼズ、普通用ノモノヲ出セリ、「日」「月」「山」「川」等ノ正字ハ、固ヨリ論ゼズ、「辻」「峠」「杜若」ノ如キ和字、又ハ、誤用字ニテモ、通俗ナルヲ擧ゲタリ、而シテ、和漢通用ナルハ、‖日‖月‖山‖川‖ナドト標シ、又、和用ナルハ、|辻|杜若|ナドト標シテ、語釋ノ末ニ別ニ漢用字ヲ揭ゲテ、十字街(ツジ)、燕子花(カキツバタ)ナドト標セリ、此類、識別スベシ、但シ、漢字ノ當ツベカラザルモノハ、スベテ闕ケリ。

(卅九) 語原ノ釋ハ、上下ニ(　)ヲ加ヘテ、語釋ト別テリ、而シテ、其原義ノ分明ナルハ揭ゲズ、又、或ハ究ムベカラザルモノ、推測ノ信ジ難キモノ、等ハ姑ラク之レヲ闕ケリ、漢語ハ、異常ナルモノノ外ハ釋セズ、其他、韓語、梵語、琉球語、蝦夷語、葡萄牙語、西班牙語、羅甸語、蘭語、佛語、英語、獨語等ハ皆釋セリ、原語ノ洋字等モ、索メ得タル限リハ擧ゲタリ、但シ、近古、西班牙人、葡萄牙人、蘭人等ノ傳ヘタルモノト覺シクシテ、詳ナラザルハ、姑ラク南蠻語、或ハ洋語ナドト記シ置ケリ。

(四十) 語釋ハ一二語ヲ以テセルアリ、數語ヲ以テセルアリ、或ハ、同意ノ異語ヲ用ヰ、或ハ近似セル他語ヲ用ヰ、或ハ、古言ヲ今言ニ易ヘ、雅言ヲ俗言ニ當テ、或ハ、今言俗言ヲ古言雅言ニテ釋キ、種種ニ說キ、迂廻ニ述ベテ、一一ニ意ノ融クルヲ期シテ已メリ、看ル者、善ク玩味シテ解スベシ、然レドモ、凡ソ、解釋語ノ意ハ、到底、其本語ノ意ニ若カザルモノナリ、トモイヘバ、又善ク此趣ヲモ諒セヨ。

（四十一）典例、儀式、藝術、裝飾等、凡百ノ事物ノ、明治維新前後ニテ、大ニ變遷シ、或ハ、全ク廢セラレ、或ハ、倘稀ニ存スルガ如キモノモアリ、此類ノ語釋ノ、往時ノママニテ、一一存廢ヲ言ハザルモアリ、看ル者斟酌スベシ。

（四十二）洋語ノ飜譯ニ出デタル語ハ、譯者ノ筆ニ因リテ、譯語區區ナルモノモアレバ、篇中ニ收メタルモノ多カラズ、コレ等ハ、後ノ一定ノ時ヲ待チテ收メントス　又、熟ラ思フニ、外來事物ノ新語ノ如キハ、洋書ノ全備セルモ多ケレバ、就キテ求メムニ、其道ヲ得ムコト、容易カルベシ、內國舊來ノ事物ノ如キニ至リテハ、辭書類書ノ全書ニ乏シクシテ、一二事物ノ解ヲ得ムトスルニモ、數書ヲ涉獵セザルベカラザルガ如キコト多シ、此ノ故ニ、此篇ハ、內國從來ノ事物ヲ網羅スル方ニ、力ヲ專ラニセリ、看ル者、中外ノ事物ニ於テ、偏重スル所アルガ如キヲ咎ムルコト勿レ。

（四十三）從來ノ辭書ノ語釋ノ書法ハ、語每ニ、「何何なり何何をいふ」ナド記セリ、斯クなりをいふ等ノ語ヲ、注每ニ加フルガ故ニ、全册嵩ムノミナラズ、甚ダ辭書語釋ノ體裁ヲ失セリ、此篇ニテハ、凡ソ、文章中ニテ、其本語ト語釋ノ語ト置キ易フル時ハ、原文、ソノママニ文ヲ成シテ解スベカラシムル書法トシ、名詞ハ名詞ニテ釋キ、動詞ハ動詞ニテ注シ、副詞ハ副詞ニテ譯ケリ、例ヘバ、あさまだきト云フ副詞ヲ、舊注ノ書法ナラバ朝はやきなり。ナド記スベキヲ、此篇ニテハ、「朝早ク」トノミ注セリ、サレバ、原文、朝まだき嵐の山の寒けれどナドアラム處ニ、コレヲ置キ易フレバ、「朝早く嵐の山の寒けれど」トナリテ、ソノママ文ヲ成シ、意モ合ヒテ解セラルベシ、コレヲ舊注ノ體ニテ置キ易フレバ、朝はやきなり嵐の山の寒けれどトナリテ、合

フベクモアラズ、通篇、語釋ノ書法、スベテ此ノ如シ、然レドモ、天爾遠波ノ「が」「の」「に」「を」ノ如キ、副詞ノ「はらはら」「ほとほと」ノ如キ、感動詞ノ「あな」「かな」ノ如キ、音響情態ナド狀出スル語ノ、他語ノ代フベキナキナドハ、「何何ノ意ヲ云フ語」ナドト注セルモアリ。

(四十四) 同義ノ語、數種アルトキハ、其正語、又ハ普通語ト覺シキ方ニ釋シテ、其古言、俗言、方言、訛言ナドノ方ニハ、「某語ニ同ジ」又「某語ノ古言、又ハ俗言」ナドト記セリ、「にはとり」(鷄)「にはつどり」「ながなきどり」「ゆふつけどり」「うすべどり」「かけ」ナドハ、「にはとり」ニ注シ、「さけ」(酒)「き」「ささ」ナドハ、「さけ」ニ注シ、「めし」(飯)「いひ」「まま」「はん」ナドハ、「めし」ニ注セルガ如シ。

(四十五) 「けふ」「こんにち」(今日)「ことし」「たうねん」(當年)「みづかね」「すゐぎん」(水銀)「はらわた」「ちやう」(腸)「かりがん」(雁)ナド、和語漢語、同義ニシテ、通用ニ差別ナキハ、和語ノ方ニテ釋キ、「やまびと」「せんにん」(仙人)「ふくふくし」「はい」(肺)「なゐ」「ぢしん」(地震)「にはくなぶり」「せきれい」(鶺鴒)ナドハ、一方、和語ナレドモ、今ハ不通ナレバ、通用ノ漢語ノ方ニテ釋キタリ。

(四十六) 同意語(Synonym.)ハ、語釋ノ末ニ列ネタリ、例ヘバ、「くふ」(食)ノ注ノ末ニ「くらふ」「はむ」「たぶ」「たうぶ」ナド列ネ、又、「あふのく」(仰)ノ末ニ「あふぬく」「あふむく」「あをのく」「あをむく」ナド列ネタルガ如シ、「わらぐつ」「わらうづ」(藁沓)「わらんづ」「わらんぢ」「わらぢ」(草鞋)ナドハ、畢竟、同語ニテ、音便ノ差アルノミナレド、亦、同意語トシテ列ネタリ、其他ノ事物、殊ニ動植物ノ名ニハ、諸國ノ方言等ニ同意語多シ、其著シキモノハ、皆、此例ニ從ヒタリ。

(四十七) 數種ノ語ヲ類ヲ以テ、一語ノ下ニ集メテ、其意ヲ釋クトキハ、大ニ說明スルニ便ナルコトアリ、然ルトキハ、餘ノ各語ノ下ニハ、「某語ノ條ニ注ス」或ハ「某語ノ條ヲ見ヨ」ナドト記セリ、例

ヘバ、わ(輪)ノ條ニ、輞轂輻等ヲ集メテ說キテ、「おほわこしきや」ノ下ニハ「輪ノ條ヲ見ヨ」ト記セルガ如シ、又密ニ相關ハル語ドモニハ、條毎ニ注シテ、「互ニ某語ノ條ヲ見合ハスベシ」ナドト記シタリ。

(四十八) 動植鑛物、其他諸物ニ、同名異物甚ダ多クシテ、注解ノ文中ニ、紛レ易キコトアリ、斯ル時ハ、漢名ニテ、記シテ傍訓シオケリ、苘麻(イチビ)黃麻(イチビ)「蘡薁(エビカヅラ)」蒲萄(エビカヅラ)ノ如シ、サレバ、ソノ「いちび」「えびかづら」ヲ索メム時ハ、善ク其漢名ノ字ニ心ヲ付クベシ。

(四十九) 動植鑛物ノ注ハ、其各學問上ノ綱目等ノ、區別ヲ以テ說クベキナレドモ、今ノ普通邦人ニハ、解シ難カルベシト思ヘバ、今ハ、姑ラク、本草家ノ舊解ヲ採リテ、眼ニ視ル所ノ形狀ニ就キテ說ケリ。

(五十) 解釋文中ノ插注ニハ、上下ニ(　)ヲ置キテ別テリ。

(五十一) 同一ノ語ナレドモ、古今ニ因リテ意ノ移レルアリ、所用ニ因リテ義ノ變ズルアリ、此類ハ、(一)(二)(三)(四)(五)等ノ標ヲ以テ區別セリ、而シテ其次第ハ、古義ヲ先トシ、今義ヲ後トシ、或ハ正義ヲ前ニ揭ゲ、轉義、訛義等ヲ末ニ置ケリ。

(五十二) 成句ニ入リテ、同語ノ異義ヲ成スモノアリ、「骨を折る」ハ、「骨ヲ取リテ正(マサ)シク折ルニハアラデ、勉メ働ク意ヲナシ、「言を食む」ト云ヘバトテ、無形ノ言語ハ、食ムベキニアラズ、乃チ言ヒ契リタルコトヲ違フノ意トナル、是レ等ノ成句ハ、其類語ノ下ニ、別ニ記シテ擧ゲタリ、而シテ、「骨ヲ折ル」ハ「骨」ト云フ語ノ下ニ出シ、「言ヲ食ム」ハ、「食ム」ノ下ニ出セリ、類ニ從ヒテ索ムベシ。

(五十三) 解釋文中ノ例語、例句、ナドノ處ニ、其條ノ本語ノ出ヅル時ハ、平假名ヲ以テセリ、例ヘバ、

あし（足）ノ釋文中ニハ、机ノあし或ハ膳ノあしナドトシ、又あぐ（上）ノ下ニ、髪ヲあぐあぐ價ヲあぐナドトシタルガ如シ。

（五十四）凡ソ、此篇中ノ文章ニ、見ハレタル程ノ語ハ、卽チ、此辭書ニテ引キ得ルヤウナラデハ不都合ナリ、因リテ、務メテ其レ等ノ脫漏齟齬ナキヤウニハシタリ、然レドモ、凡ソ萬有ノ言語ノ、此篇ニ漏レタルモ、固ヨリ多カラム、殊ニ、漢語ノ限リ無キ、編輯ノ際ニ、是レハ普通用ノ語ナラズトシテ、棄テタルモノノ、知ラズ識ラズ釋文中ニ、見ハレタルモアラムカ、唯看ル者ノ諒察ヲ請フ。

（五十五）漢字音中、從來使用シツル假名遣ト、異ナリタルモノアリ、例ヘバ、惠（エ）、永（エイ）、翁（オウ）、遺（イ）、屋（オク）等ノ類ノ如シ。

（五十六）釋文中ニ、平假名ニテ、語ノ出デタルモノハ、本文ノ語ト照應セシメムガタメナリ。

（五十七）出典中ニ、平假名ニテ、語ノ出デタルモノハ、本文ノ語ト關係深キモノニテ、多クハ、其文ノ主題、主眼トナリタルモノナリ。

（五十八）本書中ニ、書スル平假名ニ、二種アリ、其類別、左ノ如シ。

第一種、平假名　なおゑどす

此類ハ國語ニノミ用ヰタリ。但シ、ゑハ漢語ノ中ニ用ヰタルモアリ。

第二種、平假名　ゐこしとき

此類ハ、漢語ニノミ用ヰタリ。然レドモ、しとハ國語ノ語中、語尾ニ用ヰタルモアリ。

（五十九）副詞ノ下ニハ、はノ假名ヲ用ヰ、接續詞ノ下ニハ、をノ假名ヲ用ヰタリ。

(六十) 出典中ニアル語ノ、漢字、及、假名遣ノ誤謬ハ、原文ノ其儘ヲ存シタルヲ以テ、敢ヘテ訂正ヲ加ヘズ。

索引指南

(一)引出スベキ語ノ頭字ノ假名ハ、スベテ、五十音ノ順ニテ並ビ、其二字目、三字目、以下モ、皆五十音ノ順ニテ並ビタレバ、其心ニテ引出スベシ、例ヘバ、あ、ああ、あい、あいきやう、あいさ、あいし、あいす、あうぎ、あうゐち、あうなし、ナドノ如シ、片假名ニテ記シタルモ同ジ。

(二)語ヲ引出ス時ニ、假名ノ順ヲ求ムル手早キ方法ハ、先ヅ第一ニあかさたな、はまやらわノ順ニテ、書物ノ紙ノ小口ヲ、凡ソ十ニ分ケ、(心ノ中ニテ)初カ、中頃カ、末カト、大抵ニ目當ヲ付ケテ、書物ヲ開キ、次ニ、あニ從フあいうえお、又ハ、かニ從フかきくけこ、又ハ、さニ從フさしすせそ、ト云フヤウニシテ繰出セバ、綱ヲ引上ゲテ、網ノ目ノ上ガルヤウニ出デ來テ、甚ダ早シ、同ジ語ノ中ノ二字目、三字目ノ假名モ、皆此ノ如クスベシ。

いろは順ハ、諸編ニセムトテモ、急ニハ馴レヌモノニテ、急ニ引出サムト思フトキ、いろはノ初ノ方ノ假名ノ順ハ、兎モ角モ、中頃ヨリ末ノ假名ノ順ハ、何邊ナラムカト、目ヲ瞑リテ、再三、案ジテモ、假ニ思出サヌコト多ク、例ヘバ、のナラバ、らむうゐのおく、又、けナラバ、やまけふこえて、ナドト、ソノ在ラムト思フ邊ヲ、前後數字推當テニ口ニ唱ヘテ、ヤウヤウ當ルト云フヤウナルコトトナル、是レガ頭字ノミナラズ、二字目モ、三字目モ、皆ナヤウニテ、手間取ルコト甚シ。

此事、馴レタラバ、トモ思ヘド、何時マデモ馴レヌハ、編者ノ此字引ヲ作ル十年ノ間、始終、驗メシテ知レル所ナリ、五十音順ノ方、甚ダ早シ。

(三)「やいゆえよ」ノ順ニ入ルベキい、えモ、又、「わゐうゑを」ノ順ニ入ルベキうモ、假名ノ形、同ジナリテ分チカヌレバ、皆、「あいうえお」ノ順ニ入レタリ。(片假名ナルモ同ジ)

(四)ん(ン)ハ、むノ次ニアリ、(口ニんト云フ言葉ニテ、んニ續クハ、ノ順ヲ見ルベシ)又、はッと(法度)カッパ(合羽)ナドト促マル假名ハ並ノツノ次ニアリ。

(五)が、ば、(ガ、バ)ナドト濁ル假名ハ、ソノ淸ミタル假名、か、は、(カ、ハ)ナドノ次ニアリ。半濁ノ假名ハ又、其次ニアリ。

(六)「ウニコール」(一角)「メートル」(佛尺)「フート」(英尺)ナドハ、「ウニコオル」「メエトル」「フウト」ナドトシタリ、ーニテハ、假名ノ順ヲ定メカヌレバナリ。

(七)假名遣ニハ、迷ヒヤスキモノ多シ。先ヅ第一ニ、あいうえお(アイウエオ)トわゐうゑを(ワヰウヱヲ)ト、ノい、え、お(イエオ)ト、ゐ、ゑ、を(ヰヱヲ)ト、ノ居ドコロヲ覺ユベシ。

ハ、文字、音ハ同ジナガラモ、假名ノ異ナルアリテ、一方ニ出デズ、一方ヲ引キテ見エヌ時ハ、他ノ一方ヲ引クベシ、片假名ナルモ、同ジコトナリ。

い、ゐ、ひ　　え、ゑ、へ　　お、を、ほ　　わ、は　　う、ふ
じ、ぢ　　ず、づ　　じャ、ぢャ　　じュ、ぢュ　　じョ、ぢョ

おう、おふ、あう、あふ、をう、わう	よう、やう、えう、えふ、ゑふ	ゆう、いう、いふ
こう、こふ、かう、かふ、くゎう	きョう、きャう、けう、けふ	きュう、きう、きふ
ごう、ごふ、がう、がふ	ぎョう、ぎャう、げう、げふ	ぎュう、ぎう、ぎふ
そう、そふ、さう、さふ	しョう、しャう、せう、せふ	しュう、しう、しふ
ぞう、ぞふ、ざう、ざふ	じョう、じャう、ぜう、ぜふ	じュう、じう、じふ
とう、とふ、たう、たふ	ちョう、ちャう、てう、てふ	ちュう、ちう、ちふ
どう、どふ、だう、だふ	ぢョう、ぢャう、でう、でふ	ぢュう、ぢう、ぢふ
のう、のふ、なう、なふ	にョう、にャう、ねう、ねふ	にュう、にう、にふ
ほう、ほふ、はう、はふ	ひョう、ひャう、へう、へふ	ひュう、ひう、ひふ
ぼう、ぼふ、ばう、ばふ	びョう、びャう、べう、べふ	びュう、びう、びふ
ぽう、ぽふ、ぱう、ぱふ	ぴョう、ぴャう、ぺう、ぺふ	ぴュう、ぴう、ぴふ
もう、もふ、まう、まふ	みョう、みャう、めう、めふ	
ろう、ろふ、らう、らふ	りョう、りャう、れう、れふ	りュう、りう、りふ

し、しュ	しつ、しュつ	しく、しュく	しん、しュん
じ、じュ	じつ、じュつ	じく、じュく	じん、じュん
ち、ちュ	ちつ、ちュつ	ちく、ちュく	ちん、ちュん
ぢ、ぢュ	ぢつ、ぢュつ	ぢく、ぢュく	ぢん、ぢュん

か、くゎ	かつ、くゎつ	かく、くゎく	かん、くゎん	かい、くゎい
が、ぐゎ	がつ、ぐゎつ	がく、ぐゎく	がん、ぐゎん	がい、ぐゎい

えい	けい	せい	てい	ねい	へい	めい	れい	ゑい
―	げい	ぜい	でい	―	べい	―	―	―
うゐ	―	すゐ	つゐ	―	ふゐ	―	るゐ	―
―	―	ずゐ	づゐ	―	―	―	―	―

上ノおう、かふ等ノう、ふニ、おノ如ク發音スルモアリ、心ヲ付クベシ。

おふル(生)かかふル(抱)かふル(替)くはふル(加)ささふル(支)しふル(強)そふル(添)そろふル(揃)たたふル(湛)たふル(堪)つかふル(支)まじふル(雜)ひかふル(控)をしふル(教)ナドノふヲ、ゆニ誤リ、又、コレト反ニテ、おぼゆ(覺)きこゆ(聞)さかゆ(榮)たゆ(絶)はゆ(生)むくゆ(報)ナドノゆヲ、ふニ誤リ、又、ひきゐる(率)もちゐる(用)ヲ、ひきゆ、もちゆト誤リ思フコトナド多シ。

又、あふぎ(扇)あふみ(近江)、或ハ、あふり(泥障)あふひ(葵)あふぐ(仰)たふる(倒)、或ハ、あゆ(鮎)はへ(蠅)かへる(蛙)あやにく(生憎)、或ハ、ほほ(頰)あかほ(赤穗)まをす(申)まをか(眞岡)あをめ(青梅)あこを(赤魚)ナド迷ヒヤスキモノ、尙、多シ、スベテ心ヲ付クベシ。

(九)あた•る•ル•レ•ラ•リ•レ(當) あか•し•キ•ケレ•ク•ク(赤) 斯ク假名ノ間ニ點ノアルハ、語根ト語尾トノ界ニテ、其下ニアル片假名ハ、語尾ノ變化ナリ、故ニ、•ヨリ下ヲ置替ヘテ、あた•る、あた•れ、あた•ら、あた•り、又ハ、あか•し、あか•き、あか•けれ、あか•くナドトシテ、其變化ヲ知ルベシ。但シ、う•ウル•ウレ•エ•エ•エヨ(得)、又ハ、く•クル•クレ•コ•キ•コヨ(來)、ず•ヌ•ネ(不)ナドハ、語根ト語尾トノ分レ目ナケレバ、•ヲ界ニシテ、全體、變ルモノト知ルベシ。

倘、右ノ變化ノ委シキコト(同ジ變化ノ重複ニ出デ居ルナド)ハ、四卷ノ語法指南ノ動詞、形容詞、助動詞ノ所ヲ見ルベシ。

又、右ノあたる、あかし、ナドハ、あたる、あかし、トノミ出シテ、あたれ、あたら、あかき、あかくハ、別段ニ出シテ置カザレバ、其心ニテ、變化ヲ考ヘテ、所所、引キ當テテ見ルベシ。

又、みつル(滿)むくル(向)おつル(落)うくル(受)ナドモ、スベテ、みつ、むく、おつ、うくニ出デタレバ、(るハ添ハラズ)其心ニテ引クベシ。又、語尾ノ變化ハ異ナリテモ、同ジ形ニテ出デタルモノモ多シ。

例ヘバ、滿ツ、向クニテ

みつ•ツ•テ•タ•チ•テ(自動)(四段)　む•く•ク•ケ•カ•キ•ケ(自動)(四段)

み•つ•ツル•ツレ•テ•テ•テヨ(他動)(下二段)　む•く•クル•クレ•ケ•ケ•ケヨ(他動)(下二段)

右ノ如シ、善ク其下ノ異ナル所ニ氣ヲ付クベシ。

(十)わづかゝ(僅)しづかゝ(靜)あきらかゝ(明)こまやかゝ(細)ナド云フ言葉ハ、スベテ、下ニゝヲ添ヘテ出シタレバ、其假名ノ順ノ所ヲ見ルベシ。

(十一)注ノ中ニ、「約」トアルハ、つゞまり、「略」ハ、はぶかりナリ、「轉」ハうつりナリ、「延」ハのびナリ、「通」ハ、かよひナリ、「義」ハ、わけナリ、「意」ハ、こゝろナリ、「訛」ハ、なまりナリ。

(十二)活字ノ用ヰ方ハ左ノ如シ。(スベテ、引出ス言葉ニ[illegible])

やま(山)かは(川)　此活字ナルハ和語ナリ。

きん(金)てつ(鐵)　此活字ナルハ漢語(字ノ音ノ語)ナリ。

アン(餡)パン(麵包)　此活字ナルハ唐音ノ語、其他ノ外國語ナリ。

あか-だひ(赤鯛)あめ-が-した(天ノ下)あく-たい[illegible]

此ノ如ク、假名ノ間ニ小キ筋(Dash)アルハ、組立テタル言葉ト言葉トノ界ナリ、然レドモ、いし-ばひ(石灰)てん-か(天下)ノ如ク、一度ハ其間ニ界ヲ立ツレドモ、再ビ、いしばひ-いし(石灰石)いっ-てんか(一天下)ナドト出ヅルトキハ、いしばひ、又ハ、てんかノ間ニ、界ヲ立テズ。

あい-らし(可愛)あか-かうじ(赤柑子)アカ-ざり(閼伽取)きん-カラ-かは(金唐革)アン-なし-まんぢゅう(無餡饅頭)ナドハ、和語、漢語、外國語ノ雜ナリ、活字ノつかひわけニテ知ルベシ。

ゑんじュ(槐)きゃ-はん(脚半)くゎ-し(菓子)チョク(猪口)てっ-ぱう(鐵砲)カッパ(合羽)ナドト、假名ノ間ノ右ノ方ニ、小サクアルハ、促ル音ノ標ナリ。さい-はひ(幸)けふ(今日)ゐ-あひ(居合)しゃう-じ(障子)えう-せう(幼少)ナドト振假名アルハ、口ニテ呼ブ聲ノ標ナリ。

略語ノ解

(名)……名詞(體言)(Noun.)
(代)……代名詞(Pronoun.)
(數)……數詞(Numeral.)
(動)……動詞(用言、作用言、活語)(Verb.)
(自動)……自動詞(然ル詞)(Intransitive.)
(他動)……他動詞(然スル詞)(Transitive.)
(規)……規則動詞(正格活用)(Regular.)
(不規)……不規則動詞(變格活用)(Irregular.)
(規・一)……規則動詞、第一類(四段活用)
(規・二)……同……第二類(下二段活用)
(規・三)……同……第三類(上二段活用)
(規・四)……同……第四類(上一段活用)
(規・四・變)……同……第四類、變體(下一段活用)
(不規・一)……不規則動詞、第一類(加行變格)
(不規・二)……同……第二類(左行變格)
(不規・三)……同……第三類(奈行變格)
(不規・四)……同……第四類(良行變格)
(形)……形容詞(形狀言)(Adjective.)
(形・一)……形容詞、第一類(ク・シ・キ、活用)
(形・二)……同……第二類(シク・シ・シキ、活用)
(助動)……助動詞(活用アル天爾遠波)(Auxiliary.)
(副)……副詞(Adverb.)
(接)……接續詞(Conjunction.)
(辭)……天爾遠波(Post-position.)
(感)……感動詞(詠歎)(Exclamation.)
(接頭)……接頭語(Prefix.)
(接尾)……接尾語(Suffix.)
(發語)……發語
(枕)……枕詞
(句)……句 (Phrase.)
(連體)……連體形語

種種ノ標

{……古キ語、或ハ、多ク用キヌ語、又ハ、其注ノ標。
✣……口語(訛語、或ハ、俚語)又ハ、其注ノ標。
┌┐……和ノ通用字、[辻][杜若]ナドナリ。
‖……漢ノ通用字、‖十字街‖、‖燕子花‖ナド。(注ノ中ニ置ク)
┌‖┐……和漢通用字、[日][月][長][短]ナドナリ。
〔 〕……語ノ原ノ注ノ界。
( )……插注ノ界。
(一)(二)(三)等……注ノ意味ノ變ハル界。
「 」……例ニ示ス語、句、文、又ハ、格段ナル句ノ界。
、……句讀。
。……段落。
○スベテ、委シク此字引ノ用キ方ヲ知ラムトナラバ、四卷ノ語法指南、幷ニ、前ノ凡例、ヲ見ルベシ。

大言海

あ

あ 五十音圖、阿行第一ノ假名。此一行ノ假名、あ、い、う、え、おノ五音ハ、喉ヨリ單一ニ出デ、又、發聲ノ韻トモナリテ、熟音ヲ成サシム、故ニ單音、又、母韻ノ稱アリ。あハ、下ニ、う、或ハふ(うニ轉ジテ呼ブモノ)ヲ受クルトキハ、おノ如ク呼ブコトアリ、あうむ、(鸚鵡)あふぎ(扇)ノ如シ。

あ (名) 畔 〔畔ノ本語ナリ〕 アゼ。クロ。古事記、上廿須佐之男命「離二天照大御神之營田之阿一埋二其溝一」神代紀、上廿「毀二其畔一」箋注倭名抄、一廿六「畔、田界也、久路、一云、阿」靈異記、中、第廿六縁「上総國畔蒜郡」訓釋「畔、阿。蒜、ヒル」 夏順集「アラサジト、打返スラム、小山田ノ、苗代水ニ、濡レテツクルあ」(首尾ニ、あヲ詠ミ入レタル歌ナリ) 好忠集、下「木芽張ル、時ニナルマデ、苗代ノ、あヲダニイマダ、作ラザリケリ」

あ (名) 足 あしニ同ジ。萬葉集、十四廿「安ノ音セズ、行カム駒モガ」「足搔ク」「足結」「足占」

あ (名) 啞 〔廣韻「啞、烏下切」〕 オフシ。オシ。瘖 玉篇「啞、不レ言也」集韻「瘖也」 戰國策、趙策「漆レ身爲レ厲、呑レ炭爲レ啞」 王君玉雜纂「啞子做二手勢一」

あ (名) 堊 〔常ニ、音、あトマ、然レドモ、正シクハ、あくナリ、廣韻「堊、烏各切」集韻「音惡」〕 色アル土。類聚名義抄「堊、色土也」山海經、中山經「有尚之山、其中多二大谷一是多二白堊、黑青黄堊一」

ア (名) 阿 阿字、及ビ、阿吽ノ條ヲ見ヨ。

あ (代) 吾我 〔漢語、我ト暗合、朝鮮ノ古語ニモ、あト云フトゾ〕 自稱ノ代名詞、多クハ、あれ、われト云フ。古事記、上二十長歌「阿ハモヨ、妻ニシアレバ」景行紀、四十年十月「吾嬬者耶」 崇神紀、十三年三月、長歌「阿ガ心シ、彌于古ニシテ」 萬葉集、十二三十二「吾妹子ガ、阿ヲ偲ブラシ、草枕、旅ノ丸寢ニ、下紐解ケヌ」

あ (代) 彼 遠キ物事ヲ指シテ云フ語、(此、其、ニ對ス)多クハ、あれト云フ。カレ。源、十八、松風廿二「メグリ來テ、手ニ取ルバカリ、サヤケキヤ、淡路ノ島ノ、あハト見シ月」 大和物語、中「濱千鳥、飛ビ行クカギリ、アリケレバ、雲立ツ山ヲ、あハトコソ見レ」「あノ人」あノ山」

あ (感) 阿 呼バレテ應フル聲。禁秘御抄、上、恆例毎日次第「女官申ス、御手水マヰラセ候ハム、女房あト云フ」 萩園雜記「諸司官、御前承レ旨、皆日レ阿、其聲引長、阿爲二應辭一其來遠矣」(故事熟語大辭典)

あ (感) 噫 多クハ、重ネテ、ああ(鳴呼)ト云フ。其條ヲ見ヨ。

あ (感) 呼ビカクル聲。重ネテ、ああト云フ、其條ヲ見ヨ。

あ (接頭) 阿 〔呂覽高義、注「阿、私也」〕 (一)親シミテ云フ語ナリ、以呂母、以呂兄、以呂妹ノ、以呂ニ似タリ」 (二)支那ニテ、人類ニ冠シテ云フ語。親シミ呼ブ意アリ、阿父、阿翁、阿母、阿嬢、阿兄、阿妹、阿嬌、吳下阿蒙、(吳國ノ呂蒙) 各條ヲ見ヨ、 [illegible]三十二[illegible]武ハ韋后降爲二庶人一ハ稱二阿韋一」(武后ハ、唐ノ高宗帝ノ后、(則天武后)韋后ハ、同中宗帝ノ后) (三)漢文ヲ作ル者、女ノ名ノ、お梅、お菊ナドヲ、阿梅、阿菊ト書ク、漢語メカスナリ。(おノ條ヲ見ヨ)

あ (接頭) 意ナキ接頭語 「あ驚ル」あ像ル」あ離ル」あ迫ル」(焦燥)あ遲シ」あクドシ」

あ-あ (副) 彼ヲ重ネテ云フ 彼ノ如ク。アノヤウニ。「ああヤ・テオケバヨイ」ああシテオケバ」ああイフ人ニハ困ル」ああデモナイ、カウデモナイ」

あ-あ (感) 阿阿 笑フ聲 神武紀、十一「皇軍大悦、仰レ天而咲、云云、阿阿」私記「阿阿、咲聲也」

あ-あ (感) 鳴呼噫嘻 〔一音ニ、あトモ云フヲ、重ネテ發スルナリ〕 泛ク、感ズルニツキテ發スル聲。あ。アナ。アラ。書經、秦誓、中篇「鳴呼、西土有衆、咸聽二朕言一」 孝德即位前紀「杏爾皇子」 源、三十四、上、若菜、上七十三「老尼「耄耄ニ、耳モ、オボオボシカリケレバ、ああト、カタブキテ居タリ」 字類抄「嗟、噫、アア」 萬葉集、一二十「鳴呼兒ノ浦」(志摩國、英虞郡) 靈異記、中、第二縁「噫乎、捨二母甜乳一而我死哉」訓釋「噫、阿」 天治字鏡、二十六「噫、心驚也、阿」咳、憂歎也、阿」

あ-あ (感) 〔一音ニ、あトモ云フヲ、重ネテ云フナリ〕 呼ビカクル聲。あ。謠曲、安宅、關守富樫左衞門、強力ヲ止ム、山伏「スハ、我ガ君ヲアヤシムルハ、一期ノ浮沈極マリヌト、皆、一同ニ立歸ル」辨慶「ああ、暫ク、アワテテ、事ヲ仕損ズナ」 盛衰記、六、入道企二院參一事「熊手、薙鎌、手手ニ捧ゲ、兜ヲ前ニ置テ、主人、あト云ハバ、郎等、サト出ヅベキ體ナリ」

あ-あ (感) 肯フ聲。承知スル聲。「是レデゴザイマスカ、ああ」

あ-あ (名) [illegible] [illegible]

アアク-ライト (名) 弧光電燈 〔英語、Arc-light.〕 電燈ノ一種。對向スル二本ノ炭素棒ノ裝置ニ因リテ光ヲ放ツモノ。

アアチ (名) 穹窿 〔英語、Arch.〕 (一)セリモチ。隧道、橋柱、家ノ入口、窓ナドノ上部ヲ、煉瓦、石、木材ナドニテ、半圓形ニ造レルモノ。(二)頭ヲ半圓形ニ造レル門。綠葉ニテ包ミ、祝賀ノ裝飾ナドニ、假ニ設クルモノ。綠門。

アアチ-ビショップ (名) 〔英語、Arch-bishop.〕 耶蘇教ノ大僧正。

アアト (名) 技 〔英語、Art.〕 術。技術。技藝。

アアト-タイプ (名) 阿膠版 〔英語、Arto-type.〕 寫眞版ノ一種。蛋白、及、水硝子ヲ下塗シタル、鱧清硝子ノ上ニ、上等ノ膠ト、重くろむ酸、あんもにあトノ混合物ニテ成レル感光液ト云フモノヲ塗リテ、暗室ニテ乾シタルニ、寫眞撮影版ヲ加ヘ、日光ニテ燒キツケテ成ル。

アアムストロング-はう (名) 安式砲 安砲 〔英人創案者ノ名、Armstrong.〕 英國ニテ製出スル大砲ノ名。砲身ヲ鋼鐵ニテ作リ、砲ノ內面ニ旋條アリ、彈丸ヲ、砲身ノ後尾ヨリ裝塡シ、コレヲ尾栓ニテ重ヂヤウ裝置セラル、彈丸、廻轉シ直進ス 其後、製作、裝置ニ、種種ノ改良ヲ加ヘタリ。

アアメン (感) 〔英語、Amen. 誠實ノ義〕耶蘇教徒ノ、祈禱ノ終ニ唱フル語。

ああら (感) あら(感)ノ條ヲ見ヨ。

あい (名) 鮎 あゆノ轉。其條ヲ見ヨ。

あい (名) 愛 (一)イツクシムコト。ウツクシムコト。〔玉篇「愛、仁之施也、憐也、恵也」論語、顏淵篇「樊遲問仁、子曰、愛人」〕(二)愛デ親シムコト。カハユガルコト。〔玉篇「愛、寵也」〕「親子ノ愛」男女ノ愛」子ノ愛ニ溺ル」(三)惜シムコト。愛ヲ割クト云フハ、惜シキモノヲ棄ツル意ナリ。(割愛ノ條ヲ見ヨ)〔正韻「愛、吝惜也」〕

あい (感) 〔あノ延(背、せい)〕應フル聲。ハイ。唯 〔三國志、魏志、東夷傳「倭人對應聲曰噫、比如然諾」唐韻「噫、於介切」「あいトコタヘテ立出ヅル」〕

あい-あい (副) 靄靄 雲氣ノアツマル狀ニ云フ語。〔說文「靄、雲貌」韻會「雲集貌」陶潛、停雲詩「停雲靄靄、時雨濛濛」〕

あい-あい (副) 藹藹 (一)草木ノ繁茂セル狀ニ云フ語。〔韻會「藹、草木盛貌」玉篇「樹繁茂貌」束晳、補亡詩「瞻彼崇丘、其林藹藹」〕(二)人物ノ盛多ナル狀ニ云フ語。〔詩經、大雅、卷阿篇「藹藹王多吉士」注「藹藹、猶濟濟也」朱注「賢士眾多之容」〕(三)今、殺氣ノ反對ニ、和氣藹藹、ナド記ス人アリ、盛ンナル意ヨリ、移シ用キルニヤ。

あい-あい (副) 哀哀 哀シム狀ニ云フ語。〔詩經、小雅、蓼莪篇「哀哀父母、生我劬勞」等ニ出デテ、哀ニアラズ、親ノ死後ニ、孝養ノ盡サザリシヲ悲シメル詩ナリ〕

あい-あい・し シキ・シケレ・シク・シク (形、二) 愛愛 アイラシ。カハユラシ。可憐 そぞろ物語(慶長)「イトヤサシキ顏バセ、あひあひしくモ、百ノ媚ヲナシ」

あい-いく (名) 愛育 カハユガリテソダツルコト。〔北史、[illegible]傳「[illegible]、七歲三公、爲ニ見稟之前三愛育ニ」〕

あい-きゃう (名) 愛敬 〔此語、古代ニハ、あいぎゃうト濁音ニ云ヒキ、源氏物語湖月抄ナドニハ、スベテ濁點ヲ付セリ、語彙ニ、雅言ニハ、濁リテ言ヒ習ヘリトアリ〕(一)愛シミ敬フコト。彌陀如來、地藏菩薩ナドノ容貌ニ、溫和ナル心ヲ表シ、他ノ德ヲ害スルコトナク、惠ミヲ施ス狀ヲ現ズルヲ、愛敬相ヲ具スト云フ、愛敬スベキ相ノ意ナルベシ。〔大無量壽經、序分「以二不請之法一施二諸黎庶一如二純孝之子愛二敬父母一」(佛ノ慈悲、請フヲ待タズシテ衆生ヲ愛護ス)榮花物語、十八、玉の臺「彌陀如來、云云、慈悲ノ相ハ、愛敬ノ相ハ、齒ノ光ニアリ」(佛ノ三十二相ノ中ニ、齒白齊密相アリ、笑フニ云フナルベシ)〕(二)愛敬相ヨリ轉ジテ、スベテ、顏色ニ、可愛氣ノアルコト。宇津保物語、樓上、下「一イト愛シトオボシテ笑ミタマヘル、云云、あいぎゃうコボルルバカリニテオハスル」源、七、紅葉賀十「打笑ミタマヘル、イトメデタウ、あいぎゃうヅキタマヘリ」(三)情アルコト。源、三十四、上、若菜、上三十一「殊シモアルマジキ事ニ、カドカドシク、クセヲツケ、あいぎゃうナク、人ヲ持テハナルル心アルハ、云云」落窪物語、二「あいぎゃうナカリケル心持タマヘル者カナ、トテ腹ダチ、云云」(四)後世、愛敬相ヲ愛相ト云ヒ、人あしらへノ佳キコトヲ云ヒ、あいそづかしヲスルコトヲ、あいきゃうをこぼすナド云フ。(五)商家ナドニテ、賣ル物ニ、餘分ヲ添フルコト。吳服店ニテ、縮緬五尺買フニ、五尺三寸ニ裁ルナドヲ云フ。又、商業ニ、手形ノ滿期後ニ、支拂ヲ猶豫スル日數ヲ、愛敬日、又、恩惠日ト云フ。

あい-きゃう (名) 鱫鱙 〔造字ナリ、語原詳ナラズ、あいハ、鮎ナルベシ〕鮎ノ腸ヲ拔キ取リ、ヨク洗ヒテ、其中ニ、鮎ノ卵ニ、食鹽ヲ少シ混ジタルヲ詰メテ、鹽漬トシ、五六日經タルヲ、淸水ニテ洗ヒ、板ニ載セテ干シタルモノ。ソノママ食フ、九州地方ニテ製出ス。〔[illegible](天文)三、廿三「鮎、鱫鱙」易林本節用集(慶長)[illegible]、あいきゃう」[illegible]本朝食鑑(元祿)七、鮎「[illegible]」[illegible]〕

あい-きゃうげ (名) 愛敬毛 往時、花柳界ノ女ナドノ、頂ノ毛ヲ、數本、左右ニ分ケテ、鬢、頰ノ邊リヘ、垂ラシオケルモノ。

あい-きゃうのまもり (名) 愛敬守 「夫婦愛敬の守ノ義」貴婦人ノ婚禮ノ時、襟ニカクル守袋。古ヘハ、常ニ、胸ニ懸ケタルモノナリト云フ、後ニ、顚倒シテ、けいあいの守トモ云フ。

あい-きゃうのもち (名) 愛敬餠 みかのもち(三日餠)ノ條ヲ見ヨ。

あい-きゃうべに (名) 愛敬紅 演技ニ、女ノ目尻、又、耳朶ニ、薄クツクル紅。

あい-ぎょく (名) 愛玉 人ノ女ヲ稱ヘテ云フ語。オムスメゴ。〔[illegible]「稱二人女一曰二令愛、又曰二愛玉一」〕

あい-くち (名) 齞脣 〔明口ノ音便、(秋沙、あいさ)說文「齞、牛善反」〕口ノ、常ニ明キテ、齒ノアラハレテ見ユル癖アルモノ。〔[illegible]〕

あい-くる・し シキ・シケレ・シク・シク (形、二) 愛苦 〔あいくるしトハ、術ナク思入ル意ニテモアルカ〕キハメテ、アイラシ。イタク、カハユラシ。(童男、女兒ナドノ容貌ニ云フ)

アイクわう (名) 阿育王 〔梵語、阿恕迦(Asoka.)〕印度、摩揭陀國、孔雀王朝ノ第三世王。釋迦滅後、二百年頃ニ、出世シタル人ナリ。(西洋紀元前、二百七十年)初ハ、婆羅門教ヲ信ジ、猛惡ニシテ、虐殺ヲ行ヒシガ、佛教ニ歸依シテヨリ、改心シ、內治、外交、盛美ヲ極メ、印度史上ニ、偉名ヲ留メタリ、特ニ、佛教興隆ノタメニ、造塔、其他、種種ナル施設ヲナセリ、其傳說、佛教書中ニ、多ク散見ス。支那ノ宋朝ノ頃、印度僧來リテ、浙江省寧波府(明州)鄞縣治內ノ山ニ、寺塔ヲ建テ、阿育王山阿育王寺ノ稱アリ、此王ノ事、傳ヘテ、日本文學書中ニ見ルコト少カラズ。元亨釋書、十一、[illegible]條ニ「近江國、蒲生郡、石塔寺ハ、阿育王ガ、八萬四千舍利塔ノ一區ナリ」阿育王、初メ、八萬四千ノ夫人ヲ慘殺セシ罪ヲ悔イテ、八萬四千ノ塔ヲ造リテ、供養セリト云フ。

あい-ぐゎん (名) 愛玩 愛シテモテアソブコト。「古器物ヲ愛玩ス」

あい-けい (名) 愛敬 愛シミ敬フコト。〔孝經「愛敬盡二於事一レ親」文選、白水詩序「愛敬盡

レ於二一人一、光璟究レ於三四者一」

あいげう（アイギヤウ）(名) [愛樂] 〔周文韻府、樂、五教切、好也〕 愛シ好クコト。徒然草、百三十四段「人ニ愛樂セラレズシテ、衆ニ交ルハ、恥ナリ」

あいこ (名) [愛顧] イツクシミ、カヘリミルコト。ナサケヲカクルコト。 漢書、[illegible]傳「[illegible]不レ侍數日、[illegible]、[illegible]愛顧之意、」

あいご (名) [愛護] 大切ニ護ルコト。 顏氏家訓「借二人典籍一、皆須二愛護一」

あいこく (名) [愛國] クニオモヒ。自國ヲ愛シテ、心ヲ盡スコト。忠君愛國、愛國心ナド云フハ、人民ノ、其國家ニ對シテ、尊敬、感恩、依頼等ノ念ヲ懷キテ、其存續、發展ヲ圖リ、外國ノ犯ス事ナドアラバ、極力、コレニ抵抗シ、國ノ利益ヲ保護シ、利權ヲ伸張セム、トスルコトナリ。 戰國策、秦策「明主愛二其國一、忠臣愛二其名一」

あいさ (名) [秋沙] 〔秋早鴨（アキサガモ）ノ音便略、倭訓栞、中編、あいさ「秋早ク出ヅルヲ以テ、名ヲ得シナルベシ」〕 古名、あきさ。今、又、あいさがも。 鴨ノ類、狀、さがもニ似テ、頭ト背トハ灰色ニシテ、腹、白ク、嘴、細ソク尖リ、脚ト共ニ赤シ、北地ニ棲ミ、秋、來リ、春、去ル。 万鴨一種。 萬葉集、七九「山ノ間ニ、ワタル秋沙（アキサ）ヲ、往キテヰム、其河ノ瀨ニ、浪立ツナユメ」 [illegible] 「澄ミノボル、月ノ光ニ、ヨコギレテ、渡ルあきさノ、音ノサヤケキ」 八雲御抄、三、下「秋紗、アイサ」 玉勝間、十三、鴨ノ類「あいさト云フ一種アリ、云云、萬葉七ノ歌ニあきさトアル、此物也」 重修本草綱目啓蒙、[illegible]「[illegible]ト云フ、小[illegible]、云云、あいさおも、[illegible]」あいさ、黃黑あいさ、鷄あいさ、海あいさ、川あいさ(啓文)等ノ品アリ」

あいさう（アイソウ）(名) [愛相][愛想] 〔愛敬相（アイキヤウサウ）ヨリ移ル、あいきやう(愛敬)ノ條ノ(二)(四)ヲ見ヨ、あいそト云フハ、略轉ナリ、(音頭（オンド）、おんど。ささやく、そそやく) 愛想トハ、心ニ移シテ書クナリ〕 人あしらへノ佳キコト。禮アリ、情アルコト。又、あいそ。あいさうがよいト云フ、コレニ反スルヲ、あいさうがない、あいそをつかすト云フ。 義經記、六、判官南都へ忍び御出ある事「明日、門外ニ候フ事、御覽ジ候ヒナバ、義經が愛想モ盡キテ思召サレンズルト仰セラレケレバ」 倭訓栞、後編、あいさう「愛相ノ字音ナリ、愚問賢註ニ、言葉ノあいさう、ト見エタリ」 桂川連理柵(安永、菅專助)「此身ハ、何タル大惡人、モモモモ、あいそモあいそも、盡キ果テタ」(あいそモ、そトハ、仕樣模樣、らちくち、ナドト同例ニテ、同ジヤウナル音ヲ、語路ニテ重ネテ、口調トセルノミ)

あいさがも (名) [秋早鴨] 前前條ヲ見ヨ。

あいさつ (名) [挨拶] 〔篇海類編、八「挨、推也」「拶、逼也」鶴林問道篇(葛長庚)「士庶挨拶」推シアヒ、ヘシアフナリ〕 (一) 禪家ノ語。門下ノ僧ニ推問答シテ、其悟道知見ノ深淺ヲ試ムルコト。 碧巖集、第二十三則「一言一句、云云、一挨一拶、要レ見二其深淺一」 俚言集覽、挨拶、莊子、在宥篇「桁楊者、相推也」林注「相二推言行一者、相挨拶也」 (二) 書翰ノ往復應答ノ詞。消息ノ往來。信書應酬。 下學集、序(文安)「南去北來、北來[illegible]、酬答當レ辭、挨拶得レ便」 (三) ウケコタヘ。返答。返辭。應答。爭議ナドノ中ニ立チテ、雙方ノ應答ヲ通ジ、仲裁スル者ヲ、挨拶人ト云フ。 (四) 答禮。返禮。報酬。

あいさつにん (名) [挨拶人] 前條ノ(三)ヲ見ヨ。

あいし (名) [哀子] かうし(孝子)ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。

あいし (名) [愛子] 愛ヅル子。殊ニカハユガル子。愛兒。 左傳、[illegible]「[illegible]」 濱松中納言物語、一「五ツニアタリ侍ル娘ノ、スグレタルあいしニ侍リ」

あいじ (名) [愛兒] 前條ニ同ジ。

あいじつ (名) [愛日] 〔韻會「愛、吝惜也」〕 月日ヲ惜シムコト。時日ニ徒費セジト勉ムルコト。 揚子法言、孝至篇「事二父母一自不レ足者、其舜乎、不レ可二得而久一者、事レ親之謂也、孝子愛（ヲシム）レ日」 大戴禮、曾子立事篇「君子愛レ日以學、及レ時以行」 三國志、吳志、吳主五子孫和傳「志士愛レ日惜レ力」

あいしふ（アイシユウ）(名) [愛執] 佛經ノ語、愛ノ情ニ執着（シフヂヤク）スルコト。又、愛着。 濱松中納言物語、三「孕（ハラ）マレタマヒニケルハ、尼ニナリテ後、生レタマヘリ、云云、心變シトテモ、あいしふノ煩惱、離レ難キモノナレバ、云云、身ニ副ヘテ、オハシマスナルベシ」 盛衰記、四十、維盛出家事「カクモナラバ、思フ事ナカラマシトオボスゾ、愛執、煩惱、罪深シ」

あいしやう（アイシヨウ）(名) [哀傷] (一) 人ノ死シタルヲカナシムコト。 (二) 歌集中ノ部類ニ、哀傷ニカカル歌ヲ集メタルトコロ。

あいしらふ（アイシラウ）(動) [應答] あへしらふヲ見ヨ。

❖アイス (名) 次次條ヲ見ヨ。

あいす・スル・スレ・セ・シ・セヨ (他動、左變) [愛] (一) イツクシム。愛ヅ。イトホシム。カハユガル。 堤中納言物語、蟲めづる姬君「コノ蟲ドモヲ、アシタ、ユフベニあいしタマフ」「子ヲ愛す」駿馬ヲ愛す」 (二) 大切ニナス。ダイジニ思フ。「國ヲ愛す」家ヲ愛す」 (三) 好ミ樂シム。面白シト思フ。「山水ヲ愛す」骨董ヲ愛す」

アイス-クリイム (名) [氷菓子] 〔英語、Ice-cream〕 (一) コホリグワシ。西洋ノ製法ヲ傳ヘタルモノナリ、鍋ニ牛乳ヲ入レ、香料ト砂糖ヲ加ヘテ、火ニ濃カシ、他ノ鍋ニ、鷄卵ノ黃身ヲ擂リコブシ、ソレニ、沸シタル牛乳ヲ、少シヅツ注ギ込ミテ、混ゼアハセ、漉シテ冷水ニ浸シ、其汁ヲ、罐ニ移シテ、桶ノ中ニ入レ、桶側ト罐トノ間ニ、氷ト食鹽トヲ詰メ、罐ノ上部ヲ持チテ、急速ニ廻轉シ、時時、箆ニテ掻キマゼテ、凝結セシム。 (二) 俗ニ、高利貸ノ隱語。氷菓子ノ語路ナリ、略シテ、あいこトノミモ云フ。

あいせう（アイシヨウ）(名) [愛妾] オモヒモノ。意ニカナヒタル妾（ソバメ）。

あいぜんがら (名) [愛染柄] 〔全身、赤ケレバ、愛染明王ノ體色ニ擬シテ云フニヤ、山がらノ語原ヲ見ヨ〕 小鳥ノ名。噪子鳥、下、あいぜんがら、大キサ、山がらニ似テ、毛色、山がらノ白キ所モ、殘ラズ[illegible]色ニ赤シ」(古事類苑)

あいぜんみやうわう（アイゼンミヨウオウ）(名) [愛染明王] 〔愛染トハ、愛ニ染まる意、楞嚴經「心生二愛染一」〕 佛經ニ、明王ノ一。又、愛染王。愛ヲ司ル神ナリト云フ、三目六臂ニシテ、獅子冠ヲ戴キ、全身赤色ニシテ、忿怒ノ相ヲナス。 增鏡、第五、內野の雪「[illegible]ト云フハ、愛染王ノ座さまさぬ祕法、取行ハセラル、供僧モ紅梅ノ衣、袈裟、數珠ノ緒マデ、同ジ色ニテ侍ルメリ」(明王ノ體色ノ赤キニ倣フ)

あいそ (名) [哀訴] ナゲキテ、ウッタフルコト。歎願。

あいそ (名) [愛想] あいさう(愛相)ノ條ヲ見ヨ、

あい-ぞう (名) 〔愛憎〕 愛スルト、憎ムト。〔史記、游俠傳、嘉賓、雨後煖、罪苦、愛憎之至變也〕〔一當時、心ニ任ス〕

あいそ-づかし (名) 〔愛想盡〕 〔あいさうヲ愛相〕ノ條ヲ見ヨ、愛相ヲ盡きさすヲあいそヲつかすト云フ、其名詞形ナリ〕 無情ニ他ニ對シテ、情愛ヲ絶ツコト。無情ニアツカフコト 俚言集覽、あひさふづかし「あひさふがつきるトモ云フ、歡待ノ盡ル也」 譬喩尽集(寛永)「盡レヨト、あいそも月ノ、面ノ空」 鶏ヅカヒ並ブ、花川邊」

あい-そん (名) 〔哀孫〕 かうそ(孝子)ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。

あい-た (句) 〔噯痛〕 〔あないたしノ略(あな痛し、あなたふと。あなありがたし、あなありがた)〕 アア、痛シ。狂言記、胸突「あいた、あいた、人殺シ、出合へ、出合へ」 諺草(元祿)六「阿痛、俗ニ、痛ム事ノツヨキヲあいたト云フ、此字ナルベシ」 倭訓栞、あいた「あないたしノ義」

あい-たい (名) 〔靉靆〕 〔雲、日ヲ掩ヒテ薄暗キ貌ニ云フ語、正字通「靉靆、雲盛貌、一曰、雲暗」トアリ、コレヲ、眼鏡ニ云フハ、唯、日ヲ掩フ意ナルカ、反語ナルカ、或ハ又、玻璃ノ類ノ西域語ノ音譯ニテモアルカ、尚、考フベシ〕 老眼鏡ノ異稱。正字通「靉靆、眼鏡也、洞天清錄、𩐛ニ靉靆、老人不レ辨ニ細書、以レ此掩レ目則明、元人小說、言ニ靉靆出ニ西域、云云、方輿勝略、滿剌加國出ニ靉靆ニ」 清田儋叟詩「花燈內讀苦ニ昏蒙、把レ卷唯宜レ坐ニ日中、靉靆一雙新上レ額、從レ燈猶作ニ書蟲ニ」

あい-だい (感) 〔欸乃〕 あうあい(欸乃)ノ條ヲ見ヨ。

あい-たう (名) 〔哀悼〕 人ノ死ヲカナシミイタムコト。哀傷。

✣あいた-くち (名) 〔開口〕 〔開きたる口〕 (一)あいた口に牡丹餅、トハ、求メザルニ、福ヲ得タリト云フ意。(二)あいた口がふさがらぬ、トハ、呆レカヘルト云フ意。

〜あい-だち-な-し・キ・ケレ・ク・ク (形、二) 〔無愛立〕 〔愛立つさ無しノ義(倭訓栞、中編、あいだてなし「愛立無ノ義ナルベシ」)愛立つトハ、愛めくノ意(愛無しノ反)忠立つ、夕立つ、ナド同趣ナリ、あいだてトハ、他動ニ云フノミ〕 (一)不愛想ナリ。ツレナシ。又、あいだてなし。無情 源、三十八、夕霧四十三「心ヨカラズ、あいだちなきモノニ思ヒタマヘル、ワリナシヤ」抄「愛ノナキナリ」 同、四十八、寄生八十四「世ヲ思ヒタマヘ亂ルル事ノミナム、マサリニタルト、あいだちなくゾ憂ヘタマフ」湖月抄「あいだてなくナリ、あぢきなきト同ジ」 增鏡、第二、新島守、賴朝上洛、遠江國、橋本宿ニ着ク、遊女、多ク盛裝シテ參ル、賴朝打笑ミテ「橋本ノ、君ニ何ヲカ、渡スベキ」(擬頭ヲ云フ)梶原景時「タダ杣山ノ、くれデアラバヤ」イトあいだてなしヤ(杣山ノ榑にてヲ、不ニ給與ニカケタリ) (二)不愛想なりヨリ轉ジテ、不相應なり、ノ意トナレリ。トハウモナイ。狂言記、荷文「海ナラバ蒼冥海、山ナラバ須彌山、コレヲ聞ケ、サテモ、サテモ、あいだてない事ヲ、書入レテオカレタハ」 醒睡笑(元和)四、以屋那批判「ソレヤウニ、あいだてなサウニ、物ハ言ハヌモノジヤ」 本朝俚諺(正德)六「あいだちなし、今ハ、不相應ノ事ヲ、あいだてなしト云フ」

あい-だて-な-し (形) 前條ヲ見ヨ。

あいた-どころ (名) 〔朝所〕 あさたどころ(朝所)ヲ見ヨ。

あいたん-どころ (名) 〔朝所〕 あさたどころ(朝所)ヲ見ヨ。

〜あい-だ-る・ル・ル・レ・レ・レ・レヨ (自動、下二) 〔愛垂〕 〔倭訓栞、中編、あいだれ「愛垂れノ義ニヤ」垂るハ、溢レ落ツルナリ(あまえたるる、木垂るる)〕 (一)アマエタル。名義抄「媚、アイダレ」說文「媚、媚也」 源、三、夕顏四十「今ダニ名ノリシタマヘ、イトムクツケシト宣ヘド、云云、サスガニ打チトケヌサマ、イトあいだれタリ」細流抄「あまえタルサマナリ」(夕顏ノ事ナリ) (二)タヲヤグ。源、三十五、柏木三十二「薰君ハ、五六年ノ程ノ兒ナリシカド、ナホ、イト若ヤカニ、ナマメキあいだれテ、物シタマヒシ」細流抄「なよび過ギタルケハヒヲ云フカ」(柏木ノ事ヲ云ヘリ、三十三四歲ナリ)

あい-ぢやく (名) 〔愛着〕 愛ノ情ニ執着スルコト。愛執。寶積經、九十七「如ニ蠅見レ唾於レ吐而生ニ愛着心ニ」

✣あい-つ (代) 〔彼奴〕 あやつノ條ヲ見ヨ。

〜あい-づか-は-し・シキ・シケレ・シク・シク (形、二) 〔愛就く(秋就く、老就く)ト云フ動詞アリテ、其未然形ノあいづかヲ、活用セシメタル語ナルベシ(懷く、なつかし。歎く、なげかはし)〕 (一)愛敬ヅキタリ。今鏡、中、雁金「今少シ匂アリテ、あいづかはしきヤウニゾオハシケル」 (二)オモシロミアリ。今鏡、上、白川花宴「御笛ノ音モあいづかはしく、スズシキヤウニゾオハシケル」

〜あい-つつじ (名) 〔山榴〕 〔秋つつじノ音便ナラム(秋沙、あいさ)〕 羊躑躅ノ類ノ、秋ニ花咲クモノナルベシ。倭名抄、二十八「山榴、阿伊豆豆之、卽、山石榴也、花與ニ羊躑躅ニ相似矣」

アイデア (名) 〔英語、Idea.〕 觀念。其ノ條ヲ見ヨ。

あい-あい (名) 〔欸乃〕 あうあい(欸乃)ヲ見ヨ。

〜あい-な-し・キ・ケレ・ク・ク (形、二) 〔無愛〕 (一)カハユゲナシ。愛相ナシ。源、一、桐壺二「帝、桐壺更衣ヲ愛デタマヒ「人ノ謗リヲモ、エ憚ラセタマハズ、云云、上達部、上人ナドモ、あいなく目ヲソバメ」 河海抄「無愛」 新釋「愛敬ナキヲ略シテ、愛なしト云フナリ」 枕草子、三、廿一段「愛敬オクレタル人ノ顏ナド見テハ、云云、ゲニ其色ヨリシテ、あいなく見ユルヲ」 落窪物語、一「昨夜ノ心ハ、限リナク、あいなく、心ヅキナク、腹ギタナシ」 今昔物語、一、第十一語「家每ニ行キテ、物ヲ乞ヒ食フ事アリ、濫ク无愛ナリ」 (二)轉ジテ、オモシロクナシ。アヂキナシ。蜻蛉日記、中、上七「吾ガココチノ、サハヤカニモアラネバ、ツクヅクト、臥シテ思ヒアツムルコトゾ、あいなきマデ多カルヲ」 海人藻芥(應永)中「連歌ノ最上手ト、名譽ハアリトモ、歌ヲ一向不沙汰ナラムハ、愛なかルベシ」 (三)轉ジテ、カヒナシ。センナシ。無益ナリ。源、十八、松風十一「ココカシコノ立石ドモ、皆マロビウセタルヲ、云云、カカル所ヲ、ワザトツクロフモ、あいなきワザナリ」 徒然草、七十三段「世ニ語リ傳フルコト、誠ハあいなきニヤ、多クハ皆空言ナリ」

〜あい-な-し・キ・ケレ・ク・ク (形、二) 〔無合〕 〔合ひなし(合ハヌ)ノ音便、常規ヲ脫スル意、前條ノ語ト混ズルコト勿レ〕 言ハムカタナシ。イハウヤウナシ。榮花物語、三十七、煙の後「齋院、馬御子、産ミタテマツラセタマヘレバ、あいなく、世ノ人、喜ビ申ス、殿ヨリ始メ奉リ、殿原モ、思シヨロコバセタマフ」 源、十四、澪標二「御本意ノヤウナレバ、大方ノ世ノ人モ、あいなく嬉シキ事ニ、悅ビキコエケル」

〜あいな-だのみ (名) 〔あいなハ、前前條ノ(二)かひなしノ意ノ語根〕 詮ナキ賴ミ。アテニナラヌ望ミ。源、二、帚木十九「馬頭ノ「ツラキ心ヲ忍ビテ、思ヒナホラム時ヲ見ツケムト、年月ヲカサネムあいなだのみハ、イト苦シクナ

ムアルベケレバ」同、九、淡松「打チトケオハシマス事ハ侍ラザリツレド、サリトモ、終ニハト、あいただのみし侍りツルヲ」

あいなめ (名) 鮎魚女 〔鮎ノ條ヲ見ヨ、倭訓栞、後編「あいなめ、鮎ニ似テ滑ラカナルヲ以テ云フナルベシ」イカガアルベキ、或ハ、鮎ニ似タル意ニテ、鮎並(アイナミ)ノ轉カ(蝤蛑(カザミ)、かざめ)〕 海魚ノ名、もうおノ類、猪首(ヰクビ)ニシテ、身狹ク、鱗細カク、口、眼、大ナラズ、身、淡黑ニシテ、濃黑ノ斑アリ、尾ニ赤ミアリ、頰、黃ナリ、小サキハ一二三寸、大ナルハ尺餘アリ、味、甚ダ佳ナリ。本朝食鑑(元祿)八「鮎魚女、阿比奈女、云云、形、略似二年魚一故名、江都品川、芝濱江上、多采レ之、或夏秋聞釣レ之」物類稱呼(安永)二「鮎魚女、あいなめ」

✤あいにく (副) 生憎 あやにくノ條ヲ見ヨ。

アイヌ (名) 蝦夷 〔蝦夷語、人(ヒト)ノ義〕 北海道、及ビ、樺太島ニ住ム舊土人ノ、其種族ノ自稱。內地人ハ、訛リテ、あいのトモ云フ、古クハ、蝦夷(エゾ)(其條ヲ見ヨ)又、蝦夷人(エゾジン)ト呼ビキ、皮膚ハ、褐色ナリ、被髮ニシテ、鬚多ク、體毛、特別ニ多シ、性質ハ、溫和ニシテ禮アリ、一種ノ言語ヲ有ス、あつしト云フ衣服ヲ着テ、常ニ跣足ナリ、家ハ、掘立柱ニテ、屋根モ、壁モ、萱ヲ以テ覆フ、室內ハ、土間ニシテ、中央ニ、大ナル爐ヲ設ケ、萱ノ簀ヲ敷キテ住ム、人口ハ、今、北海道ニ、一萬六七千人、樺太ニハ、一千人ニ達セズト云フ。

アイノ (名) 蝦夷 前條ヲ見ヨ。

✤あいのかぜ (名) あゆのかぜヲ見ヨ。

あいば (名) 愛馬 寵愛スル乘馬。 [illegible]

あいぶ (名) 愛撫 愛シミ恤(イツクシ)ムコト。 宋史、范仲淹傳「[illegible]愛撫士卒」

あいべつりく (名) 愛別離苦 佛經ノ語、八苦ノ一。生、死、共ニ、親愛スル人ト別離スル苦痛。 榮花物語、三十、鶴林「不生不滅ノ佛スラ、ナホ愛別離苦、無去無來ヲ離レ給ハズ」太平記、二十、義貞の首獄門に懸くる事、附、勾當內侍事「會者定離ノ理ニ、愛別離苦ノ夢ヲ覺シテ、云云、柴ノ扉ニ、明暮ヲ行ヒスマシテゾオハシケル」

あいまい (名) 曖昧 〔玉篇「曖、暗貌」博雅「昧、冥(クラキ)也」〕 (一)暗キコト。(二)事ノハキトセヌコト。定レル目當ナキコト。 何晏、景福殿賦「其奧祕則蹈蔽曖昧」晉書、杜預傳、誚伐呉表「臣心實了、不敢以曖昧之見自取後累」

あいみん (名) 哀愍 アハレムコト。 無量壽經「如來、普慈哀愍」「惡令度脫」兄弟、夫婦、一死一生、更相哀愍」

あいや (句) 〔あハ、呼ビカクル聲〕 否(イヤ)。然ラズ。 狂言記、富士松「供ヲセマイト云フコトカ、あいや、參リマスル」「あいや、然(サ)ヤウデナイ」

あいゆう (名) 隘勇 臺灣ニテ、生蕃ニ備フルタメニ、險隘ノ地ヲ守ラシムル兵士。土民中ヨリ徵發セラル。

あいよく (名) 愛欲 愛著、貪欲ノ心。心ノ明ヲ蔽ヒテ、苦境ニ沈溺セシムルガ故ニ、コレヲ海ニ譬ヘテ云フ。 無量壽經「愛欲榮華、不可常保」瑞應經「世間沒於愛欲之海」

アイヨン (名) あいろんヲ見ヨ。

✤あいら (代) 彼等 〔あれらノ轉ナルベシ、我等(ワレラ)(汝)ヲ、わいら、何ヲスルカ、ナドト云フ〕 彼ノ者ドモ。「あいらニハ任セラレヌ」

あいら・し・シキ・シケレ・シク・シク (形、二) 愛 〔らしハ、形容スル接尾語(メヅらし、ニクらし)〕 カハユラシ。イツクシ。可憐 [illegible]集、一、下、第十條「[illegible]ハ、ホソボソトシテ、おいらしくオハスルゾヤ」

あいれん (名) 愛憐 イツクシミ、アハレムコト。イトホシムコト

あいろ (名) 文色 〔文色(アヤイロ)ノ約(驛馬(ハヤウマ)、はいま)〕 文目(アヤメ)ニ同ジ。 倭訓栞、中編、あいろ「文色ノ義ナルベシ、あいろノ見エヌナト云フ」生寫朝顏日記(文化、近松德三)宿屋「物ノあいろモ永鳥ノ」(見ずニカケタリ)

アイロン (名) 〔英語、Iron(アイアン)ノ訛讀、あいよんハ、轉訛ナリ〕 西洋製ノ、鐵造ノ熨斗(ヒノシ)。特ニ、洋服類、洗濯物ノ皺(シワ)ヲノバスニ用キルモノ。アイヨン。

あいゑん (名) 哀猿 山中ナドニテ、哀(カナ)シゲニ叫ブ猿。 謝靈運詩「秋蟬鳴二北樹一、哀猿響二南巒一」

〰あいをあ・ぐ・グル・グレ・ゲ・ゲ・ゲヨ (自動、下、二) 擧哀 哀悼ノ聲ヲアグ。天皇崩御ノ時ノ禮儀ナリ。 續紀、三、慶雲四年六月辛巳(五日)「天皇崩、遺詔、擧哀三日、凶服一月」文德實錄、一、嘉祥三年三月、「命二京畿七道一擧哀、素服、限以三日」云云、式部省率二百寮一、於二紫宸殿前一擧哀、公卿、及、侍臣以下、於二東宮一擧哀」

あう (名) 襖 あを(襖)ノ條ヲ見ヨ。

あうあい (感) 欸乃 〔集韻「欸、於開切、音哀」此音ニ、欸乃(アイナイ)ト襖靄(アウアイ)トノ二說アリ、共ニ字義ニハ關セズ、聲ヲ譯(ウツ)シタルナリ、然ルニ、欸乃一聲山水綠ナド云ヒテ、舟歌ハ、聲ヲ長ク引キテ發スルモノナレバ、あうあいナラズハアルマジ[illegible]ラズ、あいないニテハ、歌ハレズト[illegible]、二三唐詩ノ注ニ、欸乃、舟人[illegible]聲トアリ、畢竟ズルニ、欸乃ノ字ヲ充テテ書クモ、あうあいト一聲ノ轉ノミ〕 舟歌(フナウタ)ノ節ヲ取ル聲。 唐柳宗元詩「漁翁夜傍二西巖一宿、曉汲二清湘一燃二楚竹一、煙消日出不レ見レ人、欸乃一聲山水綠」[illegible]

あうあう (副) 嚶嚶 鳥ノ、相應ジテ、相和ラギ鳴ク聲ニ云フ語。 詩經、小雅、伐木篇「伐木丁丁、鳥鳴嚶嚶、出レ自二幽谷一、遷二于喬木一」

あうあう (副) 怏怏 心ノ、不滿、不快ナル狀ニ云フ語。 史記、淮陰侯傳「由レ此日夜怨望、居常怏怏」

〰あうい・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (自動、四) 奧行 〔「あうハ奧(アウ)ノ字音、深ノ義、次條ヲ見ヨ、奧寄(アウヨ)るト云フ語モ、同趣ナリ〕 奧ヘ行(ユ)ク。行キスギル。 枕草子、五、五十段「タダ彼レジト思ヒツルニ、人目モ知ラズ走リレツルノ、あういかムコソ、イトスサマジケレ」

あうぎ (名) 奧義 奧深キ義。秘密ニテ、肝要ナル意義。奧旨。奧秘。 孔安國、尚書序「[illegible]」

あうけい (名) 秧鷄 クヒナ。

あうさつ (名) [鏖殺] 〔集韻「鏖、於刀切、盡死殺人曰鏖」〕 ミナゴロシ。 漢書、霍去病傳「合短兵鏖皐蘭下」註「鏖、謂苦擊而多殺也」

あうし (名) [奥旨] あうぎ(奥義)ニ同ジ。

あうしうさうぶぎやう (名) [奥州總奉行] 鎌倉幕府ノ職名。奥州ノ家人ヲ總管ス。 武家名目抄、四十八、奥州總奉行「吾妻鏡(九)文治五年九月廿二日、陸奥國御家人事、葛西三郎清重、可奉行、參仕之輩者、屬清重可啓子細之旨、被仰下」

あうしうたんだい (名) [奥州探題] たんだいノ條ヲ見ヨ。

あうじち (名) [鸎實] 鸎ノ木の實ニ、漢字ヲ充テテ、音讀シタル語」 うぐひすのきノ實。うぐひすのきノ條ヲ見ヨ。 倭名抄、十七「鸎實、阿字之智」台記、天養元年四月「鸎實、云云、其色紅、大如大豆、云云、其味甘焉」

あうしやう・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ(自動、左變) [鞅掌] (一)イソガハシク、ハタラク。 詩經、小雅、北山篇「或棲遲偃仰、或王事鞅掌」毛傳「鞅掌失容也」鄭箋「鞅猶何也(荷)、掌謂捧之也、負荷捧持以趨走、言促遽也」朱傳「言事煩、勞不暇爲容儀」 (二)繁多ナル事務ニ從事ス。 稽康、與山巨源絶交書「心不耐煩、而官事鞅掌、機務纏其心、世故繁其慮」 白氏文集、十、寄楊六詩「公門苦鞅掌、晝日無閑隙」

あうしゆくばい (名) [鶯宿梅] (一)紅梅ノ名木ノ名。拾遺和歌集ノ左ノ歌ノ意ヨリ稱ス。 拾遺集、九、雜「内ヨリ、人ノ家ニ侍リケル紅梅ヲ掘ラセタマヒケルニ、鶯ノ巣クヒテ侍リケレバ、家ノ主ノ女、(紀貫之ノ女)先ヅ、カクゾ奏セサセ侍リケル「勅ナレバ、イトモカシコシ、鶯ノ、宿ハト問ハバ、イカガ答ヘム」カク奏セサセケレバ、掘ラズナリニケリ」 下學集(文安)下、草木門「鶯宿梅、後鳥羽院之時、京洛有二尋常一、開植二一株之梅一、紅白相交、其花尤異、云云、院聞之、欲移内園、云云」 作二倭歌一、云云、因二倭歌一名曰二鶯宿梅一、云云」(此歌、長徳年中ノ拾遺集ニアレバ、後鳥羽院ハ誤ナリ)合類節用(元禄)六、生植門「鶯宿梅、紅梅一名、村上帝朝、因二西京、紀貫之女詠歌故事一、見二世繼、大鏡一」 (二)後世ハ、紅白ノ花ノ雜リ咲ク、一種ノ梅ノ稱トス、咲分ノ梅トモ云フ、コレハ、前ニ載セタル下學集ノ記ニ因リテ特稱トシタルナルベシ。 地錦抄(寶永)鶯宿梅「白梅、八重モ、一重モアリ、花ノ香、餘梅ニスグレタリ」

あうせん (名) [鶯遷] 〔あうあう(嚶嚶)ノ條ヲ見ヨ〕 進士ノ試驗ニ及第スルコト。 尚書故實「今謂進士登第爲鶯遷者久矣、蓋自伐木詩」 王禹偁、送査校書從事彭門詩「姓名舊在鶯遷榜、詩什重題燕子樓」

あうせん (名) [鏖戰] 敵ヲ鏖殺ニスルホドニ、劇シク戰フコト。あうさつ(鏖殺)ノ條ヲ併セ見ヨ。 范成大詩「逡巡怯大敵、勇往決鏖戰」

あうぞく (名) [罌粟] 草ノ名、ケシ。

あうだ (名) [篕輿] 〔編板ノ約ナルあみだノ、音便ニあうだト轉ジタルナリ(かみかき、かうがい。をみな、をうな)假名ヲタガヘテ、あふたトモ記ス、あうた、あふた、共ニ、あおたト發音セショリ(仰ぐ、あおぐ)又、假名ヲタガヘテ、あをたトモ記スナリ、あんだト云フハ、あうたヲ、更ニ音便ニ云フナリ(かうぶり、かんむり。ようべ、よんべ)正韻「篕、竹輿也」〕 篕輿ニ同ジ。罪人、手負ヲ載スル乘物。又、あふた。あをた。あんだ。 名義抄「篕輿、アミイタ、アウタ」 字鏡集「舉、アウタ」長門本、平家物語、十三、北國所々合戰事「我等、今ハ、生キテモ何カハセム、死ナムマデ、防ギ矢八射ンズルゾ、あをたニ舁イテ行ケ」 盛衰記、十五、南都騷動始事「淨衣着タル死人ノ、首モナキガ、あふたニ舁カレテ通ルヲ見レバ」 同、三十五、範賴義經京入事ノ條ニ、義仲、宇治ニ向ハムトテ、伊賀局ニテ、あをた山、頸落籠ト云フ所ニ到リ「戰場ニ向フニ、あをた山、首落ノ道、禁忌ナリ」トテ、長田ノ里ニ廻ルト見ユ。太平記、十、左近大夫偽落奥州事「篕ニ載セテ、云云、武藏マデゾ落チタリケル」

あうたう (名) [櫻桃] ユスラウメ。

アウト (名) 〔英語、Out.〕 (一)庭球ニテ、球ヲ場外ニ打チ出シタルコト。 (二)野球、くりけっとニテ、戲班ノ一人、事ヲ誤リテ落伍スルコト。

アウト-ライン (名) 〔英語、Out-line.〕 輪郭。又ハ、略圖。

あうなう (名) [懊惱] ウラミナヤムコト。モダエ苦シムコト。 白氏文集、十八、聽竹枝贈李侍御詩「巴童巫女竹枝歌、懊惱何人怨咽多」

あうな・し・キ・ケレ・ク・ク(形、一) [無奥] 〔あうハ、奥ノ字ノ音、奥なしナリ、語彙「遠キオモンパカリノナキ意ナリ」〕 心無シ。考ヘナシ。 源、四十九、東屋五十一「あうなく、人ノ思ハム所モ知ラヌ人ニテ、言ヒチラシ居タリ」同、五十、浮舟六三十「若キ人ノ心ザマ、あうなかラヌヲカタラヒテ」 狭衣、一、下十三「晝寐シタル人人ノ、騒グニオドロキテ、(目サメテ)あうなく起キアガリタルニ、云云、アキレタルケハヒ顏ハ、イト、ヲカシゲナリ」

あうひ (名) [奥祕] あうぎ(奥義)ニ同ジ。

あうむ (名) [鸚鵡] (一)〔鳥ノ名、熱地ノ産ニテ、鶉來スル者ヲ畜フ。 形、雉ノ雛ニ似テ、枝ニ立ツコト、鷹ノ如シ、羽ハ白キヲ常トス、頭、嘴、共ニ大キク、頂ニ冠毛アリテ上ニ聳ユ、開ケバ菊ノ花ノ如シ、種類多シ、能ク人ノ語ヲマネテ物言ヒ、人、一語ヲ發スレバ、ソノ如クマネテ應フルヲ以テ名アリ、因リテ、あうむ返し、あうむ石ナド云フ語ヲ生ズ。 孝徳紀、大化三年十二月「新羅獻鸚鵡二」 枕草子、三、廿五段「異國ノ物ナレド、あふむ、イトアハレナリ、人ノ言フラムコトヲマネブラムヨ」 (二)次次條ヲ見ヨ。

アーウン (感) [阿吽] 〔梵語、阿字ノ條ヲ參見セヨ〕 悉曇ニ、阿ヲ、字母ノ初韻トシ、吽ヲ、終韻トシ、一切萬有ノ原理ヲ示ストス、阿ハ口ヲ開キ、吽ハ閉ヅ、因リテ、息ノ呼吸出入トシ、阿吽の息ナド云フ、寺門ノ左右ニ立テル金剛力士、(二王)堂社前ノ左右ニ置ケル石獅子ナド、一ハ口ヲ開キ、一ハ閉ヂテアル、是レナリ。 光明眞言觀誦要門、上「相撲ノ仕切ニ、阿吽ノ呼吸ヲ合ハス」 謠曲、安宅「出デ入ル息ニ、あうんノ二字ヲ稱ヘ」

あうむがひ (名) [鸚鵡貝] 〔殼ノ形、鸚鵡ノ嘴ニ似タリ〕 螺ノ類、南洋ノ産ナリ。殼ハ、螺旋狀ニテ、外面ハ赤褐色ニシテ、紫黑ノ美シキ斑アリ、内面ハ美麗ナル眞珠質ニテ覆ハル、酒杯ナドニ作リ、又、螺鈿ニモ用ヰル。 鸚鵡螺 本草綱目、四十「鸚鵡螺、形如鸚鵡頂、可作杯」 唐詩選、長安古意「翡翠屠蘇鸚鵡杯」(鸚鵡螺ノ杯ナリ、下同ジ) 夫木抄、五、三月三日、慈鎭「桃ノ花、浮ブ心ニ、待チゾ見ル、あうむの坏ノ、石ニサハルヲ」(曲水ノ盃流ヲ云フ) 謠曲、養老「曲水ニ浮ム鸚鵡ハ、石ニサハリテ遲クトモ、手ニマヅ取リテ」

あうむがへし（名）[鸚鵡返] 返歌ノ一種、本ノ歌ノ心詞ヲ變ヘズ、同ジ事ヲ詠ミテ返スモノ、鸚鵡ノ口眞似ノ如シ。或ハ、本ノ歌ノ中ノ一字ヲ變ヘテ、[illegible]ノ意ニ轉ジテ、返スモノナドモアリ。[illegible]抄(藤原範兼)「鸚鵡返シト云フモノアリ、本ノ歌ノ心詞ヲ變ヘズシテ、同ジ事ヲ云ヘルナリ、鸚鵡ト云フ鳥ハ、人ノ口眞似ヲスル故ニ、カク名ヅケタリ、云云、一字ヲモテかへす事侍リ、云云、是レゾ鸚鵡がへしトモ云フベキ、後一條院、春日行幸ニ「ソノカミヤ、祈リオキケム、春日野ノ、同ジ道ニモ、尋ネユクカナ」御返シ、上東門院「曇リナキ、世ノ光ニヤ、春日野ノ、同ジ道ニモ、尋ネユクラム」カヤウニ變ハラヌヲ云フ也」[illegible]、上、第[illegible]ニ、或ル宮女ヨリ、雲ノ上ハ、アリシ昔ニ、カハラネド、見シ玉簾ノ、内ヤユカシキ、ト云フ歌ヲ出ス、[illegible]、内やノやノ字ヲ、ぞニ改メテ、簾ノ内へ返シ入レタリ、トアリ、又、[illegible]ニ知ラセバヤ、月ヲ眺ケテ、[illegible]ニ、逢ハデ空シク、歸ル心ヲ」ト云フ男ノ歌ニ、女、かへるノるノ字ヲ、すト改メテ返セリ、トアリ。

あうむせき（名）[鸚鵡石]〔鸚鵡ノ、人ノ口眞似スルニ寄セテ云フ〕（一）山間ナドノ大岩ノ、物ノ響キニ應ヘテ、同ジ響キヲ發スルモノノ名。伊勢ノ宮川ノ源、又ハ、志摩ノ磯部ノ地ニアルモノ、最モ名高シ、谺ナリ。響石（二）俳優ノ假聲ヲツカハム爲ニ、其臺辭ヲ書拔キテ記シタルモノ。

あうよ・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）[奥寄]〔あういくノ語原ヲ見ヨ〕奥ノ方へカタヨル。（外寄るノ反）枕草子、九、九十一段「あうよりテ、三四人集ヒテ、繪ナド見ルモアリ」

あうら（名）[足占] あしうら（足占）ノ條ヲ見ヨ。

あえ（動）[背零] 背ゆ、或ハ、零ゆ、ノ條ヲ見ヨ。

あえかゝ（形）[纖弱]〔零ゆノ連用形ノあえニ、[illegible]ノ、かノツキタルモノ、[illegible]、[illegible]ナド〕[illegible]零チムトスル意。雅言考(橘守部)「あえか、萬葉ニ、花橘ノ安要ぬかに、ト詠メルモ、ツエテ、落チサウニナルヲ云フ」女ノ、タヲヤカニ、ナヨナヨトシテ、荒ク障ラバ倒レモセムヤウナル状ニ云フ語。ヒハヅニ。カヨワク。源、二、帚木十三「折ラバ落チヌベキ萩ノ露、ナドノ(如ク)艶ニあえかなる好好シサノミコソ、ヲカシクオボサルラメ」(女ノ、男ニ靡チヤスク、好色ナル状ヲ云フ、讓ら)[illegible]、四、夕顏十「世ノ人ニ似ズ、ばおちむ[illegible]ナリ」同、四十九、宿木[illegible]「あえかゝニ見エタマヒシモ、カク長カルマジキナリケリト宣フ、十九ニヤナリタマヒケム」紫式部日記「大殿隱レル御アリサマ、常ヨリモあえかゝ、若クウツクシゲナリ」(皇后彰子御産) 狹衣、四、下廿七「女御ハ、ナヤマシゲナル御氣色ニテ、あえかゝホソリタマヘル」

あえん（名）[亞鉛]〔鉛ニ似タレバ、鉛ニ亞グ義ト云フ〕又、トタン。金屬ノ名。他鑛ニ化合シテ產ズ、製シテ純粹ナルモノハ、青白色、破壞面ハ、結晶質ヲアラハシ、脆クシテ硬ク、鉛ヨリハ鎔ケガタシ、光澤アレドモ、時ヲ經レバ曇黑トナル、亞鉛板、亞鉛管等ニ製シ、又、鐵線、鐵板等ニ鍍トシテ、銹ヲ止メ、又、銅ニ和シテ、眞鍮ヲ作ル、其他、工作ニ用多シ、往時ハ、國產ナクシテ、舶來物ナリシガ、今ハ、飛驒、陸前、陸中、羽後ヨリ產ズ、然レドモ、少量ニシテ、大部分、獨逸ヨリ輸入ス。和漢三才圖會(正德)五十九、金、亞鉛、止多來、番語也、[illegible]、鉛、故稱二亞鉛一、[illegible]、出二於廣東一者爲二上、東京爲生之[illegible]、今、

あえんばん（名）[亞鉛版] [illegible]亞鉛ヲ、石ニ代ヘテ行フモノ。[illegible]亞鉛ノ面ヲ磨キテ、其上ニ、文字、模樣ヲ、油墨ニテ書キ、ソレヲ、[illegible]、又ハ、[illegible]トあらごあごむトノ混合液ニテ、腐蝕セシメ、水ニテごむヲ洗ヒ去リテ、石版ノ如ク印刷ス。

あえもの（名）[肖物]〔肖ゆノ條ヲ見ヨ〕肖ユルモノ。アヤカリモノ。宇津保物語、藏開、中五十五「[illegible]ヲ、求メル君モ、エテシガナ、生レタル子ノ、あえものニセム」源、三十八、夕霧十九「親ハラカラヨリ始メ奉リテ、メヤスキあえものニシタマヘルヲ、アリアリテ、末ニ、ハヂガマシキ事ヤアラムナド、イトイタウ歎イタマヘリ」

あおう（名）[阿翁]〔阿ハ接頭語〕及ビ、翁ノ語源ヲ見ヨ〕（一）人ヲ親シミ呼ブ語。翁ノ條ヲ見ヨ。世說、[illegible]、是、張憑之祖、嘗語憑父曰、我不如汝有佳兒、憑時、年數歲、斂手曰、阿翁詎宜以子戲父邪」祖父ヲモ、阿翁ト云フ。（二）シウト。夫ノ父。天治字鏡、二三「阿翁、夫之父」倭名抄、二十九「爾雅云、夫之父曰舅、一云阿翁、之宇止」

あおと（名）[足音] あのおとヲ見ヨ。

あか（名）[赤]〔赤ノ轉(竹、たか。酒、さか)〕（一）色ノ名、血、朱、丹、ノ如キモノ。（二）赤小豆。「あかノ飯」あかノ飯」（三）あかがねノ略。「あかノ手水盥」（四）赤子ノ略。（五）あから(酒)ノ略。

あか（名）[赤]〔明しノ語根、明白ノ意ナルベシ〕全ク、何モ無キコト。何ノカカハリアヒノナキコト。漢書、五行志「赤地千里」註「空盡無物曰赤」「赤ノ他人」「赤恥」「赤貧」「赤裸」

あか（名）[垢]〔汗氣ノ義ナルベシ〕又、或ハ、明ノ義、[illegible]ヲ忌ミテ、[illegible]ニ云ヒシ語ナラム、[illegible]（否）ヲ名吉、梨（無）ヲありのみト云フ[illegible]〕（一）[illegible]、汗ナドノ、[illegible]ニ凝レテ、[illegible]ニツキ居ルモノ。一轉シテ、ケガレ。ヨゴレ。[illegible] 元亨釋書、十八、皇太后光明子「[illegible]」[illegible]ル後ノ、白栲衣、垢ヅクマデニ」新續古今集、八、釋教「搔キ流ス、法ノ水コソ、ウレシケレ、心ノあかヲ、ススギト思ヘバ」（二）水ヨリ生ジテ、物ニツク滓、苔ノ如キモノ。「水あか」「[illegible]ノあか」「[illegible]あか」

アカ（名）[閼伽]〔梵語、Argha.〕（一）[佛ニ供スベキ香水ヲ盛レル器ノ名、閼伽坏ナド云フモ是レナリ。(閼伽振鈴ノ條ヲ見ヨ) [illegible]、五「閼伽、梵語、[illegible]器之總名也」佛祖統紀、四十三「阿伽、此云器、凡、供養之器、皆稱曰阿伽」倭名抄、十三「内典云、閼伽、梵語也、云云、[illegible]、以其十供養佛也」（二）轉ジテ、佛ニ供フル水。閼伽水。(盌ガ水トナリ、筒ガ食トナリシガ如シ)[illegible]名義集、三「[illegible]」[illegible]坊清ケナル所ナド[illegible]、アマタ出ン來テ、あか奉リ、花折リナドスル」拾玉集、二「アサマシヤ、散リユク花ヲ、惜シム間ニ、摘モ摘マズ、あかモ汲マレズ」萬代集、八、釋教「年經タル、深山[illegible]レノ、[illegible]ニ、[illegible]シツ、谷ノあかみづ」同、九、[illegible]、下「あかノ水取リニ、谷ヘクダリケルニ」（三）淦水ノ、船底ニ溜リタルモノ、又、ゆ、[illegible]。共ニ、舟人ノ、水ト云フヲ忌ミテ、言ヒカヘテ云フ語ナリ。淦水 [illegible]、あか、船中ニテ、水ノコトヲあかト云フハ、淦ナリト云ヘリ、又、ゆトモ云フ、洛ノ集ル處ヲ、あかの間ト云ヘリ、水ノ入ルヲ忌ミテ、垢ト云ヘルニヤ、蝦夷ノ方言ニ、水ヲあかト云ヘバ、是レニ因ルニヤ（水ノ[illegible]ハ、わ、かナリ）

(四)水邊。俚言集覽、閑田「連歌ニテハ、水邊ナリ、俳諧ニニモ、水邊假分ナリ」

〜あ-が (連體) 【吾】 わが(吾)ニ同ジ。あ(吾)ノ條ヲ見ヨ。

あか-あか (名) 【赤赤】 〔淺漬ヲ、あさあさト云フ類〕赤小豆ノ女房詞。(大上﨟御名之事)

あか-あか (副) 【明明】 甚ダ明ク。赫赫 讃岐典侍日記(堀河院女房)「あかあかト、日ノ差入リテ、明キニ」

あか-あしげ (名) 【赤葦毛】 葦毛ノ條ヲ見ヨ。

あか-あし-ぎ (名) 【赤足鴫】 あかがねしぎニ同ジ。

あか-あづき (名) 【赤小豆】 あづき(赤小豆)ノ條ヲ見ヨ。

あか-あは (名) 【赤粟】 粟ノ一種。語彙、あかあは「糯粟ノ、赤ミヲ帶ビタルモノ」

あか-あり (名) 【赤蟻】 イヒアリ。蟻ノ一種、多ク庭中ニ棲ム、長サ一分許ニシテ、赤クシテ黑ミアリ。黃蟻

あか-いと-をどし (名) 【赤絲縅】 あかをどしノ條ヲ見ヨ。

あか-いぬ (名) 【赤犬】 犬ノ毛ノ、黃ニシテ赤ミアルモノ。黃犬

あか-いも (名) 【赤薯】(一)さつまいもノ一種。味、殊ニ甘キモノ、皮赤ク、肉白シ、種類アリ。朱藷 (二)たうのいも。

あか-いろ (名) 【赤色】 (一)赤キ色。(二)襲ノ色目ノ名。表ハ蘇芳、裏ハ縹ナルモノ。(狩衣至要抄) (三)次條ヲ見ヨ。

あかいろ-の-はう (名) 【赤色袍】 袍ノ、黃櫨ト茜トニテ染メタルモノ。太上皇ノ御常服ニテ、模樣ハ、竹、桐ナドナリ、時トシテ、天皇ノ召シタマフコトモアリ、臣下ニテモ、攝政、關白ノ着ルコトモアリキ。西宮記、臨時、八、袍「赤色、主上、及、一上卿、內宴時服レ之」源、廿一、少女四十六「帝ハ、あかいろノ御衣奉レリ」江家次第、十九、殿上賭弓事「關白着座、赤色袍」西三條裝束抄「赤色、文、窠ノ中ニ、竹桐、太上天皇ノ御袍、赤白の橡ト稱スル、是也、云云、時ニヨリ、天子モ召ス」

あか-いわし (名) 【赤鰯】 〔乾シテ、錆色シタリ〕(一)鰯ヲ鹽漬ニシ、又ハ、乾シタルモノ、古ヘハ食用トセリ、後ニハ節分ノ夜ニ、柊ニ添ヘテ戶口ニサシ、儺遣ノ具トス。(二)俗ニ、鈍刀ノ銹ビタルヲ嘲リ云フ語。俚言集覽、赤鰯「鰮魚ノ鹽藏シタル、又、乾シタルヲ云フ、鈍刀ハ、コレヨリ出デタル名」

あ-かう (名) 【阿衡】 〔殷ノ湯王、其臣、伊尹ヲ阿衡ニ任ジタリ、阿ハ倚ルナリ、衡ハ平ナリ、伊尹ハ、湯王ノ倚リテ平ヲ取ル所、故ニ官名トス〕 (一)支那上代ノ殷ノ時ニ、宰相タル官名。詩經、商頌、長發篇「實維阿衡、實左ニ右商王ニ」毛傳「阿衡、伊尹也、左右、助也」鄭箋「阿、倚也、衡、平也、伊尹、湯所ニ依倚而取レ平、故以爲ニ官名ニ也」(商王ハ、殷ノ湯王ナリ) (二)我ガ朝ニテハ、攝政ノ異稱トシタリ。政事要略、三十、仁和三年閏十一月廿七日、攝政太政大臣藤原基經辭表ニ勅答「卿秉ニ鈞奕世ハ佐レ命受レ遺、所レ謂社稷之臣、非ニ朕之臣ハ宜下以ニ阿衡之任ニ爲中卿之任上」職原抄、上、太政官「攝政關白者、大臣兼レ之、云云、此職者、異朝、唐堯時舜、舜爲ニ攝政ハ殷湯以ニ伊尹ニ爲ニ阿衡ニ」註「當ニ攝政ニ也」

あ-がう (名) 【阿號】 あみだぶつがうヲ見ヨ。

あか-うそ (名) 【赤嘘】 「赤(明)ノ條ヲ見ヨ」全ク根モナキ虛言 俳諧毛吹草(正保)「赤うそト、言ハム木葉ノ、時雨カナ」(紅葉ヲ云ヘルナルベシ、眞ノ時雨ナラズ) 堀川百首題狂歌集(寬文)「ヨモ白キ、うそニハアラジ、紅ノ、雪モ降リ來シ、事モ記セバ」(紅雪ノ事ヲ云ヘリ、其條ヲ見ヨ)

あか-うなぎ (名) 【赤鰻】 うなぎノ類。形、うみどぢやうニ似テ圓ク、全身赤クシテ、眼ノ、甚ダ細ソク小サキモノ。一名、めくらうなぎ。

〜あか-うま (名) 【赤馬】 赤毛馬ノ條ヲ見ヨ。

あか-えぞ (名) 【赤蝦夷】 あかひとノ條ヲ見ヨ。

あか-えひ (名) 【赤鱏】 えひ(鱏)ノ條ヲ見ヨ。

あか-えび (名) 【赤鰕】 鰕ノ一種。車鰕ニ似テ、體ノ長サ、約三寸、赤褐色ニシテ、短毛アリ、近海ニ產ズ。

あか-えぼし (名) 【赤烏帽子】 〔えぼしヲ見ヨ、松浦肥前守、數寄者ニテ、赤塗ノ烏帽子ヲ用キタリ、將軍義教、其姿ヲ自ラ繪ニ寫シタルニ起ルト云フ(鹽尻、十八)〕 異樣ナル物好。好に赤烏帽子、トモ云フ。俳諧毛吹草(正保)「好カバ赤キ、烏帽子櫻ノ、紅葉カナ」御前義經記「すきに赤烏帽子、物いし(物言)ニ、訛アッテモ、アダナイ所ガ、カハイラシイト、ソレ好ク男ノアレバコソナレ」(諺語大辭典)以呂波短歌「亭主ノすきナ赤烏帽子」(コレハ、家族モ、如何トモスベカラザル意)

あか-おほくち (名) 【赤大口】 おほくちばかまノ條ヲ見ヨ。

あか-おまな (名) 【赤御眞魚】 〔鮭ノ肉ハ赤シ〕 鮭ノ女房詞。御湯殿上日記、明應四年九月十日「室町殿ヨリ、あかおまな、始メテ參ル」大上﨟御名之事「さけ、魚ノ名、あかおまな」婦巷叢苑ニハ、鯛ヲ、女房詞ニ、あかまなト云フ、トアリ。

〜あが-おもと (名) 【吾御許】 婦女ヲ親シミ呼ブ語。源、廿二、玉葛廿一「此女、手ヲ拍チテ、あがおもとニコソ、オハシマシケレ、アナ、ウレシトモウレシ」

あか-かうじ (名) 【赤柑子】 柑子ノ一種。實ノ形、稍、圓クシテ、徑、一寸五分バカリ、皮薄クシテ、色赤シ。朱橘

あか-かうあう (名) 【赤行囊】 書留、又ハ、價格表記等ノ郵便物ヲ入レテ、遞送スルニ用キル囊。天竺金巾ニテ製シ、紅殼塗ニス、甲、乙、二種アリ、甲ハ、丈、二尺、幅、一尺四寸、乙ハ、一尺三寸ニ、九寸五分ナリ。

〜あか-かがち (名) 【赤酸醬】 〔赤輝之實ノ約(倭訓栞、後編)一名、かがみおさモ、赫實草ナリ、おゝぐ、音通ナリ(圍む、かさむ)〕 草ノ名、ほほづきノ古名。カガミゴサ。神代紀、上三十五「八岐大蛇、云云、眼如ニ赤酸醬ニ」註「阿箇箇鵝知」私記「是、今保保都岐者也」天治字鏡、七三十六「酸醬、加我彌吾佐」

あか-かき (名) 【垢搔】 〔搔くトハ、擦リ洗フコトナリ、湯女ノ渾名ヲ、猿ト云フ、其條ヲ見ヨ〕 風呂場ニテ、客ノ背ノ垢ヲ洗フ者。德川禁令考、五十、湯屋、元祿十年六月掟「風呂屋あかかき女之事、前前相定之通、三人ニ過ベカラザル事」備前老人物語「渡邊水庵ハ、云云、風爐屋ヲ焚ク時ハ、垢かき二三人置テ、用事ヲトトノヘサセ、云云」

あか-かげ (名) 【赤鹿毛】 馬ノ毛色ニ、鹿毛ノ、赤ミアルモノ。倭名抄、十一六牛馬毛「赤騂馬、赤鹿毛也」

あかがさ (名) [赤瘡] あかもがさノ條ヲ見ヨ。

あかがし (名) [赤樫] 樫ノ一種。葉ノ形、長精圓ナリ、材堅ク、色赤シ。血櫧

あかがしは (名) [赤飯] 〔飯ハ、古ヘ、柏ノ葉ニ盛レリ、ソレヲ、飯ノ事トスルハ、笥ノ、食ニ移リタルガ如キカ〕赤小豆飯ノ異稱。虚栗集(天和、其角)「[illegible]マハリ、外ニ物ナシ、赤柏」

あかがしは (名) [赤柏] あかめがしはニ同ジ。

あかがしら (名) [赤頭] (一)能、歌舞伎、ナドニ用キル、赤ク長キ毛ノ鬘。多クハ、赤熊ノ毛ニテ作ル、猩猩ノ演技ナドニ被ル。又、白熊ニテ作レルヲ、白頭ト云ヒ、黒熊ナルヲ、黒頭ト云フ。(二)延暦年中、田村麻呂ガ、奥州蝦夷征討ノ時、磐井郡ニ居リシ夷王悪路王ガ部屬ヲ、赤頭ト云ヒキ、韃靼人ガ入來リテ、蝦夷ト同棲シテ居タリシモノカ、ナド云フ人アリ。吾妻鏡、九、文治五年九月廿八日、田谷窟(平泉ノ西南)「是、田村麻呂將軍奉勅命征夷之時、賊主悪路王、并、赤頭等、構塞之岩屋也」

あかかすげ (名) 赤糟毛 馬ノ毛色ニ、糟毛ニ、赤ミアルモノ。驊油馬

あかガッパ (名) [赤合羽] 赤ク染メタル桐油紙ニテ作レル合羽。往時、武家ノ下部ナドノ用トシタリ。

あかがね (名) [銅] 〔赤金ノ義〕かねノ名。略シテ、あか。又、ドウ。色赤クシテ黒ミアリ、諸金ノ中ニテ、鐵ニ次ギテ最モ用ヲナシ、金、銀、ぶらちな、ニ次ギテ、最モ鍛ヘ延バスベク、鋼ヲ除キテハ最モ彈力アリ、而シテ、響キノ高キハ、諸金ノ第一タリ、種種ノ用ニ供セラル。[illegible]

あかがねしぎ (名) [銅鷸] 〔脚、銅ノ色シタリ〕又、アカアシシギ。しぎノ類。形、鷸ニ似テ、頸ト背トハ、淡灰紫色ニテ、黒キ斑アリ、嘴ト脚ト、共ニ長クシテ、脚ノ色、甚ダ赤シ。

あかがはをどし (名) [赤革縅] あかをどしノ條ヲ見ヨ。

あかがひ (名) [赤貝] 古名、キサ。形、はまぐりニ似テ、圓ク深シ、大ナルハ二三寸ニ至ル、殼ノ表ニ、縱道アリテ、微毛アリ、色黒シ、殼ノ裏、并ニ、肉ハ、紫赤ナリ、肉、甘ク旨シ。蚶 魁蛤 朝倉亭御成記「九献、あかがゐ」日本釋名(元祿)中「蚶、云云、今ハ、あか貝ト云フ」

あかかぶら (名) [赤蕪] 蕪ノ一種。葉、及ビ、根皮ノ、紫赤色ヲ帶ビタルモノ。紫菘

あかがへる (名) [赤蛙] かへるノ一種。山谷ニ多シ、體瘦セテ、形、あをがへるニ似テ、薄赤クシテ黄ヲ帶ブ、草ノ間ニ棲ミテ、跳ルコト捷シ、疳ヲ治ストテ、皮ト腸トヲ去リテ、炙リテ、小兒ニ食ハス。赤蛤 山蛤

あかがり (名) [皸] 〔赤皸ノ約、かがる(皸)ノ條ヲ見ヨ〕あかぎれ(皸)ノ古言。倭名抄、三、四「皸、手足拆裂也、阿加加利」神樂歌、早歌「安加加利ムナ、後ナル子」[illegible]

[illegible]かり「萬葉集ニ、あかがりモ、春ハ道路ニ、隱レカシ、冬ハ雅波ノ、あしニスムトモ」(かりヲ雁ニ寄セ、あしハ、葦ト脚トニカケタリ)

あかかりぎぬ (名) [赤狩衣] 檢非違使ノ看督長ノ服。略シテ、あかぎぬ。[illegible]

あかぎ (名) [赤木] 〔皮ナクテ、明き木ノ意(赤裸)〕木幹ノ、皮ヲ削リタルモノ。(皮アル黒木ニ對ス) 源、廿八、野分二三「中宮ノ御前ニ、秋ノ花ヲ植エサセタマヘル、云云、黒木、あか木ノ籬ヲ結ヒマゼツツ」細流抄「皮ナガラアルヲ、黒木トハ云フナリ、皮モナキハ、赤木ナリ」居能記(安永)「黒木ト云フハ、皮ムカサル丸木、云云、あかぎノ鳥居ト云フハ、削リシ所ニテ、作リタル鳥居ナリ」

あかぎ (名) [赤木] 〔材ノ色、赤シ〕くわりん(花櫚)ノ本名。其條ヲ見ヨ。民部省式、年料別貢雜物、太宰府「赤木、南島所進、其數隨得」新猿樂記、八郎眞人、唐物「赤木、紫檀、蘇方」曾我物語、四、箱王祐經に逢ひし事「懐ヨリ、あかぎノ柄ニ、胴金入レタル刀、一腰取出シ」

あがき (名) [足搔] 〔あがくノ條ヲ見ヨ〕(一)足搔クコト。萬葉集、二十四十三「靑駒ノ、足搔ヲ速ミ、雲居ニゾ、妹ガ邊ヲ、過ギテ來ニケル」同、十七四十九「鸕坂川、渡ル瀨多ミ、コノ吾ガ馬ノ、安我枳ノ水ニ、衣濡レケリ」(川ハ、越中國ノ婦負郡ニアリ)(二)動キハタラクコト。「あがきガツカヌ」あがきガ取レヌ」(手段ヲ得ズ)

あかきこころ (名) [赤心] 〔明き心ノ義、黒心ノ反〕明白ナル心。清キ心。誠心。私ナキ心。神代紀、上廿二「素戔嗚尊對曰、吾、元、無黒心、云云、天照大神、復問曰、若然者、將何以明[illegible]之赤心」續紀、一、文武、元年八月、宣命「明き[illegible]

[illegible]

あかきじ (名) [赤雉] [illegible]ノ條ヲ見ヨ。

あかぎぬ (名) [赤絹] (一)赤色染ノ帛。[illegible]十二「赤帛ノ、純裏衣(序)長ク欲リ、[illegible]君ガ、見エヌ頃カモ」民部省式[illegible] (二)緋色ノ袍。卽チ、五位ノ官人ノ朝服。源、十四、澪標廿「良淸、云云、オドロオドロシキあかぎぬ姿、イト淸ゲ也」湖月抄「良淸、[illegible]ニナリテ、五位ナレバ、緋ノ衣着タルナリ」(三)赤狩衣ノ條ヲ見ヨ。

あかきび (名) [赤黍] 糯黍ノ一種。穂ノ色、赤シ、酒ヲ醸シ、又、團子ニ造ル。丹黍 倭名抄、十七二「丹黍、阿加木美」

あがきみ (名) [吾君] 〔あ(吾)ノ條ヲ見ヨ、下略シテ云フニハ、父君ヲてて君、伯父君ヲをぢきナドモアリ〕人ヲ呼ビカクルニ發スル語。吾主トモ云フ、親シミ云フ意アリ、臣ヲモ子ヲモ、君ト呼ブナリ、略シテ、吾君、更ニ下略シテ、吾君。[illegible]紀、十年九月「[illegible]、云云、[illegible]、不得、[illegible]、卽[illegible]曰「是レハ、[illegible]」[illegible]功紀、攝政元年二月、長歌「イザ吾君、五十狹茅宿禰、[illegible]」ナホ、カカルケシキ、語ラヒキコエタマヘ」源、七、紅葉賀卅「女、あが君、あが君ト、向ヒテ手ヲ擦ルニ、ホトホト笑ヒ入リヌベシ」濱衣、二、[illegible]「あが君、オボツカナキ獄ニ、モアナサセタマフナヨ」

あかぎれ (名) [皹] 〔あかがりノ轉(あからか、あきらか。やつがり、やつかれ)〕古言、アカガリ。寒ニ傷メラレテ、手足ノ皮ノ裂クルコト。

あが・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (自動、四) 〔足掻〕(足ノ條ヲ見ヨ)(一)前足ニテ地ヲ掻ク。(獸ニ云フ) 跪 萬葉集、七二十三「武庫河ノ、水ヲハヤミカ、赤駒ノ、足何久ソソギニ、濡レニケルカモ」字鏡十八「蹢、馬奔走皃、阿加久」「蹀、阿加久」名詞形ニ、徒然草、百十四段「御牛ヲ遂ヒタリケレバ、あがきノ水、前板マデ、ササトカカリケルヲ」(二)手足ヲ動カシテ苛ツ。モガク。古事記、下(仁德)三「皇后「足モ阿賀迦ニ(足掻皃ニ)妬ミタマヒキ」宇津保物語、國讓、中七十一「思スヤウニ、平カニテト、手ヲあがきテ、祈リ願ヲセサセタマフ」續古事談、三、臣節「馬、甲斐權守ガ指貫ヲ蹈マヘツ「權守、アワテ騷ギテ、西枕ニ倒レ伏シテ、足ヲあがけドモ、馬蹈マヘテ、ヤヤ久シク退カズ」宇治拾遺、十二、第十九條「虎、サカサマニ臥シテ、倒レテあがくヲ」(射ラレタルナリ) (三)アバレル。(兒童ニ云フ、手足ヲ動カスナリ) 倭訓栞、あがく「童ノ躁妄ナルヲ、俗ニあがくト云フモ、馬ヨリ出デタル詞ナルベシ」槍權三重帷子(享保、近松作)上「早ク寐サセテ疾ク起シ、晝あがかセタガ萬病圓」名詞形ニ、艶狩劒本地(寶永、近松作)三「晝ノあがきニ、クタビレテ、タワイ性根モ長欠伸」

あかぐすり (名) 〔赤藥〕人參ト辰砂トヲ等分ニ混ジテ製シタル赤色ノ丸藥ナリト云フ、古ヘ、急病ニ用キシモノ。(鹽尻) 渡邊幸庵對話「今川家ニ傳リ申候赤藥ト申ス候、是ハ、妙丹ニテ、云云、馬ノ息合、其外、色色、能御座候」

あかくちば (名) 〔赤朽葉〕(一)染色ノ名。朽葉色ノ、赤ミヲ帶ビタルモノ。弄花抄(牡丹花肖柏)「赤くちばハ、尋常ノくちばノ、赤キ方ニ寄リタル色ナリ」(二)襲ノ色目ノ名。裝束雜事抄「赤朽葉、表、經、紅、緯、濃黃、裏、黃」

あかぐつ (名) 〔赤沓〕赤漆ノ沓。服忌ニアル者ノ用キシモノ。西宮記、臨時、四、服者裝束「赤沓」深窓祕抄、有服沓「赤沓、鈍色裏也」

あかぐま (名) 〔赤熊〕古名、シグマ。熊ノ一種。長、八九尺ニ至ル、毛、茶褐色ニシテ長ク、つきのわ無シ、性、甚ダ猛シ、多ク北海道ニ棲ム、土人、其幼ナルヨリ畜ヒテ、祭事ニ供ス。羆

アカくり (名) 〔戽斗〕あかとり(戽斗)ニ同ジ。

あかくりげ (名) 〔赤栗毛〕馬ノ毛色ノ、栗毛ニ、赤ミアルモノ。紫騮 倭名抄、十一六 牛馬毛「黃騮、赤栗毛也」

アカくゎんちゃう (名) 〔閼伽灌頂〕くゎんちゃう(灌頂)ノ條ヲ見ヨ。

あかげ (名) 〔赤毛〕(一)人ノ髮ノ、赤ミタルモノ。(二)次條ヲ見ヨ。

あかげうま (名) 〔赤毛馬〕毛ノ赤キ馬。赤馬。赤駒。騂馬 續紀、三十、寶龜元年八月「奉幣帛、及、赤毛馬二匹、於伊勢太神宮」倭名抄、十一六 騂馬「唐韻云、騂、馬赤色也、赤毛馬也」雄略紀、九年七月「譽田陵下、逢騎赤駿者」宇津保物語、嵯峨院四十三「あかうま御前二人」天智紀、十年十二月「阿箇悟馬ノ、イユキハバカル、眞葛原」萬葉集、十一十四「赤駒ノ、アガキ早ケバ、雲居ニモ、隱リ往カムゾ、袖振レ吾妹」

あかケット (名) 〔赤毛布〕(ぶらんけっとノ條ヲ見ヨ)(一)赤色ノ毛布。(二)田舍ヨリ、群ヲ成シテ、都見物ニ出デタル人ヲ嘲リ云ヒシ語。友ヲ見失ハザラムガ爲ニ、目標トシテ、多クハ、赤毛布ヲ身ニ纏ヒタレバナリ、明治語ナリ、今ハ、見エズ。

あがけのたか (名) 〔網懸鷹〕(あがけハ、網懸ノ略(網子、あご)) 鷹ノ雛ノ、自ラ巣ヲ出デテ食ヲ求ムル程ナルヲ、網ニカケテ捕ヘテ、馴ラシ養フモノ。(巣ニ居ルヲ捕ヘテ養フヲ、巣鷹ト云フニ對ス) 新六帖、二、おほたか「山カヘル、あがけの鷹ノ、手馴レテモ、心オカルル、君ニモアルカナ」和漢三才圖會(正德)四十四、鷹「雛、巢白來」食時、捕來者曰網掛、阿加計」重修本草綱目啓蒙(享和)三十三、鷹「鷹ノ雛、已ニ長ジテ、食ヲ求メ飛翔スルヲ見テ、樹間ニ網ヲ張リ、死鳥ヲ其旁ニ置ケバ、雛鷹、來リ、死鳥ヲ取ラムトスル者ヲ、羅シ捉ルヲ、あがけト云フ」

あかご (名) 〔赤子〕蟲ノ名。溝ナドニ生ズ、蚯蚓ニ似テ、甚ダ小サクシテ赤シ、捕リテ金魚ノ餌トス。小紅蟲

あかご (名) 〔赤子〕(體ノ色、赤ミヲ帶ブ)チゴ。チノミゴ。ウブコ。ヤヤコ。ミヅコ。生レテ程歷ヌ小兒ノ稱。略シテ、アカ。又、アカンバウ。狹衣、一、下八「あかごノ、襁褓ニ包マレタル」今鏡、中、志賀のみそぎ「此宮、あかごニオハシマシケル時、絶エ入リタマヘリケレバ」

あがこころ (枕) 〔吾心〕(あ(吾)ノ條ヲ見ヨ、眞心ヲ、明キ心トモ、清キ心トモ云ヘバ、清澄ニカケ、眞心ヲ盡ス意、又、打明ス意ヨリ、筑紫、又、明石ニカクルナリ) 大和國ノ清澄池(添上郡、樋村)、播磨國ノ明石、及ビ、筑紫國ノ枕詞。萬葉集、十三九十 長歌「莫寐ネソト、母聞セドモ、吾情、清隅ノ池ノ、池ノ底、吾ハ忘レジ、直ニ會フマデニ」同、十五二十 長歌「我心、盡ノ山ノ、黃葉ノ」同、卷一三十 長歌「安我己許呂、明石ノ浦ニ、船止メテ、浮寐ヲシツツ」

あかごま (名) 〔赤駒〕赤毛馬ヲ見ヨ。

あかごめ (名) 〔赤米〕(一)陳米ノ、赤ミタルモノ。俚言集覽、あかごめ「古クナリテ、赤ミタル米ナリ、陳腐米」(二)ダイタウマイ。

あかざ (名) 〔藜〕(赤麻ノ約、麻ニ類シテ、若葉赤ケレバ名トスト云フ說アリ、イカガアルベキ、尙、考フベシ) 一年草ノ名。莖、高サ、三四尺、葉ハ互生シテ、三角ニシテ長ミアリ、周ニきざみアリテ厚シ、若葉ハ紅ニシテ、後ニ綠トナル、秋、穗ヲナシテ、粒ノ如キ花ヲ開ク、色綠ナリ、此草ヲ燒キテ灰トシ、染物ニ用キ、或ハ、莖ヲ乾シテ杖トス。靑藜ニ對シテ、一名、あかあかざ。又、一種、紅色ナラズシテ、若葉ノ時、白クシテ灰ヲマキタル如ク、長ズレバ、綠色ニ變ズルモノアリ、あをあかざ、又、しろあかざト云フ。灰藋 又、野あかざナドモアリ、其條ニ注ス。字鏡五十四「藜、阿加座」倭名抄、十七二十 菜類「藜、阿加佐」本草和名、上十「藜灰、阿加佐乃波比」

あかさかやっこ (名) 〔赤坂奴〕山手奴ノ條ヲ見ヨ。

あかざたう (名) 〔赤砂糖〕砂糖ノ製ノ粗ニシテ、黃褐色ナルモノ。天光砂糖。

あかさんご (名) 〔赤珊瑚〕珊瑚珠ノ條ヲ見ヨ。

アカざら (名) 〔閼伽皿〕閼伽坏ノ條ヲ見ヨ。

あかし (名) 〔燈火〕(次次條ノ義。終止形ヲ名詞トスルコト、凉し、(生絹)辛し(芥子)ノ例) トモシビ。アカリ。萬葉集、三十六「燈火ノ、明ノ水門ニ、入ラム日ヤ、漕ギ別レナム、家ノアタリ見ズ」(播磨國ノ明石ニカケタリ) 源、四、夕顏三十八「御あかしノ影、ホノカニスキテ見ユ」

あかし (名) 〔證〕(明すノ名詞形) 明スコト。タシカナルシルシトスルコト。證據。(證人ノ條ヲ見ヨ)「あかしヲ立テル」

あか・し・キ・ケレ・ク・ク (形、二) 〔明〕(一)アキ

ラカナリ。アカルイ。(暗しノ反) 字鏡七十[illegible]「[illegible]、[illegible]日月ハ、[illegible]、下、[illegible]」若菜、下六十「マバユク、ハヅカシクオボサルレバ、あかき所ニダニ、エヰザリ出デタマハズ」同、五十、浮舟「[illegible]火、あかう[illegible]シテ、[illegible]」大和物語、下、をばすて「月、イトあかき夜」(二)心清シ。心ニ私ナシ。あかきこころ(赤心)ノ條ヲ見ヨ。

あか・し・キ・ケレ・ク・ク (形、二) 赤シ 赤ノ色シタリ。 拾遺集、九、雑、下「白妙ノ、白キ月ヲモ、紅ノ、色ヲモナドカ、あかしト云フラム」

アカシア (名) 刺槐 〔英語、Acacia.〕 ハリエンジュ。[illegible]木ノ名、近年[illegible]来セリ、高サ數丈ニ及ブ、枝幹ニ刺多シ、葉ハ槐ニ似テ、花ハ白シ、初夏ニ開ク、小蝶形ナリ、幹ハ材木トシ、又、あらびあごむノ製造ニ用キラル。

あかし・だま (名) 明石玉 〔天保年中、播磨國明石ノ地ヨリ、始メテ製出セシモノナリ〕 珊瑚珠ニ擬ヘテ製シタル煉玉、普通ナルハ、紅色ノ玉ニテ、直徑、二三分ヨリ、七八分ニ至ルモノ、婦人ノ簪ナド、裝飾品ニ用キラル、其外、大小種種ニテ、白、紫、藍等ノモノモ多ク、支那、朝鮮等ヘ輸出セラル。

あかし・ちぢみ (名) 明石縮 〔俚言集覧、明石縮「昔、播州明石ノ産ナルニ、國主、豊前小倉ヘ[illegible]ノ時、織屋モ、小倉ヘ附キテ行キシヨリ、小倉ニテ、今ニ織リ出ストナリ」寛永九年、小笠原右近大夫忠眞、明石ヨリ、小倉ヘ移封ノ時ノ事ナルベシ〕 縮布ノ一種、緯ニ生絲ヲ用キ、[illegible]ニ撚ノ強キ練絲ヲ用キテ織レルモノ。無地、[illegible]、[illegible]等アリ、[illegible]トシテ、[illegible]多ク、[illegible]人ノ夏服トセラル、[illegible]國小倉、京都ノ西陣ヨリ[illegible]出ス、大正四五年頃ヨリ、越後ノ十日町ヨリ製出スルモノ、今最モ盛ンナリ。

あか・で (名) [illegible] 〔あでのきノ類ニテ、芽出シノ枝葉赤ク、秋、又、紅葉ス、故ニ名アリ〕 喬木ノ名。高サ四五丈、外皮ハ平滑黒褐色、葉ハ、互生、橢圓形ニシテ鋸齒アリ、雌花ハ緑色、雄花ハ褐色ナリ、材ハ淡黄白色ニシテ、器具ノ柄ナドニ作ル。

あかし・びと (名) 證人 〔明すノ條ヲ見ヨ〕 證據立ツル人。證人。 孝徳紀、大化二年三月「得二[illegible]三[illegible]二而倶[illegible]、[illegible]可[illegible]」

あか・しほ (名) 赤潮 海水ノ、一面ニ、赤褐色ヲ呈スルコト。硅藻類、又ハ、微細ナル生物ノ、過度ノ繁殖ニ因ルトイフ、多クハ、内灣ニ起リ、魚介ヲ斃ス。 續紀、十一、天平三年六月庚寅(十三日)「紀伊國阿氏郡海水變如血色、[illegible]五日乃復」 [illegible]「正和五年(元年)四月十二日、[illegible]之海[illegible]、自二豆[illegible]至二[illegible]、[illegible]也」

あか・しまかぜ (名) 暴風 あからしまかぜ(暴風)ヲ見ヨ

あか・しむ・ム・メ・マ・ミ・メ (自動、四) 垢染 アカツク。垢ニ染ミテ汚ル。

アカ・しんれい (名) 閼伽振鈴 眞言宗ニテ、朝夕ノ佛前ノ勤行ノ式。閼伽坏ニ閼伽水ヲ盛リテ、水ヲ受臺ニ注ギ、坏ノ緣底ニテ、臺ノ緣ヲ叩クコト數度、是レ閼伽ナリ、次ニ、壇上ノ鈴ヲ取リテ振ルコト數度、是レ振鈴ナリ。 夫木抄、三十四、寺、[illegible]「コレヤサハ、高野ノ山ニ、住ム心、閼伽[illegible]」[illegible]ハヌ十[illegible]二アリテ[illegible]すシアケガタノ月影ニ、法師バラノ、あか奉ルトテ、カラカラト鳴ラシ[illegible]、三十七、[illegible]「[illegible]ノ[illegible]、あかふる鈴ノ、行ゾスル」

あかし・やき (名) 明石焼 陶器ノ一種、三[illegible]播磨國明石ノ地ヨリ製出セルモノ。 [illegible]上、播州明石[illegible]、文化年中、三[illegible]八トイフ者、本村[illegible]ニ於テ、窯ヲ開キ、[illegible]テ、大阪地方ヘ販賣セシヨリ、[illegible]明石焼ノ名、世ニ[illegible]フ(古[illegible])

あか・しゃこ (名) [illegible] 車渠ノ類、[illegible]ノ長サ三四寸乃至五六寸、[illegible]一對ハ堅トナル、背面ニ稜形ノ紋アリ。

あか・しらつるばみ (名) 赤白橡 〔つるばみ、しらつるばみヲ見ヨ〕 染色ノ名。あかいろのはうヲ見ヨ。 西宮記、臨時、四、内宴「天皇、赤白橡」[illegible]延喜式、[illegible]「赤白[illegible]一疋」

あか・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) 明 〔明く(開)ノ敬語(捧ぐる、ささがす。楽ぐる、うらがす)〕 開キタマフ。頒分ケタマフ。 古事記、下、允恭[illegible]「[illegible]ノ、[illegible]比[illegible]ノ[illegible]ノ、[illegible]二、[illegible]マスナ、阿加斯[illegible]」[illegible]従フ、[illegible]すモ、[illegible]むノ敬語ナリ)

あか・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) 明 〔明くノ他動(解くる、とかす。生くる、いかす)夜ノ暗キヲ送リテ、天ノ明クルニ至ルナリ、晝ノ明キヲ送リテ、夕ノ暗キニ至ルヲ、暮すト云フニ對ス〕 夜ヲ過ス。 萬葉集、五三十七長歌「晝ハモ、歎カヒ久良志、夜ハモ、[illegible]」[illegible]草、[illegible]シアレバ、合[illegible]行ケ、[illegible]ハ[illegible]ルトモ[illegible]」[illegible]ハ、[illegible]ノモノトイ、[illegible]」

あか・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) 明 〔前條ノ語ヨリ轉ジタルナルベシ、天明ニ至レバ、萬物ヲ明クス〕 (一)アキラカニス。アカルクス。 [illegible]ニ、[illegible]火ハ、[illegible]形ニ、御燈火ト云フ、是レナリ) (二)疑ハシキヲ明カニス。(くらますノ反) 趣旨ヲ顯シ示ス。 證明 古事記[illegible]「其土雲之歌」(土蜘蛛ナリ) (三)秘シタルヲアラハス。ウチアクル。 曝露 源、廿九、行幸十「其時ハ、サル僻事ドモ、あかし侍ラズアリシカバ」「心ヲあかす」「内情ヲあかす」

あか・ず (副詞句) 不飽 (一)飽クコトナク。ノコリオホク。 源、一、桐壺[illegible]「[illegible]二言ハセズ成リヌルガ、あかず、口惜シクオボサルレバ」(二)[illegible]ユマズ。 [illegible]「[illegible]露ヤ、荻ニイタク、結ブラム、長キ夜あかず、宿ル月カナ」

あかずな (名) [illegible] こんがうしゃ(金剛沙)ニ同ジ。

あかずのもん (名) 不開門 あけずのもん(不開御門)ヲ見ヨ。

あかずみ (名) [illegible] [illegible]ニ同ジ。

あかすり (名) 垢擦 入浴ノ時、肌ノ垢ヲスリオトスニ用キルモノ。[illegible]切レナドニテ、手拭ヲ包ミテ擦ル、或ハ、[illegible]ノ皮ノ纖維ヲ用キル。 [illegible]莊傳、下「紅ノ絹ヲ、手拭カ、[illegible]ノ上ニナリトモ常ニ[illegible]ヘハ、[illegible]、ヨク[illegible]」[illegible]馬)二編、下「垢擦テ、オレガ背中ヲ、引ッコスレ」

あかすゐしやう (名) 〔赤水精〕 水精ノ、色ノ赤キモノ。臨時祭式、「赤水精八枚」

あかそ (名) 〔赤麻〕 〔麻ノ條ヲ見ヨ〕 からむしノ一種。形、のまをニ似テ小サク、莖赤ク、葉ノ大キサ二三寸ニシテ、對生ス。

あかぞなへ (名) 〔赤備〕 軍勢ノ、具足、指物、馬具ニ至ルマデ、スベテ、赤色ノ物ヲ用キルモノ。甲陽軍鑑、二十、品第五十九「家康仰セラルルハ、信玄ノ内ニテ、云云、飯富兵部ト云フ侍大將ノ備、赤備ナリ、云云、小幡、赤備ナリ、少シモ餘ノ色無レ之、具足、指物ノ事ハ申スニ及バズ、鞍、鐙、馬ノ鞭マデ、赤カリツルト聞ク、ソノゴトク、井伊兵部備ヘ仰付ラルル」

あかだ (名) 〔赤團子ノ下略ト云フ（明衣、あかば。青鵐、あをじ）〕 尾張國津島ニテ製スル菓子ノ名。俚言集覽、あかだ「尾張國津島ノ名物ナリ、米團子ヲ木槵子ホドニマロメテ、油ニテアゲタル菓子ナリ」

あがた (名) 〔縣〕 〔あがハ頒つノ語根、頒田ノ意（誓言、ちかごと。討手使、うてのつかひ。搗子、かちこ）東雅、地輿、三、郡ノ條「縣ヲあがたト云ヒシハ、分ッ也、其內國ノ地ヲ分チテ、縣トナスヲ云フナリ」成務紀、五年九月「隔二山河一而分二國縣一」但シ、後ニ云フ、班田トハ異ナリ（上田ノ說、服セラレズ）〕 (一)古ヘ、諸地方ニ、山河ナドノ形勢ニ隨ヒ、境ヲ區分シ、田畑ヲ開キテ、耕作シタル地ノ稱。縣主、コレヲ管セシガ如シ、孝德天皇ノ大化ノ改制ニ、大抵ハ郡トセラル。皇室ノ御直料ナルハ、大和國ニアリテ、御縣ト云ヒキ。（其條ヲ見ヨ） 崇神紀、七年八月「茅渟縣陶邑」（和泉） 景行紀、十二年九月「豐前國、長峽縣」同、十八年五月「八代縣、豐村」（肥後） 古事記、中（成務）五十九「國國之堺、及、大縣小縣之縣主」 (二)後ニ、諸國司ノ官人ノ、其任國ヲ指シテ云フ語トナル、縣ノ廢セラレテ後、其稱ノ、國ニ遺レルナルベシ。萬葉集、七、廿八旋頭歌「淡海縣ノ、物語セム」（遠江國司ノ詠ナリト云フ） 伊勢物語、四十四段「昔、あがたへ行ク人ニ、馬ノハナムケセムトテ」（紀有常ノ任國ノ事ナリト云フ） 古今集、十八、雜、下「文屋康秀ガ、三河ノ掾ニナリテ、あがた見ニハ、エ出デタタジヤ、ト云ヒヤレリケル返事ニ、云云」（小野小町ガ、三河ノ見物ニ誘ハレタルナリ） 土佐日記、十二月廿一日「或ル人、あがたノ四年、五年、果テテ」（紀貫之ノ、土佐ノ任國ニ云フ） (三)轉ジテ、縣、卽チ、任國ノ官人ノ稱。百寮訓要抄「諸國ノ司ヲバ、外官トモ、あがたトモ申スナリ」年中行事歌合、判「外官ハ、諸國ノつかさ也、ゐなかヲあがたトハ申ス也」「縣召ノ除目」 (四)轉ジテ、地方。田舍。公事根源、一、縣召除目「ゐ中ヲ、あがたトハ申ス也」夫木抄、三十、田家「田面ナル、藁屋ノ軒ノ、薦簾、コレヤあがたノ、シルシナルラム」「あがたアリキ」「あがた巫」 (五)縣ノ條ヲ見ヨ。

あがたありき (名) 〔縣歩行〕 〔前條ノ(四)ヲ見ヨ〕 田舍ヲ行キメグルコト。アガタミ。キナカアルキ。蜻蛉日記、上、下「今ハ、ヒトリヲ頼ムタノモシ人ハ、コノ十餘年ノホド、あがたありきニノミアリク」

あかだいこん (名) 〔赤大根〕 だいこんノ一種。形、常ノ如クニシテ、根ノ皮ノ紅ナルモノ。紅蘿蔔

アカだな (名) 〔閼伽棚〕 閼伽桶ヲ載セ、又、佛供ノ具ヲ洗フナドニ設クル棚。緣ノ端近ク、簀子ヲ敷キ、上ニ四脚ヲ立テ、低キ屋根ヲ作リカケ、其下ニ、棚ヲ二段ニツル。源、三十七、鈴蟲七「あかの棚ナドシテ、云云、御弟子ニ募ヒキコエタル尼ドモ、云云」方丈記「南ニ、假ノ日がくしヲ差出シテ、竹ノ簀子ヲ敷キ、其西ニ、閼伽棚ヲ作リ、內ニハ、云云、阿彌陀ノ畫像ヲ安置シ」徒然草、十一段「苔ノ細道、云云、住ミナシタル庵アリ、云云、あかだなニ、菊、紅葉ナンド折リチラシタル」

あがたぬし (名) 〔縣主〕 〔縣の大人ノ約〕 (一)上世ノ地方官ノ、縣ヲ治ムルモノ。國造ノ次位ナリシガ如シ、世襲ナリキ。神武紀、八十「弟磯城名黑速、爲二磯城縣主一」古事記、中（成務）五十九「定二賜國國之堺、及、大縣小縣之縣主一也」 (二)孝德天皇ノ御代ニ、縣ヲ郡トセラレシ時、縣主ノ世襲職ハ罷メラレテ、其稱ハ、其家氏ノ可婆禰ニ遺レリ。新撰姓氏錄、山城國、神別、天神「賀茂縣主、神魂命孫、武津之身命之後也」大和國、神別、天神「添縣主、出レ自二津速魂命男、武乳遺命一也」

あかだひ (名) 〔赤鯛〕 たひ（鯛）ノ條ヲ見ヨ。

あかだま (名) 〔赤玉〕 (一)〔色赤キ玉。古事記、上、七十「阿加陀麻ハ、緒サヘ光レド、白玉ノ、（如キ）君ガヨソヒシ、タフトクアリケリ」 (二)〔琥珀ノ本名。本草和名、上、五十二「虎魄、阿加多末」 (三)佐渡國ヨリ產ズル、純朱色ノ石、庭石ナドニ用キル。

あがたみ (名) 〔縣見〕 アガタアリキ。田舍見物。あがたノ條ノ(四)ヲ見ヨ。

あがたみこ (名) 〔縣巫〕 あづさみこノ條ヲ見ヨ。

あかだんご (名) 〔赤團子〕 〔艾ヲ圓クヒネリテ、火ヲツク〕 灸ノ異名。小兒ニスウルニ就キテ云フ語 文化ノ川柳「讚ニナル、草（艾）モ化ケルト、赤團子」俚言集覽、赤團子「灸ヲ、小兒ニ向ヒテ云フ、隱語ナリ」

あがためし (名) 〔縣召〕 ぢもく（除目）ノ條ヲ見ヨ。

あかだやく (名) 〔酒〕 〔あかだハ、赤立つナドノ語根ニテ（顯たつ、あらた）顏ニ赤ミノ映ス意ニモアラムカ、酒ヲあからトモ云フ、藥トハ、不老不死トモアレバ、百藥ノ長ノ心ナルベシ〕 酒ノ異名。張良草子「菊ノ葉ニオク露ガ、下ノ木受ニ落合テ、不老不死ノ藥トナル、藥師ノ淨土ニテ不老山、此淨土ニテあかだやく、人間ニ與フレバ、其名ヲ和ラゲテ、酒ト申ス也」守武千句（天文、荒木田守武）追加「畢田川原ハ、藥ナリケリ、都鳥、嘴ト足トガ、あかだニテ」（松屋筆記、九十三、百七十五條）

あかだれ (名) 〔赤垂〕 〔あかハ、あこがる（憧憬）ノ語根ノ約ニテ、ソレニ、又、こだる（傾頽）ノ約リタルニモアラムカ〕 京都ノ俗語。男女ノ情交ノ深キヲ云フ。江戸ニテ、おっこち。兩京俚言考「男女ノ赤情深キヲ、あかたれト云フハ、赤心ノ顯ハレタルヲヤ云フナラム」（諺語大辭典、補遺）

あがたゐ (名) 〔縣居〕 〔あがたノ條ヲ見ヨ、田舍住ノ意ナルベシ〕 賀茂眞淵ノ家ノ號。其歌ニ「春サレバ、菘花咲ク、あがたゐニ、君來マサムト、思ヒガケキヤ」縣居集「寶曆十四年ノ秋、濱町ト云フ所ヘ家ヲ移シテ、庭ヲノベ、又ハ畑ヲ作リテ、所モ、イササカ偏ナレバ、名ヲ、あがたゐト云ヒテ、住ミ始メケル」うけらがはな（文化、加藤千蔭）賀茂翁家集序「大人ノ遠祖ヲタヅヌルニ、賀茂縣主成助ノ裔ニテ、云云、あがたゐトハ、庭ヲ田居ノサマニ作リテ、賀茂氏ノかばねニモ由アレバト、自ラ家ノ名ニ負セラレタルナリケリ」（節文）

あかぢさ (名) 〔赤苣〕 さんごぢゅなニ同ジ。

あがちだ (名) 〔班田〕 〔次次條ヲ見ヨ〕

はんでん(班田)ノ條ヲ見ヨ。孝徳紀、大化二年正月「班田收授之法」

あかちのにしき (名) [赤地錦] 赤キ錦地ノ錦。平治物語、一、[illegible]事、信頼卿ノ[illegible]ハ、生年二十七、今日ノ軍ノ大將ナレバ、赤地ノ錦ノ直垂ニ、[illegible]匂ノ鎧、云云」

あが・つ・ツ・テ・タ・チ・テ (他動、四) [散] [離散] ルノ他動(別るる、わかつ) 神代紀、上、三十「散[二]渠槽[一]、此云[二]秘波鵝都[一]」波ハ、阿ノ誤カト云フ、樋ヲ放ツナリ、名義抄「廢、スツ、ハナツ」(一)ワカツ。ハナツ。神代紀、上、十、[illegible]抜[illegible]散之、[illegible]杉、又、[illegible]散[illegible]毛[illegible]成[illegible]。[illegible]二十三年三月「散[二]人ヲ」[illegible]花[illegible]、日[illegible]、北[illegible]、失セタマヘリトテ、大殿ヨリ、多クノ人ヲあがちテ、求メ奉ラセタマフ」(二)別チテ充ツ。分配ス。班[illegible]頒 神武紀[illegible]以[二]其[illegible]、[illegible]賜[illegible]卒[一] 天智紀、九年三月「班[二]幣[illegible]、[illegible]、幣帛[一]」蜻蛉日記、中、上二十「硯子持テ來ヌレバ、サマザマあがちナドシテ」神皇正統記、下、大、上、中、下、ノ四ツノ功ヲ立テテ、田ヲあがち賜ヒ」

あか-つか (名) [赤柄] 赤木造リノ、刀ノ柄。古事談、二、臣節「赤つかノ刀」

あか-つき (名) 曉 〔明時(アカトキ)ノ轉(時間(トキノマ)、つかのま。一咋日(サキツヒ)、をとゝひ)〕(一)〔夜ノ明クル頃。アカトキ。アケガタ。アケボノ。ヨアケ。名義抄「曉、アカツキ」、[illegible]、アカツキ」

(二)次次條ヲ見ヨ。

アカ-つき (名) [閼伽坏] 佛ニ、閼伽水ヲ盛リテ奉ル、銅製ノ金鋺(カナマリ)。又、閼伽皿(アカザラ)。源、三十七、鈴蟲「[illegible]若キ尼君タチ、二三人、花奉ルトテ、鳴ラスあかつきノ音、水ノケハヒナド聞ユル」(閼伽瓶(アカシンレイ)ノ條ヲ見ヨ) 草根集(長禄寺、[illegible]記)七、[illegible]寺[illegible]秋ノ花ヲ、[illegible]ノ間ニ、折リチラシ、あかざら鳴ラス、瓦屋ノ奥」

あかつきおき (名) [曉起] (一)朝ニ、早ク起キ出ヅルコト。朝ノ早起。濱松中納言物語、[illegible]下「カナカ、事ア[illegible]ホニ、[illegible]おきセムモ、ワザトガマシケレバ、御殿[illegible]過シタルヤウニ[illegible]新古今集、十、[illegible]、旅[illegible]山路ニテ、[illegible]チニケリナ、白露ノ、あかつきおきノ、木木ノ雫ニ」(二)早起シテ勤行(ゴンギヤウ)スルコト。平家物語、[illegible]、小原御幸事「[illegible]宵毎ノ[illegible]ノ水、結ブ袂モシボルルニ、曉起ノ袖ノ上、山路ノ露モシゲクシテ、シボリヤカネサセタマヒケム」(建禮門院) 新古今集、十七、雜、中「[illegible]摘ム、山路ノ露ニ、ヌレニケリ、あかつきおきノ、墨染ノ袖」連歌ニハ「アハレ願フモ、遠キあかつき」ナド、あかつきトノミモ云フ。

✧✧**あかつき-がさ** (名) [曉傘] 新吉原郭門外ノ、衣紋坂ニテ賣ル傘ヲ、雨天ノ朝歸(アサカヘリ)ニ買ヘルモノ。番傘ナルベシ。類柑子(元祿、其角)「時鳥、曉傘ヲ、買ハセケリ」(時鳥ノ聲ニ促サレテ、早起シタル意カ) 一中節、「[illegible]牡丹(享保)「日本堤、云云、衣紋坂、からかさ賣ヤ、ホトトギス、雨ノ降ル身ノ、我ガ袖モ、云云」文化ノ川柳「曉傘ヲ、借リテ來テ、笹の雪」(我ガ物ト、思ヘバ輕シ、傘ノ雪、ニヒビカセタルカ、朝歸ニ、根岸ノ笹の雪ヲ食ヒニ來タルナリ、笹の雪ノ開店ハ、文化年中ナリ)

あか-つきげ (名) [赤鴾毛] 馬ノ毛色ニ、つきげニ赤ミアルモノ。赭黄馬。倭名抄、十一、牛馬毛「赭黄馬、赤鴾毛也」

あかつき-づくよ (名) [曉月夜] あかときづくよ(曉月夜)ヲ見ヨ。

あかつき-つゆ (名) [曉露] あかときつゆ(曉露)ヲ見ヨ。

あかつき-まうで (名) [曉詣] 朝ニ早ク、社寺ニ詣(モウ)ヅルコト。アサマヰリ。著聞集、十五、宿執「十四日ノあかつきまうでノ禮ニテ、夜ニ入リテ、[illegible]ヲオロシケレバ」(毎月十四日ハ、六齋日ノ一ナリ)

あかつき-やみ (名) [曉闇] あかときやみ(曉闇)ノ條ヲ見ヨ

あかつ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (自動、四) [垢付] 垢、物ニツク。アカジミテヨゴル。萬葉集、十七[illegible]ニ[illegible]ハズ、久シキ[illegible]、[illegible]ル[illegible]ノ、白衣、垢附クマテニ」同、十五[illegible]「我ガ衣ハ、久シクアラシ、コノ我ガ着ル、妹ガ衣ノ、阿可都久見(アカツク)レバ」

あ-かッ-たん (名) [亞褐炭] あたん(亞炭)ヲ見ヨ。

✧✧**あがッ-たり-だいみやうぢん** (アガツタリ-ダイミヨウジン) (名) 〔あがる(終)ノ條ヲ見ヨ、あがり鯰ナド云フ類ナリ、上(アガ)るニ寄セテ、崇メテ神ト云フナルベシ〕 金錢、財産ノ盡キタル、又ハ、職業ヲ全ク失ヒタル、ナドニ云フ卑語。俚言集覽、あがり「雨ノ止リヲ、あがりト云フ、事ノ畢(ヲハ)ルヲ、其あがりナド云フ、又、あがつたり大明神ナド云フ、云云、又、馬ノ疲勞シテ、目ノ盲タルヲ、目カあがるト云フ」

あか-つち (名) [赤土] (一)古名、ハニ。黄赤ニシテ、粘アル土。黃土(ワウド)ナドニ製ス、山地所在ニ出ヅ。ヘナツチ。埴(二)代赭石(シヤセキ)ノ本名。本草和名、上九「代赭、阿加都知」

あか-つち (名) [赤土] 煙草ノ一種。常陸國、久慈郡、赤土村ニ産ズルモノ、氣烈シ、同郡、太田町ヨリ賣出ス。一名、あかまひ。

✧✧**あかッ-ぺた** (名) [赤下手] あかべた(赤下手)ヲ見ヨ。

あか-つら (名) [赤面] (一)人ノ顔ノ、銅色ナルモノ。赭顔 (二)歌舞伎芝居ノ敵役(カタキヤク)、惡形(アクガタ)ノ異名。多クハ、顔ヲ赤ク塗リテ、登場スルヨリ云フ。

アカデミイ (名) 〔英語、Academy〕 (一)英國、米國ニテハ、多クハ、中學校ノ稱。(二)獨逸ニテハ、大學校[illegible]、一科、又ハ、二科ノ專門ニ限レルモノ。高等專門學校。(三)學士院。文學、技術、科學等ノ學會 (四)佛國[illegible]院。

あかてる (名) [赤照] 〔あかてるニ對ス〕 演戲場(シバヰ)ニテ、神佛ノ靈驗ナド示ス時ニ燃ス火、赤光ヲ發ス。

あかでをする (アカデヲスル) (句) [擦赤手] 〔あか(赤)ノ條ヲ見ヨ、赤手(カ)ナリ、手を擦る(アヤマル)ト云フト同ジ、武器ヲ棄テタルニ因リテ、赤手ト云フ〕 謝罪ス。アヤマル。[illegible]記、六、室町殿[illegible]之事、「[illegible]元年七月七日、信長、足利将軍ノ室町ノ城ヲ攻メ、[illegible]シテ、重テ人質ヲ出シ、赤手をすッテ、降參セラルル間、サラバトテ、赦シタマヒケリ」

あか-とき (名) 曉 〔明時(アカトキ)ノ義、あかつきノ本語ナリ〕 あかつき(曉)ニ同ジ。夜ノアケガタ。齊明紀、七年五月「鷄鳴(アカトキ)」萬葉集、十五[illegible]長歌、安[illegible]、潮滿チクレバ一字[illegible]「[illegible]、向[illegible]曉色、阿加止支」

あかとき-くだち (名) [曉降] 〔くだちハ、降(クダ)つノ名詞形(其條ヲ見ヨ)夜半ヲ峠トスル故ニ、曉ノ方ハ下坂(クダリザカ)ナル意ト云フ〕 夜ノ、過ギユキテ、曉ニ至(タ)ツ頃。萬葉集、十四五十「コノ夜ノ、曉降(アカトキクダチ)、鳴ク鶴ノ、思ヒハ過ギズ、[illegible]コソ[illegible]マサレ」

あかとき-づくよ (アカトキヅクヨ) (名) [曉月夜] 〔夜ト云フニ、意味ナシ、つくよノ條ヲ見ヨ〕 有明の月ニ同ジ。又、あかつきづくよ。アサヅクヨ。(次次條ヲ見ヨ) 萬葉集、十八五十「[illegible]間[illegible]ル、[illegible]月夜、[illegible]カス、[illegible]フノ[illegible]、

居ラマシモノヲ　同、十九「小夜深ケテ、曉月ニ、影見エテ、鳴クホトトギス、聞ケバナツカシ」源、十、榊廿「夜深キあかつきづくよノ、エモイハズ、霧リワタレルニ」同、廿三、初音廿六「影、スサマジキ曉月夜ニ、雪ハ、ヤウヤウ降リ積ム」

あかとき-つゆ　(名)　[曉露]　夜ノ明方ノ露。又、あかつきつゆ。萬葉集、二、廿「吾ガ夫子ヲ、大和ヘ遣ルト、小夜深ケテ、曉露ニ、我レ立チ濡レシ」拾遺集、十七、雜、秋「此頃ノ、あかつきつゆニ、我ガ宿ノ、萩ノ下葉ハ、色ヅキニケリ」

あかとき-やみ　(名)　[曉闇]　曉ニ、月ナキヲ云フ語。又、あかつきやみ。上弦ノ月ハ、早ク出デテ、(夕月)夜ニ早ク入レバ、曉ハ闇トナル、下弦ノ月ハ、遲ク出デテ、(夕闇、宵闇)曉マデ殘リ、曉月、朝月、ありあけの月トナル。萬葉集、十二、廿八「夕月夜、五更闇ノ、(如ク)オボホシク、見シ人ユヱニ、戀ヒワタルカモ」續後撰集、十一、戀、一「夕月夜、あかつきやみノ、ホノカニモ、見シ人ユヱニ、戀ヒヤワタラム」同、十七、雜、中「ウバタマノ、あかつきやみノ、暗キ夜ニ、何ヲ明ケヌト、鷄ノ鳴クラム」

あか-とんぼ　(名)　[赤蜻蛉]　〔あかゑんば、及ビ、とんぼノ條ヲ見ヨ〕古名、アカヱンバ。とんぼノ一種、形小サシ、其中ニ、春出ヅルハ大キク、秋ナルハ小サシ、身、翅、共ニ朱ナリ。又、形大キクシテ、身ハ朱ニ、翅ハ褐色ナルアリ。赤卒　物類稱呼(安永)二、蜻蛉「一種、東武ニテ、赤卒ト云フ、和名、あかゑむば也」

あか-とり　(名)　[赤垂]　〔貞丈雜記、三、あかとりノ條ノ欄外ニ「赤垂ノ韉」トアリ、あかたりトモ云フベシ、(御執弓、みたらし。いたはし、いとほし。塊石、くりいし。皂皮、くれかは)茜染ノモノナリト云フ、垢ト書キタルハ、當字ナリ」昔シ、武家ナドノ女房ノ、旅行ニ乘馬スルニ、鞍ヨリ馬ノ背ヘカケテ、覆ヒ垂シタル布。　續武家閑談(享保)毛利元就「永祿三年、上京、内室モ、京都一見ノタメ、上京シ、女中騎馬十二人、垢どり」(節文)古今要覽稿、器財、あかどり「伊勢因播入道如芸ノ記セシ寸法雜雜ニ因リテ考フレバ、二尺一寸ノモノ二幅、五尺二寸ノモノ二幅、合セテ四幅ニテ作リ、緒ヲ四ツ付ケタル物ト知ラル、但シ、二尺一寸ノモノ二幅ハ、鞍ニカカル處ナルベシ」

あか-とり　(名)　[赤鳥]　〔當字ナリ、海錄ノ赤鳥考ニ「明衣ノ中略語也」トアリ〕(早苗少女、さをとめ。つばくらめ、つばめ。あかばとりハ、下略シテ、あかばトモ云フ)富士淺間社ノ祭神ハ、木花開耶姫ナリト云ヘバ、女神ノ明衣ヨリ起レルナリ」駿河國、今川家ノ用キタル指物ノ稱。　難太平記(今川了俊)建武四年美濃ノ青野原ノ戰ノ條ニ「故殿(了俊ノ父、範國)笠ぢるしヲ思案シタマヒケルニ、あか鳥ヲ馬ニツケバヤトテ、其夜俄ニ付ケラレキ」同、富士淺間神女託宣ノ條ニ、青野原ノ戰、勝チテ恩賞ヲ受ケ、後ニ、淺間宮ニ神拜ノ時、神女ノ託宣アリテ、赤鳥ハ吾ガ賜ヒシナリト云フ、範國、家ノ武具ノ隨一トストアリ。今川系圖「五郎範國、濃州青野原合戰之時、著ニ馬垢取ヲ、并爲ニ笠符ニ、爾來子孫相ニ傳之ニ」海錄(文政、天保、山崎美成)十二、第六十條、赤鳥考ニ、鎗拵抄(元祿、享保、朝倉景衡)ヲ引キテ、幕府ノ高家、今川刑部大輔ガ家ノ指物あかどりハ、人形ノ着ル程ノ女ノ小袖ニテ、黑地ニ赤裏ナリトアリ。貞丈雜記、三、あかとりノ條ニハ、貞丈ノ男、光大ノ補說トシテ、瀨名貞雄ノ所藏、今川義元ノ指物トテ、櫛ノ垢取ヲ圖シタル四半ヲ擧ゲタリ、オボツカナシ、サル汚穢物ヲ標示トスル謂レナシ。

あか-とり　(名)　[垢取]　女用ノ具。櫛ノ齒ニ溜レル垢ヲ取去ルモノ。　貞丈雜記、三、あかとりノ條ニ、貞丈ノ男ノ光大ノ補說ニ、東照宮ノ御養女、津輕越中守信牧ニ、御再緣ノ御手道具トシテ、象牙製ニテ、齒ノ極メテ粗キ櫛ノ形シタルヲ圖セリ。

アカ-とり　(名)　[戽斗]　〔閼伽ノ條ヲ見ヨ〕古名、ユトリ。舟ノ底ノ淦水ヲカイダス器。關東ニテ、スッポン。關西ニテ、アカクリ。

あか-なす　(名)　[赤茄子]　一年草ノ名。明治時代ノ外來種ナリ。莖、高サ、二三尺、小葉、分裂シテ互生ス、夏、梢上ニ小枝ヲ出シテ、數花ヲ綴ル、黃色ニシテ、五裂ス、秋、果實ヲ結ブ、李子ヨリモ大キク、熟スレバ、深紅色、生食セラル。蕃茄。トマトオ。

あがなひ　(名)　[贖]　アガナフ物。ウメアハセ。「あがなひトシテ、三百金出ス」

あが-な・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ(他動、四)　[贖]　〔あがハ、贖ふノ語根、なふハ、行フ意(音なふ、伴なふ)〕あがふ(贖)ニ同ジ。償フ。ウメアハセル。和玉篇「贖、アガナフ」

あか-なべ　(名)　[銅鍋]　銅造リノ鍋。

あか-なまづ　(名)　[赤鯰]　(一)なまづノ、色赤キモノ。(二)ぎぎノ類、身ハ茶色ニテ、長サ二三寸アリ、鰭ニ刺アリテ螫スモノ。

あか-にし　(名)　[赤螺]　(一)古名、アキ。螺ノ類。殼ノ形、さざえニ似テ圓大ニシテ、外面ニ角刺ナク、紅褐ニシテ、蓋モ同色ナリ、内面ハ赤シ、肉食フベシ。紅螺　コノ卵囊ヲ、なぎなたほほづきト云フ。重修本草綱目啓蒙(享和)三十一、介類「紅螺、倭名抄、あき、俗名、あかにし」(二)俗ニ、吝嗇ナル人ノ渾名。金ヲ握リテ放サヌヲ、螺ノ、堅ク蓋ヲ閉ヂテ開カヌニ寄セテ云フ。吝　俚言集覽、あかにし「吝嗇人ヲ云フ、けんぼうナリ」

あかにし-しょうけん　(名)　[赤荷證券]　船荷證券ノ條ヲ見ヨ。

あか-に-の-ほ　(名)　[赤丹穗]　〔丹モ、赤キコトナリ、其條ヲ見ヨ。ほハ、秀ニテ、赤ミノ映出ヅルコトナリ、倭訓栞、あかにのほ「赤キ餘光ヲ、穗ト云フ」〕色ノ赤ク現レ出デタルヲ云フ語。にのほトモ云フ。　祝詞式、六月月次「長御食ノ遠御食ト、赤丹穗ニ聞食ス」(皇御孫命ノ、御酒聞シメス御顏ニ中ス)萬葉集、五九長歌「爾能保奈酒、面ノ上ニ、イヅクユカ、皺搔キ垂リ」(紅顏)同、十廿五、七夕歌「吾ガ戀フル、丹穗ノ面、今夜モカ、天河原ニ、石枕卷カム」(織女ノ紅顏)同、十三廿三長歌「春サレバ、花咲キヲヲリ、秋ヅケバ、丹之穗ニ黃葉ヅ」

あか-ぬ・ける・ケル・ケレ・ケ・ケ・ケヨ(自動、下一)　[垢拔]　垢、脫ケテ、キレイナリ。ヂヂムサカラズ。瀟酒　俚言集覽、あかぬける「垢ノヌケテ清潔ナル義ナリ、人ノ顏色ナドニ云フ」名詞形ニ、「あかぬけノシタ顏」ナド云フ。又「あかぬけノシタ技」ナド云フハ、素人臭クナキ意ナリ。

あが-ぬし　(名)　[吾主]　〔あ(吾)ノ條ヲ見ヨ、後世、轉ジテ、和主トナル〕人ヲ敬ヒテ呼ブ語。アガキミ。　萬葉集、五廿六「阿我農斯ノ、恩賴賜ヒテ、春サラバ、奈良ノ都ニ、召上ゲタマハネ」

あかぬま-あやめ　(名)　[赤沼菖蒲]　〔日光山、中禪寺ヨリ湯元ノ間ノ、赤沼原ノ原產〕菖蒲ノ一種。矮小ニシテ、葉ノ幅ノ狹キモノ。　俚言集覽、あかぬまあやめ「下野、赤沼ニ產ズ、葉狹キモノ」

あか-ね　(名)　[茜]　〔赤根ノ義〕(一)草ノ

名。山野ニ多シ、莖、葉根ニ叢生ズ、莖、方ニシテ、中空シク、葉ト共ニ刺アリ、葉ハ四片一節ニ生ジ、心臟形ナリ、秋、葉ノ節ニ、穗ヲナシテ、四瓣ノ小白花多ク綴ル、實ハ山椒ノ如シ。此根、數條多ク簇リテ黄赤ナリ、採リテ粉ニシテ、赤色ヲ染ムル料トス、又、藥用トモシテ、茜根ト云フ。延喜式、雜染用度「黄櫨綾一疋、茜大三十斤、云云、帛一疋、茜、大廿五斤」倭名抄、十四「茜、可以染緋者也、阿加禰」(二)次條、又、あかねぞめ(茜染)ノ略。

あかねいろ (名) 茜色 あかねぞめ(茜染)ヲ見ヨ。

あかねさし (枕) 赤根指 次條ヲ見ヨ。

あかねさす (枕) 赤根指 「あかハ、明キ義ナリ、ねニハ意ナシ、鳥ね、眉ね、羽ねノ如シ(萬葉集古義)さすハ、耀クナリ、明ク映すノ意、あかねさしト云フハ、中止形ナリ、因リテ、日、晝、照る、ニツヅク、紫ニハ、其色ノ匂フニツヅケ、君ニハ、其顔ノニホハシク色ヅケルニツヅクルナリ、紅顔ノ意ニテ、赤羅引く君、ト云フガ如シト云フ」日、晝、照ス、紫、君、ト云フ語ドモノ枕詞。又、あかねさし。萬葉集、二「茜刺、日ハ照セレド」同、十二七「赤根指、日ノ暮レヌレバ」同、十五三十「安可禰佐須、晝ハ物思ヒ、ヌバタマノ、夜ハスガラニ、哭ノミシ泣カユ」同、四六「赤根指、照レル月夜ニ」續後紀、十九、嘉祥二年三月、長歌「茜草指、天照國ノ」萬葉集、一廿「茜草指、紫野行キ、標野行キ」同、十六廿「飯食メド、味クモアラズ、行ケドモ、安クモアラズ、赤根佐須、君ガ心シ、忘レカネツモ」

あかねぞめ (名) 茜染 布帛ナド、茜ノ根汁ニテ染メタルモノ、紅色ナリ。コレヲ茜色ト云フ、略シテ、あかねトノミモ云フ「茜もめん」

あかねぶり (名) 垢舐 人ノ垢ヲ舐リテ生ク、浴室ニ生ズル蟲ノ名。林逸節用集(文明)「垢舐、アカネブリ、浴室中之蟲也」

あかねもめん (名) 茜木綿 茜染ノ綿布、無地ノ紅色ナリ、赤子ノ服トスル時ハ、紅木綿ト云フ。落穗集、六「大御所、駿府ニ御座被成候時分、淺野彈正少弼上使、致、土産トシテ、茜木綿百反被遣」

あかのごぜん (名) 赤御膳 〔ごぜん(御膳)ノ條ヲ見ヨ〕 あづきめし(赤小豆飯)ヲ丁寧ニ云フ語。

あかのたにん (名) 赤他人 〔あか(赤)ノ條ヲ見ヨ〕 全ク血緣ナキ人。由緣ナキ人。俚言集覽、あかのたにん「赤ハ乾淨ノ義ニテ、親屬ナラザル人ヲ云フ」

アカのはな (名) 閼伽花 閼伽ノ水ニ插シタル花。源、四十、幻「あかのはなノ、夕映シテ、イト面白ク見ユレバ、云云、佛ノ御飾リニテコソ、見ルベカリケレ、ト宣ヒテ」細流抄「時花ヲ、佛ノ供養ニ、折リ奉ラセタルナリ」

アカのま (名) 閼伽間 〔閼伽ノ條ヲ見ヨ〕 和船ノ底ノ中央ノ、差水ノ溜ル處。あかま。倭訓栞、あか「船中ニテ、水ノ事ヲあかト云フハ淦ナリ、云云、淦ノ集ル處ヲ、あかの間ト云ヘリ」

あかのまんま (名) 赤飯 〔飯ノ條ヲ見ヨ〕 (一)あづき飯ノ小兒語。(二)犬蓼ノ異名、溝畔ナドニ野生シテ、小紅花ヲ綴レバ、名トス。俚言集覽、あかのまんま「あかのめし、蓼ノ花ヲモ然云ヘリ」

あかのめし (名) 赤飯 あづきめし(赤小豆飯)ニ同ジ。

あかば (名) 明衣 〔あかはだ(明肌)ノ下略カ、おばさ、其條ヲ併セ見ヨ〕 大嘗祭ナドノ時、主上ノ御湯浴ニ召ス御湯帷子。あまのはごろもノ條ヲ併セ見ヨ。代始和抄(一條兼良)大嘗會ノ條「廻立殿ニ行幸ナリテ、御湯奉ル、云云、あかばト云フハ、明衣ト書ク、御湯帷子ヲ云フナリ」同云、「御湯ハ明衣ヲ以テ奉ル」

あかばう (名) 赤帽 (一)赤色ノ帽子。(二)汽車ノ停車場ノ昇降ニ、客ノ依頼ヲ受ケテ、手荷物ヲ持チ運ブ男。赤帽子ヲカブリテ、シルシトス、近年、出來タル語ナリ。

あかばうず (名) 赤坊主 小麥ノ類、あかぼふし(赤法師)ノ條ヲ見ヨ。

あかはげ (名) 赤禿 髮ノ、全クハゲテ、頭ノ赤ク顯ニナレルコト。

あかはた (名) 赤幡 無地、赤染ノ旗。人目ニツクヤウニ、標トシテ用ヰタルアリ。靈異記、上、第一縁、泊瀬朝倉宮(雄略天皇)廿三年、小子部栖輕、奉勅、擎赤幡桙、乘馬走往」(前文)續紀、十四、天平十二年十一月「始以赤幡班給大藏内藏大膳等司、供御物前建以爲標」盛衰記、廿三、平氏清見關下事「西ノ岸ニハ、平家、赤旗ヲ捧ケテ固メ、東ノ河原ニハ、源氏、白旗ヲ捧ケタリ」(コレハ戰旗ナリ)

あかはだ (名) 赤肌 〔明肌ノ義〕 (一)鳥獸ノ羽毛ノムケタルコト。古事記、上三十「到氣多之前時、裸菟伏也」雄略紀、七年八月「菟」(二)山ニ樹木ナキコト。史記、始皇本紀「伐湘山樹、赭其山」六帖、二「山ヲ赤ハダニシト、思入レドモ、あかはだノ、山ハ身ヲコソ、隔サザリケレ」

あかはだか (名) 赤裸 〔明裸ノ義、はだかハ、肌裸ノ約ナレド、語原ハ忘レラレテ、又、あかはだかト云フナリ〕(一)全ク裸ナルコト。又ハ、まるはだか。マヤハダカ。名義抄「裸、アカハダカ」七十一番歌合(文安)十番、かはかはう「生剥ノ、皮ハウ時、詠ムレバ、あかはだかニモ、成リケルカナ」(二)はだかむぎノ一名。

あかはだやき (名) 赤膚燒 〔赤膚山ハ、生駒郡、唐招提寺ノ西ニアル禿山ナリ〕 陶器ノ一種。正保年中、京都ノ陶工、野野村仁清ガ、大和國生駒郡赤膚山ニテ燒キ始メタルモノ。後、廢窯シ、寛暦年中、同郡、郡山ノ五條村ニ開窯セリ、多ク酒器ヲ製セシム、土質白ク、釉モ灰色ヲ帶ブ、赤膚山、又、赤はだノ印ヲ押ス。本朝陶器攷證、一「和州赤膚燒(古赤膚燒)」

あかはぢ (名) 赤恥 〔明恥ノ義〕 現ハナル恥。衆人ノ前ニテカキタル恥。「あかはぢヲ曝ス」

あかばち (名) 赤蜂 蜂ノ、稍大ナルモノ。身長一寸許、體、赤クシテ、黒褐ノ斑アリ、翅ハ透明ニシテ、赤、赤褐ヲ帶ブ。

あかはつ (名) 次條ヲ見ヨ。

あかはつだけ (名) 赤初茸 〔あかはつト云フハ下略ナリ、早松茸ヲ、さまつト云フガ如シ〕 常ノ初茸ニ似テ、蓋ノ裏赤色ナルモノ。食フベシ。アカハツ。

あかばとり (名) 明衣 〔明服ノ義、漢語、明衣ノ訓讀ナルベシ、潔衣ノ、きよぎぬ、きよきぬ、モ同ジ〕 又、明のきぬ、きよぎぬ、神事ニ用ヰル服、白絹、又ハ、白布ニテ作レル、闕腋ノ袍ナリ、束帶ノ縫腋ノ袍ノ上ニ着ル。踏歌ノ舞人、陪從、…人、

明衣料、絁一疋、調布一端、綿八屯」太神宮式、月次祭「禰宜乃著ニ明衣、太神宮司著ニ當色ニ」神樂歌、弓立、宮人ハ、吉キ日祭レバ、明日ヨリハ、安介の衣ヲ、褻衣ニセム」太神宮儀式解(安永)七「六典、凡、國有ニ大祀之禮ハ皆祀前習禮、並給ニ明衣ト見ユ、御國ニテ神事ニ用ル明衣ノ名モ、右漢國ノ祭祀ニ用ル方ヲ取リタル也(明衣ヲ見ヨ)訓ハ伎與伎奴ナリ、儀式ニ、潔衣ト見エ、云云、又、阿氣乃古保茂トモ讀ミナム、神樂歌弓立ニ、云云、二ツ共ニ、明衣ト云フ文字ニツキテ訓ミシモノト聞エテ、古名トハ聞エズ、江家次第、公卿勅使條ニ、禰宜、束帶、袍上著ニ白生絹腋闕ト云ヘリ、此腋闕、即、明衣也」倭訓栞、中編、きよぎぬ「明衣ヲ訓メリ、淨衣也」

あかばな (名) 赤鼻 又、ニキミバナ。今、ざくろばなト云フ、其條ヲ見ヨ。醫心方、四十六 治ニ鼻皶ニ方「病源論云、此由ニ飲酒ニ熱勢衝レ面、云云、令ニ鼻面皆生ニ皶、赤皰帀帀然者、是也、和名、安加波奈」

あかばな (名) 赤花 草ノ名。莖、高サ一尺許、葉ハ狹ク長ク、鋸齒アリテ、對生シ、夏ニ至リテ、色、紫赤ニ變ズ、花ノ大キサ、二分餘、四瓣ニシテ、色紅ナリ。柳葉菜

あかばな (名) 赤花 襲ノ色目ノ名。羽倉考、二、赤花之事「女官飾抄ニ、櫻重、表、白ク、裏、あか花、樺櫻、表、蘇芳、裏、あか花、云云、ナドトアル赤花ハ、紅花ノ事ナルベシ」語彙、あかばな「染色、紅ノ淡クシテ、稍、紫ヲ帶ビタル色ナリ、胡曹抄、樺櫻、表、蘇芳、裏、赤花」

あかはなあだひ (名) 赤鼻小鯛 魚ノ名。體色赤ク、淡靑ノ線アルモノ。黃穡魚 語彙「あかはなあだひアカメ、キカスゴ、長三四寸ヨリ一尺ニ至ル、身、扁ク短シ、頭大、鱗アラク、全身赤色、淡靑ノ筋數條アリ」

あかばへ (名) 赤蠅 蠅ノ一種。飴色シタルモノ。翅ニ褐色ノ文樣アリ、人糞ニ集ル。

あかば・む・ム・メ・マ・ミ・メ (自動、四) 赤 「黑ばむ、黃ばむ」 赤ミツク。アカラム。宇津保物語、藏開、中 四十三「黃ばみタル色紙ニ書キテ入レタリ、云云、あかばみタル色紙ニ書キテ入レタリ」(何レモ和歌ナリ)

あかはら (名) 赤腹 小鳥ノ名。狀、つぐみニ似テ、頭、黑ク、背ト翅トハ蒼灰ニシテ、胸ト腹トハ赤シ、聲、短クシテ、囀ラズ、能ク群ヲナス。本朝食鑑(元祿)六、林禽、赤腹「大如レ雀、頭、背、翅、蒼灰色、腹赤、聲短不レ囀、其味最佳」

あかはらまき (名) 赤腹卷 あかをどし(赤緘)ノ條ヲ見ヨ。

あがひ (名) 贖 アガフコト。アガナヒ。宇治拾遺、十一、第一條「左京大夫ナル人オハシケリ、云云、色ノ、セメテあをカリケレバ、あをつねノ君トゾ、殿上ノ君達ハ、ツケテ笑ヒケル、云云、あをつねノ君ト呼ビタラム者ヲバ、酒、菓物ナド、取出サセテ、あがひセムト言ヒカタメテ、起請シテ」

あかひきのいと (名) 赤引絲 あからひきのいと(赤良引絲)ヲ見ヨ。

あかひげ (名) 赤髭 (一)髭ノ、色赤キモノ。今昔物語、廿九、第三語「侍、云云、年、三十バカリニテ、長、スハヤカニテ、スコシ赤鬚ナルアリケリ」劉禹錫文「備將迎者、多ニ赤髭白足之侶ニ」(二)歐米人ヲ嘲リ呼ブ語。阿蘭陀人ヲ紅毛ト云フ類ナリ。(三)小鳥、てうせんおまノ異名。頭、背、赤褐色ナレバ云フ。

あかびつ (名) 明櫃 〔削リタル木ヲ、あかぎト云フ、其條ヲ見ヨ〕白木造リノ櫃。(塗櫃ニ對ス) 主計寮式、畿內輸雜物、攝津國「明櫃十合、大明櫃二百三十五合、小明櫃一百八十四合」類聚名物考、調度、七、明櫃「あかびつト訓ムベキカ、素木櫃ナリ」

あかひと (名) 赤人 〔赤色ノ服ヲ着テアリシニ因ル、赤蝦夷ト云フハ、露人ヲ蝦夷ト見做シテ云ヒシナリ、唯、夷人ト云フ意ナリ〕明和、安永ノ頃ヨリ、蝦夷地(北海道)ノ千島ニ、侵入シ來リシ、露西亞人ノ異名。又、赤蝦夷トモ云ヒキ。邊要分界圖考(近藤守重)ニ、魯西亞人ノ事ヲ蝦夷人ハ、ふうれ(赤)志やむ(人)ト稱シ、松前人ハ赤人ト云フ、渡來セシ時、皆、猩猩緋ノ服ヲ着セリト記セリ。倭訓栞、中編、あかふと「蝦夷ノ敵ハ、あかふと也」(奧羽、越後ノ出稼人ノ、あかひとノ訛音ナリ)寬政ノ頃、仙臺藩ノ醫、工藤平助ノ著ニ、露國ノ事ヲ記シテ、赤蝦夷風俗考ト題セシアリ。

あかひも (名) 赤紐 (一)〔赤色ノ紐。上代、朝服ノ襟ニツケタリ。古事記、下(仁德)七「大雨、云云、其臣服ニ著紅紐靑摺衣、故、水潦拂ニ紅紐、靑皆變ニ紅色ニ」(舍人ノ服ナリ、尙、靑摺ノ條ヲ見ヨ) (二)後ニ、靑摺ノ小忌衣ノ肩ニ綴ヂツケテ、前後ニ垂ルルモノ。あかひもノ名ヲ存シテ、濃紫ト蘇芳トノ絹ヲ組合セ、蝶鳥ヲ白ク畫キタルヲ用キル。雅亮裝束抄、二、舞人ノ裝束ノ事「あかひもハ、廣サ五分バカリニテ、半ノ程ニ、揚卷結ビテ、表裏ノ下リニ、蜷結ビテ、云云、濃打一筋、蘇芳一筋アルナリ」小忌ノ事「コレモあかひもアリ、コレハ、右ノ肩ノ上ニ、中ヲトヂツケテ、後前ニ下ゲテ、後ハ、脇ニトヂタルガヨキナリ」飾抄、下、赤紐「仁平三年十一月十九日、豐明、兼長卿著ニ小忌赤紐ニ」註「著ニ小忌右肩ハ舞人著レ左、依ニ祖裼一也」新勅撰集、九、神祇「山藍モテ、摺レル衣ノ、赤ひもノ、(如ク)長クゾ我レハ、神ニツカフル」西宮記、臨時、四、女裝束、五節舞姬「羅靑摺長袂、云云、左右著ニ赤紐ニ」

あがひもの (名) 贖物 〔贖ふノ條ヲ見ヨ〕罪ヲ贖フトテ出ス物。贖罪ノ過料。次條ヲ併セ見ヨ。三代實錄、四十八、仁和元年十月十九日「帶ニ從五位上ニ請減ニ一等ハ、贖銅九斤ニ(節文)」太政官式「依レ法科レ處、其所レ輸贖物、收ニ刑部省ニ」

あがひもののつかさ (名) 贓贖司 〔前條ヲ見ヨ、あがんものハ、あがひものノ音便(佩物、おんもの。縫物、ぬんもの)〕古ヘ、刑部省ノ被管ニシテ、贓物ノ沒收、及ビ贖罪、過料ノ事ヲ掌リシ官署。アガンモノノツカサ。職員令「贓贖司」

あかひゆ (名) 赤莧 莧ノ一種、莖、葉ノ色、紫赤ナルモノ。訛リテ、アカヒョウ。又、古ヘ、赤色ノ染料ニ用キタリ、故ニ、一名、シャウエンジ。倭名抄、十四 五 染色具「赤莧、蘇葉純紫、阿加比由」俚言集覽、あかひゆ「赤莧、あかひよう、古ヘ染色ノ具ニ用ヰシモノ、今モ、生臙脂ノ名アリ」

あかひょう (名) 赤莧 前條ヲ見ヨ。

あかひる (名) 明晝 白晝 ヒル、ナカ。晝ノモナカ。落窪物語、二「男ノシタルナンメリ、何バカリノ者ナレバ、カク我ガ家ヲ、あかひるニ入立チテ、カクシテ出デヌラムト、嫉ガリ惑ヒタマヘド、カヒモナシ」

あが・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (他動、四) 贖 〔あハ、相ノ下略(間籠、相。言逆ふ、いさかふ)かハ、交ふるノ語根(預ふモ、相副ふナリ)相交ヲ活用セシメテ、罪ト交換スル意ナリ、あがなふノなふハ、行ふ義(占なふ、蠱なふ)玉篇「贖、以レ財拔レ罪也」〕過料ヲ出シテ、罪ヲ償フ。又、あがなふ。華嚴私記音義(奈良朝時代)「贖、出レ金贖レ罪也、阿可布」字鏡七十八「贖、阿加不」名義抄「贖、アカフ、ツクノフ」雄略卽位前紀「圓大臣、云云、臣、伏願ニ大王ハ奉ニ獻臣女韓媛與ニ葛城宅七區ハ請ニ以贖ニ罪」今鏡、中、扉がね「此咎ハ、イカガあがひ侍ルベキ」和玉篇

ウ（足利時代）「贖、アカナフ」（合類節用（元祿）九、[illegible]）

あがふ　フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ（他動、四）〔贖〕〔あハ、商ノ下略（息吹く、いぶく。脛着、はばき）かハ、買ふノ語根、商買ヲ活用セシム、あがなふノなふハ、行ふ義（前條ノ語原ヲ見ヨ）商買ヲスル意ナリ、玉篇「贖、以財有所求也」〕（一）買ヒ求ム。買入ル。[illegible]求ス。又、あがなふ。名義抄「贖、アカフ、負、アカフ、アキナフ」「駿馬ヲ五百金ニテ贖ふ」（二）賞ヲ懸ケテ募ル。名義抄「贖、アガフ、ツノル」「購ニ百千金ニ」

あかぶな　（名）〔赤鮒〕一金魚ノ鯽性ト云フモノ、[illegible]ナリ、きんぎょノ條ヲ見ヨ。鱗ノ成長シテ、色ノ紅黄ニ變ズルモノ。[illegible]、廿九、[illegible]一種、あかぶなト云フモノアリ、又、ひぶなトモ云フ、[illegible]ノ谷、一七[illegible]ノ庭池中ニ生ズ、初生ハ、常ノまるぶなト同ジ、三四寸ノ時、紅黄色ニ變ズルコト、金魚ノ如シ」

あかふのたか　（名）〔赤斑鷹〕鷹ノ羽ニ、赤キ斑ノアルモノ。[illegible]ハ、赤符の鷹ノ、かたがへり、（ノ如シ）取リ苦シキハ、[illegible]

アカふるすず　（名）〔[illegible]〕あかおんれいノ條ヲ見ヨ。

あかべ　（名）〔赤目〕あかめ（赤目）ノ轉。アカンベイ。

あかべた　（名）〔赤下手〕[illegible]、同趣、あか（赤）ノ條ヲ見ヨ、[illegible]べたト云フハ、急呼スルナリ、奴詞ナリト云フ（餓鬼、がっき。岡引、をかっぴき）全クノ下手。技藝ノ、極メテ拙キコト。あかべた、以[illegible]江戸ノ女形ノ[illegible]京ア[illegible]ラハンヌあかべたノ、今日マデ[illegible]元役、サテハ、[illegible]サマニシテ[illegible]、一[illegible]二[illegible]、[illegible]、[illegible]べた「赤ヲ促呼シテ云フハ、奴詞也、奴詳者、あかっ下手トゾ」

あかぼうふり　（名）〔赤孑孑〕ぼうふりむしノ、色ノ赤キモノ。アカボウフラ。

あかぼし　（名）〔明星〕明の明星ノ古名。金星ノ條ヲ見ヨ。[illegible]名抄、一二「[illegible]、[illegible]之」萬葉集、五[三十九]長歌「明星ノ、（序）明クル朝ハ」神樂歌、吉吉利利「安加保之ハ、明星ハ、クハヤ、ココナリヤ」六帖、一「月影ニ、[illegible]レニケリ、あかほしノ、（序）飽カヌ心ニ、出デテ德シク」

あかほしほ　（名）〔赤穗鹽〕播磨國、赤穗郡ノ海邊ニ產ズル鹽。鹽中ノ上品トス。日本山海名物圖會（寶曆）三、[illegible]「播州赤穗ノ鹽ヲ名物トス」播州名所巡覽圖會（享和）五「赤穗郡、赤穗鹽」

あが-ホトケ　（名）〔吾佛〕〔あ（吾）ノ條ヲ見ヨ、此語ナド、當時佛教ノ盛ンナリシヲ思ハシム〕（一）己ガ信仰スル佛ヲ崇メテ云フ語。又、わがほとけ。伊文集「あが佛、顏比ベセヨ、[illegible]ノ、[illegible]おほしハ、我レノミゾセム（阿彌陀佛）」後[illegible]、あかほとけ、一葉集ニ、親鸞上人「アハレニモ、二世ヲカケテ、里人ノ、あかほとけトヤ、願ヒオクラム」（眞宗ニテ、專念ノ信佛ハ、彌陀佛ナリ）徒然草、百九十段「妻、云云、良キ女ナラバ、[illegible]男ヲゾ、ラウタクシテ、あかほとけト守リ居タラメ（コレラ、[illegible]ノ[illegible]ナリ）」（二）吾が佛尊しト云フ諺ハ、世間ヲ顧ミズ、只、己ガ君父ナドノミ崇ムルヲ云フナリ。[illegible]名物考、言語記、一、あかほとけ「今、俗ニ、我が寺の佛たふとしト云フ[illegible]アリ、云云、只、我ガ今アリガタシト思フ事ヲノミ、[illegible]トシテ、外ニ目ナキヲ云フナリ」[illegible]故事要言、我家の佛尊し「[illegible]世[illegible]ヲ[illegible]ザル、[illegible]シキ心ヨリ、一向、我ガママヲ以テ、人ニ逆フ心也」（三）〔佛ヨリ移シテ、僧ヲ

モ呼ビカケテ、あがほとけト云ヘリ。[illegible]、[illegible]ノ御徳ニ、年頃、ナメキ見侍リツル心地シヅメテ、[illegible]一[illegible]、[illegible]ノ[illegible]ニ、云云、あがほとけ、京ニ出デタマハバコソアラメ、云云、イミジキ[illegible]、[illegible]マヘンベ」（四）〔又、轉ジテ、スベテ、人ヲ愛敬シテ言ヒカクル語トナル。〕吾君。竹取物語「[illegible]かくの[illegible]ノ[illegible]ニ來リテ見レバ、ナホ、[illegible]ルケシキナリ、コレヲ見テ、竹取翁、あが佛、何事思ヒタマフゾ、思スラムコト、何事ゾ、ト云ヘベ」同「あが子ノ佛、變化ノ人トハ申シナガラ、ココラ大キクマデ[illegible]ナロカナラズ[illegible]」[illegible]落六[三十]「あがほとけノ御所緣ニハ、骨舍利ノ中ヨリモ、甘キ乳房ハ出來ナム」（老女ガ、己ガ仕フル女君ノ、生ムベキ子ニ就キテ云ヘルナリ）[illegible]、あて[illegible]少將、喜ビテ[illegible]シテ、[illegible]ド云フ人ニ、[illegible]サスハナシ[illegible]中將「あがほとけ、ナドカ、カク、思ハヌサマニテハ物シタマフナル」

あかぼふし　（名）〔赤法師〕〔法師トハ、擬人シテ云フナリ、坊主ト云フモ同ジ（影法師、[illegible]法師。照照坊主、三日坊主）〕小麥ノ一種。芒ノ色ノ赤キモノ。アカバウズ。火燒麥

あかほん　（名）〔赤本〕くさざうしノ條ヲ見ヨ。

アカま　（名）〔[illegible]〕あかのまヲ見ヨ。

あかまいし　（名）〔赤間石〕長門國、豐浦郡ニ產ズル石ノ名。赤間ヶ關ヨリ四方ヘ出ス、硯トシテ佳品トシ、色ノ紫赤ナルヲ上トス。梵舜日記、慶長十七年十二月廿五日「[illegible]」[illegible]（享保）一、硯石「赤間石、紫上モノ、青ツキ也」

あかます　（名）〔赤鱒〕べにますニ同ジ。

あかまつ　（名）〔赤松〕まつ（松）ノ條ヲ見ヨ。

あかまな　（名）〔[illegible]〕[illegible]ノ[illegible]ヲ見ヨ。

あかまひ　（名）〔[illegible]〕煙草ノ名。あかつち（赤土）ヲ見ヨ。

あがまふ　フ・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ（他動、下二）〔崇〕「あがむノ延」（いだく、いだかふ）あがむニ同ジ。[illegible]、富士[illegible]ノ[illegible]者デゴザル、マヅ、あがまへテゴザル」

あかまへだれ　（名）〔赤前垂〕京坂地方ニテ、[illegible]、料理屋等ノ女ノ稱、[illegible]茶屋[illegible]ノ[illegible]八だれ」寛永發句集、山姫ノ、赤まへだれヤ、下紅葉」

あがまま　（名）〔吾儘〕〔あ（吾）ノ條ヲ見ヨ〕わがままニ同ジ。[illegible]、[illegible]「一[illegible]下ヲ、あがままニシテオハシマス」

あかまる　ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）〔赤〕〔あかまハ、あかむノ未然形〕あかばむニ同ジ。[illegible]、[illegible]あかまり、スズロハシキナリ」

あかみ　（名）〔赤味〕〔あかむノ名詞形〕赤ムコト。赤キホドアヒ。「あかみガサシタ顏」

あかみ　（名）〔赤身〕（一）杉ナドノ材ノ中心ノ、色赤キ處。朽チタキヲ貴ブ。其周ナル白キ處ヲ、しらたト云フ、朽チ易ケレバ劣ル。（二）魚肉ナドノ、色ノ赤キ部。

あがみ　（代）〔吾身〕〔あ（吾）ノ條ヲ見ヨ、汝ノ己ガ身ノ意〕對稱ノ代名詞。わがみニ同ジ。ソナタ。[illegible]「他ヲサシテ云フ詞ニ、畿内ニテ、吾身ト云フ、東國

ニテ、おのし、又、おぬし、又、そなたナド云フ」

あか-ミソ (名) ［赤味噌］ 味噌ノ、色赤キモノ。白大豆ニテ製ス。

アカ-みづ (名) ［閼伽水］ あか(閼伽)ノ條ヲ見ヨ。

あか-み-どり (名) ［朱鳥］ ［赤御鳥ノ義ト云フ］ 天武天皇ノ御代ノ年號、朱鳥ノ字ノ訓讀。天武紀、下四十九「朱鳥元年七月「改元曰二朱鳥元年一」註「朱鳥、此云二阿訶美苦利一」此時、大和國ヨリ、赤雉ヲ獻ゼシカバ、改元アリシナリ、(扶桑略記、水鏡)又、スベテ年號ヲモ、國語ヲ以テ唱フベシ、トノ大御心ナリシナルベシト云フ。

あかみ-ばし・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) ［赤｜］ 味走 「あかみハ、次條ノ語ノ名詞形、はしるハ、色ノ映す意ナルベシ、にがみばしるナドモアリ」 あかばむニ同ジ。好色一代女(貞享、西鶴)三三「上鬚アリテ、あかみばしり、頭ハ禿ナル人アリ」

あか・む・ム・メ・マ・ミ・メ (自動、四) ［赤｜］ ［青む、白む、黑む］ あかばむニ同ジ。皇極紀、元年五月「熟 稻」枕草子、二、二十段「顔ノあかみテ、カドカドシゲナル」

あか・む・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ (他動、下二) ［赤｜］ ［前條ノ語ノ他動(黑む、くろむる)］ 赤クナス。源、二、帚木四十六「相思フマジキナリト、怨ジタマヘバ、顔打チあかめテ居タリ」 太平記、一、中宮御産御祈事「俊基、大ニ恥ヂタル氣色ニテ、面ヲあかめテ退出ス」

あかん (句) ［埒明かぬノ上略］ 畿内邊ノ語。成ラヌ。不可。無益ヂャ。俚言集覽、あかん「紀伊和歌山ニテ、臆病ヲ云フ」(名詞ナリ) 諺語大辭典、あかん三切「播磨ニテ云フ、あかんハ、だめだトノ意、三切ハ、身切ニ通ズルヨリ、副食物ナドニ、三ノ數ヲ忌ミテ云フナリ」「サウシテハあかん」「ソレデハあかん」

あが・む・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ (他動、下二) ［崇］ ［上ヲ活用セシム(際むる、淡むる)］ (一)尊キモノトアツカフ。タフトビウヤマフ。神代紀、下三十六「天孫、云云、海神見レ之、乃知二是天神之孫一、益加二崇敬一」 (二)メデイツクシム。寵愛ス。神代紀、下三十四「豐玉姫、聞二其兒端正一、心甚憐重、欲二復歸養一」 神功紀、五十一年三月「厚結レ好、永寵二賞之一」(百濟王ニ宣ヘルナリ) 源、二、帚木五「親ナド立副ヒ、モテあがめテ、老先コモレル窓ノ中ナル程ハ」(長恨歌「楊家有レ女初長成、養在二深窓一人未レ識」)

あか-むつ (名) ［赤鯥］ 魚ノ名。體長二尺餘、むつニ似テ、赤褐色ヲ帶ブ、深海ニ棲ム。

あかん-ばう (名) ［赤坊］ ［赤子ノ赤ヲ擬人シタル、赤坊ノ音便、あかんぼハ下略ナリ(黑坊、くろんばう、くろんぼ)］ あかご(赤子)ニ同ジ。アカンボ。(東京語)

あかん-べい (名) あかめ(赤目)ノ延轉。(東京)

あかん-ぼ (名) ［赤坊］ 前前條ヲ見ヨ。

あがんもの-の-つかさ (名) ［贓贖司］ あがひもののつかさヲ見ヨ。

あか-め (名) ［赤女］ ［赤目鯛ノ下略］ (一)鯛ノ古言。神代紀、下二十四「赤女、鯛魚名也」私記「安加目太比」 (二)いせごひノ一名。

あか-め (名) ［赤目］ 指ニテ下瞼ヲ引キヒロゲ、裏ノ赤キヲ示シテ、小兒ヲ威ス戲。轉ジテ、事ヲ否ミ卻クル意ヲモ示ス。訛リテ、あかべ。あかんべい。べえ。又、メアカウ。メカカウ。ベッカッコウ。

あかめ-がしは (名) ［赤芽柏］ 一名、アカガシハ。樹ノ名、山野ニ多シ。高サ二丈餘ニ至ル、葉ハ三叉ニシテ、大キサ三四寸ヨリ五六寸ニ至リ、鋸齒アリ、互生ス、莖赤ク、芽モ甚ダ赤シ、夏、穗ヲナシテ、黄白色ノ花群リ開ク、實ノ大キサ二三分ナリ。重修本草綱目啓蒙、廿四「梓、アヅサ、アカメガシハ、アカガシハ、其嫩芽、甚ダ赤クシテ、莧ノ芽ノ如シ、漸ク長ズレバ、漸ク綠色ニ變ズ、故ニ、あかめがしはト呼ブ」
(各條ヲ見合スベシ)

あかめ-ふぐ (名) ［赤目河豚］ 河豚ノ一種。大キサ三四寸、形、まふぐニ類シ、眼、赤シ、背ハ紅黄色、腹ハ白色ヲ帶ブ、各顎二齒アリテ裸出ス、肉、美味ナレド、亦、劇毒アリ。

あか-も (名) ［赤裳］ 赤染ノ腰裳。萬葉集、六十三「丈夫ハ、御狩ニ立タシ、少女等ハ、赤裳裾引ク、淸キ濱邊ヲ」同、十七廿九長歌「紅ノ、安可毛裾引キ、少女等ハ」沙石集、五、下、二十二條「饌所ノ雜仕モ、赤裳ヲゾキル」大海老ノ、殼剝キオケル、中ニ居テ」

あか-もがさ (名) ［赤疱瘡］ ［もがさノ條ヲ見ヨ］ 痲疹ノ古言。又、アカガサ。日本紀略、後篇、十、長德四年十二月廿九日「今年、天下、自レ夏至レ冬、疫瘡遍發、云云、謂二之赤斑瘡一」(節文) 榮花物語、五、浦浦別「今年、(長德四年)例ノもがさニハアラデ、イト赤キ瘡ノ、コマカナル出デキテ、老イタル、若キ、上、下、ワカズ、コレヲ病ミノノシリテ、云云、靜心ナシ」同、二十六、楚王夢「中納言殿ノあかがさノ後、ナゴリヤミコソ、イトホシウ聞ケ」 扶桑略記、廿八、萬壽二年「自レ夏至二秋季一、有二赤疱瘡一」左經記、萬壽二年七月廿二日「赤裳瘡」

あが-もの (名) ［贖物］ ［あがハ、贖ふノ語根］ (一)身ノ災害ヲ贖ヒ祓フ物。人形ニ負ハセテ、水ニ流シ遣ルナド、是レナリ、主上ノ御祓ニ奉ルヲ、御贖物ト云フ。公事根源、正月、神祇官獻二御贖物一「是ハ、毎月ノ晦日ニ奉ル、御麻ヲモ同ジク供ス、あが物ニハ、身ノワザハヒヲあがふ物ト云フ心也、人形ヲ作テ、身ノ代トスル事、同ジ心ナルニヤ」 (二)又、六月ニ奉ル御贖物アリ。公事根源、六月、御贖物「是レハ、一日ヨリ八日マデ、あがちご持チテ參ル、朝餉ニテ、主上ニマヰラス、四ツノ土器ヲ御指シテ、上ニ貼リタル紙ニ穴ヲアケテ、御息ヲ入ルルナリ」 あがちごハ、贖兒ニテ、此事ニ奉仕スル少女ナリ、(正月ノ御屠蘇ノ藥子ト、同趣)年中行事ニ御巫トアル、是レナリト云フ。

あか-もん (名) ［赤門］ ［加賀ノ前田家ノ舊邸ニテ、其御守殿ノ朱塗ノ門存スレバ稱ス］ 俗ニ、東京帝國大學ノ異名。

あか-ら (名) ［酒］ ［あからむノ語根、醉ヘバ顔色赤クナル］ 酒ノ異名。(江戶)小兒語ニ、あか。俚言集覽、あから「俗ニ酒ヲあからト云フ」語彙、あか「酒ヲ云フ、東京小兒ノ語ナリ」 蜀山人(大田南畝)酒ヲ嗜ミ、狂歌ニ巧ミナリ、狂名ヲ、四方赤良ト稱シタリ、(又、四方山人トモ稱シタリ、其匇筆ヲ、人誤リテ、蜀山人ト讀ミシヲ、遂ニ自稱セリ)江戶ノ和泉町ニ、四方ト稱スル、有名ナル酒商アリキ。

あから-がしは (名) ［赤葉］ 黄葉シタル葉ナルベシ。萬葉集、二十二十二天皇御宴ノ歌「印南野ノ、安可良我之波ハ、時ハアレド、君ヲ吾ガ思フ、時ハ實ナシ」(コレハ、御饌ヲ盛ル木葉ニ云ヘルナルベシ) 夫木抄、廿九、柏、天慶二年、貫之家歌合、仲冬「白雪ノ、降リツモリヌル、奥山ハ、あからがしはモ、埋モレニケリ」 北野天神ノ、霜月朔日ノ祭ヲ、あから柏ト云フ、(倭訓栞)神供ニ就キテ云フナルベシ。山井集(慶安、季吟)十一月朔日、あからがしはノ祝ヒシテ「奈良酒ハ、あからがしはノ、祝カナ」

あから-か-ま (副) ［赤｜］ ［たひらかま、やはらかまノ、赤バミタル狀ニ云フ語。］ 雄略紀、七年八月「天下麗人、云云、曄 矣 溫 矣」(紅

[illegible]二十六、常夏廿「紅ト云フモノ、イトあからかまカイツケテ」

あからがほ (名) [赤顔] 赤ラミタル顔色。

あからさまヽ (副) [倏忽] 〔傍視ノあからめノあからナリ、倏忽ノ意トナル、あからめノ條ヲ見ヨ、さまハ、狀ナリ〕 (一)俄ニ。急ニ。 神武紀[illegible]之間[illegible] 雄略紀、五年二月[illegible] 皇極紀、四年六月「努力努力、急須應[illegible]出逐人」[illegible] (二)シバシ。チヨツト。暫時。 神代紀、上[illegible] (三)カリソメニ。卒爾。 白氏文集、十二[illegible]

あからさまヽ (副) [明白] 〔明狀ノ義、此語ニ、白地ノ字ヲ記セルアルハ、前條ノ語ト混ジタルナルベケレド、語原、全ク相異ナリ、此語、古クハ見エズ[illegible]あからさまト訓メリ、コハ、アリノママニ、打出シ明ス意ナレバ、明様ノ義ナルベシ〕 明ラカニ。アリノママニ打明ケテ。 [illegible]

あから・し・シキ・シケレ・シク・シク (形、二) [哀] 〔あハ發語、からしハ、哀しノ轉ナラム、(あ遐し、あ狹し。(淺)つらぬき、つなぬき。せせらぎ、せせなぎ)或ハ、辛しノ活用ヲ變ジタルカ(熱き、あつしき。著き、いちぢるしき)〕 哀しノ古言。 欽明紀、十六年二月「何痛之甚、何悲之哀」(古語拾遺[illegible]) 靈異記、中、第廿二縁「哀哉悲哉[illegible]」(眞福寺本、作悲)

あから・ぶ・ブ・ベ・バ・ビ・ベ (自動、四) [悲] 〔前條ノ語ヲ、動詞ニ活用セシメタリ(悲し、かなしぶ。樂し、たのしぶ)〕 哀むニ同ジ。 靈異記、下、第十四縁「越前國加賀郡有ニ浮浪人之長[illegible]」[illegible]

あからさまかぜ (名) [暴風] 〔倏忽風ノ轉(さかさま、さかさま)名義抄「倏忽、アカラシマニ」あかさま、あらさまハ、中略ナリ(さらしほす、さぼす。わたかまる、わたまる。かしかまし、かしまし)〕 疾風ノ古言。[illegible]

あからたちばな (名) [明橘] 明ラカニ白キ、橘ノ花。 萬葉集、十八[illegible]「月待チテ、家ニハ行カム、我ガ挿セル、安可良多知婆奈、影ニ見エツツ」(夏ノ行幸ノ時ノ詠ナリ)

あからひきのいと (名) [赤良引絲] 〔あからひきハ、次條ノ語ト同意、但シ、赤らガ、明らニ轉ズ(あからぶノ語原ヲ見ヨ)明衣ノあかナリ、明潔ノ意ニテ、稱辭ナリ〕 生絲ノ稱。大神宮ノ神衣祭ニ、織リテ供フルモノニ云フ。又、あかひきのいと。 持統紀、六年閏五月[illegible]「赤引絲參拾伍斤」 内宮年中行事「赤良曳荷前御調絲」[illegible]

あからひく (枕) [赤羅引] 〔あからハ、あからむノ語根、明映すト同意、明ク光ル日トカカリ、赤ミノ映ス子、(女子)君、(紅顔ノ意)膚トカカル〕 日、子、君、膚、ト云フ語ドモノ枕詞。 萬葉集、四[illegible]

あから・ぶ・ブ・ベ・バ・ビ・ベ (自動、四) [赤] 〔次條ノ語原ヲ見ヨ〕 アカミガサス。アカバム。 [illegible]「[illegible]赤玉ノ、(如ク)御阿加良毘マシ」(御顔、赤ラビテ、壯健ニマシマス)

あから・ぶ・ブル・ブレ・ベ・ベ・ベヨ (他動、下二) [明] 〔前條ノ語ノ他動(比ぶ、つごふる。類ふ、たぐふる。倚、共ニ自動ナレド、上二段ニ、綻ぶ、ほころぶるモアリ)其意、明ラニ轉ズ〕 明ラカニ見ル。見テ、心ヲ晴ス。 [illegible]

あから・む・ム・メ・マ・ミ・メ (自動、四) [赤] 〔らハ、添ヘタル辭(其條ヲ見ヨ)其あからヲ活用ス、赤むト云フモ同ジ、黒む、白む)あからぶト云フニ同ジ〕 赤クナル。赤ク色ヅク。 [illegible]

あから・む・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ (他動、下二) [赤] 〔前條ノ語ノ他動(赤む、あかむる。黒む、くろむる)〕 赤クナス。アカムル。 「顔ヲあからめテ」

あからめ (名) [傍視] 〔離れ目ノ[illegible]さざらなみ。疏疏松原、あられ松原)離散るノ條ヲ見ヨ、目ガ外ヘハナルル意〕 (一)目ノ、外ヘウツルコト。ワキミ。ヨソメ。 名義抄「[illegible]目、睇、アカラメ」[illegible]「あからめモセテ、傍ヒ居ニケル」 傍視スル

ヲ、あからめ映すト云フ。續紀、三十六、天應元年二月、能登内親王薨去、宣命「安加良米佐須間ノ如ク、(聞開二)云云、朕ヲ置キテ罷リマシヌ」(二)轉ジテ、俄ニ見失フ。景行紀、四十年十月、日本武尊詞「何禍兮、何罪兮、不意之間、倏忽亡我子二」私記、倏、安加良女須留保止爾」(あからさまに(倏忽)ノ條ノ(二)ヲ併セ見ヨ) さすヲ略シテ、名詞ニ用キル。榮花物語、二、花山「我ガ寶ノ君ハ、イヅコニあからめセサセタマヘルゾヤ」(花山院ノ、宮中ヲ脱出シタマヒシヲ云フ)

あからをとめ (名) 赤良少女 〔あからむノ語根〕顔ノ色、淡紅ヲ呈シ、艶ヤカナル少女。紅顔少女 古事記、中(應神)ニ長歌「阿迦良袁登賣」(婁長媛ナリ、應神紀ニハ、あかれるをとめトアリ)

あからをぶね (名) 赤羅小船 〔あからむノ語根〕丹塗ノ舟。アケノソホブネ。萬葉集、十六、廿五「冲行クヤ、赤羅小船ニ、苞遣ラバ、若モ人見テ、解キ明ケ見ムカモ」(覽ミテ知ル人ノ許ニ送ルニ、心モトナシトナリ)

あかり (名) 明 〔明るノ名詞形〕(一)光ヨリ發シテ、物ヲ明ニスル象。光線。神代紀、下、六「火明命」新六帖、六「薄暗キ、眞木ノ繁山、ツレヅレト、イツヲ月日ノ、あかりトモ見ズ」(二)トモシビ。アカシ。燈「あかりガツク」(三)アカシ。證據。說明。「あかりガ立ツ」(無實ガ明白ニナル)

あがり (名) 上 〔上るノ名詞形〕(一)上ルコト。昇ルコト。「あがりサガリ」(二)物價ノ、高クナルコト。高直。騰貴 (三)雙六ニ云フ語、終るノ條ノ(三)ヲ見ヨ。(四)取入。納了。收穫。田畠ノあがり高。「租稅ノあがり」地代、店賃ノあがり」

あがり (名) 終了 〔終るノ名詞形〕(一)終ハルコト。シアガリ。デキアガリ。成就。「仕事ノあがり」養蠶ノあがり」(二)止ムコト。「雨あがり」(三)事濟トナルコト。不用トナルコト。「あがり膳」(すべり膳)(四)死ヌルコト。「あがり鮎」あがり蠶」(五)ナレノハテ。「坊主あがり」藝者あがり」

あがり (名) 殯 もがりノ條ヲ見ヨ。

あがりうま (名) 騰馬 〔騰るノ條ノ語原ヲ見ヨ〕跳馬。沛艾ノ馬。駻馬 古事談、六、亭宅諸道「宇治殿、(藤原賴通)云云、花形ト云フ揚馬ヲ奉リケルヲ、云云、他人ヲ乘セテ、御覽ジケレバ、御馬、臥シマロビ、乘人ヲ食ヒナドシケレバ、云云」吾妻鏡、五十二、文永二年十月廿六日「左京兆進二騰馬一也」著聞集、十六、興言利口「陸奧ノ葦毛ト云フあがりうまアリケリ、云云、あがりテ投ゲケルニ、テンサカサマニ落チテ」

あがりおり (名) 昇降 登ルコト、下ルルコト。ノボリクダリ。「梯子ノあがりおり」

あがりかひこ (名) 殭蠶 〔あがる(終)ノ條ノ(七)ヲ見ヨ、あがり鮎モアリ〕蠶ノ、死シタルモノ。俚言集覽、あがりかひこ、あがりかひこ「かひこノ死タルヲ云フ」

あがりかまち (名) 上框 家ノ上口ニ設ケタル框。多クハ、商家ノ店先ナドナルニ云フ。

あがりくち (名) 上口 家ニ入リテ、床ニアガル處。又階段ナドニ上ルベキ處。

あかりさうじ (名) 明障子 〔紙ヲ透カシテ、日光ノ明ヲ取ル故ノ名ナリ〕障子ノ一種。上下、左右ニ、框ヲカマヘ、中間ニ、縱横ニ格ヲワタシテ、一面ニ、紙一重ヲ貼リタルモノ。又、あかりしやうじ。紙障子。かみしやうじ。紙隔 紙障 雅亮裝束抄、一「透格ノあかりさうじヲ、間每ニオホフ」山槐記、二、治承三年十二月十六日「還ニ御指ハ令レ通ニ穴於ニ明障子ニ給」著聞集、十七、變化「あかり障子ノ破レヨリ、キット見レバ、云云」新千載集、十八、雜、下、物名、あかりしやうじ「位山、其階每ニ、あかりしや、うじト思ハヌ、昔ナルラム」散木集、九、雜、上「勞ル事アリトテ、曾ハザリケレバ、かみさうじニ書キツケ侍リケル(歌)」狹衣、三、上ニ「取リハラヒテ、かみしやうじニ、昨夜ノ御衣ヲナム、掛ケテサブラヒツル」今世ハ、專ラ、コレヲ障子トノミ云フ。然シテ、下部ニ腰板アルヲ、腰障子ト云ヒ、其腰板ナキモノヲ、却ッテ、明障子ト云フ。

あがりさがり (名) 上下 アガリ、又、サガルコト。アガリオリ。ノボリクダリ。

あかりさき (名) 明先 明リノサシクル前。「あかりさきニ立塞ガル」

あがりざしき (名) 揚座敷 あがりや(揚屋)ヲ見ヨ。

あかりしやうじ (名) 明障子 あかりさうじヲ見ヨ。

あかりしよゐん (名) 明書院 いだしふづくゑ(出文机)ノ條ヲ見ヨ。

✧**あがりぜん** (名) 撤膳 〔あがりノ(三)ノ條ヲ見ヨ〕食膳ノ、食ヒ終ヘタルモノ。俚言集覽、あがり膳「スベリタル膳也、尤の草紙(寛永)むさき物の品品、喰ヒコボシタルあがり膳」

あがりだか (名) 上高 (一)田ヨリ刈入レタル、稻ノ高。收穫 (二)商物ノ賣レタル、金錢ノ高。收入。

あがりだん (名) 上段 高キニ登ルニ、足ヲ蹈ミカクルニ設ケタル段。階

あがりち (名) 上地 〔沒官ニナレルニ就キテハ、あがり地ト云ヒ、官ニ差上ゲタルニ就キテハ、あげ地ト云フ〕官ニ沒收セラレタル地。アゲチ。上地 邸地ナルヲ、あがり屋敷ト云フ。

あかりどこ (名) 明床 いだしふづくゑ(出文机)ノ條ヲ見ヨ。

あかりとり (名) 明取 室内へ、日ノ光ヲ差込マスル處。(窓ナド)

✧**あがりなまづ** (名) 死鯰 〔あがる(終)ノ條ノ(七)ヲ見ヨ、死シタル鯰ハ、ぬめりヲ失フ、柳亭記(種彦)下ニ、遊所ニ立入リ、奢リヲ盡クスヲ、ぬめるト云フトアリ〕遊蕩ニ金銀ヲ費ヒハタシタル者ノ渾名。都風俗鑑(延寶)一「血氣盛ンニシテ、太鼓ナドニソソノカサレ、彼等ガ馬鹿インギンヲ嬉シガリテ、メッタト遣ヒステテ、程ナク、あがり鯰トナルナリ」(節文)俚言集覽、あがり鯰「巾着のいかのぼりト云フ意也、嚢中ノ空シキヲ云フ」

あがりば (名) 上場 (一)舟ヨリ岸ニ上ルベキ處。(二)風呂場ヨリ出デテ、衣服ヲ着ル處。アガリヤ。太平記、十三、北山殿謀叛事「湯殿ヲゾ作ラレケル、ソノあがり場ニ、板ヲ一間、蹈メバ落ツルヤウニ構ヘテ、其下ニ、刀ノ鋒ヲ植ヱラレタリ」

あがりばな (名) 上端 〔出端ヲ忌ミテ言ヒ變フル語ナルベシ、すり鉢、あたり鉢〕煎茶ノデバナ。

あがりふぢ (名) 上藤 紋所ノ名、さがりふぢ(下藤)ノ條ヲ見ヨ。

あかりまど (名) 明窓 ヤマトマド。室中ノ屋根裏ニ開キタル、明取ノ窓。空ザマニ作レバ、天窓トモ云ヒ、綱ヲツケテ、下ヨリ戸ヲ引キテ開閉スレバ、引窓

トモ云フ。厨屋ニツケテ、竈ノ烟ヲ漏ラス用トモス。[illegible]

あかりんご (名) [紅林檎] べにりんご(紅林檎)ニ同ジ。

あがりめ (名) [上目] 物價ナドノ、高クナル際。安クナルヲ、さがりめ、ト云フ。

✤あがりめ (名) [上眼] 人ノ顏ノ眼後ノ、生得、ツリアガリタルモノ。下リタルヲ、さがりめト云フ。兒童ナドノ戲レニ、兩ノ人差指ニテ、兩ノ眼尻ヲ押シテ、アゲサゲスルコトアリキ。俚言集覽「あがり目、さがり目、クルクル廻ノ猫ノ目」コレ、戲レニ唱フル詞ナリ。

あがりもの (名) [上物] (一)食物ノ敬語。メシアガリモノ。(二)神佛ノ供物。ソナヘモノ。(三)田畠ヨリ收穫スル物。

あがりや (名) [上屋] 入浴ヨリ出デテ、衣服ヲ着ル處。アガリバ。川角太閤記、一「風呂御入被レ成候テ、あがり屋ニ御腰ヲ被レ掛」

あがりや (名) [揚屋] 一種牢屋ニ對シテ、德川幕府ノ制ニ、牢屋ノ中ニテ、區別シテ、幕臣ノ、目見以下ノ者、大名ノ家來、士分以上ノ者ヲ收容シタル處。ココニ收容セラルルヲ、揚屋入ト云ヒキ。又、目見以上ノ者ヲ、更ニ區別シテ置ク處ヲ、揚座敷ト云ヒキ。[illegible]、揚り屋ヘ入レ、侍者之事「揚り屋ハ、御目見以下、陪臣大、又、大名、御旗本陪臣、出家、山伏等ヲ入ル[illegible]、揚り座敷ヘ入リ候人ハ、御旗本御目見以上之面面也」

あがりやいり (名) [揚屋入] 前條ヲ見ヨ。

あがりやしき (名) [上屋敷] 上地ノ條ヲ見ヨ。

あがりゆ (名) [上湯] 「浴シ了ルヲ、あがるト云フ、板間ヨリ床ニノボルナリ」入浴ノ終リニ、身ニ注グ湯。カカリユ。

あか・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) [赤] 〔太る、細る〕(一)赤ラム。アカミバシル。(二)[illegible]淺紅ヲアラハシテ、艶ヤカニ匂フ。(顏色ナドニ云フ。紅顏ノ意)續紀、十三年九月、長歌「[illegible]少女」(古事記ニハ、あからをとめトアリ、修飾語ナリ)(三)熟シテ、赤クナル。熟ム。(果實ナドニ)黃熟 萬葉集、十九、四十二長歌「[illegible]、安之[illegible]橘、[illegible]華ニ指シ」(同卷五、四十二「鳥出ニ、照レル橘、ウズニサシ」)

あか・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) [明] (一)アカルクナル。枕草子、一、第一段「春ハ、アケボノ、云云、山際スコシあかりテ、紫ダチタル雲ノ、細ソクタナビキタル」(二)心晴ク。ココロヨクナル。「心ヲ晴すヲ、明むるト云フ、其自動ナリ」快心 大嘗祭祝詞「長御食ノ遠御食ト、云云、平ラケク、安ラケク聞食シテ、豐明ニ明リマサム皇御孫命ノ」(三)清クウルハシクアリ。廣瀨祭祝詞「幣帛ハ、御服ハ、明妙、照妙」

✤あか・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) [開] 〔明くるノ自動(懸く、る、かかる。漬く、る、つかる)〕開ク。(自動)「戸ガあかッテヰル」

あか・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ (自動、下二) [離散] 「沖繩ニテモ、あかるるト云フ、わかるるト通ズ。あれ、われ(吾)。他動ニあがつアリ」別レ散ル。離レ去ル。退散ス。神代紀、上「[illegible]」私記「安可禮佐加禮」名義抄「分、アカレ、ワカレタリ」仁德紀、三十二年五月「連ニ騎ニ乘ニ其左ハ新羅軍潰之」仁賢紀、五年二月「[illegible]」源、四十八、宿木二「散リ失セラレンケル人人モ、皆、所所ニあかれ散リツツ」同、十四、澪標三十「イトドサビシク、云云、サブラフ人人モ、ヤウヤ

クあかれ[illegible]ナドシテ」

あが・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) [上] 〔下ぐ、さがる。曲ぐ、まがる〕(一)下ヨリ上ヘ進ム。[illegible]高キニ昇ル。萬葉集、二十[illegible]「[illegible]騰リテシガ、都ニユキテ、ハヤ歸リ來ム」(二)高クナル。源、三十八、夕霧三十[illegible]「御座ノ奥ノ、少シあがりタル所ニ」(三)北ヘ行ク。(京都、市中ニテ云フ)内裏、北ニアレバナリ。南ヘ行クヲ、さがるト云フ。「三條寺町あがる」四ヒキ。[illegible]今昔物語、十四、[illegible]十二語「大宮登リニ出デテ、東ザマニ行キケル」同、廿九、第七語「猪熊下リニ出デテ、走リケルニ」(四)[稍ダ古クアリ]往時ニアリ。源、三十四、下、若菜、下二十「時ナラヌ霜雪ヲ降ラセ、雲雷ヲサワガシタルタメシ、あがりタル世ニハアリケリ」(五)マヰル。參上ス。(宮中、殿中ナドヘ)(六)[供物ナドノ]「供物があがる」「燈明があがる」「年貢があがる」(七)價、高クナル。高直ニナル。騰貴 [illegible](八)[貴キニ進ム]昇進 源、十九、薄雲巻「大納言ニナリテ、右大將カケタマヘルヲ、今一際あがりナムニ、何事モ讓リテム」(九)巧ミナルニ進ム。上達ス。(學術ニ)熟達 (十)湯浴シ了ル。(宋ニアガルナリ、湯上)出浴 川角太閤記、二「風呂御入被レ成候テ、あがり屋ニ御腰ヲ被レ掛」

あが・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) [騰躍] [illegible]「騰、馬之低昂也」玉篇「騰、上躍也、奔也」禮記、月令[illegible]「騰馬」馬、跳ネテ躍リ狂フ。又、馬ノ[illegible]ニ、前脚ヲアゲテ立ツ。其馬ヲ、騰馬ト云フ。[illegible] 盛衰記、廿八、宗盛補ニ大臣ニ事「馬、沛艾シテ、[illegible]春日ノ大宮ニテ、高クあがりテ走リマハリケレバ」

[illegible]アリケリ、云云、手綱ヲ強クヒカヘタリケルニヤ、ヤガテあがりテ投ゲケルニ、テンサカサマニ落チテ」

あが・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) [終了] 〔上〕(一)成リ果ツ。成就ス。夫木抄、三十三、[illegible]、紫ノ、初入染ノ[illegible](二)[illegible](三)[illegible]雙六ナドニ、駒ガ進ミテ、最奥ノ所ニ入ル。(四)習ヒ終ル。習了「書物ノ一ノ卷ガあがる」(五)[illegible]止ム。雨ヲ成サズナル。[illegible] 俚言集覽「[illegible]日ガあがるト云フ」(六)[illegible]上ゲラル。(七)魚、死ヌ。又、さがるトモ云フ。其條ヲ見ヨ。死魚ハ、初メ、水上ニ浮キ、ヤガテ、水底ニ沈ム。俚言集覽、あがる「魚ノ死スルヲ云フ、[illegible]ノ死シタルヲ云フ」

✤あが・る・ル・レ・ラ・リ・レ (他動、四) [illegible]ノ上略] 食フ、又、飲むノ敬語。メシアガル。「[illegible]ヲあがる」「[illegible]酒ヲあがる」

✤あかるい (形) [明] (一)アカシ。光リ、サシテ、物、善ク見ユ。暗しノ反。「[illegible]」(二)善ク、其理ニ通ジテアリ。通曉「[illegible]ニあかるい」(三)アカシガ立チタリ。オッケハレタリ。(無實ノ罪ノ除カレタルナドニ)「身ガあかるくナル」

あかるたへ (名) [明栲] 〔あかる(明)ノ栲ノ意〕(一)[illegible](二)[illegible]ヲ[illegible]ト云フ。共ニ、祭祀ノ幣物ニ就キテ云フ。[illegible]

ハ、明妙、照妙、和妙、荒妙」

あかるみ (名) 明 〔次條ノ語ノ名詞形〕 アカルイ處。アカルイ方。明處 「あかるみへ出テ、書物ヲ讀ム」

あかる・む・ム・メ・マ・ミ・メ (自動、四) 明 〔名詞形ニ、あかるみト云フ〕 アカルクナル。晴レカカル。「曇ツタ空ガ、段段あかるむ」

あかれ-あかれ-ニ (副) 散散 〔あかる(離散)ヲ見ヨ〕 處處ニ散レテ。ワカレワカレニ。ハナレバナレニ。 大鏡、中、寫光「男君達ノ御母、あかれあかれニオハシマシキ」

アカ-ゐ (名) 閼伽井 閼伽ノ水ヲ汲取ル井。 新千載集、九、釋敎「絶エズ汲ム、あかゐノ水ノ、底澄ミテ、心ニ晴ルル、有明ノ月」

あか-ゑ (名) 赤繪 やきものニ、赤色ノ釉ニテカキタル畫。

あか-ゑんば (名) 赤蜻蛉 〔東雅(享保)二十、蜻蛉「萬葉集抄(仙覺)ニ、あきつト云フハ、東詞ニハ、ゑばト云フナリ、ト見エタリ、赤卒、あかゑんばハ、東國ノ方言ニ、今モ、ゑんばト云ヒ、童部ノやんまト云フハ、轉ゼシナリ、ゑんばハ、卽チ、ゑばナリ、やへば(八重羽)ト云フガ如シ、世ノ常ノ蟲ノ羽ハ、多クハ二ツアルヲ、此蟲ノ羽、四ツアレバ、重レル羽ト云フナリ」(節文)とんばうノ條ヲ見ヨ〕 赤とんぼノ古名。黄とんぼノ古名ヲ、きゑんばト云フ。 倭名抄、十九九「赤卒、蜻蛉之小而赤也、阿加惠無波」胡黎、蜻蛉之小而黄也、木衣無波」

あか-を (名) 赤魚 〔あかうをノ約、(氷魚、ひを)あをト云フハ、其又約ナリ(雜喉、ざこ)〕 形、略、鯛ニ似テ、厚ク闊ク、頭大キク、口廣ク、眼モ大キクシテ、鬼ノ面ノ如シ、尾ニ岐ナク、鱗細カク、全身鮮紅ナリ、肉、白ク、味、淡シ。關西ニテ、あかを。 合類節用(元祿)五、氣形門「緋魚」 和爾雅(元祿)六「緋魚」 和漢三才圖會(正德)四十九「緋魚、赤魚、阿加乎、阿古、狀略似鯛而厚闊、眼甚大而突出、鮮紅如緋、關東多有、冬月最賞之、攝播希有之」(節文) 倭訓栞、あかを「西州ニテ、緋魚ヲ云ヘリ、伊勢ニテハ、あかうをト稱ス」

アカ-をけ (名) 閼伽桶 佛ニ供スベキ閼伽ノ水ヲ汲ミ入ルル桶。 吾妻鏡、一、治承四年十一月廿五日「小像正觀音、云云、奉安閼伽桶之中ニ」

あか-をどし (名) 赤縅 鎧ノ縅毛ニ、茜染ノ絲、又ハ、革ヲ用キタルモノ。緋縅ニ比ブレバ、暗赤ニシテ、光澤ナシ、赤絲縅、赤革縅ナド云ヒ、赤鎧トモ云フ、赤腹卷モ同ジ。 杉原本保元物語、三、義朝幼少の弟悉く誅せらるる事「五十餘人ノ兵モ、皆、袖ヲゾ濡ラシケル、其中ニ、波多野ガ赤革威ノ鎧ノ袖ハ、洗革ニヤ成リヌラム」 盛衰記、十五、宇治合戰事「先陣ニ進ミ戰ヒケル內ニ、三人共ニ、赤威ノ鎧ニ、赤注付ケタリケル武者」 梅松論、下「曾我上野介師資、練貫ノ小袖ノ上ニ、赤絲鎧ノ菱ノ縫目ヨリ切捨テタルニ、四尺餘リナル太刀ニ振帶ビテ」 太平記、十、長崎次郎高重最後合戰事「精好ノ大口ノ上ニ、赤絲ノ腹卷着テ」 增鏡、十五、むら時雨「大納言ハ、唐ノ香染ノ薄物ノ狩衣ニ、掲焉ニ、あかきはらまきヲ透シテ」

あき (名) 秋 〔黄熟ノ約ト云フ、(逆虎落、さかもぎ)あかる(赤)ノ條ヲ見ヨ。日本釋名(元祿)上、秋「草木赤キ也」稻ノ成熟ノ時ノ意ナリ、麥秋ト云フモ、夏初ノ麥ノ成熟期ナリ、倘、とし、(稻)及、秋津島ノ語原ヲ見ヨ〕 一年四時ノ第三ニ當ルモノ。夏ノ次、冬ノ前、稻穀成熟ノ時ナリ。(二十四氣ノ條ヲ見ヨ) 神代紀、上「素戔嗚尊、春則重播種子、云云、秋則放天斑駒、使伏田中」 倭名抄、一、歲時部「秋三月、七月孟秋、八月仲秋、九月季秋」

あき (名) 商 〔秋ノ義、(前條ヲ見ヨ)米穀ノ秋熟ヲ交易スルヨリ起レル語〕 古ヘハ、物ト物トヲ交易スルコト。後ニハ、物ヲ賣買スルコト。アキナヒ。 名義抄「商、アキ」 萬葉集、七廿五「商じこり」「商物」「商人」

あき (名) 辛螺 〔赤ノ轉カ、(ときのま、つかのま)殼ノ內、赤シ、赤螺、赤貝、同趣カ〕 赤螺ノ古名。 賦役令、義解「辛螺」 本草和名、下廿六「大辛螺肉、阿岐」 倭名抄、十九六 龜貝類「大辛螺、赤口螺、阿木」

あき (名) 厭 厭クコト。アキルコト。イヤニナルコト。 古今集、十五、戀、五「我ガ袖ニ、マダキ時雨ノ、降リヌルハ、君ガ心ニ、あきヤ來ヌラム」(秋ニカク)

あき (名) 明 (一)明キタル處。ヒマ。スキマ。隙 「ソノあき一尺」(二)明キタル時。イトマ。ヒマ。閒暇 「工事ノあき」(三)空ナルコト。物ノナキコト。人ノ住マヌコト。空 「あき屋」あき店」(四)あきの方ヲ見ヨ。

あぎ (名) 顎頸腭 〔上牙ノ約。うはて(上之方)、あて(貴)。うはむく(上向)、あふぐ(仰)〕 (一)口中ノ上部ノ骨。ウハアゴ。(頤、卽チ、下腭ニ對ス) 倭名抄、三三「腭、口中上腭也、阿岐」 (二)魚ノ鰓。 字鏡七十「鰓、魚乃安支」 (三)あぎと(逆鉤)ヲ見ヨ。

アギ (名) 阿魏 〔波斯語、Angudan; Anguzeh. ノ略ナリト云フ〕 舶來藥品ノ名。中央亞細亞ニ生ズル、草ノ根ノ汁ヲ乾シテ製シタルモノ、樹脂ノ如シ。此草ハ、佛經ニ云フ、五辛ノ一ナル、興渠ト云フモノニテ、根ハ、にんにくノ如シト云フ。 翻譯名義集、什物篇、興渠「樹汁似桃膠、西國取之以置食中、今阿魏是也」

あ-ぎ (代) 吾君 あがきみ(吾君)ノ條ヲ見ヨ。

アキ-アヂ (名) 秋味 〔蝦夷語、あきあん(秋ノ)ち(魚)ノ轉〕 鮭ノ一名。北海道ノ語ナリ。 俚言集覽、秋味「鮭ヲ云フ」

あき-あはせ (名) 秋袷 〔夏ノ初メニ着ル袷ニ對ス〕 秋ノ初メニ着ル袷。 新六帖、五「賤女ガ、着馴レ衣ノ、秋あはせ、早クモイソグ、碪ノ音カナ」(砧ノ音)

あき-うど (名) 商人 あきびとノ條ヲ見ヨ。

あき-かぜ (名) 秋風 (一)秋ノ時節ニ吹ク風。 古今集、十五、戀、五「來ヌ人ヲ、待ツ夕暮ノ、秋風ハ、イカニ吹ケバカ、ワビシカルラム」 (二)秋ヲ、厭ノ意ニ寄セテ、思フ心ノ離ルルヲ、秋風吹クト云フ。 古今集、十五、戀、五「秋風ハ、身ヲワケテシモ、吹カナクニ、人ノ心ノ、ソラニナルラム」(人の心は秋の空、ナド云フモコレナリ) 撰集抄(西行)四、横川範緣上人ノ事「花ノ都人ハ、フルメカシクナリテ、薄キ袂ニ、秋風ノ吹キテ、アルカナキカヲモ問ヒタマハズ」

あきかぜ-の (枕) 秋風之 〔契沖云「秋風ノ山ニ吹クト云フ意」又、秋風の風トカカルト云フ、風ノ條ヲ見ヨ〕 山吹の瀨、千江の浦ノ枕詞。 萬葉集、九十「金風、山吹瀨ノ、響ムナベ、天雲翔ケリ、雁ニ會ヘルカモ」(山吹瀨ハ、山城ノ宇治橋ノ下ニアリシト云フ) 同、十一三十五「冷風之、千江之浦回ノ」

あき-がはり (名) 商變 次條ヲ見ヨ。

あきかへし (名) 〔商變〕 〔商ノ條ヲ見ヨ〕(商誤ト同趣ノ語)此語、舊訓ニ、あきがはりトアレド、下ニ「變シタバラメ」トアレバ、古義ノ說ニ從ヘリ」物ヲ買取リテ後ニ、變約スルコト。萬葉集、十六、二十二「商變、領爲トノ御法令、アラバコソ、吾ガ下衣、變シ給ラメ」右傳云、時有所幸娘子也、寵薄之後、還賜寄物(俗云可加布)、於是娘子怨恨、聊作斯歌獻上ニ知らせトハ、恣ママニセヨトノ意)

あきがら (名) 〔明殼〕 (一)貝殼ノ、肉ノナキモノ。(二)物ノ中ニ、何モナキコト。空虛

あきくさ (名) 〔秋草〕 秋ニ咲ク草花ヲ總ベ云フ語。萬葉集、二十、四十四「秋草ニ、置ク白露ノ、飽カズノミ」玉葉集、四、秋、上「村雨ノ、晴ルル日影ニ、秋草ノ、花野ノ露ヤ、染メテ乾スラム」

あきぐみ (名) 〔秋茱萸〕 木ノ名。高サ丈餘ニ至ル、葉ハ互生シ、なつぐみヨリ小サク狹シ、春ノ末、小白花、群リ開ク、實、秋ニ熟ス、大キサ、ふんてんノ如ク、赤クシテ、白キ點アリ、食フベシ。

あきげ (名) 〔秋毛〕 〔秋ノ毛ヲ見ヨ〕鹿ノ毛ノ、秋ニナリテ、繁ク生ヒテ、色ノ、濃ク美シクナレルモノ 毛皮ニ就キテ云フ (夏毛ニ對ス)

あきご (名) 〔秋蠶〕 (蠶ノ條ヲ見ヨ) 蠶ノ、秋ノ頃ニ孵ルモノ。(春蠶、夏蠶ニ對ス)

あきさ (名) 〔秋沙〕 鳥ノ名。あいさノ條ヲ見ヨ。

あきさいふ (名) 〔秋財布〕 秋ニ縫ヒ作ルモノ財布、空ト通ズルヲ忌ミテ避クルモノトス。俚言集覽、秋財布に春袋 秋ハ財布ヲ縫ハヌモノ、春ハ靈ヲ[illegible]フベシト也、秋ハ[illegible]ヲ忌ミ、春ハ張ヲ、フクルルヲ祝フナリ」(春袋ヲ見ヨ)

あきさく (名) 〔秋作〕 〔作ノ條ヲ見ヨ〕秋ノ作物。秋稼

あきさ・す・ス・セ・サ・シ・セ (自動、四) 〔贖〕 〔商ニ差入ルル前錢、(あきがねナリ)〕商物ニ、錢ノ前拂ヲナス (おぎのるニ對ス) 字鏡、六十七「[illegible]、買物逆付錢也、市買先入曰[illegible]、阿支佐須」靈異記「贖、[illegible]、買物先入[illegible]也」

あきさめ (名) 〔秋雨〕 〔春雨ノ對、さめ(雨)ノ條ヲ見ヨ〕秋ノ時節ニ降ル雨。八雲御抄、三、上「光忠ガ、あきさめナド云ヘルタグヒハ、ヲカシキ事ナリ」

あきさりごろも (名) 〔秋去衣〕 〔次條ヲ見ヨ〕秋ニナリテ着ル衣。秋ノ服。萬葉集、十、廿七「棚機姫ノ、五百機立テテ、織ル布ノ、秋去衣、誰レカ取リ見ム」待賢門院堀川集(門院ノ女房、門院ハ崇德天皇御母)「旅ニシテ、秋さり衣、寒ケサニ、イタクナ吹キソ、武庫ノ浦風」

あきさ・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 〔秋去〕 〔去るノ條ヲ見ヨ〕秋、立ツ。秋、來ル。秋ニナル 萬葉集、一、十二「秋去らバ、今モ見ル如、妻戀ニ、鹿鳴カム山ゾ、高野原ノ上」同、十七、五十三 長歌「安吉佐良バ、歸リマサムト、タラチネノ、母ニ申シテ」

あきしくのはな (名) あきしべのはな(秋藥花)ヲ見ヨ。

あきしこり (名) 〔商誤〕 〔商、及ビ、しこる(誤)ノ條ヲ見ヨ。商變ト同趣ノ語〕買ヒソコナヒ。カヒカブリ。萬葉集、七、廿五「西ノ市ニ、只獨リ出デテ、目並ベズ、買ヘリシ絹ノ、商自許里カモ」(平城ノ京ノ西市ナリ、めならべずハ、熟視セズノ意、めならぶノ條ヲ見ヨ)

あきしひ (名) 〔清盲・青盲〕 〔明瞽ノ義、闇キナガラ、盲ノ意、清盲ト書クモ、[illegible]シカルベシ、日、清潤ナレドモ、物ヲ見ルコト能ハズ[illegible]〕[illegible]

あきしべのはな (名) 〔秋藥花〕 菊ノ異名。[illegible]抄(文安)一、十九條、菊「[illegible]東籬閑山、聖一國師、云云、あき草ノ花ヲ、北ノマガキニウヱテ、ノンドノンドトシテ、南ノ山ヲ見ルゾトヨ」(國師、弘安三年寂)陶淵明集、三、[illegible]菊東籬下、悠然見南山」和爾雅(元禄)「此詩ノ、菊ノ一字ヲ、聖一國師ガ、あきしべのはなト讀ミタリ」合類節用(元禄)六、生植門「菊」藻鹽草、八、秋しくの花「淺茅生モ、マジル草葉モ、枯ルルマデ、野ニ殘リケリ、秋しくの花」コレ古キ物ニアリ、或說、菊ノ字ヲ、秋しくト讀ム」異名分類抄(天明)「あきしべノ誤カ」

あきしやう (名) 〔厭性〕 〔凝性ノ反〕人ノ性質ノ、事ヲ爲テ、厭キヤスキモノ。アキポイタチ。三日坊主。

あきしりぐさ (名) 〔秋知草〕 萩ノ異名。藏玉集(二條良基)秋知草、萩「[illegible]シテ、秋知草ノ、風ヨリヤ、老ノ袂ヲ、マヅシボルラム」

あきしろ (名) 〔明代〕 〔明けオクベキ料〕文書ノ首尾ニ、文字ヲ書カズ、白紙ニテ餘シオクトコロ。餘白。

あきじろ (名) 〔明城〕 軍勢ノ立去リタル城。語彙、あきじろ「主ナキ城ヲ云フ」

あきす (名) 〔明巢〕 (一)鳥ノ居ラヌ巢。空巢 (二)人ノ不在ナル家。コレヲ狙ヒテ忍入ル盜人ヲ、あきすねらひト云フ。

あきぜみ (名) 〔秋蟬〕 あぶらぜみ(油蟬)ヲ見ヨ。

あきた (名) 〔秋田〕 秋ノ田。即チ、稻ノ實ノリタル田。萬葉集、十四、四十「秋田刈ル、假廬ヲ作リ、我ガ居レバ、衣手寒ク、露オキニケリ」

あきたか・し・キ・ケレ・ク・ク (形、一) 〔秋高〕 秋ノ候ニハ、空氣澄ミテ、天モ高ク見ユルヲ云フ語。秋高ク馬肥ゆト云フハ、馬ハ、性、寒ヲ好ム、此候ニハ、肥エテ逞シクナルヲ云フナリ。支那ノ北方ニ居ル、匈奴ト云フ人種ハ、此時ニ乘ジテ、邊境ヲ侵スコト常ナリシト云フ。漢書、趙充國傳「匈奴到レ秋馬肥、變必起矣、宜ニ豫爲レ備」杜審言詩「[illegible]星落、秋高塞馬肥」

あきた・し・キ・ケレ・ク・ク (形、二) 〔厭痛〕 〔厭き痛しノ約〕甚シク厭ハシ。ヨシニシタイ。源、二、帚木廿「ヨウセズバ、あきたき事モアリナムヤ」同、三十八、夕霧六十「事ノ亂レ、出デ來メル後、我レモ人モ、ニクゲニあきたしヤ」狹衣、一、下二十「女君ノ御アリサマノ、イトあきたく、アヤシゲナルヲ、イカニ見奉ルラム」

あきたじやうのすけ (名) 〔秋田城介〕 上古、出羽國、秋田城ニアリテ、蝦夷防禦ノ事ヲ掌リシ官名。聖武天皇、天平五年十二月、出羽ノ柵ヲ、秋田村、高清水岡ニ築カル、即チ、秋田城ナリ。(今モ、羽後國、南秋田郡、寺內村、高清水ノ地ニ、遺址アリ)初メハ、秋田城司ト云フガアリシガ、光仁天皇、寶龜年中ヨリ、出羽介ヲシテ兼任セシメラレ、是レヨリ、秋田城介ト稱セシガ、後、城、廢頽シタリ、鎌倉幕府興リテ、安達景盛ヲ秋田城介ニ任ジ、其子孫、相繼ギテ、其官ヲ稱セシカドモ、空名ナリキ。藤原抄、下、秋田城介、事、出

羽介ニ著兼レ之」 類聚符宣抄、八、太政官符出羽國司「應レ令下介從五位下平朝臣兼忠勤中行秋田城務上事」云云、天元三年七月廿三日」

あきた-しゅんけい (名) [秋田春慶] 〔秋田の春慶塗ノ略〕 漆器ノ名。のしろぬり(能代塗)ニ同ジ。

あき-だな (名) [明店] 住ム人ナキ家。多ク、貸屋ニ云フ。アキヤ。空屋

あきた-ぶき (名) [秋田蕗] 羽後國、南秋田郡、鹿角郡等ニ產ズル蕗。最モ大キクシテ高サ七八尺ニ及ビ、葉ノ圍ミ丈餘アリテ、傘ノ如シ、葉ヲ陰干トシ、綠色ノ繪具ニテ、紙ニ摺リツケ、屛風、襖ナドヲ貼ル料トシ、又、袱紗ニモ摺ル。莖ハ、鹽漬、砂糖漬ニシテ食フ。

あき-た・る・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) [飽足] 十分ニ飽ク。滿足ス。あきたらずハ、不滿足ノ意トナル。慊 歉 集韻「慊、意不レ滿也」說文「歉、食不レ滿也」(大學「此之謂ニ自慊一」集註「謙、讀爲レ慊、快也、足也」是レハ、反對ナリ) 萬葉集、六 五十五 長歌「月ニケニ、日日ニ見レドモ、今ノミニ、秋足らメヤモ、云云、住吉ノ濱」同、二十 十一「年月ハ、アラタアラタニ、相見レド、吾ガ思フ君ハ、安伎太良ヌカモ」

あき-だる (名) [明樽] 酒樽ノ、洒ノ盡キタルモノ。醬油樽ナドニモ云フ。空樽。コレヲ人家ヨリ買ヒ集メテ、再用ニ供スルヲ業トスル者アリ、明樽買ト云フ。寶曆集成綵絳錄、二十八「今度明樽商賣之儀、古來ヨリ致來候者共、相願候ニ付、吟味之上、貳拾人之者共、明樽問屋申付候、云云」

あき-ち (名) [明地] 家居ノ無キ地所。更地。空地

あき-つ (名) [蜻蛉] 〔つハ、濁音ナルベ

キナリ(出典ヲ見ヨ) 秋之蟲ノ下略(仲之子、仲子。河之蛙、河蝦)蜻蛉洲ヲ、秋津島ト記スモ、是レナリ。大同類聚方、五 五十三「阿支豆牟之」名義抄「蝔蛉、アキムシ」藻鹽草、十二、蜻蛉「秋つむし、かげろふ」東雅(享保)二十、蟲豸、蜻蛉「日本紀ニ見エシ所ノ如ク、蜻蛉ヲ呼ビテ、あきつむしト云フハ、云云、秋津蟲也、猶、秋ニ蠋蛾ヲ、夏虫ト云フガ如シ、云云、秋ニ出デテ、其類ノ衆多ナルガ故也」〕 蟲ノ名。アキツムシ。とんぼうノ古名。カゲロフ。今モ陸前、陸中ニテハ、あけづト云フ、沖繩ニテモ、あけづ。 神武紀 九 十一「蜻蛉」古事記、下(雄略) 四 三十「訓二蜻蛉一云二阿岐豆一」字鏡 七 十「蛚、阿支豆」(羽虫ノ合字カ)

あきつ-かた (名) [秋方] 〔秋之方ノ義(天津風、沖津船)〕 秋ノ頃。 とりかへばや物語、三「去年ノ秋つかたヨリ、ミダリ心地ノアヤシク例ナラズ、物心細ソク思フタマヘラルルハ、云云」

あきつ-かみ (名) [明津神] あきつみかみヲ見ヨ。

あき-づ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ(自動、四) [秋就] 〔就くハ、爲初ムル意、老就く、朝づく、夕づく、皆、同ジ。明立つ、朝だつ、夕だつ、相似タリ〕 秋ノケシキニナル。アキメク。 萬葉集、十 四十一「庭草ニ、村雨降リテ、蟋蟀ノ、鳴ク聲聞ケバ、秋付ニケリ」同卷 五十四「秋就者、水草ノ花ノ(如ク)、阿エヌガニ、思ヘド知ラジ、直ニ逢ハザレバ」

あきつ-くに (名) [秋津國] 次條ヲ見ヨ。

あきつ-しま (名) [秋津島][秋津洲] 〔つハ、萬葉假名ニ、皆、豆ノ字ヲ充テテアリ、次條モ然リ、然レバ、濁ルベキナレ

ド、今ハ、暫ク、通稱スル所ニ據ル、秋之洲ノ義、あきト云フハ、稻ノ事ニテ、(其條ヲ見ヨ)稻ノ豐熟ノ國ヲ云フト、先輩ノ說ナリ、豐秋津島ト云フ、其意ナリ、古事記、上 四十八「豐葦原之千秋長五百秋(千年五百年)之水穗國」(瑞穗國)トアルト、同意ナリ〕 (一)我ガ御國ノ內ノ、東北、陸奧國ヨリ、西南、長門國マデノ一大島ノ名。古典ニ、第一ニ見エシ名稱ナリ。 神代紀、上 四「伊弉諾尊、伊弉册尊、先ヅ、淡路洲ヲ生ミタマヒ「廼生二大日本豐秋津洲一」(古事記「大倭豐秋津島」)トアリテ、次次ニ、四國、九州等ノ島島ヲ生ミタマフ、ト見ユ。 (二)後ニ、我ガ大御國全國ノ總稱。大八洲。大日本。秋津國。(次條ヲ參見セヨ) 古事記、序「神倭天皇經二歷于秋津島一」(神武天皇) 欽明紀、十三年十月、百濟王獻二佛像一「西蕃諸國、一皆禮レ之、豐秋日本、豈獨背也」 千載集、序「遍キ大御仁惠、秋津島ノ外マデ及ビ」 夫木抄、三十 十一「島ノ外モ、波治マレル、あきつ國ニ、道アル君ノ、惠ミヲゾ知ル」 (三)又、日本ト云フガ、大御國ノ總稱トナリシヨリ、日本ニ冠ラセテ、秋津島日本ト云ヒ習ヒ、終ニハ、畿內ノ大和國ニモ冠ラセテ云フコトトナレリ。 仁德紀、五十年三月、大御歌「阿耆豆辭莽、椰莽等ノ國ニ、鴈子產ト、汝ハ聞カスヤ」(武內宿禰ニ問ヒタマヒシナリ、是レハ、河內國、茨田堤ニテ、雁ガ卵ヲ産メル時ノ事ニテ、此やまとハ、日本ナリ、此御歌ニ徵ヒテ、後ニハ、遍ク言フコトトナレルナリ) 萬葉集、二十 十五 長歌「安吉豆之萬、夜萬登ノ國ノ、橿原ノ、畝傍ノ宮ニ、云云」(大和國) 同、十三 九 長歌「蜻島、倭ノ國ハ、神故ト、言擧セヌ國」(日本) 同、一 七 天皇登二香具山一望國之時、御製歌、長歌「何怜國ゾ、蜻島、八間跡ノ國ハ」(大和國) 蜻ノ字ノコト、次條ヲ見ヨ。

あきつ-しま (名) [蜻蛉洲][秋津島] 〔此語ヲ、日本國ノ異稱トスル時ハ、前條ノ稱

ト、語原ニ、二樣アル事トナル、蜻蛉ト云フハ、秋津蟲ヲ下略シタル語ナレバ、此語ヲ秋津島トモ記スハ、其理ナリ、サレド、コレガタメニ、蜻蛉洲ハ、全ク前條ノ秋津島ニ混淆セラレタリ、サレバ、前條ノ語ガ、大和國、又ハ、日本國ノ稱トナルニ因リテ、此語モ、伴ハレテ其意ニ用キラルルヤウニナリシナリ、大和國ヲ、蜻蛉洲ト云フベキ謂レモナク、況ンヤ、日本國ノ地形ガ、蜻蛉ノ兩翅ヲ張レルニ似タリ、ナド云フハ、附會モ甚シ、又、案ズルニ、經傳釋詞(淸王引之)ノ三ニ「惟、發語詞、云云、亦作レ雖、文公十七年、左傳曰、雖二敝邑之事一レ君、何以不レ免、言二惟敝邑之事一レ君也」トアリ、荀子、子道篇「猶若」註「舒和之貌」トアレバ、神武紀ノ文ハ「雖眞迮國、猶如二蜻蛉之臀呫一」ト訓ミテ、上下二句、別事ニテ、聯絡ナキコトトモ解セラルベキカ〕 古來、大和國ノ異稱トシ、又、移シテハ、大日本ノ異稱トス、然レドモ誤レリ、前條ノ語ト混淆シタルナリ。是レハ、神武天皇ノ、嗛間丘ニ登リタマヒテ、蜻蛉、云云、ト宣ヒシニ起リテ、其岡ノ近傍、今ノ大和國、南葛城郡中ノ小地名トナレルニテ、卽チ、孝安天皇ノ宮居シタマヒシ秋津島宮ト云ヒシ、是レナリ、此秋津島、卽チ、蜻蛉洲ナリ。此條ノ首ノ語原ヲ見ヨ、又、前條ヲ見ヨ。 神武紀、三十 十九「天皇、登二腋上嗛間丘一而廻二望國狀一曰、云云、雖二內木綿之眞迮國一、猶二如蜻蛉之臀呫一焉、由レ是始有二秋津洲之號一也」 腋上ハ地名、內木綿ハ枕詞、眞迮ハ、眞狹キナリ、(眞廣しト云フ語ニ對ス) 臀呫ハ、尾ヲ銜ミテ輪トナルナリ、岡ノ近傍四邊ノ地ヲ望ミタマヒシ

ニ因リテ、眞名［illegible］ト負ヒシナルベシ、［illegible］ハ、今ノ［illegible］郡、［illegible］ノ［illegible］、［illegible］、ナド字［illegible］ニアレ［illegible］、［illegible］ノ［illegible］シマセシ［illegible］ノ名ニテ、［illegible］。［illegible］中（孝安）十「坐二葛城室秋津島宮一治二天下一也」［illegible］中［illegible］、三年十一月［illegible］之」（冬時ノ櫻花ナリ）倭名抄、六十二大和國、葛上［illegible］、［illegible］、秋津［illegible］ノ大字ニ、［illegible］ト云フ地存ス、［illegible］ナリ。［illegible］紀、［illegible］年八月、吉野ノ御獵ニ、虻ノ御臂ニツキシヲ、蜻蛉飛ビ來テ食ヘルヲ愛シタマヒテ、大御長歌ニ「曰フ蜻モ、此ノ如、名ニ負ハムト、ソラミツ、大和ノ國ヲ、阿岐豆［illegible］ト云フ」是レ等ヤ、［illegible］ノ［illegible］ト混ズルノ初メナルベキ。萬葉集ニ、［illegible］島ト書キテ、日本國ノ事ニ云ヘルアリ、混淆ナリ。（［illegible］ノ語原、並ニ、前條ヲ見ヨ）清後撰集（鎌倉時代）九、神祇「あきつ羽ノ、袖ノ國ニ、跡垂レシ、神ノ守リヤ、我ガ君ノタメ」（日本ノ地形、蜻蛉ノ羽ニ似タリト云フコト、ココニ見ユレド、謂レナキコトナリ）下學集（文安）上、天地、秋津島「日本總名也、云云、秋津者、蜻蛉也、日本地形、如蜻蛉展レ翅、故云二秋津島一也」

あきつしまね（名）［秋津島根］〔根ニ、意ナシ、岩根、垣根ノ類〕前前條ニ同ジ。ヤマトシマネ。續古今集、二十、賀、建長二年九月十三夜［illegible］「世ヲ照ラス、［illegible］ガ［illegible］ノ、月影ハ、秋津島根ノ、奥モ曇ラジ」（蓬ガ洞ハ、仙洞御所）

あきつす（名）［秋津洲］ あきつしまノ［illegible］。新拾遺集、七、賀「［illegible］代ハ、［illegible］ノ、秋つすニ、満チ干ル潮ノ、如ク盡キジトゾ思フ」

あきつは（名）［蜻蛉羽］ 蜻蛉ノ羽。其透キトホリテ美シキヲ云フ　萬葉集、三三十七「秋津羽ノ、如キ袖振ル妹ヲ、玉櫛笥、奥ニ思フヲ、見タマヘ吾君」

あきっぽい（形）［厭］〔［illegible］多いノ略急呼、（［illegible］）ひなぶ。申しおこす、まうしおす［illegible］〕厭クコトガ、常［illegible］ヨリ多キ意、［illegible］集ニ、あきつぽき、あきつけやいノ義ナリトアリ、［illegible］、［illegible］ほいナドニハ［illegible］ケンア、［illegible］ほい、［illegible］ほいニハ通ゼズ。［illegible］ニ［illegible］キヤスイ。アキガチナリ。（東京）俚言集覽「厭ッぽい」

あきつみかみ（名）［明津御神］〔あきつハ、明之ノ義、現在ノ意、世ニ明ラカニ現ハレマシマス神ノ義。萬葉集、三三十「皇ハ、神ニシマセバ」あらひとがみノ語原ヲ見ヨ〕天皇ヲ稱ヘテ申シ奉ル語。又、あきつ神。アラヒトガミ。續紀、一、文武天皇、元年八月、詔「現御神ト、大八島國所知天皇大命」出雲國造神賀詞「明御神ト大八島國知食ス天皇命」萬葉集、六四十長歌「明津神、吾ガ大君ノ、天下、八洲ノ中ニ」八雲御抄、三、下、異名「帝王、あきつ神、君ヲ申ス也」

あきつむし（名）［秋津蟲］ 蜻蛉ノ條ヲ見ヨ。トンバウ。

あきて（名）［明手］〔て（隊）ノ條ヲ見ヨ、あきハ、閑暇ノ義〕（一）向フトコロノ定メラレズシテアル軍勢。遊軍（二）用ニ充テラレズシテアル人人。遊手

あぎと（名）［腭門］〔腭ノ條ヲ見ヨ〕（一）上腭ト下腭トノ間。太平記、廿九、師直以下被誅事「首ヲ搔切テ、あぎとヲ喉ヘ貫キ」俚言集覽、［illegible］「我ガ口ニ入ラスト云フコト」（おとがひノ條ヲ見ヨ）（二）魚ノ鰓。倭名抄、十九五「鰓、魚頰也、阿木止」名義抄「腮、アギト、ツラ」宇治拾遺、十三、第八條「魚、大キニテ、打捕ラレネバ、草刈鎌ト云フモノヲ持チテ、あぎとヲ搔切リテ、物ニ包マセテ」

あぎと（名）［逆鉤］〔魚ノ［illegible］鉤ノ略ナルベシ、［illegible］ト云フモ同ジ、あぐト云フハ、顎ナルベク、轉ジテ、あげト云フナリ、又、あらト云フハ、［illegible］ノ轉ナルベシ〕又、あぎ。あぐ。あげ。あら。多クハ、あぐト云フ。鈎鉤ノ彎曲リタル尖ノ下ノ、内部ニ突出セシメタル逆鉤ノ名。鉤ニカカリタル魚ノ、ハヅレヌタメノ設ケナリ。

あぎとひ（名）［孩語］〔次次條ノ語ノ［illegible］形、其條ヲ見ヨ〕嬰孩ノカタコト。古事記、中（垂仁）三十「本牟智和氣ノ御子ノ事ニ、［illegible］云、［illegible］之［illegible］、始［illegible］」

あぎとふ（名）［嬰孩］〔あぎとふ小兒ノ略カ、次條ヲ見ヨ、［illegible］ト云フモ、聞ユ［illegible］ノ略〕ミドリゴ。ヲサナゴ。箋注倭名抄、一六十「嬰孩、阿嘅［illegible］」名義抄、［illegible］「嬰孩、アギトフ」

あぎと・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ（自動、四）［孩語］〔顎ト云フ語ヲ活用ス、（歌、うたふ。畦、うなふ）或ハ、顎ヲ動カシテ言問フ意トスルハ、少シ迂ナラム〕（一）顎ヲ動カシテ、カタコトニ物言フ。（小兒ニ云フ）續後紀、十九、嘉祥二年三月、長歌「嬰兒ノ、［illegible］語ニ」垂仁紀、二十三年九月「［illegible］王、是生年既三十、云云、常不言、云云、［illegible］、是何物耶、天皇則知二皇子見一［illegible］得言一而喜之」（前前條ヲ見ヨ）名義抄「咳、小兒笑、アギトフ」（二）水ノ上ニ浮出デ、口ヲ開閉ス（魚ニ云フ）喚喁　神武紀十「魚皆浮出、隨レ水喚喁」說文「喚喁、魚口上見也」廣韻「喚喁、魚口上下貌」淮南子、主術訓「喚喁」注「魚短氣出二口於水一喘息之喚也」仲哀紀、二年六月、海［illegible］魚「［illegible］浮如レ醉」名義抄「喚喁、クチサシツドフ」

あぎなし（名）水草ノ名、慈姑ノ類。倭［illegible］、後［illegible］、あぎなし「形状、［illegible］おもだかニ似テ、小草ナレバ、［illegible］ノ名ニ因リテ、［illegible］ト呼ベルナルベシ、苦草也ト云ヘリ」俚言集覽、あぎなし「［illegible］ノ方言、とばゑくわゐ、おもだかなしト云フ、［illegible］ノ一種ナリ」

あきなすび（名）［秋茄子］ 秋ノ末ニ［illegible］スル茄子。春雨抄（寛永、［illegible］）「秋なすび、わささノ粕ニ、漬ケマゼテ、よめニハクレジ、棚ニオクトモ」鎌我［illegible］物語（寛永）「秋なすび、［illegible］ノ粕ニ、［illegible］トモ」［illegible］ノ意ハ、［illegible］、性、寒利、多食、必腹痛下痢、女子［illegible］」トアリ、［illegible］ノ後ルルヲ嫌フ意ナリト云ヒ、或ハ、秋茄子ハ、種少ケレバ、子種ナシト云フヲ忌ミテノ事ナリトモ云フ。然レドモ、秋茄子ハ、味美ナレバトテ、姑ノ、嫁ヲ憎ミテ云フトモ［illegible］アリ、［illegible］千句（杉田勾當［illegible］一、寛永七年成、年八十三）「［illegible］ルモ、ハヤ末哉ノ、秋茄子、憎マレニタル、嫁ガ姑メ」毛吹草（正保）「［illegible］ナラバ、食ハセモセムカ、秋茄子」或云、よめトハ、鼠ノコトナリト。

あきなひ（名）［商］ アキナフコト。シャウバイ。ウリカヒ。バイバイ。字鏡八十「［illegible］、以［illegible］、［illegible］也、［illegible］」名義抄、［illegible］、アキナヒ

あきなひがみ（名）［商神］ 惠比須ノ神ノ一稱。［illegible］日［illegible］（正德、近松作）［illegible］「商神ハ戎三郎」獲波［illegible］（延寶）六、夷祭、十月廿日「［illegible］三郎殿ハ、商［illegible］ヲ守ラセタマフ御神」

あきなひみゃうり（名）［商冥利］ 正直ニ商賣シテ、神佛ノ冥加ヲ期スルコト。

あきな・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ（他動、四）［商］〔商ノ［illegible］、なふハ、行ふノ意（［illegible］なふ、［illegible］なふ）〕賤ク買ヒテ、貴ク賣ル。ウリカヒスル。商賣ス。賣買ス。宇［illegible］、［illegible］也、交易也、商［illegible］、［illegible］物ヲ貯ヘテ、市ニあきなはバコソ、［illegible］、［illegible］ガ打チあきなふヲコソ、［illegible］ヨリ始メテハ有レ」

あきにれ（名）［秋楡］ にれ（楡）ノ條ヲ見ヨ

あきのあふぎ（名）［秋扇］「秋扇ノ［illegible］

語ナルベシ」(一)扇ヲ、秋涼ニナレバ、用ヰヌヤウニナルニ就キテ云フ語。倭訓栞、あふぎ「班婕妤ガ、手ナラシソムル、朝ヨリ、秋の扇ゾ、還ザカリツツ」王僧孺詩「風來秋扇屛、月出夜燈吹」、支那ニテ云フ扇ハ、うちはナリ)(二)女ガ、男ノ愛ヲ失ヒテ棄テラルルニ譬ヘテモ云フ。是レハ、支那ノ前漢ノ成帝ノ宮女、班婕妤ガ、寵ヲ失ヒテ退キ、秋扇賦ト云フヲ作リシ故事ニ寄セテ云フナリ。倭訓栞、あふぎ「扇ヲ人ニヤルコトヲ忌ム、云云、班婕妤ガ故事ニヨリテ、戀ニ忌ミタルヲ云ヘリ(あふぎゆゆしノ條ヲ見ヨ)秋の扇トモ見ユ、白氏文集ニ、班女閨中秋扇色ト云ヘリ」劉孝綽、班婕妤怨「妾身似秋扇、君恩絕履綦」壬二集、中、七夕「今ハトテ、人ハ置クトモ、タナバタノ、秋の扇ノ、名ヲバ忘レジ」

あきのいろ (名) [秋色] (秋色ノ訓讀ナルカ) 秋ノケハヒ。秋ノ景色。拾遺愚草(定家)上「沍エノボル、月ノ光ニ、コトソヒテ、秋の色ナル、星合ノ空」玉葉集、四、秋、上「シノノメノ、空霧リワタリ、イツシカト、秋のけしきト、世ハナリニケリ」

あきのか (名) [秋香] 秋ノ松茸ノ香。萬葉集、十、四十七詠芳歌(芳ハ、茸ノ誤ト云フ)「高圓ノ、此峯モ狹ニ、笠立テテ、滿チサカリナル、秋ノ香ノ佳サ」(大和ノ高圓山)

あきのかた (名) [明方] (其年ノ大將軍ノ塞ノ方ニ對スル方角ナレバ、明の方ト云フナリ。俚言集覽、あき「曆方位ニあきアリ、時憲曆箋釋「空」注「此方位無吉凶神殺所占、是空位也、故曰空」) えはう(吉方)ニ同ジ。(其條、並ニ、歲德神ノ條ヲ見ヨ)

あきのかたみ (名) [秋形見] 秋ノ記念。秋ノナゴリノシルシ。拾遺集、三、秋「暮レテユク、秋のかたみニ、置クモノハ、我ガモトユヒノ、霜ニゾアリケル」

あきのきりんさう (名) [秋麒麟草] 菊科ノ小草。山野ニ多シ、莖ノ高サ一二尺、紫黑色ナリ、秋ノ末ニ、小黃花、枝ニ滿チテ、長キ穗ヲナス。劉寄奴 重修本草綱目啓蒙、十、劉寄奴草「俗名、金花、一名、あきのきりんさうナリ」

あきのくるかた (名) [秋來方] 右衞門府ノ異名。古今集、序「右衞門府生壬生忠岑」同、十九、雜、壬生忠岑、長歌「近キ衞ノ、身ナリシヲ、誰レカハ、秋のくるかたニ、アザムキ出デテ、御垣ヨリ、外重守ル身ノ、御垣守、ヲサヲサシクモ、オモホエズ」顯注密勘、八「忠岑、元ハ左近番長也、後、右衞門府生ニ移レリ、右衞門ハ西也、サレバ、秋のくるかたニ、トゾハ云フナリ」(右衞門府ハ、大內裏ノ西ニアリ)八雲御抄、三、下、異名部「あきのくるかた、右衞門也」

あきのこゝろ (名) [秋心] (秋心ノ訓讀カ、愁ヲ析字シテ、秋心トス) 秋ノ涼シサニ遇ヒテ、萬事ニサビシク感ズルコト。朗詠集、上、秋興「物色自堪傳客意、宜將愁字作秋心」千載集、五、秋、下「事每ニ、悲シカリケリ、宜シコソ、秋の心ヲ、愁ヒト云ヒケレ」

あきのこゑ (名) [秋聲] 秋ノ空ニ、物サビシク聞ユルヒビキ。拾遺愚草、下「沍エワタル、霜ニ向ヒテ、打ツ衣、幾年秋の、聲ヲ告グラム」(砧ノ聲ナリ)

あきのしぐれ (名) [秋時雨] (時雨ハ、初冬ナルベキモノナリ) 季秋ノ時雨。古今集、八、離別「惜シムラム、人ノ心ヲ、知ラヌ間ニ、秋のしぐれト、身ハ舊リニケル」(降ルニカク)

あきのしも (名) [秋霜] (漢語、秋霜ノ文字讀、劍光、凜烈トシテ霜ノ如シ) 劍ノ異名。本朝文粹、十二、奉行文「雄劍在腰、拔則秋霜三尺」新撰朗詠、下、松「吳人劒色掛秋霜」草庵集(頓阿)「秋の霜、掛ケケル松モ、アルモノヲ、結ブ契リノ、色變ハルラム」(以上、二首、吳ノ季札ノ故事ヲ詠ゼリ、季札、心ニ、劍ヲ徐君ニ與ヘムトセシニ、徐君死シタレバ、其墳ノ樹ニ劍ヲ掛ケテ去レリ)

あきのしらべ (名) [秋調] 律ノ調子。平調。口遊、音樂「秋、平調、冬、盤涉調」拾遺集、七、物名「松ノ音ハ、秋のしらべニ、聞ユナリ、高クセメアゲテ、風ゾ彈クラシ」倭訓栞、後編、あきのしらべ「律ノ調ヲ云ヘリ、呂ノ調ニ對シ云フナリ、西土ニテハ、呂ヲ秋の調子トスト云ヘリ、六百番歌合ニ「定メオク、星合ノ空ノ、シルシトテ、秋のしらべニ、琴柱立ツナリ」乞巧奠ニ、箏ノ琴柱ヲ立テテ、是ヲオク、建武年中行事ニ、常ハ、盤涉調、半呂、半律、あきのしらべナリト見ユ」

あきのそら (名) [秋空] (一)秋ノ頃ノ空。(二)秋ノ天候ハ、陰、晴、定リナキニ因リテ、人ノ交情ノ變リヤスキニ寄セテ云フ。(厭ニカケテモ云フ) 古今集、十五、戀、五「秋風ハ、身ヲワケテシモ、吹カナクニ、人ノ心ノ、そらニナルラム」(あきかぜノ條ヲ併セ見ヨ)

あきのたむらさう (名) たむらさう(田村草)ヲ見ヨ。

あきのたりほ (名) [秋垂穗] 秋、稻ノ善ク實リテ、穗ノ長ク垂穎シタルモノ。又、秋穗。神代紀、上、十一「以其稻種、始殖于天狹田、及、長田、其秋垂穎、八握莫莫然、甚快也」書經、序「穎」傳「穎、穗也」詩經、周南、葛覃篇「維葉莫莫」註「茂密之貌」新古今集、七、賀、大嘗會、稻舂歌「神代ヨリ、今日ノタメトヤ、八束穗ニ、長田ノ稻ノ、しなひ初メケム」寬平后宮歌合「イツノマニ、秋穗垂ルラム、草ト見シ、程幾日トモ、隔タラナクニ」

あきのぢもく (名) [秋除目] ぢもく(除目)ヲ見ヨ。

あきのとなり (名) [秋隣] (一)秋ノ後ノ隣。即チ、冬。惠慶集「跡絕エテ、荒レタル宿ノ、月見レバ、秋の隣ニ、ナリゾシニケル」(二)冬ノ前ノ隣。即チ、秋。續千載集、六、冬「垣根ナル、草モ人目モ、霜枯レヌ、秋の隣ヤ、遠ザカルラム」

あきのななくさ (名) [秋七草] ななくさ(七草)ノ條ヲ見ヨ。

あきのなぬか (名) [秋七日] 七月七日。七夕。後撰集、五、秋、上「天河、岩越ス波ノ、立居ツツ、秋の七日ノ、今日ヲシゾ待ツ」(牽牛星、織女星ノ會合)

あきのにしき (名) [秋錦] 紅葉ヲ、錦ト見テ云フ語。夫木抄、十五、紅葉「立田姬、雲ノはたてニ、カケテ織ル、秋のにしきハ、緯モサダメズ」

あきのは (名) [秋葉] 秋ノ候ノ、樹木ノ葉。萬葉集、十七、三十四、長歌「タマクシゲ、二上山ハ、春花ノ、咲ケル盛リニ、安吉乃葉ノ、匂ヘル時ニ」(匂ヘルハ、紅葉シタルナリ) 拾玉集、四「神無月、生田ノ森ノ、秋の葉ニ、松風過グル、夕暮ノ空」

あきのはづき (名) [七月] (秋の初月ノ約ナルカ、(水づく、みづく)初秋ノ初メナルベシ) 陰曆、七月ノ異名。莫傳抄(源俊頼)「風無クバ、何ヲカ言ハム、松蔭ノ、あきのはづきヲ、音ニコソ知レ」

あきのひかり (名) [秋光] 秋ノ、沍エタル空ノ月影。榮花物語、十九、御裳着「月影ハ、イツトモ分カヌ、モノナレド、秋の光ゾ、心異ナル」

あきのふた (名) [辛螺靨] 甲香。貝香。本草和名、下、卅四「甲香、阿岐乃布多」

あきのふたよ (名) [秋二夜] (十五夜ノ月ニ對シテ、十三夜ノ月ヲ云フ) 九月十三夜月ノ異稱。

あきのみや (名) [秋宮] (長秋宮ノ文字讀、春宮モアリ) 皇后宮ノ別稱。源順集「伊勢ノ齋宮ノ、秋の宮ニワタリタマヒテ後」榮花物語、三十四、晚待星「霧晴レヌ、秋の宮人、アハレ

イカニ、時雨ニ萩、濡レマサルラム」金葉集、九、雜、上、仲正ガ女、皇后宮ニ、始メテ參リタリケルニ、強ク聞カセタマヒテ、聞カセタマヒケレバ、云云「ツレシクモ、秋のみ山ノ、[illegible]ノ、[illegible]ノ、カヨヒ[illegible]カナ、[illegible]」[illegible]、ヒ皇太后宮大夫ニ任ゼラレシ時、[illegible]ノ上ニ、[illegible]ニ詠フス、月影ヲ、秋の宮ニテ、見ルゾウレシキ」萬代集、六、冬「[illegible]ニ、又物言ハム、木ノ葉散ル、秋のみやニハ、[illegible]ぎよめスナ」

あきはぎ (名) [秋萩] 〔萩ハ、秋ニ咲クモノナレバ云フ、秋ニ、深キ意ナシ、萩ト云フ字モ、秋ニ艸冠シテ作レル字ナリ〕萩ト云フニ同ジ。秋ニ花咲ク萩。萬葉集、二、廿「吾妹子ニ、戀ヒツツアラズハ、(アラムヨリハ)秋芽ノ、咲キテ散リヌル、花ナラマシヲ」(萩ノ古原ヲ見ヨ) 同、十五、[illegible]、今モ見ルガ如シ、秋芽子ノ、(如ク)撓ヒテアラム、妹ガ姿ヲ」

あきはぎでふ (名) [秋萩帖] 〔巻首ノ、あきはぎノ語ヲ取リテ名トス〕有名ナル書帖ノ名、小野道風ノ書セシモノト云フ。現ニ、高松宮家ノ御所藏ナリ。

あきは・つ・ツル・ツレ・テ・テ・テヨ (自動、下二) [厭果] 全ク厭ク。アキテシマフ。古今集、五、秋、下「刈レル田ニ、生フル稻孫ノ、穗ニ出ヌハ、世ヲイマサラニ、あきはてヌトカ」(秋果つニカク) 源、三十九、御法「昇リニシ、雲居ナガラモ、カヘリミヨ、我レあきはてヌ、常ナラヌ世ニ」

あきばれ (名) [秋晴] 次次條ノ語ニ同ジ。

あきびと (名) [商人] 〔商ノ條ヲ見ヨ、あきうど、あきんどト云フハ、音便ナリ(旅人、たびうど。藏人、くらうど、くらんど)〕商賈。生業トスル人。あきうど。あきんど。市人。商人。[illegible]、十三年八月「商客」古今集、序「文屋康秀ハ、詞巧ミニテ、ソノサマ、身ニ負ハズ、言ハバ、あきびとノヨキ衣着タラムガ如シ」倭名抄、二十「商人、商賈、阿岐比止」

錄、廿二、玉葛「アヤシキ市女、あきうど」平家物語、三、有王島下事「あきんど船ニ乘リテ、件ノ島ヘ渡テ[illegible]」

あきびより (名) [秋日和] 秋ノ末、晴天ノ、數日ツヅクコト。秋晴。我ガ邦ノ氣候ハ、秋ノ末ニナレバ、殊ニ晴レテ、空、澄ミワタルナリ、十月の小春トモ云フ。秋晴

あきふたげ (名) [秋二毛] 〔秋毛ト夏毛トマジリタルモノ〕鹿ノ毛皮ノ毛色ニ云フ語。行縢ナドニ用キルニ云フ、秋ニ至リテ、古毛長ク、新毛短ク、生ヘ交リタル、其古毛ヲムシリ取レルモノナリ。色、夏毛ヨリ濃クシテ、白斑アリ。中原高忠聞書(足利義政ノ臣)むかばき「中老、宿老ニ至リテハ、秋ふたげノ黑キ皮ヲ用フベシ」

あきほ (名) [秋穗] あきのたりほ(秋垂穗)ヲ見ヨ。

あきぼたん (名) [秋牡丹] 貴船菊ノ一名。倭訓栞、後編、きぶねぎく「秋明菊トモ云フ、秋牡丹也ト云ヘリ」倭[illegible]、きぶねぎく「京都ニテ秋牡丹ト云フ」

あきま (名) [明間] (一)スキマ。間隙。參考保元物語、二、義朝白河殿夜討事「此鎧ヲ着テ、多クノ矢ヲ受ケタレドモ、一ツモ裏ヲカカズ、あきまヲ射ラレテ死スルハ、自業自得ノ果也」(二)明キテ居ル室。空房

あぎみ (代) [吾君] あがきみノ條ヲ見ヨ。

あきんど (名) [商人] あきびとノ條ヲ見ヨ。商人。

あきんどのそらせいもん (名) [商人空誓文] 〔誓文トハ、唯、誓ヒト云フコト、其條ヲ見ヨ、言葉ノ言ヒカハシナリ〕商品ノ賣直ノカケヒキ。卽チ、懸直シ

テ、[illegible]ハ[illegible]コト[illegible]、商人の空誓文トモ[illegible]云フ[illegible]、[illegible]集(寛文)[illegible]、[illegible]ノ、タグヒカナ、マダ僞モセザル、君ガ諫言」狂歌咄(寛文)[illegible]、[illegible]ノ、[illegible]ニ[illegible]、[illegible]モアリケリ

あきんどのそらね (名) [商人空直] 前條ヲ見ヨ。

あきんどぶね (名) [商人船] 商品ヲ載セテ、海ヲ渡ル船。商船。平家物語、三、有王島下事「あきんど舟ニ乘ッテ、件ノ島ヘ渡ッテ見ルニ」(鬼界ガ島)

あきんどやど (名) [商人宿] 旅ノ商人ヲ宿ス旅店。

あきめ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (自動、四) [秋] 〔めくノ條ヲ見ヨ、春めく、時めくノ[illegible]〕秋ラシクナル。アキヅク。清輔集「山里ハ、鹿ノ音[illegible]、末[illegible]レテ、蟬ノ鳴ク音モ、秋めきニケリ」山家集、上「[illegible]シテ、[illegible]リ流ス、河ノ瀨ニ、ヤガテ秋めく、風ソ涼シキ」

あきめくら (名) [明盲] (一)アキジヒ。盲目ノ一種。眼ノ狀、常ノ如ク明キテ居テ、物ノ見エヌモノ。清盲 (二)文字ノ意訓ヲ知ラズシテ、讀ミ得ヌ者。文盲。無筆。瞭 [illegible]筑波集(寛永)「文月ヲ、ナガメヌ人ヤ、あきめくら」松屋筆記、七十八、七十「[illegible]俗ニ、眼アレドモ、文字讀ムコト能ハサル者ヲ、明目盲ト云ヘリ、碧[illegible]集、五卷、四十[illegible]ニ、居士打了、更與說三道理ニ云、眼見如レ盲、口說如レ啞」王充、論衡「人未レ學問曰レ矇」

あきもの (名) [商物] 〔商ノ條ヲ見ヨ〕アキナヒモノ。商品。[illegible]「[illegible]用不レ售」

あきもの (名) [明物] 用ニ充テラレヌ物。

あきもも (名) [秋桃] 秋ニ熟スル桃ノ實ノ味、殊ニ美ナレバ名アリ。

あきや (名) [明家] 人ノ住マヌ家。空屋。

あぎゃう (名) [阿行] 五十音圖ノ第一ノ行ノ名。卽チ、ア、イ、ウ、エ、オ。

あきやま (名) [秋山] 〔春山モアリ〕秋ノ時節ノ山。萬葉集、一、二十長歌「秋山ノ、木葉ヲ見テハ、黄葉ヲバ、取リテゾシヌブ」同、[illegible]ニ、滿ツル黄葉」

あきらかま (副) [明] 〔あきら、ハ、あきらかノ語根、かまハ、副詞ヲ作ル接尾語(薄ぐ、うすらかま。爽ぐ、さはらかま)〕(一)アカルク。クモリナク。天治字鏡、一六「[illegible]、明也、[illegible]」[illegible]、十六、[illegible]「[illegible]あきらかなる火影ヲ、サスガニ恥ヂタマヘル狀モ、憎カラズ」(二)アキラケク。ハキト。ウタガヒナク。分明 [illegible]、五十七、[illegible]「[illegible]」「神、佛、あきらかま座シマサバ、此愁ヘ止メタマヘ」

あきらけ・し・キ・ケレ・ク・ク (形、二) [明] 〔あきらかノ轉、速、すむやけく。爽、さはやけくナドノ例ナリ〕(一)アキラカナリ。ハキトシタリ。字[illegible]、[illegible]明、佐也介之、阿[illegible]介志」[illegible]、十、大[illegible]、かがみ山「萬代ヲ、あきらけく見ム、鏡山、千歳ノホドハ、曇モ[illegible]ラジ」(二)清シ。イサギヨシ。削潔 [illegible]記、[illegible]元年[illegible]月[illegible]、[illegible]ノ、日本ノ國ニ、[illegible]、[illegible]ニ云フ伴[illegible]、心[illegible]ヨ」(大伴氏ノ家名ニ云フ)

あきら・む・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ (他動、下二) [明] 〔あきらハ、明ラニテ、[illegible]〕辭。(其條ヲ見ヨ)ソレヲ活用セサセタル語。續紀、三十一、寶龜二年十一月、左大臣藤原永手[illegible]、山川ノ淨キ所ヲハ、[illegible]レト倶ニカモ、見行ハシ、[illegible]

ハムト、歎キタマヒ、憂ヘタマヒ、云云」トアルあからべハ、正ニ、此條ノ(二)ノ意ヲ明瞭ニス」 (一)明ラカニ見ル。選卻業神祭祝詞「幣帛ハ、云云、備ヘマツリテ、見明物ト鏡、翫フ物ト玉」萬葉集、十九 二十 侍宴應詔歌「秋ノ花、クサグサナレド、色每ニ、見シ明良牟流、今日ノ貴サ」 (二)心ヲ晴ス。思ヒヲ晴ラス。萬葉集、十八 十二 長歌「陸奧ノ、小田ナル山ニ、金アリト、奏シタマヘレ(バ)、御心ヲ、安吉良米タマヒ、云云」(聖武天皇、カネテ、日本ニ、黃金ノ出土アラムヲ渴望シタマヒシヲ、喜ビタマヒシナリ) 同、十九 十二 長歌「繁キ思ヒヲ、見明良米、心遣ラムト」源、四十七、早蕨 五「歎カシキ心ノ內モ、あきらむバカリ、且ハ聽メ、又、アハレヲモサマシ、サマザマニ語ヒタマフ」同、十九、薄雲 三十「心バヘノ憎カラヌナド、我レモ人モ、見タマヘあきらめテ、イトコソ爽ヤカナレ」

あきら・む・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ (他動、下二) 諦 〔前條ノ語意ノ(一)ノ轉〕 詳カニ見究ム。理由ヲ究メ知ル。皇極紀、四年六月「臣不レ知レ罪、乞レ垂ニ審察ニ」天武紀、上、元年五月「因令ニ問察ニ」同、下、八年五月「天神地祇及天皇證之」

あきらめ (名) 斷念 アキラメルコト。思ヒヲ絕ツコト。オモヒキリ。絕念。「あきらめガツク」

あきら・める・メル・メレ・メ・メ・メヨ (自動、下一) 斷念 〔前前條ノ口語、理ヲ諦めテ、思ヒヲ絕ツナリ〕 思ヒキル。絕念「及バヌコトトあきらめる」

あき・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ (自動、下二) 呆 〔顎切るるノ約カ、(顎門交、おとがひ。脛着、はばき) 宇治拾遺、二、第五條「あきれテ、目モ口モアキテ居タリ」倭訓栞、あきれる「呆ハ、口ヲ開張テナガメ居ルコト、ナリト云ヘリ」あきれテ、開イタ口ガフサガラヌ」 物事ノ、思ノ外ナルニ遇ヒテ、心ヲ失フ。アザム。アッケニトラル。惘 瞠若 源、四十九、東屋 五十「北ノ方あきれテ、物モイハデ、トバカリ思フニ」同、四、夕顏 十二「イト、アワタダシキニ、あきれタル心地シタマフ」

あ・きる・キル・キレ・キ・キ・キヨ (自動、上一) 厭 〔四段活用ノ、上一段活用トナレルモノ〕(足る、足りる。借る、借りる) 厭くノ口語。イヤニナル。諸國盆踊唱歌(寛文)因幡國「後世ト契リテ、今又あきる、釘ヲ打チタヤ、後ノ妻」

あきれ (名) 呆 呆ルルコト。アッケニトラレルコト。あきれもせぬト云フハ、呆レカヘリテ、言葉ノ出ヌ意。昨日は今日の物語(寬永)法師、外出ノ時、兒ニ齋食ノ設ケアレバ、九ツ(十二時)打チタラバ給ベヨト云ヒオキテ、程ナク歸レルニ、四ツ時分(十時)ニ既ニ食ヒタリ、問ヘバ、今朝五ツ(八時)ト、今四ツト、九ツニテハナキカト云フ(意解、節文)「サテサテ、ヨキ算用ヤトテ、あきれもせなんダ」俚言集覽「あきれガ、禮ニ來ル」諺語大辭典「呆ルルニ餘リアリト云ヒ、呆ノ方ヨリ、喜ビテ禮ニ來ルトノ意」

あぎれ (名) 足切 〔足ノ條ヲ見ヨ〕 足ノ指ノ疵。俚言集覽、あぎれ「足ノ指ニ、切レタル疵ノデキタルヲ云フ」

あきれ・いた・し・キ・ケレ・ク・ク (形、二) 〔呆れ痛しノ義〕 呆ルルコト甚シ。落松中納言物語、三「夢ノココチシテ、あきれいたくオボユレド」增鏡、十五、むら時雨「事ノ、サカサマナルヤウニナリヌレバ、云云、我レモ人モあきれいたくテ、內侍所、神璽、寶劍バカリヲゾ、忍ビテ以テワタラセタマフ」(後醍醐天皇、奈良潛幸)

あきれ・かへ・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 呆返 「くつがへる、(覆)涌きかへる、同趣」 甚シクアキルル。アキレハテル。「彼レノ亂暴ニハ、あきれかへる」

あきれ・は・てる・テル・テレ・テ・テ・テヨ (自動、下二) 呆果 前條ニ同ジ。

あき・れる (動) 呆るノ口語。

あきをさ (名) 商長 商品ノ價ヲ管スル職。職員令、內藏寮「價長二人、掌下平ニ物價ニ市易上」姓氏錄、左京皇別、下「商長首、久比、泊瀨部天皇(崇峻)御世、被レ遣ニ吳國、吳國ハ寶物等獻レ於ニ天皇ニ、其中有ニ吳權ニ、吳國以レ懸ニ定萬物ニ、令レ爲ニ交易ニ、其名云ニ波賀理ニ、久比男宗麻呂、舒明天皇御代、負ニ商長姓ニ也」(節文)

あきをさめ (名) 秋收 秋、田ノ稻ヲ刈收ムルコト。秋穫 夫木抄、三十一、村、天仁元年、大嘗會、悠紀方御屛風「時雨セヌ、吉田ノ村ノ、秋をさめ、刈干ス稻ノ、量ナキカナ」

あく (名) 灰汁 〔あくどしノあくカト云フ、尙、考フベシ〕 (一)灰ヲ湯ニ浸シテ攪キマゼ、日ヲ經テ、黃ナル上澄ヲ生ジタルモノ。布帛ノ垢ナドヲ洗ヒ去リ、又ハ、紅、紫、ナド染ムルニ用キル。(あくたるノ條ヲ見ヨ) 內藏寮式「灰汁」倭名抄、十四 五十 染色具「灰汁、阿久」倭訓栞、あく「倭名鈔ニ灰汁ヲヨメリ、云云、是モ、飽クノ義、あくどきト云フ俗語モ、是ヨリ出デタルベシ、源氏引歌ニ「紅ノ、色濃キ花ト、見シカドモ、人ヲあくニハ、移ルテフナリ」 (二)又、單ニ、灰。「火鉢ノあく」 (三)植物類ヨリ出ヅル澁味。「蕨ノあく」茶ノあく」 (四)人ノ氣性ニ、俗氣ナキヲ、あくの脫けた人ト云フ。

あく (名) 惡 (一)アシキ事。ワロキ物。〔善ニ對ス〕 說文「惡、不善也」「善ト惡トヲ別ツ」 (二)ヨコシマナルコト。無道。惡逆。「惡ヲタクラム」 (三)氣ノ強キ、猛キ、荒荒シキ意トシテ、接頭語ノ如ク用キラル。猛 惡 左府賴長、惡源太義平、惡七兵衞景清、ナドナリ、(惡逆ノ意ニハアラズ、又、自ラ稱スルニアラズ、外聞ヨリノ呼名ナリ) 荒夷、鬼武者、鬼柴田ナド云フト同意ナリ、(惡獸モ猛獸ナリ、惡龍、惡魚モアリ、惡物食ナド云フ語モ、是レナリ)是レハ、あし宰相、あし法眼、ナド云ヒシヲ、惡ノ字ヲ書キテ、音讀スルヤウニナリシナリ。尙、形容詞ノ、あし(惡)ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。平治物語、三、牛若奧州下向事「今若ハ、醍醐ニノボリ出家シテ、禪師公全濟トゾ申シケル、希代ノ荒者ニテ、惡禪師ト云ヒケリ」吾妻鏡、三十四、仁治二年五月廿九日「鶴岡職掌、常陸國國井住人、惡別當家重、依ニ博奕之科ニ、被レ解ニ神職ニ」同年十二月廿七日「武田伊豆入道光蓮、令レ義ニ絕次男信忠ニ」註「號ニ惡三郎ニ」江濃記、土岐殿事「賴藤弟、惡源太賴遠、數度高名比類ナシ、オゴリノアマリニ、康永ノ頃、院ノ御所ノ御幸ニ參會、狼藉シテ、身ヲ失ヒシカバ」甲陽軍鑑、二、品第六「丹波國赤井ト云フ男、七歲ニテ人ヲ伐リ、赤井惡右衞門ト名ヲ呼バレ」

あく (名) 幄 (一)アゲバリ。(二)幄屋ノ略。

あ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (自動、四) 飽 欲スル思ヒニ滿足ス。足ル。十分ナリ。萬葉集、二十 十一「年月ハ、アラタアラタニ、相ヒ見レド、吾ガ思フ君ハ、安伎足ラヌカモ」「食ヒテ飽く」

あ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (自動、四) 厭 〔飽きテ嫌フ意〕 厭フ心ニナル。イヤニナル。アグム。アキル。古今集、一、春、上、彌生ニ、閏月ノアリケル年、詠ミケル「櫻花、春加ハレル、年ダニモ、人ノ心ニ、あかレヤハセヌ」源、三十九、御法 廿「昇リニシ、雲居ナガラモ、カヘリミヨ、我レあきハテヌ、常ナラヌ世ニ」拾遺集、十五、戀、五「ホノカニモ、我レヲみしまノ、芥火ノ、(序)あくトヤ人ノ、オトヅレモセヌ」(あくたびヲ見ヨ)

あ・く・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ (自動、下二) 明 〔明ヲ轉ジテ、活用ス(高、日たくる。深、

[illegible]
[illegible]集、六、参「年ノあけテ、浮世ノ夢ノ、覺ムベクバ、暮ルトモ今日ハ、厭ハサラマシ」「夜、明く」年季、明く」あくる日」

あ・く・ク・ケ・カ・ニ・ケ（自動、四）［開］（一）オノヅカラ開ク。[illegible]テコメタル所ノ戸、スナハチ、タダあきニあきヌ」（二）官職ニ任ジタル人、無クナル。今鏡、上、司召「藏人所、云云、藏人ノ式部大夫トテナム、あきタルニ隨ヒテ、中務少輔ニゾ成リ作リケル」發心集（鴨長明）二、禪林寺永觀律師事「東大寺別當ノあきタリケルニ、白河院、此人ヲ成シタマフ」（三）暇ニナル。成暇「手ガあく」當番ガあく」（四）空シクナル。空ニナル。一空「入物ガあく」住家ガあく」行ク道ガあく」（五）始マル。開始「芝居ガあく」商賣ノ口ガあく」

あ・く・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ（他動、下二）［明］前條ノ語ノ他動。（一）、（二）、（三）、[illegible]かづくる）」（一）押シ開ク。開 伊勢物語、二十四段「此戸、あけタマヘト、叩キケレド」拾遺集、二、夏「夏ノ夜ハ、浦島ノ子ガ、箱ナレヤ、ハカナクあけテ、クヤシカルラム」（二）あける（明）ノ條ヲ見ヨ。

あ・く・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ（他動、下二）［醒］「後世、酒ヲ井ニあける（傾注）ナド云フハ、此語ノ口語ナルベシ」醒む ニ同ジ。「酒ヲ一[illegible]」名義抄、[illegible]「醒、下」酒也、佐介之六死、俗云、阿久」名義抄「醒、アク、サケアク」塵添壒囊抄、三、第三十五、醒酒「酒ヲあくるト云フコトアリ、醒ノ字ヲ、あくト讀ム也」

あぐ（名）［逆鉤］あぎと（逆鉤）ノ條ヲ見ヨ。

あ・ぐ・グル・グレ・ゲ・ゲ・ゲヨ（他動、下二）［上・擧］〔あがるノ他動（下ろ、さぐ。曲ろ、曲ぐ）〕（一）下ヨリ上ヘ送ル。（下ぐノ反）高クス。ノボス。あげらノ條ヲ併セ見ヨ。[illegible]（二）手ニ持チテ高クス。サシアグ。ササグ。擧 景行紀、二年三月「カ能拯擧」「[illegible]」（三）結フ。（髮ヲ頂ニあぐるナリ）結髮 神代紀、上「[illegible]」[illegible]男装シタマヒシナリ」萬葉集、十六、[illegible]「振分髪[illegible]、寺ノ長屋ニ、吾ガ率寢シ、童女放ハ、髮上ツラムカ」（四）タテマツル。獻上ス。獻 景行紀、五十一年八月「所獻神宮蝦夷等、晝夜喧譁、倭姫命曰、是蝦夷等、不可近於神宮、則進上於朝廷」（五）位階ヲ陞ス。陞位 續紀、十、天平元年八月、詔「百官、主典已上人等、冠位一階上賜事」云云（六）聲ヲ高クス。神代紀、上十一「陰神先發喜言、既違陰陽之理」古今集、四、秋、上「秋風ニ、聲ヲ帆ニあけ、來ル船ハ、天ノ門ワタル、雁ニゾアリケル」（七）稱フ。褒ム。稱揚 名義抄「稱、アグ、ホム」（八）鳴ラシ弘ム。發揚 顯宗即位前紀「億計王曰、然則非弟誰能激揚大節、可以顯著」（弟弘計王ニ宣ヒシナリ）玉葉集、十六、雜、三「道ヲ譲ル、君ニヒカレテ、四弦ノ、其音モ高キ、名ヲゾあげヌル」（九）爲シ遂グ。終ヘ果ス。終了 六帖、二「我ガ門ノ、早稻田モ未ダ、刈りあげヌニ、今朝吹ク風ニ、雁ハ來ニケリ」萬代集、四、秋、上「棚機女ノ、五百機立テテ、織りあぐる、御衣ノ綾ハ、今日ヤ裁縫フ」「爲あぐ」作りあぐる」（十）動詞ノ下ニツキテ、熟語トナリテ、單ニ、敬フ意ヲ云フ語トス。「聞エあぐ」申シあぐ」

あく・あく（感）［啞啞］〔廣韻「啞、烏格切」（啞啞、參見スベシ）〕（一）笑フ聲。易經、下經、震卦「笑言啞啞」疏「啞啞、笑言之聲」（二）雁ナドノ鳴ク聲。易林「鳴雁啞啞、以水爲宅、雌雄相和、心志娯樂」

あく・い（名）［惡意］（一）ワルギ。害意。「小兒ニ惡意ナシ」（二）善意ノ條ヲ見ヨ。

あく・いう（名）［惡友］[illegible]ノ條ヲ見ヨ。

あく・うちがみ（名）［灰汁打紙］紙ニ灰汁ヲヒキテ、打チタルモノ。[illegible]

あく・うん（名）［惡運］（一）惡シキメグリアハセ。[illegible]（二）惡事ヲシテモ、罪セラレズ、榮エテアルコト。「惡運強シ」

あく・えき（名）［惡疫］惡性ノハヤリヤマヒ。天然痘、虎列剌病、黑死病ノ類。

あく・えん（名）［惡緣］男女ノ緣ノ、思フママニナラヌ、又ハ、運ノ凶シキモノ。

あく・かく（名）［惡客］酒飲ム上戸ヨリ、下戸ヲ罵リテ云フ語。堅瓠集「留青日札、元次山云、將船何處去、送客小回南、有時逢惡客、還家亦少酣、蓋以欲人嗜酒故也」[illegible]下、[illegible]門「唐人元次山、呼不飲者爲惡客、[illegible]之惡客」也」

あく・がた（名）［惡形］惡人形ノ條ヲ見ヨ。

あく・かん（名）［惡漢］〔漢ノ條ヲ見ヨ〕ワルモノ。ナラズモノ。惡徒。

あく・かん（名）［惡寒］惡寒ノ誤讀。

あくが・ら・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）［憧憬］「次條ノ語ノ他動（流行ろ、はやらす）」憧憬ルルヤウニス。あくがらす 伊勢集、下、秋ノ頃、月ヲ見テ「月影ノ、軒ノアマリニ、差入リテ、モホ喜ガ心、あくがらしツル」萬代集、三、夏「[illegible]ナル、タダ一聲ニ、ホトトギス、人ノ心ヲ、あくがらすカナ」源、二十四、胡蝶「[illegible]身ヲ、サシモアルマジキサマニ、あくがらしタマフ」

あくが・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ（自動、下二）［浮宕・憧憬］〔在處離ろる ノ略轉ト云フ、[illegible]かれど若子、[illegible]あくがれ[illegible]かるノ語原ハ忘レラレテ云フナリ、正字通「宕、[illegible]動也」[illegible]説」〕一所ニ住マハナレテ、浮カレ出ヅ。宇治拾遺「浮宕、アクガル」[illegible]惡シキ時ハ、宿離レテ、あくがれヌベキ、ココチコソスレ」後拾遺集、二十、神祇「物思ヘバ、澤ノ螢モ、我ガ身ヨリ、あくがれ出ヅル、魂カトゾ見ル」（二）離ル。隔タル。隔離 源、二十一、[illegible]「[illegible]あくがれテ、[illegible]」（三）心落チツカズシテ、浮カレ、魂、身ニソハズ、あこがるる。憧憬 名義抄「憧、アクガル」源、四、夕顔「[illegible]カカル折リナニト、心モあくがれ惑ヒテ」同、廿八、野分「今日、カカル空ノケシキニ因リ、風ノサキニ、あくがれアリキタマフ」續古今集、十、羇旅「アハレナリ、何トナルミノ、ハテナレバ、マタあくがれテ、浦傳フラム」易林本節用集「浮宕」

あく・き（名）［惡鬼］種種ノ祟リヲナス妖物。史記、始皇紀「[illegible]曰、[illegible]藥仙者常弗遇、類物有害之者、方中、人主時爲微行以辟惡鬼、惡鬼辟、眞人至、人主所居」

あく・ぎ（名）［惡戲］惡シキタハムレ。ワルイタヅラ。北史、齊文宣帝紀「[illegible]」

あく・ぎゃう（名）［惡行］アシキオコナヒ。ワルキシワザ。惡事。[illegible]「世族在位、有見惡行」

あく・ぎゃく（名）［惡逆］（一）人ノ道ニ逆ヒタル大惡事。（二）八虐ノ條ヲ見ヨ。

あく・ぎょ（名）［惡魚］（一）惡ノ條ノ（三）ヲ見ヨ。（二）猛キ魚。[illegible]

云、惡魚、鰐ノ口、逃レガタシヤ、我ガ命」

あくく (名) 【惡口】 惡口ヲ見ヨ。

あくけつ (名) 【惡血】 をけつ(惡血)ノ誤讀。

あくけな・し・キ・ケレ・ク・ク(形、二) 【無飽氣】 (一)不十分ナリ。不滿足ナリ。散木集、八、戀、下、初戀「振リ出デテ、言ヒそめツレバ、紅ノ、あくけなくテモ、カヘリヌルカナ」(紅染ニ、灰汁氣なしト言ヒカケタリ、倘、ふりいづノ條ヲ見ヨ) (二)〔俗〕後世、急呼シテ、あっけない、ト云ヒ、物足ラヌ意トス、其條ヲ見ヨ。

あくげふ (名) 【惡業】 (一)ワルキシワザ。惡事。博奕ナドヲ云フ。史記、貨殖傳「博戲、惡業也、而桓發用レ之富」 (二)佛經ノ上ニハ、呉音ニテ、惡業ト讀ミ、惡事ヲシタル報ノ意トナル。大藏法數、惡道「謂下一切衆生、造二作惡業一而生中其處上」

あくげん (名) 【惡言】 人ヲ傷ツケソコナフガ如キ言語。禮記、祭義篇「壹出レ言而不二敢忘一父母一、是故惡言不レ出二於口一」 鄧析子「一聲而非、駟馬勿レ追、一言而急、駟馬不レ及、故、惡言不レ出レ口、苟語不レ留レ耳」

あくこう (名) 【惡口】 〔口ハ、物言ナリ〕 人ヲ、惡シザマニ云フコト。ワルクチ。漢書、王尊傳「素行陰賊、惡口不レ信」「惡口雜言」 佛經ニテハ、呉音ニテ、惡口ト云フ、じふあく(十惡)ノ一ナリ。大藏法數「惡口者、謂下言語麤獷、毀二辱他人一令上レ其受二惱也一」

あくごふ (名) 【惡業】 あくげふ(惡業)ノ(二)ヲ見ヨ。

あくさう (名) 【惡相】 恐シキ面相。

あくさく (副) 【齷齪】 〔六書故「人之曲謹者、曰二齷齪一」集韻「齷齪、迫也」〕 あくせくト訛リテ、普通語トナレルハ、昔シ教科書ナリシ、文選ヨリ出デシナラム」 セハセハシク。コセコセシテ。俗ニハ、あくせくトモ云フ。文選、樂府、放歌行「小人自齷齪、安知二曠士懷一」(曠士ハ、心ノ曠キ大人ナリ)「齷齪トシテ小事ニ拘ハル」「あくせく働ク」

あくし (名) 【惡詩】 拙惡ナル詩。詩ノ、拙作ナルモノ。李白廬山瀑布詩ニ「飛流直下三千尺、疑是銀河落二九天一」トアルニ、徐凝ガ和シタルニ「一條界破青山色」ナドト云フ句アリ、蘇東坡、コレヲ嘲リテ「飛流濺沫知多少、不下與二徐凝一洗中惡詩上」 江戶、向島、木母寺内ノ龜田鵬齋ノ詩碑「長堤十里白無レ痕、訝似澄江其月渾、飛蝶還迷三月雪、香風吹度水晶村」廣瀨旭莊詩「十里長堤一片碑、東風吹落落花枝、落花縱是深三尺、不下爲二鵬翁一埋中惡詩上」(鵬齋ノ碑、現存ス、詩中ノ渾ハ、濁ノ意カ)

あくじ (名) 【惡事】 惡シキシワザ。善カラヌ所業。惡行。北夢瑣言、六、古語「好事不レ出レ門、惡事行二千里一」

あくしう (名) 【惡臭】 アシキ臭。不快ナルニホヒ。大學「如レ惡二惡臭一、如レ好二好色一」

あくじう (名) 【惡獸】 「惡ノ條ノ(二)ヲ見ヨ」 猛キケダモノ。猛獸。「惡獸毒蛇」

あくじき (名) 【惡食】 (一)猪肉、豚肉、ナドヲ食フコト。往時、獸肉ヲ食フコトヲ卑シメテ云ヒシ語ナリ。アクモノグヒ。(二)惡食ヲ見ヨ。

あくしつ (名) 【惡疾】 性ノ惡シキ病。專ラ、癩病ヲ云フ。婦ノ七去ノ一トス、其條ヲ見ヨ。

〔あくじつ (名) 【惡實】 牛蒡ノ實。藥用ノ名ナリ。字鏡三十二「牛蒡、支太支須」同五十二「惡實、支太支須乃彌」倭名抄、十七二十「本草云、惡實、一名、牛蒡、岐太岐須」

あくしば (名) 【灰汁柴】 「燒キテ灰トシ、染料トス」 ひさかき(柃)ヲ見ヨ。

あくしふ (名) 【惡習】 アシキナラハシ。惡弊。

あくしん (名) 【惡心】 ワルキココロ。惡念。國語、魯語「忘レ善則惡心生」

あくしゃ (名) 【幄舍】 あくのやヲ見ヨ。

あくしゃう (名) 【惡性】 〔ワルイ性、料簡、オモヒタチ、フルマヒ〕 (一)輕佻。イタヅラ。遊蕩。淫奔。寶山大鑑(延寶)態藝門、惡性「いたづら者ヲ云フ」 心中二、枚繪草紙(寶永、近松作)中「世ノあくしやうハ、若者、アラウ事トハ言ハレウガ」 長唄、娘道成寺(天明)「ドウデモ女子ハ、あくしよもの」 嬉遊笑覽、一、下十四「遊里ニテ、惡性男ノ髮切ルコトアリ、人懲ラサムトテスル、云云」 (二)惡性ノ條ヲ見ヨ。

あくしゅ (名) 【握手】 (一)二人、手ト手トヲ握リ合フコト。親シムニスル事ナリ。後漢書、李通傳「共語移レ日、握手極レ歡」 (二)歐米人ハ、人ト會見スル時ノ禮式トス。

あくしゅ (名) 【惡酒】 〔惡筆ト同趣、出典ノ惡人モ、容貌ノ醜キナリ〕 不味キ酒。粗酒。蘇軾詩「惡酒如二惡人一」

あくしゅ (名) 【惡趣】 あくだう(惡道)ノ條ヲ見ヨ。

あくじょ (名) 【惡所】 (一)惡シキ場所。法苑珠林「復何因緣不レ生二惡處一」(三惡道ナドナルカ) (二)險阻ナル坂路ナド。難所。盛衰記、三十七、義經落二鵯越一事「愛ハ大事ノ惡所、馬轉バシテ惡シカルベシ」

あくしょ (名) 【惡所】 〔惡性所ノ中略、(儉約饂飩、けんどん)惡性(遊蕩)ヲスル地ノ意。女殺油地獄(享保、近松作)下「金借リテ、惡性じょノ拂ヒシテ」惡性者ヲあくしょものト云フ、あくしゃうノ條ヲ見ヨ」 遊里。イロザト。狹邪 八十翁昔昔物語「昔ハ(元祿ノ頃)惡所通ヒスルニ、金子ヲコシラヘ、小袖、袴、羽折マデ、功者ト談合シ、茶屋ヘ行キ、茶屋女ヲアヘシラヒ、ハヅミヲ修練シ、云云」(節文) 心中天網島(享保、近松作)下「惡所狂ヒノ身ノ果ハ」

あくしょく (名) 【惡食】 〔惡ハ、粗ナリ、粗筆ヲ、惡筆ト云フモ、是レナリ〕 (一)粗末ナル食物。粗食。史記、項羽本紀「以二惡食一食二項王使者一」、謂二粗飯一也」 (二)惡食ヲ見ヨ。

あくずり (名) 【惡摺】 〔惡戲トシテ、版ニ摺リ出スナリ。惡繪ト云フモアリ〕 人ニ、失敗、又ハ、淫事ナドアリシ時、傍ノ者、其趣ヲ戲繪ニカキテ、板行シテ、竊ニ友人ノ間ニ配リテ、嘲リ合フモノ。天保頃ニ、江戶ニ始リタル惡戲ナリトオボシ、明治ノ初年マデ行レキ。

あくすい (名) 【不用水】 「明水ノ訛、(濃汁、あくしう)用水ニ對ス」 田ノ水ノ、用ナキ時、流シヤルモノ。俗語考(橘守部)あくど「東國ノ田舍ニテ、水田ノ水ヲ落ス小川ヲ、あくどトモ、あく水トモ、あくど川トモ云ヘリ、イハユル用水ハ、用アル水、是ハ、用ナキ時ニ、切テ落ス水ナリケレバ、言ノ意ハ、則、明落ノ謂ナリ」

あくせい (名) 【惡性】 (一)生レツキノワルキコト。世說、忿狷篇「便殺二惡性者一」 (二)性ノ惡キモノ。「惡性加答兒」「惡性水腫」 (三)あくしゃう(惡性)ノ條ヲ見ヨ。

あくせい (名) 【惡聲】 〔聲ハ、言語ナリ〕 (坂東聲)」 誹ル言語。ワルクチ。惡言。史記、樂毅傳「古之君子、交絕不レ出二惡聲一」

あくせうねん (名) 【惡少年】 性質ノ惡シ

キ少年。不良ノ子弟。又、惡少者。[illegible]書、昭帝紀「發三三輔及郡國惡少年、吏有三告劾一亡者一、屯二遼東一」[illegible]

あく-せく (副) [齷齪] あくさくノ條ヲ見ヨ。

あく-せん (名) [惡錢] (一)錢ノ、鑄損ジテ、文字ノ不明ナル、又ハ、小疵ナドアルモノ。三代實錄、十一、貞觀七年六月十日、[illegible]京畿、及、近江國、賣買之輩、擇二去惡錢一」(二)不正ノ所爲ニテ所得シタル金錢。「惡錢、身ニツカズ」

アクセント (名) [語調][音調] (英語、Accent. 揚音ノ意) 聲。發音ノ調子ニ、一語中ノ、某ノ一音ヲ強メテ發スルコト。東京ノ語調ニテハ、はし(箸)、かき(牡蠣)ハ、は、か、ヲ強メ、はし(橋)、かき(柿)ハ、し、き、ヲ強ムルナドナリ、但シ、京都ニテハ、此二ツノか、き、相反スルガ如シ。音符。顯昭私言「本邦之語、云云、呼レ柿曰二[illegible]後一則雙漬、曰二蠣起一則雙低、俱無二高低一而平聲也、呼レ堵曰二蠣起一則、先深後淺、而如二上聲一呼レ蠣曰二渦[illegible]後一則先後淺、而如二去聲一、云云」(後調集、大轄)

あく-ソウ (名) [惡僧] (一)惡行ノ僧。(二)荒ク猛キ僧。(惡ノ條ノ(三)ヲ見ヨ) 平家物語、二、座主流事「天台座主明雲大僧正ニ、與ヲ勸ム「[illegible]ト云フ惡僧アリ、丈七尺バカリアリケルガ、云云、先座主ヲ、嘗シ職マヘ參リテ、云云、狭攻合サルベウ候フト申シケレバ、先座主、オソロシサニ、イソギ乘リタマフ」

あくぞ-もくぞ (名) あくたもくたノ條ヲ見ヨ。

あ-くた (名) [塵芥] (塵芥(其條ヲ見ヨ)ニ、あノ接頭語ヲ冠ラセタル語、くたハ、腐るノ語根ナレバ、あくたるトモ云フベキナリ(離る、あかるる。戯る、あざるるノ類)) コノミ。ゴミ。ゴモク。[illegible]今集、十、物名、くたに「散リヌレバ、後ハあくたニ、成ル花ヲ、思ヒ知ラズモ、惑フ蝶カナ」倭名抄、一七「壇芥、阿久太布」(壇ハ誤ナリ、あくたふノ條ヲ見ヨ) 名義抄、壇、アクタ一字[illegible]、芥、アクタ一(糞ノ字ノ本義ハ、動詞ニテ、掃ふナリ、禮記、曲禮、上篇ニ[illegible]長者一糞之禮、必加一帚於箕上一ニトアリ、轉ジテ、掃フヘキ汚物ノ事ニ用ヰラル、倭名抄、名義抄ニ、糞トアルハ、此義ナリ、大便ノ意トナレルハ、再轉ナリ)

あくた (名) [蚘蟲] (詳ナラズ、腹中ノ芥ノ意ニテモアルカ) 人ノ腹中ニ生ズル蟲。今、音讀シテ、蚘蟲ト云フ。倭名抄、三十「蚘蟲、俗云、加以、又云、阿久太」

あく-たい (名) [惡對] (惡口ニテ對ふるヲ元トス) 惡口ヲ言ヒカクルコト。アクタレグチ。惡罵「あくたいヲツク」(嘘ヲツク)

あくたい-もくたい (名) あくたもくたヲ見ヨ。

あく-たう (名) [惡黨] ワルモノノナカマ。惡徒。東鑑奏記「誅二鋤惡黨一無二漏一網者二」吾妻鏡、十九、承元二年七月十五日「柏江入道增西、率三五十餘人惡黨一亂二入寺領一及二刈一田狼藉二(武藏國、威光寺ナリ)

あく-だう (名) [惡道] (又、惡趣。趣トハ、趣向ニテ、おもむく義、惡道、惡趣、共ニ、其處ニ往キ到リテ生ヲ結ブ意、四苦八苦スル境遇ヲ云フナリ) 又、惡趣。佛教ノ語。地獄道、餓鬼道、畜生道ヲ云フ。(各條ヲ見ヨ)併稱シテ、三惡道。三惡趣。榮花物語、三十、鶴林「己レヲバ、惡道ニ墮チヨト、惑ハサバコソハアラメ、タダ念佛ヲノミゾ聞クヘキ」佛法正宗記「荷以三今生一非レ得三福報一復[illegible]

[illegible]、[illegible]ノ[illegible]ニ[illegible]ムコト[illegible]、[illegible]ヒトシ[illegible]

あくた-び (名) [芥火] 海人ナド、藻芥ヲ掻キアツメテ焚ク火。[illegible]カニモ、我レヲ三島ノ、あくたびノ、(序)燃クトヤ人ノ、オトヅレモセヌ」(三島ハ、攝津ノ三島江ナリ、見ゐニウケタリ、萬葉集、十一「三島江ノ、入江ノ薦ヲ、カリニコソ」

あくた-ふ (名) [塵芥生] (園生、芝生) 塵芥ヲ棄テオクトコロ。チリヅカ。ゴミタメ。ハキダメ。倭名抄、一[illegible]、阿久太布」

あく-だま (名) [惡玉] ぜんだま(善玉)ノ條ヲ見ヨ。(糞ノ字ノ義ハ、あくたノ條ヲ見ヨ)

あくた-むし (名) [蛔蟲] 蚘蟲ト同義ニテモアルカ」あぶらむし(油蟲)ノ古名。本草和名、下廿「蛔蟲、阿久多牟之」

あくた-もくた (名) (俚言集覽、あくぞもくぞ、あくたもくた「人ノあらヲ云フ、芥、藻屑ノ義ナルヲ、上ノあくたニ連レテ、もくたニナリ、又、もくづ、轉ジテ、もくぞトナレルナリ」音調ニ因リテ、惡對ニ移シテ、あくたいもくたいトモ云ヒ、有象無象ニ寄セテ、あくぞうもくぞうトモ云フ」 人ノ瑕疵ヲアゲテ、サマザマニ言ヒ罵ルニ云フ卑語。又、アクゾモクゾ。アクゾウモクゾウ。アクタイモクタイ。「あくたもくたブチマケル」あくそもくそ言ヒ散ラス」

あく-た・る ルル・ルレ・レ・レヨ (他動、下二) [灰汁垂] 垂る(他動、下二段)灰汁ヲ垂らすナリ、然レドモ、灰汁ト合シテ一語トナレバ、自動ノ意トハナルナリ、醴ヲ、漉たむト云フト、同趣ナリ」灰汁ヲ滯ム。シタタラス。[illegible]、又[illegible]、漉[illegible]、(漉ト同ジ) 本草綱目、冬灰「今人、以灰淋汁、取[illegible]衣、發二麵[illegible]二染二諸色一二(灰汁ノ條ヲ見ヨ)

あくたれ-ぐち (名) [惡言] (口ハ、物言ヒナリ、あくたれるヲ見ヨ) 亂暴ナルモノイヒ。惡口。惡對。

あくたれ-こぞう (名) [暴行兒] (次ノ次ノ條ヲ見ヨ) 亂暴スル兒童。惡太郞。

あくたれ-もの (名) [暴徒] (次條ヲ見ヨ) 亂暴者。アバレモノ。吾吟我集(慶安)六、「布ナラバ、我ガ名ヲ白ク、イヒサラス、あくたれものノ、口ノサガナサ」(布ヲ、灰汁ニテ晒ス意ナルベシ)

あくた-れる レル・レレ・レ・レヨ (自動、下二) [暴行] 惡太郞ノ、惡太ヲ活用セシメタル語、料理、れうる。敵對、てきたふ。あほたらノ條ヲ併セ見ヨ」元來ハ、兒童ノ、やんちゃヲ言ヒトホシ、アバレルニ云ヒシ語ナリ、今モ、駿河、遠江邊ニテハ、此語ヲ、兒童ニ就キテノミ云フ」 無理ヲ言ヒ、亂暴ノ所行ヲス。

あ-くち (名) [開口] (あきくちヲ約ムレバ、あくちトナル。闕腭ト云フ語モアリ」(一)開口ト云フニ同ジ。連貫杏ニ足ヲ蹈ミ入ルル口ヲ、あくちト云フ。潤キテ、又、合ハスルナリ。[illegible]、高[illegible]、[illegible]ノ[illegible]ノ採足袋、云云、あくち[illegible]ナリ」(今ノ編上靴ニモ云フベシ) (二)あくちも切れぬ若者ナド云フハ、マダ[illegible]モ自由ナラヌ、口脇ノ黄ナル少年ナド言ハムガ如シ。乳臭兒 嫗山姥(正德、近松作)一「主、從、共ニ、あくちも切れぬ小倅ドモ」

あく-ち (名) [惡血] ソルチ。病ノ爲ニ、質ヲ變ジタル血。

あくぢょ (名) [惡女] 「書經、洪範篇「惡」傳「醜陋」拙貌、粗酒ヲ、惡筆、惡酒ト云フモ、此意ナリ」 容貌ノ、ミニクキ女。醜婦。史記、外戚傳「諺曰、美人入室、惡女之仇」嬉遊笑覽、六、下「あやふやの人形、云云、氣儘頭巾ヲ着タル、云云、狂歌ニ「半面ハ、サテ美人ヤラ、惡女ヤラ、此人形ノ、顔ノアヤフヤ」

あくと (名) [踵] 〔歩グ所、足掻ク所〕 クビス。キビス。カカト。倭訓栞、あくと「三議一統ニ見ユ、きびすヲ云ヘリ、今モ、東國ハ、サモ云ヒ、又、あどトモ云フ」物類稱呼(安永)一、跟「きびす、信州ニテ、あくつト云ヒ、越後ニテ、あぐト云ヒ、九州ニテ、あどト云フ」

あくと (名) [惡徒] ワルモノ。ナラズモノ。アクタウ。惡漢。史通「違二夫子之敎一、失二聖人之旨一、獎二進惡徒一、疑二悞後學一」

あくとく (名) [惡德] 不仁、不義ナル性行。書經、說命、中篇「爵罔レ及二惡德一惟其賢」

あくどし・キ・ケレ・ク・ク (形、一) [呶呶] 〔あハ、發語、あ諄しノ義(あ遍し、あ狹し(淺))〕 (一)クダクダシ。クドクドシ。宇津保物語、藏開、中四十七「北ノ方、ナドカ、物モ宣ハデ、アラアラシウ、カクあくどく言ハレタマフ」(二)程度過ギテ厭ハシ。シチクドイ。シツコイ。心入レノ、深キニ過ギ、彩色ノ、濃キニ過グルナドニ云フ。煩縟 濃厚

あくにち (名) [惡日] 事ヲ行フニ、凶ナリトスル日。(吉日ニ對ス) 鴉鷺合戰物語、第六、住吉願書事「壬午ハ、云云、乾ニ當リテ、天一神ノ方ナリ、餘ノ惡日ハ、暫クオキヌ、天一神ノ方ニ向キテ、是非弓引カヌ事也」朝倉敏景十七箇條「吉日ヲ選ビ、方角ヲ考ヘテ、時日ヲ移ス事、甚口惜ク候、云云、儀令、鎭所、惡日タリトモ、云云、臨機應變シテ、試ヲ本トセバ、必可レ被レ得二勝利一事」

あくにん (名) [惡人] (一)心惡シキ人。邪ナル人。ワルモノ。(善人ニ對ス) 梁書、賀琛傳「惡人日滋、善人日蔽」(二)容貌ノ、ミニクキ人。(惡女ト同趣) 孟子、離婁、下篇「雖レ有二惡人一、齋戒沐浴、則可三以祀二上帝一」蘇軾詩「惡酒如二惡人一」

あくにんがた (名) [惡人形] 〔女形、道化形〕 芝居ニテ、惡人ニ扮裝ツ者。惡形。元祿頃マデ行レタル稱呼ナリ、後ニハ、敵役ト云フ。丑

あくぬけ (名) [灰汁脫] あく(灰汁)ノ條ヲ見ヨ。

あくねせうちう (名) [阿久根燒酒] 薩摩國、出水郡、阿久根ノ地ヨリ產ズル燒酒。芳烈ナルヲ以テ名アリ、蕃薯ニテ釀スト云フ、賴山陽ノ詩ニ、蕃酒トシタリ。

あくねん (名) [惡念] 惡事ヲ、心ニ念ヒ居ルコト。惡心。

❖あぐ・ねる・ネル・ネレ・ネ・ネ・ネヨ (自動、下二) [厭倦] 〔つくねる、そねる〕 あぐむ(倦)ニ同ジ。イヤニナル。(東京)「仕事ニあぐねる」

あくのざ (名) [幄座] 次條ヲ見ヨ。

あくのや (名) [幄屋幄舍] 〔あげばりノ語原ヲ見ヨ〕 又、アゲバリ。集會ニ、參列ノ人人ヲ入レルガタメニ、臨時ニ、庭上ニ設クル假屋。細ソキ柱ヲ立テナラベ、幔幕ヲ、屋根、及ビ、三面ニ張リマハス、今ノ天幕ノ如シ。又、幄屋。幄舍。單ニ、幄。其内ニ置ケル胡床ヲ、幄の座ト云フ。倭訓栞、あく「幄ヲ、音ニテモ呼ベリ、幄屋、幄座ナド見ユ」大藏省式、幄幕用途「紺幄一宇、長七丈、廣二丈四尺」江家次第、十二、於二神祇官一被レ立二奉幣使一儀「東屋爲二幄屋一」永和大嘗會記、鴨河御禊「天長以來、多ク此流ニ幄屋ヲ設ケラルル」平家物語、十二、大地震事「法皇ハ、南庭ニ、あくやヲ立テテゾオハシマス」宇津保物語、藏開、上三十「左大將ノ君、云云、鳥ノ舞、云云、右近ノあくヨリ、孔雀ヲ出ス、左近ノあくヨリ、二ツヲ出シテ、其樂ヲ、上、下、ユスリテスレバ」雅亮裝束抄、一「縣近ク、三間ノあくヲ打チテ」儀式、三「歌人、先入レ幄、次、國司、就二幄座一」江家次第、十九、殿上賭弓「射手公卿、念人公卿兩三、起座著二幄座一」

あくば (名) [惡馬] 癇癖ノ强キ馬。アガリウマ。ハネウマ。惡馬。駻馬。周禮、夏官、馬質「惡馬」大鏡、下、道長「高名ノ、ナニガシト云ヒシ御馬、イミジカリシあくめナリ」今昔物語、廿二、第四語「惡馬アリケリ、人ノ乘ラムトスル時ニ、必ズ踏ミ咋ヒケリ」

あくば (名) [惡婆] 心ノ善カラヌ老女。毒婦。

あくび (名) [欠] 〔あくぶノ名詞形〕 倦ミ疲レ、或ハ、ネムタキ時ナドニ、口、自ラ開キテ、氣、大イニ出ヅルコト。體內ノ酸素ノ缺乏ヲ補ハムガタメニ、呼吸筋肉ノ不隨意運動ニ起ル。字鏡八十五「吹呿、開レ口出レ氣之貌、阿久比須」集韻「呿、口謂二之呿一」讚岐典侍日記(堀河院女房)「サリゲナク、モテナシツツ、あくびヲセラレテ」

あくびがた (名) [欠形] 〔側面ヨリ見レバ、口ヲ開キテ、欠シタルガ如シ〕 茶道ニテ、懸花生ノ製法ノ名。一尺六寸許ノ竹筒ヲ、上下ニ、節ヲ殘シテ、其中間半分ヲ削リ取リテ作ル。

あくひつ (名) [惡筆] 〔惡食、惡女、ノ條ヲ見ヨ〕 (一)製ノ粗ナル筆。(二)拙キ手跡。拙筆。拙書。海人藻芥(應永)下「中比ヨリ以來、能書共多ク見ユ、定家卿ト云フ名人ノ手跡、以外ノ惡筆也」塵添壒囊抄(天文)五、藁手事「筆モ禿ビ、ユガミテ惡ノ、[illegible]カルルハ、コレヤ藁波ノ、惡筆ナルラム」

あくびゃう (名) [惡病] 性ノ惡シキ病。癩病、黴毒ナドヲ云フ。惡疾。

あく・ぶ・ブ・ベ・バ・ビ・ベ (自動、四) [欠] 〔厭ヲ活用セシメシ語ナラム、名詞形ニあくびトナル、まぐはひモ、覓はひナルベク、厭倦むヲ、あぐむト云フ〕 欠ヲス。名義抄「呻、嗚、アクブ」榮花物語、廿六、楚王夢「イタウ打チあくばセタマヒテ」著聞集、六、管絃歌舞「御聲ヲ承ケタマハリテ、あくびテ、氣色カハリテ、云云、其病止ミニケリ」(病人ガ、神歌ヲ謠フヲ聞キタルナリ)

あくふう (名) [惡風] (一)草木、人家ナドニ害ヲナス大風。(二)惡シキ風俗。「惡風ニ染ム」

あくへい (名) [惡弊] ワルキナラハシ。惡習。

あくへき (名) [惡癖] ワルキクセ。

あくま (名) [惡魔] 魔ト云フニ同ジ。魔羅ノ條ヲ見ヨ。「惡魔外道」惡魔降伏」

あくまで (副) [飽] (一)〔飽キハツルマデ。萬葉集、十七二十「都方ニ、立ツ日近ヅク、安久麻底ニ、會ヒ見テ行カナ、戀フル日多ケム」(越中國ニテ、同僚ト餞別ノ宴ノ歌) 宇津保物語、國讓、中六十二「夜ハ御手ナラヒ、あくまでセサセタマフ」兼盛集「山櫻、あくまで今日ハ、見ツルカナ、花散ルベクモ、風吹カヌヨニ」字類抄「飽、アクマデ」(二)ドコマデモ。「あくまで言ヒ張ル」

あくまはらひ (名) [惡魔拂] 惡魔ヲ祓ヒ退クルコト。「惡魔拂ノ祈禱」

あぐみ (名) [趺坐] 〔あぐむ(趺坐)ノ名詞形〕 アグラカクコト。「丈六あぐみ」

あくみゃう (名) [惡名] 惡シキウハサ。

アクメイ。左傳、文公十八年「謂二之[illegible]」[illegible]

あぐみ・ゐる（動）〔趺坐〕次次條ヲ見ヨ。

あくむ（名）〔惡夢〕夢見ノ惡シキコト。エンギノワルキユメ。吉夢ノ反。[illegible]

あぐ・む・ム・メ・マ・ミ・メ（自動、四）〔趺坐〕〔足組むノ略（足掻く、足結）〕アグラヲカク。古事記、上[illegible]、天皇[illegible]、於二内床一[illegible]

あぐ・む・ム・メ・マ・ミ・メ（自動、四）〔倦〕〔厭倦ノ約ナラム、あくぶノ語原ヲ見ヨ〕厭ク、爲遂ゲカネテ倦ム。アグネル。厭倦。倦勞　太平記、三十五、仁木[illegible]共モ、今度ノ軍ハ、定メテ手痛カランズラント、あぐんデ思ヒケルガ、案ニ相違シテ、一軍モナケレバ、云云」[illegible]大刀ノ柄、あぐみ果テ」

あくめ（名）〔惡馬〕惡馬ノ條ヲ見ヨ。

あくめい（名）〔惡名〕あくみやうニ同ジ。

あくものぐひ（名）〔惡物食〕〔惡ハ、卽チ、荒荒シキ意、惡ノ條ノ（三）ヲ見ヨ〕荒荒シキ物食ヒ、イカモノグヒ。惡食。俗語〔[illegible]〕あし、[illegible]ニ、何ンテモカマハズ[illegible]ヲ惡物食スルト云フ」

あくや（名）〔幄屋〕あくのやヲ見ヨ。

あくやだま（名）〔阿久屋珠〕あさやたま（阿古屋珠）ノ條ヲ見ヨ。

あぐら（名）〔胡床・吳床〕〔縣居雜錄（加茂眞淵）[illegible]上座ノ意ナルベシ、[illegible]、高キ座ノ稱、[illegible]、あぐらハ[illegible]〕（一）上古ニ云ヘルハ、高ク大キク設ケタル座。寢處トモシ、又ハ、其上ニ趺坐ミテ、琴彈キナドシタルモノ。高御座ナド云フモ、是レナルベシ。古事記、上、[illegible]天若日子[illegible]倭文鐶ノ、阿娛羅ニ立タシ、飫待ツト、脍ガ在セバ」（御籠ノ時ナリ）[illegible]紀、元年正月「男大迹天皇[illegible]（高御座ナルガ如シ）（二）後ニ云ヘルハ、腰懸ノ用トシタル、机ノ如キモノ。前項ノ名稱ノ移リタルナリ、倚子ヨリハ大キクテ、背ニ、鳥居ノ如キ倚かかり立テルモノ、古圖ニ見ユ、支那製ノ胡床ニ倣ヒテ作レルモノナルベシ、吳床トモ云ヒ、音讀シテ、胡床トモ云フ、各條ヲ併セ見ヨ。胡床　倭名抄、十四七十「胡床、阿久良」皇太神宮儀式帳、荒祭宮「吳床、一具、[illegible]、長、二尺三寸」源、廿四、胡蝶「御前ニワタレル廊ヲ、樂屋ノ狀ニシテ、假リニ、あぐらドモヲ召シタリ」（樂人ノ座）濱松中納言物語、二「水ノホトリニ、錦ノ帳、打チワタシテ、あぐらドモヲ立テスヱテ、文作リアソビ」

あぐら（名）〔趺坐・盤坐〕〔吳床居ノ下略〕其條ヲ見ヨ、さぶしはじかみ、さぶし（辛夷）ノ類〕足組ミテ坐スルコト、卽チ、雨ノ膝ヲ曲ゲテ打チチガヘ、臀ヲ地ニツクルナリ。丈六足組。丈六居。此ノ如クスルヲ、あぐらを構く、陸に居る、おうら組むト云フ。

あぐら（名）〔[illegible]〕〔足[illegible]〕[illegible]條ヲ見ヨ〕アナナヒ。アシシロ。アシ[illegible]

あぐらなべ（名）〔趺坐鍋〕鍋ニテ物ヲ煮ツツ、趺坐ナリテ食フ、コト。

あぐらばな（名）〔趺坐鼻〕〔趺坐テ、[illegible]ノ出張リタル如シ〕人ノ鼻ノ、左右ニ開キテ、大ナルモノ。

あくらんのきやく（名）〔握蘭香〕〔蘭ハ、ふぢばかま、香草ナリ、雞舌香ノ條ヲ見ヨ〕辨官ノ異稱。[illegible]

あぐらゐ（名）〔吳床居〕〔あぐら（胡床）ノ條ノ（一）ヲ見ヨ〕胡床ノ上ニ趺居ミテ居ルコト。後世、趺坐ヲあぐらトノミ云フハ、此語ノ下略ナリ　古事記、下（[illegible]略）[illegible]、神ノ御手持チ、彈ク琴ニ、云云」（神トハ、天皇ノ御自稱ナリ）

あぐりあみ（名）〔揚繰網〕〔揚繰ヲ約ムレバ、あぐりトナル〕魚網ノ一種、長方形ニシテ、百間ニ超ユルモノアリ、上緣ニ、浮子ヲ附ケ、下緣ニ、括ルベキ引綱ヲ附ケ、廣ク魚群ヲ包ミ、數人ニテ、浮子繩ヲ手繰リアゲ、引寄セテ捕ル、鰯、秋光魚、鰺ナドニ用キル。コレニ用キル舟ヲあぐり舟ト云フ。安房國邊ニテハ、大籠一盃ノ魚ヲ、一あぐりト云フ

[illegible]

あくりやう（名）〔惡靈〕惡シキ怨靈。祟ヲナス死靈。蟲崇　大鏡、中、兼通「あくりやう[illegible]ニテヒビシ來給ノ一門、[illegible]、浮ミ出デタルゾヤ、云云、タトヒ、惡靈、怨ミヲナストモ、ソモ何事ノアルベキゾ」

あくりう（名）〔[illegible]〕〔[illegible]〕[illegible]ヲ見ヨ〕[illegible]ニアテ、[illegible]ノ中ニ飛ビ入レバ、云云、アタリニ近ヅク惡龍ナシ」

あくりよくけい（名）〔握力計〕人ノ握ル力ノ强サヲ檢スル器。[illegible]ノ內ニ、[illegible]、指針ヲ取付ケオキ、[illegible]力ノ强弱ニ因リテ度ヲ示ス。

あくるあさ（名）〔明朝〕次條ノ語ニ同ジ。

あくるあした（名）〔明朝〕前ノ夜明ケテ來ル朝。あくるあさトモ云フ。後朝。明朝。翌朝。崇神紀、十年七月「明旦」萬葉集、十五[illegible]ハズマニシテ、今ゾ[illegible]マナリ）

あくるけふ（名）〔明今日〕明クル日。翌日。榮花物語、二十三、駒競「昨日、御幸セサセタマヒテ、終日ニ御齋絃アリテ、あくるけふハ、心ノドカニ、秋ノ空モ靈リナク」

あくるつき（名）〔明月〕〔月次ノ、月ナリ〕前ノ月過ギテ、其次ノ月。翌月。クルツキ。

あくるつとめて（[illegible]）〔[illegible]〕〔つとめて[illegible]ノ[illegible]〕明クル朝ニ。[illegible]

あくるとし（名）〔明年〕前ノ年過ギテ、

其次ノ年。マタノトシ。クルトシ。ミャウネン。翌年。宇津保物語、俊蔭「あくる年ノ春ヨリ、云云」

あくる-ひ　(名)　|明日|　前ノ日過ギテ、其次ノ日。クルヒ。マタノヒ。名義抄「明、アクルヒ、アス」字類抄「明日、翌日、アクルヒ、マタノヒ」

あ-くゎい　(名)　|亞槐|　〔三槐、即チ、三公ニ亞ぐ意〕亞相ニ同ジ。大納言ノ異稱。權大納言、藤原雅親ノ家集ヲ、亞槐和歌集ト云フ。(後花園天皇ノ朝ノ人)故實拾要(享保、篠崎維章)十二「大納言、唐名、亞相、亞槐」

あ-くゎん　(名)　|丫鬟|　〔廣韻「丫、於加切、音鴉、物之岐頭、鬟角ナリ」〕年少ノ婢。コシモト。類書纂要「丫鬟、少女、垂鬟小婢也」馬祖常詩「江南女兒年十五、兩髻丫丫面粉光」梅宮社記「一夜三更之比、忽有二丫鬟小女一、而イ二枕上一」

あ-くゎん-だう　(名)　|阿觀堂|　阿彌陀ト觀世音トヲ安置シタル堂。江戶、芝、增上寺山內ナドニアリキ。

あ-くゎん-ぼく　(名)　|亞灌木|　くゎんぼく(灌木)ノ條ヲ見ヨ。

あけ　(名)　|赤|朱|緋|　〔赤ノ原語(竹、たか藪。酒、さか樽)〕(一)赤キコト。赤キ色。朱。論語、陽貨篇「惡二紫之奪一レ朱」(朱ハ正色、紫ハ閒色、不正ガ、正ニ勝ツヲ憎ム)「あけニ染ム」(二)赤ク塗リタルコト。萬葉集、三十九「赤ノ穗船」後拾遺集、二十、神祇「住吉ノ、松ノ下枝ニ、神サビテ、綠ニ見ユル、あけノ玉垣」(三)緋色。孝德紀、大化三年十二月「服色並用二深緋一」天智紀、六年閏十一月「緋二十四疋、緋布二十四端一」(四)緋ノ衣。アケゴロモ。五位ノ官人ノ着ル袍。即チ、緋色ナリ。後撰集、十五、雜、一、藤原ノさねきガ、藏人ヨリ位爵賜ハリテ、明日、殿上マカリオリナムトシケル夜ニ「ウバタマノ、今宵バカリゾ、あけごろも、アケナバ人ヲ、ヨソニコソ見メ」同、同「小野好古、云云、四位ニハ、必ズ、マカリナルベカリケルヲ、云云「タマクシゲ、二年逢ハヌ、君ガ身ヲ、あけナガラヤハ、アラムト思ヒシ」今鏡、下、腹腹の御子「タダビトノ五位、あけの衣ニテ、ウルハシクハアルベキヲ」

あけ　(名)　|明|　〔明く(自動、下二段)ノ名詞形〕夜ノ明クルコト。夜アケ。夜ノヒキアケ。天明「明暮」あけノ鐘」あけ六ツ時」

あげ　(名)　|上揚|　(一)上グルコト。(下ノ反)(二)上田ノ略。其條ヲ見ヨ。(三)兒童ノ服ノ、肩、腰、ナドニ、長キヲ縫ヒアゲテ襞ヲツケ、短メテオクコト。(體ノ成長ニ供フ)「肩ノあげ」腰あげ」大人ノ服ナルニモ、服ノ內部ニテスルヲ、內揚ト云フ。

あげ　(名)　|揚|　〔あげる(油浴)ノ名詞形〕(一)揚油ニテ煎ルコト。油浴「精進あげ」「胡あげ」(二)あげどうふ、あぶらあげノ略。

あげ　(名)　|逆鉤|　あぎと(逆鉤)ノ條ヲ見ヨ。

あげ-あし　(名)　|擧足|　(一)他ノ足ヲ擧ゲタルニツケコミテ、其足ヲ引キテ倒スコト。あげあしを取ルト云フ、關西ニテハ、あげあしを拾ふ。約メテ、足取。(二)轉ジテ、人ノ話ノ誤レル、其言葉尻ヲ捉ヘテ詰ルコトニモ云フ。

あげ-あぶら　(名)　|揚油|　あぶらあげニ用キル水油。ごまのあぶら、又ハ、なたねあぶらヲ用キル。

あ-けい　(名)　|阿兄|　〔阿(接頭)ノ條ヲ見ヨ〕己ガ兄ヲ親シミテ云フ語。イロセ。漢仲卿妻、古詩「阿兄得レ聞レ之、悵然心中煩」字類抄「兄、コノカミ、阿兄、舍兄」

あげ-いし　(名)　|上石|　圍碁ノ語。圍ミテ殺シテ、取リアゲタル敵ノ石。ハマ。死子。

あげ-いた　(名)　|上板|　廚ナドノ板閒ノ床ニ、釘付ケニセズ、蓋ノ如ク上ゲテ開クベク作リシ處、下ニ物ヲ貯フ。アゲブタ。

あ-けう　(名)　|阿膠|　〔支那ノ東阿縣ニテ製シタルヲ、上品ナリトス、川芎、金漆、同趣ノ語〕膠ノ、精製セラレタルモノ。藥用トス。和漢三才圖會(正德)三十七、畜類、阿膠「本草綱目、東阿縣(註、今、山東省、兗州府、陽穀縣)有二井官舍一、以二其井水一常煮レ膠以貢レ之、故名二阿膠一云云、肺大腸之要藥、云云、東阿膠、色光黑」

あ-けう　(名)　|阿嬌|　〔阿(接頭)ノ條ヲ見ヨ、增韻「嬌、妖嬈也」〕ウツクシキ女。漢武故事「若得二阿嬌一、當下以二金屋一貯上レ之」

あげ-うた　(名)　|擧歌|上歌|　內侍所ノ御神樂ニテ、神樂歌ヲ歌フニ云フ語。歌フ聲ヲ上グルヲ、あげト云ヒ、下グルヲ、おろしト云フ。本方、末方、(もとする(?)ノ條ヲ見ヨ)共ニ、あげニ歌フヲ、諸擧ト云ヒ、一方ハ、あげニ、一方ハ、おろしニ合唱スルヲ、片おろし、又ハ、片折(片下ナルベシ)ト云フ。又、歌ノ上ノ句ヲ、諸擧ニシテ、下ノ句ヲ、末方ニテ、おろしニ歌フヲ、末片折ト云ヒ、下ノ句ヲ、末方ニテ、あげニ歌フヲ、末諸擧ト云フ。(神樂入綾、中)神代紀、下三十「彥火火出見尊、豐玉姬ノ御歌ニ「此兩首、號曰二擧歌一」古事記、下(允恭)二十「輕太子ノ御歌ニ「夷振上歌」片下」下見ユ。(共ニ、樂府ニテ歌フニツキテ云フ)建武年中行事、加茂臨時祭「もろ歌」夫木抄、三十二、鼓「小夜深キ、貴船(山名)ノ奥ノ、松風ニ、巫ガ鼓ノ、かたおろしナル」

あげ-うま　(名)　|揚馬|　〔あげハ、引上ニテ、終フル意、あげ貝、あげ松、同ジ、あげる(終)ノ條ヲ見ヨ〕神事ノ流鏑馬ナドニ、最終ニ乘リワタル馬。吾妻鏡、八、文治四年二月廿八日、鶴岡宮臨時祭「有二流鏑馬一、二騎與レ之、馬長三騎渡二馬場一(馬長ガ、揚馬ニ乘リシナリ)」北條九代記、八「流鏑馬十六騎、揚馬終ハリテ」

あげ-えん　(名)　|揚緣|　緣側ノ、釣リアグベク作リタルモノ。商家ノ店先ナドニ設ク。

あげ-おとり　(名)　|結劣|　あげまさりノ條ヲ見ヨ。

あげ-おろし　(名)　|上下|　(一)上グルト、オロスト。アゲサゲ。「荷物ノあげおろし」箸ノあげおろし」(二)褒ムルト、貶スト。褒貶「人物ノあげおろし」(三)收ムルト、設クルト。「夜具蒲團ノあげおろし」(戶棚ノ上へあぐるニ就キテ云フナルベシ)

あげ-かすがひ　(名)　|擧鎹|　かすがひノ條ヲ見ヨ。

あけ-がた　(名)　|明方|　夜ノ明ケムトスル時。アカツキ。ヨアケ。天明　拾遺集、十一、戀、一「君ヲノミ、思ヒかけぢノ、玉櫛笥、(枕)あけがた每ニ、戀ヒヌ日ハナシ」

あげ-がひ　(名)　|揚貝|　〔あげ馬、あげ毯ト同趣ノ語〕本陣ニテ、諸軍勢引揚ゲノ指圖ニ吹出ス陣貝ノ聲。武家名目抄、軍陣部、四之四、陣貝、關東兵亂記、河越夜軍「多目周防守ハ、氏康ノ旗本ニアリシガ、あげ螺ヲ吹立テケレバ、諸軍、皆引歸ル」見聞雜錄「安部加賀守、御馬傍ニテ、揚貝、イカニモ音太ニ吹立タス、武田勢、皆皆引上ル」

あけ-がらす　(名)　|明烏|　明方ニ啼クカラ

ス。アサガラス。曉鴉

あげ-く (名) 擧句 〔終フル句ナリ、(あげる、終ヲ見ル、あげ具、あげ鎚ト同意)〕(一)連歌ノ、下ノ七七ノ二句。(發句ニ對ス) 文教温故、下「和漢連句ハ、歌ト詩トヲ聯句スルナリ、和漢ニハ、擧句、漢句タルベシ、漢和ニハ、和句タルベシ」(二)轉ジテ、ヲハリ。スヱ。シマヒ。トドノツマリ。結局 史記抄(文明)十六 四三十「擧言ニナリタガ、あげくノハテヲ見ヨヤ」

あげ-くだし (名) 上下 ハキクダシ。吐瀉

あげ-くび (名) 上頷 頷曲ノ條ヲ見ヨ。

あけ-くら・す・ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) 明暮 〔あけハ自動ナレド、くらすト熟語トナリテ、他動トナルナリ、射ふ(射る)ト云フ語モ、射(他)交ふ(自)ノ轉、他、自、合シテ、他動トナル〕月日ヲアカシ、月日ヲクラス。月日ヲ送ル。宇津保物語、俊蔭 二十三「春ハ花ヲ眺メ、秋ハ紅葉ヲ眺メテ、あけくらす」源、四十五、椎本 十三「サテモ、アサマシウテ、あけくらさルルハ、月日ナリケリ」

あけ-くれ (名) 明暮 (一)夜明ケト、夕暮ト。朝夕。朝晩。朝暮 拾遺愚草、上、梅「去年モコレ、春ノ匂ヒニ、ナリニケリ、梅咲ク宿ノ、あけくれノ空」(二)〔毎日。日日 源、二、帚木 四十「あけくれ、マツハシ、馴シタマヒケレバ」同、四、夕顏 三十一「あけくれ、打チトケテシモオハセヌヲ、心モトナキコトニ、思フベカメリ」

あけ-ぐれ (名) 明晴 夜ノ明方ノ、マダ薄暗キホド。昧旦 萬葉集、十一 四十二「朝闇ノ、朝霧ゴモリ、鳴キテユク、雁ハ吾ガ戀フ、妹ニ告ゲコソ」拾遺集、八、雜、上、曉ニ、ひぐらしノ鳴キハベリケレバ「朝ボラケ、ひぐらしノ聲、聞ユナリ、コヤあけぐれト、人ノ云フラム」源、十二、須磨 十一「あけぐれノホドニ、出デタマヒヌ」同、廿八、野分 十一「サヤカナラヌあけぐれノホド、イロイロナル姿ハ、何レトナク、[illegible]」あけぐれ「夜ノ明ケムトシテ、ヒトシキリ暗クナル時ナリ、云云、[illegible]」

あげ-おし (名) 上輿 輿ヲ、肩ニテ昇キ行ク輿。(下輿ニ對ス) 肩輿 [illegible]「肩輿、あげおし、春興塗」初例抄、下、永保元年十二月十二日、[illegible]「[illegible]不レ叶二行歩一也、七十三」明良洪範、十一「延寶八年[illegible]將軍宣下アリシ時、島津薩摩守綱貴、云云、我、今、嫡子ノ身ニテ、未ダ家督ハセサレド、家ニ用ヒ來リシ揚輿ヲ用フルニ、豈ニ遠慮スベケムヤ、云云」

あけ-おろも (名) 緋袍 緋ノ條ノ(四)ヲ見ヨ。

あげ-さげ (名) 上下 (一)上グルト、下グルト。アゲオロシ。(二)高クスルト、安クスルト。物價ニ云フ。昂低 (三)潮ノ滿チ來ルト、引キ去ルト。干滿「あげ潮、さげ潮」(四)請ケ出スト、預ケ納ルルト。(出納ノ意)質物ニ云フ。(質屋ノ棚ニあげさげスル意ニテ、夜具ノあげおろしト同ジ心ナルベシ)

あけ-さ・る・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) 明去 〔去るノ條ヲ見ヨ〕夜明ケニナル。アケダツ。アケハナル。萬葉集、三 三十九 長歌「居待月、(枕)明石ノ門ユハ、夕去レバ、潮ヲ滿タシメ、明去れバ、潮ヲ干シム」

あげ-しとみ (名) 上蔀 しとみ(蔀)ヲ見ヨ。

あげ-しほ (名) 上潮 上ゲ來ル潮。サシシホ。(ひきしほノ反)潮ノ條、見合スベシ。

あけ-すけ (名) 明助 〔明放ヲ擬人シタル語、呑助、やけ助、ノ類、サラケダス意〕隱事ヲモ、心ナシニ、容易ニ打明ケ語ルコトノ俗語。俚言集覽「あけすけ、物ヲツツミカクサザルヲ云フ」續歌加留多(正德、近松作)二「あけすけノ返事シタガヨイ」

あげ-ど (名) 揚簀戶 〔上蔀ナドト同ジ〕簀戶ヲ、突上戶ニ造リタルモノ。常山紀談、六、羽柴下總守勝雄、云云、城ヨリ出デテ壘キ、引取リタルヲ、敵、付ケ來ル、二ノ壘三ノ壘、門ヲ閉メテ、揚簀戶ヲ下シテ、敵ヲタテコメタリ」(二ノ壘三ノ壘ハ人名ナリ) 茶道筌蹄、一、庭之部「揚簀戶、云云、小屋敷二ツアリテ、路二ツニ分ルル境地ナドニ用ユ、揚簀戶、下リテアラバ、片方ノ道ヲ行クナリ、此簀戶、用ユル時ハ、客ヨリ前ニ、揚ゲ置ク」

あけ-ずのごもん (名) 不明御門 常ニ閉ヂテオク門。大內裏ノ北面ノ中央ノ御門ナル、偉鑒門ノ異稱トモス。拾芥抄、中、末、宮城門、偉鑒門「俗號二之不開御門一、或人云、花山院御出家之時、自二此門一令二出給一、云云、其後不レ被レ開歟」鎌倉年中行事「御榮地ノ內ハ、方四町也、云云、不レ明の御門モ、西ニアリ」御府內備考、三、馬場先御門(江戶城)「治世略記云、寬文八年四月、當春、火事ニ付テ、馬場先御門、往還仰付ケラル、是ニ依テ、橋カカル、元ハ、此御門不レ明、故ニ、俗ニ不明御門ト呼ブ」(古事類苑)

あげ-せん (名) 上錢 (一)物ヲ賣リアゲテ收メタル錢。興行物ノ木戶錢(入場料)ナドニモ云フ。(二)次次條ヲ見ヨ。

あげ-た (名) 高田 〔上田ノ轉ト云フ、(すがなし、すげなし)くぼたハ、窪田ナリ〕高キ地ニアル水田。下略シテ、あげトモ云フ。低キ地ノ水田ヲ、溝田ト云フ。古事記、上 六十九「其兄作二下田一者、汝命營二高田一、吾水故、三年之間、必其兄貧窮」神代紀、下 二十二「兄作二高田一者、汝可レ作二窪田一」萬葉集、十二 七「水ヲ多ミ、上ニ種蒔キ」

あげ-だい (名) 揚代 〔あげる(上)ノ條ノ(十一)ヲ見ヨ〕遊女ノ勤ニ揚ゲ雇フ、又、揚錢。後ニハ、關西ニテ花代、東京ニテ玉ナドト云フ。[illegible]

あげ-だし (名) 揚出 豆腐、茄子ナドヲ、胡麻ノ油ニテ、素揚ニシタルモノ。卸大根、生醬油ヲツケテ食フ。江戶名物誌、[illegible]

あげ-だたみ (名) 上疊 又、上疊。疊ノ兩面、共ニ、表ト緣トヲツケタルモノ、コレヲ、座敷ノ疊ノ上ニ敷キテ、貴人ノ座處トス、御座トモ云フ。(たたみノ條ヲ見ヨ) 類聚名物考、調度、四、あげだたみ「貴人ノ御座所、又ハ、寢所ニハ、疊ノ上ニ、又、疊ヲカサネテ敷クヲ、上疊ト云フ」

あけ-だ・つ・ツ・テ・タ・チ・テ(自動、四) 明立 〔たつハ、爲初ムル意、朝だつ、夕だつ、出たつ、際だつ、寶だつ、氣色だつ、皆、同ジ、秋就く、朝づく、夕づく、老づく、相似タリ〕夜明ニナル。萬葉集、十九 八十 長歌「霍公鳥、云云、礪波山、飛越エユキテ、明立たバ、松ノ小枝ニ、夕去ラバ、月ニ向ヒテ、云云、鳴キトヨメ」紫式部日記「あけだてバ打チナガメテ、水鳥トモノ、思フコトナゲニ、遊ビアヘルヲ見ル」

あけ-たて (名) 開閉 戶ヲ開キ、又、閉ヅルコト。[illegible]

あげ-だま (名) 揚玉 打毬ノ條ヲ見ヨ。

あげ-ち (名) 上地 あがり地ヲ見ヨ。

あげ-づかさ (名) 上官 官ノ昇進。[illegible]

物語、三、梟ニ義朝首ニ事、源義朝ガ首、獄門ノ樗ノ樹ニ懸ケラレタル所ニ、落首「下野ハ、きのかみ(木ノ上、紀伊守)ニコソ、ナリニケレ、よしとも見エズ、あげづかさカナ」(義朝、嘗テ、下野守タリキ)

あけ-つげ-どり (名) [明告鶏] 〔夜明ヲ知ラスル意ナリ、木綿附鶏、參見〕 鷄ノ異名。 夫木抄、廿七、鷄「巣守子ノ、觸ラヌコトモ、アリナマシ、あけつげどりノ、聲ナカリセバ」 枕草子、六、五十五段、常よりも異に聞ゆる物「元三ノ車ノ音、鳥ノ聲、曉ノシハブキ、物ノ音ハ、サラナリ」(もののねハ、管絃ナリ)

あげ-つち-もん (名) [上土門] 門ノ屋根ノ上ヲヒラメテ、土ヲアゲ、其上ヲ石灰ニテ塗リタルモノ。後ニハ、一種ノ造方ノ名トナル。 家屋雜考、三、上土門「古代ハ、屋上ヲ、少シヒラメテ、土ヲアゲタル物ナレバ、此名アリト云ヘリ、然レドモ、後世ハ、土ヲバ上ゲズ、一ツノ造方トナレリ、應仁記ニ、大名ノ家造、云云、上土門ヲゾ建テニケル、ナド記セルヲ見レバ、當時、上土門ヲ尊ビケム事、知ルベシ」 庭訓往來(元弘)三月「平門、上土門」 海人藻芥(應永)下、居所ノ事「武士ノ家ニハ、云云、上土門ヲ立ツル輩、少少有之」 應仁記、三、洛中大燒之事「大名ノ家作リ、吉良、石橋、澁川等ヲバ、先ヅオキテ、武衞、細川、畠山、山名、一色、六角ハ、上土門ヲゾ建テニケル」

✣あけっ-ぱなし (名) [明放] 〔あけはなしノ急呼、俗語ナリ、あけっぴろげ、同ジ〕 (一)開キタルママニテ、閉ヂヌコト。 (二)開キテ、内部ヲ隱サヌコト。あけっぴろげ。

✣あけっ-ぴろげ (名) [明廣] 前條ノ語ニ同ジ。

あげ-つぼ (名) [揚壺] 〔博奕ノ語、壺皿ヨリ起リシ語ナルベシ〕 俗ニ、欺カルルコト。タバカラレタルコト。ソレニ出會ヒタルヲ、あげつぼを食ふ、ト云フ。

(すやヲくふ、あわヲくふ)

あげつらひ (名) [論] アゲツラフコト。論こ

あげ-つら・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ(他動、四) [論] 〔あげハ、言擧ナリ、つらふハ、其條ヲ見ヨ〕 (一)互ニ理非ヲ擧ゲテ辯ジ合フ。論ズ。 推古紀、十二年正月、憲法、十七條「大事不レ可二獨斷一、必與レ衆宜レ論」 (二)可否ヲ言ヒ立ツ。言議 遷體紀、元年正月「勿レ論二貴賤一、但重二其心一」 遊仙窟「豈可三同レ年而語、共レ代而論二哉」

あげ-でふ (名) [上疊] あげだたみニ同ジ。

あげ-ど (名) [揚戶] つきあげどニ同ジ。

あげ-どうふ (名) [揚豆腐] 油揚豆腐ノ略。

あげ-どうろう (名) [揚燈籠] 高キ處ニ吊ル燈籠。 蠶 草(正保)をどり「揚燈籠、廻り灯籠ノ、軒ニフラメキ」 倭訓栞、どうろう「あげどうろうハ、天燈ト見エタリ」

あげ-どころ (名) [上所] 〔謹上所ノ意〕 書狀ノ、先方ノ名宛ノ所。宛所。 小大君集「田舍ヘヤル文ノ、あげ所ニ」 貞丈雜記、九、書札「上所ト云フハ、狀ノ宛所ノ人ノ名字ノ上ニ、或ハ謹上、或ハ進上ト書ク事也」

あげ-なべ (名) [揚鍋] 銅製ノ平タキ鍋。胡麻油、又ハ、牛脂、乾酪ナドニテ、食物ヲあげるニ用キル。フライパン。

あけ-に (名) [明荷] 竹葛籠ノ一種。外ヲ席ニテ被ヒ、角角、又ハ、押緣ニ、割竹ヲツヅリツケタルモノ。旅行ノ具トシ、假ニ細引ニテ束ネテ、時時明クルニ供フ。 俚言集覽、あけに「席ニテ作リ、其角角ニ、竹ヲ綴リ着ケタル匣ニテ、旅行ノ具ナリ」

あけ-のこ・る・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) [明殘] 〔ありあけの月ト同意〕 星ノ光、夜ノ明クルニ、尙、空ニ殘ル。 風雅集、十六、雜、中「白ミマサル、空ノ綠ハ、薄ク見エテ、あけのこる星ノ、數ゾ消エユク」

あけ-の-ころも (名) [明衣] あかはとりヲ見ヨ。

あけ-の-ころも (名) [緋衣] あけ(緋)ノ條ノ(四)ヲ見ヨ。

あけ-の-そほぶね (名) [赤曾朋舟] 〔赤、丹ニ、そほ(赭土)ノ條ヲ見ヨ〕 赤塗ノ船。アカラヲブネ。官船ナリト云フ。 萬葉集、十三ニ長歌「オシテル、難波ノ崎ニ、引キノボル、赤曾朋舟、曾朋舟ニ、綱取リカケテ、云云」 壬二集(家隆)中「霧晴ルル、紅葉ニマガフ、山本ノ、明のそほ舟、コガレテゾ行ク」

あけ-の-たまがき (名) [朱玉垣] 〔俗說贅辨(正德、谷重遠)一ニ、明木ノ玉垣ニテ、削リタル木ナリ、朱塗トスルハ、謂レナシト、出典ノ後拾遺集ノ歌ナド、其意ニモ思ハル〕 神社ノ玉垣ノ、赤塗ノモノ。 後拾遺集、二十、神祇「住吉ノ、松ノ下枝ニ、神サビテ、綠ニ見ユル、あけの玉がき」 夫木抄、三十四、神祇、鎌倉右大臣「舊リニケル、あけの玉垣、神サビテ、ヤブレル御簾ニ、秋風ゾ吹ク」

あけ-の-みやうじやう (名) [明明星] アカボシ。金星ノ條ヲ見ヨ。

あげ-ば (名) [揚場] 船ヨリ、物ヲ、岸ニ揚グル處。埠頭

あけ-はな・す・ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) [明放] 戶ナドヲ、皆、開ク。アケワタス。アケハラフ。開放

あけ-はな・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ(自動、下二) [明放] 夜、全ク明ク。アケユク。アケワタル。 源、四十八、寄生六十「あけはなるるママニ、霧ノ立チミチタル空、ヲカシキニ」

あげは-の-てふ (名) [揚羽蝶] 〔物ニ止マル時ハ、兩翅ヲ上ヘあげテ合ハス〕 (一)古名、ホホテフ。一種ノ蝶。體ノ長サ、八分、乃至、一寸、四翅アリ、兩ノ前翅ノ開張、二寸七分、乃至、四寸、體色、綠黃ナリ、前翅ハ、長三角形ニシテ、黑地ニ黃ナル斑紋アリ、後翅ハ、半圓形ニシテ、黑地ニ黃紋アリ、此蝶ハ、大鳥蠋ノ羽化セルモノナリ。鳳蝶 重修本草綱目啓蒙、廿七、蝶「一種、形、ニシテ、翅、淡褐色ニシテ、黑色ノ繆條網樣ノ文アルモノヲ、あげはのてふト呼ブ、云云、是レ、鳳子蝶ナリ」 (二)此蝶ノ、羽ヲヒロゲタル狀ヲカタドリテ、紋所ノ名、紐ノ結方ナドノ名トス。

あけ-ばん (名) [明番] 〔番明ノ意カ、泊番ノ朝ノ意カ〕 警衞ナドノ、勤務果テテ、退出スルコト。下番 教令類纂、初集、四十六、元祿十五年二月十五日、御持之頭「御番所、明不レ申候ニ詰切、當番、明番、代リ合ヒ可二相勤一候」

あけ-はら・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ(他動、四) [明拂] あけはなす(明放)ニ同ジ。

あげ-ばり (名) [幄] 〔揚張ノ義、平張ニ對ス、絹屋トハ、錦帛ノ幕ヲ張レバ云フナリ〕 釋名「幄、屋也、以レ帛衣レ板施レ之、形、如レ屋也」 帟、張在二人上一帟帟然也」帟ハ重ノ義〕 臨時ニ、庭上ニ設クル假屋ノ名。柱ヲ前部、後部ニ立テ並ベ、幔幕ヲ以テ、其上部、左右部、後部ヲ掩ヒ、中部ニモ柱ヲ立テ、特ニ高クシテ、幕ヲ上ゲテ張ル、棟ヲ成シ、屋ノ形ヲ成ス、コレヲ幄屋、又、幄トノミモ云フ。(あくのやヲ見ヨ)其上部ヲ上ゲズ、平カニシテ、天井ノ如クニ張ルヲ、平張ト云フ、(類

[illegible]、[illegible]、ひらばりノ[illegible]、ひらばりヲ通ジテ、絹屋トモ云フ、錦ノあげばり、錦ノひらばりナド云フ、是レナリ。[illegible]、[illegible]、[illegible]古事記、中(雄略)六七十「其山之上張ニ絁垣一立ニ幄幕一」齊明紀、二年九月「張ニ紺幕於ニ此宮地一而饗焉」(飛鳥岡本宮ニテ、三韓ノ使ヲ饗セラレタルナリ)枕草子、十一、[illegible]ノあげばりニ、[illegible]、イト[illegible]クテ懸ケワタシ」江次第抄、一、正月「平張、如ニ幄舎[illegible]」[illegible]七字、平張二字、[illegible]、[illegible]西宮記、七月十六日相撲式「[illegible]、[illegible]、[illegible]」樂人座、官人座」宇津保物語、樓上、上三五十「樂人モ、皆、ひらばりニ集リヌ、云云、西ノ方ノ、錦ノひらばり、大鼓 打チテ、[illegible]ニ、ヤウヤウ、樂頭出ヅ」源、廿[illegible]、[illegible]、ひらばりナドモ、[illegible]サレンス、[illegible]ニ設レル座ヲ、樂屋ノサマニシテ」榮花物語、十七、音樂、御堂供養「大門ノ外ニ、きぬや打チテ、許多ノ僧ノ、ソコヨリ參ルベケレバ、近クハ、エ寄リ參ラズ、行幸、行啓ヲダニ見ムトテゾ、立チコミタメル」江家次第、[illegible]

あけび (名) [通草] 次條ヲ見ヨ。

あけびかづら (名) [通草] (あけびハ、實ノ名、開肉ノ實ノ[illegible]、[illegible]、裂ケテ肉アラハス、[illegible]、あけびかづらハ、[illegible]、灌木トシテノ名ナリ、あけび蔓ト云フモ、同ジ」又、あけびづる。略シテ、あけび。蔓生灌木ノ名、山野ニ自生ス、[illegible]、[illegible]、葉ノ形、[illegible]ニシテ、五葉、一蒂ニ集リテ生ズ、夏ノ初、若葉ノ間ニ、[illegible]、[illegible]ニシテ、花ヲ開ク、[illegible]、[illegible]四五分、色ハ、淡紫ト白トアリ、蔕ヲ干シ

[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]ト云フ、[illegible]、[illegible]ニ[illegible]リ、[illegible]瓜ノ如ク、長サ二寸[illegible]、[illegible]ニ至リテ、熟スレバ、皮、紫色トナリテ、自ラ竪ニ裂ク、肉、白ク、味、甘クシテ、食フベシ、黑キ[illegible]シ。木通 [illegible]ヲ採リテ[illegible]ヲ[illegible]リ、[illegible]用、[illegible]用トス、又、山城國、鞍馬山ニテ、此灌木ノ若葉ヲ[illegible]ニシテ、木芽漬ヲ作リ、名[illegible]トス。[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、十七、[illegible]草、アケビカヅラ、アケビヅル」

あげびさし (名) [上庇] つきあげびさしニ同ジ。

あけびづる (名) [通草] 前前條ヲ見ヨ。

あげびんづら (名) [上鬢頰] びんづらノ條ヲ見ヨ。

あけひろぐ・グル・グレ・ゲ・ケ・ケヨ(他動、下二) [開廣] 廣ク開クル、開キテ、内ヲアラハニス。アケハナス。開放

あげぶた (名) [上蓋] あげいた(上板)ニ同ジ。

あけぼの (名) [曙] (空ノほのぼのト明クナル時)夜ノ、明ケムトシテ、日ノ光サス時。シラシラアケ。アサボラケ。シノノメ。[illegible]、三十八年[illegible]、[illegible]、名義抄、[illegible]、アケボノ[illegible]、一、[illegible]、[illegible]ハ、[illegible]、ヤウヤウ白クナリユク、[illegible]スコシ[illegible]テ、[illegible]ダチタル雲ノ、細ソク、タナビキタル」源、二、帚木「[illegible]ハ[illegible]ニ、[illegible]、[illegible]モノヲ[illegible]フ、[illegible]カニ[illegible]、[illegible]、[illegible]」

あけぼのぐさ (名) [曙草] [illegible]ヲ實スル[illegible]、木ヲ草ト云フハ、櫻ノ異名ヲ、[illegible]、[illegible]ト云フナド、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]利時代)八「[illegible]草、櫻ノ異名ナリ」

あけぼのぞめ (名) [曙染] [illegible]ノ空ノ色ノ如シ」染色ノ名。紅、又、紫ナドニテ、下ノ方ヲ濃ク、上ノ方ヲ薄クぼかしニ染メタルモノ、[illegible]ボカシゾメ。[illegible]色ニ代[illegible](貞丈[illegible]、[illegible])ニ[illegible]ハ、[illegible]ヲ、[illegible]色ニシテ、云云、[illegible]ノ[illegible]ヲ、[illegible]ノ口ニ組合シ、帶ニ、云云」

あげまき (名) [總角] (髪ヲ結ふヲあぐト云フ、結げ卷く意ナルベシ) (一)古代、少年男子ノ髪風。全髪ヲ、中央ヨリ兩分シ、頭上ニ縮ネテ、兩輪ヲ作レルモノ、[illegible]角ノ如シ、(大人トナレバ、[illegible]トナル)因リテ、總角、角髪、角子、等ノ字ヲ充テ用ヰル。後世モ、此髪風ハ、小童、又、少女ニモ結ハル。[illegible]、[illegible]、角[illegible]、角むすびナド云フモ是レナリ。[illegible]崇峻紀、註「古俗、年少兒、年十五六間、束ニ髪於額、十七八間、分爲ニ角子一」字鏡六「髪、角髯(髯八卯ノ誤)束髪、阿介万支」[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、以[illegible]兩角一 (二)髪ヲ總角ニ結ヒテ居ル年齢。髪風ヲ以テ、其年齢、又ハ、其年頃ノ童男女ノ稱トスルコト常ナリ、わらは、かぶろ、めざし、うなゐ、ナドノ如シ。景行紀、四十年十月「[illegible]、[illegible]、[illegible]」[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]ノ[illegible]ニ[illegible]リ、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]ニ結ヒタル少年。[illegible]、[illegible]阿介萬紋」神樂歌、總角「安介万支ヲ、早稻田ニヤリテ、ソヲ思フト」催馬樂、總角「安介萬支ヤ、[illegible]バカリヤ、[illegible]リテ寐タレドモ、轉ビアヒニケリ」源、十五、蓬生「馬牛ナドノ踏ミナラシタル路ニテ、存夏ニナレバ、放チ飼フあげまきノ心サヘゾ、メザマシキ」[illegible]月抄「總角ハ、童ノ名ナリ」

あげまき (名) [揚卷] (あげまきむすび[illegible]ト云フ[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]ヲ[illegible]、[illegible]ノ如シ」[illegible]ノ[illegible]、[illegible]ヲ[illegible]セル[illegible]ヲ以テ、左右ニ[illegible]ヲ作リ、眞中ヲいしだたみニ結ビテ、總ヲ垂ル。文箱、御簾、其他、諸具ノ飾トシ、又、鎧ノ背ノ、逆板ノ中央ノ環ニツケテ、垂ルルモアリ。萬葉集、[illegible]、[illegible]ニ、あげまき[illegible]、(歌)[illegible]、四十六、[illegible]角ニ「あげまきニ、[illegible]リヲ、結ビコメ、同ジ心ニ、寄リモアハナム」(名[illegible]ニ[illegible]ヲ結ビシナリ、同 心 結ヲ[illegible]セヨ)[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]打出デタリ」太平記、八、[illegible]三[illegible]事「[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]ノ)[illegible]ノ總角ヲ[illegible]ミテ、中ニ提ゲ、云云」([illegible]文)[illegible]、[illegible]瓔珞、二ヲ總角ハ、云云、[illegible]ハ、紅ノ唐打ヲ用ユ、[illegible]ハ、古ヘヨリ[illegible]ノ[illegible]セリ、云云、[illegible]ハ、[illegible]角ノ頭ヲ、大座ノ環ノ、上ノ方ヨリ引通シ、[illegible]ヘ、上卷ノ總[illegible]ヲクグラセ、ソノママニ垂レテオクナリ」(古[illegible])

あげまきがひ (名) [揚卷貝] (水管ヲ出シ垂ルルヲ、揚卷ノ紐ト見テ云フナリ」[illegible]貝ノ[illegible]、長方形ニシテ、長サ二寸[illegible]、[illegible]殼ノ外面ハ[illegible]ニシテ、内面ハ白シ、細ソキ二本ノ水管アリ、コレヲ殼外ニ伸べ出ス、[illegible]ノ泥中ニ棲ム。[illegible]、[illegible]、[illegible]、云云、[illegible]

あけまく (名) [illegible] (一)内ノ上ノ方ヘ、ハ[illegible]、[illegible]、[illegible]ス、[illegible]、[illegible](二)能[illegible]ニテ、[illegible]、[illegible]、[illegible]ト、[illegible]、[illegible]ノ[illegible]入口ニ掛ケ[illegible]、[illegible]、[illegible]人ニ[illegible]下ゲ、(二)芝居ニテハ、[illegible]ノ幕ニ[illegible]ク。又、切幕。

あげ-まさり（名）〔髻優〕髪ヲ結フヲあぐト云フ、まさり、おさりハ、顔がはりノスルナリ〕少年ノ、びんづらナルヲ、元服シテ、髪ヲ結ゲテ、顔容ノ、前ヨリ優リテ見ユルコト。コレニ反スルヲ、あげおさりト云フ。狹衣、四、下三十「其中ニモ、一宮ノ、御あげまさりノユユシサハ」源、一、桐壺「イト、カウ弱ナル程ハ、あげおさりヤト、疑ハシクオボサレツルヲ、アサマシウ、美シゲ副ヒタマヘリ」（源氏君ノ元服）花鳥餘情「童ニテ、ミメヨカリシ人ノ、冠シテ、見オトリスルコト」

あげ-まど（名）〔揚窓〕つきあげどヲ見ヨ。

あげ-まり（名）〔上鞠〕蹴鞠ニ云フ語。鞠ヲ、高カラズ蹴アゲテ落スコト。遊庭秘鈔、上「上鞠ハ、主人ノ方ヘ向テ、右ノ足、一ツ踏ミ寄リ、左ノ足、一ツ踏ミテ蹴ル、高カラズ蹴アゲテ落ニ、木ノ枝ニカクベカラズ、鞠ヲ人ニ蹴當ツベカラズ、鞠ノ高サ、目ヨリ下ト云フ說侍レド、ソレヨリハ高カルベキ歟」

あげ-まり（名）〔揚毬〕打毬ノ條ヲ見ヨ。

あげ-み（名）〔上刃〕〔服ノ腰揚モ、短クスルナリ〕古刀ノ刃ヲ、切リテ短クシタルモノ。刀心ノ先ヲ切ルナリ。又、すりあげみ。

あげ-みづ（名）〔揚水〕遠クヨリ導キテ、高處ニ揚ゲタル水。太平記、六、赤坂合戰事「水ヲ、十町餘リノ外ヨリゾ、懸ケタリケル、此揚水ヲ止メラレテ後、城中ニ水乏シウシテ」

あけ-むつ（名）〔明六〕曉ノ六ツ時。（暮六ニ對シテ云フ）時ノ條ヲ見ヨ。午前六時。

あげ-もち（名）〔揚餅〕餅ヲ、小サク切リテ、揚油ニテ煮ゲタルモノ。油餻

あげ-もち-ゐる・ヰル・ヰレ・ヰ・ヰ・ヰヨ（他動、上二）〔擧用登庸〕人ヲ採リアゲテ、官職ニハタラカシム。「人材ヲあげもちゐる」

あげ-もの（名）〔上物〕神佛、尊長ニ奉ル物。供物。獻上物。

あげ-もの（名）〔揚物〕「あげる（油浴）ノ條ヲ見ヨ」食物ヲ、揚油ニテあげタルモノ。食物ヲ、ソノママあげるヲ、素あげト云ヒ、水ニ溶キタルうどんこヲ塗シツケテあげるヲ、つけあげト云ヒ、ソノうどんこヲ、衣ト云フ。然シテ、東京ニテハ、ソノつけあげノ、蔬菜ナルヲ、精進あげト云ヒ、魚介ナルヲ、てんぷらト云フ。京阪ニテハ、てんぷらヲ、つけあげト云ヒ、半平ヲ素あげニシタルヲ、てんぷらト云フ。（守貞漫稿、後集、一）皇都午睡（嘉永）三編、上「揚物ヲ、天麩羅、又、金麩羅トモ、云云」

あげ-や（名）〔揚屋〕〔あげる（上）ノ條ノ（十）幷ニ、次條ヲ見ヨ〕遊女屋ヨリ、遊女ヲ招キテ、客ノ遊興スル家。京阪ニテハ今モアリ、江戸新吉原ニテハ、寶曆ノ頃、揚屋ヲ業トスル者絕エテ、揚屋町ノ名ヲ遺セリ。（遊女屋ノ條ヲ見ヨ）靑樓　浪花襍誌街廼噂、二、遊郭、新町「京ノ女郎ニ、長崎ノ衣裳ヲ着セ、江戸ノ張ヲ持タセテ、大坂ノ揚屋デ遊ビテイ、ト云フハ、新町ノ事デアリヤス」此事、好色一代男、六ニモ云ヘリ。

あげや-いり（名）〔揚屋入〕遊里ニテ、上等遊女ガ、客ニ招カレ、吾ガ家ヲ出デテ、揚屋ニ趣クコト。江戸ノ新吉原遊郭ニテハ、享保以後ハ、新造、禿ヲ從ヘ、盛裝シテ、前帶高ク締メ、高キ駒下駄ニテ歩ム、コレヲ道中ト云フ、其步行ノ仕方ニ、八文字を踏むト云フコトアリ、寶曆以後ハ、揚屋ト云フモノ絕エタレバ、引手茶屋入トナル。室町千疊敷（寬保、近松作）二「サテサテ、[illegible]揚屋入」異本洞房語園（享保）「遊女ノ揚屋通ヒノ往來ヲ、どうちうト云フ、云云、八文字ヲ踏ム」

あけ-ゆ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ（自動、四）〔明行〕夜、次第ニ明ク。アケハナル。アケワタル。源、五、若紫十八「あけゆく空ハ、イタウ霞ミテ」榮花物語、三十二、歌合「千代ヲゾ、ヘマホシカリシ夜ノ、あけゆきシコソ、アカズワリナカリシカ」

あけら-かん（副）〔痴呆〕あんけ（開口）ヲ見ヨ。

あ・ける・ケル・ケレ・ケ・ケ・ケヨ（他動、下二）〔明〕（一）他動下二段活用ノ、あく（明）ノ口語。開ク。（二）穿ツ。「穴ヲあける」（三）隔ツル。「間ヲあける」文書ノ一行あける」（四）始ムル。「芝居ヲあける」（五）暇ニス。「手ヲあける」（六）空シクス。空ニス。「一空家ヲあけワタス」路ヲあけテ通ス」入物ヲあける」

あ・ける・ケル・ケレ・ケ・ケ・ケヨ（他動、下二）〔傾注〕〔傾くノ口語、其條ヲ見ヨ〕器ノ中ノ物ヲ傾ケテ、他ノ器ニ注ギ移ス。「德利ノ酒ヲ丼ヘあける」重箱ノ粉ヲ皿ヘあける」

あ・げる・ゲル・ゲレ・ゲ・ゲ・ゲヨ（他動、下二）〔上〕〔擧揚〕（一）上グノ口語。（さげるノ反）。（二）吐ク。アグ。ヘドツク。嘔吐（三）價ヲ高クスル。高直ニスル。「直段ヲあげる」（四）役目ニ取立テル。登庸（五）差シ來ル。滿タス。滿潮ニ云フ。（あげ潮）滿潮（六）寺子屋、學校ニ入學セシム。就學「子供ヲ學校ニあげる」（七）取リアゲル。召シアゲル。（官ヘ收ムルナリ）沒收「役目ヲあげる」扶持米ヲあげる」（上地）（八）召捕リテ牢ニ入レル。投獄「[illegible]ヲあげる」（九）古刀ノ刃ヲ短クス。あげみノ條ヲ見ヨ。（十）遊女、女藝者ヲ呼ビテ興ズ。昔シ、攝津ノ淀川ノ江口、神崎ノ遊女ノ、舟ヲタラヒセシヲ、陸ニ呼ビあげテ遊ビシ事ノ遺レル語ナリト云フ。（揚屋、揚代）

あ・げる・ゲル・ゲレ・ゲ・ゲ・ゲヨ（他動、下二）〔終〕〔自動詞ノあがる（終）ヲ倂セ見ヨ〕（一）學ビ遂ゲル。習了　東行說話（寶曆）「我ガ娘ドモノ、筑紫琴ヲ習ヒシ時、花のふぶきノ歌ヲあげテ後、高崎女郎衆ト謠ヒシ、云云」「讀本ノ一ノ卷ヲあげる」（二）終ヘル。仕遂ゲル。シマフ。終了「賣りあげる」入レあげる」（揚毬）（三）合戰ヲ止メテ、軍勢ヲ退カシム。退軍「總勢ヲ引キあげる」（揚貝ヲ吹ク）

あ・げる・ゲル・ゲレ・ゲ・ゲ・ゲヨ（他動、下二）〔揚〕〔煮ユレバ、掬ヒ取リテ、鐵網ニあげテ油ヲ切ルナリ、此意ナルカ、尙、考フベシ〕揚油ニテ、肉菜ヲ煮ル。煮テ成ルヲ、あがるト云フ。油浴「豆腐ヲあげる」海老ヲあげる」てんぷらヲあげる」

あけ-わた・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）〔明渡〕家、又ハ、城ナドヲ明ケテ、人手ニ渡ス。

あげ-わた・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）〔揚渡〕殘ラズ揚グ。狹衣、一、上三十「タシカニ見ヨト宣ヘバ、半蔀高クあげわたしテ、人人アマタ見エハベリツ」

あけ-わた・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）〔明渡〕夜、全ク明ク。アケハナル。千載集、三、夏「燈スル、火串ノ松モ、（續松）消エナクニ、外山ノ霜ノ、あけわたるラム」

あげ-を（名）〔上緒〕〔髮結ノ緒ノ義〕（一）古代ノ冠ニテハ、羅ノ袋ヲ被リテ、髻ヲ包ミ、其根ヲ結ブ緒。其餘リヲ項ニ

[illegible]ル、[illegible]ノ[illegible]ニテ締メタル所ナリ」北山抄、七、列見事「[illegible]挿二[illegible]」挿二纓者冠左ノ巾子下、上緒上」今昔物語、廿六、第十三語「兵衛佐某ト云フ人アリケリ、冠ノ上緒ノ長カリケレバ、世ノ人、あげをノ主トナム、付ケタリケル」(二)後世ハ、纓ジテ、巾子ノ根ノ前面ニ作リツケテ、紐ヲ結ビタルガ如キモノ。武家裝束抄、三「冠ノ前、巾子ト甲トノ間ニ、横ニ引キワタセルヲ、あげ緒ト云フ」箋注倭名抄、四「[illegible]、古呼[illegible]、以[illegible]巾子本根[illegible]、[illegible]云云、或呼二上緒[illegible]云云、今時、稱二上緒[illegible]者、巾子前、[illegible]之形者」

あこ (名) [網子] 〔あみ子ノ略〕檝子、かこ。追子、せこ(列卒)」地曳網ヲ引ク者。萬葉集、三 三十「大宮ノ、内マデ聞ユ、網引スト、網子トトノフル、(呼集ムル)海人ノ呼聲」(難波宮行幸ノ時ノ詠カト云フ)

あこ (名) [阿古] 〔吾子ヨリ移リタルモノ、後ニハ、若子ト云フ、今世、小兒ヲ坊ト呼ビ、小兒、亦、自稱シテ、坊ト云フ、乳母ヲ云フハ、小兒ヲ育ツルヨリ移リタルナルベシ、あこ乳母ノ意ナルカ〕(一)童男、童女ノ稱。源、二、帚木 四十七「あこハ、我ガ子ニテヲアレヨ、云云、コノ子ヲマツハシタマヒテ、云云、親メキテアツカヒタマフ」細流抄「あこトハ、小君ヲサシテ言フ」(源氏、君ノ、小君ヲ呼ビシナリ)催馬樂、田中井戸「田中ノ井處ニ、光レル田水葱、摘メ摘メ、安己女、田中ノ小安己女」七十一番歌合(文安二[illegible])「[illegible]ノ調、あこヨウ、管持テ來ヨ」傀儡子[illegible]、あこ、土佐安[illegible]ノ上人、隣家ノ小兒、或ハ丁稚ナドヲ呼ベルニ、あこヨあこヨト云フトゾ」(二)童男ノ名トモシタリ。梅城錄(群書類從、[illegible])[illegible]「[illegible]小字[illegible](菅原道眞)後[illegible]、あこ、[illegible]菅原系圖ニ、菅公ノ幼名、阿呼ト書ケリ、云云、源氏物語ノ抄ニ、貫之ガ童名、内教坊ノあこくそト云ヘリ、(拾芥[illegible])語ノあこそヲ見ヨ) 大鏡、中、道隆「殿ノ御童名ハ、阿古君ゾウシ」(藤原道[illegible]) [illegible]、[illegible]、釋教 史部上記 [illegible]、[illegible]ハ、[illegible]ノ[illegible]一ケ[illegible]ゾ聞エ侍リ」(三)乳母ノ稱。倭訓栞、あこ「[illegible]ノ[illegible]、[illegible]ミタマフ事トテ、[illegible]ニ、[illegible]ノ色ニモ、似タルカナ、あこガ顔ニモ、ツクベカリケリ」大鏡、上、[illegible]「[illegible]宮(皇女)ノ、[illegible]ラセタマヘリケルニ、其ノ乳母ノ、御供ニ候フガ、[illegible]ヲ左ニササレタリケレバ、あこヨ、ナド[illegible]シク[illegible]シタルゾ、トコソ仰セラレケレ」(さしぐしノ條ヲ見ヨ)倭[illegible]、あこ「後小松院ノ御清所ニ、おあこアリ、一休和尚ハ、あこガ腹ナリト云ヘリ」(御清所ハ、御厨子所ナリ)南留別志(荻生徂徠)「あこトハ、乳母ノ事也、上總國一宮ト云フ所ハ、あこなし御曹司ノ城ナリト云フ、千葉介ガ、乳母ニ生マセタル子ナリ、なすトハ、生ムト云フ事也」

あこ (名) [榕] あこう(榕)ヲ見ヨ。

あこ (名) [赤魚] あかを(赤魚)ヲ見ヨ。

アーコ (名) [下火|下炬] 〔字ノ宋音ナリ、火ヲ下す義(下三連、火鈴、行火)〕禪宗ニテ、火葬ノ時、火ヲツクル所作。導師ノ役目ナリ、後ニハ、偈ヲ唱ヘテ、點火ノ態ヲナスノミ、麻幹ヲ束ネテ、炬ニ擬シ、圓相ヲ空ニ畫ク。下學集、下、態藝門「下火、二字、共、唐音也、禪家葬禮之法事也、火字、或作二炬字二」太平記、三十三、將軍逝去事「鎭龕ハ、天龍寺ノ龍山和尚、起龕ハ、南禪寺ノ平田和尚、云云、下火ハ、等持院ノ東陵和尚ニテゾオハシケル」(尊氏ノ、等持院ノ葬儀)

∴**あこ** (代) [彼處] 〔彼ト、處トノ條ヲ見ヨ〕あそこニ同ジ。(關西)

あご (名) [吾子] 〔吾ノ條ヲ見ヨ、人ノ事ヲ子ト云フ、其條ヲ見ヨ、濁音ニ云フベキハ、神武紀ニ見エタリ、あぎ、あぎみ、あぎ(吾君)ナドモアリ〕親族、又ハ、親昵ノ人ヲ、親シミテ呼ブ語。神武紀ニ、天皇、大久米部ノ者共ヲ、阿誤ヨ、阿誤ヨ、ト呼ビ、又、久米ノ子ト呼ビタマヘ[illegible]。萬葉集、十九 三十「光明皇后ノ、遣唐使藤原清河ニ賜ヒシ御歌「大船ニ、眞楫繁貫キ、此吾子ヲ、韓國ヘ遣ル、齋ヘ神等」(皇后ハ、清河ノ伯母ニマシマス) 同、十三 三十二 長歌「イカナルヤ、人ノ子故ゾ、通ハスモ吾子」(吾子ハ、妻ヲ云ヘリ)

あご (名) [顎|腭] 〔顎ノ轉(愛宕、あたご)〕(一)口中ノ骨。上ナルヲ上顎ト云ヒ、下ナルヲ下顎ト云フ。和漢三才圖會(正德)十二「顎、[illegible]、和名、[illegible]、俗云、腭、[illegible]、上下肉也」(二)專ラ、下顎。オトガヒ。キボネ。下顎 [illegible]中[illegible]記(明[illegible])[illegible]ノ薄キハ、耳ヲ越シテ分クルナリ、あごノ下ヲマハシテ、一方ノ額ノスミヨリ、云云」 あごを撫でるトハ、得意ナル時スルワザナリ。あごで人を使ふトハ、高ブリテスルワザ。頤使 あごをはづすトハ、頤を解くトモ云ヒ、口ヲ開キテ大イニ笑フナリ。あごが落ちるトハ、美味ナルニ勝ヘヌ意ニ云フ。あごを吊る、あごが干あがるトハ、口ヲ閉ヂテ食ハレズノ義、餬口ノ道ヲ失フ意ナリ。(卑俗ニ、食事ヲ、あごト云フ)

あご (名) [飛魚] 〔赤魚ノ約ト云フ、一種、紅色ノモノアリト云フ、是レナルベシ〕飛魚ノ一名。肥前國、平戸ヨリ、干シタルモノヲ出ス、酒ノ下物トシテ、玩味セラル。重修本草綱目啓蒙、三十七、文鰩魚「飛魚、トビヲ、トビウヲ、あご(筑前)、兩鰭長クシテ、尾ニ至ル、云云、碧背、白腹、云云、一種、紅色ナルモノアリ」

あご (名) [安居] あんご(安居)ニ同ジ。一夏安居ヲ見ヨ。

あこう (名) [榕] 〔又、あこ、共ニ、薩摩國ノ方言ナリ、あこうハ、延ベテ云フナルベシ、語原、假名遣ヒ、詳ナラズ〕 暖地ノ[illegible]、[illegible]、内地ニ[illegible]、[illegible]ニ[illegible]生ズ、[illegible]ハ、[illegible]、枝葉[illegible]長シ、花ハ、[illegible]、[illegible]シ、甚ダ小サク、[illegible]ハ、いちぢくニ似タレド、小サクシテ、熟スレバ[illegible]ナリ。[illegible]、枝ヨリ氣根ヲ垂下シテ、土中ニ入ルモノ、數條ニ至ル。本草一家言、二「榕、[illegible]、あこう、[illegible]」[illegible]、あこうト呼ブモノアリ、あこぎトモ云フ、云云、[illegible]ノ榕ナリ、云云、以[illegible]、[illegible]紀伊續風土記、物産、六、下「榕、日高郡ニテ、おほきの木、薩摩ニテ、方言、あかうト云フ」

あこえ (名) [距] 〔あハ、足ノ略、こえハ、蹴ゆノ名詞形、(足搔、あがき)くゆ(蹴)ノ條ヲ見ヨ、名義抄「距、アコエ、コユ」〕鷄、又ハ、雉ナドノ蹴爪ノ古名。字鏡[illegible]「[illegible]、距、[illegible]足角也、阿古江」倭名抄、十八 九「[illegible]、距、[illegible]」雄略紀、七年八月「闘鷄、[illegible]距[illegible]」 出雲九代記、承元元年三月二日「闘鷄、或ハ距ニ金ヲ入レ、或ハ翼ニ芥ヲ塗リ、云云」

あこがらす (動) [憧憬] あくがらすノ條ヲ見ヨ。

あこがる (動) [憧憬] あくがるノ條ヲ見ヨ。

あこぎ (名) [阿漕] 〔伊勢國、安濃郡、今ノ津市ノ東南方海邊ノ地名ナリ、阿漕の浦ト云フ〕(一)事ヲ度度スルコトニ云フ語。六帖、三[illegible]「[illegible]フコトヲ、あこぎノ島ニ、引ク網ノ、度重ナラバ、人モ知リナム」[illegible]ニハ、[illegible]ノ、[illegible]ト書ヘテモ云フ」[illegible]記、八、[illegible]「サテモ、西行發心ノ起リヲ尋ヌルニ、元ハ戀故トゾ承ル、申スモ恐レアル上臈女房ノ思ヒニカケ[illegible]

セケルヲ、あこぎの浦ぞト云フ仰セヲ蒙リテ思切リ、云云、乍ラ汝ノ道ニソ入リニケル」謠曲、阿漕(應永、世阿彌作)、阿漕が浦ハ、大神宮ノ御膳調進ノ網ヲ引ク所ニテ、禁漁ノ地ナルニ、阿漕ト云フ海人、夜夜、忍ビテ網ヲ引キ、度重ナレバ顯ハレテ、阿漕ヲ禁メ、此浦ノ沖ニ沈メケリ、憲清ト聞エシ、其歌人ノ忍妻、阿漕阿漕ト言ヒケムモ、唯一人ニ度重ナルゾ悲シキ」(節文、憲清ハ、西行ノ俗名) 義太夫節ノ淨瑠璃ノ田村麿鈴鹿合戰ノ一段ニ、謠曲ヨリ採リテ、其段ヲ、阿漕ト呼ブ、寛保元年ノ淺田一鳥作ナリ。(二)俗ニ、際限ナク貪ルコト。ボロイシカタ。貪慾 俚言集覽、あこぎ「貪ク事ヲ知ラヌヲ云フ俗諺ナリ、六帖、逢フ事ヲ、あこぎノ島ニ、云云、此歌ノ意ニテ、同ジ事ヲ度度スルヨリ出デタル語ナリ」

あこぎ-やき (名) 阿漕燒 「安東燒ヲ併セ見ヨ」伊勢國、安濃郡、阿漕ノ地ニテ産出スル陶器ノ名。嘉永年中、安濃郡、半田山ノ士ニ、阿漕浦ノ鐵沙ヲ煉リ合セ、素燒トシ、コレニ、眞鍮線ニテ象眼ヲシテ、本燒ヲシ、砥ヲ以テ象眼ヲ摩擦シ出ス、象眼燒、又、阿漕燒ト稱ス。近年ハ、花瓶、茶器、皿、鉢ナドヲ製シ、釉藥、灰色ニテ、青ミアリ。

あ-ごぜ (代) 吾御前 わごぜヲ見ヨ。

あこだ (名) 阿古陀 次次條、又、あこだがたノ下略。

⁂**あご-た** (名) 顎 「鬢ヲびんたナド云フト同ジキカ」あご(顎)ニ同ジ。(關西) 本朝三國誌(享保、近松作)三「ハット開イタルあごた骨」倭訓栞、あぎ「顎ヲ訓メリ、俗ニ、あごト云フ、あごたトモ云ヘリ」

あこだ-うり (名) 阿古陀瓜 「阿古陀ハ、地名ナルベシ」(一)往時、山城國、八幡ノ地ヨリ産ジタル瓜。略シテ、あこだ。形、ぼうぶらニ似テ小サク、眞圓ニシテ、徑六寸許、皮赤クシテ、襞無シ。紅南瓜 此瓜、寛文ノ頃、西瓜、盛ンニナリシヨリ、作ラズナリヌト云フ。類編集「知リタル人ノ、遠キ國ヘマカルトテ、あこだうりヲオコシタリケレバ、云云」殿中申次記(室町時代)二十「六月十八日、阿古陀、五籠、八幡、田中寺、例年進上」(松屋筆記、百五十七條) 大和本草(正德)八「あこだ瓜、京都ニ多シ、南瓜ニ似テ小ナリ、云云、黄花ヲ開ク、南瓜ヲ、あこだト訓ズルハ、誤レリ」倭訓栞、後編、あこだうり「産物誌云、阿古太瓜ト云フ物、夏日ヨリ、人ノ賞翫シ、隨分美味ナルモノニテ、其産地ヨリ、瓜毎ニ、印ナド押シテ出セシニ、近世、西瓜、盛ニナリシヨリ、イツトナク、作ラズナリヌ」(二)次條ヲ見ヨ。

あこだ-がた (名) 阿古陀形 あこだ瓜ノ形ニ似タル、種種ノ器ニ稱スル語。略シテ、あこだ。兜ニ、あこだがたト云フハ、此瓜ノ中央ヲ、横ニ切リテ、上部ノ形シタルモノ、頂、少シ凹メリ、あこだなりトモ云フ。燈臺ノ雪洞ニ、あこだト云フハ、六角形ノ、上下ノ窄リタル形ナリ、あこだ瓜ヲ縱ニ剝キタル形ヨリ云フトゾ。(柳亭記、上)同上ノ形シタル青磁、交趾ノ磁器ヲ、あこだ形ト云フ。茶道ニ、あこだノ茶入ト云フアリ。茶道筌蹄(文化)四、茶入、南瓜「如心齋、夢中ニ、あこだ瓜ノ形ヲ得テ、此器ヲ好ム、云云、身ハ、內黑、外溜、蓋ハ木地ナリ」

あご-なし (名) 無顎 (一)人ノ顎骨ノ、生得ニ、出張ノ短キモノ。(二)海魚ノ名。上顎、大キク、下顎、極メテ薄シ、體長、五六寸、長クシテ、ヒラタシ、黄色ニシテ、背ニ灰色ノ斑紋アリ、鱗ノ各列ニ暗色ノ線アリ。

あご-の-した (名) 齶下 頤ノ下ノ、脹レタル所。 箋注倭名抄、二ノ七 頭面類「咽下垂曰ㇾ胡、之太久比、今俗呼ニ阿呉乃之多ニ」 俗ニ、あごのした食殿建立ナド云フハ、上齶ノ下ナルベシ、餬口ヲ求ムル意ナリ。

あご-の-しづく (名) 齶雫 おとがひのしづくヲ見ヨ。

あご-ひげ (名) 顎髭 「口髭、頰髭ナドニ對ス」髭ノ、顎ニ生ユルモノ。

アゴン (名) 阿含 「梵語、阿伽摩(Agama)ノ轉、教ト譯ス」釋迦如來ノ所說ノ經典ノ名。小乘教ナリ。增一阿含經、長阿含經、中阿含經、雜阿含經ノ、四阿含經アリ。 翻譯名義集「阿含、此云ㇾ教、唯識論云、謂ニ如來所ㇾ說之教ニ」(節文)

あこめ (名) 衵 あこめぎぬヲ見ヨ。

あこ-め (名) 阿古女 阿古ノ條ノ(一)ヲ見ヨ。

あこめ-あふぎ (名) 衵扇 「安齋隨筆、五「女ノ扇ヲ、衵扇ト云フハ、衵ヲ着ル時ニ用ル故ナリ」」扇ノ一種。貴婦人ノ禮服ノ時ノ用ニテ、男子ノ檜扇ニ同ジ、(因リテ、あこめあふぎヲモ、俗間ニハ、ひあふぎト云フ、其條ヲ見ヨ) 但シ、裝飾異ナリ、檜ノ薄板、三十九枚、色色ノ絲ニテ綴ヂ、其餘リヲ、開キタル左右ニ、長ク垂ル、面ニハ、雲形ヲ、金銀、暈繝ニ畫キ、間間ニ、花鳥、梅、松、ナドヲ彩色シテ、裏ニハ、蝶、鳥ナドナリ。 裝束要領抄、後附、女官、衵扇「板數、三十九枚、總地、金銀、妻紅、金物、蝶鳥」

あこめ-ぎちやう (名) 衵几帳 几帳ノ小サキモノ。 類聚雜要抄、四、三尺几帳「弘四幅、一帖料、絹七丈二尺二寸、又、衵几帳調書、長三尺六寸」

あこめ-ぎぬ (名) 衵 「貞丈雜記、五、裝束、衵「單ト下襲ノ間ニ着コムル故ニ、あひこめノ訓ニテ、あこめト云フ也」(誓言、ちかごと。洗革、あらかは)漢字ハ、衵ナリ、袙ト書ケルアルハ誤レリ」(一)男子、束帶、直衣、衣冠、狩衣等ノ時、下襲ノ下、單衣ノ上ニ着ル衣ノ名。表ハ綾、裏ハ平絹ナリ、表、裏、共ニ、紅ニテ、老人ハ、白ヲ用キル。下略シテ、あこめ。 三條家裝束抄「束帶ノ下ナドニ重ネ用ルハ、纔著、以ㇾ是爲ㇾ袙」倭名抄、十二ノ十九「袙、阿古女岐奴」扶桑略記、廿六、康保三年十月七日、殿上侍臣舞、納蘇利「小舍人賓賚著ニ天冠舞衣ニ舞畢、召ニ賓賚於ニ床子ニ、脫ニ阿古女衣ニ賜ㇾ之」名義抄「袙、アコメキヌ、アコメ」(二)貴婦人、童女モ、あこめヲ着タリ、童女ハ、表ノ衣ヲ着ヌモノナレバ、あこめノママニテアルヲ、あこめ姿ト云ヒシガ如シ。 源、九、葵三十七「小サキ女童、云云、程ナキあこめ、人ヨリ黑ク染メテ、云云、着タルモ、ヲカシキ姿ナリ」(程ナキハ、小サキナリ、ココハ、喪服ヲ云ヘルナリ) 同、廿八、野分四十「女童ナドノ、ヲカシキあこめ姿、打チトケテ」類聚雜要抄、三、童女裝束事「打袙、長四尺」(打ハ、打衣ナリ) 胡曹抄、女房夏冬裝束「薄蘇芳ノ單重袙」正字通「袙、音日、說文、日日所ニ常衣ニ也、云云、男女近ㇾ身褻衣、皆曰ㇾ袙、云云、舊註、泥ニ左傳夏姬衵服ニ、增ニ女人近ㇾ身衣ニ誤」袙、音陌、始喪之服」

あこめ-すがた (名) 衵姿 前條ノ(二)ヲ見ヨ。

あこめ-だけ (名) 衵長 髮ノ垂レタル長サノ、衵ノ襟際マデアルヲ云ヘルナルベシ。 平家物語、十、千手事「十四五バカリナル女童ノ、髮ハ、あこめだけナリケルガ」

あこめ-ばかま (名) 衵袴 古ヘ、貴婦人ノ、衵ヲ着タル時ニ着ク袴。 安齋隨筆、五「女ノ袴、女ノ扇ヲ、衵袴、衵扇ト云フハ、衵ヲ着ル時

ニ[illegible]ナリ」

あこや (名) [阿古屋] 次ノ條ヲ見ヨ。

あこや-がひ (名) [阿古屋貝] 〔日本山海名物圖會(寶暦)ニ「あこや貝、あこやト云ヘルハ、[illegible]ノ名ニシテ、尾張國、知多郡ニアリ」倭名抄、六十二「智多郡、英比郷」神名式「知多郡、阿久比神社」(後ノ阿古居莊)あこや珠ヲ、あくや珠トモ云フ、阿久比ニ近シ〕介ノ名。暖海ニ産ズ、眞珠貝トモ云フ。方形ニシテ、大イナルハ二寸餘ニ及ブ、殼ノ外面暗褐色ニテ、ザラツキアルコト、蠣殼ノ如ク、裏ハ、白クシテ、青紫ヲ帶ブ、貴重ナル眞珠ヲ出ス、あこや珠ト云フ、肉、はしら、共ニいたやがひノ如クニテ、食フベシ。タマガヒ。珠母 珠牡 和漢三才圖會(正徳)四十七「阿古夜加比」重修本草綱目啓蒙(享和)三十一「眞珠、アコヤガヒ、タマツヒ、シンジユガヒ」明治廿二年以來、三重縣、志摩郡、神明浦ノ田(久、多ニ作ル)徳島ニ、養殖場ヲ設ケテヨリ、眞珠ノ産出盛ンナリ。

あこや-だま (名) [阿古屋珠] 〔前條ヲ見ヨ〕あこやがひノ珠。即チ、眞珠。〔其條ヲ見ヨ〕又、あくやだま。あこやのたま。蚌珠 六帖、三「伊勢ノ海ノ、海人ノシワザノ、あこやだま、取リテノ後モ、戀ノ繁ケム」(萬葉集、七ノ歌ノ作リカヘナリ、夫木抄、三十二、玉ノ歌ニハ、第三句、あくや玉トアリ) 新猿樂記、八郎眞人、阿久夜玉、夜久貝」宇治拾遺、十四、第六條「あこやの玉ノ大キナル、豆バカリアリケルヲ、云云」山家集、下「あこや取ル、眞貝ノ殼ヲ、積ミオキテ、寶ノ跡ヲ、見スルナリケリ」

あこや-たんご (名) [阿古屋團子] 團子ノ小サキモノ。 圓珠庵雜記(契沖)「伊勢ニハ、女ノワザニ、小サウ、ウツクシキ團子ヲ賣リアリクト下、あこや、あこ[illegible]、[illegible]カ、ト云フ、云云、あこやだまニ似タル故ニ、名ヲウツセルナルベシ」(あこやもちヲ併セ見ヨ)

あこや-なべ (名) [阿古屋鍋] 次ノ條ヲ見ヨ。

あこや-のたま (名) [阿古屋珠] あこやだまノ條ヲ見ヨ。

あこや-のまつ (名) [阿古屋松] 〔女子ニ命名ノ意、あこハ、吾子ニテ、親愛スル意、やハ、呼ビカクル辭ナルベシ(倭訓栞、あこやのたま)〕昔シ、今ノ羽前國、山形市ノ東南ナル、千歳山ニアリシ松ノ名ト云フ、奈良朝ノ頃、藤原豐成ノ女、阿古耶姫ノ墳址ナリト傳フ、和歌ニ詠ゼラル、松、今ハナシ。陸中、盛岡ヨリ製出スル鐵鍋ニ、阿古屋鍋ト云フアリ、松ノ模様ヲ鑄出ス、阿古屋の松ヲ象ルナリト云フ。 出羽ノ風土略記ニ、阿古屋姫ハ右大臣豐成卿ノ息女ニテ、卿ノ流罪ノ後、家子、姫ヲ伴ヒ、生國出羽ニ逃ゲ下ル、姫、末期ニ、千歳山ニ葬リ、印ニ松ヲ植ヱヨト云ヘリトテ、口碑ニ、辭世ノ歌「消エシ世ノ、跡訪フ松ノ、末カケテ、名ノミハ千千ノ、秋ノ月影」古今著聞、二、臣節ニ、一條院御時、中將實方、陸奥守ニテ下リ、あこやの松見ムトテ尋ヌルニ、老翁ガ、陸奥ノ、阿古屋の松ニ、木隱レテ、出ヅベキ月ノ、出デヤラヌカナ」トアレド、陸奥、出羽、分界前ノ歌ニテ、今、松ハ出羽ニ入レリト云ヘリ」トアリ、平家物語ノ卷二ニモ、此事ヲ載セテ「サラバトテ、實方中將モ、出羽ノ國ニ趣キテ、阿古屋の松ヲバ見テケル」トアリ、夫木抄、廿九、松ノ題ニ、讀人不知「陸奥ノ、あこやの松ニ、木隱レテ、出ヅベキ月ノ、出デヤラヌカナ」顯仲朝臣「オボツカナ、イザ古ヘノ、事問ハム、あこやの松ニ、物語リシテ」陸奥、出羽ノ分國ハ、和銅五年ナリ、初ノ歌ノ調、決シテ當時ノモノナラズ、次ノ歌ハ、實方ノ心ヲ詠ジタルナリ、此松ノ事、尙、異ナレル記事アリ、實事ハ知リガタシ。

あこや-もち (名) [阿古屋餅] 餅ノ一種。 [illegible]子ニ[illegible]リ、[illegible]云フいただ[illegible]ト云フ[illegible]ノ[illegible]ニテハ、今モあこや餅ト云フ由、云云、あこや貝ニ似タレバ云フニヤ(あこやだまヲ併セ見ヨ)

あさ (名) [朝] 〔あさたノ約、其條ヲ見ヨ〕夜明ノ後、數時間ノ稱。(夕ニ對ス) アシタ。アサケ。 萬葉集、二八「秋ノ田ノ、穗ノ上ニ霧フ、朝霞」同、八四十九[illegible]ニ、[illegible]見ル[illegible]ノ、[illegible]ノ」

あさ (名) [麻] 〔青麻ノ約轉、(つぼをる、つぼる。ひそめく、ひさめく)木綿ニテ作レルヲ、白和幣ト云ヒ、麻ニテ作レルヲ、青和幣ト云フ〕(一)〔草ノ名、古言、フサ。春蒔キテ、秋刈ル、莖、方ニシテ、直ニ生フルコト、七八尺ニ至ル、葉ノ形、かへでノ葉ニ似テ、長大ニシテ對生ス、莖ノ皮ノ纖維ヲ取リテ、麻絲トシ、其殘莖ハ、あさがらトナル。大麻 草ニ、雌、雄アリ、雄麻ハ、夏、薄綠ナル細カキ花ヲ生ジテ、實無シ。一名、サクラアサ。枲麻 雌麻ハ、花、綠ニシテ、細カキ粒ノ如キ子ヲ結ブ、あさのみト云ヒテ、食用トス。一名、ミアサ。苴麻 倭名抄、十四五十「麻、阿佐」萬葉集、九三十二「小垣内ノ、麻ヲ引干シ」(二)あさいとノ略。(三)あさぬの、又、あさぎぬノ略。(四)麻上下ノ略。

あざ (名) [痣] 〔倭訓栞、あざ、痣「黒キ色ハ、體ニ交リタルヲ以テ云フ也」(交ふト云フニヤ)イカガアルベキ〕人ノ肌ニ、異ナル色ヲ殘シ留メタルモノ。痣、傷、ナドニ因ル、天然ニ色ヅキタルニモ云フ。 倭名抄、三[illegible]、黶、阿佐、[illegible]、三十一[illegible]名義抄「黶、アザ、ホクロ」[illegible]集、十一、書圖「[illegible]ノ御面ニ、イササカあざノオハシケル」

あざ (名) [字] [illegible]ノ條ヲ見ヨ。

あざ [illegible] [字] 〔[illegible]〕名ナルハ、渾名ナルベキカ、地名ナルハ、[illegible]スベカラズ」古代ニ、人名、地名ニ用ヰタル[illegible]

あさ-あけ (名) [淺緋] 緋ノ條ヲ見ヨ。(一)緋色ノ、薄キモノ。[illegible]百六十斤」(二)五位ノ當色ノ袍。色、淺緋ナリ。 [illegible]、[illegible]ヘニソ、[illegible]ミソメケム」(六位ノ[illegible]ナリ)

あさ-あけ (名) [朝明] 〔あさけトモ云フハ、約レルナリ(眞青、さを。小雨、さめ)〕朝ニ、天ノ明クルコト。あさけ。アケガタ。天明 萬葉集、一、春、上「あさあけノ、[illegible]」[illegible]集、七[illegible]「奈呉ノ[illegible]ノ、[illegible]風ハ、寒ケレド、春ニハアレヤ、梅ノ香ゾスル」[illegible]集、[illegible]ノ、[illegible]、今日モカモ、[illegible]ノ浦回ニ、亂レテアラム」同、十四三十「防人ニ、立チシ安佐[illegible]ノ、[illegible]出ニ」

あさ-あけ (名) [朝霞] あさやけ(朝燒)ヲ見ヨ。

あさ-あさ (名) [淺淺] 〔[illegible]〕、數子ヲ、かずかず、同例」淺漬ノ、女房詞。あさづけノ條ヲ見ヨ。

あさ-あさ (副) [朝朝] アサナアサナ。マイアサ。

あざ-あざ (副) [鮮鮮] アザヤカニ。イチジルク。 [illegible]

[illegible]ノ表、云云、何トナク、コレヲ取上ゲテ見レバ、此ノ卒都婆ニ哀レアリト書キ流セル言ノ葉ナリ、文字ヲバ[illegible]、[illegible]ミツケタリケレバ、浪ニモ洗ハレズ、あざあざトシテコソ、見エタリケレ」

あざあざ。し・シキ・シケレ・シク・シク (形、二) 鮮鮮 アザヤカナリ。顯ナリ。 著由、如[illegible]ノ[illegible]シテ、[illegible]ノ[illegible]ヲ、あざあざしくハ申サネドモ、アラアラ、一義ヲアラハスベシ」(二通リノ説明ヲ云フベシ)

あさ-あめ (名) 朝雨 朝ニ降ル雨。古事記、上一四「長歌、阿佐阿米ノ、佐霧ニ起タムゾ」諺「朝雨ニ、傘要ラズ」(タダチニ晴ルルヲ云フ)

あさ-あらし (名) 朝嵐 〔あらしハ、吹キスサム風ナリ〕 朝ニ、強ク吹ク風。續古今集、六、冬「朝あらし、山ノ藤ナル、川ノ瀬ニ、浪寄ル葦ノ、音ノ寒ケサ」

あさ-い (名) 朝寢 〔寢ノ條ヲ見ヨ〕 あさねニ同ジ。萬葉集、十九廿一「ホトトギス、今朝ノ朝明ニ、啼キツルハ、君聞キケムカ、朝宿カネケム」源、四十八、寄生六十「女ドチハ、シドケナク、あさいシタマフラム」

あさ-いち (名) 朝市 魚類、野菜物ナド、朝ニ持寄リテ開ク市。

あさ-いと (名) 麻絲 又、麻緒。麻ヨリ作レル絲。秋、莖ヲ刈リテ、蒸シテ外皮ヲ剝ギ、水ニ浸シ、細カニ裂キテ絲トス、今ハ、機械ナドニテ作ル、布ニ織リ、縄ニナフ、強クシテ、用ヲナスコト極メテ多シ。略シテ、あさ。倭名抄、十四五十機織具「麻、乎、一云、阿佐」源順集、七月七日、女、庭ニ下リ居テ、七夕祭ル、男、來テ、透垣ノ許ニ立テリ「七夕ニ、今朝ハ貸シツル、あさノ絲ヲ、夜ハ祭ルト、人ハ知ラズヤ」古事記、中(崇神)廿八「所レ著レ針麻」

あさ-うら-ざうり (名) 麻裏草履 ふぢくらざうりノ底ニ、粗ナル麻絲ノ組緒ヲ縫ヒツケタルモノ。下略シテ、あさうら。

あさ-うり (名) 淺瓜 〔他ノ瓜ニ比シテ、色淺き義ト云フ說アリ〕 しろうりノ一名。(京都) 本朝食鑑(元祿)三「白瓜、訓、古今如レ字、京俗稱ニ淺瓜ニ」物類稱呼(安永)三「越瓜、しろうり、京ニテ、あさうりト云フ」

あさ-おき (名) 朝起 朝ニ、早ク起キ出ヅルコト。(朝寢ノ反) 晨起 早起 狂言記、福神「朝起ヲ疾ウシテ、慈悲アルベシ、人ノ來ルヲモ、厭フベカラズ」諺「朝起ノ家ニハ福來ル」明心寶鑑「景行錄云、觀ニ朝夕之早晏ハ、可ヲ以テ卜ニ人家之興替ニ」(俚言集覽)

あさ-かげ (名) 朝影 (一)朝、鏡ニ映リタル、身ノ影。萬葉集、十九廿二長歌「朝影見ツツ、少女ラガ、手ニ取リ持タル、眞鏡」 (二)朝日ノかげ。朝日ノ光。宇津保物語、梅花笠九「朝影ニ、遙ニ見レバ、山ノ端ニ、殘レル月モ、嬉シカリケリ」 (三)人ノ身ニ、朝日ノ映レバ、影ノ細長ク見ユルヨリ、戀ニ瘦セ細リタルニ云フ。萬葉集、十一五「朝影ニ、吾ガ身ハナリヌ、タマカギル、(枕詞)ホノカニ見エテ、往ニシ子故ニ」(子ハ、女ナリ) 同、十二三十三「年モ經ズ、歸リ來ナメド、朝影ニ、待ツラム妹ガ、面影ニ見ユ」古今集、十一、戀、一「戀スレバ、我ガ身ハ影ト、ナリニケリ、サリトテ人ニ、添ハヌモノユヱ」

あさ-がけ (名) 朝驅 〔軍ニ進ムヲ、驅くト云フ〕 (一)軍ニテ、朝ニ早ク、不意ニ敵ヲ襲フコト。又、あさおみ。(夜討ニ對ス) 足利季世記、三、常桓逸向、享祿三年九月廿一日「富松城エ朝がけシテ攻落シ、二千餘人、首ヲ取リテ、云云」武家叢話、四、高麗陣、黒田長政「或時、夜ノ引明ニ、陣中俄ニ騷動ス、長政モ、敵、朝込ニ來ルト心得、云云、見舞フニ、大ナル虎、一疋、馬屋へ入リ、馬共嚙殺シ、狂ヒマハル」 (二)早朝ニ出向クコト。「あさがけニ人家ヲ訪フ」

あさ-がしは (名) 朝柏 〔此語、萬葉集ノ枕詞ニアレド、詳ナラズ〕 朝、時雨ノ降リカカル柏ノ木。夫木抄、二十九、柏「風吹ク、原ノ外山ノ、朝がしは、降ルヤ時雨ノ、色ニ出デツツ」

あさ-がすみ (名) 朝霞 (一)かすみノ條ヲ見ヨ。 (二)あさやけノ條ヲ見ヨ。

あさ-がすみ (枕) 朝霞 〔朝霞ハ、殊ニ深ク立ツ故ニ、彌重ニツヅキ、髣髴ニツヅク、かひやニツヅクハ、冠辭考ニ、朝霞ノ薫るト云フ、其首音ニ言ヒカケシナルベシト云ヘリ、神代紀、上十二「唯有ニ朝霧ニ而薫滿之哉」(朝霧、朝霞、同ジ、かすみノ條ヲ見ヨ、尙、かをるノ條ヲ見ヨ)〕 八重山、髣髴、香火屋、(其條ヲ見ヨ)ノ枕詞。萬葉集、十七廿一「朝霞、八重山越エテ、呼子鳥、鳴キヤ汝ガ來ル、宿モアラナクニ」同、十二廿一「切目山、行交フ道ノ、朝霞、髣髴ニダニモ、妹ニ會ハザラム」(切目山ハ、紀伊國ニアリ) 同、十五十三「朝霞、鹿火屋ノ下ニ、鳴ク河蝦、(声)聲ダニ聞カバ、吾レ戀ヒメヤモ」

あさ-かぜ (名) 朝風 朝ニ吹ク風。海岸ニアリテハ、日出後、陸地ヨリ海面ニ向ヒテ吹キ、山間ニアリテハ、頂ヨリ谷ニ向ヒテ吹ク、氣溫ノ低キ方ヨリ、高キ方ニ、空氣ノ流動スルナリ、太陽昇リテ、地面ノ受熱增セバ止ム。萬葉集、一廿八「宇治間山、朝風寒シ、旅ニシテ、衣貸スベキ、妹モアラナクニ」

あさ-がたち (名) 朝容 あさがほ(朝顔)ノ(一)ノ條ヲ見ヨ。

あさ-かは (名) 朝川 朝ニ、川ヲ渡ルコト。夕ニ渡ルヲ、夕川ト云フ。萬葉集、一八十長歌「モモシキノ、大宮人ハ、船並メテ、旦川渡リ、舟競ヒ、夕川渡ル」十六夜日記「二十七日、明ケハナレテ後、富士川渡ル、朝川、イト寒シ」

あざ-かへ・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) 交返 〔あざハ、交ふノ語根〕 鮮返すニ同ジ。活版、倭語類、稱外、あざかへす「あざハ、あざなふナドノあざニテ、念ヲ入レテ、タビタビスルヲ云フ、古德傳、文ヲあざかへし、義ヲワキマヘテ」家長日記「スベテ、二千首ニ及ベルヲ、ソコラ御覽ジ、あざかへさセタマヘレバ」

あさ-がへり (名) 朝歸 外宿シテ、翌朝、歸宅スルコト。萬葉集、二十三、皇子尊宮舍人等慟傷作歌(皇太子草壁皇子薨)「旦覆、(動詞)日ノ入リユケバ、御立シシ、島ニ下リ居テ、歎キツルカモ」(佐田岡ノ御墓ニ宿直シテ、翌朝、晴番ニテ、島宮ニ下ルルナリ、此前ノ、同ジ舍人ノ歌ニ「橘ノ、島宮ニハ、飽カネ(バ)カモ、佐田ノ岡邊ニ、侍宿シニ行ク」トアリ) 神樂歌、朝倉、或說「イザ歸リナム、阿左加倍里ナム」(動詞) 爲尹千首、寄レ鶏戀「アヂキナヤ、人ノ契リノ、あさがへり、行方モ鶏ニ、隔テヘテツツ」

あさ-がほ (名) 朝顏 (一)〔朝ノ寐起ノ顏。朝容〕 枕草子、十、百三十三段「殿オハシマセバ、寐クタレノあさがほモ、時ナラズヤ御覽ゼム、ト引入ラル」類政集、上「暮レヌトテ、人寐ル野邊ノ、女郎花、今サバ花ノ、朝がたち見ム」 (二)蕣燒ノ異名。(後水尾院年中行事)婦人語ニテ、燒キタル面ノ、清ラカナラヌヲ、女ノ朝顏ノ、ツクロハヌニ譬ヘテ云フ。(片言、四) 俳諧懷子集(明曆)「明ケナバ顏ノ、みつちや見エマシ」タマクシゲ、蓋ヲシテ置ケ、麩のやきニ」

あさ-がほ (名) 朝顏 〔朝ノ容花ノ意、容花ノ條ヲ見ヨ〕 朝ニ、美シク咲ク花。夫木抄、四、花櫻、與風「句歌ノ浦へ、イザ歸リナム、朝がほノ、一花櫻、ウツロヒニケリ」(ハカナク散ルニ因リテ、ひとはなざくらト云フ)

あさ-がほ (名) 朝顏 〔前條ノ語意ニテ、一草ノ名トセシナリ、朝花ト云ハムガ

如シ、朝ニ咲クガ美シケレバ、呼バレシナルベシ、(觀シキ紺青色ニテ、桔梗色トモ云ハル)後ニ、をかさときノ名モ亡ビ、又、あさがほノ名ハ、次條ノ木槿ニ奪ハレ、字音ニテ、ききやう、又、きちかう、又、ききやうト呼バル、是レハ、野生ノ宿根草ニテ、秋ノ七草ノ中ニ入ルナリ、又、木槿ハ、灌木ニテ、夏秋ノ交ニ、花咲クナリ、藤井高尚ノ松の落葉ノ一ニ、桔梗、木槿、牽牛子ニ通ジテ、確說アリ、木槿モ、牽牛子モ、後ノ外來ノモノナレバ、萬葉集ニ詠マルベキナシ」桔梗ノ異名。今、桔梗ト云フ、其條ヲ見ヨ。字鏡、草部九十二「桔梗、阿佐加保、又、岡止止支」天治字鏡、七十「桔梗、阿佐加保」萬葉集、八五十三「詠ニ秋野花一「秋ノ野ニ、咲キタル花ヲ、指折リ、搔數フレバ、七種ノ花」(秋ノ七草ナリ、萩ノ花、尾花、葛花、撫子ノ花、女郎、又、藤袴、朝貌ノ花」(旋頭歌ナリ) 同、十三十五「朝杲ハ、朝露負ヒテ、咲クト云ヘド、夕影ニコソ、咲キマサリケレ」此歌、萩ノ歌、數十首ノ間ニ挟マリテアリ、サレバ、三ノ句ニ「萩ハ」ヲ加ヘテ解スベシ。(山彦冊子、二)

あさ-がほ (名) [朝顏] (此灌木、字音ニテ、木槿ト呼ベバ、漢種ノ移植ノモノナリ、サレバ、野生ニナシ、其花、朝ニ咲キテ、暮ニ落ツレバ、朝顏ト云フ、色、種種ニシテ、殊ニ美麗ナレバ、前條ノ桔梗ノ名ヲ奪ヘルナリ、然レドモ、又、次條ノ牽牛子ニ、其名ヲ奪ハレテ、字音ノ方ニテ、呼バルルヤウニナレリ、下學集、下、草木門「槿花、云云、宋人詩曰、槿華籬下點ニ秋事、早有ニ牽牛上レ竹來ニ」」木槿ノ異名。倭名抄、二十廿「蕣、朝生夕落者也」說文「蕣、木槿、朝華暮落者」朗詠集、上、秋、槿「槿花一日自爲榮」名義抄「槿、アサガホ、蕣、アサガホ」色葉字類本草、上二五十「木槿、ムクゲ」下學集(文安)下、草木門「蕣華、俗訓、朝顏也」

あさ-がほ (名) [朝顏] (平安朝ノ初期ニ、實ヲ藥用ニスルタメニ、漢種ヲ渡シシ草ニテ、野生ニナシ、即チ、字音ニテ、牽牛子ト云ヒキ、實ノ名ナルガ如シ、其條ヲ見ヨ)朝ニ花咲キテ、其碧色ノ美麗ナルコト、前條ノ木槿ニ超ユレバ、其名ヲ奪ヒ、けにごしノ名ハ行ハレズ、終ニ、あさがほノ名ヲ專ラニシテ、今ノ世ニ到レリ(コレニ對シテ、晝顏、夕顏ト云フ、草ノ名起ル)」(一)(又、牽牛子。蔓草ノ名。物ニ絡リテ長ズ、葉ハ互生シ、三尖、或ハ、五尖ニシテ、微毛アリ、花ノ形、漏斗ノ如クニシテ、徑、三四寸、夏ノ末ヲ盛リトシ、朝ニ早ク開キ、日ニアタレバ萎ム、實ハ、蕎麥子ニ似テ黑シ、漢方醫ハ、藥用トシタリ。 牽牛子 本草和名、上四十七「牽牛子、阿佐加保」(倭名抄、二十七同ジ) 拾遺集、二十、哀傷、朝がほヲ、何ハカナシト、思ヒケム、人ヲモ花ハ、サコソ見ルラメ」 源、二十、朝顏七「枯レタル花ドモノ中ニ、朝がほノ、コレカレニ這ヒマツハレテ、アルカナキカニ咲キテ」 合類節用(元祿)六、生植門「牽牛花、木草、花如ニ鼓子花ニ碧色、日出開、日西萎」 加賀の千代女ノ句「あさがほニ、釣瓶取ラレテ、モラヒ水」(安永四年歿、年七十四) 花ノ色、最初ノ渡來ノ時ヨリツヅキテ、碧色、白色ノ二種ナリシガ如シ、然ルニ、江戸時代、中末期ヨリ、人爲ノ培養ニ因リテ、淡濃ノ紅、紫、藍等ノ數色ヲ生ジ、大輪、小輪、單瓣、重瓣ノ花形、又、葉ノ變形等、千差萬別ナルニ至リ、賞翫スル者多ク、朝顏合ノ行ハレタルコトアリ。(二)朝顏ノ花ノ、仰ギタル形シタルモノヲ、朝顏形ト云フ。「朝顏爪」「朝顏煎餅」小便所ノ受筒ヲ、朝顏ト云フ。

あさ-がほ (名) [朝顏] ([illegible]) [illegible]ノ名、[illegible]ノ一名。[illegible]音ニアサガホ一[illegible]、[illegible]名、阿佐加保ト見ユ、是レ古[illegible]也」

あさがほ-あはせ (名) [朝顏合] 物合ノ一。種種ノ牽牛花ヲ持チ寄リテ、其花色、並ニ、葉形ノ珍種ノ優劣ヲ競フ遊。此事、文化十三年刊ノ、高田與清ノ擁書漫筆ニ見エタレバ、時代ハ知ルベシ。

あさがほ-がひ (名) [朝顏貝] 介ノ名。殼、稍、蝸牛ニ似テ、厚ク、美麗ナル紫色ヲ呈ス、深海ニ棲息シ、時ニ群集シテ、海面ニ浮游スルコトアリ、多ク、相摸、紀伊等ノ海ニ產ズ。 倭訓栞、あさがほ、貝ノ名ニ云フハ、拳螺ノ類、色瑠璃ナリ、和歌の浦ニアリ」

あさがほ-ざる (名) [朝顏笊] 笊ノ、上部、開キ、下部、窄ク、牽牛花ノ形ノ如ク作リタルモノ。

あさがほ-せんべい (名) [朝顏煎餅] 一種ノ煎餅ノ名。元祿ノ頃、江戸名物ノ一タリ。正德年中、江戸ノ芝居ニテ、助六ト題スル演劇ニ、朝顏仙兵衛ト云フ俠客ヲ出セリ、其流行セルコト知ルベシ。俚言集覽、あさがほせんべい「上開、下窄、牽牛花ノ形ニ似タル煎餅ヲ云フ」

あさがほ-ぞめ (名) [朝顏染] (紫紺ノ牽牛花ヲ採リテ、紙ニ押シテ、其色ヲ染ムルコトアリ、ソレニ似タルナリ」 染模様ノ名。紺、又ハ、紫ナドニテ、處處、ぼかし染ニシタルモノ。元祿ノ頃、流行セリ。

あさがほ-の (枕) [朝貌乃] 「[illegible]ハ、字ナリ、[illegible]朝貌ノ花ノ、[illegible]ルク開出ヅル意ニ云ヒツヅケ、受ケタルナリ」上ニテハ、色ニ出テテ、人ノ目ニツク由ナリ」穗ト云フ語ニ、枕詞。 萬葉集、十四十「言ニ出デテ、云ハバ、忌忌シミ、朝貌乃、穗ニハ咲キ出デヌ、戀ヲスルカモ」(桔梗ニ云ヘルナリ)

あさがほ-ひめ (名) [朝顏姫] 織女星ノ異名。倭訓栞、あさがほひめ「織女ノ異名ナリト云ヘリ、[illegible]テ、七夕ノ[illegible]ケリ、牽牛子ノ[illegible]ヲ七回ウト云ヘリ、サレバ、牽牛ノ名ニ因リテ、此花ヲ用ヰ、たなばたヲモ、カク呼ベルナルベシ」

あさ-がみしも (名) [朝上下] 麻布ニテ作リタルかみしも。麻上下。徳川時代ニハ、士庶人ノ通常禮服トシタリ、普通ハ、薄鼠色ニテ、白ク小紋ヲ染メ出ス、紋所ハ、上ニハ、背ニ一ツ、肩ノ前、左右ニ附ケ、袴ニハ、腰板ニ一ツ附ク。略シテ、あさ。 武德編年集成、七、永祿七年三月「[illegible]寺高康君ノ畫像ハ、云云、島ノ小袖ニ、麻上下、云云」寛文中ノ年頭ノ禮ノ獻書、月代ヲ致シ、麻對ノ上下ヲ着シ、云云」(嬉遊笑覽、二) 天明集成[illegible]、廿、「正月十四日、御年寄ニ付、[illegible]麻上下、[illegible]、御門番、大名、御儀式御成ノ節、云云、麻ニテツトメル也、云云、御用ノ義有レ之テ令ニ登城ートノ時ハ、云云、麻ニテ出ヅルハ、吉事ナリ」

あさ-がみなり (名) [朝雷] 朝ニ、雷ノスルコト。往時ハ、暴風雨ノ兆ナリトシタリ。諺「朝雷ニ、川渡リスナ」朝雷ニ、戸明ケズ」

あさ-かん (名) [朝刊] ゆふかん(夕刊)ヲ見ヨ。

あさか-やま (名) [安積山] なにはづノ條ヲ見ヨ。

あさがら（名）［麻幹］麻ノ莖ノ、絲ヲ取去リタルモノ、白クシテ稜アリ、輕クシテ折レ易シ、聖靈祭ニ箸トシ、畫工ニ燒筆トシ、燒キテ火口ノ炭トシ、合藥ニモ用ヰル。一名、ヲガラ。

あさがらす（名）［朝鴉］朝ニ鳴ク鴉。アケガラス。萬葉集、十二 廿八「朝烏、早クナ鳴キソ、吾ガ夫子ガ、朝明ノ姿、見レバカナシモ」

あさがり（名）［朝獵］朝ノホドニスル獵。夕ナルヲ、夕獵ト云フ。萬葉集、一 長歌「吾ガ大君ノ、云云、朝獵ニ、今立タスラシ、暮獵ニ、今立タスラシ、御執ノ、梓ノ弓ノ、鳴弭ノ、音スナリ」同、六 四十 長歌「吾ガ大君ハ、云云、朝獵ニ、鹿猪踐ミ起シ、夕狩ニ、鳥踏ミ立テテ、馬並メテ、御獵ゾ立タス、春ノ茂野ニ」

あさがれひ（名）［朝餉］〔かれひハ、湖月抄別記（橘守部）ニ「輕飯ノ義」ト云ヘリ、按ズルニ、かるいひ、かりひ、かれひ、ト約轉シタル語、（僕、やつがれ）大床子ノ御膳ナルハ、強飯ニテ、あさがれひナルハ、姫飯ナルベケレバ、云フナルベシ、（餉ト書クハ、當字ニテ、乾飯ニアラズ、行クニ送ル、餉ニモアラズ）海人藻芥（應永）中「公家（主上）御膳飯ハ、強飯也、執柄家等如此、姫飯、全分略儀也」然シテ、朝ノ御膳ノ稱ノ、移リテ、夕ノ御膳、夜ノ御膳、ヲモ稱セシナラム〕（一）主上ノ供御ノ稱。 源、一、桐壺「膳ナドモ食シメサズ、あさがれひノ、ケシキバカリ觸レサセタマヒテ、大床子ノ御膳ナドハ、イトハルカニ、オボシメシタレバ」[illegible]、上、[illegible]、夕、近代、一度供、[illegible]、夕、夜、供、若一度供、[illegible]、又、只[illegible]、三度、云云」年中行事歌合（貞治）三十八番「[illegible]トキタ、ヨソノ數々ノ、あさがれひ、（序）マダ手モ觸レズ、人ヤ撤フラム」（桐壺ノ文ニ因リテ詠メリ）（二）供御ヲ供フル所ヲ、朝餉ノ間ト云ヒ、清涼殿内ノ夜御殿ノ西ニ接ス。略シテ、あさがれひトノミモ云フ。 禁秘御抄、上「朝餉、二間、南平敷二枚、東北立三尺屏、夜御殿方有二副障子一」枕草子、一、第四段「あさがれひのまニ、上ハオハシマス」源、十七、繪合「あさがれひノ御障子ヲアケテ、中宮モ、オハシマス」平治物語、一、光頼卿參内事「朝餉ノ方ニ、人音ノシ、椅形ノ穴ニ、人影ノウツルハ、何者ゾ」合類節用（元祿）二、乾坤門「朝餉間、在二清涼殿內一、天子進二食飯一」倭訓栞、あさがれひ「朝餉ト書ケリ、天子ノ朝ノ供御ヲ云フ節ナリ、云云、朝餉の間ト云フハ、清涼殿ニ在リテ、朝夕ノ供御ヲ備フル所ナリ」

あさき（名）［惡材］〔惡木ノ轉カ（よささま、よささま」〕節多キ、粗惡ナル材木。千載集、十三、戀、三「四阿屋ノ、あさきノ柱、（序）朽レナガラ、イツふしナレテ、戀シカルラム」（亂れたからニカケタリ）夫木抄、廿九、木「取リカヌル、あさきノ宮木、節繁ミ、（序）サモわれニクク、人ノ言フカナ」（我れ憎くニカケタリ）新六帖、六、檐「四阿屋ニ、建テシバカリノ、眞木柱、あさき契リニ、ふしハ老エニキ」

あさき（形）［淺］あさしヲ見ヨ。

あさぎ（名）［淺黃］黃色ノ、淡キモノ。 延喜式「淺黃綾一疋、刈安草、大三斤八兩、灰一斗二升」

あさぎ（名）［淺葱］次次條ヲ見ヨ。

あさぎいと（名）［淺葱絲］あさぎ色ニ染メタル絲。保元物語、一、官軍方方手分事「基盛、云云、白青ノ狩衣ニ、淺黃絲ノ鎧ニ、云云、黑馬ニ、黑鞍置キテゾ、乘リタリケル」

あさぎいろ（名）［淺葱色］〔葱ノ葉ノ、青クシテ白ミアルヨリ云フ、（此色ノ濃キヲ、萌葱色ト云フ）玉かつま、十「古キ物ニ淺黃トアルハ、黃色ノ淺キヲ云ヘル也、然ルヲ、後ニ、淺葱色トマガヒテ、淺葱色ノコトヲモ、淺黃ト書ク」俚言集覽、淺黃「延喜式ノ淺縹ハ、うす青ナリ、うす青ヲ、あさぎト云フニハ、淺葱ヲ用ウベシ、葱ノ葉ノ色ノ淺キ也」〕（一）色ノ名。藍色ノ、極メテ薄キモノ。アサミドリ。ウスミドリ。ウスアヲ。水色。略シテ、あさぎ。普通ニハ、淺黃ト記ス。 淺縹 延喜式「淺縹綾一疋、藍一圍」右京大夫集（建禮門院ノ女房）十二月一日ノ詠「空ヲ見アゲタレバ、殊ニ晴レテ、あさぎ色ナルニ」下學集（文安）下、彩色門「淺黃、淺葱也」合類節用（元祿）六、服食門「淺黃色、本字、淺葱」（二）次條ヲ見ヨ。

あさぎうら（名）［淺葱裏］〔あさぎハ、普通ニ、淺黃ト書ク、前條ヲ見ヨ〕（一）衣服ノ裏地ノ、淺葱色ナルモノ。 衣食住記（天明）男女衣服「裏ノ色ハ、淺黃、白萌黃、すみる茶ナリシガ、元文頃、黑裏、煤竹、云云」（二）寶曆、天明ノ頃、新吉原町ノ遊里ナドニテ、江戸勤番ノ田舍侍ヲ稱セシ隱語。多クハ、都會ノ時勢粧ニ後レテ、ナホ淺葱裏ノ衣服ヲ着テアルヲ嘲リ呼ビシナリ。略シテ、あさぎ。 古朽木「淺黃ノ裏ハ、やぼてんノ看板ニシテ、近來ノ前句附ニハ、淺黃裏ト云ヘバ、武夫ノ事ニ通ジ、淺黃トバカリ、下略シテ用ヒ來ル」（言語大辭典）川柳「女ニハ、御緣ツタナキ、淺黃裏」夜具ノ損料ヲ、淺黃ハ、三分出シ」（壽三ノ揚代）

あさぎごき（名）［淺葱合器］淺葱椀ヲ見ヨ。

あさぎざくら（名）［淺葱櫻］櫻ノ一種。花、一重ニシテ白ク、蕚、甚ダ綠ニシテ、花ノ時、蕚ニ映リテ、青ク見ユルモノ。花ノ時、甚ダ遲シ。 四季物語（鴨長明）四「御社（加茂）ノアタリ、みあれノ山ノ櫻ハ、あさぎナルモアリテ、シカモ、遲ク咲キソロヘバ、異樣ノ見物ナリ」

あさぎた（名）［朝北］〔朝東風、同趣〕朝ニ吹キ來ル北風。 土佐日記、二月五日「舵取、舟子ドモニ曰ク、御船ヨリ、仰セ給ブナリ、あさぎたノ、吹キ來ヌサキニ、綱手早引ケ」

あさぎぬ（名）［麻衣］あさごろもヲ見ヨ。

あさぎのはう（名）［淺黃袍］〔薄青ノ、淺縹トマガヘテ論議アリシコト、簡抄、西三條裝束抄等ニ見エタリ、玉かつまノ十ニ「親王御元服ノ御袍ノ色、云云、黃色ノ淺キヲ、淺黃ト云ヘルヲ、後ニ、淺葱色ノコトヲモ、淺黃色ト書クカラニ、マガヘタルナリ」（節文）〕薄キ黃色ニ染メタル袍。無品親王ノ着用セラルル御袍ナリ。 西宮記、臨時、八「袍、黃衣、無品親王、云云、無官時用二黃衣一」簡抄、上「袍、淺黃、或說記云、雅仁親王（後白河天皇）元服、諸卿等相議日、無品親王著二黃衣一、或日、謂二之淺黃一云云、長和二年三月廿三日行成記日、新造兩宮（三條天皇ノ皇子、敦儀親王、敦平親王）著二黃衣一（淺黃色也、云云、可レ用二薄黃色一）」（無位ノ服ノ黃袍トハ異ナリ）

あさぎまく（名）［淺葱幕］綿布ヲ、無地ニ、淺葱色ニ染メテ、縫ヒ合セタル幕。芝居ノ舞臺ノ用ナドトス、暫時、見物人ノ目ヲ遮ルニ用ヰル。

あさぎよめ（名）［朝淨］〔朝ニハ、必ズ掃除スルモノ、きよめハ、掃キ淸むるニテ、卽チ、掃除ノ事ナリ〕朝ノ掃除。 拾遺集、十六、雜春「殿守ノ、トモノミヤツコ、心アラバ、此春バカリ、朝きよめスナ」永久百首「モミヂ葉ヲ、夜牛ノ嵐ノ、敷ク庭ハ、物忘レセデ、あさぎよめスナ」

あさぎり（名）［朝霧］朝ニ立ツ霧。（夕霧ト云フモアリ） 神代紀、上 十「伊弉諾尊曰、我所レ生之國、唯有二朝霧一而薰滿之哉」萬葉集、四 三十「朝霧ノ、（如ク）髣ニ相見シ、人ユヱニ、命死ヌベク、戀ヒワタルカモ」同、十三 二十 長歌「朝霧ノ、（如ク）思ヒ惑ヒテ」同、十七 四十 長歌「安佐疑理ノ、（如

ク)亂ルル心」

あさぎ-わん (名) [illegible] 又、あさぎ合[illegible]。黑キ[illegible]ノ椀ニ、[illegible]色ノ漆ニテ、[illegible]模様ヲ描キタルモノ。[illegible]（天和）七、[illegible]下、[illegible]、[illegible]」[illegible]上、以[illegible]色[illegible]之[illegible]」七の[illegible] (慶長)上「出ス料理ハ、何何ゾ、云云、青漆ノ椀、あさぎこき」

~あさく (形) [淺] あさしヲ見ヨ。

あさ-くさ (名) [淺草] 〔淺茅ト同意〕丈高カラヌ草。 夫木抄、廿八、茅花「古川ノ、岸ノアタリノ、あさくさニ、茅花ナミヨル、夏ノ夕風」

あさくさ-がみ (名) [淺草紙] 〔往時、江戸、淺草、山谷邊ヨリ製出セシヨリ、其名ヲ存ス〕すきがへしがみノ下品ナルモノ。其色黑キヲ黑保ト云ヒ、又、石灰ナド加ヘテ、色、稍白キヲ白保ト云フ。 江戸砂子、六十軒、四、馬喰町一丁目、紙屋五郎兵衛、云云、元祿年中、云云、淺草漉返シノ紙見世ヲ出シ、鼻紙一通リ賣弘メケル」

あさくさ-にんぎやう (名) [淺草人形] 木彫ノ人物諸器ニ、極彩色シタルモノ。江戸、淺草、花川戸ノ福島安三郎創製ス。(名ハ親之、華岸ト號ス、明治十五年死)

あさくさ-のり (名) [淺草海苔] 〔昔ハ武藏ノ淺草川ニ産ゼシト云ヒ、增補江戸總鹿子(寬延)ニハ、品川、大森ノ産ヲ、淺草ニテ製セシナリト云フ〕 あまのりノ一種、武藏ノ品川、大森、深川等ノ海ニ産ズルモノ。海中ニ海朶(其條ヲ見ヨ)ヲ立テ、ソレニツキテ生ズルヲ採リテ、漉キテ、乾シテ、紙ノ如ク製ス、色、紫黑ナリ、炙リ食フ、此種ノ最上品トス、寒中ニ採ルヲ、絶品トシ、春ニ採レルハ、[illegible]ハ、[illegible]トス、[illegible]物ノ返歌ニ「武藏ナル、淺草のりハ、名ノミナリ、[illegible]」 [illegible]志ハ、深川ノ物」 鶉尾琴(元祿)淺草[illegible]「行ク水ノ、[illegible]ニ、[illegible]マル、[illegible]ノ[illegible]」

あさくさ-もち (名) [淺草餅] 江戸、淺草、觀音堂ノ仁王門前ニテ、製シテ賣レル餅。金龍山淺草寺餅トモ云フ。天明年中ヨリ流行シ、淺草名物ノ一トセラレタリ。

あさ-ぐつ (名) [淺沓] 〔雨雪ノ時ノ、深沓ニ對ス〕束帶、衣冠ノ時ニ常用スル沓。桐ニテ作リ、外ヲ黑漆ニテ塗リ、一般ニハ、沓敷ニ、平絹ヲ貼ル。 儀式、七、釋奠「大學允、云云、起至㆓堂西廡㆒外脫ㇾ靴、著㆓淺沓㆒」 山槐記、仁安二年四月三日、參內「于ㇾ時甚雨、仍於㆓高明門㆒著㆓深沓㆒、於㆓官人座㆒脫ㇾ之著㆓淺沓㆒」 禁祕抄要、追加、淺沓「禁色之人、布衣用㆓織物㆒、不ㇾ然之人用㆓平絹㆒」(古事類苑) 雍州府志(天和)七、土産門、淺沓「以㆓桐木㆒造ㇾ之、塗㆓漆於外面㆒、其內貼ㇾ紙、是、官家著㆓衣冠㆒時所ㇾ用也」

~あさ-ぐも (名) [朝雲] 朝ニタナビク雲。 萬葉集、三、廿九 登㆓神岳㆒作歌、長歌「春ノ日ハ、山シ見ガホシ、秋ノ夜ハ、河シサヤケシ、旦雲ニ、鶴ハ亂レテ、夕霧ニ、河蝦ハサワグ」

あさ-ぐも (名) [朝蜘蛛] 〔くヲ、來るト、思寄セテ云フニヤ〕 朝ニ、アラハレ出デタル蜘蛛。俗間ニ、吉兆ナリトス。 諺「朝蜘蛛ハ、緣起ガヨイ」朝ノ蜘蛛ハ金」

あさ-ぐもり (名) [朝曇] 朝ニ、空ノ曇ルコト。 加茂保憲女集「ウグヒスハ、ヲシムトヤ鳴ク、朝ぐもり、散リユク雪ノ、花ノナゴリニ」

あさ-くら (名) [朝倉] 神樂歌ノ曲ノ名。きのまろどのヲ見ヨ。 語彙、あさくら「神樂譜、可ㇾ仕㆓朝倉㆒支從㆓堪能之歌人㆒類」

あさくら-ざんせう (名) [朝倉山椒] 〔元

ハ、但馬國、養父郡、朝倉ノ産ニ、古名、ナルハジカミ。又、フサハジカミ。(はじかみノ條、見合スベシ)山椒ノ一種、實ハ、常ノ山椒ヨリ大キクシテ、木ニ刺ナシ、實モ、二倍ノ大キサニテ、辛味、香氣、共ニ多シ、今、[illegible]、攝津有馬、但馬ヨリ、諸國ヨリ出ヅ。蜀椒 重修本草綱目啓蒙(享和)廿二、蜀椒「唐山ニテハ、蜀ノ國ノ山椒ヲ上品トス、故ニ蜀椒ト云フ、本邦ニテハ、あさくらざんせうヲ上品トス、云云、此品、元、但州朝倉ヨリ出ヅ」

あさ-ぐろ・い (形) [淺黑] 薄黑シ。(人ノ顔色ナドニ云フ)

あさ-ぐゎい (名) [朝會] あさぢや(朝茶)ノ(二)ヲ見ヨ。

あさ-ぐゎんおん (名) [朝觀音] 觀世音ノ緣日ナル、毎月十八日ノ朝ニ參詣スルコト。藥師ノ緣日ナル、毎月八日ノ夕ニ參詣スルヲ、夕藥師ト云フ。共ニ吉時ナリトス。 陰隲說(寶永、[illegible])一、朝觀音、夕藥師「修㆓宿曜經㆒、毎月十八日以ㇾ朝爲㆓吉時㆒以ㇾ夕爲㆓凶時㆒、毎月八日以ㇾ夕爲㆓吉時㆒以ㇾ朝爲㆓凶時㆒、八日、及、十八日、於㆓夜㆒尊、爲㆓[illegible]有緣之日㆒」 [illegible](延寶)住地村(攝津)正觀音「朝觀音、參リヤ讀ノ、道スンヂ」(柳亭記、下) [illegible]一后千句(慶長)「信ジツツ、參ラバ秋ノ、夕藥師」 五元集拾遺(其角)「夕藥師、涼シキ風ノ、響ヒカナ」

~あさ-け (名) [朝明] あさあけ(朝明)ヲ見ヨ。

あさ-け (名) [朝食] 〔食ノ條ヲ見ヨ〕 朝ノ食事。朝飯。夕飯ヲ、夕食ト云フ。(二)朝食ノ條ヲ見ヨ) 新年祭祝詞「皇御孫命ノ朝御食、夕御食ノ加牟加比」 八雲御抄、三、下「飯、カレイヒ、あさけナド云フ」 永久四年百首、冬「深山柴、己ガ鑪ニ、取リクベテ、あさけ、ゆふけノ、烟立ツメリ」 新後撰集、三、夏「山賤ノ、あさけノ烟、雲添ヘテ、晴レヌ竈ノ、五月雨ノ頃」

あさ-けぶり (名) [朝烟] 朝ニ、立ツ烟。又、[illegible]

あざけり (名) [嘲] 〔[illegible]〕 誇リ笑フコト。 散木集、三、九月十三夜、小序「今夜ノ不問語ヲシテ、明日ノあざけりヲバ、避ミヤラムかも」

あざ-け・る・ル・レ・ラ・リ・レ (他動、四) [嘲] 〔あざハ、あざむ、又、あざ笑ふノ、あざナリ、[illegible]ト云フ語ヲ活用セシメタルニモアラムカ、後世ノ語ニテ、活用モ異ナレド、怖氣る、霜氣る、濕氣る、相似タリ〕 (一)嘲シ笑フ。ソシリ[illegible]。 [illegible]二月「初、皇后臨ㇾ母在ㇾ家、獨遊㆓苑中㆒時、[illegible]閑遊、[illegible]行之、[illegible]作ㇾ嘲乎」(後ニ嗣セラレタリ) 靈異記、上、第十八縁「嗜ㇾ誦㆓法花經品㆒之人上」訓釋「嗜、アサケル」 玉篇「嗜、口嘗也」 [illegible]、今、始メテ、人ノ笑ヒあざけるベキニアラズ」 (二)思ヒヲ晴ラス意ヨリ轉ジ、自動詞ノ如ク用ヰラレテ、嘯ク吟ズ。吟嘯 後拾遺集、序「花ノ春、月ノ秋、云云、月ニあざけり、風ニアザムクコト絶エズ、花ヲ弄ビ、鳥ヲアハレマズト云フコトナシ」(あざむくノ(四)ヲ併セ見ヨ) 玉篇「嘲、言相調也」

~あさ-ごち (名) [朝東風] 〔朝北、同意〕 朝ニ吹ク東風。 萬葉集、十一、[illegible]リナベ、朝東風ノ、風ニタグヒテ、ココニ散リ來ネ」

あさ-ごほり (名) [朝氷] 〔朝凍ト云フ語モアリ〕 朝ニハレル氷。 夫木抄、十七、氷「川岫ニ、オノオノ凍クル、ふし柴ヲ、ことソニ融ケル、朝氷カナ」

あさ-ごみ (名) [朝込] (一)朝朧ノ條ヲ見

ヨ。（二）朝の茶會ニ、客ノ、早ク參ルコト。曉七ッ時（午前四時）ニ始ムルアリ、六ッ時（六時）ナルアリ、七ッ時ナルハ、マダ夜ノ中ナレバ、夜込ト云フ。 茶道早合點、下「古ヘ、茶湯ト云フハ、定リテ朝ノ事ナリ、丑ノ中刻（午前三時）ヨリ、寅（四時）卯（六時）ノ刻マデナリ、コレヲ、朝の茶湯ト云ヒ、又、夜ごみト云ヒ、又、朝ごみトモ云フ」 喫茶指掌編、一「道安宅ヘ、細川幽齋、朝の茶ニ、御約束ノ處、曉七ツ時前ニ、御出アリケル」 茶道聞書集、甲「夜込、夜ノ中ハ、宵ノ殘リノ心持、云云、夜明ケ候テハ、新ラシキ心ヲ持ツ」（三）遊客ノ、未明ニ、遊里ノ郭門ニ入込ムコト。 嬉遊笑覽、九、下十八「朝込「夜ノ未明ニ來テ、廓門ノ開クヲ待テ入ルヲ云フ、云云、古キ前句ニ、「ウツリコソスレ、ウツリコソスレ」朝ごみニ、手マヅサヘギル、禿ドモ」

あさ-ごろも（名）|麻衣|（一）麻布ニテ縫ヒ作レル衣。又、麻衣。アサノキヌ。 萬葉集、七 廿五「今年行ク、新防守ガ、麻衣、肩ノ紕ハ、誰レカ取リ見ム」 同、九 三十四 長歌「勝鹿ノ、眞間ノ手兒奈ガ、麻衣ニ、靑衿ツケ、直佐麻ヲ、裳ニハ織リ着テ」（二）喪服トシテモ着タリ。 萬葉集、二 三十五 高市皇子殯宮長歌「殯宮ニ、裝ヒマツリテ、使ハシシ、御門ノ人モ、白妙ノ、麻衣着テ、云云、歎キモ、未ダ過ギヌニ、思ヒモ、未ダ盡キネバ」 同、十三 廿八 挽歌、長歌「梓ノ穂ノ、麻衣着ルハ、夢カモ、現カモト、云云、神葬リ、葬リマツレバ」 允恭紀、四十二年正月「素服」 天武紀、上、元年三月「喪服」

あさ-ざ（名）|荇菜、莕菜|〔淺淺菜ノ約略カト云フ、（散散、はらら。最最、いとど）〕 東雅、十三「荇、あさざ、あさあさト云フニ似タリ、水淺キ所ニアルノ義ナリケムモ知ルベカラズ」 夫木抄、廿八、草類、淺砂「思フコト、底深カラヌ、浮根ヨリ、心あささノ、サテゾ生ヒケル」 荇、莕、同ジ、説文「莕、或从行」 水草ノ名。池澤ノ中ニ生ズ、根ハ水底ニアリテ、葉ハ水面ニ浮ブ、水ノ深淺ニ隨ヒテ、莖ニ長短アリ、葉、圓ク、形、蓴菜ニ似タレド、一方ニ缺アリ、面、綠ニ、背、紫ナリ、夏、五瓣ノ黃花ヲ、水面ニ開ク、大キサ一寸。一名、花蓴菜。 本草和名、上 三十七「荇菜、莕菜、與荇同、阿佐佐」 倭名抄、十七 十「荇菜、莕菜、叢ニ生水中ニ、葉圓在莖端ニ、長短隨ニ水深淺ニ、音也、阿佐佐」 六帖、六「見ルカラニ、思ヒ益田ノ、池ニ生フル、あさざノ浮キテ、世ヲバ經ヨトヤ」

あさ-ざ（名）|朝座| 法華八講ナドノ論講ニ、晨朝ノ講座。夕ナルヲ、夕座ト云フ。 宸筆御八講記「朝座講師、僧正、云云、暮座講師、前權僧正」（俚言集覽） 辨内侍日記（建長）「最勝經、云云、論議、云云、イソゲタダ、朝座、ゆふ座モ、打チツヅキ」

あさ-ざくら（名）|朝櫻|〔夜櫻ニ對ス〕 朝ニ、露ヲ帶ビテ咲ケル櫻ノ、清麗ナルヲ賞シテ云フ語。

あさ-ざけ（名）|朝酒| 古クハ、卯酒。朝ニ、酒ヲ飲ムコト。味、佳シト云フ、朝酒、門田を賣って飲め、ナド云フ卑語アリ。|卯飲|

あさ-さむ（名）|朝寒|〔朝涼ト云フ語モアリ〕 朝ノ、ウスラサムキコト。 源、廿八、野分 十八「今朝ノあささむナル打チトケワザニヤ、物裁チナドスル老成御タチ、御前ニアマタシテ」

あさ-さらず（副詞句）|朝不去|〔朝ヲ去らず、朝ヲ離レズノ意〕 朝每ニ。マイアサ。|每朝| 夕不去ト云フハ、夕每ニ、ノ意ナリ。|每夕| 萬葉集、六 四十五「鹿背ノ山、木立ヲ繁ミ、朝不去、來鳴キ響ス、鶯ノ聲」 同、十七 四十二 長歌「ハシキヨシ、吾ガ夫ノ君ヲ、安佐左良受、會ヒテ言問ヒ」 同、三 三十三「今日モカモ、飛鳥ノ川ノ、夕不離、河蝦鳴ク瀨ノ、淸カルラム」

あさ-さ・る（動）|朝去| さる（去）ノ條ヲ見ヨ。

あささ-れど（副詞句）|朝去者| さる（去）ノ條ヲ見ヨ。

あさ・し・キ・ケレ・ク・ク（形、一）|淺|〔あハ、發語、あ狹しノ義（あ遍し、あ諄し）〕（一）深サ、少ナシ。底、近シ。（深しノ反） 天治字鏡、六 廿七「淺、阿佐之」「瀨、あさし」水、あさし」（二）薄シ。スクナシ。 萬葉集、十六 二十「安積山、影サヘ見ユル、山ノ井ノ、淺き心ヲ、吾ガ思ハナクニ」「智、あさし」交リ、あさし」（三）低シ。 源、廿一、少女 七「皆、各、加階シ陞リツツ、オヨズケアヘルニ、あさきヲ、イト、ツラシト思ハレタルガ、心苦シウ侍ルナリ」（夕霧ノ、六位ナルヲ云フ） 榮花物語、一、月宴「九條殿ノ公達ハ、マダ御位ドモあさけレバ」（淺茅、淺草）（四）淡シ。濃カラズ。|淡| 源、三十三、藤裏葉 廿三「二葉ヨリ、名ダタル園ノ、菊ナレバ、淺き色別ク、露モナカリキ」（淺綠、淺葱色）

あさ-じ（名）|朝事| 眞宗ニテ、每朝ノ勤行ノ稱。（午前六時）アサノツトメ。佛像ニ向ヒテ、讀經スルナリ。信徒ノ、此時刻ニ、御堂ニ參詣スルヲ、あさじまゐりト云フ。 佛教辭林、あさじ、朝事「晨朝ニ同ジ、朝ノ勤行ヲ云フ」 今宮心中（寶永、近松作）中「御堂ノ朝じまゐりニモ、女子供起シテ、苦勞カケテハ、後生ニナラヌ」

あさしの-はら（名）|淺小竹原|〔淺茅ト同意、尙、原ノ條ヲ見ヨ〕 低キ小竹ノ生ヒタル地。 古事記、中（景行）六 五十 長歌「阿佐士怒波良、腰ナヅム」 萬葉集、十一 十四「神南備（山）ノ、淺小竹原ノ、繁ミニモ」

あさ-しほ（名）|朝潮| 又、あさみつしほ。朝ノサシシホ。夕ノサシシホヲ、夕汐ト云フ。うしほ（潮）ノ條ヲ見ヨ。 萬葉集、二十 三十三「堀江ヨリ、安佐之保滿チニ、寄ルコヅミ」 同、十八 卷長歌「朝凪ニ、水手トトノヘ、由布志保ニ、梶引キ折リ」 夫木抄、九「住ノ江ノ、朝みつ潮ニ、禊シテ、戀忘草、摘ミテ歸ラム」 名義抄「潮、汐、アサシホ、ユフシホ」 字彙「潮、隨レ月消長、早曰レ潮、晚曰レ汐、所ニ以應レ月一」

あさじ-まゐり（名）|朝事參| 朝事ノ條ヲ見ヨ。

あさ-じみ（名）|朝凍|〔じみ（凍）ノ條ヲ見ヨ〕 朝、路ノコホリタルコト。アサゴホリ。 東關紀行（仁治）「箱根山、云云、彼山、雪降リテ、道アシカルベシ、あさじみノ程ニ立タバ、ヨカリナム」

あさ-しも（名）|朝霜| 朝ノ霜。|晨霜| 夫木抄、十八、鷹狩「粟津野ノ、トダチノ薄、蹈ミシダキ、朝霜ワケテ、出ヅル狩人」

あさしも-の（枕）|朝霜能| 消ノツヅマリ、けノ枕詞。 萬葉集、十一 五十「朝霜の、消ナバ消ヌベク、思ヒツツ、イカデ此夜ヲ、明カシナムカモ」（身モ消エ失セヨト思フナリ） 景行紀、十八年七月「阿佐志毛能、瀰概ノ眞小橋」 私記「朝霜易レ消也、欲レ讀ニ瀰概一之發語也」（筑紫ノ御木國ナリ、倭名抄、五 三十「筑後國、三毛郡、三計」）

あさ-じやうげ（名）|麻上下| あさがみしもニ同ジ。

あさ-す（名）|麻簀| 神ニ御饌ヲ供フル敷物。食單ノ類ナリ。 皇太神宮儀式帳、年中行事、九月例、鋪設、「麻簀三張」 太神宮儀式解、廿八「麻簀ハ、阿佐須ト訓ムベシ、云云、食物ヲ居ル具ナリ、モトハ、全ク麻モテ作レバ、麻簀ノ稱アレド、後ハ、葦ニテ作リシモ、モトノ名ヲ以テ、麻簀ト云フ、云云、長サ一尺五寸許、弘サ一尺斗ニ編ム也」

あさ-ず（副詞句）|不餘|〔餘さずノ略（田道間花、たちばな。かましかまし、かしかまし）〕 餘サズ。殘サズ。 古事記、中（仲哀）六十 長歌「御酒、云云、阿佐受飲セ」（稜威言別、四ニ、阿佐受ハ、不レ餘、餘ズノ意、トアリ）

あさ-すがた（名）|朝姿| 草花ノ、朝ニ咲キタル狀。 拾玉集、四、花「生シ立テテ、搖キ撫子

ノ、花ザカリ、露ノ色濃キ、あさすがたカナ」

あさ-すず (名) 朝涼 〔朝寒ト云フ語モアリ〕夏ノ朝ノ間ノ、涼シキ時。俳諧集[illegible]、胡蝶「夏時、朝ノ内ノ涼シキ時ニ、人ノ方ヘ遣ユクヿ、あさすずニ行クト云フ」

あさ-すずみ (名) 朝涼 夏時、朝ノ涼風ニアタルコト。又、其涼風ノ吹ク時。アサスズ。宇津保物語、祭使、上「十二極暑ニ、六月晦ヘコソ、云云、別テモ、朝すずみニコソハ」源、三十四、下、若菜、下「一マダ、あさすずみノ程ニ、渡リタマハムトテ、疾ク起キタマフ」

あさ-せ (名) 淺瀨 瀨ノ、淺キ處。宇津保物語、忠社、上「あさせコソ、船ミモ試ムラメ、水無瀬川、淺キ瀬ニゾ、我レハ沈メル」

あさ-だいもく (名) 朝題目 〔俗ニ、法華法ヲ、題目ト云ヒ、彌陀法ヲ、念佛ト云フ〕朝題目に夕念佛、ト云フ語アリ、古來、天台宗ニテハ、朝ハ、法華懺法ヲ行ジ、夕ハ、彌陀如來ノ行事ナル、例時作法ヲ修ス、コレニ因リテ云フナルベシト云フ。

あさ-だか (名) 朝鷹 朝ニスル鷹狩。朝狩。俳諧集[illegible]、胡蝶、授業集、只鷹ハ、冬也、朝鷹ハ、春也」

あさだち (名) 朝立 〔次條ノ語ノ名詞形〕朝ニ早ク、旅路ニ出デ立ツコト。早發 晨行 夫木抄、廿七、馬「朝だちニ、野ノ荷馬ヲ、イソギオキテ、鶏キオホセツレ、ホトトギスカナ」

あさ-だ-つ ツ・テ・タ・チ・テ(自動、四) 朝立 〔明立つノ語原ヲ見ヨ、夕だつモ、同意ニテ、相對ス〕朝ニナル。朝ノイデタチトナル。續拾遺集、九、羇旅「[illegible]ニ、我レトハ誰ヲ、ツケジトテ、マヅ朝だたム、[illegible]」名詞形ニ、拾玉集、五「水鳥ハ、霜夜ノ床ニ、[illegible]シ、霞ヲツツム、峯ノあさだち」

あさ-ぢ (名) 淺茅 〔淺ハ、條キ意、[illegible]シノ條ヲ見ヨ、淺草ト云フ語モアリ〕(一)茅ノ、丈低キラヌモノ。萬葉集、七「野山ノ淺茅、人[illegible]ソネ」同、八、二十「[illegible]ハ、咲キヌベカラシ、我ガ宿ノ、淺茅ガ花ノ、散リヌル見レバ」同、十二、九「春日野ノ、淺茅ガ原ニ」源、十五、蓬生「あさぢハ、庭ノ面モ見エズ、繁リ、蓬ハ、軒ヲアラソヒテ、生ヒノボル」(二)淺茅生ノ略。

あさぢ (名) 鯏 淡水產ノ魚ノ名、おひかはノ古名ナルベシ。其條ヲ見ヨ。倭名抄、十九「鯏、魚名、大口細鱗、有二斑文一音也、阿佐知」「刺人、肉中[illegible]」[illegible]「[illegible]江州湖中[illegible]形[illegible]、背有二[illegible]」水無二月ノ、宿ラズバ、イカデあさぢノ、數ヲ知ラマシ」(あさぢハ、魚ノ名ナリ、[illegible]ト書ケリ、[illegible]ト云フ魚ノ、老イテ、色ノ赤ミタルヲ云フトモ、人、申ス歟)」物類稱呼、二「石鮅魚、おいかは、筑紫ニテ、あさぢト云フ、又、あかばえト呼ブ」

あさぢ-ざけ (名) 淺茅酒 麻地酒 「土中ニ埋メ、草茅ニテ覆フ、ナドトモ言傳フ」一種ノ酒ノ名。豐後ト肥後トヨリ產ズ。又、つちかぶり。俳諧毛吹草(正保)三「豐後、麻地酒、朝生酒トモ書ク、土かぶりトモ云フ」寛政武鑑 木下主計頭、時献上、在邑、十一月、麻地酒二(二萬五千石、豐後、日出侯) 類聚名物考(寶曆、明和)飲食、三、麻地酒、あさぢざけ「肥後ノ國ヨリ出ヅル名酒也、其漬ノ米子、浮ビテ漂フ也、コレヲ製スル時、六月ナルニヤ、作ル時ノ季、夏六月也」寛政武鑑「細川越中守、時献上、三月、麻地生酒二(肥後、熊本侯)」俚言集覽、麻地酒「細川侯ヨリ献上ニナル麻地生酒、肥後ニテ、寒水ニテ製ス、土中ニ埋メ、夏ノ頃、取出ダス、コレニ因リテ、土かぶりト云フ」

あさぢ-の-なは (名) 淺茅繩 茅繩ヲ見ヨ。

あさぢ-の-わ (名) 淺茅輪 茅輪ヲ見ヨ。

あさぢ-はら (名) 淺茅原 〔原ノ條ヲ見ヨ〕淺茅ノ生ヒタル地。アサヂフ。[illegible]毛、元年二月、長谷、阿佐[illegible]、小倉[illegible]ヲ[illegible]テ、(傳[illegible]言[illegible]、九ニ、小倉原ハ、近江國、[illegible]生郡中ノ地名ナリトモ云ヘリ)

あさぢ-はら (枕) 淺茅原 〔前條ヲ見ヨ、野ニハ、專ラ、茅ノ生フル故ニ、淺茅ノ野トツヅク、茅生ハ、淺茅原ニ同ジ、(淺茅生の小野の篠原ナドトモ云フ)又、茅原ハ、曲ト、音ノ通フニ因リテ、重ネテ云フ、都賀の木の彌繼嗣ニ、ナド云フ例ナリ〕小野、茅生、又、曲、曲曲ノ枕詞。萬葉集、十二、廿四「淺茅原、小野ニ標結ヒ、(序)空言(二)モ、逢ハムト聞セ、(宜ヘ)戀ノ慰サニ」(同、十一、六十「淺茅原、借標刺シテ、空言モ、寄セテシ君ガ、言ヲシ待タム」) 同巻廿三「淺茅原、茅生ニ足踏ミ、心グミ、吾ガ念フ兒等ガ、家ノアタリ見ツ」同、三十三「淺茅原、曲曲ニ、(懇切ニ)物思ヘバ、舊リニシ事シ、思ユレカモ」

あさぢ-ふ (名) 淺茅生 〔芝生、園生ノ生ナリ、生ノ條ヲ見ヨ〕淺茅ノ生ヒタル地。アサヂハラ。略シテ、あさぢ。後撰集、九、戀、一「あさぢふノ、小野ノ篠原、(序)シノブレド、餘リテナドカ、人ノ戀シキ」白河殿七百首、秋「古里ノ、淺茅ガ露モ、カレガレニ、有明近キ、秋ノ暮方」

あさ-ぢゃ (名) 朝茶 (一)又、朝會。早朝ニ催ス茶會。(正午茶ニ對ス) 茶道早合點、下「古ヘ、茶の湯ト云フハ、定リテ朝ノ事ナリ、云云、是ヲ、朝の茶の湯ト云フ」(朝茶ノ條ノ(二)ヲ見ヨ) 貞要集、二、朝會、朝會ト約束ノ時ハ、七ツ時分ニ、支度ヲシテ可、夫、道ノ程、遠近ヲ考ヘ、七ツ過ニ待合ヘ可レ入、云云、古來ハ、右ノ時分ヲ、第一ニ仕リ、朝會、ハヤリ申シ候」(二)次條ノ語ノ略。

あさ-ちゃのこ (名) 朝茶子 ちゃのこノ條ヲ見ヨ。

あさ-つき (名) 淺葱 〔葱之淺ノ義、和漢三才圖會、九十九、葷草「淺葱、云云、俗云淺[illegible]、[illegible]假名之動詞也」[illegible]、[illegible]、あさつきト云フナリ」〕葱ノ類ニテ、葉甚ダ細ソク、色、淺綠ニシテ、甚ダ軟ナラザルモノ、春ヲ過グレバ、葉コハクシテ食フベカラズ、夏ノ初、莖ヲ出シテ、淡紫花ヲ開ク。倭名抄、十七、[illegible]「[illegible]」字類抄「角葱、アサツキ、[illegible]、阿佐豆岐」

あさつき-なます (名) 淺葱膾 淺葱ト、あさりノむきみトヲ茹デテ、酢味噌ニテ和ヘタルモノ。雛祭ノ膳ニ供フ。

あさ-づきん (名) 麻頭巾 麻布ニテ作リシ頭巾。夏ノ用ナリ。瓜作(元祿)「眉ノ白毛、マデ著シ、麻頭巾」(梅亭筆記、三)

あさ-づく-ひ (名) 朝附日 〔あさづくハ、朝就くニテ、朝ニ爲初ムル意、秋就くノ語原ヲ見ヨ、夕附日ト云フ語モ、相對シテ、同ジト知ルベシ〕朝日ニ同ジ。夕陽 夕日ヲ、夕附日ト云フ。夕陽 拾玉集、一「朝づくひ、映スヤ岡邊ノ、草ノ葉ニ、スガレル露ヲ、ヨソニヤハ見ル」萬葉集、十六、五十「夕附日、映スヤ河邊ニ、構ル屋ノ」金葉集、八、戀、下「[illegible]、今夜ト思ハバ、夕づくひ、入ル山ノ端モ、ウレシカラマシ」

あさ-づく-ひ (枕) 朝附日 〔前條ノ語原ヲ見ヨ、萬葉集古義、枕詞解「旭日ノ、山ノ端ヲ出ヅル時ハ、直ニ打向ハルルモノナレバ、向ふニツヅク、[illegible]ニ、朝日ハ、直ニ乃日向[illegible]ト云フ、同意ナリ、[illegible]

向ヒ刺スモノナレバ、云ヘルナリ」」向ふノ枕詞。萬葉集、七廿旋頭歌「朝月日、向ヒノ山ニ、月立テリ見ユ」同、十一廿「朝月日、向フ黃楊櫛、舊リヌレド、何シカ君ガ、見ルニ飽カザラム」(二ツノ月ハ、借字ナリ)

〜あさ-づくよ (名) 【朝月夜】 〔唯、朝ノ月ナリ、夜ト云フ語ニ、意ナシ、(月夜ノ條ヲ見ヨ)夕月夜ヲ參見セヨ〕 朝ノ有明ノ月。アカツキヅクヨ。萬葉集、一九廿長歌「我ガ寐タル、衣ノ上ユ、朝月夜、清ニ見レバ」同、九廿四長歌、詠ニ鳴鹿ニ歌「朝月夜、明ケマク惜シミ、アシビキノ、山彥動メ、喚ビ立テ鳴クモ」

あさ-づけ (名) 【淺漬】 〔薄ク鹽ニ漬くる意ニテモアルカ〕 京阪ニテ、大根、茄子ナドノ漬物ノ名。守貞漫稿、後集、一、香物ノ條ニ、鹽糠ニ、生大根、生茄子、瓜ノ類ヲ漬ケタルヲ、京阪ニテ、淺漬ト云フトアリ、女房詞ノあさあさモ、是レナルベシ。東京ニテハ、大阪淺漬ト云ヒ、淺漬大根ト別ツ。大上﨟御名之事、女房詞「あさづけ、あさ、又、あさあさト云フ」御湯殿上日記、慶長十二年正月八日「女院ノ御所ヨリ、柚べし、あさあさ、參ル」

あさづけ-だいこん (名) 【淺漬大根】 〔澤庵漬ニ對シテ、淺く漬くる由ノ名ナリ、久シク貯ヘガタシ〕 東京ニテ、大根ノ漬物ノ名。淺漬トノミモ云フ、四斗樽ニ生乾大根五六十本ヲ入レ、鹽二升ヲ水ニ溶シタルヲ加ヘ、蓋ヲシテ、重キ石ヲ壓トシ、一週間ノ後、又、鹽一升、ざらめ砂糖一貫目、麴二十枚分ヲ加ヘテ、再ビ壓ヲ置キ、六七日ニテ成ル、東京、十月十九日ノべッたら市ニテ賣リ始ム、關西ヘハ、東京ヨリ送ル、彼ノ地方ニテハ、此漬物ヲ、直チニべッたらト云フ。俗耳鼓吹(大田南畝)「香ノ物、味噌漬大根、あさづけ」

あさつ

⁂あさって (名) 【明後日】 あさてノ條ヲ見ヨ。

⁂あさっぱら (名) 【朝腹】 あさはらノ條ノ(二)ヲ見ヨ。

〜あさ-づま (名) 【朝妻】 後朝ノ妻。(夫ノ、妹許行キテ、朝ニ歸ルナリ) 萬葉集、十五「兒等ガ名ニ、かけノ宜シキ、朝妻ノ、片山岸ニ、霞タナビク」(此前ノ歌ニ「朝妻山ニ、霞タナビク」トアリ、此山ハ、大和國、葛上郡ニアリ)

あさづま-ぶね (名) 【朝妻船】 〔筑紫船、熊野船ナド云フ例ナリ〕 (一)昔シ、近江國、坂田郡、朝妻湊ニ出入シ、湖上ヲ往復シタル船ノ稱。倭名抄、七、近江國、坂田郡「朝妻鄕、安佐都末」山家集、下、雜「オボツカナ、伊吹おろしノ、風サキニ、朝妻船ハ、會ヒヤシヌラム」榑船ヨ、あさづま渡リ、今朝莫寄セソ、伊吹ノ嶽ニ、雪風卷クナリ」(材木船) 東の道の記(仁和寺僧正尊海)朝妻ノ浦ニ泊リテ、其朝起キ侍リテ「見シ夢ノ、朝づまぶねヤ、立チカヘル、涙バカリヲ、袖ニ殘シテ」近江輿地誌略(享保)朝妻、筑摩村ノ北ニアリ、此地、古昔ハ、湖東ノ大湊ニシテ、往來ノ船、ココニ懸リテ繁昌セリ、百五六十年以前ヨリ、船懸カラズナリヌ、慶長ノ頃ヨリ、湊、米原ヘ變ハル故也」(二)寶永、正德ノ頃、畫工、英一蝶(寶永六年、赦ニ遭ヒテ、三宅島ヨリ歸リシ後)始メテ、小舟ニ、遊女ノ、水干、烏帽子ヲ着、棹サス姿ノ圖ヲ畫キテ、朝妻舟ト稱セリ、一蝶嘗テ、中院權中納言通勝(歌ヲ細川幽齋ニ學ブ)ガ、船中妓女ト云フ題ニテ「此寢ヌル、朝妻舟ノ、アサカラヌ、契ヲ誰レニ、マタカハスラム」(あさづま舟ハ、あさからぬノ序ナリ、一夜妻ニモカケタリ)ト書キタル短册ヲ得タリ、因リテ、意匠シタルナリト云フ。近世奇跡考(山東京傳)五、英一蝶朝妻船ノ圖、「アダシアダ浪、寄セテハカヘル浪、朝妻船ノ淺マシヤ、嗚呼マタノ日ハ、誰レニ契リヲカハシテ色ヲ、枕ハヅカシ、僞ガチナル我ガとこノ山、(犬上郡、床ノ山)ヨシ夫レトテモ、世ノ中ニ(隆達節ノ文ニ似タリ、唄モ作曲モ、一蝶ナリト云フ) 此小唄ニモトヅキテ、長唄ニ、朝妻舟ノ題目ノ曲アリ、踊ニモ演ズ。因ニ云フ、近世江都著聞集、十一ニ、多賀長湖(一蝶舊名)百人女﨟ト云フ繪ヲカキタルニ、其內ニおでんの方(將軍綱吉寵姬)船中ニテ鼓ヲ打チ、公棹サシテアル狀ヲヱガク、因リテ捕ハレテ遠島トナルトアリ、(此事、人ノ善ク言フ所ナリ)サレド畫乘要路、二ニハ、島ニアル時、蝴蝶ノ草花ニ集ルヲ見ル、忽チ赦書アルヲ聞キ、名ヲ英一蝶ト改ムトアリ、(以上、古事類苑、一蝶流ノ條)英一蝶ト改名セシハ、島ヨリ歸リシ後ナリ、著聞集ノ記事ハ捏造ナリ。

あさつ

〜あさ-つゆ (名) 【朝露】 朝ニ置キタル露。あしたのつゆ。萬葉集、二四十吉備津釆女ノ死ノ長歌「時ナラヌ、過ギニシ子等ガ、朝露ノ如ヤ、夕霧ノ如ヤ」同、十一三十「朝露ノ、(如キ)消ヤスキ吾ガ身、老イヌトモ、又若反リ、君ヲシ待タム」古今集、十三、戀、三「ホトトギス、夢カ現カ、朝露ノ、(序)おきテ別レシ、曉ノ聲」榮花物語、九、岩蔭「あしたの露ヲ、玉ト見テ、嚼キシホドニ、消エニケリ」

〜あさて (名) 【明後日】 〔日本釋名(元祿)「明後日、あさつてト云フ詞、古書ニ見エタリ、あす去つて後ノ日ナリ」あさッてト云フハ、急呼ナレド、(おち、おっち) 語原ニ近キガ如シ、しあす、しあさッてノ條ヲ見ヨ〕 今日ヨリ一日隔テテ來ルベキ日。明日ノ明日。又、あさッて。シアス。ミャウゴニチ。【明明日】 名義抄、日部「明朝後日、アサテ」源、四十九、東屋五十七「あさてバカリ、車タテマツラム」讃岐典侍日記(堀河院女房)上「何事モ今夜侍フベキゾ、あす、あさて、サブラフベキココチ、爲ハベラズ」榮花物語、十六、本雫「あさて佛ニ、イト吉キ日ナリ」

〜あさ-で (名) 【麻布】 〔麻栲ノ約〕 麻布ニ同ジ。萬葉集、十四廿九「庭ニ立ツ、安佐提小衾、今夜ダニ、夫寄シ來セネ、安佐提小衾」同、四十「庭ニ立チ、麻手刈干シ、(序)布キ曝ブ、東女ヲ、忘レタマフナ」(コレハ、麻手ノ誤ニテ、麻ヲ刈リホシテ敷クト云フヲ、頻藻ふニカケタルナリトモ云フ) 千載集、十三、戀、三「あさで干ス、東少女ノ、萱筵、シキシノビテモ、過ス頃カナ」(前ノ誤ヲツギタルナリト云フ)

あさ-で (名) 【淺手】 スコシノ手傷。薄手。(深手、痛手ニ對ス) 【微傷】 太平記、廿六、楠正行最期事「三十餘度ノ戰ニ、息絕エ、氣疲ルルノミナラズ、深手、淺手、負ハヌ者モ、ナカリケレバ」

あさ-で (名) 【朝出】 朝ニ、外出スルコト。アサトデ。

〜あさ-ど (名) 【朝戶】 〔朝戶、夕戶ト云フハ、文ナシテ云フナリ〕 戶ヲ、朝ニ開クニ就キテ云フ語。夕ニ就キテハ、夕戶ト云フ。崇神紀、八年十二月、長歌「阿佐妬ニモ、出デテ行カナ、云云、由布妬ニモ、押シ開カネ、三輪ノ殿戶ヲ」(稜威言別ノ挍ニ據ル) 古事記、下(雄略)十四長歌「ヤスミシシ、吾ガ大君ノ、阿佐斗ニハ、伊倚リ立タシ、由布斗ニハ、伊倚リ立タス」萬葉集、八廿八「事繁ミ、君ハ來マサズ、ホトトギス、汝ダニ來鳴ケ、朝戶開カム」後撰集、五、秋、上「朝戶明ケテ、ナガメヤスラム、織女ハ、飽カヌ別レノ、空ヲ戀ヒツツ」

⁂あざ-とい (形) 【稚】 〔倭訓栞、後編、あざとし「俗語也、淺ク聰シノ義ナルベシ」〕 アドケナイ。(兒童ニ云フ)關西語ナリ。

あさど-かぜ (名) 【朝戶風】 朝ノ戶ニ吹入ル風。草根集(東福寺、徹書記)一、初冬「心セズ、入來ル冬ノ、朝戶風、ハゲシヤ衣、裁チアヘヌ間ニ」

あさ-とがり (名) 【朝鳥狩】 朝ニスル鳥狩。倭訓栞、あさとがり「朝鳥狩ナリ、朝狩トモ云ヘリ」

〜あさ-どこ (名) 【朝床】 朝寢ノ床。朝ニマダ、寢床ニアルコト。萬葉集、十九十「朝床ニ、

聞ケバハルケシ、射水川、朝漕ギシツツ、唱フ舟人」（越中ノ射水川）

あさとで（名）［朝戸出］朝戸ヨリ出ヅルコト。朝ノ門出。アサデ。夜ニ出ヅルヲ、夜戸出ト云フ。ヨアルキ。萬葉集、十一 十七「朝戸出ノ、君ガ姿ヲ、ヨク見ズテ、長キ春日ヲ、戀ヒヤクラサム」同、十二「朝戸出ノ、君ガ足結ヲ、潤ラス露原、早ク起キテ、出デツツ我レモ、裳ノ裾潤レナ」（夫木抄）續古今集、十、羈旅「夜ヲコムル、關ノ藤屋ノ、朝戸いでニ、山路明ケ行ク、峯ノ松風」萬葉集、十二「我妹子ガ、夜戸出ノ姿、見テシヨリ、心空ナリ、地ハ踏メドモ」

あさとび（名）［朝鳶］朝鳶に簑を着よ、夕鳶に笠を脫げト云フ諺アリ、朝ニ鳶ガ鳴ケバ、雨ガ降ル、夕ナルニハ、空晴ルト云フナリ。あさやけ（朝燒）ノ條ヲ併セ見ヨ。

あさとやり（名）［朝戸遣］〔後訓栞、あさとやり「萬葉集ニ見ユ、遣戸ハ、開アリテ、やるナリ」〕朝ニ、戸ヲ開クコト。萬葉集、十一 廿八「旦戸遣ヲ、早ク莫明ケソ、アヂサハフ、メガホル君ガ、今夜來マセル」

あさどり（名）［朝鳥］鳥ノ、朝ニ、塒ヲ出デタルモノ。囀立チ、飛立チ、飛遊フナリ。（餌ヲ求食ルガタメニ）萬葉集、二 廿九 長歌「朝鳥ノ、（如ク）往來ヒシ君ガ」同、三「朝鳥之、（如ク）音ノミシ鳴カム、吾妹子ニ、今又更ニ、逢フ由ヲ無ミ」同、九 廿五 長歌「天離ル、鄙治メニト、朝鳥之、（如ク）朝立シツツ」

あさな（名）［朝菜］〔なハ、菜ト、魚ト、ヲ兼スル語ナリ、其條ヲ見ヨ〕朝飯ノ副食物トスル魚菜。夕飯ナルヲ、夕菜ト云フ。（二食ノ條ヲ見ヨ）萬葉集、十一 四十二「伊勢ノ海人ノ、朝魚夕菜ニ、潛クチフ、鰒ノ貝ノ、片戀ニシテ」同、十六 廿二「イザヤ兒等、香椎ノ潟ニ、白妙ノ、袖サヘ濡レテ、朝菜摘ミテム」（海濱、魚等ヲ云ヘルナルベシ）催馬樂、我門「我ガ門ニ、上裳ノ裾濡レ、下裳ノ裾ヌレ、安左名摘ミ、由不名摘ミ」［illegible］朝ノあさなニ、［illegible］ママシ」

あざな（名）［字］〔あざハ、あざふ（交）ノ略、本名ニ交ヘテ持ツ名ノ意、俗語考（橘守部）ニ「あざなハ交名ニテ、正名ニ交ヘタル一名ノ由ニゾアルベシ」字ノ字ハ、次條ノ漢語ヲ借リテ記シタルガ如シ、あだなヲ併セ見ヨ〕（一）實名ノ外ニ持チテアル名。然レドモ、人每ニ持ツニアラズ。又名。一名ナド云フガ如シ。仁賢即位前紀「億計天皇、諱大脚、字島郎」（顯宗即位前紀「弘計天皇、更名來目稚子、更名大石尊」）孝德紀、即位ノ詔「大伴長德、字、馬飼」萬葉集、十六 廿一「土師宿禰水通、字曰志婢麻呂」「巨勢朝臣豐人、字曰正月麻呂」同卷「嬢子、字曰櫻子」素性集「素性ガあざなヲ、よしよりト付ケサセタマフ」（袖中抄ニ、素性法師ハ、石上良因院ニ住メリト見ユ、寺號ニ由ル）宇治拾遺、一、第十條ニ、大隅人ノ、世ノ人ニ、あざな袴垂ト言ハル、トアルナドハ、醜名ナルベキカ。玉葉ニ「字、伊豫内侍」「字、辨内侍」ナドアルハ、呼名ナルベシ。寺名ニモ云フ。靈異記、下、第三十緣「寺有二名草郡、能應村、名曰二彌勒寺、字曰二能應寺一也」名義抄「字、アザナ」（二）假名。俗名ノ類。名字ノ條ヲ併セ見ヨ。靈異記、中、第十一緣「紀伊國、伊刀郡、桑原、云云、狹屋里有二一凶人一姓、文、忌寸也、註「字、云二上田三郎一矣」（聖武天皇ノ頃ノ人ナリ）玉海、安元三年四月廿日「平利家、字、平治、同家兼、字、平五、田使俊行、字、難波五郎、藤原通久、字、加藤太」（三）次次條ヲ見ヨ。

あざな（名）［字］〔前條ノあざなヲ借リテ訓トス〕支那ニテ、人人、名ノ外ニ、必ズ設クル別名。君、父、師等ニ對シテハ、名ヲ稱シ、他人トノ應答ニハ、互ニ、字ヲ稱ス。［illegible］學スル者ハ、支那ニ倣ヒテ、字ヲツクルコトアリ、然シテ、古クハ、字ハ、一字ニテ、其姓氏、可婆彌ニ配シテ稱スルモアリキ。續紀、廿九、神護景雲二年五月［illegible］入姿名籍ニ云云、取二眞人朝臣ニ立レ字、以レ氏作レ字、云云」［illegible］同、十、天安二年六月、大學助［illegible］字、［illegible］字、三、［illegible］三善清行、字、［illegible］字、［illegible］字、［illegible］徳川時代ニ至リテ、新井君美、字、在中、荻生雙松、字、茂卿。古ヘ、學生ノ入學ノ時、式アリテ、字ヲツケタリ。源、廿一、少女「あざなツクルコトハ、東ノ院ニテシタマフ、東ノ對ヲシツラハレタリ、上達部、殿上人、云云、集ヒマヰリタマヘリ」（源氏ノ息、夕霧ガ字ヲツケタルナリ）花鳥餘情「學生ノ入學ノ時、文章院ノ堂監ガ書キクダス名簿ニ、字ヲ書クナリ」兵範記、仁平四年三月廿七日、入學名簿「本堂二通、文章博士、堂監連署、勞儒注二例書一付レ字」

あざな（名）［字］〔前前條ノ語ト同ジカルベシ、但シ、本名アルニアラズ、村内ニ交ヘタル名ノ意ニモアルカ、玉勝間、二、あざ名「田地ノ字、何ノ字、くれノ字ナド云フモ、皆、正シク定レル名トシモナクテ、呼ビナラヘルヲ云ヘリ」或ハ、畔名ノ轉ト云フ、イカガアルベキ、あざト云フハ、下略ナリ、坪名ト云フハ、狹ク局レル意ナラム〕一村ノ内ノ小區域ノ地名。又、あざ。小名。（一町内ニアルモアリ）又、坪名。町村制ヲ定メ、數村ヲ合セ、一村トセラレテヨリ、舊村名ハ、大字トナリ、舊ノ字ヲ、小字トモ云ヘリ。朝野群載、七、勸學院政所下文「大和國、山邊郡、字、池上庄、田地等」［illegible］

あさなあさな（副）［朝朝］〔［illegible］朝一見の［illegible］、此方、あなたニ同ジ、又、夜ナ夜ナト云フモ、夜間夜間ノ約ナリ、あさなさな、ト云フハ、中間ノあガ、上ノなノ韻ニ合スルナリ〕朝毎ニ。マイアサ。多クハ約メテ、あさなさなト云フ。萬葉集、十一 三 旋頭歌「人ノ親ノ、少女子居エテ、（序）守山邊カラ、朝朝、通ヒシ君ガ、來ネバ悲シモ」［illegible］あさなあさなニ、色カハリユク［illegible］手ニ取持チテ、朝朝、見レドモ君ハ、飽クコトモナシ」同、二十 四十二「阿佐奈佐奈、上ル雲雀ニ、ナリテシガ、都ニ行キテ、ハヤ歸リ來ム」［illegible］邊近ク、家居シ居レバ、鶯ノ、鳴クナル聲ハ、あさなあさな聞ク」

あさなぎ（名）［朝和］〔常ニモ、なぎト云フコトアレド、別ケテ、朝、夕、ニ多シ、海風、陸風、互ニ交替スル時ナリ〕朝ニ、海上ノ浪風ノ和ギワタレルコト。夕凪ト云フ。萬葉集、［illegible］朝なぎニ、水手ノ聲呼ビ、［illegible］ヲ、イ行キサグクミ」

あさなきどり（名）［朝鳴鳥］鳥ノ名。俚言集覽、あさなきどり「上總ノ方言、大サ、かけすノ如ク、背毛アリ、［illegible］鳴ク、其聲高ク、［illegible］テタルハ、［illegible］」「鶏鳴合鳴」

あさなげ（名）［朝］〔次條ノ語ノ轉カト思ヘド、時代、餘リニ懸隔スベシ〕朝ヲあさなげト云ヒ、夕ヲゆふなげト云フ。俚言集覽、朝たけ「朝たけ、夕たけハ、朝夕ノ事也」

あさ-な-け-に　(副)　[朝夕]　あさにけにノ條ヲ見ヨ。

あさな-さな　(副)　[朝朝]　あさなあさなヲ見ヨ。

あさ-なは　(名)　[麻繩]　麻絲ニテ綯ヒ作レル繩。內匠寮式「繩料麻、小七兩」

あざ-なは・る・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四)　[糾]　〔次條ノ語ノ自動(よさふ、よさたはる)〕アザハル。マトハル。名義抄「纓、アザナハレリ」集韻「𢯱、束也、纏也」

あざ-な・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ(他動、四)　[糾]　〔交ヘ綯ふ〕アザフ。アザヌ。交ヘアハス。綯フ。名義抄「糾、アザナヘリ」賈誼、鵩鳥賦「夫禍之與レ福兮、何異二糾纆一」塵添壒囊抄、五、廿六條「吉凶ハ糾ヘル纆ノ如シ」

あさな-ゆふな　(名)　[朝菜夕菜]　あさな(朝菜)ノ條ヲ見ヨ。

あさ-に-け-に　(副)　[朝夕]　〔けハ、來經ノ約、其條ヲ見ヨ、あさなけにト云フハ、音轉ナリト云フ、後世ノ語ニ、塙ヲ、へなト云フナドモ、是レナルベシ〕朝ニ日ニ。又、あさなけにニ。アケクレ。朝夕。常住不斷。萬葉集、三、三十七「靑山ノ、峯ノ白雲(ノ如ク)朝爾食爾、常ニ見レドモ、愛ラシ吾君」同、八、十三長歌「花咲キニケリ、朝爾食爾、出デ見ル每ニ」古今集、八、離別「あさなけに、見ベキ君トシ、賴マネバ、思立チヌル、草枕ナリ」貫之集、四、山里ニ住ム女、子日スル「あさなけに、見ツツ住メドモ、今日見レバ、山邊ノミコソ、思ヒヤラルレ」

あさ-にじ　(名)　[朝虹]　〔朝燒ト同意ナリ、夕虹ハ、夕燒。あさがすみヲ併セ見ヨ〕虹ノ、朝ニ立ツモノ。其日、雨降ル兆ナリト言傳フ。夕ニ立ツヲ、夕虹ト云フ、翌日、晴天ノ兆ナリトス。晩虹　詩經、鄘風、蝃蝀篇(虹ナリ)「朝隮于西、崇朝其雨、女子有レ行、遠二兄弟父母一」壒囊鈔「諺云、朝虹、不レ渡レ川、晩虹、不レ齎レ傘」諺「朝虹ニ川越スナ」夕虹立テバ、鎌倉へ傘持ツナ」同「朝虹ハ、其日ノ洪水」又「朝やけハ、其日ノ洪水」

あさ-には　(名)　[朝庭]　〔朝、夕トハ、文ナシテ云フナリ、朝宮、夕宮ト云フ語モアリ〕朝ノ閒ノ庭。夕ナルヲ、夕庭ト云フ。萬葉集、十三、五十長歌「朝庭ニ、出デ居テ歎キ、夕庭ニ、入リ居テ思ヒ」

あさ-に-ひ-に　(副)　[朝日]　(一)アサニケニ。アサユフニ。フダン。常住。萬葉集、十一、二十「カクバカリ、戀ヒツツアラズハ、(アラムヨリハ)朝爾日爾、妹ガ履ムラム、地ナラマシヲ」(二)日マシニ。萬葉集、四、四十二「朝爾日爾、色ヅク山ノ、白雲ノ、(如ク)思ヒ過グベキ、君ナラナクニ」

あざ・ぬ・ヌル・ヌレ・ネ・ネ・ネヨ(他動、下二)　[糾]　〔交ふト通ズ〕アザフ。アザナフ。萬葉集、十三、廿長歌「カグロキ髮ニ、眞木綿以チ、阿邪尼結ヒ垂レ」觀無量壽經、三「合掌叉レ手讚二歎諸佛一」科註「叉、音差、兩手相錯也」

あさ-ぬの　(名)　[麻布]　麻絲ヲ以テ織リタル布。アサデ。ヌノ。倭名抄、十二、廿七「麻布、阿佐沼乃」七十一番歌合(文安)五十八番、白布賣「一筋ノ、霜カトゾ見ル、賤女ガ、織ル麻ぬのノ、月ノ夜ザラシ」

あさ-ね　(名)　[朝寢]　朝寢。朝ニ、遲クマデ寢過スコト。(あさおきノ反)　晏起　新六帖、一「明ケヤラヌ、閨ノ暇ノミ、待タレツツ、戀ヒセヌ身ニハ、あさねセラレズ」小町踊(寬文)春、上、鶯「鶯ノ、朝音ニ起ス、朝寢カナ」

あざ・ね　(動)　[糾]　あざぬ(糾)ヲ見ヨ。

あさね-がみ　(名)　[朝寢髮]　朝起キシママノ亂レ髮。あさがみ。ネクタレガミ。

萬葉集、十一、十五「朝宿髮、吾ハ梳ラジ、愛シキ、君ガ手枕、觸レテシモノヲ」和泉式部續集「イトドシク、あさねノかみハ、亂ルレド、黃楊ノ小櫛ハ、挿サマ憂キカナ」萬葉集、四、十五「朝髮ノ、(如ク)思ヒ亂レテ、カクバカリ、汝姉ガ戀フレ(バ)ゾ、夢ニ見エケル」

✤あさね-ばう　(名)　[朝寢坊]　〔朝寢ヲ擬人シタル語、世智辯坊、掃除坊ノ類〕朝寢スル癖アル人。諺「朝寢坊ノ宵マドイ」說苑「喜二夜臥一者不レ能二蚤起一」

あさ-の　(名)　[淺野]　〔淺しノ條ヲ見ヨ〕低キ草ノ生ヒタル地。淺茅生ト同意ナルベシ。萬葉集、三、三十四長歌「霞ノ上ノ、淺野ノ雉、明ケヌトシ、立チ動ムラシ」(夜明ケタリトシナリ)萬葉集、十四、三「安良能」(荒野)夫木抄、一、若菜「岩注グ、氷解クラシ、霞ノ上ノ、あさ野ノ若菜、今朝ヤ摘ムラム」

あさ-の-おこなひ　(名)　[朝修行]　佛ニ向ヒテ、晨朝ノ勤行。あさのつとめ。眞宗ニテ、朝事ト云フ。讚岐典侍日記(堀河院女房)「朝の御おこなひ」語彙、あさのつとめ「晨朝ノ勤行ヲ云フ」

あさ-の-かみ　(名)　[麻紙]　麻紙ノ條ヲ見ヨ。

あさ-の-くわい　(名)　[朝會]　あさぢゃ(朝茶)ヲ見ヨ。

あさ-の-ころも　(名)　[麻衣]　あさごろもヲ見ヨ。

あさ-の-さごろも　(名)　[麻狹衣]　〔さハ、發語、其條ヲ見ヨ〕麻布ノ衣。アサゴロモ。新拾遺集、五、秋、下「夜モスガラ、秋ノ心ヲ、ナグサメテ、月ニ打ツナリ、あさのさごろも」(砧ナリ)誰ガタメニ、あさの狹衣、打チワビテ、寢ラレヌ夜ヲ、カサネキヌラム」

あさ-の-つとめ　(名)　[朝勤]　あさのおこなひヲ見ヨ。

あさ-の-なか-の-よもぎ　(名)　[麻中蓬]　麻ノ幹ハ、直ク立チ、蓬ノ幹ハ、曲ル、其蓬モ、麻ノ中ニテ生ヒ立テバ、直クナルト云フコト。荀子、勸學篇「蓬生二麻中一不レ扶而自直」(史記、三王世家ニ、傳曰トシテ、此語ニ、白沙在二泥中一與レ之皆黑者、土地敎化使二之然一也、ト添ヘタリ)習俗論「譬如下曲草生二於麻中一不レ扶自直上」十訓抄、中、第五、序「麻の中の蓬ハ、撓メザルニ、自ラ直シト云フ譬ヘアリ」新勅撰集、十七、雜、二、平泰時「世ノ中ニ、麻ハアトナク、ナリニケリ、心ノママノ、蓬ノミシテ」

あさ-の-は　(名)　[麻葉]　染模樣ノ名、麻ノ葉ノ形ナリ。但シ、周ヘ、平等ニ六出ス、模樣ニハ、其形ヲ縱橫ニ排ベ列ヌ、赤子ノ產着ナドニ、あさのは鹿子ナドアリ。

あさのは-かへで　(名)　[麻葉楓]　〔葉ノ形、麻の葉ニ似タリ〕楓ノ一種。葉ハ、數片ニ分裂シ、各片、銳頭、鋸齒アリ、春ノ末、總狀ノ淡黃小花ヲ開ク。ミヤマモミヂ。

あさのは-がめ　(名)　[麻葉龜]　瑇瑁ノ類。大キサ、常ノ龜ノ如クニシテ、甲ノ文、あさのはノ形ヲス、南洋產ナリ。(俚言集覽)

あさ-の-ま　(名)　[朝閒]　朝ノホド。(多クハ、朝飯前ノ意ニ云フ)朝閒ヲ併セ見ヨ。「仕事ハ、あさのまニ、シテシマフ」

あさ-の-み　(名)　[麻實]　めあさノ子。小サキ粒ニシテ、黑ク光ル、食用、又、藥用トス。麻蕡　本草和名、下、十三「麻蕡、阿佐乃三」

あさのみ-むし　(名)　[麻實蟲]　甲蟲ノ名。體ハ、楕圓形ニシテ、光澤アル暗綠色ヲ

星ス、麻ノ[illegible]ナリ。

あさ-の-をぬさ (名) 麻幣 〔をぬさノを八、發語ナリ、にぎて八、ぬさニ同ジ〕祓ニ用キル麻ノ幣。(宣[illegible])祓ニ云ヘルナルベシ。夫木抄、九、[illegible]ヤ、[illegible]カラマシ、祓スル、あさのをぬさニ、祈リカケズバ」拾家集、川合ヒヤ、[illegible]ニ、[illegible]ノ、ぬさ[illegible]テ、イザ祓セム」五社百首(俊成)「祓スル、麻ノ立枝ノ、幣、早瀬ノ神モ、ナビケトゾ思フ」

〔あさ-はか-ま〕 (副) 淺〔はかまハ、あてやか、[illegible]〕ヲ形作ル接尾語、貴はかまハ、あてやかまニ同ジ〕(一)奥深カラズ。アサマニ。萬葉集、十二[illegible]紅ノ、薄染衣、淺らかに、相見シ人ニ、戀フルコロカモ」源、三十八、夕霧[illegible]月、云云、差入リタリ、あさはかなる庇ノ軒八、ホドモナキココチスレバ、月ノ顔ニ向ヒタルヤウナル」(二)アサアサシク。思慮深カラズ。淺薄 源、九、[illegible]イトあさはかなる、人人ノ歎キニモ作ルナルカナ」同、十七、繪合[illegible]「神代ノ事ナメレバ、あさはかなる女、目及バヌナラムカシ」

あさ-ばかま (名) 麻袴 麻布ニテ作レル袴。儉素ナルモノトス。日本永代藏(貞享、西鶴)五、三匁五分曙のかね「元日ニモ、登入ノ時、仕立テタル麻袴ニシテ、四十五年コノカタ、禮儀ヲ勤メケル」

〔あさ-は-ふ・る〕ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) 朝羽振 羽振るハ、鳥ニ云フ語、(其條ヲ見ヨ)サレド、ココニテハ、唯、動キアガル意ニ用キラレタリ、朝ト云ヒ、夕ト云フハ、文ナシテ云フナリ。風ニ、浪ガ起リ搖ル。萬葉集、[illegible]、朝羽振[illegible]、風コソ寄セメ、夕羽振[illegible]、浪コソ[illegible]、朝羽振、浪ノ音サワギ、夕[illegible]ニ、[illegible]ノ[illegible]ユ」

あさ-はん (名) 朝飯 あさめしニ同ジ。

あさ-ばん (名) 朝晩 アケクレ。アサユフ。朝夕

あさ-ばん (名) 朝番 朝ノ當番ノ勤仕。[illegible]、廿四[illegible]、[illegible]六人モ[illegible]ニ罷出ニ候迄八、常之[illegible]ニ着座致ニ仕、人少ニ無之様ニ可致事」(萬治二年八月六日)

あさ-はら (名) 朝腹 (一)朝飯前ノ空腹。(一種[illegible]ノ菓子ニ菓子ノ條ヲ見ヨ)朝腹の丸藥ナド云フハ、空腹ヲ滿タスニ堪ヘズ、ト云フコト。大からん寶物鏡 此八王ガ打潰サムト思ハバ、何ノソノ、露門ノ五十ヤ百、打潰サムハ、朝腹の丸藥、ホホたまる事デハ、オンヂャルマイ」(言語大辭典)(二)江戸ノ俗語ニ、急呼シテ、あさッぱら(よさはら、よさッぱら)ト云ヒテ、朝ニ早キコトトス。早朝「あさ ぱらカラ酒ヲ飲ム」あさ ぱらカラ押シカケル」俚言集覽、朝腹 江戸詞、本朱、朝飯前ノ事ナルガ、轉ジテ、只、朝からノ事ヲ云フ」

〔あざ-は・る〕ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) 糾〔交ふノ自動(まとふ、まとはる)〕アザナハル。マトハル。續紀、七年九月、長歌、妹ガ手ヲ、我レニマカシメ、我ガ手ヲバ、妹ニマカシメ、マサキヅラ、手抱キ[illegible]」名義抄「糺、アザハレリ」同「糾纏、アザハレルナハ」

〔あさ-ひ〕 (名) 朝日 朝、昇ル時ノ太陽。ヒノデ。旭 暾 朝陽 古事記、上六十「此地者朝日之直刺國、夕日之日照國也」

あさひ-がに (名) 朝日蟹 蟹ノ一種。暖海ニ産ズ、甲ノ長サ五七寸、幅三寸許、全體赤クシテ、背ニ齒ノ如キ突起アリ、後脚、杓子ノ狀ヲナセリ。一名、ベニガニ。猩猩蟹。(俚言集覽) 紅蟹

あさひ-がひ (名) 朝日貝 一種ノ貝。殼ノ大キサ一寸ニ足ラズ、圓ク薄クシテ、色薄赤ク、緣アリ、蓋ハ、平ニシテ、孔一ツアリ。又、其薄黃色ナルヲ、今日貝ト云フ。(語彙)

あさひ-かまぼこ (名) 朝日蒲鉾 〔斷面ノ狀ヲ朝日ト見ル〕板付ノかまぼこノ上面ヲ、紅ニテ染メタルモノ。輪切ニスレバ、邊、紅ニシテ、弓形ヲナス。

〔あさひ-こ〕 (名) 朝日子 〔こハ、日本根子ナドノ、子ニテモアラムカ、倘、考フベシ、(顏鼠漫筆(黑川春村)卷一、朝日子ノ辯ニ、歌ニ安佐比古可トアルハ、朝日影ヲ謠ヒ訛シニハアラジカトテ、考證アリ、神樂歌入文(橘守部)ニモ、朝日嵩ノ意ナルカ、影ノ意カト云ヘリ)〕朝日ト云フニ同ジ。神樂歌、朝日「イヅコニカ、駒ヲ繫ガム、安佐比古可、映スヤ岡邊ノ、玉笹ノ上ニ」語彙倭訓栞、陽外、あさひこ、色葉集(文明、萬里居士作)ト云フ」「あさひこヤ、今朝ハウララニ、ナリツラム、田面ノ鶴ノ、空ニ向キ鳴ク」

〔あさひ-さ・す〕ス・セ・サ・シ・セ(自動、四) 朝日映 朝日ノ光、映シ出ヅ。(枕詞ノ如クニ用キラレタルモアリ) 萬葉集、十、「冬過ギテ、春來ルラシ、朝鳥指す、春日ノ山ニ、霞タナビク」(春日山ハ、奈良ノ京ノ東ニアリ) 同、十二廿「朝日指す、春日ノ小野ニ、置ク露ノ」同、十七四十長歌「阿佐比左之、背向ニ見ユル、云云、高キ立山」(越中國ノ國府ノ官人ノ詠ナリ、立山ハ、新川郡ノ東境ノ山脈ニテ、今、其最高峯ナル劍嶽ヲ、たて山ト稱ス、昔ノ國府ハ、今ノ射水郡、伏木町ニアリキ、ソコヨリハ、側面ニ見エシナリ) 同、十四二十「上ツ毛野、マグハシマトニ、安佐日左指、マギラハシモヨ、在リツツ見レバ」(古義ニ、まぎらはしハ、著明シト云ハムガ如シト云ヘリ)「朝日映し、夕日輝く、此下に、黃金千兩、漆千杯」コレハ、各地方ニ、往往傳唱セラルル歌ナリ、(或ハ、漆七桶トシ、或ハ、瓦萬枚トス)其一ハ、奥州磐井郡ノ平泉志ニ、金鷄山、云云、[illegible]ニ、秀衡、漆一萬杯ニ黃金一萬兩、混ヘテ埋藏ス、朝日サシ、夕日カガヤク、コノ下ニ、[illegible]トアリ、[illegible]ゼラレタルコトナリ。

あさひ-しやうぐん (名) 朝日將軍 〔俊[illegible]、あさひノ[illegible]ニハ、「將軍ニ任ジ、程ナク亡ベリ、其榮華ノ久シカラザル、朝日ノ如シトゾ」トアレド、七日の關白ノ意トシテ、[illegible]自稱ニ[illegible]ナシ、將軍トナリシヲ、朝日ノ盟榮昇ルニ擬シタルナルベシ」源義仲ノ自稱シタル語、壽永三年正月十日、近江國、粟津ニテ戰死セリ。平家物語、九、木曾最期事、[illegible]、[illegible]「大音聲ヲ上ゲテ、云云、朝日の將軍源ノ義仲ゾヤ」大日本史、[illegible]義仲傳、[illegible]平家物語[illegible]、[illegible]、[illegible]朝日將軍[illegible]、[illegible]朝日將軍[illegible]也」[illegible](元暦)三[illegible]官位[illegible]朝日將軍、[illegible]三年、[illegible]、[illegible]兵衞、[illegible]長[illegible]、[illegible]、[illegible]之[illegible]」

あさひな-しまめぐり (名) 朝比奈島廻 童話ノ一。繪本、草雙紙ニ、朝比奈三郎義秀ガ、鬼ガ島へ渡リシ事ヲ作リテ記セリ、三浦義盛ガ三男、三郎義秀、膂力絶倫ナリキ。保元物語ニ、鎭西八郎爲朝ガ、鬼ガ島渡リノ事アリ、又、童話ニ、桃太郎ガ、鬼ガ島ヲ征服セシ事ヲ云ヘリ、是レ等ニ因リテ作リシ談ナルベシ。吾妻鏡、廿一、建保元年五月三日、[illegible]、[illegible]ノ[illegible]、[illegible]名[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]安房國」大日本史、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]ト八、[illegible]房、[illegible]、[illegible]安[illegible]、[illegible]名[illegible]、[illegible]、[illegible]之[illegible]、朝比奈[illegible]八、鮮ノコトナリ) 本朝神社考(林道春)「義秀、自ニ房州[illegible]二[illegible]リテ、[illegible]、[illegible]シテ、一生[illegible]ナシト云フ」[illegible]、朝比奈[illegible]、[illegible]ト、[illegible]リニテ[illegible]、[illegible]へ[illegible]ト云フ事ヲ演ズ。[illegible]

云フ小說アリ。北條五代記ノ五ニ、伊豆、賀茂ノ住人、朝比奈六郎知明ト云フ侍、南海ノ八丈島以下七島ヲ打チナビカシ、北條早雲ノ有ニ歸セシメタルコトヲ載ス、似タルコトナリ。

あさひ-なす (副詞句) 如朝日 〔なす(如)ノ條ヲ見ヨ、朝ト云ヒ、タト云フハ、文ナシテ云フナリ〕 朝日ノ如ク。萬葉集、十三ノ長歌「內日刺、大宮仕へ、(造營)朝日奈須、目細シモ、暮日奈須、心細シモ」(宮造ノウルハシサ、目モ心モ、妙ニ思フ)

あさひな-ちまき (名) 朝比奈粽 〔俚言集覽ニ「朝比奈家ヨリ製シ出ス」トアリ、製造スル家ノ名ナリ〕 蒸菓子ノ名。糯米ヲ、椿ノ灰汁ニ浸シ、蒸シテ黃色ヲ呈シタルヲ、粽ノ如ク、藁シベニテ包ミテ煮タルモノ。灰汁ハ、椿ノ灰ヲ水ニ混ジ、其上澄ヲ煎ジテ用ヰル。(日本百科大辭典)

あさひ-の-みや (名) 朝日宮 伊勢大神宮ノ別稱。倭訓栞、あさひのみや「內宮ヲ申奉ル、倭姬命ノ、朝日來向國ト宣ヒシニ因ル也、玉葉集ニ、伊勢遷宮ノ年ヨミ侍リケル、鎌倉右大臣、神風ヤ、朝日の宮ノ、宮ウツシ、影ノドカナル、代ニゾアリケル」(承久三年八月ノ事ナルベシ) 皇太神宮儀式帳「朝日之來向國、夕日之來向國」

あさひ-まんぢゆう (名) 朝日饅頭 圓形ノ饅頭ヲ、紅ニテ染メタルモノ。俚言集覽、あさひまんぢう「綿臙脂ヲ以テ、紅色ニ染メタル饅頭ナリ」

あさ-びらき (名) 朝開 〔多ク、朝開き漕ぐ、ト續ケタレバ、連用形、又ハ、副詞句ナルカトモ思ヘルレド、萬葉集ニ、朝開してトアリ、後ニ、あさぼらけトモナリタレバ、暫ク名詞トス〕 朝ニ早ク、船出スルコト。然レドモ、言ヒ馴レテハ、朝ニ限ラズ、唯、船出スルコトニ云ヘリト見エ、且、漕ぐノ、枕詞ノ姿ヲモナセリ。 出帆 開洋 萬葉集、三 三十二「世ノ中ヲ、何ニ譬ヘム、旦開、漕ギニシ船ノ、跡ナキガ如」同、九 八「朝開、漕ギ出デテ我レハ、由良ノ崎、釣スル海人ヲ、見テ歸リ來ム」同、十七 十五「珠洲ノ海(能登國)ニ、安佐比良伎シテ、漕ギ來レバ、長濱ノ浦ニ、月照リニケリ」同、十八 二十二「安佐奴良伎、入江漕グナル、楫ノ音ノ」

あさ・ふ・フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ (自動、下二) 淺 〔淺ヲ活用ス、淺ゆ、淺むナドト同趣ノ語〕 (一)淺クアリ。源、四十三、竹川 卅「マダ、位ナドモ、あさへタルホドヲ、ナドオボスニ」(位ノ卑キヲ、位淺しト云フ) (二)淺ハカナリ。思慮足ラズ。源、三十九、御法 三「タダ打チあさへタル、思ノママノ道心オコス人人ニハ、コヨナウ後レタマヒヌベカメリ」河海抄「淺キココロ」湖月抄「何ノ遠慮思案モナキナリ」同、四十、幻 二十「サヤウニあさへタルコトハ、カヘリテ、カルガルシキ」孟津抄「淺クオコス道心ハトナリ」紫式部日記「若ヤカナル人コソ、物ノ程知ラメヤウニ、あさへタルモ、罪許サルレ、何カアザレガマシト思ヘバ」

あさ・ぶ・ブル・ブレ・ビ・ビ・ビヨ (自動、上二) 淺 〔淺帶ぶノ約(進ぶ、翁ぶ)〕 川水ナド、次第ニ淺クナル。アス。萬葉集、六 四十 在二寧樂家一思二故鄕一歌「須臾モ、行キテ見テシガ、神名備ノ、淵ハ淺而、瀨ニカナルラム」(大和國、高市郡、神名備川)

あさ・ぶ・ブ・ベ・バ・ビ・ベ (他動、四) 淺 〔淺ヲ活用ス、(否ぶ、哀ぶ)淺むト同意〕 輕ンズ。ケナス。輕蔑 經信卿母集「コレハ、イカナル事ニカ侍ル、罪アルベキナド、あさびアヘルモ、法ニ超エタリ」

あざ・ふ・フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ (他動、下二) 糾 あざなふノ條ヲ見ヨ。

あさ-ぶさ (名) 朝物 〔朝普茶ニテ、黃檗宗ノ普茶ヨリ起リテ、朝茶子ニ移リタル語ナラムカ、あさたのものヲ參見セヨ〕 朝飯前ニ食フ、菓子ノ類。夏山雜談(寬保、小野高尙)二「御朝物ハ、餠、粽、菓子ノ類ヲ、年中、每朝、河端道喜ト云フ御菓子師ヨリ、調進スルトナリ、民間ニテ、朝食ヨリ前ニ、何ニテモ喰フコトヲ、あさふさト云フハ、此餘風ナルベシ」心中天網島(享保、近松作)中「二人ノ子供ガ朝ぶさ前、忘レズ必ズ、桑山飮マセテクダサレ」(桑山小粒藥ハ、小兒ノ良藥)

あさ-ぶすま (名) 麻衾 〔ふすまヲ見ヨ〕 麻布ニテ作レル衾。萬葉集、九 廿九長歌「寒クシアレバ、麻被、引キカガフリ」

あさ-ぶろ (名) 朝風呂 朝湯ニ同ジ。

あさ-ぶろしき (名) 麻風呂敷 風呂敷ノ、麻布ニテ作レルモノ。

あさへ (動) 淺 あさふ(淺)ヲ見ヨ。

あざへ (動) 糾 あざふ(糾)ヲ見ヨ。

あさ-ぼらけ (名) 朝朗 〔あさびらきノ轉ニテ、あけぼのト混ジタル語ナラム、萬葉集、三 三十一「旦開、漕ギニシ船ノ、跡ナキガ如」此歌、拾遺集、二十ニ載セテ「朝ぼらけ」「シタリ」〕 アケボノ。夜ノシラシラアケ。シノノメ。昧爽 名義抄、日部「淩晨、曙、アサボラケ」古今集、六、冬「朝ぼらけ、有明ノ月ト、見ルマデニ、吉野ノ里ニ、降レル白雪」十訓抄、中、第四、第三條「或ル朝ぼらけニ、法師ノ、女ノ姿ヲシテ、門ヲ叩クコトアリ」

あさ-ま (名) 朝閒 〔晝閒、夕閒ニ對ス〕 朝ナル頃。アサノマ。堀河院百首、後朝戀「露ケサハ、あさまノ市ノ、白眞弓、カヘルワビシキ、今朝ニモアルカナ」(信濃、筑摩郡、松本東北ノ地ナル、淺閒ニカケタリ、此國ハ、昔、良弓ヲ出セリ) 曾我物語、五、三原野御狩事「夜ナラバ、コウコウトコソ、鳴クベキニ、あさまニ走ル、[illegible]狐カナ」

あさ-ま (名) 淺閒 〔あさ狀ノ約ナルベシ(あさなあさな、あさなさな)〕 奧深カラズ。アサハカニ。アラハニ。夫木抄、十三「端近ク、あさまニ閒ヲ、シツラヒテ、空行ク月ヲ、入レヌ夜ゾナキ」

あさま・し・シキ・シケレ・シク・シク (形、二) 驚 〔あざむノ語原ヲ見ヨ、元來、淺しト云フ意ノ語ナリ、萬葉集、十四 十五「遠江、引佐細江ノ、澪標、(深キモノニ云フ)我レヲ賴メテ、安佐麻之モノヲ」(心ノ淺キヲ云フ、空し車、惡し樣ナドノ用法ナリ)拾遺集、十四、戀、四「小牡鹿ノ、爪ダニ浸ヌ、山川ノ、(如ク)あさましきマデ、訪ハヌ君カナ」是レラノ用法、次次ノ意ノ、過渡ノモノナリ〕 (一)驚クベク甚シ。イミジ。ユユシ。(善キニモ、惡シキニモ云フ) 伊勢物語、四十六段、友人ノ文「あさましく對面セデ、月日ノ經ニケル事、忘レヤシタマヒニケムト、イタク思ヒワビテナム侍ル」源、一、桐壺 六「カカル人モ、世ニ出デオハスルモノナリケリト、あさましきマデ、目ヲ驚カシタマフ」同卷 廿七「冠シタマヒテ、云云、アゲオトリヤ、ト疑ガハシクオボサレツルヲ、あさましうウツクシゲサ、添ヒタマヘリ」宇津保物語、藏開、下二「一日、あさましく飮ベ醉ヒテ」宇治拾遺、十一、第八條「大ナル男三人、幾程モ隔テズ、切伏セタル、あさましく遣ヒタル太刀カナ」 (二)興醒メタリ。アキレタリ。古今集、十九、誹諧「雲晴レヌ、淺閒ノ山ノ、(序)あさましヤ、人ノ心(我ガ心)ヲ、見テコソヤマメ」源、二、帚木 四十五「御文ヲモテキタレバ、女、あさましきニ、淚モ出デ來ヌ、御文ヲ、面隱ニヒロゲタリ」枕草子、五、四十九段「あさましきもの、刺櫛ミガクホドニ、物ニサヘテ折レタル」

あさ-まだき (副) 早朝 〔まだきハ、急グ

意ノ、まだく(早急)ノ連用形、其條、遠ニ、まだきコノ條ヲ見ヨ。 朝ニ早ク。 拾遺集、十一、春「あさまだき、嵐ニテゾ鳴クナル、梅ノ花、夜ノ間ノ風ノ、ウシロメタサニ」 萬、四十八、雲生艸「あさまだき、マダキニケリト、思ヒナガラ、人召シテ、中門ノ明キタルヨリ、見セタマヘバ」 [illegible]流抄「早朝ヲ云フ」 露月抄、題「アマリニ早ク來タリシヨトナリ」 新千載集、四、秋、上「朝まだき、秋風吹ケバ、蟬ノ羽ノ、(序)薄キ衣ゾ、涼シカリケル」 合類節用集、二、時候「旦、未明、昧爽」

あさ-まつげ (名) |朝熊黄楊| 黄楊ノ一種。老大ナルハ、高サ、二丈、圍、二三尺ニ及ブ、葉ハ、橢圓ニシテ、光澤アリ、材、黄色、堅實、緻密ニシテ、材中ノ良材ナリ、櫛、印版、挽物、卓机等、種種ノ器ニ作ラル。 俚言集覽、あさまつげ「黄楊ノ一種ニシテ大ナリ、伊勢朝熊山ニ多シ、朝熊黄楊」

あさ-まつりごと (名) |朝政| 〔早朝ヨリ出デテ執務スルヲ本トシテ云フ語ナリ、あさまだきヲ併セ見ヨ〕天皇、早朝ニ、正殿ニ出御アリテ、政務ヲ聞シメサルルコト。朝廷ノ政務。 綏靖帝位前紀「手研耳命、行年已長、久歷朝機」私記「朝機、安佐萬津利古止」 [illegible]、八年七月「[illegible]自今以後、卯始朝之、巳後退之」(卯時ハ、今ノ六時、巳ハ、十時) 白氏文集、十二、長恨歌「楊家有女初長成、云云、一朝選在君王側、云云、春宵苦短日高起、從此君王不早朝」(玄宗帝、楊貴妃) 源、一、桐壺八「朝ニ起キサセタマフトテモ、明クルモ知ラデト、思シヅルニモ、ナホあさまつりごとハ、怠ラセタマヒヌベカメリ」(長恨歌ヲ翻セリ) 今昔物語、廿七、第九語「官ノツカサニ、朝マツリゴトト云フ事ヲ行ヒケリ、ソレハ、イマダ曉ニゾ、火ヲ燈シテ、人ハ參リケル」 續後拾遺集、十六、雜、中「[illegible]ヨリモ、ナホ[illegible]シ、[illegible]ノ戸ノ、明クレバイソグ、朝まつりごと」 字類抄「早朝、アサマツリゴト」

あさ-まどひ (名) |朝惑| ゆふまどひヲ見ヨ。

あさ-まもり (名) |朝守| 朝、宮門ヲ開クコト、夕ニ閉ヅルヲ、夕の守ト云フ。古ヘ宮門ノ守衛ハ、大伴氏、佐伯氏ノ人人、コレヲ掌リキ。 萬葉集、十八廿長歌「大伴ト、佐伯ノ氏ハ、云云、安佐麻毛利、由布能麻毛利ニ、天皇ノ、御門ノ守リ、云云」 大書延喜式「伴、佐伯、各二人、分就南門左右外掖門腋待時開門、云云、祭事已畢、百官各退、伴、佐伯氏人、閉門」

あさ-まゐり (名) |朝參| アカツキマウデ、早朝ニ、神社、佛閣ヘ參詣スルコト。

あさ-み (名) |淺處| 〔深みニハマル〕川、沼ナドノ、水ノ淺キトコロ。 源、九、葵十「あさみニヤ、人ハ下リタツ、我ガ方ハ、身モ濡ヅマデ、深キ戀路(泥ニ言ヒカク)ヲ」

あざみ (名) |薊| 〔あざみ草ト云フガ成語ニテ、刺多キヲあざむ(惘)意ニテモアルカ〕草ノ名。春ノ初、芽ヲ出ス、葉ハ、地ニ就キテ生ジテ、刻缺アリテ、刺多シ、春ノ末、三四尺ノ莖ヲ出ス、亦、刺アリ、秋、花ヲ開ク、形、眉刷子ニ似テ、蕚ニモ刺アリテ、色、紫ナリ。人家ニ植ウルモノハ、はなあざみ、まゆはきあざみナド云ヒテ、花、紅、白、紫、黄、等、種種アリ。又、山薊、鬼薊、野薊、狐薊等アリ、各條ニ註ス。 字鏡九十四「薊、阿佐美」 倭名抄、十七十一「薊、[illegible]多刺、阿佐美」

あざみ-ぐは (名) |薊桑| 〔刻缺アルコト、薊ニ似タリ〕桑ノ一種、葉ノ刻缺ノ深キモノ。雞桑

あさ-みけ (名) |朝御食| 御食ノ條ヲ見ヨ。

あさ-みつ-しほ (名) |朝滿潮| あさしほヲ見ヨ。

あさ-みどり (名) |淺綠| みどり色ノ、淺キモノ。ウスミドリ。アサギイロ。ミツイロ。 天治字鏡、十二廿「草綠、阿佐彌止利」 [illegible]「淺綠、染メカケタリト、見ルマデニ、春ノ楊ハ、萌エニケルカモ」 [illegible]「[illegible]ハルバルト、あさみどりナル、大空ニ、遊絲ヲヤ、ナガメクラサム」

あさ-みや (名) |朝宮| (一)朝ノ宮奉仕。朝ノ御饌ナドノ事ヲ云ヘルナラムト云フ。 萬葉集、十三8長歌「石走、(枕)神南備山ニ、朝宮ニ、仕ヘマツリテ」(行幸ノ假宮) (二)夕宮ト並ベテ、朝夕ノ、宮内ノ御事。 萬葉集、二廿二、春日香皇女殯宮長歌「朝宮ヲ、忘レタマフヤ、夕宮ヲ、背キタマフヤ」(雲隱セサセタマヒシヲ云フ)

あさ・む・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ (他動、下二) |諫| 〔諫むト通ズ(痛腹、あたはら(疝)。卑しの賤、あやしのまづ)〕いさむ(諫)ニ同ジ。 [illegible]紀、四十九月「[illegible]兒之消[illegible]、云云、其妻[illegible]諫曰、[illegible]」

あざ・む・ム・メ・マ・ミ・メ (自動、四) |驚歎| 〔淺むト云フナリ、あきれかへるニ因リテ濁ル、(淡むヲ、あばむト云フト、同趣ナリ)此語ノ未然形ノあさまヲ、形容詞ニ活用セサセテ、あさまし(勇む、いさまし。傷む、いたまし)卽チ、あさましく思ふナリ、あざ笑ふモ、あざみわらふナリ〕 オドロキアキル。アキレカヘル。アッケニトラル。興醒ムル意ヲ含ムアリ。 宇津保物語、俊蔭「女ヲ、イトニ無ク作リ出シテ奉レル時ニ、一天下ノ人、皆言ヒあさみテ、ソノタビ、俊蔭一人、[illegible]ニナリヌ」 宇治拾遺、四、第十七條「[illegible]あさむ[illegible]色モ見セズ」 [illegible]ヤルニ、一開バカリ退キテ居タマヒテ、一度モ落サズ、[illegible]ルあさまズト云フコトナシ」 [illegible]、十、[illegible]川ニ入リケレバ、馬モ[illegible]入リニケリ、乘人、河ニ沈ミテ、見エザリケレバ、上下オドロキあさみアヘリ」 徒然草、四十一段「コレヲ見ル人、嘲リあさみテ、世ノ痴者カナ、カク危キ枝ノ上ニテ、安キ心アリテ睡ルラムヨ、云云」

あざむ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (他動、四) |欺| 〔前條ノ語ヲ活用セサセタル語カ、摘むガ、紬ぐトナル、(酒水く、鬘く、枕くノ類)あさましく仕向クル意ニモアラムカ、前條ノ語原ヲ見ヨ、[illegible]「淺ク背ク義ナルベシ」トアレド、自動ナリ〕(一)惑ハス。タバカル。タブラカス。スカス。ダマス。 [illegible] (二)侮ル。シノグ。 [illegible]

あさ-むしろ (名) |麻席| 麻ニテ編ミ作レル席。 [illegible]太神宮[illegible]、九月、[illegible]以祭日敷用」

〔あさんづ（名）［淺水］〔地名、淺生津ノ音便、（甲、かん）倭名抄、七七「越前國、丹生郡、朝津、阿左布豆」生ヲ省キテ二字トス、行嚢抄（元祿）上、越前國、鯖江、淺生津「淺生津ハ、白ニ溝落二二里、町中ニ、深キ泥川アリ、橋アリ、長サ十二間」〕催馬樂ノ曲ノ名。催馬樂、淺水「安左牟川ノ橋ノ、（序）トドロトドロト、降リシ雨ノ、（序）舊リシ我レヲ、誰レゾコノ、仲人立テテ、御許ノカタチ、消息シテ、訪ヒニ來ルヤ、サ公達ヤ」夫木抄、廿一、橋「言傳テム、人ノ心モ、アヤフキニ、ふみダニモ見ヌ、あさんづノ橋」

ア-さんれん（名）［下三連］三連ノ條ヲ見ヨ。

あさ-めし（名）［朝飯］朝ノ食事。アサケ。アサハン。（夕飯ニ對ス、二食ノ條、見合スベシ）朝餐

✣あさめし-まへ（名）［朝飯前］（一）朝ニ起キテヨリ、朝飯ヲ食フ前。アサノマ。さんな重い物、朝飯前には持ちあげられぬナド云フハ、飢腹キ意ヨリ云フナリ。（二）僅ナル閒隙ニ云ヒ、容易キコトニ云フ。俚言集覽、朝飯前「其位ノ事ハ、トクニ知テ居ルト云フヲ、朝飯前ニ知テ居ルト云フ」「朝飯前ノ仕事」

〔あさ-も-よい（枕）次條ヲ見ヨ。

〔あさ-も-よ-し（枕）［麻裳吉］〔麻裳よト呼ビカケテ云フ、しハ助辭ナリ、（玉藻よし、眞菅よし）倭訓栞、あさもよし「麻の裳を着るト云フ意ニツヅケタルナルベシ」萬葉集、七八十「麻衣、着レバナツカシ、木國（紀伊國）ノ、妹夫ノ山ニ、麻蒔ク吾妹」あさもよひハ、よしノ音便ナレバ、よいナルベキナリ〕きト云フ語ノ枕詞。又、あさもよい。萬葉集、四廿三長歌「麻裳吉、紀路（紀伊國ノ路）ニ入リ立チ」同、十三廿八長歌「朝裳吉、城上ノ道」（城上ハ、大和國ノ地名）壬二集、上、下「胸ニ燃エ、袖ニカケテモ、あさもよひ、紀ノ川波ハ、カヘル瀬ゾナキ」

〔あ-ざやか-ㇺ（副）［鮮］〔あハ、明くノ語根、明淸ナラムカ〕麗シク分明トシテ。字鏡三十八「瑳、鮮潔之貌、阿左夜加爾」枕草子、十、百三十三段「高麗緣ノ疊ノ筵、靑ウ細ヤカニ、厚キガ、緣ノ紋、イトあざやかㇺ」增鏡、十六、久米の皿山「イカナルニカ、御覺、イトあざやかならヌゾロ惜シキ」

〔あざ-や・ぐ・グ・ゲ・ガ・ギ・ゲ（自動、四）［荒］〔あざハ、荒るノ語根、其條ヲ見ヨ、やぐハ、爽やぐ、若やぐ、ナドト同ジク、ばむ、又、めくノ意〕荒る、あざればむニ同ジ。荒ブ。荒ブ。源、廿一、少女廿二「御心動キテ、少シ雄雄シウ、あざやぎタル御心ニハ、シヅメガタシ」同、四十八、寄生廿七「物物シクあざやぎテ、心バヘモ、タヲヤカナル方ハナク、物ホコリカニナドヤアラム、サアラムコソ、ウタテアルベケレ」同、五十二、手習廿四「白キ單衣ノ、イトナサケナク、あざやぎタルニ、袴モ、檜皮色ニナラヒタルニヤ、光モ見エズ」

あさ-やけ（名）［朝燒］〔朝朱ノ音轉、（出典ノ七玉集ヲ見ヨ、打合、うちやひ。掛合、かけやひ）空、赤クシテ燒くるガ如クナレバ、朝燒トモ書クナリ、霞ノ字ノ本義ハ、あさやけ、ゆふやけナリ、かすみノ條ヲ見ヨ〕カスミ。日やけ。やけ。日出、日沒ニ、日ノ邊ノ空ノ、赤ク見ユル現象。空氣中ニ浮游スル水滴、塵芥等ヲ、日光ガ通過スル際シテ、其光ノ屈折、反射ニ因リテ生ズ。コレガ朝ニ生ズルガ、卽チ、あさやけナリ、又、あさあけ、朝がすみ、ト云フ、コレヲ雨天ノ兆トス。（朝虹ヲ併セ見ヨ）朝霞　晨霞　夕ニ生ズルヲ、ゆふやけ（夕燒）ト云フ、日和ノ兆トス。晩霞　暮霞　夫木抄、二、霞「朝がすみ、光ニ色ヤ、粉フラム、春風匂フ、野邊ノ梅ガ枝」梓園日記（弘化、北靜廬）一、「朝あけ、七玉集ニ「山ノ端モ、霞ムト見ユル、朝あけニ、ヤガテ降リヌル、春雨ノ空」案ズルニ、朝あけノあけハ、赤キヲ云フ、今云フ朝やけナリ、又、新撰六帖ニ「山ノ端ニ、ほてりセル夜ハ、室ノ浦ニ、明日ハ日和ト、出ヅル船人」コレタあけニヤ、サレバ、朝あけハ雨、夕あけハ日和ト、古クヨリ云ヘル諺ナルベシ。范成大、石湖居士詩集ノ題ニ、曉發ニ飛鳥ハ晨霞滿レ天、少頃大雨、吳諺云、朝霞不レ出レ門、暮霞行ニ千里ハ驗レ之信然」（節文）倭訓栞、かすみ「全浙兵制、附錄、日本風土記（明末、侯繼高）ニ、霞ヲ、やけト譯セリ、俗ニ、朝やけ、夕やけナド云ヘリ」同、やけ「全浙兵制ニ、霞ヲ譯セリ、今モ、日やけナド云ヘリ」（やけハ、日やけノ上略ナリ）

✣あさ-やま（名）［朝山］朝山、夕山ト云フハ、船人ノ、海上ヨリ、陸ノ山影ノ、朝夕ニ變化スルヲ望ミテ云フ語。俚言集覽、朝山夕山「朝夕ハ、山遠ク見ユルヲ云フ、海船人ノ諺ナリ」

あさ-ゆ（名）［朝湯］朝ニ早ク、浴スルコト。朝風呂。

あさ・ゆ・ユル・ユレ・エ・エ・エヨ（自動、下二）［淺］〔淺ノ活用、若ゆモアリ、淺ふト同趣ノ語〕色、淺クナル。薄ラグ。アス。褪　馬内侍集、紅ノ花ヲ、男ノ見セニオコセタレバ「クルシトテ、色ニ出ヅレバ、あさえケリ、染メテクヤシキ、花ヲ見ルカナ」

あさ-ゆく-つき（名）［朝行月］〔朝ニナリテモ照リゆく〕朝マデ殘レル月影。アリアケノ月。アサヅクヨ。類政集、上「天ノ原、朝行月ノ、（如ク）イタヅラニ、世ニアマサルル、心地コソスレ」

〔あさ-ゆふ（名）［朝夕］朝トタト。アサバン。テウセキ。アサヨヒ。源、十、榊廿九「朝夕ニ、見奉ル人ダニ、飽カヌ御狀ナレバ」

〔あさ-よひ（名）［朝宵］前條ニ同ジ。萬葉集、一八長歌「山越ノ風ノ、獨リ居ル、吾ガ衣手ノ、朝夕ニ、還ラヒヌレバ」同、十八廿六長歌「ハシキヨシ、其妻ノ子ト、安沙余比ニ、笑ミミ笑マズモ」

〔あさ-らか-ㇺ（副）［淺］〔高らかㇺ、薄らかㇺ〕淺ク。薄ク。ウスラカニ。萬葉集、十二卅四「桃花褐ノ、淺等ノ衣、（序）淺爾、思ヒテ妹ニ、逢ハムモノカモ」

〔あざ-らか-ㇺ（副）［鮮］〔あざやかㇺト通ズ（赤らかㇺ、爽らかㇺ）〕動物ノ肉ノ、イキイキトシタル ニ云フ語。靈異記、下、第一緣「見ニ髑髏一者、至レ于三年ハ其舌不レ腐、苑然生有」訓釋「生、惡左良可爾之豆」（高野本）土佐日記、二月八日「或人、あざらかなる物（鮮魚）モテキタリ、米シテ、カヘリゴトス」

〔あざら-け・し・キ・ケレ・ク・ク（形、二）［鮮］〔爽やか、さはやけし〕アザラカナリ。イキイキトシタリ。（魚ニ云フ）仁德卽位前紀「鮮魚」靈異記、下、第六緣「鮮、アザラケキ」

〔アザラシ（名）［水豹］〔倭訓栞、あざらし「蝦夷語也」〕海獸ノ名。北海ニ多シ、頭、粗、狗ニ似テ、前脚、短ク、後脚、魚ノ尾ノ如クニテ、岐ヲナス、水、陸、共ニ棲ム、體長、四五尺、毛ハ、靑黑ク、粗クコハクシテ、光ル、冬ニ至レバ、黑キ斑ヲ生ジテ美シ、毛皮ハ種種ニ用キラル。倭名抄、十八廿「水豹、阿左良之」奧州後三年記、上、永保三年、眞衡ガ、陸奧守義家饗應「金羽、あざらし、絹布ノタグヒ、數知ラズ、持テ參レリ」台記、仁平三年九月十四日、奧州莊園年貢「水豹皮五枚」本朝食鑑（元祿）十一、水豹「葦鹿、膃肭之類歟、小笠原家、以レ皮爲ニ射禮之具ハ松前蝦夷海上有レ之歟」重修本草綱目啓蒙、三十四、豹ノ條「水豹ハ、卽チ海豹ナリ、あざらしト訓ズ、海獸ナリ、蝦夷ニテ採リ、松前ヨリ來ル、毛色、白質、黑章、形、膃肭獸ニ似タリ」

あさり (名) 〔求食〕 求食ルコト。萬葉集、七[illegible]萬代集、十六、雜、三「夕[illegible]呼ブ[illegible]ヨリ、伴呼ビツレテ、群鶴ノ、汐干ノカニ、遠あさりスル」

あさり (名) 〔漁〕 〔漁るノ名詞形〕 イサリ。スナドリ。萬葉集、五[illegible]海人ノ子ドモト、人ハ云ヘド、見ルニ知ラエヌ、貴人ノ子ト」後撰集、十三、[illegible]五、忍ビテ[illegible]リケル時ヲ、[illegible]シケル人アリケリ、ノノシリケレバ、歸リ罷リテ、ツカハシケル「あさりスル、時ゾワビシキ、人知レズ、難波ノ[illegible]ニ、住フ我ガ身ハ」(淺蝕るニカケタルカ)

あさり (名) 〔淺處〕 〔淺るト活用シタル語アリテ、ソノ名詞形ナルガ如シ〕 川水ノ淺キトコロ。淺瀨。發心集、四、第八條、「武州入間河洪水、地ハ、サナガラ白波ニテ、イササカノあさりダニナシ」十訓抄、下、第十、三十四條「山川ノ、あさりトナラテ、淀ミナバ、深キ[illegible]ミノ、名ヲヤ流サム」(俗ノ、阿闍梨トナラム心ヲ訓ミタル歌ナリ)

あさり (名) 〔淺蜊〕 次次條ヲ見ヨ。

アザリ (名) 阿闍梨 あざりヲ見ヨ。

あさりがひ (名) 〔淺蜊貝〕 〔求食貝ノ義、新六帖、三、貝「伊勢ノ海人ノ、汐干ニあさり、求メタル、かひヲゾ保ツ、身ヲバ捨テツツ」(戒ニカケタルカ)〕 桑家漢語抄(室町時代)十「蜊、阿佐利、可書求餌之字、海邊子女、常求之爲餌故名」淺利ハ、當字。蜊ハ、利ニ虫偏ヲツケタルモノ」 蛤ノ類ニシテ、圓キハ、一寸、小ナルハ、五六分、殼、薄ク、表ニ、細カキたてすぢアリテ、薄青クシテ、薄黑キ斑アリ、海邊ノ沙中ニ産ズ。略シテ、あさり。蛤仔 又、沖淺蜊アリ、其條ニ注ス。俳諧毛吹草(正保)三、[illegible]」本朝食鑑(元祿)二「淺蜊、阿佐利」大和本草(寶永)十四「淺利貝」倭訓栞、後編、あさりがひ「蛤ノ類ナリ、蛤仔ト、清俗[illegible]ニ見ユ」

あさ・る・ル・レ・ラ・リ・レ(他動、四) 〔求食〕 〔朝[illegible]食ノ、あさヲ活用セシメタルナルベシ、(雲る、[illegible]る、宿る、[illegible]、[illegible]、專ラ、朝ニ棲ヲ出デテ食ヲ求ムルヲ、本トセシ語ナラム、人モ、朝狩、朝鷹ス)〕 (一)餌ヲ探リ求ム。鳥獸ニ云ヒ、人ニモ云フ。萬葉集、六、廿[illegible]ニ八、「海邊ニ安[illegible]シ、夕サレバ、大和へ[illegible]ユル、[illegible]シモ」(難波ニテノ詠) 同、三五十長歌「[illegible]ニ、[illegible]ミオコシ」同、四廿「日下江ノ、入江ニ求食[illegible]鶴ノ」夫木抄、三、春「多枯ノ、裾野ノ原ヲ、[illegible]キシヨリ、早蕨あさり、雉子鳴クナリ」宇津保物語、[illegible]四十「人人、[illegible]、手ニスヱツツ參レリ、歸リタマフママニ、野邊毎ニあさらセタマヒテ、御[illegible]ニ入レサセタマヘリシ」字鏡十三「獵、阿佐利波年」 (二)アナグリサグル。サガシダス。搜 武烈卽位前紀「阿婆理出ナ埋メタル屍ニ云フ」字類抄「搜、アサル」宇津保物語、忠杜十六「盜人、入リマウデ來テ、云云、裝束ナドモ、皆、さがし取リテ、云云、調度ナド、皆、あさり取リテ罷リシカバ」榮花物語、五、浦浦の別「只今ハ、部ノ内ヲ離ルベキニアラズ、ヨクヨク、あされあされト、宣旨頻リナリ」

あさ・る・ル・レ・ラ・リ・レ(他動、四) 〔漁〕 〔前條ノ語義ニ同ジ、專ラ、江海ニ魚介ヲ取ル方ニ移シテ云フナリ〕 湖海ニテ魚介ヲ取ル。イサル。スナドル。漁ヲスル。源、十二、須磨「伊勢島ヤ、汐干ノ潟ニ、あさりテモ、言フかひナキハ、吾ガ身ナリケリ」(貝ニカケタリ)

あざ・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ(自動、下二) 〔餒〕 〔あハ、發語、あ躁るノ義(あ戲る、あ迫る(躁急)〕 魚肉、腐ル。ウテル。字鏡三[illegible]、魚肉爛也、阿左禮太利」倭名抄、十九五「[illegible]、魚肉爛也、阿佐留」仁德卽位前紀「海人之苞苴、餒於往還」論語、鄕黨篇「魚餒而肉敗、不食」

あざ・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ(自動、下二) 〔戲〕 (一) 〔あ戲るノ義、前條ノ語原ヲ見ヨ〕 戲ル。ザル。フザケル。天治字鏡、三廿「戲、阿[illegible]生[illegible]」[illegible]ヒスギテ、イトアヤシク、湖海ノホトリニテ、あざれアヘリ」(鹽ト、餒るトニカケタリ) 源、二、帚木廿三「手莫拭ヒタマヒソナド、イタクあざれカカレバ」

あざ・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ(自動、下二) 〔[illegible]〕 「[illegible]る、戲る、ト同根ノ語」 [illegible]ブ。アザヤク。アザレバム。取リ亂ス。源、七、紅葉賀十八「あざれタル[illegible]ニテ、[illegible]ヲナツカシウ吹キスサビ」[illegible]八「あざれたる、[illegible]シカラヌ[illegible]ナリ」同、八、花宴廿「皆人ハ、袍ナルニ、あざれタル王姿ノ、ナマメキタルニテ」[illegible]抄「あざれたる、シドケナキ狀ナリ」同、三十三、藤裏葉六「オホヤケザマハ、少シ戲レテ、あざれタルカタナリシ一此語、[illegible]ハ、四段活用ナリシニカ。萬葉集[illegible]、五[illegible]長歌「立チ阿射里、我ガ乞ヒ祈メド、[illegible]クモ、快ケクハナシニ」(子ノ瀕死ニ云ヘルナリ)

あざれ (動) あざる(戲)、あざる(餒)ノ條ヲ見ヨ。

あざれ-がま・し・シキ・シケレ・シク・シク(形、二) 〔戲〕 「戲るヲ見ヨ」 戲レガマシ。紫式部日記「何カ、(ドウシテ)あざれがましト思ヘバ、ハナタズ」源、廿四、胡蝶十三「あざれがましき今樣ノコトノ、便ナイコト、爲出デナドスル」

あざれ-ば・む・ム・メ・マ・ミ・メ(自動、四) 〔戲〕 戲レメク。源、四十四、椎[illegible]十九「山深クタヅネキコエタル本意ナク、スキズキシキナヲサリゴトヲウチ出デ、あざればまンモ、コトニタガヒテヤナド思ヒカヘシテ」

あざれ-ば・む・ム・メ・マ・ミ・メ(自動、四) 〔荒〕 〔荒るヲ見ヨ〕 荒レガマシク見ユ。荒ブ。荒ブ。源、廿三、初音十八「ミヅカラノあざればみタル、カタクナシサハ、モテハナレヨ、ト思ヒシカド」同、四十五、椎本四十「女ノ心、ユルヒタマハザラムカギリハ、あざればみ、情ナキサマニ見エジ、ト思ヒツツ」

あざ-わら・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ(自動、四) 〔大笑〕 「あざハ、あざむノ語根、其條ヲ見ヨ、史[illegible]、あざむ[illegible]ヒ、アザケル者共モアリ」 (一)呆ルル如クシテ、大キニ笑フ。[illegible]、[illegible]、アザワラフ、笑也」源、五十二、手習十五「我レガシコニ、打チあざわらひテ語ルヲ、[illegible]ナドハ、カタハライタシトオボス」[illegible]、上、[illegible]、三人、見カハシテあざわらふ」 (二)嘲ル。[illegible]、[illegible]、中(高ラ)之、[illegible]「天ノ[illegible]中、[illegible]」[illegible]

あさ-を (名) 〔麻緒〕 (一)麻絲ニ同ジ。麻緒 萬葉集、九二三十「小垣内ノ、麻ヲ引キ干シ」同、十四廿「安左乎ラヲ、麻笥ニ多ニ、績マズトモ」七十一番歌合(文安)五十九番、草[illegible]、[illegible]女ガ、[illegible]ニスルナフ、麻ノをノ、よるト見ヌマデ、殘メル月カナ」 (二)草ノ麻。[illegible] [illegible]丹集、五月、中「我ガ[illegible]ナシ、あさをノ稗ヲ、今日見レバ、千枝ニ分レテ、茂ゾ涼シキ」

あし (名) 足脚 (一)動物ノ下ノ方ノ肢ニテ、卽チ、地ヲ踏ミテ、立チ行キスルモノ。神代紀、上七十「斬二軻遇突智命一爲二五段一、[illegible]首、身、手、[illegible]、足、[illegible]」倭名抄、三[illegible]「[illegible]、[illegible]、[illegible]」 (二)足ノ踝以下ノ稱。アシクビ。持統紀[illegible]制[illegible]「徒跣」(素足)「足ヲ[illegible]ケテ[illegible]ル」 (三)足ニテ歩クコト。アユミ。歩 源、二十一、[illegible]廿二「スコシ、あし馴レタル人ハ、疾ク御堂ニ着キニケリ」「早足」足ヲハヤメテ」「足ヲヤスムル」足繁ク來ル」 (四)物ノ、過ギ行クコト。「日ノ足」日足 [illegible]「雨ノ足」雨足 [illegible] (五)スベテ、物ノ下ニアリテ、其體ヲ支フル、脚ニ似タル物ノ稱。「机ノ脚」「[illegible]ノ脚」[illegible] (六)下

ニッキテ、二股トナレルモノ。「簪ノあし」(七)御足まゐりヲ見ヨ。(八)足洗ヲ見ヨ。(九)足跡ノ(二)ノ略。(十)旗脚ノ略。旗(十一)太刀ノ足金ノ略。(十二)船脚ノ略。吃水(十三)茅足ノ略。(十四)客足ノ略。

あし (名) [錢] 〔晉書、隱逸傳、魯褒錢神論ニ、無レ翼而飛、無レ足而走、ト云ヒシヨリ起レル語ナリ、白玉蟾詩「腰下有ニ錢三百足一」料足、要脚、ナドトモ云フ、仁德紀、四十三年九月ノ條ニ、鷹ノ足緡ニ、緡ト記セリ、緡ハ、正字通ニ、錢之貫者、爲ニ緡錢一トアリテ、錢緡ナリ、平安朝頃ノ訓點ナルガ、當時モ、錢ヲ、あしト云ヒタルカト思ハルト云フ〕 錢ヲ、仕拂フニ就キテ云フ語。要脚。料足。婦人語ニ、おあし。 御成敗式目「關東御家人、以ニ月卿雲客一爲ニ壻君、依レ讓ニ所領、公事足減少事一」 徒然草、五十一段「龜山殿ノ御池ニ、大井川ノ水ヲマカセテムトテ、云云、水車ヲ作ラセラレケリ、多クノあしヲ賜ヒテ、數日ニ營ミ出シテ、カケタリケルニ」 謠曲、鉢木「[illegible]ヲ取運ビテ、宮市ニ出ヅル事ニ、おあし添ヘテ召サレヨヤ」 大閤記、十六、醍醐花見ノ事「茶屋ニ、造餅アリシヲ、御心ヨゲニ上リシカバ、茶屋ノかか、兩ノ御手ニスガリ、おあし給ハリ候ヘ、ト申セバ」(節文)

あし (名) [蘆葦] 〔あしノ、惡しト聞ユルヲ忌ミテ、よしトモ云フ、はまをぎノ條ヲ見ヨ〕 一名、よし。草ノ名。水邊ニ多シ、春、舊根ヨリ生ジテ、莖、高サ丈餘ニ至ル、枝ナクシテ、莖ノ中心、空シ、葉ハ、竹ニ似テ長大ニシテ、互生ス、秋ニ至リ、莖ノ梢ニ、白穗ヲ成シテ花ヲ生ズ、穗ニ枝多シ。古ヘ、衣服ニ入レテ、綿トシタリ、穗綿ト云フ。 神代紀、上「二闢之初、云云、天地之中、生ニ一物、狀如ニ葦牙一」 倭名抄、二十「葦、阿之」

あ・し・シキ・シケレ・シク・シク (形、二) [惡] (一) ワロシ。ワルシ。(善しノ反)。 履中紀、五年十月「惡解除、善解除」 源氏、帚木「あしくモ、よくモ、相副ヒテ、トアラム時モ、カカラム節ヲモ見過シタラム中コソ、契リ深ク、アハレナラメ」(夫婦ノ中ヲ云フ) (二)猛シ。アラアラシ。強。 神代紀、上「四十「葦原中國、本自荒芒、至レ及ニ磐石草木一、咸能強暴」 今鏡、中、若の衣ニ、關白師通ノ子、宰相家政ノ事ヲ「ソノ宰相ノ御心バヘノ、きはだかニ(剛愎、傲岸)オハシケルニヤ、三條ノあし宰相トゾ、人ハ申シ侍リシ」(嚴し矛、賢し女ノ用法ナリ)同卷、古里の花の色ニ、師通ノ弟ノ家忠ヲ、あし法眼トロユ。(尊卑分脈、惡宰相、惡法眼) 惡左府賴長ナドモ、あし左府ナラムカ、惡源太義平、惡七兵衞景清ナドハ、音讀ス、(惡ノ條ヲ見ヨ) 雄略紀、二年十月「天皇以レ心爲レ師、誤殺ニ人衆、天下誹謗、言ニ大惡天皇一也」旁訓、ハナハダ、アシクマシマス、スメラミコト、トアルモ、荒荒シクマシマス意ナリ。(三)泥濘ニテ、步ミニクシ。ミチガワルイ。 落窪物語、一「路ノあしきヲ、ヨロボヒオハスルホドニ」

ア・ジ (名) [阿字] 佛說ニ、阿ノ音ハ、梵語字母ノ第一トシテ、其字形ハ、列ナリ、此字ニ、特殊ノ玄理アルヲ說キ、一切萬有ハ、本來、不生ノモノナルガ故ニ、マタ不滅ノモノナリトテ、阿字本不生ノ理ヲ云ヘリ、此ノ本不生ノ阿字ヲ觀ズル觀法ヲ、阿字觀ト云ヒ、コレニ達シタルヲ、阿字門ニ證入シタリト云フ。 華嚴經、四十二、字觀門「稱ニ阿字名一時、由ニ菩薩威力一、得レ入ニ無差別境界、般若波羅密門、悟ニ一切法本不生一故」 大日經、具緣眞言品「阿字門、一切諸法本不生之故」 龍猛菩薩ノ菩提心論ニ、阿字觀ノ偈頌アリ。 覺鑁ノ阿字功德抄「此阿字ヲ、妙ニ明ラカニ觀ズレバ、六根ノ諸ノ垢、清淨トナル」 徒然草、百四十四段、栂尾ノ明惠上人、河ニテ馬ヲ洗フ男ノ、あしあし(足足)ト云フヲ聞キテ、イカナル人ノ御馬ゾト問ヒケレバ、府生殿ノ御馬ト答フ「コハメデタキ事カナ、阿字本不生ニコソアレ」(足ヲ阿字、府生ヲ不生ト聞キナシタルナリ) 謠曲、弱法師「難波ノ寺ノ西門ヲ出ヅル石ノ鳥居、阿字門ニ入テ阿字門ヲ出ヅル、云云」(天王寺ノ門ニ、阿字ヲ言ヒカケタルナリ)

あし・あし・ふ (副) [足足] 〔手に手ヲ、てんでんニト云フガ如シ〕 足並揃ハズナリテ。列ヲ亂シテ。 俚言集覽、足足「賀越鬪諍記、諸手ノ大勢モ、隊々立テラレテ、足足なる處ニ、大友興廢記、此度ノ軍ニハ、林義、足足ニナリテ引取」

アジア・ぢん・しゅ (名) [亞細亞人種] 亞細亞洲中ニ棲息スル人種。其容貌ノ特徵ハ、頭髮ノ黑ク眞直ナルコト、鼻ノ高低ノ中間ナルコト、皮膚ノ黃ミヲ帶ブルコト、ナドナリ。但シ、洲ノ東南部、南部、西南部ノ人民ハ、コレニ入ラズシテ、歐羅巴洲ノ東北部ノ人民、却ッテコレニ屬ス。

あし・あと (名) [足跡] (一)步ミタル地ノ、足ノ痕。アシガタ。略シテ、あと。 續拾遺集、九、羈旅「初雪ニ、我レトハあとヲ、ツケジトテ、マヅ朝立タム、人ヲ待ツカナ」「初雪ヤ、犬ノ足跡、梅ノ花」 (二)人ノ逃ゲタル行方。あしトノミモ云フ。追跡 捕吏ガ逃亡者ヲ探グルヲ、足をつけるト云ヒ、探リツケタルヲ、足がつくト云フ。

あし・あぶり (名) [足炙] 冬、火ヲ盛リテ、足ヲ炙リ暖ムル器。アンクヮ。脚爐

あし・あらひ (名) [足洗] (一)足ヲ洗フタラヒ。(二)足ニテ踏ミテ洗フコト。 拾玉集、四「賤女ノ、大路弁當ノ、夕涼ミ、古カタビラノ、あしあらひシテ」 (三)足ヲ洗フ賤シキモノ。 井筒業平河內通(寶曆、近松作)三「ナント金吾、足洗ひハナリアガリノ手際ヲ見タカ」 (四)あしをあらふ(洗足)ノ條ノ(一)ヲ見ヨ。

あし・うち (名) [足打] あしつきをしきノ條ヲ見ヨ。

あし・うち・をしき (名) [足打折敷] あしつきをしきヲ見ヨ。

あし・うら (名) [足占] 〔あうらト云フハ、略ナリ(足音、あおと。足結、あゆひ)〕 古占ノ一法。步數ニテ、吉凶ヲ定ムルモノ。(出典ヲ見ヨ) 又、あうら。 神代紀、下「二十七「擧レ足踏行、云云、潮漬レ足時則爲ニ足占一、至レ膝時則擧レ足」 萬葉集、四「五十一「月夜ニハ、門ニ出デ立チ、夕占問ヒ、足占ヲゾセシ、行カマクヲ欲リ」 同、十二「三十一「月夜好ミ、門ニ出立チ、足占シテ、行ク時サヘヤ、妹ニ逢ハザラム」 行宗集「あしうらノ、出デ立チヨクテ、行ク夜サヘ、マタツレナクテ、立チヤ歸ラム」 續古今集、九、羈別「行キユカズ、聞カマホシキヲ、何方ニ、踏ミ定ムラム、あしうらノ山」 九州道の記(細川玄旨)「カナラズノ、旅ノ行方ハ、よしあしモ、問ハデ踏ミミル、あしうらノ山」(丹後國、熊野郡ノ山名) 正卜考(伴信友)三、足占「マヅ、步キテ踏止ルベキ標ヲ定メオキテ、サテ、吉凶ノ辭ヲモテ、步ク足ニ合ハセツツ、踏ミワタリ、標ノ處ニテ踏止リタル足ニ當リタル辭ヲモテ、吉凶ヲ定ムルワザニモヤアラム」

あし・おと (名) [足音] (一)人馬ノ、步ミ行ク音。跫音 枕草子、一、十三段「[illegible]御膳參ルあしおと高シ」 (二)雨脚ノ音。 夫木抄、十九、雜、雨「隙モナク、漏リクル雨ノ、あし音ヲ、我ガ通ヘ路ト、思ハマシカバ」

あし・か (名) [葦鹿] 「東雅、十八、鹿「葦鹿、其形、鹿ノ如ク、海岸、蘆葦ノ間ニアルヲ云ヒシナリ」 倭訓栞、あしか「葦鹿ト書ケリ、サレド、海鹿ノ義ナルベシ」

(網子、あさ。ひむがし、ひがし)」海獸ノ名。形、かはうそニ似テ、圓ク肥エ、長、四五尺ヨリ丈餘ニ至ル、目大キク、耳小サク、口少シ尖ル、全身暗褐色ナルヲ常トス、或ハ、白、黑白雜、蒼黑等アリ、毛ハ、密ニ柔ニシテ短シ、前脚ハ、兩脇ニアリ、後脚ハ尾ヲ挾ミテ、共ニ鰭ノ如ク、尾ハ、小サクシテ、獸ノ尾ニ似タリ、毛皮、種種ノ用ヲナス。一名、ウミウソ。ウミヲソ。海驢 海獺 晴レタル日ニハ、岩ノ上ニ群レテ眠レル中ニ、一匹、眠ラズシテ居ルモノヲ、葦鹿の番ト云フ、人ヲ見レバ鳴ク、群、皆、起キテ、共ニ海ニ入ル、又、海上ニ、浮キナガラ眠ルト云フ。海驢ノ條ヲ併セ見ヨ。倭名抄、十八[二]龍魚部「葦鹿、阿之加」民部省式、下、交易雜物、陸奧出羽兩國「葦鹿皮」夫木抄、三十三、えぞぶね「我ガ戀ハ、あしかヲ狙フ、蝦夷船ノ、(如ク)寄リミ寄ラズミ、波間ヲゾ待ツ」

あじ-か (名) [簣] 〔倭訓栞、あじか「簣ヲ訓メリ、篠籠ノ義ナルベシ」(をろがむ、ながむ(拜)」かがむ、をがむ、或ハ、葦籠ノ轉)」物ヲ入レテ運ブ器。竹、又ハ、葦ナドニテ編ミ作ル、笊ノ類ナリ。字鏡六十二「簣、阿自加、伊佐架」倭名抄、十六[三]「簣、阿自賀」論語、憲問篇「荷蕢而過孔氏之門者」(簣、蕢、同ジ)

あしかが-がくかう (名) [足利學校] 下野國、足利郡、足利市ニアル學問所ノ稱。小野篁ノ創建ト言傳フ、孔子、并ニ、篁ノ木像ト云フアリ、古ク、荒廢シタリシヲ、足利時代、永享年中、上杉憲實、再建シ、學田ヲ寄附シ、書籍ヲ、支那ニ求メテ、文庫ニ藏メ、禪僧ヲシテ教授セシム、德川氏ノ世ニ至リ、又、學田百石ヲ寄セ、爾來、變遷アリシカド、今ニ至リテ、現存ス、學校ノ最古ノモノナリ、宋版本、古鈔本等、珍奇ノ書、存セリ。鎌倉大草紙、上杉安房守(憲實)足利ノ學校ヲ建立シ、種種ノ文書ヲ、異國ヨリ求メ納メケル、此足利ノ學校ハ、上代、承和六年ニ、小野篁、上野ノ國司タリシ時、建立ノ所、云云、安房守、學領ヲ寄進シテ、學徒ヲ懸ス、サレバ、此頃、諸國大イニ亂レ、學道モ絶エタリシカバ、此所、日本一所ノ學校トナル」(註文)承和六年ハ、小野篁、隱岐ニ配流ノ年ナリ、上野太守ハ、親王ノ任ナリ。東齋のつと(永正)「足利ノ學校ニ立寄リ侍レバ、孔子、子路、顏回、此肖像ヲカケテ、諸國ノ學徒、首ヲ傾ケ、日暮ラシ居タル體ハ、カシコク、且ハ、アハレニ見侍リ」

あしかが-じだい (名) [足利時代] 室町時代ニ同ジ。

あし-がかり (名) [足掛] 高キニ登ルニ、足ヲ蹈ミカクベキ處。アシカケ。アシダマリ。

あし-がき (名) [葦垣] (一)葦ヲ結ヒテ作リタル垣。萬葉集、十一[九]「花グハシ、葦垣越シニ、タダ一目、相見シ子ユヱ、千度嘆キツ」源、五十、浮舟[二十]「あしがき方隠メタル西面ヲ、ヤヲラ少シ毀チテ入リヌ」(二)催馬樂ノ曲ノ名。催馬樂、葦垣「安之加支、眞垣、撥キワケテ、蹈越スト、追越スト」源、三十三、藤裏葉[九]「辨の少將、聲イトナツカシクテ、あしがきヲウタフ」

あしがき-の (枕) [葦垣乃] 〔物舊リテ見ユレバ古ニカカリ、穗ノワワケタルヨリ亂るニ、垣ハ、内外ヲ隔ツルモノナレバ外ニ、結目繁ケレバ間近ニカカルト云フ〕古、亂る、外、間近ノ枕詞。萬葉集、六[卅]長歌「オシテル、難波ノ國ハ、葦垣乃、舊リニシ里ト」同、九[三十]長歌「葦垣之、思ヒ亂レテ」同、十七[二十]「吾カ夫子カ、爾ヒ爲方無カリ、安之可伎能、保加ニ[illegible]、[illegible]、二人聞レヌ、思ヒヤナゾト、あしがきの、間近ケレドモ、逢フ[illegible]」

あし-かけ (名) [足掛] (一)アシガカリ。(二)年ト年トニ跨リタル前後ノ年ヲ、[illegible]兩年トシテ數フルニ云フ語。[illegible]あしかけ三年」(滿二年ニ對ス)

あし-かし (名) [足械] くびかし(頸械)ノ條ヲ見ヨ。

あし-かた (名) [屎履] 履物ノ名。天治字鏡、三[卅六]「屩、屐、履、[illegible]也、[illegible]也、阿志加太、又、志久豆」

あし-がた (名) [足形] あしあと(足跡)ノ(一)ニ同ジ。枕草子、五、五十段「雨ノ打チハヘ降ル頃、云云、式部丞信經、參リタリ、例ノ褥、[illegible]差出シタルヲ、云云、カカル雨ニ、昇リ侍ラバ、あしがたツキテ、イト不便ニ汚ゲニナリ侍リナム」宇治拾遺、十二、第二十條「大キナル犬ノあしがたアリテ、云云、あしがたヲ尋ネテ、山ノ方ニ行キテ見レバ、云云」

あし-がた (名) [足型] 足袋、靴ヲ造ルニ用キル、足首ノ容ノ型。木造ナリ。

あし-がため (名) [足固] (一)足ヲ蹈ミ固ムルコト。アシナラシ。倭訓栞、あしかため「軍行、旅行ナドノタメニ、足ヲ堅メムトテ蹈ミナラスヲ云ヘリ」(二)柱ノ脚部ヲ、堅固ニセムガタメニ、床下ニテ、柱間ニ、横木ヲ打附クルコト。床上ノ長押ト同ジモノナリ。明月記、寛喜二年四月十二日、建寢、夕立柱、打足固了」庭訓往來(元弘)三月「長押、足固、天井板」

あし-が-ちる (枕) [葦散] 〔難波ノ地ニ葦多カリキ、葦ノ花散るトツヅクルナリ、古事記、下(安康)[卅]「興ノ軍待職、射出之矢、如葦盛來散」夫木抄、二十八、蘆「難波潟、あしノ花吹ク、浦風ニ、浪ニモ花ハ、[illegible]ゾちりける」[illegible]難波ノ枕詞。萬葉集、二十[illegible]長歌「[illegible]」

あし-がなへ (名) [足鼎] かなへノ條ヲ見ヨ。

あし-がに (名) [葦蟹] 〔あしたづノ語原ヲ見ヨ〕[illegible]。萬葉集、十六[illegible]「オシテルヤ、難波ノ小江ニ、廬作リ、隱リテ居ル、葦河爾ヲ、云云」

あし-がね (名) [足金] 〔足緒ニテ吊セバカ、二條ニナレバ、前脚ノ意ニモアテタルカ〕太刀ノ金物。鞘ニ[illegible]シテ、足トノミ云フ、鞘ニ附キテ二所アリ、鍔際ニアルヲ、一ノ足ト云ヒ、數寸離リテアルヲ、二ノ足ト云ヒ、其間ヲ、足間ト云フ、各、小サキ輪アリ、コレニトホシテ、腰ニ吊リ佩ク緒ガ、足緒ナリ。

あしか-の-ばん (名) [葦鹿番] 葦鹿ノ條ヲ見ヨ。

あし-かひ (名) [葦牙] [illegible]芽ハ、[illegible]漢書、金日磾傳、萌牙[illegible]者、[illegible]若、草之[illegible]黒川春村)ノ三ニ、葦穎ニテ、穗ナリト考證シテ、ひヲ清音ニ云フベシトアリ、又、稜威道別(橘守部)ノ三ニハ、牙ハ、穗ヲ省キテ禾ト書キシガ、牙ト誤レルナリト考證シテ、葦ノ穗花ナリトセリ」葦ノ穎。葦ノ穗。古事記、上[illegible]「[illegible]如葦牙因萌騰之物而成神名、宇摩志阿斯訶備比古遲神」[illegible]ダヨフ、葦牙ノ、かひアル國ト、ナレル畏サ」

あし-がも (名) [葦鴨] 葦鴨ノ語原ヲ見

ヨ」(一)鴨ト云フニ同ジ。萬葉集、十一(四十七)「葦鴨ノ、集ク池水、」拾遺集、四、冬、池水ヤ、氷閉ツラム、あし鴨ノ、夜深ク聲ノ、サワグナルカナ」土佐日記、十二月廿七日「をし思フ、君ヤトマルト、あしがもノ、(如ク)打群レテコソ、我レハ來ニケレ」(惜シト、鷺鶿トヲカケタリ)(二)又、鴨ノ一種。語彙、あしがも「頭ハ灰色ニシテ赤ミアリ、眼ノ上ニ、白、黑、ノ小條アリ、胸ハ赤黑ク、腹ハ灰白ニ、背ハ灰碧ニシテ、赤黑ノ條アリ、翅ニ青羽交リテ、嘴、脚、黑シ」

❖**あしがら** (名)【足搦】あしがらみノ條ノ(一)ヲ見ヨ。

あしからず (副詞句)【不惡】ヨロシク。「不レ惡思召サレヨ」

〜**あしがらのせき** (名)【足柄關】〔次次條ヲ見ヨ〕古ヘ、相摸國、足柄郡(今、足柄上郡)ノ、駿河國トノ界ナル、足柄山ニ置カレシ關。東國制御ノタメニ、設ケラレシモノナラム。類聚三代格、十八、昌泰二年ノ太政官符ニ、始メテ置カレシ事見ユ、何年ニ廢セラレシカ、詳ナラズ、新編相摸風土記ニ、足柄ノ古關ハ、足柄峠ノ頂上ヨリコナタニ、字ヲ明神ト云フ處アリ、其邊、舊址ナラムト云フトアリ。後撰集、十九、羇旅「眞靜法師、東ナル人ノ許ヘマカリケル道ニ、相摸ノ足柄の關ニテ、云云」枕草子、六、五十二段「關ハ、云云、あしがらのせき」明日香井集、内裡御會「足柄の、山ノ關守、古ヘハ、アリモヤシケム、跡ダニモナシ」(建保ノ頃ナリ)

あしがらみ (名)【足搦】(一)敵ノ足ニ、我ガ足ヲカラミツケテ倒スコト。劍術、柔術ナドニ云フ。略シテ、あしがら。「あしがらヲカケル」(二)蟲ノ名。あしまき、幷ニ、はりがねむしヲ見ヨ。

〜**あしがらをぶね** (名)【足柄小舟】〔をぶねノ、をハ、發語、船トノミ云フニ同ジ、伊豆手船ナド、同趣ノ語ナルベシ」相摸國、足柄山ノ杉村ニテ造レル船。萬葉集、十四(六)相摸國歌「百津島、安之我良乎夫禰、(序)歩キ多ミ、目コソ離ルラメ、心ハ思ヘド」(百津島ハ、あるきニカカル) 袖中抄、十五「あしがらをぶねハ、相摸ノ足柄ノ小舟也、或人云、足輕小舟也、らトりト同音也」萬葉集古義「あしがらをぶねハ、足柄山ノ杉ニテ造レル船ナリ、三卷、四十丁ニ、鳥總立テ、足柄山ニ、船材伐リト見エ、其船ノ足ノ、イト輕カリケレバ、山ノ名トナレル由、風土記ニ見エタリ」

〜**あしかり** (名)【葦刈】葦ノ莖ヲ刈取ルコト。又、ソレヲ賈ル人。萬葉集、二十(四十九)「蘆刈ニ、堀江漕グナル、楫ノ音ハ、大宮人ノ、皆聞クマデニ」拾遺集、九、雜、下「難波潟、繁リアヘルハ、君ガ代ニ、あしかるワザヲ、セネバナルベシ」(動詞) 謠曲、蘆刈「此身命ヲツガムトテ、云云、蘆刈人トナリタルナリ」倭訓栞、あしかり「文選、江賦ニ、蘆人ト見ユ、蘆ヲ採ル者ヲ云フ」

〜**あしかりをぶね** (名)【葦刈小舟】葦刈ノ用トスル小舟。あしのをぶね。アシブネ。後撰集、十八、雜、四「玉江漕グ、葦刈小舟、サシワケテ、誰レヲ誰レトカ、我レハ定メム」夫木抄、三十三、船「浦風ノ、サソフモ知ラズ、難波江ノ、あしのをぶねニ、月ヲ見ルカナ」

あしがる (名)【足輕】〔輕捷ニ走リマハリテ働ク意、萬葉集ニ足柄小舟トアルモ、船足ノ輕キ意ナリト云フ〕(一)古クハ、驅使ニ用キラルル歩卒。盛衰記、十三、高倉宮信連戰事「夜ノ曙ニ、官人三人向ヒタリ、云云、此御所ナラデハ、何所ニ渡ラセタマフベキゾ、虚言ゾ、足がるドモ、亂レ入テ、サガシ奉レ、ト下知ス」太平記、七、吉野城軍事「足輕ノ兵、百五十人スグリテ、歩立ニナシ、夜ニ紛レテ、金峯山ヨリ忍入リ」(二)足利時代、應仁年中、京都ニテ、細川氏、赤松氏ノ合戰ニ、無賴漢ヲ雇ヒテ歩卒トシタリ、コレヲ足輕ト呼ビキ。此

者共、且ハ戰ヒ、且ハ放火シ、奪掠スルヲ事トセリ、戰爭數年、當時、洛中、洛外、全滅ニ歸シタルモ、此者等ノ所行ニ出デタリト云フ。樵談治要(文明、一條兼良)「此度始メテ、出來レル足がるハ、超過シタル惡黨也、其故ハ、洛中洛外ノ諸社、諸寺、五山十刹、公家門跡ノ滅亡ハ、彼等ガ所行也、云云、偏ヘニ晝强盜ト云フベシ、云云、名アル侍ノ戰フベキ所ヲ、彼等ニヌキキセタル故ナルベシ」貞丈雜記、四、役名「古ヘノ足輕ト云フ者ハ、軍陣ノタメニ、諸方ノ惡黨ヲ召抱ヘ置テ、ハタラカセタル事ト見エタリ」碧山日錄、應仁二年六月十五日「東陣(細川勝元陣)有ニ精銳之徒三百餘人ハ號ニ足輕ハ云云、八月二日、西陣(山名宗全陣)疾足之徒、燒ニ汁谷之民屋ハ十三日東陣疾足之卒、於ニ南坂ニ將剽奪ニ」(三)後ニハ、武家ニテ、常備ノ歩卒。數十百人、一隊ヲ成ス、弓組、鐵砲組ナドニ分ツ、平時ニハ、門ヲ守リ、又、驅使、雜役ニ供セリ。歩卒 コレヲ率キルヲ、古クハ、足輕大將ト云ヒ、德川時代ニハ、足輕頭ト云ヒキ。歩卒長 甲陽軍鑑、八、品第十七、武田信玄總人數「足輕大將衆、横山十郎兵衛、騎馬三拾騎、足輕百人、云云」一柳家記、慶長五年八月廿二日「大垣ノ方ニ、張番、三ケ所構ヘ、足輕頭一人、足輕十人計ヅツ出シ置キ候」德川時代ニハ、足輕ハ、武士ノ最下級ノモノナリシガ、明治維新ノ藩制改定ノ時、卒族ト稱セラレ、藩ノ廢セラルルニ及ビ、士族ニ入レラル。倭訓栞、あしがる「足輕ト書ケル、西土ノ書ニ、輕足驃騎ノ語アリ」正名緒言(寬政、菱川賓)「國人呼ニ驍卒ニ爲ニ足輕ハ蓋、蘇氏策別所レ謂、足輕ニ險阻ニ之意也」

あしがるがしら (名)【足輕頭】前條ノ(三)ヲ見ヨ。

あしがるだいしやう (名)【足輕大將】前條ノ(三)ヲ見ヨ。

〜**あしき** (形)【惡】惡しノ條ヲ見ヨ。

〜**あしぎぬ** (名)【絁】〔惡絹ノ義、惡綿ト云フ語モアリ〕フトギヌ。太織絹ノ類。倭名抄、十二(廿七)「絁、緻似レ布也、阿之岐沼」孝德紀、大化二年正月「絁」賦役令、義解「細爲レ絹、麁爲レ絁」玉篇「絁、粗紬、經緯不レ同者」拾遺集、七、物名「あしぎぬハ、サゲカガミテゾ、人ハ着ル、尋ヤ絕エヌト、思フナルベシ」

〜**あしきみち** (名)【惡道】〔惡道ノ訓讀〕佛經語。あくだう(惡道)ノ條ヲ見ヨ。惡趣。源、二、帚木(三十)「濁リニ染メルホドヨリモ、ナマウカビニテハ、カヘリテ、あしき道ニ、タダヨヒヌベクゾオボユル」

〜**あしきもの** (名)【邪鬼】〔鬼ノ條ヲ見ヨ〕(一)荒ブル國津神。神代紀、下「高皇産靈尊欲レ立ニ皇孫ニ以爲ニ葦原中國之主ニ然彼地多有ニ邪神ハ召ニ集八十諸神ニ曰、吾欲レ令レ撥ニ平葦原中國之邪鬼ハ云云」(節文) (二)人ニ崇リヲナス惡神。物怪ノ靈。倭名抄、二(十)鬼魅類「邪鬼、安之岐毛乃」源、五十三、夢浮橋(七)「コノ領ジタリケルものノ、身ニ放レヌ心地ナムスル、コノあしきものノ妨ゲヲ逃レテ、後ノ世ヲ思ハム」同(八)「アヤマチシタル心地シテ、罪深ケレバ、あしきものニ領ゼラレタマヒケムモ、サルベキ前ノ世ノ契リナリ」抄「前業ノ所感ニテ、物のけニ領ゼラレタルトナリ、藥師經ニ、鬼病アリ、物のけナドナリ」(節文)

〜**あしきやまひ** (名)【癘】〔惡疾ノ訓讀〕惡性ノ病。卽チ、癩病。倭名抄、三(十)「說文云、癘、惡疾也、阿之岐夜萬比」箋注「癘、俗、又、或作レ癩、見ニ毛詩正義ハ卽後世所レ謂癩病也」惡疾ハ、癩病ナリ、妻ノ七去ノ一トス、其條ヲ見ヨ。

〜**あしきらひもの** (名)【凶棄物】よしはらへヲ見ヨ。

あしきる・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四)【刖】【刵】〔足切るノ義、刖ノ字ノ訓讀〕足ヲ切リ去ル。支那ノ刑ナリ。說文「刖、絕也、本作レ跀、

[illegible]「[illegible]、去ニ留得ニ也」玉篇「[illegible]、別也」名義抄「別、アシキル、アシヌ」[illegible]モ集リテ、コレハ、イミジキ非人ナリ、云云、コレガ足、[illegible]定メテ、見[illegible]ニテ、[illegible]トスルホドニ」

あしく (形)・[illegible] 惡しノ條ヲ見ヨ。

あしくせ (名) [足癖] 相撲ノ技ノ名。我ガ足ヲ、相手ノ足ニカラムコト。身ヲ守ルニモ行ヒ、我ガ體ヲ、相手ニアビセテ、倒スニモ行フ。(かはづがけヲ併セ見ヨ)

アシクにょらい (名) [阿閦如來] 〔梵語、阿閦婆耶(Akṣobhya)ノ略、無動ト譯ス、(阿ハ無、閦ハ動)集韻「閦、初六切」〕五智如來ノ一、東方ノ主尊トス。無冠ニシテ、降魔ノ印ヲ結ビ、蓮華座上ニ趺坐ス。[illegible]、廿九、康平四年十月廿五日、宇治平等院[illegible]安[illegible]金色[illegible]阿閦如來像一體、云云」

あしくび (名) [足頸] 〔頸ノ條ヲ見ヨ〕(一)足ノ、踝ノ上ノ處。(手頸ニ對ス) 脚腕 [illegible]集、十、[illegible]「其足[illegible]、[illegible]ニ深ク入リテ、足くびマデ埋マレニケリ」東北院職人歌合(建保)十一番「大原ノ里ニハ、神ノ誓ヒニテ、男ニ馴レタル數ヲ、足のくびニ結フコトノ侍ルトカヤ」(二)足ノ、踝以下ノ總名。足趾

あしくぼちゃ (名) [足久保茶] 駿河國、安倍郡、足久保ノ地、其他、近傍ヨリ産ズル茶。

アジカン (名) [阿字觀] 阿字ノ條ヲ見ヨ。

あしけ (名) [葦毛] 〔葦ノ初生ノ色、青白ナリ〕馬ノ毛色ノ名。白毛ニ、青色ノ差毛アルモノ、[illegible]ノ進ムニ隨ヒテ、色ヲ變ズ、白ミガチナルヲ、白葦毛、赤ミガチナルヲ、赤葦毛、黒ミガチナルヲ、黒葦毛ト云フ、又、白毛ニ葦毛ノ駮ノアルヲ、葦毛駮ト云フ。又、尾花葦毛、連錢葦毛ナドモアリ、各條ニ註ス。平治[illegible]、一、[illegible]「白[illegible]毛ナル馬ニ、白[illegible]ノ[illegible]キテ」明月記、正治二年十一月廿七日「御馬二疋、一疋黒、一疋[illegible]葦毛」吾妻鏡、廿一、建保元年九月十二日、[illegible]「一疋、赤[illegible]毛」同、六、文治二年十月三日、御馬五疋「鹿毛駮、葦毛駮」

あしげ (名) [足蹴] 〔蹴ノ一音ニテハ語ヲ成サズ、因リテ、足ヲ添ヘテ云フ〕蹴ルコト。「人ヲ足蹴ニスル」

あしげい (名) [足藝] 手ヲ用キズ、足ニテ、種種ノ技ヲシテ、見世物トスルモノ。筠庭雜考(天保、喜多村信節)四、足藝「近頃、足藝ト云フモノ、云云、手ハ、袖ノ中ニ收メテ、足ニテ、種種ノ技藝ヲナス、琴、三味線、縫物、花ヲイケ、紙ニテ折リカタ、サマザマノ紋ヲ切リ、楊弓ヲ射、投扇興ト云フ事マデモ、人ニ見ス、云云、延寶年中、津ノ國大坂ニテ、生レナガラニシテ、兩手ナキモノアリ、足ニテ、文字ヲ書キ、弓ヲ射テ、芝居ニ居テ、錢ヲ乞ヘリ、云云、[illegible]長頃ノ古屛風ニ、京都四條河原ノ[illegible]ドモ、多ク書キタル中ニ、足ニテ、種種ノワザスル女ノみせ物アリ、云云」

あしけく (副) [惡] 〔惡しくノ延(善く、よけく。寒く、さむけく)〕惡しくト云フニ同ジ。萬葉集、五「長歌、何時シカモ、人ト成リ出デテ、安志家口モ、善ケクモ見ムト、大船ノ、思ヒ賴ムニ」(子ノ成長ニ云フ)古今集、十九、誹諧「實體ナレド、何ゾハよけく、刈萱ノ、(如ク)亂レテアレド、あしけくモナシ」(忠實、放埒、世ノ褒貶、當ラズ)

あしげよ (副) [惡氣] あしざまよヲ見ヨ。

あしげぶち (名) [葦毛駮] あしげ(葦毛)ノ條ヲ見ヨ。

あしこ (代) [彼處] あそこヲ見ヨ。

あしこぎ (名) [足漕] 〔片足漕ぎノ略〕古言、カタシキリ。[illegible]男女ノ[illegible]。左足ヲ折リテ、左手ニテ足頸ヲ握リ、右足ノミニテ飛ビユクコト。[illegible]ナドスルナリ、東京ニテ、ちんちんもがもが。古クハ、あしりおぎトモ云ヒキ、走ト語意ヲ移シタルモノカ。(溢、あふれ、はふれ) 跰歩 寛永發句集、カタワキテ、降ルタ立ヤ、あしりおぎ、(雲足、片方ナリ) 油糟(寛永)「上ニカタカタ、下ニカタカタ」モミヂ葉ヲ、踏マジト人ノ、あしりおぎ」(片足ハ上、片足ハ下) 伊勢ニテ、あしおぎ、薩摩ニテ、あしたんおんぎ(とびおぎ、たまる、とまる)、越後ニテ、あしゃおんおん(おぎおぎ)、常陸ニテ、ちんばおん(跛おぎ)、京阪、中國ニテ、けんけん(おんおんノ轉、跛す、なす。小二歳、けにさい)、相模ニテ、ひおけんけん(跛おんおん)、仙臺ニテ、びおけんけんハ。

あしざまよ (副) [惡樣] 惡シキヤウニ。アシゲニ。源、四十六、總角五「宮ノ御事ヲモ、サリトモ、あしざまよハ聞エジ」

あしころ (名) [足代] 「足掛リノ料ノ意」アナナヒ。材ヲ組ミ立テテ、高キ處ニ登ル足掛リトスルモノ。アシバ。閑窓[illegible]集、十五、[illegible]久六年三月十一日「[illegible]代、[illegible]仰十六丈形像、[illegible]、供奉[illegible]以下、日[illegible]足[illegible]、兩[illegible]中階ニ」(南都東大寺大佛殿)

あしころ (名) [足城] 〔あしハ、足溜ノ意ナルカ〕出城、附城、ノ類ナルベシ。大友記、下、石[illegible]源五郞、立花ノ城ニ登ラルル事、[illegible]、[illegible]不義、[illegible]、在在所所、揚ニ火手、足城ヲカマヘ、橋[illegible]ルノ由ニ候、云云、彼[illegible]、橋[illegible]リ候足城、[illegible]ナド仕調ヘ、云云」

あしじろのたち (名) [白[illegible]太刀] 〔白ハ、[illegible]ナリ〕[illegible]ノ、[illegible]ナリ。平[illegible]、[illegible]云云、[illegible]ニ[illegible]、[illegible]、三「足白の太刀ハ、太刀ノあしヲ、銀ニテ作リタルナリ」

あしすだれ (名) [[illegible]] (一)葦ノ莖ヲ、簾ニテ編ミ作レル簾。[illegible]云フ、[illegible]「蘆、[illegible]以蘆、開二東戸二[illegible]」[illegible]ル、あしノすだれノ、[illegible]ヲ[illegible]ミ、[illegible]リクル[illegible]、[illegible]レッツ、[illegible]ノ、[illegible]ノ[illegible]ニ[illegible]リス、行キアハズシテ」(二)諒闇ノ時ハ、鈍色ノ布ニテ緣ヲ取レルモノヲ、倚廬ニ懸ケラル。[illegible]、[illegible]八[illegible]月四日、[illegible]、以[illegible]、[illegible]十五、秋のみやま、內ノ上、御[illegible]ル、天下一ツニ染メワタシテ、[illegible]トカ、イト、マガマガシキモノドモ懸ケワタシ」[illegible]、廿八段、諒闇ノ年バカリ、哀レナル事ハアラジ、倚廬ノ御所ノサマナド、[illegible]ヲサゲ、[illegible]ノ御[illegible]ノカケテ、[illegible]ノ[illegible]アラアラシク、云云」

あしずまふ (名) [足相撲] 二人、尻ヲ地ニツケテ相向ヒ、各、右足ヲ出シテ相撲フ戯。

あしずり (名) [足摩] 〔次條ヲ見ヨ〕アシズルコト。アガクコト。[illegible]、[illegible]、長歌「立チハシリ、叫ビ袖振リ、反側ビ、足受利シツツ、云云、[illegible]長[illegible]足[illegible]シ、[illegible]ノ[illegible]ム」(事ハ、康ノ謀ナラムト云フ) 伊勢物語、第六段「昔、男アリケリ、女ノエアフマジカリケルヲ、云云、カラウジテ盜ミ出デテ、イト暗キニ來ニケリ、云云、ヤウヤウ、夜モ明ケユクニ見レバ、率テ來シ女モナシ、あしずりヲシテ泣ケドモ、カヒナシ」源、五十一、[illegible]、[illegible]ず

りト云フコトヲシテ、泣クサマ、若キ子ドモノヤウナリ」

あしずる・ル・レ・フ・リ・レ (自動、四) 〔足摩〕 (一)足ニテ、地ヲ蹈ミ摩ル。アガク。ヂダンダフム。怒リ、又ハ、悲歎スル時ニスルコトナリ。 萬葉集、五十四長歌「立チ躍リ、足須里叫ビ、俯シアフギ、胸打チナゲキ」(二)蹈ミソコナヒテ、進ミ得ズ。(蹉跎ノ條ヲ見ヨ) 蹉跎 天治字鏡、十二卅「躊躇、猶豫之貌、不進也、又、不退而愼之貌、又、蹴蹋也、立豆万豆久、又、足須留」 名義抄「蹉跎、アシズル」

あしすゑのくみ (名) 〔足居組〕 (あしハ、太刀ノ足金、すゑハ、纒ヒテ居ヱツクル意ナルベシ) 太刀ノ足緒ニ添ヘテ用ヰル組緒。 太神宮式「太刀著五色組、長一丈、阿志須惠組四尺」 同「横刀二十柄、節別纒小量綱錦阿志須惠」註「長、各、三尺三寸、廣、各、一寸二分」

あしぞろへ (名) 〔足揃〕〔足汰〕 昔シ、五月五日ノ賀茂祭ノ競馬ノ前、其朔日ニ、先ヅ馬ヲ乘リ試ミルコト。 四季物語(鴨長明)夏「朔日(五月)ハ、けはひノあしぞろへイトナミテ、御社ノ內ノホトリ、ヤカマシ」(けはひハ、假粧ニテ、荒手番、假演習ノ意ナルベシ) 故實拾要(元文)八、競馬「是レ五月五日於賀茂社人勤之、同、一日、足揃トテ、競馬ノ習禮アリ」 小町踊(寛文)夏、競馬「馬ノミカ、五月ノ雨モ、足揃」

あした (名) 〔朝〕 (あハ、明くノ語根、明時ノ意、(時ノ條ヲ見ヨ)(東モ、明端ナルガ如シ)あした、又、約リテ、朝トナル、雅言考(橘守部)あした「明節ノ略也、時節ナドヲ、古ク、したト云フ」) (一)朝ニ同ジ。 萬葉集、二十四長歌「露コソハ、朝ニ置キテ、夕ニハ、消ヌト言ヘ」 同、十八三十四月一日宴歌「居明シ、今夜ハ飲マム、ホトトギス、明ケム安之多ハ、鳴キワタラムゾ」二日應立夏節故謂之明旦將喧也」 字

鏡二「晨、阿志太」 源、九、葵四十「男君ハ、疾ク起キタマヒテ、女君ハ、更ニ起キタマハヌあしたアリ」(二)明クル朝。略シテ、あした。翌朝。 萬葉集、十五三十六「ヌバタマノ、夜見シ君ヲ、安久流安之多、逢ハズマニシテ、今ゾ悔シキ」 孝德紀、白雉四年五月、註「若、法師今日亡者、朕從明日亡」 天智紀、三年十二月「一宿之閒、稻生而穗、其旦頴垂而熟」 萬葉集、二十四十長歌「暮コソハ、夕ニ立チテ、明ニハ、失スト言ヘ」 古今集、十七、雜、上「五節ノあしたニ、簪ノ玉ノ、落チタリケルヲミテ、誰ガナラムト、トブラヒテ詠メル」(三)明日。「一昨日行キマシタ、あしたハ歸リマセウ」(四)明日草ノ下略。

あしだ (名) 〔足駄〕 (足板ノ約、(簡、ふみた)古クハ、清音ナリ、本草和名、上五十「屐、阿之多」駄ハ、借字ナリ、(コレヨリ、下駄、席駄ノ名、起ル)或ハ、出典ノ倭名抄ニ、足下トアル、其訓讀ナリト云フハ、イカガ」(一)雨路ニ用キル、木造ノ高キ履物。今、多クハ、輕キニ取リテ、桐板ニテ作ル、下ニ、前後ニ、二脚ヲツクルヲ、齒ト云ヒ、禿ビヤスカラヌタメニ、欅、又ハ、樫ニテ造ル、板ノ上面ニ緒ヲツケテ、足ノ指ニカケテ行ク、形ハ、方、圓、種種ナリ、婦人ノ用ナルハ、黑漆ニテ塗レルアリ、塗足駄ト云フ。 屐 倭名抄、十二廿「兼名苑云、屐、一名、足下、阿師太」 宇津保物語、藤原君三十「樗ノあしだ」 枕草子、十二、百五十七段、見苦しきもの「袴着タル童ノ、あしだハキタル」 古事談、二、臣節、隆國卿、小馬ニ乘リナガラ、宇治殿ニ出入ル「コレハ、馬ニハ候ハズ、足駄ニテ候ヘバ、可蒙御免」(此ノ小馬ト云フハ、果下馬ナリ) 宇治拾遺、十五、第八條、染殿ノ后「相應和尚、云云、椙ノ平足駄ヲハキテ」 盛衰記、五、成親已下被召捕事「繩緒ノ足駄」 今昔物語、廿三、第廿話「高足駄」 雅亮裝束抄、一、下司ノ裝束「御車ノ供ニ、十二人、云云、唐衣ヲ着ル、裳ヲツボトル、ぬりあしだヲハク」 海人藻芥、中「淺足駄、進昔」 昔昔物語、享保ノ末ヨリ、云云、

若キ衆、云云、女ノハクヤウナル下駄、足駄ヲ黑塗ニシテハキ」(二)圍碁ノ手ニ、足駄ノ齒形ノ如ク、一間飛ト云フアリ、足駄ヲはかすト云フ、石ヲ打チテ、敵ノ石ノ出デラレヌヤウニ防グナリ。 俚言集覽、あしだ「棋勢ニ、足駄アリ、西土ニ門ト云フ、玄玄棋經、門、謂也、閉之使不得出曰門」 犬子集(寛永)八、夏「村雨降レバ、あしだヲはく」ホトトギス、鳴クヲリカラニ、碁ヲ打チテ」(三)卑語ニ、あしだをはくト云フハ、價ヲ高クスル意ノ謎ニテ、買物ノ上前ヲハネルヲ云フ。

あしだかぐも (名) 〔足高蜘蛛〕 又、あしたかのくも。くもノ一種。床ノ下、又ハ、箱ノ中ナドニ棲ム、身長、四五分、八足、甚ダ細ソク高クシテ、絲ノ如シ、全身、淡灰色ナリ、行クコト遲シ。 蠨蛸 字鏡、廿二「蠨蛸、足高久毛」 字類抄「蠨蛸、アシタカクモ」 倭名抄、十九二十「爾雅、注云、蠨蛸、一名、蟏子、小蜘蛛之長脚者也、阿之太加乃久毛」 爾雅ノ註ニ喜子トアリ。詩經、豳風、東山篇「蠨蛸」疏「謂之喜母」(ささがにノ條ヲ併セ見ヨ)

あしだがけ (名) 〔足駄掛〕 (かけハ、驅くノ名詞形、進ムコトナリ、(先驅、拔驅)草鞋掛、草履掛、同ジ」 足駄着キテ歩ムコト。(遠行ナドスルニ就キテ云フ)

あしたぐさ (名) 〔明日草〕 〔採藥使(記事保)中、豆州「八丈島ヨリ、あした草ト云フ草ヲ生ズ、云云、此草、日暮ニ子ヲ蒔ク時ハ、晨ニ芽ヲ生ズ、故ニあした草ト云フ、(あした葉ト云フ、同ジ)是レ、暖國ノ產物ナルガ故カ」 又、あしたば。略シテ、あした。莖、直立シテ、高サ、三五尺、根葉ハ、三出ノ羽狀複葉ヲナシ、小葉片ハ、卵形ニシテ、細鋸齒アリ、夏秋ノ頃、梢ニ、五瓣ノ小白花、傘狀ヲナシ

テ開ク、莖ヲ切レバ、黃ナル汁出ヅ、根ハ胡蘿蔔ノ如シ、伊豆ノ八丈島ニテ、此草ヲ、多ク栽培シテ、葉ト根トヲ食用トス。一名、八丈草。 鹹草 合類節用(元祿)六、生植門「明日草、在豆州八丈島」 大和本草(正德)五、鹹草、あしたト云フ草、八丈ガ島ノ民、多ク植エテ、朝夕ノ糧ニ充ツ、云云、江戸諸州ニモ、あしたヲ植ウ」 重修本草綱目啓蒙(享和)廿二「鹹草、ハチジヤウサウ、アシタバ、本、八丈島ヨリ來ル、子ヲ下シテ生ジ易シ、此草、自ラ鹹味アリ」(節文) 本草綱目、三十二、溓魃子、附錄「扶桑東有女國、產鹹草、葉似邪蒿、而氣香、味鹹、彼人食之」

あしたたず (名) 〔足不立〕 中風ニテ、歩ミ得ヌ病。 名義抄、人部「不仁、アシタタズ」

あしだち (名) 〔足立〕 足ニテ立ツトコロ。タチド。アシバ。 盛衰記、三十六、鷲尾一谷案內者事「此山ノ足立、極メテ惡シ」

あしたづ (名) 〔葦鶴〕 〔多ク、葦邊ニ居ルニ因リテ、呼ビ馴レタル語ナリ、葦鴨、葦蟹モ同ジ」 鶴ト云フニ同ジ。鶴。 倭名抄、十八三十「俗謂鶴爲葦鶴」 萬葉集、四二十八「葦香江ノ、入江ニ、求食葦鶴ノ」 同、六二十「葦邊ヲサシテ、多頭鳴キワタル」 同、十一十四「葦多頭ノ、騒グ入江ノ」

あしだづくり (名) 〔足駄作〕 足駄ヲ作ルヲ業トスル者。 七十一番歌合(文安)廿二番「あしだづくり」

あしだて (名) 〔足立〕 足ヲ跂テテ行クコト。 字類抄「跂、アシタテ、俗云、跂歩」

あしたどころ (名) 〔朝所〕 〔あさまつりおどノ語原ヲ見ヨ、あいたト云ヒ、あいたんト云フ、共ニ、音便ナリ(況て、まいて。眞名、まんな。角髮、びんづら)〕 太政官廳中ノ官舍ノ名。又、あいた所。あいたん所。 中務內侍日記、弘安十一年三月十

五日、御即位行幸儀式「宮ノ闕ノ北向ヨリ參リテ、云云、あ[illegible]ノ[illegible]ニ、[illegible]サブラヘバ、云云、主上、大床子ニワタラセタマフ、內侍、朝所ノ北向ニ[illegible]テサブラフ、云云、[illegible]ナドマヰラス」字[illegible]「朝所、アイタドコロ、官廳」枕草子、八、八十三段「故殿(藤原道隆)ノ、云云、職ノ御曹司ハ、方惡シトテ、官のつかさ(太政官廳)ノあいたんどころニワタラセタマヘリ、(左[illegible]ニ云フ)云云、[illegible]モセバク、瓦葺ニテ、云云、[illegible]子ナドモナク、只、[illegible]リテ、[illegible]パカリヲゾカケタル」太政官式「[illegible]以上著ニ朝 食所ニ、云云、[illegible]ニ再宮[illegible]、二月、[illegible]年[illegible]月十一日、例見、云云、了、大臣已下[illegible]朝所座ニ」註「[illegible]ニ[illegible]、八、元仁元年閏十月九日、於ニ官[illegible]、奉[illegible]孔子御像ニ」

あさた-の-つゆ (名) [朝露] あさつゆ。草葉ナドニオキタル、朝ノ間ノ露。日出ヅレバ乾クニ因リテ、多クハ、人生ノ、短ク、ハカナキニ譬ヘテ云フ。[illegible]書、蘇武傳「人生如ニ朝露、何久自苦如ν此」古今注「人生如ニ[illegible]、[illegible]、九、岩[illegible]、あさたの露ヲ玉ト見テ、[illegible]キシ稀ニ、消エニケリ」

あしだ-の-は-いれ (名) [足駄齒入] 足駄ノ齒ノ損ジタルヲ、入レカヘスルコト。又、ソレヲ業トスル者。

あさた-の-もの (名) [朝物] 「朝食前ニ奉ルヲ、御朝物、あさふさトモ云フト、似通フカ」元旦ノ朝餉ノ前ニ、御饌ニ奉ル物。[illegible]中行事、上、正月「四方拜、畢リテ、[illegible]ナリ、常ニナラシマス方ニテ、あさたの物[illegible]ル、[illegible]、[illegible]、藥ナド供ジテ、御[illegible]ル、云云、此時、先ヅ强供御ヲ供ズル式アリ」

あさた-ば (名) [明日葉] 明日草ノ條ヲ見ヨ。

あしだ-はざま (名) [足駄狭間] 城門ノ渡櫓ノ床ニ設ケタル狭間。[illegible]、[illegible]、山[illegible]成)十九[illegible]ト あしだはざま「門ノ下ヲ、敵ノ通ル時、上ヨリ、[illegible]ヲアゲ[illegible]、[illegible]ニ、[illegible]テオク也」

あし-だま (名) [足[illegible]] [illegible]ノ條ヲ見ヨ。

あし-だまり (名) [足溜] (一)軍陣ナドニ、地ヲ相テ、暫シ蹈ミトドマル處。(二)アシガカリ。アシカケ。太平記、三十四、[illegible]城軍事「切岸高ケレバ、先ナル人ノ楯ノ算ヲ蹈ヘ、甲ノ鉢ヲ足だまりニシテ、[illegible]戶、逆木ヲ切リ破リ」

あしだ-やき (名) [履燒] 陶器ノ名、近江國、信樂燒ノ一種。[illegible]集卓「履燒、是ハ、信樂燒ノ內ノ一種ノ名、寛文頃」萬寶全書、八「履燒、是ハ、[illegible]燒ノ內ニアリ、[illegible]ナドノ底ニ、あしだノ形アルナリ」

あし-だらひ (名) [足盥] 洗足だらひニ同ジ。(語彙)

あし-たれ-ぼし (名) [尾宿] 「足垂星ノ義、星座ノ狀ニ云フ」東方ノ星宿ノ名。二十八宿ノ條ヲ見ヨ。令[illegible]用(元祿)二、乾坤門「尾 宿、東方之宿」

あさた-わび・し・シキ・シケレ・シク・シク (形、二) [朝侘] 「わびしヲ見ヨ」朝、煩シ。拾遺集、十二、戀、二、貫之「百羽搔キ、羽搔カク鴫モ、我ガ如ク、あさたわびしき、數ハマサラジ」(後朝ニ寄セタリ)

あしだ-を (名) [足駄緒] 足駄ノはなを。(はなをノ條ヲ見ヨ) 屐緒 倭名抄、十二[illegible]「屐系、阿之太乎、本草云、屐鼻繩」

あし-づから (副) 〔足之從ノ義(てづから、みづから)〕己ガ足ヲハコビテ。[illegible]物語、一、北ノ方、落窪ノ君ヲ 御殿ノ御前ニ引出デ來テ、云云、あしづから行カズバ、います(來ル)マジカリケムト宣ヘバ」

あし-つき (名) [葦附] 「倭訓栞、あしつき「萬葉集ニ見ユ、葦附ト書ケリ、抄ニ、水松ノ類、葦根ニマトヒツキテ生ズルモノ、[illegible]草也、ト云ヘリ」水草ノ名。[illegible]、[illegible]ニ、[illegible]クレナヰニ云フ、[illegible]、[illegible]ト、[illegible]ニ立タスラシ」[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]越中國)夫木抄、廿四「雄神河、根白高萱、蹈ミシダキ、採ルあしつきモ、君ガタメトゾ」

あし-つき (名) [足附] 足附折敷ノ略。

あし-つき (名) [足附] 「[illegible]つき、腰つき」歩クヤウス。アシドリ。歩狀「[illegible]レタあしつき」

あし-つぎ (名) [足[illegible]] 「足ノ丈ヲ[illegible]バ、[illegible]」身ノ丈ノトドカヌ高キ處ヘ、手ヲトドケムガ爲ニ、蹈ミ上ルニ用キル臺。フミツギ。フミダイ。凳

あしつき-をしき (名) [足附折敷] 〔足打ト云フハ、打附けノ下略、打ハ、接頭語ナレバ、意ナキ語トナル(釘付ニハアラズ)〕折敷ニ、脚ノ附キタルモノ。又、足打折敷。略シテ、アシツキ。アシウチ。脚ハ、板ニテ、くりかたアルモノヲ、二枚、折敷ノ底ノ左右ニ附ク、白木ナリ、五位以下ノ人ノ膳トス。茶道ノ饗ニハ、平人ニハ、折敷ヲ用キ、貴人ニハ、足附ヲ用キルヲ作法トス、漆塗ナルハ、今、平人ニモ用キル、足、高サ六寸ナルアリ。大內問答(永正)「攝家、淸華、門跡、大臣マデハ、四方、大中納言、殿上人ハ、三方、官務外記、醫藥、陰陽、賀茂、[illegible]、武家ノ面面ハ、足付」[illegible]口傳、「足附折敷之事、足モ、五位以下ノ人ヘ參ラスル膳也、足、高サ、三寸許トゾ」貞丈雜記、七、膳部「足付ヲ、足打トモ云フ、云云、足付の折敷ト云フ事ヲ略シテ、足付、足打、ナドト云フ也」

あし-づつ (名) [葦筒] 葦包ノ語根、竹皮ヲ、たけづつトモ云フ」葦ノ莖ノ中ニアル、薄キ紙ノ如キモノ。葭[illegible] [illegible]、十、[illegible]、二、オノレヲ思ヒヘダテタル心アリト云ヘルに、[illegible]ニ[illegible]ハ[illegible]、[illegible]、しづつノ、(如ク)ヒトヘモ君ヲ、我レヤヘダツル」[illegible]、[illegible]ノ[illegible]、[illegible]、あしづつト云フ、ソレモヘダテズトナリ」[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、夫木抄、十八「霜枯ノ、汀ニ立テル、あしづつノ、(如ク)一重バカリニ、殘レル初雪」

あし-づの (名) [葦角] 「[illegible]角ト云フ語[illegible]アリ」アシカヒ。アシノツノ。アシワカ。葦ノ角ぐみタル芽。今、葦芽ト云フ。[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、「あしづのノ、生ヒ出デシ時ニ、天地ト、人トノ品ハ、定リニケリ」(あしかひノ條ヲ見ヨ) 字鏡六十「金牙、阿志乃豆乃」(牙ハ、芽ト通ズ)

あし-つ-を (名) [葦津緒] 「足之緒ノ義、足トハ、弦ノ末端ヲ云フ、倭訓栞、あしつを「足津緒ノ義ナリ」」和琴ノ各絃ノ尾端ヲ、組絲ニテ結ビカカルモノ、白、黄、淺黃、薄萌黃、ノ四色ノ絲ヲ、縒リ合セテ用キル。[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]

あし-つ-を (名) [葦津緒] 〔前條ノ語ヨリ移リテ、麻ヲ綠、黃、靑等ニ染メテ綯ヘルモノカ〕太キ綱。差繩。字類抄「[illegible]津緒、アシツヲ、差繩也」台記、仁平元年八月九日、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、あしつを[illegible]、[illegible]ハシテ、樣樣ノ綱ヲカクル」

あしで　(名)　[葦手]　〔手トハ、文字ヲ云フ、(手習、左手、)六帖抄「葦手、アシテ、文字也」葦ノ生ヒタル如キ文字ノ意ナリ、葦手ノ事、内裏歌合、天徳四年三月三十日歌合ノ條ニ初見ス〕(一)平安朝ニ行レタル、文字ノ戲書。水ヲ繪ニカキテ、傍ニ、歌ヲ、薄墨ヲ以テ、草假名ニテ、細長クツヅケテ、葦ノ生ヒ亂レタル如ク書キナセルモノ。あしで書トモ云フ。後ニハ、石、家、鳥ナドノ形ニモ書キナセルアリ。(水手、歌繪ノ條、參見スベシ)　源、三十二、梅枝廿四「あしで、歌繪ヲ、思ヒ思ヒニ書ケト賞ヘバ、皆、心心ニ挑ムベカメリ、云云、宰相中將ノハ、水ノ勢ヒ、ユタカニ書キナシ、ソソケタル葦ノ生ヒザマナド、云云、文字樣、石ナドノタタズマヒ、好ミ書キタマヘル枚モアメリ」　住吉物語、葦ノ屋ニ、心細ク、煙立チノボルケシキ、薄墨ニカケルあしでニ似タリ」　榮花物語、三十六、根合「池ノ篝火、隙ナキニ、白キ鳥ドモノ、足高ニテ立テルモ、あしでノココチシテ、ヲカシ」　新猿樂記「太郎主者、能書也、古文正文、任二信行草藁、眞字、假字、蘆手等之上手也」　五月雨の記(三條西實隆)「香包ハ、必ズ、あしでがきニスベシ」(二)紅ナドニテ、葦ノ形ヲ下繪ニシタル紙。　堀河院艶書合、紅ノ七重ガサネニ、下繪ニあしで書キテ」　拾玉集、一、秋「タマグレ、難波ワタリヲ、行ク雁ヤ、あしでノ上ニ、書ケル玉章」

あしで　(名)　[惡手]　〔てハ、書ナリ(手書、手本。惡絹、惡綿こ〕拙キ書。拙筆。　塵添壒囊抄、五、四十「葦手事、夜、御歌アリケルニ、和泉式部「筆モ禿ビ、ユガミテ物ノ、書カルルハ、コレヤ難波ノ、惡手ナルラム」

あしで-がき　(名)　[葦手書]　前前條ノ(一)ヲ見ヨ。

あし-て-がらみ　(名)　[足手搦]　次條ノ語ニ同ジ。

あし-て-まとひ　(名)　[足手纏]　ホダシ。物ノ、手足ニ纏ヒテ、働キノ自在ニナラヌコト。アシテガラミ。アシマトヒ。(婦女子ナドノ附キマトフニ云フ)　累　羇絆　保元物語、二、白河殿攻落事「上臈、女房、云云、武士モ、是レガ足手纏ニテ、進退、更ニ自在ナラズ」　太平記、八、持明院殿行二幸六波羅一事「取集勢ニマジリテ軍ヲセバ、ナマジヒニ足纏ニナリテ、懸引モ自在ナルマジ」

あし-どめ　(名)　[足留]　(一)禁足。(二)人ノ遠クニ行クヲ禁メオクコト。(不時ノ用ノ爲ニ)「足留人足」(三)瓦屋根ノ土居葺ノ上ニ、横ニ打チツケタル細長キ木。瓦、又ハ葺土ノ落ツルヲ防グタメニス。

あし-どり　(名)　[足取]　〔拍子を取るノ、取りナリ〕(一)足ノハコビ。アシナミ。アシブミ。(踊ナドニ)　歩調　(二)賣買、取引ノ、遷リユク相場ノ高低。

あし-どり　(名)　[足取]　相撲ノ手ノ名。敵ノ片足ヲ、我ガ手ニテ取リアグルナリ。即座ニ捻ルコトアリ、押シテ行クコトアリ。

あし-なか　(名)　[足半]　〔足ノ半ナル義、あしなか草履ノ略ナルベシ〕草履ノ、踵ニ當ルトコロノ無キモノ。(コレニ對シテ、常ノモノヲ、長草履ト云フ)足利時代ニ、武士ノ主從、上下、共ニ、用キタルモノ、長草履ハ、徒歩奔走スル者ニハ、後ヘ泥土ヲハネアグルニ因リテ、半ニセシナリ。今モ、筏師ハ、足半ヲ用キル、棹ヲ肩ニ當テ、俯シテ、爪先ノミニテ押シ行ケバナリ。　𩌏鞋　貞順故實集(足利時代)上「主人ニ足半ヲ召サセ候事、是レハ、小者ノ役ニテ候」　成氏年中行事、附錄、御社參之事「御供二三十騎、云云、足なかヲハキ、小太刀ヲハク也」　貞丈雜記、一、禮法「雜雜記ニ、あしなかニハ、禮儀ナシ、人ノ敷皮ニ坐シ候フトモ、通ル時、あしなかハ、脫グマジキ也、トアリ」　歌林雜話集(松永貞德)上、細川幽齋「太閤御所ノ御代ニモ、御內衆ノ禮儀マデ、古法ニ拵テタマフ、云云、御供ノハキモノ、皆、あしなかニテ、長キ草履ハキタル者、一人モコレナシ」　明叢拼錄、十八「西游之人、以二草爲一履、而無レ跟、名曰二乘鞋一」

あし-なが　(名)　[足長]　てながあしながノ條ヲ見ヨ。

あしなが-だに　(名)　[足長蛸]　てながだこニ同ジ。

あしなが-ばち　(名)　[足長蜂]　蜂ノ一種、脚ノ甚ダ長キモノ。體、黑色ニシテ、背ニ四ツノ赤褐條アリ、腹部ニ粗毛多シ。

あしなが-ばへ　(名)　[足長蠅]　蠅ノ一種。脚ノ細長キモノ。多ク水邊ニ棲ム。

あし-ながもち　(名)　[足長持]　足附ノ長持。道路ニ置ク時ノ用ナリ。

あし-なへ　(名)　[足蹇]　〔目癡モアリ〕不具ノ名、足ノ蹇ヘテ、歩行ノ正シカラヌモノ。チンバ。ビッコ。　蹇　靈異記、下、第十九緣「蹇、アシナヘ」　倭名抄、三十「蹇、行不レ正也、阿之奈閉」

あし-なべ　(名)　[足鍋]　〔足鼎、同例〕鍋ノ、三足アルモノ。　倭名抄、十六、金器類九「鐺、小鼎也、字亦作レ鐺、阿之奈倍」　造酒司式、諸節供御酒器「白銅鐺子」　江家次第、一、正月「造酒司渡二御酒一訖「或用二銀鐺子一暖レ酒」

あし-なみ　(名)　[足並]　足ノ列。足取ヲソロヘテ行クコト。(人馬ノ行列ナドニ)　歩調　夫木抄、廿七「カタガタニ、挑メル駒ノ、足なみヲ、五月ナラデハ、イツカ競ベム」(五月ノ賀茂ノ競馬)

あし-ならし　(名)　[足馴]　歩行ヲ健ニセムトテ、歩ミ馴レシムルコト。アシガタメ。

あし-な・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ　(自動、下二)　[足馴]　「足ハ、歩ムコト」　歩行ニ習フ。　健歩　源、廿二、玉葛廿「スコシあしなれタル人ハ、疾ク御堂ニ着キニケリ」

あし-の-あゐ　(名)　[藍草]　あしゐ(藍草)ノ條ヲ見ヨ。

あし-の-うら　(名)　[足裏]　アナウラ。アシノシタ。足ノ、地ヲ蹈ムニ當ルトコロ。(足の甲ニ對ス)　蹠　字鏡、廿九「蹠、足乃宇良、足乃志太」

あし-の-うらは　(名)　[葦末葉]　〔末ノ條ヲ見ヨ〕葦ノ上葉。　榮花物語、三十一、殿上花見「打チナビク、あしのうらはニ、問ヒ見バヤ、カカルミユキハ、イツカみえま江」

あし-の-け　(名)　[脚氣]　〔けハ、病ナリ、疫病〕カクビャウ。今、脚氣ト云フ、其條ヲ見ヨ。　倭名抄、三十、脚氣、一云、脚病、云、阿之乃介」　天祿歌合「あしのけニノミ煩ヒテ、籠リハベレバ」　源、三十八、夕霧廿三「あしのけノ上リタル心地ス、云云、物ヲ、イト苦シウ、サマザマニオボスニハ、けゾアガリケル」(脚氣衝心ナルカ)

あし-の-かふ　(名)　[足甲]　〔こふ(甲)ノ條ヲ見ヨ〕アナヒラ。足趾ノ上面。(蹠、足のうら、ニ對ス)　趺　跗　箋注倭名抄、二、四十「跗、阿奈比良」今俗呼二阿之乃古布一」「甲高ノ足袋」

あし-の-やの　(名)　[葦篠屋]　葦、又ハ、篠ヲモテ、屋根ヲ葺キタル家。　通宗朝臣女子達歌合「難波江ノ、あしのやのやモ、雪降レバ、花ノ都ニ、劣ラサリケリ」

あしのは-がれひ　(名)　[葦葉鰈]　あしのはが

れひノ一名。

あしのはな　(名)　葦花　葦ノ穗花。色白シ。夫木抄、廿八、雪「難波潟、あしの花吹ク、浦風ニ、雪ニモ[illegible]、[illegible]ケル」[illegible]「白、[illegible]葉水前舟」

〜あしのはなげ　(名)　葦花毛　馬ノ毛色ノ名、葦毛ノ、黄ミアルモノ。ヲバナアシゲ。倭名抄、十一「[illegible]、葦花毛馬也」拾遺集、九、雜、下「藤義公ノ家ノ紙繪ニ、あを馬アル所ニ、あしのはなげノ馬アル所[illegible]江ノ、あしの花毛ノ、マジレルハ、津ノ國飼ヒノ、駒ニヤアルラム」

あしのはぶえ　(名)　蘆花笛　蘆笛ヲ見ヨ。

あしのほ　(名)　葦穗　葦ノ穗花。[illegible]下「秋霧ニ、[illegible]チ來レバ、難波江ノ、あしのほヨリゾ、[illegible]ハ行キカフ」

あしのほわた　(名)　葦穗綿　古へ、葦ノ穗ヲ、衣服ニ入レテ、綿トシ用ヰタルモノ。蘆架　倭訓栞、あしのほわた「葦ノ穗ヲ、衣ノ架ニスルヲ云フナリ、小窓清記ニ、製ニ栫菜枕、蘆花被、以退ニ牀夜話スト見エタリ、眞ニ似タル中ノ僞ト云フ連歌ニ、葦の穗は、重ねし衣の、綿ならで、見レハ閔子騫ノ故事也(孔子ノ弟子、閔損、字、子騫、幼ナル時、其繼母ガ、實子ノ服ニハ綿ヲ入レ、子騫ノ服ニハ葦ノ穗ヲ入レタリト云フ)」

あしのまろや　(名)　葦丸屋　〔倭訓栞、あしのまろや「まろハ、全キ義、全體ヲ、葦ノミニテ、コシラヘタル也、ト云ヘリ」〕葦ノ莖ヲ集メテ作レル家。葦の屋。葦屋。金葉集、三、秋「夕サレバ、門田ノ稻葉、音ヅレテ、あしのまろやニ、秋風ゾ吹ク」月詣集、十「音モセヌ、あしのまろやノ、村時雨、聞ルノミコソ、シルシナリケレ」後拾遺集、十六、雜、二「八重葎ノ、隙ダニアラバ、あしのやニ、音セヌ風ハ、アラジトヲ知レ」堀河百首、雜「山賤ノ、あしやニ構ケル、竹簀垣、ふしニクシトモ、[illegible]カナ」

〜あしのむかむかた　(句)　足向方　何處ヲハカト定メズ、出デテ行クニ云フ語。竹取物語「イヅチモ、イヅチモ、足ノ向キタラム方ヘ[illegible]往ナムトス」[illegible]ニモ、惡マレケレバ、足の向かむ方ニ行カムトテ、人ノ國へ行キケル」今昔物語、十九、第五語「只、足[illegible]の向きたらむ方ニ行キテ失セナム、ト思ヒテ[illegible]」三十一、第十四語「足の向きたる方ニ走ルホドニ」

あしのや　(名)　葦矢　葦ノ莖ニテ作レル矢。桃ノ木ニテ作レル弓ヲ、桃の弓ト云フ。共ニ、古へ、朝廷ニテ、十二月晦日ノ追儺ノ式ニ、方相氏ノ、鬼ヲ射ルニ用ヰラレキ、支那ノ風ヲ傳ヘタルナリ。内裏式、中、十二月大儺式「中務省率二侍從、内舍人、大舍人等、各持二桃弓葦矢二」[illegible]倭訓栞、あしのや「葦矢也、追儺ニヨメリ、殿上ノ侍臣、桃の弓、葦の矢ヲ以テ、御殿ノ方ニ立チテ、中ヲ射ルナリト見エタリ」

あしのや　(名)　葦屋　あしのまろやヲ見ヨ。

あしのを　(名)　足緒　あしがね(足金)ノ條ヲ見ヨ。

あしのをぶね　(名)　葦小舟　あしかりをぶねヲ見ヨ。

あしば　(名)　足場　(一)アシダチ。タチド。足ヲ踏ミ立ツルトコロ。立脚地「足場ヨシ」「足場ワロシ」(二)アナナヒ。アシシロ。高キ所ニ、工事ヲスル時、工人ノ足ガカリノタメニ、假ニ丸太ヲ以テ組立ツル構造物。閣架

あしばくぎ　(名)　足場釘　電柱ノ兩側ニ、數十本ノ大鐵釘ヲ、順序ヨク打込ミオクモノ。柱ノ上ニテ作業スル者、足場トシテ踏ミ上リ下ルル用トス。

あしはなげ　(名)　葦花毛　あしのはなげヲ見ヨ。

あしばや　(名)　足早　〔足ハ、歩クコト〕走ルコト、極メテ疾キコト。捷　今昔物語、廿三、[illegible]「[illegible]ト云フ、[illegible]アリケリ、心太ク、力強ク、足早、手聞キ、[illegible]」[illegible]記、上、[illegible]ノ御使ニハ、捷松トテ、極メテ足早キ者アリケル」合類節用(元祿)九、言辭門「捷、足疾曰レ捷」

〜あしはら　(名)　葦原　〔淺茅原、竹原、松原、同例〕(一)葦ノ生ヒ繁レル地。古事記、中(神武)二十一「葦原ノ、[illegible]キ小屋ニ、菅疊、イヤサヤ敷キテ、我ガ二人寢シ」[illegible]「[illegible]原鹿、其味[illegible]」[illegible]「阿志波羅田ノ、稻舂蟹」(二)次次條、竝ニ、[illegible]葦原ヲ見ヨ。

〜あしはらがに　(名)　葦原蟹　今、いしはらがにト云フ、其條ヲ見ヨ。倭名抄、十九「蟛蜞、[illegible]似[illegible]而小也、[illegible]」[illegible]「小野氏曰、今俗呼二[illegible]原蟹、所[illegible]謂[illegible]葦原蟹、[illegible]」(小野蘭山ナリ)

〜あしはらのなかつくに　(名)　葦原中國　〔前前條、竝ニ、出典ヲ見ヨ、なかつくにハ、中之國ナリ〕大日本國ノ異稱。葦原國トモ云ヒ、葦原トノミモ云フ。倭[illegible]、あしはら「葦原中國ハ此邦ノ號ニシテ、天津神ノ世ニ、高天原ヨリ宣ヘル言ニテ、天上ニ對セリ、サレド、此國ニテモ云ヘルハ、天降シテ後モ、ナホ、天上ニシテ呼ビナラヘル號ヲ宣ヒシナリ、何方モ、[illegible]、葦原ニシテ、ソガ中ニ、國所ハアリケルヲモテナリケリトゾ」神代紀、上「天照大神在[illegible]於天上[illegible]曰、聞[illegible]葦原中國有[illegible]保食神[illegible]」同卷[illegible]曰、云云、不レ可レ住ニ天上ニ亦不レ可レ居ニ於葦原中國[illegible]」同、下「[illegible]立ニ皇孫天津彦火瓊瓊杵尊ニ以爲ニ葦原中國之主[illegible]」同卷、天照大神[illegible]「[illegible]皇孫[illegible]曰、葦原千五百秋之瑞穗國、是吾子孫可レ王之地也」大三輪神社鎭座次第[illegible]原國」いさよひの日記、長歌「世世ノ跡アル、玉づさモ、サテ朽チハテバ、あしはらノ、道モスタレテ、イカナラム」[illegible]、あしはらの國、[illegible]ニテ、[illegible]モ云フ[illegible]

〜あしはらへ　(名)　惡解除　よしはらへヲ見ヨ。

〜あしび　(名)　葦火　乾シタル葦ヲ、薪トシテ焚クコト。萬葉集、十一、廿「難波人、葦火焚ク屋ノ、(如ク)煤(スス)ビテアレド、己ガ妻コソ、常愛ヅラシキ」六帖、五「潮風ニ、今朝冷エニケリ、出デテ來シ、あし火焚ク家ゾ、戀シカリケル」

〜あしび　(名)　馬醉木　〔馬ノ足癈ノ略ナラム、(足結、あゆひ)連聲ニハ、濁音顚倒スルコトアリ、(冠、かがふり)。[illegible]、馬、此葉ヲ食ヘバ、醉ヒテ、足癈ヅト云フ、有毒ノ草ニテ、今、此木ヲ、馬の附子トモ云フ、出典ノ散木集、新六帖ノ歌、共ニ、馬ニ食ハセジノ意ヲ云ヘリ、あせみ、あせび、あせぼト云フ、音轉ナリ、(蛇、へみ、現身、うつせみ。頸、くび[illegible])〕馬醉木ノ字ヲ充ツルハ、いはつつじヲ、羊躑躅ト記スガ如シト云フ、以上、普通ノ說ナリ、[illegible]、萬葉集[illegible]手ナドニハ、あしびハ、木瓜ナリトノ說モアルナリ、[illegible]木ノ名。又、あせみ、あせび。あせぼ。山ニ多シ、高サ五六尺、葉、細ソク長クシテ、[illegible]アリ、互生ス、冬、枯レズ、春、枝ノ梢ニ、三寸許ノ穗ヲ垂レテ、帶黄白色ノ小花ムラガリ開キ、小サキ子ヲ結ブ、有毒植物ナリ。梫木　[illegible]ノ上ニ、[illegible]ヲ、[illegible]ト」同、二十[illegible]木集、一、春、三月、春駒「取リツナゲ、玉田横野ノ、放レ駒、ツツジノ岡ニ、あせみ花咲クナリ」新六帖、六

「御秣ハ、心シテ刈レ、夏野ナル、繁ミノあせみ、枝マジルラシ」壒囊抄(文安)六、十二條「萬葉ニハ、馬醉木ト書テ、あせぼト讀ムト云ヘリ、馬、此木ノ葉ヲ食テ、醉テ死ニケル也」重修本草綱目啓蒙、廿五、濕木「木、アシミ、萬葉集、アセボ、古今通名、馬醉木、共同上、アセモ、古歌、仙臺、アセビ、枕草子、土州、アセブ、播州、豐前、アシブ、雲州、云云」

〜あしびきの (枕) [足引乃] 〔あしびきハ、冠辭考ニ、生繁木ノ約轉、ト云ヘリ、(織衣、ありぎぬ。贖物、あがもの。黄子、きび)上古ノ山山ハ、樹木、自然ニ繁カリシ故ニ、山ニカカル、萬葉集、七、廿八「青山ノ、葉繁キ山」他ニ、語原說、種種アレド、皆、臆測ナリ〕山ト云フ語ノ枕詞。古事記、下(允恭)十二長歌「阿志比紀能、山田ヲツクリ」萬葉集、十五、廿三「安志比奇乃、山飛越ユル、カリガネハ」山ト同義ナルニ、萬葉集、十九、十一「足引之、八峯ノ雉」同卷、十一「足引の、峯上ノ櫻」又、枕詞ヲ言馴レテ、下略シテ、直チニ山ノ義トス、「ひさかたの(天の)月」「ぬばたまの(夜の)夢」ノ如シ。萬葉集、三、四十「足日木能、(山の)石根」同、八、廿八「足引乃、(山の)木間」同、十一、十三「足檜乃、(山の)嵐吹ク夜ハ」同、十七、四十六「安之比奇能、(山の)彼面此面ニ、鳥網張リ」菅家萬葉集「足引の、(山の)コナタカナタニ、路ハアレド」

あしびきのみえい (名) [足引御影] 〔兩脚ヲ伸ベタルヲ、引きコメタルニ云フ、御影ハ、肖像ノ事ナリ、其條ヲ見ヨ〕山城國、葛野郡、二尊院ノ影堂ニ置ク、法然上人ノ畫像ノ稱。雍州府志(貞享)五、二尊院「法然上人自作焉、月輪兼實、甚歸ニ法然ニ、欲レ寫ニ生前像ニ、然不レ肯、或時、浴後、伸ニ兩脚ニ而坐、兼實召ニ畫工宅間ハ、隔レ簾竊令レ寫レ之、法然見レ之大驚、兩脚立屈、其畫影、今在レ堂、謂ニ足引影ニ」(節文)和漢三才圖會(正德)七十二、末、二尊院「御影堂、法然上人畫像、世謂ニ之足引御影ニ」

〜あしひとつあがりのみや (名) [足一騰宮] 〔日本書紀通證ニ、一柱騰宮、蓋、歷レ階而升之宮殿也、トアリ、宮作リノ、簡易ナリシヲ云ヘルナルベシ、古事記傳ノ、河中ニ一大柱脚ヲ建テテ支ヘタル構造ナラムトノ說ハ、迂ナリトモオモハレ、あがりノ意モ解セラレズ〕神武天皇東征ノ時、豐前國、宇佐川上ニテ、菟狹津彥等ガ造リテ、大御饗ヲ奉リシ宮ノ稱。神武紀「天皇、云云、行至ニ筑紫國菟狹ニ、云云、菟狹津彥、菟狹津媛、乃於ニ菟狹川上ニ、造ニ一柱騰宮ニ而奉レ饗焉」註「阿斯毘苦徒鞅餓離能宮」古事記、中(神武)「自ニ日向ニ發幸、御ニ筑紫ニ、故到ニ豐國宇沙ニ之時、其土人、名、宇沙都比古、宇沙都比賣二人、作ニ足一騰宮ニ而獻ニ大御饗ニ」

あしびやうし (名) [足拍子] 足蹈ミシテ拍子ヲトルコト。(舞、踊ナドニ) 俚言集覽、足拍子「舞ナドスルニ、足ニテ拍子ヲトルナリ」懷竹抄「頭ヲフリ、膝拍子、足拍子、ケシカラズ目ニ立ツホドニスル」小町踊(寬文)冬、千鳥「浪ノ音ニ、乘ルヤ千鳥ノ、足拍子」

あしぶえ (名) [蘆笛] 胡人ノ、葦ノ葉ヲ卷キテ吹キタルモノト云フ。又、蘆葉笛。 笳 簫 胡笳 コレヲ篳篥ノ異名ノ如ク云フハ、蘆舌ニ用キルヨリ、混ジタルナルベシ。下學集(文安)器財門「蘆葉、胡人吹ニ笳管ニ也」拾芥抄(文安)上、樂器部「蘆葉、笳、笙、云云、笳」(一寫本) 塵添壒囊抄(天文)十一、十九條「笳ハ、葦ノ葉ヲ卷キテ、胡人ノ吹ク物也」史記、樂書「胡笳似ニ觱篥ニ而無レ孔、云云、伯陽入ニ西戎ニ所レ作、卷ニ蘆葉ニ吹レ之也」倭訓栞、あしのはぶえ「葦ノ葉ヲ以テ笛トスル也、埃囊抄ニ、云云」

あしぶき (名) [葦葺] 屋根ヲ、葦ニテ葺キタルモノ。後拾遺集、六、冬「訪フ人モ、ナキ蘆ぶきノ、我ガ宿ハ、降ル霰サヘ、音セザリケリ」

あしぶくろ (名) [足袋] (一)袴ヲ云フ。

枕草子、七、六十四段「大口ハ、長サヨリ、口廣ケレバ、はかま、イトアヂキナシ、指貫モナゾ、足衣、若シハ、サヤウノ物ハ、あしぶくろナドモ云ヘカシ」(二)ゐたうづ(襪)ノ一名。調度歌合(三條西實隆)ゐたうづ「根ミズヤ、サテモ難波ノ、あし袋、踝ノ間モ、アハヌツラサヲ」

〜あしぶち (名) [足駮] 馬ノ毛色ノ名。四足ノ膝下ノ白キモノ。倭名抄、十一、六「驓馬、四骹皆白曰レ驓、骹謂ニ膝以下ニ也、阿之布知」神樂歌、其駒「足布知ノ、森ノ下ナル、若駒率テ來」

あしぶね (名) [葦船] (一)〔神代ニ、蛭兒ヲ載セテ流サレタリト云フ船。神代紀、上、六「諾册二尊、遂爲ニ夫婦ニ、先生ニ蛭兒ニ、便載ニ葦船ニ而流レ之」(二)葦刈小舟。忠見集、難波ニ蘆舟アリ「難波潟、行キカフ舟ノ、綱手繩、くるコソ見エネ、蘆ノ間ヲ無ミ」

あしぶみ (名) [足蹈] (一)〔舞ニ、足ノハコビザマ。アシドリ。アシビャウシ。枕草子、七、六十八段「一ノ舞ノ、云云、あしぶみヲ、拍子ニ合ハセテ」中務内侍日記(弘安)「人長ガ、拍子ニ合ハセタルあしぶみ」(二)體操ニテ、一處ニ立チドマリテ、左足、右足、カハルガハル地ヲ蹈ム動作。

〜あしべ (名) [葦邊] 汀ナドニ、葦ノ生ヒ茂レルアタリ。 蘆岸 萬葉集、一、廿八「葦邊行ク、鴨ノ羽ガヒニ、霜降リテ」同、六、廿二「葦邊ヲサシテ、鶴鳴キワタル」

あしへん (名) [足偏] 漢字ノ偏ニアル、足ノ字ノ稱。路、跡、蹈、ノ如シ。 足旁

あしべをどり (名) [葦邊踊] 〔葦が散る難波ナドニ因メル命名ナルベシ〕大阪市、難波新地ニテ、毎年春季ニ開演スル舞踊ノ名。(京都ノ都踊ニ對ス)明治年間ノ創始ニシテ、同地ノ演舞場ハ、汀陽館ト稱シ、明治二十八年ノ建造ナリ。

アぢほんふぢやう (名) [阿字本不生] 〔阿字〕ノ條ヲ見ヨ。

あしま (名) [葦間] 葦ノ生ヒタル間。拾遺集、八、雜、上「蘆まヨリ、見ユル長柄ノ、橋柱、昔ノ跡ノ、シルベナリケリ」

あしまかせ (名) [任足] 旅行ナドニ、勉メテ歩ムコト。俚言集覽、あしまかせ「足ノカニマカセテ歩ムヲ云フ」

〜あしまき (名) [足卷] 〔此蟲、溜水ニ棲ム、水ニ入リタル人ノ足に卷きツク意ナルベシ、足纏、足搦ト云フ、同ジ、今モ、靜岡縣ニテハ、あしまきト云フ〕蟲ノ名。アシガラミ。アシマツヒ。字鏡、六十八「蟭蛸、蜣蜋之子、阿志萬支、阿志加良女、於保地不久利」同、六十九「蟷、足萬豆比」蜣蜋ハ、糞蟲ナレバ、蟷螂ノ誤、蟭蛸ハ、蟷螂ノ巢ノ固マリタルモノニテ、卽チ、おほぢふぐりノコト。あしまきハ、蟷螂ノ腹中ニ寄生シテ、後ニ水中ニ棲ムモノナリ、混ジタリ。

あしまとひ (名) [足纏] (一)あしてまとひヲ見ヨ。(二)蟲ノ名。前條ヲ見ヨ。

あしまゐり (名) [足參] みあしまゐりヲ見ヨ。

あしみ (名) [馬醉木] あしびノ條ヲ見ヨ。

あしもと (名) [足許] (一)〔歩ム足ノアタリ。 脚下 古今集、序「遠キ所モ、出デ立ツあしもとヨリハジマリテ、年月ヲワタリ」足もとから鳥が立つト云フハ、身邊ニ、俄ニ事ノ起ルヲ云フ。俳諧世話盡(明曆)「足本より鳥の起ちタル」(二)足ノ下部。狹衣、一、上十「菖蒲引キヌル賤男ガ、云云、イカバカリ深カリケル、十市ノ里ノ泥土ナラムト見ユル、足もとドモノ、イミジケ

ナルモ、知ラズ顔ニ、イト多ク持チタル」 足もさ[illegible]ト云フハ、其時ニ、更ニ[illegible]ヌヲ云フ。(三)[illegible] 足もとの明い中(日ノ暮レヌ中)ト云フハ、[illegible]ノ[illegible]ニ、ノ意。[illegible] あかるい[illegible] 足もと[illegible]見られるト云フハ、[illegible]ニツケイラレルヲ云フ。(四)歩ミ様。アルキツキ。「足もとハ、ヨロヨロ」

アジもん (名) 阿字門 阿字ノ條ヲ見ヨ。

あしや (名) 葦屋 あしのまろやヲ見ヨ。

あしやう (名) 亞相 〔亞ハ、次ナリ、宰相ニ次グ官〕大納言ノ唐名。亞槐。 字類抄、官職、大納言、云云、今案、右相ニ[illegible]、大納言、唐名、亞相」

あじやう (名) 阿孃 阿母ノ(一)ニ同ジ。其條ヲ見ヨ。

あしやがま (名) 蘆屋釜 足利時代、筑前國、遠賀郡、蘆屋村ニテ鑄出シタリシ釜。僧、雪舟、土佐光信等ノ名工ノ下畫ニテ、松竹梅ナド鑄出セリ、茶家ニ珍重ス、光信ナルハ、足利義政ガ、下畫ヲ命ジテ鑄シメシモノト云フ。 合類節用(元祿)[illegible]モノトアリ。

⁂**あじやら** (名) 戯 〔戯ノ轉、(群、むら。連、つら)戯ノ義、移リテハ、無分別ノ意トナル、[illegible]ニテ、[illegible]ノ意トシテ、[illegible]ナド云ヘリ、あじやら漬ト云フ語モ、蔬菜ヲ、ワイダメナク打チマゼテ漬クルノ意ナルベシ〕戯レ。ジヤウダン。無分別。[illegible] あじやら、[illegible]トノ[illegible]、云云、六日[illegible]、ニフレイ[illegible]、[illegible]アマリあじやらノ[illegible] (寛延、竹田出雲)九「夫婦仲睦ジイトテ、あじやらニモ、[illegible]バシシテ、[illegible]ルナ」[illegible](安永)[illegible]、言語、かりそめト云フ語ノカハリニ、[illegible]内ニテ、あじやらト云フ、東國ニハ、[illegible]ならぬヲ云フ、肴フルニ、其意同ジ」 静岡縣ニテハ、たわいもない事ヲ、あじやらもないなどヲ云フト云フ、此ないハ、甚シノ意ナリ。

あじやらづけ (名) 阿茶羅漬 〔前條ノ語原ヲ見ヨ〕漬物ノ一法。味醂酒ヲ、程ヨク煮カヘシ、唐辛ヲ加ヘテ、能ク煮ツメ、酢ヲ少シ入レタルモノニ、大根、蓮根、芋莖ナド、種種ナル蔬菜ヲ刻ミ、打雜ゼテ漬ク。 料理[illegible]法、漬[illegible]、阿茶羅漬、酢壹升、鹽三合、煮返シ、麩キ内ニ漬ル也、小茄子、生姜、茗荷ノ子、蓮根ナド、又、魚ヲモ漬ルナリ」(コレハ、古法ナリ)

アジヤリ (名) 阿闍梨 〔梵語、阿闍梨耶(Acarya.)ノ略、軌範ト譯ス、翻譯名義集、一、「釋氏衆名、闍梨、寄歸傳云、梵語、阿遮梨耶、唐言、軌範、今稱、闍梨、訛略」云云、阿彌陀、彌陀、阿修羅、修羅)南山鈔云、能糾ニ正弟子行故」(一)又、あざり。天台宗、眞言宗ニテ稱スル僧ノ學位。略シテ、闍梨。傳法灌頂大阿闍梨位ト云フヲ極位トス。 二中歷(壽永四、僧職)「阿闍梨、傳燈大法師位」(二)僧官ノ稱。 字類抄、僧位、阿闍梨、アサリ、清和天皇御宇、貞觀元年己卯、始[illegible]、[illegible]下、官[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]寺四人、法琳寺一人」 源、三十八、夕霧十八「あざり一人、トドマリテ、ナホ陀羅尼讀ミタマフ」 十訓抄、下、[illegible]、三十[illegible]、三[illegible]ナリテ、[illegible]聽ヲ許サレザリケルガ、[illegible]ニ[illegible]テ「山川ノ、あさりトナラデ、沈ミナバ、深キ[illegible]ノ、名ヲヤ流サム」(コレハ、阿闍梨ヲ、淺瀬ニカケタリ、淺瀬ノ條ヲ見ヨ) 思ひのままの日記(貞治)「あじやりノ[illegible]装ナド、目モ心モ及バズ」

あしゆひ (名) 足結 多ク、略シテ、あゆひト云フ。其條ヲ見ヨ。

あしゆひのくみ (名) 足結組 机ノ花足ヲ、纏ト共ニ結ビツクル組緒。 西宮記、臨時、六、天德四年三月三十日歌合、文[illegible]、云云、有二足結組一」 天德歌合、序「下机ハ、云云、あしゆひのくみ、[illegible]ハ、[illegible]ニ、[illegible]ヲ[illegible]ニシタリ」[illegible]、十七、[illegible]合[illegible]、[illegible]ノ[illegible]、打敷ハ、[illegible]ノ[illegible]、あしゆひのくみ、花足ノ心バヘナド、イト今メカシ」 [illegible]流抄「組ニテ、花足ヲカラミタルナリ」

アシユラ (名) 阿修羅 〔梵語、阿修羅、(Asura.)阿ハ、非ト譯シ、修羅ハ、天ト譯セラル、非天トハ、其果報、諸天ニ似タレドモ、天にあらざる意ナリト云フ、阿ヲ略シテ、修羅トノミ云ツハ、阿彌陀ヲ、彌陀トモ云フガ如シ、或云、非天ノ義トスルハ俗解ニテ、阿修羅ハ、生靈、神靈ノ義ナルガ、轉ジテ、惡神ノ意トナレルナリト」佛說ニ、六界ノ一。阿修羅道ト云ヒ、略シテ、修羅道、修羅。又、あそら。其人人、我慢勝他ノ心、猜忌嫉妬ノ念、盛ンニシテ、戰闘ヲ好ム、其主長ヲ阿修羅王ト云フ、力強ク、能ク梵天帝釋ト權ヲ爭ヒテ闘フト云フ。 [illegible]、阿修羅[illegible]作與ニ梵王、及、帝釋四天ニ爭レ權」 釋氏要覽、阿修羅王、[illegible]、[illegible]ニ[illegible]神トシテ、阿修羅王ノ宮[illegible]、[illegible]れたるが如しナド云フ。 宇津保物語、俊蔭「ハシタナキ心ヲナシテ、あそらノ中ニマジリて、あそらハ、[illegible]、[illegible]ハ、[illegible]、[illegible]フ、日本國王ノ使、淸原俊蔭、コノ山ヲタヅネ得タリ」

アシユラだう (名) 阿修羅道 前條ヲ見ヨ。

アシユラわう (名) 阿修羅王 前前條ヲ見ヨ。

あしよね (名) 惡米 〔惡稲、惡糯、同義〕 アシキ米。ワルキ米。 名義抄、[illegible]、アシヨネ」

あしよわ (名) 足弱 老幼、婦女ノ稱。

あしらひ (名) 應答 あへしらひヲ見ヨ。

あしらふ (動) 接待 あへしらふヲ見ヨ。

あしりおぎ (名) あしおぎ(足濯)ヲ見ヨ。

あじろ (名) 網代 〔あハ、網ノ略、網子、あご、網ノ代用ノ義、(網代、[illegible]代、[illegible]代)氷魚ノ網代ハ、弘安七年長ク停止セサセタマヒシカバ、昔ノ網代ノ[illegible]ハ、[illegible]ニ[illegible]ラレズ、後ノ世ノ[illegible]ニハ、[illegible]、又ハ、[illegible]網ナド畫ケリ、氷魚ハ、琵琶湖特產ノ魚ニテ、湖中ニテ成長シテ、瀬田川ニ下ルモノナルヲ據トシ、古歌ニ見ユル網代木、網代簀、ナドノ語ニ參照シテ、大概ノ製ヲ記ス、倘、さけのあじろノ條ニ併セ見ヨ〕冬ノ頃、川瀬ニテ、氷魚ヲ捕ルニ作リ設クルモノ、急流中ノ魚道ニ、上流ニ向ケテ、[illegible]ニ、透間ナク、杭ヲ打並ベテ打込ム、コレヲ網代木ト云フ、其内ノ底ニ、水ニ浸ル程ニ簀ヲ拱リオク、コレヲ網代簀ト云フ、魚ハ、上流ヨリ其内ニ流

レ入リ、水ハ、杙、簀ヲトホリテ漏レユキ、魚ハ簗カレテ殘ルヲ、夜夜、篝火ヲ焚キテ守リ居ル者、居ナガラニシテ、コレヲ捕ルナリ、其人ヲ、網代人、網代守ト云フ、瀨田川、宇治川ノ流域ニテ、近江ノ田上、山城ノ宇治、專ラ此網代ニ名アル所ナリ。滬。魚簎。萬葉集、三十八「モノノフノ、八十氏河ノ、網代木ニ、イサヨフ波ノ、行方知ラズモ」同、七十一「宇治川ハ、淀瀨無カラシ、網代人、舟喚フ聲、ヲチコチ聞ユ」內膳司式「山城國、近江國、氷魚網代、各一處、其氷魚、始二九月一迄二十二月三十日一貢レ之」宇津保物語、吹上、上廿二「流レ來ル、ひを數フレバ、あぢろ木ニ、取ルサヘ數モ、知ラレザリケリ」源、四十四、橋姫三十五「十月ニナリテ、五六日ノ程ニ、宇治ヘマウデタマフ、あぢろヲコソ、コノゴロハ御覽ゼメト、云云」新六帖、三「あぢろすニ、打チアゲラルル、朝氷魚ヲ、細カニ碎ク、氷トゾ見ル」同卷「風寒ミ、今朝霜白シ、あぢろもり、思フニサコソ、氷魚ハ寄ルラメ」萬代集、六、冬「あぢろ打ツ、田上川ノ、岩浪モ、山おろし吹ケバ、モミヂシニケリ」中右記、永久二年九月十四日「網代早可二禁斷一者、云云」帝王編年記、廿六「弘安七年二月廿七日、宇治網代停止」(本朝高僧傳、五十九、西大寺沙門睿尊傳ニ因レバ、此停止ノ官符制ハ、睿尊ノ奏請ニ出デシモノナリ)

(二)**あぢろ** (名) 【籧篨】〔編筵ノ略、(編土、あづち、各條ヲ見ヨ)多クハ、當字ニ、網代ト記ス、玉篇「籧篨、竹席也」〕(一)竹、葦、又ハ、檜ナド、薄ク細ソク削リタルモノヲ、或ハ斜ニ、或ハ縱橫ニ編ミタルモノ。垣、屛風、天井ナドトシ、又ハ、笠、團扇ニ作リ、牛車、輿、ノ屋形ニ貼ルナド、種種ニ用キラル。源、四十五、椎本五「あぢろ屛風」仙源抄「籧篨、竹ニテ組ミタル屛風也」(二)あぢろぐるまノ略。其條ヲ見ヨ。

あぢろうちは (名) 【籧團扇】 竹ノあぢろニテ作リタル團扇。兩面、共ニ、澁ヲ塗ル。(雍州府志)

あぢろがき (名) 【籧垣】 細竹、又ハ、割竹ヲ、あぢろニ組ミ作レル垣。沼津垣。

あぢろかご (名) 【籧駕籠】 駕籠ノ外面ニ、あぢろヲ張リタルモノ。

あぢろがさ (名) 【籧笠】 竹ノあぢろニテ作レル笠。頂ハ、山形ヲナシテ、緣、スコシ上ヘ反リ、澁ヲ塗ル、色白シ、僧ノ用ナリ。我衣(安永)「網代笠、古來ヨリアリ、竹ヲ編ミタルナリ、但シ、澁ニテハキ、漆ニテ止メタルモノアリ、大方、白ナリ、僧ノカムルモノナリ、天和ノ頃ヨリ、上方ヨリ下ルナリ」

(二)**あぢろぎ** (名) 【網代木】 網代ノ條ヲ見ヨ。

あぢろぐるま (名) 【籧車】 牛車ノ一種。籧篨ヲ、車箱ニ貼リタルモノ。略シテ、あぢろ。俗ニ、御所車ト云フ、大臣、納言、大將ナドノ略儀ノ用ナリ、遠行ニ乘ル、四位、五位、少將、侍從ナドハ、常用トス。唐搏風造リノ廂ヲツケタルヲ、籧廂ノ車、又、廂車ト云フ、大將以上ノ料ナリ。桃華蘂葉、一、車事「網代車、自二雲客時一至二大臣、井、攝關一時用レ之、各有二差別一、褻時乘レ之」三條家裝束抄、坤、車「網代、庇ヲサシ、或ハ連子アリ、或ハ物見ニ簾ヲ懸クルハ、攝政、關白、大臣、大將、是ニ乘ル」

あぢろごし (名) 【籧輿】 板輿ニ次ギテ、晴ノ時ニ用キル輿。竹ノあぢろヲ外ニ貼リツケ、黑塗リノ押緣ヲ打ツ。增鏡、十五、村時雨、元弘元年十月三日、後醍醐天皇「都ヘ入ラセタマフモ、云云、鳳輦ニハアラヌ、網代輿ノアヤシキニゾタテマツレル」太平記、三十、持明院殿吉野遷幸事「怪シゲナル籧輿ニ召替ヘサセマヰラセ、云云、賀名生ト云フ所ヘ、御幸成シ奉ル」鎌倉九代後記、永祿元年四月「左馬頭義氏、云云、鶴岡八幡宮參詣、網代輿ニ乘ル」撮壤集(享德)中、輿「籧篨」故實拾要(享保)六「網代輿、是親王、攝家、淸華家、常輿也、諸家中モ、晴レノ時乘レ之」

あぢろす (名) 【網代簀】 網代ノ條ヲ見ヨ。

あぢろてんじやう (名) 【籧天井】 籧篨ニテ張リタル天井。今昔物語、廿二、第七語「賤ノ下衆ノ家ナレドモ、云云、檜籧篨ヲ以テ、天井ニシタリ」

あぢろど (名) 【籧戶】 籧篨ニテ作レル、門ノ戶。石組園生八重垣傳、上「茶庭ノ中木戶、云云、網代戶、あぢろハ檜ノへぎナリ、法ニ曰ク、幅貳尺一寸、長三尺五寸」(古事類苑)

あぢろばり (名) 【籧張】 あぢろ笠ノ緣ノ反ラシタルモノ。我衣「網代笠、云云、天和ノ頃ヨリ、上方ヨリ下ルナリ、網代ばりトテ、ふちヲ反シタル笠ナリ、云云、御小身衆、馬上、皆、是レナリ」

あぢろびさし (名) 【籧廂】 あぢろぐるまヲ見ヨ。

(二)**あぢろびと** (名) 【網代人】 網代ヲ見ヨ。

(二)**あぢろびやうぶ** (名) 【籧屛風】 竹ノ籧篨ニテ張リタル屛風。源、四十五、椎本五「ココハ、又、樣異ニ、山里ビタルあぢろ屛風ナドノ、コトサラニ、事ソギテ、見所アル御シツラヒヲ」河海抄「普通ノあぢろニテ張リタル屛風也、昔ハ、山莊ナドノ古メカシキ調度ニハ、定ル事ナリ、漆骨ニ、片面ヲ張リテ、細組ニテ、閉ヂ合ハセタル物也、籧屛風ト云フ也」

あぢろぼ (名) 【籧帆】 籧篨ニテ造レル帆。倭訓栞、あぢろぼ「ささぼトモ云フ、品字箋ニ、多ク編レ竹爲レ之、謂二之風篷一トアル、是レ也」

あぢろもり (名) 【網代守】 網代ヲ見ヨ。

あぢろやく (名) 【網代役】 川ニ建テタル網代ノ稅。(さけのあぢろノ條ヲ見ヨ) 地方凡例錄、五、網代役「是レハ、大川筋、鮭、鱒、鰊等ヲ取ル網代ヲ建ル役永、網代主定リ、其者之持場極リ、村差出明細帳等ニモ、場所字記有レ之、云云、古來ヨリ持來リタル場所者、縱、網代不レ建、休株ニテモ、役永ハ致二上納一云云」(役永トハ、役錢ナリ、永錢ノ條ヲ見ヨ)

(二)**あしわか** (名) 【葦若】 葦ノ若芽。アシカビ。アシヅノ。元眞集「難波潟、漕ゲド小舟ハ、あしわかノ、エザル程コソ、久シカリケレ」契沖云、あしわかトハ、蘆ノ若キヲ云フ、あしづの也」六帖、五「あしわかノ、浦ニ來寄スル、白波ノ、知ラジナ君ハ、我ガ思フトモ」源、五、若紫三十七「あしわかノ、浦ニみるめハ、カタクトモ、コハ立チナガラ、カヘル波カハ」細流抄「葦ノ若キニ、和歌ノ浦ヲ寄セタリ」倭訓栞、あしわか「古事記ニ、若葦ト云ヘルニ同ジ」

あしわけ (名) 【葦別】 次次條ヲ見ヨ。

(二)**あしわけのつくゑ** (名) 【足別案】 机ノ脚ノ、取リハヅシニナルモノ。(語彙) 齋宮寮式「別脚案二脚」名義抄「足別案、アシワケノツクヱ」

(二)**あしわけをぶね** (名) 【葦別小舟】 水中ニ葦ノ生ヒ茂レル中ヲ、押シ分ケテ漕ギ行ク小舟。萬葉集、十一 三十七「湊入リノ、葦別小舟、(彦)障多ミ、我ガ思フ君ニ、會ハヌ頃カモ」此歌ヨリシテ、物事ニ故障アルコトヲ、葦分ト云フ。賴政集、下、戀「過ギヌル夜ハ、葦分ナル事ノアリシナリ、今夜ハカナラズ待テト、賴メツカハシタリシ、云云」

あしわた (名) 【惡綿】 〔惡絹、(絁)同趣〕 惡シキ綿。ワルキ綿。字類抄「絮、アシワタ、似レ綿而麁惡也」

(二)**あしゐ** (名) 【藍草】 〔葦藍ノ略、(十餘、とをまり)あしのあゐトモ云フ、葦ニ似テ、染料トナル〕 草ノ名。又、あしのあゐ。カキナ。カイナ。今、かりやすぐさト云フ、其條ヲ見ヨ。東京ニテ今モ、あしゐト云フ。本草和名、上四十六「藍草、阿之井」(倭名抄、同ジ) 醫心方(永觀)一五十六「藍草、加岐奈、阿之乃阿爲」

あしだ (名) [足緒] 狩ノ鷹ノ足ニ繫クル緒ノ名。[illegible]二、[illegible] [illegible]ニ

あしだ (名) [足緒] 太刀ノ帶取ノ緒。足金ノ條ヲ見ヨ。

あしをあらふ (句) [洗足] 〔佛敎大辭彙〕「大正三年、安措ノ條、禪宗、云云、臥床ヨリ起チ、經典シテ、衣ヲ着ケテ、禪室ニ入リ、袈裟ヲ被リ、鉢ヲ携ヘテ、外ニ出デ食ヲ乞フ、行化ヨリ歸リ、足を洗ひ、此丘衆ヲ集メテ、法義ヲ說ク」〔僧侶ノ徒跣ニテ歩ム、毎朝ノ事ナリ、乞食スルハ、僧タル者ノ、當然ノ生活境涯ナリ」〕(一)往時、良民ノ、[illegible]シテ、非人、乞食ノ群ニ入リシ者ノ、錢ヲ出シテ其仲間ヲ脱シ、再ビ良民ノ籍ニ復スルヲ、足を洗ふト云ヒキ、名詞形トシテ、あしあらひトモ云フ。轉リテハ、娼妓、藝妓、遊藝人、水商賣ナド止メテ、素人トナルヲモ、あしをあらふト云フ。詞のみをつくし「今侍、[illegible]ノ、平ノ[illegible]トナルヲ、足洗ひト云フ」(二)足を萬里の流れに濯ふト云フハ、[illegible]意ヲ云フ語ナリ。[illegible]

あしをくはる (句) [歧足] [illegible] [illegible]ヲ云フ語。[illegible]賀茂ニ參リケルニ、夢[illegible]ニ足をくはれテ、[illegible]ヲ卷キタリケルヲ見テ、[illegible]チハヤフル、かみヲバ、足ニマ[illegible]コレヲソ[illegible]ノ、[illegible]トハ云フ」(山城ノ下賀茂神社)

あしをけ (名) [足桶] 川ニテ、冬時、葱、大根ナド洗ハムトスル時、[illegible]トスル[illegible]、農具便利論、中、足桶「寒中ニ、[illegible]、[illegible]、大根等ヲ洗フニ[illegible]、[illegible]、カ[illegible]ノ也、先ヅ洗ハムトスル時、コレヲ兩足ニハキ、スゲタル所ノ繩ヲ、手ニ持チ、河ヘ入テ洗フニ、足、濡ルル事ナケレバ、凍エズ」

あしをそらにて (副詞句) [足空] 〔うはのそらノ、こころ、ナリ〕足ノ地ニ附カヌマデニ、アワテ[illegible]ヒテ。[illegible]消息聞コエタマフホドモ、絶エ入リタマヒヌ、あしをそらにて[illegible]レモ、[illegible]マヒヌレバ、[illegible]、[illegible]、夕[illegible]ノ内ノ人、あしをそらに思ヒ[illegible]フ、云云、思シ歎キオハシマスヲ聞キタマフニ、云云」

あす (名) [明日] 〔朝ノ轉、(さ[illegible])、あさ[illegible]すらすら)明くるあさヲ言ヒ慣レテ略轉セル語ナラム、おさか(朝)ノ條ノ(二)ヲ見ヨ、[illegible]ニテ、明日ヲあちトモ云フ〕日本釋名(元祿)上、明日「あすトハ、あかす也、今日あかして後ノ日也」倭訓栞、あす「明日ヲ云フ、あかすノ義ナリ、因リテ、眞字伊勢物語ニ、明トノミ書ケリ、列子ニ、日ヲ讀メリ、來日ナリ、書紀ニ、明幾日ト云フモ、通鑑ニ見エタリ」ニ今日ノ次ノ日。アクルヒ。アシタ。ミヤウニチ。古事記、下(雄略)[illegible]ヨリハ、[illegible]テ、見エズカモアラム」[illegible]萬葉集、六[illegible]をこつひモ、きのふモ、けふモ、見ツレドモ、明日サヘ見マク、ホシキ君カモ」

あす (名) [朔] [illegible]、あすハ、あせる義ナルベシ」次條ノ(一)ヲ見ヨ」 膿ノ、崩レタルトコロ。[illegible]安受ノ上ニ、[illegible]カド」安受遲カラ、駒ノ行ノス、危ドモ」字鏡[illegible]「埆、崩岸也、久豆禮、又、阿須」天治字鏡、五[illegible]、久豆禮、又、阿須」[illegible]

あ・す [illegible] [illegible] (一)海、川ナド、底、淺クナル。水減リ涸ル。アサブ。ソコル。[illegible]ノ、[illegible]、天ノ川原ハ、あせナム、[illegible]モ」後撰集、五、秋、上「今日ヨリヤ、天ノ川原ハ、あせナム、[illegible]「山ハ裂ケ、海ハあせナム、世ナリトモ、君ニ二心、我レアラメヤモ」常陸風土記、香島郡、[illegible]トアレモ、あせぬ[illegible]。(二)色ナド、淺クナル。アサユ。褪ム。[illegible] [illegible]色ニ[illegible]ノ、[illegible]ヒテ、[illegible]ノ、[illegible]、二十一、[illegible]ノ、[illegible]色[illegible]あせ[illegible]ニ、(三)薄クナル。ウスラグ。[illegible]岩井ノ水モ、[illegible]リトテ、見シ人[illegible]ノ、あせモユクカナ」取りかへばや物語、一「何事モ皆クチヲシク、あせユク世ノ末ナレド、カカル人ノ、[illegible]シタマヒケル[illegible]」

あすか (名) [飛鳥] とぶとりの條ヲ見ヨ。

あすかかぜ (名) [明日香風] 〔明日香ハ、大和國ノ地名ナリ、飛鳥トモ書ク〕風ヲ地名ニツケテ云フハ、泊瀨風、佐保風ナドモアリ、名物トシテ云フナリ」明日香ノ地ヨリ吹ク風。[illegible]、[illegible]宮[illegible]、[illegible]ノ、[illegible]ニ[illegible]ク」

あすかがは (名) [明日香川] 大和國、高市郡ナル川ノ名、古ヘハ、[illegible]ハル。[illegible]、[illegible]、[illegible]ラヒツツ、逝ク水ノ、(如ク)思モユクモ、思ユルカモ」[illegible]ルル水モ、[illegible]ニカアラマシ」[illegible]、古今集、十八、雜、下「世ノ中ハ、何カ常ナル、あすか川、昨日ノ淵ゾ、今日ハ瀨トナル」[illegible]ナル[illegible]川[illegible] [illegible]ニカハル、心トハ、ミナカミシモノ、人モ云フメリ」後撰集、十一、戀、三「イトハルル、身ヲウレハシミ、イツシカト、あすか川ヲモ、タノムベラナリ」

あすかミソ (名) [飛鳥[illegible]] [illegible] 古へ、大和國、飛鳥ノ地ヨリ[illegible]出シ[illegible]、法隆寺[illegible]ニ[illegible]ト云フ。[illegible]リケルニ、イツ、ノボリタルゾト、問ヒケレバ「きの[illegible]「あかノ原ヲヤ、過ギテマキラム」(三日ニカケタリ、[illegible])

あすかゐ (名) [飛鳥井] 〔京都ノ二條、萬里小路ニ、飛鳥井ト云フ處アリ、飛鳥社アリテ、其前ニ古井アリト云フ記アレド、[illegible]ナラズ〕(一)[illegible]ノ名。「飛鳥井ニ、宿リハスベシ、蔭モヨシ、御水モ寒シ、[illegible]モヨシ」(二)[illegible]ノ條ヲ見ヨ。

あすかゐりう (名) [飛鳥井流] [illegible]ノ一派。權大納言飛鳥井雅親ヲ祖トス。[illegible]人、文明[illegible]年、入道シテ、[illegible]ト稱ス。

あすなろ (名) [翌檜] [illegible]ヲ見ヨ。

あすならう (名) 明日[illegible]あすはひの[illegible]ヲ見ヨ。

あすは (名) [illegible]ノ[illegible]ノ[illegible]。

あすはのかみ (名) [阿須波神] 〔あすはハ、足場ト[illegible]ト云フ、(延、大庭、[illegible])、[illegible]抄、[illegible]

越前國「足羽郡、安須波」」旅行ヲ守ル神。古事記、上「庭津日神、阿須波神」古事記傳「足場ノ意ニヤ、云云、此神ハ、人ノ、物ヘ行クトテモ、萬ノ事業ヲナストテモ、足蹈立ツル地ヲ守リマス神ナルガ故ニ、家毎ニ祭リシニヤ」倭訓栞、あすは「常陸國、鹿島ニ、阿須波明神アリ、云云、旅出ナドヲモ祈ルナルベシ、首途ヲ鹿島立ト云フモ、是ヨリ出デタル由、鹿島本縁ニ見エタレド、本社ヨリ起レル諺ナルベシ」大嘗祭式ノ悠紀、主基ノ齋郡ノ齋院ノ八神殿ニ、阿須波神ヲ祭ラル、御稲ノ拔穗ノ、京ヘノ運送ヲ守ルガ爲ナラムト云フ。萬葉集、二十廿「庭中ノ、阿須波乃可美ニ、小柴刺シ、我レハ齋ハム、歸リ來マデニ」(筑紫ヘ出向フ防人ニ、家人ノ贈リシ詠ナリト思ハル)

あす-は-ひのき (名) |羅漢柏| 〔明日は檜ニ爲らむ、ノ意ト云フ、故ニ、あすならう、又、あすなろ、トモ云フナリ、明日檜ト云フハ、略セルナリ、ひばハ、檜葉ナルベキカ〕喬木ノ名。今ハ、あすならう、あすなろ、あすひト云ヒ、常ニハ、ひばト云フ。ひのきニ似テ、枝ニハ、黄褐色ナル葉鱗、殘留シテ附着ス、葉ハ、鱗片狀ニシテ、長サ二三分、夏、花アリ、雄花ハ、長圓形ニテ叢生シ、雌花ハ、壺形ヲナス、毬果ヲ結ブ、材ハ、種種ノ用ヲナス。枕草子、三、二十四段、あすはひのき「枝ザシナドノ、イト手觸レニクゲニ、アラアラシケレド、何ノ心アリテ、あすはひの木トツケケム、アヂキナキカネコトナリヤ」春曙抄「明日檜ニテ、世俗ニ、あすならふト云フ木ナリ」甲陽軍鑑、十四、品第四十、下「檜ノ木ノ、定ニ、明日ならうト云ウテ、終ニ何ニモナラザル間、此木ノ名ハ、あすならう也ト、ヨキ武士ヲソネンデ、功ノナキ男ハ、あすならう男ト、コレヲ名ヅケム」合類節用(元祿)六、生植門「明日檜」(左訓、アスナラフ)和漢三才圖會(正德)八十二、檜「一種、阿須檜、似檜而木心似枝、云云、匠人用偽レ檜、又名二阿須奈呂一」倭訓栞、後編、あすはひのき「枕草紙、云云、羅漢柏ナリトゾ」

アスパラガス (名) 〔英語、羅甸語、Asparagus.〕西洋産ノ野菜ノ名。嫩苗、土當歸ニ似タリ、西洋料理ニ用キラル。西洋ウド。皮ヲムキ、束ネテ、薄鹽ノ湯ニテ、三十分間煮テ、ヤハラカニナリシ時、束ヲ解キ、皿ニ盛リ、穗先ニ、ほわいと、そおすヲカケテ食フ。

アスハルト (名) |土瀝青| あすふぁるとヲ見ヨ。

あす-ひ (名) |羅漢柏| あすはひのきヲ見ヨ。

あすび (名) |遊| 〔あすぶヲ見ヨ〕(一)アスブコト。アソビ。ナグサミ。「あすびニカマケル」(二)爲スコトナクシテ居ルコト。空手 (三)書籍ノ開卷、又ハ、卷尾、又ハ、書中ノ段落ノ所ナドニ入レテ、綴ヂコミオク一枚ノ白紙。

あすび-あひて (名) |遊相手| アソビガタキ。アスビトモダチ。

あすび-きん (名) |遊金| 〔あすぶノ(二)ヲ見ヨ。遊軍、遊手〕使途ナクテ、空シク積ミテアル金錢。遊金。

あすび-じ (名) |遊字| 〔あすぶノ(二)ヲ見ヨ〕漢文中ニ、訓ゼラレヌ字ニテ、俗人ノ、無用ナルガ如ク思フモノ。「秋風起兮、白雲飛」「蘭有レ秀兮、菊有レ芳」ノ、兮ノ字ナドヲ云フ。

あすび-しごと (名) |遊仕事| 遊ビガテラニスルワザ。常職ナラヌ仕事。

あすび-ともだち (名) |遊友達| アスビアヒテ。

あすび-にん (名) |遊人| 市井ノ閒ニ、常職トテハナク、浮浪レ居テ、善カラヌ事ヲスル者。

アスピリン (名) 〔獨逸語、Aspirin.〕解熱、及、鎭痛ノ藥。粉ニシテ、白シ。

あす・ぶ・ブ・ベ・バ・ビ・ベ (自動、四) |遊| 〔あそぶノ轉、口語ナリ〕(一)あそぶニ同ジ。(二)職業ニアリツカズシテアリ。爲スコトナクテアリ。(遊字、遊金ナド云フモ、是レナリ) 空手 (三)打チタル釘、利カズ。浮ク。

あす・ぶ・ブ・ベ・バ・ビ・ベ (他動、四) |愚弄| 〔もてあそぶ(弄)ノ上略、口語〕人ヲタブラカシテ樂シム。ナブル。俚言集覽、あそぶ「他ヲアザミ、嘲弄スルニテ、人ヲモテあそびニスル、又、ばかニスルヲ云フナリ」「サンザンあすばレタ」

アスファルト (名) |土瀝青| 〔英語、Asphalt.〕黑褐色ノ固體、又ハ、液體。炭化水素ニ成リ、硫黃ト窒素トヲ含ム、沙、石灰石ニ煉リ合セテ、道路、水道ナドノ防水料ニ用キ、木材ニ塗レバ、諸藥品ノ作用ニ耐ヘ、且、防腐ノ效アリ、其外、種種ノ用ニ供セラル。アスハルト。

アスラ (名) |阿修羅| あしゅらヲ見ヨ。

あせ (名) |汗| (一)動物ノ體ノ熱シタル時、肌ニ生ズル水。皇極紀、四年六月「流汗沃レ身」(二)血ノ異名。(齋宮ノ忌詞) 齋宮式「血稱二阿世一」手に汗を握るトイフハ、氣遣ヒテ精神ヲ凝ラスコト。

あ-せ (名) |吾兄| 〔兄ノ條ヲ見ヨ、をハ、よト云フ意ナリ〕古ヘ、男子ヲ親シミテ呼ブ語。轉ジテ、阿曾トモ云フ。古事記、中(景行)倭建命ノ御長歌「尾津ノ崎(伊勢)ナル、一ツ松、阿勢ヲ」(吾兄ヨ) 雄略紀、五年二月「榛ガ枝、阿西ヲ」(前ナルハ、御佩刀ノ、樹下ニアリシヲ賞デタマヒタルニテ、後ナルハ、舍人ガ、榛ニ逃ゲ上リテ、難ヲ免レシ歌、共ニ、樹ヲ擬人シテナリ) 古事記、下(雄略)長歌「吾ガ大君ノ、云云、脇机ガ下ノ、板ニモガ、阿世ヲ」(コレハ袁杼媛ガ、天皇ニ親シミ近ヅキ奉ラマ欲シキ意ニテ、脇机ニ云ヒカケテ義ムナリ)

あ・せ (動) |淺| あす(淺)ノ條ヲ見ヨ。

あ-ぜ (名) |畔| 〔本語、畔ナリ、畔畝ノ意ナリ(橘守部ノ俗語考)倭訓栞、あぜ「畔ヲ訓メリ、閒塞ノ義ニヤ」イカガアラム〕アクロ。田ノ周圍ニ、細長ク土ヲ盛リテ、界トスルモノ。倭名抄、一「畔、田界也、久呂、一云、阿世」夫木抄、五「苗代ノ、水ノウキネヤ、マカスラム、蛙ノ聲ノ、あぜツタヒ行ク」

あ-ぜ (副) |何| 〔あぞ(何)ノ語原ヲ見ヨ〕何故ニ。アゾ。ナンゾ。ナゼ。今モ、安房ニテ、あぜト云フ。萬葉集、十四廿「夕占ニモ、今宵ト告ラロ、我ガ夫奈ハ、阿是ゾモ今宵、依ロ來マサヌ」同卷廿七「安是カ絶エムト、言ヒシ兒呂ハモ」

あせ-あゆ (動) |汗零| あゆ(零)ノ條ヲ見ヨ。

あ-せい (名) |亞聖| 〔亞ハ次ナリ、聖人ニ亞ぐ意〕道德ノ、聖人ニ次グ人ノ稱。大賢人。孟子序說(朱熹)「程子曰、顏子去二聖人一只毫髮閒、孟子大賢、亞聖之次也」(孔子ノ門人顏回ヲ稱ス) 孟子題辭(趙岐)孟子評「命世亞聖之大才者」

あ-せい (名) |阿世| 曲學阿世ヲ見ヨ。

あぜ-おり (名) |畔織| 〔凹凸、畔ノ如シ〕布帛ノ織リヤウノ名。緯絲ノ太キト、細ソキトヲ、互ニ用キテ織リ、地ニ、タカビクヲナセルモノ。(俚言集覽)

あせ-ぐ・む・ム・メ・マ・ミ・メ (自動、四) |發汗| 〔くむハ、含むノ約、(うずくまる、うず

くまる。さくくむ、さくむ)きざす意、芽ぐむ、角ぐむ、涙ぐむ、涙さしぐむ、みづはぐむ、皆、同ジ」汗、膚ニ出デムトス。アセバム。發汗ヲモヨホス。萬葉集、十、[illegible]ケニ毘エケルガ、[illegible]、云云、汗ぐみニケリ」

あぜ-くら (名) |叉庫|校倉| 一あぜハ、あぜノ轉、あざハ、叉ふノ語根、叉倉ノ義、組繩ト云フ語モアリ、(頭鼠漫筆、三)あざふ(叉)ノ條ヲ見ヨ、校ハ、交木ノ合字ナリ」又、叉屋。古代ノ木造ノ倉庫。五寸角ホドノ三角形ノ長材ヲ、横ニ密接ニ積ミ上ゲ、四隅ニテ、材ノ端ヲ互ニ交ヘテ、井ノ字ノ形ニ造リ成ス、各材ノ稜角アル部ヲ外面ニアラハスニ因リテ、内面ハ平板ノ如シ、多クハ瓦葺ナリ、土壁ヲ用キザレバ、濕氣ヲ生ゼズ、奈良ノ正倉院ハ、全ク此製ニテ、千餘年ノモノ現存シ、聖武天皇ノ御物ヲ藏セラル。稀ニ他ノ社寺等ニモアリテ、寶物ナド收ム。倭名抄、十二「校倉、[illegible]穀物之也、阿[illegible]久良」新猿樂記「叉倉」下學集(文安)上、家屋門「叉庫」志貴山緣起、上「山崎ト云フ所ニ、下衆徳人アリケリ、云云、大ナルあぜ倉ノアルヲアケテ、物取出ス」北山抄、十、雜、大嘗大[illegible]校倉、[illegible]」好古小錄(寛政)「校倉ハ、烈日ニアタレドモ、土蒸ノ氣ナク、又、雨ニ逢ヒテ、濕氣ヲ含マズ、故ニ藏ムル所ノ物、數百千年ヲ經ルトイヘドモ、蟲蠹ノ害ヘナシ」(正倉院ノ條ヲ見ヨ)

あせ-ぶどど (副) |汗汗| 「ぶどどノ條ヲ見ヨ」甚シク汗ノク狀ニ云フ語。アセミヅク。アセビッショリ。[illegible]中將ハ、[illegible]エタル物ヲ被キ、ソフフキギ、あせぶどどニナリテ、[illegible]シタリ」

あせ-ぶはん (名) |汗袴衫| 汗取ノ肌着。

あせぶみ (名) |汗染| 次條ノ語ノ名詞形。衣服ニ、汗ノ染ミツキタル痕。

あせ-ぶ・む・ム・メ・マ・ミ・メ (自動、四) |汗染| (一)汗、出デムトス。アセバム。發汗 (二)汗出デテ、衣服ナドニ染ム。

あせ-たなごひ (名) |汗手拭| あせてぬぐひヲ見ヨ。

あ-ぜ-ち (名) |按察使| [あんせつしノ約、(案内、あない)つ、ち、約リテ、ちトナル、せつハ、察ノ呉音、(殺生、せっしゃう)官職要抄、別註、六「按察使、讀テ、阿世知ト訓ズ」」(一)官名。又、あんさつし。あぜっし。あぜし。唐名、都護。諸國司ノ治迹ノ視察ヲ掌ル、養老年中ニ、始メテ置カレキ、寶龜ノ頃ヨリハ、專ラ、陸奧、出羽ニ置カレ、陸奧守、鎭守將軍ヲシテ兼ネシメラレシガ、後ニハ、廢レテ、名義ノミ、大中納言ノ兼帶スル コトトナレリ、物ニ、按察大納言ナドト見ユル、是レナリ。續紀、八、養老三年七月「始置按察使」二字類抄「按察使、アンサツシ」平家物語、三、御産ノ卷「あぜつ使」下學集(文安)上、官位門「按察使(左訓、アセシ)都護」運歩色葉集(天文)「按察使、唐名、都護」百寮訓要抄(二條良基)按察使「大中納言可然人、是ニナル、中古以來、國ノ成敗ハナシ」大鏡、上、頼忠「按察大納言公任」(二)禁中、女房ノ召名。禁秘御抄、階梯、下、女房「召名、按察、大進、少進、云云」齋宮記(寛永)部類、二、女房名事、小上臈、大納言、按察、民部卿、中納言、云云」

あ-ぜち (名) |庵室| [庵室ノ轉、其條ヲ見ヨ] 奈良ニテ、一般寺院ノ稱。興福寺ノミ、寺ト云フ。(東閣子、三)

アセチリン (名) [英語、Acetylene] 無色ニシテ、特種ノ臭氣アル氣體、炭化かるしうむニ水ヲ加フレバ發生ス、點火シ易ク、光輝アル焰ヲ擧ゲテ燃ユ。

あ-ぜっし (名) |按察使| あぜちヲ見ヨ。

あせ-てぬぐひ (名) |汗手拭| 古言、あせたなごひ。又、あせてのごひ。あせのごひ。白ノ麻布ヲ、若干ノ長サニ切リタルモノ。夏日、外出ナドニ、懐ニシテ、時時、汗ヲ拭ヒ去ルニ用キル。アセフキ。[illegible]抄(尚事)二「[illegible]ヲ張リテ立ツ、云云、其上ニ、あせたなごひヲカク」林逸節用(文明)財貨「汗拭」和漢三才圖會(正徳)廿八、衣服、[illegible]又有汗拭、夏月[illegible]之、以[illegible]汗[illegible]、[illegible]布一[illegible]、[illegible]五、[illegible]「夏ハ、汗手拭ト名ツケテ、[illegible]布ヲ用フ、云云、天保以來、生太布ヲ、長一尺餘ニ裁テ用フ」

あせ-てのごひ (名) |汗手拭| 前條ヲ見ヨ。

あせ-どの (名) |汗殿| [汗ハ、血ヲ云フ、いみことばノ條ヲ見ヨ] 伊勢ノ齋内親王ノ、御月事ノ時、籠ラセタマフ處。太神宮[illegible]、永承四年六月、[illegible]齋内親王依御月事、云云、大藏之後、齋宮御汗殿下坐之」(古事類苑)

あせ-とり (名) |汗取| (一)肌ニツケテ着テ、汗ヲ染マセテ去ル用トスル服。大鏡、中、[illegible]「何ヲモ押シヤラセタマヒテ、御あせさりバカリニテ、サブラハセタマヒケル」(二)近世ハ、白キ紙縒ニテ作レルモノヲ云フ。守貞漫稿、十五、男服、夏服[illegible]、又、汗取ト云テ、白紙よりヲ、龜甲形ニ編ミ、無袖ニテ、襟ハ、白布ヲツケ着ス」

あぜ-なは (名) |絡繩| [叉繩ノ約、叉倉モアリ、畔繩ノ義ト云フハ、アラジ] 網ヒタル繩。神代紀、上「秋、則已成、以絡繩」

あせ-なまづ (名) |汗癜風| 暑時ニ生ズル癜風。夏日斑。

あせ-のごひ (名) |汗拭| あせてぬぐひヲ見ヨ。

あせ-ば・む・ム・メ・マ・ミ・メ (自動、四) |發汗| [汗ばむノ義、[illegible]ニ見ヨ] あせぐむニ同ジ。汗、出デムトス。

あせ-び (名) |馬酔木| あしびヲ見ヨ。

あせ-びっしょり (副) |汗濕| [illegible] 汗水ニナリテ。アセシトド。アセミヅク。流汗淋漓「[illegible]、あせびっしょりニナッタ」

あせ-ふき (名) |汗拭| あせてぬぐひヲ見ヨ。

あせ-ぼ (名) |[illegible]| あせも(痱)ノ條ヲ見ヨ。

あせ-ぼ (名) |馬酔木| 馬酔木ヲ見ヨ。

あせ-み (名) |馬酔木| あしびノ條ヲ見ヨ。

あせ-みぞ (名) |汗溝| 「漢語、汗溝ノ訓」馬ノ尻ノ左右、尾ノ付根ノ下、骨ノ少シ高クナリタルトコロ。[illegible]、十二[illegible]「[illegible]日、汗溝、[illegible]」

あぜ-みち (名) |畔路| 畔ノ上ヲ路トスル處。畷。續忠集「行クサキハ、ソコトモ見エズ、京ノ[illegible]、心ホソクモ、道ノ[illegible]みち」

あせ-みづ (名) |汗水| 甚シク汗ヲカクコト。アセミヅクニナルコト。アセビッショリニナルコト。流汗 [illegible]「衣、三ツガ上ニ、[illegible]、廿六[illegible]タル」同、廿七、[illegible]、あせニナリテ、イトホシガル」[illegible]「汗水流して[illegible]」トハ、甚ク骨折リテ物スル意ナリ。

あせ-みづく (副) |流汗| 「汗水漬ノ義、みづくハ、みづく(水漬)ノ條ヲ見ヨ」汗ニ浸レル狀ニ云フ語。アセシトド。アセビッショリ。「[illegible]キテ、あせみづくニ成ル」あせみづくニ成ッテ[illegible]ク」

あ-ぜん (副) [啞然] 〔あくぜんナルベキナリ、啞啞ノ語原ヲ見ヨ〕(一)大イニ笑フ狀ニ云フ語。列子、周穆王篇「同行者、啞然大笑」(二)或ハ、呆レカヘル狀ニ、啞然として自失すナド記セルヲ見ル、誤用ナルベシ、憮然トシテ自失スニテハ、意ヲ成サズ、啞然ト云フ語ハナカルベシ。

アセン-やく (名) [阿煎藥][阿仙藥] 〔あせんハ、無來語、若シクハ、印度語ナドナルベシ、詳ナラズ〕熱帶地方ノ植物ヨリ採レル越幾斯。暗褐色ノ塊ヲナス、古クヨリ舶來シテ、下痢ナドノ藥トシ、其外、收斂ノ劑トシテ用キラル。倭訓栞、あせんやく「阿煎藥ト書ケリ、百藥煎ヲ云フナリ、五倍子ヲ以テ製ス、さらた國ヨリ出スヲ佳トス」

あせ-も (名) [痱] 〔汗物ノ略、(腫物、できもの。作物所、つくもどころ。鑄物師、いもじ)あせぼト云フハ、音轉ナリ(燈す、とぼす)〕又、アセボ。暑時ナド、汗ノ分泌ノ多キ時、數度ノ拂拭ニ因リテ、充血シテ、頸、腋窩、股ナドニ生ズル、赤キ細水疱。汗疹。倭名抄、三十四「痱、熱時細瘡也、熱沸瘡、阿世毛」病源候論「盛夏之月、云云、生二沸瘡一、其狀如二湯之沸一」

あせ-も-よ-み (副) [發汗] あめもよみ(雨中)ヲ見ヨ。

あぜ-や (名) [叉屋] あぜくらヲ見ヨ。

あせ-ゆ-く (動) [淺行] あす(淺)ノ條ヲ見ヨ。

あ-せ-る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) [焦迫] 〔相迫るノ約、(間好くば、あはよくば。あひしらふ、あしらふ)倭訓栞、後編、あせる「俗ニ急遽ナルヲ云フ、相迫ニヤ」〕急キテ競フ。セル。セク。苛ツ。俚言集覽、あせる「人ニ後ケジト競ヒテ、心ヲ遣ヒ氣ヲモムヲ云フ」

あ・せる (動) あす(淺)ノ口語。

あせ-を (句) [阿勢袁] あせ(吾兄)ノ條ヲ見ヨ。

あ-そ (名) [阿曾] 〔前條ノ語ノ約、吾兄ノ條ヲ見ヨ、朝臣ト云フ語、コレヨリ起ル〕人ヲ親シミ敬ヒテ呼ブ語。古事記、下(仁德)二十大御長歌「タマキハル、内ノ阿曾、汝コソハ、齡ノ長人」(武内宿禰ヲ呼ビカケタマヘルナリ、内トハ、近侍ノ意)私記「帝王相親之詞也、言二我身隨添之臣一也」神功攝政前紀、忍熊王長歌「タマキハル、内ノ阿曾」(上ニ同ジ)萬葉集、十六廿「池田ノ阿曾」穗積ノ阿曾」平群ノ阿曾」萬葉集古義、十六三十九「古本松島日記ニ、在五ノあそノ如ク、ウラヤマシクナドト、獨言チヌル、云云、カノあきただノあそノ尼、尋ネマヰルニ、云云」

あ-ぞ (副) [何] 〔何ぞノ轉(何、豈。なぜ、あぜ。など、あど)〕何ぞニ同ジ。ナンゾ。景行紀、十八年六月、肥後國阿蘇「吾二人在、何無レ人耶、故號二其國一曰二阿蘇一」

アソウギ (名) [阿僧祇] 〔梵語、阿僧祇耶(Asamkhya)ノ略、無數ト譯ス、大智度論、四「僧祇、秦言レ數、阿、秦言レ無、云云、天人中、能知二算數一者、極レ數不レ能レ知、是名二一阿僧祇一」經論中ニ、三阿僧祇耶ヲ、三僧祇ト記セルハ、更ニ略セルナリ(阿彌陀、彌陀。阿修羅、修羅)〕梵語、無數ノ義。算數智ノ極ムルコト能ハザル、無量ノ大數。又、僧祇。法華經、授記品「無量阿僧祇劫」(梵、漢、雙擧ノ語、無量ノ年歷ヲ云フ)金剛經、新注「阿僧祇、翻二無數時一」

あそ-こ (代) [彼處] 〔倭訓栞、後編「彼其處ノ義也」あしこ、あすこハ、音轉ナリ、(現身、うつそみ。雉子、きぎす)あしこハ、彼處ナリ〕(一)地位ノ代名詞ノ遠稱。アノトコロ。カシコ。又、あしこ。畿内ニ、あしこ。平家物語、一、殿下乘合事「あそこニ追ヒカケ、此處ニ追ヒツメ」相模寺塔供養記(應永)「ハカバカシキ修理ヲダニモセラレネバ、あそこ、ココ、破レテ」枕草子、九、百十三段「吾ガ思フコトヲ、書キヤリツレバ、あしこマデモ、行キツカサルラメド、心ユクココチコソスレ」梁塵祕抄(後白河院御作)二、雜「あしこニ立テルハ、何人ゾ」(二)人代名詞ノ他稱。アノヒト。カレ。宇津保物語、藏開、下廿「此事、あそこト、少將ト、諸心ニ、云云、セラレヨ」

あそそ-に (副) 〔あそそハ、淺淺ノ約轉ト云フ、(眞淵說、きさぐ、きそぐ。ささやく、そそやく。はらはら、はらら。うらうら、うらら)倭訓栞、あそそ「萬葉集ニ見ユ、あさあさ也、今、うすうすト云フガ如シ」〕ウスウス。ホノカニ。萬葉集、四卅三長歌「思ヒツツ、君ハアラムト、安蘇蘇仁ハ、且ハ知レドモ」古義「安蘇蘇ハ、舊說ニ、物ヲ推シ心得タル詞ナリト云へリ」

あそば-か・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) [令遊] 〔まぎらす、まぎらかす。すべらす、すべらかす、同趣〕次次條ニ同ジ。遊バシム。今昔物語、廿七、二十九語「乳母、云云、若君ヲあそばかし奉ルホドニ、云云」

あそば・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) [所遊] 〔遊ぶノ未然形ヲ活用セシメテ、他動トシタル敬語、(搖ぐ、ゆらがす)遊事ヲシタマフ意ヨリ起リタル語ナルベシ〕(一)爲タマフ。ナサル。(何事ニモ云フ)古事記、中(仲哀)廿六「天皇、云云、押二退御琴一不レ控、云云、建内宿禰大臣白、恐、我天皇、猶阿二蘇婆勢其大御琴一」萬葉集、十三廿八長歌「松ノ下道ユ、登ラシテ、國見所遊、云云」拾遺集、九、雜、下「御碁あそばしケル」宇津保物語、國讓、上四十「鞠ノかかり、云云、鞠あそばす」新千載集、十六、雜、上「障子ニ、御製ヲあそばしツケラレテ」(御歌ヲ書キツケタマヘルナリ)幸若、烏帽子折(足利時代)「一ノ的、ハタト遊ばし、二ノ的、チャウト遊ばす」「御休息可レ被レ遊候」(二)助動詞ノ如ク、他語ノ下ニ添ヘテ、意味ナキ敬語トス。タマフ。ナサル。「御讀ミあそばす」御待チあそばせ」御呼ビあそばせ」貴女、專ラ、此ノ如ク用キルニ因リテ、コレヲ、あそばせことばト云フ。

あそば・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) [令遊] 〔遊ぶノ他動(うつろふ、うつろはす。ころぶ、ころばす)〕遊バシム。アソバカス。ナグサムル。枕草子、二、十四段「兒ノ乳母ノ、タダ、暫時トテ往ヌルヲ求ムレバ、トカク、あそばし慰メテ」取りかへばや物語、四「若君ヲ、夜、晝、御傍放タズあそばしキコエテ、明カシクラシ給フ」枕草子、二、十八段、心ときめきするもの「兒あそばする所ノ前渡リタル」(コレハ、下二段活用ノ如クナレド、あそばニ、使役ノすノツキタルナルベシ)

あそば・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) [奏樂] 〔遊ぶノ敬語、(其條ヲ見ヨ)語原ハ、前條ノ語ニ同ジ〕管絃ノ技ヲ爲タマフ。宇津保物語、藤原君四十七「侍從ノ君ト、御琴あそばす、三ノ宮、御琴あそばす」源、廿一、少女十九「大殿、和琴引キ寄セタマヒテ、云云、ナホあそばさムヤトテ、秋風樂ニ掻キアハセテ、唱歌シタマヘル聲、イトオモシロケレバ、云云」同、四十二、紅梅七「打チトケテモあそばさネド、時時、ウケタマハル御琵琶ノ音ナム、昔覺エハベル」

あそばせ-ことば (名) [令遊言葉] あそばす(所遊)ノ(二)ヲ見ヨ。

あそび (名) [遊] (一)遊ブコト。ナグサミ。天智紀、九年五月、長歌「打橋ノ、端ノ阿素弭ニ、出デマセ來」萬葉集、五七十、園梅宴「春サラバ、逢ハムト思ヒシ、梅ノ花、今日ノ阿素眦ニ、逢ヒ見ツルカモ」(二)漁魚。獵。漁獵 山城風土記、賀茂社「玉

佐用姫、[illegible]
[illegible]「鳥遊、取魚」(トリノアソビスナドリ) 神代紀、下「是在於出雲國三穗之碕、[illegible]」
(二)(三)[illegible]ノ條ヲ見ヨ。(四)[illegible]ノ條ヲ見ヨ。

あそび (名) [illegible] 一[illegible]ノ上略、或ハ遊(アソビ)[illegible]ヲ見レナリ一 [illegible]ニ、實降リツモル、冬ノ夜ニ、[illegible]ノ安倍比ヲ、スルガ[illegible]シサ」[illegible]ノ神樂ナリ) 赤染衛門集「詣デツキテ見レバ、(熱田宮)イト神サビ、オモシロキ所ノサマナリ、あそびシテ侍ルニ、[illegible]ニタグヒテ、[illegible]ノ音トモ、イトドヲカシ、笛ノ音ニ、云云」

あそび (名) [奏樂] 一[奏樂]ノ名詞形、其條ノ語原ヲ見ヨ一 絲竹(イトタケ)、管絃(クワンゲン)。ウタマヒ。樂(ガク)。樂人ヲ、あそび男(ヲ)、あそび人(ヒト)ト云フ。[illegible]、十五、天平十五年五月、宮中、五節舞「直ニ、遊トノミニハアラズシテ」源、一、桐壺「月ノオモシロキニ、夜深クルマデ、あそびヲゾシタマフナル」今鏡、下、花のあるじ、花園左大臣「管絃ヲヨクスル者、多ク召シオカレ、[illegible]ノ人ニテ、御あそび、絶ユルコトナク」

あそび-あか・す ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) [遊明] 遊ビテ、夜ヲアカス。終夜、遊ブ。日ヲ暮ラスヲ、あそびくらすト云フ。宇津保物語、[illegible]「[illegible]下ノ所ノ物(モノノネ)[illegible]シテ、あそびあかしテ、云云、祿ノ物、一重ネヅツ賜フ」(コレハ、管絃ノ云フ) [illegible]、五、[illegible]ノ花、咲キタル[illegible]ノ、[illegible]フ、[illegible]ニシツツ、[illegible]久[illegible]」

あそび-がたき (名) [遊敵] 「かたき」ノ條ヲ見ヨ、碁敵(ゴガタキ)モアリ」 詩歌、管絃、圍碁等、遊戲ノ相手トナル者。アソビトモダチ。アスビアヒ。[illegible]、四十一、匂宮[illegible]宮モ、[illegible]ノ宮タチモ、[illegible]あそびがたきニテ、仲ヒタマヘバ、[illegible]オハシケル[illegible]ニオハシマセバ、あそびがたきニ召シツカヒ、ヲカシキモノニ思シテ」枕草子、十二、百四十八[illegible]ドノかたきニハ、オボシメシタルニ」

あそび-ぐさ (名) [遊種] 遊ビノ種(タネ)。遊ビノ[illegible]。[illegible]、一、[illegible]「[illegible]イト、ヲヨシウ[illegible]トケヌ遊びぐさニ、誰レモ誰レモ、思ヒ聞エタマヘリ」

あそび-くらす (他) [遊暮] [illegible]あかすヲ見ヨ。

あそび-ともだち (名) [遊友達] アソビガタキ。アスビアヒテ。

あそび-びと (名) [遊人] あそびをヲ見ヨ。

あそび-べ (名) [遊部] [遊手、遊軍ノ意、遊部ノ事、令集解ニ委シ」 氏ノ名。天皇崩御ノ時、殯所ニ供奉シ、戈、刀、酒食ナ持ツ。令集解、四十、喪葬[illegible]遊部[illegible]「[illegible]之義也、終身勿[illegible]事、故云遊部」令義解、喪葬「凡葬五日以外、葬具、及、遊部、並從別式」

あそび-まさ・る ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) [遊增] 遊ビ、イヨイヨ盛(サカ)ル。宇津保物語、俊蔭「春ノ花、秋ノ紅葉(モミヂ)、時別カズ咲キマジルママニ、遊ビ人人、樂人(ガクニン)等、イトドあそびまさるホドニ」(あそびびとハ、樂人ナルベキカ)

あそび-め (名) [遊女] 「管絃(クワンゲン)女ノ義」 歌舞シテ宴ヲ助クルヲ業トスル婦女。色ヲモ賣レリ。略シテ、あそびトノミモ云フ。又、あそびもの。ウカレメ。歌妓 宇津保物語、[illegible]「なかただトカ云フ好(ス)キモノヲ、心ニ入レテ、夜、晝、あそびめスヘテ、スキモノイマスカメル」平家物語、一、祇王事「京中ノ白拍子ドモ、妓王ガ幸ヒノメデタキヤウヲ聞イテ、羨ム者モアリ、云云、同ジあそび女トナラバ、誰モ、ミナ、アノヤウニコソアリタケレ」[illegible]「遊女、[illegible]、字[illegible]」源、十四、澪標「あそびトモノ、集ヒマキレルモ」榮花物語、三十八、[illegible]「江口ノあそび、二[illegible]バカリ參リアヒタリ、[illegible]ナドヲ[illegible]ハセケル」住吉物語「河尻ヲ過グレバ、あそびものドモ、アマタ舟ニツキテ「心カラ、浮キタル舟ニ、乗リソメテ、一日モ浪ニ、ヌレヌ日ゾナキ」ナド歌ヒテ」[illegible]

あそび-もの (名) [遊者] 前條ヲ見ヨ。

あそび-もの (名) [illegible] [illegible]コト[illegible]ニ、ツネニ[illegible]ヘ、ヲカシキあそびものドモ奉ラム、ト宣ヘバ」

あそび-わざ (名) [遊業] アソビゴト。ナグサミゴト。[illegible]、廿一、少女[illegible]モロトモニ、あそびわざヲモシテ、ナグサメヨ」

あそび-を (名) [遊男] [奏樂(アソビ)ヲスル人] 樂人(ガクニン)、伶人ノ異稱。又、遊人(アソビビト)。[illegible]、二十八、十一月下[illegible]「[illegible]」宇津保物語、[illegible]「[illegible]時ニ、あそび人等、[illegible]奉ル」

あそ・ふ フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (自動、四) [預] 「相副(アヒソ)ふノ約、あがふ([illegible])ノ語原ヲ見ヨ」 アヅカル。カカハル。關係[illegible]「[illegible]、今日ノ事、[illegible]自行之」(預、左訓、アヒイフヒト) 遊證「相副也」

あそ・ぶ ブ・ベ・バ・ビ・ベ (自動、四) [遊游] (一)[illegible]ノあそぶヲ見合スベシ」[illegible]手折リカザシテ、[illegible]モ、[illegible]日ハ、今日ニシアリケリ」源、五、若紫「若キ人人ナドアレバ、諸共ニあそびテ」字類抄「遊、戲、嬉、アソブ」(二)ソゾロアリキス。物見ニ行ク。逍遙 漫遊 古事記、上三十「成三麗壯夫一而出遊行」(アソビテアルキキ) [illegible]「遊[illegible]」[illegible]駒ニ、後鞍打チオキ、ハヒノリテ、阿蘇比アルキシ」[illegible]「[illegible]川ニ遊ぶ」(三)水ニ浮キ流ミシテ、立チメグル。泳グ。游泳 [illegible]上[illegible]」

あそ・ぶ ブ・ベ・バ・ビ・ベ (自動、四) [神樂] [illegible] 葬ノ時ニスルハ、天岩屋戸ノ故事ノ遺風ニテ、死者ノ、奏樂ヲメデテ、カヘリクル事モヤト、悲シミノアマリニスルワザナリト云フ、[illegible] 神遊(カミアソビ)ス。神樂(カグラ)ス。神樂歌、採物、[illegible]「瑞垣ノ、神ノ御代ヨリ、[illegible]ノ葉ヲ、手ニ取リ[illegible]」[illegible]女命ノ神遊セシヲ云フナリ」同、[illegible]、木綿作[illegible]阿倍倍」神樂歌入綾「神ノ御爲ニ、然仕へ奉ルハ、御チ、汝モ神ゾト云フナリ、あそべハ、神あそびセヨトニ云フナルベシ」[illegible]八度、[illegible]也」[illegible]樂器、云云、或哭泣、或歌儛、送於殯宮也」

あそ・ぶ ブ・ベ・バ・ビ・ベ (自動、四) [奏樂] 「遊ぶヨリ移ル、樂(ガク)ハ、遊ブ事ノ中ニ、最モ面白キモノナレバ、特ニ云フナリト云フ」 絲竹(イトタケ)ノ遊(アソビ)ヲス。伊勢物語、四十五段「或人ノ女[illegible]月ノツゴモリ、云云、宵ハ、あそび居リテ、夜深ケテ、ヤヤ涼シキ風吹キケリ」[illegible]テ管絃セシハ、前條ノあそぶノ遺風ナリシナルベシ[illegible]」宇津保物語、[illegible]リタテテあそぶ」[illegible]、五、四十六段「[illegible]ヒ、[illegible]あそびクラシテ」

あそ・ぶ ブ・ヘ・バ・ビ・ベ (自動、四) [遊] [illegible]、遊學(イガク)ノ條ヲ見ヨ」 學術ヲ學ブ。禮記、少儀篇「士依於德、遊於藝」[illegible]

あそぶ-いと (名) [illegible] 次次條ヲ見ヨ。

あそぶ-いと (名) [遊絲] [漢語ノ遊絲(イウシ)ノ

文字讀ナリ」陽炎ノ異稱。 夫木抄、三「光リアル、二月ノ日ニ、あそぶいとニ、綠ノ空モ、マガヒミエケリ」永久四年百首「遙遙ト、淺綠ナル、大空ニ、あそぶいとヲヤ、ナガメクラサム」

あそぶいとゆふ (名) 陽炎 〔漢語ニ、陽炎ヲ、遊絲トモ云フヲ、文字讀ニ、あそぶいとト云フナリ、ソレヲ、几帳ノ絲結(其條ヲ見ヨ)ノ浮遊び搖曳クニ見立テテ、あそぶいとゆふト云フナラム、ソレヲ上略シテ、いとゆふトノミモ云フ、漢語ノ遊絲モ、搖曳スル絲ノ意ナルベシ、沈約詩「遊絲映レ空轉」張憲詩「遊絲冉冉掛ニ簷角ニ」玉篇「冉冉、行也、進也」〕かげろふ(陽炎)ノ異稱。又、あそぶいと。いとゆふ。 朗詠集、下、雜、晴「霞晴レ、綠ノ空モ、ノドケクテ、アルカナキカニ、あそぶいとゆふ」六百番歌合、十七番、春、野遊「春來レバ、靡ク柳ノ、友ガホニ、空ニ紛フヤ、遊ぶいとゆふ」二十番「佐保姫ヤ、霞ノ衣、織リツラム、春ノ三空ニ、あそぶいとゆふ」二十四番「操リカヘシ、春ノ絲ゆふ、幾世經テ、同ジ綠ノ、空ニ見ユラム」永久四年百首「シヅケクテ、吹キ來ル風モ、ナキ空ニ、亂レテあそぶ、いとゾ見エケル」狹衣、一、上「いとゆふカ何ゾト見ユル薄キ衣ヲ、中將ノ君ニ打チカケテ」此一條ノ解ハ、碩鼠漫筆(黑川春村)六、絲ゆふ考ニ擧レルコト多シ。

あそみ (名) 阿曾美朝臣 〔阿曾臣ノ約、(阿曾ノ條ヲ見ヨ)帝王ノ親シキ臣ノ義ニテ、近侍、侍從ノ心ナルベシ、朝臣ノ字ヲ充テタルハ、朝廷(おほまつりごと)ノ臣ノ意ニ取レルナラム、蔡邕獨斷ニ「公卿、侍中、尚書、衣レ帛而朝、曰ニ朝臣ニ」ナド見ユ、あそんト云フハ、音便ニテ、あッそんハ、又、其急呼ナリ(大御歌、おほんうた。あはれ、あッぱれ)」(一)可婆爾ノ名。 天武紀、下、十三年十月「作ニ八色之姓ニ、一日、眞人、二日、朝臣、云云」釋紀引ニ私記ニ「朝臣、帝王相親之詞也」續紀、三十二、寶龜四年五月「阿曾美爲ニ朝臣ニ」(混用セシヲ、一定セラレシナリ) 此可婆爾、初ハ、多クハ、舊ノ臣ノ可婆爾ノ氏氏、神別ノ氏氏ニ賜ヒシガ、後ニハ、皇子、皇孫、ニモ賜ヒキ、あそん、又、あッそんトモ呼べリ、藤原朝臣、橘朝臣、平朝臣、源朝臣ナド、是レナリ。 源、四十九、寄生五「人召シテ、只今殿上ニ誰レカト問ハセタマフ、云云、中納言源ノあそん候フト奏ス、中納言ノあそん、コナタニト仰言アリテ」宇津保物語、俊蔭五十八「右ノ大臣(忠正)モ、云云、打チツヅキテ出デタマヒヌ、帝ハ、アヤシクテ失セヌルあそむカナ、云云、トテ、カヘラセタマヒニケリ」同、吹上、上十八「帝、左大將ニ宣ハス、云云、賜フベキ物、云云、あそんノミナム賜フベキト仰セラル」コレラハ、可婆爾ニハアラズシテ、近臣ヲ親シミ呼ブニ用ヒサセタマヘリ、即チ、あそみト云フ語ノ眞旨ニ適ヘリ。(二)後世ニ至リテ、位署ノ制ニ、姓朝臣、名字朝臣ノ稱アリキ。群臣ノ名ヲ呼ブニ、位階ニ因リテ差別ヲナス、三位以上ノ人ヲ呼ブニハ、藤原朝臣、橘朝臣、トノミ云ヒテ、名ヲ云ハズ、四位ニハ、業平朝臣、信寶朝臣ナドト、名ノ下ニ朝臣ヲツク、共ニ、他ヨリ敬稱スルナリ、又、五位ノ人ニハ、藤原朝臣名トシ、六位以下ニハ、藤原名トシテ、朝臣ヲ云ハヌ例ナリキ。 三内口訣(永正)「姓朝臣事、云云、又、名字朝臣ハ、四位雲客之時如レ此候、是ハ、人ハ書レ之、自ラハ不レ書レ之候」

あそん (名) 朝臣 前條ヲ見ヨ。

あた (名) 咫 〔あハ、開くノ語根、開手ノ義、(朝モ明時、東モ明端ナリ)手ハ、指ナリ、(古事記、上四十五「自ニ我手俣一久岐之子也」神代紀、上四十二「自ニ指間一漏墮ニ」)咫ノ字ハ、少ノ義ヲ借リテ用キシノミ、(咫、八寸也、ノ義ニハアラズ)太古、尺度ナキ時ハ、スベテ、指、又ハ、手ニテ、物ノ長サヲ度レリ、き(寸)、さか(尺)、つか(握)、ひろ(尋)、ナド、皆然リ、後世、一抱、十三束三伏ナド云フモ同ジ、各條ヲ見ヨ、說文「周制、寸、尺、咫、尋、皆以ニ人之體ニ爲レ法」何處モ、同ジ事ナリ」太古ノ尺度ノ名。食指ト大指トヲ開キタル廣サナルベク、後ニ云フ、四寸ホドナラム。此語、七咫、八咫(約メテ八咫)トアルノミ、(七、八ハ、凡ソノ數ヲ云ヘルナリ)其餘、物ニ見エズ。 古事記、上廿五「八尺鏡、訓ニ八尺ニ云ニ八阿多ニ」(尺ハ、咫ノ省字) 神代紀、上廿六「八咫鏡」釋紀、七、延喜公望私記「凡讀ニ咫爲ニ阿多ニ者、手之義也」 神代紀、下十猿田彥神「鼻長七咫、背長七尺餘」古事記、中(神武)四「八咫烏」萬葉集、十二三十五「水咫衝石」トアルハ、借字ナレド、水ノ深サヲ度ル意匠字ナリト云フ。 楚辭「知レ天咫」註「咫言レ少也、言ニ少知ニ天道ニ耳」

あた (名) 仇 〔當るノ語根、名義抄、支部「敵、アタル、カタキ、アタ」日本釋名(元祿)中四十「仇「あたハ、當る也、我レト相當ル也、敵當ノ意ナリ」〕(一)我レニ害ヲナスモノ。 字類抄「仇、アタ」宇津保物語、俊蔭三「唐土ニ至ラムトスルホドニ、あたノ風吹キテ、三ツアル船、二ツハ損ハレヌ」伊勢集「吾ガタメニ、何ノあたトカ、春風ノ、惜シムト知レル、花ニシモ吹ク」(二)我レニ當ル相手。攻メ來ル者。カタキ。敵。寇 名義抄「寇、アタ、カタキ」神武紀九「虜兵滿レ路」同十六「賊衆戰死」萬葉集、二十八十長歌「シラヌヒ、筑紫ノ國ハ、安多衞ル、鎭ノ城ゾト、聞食ス」「外國ノ寇」(三)怨ミトナルモノ。遺恨 古今集、十四、戀、四「形見コソ、今ハあたナレ、コレナクバ、忘ルルコトモ、アラマシモノヲ」十訓抄、上、第一、第四條「我レ情ヲ施セバ、人カヘリテ從フ、あたヲバ、恩ヲモテ報ズベシ」(怨ナリ) 老子經「報レ怨以レ德」(四)怨アリテ、報ユベキコト。讎 仁德紀、五十五年、田道、蝦夷ニ敗ラレテ死ス、蝦夷、田道ノ墓ヲ掘ル、大蛇、出デテ蝦夷ヲ咋ム「時人云、田道雖ニ既亡ニ遂報レ讎」史記、留侯世家「張良爲レ韓報レ仇」字類抄「讎、アタ」「父ノ讎ヲ討ツ」仇討」(五)仕返シ。タタリ。復讎 「狐、祟タレテ、あたヲナス」あたヲカヘス」

あた (接頭) 〔憎ム意アレバ、仇ノ義ニテモアルカ、いけ年齡ヲシテフザケル、いけヅウヅウシイ、ナドノいけノ如シ」〕種種ノ場合ニ、他語ニ冠ラセテ、嫌ヒ憎ム意ヲ示ス語。 假名手本忠臣藏(寬延、竹田出雲)三「式作法ノ御家ニ居ナガラ、狼藉千萬、あた不作法ナ、あた不行儀」俚言集覽、あたやかまし「續無名抄、世話字盡、阿他頽喧」語彙、あた「あたイヤラシイ、あたイマイマシイ、ナドノあたニテ、事ヲツヨメテ云フ詞ナリ」「あたおほからい」あたおけない」ヲモ見ヨ。

あだ (名) 徒空 〔閒ノ約カ(閒籠、あさめ(粗)。襲齒、おそば)〕(一)空シキコト。實ノナキコト。 字鏡廿二「調、伊豆波利己止、阿太己止」伊勢物語、百三段「イト忠ニ、實樣ニテ、あだナル心ナカリケリ」玉葉集、十九、釋教「明日ヨリハ、あだニ月日ヲ、送ラジト、思ヒシホドニ、今日モ暮シツ」「空言」虛静」(二)ハカナキコト。カリソメナルコト。 後撰集、三、春、下「久シカレ、あだニ散ルナト、櫻花、瓶ニサセレド、ウツロヒニケリ」古今集、十六、哀傷「花ヨリモ、人コソあだニ、ナリニケレ、何レヲサキニ、戀ヒムトカ見シ」「あだナ浮世」(三)イタヅラナルコト。浮キタルコト。浮空 菅家萬葉集、下、春「咲ク花ハ、千種ナガラニ、徒ナレド、誰レカハ春ヲ、惜シマザリケル」古今集、四、秋、上「女郎花、多カル野邊ニ、宿リセバ、アヤナクあだノ、名ヲヤ立チナム」新勅撰集、十二、戀、二「高クトモ、何ニカハセム、吳竹ノ、ヒトよフタよノ、あだノふしヲバ」

あだ (名) 他異 〔他しノ語根〕ホカ。餘。

別。六帖、六「花見レバ、移ル心ハ、色ニ出デテ、あだニハアヤナ、人ニ知ラルル」物類稱呼(安永)五、言語「外ノ事ヲ、西國ニテハ、あだト云フ」「他心」

❖あだ (名) [仇] [illegible]ニ因リテ濁ラスル[illegible]カ[illegible]、あだむ。[illegible]、あだむ(一)仇ニ同ジ。[illegible]

あだ (副) [婀娜] 集韻「婀、[illegible]、娜、乃可切」タヲヤカニ。ナマメカシク。文選、洛神賦「[illegible]」[illegible]

あたあた (感) [熱熱] (あつあつノ轉ナルベシ) 熱あたみテ熱ニ苦シミテ發スル聲。平家物語、六、入道逝去事「入道相國、病ミツキタマヘル日ヨリ、云云、身ノ中ノ熱キコト、火ヲ焼クガ如シ、云云、宣フ事トテハ、あたあたトバカリナリ」(世ニ所謂、清盛ノ火ノ病ナリ)

あだあだ・し (形) [徒徒] あだし(徒)ノ條ヲ見ヨ。

❖あたい (代) [私] あたし(私)ノ條ヲ見ヨ。

あたう (名) [阿黨] [illegible]リテ組合ふ] カタチハヒ。徒黨。[illegible]

あだうち (名) [仇討] かたきうちヲ見ヨ。

あだおろそか・ま (副) [徒踈] [徒ノ條ヲ見ヨ] 假初ニモ。オロソカニモ。あだやおろかニモト云フ。[illegible]

フルマハズ、小敵ナレドモ侮ル心ナクテ、物サハガシカラズ計ヒ、云云」「あだやおろかまハ思ハヌ」

あたかたき (名) [仇敵] [同意ノ語ヲ並ベ云ヘルマデノ語ナリ] 仇、又、敵。[illegible]子、四、四十三段「己レヲオボサム人ハ、歌ナド詠ミテ得サスマジキ、スベテあたかたきトナム思フベキ」

あたかも (副) [恰] [あたハ、適ふノ語根、かもハ、哉ナリ] 日本釋名(元祿)下、三十五「恰、あたかハ、あたる意、其物ニ相當ル也」倭訓栞「あたかも、恰、適哉ノ義ナリ」正字通「恰、適當之辭」善ク合ヒテ。サナガラ。マサシク。チャウド。萬葉集、十九、廿「吾ガ夫子ガ、捧ゲテ持タル、厚朴、安多可毛似ルカ、青蓋」厚朴ノ葉ハ、非常ニ大ナルモノナリ、儀制令、義解、蓋「一位、深緑、三位已上、紺、云云」霊異記、上、第十三縁「有二風流女一、天年風聲[illegible]行、彼氣調、恰如二天上客一」(節文)訓釋「恰、アタカモ、宜調、獨佐乎」杜甫詩「野航恰受兩三人」(野航ハ、郊外ノ小サキ渡舟ナリ、淮南子、主術訓、註「[illegible]」)

あだ・く・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ (自動、下二) [浮] [徒ヲ活用ス(空、うつろ)。寇け] 徒シクアリ。浮キテアリ。ウハツク。源、二十、朝顔廿「ナマメカシウ容ヨキ女ノタメシニハ、云云、マイテ、打チあだけ過ギタル人ノ、年積リユクママニ、イカニ悔シキ事多カラム」

あだくち (名) [徒口] 實ナキ言。空ナル言。ムダクチ。空言。小町集(寛文)夏、水鶏「夜モスガラ、あだ口タタク、水鶏カナ」

あだくらべ (名) [化競] 男女、互ニ他心アリト言ヒ合フコト。伊勢物語、五十段「昔、男アリケリ、怨ムル人ヲウラミテ「吹ク風ニ、去年ノ櫻ハ、散ラズトモ、アナ頼ミガタ、人ノ心ハ」女、かへし、行ク水ニ、數カクヨリモ、ハカナキハ、思ハヌ人ヲ、思フナリケリ」あだくらべ、互ニシケル男女ノ、忍ビアリキシケル事ナルベシ」(節文)倭訓栞、あだくらべ「眞字伊勢物語ニ、化競ト書ケリ、互ニ人ヲあだ心ナリト云ヘルヲ以テ、然云ヘリ」

あたけ (名) [大宅船] あたけぶねヲ見ヨ。

あだけ (名) [浮氣] 「あだく(浮氣)ノ名詞形」アダケタルコト。ウハツキタルコト。源、廿一、少女廿「殿ハ、今コソ、出デサセタマヒケレ、何レノ隅ニオハシマシツラム、今サヘ、カカルあだけ事ゾ、ト云ヒアヘリ」同、二十、朝顔廿「昔ヨリモ、アマタ經マサリテオボサルレバ、今サラノ御あだけモ、且ハ、世ノモドキヲモオボシナガラ、云云」

あだ・け (動) [浮氣] あだくヲ見ヨ。

あだげ (名) [徒氣] 「徒ノ條ノ(二)ヲ見ヨ」ハカナキサマ。脆キサマ。夫木抄、三十一、山家「山里ノ、柴ノ片戸ノ、片庇、あだげニ見ユル、假ノ宿カナ」宇治拾遺、三、第一條「叫ナドモ、片方ハ倒レタルヲ、横サマニ寄セカケタル所ノ、あだげナルニ」

あだけごと (名) [浮氣事] 浮氣ヲ見ヨ。

あたけづくり (名) [安宅造] 次條ヲ見ヨ。

あたけぶね (名) [安宅船] 「あたけハ、數十挺ノ艪ノ力ヲ以テ、敵船ニ當リテ、あたけマハル意ナルベシ、次條ヲ見ヨ、兵部省式「加賀國(能美郡)安宅驛」宅、たか、たけ、音通ナリ」兵船ノ、大ナルモノ。造リヤウ、常ノ船ト異ナリ、あたけ造ト云フ、數十挺ノ艪ヲ備ヘテ用キラル。略シテ、あたけ。信長記、七「島田所助、林佐渡守等ハ、あたけ船、十餘艘ヲ飾リ立テ」甲陽軍鑑、八、品第十七「小舟、あたけ一艘、小早十五艘」北條五代記、七「氏直、伊豆ノ國ニ於テ、軍船ヲ十艘作リタマヒヌ、是ヲあたけト名付ケタリ、一方ニ櫓二十五丁、兩方合ハセテ、五十丁立ノ兵船ナリ」清正記、三、高麗陣「志井ノ木島、瀬戸口番船ノオサヘトテ、あたけヲ掛ケオキ候ハムヤ」德川氏ノ初世、寛永十二年、相模國、三浦郡、三崎ニテ、大兵船ヲ造リ、安宅丸ト云フ、長サ三十[illegible]

❖あた・ける・ケル・ケレ・ケ・ケ・ケヨ (自動、下一) [暴] 「あたハ、當るノ語根(平げテ、化け、寇ける)」荒レ狂フ。アバレル。[illegible]ニあたけシカバ、揚屋ノ亭主ヲハジメ、云云、コトゴトク、逃ゲ出デテ、云云」(燕石十種)

あたごけ (名) [愛宕苔] [山城ノ愛宕山ニ多シ] 深山、陰地ニ生ズル蔓草、ひかげのかづらノ小サキ物ノ如ク、[illegible]テ絲ノ如ク、地ヲ匍フ、葉ハ、[illegible]ニ似テ薄ク、又、黄赤ニカハリテ[illegible]。エイザンゴケ。[illegible]、あたごけ[illegible]地ニ生スルモノ、エイザンゴケ、壇[illegible]」

あだごころ (名) [他心] あだしごころニ同ジ。異心。竹取物語「あだ心ツキナバ、後、悔シキ事モアルベキヲ」

あだごと (名) [徒事] [illegible]。源、[illegible]「あだごとノ、葉ニオク露ノ、消エニシヲ、アルモノトテヤ、人ノ訪フラム」

あだごと (名) [徒言] 〔徒しノ語原ヲ見

コ。實ナキ言。又、あだしごとのは。空ナル言。アダクチ。空言。宇津保物語、藤原君十「ケシカラヌコトウケタマハラジ、戲レニテモ、人ノ御あだごとカナ」源、十七、繪合卅「世ノ常ノ、あだごとノ、引キツクロヒ飾レルニオサレテ」玉葉集、十一、戀、三「ナホザリノ、あだしごとのは、頼マジト、思フモノカラ、又ゾ恃ム」

あたご-の-ひじり (名) [愛宕聖] 僧正眞濟ノ異稱。(弘法大師ノ弟子)山城國、愛宕山ニ入リテ、十二年行ジタリ、愛宕ノ太郎坊、是レナリト云フ。源、四十九、東屋六十「辨ノ詞「今更ニ、京ヲ見侍ラムハ、物ウクテ、云云」薫ノ詞「ナドテカ、云云、あたごのひじりダニ、時ニシタガヒテハ、出デズヤハアル」花鳥餘情ニ、柿本紀僧正眞濟ノ事トス、嵯峨天皇ニ召出サレテ、內供奉トナレリ。(河海抄ニハ、空也上人ノ事トシタリ)

あたご-はくさん (感) [愛宕白山] 〔山城國愛宕權現、加賀國、白山權現〕 心底ヲ告白スルニ發スル語。愛宕、白山、ノ神名ヲ呼ビ、急度ト云フ意ヲ誓ヒテ云フナリ。「八幡、赦シハセヌ」ナド云フト同ジ。狂言記、文山だち「今日ヨリシテハ、愛宕白山、中通ゼヌゾ」契情蓬萊山(享保、八文字屋自笑)「ソコナ大盜人、云云、由緒書ヲ奪ッタナ、愛宕白山、逃シハセヌト、斬ッテカカル」

あたご-まゐり (名) [愛宕參] 陰曆六月廿四日ニ、山城國、愛宕山ナル、愛宕權現ニ參詣スルコト。此日ニ參詣スレバ、千日ノ參詣ニ匹敵スト稱シ、群集ス、千日參トモ云フ、觀音ノ四萬六千日ナド云フニ同ジ。色音論(寛永)「あたご參りニ、袖引ケバ、ナビカヌ人モ、ナカリケリ」

あたご-れんが (名) [愛宕連歌] 山城國、愛宕山ニテ、明智光秀ガ催シタル連歌ノ會。俚言集覽「愛宕山、威德院、天正十年五月廿四日、明智光秀ノ連歌興行アリ、其百首、今モ世ニ見ユ」

あだ-ざくら (名) [徒櫻] 〔徒ノ條ヲ見ヨ、はかなき意ナリ、櫻ヲ、徒名草トモ云フ〕 櫻ヲ、花ノ散リヤスキニ就キテ云フ語。古今集、一、春、上「あだナリト、名ニコソ立テレ、櫻花、年ニ稀ナル、人モ待チケリ」「明日アリト、思フ心ノ、あだざくら、夜ニ嵐ノ、吹カヌモノカハ」(親鸞上人九歲ノ詠ト云フ、無常ノ心ナルベシ)

あたし (代) [私] 〔わたしノ音轉、(吾、あれ)あたいハ、又、其音便、(況て、まいて)〕 自稱ノ代名詞。わたしニ同ジ。婦人、兒童ノ語。又、あたい。京都ニテ、あて。

あだ・し・シキ・シケレ・シク・シク (形、二) [徒] 〔徒ヲ活用セシム、(眞しき、大人しき)あだし契、あだし世、ナドト云フハ、終止形ヲ、名詞ニ接セシムル用法ニテ、嚴し矛、空し車、同じ年ナドト、同例ナリ〕 徒ナリ。空シ。イタヅラナリ。實ナシ。重ネテ、意ヲ強メテ、あだあだし。榮花物語、十六、本の雫「露ヲダニ、あだしト思ヒテ、朝タニ、我ガなでしこノ、枯レニケルカナ」源、六、末摘花七「コレヲあだあだしきフルマヒト言ハバ、女ノアリサマ苦シカラム」紫式部日記「色メカシクあだあだしけれド、本性ノ人ガラ癖ナク」「あだし契リ」あだし世」あだし烟」

あだ・し・シキ・シケレ・シク・シク (形、二) [他異] 〔徒ノ、實ナキ意ノ、我れナラヌ意ニ移リタル語ニテモアルカ、あだし國、あだし心、ナド云フ用法ハ、前條ノ語原ヲ見ヨ〕 異ナリ。外ナリ。別ナリ。榮花物語、十八、玉臺「御懺法、云云、殿ノ御前ノ御聲ハ、アマニマジラセタマハズ、あだしう聞エタリ」繼體紀、元年二月、註「他、皆 徵此」(名詞ニ用キラレタリ) 名義抄「他、アダシ、ホカ」「あだし國」あだし人」あだし心」

あだし-くに (名) [他國] 〔前條ヲ見ヨ〕 ホカノクニ。外國。異國。崇神紀、十一年四月「異俗多歸」

あた-じけな・い (形) [吝] 〔あたハ、惜ミ云フ語ナリ、接頭語ノあたノ語原ヲ見ヨ、じけないハ、吝氣甚しノ約ナラムカ(河鹿、かじか)〕 甚ダ吝シ。極メテ吝嗇ナリ。東海道中膝栗毛(享和、十返舍一九)六、下「京ハ、あたじけねえ所ダ」俚言集覽、あたじけない「江戶ノ諺、厚顏貪利ヲ云フ」

あだし-けむり (名) [化烟] 〔徒しノ語原ヲ見ヨ〕 空シキ烟。ハカナキ烟。賀古教信七墓廻(元祿、近松作)「あだし烟ノ、梅田ノ火屋(燒場)」

あだし-ごころ (名) [他心] 〔他しノ語原ヲ見ヨ〕 外ニ移ル心。アダゴコロ。古今集、二十、東歌「君ヲオキテ、あだしごころヲ、我ガ持タバ、末ノ松山、波モ越エナム」萬葉集、十五、五「遙遙ニ、思ユルカモ、然レドモ、異情ヲ、我ガ思ハナクニ」(遣新羅使ニ贈レル歌ナリ、遠ク隔リテモ心ハカハラズ、萬葉集ニハ、異手枕ト云フ語モアリ)

あだし-ごと (名) [他事] 〔他しノ語原ヲ見ヨ〕 外ノ事。餘事。繼體紀、八年正月、妃曰、非餘事也」

あだし-ごとのは (名) [徒言葉] 徒言ノ條ヲ見ヨ。

あだし-たまくら (名) [他手枕] 別人ノ手枕。萬葉集、十一、九「天雲ノ、寄合ヒ遠ミ、逢ハズトモ、異手枕、吾レ纏カメヤモ」

あだし-ちぎり (名) [徒契] 空シキ契。ハカナキヤクソク。續千載集、十五、戀、五「結ビケム、あだし契ゾ、憂カリケル、ツヒニ絶エヌル、中トナルニモ」風雅集、十一、戀、二「人ハイサ、あだしちぎりノ、言ノ葉ヲ、マコト顏ニヤ、待チフケヌラム」

あだし-どころ (名) [他處] 外ノトコロ。他所。垂仁紀、二年十月「勿往他處」

あだし-の (名) [化野] 〔化烟の野ノ意ナルベシ〕 山城國、嵯峨野ニテ、茶毘所アル地。鳥部野ト共ニ有名ナリ、和歌ニ、無常ノ景トシテ詠ゼラル。內裏歌合(承曆二年四月廿八日、群書類從、百八十二)二番、霞「嵯峨野ヲ過ギテ、あだし野マデ行キケムモ、アヂキナシ、云云」新古今集、十八、雜、下「暮ルル間モ、待ツベキ世カハ、あだし野ノ、末葉ノ露ニ、嵐立ツナリ」徒然草、第七段「あだし野ノ露、消ユル時ナク、鳥部山ノ烟、立チサラデノミ、住ミ果ツルナラヒナラバ」俚言集覽、あだし野、宗祇法師ノ句アリ「さがばうノ、はなニ來テ鳴ケ、ホトトギス、コレ嵯峨坊ノ、あだし野ノ庵」(主ヲソシリタマヒシ也)

あだし-びと (名) [他人] ホカノヒト。他人。餘人。允恭紀、十一年三月「是歌、不可聆他人」

あだし-ぶみ (名) [他書] 外ノ書籍。他書。雄略紀、十年九月「註、別本云、云云」

あた-じほから・い (形) [鹹] 〔接頭語ノあたノ語原ヲ見ヨ〕 鹽味過ギタリ。料理ニ云フ。

あだし-よ (名) [徒世] ハカナキ世ノ中。無常ノ世。新後撰集、十九、雜、下「限リゾト、聞クゾ悲シキ、あだし世ノ、別レハサラヌ、ナラヒナレドモ」新後拾遺集、十七、雜、下「何時ヲ夢、イツヲ現ノ、ホドゾトモ、見定メガタキ、あだし世ノ中」

あだし-をみな (名) [他女] 〔他しヲ見ヨ〕 異ナル女。神代紀、下、三十四「用他姬婦以乳養皇子焉」

あた・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ (自動、左變) [寇] 〔寇ヲ爲る意、與す、宿す〕 寇ヲナス。アタナフ。攻メ入ル。「匈奴寇邊」

あたたか・し・キ・ケレ・カ・ク (形、二) [illegible] [illegible]ヲ見ヨ」アタタカニテアリ。アタタケシ。オダヤカナリ。スクトイフ。[illegible]ノ日[illegible]、あたたかし」

あたたかさ (名) [暖媛]「あたたかハ、熱ツかノ轉ナルベシ、[illegible]、ひややか、熱ツ、[illegible]つかハ、[illegible]、[illegible]か、太つかナド」（一）［熱ノ、ヨキ程ニ感ズルニ云フ語。アタタケク。アタタカク。アッタカニ。スクトク。（日、又、火ノ熱ニ[illegible]、シラスヒノ、[illegible]ハ、身ニツケテ、イマダハ着ネド、暖ユ見ユ」「春ノ日ヘあたたかなり」（二）[illegible]ニ、財ニ富ミテ。[illegible]、[illegible]ニあたたかなる[illegible]」

あたたけ・し・キ・ケレ・ク・ク (形、二) [illegible] 一[illegible]、さはやけし。靜、志づけし」前前條ノ語ニ同ジ。[illegible]「あたたけき、[illegible]ノ[illegible]ニ、花ノミゾ、[illegible]モアカズ、咲キワタリケル」

あたたま・る・レ・レ・ラ・リ・レ (自動、四) [暖] [illegible]ノ[illegible]ノ自動、[illegible]む、きはまる。弘むる、ひろまる)あったまるハ、急呼ナリ(あたたか、あったか)」アタタカニナル。あったまる。スクトマル。大鏡、下、道長「ココナクあたたまりテ、[illegible]ハ、[illegible]、[illegible]ニ、アタマデニ、[illegible]ハ、人ノ身マデニ、あたたまりケル」[illegible]ニ入ッテあったまる」

あたた・む・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ (他動、下二) [暖媛]「あたたかノ語根ヲ活用ス、自動ニ、あたたまるトナル」アタタカニス。スクメル。[illegible]、[illegible]、[illegible]ヲ[illegible]ニ、[illegible]、[illegible]ヲ[illegible]テ詩ヲ作リケリ」[illegible]、上、秋[illegible]、[illegible]

あたたらまゆみ (名) [安太多良眞弓] [illegible] [illegible]、吉[illegible]ハ、安[illegible]、[illegible]、[illegible]ハ[illegible]、[illegible]、[illegible]抄、[illegible]ニ、安達、安多知トアルハ、轉ジタルナリ、今モ、郡西ナル二本松嶽ヲ、安太多良山ト云フ、(安達太[illegible]ト書ケルハ、非ナリ)達、たた、たち、伊達、共ニ音轉ナリ」古ヘ、奥州、安達郡ヨリ製出セル眞弓。又、あたちの眞弓。[illegible]、[illegible]「陸奥ノ、吾田多良眞弓、弦ハゲテ」同、十四[illegible]「ミチノクノ、安太多良眞弓、[illegible]、二十、[illegible]、ミチノクノ、あだたらの眞弓、[illegible]カベ、スヱサヘ寄リ來、シノビシノビニ」

あだちぎぬ (名) 安達絹　奥州、安達郡ノ絹ナルベシ。[illegible]、九、文治五年九月十七日、安[illegible]「[illegible]ノ[illegible]ヨリ、京都ノ[illegible]ニ[illegible]モノ」

あだちのまゆみ (名) [安達眞弓] 前前條ヲ見ヨ。

あだ・ぽ・い (形) [illegible]「[illegible]、ぽいノ語原ヲ見ヨ」アダメキタル狀アラハル。「あだぽい女」

あだ・な (名) [徒名] [illegible]ノ條ヲ見ヨ」空シク立チタル評判。浮名。[illegible]、三[illegible]「[illegible]ノミヤ、あだなハ立ツト、[illegible]ニ出デテ、[illegible]ヲ見レバ、[illegible]モ[illegible]チケ」[illegible]、[illegible]十六、[illegible]、[illegible]女ノ、あだな立チケルガ許ヨリ、己レガ上ハ、ソコニナム、口ノ端ニカケテ言ハル、ナド恨ミハベリケレバ」(歌) 源、五十一、蜻蛉五十「女郎花、亂ルル野邊ニ、マジルトモ、露ノあだニヲ、我レニカケメヤ」[illegible]、[illegible]、[illegible]ハ、[illegible]、多カル野邊ニ、宿リセバ、アヤニクあだ[illegible]ヲヤ立チナム」

あだ・な (名) [渾號][渾名]「[illegible]ハ、他人」

あだなぐさ (名) [徒名草]「草ノ條ヲ見ヨ、徒ニ散ル徒名アル意ニテ、徒櫻ヲ[illegible]シタル語ナルベシ」櫻ノ異名。[illegible]、[illegible]「[illegible]ニあだた草、イカナル人ノ、[illegible]オキテ、カルヲ今ニ、[illegible]ヲ見ルラム」[illegible]、九ニ、[illegible]シテ、此歌ヲ擧ゲタリ)

ノあだニテ、外ヨリ附ケタル呼名ノ意ナラム、[illegible]、賢ム意ニテ、[illegible]ナルトモ思ハル、サレバ、本人ノ自稱スル字トハ、全ク異ナリ、且、あだなハ、後世[illegible]ル語ニテ、古クハ見エズ」人ノ[illegible]、[illegible]、[illegible]ナドニヨリテ、他ヨリ[illegible]ケタル[illegible]、[illegible]ナリ。[illegible]「[illegible]ノきんかつぶり、にへすべり、ナドト、あだなニ云ヒテ、若キ人タチ笑フ」古クハ、藤原道[illegible]ヲ七日關白、[illegible]ヲ[illegible]大臣、徒然草ニ見ユル[illegible]、[illegible]ナドノ類、あだナナルベシ。[illegible]、又、[illegible]ト云ヒシモ、あだなナ[illegible]

あた・な・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (自動、四) [寇]「[illegible]ヲ行ナフ」[illegible]、[illegible]ナス。寇スヲアタム。ハムカフ。神代紀、上「[illegible]」[illegible]、二年十[illegible]

あだなみ (名) [徒浪]「徒ノ條ヲ見ヨ」イタヅラニ立ツ浪。人ノ心ノ、思ヒ苛ツニ譬ヘテ云フ。古今集、十四、[illegible]、[illegible]「[illegible]ハ[illegible]、[illegible]ノ、[illegible]ニコソ、あだなみハ立テ」[illegible]、[illegible]、[illegible]ヘリテハ、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]ノあだなみ」

あだね (名) [徒寢] 獨リ空シク寢ルコト。又、徒臥。イタヅラネ。[illegible]「旅ニシテ、あ[illegible]」

[illegible]、[illegible]カシ、秋ハ来ニケリ」[illegible]行キトマル、[illegible]ノ[illegible]ノ、あだふしハ、月ニモラレテ、アカ[illegible]」

あたは・す・ス・セ・サ・シ・セ (自動、四) [能] [illegible]「[illegible]」[illegible]、下[illegible]ヲ、[illegible]、[illegible]ハ、[illegible]ニ[illegible]ノ意ナリ、[illegible]ト思ハル」同寢シタマフ。[illegible]、元年三月「[illegible]、[illegible]ノ字ハ、[illegible]ニ用ヰタルナリ、[illegible]ノ[illegible]ニハ、アラズ」[illegible]、[illegible]ハ、[illegible]、御床ニテ、御寢所ナリ(とひ、[illegible]ノ[illegible]セ見ヨ)[illegible]上[illegible]大穴牟遲神ト八上比賣ト「如[illegible]元[illegible]」[illegible]、[illegible]、[illegible]

あたは・ず (句) [不適] あたふ(適)ノ條ヲ見ヨ。

あたは・ず (句) [不能] あたふ(能)ノ條ヲ見ヨ。

あだばな (名) [徒花]「空シク咲ク花ノ意」實ヲ結バヌ花。[illegible]ナドニ云フ。[illegible]、二十[illegible]、[illegible]「[illegible]」[illegible]「[illegible]、[illegible]」「[illegible]、又、[illegible]モ見エタリ」

あだばな (名) [徒花] [illegible]徒櫻ヲ云ヘルナルベシ。[illegible]、[illegible]、[illegible]ニ、[illegible]、[illegible]ハ、[illegible]、[illegible]ノ[illegible]

あたはら (名) [illegible]「[illegible]ノ轉ナルベシ（いやし、あやしノ賤）」疝氣ノ古言。又、志らたみ。[illegible]、三十[illegible]、[illegible]、[illegible]、

之良太美一」靈心方十二…、アタハラ、シラタミ」太素…(惡心…)、安…、…」…(…文)上、二、支鬪、痆、痆氣」 之良太美ハ、志らたまいたみノ略ナルベシ。(睾丸痛ナリ) 童蒙頌韻「(天仁)二痆、…」

あたひ (名) 價直 〔適ふノ名詞形、品位相適合スル意、(疑問假名遣、後編)日本釋名(元祿)下、虛字「直ハ、當るナリ、あたひ千金ナド云フモ、千金ニあたる也」〕 (一)〔賣買ノ物ノ代ト定メタル稱〕說文「價、物直也」後漢書、匈奴傳「匈奴有下計入二漢地一直上張掖郡一」註「直、當也」又、其金高。直。代。直。直段。代ノ價值。 齊明紀、五年七月「…」…價」日、綿六十斤」萬葉集、三 三十「價ナキ、(價知ラレヌ)寶ト云フトモ、一坏ノ、濁レル酒ニ、豈益ラメヤ」 法華經、五百弟子授記品「無價寶珠」 宇治拾遺、…「此二寶人所ニ持テユキテ、直ル…ナリトテ出ダセ、あたひ問ハレバ、千五百ト答ヘヨ」 (二)價ノ代トナルベキ物。又、其金錢。價金 顯宗紀…「…旨酒…市不二…、直一…」…紀、十四年八月「…之貴、由富二…」 (三)人、又、物ノ品評。ネウチ。資格。品位

あたひ (名) 直 〔前條ノ語ニ同ジ、價ハ代ナリ、古史傳、八 十二天皇命ノ御手ニ代リテ地ヲ治ムル由ニ、此語ノ假名遣ノ事ハ、あたひべノ語原ヲ見ヨ、倭訓栞、あたひ「直ノ字ヲ讀メリ、物ノねヲ云フナリ、姓ニ、直ヲあたひト訓ムモ同義ナリ」〕上古ノ地方官ノ名、國造、縣主、ナドノ如シ、後ニハ、可婆禰トナレリ。 姓氏錄、右京皇別、下、佐伯直「…天皇、…國ヲ…平定シタマヒ、伊許自別命ニ…上ヲ…ラシム、…以…奏、天皇詔曰、宜…君治之、因賜二氏…、佐伯直」…直言…書也」…代…上…天津彥…根命…是…山代直等祖也」景行紀、三年二月「紀直」…紀、廿八、…三年三月ニ、…百…、己レ等ノ…ヲ…、…賈」ト記シタルヲ、凡直ト改メムヲ誤フト云フコトアリ。

あたひ-え (名) 直部ノ條ヲ見ヨ。

あたひ-せんきん (名) 價千金 物ノ品位ヲ激賞シテ云フ語。蘇東坡詩「春宵一刻直千金、花有二清香一月有レ陰」

あだ-びと (名) 徒人 心ノ實ナキ人。移氣ナル人。古今集、十五、戀、五「秋ト云ヘバ、ヨソニゾ聞キシ、あだ人ノ、我レヲ舊セル、名ニコソアリケレ」(秋ニ飽キヲ寄セタリ) 詞花集、九、雜、上「あだ人ハ、シグルル夜ノ、月ナレヤ、すむトテエコソ、賴ムマジケレ」

あたひ-べ (名) 直部 〔大伴部、服部ナドモ、皆其部族ヲ云フナリ、倭名抄、六 七十和泉國、和泉郡、山直鄕、也末多倍トアルニ據リテ、あたひノ假名遣ハ、あたへトスベシト云フ說アリテ、諸書多クハ、然改メタリ、サレド旨從スベカラズ、古書ノ傍訓、スベテ、あたひニテ、あたへトアルハ、一ツモ見エズ、倭名抄ナルハ、姓氏錄ノ和泉國ノ神別ニ、山直アリ、其山直部ノ住地ナルニ、地名ヲ二字トスベキ制トナレル時、部ヲ省キテ、山直トシ、やまのあたひべヲ、やまたべト急呼セシナリ、也末多倍ノ倍ノ、濁音ナルニテ知ルベシ、神功紀、又ハ、皇極紀ニ、直トアルモ、部ノ字ノ省カレタルニテ、濁音點ノ無カリシ世ニ、發音ノママニ、「へ」「ヲ」「エ」ニ書キタガヘタルナリ、頑鼠漫筆(黑川春村)二、價ノ假名ノ條ニ、加茂諸平ノ說トテ「山直ノ地モ、山直部ナドノ居ナルヨリ、鄕名トナレルニモアルベシ」トアリ〕直ノ職ノ部族。 神…紀…、…直、…紀」…日本書紀私記」直部、安太比倍」(疑問假名遣後編二、…トテ引ケリ) 神功攝政前紀、註「穴戶直」 皇極紀、三年十一月「長直」(共ニ、あたひべノ誤)

あた-ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (自動、四) 適 〔當ルト通ズルカ、あたひ(價)ノ語原ヲ見ヨ〕 適フ。相應フ。アタル。適當ス。常ニ、あたはず、ト、打消ニノミ用キラル。 竹取物語、天上ノ使ノ…「かぐや姫ハ、罪ヲツクリタマヘリケレバ、云云、罪ノ限リ果テヌレバ、斯ク迎フルヲ、翁ハ泣キナゲク、あたはヌコトナリ、早出シタテマツレ」 大鏡、中、伊尹、…「…母上ハ、君ヲコソ、兄君ヨリハ、イミジウ、戀ヒキコエタマフメレ、ト聞エケレバ、(義孝)イトあたはヌ狀ノ氣色ニテ」(事情ニカナハズ) 萬代集、十九、雜、六「何レヲカ、先ヅウレヘマシ、心ニハ、あたはヌコトノ、多クモアルカナ」 十訓抄、上、第一、廿二條「十德無カラム人ハ、…ニハあたはズ」…「…不レ當」註「當、任也」 假名手本忠臣藏(寬延、竹田出雲)「…テハ思案ニあたはズ」

あた-ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (自動、四) 能 〔當ルト通ズ、敬語ニ、あたはすト用キラル、廣韻「能、任也」玉篇「當、任也」〕 己レガ力、能ク爲ス堪フル。敢フル。デカス。 名義抄「…不能、アタハズ」字鏡抄「能、勝、堪、アタフ」…代紀、下 …「…モ、…ヲカモヨ」(共ニ…ノ意、あたはす(堪)ノ條ヲ併セ見ヨ) 此語、從來、多ク、能はずト、打消ニノミ用キラレシニ、明治以後、英語ノ Can. ノ譯語ニ充テテ、…し能ふ、遂行し能ふ、ナド記スコト行ハルルニ到レリ。

あた-ふ・フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ (他動、下二) 與 〔前前條ノ語ノ他動、(たぐふ、(類)たぐふる(副)ノ例)あてがふノ意〕 (一)我ガ物ヲ他ニ充テツタシテ、其人ノ所有タラシム。贈ル。クルル。ツカハス。ヤル。 欽明紀、三十一年五月「使三人探二索其貢、具錄二與一之」通證「私記ニ、假名本作三令返與之二」 今昔物語、一、廿三「…使、…ニ持至リテ、先ヅ書ヲ王ニ與ふ」 …物語「…、黃金千兩ヲあたへツ」 此語、古クハ、四段ニモ活用セシモノカ、萬葉集、二 三十長歌「若キ兒ノ、乞ヒ泣ク毎ニ、取リ與、物シ無ケレバ」トアリ、若シハ、とりあたふるト、六音ニ讀ムベキカ。 (二)蒙ラシム。 徒然草、百二十四段「無智ニシテ大オニ交リ、不…ノ…ヲモチニ…能ノ座ニ列リ、云云、人ノ與ふる恥ニアラズ、貪ル心ニヒカレ、自ラ身ヲ辱シムルナリ」 …ヲあたふ 面目ヲあたふる」

あだ-ふ・フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ (自動、下二) 戲 〔徒ヲ活用ス、あだくト同趣〕 タハムル。戲ル。フザケル。 源、三十八、夕霧三十二「…ズズロニ、カクあだへ隱シテ」(夕霧ノ文ヲ、雲井雁ガ隱シタルナリ) 細流抄「心ノあだあだシク戲レタルナリ」 …抄「あだへト讀ルベシ」 狹衣、一、下 三十一「大殿コソ、ナホ、コレ申シナホシタマヘナド、言ヒあだヘツツ、(狹ノ)被キタル衣ヲ、強ニ引キノケテ、顏ヲ見ルニ」

あだ-ぶし (名) 徒臥 あだねノ條ヲ見ヨ。

あた-ふた (副) 倉皇 〔あわてふためくノ略轉〕 アワテサワグ狀ニ云フ語。アワタダシク。 正章千句(慶安)「今ヤ…ノ、上ル轎盤」あたふたト、サノミ莫齎ヲ、イソガレソ」

あたへ (名) 直 あたひべノ語原ヲ見ヨ。

あたへ (名) 與 アタフルコト。アタフル物。「天ノあたへ」

あだ・へ (名) 戲 あだふ(戲)ヲ見ヨ。

❖あた・へる (動) 與 あたふ(與)ノ口語。

あたま (名) [illegible] 灸穴ノ名。當間ノ轉ニテ、(楯並めて、たたなめて)灸點ニ當ツル所ノ意カ。針灸甲乙經「顖會、在上星後一寸、骨間陷者中」頭骨、交會ノ處ナリ」(一)頭ノ前頂。小兒ノ時、ひよめき、をどりおト云フ處。倭名抄、三「針灸經云、顖會、一云天窓、阿太萬、[illegible]あたま、顖會、俗ニ云フ、をどりノ所也」(二)轉ジテ、頭。カウベ。頭顱 史記抄(文明)十四「[illegible]瓦ガ落チテ、あたまヲおチワリ」あたまをあげるト云フハ、世ニ成リ出ヅル意ニ云ヒ、あたまをさげるハ、屈從スル意ニ云ヒ、あたまを搔くハ、恥入ル意ニ云フ。頭隱して、尻隱さずト云フ諺ハ、雉ノ、草叢ニ首ヲ隱シテモ、尾ノ露レテ居ルガ如キヲ、人ノ行爲ニモ譬ヘテ云フ。[illegible]「[illegible]頭隱[illegible]尾耳」(三)人ヒトリヲ數フル語。ヒトカズ。一人前。人頭。人數。「あたま數」「あたま割」(四)頭腦ノハタラキ。カンガヘ。腦力「あたまヲ惱マス」「あたまガ鈍イ」(五)物事ノ上。又ハ、初ナルトコロ。テッペン。最初。首。初頭 俳諧[illegible]「[illegible]あたまカラ打消ス」あたまを撥ねるト云フハ、上前ヲ取ルヲ云フ。(六)頭立ツ者。長。首領「大あたま」あたま株二(七家、[illegible])(七)髮。頭髮「あたまヲ剃ル」「あたまヲ結フ」「あたまガ白クナル」あたまを圓めるト云フハ、髮ヲ剃リ圓顱トナル、卽チ、僧トナル意ナリ。(八)髮ノ結風。髮風 男色木芽漬(元祿)「浪人ナレバ、氣ママノ病[illegible]あたま[illegible]」[illegible]

あたま-かず (名) 頭數 ヒトカズ。人數。[illegible]

❖あたま-がち (名) 頭勝 (でっかちハ、出勝ノ急呼ニ轉ノ釣合ニ轉チテ、頭ノ大ナルコト。アタマデッカチ。頭大。「石ノ[illegible]あたまがち」あたまでっかち[illegible]

あたま-かぶ (名) 頭株 長タル者。カシラブン。首領

❖あたま-くだし (名) 頭下 次條ヲ見ヨ。

❖あたま-おなし (名) 頭貶 (あたまハ、最初ノ義、おなすハ、貶ス意、あたまくだし、同ジ、あたまへしハ、壓潰ス意、あたま(頭)、おなす(貶)、へす(壓)ノ各條ヲ見ヨ) 人ノ言フコトヲ、ヨクモ聞入レズ、最初ヨリ言ヒツブスコト。又、あたまくだし。あたまへし。可笑記(寛永)五「我レヨリ下目ナル人ト思ヘバ、あたまくだしト云フモノニ、[illegible]ソノヤウニ、あたまおなしニ云ウテハ、[illegible]ガユクマイ」俚言集覽、あたまへし「謳フルニ威ヲ以テスルヲ云フ」

❖あたま-でっかち (名) 頭大 あたまがちヲ見ヨ。

❖あたま-の-きりきり (名) 頭旋毛 (きりきりハ、旋毛ナリ) 頭のきりきりから、足の爪先までト云フハ、物ノ最上部ヨリ最下部マデトノ意。最初ヨリ最終マデ。餘サズ殘サズ。中庸、程子解「[illegible]終、猶言徹頭徹尾」

❖あたま-の-くろい-ねずみ (名) 頭黑鼠 「[illegible]テ、不正ナル者ヲ云フナルベシ、(黑キ心ノ[illegible]共ニ、家鼠ノ類トシテ[illegible]ノ家内ノ[illegible]人ナドノ、盜ミスル者[illegible]ハ、あたまの黑き、子曰カナ」(引くヲ、盜ムニカク) 世間胸算用(元祿、西鶴)一「頭の黑い鼠ノ所行、コレカラハ、油斷ノナラヌコト」

あたま-の-さら (名) 頭蓋 膝のさらモアリ」古言、カシラノカハラ。頭蓋骨ニ同ジ。又、あたまの鉢。

❖あたま-の-てっぺん (名) 頭天邊 (天邊ノ條ヲ見ヨ) イタダキ。頭ノ頂上。「あたまのてっぺんカラ、足ノ爪先マデ」

あたま-の-ハチ (名) 頭鉢 前前條ニ同ジ。

❖あたま-へし (名) 頭壓 あたまおなしヲ見ヨ。

あたま・れ (動) 仇 次次條ヲ見ヨ。

❖あたま-わり (名) 頭割 頭數、卽チ、人數ニ應ジテ、物ヲ割付クルコト。割賦スルニモ云ヒ、醵錢ニモ云フ。俚言集覽、あたまわり「[illegible]見ロト云フ、[illegible]見ロニ應ジ[illegible]不[illegible]官位[illegible]」

あた・む・ム・メ・マ・ミ・メ (自動、四) 仇 (仇ヲ活用ス(僻、ひがむ。否、いなむ)) アタナフ。仇トナル。ハムカフ。敵視 字鏡六十七「快、强也、心不服也、阿太牟」名義抄「讎、アタム」萬葉集、[illegible]「敵見タル、虎カ吼ユルト、諸人ノ、恊ユルマデニ」源、廿二、玉葛「此監ニあたまレテハ、イササカノ身動セムモ、所狹クナムアルベキ」日[illegible]大[illegible]敵ニ[illegible]レテ、二[illegible]ノ[illegible]ニ會

あ-たん (名) 亞炭 (石炭ニ亞ぐノ意ナルベシ」イハキ。石炭ノ、年數若キモノト云フ。木理、尙、見エテ、黑褐色ナリ、[illegible]料トナル。[illegible]

アダン (名) 阿檀阿旦 (南洋語ナルベシ、[illegible]) [illegible]葉ノ[illegible]、葉ノ[illegible]、[illegible]ニ[illegible]リ、中心ヨリ、長キ[illegible]出シテ、[illegible]、花ヲ開ク、淡紅、又ハ、黃ナリ、琉球、臺灣等ニ自生ス。[illegible]、あだん、[illegible]リ、近年[illegible]ノモノナリ、[illegible]シ、[illegible]トシ、[illegible]球、臺灣ヨリ來ル、ぱなま帽子ト云フハ、此葉ヲ裂キテ、漂白シテ製シタルモノナリト云フ。

あだ-め・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (自動、四) 徒 徒ナルサマヲス。アダアダシクアリ。アダクル。ウハツキタリ。[illegible]「[illegible]」「サシモあだめき目馴レタル、打チツケノスキズキシサナドハ、好マシカラヌ[illegible]リ情ニ引キコメラレテ、[illegible]あだめく、コレヲ初ノ[illegible]トスベシ」[illegible]十マデヲ、限リニテ」一字[illegible]十一文字」

あだ-もの (名) 徒物 空シキモノ。ハカナキモノ。古今集、十二、戀二「命ヤハ、何ゾハ露ノ、あだものヲ、逢フニシ代ヘバ、惜シカラナクニ」(ハカナキ命ヲ、逢ふコトニ、代フルハ惜シカラズ)

あだ-や (名) 虛箭 (徒ナル矢)射テ外レタル矢。空トナレル矢。盛衰記、廿三、平氏[illegible]下事「[illegible]ハ、[illegible]ノモ[illegible]テ、あだ矢射ル者ナシ、[illegible]キツメ、[illegible]ヲ射ルニ、[illegible]あだ矢ハナシ、[illegible]、コレガ爲ニ勝ツコトヲ得タリ」(織田信長ノ家士ナリ)

❖あだ-や-おろか-ま (副) 徒疎 あだおろそかニ同ジ。

〔あたら　(接頭)　可惜　〔次次條ノ語ノ語根、あッたらハ、急呼ナリ〕惜シキ。惜シムベキ。あッたら。名義抄、心部「可惜、アタラ」雄略紀、十三年九月、旋頭歌「誰レカ、カケムヨ、阿拕羅陼名部ノ工匠ガ刑セラレムトスル時、傍人ノ歌）萬葉集、九十「タマクシゲ、明ケマク惜シキ、恡夜ヲ、衣手離レテ、獨カモ寐ム」同、二十五十「秋ノ野ニ、露オヘル萩ヲ、手折ラズテ、安多良盛リヲ、過シテムトカ」幸若、鞍馬出「其馬ヲ捨テテ、御通リ候ヘ、あつたら馬ヲ捨テウヨリ、ヤア、下リテ引ケトノ御諚ナリ」史記抄(文明)七十八「城陽王章薨、あつたら人ノ死ナレタ、可レ惜ゾ」「あッたら物」あッたら事」

あたら-くち　(名)　可惜口　〔口ニ風ヲ入レタルバカリノ結果トナレルコト、惜シノ意、口に風邪引かすトモ云フ〕　あたら口に風を入るト云フ諺ハ、言ヒタル言ガ、徒事トナレルヲ云フ。俚言集覽、あたら口に風を入る「言出シタル事ノ、徒ニナリタル時ニ云フ」

〔あたら・し　シキ・シケレ・シク・シク(形、二)　可惜　〔あたハ、傷ト通ズルカ(諫む、あさむ)〕惜シ。惜シムベシ。古事記、上廿三「離ニ田之阿ニ(畔)埋ニ溝者、地矣阿多良斯トコソ」萬葉集、十三九「阿多良思吉君ガ、老ユラク惜シモ」夫木抄、廿三、島「あたらしヤ、蝦夷ガ千島ノ、櫻花、眺ムル色モ、ナクテ散ルラム」

〔あたら・し　シキ・シケレ・シク・シク　(形、二)　新　〔前條ノ語ノ轉、日本釋名(元祿)中三十「惜しハ、惜しむ也、古キ物ハ、惜シムニ足ラズ、新シキ物ハ、惜シムベシ、少年ノ光陰惜シムベキガ如シ」(節文、朗詠集ニ、蹈、花同、惜、少年春」)惜しガ、新しニ通ズルハ、可愛しく思フヨリ、美麗しニ轉ジ、親愛しく思フヨリ、美麗しニ轉ズル、ナド同例ナリ、此語、奈良朝以前ハ、あらたしニテ、あたらしハ、平安朝以後ナリトスル說アレド、(あらたしト云ツ語、多クハ見當ラズ)同時ニ、兩立シテアリシナリ、うつくし、うるはし、是レナリ〕(一)アラタシ。アラタナリ。新シ。名義抄「新、アラタシ、アタラシ」續紀、十四、天平十四年正月十六日、大安殿賜宴「六位以下人等、鼓レ琴歌曰、新、年始邇、何久志社、仕奉良米、萬代摩弖丹」萬葉集、十二十「物皆ハ、新しき好シ、唯人ハ、舊リヌルノミゾ、宜シカルベキ」後撰集、二、春、中「春雨ノ、世ニふり(降リ、舊リ)ニタル、心ニモ、ナホあたらしく、花ヲコソ思ヘ」拾遺集、十四、戀、四「あたらしト、何ニ命ヲ、思ヒケム、忘レバ古く、ナリヌベキ身ヲ」(二首、共ニ、可惜し、新しノ兩意ヲ兼ネタリ)　(二)鮮シ。生生トシタリ。(魚肉、野菜ナドニ云フ)　新鮮

〔あたらし・ぶ　ブ・ベ・バ・ビ・ベ(他動、四)　惜　〔前條ノ語ヲ活用セシム(悲し、かなしむ)〕可惜シク思フ。アタラシム。惜シム。雄略紀、十三年九月、木工猪名部眞根、刑セラレムトス「有ニ同伴巧者ハ歎ニ惜眞根ニ而作レ歌」

あたらし・む　ム・メ・マ・ミ・メ(他動、四)　惜　前條ニ同ジ。可惜シト思フ。東見記(林道春)下「背レ燭共憐深夜月、蹈レ花同惜少年春、定家卿ノ點」(朗詠集ノ句ナリ)

〔あたら-み　(副)　新　あらたま(新)ヲ見ヨ。

〔あたら-もの　(名)　可惜物　〔あッたらト云フハ、急呼スルナリ〕可惜シキモノ。アッタラモノ。和泉式部集、一「見ルゴトニ、あたら物ヲト、オボユルハ、鹿立ツ野邊ノ、萩ノ花カナ」落窪物語、一「明ケ暮レ、あたら物ニ言ヒ思フ」俚言集覽、あッたら物「今、俗ニ、物ヲ愛シ惜シミテ、あッたら物ぢャ、ナド云フ」

〔あたら-よ　(名)　惜夜　〔可惜しき夜〕明ケムヲ惜シム夜。萬葉集、九十七「玉櫛笥、(枕)明ケマク惜シキ、恡夜ヲ、衣手離レテ、獨カモ寐ム」後撰集、三、春、下「あたら夜ノ、月ト花トヲ、同ジクハ、心知レラム、人ニ見セバヤ」

〔あたら-よ　(名)　新代　新夜　あらたよヲ見ヨ。

あたり　(名)　當　(一)當ルコト。(二)人ニ對シテノ仕向。挨觸　狂言記、朝比奈、鬼、腰掛ケテ居ルヲ、突キノケル「サテモ、閻魔王あたりノキツイ奴ぢャ」「八ツあたり」　(三)仕返シ。意趣返シ。返報。復讎　宇治拾遺、五、第五條「家綱、行綱、云云、先キニ、行綱ニハカラレタルあたりトゾ云ヒケル」(行綱ガ約束ヲ、騙シタルヲ、家綱ガ復讎シタルヲ云フ)　(四)ココロアタリ。テガカリ。見當。「考ヘタラ、あたりガツカウ」

あたり　(名)　邊　〔其處ニ當りノ義、當所ノ意〕(一)〔其所ニ近キホドノ處。ワタリ。ホトリ。キマハリ。近處。古事記、下(履中)四十「埴生坂、我ガ立チ見レバ、炫火ノ、燃ユル家ムラ、妻ガ家ノ阿多理」萬葉集、八十九「春ノ野ニ、求食ル雉子ノ、妻戀ヒニ、己ガ當ヲ、人ニ知レツツ」　(二)ソノ程。ソノ頃。「一昨年あたりニ、見タコトガアル」

〔あたり-あたり　(名)　邊邊　ソノ邊、コノアタリ。ソコ、ココ。アレ、コレ。源、十、榊四「物ハカナゲナル小柴ヲ、大垣ニテ、板屋ドモ、あたりあたり、イト、カリソメナメリ」細流抄「あたりあたり、ソコソコト、シワキタルナリ」同、十五、蓬生廿三「月、入方ニナリテ、云云、イト、ハナヤカニ差入リタレバ、あたりあたり見ユルニ、昔ニカハラヌ御シツラヒノサマナド」同、四十九、東屋廿二「五位四位ドモ、相膝マヅキサブラヒテ、此事彼事ト、あたりあたりノ事ドモ啓シ」

あたり-あ・ふ　フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ(自動、四)　當合　鬪　タタカフ。キリアフ。ワタリアフ。「一上、一下、火花ヲ散ラシテ、あたりあふ」

あたり-いも　(名)　〔あたりばちヲ見ヨ〕　擂芋ノ異名。

あたり-ぎ　(名)　〔あたりばちヲ見ヨ〕　擂木ノ異名。

あたり-きんぎよ　(名)　邊近處　〔和漢雙擧、かたとき片時ノ類〕ソノホトリ。チカキアタリ。キマハリ。「あたりきんぎよヲ徇レマハル」あたりきんぎよヲ騷ガシテ」

あたり-きやうげん　(名)　當狂言　芝居狂言ノ、脚色ノ面白クテ、客入リノ多キモノ。三芝居樂屋雜書「古今、當狂言、年數、云云」

あたり-ぐる・し　シキ・シケレ・シク・シク(形、二)　邊苦　近ヅキ難シ。マバユシ。狹衣、二、上四「あたりぐるしく、時メキ花ヤギタマフ」同、三、中二十九「あたりぐるしきマデ、光リカガヤクヤウニ見エタマヘバ」

あたり-さはり　(名)　當障　〔同意ノ語ヲ並ベタルマデナリ〕サシアヒ。故障。障礙。牴觸　「あたりさはりニ爲ラヌヤウ」

あたり-ちら・す　ス・セ・サ・シ・セ(自動、四)　當散　怒リヲウツス。ヤツアタリヲス。「誰彼ニモあたりちらす」

あたり-どし　(名)　當年　收穫ノ豐熟ナル年。豐年　有年　「今年ハ、かぼちゃノあたりどし」

あたり-ばこ　(名)　〔次條ヲ見ヨ〕硯箱ノ異名。

あたり-バチ　(名)　〔當るノ條ノ(十一)ヲ見ヨ〕擂鉢ノ異名。耗るニ通ズルヲ忌ミ、言ヒカヘテ云フ、市民ノ俗語ナリ。擂木、擂薯、擂肉、同ジ、隨ッテ、硯箱ヲ、あたりばこ、鰑ヲ、あたりめナドトモ云フ。

〔あたり-び　(名)　當日　瘧ノ發日。倭名抄、

[illegible]ヲシテ、あたり日ニハベリケレバ[illegible]

あたりぶるまひ（名）當振舞 [illegible]、當[illegible]ノ時、[illegible]行主ガ、一同ニ[illegible]スルコト。

あたりまへ（名）當前 〔事事物物、其分ニ當る意ナラム、まへ（前）ノ條ヲ見ヨ〕（一）理ノ當ル處。當然「借リタ物ヲ返スハ、あたりまへ」（二）轉ジテ、ツネナルコト。ナミ。ツウレイ。尋常「役所ハ、あたりまへノ時刻ニヒケル」

❖**あたりみ**（名）〔あたりばちヲ見ヨ〕擂肉（スリミ）ノ異名。

❖**あたりめ**（名）〔あたりばちヲ見ヨ〕鰑（スルメ）ノ異名。

あたりをはらふ（句）拂邊 （一）身ノ邊（ホトリ）ノ人ヲ追拂フ。ヤガテ、人人ヲ威壓ス。太平記、十三、[illegible]世事「[illegible]ノ驕高ラカニ、あたりをはらひテ供奉セラレタリ」庭訓往來（元弘）八月「[illegible]、云云、衣文（エモン）[illegible]、行裝[illegible]」（二）身ノホトリニ、近ヅケズノ義ニテ、他ヲ威壓スル意トモナル。散木集、一「[illegible]サレテ、病（ヤマヒ）モゾスルトテ、邊（アタリ）ノ木ドモ伐拂（キリ）ハセタマフヲ見テ「モギタツル、梢ヲ見レバ、イトドシク、あたりをはらふ、八重櫻カナ」

あた・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）當 〔當（ア）つノ自動（隔（ヘダ）つ、へだたる）〕（一）突キ合フ。ブツカル。俳諧毛吹草（寛永）「[illegible]あたれバ[illegible]ク」「擂木ガ頭ニあたる」（二）張リ合フ。敵對ス。抗敵 [illegible]、云云、[illegible]「[illegible]云云」（三）恨ミノ仕返ヲス。當（タウ）ヲス。アテツケル。復讎 [illegible]集、上、物名「ツラシトテ、我レ

サヘツラク、あたる[illegible]ナニあたりチラス」（四）[illegible]云、南京（南都）ノソコバクノ多カル寺ドモ、ナホあたりタマフナシ、[illegible]、イト[illegible]ナレド、ナホ[illegible]レタマヘリ」（五）[illegible]ル。サハル。按觸 古事記、上、三十三「[illegible]代」古今集、一、春、上「春ノ日ノ、光ニあたる、我レナレド、頭ノ雪ト、ナルゾワビシキ」枕草子、一、第四段「[illegible]ハ、云云、呼ブニ、聞カテ、日ノ[illegible]シあたりタルニ、打眠リテ居タルヲ」草根集（徹書記）十一、[illegible]「出テム日ヤ、[illegible]サエカネム、[illegible]ヲ、[illegible]ニあたる、小野ノ山人」「物ヲ探リテ、手ニ當る」（六）〔出合（イ）フ。デクハス。會 [illegible]、十四、[illegible]五月五日ニゾ、五十日ニハあたるラムト、人知レズ數ヘタマヒテ」同、十二、須磨「罪ニあたる事ハ、云云、必ズアル事ナリ」「其時ニあたる」「[illegible]ニあたる」[illegible]ニあたる」（七）〔恰モ合フ。アテハマル。相當 顯宗紀、二年八月、天皇、雄略天皇ノ陵ヲ壞チテ、父ノ讐ヲ報イムトシタマフ、皇太子「諫曰、不可（アタラズ）」「理ニあたる」小兒ノ頭ハ、大人ノ腰ニあたる」（八）〔其方向ニアリ。在 源、十、[illegible]「御堂ノ西ノ南ニあたりテ、少シ離レタルニ、[illegible]ラセタマヒテ」「朝鮮ハ、九州ノ北ニあたる」（九）身ニ任ジテ從事ス。擔當 [illegible]ノ任ニ當る」（十）合セテ試ミル。照リ合ス。參照「原書ニあたる」直段ニあたる」（十一）❖商家ナドニテ、擂（ス）るノ、耗（ス）るニ通ジテ聞ユルヲ忌ミテ、他動ニ用キテ、あたるト云フ。擂「味噌ヲあたる」薯（イモ）ヲあたる」隨ッテ、擂鉢（スリバチ）ヲあたりばち、擂木（スリコギ）ヲあたりぎ、擂肉（スリミ）ヲあたりみ、鰑（スルメ）ヲあたりめ、硯箱（スズリバコ）ヲあたりばこナド云ヒ、又、髭ヲ剃（ス）るヲモ、髭ヲあたるト云フ。（十二）❖果實ノ腐るヲモ忌ミテ、あたるト云フ「[illegible]があたる」

あた・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）中 〔目的（ツ）ニ當る意〕（一）思フ目的ニトドク。命中ス。適中ス。[illegible]

[illegible]たる」

思ヒドホリニ成ル。成功「計（モクロミ）[illegible]ガあたる」「[illegible]あたる」

あた・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）病 〔康熙字典「著（ツク）其中（ニ）曰（レ）中」莊子、達生篇「中（レ）身當（レ）心則爲（レ）病」注「[illegible]、醫書中風中暑ヲ是也」又、或ハ、病むト云フヲ忌ミテ、中るト云フカ、所勞ヲ、歡樂（ソコア）ト云フガ如キカ〕罹（カカ）リテ傷（イタ）メラル。損ハレ惱ム。「暑氣ニあたる」（中暑）「[illegible]ニあたる」（中毒）「[illegible]ニあたる」人ニ、自慢話ナド、多ク聞カセラレテ弱ラセラルルヲ、他動、下二段活用、受身ニ、あてられるト云フ、病ム意ナリ、のろけ話ナドニモ云フ。

あだ-わざ（名）徒爲 イタヅラゴト。ムダゴト。源、五十二、手習「[illegible]ヨリ外ノあだわざ、莫爲（ナセ）ソ」同、三十五「モハラ、カカルあだわざナド、爲（シ）タマハズ」

あ-ち（代）彼方 〔彼路（アチ）ノ義ナルカ、（其方（ソ）、此方（コ）、何方（イヅ）ニ對ス）あっちハ、急呼ナリ（そち、こっち。[illegible]）〕最モ身ヨリ遠キ方位ヲ指シテ云フ代名詞。アノカタ。アナタ。カナタ。アチラ。あっち。神樂歌、早歌「安知（アチ）ノ山、背山、背山ノ安知ノ夫（セ）」「あちへ行カウ」

あぢ（名）味 〔假名遣ハ、萬葉集ニ、紫陽花ヲ「味狹藍（アヂサヰ）」安治佐爲」日本釋名（元祿）下、五十三「味「あぢハ、甘キ乳也、乳味ハ、食ノ始ニテ、甘キ物也、[illegible]トス、イカガアルベキ」（一）食物ノ、舌ニ[illegible]リテ生ズル甘キ、辛キ、苦キ、[illegible]キ、[illegible]ルコト。[illegible]ト。オツナコト。「あぢヲ行ル」あぢナ物」あぢナ氣ガスル」（四）あぢをしめるト云フハ、利益ヲ占メ得タルヲ云ヒ、狃レテ、再ビ得ムトスル[illegible]。[illegible]人「ユフベノデ、あぢを得テ、又、今夜モ、取リニ參ラヌコトハアルマイ」左傳、桓公十三年「莫敖狃（ニ）於蒲騷之役（ニ）」玉篇「狃、[illegible]也、復也」

あぢ（名）阿遲 〔集（アツ）ノ轉、（あづさる、[illegible]）群集ノ意、[illegible]風土記、[illegible]香山（カゴヤマ）里、阿豆村「人衆、集來論議、故名（ニ）阿豆（ニ）」[illegible]がもト云フガ、成語ナルベシ、[illegible]集鳥（アツトリ）ナリ、あぢ群（ムラ）（鶴群）ト云フハ、[illegible]意、あぢ群鳥（ムラドリ）トモ云フナリ、[illegible]、あぢむら、今、あぢ鴨トモ云フ、[illegible]集ル鳥也」[illegible]ト記シタルヲ見タリ」[illegible]鳥ノ名。今、あぢがもト云フ、其[illegible]ヲ見ヨ。此鳥ノ群飛スルヲ、あぢ群（ムラ）ト云フ。萬葉集、十一、三十「味（アヂ）ノ[illegible]」同、三十六、長歌「沖邊（オキベ）ニハ、鴨妻喚（ツマヨバ）ヒ、邊津方（ヘツベ）ニハ、味（アヂ）[illegible]滿テバ、山ノ端ニ、ワタルモサワグ、あぢの群鳥（ムラドリ）」

あぢ（名）鯵 〔[illegible]、あぢ、[illegible]ニ、鯵ヲ訓ゼリ、萬葉集ニ、味ト書ケリ、味ノ佳ナルヲ稱スルナルベシ」イカガ

アルベキ」海產ノ魚。狀、鯖ニ似テ小サク、長サ、一二寸ヨリ尺ニ至ル、鱗ナクシテ、兩面ノ腮ノ下ヨリ尾マデ、線ヲナシテ、鱗ノ如キモノ折レテ並ブ、コレヲぜいご、又、ぜんご(竹筴)トイフ、背、青クシテ赤ミアリ、腹ハ微白ナリ、夏、秋、多ク、肉、美ナリ。竹筴魚 字鏡七十二「鯵、阿地」本草和名、下廿「鯵、阿知」(倭名抄、同ジ)

あぢ-うり (名) [味瓜] (味、甘キガ故ニ云フ) まくはうりニ同ジ。物類稱呼(安永)三、生植「甜瓜、西國ニテ、あぢうり」

あぢ-がも (名) [阿治鴨] 「阿治ノ語原ヲ見ヨ」古名、アヂ。水鳥ノ名。鴨ニ似テ小サク、頭、青綠ニシテ、黃赤ヲ帶ビ、翅ハ灰色ニ、胸ハ黃赤ニシテ、小サキ黑點アリ、腹ハ白ク、背ハ灰白ニシテ、赤黑キ毛マジル、常ニ、數百羽、群ヲナス。倭訓栞、後編、あぢむら「あぢトバカリモヨメリ、今、あぢ鳧ト云フ」

あぢき-な・し・キ・ケレ・ク・ク (形、二) [無狀] 〔本語ハ、あづきなしナリ、出典ノ萬葉集ノ歌ヲ見ヨ、あぢきハ、其音轉ナリ、(幸弓、さつゆみ。あづさゐ、あぢさゐ)あハ、發語、あ附なしノ義、(あ淸、あ遍し、あ諄し)橘守部ノ湖月抄別記、一、あぢきなう、アヅキナク「阿ハ、歎息ノ發語、都岐ハ、なりつきなしナドノ都岐ニテ、只、つきなしトモ云フ」なりつきなし、卽チ、遠慮なしノ意トナル〕(一)あづきなし。憚カラズ。遠慮ナシ。無遠慮ナリ。無狀 萬葉集、十一 廿一「小豆奈久、何ノ狂言、今更ニ、小童言スル、老人ニシテ」古義「小童ノ、何ノ遠慮モナキヤウニ、何トテ狂言スルゾ」同、十二 七「中中ニ、默然モアラマシヲ、小豆無く、相見初メテモ、吾レハ戀フルカ」神代紀、上 廿「素戔嗚尊之爲行也、甚無狀」私記「阿地岐奈之」(新嘗宮ニ、逆剝ナドセラレシヲ云フ) 崇神紀、十年九月「汝逆天無道」伊勢物語、八十九段「人知レズ、我レ戀死ナバ、あぢきなく、イヅレノ神ニ、無キ名負セム」(二)轉ジテ、セズトモヨキコトナリ。益ナシ。詮ナシ。ツマラナイ。無益 古今集、一、春、上「宿近ク、梅ノ花植ヱジ、あぢきなく、待ツ人ノ香ニ、アヤマタレケリ」同、三、夏「時鳥、初聲聞ケバ、あぢきなく、主定ラヌ、戀セラルハタ」源、十四、澪標 二十「あぢきなき好心ニ任セテ、サルマジキ名ヲモ流シ」文選、古詩「無益」史記、伍子胥傳「無益」(三)妙ナラズ。面白ミナシ。無味 源、二、帚木 廿「人ヲ惑ハシ、心ヲモ見ムトスルホドニ、長キ世ノ物思ヒニナル、イトあぢきなき事ナリ」赤染衛門集「あぢきなく、袂ニカカル、紅葉カナ、錦ヲ着テモ、行カジト思フニ」(四)快カラズ。思フ。ツラシ。ナサケナシ。無情 名義抄「無情」遊仙窟「無情」新古今集、十三、戀、三「あぢきなく、(待つニカカル)ツラキ嵐ノ、聲モ憂シ、ナド夕暮ニ、待チナラヒケム」夫木抄、廿七、魚「あひヲノミ、須佐ノ入江ニ、棲ム魚ノ、浮キヌ沈ミヌ、あぢきなノ世ヤ」將門記「慙動寂雲之心、暗追疾風之影」註「慙、阿知支奈久」太平記、十六、將軍筑紫ヘ御開の事「何レノ日カ、誰ト言ハム、敵ノ手ニ懸リテカ、云云、天涯望鄕ノ鬼トナランズラント、明日ノ命ヲモ憑マレネバ、慙ク思ハヌ人モナカリケリ」名義抄「慙、アヂキナシ」字鏡集「辭、アヂキナシ」同「慙、ココロシヅカ」(心靜ノ合字ヲ、種種ニ書キカヘタルナリ、然レドモ、其故ヲ知ラズ)

あちをち (名) [彼此] カヘサマ。ウラハラ。アッチコッチ。アリャコリャ。アベコベ。反對 顚倒「右ト左トガ、あちをちニナッタ」

あちをち (代) [彼此] 〔あち(彼方)ノ語原ヲ見ヨ、あっちをっちト云フハ、急呼ナリ〕カナタト、コナタト。アチラコチラ。アッチコッチ。著聞集、十七、變化「あちをちト歩キテ、喉ノ乾キタルニ」中務內侍日記 弘安三「小柴、あちをち、多ク結ヒマハシ、黑木ノ鳥居、アマタ建テタル」史記抄(文明)十「司馬遷ガ、あつちをつち歩イタ時ノ事ゾ」

あぢ-ざけ (名) [味酒] 味酒ヲ、稱ヘテアヤマリシ語ナリト云フ。語彙、あぢざけ「甘美キ酒ヲ云フ、古ヘ、味酒ト云ヒシヲ、中古ヨリ、字ニ據リテ、あぢざけトトナヘ始メシナリ」七十一番職人歌合(文安、三六番、酒作)「味ざけノ、かすみシ空ニ似タルカナ、あまけノ月ノ、シボリ出デツツ」(霞、糟見、雨氣、甘氣トカケタルカ)

あぢ-さし (名) 〔假名遣、知ラレズ、あぢ鴨ニ緣アル語カト認メテ、ぢトシタリ、サレド、詳ナラズ〕水鳥ノ名。鷗ニ似テ小サシ、翼、細長クシテ、嘴、細ソク、末、尖ル、尾ハ、燕ノ如ク、二股ヲ成ス、羽ノ色ハ、大概、上部ハ、灰青ニシテ、下部ハ白シ、サレド、種類多クシテ、色ニ異同アリ。俚言集覽、あじさし「鳥名、燕ニ似テ、大キサをばしぎノ如シ、大、小、二種アリ」

あぢさは-ふ (枕) [味澤相] 〔あぢハ、阿治鴨ノ事ナリ、冠辭考、一、あぢさはふ「阿治多經ニテ、味鳧ノ、多ニ群レテ經ワタル意ニテ、むれハ、めト約レバ、目ニツヅクナリ」萬葉集、六 廿長歌「沖津島、味經ノ原ニ」(攝津ノ地名)契沖ノ說ニハ、あぢがもハ、沖ニ棲ム鳥ナレバ、沖津島あぢふ、トツヅケタリ」トアリ、又、角障經ト云フ枕詞ノ、石ニツヅクモ、つぬハ、蔦ニテ、蔦ノ、多ニ經ワタル意ナリト思ハル、以上、迂遠ナルヤウナレド、先ヅハ此ノ如シ、萬葉集古義ノ枕詞解ニ、一說アレド、首肯セラレズ〕目ト云フ語ノ枕詞。萬葉集、二 三十長歌「味澤相、目辭モ絕エヌ」(逢フコト)同、六 六十長歌「味澤相、妹ガ目離レテ」同、十二 十五「味澤相、目ニハ飽クトモ」同、九 三十四長歌「味澤相、宵晝ト云ハズ」(コレハ、二句ノ間ニ、目辭毛絕而、烏玉之ナド云フ二句、脫チタルニヤアラムト、古義ノ枕詞解ニ云ヘリ)

あぢさゐ (名) [紫陽花] 〔集眞藍ノ約轉(阿治ノ語原ヲ見ヨ、眞靑、さをトナル)〕又、アヅサヰ。灌木ノ名。高キハ五六尺ニ至ル、葉ハ、對生シテ、大キサ四五寸アリ、長楕ニシテ、先キ尖リ、周邊ニ鋸齒アリ、初夏ニ、莖ノ頭ニ、小サキ花ヲ開ク、四瓣ニシテ、數十ムラガリ咲ク、歌ニ、四枚の花ト詠メリ、色ハ、初メ、黃白ニシテ、後ニ、碧、或ハ、淡紫等ニ變ズ、故ニ、七變化ノ名アリ。紫繡毬 萬葉集、四 五十七「味狹藍」同、二十 四十六「安治佐爲ノ、八重咲クゴトク」六帖、六、草「あぢさゐノ、花ノ四片ニ、逢ヒ見テシガナ」倭名抄、二十 廿六「白氏文集律詩云、紫陽花、安豆佐爲」名義抄「同、アヅサヰ」

あちち (名) [熱] 小兒ノ語。火、又ハ、灸ヲ云フ。

あぢ-つけのり (名) [味付海苔] 淺草海苔ニ、淡キ醬油汁ヲ塗付テ、炙リタルモノ。好キホドニ切リテアレバ、ソノママニ食ハル。

あぢ-な・い (形) [無味] 不味イ。(旨しノ反)モミナイ。モムナイ。(關西) 物類稱呼(安永)五、言語、あぢなし「食物ノ味ヒ淡キナリ、江戶ニテ、うまくないト云フ也、東國ニテ、まづいト云フ」

あぢはひ (名) [味] (一)アヂハフコト。アヂ。天治字鏡、四 廿「鹹、美加支阿地波比」(二)物事ノオモムキ。オモシロミ。趣味。伊勢物

語、四十四段「此歌ハ、アルガ中ニ、オモシロケレバ、心トドメテ讀マズバ、腹ニ、深キあぢはひ モ出デ來ジ」[illegible]ナメヨ」史記、[illegible]

あぢは・ふ アジ・ワ・ウ ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (他動、四) 玩味 〔味ヲ活用ス、(幸はふ、賑はふノ名詞形ニ、あぢはひト云フ)〕(一)(二)味ヲ試ミル。皆メテ、味ヲ取リトメムトス。名義抄「味、アヂハフ」寢覺記(一條兼良)「ロニあぢはふ所ヲナムベカラズ」(二)深ク意義ヲ考ヘミル。「文義ヲあぢはふ」

あぢは・ふ ・フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ (他動、下二) 〔玩味 淺ふ、さらふる〕前條ノ語ニ同ジ。言塵集(應永、今川了俊)序「風體ヲ、朝ナタナ、あぢはふるホドノ、古書アルベカラズ」

✣**あぢはへ・る** アジワエ・ル (動) 玩味 前條ノ語ノ口語。

~**あぢまさ** アジマサ (名) 檳榔 「語原、詳ナラズ、倭訓栞、あぢまさ「日本紀ニ、檳榔ヲ讀メリ、味勝ノ義ナルニヤ、閩種ナレバ、日本ニモ傳ヘテ食フナルベシ」トアレド、垂仁天皇ノ朝ニ、閩種ヲ傳フト云フコト、アルベカラズ、蒲葵ハ、九州ノ南地ニ野生アレド、檳榔ハ、我ガ邦ニナキモノナルニ、混ジテ、此字ヲ充テテ記シシナリト云フ、サレド、出雲國ニテ云ヘルコト、不審ナリ」蒲葵ノ古名。其條、幷ニびんらう(檳榔)ノ條ヲ見ヨ。古事記、中(垂仁)四十「檳榔之長穗宮(出雲國)」同、下(仁徳)四十「淡路ニテノ大御歌ニ、阿遲摩佐ノ、島モ見ユ」本草和名、十九十七「檳榔、阿知末佐」倭名抄、十七「檳榔[illegible]」「本草和名云、和名、阿知末佐、云云、按、阿知末佐、蒲葵之和名、檳榔、[illegible]、蒲葵、其狀相似、故多混淆」文選、上林賦、李善注「檳榔、一名、椶」唐韻「椶櫚、一名、蒲葵」(漢土ニテモ、混ジタリ)

~**あぢ-まめ** アジマメ (名) 藊豆 〔倭訓栞、後編、あぢまめ「味豆ノ義ナルベシ」二種異ナレル味アリト云フニヤ、藊ノ字ハ、子ノ美、扁平ナル意、即チ、ひらまめナリ〕ふぢまめノ古名。ヒラマメ。本草和名、下二十「藊豆、阿知末女」倭名抄、十七三十「藊豆、阿知末女」康煕本草、[illegible]比良末女、阿知末女」

~**あぢ-むら** アジムラ (名) 阿治群 あぢ(阿治)ノ條ヲ見ヨ。

あぢ-も アジモ (名) 味藻 甘藻ノ條ヲ見ヨ。

あ-ちゃ (名) 阿茶 〔中國人ノ、中ヲ探リテ、阿中ノ轉ニモアルカ、阿爺、大人ナド云フ意、阿(接頭語)ノ條ヲ見ヨ〕長崎ニテ、唐人、即チ、支那人ヲ呼ブ語。親愛ノ意アリ、あちゃさんト云フ。支那人ノ寺ヲ、あちゃ寺ト云フ。俚言集覽、あちや「長崎ニテ、支那人ヲ云フ」

あ-ぢゃう アジョウ (名) 阿娘 阿母ノ條ヲ見ヨ。

あちら (代) 彼方 〔らハ、添ヘタル辭、其條ヲ見ヨ、但シ、あちトノミ云フヨリハ、稍、敬意アリトオボユ〕あちニ同ジ。アナタ。俚言集覽、あちらをむく「彼方ヲ向クナリ、轉ジテ、人ノ、我レニソムクヲモ云フナリ」

あ・つ ・ツル・ツレ・テ・テ・テヨ (他動、下二) 當 (一)〔ツキアハス。觸レシム。枕草子、六、五十段「廂ノ柱ニ、背ヲあてテ、此方サマニ向キテ、オハシマス」狹衣、二、下二十三「夜モスガラ、泣キアカシタマヒテ、云云、(女ノ)顏ニあてテ、泣入リシ涙ノアト、イト著ク」(二)〔合ハス。アテハム。宇津保物語、俊蔭六五「若シ、カカル事、世ニ聞エバ、汝等ヲサヘ、罪ニあてムト、戒メタマヒテ」「法律ニ當つ」(三)〔當ラシム。サラス。古事記、中(應神)七十「長歌、其中土ヲ、云云、眞日ニハ阿弖ズ」拾遺集、六、別「露ニダニ、あてジト思ヒシ、人シモゾ、シグレ降ル頃、旅ニ行キケル」[illegible]ニモあてテ、[illegible]シミシモノヲ」(散リガタナル枝ヲ、人ニ贈リシ歌ナリ)(四)カザス。「火ニあてテ、アタタムル」(五)あてるヲ見ヨ。

あ・つ ・ツル・ツレ・テ・テ・テヨ (他動、下二) 中 〔目的ニ當つノ意〕(一)(二)目的ニトドカス。天武紀、下、五年正月「親射于西門庭、中的者、則給祿有差」[illegible]云云、[illegible]「ココカシコト、思シあつるニ、云云、[illegible]ド聞ハセタマヘド、サシテ、聞エあつるコトモナシ」[illegible]月抄「占ナドノ僞カ」(三)あてるヲ見ヨ。

あ・つ ・ツル・ツレ・テ・テ・テヨ (他動、下二) 充 〔當つノ意、此語ニ、普通ニ、宛ノ字ヲ書ク、コレハ、依然ノ意ナル、宛然ノ宛ニハアラズ〕靈異記、上、第一縁「年米春時、其家室於稻春女等將充間食」同書考證、上七「天平勝寶四年東大寺封戸牒、作死」繼體紀、六年十二月「以物部大連麁鹿火充宣勅使」皆、充ノ譌書字ナリ、是レ等ヲ訛シテ、宛ト書クナリ」(一)〔割リアツル。アテガフ。宇津保物語、俊蔭六「山ノホトリニカカリクル獸ハ、阿修羅ノ食トセヨト、あてラレタリ」漢書、揚雄傳「充庖廚而已」註「師古曰、充、當也」「課役ヲ充つ」「藥ヲ酒ニ充つ」(二)あてるヲ見ヨ。

あつ-あつ (感) 軋軋 物ノ、相軋ル聲ニ云フ語。劉克莊、董福行「大車小車聲軋軋」陸游詩「織室踏、機鳴軋軋」杜牧、登九峰樓詩「歸櫓何時軋軋鳴」(故事熟語大辭典)

~**あつ・い** (動) 病篤 あつゆノ條ヲ見ヨ。

あつ-いた (名) 厚板 (一)厚サノ多キ板。(二)いたのものノ條ヲ見ヨ。(三)一種ノ織物ノ名。俚言集覽、あついた「織物ノ名、琥珀地ノ如ク、經、[illegible]、生絲ヲ用キテ、地紋ヲ織出シタル物ナリ」

✣**あつい-もの** (名) 熱物 あつもの(羹)ヲ見ヨ。

あつ-うん (名) 遏雲 〔韻會「遏、阿葛切」[illegible]〕[illegible]妙ナルニ云フ語。列子、湯問篇[illegible]

~**あつ・え** (動) 病篤 あつゆノ條ヲ見ヨ。

~**あつ-えふ** アツコウ (名) 厚紙 あつがみ(厚紙)ヲ見ヨ。

~**あ-つか** (名) 東草 あをくさノ條ヲ見ヨ。

✣**あっか** (名) 明 小兒ノ語。燈火ヲ云フ。

あつ-かは アツカワ (名) 厚皮 〔面ノ皮ノ厚キ意、恥ニ感ゼヌヲ云フ、つらのかはヲ併セ見ヨ〕恥ヲ恥ト思ハヌコト。鐵面ナルモノスルコト。無恥。鐵面皮。厚顏。強顏 詩經、小雅、巧言篇「巧言如簧、顏之厚矣」文選、[illegible]「[illegible]」[illegible]、第七十四則「面皮、厚三寸」

~**あつかは・し** アツカワ・シ ・シキ・シケレ・シク・シク (形、二) 〔暑熱 悶熱ふノ未然形ノ、あつかはヲ活用セシム、煩ふ、わづらはし、同ジ〕(一)アツクルシ。源、廿六、常夏三「イト暑キ日、云云、水ノ上無德ナル、今日ノあつかはしサカナ」同、廿五、[illegible]「あつかはしきサミダレ髮ノ、[illegible]ルモ知ラデ、書キタマフ」榮花物語、三十六、根合「四條ノ宮ニワタラセタマヒヌ、狹クあつかはしきココチス」(二)ワヅラハシ。煩 源、廿五、

愛五、姫君ハ、云云、大殿籠リニケルヲ、宰相ノ君ノ、御消息傳ヘニ、居ザリ入リタルニツケテ、イト、アマリあつかはしき御モテナシナリ、云云」湖月抄、師「わづらはしきサマナリ」

あつかひ (名) |扱| 〔あつかふ(扱)ノ語原ヲ見ヨ〕 (一)アツカフコト。アツカフ仕方。 |待遇| 榮花物語、十一、蕾花「此頃ハ、少シ、心ノドカゲニテ、云云、若君ノ御あつかひニ、ワタラセタマフ」「來客ノあつかひ」 (二)戰爭、爭論、訴訟ナドノ仲裁。和解。 |調停| 足利季世記、八、織田氏、朝倉氏和睦「公方樣(足利義昭)ヨリ、御使ヲ添ヘラレ、兩方、和談アリテ然ルベシ、トテ、御扱アリケリ」總見記、十一「新將軍源義昭公ヨリ、云云、信長ト、淺井、朝倉、和睦ノ儀、御扱アリ」言經卿記、慶長八年七月十九日「八條町衆、口論之事、各來了、相濟了、廣橋頭相、あつかひ也」御定書百箇條「公事、扱願候節、日數廿日可レ限」

あつ-がひ (名) |厚貝| 介ノ名。殼ハ、長卵形ニシテ、五寸バカリアリ、甚ダ厚クシテ、內ハ、眞珠色ヲ呈シ、裝飾品ニ用キラル、琉球、又ハ、小笠原島ノ海ニ產ズ。

あつかひ-ぐさ (名) |扱種| モテアツカヒノ種。イヒグサ。 |話柄| 狹衣、三、上三十七「今姬入內「メデタキニツケテモ、世ノ人ノ物言ヒハ、聞キニクキモノニテ、此頃ノあつかひぐさニコソ、言ヒノノシリケレ」

あつかひ-にん (名) |扱人| 爭論ナドヲ和解スル人。仲裁人。 |調停者|

〔**あつ-か・ふ**・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (自動、四) |悶熱| 〔熱ヲ活用ス、あてがふナドモアリ〕 (一)火ノ熱キニ苦シミ惱ム。 神代紀、上十伊弉冊尊、火神ヲ生マムトシタマフ時「悶熱懊惱」私記「安豆不比」義疏「火氣之傷也」 日ノ熱ノ暑キニモ云フ。 字鏡二「暍、阿豆加布」說文「暍、傷レ暑也」 (二)思ヒヲ焦ス意ニ轉ジテ、悶ユ。心ヲ痛ムル。思ヒ煩フ。 |焦慮| 繼體紀、八年正月「涕泣惋痛、不レ能ニ自勝一」 孝德紀、大化五年三月「傷心痛惋」 源、四、夕顏六「病者ノ事ヲ、思ヒタマヘ、あつかひハベルホドニ」 同、廿一、少女四十三「幼キ程ヨリ見ナラハシテ、云云、ナツカシウ、アハレニ思ヒあつかひ奉リタマフ」 (三)轉ジテ、心シラヒス。氣ヅカフ。懸念ス。 |注意| 源、二、帚木四十七「此子ヲマツハシタマヒテ、云云、マコトニ親メキテあつかひタマフ」 同、四十八、寄生五十四「細カナルウチウチノ事マデ、云云、あつかひシラセタマフ」 枕草子、八、七十八段、むつかしげなるもの「チヒサキ子供ナド、アマタ持チテ、あつかひタル」

あつ-か・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (他動、四) |扱| 〔前條ノ語ノ(三)ノ意ノ、他動ニ轉ジタルナリ、もてあつかふト云フガ正シキナルベシ、扱ハ、手及ノ合字、手ノ及ブ意、古寫本節用「扱」曖ノ字ハ、親愛ノ口入ノ合字、玉篇「曖、曖氣也」ノ義ニハアラズ」 (一)モテアツカフ。遣フ。用キル。 |使用| 枕草子、九、百九段、笙ノ笛、云云、所狹ク、もてあつかひニククゾ見ユル」 夫木抄、廿七、山陵鳥「山雀ノ、廻ハス胡桃ノ、トニカクニ、もてあつかふハ、心ナリケリ」「槍ヲあつかふ」長刀ヲあつかふ」 (二)マカナフ。計ラヒ行フ。取リサバク。 |處理| 「御用ヲあつかふ」 (三)モテナス。アヘシラフ。 |待遇| 「重ク其人ヲあつかふ」 (四)戰爭、爭論ノ間ニ入リテ、中直リセシム。仲裁ス。 |媾和| |和解| |調停| 總見記、十一、淺井氏、朝倉氏、織田氏、和睦「綸旨、并ニ、將軍嚴重ノ御書ヲ、雙方ヘ下サレ、和睦仕ルベキトノ義ナリ、云云、上使、此旨ヲ取曖はルルニ、先ヅ、信長公、御請ヲ申サレ、云云」 言經卿記、慶長八年七月二十日、八條町ノ侍口論「八條殿町衆、あつかひタキノ由申シ、然共奉行次第之由申了」

❖**あつ-かま・しい** (形) |厚顏| 〔厚皮しノ轉〕(みだりがはし、さしでがまし)」恥ヲ恥ト思ハズシテアリ。

〔**あつ-がみ** (名) |厚紙| 〔あつやうト云フハ、厚樣紙ノ略ニテ、厚樣紙ノ意ナルベシ、(錦樣、金襴樣)薄樣モ同ジ〕 鳥子紙ノ古名。其漉法、厚手ナレバ名アリ。又、厚樣紙。厚樣。其薄手ナルヲ、薄紙、又、薄樣ト云フ。(今、常ニ云フうすやうトハ異ナリ) 左右京職式、田籍「襟紙料、厚紙、五十三張」 著聞集(永延)五、和歌「順德院御位ノ時、當座ノ歌合アリケリ、云云、厚紙ヲ、賭物ニ積マレタリケル」 萬葉集仙覺抄(文永)跋文「鎌倉右大臣所レ携萬葉集、表紙用ニ厚樣紙一」 內匠寮式、御輿一具「料、薄紙、十六張」 源、十三、明石廿五「イタウナヨビタルうすやうニ、イトウツクシゲニ書キタマヘリ」 類聚雜要抄(大治)四、硯箱臺子「身納ニ薄葉三帖、紅、紫、白」 下學集(文安)下、器財「厚紙、薄樣」 運步色葉集(天文)紙名「厚樣、薄樣」 安齋隨筆、二十(後編、五)薄樣「古代、厚紙、薄樣アリ、鳥子紙ニテ、あつやう、うすやう、ノ品アリ、薄紙ハ、うすやうナリ、今ノうすやうニハアラズ、鳥子ノ薄キナリ」

あつ-がみ (名) |厚紙| (一)美濃、土佐等ヨリ製出スル、一種ノ生紙。甚ダ厚シ、傘ヲ張リ、又ハ、織物ノ包ナドニ用キル。 (二)板目紙ノ一名。

あつ-がん (名) |熱燗| 酒ノ燗ノ、甚ダ熱キモノ。 |熱酒|

あづかり (名) |預| (一)預リタルコト。引受ケテ守ルコト。 |受託| 「預り物」預り金」預り證書」預り手形」預り人」預り主」 (二)〔委任ヲ受ケタル者。 源、六、末摘花廿「御車出ヅベキ門ハ、マダアケザリケレバ、鑰ノあづかり尋ネ出デタレバ、翁ノイミジキゾ出デ來タル」 宇津保物語、藤原君三十二「たかもとノ御子ノ、商ヒシタマフトコロ「車ニ魚、鹽、積ミテ來タリ、あづかりドモ、數ミ取リテ、店ニスヱテ賣ル」 (三)勝負事、會議ナド、未決ノママニナシオキテ、追ッテ處決スベキコト。保留。 相撲今昔物語、安永五歲、出水川、谷風、手合之事「此角力、江戶、京、大坂ニテ、每歲、預りトナル」

〔**あづかり** (名) |預| 〔預り引受ケテ守ル意〕 職名。其官署ノ事務ヲ總管スル者。御書所預、御廚子所預、繪所預ナド、是レナリ。 古今集、序「御書のところのあづかり紀貫之」 源順集「御書所預坂上茂樹」 拾芥抄、中、末、宮城「御廚子所、四位殿上人爲ニ別當一、以ニ民部大輔五位一爲レ預也」 倭訓栞、あづかり「諸院ニ預アリ、職掌ノ名也、古ヘニ云フ、專當ナルベシ、云云、高野ニテ、預ヲ、音モテ呼ベリ」

あづかり-しょ (名) |預所| (一)莊園ナド、支配スル役所。 (二)預所ノ長。 吾妻鏡、十七、建仁二年五月三十日「田百四十町六段、停ニ止預所土肥彌太郎遠平ノ被レ附ニ箱根山一」 (三)預地。

あづかり-しょうけん (名) |預證券| 〔英語、Warehouse receipt. ノ譯語〕 倉庫業者ガ、貨物寄託者ノ請求ニ依リ、貨物保管ノ證トシテ、質入證券ト共ニ、寄託者ニ交付スル證券。

あづかり-しょうもん (名) |預證文| 人、又ハ、金錢ノ寄託ヲ受ケタル者ガ、受ケタル旨ヲ記シテ出ス證書。預證書。 享保集成絲綸錄、四十四、寶永四年八月「出入有レ之者ヲ、其所ヘ斷リ預ケ候ハバ、家主ヨリ、預リ證文取可レ申、云云」(出入トハ、訴訟ノコト)

あづかり-ち (名) |預地| 德川時代ニ、官地ヲ、大名ノ預リ居ルトコロ。又、預リ所。 幕府ノ方ヨリハ、御預ケ地ト云フ。 敎令類纂、初集、五十五「中屋敷、下屋敷、抱屋敷、預り地」

あづかりまう・す（アズカリモウ・ス）・ス・セ・サ・シ・セ（自動、四）［[illegible]］關白ノ[illegible]、關白ハ、漢語ニテ、（其條ヲ見ヨ）白ハ、申ス義ナレド、國語ニ、政[illegible]ヲ執行スルヲ、まをす、まうすトモ云フナリ」關白ノ職務ヲ執リ行フ。[illegible]、あづかりまうす「關白ヲ申シ奉ルナリ、云云、夜ノ關白ト稱セシハ、[illegible]、[illegible]二[illegible]セラレ、夜、常ニ入リテ侍ルヲ以テナリ、年中行事ノ歌ニ「勅命、再ビウケテ、此君ノ、あづかりまうす、關ゾカシコキ」ふたたびうけてハ、覆奏ナリ」

あつ・が・る（アツ・ガ・ル）・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）［苦熱］〔一暑がる、嬉しがる〕暑氣ヲ、暑ク感ジ思フ。（人ノ性質ノ、暑サヲ恐ルルニ云フ）

あづか・る（アズカ・ル）・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）［預與］〔他動ノ參ふるノ意ノ預くるノ、受身ノ預けらるガ、約リテあづかるトナリ、活用ヲ轉ジテ、自動トナレルナリ、（授く、さづけらる、さづかる。助く、たすけらる、たすかる）正韻「預、參預也、干也、通作ㇾ與」〕（一）參ル。カカハル。關係ス。名義抄「預、與、アヅカル」同、六部「與、アヅカル」「政治ニあづかる」會議ニあづかる」（二）參ルコトヲ得。嘗ルノ意トナル。新後撰集、九、釋敎、[illegible]「大合ノ門、御尋ニあづかる事、代代ニナリヌル事ヲ思ヒテ、詠ミ侍リケル（歌）」今昔物語、一、三十四「[illegible]ノ御名ヲ唱ヘテ、利生ニ預ラムト云テ、[illegible]、[illegible]ヲ[illegible]ケテ、南無釋迦牟尼佛、[illegible]、ガ言ヲ[illegible]ヒタマヘト申ス」年中行事歌合、六番、春日祭、判詞「春日ノ御神、云云、宮常ニあづからセタマフ」（三）因ル。係ル。因〔[illegible]行ハ、教育ノ力ニあづかる」〕

あづか・る（アズカ・ル）・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）［預］〔寄託ノ、るノ受身ノ、あづけらるノ約、其變轉、前條ノ語原ニ同ジ、（上ニ、[illegible]ヲ受ク

レド、自動ナリ、[illegible]ノ[illegible]ヲ慣用スレモ、ソレヨリ[illegible]レ[illegible]リ[illegible]預ケラレテ守ル。引受ケテ保ツ。保管ス。［受託］名義抄「預、アヅカル」仁德紀位前紀「臣所任屯田」孝德紀、大化二年八月[illegible]、云云、[illegible]、公民、（公領ノ民）[illegible]、（私領ノ民）[illegible]之任、[illegible]、官家、[illegible]、[illegible]、[illegible]、云云、[illegible]、[illegible]、内印、井、草子、八、八十段、苦しげなるもの「强キ物怪、あづかりタル驗者」大和物語、下、夜、晝、コレヲあづかりテ、取飼ヒタマフホドニ、イカガシタマヒケム、逃シタマウテケリ」

あつ・き（形）厚し、又ハ、熱しノ條ヲ見ヨ。

あつ-ぎ（名）［厚着］衣ヲ多ク重ネテ着ルコト。重襲　重ネザルヲ、薄着ト云フ。

あ-づ-き（アズキ）（名）［赤小豆］〔醫心方、三十「赤小豆、赤粒（アカツブ）」成形圖說（文化）十八「赤小豆、赤粒木ナドノ義ニヤ」〕（向子、むさ（麥））。頭實く、かづく（潜）草ノ條ヲ見ヨ〕稃モ、厚房ナリト云フ」豆ノ類。實ノ、大豆ヨリ小サキモノ。セウヅ。專ラ、あづきト稱スルハ、夏至ニ種ヲ下シテ、秋、收ム、高サ二尺許、枝、葉、ささげニ似テ小サク、秋、葉腋ニ、蝶形ヲナシテ、黃花ヲ開ク、莢、長サ二三寸、實ハ、赤クシテ黑ミアリ、他種ニ別チテ、あかあづきトモ云フ。赤小豆、大、小、ノ二種アリ、小サキハ、早ク熟ス、夏小豆ト云フ、[illegible]熟　大ナルハ、秋、熟ス、秋小豆ト云フ。秋赤豆　共ニ、種類アリ。又、まろあづき、くろあづき、やへなりあづき、ナドアリ。神代紀、上十二「大豆、小豆」本草和名、[illegible]「赤小豆、阿加阿都岐」倭名抄、同ジ[illegible]、廿二年四月、長[illegible]阿豆岐島」（今ノ讃岐國ノ小豆島）

あづき-アン（アズキ-アン）（名）［赤小豆餡］餡ノ條ヲ見ヨ。

あづき-いろ（アズキ-イロ）（名）［赤小豆色］赤小豆ノ子ノ色[illegible]色ノ、黑ハミタルモノ。

あづき-がは（アズキ-ガワ）（名）［赤小豆革］〔色、赤小豆ノ子ノ如シ〕なめしがはノ、厚クシテ、大[illegible]アリテ、赤黑ク染メタルモノ、[illegible]ハ、阿蘭陀ノ産ヲ[illegible]來セリ、後ニハ、和製モ出來タリ。

あづき-がゆ（アズキ-ガユ）（名）［赤小豆粥］〔正月十五日ノ粥ノ事、支那ノ風習ヲ移シタルナリ」（一）赤小豆ト餅トヲ入レテ煮タル粥。色、赤シ、正月十五日ノ朝食ニ供ス、東京ノ民間ニテハ、其一部ヲ殘シテ、十八日ニ、又、食フ、十八粥ト云フ。[illegible]「正月十五日供御、七種粥料米、一斗五升、粟、黍子、[illegible]子、[illegible]子、[illegible]、小豆、各五升、[illegible]四升」土佐日記、正月十五日「今日、あづきがゆ煮ズ」（船中ナレバナリ）枕草子、一、第三段「十五日ハ、もちがゆノ節供參ル」公事根源（一條兼良）正月十五日「亥ノ時、あづきの粥ヲ煮テ、云云、是ヲ食スレバ、年中ノ邪氣ヲ除クト云フ」荊楚歲時記「正月十五日作豆糜、加油膏其上、以祠門戶」[illegible]（延寶）一、正月十四日「今夜、諸公家[illegible]、[illegible]二枚[illegible]、[illegible]家[illegible]門戶、則此宵入二十五日赤小豆粥内、同食[illegible]之」守貞漫稿、廿六「正月十五日、云云、三都共ニ、今朝、赤小豆粥ヲ食ス、云云、江戶ハ、專ラ、白砂糖ヲカケテ食ス、今日ノ粥ヲ[illegible]ヘテ、正月十八日ニ食ス、俗ニ、十八粥ト云フ、京坂ニハ此事ナシ」（二）天台大師ノ忌日ニモ、赤小豆粥ヲ煮テ食フ。[illegible]、だいしこう「十一月廿三日ヲ、[illegible]師講ト云ヒ、赤小豆粥ヲ調ヘ食フ、天台大師ノ忌日ハ、廿四日ナレド、廿三日、滿山ノ講衆ニシテ、僧侶モ、早朝、粥ヲ、影前ニテ喰フヨリ、事起リタリ、ト云ヘリ」

あ-づき-な・し（アズキナ・シ）（形）[illegible]、[illegible]條ヲ見ヨ。

あつ-ぎぬ（名）［[illegible]］[illegible]ノ[illegible]、[illegible]、[illegible]二十二、[illegible]、小袖十重」

あつ-ぎぬ（名）［厚衣］綿ヲ入レタル衣。[illegible]、[illegible]、云云、一重ノ衣、云云、冬ハ綿入レ、是レヲ、わた衣トモ、あつ衣トモ云フ、[illegible]」

あづき-の-はな（アズキノハナ）（名）［小豆花］〔腐婢ト云フハ、本草、穀米條ニ「李時珍曰、赤小豆、至ㇾ秋開ㇾ花、有ㇾ腐氣」トアリ」赤小豆ノ花。藥用トシテ、漢名アレバ、特ニ云フ。[illegible]トシタル語ナリ、[illegible]「[illegible]、小豆花也、[illegible]（倭名抄、[illegible]）」

あづき-めし（アズキメシ）（名）［赤小豆飯］赤小豆ヲ、米ニ雜ヘテ炊ギタル飯。アカノメシ。アカノマンマ。糯米ナルヲ、赤飯ト云フ。何レモ、色赤シ、祝儀、祭禮ナドアル時ニ供ス。梵舜日記、天正十一年三月九日「本所ニ[illegible]赤小豆飯作ㇾ之」[illegible]、[illegible]、[illegible]作[illegible]、八丈[illegible]、[illegible]、[illegible]リ、何ノ食シ給フ、あづきめし豊[illegible]、[illegible]食物[illegible]飯」[illegible]記、足利時代[illegible]三日、[illegible]、五月五日、[illegible]、[illegible]」天明集成絲綸錄、二、寶曆十年三月廿八日、將軍宜下[illegible]以下[illegible]、[illegible]、小豆三升[illegible]之、[illegible]、[illegible]物

あづき-もち（アズキモチ）（名）［赤小豆餅］赤小豆餡ヲ、[illegible]、[illegible]、[illegible]之

ニ、三方ノ臺、色、アクマデ黒キニ、コロコロトスル、赤小豆餅ヲ載セテ、出サレタリ」本朝食鑑(元祿)一「赤小豆、云云、煮熟抹、餅」

あつく (形) 厚し、又ハ、熱しノ條ヲ見ヨ。

あづく・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ (自動、下二) 預 〔あハ、充つノ語根、倭訓栞、あづく「充附くるノ義ナルベシ」あてがふト同意〕 參フ。加ハラシム。使參預 伊勢集「春宮ノ女御ノ御方ノ花ノ賀ニ、召シあづけラレタリケルニ」

あづく・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ (他動、下二) 預 〔前條ノ語ヨリ移リタル語ナルベシ、サレバ、通ジテ、預ノ字ヲ用ヰラル、あづかるノ語原ヲ見ヨ〕 物ヲ、人ニ引受ケサセテ、守ラス。寄託 孝德紀、大化元年八月「可下兼二其兵一而猶假中授(北野本)本主上」源、四、夕顏十「頼ナバ、サルベキ人ニあづけテ」

あつくる・し・シキ・シケレ・シク・シク (形、二) 熱苦 アツカハシ。苦シク熱シ。苦熱 枕草子、九、百十三段(語彙所、引異本)「あつくるしう、待チ困ズルホドニ」(賀茂祭見物ノ牛車ノ群集ニ云ヘルナリ)

あっくゎん (名) 壓卷 〔一卷中ノ、他ノ詩文ヲ壓倒ス〕 詩文集ナドノ中ニテ、最モ優レタル詩文ヲ稱スル語。白眉。「集中、此作ヲ壓卷トス」

あつけ (名) 暑氣 夏ノ、暑キコト。アツサ、暑氣。爲忠集「涼シクモ、衣手輕シ、禊川、あつけハラヒテ、カヘルサノ森」

あつけ (名) 暑氣 〔氣ハ、病ナリ(脚の氣、時の氣)〕 暑サニ犯サレテ病ムコト。アツサアタリ。中暑。狹衣、四、上四十五「夏之方ヨリ、母上、ナヤマシゲニシタマフヲ、例モ、あつけニハ、サノミコソハト」

あづけ (名) 預 「あづく(預)ヲ見ヨ」 (一)預クルコト。寄託 「あづけ主」あづけ物」あづけ金」 (二)刑ノ名。德川氏ノ制ニ、罪アル人ヲ、某ノ人ニアヅケテ、禁メオカシムルコト。召預ト云ヒ、御預者ナド云ヒキ。武士ハ、大名預ケトス、終身ナルヲ、永預ケト云フ、庶人ハ、町預ケトシ、名主、月行事ニ付シ、村預ケハ、村役人ニ付ス、宿預ケハ、田舍ノ者ヲ、其旅人宿ニ付ス、士庶、共ニ、幼者、癈疾者ハ、其親族預ケトスルナリ。藩翰譜、四、中、大久保忠隣「其所領ヲ收メ、井伊兵部少輔直勝ニ預ケラレ訖ンヌ、子息右京亮、同主膳正、二人、酒井備後守忠利ヲ預人トシテ、武州河越ノ城ニ召禁ゼラル」

あつけくㇺ (副) 暑 〔あつけくハ、あつくノ延、(寒く、さむけく)あつけくあるㇺノ意ト云フ〕 暑クアルニ。アツクルシキニ。萬葉集、九廿登二筑波山一長歌「熱爾、(古義ノ訓)汗カキナゲキ、木根取リ、嘯キ登リ」

あつげしやう (名) 厚假粧 白粉ヲ濃ク假粧スルコト。濃粧 薄キヲ、薄假粧ト云フ。淡粧

あづけち (名) 預地 あづかりちヲ見ヨ。

あっけな・い (形) 〔あくけなしノ條ヲ見ヨ〕 物足ラヌ意ヲ云フ語。ハカナシ。不滿足ナリ。「芝居見物、一幕限デハあっけない」

あっけ-に-とられる (句) 茫然自失 あんけ(開口)ヲ見ヨ。

あっけらかん (副) 痴呆 あんけ(開口)ヲ見ヨ。

あづける (動) 預 あづく(寄託)ノ口語。

あつご (名) 歌伎 〔けつごナルベキナリ〕 けつごヲ見ヨ。

あつごゆ・ユル・ユレ・エ・エ・エヨ (自動、下二) 厚肥 甚ダ厚クアリ。アツボッタイ。枕草子、七、六十四段「色紙ノあつごえタルヲ、アヤシト見テ、アケモテユケバ」仁信明集「中將ハ、あつごえタル物ヲ被キ、耳ヲフサギ、汗シトドニナリテ臥シタリ」(厚衾ナリ)

あつさ (名) 厚 板、紙ナドノ、平面ノ高サ。(長サ、幅、ニ對ス)「板、あつさ一寸」

あつさ (名) 暑氣 アツケ。暑キ氣候ノ、身ニ染ムコト。暑氣。「あつさニアタル」

あづさ (名) 梓 〔倭訓栞、後編、あづさ「梓ヲ訓メリ、云云、今云フ、木ささげナリ、其實ノ形ヲ云フ、木萵豆ノ義ナリ、サレバ、あづさモ、厚房ノ義ニヤ」(上總、かづさ、清濁顚倒、冠、かがふり。あづきモ、赤粒木ナリト云フ)あづさの木ト云フガ、正シキナルベシ〕 (一)樹ノ名。又、あづさの木。今云フ、きささげナリト云ヒ、又、あかめがしはナリト云フ。仁德卽位前紀、長歌「阿豆瑳」萬葉集、十三廿八「刺楊、根張ル梓ヲ」本草和名、下二十八「梓、木名、楸之屬也、阿豆佐」重修本草綱目啓蒙、廿四、梓「李時珍ノ說ニ、木理白者爲レ梓、赤者爲レ楸ト云フ、ソノ白者爲梓ト云フハ、卽チ、きささぎニシテ、倭名抄ノあづさ、是レナリ、又、赤者爲レ楸ト云フハ、卽チ、あかめがしはニシテ、倭名抄ノひさぎ、是レナリ、云云、爾雅翼ニ、室屋之間、有二此木一(梓)則、餘木皆不レ震ト云フ、震トハ、雷ノ落ツルコトナリ、云云、國俗、きささぎヲ、らいでんぎり、又、かみなりささげト呼ビテ、庭際ニ栽エテ、雷ノ難ヲ避クルト云フニ暗合ス」 (二)梓ノ材ヲ用ヰタル版木。支那ニテ、木理細膩ナリトシテ、用ヰタルヨリ云フ。ソレニ彫リツクルヲ、上梓、上木ト云フ。倭訓栞、後編、あづさ「刊板ヲ鐫」梓ト云ヘルハ、良材ナルヲ以テナリ、云云、我ガ邦ニハ、古ヨリ、櫻ヲ用ヰ來レリ」「書物ヲ、梓ニ上ス」 (三)梓弓、梓巫ノ略。各條ヲ見ヨ。

あつさ-あたり (名) 暑中 〔中るノ條ヲ見ヨ〕 アツケ。强キ暑氣ニ弱リテ病ムコト。ショキアタリ。

あっさく (名) 壓搾 「あっさナルベキナリ、唐韻「榨、側嫁切、音詐、打油具也」」 オシテ、シメックルコト。

あつさ-しのぎ (名) 暑凌 暑氣ヲ堪ヘ過スコト。耐暑 「あつさしのぎニ水ヲアビテ」

あっさつ (名) 壓殺 壓シツケテ殺スコト。壓シコロサルルコト。

あづさ-みこ (名) 梓巫 〔倭訓栞、後編、あづさ「梓弓ノ名ニ因リテ、萬葉集ニ、弓ヲ、あづさトノミモ詠メリ、今モ、神巫ニ、其辭殘レリ、直ニ、あづさみこトモ云ヘリ、神ヲ降スニ、弓ヲ以テスルハ、和琴ノ意味ナリ」(其條ヲ見ヨ)市子ト云フハ、前ノ語トハ、品格甚ダ違ヘリ、コレハ市街巫ノ意ナルベク、縣巫ト云フモ、田舍巫ノ意ナリ、(あがたノ條ヲ見ヨ)何レモ、御神巫ニ對シテ云フナリ」〕 巫女ノ、小弓ニ張レル弦ヲ叩キテ、神降ヲシ、死靈、生靈ノ口寄スルヲ業トスル者。髑髏ヲ懷中シ居ルナリ、(くちよせ、并ニ、外法頭ノ條ヲ見ヨ)コレヲ、あづさトノミモ云ヒ、又、市子トモ、縣巫トモ云フ、何レモ、賤シキ女ニテ、賣淫ヲモシタリト云フ、かまばらひナドモ、然リ。カ

カル[illegible]間ノ事、開[illegible]、大[illegible]以後ハ、[illegible]シド廢滅ニ歸セリ、田舍、僻地ナドニハ、存シテ居ルカ。[illegible]「照日ノ巫トテ、隱レ[illegible]拍子」謠曲、葵上(北朝ノ頃)「照日ノ巫トテ、隱レナキあづさ[illegible]ノ上手ノ候フヲ召シテ、[illegible]ノ[illegible]ヲ、あづさ(梓弓)ニ掛ケサセ申セ、トノ御事ニテ候、云云、ヤガテ、あづさニ引掛ケ候ヘ[illegible]最初ノ[illegible]「天[illegible]、[illegible]人ハ、今ゾ寄リ來ル長濱ノ、[illegible]モノ[illegible]ニ、手綱[illegible]リカケ、云云」[illegible]身上(胡桃)[illegible]子トヤラム云フモノヲ呼寄セテ、云云、ハシタナキ女來リテ、事事シク、弓ノ弦打チソノカシ、云云、[illegible]佛ノオホン名ノミ多ク、片言マジリニ言ヒチラシ、其亡者ノ言傳トテ、サマザマノ嘘ガマシキ事ドモ、マコトシクアハレゲニ言ヒキコユレバ」(節文) 好色一代男(天和、西鶴)三、口舌の事ぶれ「スズシメノ鈴ヲ鳴ラシテ、あがたみこ來レリ、云云、明衣カケ、帶結ビサゲ、薄化粧シテ、眉濃ク、髮ハ、オノヅカラ撫デサゲ、云云」倭訓栞、かんなぎ「みこトモ稱ス、其中ニ、神ヲ降シ、口よせスル一流アリ、[illegible]、[illegible]子、[illegible]城ト見エタリ、西土ニモ、巫場ノ[illegible]アリ、今モ、信州、諏訪ノアタリニテ、[illegible]子アリ、[illegible]ヲ兼ネタリ、[illegible]ニ云フ里みこ、沙石集ニ云フあるきみこ也、[illegible]ニ、村巫ト見エタリ。(節文)」同、くちよせ、覡巫女、懷中スル後佛(ウンザボトケ)ト云フモノハ、異相ノ人ノされかうべモテ造レルトモ云ヘリ、所謂、縣巫ノ所業也」同、後編、あづさ「新猿樂記ニ、覡女ニ、寄弦(ヨセツル)ト云フコト見エタリ」[illegible](安永)二十八人[illegible]「あづさみこ、東國ニテ降巫ト云フ」

あづさ-ゆみ(アズサユミ) (名) |梓弓| (一)梓ノ木ヲ削リテ作レル丸木弓。 仁德即位前紀、長歌「阿[illegible]、[illegible]十八[illegible]長[illegible]、梓弓、手ニ取リモチテ、[illegible]大刀、腰ニ取リ佩キ」兵[illegible]八「梓弓一張、長、七尺六寸、削成三日、一日、小斧削、二日鉋(シコ)」四季草(伊勢貞丈)一「梓弓、梓ノ木ニテ削リタル丸木弓也」(二)前條ヲ見ヨ。

あづさ-ゆみ(アズサユミ) (枕) |梓弓| 「寄る」ト云フハ、弓ヲ引ケバ、本弭、末弭ノ、我ガ方ヘ寄るヲ云フナリ」引ク、張る、射、射る、寄る、反る、音、本、本弭(モトハズ)、末、(末弭)ナド云フ語ノ枕詞、[illegible]十[illegible]「梓弓、引津ノ邊ナル、莫告藻ノ、花咲クマデニ、逢ハヌ君カモ」(引津ハ、筑前國、志摩郡) 同卷云「梓弓、はる山(春山)近ク、家居レバ、續ギテ聞クラム、鶯ノ聲」古今集、十七、雜、上「梓弓、いそべ(磯邊)ノ小松、誰ガ代ニカ、萬代カネテ、種ヲ蒔キケム」後撰集、七、秋、下「梓弓、いるさノ山ハ、秋霧ノ、アタルゴトニヤ、色マサルラム」萬葉集、十四廿「安[illegible]左由美、欲良ノ山邊ノ、繁カクニ」(欲良ハ地名、詳ナラズ) 古今集、十二、戀、二「梓弓、引ケバ、本末、我ガ方ニ、よるコソマサレ、戀ノ心ハ」金葉集、八、戀、下「梓弓、かへる朝ノ、思ヒニハ、引キクラブベキ、事ノナキカナ」萬葉集、二[illegible]十長歌「梓弓、音聞ク吾レモ」(弦音) 同、十一[illegible]「梓弓、末ハシ知ラズ、然レドモ、マサカハ君ニ、縁リニシモノヲ」續千載集、十三、戀、三「引ク方ハ、アマタアリトモ、梓弓、本ノ心ノ、カハラズモガナ」

あつさ-よけ (名) |暑除| 暑氣ヲ避(サ)クルコト。避暑

あっさり (副) |淡白| 〔淺ノ音便(ひそ、ひっそり)〕淺ク淡(ウス)ク。サラリト。サッパリト。(あつ、てりノ反)「あっさりトシタ料理」「あっさりシタ染模樣」

あづ-さゐ(アズサイ) (名) |紫陽花| あぢさゐ(シイ)ノ條ヲ見ヨ。

あっ-志 (名) |壓死| 壓(オ)サレテ死ヌルコト。 神武紀、七「兄猾(エウカシ)、云云、自蹈機而壓(オシ)死」續紀、十一、天平六年四月戊戌「地大震、壞天下百姓廬舍、壓死者多」

アツシ (名) |厚子| 〔蝦夷(アイヌ)語〕(一)あつにノ樹ノ皮ヲ剝ギ、水ニ漬シ、纖維ヲ裂キテ、絲トシテ、織レル布。あいぬ人製シテ、常ノ服トス。筒袖ニシテ、背ト袖、裾ノ緣トニ、木綿切ニテ、刺繡ヲ施ス。(二)一種ノ木綿織物。和泉國ヨリ産ズ、白ト黑トノ[illegible]多シ、質、厚クシテ、久シキニ耐フルヲ以テ、多クハ、勞働者ノ仕事着ニ用ヰラル。あいぬノ厚子ニ似タレバ、名トスルナルベシ。

あつ・し・キ・ケレ・ク・ク (形、二) |厚| (一)表ヨリ裏ヘ、間(アヒ)アリ。重(カサ)リ多シ。(薄しノ反) [illegible]、廿二、玉[illegible]十六[illegible]ノ、スコシ年經、あつきガ、黃バミタルニ」[illegible]河百首、氷「冬深ミ、氷ヤあつく、トヂツラム、音絕エニケリ、谷川ノ水」(二)深シ。濃(コマヤ)カナリ。粗略ナラズ。念ガ入リタリ。 敦 淳 篤 宣化紀、元年五月、詔「[illegible]良客(カガフリ)[illegible]」十、天平元年八月、詔「[illegible]厚[illegible]而」「志あつし」「情あつし」

あつ・し・キ・ケレ・ク・ク (形、二) |熱| (一)〔熱(ネツ)、烈シ。ホトボリツヨシ。(ぬるしニ對ス) 宇津保物語、藏開、下四「あつき火ノ中ニ住(ス)フ心地シテ」(二)〔氣候ノ溫度、甚ダ高シ。暑[illegible]。〕暑シ(寒しノ反) 暑 伊勢物語、四十五段「水無月ノツゴモリ、イトあつきコロホヒニ」(三)思ヒ凝ルコト烈シ。熱心「遊藝ニあつくナル」

あつ・し・キ・ケレ・ク・ク (形、二) |熱| 〔前條ノ(一)ニ同ジ、病熱ニ云フ、次條ヲモ見ヨ〕身體ニ熱氣ヲ生ズ。體溫、高シ。 發熱 源、四、夕顏「三十四御首モ痛ク、身モあつき心地シテ」同、三十四、下、若菜、下「五十二イカナル御心地ゾトテ、探リタマヘバ、イトあつくオハスレバ」同、五十二、手習「六十ウチハヘぬるみナドシタマヘル事ハ、醒メタマヒテ、さはやかニ見エタマヘバ」孟津抄「熱氣サメタルナリ」

あつ・し・シキ・シケレ・シク・シク (形、二) |病篤| 〔前條ノ語ノ、活用ヲ變ジテ、(著(イチジル)き、いちぢるしき。喧(カシマ)き、かまびすしき)唯、病ノ重クナル意トナレルナルベシ、(類聚名物考、百八十四、言語)悶熱(アツカ)ふ、あつゆ、あつしる、ナドモ、同趣ナリ、說文「人疾甚曰、篤」〕病、重ル。違例ナリ。[illegible]

あっ-さく (名) |壓尺| 〔物ノ壓(オサ)トナル、尺ハ、細長キモノ〕計算(サン)ノ漢名。 [illegible]

あっ-さう (名) |壓勝| 〔あつハ、集韻「厭、乙甲切」あふノ連聲(レンジャウ)、(建立(コンリフ)、立願(リフグワン)、立志(リッシ)、立憲(リッケン))〕廣韻「厭、壞也」正韻「厭、[illegible]、通作壓」〕マジナヒ。 史記、高祖紀[illegible]

あっ-さう-せん (名) |厭勝錢| 〔前條ヲ見ヨ〕支那ノ道教ノ者ノ、呪文ヲ[illegible]附ケタル錢。(通貨ニアラズ)星辰ニ供ヘ、祭リ、又、惡鬼ヲ避クル用トス。我ガ國ニテモ、摸造セシガ、轉ジテハ、富貴、長命ナドノ吉語ヲ鑄出シテ、玩トスルモノヲモ、厭勝錢ト稱ス。

あつし・る・ルル・ルレ・レ・レヨ (自動、下二) |病篤| 〔倭訓栞、あつしれ「熱痴(アツシレ)ノ義」病ニテ惚(ホ)ケタル意カ、尙、あつし(病篤)ノ條、[illegible]ノ語原ヲ見ヨ〕(一)病ム。病重ル。 神代紀、上[illegible]「伊奘諾尊、神功既畢、[illegible]、是以構幽宮於淡路之洲」[illegible]雄略紀、廿三年八月「遘病彌留(ヤマヒシアツシレテ)、至於大漸(オイナトロ)」(二)羸(ヤツ)ルル。ミツルル。老衰フ。 羸弱 [illegible]、元年、二月「[illegible]不便步行」

あつしれ (動) |病篤| 前條ヲ見ヨ。

あっ・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ (他動、左變) 【壓】 壓ス。オシタフス。壓倒ス。「威力、人ヲ壓す」

あっ-せい (名) 【壓制】 〔英語、Oppression.ノ譯語、壓ノ音ハ、あふナリ、集韻「壓、乙甲切」壓狀ナド云フ語アリ、ソレヲ急呼ノ連聲ニテ、あっせいト云フ、壓伏、壓迫、壓倒、壓榨、壓縮、壓卷ナド、皆同ジ、コレガ習癖トナリテ、壓力、壓尾、又、抑壓、氣壓ト云フ、單獨ニ、あつノ音ナケレバ、實ハ正シカラザルナリ、立ノ音ハ、りふナリ、集韻「立、力入切」立願、獨立（黄檗僧名）ナド云フ、ソレヲ、立身、立春、立法、立憲ナド云ヒ、又、直立、公立ナド云フ、亦、同ジ〕 オシツケ、オサヘツクルコト。權力ヲ以テ、人ノ自由ヲ抑壓スルコト。「壓制政治」壓制政府」

あっ-せん (名) 【斡旋】 〔正韻「斡、烏活切」增韻「旋也、運也」斡天旋地ナド云ヒテ、廻ラスコトナリ〕 取リマハシ。トリナシ。又、セワ。周旋。 通書蔡要「斡旋猶二周旋一」鶴林玉露「作レ詩要ニ活字斡旋、如二車之有一レ軸」蘇軾、祭二司馬丞相一文「二三卿士、代レ天斡旋」

あっ-そん (名) 【朝臣】 あそみノ條ヲ見ヨ。

❖あっ-た (名) 【暖】 〔次次條ノ語ノ下略〕 小兒ノ語。アタタマルコト。冬ナド、手ヲ火ニカザスコト。「火鉢デあったヲスル」

あっ-たう (名) 【壓倒】 オシタフスコト。勢ニテ他ヲ負カスコト。 唐書、楊嗣復傳「嗣復、宴二於新昌里第一、元、白俱在、賦レ詩、楊汝士後成、元、白覧レ之失レ色、汝士大醉、歸語二諸子一曰、今日壓二倒元白一矣」（元白ハ、元稹ト、白居易トナリ） 書言故事、十一、詩詞賦類「稱二人有二佳句一曰二壓倒元白一」

❖あったか・い (形) 【暖】 (一)あたたかしノ口語。(二)ユタカナリ。所持金、多シ。「懷ガあったかい」

あつ-だたみ (名) 【厚疊】 たたみノ條ヲ見ヨ。

あつ-たちばな (名) あへたちばなノ誤寫。

❖あっ-たま・る (動) 【暖】 あたたまるヲ見ヨ。

❖あっ-ため・る (動) 【暖】 あたたむノ口語。

❖あっ-たら (接頭) 【可惜】 可惜ノ條ヲ見ヨ。

❖あっ-ち (代) 【彼方】 あちノ條ヲ見ヨ。

あ-づち (名) 【垜射垜堋】 〔あむづちノ條ヲ見ヨ〕 古言、イクハドコロ。又、アムツチ。弓射ルコトヲ習フトキ、的ヲカクル處トスルモノ。土ニテ築ク。ヤマガタ。ヤマ。 後世ノ製ハ、富士山ノ頂ヲ横斷シタル形ニテ、上、窄ク、下、開キタルヤウニ、四方、方形ニ築ク。 名義抄「堋、アヅチ」垜、アムツチ」射垜、イクハドコロ、俗云、アヅチ」園物之記「あづちノ高サ、三尺九寸、横、四尺八寸、雨ノ蹄、廣サ、三尺五寸ヅツ也、上ノ横ハ、六寸計ツクベシ、アマリニはすナレバ、あづちノ形ワロシ」夫木抄、二十、山「春ノ夜ノ、月弓張ニ、ナル時ゾ、あづちノ山ニ、いるハ見ユラム」(あづちの山ハ、若狹ニアリ) 垜ヲ覆フ假屋ヲ、あづち屋ト云フ。 江家次第、九、十月、射場始「堋屋張二紺布一八上三之八字二」

あづち-がた (名) 【垜形】 〔前條ヲ見ヨ〕 垜ノ形シタルモノ。ハカマゴシ。

❖あっち-おっち (名)(代) 【彼此】 あちおちヲ見ヨ。

あづち-まくら (名) 【垜枕】 枕ノ一種。木ニテ、臺ヲ、垜形ニ作リ、上ニ、横長ク小サキくくりまくらヲ載セ、紐ニテ結ヒ止メタルモノ。今モ、婦人ナド、常ニ用キルモノ、是レナリ。

あづち-や (名) 【堋屋】 あづちノ條ヲ見ヨ。

❖あつつ (名) 【熱】 灸點ノ、小兒語。

あつ-で (名) 【厚手】 〔錦襴様ナドノ、てナリ〕 紙、織物ナド、厚サ多キモノニ云フ語。厚樣ノ紙ナド、是レナルベシ。

あつ-でふ (名) 【厚疊】 アツダタミ。たたみノ條ヲ見ヨ。

あっ-と (感) (一)噫とノ急呼。驚クニ發スル聲。「あっとサケブ」あっと感心スル」(二)應フルニ發スル聲。唯「あっと答ヘテ」

あつ-ど (名) 【壓度】 壓力ノ條ヲ見ヨ。

あっ-とお・ふ (動) 【跨】 あとおゆヲ見ヨ。

あっ-とお・ゆ (動) 【跨】 あとおゆヲ見ヨ。

あっ-とり (名) 【鸊鷉鳥】 〔あとりノ急呼〕 鸊鷉鳥ノ條ヲ見ヨ。

あづなひ-の-つみ (名) 【阿豆那比之罪】 〔假字拾要(村田春海)「二人ノ祝ノ、相諾ひタル意」(甘し、旨し)情意契合ノ意ト云フナルカ、此二人、念契(男色)ノ者ニテ、情死シタルモノノ如シ、罪トハ、障ニテ、穢ノ義ナリ、二社ノ神神ノ、甚シキ穢レヲ怒リタマヒテ、恠異ヲ起シタルモノカト云フ〕 神社ノ祝、二人、親友ナリシニ、一人死シタレバ、一人悲シミテ自死シ、合葬シタル穢レト云フコトナリト云フ。 神功攝政前紀「皇后、南詣二紀伊國一、還二小竹宮一、適二是時一也、晝暗如レ夜、已經二多日一、是恠何由矣、時有二一老父一曰、傳聞、如レ是恠、謂二阿豆那比之罪一、小竹祝與二天野祝一共爲二善友一、小竹祝逢レ病而死之、天野祝血泣而自死、仍合葬焉、蓋是乎、乃、各、異レ處以埋レ之、則日暉炳燦、日夜有レ別」(節文、小竹神社ハ、紀伊國、那賀郡ニアリ、天野神社ハ、伊都郡ニアリ)

アツニ (名) 〔蝦夷語、Atni.〕 喬木ノ名。北海道ニ多シ、楡ノ一種ナリ、葉ノ形、橢圓ニシテ、端、裂ケテ三五尖ヲナス、春ノ末、枝ノ上ニ、數小花ムラガリ開ク、筒狀ニシテ、端、五ツニ裂ケテ淡綠ナリ、實モ、楡ノ莢ニ似タリ、樹ノ皮、柔ク、シナヤカニシテ、剝ギテ薪ヲ束ヌベシ、蝦夷ハ、あつしノ布ニ製ス。 【楡一種】

あっ-ぱく (名) 【壓迫】 オシツケテ、詰メヨスルコト。「胸ヲ壓スレバ、胃ヲあっぱくス」

あつ-ばひ (名) 【熱灰】 火氣アル灰。 【煻煨】 字鏡六「煨、熱灰也、阿豆波比」

あっ-ぱれ (感) 【天晴】 〔あはれノ急呼、天晴ハ當字、適トモ書クハ、造字〕 驚讚スルニ發スル聲。 平家物語、四、競事「あっぱれ馬ヤ、馬ハ、マコトニ、良イ馬デアリケリ」同、七、實盛最後事「あっぱれ、己レハ、日本一ノ剛ノ者ト、組ンデウズヨ」手塚太郎、首取テ、義仲ノ前ニ來リ「聲ハ、坂東聲ニテ候ヒツル、ト申シケレバ、木曾殿、あっぱれ、是レハ、齋藤別當ニテアリゴザンナレ」

あつ-び (名) 【熱火】 身ヲ襲フ烈火。 熱火ヲ子に拂ふ、ト云フ諺ハ、事ノ極メテ堪ヘガタキ時ハ、逃レムトシテ、愛子ヲモ犧牲ニシテ、ソレニ負ハスル意。 藩翰譜、五、板倉氏、京都所司代板倉勝重、老年、重職ヲ辭スレドモ、許サレズ、尙モ請フ、將軍、サラバ、代ルベキ人ヲ擇ベト云フ、勝重、サラバトテ、其子重宗ヲ薦ム、重宗、命ゼラレテ辭スレドモ聽カレズ「重宗、父ニ向ヒ、重宗、イカデ、此職ニ堪ヘ候フベキ、情ナウモ、御推擧ニアヅカリ候フモノカナ、トカコツ、勝

[illegible]重、[illegible]ニテ、[illegible]ハ、[illegible]ナ、[illegible]火を子にはらふト云フ事ハ、此父ガ事ニテ候ヒシゾ、ト答ヘシト云フ」十善戒經「擧ニ火山ニ從ニ西面ニ[illegible]、[illegible]子、火[illegible]孫近、擧」手覆」面、以」兒遠」火、乃至、唯願」救」我、不」傷ニ此子ニ」

あつ-び (名) [壓尾] 物ノヲハリ。ドンジリ。[illegible]

あつ-びたひ (名) [厚額] 〔冠ノ甲ヲ、額ト云ヒ、縁ヲ、磯ト云フ〕冠ノ磯ノ高キモノ、大人ノ用ナリ。磯ノ低キヲ、薄額ト云フ、少年ノ用ナリ。又、甲ノ上ニ、半月形ノ孔ヲ作リ、羅ヲ張リテ透シタルヲ、透額ト云フ、壯者ノ上氣ヲ洩サムガタメノモノナリト云フ、ソレヲ、弦月形ニシタルヲ、半透額、又、半額ト云フ。蛙抄、冠「厚額冠ハ、長大之後、上下著」之、常ノ冠也」飾抄、中、冠「年少之人用ニ薄額ニ」禁秘御抄、中、御冠「薄額[illegible]天更不」叶、只、半額也」三内口訣、冠「堂上之人人、自ニ元服ニ至ニ二十六歲ニ用ニ透額之冠ニ」註「冠ノ額ヲ、半月形ニ摺リ透シテ、裏面ハ、羅ヲ懸ケ薄シタル物ニ候」公清公記、貞和六年正月十六日「冠、透額、半透額、額ノ方、半バカリ透ク也」

あつ-びん (名) [厚鬢] うすびんノ條ヲ見ヨ。

あつ-ぷ-あつ-ぷ (感) 水ニ入リ、口ヲ上ニ出シテ、辛ウジテ息スル聲ニ云フ語。

あつ-ぷく (名) [厚伏] オシフセ、オサヘツクルコト。

あつ-ぶさ (名) [厚總] ふさまりがいヲ見ヨ。

あつ-ぶすま (名) [厚衾] 厚キふすま、綿ヲ多ク入レタル夜具。六帖、五「あつぶすま、和ヤガ下ニ、寢タレドモ、妹トシ寢ネバ、膚寒シモ」

アップル (名) [苹果、萍果、苹果] 〔英語、Apple. 苹ノ字ハ、果ノ形、りんごヨリ扁平ナレバ用ヰルカ〕西洋種ノ林檎。實、大キク、ヤハラカニシテ、味モ美ナリ。

あつ-ぶろ (名) [熱風呂] 蒸風呂ノ條ヲ見ヨ。

あつ-ぽう (名) [閼逢] 十干ノ甲ノ異稱。閼逢涒灘ト云フハ、甲申ナリ。(爾雅)

あつ-ぽったい (形) 〔やすっぽいハ、易おぼしノ約轉、厚っぽいト、甚しト合シタル語カ、腫ぼったいノ例モアリ〕紙、織物ナドノ、厚手ニ感ズル意ヲ云フ語。

あ-づま (名) [東] 〔あハ、明くノ語根、明端ノ義(朝モ、明時)夜ノ明クル方ノ意、冠辭考、六、萬葉集、卷三、二十八「鷄之鳴、東」明ハ、コハ、鷄ハ、夜ノ明時ニ鳴ク故ニ、明ト言ヒカケタル也」古事記、中(雄略)二十二「阿豆麻」稜威言別、八「阿豆麻ハ、明初ノ義ニテ、タダ東方ヲ指シテ云フ語ナリ、彼倭建命ノ段ノ故事ハ、タダ世ノ談辭ナリ」(節文)〕(一)〔東ノ異名〕京都ヨリ東ノ方ノ諸國ノ總稱。吾妻。東國。神代紀、下十一「東國穊取之地」(下總國、香取) 景行紀、廿五年七月「東方諸國」(共ニ、日本武尊ヨリ前ナリ) 國造本紀、上毛野國造ノ條ニ、東方十二國トアルハ、遠江、駿河、甲斐、信濃、相摸、武藏、總、(上、下)毛野、(上、下)常陸、陸奥、ナルベシ。萬葉集ニ、東歌トシタルハ、遠江、信濃以東、陸奥マデノ人ノ詠ナリ。古今集、二十ノ東歌ニハ、伊勢歌モ入レリ。東遊ニ、駿河歌アリ。景行紀、四十年、日本武尊、碓日坂ニテ、東南ヲ望ミ「吾嬬者耶ニ」トアルハ、唯、橘媛ノ事ヲ宣ヒシニテ、次ニ「故號ニ山東諸國ニ曰ニ吾嬬國ニ也」トアルハ、固ヨリ記者ノ筆ニテ、談辭ナリ。常陸風土記ノ開卷ニ「古者、自ニ相摸國足柄岳坂ニ以東諸縣、總稱ニ我姫國ニ」トアルモ、談辭ナリ。(二)〔東國ハ、開ケザリシニ因リテ、あづまト云フ語ハ、遠鄙ノ意ニ用ヰラレタリ、あづま[illegible]〕[illegible]見ヨ。古事記、下[illegible]「[illegible]上枝ハ、天ヲ覆ヘリ、中枝ハ、東ヲ覆ヘリ、下枝ハ、[illegible]ヲ覆ヘリ」源、廿六、[illegible]「[illegible]東ノ事[illegible]」「あづまトコソ、名モ立チクダリタルヤウナレド、云云」弄花抄(牡丹花肖柏)「井ナカビタルヤウナルナリ」合類節用(元祿)[illegible]、乾坤門、東、[illegible]、[illegible]、西京[illegible]鄙、註、邊邑也」(三)京都ヨリ、鎌倉ヲ稱シタル語。[illegible]、五、内野の雪「院ノ第一ノ御子、云云、あづまノ主ニ仰シキコエムト思シテ、云云、中務卿宗尊親王ト申スメリ、云云、將軍ノ宣旨カウブリタマフ、御迎ヘニ、あづまノ武士ドモ、アマタ上リ、云云」吾妻鏡ト云フ書ハ、鎌倉幕府ノ記錄ナリ。「東路」東下」(四)專ラ、江戸ヲ稱シタル語。「東淨瑠璃」東錦繪」東子」(江戸子) (五)〔東琴ノ下略〕其條ヲ見ヨ。

あづま-あそび (名) [東遊] 〔あそびハ、奏樂ナリ、(其條ヲ見ヨ) 曲中ノ一歌ノ詞ニ、左加无乃禰トアルハ、相摸國の嶺ナリ、(古事記、中(景行)十五「相武國」萬葉集、十四六「相摸禰」) 又、曲中ニ、駿河歌モアリ、共ニ、東國ナリ、(前條ヲ見ヨ) 此樂ハ、元、祭祀ノ聲樂ニテ、舞アルモノナリ、久米舞、同ジ、サレバ、歌アリ、舞樂ニハ、歌ナシ〕東國ノ風俗歌ニ合セテスル舞樂ノ名。一名、東舞。又、駿河舞。專ラ、神事舞トシテ奏セラレ、明治維新後ハ、皇靈祭等ニ用ヰラル。此舞樂ハ、歌ト和琴ト笏拍子トヲ主トシ、狛笛、篳篥、音ヲ助ク、舞人、六人、或ハ、四人、青摺ノ小忌衣ニ、細纓、老懸ノ冠ナリ。歌曲ニ、一歌、二歌、駿河歌、求子歌等アリ。三代實錄、五、貞觀三年三月十四日、東大寺大佛供養[illegible]、廿八、東[illegible]、[illegible]社、參向、云云、求子許ヲ舞フヲ、片舞ト云フ、今日、[illegible]、[illegible]、[illegible]ナリ」[illegible](文永)十一、上、吹物、安閑天皇ノ御宇、駿河國宇戸濱ニ、天人天降リテ、[illegible]ヲ舞ヒケレバ、云云、[illegible]、[illegible]ヲ習ヒ[illegible]、中ニ[illegible]、傳ヘタリト申セリ、今ノ東遊トテ、公家ニモ、諸社ノ行幸ニハ、必ズ、コレヲ用ヰサセラル」(謠曲ノ羽衣ハ、此故事ノ敷衍ナリ) 後拾遺集、二十、神祇、三島明神ニ、あづまあそびシテ奉リケルニ詠メル「有度濱ニ、天ノ羽衣、昔シ着テ、振リケム袖ヤ、今日ノ祝子」

あづま-あはび (名) [東鰒] 東國ヨリ出ヅル鰒。[illegible]

あづま-うた (名) [東歌] 東國ノ國風ノ歌。萬葉集、卷十四ニ、東歌ト題シテ、遠江、信濃以東、陸奥マデノ國國ノ人ノ歌、二百三十首ヲ載セ、卷二十ニモ、東國ノ防人ノ歌ヲ、多ク舉ゲタリ、古今集、卷二十ニモ、東歌トシテ、伊勢、甲斐、相摸、常陸ノ歌、十三首アリ、常ノ詞ト異ナルモノ多シ、あづまことばノ條ヲ見ヨ。萬葉集、十四ニ常陸國歌「筑波嶺ニ、雪カモ布良留、(降レル)否諾カモ、(然ラザルカ、然ルカ)愛シキ兒呂ガ、(兒等ガ)爾努保佐流カモ」(布乾セルカモ) 古今集、二十、甲斐歌「甲斐ガ嶺ヲ、嶺ニモ見シガ、けけれ(心)ナク、横ホリ臥セル、佐夜ノ中山」宇治拾遺、十二、第十四條「今ハ昔、東人ノ、歌、イミジウ好ミ詠ミケルガ、螢ヲ見テ「アナ照ヤ、蟲ノシャ尻ニ、火ノツキテ、小人魂トモ、見エワタルゾ」あづま人ノヤウニ詠マムトテ、實ハ、貫之ガ詠ミタリケルトゾ」

あづま-うど (名) [東人] (一)あづまびと(東人)ヲ見ヨ。(二)邊鄙人ヲ見ヨ。

あづま-えびす (名) [東夷] (一)〔東國ニ住

メル蝦夷 荒荒シキ人種ナリキ。景行紀、廿七年二月「武内宿禰自東國還之奏言、東夷、云云、爾ヽ人勇悍、是總曰ニ蝦夷ニ」(二)京都ノ人ヨリ、東國ノ武士ヲ、荒荒シキ者ト見テ、賤シメテ呼ベル語。又、えびす。太平記、一、資朝俊基關東下向事、吉田中納言冬房卿奏「武臣、此上ノ沙汰ニハ及バジト存ジ候ヘドモ、近日、東夷ノ振舞、聊忽ノ儀多ク候ヘバ、云云」(鎌倉幕府ヲ指ス)徒然草、八十段「法師ハ、兵ノ道ヲ立テ、夷ハ弓引ク方法知ラズ、佛法知リタル氣色シ、連歌シ、管絃ヲタシナミアヘリ」

あづま-からげ (名) 〔東絡〕〔邊鄙人ノスル故ノ名ナラム、東折ト云フモ、同ジ〕衣ノ裾ヲ、高ク掲ゲテ、腰ニカラゲックルコト。水ヲ渉ルニスルコトナリ。又、あづまをり。又、セタカラゲ。セタヲリ。新六帖、五「賤ノ男ガ、あづまからげノ、麻衣、二股川ハ、サゾ渡ルラム」謡曲、隅田川「イザヤ裾ヲ汲マムトテ、持ツヤ田子ノ浦、東からげノ裾衣、云云、老人ト見エツルガ、裾モ見エズナリニケリ」義經記、三十三、兼康討ニ倉光ニ事「柿ノ袴ニ、賞紐結ヒ、布ノ小袖ニ、東折シタリ、云云、西河裳佐ノ瀬ヲ打渡リ」

あづま-ぎぬ (名) 〔東絹〕東國ヨリ織リ出セル絁。左右京職式「東絁」源、四十九、東屋十二「アララカナルあづまぎぬドモヲ、押シマロガシテ、投ゲ出デツ」花鳥餘情「東絁、善相公ノ意見ニ見エタリ」宇津保物語ニ、ふときあづまぎぬトアリ」

あづま-くだり (名) 〔東下〕〔東路下ナリ〕京都ヨリ、東方ノ諸國ヘ行クコト。後ニハ、専ラ、鎌倉ヲ指シテ云ヘリ。海道下。倭訓栞、後編、あづまくだり「業平東くだりノ事、此朝臣ノ東ニテノ歌、古今集ニモ載セタレバ、無シトモ云フベカラズ」

あづま-げた (名) 〔東下駄〕〔東ハ、京製ニ對シテ、江戸製ノ意、あづまノ條ノ(四)ヲ見ヨ〕下駄ニ、たたみおもてヲ付ケタルモノ。(語彙)

あづま-コオト (名) 〔東外套〕〔英語、Over coat.(外套)ヲ略シテ、新名ヲ附シタルナリ〕外套ノ一種、特ニ、婦人用トシテ作ルモノ。被布ヲ長ク裾マデ及ボシタルナリ、薄キ羅紗、せる、ナド用キル。

あづま-ごと (名) 〔東琴〕〔倭訓栞、あづまごと「東琴ノ義ナリ、コノ東ハ、西土ニ對セル詞ナルベシ」西土ニ對シテ、日東ヲ云フ、唐琴ニ別チテ、倭琴ト云フト同ジ〕倭琴ノ異名。倭琴。略シテ、あづま。伊勢集、下、故四ノ宮ヨリ、琴借リタマヒテ、返シタマフトテ「あづまごと、春ノ調ベニ、借リシカバ、かへし物トモ、思ハザリケリ」新六帖、五「夏來レバ、あづまノことノ、足津緒ニ、搓リカケテケル、藤浪ノ花」源、五、若紫「あづまヲ、清搔キテ」河海抄「あづまハ、和琴ノ總名ナリ」同、十一、花散里「能ク鳴ル琴ヲ、あづまニ調ベテ、搔キ合ハスル」敦忠集、すけまさノ母君、生ミオキテ失セタルヲ、云云、乳兒ノ名ハ、あづまトナム云ヒケル、睦言モ、マダ言ヒ果テデ、別レニシ、人ノ形見ハ、あづまナリケリ」(六絃琴ニカケタリ)

あづま-ことば (名) 〔東言葉〕〔聲ト云フモ、言葉ナリ、其條ヲ見ヨ〕東國ノ人ノ言語。京畿ノ人ト異ナルトコロアリ、古クハ、萬葉集ノ東歌ナド、然リ、(其條ヲ見ヨ)京畿ノ人ハ、卑シメテ、あづま訛、あづま聲、坂東聲、ナド云ヘリ。(邊鄙人ノ條、見合スベシ) 拾遺集、七、物名、ふただみ(細器)「あづまニテ、養ハレタル、人ノ子ハ、ふただみ(舌訛)テコソ、物ハ言ヒケレ」源、四十九、東屋三十一「イヤシキあづまごゑシタル者ドモバカリノミ、出入リ」金葉集、十、連歌、聲ノなまりタル人ノ物言ヒ、云云「あづま人ノ、聲コソ北ニ、聞ユナレ」みちのくニヨリ、來シニヤアルラム」太平記、廿一、天下時勢粧事「公家ノ人人、イツシカ、言ヒモ習ハヌ、坂東聲ヲツカヒ」(關東武士ノ語ナリ) 萬葉集、二十廿「草枕、旅ノ丸寢ノ、紐絶エバ、我ガ手ト附ケロ(付けよ)此ノ針持シ」(東國防人ノ妻ノ詠) 風俗歌、駿河、之太之浦「志太ノ浦ヲ、朝漕グ小舟、佐志與勢呂、(差寄せよ)我レサヘ乗リテ、志太ノ浦見ムヤ」塵袋(弘安)十「坂東ノ人ノ詞ノ末ニ、ろノ字ヲツクルコトアリ、何せろ、カせろ、ト云フ」

あづま-ごゑ (名) 〔東聲〕前條ヲ見ヨ。

あづま-しとりべ (名) 〔東方儐從者〕〔東男ノ剛健ナルヲ用キシナルベシ、しとりべハ、倭取部ナリ、其條ヲ見ヨ〕蘇我入鹿ガ、護衛トシテ率キシ兵士ノ名。皇極紀、三年十一月、蘇我入鹿「恒將ニ五十兵士ニ繞レ身出入、名ニ健人ニ曰ニ東方儐從者ニ」

あづま-じゃうるり (名) 〔東淨瑠璃〕〔あづまトハ、江戸ノコト(東錦繪、東子)〕江戸淨瑠璃ノ一種。其條ヲ見ヨ。

あづま-ぢ (名) 〔東路〕〔諸國ヨリ京ヘ行クヲ、都路ト云フニ對ス〕京都ヨリ、東國ヘ行ク道筋。萬葉集、十四廿七「安豆麻路ノ、田子ノ呼坂、越エカネテ、山ニカ寐ムモ、宿リハナシニ」(駿河ノ薩埵山) 六帖、二「あづまぢノ、驛驛ト、數ヘツツ、近江ノ近ク、ナルゾウレシキ」(昔ノ東海道ハ、近江、美濃ヲ經テ、尾張ニ出デタリ)袖中抄(壽永)下「東海道、あづまぢト云フ」近江ノ逢坂山ヨリ、先ヅ、あづま路ト云フナリ。新撰朗詠集、上、雪「東路ニ、入リニシ人ノ、戀シキニ、あふ坂山ハ、霧籠メテケリ」

あづま-づ (名) 〔邊鄙人〕邊鄙人ノ條ヲ見ヨ。

✣**あづまっ-こ** (名) 〔東子〕〔あづまハ、江戸ナリ、東ノ(四)ヲ見ヨ〕江戸ノ市民ノ自稱スル語。京畿人ノ優柔ナルニ對シテ、勇ヲ誇リテ云フナリ、江戸ッ子ト同意。浮世風呂(文化、三馬)一、下「是レンバカシモ、イザハ云ッタコトノネエあづまッ子ダ」

あづま-ど (名) 〔邊鄙人〕邊鄙人ノ條ヲ見ヨ。

あづま-なまり (名) 〔東訛〕あづまことばノ條ヲ見ヨ。

あづま-にしきゑ (名) 〔東錦繪〕〔あづまトハ、江戸ナリ、東ノ條ノ(四)ヲ見ヨ〕にしきゑヲ見ヨ。

あづま-びと (名) 〔東人〕〔あづまノ條ヲ見ヨ、あづまうどト云フハ、音便ナリ、(眞人、まうど。旅人、たびうど)連聲ノ音便ニハ、清濁、顚倒スルコト多シ(藏人、くらうど。下沓、したうづ)〕東方諸國ノ人。又、あづまうど。アヅマヲトコ。アヅマヲノコ。忠勇無敵ナルヲ以テ名アリキ。續紀、三十、景雲三年十月、詔「東人ハ、常ニ云ハク、額ニハ箭ハ立ツトモ、背ニハ箭ハ立テジ、ト云ヒテ、君ヲ、一心ヲ以チテ、護ルモノゾ」

あづま-びと (名) 〔東人、邊鄙人〕〔前條ヲ見ヨ、東國ノ人ハ、荒荒シク自ラ鄙ビタレバ、京畿ノ人ハ、ソレヲ言ヒオヨボシテ、邊鄙ノ人、地方ノ人、ノ意ニ用キシナリ、あづまうどハ、前條ノ語原ヲ見ヨ、あづまどト云フハ、其約ナリ、(帽額、もかう)あづまづト云フハ、又、其音轉ナリ(唐櫃、からうど。藏人、くらうづ)〕地方ノ人。田舍ノ人。邊鄙ノ人。又、あづまうど。あづまど。あづまづ。轉ジテハ、廣ク、俗間ノ人。俗人。下人。萬葉集、

二十「東人ノ、荷前ノ國ノ、荷ノ緒ニモ」(諸國) 選、四十八、寄生九十六「獅子ヤ何ヤト、コナタニモ入レタルヲ、あづま人ドモニモ食ハセ」(下人) 文選、西京賦[illegible]、倭名抄、[illegible]、田舍人ト並ベテ「[illegible]、[illegible]」神中抄、[illegible]、みやまのてぶり、[illegible]ニハ、[illegible]ノ[illegible]、[illegible]フレテ、鄙ヘサソハム、あづまづモガナ」 名義抄「邊鄙、アヅマド」 字鏡九十三「莪、阿古多、東人云、加乃阿介」 倭名抄、十九[illegible]、東人云、阿波[illegible]良」ナドアル東人ハ、俗間ノ人ノ義ナリ。

あづま-ひゃくくゎん (名) 東百官 〔關東武士ノ名稱、朝廷ノ百官名ニ似タレバ云フ〕 室町時代ノ末ヨリ、關東武士ノ用ヰ始メシ、左門、右門、左內、右內、左膳、右膳、典膳、小膳、多門、平馬、數馬、兵馬、求馬、伊織、一學、嶺母ナド云フ通稱。 貞丈雜記、二、近代、關東武士ノ名ニ、左膳、右膳、藤馬、平馬、ナド云フヲ、東百官ト云フ、禁裏ノ官名ニ似タル故ニ、百官ト云ヒ、京都ノ官名ニアラザル故ニ、東トハ云フナルヘシ、平將門ノ、下總國ニ都ヲ立テシ時、定メタル官名也、ト云フハ、附會シタルナリ、古書ニ、東百官ノ名付ケタル人、見エズ」(節文)

あづま-まひ (名) 東舞 あづまあそびヲ見ヨ。

あづま-や (名) 東屋 〔邊鄙屋ノ義、(あづま、幷ニ、あづまびと(邊鄙人)ノ條ヲ見ヨ)民家ノ茅屋、古ヘヨリ今ニ至ルマデ、皆此製ナレバ、コレヨリ起リタル語ナリ、上古ノ宮殿ハ、切端ナリシコト、神宮ノ製ヲ見テ知ルベシ、寢殿ハ、入母屋造ナリ、箋注倭名抄、三二「訓四阿爲阿都末夜、蓋、邊鄙屋之義、後拾遺集、金葉集、千載集歌、皆可證東屋之爲草葺民屋二(歌ハ、出典ヲ見ヨ)次條ノ催馬樂ノあづまやモ、民家ナリ、四阿ノ、阿ハ、丘ノ義、高マリタル所ノ意、爾雅、釋地ニ「偏高曰阿丘」トアリ、倭名抄、十三「[illegible]、阿大棟也、須美木」四阿ハ、屋根ノ四隅ノ下棟ナリ、倭訓栞、あづまや「逸周書ノ傳ニ、宮廟四下曰阿ト見ユ」〕(一)屋根ヲ、四方、葺下ニ造レル家、普通ニ云フ、方椨造ナリ。(切端ニ對ス) 四阿 天治字鏡、十二七「四阿、阿豆万屋」 倭名抄、十三「四阿、阿豆萬夜」 倭訓栞、あづまや、四阿ヲ訓メリ、云云、續日本紀ニモ、御四阿假殿ト見ユ」 金葉集、二、夏「五月雨ハ、日數經ニケリ、あづまやノ、茅ガ軒端ノ、下朽ツルマデ」 千載集、十四、戀、四「あづまやノ、小茅ノ軒ノ、忍草、シノビモアヘズ、繁ル思ヒニ」(二)四方ニ壁ナキ家。民家ハ、周圍ニ垣ナキヨリ、移リタル語ナルカ。 庭訓往來(元弘)三月「四阿屋、棧敷、云云、帝竈皆可ニ支度一也」 運步色葉集(天文)「四阿屋、四方垣無レ之」 倭訓栞、あづまや「四方ニ壁ナキ屋ナリトモ云ヘリ」(三)庭園ノ中ニ建テオク、小サキ休憩所。四柱ニシテ、板屋根ヲ、四方ニ葺下ニシテ、四面ニ壁ナシ、眺望ニ便ニス、宋音ニテ、亭トモ云フ、客亭ノ轉ナリ。

あづま-や (名) 東屋 〔前條ノ語ノ(二)ニ同ジ、あづまやのまやの、あづまやの、催馬樂考(賀茂眞淵)「あづまやの、あづまやの、ト云フヲ、ツヅメテ云ヘルナラム」玉かつま(本居宣長)四「月夜よし、夜よしト云ヘル歌モ、月夜よし、月夜よし、ト重ネタル詞ナルヲ、月ヲ略キテ云ヘルト、等ラ同ジ」〕 催馬樂ノ歌曲ノ名。 催馬樂、東屋「安川末屋ノ、末也ノアマリ(軒下)ノ、雨ソソギ、我レ立チ濡レヌ、ソノ外戸開カセ」 源、七、紅葉賀「五十七君、あづまやヲ、忍ビヤカニ歌ヒテ、云云、立チ寄ルル、シモアラジ、あづまやニ、ウタテモカカル、雨ソソギカナ」

あつまり (名) 集 アツマリタルモノ。ツドヒ。ヨリアヒ。 集合 集會

あつまり-ぜい (名) 集勢 諸方ヨリ集リテ、心ノ一致セザル軍勢。 烏合衆

あつま・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 集 多ク、一ツ處ニ寄ル。ツドフ。ムラガル。 貫之集、三、秋「七日、男、アマタ處ニあつまりテ、天ノ河ヲ見ル」

あづま-わらは (名) 東豎子 東孺 〔倭訓栞、あづまわらは「日本紀(皇極紀、三年)ニ、東方儐從者ヲ、あづまわらはトよめり、あづまわらはトよりべト云ヘルガ如シ」(其條ヲ見ヨ、あづまわらはノ語モアリ)東男ノ從者ヲ云フナリ、あづまわらはモ、護衞トシテ、任ニ堪フル意ノ稱ナルカ、豎ハ、豎ノ俗字ナリ」〕 禁中ノ女官。女藏人ノ次位ノモノ。行幸ノ時、騎馬ニテ供奉シタリキ。冠、縫腋ノ袍、指貫、唐衣、裳ヲ着ス。 江家次第、三、正月、女敍位「東豎子」 江次第抄、三、東豎「以二三子一爲二東孺一」 字類抄「東豎子、アヅマワラハ、女官也」 公事根源(一條兼良)正月、女敍位「あづまわらはト云フハ、內侍司ノ被官ニアルモノニテ、行幸ノ時、姫松トテ、馬ニ乘リテ供奉ス、コレハ、三子ヲ用ヰラルルニヤ、三子ハ、天子ノ守ニテアル由、昔ヨリ、同ジ名乘ヲ相傳シテ、紀朝臣季明ト名乘ル」(節文)

あづま-をとこ (名) 東男 (一)東國ノ男子。あづまをのこ。アヅマビト。 萬葉集、二十、廿九「鷄ガ鳴ク、安豆麻乎等故ノ、妻別レ、悲シクアリケム、年月長ミ」(防人ノ出役ヲ思ヒヤリタル詠ナリ) 同卷廿八長歌「トリガナク、安豆麻乎能故ハ、出テ向ヒ、顧ミセズテ、勇ミタル」(二)江戸ニ生育セル男子。其意氣、風采ニ取ル、京都ノ女子ハ、其婀娜タルヲ賞ス。 神篭矢口渡、[illegible]二、東國ニ、[illegible]ノ女[illegible]、[illegible]ト[illegible]、[illegible]ノ[illegible]ニ[illegible]トモ云フ)

あづま-をとこ (名) 東男 〔東方ノ[illegible]ノあづまナルカ、或ハ、邊鄙ナルカ(邊鄙人ノ條ヲ見ヨ)〕 女東ノ從者。[illegible]、[illegible]十八、寄生九十二「女東ノ、コトゴトシキサマニハアラヌ一ツ、[illegible]、[illegible]ベシ、アマタ[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]合ビタルモノカナ、ト[illegible]、[illegible]供ナリ、[illegible]內ノ[illegible]ニテ、[illegible]ヘルニヤ」

あづま-をとめ (名) 東少女 次次條ノ語ニ同ジ。

あづま-をのこ (名) 東男 あづまをとこノ(一)ニ同ジ。

あづま-をみな (名) 東女 「東男ノ對」 東國生レノ女。あづまをとめ。あづまめ。 萬葉集、四廿「庭ニ立チ、麻手刈リ乾シ、シキシノブ、東女ヲ、忘レタマフナ」 夫木抄、十六、[illegible]「[illegible]ユル夜ハ、あづまをとめモ、イカナ[illegible]、[illegible]ス、麻手小衾」 [illegible]集「あづまをめト、[illegible]バ、下野ヤ、安蘇ノ河原ニ、[illegible]ナリ」

あづま-をり (名) 東折 あづまからげノ條ヲ見ヨ。

あつ-みつ (名) 遏密 「集韻、遏、阿葛切」 爾雅、釋詁「止也」、玉篇「[illegible]、止也、住也」〕 諒闇ノ時、音樂ヲ停ムルコト。鳴物停止。 北山抄、一、八日御齋會「貞觀元年、不レ奏[illegible]樂、[illegible]也」[illegible]、[illegible]八[illegible]」 [illegible]、[illegible]也、[illegible]、靜也」

あつ・む・ム・ル・ム・レ・メ・メ・メヨ (他動、下二) 集 〔倭訓栞、あつむ「あハ、發語也、因テ、つめトモ、つむトモヨメリ、積ム、ト義、同

ジ」或ハ、厚ノ活用カ(長むる、廣むる)」多クノ物ヲ、一ッ處ニ詰メ寄ス。ツドフル。マトム。寄セ合ハス。頼政集、春「暮レヌ間ハ、花ニタクヘテ、散ラシツル、心あつむる、春ノ夜ノ月」易林節用集(慶長)言辭「聚、集」

あつ-むぎ (名) 熱麥 ニ熱索餅ノ略、煮麵、是レナルベシ、冷麥ノ對」饂飩、又ハ、索麵ヲ蒸シタルモノナルベシ。七十一番歌合(文安)三十七番、さうめん賣「調菜ノ、飯ノ上ノ、あつむぎノ、むしあげノ瀬戸ノ、月渡ル見ユ」(備前國、邑久郡、蟲明ノ瀬戸ニカケタリ)

あつめ-煮る (名) 集汁 種種ノ蔬菜、乾魚類ヲ刻ミ入レタル汁。天正十年安土御獻立「夕飯、御湯漬、二膳、あつめ汁、煎海鼠、串鮑、麩、椎茸、大豆、甘海苔」料理物語(寛永)あつめ汁「中味噌ニ、煎出加ヘ、宜シ、又、澄シニモ仕リ候、大根、牛蒡、芋、豆腐、竹ノ子、串鮑、乾河豚、熬海鼠、摘入ナドモ入ル、宜シ」

❖**あつめる** (動) 集 あつむノ口語。

あつ-もの (名) 羹 (熱物ノ義、(炙物、蒸物、煮物、茹物)宇津保物語、藏開、中 五十 「若菜ノあつもの、云云、あついものヲバ、カクナムツカウマツリ、云云」日本釋名(元祿)下、飲食「羹、飯ニ副ヘタル汁ハ、あつきガ佳シ」」(一)膳部ノ料理ノ名。今云フ、汁、吸物、ノ類ナリ。東雅(享保)十二「羹、あつもの、即今ノ俗、汁ト云フモノ、是也」貞丈雜記、六、飲食「あつものト云フハ、今ノ吸物ノ事也」允恭紀、廿四年六月「御膳羹汁、凝以作レ氷」萬葉集、十六 廿八「羹、阿豆毛乃、和名、上同、今按、是以ニ魚鳥肉ニ爲レ羹也」(二) 羹に懲りて、齏を吹くトハ、懲戒ニ過ギタル、用心ノ甚シキヲ云フ。楚辭、九章、惜誦「懲レ於レ羹者、而吹レ齏兮、何不レ變ニ此之志ニ也」唐書、傳奕傳「懲ニ沸羹ニ者、吹ニ冷齏ニ、傷レ弓之鳥、驚ニ曲木ニ」

あつもの-わん (名) 羹椀 (前條ヲ見ヨ)」汁ノ椀。吸物ノ椀。內匠寮式「羹椀一口、徑七寸、料、漆一合二勺、朱沙一分、云云」

あつもり-さう (名) 敦盛草 (花、紫ニシテ、母衣ヲカケタルガ如クナレバ、名トスト云フ」宿根草。一名、熊谷草。我ガ國、東北部ノ深山ノ樹陰、又ハ、竹林中ニ生ズ、春、苗ヲ生ジテ、莖、直上スルコト尺餘、葉ハ、卵形ニシテ、莖ヲ抱キテ互生ス、莖梢ニ一大花ヲ開ク、大キサ鷄卵ノ如ク、正中ニ蕊アリ、形、母衣ニ似テ、淡紫色ナリ、中ニ深紫ノ點アリ、甚ダ異形ナリ。鬼督郵 大和本草(寶永)七、花草「敦盛、云云、花、紫ニシテ、ほろカケタルガ如シ」熊谷、云云、花、色白シ、或曰、敦盛、熊谷、一物ナリ、花ノ紫ナルヲ爲ニ敦盛ハ花淡白ヲ爲ニ熊谷ハ共ニ、日ヲ畏レテ枯レヤスシ」

あつ-もりそば (名) 熱盛蕎麥 器ニ盛蕎麥ヲ入レ、熱キ汁ヲ注ケタルモノ。カケソバ。カケ。攝津國、一谷ノ名物ナルハ、平敦盛ノ死處ニカケテ稱スルナリ。

あつ-やう (名) 厚樣 紙ノ名、あつがみノ條ヲ見ヨ。

あつ-ゆ・ユル・ユレ・エ・エ・エヨ(自動、下二) 病篤 (熱ヲ活用ス、淺ゆモアリ、病篤しノ語原ヲ見ヨ」アッシル。アッシクナル。病重ル。雄略紀、二十三年八月「遘疾彌留」(彌留、左訓、アツエ)持統紀、元年正月「篤癃」三代實錄十五、貞觀十年二月「遂稱ニ病篤ハ、應以取レ假」源、三十九、御法三「イト覲モシゲナキサマニ、惱ミあつい タマヘバ」(あつえノ音便訛)

あつ-らか-み (副) 厚 (薄らかみ、高らかみ、輕らかみ」步ノ厚キ狀ニ云フ語。宇津保物語、國讓、中 四十九「白キ色紙ノ、イトあつらかなる一重ネニ」宇治拾遺、一、第十八條「疊あつらかニ敷キテ、云云、練衣ノ衣ノ、綿あつらかなる、云云」

あつら・ふ・フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ (他動、下二) 誂 (あとらふノ轉(明時、あかつき。一昨日、をととひ)」(一)アトフ。アトラフ。賴ミテ爲サシム。名義抄「勸、アツラフ」字類抄「誂、囑、アツラフ」天武紀、下、十年五月「百寮諸人、恭ニ敬宮人ニ過之甚也、或詣ニ其門ニ謁ニ己之訟ニ、或捧レ幣以媚ニ於ニ其家ニ」(謁ハ、內謁ナリ、說文「謁、告也、請也」)古今集、二、春下「吹ク風ニ、あつらへツクル、モノナラバ、コノ一本ハ、避キヨト言ハマシ」白氏文集、十四、王昭君「漢使却廻憑ニ寄語ニ、黃金何日贖ニ蛾眉ニ、君王若問ニ妾顏色ニ、莫レ道不レ如ニ宮裏時ニ」(古訓)(二)注文シテ造ラシム。七十一番歌合(文安)五番、檜物師、詞「湯桶ニモ、コレハ殊ニ大ナル、何ノタメニあつらへタマフヤラム」

あつらへ (名) 誂 アツラフルコト。注文シテ作ラスルコト。(出來合ニ對ス)

あつらへ-むき (名) 誂向 アツラヘドホリニ出來テ居ルコト。

あつらへ-もの (名) 誂物 (一)注文シテ造ラスル物。(二)注文ヲ受ケテ造ル物。

❖**あつらへる** (動) 誂 あつらふ(誂)ノ口語。

あつ-りょく (名) 壓力 壓スチカラ。二物、相接觸スル時、互ニ壓迫セムトシテ作用スル力。其壓力ノホドアヒヲ、壓度ト云フ。

あつりょく-けい (名) 壓力計 氣體、又ハ、水ノ、壓力ノ强弱ヲ計ル器。

あつ・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ (自動、下二) 暑 熱 (暑ヲ活用ス(薄る、强る)」暑サニ窶ルル。アッサニメゲル。曾丹集、四月を はり「夏衣、薄クヤ人ノ、思フラム、我レハあつれテ、過ス月日ヲ」丹後守爲忠家百首、夏「夏來レバ、繁ル草葉ノ、あつれツツ、ヤヤ住ミニクキ、大原ノ里」和泉式部集、一、夏「トコナツニ、起キ伏ス露ハ、何ナレヤ、あつれテ夫子ガ、間還ナルラム」

あつれ (名) 苦熱 前條ヲ見ヨ。

あつ-れき (名) 軋轢 (一)車輪ノ軋ルコト。(二)人ト人トノ交リノ、摺レ合フコト。甚シク不和ナルコト。「同僚、相軋轢ス」

あつ-ゑんざ (名) 厚圓座 (あつだたみモアリ」圓座ノ、厚ク編ミ作ラレテ、緣ヲツケタルモノ。名目抄「厚圓座」雅苑裝束抄、一「茵ノヤウナルモノノ、圓ニテ、緣バカリノカハリタルナリ」

あて (名) 貴 高貴 (上樣ノ約ト云フ、(錦樣茶碗)倭訓栞、あて「眞字伊勢物語ニ、高貴ノ字ヲヨメリ、云云、一說ニ、上手也、う、は、反、あ也」兄モ、上ノ約ナルベシ」貴キコト。上品ナルコト。竹取物語「世界ノ男、あてナルモ、賤シキモ」伊勢物語、百二段「あてナル女ノ、尼ニナリテ、云云、山里ニ住ミケリ」源、五、若紫 四十「イタウ面瘦セタマヘレド、イト、あてニウツクシウ、ナカナカ見エタマフ」

あて (名) 父 (貴ノ義」チチ。テテオヤ。榮花物語、十三、木綿四手「コレイカデ、あてノ御許ニタテマツラム、云云、あてハ、麻呂ヲバ、戀シトハ思サヌカ」

あて (名) 當 (あつるノ名詞形」(一)ココロアテ。目當トスルトコロ。アテド。見當。準望 古今集、五、秋、下「心あてニ、折ラバヤ折ラム、初霜ノ、置キ惑セル、白菊ノ花」山家集、上「五月雨ハ、行クベキ路ノ、あてモナシ、小笹ガ原モ、浮キ流レツツ」(二)アテコト。賴ミトスルコト。期待「賴ンダ事ヲあてニスル」あてニナラヌ話」あてガハヅレル」

あて (名) 貴 [illegible] 時、其物ノ下ニ當テテク木、又、其ノ物、刀劍ノかなどこ、砧ノ臺、ナドモ、コレナリ。質 [illegible]

あて (名) 充 宛 〔充つノ條ヲ見ヨ〕 (一)〔ソレゾレニ割リアツルコト。〕兼ネテ、あてあてナドトモ云フ。宇津保物語、藤原君「人八十五人、讀豆ヲ、一荻あてニ出ストモ、十マリ五ツナリ」源、十四、澪標「カノ院ノ造リザマ、ナカナカニ見トコロ多ク、今メイタリ、由アル受領ドヲ撰リテ、あてあてニ催シタマフ」花鳥餘情「受領ニ人ヲ [illegible] 遣ラスル事也」同、廿一、少女「女房ノ曹司町ドモ、あてあてノ配分ゾ、大方ノ事ヨリモ、メデタカリケル」(二) [illegible] 包紙便」

あて (名) 當つ、中つ、充つヲ見ヨ。

あて (代) 私 〔わたくし、わたし、あたし、あたい、約メテ、あて〕 自稱ノ代名詞。わたしニ同ジ。(京都、中流以下ノ女子ノ用語)

あて (句) 有而 〔ありてノ略(因りて、[illegible]〕 [illegible] 集、三、下、第八條「世ニあてハ、人ニモ知ラレズ、名利モ無キ人」同、四、下、第三條「思あて、頭ノ中ニアルガ如シ」

あて-あて (名) 宛宛 宛ノ條ノ(一)ヲ見ヨ。

あて-いし (名) 當石 〔あてるハ、擦リツクルナリ〕 カネツケイシ。試金石。

あて-おこな-ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (他動、四) 充行 (一)事ニ充テテ行フ。[illegible]

あて-おび (名) 宛帶 [illegible] 衣冠ノ時、用キル帶。(束帶ノ革帶ニ對ス)狩衣ト同ジ布帛ニテ作ル。[illegible]

あて-がひ (名) 宛行 (一)アテガフ、コト。アテガフ物。[illegible] (二)祿。

あてがひ-ぶち (名) 宛行扶持 (一)其人ニアテガフ扶持米。(二)心マカセニ、物ヲアテガフコト。[illegible] フ人ノ心ニ任セテ、物ヲ與フルコトニ云ヘリ」

あて-が・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (他動、四) 宛行 〔かふハ、行フ意(受けがふ、爭がふニ)〕 (一)充テテオコナフ。向ケテスル。[illegible] ハ、云云、宮ノ御装束、女房ノ事ナド、繁ウ思シあておふ」[illegible] (二)充テテ分ツ。割リ當ツ。分配。[illegible] (三)充テテ與フ。分與。[illegible] (四)當テ塡ム。適用 [illegible]

[illegible] 作ノ字ヲヨメリ」

あて-ぐ (名) [illegible] 内記持ニ宛具ハ主鈴持ニ副及封緘函ノ [illegible]

あて-こす・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 當擦 人ノ心ニ當テテ、サトルヤウニ誹ル。他ノ事ニカコツケテ、ワルク云フ。アテツケル。[illegible] ハ、云云、内儀へ耳こすり云ウテ、云云、今、コレヲ [illegible] 「あてこすりニ同ジ、人ノ心ニ當リテ、[illegible] フナリ」

あて-こと (名) 當事 アテコムコト。目的トスル事。期待 「あてことハ、向カラ外レル」

あて-こと (名) 當言 アテコスル言。[illegible]

あて-ことも-な・い (形) 無當事 途方モナイ。「あてこともない事ヲ云フ」

あて-こ・む・ム・メ・マ・ミ・メ (他動、四) 當込 〔込むハ、思入ル意〕 當トス。メアテトス。賴ミニス。「賞與ヲあてこんデ居ル」

あて-じ (名) 當字 其語ノ意義ニカカハラズ、漢字ノ音訓ノ、聲ダニ同ジケレバ、取リテ其語ニ當テテ用キルモノ。萬葉集ニ、沫雨ヲ「[illegible]」、[illegible]方ヲ「[illegible]」、[illegible]「夏借」、其外、木丁(几帳)、三木(参議)、折檻、[illegible]、辨當、[illegible]、湯葉、目出度、滑山數ノ如シ。[illegible]

あて-ずつぽう (名) 「當推量坊ノ合呼ニ [illegible] テ、當推量ヲ、擬人シタル語ナルベシ([illegible] 風来坊、[illegible] 坊)」次條ノ [illegible] (東京)

あて-ずゐりやう (名) 當推量 〔あてずゐト云フガ如シ〕 推當ニ思ヒハカルコト。略シテ、あてずゐ。又、アテズッパウ。臆測

あて-っくら (名) 當競 〔あてくらべノ急呼略、あてっこハ、又、其約ナリ、くらべノ條ヲ見ヨ〕 [illegible] 競フコト。アテッコ。

あて-つ・ける・ケル・ケレ・ケ・ケ・ケヨ (自動、下一) 當附 人ノ心ニ當テテ、覺ルヤウニ云フ。[illegible] 「あてつける [illegible] する二同ジ」

あて-っこ (名) 當競ノ條ヲ見ヨ。

あて-ど (名) 當處 [illegible] 「當處ナリ、期ヲ、あててすト訓メルモ、同意ナルベシ」 (一)當ツベキ處。[illegible] 斬ラム事、云云、太刀ノあてどモオボエネバ、持チタル太刀ヲ人ニ與フ」(二)メアテ。目的。所期。

あて-どころ (名) 宛所 (一)物ノ宛テ送ル方。[illegible] (二)書狀ノ上書ノ、宛名。[illegible]

あて-な (名) 宛名 手紙ナドニ、宛テテ送ルベキ人ノ名。アテドコロ。

あて-なる-ひと (名) 貴人 あてびと(貴人)ノ條ヲ見ヨ。

あて-はか-な (形) 高貴 [illegible]

原ヲ見ヨ」あてやかニ同ジ。上品ニ。伊勢物語、十六段、紀有常「人柄ハ、心ウツクシク、あてはかなる事ヲ好ミテ、異人ニモ似ズ」枕草子、十一、百四十五段、夜、時ヲ奏ス「何家ノ某、時、丑三ツ、子四ツナド、あてはかなる聲ニ言ヒテ」倭訓栞、あてはか「妍ノ字ノ義、あてやかノ意也」集韻「妍、美好也」

あて-はか-る・ル・レ・ラ・リ・レ（他動、四）〔當量〕オシハカル。スキリ・ウスル。名義抄「擬、アテハカル」

あて-はま-る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）〔當塡〕當テテ、善ク合フ。適當

あて-は-める・メル・メレ・メ・メ・メヨ（他動、下一）〔當塡〕當テテ、善ク合ハス。適用

あて-び（名）〔高貴〕次次條ヲ見ヨ。

あて-びと（名）〔貴人〕貴ナル人。上品ナル人。源、二、帚木四十五「コマヤカニ、ヲカシトハナケレド、ナマメキタル狀シテ、あてびとト見エタリ」同、四十九、東屋四十七「カカルスヂノ物憎ミハ、あてびとモナキモノナリ」伊勢物語、第十段「父ハ直人ニテ、母ナム藤原ナリケル、サテナムあてなる人ニ、ト思ヒケル」夫木抄、十三「大方ノ、秋クルコトノ、悲シサモ、あてなる人ハ、知ラズゾアリケル」

あて-ぶ・ブル・ブレ・ビ・ビ・ビヨ（自動、上二）〔高貴〕〔貴帶ぶるノ約（翁ぶる、殊更ぶる、否ぶる）〕高貴ヤカニナル。高貴ハカナリ。源、四十九、東屋十「若キ君ダチトテ、スキズキシク、あてびテモオハシマサズ、世ノアリサマモ、イトヨク知リタマヘリ」

あでふ（連體）なでふ（何云）ヲ見ヨ。

あて-ぶみ（名）〔充文〕（一）其人ニ充テムトテ、官ヨリ下ス公文。北山抄、九、羽林要抄、初任事「初任ニ中少將ニ著、下名之後、待ニ兵部充文ニ帶劍」朝野群載、八「民部省、位田充文」（二）鎌倉、室町幕府時代ニハ、多クハ、土地ヲ給與シ、又ハ、其管理ヲ任命スル文書ヲ云フ。充行狀トモ云ヘリ。吾妻鏡、十、建久元年六月二十九日「知行八箇國充文、并返抄等、載ニ別目錄ニ注ニ進之ニ云云、尋ニ古充文ニ候之處、如レ此所ニ註申候ニ也」

あて-ぶり（名）〔當振〕〔推當ノ振事〕踊ノ振事ヲ、所作ニ因ラズ、推當テニスルヲ云フ俗語。

あて-み（名）〔中身〕〔相手ノ身ニ中つ〕柔術ニ云フ語。拳、又ハ、肘、又ハ、足先ニテ、敵ノ急所ヲ、鋭ク打チ、又ハ、突ク技ナリ、一時、氣絶セシム。其急所ト云フモノ、天倒（前頂）、烏兎（眉間）、人中（鼻下）、祕中（喉）、水月（鳩尾）、等、十數所アリ。倭訓栞、後編、あてみ「中身ノ義、明ニ云フ、打手ノ類也」

あて-もの（名）〔中物〕〔後鳥羽院宸記ニ、射中物トアリト云フ〕（一）射藝ニ、種種ノ物ヲ的トシテ、射中ツルコト。舊今昔物語、廿五、第六語、源賴光ガ、臥シタル狐ヲ射ヨトノ仰セヲ蒙リテ「コノヤウノ當物ナドハ、今ハ、箭ノ落ス所モ思エ候ハズ、ト申シテ」（二）物ヲ隱シテ、其物ヲ考ヘ中ツルコト。

あて-やか-よ（副）〔高貴〕〔やかよハ、副詞ヲ形作ル接尾語（花やかよ、艶やかよ）〕高貴ナル狀ニ。アテハカニ。アテビテ。上品メキテ。竹取物語、かぐや姫ノ「心バヘナド、あてやかよウツクシカリツルコトヲ見ナラヒテ、戀シカラムコトノ堪ヘガタク」榮花物語、三十八、松下枝「母北ノ方モ、良賴ノ中納言ノ女ニ、モノシタマヘルナカラヒ、イトあてやかよ、昔物語ノ心チス」同、三十七、殿上の花見「物語ノ男君ノ心地シタマヒテ、イトあてやかよナマメカシキ御サマナリ」

あて-られる（動）あたる（病）ノ條ヲ見ヨ。

あてる（動）〔當〕當つノ口語。

あ・てる・テル・テレ・テ・テ・テヨ（他動、下二）〔中〕（一）中つノ口語。「矢ヲ的ニあてる」（二）推シハカリ得。「家出人ヲ占ヒテあてる」（三）計畫ヲ成就セシム。成功。「芝居ヲあてる」「やまヲあてる」

あ・てる・テル・テレ・テ・テ・テヨ（他動、下二）〔充〕（一）充つノ口語。〔宛〕〔充つノ條ヲ見ヨ〕（二）差シアテル。仕向ケル。「手紙ヲ、大阪へあてテ、送ル」

あ-と（名）〔跡迹〕〔足處ノ略、（足音、あおと）跡所ト云フ語ハ、重言ノヤウナレド、語原ハ、忘レラレテ云フナリ、倭訓栞、あと「跡ヲ訓メリ、足處ノ義ナルベシ」〕（一）〔足ニテ蹈ミタルトコロ。アシアト。足跡。佛足石歌（奈良朝）「三十アマリ、二ツノ相、八十種ト、（三十二相、八十種好）具足レル人ノ、蹈ミシ阿止止己呂、稀レニモアルカモ」同「丈夫ノ、蹈ミオケル阿止ハ、石ノ上ニ、今モ遺レリ、見ツツ思ヘト、永ク思ベト」（涅槃經「如來、人中丈夫」）靈異記、下、第九縁「前立人言、汝沒ニ此河ニ能蹤ニ我蹤ニ、踏、躅令ニ度」訓釋「蹤、躅、ア止」字鏡九十「踩、蹤也、阿止豆久、布毛」續拾遺集、九、羇旅、行路初雪「初雪ニ、我レトハ跡ヲ、ツケジトテ、マヅ朝立タム、人ヲ待ツカナ」跡を履むト云フハ、前人ノ事業ニ倣フヲ云フ。襲蹈　續拾遺集、十六、雜、上「我ガ山ノ、栄行ク（坂行）道ヲ、尋ネツツ、イカデ昔ノ、跡を蹈まマシ」（山ハ、比叡山ヲ云フ、後嵯峨天皇ノ皇子、天台座主、慈助法親王ノ御詠ナリ）車の跡ト云フハ、轍ナリ。（二）〔鳥の跡、筆の跡ノ略。各條ヲ見ヨ。（三）〔足。アシモト。脚　神代紀、上十二「枕邊、脚邊」萬葉集、五十長歌「父母ハ、枕ノ方ニ、妻子ドモハ、足ノ方ニ、圍ミ居テ、憂へ吟ヒ」榮華御抄、上、寳所「白地以ニ神宮并内侍所方ハ不レ爲ニ御跡ニ」運歩色葉集「足偏」（あしへんナリ）（四）〔往來。ワウライ。人行源、十三、明石ニ「コレヨリ、深キ山ヲモトメテヤ、あと絕エナマシト、オボスニモ」同、五十二、手習七五十「コナタノ路ニハ、通フ人モ、イトタマサカナリ、黑谷トカ云フカタヨリ、歩ク法師ノあとノミ、マレマレハ見ユルヲ」（五）〔去リ行キタル方。行方。蹤跡　萬葉集、三三十「世ノ中ヲ、何ニ譬ヘム、朝開、漕ギ往シ船ノ、跡無キガ如」隆信集、下「世ノ中、アヂキナキ由ナド言ヒテ、あとヲ暗クシテ失セナムト思フ」「あとヲくらましテ逃ゲル」晦跡　あとをつけるト云フハ、行方ニツキテ窺フニ云フ。追跡　尾行　俚言集覽、あとをつける「物ノ行ク後ニツキユキテ、其狀ヲ伺フ事ナドニ云ヘリ」（六）前ニ、物ノアリシトコロ。遺跡　址　墟「寺ノあと」城あと」（七）物ノ起リシ、遺ノシルシ。痕迹「疵ノあと」遁ノあと」（八）事ノ過ギシ、遺ノシルシ。遺蹟「事業ノあと」政治ノあと」（九）〔跡垂る、并ニ、本地垂跡ノ條ヲ見ヨ。

あ-と（名）〔後〕〔前條ノ語ノ轉、過去ノ痕跡ノ意、倭訓栞、あと「跡、云云、後ヲ訓メルハ、轉ジ用タルナリ」又、後ノ意トナレルハ、枕邊、足邊ノ、あとヨリ移リタルカトモ思ハル、（まくらべノ條ヲ見ヨ）又、過去ト反對ニ、未來ノ意ニ言ハルルハ、後世ノコトナルガ如シ、是レハ、現在ヨリ、行先ニ後ルル意トナリシナルベシ」（一）〔前。以前。前蹤　雄略紀、廿三年四月「百濟調賦、益ニ於ニ常例ニ」欽明紀、廿三年七月、新羅國ノ使「留不レ歸ニ本土ニ、例同ニ國家百姓ニ、今河内國更荒郡鸕鷀野邑、新羅人之先也」續紀、三、慶雲四年四月、詔「令文所載多流乎跡止爲而、云云、食封五千戸賜久、云云」源、三十四、下、若菜、下三十九「此琴ハ、實ニ、あと（故實）ノママニ、尋ネ取リタル、云云」（學ビ得タル）「三年あと」あとノ月」（二）〔後方。ウシロ。背後　源、六、末摘花七「引キ別レタマヒケルヲ、イヅチナラムト、云云、あとニツキニ、ウカガヒタリ」（尾行）太平記、七、先帝船上臨幸事ニ「サ

ラバ、ヤガテ、合戰ノ用意候フベシ、サダメテ、追手モ、あどヨリカヽリ候ハン」(三)後(ノチ)。以後(イゴ)。[illegible]後[illegible]、上[illegible]ノ、[illegible]ルニ、[illegible]ヒワタレ、[illegible]、十六、[illegible]、上「月ノ入ル、あどハ小倉ノ、山蔭ニ、ヒトリサヤケキ、薩摩(サツマ)[illegible]ノ聲」「あどハ野トナレ、山トナレ」飛ブ鳥、あどヲ濁スナ」あどヲ引ク」(四)人ノ、死ニシ後。其後。[illegible]、十二、[illegible]ノ、[illegible]シ跡モ、[illegible]ネトテ、雲ノ内ニモ、あどヲ[illegible]フカナ」「あどヲ弔フ」[illegible](五)家名ノ相續。家督。太平記、十三、北山[illegible]事「[illegible]人ハ、朝ニ仕ヘテ、西園寺ノあどヲツギタマヒシ、北山ノ右大將實俊ノ卿、是レナリ」(六)ハッコ。スヱ。子孫。後裔。「[illegible]先生ノあど、名家ノあど、あどガ絕エル」(七)未來ノ時。後時。後日。「[illegible]シクハ、あどテ話ス」其事ハ、あどヘマハス」

あ-と (名) 阿堵 あどのもの(阿堵物)ノ條ヲ見ヨ。

あど (名) 迎合 〔あどもふ(率)ノ、あどナリ〕人ノ話ニ、口ヲ合セテ應答(ウケコタヘ)ヲスルコト。(あど語(ガタリ)ト云フ語モアリ)コレヲあどを打つ、又、あどうつト云フ。アヒヅチヲウツ。大鏡、下、道長「今日ハ、タダ、殿ノ、メヅラシウ思(オボ)シ、アリゲニオボシテ、あどヲ好(ヨ)ウうたセタマフニ、催サレタテマツリテ」同、序「此侍ゾ、好ク興カムト、あどうつメリシ」拾玉集、一、百首述懷「サゾト言ハバ、マコトニサゾト、あどうちテ、否(イナ)ウトヤト云フ、人ダニモナシ」字鏡、八十五「[illegible]、此後之心相知貌、阿止」サレド、天治字鏡、十二廿三ニハ「阿止久」トアリ。

あど (名) [illegible] 前條ノ語意ニ同ジキカ、或ハ、相人(アヒウ)、あひど、あどト轉ジタル語ナラムカ、(緩纊(カウヨリ)、さより。結綿(ユヒハタ)、ゆはた(夾纈))、おもト云フハ、主(シュ)ノ意ナルベシ」能ノ狂言ニテ、脇師(ワキシ)ノ稱。コレニ對スル仕手(シテ)ヲ、古クハ、おもト云ヒキ。ト養狂歌集(寬文)二「ウサイヲウ、(于鵬翁)悦ビアリヤ、ヨロコビアレ、あどノ大夫ニ、鈴ヲマキラシヨ」(于鵬翁ハ、能ノ翁舞(オキナ)ノ翁ナリ、あどノ大夫ハ、三番叟ニテ、狂言師ノ勤ムルナリ)倭訓栞、あど「伎人ノ相手ヲ云フ、[illegible]ニ、[illegible]、[illegible]六、[illegible]、今モ、あどうつト云ヘリ」

あ-ど (副) 何 〔などノ轉、あど(何)ノ語原ヲ見ヨ〕などニ同ジ。イカニ。萬葉集、十四十「常陸ナル、浪逆(ナサカ)ノ海ノ、玉藻コソ、引ケバ絕エスレ、阿杼(アド)カ絕エセム」同卷廿五「汝(ヨ)ハ安杼(アド)カ思フ」同、十五十「浪ノ上ニ、浮寢セシ夜、安杼(アド)思ヘカ、(思ヘバカ)心愛シク、夢ニ見エツル」(家ノ妹ニ云フ)

あど-あし (名) 後脚 (一)獸ノ、尻ノ方ノ兩脚。(前脚(マヘアシ)ニ對ス)(二)あとあしで沙をかけるト云フハ、後ノ事ハ、ママヨト、顧ミズシテ立去ル意ニ云フ(犬猫ナド、糞尿シテ、後脚ニテ土沙ヲ蹴カケテユク)

あど-あど (名) 後後 のちのちニ同ジ。「あどあどノ事ヲ思フ」

あどあど-げつ (名) 後後月 先月ノ前ノ月。先先月。去去月。前前月。

あどう-がたり (名) 迎合談 あどがたりヲ見ヨ。

あどう-つ (動) 迎合 あど(迎合)ノ條ヲ見ヨ。

あど-おさへ (名) 後押 行列ナドノ、最後ヲ警(イマシ)メ行ク役。押後。

あど-おし (名) 後押 (一)荷車、人力車ナドヲ、後ヨリ押シテ助クルコト。(二)ウシロダテ。後援(三)シリオシ。教唆。

あど-おひ (名) 跡追 オヒツギ。追加。補遺。明暦四年七月「京童」寬文七年九月、京童跡追」ト云フ書名アリ。延寶七年三月「難波雀」同年五月[illegible]」

あど-かた (名) 跡形 (一)アトニ殘リタル形。アリシトコロ。形跡。痕迹。[illegible]ミタマヒシ[illegible]ノ、あどかたモナク、[illegible]、上ニ[illegible]ノ[illegible]、[illegible]ヲ分クル、[illegible]、あどかたモナク、[illegible]ヘキ[illegible](二)形式。[illegible]、あどかたなき[illegible]、わけもわからず、[illegible]ナリ」三五[illegible](寬保、[illegible])[illegible]本「詠マム、ヨマムトセムホドニ、あどかたナキ歌サマニ、詠ミナスヘシ」[illegible]、[illegible]ニ、とてつもないたモナシト云フ事ヲ、[illegible]ニ、あどかたナシト云フ」

あど-かた (名) 後方 シリヘ。ウシロ。讃岐典侍日記(堀河院女房)「殿ノあどかたニ寄リヌテマツラセタマヒシカバ、ソノママニテ候ハムハ、無禮(ナメ)ニ覺シクオボエシカバ」

あど-かた (名) 後肩 先肩(サキカタ)ヲ見ヨ。

あど-かたづけ (名) 後片付 物事ノ濟ミタル後(アト)ヲカタヅケルコト。アトシマツ。

あど-がたり (名) 迎合談 「あどヲうつノ、あどナリ、あどうがたりト云フハ、音便ニ延ビタルナリ、後言ヲ、しりうごとト云フ」人ノ心ニ合セテ語ルコト。アドウチテ言フコト。又、あどうがたり。宇津保物語、藤原君「物カタラヒモ、打聞エムカ、知レルドチコソ、あどがたりモスルナレ、サヤヨク宜(ノクマ)ヘリ、此頃ハ、願ハシキモノナリ」後撰集、十八、雜、四「人ノ聟ノ、今、マウデ來(コ)ムト云ヒテ、罷リニケルガ、文ヲオコスル人(女ノ許ヘ)アリト聞キテ、久シウマウデ來(コ)ザリケレバ、あどうがたりノ心ヲ取リテ、カクナム申シケル、ト云ヒツカハシケル、女ノ母「今來(コ)ムト、言ヒシバカリヲ、命ニテ、待ツニ消(ケ)ヌベシ、サクサメノトジ」

あど-がね (名) 後金 拂フベキ金錢ノ、內金(ウチキン)ヲ渡シテ、後(アト)ニ殘レルモノ。アトキン。殘金(ザンキン)。

あど-かばね (名) 後屍 〔かばねハ、戶名(カバネ)ナルカ〕子孫。名跡。大鏡、下、[illegible]、女[illegible]モ、[illegible]モ、[illegible]ヘキ[illegible]ニ侍リ[illegible]、[illegible]ノ中ニ、[illegible]モ、[illegible]、あどかばねダニイマセズ、イカガシハベラマシ」

あど-がま (名) 後釜 〔後構(アトガマヘ)ノ略ナルベシ(竈鏡(カケクラ)、かけくら)〕前人ノ退キタル後ノ地位ヲ云フ俗語。アトクチ。後任。「あどがまニスワル」あどがまヲネラフ」

あど-きん (名) 後金 アトキン。

あど-ぎよめ (名) 後淨 〔後ノ淨祓(キヨハラヒ)ノ略〕出棺後、室內ヲ祓ヒ淸ムルコト。[illegible]ラヒ。[illegible]、あとばらひ、あとぎよめ、[illegible]棺ノ後、[illegible]ジテ、[illegible]リ」

あど-くち (名) 後口 後(ノチ)ノ部分。アトガマ。

あど-げつ (名) 後月 アトノツキ。先月。去月。前月。

あど-け-な・い (形) 幼稚 [illegible]ニ、氣(ケ)ノ加ハリタルモノカ、或ハ、他氣(アダケ)なしノ轉(くだくだ、くどくど)餘念ナキ意カ〕あどなしニ同ジ。イワケナシ。小兒ノ、無邪氣ナルニ云フ。

あど-こし (名) 後輿 さきおしヲ見ヨ。

あど-こ・ふ (動) 次條ヲ見ヨ。

あど-こ・ゆ・ユル・ユレ・エ・エ・エヨ (自動、下二) 跨 〔足跡越(アトコ)ゆノ義、左ヲ受ケテモ、自動ナリ、(境ヲ越ゆ)〕日本釋名、[illegible]「跨、あとハ足也、こふハ越ユル也、あしこゆる意、またがる也」またがるノ古言[illegible]マタギコユ。此語、あふさむ、あこさむ、[illegible]、あとこふ、あとこふナド云ヘルハ、誤

ナラザレド、共ニ、同意ナラム。字鏡、十五「蹐躇、齊、足而躡之皃、阿不止己牟、又、乎止留、又、越也」名義抄「跨、アフトコフ、マタガル、ハダカル、コユ」字類抄「跨、アツトコフ」雄略紀、七年八月「跨二據百濟一」景行紀、四十年十月「跨二蛇猶行一」顯宗紀、三年四月「紀生磐宿禰、跨二據任那一交二通高麗一」舒明紀、九年三月「渡二蒼海一跨二萬里一」文選、吳都賦「跨二躡蹀衆一」同、北山移文「跨二屬城之雄一」注「跨、越也」類聚名物考(山岡明阿彌)二百七十六、字訓、跨、あつとさふ、あつとさひ「コレハ、古ヘニモ聞カヌ訓ナリ、云云、中古ノ博士點ノ儒書讀ミシ時ノ訓ナルベシ、云云、文選、文集ナド、專ラ用ヰシ世ニ、言出デシコトナルベシ、足越ユルノ意ヲ以テ、言出デシナリ」

あと-さき (名) 後先 後ト、前ト。先後 あとさきみなるト云フハ、後ノモノガ、先トナル意ナリ。

※**あとさき-み-ず** (名) 後先不見 「まくらベノ條ヲ見ヨ」 理非、利害ヲ考ヘズニ事ヲスルコト。不顧前後 俚言集覽、あとさきみず「前後ヲ顧ミザルヲ云フ、轉ジテ、思慮ナキ人ヲモ云フナリ」

あと-ざん (名) 後產 のちざん(後產)ニ同ジ。

あと-しき (名) 跡職 跡式 「倭訓栞、あとしき「東鑑ニ、跡敷ト見エタリ、後職ノ義ナリト云ヘリ」」 (一)闕所ノ後ノ地頭。吾妻鏡、十八、元久元年六月八日「伊勢平氏追討賞事、云云、光員以下、云云、跋亡卒跡敷各、名田等、云云、遠州令下知之給」 (二)父兄ノ後ヲ家督セル、其家祿、又ハ、家跡。後目。寶教類典、三、寬永十九年十月三日「實子惣領、云云、幼少ニテ御目見不仕候ニモ、實子之分、申分無之ニハ、跡職不殘被下候事」德川禁令考、四十七、慶安四年七月「町中跡式之儀、云云、存生之內、遺言狀致シ、親類、名主、五人組、立合ヒ、早速、町年寄三人之帳ニ付ケ可申事」

あと-しざり (名) 後退 (一)背ノ方ヘ退ルコト。アトビサリ。卻行 (二)畏レ、又、タジロギテ、後方ヘ退クコト。逡巡 (三)すりばちむしノ一名。

あと-しまつ (名) 後始末 「始末ノ條ヲ見ヨ」 あとかたづけニ同ジ。

あと-しらなみ (名) 後白波 白ヲ、知ラズニ言寄セテ、後ノ知ラレズナリシヲ云フ語。(謠曲、高砂「後末モ、イザ白雲ノ、ハルバルト」) 謠曲、船辨慶「舟子ニ力ヲ合ハセ、御船ヲ漕ギノケ、汀ニ寄スレバ、ナホ慕ヒ來ルヲ、追ヒ拂ヒ祈リノケ、又、引ク汐ニ搖ラレ流レテ、跡白波トゾナリニケル」(平知盛ノ幽靈)

あと-ぞなへ (名) 後備 後方ノ備ヘトスル軍勢。後陣。後軍 甲陽軍鑑、四、品第十二「歸虎後備、甘數近江守ト申ス者、千バカリノ人數ヲ、謙信流ノ丸備ニ作リ、少シモサワガズ、如何ニモ靜ニ退ク」(甘數ハ、甘糟ノ誤ナルベシ)

あと-た・ゆ・ユル・ユレ・エ・エ・エヨ (自動、下二) 跡絕 人跡、絕ユ。往來ナシ。續拾遺集、八、雜、秋「待ツ人ノ、訪ハヌ日數ヤ、積ルラム、あとたえ果ツル、庭ノ白雪」

あと-た・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ (自動、下二) 垂跡 本地垂跡ノ條ヲ見ヨ。源、十三、明石「住吉ノ神、近キ境ヲ鎭メ守リタマヘ、マコトニあとたれタマフ神ナラバ、助ケタマヘ」玉葉集、二十、神祇「一ツニゾ、世ヲ守ルラシ、跡たるゝ、四方ノ社ノ、神ノ心ハ」增鏡、一、おどろのした、長歌「志賀ノ浦、跡垂れマシシ、日吉ノヤ、神ノメグミヲ、頼メドモ」

あと-つぎ (名) 跡繼 (一)ヨツギ。父兄ナドノ後目ヲ繼グベキ子。アトトリ。家督相續人。嗣子 (二)前任者ノ後、又ハ、學問、藝術等ノ系統ヲ受ケ繼グ人。後繼

あと-つ・く・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ (自動、下二) 跡附 「迹ノ條ノ(一)ヲ見ヨ」 足跡ヲツク。字鏡、十九「跡、蹐也、阿止豆久」新古今集、六、冬「庭ノ雪ニ、我ガあとつけテ、出デツルヲ、訪ハレニケリト、人ヤ見ルラム」續千載集、二、春、下「散ラヌ間ニ、越ユベカリケル、山路トモ、あとつけガタキ、花ニコソ知レ」

あと-づけ (名) 後附 驛馬ニ、客ヲ乘セ、小荷物ナドヲ、其後方ニ結ビ附クルコト。

あと-どころ (名) 跡所 「あとハ、足處ナリ、其條ヲ見ヨ」 (一)足ノ踏ミシアト。足跡 萬葉集、七廿丁旋頭歌「モモシキノ、大宮人ノ、踏ミシ跡所、沖ツ浪、來寄ラザリセバ、失セザラマシヲ」(近江、大津宮、舊蹟) 佛足石歌(奈良朝)「三十アマリ、二ツノ相、(三十二相)八十種(八十種好)ト、具足レル人ノ、踏ミシ阿止止己呂、稀ニモアルカモ」 (二)物ノアリシ跡。遺蹟 天治字鏡、二廿八「蹟、跡、安止止己呂」

あと-と・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (自動、四) 跡訪 「あとハ、後ナリ」 死後ヲ弔フ。新後撰集、十九、雜、下「苔ノ下ニ、埋レヌ名ヲ、殘シツツ、跡とふ袖ニ、露ゾコボルル」新千載集、九、釋教、永福門院御法筵「天ガケリ、サコソアハレト、思ヒケメ、跡とふ宿ノ、法ノ莚ニ」

あと-と・む・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ (自動、下二) 跡留 生キナガラフ。源、三十一、槇柱「北ノ方ノ詞「ミヅカラハ、カク心憂キ宿世、今ハ、見果テツレバ、此世ニ跡とむベキニモアラズ、(子タチノ)トモカクモサスラヘナム老先遠ウテ、サスガニ、チリボヒタマハムアリサマドモノ、悲シウモアベイカナ」同、四十五、椎本「サル邊エナキ御古物語、聞キシヨリ、イトド世ノ中ニ、あととめムトモオボエズナリニタリヤト、打泣キツツ宣ヘバ」

あと-と・む・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ (自動、下二) 跡認 跡ヲ認ム。新古今集、十七、雜、中「難波ノ山、千代ノ古道、あととめテ、又露分クル、望月ノ駒」新古今集、六、冬「風ヲ痛ミ、寄スル浪ノ、シバシバモ、あととめガタク、立ツ千鳥カナ」

あと-とり (名) 跡取 「倭訓栞、あとり「子ヲ、朝鮮ニテ、あとりト云フ、跡取ト呼ブニ近シ」」 あとつぎ(跡繼)ニ同ジ。

※**あど-な・い** (形) 稚呆 あどなしノ口語。其條ヲ見ヨ。

あと-な・し・キ・ケレ・ク・ク (形、二) 無跡 跡方ナシ。行方知ラレズ。萬葉集、三卅二「世ノ中ヲ、何ニ譬ヘム、朝開キ、漕ギ去ニシ船ノ、跡無きガ如シ」古今集、十一、戀、一「白波ノ、あとなき方ニ、行ク舟モ、風ゾタヨリノ、シルベナリケル」金葉集、二、夏「ホトトギス、飽カデ過ギヌル、聲ニヨリ、あとなき空ヲ、ナガメツルカナ」

あと-な・し・キ・ケレ・ク・ク (形、二) 無跡 足跡ナシ。人跡絕ユ。山家集、上「訪ヘナ君、夕暮ニナル、庭ノ雪ヲ、あとなきヨリハ、アハレナラマシ」月清集、下「住ミステテ、人ハあとなき、岩ノ戸ニ、今モ松風、庭拂フナリ」

あど-な・し・キ・ケレ・ク・ク (形、二) 稚呆 「跡處なしノ約カ、(事執部、さとりべ。さどまる、とまる)トリトメナシノ意、あどないハ、音便ノ口語ナリ」 タワイナシ。あどない。あどけない。(小兒ノ遊ビノ如キヲ云フ) 方丈記、地震ノ條「武士ノ獨子ノ、六ツ、七ツバカリニ侍リシガ、築地ノ覆ヒノ下ニ、小家ヲ作リテ、ハカナゲナルあどなしゴトヲシテ、遊ビ侍リシガ」著聞集、二十、魚蟲禽獸「或ル田舍人、云云、アカラサマニモ、あどなき事ヲバスマジキコトナリ」(白蟲ヲ苦シメテ喰ヒツカレ、癪トナリテ、遂ニ死シタルナリ) 狂言記、吼噦、狐ノ詞「サテモサテモ、人間ト云フ者ハ、あどないモノヂヤ、叔父坊主ニ化ケテ、意見ヲシタレバ、マンマト、タマサレテゴザル」倭訓栞、あど「小兒ナドノ、思智ナクテ事ヲ

ナスヲ、あとないト云フ」

あとなし-あと (名) 無端事 〔あとなしハ、[illegible]、无キ例ノ義ナルベシ、後ノ條ヲ見ヨ〕 例ノナキコト。依ルトコロナキコト。 天武紀、下、朱鳥元年七月[illegible]事一云云、謂二無レ所レ依依一之無端耳」

あと-ぬし (名) 跡主 〔足跡ノ主〕 釋迦如來ヲ稱スル語。 佛足石歌(奈良藥師寺)「[illegible]遐リマツレバ、阿止奴志ノ、玉ノ貌、思ユルカモ、見ル如モアルカ」

あと-の-がん (名) 後雁 雁行ノ中ニテ、後ノ方ニ伴ヒテ飛ビユクモノ。あとのがんが先に立つトぶフハ、先輩モ油斷スレバ、後進ニ追越サルノ意ニ云フ。 宇津保物語、俊蔭二「アヤマチシタル事ノ心地シテナムト宣ヘバ、佐君、打笑ヒタマヒテ、先に立つ鴈ゾアリケム」

あと-の-つき (名) 後月 其月ノ、前ノ月。アトゲツ。先月。去月。前月

あと-の-まつり (名) 後祭 〔江戸ナドニテ云ヒシハ、祭日後ノ山車ノ意ナルベシ〕 爲ル事ノ、時機ニ後レタルコト。アトヘン。六日ノ菖蒲。 古朽木(安永、手柄岡持)「タトヒ、ドノヤウナ好料藥デモ、今云ウテハ、あとの祭」 俚言集覽、あとのまつり「祭ノスミタル後ノ事ニテ、事ニオクルルヲ云フ」

あと-の-まま (副) 依例 〔後ノ條ノ(一)ヲ見ヨ〕 例ニ依リテ。往來ノトホリ。 儀式、四、[illegible]」

あと-の-もの (名) 阿堵物 〔阿堵ハ、此ノ意、支那ノ晉、宋、ノ世ノ俗語、劉須溪ノ世説、[illegible]、文學、中[illegible]〕 錢ノ異名。支那ノ晉ノ王衍ガ、錢ヲ、阿堵物ト云ヒシニ起ル。略シテ、阿堵トノミモ云フ。 [illegible] 云、阿堵の物ヲ譯セリ」

あと-のり (名) 後乘 さきのりノ條ヲ見ヨ。

あと-ば (名) 後齒 (一)下駄ノ下ニ附クル二枚ノ齒ノ、後ナルモノ。(前齒ニ對ス) (二)下駄ノ前齒ヲ、作附ニシテ、後齒ヲ、他ノ材ニテ入レタルモノ。

あと-はか-な・し・キ・ケレ・ク・ク (形、二) 無痕迹 〔いづおをはかりノ語原ヲ見ヨ、常ニ、上略シテ、はかなしトモ云フ〕 (一)痕ノ、認ムベキナシ。アトカタナシ。 古今集、六、冬「雪降リテ、人モ通ハヌ、道ナレヤ、跡はかもなく、思ヒ消ユラム」 同、五、[illegible]ノ御許ニモ、尋ネドコエタマヘド、あとはかなくテ、可惜シカリシ御形ナド、悲シク戀シトオボス」 玉葉集、十五、雜、二「[illegible]ニ、大海ノ原ニ、行ク船ノ、あとはかもなき、世ヲイカニセム」 伊勢物語、廿一段「中空ニ、立居ル雲ノ、跡モなく、身ノはかなくモ、ナリヌベキカナ」 (二)空シ。ハカナシ。 源、廿二、玉鬘「行クサキモ、見エヌ波路ニ、船出シテ、風ニマカスル、身コソ浮キタレ、イトあとはかなき心地シテ、ウツブシ伏シタマヘリ」 玉葉集、十三、戀、五、忘レニケル人ノ文ノ、殘レルヲ見テ「カハラネバ、文コソ見ルニ、アハレナレ、人ノ心ハ、あとはかモなし」

あと-はき (名) 後佩 さきはきノ條ヲ見ヨ。

あと-ばら (名) 後腹 (一)シリハラ。産後ニ、腹ノ痛ムコト。 (二)[illegible] (二)轉ジテ、スベテ、事終レル後ニ、ソレニ伴ヒテ、[illegible]マシキ事アルヲ、あとばらが病めるト云フ。 一休[illegible](寛文)[illegible]ハスル人ニ、油斷スナ、イツモ跡腹、やめるモノナリ」

あと-ばらひ (名) 後祓 あときよめニ同ジ。

あと-ばらひ (名) 後拂 まへばらひ(前拂)ノ條ヲ見ヨ。

あと-はり-の-おほくち (名) 後張大口 大口袴ノ背後ヲ、左右ニ張出ソルヤウニ作レルモノ。其部分ヲ、太キ絲ニテ織ル。武家ニテ、直垂ノ下ニ穿ク、今モ、能ノ役者ナド用キル。

あと-び (名) 後火 〔あとトハ、出棺後ノ意、今、後祓、後拂ナド云フモ、是レナリ〕 出棺後ノ門燎。 枕草子、七、六十七段、[illegible]りどころなきもの「あとびノ火箸」 顏氏家訓「喪出之日、門前然レ火」

あと-ひき (名) 後引 飽クコトヲ知ラズシテ、限リナク欲スルコト。 其習慣アル飲酒家ヲ、あとひき上戸ナドト云フ。

あと-びさり (名) 後退 「あとしざりノ轉、江戸子ノ發音ニ、ひヲしト云フコト常ナルニ、反對ニ、しヲひト云フコトモアリ、下質、したたび(舌鼓)ノ潮音轉倒ス、(偶違、すぢかひ)あとびっしゃりハ、急呼ナリ」 (一)あとしざりニ同ジ。アトビッシャリ。 (二)すりばちむしノ異名。

あと-びっしゃり (名) 後退 前條ヲ見ヨ。

あと・ふ・フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ (他動、下二) 誂 [illegible]

あと-ぶところ (名) 後懷 〔實父ノ後ニ、懷ニ抱キテ育ツル意〕 實父ニ代ハリテ、其子ヲ育ツルコト。 [illegible]シ立テナキ」

あと-へ (名) [illegible] 前前條ノ(一)ヲ見ヨ。

あと-べ (名) 後方 まくらべヲ見ヨ。

あと-べ (名) 跡部 狩獵ニ、獸ノ足跡ヲ認ムルヲ職トスル者。 [illegible]トシエタリ」

あと-へん (名) 後篇 〔篇トハ、篇目ノ略、其條ヲ見ヨ〕 時機ニ後レタル[illegible] 次ノ出、後ノ意、後の祭。 心中天網島(享保、近松作)中「何ヲ云ウテモ、あとへんテハ、カヘラヌ」

あと-ぼう (名) 後棒 先棒ヲ見ヨ。

あと-まくら (名) 後枕 まくら[illegible]ヲ見ヨ。

あと-まはし (名) 後廻 仕事ヲ繰合セテ、後ニ延バスコト。後回

あと-みち-ぎ (名) 後見草 「[illegible]ノ過ギタル後ヲ見ル」 [illegible]

ハ、正午ノ茶會ノ、止ニ濟ミタル後ニ、其席ニ入リテ、茶ヲ請フコト。茶道筌蹄、一「茶會「跡見ハ、朝茶、正午ノ後ニ限ル、客ハ、近邊マデ來リ、何方ニテ御案内ヲ相待ツト、亭主方ヘ申入ル、客、座ニツク、直樣ニ點茶ヲナシ、客ハ茶入、茶杓ヲカヘシ、一禮シテ退出スルナリ、半日ノ閑ヲモ得ザル者、此度ノ催シニ洩ルル事ノ殘念サニ、乞フ事ナリ」(節文)

アドミラル (名) ‖水師提督‖ 〔英語、Admiral.〕 英國ノ艦隊司令長官。又、海軍大將。

あと-め (名) |後目| 〔後方ノ轉(上達部、かんだちめ)〕 後。シリヘ。後。背後。 盛衰記、廿一、佐殿隱ニ臥木ニ事「身ガノ者ドモ、多ク、あとめニ付キテ來リ集ル」 前太平記、三十六「御供シ侍ラムト存ジ、跡目ニ付テ、追ヒツキ參ラセテ候」

あと-め (名) |後目跡目| 〔前條ノ語原ト同ジカルベシ〕 跡職ノ條ヲ見ヨ。

あと-もどり (名) |後戻| (一)來リシ方ヘ引返スコト。倒行 (二)巧ミナルヨリ、拙キニ移ルコト。(技ナドニ) 退歩

あ-ども・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (他動、四) |率| 〔鐘の響(橘守部)ニ、あともひ「後伴ノ略ナリ」按ズルニ、ともふト云フ動詞アリシナルベシ、辨官ヲ、大ともひト云フモ、屬僚ヲ統率スル意ト云フ〕 引キ連レ立ツ。率キトモナフ。 萬葉集、二、四十長歌「御軍士ヲ、安騰毛比タマヒ」同、三、五十八長歌「武夫ノ、八十伴男ヲ、召シ集ヘ、率比タマヒ」

あと-やく (名) |後役| 前任ノ人ノ職ヲ繼グコト。

あと-やく (名) |後厄| 厄年ノ條ヲ見ヨ。

あ-とら・ふ・フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ (他動、下二) |誂| 〔誂ふノ延ナリ、(準ふ、なぞらふ)其條ヲ見ヨ〕 アトフ。アツラフ。賴ミ誂フ。 名義抄「誂、アトラフ、アツラフ、コシラフ」 垂仁紀、四年九月「狹穗彦王、云云、誂ニ皇后ニ曰、云云」 神功攝政前紀、註「有ニ誘レ宰之情ハ乃誂レ宰曰、云云」 萬葉集、九十八長歌、水江浦島子ト海若神ノ女ト「相誂良比、言成リシカバ、云云」

あ-とり (名) ‖臘觜鳥猲子鳥‖ 〔集鳥ノ略ナルベシ、(泊瀬、はせ。速翅、はやぶさ)即チ、現今、あつとりト云フ、あぢ(阿治)ノ語原ヲモ見ヨ、漢字ハ、蠟觜ナルベシ、觜ノ色、黄白ニシテ、蠟ノ如シ〕 今名、あつとり。雀ヨリ稍大キク、觜、黄白、腰ハ純白ニシテ、喉ト胸トハ、茶色ナリ、頸背ハ、雄ハ、黑クシテ、雌ハ、暗褐色ニ、薄茶色ノ斑紋アリ、秋、北地ヨリ群リ來ル。 欽明紀、二年三月「臘嘴鳥皇子」(古事記、足取王) 天武紀、下、七年十二月「臘子鳥蔽レ天、自ニ西南ニ飛ニ東北ニ」 字鏡六十六「獦子鳥、臘觜鳥、阿止里」 倭名抄、十八五十「猲子鳥、阿止利」箋注、七十五「猲子鳥、按、觜色、黄白如レ蠟、故名ニ臘觜ハ猲子、臈觜、鴉子、皆是假借耳、蠟觜、見ニ夢梁錄ニ」 倭訓栞、あとり「日本紀ニ、臘子鳥ヲ訓ゼリ、云云、俗ニ、あつとりトモ云フ、あつとりノ火ニクバルト云フ諺ハ、其性、躁シキ鳥ニテ、漁者ノ、網ヲ打チ、篝ヲ燒クニオビエテ、火ニ入テ身ヲ亡ス事アリ」 籠耳草子(貞享)「閑ナル人ヲ、暗ガリノ牛、騷グ人ヲ、あつとりノ火ト云フ」 本草一家言、四、花鷄「和名、猲子鳥、其形、大如レ雀、云云、數十、爲レ群來」

アトリエ (名) |製作室| 〔佛語、Atelier.〕 細工場。仕事場。今、專ラ、油繪ヲ畫ク室ヲ云フ。

アドレッス (名) 〔英語、Address.〕 (一)演說。(二)手紙ノ宛。宛名。

あと-わ (名) |後輪| くらぼねノ條ヲ見ヨ。

あな (名) |穴孔| (一)〔物ノ面ニ、ウツロニ穿テル處。貫ケタルニモ、凹ミタルニモ云フ。 古事記、上五十一「取ニ其矢ハ自ニ其矢穴ニ衝返下」 倭名抄、三五身體類「竅、穴也、阿奈(コレハ、身體中ノ、耳目鼻口尻ノ、九穴ヲ云フ) (二)物事ノ、要點トスルトコロ。 俚言集覽、穴「事情ノ要處ヲ云フ、穴サガシ、穴ヲ知ル」 穴をさがすトハ、覈ル意、多ク、缺點ヲ云フ。(三)會計ナドノ缺損。「あなガアク」「あなヲウメル」 (四)芝居ニテ、土間ノ見物場ノ一間ヲ云フ。(五)溫泉場ノ宿屋ナドニテ、客間ヲ云フ。

あ-な (感) |噫| 〔あぞ、なぞ、感動詞ナリ、あなやノ、やモ同ジ〕 切ニ思フ時ニ發スル聲。あなや。アラ。(喜、怒、哀、樂、共ニ云フ) 古語拾遺「阿那、於茂志呂、古語、事之甚切、皆稱ニ阿那ニ」 字鏡八十五「可咲、見醜皃、阿奈、乎加之」 神武紀九「大醜、此云ニ鞅奈、瀰儞句ニ」 萬葉集、六四十四「痛何恰」同、十五七十「ワビ人ノ、痛心無ト、思フラム」 字類抄「可憎、アナニクシ」 後撰集、十一、戀、三「あな戀シ、行キテヤ見マシ、津ノ國ノ、今モアリテフ、浦ノ初島」 伊勢物語、第六段「鬼、ハヤ一口ニ食ヒテケリ、あなやト言ヒケレド、雷鳴ルサワギニ、得聞カサリケリ」「あな畏」「あな尊」

あな-あい (名) |案内| 案内ノ條ヲ見ヨ。

あな-いち (名) |穴一| 〔穴打ノ轉、ばくち、ちょぼいちモ、はくうち、ちょぼうちナリ〕 兒童ノ戲。錢打ノ一種、地上ニ、小サキ穴ヲ穿チ、三四尺、距リテ、線ヲ引キ、線外ニ立チテ、錢、又ハ、面子(其條ヲ見ヨ)ヲ投ゲテ、穴ニ入レルヲ勝トス、跳ネテ穴ノ外ニ出ヅレバ、次ノ者、別ノ錢ヲソレニ打チテ、中レルヲ勝トス。又、きずうちアリ。 和漢三才圖會(正德)十七、意錢「和名、世遍宇知、俗云、穴伊知、穴擊之訛乎」 賢女心化粧(延享、其磧)一「男子ノスナル石取、穴一ナドノ、似合ハザル惡遊ビ」(嬉遊笑覽、四) 此戲レニ用キルトテ、別ニ鑄作レルモノアリ、穴一錢ト云フ、兩面ニ、惠比須、大黑、富士山ナドノ象ヲ鑄出セリ、繪錢ノ如シ、形モ、常ノ一文錢ヨリ大キク、量モ、重シ。

あな-いち (名) |天名地鎭| 〔前條ノ穴一ノ一種ニ、地上ニ縱橫ノ線ヲ引キテスルコトアリ、字形ノ、其一部分ニ似タルヨリ、呼ブナリト云フ、天名地鎭、解セラレズ、尊クセムガタメニ、作リ設ケタル字ナラムコト、必セリ〕 我ガ邦ニテ、太古ニ用キタリト云フ文字ノ名。朝鮮ノ諺文ノ如シ、日文ノ類ナリ、採ルニ足ラズ。

あな-う (句) |噫憂| 〔あなうしノ語根、あな(噫)ト、うし(憂)トノ條ヲ見ヨ〕 噫、憂しト云フニ同ジ。 古今集、十八、雜、下「然リトテ、ソムカレナクニ、事シアレバ、マヅ歎カレヌ、あなう世ノ中」世ノ中ニ、イヅラ我ガ身ノ、アリテナシ、アハレトヤ言ハム、あなうトヤ言ハム」 倭訓栞、あなう「痛憂きノ義也ト云ヘリ、云云、宗尊親王ノ歌ニ「虎トノミ、用キラレシモ、昔ニテ、今ハ鼠ノ、あなう世ノ中」

アナウンサア (名) 〔英語、Announcer.〕 らぢお放送局ニテ、放送事件ヲ取次グ局員。

あな-うめ (名) |穴埋| (一)物ヲ以テ、缺ケタル處ヲ滿タスコト。アナフサギ。 ‖補缺 補塡‖ (二)損失ニ、金ヲ出シテ償フナドニモ云フ俗語。 ‖補償‖

あな-うら (名) |足裏| 〔足の裏ノ略轉、足結、あゆひ。足占、あうら。手之心、たなごころ(掌)。水之本、みなもと(源)。足之平、あなひら。足の末、あなすゑ、同ジ〕

アシノウラ。蹠 倭名抄、三形體「蹠、足下也、阿[illegible]」[illegible]カレ見タマヘ、コレコソ、マサシク、佛ノ道ニ入リタマヒケル、あなうらヲ、ウケタリシモノナリケレトテ[illegible]

あな-おと (名) 足音 あのおとヲ見ヨ。

あな-かしこ (句) 恐惶 〔かしこハ、畏しノ語根、穴賢ナド書クハ、當字ナリ〕 (一)嗟、畏しト云フニ同ジ。アア恐レ多シ。アラ勿體ナシ。源、廿九、行幸「エ立テルマジキ殿ノ内ヲ、あなかしこ、あなかしこトテ、後方サマニ居ザリ退キテ」同、四十三、竹川「上ヨリ打出デ過スコトモコソ侍レ、あなかしこトテ、立ツホドニ」 (二)此語、文章、書状ノ末ニ慣用セラレテ、敬意ヲ表スル語トス、恐惶謹言ト同意ナリ、婦人ノ書状ノ末ニ、略訛シテ、目出度かしくナド記ス。源、四十八、寄生「ナゴリト宣ハセタルコソ、云云、恨メシウ思ヒタマヘラルレ、ヨロヅハ、今、侯ラヒテナム、あなかしこ」(文ノ詞ナリ) 園大暦、文和四年二月十一日「吉田神主兼豐進状[illegible]女中、云云、末ニ、あなかしく」一休[illegible](寛文)二「一休、正月ニ髑髏ヲ抱キアリク、人、其故ヲ問ヘバ、[illegible]氣ナキ、此サレカウベ、あなかしこ、メデ度かしこ、[illegible]レヨリハナシ」[illegible](元祿)九、[illegible]穴賢、事出ニ商事記ハ今世婦人書簡末、必殺ニ賢一字、[illegible]一二[illegible]愼ミ思フベシ。備ビ秘スベシ。[illegible]、かぐや姫ノ、好シガリタマフニコソアリケレ、ト宜ヒテ、あなかしこトテ、箱ニ入レタマヒテ」(火鼠ノ裘ナリ) 十六夜日記「あなかしこ、[illegible]カクナ、[illegible]、ヒトカタナラヌ、跡ト思ハバ」(故人ノ歌ノ末ニ、書キ添ヘタル歌ナリ)

あな-がちに (副) 強 「あながちハ、嗟勝ノ義、又、孔穿ノ義ナド云フ說アレド、共ニイカガ、倚、誇フベシ」 強ヒテ。オシテ。無理ニ。 景行紀、四十年七月「汝不レ欲矣、豈強遣耶」同年十月「淩レ[illegible]強行」仁徳紀、二十六年七月「[illegible]、乃強近ニ[illegible]内ニ」源、十二、須磨「[illegible]シトオボシナス、ユカリ多クテ、オボロゲナラズ、忍ビタマヘバ、イトあながちニモ、聞エタマハズナリヌ」同、三十四、上、若菜、上「[illegible]ノ大臣タチ、其殘リノ上達部ナドハ、ワリナキ際アルモ、あながちニ、タメラヒタスケツツ、參リタマフ」拾遺集、一、片[illegible]「あながちニ、[illegible]フヲ[illegible]ニ、[illegible]フルカナ、片思ヒトハ、コレニヤアルラム」太平記、二十七、上杉、畠山、流罪死刑事「武士タル人ハ、平生ノ行迹ハ、云云、強テ[illegible]ニアラズ、只、最後ノ死ニヤウヲコソ、執スル事ナルニ」

あな-かま (句) 喧囂 〔かまハ、囂しノ語根(あな尊、あな畏し)〕 嗟、囂しト云フニ同ジ。人ノ言ヲ制止スル語。 源、三十九、御法「[illegible]女房ノアルカギリ[illegible]フヲ、あなかま[illegible]、[illegible]ニテ」落窪物語、一「御タチ、北ノ方ニ申セバ、あなかま、落窪ノ君ニ聞カスナ」新古今集、十五、戀、五「床近ク、あなかま夜ノ、キリギリス、夢ニモ人ノ、見エモコソスレ」 あなかま、あなかまたまへト云フ。源、五十、浮舟「カカル御アリサマヲ、御覽ジ知ラヌヨ、ナド、サカシラガル人モアレド、あなかまたまへ、夜[illegible]ハ、ササメクシモゾ喧シキ、ナド言ヒツツ眠メ」

あなかま-たまへ (句) 前條ヲ見ヨ。

あな-かんむり (名) 穴冠 漢字ノ頭ニアル穴ノ字。空、究、窄ノ如シ。穴字頭。

あな-ぐま (名) 穴熊 〔穴居スルニ因ル名、穴掘ノ名モアルナリ、まみノ條ヲ參見セヨ〕 獸ノ名。狸ニ似テ、稍、肥エタリ、山中ニ穴居ス、毛、黑黃ニシテ、頭、細ソク、喙、尖リ、目、圓クシテ銳ク、四足、短ク、爪、長シ、尾、大キクシテ短ク、頭ヨリ尾マデ二三尺アリ、走ルコト疾シ、晝伏シ、夜出ヅ、好ミテ果ヲ食トス。一名、あなほり。 貛 [illegible](享和)三十四「貛、アナホリ」

あな-ぐも (名) 穴蜘蛛 つちぐもニ同ジ。

あな-ぐら (名) 穴[illegible] 地ヲ掘リテ穴ヲ作リ、地底ニテ、倉ノ用ヲナスモノ、家ノ床下ナドニ穿ツ。江戶ニテハ、大ナル匣ヲ地中ニ埋メテ造レリ。土窖 地窖 コレヲ造ルヲ業トスル者ヲ、穴藏大工ト云フ。[illegible]、文明十年十二月二十五日「今夜有ニ火事ハ云云、具足等、收ニ納穴藏ニ畢」[illegible]太平記(寬文)二、貞德ノ問答ニ、宋吉須[illegible]ト云フ者アリ、云云、[illegible]穴藏ノ、みノ年說フ、朝カナ」(寬永十八年辛巳ナリ) 我衣「江戶穴藏ノ始ハ、明曆二年、本町三丁目、和泉屋九左衞門ト云フ呉服屋ガ、始ナリ」

あな-ぐ・る・ル・レ・ラ・リ・レ (他動、四) 探 〔穴刳るノ義カ、卽チ、穿鑿ノ意、あなさがし〕 探リモトム。サガス。アサル。穿鑿ス。 欽明紀、二年三月、註「前後失レ次、兄弟參差、今則考ニ古今一、覈ニ其眞正一」 舒明即位前紀「境部毛野[illegible]、乃出之入ニ[illegible]山、[illegible]以探[illegible]山」[illegible]字鏡、[illegible]「覈、阿奈久留」[illegible]四十一、[illegible]下向事「あなぐられテ、遂ニ搦メ取ランケリ」

アナクロニズム (名) 時代錯誤 〔英語、Anachronism.〕 當時ノ風俗、習慣ニ出合ハヌコト。

あなご (名) 穴子 〔沙質ノ海底ノ穴ニ棲息ス〕 魚ノ名。形、うなぎニ似テ、黃黑ナリ、兩脇ニ、白キ小點アリテ、一條ニ連リテ、尾ニ至ル、腹、白シ、大ナルハ二三尺ニ至ル、味、うなぎニ及バズ、亦、蒲燒、天麩羅ナドトシテ食フ。海鰻鱺 一種 和漢三才圖會(正德)五十一「阿奈古、狀似ニ海鰻一、而色淺、云云、[illegible]」

あな-さがし (名) 穴探 物事ノ、缺點ヲサガシダスコト。

あな-ざらし (名) 穴晒 のこぎりびきノ條ヲ見ヨ。

あな-し (名) [illegible] 〔[illegible]〕 (譚む、あさむ。つぬ(萬)、つな(綱))。風ノ條ヲ見ヨ。[illegible]中抄ニ、いぬゐノ風ヲ、あなしト云フトアルヲ見レバ、あなハ、若シ、戌ノ轉訛ニテ、しハ、風ノ義ナラムコト、云フマデモナカメリ〕(節文)あなしニ 戌亥ノ方ヨリ吹キ來ル風。西北ノ風。今モ、關西ノ船人ハ、あなぜト云フ。 袖中抄、二十「戌亥ノ風ヲバ、あなしト云フ」[illegible]九、[illegible] [illegible]前、宗像郡ノ山」 新千載集、五、秋、下「吹拂フ、あなしノ風ニ、雲晴レテ、[illegible]ノ月」[illegible](元祿)ニ、[illegible]「西北風ヲ云フ、[illegible]」[illegible]及、中國ノ船人ノ言ニ、西北ノ風ヲ、あなぜト云フハ、あなしノ轉訛也」

あな-ずみ (名) 穴居人 上代、人民ノ、土窟ニ住ミタルモノ。つちぐも、えみし、ナド云ヒシ、是レナリ、今モ、各地ニ、其遺跡アリ。 神武紀[illegible]、[illegible]同紀ニ、土蜘蛛ノ、大室屋ニ住ミシコトヲ記セリ。

あな-すゑ (名) 足末 〔足之末ノ略轉、あなうらノ語原ヲ見ヨ〕 足ノ先。足尖。 神代紀、上「手端足端」[illegible]宇津保物語[illegible]「[illegible]りあなすゑマデ、タダニ綾錦ヲタチキリテ、見タマフラム草木マデ、着セ飾リ、此大殿ニツカマツラム」

あな-すゑ (名) 後裔 〔前條ノ語ニ同ジ〕 足末ノ義、俗ニ云フ、[illegible]ノ意〕 ウミノコ。ハツコ。スエ。アト。子孫。 [illegible]「[illegible]」[illegible]記、[illegible]景行紀、四年二月「[illegible]」

前紀「押磐尊御誥、僕、是也」宇津保物語、國譲、中四十五「世ハ、右大將親子ノ御代ニナリナムトスメリ、云云、中宮ハ、オハシマス故郷ハ、皆あなすゑナリ、例ハ、サルスヂニモアラズ」

あなぜ（名）[西北風] あなしノ條ヲ見ヨ。

あなた（代）[彼方]〔こなた(此方)ノ語原ヲ見ヨ〕(一)方向ノ代名詞。彼ノ方。ヲチカタ。カナタ。アチラ。源、二、帚木三十一「北ノ障子ノあなたニ、人ノケハヒスルヲ、云云」「山ノあなた雲ノあなた」(二)往ニシ方。來シ方。以前。名義抄「以往、アナタ」源、十五、蓬生三「サル方ニアリツキタリシ、あなたノ年頃ハ、言フカヒナキサビシサニ目馴レテ、過シタマヒシヲ」

あなた（代）[貴方]〔前條ノ語ヨリ移ル、名ヲ言ハズ、方向ヲ以テ云フハ、敬フ所以ナリ〕對稱ノ代名詞。今、尊長ヨリ同輩ニ掛ケテ相語ルニ、最モ多ク用キラル。狂言記、秀句大名「コレヲ、あなたへ上ゲマス」古今夷曲集(寛文)九、勝尾寺義空ニ「我ガ歌ニ、ナドテあなたガ、勝尾寺、喉ぎくぎくう、サセテミセマス」

あなたふと（名）[安名尊]〔嗟、尊しノ語根(あな畏)〕(一)催馬樂ノ曲ノ名。催馬樂、安名尊「安名太不止、今日ノ尊サ、古ヘモ、カクヤアリケム、今日ノ尊サ」(二)高名ノ笛ノ名。江談抄、三、雜事「穴貴ト云フ笛ハ、高名ノ笛也、云云、式部卿宮、吹二此笛一之時、御衣上ニ、雪降懸リタリケルヲ、打拂之間、折レ了」(宮ハ、清和天皇ノ皇子、貞保親王)

あなぢ（名）[穴痔] 痔ノ一種。肛門ノ周圍ニ穴ヲ生ジテ、内外ニ通ズルモノ。ハスヂ。痔瘻。[痔瘻]

あなづらは・し・シキ・シケレ・シク・シク（形、二）[侮]〔次次條ノ語ノ未然形ノあなづらはし。いたつく、いたつかはし〕侮ルベシ。源、廿二、玉葛廿「ヨカラヌナマ者ドモノ、あなづらはしうスルモ」枕草子、二、十七段、にくきもの「イソグ事アル時ニ來テ、長言スル客、あなづらはしき人ナラバ、後ニ、ナド言ヒテモ、追ヒヤリツベケレドモ、サスガニ、心ハヅカシキ人、イト憎シ」

あなづり（名）[穴釣] 鰻ヲ釣取ルニ、水底ノ穴ニ棲ムヲ窺ヒテ釣ルコト。嬉遊笑覽、十二、漁獵「鰻鱺ノ穴釣ハ、蚯蚓ヲ餌トシ、五尺許ノ竹ノ先ニ結付ケ、日暮ヨリ、夜中ニ釣ル、汐入ノ小溝、橋臺ノ石垣ノ透間、又、汐ノソコリニハ、河底ノ穴ヲ見テハ釣ルナリ」(節文)

あなづ・る・ル・レ・ラ・リ・レ（他動、四）[侮]〔語原、詳ナラズ、徒釣るノ轉ニテモアラムカ、(招釣る(誘)ナドモアリ)徒ナルコトヲスノ意、(花薄、はたすすき。頂巓、いなだき)侚、考フベシ、あなどるト云フハ、音轉ナリ(かもづく、かもどく。たづたづし、たどたどし)〕見下ス。ミサグ。カロンズ。又、あなどる。輕蔑ス。雄略紀、廿三年八月、詔「努力相助、勿レ令ニ侮慢一」孝德卽位前紀「尊ニ佛法一、輕ニ神道一」源、五、若紫九「彼國ノ人ニモ、スコシあなづられテ、何ノ面目ニカ、マタ都ニモ歸ラム」大鏡、序「老イタル身ハ、イトカシコキモノニ侍リ、若キ人タチ、思シ莫あなづりソ」名義抄「侮、アナヅル、カロム」字鏡九「侮、阿奈止留」

あなどり（名）[侮] アナドルコト。輕蔑。詩經、小雅、常棣篇「兄弟鬩レ于レ牆、外禦ニ其務一」正韻「務、同古切、音武、同レ侮」

あなど・る（動）[侮] 前前條ヲ見ヨ。

アナナス（名）[鳳梨]〔馬來語、Ananas. 英語、Pineapple.〕熱帶地ノ植物。葉ハ扁闊ニシテ、長サ三四尺、夏、葉間ニ淡紫色ノ花ヲ開ク、實ハ楕圓ニシテ、長サ四五寸、鱗甲アルコト、松毬ノ如ク、熟スレバ黄ナリ、英語ニ、ぱいんあっぷるト云フ、味甘ク酸シ、此植物、小笠原島、臺灣ニ生ジ、葉ヨリ纖維ヲ採リ、布ヲ織リ、又、繩トス。

あななひ（名）[麻柱]〔次條ノ語ノ名詞形、卽チ、支柱ノ義、古へ、工人、支柱ニ緣リテ、高キニ登リシニ起ルト云フ、麻柱ハ、庋柱ノ誤ナラムカト云フ說アリ、卽チ、枝柱、支柱ナリ〕アグラ。足代。足場。[閣架] 天治字鏡、十二「世閣架、阿奈奈比須」倭名抄、十五「造作具「麻柱、阿奈奈比」竹取物語「男ドモ、二十人バカリツカハシテ、あななひニ上ゲスヱラレタリ」大府記「永保元年、被レ立ニ法勝寺御塔心柱一云云、次打ニ大鼓一、應ニ其聲一、大工以下、立ニ麻柱一打レ之」

あなな・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ（他動、四）[扶翼]〔あハ發語、あ擔ふノ轉ニモアルベキカ、(あさまけま、あさなけま)侚、考フベシ〕助ク。輔佐ス。續紀、四、慶雲四年七月、詔「王臣百官人等、彌務彌結彌、阿奈奈比奉、輔佐奉事」三代實錄、三十八、元慶四年十二月、藤原基經爲ニ太政大臣一策命「天下政乎相安奈奈比、助奉事母久奈利奴」

あなにあや（副）[奇]〔奇まノ轉(同じ、おやじ。生憎、あやにく)〕奇まニ同ジ。萬葉集、十六、廿九「伊夜彥ノ、安奈爾神サビ、青雲ノ、靡ク日スラ、小雨ソボフル」(越後國、彌彥山)

あなにく・し（形）[可憎] あやにくし、又、あやにく、ノ條ヲ見ヨ。

あなにやし（句）[美哉] 次條ヲ見ヨ。

あなにゑや（句）[美哉妍哉]〔あなハ、感動詞、にトハ、瓊ノ義ニテ、美シキ意ニテモアルカ、(韻會「瓊、謂ニ玉色之美一」)ゑモ、やモ、感動詞ナリ、やしハ、添ヘタル辭ニテ、はしけやし、よしゑやしノ、やしノ如シト云フ〕嗟、美麗シキ哉。又、あなにやし。神代紀、上六「妍哉、可愛少女歟」妍哉、此云ニ阿那而惡夜一」同七「美哉、善少男」集韻「妍、麗也、美好也」古事記、上三「阿那邇夜志、愛袁登古袁」

あなねずみ（名）[穴鼠] 穴ニ籠リ居ル鼠。活版倭訓栞、欄外、あなねづみ、顯昭ガ和歌いろは集ノ奥ノ文「ツクヅクト、入リコモリタル、あなねづみ、世ノフルコトヲ、引キゾアツムル」

アナはじかみ（名）[蘘]〔漢はじかみノ意ナルベシ、あなはとりノ語原ヲ見ヨ〕呉蘘ニ同ジ。今云フ、生蘘ナリ。倭名抄十六九「生蘘、久禮乃波之加三、俗云、阿奈波之加美」

あなばた（名）[穴端] あなばたま腰をかけて、(墓穴)トイフ句ノ端語。死ニ近クコト。俚言集覽「老人ナドノ、其ノ身ノ死ニ幾キヲ、自ラ云フ詞ナリ、漢書、龔勝曰、吾今老矣、旦暮入レ地」(節文)

あなばち（名）[穴蜂] 古名、ユスルバチ。今、又、つちばち。蜂ノ一種。地上ニ小穴ヲ穿チテ出入ス、底深ク入リテ、大ナル巢ヲ作ル、形ハ、山蜂ノ如シ。[土蜂] 重修本草綱目啓蒙、廿七「土蜂、ユスルバチ、ツチバチ、アナバチ」

アナはとり（名）[穴織 漢織]〔あなハ、漢ノ支那音、あぬノ、あなト轉ジタルナルベキカ、後世ノ宋音ナレド、餡ヲ、あんト云フ、(信、信濃。因、因幡)東雅(享保)六、綾「穴織、云云、穴、讀ミテ、あなト云ヒシハ、卽チ是レ、漢ノ字ノ音ヲ呼ブニ同ジ」或ハ、あやはとりト音通ナリト云フ說アリ、(可憎、あやにく)コレ其理アルニ似タレド、呉蘘ヲ、あなはじかみト云フモ、漢蘘ナラズハアルベカラズ、(漢土ヨリ渡來ノ物ナリ)はとりハ、織ノ約ナリ、侚、漢ト、呉ト、ノ條ヲ見

[illegible]
サレタル[illegible]穴[illegible]トモ云フ、[illegible]織ノ條ヲ見ヨ。袖中抄、五「ナドテカク、ツレナカルラム、あなはとり、あなあやにくノ、君ガ心ヤ」（漢ヲ、漢綾ノ序トシタリ）

あなばん（名）［穴番］芝居ノ興業ノせりだしヨリ、俳優ノ顯レ出ヅル時、其せりだしノ穴ヲ監督スル者。

あなひら（名）［蹠］〔足之平ノ略轉、あなうらノ[illegible]ヲ見ヨ〕足ノ甲。字鏡「跌、跗、足上也、阿奈比良」（倭名抄、同ジ）

あなふ（名）［穴太］次次條ヲ見ヨ。

あなふさぎ（名）［穴塞］あなうめヲ見ヨ。

あなふづき（名）［穴太築］〔あなふハ、あのおト發音ス、穴太ハ、近江國、滋賀郡、比叡山、日吉神社ノ南麓ノ地名ナリ、今、坂本村ノ大字トナル、兵部省式ノ、北國路ノ、近江國、穴太驛、此地ナリ〕近江國、穴太ノ地ニ、石工多カリキ、織田信長ノ、近江國、安土城ヲ築ク時、此石工ヲ役シテ、石垣ヲ築カシメ、巧ミニ築キアゲタリト云フ、コレヨリ、諸國ノ築城ニモ用キラレ、其技、愈進メリ。略シテ、あなふ、又、約メテ、あのトモ云ヒ、終ニ石垣工ノ名トスルニ至レリト云フ（此事、明良洪範（寶永）ノ續篇、五ニ委シ）倭圖彙、あの「近江地志ニ、石垣ヲ築ク者ヲ、あのト云フハ、近江國穴太ノ人、始メテ築キシヨリノ名ナリト云ヘリ」同、あなふ「穴生ト書ケリ、石切ノ事ナリト云ヘリ」

あなふりう（名）［穴太流］「中略、近江國穴太ニ住セシヨリ稱ス、前條ノ語原ヲ見ヨ」佛教、台密十三流ノ一。佛頂流ノ類、行[illegible]ノ弟子、大[illegible]ヲ流祖トス。

あなほり（名）［穴掘］墓穴ヲ掘リ作ルヲ業トスル者。

あなほり（名）［[illegible]］穴熊ノ條ヲ見ヨ。

あなほりだいく（名）［穴掘大工］（一）少年ノ木工ノ、修業トシテ、專ラ、柱ニ、貫柄（スギホゾ）ノ穴ヲ、鑿ニテ掘リ穿タシムルヲ稱スル語。技ノ拙劣ナル木工ノ渾名トモス。（二）今、又、木工トシテ、淺身、穴掘ノミヲ、專業トスル者アリ、親方トナリテ、弟子ヲ率キル。

あなめ（名）［阿那目］〔袖中抄、二「あなめ、あなめトハ、あなめいた、あなめいたト云フ也」噫、目痛しノ義ニテ、小野小町ノ髑髏ノ目ニ、薄ノ生ヒタルニ就キテ云フ語ナリト云フ。江家次第、十四ニ、在五中將、奥州ニ到リテ、小野小町ノ[illegible]ヲ求メシニ[illegible]、目、[illegible]之、[illegible]小野止[illegible]不[illegible]、薄生[illegible]中ヲ行ク人アリ、風ノ音ノイウニテ、[illegible]ニ、其[illegible]ヲ[illegible]テ、其頭ヲ、清キ處ニ[illegible]レ、其夜ノ夢ニ、吾レハ、小野小町ト言ハレシ者ナリ、嬉シク、恩ヲカウブリヌルト云ヘリ、云云、トアリ、此野ヲ、玉造ノ小野ト云ヒシ由。（[illegible]、古事談、二、袋草紙、四、童蒙抄、七、袖中抄、十六ニモ見エテ、異同アリ）此事ハ、靈異記、下、第廿七縁、寶龜九年、備後國ノ品知牧人ト云フ者、同國ノ葦田竹原ニ宿リシニ「有二呻音一言、目[illegible]、[illegible]、明日見レ之、有二一髑髏一、笋生二目穴一而所レ串レ之、揭レ竹、解免」トアリテ、其[illegible]ニ恩ヲ報イラルトアルニ據リテ作リシ談ナルベシ。

あなもん（名）［穴門］築地（ツイヂ）、又ハ、其下ノ石垣ナドヲ切明ケテ設ケタル門。家屋雜考、四「埒門（アナモン）」[illegible]、既夕「旬人築二埒坎一」註「埒、穿（ウガツ）」

[illegible]」

あなや（感）［[illegible]］あな（感）ノ條ヲ見ヨ。

あなり（句）［有也］〔あるなりノ音便ノ、あんなりノ[illegible]ニ、なるなり、なんなり、なめり（なるめり）〕あるなりト云フニ同ジ。源、廿九、行幸「對面ニ、聞エマホシゲナルコトモ、あなり」榮花物語、二、花山「ソレカレコソ、追從（シヨウ）スル者ハ、あなれ」

あに（名）［兄］〔吾兄（アノエ）ノ約轉ニモアラム〕（一）[illegible]ニ、イロエ、イロセ、イロネ。コノカミ。セウト。同ジ親ニ生レタル男子ノ、先ニ生レタルモノ。オヤカタ[illegible]「阿兄、舍兄（弟ニ對ス）」神代紀、下「兄、[illegible]、兄人（アニヒト）」伊勢物語、六十六段「あに、オトト、友ダチナドヒキヰテ、難波ノカタニ行キケリ」（二）又、人ヲ親シミ、稍、敬ヒ呼ブ稱。

あに（副）［豈］〔何（ナニ）ト通ズ、あにノ語原ヲ見ヨ〕何（ナニ）。ナンゾ。イカデ。ナントシテ。（下、反語ニ應ズ）神代紀、上「吾等所レ造之國、豈[illegible]二善乎一」（アニヘラムヨクナレリトヤ）仁德紀、廿二年正月「[illegible]」クモアラズ」萬葉集、[illegible]「[illegible]」[illegible]

あにい（名）［兄］〔次條ノ音便、（柳（ヤナギ）、やない箱）あねヲ、あねいト云フ、同ジ〕東京市中ニテ、勇（イサミ）肌ノ若者ヲ呼ブ語。大‖[illegible]、あにい、若キ者ノぬるきヲ、あにいト云フ、[illegible]六ト云フナリ」

あにき（名）［兄貴］〔あにぎみノ略、（[illegible]君、あぎ）父（テテ）き、母（ハハ）きモアリ〕（一）兄ノ尊稱。アニゴ。（二）東京市中ノ若者仲間ナドニテ、長ト推サルル者ノ稱。大[illegible]此[illegible]、對稱ノ代名詞ノ如クニモ用キラレ、稍、敬フ意ヲ含ム。アニイ。

あにご（名）［兄御］次條ヲ見ヨ。

あにごぜ（名）［兄御前］[illegible]テ、何ヲ思ヒタマヘバ、あにごハ、向ヒノ山ヲ見テ、サノミ泣カセタマフゾさ」

あにぢやひと（名）［兄人］おやぢやひとヲ見ヨ。

あにでし（名）［兄弟子］[illegible]

あにはからむや（句）［豈計］〔何トシテ[illegible]〕[illegible]案外ナリ。[illegible]

あにぶん（名）［兄分］おやぶんノ條ヲ見ヨ。

あにやう（名）［阿娘］〔阿母（アボ）ノ語原ヲ見ヨ〕ムスメ。女子ヲ呼ブ語。[illegible]にやう「阿嬢ノ異音ナリ、伊勢ノ俗、あんにヤト云フモ、あにやうノ訛ナルベシ、又、娼妓ヲモ、あんにヤト云ヘリ、[illegible]公安ニ、土娼、只呼ニ嬢子一ト云ヘルガ[illegible]」

あによめ（名）［兄嫁］オホヨメ。兄ノ妻。[illegible]

アニリン（名）［亞尼林］〔英語、Aniline.〕無色ニシテ、特異ノ臭氣ヲ有スル、油狀ノ[illegible]、水ニ溶ケ難ク、[illegible]、其水溶液ニ、晒白粉ノ溶液ヲ加フレバ、紫色ヲ呈ス、染色ノ原料トシテ、多ク用キ

ラル、あにりん油トモ稱ス。其鹽化物ヲ、あにりん鹽ト云フ。

あね (名) 姊|姉 〔箋注倭名抄、一、十五「阿爾、阿衣米之急呼、即、兄女之義也」〕(一) 女子ノ、先ニ生レタルモノ。同胞ノ女ノ年長者。イロネ。(妹ニ對ス) 倭名抄、二、七十兄弟類「姊、女兄、阿爾」(二) 又、泛ク、女ヲ親シミ呼ブ語。「姉子」姉御」

あね-い (名) 姉 〔次條ノ音便、あにきヲあにいト云フニ同ジ〕 若キ女ヲ親シミ呼ブ語。(東京市民)

あね-き (名) 姉貴 〔次條ノ略、あにき、をぢきモアリ〕 姉ノ尊稱。 壬生大念佛(元祿、近松作)上「姉きハ、奧ヘ入リ、姫ト中善ウシタマヘ」

あね-ぎみ (名) 姉君 姉ノ尊稱。 源、二、帚木三十七「コノあね君ヤ、まうとノ後ノ親、サナム侍ルト申スニ」孟津抄「まうとハ、御邊ナド云フガ如シ」後のおや、細流抄「繼母ナリ」

あね-ご (名) 姉子 〔子ハ、女ニツケテ云フ語(得選子、娵子)〕 若キ女ヲ親シミ呼ブ語。 寛平御時、用縁起「日本武尊於中斐國坂折宮、有レ戀一宮簀媛、御歌曰、愛市縣、氷上阿禰古ハ、我レ來ムト、床避ルラムヤ、アハレ阿禰古ヲ」今、尾張國、愛知郡、大高村ニ、氷上姉子神社アリ、宮簀媛ヲ祭レリ。 曾丹集、冬、十「神祭ル、冬ハナカバニ、ナリニケリ、あねこガ閨ニ、榊折リシキ」 新六帖、一、冬夜「冬來テハ、あねこガ閨ノ、竹簀垣、幾夜スキマノ、風カ寒ケキ」

あね-ご (名) 姉御 (一) 姉ノ尊稱。 次條ヲ見ヨ。(二) 今、又、廣ク女ヲ親シミ、稍敬ヒテ呼ブ稱。 東京市民ノ語ナリ。 「親分ノ所ノあねご」(其妻ヲ云フ)

あね-ごぜ (名) 姉御前 〔御前ノ條ヲ見ヨ〕 姉ノ尊稱。略シテ、あねご。 謠曲、竹雪(觀世世阿彌)直井月若「長松ニオハシマス母ト姉御ニ、暇ヲ乞ヒ、云云、母上モ、姉御前モ、思ヒハ同ジ長松ノ風、身ニ染ムバカリ深クル夜ノ、云云」(長松ハ、地名ナリ) 曾我物語、二、時政が娘の事「マコトニ、不思議ノ夢ナリ、あねごハ、知ラセタマフベシ、問ヒタテマツラム」(北條時政ノ次女、日月ヲ袂ニ入レタルヲ夢ミテ、姉ノ政子ニ問ヘルナリ)

あね-ざと (名) 姉里 〔姉ハ、女ヲ呼ブ語、即チ、遊女ヲ云フ〕 イロザト。遊女場。遊里。 雪女五枚羽子板(寶永、近松作)中「北山、東山、西ニ姉里、戀郭」(洛西ノ島原ヲ云フナルベシ)

あね-さま (名) 姉樣 〔古ヘニ云ヘル雛ナリ、あねさまおと、即チ、ひひなあそびナリ〕 女兒ノ玩具。色紙、又ハ、帛ヲ折リテ、少女ノ形ヲ作レルモノ。コレヲ飾リテ、ままおとスルヲ、あねさまおとト云フ。

あねさん-かぶり (名) 姉樣被 婦人ノ、物見遊山ナドニ外出スルニ、路塵ノカカルヲ防ガムトテ、頭髮ヲ手拭ニテ包ムコト。手拭ノ中央ヲ、前頂ニ當テ、左右ノ端ヲ、頂後ニマハシ、其一端ヲ、頂上ニ折返シテ、其角ヲ額ノ所ニ插ム。

あね-ぢゃ-ひと (名) 姉人 おやぢゃひとヲ見ヨ。

あね-ぢょらう (名) 姉女郎 遊女仲間ニテ、姉分トスル遊女。古參ノ者ナリ。 生玉心中(正德、近松作)下「傍輩ト云ヒ、姉女郎、本ノ姉さん、妹ト、兄弟ノ契約シテ」

あ-ねったい (名) 亞熱帶 〔熱帶ニ亞ぐ意〕 地球ノ表面ニテ、熱帶ト溫帶トノ中間ノ地ノ稱。

あね-はづる (名) 姉羽鶴 鶴類ノ最小ナルモノ。體長、二尺八寸、全身鼠色ニシテ、頭上黑シ、眼ノ後ヨリ、純白ノ長キ羽毛ヲ生ジテ、美麗ナリ、嘴ハ綠ニシテ端赤ク、脚モ赤シ、ゐべりあ地方ヨリ、冬時ニ來ル。 蓑衣鶴 倭訓栞、後編、あねはづる「黑鶴ニ似テ小ナリ、異邦ヨリ來ルモノナリ、ト云ヘリ」

あねは-の-まつ (名) 姉葉松 〔陸前國、栗原郡、梨崎村ニ、姉齒ノ地アリ、今、澤邊村ノ大字トナル〕 陸奧ノ栗原郡ニアリシ松ノ名。小野小町ガ姉ノ墓上ノ樹ナリキト傳フ、伊勢物語ノ歌ニ因リテ、往往、和歌ニ詠ゼラル。 伊勢物語、十四段「昔、男、陸奧國ニ、スズロニ行キ到リニケリ、ソコナル女、京ノ人ハ、メヅラカニヤオボエケム、切ニ思ヘル心ナムアリケル、云云、男、京ヘナム往ヌルトテ「栗原ノ、あねはの松ノ、人ナラバ、都ノ苞ニ、イザト言ハマシヲ」(田舍女ヲ松ニ譬ヘテ、伴ヒガタシト云フナリ) 宇津保物語、初秋八十二「聞ク人ハ、あねはの松ノ、風ナレヤ、昔ノ聲ヲ、思ヒ出ヅルハ」 夫木抄、廿九、松「栗原ノ、あねはのまつヲ、サソヒテモ、都ハイツト、知ラヌタビカナ」カクバカリ、年ツモリヌル、我レヨリモ、あねはの松ハ、老イヌラムカシ」 義經記二、業平、東ヘ下リテ、あねはヲ尋ネテ、墓ニ植エタル松ヲ、あねはの松ト云フ、云云、ト見ユ。 奧羽觀跡聞老志「姉齒松、歌枕作姉場、松葉集作姉葉、在梨崎村、古老相傳、松浦佐用姫者姉某、墓上松也、或曰、小野小町姉也」(節文)

あね-ぶん (名) 姉分 おやぶんノ條ヲ見ヨ。

あね-むこ (名) 姉壻 姉ノ夫。 姐夫

アネモネ (名) 〔英語、Anemone.〕 根宿草ノ名。莖、高サ尺餘ニ達ス、四五月ノ頃、莖梢ニ、紅、白、紫藍色等ノ花ヲ開ク、近年渡リシ外來ノ種ナリ、觀賞用トシテ栽培セラル。

あの (名) 阿野 あなふづき(穴太築)ノ條ヲ見ヨ。

あ-の (連體) 彼 〔あの(此)ノ語原ヲ見ヨ〕 かのニ同ジ。遠キ物事ヲ指シテ云フ語。(あの、そのニ對ス) 源、十七、繪合廿六「院ノ御繪ハ、后ノ宮ヨリ傳ハリテ、あの女御ノ御方ニモ多クマヰルベシ」 同、十三、明石廿七「參レリシ使ハ、云云、あの須磨ニトマリタルヲ召シテ」

あ-の-おと (名) 足音 〔足ノ條ヲ見ヨ〕 足音。又、足音。アナオト。 跫音 萬葉集、十四、九「安能於登セズ、行カム駒モガ、葛飾ノ、眞間ノ繼橋、止マズ通ハム」 同、十一、廿八「君ニ戀ヒ、寢ネヌ朝明ニ、誰ガ乘レル、馬ノ足音ゾ、我レニ聞カスル」 馬ノ音ノ、トドトモスレバ、松蔭ニ、出デテゾ見ツル、若シモ君カト」 字鏡、十八「跳、阿奈於止」(手の心、たなおころ) 廣韻「蹉、跳足、蹋レ地也」 七十一番歌合(文安)四十六番、暮露「厭フナヨ、通フ心ノ、馬聖、人ノ聞クベキ、足の音モナシ」

アノクタラ-サンミャク-サンボダイ (名) 阿耨多羅三藐三菩提 〔梵語、阿耨多羅(Anuttara)三藐(Samyak)三菩提(Sambodhi)〕 無上正偏智ノ義、絕待智者ノ意、倭訓栞、あのくたら「大日經ニ見ユ、唐ノ三藏ノ翻ニ、阿ハ無、耨多羅ハ上、三ハ正、藐ハ等、三ハ正、菩提ハ覺、ト見エタリ」(無上正等正覺)〕 佛陀ノ智德ヲ稱スル一名號。略シテ、阿耨菩提トモ云フ。 法華經、普門品「佛說是普門品時、衆中八萬四千衆、皆發無等等阿耨多羅三藐三菩提心」 新古今集、二十、釋教、比叡山ノ中堂建立ノ時、傳教大師「阿耨多羅、三藐三菩提ノ、佛タチ、我ガ立ツ杣ニ、冥加アラセタマヘ」(盛衰記、九、山門堂塔事ノ條ニモ、傳教大師當山草創昔ト記シテ、此歌ヲ載セテアリ、わがたつそまノ條ヲ見ヨ) 太平記、二、南都北嶺行幸事「契アレバ、此山モ見ツ、阿耨多羅、三藐三菩提ノ、種ヤ植エケム」 玉葉集、十九、釋

数、多ニ、地藏菩薩ノ見ニテ、詠マセタマヒケル「何モミナ、イトハス山ノ、草木ニハ、阿耨菩提ノ、花ゾ咲クベキ」雍州府志(天和)五、山城國[illegible]「號二小倉山阿耨菩提寺一」

アノク-ボダイ (名) [阿耨菩提] 前條ヲ見ヨ。

あの-あと (副詞句) [如案] あんのごとくヲ見ヨ。

あの-さん (名) [彼樣] きみさまノ條ヲ見ヨ。

アノヘレス (名) 〔英語、Anopheles.〕 蚊ノ一種。まらりや熱病ノ傳染ヲ媒介スルモノ。

あの-よ (名) [後世] ノチノヨ。後世。現世ニ對シテ、あの世、この世、ト云フ。

あは (名) [淡] 〔景行紀、五十三年十月「至上總國、從海路渡淡水門」古事記ニ、東之淡水門)トアルハ、後ノ安房國ナレバ、あはノ假名遣ナリ」(一) 〔味、薄キコト。「淡海」(鹽氣ナキナリ) (二) 〔淡淡シキコト。スゲナキコト。ツレナキコト。冷淡 源、四十三、竹河[illegible]ノツイデニ、[illegible]ヘ御コエムト、待チツケ奉リタルカヒモナク、あはノ御コトワリヤト、打笑ヒテオハスル」[illegible]、あはあはしきナリ、[illegible]、カロキヤウノコトナリ」(三) 眞心ヲ籠メヌコト。淺薄 [illegible]、あは二[illegible]リヤ、[illegible]ヒオキシ、花田ノ帶ノ、移リヤスサハ」(おまびとノ[illegible]ノ、[illegible]ヲ見ヨ)

あは (名) [粟] 〔日本釋名(元祿)下、粟「五穀ノ内ニテ、味淡キ故ニ名ヅク」米ヨリハ粘ナキ意カ、支那ニテ、粟ト云フハ、多クハ、籾米ノコトナリ」(一) 〔穀ノ名。苗モ、葉モ、きびニ似テ、一根一莖ニシテ、一穗ヲ出ス、大葉、小葉等、種類多ク、皆早、中、晩、粳、糯ノ品アリ。大粟ハ、穗、大キクシテ、長キ毛アリ、故ニ、毛粟トモ云フ、毛ニ、黑ト赤トアリ、粒ハ粗ナリ、小粟ト共ニ、黑、白、黄ノ品アリ、白キハ粳トシ、黄ナルハ糯トス。粱 小粟ハ、穗、稍小サク、粒モ細カシ。粟 [illegible]あはハ、粘アルモノ。秫 神代紀、上[illegible]保食神[illegible] (二) 寒サノ肌ニ迫ルトキ、毛孔ノ、粟粒ノ如ク起ルモノ。「肌ニ粟ガ立ツ」

あは (副) [安幡] 「多ト通ズト云フ、(あまねし、さまねし)古今集、二十ニ、雲のあはだつト云フ語モ、多立つナリ、其條ヲ見ヨ」多ニ。多ク。深ク。萬葉集、二、二十六「降ル雪ハ、安幡ニ莫降リソ、吉隱ノ、猪養ノ岡ノ、塞爲マクニ」(塞爲ハ、塞有ノ誤ト云フ、但馬皇女ノ薨後、穗積皇子ガ、雪天ニ、其墓ヲ望ミタマヒテノ御詠ナリ、吉隱ノ猪飼ノ岡ハ、大和國、城上郡ニアリ)

あは (感) 〔彼ハノ意、彼者モアリ〕 忽然仰ギ見ル時ニ發スル聲。大和物語、中「落千里、[illegible]行クカギリ、アリケレバ、雲立ツ山ヲ、あはトコソ見レ」 人丸集「梢ノミ、あはト見エツツ、帚木ノ、本ヲ本ヨリ、見ル人ゾナキ」

あば (名) [網端] 〔網ノ錘ヲ、石ト云フ、あみいは、あみは、あんば、あばト轉轉セシナルベシ、沈ムルモノ、浮ブルモノ、用ハ異ナレド、網ニ附クル狀ハ、同ジ〕 又、あんば。大網ノ上縁ニ着ケテ、網ヲ水中ニ浮バシムル具、即チ、浮子ノ用ナリ、檜、杉、桐、楠ナドノ皮ヲ以テ作ル、形ハ長方ナルアリ、橢圓ナルアリ、網ノ大小ニ因リテ、適當ノ距離ニ、數十個ヲ着ク、[illegible]、あば[illegible](石)ヲ云ヘリ、云云、あんばトモ云フ所モアリ」日本山海名産圖會、[illegible]釣竿ノ鉤ヲ沈ムルタメニ、[illegible]、魚ノ餌ニツキタルヤ否ヤヲ知ルタメニ、浮子ヲモ着ク、此浮子ヲ、あばトモ云フ。

アパアトメント (名) 〔英語、Apartment.〕 部屋座敷ノ義 共同建築ニシテ、數多ノ室ヲ設ケ、貸間トスルモノ。

あば-あば (感) あばよノ條ヲ見ヨ。

あは-あは・し・シキ・シケレ・シク・シク (形、二) [淡淡] (一) 甚ダ淡シ。甚ダ薄シ。天治字鏡、十二、廿六「薄淡、阿波波志」(あはあはしノ略) (二) 味ナキ意ヨリ轉ジテ、心、カルガルシ。輕薄 源、三十八、夕霧五十五「アウハツキタリ」[illegible]ラハレニ物シタマヒケムモ、あはあはしう、心ヅキナキ事トオボシナガラ」紫式部日記、上「色メカシキヲバ、イトあはあはしトオボシメイタレバ」(三) オチツカズ。[illegible]、二、上、二十「イト、カウ、あはあはしく、[illegible]ビカフ[illegible]ノヤウニ」

あはう (名) [阿保] 〔漢書、宣帝紀「丙吉有阿保功」註「阿、倚也、保、養也」史記、范雎傳「不離阿保之手」我ガ民間普通語ト暗合ナルカ、古キ國語ニテハ、母モ、乳母モ、於母、又ハ、阿母ト云ヘリ、サレド、史記、漢書ハ、平安朝ノ大學寮、勸學院等ノ諸學校ノ教科書ナリシカバ、漢語ノ行ハレタラムモ知ルベカラズ、サラバ、倚頼シ、養育セラルル意ニ移リタルナラムカ〕 母、又ハ、乳母ノ異稱。夏山雜談(寬保、小野高尚)三「阿保トハ、乳母ノ事ヲ云フナリ、コレヲ、古ヘヨリ、あほトモ訓ズルナリ、ほトおト同意、通ズルニヤ、西國邊ニテ、母ヲあほうト云フ[illegible]、コレニ[illegible]ナルベシ[illegible]阿母ト云フノ[illegible]ヨ) [illegible](寛永)一、[illegible]肥前ノ佐賀ニテハ、あうほうト云フ、阿母ト云フノ轉語ニヤ」

あはう (名) [阿房] 〔元來、あわう、若シクハ、あばうナルベシ、あわハ、狼狽ノ意、[illegible]、狼狽ヲ食フ」あわ坊ノ[illegible]、[illegible]漢人[illegible]語、[illegible]、因幡ナリ、新竹取物語ニ、[illegible]理由、あわ[illegible]元祿」ニ「恥ヲ知ラヌハ、あはう坊」又、あわわの三太郎ナドモアリ、但馬ニテ、あはあ、三河ニテ、あほ[illegible]、あト云フ、あわて者ハ、まぬけ者ナリ、常ニ阿房ト書クハ、秦ノ始皇ノ阿房宮ヲ、當字ニスルナリ、あほハ、約メテ云フナリ(山椒、さんせう。愛相、あいそガツキル)」又、あほ。ウッケモノ。オロカモノ。バカ。「畿内邊ノ語」[illegible]竹[illegible]一、[illegible]、あわう[illegible]、[illegible]引ズリ羽織、長頭巾」[illegible]方、[illegible]、阿房、[illegible]文字二[illegible]集覽、あほ、[illegible]人ヲ云フ、又、あほうトモ云フ、[illegible]抄、世[illegible]、[illegible]、阿房、云云、[illegible]金枝友[illegible]、云云、[illegible]シ、[illegible]ハ、[illegible]ノモノナリ」([illegible]ノ[illegible])

あはう-ぢから (名) [阿房力] 〔馬鹿ニ力アリト云ハムガ如シ〕 驚クベキ力量。曾我會稽山(享保、近松作)一「阿房力ノ曾我五郎時致ト云フ、かつえ浪人」

あはう-どり (名) [阿房鳥] 〔性極メテ愚鈍ナリ、ばかどりノ名モアリ〕 海鳥ノ名。形、鴨ニ似テ、甚ダ大ナリ、兩翼ヲ伸セバ、一丈ニ及ブ、全身白クシテ、翼ト尾トハ黑シ、嘴、長クシテ、末、鉤ノ如シ、脚ト共ニ薄赤シ、飛翔力、甚强ケレドモ、

陸上ニ群居スル時ハ、遲鈍ニシテ、捕ヘ易シ、肉ニ臭氣アリ。別名、ライ。オキノケンテウ。オキノタイフ。トウクラウ。[信天翁] 和爾雅(元祿)六「信天翁」大和本草(寶永)十五、信天翁「鷗ニ似タリ、云云 嗜ヨリ大ナリ、云云、本草綱目、鶚ノ集解ニ、信天翁ト云フ者、郎是也」八丈物産志(寶曆)二「あらぶハ、沖のかもめ、又、馬鹿鳥トモ云フ、南海ニ多ク住ム」

あはうのはなげ (名) [阿房鼻毛] 〔愚人ハ、鼻毛ノ延ビタルニ、心ツカズシテアルモノ、其面相、イカニモ愚シク見ユルナリ、兒童、とんばうヲ捕ヘ、小竿ノ端ニ、長キ絲ニテツナギテ、其飛ブヲ見テ、玩トス〕愚人ノ、鼻毛ヲ延シテアルコト。略シテ、はなげトノミモ云フ。鼻毛を延ばすト云フハ、女色ニオボレ、ウツケトナリ居ル意。鼻下長ナド云フモ、鼻下長毛ノ意ナリ。惑溺 鼻毛を抜く、ぬかれる、鼻毛をかぞへる、數まれる、ト云ヒ、略シテ、鼻をあかすト云フハ、馬鹿にする、される、ト云フ意ナリ。愚弄 加賀侯第三世「前田利常、常ニ、鼻毛ヲ延バシテアリ、衆、皆、笑フ、老臣等、諷諫ス、利常云フ、才智ヲ鼻ニカクル者ハ、必ズ、忌疑ヲ受ク、自ラ、面目ヲ愚ニシテ、人ノ中傷ヲ避クト」(節文、前田家譜、三、大學史局藏) 幕府ノ猜疑ヲ避ケテ、百萬石ノ提封ヲ全ウセシハ、此故ナリ。似我蜂物語(寛永)「鼻毛のばして、月ナ見ソ、桂男ノ招キャル」鶉衣(横井也有)下、鼻箴「あはうノ延バセル鼻毛ニハ、蜻蛉モツラルルタメシ」俚言集覽、鼻毛がのびた「鼻毛トバカリモ云フ、鼻毛をみぬく、鼻毛をかぞへる、ナド云フ、鼻毛をよまる、ト云フモ同ジ、狂歌「鼻毛ニテ、とんぼヲツリシ、罪咎ハ、あはう羅刹ノ、責ヤ受クラム」

あはうばらひ (名) [阿房拂] 〔甲陽軍鑑、十四、品第四十、下「輕薄ナル奉公人ノ、役ニ立タザル者ヲバ、戲け者拂ニ成サレ」武士ニ、雙刀ナキハ、滑稽ナル意ナルカ〕武家ノ罰。大小ノ兩刀ヲ褫ヒテ追放スルコト。夕霧阿波鳴渡(正德、近松作)上「殿様ノ御耳ニ立テバ、ヨイ仕合セテ、御改易、阿呆拂カ、切腹カ」俚言集覽、あほう拂「大小ノ兩刀ヲ取上ケテ、追拂フヲ云フ」

あはうみ (名) [淡海] 〔あは(淡)ノ條ヲ見ヨ〕淡水ノ海。(潮海ニ對ス) ミヅウミ。あふみ(淡海)ヲ見ヨ。

アバウラセツ (名) [阿防羅刹] 〔梵語、阿防羅刹(Avo下方、Raksas 速疾鬼)ノ略〕佛經ニ、地獄ニアリテ、罪人ヲ責ムル獄卒。強力ニシテ、三股ノ鋼鐵叉ヲ持チ、數百人ヲ一叉シテ、鑊中ニ入ルト云フ。五苦章句經「獄卒名ニ阿傍、牛頭、人手、兩脚牛蹄、力壯排ㇾ山、持ニ鋼鐵叉ニ」淨土見聞集「阿防羅刹ノ勢ヒヲ見レバ、獵師ノ鹿ニ會ヘルガ如シ」

あはおこし (名) [粟粔籹] 〔おこし(興)ノ條ヲ見ヨ〕駄菓子ノ名。粟ヲ炒リテ、砂糖飴ニコネテ作ル、大阪市ニ產ズルモノ、名アリ。

あはがゆ (名) [粟粥] 粥ノ一種。通常ノ米飯ヲ炊キ、其湯ノ吹キアガル時、水洗ヒシタル粟ヲ投ジテ炊キコミ、火ヲ去リテ蒸スナリ、病人ノ食餌トス。明月記、嘉禎元年十一月十四日「女子無ㇾ故反嘔、云云、可ㇾ令ㇾ服ニ粟粥ニ」酒食論(文明、一條兼良)「アマリ醉ヒタル時ハ、人ノ正體、サラニナシ、水茶ノあはがゆ、飲マセヨ」(節文)

あはがら (名) [粟幹] 粟ノ莖。神代紀、上「粟莖」字鏡 六十「秆程、阿波加良」備後國風土記「武塔神借ニ宿處ニ、云云、兄蘇民將來借奉、卽以ニ粟柄ニ爲ㇾ座、以ニ粟飯等ニ饗奉」(釋紀、七、所ㇾ引)

あはがら (名) [梳齒魚] 〔魚ノ觜、粟幹ニ似タリト云フカ〕矢幹魚ノ古名。其條ヲ見ヨ。倭名抄、十九ニ「梳齒魚、東人云、阿波我良」(東人トハ、俗間ノ人ノ義、あづまびとノ條ヲ見ヨ) 合類節用(元祿)五、氣形「矢幹魚、梳齒魚」

あはき (名) [檍] 〔靑葉木ノ略、常綠木ノ義ト云フ(靑靡、あさ。蒼海、あま)〕樹ノ名。詳ナラズ、橿ナリトスル說アリ。神代紀、上 十四「筑紫日向小戶橘之檍原」同卷十七「檍、此云ニ阿波岐ニ」古事記、上 十四「竺紫日向之橘小門之阿波岐原」倭名抄、二十 廿八「檍、日本紀私記云、阿波木、今案、又、橿木一名也、見ニ爾雅注ニ」(箋注、十 百二、考證、辨論アリ、阿波岐ニ就キテハ、橘守部ノ山彥册子ノ一ニ、異說アリ) 續古今集、七、神祇、住吉ノ社「西ノ海ヤ、あをきが原ノ、汐路ヨリ、アラハレ出デシ、住吉ノ神」

あはぎぬ (名) [阿波絹] 阿波國產ノ絹布。新猿樂記、四郎君「宅、常擔ニ集諸國土產ニ、云云、阿波絹、越前綿、美濃八丈」

あは・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (自動、四) [喘] 〔あへぐト通ズ〕アヘグ。烈シク呼吸ス。字鏡 五十二「噑、馬勞也、阿波久」天治字鏡、二十二「喘、氣急也、阿波支」(名詞) 名義抄「喘、アハク、イキツク」

あば・く・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ (自動、下二) [荒廢] 〔あハ、發語、あ剝ぐるナラムカ、(濁音顚倒、いづつしノ語原ヲ見ヨ、あ戲るる、あ離るる)此語、他動ニハ、發く(四段活用)トナル〕(一)剝ゲ崩ル。靈異記、中、第十七緣、岡本尼寺、觀音銅像「塗金褫落、尼衆衛ニ護彼像ニ而悲哭」訓釋「褫、阿波計」倭訓栞、あばけ「堤ナドノ、洪水ニ損ジ毀レタルヲ云ヘリ、あばくノ轉語ナリ」(二)荒ブ。タユム。盛衰記、四十二、義經解ㇾ纜四國渡事、義經ノ詞「平家、云云、斯ル大風ナレバ、ヨモ渡ラジ、船モ通ハジナンド思ヒテ、打解ケあばけタラム所ヘ、スルリト渡リテコソ、敵ヲバ誅スレ、疾ク疾ク、此船ドモ出セ」遊仙窟「荒涼」

あば・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (他動、四) [發] 〔前條ノ他動(碎くる、くだく)〕(一)荒廢クルヤウニス。ホリカヘス。ホジクル。續紀、四、和銅二年十月「勅ニ造平城宮司ニ、若彼墳隴、見ニ發掘ニ者、隨卽埋斂、勿ㇾ使ニ露棄ニ」賊盜律「凡發ㇾ冢者、徒三年」(二)祕密ヲアケハナス。訐。名義抄「訐、アバク」字類抄「訐、發、アバク」論語、陽貨篇「惡下訐以爲ㇾ直者上」注「攻ニ發人之陰私ニ也」

あば・け (動) [荒廢] 前前條ヲ見ヨ。

あはこ (名) [粟子] 〔粟粒ノ如シ〕魚類ノ卵ノ、極メテ小サキモノノ稱。卽チ、鱈、平目ノ卵ナドヲ云フ。

あはざのからす (名) [阿波座烏] 〔阿波座ハ、大阪、西區、新町ノ北部ノ地名、(近傍ニ、土佐座モアリ) 明和二年、堀ヲ開ク時、此地ノ新京橋町、新堀町ヲ、新町ノ郭中ニ移サル、今、下等ノ妓樓ノ地タリ、烏ノ條ヲ見ヨ〕大阪ノ新町遊郭中ヲぞめきシ者共ノ渾名。京、烏(吉原雀)ナド云フ類ノ語ナリ。長唄、其容形七枚起請、虛無僧(明和)「サレバ浪花ニ名モ高キ、云云、夜ノ目、サノメモ、あはざの烏、云云」東海道中膝栗毛(文化、一九)五編、追加「道筋カラ瓢簞町ヲ、素見ぞめきハ、阿波座のからす、カハイカハイモ格子先」

あは・し・キ・ケレ・ク・ク (形、二) [淡] 〔淡ヲ活用ス(酢し、辛し)〕(一)薄シ。アッサリトシタリ。(濃しノ反、色ニ、味ニ、趣味ニ) 字類抄「淡、アハシ」(二)〔厚カラズ。淺シ。(情ニ、交際ニ) 源、十四、澪標 廿六「ナノメナル事ヲダニ、スコシ、あはき方ニヨリヌルハ、心トドムル便リモナキ物ヲ、トオボスニ」

あはしがき (名) [淡柹] 〔澁味ヲ去リテ

淡（アハ）ハスキ義、あはトモ云フハ、[illegible]ナリ（[illegible]）[illegible]二同ジ、又、[illegible]字類抄「淡、アハシ、アハシ柿」易林節用（慶長）「[illegible]淡、アハシ[illegible]」[illegible]は、しかきエ（然消）ヤスク、見ユレドモ、露ノ身ヨリハ、久シカリケリ」狂言記、柿賣「あはせがき」語[illegible]、あはせがきはしがきニ同ジ、[illegible]

あは・す（アワ・ス）・ス・セ・サ・シ・セ（自動、四）［逢］〔逢ふノ敬語（問ふ、とはす）〕逢ヒタマフ。又、逢ふヲ、丁寧ニ云フ語。古事記、中（景行）[illegible]長歌「木幡ノ路ニ、阿波志シ少女」萬葉集、九十「吾ガ[illegible]フル、[illegible]ハ[illegible]、[illegible]ノ[illegible]ニ、[illegible]キ、[illegible]カモ[illegible]ム」同、十八三十長歌「花笑ニ、爾布夫ニ（ニコニコト）笑ミテ、阿波之タル、云云、[illegible]シ[illegible]見ム、[illegible]セズ[illegible]」

あは・す（アワ・ス）・スル・スレ・セ・セ・セヨ（他動、下二）［合］［并］［併］〔合ふノ未然形ノあはノ、使役ノ助動詞ノするニ、ツヅキタルナレド、一成語ト見ル（食ふ、くはする）〕（一）合フヤウニス。カレトコレト、一ツニス。竹取物語「六衛ノ府、あはせテ二千人ノ人ヲ、竹取ガ家ニツカハス」（二）立合ハシム。スマハシム。タタカハス。［闘］垂仁紀、七年七月「[illegible]力士、當麻蹶速[illegible]出雲國[illegible]野見宿禰[illegible]試召[illegible]捔力[illegible]」（三）雜ゼアハス。調合ス。（藥、煉香ナドニ云フ、あはせ炷物ナド、是レナリ）（四）鳥ヲ狙ヒ、機ヲハカリテ、鷹ヲ放チ遣ル。萬葉集、十九「[illegible]白大鷹ノ長歌[illegible]近ニ、鳥蹈ミ立テテ、白塗ノ、小鈴モユラニ、あはせ遣リ、振放ケ見ツツ」千載集、六、冬「ユフマグレ、山カタツキテ、立ツ鳥ノ、羽音ニ鷹ヲ、あはせツルカナ」（五）夢合ヲス。拾遺集、十八、雜、「夢ヨリゾ、[illegible]シキ人ヲ、見ソメツル、今ハあはする、人モアラナム」

あは・す（アワ・ス）・スル・スレ・セ・セ・セヨ（他動、下二）［配］〔前條ノ語ト同ジ〕メアハス。ツガハス。[illegible]三年九月「天皇[illegible]二十六歳[illegible]」[illegible]古[illegible]下[illegible]子[illegible]ヒ、女モ此男ヲコソト思ヒツツ、親ノあはすれドモ、聞カデナムアリケル」

あは・す（アワ・ス）・スル・スレ・セ・セ・セヨ（他動、下二）［令］［會］〔前條ノ語ノ（一）ト同ジ〕會ハシム。出會スヤウニス。源、二、帚木三十「暇ナキ時ニ、云云、ツキナキ、[illegible]ミニあはせ[illegible]イトナミニ差シアハスルナリ」太平記、十二、神泉苑事「天下ニ、七年旱魃ヲヤリテ、四海ノ民ヲ、一人モナク、[illegible]ニあはせムト思ヒテ」「辛キ目ニあはす」

あはず-まま（アワズ・ママ・ニ）（副詞句）［不逢］〔逢はずあるままノ義、（ままノ條ヲ見ヨ）逢はずまま、ありずまま、ながめせしまま、ナド、皆、同ジ〕逢ハズアルママニ。萬葉集、十五三十六「ヌバタマノ、夜モシ君ヲ、明クルアシタ、安波受麻爾シテ、今ゾクヤシキ」

あば-ずれ（名）［阿婆擦］〔お場ずれノ轉ニテモアルカ、ずれハ、人ずれ、すれからしノ、すれナリ、元ト、大阪劇場ノ隱語ナリシトノ説モアリ、サラバ、世話ずれノ上略ニモアラムカ〕世故ニ慣レ過ギテ、臆面ナキ者ヲ罵リ呼ブ卑語。多クハ、女ニ云フ。バクレン。くせものがたり（天明、寛政、大阪、上田秋成、遲知葉志、四）「色好ミノ男アリケリ、云云、マハリ心、人ニスグレテ、イトスズドク、云云、あばずれニテ、頼シケナク、ウタテ讀ムベキフシ、多カリケル」（コレハ、男ニ云ヘリ）

あはせ（アワセ）（名）［合］ものあはせノ條ヲ見ヨ。

あはせ（アワセ）（名）［袷］〔あはせの衣ト云フガ成語ナリ〕表ニ裏ヲ合はせテ、縫ヒ作レル衣。[illegible]單衣ニ對ス。[illegible]四月、朔ニ[illegible]九月一日ヨリ、八日マデ、着用ノ常[illegible]ト定メタリ。[illegible]「黒キあはせ一襲、同ジヤウナル色アヒヲ着タマヘレド」女官飾抄（室町時代）「四月中ハ、あはせノ衣ニテ候」享保集成絲綸錄、十六、享保十六年四月[illegible]

あはせ（アワセ）（名）［副食物］〔飯ニ合はせテ食フ物ノ意、倭訓栞、あはせ「飯ニ對シテ云フ、云云、配ノ義ナルベシ」汁ヲ、御つけト云フ、同意ナリ、種種取合セテ煮ル意ト云フハ、アラジ〕飯ニ配ハセテ食フ物。飯ノ菜。オメグリ。オマハリ。オカズ。［飣］宇津保物語、藏開、上四十「御粥ノあはせ、魚ノ四種、精進ノ四種」枕草子、十一、百五十六段「汁物取リテ、皆飲ミテ、云云、次ニ、あはせヲ皆食ヒツレバ、御飯ハ不用ナメリト見ルホドニ、云云」古事談、三、僧行「仁海僧正、食ハ鳥也、云云、食フハラト炙リテ、粥漬ノあはせニ用ヰケルナリ」袖中抄、十六、かつしかわかせ「贄殿ト云フモ、汁、あはせナドスル所ナリ」顯昭拾遺抄註「あはせノ中ニ、木芽ト云フハ、通草ノ葉ノワカキ葉ヲ取リテ、漬ケタルナリ」平他字類抄（北朝、嘉慶）「菜、アワセ、サイ」

あはせ-かがみ（アワセ・カガミ）（名）［合鏡］〔あはせハ、照應ノ意〕鬢鏡ヲ持チテ、頂後ニカザシ、前ニ立テタル鏡ニ映シ合セテ見ルコト。トモカガミ。

あはせ-がき（アワセ・ガキ）（名）あはしがき（淡柿）ヲ見ヨ。

あはせ-ぎす（アワセ・ギス）（名）［合鱚］あはせやきヲ見ヨ。

あはせ-ざより（アワセ・ザヨリ）（名）［合[illegible]］あはせやきヲ見ヨ。

あはせ-ずうゆ（名）［合醬油］[illegible]

あはせ-ず（アワセ・ズ）（名）［合醋］醋一升、清酒五合、醬一合五勺ヲ合セタルモノ。煮物ニ注ギテ用ヰル。

あはせ-たきもの（アワセ・タキモノ）（名）［合炷物］〔[illegible]〕合セテ製セル炷物。ねりかう（煉香）ニ同ジ。侍從、黒方、薫衣香、百和香ナド、是レナリ。[illegible]女[illegible]、あはせたきもの[illegible]テナラベ」榮花物語、八、初花「此頃、たきもの、あはせサセタマヒテ、人人ニクバラセタマフ、御前ニテ、御火取ドモ取出デテ、サマザマノヲ試ミサセタマフ」同、一、月宴「逢坂モ、ハテハ往來ノ、關モヰズ、尋ネテ訪ヒ來、來ナバカヘサジ」（コレハ、合炷物少シト云フ詞ヲ、五句毎ノ上下ニ詠ミコミタル歌ナリ）

あはせ-つち（アワセ・ツチ）（名）［合土］[illegible]砂利、[illegible]土、石灰ニ、にがしほヲ合セタルモノ。溝、泉水ノ底ナドヲ、コレヲ敷キテ、叩キ固メテ作リ、堅キコト、石ノ如クナル。タタキツチ。又、タタキ。三和土。今ハ、せめんとヲ加ヘテ、建築ノ種種ノ用トス。

あはせ-づめ（アワセ・ヅメ）（名）［合爪］琴ノ彈キ方ノ名。右ノ拇指ト中指トノ懸爪ニテ、甲乙ノ二絃ヲ、同時ニ、合セ彈クナリ。

あはせ-ど（アワセ・ド）（名）［合砥］〔合ふノ條ノ（四）ヲ見ヨ〕砥ノ一種。質、緻密ニシテ、卵

色ナルモノ、刀劍、剃刀ナド研グニ、仕上ニ用キル、山城ノ鳴瀧砥、最モ名アリ。砥」永正何曾「占ニ門ヲ雨カラタツル、あはせど」

あはせ-バオリ (名) [袷羽織] 單羽織ニ、裏地ヲツケタルモノ。世間旦那氣質「明和、亀(?)五「金巾木綿ヲ、納戸茶ニ染メタル、萌黄裏ノ袷羽織」

あはせ-ばかま (名) [袷袴] 袴ニ、裏地ヲツケタルモノ。ウラツケバカマ。儀式、六、元正朝賀儀「大口帛、袷袴」板坂卜齋記、慶長四年四月六日、家康、伏見城ヘ移ル「御跡ニ、三河守殿(秀康)馬ニ御乘リ、白キ袷袴ニテ、供ノ衆、二十人計」

あはせ-びん (名) [合鬢] 男子ノ髮風ノ名。左右ノ鬢ノ毛ヲ、髻ノ下ニ合セテ、髻ヲ、太元結ニテ、五體附ニ引キツメテ結フ、頂ノ皮ニ、皺ヲ生ズ、コレヲ巾着皺ト云フ、巾着ノ括目ニ、布帛ノ寄集ルガ如シ、享保、延享ノ頃、行ハル。(原武太夫雜記)

あはせ-め (名) [合目] 二ツノ物ヲ合セタル際。

あはせ-もち (名) [合餅] 京都、東山、祇園社前ノ二軒茶屋ニテ賣リシ、名物ノ餅。小サク、ヒラタキ餅ヲ、豆腐ト合セ、田樂ノヤウニ、串ニ刺シ、味噌ヲ塗リ、又ハ、葛餡ヲカケテ、炙リタルモノ、明治維新前ニ絕エタリ。雅筵醉狂集(元祿頃、正親町公通)春「暮ルル夜ノ、月ト花トヲ、あはせ餅、食フタドチモヤ、見ル二軒茶屋」

あはせ-もの (名) [合物] (一)ものあはせ(物合)ノ條ヲ見ヨ。「雞合」歌合」(二)合はせ物は、離れ物ト云フ諺ハ、佛教ノ會者定離ト云フヨリ起レル語ニテ、モトモト合ヒタルモノハ、終ニハ離ルト云フ理ヲ云フナリ。小町踊(寛文)夏、更衣「綿拔ハ、はなれ物ヲヤ、合せ物」古今夷曲集(寛文)「合せもの、離れものトハ、知リナガラ、ナホ辛イヤナ、今朝ノキヌギヌ」

あはせ-やき (名) [合燒] 料理ノ名。肉ノ白キ魚類ヲ、三枚ニオロシ、肉ト肉トノ間ニ、鷄卵ノ白身ヲ塗リテ、合セテ、竹串ニ刺シテ、鹽ヲフリカケ、火ニ炙ル、鱚ナルヲあはせぎすト云ヒ、鱵ナルヲあはせざよりナド云フ。料理談合集、合やき「さより、かます、すばしりナド開キ、骨ヲヌキ、身ノ方ヘ玉子ノ白ヲヌリ、二枚打チアハセテ、鹽ヲフリテ燒クナリ、小口ト緣トヲ切リ、角ドリテ、イカヤウニモ切ル」俚言集覽、あはせ鷄魚、あはせ鰺魚「骨ヲ去リ、二枚アハセテ、炙リタルモノナリ」

✣**あはせる** (動) [合] あはす(合)ノ口語。

あはそか-に (副) 〔あはハ淡、そかハ副詞ヲ形作ル接尾語、おろそか、おぼそかモアリ〕アハアハシク。輕輕シク。アハツカニ。アハツケク。輕率。大鏡、下、道長「其事ハ、ミナ、世ニ申シオカレテ侍ルナレバ、ナカナカ申サジ、知ロシメシタラム、あはそかに申スベキ事ニモ侍ラズ」

あはた (名) [臏] あはたこヲ見ヨ。

アバタ (名) [痘痕] あばたづら(痘痕面)ヲ見ヨ。

あは-たけ (名) [粟茸] 〔色ノ、粟ニ似タルニ因ルカ〕黃ニシテ、黑ミアル菌ノ名。秋、山野ニ生ズ、蓋ノ裏ニひだナクテ、針目多シ、食フベカラズ。(語彙)

あはた-こ (名) [臏子] ヒザノカハラ。ヒザザラ。アハタ。膝蓋骨。字鏡卅「髕、膝之骨、比佐加美乃阿波太」倭名抄、三ノ七「臏、膝骨也、阿波太古、俗云ニ阿波太ニ」(俗トハ、通俗ノ意)神功攝政前紀、註「拔ニ王臏肋ニ、令ニ蜀ニ蜀石上ニ」(新羅王ナリ)

あはた・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) [澆] 〔澆つノ敬語、(立つ、立たす。待つ、またす)〕其條ヲ見ヨ」淡メタマフ。薄ンジタマフ。アナドリタマフ。鎭火祭祝詞、伊佐奈美命ガ、石隱リマシテ、伊佐奈伎命ニ、莫見タマヒソ、ト宣ヒシニ、見タマヒシカバ「吾名妹乃命能、吾乎見給布奈止申乎、吾乎見阿波多志給比津、云云」(見あはたすハ、見侮ルナリ、見貶く、見惑づナド云フト、同趣ナリ)名義抄「澆、アハツ、アハタス」淡、アハタス」文選、招隱詩「至樂非ニ有ニ假、安事ニ澆ニ淳樸ニ」(澆ノ字ノ古訓、右ニ、アハタスコトヲ、左ニ、ウスンズルコトヲ)

あは-た・つ・ツ・テ・タ・チ・テ (自動、四) 〔多立ツナリ、あは(安幡)ノ語原ヲ見ヨ〕多ク立ツ。深ク起ル。古今集、二十、東歌「憂キ目ヲバ、外目トノミゾ、逃レユク、雲ノあはたつ、山ノ麓ニ」(遠鏡、雲ノ深イ山)

あは-だ・つ・ツ・テ・タ・チ・テ (自動、四) [粟立] 毛孔、粟粒ノ如ク起ツ。ミノケ、イヨダツ。トリハダタツ。(恐レ、或ハ、寒クシテ) 毛起。名義抄「皴、粟體、アハタツ」類篇「皴、膚、如ニ粟也」

アバタ-づら (名) [痘痕面] 〔碩鼠漫筆(安政、黑川春村)ニ、あばたハ、頞浮陀ナルベシトアリ、頞浮陀地獄ノ條ヲ見ヨ、僧徒ノ隱語ニ用キタル語ガ、普通語トナリシナラム、いもがほノ條ヲモ見ヨ〕いもがほノ渾名。あばたも靨ト云フハ、情人ノ目ニハ、醜キモ、美ナリト見ユ、ト云フナリ。通俗編「情人眼裏出ニ西施ニ」

あはだ-やき (名) [粟田燒] 京都ノ粟田口ニテ作リ出ス陶器。土燒ニテ、釉、多クハ褐色ニテ、ひびアリ、薩摩燒ニ似タリ、錦手、金襴手、多シ。本朝陶器攷證、二、粟田燒「山城國、愛宕郡、粟田口、三條通、蹴揚、今道町ヘ、寬永元年ノ頃、尾張國、瀨戶ト云フ所ヨリ、燒物師、三文字屋九右衞門ト申ス者、來リ居住シ、專ラ茶器ヲ燒弘メ候由」

あはち (名) [吾恥] あはつ(澆)ノ條ヲ見ヨ。

あは-ちぢみ (名) [阿波縮] 阿波國ヨリ產出スル木綿チヂミ。多クハ、石ダタミノ如キ縞織ナリ。寬政年間ノ創製ナリ。

あはぢ-むすび (名) [淡路結] 〔あはびむすび(鰒結)ノ訛ナルベシ、結方、略、同ジ〕(一)紐ノ結方ノ名。俚言集覽、あはぢむすび「左右兩綰ニシテ、互ニ絲ヲ通ハシタルモノヲ云フ」(二)女ノ髮ノ結方ノ名。あはぢむすびノ形ニ結フ、多クハ、中年以上ノ女ナリ。

あはぢ-やき (名) [淡路燒] 陶器ノ一種。天保年間、淡路國、三原郡、伊加利村、加集珉平ノ燒キ始メシモノ、主トシテ、黃色ノ釉藥ヲ用キ、酒器、皿、鉢等ヲ製ス。珉平燒。

あは・つ・ツ・テ・タ・チ・テ (他動、四) [澆] 〔淡ヲ活用セシ語、淡むト同趣ナリ、此語ヲ敬語トシテ、あはたすト云フ、其條ヲ見ヨ、說文「澆、薄也」〕淡ム。アハアハシクス。薄ンズ。疎ンズ。名義抄「澆、アハツ」字類抄「澆、アハツ」舊事紀、陰陽本紀ニ、諾册二尊「先産ニ生淡路州ニ爲ニ胞、意所ニ不ニ快、故曰ニ淡道州ニ」卽謂ニ吾恥ニ也」トアル吾恥ハ、借字ニテ、此語ノ名詞形

ナル、遲ナルベク、諱ンズル意ナルベシ。（四國島ヘ、此後ニ成レルナレバ、淡路ハ、阿波路ナリ、ト云フ說ハ、ナリタズ）

あは-つか-み（副）〔あはハ、淡ナリ、淡淡しくノ意、つかハ、副詞ノ接尾語（ふさつか、ふつつか）〕アハツケク。アハソカニ。ウッカリト。輕浮 源、二、帚木「何事ゾナド、あはつかみサシ仰ギ居タラムハ、イカガロ惜シカラス」堤川艷書合、あはつかみ、ナホ、ウハウハシキ頭聞見ハ、習ハヌ身ニテ、思ヒトヂメムト」

あは-づけ（名）粟漬 鰯、さはだ、ナドヲ、粟ニ生姜ヲ加ヘ、酢漬ニシタルモノ。

あはつけ・し・キ・ケレ・ク・ク（形、二）「あはつかヲ、形容詞ニシタル語（あたたか、あたたけし）」アハツカナリ。アハアハシウハツキタリ。輕浮 源、廿六、常夏「若キ人人ノ言種ニハ、莫笑ハセタマヒソ、ウタテあはつけきヤウナリ、ト笑ヒツツ聞コエタマフ」同、三十四、上、若菜、上「心ヅカラノ忍ビワザ、シイデタルナム、云云、タダ人ノナカラヒニテダニ、あはつけく心ヅキナキ事ナリ」同、四十三、竹川「コノ大殿ノ通ヒタマヒシ事、イトあはつけいヤウニ、世人ハモドクナリシカド」

あは-つぶ（名）粟粒 粟ノ實。極メテ小サキモノニ、譬ヘテモ云フ。俚言集覽「粟つぶホドノできもの」

あ-ばね・し（形）遍 あまねしニ同ジ。其條ヲ見ヨ。

あばね-は・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）遍〔遍くするナリ、あまねしヲ見ヨ〕諸事ニユキワタルヤウニス。名義抄、[illegible]「遍、アバネハス」

あは-の-いひ（名）粟飯 粟ヲ炊ギタル飯。アハメシ。備後風土記、武塔神借二宿處一「兄[illegible]民將來、[illegible]、即、以[illegible]座、以[illegible]飯[illegible]饗奉」[illegible]おらヲ實トシテ、實の[illegible]ヲ[illegible]ル」上[illegible]、云、大[illegible]宮[illegible]事ニ[illegible]供ノ人人、云云、[illegible]ノ者共、[illegible]の飯ナド取出シテ、其[illegible]ヲ[illegible]ク」

あは-の-かちん（名）粟餅〔もちひヲ、かちんト云フハ、女房詞ナリ、其條ヲ見ヨ〕粟ノ餅。アハモチ。御湯殿上日記、永祿十三年正月十五日「中橋ヨリ、あはのかちん參ル」

あは-の-ぜん（名）粟野膳 常陸國、粟野ヨリ製出スル折敷膳、鉋目アリテ、淡黄ノ漆ニテ塗ル。水戸折敷。

あは-の-なると（名）阿波鳴門〔鳴門ハ、鳴戶トモ云フ、潮音鳴りテ、數里外ニ聞ユ〕（一）阿波國ノ東北端、板野郡、孫崎ト、淡路國ノ西南端、三原郡、鳴門崎トノ間ノ海峽ノ稱。神代紀ニ、粟門ト見エ、土佐日記ニ、阿波の水門ト云ヒシ、是レナリ、兩崎相距ルコト十町ニ過ギズ、其間ニ、小島アリ、瀨アリ、點點、散列ス、船路二處アリ、東ナルヲ大鳴門ト云ヒ、今、鳴門海峽ト稱シ、西ナルヲ小鳴門ト云フ、南海ノ大潮ノ、北方内海ニ通ズル所ニテ、潮ノ差引ニハ、浪ノ立起ルコトスサマジク、盤渦輪轉シテ、急流スル速力、一時間ニ七八海里、潮ノ和ギタル時、纔ニ渡ルコトヲ得、世界第一ノ景勝ナル、百里間ノ瀨戶内海ノ潮ヲ吞吐スルナリ。後撰集、十、戀、二「鳴門ヨリ、差出ダサレシ、舟ヨリモ、我レゾ寄方モ、ナキ心地セシ」六帖、五「鳴戶ヨリ、出デテヤ來ツル、滿ツ潮ノ、干ル間（晝間）バカリモ、見ネバ戀ヒシキ」夫木抄、廿六、鳴門「淡路島、行キ交フ瀨戶ノ、瀨サキニ、安クモ變ル、友千鳥カナ」新後拾遺集、十、羇旅「[illegible]、瀨戶ノ追風、吹キソヒテ、ヤカテ鳴門ニ、カカル舟人」[illegible]記、三十七、[illegible]事ニモ[illegible]リタマフ、昔ニ聞ク阿波の鳴戶ノ沖ヲ漕ギワタリ、紀伊路ヲサシテ棚ヲ取ル」（二）義太夫節淨瑠璃ノ題目ニ、夕霧阿波鳴渡ト云フアリ、正德年中、大阪ニテ、近松門左衞門ノ作ナリ、大阪新町扇屋ノ夕霧ト藤屋伊左衞門トノ情事ヲ述ベタルモノ。內ニ、大阪ノ阿波屋某ト云フ者アリ、夕霧ヲ買ヒ爭ヒテ豪遊ス、コレヲ阿波の大盡ト云フ。（三）又、傾城阿波鳴戶ト云フハ、明和年中、大阪、近松半二作、前項ノ夕霧阿波鳴渡ノ趣ヲ、阿波、德島ノ城主、玉木家ノ御家騷動トヲ、取組セテ、脚色セシモノ、第八、順禮ノ段、最モ名高シ。是レモ、淨瑠璃ナレド、常磐津節、歌舞伎ニモ演ゼラル。

あは-の-みづあめ（名）粟水飴 水飴ノ、粟ニテ製スルモノ。粟六斗ヲ、水ニ浸スコト二時間、蒸籠ニテ蒸シ、磨リ碎キタル麥一斗二升ヲ混ジ、大桶ニ入レ攪キマゼ、六時間ニシテ、綿布ノ袋ニ盛リ、壓シ搾リテ、出デタル汁ヲ、釜ニテ煮ルコト、三時間ニテ成ル。

あ-はは（感）〔あト、ははトナリ〕高笑ヒニ發スル聲。

あは-はた（名）粟畠 粟ヲ植エツケタル畠。アハフ。七十一番歌合、十一番、山人「獨リネノ、數モ知ラレス、あは畑ノ、ウチ忘ルベキ、時ノマモナシ」

あはひ（名）間〔相合ノ約カト云フ〕（一）兩ノ中。アヒダ。間。アヒ。スキマ。ヒマ。名義抄、父部「交、アハヒ」源、五十一、蜻蛉「[illegible]几帳ドモノ、立テナラヘタルあはひヨリ、見通サレテ、[illegible]ナリ」（二）交リノ中。交際 源、七、紅葉賀「似ツカハシカラヌあはひカナト、イト、ヲカシクオボシメサレテ」（内侍ト源氏トノ中）（三）機。平家物語、十一、逆櫓事「軍ニハ、一引キモ引カジト思フダニ、あはひ惡シケレバ、引クハ、常ノ習ナリ」

あはび（名）鰒 次條ヲ見ヨ。

あはび-かひ（名）鰒〔合はぬ肉介ノ略轉ナルベシ、知らぬヲ、[illegible]白波ナド云フ例ナリ、一[illegible]、きび。夜ノ目、サノ目モ、あはぎノ島（桑家漢語抄、足利時代）十一、鰒、阿波藻、常片甲而縫、岸着石、不逢他之義也」常ニ、鮑、又ハ、蚫ノ字ヲ書ク、鮑ハ、鹽漬ノ魚ニテ、誤用ナレド、和漢共ニ、古クヨリ混ジタリ、急就篇、注「鮑、赤海魚、加之以鹽而不乾者也」香祖筆記「鰒魚、京師、名作鮑魚」鮑ハ、天治字鏡ニ載セテ、小學篇字ノ中ニアレバ、疑ヒモナク、古キ和製字ナリ、鮑ノ、偏ヲ變ヘタルナルベシ、我邦ノ[illegible]はびヲ、干蚫ト記シテ、支那ニ貢セシヨリ、蚫ノ字、彼邦ニ傳ハリテ、蚫ト稱ヘテ用キ居ルナリ〕（一）介ノ名、常ニ多クハ、あはびトノミ云フ。殼、一片ニシテ、蓋ナク、海底ノ石ニ貼キテアリ、隋圓形ニシテ、徑、二三寸ヨリ、大ナルハ、一尺ニ至ル、殼ノ面ノ一邊ニ、乳頭ノ形シタルモノ、十餘アリテ、大、小、順次ニ連リ、其七八ハ穿テリ、外面ハ褐色、粗糙ナリ、内面ハ淡[illegible]ニシテ光ル、[illegible]螺鈿ニ用キル、雄ハ、肉青ク、雌ハ、赤褐ナリ、肉、シナヤカニシテ、味、美ナリ、又、干鰒トシテ貯ヘ、煮テ食フ。出雲風土記、鮑、出雲郡、[illegible]、一名、鰒、阿波比」天治字鏡、八、[illegible]小學篇字「鮑、

阿波比」新猿樂記、四郎君「隱岐鮑」(二)介類ノ殼ハ、多クハ、兩片相合フモノナルニ、鰒ハ一片ナルニ因リテ、男女ノ間ノ、片思ニ寄セテ云フ。萬葉集、十一、四十「伊勢ノ海人ノ、朝ナタナニ、潜クトフ、鰒ノ貝ノ、獨念ニシテ」(同「水泳ル、珠ニマジレル、磯貝ノ、獨戀ノミニ、年ハ經ニツツ」) 倭成五社百首、片思「浪カカル、岩根ニツケル、あはび貝、コヤ片戀ノ、タグヒナルラム」盛衰記、三十九、時頼横笛事「如何ナル我レナレバ、鮑の貝ノ風情シテ、難面ナガラヘテ、由ナキ物ヲ思フベキゾ」(横笛ト云フ宮女、瀧口時頼ト情交アリシガ、時頼出家シタルヲ、横笛尋ネタレドモ、會ハズ、横笛ノ詞ナリ) 以上ノかひハ、殼トシテモ解セラル。(三)あはびのかひ(鰒殼)ノ條ヲ見ヨ。

石決明

あはび-しらたま (名) 鰒白珠 白珠ノ條ヲ見ヨ。

あはび-たま (名) 鰒珠 白珠ノ條ヲ見ヨ。

あはび-の-かひ (名) 石決明 〔鰒の殼ノ義、眼ノ疾ヲ治スルニ因リテ、決明ト云ヒ、海中ノ石ニ附キテアル故ニ、石ノ字ヲ冠スト云フ」石決明。又、決明。鰒ノ殼ナリ、眼病ノ藥トシタリ、内障眼、外障眼ナド治スト云フ。誤用シテ、鰒ヲ、直チニ石決明トモ云フ。 醫心方、一、六十二「石決明、阿波比乃加比」同、三十四、十「石決明「本草云、味鹹平无毒、主目障翳、崔禹云、食之利九竅、心目聰了、故有決明之名、亦附石生、故呼石決明耳、和名、阿波比」(節文) 本草和名、下、十四「石決明、一名、鰒魚甲、阿波比」和漢三才圖會、四十七「鰒、殼有去翳之功」 倭名抄、十二、二十三丸藥「決明丸、治目不明」同十三散藥「決明散、治目不明」

あはび-の-し (名) 鰒熨 のしあはびニ同ジ。 倭ニ獲寶 鰒斗」

あはび-の-わた-に (名) 鰒腸煮 鰒ノ料理。其肉ニ、其腸ヲ加ヘテ煮タルモノ。 語彙「石決明ノ腸ヲ和シテ煮タルモノナリ」

あはび-むすび (名) 鰒結 〔倭訓栞、あはびむすび「鰒ノ形ニ結ブ也」あふびむすびト云フあふびハ、あはびノ音便ナリ、其條ノ語原ヲ見ヨ、葵ナドニハアラズ」 組緒ノ花結ノ名。又、あふびむすび。形、三輪ノ輪違ノ如シ、檜扇ノ絲ノ餘ナドニ、此結方ヲ用キ、或ハ、二階棚ノ飾トシテ垂ル。 桃葉集、扇「絲ノ餘リヲ、あはびむすびニシテ」後松日記(松岡行義)十八「雜事抄云、結狩衣、あはび結、衣結、當時モ傳ハリ候」貞丈雜記、十六、諸結「あわび結びト云フハ、あふび結トモ云フ、結形ノ事ナリ、丸ク細長クテ、蚫貝ニ似タル故ナリ」

あは-ふ (名) 粟生 〔蓬生、淺茅生、同ジ」 粟畠。 神代紀、下、十三「粟田」神武紀、四十長歌「阿波赴ニハ、韮一本」倭名抄、一、六十六「粟田、安八不」

あば・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (他動、四) 掩護 〔かばふト通ズ(彼、あれ)」 かばふニ同ジ。 撰集抄、六、眞如親王事「渡天ストテ、師子州ニテ、群レル虎ニアヒテ、食ヒ奉ラムトシケルニ、云云、錫杖ニテ、あばヘリケレド、終ニ、ナサケナク食ヒ奉ル」

あは-ぼ (名) 升麻 〔本草圖經「升麻、花似粟穗白色」李時珍曰、其葉似麻、其性上升、故名升麻」」 草ノ名。春、宿根ヨリ叢生ス、凡ソ、三枝九葉ヲ一葉トス、一葉ノ形、つたノ如クニシテ厚ク、光ル、夏、長キ薹ヲ出シ、秋ノ末、長キ穗ヲナシテ花ヲ開ク、大キサ三分許、六瓣ニシテ白ク、内ニ白蘂多クシテ、絲ノ如シ、根ヲ藥用トス。 倭名抄、二十、二十七「升麻、止利乃阿之久佐」 物類稱呼(安永)三、升麻「京ニテ、あはぼト云フ」重修本草綱目啓蒙(享和)八、升麻「アハボ」

あは-ぼり (名) 阿波彫 裝劍具ノ金屬彫刻。金色ノ濃厚ナルヲ用キル。野村正矢ト云フ者、阿波國、蜂須賀家ニ召サレテヨリ、代代作ル。

あば・む・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ (他動、下二) 貶 〔淡ヲ活用ス、(澆つト云フ語モアリ)淡淡シクスル意ナリ、清音ノ語ナルベケレド、湖月抄ニハ、スベテ濁點ヲ附セリ、憎ムヨリシテ、濁ルナルベシ、淺むヲ、あざむト云フモ、同趣ナリ」 カロシム。貶ス。 擯斥 疎外 源、二、帚木、三十「爪彈キヲシテ、言ハム方ナシ」、式部ヲあばめ憎ミテ、少シ宜シカラムコトヲ申セ、ト責メタマヘド」河海抄「淡メ惡ム、アハアハシクニクムナリ」同巻、四十「カクあばめラレタテマツルモ、コトワリナル心マドヒヲ」細流抄「アハアハシク言ヒオトサルルナリ」

あば-め (名) 貶 前條ヲ見ヨ。

あは-めし (名) 粟飯 アハノイヒ。米ヲ炊ギ、湯ノ沸キアガル時、洗ヒアゲタル粟ヲ投ジテ、手早ク、ナラシ、蓋ヲシテ炊キアグルナリ。

あは-もち (名) 粟餅 アハノモチヒ。粟七分ニ、糯米三分ヲ加ヘ、水ニ浸シテ後、蒸籠ニテ蒸シ、臼ニテ搗キタルモノ。程ヨキ大キサニチギリ、あづき餡、又ハ、きなこニ砂糖ヲマゼタルヲ、塗シテ食フ、武藏國、荏原郡、下目黑ノ不動堂ノ門前ニテ賣レル粟餅、名物ナリキ。 本朝食鑑(元祿)一、粟「糯粟作餅食者、民間之食少、而上饌多」 續江戸砂子(享保)「粟餅、目黑ノ名物ナリ、昔ハ、實ノ粟餅ナリシガ、近キ程ハ、常ノ餅ヲ、粟ノ色ニ染メタルナリ」

あは-もり (名) 泡盛 〔粟盛酒ノ略、原料ニ粟ヲ用キルニ因リテ名トス、泡ト記スハ、借字ナリ」 沖繩島ヨリ製出スル一種ノ酒ノ名。釀造法ハ、粗、燒酒ニ同ジ、原料ニ、昔時ハ、專ラ粟ヲ用キシガ、後ニハ、米ヲ混ゼリ、然レドモ、種麹ハ、普通、粟ニテ製ス、醪、熟成スレバ、蒸溜ス、酒類中ノ、最モ強烈ナルモノナリ。 琉球酒(玉露叢) 明良洪範(寶永)十二「泡盛酒ハ、薩州ニテモ造レド、云云、琉球製ニハ及バズ、此泡盛、貞享年中ヨリ公儀ヘ獻上、井ニ、諸役人ヘ進上物ト成ル」 和漢三才圖會(正德)百五「琉球之泡盛酒、氣味甚辛烈、蓋生酒造成燒酒也」(節文) 南島志(享保、琉球ノ記)下「露酒方、始傳自外國云云、封甕而成、以甕蒸、取其滴露如泡、盛之甕中、密封七年、而後用之、首里所釀、最稱上品、其俗、名泡盛酒」 成形圖説、十一「沖繩ハ、地粟ヲ以テ、燒酒ヲ造レリ、粟盛ト云フ、氣味酷烈、云云」

あはもり-さう (名) 泡盛草 〔當字ナリ、此草、本名、粟穗ナレバ、粟穗草ノ轉訛ナリ、(痲、あせぼ。右、みぎり)酒ノ泡盛モ、粟ニテ製スルナリ、あはもり升麻ト云フハ、和名、漢名、雙擧ナリ」 升麻ノ異名。一名、あはもり升麻。 物類稱呼(安永)三、升麻「あはもり、京ニテ、あはぼト云フ」 重修本草綱目啓蒙、八、升麻「あはもりさう、一名、あはもり升麻ト云フ、苗、短小ニシテ、葉、細長シ」

あはもり-しようま (名) 泡盛升麻 前條ヲ見ヨ。

あは-や (感) 〔感動詞ノあはト、やトヲ見ヨ」 望ミ驚キテ發スル聲。アナヤ。 中務集、上、たきト云フ文字、下ニ、あはト云フコトヲ入レサセタマヒテ「世世ヲ經テ、落チクル瀧ノ、白絲ハ、貫ケル玉トハ、あはや見ルラム」謠曲、木曾「黑坂ノ上ニ、多クノ白旗ヲ立テ候ヘバ、平家ノ勢、コレヲ見

テ、あはや、源氏大[illegible]向ウタルハ、取込メラレテハ、[illegible]ノマン[illegible]山ノ山中ニ[illegible]」

あはやき (名) |粟焼| 餅菓子ノ名。粟ヲ蒸シテ、手ニテ[illegible]ネ、あづき餡ヲ包ミ、饅頭ノ如ク作リ、[illegible]ニ胡麻油ヲ塗リタルニ載セテ、表面ヲ焦シタルモノ、明和年中、江戸、市ケ谷、佐内坂、笹屋八郎兵衛、賣リ始メ、天保ノ頃マデ、盛ンニ賣レタリ。江戸名物狂詩選(天保)初篇「佐内坂傍[illegible]古、[illegible]出[illegible]年栄、[illegible]山手[illegible]名物、笹屋一[illegible]市谷鳴」

あはゆき (名) |淡雪| 〔沫雪ト、意ハ同ジケレド、別ニ此語アルナリ、誤リニハアラズ、雅言集覽、あはゆき「春ノ雪ノ淡淡シキヲ、後世ニ云ヘリ」〕(一)淡キ雪。ヤハラカキ雪。多クハ、春ノ消エヤスキ雪ニ云フ。古今集、十一、戀、一「淡雪ノ、タマレバガテニ、碎ケツツ、我ガ物思ヒノ、シゲキコロカナ」(夫木、廿一代集ニ、淡雪トアリ) 散木集、十、雜、下「春ノ野ニ、小松摘リ積ム、淡雪ヲ、消タズテ折リテ、家苞ニセム」夫木抄、四、花「風ヲダニ、待ツホドモナキ、徒花ハ、枝ニカカレル、春ノ淡雪」(徒櫻ヲ云ヘルナリ) 新葉集、一、春、上、春雪「カツ消エテ、庭ニハ跡モ、ナカリケリ、空ニ亂ルル、松ノあは雪」(二)梨ノ子ノ一種、白ク柔クシテ、水氣多ク、雪ヲ噛ムガ如ク、味美ナリ。

あはゆきとうふ (名) |淡雪豆腐| 〔ヤハラカキコト、淡雪ノ如シ、ト云フ意ナルベシ〕製、常ノ豆腐ノ如クニシテ、滓ヲ、直チニ箱ニ盛リテ、凝ラシメタルモノ。(鹵汁ヲ加ヘズ、壓シテ水ヲ滴タラシメズ)極メテヤハラカシ。きぬぶし豆腐、さとのゆき、ヲ見ヨ。江戸總鹿子名囿大全(寬延)「淡雪豆腐、享保ノ初、淺草雷木町南側ニ、ワヅカナル豆腐屋アッテ、始メテ[illegible]シケレバ、云云」俚言集覽「[illegible]、あわゆき[illegible]ノ、[illegible]ハラカ[illegible]ルモノナリ、江戸ニテ、さとのゆきトモ云フ」

あばよ (感) 〔さらばよ、さらばよノ約略〕小兒ノ、相別レムトスル時、相告グル詞。サヤウナラ。下略シテ、重ネテ、あばあばトモ云フ。倭訓栞、あば「小兒ノ、人ニ別ルルヲ、あばあばト云ヘリ」

あはよくむ (副詞句) 〔あはハ、あはひノ略、洗染、あらぞめ(倭訓栞、あはよくむ、間好くむノ義ナルベシ)〕平家物語、十一、逆櫓事「軍、云云、あはひ惡シケレバ、引クハ常ノナラヒナリ」機、好クアラバ。旨クユカバ。「あはよくむ、取ッテ代ラムト窺フ」

あばら (名) |荒| 〔荒廢れノ轉、(曝ぼふ、さらぼふ。賓客、まらびと)荒廢レテ開キタル意、あばるノ條ヲ見ヨ〕(一)戸締ナキコト。アバラスド。伊勢物語、第四段「あばらナル板敷ニ、月ノ傾クマデ臥セリテ」同、第六段「あばらナル藏ニ、女ヲバ、奧ニ押入レテ」(二)壞レ破レテ、間隙多キコト。曾丹集、六月、初「カコハネド、蓬ノ籬、夏來レバ、あばらノ宿モ、面隱シツツ」待賢門院堀川集「草深キ、あばらノ里ノ、住ヒシテ、露ノ命ノ、ホドゾ知ラルル」(三)肋骨ヲ見ヨ。(四)客亭ヲ見ヨ。

あばらさうじ (名) |荒障子| 紙障子ノ、破レタルモノ。ヤブレシャウジ。俗語考(橘守部)あばらや「紙ノ破レタル障子ヲ、あばら障子ト云フ」

あばらすど (名) |荒簀戸| (一)簀戸ノ、破レタルモノ。(二)轉ジテ、戸ノナキ家。アバラ。

あばらぼね (名) |肋骨| 〔荒骨ノ義、(あばらノ條ヲ見ヨ)數骨、幷行シテ間隙アリ、倭訓栞、あばら「物ノすきまアルヲ云ヘリ、[illegible]、此云[illegible]見エタリ、是レハ、肋骨ニ[illegible]キヲ[illegible]ハレタリト思ハルレド、首肯セラレズ」〕古名、カタハラボネ。今、又、略シテ、アバラ。胸ヨリ、左右ノ脇ヘ連ル骨。人體ニテハ、左、右、合セテ、二十四條アリテ、横ニ幷行セリ、何レモ、後ノ端ハ、脊骨ニ連リ、前ノ端ハ、多ク、[illegible]骨ニ連ル、脇骨。狂言記、胸突「あばらほねカ打折レタ」倭名抄(延喜)「[illegible]骨、アバラボネ」和漢三才圖會(正德)十二「肋、俗云阿婆良保禰」倭訓栞、あばらほね「俗ニ、胸骨ヲ云ヘリ」

あばらや (名) |荒屋| 〔あばらノ條ヲ見ヨ〕荒廢レタル家。荒レ頽レタル家。敗屋 源、十四、澪標「アケクレ、人知レスあばらやニ、ナガムル心ボソサナレバ」堀河百首「雲カカル、山ノ高嶺ノ、あばらやハ、月ノ宿ルゾ、ウレシカリケル」夫木抄、三十、屋「あばらやノ、板間ツヅキノ、長キ夜ニ、ウタタネ覺ス、月ノ影カナ」

あばらや (名) |客亭| 〔荒屋ノ義、壁ナキ意、あばらノ條ヲ見ヨ〕柱ノミニテ、壁ナキ家。人ノ休息スルタメナドニ設クルモノ。略シテ、アバラ。東屋ヲ參見セヨ」天治字鏡、十一、卅「客亭、[illegible]之屋也、客人屋、阿波良」箋注倭名抄、三、[illegible]亭、人所停集也、客亭、阿波良夜、亭子、遊息處、小屋也」

あばり (名) |網針| 〔あみばりノ略、網子、あさ。網引、あびき〕あみすきばり(網結針)ヲ見ヨ。

あばる・る・ルル・ルレ・レ・レヨ (自動、下二) |荒廢| 〔顯ニナル意ニテモアルカ、あばく、る、同意〕荒レ頽ル。毀レソコナハル。名義抄「圮、アバル、ヤブル、クヅル、ヒハル」宇津保物語、藏開、下四十「貴ニラウラウシキ人ト云ヘド、あばれタル所ニ、カスカナル住ヒナドシテ」源[illegible]、[illegible]、タマルマジク、アレワタレルナド」

あはれ (名) |優| 〔次次條ノ語ヲ、專ラ、賞ムル意ニ用ヰ、名詞トス〕賞ムベキコト。優レタルコト。アッパレ。古今集、一、春、上「色ヨリモ、香コソあはれト、思ホユレ、誰ガ袖觸レシ、宿ノ梅ゾモ」同、十七、雜、上「紫ノ、一本故ニ、武藏野ノ、草ハミナガラ、あはれトゾ見ル」伊勢物語、六十五段「[illegible]ノ、イトオモシロク讀ミテ、聲ハ、ヲカシウテ、[illegible]ゾ、あはれニ歌ヒケル」同、二、桐壺九「人ガラノ、あはれニ情アリシ御心ヲ」徒然草、十三段「此國ノ博士ドモノ書ケルモノモ、イニシヘノハ、あはれナルコト多カリ」

あはれ (名) |哀| 〔次條ノ語ヲ、專ラ、傷ハシキニ用ヰテ、名詞トス〕傷ムベキコト。心ヲ傷ムルコト。可憐 傷心 仁德紀、二十八年七月「[illegible]可憐[illegible]、武[illegible]位[illegible]、長歌「[illegible]キソホヂ行クモ、影媛阿婆例」拾遺集、九、雜、下「春ハタダ、花ノヒトヘニ、咲クバカリ、物ノあはれハ、秋ゾマサレル」[illegible]日記、中、中「今日ハ二十四日、雨ノ足、イトノドカニテ、あはれナリ」山家集、上「心ナキ、身ニモあはれハ、[illegible]、秋ノ夕暮」[illegible]ハ、心ヤスメノ、[illegible]、あはれあはれト、歎クハカリゾ」[illegible]

あはれ (感) |噫| 〔あな、はれ、感動詞ナリ、各條ヲ見ヨ〕喜、怒、哀、樂、スベテ、心ニ感ズルニ發スル聲。アア。アナ。アラ。古語拾遺、日神、天岩戸ヲ出[illegible]ヒシ時「上天初晴、衆倶相見、面皆明白、伸手歌舞、相與稱日、阿波禮、阿那於茂志呂、[illegible]、阿那多能志[illegible]、言天晴也」(是レハ、上天初晴ノ意ニ云ヘレド、附會ナリ、サレド、常ニ、あっぱれト云フ語ニ、天晴ノ字ヲ充ツルハ、コレニ據ルナリ) 萬葉集、九「カキクノン、雨ノ降ル夜ノ、ホトトギス、[illegible]ナリ、[illegible]ソノ鳥」催馬樂、我駒「イデ我ガ駒、早ク行キコセ、[illegible]

山、安政禮、侍ツラム人ヲ、行キテ早見ム」(萬葉集二ハ「待つらむ妹を」トアリ) 六百番(歌合、遅久)春二番、遅日「雲ノ上ニ、鶯ノ落聲、音ヅレテ、あはれノドケキ、春ノ今日カナ」

あばれ (名) 荒廢 あばろ(荒廢)ヲ見ヨ。

あはれ-が・る・ル・レ・ラ・リ・レ (他動、四) 優哀 (一)優ニ思フ。愛ヅ。賞 竹取物語、かぐや姫、七月十五日ノ月ニ出デ居テ、切ニ物思ヘルケシキナリ、云云、何モ、月ヲあはれがりタマヒケレドモ、此頃トナリテハ、タダゴトニモ侍ラザンメリ」 土佐日記、正月七日「此歌ヲ、コレカレ、あはれがれドモ、一人モ返歌セズ」 (二)哀ニ思フ。アハレム。愍 竹取物語「御文添ヘテ參ラス、ヒロゲテ御覽ジテ、イタクあはれがらせタマヒテ、物モキコシメサズ、御管絃ナドモナカリケリ」(帝ノ、かぐや姫ヲ召サレシニ、姫、文ヲ奉リテ、天上シタルナリ)

あばれ-ぐひ (名) 暴食 亂暴ニ食フコト。 異玄(明和、横井也有)前篇、上、鬼傳「鬼一口ノあばれぐひニ」

あはれ-さ (名) 哀 (恐さ、うれしさナド、形容詞ノ末ニツクさヲ、名詞ニツケテ用キルハ、奇ナリ、(後世ハ、不便さ、不思議さ)夫木抄、十九、火「石ノ火ニ、此身ヲ寄セテ、世ノ中ノ、常ナラズさヲ、思ヒ知ルカナ」ナドモアリ」 哀レト思フ程合。傷シキホドラヒ。 住吉物語(源氏物語以前ノ書ト云フ)「コレヲ見タマヒテ、イヨイヨあはれさ勝リテ」 山家集、下「あはれさハ、カウヤト君モ、思ヒ知レ、秋暮レガタノ、大原ノ里」 拾玉集、一「秋ノ月、直エユク夜ノ、あはれさヲ、何ニ譬ヘテ、人ニ語ラム」

あはれ・し・シキ・シケレ・シク・シク (形、二) 可憐 憐ムベシ。アハレナリ。 語彙、あはれしき「憐レナル狀ヲ云フナリ、後三年記、年ノ寄ルト云フ事ハ、あはれしくモ侍ルカナ」

あはれっ-ぽい (形) 「哀多し」ノ急呼轉(濃ぽい、厭ぽい)ニ アハレ氣ナリ。カハユサウナリ。「道靜カ、あはれぽい聲デ、御詠歌ヲウタフ」

あはれび (名) 憐 アハレブコト。アハレミ。 山家集、下「あはれびノ、深キ誓ヒニ、頼モシキ、清キ流レノ、底没マレツツ」(清水寺ニテノ詠)

あはれ・ぶ・ブ・ベ・バ・ビ・ベ (他動、四) 憐哀 [哀ヲ活用セシメタル語(厭ぶ、欠ぶ)] あはれむ(憐)ニ同ジ。 遊仙窟「憐、愍」名義抄、大部「哭、アハレブ、カナシブ」同「悪、惟、憐、愍、アハレブ」今昔物語、十七、第十語「身ニ戒行ヲ持チテ、衆生ヲ哀ぶ事、佛ノ如シ」

あはれみ (名) 憐 アハレムコト。メグミ。「萬民ニあはれみヲ施ク」

あはれ・む・ム・メ・マ・ミ・メ (他動、四) 愛 [優ヲ活用ス] 愛ヅ。イツクシム。 古今集、序「霞ヲあはれみ、露ヲカナシム、心、詞、多ク」 後拾遺集、序「花ヲモテアソビ、鳥ヲあはれまズト云フコトナシ」 源、三十四、下、若菜、下三十六「女ハ、春ヲあはれむト、舊キ人ノ、言ヒオキ侍リケル」 朗詠集、上「但憐大庾萬株梅」(大庾嶺)

あはれ・む・ム・メ・マ・ミ・メ (他動、四) 憐 [あはれぶノ轉] 憐レニ思フ。フビンニ思フ。 金葉集、九、雜、上「あはれまムト、思フ心ハ、ヒロケレド、ハグクム袖ノ、セバクモアルカナ」 著聞集、一、神祇「ネンゴロニ申シケレバ、あはれみテ、具セラレケリ」「鰥寡孤獨ヲあはれむ」

あば・れる・レル・レレ・レ・レ・レヨ (自動、下二) 暴行 [荒廢るノ口語、穎るノ意ヨリ移リタル語ナルベシ] 無法ニ荒レ狂フ。アタケル。「酒亂ノ上デ、あばれる」

あひ (名) 遇 遇フコト。面會。 萬葉集、四二十「夢ノ相ハ、苦シカリケリ、目覺キテ、掻キサグレドモ、手ニモ觸レネバ」「客ガ遇ひニ來ル」

あひ (名) 間 [合ふノ名詞形、事物ト事物ト合ふ所ノ義、あひだモ、合處ノ轉ナルベシ] (一)「あひだニ同ジ。アハヒ。間。 天治字鏡、二三「顙、額也、萬良安比」「山あひ」「谷あひ」 (二)あひがたりノ條ヲ見ヨ。

あひ (名) 椓擊 [相槌ノ、あひナリ、大槌ト云フモ、掛合ノ下略ナリ、倭訓栞、あひ「倭名抄ニ、椓擊ヲ訓メリ、俗ニ、かけあひトモ、あひづちトモ云フ、兩人、コナタカナタヨリ、聲ヲカケテ、槌擊ツヲ云フ也、說文「椓、擊也」廣雅、釋詁「椓、椎也」] 大槌ノ古名。 倭名抄、十五造作具「椓擊、纂文云、齊人以二大椎一爲二椓擊一阿比」 名義抄、木部「擊椓、アヒクヒウツ」椓擊、アヒ」 詩經、周南、兔罝篇「椓之丁丁」

あひ (名) 相 [相手ノ略] 他ノ酒ヲ飲ミ居ル間ニ、出デテ、盃ヲ受ケテ、マタ差スコト。「酒ノあひヲスル」

あひ (名) 鶩 あひるニ同ジ。其條ヲ見ヨ。

あひ (副) 相 [互ニ合ひノ義、廣韻「相、共也」] (一)カタミニ。互ニ。 續紀、四、和銅元年正月、詔「天坐神、地坐祇乃、相受納比奉、相扶奉事、云云」 易經、下經、咸卦「二氣感應、以相與」「相思フ」「相戀フ」 (二)名詞ト熟語トナレバ、共共ニ。ヒトツニ。「相住」「相弟子」「相客」「相借屋」

あひ (接頭) 相 [前條ノ語ヨリ移ル、接頭語ノ、打ノ語原ヲ見ヨ] 動詞ノ意味ヲ強クスル接頭語。多ク、書狀文ナドニ用キラル。「相濟ス」「相濟ム」「相變ラズ」「相成ラヌ」

アビ (名) 阿鼻 阿鼻地獄ヲ見ヨ。

アビ (名) 阿比 [蝦夷語、水鳥ノ名ニ、Aiiwa. アリ、ソレニテモアラムカ] 水鳥ノ名。北海ニ棲ム、大キサ鵜ニ等シク、背部、黑褐色ニシテ、白斑アリ、腹部ハ白色ナリ、嘴、脚ハ、鴨ニ似タリ。 俚言集覽、あび「鳥名、おほばんニ似タリ」

あひ-あか (名) 間赤 [間着ノ赤ノ義] 婦人ノ禮服ニ、下着ノ上、打掛ノ下ニ着ル、紅綾ナドノ小袖ノ稱。若キ女ノ用トス。色ノ黃ナルヲ、間黃ト云ヒ、白キヲ、間白ト云フ。

あひ-あひ (名) 相合 一ツノ物ヲ、二人ニテ、共同ニスルコト。相合袴、相合傘、(もやひがさ)相合駕籠ナド云フモ、二人ニテ共用スルナリ。 本朝廿四孝(寶曆、近松半二)三「貴殿ニ育テサスカラハ、ナウ、慈悲藏、畢竟、アガ身ト、あひあひノ子」 狂言記、相合袴「一人ノ袴ヲ、二人着テ、相舞舞フテゾ歸リケル」 室町千疊敷(寬保、近松作)「御殿ハ亂髮「君ト淀トガ、相合傘ノ袖ト袖」 冥途飛脚(正德、近松作)下「忠兵衛、梅川、相合かさ」

あひ-いん (名) 合印 割符トシテ押ス印形。合判。

あひ-うち (名) 相討 二人ノ身方ニテ、同時ニ、共ニ、一人ノ敵ヲ討取ルコト。古戰法ニテハ、非義ノ事トシタリ。 甲陽軍鑑、十九、品第五十三「合戰、競合ニ、あひうちハ、非儀ナリ」 相井家日記、二、栗田口合戰「平田源左衛門ヲ、雲五、鬼六、相討ニ致シ候」

あひ-うち (名) 相擊 劍術ナドニテ、互

ニ、同時ニ、我レ、相手ノ面ヲ撃テバ、相手、我ガ胴ヲ撃チタルヲ云フ。

あひ-えん-き-えん (名) 合縁奇縁 〔「此語ハ、謡曲ヨリ出デテ、逢縁機縁ナリト思ハル、謡曲、身延ニ、實ニアリガタヤ、此經（法華經）ニ、逢フコト難キ、優曇華ノ、花待チ得タリ、ウレシノ今ノ機縁ヤ」最勝王經「隨二其善根一、善應二機縁一、而爲説レ法」コレヲ、合性ナドノ意ニ取リ、又、機ニ、奇ヲ、當字ニシタルヨリ、不思議ナル意ヲ生ジタルナルベシ、信濃國ニテハ、合性奇縁ト云フトゾ、愛縁機縁ノ説モアレド、愛縁ノ語、據リドコロナキガ如シ」 夫婦ノ縁、朋友ノ交リナドニ、合フアリ、合ハヌアリ、不思議ニ思ハル、トノ意ヲ云フ語。 心中宵庚申(享保、近松作)下「人ニハ、合縁奇縁、血ヲ分ケタ親子デモ、仲ノ惡イガアルモノ」 俚言集覽、愛縁機縁「合フモ、合ハヌモ、縁ニヨルヲ云フ、モト、佛語ニ出ヅ、愛ノ縁アレバ愛シ、機ノ縁アレバ發スルナリ」 同書、あひえんきえん「合縁奇縁ノ意ニテ、互ニ心合ヒタルドチヲ云フ、轉ジテ、縁づくト云フ意ニモ云フナリ」

あひ-おい (名) 相老 〔次條ノ語ト、發音ノ同ジク聞ユルニ因リテ、移シタルナリ、謡曲ニ始マル、謡曲、高砂ハ、舊題ヲ、相生ト云ヒキ、(稀ニ相老ト記シタルモアリト云フ)徳川時代ニ至リテ、高砂ト改題シタリ、此曲ハ、足利義滿ノ代、應永年中ニ、觀世世阿彌ノ作ナリ」 夫婦共ニ、長命ナルコト。偕老。 謡曲、高砂(光悦本)「播州高砂ノ松ニ老、夫婦來レリ、云云、高砂、住江ノ松ニ、あひをひノ名アリ、云云、高砂ハ、昔樂ノモノダニモ、相生ノ名ハアルゾカシ、云云、尉ト姥ハ、松モロトモニ、此年マデ、あひをひノ夫婦トナルモノヲ、云云」此文、相老ノ意ニ移シタリ。 [illegible]、文中ノ「四海、波靜ニシテ、國モ治マル時津風、枝ヲ鳴ラサヌ御代ナレヤ、逢ヒニ相生ノ松コソ、メデタカリケレ」ノ一節ヲ、婚禮ノ席ニテ謡フヲ例トス、夫婦偕老ヲ祝スルナリ。

あひ-おひ (名) 相生 諸共ニ生ヒ立ツコト。雙生。 古今集、序「高砂、住ノ江ノ松モ、あひおひノヤウニオボエ」(老ノ松モ、我レト同年ノ如ク覺ユノ意ナリト云フ) 惠慶法師集、子日「二葉ヨリ、あひおひシテモ、見テシガナ、今日呉リツル、野邊ノ小松ト」 新古今集、七、賀、後冷泉院幼クオハシマシケル時、卯杖ノ松ヲ、人ノ子ニ賜ハセケルニ「相生ノ、小鹽ノ山ノ、小松原、今ヨリ千代ノ、蔭ヲ待タナム」

あひ-がかり (名) 相懸 諸共ニ、攻メカカルコト。 太平記、九、六波羅攻事「佐用兵庫助、得平源太、云云、相懸リニ懸テ、面モ不レ振戰フタリ」 信長公記、首「造酒丞、三左衛門、云云、相がかりニ懸リ、合戰、云云」

あひ-かぎ (名) 合鍵 其鎖ニ添ヘル鍵ノ外ニ、更ニ一ツ、同ジク合フヤウニ作リ置ク鍵。 天下同

あひ-かご (名) 相駕籠 あひおし(相輿)ニ同ジ。

あひ-かた (名) 相方 (一)あひて(相手)ノ(二)ニ同ジ。(二)能ノ謡ノ囃子方。(三)芝居ニテハ、俳優ノせりふニ合セ、三味線ヲ引キツヅクルコト。琴、鼓弓、尺八、笛ヲ加フルコトアリ。

あひ-かた (名) 相肩 二人ニテ、物ヲカツグ時、先肩、後肩、其一方ノ者ノ稱。相棒。

あひ-がたり (名) 間語 能ノ、前仕手ト後仕手トノ間ニ、狂言師出デテ、其能ノ由來ナドヲ語ルコト。略シテ、間トノミモ云フ。(間狂言トハ異ナリ) 花傳書(觀世流)八「狂言ノあひノ事、中入ノ仕手ノ出端モ長ク、手間ノ入ルニハ、長クかたるモノナリ、手間ノ入リ候ハヌ大夫ノコシラヘノあひハ、短クかたるモノナリ」 [illegible]六、あひ[illegible]ニ、[illegible]出デテ、花能ノ一番ノ大敵ヲ物語スルナリ、能ノ間トハ、装束ナドツケカフル間ノ事ナリ」

あひ-かはらず (副詞句) 不相變 〔おもがはりせず、ト云フ語ノ、遺ナリ」 變ハルコトナク。隔リナク。新年會見ノ挨拶語トシテモ云フ。「相變らず御[illegible]テ」新年御メデタウ、あひかはらず」

あひ-かまへて (副) 相構 かまへて(構)ノ條ヲ見ヨ。

あひ-がも (名) 鶩鴨 〔あひるヲ、あひトノミモ云フ」 (一)鴨ト鶩トノ雜種ノモノ。(二)夏時食用トスル鶩。 俚言集覽、あひがも「野鴨ト鶩ト交リテ生メル子ヲ云フ、又、夏月食用ニスル鶩ヲモ云フ」

あひ-ぎ (名) 間着 (一)上着ト下着トノ間ニ着ル服。 衣食住記(天明)「安永ノ頃、間着ト號シ、云云、襟、袖ナシノ間着アリ」 (二)洋服ニ、春夏ノ間、又、夏秋ノ間ニ着用スルモノ。

あひ-ぎ (名) 間黄 あひあかノ條ヲ見ヨ。

あびき (名) 網引 〔あびくノ名詞形、其語原ヲ見ヨ」 引網ヲ引クコト。 萬葉集、三廿「大宮ノ、内マデ聞ユ、網引スト、網子トトノフル、(呼集ムル)海人ノ呼聲」(難波ノ宮ノ御饌ニ奉ル魚ヲ捕ルナリ) 同、七七「網引スル、海人トヤ見ラム、飽浦ノ、清キ荒磯ヲ、見ニ來シ吾レヲ」(飽浦ハ、紀伊國) 古今集、十三、戀、三「君ガ名モ、吾ガ名モ立テジ、難波ナル、みつトモ云フナ、あひきトモ言ハジ」(見つヲ、難波ノ御津ニカケ、會ひきヲ、同地ノ網ニ、網引ニカケタリ)

あひ-ぎこえ (名) 相聞 さうもん(相聞)ヲ文字讀ニシタル語、其條ヲ見ヨ。

あひ-きやく (名) 相客 (一)一ツ席ニ、來會ナドニ、相共ニ會スル客。 茶道便蒙抄、一、客約束ノ事「客、我レト同輩ナラバ、何日ノ何時ニ、御茶可申候、御相客ハ、[illegible]ニ可仕候、ト書状ニ書ク遣ハスベシ」 (二)旅宿ニテ、同室中ニ、他ノ客ノ泊リアハスルモノ。

あび・く・く・け・か・き・け (自動、四) 網引 〔網引くノ略、(網子、あご、網代、あじろ)名詞形ニ、あびきト云フ、其條ヲ見ヨ」 網ヲ引ク。 神樂歌、湖倉「アサクラヤ、於米ノ浜ニ、安比支尻レバ、海人ノめざしニ、ナビキアヒニケリ」

あひ-くぎ (名) 間釘 兩端尖リタル釘、材ト材トノ間ニ打籠メテ、二ツニ綴合ハスルニ用ヰル。兩尖釘 小町踊(寛文)夏、卯花「春夏ノ、あひ釘トナル、うつ木カナ」(木釘ニハ、うつぎヲ用ヰル)

あひ-ぐすり (名) 合藥 其人ノ體質ニ適ヒテ、利目アル藥。適藥。 俚言集覽、合藥「其人ノ性ニアヒテ、ヨク利ク藥ヲ云フ」

あひ-くち (名) 合口 〔倭訓栞、あひくち「短刀ノ名ニ云フ、鯉口ノ所ヲ云フト見エタリ」〕 (一)鍔無クシテ、鯉口ト鞘ト合フヤウニ造レル短刀。 室町殿日記「相口ノ小刀」合口ノ短刀」 小サキ鍔ヲツケタルヲ、はみだしト云フ。 刀劔記、上「合口トテ、鍔ヲ懸カズ、[illegible]、鞘ト鯉口ニテ、鞘所ヲ合ヒ[illegible]、據ヘ候者、云云」 (二)物ト物ト合ヒテ、密着スル所。「茶箱ノ蓋ト身トノあひくち」

あひ-くち (名) 合口 〔口ハ、[illegible]、又ハ、

話ノ意」二人、互ニ、話ノ趣キノ、心ニ合フコト。睦ジキ友ダチノ中ナドニ云フ。會心　犬子集(寛永)十五、雜、下「あひくちバカリ、寄合ノ中」イカニシテ、つば脇差ノ、ナキヤラム」人喰馬にも合口、ト云フ諺ハ、無道ノ者ニモ、氣ノ合フ者アリトノ意。貝おほひ(寛文、芭蕉)「誠ニ荒馬トモ、エ侍レドモ、人喰馬にも合口、トカヤニテ、右ノ馬ニ思ヒツキ侍ル」倭訓栞、あひくち「人喰ひ馬にも合口、ナド云フハ、氣合ノ意ナリ」

✤**あひゐ**（名）相子「かけッくらノ條ヲ見ヨ」互ニ同ジコトニテ、勝負無キコト。石拳ヲシテ、雙方石ヲ出シタルナドニ云フ。

あひごし（名）相輿　二人倶ニ、一ツノ輿ニ相乘リスルコト。相駕籠。傾城冥途飛脚(正德、近松作)「相輿ノ駕籠ノ息杖」薩久末松山(享保、紀海音)「薩久、松山、相輿ニ打乘リ」

あひごせいもく（名）相碁聖目「聖目ヲ見ヨ」碁敵ニハ、對等ノ者モアレバ、先ヅ、九目ノ石ヲ置キテ、打チカカル者モアリ、トノ意ニテ、巧、拙、サマザマナリノ心ナルベシ。俚言集覽「相棋井目」

〜**あひごと**（名）相言　打チクツロギテ語フコト。款話　伊勢物語(異本)六十九段「今夜ダニ、人シヅメテ、イト疾ク會ハムト思フニ、云云、夜一夜、酒飲シケレバ、專ラあひごとモ、エセデ、明ケバ、尾張ノ國ヘ趣サムトス」倭訓栞、あひごとば「返答スルヲ、あひごとト云フモ、同意ナルベシ」雅言考(橘守部)あひごと「相言フト同ジコトヲ、中昔ノ書ニハ、あひごとト云ヘリ」

あひことば（名）合詞　軍中、夜討ノ時ナド、カネテ定メテ、身方ノ軍勢ニ示シオク言葉。暗夜ニ、人ニ逢ハバ、山ト問ヒ、定メタル如ク、川ト答ヘテ、ソレニ合ヘバ、身方ナルヲ知リ、然ク答ヘザレバ、敵ト認ムルナリ。(合印ヲ併セ見ヨ)暗號語　天武紀、上、元年七月「近江別將田邊小隅、云云、以夜半之、銜枚穿城、還入營中、則畏己卒與足摩侶衆難別、以毎人令言金、仍拔刀而歐之、非言金乃斬耳、於是足摩侶衆悉亂之、事忽起不知所爲、唯、足摩侶、聰知之、獨言金、以僅得免」(足摩侶ハ、田中臣)太平記、三十四、平石城軍事「和田夜討ノ事」和田ハ、云云、夜討ニ馴レタル兵、三百人勝テ、鬪ハバ武シト答ヘヨト、約束ノ名乘ヲ定メツツ、夜深クル程ヲゾ待ッタリケル」淺井三代記、四「亮政、重ネテ宣ヒケルハ、味方ノ相詞ヲ定ムベシ、南風吹くト言ハバ、切テ掛ルベシ、北風烈しト言ハバ、城中ヘ引退クベシ、谷かト問ハバ、味方ハ、山ト答フベシ、云云、ト相定メ、其支度ヲゾ致サレケル」

あひごま（名）間駒　將棋ニ、敵ノ駒ノ利キノ、我ガ駒ニ向キタル時、其駒ト駒トノ間ニ、歩ナドヲ置キテ防グコト。アヒマ。

あひさん（名）亞砒酸　毒藥ノ名。透明、白色ノ粉末ニシテ、無味、無臭ナリ。醫用トシ、工業用トス。

あひし（名）相仕「相爲ノ義、鑄物仕、仕事仕、同ジ(仕ヲ、後ニ、師ニ改ム)」共ニ事ヲスル者。江戸ニテハ、新吉原町ニテ、藝妓ノ、客席ニ招カルルニ、藝妓一人ト雛妓一人トヲ、一組トシ、其雛妓ヲ、あひしト云ヘリ。

あひしやう（名）合性 相性　人ノ生年ヲ五行ニ配當シタル性ニ、相生、相剋ノ義ヲ寄セテ、人人ノ氣象、男女ノ緣ナド、相合ヘリトスルコト。水性ト木性、木ト火、火ト土、土ト金、金ト水ハ、相生ナレバ、吉トシ、水ト火、火ト金、金ト木、木ト土、土ト水ハ、相剋ナレバ、凶トスルナリ。(性ノ條ヲ併セ見ヨ)

あひじやく（名）相酌　人ト對シテ酒ヲ飲ムニ、給仕ナク、互ニ、手ヅカラ、酌ヲ爲合フコト。俚言集覽ニ「相酌をすると中違ふ」ト云フ諺ヲ載セタリ、親善ノ意ニ反ス、解シガタシ。

あひじやくや（名）相借家　あひだな(相店)ノ條ヲ見ヨ。

あひじやくり（名）相決　工匠ノ語。決喰ニ云フ、さね(實)ノ條ノ(五)ヲ見ヨ。

〜**あひしらひ**（名）應答　あへしらひヲ見ヨ。

〜**あひしら・ふ**（動）應答　あへしらふヲ見ヨ。

あひじるし（名）合印　軍勢ノ組組ノ紛レヌタメニ、又ハ、合戰ニ、敵、身方、入リ亂レタル時、見分クベキタメニ、身方ノ軍勢ニ付クル標。指物、笠印、袖印、馬印ナド、皆、一樣ニス。符號　里見九代記、三、三略傳書「相印、相言葉、餘所ヨリ才角シテ、出スベカラズ、大將ト老中軍法者ト、密ニ示シ合セ、出スベシ」明良洪範(寶永)十八、大猷公ノ時、盜賊ノ棟梁ヲ搦取ル「其組ノ盜人、皆皆、草履ノ鼻緒ヲ太ク仕リ候テ、仲ケ間ノ相印ニ致シ候」同、續編、十「刀脇差ノ鞘ニ、左卷、右卷トテアリ、紙ヲ切リ、鞘ヲ卷ク也、何レモ、味方ノ合印也」(節文)明良帶錄(文化)小十人頭「前立物、輪ナリ、是ハ、小十人ノ相印ナリ」

あひじろ（名）間白　あひあかノ條ヲ見ヨ。

〜**あひずみ**（名）相住「次條ノ語ノ名詞形」共ニ、一處ニ住ムコト。アヒヤドリ。同居。同棲　源、二十二、玉葛三十「丑寅ノ町ノ西ノ對、(花散里ノ住處)文殿ニテアルヲ、異方ヘ移シテトオボス、あひずみモ、シノビヤカニ、心ヨク物シタマフ御カタナレバ、打チカタラヒテモアリナムニ(玉葛ト花散里ト、壁隣ニ住ムナリ)」

〜**あひす・む**・ム・メ・マ・ミ・メ（自動、四）相住　相住ヲス。後拾遺集、十五、雜、一「叔母ナリケル人ノ、あひすみケル方ヨリ、云云、言ヒニオコセテ侍リケル、返事ニ(歌)」

✤**あび・せる**・セル・セレ・セ・セ・セヨ（他動、下一）浴　(一)浴ス(下二段)ノ口語。沃懸クル。「水ヲあびせる」(二)自動詞ノ如ク用キテ、身ヲ以テ、敵ニノシカカル。アビセカケル。(相撲ナドニ)

あひぞなへ（名）相備　軍陣ニ、一番備ノ内ニ數組アル、其組組ノ稱。二番備、三番備等モ、同ジ。大友興廢記、十四、宗麟日州發向「先陣、右備、田北鎭周、田北一黨ノ侍、二千五百、相備ニ、筑後國、星野、蒲池、彼是三千、二番備、兩田原手勢、三千、相備、豐前、宇佐郡三拾六人衆、其勢、千百餘」

〜**あひだ**（名）間「間處ノ轉、(勾引ふ、かだふ)倭訓栞、あひだ「間ヲ訓メリ、たハ、どト通ズ、處ノ義ナルベシ、神代紀ニ、際モヨメリ」」(一)カレトコレトノ中。アハヒ。アヒ。萬葉集、四、十六「如此シテヤ、猶ヤ退ラム、近カラヌ、道ノ間ヲ、煩ミ參來テ」宇津保物語、樓上、上十六「一生ノあひだ、歌ヲモ詠ミタマフ」(二)ヒマ。絕間。間斷　齊明紀、四年五月「飛鳥川、水霧ヒツツ、行ク水ノ、(如ク)阿比娜モナクモ、オモホユルカモ」(皇孫建王ノ、八歲ニテ薨ゼラレシヲ、傷ミタマヘルナリ)(三)頃。程。際　拾遺集、二十、哀傷「世ノ中、心細ソクオボエテ、常ナラヌ心地シ侍リケレバ、云云、コノあひだ、病重クナ

[illegible]ニケリ」[illegible]、云云、今年ハアルマジト[illegible]、云云、サラバ、立タム月ノあひだニヤ、トナム思ヒタマフル」

あひだ（接）［間］（間ヲ讀易ヘタルモノカ、畿内ノ口語ニ、故ヲ、さかひ（境）ト云フモ、同意カ）ニ、因リテ、故ニ。多ク、書翰文、日記文ニ）「御召ニ付[illegible]罷出候」

あひ-たい（名）［相對］（對合フコト、差向ノ意）他人ヲ交ヘズ、二人ニテ事ヲハカラフコト。アヒテムカヒ。國性爺合戰（正德、近松作）二「契約ハ、[illegible]トノ相對、[illegible]シメサス[illegible]」俚言集覽「[illegible]ノ如シ、相對づく、相對死、相對勸化」

あひたい-くゎんけ（名）［相對勸化］御免勸化ヲ見ヨ。

あひたい-じに（名）［相對死］男女ノ緣ニ妨ゲアルヲ、思迫リテ、相對ニテ、申合セ、共ニ自殺スルコト。情死 是レハ、德川將軍吉宗ノ立テタル法律語アリ、（明君享保錄、五）俗間ニテ心中ト云フ。京阪ニテ此事アリ、淨瑠璃節ニ作ラレテヨリ、頻リニ起リ、江戸ニモ行ハル、吉宗、コレヲ嚴禁セムトテ、此法律ヲ立テタリト云フ。御定書百箇條、男女、申合、[illegible]相對死致候者、[illegible]取捨、[illegible]中間敷候、但、一方存命ニ候ハバ、下手人」（享保七年、極）「[illegible]名物考、人[illegible]、[illegible]男女、[illegible]ノ心中ヲ見セムトテ、共ニ死ヌルヲ、俗ニ心中ト云フ、官所ノ辭ニハ、相對死ト云ヒ、西土ニテハ、雙殉ト云フナリ」

あひたい-づく（名）［相對盡］（つくくノ條ヲ見ヨ）相對ニテハカラフコト。俚言集覽、相對「あいたいづくハ、諸共ニ計リタル上、事ヲナシタルヲ云フ」

あひたい-ふぎ（名）［相對不義］男、女、[illegible]通ニテ、私ニ不義スルコト。密通。[illegible]

あひだ-がら（名）［間柄］（間族ノ義、族ノ條ヲ見ヨ）（一）親類、緣者ノツヅキアヒ。親族 親族「叔父、甥ノあひだがら」「[illegible]ノあひだがら」（二）マジハリ、ツキアヒ。交際「親子ノあひだがら」

あひだ-ぐひ（名）［間食］（二食、間食、けんずいノ條ヲ併セ見ヨ）食事ト食事トノ間ニ、飯ヲ食フコト。勞動スル者ナドノ、空腹ヲ補フナリ。間食。昔ハ、一日一定ノ食事ハ、朝夕ノ二食ナリキ、後世、晝食ヲ加ヘテ、三食トナル。後ニハ、又、晝食ト夕食トノ間、八時（午後二時）ニ食フヲ、小晝飯、小晝飯ト云ヒ、又、朝茶子ニ對シテ、八茶トモ云ヒ、婦人小兒語ニハ、おやつト云ヒテ、菓子、餅、ナドヲ食フ。閒食。

あひたけ-びと（名）［共食者］（相食人ノ義。食くノ條ヲ見ヨ）饗應ノ相伴人。雄略紀、十四年四月、吳國ノ使ヲ饗セラルル時「命ニ根使主、爲ニ共食者ニ」推古紀、十八年十月、新羅使、任那使ノ饗ニ「以ニ河内漢直贄、爲ニ新羅共食者、錦織首久僧、爲ニ任那共食者ニ」

あひ-だな（名）［相店］（店ハ、借店ナリ、相借家ハ、借ル方ヨリ云フナリ）一棟ツヅキノ借店ニ、相住スルコト。相借家。異本洞房語園、上「ソコラ持チアルキ、あひだなノ者共ニ見セタリ」（是レハ高尾ノ頃、夏月、一貫人ガ、吉原仲ノ町ニテ、冷水賣ノ水ヲ飲ミテ、銀錢十文與ヘタルコトヲ云ヘルナリ）世間子息形氣（正德、[illegible]）「相借家ノ内儀カ、ソナタヲ所望リクレテ」

アビ-ぢごく（名）［阿鼻地獄］（阿鼻ハ、梵語、阿鼻旨（Avīci）ノ下略、翻譯名義集「[illegible]、阿鼻旨、此云無間」トハ、[illegible]ナシノ義、阿鼻ハ、又、無間ト意譯セラレ、苦ヲ受クルコト、間斷ナキヲ云フ、無間阿鼻ト云フハ、梵、漢、ナリ、愛護世界、南無阿彌陀佛ノ類）佛教ニ、八大地獄ノ第八。又、無間地獄 無間阿鼻。現世ニテ、五逆ナドノ大惡ヲ爲シタル者ノ、墮ツル地獄ニテ、罪人、日夜、劍樹、刀山、鑊湯ナドノ苦ヲ受ケテ、休ム時ナシト云フ。法華經、法師功德品「下至阿鼻地獄、上至有頂」愣嚴經「阿鼻地獄、造二五逆一人、入二此獄中一」源平盛衰記、廿六、平家可亡事「女房ノ夢ニ獄卒云、入道、清盛、佛像、寺塔ヲ燒失テ、既ニ五逆罪ヲ犯セリ、永ク阿鼻大地獄ニ落テ、無間ノ苦ヲ受クベキ」太平記、三十五、北野通夜物語事「[illegible]子、母ニ食物ヲ與ヘズ、母餓死ス「其後、子ハ、貧窮困苦ノ身ト成テ、死シテ、無間地獄ニ落チヌ」[illegible]トス」平家物語、灌頂卷、六道沙汰事、安德天皇御入水ノ後「生キ殘リタル者共ノ、ヲメキサケビシアリサマハ、叫喚、大叫喚、無間阿鼻、炎ノ底ノ罪人モ、コレニハ過ギジトコソ、覺エ候ヒシカ」

あひ-ちゅう（名）［間中］名題役者ノ條ヲ見ヨ。

あひ-づ（名）［相圖］（相指圖ノ略カ、（分際、ぶざい。きりさりす、きます）倭訓栞、あひづ「西土ニ云フ、號ナリ、相圖ト書ケリ、日語ニ、づト云フモ是也」）軍陣ニ、豫メ、身方ノ者ニ約束シオキテ、烽火、又ハ、旗ヲ擧ゲ、或ハ、法螺貝、鉦、太鼓、ノ音ノ曲節ヲ定メテ、進退ヲ告ゲ知ラスルコト。軍陣ナラズトモ、常ノ事ノ通知ニモ用ヰル。信號 近來ハ、志るしトスルモノ、種種起レリ、志んがう（信號）[illegible]、云云、今、[illegible]マデ、下リサガリテ、相圖ノ[illegible]ヲアゲタレバ」[illegible]八州古戰錄、六、[illegible]「[illegible]陰ヨリ、相圖ノ狼ヲ、[illegible]ト指揮ゲ」同、[illegible]ヲ[illegible]グル」同、九、太田三樂入道小田原ノ事「相圖ノ[illegible]ヲ、身振、幷、色品ニテ、相圖致シ候者有」之候ハバ、[illegible]」

あひ-づくり（名）［相作］（相手トナリテ作ル）手傳フ者。儀式、四「大酒波女一人、相作ノ走一人、相作二人」類聚國史、百七、弘仁元年十二月「[illegible]、云云、[illegible]」

あひ-づくり（名）［相作］（つくりみハ、さしみノコト）刺身ニ、鮪ナドノ、肉ノ赤キモノト、鯛、平目ナドノ、白キモノトヲ、作リアハセタルモノ。

あひづ-ごよみ（名）［會津曆］曆ノ一種、陸奧ノ會津若松ノ、諏訪神社ノ神官、[illegible]、曆ヲ作リテ、曆問屋ニ出版セシメテ、發行セシモノ、江戸幕府ノ許可ヲ得テアリキ。

あひ-づち（名）［相鎚］（相ハ、相手ノ意カ、又ハ、間鎚ナルベキカ）（一）鍛工ノ、燒キタル鐵ヲ、師ガ、鎚ニテ打ツ間ニ加ヘテ、弟子ガ、鎚ヲ打チ入ルルコト。[illegible] （二）轉シテ、他ノ說ニ合セテ、說ヲ吐キテ、他ヲ助勢スルコト。コレヲ、相鎚ヲ打ツト云フ。アドウツ。迎合 雷同

あひづぬり (名) [會津塗] 岩代國、會津若松ニテ製出スル漆器。木地ニ、澁地塗ヲ施ス、金箔セルモノアリ、箔椀、箔盆、ノ稱アリ、蒔繪シタルモアリ。 標瑪漫錄「天正中、蒲生氏郷ノ、會津ニ封ゼラルルヤ、南部椀(秀衡椀)ニ模擬シタル漆器ヲ製セシム、コレ會津塗ノ始ニシテ、其椀ヲ、薄椀ト云ヒ、其盆ヲ、薄盆ト云フ」

あひづのかひ (名) [相圖貝] 軍中ニテ、相圖ニ吹ク陣貝。 岡本記(天文、續群書類從)「あひづのかいノ吹キヤウノ事ハ、唯二ツヅツモ、又ヘ、一ツモ、又ハ、頻リニ數モナク吹クトモ、心マカセ、約束次第ナリ」

あひづま (名) [合褄|相褄] 〔衿先ニ合ふ所ノ義ナルベシ〕裁縫ノ語。衽ノ中央卽チ、衿先ノ、下端ニ當ル所ノ、幅ノ名ナリ、此中央ヨリ上部ノ幅ハ、上ルニシタガヒテ、次第ニ窄クナル。單ニ、褄ト云フハ、卽チ、此下部ノ名ナリ。

あひづやき (名) [會津燒] 岩代國、大沼郡、本郷村、北會津郡、川南村ヨリ製出スル磁器。正保年中、保科正之ガ、本郷村ニテ燒カシメシヲ始メトシ、今ニ至リテ、本郷燒トモ稱ス、明治ノ初年ヨリ、盛ンニ急須、土瓶、茶椀、大小ノ皿ナドノ日用品ヲ出ス、質、良ニシテ、價、廉ナレバ、關東、東北ニ、盛ンニ用キラレ、瀨戸燒ヲ壓倒スル勢アリ、海外ヘモ輸出セラル。 陶器考、附錄「奧州、會津燒、白樂、藍繪、白土ノ茶椀、水指、ナドアリ、安南ノ風ヲ寫ス、新、古アリ、土、相馬ニ似ル」

あひづらふそく (名) [會津蠟燭] 岩代國、會津地方ヨリ産ズル蠟燭。色ハ、純白ニシテ、繪模樣アルヲ特徵トス、又、會津繪蠟燭トモ云フ。 重訂本草綱目啓蒙、廿七「蟲白蠟、イボタロウ、會津ロウ」

あひづり (名) 〔相吊ナルカ、あひびき(相曳)ニ同ジカルベシ、或ハ、相連ノ轉カ、(ぐりはま、ぐれはま)掏摸ニハ限ラヌ語ナルベシ〕互ニ、竊ニ、示シアハセテ、事ヲタクラムコト。アヒビキ。ナレアヒ。 [阿黨] 淀鯉出世瀧德(元祿、近松作)上「科人ハ、惣兵衞一味ノあひずり、十人アマリ」

あひて (名) [相手] 〔てハ、人ノ轉、其條ヲ見ヨ〕(一)相敵シテ、勝負ヲ爭フ人。對手 敵手 京都本、保元物語、二、白河殿攻落事、源義朝、八郎爲朝「八郎ニ於テハ、義朝、相手ニ成テ、勝負ヲバ決セム」 吾妻鏡、二、壽永元年六月七日「武衞令ㇾ出ニ由井濱一給、壯士等、各施ニ弓馬之藝一云云、下河邊庄司(註、爲ニ御合手一)秦谷四郎、和田太郎、云云、爲ニ射手一」吾時我集(慶安)序「初ノ相手ハ、カハレドモ、同ジ主ハカハラヌ、甚好ナルベシ」「劍術ノ相手」訴訟ノ相手」喧嘩ノ相手」 (二)相伴ヒテ事ヲスル人。アヒカタ。 伴侶 「相談ノ相手」仕事ノ相手」酒ノ相手」子供ノ相手」

あひてがた (名) [相手方] (一)德川時代ニ、公事ニ、訴ヘ出デタル方ヲ、訴訟方ト云ヒ、(今ノ原告)相手取ラレタル方ヲ、相手方ト云ヒキ。(今ノ被告) 德川禁令考後聚、十、法曹事務、文化八年十一月、落着調書ニ、訴訟方、下總國、天福寺、檀中總代、百姓、儀左衞門、相手方、天福寺宥芳トアリ。(二)今ハ、法律行爲ノ當事者ニ就キテ、一方ヨリ、他ノ一方ヲ稱シテ、相手方ト云フ、原告ヨリハ、被告ヲ稱シ、被告ヨリハ、原告ヲ稱スルナリ。

あひてきよくしよ (名) [相手局所] 電報ヲ發信シ、又ハ、受信シ得ル、甲ノ電信局ト、乙ノ電信局トガ、互ニ呼ブ語。

あひでし (名) [相弟子] 同ジ師ニツキテ學ブ人。同門。同學。同窓。

あひてどる ル・レ・ラ・リ・レ (他動、四) [相手取] 相手トナス。敵トス。「金主ヲ相手取ッテ、訴訟ヲ起ス」

あひてほしや (句) [相手欲] 〔やハ、感動詞〕相手ヲ求ムル意ニ云フ語。「あひてほしやトカマヘテ居ル」

あひでん (名) [相殿] 次次條ノ語ニ同ジ。

あひてむかひ (名) [相手向] 〔相手同士ノ差向ひノ意ナルベシ〕相對ニテスルコト。他人ノ關ラヌコト。今、さむかひト云フ語アリ。 傾城反魂香(寶永、近松作)中「銀杏ノ前ガ、理不盡ト言ハレテハ、大人氣ナイ、相手むかひニシテオキャ」

あひどの (名) [相殿] 〔相住ノ意ナルベシ〕二神以上ヲ、一ツ社殿ニ合セ祀リタルモノ。アヒデン。 倭姬命世記「相殿神二座、左、天兒屋根命、右、天太玉命」

あひどのづくり (名) [相殿造] 神社ノ建築法ノ一種。相殿ノ二神ヲ祀ルタメニ、二社ヲ、一棟ニ連ネテ造レルモノ。 神道名目類聚抄、一、宮社「相殿造、二間社トモ云フ」

あひなめまつり (名) [相嘗祭] 〔あひなめハ、相新嘗ノ中略、(あれつくをとめ、あれをとめ。うかがひねらふ、うかねらふ)本語ハ、あひにへ(相嘗)ナリ、次次條ノ語原ヲ見ヨ〕又、アヒニヘ。アヒンベ。古ヘ、十一月、上ノ卯日ノ祭儀。今年ノ新穀ヲ、京中、及ビ、山城、大和、河內、攝津、紀伊、諸所ノ、七十一社ニ供ゼラル神事ナリ、神祇官ヨリ、各社ニ幣帛ヲ頒チテ、奉ゼシメラレタリ。 令義解、神祇「仲冬、上卯、相嘗祭」同卷、四時祭「相嘗祭神、七十一座」中右記、天永三年十一月一日「相嘗祭、供ニ當年新穀ニ事也」後世ハ、此祭儀、僅ニ、賀茂社齋院、紀伊ノ日前、國懸、攝津ノ住吉等ノ諸社ニ存セシノミ。

あひならぬ (句) [不相成] 〔接頭語ノあひ(相)ノ條ヲ見ヨ〕禁制スル意。叶ハヌ意ヲ云フ語。「通行スルコト、あひならぬ」面會ハあひならぬ」

あひにへのまつり (名) [相嘗祭] 〔にへハ、(新饗)ノ條ヲ見ヨ、あひんベト云フハ、音便ナリ、おほにへ(大嘗)ヲ、おほんベト云フト、同例ナリ、(んヲ受クレバ、濁ル)あひなめトモ云フ、十一月、にひなめまつり(新嘗祭)ノ前ニ、天皇、七十一社ノ諸神祇ト相共ニ、新穀ノ饗シタマフ祭儀ト云フ義ニテ、相嘗ハ、卽チ、相新嘗ノ略ナリ、玉かつま、一、中臣壽詞「相嘗ハ、阿比爾閉ト唱フベシ、天皇ト相伴ニ、新饗シ奉ル意ノ名ニテ、俗ニ謂ユル、相伴ノ心バヘナリ、サル故ハ、此祭ハ、其神社ノ尊キ卑キニモ因ラズ、必ズ預リタマフベク思ハルル神ニモ、預リタマハヌ多シ、コレ、殊ニ故アリテ、預リタマフハ、預リタマフナルベシ」〕古ヘ、十一月ニ行ハレシ神祭ノ名。又、あひんベトモ云フ、前前條ヲ見ヨ。 天武紀、下、五年十月丁酉(三日)「奉ニ幣帛於ニ相新嘗諸神祇一」(相新嘗ハ、相嘗ナリ) 字類抄、諸社「相嘗祭、アヒニヘ」名義抄、雜部「相嘗、アヒムヘ」公事根源、下、十一月、相嘗祭「相嘗ト書キテ、あひむベト訓ムナリ」

あひのきやうげん (名) 間狂言 (一)二ノ能ノ一演技終リテ、後ノ演技トノ間ニ加ハリテ、狂言師ノ演ズル狂言ノ稱。(あひがたりヲ併セ見ヨ) (二)歌舞伎芝居ニテハ、十一月ノ顔見世狂言ト、翌年、正月ノ二番トノ間ニ演ズル狂言。

あひのこ (名) 間子 (一)異人種ノ兩親ノ間ニ生レタル子。混血兒。他ノ動物ナドニモ云フ。(二)スベテ、異種類ノ物ヲ合セタルモノ。あひのこ船、あひのこ辨當ナド云フ。(各條ヲ見ヨ)

あひのこぶね (名) 間子船 (前條ノ(二)ヲ見ヨ) 日本形ノ帆船ニ、西洋形ノ裝置ヲ加味シタルモノ。安政二年、伊豆國、君澤郡、戸田港ニテ、露西亞ノ船工ノ示導ニ因リテ、君澤形ノ船ヲ造レル頃、出來タルモノト云フ。きみさはがたノ條ヲ併セ見ヨ。

あひのこべんたう (名) 間子辨當 (前條ノ(二)ヲ見ヨ) 辨當ノ飯ノ菜ニ、西洋料理ヲ添ヘタルモノ。近年、唱ヘ出シタル語ナリ。

あひのしゆく (名) 間宿 宿場ト宿場トノ間ニ、茶店、旅店ナドアル地。站 俚言集覽、間の宿「驛ト驛トノ間ニ、休息スル家ナドアル里ヲ云フ「坂ハ照ル照ル、鈴鹿ハ曇ル、あひノ土山、雨ガ降ル」

あひのて (名) 間手 (間の手事ノ略) 音曲ニテ、唄ノ間ニ、琴、三味線等ノ樂器ノミニテ奏スル手事。長キニモ、短キニモ云フ、稽古本ニハ、合ノ字ヲ略シテ、合ト云フ符號ニテ示セリ。てごとノ條ヲ見ヨ。

あひのもの (名) 間物 (碩鼠漫筆(黑川春村)二、あひのもの「四度入ト云フベキヲ、あひの物ト云フハ、志(死)ノ音ヲ忌ムナルベシ」出典ノ海人藻芥ニ、三度入、間物、五度入、ト次第セリ」) 土器ノ盃ノ名。又、あひのかはらけ。二度入、三度入、間物、五度入ナド稱シテ、最小ヨリ最大ニ、次第ニ組ミ入レテアルナリ。(三度入ノ條ヲ見ヨ) 海人藻芥(應永)中「一獻ハ、二度入、三度入、近代、間物、五度入、如ン斯、種種土器台三出來ニ」(古文) 親元日記、寛正二年六月廿五日、政所内評定記錄「以上、披露已後、三獻註「御盞、あいのもの、同、五度入」見聞雜記、文明十七年三月、久世ヲ評定始、酒、二獻、三度入、相のもの」運歩色葉集(天文)「間物、註、土器」御盃屋以下次第(後水尾院御作)「御飽、七十五度、淨メ、あひのかはらけ二入レ、二枚ニ盞ヲイタシ」

あひのやまぶし (名) 間山節 (間の山ハ、内宮ト外宮トノ間ノ岡ニテ、宇治岡ト云ヒシニ、天正年中、開キテ坦途トナリシカド、地名トシテ存セリ) 伊勢國、古市ノ間山ノ地ノ路傍ニテ、お杉、お玉ト云フ女、鼓弓ニ合セテ謠ヒテ、錢ヲ乞ヒシ小唄ノ名。後ニ、間山ニテハ、廢レテ、他ノ淨瑠璃節、其外ノ俗曲ノ中ノ一節ニ加ヘラレ、あひのやまトテ存セリ。好色一代女(貞享、西鶴)六「伊勢ノ古市、云云、間の山節、アサマシヤ、往來ノ人ニ、名ヲ流ス、トイヅレガ唄フモ、同音ニシテヲカシ」伊勢參宮名所圖會(寛政)四、間の山「今モ、淨瑠璃等ニ加ヘ語ル物ニ、間の山ト云フ音節ハ、元、此所ヨリ出デタルモノナリ、故ニ、今ニ、ささらヲスリ、三味線彈ク事ハ殘リタレドモ、其歌ハ失セテ、何ヲ唄フトモ辨ヘガタシ」

あひのり (名) 相乘 (一)次條ノ語ノ名詞形。(二)一ツノ乘物ニ、二人、乘合フコト。同車。(同乘ノ車)

あひのる・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 相乘 相乘ヲス。源、九、葵三十「人トあひのりテ、簾ヲダニ、揚ゲタマハヌヲ、心ヤマシウ思フ人、多カリ」(紫上ト源氏君ト同車)

あひばさみ (名) 相挾 數人シテ、箸ニテ、肴ナドヲ挾ミ合フコト。火葬場ノ骨あげハ、相挾ニスル習慣アレバ、人、コレヲ嫌フ。俚言集覽ニ「相挾ハ忌ヌモノ」ト云フ諺見ユ。

あひはん (名) 合判 割符ノ用ニ捺ス印判。合印。

あひばん (名) 相番 (同番組ノ仲間ノ義ナルベシ) (一)同職。同役。大舘常興日記、天文九年七月七日「二番衆以二申狀一言上、相番中島千世、知行分、七郷間野畠事、云云」[illegible]天保八年正月二日「[illegible]中番頭、相番、與頭、年始[illegible]」(古事類苑) (二)當番ノ相手。[illegible](正續、近松作)三「今日ガ、當ロト相番ノ當日」

あひび (名) 間日 前後ニ事アル、其間ノ日。間日。瘧ノ熱ノ醒ムル日ナドニモ云フ。

あひび (名) 合火 他ノ物ヲ煮炊シタル同ジ火ニテ、煮合スルコト。同火。齋戒ノ別火、別火ニ對シテ、穢レアリトスルナリ。俊調宗、あひび「合火ノ義、同火也、同ジク炊爨スル火ヲ食スル也」

あひびき (名) 相引 (一)互ニ引クコト。(二)俳優ノ鬘ノ左右ニツクル紐、後頭部ニ引キ結ブ、[illegible]セ[illegible]ナリ。(三)あひびきハ[illegible]ヲ見ヨ。

あひびき (名) 相引 ([illegible]取キニ、左右共ニ、引キ[illegible]) 袴ノ左右兩脇ノ下部ノ、前後ヲ縫合セタル所ノ上部ノ名。ココヲツマミアゲテ、袴ノ立ヲ取ル。[illegible](貞享、西鶴作)中「[illegible]ノ相引、シッカト取リ」

あひびき (名) 相引 合引 芝居ノ道具ニテ、演技中、俳優ノカクル腰掛。桐製ノ方形ナル小箱ニテ、上ニ小蒲團ヲ結ヒツク。上使ナドノ腰カクルハ、高ク造ル、高相引ト云フ。

あひびき (名) 相退 (戰ニ進ムヲ驅クト云ヒ、退クヲ引クト云フ) 軍陣ニ、敵、身方、雙方共ニ退クコト。交綏。太平記、三十一、[illegible]、千葉介、宇都宮、小山、佐竹ノ勢、[illegible]入亂レ入亂レ戰フニ、信濃勢、二百餘騎討タレケレバ、寄手モ、三百餘騎討タレテ、相引ニ、左右ヘ引ク」

あひびき (名) 相曳 二人、内外、兩ニ語ラヒテ、事ヲタクラムコト。アヒヅリ。男女ノ密會ナドニモ云フ。

あひびきのを (名) 相引緒 (胴ト高紐ト、相引懸ケオク) 鎧ノ胴ノ脇板ノ上部、左右ニツケタル、緒ヲ成セル紐。總角ノ上ニツキタル高紐ニ引懸ケテ、胴ヲ吊ル[illegible]セナリ。略シテ、アヒビキ。

あひびろのうまば (名) 相廣馬場 縱横、同ジ廣サノ馬場。馬術練習ノ為メニ、設ケタルモノナリ。[illegible]

年(壽永元年)六月七日「武衞(源頼朝)令ᵣ打ₓ筏馬跡與ₓ的下ₓ給之處、其中間爲ₓ八杖ₓ也、仍積ₓ此杖數ₓ可ᵣ定ₓ相應之馬場ₓ之由、被ₓ仰出ₓ」武器考證、十二「竪モ横モ同ジ廣サナル故ニ、相應ト云フ、是レハ馬藝ヲ習練スルニ宜シキ故也」安多武久路(近藤壽俊)「鎌倉殿ノ御時、馬藝稽古スベキニハ、相應の馬場トテ、四方、同ジ程ノ廣サニスベキ事ニ定メラレ、云云、享保ノ比、相應の馬場ヲ、御植溜ノ東ニ置カセタマヒテ、諸士ノ、馬藝稽古ノ場所トセサセタマフ」(德川將軍吉宗ノ時ナリ、植溜ハ、江戶城內、吹上ノ地ニアリキ)

あひ-ぶぎやう (名) |相奉行|合奉行| 本奉行ノ條ヲ見ヨ。

あひ-ふだ (名) |合札| 割符ニ用キル札。符契

あひ-べら (名) |合箆| 〔箆ヲ用キテ、標ヲツク〕裁縫ノ語。布帛ヲ縫合スル時、先ヅ、合ハスベキ兩ノ箇所ニ、標ヲツクルコト。

あひ-ぼう (名) |相棒| (一)駕籠ノ棒ヲ舁ク、先肩ト後肩トノ伴。相肩。一方ナルヲ、片棒ト云フ。「片棒ヲカツグ」(二)俗ニ、共ニ事ヲ謀ㇽ人。

あひ-ぼれ (名) |相惚| 男、女、互ニ思合フコト。相思

あひ-ま (名) |閒| 〔閒ト閒トノ合語〕アヒダ。アヒ。スキ。イトマ。「仕事ノあひま」

あひ-ま (名) |間馬| あひおま(間駒)ヲ見ヨ。

あひ-ま・く ク・ク・ケ・カ・キ・ケ(自動、四) |相纏| 〔纏くノ條ヲ見ヨ〕共寐ヲス。相寐ル。萬葉集、七₌₂₂₂₌「枕、(卷くノ枕詞)相卷きシ兒モ、アラバコソ、夜ノ深クラクモ、吾ガ惜シミセメ」(妻モアラバ、夜ノ深クナリタレバ、夜ノ深クルヲモ惜シマズ)

あひ-まさ (名) |閒正| 〔奉書紙ト正目紙トノ閒ノモノノ意〕紙ノ一種。正目紙ヨリ、稍厚キモノ。

あひ-まひ (名) |合舞| 二人、連レテ舞フコト。謠曲、仲光「アハレヤ、ゲニ、我ガ子ノ幸壽ガアルナラバ、美女御前ト合舞セサセ、仲光、手拍子囃シ、只今ノ淚ヲ、感淚ト思ハバ、イカガハウレシカルベキ(多田滿仲、其男美女御前、其臣藤原仲光、其子幸壽)狂言記、相合袴「一人ノ袴ヲ、二人着テ、相舞舞フテゾ歸リケル」

あひ-み-たがひ-み (名) |相身互身| 人ノ不運ノ境遇ナドニ、其事情ヲ思ヒヤリテ、互ニ、助ケ、又、助ケラルルコト。同情 相援 「武士ハ、あひみたがひみノ事、御助ケ申ス」

あひ-むこ (名) |相壻| 妻ノ姉妹ノ夫。娅友壻 倭名抄、二₂₉「兩壻相謂爲ᵣ娅、阿比無古」落窪物語、一、下「イト淸ゲナルあひむこ、取リタマフテケルカナ」

あひんべ-の-まつり (名) |相嘗祭| あひにへのまつりヲ見ヨ。

あひ-もち (名) |相持| (一)互ニ持合フコト。モチアヒ。共有。(二)優劣、勝負ナキコト。モチ。アヒコ。

あひ-もの (名) |相物| 〔碩鼠漫筆(黑川春村)二「あひものトハ、鹽物類ニテ、鮮魚ト干魚トノ間物ノ義ナルベシ」あへものト云フハ、音轉ナリ、(あへあらふ、あひあらふ)あひのもの、參見スベシ〕古ク、鹽魚類ノ總名。又、あいもの。あへもの。(次條ヲモ見ヨ)今、いさば、いさばもの。 嬉遊笑覽(享和、明宮仲宣)四「相物ト云フハ、鹽魚ノ總名ナリ、小あひ雜喉ト云フモ、小相物ト云フヲ略シテ、小相ト云ヘリ」太平記、七、先帝船上臨幸事「船頭、云云、主上ト忠顯朝臣トヲ、船底ニヤドシマヰラセテ、其上ニ、あひ物トテ、乾キタル魚ノ、入レタル俵ヲ取積デ、水手、梶取、其上ニ立並ビテ、櫓ヲゾ押シタリケル」(元弘三年、後醍醐天皇、隱岐ヨリ、伯耆ノ船上ヘ潛幸ナリ) 康富記、文安六年三月「ひうをヲ賣リ候者ヲ、あい物ト申ス」俚言集覽、あひ物「如今、いさば物ト云フ」越後ニテ「五十集」佐渡ニテ「四十物商」(乾魚商)

あひもの-ざ (名) |相物座| 「前條、幷ニ、座ノ條ヲ見ヨ」相物、卽チ、鹽魚ヲ賣ル問屋ノ古稱。 庭訓往來抄、下「相物座、魚鹽ヲ賣ル座也」(七座ノ條ヲ見ヨ)

あひ-やく (名) |相役| 同役ニ同ジ。同僚

あひ-やけ (名) |相舅| 〔相宅ノ義、閒柄ノ家ノ意カト云フ〕壻ノ親ト、婦ノ親トノ閒柄ヲ、互ニ呼ブ語。兄弟ノ家、又ハ、本家、分家ノ閒ヲモ、あひやけト云フトゾ。 釋親考(元祿、伊藤長胤)「婦之父母、壻之父母、相謂爲ₓ婚姻ₓ」倭訓栞、あひやけ「婚姻ヲ云フ、妻父曰ᵣ婚、壻父曰ᵣ姻ト云ヘリ、東鑑ニ、相舅ト書ケリ、親家トモ云ヘリ、やけハ、宅ノ義ニヤ」

あひ-やど (名) |相宿| 一ツ旅舍ニ、共ニ宿ルコト。同宿 狂言記、宗論、法華僧、宿屋ニ入ル、僧「亭主、出家ノ相宿、イヤデゴザルゾ」

あひ-やどり (名) |相宿| 同ジ家ニ、共ニ住ムコト。アヒズミ。同居。同棲 後撰集、十八、雜、四「我ガ宿ニ、あひやどりシテ、住ム蛙、夜ニナレバヤ、物ハカナシキ」續政集、上「秋ノ野ノ、尾花刈リ葺ク、庵ニハ、月バカリコソ、あひやどりスレ」

あひ-よめ (名) |相婦| 兄弟ノ妻。倭名抄、二₂₉「兄弟之妻相呼爲ₓ娌ₓ、阿比與女」倭訓栞、あひやけ「あひよめハ娌娌也、爾雅也ト注セリ」

ア-ビ-ラ-ウン-ケン (名) |阿鼻羅吽欠| 〔梵語(A-vi ra hum khaṃ.)具ニハ、唵阿鼻羅吽欠莎婆訶ト云フ〕五箇ノ種子ヲ集メタルモノ。五字明トモ云ヒ、眞言宗ニテ、五字ニテ、一陀羅尼ヲ成スヲ以テ、五字陀羅尼トモ云フ、胎藏界ノ大日ノ呪トス、此一呪ニ、一切ノ諸法ヲ含ミ、コレヲ誦スレバ、一切ノ法、一トシテ成就セザルハ無シトス。 謠曲、禪師曾我、曾我兄弟ノ弟、久下禪師「是レマデナリト、長刀投ゲ捨テ、護摩ノ壇上ニ走リアガリ、御本尊ニ向ヒテ、あびらうんけん二貫カレ、(不動ノ利劍ニカケタリ)禪盤ノ上ヨリ落チ、云云」犬筑波集(永正)「手ヲ握リテハ、あびらうんけんかぎ蕨、ナマニエナルハ、五字メキテ」

あひる (名) |鶩| 〔本名、あひろノ轉、(惡し、わるし。かろがろ、かるがる)足廣ノ略、(足音、あおと)足ノ蹼、大キクシテ廣キヲ云フ、京畿ニテ、ひるト云フハ、上略ナリ、(蛭ヲ、吸ひるト言別ツ)東京ニテ、あひト云フハ、下略ナリ〕(一)又、あひろ。家ニ畜フ水鳥。食用トス、脂多シ、形、鴨ニ似テ大キク、雄ハ、あをくびノ鴨ニ似テ、身ニ文采アリ、雌ハ、黃ナル斑アリテ、文采少シ、或ハ、黑、白、種種ナリ、雌ハ、常ニ鳴キテ喧シ、水ニ泛ビ、陸ニ歩シテ、翼アレドモ飛ブコト能ハズ、脚、極メテ短シ、自ラ卵ヲ抱カズ、人、鷄ヲシテカヘサシム。京都ニテ、ひる。東京ニテ、又、あひ。(あひがもノ條ヲ見ヨ) 多識篇(寬永)四「鶩、安比呂」和爾雅(元祿)六「鴨、阿比呂」本朝食鑑(元祿)五「鶩、阿比留」東雅(享保)十七「鴨、云云、あひろトハ、あハ足ナリ、ひろハ闊ナリ」重修本

[illegible](享和)三十二、アヒル、足ニ、[illegible]アリテ、[illegible]ノ[illegible]、[illegible]名。揚錢ノ少キヲ、緡ノ錢短シ、トテ、名トス。ト云フ[illegible]ニアツブ人、價ヲ惜シミテ、百文ノさしノ内ニテ、十六文バカリヲ殘シテ渡セシカバ、蝦夷ノ僕、コレヲ受ケテ、此お足ハ少シ短ウゴザリマス、ト云ヒシカバ、客人答ヘテ、何、あひるデハアルマイシ、ト云ヒシトゾ」

❖あ・びる・ビル・ビレ・ビ・ビ・ビヨ(他動、上二) [浴] [浴ぶノ口語] 湯、水ヲ、身ニカケル。「湯ヲあびテ、垢ヲコスル」

あひろ (名) [鵞] 前前條ノ(一)ヲ見ヨ。

あひ・わた・る・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) [會渡] 「わたるハ、かかりあふノ意」 會ふト云フニ同ジ。(男女ノ間ニ云フ) 後撰集、六、秋、中「女郎花、花ノ心ノ、徒ナレバ、秋ニノミコソ、あひわたりケレ」 大和物語、上「一人ノ妻ニテアリケル人ニ、忍ビテあひわたりケルヲ」

あふ (名) [阿父] 一[illegible]ノ、[illegible]ノ條ヲ見ヨ、康熙字典「俗稱ノ父曰ノ爺、母曰ノ娘」 父ト云フニ同ジ。父、[illegible]

あふ (名) [阿[illegible]] [illegible]、阿、比也、[illegible]。オモネリ、ツクコト。コビツクコト。ヘツラヒ。[illegible]

あ・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ(自動、四) [合] (一)[illegible]ソノ物事、一ツニ[illegible]ト、共ニナル。[illegible]ル音、笛ノ聲ナドノあひタルハ」 (二)[相、協]フ。適當[illegible]

[illegible]ストゾ云フ、此詞、何トハナケレド、物言フヤウ(與アリゲ)ニゾ聞エタル、人ノ程ニあはネバ、トガムルナリ」 (三)アタル。ハマル。勞力ノ[illegible]トナル。[illegible]ベシ。七十一番歌合(文安)三番、[illegible]「イツマデカ、[illegible]ニナル小刀ノ、あふベキコトノ、カナハサルラム」 後撰菜、あふハ[illegible]刀ナドヲ研グニ、あふトモ、あはすトモ云ヘリ」(合研ト云フアリ)

あ・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ(自動、四) [嫁] [合ふノ意、他動ニ、あはす、めあはすトナル」 (一)[illegible]結婚ス。[illegible] 下之政、治賜家利」 (二)マグハヒス。クナガヒス。クナグ。交合 古事記、上「伊邪那岐[illegible]」 竹取物語「此世ノ人ハ、男ハ女ニあひ、女ハ男ニあふコトヲス、其後ナム、門モ廣クナリヌル」 源、四十九、東屋「[illegible]あひてもあはぬ、ヤウナル心バヘニコソ」 [illegible]ハ、逢著シテ合交セザルノ義ナリ」 奥州後三年記、[illegible]シテ[illegible]ノ内ニテ、[illegible]女ニあひテケリ、乃チ、始メテ、女子一人ヲ生メリ」

あ・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ(自動、四) [會逢遇] [顔ノ合ふ意] (一)互ニ相見ル。面會ス。[illegible] 十二、[illegible]二「我ガ思ハ、行クヘモ知ラズ、ハテモナシ、あふヲカギリト、思フバカリゾ」 會ふは、わかれの始ト云フ諺ハ、必然ノ理ナルヲ云フ。[illegible]

[illegible]デクハス。値遇 遭遇 萬葉集、六[illegible]「御民吾、生ケル驗アリ、天地ノ、榮ユル時ニ、相ラク思ヘバ」「災難ニあふ」「憂目ニあふ」

あ・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ(自動、四) [鬪] [會ふノ意][illegible] 合ふヲ約メテ云フナリ、劍術ノ打合、仕合、合戰、會戰ノ合、會ナリ」 タタカフ。合戰ス。 萬葉集、一、十三山歌、長歌「香山ハ、畝火ヲ愛シト、耳梨ト、[illegible]坐之」(男山ノ畝火山ト耳梨山トガ、女山ノ香山ヲ戀ヒシテ、爭ヘリト云フ[illegible]) [illegible]ト云フ、一人當千ノ兵ナリ」[illegible] 大明宮「畢役ニ大器ハ(殿朝ノ別稱)會朝 清明」注「會朝、會戰之旦也」

あ・ふ・フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ(他動、下二) [合] [二段活用ノ合ふノ他動、交ふ、かふる] (一)合ハス。合シム。[illegible]ヨリ、[illegible]云云」 (二)打チ違フ。打チ交ハス。古事記、下[illegible]スマリ居テ」 (三)交フ。雜ズ。萬葉集、十九[illegible]テ」(初聲ヲ賞翫スルアマリニ、漸クハ云フナリ) 同、二十「母刀自モ、玉ニモガモヤ、頂キテ、髻ノ中ニ、[illegible]カマクモ」

あ・ふ・[illegible](他動、下二) [饗] [遇ふノ他動、待遇ノ意] アルジス。モテナス。饗應ス。 神代紀、上[illegible] 「[illegible]使人等於饗」

あ・ふ・フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ(他動、下二) [和] [前前條ノ(三)ナリ] 雜ゼ合ハス。和ス。[illegible] 安不」 今昔物語、三十一、三十二語「ソノツキカケタル物ヲ、[illegible]」

あ・ふ・フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ(自動、下二) [堪] [illegible] 身不[illegible]敢賜ニ」 萬葉集、十五[illegible]「秋去レバ、[illegible]」

あ・ふ・フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ(他動、下二) [敢] [説文「敢、進取也」[illegible]] [illegible] 敢、アヘテ」 源、二、帚木三「心ノ内ニ思フコトヲモ、隱シあへズナム、睦レ聞エタマヒケル」 同、三十一、[illegible]沃カケタマフホド、人ノヤヤ見あふるホドモナウ、[illegible] 舟ゼ「漸ウ損ムベキ人目モ、エ憚リあふマジクナム」[illegible] ツノホドニカ、得あへラレタリケム」

あぶ (名) [虻] [あハ、發語、ぶハ、羽音ナリ、蚊、蚊ナドノ羽音スルニ、ふめ[illegible]ト云フ] 動詞アリ、萬葉集ニ、蜂ノ二

字ヲ、ぶノ音ニ用ヰタリ。(いぶせしノ條ヲ見ヨ)今、常ニ、ぶんぶんト云フ、備後國ニテ、花蝱ヲ、ぶいぶいト云フ、あむハ、あぶト音通ナリ(浮ぶ、うかむ。否ぶ、いなむ)〔一〕昆蟲ノ名。古名、あむ。二翅類ノ、牛虻、花虻、青虻等ノ總名。種類多シ。牛虻ハ、古名、おほあぶ。形、黑蠅ノ如クニシテ、綠ヲ帶ビ、大キサ、夏蟬ノ如シ、嘴ニハ、利キ鬚アリ、牛馬ニ付キ、血ヲ吸ヒテ、害ヲナス。木蝱 花虻ハ、形、山蜂ノ如クニシテ、鬚ナク、刺ナク、色黃ニシテ、好ミテ花ヲ吸フ。黃蝱 青虻ハ、古名、たあぶ。花虻ヨリ小サクシテ、長サ六分許アリ、頭ハ綠ニシテ、利キ鬚アリ。蜚蝱 萬葉集、四年八月、長歌「手腓ニ、阿武搔キツキツ、ソノ阿武ヲ、蜻蛉早食ヒ」本草和名、下廿一「木蝱、蜚蝱、鹿蝱、古語布一」倭名抄、十九卅「蝱、蜚、人飛虫也、阿夫」重修本草綱目啓蒙、廿八「木蝱、オホウシアブ、黃蝱、ハナアブ、蜚蝱、コアブ、アヲアブ」

あ・ぶ・ブル・ブレ・ビ・ビ・ビヨ (他動、上二) 浴 〔浴むノ轉〕アム。自ラ身ニ注ギカク。(湯、水ナド)アビル。枕草子、二十四段、すさまじきもの「驗者キテあぶる湯ハ、腹ダタシクサヘコソオボユレ」

あふいん (名) 押印 印ノ形ニ、朱肉、黑肉ヲツケテ、物ニ押シツクルコト。

あぶか・しい (形) 危 あぶなっかしいヲ見ヨ。

あふぎ (名) 扇 〔あふぐ(扇)ノ名詞形、扇ノ字ハ、支那ニテハ、團扇ノ事ニテ、我ガ國ニテハ、專ラ、あふぎニ用ヰル、然ルニ、支那ニテ、扇子ヲ摺扇ト云ヒシガ、明朝ノ中世ヨリハ、單ニ、扇ト云フヤウニナレリ、サレバ、石川丈山ノ富士山ノ詩ニ「白扇倒懸東海天」トアルモ、明以後ノ世ノ作ナレバ、漢詩トシテモ、難ズマジキナリ、名物六帖(正德、伊藤東涯)五、扇「今所謂團扇也、摺扇爲扇、自明季甚晩、始于明之中葉」〕扇ギテ風ヲオコス具。夏日ニ、涼ヲ取ル用ナリ、扇ノモトハ、板ニテ作レル檜扇ナリ、後ニ、竹ト紙トニテ作ルモノ出來テ、かはほりあふぎ(蝙蝠扇)ト云フ、今、常ニ、あふぎトノミ云フハ、卽チ是レナリ、官人、束帶ノ時ハ、手ニ笏ヲ持ツ、直衣、衣冠、狩衣ノ時ハ、扇ヲ笏ニ代用ス、大抵、檜扇ハ冬ノ用トシ、扇ハ夏ノ用トシ、夏扇トモ云フ、民間ニモ、往時ハ、人ト初見ノ時、或ハ、歳首、又ハ、冠婚ノ禮ニハ、扇ヲ以テ、祝賀ノ要物トシタリ、末廣ト云フ佳名ニ因ルナリ、其形狀、製作、種種ナリ、あふぎがみ、あふぎぼねノ條ヲ見ヨ。別名、末廣。扇子。扇面。天治字鏡、十二廿一「扇、阿不木」倭名抄、六廿一「扇、以扇取風也、阿布岐」萬葉集、九廿二「夏冬行ケヤ、裘、扇放タヌ、山ニ住ム人」(仙境ノ人ハ、常住不變ニ、夏モ冬モ、經行ケバニヤ、裘(冬)モ扇(夏)モ放タズ) 續紀、廿四、天平寶字六年八月「御史大夫、文室淨三、以年老力衰、優詔、特聽宮中持扇策杖」(六月盛夏ノ時ナリ) あふぎハ、我ガ邦ノ創作物ナリ、支那ニ渡リテ、其國ニテ、大イニ行ハル。通雅(明方以智)三十三、器用「摺扇、起于東夷、今日云云、今世所用摺疊扇、亦名聚頭扇」(たたみあふぎト云フナリ) 扇を鳴らすハ、人ヲ呼ブニスルコトナリ、(手ヲ叩クニ同ジ) 多クハ、人ノ許ヘ行キテ、內ヘ知スルナリ。竹取物語「人人、云云、或ヲウタヒ、或ハ唱歌ヲシ、或ハ嘯ヲフキ、扇をならしナドスルニ」(竹取ノ翁ノ門外ニテ) 源、四十六、總角二十一「夜ノ戶口ニヨリテ、扇をならしタマヘバ」讃岐典侍日記(宰相ノ君、女房)ニ「扇打ちならしテ召ス」

あふぎ-あはせ (名) 扇合 〔鬪ハスルヲあはすト云フ、合すノ(二)ヲ見ヨ〕物合ノ一。左右ニ方ワキテ、互ニ、扇ヲ出ス、記シタル詩歌、書畫ノ優劣、其扇ノ製造ノ良否ナド、判者アリテ、甲乙ヲ定ム。花鳥餘情、十、繪合「扇合、貝合、草合ナド」、「昔、九條殿ニテ、サルベキ人人、七夕ニ、扇合ノ侍リケルニ、中務ト聞エ侍リシ女房ノ扇ニ、天ノ川、月書キ涼シキ、たなばたニ、扇ノ風ヲ、ナホヤ貸サマシ」云云、元輔ノ扇、云云、天ノ川、扇ノ風ニ、霧晴レテ、空澄ミワタル、鵲ノ橋」云云、アフギ二ツ、骨子ニ(?)メテ、云云、十訓抄、下、第十、六十八條「行成ハ、道風ガ跡ヲ繼ギテ、メデタキ能書ナリケリ、云云、殿上ニテ、扇合ト云フコトアリケルニ、人人、珠玉ヲ飾リ、金銀ヲミガキテ、我レ劣ラジト、イトナミアヘリケリ、彼ノ卿ハ、黑ク塗リタル細骨ノ、文高キニ、黃ナル紙貼リテ、樂府ノ要文ヲ、眞草ニ打チマゼテ、所所書キテ出サレタリケルヲ、召シテ御覽ジテ、是レコソ、イヅレニモ勝レタレトテ、御文机ニ置カレタリ」

あふぎ-うり (名) 扇賣 (一)扇子ヲ賣リアルキシ者。七十一番歌合(文安)十三番、あふぎうり、詞「あふぎハ候、皆、一本扇ニテ候「骨コハキ、扇ノ紙ノ、薄ソクヒ、思ヒモツカヌ、人ニ戀ヒツツ」(二)江戶時代ニハ、扇ノ地紙形ノ箱ヲ、イクツモ重ネテ、其中ニ地紙ヲ入レ、肩ゲテ、あふぎあふぎ、ト市中ヲ呼ビ歩キシ者。招カルレバ、卽席ニ、地紙ヲ折リ、骨ニ糊シテ作レリ、其姿ハ、染浴衣、白脚絆ニテ、編笠ヲカブル、正德年中、盛ンニシテ、寬政中、止ム。

あふぎ-おとし (名) 扇落 投扇興ニ同ジ。

ナフギナド。

あふぎ-かけ (名) 扇懸 古クハ、床間ノ壁ノ中釘ニ、書畫ノ扇ヲヒロゲテ、懸ケタルモノノ如シ。又、細長キ板ノ中央ニ、折釘ヲ打チオキテ、壁ナドニ懸ケテ、其板ヲ、又、床間ノ壁ノ中央ニ懸ケシモアリ。甲陽軍鑑、十九、下、品第廿七、「板ノ扇懸ニ、云云、床ノ間ノ中央ニ、扇書キタル扇ヲかけニオキタルヲ見テ、云云、扇形懸ノアソバシテ下サルル、云云」(武田信玄ノ歌ヲ書キタルナリ、押板トハ、板張ノ床間ノコト) 嗚呼笑草(文化、田宮仲宣)二「扇懸トテ、紫ノ組緒ニテ、蝶形ニシ、總角結ノ總ヲカケタルモノハ、陽明家ノ御好ミトカヤ、陽明ヘ參リ侍ル、某氏ノ家ニ懸ケクレバ、甚ダ風流ナルモノナリ」(陽明家トハ、近衞家ノコトナリ)

あふぎ-がた (名) 扇形 扇ノ地紙ノ如ク、本窄ク、末ノ、左右ニヒロガリタル形。アフギナリ。

あふぎ-がひ (名) 扇貝 〔殼ノ形、扇ヲヒロゲタルガ如シ〕(一)車渠ノ一名。(二)又、ほたてがひノ一名。

あふぎ-がみ (名) 扇紙 扇ニ貼ル紙。扇の地紙トモ云フ、大キサハ、あふぎぼねノ條ヲ見ヨ。扇ヲ開ケバ、末廣クナルニ因リテ、半圓形トナル、(一)扇形ト云フ、是レナリ、紙ハ、白キヲ初トシテ、種種ナル色ニ染メタルアリ、コレニ、書畫ナドヲカク。千載集、十六、雜、上「三條女御(琮子)遁世ノ後、あふぎがみニ、月出シテ、ツカハシ侍ル、トテ添ヘテ侍リケル(歌)」山槐記、應保元年九月七日「藏人宗保、持二來塗骨十骨、扇紙十枚一與レ予」裝束集成、三、夏扇「高倉家傳云、末廣、中啓ニテモ、夏ノ分ハ、地紙ノアルハ、皆、夏ノ扇子ト云フ」(古事類苑) 本朝畫史、四、扇面畫法「白紙扇不レ用二繪

[illegible]タルナリ。

あふぎきり (名) 扇切 居合抜ノ一技。刀ノ柄頭ニ、扇ヲ立テテ、素早ク、刀ヲ抜キテ、扇ノ、地ニ落チヌ間ニ、其扇ヲ切ルナリ。甲陽軍鑑ノ十四、品第四十、下ニ、扇切ノ事見ユレド、古クハ、後ノト、趣、異ナルガ如シ、詳ナラズ。

あふぎぐるま (名) 扇車 扇ヲ、三本ヒロゲテ、要ノ所ヲ集メテ、円形ニ結ビツケタルモノ。上棟式ナドノ時、大串ノ端ニツケテ、棟ノ上ニ立ツ。

あふぎだな (名) 扇店 扇子ヲ売ル商店。アフギヤ。

あふぎだな (名) 扇棚 扇ノ地紙形ニ作レル棚。床脇ナドニ設ク。

あふぎだるき (名) 扇垂木 「形、開キタル扇ノ骨ノ如シ」垂木ヲ並ブルニ、本ヲ集メ、末ヲ次第ニ開カセタルモノ。神社ノ軒ノ角ナドニ作ル。 匠家矩術要解「扇垂木ノ割リ、曲尺ノ術ニ究理シ、時ニ臨ミ考ヘ、巧者シテ、曲割ヲイタスベシ」

あふぎづかひ (名) 扇遣 扇ヲ、手ニテ動カスコト。夏時、涼気ヲ身ニ入ルルナドニ云フ。 好色一代女(貞享、西鶴)「一あふぎづかひシテ、袖口ヨリ風ヲ入レ」

あふぎづくし (名) 扇尽 「づくしノ條ヲ見ヨ」種種ナル扇面ヲ並ベ写シタル象、織模様、染模様ナドニス。

✣あふぎてんがう (名) 扇戯 「てんがうノ條ヲ見ヨ」扇ヲ以テスル戯レ。（関西ノ語）[illegible]「扇てんがう、枕すまふ」（枕相撲ト並ベテアレバ、[illegible]）

あふぎながし (名) 扇流 (一)往時、山城国ノ大井川ニテ、貴人ノ遊ビシ時、金銀箔ノ扇ヲ、水ニ流シテ、興ジタルコト。江戸ニテモ、隅田川ニ流シタル者アリキ。 [illegible] 甲子夜話、三「天祥寺雄峯和尚ノ、吾ガ松英君ノ御話トテ、語リシハ、若キ頃、中秋月夜ノ時、隅田川ノ上流ニ舟ヲ浮メ、金銀ノ扇ヲ数十、流水ニ投ジテ、月光ノ映ジテ、流レ行クヲ賞賞シタリト云フ」(松英トハ、松浦氏五世、肥前守篤信ナリ) 便面記「武蔵ニ、扇流モキアタリノ、三段ニテ、西吉ガ扇流しモ、昔昔ノ咄トナリヌ」(享保、洞房語園) (二)絵ニカキタルモノ、織模様、染模様ナドニ、水ノ形ノ上ニ、扇形ヲ散ラシタルヲ、総モ云フ。 安斎随筆、後編、十四、扇流ノ絵ノ[illegible]京都将軍ノ何レノ時カ、嵯峨、天龍寺御成ノ時、小童ノ持テル扇子、風ニ取ラレテ、渡月橋ヨリ、大井川ヘ流レシヲ、面白シトテ、供奉ノ人人、扇ヲ流セシ也、其後、五山ノ寺寺、又、御成ノ時、屏風ニ絵ガキテ立テシ也、夫ヨリ儀式ノヤウニナリテ、御成ノ時ニハ、必ズ、扇流しノ屏風ヲ立テラレタリ、古キ屏風ニ、今モ、扇流しアルハ、是也」[illegible]、あふぎ、扇流しハ、[illegible]」同、あふぎあはせ「[illegible]源氏絵ニ云ヘリ」[illegible]源氏ノ扇流ナリト云ヘリ」

あふぎなげ (名) 扇投 とうせんきょう(投扇興)ヲ見ヨ。

あふぎなり (名) 扇形 あふぎがたニ同ジ。

あふぎのが (名) 扇賀 がのいはひ(賀祝)ヲ見ヨ。

あふぎのしば (名) 扇芝 扇ノ地紙ノ形ニナリテアル、芝生ノ地。山城国、宇治、平等院境内、釣殿観音堂ノ傍ニアリ、源三位頼政ノ自刃シタル所ト云ヒ伝フ。[illegible]あふぎの芝ハ、宇治ノ平等院ニアリ、[illegible]当ナリ」

あふぎのしま (名) 扇島 長崎港ノ、出島ノ異称。寛永中、海岸ノ浅瀬ヲ築立テテ、阿蘭陀人ノ居館トセシ地ナリ、島ノ形、扇ノ地紙ノ如シ。 寛永十八年ノ[illegible]ナクシテ、阿蘭陀人、出島ヨリ外ヘ出ル事」[illegible]高燈籠(弘化)一、[illegible]「夕日サス、あふぎのしまノ、楼ハ、ヨソメニサヘモ、マバユカリケリ」

あふぎのはい (名) 扇拝 「拝ハ、拝受ノ義カ、拝舞ノ義カ」孟夏の旬ニ、王卿ニ、扇ヲ賜フコト。 公事根源、四月、孟夏の旬「[illegible]二献ノ後、内侍、扇ヲ入レタル[illegible]ヲ持チテ、[illegible]風ノ南ノ端ニ置キタルヲ、出居ノ次将、取リテ、王卿ノ座ノ前ニ着キテ、扇ヲ持チ賜フナリ、扇の拝トテ、イト興アル事ニコソ」 日次紀事(延宝)七、七月七日「[illegible]扇子[illegible]、及、女中ニ」

あふぎのまと (名) 扇的 開キタル扇ヲ、杙ノ頭ニ挟ミ立テテ、的トシタルモノ。 [illegible]四十二、[illegible]皆紅ノ扇ニ、日ヲ出シタルヲ、[illegible]ニ挟テ、[illegible]頭ニケテ、コレヲ射ヨトテ、[illegible]ソ射キタル」

あふぎばこ (名) 扇箱 扇ヲ入ルルニ用キル、細長キ、桐、杉製ノ箱。江戸時代ニハ、コレヲ足付ノ臺ニ載セテ、祝儀ノ贈物ニ用キタリ。センスバコ。[illegible]年始ノ年玉ニ、多ク受ケテ、積ムニ至ル、コレヲ買受クルヲ業トスル者アリテ、市中ヲ、はらひあふぎばこト呼ビアルキタリキ。[illegible]

あふぎびき (名) 扇引 (一)古キ遊戯ノ名。人人集リテ、種種ノ扇ノ中ヨリ、一本ヅツ引キ当テテ、賭ヲスルコトナラシ。[illegible]ト御セラレシカバ、引キシニ、其シト見シヲ、エ引[illegible]安六年八月四日「[illegible]有二扇引之興二」 (二)江戸時代ノ遊戯。扇ヲ、拇指ト食指トニ挟ミテ、引キ合フコトナラムカ。 佐夜中山集(寛文)「扇引ヤ、紙ノカノ、アラムホド」好色一代男(天和、西鶴)五「[illegible]」[illegible]ニ云フハ、甲ノ人、扇ヲ掌ニ載セテ出ス、乙ノ人、其柄ヲ提リテ掌ヲ打ツ、甲ハ、打タレジト、素早ク手ヲ引ク、乙、打チアヤマレバ、甲ニ代リテ、扇ヲ掌ニ載セテ出シ、甲ガ打ツナリ。(日本百科大辞典)

あふぎびやうし (名) 扇拍子 (一)扇ニテ、掌ナド打鳴シテ、謡ノ拍子ヲトルコト。笏拍子ノ代用ナルベシ。 宇津保物語、[illegible]立チタマヘバ」[illegible]六、[illegible]「大宮右[illegible]リカカリテ、扇ヲ拍子ニ打テ、麗人ノ曲ヲ、数反謡ハレケルニ」 桐火桶(藤原定家作ト云フ)「雲ノ上人、両三人打出デテ、あふぎびやうしヲ、一ツ二ツ打チスサビテ、高カラヌホドニ、歌打チ吟ジタルオモカゲ」 (二)幸若ノ音曲ニハ、楽器ヲ用キズ、扇拍子ノミニテ謡フ、其打方ニ、運連、[illegible]アリテ、拍子フトレリト云フ、其音曲ノ、[illegible]時代ハ、扇拍子ノミナリキ、仙臺浄瑠璃ナドモ、初

ハ然リキ、一中節ノ稽古本全部ヲ、糊羽二重扇子ト云フ」嬉遊笑覧(大宴會喜二喜古ノ書、云云、扇トハ云ヘド、持チテ舞フコトハナクテ、タダ、前ニ手コ持チ、扇子ヲ取ルノミナリ」貞丈雑記、二、人品「幸若ト云フハ、音曲ヲスル者也、扇びやうしヲ取リテ、古ノ軍物語ナドヲ謡フ者也」

あふぎ-ぼね（名）【扇骨】扇ノ心トスル竹。扇ノ大キサハ、古今ニ因リ、大小ノ種類ニ因リテ異ナリ、今、普通、男子用ノモノハ、開キテ、右ノ尖端ヨリ、左ノ尖端マデ、一尺五寸、丈九寸、骨ハ、親骨ト共ニ、十一本、扇紙ノ丈ハ、五寸ナリ、骨ハ、竹ニテ、細ソク扁ク作ル、左右ノ兩端ナルハ、稍、太シ、卽チ、親骨ナリ、十一本ノ骨ヲ、要ニテ、一所ニ貫キ止メテ、末ヲ開キテ、一圓ニ、糊ニテ扇紙ヲ貼ル、紙ハ、表裏二枚合セ、骨ハ、其表裏ノ間ニ挾リ入ル、サレド、紙ノ丈短キガ故ニ、骨ノ下部四寸バカリハ、現レテアリ、骨ノアル所毎ニ紙ヲ折リオキテ、疊ムベクス、骨ヲ色漆ナドニテ塗レルヲ、ぬりぼねト云フ。(あふぎ、並ニ、あふぎがみノ條ヲ見ヨ）扇橋 大鏡、序「黑柿ノ骨ノ九ツアルニ、黃ナル紙貼リタル扇」永久四年百首、扇「末廣ノ、ななつ骨ニテ、貼ル扇、ヤツレニケリナ、モトノ姿ニ」山槐記、應保元年九月七日「塗骨十骨」建武年間記、二條河原落首「ばさら扇ノ五骨」海人藻芥(應永)中「蝙蝠扇、檜扇、六儲、別當、大少將、延尉持之、十二橋、常人持之」雍州府志(天和)七、土產門、扇心、以竹造之、是謂骨、十本、或十二本、云云、古製扇、長一尺一寸、今、多一尺也、是謂尺扇」雅莚狂集(享保頃)二、夏、扇「水無月ノ、要ヲ要ト、疊ム骨、富士ヨリ上ノ、あふぎぼねヲリ」裝束集成、三、扇「或人云、今ノ扇ハ、骨ヲ、紙ノ中ヘ入ルル、是ハ、利休ノ作也、元來、骨ハ、紙ノ外ヘ出ス、故實也」

あふぎ-まち（名）【扇𥱋】「疊目ガ、括目ニ

窄リテ、末廣クナル、扇ヲ開キタル如シ」袋物ノ仕立ニ、括目ノ密ナラムガタメニ、襠ヲ加ヘ、襞ヲ作リ、折リタタミテ、縫ヘルモノ。文庫ナドノ袋ノ四隅ニ、襠ヲ加ヘズ、此ノ如ク作ルヲモ云フ

あふぎ-や（名）【扇屋】扇ヲ製シ、又、賣ル商家。アフギダナ。一話一言(大田南畝)一、烏丸亞相職人歌仙、右、扇屋「取リカハス、コナタカナタノ、年下モ、手下モユラニ、打扇カナ」

あふ-きゃく（名）【鴨脚】〔葉ノ形、鴨ノ蹼ノ如シ〕銀杏ノ木ノ漢名。京都ノ加茂神社ノ神人ニ、鴨脚氏ノ人アリ。黃山谷詩「霜林收二鴨脚一」

あふぎや-ぞめ（名）【扇屋染】〔染屋ノ名ニ起レルカ〕染模樣ノ名。延享ノ頃、流行ス、方、圓、種種ナル形ヲ出シ、其中ニ、花鳥、唐草ナドヲ、色染ニシタルモノ。賤のをだ巻(享和)「翁(作者)ガ竹馬ノ頃ハ、扇屋染トテ、圓ク、四角、圓扇、六角、菱ナドニ、形ヲ交ヘ、其中ニ、花鳥、唐草ノ類ヲ、色入ニシテ、サマザマ美シク染メタリ、子供ノ着ベキモノニテ、專ラ用ヒタリ、多分、絹ナリケリ、云云、今ノ、板ぢめノ類ナリ」

あふぎ-ゆゆし（句）【扇忌】〔忌しヲ、ゆゆしト云フ、其條ヲ見ヨ〕男女ノ間ニ、扇ヲ取交スヲ忌ムト云フ意ノ語。支那ノ班婕妤ノ故事ニ因ル、あきのあふぎノ條ノ(二)ヲ見ヨ。袖中抄、十五、あふぎゆゆし「名ニシ負ハバ、頼ミヌベキヲ、ナゾモカク、あふぎゆゆしト、名ヅケソメケム」(六帖、五ニアル歌ナリ)顯昭云、昔ハ、扇ヲ人ニ取ラスルヲバ、忌ムコトニテアリケレバ、ゆゆしトハ詠ミソメタル事ナリ」後撰集、十三、戀、五、男ノ心、カハルケシキナリケレバ、タダナリケル時、此男ノ心ザセリケルあふぎニ、書キツケテ侍リケル「人ヲノミ、恨ムルヨリハ、心カラ、

コレいまザリシ、罪ト思ハム」大和物語、上「ゆゆしトテ、忌ムトモ今ハ、カヒモアラジ、憂キヲバこれニ、思寄セテム」(男ガ、久シク絶エタル女ニ、扇ヲ乞ヒ、女ヨリ送リ來シニ、書キタル歌ナリ)

あふぎ-をり（名）【扇折】〔地紙ヲ折るナリ、烏帽子折ナドモアリ〕扇ヲ作ルコト。又、其職人。人倫訓蒙圖彙(元祿)五、扇折「都ニ於テ、城殿折、是レ根本ナリ、云云、中頃ヨリ、五條ノ御影堂ノ僧、コレヲナス、女ノ業ナリ、扇、アマタノ手ニワタレリ、地紙師、繪師、骨師、要師、箱指等、外ニアリ」(みえいだうヲ見ヨ)

あふ・ぐ・グ・ゲ・ガ・ギ・ゲ（自動、四）【仰】〔上向くノ約轉カ、(腭モ、上牙ノ約ナラム)あふむくトモ云フ、其條ヲ見ヨ(あをぐト書ケルアルハ、あふぐヲ、發音ノママニ書ケルナリ)〕(一)上ヘ向ク。神代紀、下「擧目」君ガ御門ヲ、天ノゴト、仰而見ツツ」同、十八、三十四早天ノ長雨ニ嬰兒ノ、乳乞フガ如ク、天ツ水、(雨)安布藝テゾ待ツ」名義抄「俯仰、フシアフク」字類抄「仰、アフク」(二)尊ビ慕フ。ウヤマフ。(をヂ受ケテモ、自動ナリ)古事記、下(雄略)「三十「赤猪子仰二待天皇之命一、既經二八十歲一」古今集、序「大空ノ月ヲ見ルガ如ク、古ヘヲあふぎテ、今ヲ戀ヒザラメカモ」續拾遺集、二十、神祇、後鳥羽院御製「朝夕ニ、あふぐ心ヲ、ナホ照ラセ、波モ靜ニ、宮川ノ月」「德ヲ仰ぐ」

あふ・ぐ・グ・ゲ・ガ・ギ・ゲ（他動、四）【仰】〔漢籍ヲ訓讀ノ訓點語ナリ、仰ノ字ヲ、あふぐト訓ムヨリ、字ノ意ノ異ナルヲ思ハズ、直チニ採リテ、讀ミツケタルナリ、サレバ、自動ノ語ガ、他動トナレリ、仰ᴸ毒ナド、仰ぎテ飮ム意ナルカ、サレド、ナホ、他動トナル、集韻「仰、恃也、俟也、資也」」(一)

恃ム。俟ツ。資ル。史記、平準書「衣食仰二給縣官一」(二)飮ム。漢書、遷傳「甚ᴸ于ᴸ仰ᴸ毒」

あふ・ぐ・グ・ゲ・ガ・ギ・ゲ（他動、四）【扇】〔あふハ、上合ふノ約ニモアルカ、(上之方、貴)其あふヲ活用セシム、(摘む、紡ぐ)あふつ(煽)ト通ズ、東晳、補亡詩「四時遷謝、八風代扇」〕扇子、團扇ナドヲ動カシテ、風ヲ出ス。名義抄「扇、アフグ」源、四十九、東屋「汗ニ押シヒタシテ、臥シタマヘリ、乳母、打チあふぎナドシテ」宇津保、藏開、上「ヤヲラ入リテ、火ヲあふぎ消チテ、障子口マデ寄リタマヘバ」

あぶく（名）【嘔】あわぶく(口沫)ヲ見ヨ。

あぶく-ぜに（名）【泡錢】〔終ニハ消ユル意カ、大學「貨悖而入者、亦悖而出」〕正道ニ因ラズシテ所得シタル金錢ヲ云フ語。終ニハ、消失スル運命ヲ含メテ云フ、惡錢身につかずノ意。

あふ-けち（名）【押纈】かふけち(甲纈)ノ通音。かうけち(夾纈)ヲ見ヨ。

あふ-お（名）【朸】〔倭訓栞、あふこ、朸「あふトおふト通フ例アリ、貧木ノ義ニヤ、今ノ俗、おぶト云ヘリ、山おぶ、旅おぶ」(織鴨、ありがも。於母、阿母)負子ナルベシ、子ハ、種種ナル語ニツキテ、物ト云フ意ヲ成ス語、(泥子、沙子、懸子、接尾語ノ、子ノ條ヲ見ヨ)あほぶト云フハ、音轉ナリ、(葵、あほひ。浮圖家、ほとけ)朸ハ、力木ノ合字、(山木、柚。尾木、梶。社木、杜)唐韻「朸、音力」說文「木理也」ニハアラズ、或ハ、楞ノ省字ナリト云フ說モアレド、類篇「楞、老人杖也」トアリ、あふおハ、壯丁ノ擔用ナリ、且、諸古書

ニ、背、枌トアリ」(一)二人シテ、物ヲ肩グルニ用キル棒。長持ノ荷棒ノ類ナリ。[illegible] 西宮記、四月、[illegible]「日華門外、左一枝、擔夫二人」[illegible] (二)一棒ノ兩端ニ物ヲ懸ケ、一人シテ肩ゲ荷フモノ。テンビンボウ。タゴノボウ。朸 播磨風土記、[illegible] 古今集、十九、[illegible]あふごナキ[illegible]コソ、ワビシカリケレ」金葉集、八、戀、下「伐リツムル、たけきをヲイカニ、セヨトテカ、君ニあふごノ、ヒトスヂモナキ」(以上、共ニ、會期ニカケタリ)三十二番歌合(文安二十二番、[illegible])[illegible]あふごノ竹モ、背負ノ、トリヤウ身コソ、世ニフシャウナレ」鶴源抄(永正ノ頃、舞樂ノ書)四「或人、時光ニ問テ云ク、[illegible]トト云フ[illegible]

あふご (名) 會期 期、其音、ご一出會フ時。面會ノヲリ。(多クハ、男女ノ會合ニ云フ) 亭子院有心無心歌合(延喜)「別レテノ、後ヤワビシキ、織女ノ、あふご遙ケキ、コトヲ思ヘバ」[illegible]テ「ホトトギス、一聲ニ明クル、夏ノ夜ノ、曉ガタヤ、あふごナルラム」[illegible]あふごナキ、[illegible]

あふご (名) 押伍 伍ハ、五人一組ノ事ナレド、軍ニテハ、押後兵ノ義トナル、同以[illegible]以伍文、[illegible]モノヲ、押伍ト云フ。

あふごへい (名) 押後兵 軍陣ノアトオサヘ。紀效新書「押後兵、二十五名、各用三長短[illegible]」

あふさきるさ (名) 往來 逢ふ時、來る時ノ義。接尾語ノ、時ノ語原ヲ見ヨ) 離合來往ノ意ナリ、きるハ、來るノ轉、(奥、おき。蹟、きびす)ゆくさくさト云フ、同意ノ語アリ、(二)ハ、一轉シテ、ともし、かくもするる意トナル、俗ニ、混亂スルコトヲ、やゝさもさト云フ、遣ろさ、もどすさノ急呼ニテ、意、相似タリ、左右ノ字ヲ充ツルハ、かもかくも(左右)ノ條ヲ見ヨ」(一)行キチガフコト。ユキカヒ。ユキアヒ。 [illegible]十八、[illegible]あふさきるさニ、月[illegible]ゾ冴エタル」 (二)斯モ思ヒ、然モ思フコト。トモシ、カクモスルコト。 古今集、十九、[illegible]ソヘニトテ、トスレバカカリ、斯スレバ、「トアリ)アナ言ヒ知ラズ、あふさきるさニ」 遠鏡、五ノ句「一方ガヨケレバ、一方ガワルイ」源、二、帚木「是ラハテ、惡シカルヘキ大事ドモナム、カタガタ多カル、トアレバ、カカリ、あふさきるさニテ」 嵯江入[illegible]サヤウニシテ[illegible]カラムト思ヘバ、違フ、又、カヤウニヤセムトスレバ、又、遠フコトアルナリ」 徒然草、第三段「親ノイサメ、世ノソシリヲツツムニ、心ノイトマナク、あふさきるさニ、思ヒ亂レ」文選、琴[illegible]あふさきるさ「文選」ニ、左右[illegible]、往來ヲヨメリ、又、[illegible]ヲヨムトモ云ヘリ、八雲御抄ニ、とするもかくするもノ義ナリト言ヘリ」

あぶさず (句) あぶす(放棄)ヲ見ヨ。

あぶさはず (句) あぶす(放棄)ヲ見ヨ。

あふさわみ (副) 相應 「あふさわハ、合樣ノ轉ナルカ、(曲ぐ、まぐ。纔間、いそま)[illegible]」[illegible]原ヲ併セ見ヨ一フサハシク[illegible] 萬葉集、八[illegible]ノ白珠、相左和仁、誰ノ人カモ、手ニ纏カム云フ」(露ヲ手玉ニセムハ、フサハシ) 同、十一[illegible]「山城ノ、久世ノ若子ガ、欲シト云フ、[illegible]ト云フ、山城ノ久世」(ノ若子)(久世郡、久世郷ノ壯士ナルヲ云フ)[illegible]「汝ヲゾ、頻ニ保師ト誰」ナドモアリ)

あふじ (名) 押字 書判ニ同ジ。其條、並ニ、くゎあふ(花押)ノ條ヲ見ヨ。

あふしう (名) 押收 差押ヘタル物件ヲ、官衙ニ收容スルコト。

あふじやう (名) 押狀 [illegible] (一)人ヲ壓シ威シテ、書カセタル證文。[illegible]「乙甲切」集韻「乙甲切」[illegible]於三家人人[illegible]良、已[illegible]二年、云云、[illegible]不可[illegible]三、新院脇島選御事「人ノ持テル物ヲ、心ノ外ニスカシ取リ、人ヲオドシテ、思フ樣ノ文ヲ書カセムト仕ルヲバ、乞[illegible]ト申シテ、[illegible]モ捨テサセタマフ事ニテ候フゾ」(二)轉ジテ、無理ニオシツケテ、承知セシムルコト。[illegible]あふじやうずくめ、むりあふじやう、人ヲ無理ニオシツケレヲ云フ、モト、[illegible]ヨリ出デタル詞ナリ」「コンナニ責メラレテハ、あふじやうダ」

あふじやううずくめ (名) 押狀攻 前條ノ(二)ヲ見ヨ。

あぶ・す・ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) 放棄 あぶる(放浪)ノ他動、(潰る、つぶす)此語、遂ビテ、あぶさふ(隱す、かくさふ)ト云ヒ、[illegible]語アリシナルベシ、ソレガ打消ニ「あぶさはズ」トナル」 遺ラス 遺シ餘ス。[illegible]、自動ニ、落ちあぶ[illegible]メタマフ、御心ナガサナリケレバ」[illegible]おこしあぶさず、ハフレサセズナリ」[illegible]方ノ人ヲモ、安[illegible]、惠ミタマヘバ」(天ハ、[illegible]

あぶ・す・スル・スレ・セ・セ・セヨ(他動、下二) 浴 〔浴ぶるノ擧動ヲ、他ニシカクルナリ、あむる、あむす、同ジ〕 他ニ注ギカケテ、アムス。アビセル。(湯、水ナドヲ) 字類抄「浴、アブス」 公事根源、四月、灌佛「[illegible]ソギテ、[illegible]

あぶずり (名) 野摺 あぶみずり(鐙摺)ヲ見ヨ。

あふせ (名) 逢瀬 〔瀬ノ條ヲ見ヨ〕 相逢フ時。面會ノ機。會期 [illegible]リトモ、必ズあふせアンナレバ、對面ハアリナム、大臣、宮ナドモ、云云、相見ルコトアリナムト、オボセ」

あふせきこう (名) [illegible]

あふそう (名) 押送 官衙ニ於ケル、囚人、又ハ、刑事被告人ノ傳送。

あふた (名) [illegible] あうだ([illegible])ヲ見ヨ。

アブダぢごく (名) 阿浮陀地獄 [illegible]語、正シクハ、頞浮陀[illegible]ト云フ、[illegible]傳說、八寒地獄ノ一、此地獄ニ墮ツル者ハ、[illegible]、身ニ[illegible]ト云フ、[illegible]十一

あぶ-たま (名) 油玉 〔あぶらげト、たまご〕料理ノ名。油揚豆腐ニ、熱湯ヲソソギ、油氣ヲ去リテ刻ミ、別ニ煮出汁ト醤油砂糖ニテ、鷄卵ヲ炒リツケタルモノヲ、豆腐ト共ニ鍋ニ入レ、煮切味醂、煮出汁、醤油ヲ加ヘテ煮テ成ル。

あふ-ち (名) 煽 〔次次條ノ語ノ名詞形〕風ノ、物ヲ煽ルコト。女殺油地獄(享保、近松作)下「ハタメク門ノ幟ノ音、あふちニ、賣場ノ火モ消エテ」

あふ-ち (名) 楝 〔仰藤ノ約(仰向く)ニテ、葉モ花モ、藤ニ似テ、花ハ仰グト云フ説アレド、似ザルガ如シ、又、梟首スル木ナレバ、逢血ナリナド云フ説ハ、取ルニ足ラズ、尚、考フベシ、樗、又、櫨ノ字ヲ用キル、倭訓栞、あふち「櫨ヲ訓ムハ、樗ヲ惡木ナリト注セルニ因レル倭字也」倭名抄、二十八「陸詞切韻云、樗、惡木也、沼天」梟首スルニ因リテ、惡木トスルカ〕(一)〔喬木ノ名。今、專ラ、せんだんの木ト云フ、高サ、數丈ニ及ブ、葉ノ形、ふんてんニ似テ、鋸齒アリ、光澤アリ、互生ス、夏、長キ穗ヲナシテ、五瓣ノ淡紫花、聚リ開ク、大キサ錢ノ如シ、雌樹ハ、四五分ノ、圓キ實ヲ垂レ結ブ、秋熟シテ黄ナリ、樹、成長シ易ク、材モ亦、用キルベシ。昔、京都ノ獄門ニアリシ此樹ニ、梟首スルヲ例トシタリ。字鏡四十八「樋、阿不知乃木」倭名抄、二十九「楝、阿布智」萬葉集、五六七「妻ヲ悲シメル歌「妹ガ見シ、阿布知ノ花ハ、散リヌベシ、我ガ泣ク涙、未ダ乾ナクニ」貞信公記、天慶三年五月十日「有下將門首□□市司可レ懸二外樹一之事仰上」水左記、康平六年二月十六日「俘囚貞任、重任、經清等首、云云、從二四條一西行、朱雀大路至レ于二西獄一八樗樹梟レ之」平家物語、三、義朝被レ梟首一事「左ノ獄門ノ、樗ノ木ニゾ懸ケタリケル」(二)襲ノ色目ノ名。表、うす色、裏、青色ナルモノ。又、表、紫、裏、薄紫ナルモノ。夏季ノ着用トシタリ。

あふ・つ・ッ・テ・タ・チ・テ (他動、四) 煽 〔自動ノ翻るノ他動、(はなる、はなつ。さぼる、さぼつ)あをつト書ケルハ誤レリ、發音ノママナラバ、あおつナルベシ(煽る、あおる)〕煽る(他動)ニ同ジ。吹キ動カス。本朝三國誌(享保、近松作)四「あをつ火燵ノ灰烟一倭訓栞、あふつ「扇ぎ搏つノ訓義ナルベシ、播字ヲ訓メリ、莊子ニ、播レ糠眯レ目ト見エタリ」

あぶ-つけ (名) 鐙附 〔あぶみつけノ中略、(文箱、ふばさ。孕女、はらめ)あぶみずり(鐙摺)ノ條ヲ見ヨ〕宿場ノ乘懸馬ノ左右ニ、小附トスル、小サキ荷。享保集成絲綸錄、廿二、正德三年九月「乘懸下、貫目之儀、下荷、貳拾貫、相極、云云、あぶつけ、輕尻之儀、五貫目ト相定有レ之ニ付、蒲團、跡付、中敷、小付等、乘掛下ニ准ジ、云云」(古事類苑) 活版倭訓栞、欄外、あぶみずり「馬荷ニあぶつけト云フモ、鐙付ノ意ニテ、乘人ノ鐙ノ料ニスル由也」(伴信友ノ說)

あふ-てい (名) 押丁 〔丁ハ、人夫ノ義〕行刑所ニアリテ、拘禁者ヲ押送スル、下級ノ役人。

あふ-とう (名) 鴨頭 〔青頸ノ鴨の頭ナリ〕(一)水ノ色ノ、綠ナルニ云フ語。李白詩「遙看漢水鴨頭綠、恰似二葡萄新醱醅一」陸游詩「一篙湖水鴨頭綠、千樹桃花人面紅」(二)料理ノ吸口。かうとう(香頭)ノ條ヲ見ヨ。

あふとう-さう (名) 鴨頭草 ツキクサ。

アブト-しき-てつだう (名) あぶと試鐵道 式 〔英語、Abt system railway. 創メテ此鐵道ヲ工夫シタルハ、亞米利加人ナリシガ、研究ノ結果、瑞西人ろおまん あぶと(Roman Abt.)氏ニ因リテ完成ヲ告グ、故ニ此ノ人ノ名ニ出ヅ〕汽車ノ、峻路ヲ上下スル爲ニ設クル鐵道。二條ノ軌鐵ノ中間ニ、別ニ齒ノアル一條ノ軌鐵ヲ敷キ、機關車ノ中央ニ裝置シタル齒車ト其ノ齒ト、食ヒ合ヒテ進行スルモノ。

あふ-とつ (名) 凹凸 〔唐韻「凹、烏洽切、凸、陀骨切」楊愼、丹鉛錄「土窪曰レ凹、土高曰レ凸」〕ナカビク、ナカダカ。タカビク。デクボク。又、凸凹。名畫記「張僧繇畫二一乘寺壁一、遠望如二凹凸一、名二凹凸花一、俗呼二其寺一曰二凹凸寺一」東方朔、神異經「大荒石湖、千里無二凸凹一、平滿無二高下一」寛永年中、石川丈山、洛東ノ一乘寺村ニ住ミ、凹凸窩ト號シ、其會客ノ詩ニ、凹凸晩春花ノ句アリ。

あぶな-あぶな (副詞句) 〔危しノ語根ヲ重ネタル語、宇治拾遺、十一、第六條「アナあぶなノ盲目ヤ」此語ノ假名、諸書ニ、おふな、おほな、ナドトモ見ユ、何レモ誤リナリ、(おうなおうなトモ云ヘリト)又、其意義ニ、種種ナ說アレド、皆、徹底セズ、語原ヲモ得ズ、今ハ、出典ニ擧ゲタル、伊勢物語闕疑抄ニ云ヘル、濁音說ニ從フ、あぶなく、あぶなく、おそる、おそる、ノ意ヲ元トス、曾我虎磨(寶永、近松作)中「讒言起ラムト、あぶあぶ、あぶあぶト、底ナキ船ニ乘ル心」(節文)ナド云ヘルモ、同ジキカ〕心ヲツケテ、出過ギズニ。又、分ヲ守リテ。身分相應ニ。伊勢物語、九十三段「あふなあふな、思ヒハスベシ、準ヘナク、(準ヘナク、齊シカラズ)貴キ卑シキ、苦シカリケリ」(卑シキ者ノ、貴キ女ヲ戀ヒシ歌ナリ)眞名本「隨分思者可レ爲」直解(三條西實隆)「元ハ、あぶなあぶな、ト濁リテ讀ムニヤ、當時ハ、あうなあうなト、讀切ル也」闕疑抄(細川幽齋)「天福ノ本(定家本)ニハ、あぶなあぶなト、聲ヲサセリ」(濁音符ヲ付セリ)新撰朗詠集、上、七夕詩「宮人懷レ私之願、似レ面不レ同、墨客乞レ巧之情、隨分懸レ異」(分ニ應ジテ) ささ枕「大キナル河ノ、張リ出デタルハ、コレゾ天龍(河)ナメリ、名サヘオソロシク、あぶなあぶな舟ニ乘ル」(雅言集覽)

あぶな-が・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 危 アブナクオモフ。アヤフクオモフ。アヤブム。增鏡、第二、新島守「院ノ御心ノ輕キコトト、あぶながりタマフ」(後鳥羽院ノ關東征討ノ事ヲ云フ)

あぶ-な・し・キ・ケレ・ク・ク (形、二) 危 〔あぶハ、危しノ語根ノ略カ、(清場、齋場。浪速、難波)なしハ、甚しノ義、(其條ヲ見ヨ)此語ニ、往往、浮雲ノ字ヲ充テタル、見ユ、富貴ハ浮雲ノ如シ、ノ意カ、浮雲ノ條ヲ見ヨ〕あやふしニ同ジ。アブナッカシイ。異本枕草子、はしたなきもの「人ノ上ナド打チ言ヒ、譏リナドモシタルニ、幼キ子ドモノ聞取リテ、コノ人ノアル前ニ、あぶなく言ヒ出デタル」奥州後三年軍記、上「義家、大ニ攻メラレテ、あぶなく侍ル由、承ル」建禮門院右京大夫集、上「内裏ニ、近キ火ノ事アリテ、スデニあぶなかりケレバ」著聞集、十五、宿執「存命モあぶなく見エケレバ」易林節用(慶長)「浮雲」

あふ-なつ (名) 押捺 〔韻會「捺、乃曷切、手重按也」〕印ヲオスコト。

あぶなっ-か・しい (形) 危 〔危濃しノ急呼轉ニテ、(さまかい、さまっさい。あぶらっさい)活用ヲ轉ジタル語ナルベシ、(いち

荒るき、いち荒るしき)あぶかしハ、中略ト思ハル(つばくらめ、つばめ。いかさまもの、いかもの)」アブナシ。アヤフシ。又、あぶかしい。「獨木橋ヲ渡ルハ、あぶなッかしい」(蜀山人)「あぶかしい、一筆ニ乘レル、細流ヲ見テ、寺ノ門リシ、無分別者」(やなぎのひとはフ見ヨ)」

❖あふぬ・く (動) [仰] あふむくヲ見ヨ。

❖あふのき (名) [仰] あふむくヲ見ヨ。

❖あふの・く (動) [仰] あふむくヲ見ヨ。

❖あふのけ (名) [仰] あふむくヲ見ヨ。

~あふはかりな・し・キ・ケレ・ク・ク (形、二) [無會期] はかりハ、程ノ意。二年ニはかり過ギテ)」逢フ時ナシ。後撰集、十四、戀、六「あふはかり、なくテノミ經ル、我ガ戀ヲ、人目ニかくる、コトノワビシサ」菅家萬葉集、上「かけツレバ、千々ノ黄金モ、數知リヌ、ナゾ我ガ戀ノ、あふはかりなき」後拾遺集、十八、雜、四「古ヘノ、千千ノ黄金ハ、限リアルヲ、あふはかりなき、君ガ玉章」(二三首、共ニ、秤ニ懸くト寄セタリ)

❖あぶはちとらず (句) [虻蜂不取] あぶもとらず、はちもとらず、ヲ約メタル語。二ツヲ併セテ取ラムトシテ、一ツヲモ取リ得ズト云フナリ。慾ヲ深クシテ、失敗シタルニ云フ、逐ニ二兎ニ不獲ニ一兎ニノ意、あぶはちとらず、鷹の餌食、ト云フ諺ハ、大骨折ッて、鷹の餌食、ト混ジテ云フナリ。

あふひ (名) [葵] あふハ、仰グノ語根、(仰向く)日ヲ仰ぐ意、あふひぐさト云フガ成語ナリ、(出典ニ二ツアリ)東雅(享保)十三「葵、あふひトハ、日ヲ仰グヲ云フナリ、說文ニ、黄葵、常傾ク葉向日ト云フ如シ、按ズルニ、此草、初メ、實ノ藥用ノタメニ、漢種ヲ求メタルニハアラジカ、爾雅、釋名ニモ「葵葉傾レ日」トアリ、サレバ、向日ノ、漢語ニ成レル語ナラムカトモ思ハル、倚、考フベシ、あほひト云フハ、普通ナリ(枋、あほひ、幀、かがほり)」(一)〔草ノ名。又、あふひぐさ。あほひ、日影草。葉、大キサ一二三寸、圓クシテ、五ノ稜ヲナシテ、尖ラズ、細鋸齒アリテ、互生ス、莖、直上スルコト三五尺、春、葉ノ間ニ、五瓣ノ花ヲ開ク、白クシテ、黄紫ヲ帶ブ、後ニ、細カキ子ヲ結ブ、藥用トス、春ヨリ冬ニ亙リテ、絕エズ、花アリ、故ニ、同種ノ他名ニ別チテ、冬葵トモ云フ。冬葵 又、大葵、小葵、錢葵、花葵、唐葵、露葵、寒葵、立葵等アリ、各條ニ注ス。字鏡五十「葵、阿保比」本草和名、下二十「冬葵子、阿布比乃美」倭名抄、十七「陶景注、秋種、葵、經冬、春生、子、謂之冬葵子、葵、阿布比(古ヘハ、冬葵ヲ蔬菜トモシタリ、箋注倭名抄ニ、葵ノ字ハ、あふひニ當ラズト說キテアリ)萬葉集、十六「梨棗、黍ニ粟嗣キ、延フ葛ノ、後モ逢ハムト、葵花咲ク」枕草子、三、三十四段、草の花は「からあふひハ、取リワキテ見エネド、日ノ影ニ從ヒテ傾クラムゾ、ナベテノ草木ノ心トモオボエデ、ヲカシキ」千載集、三、夏「あふひ草、照ル日ハ神ノ、心カハ、影サス方ニ、先ヅ靡クラム」雪玉集(三條西實隆)傾レ心向レ日葵「君ヲあふぐ、心ヲ聞ハバ、あふひ草、向フ日影ヲ、指シテ答ヘム」(二)〔二葉葵、賀茂葵ノ略。(三)德川氏ノ紋所。葵輔繪ヲ見ヨ。(四)襲ノ色目ノ名。表、薄青ニ、裏、薄紫ナルモノ。(胡曹抄)陰曆四月ニ着用ス。

あふび (名) [鰒] 〔あはびノ音便ナリ、(帚木、はうき。蝙蝠、かうもり)あうびト書クベキナリ〕 あはび(鰒)ニ同ジ。大草殿相傳の聞書、出陣御肴ニ御酌マハリ候ヘバ、打あふびノ前ノ二番目ヲ、御口ニ當テ、云云」

~あふひかつら (名) [葵桂] 諸葛葵、賀茂葵ト、桂トヲ組合セタルモノ。賀茂祭ノ時、祭ニ加ハル人人、皆、冠、烏帽子ニ插シテ、飾トシタリ、諸鬘トモ云ヘリ、其外、參加ノ牛車ノ簾等ニモ懸ケ、禁中ニテモ、諸所ニ懸ケラレタリ。コレニ因リテ、賀茂祭ヲ、葵祭トモ云フ、日次紀事(延寶)ニ「葵桂ヲ懸クレバ、夏天、雷靂ノ災ナシ」トアリ。[illegible]四月十四日「祭也、十五日、葵桂、各ニ折櫃[illegible]上御社二櫃、下御社二櫃、云云、諸ニ付[illegible]付南殿御帳ニ」枕草子、九、百十段、祭ノ歸ルサ、イミジウヲカシ、云云、立テアル車ドモ、挿かつらモ打チナエテ見ユ」吉記、治承五年四月十五日「賀茂、下、上、松尾社司、献レ葵桂一如レ例」歌林四季物語、(鴨長明)「烏帽子、冠、淨衣ノ袖マデモ、諸葛ノ草ノ、かつらノ枝ニ、もろかつらニカケテ、神ワザツカウマツル、あふひヲカクルハ、賀茂山靜原ヨリ奉レルコト、御夢ノ告也、又、かつらハ、松尾ヨリ奉レルコト、御夢ノ告也」康富記、應永三十三年四月廿日「賀茂社送ニ葵桂一」註「葵、挿ニ木居、副ニ桂入ニ折櫃ニ」

あふひぐさ (名) [葵草] (一)あふひ(葵)ノ(一)ヲ見ヨ。(二)賀茂葵ノ一名。ふたばあふひ(二葉葵)ノ條ヲ見ヨ。夫木抄、七、葵「あふひぐさ、今日カケソフル、玉カヅラ、長キ契モ、神ノマニマニ」

あふひつば (名) [葵鍔] 賀茂葵ノ葉四枚ヲ、四隅ニ刻リツケタル鍔。太刀ニ用ヰル。夫木抄、三十二、鞘「且ハ又、刺ス鞘口ニ、あふひつば、心アリケル、金作カナ」刀劍問答、あふひ鍔「葵ト云フ草ノ葉ヲ、四ツ寄セ合セタル形ニテ作、あふひハ、二葉の葵トモ、賀茂あふひトモ云フ草ナリ、葵鍔ハ、太刀ノ鍔ニ、多ク用ル也」[illegible]記、四、太刀(鉢巻)ノ事、鍔ハ、葵鍔ナリ、金覆輪アルベシ、[illegible]ナリ」

あふひどもゑ (名) [葵輔繪] 德川氏ノ紋、德川時代、單ニ、葵の御紋ト稱シテ、權威アリシモノナリキ、冬葵ノ葉三枚ノ尖頭ヲ、中央ニ集メテ巴ニ、三輪圍ノ如シ、輪郭ヲメグラス。丸に内向三葵トモ云フ。分家、庶流ニテハ、其形、ソレゾレ、少異アリ。壺廬(天野信景)廿九、葵の御紋「[illegible]ノ御嫡男義家ヲ、石淸水ノ御氏子トシ、八幡太郎ト稱ス、[illegible]云云、[illegible]」

あふひまつり (名) [葵祭] 〔此祭ニハ、物ニ、スベテ、あふひかつらヲ着ケタレバ、此名アリ、其條ヲ見ヨ〕 陰曆四月ノ、賀茂祭ノ一名。其條ヲ見ヨ。

あふびむすび (名) [鰒結] あふびハ、あはびノ音便ナリ、(葵ナドニハアラズ)あはびむすびヲ、あふびむすびトモ云フ。あはびむすび(鰒結)ノ條ヲ見ヨ。

あふぶん (名) [凹文] 陰文ニ同ジ。やうぶん(陽文)ノ條ヲ見ヨ。

あふへい (名) [押柄] 〔押柄ノ字ヲ音讀シタル語、其條ヲ見ヨ、押ノ強キ意ニ起ル〕 高ブリカマヘテ居ルコト。オホフウ。倨傲 尊大 [illegible]、いニ、慮外ナル奉公人」[illegible]

柄者、ヲヲヘイモノ」合類節用(元祿)四、人倫門「押柄者」

あふみ (名) 【淡海】〔淡海ノ約、倭名抄、五 四 近江、知加津阿不三」〕(一)〔淡水ノ海。アハウミ。ミヅウミ。萬葉集、九 廿三 筑波山ニ長歌「新治ノ、鳥羽ノ淡海モ、秋風ニ、白波立チヌ」(今、常陸國、眞壁郡ニアリ)「近ツ淡海」(近江國)「遠ツ淡海」(遠江國) (二)江戸ノ三味線工、石村氏、代代、近江ト稱シ、造リ出ス、就中、二代目ハ、一挺三味線、三挺三味線、ナド云フ名器ヲ造リ、自銘ヲツク、其筋ニテハ、二代目ノ造レルヲ、寶トセリ、コレヲ古近江ト云フ、(寛永ノ頃)五代目近江、始メテ燒印ヲ用キル、スベテ、胴ノ裏ニ刻ム綾杉ノ巧拙ニ因リテ、發音ノ佳否ヲ成スナリ、九代目モ名手ナリキ、(天明ノ頃)近江ト云フ語ハ、三味線ノ名器ノ稱ノ如クナレリ。(大田南畝ノ假名世說補、喜多村信節ノ嬉遊笑覽、六、上)

あぶみ (名) 【鐙】〔足蹈ノ略、(足搔、あがき。足結、あゆひ)障泥モ、足糲ノ略ナリ」〕馬具ノ名。鞍ノ兩脇ニ垂レ、乘ル人ノ兩足ヲ蹈ミカクルモノ。鐵製アリ、木製アリ、其形モ種種ナリ、輪鐙、壺鐙、舌長鐙、半舌鐙、朝鮮鐙、西洋鐙等、各條ニ註ス。天治字鏡、十二 廿九「鐙、阿不彌」倭名抄、十五 二「鐙、鞍兩邊承レ脚具也、阿布美」古事記、上 四十 八千矛神「片御足、蹈二入其御鐙一」

あふみ-あがた (名) 【淡海縣】〔淡海ハ、遠ツ淡海、卽チ、遠江國ヲ云フ、縣トハ、任國ノ意ナリ、縣ノ條ヲ見ヨ」〕遠江ノ國司、官人ノ、其任國ヲ指シテ云ヒシ稱。萬葉集、七 廿八 旋頭歌「靑角髮、依網ノ原ニ、人ニ逢ハムカモ、石走(枕)、淡海縣ノ、物語セム」(あをみづらノ條ヲ見ヨ、人に逢はむかもトハ、思フ人モガナ、逢ヘカシナリ、遠江國司ノ、任果テテ、上ル道ニテ、詠メルナルベシ)

あぶみ-いた (名) 【足蹈板】工事ノ足代ナドニ、板ヲ取附ケテ通路トスルモノ。

あふみ-おもて (名) 【近江表】疊表ノ、近江國、蒲生郡ノ邊ヨリ製出セラルルモノ。細藺ニテ作ル、備後表ヨリハ、粗ニシテ、劣ル。梵舜日記、慶長八年四月十六日「近江おもて、疊屋ニ、銀子十四匁七分相渡也」同、十年八月七日「豐國社、巫女屋、疊面替、三十疊、備後面、神供所、二十帖、近江おもて也」

あぶみ-がしら (名) 【鐙頭】〔舌長鐙ノ鳩胸ニ見立テテ云ヘルカ」〕人ノ頭ノ、生得ニテ、頂後ノ張出デタルモノ。サイヅチアタマ。宇治拾遺、十一、第一條「左京大夫ナル人オハシケリ、頭ノ、あぶみがしらナリケレバ、纓ハ、背中ニモ附カズ、離レテゾ振ラレケル」

あぶみ-かは (名) 【鐙革】鐙ヲ鞍ニ吊ル革紐。最モ力ヲ要スルヲ以テ、良質ノ革ヲ用キテ製ス。

あぶみ-がはら (名) 【鐙瓦】〔仰ガスレバ、形、舌長鐙ノ如シ」〕檐先ニ用キル、巴瓦ノ古名。倭名抄、十 卅 「花瓦、鐙瓦也、阿布美加波良」

あふみ-かぶら (名) 【近江蕪】蕪ノ一種。近江ノ國、大津ノ邊ニ產ズルモノ。語彙、あふみかぶら「近江大津ノ產、油菜ニ似テ大ナリ、根扁クシテ、圓、徑七八寸、根ノ先、三尾アリテ、鼎足ノ如シ、故ニすわりかぶらノ名アリ、九英蔓菁」

あふみ-がや (名) 【近江蚊屋】近江國ノ坂田、犬上、愛知、蒲生等ノ諸郡ヨリ產ズル蚊幮。

あふみ-きびら (名) 【近江生平】あふみざらしヲ見ヨ。

あぶみ-ぐは (名) 【鐙鍬】〔鐙鋤ノ、訓讀ノ語ナラム、支那ヨリ渡來ノモノナルベシ、出典ヲ見ヨ」たうぐは(唐鍬)ノ一名。和漢三才圖會(正德)三十五「鐙鋤、阿布美久波、今云二唐鋤一」成形圖說(文化)十三「鐙鍬、形ニ象ルナリ、鐙鋤、三才圖會、割レ草具也、柄長四尺、按、漢ノ鐙ハ、壺ノ如シ」

あふみ-げんじ (名) 【近江源氏】宇多源氏ノ一派。源雅信ノ孫、鎭守府將軍成賴、近江國、蒲生郡、佐佐木ノ莊ニ居リ、佐佐木ヲ氏トス、其裔、秀義ノ四子ノ、定綱、經高、盛綱、高綱、源賴朝ニ從ヒテ戰功アリ、定綱ノ子孫、六角氏ト、京極氏トニ分レ、足利時代ニ勢アリキ。盛衰記、廿四、近江源氏追討使事、治承四年十一月十一日「近江源氏追討ノ爲ニ、云云、古京ノ軍兵七千餘騎、路次ノ者共駈具シテ、二萬餘騎ニ及ベリ」

あふみ-ざらし (名) 【近江晒】又、近江生平。近江國ノ神崎、愛知、犬上、蒲生、野洲ノ五郡ニ產ズル晒布。野洲川原ニテ晒シ出ストテ、野洲晒トモ云フ、白麻布ノ上品トス。

あふみ-さるがく (名) 【近江猿樂】猿樂ノ條ヲ見ヨ。

あふみ-すげがさ (名) 【近江菅笠】〔謠曲、巴ニ「近江ナル志がらき笠」トアレバ、昔ハ、同國、甲賀郡、信樂ノ地ヨリ出シシモノカ」〕近江國ニテ製出セシ菅笠。昔ヨリ名アリ。東海道名所記(萬治)一、江戸、堺町「老タル、若キ、男、女、伊勢編笠、近江すげ笠ヲ着タルモアリ」絲竹初心集(寛文)小歌「コレカラ見レバ、近江ガ見ユル、笠買ウテタモレ、あふみすげがさヲ、ナンボウ着ヨゴザル」松の葉(元祿)小歌「すげ笠ニ、カヘテオメシャレ、あふみノかさハ、形ハヨウテ、着ヨウテ、サ」

あぶみ-ずり (名) 【鐙磨】馬ノ左右ノ横腹ノ下部ノ、鐙ノアタル處。倭名抄、十一 七 牛馬體「承鐙肉、阿布美須利」

あぶみ-ずり (名) 【鐙摺】〔あぶずりトモ云フハ、中略ナリ、鐙附ヲ、あぶつけトモ云フ」左右、岩石ナドノ狹キ路ノ、乘馬ノ鐙ノ、觸ルルバカリナル所ノ稱。又、あぶずり。相模國、三浦郡、田越村ノ邊ニ、鐙摺ト云フ小山アリ、あぶずりトモ云フ、昔ハ、山路狹ク、乘馬ノ鐙ヲ磨リテ、往來自由ナラザリシト云フ。倭訓栞、あぶみずり「地名ニ、鐙摺ヲ、あぶずりト云フ、鎌倉ニアリ、多古江ノ宿ヨリ、杜戶ニ至ル山路也」吾妻鏡、二十、壽永元年十一月十日「伏見冠者廣綱、奉レ相二伴彼人一、云云、到二于大多和五郎義久鐙摺宅一」(彼人トハ、賴朝ノ寵女、龜前ヲ云フ) 盛衰記、廿一、治承四年三浦畠山小坪合戰「あぶずりニ、垣楯カキテ待、云云、路ハ狹シ、一騎三騎ヅツ打下リケル」(小坪、今、田越村ニ入ル) 宮城縣、刈田郡、國道、齋川驛ノ南ナル坂ヲ、あぶみずりト云ヒキ。仙臺藩ノ封內名蹟志(寛保)刈田郡「齋川驛南之阪、緣石嶮巖、人痛二蹶蹉一、馬憂二跑隤一、土人因稱二鐙摺石一」

あふみ-せいじん (名) 【近江聖人】中江藤樹ノ稱。名ハ原、通稱、與右衞門、藤樹ト號ス、近江國、高島郡、小川村ノ人、伊豫國、大洲、加藤侯ニ仕ヘシガ、鄕里ニ母アルニ因リテ、辭シ歸リテ奉養ス、陽明學ヲ修メ、德行卓絕ニシテ、孝義修身ノ道ヲ敎ヘ、一鄕ヲ感化ス、世、稱シテ、近江聖人ト云フ。(慶安元年歿ス、年、四十一)

[illegible]（文□）二、[illegible]、[illegible]、[illegible]人以レ弱、人無二賢愚一皆發二其德一以不レ顯二起于[illegible]、[illegible]一[illegible]二[illegible]人二

あふみ-ちりめん（名）［近江縮緬］　長濱[illegible]、[illegible]ニ[illegible]ヅ。

あふみ-てうてい（名）［近江朝廷］　天智天皇ノ朝廷。近江國、大津ニ、宮居ヲ定メ[illegible]タマヒシヨリ、此稱アリ。[illegible]三[illegible]、[illegible]、[illegible]、序（弘仁格式）古昔、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]人[illegible]、[illegible]、[illegible]之[illegible]也」

あふみ-どろばう-いせ-こじき（名）［近江泥坊伊勢乞食］　古キ[illegible]。近江ノ商人ハ、ススドク利ヲ貪リ、伊勢ノ宇治山田ノ者ハ、物ヲ乞フ習慣アリト云フナリ。[illegible]語大辭典、近江泥坊「狂歌謎百首、[illegible]「我ガ物ニ、[illegible]ノ[illegible]ノ、[illegible]花、[illegible]、[illegible]、安[illegible]ノ川柳「國境、美濃ノ方デハ、油斷セズ」（近江國、坂田郡ト、[illegible]國、不[illegible]郡ト[illegible]スル所ノ[illegible]ノ民家ニ、[illegible]ト云フアリ、[illegible]ノ[illegible]、[illegible]ガラ[illegible]スト云フ」[illegible]、廿九、三十六[illegible]伊勢ノ[illegible]ハ、親シキ疎キヲモ云ハズ、五ニ隙ヲ量リテ、弱キ者ノ持チタル物ヲバ奪取リテ、己ガ貯ヘトスル所也」（節文）[illegible]、百六、八十八、近江どろばう伊勢こじき、[illegible]、今[illegible]二、云云、今モ、[illegible]人、比丘尼、[illegible]、[illegible]ト云ヘル乞食ナド、[illegible]ヲ[illegible]ヒテ、[illegible]乞フサマ、ゲニ伊勢こじきノ[illegible]、[illegible]シカラズゾアル」

あふみ-のみ（名）［近江海］　（近江の海ノ略、「息[illegible]、[illegible]（[illegible]）あふみハ、淡海ノ約ナレバ、重言トナレド、語原ハ忘レラレテ、云フナリ）近江國ノ[illegible]、[illegible]、今ノ琵琶湖、[illegible]、[illegible]元年[illegible]月[illegible]ノ渡リニ、潜ク鳥」

あふみ-はっけい（名）［近江八景］　〔八景ノ條ヲ見ヨ〕　近江國ノ湖邊西南ナル、八景ノ景色。[illegible]、[illegible]湘八景ニ擬シテ選定スト云フ。（和漢名[illegible]、比良[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、三井[illegible]、[illegible]、[illegible]、唐崎夜雨、是レナリ。

あふみ-ぶし（名）［近江節］　江戸浄瑠璃ノ一派。杉山丹後掾ノ弟子、近江掾語齋（岡島吉左衛門）ノ語リ始メシモノ。承應ヨリ貞享ノ頃マデナリ。一名、語齋節。（異本洞房語園、[illegible]、[illegible]、一二）

あふみ-ぶな（名）［近江鮒］　源五郎鮒ニ同ジ。

あふむ・く・く・け・か・き・け（自動、四）［仰］　（あふハ、仰ぐノ語根、仰向くノ義、（あふぐヲ見ヨ）あおむくト發音スルハ、あふぐ（仰）ヲあおぐ、あふる（煽）ヲあおるト云フニ同ジ、音ヲ轉ジテ、あふぬくト云ヒ、（[illegible]、むかふ。[illegible]、つぶむる）又、轉ジテ、あふのくト云フ、（篠、志の。鏡し、のろし）あをむく、あをぬく、あをのくト書ケルハ、發音ノママナレド、をハ、おナルベシ」　上へ向ク。（うつむくノ反）仰グ。あふぬく。あふのく。あをのく。　十訓抄、中、第七、第六條「童子ノ打ツ無木[illegible]ト云フモノニ、一ツ代シテ、三ツあふぬけルヲ、月夜[illegible]ト云フナリ」宇治拾遺、十一、廿二條、光[illegible]、[illegible]ヨリ、[illegible]ノ上ヲ[illegible]行キクルニ、云云、あふのきニ[illegible]ナガラ、能引キテ、射タリケレバ」（名詞形）下學集（文安）下、言辭門「仰 而唾」林逸節用（文明）雜用「仰」仙[illegible]、[illegible]、安、[illegible]、[illegible]ノ上ノ花ハ、下ヲ受ケテ、[illegible]ヘカカリタルヤウニ立ツル、下ノ花ハ、上ヲ受ケテ、あをのくヤウニ立テ候也」（群書類從）　此語、下二段活用トモナリテ、他動ニ用ヰラル。上ヘ向ク、[illegible]ヲノケル。[illegible]、廿[illegible]、[illegible]

「家忠、弓ヲ振りあをのけ、弓[illegible]キテ」太平記、一、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]あをむけタルヲ見レバ一[illegible]、一、同じく[illegible]の[illegible]六ツット出デ、三[illegible]ヲハタト[illegible]テ、あふのけ[illegible]、[illegible]、[illegible]ツムケテ、[illegible]

あふよう（名）［[illegible]］　（[illegible]花、[illegible]ニ[illegible]、意）（一）罌粟ノ一名。（二）罌粟ノ實ノ液、阿片ヲ製ス。[illegible]七「亞芙蓉、ケシノヤニ」

あぶら（名）［[illegible]］　「[illegible]、あぶらハ、[illegible]ノ肉ヲ炙リテ取ルモノナレバ、名トセルナルベシ」（在處、あらか。渡瀬、わたらせ）或ハ、皮膚ニ凝れ、分泌スルモノノ意カ、肉叢、志志むら　さざれ波、さざらなみ」（一）（一）動物ノ、肉、骨ノ間ニアリテ、滑ラカニ粘リテ、凝レルモノ。脂肪。[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]「[illegible]」　[illegible]乘ルト云フハ、魚類ナドノ、季節來リテ、脂肪[illegible]テ、美味トナルヲ云ヒ、轉ジテ、人ノ、事ヲスルニ、趣味ヲオボエコミテ、面白クナルヲ云ヒ、又、技藝ナドノ、佳境ニ進ムヲ云フ。入佳境　（二）人ノ皮膚、手掌ナドニ、勞働ニ因リ、汗ノ出デテ、粘ルモノ。膩　（三）人ノ勞力。ホネヲリ。膏血　[illegible]、あぶら「民のあぶら、身のあぶらノ俗[illegible]アリ、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]ト[illegible]エタリ、[illegible]、[illegible]、[illegible]上[illegible]、[illegible]、[illegible]ヲ照ラス、燈火ノ、思ヘバ民ノ、あぶらナリケリ」

あぶら（名）［油］　前條ノ語ノ轉、是レ亦、ナメラカニシテ粘ル」（一）［植物ノ種ナドヨリ絞リ取ル凝液　色、多クハ、黄ニ赤ミアリテ、トロトロト流ル。（俗ニ、油ヲ、ころト云フ）水ニ融和セズ、燈火ニ[illegible]、俗ニ、[illegible]、[illegible]、[illegible]ラルルヲ、油をしぼられる、又、あぶらを取られるト云フ。又、下男ナドノ、用ヲたしニ出デテ、[illegible]、[illegible]ヲ、油を賣るト云フハ、[illegible]、[illegible]、[illegible]、油ヲ[illegible]ニ[illegible]、[illegible]引[illegible]ヨリ、長引くト云フ[illegible]、[illegible]「江戸ノ水、飲ムト油を、賣りタガリ」又、人ヲおだてるヲ、油をかけるト云フハ、火ニ油ヲ注ゲバ、火勢[illegible]ニナル意ナリ、（二）あぶらむしノ條ノ（二）ヲ見ヨ。

あぶら（名）［[illegible]］　（油色ナル[illegible]、[illegible]云ヘルカ」（一）酒ノ上ニ浮キアガルモノ。さかあぶら。古ヘ、酒ハ、スベテ濁醪ナリ」[illegible]記、下（[illegible]）、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、酒膏、徑寸布レ於二酒上一」倭訓栞、さかあぶら、倭名抄ニ、酒膏ヲ訓メリ、今、酒玉ト云フ、是レナルベシ」（二）轉ジテ、直チニ、酒ノコト、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]小飲、謂二之待一レ油二

あぶら-あげ（名）［油揚］　（一）野菜、魚肉ナドヲ、胡麻油ニテ煎ガタルモノ。[illegible]、[illegible]記、吼噦「コレハ、鼠ノ油揚デゴザル」料理物語（寬永）「煮物、云云、油あげ」（二）あぶらげどうふノ略。

あぶら-あし（名）［脂足］　人ノ、生得ニテ、

足ノ底ニ、膩ノ、多ク出ヅルモノ。

あぶら-あせ　(名)　【脂汗】　膩ノマジリテ出ヅル汗。過激ノ勞働、又ハ、酷暑ノ時ナドニ出ヅ。

あぶら-いし　(名)　【膏石】　(一)黑褐色ノ石。俚言集覽、油いし「美濃、赤坂、金生山ニ產ズ、黑褐、光澤アリテ、油ヲ塗リタルガ如シ」(二)石炭ノ一名。

あぶら-いし　(名)　【油石】　黃ニシテ、油色ナル石。俚言集覽、油いし「美濃國、河邊ニ產ズ、黃色ニシテ、油ノ色ニ似タル石ナリ、又、油色ノ小石、米中ニ雜レルモノヲ云フ」

あぶら-いひ　(名)　【油飯】　胡麻ノ油ヲ加ヘテ炊ギタル飯。倭名抄、十六十四「油飯、麻油炊レ飯也、阿不良以比」

あぶら-いり　(名)　【油熬】　食物ヲ、胡麻油ニテ煮タルモノ。

あぶら-いろ　(名)　【油色】　菜種油ノ色。黃ニ赤ミアリテ、スキトホル如キモノ。

あぶら-うり　(名)　【油賣】　油ヲ行商スル者。昔ハ、山城國ノ山崎ニ、油業ノ者多ク住ミキ。七十一番歌合(文安)七番、あぶらうり「宵每ニ、都ニ出ヅル、あぶらうり、更ケテノミ見ル、山崎ノ月」詞「昨日カラ、未ダ、山ざきへモ歸ラヌ」人倫訓蒙圖彙(元祿)四「油屋、云云、昔ハ、山崎ヲ名物トス、今ハ無シ」

あぶら-うるし-ぶぎやう　(名)　【油漆奉行】　うるしぶぎやうノ條ヲ見ヨ。

あぶら-かす　(名)　【油粕】　菜種ヨリ油ヲ榨取リタル後ノ滓。肥料、又、家畜ノ餌トス。【榨油枯餅】　會稽春秋、六、藝「油かす廿五、井、水二十荷、直翼五何程入レテ、クサラカシ用ル」(古事類苑)

あぶら-かみ　(名)　【油紙】　(一)桐油紙ニ同ジ。あぶらかみに、火のついたやう、ト云フハ、ベラベラト燃エヤスキニ云ヒ、多辯ナル形容ニ云フ。(二)油紙ヲ折リテ、縫ヒ作レルヲ、油紙の烟草入ト云フ。後ニハ、次第ニ精巧ニナリテ、やうかん(羊羹)ト云フ紙ニテ作レルアリ、其條ヲ見ヨ。賤のをだまき(寬政)寬延ノ頃「奇麗ナル油紙ノ、ヒトヘナルヲ、瑞形ニシテ、廻リヲ閑淸縫ニシテ、云云、畢竟ナド書キタルヲ用ヒタリ」(溫知叢書、六)嬉遊笑覽、二、中「昔ハ、京ニテハ、桐油屋ニテ、油紙の烟草入ヲ賣リシトカヤ、今モ、合羽たばこ入ト云フ、云云、江戸ニテハ、紙たばこ入トダニ云ヘバ、油紙ノ事トナレリ」

あぶら-がめ　(名)　【油瓶】　〔水入ヲ、硯瓶ト云フ、同趣ナリ〕　燈油ヲ入ルル小瓶。あぶらさし。あぶらつぎ。倭名抄、十二十六燈火器「油瓶、阿不良加米」合類節用(元祿)七、器財門「油注子、又云二油瓶一」和漢三才圖會、三十二、家飾具「油瓶、阿布良左之」

あぶら-がや　(名)　【油萱】　〔黃色ナルニ因リテ、油ト云フカ〕　草ノ名。かやノ類。アブラシバ。俚言集覽、油がや、あぶらしば「形、芒ノ如ク小サク、黃綠色ニシテ、厚ク滑ナリ、夏日、莖ヲ抽キテ穗ヲ出ス」語彙「蜀黍ノ穗ニ似テ、黃赤色」

あぶら-きう　(名)　【油灸】　燈心ニ油ヲ浸シ、火ヲツケテ、一文錢ノ穴ヨリ、肌ヲ燒クコト。

あぶら-ぎく　(名)　【油菊】　〔黃色ナルニツキテノ名ニモアルカ〕　菊ノ一種。山野ニ生ズ、莖、高サ三四尺、枝ヲ分ツコト繁シ、故ニ、千本菊ノ名モアリ、葉、淺綠ニシテ、缺刻深ク、秋、小花ヲ開ク、常ノ黃菊ノ花ト同ジ、香氣アリ。

⁂**あぶら-ぎつちよ**　(名)　【油螽斯】　蟲ノ名。螽斯ノ、油色ナルモノ、善ク鳴ク。俚言集覽、油ぎつちよう「アブラキリギリス、尾張ノ方言、螽斯ノ褐色ナルモノ」

あぶら-ぎぬ　(名)　【油絹】　絹ニ、油ヲ塗リタルモノ。隼人司式「每年造進、油絹、六十疋、云云、荏油、一斛三斗八升」類聚雜要抄、二「重硯箱、敷物料、油絹一帖」

あぶら-ぎり　(名)　【油桐】　桐ノ類。樹、桐ノ如ク、葉ハ、三尖、或ハ、五、七尖ニシテ、鋸齒ナシ、春、五瓣ノ白花ヲ開ク、實ハ秋分ニ熟ス、八九分許、圓ク扁シ、內ニ子アリ、毒アリ、榨リテ油ヲ取ル、桐油ト云フ、材ヲ、白桐ニ代用ス。別名、ドクエ。罌子桐　和漢三才圖會(正德)八十三「油桐、罌子桐、阿布良岐利」

あぶら-ぎ・る　ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四)　【脂張】　〔脂張るノ意〕　脂、多ク出ヅ。脂、溢ル。(動物ノ體ニ)

あぶら-け　(名)　【油氣】　(一)油ノ氣。油ノ味ヒ。(二)脂ノ氣。(動物ノ體ニ)　膩

あぶら-げ　(名)　【油揚】　次條ヲ見ヨ。

あぶら-げ-どうふ　(名)　【油揚豆腐】　「あぶらげハ、あぶらあげノ約」　豆腐ヲ油揚ニシタルモノ。略シテ、あげどうふ。あぶらげ。又、略シテ、あげ。油浴豆腐

あぶら-こ　(名)　【油子】　淡水產ノ魚。鱗ナクシテ、黑シ、腹ト背ニ黑線アリ、肉、ヤハラカニシテ、味、美ナラズ。又、アユモドキ。

あぶら-こき　(名)　【油扱】　麻絲ニ云フ語。俚言集覽、油こき「麻絲ヲ染メテ、油ヲ塗タルモノヲ云フ」

あぶら-こ・し　キ・ケレ・ク・ク(形、二)　【油濃】　口語〔あぶらっこいト云フハ、急呼スルナリ(執こい、こつっこい)〕　(一)油ノ氣、ツヨシ。アブラッコイ。新猿樂記、七御許「油濃茹物」(二)脂、滿チタリ。アブラギリタリ。膩　名義抄「膩、アブラコシ」

あぶら-ごま　(名)　【油胡麻】　胡麻ノ一種。俚言集覽、油ごま「胡麻ノ、黃色ナルモノナリ」

あぶら-さし　(名)　【油差】　(一)燈油ヲ貯ヘテ、行燈ナドノ油皿ニ注グニ用ヰル器。アブラッギ。(あぶらがめヲ見ヨ)　油注子　(二)今、機關、機械ニ、油ヲ注ギ入ルル人ヲ云フ。

あぶら-さし　(名)　【油尺】　油ノ量ヲ測ル尺。俚言集覽、油さし「桶ニアル油ノ升數ヲ知ルタメニ用ヰル尺ナリ」

あぶら-ざめ　(名)　【脂鮫】　鮫ノ一種。肝臟ヨリ、多量ノ脂ヲ出ダスモノ。

あぶら-ざら　(名)　【油皿】　油坏。燈油ヲ盛リテ、油燈ヲ點スニ用ヰル小サキ皿。燈蓋。燈盞　合類節用(元祿)七、器財門「燈盞」

あぶら-しば　(名)　【油芝】　あぶらがやニ同ジ。

あぶら-しみ　(名)　【油染】　布帛ナド、油ニ染ミテ汚レタルコト。

あぶら-しやうじ　(名)　【油障子】　明障子ノ紙ニ、油ヲ塗レルモノ。雨ナド防グ用トス。アマシャウジ。鳩巢小說(室鳩巢)下「一度、御能有レ之節ノ處、俄ニ雨天ニ相成候テ、油障子ヲ可二申付一由、牧野備後守殿申サレ候、云云」俚言集覽、油しやうじ「明取ナドニ用ヰル障子ニテ、雨ヲ凌グタメニ、油ヲ塗ルナリ」

あぶら-しようもん　(名)　【油證文】　〔證文ト

ハ、噫、約束ノ違ト云フマデノコトナ[illegible]ベシ、肉、出其ヲ見ヨ」[illegible]、約束ヲ違フマジトテ、背ヲ作[illegible]約束ノ違ト云フ印ニ、六、下、兒戲「小兒、約束ヲシテ、違ヘジト云フ印ニ、油證文トテ、髮ノ油ヲ指ニツケテ、柱ナドニ押スコトアリ、證文ノ印肉ヨリ思寄レルニヤ」八十翁昔物語(享保)[illegible]、一[illegible]、ウシモツケザル人多シ」柔弱ヲ憎ミテ、油ヲツケズ、ト誓ヒシニ起ルトモ云フ、奢奢ナルガ如シ。

[illegible]あぶら-おり (名) [腳] 〔脂尻ノ義、ひたれトモ云フハ、引垂ノ略ニモアルカ〕引割、ひはぎ。招鳥、なとり〕」鳥ノ尻ノ脂肉。久、ひたれ [illegible]倭名抄、十八[illegible]、鷂[illegible]尾肉也、阿布良之利、比多禮」[illegible]同「雉 腰」[illegible]頭事類記(足利時代)「鳥ノ右ノひたれヲ作リ、カサネテ盛ルベシ」

あぶら-ずみ (名) [油墨] 墨ニ、油ヲマゼタルモノ、奴ノ作リ髭ニ用キタリ。[illegible]香(寶永、ヒ[illegible]作)上、御供ノ奴ノ髭ニ塗ル油墨」

あぶら-ぜみ (名) [油蟬] 〔翅、油色ナリ〕蟬ノ一種。秋ノ半ニ、晩ニ當リテ、樹上ニ、高聲ヲ發シテ、ぎいぎいト鳴クモノ、故ニ、秋蟬トモ云フ。體長、一寸二分、兩翅ヲ開ケバ、三寸五分ニ達ス、翅ハ、前後共ニ、焦茶色ニシテ、翅脈ハ綠ナリ、頭ハ、三角形ヲ成ス、全身黑シ。蚱蟬

あぶら-だる (名) [油樽] 油ヲ入ルルニ用キル樽、内ニ、紙ヲ貼リテ、澁ヲ塗ル。

[illegible]あぶら-つき (名) [油坏] あぶらざらニ同ジ。燈盞 倭名抄、十二[illegible]燈盞、阿布良佐良」西宮記、[illegible]「二字[illegible]」太平記、五、中堂新常燈消ゆる事「山門ノ根本中堂ノ内陣ニ、山鳩一ツガヒ、飛ビ來テ、[illegible]ノあぶらつきノ中ニ飛入テ」[illegible]火、消エナムトス、あぶらつき」

あぶら-つぎ (名) [油注] あぶらさしニ同ジ。

あぶら-づ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (自動、四) [脂附] 膚ニ、ツヤヤカニ、脂滿ツ。アブラギル。[illegible]徒然草、第八段「久米ノ仙人ノ、物洗フ女ノ脛ノ白キヲ見テ、通ヲ失ヒケムハ、[illegible]ニ、手足、膚ナド、清ラカニ、肥エあぶらづきタラムハ、外ノ色ナラネバ、サモアラムカシ」

あぶら-づけ (名) [油漬] 魚肉ノ罐詰ニ云フ語。鰯、さはだ、さんまナドノ頭、尾、腸ヲ去リテ、鹽水ニ浸スコト、四五時間ニシテ、洗ヒ、陰乾ニシ、おりいぶ油ニ入レテ、油煠ニシタルヲ、角形ノ罐ニ入レ、更ニ油ヲ注ギ加ヘテ、罐詰ニス。

[illegible]あぶら-っ-こ・い (形) [油濃] あぶらこしヲ見ヨ。

あぶら-づつ (名) [油筒] 次次條ノ語ヲ見ヨ。

[illegible]あぶら-つの (名) [油角] 〔漢語ノ脂角ヲ訓讀シタルナルベシ〕油ヲ盛ル器。油ハ、車ノ軸ノ、轂ヲ貫ク所ニサスニ用キルモノ、滑ラカニ運轉セシムルタメナリ。[illegible]此器ヲ持チテ、牛車ニ添ヒ行ク者ヲ、油持ト云ヒキ。倭名抄、十一[illegible]「唐韻云、[illegible]、車脂角也、車乃阿不良都乃」集[illegible]、[illegible]、[illegible]也、車[illegible][illegible]」[illegible]「車行、其[illegible]以[illegible]」[illegible]、[illegible]、[illegible]、其器也」貞丈雜記、四、役名「公卿参内、社参等ノ行列ヲ記シタル所ニ、油持トアルハ、車ノ[illegible]ニサスベキ油ヲ持行ク役人也、油トバカリ書キタルモアリ」

あぶら-つぼ (名) [油壺] 油ヲ貯ヘオク壺。古クハ、髮ノ用ニスル油ナルニ云ヒキ、其壺ヨリ出シテ盛リオクヲ、油筒ト云ヒシガ如シ、[illegible]、[illegible]アブラツケ[illegible]、[illegible]二、[illegible]、[illegible]入レテ」[illegible]今昔[illegible]、三十一、[illegible]アル[illegible]」[illegible]口徑二寸一分、油筒一對、上下ノ所ヘ、金物ヲ取リ、[illegible]ノ方ニ、鋲ヲ打チ、紐ノ緒ヲツクル也、[illegible]分、長一尺二寸、油桶、一對、[illegible]寸[illegible]五[illegible](古事[illegible]苑)[illegible]五、[illegible]」

あぶら-でり (名) [脂照] 〔脂汗ノ出ヅルニ就キテ云フカ〕薄曇ニテ、風ナク、日ノ暑ク照リツクル氣候ニ云フ語。

あぶら-な (名) [油菜] [illegible]「菜種油ヲ取ル」古名、ヲチ。單ニ、菜トノミモ云ヒテ、食用トスル、是レナリ。秋分ニ種ヲ下ス、葉、五生シテ、色、濃シ、莖、高サ、四五尺許、紫ヲ帶ブ、若キハ、莖、葉、共ニ食フベシ、春ノ末、四瓣ノ黄花群リ開ク、畠ニ、一面ニ咲キツヅクヲ、菜花ト云ヒテ賞ス、實ハ、莢ヲナシ、夏、熟スレバ、裂ケテ種ヲ散ズ、菜種ト云フ。菜種子ヲ搾リテ油ヲ取ル、なたねあぶらト云フ、燈用、食用、器械ニ注グ等、用、多シ。菜子油 和爾雅(元祿)七「蕓薹、油菜」農業全書(元祿)三「[illegible]、一名ハ[illegible]、又、胡菜ト云フ、其始ハ、[illegible]ヨリ來ル、故ニ、胡菜ト云フトナリ」東雅(享保)十三、[illegible]本草ニ、[illegible]ト云ヒシ是也」

[illegible]あぶら-の-つかさ (名) [主油司] 古ヘ、宮内省ノ被管、諸國調進ノ膏油ノ事ヲ司ル、寛平八年、主殿寮ニ併セラル。

あぶら-ばうず (名) [油坊主] 〔膿ノ油色ナルヲ、擬人シテ云ヘルカ、芒ノ赤キ小麥ヲ、赤坊主ト云フガ如シ、ばうずニ坊主)ノ條ヲ見ヨ」海魚ノ名。いしもちニ似タリ、最大ナルハ、身長六尺ニ至ル、全身、褐色ニシテ、鱗、甚ダ細カク、下[illegible]、[illegible]、[illegible]出ス。

[illegible]あぶら-び (名) [油火] ともしび、[illegible]ニ燈心ヲ浸シテ點ス燈火。(燭燭火ニ對ス)燈火 萬葉集、十八[illegible]「安夫良火ノ、光ニ見ユル」名義抄「燈、アブラビ、トモシビ」

あぶら-ぶぎゃう (名) [油奉行] うるしぶぎゃうノ條ヲ見ヨ。

あぶら-ぶね (名) [油槽] 菜種油ヲ[illegible]ス[illegible]槽、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]ニ付、[illegible]、[illegible]、[illegible]ト違ヒ、株ナシ」

あぶら-べに (名) [油紅] 棒油ニ、紅ヲ練リマゼタルモノ。芝居ニテ、俳優ガ、額、面部ナドニ點ジテ、出血ニ擬スルニ用キル。

あぶら-み (名) [脂肉] 魚、鳥、獸ノ肉ノ、脂肪多キ部。

あぶら-みがき (名) [油磨] 〔油トハ、光澤ヲ云フナルベシ〕(一)光ルホド拭拂キタルコト。[illegible]、[illegible](書[illegible]、持氏ノ頃)、御[illegible]ハ、[illegible]、中ハ、[illegible]縣、柴[illegible]ノ御[illegible]」(中トハ、板敷ヲ云フ)榮花物語、十三、うたがひ、「[illegible]、法[illegible]寺[illegible]板敷ヲ[illegible]レバ、[illegible]、[illegible]ナドシテ、[illegible]五十[illegible]、[illegible]拭フ」著聞集、二十、魚蟲禽獸「其蛇ノアリケル、下ノ[illegible]ハ、あぶらみがきナドシタル[illegible]、キラメキタリケリ」(二)字句ノ使用ヲ、善ク練磨スルコト。[illegible]草子、三「[illegible]ノトド[illegible]ハ、ナケレドモ、ハカナキ[illegible]、[illegible]ナリケル[illegible]、[illegible]、[illegible]、感歎シテ曰ク、人ハ、うつつみ、トゾ詠マム、のノ字、[illegible]ノ上ニ、[illegible]リク[illegible]也」

あぶら-みせ (名) [油店] 結髮用ノ油、殊ニ、伽羅油ヲ賣レル店。安永頃ノ我衣

ニ、寛永年中、歌舞伎若衆方ノ谷島主人、中村數馬、ナド云フ者、江戸市中ニ、油店ヲ出シタルヲ初トス、ト云ヘリ。

あぶらむし (名) 油蟲 〔和漢三才圖會、五十三、蜚蠊「其氣也、色也、如油、故俗、云油蟲」〕 (一)昆蟲。古名、ツノムシ。夏秋ノ間、厨ノ邊ニ棲ム、身長、大イナルハ五六分、前翅ハ濃褐、後翅ハ淡褐ナリ、夜飛ブ、走行疾クシテ、觸ルレバ惡臭ヲ放ツ、群リテ、食物、器具ニ集リテ、嚙ミ損ゼシム、因リテ、合器嚙ノ名アリ。蜚蠊 瓊浦偶筆(安永、平澤元愷)「竈邊小蟲、俗呼做油蟲、形、蓋似蜚蠊」 (二)人ニ集リタカリテ、妨害ヲナス意ヨリシテ、遊郭ニテ、素見客ノ渾名トス。又、芝居、寄席、見世物場ナドニテモ、でんばう(無錢見物客)ノ渾名トス。略シテ、あぶら。油ノ、トロトロ流ルルニ寄セテ、とろトモ云フ。倭訓栞、あぶらむし「あぶらむしのつくト云フ俗語アリ、其除キ難キヲ云フ也」 俚言集覧、あぶら蟲「すけんヲ云フ、吉原大芝居ノ僭キモノ、あぶら蟲ノ、カラサワギ」 (三)蚜蟲ノ一名。

あぶらめ (名) 油魚 「めトハ、魚ニ云フ語、鯛ノ古名ヲ、赤女ト云フ、此魚、油色シタリ」 (一)いたちうをノ一名。其條ヲ見ヨ。 和漢三才圖會(正德)四十九「油身魚、阿布良女魚、褐有光、頗似油色」 (二)又、魚ノ名。あいなめノ一名。

あぶらもち (名) 油持 あぶらつのノ條ヲ見ヨ。

あぶらもり (名) 油守 古へ、宮中ノ燈油ヲ掌ル女官。 中務省式、闈司「燈守、四人」

あぶらや (名) 油屋 菜種油、胡麻油ナドヲ賣ル商家。又、其油ヲ行商スル者。 人倫訓蒙圖彙(元祿)三、油屋「大坂、長堀、天滿ニテシボリ、所所へ出ス、京ニ有キ、江戸ニキトニアリ、昔シハ此者ヲ名物トス、今ハナシ」

あぶらわた (名) 油綿 古へ、油ヲ綿ニ浸シテ、髪ニ塗ル料トセシモノ。香料ヲ加ヘタリ。 香澤 膏澤 倭名抄、十四、容飾具「澤、用油綿二字、人髪ニ塗ル、以脂令濡澤也、阿布良和太」 雅亮裝束抄(治承)二「髪ヲ、善ク流リテ、あぶらわたツケ、梳デナドシテ」 今物語(文治)十三段「待賢門院堀川、云云、燈火ノ盡キタリケルニ、あぶらわたヲサシタリケレバ、世ニ、カウバシウ匂ヒケルヲ「トモシビハ、薫物ニコソ、似タリケレ」 丁子頭ノ、香ヤ匂フラム」

あぶらゑ (名) 油繪 (一)三百數十年前、肥前ノ長崎アタリニ在留セル葡萄牙人、阿蘭陀人ナドノ、我ガ邦人ニ傳ヘタル西洋畫。繪具ニハ、何ヲ用キシカ詳ナラザレド、油ナルコトハ知ルベシ、元和年中、伊達政宗ノ使節、支倉六右衛門常長ガ、羅馬ニ往キテ、齎シ歸リシ法王、并ニ、常長ガ肖像ノ油繪、今ニ、伊達伯爵家ニ存スルモノヲ見ルニ、粗キ麻布ニ畫ケリ。元和年中、長崎ニ、生島三郎左衛門ト云フ者アリテ、油繪ヲカケリ。寛永年中、肥前ノ原城陷落後、切支丹宗徒、山田右衛門作ノ筆ナド、今ニ存スレドモ、其後、聞エズ。 油糟(寛永)「眞モ貌モ、濡レワタリケリ獅子野牛、サテモ書イタル、油繪ニ」(濡れわたるトハ、光澤ヲ云フカト云フ) 原城紀事、十六、原城略「小笠原右近大夫、捕二致偽將山田右衛門作、致二之松平信綱、云云、信綱携レ之江戸、更ニ名右衛門作曰、使レ生ニ長崎、以二好三畫洋書、云云」 明良洪範(寶永)九「山田右衛門作ト云フ繪ノ上手、云云、阿蘭陀流ノ油繪ナレバ、生ケルガ如シ」 (二)百四五十年前、天明、寛政ノ頃、畫工、司馬江漢、長崎ニテ西洋法ヲ修メテ、油繪ヲ書キ始ム、密陀僧、荏油、白蠟ナドヲ用キタリ、門人、亞歐堂田善ナド、其技ヲ傳承セリ。 春波樓筆記(文化、司馬江漢)「予、廿五年以前ヨリ、云云、名山勝景ヲ寫眞ニシテ、阿蘭陀ノ法ヲ以テ、無盡ニ書キ、云云、世ニ之ヲ奇物トス」 春明雜話(嘉永出版)二、「蘭畫、阿蘭陀、云云、皆、荏油ニテ畫ス、日本ニ、是ヲ油繪ト云ヒ、又、蠟畫トモ云フ」 俚言集覧(文政)油繪「荏子ノ油ニ、密陀僧、定粉等ヲ加ヘ煉リテ、繪具ヲ加ヘ、漆器、箱子等ノ上ニ書クモノナリ、其油ヲ、みつたの油ト云フ、宋史、儀衞志、黃屋四柱、皆、油繪彫鏤」 (三)幕末ヨリ、明治後ニ、更ニ、西洋ヨリ傳ヘタルハ、繪具ト亞麻仁油トヲ混和シテ製シタルモノニテ、畫布ナドニ、畫筆ニテ畫ク。

あぶらをけ (名) 油桶 あぶらつぼノ條ヲ見ヨ。

あふり (名) 障泥 〔足觸るノ名詞形、(足踏、鐙)障泥トハ、泥ヲ障フル義、泥障トモ書ケルアルハ、どろささへノ意ナルカ〕 馬具ノ名。下鞍ヨリ、鐙ノ内ニテ、馬ノ兩脇ニ垂ルルモノ。本ハ、雨天ニ、泥ノ、衣服ニハネアガルヲ防グ用ナルニ、後ニハ、晴天ニモ、飾トシテツックルヤウニナレリ、毛皮ニテ作ルヲ本トス、用アル時ハ、敷皮トモス、虎皮、熊皮等、階級アリ、後世ハ、多ク塗革ニテ作ル、後ノ製ノモノハ、長サ、二尺八寸、幅、上部一尺五寸、下部二尺一寸ヲ制トストト云フ。 天治字鏡、十「世、障泥、鞍不利」 倭名抄、十五ニ鞍馬具云、障泥、鞍不利也、阿不利」 令集解、四、職員「雜供戸、云云、泥障二戸」 安閑紀、二年、鞍ニ二位以上著之」 山槐記、治安四年三月四日、新御座ニ手、時雨下、云云、行列、公卿以下、皆着用泥障」、五十、淀舟六十、山賤ノ、垣根ノオドロ、葎ノ蔭ニ、あふりト云フ物ヲ敷キテ、下シタテマツル」 大和物語、下「日暮レテ、立田山ニ宿リヌ、草ノ中ニ、あふりヲ解キ敷キテ、臥セリ」

あふり (名) 煽 アフルコト。風ニ吹カレテ、動クコト。「火ノあふり」煽ノあふり」開戸ノあふり」

あふりいか (名) 障泥烏賊 〔形、障泥ノ如シ〕 烏賊ノ一種、體、楕圓ニシテ、二三尺ニ至ルアリ、淡紫色ニシテ、紺色ノ細點アリ、周ニ肉緣アリ、肉、柔ニシテ、味、美シ。又、するめトス。 俚言集覧、あをりいか「烏賊ノ一種、美味ナリ、花枝」

あふりいた (名) 障泥板 〔形、障泥ノ如シ〕 榱ノ左右ニツケテ、雨押トスル板。神社ノ建築ニ於テ、コレヲ見ル。 倭訓栞、あふりいた「障泥板、康富記ニ見ユ、伊勢神宮ノ事ニ云ヘリ、式ニモ見ユ」

あふりぐるま (名) 煽車 千石簁ニ同ジ。 經國本義、中、農業人夫之所作「箕、揚車、今云、千穀車」(古事類苑)

あぶりこ (名) 炙子 〔切子、張子、刺子ノ類〕 食物ヲ炙リ燒ク具、鐵橋ノ類。又、餅網ヲモ云フ。 松屋筆記、六十七、三十三「俗ニ、あぶりこ、又ハ、てつきゆうナド云フモノアリ、食物ヲ燒ク器ナリ、云云、あぶりこ、一名ハ、あみニテ、餅ヲ燒クニ用フ」

あぶりこ (名) 焙籠 薰籠ノ類。但シ、濡レタル衣類ヲ掛ケテカワカシ、冷エタル衣服ヲ暖ムルニ用キシモノナリ。 合類節用(元祿)七、器財門「焙籠」

あぶりだし (名) 炙出 小兒ノ玩物。紙ニ、明礬、又ハ、酒ニテ畫ヲカキ、乾ケバ、白紙ノ如ク見エ、火ニ炙レバ、畫ノ現ル

ルモノ。近年ハ、稀硫酸ナドヲ用キル。[illegible]皇朝太寛ノ字、入ニ五倍子ニ云云、コレ、今ノあぶりだしト云フモノナリ、ココニテスルハ、酒ヲ以テ物ヲ書キ、火ニアブル、異國ノ法ヨリモ簡易ナリ」

あふり-どめ（名）［煽止］サルツナギ。開戸ニ、懸鐵ヲツケ、柱ニ壺鐵ヲ設ケ、引懸ケテ、戸ノ煽ルヲ止ムルモノ。

あふり-はふ（名）［障泥搏風］搏風ノ條ヲ見ヨ。

あぶり-もの（名）［炙物］〔熱物（羹）、吸物ナド、同例〕炙リタル魚肉。ヤキモノ。ヤキザカナ。炙。[illegible]

あふり-やう（名）［押領］〔[illegible]名、押領使「押ハ、オサヘル也、領ハ、我ガ物ニシテ支配スル也」押率キル意ナルガ、後世ハ、其所業ニ因リテ、押取ノ意トナレリ〕（一）兵卒ヲ統率スルコト。[illegible]（二）兵ヲ率キテ、凶徒ヲ鎭壓スル職ヲ、押領使ト云フ。戰時ニ、臨時ニ、朝廷ヨリ命ジ、或ハ、大將ヨリ命ズ、又、或ハ、常置ノ職トス、後ニハ、[illegible]職トナレリ。[illegible]抄、職名、附錄、廿二、上「押領使ノツカサドル所ハ、[illegible]大ニシテハ一軍、小ニシテハ一隊ノ長ナリ」三代實錄、三十三、[illegible]年六月七日[illegible]（三）押領使、後ニハ、[illegible]人民ノ物ヲ[illegible]ヤウニナレリ、人人、コレヲ惛ミテ、押領、押領ナドト云ヒテ、物ヲ押取スル意ノ、普通語トナレリ。[illegible]「寛正、文明ノ比ヨリ、國郡鄕村ニ、大中小ノ押領使アリテ、政事ヲ失ヒ、無道ニシテ、恣欲盜賊ヲ以テ是ナリトス」建武以來追加、寺社本所領事（應永二年）「[illegible]不可不誡」

あふりやう-し（名）［押領使］前條ノ（二）ヲ見ヨ。

あふりやうん（名）［疱後瘡］「不可解ナリ、當字ニテモアルマジ、別ニ語原アルカ」疱瘡ノ後ニ發スル瘡ノ名。[illegible]「疱瘡ノ後ニ出ヅル瘡ヲ、ありやうんト云ヘリ」倭訓栞、あふれう「疱瘡ノ後ニ出ヅル瘡ヲ、俗ニあれうんト云ヒ、關東ニテ、あうりやうト云ヘリ」[illegible]

あふりよくかう-ぶし（名）［鴨綠江節］〔[illegible]あ りなれがはヲ見ヨ〕朝鮮ト滿洲トノ境ノ大河、鴨綠江ヲ流下スル、大筏ヲ組ミタル筏夫ノ歌フ唄。本名ハ、筏節ナリ、江ノ上流[illegible]、下流の安東縣ニ達ス、此間、約二[illegible]、[illegible]内地ノ[illegible]、此事、[illegible]年間ヨリ始マル、[illegible]ハ、如何ニモ悠長ナルモノナリ、今ハ、東京ノ花柳界ニモ流行シキ、[illegible]「一、二三朝鮮ト、支那トノ境ノ、鴨綠江ヲ、下ス筏ハ、[illegible]眺メハ、鑑光山、チョイ、チョイ」晴ス筏ハ、日ノ光、筏ハ丸太、ヨイショ、下ス丈夫ハ、アラ武夫ノ、チョイ、チョイ、纜ナク難所ヲ、流下シテ、明日ハ又、安東縣ニ、着クバカリ、チョイ、チョイ」

あふ・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ（自動、下二）［溢］〔溢るト通ズ（放浪る、はぶる）〕ハフリ滿ツ。[illegible]リテ出ヅ。[illegible]

あふ・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）［翻］〔あふぐ、扇ノ自動〕風ニ吹カレテ動ク。ヒルガヘル。[illegible]「あふり戸ハ、障戸ノ、風ニあふらルルヲ云フ」

あふ・る・ル・レ・ラ・リ・レ（他動、四）［煽］〔前條ノ語ノ他動〕（一）吹キ動カス。ヒルガヘス。アフツ。[illegible]あふる」（二）ソソノカス。オダテル。ケシカケル。煽動。（三）一息ニ飲ム。グイノミニスル。（酒）[illegible]

あ-ふ・る・ル・レ・ラ・リ・レ（他動、四）［足搔］〔足搔[illegible]名詞形ニ、障泥ト云フ、[illegible]リ、自動ヲ他動ニ用キルコト、次條ニ同ジ、[illegible]、あおぐノ例ナリ〕乘馬シテ、兩ノ鐙ニテ、馬ノ兩脇ヲ挾ミ打ツ。角ヲ入ル。馬ヲ驅リ進メムトテスルワザナリ。[illegible]（鐙ニカク）ナラデ、あふれドモ、心ノミコソ、先ニ立チケレ」宇治拾遺、十三、第二條「馬ヲ、イタクあふりケレバ、馬、狂ヒテ、落チヌ」

あ-ぶ・る・ル・レ・ラ・リ・レ（他動、四）［焙炙］〔熱る（？）ノ略、（奉出す、まだす。初瀬、はせ）[illegible]ハ、四段活用ニテ、自動ヲ他動ニ用キルコト、前條ニ同ジ〕（一）火ニカザシテ、暖メ乾ス。[illegible]人モアレヤモ、濡衣ヲ、家ニハ遣ラナ、旅ノ印ニ」[illegible]其火先ヅ焚ケ、衣あぶらム」枕草子、二、十七段「火桶、[illegible]ドシテ、あぶり居ルモノ」（二）火ニ當テテ、程好ク燒ク。炙。[illegible]十一[illegible]高ク燃上リヌレバ、痛ク被炙テ、皆死ヌ」「炙肉」

あ-ぶ・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ（自動、下二）［放浪］〔溢る（溢る）ノ語ニ、あぶれる[illegible]はぶるる（放浪）ト通ズ、（其條ヲ見ヨ）此語、濁音ナリ、安夫佐須夜ト云フ語アリ、其條ヲ見ヨ、おちぶるる（零落）ニ、落ちあぶるるナリ〕ハブルル。サスラフ。オチブルル。源、四十四、橋姫三十「行末遠キ人ハ、落チあぶれテ、サスラヘムコト、コレノミコソ、ゲニ、世ヲハナレム際ノ、絆ナリケレ」同、四十九、東屋[illegible]テ闕カムコソ、心苦シカルベケレ」湖月抄「あぶれ、オチブレサマヨフナリ」同、五十三、夢浮橋「カクマデ、落チあぶるべキ際トハ、思ヒタマヘザリシヲ」

あぶれ-もの (名) 〔前條ヲ見ヨ〕 (一)法外者。狹衣、四、中四十「大將ノ詞「麻呂ヲ集リテ娶テ、云云、ナド宣ヘバ、皆、打笑ヒタルニ、イトド、今ハ、サヤウナルあぶれもの、出デ來マジゲナル世ニコソ、ト打チサザメクモアリケリ」 (二)戰國時代、戰爭ニ加ハリテ狼藉スル者。 流寇 太平記、八、四月三日合戰事「富田判官ガ一黨、井ニ、眞木、葛葉ノ溢れ者共ヲ加ヘテ、云云、鳥羽、竹田ヨリ押寄スル」鎌倉北條九代記、十、文永三年四月廿一日「鎌倉内外ノ甲乙人等、數十人、比企谷ノ山ノ麓ニ群集、云云、所所ノ溢者ドモ、兩方ニ行集ヒ、云云、飛礫ヲ打合ヒ、云云」倭訓栞、あふる「流寇ヲ、あふれ者ナド云ヘリ」 (三)無法ナル、アラクレモノ。ナラズモノ。 無賴漢

あふ・れる (動) 溢 溢るノ口語。

あぶ・れる・レル・レレ・レ・レヨ (自動、下一) 溢 〔溢るノ、濁音トナリテ、口語ニ云フモノ〕 役ニ充テラレテ、不用トナル。餘サレテ使ハレズ。(日傭ノ人夫ナドニ云フ)名詞形ニテ、「今日ハ、あぶれニナッタ」

あぶろじ (名) 蚜蟲 〔あぶらむし、あぶるし、あぶろじト、轉訛シタル語ナルベシ(蛙、かいろ。螢、ほたろ)〕 ありまきノ異名。其條ヲ見ヨ。

あふ-ゐん (名) 押韻 〔康熙字典「詩賦用韻曰レ押、言レ押者壓也」〕 詩ノ句脚ニ、同韻ノ字ヲ用キルコト。 修辭通「押韻、同音相應和、歌謠皆有レ之」詩轍、四、韻法「押韻、和俗ニ、韻ヲ蹈ムト云フ、詩體ニハ、古今ノ異モアレドモ、韻ヲ蹈ムコトハ、古今一轍也」

あへ (名) 和 〔あふ(韲)ヲ見ヨ〕 あへもの(和物)ヲ見ヨ。

あへ (名) 饗 〔あふ(饗)ノ名詞形、其條ヲ見ヨ〕 飮食ノモテナシ。饗應。 神代紀、上三十「敢不饗乎」景行紀、十八年三月「諸縣君泉媛、依レ獻二大御食一而其族會レ之」天治字鏡、十二二十「佐客、饗レ於レ他、人爾阿戸須」

あ・へ (動) 合ふ(下二)、敢ふ、饗ふ、韲ふヲ見ヨ。

あ-べい (連體) 可有 あべきノ條ヲ見ヨ。

あべかは-もち (名) 安倍川餅 〔東海道、駿河國、安倍川ノ邊ニテ、製シテ賣リテ、名物トセラルルニ起ル〕 餅ヲ燒キテ、砂糖蜜ヲツケテ、きなこニ塗シタルモノ。きなこニハ、鹽ヲ加ヘ、青海苔ヲ燒キテ粉ニシタルモノナド、混ズ、卽チ、きなこもちナリ。略シテ、あべかは。

あへぎ (名) 喘 〔次次條ノ語ノ名詞形〕 病ノ名。喘息ニ同ジ。 醫心方、九二「喘息」倭名抄、三十病類「喘息、阿倍岐」

あ-べき (連體) 可有 〔あるべきノ略、あべいト云フハ、音便ナリ、べい(可)ノ條ヲ見ヨ、あんべいト云フハ、あるべきノ音便カ、あべきノ音便カ(あるなり、あんなり、あなり。なるめり、なんめり、なめり)〕 (一)あるべきト云フニ同ジ。又、あべい。 榮花物語、八、初花「顏ツキ淸ゲニ、あべきカギリ、繪ニカキタル男ノサマシテ」同、九、岩蔭「上、オハシマシテ、あべい事ドモヲ、ツブツブト仰セラルルニ、云云、あべい事ト、皆、思ヒタリツレド」 (二)關東ニ、あんべいト云フ語アルモ、同ジ。あるであらう。大抵ニ云フ意ニモ用キラレタリ。 類聚名物考(山岡浚明)百八十四、言語部、一、あんべい「陸奧ノ方言ナルベシ、ウカウカト、心ニモ染マズ、オロソカナルヲ云フカ、云云、物語ナドニモ此詞アリ、云云、可レ有ノ意ニテ、あるべきカ、假リノコトト思フベカラズ、ト云フニヤ、一時軒隨筆(天和)一、兼載ノ詞「覺エシ事ドモ、連歌ノ道ハ、云云、あんべいニ思フベカラズ」(連歌師、猪苗代兼載) 俚言集覽、あんべい「東國ノ方言、あるべしノ轉訛ナリ、あんべいヤウモナイト云フハ、田舍詞ナリトテ、今ノ人、笑フナレド、源氏物語ニアル也(南留別志)」

あへ・ぐ・グ・ゲ・ガ・ギ・ゲ (自動、四) 喘 〔あはく(喘)ト通ズ、息スル聲ナルベシ、出典ノ萬葉集ニ、阿倍寸トアリ、新撰字鏡ニ、阿波久トアレバ、淸音ナルベケレド、普通ニハ、濁音ニ云フ、說文「喘、疾息也」〕 急シク呼吸ス。アハク。イキダハシクアリ。息ヲ切ラス。イキセキキル。 萬葉集、三三十四長歌「イサナドリ、海路ニ出デテ、阿倍寸ツツ、我ガ漕ギ行ケバ」枕草子、三、二十八段、似氣なきもの「老イタル者ノ、腹高クテ、あへぎ步ク」

あ-べ-あ-べ (名) 反對 〔倭訓栞、後編、あべあべなし「彼方此方ナルベシ、俗語也」あちらあちらナリ〕 うらうへノ俗語。カヘサマ。アリャコリャ。反對。顚倒。

あへしらひ (名) 應答 〔次條、次次條ヲ見ヨ〕 (一)アヘシラフコト。ウケコタヘ。挨拶。(二)取リアツカヒ。モテナシ。アシラヒ。接待。 待遇 (三)トリアハセ。ツケアハセ。 裝點

あへ-しら・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (自動、四) 應答 〔あへハ、合ヘナリ、下二段活用ノ合ふノ條ヲ見ヨ、しらふハ、別ニ揭ゲタレバ、就キテ見ルベシ、あひしらふハ、會ひしらふナルベキカ、サルニ、源氏物語湖月抄本ナドニハ、あへしらふ、あひしらふ、錯雜シテ見ユ、不審ナリ、若シハ、音便轉ノ假名違ヒ、あいしらふニテ、塞神、さいのかみノ類ニハアラヌカ〕 ウケコタヘス。挨拶ス。あひしらふ。 遊仙窟「張郎、後能應答」源、一、桐壺廿八「大臣、ケシキバミ、聞エタマフ事アレド、云云、トモカクモ、あへしらひ聞エタマハズ」同、五、若紫四十「言葉少ニ言ヒテ、ヲサヲサあへしらはズ」今鏡、上、第二、御法の師「眞言ノ事ハ、文ハ無クテ、タダ問ハセタマヒケレバ、事ノアリサマ、又、申シ述ベナドシケリ、其後、俗ノ文ノ事ヲ仰セラレケレバ、法文ニ合ハセツツ、ソレモあへしらひ申シケリ」源、六、末摘花廿七「イト深カラズトモ、ナダラカナル程ニ、あひしらはム人モガナ」狹衣、二、下廿二「セメテアラガフモ、アヤシケレド、イタウモあひしらひタマハデ、事每ニ、言ヒマギラハシテ止ミヌ」

あへ-しら・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (他動、四) 接待 〔前條ノ語ヲ、意ヲ轉ジテ、他動ニ用キルナリ、語原ハ、前條ヲ見ヨ、あしらふト云フハ、後世ノ語ニテ、中略ナリ(仕へまつる、つかまつる)〕 (一)取リアツカフ。あひしらふ。あしらふ。 待遇 源、四十四、橋姬十三「御供ノ人ハ、西ノ廂ニ呼ビスヱテ、此殿居人、あへしらふ」徒然草、七十三段「世俗ノ虛言ヲ、云云、誠シク會釋ひテ、偏ニ信ゼズ」古今夷曲集(寬文)一、名所花「イツトテモ、ヨウ來タトダニ、オシャラヌハ、小鹽ノはなデ、人ヤあしらふ」(花ヲ鼻ニカク、山城國、小鹽山) (二)附ケアハセテ、趣キヲ作ル。あしらふ。 裝點 蜻蛉日記、上、下十六「橋寺ト云フ所ニ泊リヌ、云云、旅籠所ト思シキニ立寄リ、切大根物、汁シテあへしらひテ、マヅ出シタリ」倭訓栞、あへしらふ「あしらふトモ云ヘリ、畫家ニ云フあしらひハ、粧點ナリ、假山ナドニ云フモ同ジ」「竹ニ、石ヲあへしらふ」刺肉ニ、山葵ヲあしらふ」

あへ-ず (句) 不敢 〔敢ふノ未然形ノ打消ナリ、其條ヲ見ヨ〕 (一)堪ヘズ。コラヘズ。 萬葉集、十五廿六「秋去レバ、置ク露霜ニ、安倍受シテ、京師ノ山ハ、色ヅキヌラム」古今集、十一、戀、一「音ニノミ、きくノ白露、夜ハオキテ、晝ハおも

ひニ、あへず甫スベシ」同、五、秋、下「秋風ニ、あへず散リヌル、モミヂ葉ノ、行方定メヌ、我レゾ悲シキ」(二)[illegible]ヘドモ、人ノ心ハ、守リ不敢モノ」古今集、五、秋、下「山川ニ、風ノカケタル、[illegible]ハ、流レモあへぬ、モミヂナリケリ」

あへ-たちばな(名)|橙|〔あへ橘ノ義、(饗[illegible])[illegible]ヲ見ヨ〕[illegible]其香佳ナレバ名トス、香頭(饗口)ナドニ用キルナルベシ、[illegible]ヲ併セ見ヨ」[illegible]子ニ似テ、小サキモノト云フ。萬葉集、十一[illegible]

あへ-つき(名)|饗坏|饗物ヲ[illegible]七十合」

あへ-づくり(名)|膾|〔あへハ、韲[illegible]りみハ、刺肉ナルベキカ〕切肉ノ韲物。倭名抄、十六[illegible]ニ、のたあへト云フ物ニアタレリ」

あへ-て(副)|敢|〔敢ふノ條ヲ見ヨ〕(一)押シキッテ。ノシカカッテ。ハバカラズ。說文ニ「敢、進取也」漢文ニテ、不敢トアルハ、[illegible]モ、敢て鳥カマヌ人也」萬葉集、九「由良ノ崎、[illegible]千ニケラシ、白神ノ、磯ノ浦回ヲ、敢而漕ギトヨム」(二)[illegible]打消[illegible]「[illegible]日ハ、あへて人多ルベクモアラザナレバ」宇[illegible]てロヨリ外ニ出ダサズ」(三)サラサラ。一向ニ。[illegible]宇治拾遺、六、第九條「[illegible]鬼ドモノ来テ、怒レル狀ヲ見セテ[illegible]マフ、此童、あへて知ラズ、蝸ノ内ニ臥セリ」

あへ-な・し・き・ケレ・ク・ク(形、二)|無敢|〔あへハ、敢ふノ名詞形、其條ヲ見ヨ、敢ふルコト無しノ義、堪ヘズノ意、力落スルナリ〕ハリアヒナシ。チカラナシ。タノミナシ。[illegible]テ、あへなく心細ケレバ」(女、尼トナリテ、[illegible])

あへ-なむ(副)|可堪|〔あへハ、敢ふノ連用形、其條ヲ見ヨ、なむハ、完了ノ助動詞[illegible]ニ同ジ(宴ヘ)[illegible]ツヅキタルモノ、堪ヘなむニ同ジ[illegible]ケル男君、女君タチ、笑ヒ泣キテオハシケレバ、小サ[illegible]ガ御許アルコトハあへたん、云云、女(女三宮)ノ[illegible]モ、アリアヘテ[illegible]スベシ」[illegible]ケタリ、ナゾ、コハ葵ラズ、人多ク見ル時ナム、逃キタルモノ着タルハ、バウゾクニオボユル、只今ハ、あへたんトテ、手ヅカラ着セ奉リタマフ」花鳥餘情ニ「あへはべなむ」トアリ。(敢侍リナム)

あへ-ぬ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ(自動、四)|交貫|〔あへハ、下二段活用ノ合ふノ連用形、其條ヲ見ヨ〕交へテ貫ク。萬葉集、八[illegible]

アヘン(名)|阿片|鴉片|〔馬來語、Apium.(英語、Opium)ノ、古キ支那ノ音譯字ヲ[illegible]〕[illegible]ノ名。成熟セル罌粟殼ニ、切傷ヲツケ、流レ出ヅル液ヲ乾シタル[illegible]ナリ、阿片百分中ニ、[illegible]十、乃至、十二アリ、痲醉性ノ劇藥ナリ。[illegible]云云、薦ニ、阿片トテ、[illegible]ヲ取リ製スルモノアリ」

アヘン-タバコ(名)|阿片烟草|阿片ヲ加ヘテ製シタル烟草。支那人、好ミテ[illegible]安政五年七月十日[illegible]阿片ノ輸入ハ、嚴禁タリ、然ルニ、密輸シ、又、其事ヲ犯ル輩ハ、阿片一斤毎ニ、三十八ギュルデン、二十五セントノ過料ヲ、日本[illegible]納ムベシ」

あへ-もの(名)|饗物|〔饗ふノ條ヲ見ヨ〕[illegible]

あへ-もの(名)|和物|〔前條ノ語原ニ同ジ〕料理ノ名、[illegible]ミタルヲ、ごまあへト云フ。からしあへハ、芥子ヲ用キ、木芽あへハ、山椒ノ芽ヲ用キル。白胡麻ト豆腐トノ擂リマゼタルヲ、白あへト云ヒ、烏賊ノ墨ニテ、其[illegible]しあへ、[illegible]荒布、白あへ」醒睡笑、三、[illegible]烏賊ヲ、

くろあへニシテ、タマハル」

あへ・り・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、良變）〔合〕（合ふノ完了ナリ）合ひたりト云フニ近シ。源、十四、澪標三十「アリガタキ御心ヲ、宮人モ悦ビあへり」同、五、若紫五十「尋ネキコエタマヒケルニ、聞エヤラム方ナクテゾ、ワビあへりケル」同、六、末摘花二十「人人、胸ツブレテ、云云、ソソノカシあへれド、ツヅケタマハネバ、云云」

あ・へる・ヘル・ヘレ・ヘ・ヘ・ヘヨ（他動、下二）〔韲〕（一）韲ふノ口語。（二）和物ヲ作ル。前前條ヲ見ヨ。

あほ（名）〔阿保〕あはう（阿保）ノ條ヲ見ヨ。

あほ（名）〔阿房〕〔あはうノ約（愛相、あいそガツキル。功勞、こうろ經ル）〕あはう（阿房）ノ條ヲ見ヨ。「あほラシイ」

あぼ（名）〔阿母〕〔接頭語ノ阿ノ條ヲ見ヨ、康熙字典「俗、稱ㇾ父曰ㇾ爺、稱ㇾ母曰ㇾ娘、亦作ニ耶孃一」（娘、孃ト通ズ）古樂府「不ㇾ聞ニ耶孃喚ㇾ女聲一」杜甫兵車行「耶孃妻子走相送」集韻「孃、如陽切」唐韻「娘、女郎切」集韻「娘、尼良切」漢音、ぢゃう、呉音、にゃうナリ〕（一）母ト云フニ同ジ。阿母。又、阿孃、阿娘、阿娘。通鑑、晉紀「潘岳謝ㇾ母曰、負ニ阿母一」白氏文集、十二、簡簡吟「丈人阿母勿ニ悲啼一」李商隱詩「去應ㇾ逢ニ阿母一」字鏡十「阿孃、波波」倭名抄、二十六「阿孃、波波」（二）支那ニテハ、乳母ヲモ、阿母ト云フ、我ガ邦ニテ、母ヲモ、乳母ヲモ、おもト云フト、相似タリ。史記、扁鵲傳「濟北王阿母」注「阿母、是、王之嬭母也」集韻「嬭、乳也」

あほを（名）〔枋〕をふをヲ見ヨ。

アポストロ（名）〔使徒〕〔葡萄牙語、Apostolo.ノ譯語〕耶蘇ノ十二人ノ直弟子ノ稱。

アポストロフィ（名）〔英語、Apostrophe.〕英語ナドヲ綴ルニ、文字ヲ省キ、又ハ、領格ヲアラハス時ニ用キル符號。That's. 又ハ、boy's. ナドノ「 ' 」ナリ。

アポストロン（名）〔蘭語ナルベシ、原語ヲ索メ得ズ、獨逸語、Abströmen.（流出）英語、Abstract.（抽出、吸出）〕吸出ノ膏藥ノ名。御所櫻堀河夜討（寶暦、三好松洛）二「療シテオマセウ、女房ドモ、あぽすとろんニ、あるまんすヲ、チトマゼテ、附ケテオマシャレ」

あほたら（名）〔愚〕〔大和國ノ方言ナリ、（愚太郎）阿房ヲ擬人シテ、阿房太郎ナリ、（愚太郎兵衞、鈍太郎、惡太郎）阿房多羅經アリ、あほたヲハネテ、あんぽんたん、あぼちんたん、ナドモ云フ、京阪ニテハ、あんだらト云フ（かほばせ、かんばせ。おほばを、おんばを）〕愚ナルコト。（畿内ノ鄙語）又、あんだら。あんだ。あんぽんたん。アハウ。バカ。物類稱呼（安永）五「オロカニ、アサマシキヲ、京、大坂ニテ、あんだ、又、あんだらトモ云フ」倭訓栞、あんだ「無智ノ者ヲ云フ」同、後編、あんだら「鄙俗ノ語ナリ、あだロヲキクコトヲ、あんだらロタタク、ナド云ヘリ」女殺油地獄（享保、近松作）中「あんだら奴ニハ、拳一ツ當テズ、ホダエサセ」「あんだらクサイ」あんだらツクス」

あほたらきゃう（名）〔阿房陀羅經〕〔前條ノ語原ヲ見ヨ、佛經中ノ梵語ニ、陀羅尼、旃陀羅、ナド云フガ多キニ寄セテ、經ト名ヅケ、願人坊主、卽チ、乞食僧ナレバ、唱ヘシナリ、京阪ニ起リテ、江戸ニモ移リシモノト云フ、愚人ヲ、あほたらト云フハ、關西語ナレバ、サモアルベシ〕願人坊主ノ唱ヘシ文句。江戸市中、商家ナドノ前ニ立チテ、唱ヘツツ、錢ヲ乞ヒアルキタリ。文句ハ、當時ノ天變地異、民間ノ出來事、ナドニテ作レリ、響キヲ異ニスル小木魚二ツヲ、左手ニ持チ、右手ノ桴ニテ、烈シク打合セ、打チツヅケテ、拍子ヲ取リ、極メテ捷口ニ語レリ。ちょぼくれト、稍異ナリ。最初ニ「エエ、阿房多羅經、申シ上ゲマス御經ノ文句ハ、何ガ何ンデゴザリマセウヤラ、釋迦モ提婆モ、生レタ時ニハ、空空寂寂、云云」ト云フヲ、口切ニシテ、本文ニ入ル「ソモソモ、ワッチガ在所ハ、遠州相良ノ城ニテ、七ツ星カラ、輕薄バカリデ、御側ヘツン出テ、御用モ聞クヤラ、老中ニナルヤラ、ソレカラ聞キネエ、大名役人、役替サセヤス、ナンノカンノト、イロイロ名ヲツケ、ムシャウニ取込ミ、云云、ホンニ今年ハ、天命（天明）悲シイコンダヨ、ホウイホウイ」（是レハ、天明年中、當時ノ有志者ノ、阿房陀羅經ニ擬シテ作リ、老中田沼主殿頭ノ非政ヲ惡罵シタル文ナリ、遠江ノ相良ハ、田沼氏ノ居城、七星ハ、同家ノ紋所ナリ）

あぼちんたん（名）〔愚〕〔前前條ノ語原ヲ見ヨ〕愚者ノ異名。（東京鄙語）

あほひ（名）〔葵〕あふひノ條ヲ見ヨ。

あほらしい（形）〔阿房〕ウツケタリ。バカラシイ。（關西）〔痴呆〕

あま（名）〔天〕〔天ノ語原ヲ見ヨ〕天ニ同ジ。萬葉集、十八 三十長歌「足引ノ、山ノタヲリニ、コノ見ユル、安麻ノ白雲」「天雲」「天人」「天降る」「天翔る」「天の原」「天の河」

あま（名）〔雨〕〔天ノ語原ヲ見ヨ〕雨ニ同ジ。熟語ノ首ニノミ用キル。「あま夜」「あま水」「あま傘」

あま（名）〔海〕〔蒼海、あうみ、あみ、あまト、轉ジタル語ナルベシ、（靑麻、あを。氷魚、ひを。みさかり、まさかり。（方）かたま、かたみ。（籠）雨ノ語原ヲ併セ見ヨ）〕海ニ同ジ。曾丹集、二月、終「遙遙ト、浦浦ケブリ、立チワタリ、あまノ日和ニ、藻潮燒クカモ」「海人」「海端」

あま（名）〔海人〕〔白水郎〕〔泉郎〕〔蜑〕〔海人ト云フガ、成語ナルベシ、（出典ヲ見ヨ）あまびとヲ下略シテ、あまトノミ云フハ、杣人ヲ、そまトモ云フガ如シ、（海人部ヲ見ヨ）あまうどハ、あまびとノ音便（旅人、たびうど。商人、あきうど）〕（一）又、海人。あまうど。海ニテ漁シ、又、藻鹽燒クナドヲ業トスル者。イヲトリ。漁人。〔漁夫〕神武紀二「漁人」古事記、下（淸寧）四十三「鮪突ク阿麻」萬葉集、十九 廿九「鮪突クト、海人ノ燭セル、漁火ノ」公任集「あま人ノ、燒クヤ藻汐ノ、立チソヘバ、雲ノ波コソ、深ク見エケレ」永久四年百首、泉郎「濡衣、今ゾはつきニ、懸ケテ干ス、潛キシテケリ、與謝ノあま人」字類抄「海人、漁人、アマビト」庭訓往來（元弘）四月五日「水主、楫取、漁客、海人」（庭訓往來鈔）箋注倭名抄、一 二百「泉郎、阿万」廣本、作ニ白水郎一、震澤麗女傳、有ニ會稽郡鄮縣白郎庾毗羅一、云云、泉郎、蓋、白水二合字」允恭紀、十四年九月「集ニ處處之白水郎一、以令ㇾ探ニ赤石海底一」瑯琊代醉編「唐周邯白水郎ㇾ蜀賈ㇾ奴曰ニ水精一、善沈ㇾ水、乃崑崙白水之屬也」逾州記「閩白水、東南流、三曲如ニ巳字一、故名ニ三巳一」倭訓栞、あま「白水郎ヲ訓メルハ、白水ハ、モト地名、郎ハ、漁郎ノ如シ、崑崙奴ノ類ナリ」（二）後世ハ、專ラ、女ノ、海中ニ沒リテ、鰒ヲ取ルヲ業トスル者ヲ、あまト云フ。古ヘニ云ヘル、潛女ナリ。枕草子、十二、百四十八段、打ちとくまじきもの「あまノ潛シタルハ、憂キワザナリ、腰ニツキタル物、絕エナバイカガセム、云云、男ハ、乘リテ、歌ナド打チウタヒテ、コノたく繩ヲ、海ニ浮ケアリク、云云、蜑モ、上ラムトテハ、其繩ヲナム引ク、云云」人倫訓蒙圖彙（元祿）三、蜑人「海人ノ業、夫、船ヲサセバ、女ハ、水底ニ入ル、魚ヲ取リ、貝ヲ取リ、其外、海草ヲモ取ルナリ」日本山海名產圖會（寬政）三、伊勢國、和具浦「鰒ヲ取ルニハ、必ズ女海人ヲ

以テス、深キ所ニテハ、腰ニ繩ヲツケテ、浮バムトスル時、コレヲ動カセバ、船ヨリ引キアグルナリ、出デテ[illegible](國文)[illegible]錄(元來、明記)十「[illegible]東夷」[illegible]之人、名曰ニタウタンコ島[illegible]ハ[illegible]ニ取リテ[illegible]、沈入ニ[illegible]中、良久得レ之、[illegible]其[illegible]

あま (名) 〔亞麻〕「大麻ニ似タル意ナルベシ、本草綱目ニ云ヘル亞麻ハ、大胡麻ニテ、コレト異ナリ」草ノ名。莖、直ニ上スルコト三四尺、葉ハ、小柳葉ノ如クニテ、莖ヲメグリテ互生ス、夏、莖ノ上ニ、數枝ヲ分チテ、碧色ノ花ヲ開ク、五瓣ナリ、房ヲ結ブ、中ニ數十子アリ、一分許、又薄ク扁クシテ、茶色ナリ、[illegible]トシ、又ハ、油ヲ取ル、亞麻仁油ト云フ、[illegible]ノ用トス、又、莖ノ皮ヲ絲トス、良品ニシテ、りんねるナド織ル。重修本草綱目啓蒙(享和)十七「亞麻ハ、[illegible]ヨリ來ル、[illegible]ニ[illegible]ノ名ナリ」(子ニ就キテ云フ)

アマ (名) 〔尼〕 〔梵語、阿摩、Amma.(巴利語、Amma.)女ノ義、梵語ニ、僧ヲ比丘ト云ヒ、女僧ヲ比丘尼(僧女)ト云フ、コレヲ尼トノミモ云フ、大藏法數ニ「梵語、尼、華言、女也」(中華言ノ義、支那語ヲ云フ)比尼ニ、女ノ意ナル、阿摩ヲ當テタルナリ、(善女、信女)康熙字典「尼、女僧也、釋典、有比丘尼」[illegible]、敏達紀、十三年九月「令度ニ[illegible]女[illegible]曰ニ善信尼」トアル、是レ我ガ邦ノ女僧ノ始ナリ、或ハ、翻譯名義集ニ「阿摩、此云母」トアリ、女ノ、僧トナルハ、多クハ、老女ナレバ、母ノ義ニ取リテ、尊稱シタルガ、普通ノ女僧ノ稱トナレルナラムト云フ、說モアリ、今、沖繩ニテ、下等民ノ[illegible]ヲ、あま、又、あんまトモ云フ。(一)〔比丘尼〕ニ同ジ。女ノ[illegible]、尼法師。[illegible]ニナレル人アリケリ、容貌ヲヤツシタレド、猶ヤユカシカリケム、加茂ノ祭、見ニ出デタリケルヲ、云云」名義抄「尼、アマ」洛陽伽藍記「瑤光寺講堂、尼房、五百餘間」「國分尼寺」(二)〔垂尼〕ノ、尼削ノ略、昔、少女ノ髮ハ、[illegible]ニ切リ、ナリシカバ、其髮ヲ、尼ト云ヒキ。源、十九、薄雲「此春ヨリ生ス御髮、あまそぎノホドニテ、ユラユラトメデタク」(姫君ノ髮ノ後ナリ) 枕草子、八、七十四段、うつくしきもの「尼ニソギタル兒ノ、目ニ髮ノオホヒタルヲバ、搔キハヤラデ、打チカタブキテ、物ナド見タル」(三)室町時代ニ至リテハ、切禿ノ髮風ニ因リテ、少女ヲ、直チニ尼ト云ヒ、小童ヲバ、法師ト云ヒキ、圓頭ナリシナリ、(少女ヲめざし、うなゐナド云フ、皆、髮風ノ名ナリ)今モ、伊豆ニテハ、少女ノ、十一二歲マデナルヲ、尼ト云フ、東京ニテハ、尼ッ子、あまっちょト云フ。守武千句(天文)「イッカ法師(男兒)ノ、浮ビ出デマシ」マウクルモ、又マウクルモ、あま小舟」(女兒ノミ生マル、男兒ヲ望ム意) (四)東京ニテ、少女ヲ、あまッ子ト呼ブハ、侮蔑ノ意アリ、ソレヨリ轉ジテ、成人ノ女ヲモ罵リ呼ビテ、あまト云フ、あまッ子ノ如ク稚愚ナリト云フナリ。(五)今、横濱ナド、開港場ニテ、外國人ニ雇ハレ居ル、日本ノ子守女ヲ、あまト云フ、罵ル意ナシ、少女ナリシ稱呼ナルベケレド、成人ナルヲモ云フ。

アマ (名) 〔案摩〕 〔樂家錄(元祿)三十一ニ、此舞ノ事ヲ載ス、其一節ニ、音聲、林邑、南天竺國、佛哲、婆羅門僧正、所作[illegible]トアレバ、案摩トハ、梵語ナラムト[illegible]、其意、知ラレズ、[illegible]、此[illegible]ニ[illegible]、[illegible]作ニ異ナル所アルベシ」(一)〔舞樂ノ曲ノ名〕[illegible]二人、[illegible]、[illegible]。案摩の面ト云フ、藏面ヲ被リテ舞フ。藏面ハ、長方形ノ白紙ニ、山形ヲ[illegible]、眼ノ[illegible]ト[illegible]、黑キ[illegible]ヲ、口ノ[illegible]、其中間ニ、鼻ヲ[illegible]、其左右ニ[illegible]。[illegible]案摩ノ[illegible]、[illegible]トニアリ、男、女、二人、案摩ノ舞中ニ、舞臺ノ階下ニ出デテ居リ、案摩終ハレバ、直チニ舞臺ニ上リテ舞フ[illegible]、二人、各、奇ナル假面ヲ被ル、男ハ笑面ニテ、篠竹ヲ帽子ニサシ、[illegible]、女ハ[illegible]ニテ、篠ヲ[illegible]ニサス、俗ニ、笑[illegible]、[illegible]ト云フ、其舞ヲ手拍、足拍、案摩ヲ眞似テ、眞似得ナル狀ナリ。世ニ、前人ノ所爲ヲ、徒ラニ眞似テスルヲ、二舞ヲ踏ムト云フ、是レナリ。榮花物語、廿七、衣珠「シバシ心ヲノドメム、ナド思ヒテ、月日ヲスグシ侍ルホドニ、先ゼラレ奉リ侍リヌレバ、今ハ、二のまひニテ、人ノ御眞似ヲスルニナリヌベキガ、イトロ惜シキナリ」盛衰記、四十六、土佐房上洛事「籠頭、云云、二位殿ニ[illegible]シタマヘ、[illegible]モ、[illegible]九郎ガヤウニ、二の舞モヤ、ト存ズレバ、上洛ノ事、暫ク[illegible]ト言フ」[illegible] (二)矢ノ羽ニ、あまのおもてト云フハ、大鷹ノ白羽ニ、上ニ黑キ山形、下ニ黑キ鱗形ノ斑アルヲ云フ、[illegible]、[illegible]記、十[illegible]、[illegible]あまの面ノ羽付ケタル、平胡籙ノ箙ヲ負ヒ」

あま 〔[illegible]〕 〔甘〕 〔甘シノ[illegible]〕 甘キニ[illegible]「[illegible]

あまあがり (名) 〔雨上〕 雨ノ、歇ムコト。

あまあし (名) 〔雨脚〕 あめのあしヲ見ヨ。

あまあひ (名) 〔雨間〕 雨ノ、止ミタルアヒダ。アマヤ。「あまあひヲ見テ、出カケル」

⁂**あま・い** (形) 〔甘〕 〔あまき、あましノ音便、口語ナリ〕甘シノ條ヲ見ヨ。

⁂**あまい・た・れる** (動) 〔甜〕 〔あまえたれるノ轉(肥、さいし)〕 あまえたれるニ同ジ。

あまいぬ (名) 〔天犬〕 [illegible]犬ヲ、あまいぬ、こまいぬト云フ、[illegible]いぬノ條ヲ見ヨ。

あまうけ (名) 〔雨承〕 檐ノ雨垂ヲ承クルモノ、樋竹ナドニ云フ。

あまうけばな (名) 〔天承鼻〕 人ノ生得ニ、鼻ノ孔ノ、仰ムキタルモノ、[illegible]

あまうち (名) 〔雨打〕 雨垂ノ落ツル[illegible]、打[illegible]常ニ[illegible]、[illegible]ビ居タリ」同、二十、八牧夜討事「雨打際ノクボカリケル所」

あまうど (名) 〔海人〕 海人ニ同ジ。海人ノ條ヲ見ヨ。

アマうへ (名) 〔尼上〕 〔父上、母上、兒上[illegible]〕 [illegible]尼ヲ[illegible]ゴゼ[illegible]、[illegible]テハナレタリシ御ケシキノ、ツツマシサニ」

あま-うり (名) 【甘瓜】 まくはうり(眞桑瓜)ノ古名。江家次第、二十「甘瓜」

あまえ (訃) あまゆ、又、次次條ヲ見ヨ。

あまえ-た・れる・レル・レレ・レ・レヨ (自動、下二) 【驕】 〔たれるハ、垂るるノ口語、あいだるるモアリ〕 次條ニ同ジ。アマイタレル。

あま・える・エル・エレ・エ・エ・エヨ (自動、下一) 【驕】 〔あまゆノ口語、其條ヲ見ヨ、他動ニ、あまやかすト云フ〕 兒童、幼女ノ、父母ノ愛ニ馴レテ、キママヲス。ソバル。ホダエル。アマエタレル。

あま-おさへ (名) 【雨押】 板塀ナドノ上ニ互ス、勾配付ノ細長キ板。カサギ。

あま-おち (名) 【雨落】 アマウチ。檐ノ雨垂ノ落ツル處。アマダレオチ。

あま-おほひ (名) 【雨覆】 雨ヲ防グ爲ニ、物ニ覆フモノ。油單ナド、是レナリ。アマヨケ。

あま-がくれ (名) 【雨隱】 物ノ蔭ニ隱レテ、雨ヲ避クルコト。拾玉集、七「晴レヌルカ、森ノ下枝ノ、あまがくれ、マダ乾ヌ露ニ、蟬ノ鳴クナリ」

あま-が・ける・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 【天翔】 空ヲ飛ビカケル。(神、又、人ノ靈、然リト云フ) 萬葉集、五二十長歌「大御神タチ、云云、天ノ三空ユ、安麻賀氣利、見ワタシタマヒ」(遣唐使ノ船ヲ護リタマフヲ云フ) 古事記、中(景行)六十「八尋白智鳥、云云、翔天、以飛行」(倭建命ノ御魂ニ云フ) 源、十四、澪標二十「降リミダレ、ヒマナキ空ニ、亡キ人ノ、あまがけるラム、宿ゾカナシキ」

あま-がさ (名) 【雨笠】 雨天ニ用キル被笠。齋宮寮式「雨笠、盛ニ油稍袋ニ」

あま-がさ (名) 【雨傘】 〔日傘ニ對スル語トナル〕 さしがさノ、紙ニ油ヲヒキタルモノ。雨天ニ用キル、現今、用キル普通ノモノハ、徑、凡ソ三尺。貞順故實集(室町時代)「雨がさノ事、朱ノ色濃ク候テ、骨ト柄ト、黑ク塗リタルハ、位ニテ候、云云、油ヲ引キ候フママニテ、柄ナドノ白キハ、サガリニテ候」(嬉遊笑覽、二、中)

あま-かす (名) 【甘糟】 甘酒ノ糟。甜糟 天治字鏡、十二三十「醴糟粕、阿萬加須」 本草和名、下五十「甜糟、阿末加須」

あま-かぜ (名) 【雨風】 雨ニ伴フ風。枕草子、九、九十八段「彌生バカリノ夕暮ニ、ユルク吹キタルあまかぜ、イトアハレナリ」 元眞集「初雁ヲ、送ルナリケリ、あまかぜノ、雲居ハルカニ、吹キテ過グルハ」

あまがつ (名) 【天兒】【尼兒】【天倪】 〔春雨抄(寬永)ニ、天兒、源氏物語、河海抄ニ、尼兒ト記セリ、或ハ、天閒勝、天目勝ナドトモアリ、語原、詳ナラズ、先輩ノ明解モ索メ得ズ、強ヒテ言ハバ、天禍津靈ノ約略、(河津蛙、河蝦。秋津蟲、蜻蛉)禍津靈ヲ負ハスル物ノ意カ、牽強ナラムカ、再考ニ附ス〕 (一)〔稚兒ノ身ニ副ヘオク物。古代ナルハ、其製、詳ナラズ、祓ノ具ニテ、撫物、人形ノ類。源、十九、薄雲八「三歲ノ姫君、牛車ニ乘リタマフ「乳母少將、云云、御佩刀、あまがつヤウノ物、取リテ乘ル」仙源抄(長慶院法皇)「諸事凶事ヲ、是レニ負スルナリ、三歲マデ用ル也」 加茂保憲女集「大幣ニ、搔キ撫デ流ス、あまがつハ、幾十ノ人ノ、淵ヲ見ルラム」 古本齋宮女御集「后ノ宮ヨリ、あまがつヲ、云云、奉レタマヒケルヲ、返シタマフトテ、裳ナドヲ着セテ」 榮花物語、十六、本雫「あまがつナドノ、物言ヒテ動クトモ見ユ」 江家次第、十七、立太子「阿末加津、比比奈」 (二)後世ハ、轉ジテ、小兒ノ守トシテ、枕頭ニオク物トナル、幼兒ノ形シタル人形ナリ、コレヲ孺形トモ云フ。室町時代ニハ、白絹ニテ綿ヲ包ミテ作レリ、江戶時代ニハ、尺餘ノ竹筒ニ、白絹ニテ頭ヲ作リツケ、又、尺餘ノ竹筒ヲ、其下ニ橫タヘテ、兩肩トシ、白絹ノ小袖ヲ着ス、小袖ニハ、金銀ニテ、鶴、龜、松、竹、寶盡シ、ナドヲ畫ク。御產之規式(室町時代)「あまがつノ事、はふこトモ云ヒ、又、孺形トモ云フ、是ハ若子ノ御傍ニ置キテ、惡事災難ヲ、コノあまがつニ負ハスルナリ、若子ノ形代也、云云、白練ノ絹、云云、端ヲ丸ク縫ヒメグラシテ、綿ヲ入レテ、糸ヲ引キシムレバ、毬ノ如ク丸クナル、ソレヲ頭ニスルナリ、又、白練ノ絹、云云、綿、云云、胴ニスル也、手足モ出來ルナリ、云云、小ク白キ褥ヲ敷キテ、其上ニウツムケ、ハラバヒニシテ置クナリ」(古事類苑) 雍州府志(天和)七、土產門、下、服器部、表揷囊「天兒、以ニ白絹ニ造ニ偶人首ニ、建ニ之於ニ尺餘竹筒頭ニ、又別以ニ尺許竹筒ニ橫ニ首下ニ、是爲ニ肩」 合類節用(元祿)七、器財門「天倪、俗云、伽婢子」

あま-がっぱ (名) 【雨合羽】 台羽ノ條ヲ見ヨ。

あま-かは (名) 【雨皮】 〔貞丈雜記、八、雨皮「根本ハ、毛皮ヲ用ヒタル故ニ、雨皮ト云フカ」トアレド、皮トハ、唯、包ム意ニテ、云フナルベシ〕 牛車、又、輿ノ屋形ノ雨覆。卽チ、油單ナリ、下ニ、張筵ト云フヲ張リテ、其上ニ覆フ、白絹ニテ作リ、油ヲサス。コレヲ持チテ、行列ニ從フ者ヲ、雨皮持ト云フ。山伏ナドノ携フルあまかはト云フハ、桐油紙ニテ作ル。西宮記、臨時、八、車「雨皮、公卿以上車張ニ之」 物具裝束抄、雨皮「面、練、薄青染ニ之、裏、油、裏、白生絹」 鈴抄、車、輿、雨皮「先、下ニ張ニ張筵ニ、其上ニ張ニ雨皮ニ也、輿車圖考、四、唐車「張筵トハ、むしろヲはりテ、雨ヲ除クル也」 謠曲、安宅「強力ガ負ヒタル笈ヲ、篋取テ肩ニ懸ケ、笈ノ上ニハ、雨皮、形箱、取リツケテ、云云」 謠抄「雨皮ハ、厚紙ヲ、四枚ツギテ、油ヲ引ク也、云云、形箱ハ、經佛具ヲ入ルル箱也」 貞丈雜記、八「雨皮ハ、車ノ雨覆ノ油單也、古書ニ、參內ナドノ行列ニ、雨皮持トアルハ、右ノ雨皮ヲ持ツ役人也、云云、山伏ノ雨皮ハ、雨降ノ用意ノ、油單ノ事也」

あま-かは (名) 【甘皮】 〔淡皮ニテ、薄キ意ナルベシ、かはハ、はだナリ(檜皮葺)〕 樹、又ハ、果ノ內部ノ、薄キ皮。アマハダ。倭訓栞、あまかは「材木、又ハ、子實ノ粗皮ノ內ニ、又、甘皮ト云フアリ、實ト云フハ、稃也、又、あまはだト云フ」

アマカハ (名) 【阿媽港】 〔當字ニ、天川ト書ケル、訓ナリ、野史、二百九十、外國傳「往昔、此地有ニ神、名ニ亞媽ニ能保ニ護船舶ニ」上略シテ、媽港(Macao.)ト云フ、澳門、是レナリ〕 (一)支那ノ廣東省、香山縣ノ南海ノ、突出シタル半島ノ地。古クハ、我邦ニテ、又、あまかん、あまかうトモ呼ベリ。明代ノ嘉靖年中ニ、葡萄牙人、始メテ此地ニ來リ、支那人ニ請ヒテ、開港シ貿易ス、尋デ、此地ヨリ、我ガ邦ニモ、種種ナル貨物ヲ齎シ來ル、邦人ハ、南蠻人ト呼ビ、其船ヲ、黑船ト云ヒキ。合類節用(元祿)二、乾坤門「阿媽港(左訓、アマカン)南蠻種類」 增補華夷通商考(寶永)四八廿「亞媽港、唐韻、あまかん、日本ニテ、あまかう、俗、因テ、天川ノ字ヲ用テ、あまかわト云へリ、廣東國ノ南ニ當レル所ナル由、南蠻人、住居スト云フ」 和漢三才圖會(正德)十四「阿媽港、有ニ廣東之南ニ島也、云云、往昔、多來朝、齎藥方、及、菓子數種等、云云、自ニ彼國ニ初所ニ將來ニ乎」 (二)往時、前項ノ地ヨリ渡リシ珊瑚珠ヲ、阿媽港珊瑚珠ト云ヒキ、多クハ上略シテ、あまかはトノミ云ヘリ。傾城反魂香(寶永、近松作)中「蒔繪ノ印籠、あま

[illegible]（元祿）「好色ノ平田露、云云、あまかはノ二ツ玉」

あまかはもち（名）雨皮持　雨皮ヲ見ヨ。

あまがべに（名）[illegible]之紅　[illegible]云ハムガ如シ、おまんがべにトハ、訛リテ[illegible]ナリ。夕霞ノ、赤キコト。又、オマンガベニ。[illegible]空ニウツスヤ、天が紅粉」べに屋テハ、買ハヌあまさラが、紅粉ノ色[illegible]曰ニ尼紅粉」（二書共ニ、次條ノ尼が紅ト混ズ）後調[illegible]が紅、狼藉ナリ、小兒ハ、おまんがべにト云フ」

アマがべに（名）尼之紅　昔、年若キ尼アリ、頬紅ヲツケタルニ、[illegible]ト云フ傳說アリシガ如シ。[illegible]ル紅ヲ、カイヌグヒ」同「色好ミニゾ、心移セル」尼[illegible]ヤ母ニ言ハウヨ」

あまがへる（名）雨蛙　〔雨降ラムトスル時ニ鳴ク〕かへるノ一種、形小サク、色、淡綠、又ハ、灰褐ニ變ズルアリ、趾ノ指、三尖ニシテ、端ニ黑キ點アリ、吸盤トナリ、能ク樹ニ吸ヒツキテ登ル、雨降ラムトスル前ニハ、必ズ鳴ク、其聲、低シ、冬ハ、土中ニ蟄ス。[illegible]

アマがほ（名）尼顏　「尼ハ假粧セヌガ故ニ云フナルベシ」素顏ト云フニ同ジ。[illegible]

アマカン（名）[illegible]　あまかは（阿[illegible]）[illegible]

あまき（名）甘草　〔き（草）ノ條ヲ見ヨ、〕かんざう（甘草）ノ古名。[illegible]

あまぎ（名）雨着　衣服ノ上ニ着テ、雨ヲ防グニ用キル衣。雨衣、雨衣、雨羽織、雨合羽ナド、是レナリ。雨衣

あまぎずみ（名）天城炭　伊豆國、天城山中ヨリ燒キ出ス炭。堅良ノ上等ナルモノトス。

あまぎぬ（名）雨衣　昔、雨雪ノ時、他出ニ、裝束ノ上ニ着テ、雨濕ヲ凌ギタル衣服。白絹ニ油ヲヒキテ作ル、表ハ、油ナキ白絹ナリ。又、あまごろも。[illegible]紀「皆觀」遊遊」雨、左右進ニ油衣ニ」古今集、十七、雜[illegible]ノ鳥ニ、鶴鳴キ渡ル」

アマぎみ（名）尼君　〔父君、母君〕尼ヲ敬シテ云フ語。アマウヘ。アマゴゼ。[illegible]トナヤマシゲニ讀居タルあまぎみ、直人ト見エズ」

あまぎみづ（名）甘水　[illegible]ベキ水。[illegible]ノロヨリ、サクナダリニ下シタマフ水ヲ、甘水ト受ケテ、天下ノ公民ノ取作レル奧津御稻ヲ、惡水荒水[illegible]金銀、故若ニ此祭ニ之」[illegible]あまきみづ「祝詞ニ、[illegible]

あまぎらす　ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）天霧　〔あまぎらふ、あまぎる、ニ同ジ、あまくだす〕他動ナルベケレド、コレニテ、自動ナリ。次條ノ語ニ同ジ。[illegible]之、降リクル雪ノ、（如ク）消ヌベクオモホユ」

あまぎらふ　フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ（自動、四）天霧　〔きらふ（霧）ヲ見ヨ〕空、一面ニ曇ル。アマギラス。アマギル。[illegible]梧、降リクル雪ノ、（如ク）消ナメドモ、君ニアハムト、ナガラヘワタル」同、六、十長歌「天霧合、時雨ヲイタミ」

あまぎり（名）雨霧　霧ニシテ、終ニ降雨トナレルモノ。[illegible]ハ、[illegible]便無ミ、佐保山ニ、立ツ雨霧ノ、（如ク）消ヌベク思ユ」

あまぎる　ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）天霧　〔きる（霧）ヲ見ヨ〕空、曇ル。アマギラフ。アマギラス。古今集、六、冬「梅ノ花、ソレトモ見エズ、ヒサカタノ、天ぎる雪ノ、ナベテ降レレバ」新古今集、六、冬「カキクモリ、あまぎる雪ノ、フルサトヲ、積ラヌサキニ、訪フ人モガナ」

あまぐ（名）雨具　雨裝ノ具、雨天ニ出行ク時、身ニ裝フ笠、傘、合羽、足駄ナド。雨裝

あまくこん（名）甘九獻　〔九獻、又、九文字ノ條ヲ見ヨ〕甘酒ノ、女房詞。又、あま九文字。[illegible]九日「新大介ヨリ、あまくこんマヰル」伊豫殿ヨリ、あまくもじマヰル」

あまくさ（名）甘草　〔漢名、甘草ノ訓讀カ〕（一）かんざう（甘草）ノ一名。アマキ。[illegible]（二）[illegible]るあまちやノ一名。

あまくさど（名）天草砥　[illegible]ナルモノ[illegible]ズ。

あまくさやき（名）天草燒　肥後國、天草島ヨリ製出ス[illegible]子[illegible]ヲ作ル、頗ル精緻アリ、其地ニ、天草石トテ、原料トナルモノアリ。

あまくだす　ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）天降　〔天降ノ語ノ他動〕天ヨリ、國土ニ[illegible]

あまくだる　ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）天降　天ヨリ、國土ニ降ル。[illegible]歌「葦原ノ、瑞穗國ヲ、安麻久太利、知ラシメシケル、皇ノ、神ノ命ノ」源、五十二、手習「イミジキ天人ノ、あまくだれるヲ見タラムヤウニ思フモ」

あまくち（名）甘口　（一）口ニ、甘味ヲ感ズルコト。甘味「甘口ノ酒」（二）人ノ心ニ、旨ク適フヤウニ賺シ言フ語。甘言[illegible]スルイコトバ。「夜奴、フトイヤツダ、あまくちデハイカヌ」（四）鈍キ性質。鈍漢　八笑人（文政、瀧亭鯉丈）「あまくちナ野郎」

あまくちねずみ（名）甘口鼠　〔說文ノ[illegible]〕[illegible]あまくちねずみ「毒アレドモ、食ハルル[illegible]カラスナリ、鶏ト云フ[illegible]アリ、

云云、毒アレドモ、氣味ハ、極メテ甘キモノ也」」 はつかねずみノ古言ナリト云フ。 倭名抄、十八廿二「說文云、鼷鼠、小鼠也、食二人及鳥獸一雖レ至レ盡不レ痛、今謂二之甘口鼠一、阿末久知禰須美」 廣雅「鼷鼠、郭璞曰、有二螫毒一也」 倭訓栞、あまくちねずみ「今云フ、廿日鼠也ト云ヘリ」

あまくにのはうけん（アマクニノホウケン） (名) 天國寶劍 刀鍛冶ノ祖トスル、天國ト云フ者ノ鍛ヘタル刀ノ稱。稀世ノ寶物トス、此人ヨリ、刀ニ銘ヲ切ルコトトナリシト云フ、平家ノ重代ノ小烏丸ト云ヒシ刀ハ、天國ノ作ナリト言ヒ傳フ。 古刀銘盡大全、二、大和「天國、大寶頃、宇多郡住、平家重代、小烏丸作」(文武天皇、大寶頃ノ人トスレド、其子ノ鍛工、天座ハ、淳和天皇、天長年間ノ人ナリト云フ、本朝軍器考(新井白石)八ニモ、年代ノ考アリ) 相州兵亂記、四、上杉敗北、并、龍若最後之事「憲政、景虎ヲ養子ニシテ、上杉重代ノ太刀、天國、并、系圖ヲ渡シ、關東ノ管領ヲ讓リタマフ」(上杉憲政、長尾景虎)

あまぐも (名) 天雲 天ノ雲。雲トノミ云フニ同ジ。 萬葉集、三廿二「天皇御二遊雷岳一之時、柿本人麿作歌「皇ハ、神ニシマセバ、天雲ノ、雷ノ上ニ、廬スルカモ」 同、二十十一「安麻久母ニ、雁ゾ鳴クナル、高圓(山)ノ、萩ノ下葉ハ、モミヂアヘムカモ」 同、十一四十五「ウラブレテ、物莫思ヒソ、天雲ノ、(如ク)猶豫フ心、吾ガ思ハナクニ」 同、十三三十五 長歌「天雲ノ、(如ク)ユクラユクラニ、蘆垣ノ、(如ク)思亂レテ」 後撰集、十六、雜、二「天雲ノ、(如ク)浮キタル事ト、聞キシカド、ナホゾ心ハ、空ニナリニシ」

あまぐも (名) 雨雲 降雨ニ伴フ雲。 萬葉集、十八三十二 天平感寶元年閏五月、大旱「至レ于二六月朔日一、忽見二雨雲之氣一、仍作二雲歌一云云」 新六帖、一、五月雨「日數經テ、行キツモリヌル、あまぐもノ、カヘリワヅラフ、五月雨ノ空」

あまくもご (名) 廿九文字 あまくこんノ條ヲ見ヨ。

あまぐり (名) 甘栗 「出典ノ江家次第ニ、平栗ト見ユ、干シテ搗チテ平メタルモノカ、干セバ甘クナル、即チ、後ニ云フ、かちぐりナラム、著聞集、三三ニ、節會ニ、內辨、かちぐりヲ取ルト云フコト見ユ、甘ク煮タルニハアラジ」 (一)〔大臣大饗ノ時、主上ヨリ賜ハル栗ノ實ノ稱。藏人、コレヲ奉ズ、甘栗の使ト云フ。 江家次第、二、正月、大臣家大饗「藏人到二中門一、(以二家司一令レ奉二蘇甘栗等一)云云、盛用二折櫃二合一、一合、蘇、大、二、小、二、一合、平栗、大、八、中、八、各居二土高坏一」(蘇ハ、酪ナリ、其條ヲ見ヨ) 侍中群要、八、蘇甘栗使事「大臣家大饗、內藏人奉レ仰、召二仰出納一、令レ調二蘇甘栗等一」 枕草子、五、四十五段「六位ノ藏人コソ、ナホメデタケレ、云云、大饗ノあまぐりの使ナドニ參リタルヲ、モテナシ饗應シタマフ狀、云云」 (二)小粒ノ栗ヲ、沙礫ヲ入レタル釜ノ中ニ入レテ蒸シ、適當ノ溫度トナリタル後、之レヲ取上ゲテ、砂糖、又ハ、舍利別ニテ、甘味ヲ加ヘタルモノ。

あまぐるま (名) 雨車 芝居ニテ、雨聲ヲ擬シテ發セシムルニ用キル具。圓徑二尺五寸許ノ絲繰車ノ外部ヲ、板ニテ包ミ、其內ニ、沙利ヲ入レ、把手ヲ取リテ回轉スレバ、雨ノ降ル音ヲ成ス。

あまけ (名) 雨氣 雨ノ降ラムトスル空合。アマモヨホ。雨意。 源、三十三、藤裏葉二「イトド打チシメリテ、あまけナリト、人人ノサワグニ」 夫木抄、十九、雨「東風吹ケバ、あまけニ集フ、浮雲ノ、搔集メテゾ、物ハ悲シキ」

あまご (名) 甘子 鮎ニ似タル魚。 倭訓栞、あまご「伊勢國、菰野ニ產ズ、鮎ニ似タル魚也、每年六月十六日、御登川ニ網シテ、太神宮ニ獻ルト云ヘリ」 語彙、あまご「嘉魚ノ類、長サ七八寸、香魚ニ似テ、黑赤ノ小斑アリ、似嘉魚」

あまご (名) 甘子 鮭ノはらら子。(はらら子ノ條ヲ見ヨ)

アマごしょ (名) 尼御所 皇女ノ、尼トナリテ、一寺ノ住持トナリタマヘルノ稱。又、其寺。又、比久尼御所。 草茅危言(寬政、中井積善)一、皇子皇女ノ事「皇女、云云、中古ヨリ、尼トナラセタマフ事、次第ニ多クナリ、後世、尼御所ノミ相增シテ、御幼齡ヨリ、尼ト定マリタマフ」 雲上明覽(慶應)比丘尼御所「大聖寺、烏丸通、上立賣」 曇華院、東洞院、三條上ル」 靈鑑寺、鹿ケ谷」 圓照寺、南都」 中宮寺、南都法隆寺內」(外、十餘箇寺アリ)

アマごぜ (名) 尼御前 〔御前ノ條ヲ見ヨ、あまぜノぜハ、ごぜノ略ナリ、姉御前ヲ、あねごト云フ、下略ナリ〕 尼ノ敬稱。又、あまぜ。アマウヘ。アマギミ。 盛衰記、十二、靜憲法印參二鳥羽殿一事「此尼ぜト申スハ、云云、一生不犯ノ女房ニテオハシケレバ、臣下モ、君ノ御氣色ニ依テ、尼御前トハ、カシヅキ呼バハレケルヲ、法皇ハ、唯、あまぜト仰セケル」 平家物語、十一、先帝御入水事「ソモソモあまぜ(二位尼)、ワレヲバ、イヅチヘ具シテ行カムトハスルゾ」 藩翰譜、十二、上、金吾中納言秀秋「太閤ノ御使トシテ、尼、孝藏主、入リ來リ、云云、筑前ノ國ヲカヘシ奉リテ、越前ノ地ニ移ルベシトアリケレバ、中納言、大ニ怒テ、ヤア尼前、秀秋ガ身ニ、國奪ハレム罪、覺エナシ、速ニ首ヲ刎ネラルベウ候ト申セ、尼前、トテ追ッカヘサル」

あまごひ（アマゴイ） (名) 雨乞 旱天ノ時ニ、雨ノ降ラムコトヲ、神佛ニ祈リ乞フコト。祈雨。雩。請雨 朝廷ニテ、祈雨ノ御祭事ヲ、雨乞の祭ト云ヒ、又、藏人ヲ遣サレ、神泉苑ニテ、雨乞セシメラルルヲ、雨乞の使ト云ヒ、又、陰陽師ヲシテ、五龍祭ヲ行ハセラルルヲモ、雨乞の祭ト云フ。 皇極紀、元年六月「是月大旱」 八月「天皇幸二南淵河上一、跪拜二四方一、仰レ天而祈、即、雷大雨、遂雨五日、溥潤二天下一、於レ是天下百姓、俱稱二萬歲一曰二至德天皇一」 天武紀、下、六年五月「是月旱之、云云、雩之」 持統紀、二年七月「請雨、不二崇朝一遍雨二天下一」(名義抄ニ「雩、アマゴヒ、アマヒキ」トアルハ、ココノ請雨ノ訓ノ、落字ナラムカ) 小町集、日ノ照リ侍リケルニ、あまごひノ和歌、詠ムベキ宣旨アリテ「千早振ル、神モ御坐サバ、立チサワギ、天ノ戶川ノ、樋口明ケタマヘ」 月刈藻集、天下、雨降ラデ、歎キケル頃、和泉式部、神泉苑ニテ詠ミケル「理ヤ、日本ナレバ、照リモシツ、あめガ下トハ、人モ言ハズヤ」カク詠ミケレバ、大雨降リテ、萬民喜ビヌ」(古事類苑) 臨時祭式「祈雨神祭」 禁祕御抄、下、祈雨「先以二藏人一令レ拂二神泉苑一、承レ仰行向、率二人夫一、先池邊石水灑、高聲一同云、雨タベ海龍王、(たべハ、給べ、賜ヘナリ)云云、又、陰陽師奉レ仕二五龍祭一、一名二雩祭一」 註「或於二神泉一祭レ之」 月詣集、七、雜、上、平實盛「藏人ニテ侍リケルニ、あまごひのつかひニテ、雨降ラシテ、大內ニ參リケレバ、定長、藏人ニテ、紅ノ御衣ヲ取リテ、被ケテ侍リタリケル、云云」 著聞集、五、和歌、伊豫國ニテ、夏ノ初、旱ス、能因法師、國司ノ勸ニテ、和歌ヲ三島神社ニ奉ル「天ノ川、苗代水ニ、塞キクダセ、天降リマス、神ナラバ神」天俄カニ曇リテ、大ナル雨降ル」(節文) 五元集(其角)牛島、三遶ノ神前ニテ、雨乞スル者ニ代リテ「夕立チヤ、田ヲ見メグリノ、神ナラバ」翌日、雨降ル。(墨水消夏錄ノ上ニ、元祿六年六月廿八日ノ事ニテ、ゆたかノ字ヲ、折句ニシテ詠メリ、トアリ)

あまごひどり（アマゴイドリ） (名) 雨乞鳥 水鳥ノ名。 大和本草(元祿)十五、水鳥「雨乞鳥、其形如レ雀、其毛如二火焰之赤一、性好レ水、天欲二陰雨一則仰レ天飛鳴、山中人占レ之、以爲二雨兆一」

あまごもり (名) 雨隱 雨ニ降リ籠メラレテアルコト。アマツツミ。 萬葉集、八四十「雨隱、心イブセミ、出デ見レバ、春日ノ山ハ、色ヅキニケリ」 同、十五三十八「安麻其毛利、物思フ時ニ、ホトトギス、我ガ住ム里ニ、來鳴キトヨモス」 同、六廿七「雨隱、(笠ノ序)三笠ノ山ヲ、高ミカモ」

あまごろも (名) 天衣 天人ノ、天ノ羽衣。 六帖、二「あまごろも、撫ヅル千年ノ、巖ヲモ、

クシキモノト、我ガ思ハナクニ」こふのいし(戀石)ノ條ヲ見ヨ。

あまおろも (名) 雨衣 雨衣ノ條ヲ見ヨ。

あまおろも (名) 海人衣 海人ノ着ル衣。[illegible]乾ル時ヤナキ」新續古今集、十五、[illegible]五[illegible]ろも、[illegible]身ニダニ濡ルル、袖ノウラ哉」

アマおろも (名) 尼衣 尼ノ法衣。[illegible]五十二、手習六十「あまおろも、カハレル身ニヤ、アリシ世ノ、カタミノ袖ヲ、カケテシノバム」孟津抄「尼ニナリタル身ナレバ、カカル裝束ヲ見テ、昔ヤ偲バムトナリ」

あまさうぞく (名) 雨裝束 雨裝。アマジタク。檜垣嫗集「迎へ人、蓑笠ナドアリ、トクトクトイソガセバ、云云、あまさうぞくナド、シサシテ」

あまさかさま (名) 顚倒 〔天下さかさまノ意〕宇津保物語、忠杜[illegible]た、さかさまニナルトモ、カカルコトアラジ」 理非ノ、顚倒ナルコト。又、天[illegible]さかさま。平治物語、三、[illegible]頼朝ノ命乞「清盛聞キテ、池殿ノ御事ハ、故殿ノ渡ラセタマフト思ヒ奉レバ、如何ナルあま逆ノ仰ナリトモ、違フマジトコソ存ズレドモ、此事ハ、由由シキ重[illegible]あまさかさまニ[illegible]クヒカヘタリケルニ、ヤガテ、アガリテ役ゲケルニ、てんさかさまニ[illegible]

あまざかる (枕) 天離 [illegible](雲居ノ遠ナドノ意)トツヅク。ソノひノ音ヲ、鄙ニモカケテモ用キルナリト云フ」 日、又、鄙ト云フ語ノ枕詞。[illegible]

[illegible]、云、安[illegible]、比奈ニ一日モ、アルベクモアレヤ」(越中國ナリ)

あまざけ (名) 甘酒 [illegible]類ナルベシ、字類抄「醴、アマザケ」トアルハ、一夜酒ノ醴酒ナリ、玉篇「醴、甜酒也」漢書、楚元王傳、註「醴、甘酒也」ナドトアル、訓讀ナルベシ」 一種ノ醸造物。今、普通ニハ、糯米ヲ炊ギタルニ、倍量ノ麹ヲ加ヘテ、掻キマゼ、桶ニ入レ、微温湯ヲ加ヘテ、粥ホドニシテ、ヨクヨクマゼ、蓋ヲシテ、布團ニクルミナドシテ、温氣ヲ與ヘ、一二日ノ後、上ニ、山吹色ノ水ノ浮ブヲ度トシテ、榨ラズシテ、涌カシテ飲ム、甚ダ甘シ 其製法ニ、尚、種種アリ。[illegible]

あまさへ (副) 剩 あまりさへノ條ヲ見ヨ。

あまざらし (名) 雨曝 (一)雨天ニ曝ラスコト。[illegible]ノ、あまざらしスル、布ト見ツルハ」(二)覆フ物ナク、雨ニ濡ルルママニ、濡ラシオクコト。

あま・し・キ・ケレ・ク・ク (形、二) 淡 〔淡しノ轉、のたまはく、のたうまく(宣)。おはす、おます(座)。あまいハ、音便ナリ(長し、ながい)〕(一)淡シ。鹽氣淡シ。あまい」「あま[illegible]ノ魚、あま[illegible]」[illegible]合フ、濱ノ水ノ、ウマケレバ、片方モ潮ハ、あまきナリケリ」(二)鈍シ。鋭カラズ。鈍 東北院職人歌合[illegible]ハ、なまし刀ノ、[illegible]まみ、思ヒキレドモ、切ラレザリケリ」「刀ノ切味ガあまい」(三)寛シ。ゲツロギアリ。確トセ[illegible]

[illegible]「大[illegible]甘而不固」「釘ガあまい」「蓋ガあまい」(四)緩シ。ヌルシ。キビシカラズ。緩慢「[illegible]ガあまい」子ニ甘見ガあまい」(五)愚ナリ。[illegible]あまい見ナド云フ」([illegible]ハ、頑ナリ、かみかたしノ反、かしらかたしノ條ヲ見ヨ)「人ヲあまく見ル」(侮ル)あまい[illegible]」

あま・し・キ・ケレ・ク・ク (形、二) 甘 〔旨し[illegible]ト通ズ〕(一)〔砂糖、飴ナドノ味アリ。[illegible]アマシ[illegible]旨ク[illegible]乘リ[illegible]

あまじし (名) 瘜肉 〔剩肉ノ義、おくみハ、凝滿肉(凝る、滿く、ノ語根)ニテ、凝リテ滿キ出ヅル肉ノ意ニモアラムカ、朝鮮語ニ、疣ヲ、こくト云フトゾ〕又、おくみ。皮膚ニ突出スル肉、小豆ノ如ク、又、[illegible]ノ如キモノ。倭名抄、三[illegible]中息肉」同、廿一十「治三婦人陰中瘜肉一」[illegible]コクミ」トアリ」大祓詞「國津罪トハ、云云、白人、胡久美」[illegible]

あまじたく (名) 雨支度 雨具ヲ着ケテ、雨ニ濡レヌ用意スルコト。アマヨソヒ。雨裝

あまじたり (名) 雨滴 〔あまたりハ、あまたりノ約、さくくむ、さくむ〕雨ノシタタリ。アマダリ。アマダレ。字鏡「霤、[illegible]」[illegible]之太利」

あまじのかみ (名) 雨師神 「あまじハ[illegible]稱。水神ナリ。炎旱、霖雨ノ時ハ、奉幣セラル。字類抄、[illegible]「丹生川上、ニブノカハカミ」[illegible]丹生川上雨師社、雨師ノ字、東雅ニ見ユ」

あまじほ (名) 甘鹽 〔淡しノ條ノ(一)ヲ見ヨ〕魚肉ナド、淡ク鹽漬ニシタルモノ。淡醃 北山抄、四、皇太子元服「甘鹽魚」字類抄「白鹽、アマジホ」

あまじみ (名) 雨染 物ノ、雨水ニ染ミテ、汚點ヲ生ジタルモノ。[illegible]おみ」

あまじめり (名) 雨濕 霖雨ノ頃、物ニ濕氣アルコト。[illegible]五月雨の心をよめる、[illegible]あまおめりセリ」

あましもの (名) 餘物 (一)使用ヨリ餘シタル物。不用ナル品。[illegible]後撰、[illegible]あましもの「長物ヲ剩メリ、老子經、註ニ、[illegible]」(二)無用ナル者。モテアマス者。あますノ條ノ(二)ヲ見ヨ。

アマしやうぐん (名) 尼將軍 征夷大將軍頼朝ノ室、平政子ノ呼名。[illegible]位尼(政子)逝去シタマヒケリ、春秋六十九歳、右臣實朝公ノ御母ナリ、[illegible]頼朝卿薨去ノ後、天下ノ後見[illegible]世ヲ取行メ、諸人、皆、恐レシタガヒ、尼將軍ト申セ

シ」(節文)

あま-しやうじ (名) 雨障子　あぶらしやうじニ同ジ。

あま・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) 餘 〔「あまる」ノ他動(至る、いたす)」〕(一)餘ルヤウニナス。ノコス。古事記、下(允略)二十「三諸(山)ニ、築クヤ玉垣、築キ阿麻斯」(二)モテアマス。類政集「天ノ原、朝行ク月ノ、(如ク)イタヅラニ、世ニあまさルル、ココチコソスレ」方丈記「時ヲ失ヒ、世ニあまさレ」

あま-ず (名) 甘酢　酢ニ、煮切味醂ト醬油トヲ合セ、普通ノ三杯酢ヨリハ、淡味ニ作リシモノ。料理ニ用キル。

アマ-ぜ (名) 尼前　あまごぜノ條ヲ見ヨ。

あま-そぎ (名) 天削 〔高ク聳ユル意カ、(斷岸絶壁)又ハ、あまそそるト通ズル語カ〕峯ノ、高キコト。八雲御抄、三、上「あまそぎ、峯ノ高キヲ云フ」倭訓栞、あまそぎ「喜撰式ニ、若詠ニ高峯一時、あまそぎト云フ、ト見エ、同式ノ長歌ニ、あまのそそきのきしかげさ、ト見エタリ」

アマ-そぎ (名) 尼削　さげあまノ條ヲ見ヨ。

あま-そそぎ (名) 雨注　アマジタリ。アマダリ。アマダレ。點滴 檐滴 催馬樂、東屋「アヅマヤノ、マヤノ餘リノ、安萬會會支、我レ立濡レヌ、外戸開カセ」源、十五、蓬生二「あまそそぎモ、ナホ、秋ノ時雨メキテ、打チソソゲバ」

あま-そそ・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 天聳 〔そそるヲ見ヨ〕高ク空ニ聳ユ。萬葉集、十七四十「越中立山ノ長歌「白雲ノ、千重ヲオシワケ、安麻會會里、高キ立山、冬夏ト、別クコトモナク、白妙ニ、雪ハ降リオキテ」

あま-た (副) 數多 〔あまハ、餘るノ語根、餘又ノ約ナルベシ(大和モ、山間處ノ約ナラム)〕(一)數、多ク。オビタダシク。允恭紀、八年二月「小形、錦ノ紐ヲ、解キ放ケテ、阿麻哆ハ寐ズニ、唯一夜ノミ」萬葉集、十一五十「數多アラヌ、名ヲシモ惜シミ、埋レ木ノ、下ユゾ戀フル、行方知ラズテ」(二)甚シク。痛ク。萬葉集、七六十「鳥ジモノ、海ニ浮キ居テ、沖津波、騷グヲ聞ケバ、數悲シモ」同、十二三十八「草枕、旅行ク君ヲ、人目多ミ、袖振ラズシテ、安萬田悔シモ」

あまた-かへり (副) 數多返　次ノ條ヲ見ヨ。

あまた-くだり (名) 數多件 〔一具シタルヲ、ひとくだりト云フ〕幾具。源、四十八、寄生五十三「女ノ裝束ドモ、あまたくだりニ、云云、絹、綾ナド取具シタマフ」

あまた-たび (副) 數多度　タビタビ。シバシバ。數度。又、あまたかへり。數回 貫之集「人ニ、文、遣リケル女ノ、イカガアリケム、あまたたび、返辭モセザリケレバ」源、五、若紫三「瘧病、云云、あまたたび發リタマヒケレバ」同、四十六、總角五十三「御文ハ、明クル日毎ニ、あまたかへり、奉ラセタマフ」

あまた-とし (名) 數多年　多クノ年月。源、四十六、總角二「あまたとし、耳馴レタマヒニシ川風モ、此秋ハ、イトハシタナク、物悲シクテ」狹衣、四、下二十九「あまた年モ、過ギニケレバ、イトヲカシゲナル御子ドモ、多カル」

あま-だひ (名) 甘鯛　頭、方ニヒシゲテ、眼ノ上、高ク起リ、嘴尖リ、身狹ク、鱗、鰭、淡赤クシテ靑ミアリ、長サ七八寸ヨリ一尺七八寸ニ至ル、肉、白ク脆ク、味、甘ク美ナリ。生干ニシテ、興津鯛ト云フモノ、最モ旨シ。方頭魚　本朝食鑑(元祿)十「南蠻志、方頭魚、甘鯛也」物類稱呼(安永)二「甘鯛、畿内、西國、東武、共ニ、あまだひト呼ビ、云云、駿東ニテ、興津鯛ト呼ブ」

あま-だり (名) 雨垂 〔たりハ、四段活用ノ垂るノ名詞形〕次條ニ同ジ。アマジタリ。宇治拾遺、一、十七條「不動尊、シバシ、あまだりニオハシマセト云ヒテ、搔キ抱キテ、あまだりニツイスユ」(コレハ、あまうち、即チ、あまだれおちヲ云フト見エタリ)

あま-だれ (名) 雨垂　雨水ノ、檐ナドヨリ垂レ落ツルモノ。アマダリ。アマジタリ。タマミヅ。イトミヅ。霤 雨滴 點滴 檐滴　易林節用(慶長)乾坤「霤」

あまだれ-おち (名) 雨垂落　雨垂ノ、落チテ、打チアタルトコロ。アマウチ。アマオチ。「雨垂落の蜆貝」(曝 タリ)洒落れて居るノ謎。

あまだれ-びやうし (名) 雨垂拍子　物ヲ叩クニ、雨垂ノ落ツル音ノ如ク、定間ニ叩クコト。即チ、變化ナキ拍子ナリ、雨滴調ナド云フベキカ。コレヲ誤リテ、亂レテ、節ニ合ヌ拍子ニ云フコトアリ、但シ、雨滴ニモ、遲速アルコトナキニシモアラズ。

あま-ぢ (名) 天道 (一)天上ノ通路。萬葉集、十廿六「夕星モ、通フ天道ヲ、イツマデカ、仰ギテ待タム、月人壯」(月人男ハ、月ノ事ナリ、其條ヲ見ヨ)同、五七「ヒサカタノ、阿麻遲ハ遠シ、默默ニ、家ニ歸リテ、業ヲシマサニ」(コレハ、唯、天ヘハ上リ得ジト云フ意)(二)佛說、六道ノ一、天上道ノ訓讀。萬葉集、五四十「布施オキテ、我レハ乞ヒ祈ム、欺カズ、直ニ率行キテ、阿麻治知ラシメ」(死セル幼兒ノ魂ヲ、天上道ニ導キタマヘ、ト佛ニ願フナリ)

あま-ちや (名) 甘茶 〔古ヘ云ヒシ甘葛煎、是レナルベシ、あまづらノ條ヲ見ヨ〕(一)黃色ニシテ、甘味アル煎汁。夏、土常山ノ葉ヲ摘ミ取リテ、蒸シ揉ミテ、靑汁ヲ去リ、干シテ茶ニ製ス、四月八日、灌佛會ノ時、煎ジテ香湯トシ、釋迦ノ銅像ニ注グ、甘露ニナゾラフルナリ、又、綾股藍ニテモ作ル、此汁ヲ飮メバ、功德廣大ナリトテ、諸人競ヒテ、家ニ持チ歸ル。甘茶ハ、又、醬油ノ製造ニモ用キテ、甘味ヲツクル料トス。藝苑日渉(寬政、村瀨之熙)六「四月八日、寺院爲ニ浴佛會ニ以ニ盆坐ニ銅佛ニ浸以ニ甜茶水ニ覆以ニ花亭ニ隨喜者、以ニ小杓ニ灌ニ佛」守貞漫稿、廿七、四月八日灌佛會「三都トモ、諸所ノ佛寺ニテ、花御堂ヲ作リ、誕生佛ニ、甘茶ヲソソグコト也」(二)木あまちや、蔓あまちやヲ略シテ、あまちやトノミモ云フ、各條ヲ見ヨ。

あまちや-づる (名) 甘茶蔓　つるあまちやヲ見ヨ。

あま-つ (連體) 天津 〔天ノ條ノ語原ヲ見ヨ〕天のト云フニ同ジ。天ノ條、參見スベシ。天津神、天津風、ノ類ノ語、各條ヲ見ヨ。

あまつ-いはさか (名) 天津磐境 〔磐ハ、堅固ナル意カ、(磐座)又ハ、齋ふノ語根カ、境ヲ、さかトノミモ云フ、其條ヲ見ヨ〕神ノ鎭リマス所ノ區域。樹ヲ植ウ、即チ、神籬ナリ。神代紀、下十四「高皇産靈尊、因勅曰、吾則起ニ樹天津神籬、及、天津磐境、當下爲ニ吾孫ニ奉齋上矣」

あまつ-えだ (名) 天津枝　親王ノ御異稱。八雲御抄、三、下、異名部「親王、あまつ枝」下學集(文安)上、人倫「竹園、天枝、帝葉、共指ニ親王ニ」倭訓栞、あまつえだ「天皇ノ連枝ノコト、親王ヲ申奉ルト云ヘリ、漢ニ、金枝玉葉ナド云フモ、同意也」

あまつ-かぜ (名) 天津風　空ヲ吹ク風。

天風 古今集、十七、雑、上「天つ風、雲ノ通路、吹キ閉ヂヨ、ヲ女ノ姿、シバシトドメム」(三)五節ノ舞ニ云ヘ[illegible]あまつ[illegible]

あまつ-かなぎ (名) 天津金木 [illegible]ヲ見ヨ。[illegible]ソキ木ノ枝。[illegible]ニ[illegible]ノ[illegible]ヲ作ルニ云フ[illegible] [illegible]

あまつ-かみ (名) 天津神 〔天津神ノ社ヲ、あまつやしろト云ヒ、国津神ノ社ヲ、くにつやしろト云フガ如シ〕 天ニマシマス神。父ハ、天神ナリマセル神。[illegible]神。天神、国土ニ生レマセル神ヲ、國神ト云フ。國津神。[illegible]フ。天津神、國津神ノ社ヲ、[illegible]ト云ヒ、國津神ノ社ヲ、國津社ト云フ。又、天津神、國津神ヲ指シテ、天津社、國津社トモ云フ。[illegible]

[illegible]神)葛木鴨、(事代主命)出雲大汝神(大己貴神)等類、[illegible]月「阿麻豆可未、御孫尊」倭名抄、二十「地祇、久爾豆[illegible]へナ、あまつかみニ、祇ル国カナ」[illegible]、十七[illegible]ノ神、[illegible]ヲ、皇ミタマハナ」古事記、中(崇神)「定二[illegible]奉[illegible]

[illegible]崇神紀、元年二月二、神祇ノ字ニ、同訓ナリ)

あまつかみ-の-よごと (名) 天神壽詞 〔[illegible]ノ條ヲ見ヨ〕天神ヨリ傳ヘ來レル[illegible]詞ノ意、中臣壽詞トハ、中臣氏ノ人ノ、專職トシテ、奏シ奉レバ云フナリ」

[illegible]中臣氏ノ[illegible]中臣壽詞[illegible]

[illegible]一台記別記ノ康治元年十一月十六日ノ條ニ、中臣[illegible]ト云ヘ[illegible]ンテ、[illegible]ノ[illegible]テフンナア、[illegible]ノモノナリ。

あまつ-きつね (名) 天狗 〔[illegible]、あまつきつね「日本紀ニ、天狗ヲ訓メリ、星ノ名ナリ、其[illegible]、諸書ニ見エタリ、サレバ、カカル妖怪ニ因リテ、狐トハ訓ズルナルベシ」星ノ名、天狗ノ條ヲ見ヨ。[illegible]九年二月「大星從レ東流レ西、便有レ音似レ雷、云云、是[illegible]

あまつ-きり (名) 天津霧 「天霧ト同意」[illegible]空ニ立ツ霧。[illegible]マソニナミ、[illegible]ルベ[illegible]

あまつ-くに (名) 天津國 [illegible]ノ[illegible]ス所。[illegible]

あまつ-け (名) 甘漬 〔[illegible]漬ノ[illegible]カ、漬し〕(一)漬物ノ名。古ク云ヘルハ、あまし塩ニ漬ケタルモノナルベシ。[illegible] (二)香物ノ名。淺漬大根ノ類。[illegible]アマヅケ [illegible]

アマッ-あ (名) 尼子 尼ノ條ノ(四)ヲ見ヨ。

あまッ-さへ (副) [illegible] あまりさへノ音[illegible]

あまつ-しるし (名) 天津[illegible] 〔[illegible]〕[illegible]玉ヲモ、[illegible]ト申シ[illegible]天ノ[illegible]、[illegible]ニ引キ[illegible]ヘタルコソ、八咫鏡(眞經津鏡)ト、天叢雲劍(草薙劍)ト、八坂瓊曲玉(神璽)トヲ申ス語。後ニ、寶鏡ハ、內侍所ニ安セセラレタマヒ、寶劍ト神璽トヲ、天皇ノ御身ニ副ヘマツリ、コレヲ、劍璽ト申ス[illegible]ヲ見ヨ)[illegible]

[illegible]之[illegible]紀略、後篇、一、延長八年九月廿二日「天[illegible]

あまつ-しるし (名) 天表 天上ノ物ナル徴信。古事記、中[illegible]云云、[illegible]九[illegible]長髄[illegible]

あまつ-しるし (名) 天印 〔あめのおしでヲ併セ見ヨ〕天河ニ就キテ云フ語。天河ヲ、牽牛星ト織女星トヲ隔テテ、一年ニ一度ナラデハ、逢フコトヲ得マジキ[illegible]標示ト定メラレタル川ニ云ヘリ。[illegible]集、[illegible]「水無川トハ、天河ヲ、水無キ[illegible]コトニ云ヘ[illegible]天之河原ニ、アラタマノ、月ヲ累ネ[illegible]

テ、[illegible]ニ逢フ、云云」(三)ハ、定ノ義ナリト云フ)

あまつ-すがそ (名) 天津菅麻 [illegible]ソク割キテ、麻トシタルモノ。古ヘ、祓[illegible]ニ[illegible]ヲ[illegible]レ[illegible]

あまつ-そで (名) 天津袖 天[illegible]ノ羽衣ノ袖。五節ノ舞姬ノ袖ニ云フ。[illegible]廿一、[illegible]云ヘリ」(こふのいし(碁石)ノ事ニ寄セテ云ヘリ、[illegible]

あまつ-そら (名) 天津空 〔あまつみそらハ、みそらノ條ヲ見ヨ〕(一)天。空。[illegible]サカタノ、あまつそらニモ、住マナクニ、人ハヨソニ[illegible]エニ、コチタクモ、天三空ハ、曇リアヒッツ」(二)雲ノ上。禁中。古今集、十九、長歌「人丸コソハ、ウレシケレ、身ハ下ナガラ、言ノ葉ヲ、あまつそらマデ、聞エアゲ、末ノ世マデノ、跡トナシ」(三)ウハノソラ。萬葉集、十二[illegible]立居スル、方便モ知ラニ、[illegible]一、[illegible]「夕暮ハ、雲ノハタテニ、物ゾ思フ、あまつ[illegible]

あまつ-たふ (枕) 〔あまつ・ト・ウ・ふ・コ・ハ・ハ・ヒ・ヘ〕[illegible]〔島傳ふト云フ語モアリ〕[illegible]ヒユク。空ヲメグル。[illegible]ふ、入日サシヌレ」同、三、長歌「ヤスミシシ、吾ガ大君、高光ル、日ノ御子、敷キ坐ス、大殿ノ上ニ、ヒサカタノ、天傳來ル、雪ジモノ、(行キノ序)行キ通ヒツツ、彌重キイマセ」同、七「印南野ハ、往キ過ギヌラシ、天傳、(日ノ序)日笠浦ニ、波立テル見ユ」

あま-たる-い (形) 甘[illegible] [illegible]ひだゆし、かひだるし、かったるいモ[illegible]

イ。略シテ、タルイ。「砂糖蜜ハあまったるい」

❖❖アマッちょ (名) [尼女] 〔尼女ノ急呼(太女、小女)〕少女ヲ貶メテ呼ブ、江戸ノ卑語。尼ノ條ノ(三)ヲ見ヨ。

あま-つ-つみ (名) [天津罪] 〔罪トハ、穢ヲモ云フ、罪ノ條ヲ見ヨ〕(一)神代ニ、素戔嗚尊ノ、天上ニテ犯シタマヒシ罪。此國土ノ人ノ犯セルヲ、國津罪ト云フ。大祓詞「天津罪止八、畔放、溝埋、樋放、頻蒔、云云、許許太久乃罪乎、天津罪止宣別氣氏、國津罪止八、生膚斷、死膚斷、白人、胡久美、云云、許許太久乃罪出武」大祓詞後釋、上「天つ罪、國つ罪、云云、實ハ、一ツニテ、差別アルマジキコトナレドモ、彼須佐之男命ニ祓ヲ負セタルゾ、祓ノ起リニテアレバ、彼神ノ、ソノカミ、天ニテ犯シタマヒシ類ノ罪ヲバ、此國ニテモ、天つ罪ト名ヅケテ、別ケ云フナリ」古語拾遺「神武天皇東征之年、云云、令ミ天種子命解ミ除天罪國罪事ー」註「國罪者、國中人民所レ犯之罪」源順集、六月祓「夏草ニ、ハラヒカクレド、久堅ノ、あまつつみトハ、露ヤ消ヌラム」(二)朝命ノ所罰。天罰。繼體紀、廿一年八月、物部麁鹿火、筑紫國造磐井ヲ征ス「詔曰、大將、民之司命、云云、恭行ニ天罰ー」

あま-つつみ (名) [雨障] 〔障むノ條ヲ見ヨ〕雨ニ降リコメラレ、家ニ隱リ居ルコト。アマゴモリ。萬葉集、四、廿八「雨障、常爲君ハ、ヒサカタノ、昨夜ノ雨ニ、懲リニケムカモ」ヒサカタノ、雨モ降ラヌカ、雨乍見、君ニ副ヒテ、此日暮サム」新六帖、五、人をとどむ「歸ルサヲ、あまつつみシテ、待テシバシ、濡レナバ袖ヲ、人ゾ怪メム」

あま-つ-のりと (名) [天津祝詞] のりとおとノ條ヲ見ヨ。

あま-つばめ (名) [雨燕] 〔あまどりノ條ヲ見ヨ〕古名、アマドリ。今、又、ヤマツバメ。タウツバメ。オホツバメ。形、常ノつばめヨリ大キクシテ、兩翼、尾ヨリ長シ、全身黑ク、腰部白シ、足ハ、短ク小サクシテ、腹ノ羽ニ隱ル、雨降ラムトスル時、空中ニ群リ飛ビテ、蟲ヲ捉ル、深山ニ棲ミ、秋ニ至リ、南方ニ向ヒテ去ル。

あま-つ-ひ (名) [天津日] 日。太陽。玉葉集、十八、雜、五「あまつひノ、光ハ淸ク、照ラス世ニ、人ノ心ノ、ナドカ曇レル」

あま-つび (名) [雨粒] あまつぶヲ見ヨ。

あま-つ-ひたか (名) [天津日高] 〔古事記傳ニ、天津日嗣知シメサルル尊稱、虛空ト云フハ、天ト地トノ中間ナル故ニ、皇太子ヲ申スナルベシ、トアリ〕天子ノ尊稱。太子ヲ、虛空津日高ト申ス。古事記、上、六十豐玉毘賣命「白ニ其父ー曰ミ吾門有ニ麗人ー」(海神自出見云、此人者、天津日高(瓊瓊杵尊)之御子、虛空津日高矣、(穗穗出見尊)即於レ內率入」日本書紀通證、七「今按、天津日高者、天子之稱、虛空津日高者、太子之稱」古事記、上、五十六「空津日高」(火遠理命)同七十二「天津日高日子波限建鵜葺草葺不合命」

あま-つ-ひつぎ (名) [天津日嗣] 天皇ノ御系統ヲ承ケサセタマフコト。天津日ノ大御神ノ、「吾子孫可レ王之地」ト宣ヘル大御命ヲ承ケ繼ガセマシテ、大御國ニ天皇トマス大御業ヲ稱ヘ奉ル尊稱ナリ。又、あまのひつぎ。天位。此大御業ヲ嗣ギタマフベキ儲ノ皇子ヲ、日嗣御子ト申ス。古事記、上、五十六「天神御子之天津日繼」神代紀、下、十「寶祚」神武紀、八十「天皇卽ニ帝位於ニ橿原宮ー」仁賢紀、元年正月「卽ニ天皇位ー」萬葉集、十八、廿二長歌「高御座、安麻能日嗣ト、天ノ下、知ラシメシケル、天皇ノ、神ノ尊ノ」續紀、三十、神護景雲三年九月、宇佐大神ノ託宣「天之日嗣、必立ニ皇緒ー」

あま-つ-ひもろぎ (名) [天津神籬] ひもろぎヲ見ヨ。

あま-つ-ひれ (名) [天津領巾] 天津少女ノ、衣ノ上ニ着ル領巾。萬葉集、十八、二十「秋風ノ、吹キタダヨハス、白雲ハ、棚機女ノ、天津領巾カモ」

あま-つぶ (名) [雨粒] 又、あまつび。雨ノ一粒、一粒。雨滴。名義抄「滴、渧、アマツビ」(埤蒼「渧、滴水也」)「あまつぶガ、着物ニカカッタ」

あま-つ-ほし (名) [天津星] 〔天ニカカリテアル星〕星ト云フニ同ジ。古今集、五、秋、下「久方ノ、雲ノ上ニテ、見ル菊ハ、あまつ星トゾ、アヤマタレケル」

あま-つ-みおや (名) [天津御祖] 〔天祖ハ天孫ニ對ス、親ノ條ノ(二)參照〕天皇ノ御遠祖。天照大神ヨリ御歷代、鵜草葺不合尊マデノ尊稱。天祖。神武紀、二「我天祖彥火瓊瓊杵尊」古語拾遺「高皇產靈神所レ生之女、名曰ニ栲幡千千姬命ー」註「天祖、天津彥尊之母也」(瓊瓊杵尊)

あま-つ-みかど (名) [天津御門] 皇居ノ御門。萬葉集、二、卅三高市皇子ノ殯宮ノ長歌「明日香ノ、眞神ノ原ニ、久堅ノ、天津御門ヲ、畏クモ、定メタマヒテ、神サブト、磐隱リマス」(但シ、コレハ、御墓ヲ、皇居ノ御門ニ準ヘテ云ヘルナリ)

あま-つ-みそら (名) [天津深空] あまつそらノ條ヲ見ヨ。

あま-つ-みづ (名) [天津水] 〔天水・雨水〕天ノ水。卽チ、雨。雨。萬葉集、十八、二十長歌「雨降ラズ、日ノカサナレバ、云云、安麻都美豆、仰ギテゾ待ツ」同、二十七長歌「天ノ下、四方ノ人ノ、大船ノ、(如ク)思ヒ憑ミテ、天水、(序)仰ギテ待ツニ」

あま-つ-め (名) [天女] 〔海津女ナルベキカ、又ハ、天人ニ譬ヘテ云ヘルカ〕海若ノ神ノ女。繼後紀、十九、嘉祥二年三月、長歌「澄江ノ、淵ニ釣セシ、皇ノ民、浦島ノ子ガ、天女ニ、釣ラレ來リテ、紫ノ、雲タナビキテ、時ノ間ニ、率テ飛ビユキテ」萬葉集、九、十八詠ニ水江浦島子ー長歌「海境ヲ、過ギテ漕ギ行クニ、海若ノ、神ノ女ニ、タマサカニ、イ漕ギムカヒ、相語ラヒ、云云、墨吉ニ、還リ來リテ、家見レド、家モ見カネテ、云云」

あま-つ-やしろ (名) [天津社] 天津神ノ條ヲ見ヨ。

あま-づら (名) [甘葛・味葛] 〔つらハ、蔓ナリ、其條ヲ見ヨ、土佐ニテ、あまかづら〕古へ、甘味ノ料ヲ取リシ植物ノ名。後世ニ云フ、絞股藍ナルベシ。古昔、砂糖ナカリシ時ニ、甘葛ノ莖、葉ノ汁ヲ取リ、煎煉シテ、食物ニ甘味ヲツクル料トシテ、甘葛煎ト云ヒ、ソレヲ略シテ、あまづらトノミモ云ヒキ、味煎ト云フモ、是レナリ。甘葛煎ハ、又、合薰物ニモ、香ト和シテ用キラレキ。字鏡、三十九「蘿、蔦、甘豆良」倭名抄、二十四、廿葛類「蘇敬本草注云、千歲虆、云云、得ニ千歲ー者、莖大如レ碗、阿末豆良、俗用ニ甘葛ー」(華ハ、藥ノ誤、瑣會「藥、蔓也」)本草和名、上十二「千歲虆汁、阿末都良」倭名抄、十六、六十酥蜜類「本草云、千歲虆汁、味、甘平無レ毒、云云、阿末豆良、本朝式云、甘葛煎」類聚雜要抄、卷四ニ、甘葛煎方ヲ委シク載セタリ。東大寺正倉院文書、十七、駿河國、天平十年正稅帳「味葛煎貳斗」大膳職式、諸國貢進菓子「伊賀國、甘葛煎一斗、遠江國、甘葛煎二斗、駿河國、甘葛煎二斗、云云、太宰府、甘葛煎七斗」(總ベテ、二十一箇國ヲ載セタリ)江家次第、五、二月、季御讀經「每ニ夕座ー侍臣施ニ煎茶ー(衆僧相ニ加甘葛煎ー)」宇津保物語、藏開、上、四十二「一斗バカリノ金ノ瓶二ツニ、一ツニハ蜜、一ツニハあまづら入レテ、黃バミタル色紙覆ヒテ」枕草子、三、廿六段、あてなるもの「削氷ノ、あまづらニ入リテ、新ラシキ金鋺ニ入レタル」著聞集、十八、飲食「二月ノ事ナリケルニ、雪ニあまづらヲカケテ、二品ニ勸メラレケリ」(壬生二位藤原家隆)薰集類抄、上「梅花、擬ニ梅花之香ー也、云云、被レ合ニ梅花一劑ー香、十五兩二分三朱、甘葛、合定十六兩一分三朱」(古事類苑)

アマ-づら (名) [案摩面] 器物ニツクル

[illegible]ノ、一種ノ製ノ名。 [illegible]

あまづらせん (名) 甘葛煎 前前條ヲ見ヨ。

あまつをとめ (名) 天津少女 (一)アマヲトメ。アマビト。天人。天女 新古今集、十七、雜、中「ヒサカタノ、あまつをとめガ、夏衣、[illegible]」 (二)五節ノ舞姫。 夫木抄、十八、[illegible]「[illegible]リナキ、雲ノアカリニ、見ツルカナ、あまつをとめノ、[illegible]」

アマデラ (名) 尼寺 尼ノ居ル寺。比丘尼寺 [illegible]

あまてら・す ・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) 天照 (一)[illegible]條ノ語ノ敬語(照る、てらす、知る、しらす)」 (一)天照ラシタマフ。 [illegible] (二)天ノ下、知シメス。 [illegible]天照之治、[illegible]故滅、此大臣之力奈利」

あまてらすおほみかみ (名) 天照大御神 [前條ヲ見ヨ] 大日孁貴神ノ尊稱。又、天照御神、天照大神、天照皇大神。天皇ノ皇祖ニマシマシ、伊勢國、大神宮ノ内宮ニ祀ラレサセタマフ。 神代紀、上六二 [illegible]

[illegible]「モノハカナキ心ニモ、常ニあまてる御神ヲ念ジ」[illegible]表衣、同、下「あまてる神ノ御ケハヒ、イチジルク、現ハレ出デタマヒテ」

あまて・る ・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 天照 天空ニ照ル。[illegible] 天照月ハ、神代ニカ、出デカヘルラム、年ハ經ニツツ」同、十五「ヒサカタノ、[illegible]月ハ、見ツレドモ、[illegible]」

あまてるかみ (名) 天照神 前前條ヲ見ヨ。

あまてるみかみ (名) 天照御神 あまてらすおほみかみヲ見ヨ。

あまど (名) 雨戸 家ノ周ノ、椽側、入口、又、窓ニ、雨ヲ防グニ、又ハ、夜中ニ、閉ヅル戸。多クハ、敷居、鴨居、一本溝ニテ、繰行ニ作レリ。[illegible]エタリ」

あまどころ (名) 甘野老 [根、ところニ似テ、味、甘シ] 古名、エミグサ。アマナ。宿根草。春、山ニ生ズ、莖、高サ一二尺ヨリ四五尺ニ至ル、形、なるこゆりニ似タリ、但シ、葉、稍大ニシテ三稜アリ、本ハ紫ニシテ、末ハ青ク、節、紫黒ナリ、葉、互生シ、[illegible]ニシテ長ク、[illegible]道アリ、質温ク、光ラズシテ白ミアリ、初夏ニ淡緑花ヲ開ク、花、實ノ形状、なるこゆりニ似タリ、根、白クシテ、横ニ這フ、長キハ、尺餘ニ至ル、味、甘ク、生ニテモ食フベシ、[illegible]ヲ製出ス。カラスユリ、[illegible]サ、アマナ、アマドコロ、カラスユリ」

あまどひ (名) 雨樋 [illegible]テ、雨垂ヲ承ケシムル、細長キ樋。

あまど・ぶ ・ブ・ベ・バ・ビ・ベ (自動、四) 天翔 [illegible]

あまどり (名) 雨鳥 [雨降レバ群飛ス] あまつばめノ古名。 [illegible]

あまな (名) 甘菜 (一)青菜、薺ナド、味旨キ菜ノ總稱。[illegible]ト云フ。 新年祭祝詞「六野ノ原ニ生フル物ハ、甘菜、辛菜、云云」 (二)白薇ノ古名。 (三)[illegible]ノ古名。 (四)[illegible]ノ古名。 (五)麻黄ノ古名。 (六)山慈姑ノ一名。 [illegible]八「山慈姑、アマナ、トウロウバナ」

あまなっとう (名) 甘納豆 [東京ノ新製ナリ] 東京、日本橋、[illegible]、榮太樓、[illegible]田安兵衛ノ創製セシモノ、濱名納豆ヲ、濱納豆トモ云フヲ、モヂリタル名ト云フ、形状、相似タリ] 菓子ノ名。[illegible]さげヲ蜜漬ニシ、皮ノ破レズヤウニ、[illegible]ニ貯ヘ、白砂糖ヲ塗シタルモノ。

あまな・ふ ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (自動、四) 和 [illegible] スル意ナルベシ」ウベナフ。アマンズ。[illegible] 二段ニモ活用シテ、他動詞トモナリシナリ。[illegible]

あまにんゆ (名) 亞麻仁油 [亞麻ノ實ヲ搾リテ製ス] [illegible]黄褐色ニシテ、[illegible]印刷用ノいんき、ぺんき、ナドニ用ヰラル。

あまねく (副) 遍 [illegible]ヲ見ヨ」

あまね・し キ・ケレ・ク・ク (形、一) 遍普 [あハ、發語、ま數多しノ義、[illegible]見ヨ(さ數多し、お諄し)」マネシ。アマネシ。[illegible] 續紀、七年八月「[illegible]天下、[illegible]」 萬葉集、八「シグレノ雨、間ナクシ降レバ、[illegible]ねきオホンウツクシミノ波、八洲ノ外マデ流レ」[illegible]

あまねは・す ・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) 遍 [前條ノ語ヲ、他動詞ニ活用ス] [illegible]

あまの (名) [illegible] 天野酒ヲ見ヨ。

あまの (接頭) 天乃 [illegible]

ノ條ヲ見ヨ。

あま-の-いのち (名) 〔天命〕 〔天命ノ字ノ訓讀ナルベシ〕 あまの命を拾ふ、トハ辛ウジテ生キタルヲ云フ。狂言記、伯母酒「オソロシヤ、オソロシヤ、云云、あまの命を拾うた」倭訓栞、後編、あまのいのち「天命ノ謂ナルベシ」語林類葉(清水浜臣)あま「今、俗言ニ、死ヌヘキ人ノ、思ヒガケズ、命生キタルヲ、あまのいのちを拾ひシト云フ」

あま-の-いはくすぶね (名) 〔天磐櫲樟船〕 「楠ニテ造リシ船ナルカ、神代紀、上九十ニ、櫲樟ヲ浮寶(船)トスベシト云フ事アリ、磐トハ、堅固ナル義ナルベシ、年久シキ楠ハ、石ニ化ス、ト云フ意ニハアラジ」 神代ニ、二尊ノ、御子蛭兒ヲ載セテ、流サレシト云フ船。神代紀、上九「伊弉諾尊、伊弉冊尊、次生二蛭兒一、雖二已三歳一、脚猶不レ立、故載二之於天磐櫲樟船一、而順レ風放棄」

あま-の-いはくら (名) 〔天磐座〕 〔磐トハ、堅固ナルヲ稱フル語ト云フ〕 高天原ナル大殿ニテ、皇御孫ノ坐シマシシ御座。神代紀、下五「皇孫(瓊瓊杵尊)乃離二天磐座一(阿麻能以簸矩羅)云云、天降二於日向襲之高千穂峯一矣」古事記、上廿六「離二天之石位一」神武紀二「瓊瓊杵尊闢二天關一、云云、辟止」通證「あまのいはと」ト讀ムベシ」

あま-の-いはと (名) 〔天岩戸〕 〔いはハ、堅固ナル意、とハ、門ノ義トモ解セラル、大祓詞ニ、磐門、神武紀ニ、天關トアリ(關門、水門)〕 天石屋ノ御戸。又ハ、其御門。あまのと。神代紀、下廿「瓊瓊杵尊、則引二開天磐戸一、排二分天八重雲一」(古語拾遺)「天津神(瓊瓊杵尊)被二天磐門一、排二天八重雲一」云云、二十十長歌「…ヒサカタノ、安麻ノ戸開キ、高千穂ノ、嶽ニ天降リシ、皇ノ、神ノ御代ヨリ」神武紀二「瓊瓊杵尊闢二天關一、披二雲路一、駈二仙蹕一以戾止」(天關、あまのいはとト訓ムベシ) 李白詩「太白與レ我語、爲レ我開二天關一」

あま-の-いはふね (名) 〔天磐船〕 いはふねノ條ヲ見ヨ。

あま-の-いはや (名) 〔天石屋〕 〔萬葉集、二十十五「久方ノ安摩ノ戸開キ」古事記傳、「石トハ、タダ堅固ヲ云ヘルニテ、天之石位、石靫、天磐船ノ類ニテ、尋常ノ殿ヲ、カク云ヘルナルベシ、云云、日本書紀ニ、岩窟トアル文字ニ拘ルベカラズ」〕 高天ノ原ニアリシト云フ大殿ノ稱。其御戸ヲ、天石屋戸、又、天磐戸ト云フ。(其條ヲ併セ見ヨ) 神代紀、上廿七「天照大神、云云、發慍、乃入二于天石窟一、閉二磐戸一而幽居焉、故、六合之内、常闇而、不レ知二晝夜之相代一」云云、天鈿女命、云云、立二於天石窟戸之前一、巧作二俳優一」云云」古事記、上廿「天照大御神、開二天石屋戸一而刺許母理坐也」

あま-の-いはやど (名) 〔天石屋戸〕 前條ヲ見ヨ。

あま-の-うきはし (名) 〔天浮橋〕 〔はしハ、階梯(梯子)ナリ、虚空ニカカレルニ因リテ、浮階ト云フカト云フ、(舟橋ノ浮橋ト異ナリ)浮雲ナド云フ語モアリ〕 神代ノ神話ニ、天ト地トノ間ニカカリタル階梯ナリト云フ。神代紀、上四「伊弉諾尊、伊弉冊尊、立二於天浮橋之上一、共計曰、底下豈無レ國歟」云云、(一書「天浮橋者、天橋立、是也」)(天橋立ヲ見ヨ) 同、下五「天忍穂耳尊、立二於天浮橋一而臨睨之曰、彼地未レ平」(葦原中國ナリ) 同卷、五「瓊瓊杵尊、云云、天降二於日向襲之高千穂峯一矣、云云、自二槵日二上天浮橋一、立二於浮渚在平處一」云云」播磨國風土記、賀古郡、益氣里「有二石橋一、傳云、上古之時、此橋至レ天、八十人衆、上下往來、故曰二八十橋一」

アマ-の-おもて (名) 〔案摩面〕 あま(案摩)ノ條ヲ見ヨ。

あま-の-かぐや (名) 〔天加久矢〕 あまのまかごやヲ見ヨ。

あま-の-かごや (名) 〔天鹿兒矢〕 あまのまかごやヲ見ヨ。

あま-の-かごゆみ (名) 〔天鹿兒弓〕 あまのまかごゆみヲ見ヨ。

あま-の-がは (名) 〔天河銀河〕 晴夜ニ、大空ニ、長クワタリテ、白ク光リテ、川ノ如ク、又、帶ノ如ク見ユルモノ。無數ノ小恆星ノ集合ナリ、秋ノ晴レタル夜、最モ善クアラハル。倭名抄、一ニ「天河、天漢、銀河、阿萬乃加八」廣雅「天河、謂二之天漢一」 此河ヲ渡リテ、牽牛星ト織女星ト、一年ニ一回、七月七日ニ相逢フト云フ、支那ノ傳説アリ、我ガ邦ニ傳ヘテ、七夕祭ナド云フ事アリ、たなばたノ條ヲ見ヨ。萬葉集、八二十「七夕歌、天漢、相向立チテ、吾ガ戀ヒシ、君來マスナリ、紐解キ設ケナ」(養老八年七月七日ノ詠)

あま-の-かるも (名) 〔海人刈藻〕 海人ノ刈取レル海藻。古今集、十八、雜、下「幾代シモアラジ我ガ身ヲ、ナゾモカク、あまのかるも(ノ如ク)ニ、思ヒ亂ルル」 千五百番歌合、十八「ハテハタダ、あまのかるもヲ、宿リニテ、枕定ムル、夜夜ゾナキ」

あま-の-こ (名) 〔海人子〕 〔子ハ、女ヲ云フ語、こ(子)ノ條ヲ見ヨ〕 (一)海人ノ女。萬葉集、五二十「漁スル、阿末能古ドモト、人ハ云ヘド、見ルニ知ラエヌ、(知ラレタリ)貴人ノ子ト」(肥前ノ松浦河ニ釣スル女子アリ、花容雙ナシ、山上憶良ガ、誰ガ家ノ兒ゾト問ヒタルニ、答ヘタル詠ナリ、女子ハ、相二逢貴客一、豈可レ非二偕老一哉ナド云ヘリ) 蜑子物語ト云フ書アリ、實物集(治承)五十「難波ノ浦ノ蜑子ハ、十六年ト云フニ、鎌力ニ依テ、兼光少將ノ妻ト生レ合ヒタリトゾ、海人子の物語ニハ中シタルゾ」トアリ、萬葉集ノ歌ヲ據トシテ作リタルニハアラジカ。(二)船ニ住ミテ世ヲ過ス意ヨリ、流女、遊女ヲ、あまのこト云ヘリ。朗詠集、下、遊女「白波ノ、寄スル渚ニ、世ヲ過ス、あまのこナレバ、宿モ定メズ」(新古今集、雜、下) 六百番歌合(建久)三番、寄二遊女一戀「誰レトナキ、浮寐ヲ忍ブ、あまの子モ、思ヘバ淺キ、恨ミナリケリ」

あま-の-さかて (名) 〔天逆手〕 〔鐘の響(橘守部)三、「逆ハ借字ニテ、榮手ノ義ニコソハアレ、云云、其爲ス術事ニ榮アラセムトテ、手ヲ拍チテ物スルヲ云フ」豐榮昇るナドノ榮ナリ、天の逆桙ナドモ、榮桙ナルベシ、(逆手ト考ヘテ、種種ノ說アレド、皆附會ナルガ如シ)あまのトハ、天ニテスル事ノ、傳ハリ來レル由ヲ云フナリト云フ〕 事ノ成就ヲ誓ヒテ、手ヲ拍ツコト。今モ、約束ノ成ル時、賣買ノ價ノ決スル時、手品ノ變化ヲ呪フ時ナド、手ヲ拍ツコト、其遺ナリト云フ。古事記、上五十「事代主神ノ、御父大國主神ノ領シタマヘル此御國ヲ、皇孫命ニ避ケ奉ルトテ「語二其父大神一言、恐之、此國者、立二奉天神之御子一、卽蹈二傾其船一而、天逆手矣於二青柴垣一打成而隱也」(船ノ、柴垣ニ變ゼムコトヲ呪ヒシナリ) 伊勢物語、九十六段ニ、「今ハムト約セシ女ノ、約ヲタガヘテ去レルニ「カノ男ハ、あまのさかてヲ拍チテナム、詛ヒ居ルナル」(詛ノ成ラムコトヲ期待スルナリ) 新勅撰集、十五、戀、五「イカニセム、あまのさかてヲ、打チカヘシ、恨ミテモナホ、飽カズモアルカナ」

あま-の-さかほこ (名) 〔天逆桙〕 〔さかほこハ、榮桙ノ義ナラム、前條ノ語原ヲ見ヨ〕 桙ヲ稱ヘテ云フ語。元元集(北畠親房)

[illegible]第ノ國ニ、宮所ヲ求メタマヒシ時、五十鈴ノ河上ニ、[illegible]

[illegible]山ノ東ノ、高千穗ノ峯ニ、高サ六、七尺、周圍、一尺許ノ銅製ノ金剛杵(獨鈷)ノ形シタルヲ、逆サマニ立テタルアリ、コレヲ天逆鉾ト云フ、佛徒ナドノセシワザトオボシ、[illegible]金剛寶杵ニナドアルヨリ、擬設セシナラム」

あまの-さぐめ (名) 天探女 「さぐハ、探ル、[illegible]女神ノ名。[illegible]日子ノ門ニ居テ、天稚ノ語ヲ告ル「天佐具賣、[illegible]女、探二他心一多二窺思一也」萬葉集、三「久方ノ、天之探女之、石船ノ、泊テシ高津ハ、淺セニケルカモ」[illegible]

あまの-さけ (名) 天、野酒 昔、河内國[illegible]

[illegible]リ)只[illegible]正月、[illegible]

あまの-ざこ (名) 天邪古 〔天の邪鬼ノ[illegible]リト云ヘド、神代紀ノ女神ト、佛說ノ鬼ト、似付カヌヤウナリ、別ニ語原アルベキカ、倚、勘考スベシ、[illegible]ヲ見セヨ」仁王尊ノ、足下ニ蹈マヘテ居ル小鬼ノ稱。又、あまのざこ。[illegible]金剛ノ踏マヘタルハ、小惡鬼ナリ、佛書ニ出デタリ、ソレヲ、あまのざやこト云フハ、世俗ノ誤ナリ、神代紀ニ、天探女(天探女ノ誤)トモフヲ、あまのさこト云フナリ、兩台躰ハ、二王ノ事、語童子ハ、あまのざこ[illegible]也、ト見エタリ」

あまの-さへづり (名) 海人囀 さへづり(囀)ノ條ヲ見ヨ。

あまの-ざく (名) 天邪久 〔天探女ノ轉ナルベシト云フ、ソレハ、心ノネヂケタル、神代ノ女神ノ名ナリ、(其條ヲ見ヨ)サレバ、今俗ノ此語、元ハ女ニ云ヒシモノカ、[illegible]二時代懸隔セルヤウニモ思ハル、倚、前

前條ヲ參見スベシ」心ノ[illegible]ケタル者ヲ呼ブ語。他人ノ言行ニ悖ヒテ、故意ニ、[illegible]

[illegible]書、天探女ヲ誤リ傳ヘタル語ナルベシ」

あまの-ざこ (名) (一)あまのざこ[illegible](二)蟲ノ名。あまんざく(釣[illegible])ヲ見ヨ。

あまの-たくなは (名) 海人縮繩 縮く(四段活用)ヲ見ヨ。

あまの-たけち (名) 天高市 「たけちハ、たかいち、たきち、たけちト轉ジタル語、(闇道、くけち。清、けうら)稜威道別(橘守部)六、「天高市、高市ハ、今ノ俚言ニ、人ノ集マルヲ、人だかいト云ヒ、虫ノ[illegible]見ヨ、[illegible]大和國、高市郡、[illegible]都中ノ高市ノ地ニ、[illegible]會ノ地ナリ、[illegible]リ」天上ノ都會ノ地。高天原ニテ、諸神ノ集會ノ處。[illegible]

あまの-たむざけ (名) 天甜酒 たむざけノ條ヲ見ヨ。

あまの-だる (名) 天野樽 天野酒ヲ[illegible]ニ用キタル[illegible]、片手[illegible]云フ、[illegible]

あまの-と (名) 天門 (一)あまのいはと

ヲ見ヨ。(二)天河ノ水門。[illegible]

あまの-なはたき (名) 海人[illegible](四段活用)ノ條ヲ見ヨ。

あまの-ぬぼこ (名) 天瓊矛 〔ぬハ、瓊、[illegible](北條ヲ見ヨ)[illegible]ほこ(矛)[illegible]

あまの-はぐるま (名) 天羽車 はぐるまヲ見ヨ。

あまの-はごろも (名) 天羽衣 [illegible]ト云フ、[illegible]「天人衣[illegible]衣。着テ虛空ヲ翔ル、着ザレバ翔ルコト能ハズト云フ。(天人ノ條ヲ併セ見ヨ)[illegible]

道春)ニ三保松原著、在ニ有渡濱ニ云云、按、風土記、古老傳云、昔有ニ神女一自ニ天降來、曝ニ羽衣於ニ松枝ニ漁人拾得、云云、神女乞ν之、漁人不ν與、云云、遂與ニ漁人ニ留ニ夫婦ニ云云、其後、一旦、女取ニ羽衣ニ乘ニ雲而去(駿河風土記ノ逸文ナリ、謠曲ノ羽衣、此事ヲ演ズ) 袖中抄、十六「與古の海ニ、着ツツ馴レケム、少女子ガ、あまのはごろも、干シツラムヤハ」(曾丹集ニ、田子の浦にトアリ) 後拾遺集、二十、神祇「有渡濱ニ、あまのはごろも、昔シ着テ、振リケム袖ヤ、今日ノ祝子」竹取物語「天人ノ中ニ、持タセタル箱アリ、あまのはごろも入レリ」拾遺集、五、賀「君ガ代ハ、天の羽衣、稀レニ着テ、撫ヅトモ盡キヌ、巖ナルラム」こふのいし(劫石)ノ條ヲ見ヨ。

あまのはごろも (名) 天羽衣 〔前條ニ、丹後ノ眞井ニモ、近江ノ餘胡ノ湖ニモ、天人ノ、天羽衣ヲ脫ギテ、水ニ浴ス、ト云フコトアルニ因リテ、此稱アルカ〕大祭ノ時ノ御沐浴ニ、主上ノ召サルル御湯帷子ノ稱。江家次第、十五、大嘗會「治曆長元御記、作ν著ニ天羽衣ニ入ν令ニ下ニ御 湯ニ給、又以ニ一領ニ奉ν拭」同、十、新嘗祭「主殿寮供ニ御湯ニ縫司供ニ天羽衣ニ」建武年中行事、六月十一日御神事(神今食)「御舟ニ、御湯帷子召シテ入ラセタマフ、三杓召シテ、天の羽衣(註、御ゆかたびらナリ)舟ノ中ニ脫ギステテ、更ニ、又、内藏寮ノ御湯帷子召シテ、アガラセタマフ」

あまのはしだて (名) 天橋立 〔はしだてハ、階梯(梯子)ナリ、其條、並ニ、天浮橋ノ條ヲ見ヨ〕丹後國、與謝郡、宮津灣(古名、與謝海)ノ中央ヲ橫截スル、細長キ沙嘴ノ名。長サ廿七町四十間、幅、三十間、不同ノ處モアリ、沙嘴上、一帶ニ、蒼松叢生シテ、奇觀ヲ呈ス、日本三景ノ一トス。(其條ヲ見ヨ)此沙嘴ハ、神代ニ云ヘル、天浮橋ノ倒レタルモノナリト云フ傳說アリ、然レドモ、此地ノ天橋立ノ稱、平安朝中世ノ頃ヨリ見エ、萬葉集、古今集ニ吟詠ナシ、三景ノ稱ノ起リシハ、遙ニ後ナルガ如シ。釋紀、五、述義、一、丹後國風土記「與謝郡、郡家東北隅方、有ニ速石里一、此里之海有ニ長大石前一、長二千二百廿九丈(尺ノ誤カ)廣、或所、九丈以下、或所、十丈以上、二十丈以下、云云、伊射奈藝命、天爲ニ通行ニ而梯作立、故云ニ天梯立一、神御寢坐間仆伏、云云、恠ν之、天浮橋者、天橋立也」續後紀、十九、嘉祥二年三月、長歌「久方、天能梯建、踐歩美、天降利坐志志、大八洲、天津日嗣能、高御座」(瓊瓊杵尊ノ、天浮橋ヨリ天降リマシタルヲ云ヘルナリ) 名所補翼抄「村上ノ御時、菊合日記云、二番ノ方、云云、天の橋立ノ形ヲ造リテ、松ニツケタリケル歌、云云」(大日本地名辭書) 赤染衞門集「思フコト、ナクテヤ見マシ、與射ノ海ノ、天のはし立、都ナリセバ」續後撰集、一、春、上「神代ヨリ、カハラヌ春ノ、シルシトテ、霞ミワタレル、天のうき橋」

あまのはじゆみ (名) 天櫨弓 〔櫨弓ハ、梓弓、槻弓ノ類〕櫨ノ木ヲ村トシテ造レル弓。古事記、上五十「天若日子持ニ天神所ν賜天之波士弓、天之加久矢ニ射ニ殺其雉ニ」神代紀、下十七「天鹿弓」同卷九十「鹿、此云ニ波茸ニ」(鹿ハ、くちなしニテ、小木ナレバ、弓ニ作ラレズ、不審ナリ)

あまのははや (名) 天羽羽矢 次條ヲ見ヨ。

あまのははゆみ (名) 天羽羽弓 〔天尾羽張ノ太刀ト同意ナルベシ〕太キ弓ナルベシ。此弓ニテ射ル矢ヲ、天羽羽矢ト云ヒシガ如シ。(まきき弓ノ矢ヲ、まき矢ト云フ類) 舊事記、五、天孫本紀「天羽羽弓」神代紀、下三「天稚彥乃取ニ天羽羽矢ニ射ν雉斃ν之」(前文ノ) 古事記、上四十九「天之波波矢」神武紀五十「長髓彥、即取ニ饒速日命之天羽羽矢一隻、及、步靫ニ以奉ν示ニ天皇ニ」

あまのはぶき (名) 天羽鞴 〔はぶきハ、羽吹ノ義、羽ハ、皮ノ義、(皮ノ語原ヲ見ヨ)即チ、吹革(ふいがう)ナリ、天原ノ器ナレバ、あまのト云フ、眞名ハ、鹿ヲ美稱スルナリ(愛子ヲ、眞名子ト云フ)〕鞴ノ古言。神代紀、上十二「全ニ剝ニ眞名鹿之皮ニ以作ニ天羽鞴ニ」

あまのはら (名) 天原 〔原ハ、廣キ處ノ義〕(一)天ヲ、廣大ナルニ就キテ云フ語。萬葉集、三廿七長歌「駿河ナル、富士ノ高嶺ヲ、天原、振放ケ見レバ」同、十九十長歌「天原、振リサケ見レバ、照ル月モ、滿チ缺ケシケリ」振りさけ見ればヲ略シテ、萬葉集、十四四十「安麻乃波良、富士ノ柴山、木ノ暮ノ、時移リナバ、逢ハズカモアラム」新古今集、一、春、上「天の原、富士ノ煙ノ、春ノ色ノ、霞ニナビク、曙ノ空」爲忠集「天の原、渡リワタル、初雁ハ、雲スヂカフテ、横ヲレニケリ」(二)天ツ神ノ座シマス所。高天原。天ツ國。神代紀、上卅二「便謂、弟所ニ以來一者、非ニ是善意ニ必當ν奪ニ我天原ニ」(第八、素戔嗚尊) 古事記、上廿六日神石屋戶隱リ「天原自闇」(三)天皇ノ御殿。大宮。タカマノハラ。祈年祭祝詞「宮柱太知立、高天原爾、千木高知氏、皇御孫命乃、瑞能御舍乎仕奉氏」(造リ奉リテ) 萬葉集、二廿 天智天皇御不豫ノ時、皇后ノ、宮中ニテノ御歌「天原、振リサケ見レバ、大君ノ、御命ハ長ク、天足ラシタリ」上代ニハ、屋ノ上ヨリ、繩綱ヲ、長ク繫ク垂レテ、家ノ固メトシタリ。

あまのひつぎ (名) 天日嗣 あまつひつぎノ條ヲ見ヨ。

あまのまかごや (名) 天眞鹿兒矢 次條ヲ見ヨ。

あまのまかごゆみ (名) 天眞鹿兒弓 〔眞ハ、發語、(柴眞柴。熊野、眞熊野)鹿兒ト云ヒテ、唯、鹿ノコトナリ、猪ヲ、ゐのししトモ云フ、獵ニ、猪、鹿ヲ射取ルニ用ヰル、大キナル弓ナラムト云フ、ソレヲ、戰時ニモ用ヰシナルベシ、加久矢ト云フハ、通音ナリ(黃金、くがね)〕弓ノ、大キナルモノナルベシ。又、天鹿兒弓。コレニ用ヰル矢ヲ、天鹿兒矢ト云フ。又、鹿兒矢、加久矢。(天羽羽弓ノ矢ヲ、天羽羽矢ト云フ例) 神代紀、下二「天照大神勅ニ天稚彥ニ曰、豐葦原中國、是吾兒可ν王之地也、云云、汝先往平ν之、乃賜ニ天鹿兒弓、及、天眞鹿兒矢ニ遣ν之」古事記、上九十「以ニ天之麻迦古弓ニ賜ニ天若日子ニ云云、持ニ天之加久矢ニ射ニ殺其雉ニ」萬葉集、二十十五長歌「眞可胡也ヲ、手挾ミ副ヘテ」

あまのまでがた (名) 海人兩手肩 〔までがたハ、兩手、兩肩ナリ、兩手ノ條ヲ見ヨ、倭訓栞、あまのまでがた「海人ノ左右手形ナルベシ、左右ノ手ヲヒロゲテ、海ニ潛ク貌ヲ云フニヤ」雅言考(橘守部)「潮ヲ汲ムニ、二ツノ桶ニ、二ツノ手ヲカケテ、兩方ノ肩ヲツカフガ、マコトニ、セハシク暇ナキモノナレバ云フ也」此語、後撰集ノ歌ニ初見ス、後ノ歌ハ、皆、ソレニ倣ヒテ詠メルナリ、從來、眞手潟ト解シテ、種種ノ說アレド、皆、捏造ナリ、出典ノ歌ドモニ、然ル意、更ニ見エズ〕海人ガ、桶ニ潮水ヲ汲入レテ運ビ、又ハ、藻鹽草ヲ刈リテ掻集メナドスルニ、兩手、兩肩ヲ勞シテ働クコト。其忙シキニ云フ。後撰集、十三、戀、五、心ニモアラデ、久シク訪ハザリケル人ノ許ニツカハシケル「伊勢ノ海ノ、あまのまてがた、(ノ如ク)暇無ミ、(無キ故ニ)ナガラヘテケル、身ヲゾ恨ムル」和泉式部集、五「與謝ノ海ノ、あまのアマタノ、までがたニ、オリヤトリケム、浪ノ花波」夫木抄、三十五、海人「までがたニ、あまノ掻集ム、藻鹽草、煙ハイカニ、立チヌトヤ聞ク」「伊勢ノ海ノ、蜑のまてがた、行キカヘリ、汲干ス潮ノ、(如ク)間ナク戀ヒツツ」伊勢ノ海ノ、蜑のまてがた、掻集メテ、幾度同ジ、藻鹽垂ルラム」

あまのまなこ (名) 天眼 〔天之照覽ノ意譯ナルベシ、語彙、あまのまなこ「天ノ照覽シタマフ眼ト云フ意ナリ」〕天

ノ、[illegible]重クテ、あまのまたゝ、恐シウ思ウタマヘラルルコトヲ、心ニムセビ侍リ」

あまのむらぎみ (名) [天邑君] むらぎみヲ見ヨ。

あまのむらくものつるぎ (名) [天叢雲剣] 〔焼刀ノ鍛文ノ、雲ノ如キ意ナルベシ、後世ニ云フ、乱焼カ〕 神代ニ、素戔嗚尊ノ、八岐大蛇ヲ斬リタマヒ、其尾ヨリ得タマヒシト云フ剣ノ名。又、都牟刈太刀。後ニ、草薙剣ト改称セラレテ、三種神器ノ一ト称ヘラル。(神代紀、上[illegible]本名、天叢雲剣、蓋大蛇所居之上、常有雲気、故以名歟[illegible]景行紀、四十年十月[illegible])

あまのやそかげ (名) [天八十蔭] あめのみかげヲ見ヨ。

あまのよさづら (名) [天吉葛] 〔つらハ、蔓ニテ、蔓草ヲ云フ、匏ハ、蔓草ナリ、よさづらハ、吉キ蔓ノ義、称ヘタル名ナルベシ、或ハ、瓢簞蔓ノ約ナリトモ云フ、亦、美称ナリ〕 匏ノ神ノ称。(神代紀、上「伊弉冊尊、云云、生水神罔象女、及土神埴山姫、又生天吉葛」天吉葛、此云阿摩能与佐図羅[illegible])

あまのり (名) [甘海苔] 海苔ノ一種、冬、海中ノ石ニ付キテ生ズ、生ナルハ緑黒ニシテ、乾ケバ紫黒ナリ、或ハ、生ハ緑ニシテ、乾ケバ紫ナルハ、食フニ下品ナリ、此種ニ、あさくさのりアリ、最上品トス。一名、ムラサキノリ。紫菜 (内膳式、新嘗祭供御料「紫菜」倭名抄、十七九「紫菜、阿末乃里、俗用甘苔」[illegible]ムラサキノリ、アマノリ」西要録、六、文治二年二月十九日「供御甘海苔[illegible]」)

あまのをはばり (名) [天尾羽張] 〔をはばりハ、雄刃張ナルベシト云フ、伊都尾羽張ノ[illegible]〕 刀ノ名。刀ノ幅ノ広キモノナルベシ。一名、稜威之尾羽張。(神代紀、上[illegible]云云、其子[illegible]名曰天之尾羽張[illegible])

あまバオリ (名) [雨羽織] 〔嬉遊笑覧ニ、道服ヲ雨着ニシタルモノト云フ〕 雨着ニスル羽織、羅紗製ナルアリ、綿布製ナルアリ。([illegible]云云[illegible]猶「ソレハ、亭主ノ雨羽織ナリ」大江俊光記、元禄十一年二月廿三日「雨羽織[illegible]代金一両一[illegible]」[illegible]あまぎぬ、江戸ニテもめんかつぱト云ヒ、中国四国トモニ、あまばおりト云フ」)

あまばこ (名) [箙] 〔編匣ノ轉カ、かたみ(籠)ナドアリ〕 竹ニテ編ミ造レル匣、籠ノ類。(字鏡[illegible]阿万波古」)

あまばしり (名) [雨走] 〔前なだれニテ、雨ヲ受クレバ、水、前へ走る〕 兜ノ目庇ノ前面ノ名。(類聚名物考、武備、一「雨走、あまばしり、目庇ノ坂ノ上ノ方、云云、四阿ノ、雨そそぎアルガ如キニ言フ」)

あまはだ (名) [甘皮] (一)まいはだヲ見ヨ。(二)あまかは(甘皮)ヲ見ヨ。

あまばた (名) [海端] 〔海ノ傍ヲ見ヨ〕 海ノホトリ、ウミベ。([illegible]廿三年八月、吉備[illegible])

あまばたいし (名) [雨畠石] 甲斐國、南巨摩郡、雨畠ノ地ノ山中ヨリ出ヅル、黒色ノ粘板岩。硯トシテ名アリ。([illegible]四、河内路「七面山ヲ西へ下レバ、雨畠村ト云フ處アリ、云云、昔ヨリ硯石ヲ出ス、雨畠石ト云フ」)

あまひ (名) [阿麻比] 〔あはひ(間)ト通ズ、(荊棘、うまら。齊ふ、いまふ。輔車、かまち)日本書紀通證、十九「間ノ義カ、花ノ咲キ散ル、暫シノ間ノ意ニテ、短キヲ云フ、譬喩言ナリ」〕 存命ノ間。櫻花ノ、ハカナク散ルニ譬ヘテ云フ。([illegible]大山祇神、天孫瓊瓊杵尊ニ、其二女、姉、磐長姫ハ、常磐ノ如クマシマセ、妹、木花ノ開耶姫ハ、[illegible]ユルガ如クマセト、[illegible]シタマヒシカバ、姉ノ云フ[illegible]木花之阿摩比[illegible]リ) 神代紀、下[illegible]存、今既不然、唯、弟、獨見御、故、其生兒、必如木花之移落、云云、此世人、短折之縁也[illegible]ノ字ハ、の如くま、ト意ヲ取リテ記セルナリ)

あまびこ (名) [天響] 〔ひこハ、ひびきノ略轉、(曾孫、ひこ。常磐、ときは)引きつらふ、ひこつらふ〕 虚空ニ響ク音ノ意、やまびこニ同ジ、倭訓栞、あまびこ、虚空ノひびきナリト云ヘリ、顕昭ハ、山びこニ同ジト云ヘリ」 コダマ。ヤマビコ。空谷響 (古今集、十九、雑体、長歌「あまびこノ、(音ノ序)音羽ノ山ノ、春霞」貫之集、六、恋「逢フコトノ、あまびこニシテ、ヨソナラバ、人目モ我レハ、避キズゾアラマシ」新勅撰集(文和)あまびこカ、行ト峯トノ、時鳥」)

あまびこ (名) [天彦] 天上ノ人。(古今集、十八、雑、下、左近将監、解ケテ侍リケル時ニ、女ノ訪ヒニオコセタリケル返事ニ「あまびこノ、音ヅレシトゾ、今ハ思フ、我レカ人カト、身ヲタトル世ニ」[illegible]「あま彦トハ、天上ノ人ヲ云ヘリ」)

あまびこ (名) [馬陸] 〔[illegible]名アリ〕 蟲ノ名、やすでノ古名。ヲサムシ。([illegible]字鏡[illegible]阿万比古」倭名抄、十九⁺蟲豸類「馬陸、一名、百足、阿末比古」)

アマびたひ (名) [尼額] さげあまノ條ヲ見ヨ。

あまびと (名) [天人] 〔天人ノ、訓讀語ニハアラヌカ〕 天人。アマツヲトメ。天女 (竹取物語「天人ノ中ニ、持タセタル箱アリ、天ノ羽衣入レタリ」枕草子、四、四十三段[illegible]ト仰セ、天人、降ルバカリニ彈キテ」狭衣、一、上「中将ノ笛ノ音ニ「あま人ダニ、聞過シタマハデ、降リオハシテ、サソヒタマヘルニ、云云」萬葉集、十八、廿七「アマサカル、鄙ノ[illegible]、安米比度シ、斯ク戀スラバ、生ケルシルシアリ」(コレハ、都ノ婦女ヲ、天人ニ比シテ云ヘルニテ、越中國ニテノ大伴家持ガ、平城ノ京ノ坂上郎女ヘノ返歌ナリ、古事ニ云、安米ハ安米ノ誤ナルベキカ) 同、十三七夕ノ歌「コマニシキ、紐解キカハシ、天人ノ、妻問フ夜ゾ、吾レモ偲バム」(コレハ、牽牛星ヲ云ヘリ、天人ト云フ語、男ニモ云フベキナリ、其條ヲ見ヨ))

あまびと (名) 海人 海人ノ條ヲ見ヨ。

あまびる (名) [雨蛭] 〔山中ノ樹ニ棲ミ、雷雨ノ時、地ニ落ツ[illegible]〕 [illegible]ニ同ジ、([illegible]あまびる[illegible]いびるヲ云フ」)

あま・ふ・フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ(他動、下二) [甘] 〔甘ヲ活用ス(古ふる、數ふる)〕 蜜ノ入リ過ギタル薫物ニ云フ語。アマタルクス。(源、廿六、常夏「イトあまへタル薫物ノ香ヲ、カヘスガヘス薫キシメ居タマヘリ」河海抄「蜜ノ過ギタルハ、合香ノ下品ノ事ナリ」)

あまぶね (名) [海人舟] 海人ノ舟。漁人

ノ乘ル時、アマフブネ。漁舟　萬葉集、十一 三十「海面清ミ、沖方漕ギ出ヅル、海舟ノ、楫取ル間ナク、戀モスルカモ」同、十七 三十 長濱ノ、ウラグハシ、布勢ノ水海ニ、[illegible]ニ、[illegible]貫キニ(布勢ノ水海ハ、越中國、射水郡ニアリ) 山家集、下「霞シク、波ノ初花、折リカケテ、櫻鯛釣ル、沖ノあまぶね」

アマ-ぶね　(名)　|尼船|　攝津國、尼ガ崎ト大阪トノ間ノ運送船ノ稱。和漢船用集(寶曆)五「尼舟ト呼ブハ、尼崎舟也、多ク四十石船ナリ」

あまへ　(名)　|甘|　あまふ(甘)ノ條ヲ見ヨ。

あま-べ　(名)　|海人部|　海人ノ住スル部落。豐後國、紀伊國、其他、諸國ニ海部郡アル、其遺ナリ。(地名ヲ、二字ニ定メラレタル時、人ノ字ヲ省キ、訓モ省ケルナリ) 應神記、五年八月「令₂諸國定₁海人部、及、山守部₁」(道經校訂) 古事記、中(應神)七十「定₂賜海部、山部、山守部₁」豐後風土記、海部郡「此郡百姓、並、海邊白水郎也、因曰₂海部郡₁」紀伊續風土記(天保)廿一、海部郡「海部ハ海人部ノ界ニシテ、漁鹽ヲ營ム者ノ部ヲ云フ名ナリ」

あま-べ　(名)　|餘戸|　あまりべノ條ヲ見ヨ。

あま-ぼし　(名)　|甘干|　〔淡しノ條ヲ見ヨ〕(一)澁柿ノ實ノ、皮ヲ剝ギテ、微シ日ニ曬シタルモノ。(白柿ニ對ス) 烏柹　御湯殿上日記、享祿五年十月八日「二位殿ヨリ、あまぼし參ル」(二)魚ヲ、生干ニシタルモノ。

アマ-ほふし　(名)　|尼法師|　尼ト云フニ同ジ。比丘尼。狹衣、三、上 四十「ハヤウハヤウ、尼ほふしニナリタマヒネ」

あま-ま　(名)　|雨間|　(一)雨ノ晴間。アマヤミ。萬葉集、十 廿二「雨間明ケテ、國見モセムヲ、故郷ノ、花橘ハ、散リニケムカモ」同、十二 四十一 十月、雨間モ置カズ、(雨間モナク)降リニセバ、誰ガ里ノ間ニ、宿カ借ラマシ」萬代集、十一、同、三「あままニモ、濡ルキツレド、狹衣、袂ハカクモ、濡レニケルカ

ニ(二)雨ノ降リテアル間。雨中　萬葉集、八 廿七「卯ノ花ノ、過ギバ惜シミカ、(惜シクアラムトテカ)ホトトギス、雨間モ置カズ、此ユ鳴キワタル」(雨ノ降ル間モ息ハズナリ)

あま-まゆ-の-くるま　(名)　|雨眉車|　〔あままゆヲ、尼眉ト書クハ、非ナリト云フ、眉トハ、庇ヲ云フ、緩眉ノ義ニテ、唐搏風ノ彎曲ノ、緩キ意ニモアルカ、尙、考フベシ〕牛車ノ一種。車箱(屋形)ノ庇、唐搏風造ナリ、唐庇車ノ、略儀ナルモノナリ。執政、乘用ノモノナリ。(太政大臣、執政、乘用ノモノ) 拾芥抄、車輿「雨眉車、或、雨字、作₂尼非也、網代庇車同物、云云、太政大臣用₂之、執政依₂事用₂之」桃華蘂葉、車事「檳榔庇、云云、凡家ハ、太政大臣之時、或用₂之、眉如₂唐庇₁故、是ヲモ號₂尼眉₁」

あま-み　(名)　|甘味|　甘キケハヒ。アマキアヂ。

あま-ミソ　(名)　|甘味噌|　〔淡しヲ見ヨ〕鹽氣淡ク製シタル味噌。

あま-みづ　(名)　|雨水|　(一)雨ノ水。アマツミヅ。天水。(二)〔雨水ノ、地ニ降リタマリタルモノ。ニハタヅミ。潦　名義抄「潦、アマ水、ニハタツミ」拾玉集、三「夕立ノ、ハゲシカリツル、名殘カナ、晴レユク野ベニ、ノコルあまみづ」

あまん-じゃく　(名)　|鈎纂駝|　〔あまびしゃく(馬陸)ヲ、あまんびしゃくト云ヒテ、じゃく、じゃく、じゃくト訛リタル語カ(あとじさり、あとびさり(後退))〕地蟲ノ異名。俚言集覽、あまのじゃく「アマンジャコ、ヂムシ」同、あまうじゃや「筑前ノ方言」

あまん・ず・ズル・ズレ・ゼ・ジ・ゼヨ(自動、左變)　|甘|　「甘みすノ音便、(かろみす、かろんず(輕))。おもみす、おもんず(重))旨シトスル意〕心ニ旨シト思フ。滿足ス。名義抄「甘、アマムズ」

アマンデル　(名)　|巴旦杏|　あめんどう(巴旦杏)ヲ見ヨ。

あま-め　(名)　|海女|　あまをとめ(海人少女)ニ同ジ。萬葉集、三 廿「沖干ノ、三津ノ海女ノ、葵持チ、玉藻刈ルラム、イザ行キテ見ム」

あま-も　(名)　|甘藻|　「根株ニ甘味アリ、兒童食フト云フ、味藻ノ名モアリ、枯レテ久シクナレバ白シ、因リテ、龍宮の弟姬の元結の切りはづしノ名アルナルベシ、此語、名詞ノ最モ長キモノナリト云フ、(榛原芳野說)菅藻ト云フハ、葉ノ用、菅ニ似タルニ因ルナラム」海草ノ名。葉ハ、しゃうぶニ似テ、細長ク、幅、二三分、乃至、五分バカリ、生ナルハ青クシテ、枯ルレバ黑ク、久シクシテ白クナル、春夏ノ候ニ、長莖ヲ抽キテ、水面ニ達シ、其頂ニ黃綠ノ花ヲ開ク、葉ノ生ナルヲ麥ノ肥料トシ、干シテ草履トシ、馬ノ背ノ日覆トス。別名、味藻。菅藻。海菅。リユウグウノオトヒメノモトユヒノキリハヅシ。大葉藻　近年ノ新發見ニ、葉ヲ、灰水ニテ、一時間煮テ、清水ニテ濯ギ、更ニ、糠水ニテ三十分煮レバ、外皮剝ガレテ、純白ナル纖維トナル、ソレヲ、機械ニカケテ紡ゲバ、纖絲トナリ、堅靭ニシテ光澤アリ、絹絲、又ハ、毛織物ノ代用トナリ、染ムルコトヲ得ト云フ。重修本草綱目啓蒙、十六「大葉藻、アマモ、アヂモ、(播州)スゲモ、(土州)リウグウノヲトヒメノモトユヒノキリハヅシ、モバ(雲州、讃州)」

あま-もの　(名)　|甘物|　甘葛ノ湯。赤子ノ乳ノ足ラヌナドニ用キル。俚言集覽、後編、あまもの[illegible]ノ[illegible]二[illegible]ア[illegible]、民間ニ、露ト甘草トヲ用フルハ、我ガ邦ノ古方ナルベシ」

あま-もよほ-す　(名)　|雨催|　雨ヲ催ス空合。アマケ。雨氣　雨意

あま-もり　(名)　|雨漏|　雨水ノ、屋ヨリ漏リ入ルコト。屋漏

アマ-や　(名)　|尼房|　尼ノ居ル坊。天武紀、下、九年四月「橘寺尼房、失火、以焚₂十房₁」

あまやか・す・ス・セ・サ・シ・セ(他動、四)　|驕|　〔あまゆノ他動(そびゆ、そびやかす。おびゆ、おびやかす)〕アマユルヤウニ育ツル。キママソダチニス。十訓抄、中、第七、序「愚カナルタグヒハ、親ノ、あまやかし、乳母ノ、モテナスニシタガヒテ、云云、成立タム末ノ事モ辨ヘヌ也」史記抄(文明)十一 四五十「慈母ガ、子ヲあまやかいテ、ムサウガルハ、子ノ毒ゾ」

アマ-やき　(名)　|尼燒|　樂燒ノ一種。大永ノ頃、歸化人、宗慶ノ妻、妙慶、夫ノ歿後、尼トナリ、貞林ト號シ、夫ノ業ヲツギテ製セシモノ。樂家陶業、樂燒「飴也、朝鮮國人也、來朝シテ、陶器ヲ造ル、即、樂燒家ノ元祖也、妻ハ、日本人ニテ、後、剃髮シ、男、長治郎、幼少ナルニ因リ、自ラ陶器ヲ造ル、是ヲ尼燒ト云フ、飴也ガ宅ハ、上長者町也」或云、宗慶ハ、明人ニテ、永正年間ニ歸化ス、其製陶ヲ、阿米屋燒ト云ヒ、其子ヲ、長祐ト稱スト、即チ、長治郎ナルカ。

あま-やどり　(名)　|雨宿|　雨ノ晴ルルマデ、暫シ宿リテ休ムコト。催馬樂、妹之門「肘笠ノ、雨モヤ降ラナム、シデタヲサ、安萬也止利、笠宿リ、宿リテマカラム、シデタヲサ」堀河百首「假庵ニ、あまやどりスル、時ノ間ヲ、山田守ルトヤ、人ハ見ルラム」

あま-やみ　(名)　|雨止|　雨ノ、降リ止ムコト。アママ。

〔あま・ゆ・ユル・ユレ・エ・エ・エヨ（自動、下二）〔[illegible]〕 [illegible]ス、[illegible]、[illegible]（辛カラス、[illegible]ナルベシ、[illegible]）人ノ、情アルニモタレル。アイダ也。」ル。（あまえるヲ併セ見ヨ）[illegible]、六、[illegible]「名、契レル方ニモあまえテ、エ行キ別レタマハズ、一ツ車ニ乗リテ」[illegible]月抄「あまえ、[illegible]レテノ心ナリ」[illegible]、十、[illegible]「カクノゴト、[illegible]作リトモ、[illegible]ツマジキ[illegible]ニテ、あまえテ作ルナルベシ」[illegible]明）雑部「[illegible]」倭訓栞、あまえる「[illegible]ヲ訓メリ、今モ、児女子ノ、[illegible]以テ、人ニ[illegible]ブルヲ、[illegible]云ヘリ」

あまよ（名）〔雨夜〕 雨ノ降ル夜。[illegible]花集、七、戀、上「影見エヌ、君ハ雨夜ノ、月ナレヤ、出デテモ人ニ、知ラレザリケリ」

あま-よけ（名）〔雨避〕 物ノ、雨ニ濡ルルヲ避クル爲ニ覆フ物。アマオホヒ。

〔あま-よそひ（名）〔雨裝〕 雨中ニ行ク裝ヒ。アマジタク。（雨衣、蓑、笠ナド）徹達紀、十四年三月「[illegible]雨、大[illegible]、雨衣」（[illegible]屋大連）

〔あまよ-の-しなさだめ（名）〔雨夜品定〕 源氏物語ノ帚木ノ卷ノ中ノ一段ノ稱。又、雨夜物語トモ云フ、源氏君ノ十七歳ノ時、夏ノ雨夜ニ、其宿直所ナル桐壺ニテ、頭中將、左馬頭等ト、數多ノ女ノ善惡、良否、[illegible]、心掛ケナドヲ品評シタル段ナリ、一部ノ書ノ序ノ如シト云ヒ、論文ノ[illegible]ヲ成セルモノト稱セラル。

あまよ-の-みこと（名）〔雨夜尊〕 小野小町ノ歌ニ因ル稱號ナルカ」盲人、琵琶法師ノ、祖神トシテ祀ル神號。[illegible]「[illegible]中ノ祖神、天夜の尊ハ、仁明天皇第四ノ皇子、仁康親王ノ御[illegible]ヲ[illegible]リキル、小野小町、武宮ノ御[illegible]ヲ、イトホシク思ハレケルニヤ「ケフ[illegible]キシ、[illegible]ナ

シノ[illegible]ノ、[illegible]ニ、[illegible]、[illegible]ハ、小町ノ家集ニアリト承リ候ヒキ」（[illegible]文）安齋隨[illegible]、[illegible]ノ[illegible]ニ、[illegible]ハ、[illegible]ノ[illegible]盲目ニテ、天下ノ盲人ニ、恩澤ヲ施サレシ故、是ヲ元[illegible]トシテ[illegible]ト云ヘリ、[illegible]雨夜尊ハ見エズ」（[illegible]文）

〔あまり（名）〔餘〕 （一）アマルコト。アマリ。タルモノ。餘分。剩餘。古事記、下（仁德）「[illegible]長[illegible]、[illegible]野ヲ、[illegible]キ、夫ガ[illegible]理、[illegible]ニ[illegible]リニ（[illegible]野ト八、[illegible]ノ名ナリ、[illegible]ニテ[illegible]ヲ[illegible]キタル、其ガ[illegible]ナリ」（二）程ヲ超ユルコト。勢ヒノハヅミ。餘勢。源、一、桐壺「ワリナク纏ハサセタマフあまりニ、サルベキ御遊ビノヲリヲリ、云云、マヅ[illegible]ヲセタマフ」（[illegible]ノ更衣）土佐日記、二月五日「京ノ近ヅク喜ビノあまりニ、或ル童女ノ詠メル（歌）」

〔あまり（副）〔餘〕 程ヲ過ギテ。アマリニ。格外ニ。口語ニ、あんまり。太過 過度 枕草子、九、百十一段「おほきにてよきもの「男ノ目、あまり[illegible]ソキハ、女メキタリ」千載集、十六、雜、上「住ミワビテ、身ヲ隱スベキ、山里ニ、あまり隈ナキ、夜半ノ月カナ」夫木抄、十五、[illegible]ツタフ、[illegible]ノ末葉ニ、カクロヘテ、あまりケヂカキ、ヒグラシノ聲」「あまりニ大キスギル」

〔あまり（接尾）〔餘〕 〔まりト云フハ、上略ナリ、刈集む、かりつむ。落ちあぶる、おちぶる）」數詞ノ下ニ添ヘテ、其外ニ餘リアルヲ云フ語。（三尺足らずナドノ反）まり。又、ゆたか。強。（十里弱ナドノ反）佛足石歌「三十阿麻利、二ツノ相」（佛ノ三十二相）[illegible]紀、二十四年二月「二十四年」古今集、序「三十あまり一文字」字類抄「强、アマリ、一年强」[illegible]紀、十五、承和十二年正月八日「百十三歳ノ尾張連濱主ノ歌「百萬利、十ノ翁ノ、舞ヒタテマツル」催馬樂、插櫛「插櫛ハ、十万利七ツ、アリシカド」「七尺ゆたかノ大男」

〔あまり-さへ（副）〔剩〕 〔さへハ、辭ノさへ ナリ、あまさへハ、中略ナリ、（わたりまし、わたまし）あまっさへハ、急呼ナリ（のりとる、の[illegible]とる、[illegible]）」ソノウヘニ。シカノミナラズ。又、あまさへ。あまっさへ。 名義抄「剩、アマリサヘ」後撰集、三、春、下、閏月アル年「あまりさへ、アリテ行クベキ、年ダニモ、春ニ必ズ、逢フヨシモガナ」字[illegible]抄「剩、アマサヘ、アマッサヘ」遊仙窟「剩」朗詠集、上、閏三月「今年閏在リ春三月、[illegible]一月花」[illegible]管[illegible]、[illegible]子三人、[illegible]リタレト、今ニ、[illegible]レニカカリテコソハアリツレ、あまさへ、[illegible]ノカギリコソ見セツレ」

〔あまり-べ（名）〔餘戸〕 〔戸ノ條ヲ見ヨ〕 又、アマルベ。古ヘ、郡ノ中ニテ、五十戸ヅツヲ、鄕（がう）トシ、若シ六十戸ニ滿ツレバ、十戸ヲ割キテ、別ニ立テタル一區域ノ稱。（戸令、及、其義解）倭名抄、六七、「甲斐國、[illegible]郡、餘戸郷」後ニ、[illegible]トナル。同、七、「陸奥國、（今、陸[illegible]國）宮城郡、餘戸郷」今、[illegible]佐郡、餘戸鄕」今、餘戸村トナリテ、あまるべト云フ。同、八「[illegible]ト云フ地アリ、あまるめト云フ。其外、諸國ニアル、天部、天邊、餘戸、餘部ナド云フ地ハ、皆、是レナルベシト云フ。

あまり-もの（名）〔餘物〕 用ヰテ、殘リタル物。ノコリモノ。殘物。殘餘 「あまりものニ福ガアル」

あまりょう（名）〔雨龍〕 〔雨ヲ起スト云フ意ニテモアルカ〕 龍ノ屬。角ナク、黄色ニシテ、尾、長キモノト云フ。[illegible]龍 [illegible]文「[illegible]、[illegible]云云、[illegible]云、[illegible]、角[illegible]」

〔あま・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）〔餘〕 〔倭訓栞、あまるハ餘ヲ訓メリ、云云、天足ノ義、め、たノ反、まナリ、有餘ハ、天ノ常道也〕（一）量ヲ過ギテアリ。イカガアルベキ」超エテ多シ。過グ。殘ル。餘計ナリ。古今集、序「在原業平ハ、其心、あまりテ、詞、足ラズ」「百ニ[illegible]ル」（二）[illegible]、[illegible]ニ、イト[illegible]ニ[illegible]ノアルヲ、アサマシト云フニモあまりテナムアル」[illegible]、[illegible]「イッシカ[illegible]ノ[illegible]ヒ、[illegible]、身ニあまるホドニナリテ」「思ヒニ餘る」力ニ餘る」手ニ餘る」目ニ餘る」

あま・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）〔雷落〕 〔天降るノ、[illegible]ジテ、[illegible]レタル語ニハ、アラズ[illegible]〕 [illegible]降る、[illegible]、づまる」雷、落ツ。[illegible]ニテハ、今モ、雷ガあまるト云フ。 [illegible]上日記、永祿六年四月二日「コノ曉、東寺ノ塔、雷あまりテ、其火ニテ燒ケ候」

〔あまる-べ（名）〔餘戸〕 あまりべヲ見ヨ。

〔あま-をとめ（名）〔海人少女〕 少女ノ海人。海女。[illegible]、[illegible]、[illegible]ノ[illegible]ノ、[illegible]ノ、[illegible]ラハ、[illegible]ノ[illegible]ノ、[illegible]カモ」[illegible]、[illegible]女、[illegible]キ[illegible]ルチフ、[illegible]、世ニモ[illegible]レジ、[illegible]ヲ[illegible]ハ」

あま-をとめ（名）〔天少女〕 天津少女、天人、天人、天女 [illegible]、[illegible]、[illegible]レモ[illegible]アル、少女、月ノ[illegible]ノ、[illegible]ワケテ、[illegible]リニ[illegible]ノ[illegible]、[illegible]傳ヘタル曲トカヤ」

〔あま-をぶね（名）〔海人小舟〕 海人ノ乘ル小舟。アマブネ。漁舟 [illegible]、[illegible]「[illegible]ノ、八[illegible]ルガ上ニ、安[illegible]、[illegible]同、十六「[illegible]小舟、（[illegible]つるノ序）[illegible]ノ[illegible]ニ、[illegible]ノ、（序）ケナガク[illegible]シ、君ガ[illegible]ヅスル」

あま-をぶね（名）〔海人小舟〕 〔倭訓栞、あまをぶねニ、貝ノ名ニ呼ブハ、形ノ似タル也〕」貝ノ名、あまりかひノ[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]十二、[illegible]、あまをぶね、[illegible]、[illegible]、[illegible]ニ多シ、形ハ、あさり介ニ似テ、至テ厚ク、[illegible]ハ四五分、[illegible]ハ長クシテ七分[illegible]、[illegible]シ、内外[illegible]白ニシテ、[illegible]アリ」

あみ (名) 【網】〔編むノ名詞形、すくト云フハ、疎くナリ〕(一)麻絲ヲ、斜ニ打違ヘニ、目ヲ透カシテ、編ミ結ヘルモノ。結ふヲ、すくト云フ、コレヲ水中ニ張リテ、魚ヲ捕ルナド、其外、種種ノ用ヲナス。古ヘ、捕魚ニ用キシハ、曳網ナドナルベシ、後世、海中ニ用キルハ、大小、形狀、種種ナリ。神代紀、下、長歌「片淵ニ、阿彌張リワタシ」倭名抄、十五「魚網、阿美」又、空中ニ張リテ、小鳥ナド捕フルヲ、鳥網、とあみト云ヒ、水上ニ廣ゲテ打卸スヲ、撒網、とあみト云フ、各條ヲ見ヨ。(二)かなあみ、もちあみノ條ヲ見ヨ。

〜あみ (名) 【醬蝦・糠蝦・苗蝦】〔あみ蝦ト云フガ、成語ナルベシ、出雲國ニテハ、約メテ、あめびト云フ、然レドモ、あみノ意、詳ナラズ、倭訓栞、あみ「醬蝦ヲ、あみト云フ、海蟲ノ義、う、な、反、あ。む、し、反、みナリ」(白蟲、虱)イカガアルベキ、あみざこト云フざこハ、雜魚ナリ〕蝦ニ似テ、小サキモノ。大キサ四五分、夏ヨリ秋ニ至リ、泥海ニ生ズ、白クシテ、背尾赤シ。アミザコ。備前國、肥前國ヨリ、志ほからトシテ出スモノ、名アリ。【蝦醬】倭名抄、十九「海糠魚、阿美」山家集、下、備前國、兒島「あみト申スモノヲ捕ル所、云云、長キ竿ニ袋ヲツケテ、タテワタスナリ」和爾雅(元祿)六「醬蝦、苗蝦」本朝食鑑(元祿)九「鱗、訓ニ阿美、或曰ニ阿美佐古」和漢三才圖會(正德)五十一「糠蝦(本草綱目)阿美、俗云ニ阿女、云云、備前海上、多以ニ布網ニ取レ之作レ醢、名ニ糠蝦醢辛」

あみ-あげ-ぐつ (名) 【編上靴】靴ノ製作ノ名。ごむヲ用キズ、革ノミニテ、開閉シ得ベク作リ、紐ヲ次第ニ、上ヘ編ミ絡ゲテ履クヤウニシタルモノ。

あみ-アンドン (名) 【網行燈】行燈ノ一種。方形ニシテ、鐵骨ニ、鐵網ヲ張リ、前一方ニ扉ヲ仕附ケ、開閉ス、徑、一尺四方、高サ三四尺、四脚アリテ居置ク、江戸城中、又、大名屋敷ノ奧ノ、長局ノ廊下ナド、處處ニ用キラレタリ。又、方六七寸、高サ尺許ナルアリ、商家ナドニテ、倉庫ニ入ル時、提燈ノ用トシテ携ヘ用キタリ。以上、共ニ、火ノ用心ノ、安全ナラムガタメノ用ナリ。

あみ-いし (名) 【網石】魚網ニツクル錘ノ石。網岩。倭訓栞、いは、磐「小網ニいはト云フモ、重石ナリ、大網ニテハ、直ニ網石ト云ヘリ」同、あみいし「六百番歌合ニ詠メリ、網ノ重ノ石也」

〜あみ-いた (名) 【箯輿】〔編板ノ義、あうた(箯輿)ノ語原ヲ見ヨ〕板ヲ竹ニテ編ミテ作レル乘物。負傷者、死者、罪人ナドヲ舁キ行クニ用キシモノ。土石ヲ運ブニモ用キタリ。又、アウタ。アンダ。倭名抄、十三、九「箯輿、編ニ竹木ニ爲レ輿也、阿美以太」

あみ-いと (名) 【網絲】網ヲ作ルニ用キル絲。麻、亞麻、綿、棕櫚等ヨリ成ル。イヅレモ、多クハ、二子撚トシタルヲ用キル。アミソ。

アミイバ (名) 〔英語、Amoeba.〕單細胞ヨリ成レル、最下等ノ動物。池沼等ニ棲ム、身體原形質ノ一塊ニ過ギズ、假足ヲ出シテ運動シ、又、食ヲ取ル。

あみ-うけ (名) 【網受】長キ竹竿ノ端ニ、絲網ヲツケタルモノ。土人、伊勢ノ內宮前ノ、宇治橋下ノ淺瀨ニ立チテ、參宮人、橋上ヨリ錢ヲ投グレバ、コレヲ以テ巧ミニ受ケ止ム。織田信長ノ臣、鳥尾左京ト云フ浪人、此橋下ニ立チ、竿ニ編笠ヲツケテ、投錢ヲ乞ヒシニ、槍ノ名人ナリシカバ、百錢ニ、一モ落スコトナカリシト云ヒ、此事、コレニ起ルト云フ。(日本百科大辭典)

あみ-うち (名) 【網打】投網ヲ打チテ、魚ヲ捕ルコト。又、其事ヲ業トスル者。

あみ-うち-ぶね (名) 【網打舟】網打ニ用キル舟。アミブネ。

〜あみ-お・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (自動、四) 【網置】網ヲ張リオク。名義抄「羅、アミオク」

あみ-がさ (名) 【編笠】(一)菅、又ハ、藺ナドヲ編ミテ作レル被笠。人目ヲシノブニ用キタルモノノ如シ。新六帖、五「丈夫ガ、菅ノあみ笠、打チ垂レテ、目ヲモアハセズ、人ノナリユク」盛衰記、十九、佐佐木取レ馬下向事「佐佐木源三秀義ガ子共、平治ノ亂ノ後ハ、此彼ニカカマリ居タリ、云云、四郎高綱、云云、世ニナキ身ナレバ、馬モナキ次第、賤市ニ編笠ヲ着、腰ノ刀ニ、太刀カヅキテ、京ヲ未明ニ出デ」太平記、十一、五大院宗繁賺ニ相摸太郎一事「相摸太郎、云云、忍ビテ鎌倉ヲ落チタマフ、云云、破レタル草鞋ニ、編笠着テ、ソコトモ知ラズ、云云、足ニ任セテ行キタマヒケル」(二)江戸時代ニハ、專ラ、藺ニテ、粗ク編ミ作レルモノヲ云フ。我衣(天和)「昔ノ下賤ノあみがさハ、頂尖リテ、三角ナリ、持ツ時ハ、頂ヲ取ル」寬文、延寶ノ頃ハ、婦女ノ徒歩外出ニハ、スベテ用キタリ、顏隱スガタメナリ。後ノ製ナルハ、形、圓ク扁キヲ、二ツニ折レルガ如ク作レリ、側面ヨリ見レバ、蛤ノ形ノ如シ、亦、人目ヲシノブニ被レリ、民間ノ、葬送ニ立ツ親族ノ者ナド、必ズ用キタリ。此笠ノ類ニ、熊谷笠、薦僧笠、深編笠、目塞笠、玉緣、八所とぢナド、種種アリ。

あみがさ-がひ (名) 【編笠貝】編笠ノ形シタル貝。語彙、あみがさがひ「介ノ名、狀、蘆笠ニ似テ、黑色、裏面ノ文理ハ、松蕈ノ襴ニ似タリ」

あみがさ-ぢゃや (名) 【編笠茶屋】〔身分アル者、遊郭ニ入ルニハ、編笠ヲ被リテ、顏ヲ掩ヒキ〕江戸、新吉原遊郭門外ノ茶屋ニテ、貸編笠ヲ業トセシモノ。(京都、島原遊郭ノ入口ニモアリキ)其家家ノ目印ニ、燒印ヲ押シタリ、此事、元文ノ頃ニ止ミキ。嬉遊笑覽、二、中、編笠「戀の手習「着ネバカナハヌ、燒印ノ、かしあみがさノ、カサナリテ」(上方唄ナルベキカ)同、九、上「吉原ニ通フ者、編笠着ザルヤウニナリシハ、云云、元文ニ至リテ全クヤミタリ、田町、又、五十軒、路ノ左右、あみ笠茶屋ハ、云云、二十軒アリシトナリ」

あみがさ-もち (名) 【編笠餅】〔形、あみがさニ似タリ〕餅菓子ノ名。語彙、あみがさもち「糝ヲ圓扁ニシテ、餡ヲ入レ、二ツニ折リ包ミタルモノナリ」

あみがさ-ゆり (名) 【編笠百合】〔花形ノ倒垂、編笠ニ似タレバ云フト云フ〕古名、ハハクリ。莖、葉、粗、百合ノ如シ、春ノ末、莖梢ニ、花ヲ倒垂シテ開ク、淡黃色ニシテ、內面ニ、淡綠線ニ紫細點ヲ交ヘテ、美ナリ。バイモ。【貝母】

あみ-こ (名) 【網子】〔舟子、水手、田子〕地曳網ノ綱ヲ引ク者。アコ。浦島年代記(元祿、近松作)一「浦手ノ網子、數十人」

あみ-ざいく (名) 【編細工】又、編物。毛絲、其外ノ絲ヲ以テ、網形ヲ編ミ作リ、ソレニ、又、種種ノ模樣ヲ編ミツクルモノ。

編緒ヲ用キルアリ、編針ヲ用キルアリ、凡[illegible]、[illegible]、帽子、手袋、靴足袋、錢入等、種種ナルモノヲ作ル。

あみ-ざこ (名) [illegible]ノ條ヲ見ヨ。

あみ-さ・す ス・セ・サ・シ・セ(自四、他四) 〔あみさすハ、空中ニさしあぐるナ[illegible]〕 [illegible] (網)ノ條ヲ見ヨ」鳥網ヲ張ル。(網捕ヲ參見セヨ) 萬葉集、十七「ホトトギス、夜聲懐シ、安美指者、花ハ過グトモ、離レズ鳴カナム」(網ノ縁ナリ)[illegible]繡ノ、句ヘル嶺ニ、ホトトギス、鳴クト人告ク、安ミ作ラマシヲ(新[illegible]、十、春雜、鶯ニ寄リコメ、花散ラバ、移ヒスベキ、鶯駐メム」

あみ-ざばん (名) 網襦袢 芝居ニテ、武士ナドノ、衣服ノ下ニ着ル筒袖。紅絹ニテ製シ、其上ニ、網ヲカク。

あみ-じゃくし (名) 網杓子 杓子ノ、かなあみニテ作レルモノ。汁物ノ實ヲ掬ヒ取ルナドニ用キル。

あみ・す ス・スル・スレ・セ・セ・セヨ(他動、下二) 浴 あぶすニ同ジ。アビセル。今昔物語、十九、第二語「湯ヲ沸シテ、大衆ニあみせムトシテ」

あみ-すがり (名) 編連 〔編つがりノ轉ナルベシ、(次ふ、番ふ)連綴ノ意〕太キ[illegible]絲ニテ、粗キ網目ノ如ク、龜甲形ニ編ミ作レル袋。茶道ニテ、葉茶壺ヲ容ルルニ用トス。絲ノ色ハ、紅色ト紫色トニ限ル。略シテ、すがりトノミモ云フ。

あみ-すき (名) 網結 〔あみ(網)ノ條ヲ見ヨ〕網ヲ結クヲ業トスル者。宇治拾遺物語、吹上、下三十「あみすきナド、日次ノ贄奉レリ」

あみすき-ばり (名) 網結針 網ヲ結クニ用キル針。竹、又ハ、鯨[illegible]ニテ、薄ク[illegible]セテ作リ、先端ノ中央ヲ細長ク透シ、其中ニ、下ヨリ突出セル、針狀ノモノヲ作リ、針ヨリ後[illegible]、網目ヲ[illegible]、編ミ結ブ。又、アミバリ。又、アバリ。

あみ-すてかご (名) 編捨籠 竹籠ノ一種。中央ヲ籠ノ如ク編ミテ、周圍ヲ編ミカケタル[illegible]ニシテ置ケルモノ。魚ヲ煮ルニ、其肉ヲ崩サヌタメノ用トス。

あみ-そ (名) 網麻 〔麻ノ條ヲ見ヨ〕網ヲ結クニ用キル麻絲。多クハ、二子撚ナリ、下野國ノ岡地、東引等ヨリ製出スルモノ、名アリ。

アミダ (名) 阿彌陀 〔梵語、阿彌陀婆(Amitabha.)ノ略、阿ハ、無ノ義、彌陀婆ハ、量ノ義、翻譯名義集、一、阿彌陀ニ清淨平等覺經、翻、無量清淨佛、無量壽經、翻、無量壽佛、稱讃淨土經、世尊名、無量壽、及、無量光」壽ハ、壽命ニテ、體德ニ就キテ云ヒ、光ハ、光明ニテ、德用ニ就キテ云フ」(一)佛經ニ、如來ノ名。又、あみだほとけ。阿彌陀佛。あみだぶ。彌陀。無量壽佛。無量光佛。此佛、西方、極樂淨土ノ中ニアリテ、諸偉德アリ、其本誓ハ、他力往生淨土ナリト云フヲ以テ、日本ニテハ、淨土宗、眞宗、共ニ專ラ、此佛ヲ本尊トシテ歸仰ス、融通念佛宗、時宗、ナドニテモ、本尊トス、南無阿彌陀佛ヲ、六字ノ名號ト云ヒ、念佛ト云フ、是レナリ。佛說阿彌陀經「從是西方、過十萬億佛土、有世界、名曰極樂、其土有佛、號阿彌陀」云云、彼佛、光明無量、照十方國」宇治拾遺、三、十一條、藤六ノ歌「昔ヨリ、あみだほとけノ、誓ヒニテ、煮ユルモノヲバ、スクフトゾ知ル」(鍋ニアル物ヲ掬ひ食ヒテ詠メルナリ) 金葉集、十、雜、下「あみだぶト、唱フル聲ニ、夢覺メテ、西ヘ傾ク、月ヲコソ見レ」(二)[illegible]ノ略。[illegible]

アミダ-かう (名) 阿彌陀講 阿彌陀經ヲ講讃スル法會。[illegible]、八、[illegible]十、月廿三日「於[illegible]院、行阿彌陀講」

アミダ-がう (名) 阿彌陀號 あみだぶ[illegible]ノ條ヲ見ヨ。

アミダ-がさ (名) 阿彌陀笠 〔笠ノ名ニハアラズ、阿彌陀佛ノ像背ニ、輪後光ヲ畫キ、光ノ、八方ニ放射シタル狀ニ作レルアリ、開キタル被笠ノ裏面ノ骨ノ、ソレニ似テ見ユル故ニ云フナリ〕(一)被笠ヲ、仰ケニ被ルコト。鍔アル帽子ナドニ就キテモ云フ、コレヲ、あみだに被ルト云フ。[illegible]山の井(寛文)佛壇、(?)ニ乘テ拝ムヤ、あみだ笠」西鶴十百韻「[illegible]見スシノ、[illegible]ノ内ヲモ、チラト見テ」南無あみだ佛、戀ハクセモノ」(二)[illegible]一个、人力車ノ輪、又ハ、輪[illegible]ノ[illegible]リ居ル周圍ノ木ヲ、あみだト云フ。殺ニ、四周ヨリ輻ノ集レル狀、阿彌陀ノ御光ニ似タルヨリ云フナリ。或地方ニテハ、コレヲ後光ト云フ。(語原ヲ見ヨ)

アミダ-きゃう (名) 阿彌陀經 阿彌陀佛ヲ主題トシテ記シタル佛經。正シクハ、佛說阿彌陀經ト云フ。

アミダ-くじ (名) 阿彌陀籤 〔圖スル所、阿彌陀ノ輪後光ニ似タリ、故ニ、あみだの光トモ云フ、前前條ノ語原ヲ見ヨ〕一種ノ鬮引ノ戯レ。又、阿彌陀の光。白紙ニ、開キタル扇ノ骨ノ如ク、數線ヲ書キ、其中ノ一線ニ、要ノ所ニテ、印シテ、隱シオキ、數人ニ、線ヲ指サセテ、後ニ開キ見テ、印ノ線ヲ指セル者ニ、錢ヲ出サセ、菓子ナド買ヒテ、共ニ食フナリ。[illegible]ヲ書キ、光ノ當ル所ニ中リタル者、錢ヲ出スヲ云フ」

アミダ-だう (名) 阿彌陀堂 (一)阿彌陀佛ノ像ヲ安置スル堂。[illegible]、寺ニ設ケテハ、此佛ヲ本尊トスル故ニ、[illegible]、本堂トモ[illegible]、[illegible]ニ[illegible]ヲ[illegible]ニ、紙ナルタ立ニアワテテ、思ハズ逃ケコメリト云フナリ」(二)次條ヲ見ヨ。

アミダだう-がま (名) 阿彌陀堂釜 〔後訓栞、後編、あみだう「釜ニ、阿彌陀堂アリ、豐太閤、攝州、有馬ノ温泉ニ浴セシ時、阿彌陀堂前ニ、茶亭ヲ構ヘシ節ニ、用ヒタル釜ノ形ナリト云ヘリ」〕茶會ニ用キル湯釜ノ一種。圓ク、稍扁平ニシテ、上ノ口、稍窄キモノ。[illegible]

アミダ-の-さんぞん (名) 阿彌陀三尊 三尊ノ條ヲ見ヨ。

アミダ-の-ひかり (名) 阿彌陀光 〔佛像ノ尊[illegible]モ、ヘ[illegible]ノ光ニ因ル、ト云フヨリ移ル〕(一)阿彌陀の光モ、錢次第、ト云フ意ニテ、金錢ノ威力ノ大ナルヲ云フナリ。諺ハ、佛ノ威光モ、錢ノ多少ニ因ル、ト云フナリ。竹斎物語(寛永)「マコトニ、翁ハ諸道ノ妨ケ、阿彌陀も錢ほど光る故ナリ」一休狂歌問答「二文ヤ、二へ八ト、[illegible]、世ノ中」俚言集覽、阿彌陀も錢ほど光る「あみだの光も錢[illegible]ト云フ」(二)あみだくじヲ見ヨ。

アミダ-の-ひじり (名) 阿彌陀聖 〔ひじりハ、僧ノコトナリ、其條ヲ見ヨ〕平

安朝時代ノ末ヨリ、鎌倉時代ニカケテ、阿彌陀佛ノ名號ヲ唱ヘテ、化導シアリキタル僧ノ稱。空也念佛ノ主僧ナルベシ。金葉集、十、雜、下「八月バカリニ、月アカカリケル夜、あみだのひぢりノ通リケルヲ、呼ビヨセサセテ、云云」今昔物語、廿九、第九語「阿彌陀の聖ト云フコトシテ、行フ法師アリケリ、鹿ノ角ツケタル杖ヲ、尻ニハ、金ヲ朳ニシタルヲ突キテ、金鼓ヲ叩キテ、萬ノ處ニ、阿彌陀佛ヲ勸メ行キケル」倭訓栞、後編、あみだ「空也上人ヲ、あみだひぢりト呼ビシ事、往生極樂記ニ見エ、云云」

アミダ-ブ　(名)　[阿彌陀佛]　阿彌陀ノ(一)ヲ見ヨ。

アミダ-ブツ　(名)　[阿彌陀佛]　あみだノ(一)ヲ見ヨ。

アミダブツ-がう　(名)　[阿彌陀佛號]　淨土願生僧ノ用キル稱號。又、阿彌陀佛名。又、阿彌陀號。阿號。東大寺念佛堂、重源ノ位牌、表ニ、大勸進上人、南無阿彌陀佛、裏ニ、俊乘坊重源トアリ、阿彌陀佛號ノ初ナリト云フ。源空ノ弟子辨長ハ、辨阿彌陀佛ト稱シ、佛工快慶ハ、安阿彌陀佛ト稱セリ、相摸國、藤澤、淸淨光寺ノ住持、他阿彌陀佛ハ、他阿トモ稱シ、鑿刀家ノ本阿彌氏ハ、其祖、妙本阿彌陀佛ニ因ル、其外、能役者ノ觀世觀阿彌、世阿彌、畫僧ノ眞相ノ相阿彌ナドハ、下略セルナリ、又、藤原俊成、入道シテ釋阿ト稱シ、歌僧ノ頓阿、筑紫ノ菊池寂阿ナドハ、更ニ略シタルナリ。

アミダブツ-みやう　(名)　[阿彌陀佛名]　前條ヲ見ヨ。

アミダ-ホトケ　(名)　[阿彌陀佛]　あみだノ(一)ヲ見ヨ。

あみ-づな　(名)　[網綱]　曳網ノ綱。アミナハ。

あみ-ど　(名)　[編戶]　竹、木ヲ編ミテ作レル戶。散木集、二、夏「夏來レバ、幾夜クヒナニ、ハカラレテ、竹ノあみ戶ヲ、アケテ問フラム」夫木抄、三十一、戶「山里ノ、柴ノあみ戶ノ、アケタテハ、峯ノアラシノ、心ナリケリ」

あみ-ど　(名)　[網戶]　かなあみニテ張レル戶。

あみ-どり　(名)　[網捕]　網ヲ張リテ、鳥ナドヲ捕ルコト。萬葉集、十九「霍公鳥、聞ケドモ飽カズ、網取ニ、獲リテ懷ケナ、離レズ鳴クガネ」(あみさすヲ參見セヨ)

あみ-どり　(名)　[網鳥]　〔前條ノ語ノ捕ヲ、鳥ニ言寄セタルナルベシ〕ほととぎすノ異名。呉竹集(足利時代)二「遠山ノ、雲ノあみ鳥、サマザマニ、カクレアラハレ、降レル五月雨」雜和集、中「あみどりト云フハ、昔人云、此鳥ヲ網ニカケテ捕リ置キテ、明年、初音ヲ早ク鳴カセバヤ、ト云ヘルヨリ名付クト」(語彙)

あみ-なは　(名)　[網繩]　曳網ノ繩。アミヅナ。夫木抄、廿五「霞サヘ、タナビキニケリ、春駒ノ、みまきノ浦ノ、海人ノ網なは」

あみ-の-いは　(名)　[網石]　いは(岩)ノ條ノ(三)ヲ見ヨ。

あみ-の-うけぶね　(名)　[網泛子舟]　大網ノ泛子トスル舟。散木集、九、雜、海人「ヒクシマノ、網のうけ舟、浪間ヨリ」和漢船用集(寶曆)六「大網ニハ、船ヲ以テ、うけトスル故、斯詠メリ」

あみ-の-うを　(名)　[網魚]　圍マレテ、遁レラレヌ狀ヲ云フ語。

あみ-の-しほから　(名)　[醬蝦鹽辛]　あみ(醬蝦)ノ條ヲ見ヨ。

あみ-の-め　(名)　[網目]　(一)〔網ノ透間。六帖、四、女ヲハナレテ詠メル「人ノ心ヲ、イカガ頼マム」あみのめニ、吹來ル風ハ、トマルトモ」散木集、七、戀、上「思ハムト、頼メシコトハ、あみのめニ、タマラヌ風ノ、心ナリケリ」(二)網の目から手を出すやうトハ、希望者ノ多數ヲ云フ。俚言集覽「望ム人ノ多キヲ云フ」

あみ-のりもの　(名)　[網乘物]　駕籠ノ四面ニ、青ク染メタル網ヲカケテ包ミタルモノ。德川時代ニ、士分以上ノ重罪人ヲ送ルニ用キキ。[囚轎]　假名手本忠臣藏(寬延、竹田出雲)三「鹽冶判官ハ、閉門仰付ケラレ、網乘物ニテ、タッタ今、歸ラレシ」又、平民ナルニハ、高圓ナル竹籠ニ、網ヲ被ヒテ用キタリ、鶤鷄籠ト云ヒキ。(其條ヲ見ヨ)

あみ-ばり　(名)　[編針]　編物ヲ編ミ作ルニ用キル針。

あみ-ばり　(名)　[網針]　あみすきばりニ同ジ。アバリ。

あみ-ぶぎやう　(名)　[網奉行]　狩獵ノ網ノ事ヲ掌ル職。大猷院殿御實紀、七十九、慶安三年十二月廿六日「水邸前ノ溝水ニテ、斑毛ノ鴨捕リシ、云云、網奉行小出勘右衛門宗勝、時服一ツカヅケラル」

あみ-ぶね　(名)　[網舟]　(一)曳網スル舟。謠曲、蘆刈「アレ御覽ゼヨ、御津ノ浦ニ、網子トトノフル網舟ノ、エイヤエイヤト、寄セ來ルゾヤ」(二)網打舟。

あみ-ぼう　(名)　[編棒]　編物ヲナスニ用キル、ハガネ、又、角ナドニテ造リタル棒。

あみ-め　(名)　[編目]　物ヲ編ミ合セタル隙。萬葉集、十一、六十「アラタマノ、キヘガ竹垣、編目ユモ、妹ガ見エナバ、我レ戀ヒメヤモ」後撰集、十六、雜、二「玉簾ノ、あみめノ間ヨリ、吹ク風ノ、寒クバソヘテ、入レム思ヒヲ」

あみ-もの　(名)　[編物]　毛絲ナドニテ、種種ノ物ヲ編ミ作ル技。レエス。

あみ-やく　(名)　[網役]　漁獵スル者ノ運上。地方凡例錄、五、網役「海邊、又ハ川通リ、漁獵ヲ致ス漁師共ヨリ、役永ヲ出ス」(永ハ、永樂錢也)

あみ-を　(名)　[編緖]　(一)編ミ合セタル緖。組緖。字鏡集「辨、アミヲ」(二)物ヲ編ミ綴ル緖。字類抄「韋編、アミヲ」大鏡、上、三條院「御簾ノあみを」

あむ　(名)　[蝱]　蝱ノ古言。其條ヲ見ヨ。

あ・む・ム・メ・マ・ミ・メ　(他動、四)　[編]　(一)〔打交ヘテ組ミ織ル。(絲、繩、竹片、ナドニテ、籠、網、席、簾、竹垣、ナドヲ)萬葉集、十三、廿七長歌「息長ノ、遠智ノ小菅、不編ニ、伊刈リ持チ來」(息長、遠智ハ、近江國ノ地名)靈異記、中、序「編、阿死」(二)諸書ノ文ヲ書キ集メテ作ル。編輯ス。(編ノ字ノ訓讀)周禮、春官篇、磬師、鄭玄注「編、讀爲二編書之編一」「書ヲ編む」

あ・む・ムル・ムレ・ミ・ミ・ミヨ　(他動、上二)　[浴]　浴ぶニ同ジ。アビル。崇神紀、六十年七月「沐二於水中一」古今集、八、離別「源實ガ、筑紫へ、湯あみムトテ、マカリケル時」榮花物語、十八、玉臺「湯槽ノ湯、涌カシテ、僧二三十人、あみノノシル」簾中抄、下「湯あむる時、鐘ヲ聞ク時ノ歌、云云」名義抄「沐、アム」

あん　(名)　[庵菴]　〔廣韻「庵、小草舍也」〕(一)イホ。イホリ。僧ノ、閑居スル小家。草庵。庵室。僧名「西天僧俗修行、多居レ庵一」今昔物語、十三、第五語「攝津國ニ、殿日ト云フ僧アリケリ、云云、菟原ト云フ所ニ籠居テ、方丈ノ庵室ヲ造リテ、其中ニシテ、日夜ニ、法華經ヲ讀誦シ、云云、庵ノ内ニハ、佛經ヨリ外ニ、餘ノ物ナシ」和漢三才圖會(正德)七十二、末、山城國「櫻元庵、在二嵯峨法輪寺之

[illegible]御佾何有會、御佾ノ頭ニ物忘レシタリ」ト云フヲ、あんどんト解ク「庵ニ物忘レスル鈍ナリ」(二)德川時代ニハ、大寺中ニ附屬シテアル小僧房ノ、塔頭ノ如キモノ。庵號ヲ寺號ニ改ムル時ハ、許可ヲ受クルヲ要シタリ。[illegible]倉志([illegible])三、松岡東慶寺、[illegible]、山門ヲ入リ、右ニアリ、[illegible]庵、[illegible]院ノ北ニアリ、右、[illegible]ナリ」(三)住宅ノ號、又、人ノ雅號ニ用キル語。文學者、茶人ナドニ多シ。料理屋ナドノ屋號トモス。「晦庵」(宋ノ朱熹)不識庵」(上杉謙信)順庵」(木下貞幹)落日庵」(谷口蕪村)小倉庵」(江戶、本所、小梅、料理屋)

あん (名) 案 (一)ツクヱ。說文「案、几屬」[illegible]詩「案無[illegible]事[illegible]上[illegible]」儀式、一、松尾祭儀「當[illegible]中門前[illegible]立[illegible]案一基[illegible]」以[illegible]帶[illegible]令[illegible]案上[illegible]」(二)食器ヲ載スル臺。ゼン。康熙字典「案、食器」周禮、冬官、考工記、下「案、十有二寸」事物紀原「燕太子丹、與[illegible]荊軻等[illegible]案而食」

あん (名) 案 〔正字通「著レ書起レ義曰レ案」〕(一)〔文書ノシタガキ。下書。草案。正字通「凡、官府與除成レ例、及、獄訟論定者、皆曰レ案」太政官式、御禮ノ下「神祇副、若、祐、持[illegible]奏案[illegible]進[illegible]大臣[illegible]」伊勢物語、百七段「マダ若ケレバ、文モヲサヲサシカラズ、云云、主ナル人、あんヲ書キテ、カカセテヤリケリ」盛衰記、廿九、新八幡願書事、「大夫房覺明[illegible]、筆ヲ和シテ、云云、古物ヲ寫スガ如ク、[illegible]ニモ及バズ、コレヲ書ク」「口宣案」(二)〔案ヲ、先例ノ記錄トシテ藏セラルルモノ。ヒカヘガキ。トメガキ。合義解、公式「凡、案成者、具條[illegible]納目[illegible]」註「謂[illegible]案成[illegible]者、文案、施成[illegible]卷、云云、即、本司文書、井、從[illegible]他司[illegible]來者、皆是也、[illegible]目者、納、藏也、目、目錄也、[illegible]、云[illegible]庫藏之文書目錄[illegible]也」「[illegible]案內」(あんないノ條ヲ見ヨ)(三)未ダ確定ハセザレドモ、考慮、計畫ノ成立ヲ記シタル文書「議案」「決行案」「計算案」

設計案」

あん (名) 案 〔康熙字典「案、又作レ按、考也」〕カンガヘ。思案。推量。連花物語、八、初花「然思ハセムト、タバカリタル事ナレバ、あんニハ、ハカラレニケリ」「案ノ如ク」案ニタガハズ」案ニ相違ス」

アン (名) 餡 〔餡ノ字ノ宋音、禪寺ノ調理ヨリ出デタル語ナルベシ、鹽尻、七「餅、及ビ、饅頭ノ內ニ滿ツル物ヲ、あんト云フ、餡ノ字ナリ、唐音ハ、あんト云フ」、正字通「凡、米麪食物、坎ニ其中ニ實ルニ以[illegible]雜味[illegible]曰[illegible]餡[illegible]」支那ニテハ、多ク肉類ヲ入ル、禪家ニテ、小豆ニ代ヘタルナラム」(一)食物ノ名。今ノ製法ハ、赤小豆ヲ能ク煮テ、毛水囊ニ入レ、水ヲ加ヘテ擂リツブシ、漉シテ皮ヲ去リ、漉シタル汁ヲ、布袋ニ入レテ堅ク搾リタルヲ、砂糖ヲ煎ジタル中ニ入レテ、煮テ成ル。コレヲ團メテ、餅ナドニテ包ム。又、白小豆ニテ作ルヲ、白あんト云フ。以上、スベテ、葛あんニ對シテ、あづきあんト云フ。合類節用(元祿)六、下、服食門「餡、音咸、字彙、餅中肉餡」和漢三才圖會(正德)百五、造釀「餡、音陷、俗云[illegible]阿[illegible]」倭訓栞、あん「西土ノ饅頭ノ餡ハ、鳥獸ノ肉ヲ用キ、本邦ニハ、赤豆砂糖ヲ用ウ」餡ハ、又、餅、團子ナドノ外部ニ塗シ、又ハ、湯ニ溶シテ、汁粉ヲ作ル。汁粉ナルニハ、豆ヲ擂リツブシタルママ、漉サズシテ皮ヲ雜ズルアリ、潰あんト云ヒ、因リテ、漉シタルヲ、漉あんト云フ。(二)金銀ノ細工物ナドニ、內部ニ、銅ナド籠メタルモノヲ、あんづめト云フ、贋金ナドニモ云フ。此ノ如ク作リタルヲ、外部ノ金銀ニ就キテハ、てんぷらト云フ、あろ

[illegible]ト云フナリ。(三)[illegible]んノ略。其條ヲ見ヨ。

あん-アミ (名) 安阿彌 「有名ナル佛師、快慶、安阿彌陀佛ト稱ス、鎌倉時代初期ノ人」少年ナドノ、美貌ヲ褒ムルニ云ヒシ語。狂言記、佛師「ソレガシハ、あんあみデオヂャロ」野良虫(明曆)「生レツキノ面體ハ、イカサマ、あん阿彌ノ御作ニテモアルベキカ」(歌舞伎子ヲ云フ)古今[illegible]江戶咄(貞享)芝居「美少年、姿、ケダカク結ヒ、薄假粧シテ、云云、[illegible]、あんあみノ御作カ、チョイチョイナドト、ノノシリテ」(足薪翁記、二、一佳ト、褒メサケブナリ)

あん-あんり (名) 暗暗裏 物ノ蔭ノ內內。竊ニ行フコトニ云フ。「暗暗裏ノ計畫」

あん-い (名) 安意 ココロノ、ヤスマルコト。安心。「乍レ憚御安意可レ被レ下候」

あん-いつ (名) 安佚 安逸 〔佚、與レ逸同、韻會「安逸、不レ勞也」〕骨折ルコト無クテアルコト。勞セズシテ居ルコト。孟子、盡心、下篇「四肢之於[illegible]安佚[illegible]也、性也」

あん-えい (名) 安榮 身、安ラカニシテ、サカユルコト。荀子、榮辱篇「爲[illegible]堯禹[illegible]則常安榮」

あん-か (名) 案下 〔案ノ下〕机下ニ同ジ。多ク、宛名ノ脇附ニ用キル。「某君案下」

あん-か (名) 安價 ヤスネ。安直。廉價

あん-が (名) 晏駕 〔朝、晏ク車ニ駕シテ出ヅル意、下學集(文安)下、態藝「晏駕、漢天文志、天子當レ晨起、方レ崩稱[illegible]晏駕[illegible]者、臣子之心、猶謂[illegible]宮車晚出[illegible]也」〕天子ノ崩ゼラルルヲ云フ語。崩御。史記、范雎傳「宮車、一旦晏駕、是事之不レ可レ知者」字類抄、人事「晏駕、帝者崩、謂[illegible]之晏駕[illegible]」文德實錄、一、嘉祥

三年三月己巳「[illegible]」

あん-かう (名) 鮟鱇 〔又、あんごうトモ云ヒ、[illegible]名備考ニ、あんごトアリ、京[illegible]ニテ、今モ、あんごト云フトゾ、假名遣ヒ、清濁、語原、共ニ詳ナラズ、[illegible]ノ轉ナリト云フ說アレド、オボツカナシ、大和本草(寶永)十三、華臍魚「國俗、鮟鱇ト稱ス、未[illegible]見[illegible]出處[illegible]、恐[illegible]後編ニハ、俗ノ作字ナリト云ヘリ」〕(一)魚ノ名。又、あんご。あんごう。東海ニ多シ、形、扁ク圓クシテ、盤ノ如ク、肉厚ク、頭大キク、尾細長クシテ、[illegible]、琵琶ニ似タリ、大キサ一二三尺、鱗無クシテ、全部、淡褐色ニテ、腹白シ、眼、鼻、上ニ向ヒ、口大キク、吻上ニ、三本ノ、長キ[illegible]ノ如キモノアリ、深海ニ棲ム、性、遲鈍ニシテ、海底ニアリテ、鬚ヲ動カシ、小魚觸ルレバ呑ム、肉、冬、春ヲ美ナリトス、骨、甚ダヤハラカナリ。琵琶魚 [illegible](慶長)氣形「鮟鱇」和爾雅(元祿)六、[illegible]「[illegible]賦[illegible]、琵琶魚、無レ鱗、肉形似[illegible]也」本朝食鑑(元祿)九、[illegible]、あんこう「琵琶魚、今ハ、滿ミテ、あんこうト稱ス、[illegible]、あんこう」あんかうヲ割クニ法アリ、吊切ト云フ、繩ニテ、下脣ヲ貫キ、橫梁ニ吊シ、口ヨリ水ヲ入ルルコト五六升、溢レ出ヅルニ至ル、先ヅ、外皮ヲ剝ギ、全肉ヲ割キ、膽、肚ヲ去リ、骨ヲ斷チ、胃ヲ刺セバ、水出ヅ、若シ、妄リニ割ケバ、肉、皮、骨ニ着キ、膽、膽、破レテ、用キルベカラズ」本朝食鑑」(二)此魚、性、遲鈍

ナルヨリ移シテ、愚人ノ渾名トス、倭訓栞、後編、あんか：「伊勢ニテハ、愚ナル者ヲ、あんかうト云フ」

あん-かう (名) 【安行】 安ンジテ行フコト。中庸、第二十章「安而行レ之」「聖人、生知安行」

あん-かう (名) 【安康】 ヤスラケキコト。ヤスラカナルコト。無難ナルコト。安穩。安泰。三國志、呉志、孫綝傳「扶レ危定レ傾、安二康社稷一、功勳赫然」「國家安康」

あん-かう (名) 【暗香】 何處トモ知ラレズ匂ヒ來ル、花ノ香氣。林和靖山園小梅詩「疎影横斜水清淺、暗香浮動月黄昏」許渾詩「高竹動二疎翠一、早蓮聞二暗香一」

あん-がう (名) 【暗號】 (一)符牒ニテ示シ合セオク、合圖ノ標。堯山堂外紀「蜀中類試主司多二私意一、與二士人一相約爲二暗號一」(二)要塞戰、又ハ、野戰ノ前哨ニ於テ、夜間、敵、身方ヲ識別セムガタメニ、カネテ設ケテ置ク合語。步哨、人ニ遇ヘバ、呼ビ止メテ、暗號ヲ用キテ問ヒ、コレニ答フルニ、疑ヒナキ時ハ、通行ヲ許ス。(三)海外電報ニ定メテ用キル符牒ノ語。官報ニモ、私報ニモ、使フベシ、但シ、私報ハ、暗號ヲ以テ送受スルヲ許シタル國ヘノミ、用キルコトヲ得ルナリ。「暗號電報」

アン-かけうどん (名) 【餡掛饂飩】 次條ヲ見ヨ。

アン-かけどうふ (名) 【餡掛豆腐】 豆腐ヲ好キホドニ切リテ煠デテ、葛餡ヲ注ケタルモノ。古クハ、あんどうふト云ヒキ。饂飩ヲ、同ジヤウニ製シタルヲ、あんかけうどんト云フ。大草家料理書「あんどうふト云フハ、二寸許ニ切テ、湯煮ヲシテ、皿ニ入レテ、上ニ、くずだまりヲカケテ」(群書類從)

あん-かッしョく (名) 【暗褐色】 鳶色ノ、黑ミアルモノ。

あん-がふ (名) 【暗合闇合】 物事ノ、互ニ知ラザルニ、相合ヘルコト。自然ニ相同ジキコト。晉書、山濤傳「濤不レ學二孫呉一、而闇與レ之合一」文選、文賦「必所レ擬之不レ殊、乃闇合二乎曩篇一」

あん-かん (名) 【安閑】 (一)安ラカニ、靜カナルコト。白居易詩「隨レ緣逐レ處便安閑」歐陽修、豐樂亭記「愛二其俗之安閑一」(二)☆俗ニ、心ヲツカハズ、ウッカリトシテ居ルコト。「あんかんト暮ラシテ居ル」

あん-き (名) 【安危】 安キト、危キト。史記、項羽紀「國家安危、在二此一擧一」晉書、宣帝紀「凡、事置二之安地一則安、危地則危、故、兵書曰、成敗、形也、安危、勢也」

あん-き (名) 【安氣】 心ノ安キコト。氣ノ樂ナルコト。安心。安意。

あん-き (名) 【暗鬼】 クラガリノ幽靈。妄想ニ生ズル恐ニ云フ。列子、說符篇、慮齋口義「諺曰、疑心生二暗鬼一」天台軌範「心迷生二暗鬼一」

あん-き (名) 【暗記諳記】 ソランズルコト。ソラオボエ。後漢書、應奉傳「凡所二經履一莫レ不二暗記一、讀レ書五行並下」唐書、故屯成斥候「司士馬、儲戒無レ不二諳記一」

あん-き (名) 【晏起】 〔玉篇「晏、晚也」〕朝ニ、晏ク起キ出ヅルコト。アサネ。禮記、內則篇「孺子、早寢、晏起」

アン-ギャ (名) 【行脚】 〔字ノ宋音、禪僧ノ傳ヘシ所、支那ノ地方ニ因リテ、脚ノ字ニ、きゃ、ちゃノ二音アリ、あんぢゃトモ云フ、鴨脚樹ナド云フモ、是レナリ、祖庭事苑、八「行脚者、謂下遠二離鄉曲一、脚行中天下上」〕禪僧ノ、道心修練ノタメニ、山川ヲ跋涉、遍歷スルコト。名師、善友ヲ尋ネテ求法、證悟ス。行脚。頭陀。抖擻。遊行。雲水。祖庭事苑、八、行脚「游二江海一涉二山川一、尋二師訪一レ道爲二參禪一」下學集(文安)下、態藝「行脚」林逸節用(文明)雜部「行脚」太平記、三十九、光嚴院禪定法皇行脚御事「來無レ所レ止去無レ住、拄杖頭邊活路通、ト中峰和尚ノ作ラレシ送行偈、誠ニ由アリト、御心ニ染ミテ、云云、順覺ト申シケル僧ヲ、一人御供ニテ、山林抖擻ノ爲ニ、立出デサセタマフ」

あん-きョ (名) 【安居】 心ヤスラカニ住ミ居ルコト。安堵。老子、小國寡民章「安二其居一、樂二其俗一、隣國相望」

あん-きョ (名) 【暗渠】 〔英語、Culvert ノ譯語〕地下ニ設ケタル穴道。道路、鐵道ヲ通ズルニモ云ヒ、上水道、下水道ノ溝ニモ云フ。

あん-ぐ (名) 【暗愚】 愚ニシテ、道理ニ暗キコト。「暗愚ノ主」

アン-ぐう (名) 【行宮】 〔字ノ宋音、禪僧ノ、漢籍ニ讀ミツケタル語ナルベシ、行在モ同ジ、行ハ、行幸ノ、行ナリ〕カリミヤ。天子ノ、京ノ外ニ座ス時ノ御居所ノ稱。行在所。頓宮。文選、吳都賦「行宮」李善注「天子行幸、所レ止處也」神武紀三「徙入二吉備國一、起二行宮一以居レ之」續紀、二、大寶二年九月「遣二使於伊賀、伊勢、美濃、尾張、三河、五國一、造二營行宮一」

あん-くん (名) 【暗君】 暗愚ナル君。オロカナル主。

☆**あんぐり** (副) 【開口】 あんけ(開口)ヲ見ヨ

アングロ-サクソン-ご (名) 〔英語、Anglo-Saxon.〕西洋第五世紀ノ頃、歐羅巴大陸ナル、獨逸ノ西北部ヨリ、英吉利ノ地ニ移リ入リテ、今ノ英吉利人ノ重ナル祖先トナリシ種族ノ言語。

アン-クヮ (名) 【行火】 〔關西ニテハ、あんこト云フ、行火(火燵、火鈴、下火)ニテ、禪家ノ宋音ナルベク、其火ヲ、火ト讀ミタル語トオボシ、地火爐ニ對シテ、行火爐ノ下略、行トハ、持運ビノ意、行燈ノ、行ニ同ジ〕手足ヲ暖ムル火爐。多クハ、透ノアル匣ニ入レ、持チハコビノデキルヤウニシ、薄キ蒲團ヲ覆ヒテ用キル。あんこ。アシアブリ。脚爐　倭訓栞、あんくわ「行火ノ義ニヤ、あんこトモ云フ、云云、被香爐トモ稱ス、侯鯖錄ニ、臥褥香爐トモ見エタリ」俚言集覽、安火「柳巷談苑云、西京雜記ニ、被中香爐ト云フモノアリ、今、此方ニテノ安火ナリ、漢ノ時ヨリ、此器ハアリケリ」

あん-ぐゎ (名) 【鞍瓦】 〔鞍背ナリ、左傳、昭公廿六年「射レ之中二楯瓦一」註「瓦、楯脊」〕くらぼねノ條ヲ見ヨ。

あん-ぐゎ (名) 【安臥】 身ヤスラカニ臥スコト。梁書、賀琛傳「惡人日滋、善人日蔽、欲レ求二安臥一其可レ得乎」

あん-ぐゎい (名) 【案外】 アンノホカ。オモヒノホカ。推量ニタガフコト。存外。意外。意表。

☆**あんけ** (副) 【開口】 〔明ノ音便、(あまり、あんまり)〕稚兒ニ、口ヲ開カシムルヲ「あんトオアケ」ト云フハ、小兒語トシテ、首音ノミ云フナリ、あッけト云フハ、あけノ急呼ナリ、(あはれ、あッぱれ)あんぐり、あんおりハ、あんけノ延轉ナリ、(巽

し、奇し。小二藏、けにさい。ひそ、ひッそり)りガ、ら二轉ジテ、(ゆッくり、ゆッくら。そッくり、そッくら)あけら、あんけら、あッけらトナリ、再ビ、けヲッケ、又、かヲッケテ、あけらけん、あッけらけん、あけらかん、あッけらかんトナレルナリ「けッたるい、かッたるい)」(一)口ヲ開閉スルニ云フ語。史記抄(文明)十七「喝喝トハ、魚ノ、ゴミニ醉ウテ、口ヲ開テ、あんけトシテ居ルナリ」史記、司馬相如傳「喁喁然皆爭」註「喁、口向上也」(喫喝ニ同ジ)「あんぐり口ヲアケル」(二)呆然レテ、口ヲ開キ、我レヲ忘レテ居ルヲ、あッけヲ取られるト云ヒ、其面貌ヲあんぉりト云フ。茫然自失 俚言集覽、あつけヲとらるゝ「驚キテ、アキレタル狀ヲ云フナリ」同、あんぉり「呆レテ、口ヲ明キタル狀ヲ云フ」(三)愚人ノ面貌ヲ、あんけらけん、あけらかん、あッけらかんト云フ。(多クハ、あんぉりトロヲアケ居ルナリ) 痴呆 俚言集覽、あんけら「愚ナル人ノ貌ニ云フ」同、あけらくわん「茫然トシテアル狀ヲ云フ」安永、天明ノ頃、蜀山人ト名ヲ齊シウセシ、朱樂菅江ト云フ狂歌師アリキ。

あん-きょう (名) 鞍橋 くらぼねノ條ヲ見ヨ。

あんげ-くゎんぺい (名) 案下官幣 あんじやうくゎんぺい(案上官幣)ノ條ヲ見ヨ。

あん-けん-さつ-はう (名) 暗劍殺方 九星ノ方位ノ一。最モ凶ナル方位トシテ、此方ヲ犯セバ、主人ハ奴婢ニ害セラレ、親ハ子ニ害セラルル事アリト云フ。方鑑類要、附錄、暗劍殺大凶方之說「暗劍殺ハ、乃値月星ノ本位ニ得ル所ノ星、是レナリ、云云、威烈勇猛ノ凶殺ニシテ、云云、犯セバ衆害、立所ニ至リ、宅主死亡ノ[illegible]」

❖あんけ-らけん (副) 痴呆 あんけ(開口)ヲ見ヨ。

アンゲリア-じん (名) 諳厄利亞人 英吉利人ノ古名。 英語、Anglian. (English.) 增譯采覽異言(享和、山村昌永)四「諳厄利亞、和呼、いんげらんど」通航一覽、二百五十二「慶長五庚子年、諳厄利亞人、阿蘭陀人ト同船シテ、和泉國堺の浦ニ渡來シ、[illegible]ヲ願フ」同、二百五十三「延寶元癸丑年五月廿五日、諳厄利亞船、長崎ニ渡來シテ、再ビ通商ヲ願フ」

アン-コ (名) 行火 あんくゎ(行火)ノ條ヲ見ヨ。

❖アン-ぉ (名) 餡子 「ぉハ、意味ナク添フル辭、寐ぉ、抱ぉノ如シ」小兒ノ語。あん(餡)ト云フニ同ジ。

あん-ご (名) 安居 〔ごハ、居ノ呉音、(御製、御覽)〕安居ハ、梵語、縛哩史(Varsa. 雨期ノ義)ノ譯語ナリ、印度ノ夏ハ、雨期ニテ、行旅ニ適セズ、且、外出スレバ、草ノ芽、蟲ナド蹈ミテ殺生スレバ、釋迦ノ敎ニテ、安居セシメシナリト云フ、翻譯名義集、四、安居「南山鈔云、形心攝レ靜曰レ安、要期住レ此曰レ居」安穩靜居ノ意ナリ」僧侶ガ、一定ノ時期ノ間、靜處ニ會シテ、外ニ出デズ、道心ノ修養ヲシ、講經、修學ヲ行フコト。每年陰曆四月十五日ニ始マリ、七月十四日ニ終ハル、コレヲ一夏ト云ヒ、夏安居、又、夏トノミモ云フ、又、四月十五日ヲ、結夏ト云ヒ、七月十四日ヲ、解夏ト云ヒ、此間ニ參ズル者ヲ、夏衆ト云ヒ、祖先、父母、有緣、無緣ノ供養ノ爲ニ、經文ヲ書寫スルヲ、夏書ト云ヒ、[illegible]ト云フ。[illegible]下、十二年[illegible]、四、天長[illegible]年[illegible]月「年中行事記、四月十五日、安居[illegible]」五雜組「四月十五日、天下僧尼、就レ寺挂搭、謂二之結夏一、云云、至二七月十五日一始散去、謂二之解夏一」

あん-ご (名) あんかう(鮟鱇)ノ條ヲ見ヨ。

あん-こく (名) 闇黑 暗黑 クラヤミ。クラガリ。ヤミ。

あんこく-じだい (名) 暗黑時代 〔英語、Dark-ages. ノ譯語〕クラヤミノ世。歐羅巴洲、中古ノ亂世ヲ云フ語。

❖あん-ぉり (副) 呆然 あんけ(開口)ヲ見ヨ。

❖アン-ころもち (名) 餡餅 〔餡ノ上ニ轉バシタル意、餡衣餅ト云フハ、イカガ〕餅ニ、あづきあんヲ塗シタルモノ。アツキモチ。(あんもちノ條ヲ見ヨ) 洞房語園(享保)饅頭賦「あんころばしハ、嫁持ニ嫌ハレ、汁粉餅ハ、上戶ニ叱ラレ」

あん-ざ (名) 安坐 (一)落着キテ坐リ居ルコト。白居易詩、「南華且安坐、從容聽我詞」易林節用(慶長)言辭「安坐」(二)アグラヲカキテ居ルコト。盤坐 俚言集覽、あんざ「安坐、落チツキテ居ルナリ、又、あぐらかくヲ云フ」

アン-ざい (名) 行在 次次條ヲ見ヨ。

あんさい-がく (名) 闇齋學 山崎闇齋ノ唱ヘタル學說、初メ、朱子學ヲ尊奉セシガ、晩年、吉川惟足ヨリ神道ヲ傳ヘ、宋儒ノ說ヲ以テ、神道ヲ解釋シ、終ニ垂加神道ノ一派ヲ開ク、門人、三宅尙齋等、闇齋ノ說ヲ唱道セリ。闇齋、名ハ嘉、字ハ敬義、通稱ハ嘉右衛門、闇齋ハ其號、[illegible]、天和二年九月十六日歿ス、年六十五。

アンざい-しょ (名) 行在所 〔行宮ノ條ヲ見ヨ〕天子ノ御旅宿。行在。 [illegible]「凡[illegible]」[illegible]、云云、[illegible]「天子[illegible]」

あんさい-てん (名) 闇齋點 [illegible]ノ條ヲ見ヨ。

あん-さつ (名) 暗殺 ヤミウチ。ダマシウチ。人ノ、備ヘナキヲ窺ヒ、襲ヒテ殺スコト。

あん-さつ (名) 按察 政治上ノ事ニ就キテ糺スコト。按問。吟味。 [illegible]「按[illegible]好究二」北史、杜弼傳「按察使[illegible]」

あんさつ-し (名) 按察使 あぜちヲ見ヨ。

あん-ざん (名) 安產 ヤスラカニ子ヲ產ムコト。平產

あん-ざん (名) 暗算 ムナザンヨウ。ムナザン。心算。

アン-ざん-がん (名) 安山岩 〔英語、Andesite. ノ譯語、初メ、南亞米利加洲ノ Andes. 山系ヨリ發見セラレタルヨリ、名トス、其 An ヲ採リテ、安山トセシナリ〕第三紀以後ノ噴出ニカカル、新火山岩ノ一種、本邦ニ於テハ、コレノ、富士山系ニ得タルヲ以テ、富士岩トモ稱ス、火山噴裂ノ時、熔岩トナリテ流出シ、或ハ、火山灰トナリテ噴出セシモノヨリ成レリ、其質、堅實ニシテ、能ク外

力ニ耐フルヲ以テ、建築材料トシテ、廣ク使用セラル、根府川石、小松石ノ如キ、即チ是レナリ。

あんざん-し　(名)　【案山子】〔傳燈錄、又、會元五祖常戒禪師ノ章ニ「主山高、案山低」トアリ、案山ハ低クシテ机ノ如ク、平ナル山ノ義ナルベク、案山ノ間ニ、耕地アリテ、其邊ニ、鳥おどし（山田のそほづ）ノアリシヨリ、山僧ナドノ、傳燈錄、十七、道膺禪師傳ニ「僧問、云云、師曰、面前案山子、也不レ會」トアルニヨリテ、書キ始メシ字ナラムト云フ、然レドモ、此文ハ「面前案山、子、也不レ會」ト讀ムナリ、子ハ、問ヘル僧ヲ指セリ、鳥おどしニアラヌハ、論ナシト云フ（梅園日記ノ三ニ委シ）〕鳥オドシ。カガシ。カカシ。

あんざん-じゅ　(名)　【安產樹】〔臨產ニ、此草ノ乾キタルヲ、水ニ浸シ、開舒スレバ、安產スト云フ〕熱地ノ植物。往時舶來シタリ、高サ六七寸、枝多ク分レテ、球形ヲ爲ス、葉ハ、倒卵形ナリ、細小ノ白花ヲ開ク、花時過グレバ、葉落チテ、乾燥スレバ、枝、內ニ卷キカガミ、潤ヘバ、開キテ、故ノ如シ。俚言集覽、あんざんじゅ「巴爾瑳亞ノ產、舶來アリ、產婦、コレヲ持テバ、安產ス、ト云傳フ、故ニ此名アリ」

あん-し　(名)　【案紙】シタガキニ用キル紙。圖書寮式「凡、太政官長案料紙、留三年料內三百張ハ每年打進」

あん-じ　(名)　【暗示】〔英語、Suggestion.ノ譯語〕（一）人ノ精神ニ投與セラレテ、暗暗裏ニ、種種ナル精神上活動、或ハ、身體上活動ヲ發スル知覺。（二）表ニ、理由、意志ヲ示サズ、顏貌、擧動ナドヲ以テ、人ニソレト知ラシムルコト。

あん-じ　(名)　【案】（一）案ズルコト。カンガヘ。思案。考慮。「案じガ好イ」「案じガワルイ」（二）心配。苦勞。苦慮。「案じハ無イ」「案じ事」

あん-じ　(名)　【按司】〔沖繩ニテ、あじ〕琉球ノ舊官名。地方官ナリ、王子ノ次、親方ノ上ニ位シタリキ。舊官職、廢セラレテ、士族トナル。

あんじ-すま・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）【案濟】十分ニ思慮ス。熟考ス。著聞集、十二、偸盜「源判官康仲「案じすましタル事ナレバ、向ヒザマニ躍リカカリテ抱キテケリ、云云、設ケタル者共、續キテ入テ、易ク搦メテケリ」（强盜ヲ捕ヘタルナリ）

あん-じち　(名)　【庵室】〔庵ノ條ヲ見ヨ、じちハ、室ノ吳音（質、じち）〕イホリ。イホ。僧ノ居。箋注倭名抄、三「十六屋宅類「庵室、小草舍也、阿无之知」惡魔集「深キ山ニ住ム聖ノ許ニ、マカリテ尋ヌルニ、あんじちノ戶ヲ閉ヂテ、人モナケレバ、云云」

あん-しつ　(名)　【闇室暗室】暗クシテ、人ナキ室。人ノ目ニカカラヌ ニ云フ。正字通「程子曰、學始レ于レ不レ欺ニ闇室ニ」梁書、武帝紀「性方正、雖レ居ニ小殿暗室ハ恒理ニ衣冠ニ」

あん-しつ　(名)　【暗室】〔英語、Dark-room.ノ譯語〕暗キ部屋。太陽ノ光線ノ、透キ入ラヌヤウニ作レル室。多クハ、寫眞ノ感光板ヲ扱ヒ、又ハ、理化學ノ實驗ヲ行フナドニ設ク。

あん-しん　(名)　【安神】〔神ハ、心ナリ、淮南子、原道訓、註「神、精神也」〕（一）心ヲ落チツケテ居ルコト。後漢書、仲長統傳「安ニ神閨房ハ思ニ老氏之玄虛ニ」（二）安心、安慮ノ意ニ用キラル。「無事ニ候間、御安神有レ之度候」

あん-しん　(名)　【安心】心ヲヤスンズルコト。心配ナキコト。安意。安慮。易林「昇高自衞、安心無レ患」

あん-じん　(名)　【安心】佛敎ノ語。信心決定スルコト。止觀輔行「善以ニ法性ニ自安ニ其心ハ故云ニ安心ニ」寶積經「應當レ安ニ心此法ニ」

あん-じん-しゅ　(名)　【按針手】〔英語、Pilot.ノ譯語、水先案內者ナリ、次條ヲ竝セ見ヨ〕艦船ニアリテ、指揮者ノ命ヲ受ケ、舵輪ニツキテ、操舵ニ從事スル者。

あん-じん-やく　(名)　【按針役】大船ニアリテ、羅針盤ヲ按ジテ、船ノ方向ヲ定メ、舵取ヲ指揮スル者。慶長、元和ノ頃、渡來セシ支那船ナドニ云ヘリ。慶長ノ頃、本邦ニ在留シ、德川家康ノ待遇ヲ受ケタル英吉利人ゐいりあむ、あだむそハ、船ノ按針役タリシ由ニテ、人人、按針ト呼ベリ、屋敷ヲ日本橋ニ賜ハリ、今モ、魚河岸ニ、按針町ノ名、存セリ。增補華夷通商考（寶永）二、唐船役者、漳州ノ詞ヲ記ス「夥長、海上ノ乘方ヲ主ドル者ナリ、羅經ノ法ヲ能ク知リテ、日月星ヲ計リ、天氣ヲ考ヘ、地理ヲ察スル役ナリ、舵工、舵ノ役ナリ、夥長ト心ヲ合ハセ、風ヲ辨ジ、濤ヲ凌グ、大事ノ役ナリ」

あんじん-りふめい　(句)　【安心立命】〔あんじんハ、佛經語、其條ヲ見ヨ、立命ノ二字ハ、儒經ノ語ヲ取レリ、（因リテ、漢音ニ讀ムナルベシ）易經、說卦傳「窮レ理盡レ性至ニ於命ニ」孟子、盡心、上篇「殀壽不レ貳、修レ身以俟レ之、所ニ以立ニ命也」集註「立命、謂ニ全ニ其天之所ニ付、不中以ニ人爲ニ害上レ之」論語、爲政篇ニ、孔子ハ「五十而知ニ天命ニ」トアリ〕禪家ノ語。天命ノ歸スル所ヲ知リテ、心ヲコレニ安立スルヲ云フ。天目高峯禪師、示レ衆語「主人公、畢竟在ニ甚麼處ハ安心立命」

あん-しゃ　(名)　【安車】〔支那ノ古ヘノ車ハ、皆立チテ乘ルニ、老人ハ坐乘ス、安穩ナリ、蒲輪ハ、蒲ノ葉ニテ車輪ヲ包ムナリ、轉ズレドモ、地ニ抗セズ〕坐シテ乘ルベキ車。老人ヲ載スルモノ。禮記、曲禮、上篇「大夫七十而致レ事、云云、適ニ四方ニ乘ニ安車ニ」漢書、杜周傳「賜ニ安車駟馬ニ」顏注「坐乘之車也」同、儒林傳「魯申公、年八十、武帝使ニ使束帛加レ璧、安車蒲輪駕レ駟迎レ之」

あん-じゃ　(名)　【案者】〔案トハ、考フルナリ〕思慮アル者。用心スル者。曾我物語、一、伊東次郎と祐經爭論の事「祐經、下ラムトテ、出立チケルガ、あんじゃ第一ノ者ニテ、心ヲ變ヘテ思ヒケルハ、云云、祐經ホドノ者ガ、理運ノ沙汰ニ負クベキニアラズ、云云」（工藤祐經）

アン-じゃ　(名)　【行者】〔字ノ宋音、行者ナリ〕禪宗ニテ、有髮ニシテ、寺ニ在リテ修行スル者。其居室ヲ、行堂ト云フ。釋氏要覽、上、稱謂「有ニ善男子ハ欲レ求ニ出家ハ未レ得ニ衣鉢ハ欲下依ニ寺中ニ住上者、云云、若ニ此方行者ニ也」運步色葉集「行堂」

あん-じゃう　(名)　【案上】机ノウヘ。案頭。韋應物、寄ニ馮著ニ詩「幸無ニ庶事擾ハ且寶ニ案上書ニ」

あんじゃう-くわんぺい　(名)　【案上官幣】〔案上ハ、置座ノ上ナリ、官幣トハ、神祇官ノ奉幣ノ義、國司奉幣ノ、國幣ニ對ス〕神祇官ニテ、祈年祭、月次祭、新嘗祭ニ、幣帛ヲ案上ニ奠キテ神ヲ祭ラルルコト、是レ大社ナリ。案下ニ奠キテ祭ラルルヲ、案下官幣ト云フ、小社ナリ。四時祭式「祈年祭神、三千一百三十二座」大、四百九

十二年、三百四十…、二十六…、百三十三座「坐下官幣」神祇官祭神、七百三十七座」…百三十三座」

あん-ぎゃう-ど（副）[安行安行] 佛語ノ語、歩ムサマノ、徐ナルニ云フ語。シヅシヅト。…「…安寺…」…ホシク歩マセタマフニ隨ヒテ」

あん-しゃ-ちづ（名）[暗射地圖]〔暗射ハ、譜ニ巾テシムル意、音ハ、あんせきナルベシ、姑ク俗ニ從フ、射ノ字、食夜切、しゃナル時ハ、弓術ナリ、いる意ノ時ハ、食亦切、せきナリ、注射ト云フ語モ、ちゅうせきナラズハナルベカラズ〕境界、都會ナドニ、輪郭、圖點ノミカキテ、地名ヲ記サザル地圖。地理ヲ學ブ者ニ、言ヒ中テシムルニ用キル。

アンジャベル（名）〔蘭語、Anjelier.ノ訛ナリト云フ〕草ノ名。オランダセキチク。…あんじゃべる「阿蘭陀石竹ノ類ナリ、阿蘭陀ヨリハ前ニ渡ルト云フ、あんじゃれトモ云フ、其花ノ…ヲ採テ、…ノ…ニック」…あんじゃべる「草名、石竹ノ一種、長大ニシテ…」

あん-じゅ（名）[案主]〔文案ヲ主る意ニモアルカ〕又、あんぞ。記錄ヲ司リ、又、書類ヲ投ツ職。檢非違使廳ニ、數人アリテ、其一人ヲ長トシテ、案主長ト云フ。政事要略、六十一、糺彈雜事「案主、是掌ニ使廳文云云、非」…「案主」案主ハ、…、大將家ノ政所ニアリテ、家事ヲ掌レリ。又、鎌倉幕府ノ政所ニモアリテ、文書ノ事ヲ掌リキ。

あん-じゅ（名）[庵主]〔坊主ニ同ジ〕僧ノ、庵ヲカマヘテ居ルモノ。庭訓往來（元弘）十月「且過之僧、山主、庵主、沙彌」臥雲日件錄、…

あん-じゅ（名）[安住] 安ンジテ居ルコト。…

あん-じょ（副）[晏如]〔禮記、月令篇、註「晏、安也」〕安ラカナル狀ニ云フ語。安泰。…今、天下一統、九人…

あん-じゅう（名）[暗誦][諳誦] ソラヨミ。…

あん-しょう（名）[暗證][闇證] 禪宗ハ、不立文字ノ旨ヲ體シテ、經論、疏釋、ヲ棄テテ、萬有ノ原理ヲ悟了スルヲツトムルモノナルガ、コレニ偏シテ、增上慢ヲ生ズル弊アルヲ見テ、他宗門ノ者ハ、暗證、盲悟ト嘲リ、暗禪、盲禪ナドト云フ。又、一方ヨリハ、經論ノ文字言句ノ義理ニノミ精シクシテ、安心、悟道ヲ忘ルルヲ嘲リテ、文字法師ト云フ。止觀輔行「暗禪多…增上慢ニ…宗鏡錄、盲禪暗證之徒、…」徒然草、百九十三段「萬ノ道ノたくみ、巫醫、百工」我ガ道ヲ、人ノ知ラザルヲ見テ、己レ優レタリト思ヘム事、大ナル誤ナルベシ、文字の法師、暗證の禪師、互ニ推量リテ、己レニ若カズト思ヘル、共ニ當ラズ」

あん-じゅく（名）[鞍褥] 馬具ノクラシキ。

✤✤あん・じる・ジル・ジレ・ジ・ジ・ジヨ（他動、上一）[案]〔案ずノ、口語トナリテ、考ふる意ヨリ轉ズ〕ウシロメタク思フ。キヅカ

フ。心配ス。あんじたる…、…トイフ語ハ、…ニ、心配シテ居ル…、…ハ、…ニスラ…ノ意…
あんじるより、團子汁ナド云フハ、餡汁ニカケテ云フ秀句ナリ。（花より團子、同意）

あむ-しろ（名）[…] …ノ約、…あじき、文机、ふつノ、あニ…約マリ…ト云フ。其條ヲ見ヨ。…

あむ・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）[浴]〔浴むるノ動作ヲ、他ニシカクルナリ〕あぶる、あぶす、〔浴〕同ジ〕あぶす〔浴ニ同ジ〕アミス、アビセル。反正帝…井、則汲之洗ニ太子ニ」萬葉集、十六「…子ニ、湯カセ子等、…ノ、…ヨリ…、…失木抄、廿六、…ナル、…ヲモ、さむさバヤ、人ヲハグクミ、病ヤムベク」

あむ・す・スル・スレ・セ・セ・セヨ（他動、下二）[浴]〔四段活用、下二段活用、同意ナリ、あやぶむ、あやぶむる。さいなむ、さいなむる〕前條ノ語意ニ同ジ。アビセル。宇治拾遺、十三、第九條「念佛ノ僧ニ、湯沸カシテ、あむせ奉ラムトテ」

あん-ぞ（名）[案主] あんじゅ（案主）ヲ見ヨ。

アン-ズ（名）[杏子]〔杏子ノ宋音、…、杏子ニ讀ミツケタル語ナルベシ、大和本草（寶永）十「世俗ニ、杏子、唐音ニ呼ンデ、あんぞト云ヒ、杏仁ヲ、あんにんト云フ」銀杏ヲ、ぎんあんト云フモ、是レナリ、本草ニ、杏核、一名、杏子トアレバ、杏子ハ、元來、核ノ名ナリシガ如シ」

…ノ名、…、…幹、枝、葉、共ニ、梅ニ似テ、…、花ハ、…、…、花ノ後ニ、實ヲ結ブ、…、梅ニ似テ大ナリ。花ノ八重ナルハ、實ナシ、花あんずト云フ、花ノ一重ナルハ、實ヲ結ブ、梅ノ實ニ似テ大ナリ、味、甘ク酸ク、…、…ノ中ノ肉ヲ、杏仁ト云ヒ、藥用、…トス。金杏、又、實ノ形、大キクシテ、黃白色ナルヲ、白あんずト云フ、上品ナリ。白杏…「杏子、…」…（足利時代）「ムシムキノコキリモノ、サンシャウ左、シャウガ右、あんにん中」御湯殿上日記、永祿五年五月廿五日、…「イツモ…」…明（元龜）…、杏子…」

あん・ず・ズル・ズレ・ゼ・ジ・ゼヨ…[案] …康熙字典「案、又作按、考也」〔一〕考ヘ思フ。工夫ス。竹取物語、玉ノ枝「コレヲ、コノイロあんずるニ、云云、かぐや姫ノ要ジタマフベキナリ」宇治拾遺、五、第五條「何事ヲカセマシトあんじテ」中務內侍日記（弘安）「ツ…、…あんぜラルレモ」〔二〕思ヒワヅラフ。キヅカフ。アンジル。苦慮。狂言記、…「案ずるヨリ、產ムガ易イ」

アンズ-うめ（名）[杏梅] 梅ノ類。花、一重ニシテ、淡紅ニテ、杏花ニ似タリ、實ノ味モ、杏ノ如シ。

あんずるに（副詞句）[案] 〔一〕〔考ヘテミルニ〕竹取物語…「コレヲ…あんずるニ」〔二〕自分ノ考ヘヲ云フ時、發語ノ如ク用キル。

あんせい-こばん（名）[安政小判] 德川幕府ニテ、安政六年六月、鑄造、發行セシ小判金、背ニ、安政ノ省字ナル、正ノ字ノ

極印アリ、因リテ、正字小判トモ云ヒ、保字小判ト別ツ、竪、一寸九分、横、一寸ナリ。安政年中ニ、一分金、二分金、一分銀、貳朱銀、一朱銀ノ發行モアリキ。金銀御吹替次第、三編、三、安政六年六月朔日、觸書「此度吹立被二仰付一候新小判、壹分判、貳朱銀共、六月朔日ヨリ通用可レ致候」

あん-せう (名) 暗礁 〔諸字書ニ、礁ノ字ヲ載セズ、閑田耕筆ノ四ニ、清朝人ノ文ニ、不レ懼二風波一懼レ礁トアリト云フ、又、故事熟語大辭典ニ、訓蒙字會ニ、水底、尖石、船行所レ忌、俗稱二暗礁一トアルニヨレバ、礁ハ、明代ノ製作字ナルベシトアリ〕水底ノ隱岩。

あんせき-りう (名) 安石榴 〔安石ハ、國名ナリ、(波斯ニ安息國アリ)石榴トノミモ云フハ、上略ノ語ニテモアルカ〕ザクロ。ジャクロ。石榴。博物志「張騫出使二西域一、得二塗林安石國榴種一以歸」

あん-せん (名) 鞍韉 シタグラ。木蘭辭「東市買二駿馬一、西市買二鞍韉一」

あん-ぜん (名) 安全 安ラカニシテ全キコト。少シモ障リノ無キコト。後漢書、夏恭傳「恭以二恩信一爲二衆所一レ附、擁レ兵固守、獨安全」易林節用(慶長)言辭「安穩、安全、安樂」「家内安全」

あん-ゼン (名) 暗禪 諳證ノ條ヲ見ヨ。

あん-ぜん (副) 闇然 (一)暗キ狀ニ云フ語。文選、神女賦「闇然而冥、忽不レ知レ處」(二)顯ナラヌ狀ニ云フ語。中庸、第三十三章「詩曰、衣レ錦尚レ絅、惡二其文之著一也、故君子之道、闇然而日章」

あんぜん-べん (名) 安全瓣 〔英語、Safety-valve.ノ譯語〕汽罐内ノ蒸氣ノ壓力ノ、安全ノ程度ニ越ユルヲ防グ器。眞鍮ノ瓣ヲ裝置シテ、壓力ノ度合ヲ加減ス、其外、種種ニ作レルアリ。

あんぜん-マッチ (名) 安全燐寸 〔從來、多クハ、黄燐ヲ加フ、故ニ、空中ニアリテ、自然ニ發火スルコトアリ、又、堅實ナル物體ニ摩擦スレバ發火ス、コレラノ事ナキニ因リテ、安全ト云フナリ〕燐寸ノ一種。藥ニ、黄燐ヲ加ヘズ、鹽酸加里、酸化鐵、硫黄等ヲ用キテ作リ、且、箱ノ横ノ藥ニ擦ルニアラザレバ、火ヲ發セザルモノ。

あん-そく (名) 安息 安ラカニ息ムコト。安堵。易林「年豐歳熟、民人安息」

アンソク-かう (名) 安息香 〔波斯國ノ北方、裏海ノ南岸ナル安息國(Arsakes.)ノ名ニ起ル〕舶來シテ、香料、又ハ、膏藥ニ用キラレシモノ。一種ノ香氣アリ、熱地ノ樹ノ脂ナリ、狀、松脂ニ似テ、赭黄色ナリ、此樹ハ、喬木ニシテ、波斯、暹羅、すまとら等ニ產ズ。本草綱目「安息香、生二南海波斯國一、樹中脂也」和漢三才圖會(正德)八十二「安息香、今出レ於二莫臥爾、咬嚁吧一」

あんそく-にち (名) 安息日 〔英語、Sabbath-day.ノ譯語、元、猶太人ノ、一週間第七日(土曜日)ノ稱ニシテ、宗教ノ儀式ノ爲ニ、此日ハ、一切ノ俗事ヲ止メテ、安息シタリ〕基督教ニテ、日曜日ノ稱。

あんた (代) 〔あなたノ音便(おなた、おんた。たなほほ、たんぽぽ)〕對稱ノ代名詞、あなた(彼方)ノ(二)ニ同ジ。(關西)

あんだ (名) 箯輿 〔あみいたノ音便、あうた(箯輿)ノ語原ヲ見ヨ、あをたト書クハ、誤ナルコトモ、ソコニ云ヘリ、太平記、廿六、執事兄弟奢侈事「石ヲ掘リテハ、簣ニテ運バセ」トアリ、土石ノ運搬ニモ用キタリ、簣ノ字、字書ニ見エズ、竹拂ノ合字ニテ、竹製ニテ、汚物ヲ除キ拂フ意ニテモアルカ〕又、アウタ。アヲタ。長方形ノ板ヲ臺トシ、竹ニテ、四方ニ、緣ヲ編ミ作リ、竹ヲ撓メテ吊トシ、棒ヲ貫キテ舁ク乘物、日覆ナシ、多クハ、戰死人、手負人、罪人ナドヲ、寢ナガラニ載セテ運ブニ用キタリ、今ノ釣臺ノ類ナリ。山駕籠ト云フモノハ、コレニ、日覆ヲツケテ、出來タルモノナルベシト云フ。字類抄「箯輿、アミイタ、アムダ」異本曾我物語、二、河津最後事「俄ニ、あんだト云フモノニ、空シキ屍ヲ舁キ載セテ、宿所ニコソハ歸リケレ」鹽尻、十四「簣、今ノ俗ニ云フあんだニシテ、此頃、山かごト云フモノ、コレヨリ作出セシトカヤ」倭訓栞、あんだ「倭名抄ニ、箯輿ヲ、あみいたト訓メリ、云云、あんだハ、略語ナリ」

あんだ (名) 愚 あほたら(愚)ヲ見ヨ。

あん-たい (名) 安泰 安ラカナルコト。無事ナルコト。安穩。安康。易林「解二釋劍懸一、歴國安泰」

アン-だう (名) 行堂 行者ノ條ヲ見ヨ。

あん-たん (副) 黯澹 薄暗キ狀ニ云フ語。兒融詩「不レ奈二春煙籠二黯澹一、可レ堪二秋雨洗二分明一」

あんだら (名) 愚 京阪ノ方言。あほたら(愚)ノ條ヲ見ヨ。

アンダ-ヱ (名) 安陀會 三衣ノ條ヲ見ヨ。

あん-ち (名) 安置 (一)据ヱ置クコト。白居易詩「擬下求二幽僻地一、安中置疎慵身上」雄略紀、十四年三月「安二置呉人於二檜隈野一」(二)崇メ置クコト。盛衰記、四十六、南都御幸大佛開眼事「水晶ノ花實ニ、琥珀ノ蓮華ヲ葺ケリ、其上ニ、三寸ノ地藏菩薩ヲ安置セリ」徒然草、百六十六段「雪佛ヲ作リテ、云云、能ク安置シテムヤ」

アンチピリン (名) 安知必林 〔獨逸語、Antipyrin.〕白色粉末ノ結晶體。水ニ溶ケ易シ、多ク、解熱劑トシテ用キラル。其外、用多シ。

あん-ちふ (連體) 何云 〔何と云ふノ轉、何、又、豈ノ語原ヲ見ヨ〕何ト云フ。(東國)「あんちふ事ダ」あんちふ人カ」

アンチヘブリン (名) 〔獨逸語、Antifebrin.〕無色、無味、小板狀ノ結晶體。あるこおる、ええてるニ溶解ス、解熱劑、又、鎭痛劑トシテ用キラル。

あん-ちんぽふ (名) 安鎭法 正シクハ、安鎭家國不動法ト云フ。密教ノ修法ニシテ、不動明王ヲ祀リテ、國家、又ハ、邸宅ノ、永ク安ラカナラムコトヲ祈ルナリ。安鎭法日記、上、應和元年十月廿四日「於二承香殿一、修二安鎭家國不動法一」同、下、嘉保二年「新造二閑院一、六月廿六日將レ令二遷御一、仍爲二鎭宅一、被レ修二不動安鎭法一」

アンチモニイ (名) 安質母尼 〔英語、Antimony.〕又、アンチモン。金屬ノ名。青白色ニシテ、麗シク結晶シ、光澤アリテ、質、脆シ、比重六・七二、赤熱度ニ達スレバ、燃エテ白キ粉末トナル、用途ハ、合金ヲ主トシ、鉛ト合シテ活字ヲ作ル、其他、種種ニ用キラル。

アンチモン (名) 前條ヲ見ヨ。

アン-チャ（名）［行脚］あんぎゃ（行脚）ニ同ジ。其條ヲ見ヨ。

あん-ちゃく（名）［安着］無事ニ、到着スルコト。「昨日、當地ニ安着致候」

あん-ぢゅう（名）［安住］身ヲ安ク住フコト。落着キテ住ムコト。安堵。（三國志、魏志、高堂隆傳、「[illegible]、以來[illegible]、以自安生[illegible]」）

あん-ちゅう-ひやく（句）［暗中飛躍］暗暗裏ニ活動スルコト。人知レズニハタラクコト。

あん-ちゅう-もさく（句）［暗中摸索］暗中ニ手探スルコト。知ラヌ事ヲ、想像ニテ當テハムルコト。（隋唐嘉話、十三、劉餗隋唐佳話「許敬宗、性輕傲、見レ人多忘レ之、或謂二其不聰一曰、卿自難レ識、若遇二何、劉、沈、謝一、暗中摸索、著亦可レ識」（何遜、劉孝綽、沈約、謝靈運ナリ、許敬宗ハ、唐ノ太宗ノ時、學士タリ）

✣✣**あん-ぢょう**（副）〔味好ノ音便（餘、あんまり）〕ホドヨク。ヨイアンバイニ。（京阪）「あんぢょうスル」

あん-ちょく（名）［安直］ヤスネ。安價。（高直ニ對ス）［廉價］

〔**あむ-づち**（名）［射垜、射堋］編土ノ義カ、あづちト云フハ、略ナリ（編筵、あむしろ）〕今、あづち（垜）ト云フ。其條ヲ見ヨ。倭名抄、四十七「射垜、阿无豆知」名義抄「垜、アムツチ」類、アツチ」

アン-づめ（名）［餡詰］餡ノ條ノ（二）ヲ見ヨ。

あん-てい（名）［安定］安ラカニ定ムルコト。落チツクルコト。左傳、襄公廿一年「國家饑困、不虞薦至、云云、大國若安定之、其朝夕在[illegible]臣[illegible]（案ズベシ）

あん-でん（名）［安殿］[illegible]

あん-ど（名）［安堵］（堵ハ垣）一人民、其地ニ安ンジテ居ルコト。安住。史記、高祖紀、高祖入レ關、諸吏人、皆安[illegible]、文選、[illegible]、蜀文、百姓士民、安[illegible]、[illegible]、七、[illegible]十月、[illegible]、安堵云云、[illegible]之（肥前八、久留河（[illegible]川郡）ノ[illegible]ナルカ）著聞集、十二、偸盜「昔八、八幡ノ兒ニテ、云云、叔父ヲ殺シテ、八幡ニモ安堵セズ」（古文）一二武家時代、安堵ノ地、即チ、將士、社寺ノ領地ノ所行權ヲ、公認セラルルコト。父ノ領地ヲ繼承シ、父ハ、中絶セシ舊領地ヲ返シ與ヘラルルヲ、本領安堵ト云ヒ、其公認ノ證書ヲ、安堵下文ト云ヒ、ソレヲ略シテ、安堵トノミモ云フ。安堵ノ請願、訴訟ヲ受理シ、證書ヲ下附スル職ヲ、安堵奉行ト云フ。太平記、六、赤坂合戰事「本領安堵ノ御教書ヲ成シ、殊ニ功アラム者ニハ、則恩賞ヲ可レ申二沙汰一」（敵ニ對シテ云ヘルナリ）建内記、正長二年七月廿九日「可レ被レ遣二安堵御書於三寶院准后一」（寺領安堵ナリ）謠曲、鉢木、佐野源左衛門常世「常世ガ本領、佐野庄三十餘鄕、返シ與フル所ナリ、云云、自筆ノ狀、安堵ヲ取添ヘ賜ビケレバ」新編追加、雜務「御下文施行事、以二配分狀一可レ付二安堵奉行人一」〔三〕身ノ落着。心ノオチツキ。安意。安心。百錬抄、十四、四條院「立二兵士屋篝火一云云、諸人安堵之計也」盛衰記、十八、文覺清水狀事「沖吹ク風モ和ギテ、岸打ツ浪モ靜ナリ、舟中ノ者モ安堵シ、云云」

あん-とう（名）［案頭］ツクヱノウヘ。案上。机上。杜甫、題二鄭著作丈一詩「闇巷惝然車馬絕、案頭乾死讀書螢」

あん-とう（名）［暗鬪］暗暗裏ノアラソヒ。

アン-どう（名）［行燈］あんどんノ條ヲ見ヨ。

アン-どうふ（名）［餡豆腐］あんかけどうふ（餡掛豆腐）ノ條ヲ見ヨ。

あんどう-やき（名）［安東燒］一安濃郡ハ、中世、安東、安西ノ二郡ニ分レ、後、又、合シタリ〕伊勢國、安濃郡、阿漕ノ地ニ、産出セシ陶器ノ名。寛保年中、萬古燒ヲ傳ヘテ製シタリ、後ニ、阿漕燒、コレニ代ハル。

あんど-ぶぎゃう（名）［安堵奉行］安堵ノ條ノ（二）ヲ見ヨ。

あん-とん（名）［安頓］〔史記、王翦傳「三日三夜不レ頓レ舍」頓ハ、止ルナリ〕スエオクコト。安置。能淳起居注「貼二黃一云、臣某等進合學士安頓[illegible]二（故事熟語大辭典）

アン-ドン（名）［行燈］〔字ノ宋音、禪寺ヨリ起ル、壒囊抄、文安三「行燈ヲ、あんどんト讀ムハ、唐音歟」〕携ヘテ行ク燈火ノ義、持運ビスル行火ノ、行ニ同ジ、支那ニテモ、行燈ト云フハ、携行燈ナリ〕（一）燈火ニ用キル具。又、あんどう。昔ハ、行クニ携フルニ用キキ、立方形ナル框ニ、紙ヲ貼リテ、風ヲ防ギ、内ノ底板ニ、燈盞ヲ置キ、上ニ手アリ、提ゲテ行ク、提燈ノ用ナリ、今、茶家ニ、露地あんどんトテ、其製遺レリ。邁生八牋「有レ柄曰二行燈一」用以[illegible]」[illegible]、宋[illegible]、[illegible]行燈於二牀側一、自提武ス」案、林鵞峰用（文明）時[illegible]「行燈」鎌倉年中行事（享德）上、管領ノ許、御參ノ行列「横松二丁、行燈一ツ、持タセベシ」永止御撰ノ何曾合「御僧ノ寮ニ物忘レシタリ」ト云フヲ、あんどんト解ク「庵ニ物忘レスル鈍ナリ」松の葉（元祿）あくちョ八景「雨モ降ラヌニ、高足駄、蓑着テ、笠着テ、棒ツイテ、あんどん下ケテ、ドンガラリ」玄峰集 行燈テ、來ル[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]後ニハ、燈臺ニ代ヘテ、專ラ、室中ニ据エ用キル具トナレリ。明治ノ初年マデハ、[illegible]、皆[illegible]キ、[illegible]、利休形ノ[illegible]數行燈ト云フアレバ、千利休ナドヨリ始マリシカ、[illegible]、長[illegible]形[illegible]、丸あんどんト云ヒ、長方形ナルヲ、角あんどんト云ヘリ、内ノ中央ニ、高ク蜘手ヲ設ケテ、燈盞ヲ置キタリ。[illegible]、此行燈ヲ納メオク室ヲ、あんどん部屋ト云ヘリ。翁草（安永）[illegible]、行燈ハ、ケノ如ク、[illegible]ヲ中ニ釣ルハ、近キ事也、昔ハ、路次ノ行燈ノ如ク、底板ニ燈盞ヲ置キタル也、中ニ釣ルハ、[illegible]ノ、[illegible]行燈[illegible]タマフヨリ始マリ、角ナルニモ、中ニ釣ル事トナレリ」（ゑんあうあんどんヲ見ヨ）

アンドン-ばかま（名）［行燈袴］〔丸行燈ノ形ニ似タリ〕襠無ク作リタル袴。女學生ナド、多ク用キル。（明治語）

アンドン-べや（名）［行燈部屋］前前條ノ（二）ヲ見ヨ。

✣✣**あん-な**（連體）〔あのやうなるノ音便略〕彼ノ如キ。あのやうな。あんなに。

あん-ない（名）［案内］〔案ハ文案〕ノ條ノ（二）ヲ見ヨ、あないト云フハ、略スルナリ（案の如く、あのおと。南殿、なでん）〕（一）官府ニ藏スル先例留書ノ文案ノ内。類聚三代格、三、弘仁十三年三月廿日官符、[illegible]「[illegible]、[illegible]分、[illegible]、[illegible]」[illegible]、[illegible]天平十六年十月十七日勅稱、[illegible]、官符、元[illegible]寺、[illegible]案内、[illegible]元[illegible]之[illegible]、[illegible]、[illegible]之地也」案ノ内ト云ノ語モ、是レヨリ起レルカ、事ノ符合シタル

意ニ云ヘバナリ。(二)〔轉ジテ、物事ノ内情ノ容子。又、あない。内情 枕草子、一、第四段「家主ナレバ、あんないヲ能ク知リテ、明ケテケリ」源、五十、浮舟二十「彼處ノあない知レリシ者、二三人」案内を知るト云フヲ略シテ、案内トノミモ云フ。(遠迹を量るヲ、きやうぜきトノミ云フガ如シ) 熟知「貴下御案内ノ如ク、云云」一向不案内ニテ候」(三)容子ヲ告ゲ知スルコト。シラセ。通知 源、五、若紫三十二「消息セヨト宣ヘバ、人入レテあない セサス」宇治拾遺、十三、第七條「シバシ、此ノ羊、ナ殺シソ、暇、歸リオハシテノ後ニ、あんない申シテ、許サンズルゾ」著聞集、十八、飲食「作泉ヲ構ヘラレテ、中御門左府ヘ案内申サレケレバ、渡リ給ヒニケリ」昨日は今日の物語(寛永)「程ナク、御命講ヂャトテ、寺ヨリ、あんないアル」「案内狀」(四)土地ノ容子ヲ知リテ、導ヲスルコト。ミチビキ。嚮導 吾妻鏡、二、治承五年六月十五日「武衞、爲二納涼逍遙一渡二御三浦一、彼司馬一族等、兼日有二結構之儀一、殊申二案内一云云」(武衞トハ、賴朝ナリ) 案内スル人ヲ、案内者ト云フ、次條ヲ見ヨ。「水先案内」(五)人家ニ訪ヒ、面會ノ導ヲ乞フコト。(案内を乞ふノ略) 取次ヲ賴ムコト。アンナイマウ。モノマウ。タノマウ。タノンマス。通謂 枕草子、二、十八段、心ときめきするもの「良キ男ノ、車駐メテ、物言ヒ、あないせさせたる」狹衣、三、中廿六「中門ノ方ニ、人ノケハヒノスル、云云、太刀佩キタル人ノ、ココカシコ、差シノゾキツツ、あないスル」謠曲、善知鳥「イカニ、此屋ノ内ヘ、案内申シ候ハム」狂言記、相合袴「案内ヲカフ、物モ、御案内」

あんない-じゃ (名) 〔案内者〕〔前條ノ(四)ヲ見ヨ〕路導スル人。導者 嚮導 吾妻鏡、九、文治五年八月十日「夫夜、小山七郎朝光、云云、已下七人、以二安藤次一爲二山案內者一、云云、超二于土湯之嵩一」太平記、三、笠置軍事「佐佐木三郎ガ藤戸ヲ渡リシハ、案内者ノワザ、同四郎高綱ガ宇治川ノ先陣ハ、池月ユヱナリ」

あんない-じゃう (名) 〔案內狀〕〔前前條ノ(三)ヲ見ヨ〕事ヲ告ゲ知ラスル書狀。通牒 蜷川親俊記、天文八年三月廿一日「昨日內談延引之由、執次代ヨリ案內狀アリ」

あんない-まう (句) 〔案內申〕 あんないまをうすノ略。案内ノ條ノ(五)ヲ見ヨ。

アン-なし-マンジュウ (名) 〔無餡饅頭〕〔餡麪包ノ反〕麪包ノ異名。

あんなん-せん (名) 〔安南錢〕〔安南國ハ、支那ノ西南ナル佛蘭西領、印度支那ナリ〕古錢ノ一種。往時、安南國ノ錢ノ、我ガ國ニ渡來シテ、通用錢ト混用セシモノ。我ガ圓融天皇ノ御世ノ頃ノ太平興寶ト云フヲ、最モ古シトシ、ソレヨリ、明治年間ニ亙リ、七八十種アリ。

あんなん-やき (名) 〔安南燒〕〔前條ヲ見ヨ〕陶器ノ名。古ク安南國ヨリ渡來セシモノ。茶器ナドニ珍重ス、茶碗ニ多シ、鼠色ニテ、模樣アルト、ナキトアリ、高臺ノ、高ク大ナルヲ佳ナリトス。

あん-に (副) 〔暗〕 ヒソカニ。內內ニ。「暗ニ謀ヲメグラシ」

あん-に-お・つ・ツル・ツレ・チ・チ・チヨ (自動、上二) 〔落案〕 考ヘノトホリニナル。推量ノ如クニナル。(案ニ相違すノ反) 源、三十、藤袴十「人ノ推シハカルあんにおつる事モアラマシカバ、イトロ惜シク、ネヂケタラマシ」今昔物語、廿八、第八語「基增ガ案ニ落ちテ、カク言ハレタルコソツタナケレ」

アン-ニン (名) 〔杏仁〕 あんぎ(杏子)ノ條ヲ見ヨ。

❖あん-にゃ (名) 〔娼妓〕 あにやう(阿娘)ノ條ヲ見ヨ。

❖あん-にゃ (名) 〔兄〕 兄ノ方言。物類稱呼(安永)一、人倫、兄「越後ニテ、あんにやサト云フ」

あんにゃ-もんにゃ (名) 樹ノ名。なんぢやもんぢやヲ見ヨ。

あん-ねい (名) 〔安寧〕 ヤスラケキコト。凶事ナクシテ、安穩ナルコト。安泰。安康。史記、周本紀「成康之際、天下安寧、刑錯四十餘年不レ用」(成王、康王ノ世ナリ)

あん-の-うち (名) 〔案内〕〔案内ノ條ノ(一)ヲ參考セヨ〕思案ノ內。企畫ノトホリ。思案ニ外ルルヲ、案の外ト云フ。案外。平家物語、十、千手事「平家ヲ亡サムコトハ、案の內ト存ゼシカドモ」今昔物語、廿五、第九語「今日ノ內ニ寄セテ攻メムコソ、彼奴ハ案の外ニテ迷ハメ」

あん-の-ごとく (副詞句) 〔如案〕〔案ハ、考ヘナリ、あのごとハ、略ナリ(案內、あない。現ニ、げニ)〕思案シタルトホリ。あのごと。アンノヂャウ。源、廿五、螢七「ヲカシカリツルヲ、飽カズオボシテ、ゲニあのごと、御心ニ染ミニケリ」蜻蛉日記、上、下三「あのごと、ミヅカラ返言ス」宇治拾遺、十、第二條「待チケルガ、案の如く、入リ來ル人アリ」

あん-の-こほり (名) 〔安郡〕 古ヘ、長門國、阿武郡ヨリ出シタル材木ノ名。太平記、廿七、田樂事「棧敷ヲ打チ、五六八九寸ノ安の郡ナドヲ鑄リ貫キテ、圍、八十三間ニ、三重四重ニ組ミ上ゲ」藻鹽草、十七「長門ナル、阿武の郡ノ、杣板ハ、唐人モ、スサメザリケリ」

あん-の-ぢゃう (副) 〔案定〕(ぢゃう(定)ノ條ヲ見ヨ) 案ノ如ク。思案シタルトホリ。「勇士、あんのぢゃう勝テリ」

あん-の-ほか (名) 〔案外〕 あんのうち(案內)ヲ見ヨ。

あん-の-もの (名) 〔案物〕 思案ドホリナルコト。大鏡、下、道長、造寺役夫ノ條「聊少シ心ミ給ハラムト申サムニハ、少少ノ物ハ給ジヤハ、ト思ヘバ、ソレハ、案のものニテ、倉ニ置キタルガ如クニナム思ヒ侍ル」

あん-ば (名) 〔網端〕「網端ノ音便、(編板、あんだ)あばト云フハ、略ナリ(網子、あさ。網針、あばり)」漁用ノ網ノ端ニツクル浮子。又、あば。桐、杉、檜ナドニテ、三角、又ハ、六角ニ造リ、程善キ距離ニ結ビツクル。倭訓栞、あば「獵師ノ語ニ、網ニアルいは(浮子)ヲ云ヘリ、云云、あんばト云フ所モアリ」

あん-ば (名) 〔鞍馬〕 又、あんま。クラオキウマ。クラウマ。漢書、匈奴傳「文帝、云云、親御二鞍馬一云云、馳射二上林一」後漢書、桓彬傳、註「皇太子賜二鄯鞍馬刀劍一」天武紀、上、元年六月「鞍馬」平家物語、七、俱利迦羅落事「鞍置馬十匹」加茂保憲女集「心細ゲニテ、あんま云云馬バカリ行ク」

あん-ばい (名) 〔鹽梅〕〔鹽、呉音、あむ、此語ニ、安排ノ字ヲ用キルハ、借字ナリ、安排ニ、調味ノ意ナシ〕(一)飲食物ニ加ヘテ調味スル、鹽ト梅酢ト。エンバイ。倭名抄、十六、鹽梅「尙書、說命篇云、若作二和羹一、爾惟鹽梅、孔安國云、鹽、鹹也、梅、酢也」合類節用(元祿)六、服食門「鹽梅、尙書、註、作レ羹者、鹽過則鹹、梅過則酸、鹽梅得レ中、然後成レ羹」(尙書ハ、書經ナリ)西宮記、六、九日宴、給二氷魚一「采女、一人持二氷魚一、一人執二鹽梅一、度二御前一云云、以二在レ前器一分取、以レ汁加レ之」字類抄「鹽梅、エンバイ」撮壤集(享德)下、飲食道「鹽梅、エンバイ」(二)轉ジテ、五味ヲ程ヨク調和シテ、飲食物ヲ作ルコト。味ノ加減。調味。吾妻鏡、三、壽永三年(元曆元年)六月五日「池前大納言、云云、逗留之間、連日、竹葉勸ニ

宴席「[illegible]宴席[illegible]、云云ニ付テハ、勝ナリ」言葉集、二、露教上人、自ラあんばいヲシテ、其鹽味ヲ試ミテ」[illegible]了ノ上ニ、[illegible]基」[illegible]、云云、[illegible]ノ事ヲ[illegible]ラセ申サムト云ヒケルヲ、信長聞テ、[illegible]ノ[illegible]サセヨ、其[illegible]ニ因ラム、トアリシカバ、云云」 易林節用(慶長)言辭「按排(アンバイ)、[illegible]味」同、合類節用(元祿)六、飲食門「按排、[illegible]」 (三)大政ヲ輔佐シテ、程ヨク處理スルコト。[illegible]理。 名例律、六議、四日、議能「謂[illegible]有二大才業一、能整二軍旅一、莅二政事一、鹽二梅帝道一、師二範人倫一者」 職原抄、上、太政官、太政大臣、左大臣、右大臣「已上謂二之三公一、[illegible]三公者、云云、[illegible]梅子二[illegible]帝道一者也」 (四)物事ノヲリアヒ。ホドアヒ。加減。都合。程度 「ウマイあんばいニ出來タ」ヨイあんばいダ」 (五)カラダノホドアヒ。身體ノグアヒ。健康 俚言集覽、あんばい「物ノヲリアヒ、様子ノコトニ云ヘリ、ヨイあんばい、あんばいガワルイ、ナドノ類ナリ、又、病ニ苦シムヲ、あんばいノワルイ、ト云ヒ、ヤヤ癒エガタニナリタルヲ、あんばいガヨイ、ナド云ヘリ」

あん-ばい (名) 安排 〔出典ヲ見ヨ、又、前條ヲ參見スベシ〕 (一)物事ノ、變遷ニ隨フコト。 莊子、大宗師篇「安排而去化、乃入二於寥天一一」註「排者、推移之謂也、安二於推移一而與レ化俱去、乃入二於寂寥一而與レ天爲レ一也」(節文) [illegible]下安石詩「餘年無レ[illegible]易二感激一、亦愧二莊叟能安排一」 (二)善ク處分スルコト。又、程ヨクスヱオクコト。 康熙字典「排、列也、安而也」 俚言集覽、安排「小說語、おしらへるコト也」

アンパイヤ (名) 行司 〔英語、Umpire. ノ譯語〕 べえすぼおる、ろおんてにす、ふうとぼおる等ノ、競技ヲ審判スルモノ。審判者。

あん-ばこ (名) 暗箱 〔英語、Dark-box. ノ譯語、Camera-obscura. 黒かめら〕 又、かめら。寫眞器械ノ主要ナルモノ。木造ノ小箱ノ前輪ニ、[illegible]ヲ取付ケ、後鞾ニ、[illegible]ヲ嵌メ、前後ノ間ノ上下、左右ニハ、布、又ハ革ニテ蛇腹ヲ仕付ケ、伸縮シ得ルヤウニ作リ、又、磨硝子ヲ除ケバ、其跡ニ取枠(トリワク)ヲ差込ムヤウニ作ル、普通ハ、箱ヲ三脚案ノ上ニ載セテ用キル。

あん-ぽふ(アンポウ) (名) 罨法 〔集韻「罨、衣檢切、音奄(エン)」網(アミ)ナリ、說文「罨、覆(オホフ)也」ノ義ニ取レルカ、奄(エン)、呉音、あん〕 充血ヲ去リ、炎症ヲ消サムガ爲ニ、身體ノ患部ヲ冷ス治療法。普通ニハ、氷塊ヲ、牛ノ膀胱ニ盛リテ當ツルヲ云フ、又、藥液ヲ用キルアリ、又、溫罨法モアリ。

アン-パン (名) 餡麪包 〔麪包(パン)ヲ、無餡(アンナシ)饅頭ト云フ〕 麪包ノ中ニ、あづき餡ヲ包ミタルモノ。

あん-ぴ (名) 安否 安キト、否(シカ)ラザルト。又、あんぷ。 禮記、文王世子篇「文王之爲二世子一、朝二於王季一、云云、至二於寢門外一、而問二内豎之御者一曰、今日、安否何如、内豎曰、安、文王乃喜」(王季ハ、文王ノ父) 林逸節用(文明)雜用「安否、安危」

アン-ビン (名) 餡餠 〔餡餠(カンペイ)ノ字ノ宋音、禪寺ノ語ニ起ル、なんびんト云フハ、音通ナリ、(何(ナニ)、豈(アニ)。あど、など)なんびん餠ハ、重言ナレド、語原ヲ知ラズシテ云フナリ〕 餡餠(アンモチ)ニ同ジ。又、なんびんもち。大福餠。靜岡縣ニテハ、今モ、大福餠ヲ、あんびんもちト云フ。 類柑子(寶永)「食(タ)べツケヌ、なんびん餠ヲ、忍ブラム」

あん-ぶ (名) 鞍部 〔英語、Saddle. ノ譯語、鞍ノ前輪(マヘワ)ト後輪トノ間ノ、窪ミタル形ニ似タリ〕 地形測量用ノ語。山ノ嶺(ミネ)ドホリニテ、低クナリ凹(クボ)ミタルトコロ。二山ノ間、峽地。[illegible]

あん-ぷ (名) 安撫 人民ヲ、安穩ニ撫ムコト。 隋書、[illegible]「[illegible]安[illegible]」

あん-ぷ (名) 安否 あんぴ(安否)ヲ見ヨ。

あん-ぷく (名) 按腹 〔按摩(アンマ)ノ語原ヲ見ヨ〕 古言、ハラトリ。按摩ノ一法。專ラ、腹ニ施スモノ。 一本堂行餘醫言、一「[illegible]人之強壯一也」(古事類苑)

あん-ぷく-でん (名) 安福殿 內裏內ノ殿舍ノ名。承明門內ノ西ニアリ、侍醫ノ直所ナリ、故ニ、藥殿(クスリドノ)トモ云フ。 拾芥抄、中、殿舍事「安福殿、月華門南、七間三面」同、中、[illegible]「[illegible]殿、在二安福殿內一、侍醫藥生等侯」[illegible]後冷泉院御時、[illegible]燒ケケル時、云云、くすり殿ノ御銚子ハ、[illegible]ジタリケルフ、[illegible]ノ時、新ラシキ銀ヲ、古キニマゼテ、打チカヘテ、供御ニソナヘケリ」

あん-ぶん-ひれい (名) 按分比例 〔英語、Pro rata. ノ譯語〕 數學ノ語。與ヘラレタル數ヲ、與ヘラレタル割合ニ分配スル算法。比例配分。

あん-べい (連體) 可有 あべき(可有)ノ條ヲ見ヨ。

あん-ぺい (名) 安平 (一)ヤスラカニ、タヒラカナルコト。安穩。平穩。 周禮、秋官、小行人「康樂和親、安平爲二一書一」 天武紀、下、九年十一月「皇后、體不豫、則爲二皇后一誓願之、初興二藥師寺一、仍度二一百僧一、由レ是得二安平一」 下學集、下、言辭門「安平、アンヘイ」 (二)轉ジテ、タヤスキコト。ワケモナキコト。容易 [illegible]、五、文覺、荒行(アラギヤウ)ニ、炎天ニ、藪ノ中ニ七日臥シテ「修行ト云フハ、是レホドノ大事ヤラムト、人ニ問ヘバ、ソレホドナラムニハ、イカテカ命モ生クベキ、ト云フ間、サテハ、安平ゴザンナレト、ヤガテ修行ニコソ[illegible]平、[illegible]ナラムト云ヘルナリ」 (三)[illegible]價値ナキ意ニテ、見下ゲルコト、[illegible]安)十二「人ヲ安平ニ云フ時、おれらガト云フ、云云、下リサマノ者ヲ、汝(ナンヂ)ガト云フ、同ジ事也」

あん-ぺい (名) 安平 半片(ハンペン)ノ條ヲ見ヨ。

アンベラ (名) 阿年部良 〔蠻語ナリト云フ、英語、Amber[illegible]〕 [illegible]香ト龍涎(リユウゼン)トヲ煉合セタルモノ。ニホヒノタマ。 多識編(林羅山)「[illegible]阿年部良」[illegible]、あんへら、[illegible]ノ[illegible]名ニモ呼べり、[illegible]云ヘリ」

アンペラ (名) [illegible] 〔馬來半島邊(マレイ)ノ語ナリト云フ、拐子方言「符篩」註「似二蘆篠一、直文而細」編片(アミヘラ)ナリト云フハ、イカガ〕 (一)南洋産ノ席。[illegible]束ス、草ノ莖ヲ、細ソク裂キテ、蘆篠(アジロ)ニ編ミ作レリ、色茶褐、敷物トシ、砂糖俵ナドトス。(く、あんべる。 此草、莎草(カヤツリグサ)科ニシテ、莖、高サ、三四尺ニ至ル、藺ニ似テ、[illegible]シト云フ。支那ニテモ栽培ス。 江戸[illegible](延寳)あんぺらヤ、[illegible]、夕[illegible]」[illegible]あんべる敷ケ」 俚言集覽、あんぺら「船乘スル所ノ一種ノ席ニシテ、[illegible]ナリ」[illegible]草ノ名。 [illegible]、あんへら、[illegible]ひめがまト云フ小蒲ノ名トス」 俚言集覽、あんぺら「ひらすげ、莎莖(シチタウ)ノ類ノ水草ニシテ、其莖狹扁ナリ」

アンベル (名) 前條ノ(一)ヲ見ヨ。

⁂あん-ぽつ (名) 〔「[illegible]法師(アンポッチ)ノ略轉カト云」〕 [illegible]竹轎ノ駕籠ヲ、あんだ

トモ云ヘリ、あんだハ、本、罪人ヲ載スルモノナレバ、忌ミテ、あんトノミ云ヒ、ソレヲ擬人シタル語ナラムト云フ（痩法師、一人法師、影法師）」江戸ニテ、一種ノ乗物ノ名。初メハ、駕籠あんだト云ヘリ、山駕籠ヲ、稍、修飾シタルモノ、左右ニ、疊表ノ垂ヲカク、往時、物持町人ナド、乗用トシタリ。寛文五年二月九日、町觸「町中ニテ、籠あんだニ乗候者有レ之由ニ候、前前ヨリ、御法度ニ候」（嬉遊笑覧、二）皇都午睡（嘉永）三編、上「江戸市中、端端ニマデ、駕籠屋多ク、云云、町駕籠ハ、乗かごノミニアラズ、引戸、あんぽつナドトテ、大小、望ミノ如クアリ」守貞漫稿、後集、三、駕車、あんぽつ「江戸ノ名目也、京坂ニテハ、あんだト云フ、云云、後、直立、前ハ、上ニテ、出張リタリ」

✤あん-ぽん-たん（名）［安本丹］〔あほたらヲ、音便ニハネタル語、其條ヲ見ヨ、約シキ服ヲ、つんつるてんナド云フ類ナリ、（種種ナル語原説アレド、皆、附會ナリ）倭訓栞、後編、あんぽんたん「近世ノ俗語也、あほうノ轉也」〕（一）愚人ノ渾名。寶暦ノ頃ヨリノ流行鄙語ナリ。風流志道軒傳（平賀源内）序「馬鹿ノ名目ニ、阿房、雲津久、部羅坊、タハケ、安本丹ノ親玉」俚言集覧、あほ「痴人ヲ云フ、あほうトモ云フ、又、あんぽんたんナドノ語モアリ」寢惚先生文集（蜀山人）「阿房、安本丹親玉、馥」（二）魚ノ名。かさごノ類ニテ、味ノ劣レルモノ。寛政ノ末ノ頃、此魚、多ク捕レテ、江戸市中ニ賣ラル、あんぽんたんト云フト、寫本嬉遊笑覽、九、下ニ見エタリ、不味ナルヨリ、愚魚ト呼ビシモノカ。魚鑑（天保）上、かさご「俗ニあんぽんたんト云フ、狀、鰧魚ニ似テ、頭、甚ク大キク、鬣、尖リ、鱗、アラク、味、下劣ナリ、赤黒兩種、又、鬼笠子ノ類アリ」

あん-ま（名）［鞍馬］あんば（鞍馬）ヲ見ヨ。

あん-ま（名）［按摩］〔廣韻「按、抑也」〕（一）醫ノ一法。支那ヨリ傳來シタルモノ、手ニテ、身體ヲ打チ、又ハ、揉ミ摩スルナリ。マッサアジ。古ヘハ、典藥寮ニテ、醫術中ノ一學科ト立テラレキ。江戸時代ニハ、盲人ノ專業トシタリ、もみれうぢトモ云フ。此類ノ法ニ、導引、按腹、痃癖、打肩アリ。素問「經絡不レ通、病生二於不仁一、治レ之以二按摩一」漢書、藝文志「按摩法、以レ手捏二摩處一也」令義解、職員「典藥寮、按摩師二人、掌レ療二諸傷折一、按摩博士一人、掌レ教二按摩生等一」（二）俗ニ、盲人ノ異稱。瞽者

アン-マ（名）［案摩］あま（案摩）ヲ見ヨ。

あんま-とり（名）［按摩取］市中ノ、按摩ヲ專業トスル者。略シテ、アンマ。按摩ノ技ヲ行フヲ、取ルト云フ。續五元集（寶永）「あんまとり、貴人頭上モ、ハリマハス」

アンマラ（名）［菴摩羅］菴羅ヲ見ヨ。

あんまり（副）［過度］〔副詞ノ、餘ヲ見ヨ、其音便ナリ（味好くする、あんぢょうする）〕アマリニ。程ヲ超エテ。法外ニ。「あんまり大キイ」あんまり無理ヲ云フ」

あん-みん（名）［安眠］寢ヲ安ク寐ルコト。安ラカニ眠ルコト。韓愈詩「不レ踏二曉鼓一朝、安眠聽二逢逢一」集韻「逢、鼓聲也」

あんみん-ばうがい（名）［安眠妨害］安眠ヲ妨グルコト。夜間、人人ノ眠ルベキ頃、道路、其他ニテ、放歌高聲シ、又ハ、騷ガシキ動作スル者ハ、科料ニ處セラル。

あん-めり（句）あめりノ音便。

✤アン-も（名）［餅］〔初メハ、餡餅ヲ云ヒシナルベシ、其下略ナリ、あもト云フハ、更ニ略シタルナリ（歩、あんよ。堪忍、かにシテオクレ）」餅ノ小兒語。（東京）又、あも。（關西）浮世風呂（文化、三馬）前篇、上「母ガ待テ居ルダラウソ、お喜カ、あんもカ、何デモ、いい子ニナツタ御褒美ニ」倭訓栞、あも「兒女子ノ語ニ、餅ヲ云ヘリ、甘キ義也」物類稱呼（安永）四、衣食、もち「關西ニテ、あもト云フ」

アン-もち（名）［餡餅］、（一）餅ノ中ニ、あづき餡ヲ包ミタルモノ。アンビン。（二）餅ノ上ニ、あづき餡ヲ塗シタルモノ。アンコロモチ。守貞漫稿、後集、一「餡餅、今世、二種アリ、一種ハ、餅ヲ皮トシ、小豆餡ニ砂糖ヲ加ヘ、肉トシタルナリ、コレヲ本トスルナルベシ、一種ハ、餅ヲ中ニ、餡ヲ以テ包ミタルモノナリ、俗ニ、餡ころ餅ト云フ也、餡衣餅ノ略ナルベシ」

アンモニア（名）［安母尼亞］〔英語、Ammonia.〕動植物質ノ腐敗ニ因リテ生ズル、無色ノ瓦斯。激シキ刺戟性ノ臭氣アリテ、强キ苛味アリ、硫酸ニ吸收セシメテ、肥料トシ、又、蒸發セシメテ、人造ノ氷ヲ製スルナドニ用キル。

あん-もん（名）［案文］〔あん（文案）ノ（一）ヲ見ヨ〕シタガキノ文。太政官式「凡史生已上解任遷替、與二解由一者、先修二案文一」

あん-もん（名）［按問］〔康熙字典「按、考驗也、劾也」〕シラベ、タヅヌルコト。問ヒ糺スコト。按察。宋史、王欽若傳「欽若擢去三官守、八命二御史中丞一、就レ第按問」

アンモラ（名）［菴沒羅］菴羅ノ條ヲ見ヨ。

あん-や（名）［闇夜・暗夜］暗キ夜。ヤミヨ。南史、檀祇傳「闇夜率二百許人一、緣二廣陵城一」

あん-やう-かい（名）［安養界］次條ヲ見ヨ。

あん-やう-ぢやう-ど（名）［安養淨土］〔其土ニ往生スレバ、心ヲ安養シテ佛ノ如ク爲ル意ト云フ、淨刹ト云フハ、淨土ニ同ジ、刹ノ條ヲ見ヨ〕極樂淨土ニ同ジ。又、安養國。安養世界。安養界。又、安樂國。安樂世界。源氏物語表白、結尾ノ文「南無西方極樂彌陀、云云、紫式部ガ六趣苦患ヲ救ヒタマヘ、云云、安養淨刹ニ迎ヘタマヘ」紫式部ガ、虚構小說ヲ作リタルニ因リテ、地獄ニ墮落シタリト傳フルヲ、僧聖覺ガ、救濟佛會ノ文ナリト云フ。（聖覺、建曆二年寂）盛衰記、三、一院女院嚴島御幸事、御經供養願文「現在世之運命有レ限、云云、不レ誤二順次之往生一、八速詣二安養之世界一」太平記、十八、比叡山開闢事「聖眞子ハ、九品安養界ノ化主、云云」

✤あんよ（名）［歩行］〔あよびノ音便下略（あまり、あんまり。あんもち、あんも）〕（一）幼兒ノ語。歩ムコト。アルクコト。類柑子（寶永）「あんよあんよト、ハヤシモテ、イザナハレ」「あんよハ、上手」（二）轉ジテ、足。

アンラ（名）［菴羅・奄羅］〔梵語、菴沒羅（Amra.）ノ略〕又、あんもら。あんまら。古佛典ニ見ユル、印度ノ喬木ノ名。大果ヲ結ブ、菴羅果ト云フ、梨ノ如シト云ヘリ、中印度ニテ、此樹多キ地ヲ菴羅園ト云ヒ、釋迦、此園ノ精舍ニテ、維摩經ヲ說法シタリト云フ、此樹、花多ケレド、實ヲ結ブコト少ケレバ、大智度論ニ、佛道ニ志ス者多ケレド、成功スル者ノ少キヲ、菴羅果の如しト譬ヘタリ。大日經、疏「菴摩羅果、形、如二本國夏梨一」本草綱目「菴羅果出二西域一、梨之類也」大鏡、下、道長「あんらト云フ植木アレド、果ヲ結ブコト難シ」合類節用（元祿）六、生植門「菴羅菓、一名、香蓋」和漢三才圖會（正德）八十七「菴羅果、香蓋、此種未レ有レ於レ此」倭訓栞、あんらん「菴羅果ヲ云フ、大和塔峯ノ廟側ニ、一株アリ」重修本草綱目啓蒙（享和）廿一「菴羅果、和產詳ナラズ、安蘭樹ヲ以テ、コレニ充ツルハ、穩ナラ

ズ、多武峯ノ寓勞ニアルハ、投罷ト同ジ、世ニ、安國ノ[illegible]ニ[illegible]スレナリ」(雲笈)

あんらく (名) 安樂 身、心、安ラカニシテ、樂シキコト。骨折、苦勞、無キコト。孟子、告子下篇「生二於憂患一、而死二於安樂一」法華經、五百弟子授記品「[illegible]安樂[illegible]」

あんらくあんぎれ (名) 安樂庵切 〔京都、寺町、誓願寺中ノ安樂庵ニ傳來セル袈裟裂ナリト云フ、慶長、元和ノ頃、策傳ト云フ僧、此庵ニ住セリ〕一種ノ古金襴ノ裁解。名物織物トシテ、茶器ノ袋ナドトシテ珍重セラル。支那ヨリ渡セルモノ、古キハ、南宋時代、新シキハ、明代ノモノナリ、地色、種種ニテ、雲形、又ハ、菱紋ノ上ニ、牡丹、唐草ナドノ模樣アリ。(荒磯切ヲ併セ見ヨ) 近世奇跡考(文化)二「安樂庵策傳ハ、云云、元和九年、七十ノ年、醒睡笑ト云フ笑話本八冊ヲ作ル、此人、茶道ニ於テ名高シ、云云、世ニ稱スル所ノ、安樂庵ノ裂ハ、此人ヨリ出デヌ」

あんらく-イス (名) 安樂椅子 長椅子ノ一種。底ヲ船底形ニ作リ、倚リカカリテ、前後ニ動搖セシムルヤウニ作レルモノ。

あんらく-くゎ (名) 安樂窩 (一)支那、宋代ノ大儒、邵康節ノ住居ノ名。宋史、邵雍(康節)傳「雍、歲時耕稼、僅給二衣食一、名二其居一曰二安樂窩一、云云、好事者、別作レ屋、如二雍所一レ居、以候二其至一、名曰二行窩一」(二)博徒ノ居。俚言集覽、安樂窩「小說語、バクチヤド」

あんらく-こく (名) 安樂國 次條ヲ見ヨ。

あんらく-せかい (名) 安樂世界 極樂淨土ニ同ジ。又、安樂國。安養淨土。法華經、藥王品「安樂世界阿彌陀佛」無量壽經、上「無レ有二三塗苦難之名一、但有二自然快樂之音一、是故其國、名曰二安樂一」

アンラ-くゎ (名) 菴羅果 菴羅ヲ見ヨ。

アンラン (名) 菴羅ヲ見ヨ。

あんりう (名) 暗流 水底ノ流レ。隱レタル水流。

あんりふ (名) 安立 「安心立命ノ略」あんぢんりふめいノ條ヲ見ヨ。

あんりょ (名) 安慮 あんしん(安心)ニ同ジ。「乍レ憚御安慮可レ被レ下候」

あんるゐ (名) 暗涙 覺エズ催ス涙。賈島、秋暮詩「白[illegible]暗垂出、暗涙兩行分」

あんろ (名) 暗路 築城ノ語。砲臺ノ地下ニ、交通ノ爲ニ設ケタル隧道。

あんゐ (名) 安慰 人ヲ、安ンジ、慰ムルコト。唐書、宗室傳「分二遣使者一、慰安、其款附者百十有九州」

あん-をぬすむ (句) 偷安 安佚ヲ貪ル。賈誼、治安策「夫抱レ火措二之積薪下一、而寢二其上一、火未レ及レ然、因謂二之安一、偷安者也」

あん-をん (名) 安穩 「のんト云フハ、連聲ナリ、をガ、んニ約マリテ、のトナル(云云、うんぬん)」安ラカニ、オダヤカナルコト。無事ナルコト。安泰。三國志、魏志、管寧傳「海內安穩、無二故掾一、部、恐百姓驚動」著聞集、十二、偷盜「刀者、用途ヲ取ラセス「我レ其用途ヲ取フムト思ハバ、汝一人、あんをんニアラセテムヤ」

あめ (名) 天 〔橘守部ノ說ニ、あめハ、上邊ノ約、底國ヲ下邊ト云フニ對スト云フ、イカガアルベキ、凡ソ、此ノ如キ原始語ノ語原ヲ[illegible]ムハ、不可能ノ事ナリ、外ニ語原說、[illegible]、皆、附會ナリ、此語ヲ、あまトモ云フハ、熟語ニ連シタル時ノ音轉ナリ、爪、つま先。目、ま蕉ナドノ例ナリ、雨ヲ、あま雲、あま水、あま夜ナド云フモ同ジ、天津ト云フ、つハ、(津ハ借字)古キ辭ニテ、之ノ義ナリ、倭訓栞「天ノ字ハ、多クあめト訓メリ、古事記ニ、あめト云フニハ註セズ、あまト唱フベキハ註アリ、サレバ、あめハ本語、あまハ轉語ナルベシ」あめの、あまのハ、萬葉假名ニテ書キタルアルハ、區別ニ論ナケレド、漢字ニテ、天トノミ書キテアリテ、何レトモ知ラレヌハ、各書ノ舊旁訓ニ從ヘルモアリ、各條ヲ見ヨ、あまのトアルニ、一切、あめのト改訓スルハ、妄ナリト思フ、好古叢誌ノ卷二ニ、飯田武郷ノ、あまの、あめのノ區別說アリ。〕天、天、又ハ、連體詞トナリテ、天の、天津、ト云フニ、種種ノ意義アリ」(一)頭上ヲ仰ゲバ、蒼蒼トシテ、極メテ高ク、廣大、無邊ニ見エ、日月、星辰ノカカルトコロ。アマ。オホゾラ。ソラ。天。虛空。空。古事記、下(仁德)「雲雀ハ、阿米ニ翔ル」同卷(允恭)「阿麻飛ブ、鳥モ使ゾ」「天ノ火」(二)天ノ神ノマシマストコロ。高天原。天原。古事記、上「八百萬神、於二天安之河原一、神集集而」倭訓栞、あめ「隋書ニ、日本國王、姓、阿每、ト云ヘルハ、天ノ義ナリ」合類節用、一、乾坤門「阿每國、唐書、日本者、直二新羅東南一、在二海中島一、其王、姓、阿每氏、又、隋書ニ[illegible]」ナルコト、勿論ナレドモ、皇祖、皇宗ノ御名稱ニ、多ク天ノ字ヲ冠スレバ、斯ク見タルナルベシ、我ガ皇家ニ、姓ハオマシマサズ、開闢ヨリ皇統一系ナレバ、姓ヲ設ケテ、他ト識別セシメラルベキ要ナケレバナリ、姓ヲ設セザルベケムヤ。(三)高天原ニ屬スル事物ニ云フ語。「天ノ[illegible]」[illegible](四)天津神ニ屬スル事物ニ云フ語。「天津[illegible]」「天津日嗣」「天津[illegible]」(五)高天原ヨリ、國土ニ傳ヘタル事物、又、ソレニ倣ヒテ作レル事物ニ云フ語。[illegible]物ニ云フ語。「天津祝詞」「天津菅麻」「天津金木」(六)朝廷、又ハ、[illegible]神ミク仰ギ奉ル[illegible]ムト、五百津綱延フ」(此ノ天ハ、大嘗宮ヲ云フナリ、[illegible])長歌「仕ヘ來シ、君ノ御門ヲ、天ノ如、仰ギテ見ツツ」同、二十「安米ノ朝廷」「阿摩ノ八十蔭」(八)尊ビ稱ヘテ云フ語。「天ノ[illegible]」

あめ (名) 雨 天水、あまみ、あめト約轉シタル語、東雅、一、天文、雨「あめトハ、天水也」萬葉集ニ「妹ガ目ヲ欲リ」ナド云ヘル、めハ、目見ノ約ナリ、(海ノ語原ヲ併セ見ヨ)つヲ略スルハ、出水、泉。水草、みくさノ例ナリ、雨ヲ、天津水ト云ヒ、天水ト云フ、[illegible]ニテ、あみ、[illegible]一、空氣中ノ水蒸氣ノ、冷エ凝リテ、水トナリテ、滴リ降ルモノ。アマツミヅ。サアメ。サメ。天水。安康即位前紀「大前、小前宿禰ノ、金門蔭、カク立チ寄ラネ、雨立チ止メム」(マチ休ヒテ、雨ノ止ムノヲ待タム)[illegible]雨降ツテ、地かたまるト云フ諺ハ、騷擾アリテ、後ニ、萬事、落チツク。惡キコトノ、好キ結果トナルノ意。[illegible]

見ルモ、俄ニ雲出デ來テ、雨ウツスガ如キ事モアルモノニ候、云云、申サレケレバ、良カラズ御感アリシトナリ」俳諧毛吹草(正保)「雨ふりて、地かためタル、氷カナ」(二)水ノ滴ル意ヨリ移シテ、涙ヲ云フ。小兒ノ泣クヲ、雨が降るト云フ。源、四十、幻七「塞キガタキ、涙ノあめノミ、降リマサレバ」玄玉集(鎌倉時代初期)三「世ノ中ヲ、思ヒハ入レジ、袖ノあめニ、タグハバ月ノ、曇リモゾスル」著聞集、五、和歌「小大進ハ、雨シヅクト、泣キテ候ヒケリ」

あめ (名) 〔飴〕〔日本釋名(元祿)下、飲食、飴「あめハ、あま也、あまき意、めト、まト通ズ」俗語考(橘守部)あめ、あまめ「飴也、云云、田舍人ノ、あまめトモ云フコトノアルヲ思ヘバ、甘滑ノ約レル言ナルベシ、云云、味噌豆ヨリ出ル滑ヲ、直ニなめト云フ類也」又、或ハ、甘水ノ約轉カ、(雨モ、天水ノ約轉)沖繩ニテハ、あみト云フ」食物ノ名。今ノ製ハ、もちごめヲ蒸シテ、熱氣アル中ニ、大麥ノもやしノ粉ヲ入レ、熱湯ヲ加ヘテ攪キマゼ、布袋ニ入レテ榨リ、其汁ヲ、釜ニテ煮ツメテ成ル。古ヘ砂糖ナキ時代ニハ、專ラ甘味ノ料トシタリ。(靜岡縣ニテハ、今モ、菓子ヲあめト云フ)其甚ダユルキヲ、水あめ、又、汁あめ、ト云フ。〔濕飴〕再ビ煉リテ、油ヲツケテ、引キタタムコト、數次ニシテ固クナセルヲ、固あめト云フ。古名、タガネ。〔餳〕字鏡十二「餳、飴也、阿女、䭅、阿米」本草和名、下四十「粭䭅、膠飴、濕粭、如二厚蜜一者、阿女」倭名抄、十六十六「飴、米蘗煎也、阿女」文德實錄、二、嘉祥三年七月「石見國獻二甘露一、味如二飴餹一」あめを舐らす、ト云フハ、先ヅ喜バセテ、後ニ欺キ陷ルル意。ト養狂歌集(寬文)冬「甲(來うニ言ヒカク)州ト、待テド參ラヌ、御音信、飴ねぶらせテ、ダマシタマフカ」大學行義「啗以二甘言一、而陰陷レ之」

あめ (名) 〔豆汁〕「滑ノ轉ナルベシ、(何、豈。何、あご)前條ノ語原ヲ見ヨ」味噌、又ハ、醬油釀造ニ用キル大豆ヲ、水ニテ煮ル時、出ヅル汁。倭訓栞、あめ「豆汁ヲ、俗ニあめト云フ、餳ニ似タルナリ」說文「瀩、豆汁也」

あめ (名) 〔鯇〕あめのうを(鯇魚)ヲ見ヨ。

あめ (名) 〔水黽〕〔體ニ、水飴ノ臭アリ〕蟲ノ名。みづすましノ異名。東京ニテ、あめんばうト云フ。俚言集覽、あめ「山城、伏見ノ方言ナリ、蟲名、みづすましヲ云フ」

あめ-いし (名) 〔飴石〕石ノ一種。語彙、あめいし「石名、外色粗糙ニシテ、打破レバ、其內色、膠飴ノ如シ」

あめ-い-せん-さう (名) 〔蛙鳴蟬噪〕(一)蛙ヤ蟬ヤノ、鳴キサワグコト。蘇軾詩「蛙鳴靑草泊、蟬噪垂楊浦」(二)轉ジテ、議論ノ喧シクシテ、無益ナルニ譬ヘテモ云フ。韓愈平淮西碑、儲同人評「段文昌、以二駢四儷六蛙鳴蟬噪之音一、易二鈞天之奏一、直不レ知二人間有二羞恥事一」(段文昌ガ、韓愈ノ文ヲ改作セシヲ謗レルナリ)

あめ-いろ (名) 〔飴色〕〔水飴ノ色ノ如キ意〕暗黃ナル色。

あめ-うし (名) 〔黃牛〕〔水飴色の牛ノ義、あめまだらハ、飴斑ナリ、牝牛ニ云フハ、牝ニハ、黃色ナルガ多キ意ニテモアルカ、牝馬ハ、多ク雜役ニツカフガ故ニ、雜役馬ト云フガ如キカ〕(一)牛ノ毛色ノ、暗黃色ナルモノ。又、あめまだら。垂仁紀、二年十月、註「黃牛負二田器一將レ往二田舍一」通證「蓋、其色如レ飴」倭名抄、十一五「黃牛、阿米宇之」天治字鏡、五五「黃牛、阿女万太良」名義抄、牛部「黃牛、アメウシ、アメマダラ」(二)牝牛ノ異名。十訓抄、上、第三、第四條、播磨國、高砂ニテ「大宮先生義定ト云フ者「我レノミト、思ヒ來シカド、高砂ノ、尾上ノ松モ、マダ立テリケリ」ト詠ミタリケルヲ、人人感ジアヘリ、良暹、其座ニアリテ、妻牛ニ腹突カレヌルワザカナ、トゾ云ヒケル」物類稱呼(安永)二、動物、牛「牝牛ハ、諸國、共ニ、あめうじト呼ブナリ」

あめ-うり (名) 〔飴賣〕江戶時代、市中ニ、固飴ヲ、小兒ナドニ賣リアルク者。又、あめや。〔賣餳者〕其扮裝、種種ナレド、多クハ、淸朝人ノ裝ヒシテ、唐人笛ヲ吹ケリ、三官飴ナド賣リ始メタルモノカ、又、下飴ヲ賣ルモアリテ、賣詞ニ、くだりくだりト云ヒキ。(ちゃんちゃんノ條ヲ併セ見ヨ)又、とっかへべいト云フ飴賣アリキ、其條ヲ見ヨ。倭訓栞、あめ「あめうりノふえヲ吹ク事ハ、古ク、西土ヨリ傳ハレリ、詩箋ニ、鄭箋ニ小竹管一如二今賣餳者所レ吹也ト見エタリ」

あめ-おす-の-かみ (名) 〔天壓神〕「向ヒタマフ所、如何ナル敵モ敗ラレテ、物ヲ壓し拉グガ如キ御稜威ナルヲ申シシナルベシト云フ」神武天皇、御東征ノ時、大和國ノ土民ガ、天皇ノ御勢ノ烈シキヲ稱シ奉リシ語。神武紀、上「弟磯城、懼然改レ容曰、臣聞二天壓神至一、旦夕畏懼」集韻「懼、音業、懼也」(通證ノ校訂ニ據ル)古事記傳、十九「天壓神、阿米能於斯賀微ト訓ムベシ」

アメエバ (名) あみいばヲ見ヨ。

あめ-が-した (名) 〔天下〕〔あめのしたト云フヨリハ、後ナリト云フ〕あめのした(天下)ニ同ジ。和泉式部日記「何セムニ、身ヲサヘ棄テムト、思フラム、あめがしたニハ、君ノミヤふる」太平記、三、主上御二沒落笠置一事「サシテユク、笠置ノ山ヲ、出デシヨリ、あめが下ニハ、隱家モナシ」

あめ-がち (名) 〔雨勝〕晴ルル日ヨリモ、雨降ル日ノ多キコト。枕草子、五、五十段「朔日ヨリ、雨がちニテ、曇リクラス」

あめ-かんむり (名) 〔雨冠〕漢字ノ上ニ冠スル、雨ノ字ノ稱。雲、雪、雷、電、等ノ如シ。〔雨字頭〕運步色葉集「雨、アメカブリ」

あめ・く (動) 〔叫喚〕〔うめくト通ズ(あまし、うまし)〕うめくニ同ジ。枕草子、二、十七段「酒飲ミテ、あめき、口ヲサグリ、髭アル者ハ、ソレヲ撫デテ、盃、人ニ取ラスル程ノケシキ、イミジク憎シト見ユ」宇治拾遺、五、十一條「若干集リタル大衆、異口同音ニあめきテ、扇ヲ開キ使ヒタリケリ」

あめ-ふん-ふん (句) 〔雨來來〕ゆきふんふんノ條ヲ見ヨ。

あめ-ざいく (名) 〔飴細工〕固飴ニテ、鳥獸、人物ナドノ形ヲ作リテ、小兒ノ玩トスルモノ。管ノ先端ニ、飴ヲマルメテ附ケ、後端ヨリ息ヲ吹キコミ、飴ヲフクラマセテ作ルモアリ。

あめ-しづく-と (副) 〔雨雫〕〔雨雨と泣くト云フト同意、とトハ、山と積むナドノとナリ〕甚シク涙ヲ流ス狀ニ云フ語。サメザメト。拾玉集、一「搔キクラシ、晴レヌ思ヒノ、隙ナサニ、雨しづくとモ、泣カレケルカナ」吉野拾遺、下「高野ノ山ニ登リテ、髮オロシケリ、三年バカリアリテ、我ガ庵ニ來リテ、あめしづくと泣キケルヲ、イカニ問ヘドモ、應ヘモセデ」

あめ-しら・す ・ス・セ・サ・シ・セ (自動、四) 〔天知〕〔次條ノ敬語、しらすノ條ヲ見ヨ〕天上ヲ知シメス。神上シタマヘルニ云フ。萬葉集、二三十六「高市皇子殯宮歌「久堅ノ、天所知流、君故ニ、月日モ知ラニ、戀ヒワタルカモ」同、三八五十「安積皇子薨之長歌「久堅ノ、天所知ヌレ、(べ)展轉ビ、沾チ泣ケドモ、セムスベモナシ」吾ガ王、天所知牟ト、思ハネバ、凡ニゾ見ケル、和豆香杣山」(和豆香ヘ、御葬地ニテ、今ノ山城國、相樂郡、和束村ナリ)

あめ-しる ・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 〔天知〕

天上ヲ知ル、[illegible]ヤ、日ノ御影ノ、水コソハ、常ニアラメ、御井ノ清水」(天知る日、トツヅケタルナリ)

あめ-すだし (名) [黄牛斑] 黄牛ニ、黄ノ如キ白斑アルモノ。黒毛ニ、大ナル白斑アルヲ、蓮華斑ト云ヒ、黒毛ノ額ニ、白斑一處アルヲ、佐目額ト云フ。以上、共ニ、御所車ヲ牽カセマヰラスルニ用キル。

あめ-たき (名) [飴煮] 鯉ナド煮ルニ、水飴ヲ加フルモノ。

あめ-ちまき (名) [飴粽] 粽ノ一種。糯米ナラデ、固飴ヲ巻キタルモノ。三十二番歌合(文安)十四番、飴粽「[illegible]手毎ニゾ、取ルハシヅルノ、飴ちまき、花ヲモ三輪ノ、嵐ノ休ミニ」林逸節用(文明)食物「飴粽」俗語考(橘守部)「飴粽、茅巻「大納言、書中[illegible]ヨリ、飴粽ト云フモノヲ出セシ由、延文年中ノ紀行ニ見エタリ、今ハ、云云、京師[illegible]丸ノ川端道喜ノ家傳トシテ傳ヘタリ、其製、菰ニモテ巻キテ、今ノ葉糫ト云ヘルモノノ形ノ如ク、葉先ヲ[illegible]リタリ、世ニ、[illegible]ノ葉ノ花生ヲ、飴茅巻ト云ヘルモ、形ノ似タル故ナリ」

あめ-つし (名) [天地] 「あも(阿母)ノ語原ヲ見ヨ」天地ノ、東詞。萬葉集、二十[illegible]「阿米都之ノ、何レノ神ヲ、祈ラバカ、愛シ母ニ、マタ言問ハム」同、[illegible]「阿米都之ノ、神ニ幣置キ、齋ヒツツ、イマセ我カセコ、吾レヲシ思ハバ」

あめ-つち (名) [天地] (一)天ト、地ト。天地。乾坤。古事記、上「天地初發之時」神代紀、上「乾坤之道」同、下「當[illegible]之隆、當與天壤無窮者矣」萬葉集、二十「天地ノ、神ヲ祈リテ、幸矢貫キ、筑紫ノ島ヲ、サシテ行ク我レハ」古今集、序「力ヲモ入レズシテ、あめつちヲ動カシ」(二)[illegible]ツ神ト、國ツ神ト。萬葉集、十三「[illegible]ツ神、[illegible]キ乞ヒ祈ミ、幸クアラバ、又還リ見ム、志賀ノ韓崎」(雖ハ、欺ノ誤ナリト云フ)同二十、五十六「イザ子共、タ[illegible]、天地ノ、[illegible]神多胡毛、共開、示抵、賤猪流、杏久貴佐大瑞馬雲蘭在良之止奈毛、忽行須」(損雲ヲ宜ヘルナリ)

あめつち-の-うた (名) [天地歌] 「歌ニ、え文字、二ツアリテ、四十八ナリ、也行ノえヲ加ヘタルカ」假字四十八ヲ、重複セヌヤウニ綴リタル歌、平安朝時代ニ、手習フ者ニ授ケタルモノ。歌ノ首ノ、あめ、つち、ノ二語ヲ採リテ、名ヅケタルナリ、後ノたゐにノ歌、いろは歌、ノ如シ。源順集ニ、あめつちの歌トテ、四十八首ヲ載セタリ、其各歌ノ首ニ置キタル假名ヲ拾ヒ集ムレバ「あめ、つち、ほし、そら、やま、かは、みね、たに、くも、きり、むろ、こけ、ひと、いぬ、うへ、すゑ、ゆわ(硫黄)、さる、おふせよ(生セヨ)、えのえ(衣乃江、榎ノ枝)をなれゐて(馴居)」トナル、(相模集ニモ、同ジ事ノ歌ドモアリ) 宇津保物語、國譲、中「[illegible]赤キ色紙ニ書キテ、唐ノ花ニツケタル假名、云云、あめつちゾ、云云、[illegible]書キテ」[illegible]、天[illegible]、[illegible]ノ歌、世俗[illegible]云云、[illegible](比古婆衣、四ノ訂正ニ據ル) 北邊隨筆(文化、富士谷御杖)初篇、三、手習「亡父富士谷成章云、なには津、あさかやまノ後ハ、あめつちほしそらト云フコトヲ、手習フ人ノ初トシケルニヤ、文字ノ數、四十八ナリ、云云、彼ニ歌ハ、同ジ文字カサナリテモアリ、漏レタル文字モアレバ、天地の歌ハ、其後ニゾ出デ來タルラムトオボシ」

あめつち-の-ふくろ (名) [天地袋] 女子ガ、新年ニ、縫ヒテ作ル袋ノ名、天地ヲ縫ヒ合スル心トシ、幸ヲ納ルル祝物トス。後ニモ、香袋トテ、女子ノ袋ヲ縫フハ、此遺風ナリト云フ。相模集「あめつちノ、神ノヒロメム、幸ヲ、袋ニウケテ、縫リニシガナ」一條大納言家歌合(天延三年)「あめつちの、袋ノ數シ、多カレバ、思フコト[illegible]、今日ニモアレ[illegible]」[illegible]記、中、上「安和二年「年立チカヘル朝ニナリニケリ、云云、[illegible]トナホシキ人、マダ[illegible]シナガラ、[illegible]ユ、あめつちヲ袋ニ縫ヒテ、ト[illegible]スルニ、イトヲカシクナリテ」此古婆衣ノ四ニ、コレニ[illegible]記シテ、コハ、[illegible]年ノ始ニ誦スル、言壽歌ノ詞ナリト聞エタル、女房私記ト云フ書ニ、禁中[illegible]女中[illegible]ノ[illegible]、正月[illegible]ノ[illegible]縫フ[illegible]ノ歌トテ、天地ヲ、袋ニ縫ヒテ、幸ヲ、入レテ持タレバ、思フコトナシ」トアリ」(自註ニ、此書、九條ノ政所樣ヨリ出デ、元祿頃ノ寫本ノ由、記セリ) 俗語考(橘守部)あめつちをふくろにぬふ[illegible]、今モ、邊土ニテハ、正月ノ吉書ニ用フル所アリ」

あめつち-の-よりあひ (名) [天地寄合] 〔萬葉集古義「天地ノ初メテ判レシト云フニ對ヘタルコトニテ、寄合フ理ハナキコトナレド、假リニ設ケテ云ヘルガ、オモシロキナリ」〕「天地の寄合の極み」ト云フハ、寄合ハム限リマデト云ヒテ、久シキ間ノタメシニ云フ、天地ノアラムカギリト云フ意ナリト云フ。萬葉集、二、長歌「[illegible]藤原ノ、[illegible]之國ヲ、天地之、依相之極、知シメス、神ノ命ト」(寄合之極) 同、六、長歌「天地乃、依會ノ限リ、萬世ニ、榮エ行カムト、思ヒニシ、大宮スラヲ、云云」

あめ-なる (連體) [天在] (天にあるノ約) 天ニアル。萬葉集、三、長歌「天ノ、佐々ノ小野ノ、云云、天河原ニ、出デ立チテ、禊テマシナ」(古義、天上ニアル野ナリ) 同、七、七十旋頭歌「天在、日賣菅原」(姫菅原、日ト云フニカカル) 同、十六「天爾有哉、神樂良ノ小野」(やハ、淡海ノ蔵ナドノ、やニ同ジ) 古事記、上、長歌「[illegible]」

あめ-の-あし (名) [雨脚|雨足] 〔降リ過ギユクコト、足ニテ歩行スルガ如シ、夕立ノ雨ノ過グルヲ、通雨ト云フ、漢語、雨脚、雨足、ノ訓讀ニハアラジ〕雨ノ、降リ過ギユクコト。アマアシ。六帖、一、雨「[illegible]ヲ、雨のあしトハ、思ハネド、[illegible]ナク、降リソフ雨の、あしハモノカハ」枕草子、二、六帖十八段「待ツ人ナドアル夜、雨のあし、風ノ吹キユルガスモ、フトゾ驚カルル」源氏、夕顔「内ヨリノ御使、雨のあしヨリモ、ケニ繁シ」詞花集、九、雜、上「[illegible]雨の、あしトモ[illegible]」[illegible]

あめ-の-いと (名) [雨絲] 〔倭訓栞、あめのいと「雨の脚ヲ、絲ニ見立テタル詞也」〕雨ノ、絲ノ如クニ成シテ降ルモノ。[illegible]内寶藏)「遙キクラシ、亂レゾマサル、あめのいとノ、よるノ思ヒモ、[illegible]フレテ」[illegible]綠ニ」

あめ-の-いはと (名) [天岩戸] 〔天ノ語原ヲ見ヨ〕あまのいはと(天岩戸)ヲ見ヨ。凡ソ、あめの云云ト云フ語ハ、あまの云云ヲ見ヨ。

あめ-の-うみ (名) [天海] 〔天ヲ、大海ニ見立テテ云フ〕蒼空ヲ、廣大ナルニ喩ヘテ云フ語。萬葉集、[illegible]月人壯子」

あめ-の-うを (名) [鯇魚] 〔倭訓栞、あめ「鯇ヲ訓メリ、雨降ル時ニ、多ク得ル物ト云ヘリ」尺素往來「雨魚」又、アメ〕エザケ。魚ノ名、淡水ニ產ズ、近江ノ湖ニ多シ、形、鱒ニ似テ、背ノ上、尾ニ近クシテ黑甲アリ、鱗、細クナラズ、大ナルハ一尺ニ至ル、肉、白ク、又、淡赤キモアリ、一名、アメマス。[illegible]

米魚」倭名抄、十九「鯇、似鯽音也、阿米、一云、江鮭」名義抄「水鮭、アメ、江鮭、鯇」和玉篇「鯇、アメノウヲ」實隆公記、大永六年十月五日「大館入道、送二雨魚一折一」重修本草綱目啓蒙、廿九「鯇魚、アメノウヲ、アメ、ミヅザケ、ヱザケ、近江」

〔**あめ‐の‐おきて**　(名)　天掟　天上ノ法則。天ノオサダメ。天道　宇津保物語、俊蔭上「天のおきてアリテ、天ノ下ニ、琴彈キテ、族タツベキ人ニナムアリケル」同巻廿「女ハ、天道ニ任セ奉ル、天のおきてアラバ、國母、女御トモナレ、おきてナクバ、山賤、民子トモナレ」

〔**あめ‐の‐おしがみ**　(名)　天壓神　あめおすのかみ(天壓神)ヲ見ヨ。

あめ‐の‐おしで　(名)　天印　〔おしでハ、印ノ事ナリ、其條ヲ見ヨ〕　月ノ異名。又、天河ノ異名。清輔集、月「久方ノ、あめのおしでヤ、コレナラム、秋ノシルシト、見ユル月影」(是レハ、萬葉集ニ、天印トアルヲ、印ト讀取リタルナリ)　散木集、三、秋、織女朝「織女星ハ、あめのおしでノ、八重霧ニ、道踏ミ迷ヘ、又ヤ歸ルト」(コレハ、天河ヲ云ヘルナリ、以上、共ニ、天印ヲ見ヨ)

〔**あめ‐の‐かほ**　(名)　天垢　〔垢ハ、屋ヲ土偏ニシタル字ト思ハル、正字通「后、與厚通、左傳、君戴皇天而履后土、註、取厚戴之義、卽、厚土、古文作屋、云云、說文、后、云云、君也、象人之形」トアレバ、后ノ字ヲかたち、すがたノ意ニ取レルナルベシ、かほ(姿形)ノ條ヲ見ヨ〕　身體ノ姿形。スガタ。ナリカタチ。神代紀、下廿七「火火出見尊、骨法非常、若從天降者、當有天垢、從地來者、當有地垢、實是妙美之虛空彥者歟」通釋「通證本、北野本ニ、垢ヲ、かたちト訓メリ」

〔**あめ‐の‐した**　(名)　天下　「漢語、天下ノ訓讀語ニアラヌカ、神代紀ニ、日神ヲ、天下之主トアルハ、大世界ノ君ト解セラルルヤウナリ、天下ト云フ語ハ、古言ニハアラジト、平田篤胤ハ云ヘリ」　(一)高天原ニ對ヘテ、其下ナル、此國土ノ稱。アメガシタ。天下。　神代紀、上八「二尊共議曰、吾已生大八洲國、及山川草木、何不生天下之主者歟、於是、共生日神」(天下之主ハ、高天原之主トアリタシ、又ハ、天地之主ノ意ナルカ)　同巻、上十「天照大神者可以治高天原也、云云、素戔嗚尊者、可以治天下也」　(二)日本國中。　萬葉集、二 二十九 長歌「水穗國ヲ、神ナガラ、太敷座シテ、ヤスミシシ、吾ガ大王ノ、天下、申シタマヘバ、云云」同、五 廿五「萬代ニ、座シタマヒテ、阿米能志多、奏シタマハネ、朝庭離ラズテ」(太宰帥大伴旅人ガ、大納言ニ任サレテ、上京ノ時、筑前守山上憶良ノ餞セシ詠ナリ)　源、廿二、玉葛 四十「マシテ、今ヘ、天下ヲ、御心ニカケタマヘル大臣ニテ」(白氏文集「四海安危照掌內、百王理亂懸心中」)　拾遺集、十八、雜、賀「千年經ム、君シイマサバ、スベラギノ、あめのしたコソ、ウシロヤスケレ」

〔**あめ‐の‐した‐しら・す**・ス・セ・サ・シ・セ　(自動、四)　御宇　〔御宇、幷ニ、しらす、しろす、ノ條ヲ見ヨ〕　天下ヲ統治シタマフ。御治世アラセラル。　仁德卽位前紀「於纏向玉城宮御宇天皇之世」(垂仁天皇)　常陸風土記、信太郡「難波長柄豐前大宮馭宇天皇之世」(孝德天皇)　持統紀、三年五月「於近江宮治天下天皇」(天智天皇)　靈異記、上、序「輕島豐明宮御宇譽田天皇」(應神天皇)　訓釋「御、乎左女多比之、(治給)宇、阿米乃之多」

あめ‐の‐てかず　(名)　雨手數　〔語彙「雨の脚ト云フヨリシテ、手トモ云ヒ、雨ノ手ノ繁キヲ、手數ト云ヒシナリ」〕　雨ノ、繁ク降ルモノ。　爲忠集「降リソムル、あめのてかずニ、匂フ花ノ、色ノ深サヲ、見マシコソスレ」

〔**あめ‐の‐のりおと**　(名)　天詔琴　〔詔琴ト讀ムベキナラム、又ハ、中略ナルカ、(中執臣、中臣。馨果、かぐのこのみ)琴ハ、天詔ヲ神ニ請フ時、彈クモノナレバ、此名アルナルベシ、次條ヲ見ヨ」　倭琴ト云フニ同ジ。卽チ、ヤマトゴト。倭琴。　古事記、上二十六「取持其大神之生大刀與生弓矢、及、其天詔琴而逃出之時、其天詔琴、拂樹而地動鳴」

〔**あめ‐の‐のりおと**　(名)　天詔　〔のりおとヲ見ヨ、又、前條ヲモ見ヨ〕　神ノ託宣。カンガカリノ御言。神託。神降スル時、倭琴ヲ置キ、琴頭ニ、神依板ヲ立テ、板ノ下ニ、依方の水ヲ置キテ、水ヲ板ニ注ギテ、琴ヲ彈ケバ、神ノ影向、板ノ水影ニ映リ、琴ノ音ニツレテ、託宣アルナリト云フ。上古ハ、何事ニモ、神託ヲ請ヒテ、其吉凶ヲ決セシナリ。　古事記、中(仲哀)十六「天皇控御琴而、建內宿禰大臣、居於沙庭、請神之命、於是、大后、歸神、言教覺詔者、云云」　神功攝政前紀「九年(仲哀)三月、皇后選吉日入齋宮、親爲神主、則命武內宿禰令撫琴、云、以千繒高繒置琴頭尾、而請曰、先日教天皇者、誰神也、願欲知其名、云云、乃答曰、云云」(仲哀)　武烈卽位前紀「琴頭ニ、來居ル影媛、云云」(琴頭ニ降リマス神ノ御影ヲ、婦人ノ名ニカケタルナリ)　太神宮儀式帳、九月、神嘗祭「第一御門爾、令侍兮、御琴給兮、請天照坐大神乃神教云、云云」同、六月御祭「以笏御琴搔、三度、度每有警蹕、次奉下神、其御歌、云云、天津神、國津神、於利萬志萬世、云云」

〔**あめ‐の‐ひ**　(名)　天火　天ノ神火。　萬葉集、十五 十三「君ガ行ク、道ノ長手ヲ、繰リタタミ、燒キ亡ボサム、安米能火モガモ」(夫ガ流罪ニ處セラレテ立出デムトスル時、妻ガ歎キテ詠ゼシナリ)

〔**あめ‐の‐ますひと**　(名)　天益人　〔天トハ、稱ヘテ云フナリ、天ノ條ノ(八)ヲ見ヨ〕　殖エテ益シユク人民。蕃殖ル國民。生民。　大祓詞「安國ト、平ラケク知シメサム國中ニ、成リ出デム天之益人等」(古事記、上三十二「一日、必千人死、一日必千五百人生也トアリ、人ハ、死ヌル者ヨリ、生ルル者ノ方多シトナリ)

〔**あめ‐の‐みかげ**　(名)　天御蔭　〔屋ハ、天ヲ覆ヒ、日ヲ覆フタメニ構フルモノナレバ、其蔭ノ、屋內ノ意トナル、八十蔭トハ、蔭ノ多キ由ニ云ヒテ、稱フル詞ナリト云フ〕　御殿ノ內。又、日御蔭。又、天八十蔭。　宮中　大殿祭祝詞「皇御孫之命ノ、天之御翳、日之御翳ト、造リ奉リ、仕ヘ奉レル、瑞ノ御殿ヲ」　大祓詞「美頭ノ御舍、仕ヘ奉リテ、天之御蔭、日之御蔭ト隱リ坐シテ、安國ト平ラケク知シメサム國中ニ」(隱るトハ、蔭ニ就キ云フニテ、唯、其內ニ座スヲ云フ、人目ヲ避クルニハアラズ、拾遺集、一、春「櫻狩、雨ハ降リ來ヌ、同ジクハ、濡ルトモ花ノ、蔭ニ隱れム」)　推古紀、二十年正月、置酒宴、大臣上壽、長歌「ヤスミシシ、我ガ天皇ノ、隱リマス、阿摩能椰蘇訶礙、出デ立タス、三空ヲ見レバ、萬世ニ、斯クシモガモ」(三空ト云フモ、御殿ノ事ニテ、殿中ニ出御シタマヘルヲ申セルナリト云フ)

〔**あめ‐の‐みかど**　(名)　天朝廷　朝廷ノ尊稱。　萬葉集、二十 五十四「畏キヤ、安米乃美加度ヲ、(言ニ)懸ケツレバ、哭ノミシ泣カユ、朝夕ニシテ」(天武天皇ノ夫人藤原氏ノ、天皇ヲ慕ヒ奉レル詠ナリ)　續紀、三十、神護景雲三年十月、詔「朕我天乃御門帝皇我、御命以天、勅之久」

〔**あめ‐の‐みなか‐ぬし‐の‐かみ**　(名)　天御中主神　〔みなかハ、眞中ニテ、天ノ中央ノ主ナル神ナリ、又、たかみ、かみみハ、美稱フル語、むすハ、卽チ產ニテ、生產ノ義、(むすノ條ヲ見ヨ)びハ、神靈ノ義、(靈ノ條ヲ見ヨ)かみみむすびヲ、かみむすびトモ云フハ、約マリタルナリ〕　天地ノ初發ノ時、始メテ高天原ニ生レマセル神ノ御名。次ニ、高皇產靈神、神皇產靈神、(又、神產靈神)生レマセリ。萬物ノ化育ハ、皆此二神ノ功德ニ因ル。以

上ヲ、造化ノ三神ト申ス。古事記、上「天[illegible]、高御産巣日神、次、神産巣日神、此三柱神者、並、獨神成坐而、隱身也」同卷、序「乾坤初分、參神作造化之首」神代紀、上「天地初判、[illegible]、天御中主尊、次、高皇産靈尊、次、神皇産靈尊」[illegible]

〰あめのみはかり (名) 天御量 〔はかりハ、長短ヲ量ルコトニテ、天トハ、高天原、御ハ、稱ヘテ云フナリ、此語、度量衡ノ總稱ナリト云フ說アレド、神代ニハ、此三器アルベクモアラズ、唯、指ト手トヲ以テ、物ノ長短ヲ測リシノミ、(咫ノ語原ヲ見ヨ)古語拾遺ノ原註ニ、大小斤、權衡等之名也、トアルハ、建築ニ就キテ、臆測ノ追記ナリ〕神代ニ、材木ナドノ長短ヲ測ルコト。卽チ、寸、咫、握、尺、尋、ナドヲ用ヰテ爲シナリ。古語拾遺「日神ノ、石窟ニ幽居ノ時ニ、令手置帆負、彦狹知二神、以天御量、伐大峽小峽之材、而造瑞殿」出雲風土記、楯縫郡「神魂命詔、五十足天日栖宮之縱橫御量、[illegible]云云、此天御量持、而所造天下大神之宮造奉[illegible]詔」

あめのみや (名) 雨宮 風宮ノ條ヲ見ヨ。

〰あめのやちまた (名) 天八衢 やちまたヲ見ヨ。

〰あめびと (名) 天人 あまびと(天人)ヲ見ヨ。

あめふらし (名) 雨虎 〔雨降らむトスレバ出ヅ〕蟲ノ名。薩摩國ノ山中ニ棲ム、形、蝮ニ似テ、痩セテ、毅ナシ。重修本草綱目啓蒙、三十七、石龍、[illegible]、山中ニ、あめふらしト呼ブモノアリ、雨中ニ出ヅ、形、石龍ニ似テ、[illegible]」

あめふらし (名) 〔前條ノ語ノ移リタルニモアルカ、形、略似タレバナリ、海鹿、海牛、海兎、ト云ヒ、頭ニ、二肉角アレバ云フ〕海產ノ動物ノ名。多ク、南方暖地ノ海岸ニ棲ム、形、なめくぢニ似テ大キク、殼アリテ、外套膜アリテ、コレヲ覆フ、黑褐色ニテ、褐斑アリ、鰓ハ、體ノ右側ニアリテ、頭ニ二ツノ肉角アリ、運動甚ダ鈍ニシテ、物、其體ニ觸ルレバ、紫色ノ汁ヲ噴ク。又、海鹿。海牛。海兎。俚言集覽、あめふらし「うみうし、うみうさぎ、[illegible]ノ生物ニシテ、諸國海濱ニアリ、沙噀(又、噀)ノ類、人、コレニ觸ルル時ハ、背上ヨリ、鮮美ノ紅紫汁ヲ噴出シ、身ヲ隱スコト、烏賊魚ノ墨ヲ噴出スルニ同ジ」

あめふり (名) 雨降 雨ノ、降リテアル間。雨中。

あめます (名) 鯇鱒 あめのうを(鯇魚)ヲ見ヨ。

〰あめまだら (名) 飴斑 黃牛ノ條ヲ見ヨ。

〰あめみこ (名) 天御子 天神ノ御子孫。天孫。皇極紀、四年六月「中大兄伏地奏曰、鞍作、盡滅天宗、將傾日位、豈以天孫代鞍作耶」註「蘇我臣入鹿、更名鞍作」

〰あめみま (名) 天孫 〔天孫ノ訓讀ナルベシ、天御孫ノ下略、皇孫モアリ〕瓊瓊杵尊ノ尊稱。皇孫。神代紀、下「大己貴神、吾以此矛卒有治功、天孫若用此矛治國者、必當平安」同、上「汝三女神、宜降居道中奉助天孫」

アメンドウ (名) 巴旦杏 〔葡萄牙語、Amendoa. [illegible]ニハ、Amendra. [illegible]、Amandel. 巴旦杏ヲ併セ見ヨ〕又、あめんどう。あまんどう。熱帶地ノ產ノ木ノ實ノ核ノ名。往時、阿蘭陀人持チ來レリ、杏核ヨリ大キクシテ、黃ナリ、[illegible]、殼甚ダ堅シ、形、稍細ナリ、其仁ヲ生食スレバ、味、栗ノ如シ、又、藥ノ用トシタリ。此樹ハ、高キハ、二丈五尺ニ達スルアリ、葉ハ、披針形ニテ、鋸齒アリ、春ノ末、一寸許ノ淡紅花ヲ開ク、實、熟スレバ、自ラ裂ケテ、核ヲアラハス。合類節用(元祿)六、生植門「巴旦杏」重修本草綱目啓蒙、[illegible]「巴旦杏、アメンドウ、アメンドウス」

アメンドウ (名) 壽星桃 〔前條ノ語ノ移リタルモノカ、然レドモ、其所以ヲ知ラズ、(さう)ハ、桃ニテ、別ニ語原アルカ〕和漢三才圖會、八十六、阿面桃「用巴旦杏名阿女牟止宇、今人以此桃爲同名者、不知其據也」」からもも(壽星桃)ノ異名。小木ナリ。合類節用(元祿)六、生植門「巴旦杏、壽星桃」重修本草綱目啓蒙、廿一、巴旦杏、アメンドウ、別ニ、あめんどうト云フアリ、小木ニシテ、花實多ク生ズ、是レ、壽星桃ナリ、巴旦杏ノ類ニアラズ」

アメンドウス (名) 巴旦杏 前前條ヲ見ヨ。

あめんばう (名) 水黽 〔あめトノミモ云フ、(其條ヲ見ヨ)擬人シテ、飴坊ヲ音便ニ云フナリ(飴棒、あめんぼう、我張る、がんばる)〕蟲ノ名、みづすましノ異名。(東京)俚言集覽「あめんぼう、みづすましヲ云フ」

あめんぼう (名) 飴棒 〔前條ノ語原ヲ見ヨ〕駄菓子ノ名。飴ヲ、筆ノ軸ホドニ製シタルモノ。

あめもよみ (名) [illegible] 〔[illegible]ヨヨナリ、約、涎ノ垂ルルヲ、よよト云フ、よナリ、ト云フ、[illegible]、あめもよみ「雨ノ、ボタボタ降ルヲ云フ」(伴信友ノ說ナルベシ)雨の降、雪の降ト云フニ同ジトノ說モアレド、日中ニ云ヘルアリ、汗もよモアリ〕雨ノ降ル中ニ。雪もよみモ同ジ。又、汗ノ流ルルヲ、汗もよみト云フ。和泉式部集、四「萩ノ、イトオモシロク咲キタル[illegible]ニ、[illegible]「雨もよみ、イソグベシヤハ、秋萩ノ、花見ルトテハ、ワサトモソ[illegible]」[illegible]コト)世ニモアラジナ」玉葉集、十、戀、二「雨もよみ、フリハヘ訪ハム、人モナシ、無キニ歸リテ、生ケル身ソ[illegible]」[illegible]雲ノイミジウ降ルニ、心細クテ、打チナガムル程ニ、神ノ御おろしトテ、燕碗ヲ入レタルニ詠メル「[illegible]シテ、ナガメワビヌル、雪もよみ、神ノ昨トクルウレシサ」[illegible]

あめもよほ (名) 雨催 〔もよほハ、もよほしノ語根〕雨降ラムトスルケハヒ。アマケ。雨氣。

あめや (名) 飴屋 あめうり(飴賣)ノ條ヲ見ヨ。

あめやき (名) 阿米屋餅 [illegible]ノ條ヲ見ヨ。

〰あ-めり (句) 見有 〔動詞ノ有るト、助動詞ノ推量ノ、めりト、熟シテ句トナリ、其有るノ、るノ略音〕アルヤウニミユ。[illegible]

リガタキ絆シヲ、シヒテカケナハナレソ、ナドヤウニゾあめりシ」同巻十一「タノモシゲナル人ニゾあめるヲ、トノ給ハス」同、三十三、藤裏葉六「父オトドニモ、マサリザマニコソあめれ」

アメリカ-まつ (名) 亞米利加松 北亞米利加洲ノ西部ノ諸山脈中ニ產ズル松。巨大ナルモノ多ク、幹ノ直徑、八尺、乃至、三十尺、高サ、三百尺、乃至、四百尺アルモノアリ、船材、其外、建築用ニ盛ンニ伐リ出サル、木理、正直ニシテ、節穴ナキヲ特點トス、近年、我ガ邦ニ輸入セラルルモノ、少カラズ。又、めりけん松。

あも (名) 阿母 〔母ノ轉、其語原ヲ見ヨ、(漢語ノ阿母ト暗合ス)ちヲ志ト云フハ、東詞ノ常ナリ、天地ヲ、あめつしト云ヒ、下ノ出典ノ歌ニ、立ち出むヲ、たしでもナドトアリ〕 母ニ同ジ。母父ヲ、あも志志ト云フ、共ニ、古ヘノ東詞ナリ。萬葉集、二十十二「攝津ノ、海ノ渚ニ、舟装、多志埿毛(將ニ發出ニ)時ニ、阿母ガ目モ欲モ」(故郷ノ母ヲ思ヒテ、相見ムコトヲ欲ストナリ) 同巻廿九「阿母刀自モ、玉ニモガモヤ、戴キテ、角髪ノ中ニ、交ヘ纏カマクモ」旅行キニ、行クト知ラズテ、阿母志志(母父)ニ、言申サズテ、今ゾ悔シケ」月日ヤハ、過ハ往ケドモ、阿母志志ガ、玉ノ姿ハ、忘レセナフモ」(以上四首、共ニ、下野國ノ防人ガ、筑紫ノ守備ノ役ニ赴ケル詠ナリ)

❖**あ-も** (名) 餅 あんも(餅)ノ條ヲ見ヨ。

あも-志志 (名) 母父 前前條ヲ見ヨ。

あもり-つく (枕) 天降付 〔次條ヲ見ヨ、天上ヨリ降り着くノ義、神代紀口訣、三「風土記、天上有レ山、分而墮レ地、一片爲ニ伊豫國之天山、一片爲ニ大和國之香山ニトアル神話ニ因ルナリ」〕 大和國ノ香山ノ枕詞。萬葉集、三廿六長歌「天降付、天之芳來山、霞立チ、春ニ至レバ、云云」同十七或本歌云「天降就、神ノ香山」古事記、中(景行)五十二長歌「阿米能迦具夜麻」

あも・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 天降 〔天降るノ約、此語ノ活用、諸古書ニ散見スルニ、連用形ノ外ハ、見エヌヤウナレバ、依然トシテ上二段活用ナラムモ知ルベカラズ、今ハ姑ク、詞ノ八衢ニ、四段活用トシタルニ従フ、沖縄ニテハ、今モあもりト云フトゾ、又、落雷ヲ、あまろト云フハ、此語ノ遺ナルカ、ソレハ、四段活用ナリ、其條ヲ見ヨ〕 (一)高天原ヨリ國土ニ降ル。アマクダル。萬葉集、二十十九長歌「久方ノ、天門開キ、高千穗ノ、嶽ニ阿毛理シ、皇祖ノ、神ノ御代ヨリ、云云」同、十九三十長歌「秋津島、大和ノ國ヲ、云云、國見シセシテ、安母里座シ、掃ヒ平ゲ、千代累ネ、云云」續後紀、十九、嘉祥二年三月、長歌「久方ノ、天能梯建、践歩美、天降利坐志志、大八洲、天津日嗣能、高御座」(以上、三首共ニ、邇邇藝尊ヲ申シシナリ) 萬葉集、十三三長歌「葦原ノ、水穗ノ國ニ、手向スト、天降座シケム、五百萬、千萬神ノ、神代ヨリ、云云」同、三十六長歌「天降付、天ノ香山」(二)轉ジテ、天皇ノ、何レニマレ、到リ座スヲ、準ヘテ申ス。萬葉集、二三十四長歌「コマツルギ、和射見ガ原ノ、(美濃國)行宮ニ、安母理座シテ、天下、治メタマヒ、食國ヲ、定メタマフト」(天武天皇ニ申セリ)

あや (名) 文 〔合ヘノ轉カ、(さへぐ、さやぐ。たがへす、たがやす)下二段活用ノ合ふヲ見ヨ〕 (一)物ノ面ニアラハルル、縱横、種種ノ象。模樣。モンガラ。自然ノ斑ニモ、繪、織物、彫物、染物ナドニモ云フ。天治字鏡、四二「緩、縟无レ文也、阿也奈支太太支奴」易經、繫辭、上傳「天地之文」疏「若ニ青赤相雜ハ故稱レ文也」倭訓栞、あや「爾雅ニ、日月、天之文也、山川、地之文也、言語、人之文也ト見ユ」 (二)物ノ、打チチガヘニナルコト。交錯 交 又「あやオリ」あやドル」あやツル」 (三)仕組ノスヂワケ。條理 名義抄「理、アヤ」「言葉ノあや」文章ノあや」計畫ノあや」

あや (名) 綾 〔文織物ノ略〕 (一)〔又、あやおりもの。文ヲ織リ出セル、美シキ絹織物。竹取物語「内内ノシツラヒニハ、言フベクモアラヌ綾織物ニ、繪ヲカキテ、間毎ニ貼リタリ」倭名抄、十二廿六「綾、似レ綺而細者也、阿夜」令義解、賦役「綾者、有レ文之繒也」新六帖、五「百敷ヤ、大内山ノ、丑寅ニ、織部ノ司、あや奉ル」 (二)機具ノ、あやおりノ下略。(三)曲藝ノ、あやだけノ下略。

あや (名) 漢 〔綾ノ義、古ヘ、始メテ漢土ノ機織ノ勝レタルニ因リテ、遂ニ其國名ニ呼ビシ語ト思ハル、秦モ、繒ナリ、呉モ、朝鮮語ニテ、織文ノ意ナリ、くれ、あやはとり、ノ條ヲ併セ見ヨ〕 應神天皇ノ御代ヨリ以後、歷世、歸化セル漢土ノ人ニ云フ語。(音讀シテ、漢トモ云フ)其人ヲ漢人ト云ヒ、其部民ヲ漢部ト云ヒ、其司ヲ漢直ト云フ。推古天皇ノ御代ニ、小野妹子ヲ、隋國ニ遣サレシ時ノ隨行者ニ、新漢人、某漢人ナドアル、皆、其子孫ナリ。應神紀、二十年九月「倭漢直祖、阿知使臣、云云、率ニ己之黨類十七縣ニ而來歸焉」雄略紀、十六年十月「詔、聚ニ漢部ニ、定ニ其伴造者ニ、賜レ姓曰レ直」

あ-や (名) 阿爺 阿父ノ條ヲ見ヨ。

あや (副) 奇 あやにヲ見ヨ。

あ-や (感) 嗟歎 〔あモ、やモ、なモ、感動詞ナリ〕 歎ジテ發スル聲。嗟ニ同ジ。アラ。神代紀、上三「吾屋惶根尊」古事記、上二「阿夜訶志古泥神」(あやハ、歎聲、かしこハ、可畏しノ語根、ねハ、尊稱ナリト云フ、根ノ條ヲ見ヨ) 皇極紀、四年六月、中大兄皇子ガ、佐伯子麻呂等ガ進マザルヲ見テ「曰ニ咄嗟ニ云云、出ニ其不意ニ以レ劍傷ニ割入鹿頭肩ニ」

あ-やう-ソウ (名) 啞羊僧 〔出典ヲ見ヨ〕 愚痴、無智ナル僧ノ稱。又、羊僧。大智度論、三「僧四種「鈍根無慧、云云、默然無レ言、譬如ニ白羊不レ能レ作レ聲、是名ニ啞羊僧ニ」大方廣十輪經「愚痴無智不レ諳ニ問善知識ニ、名ニ啞羊僧ニ」靈異記、下、序「羊僧景戒、所レ學、未レ得ニ天台智者之問術ニ」本朝文粹、十三、奝然上人入唐時、爲レ母修レ善願文「我、是、日本國無才無行、一羊僧也」(共ニ、謙稱ナリ)

あや-おり (名) 綾織 綾ヲ織ルコト。又、ソレヲ業トスル者。アヤトリ。榮花物語、廿八、若水「人人ノ唐衣、上着ノ織物ドモハ、あやおり召シテ仰セ侍リヌ」鶴岡放生會職人歌合、五番、綾織「雲鳥ノ、あやトゾ月ニ、見ナサマシ、タナビク雲ニ、初雁ノ聲」

あや-おり (名) 綾織 〔出典ノ人倫訓蒙圖彙ヲ見ヨ〕 放下師ナドノスル曲藝ノ名。數本ノ竹管ヲ、手玉ニ取リ、又ハ、打チカヘシ打チカヘシ、其端ヲ握リナドス、筑子ノ類ナリ。略シテ、あやトノミモ云ヒ、ソレニ、竹ヲ添ヘテ、あやだけトモ云フ。竹齋物語(寛永)上、花見「遊女遊君集リテ、若キ人人打チマジリ、三味線、胡弓ニ、あや竹ヤ、調ベソヘタル其中ニ、云云」人倫訓蒙圖彙(元祿)七、放下師「綾織、云云、二ツ三ツ四ツ、竹ヲ以テ、上下ヘアゲオロス手品ナリ、其意ハ、綾ヲ織ルニ、横絲ヲ通ス時ニ、竪絲、上下ナリ、今、此業、善ク似タルヲ以テ、あや織ト云フナリ」かはお摺(元祿)「あや織ヤウニ、薪ノ小割スル」天和笑委集(天和)堺町「曲鞠、曲桴、あや、八桴」鋸能賦(寶永)「相口ヲ、綾ニナブッテ、納メケリ」(柳亭筆記、一)

あや-おりもの (名) 綾織物 綾ノ條ヲ見ヨ。

あやがき (名) 【文垣】 文アル帷ヲ[illegible]レテ、室内ノ隔テトセシ、帷帳ノ類ト云フ。キヌガキ。 古事記、上[illegible]ノ、フハヤガ下ニ、云云、綾ヲシナセ」(ふはやハ、フハヤカニテ、フハフハスルナリ)

あやかし (名) 〔古事記、上ニ、阿夜訶志古泥(アヤカシコネ)神、神代紀、上ニ、惶根(カシコネ)尊ヲ、記傳ニ、驚嘆ノ辭、可畏ノ義ト解キ、謡曲ニ、阿夜訶志ノ者ク、云云、トアリ、此魚ノ船底ニ着クヲ、舟人最モ畏ルルニ因リテ、あなおそろしノ意ニテ、あやかしトハ云フトノ說モアリ、サレド、神代語ト後世語ト、甚シキ懸隔アリ、倭訓栞、あやかし「俗ニ事實明白ナラザルヲ、あやかしナドト云ヘリ」サラバ、不思議ナル意ヨリ、妖怪ノ義トスルカ、サレド、あやかしノ語原、知ラレズ、或ハ、血ヲあやかすト云フ語ニ因ミテ、不祥ノ意ニ移リタルカ、尙、考フベシ〕 (一)小判鮫(コバンザメ)ノ異名。 採藥使記(享保)下「加州、越州ノ海中ニ、あやかしト云フ魚アリ、大キナルハ一丈許モアリ、頭ノ上ニ段段ノ紋アリ、小判ノきざノ如シ、一名、小判魚ト云フ、其魚多ク集リテ、きざノ所ヲ船ニ吸ヒツケテ、船ヲ止ムルコトアリト云フ」(西文) 重修本草綱目啓蒙(享和)三十、鮫魚ノ條「小判鮫、一名、あやかし、頭ニ橫刻連ルコト小判ノ如シ、物ニ粘着ス、此魚多ク船底ニ粘スル時ハ、舟動カズシテ、害ヲ爲ス」(西文) (二)海上ノ妖怪。船ノ、強風、怒濤ニ遭フ時、怪シキ姿ノモノ、船側ニ出現スト云フ迷信アリ、見ヌフリスルヲヨシトスト云フ。 謡曲、船辨慶「武庫山颪吹キ荒ロシテ、御船ノ、陸地ニ着クベキヤウモナシ、皆皆、心中ニ御祈念候へ」イカニ、武藏殿、此御船ニハ、あやかしガ付キ候、云云、アラ不思議ヤ、海上ヲ見レバ、西國ニテ亡ビシ平家ノ一門、オノオノ浮ビ出デタルゾヤ」

あやか・す (他動、四) 【零】 〔あゆ、あやす、あやかす。冷(ヒ)ゆ、ひやす、ひやかす〕 零(アヤ)すニ同ジ。コボス。「血ヲあやかす」

あやかりもの (名) 【肖者】 肖者(アエモノ)。吉(ヨ)キコトニ肖リタル者。「羨メラレルあやかり者」

あやか・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 【肖】 〔肖(ア)えかかるノ約ト云フ(映ゆ、はやる。萎ゆ、なやむ)〕 肖ユ。物ニ觸レテ似ル、他ニ感ジテ、同ジ姿トナル。(肖ゆノ條ヲ併セ見ヨ) 拾遺集、十九、雜、[illegible]ミ、[illegible]ノ葉ノ、トモスレバ、あやかり易キ、人ノ心カ」 林葉集(俊頼ノ子、俊惠)五、戀、「類メオキシ、夜ト思ヒテ、クレハトリ、何ニあやかる、心ナルラム」 易林節用(慶長)言辭「肖(アヤカル)」

あやきり (名) 【綾切】 〔出典ノ敎訓抄ヲ見ヨ〕 舞樂ノ曲ノ名、四人舞ニテ、女面ヲ被リ、古式ハ、鳥兜帽子ナリシガ、近制ハ、卷纓(ケンエイ)ノ冠ヲ用ホルト云フ。 倭名抄、四二、曲調類、高麗樂曲「阿夜岐利」 敎訓抄(天福)五、高麗曲「綾切、面、女形、白色革子、一說、鳥甲、又、愛[illegible]女云、高麗女名歟、又、大[illegible]云、二(愛妓女トモ書ク)

あや・し・シキ・シケレ・シク・シク (形、二) 【奇異】 〔感動詞ノ嗟嘆(アヤ)ヲ活用セシメタル語ナラム、(あはれしきナドモアリ)驚驚(オドロオドロ)し きナドノ意ナリ、倭訓栞、あやし「奇ノ字、異ノ字ヲ訓(ヨ)メリ、あやハ、嘆ズル詞ナルベシ」〕 (一)奇シ。クスハシ。フシギナリ。 靈異 神代紀、上四「神光(アヤシキヒカリ)照レ海」 天武紀、下、四年正月「大倭國貢二瑞鷄(アヤシキニハトリ)一、東國貢二白鷹一」 萬葉集、一二長歌「國貴ヘル、神ノ龜(アヤシキカメ)」 續紀、廿八、神護景雲元年八月、改元ノ詔「甚奇久、異[illegible]七色相交天、立在」 字類抄「靈、奇、アヤシ」 (二)常ニ異ナリ。異シ。非常ナリ。キタイナリ。 異常 [illegible]十一年四月「異[illegible]俗[illegible]古今集、序「山部赤人ト云フ人アリ、歌ニあやしく妙(タヘ)ナリ」 伊勢物語、八十一段「陸奥(ミチノク)ニ行キタリケルニ、あやしくオモシロキ處多カリ」

あや・し・シキ・シケレ・シク・シク (形、二) 【怪】 〔前條ノ語意ノ一轉ナリ〕 (一)イブカシ。不審ナリ。 萬葉集、七[illegible]「ヒサカタノ、[illegible]シくモ、吾ガ衣ハ、干ル時ナキカ」[illegible]ハヌモ[illegible]」 (二)アルマジキコトナリ。ケシカラヌ。 不良 景行紀、五十一年八月「蝦夷、素有二獸心(アヤシキココロ)一、難レ住二中國一」 [illegible]「打橋、渡殿、ココカシコノ道ニ、あやしきワザヲシツツ、送リ迎ヘノ人ノ衣ノ裾、堪ヘガタウ、マサナキ事ドモアリ」(尿ナド、穢キチラシタルナリト云フ)

あや・し・シキ・シケレ・シク・シク (形、二) 【賤】 〔倭訓栞、あやし「あやしのしづナド云フハ、いやしノ義ナリト云ヘリ」(讃む、あざむ) 語彙、あやしき「常ニ賤ハ、意ヨリ轉ジテ、いやしくキタナキ方ニモ云ヘリ」〕 賤(イヤ)シ。下衆(ゲス)ナリ。 源、十三、明石「[illegible]あやしき海人(アマ)ドモナドノ、高キ人オハスル所トテ、集リマヰリテ」 今昔物語、廿二、第七語「賤(アヤ)しノ下衆ノ家ナレドモ」カカル賤しノ者ノ娘ナリトイヘドモ」

あやしば・む・ム・メ・マ・ミ・メ (自動、四) 【怪】 〔ばむハ、ソノ氣色(ケハヒ)スル意ナリ、(黃ばむ、青ばむ)あやしばうタルハ、ばみタルノ音便ナリ(賴(タノ)みタル、たのうダル)〕 アヤシク思ハル。アヤシゲニ見ユ。 古事談、四、勇士、清水寺通夜「于時、[illegible]人出二來于[illegible]、云、六道辻ニ、人待ツトオボシクテ、あやしばみタル輩、侍ル也、此御中ニ、敵令レ持タマヒタル人オハサバ、夜深ク不レ可レ令レ出給」云云」 長門本、平家物語、十九、和泉國、八木郷[illegible]「此間[illegible]日、[illegible]ガ前ニコソ、あやしばふタル人ハ、忍ビテマシマシ候へ、一定、十郎藏人殿ニテマシマスト覺エ候」

あやしび (名) 【怪火】 〔[illegible]形ノ名詞ニ接スルハ、空(ムナ)し烟、うれし涙、ノ類〕 起レル由(ヨシ)ノ知ラレヌ火災。

あやし・ぶ・ブ・ベ・バ・ビ・ベ (他動、四) 【怪】 〔怪しヲ活用ス、悲しぶ、樂しぶ、モアリ〕 次條ニ同ジ。 [illegible]「[illegible]」 [illegible]同、立部、奇、アヤシブ」

あやし・む・ム・メ・マ・ミ・メ (他動、四) 【怪】 〔前條ノ轉、悲しぶ、かなしむ。樂しぶ、たのしむ〕 アヤシブ。イブカル。不審ナリト思フ。 たよ竹物語「あやしまレジト思ヒテ、人ニマギレテ見侍レバ」(語彙)

あやし・む・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ (他動、下二) 【怪】 〔さいなむ、さいなむる。搦む、からむる〕 前條ノ語意ニ同ジ。 [illegible]玉鳥、下「有王ヲ、人、怪しめ、[illegible]ナドシケレドモ」 謡曲、安宅「スハ、我ガ君ヲあやしむるハ、[illegible]」

あや・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) 【零】 〔零(ア)ゆノ他動(絶ゆ、たやす)〕 零ユルヤウニス。コボス。シタタラス。 宇津保物語、[illegible] 笠卅「散リ落ツル花片(ハナビラ)ニ、爪(ツマ)モトヨリ、血ヲサシあやして、斯ク書キツク」 醫心方、一六「不レ可レ汗(アセアヤス)」

あや・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) 【調戲】 〔俚言集覽、あやす「小兒ヲあやすナド云フハ、あやなすノ略カ」(ものながら、ものから)〕 アヘシラヒ慰ムル。テウラカス。「乳呑子ヲあやす」

あやすぎ (名) 【綾杉】 〔あやハ、黑キ章ナリト云ヒ、又、木目ナリト云ヒ、又、[illegible]綾アルナリトモ云フ、決シガタシ〕 異種ノ杉。 [illegible]「[illegible]ノ、あやすぎ、[illegible]」「牛ヒ繁レ、[illegible]サスベク」(一位ノ袍ノ深紫(黑)ヲ祝シタルカ) 海人藻芥、下「十五歲以前ノ人ハ、あや杉ノ扇ヲ持ツ也、綾杉トハ、杉ノ木ニテ作ルナリ」[illegible]

あやすぎ、新古今集、十九、神祇「チハヤフル、香椎ノ宮ノ、あや杉ハ、神ノ禊ニ、立テルナリケリ」云云、あや杉ハ、云云、ウツクシキ葉ノ、シナヒテ、もくナド數ノアル木ナリ」 倭訓栞、あやすぎ「宮川歌合ニ「萬世ト、山田ガ原ノ、あや杉ニ、風シキタテテ、聲ヨバフナリ」カカレバ、常ノ杉ヲ云フベシ」 語彙、あやすぎ「花柏ノ一種、變葉ノモノナリ、其葉、杉ノ如クニシテ、細少、且、軟ニ、背ハ、白色ナリ」 藻鹽草、九、あやすぎ「此杉、紫色ニ紋アルト云」 宗像軍記、香椎ノ綾杉ノ事「葉毎ニあやノ紋アルニ因リテ、綾杉トハ申スナリ」

あやすぎ (名) [綾杉] 〔あやハ、組目ノ文ナリ〕 (一)杉ノ薄板ヲ、網代ニ組ミテ作レル垣。 安齋隨筆、五、綾杉、あじろノ組目ニ同ジ、昔ハ、杉ノ薄板ヲ、あじろノ如ク組ミテ、垣ニスルナリ、云云、組ミテ、あやヲナスナリ」(檜垣ト並ベテ載セタリ) (二)腰鼓ノ胴ノ裏面ニ、綾杉ノ如キ文ヲ密刻シタルモノ。本名ヲ、檜垣ト云フ、人字形ヲ列ネタルガ如シ、鼓聲ノ、反響、振動シテ、美妙ノ音ヲ發セシメムガ爲ナリ。三味線匠モ、コレニ倣ヒテ、胴裏ニ刻ル、名匠近江ノ作ナドニアリ。又、刀劍ノ中心ニ刻メルモノ、指物師ノ鉋目ニモ、紗綾形ニモ、あやすぎノ名アリ。

あやたけ (名) [文竹] 機具ノ名。竹ノ極メテ細ソキ棒ナリ、奇數ノ番號ノ經絲ト、偶數ノ番號ノ經絲ト、順次ニ隔番ニ排列シ、其絲ト絲トノ間毎ニ、此竹ニ入ルル經絲ノ順序ヲ正シ、又、切レタル時、其位置ヲ求メ易カラシムルナリ。コレヲ略シテ、あやトノミ云ヒテ、此装置ノ名稱トモス。 倭訓栞、あや「機具ニ、あやト云フ物アリ、雲ノ絲ヲあやどる具ナリ、古ヘニ、綜ヲヘト訓メル、是也、玉篇ニ、綜縷持レ絲交者也ト見エタリ」

あやだけ (名) [綾竹] 曲藝ノ、あやおり

ヲ見ヨ。

あやつ (代) [彼奴] 〔彼ノ奴ノ義、(奴ノ條ヲ見ヨ)あいつト云フハ、音轉ナリ、(隼人、はいと。月代、さかいき)此奴、さいつ。其奴、そいつ。何奴、どいつ、皆、同ジ〕彼ニ同ジ、罵リ呼ブニ用キル。後ニ、あいつ。カヤツ。キヤツ。 十訓抄、上、第一、四十一條「南面ニ、梅ノ木ノ大ナルガアリケルヲ、梅取ラムトテ、人ノ供ノ者ドモ數多、礫ニテ打チケルヲ、主ノ殿、あやつバラ捕ヘヨ、ト簾ノ内ヨリ言ヒ出シタマヘリケレバ」 狂言記、太刀奪「あいつガサゲテ居ル太刀ヲ、身ドモ取ッテ參リマセウ」

あやつき (名) [綾槻] 木目ノ文アル槻ノ材。 東大寺要錄「綾槻厨子」

あやつり (名) [操] (一)アヤツルコト。アヤナスコト。 名義抄「攪、操、アヤツリ」 取りかへばや物語(平安朝中期)一「作り出ヅル文ノカタニモ、歌ノ道ニモ、ハカナク引キワタス筆ノあやつりマデ、世ニタグヒナク打チフルマヒ」 堀川波鼓(寶永、近松作)下「舌三寸ノ操ノ、御評判トゾナリニケル」 (二)操人形ノ略。

あやつりきやうげん (名) [操狂言] あやつりにんぎやうヲ見ヨ。

あやつりざ (名) [操座] 次次條ヲ見ヨ。

あやつりしばゐ (名) [操芝居] 次條ヲ見ヨ。

あやつりにんぎやう (名) [操人形] 〔傀儡ヲ併セ見ヨ〕 傀儡。クヮイライ。人形ニ、絲ヲ仕掛ケ、アヤツリテ、音曲ニ合セテ、舞ハスルモノ。略シテ、あやつり。傀儡 コレヲ舞ハスルヲ業トスル者ヲ、人形まはし、人形つかひ、ト云フ。傀儡師 人ヲ集メテ此技ヲ興行シ演ズルヲ、あやつり芝居、人形芝居、あやつり狂言、あやつり座ト云フ。木偶戲 其建物ヲ、あやつり座ト云フ。操芝居ハ、文祿、慶長ノ頃ヨリ始リ、三味線ニテ淨瑠璃節ヲ語リ、ソレニ合セテ、人形ヲ舞ハスルナリ、初ハ、京都、大阪ニテ行ヒ、江戸ニモ及ベリ、元祿ニ、義太夫節起リテ、大イニ發達シ、歌舞伎芝居ヲ凌グ勢ナリシガ、寶曆、明和ノ頃ヨリ、三都、共ニ、次第ニ衰ヘ、今日ニテハ、大阪ニ、文樂、稻荷、ノ二座ノミ存シテ、尙、其盛ンナルヲ維持ス。 倭訓栞、あやつり「古事記、文選ナドニ、攪ヲ訓メリ、今、あやつりしばゐナド云フ、是レナリ、涅槃經ニモ、幻主機關木人ナド見エタリ」 攝州府志(天和)八、古蹟、芝居「在二四條河原一人形芝居、或謂レ操、中央正面、設二舞臺一、其上下設レ幕、操二偶人一者、居二幕内一出二人形於二上下幕間一、木偶人、男女老少、隨二其事一而出レ之、謂レ舞二人形一、謂レ使二人形一、自二文祿年中一及二慶長一、監物某、次郎兵衞某、招二攝州西宮之傀儡師一、相共經二營之一」(節文) 南水漫遊、拾遺、一「大坂あやつりノ最初ハ、云云、あやつり座ハ、夜七ツ頃ヨリ、見物詰メカケ、云云」(古亭舊苑) 武江年表、八、天保十二年十月「堺町、葺屋町ノ芝居、燒失、兩座、並、操人形座、淺草、山宿ヘ引移サル」 戲場年中鑑、中、四月「操狂言、義太夫節、五段續、十段續ヲ取リ組ミテ出ス」

あやつ・る ・ル・レ・ラ・リ・レ (他動、四) [操] 〔文吊るノ義〕 (一)絲ヲ、幾筋モ仕掛ケテ、引キツル。 朝光集「織ルトハタ、思ハザリケリ、唐錦、あやつる聲ノ、音トコソ聞ケ」 三部抄(定家)「其綾目ヲ、クサリあやつりテ」 字類抄「撚、アヤツル」 (二)巧ミニアツカフ。程ヨクアヘシラフ。アヤナス。操縱 盛衰記、三、殿下乘合事「關白、(藤原基房)云云、御出成ル、兵具シタル者三十餘騎許、走リ出デ、前驅等ヲ搦メ捕リケリ、安藝權守高範許ゾ、御車ニ副ヒテ離レザリケル、云云、車ヲ廻リテ、あやつり騷ギケル、云云」

あやとり (名) [文取] 〔變化シテ、種種ノ文ヲナス〕 兒女ノ遊戲。絲ヲ、兩手ノ五指ノ先ニカケテ、機樣ニサバキ、一人、ソレヲ、指ニテ受ケテ、又、樣樣ニ、サバキ變化セシム。

あやとりのし (名) [挑文師] 〔康熙字典「挑、取也」〕 織部司ニ屬シテ、錦、綾等ノ機織ノ文ヲ操ルコトヲ掌ル職。アヤノシ。 續紀、五、和銅四年閏六月「丁巳遣二挑文師于二諸國一、始教二習織二錦綾一」 同、三十、神護景雲三年八月「始置二太宰府綾師一」 令義解、職員、織部司「挑文師四人、掌レ挑二錦綾羅等文一」

あやど・る (動) [操] 〔文取るノ義〕 あやつるニ同ジ。

あやな (形) [無文] 次條ヲ見ヨ。

あやな・し ・キ・ケレ・ク・ク (形、二) [無文] 〔文ナシ、ノ義、文目モ分カズ、理立タズ、ノ意ナリ〕 ワイダメナシ。ワケガワカラヌ。ムヤミナリ。慢 古今集、一、春、上「春ノ夜ノ、闇ハあやなし、梅ノ花、色コソ見エネ、香ヤハ隱ルル」 後撰集、十、戀、二「思ヘドモ、あやなしトノミ、言ハルレバ、夜ノ錦ノ、心地コソスレ」 貫之集、三「女郎花、匂ヒヲ袖ニ、移シテバ、あやなく我レヲ、人ヤ咎メム」 源、三十、藤袴ハ「カカル事ノ、心苦シサヲ見過サデ、あやなき人ノ恨負フ、カヘリテハ、カルガルシキワザナリケリ」 語根ノミヲ、あやなトモ用キラル。 古今集、二、春、下「山吹ハ、あやな(ク)莫咲キソ、花見ムト、植ヱケム君ガ、今夜來ナクニ」 後撰集、一、春、上「心モテ、をる(折ル、居ル)カハあやな、(シ)梅ノ花、香ヲ認メテダニ、訪フ人ノナキ」

あやな・す ・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) [操縱] 〔文成すノ義〕 巧ミニアツカフ。程好クアシラフ。

あやに (副) [奇] 〔あやハ、奇しノ語根、

萬葉集、十三、[illegible]あや[illegible]、ナド云フハ、[illegible]貴シ、ナド云フ[illegible]ト云ヘリ、[illegible]、ナド見エタリ、あやハ、文ノ義ニテ、エモイハズ、嘆クベキ事アルヲ云フナリ」古義ノ釋、當レルヤウナリ」（一）妙ニ奇シク。[illegible]ヘヤウモナク。キタイニ。[illegible]ト三十二、[illegible]長歌「[illegible]ハマクモ、[illegible]明日香ノ、[illegible]ノ宮ニ、久方ノ、天津御門ヲ、懼クモ、定メタマヒテ」同、十八長歌「[illegible]是ヲシモ、安夜爾貴ミ、ウレシクモ、愈思ヒテ」（二）ワイダメナク。ムヤミニ。[illegible]古事記、上、長歌「[illegible]シ、（ソ）八千矛ノ、神ノ命」萬葉集、十四、廿二「アカミ山、草根刈リソケ、逢ハスガ上、爭フ妹シ、安夜爾愛備シモ」[illegible]クレハトリ、あや[illegible]ヒシク、アリシカバ、二村山モ、越エズナリニキ」

あやにく（副）［可惜生憎］形容詞ノ嗟嘆ノ語根、其條ヲ見ヨ、（あやなし、あやな。あなかしがし、あなかしこ）あなあやにくトモ云フハ、感動詞ノ重言ナレド、下ノ語原ハ忘レラレテ云フナリ、あいにくト云フハ、後世語ニテ、音轉ナリ、（此奴、こいつ。彼奴、あいつ）生憎トモ云フハ、あやにくだつノ語ニ就キテハ、あやにくだつノ語原ヲ見ヨ」（一）嗟、憎ムベク。又、あなにく。字鏡 五十「[illegible]、阿也爾久」名義抄「咄、アヤニク」後撰集、あやにく、[illegible]、生憎[illegible]人、コノ生憎、可憎ヲ、あやにくトモ訓メリ」躬恒集「惜シメバヤ、花ノ散ルラム、あやにくニ、物ヲ言ハデゾ、見ルベカリケル」山家集、上「惜シマレヌ、身ダニモ世ニハ、アルモノヲ、あなあやにくノ、花ノ心ヤ」（二）ヲリアシク。間ガワルク。アナニク。あいにく。貫之集、上「初春ノ、思ヒ立ツラム、山[illegible]ニ、あやにくナルヤ、今朝ノ降ル雪」源、三十五、柏木 五「オドロオドロシク、陀羅尼讀ムヲ、イデあたにくヤ、罪ノ深キ身ニヤアラム、陀羅尼ノ聲高キハ、イト、ケヤソロシクテ」[illegible]、あやにくニ[illegible]ク、[illegible]ノ[illegible]カナ」「今日ハ、あいにく雨降ダ」主人ハ、あいにく、居リマセヌ」

あやにくがる・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）［生憎］［あやにくハ、憎ム意、憎ムヨリシテ、[illegible]ノ意トナル］[illegible]ハシク思フ。（いやがるノ意）枕草子、五、四十七段「イト寒キヲリナドニ、只、一人ハカリニテ、あやにくがりテ」大鏡、中、道長「コノ君、[illegible]ヲセサセ[illegible]ラムトテ、ナラハセタマフホドモ、あやにくがり、爭ヒタマヘド」

あやにくごころ（名）［生憎心］次次條ノ語原ヲ見ヨ」アヤニクダツ心。憎ム心。腹立タシキ心。源、廿九、行幸 十五「人ノ御言ニナビキ[illegible]ニテ、[illegible]シテムトオボス、云云、マタ、ナドカ、然シモアラムトヤスラハルル、イト、ケシカラヌ御あやにく心ナリカシ」狭衣、二、下 二十「カクマデ思フヘキ事カト、イトアヤシク、心ヅキナクサヘオボエテ、あやにく心モツキマサリテ、トカク引キ動カシ[illegible]ムレバ」

あやにくし・キ・ケレ・ク・ク（形、二）［可憎生憎］「あやハ、感動詞ノ嗟嘆ナリ、あなにくしト云フモ、嗟嘆憎しナリ、共ニ、語根ノミニテ、あやにく、あなにくト、副詞ニ用キラル、あやにくノ條ヲ見ヨ」嗟、憎ムベシ。又、あなにくし。宇津保物語、樓上、上 四十「サモあやにくき日ヲ見ルカナト、云云、憎シトテ、返歌モ宜ハズ」字類抄「可憎、アナニクシ」

あやにくだつ・ツ・テ・タ・チ・テ（自動、四）［生憎］［あやにくハ、憎ム意、（前條ヲ見ヨ）立つハ、起ル、始マルノ意、（景色だつ、[illegible]だつ）憎ム心ノ起ルト云フナリ、あやにく心ト云フ語モアリ、生憎ト云フ漢語モ、[illegible]ト云フ[illegible]立つ、ト云ハムガ如シ。枕草子、八、七十五段「人ノ子ドモノ、四ツ五ツナルハ、あやにくだちテ、[illegible]リテラシテ、ソコナフ[illegible]、[illegible]ヲバ、[illegible]、コレ[illegible]立テテ解ケヌヲモ、あや憎立つヤウニテ、只、解キニ解カセツ」

あやめの（名）［文布］［文織布ナリ、古ヘ、文アル布ハ、倭文布ノミ[illegible]しづおり（倭文織）ニ同ジ。[illegible]、四[illegible]布」

あやのこ（名）［挑文師］あやとりのこヲ見ヨ。

あやのも（名）［綾裳］「裳ノ條ヲ見ヨ」綾ニテ作レル裳。宇津保物語、[illegible]ノ重ネノ織物、唐ノ御衣、あやのも」

あやはとり（名）［漢織］「漢ノ綺織ノ約、漢ノ條ヲ見ヨ」應神紀、三十七年二、召サレテ、漢土ヨリ來レル機織女（あなはとり、くれはとりノ條ヲ見ヨ）雄略紀、十四年正月「身狭村主青等、共呉國使、將呉所獻手末才伎、漢織、呉織、衣縫、兄媛、弟媛等、泊於住吉津」

あやひがき（名）［文檜垣］「組目ニ文アルヲ云フ、あやすぎノ（一）ヲ參見セヨ」檜垣ト云フニ同ジ。夫木抄、三十一、垣「あやひがき、立テヘダテタル、アナタニテ、ハタオル蟲ノ、聲ゾ聞ユル」

あやびと（名）［漢人］あや（漢）ノ條ヲ見ヨ。

あやふ（名）［危］「危しノ語根、（危き草、あやふ草）登山、渡海ニハ、危しト云フ意ナルカ」陰暦ノ中段ニ云フ日ノ名、其月ノ干支ヨリ、八ツ目ノ日ヲ云フ、即チ、正月寅ノ月ナラバ、正月酉ノ日ヲ指シテ云ヒ、二月卯ノ月ナラバ、戌ノ日ナリ、餘ハ、推シテ知ルベシ、此日ハ、高キ所ニ登リ、又ハ、舟ニ乘ルナド、凶ナリトス、[illegible]、[illegible]作、[illegible]、[illegible]ナドニハ宜シト云フ。

あやふがる・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）［危］危しト思フ。[illegible]。枕草子、[illegible]、あやふがりテ、[illegible]ノヤウニ、[illegible]

あやふぐさ（名）［危草］［あやふハ、危しノ語根（あやにくき心、あやにく心）］危し草ノ[illegible]ト云フ。枕草子、三、百三十三段「あやふぐさハ、岸ノ額ニ生フラムモ、ゲニ、タノモシケナク、アハレナリ」[illegible]ケリ」（きしのひたひノ條ヲ見ヨ）

あやふし・キ・ケレ・ク・ク（形、二）［危］［[illegible]ト崇譯スル意ナルベシ、（後撰集ノ戀）あやハ、零ゆ、（コボル）他動ニ、零す（コボス）ノあやニテ、落チムトスル状ナリ、[illegible]（山彦册子、三ノ説）サレド、ふハ、[illegible]ラズ（萬葉集、十四）ニ危けれどモ、安夜抱可等ト見ユ）備ハ考フベシ（一）難ニ近ヅク。アブナシ。字鏡[illegible]也、阿也不志」玉篇「阽、危也」名義抄「危、殆、アヤフシ」後撰集、十五、雜、一「陽テッル、人ノ心ノ、浮橋ヲ、あやふきマデモ、[illegible]ミミツルカナ」（二）キカカリナリ。[illegible]ナリ。[illegible]リヤセムト、サスガニあやふし」

あやぶむ・ム・メ・マ・ミ・メ（自動、四）［危］前條ノ語根ヲ活用セシム、病し、病む、[illegible]、うらやむ、あやふき草、あやふ草、陰暦

ノ中葉ニ[illegible]
(一)危ク思フ。アブナガル。[illegible]紀、七年[illegible]
ム」散木集、七、戀、「上ニ逢フ事ノ、刀ノ刃ヲモ、歩ム[illegible]
花ヲ見ルカナ」(二)氣ニカクル。懸念ス。[illegible]
ヲイヤシムニナルゾカシ」(語鏡)

あやぶ・む [illegible] 前條ノ語ノ他動(苦しむ、くるしむる。[illegible]ム。垂仁紀、四年九月「狭穂彦王謀反、欲危社稷」[illegible] 沙石集、七、十三條「人ヲ毀リテハ、己ガ過ヲ[illegible]

あやふや (副) [illegible] 不審シキ語様ニ[illegible]テ成レル語ニモアラムカ、尙、考フベシ、京都ノ人ハ、綾小路麩屋町ヲ、あやふや[illegible]ク、ドテラツカヌ意ニ云フ俗語。遠遊笑[illegible]晴ナルヲ云ヒシナリ) 集雄頭巾ハ、覆面シテ、目バ[illegible]

あやべ (名) [illegible]

あやま (名) [illegible] ベシ」 浪ノウネウネノ間。 夫木抄、三、[illegible]

あやまき (名) [illegible] 砧ノ具[illegible] 打ツナリ。 俚言集覽、あやまき「きぬたノ道具、[illegible]

あやまち (名) 過 アヤマツコト。シチガヘ。マチガヘ。 名義抄「咎、愆、錯、アヤマチ」[illegible] 天皇ノ皇子」「忘ラルル、身ハ我レカラノ、あやまちニ、ナシテダニコソ、思ヒ絶エナメ」

あやま・つ ツ・テ・タ・チ・テ (他動、四) 過誤 「あやまるノ他動(活用ノ相通ズルハ、降る、くだつ。爆る、あふつ)」 仕違フル。[illegible] やまつナ語」 源、一、桐壺「故大納言ノ遺言、あや[illegible]

あやまり (名) 誤過 [illegible] ニルヨク、コメキ給ヘル人ノ、時時ゐあやまりシテ」

あやまりしやうもん (名) 誤證文 〔文文[illegible] オコタリ[illegible]係ヲ見ヨ。屈狀ト同趣ノ語」[illegible] 怠狀、過狀[illegible]ハ、怠狀ト云ヘリキ、同ジ書ニ、過狀トモ見エタリ、[illegible]

あやま・る [illegible] (自動、四) 謬過 [illegible] 害むる事ヲ、自ラ、シデカシタル意ニテ[illegible] コトヲシタルナリ」(一)爲タルコト、理ニ[illegible] マル」俗語考(橘守部)あやまり、神樂歌、脇母古「我妹子ニヤ、一夜肌觸レ、アイソ、あやまりニシヨリ、鳥モ取ラレズ、鳥モ取ラズヤ」 源、三十四、上、若菜、上「オ、心モチヰナドハ、コレモ、ヲサヲサ、劣ルマジク、あやまりテモ、オヨヅケマサリタル覺エ、イト[illegible]

あやま・る ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 謝罪 [illegible] サレムコトヲ請フ。手ヲスル。「あやまり[illegible]

あや・む [illegible] 怪 [illegible] あやしむ」怪しむるトモ云フ」 あやしむ[illegible] 集、八、戀、下「忍ストモ、身ノケシキダニ、カハラズバ、言ハヌニ人ノ、あやめマシヤハ」 拾玉集、七、忍[illegible]

あや・む [illegible] (他動、下二) 殺害 「危しく、あやムヲ活用セシメタル語ニテ[illegible] 王句ヲ「鼓ニ取ルベキ」トシタリ、又「あつめテヤ」トシタルナド、異本、種種ナリ。 倭訓栞、あやむる一[illegible] ニ、人ヲ[illegible] 露ヲ、露トモ人ニ、答フナヨ、似タルタグヒヲ、あやめモゾスル」 博多小女郎波枕(享保、近松作)上「人ヲあやめ、法ヲソムイタ科人」

あやむしろ (名) 文筵 [illegible] 萬葉集、十一 廿六「獨リ寢ト、薦朽チメヤモ、綾席、緒ニナル[illegible] ニ「あや筵、緒ニナルマデノ、年月モ、朽チヌハ人ノ、契リナリケリ」

あやめ (名) 文目 一文ノ條ヲ見ヨ。[illegible] 菖蒲ニカケテ詠メリ、ソレモ、文目草ナ[illegible] 五、雜十二「アラハレテ、イトド淺クモ、見ユルカナ、あやめモ分カズ、流レケル根ノ」

あやめ (名) 漢女 〔倭訓栞、あやめ「漢[illegible] 紀、十四年正月ニ、吳國(漢國)ヨリ漢織、吳織、衣縫兄媛、弟媛ヲ獻ゼシヨリ[illegible] ト云フ」 衣縫女。裁縫ヲ專業トスル[illegible] 萬葉集、七 旋頭歌「住吉ノ、波豆麻君ガ、馬乘衣、[illegible]ニツラフ、漢女ヲ座セテ、縫ヘル衣ゾ」[illegible] 得シテノ意ナリトモ云フ」

あやめ (名) 菖蒲 (一)草ノ名。文文ノ條ヲ見ヨ。(二)[illegible]

あやめかづら (名) [illegible]

一あやめぐさ（名）[菖蒲] 一文目草ノ義（和[illegible]）[illegible]トシテ[illegible]、あや[illegible]あやめ[illegible]あとノミ云フハ、下略ナリ（さうぶ、さうぶ草）[illegible]二、[illegible]（一）又、あやめ。サウブ。シャウブ。形状ハ、[illegible]ニ[illegible]夏[illegible]二[illegible]ニ用キラル、あやめノ髪、あやめノ枕、あやめノ湯、あやめノ冑、あやめノ刀[illegible]古今集、十八「ほととぎす鳴くや五月の」[illegible]安夜女具佐[illegible]（二十二菖蒲、阿夜女久佐）古今集、十一、恋、一「ホトトギス鳴クヤ五月ノあやめ草[illegible]」[illegible]ヤハト云フ[illegible]五月[illegible]ナリ。十日の菊ト對ス。平家物語、十一、志[illegible]ノ用ニ逢フベキ、六日のあやめ、トゾ笑ヘレケル」[illegible]（二）今、あやめト云フハ、[illegible]ノ一種ナリ[illegible]

あやめたび（名）[illegible]アルガ、（鴨長明ヲ、いたどりト云フモ、痛[illegible]）[illegible]ノ[illegible]

（綾、阿也安多年二（和名抄、同ジ）

あやめたんご（名）[illegible]一[illegible]ニ似テ、[illegible]二、[illegible]ツヲ貫ク、其形、花ニ似タリ」

一あやめのかづら（名）[菖蒲鬘]「鬘ハ、[illegible]ヘ、五月五日ノ節会ノ[illegible]ニ[illegible]ナリ[illegible]レタリ。小野宮年中行事、五月、裏書、六衛府[illegible]

「[illegible]日、昔者、五日之節、常用二菖蒲一爲ㇾ縵、比來、已停二[illegible]（五日）」[illegible]のかづらヲ、[illegible]ニ[illegible]ケテ、節会ノ儀アリシナリ」古[illegible]

あやめのかぶと（名）[illegible]二[illegible]ニ[illegible]、五月五日ニ、小童ノ玩具トシタリ。（冑人形ヲ併セ見ヨ）[illegible]文和四年（南朝、正平十年）[illegible]

一あやめのくらうど（名）[菖蒲藏人]端午[illegible]

一あやめのつくゑ（名）[菖蒲案]五月五日[illegible]タチ、上臈ナドノ、十二枚ミタマヘル二、奉ル」

あやめのまくら（名）[illegible]五月五日ノ夜二、菖蒲ノ葉ヲ包ミテ、枕ノ下ニ敷[illegible]テ[illegible]ナリ。正月二日ノ夜ノ寶船ノ如[illegible]

武天皇、[illegible]ラレテ、[illegible]シヅマリ[illegible]

あやめ・る（[illegible]）[illegible]

あやゐがさ（名）[綾藺笠][illegible]條ヲ垂ル、笠ノ裏ニ布帛ヲ貼リ、紐ヲツ[illegible]ニ頓ニ結フ、武家ニテ、遠行、[illegible]フナリ」

一あゆ（名）[鮎]（日本釋名（元祿）中、鱗魚、「あゆるナリ、あゆるハ、おつる也、云云」秋ハ、川上ヨリ下ヘおつるモノ也」云[illegible]或ハ、[illegible]ハ、[illegible]ク死スル意ナルカ、[illegible]

[illegible]本草和名、倭名抄ニ、漢書ヲ引キテ、あゆトシテアレバ、此字ヲ充テタルモ古[illegible]抄ニ、委シク辨ジテアリ、鮎ノ字ハ、古[illegible]ルニ因ル、（倭訓栞ノ說）今、あいト云フハ、音轉ナリ、景行紀、五十一年、年魚市[illegible]ニシテ死スレバ云フト云ヘド、鯖ノ[illegible]年、皆通ナレバ、借用セシカト云ヘリ、[illegible]、あいト云フ。河中ニ發生シテ、一日[illegible]ナルハ一尺餘ニ達ス、鱗細ナクシテ、頂[illegible]ニシテ、一種ノ香氣アリ、秋ノ末、產卵[illegible]

安王、春生、夏長、秋衰、冬死、故名二年魚一也」（[illegible]）

あゆ（名）[東風] あゆのかぜヲ見ヨ。

あゆ（名）[illegible] オモネリ、ヘツラフ[illegible]

封禪書「詞訣、苟合之徒、自レ此興」」

あ・ゆ・ユル・ユレ・エ・エ・エヨ(自動、下二) [零]「廣韻「零、落也」」他動ニハ、あやすト云フ(絶ゆ、たやす)ノ(一)零レ落ツ。落ツ。萬葉集、十八廿橘歌、長歌「安由流實ハ、玉ニ貫キツツ、手ニ卷キテ」(橘ノ實ハ、中夏ニ、大豆ホドナル時、多ク落ツ、ソレヲ緒ニ貫キテ、釧トスルナリト云フ、倘、あへぬく(交貫)ノ條ヲ見ヨ) 同、八十三橘花贈、長歌「百枝刺シ、生フル橘、玉ニ貫ク、五月ヲ近ミ、安要ヌガニ、花咲キニケリ」(コレハ、花ノ、零レ落チヌベク咲キタリノ意ナリ) 同、十五十寄レ花「秋就ケバ、水草ノ花ノ、(序)阿要ヌガニ、思ヘド知ラジ、直ニ逢ハザレバ」(溢レコボルルバカリニ慕ヘドモノ意ナリト云フ) 玄玄集(能因)石投取ノ石ヲ、中宮ニ奉リケル人ニ代リテ「スメラギノ、後ノ庭ノ、石ゾコレ、思フ心アリ、あゆるマデ取レ」(皇ノ後庭ハ、中宮ナリ、あゆがすヲ參見セヨ) (二)滴リ出ヅ。流ル。古事記、上八廿「見二其腹一者、悉常血爛」(八股大蛇) 枕草子、二、十四段、すさまじきもの「乳あえズナリヌル乳母」 榮花物語、廿四、若枝「イトワビシウ、身ヨリ汗あゆナドハ、コレヲヤ云フラム」 狹衣、三、中二十六「顔モ赤クナリ、汗モ打チあえテ」 落窪物語、一「血あゆバカリ、イミジクノノシラム」 榮花物語、十六、本雫「御口、鼻ヨリ、血あえテ、消入リタマヒヌ」

あ・ゆ・ユル・ユレ・エ・エ・エヨ(自動、下二) [肖] 似ル。アヤカル。 名義抄「似、アエタリ」 同、肉部「肖、アエタリ、ニタリ」 字類抄「肖、アエ、アエタリ、似也、像也」 應神卽位前紀「天皇既產、完生二腕上一、其形如レ鞆、是肖二皇太后(神功皇后)爲二雄裝一之負一レ鞆、(肖、此云二阿叡一)」(完ハ、宍ニテ、肉ナリ) 後撰集、十二、戀、四「最上川、深キニモあえズ、稻舟ノ、心輕クモ、歸ルナルカナ」 躬恒集、上「久ニ來ヌ、人ヲまつ(待、松)ニヤ、あえヌラム、常盤ノ色ト、我レハナリヌル」 源順集「君ヘハヤ、人ナミナミニ、出デタチテ、沈ミニ沈ム、我レニあゆナヨ」 金葉集、十、雜、下、連歌、鮎ヲ見テ「何ニあゆるヲ、あゆトイフラム」「鵜舟ニハ、取入レシモノヲ、オボツカナ」

あゆ-かお (名) [鮎籠]「昔、山城ノ桂川ノ鮎漁ニ用キシモノナラムト云フ」竹籠ノ、口窄ク、尻脹レタルヤウニ作レルモノ。多クハ、花生ニ用キラル。

あゆ-が・す・ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) [搖]「次條ノ語ノ他動(ゆるぐ、ゆるがす)」ユルガス。ウゴカス。 拾遺集、七、物名、押鮎「鼠ノ、押鮎ニセムト、構ヘタル、鼠弩あゆがすナ、鼠捕ルベク」 赤染衛門集、女院ノ、姫君ト聞エサセシ頃、石投取ノ石、召スヲ參ラストテ「スベラギノ、後ノ庭ノ、石ゾ此ハ、拾フ心アリ、あゆがさデ取レ」(零ゆノ條ヲ併セ見ヨ)

あ-ゆ・ぐ・グ・ゲ・ガ・ギ・ゲ(自動、四) [搖]「あよぐトモ云フハ、音通ナリ、あゆむノ語原ヲ見ヨ、あゆぐハ、他動ニ、あゆがすトナル」又、あよぐ。搖グ。動ク。 拾遺集、七、物名、ひぼしのあゆ「雲迷ひ、ほしのあゆぐト、見エツルハ、螢ノ空ニ、飛ブニゾアリケル」 千載集、十七、雜、中「思ヒカネ、アクガレ出デテ、行ク道ハ、あゆぐ草葉ニ、露ゾコボルル」 夫木抄、十一、秋「刈萱ノ、穗ニ出デテ物ハ、言ハネドモ、あゆぐ草葉ニ、アハレトゾ思フ」 出雲國風土記、大原郡、阿用鄕「爾時、男之父母、竹原中隱而居之、時、竹葉動之、爾時、所レ食男云二動動一、故云二阿欲一」 崇峻卽位前紀、物部守屋資人、捕鳥部萬「隱二草叢中一、以レ繩繫レ竹引動、令二他惑二己所一レ入、衛士等被レ詐、指二搖竹一、馳言二萬在一レ此」(語彙)

あ-ゆ・ぐ・グ・ゲ・ガ・ギ・ゲ(自動、四) [步]「足搖ぐノ約カ」アユム。アユブ。アリク。アルク。 家長日記「カカル御代ニ生レアヒ侍リト、あゆぐ足每ニ、ツブツブト、同ジ事ヲ喜ビテ、罷リ出デヌ」(語彙)

あゆ-お (名) [鮎子] 鮎ノ子。若鮎。ワカユ。小鮎。 萬葉集、五三十「春サレバ、吾家ノ里ノ、川門ニハ、阿由故サバシル、君待チガテニ」 同、十九二十長歌「河ノ瀨ニ、年魚兒狹走リ」 萬葉集古義、名物考「鮎ノ子ニテ、若鮎ト云フ、後後ニ、子鮎ト云フニ同ジカルベシ」

あゆ-ずし (名) [鮎鮓] あゆのすしヲ見ヨ。

アユタ (名) [阿由多]「梵語、Ayuta.」天竺ニテ、大數ノ名目。佛本行集經、十二ニハ、數十億トス、現今、印度ニテハ、通常、一萬トス。

あゆ-なめ (名) [鮎魚女] あいなめノ條ヲ見ヨ。

✣**あゆ-の-かぜ** (名) [東風] 北陸道ニテ、東風ノ方言。略シテ、あゆ。後ニハ、京都ニテモ云ヒシト見ユ。現今、山陰道、北陸道、羽前、羽後、陸奧ニテ、北風、又ハ、東北風ヲ、あいのかぜト云フトゾ、語原、異ナルカ。 萬葉集、十七四十八「東風、痛ク吹クラシ、奈呉ノ海人ノ、釣スル小舟、漕ギ隱ル見ユ」註「越俗語、東風謂二之安由乃可是一也」 同卷四二、長歌、射水川「云云、安由能加是、痛クシ吹ケバ、湊ニハ、白浪高ミ」古義「毛詩ニ「習習谷風」注ニ「谷風、東風也」トアリ、昔ノ博士ノ訓メルヲ思ヘバ、越ノ俗ヨリ出デテ、京人ナドモ云ヘルニヤ」 同、十八九十「英遠ノ浦ニ、寄スル白浪、彌益ニ、立チ重キ寄セ來、安由ヲ痛ミカモ」(東風ガ烈シサニカ) 萬葉集ノ三首ハ、共ニ、越中國ニテノ詠ナリ。 物類稱呼(安永)「、天地、風「北國ニテ、東風ヲ、あゆの風ト云フ、北風ヲ、ひとつあゆト云ヒ、東北ノ風ヲ、ちあゆト云ヒ、丑ノ方ヨリ吹ク風ヲ、まあゆト云フ」(地、眞、ナルカ、安永年間マデハ、此ノ如シ)

あゆ-の-すし (名) [鮎鮓] 又、すしあゆ。あゆずし。鮎ノ腹ニ飯ヲ込メテ、鮓トシタルモノ。 著聞集、十八、飲食三「三條中納言、云云、大食ニテゾアリケル、云云、一人、鮎のすしト云フ物ヲ五六十許、云云、白銀ノ鉢ニ盛リテ置キタリ」 鈴鹿家記、應永六年六月六日「祇園修行ヨリ、云云、鮎すし一桶被レ越候」 朝倉亭御成記、永祿十一年五月十七日、獻立之次第「十七獻、あゆのすし」 當流節用料理大全(正德、四條流)鮎の鮓「腹ヲアケ、少シモ洗ハズ、一日夜、鹽押シヲシテ、ヨク洗ヒ、少シ鹽辛ロニシ、上白米ノ飯ヲ、ヨクサマシテ、腹ニ入レタルガヨシ」(節文、古事類苑) 宮內省式、諸國例貢御贄「但馬國鮨年魚、云云」 今昔物語、三十一、三十二語「販婦ノ女、云云、其桶ニ鮨鮎ノアリケル、云云」

あゆ-ひ (名) [足結、脚帶]「足結ふノ名詞形、足結ノ略、(足搔、あがき)あよひト云フハ、音通ナリ、步むノ條ノ語原ヲ見ヨ」又、あしゆひ。あよひ。上代ニ、褌ヲ、膝頭ノ下ニテ、束ネテ結ヒ固メシ紐ナルベシト云フ。小鈴ナド付ケテ、手結ト共ニ、飾トシタリト思ハル。 古事記、下(允恭)廿一「宮人ノ、阿由比ノ小鈴、落チニキト、宮人騷動ム、里人モ、ユメ」 雄略卽位前紀、圓大臣「出立二於庭一、索二脚帶一(左訓、アシユヒ)時、大臣妻、持二來脚帶一、云云、歌曰、臣ノ子ハ、帛ノ袴ヲ、七重着シ、庭ニ立タシテ、阿遙比那陀須モ、大臣裝束已畢、云云」(那陀須ハ、正スナリ、花薄、はたすすき) 萬葉集、十七四十三長歌「安由比多豆久利」 同、十一二旋頭歌「朝戶出ノ、君ガ足結ヲ、濡ラス露原、早ク起キテ、出デツツ吾レモ、裳ノ裾濡レナ」 皇極紀、元年十二月「大倭ノ、忍ノ廣瀨ヲ、渡ラムト、阿庸比拖豆矩梨(手裝リ)、腰ツクラフモ」

あゆび-あ・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ(自動、四) [步合]「次次條ヲ見ヨ、進行ヲ折リ合ふ義カ、讓步ノ意」事ヲ計ルニ、雙方、其主張ヲ讓リ合フ。アユミアフ。 互讓「寶貫ノ直段ヲあゆびあふ」

あ-ゆ・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ(自動、四) [足結]「前條ヲ見ヨ」足結ヲ着クル。 萬葉集、七八「齋種蒔ク、新墾ノ小田ヲ、求メムト、足結ひ出デ沾レヌ、此川ノ瀨ニ」

あ-ゆ・ぶ・ブ・ベ・バ・ビ・ベ(自動、四) [步]「あゆむト音通ナリ、(悲しむ、かなしぶ)あよぶト云フモ、音通ナリ、共ニ、あゆむノ語原ヲ見ヨ」又、あよぶ。步むニ同ジ。アルク。 散木集、十「カタハシザマニ、倒レヌベクヨロボヘバ、後ザマニ、あゆばセテ、倒ス」 今昔物語

[illegible]たたねの記(…)「コレヤ桂ノ里人ト見ユルニ、タダあよびニあよび寄リテ、コレハ何人ゾ、アナ心[illegible]」

あゆまひ (名) 歩 〔あゆむノ延、あゆまふト云フ語アリシナルベシ、[illegible]名詞形ナリ(語る、かたらふ、かたらひ)〕歩ムコト。歩ムサマ。足ノハコビ。アルキブリ。[illegible]ハムニ、足ラヒタマヘリ」

あゆみ (名) 歩 (一)アユムコト。アルクコト。[illegible]住吉ノ[illegible]ニ、ニホヒテ行カム[illegible]二十、神祇「あゆみヲバ、ハコバズトテモ、此道ヲ、奥ババ守レ、住吉ノ神」(二)勸學院のあゆみト云フコトアリ、學生ノ參列ナリ、くゎんがくゐんノ條ヲ見ヨ。枕草子、八、七十九段、えせものの所得る時「大饗ノ所ノあゆみ」(三)次條ノ(一)、(三)ヲ見ヨ。

あゆみいた (名) 歩板 (一)橋板。[illegible]抄、廿一「陸奥ノ、小川ノ橋ノ、あゆみ板ノ、君シソムカバ、我レモソムカム」(二)此處ヨリ彼處ニ履シテ、往來スルニ設クル長キ板。あゆみ。廊下ノ切目、又ハ、船ヨリ船ヘ、又ハ、船ヨリ岸ヘ[illegible]スナドニモ用ヰルナリ。[illegible]道后宮[illegible]シカリケル所ニ、あゆみノ板ヲ、三四枚バカリ、敷キ渡シタリ」平家物語、八、水島合戰事「能[illegible]ヲ上ゲテ、云云、[illegible]ノ舟ヲハ組メヤトテ、云云、あゆみノ板ヲ、引渡シ引渡シ、渡イタレバ、舟ノ中ハ平平タリ」(三)劇場ノ土間ノ桝形ノ木ヲ、特ニ幅廣ク作リタルモノ、歩行シ渡ルニ便ニス。アユミ。

あゆみわたる・ル・レ・ラ・リ・レ (…、四) 歩渡 過ギ行ク。[illegible]、アリシ[illegible]モ、ナクサメニ見ムカシトオボシテ、[illegible](中宮ノ)ヲ、あゆみわたりテ、西ノ方ニ往スルヲ」

あゆむ・ム・メ・マ・ミ・メ (自動、四) 歩 「足數むノ轉ナルベシ、サレバ、あよむトモ云フナリ、(眉、まよ。足結、あよひ。歩ぶ、あよぶ。搖ぐ、あよぐ)歩スルハ、數フルガ如シ、歩スルヲ、はふぶトモ、ひろふトモ云フ」足ヲ動カシテ進ム。又、あよむ。アユブ。アリク。アルク。[illegible]リテ、雲居ニ見ユル、妹ガ家ニ、早ク至ラム、歩め黒駒」同、十四[illegible]「遠クシテ、雲居ニ見ユル、妹ガ家ニ、イツカ至ラム、[illegible]」夫木抄、十三、秋[illegible]アタリノ雲ヲ、ハラハセテ、ヒトリモあゆむ、夜ノ月カ[illegible]、マジレドモ、旅行ク人ノ、あよむ姿ハ」

あゆもどき (名) 「鮎擬ノ義」河魚ノ名。山城國ノ桂川ニ産ズ、鮎ニ似テ、口ニ、[illegible]ノ如ク、六箇ノ鬚アリ。[illegible](正德)十三、河魚、あゆもどき「其形色、恰如[illegible]ニシテ、口ニ泥鰌ノ如クナルひげアリ、山州桂川ノ名物也、其上流、嵯峨ノ大井川ニモアリ、大ナルハ、一尺バカリアリ、身ト尾ト、あゆニ似テ、頭ハ、粗、どぢやうニ似タリ」

あよぐ (動) 搖 あゆぐ(搖)ヲ見ヨ。

あよひ (名) 足結 あゆひノ條ヲ見ヨ。

あよぶ (動) 歩 あゆぶヲ見ヨ。

あよむ (動) 歩 あゆむヲ見ヨ。

あら (名) [illegible] あらぬかノ條ヲ見ヨ。

あら (名) 鯇 〔倭訓栞、あら「鯇ト書クハ、二合ノ作リ字也、サレド、其語原、知ラレズ」〕魚ノ名。日本海ニ多シ、鱈ニ似テ、口大キク、下顎突出ス、鱗細カク、褐色ニシテ、斑アリ、腹ハ銀白色ナリ、大ナルハ、身長三尺ニ至ル、肉不味ナリ、多クハ、かまぼこナドニ作ル。名義抄、十[illegible]シ、云云、若衣(…)云、あらハ、[illegible]ナルベシ、[illegible]人以[illegible]下品[illegible]シタルハ、[illegible]ヲ治ス」

あら (名) [illegible] あら[illegible]ノ條ヲ見ヨ。

あら (名) 骨邊肉 「あらぼねノ下略、其條ヲ見ヨ」(一)魚肉ヲ料理シタル後ノ、餘肉ノ添ハレル骨。コレヲ、小サク切リ、[illegible]醬油ニテ煮ツケタルヲ、あら煮ト云ヒ、コレヲ[illegible]ニシタルヲ、あら汁ト云フ、其條ヲ見ヨ。[illegible]「骨、[illegible]、あらリタル殘リノ骨ヲ、あらト云フモ、是レナリ」(二)轉ジテ、佳キヲ取リタル後ノ屑。[illegible]「[illegible]ノあら」(三)又、轉ジテ、人ノ、[illegible]ナルアヤマチ。キズ。微瑕「人ノあらヲ發イテ言フ」

あら (名) [illegible] 「[illegible]ノ義」のぶりこねヲ見ヨ。[illegible]ヲ搗キテ、皮ノ粃セザルモノ。

あら (感) 嗟 〔あなニ通ズ、(つなぬく、つらぬく。せせなぎ、せせらぎ)あらあらト云フハ、重ネテ意ヲ強ムルニテ、あらハ、ソノ約レルナリ、(いやいや、いや)あれトモ云フ〕何事ニモアレ、切ニ感ズル時、發スル聲ニ云フ語。[illegible]あらあら。ああら。榮花物語、八、初花「餘所ノ人目ニ、あら殘シ」宇治拾遺、十三、十四條「あら悲シ、我レヲ助ケタマヘ[illegible]ヤ」宇治拾遺、九、第八條「鬼、サラバ、スフスフト云フ時ニ、聲、顏ヲカカヘテ、あらあらト云ヒテ、伏シマロブ」[illegible]ヒシノ行平サマヤ」「ああら不思議ヤナ」あらあら、[illegible]ケテ來ル」

あら (接頭) 荒 〔嗟ニテ、見テ驚嘆スル聲[illegible]〕[illegible]

あら (接頭) 新 〔生るノ名詞形、あれノ轉、(曝れぼふ、さらぼふ。荒ぶ、あれぶ。實簀、まらびと)新ト云フ語モ、生立ナルベシ、生レ出デタル意〕(一)新シキ。アラタナル。(熟レタル、熟ニ對ス、生、熟[illegible])ノ意、荒ト書キ[illegible](二)生ノ。ツクロハヌ。人工ヲ加ヘヌ。「荒[illegible]」(三)生ママナル。馴レザル。飼ヒ馴レヌ。[illegible]

あら (接頭) 粗 「散くる、離散ぶるノ語根ニ通ズ」(一)コマヤカナラヌ。ハシカラヌ(和ニ對ス)[illegible]キタルハ、[illegible]「阿良[illegible]、和栲」荒布、和布」[illegible]紙」(二)[illegible]ナル。(疏、密ノ對)稀疏「あらら松原」荒垣」[illegible]

あら (接頭) 荒涼 〔暴しヨリ、モノスゴキ[illegible]ニ稱リタルニモアラムカ〕人[illegible]モノスゴキ。[illegible]

あらあら (副) 粗粗 オヨソ。ザット。アラッポク。大概。約略。名義抄「略、アラアラ、[illegible]」[illegible]キツケムト云フ」

あら-あら (感) 【嗟】 あら(嗟)ノ條ヲ見ヨ。

あら-あら・し・シキ・シケレ・シク・シク (形、二) 【荒荒】 甚ダ荒シ。猛烈。名義抄「酷、アラアラシ、カラシ、イタシ」宇津保物語、國讓、中、二十「オソロシク、あらあらしき心モタマヘルコソ」源、四、夕顔二十「夜中モ過ギニケムカシ、風、ヤヤあらあらしう吹キタルハ」

あら-あら・し・シキ・シケレ・シク・シク (形、二) 【粗粗】 (一)甚ダ粗シ。粗糙。枕草子、三、二十四段、あすはひの木「枝ザシナドノ、イト手觸レニクゲニ、あらあらしけれド」 (二)コトソギタリ。粗末ナリ。簡略。名義抄「簡、アラアラシ、オロソカニ」徒然草、二十八段「諒闇ノ年バカリ、アハレナル事ハアラジ、云云、葦ノ御簾ヲカケ、布ノ帽額あらあらしく、御調度ドモモオロソカニ」

あら-いそ (名) 【荒磯】 〔ありそトモ云フ、約メテ云フナリ(荒海、あるみ)〕 岩石多キ磯。又、ありそ。人麻呂集「あら磯ノ、外行ク浪ノ、外心、我レハ忘レジ、戀ヒハ死ヌトモ」新葉集、六、冬「空ニノミ、聲ハ聞エテ、浦風ノ、あらいそ浪ニ、立ツ千鳥カナ」萬葉集、十七、廿一「カカラムト、豫ネテ知リセバ、越ノ海ノ、安里蘇ノ浪モ、見セマシモノヲ」同卷三十六長歌「白波ノ、安里蘇ニ寄スル」同、十一、三十八「阿治ノ棲ム、渚沙ノ入江ノ、荒磯松」同、十三、十長歌「荒礒浪(序)、アリテモ見ムト」古今集、序「我ガ戀ハ、數ムトモ盡キジ、ありそ海ノ、濱ノ眞砂ハ、數ミ盡クストモ」

あらいそ-ぎれ (名) 【荒磯切】 支那ヨリ渡來セル古代帛ノ一種。濃キ縹色地ニ、金絲ニテ、浪ト鯉トヲ織出シタルモノ。時代ハ、安樂庵切ニ同ジ。(其條ヲ見ヨ)今ハ、京都ノ西陣ニテ、多ク摸造セラル。佳言僕寶、荒礒「古代切レ也、コイ花色、もん、金ニテ波ニ鯉、大サ一寸餘、黃段地、銀襴モアリ」

あら-いた (名) 【粗板】 挽キ割リタルママニテ、マダ鉋ケヅリセヌ板。

あら-いみ (名) 【荒忌】 〔あらハ、粗ニテ、眞忌ニ對シテ、輕キ意、いみハ、齋戒ナリ、眞忌ハ、眞正ニ嚴密ニスル意ナリ、騎射ニ行フ、荒手番、眞手番ナドモ、同例ナリ〕 祭祀アル時、神事ニ與ル人ノ、マヘカタヨリスル齋戒。又、大忌。此間ハ、諸司ノ政務ハ執レドモ、佛事ニアヅカリ、喪ヲ弔ヒ、病ヲ訪ヒ、肉ヲ食フ等ノ事ヲ禁ズ、尙、音樂、死刑ヲ停メ、スベテ穢レニ觸レザルヤウ謹愼ス。散齋 又、神事ニ近ヅキテ、更ニ嚴重ニ行フヲ、眞忌ト云フ。又、小忌。此間中ハ、神事ノ務ノ外ハ、政務其他ノ事ハ廢ス。致齋 二忌ノ日數ハ、大祀、中祀、小祀ニ因リテ差アリ。神祇令、大嘗祭「散齋一月、致齋三日」(大祀ナリ) 一月齋爲ニ大祀ハ、三日齋爲ニ中祀ハ、一日齋爲ニ小祀ニトアリ、園太曆、明法勘文「散齋荒忌、致齋眞忌」(語彙) 和泉式部集、二「契リシヲ、違フベシヤハ、嚴シキ、あらいみ、まいみ、淸マハルトモ」

あら-う (名) 【荒鵜】 〔あらハ、新ノ義、其條ヲ見ヨ〕 生ノ鵜。飼ヒ馴レヌ鵜。新六帖、三「沖津島、浪ノ間モナク、あらうトヤ、干セド翼ノ、乾カザルラム」謠曲、鵜飼「鵜籠ヲ開キ、取出シ、島津巢オロシ、荒鵜ドモ、此河波ニバット放セバ、面白ノアリサマヤ、底ニモ見ユル篝火ニ、驚ク魚ヲ逐ヒマハシ」(鵜ハ、島ニ棲メバ、島津鳥トモ云フ、巢ヨリ取リオロシタル荒鵜ナリ)

あら-う (句) 【將有】 〔むノ音便、うトナル、(紺屋、こうや。寒氣立つ、さうけだつ)あろト云フハ、約メテ云フナリ(候ふ、そろ)〕 あらむノ口語。又、あろ。「サウデあらう」カウデあらう」關西ニテハ「サウデあろ」カウデあろ」ト云フ。

あら-うち (名) 【荒打】 〔粗く打作ル意〕 新築ノ土藏ノ壁ニ、最初ニ、荒木田土ヲ、手ニテ、木舞ノ間ニ押付ケテ、壁ノ最下層ヲ作ルコト。アラヌリ。

あら-うま (名) 【荒馬】 猛クシテ、制シガタキ馬。悍馬 平家物語、九、木曾最後事「巴、云云、屈竟ノ荒馬乘ノ、惡所ヲ落シ、弓矢、打物取リテハ、如何ナル鬼ニモ神ニモ鬪フ」

あら-うみ (名) 【荒海】 〔あるみトモ云フ、約メテ云フナリ(荒磯、ありそ)〕 荒波ノ立ツ海。入海ナラヌ海。又、あるみ。源、二、帚木十八「あら海ノ怒レル魚ノ姿、唐國ノ烈シキ獸ノ容」芭蕉句選集「あら海ヤ、佐渡ニヨコタフ、天ノ河」「荒海ノ障子」萬葉集、七、廿五「大船ヲ、荒海ニ漕ギ出デ、八船タケ、吾ガ見シ兒等ガ、マミハ著シモ」同、十五、四「大船ヲ、安流美ニ出ダシ、イマス君、愼ムコトナク、ハヤ歸リマセ」

あらうみ-の-さうじ (名) 【荒海障子】 淸涼殿ノ東ノ弘廂ノ、北ノ端ニ立テラレテアリシ衝立障子。高サ九尺、表、南面ニハ、荒海ノ中ノ島ニ、手長人、足長人ノ居ル圖ヲ畫キ、裏ニハ、宇治川ニ、網代ニテ氷魚ヲ捕ル圖ヲ畫ケリ、兩面、共ニ、布張ニテ、墨繪ナリ。枕草子、一、十三段「淸涼殿ノ丑寅ノ隅ノ、北ノ隔テナル御障子ニ、あらうみノ形、生キタル物ドモノ、オソロシゲナル、手長足長ヲゾ畫カレタル」禁祕御抄、上「弘廂、板九枚、北有ニ荒海障子ハ南方、手長、足長、北面、宇治網代在障子、墨繪也」

あら-えびす (名) 【荒夷】 〔東夷ト同趣ノ語、えびすノ條ヲ見ヨ、京都ノ人ヨリ、東國人ノ猛勇ナルヲ稱シタルガ、元ナルベシ〕 荒荒シキ人。氣强キ者。濱松中納言物語、四「顏ニ、袖ヲマギラハシテ打泣キタマヘルサマ、イミジカラムあらえびすモ、泣キヌバカリニ」徒然草、百四十二段「心ナシト見ユル者モ、善キ一言ハ云フモノナリ、或ル荒夷ノオソロシゲナルガ、傍輩ニ會ヒテ、御子ハオハスヤ、ト問ヒシニ、一人モ持チ侍ラズト答ヘシカバ、サテハ、物ノアハレハ、知リタマハジ、云云、子故ニコソ、萬ノアハレハ、思知ラルレト、言ヒタリシ」

あら-えみじ (名) 【麁蝦夷】 〔あらハ、生ナル義、にぎハ、手馴レタル義、荒、又、熟ノ條ヲ見ヨ、尙、えみじヲモ見ヨ〕 蝦夷ノ、王化ニ馴レヌ者ノ稱。古ヘ、齊明天皇ノ御代ノ頃、今ノ陸奧國ノ津輕、羽後國ノ秋田邊ニ住ミタル蝦夷ヲ云ヒキ。又、陸前國、陸中國ノ邊ニ住メル蝦夷ヲ、熟蝦夷ト云ヒキ、王化ニ服シテ居タルナリ。齊明紀、五年七月「蝦夷」註「類有ニ三種ハ、遠者名ニ都加留ハ、次者麁蝦夷、近者名ニ熟蝦夷ハ、今此熟蝦夷、每歲入ニ貢本國之朝ニ」(本國トハ、日本ヲ云フ、ココニ都加留ト云ヘルハ、續紀、八、養老四年正月「渡島津輕津司、云云」トアル津輕ニテ、今ノ北海道、渡島國ナリト云フ)

あら-か (名) 【正殿】 みあらかノ條ヲ見ヨ。

あら-がき (名) 【荒垣】 〔粗垣ノ義、透垣ト略、同意〕 (一)垣ノ、木ヲ疎疎ト立テ並ベテ、透間アルモノ。闕門ノ垣ナドニ云フハ、くぎぬきノ類ナリ。萬葉集、十一、十九「里人ノ、言緣妻ヲ、荒垣ノ、外ニヤ吾ガ見ム、憎カラナクニ」(外ノ序ニ用キタリ、透間アレバ云フ) 催馬樂、河口「河口ノ、關ノ安良可支ヤ、守レドモ」新後撰集、五、秋、下「曇リナク、月漏レトテヤ、河口ノ、關ノあら垣、間遠ナルラム」(續紀、十三、天平十二年十月「到ニ伊勢國、壹志郡、河口頓宮ハ謂ニ之關宮ニ也」) (二)又、神宮、神社、又ハ、葬場ノ、此製ナル垣ヲモ云フ。兵範記、仁安三年十二月三十日、神宮、中外院殿舍火災「荒垣壹重、西北二方、少少燒損」玉葉集、二十、神祇「西行法師、太神宮ニ詣デテ、遂ニ、あらがきノ外ニテ、心ノ内ニ、法施奉リテ」吾妻鏡、六、文治二年十月廿四日「甘繩神明寶殿被レ加ニ修理ハ今日立ニ四面荒垣、並、鳥居ニ」筑紫道記(宗祇法師)「住吉ノ御社ニ參リテ見レバ、あらがきノメグリ、遙カニシテ、連レル松ノ木立、神サビタ

[illegible]ニモ設クル也、然ル時ハ、内ニアルヲ、荒垣ト云ヒ、[illegible]ニアルヲ、[illegible]モ、[illegible]モ云フ也。[illegible]」名目抄、裝具「荒垣」

あらかご (名) 荒籠 〔粗籠ノ義ニテ、竹ニテ粗ク編ミ作レル意ナルベシ〕堤防ニ築ク蛇籠ノ類。地方凡例錄、九「泥川タリトモ、蛇籠普請ニ仕立ツレバ、丈夫ナレドモ、泥川ニハ、トカク近所ニ石無之モノナリ、云云、筑後國ニテハ、是ヲ土居ト唱ヘ、右出[illegible]ヲ、[illegible]ト云ヒ、在方普請奉行ヲ、荒籠奉行ト云フ」成形圖說(文化、島津重豪)十二ニモ、荒籠ノ事ヲ載セテ、大坂川中ノ普請ノ事ヲ記セリ。

あらかじめ (副) 豫預 〔倭訓栞、あらかじめ「有く始めノ義、く、はノ反、か也」(いはく(曰)ノ語原ヲ見ヨ)あらむト設ケテ云フ意ナルカ〕カネテ。マヘカタヨリ。マヘカドニ。マヘビロニ。名義抄「[illegible]、預、アラカジメ」[illegible]「[illegible]アラカジメ」[illegible]一出デテユク、[illegible]フマセバ、[illegible]、[illegible]ヲ[illegible]メム、[illegible]カマシヲ」[illegible]抄、二[illegible]ハ、あらかじめ見タマフベカラズト、ヨクヨク仰含メタマヘリケレバ」

あらかせぎ (名) 荒稼 (一)荒仕事ノ生業。力役 (二)強盜。引剝。俚言集覽、あらかせぎ「白晝ニ、襲捽ニ打擲シナドシテ、物ヲ奪フヲ云フ、秋坪新語ニ、刼殴ト云ヘリ」

あらかた (副) 粗方 アラアラ。オホカタ。大抵。大概。「[illegible]モ、あらかた出來上ガッタ」

あらがね (名) 荒金 〔荒ノ條ヲ見ヨ、掘取レルママニテ、製煉セヌ義〕(一)金、銀、銅、鐵等ノ諸金屬ヲ含メル石ノ稱。今云フ、鑛石ナリ。鑛 天治字鏡、六[illegible]「鑛、荒金」持統紀、五年七月「伊豫國司田中朝臣法麻呂等、獻宇和郡御馬山白銀、三斤八兩、鑛一籠」釋紀「私記曰、[illegible]、[illegible]白銀也(銀、[illegible]本ニ、[illegible]ニ作ル)[illegible]「[illegible]、[illegible]、作、[illegible]」[illegible]「[illegible]、古文[illegible]、[illegible]、小釘」(字[illegible]ナドニ[illegible]、アラガネ」トアルハ、持統紀ヲ[illegible]用セシナレド、此[illegible]ノ古キヲ知ル)(二)[illegible]鐵ヲ云フ。[illegible]「[illegible]、安良加[illegible]」

あらがねの (枕) 荒金 「年年隨筆(文化、石原正明)ノ三ニ、鑛の鐵槌トカカル、鍛フベキモノナレバナリ、ソレヲ、土ニ移シテ云フニモアラムカト云ヘリ、平安朝ニ至リテ、始メテ見ユル枕詞ナレバ、此義ナドナルベキカ、[illegible]舍根ナリト云フ說モアレド、後ノ語ヲ[illegible]スルニハ、古義ニ過ギタリ、又、五行ノ土生金ナドノ說ハ、採ルニ足ラズ」土ノ枕詞。菅家萬葉集、下、女郎花「荒金の、土(地)ノ下ニテ、[illegible]シモノヲ、今日ノ占手ニ、逢フ女郎花」(占ハ、去ノ誤カト云フ、經しハ、ヲミナヘしニカケタルカ) 古今集、序「大和歌、云云、久方ノ天ニシテハ、下照姫ニ始マリ、あらかねの地ニシテハ、素戔嗚尊ヨリソ起リケル」八雲御抄、三、上、地「あらかね」

あらかは (名) 洗革 あらひかはヲ見ヨ。

あらかは (名) 粗皮 物ノ皮ノ、粗糙スルモノ。「松ノ木ノあら皮」

あらがひ (名) 爭 〔次條ノ語ノ名詞形〕アラソヒ。爭論。後撰集、十三、戀、五「[illegible]ノ、上ハツレナキ、裏ニコソ、物あらがひハ、ツクト云フナレ」宇治拾遺、十二、第八條「東大寺ノ[illegible]コソ、[illegible]トあらがひシテ渡レ、ト高ク云ヒケリ」

あらが・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (自動、四) 爭 諍 〔雅言考(橘守部)あらがふ「あらハ、爭也、かふハ、行交ふノかふニテ、互ニ爭ヒ合フニ云ヘリ」あらそふノ語原ヲ見ヨ、此語、をノ辭ヲ承ケテモ、自動ナリ〕あらそふニ同ジ。天治字鏡、三「[illegible]、[illegible]也、阿良加[illegible]、[illegible]、[illegible]十三、[illegible]、[illegible]十八、[illegible]アルベキ事ト思セバ、コトニあらがはズ」宇治拾遺、八、第四條「此罪重ク、イトドあらがふ方無ハヌナリ」徒然草、百三十五段「サラバあらがひタマヘト言ハレテ、云云、[illegible]あらがひナリ、[illegible]ク、[illegible]前ニテ爭ハルベシ」

あらかべ (名) 荒壁 粗塗ノママナル壁。上塗セヌ壁。

あらがみ (名) 現神 〔[illegible]、あらかみ「現御神ヲ、後世ニ、カク云ヒ、現神ノ字ヲ、カク讀メルハ、誤ナリ」〕明津御神ニ同ジ。[illegible]抄、三十四「あら[illegible]ノ、[illegible]ハ、[illegible]テシ、昔ヨリ、神ヲバ君ト、仰ギソメテキ」

あらがみ (名) 荒神 荒荒シキ神。源、四十六、總角「[illegible]」孟津抄「人ノ仲ヲ離クル神ヲ、あらみさきト云フ、荒神ナリ」(あらみさきのかみノ條ヲ見ヨ)

あらがみ (名) 荒神 風宮ヲ稱ス、(大神宮ノ荒御魂ナリ)其條ヲ見ヨ。[illegible]宜山伏「あら神ト云ハレタマフガ、南、宮、風、宮」

アラカン (名) 阿羅漢 〔梵語、Arhan. 禮拜ヲ受クベキ者ノ義、應供ト譯ス、(他ノ供養ニ應ジ得ル者)常ニ、無[illegible]生羅漢)ノ意トシ、更ニ生死ノ果報ヲ受ケザル者トスルハ、阿羅漢ノ性質ヲ以テ解釋シタルナリト云フ、(高楠順次郎說)羅漢ト云フハ、上略ナリ(阿彌陀、彌陀。阿修羅、修羅)〕佛教ノ修行者ノ、悟了到達シテ、極位ニ進メル者ノ稱。又、羅漢。應眞。[illegible]「阿羅漢」[illegible]「十六阿羅漢」「五百羅漢」

あらき (名) 荒城 〔新棺ノ義、(荒城ノ說)[illegible]〕[illegible]文、殯、死住ノ棺、將ニ遷サントシテ、賓トシテ之ヲ[illegible]ニ殯ノ條ヲ併セ見ヨ」又、殯。崩御、薨去アリテ、[illegible]ヲ、數日間、御棺ニ收メ、假ニ置キ奉ルコト。[illegible]、[illegible]ナドアルナリ、[illegible]、[illegible]王以下、[illegible]トナリ、[illegible]ヲ、[illegible]ト云フ。[illegible]ノミヤ。(後世ノ龕前堂ニ似タリト思ハル)殯宮 [illegible]モ、是レナルベシ、其條ヲ見ヨ。

あらき (名) 荒木 〔[illegible]、同ジ、荒ノ條ヲ見ヨ〕(一)木材ノ、伐リ出シタルママニテ、皮ヲ削リ取ラザルモノ。[illegible] (二)荒木のりヲ見ヨ。

あらき (名) 新墾 あらきだ(新墾田)ノ條ヲ見ヨ。

アラキ (名) 阿剌吉 あらきざけヲ見ヨ。

あらき (形) [illegible]、又、[illegible]ノ條ヲ見ヨ。

あらぎ (名) 荒儀 荒荒シキ仕打。粗暴ナル[illegible]。[illegible]リ、年ノ若キガ致ス所カ、夜討ナド云フ事、汝等ガ同士軍、十騎、二十騎ノ私事ナリ」

あらきかぜ (名) 荒風 烈シク吹ク風。強風。[illegible]十九[illegible]ガ大御神、船舳ニ、ウシハキイマシ、云云、荒風、浪ニ遇ハセズ、平ケク、率テ歸リマセ、本ノ國方ニ」清愼公集「立寄リテ、我レ先ヅ折ラム、女郎花、あらき風ニモ、アテジト思フ」[illegible]コノ[illegible]レル、[illegible]

ラデ、殘レルハ、あらき風ニモ、アテズヤアリケム」

アラキ-ざけ (名) [阿剌吉酒] 〔あらきハ、阿蘭陀語、Arak. 然レドモ、支那ノ古書ニ、其名見エタレバ、南洋邊ノ語ニテ、早ク支那ニモ入リ、蘭人モ、其語ヲ受ケタルナルベシ〕 往時、阿蘭陀人ノ渡セル酒。丁子、肉桂、茴香等ヲ合セテ、燒酒ニ浸シ製セシモノト云フ。ト養狂歌集(寬文)下「あらき酒トイフ酒ヲ取出デテ、皆人飲ミケルニ、云云」 日本釋名(元祿)下、阿剌吉酒「本草ニ、燒酒ノ異名ナリ」 增補華夷通商考(寶永)三、咬𠺕吧「ぉやがたらトモ云フ、土産、あらき酒」同、四、阿蘭陀、土産「酒、色色、あらき、云云、以上ノ數品、往來ノ諸國ヨリ出ヅル土産等、尤モ多シ、各、調ヘテ日本ニ持渡ル也」 和漢三才圖會(正德)百五、造釀、燒酒、阿剌吉酒「阿蘭陀之阿剌吉酒、云云、彼國燒酒、氣味甚辛烈」 倭訓栞、あらき「酒、云云、阿剌吉、蠻語ナルベシ、群芳譜ニ、薔薇露モ、番名、阿剌吉ト見エタリ」

〜**あらき-だ** (名) [新墾田] 〔あらきばりノ條ヲ見ヨ〕 新墾ノ田。新田。萬葉集、十六 廿二「荒城田ノ、鹿猪田ノ稻ヲ、藏ニ積ミテ」同、七 八「齋種蒔ク、新墾ノ小田ヲ、モトメムト、足結出デ濡レヌ、此川ノ瀨ニ」

あらきだ-つち (名) [荒木田土] 〔武藏國、豐島郡、町屋村、尾久村邊ノ、荒川ニ沿ヘル荒木田原ヨリ、多ク採レルニ因リテ、此名起ル〕 沼、泥田ナドニ生ズル粘土ノ稱。荒壁ニ塗リ、瓦ノ葺土ニ用キ、又、陶器ニ作ラル。(東京)

〜**あらき-の-みや** (名) [殯宮] あらき(荒城)ノ條ヲ見ヨ。

〜**あらき-の-ゆみ** (名) [荒木弓] 〔僕の弓ノ義〕 丸木弓ナルベシト云フ。强弓ニ云ヘリ。又、荒弓。 萬葉集、十一 六廿「葛城ノ、襲津彥眞弓、荒木ニモ、憑メ(バ)ニヤ君ガ、吾ガ名告リケム」(襲津彥ハ、武內宿禰ノ子ニテ、勝レタル武將ナリ、後ニハ、襲津彥眞弓ト云ヒテ、大弓ノ稱トナレリ、其弓ノ强キヲ恃ムト云フ意ナリトゾ) 盛衰記、廿二、衣笠合戰事「荒木の弓ノ、未ダ削リ治メザルヲ押張リテ」 武器考證、五「新木ハ、丸木弓ナルベシ」 吾妻鏡、二十、建曆二年正月十一日、弓始「小國源兵衞三郎賴邊、是無雙精兵也、被下三諸國進納之荒木弓等二(節文) 新六帖、五、弓「弦副レヌ、あらきの弓ノ、反高ミ、サテイタヅラニ、引ク人ゾナキ」 七十一番歌合(文安)十六番、弓けづり「玉づさモ、跳ネノケラルル、あら弓ノ、(序)押シカヘシテモ、人ゾ戀シキ」 運步色葉集「荒木弓」

〜**あらき-ばり** (名) [新伐墾] 〔きトト云フハ、伐リノ語根ナリ、伐ル、墾ル、ノ條ヲ見ヨ〕 新ニ荒蕪地ノ草木ヲ伐リ拓キテ、田ニ墾リ作ルコト。新田ヲ開發スルコト。菑 翌年、更ニ土ヲ覆シ、熟シテ、柔ラカニスルヲ、おなたづくりト云フ、其田ガ、卽チ、熟田ナリ。(其條ヲ見ヨ) 畬 斯テ、三年目ニ全ク成ル。以上ヲ通ジテ、新墾ノ田、新墾田、新田、又、新田ト云フ。 易經、无妄卦「不耕穫、不菑畬」(アラキバリシ、コナタヅクラズト訓ズ)名義抄「菑、アラキバリ、アラタハル、畬、コナタヅクリ」康熙字典、畬、禮坊記、引下易不菑畬上鄭註上「田、一歲曰菑、二歲曰畬、三歲曰新」詩詁「一歲爲菑、始反草也、二歲爲畬、漸和柔也、三歲爲新田、謂已成田而尙新也」正字通「據此、則詩傳、爾雅、說文、謂三歲爲畬、皆不足信、當從鄭註」

〜**あらき-みづ** (名) [荒水] 豪雨、洪水ヲ云フ語。 字鏡 三十九「瀑、疾雨也、甚雨也、阿良支水」說文「瀑、疾雨也」 龍田風神祭祝詞「天ノ下ノ公民ノ、作リト作ル物ヲ、惡風、荒水ニ遭セツツ、成シタマハズ」

あら-ぎも (名) [荒肝] 〔荒ハ、下ノ動詞ニカカルナルベシ〕 荒肝を拉ぐ、荒肝を拔く、荒肝を取る、ナド云フハ、敵ノ肝魂ヲ、强ク冷シテ、甚シク怖レシムル心ナリ。

あら-ぎやう (名) [荒行] 〔荒荒シキ修行〕 修驗者ナドノ修行ニ云フ語。嶮山、惡所ヲ蹈ミ破リ、又ハ、數日間、山野ニ露宿シ、又ハ、寒天ニ、數日、冷水ヲ浴ムルガ如キヲ云フ。コレヲ行フ者ヲ、荒行者ト云フ。 平家物語、五、文覺荒行事「修行ト云フハ、如何程ノ事ヤラム、試シテ見ムトテ、六月ノ日ノ、草モユルガズ照リタルニ、或ル片山里ノ藪ノ中ヘハイリ、裸ニナリ、仰ノケニ伏ス、虻ゾ、蚊ゾ、蜂、蟻ナド云フ毒蟲ドモガ、身ニヒシト取リツキ、刺シ喰ヒナドシケレドモ、些トモ、身ヲ動カサズ」 盛衰記、十八、普神守三三種心一事「此文覺ハ、云云、ユユシキ荒行者ニテ、云云、今日ヨリ後、七箇日ノ中ニ、天神地祇、命ヲ召セトテ、飮食ヲ斷ツ」

あらき-ゆみ (名) [荒木弓] あらきのゆみヲ見ヨ。

あらき-りう (名) [荒木流] (一)馬術ノ一派。始祖ヲ、荒木元淸ト云フ、志摩入道安志ト號ス、大坪流ヨリ出デ、(天正、慶長頃ノ人)頗ル其術ニ達ス、其子、十左衞門元滿、德川二三代將軍家光ノ馬術師範トナル。(寬政重修諸家譜、武藝小傳) (二)柔術ニモ、荒木流アリ、荒木無人齋ヲ祖トス。又、捕手ノ術ニモ達ス、棒ノ術ニモ、荒木流アリ、同人ナルベシ、サレド、詳ナラズ。

〜**あら・く**・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ(自動、下二) [散] 〔粗ヲ活用セシム、疎疎ニナル意、あらぶ(散)ト云フ語、同ジ〕 散ブ。離ル。散ニナル。ハナレバナレニナル。 神代紀、上 九十「伊弉諾尊、聞而善之、乃散去矣」 齊明紀、六年九月「名營三一所八謗二聚 散 卒二」 名義抄「散、アラク」散歸、アラケカヘル」 太平記、十八、高野根來不和ノ事「投グル飛礫、云云、其身ニアタラズ、あらけテ、微塵ニ碎ケ去ル」

〜**あら・く**・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ(自動、下二) [荒] 〔荒ヲ活用セシム、空くる、うつけ。諳く〕 荒ル。荒レ立ツ。 土佐日記、正月廿二日「今日、海あらけ、磯ニ雪降リ、波ノ花咲ケリ」(あらけ甚シ)

〜**あら-くさ** (名) [荒草] 〔荒ノ條ヲ見ヨ〕 荒野ニ生ズル草。 出雲國造神賀詞「嚴ノ眞屋ニ、麁草ヲ、嚴ノ席ト、刈敷キテ」(遠キ野山ニ生ヒテ、人氣ニ穢レヌ草ヲ云フトゾ) 萬葉集、十四 八十「草蔭ノ、安努野行カムト、墾リシ路、安努ハ行カズテ、阿良久佐立チヌ」(生ヒ立ツ)

あら-ぐし (名) [粗櫛] 櫛ノ條ヲ見ヨ。

〜**あら-くま** (名) [荒熊] 荒荒シキ熊。 萬葉集、十一 二十二「荒熊ノ、住ムトフ山ノ、師齒迫山」 新六帖、二、熊「奧山ニ、棲ムあらくまノ、月ノ輪ニ、夜日コソイトド、雲ラザルラメ」人馴レヌ、すかノ荒野ノ、あらくまハ、獵矢ノサキモ、知ラズ顏ナリ」

あら-くま・し・シキ・シケレ・シク・シク (形、二) [荒] 〔倭訓栞、後編ニ「荒熊しノ義ナルベシ」案ズルニ、荒がましノ轉ニハアラヌカ、(ゆかりなし、ゆくりなし。かがむ、くぐむ)荒氣らしき意、尙、がましノ條ヲ見ヨ〕 荒荒シキ狀ニモテナス意ニ云フ語。アラケナシ。 後拾遺集、十八、雜、四「實方朝臣、女ノ許ニ參ウデ來テ、格子ヲ鳴ラシ侍リケルニ、女ノ、心知ラヌ人シテ、あらくましケニ問ハセテ侍リケレバ、歸リ侍リニケリ」 金葉集、九、雜、上「イカナル人ゾナド、あらくましうシテ問ハセ侍リケレバ」

あら・く・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ (自動、下二) [荒] (一)粗クナル。細ヤカナラズ。(二)荒クナル。荒レ立ツ。

⁂**あら・く・れる**・レル・レレ・レ・レ・レヨ(自動、下一)

荒 (前條ノ口語、語樂、あらくるヽ[細]ヤカナラヌコト云フ、[illegible]ト同ジ、文選[illegible]「麁、アラクルル」」荒荒シクフルマフ。[illegible]あらくれ者、あらくれ者」

〜あら・け (動) あらく(散)、あらく(荒)ヲ見ヨ。

あらけづり (名) [粗削] 粗鉋ト同意ー 荒木ヲ、最初ニ、粗粗削ルコト。

あらけな・し・キ・ケレ・ク・ク (形、二) [暴惡] (あらけハ、下二段活用ノ荒くノ名詞形、なしハ、甚しノ義、其條ヲ見ヨ) 甚ダ荒シ。アラアラシ。アラッポシ。盛衰記、四十八、法皇大原入御事「落邊 番トカヤ云フ者ニ取上ケラレ、あらけなき[illegible]ヒラレ」俚言集覽、あらけ[illegible]夜、衣[illegible]ヲ御[illegible]ヒケルヲ、[illegible]女房、あらけなく[illegible]シマヰラセテ」(衣被ハ、女ナリ、其條ヲ見ヨ)

〜あらこ (名) [麁籠] 目ノ粗キ籠 神代紀、下[illegible]、其竹ヲ[illegible]目籠[illegible]、火火出見尊於[illegible]籠中[illegible]」竹取物語「あらこニ人ヲ載セスヱテ、云云、綱ヲ釣リアゲサセテ」

あらこ (名) [粗粉] 糯粳ノ、粗キモノ。砂糖、餡ナドニ和ゼテ、乾菓子ノ種トシ、多クハ、落雁ナド作ル。

あらこ (名) [荒子] あらしこヲ見ヨ。

あらごと (名) [荒事] 歌舞伎ニテ、剛者ノ技ヲノルコト(和事ニ對ス) コレニ扮ツ俳優ヲ、荒事師ト云フ。元祿ノ頃、江戸ノ俳優、初代市川團十郎、專ラ始メタリ、當時、町奴ノ男達ノ侠勇行ハレ、金平節流行シ、江戸市民ノ、怪力、猛勇ヲ喜ブ時好ニ投ジテ、演ジ出シタルナリ、其臉色、科白、荒唐、豪放ヲ極ム、[illegible]代頭役、市川[illegible]、[illegible]ノ技トシテ、今日ニ存スルモノ、「暫」矢根五郎」鳴神」ナド、[illegible]十八番ト[illegible]。[illegible]ノ[illegible]作、云云[illegible]、[illegible]ニ[illegible]ノ[illegible]物、市川[illegible]リテ不許トナレリ)俚言集覽、あらごとし「俳優ノ、[illegible]ニ[illegible]ヲ云フ、[illegible]ニ、[illegible]色ト云フ」

あらごとし (名) [荒事師] 前條ヲ見ヨ。

あらこなし (名) [粗碎] 物ヲ粉末ニスルニ、最初ニ、先ヅ粗糙碎クコト。移リテ、精密ナル事業ヲ始ムルニモ云フ。

あらこも (名) [荒薦] (あらハ、藁ニ通ズ、(邊、わたり。吾、われ)荒卷、(苞苴)荒繩モ同ジ) 藁薦。玉海、文治二年九月十八日、[illegible]野河[illegible]云云、於[illegible]官[illegible]被[illegible]行[illegible]云云、南庇、東面柱内、敷[illegible]荒薦[illegible]云云」[illegible]内侍日記(建長)「あらこもノヤウナル物ヲ吹キタレバ、[illegible]物ノ衣ノ裾ハ、皆、[illegible]ニゾナリシ」神道名目類聚抄、三、祭器「荒薦、神事ニ敷物ニ用ル薦ナリ」

あらこらくがん (名) [粗粉落雁] 乾菓子ノ落雁、鍋ナドニ、白砂糖百八十匁ヲ入レ、水ヲ加ヘテ、ドロドロニシ、粗粉ノ種一升ヲ入レテ雜ゼ、篦ニテ型ニ詰メコミ、打拔キテ乾シテ成ル。

〜あらし (名) [荒風嵐] (荒風ニテ、しハ、風ノコトナリ、(其條ヲ見ヨ)萬葉集、十三 廿七「荒風」文選、謝靈運、晩出西射堂詩、注、引[illegible]埤蒼[illegible]云「嵐、山風也」倭名抄、一 二 三 採[illegible]「切韻」云、嵐、山下出風也」) 萬葉集、一 八 廿「山下風」同、十一 十三「下風」(嵐ト記スハ、此ノ合字ナリ)支那ニテ、普通ニ用キル嵐ノ字ハ、靄ノコトニテ、異ナリ、[illegible]韻「嵐、山氣、蘇軾詩、翠嵐樓影孤」瀟湘八景ニ「山市晴嵐」ナド云フ、靄トナリ[illegible]、[illegible]、三[illegible]、[illegible] 山下風ノ、寒ケクニ、ハタヤ今夜モ、我ガ獨リ寢ム」同、十三[illegible]ニ、吾ガ衣手ニ、降ル雪ハ、凍リワタリヌ」古今集、五、秋、下「吹クカラニ、秋ノ草木ノ、シヲルレバ、宜山風ヲ、あらしト云フラム」六帖、一「君ヲ我レ、訪フヤ訪フヤト、まつ風ノ、今ハあらしト、ナルゾ悲シキ」[illegible]古今集、四、秋、上「[illegible]ニ、[illegible]ケバあら[illegible]ノ、秋ナルヲ、待チケル夜ノ、小牡鹿ノ聲」

あらし (名) [暴風] (前條ノ語原ニ同ジ) 風ノ速度ノ、一時間ニ九里以上ニ及ブモノ、樹モ根こぎニセラレ、家モ倒ルルマデナルヲ云フ、其大ナルヲ、大あらしト云ヒ、災トス。多クハ、雨ニ伴フ。暴風雨

〜あら・し (動) [產] あらす(產)ヲ見ヨ。

〜あら・し・キ・ケレ・ク・ク (形、二) [荒] (荒ヲ活用セシム、其語原ヲ見ヨ) (一) 剛シ、堅シ。剛「あらき毛織物」(二) 烈シ、猛シ、荒ビタリ。暴猛 神代紀、上[illegible]、[illegible]其神[illegible]「[illegible]暴惡」古事記、上[illegible]「更起、荒心」[illegible]盛衰記、四年二月「黎元危哉、不[illegible]荒、野心」[illegible]風、荒水」(豪雨) 字類抄「暴、アラシ」(三) 起リ立ツ。土佐日記、正月十八日「海、あらけれバ、船出サズ」(荒浪ヲ云フ)

〜あら・し・キ・ケレ・ク・ク (形、二) [荒涼] (あら(荒涼)ノ語原ヲ見ヨ) 人氣遠シ、モノスゴシ。スサマジ。萬葉集、四 六 廿「周防ナル、磐國山ヲ、越エム日ハ、手向ヨクセヨ、荒き其道」同、十五 四 廿 長歌「岩カ根ノ、安良伎島根ニ、宿リスル君」(壹岐島ヲ云フ) 源、五十、浮舟 廿一「イトあらき山越ニナム侍レド、殊ニ裕遠クハサブラハズ」

あら・し・キ・ケレ・ク・ク (形、二) [粗麁] 粗ヲ活用セシム、其語原ヲ見ヨ) (一) (二)コマヤカナラズ。字鏡[illegible]、[illegible]、アラシ」「[illegible]ノ[illegible]」[illegible](二)[illegible]ナリ、[illegible]ラズ。ザラツク。粗[illegible]「手障ガあらい」(三)[illegible]手拔アリ。粗略「調べガあらい」(四)粗末ナリ。「作リガあらい」

〜あらし (句) あるらしノ約レル語。萬葉集、[illegible]三[illegible]吉野ノ、吉野ノ宮ハ、山[illegible]、[illegible]、[illegible]シ、[illegible]ハ、[illegible]ク安良志、コノ我ガ石ル、妹ガ衣ノ、垢ヅク見レバ」

あらしこ (名) [荒子] (あらしハ、荒しノ終止形ナルカ、(荒男)或ハ、荒仕子ニテ、荒仕事スル者ノ意カ、荒[illegible]子ノ轉ト云フハ、イカガ) 人夫。夫卒。[illegible] (武家名目抄、職名部、附錄、廿三、所引)「高麗入(朝鮮征伐)ニ付、御在陣中、侍、中間、小者、あらしこ、人夫、已下ニ至ルマデ、[illegible]云云、[illegible]加ニ御成敗、云云」(古事類苑) 荻生徂徠ノ鈐錄ニ、長柄[illegible]合ハセノ[illegible]ヲ、[illegible]ト云ノ、又、[illegible]ハ、陣營ノ[illegible]ニテ、軟弱ヲフスル[illegible]、あらしこト云フ、トアリ。東鑑、下「小石川御藥園、荒子、廿二人、[illegible]五[illegible]人中[illegible]」[illegible]、あらしこ[illegible]ニ、中間小者ノ[illegible]ハ、[illegible]子ト[illegible]ケリ、又、[illegible]ノ下作ニモ云ヘリ、佃奴也」俚言集覽、あらしこ「[illegible]役ヲあらしこト云フ、[illegible]子ト書ク、云云、又、[illegible]ノ下賤ノ職ニ、黑鍬荒子ト云フアリ」

あらしこ (名) [粗鉋] 粗鉋ノ略」 工匠ノ語、鉋ニテ、木材ヲアラケヅリ[illegible]スルコト。ソレニ用キルヲ、あらしこノ鉋ト云フ、次ニ用キルヲ、中鉋ト云ヒ、仕上ゲニ用キルヲ、上鉋ト云フ。[illegible]訓栞、あらしこ「荒しこきノ義、荒ケヅリノかんなヲ云ヘリ、あら[illegible]きノ[illegible]ナ[illegible]リ」

あらしごと (名) [荒仕事] 力業ニテ、骨ノ折ルル仕事。力作

〜あらしね (名) [荒稲] 「あらハ、生熟ノ生ノ義、新、及ビ、稻ノ條ヲ見ヨ」 稻穗ノ、

籾ノママナルモノ。米ニシタルヲ、和稻、荒稻ト云フ。大忌祭祝詞「奉ル珍ノ幣帛ハ、和稻、荒稻」

あらしのうへ (名) 嵐上 嵐ノ吹ク上。下ヲ、嵐の底ト云フ。新後撰集、四、秋、上「嶺高キ、松ノヒビキニ、空澄ミテ、嵐の上ニ、月ゾナリユク」續千載集、八、羇旅「暮レハツル、あらしの底ニ、答フナリ、宿訪フ山ノ、入相ノ鐘」

あらしのおく (名) 嵐奥 強風ノ吹來ル、遠キ方。風雅集、十六、雜、中「並ビ立ツ、松ノ表ハ、靜カニテ、あらしのおくニ、鐘ヒビクナリ」

あらしのかね (名) 嵐鐘 強風ニ傳ヘ聞ク、鐘ノ音。壬二集、冬、中「雪降リテ、今年モ今日ニ、はつせ山、あらしのかねノ、夕暮ノ空」

あらしのそこ (名) 嵐底 あらしのうへヲ見ヨ。

あらしほ (名) 荒潮 〔荒磯ノ温泉ヲ、荒湯ト云フト同趣〕 荒海ノ潮路。大祓詞「荒鹽ノ、鹽ノ八百道ノ、八鹽道ノ」

あらしまかぜ (名) 暴風 あからしまかぜヲ見ヨ。

あらしま・す (動) 產坐 あらす(產)ノ條ヲ見ヨ。

あらしめ (名) 新標 新ナル注連繩。拾玉集、二「山里ノ、外面ノ小田ノ、一畝區、あらしめ延ヘテ、種蒔キニケリ」

あらじよたい (名) 新所帶 〔所帶ノ條ヲ見ヨ〕 新シキ所帶。新ニ起シタル住居。新居 俚言集覽、あらじよたい「新ニ家ヲ設ケタル人ヲ云フナリ」

あらじる (名) 骨汁 〔骨ノ條ヲ見ヨ〕 魚ノ骨邊肉ニテ作レル吸物。ウシホニ。藝園日涉(文化、村瀨之熙)八「煮二膾殘骨頭一爲レ羹、俗云二阿喇室廛一云云、松江府志、鱸魚條曰、有二骨淡羹一〔斫レ鱠、烝以二骨殽一爲レ羹、淡而有二眞味一〕」

あらしを (名) 荒男 〔嚴し矛、同じ物、ナドノ用格、あらちをト云フハ、音通ナリ(たらしね、たらちね。荒風、疾風)〕 強壯ナル男子。又、あらちを。荒男。マスラヲ。壯夫 萬葉集、十七長歌「爲ムスベノ、タドキヲ知ラニ、カクシテヤ、安良之乎スラニ、歎キ臥セラム」同、二十四十「阿良之乎ノ、伊乎箭手挾ミ、向ヒ立チ」人丸集、下「あらちをノ、獵矢ノサキニ、立ツ鹿モ、イト我如ニ、物ハ思ハジ」萬葉集、十六廿五「荒雄良ヲ、來ムカ來ジカト、飯盛リテ、門ニ出デタチ、待テド來マサズ」志賀ノ山、痛ク莫伐リソ、荒雄良ガ、所縁ノ山ト、見ツツシヌバム」(末ノ二首ハ、女ノ、亡夫ノ事ニ就キテ詠ゼシナリ、良ハ、添ヘタル辭、らノ條ヲ見ヨ)

あら・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) 產 〔生るノ他動、其條ヲ見ヨ(晴る、はらす。濡る、ぬらす)〕 產むノ古言。允恭紀、七年十二月、皇后「產二大泊瀨天皇一」

あら・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) 荒 〔荒るノ他動(枯るる、からす)〕 (一)荒レシム。害フ。コハス。殘破 續紀、十七、天平勝寶元年四月、勅「祖父大臣ノ殿門荒穢ス事無ク、守ラシシ事」 (二)荒ルルニ任カス。毀ルルママニシテ、繕ハズ。委荒 詞花集、九、雜、上「板間ヨリ、月ノ漏ルヲモ、見ツルカナ、宿ハあらシテ、住ムベカリケリ」新古今集、十、羇旅「立歸リ、又モ來テ見ム、松島ヤ、雄島ノ苫屋、浪ニあらすナ」

あらず (句) 不有非 〔ありノ未然形ニ、打消ノ助動詞ノ、ずノ添ハリタルモノ、ず、ぬト活用ス〕 然ハ無シ。サウテナイ。連體形ニテ、あらぬ。名義抄「否、非、アラズ」枕草子、一、第四段「何事ゾ、生昌ガイミジウ怖ヂツルハ、ト問ハセタマフ、あらず、車ノ入ラザリツルト、言ヒ侍ルト申シテ下リヌ」同、四、三十九段

「其聲ドモモ、皆聞キ知ラレテ、ソレゾ、カレゾ、ト云フニ、マタあらず、ナド云ヘバ」古今集、三、夏「去年ノ夏、鳴キ舊シテシ、ホトトギス、ソレカあらぬカ、聲ノカハラヌ」後撰集、四、夏「ホトトギス、僅ナル音ヲ、聞キソメテ、あらぬモソレト、オボメカレツツ」源、三十四、下、若菜、下六十一「院ノオハスルト思シタルニ、云云、あらぬ人ナリケリ」新古今集、八、哀傷「亡キ人ノ、跡ヲダニトテ、來テ見レバ、あらぬ里ニモ、ナリニケルカナ」(亡クナリタルニカケタリ)

あらすきかへ・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) 新墾 新ニ、田ヲ鋤キ返ス。六帖、二「新墾田ヲ、あらすきかへし、(序)カヘシテモ、見テコソヤマメ、人ノ心ヲ」

あらずは (句) 不有者 古言ニハ、あらむよりはノ意ニ云フコトアリ。萬葉集、三三十一讚酒歌「ナカナカニ、人ト不有者、酒壺ニ、成リニテシガモ、酒ニ染ミナム」同、四四十九「斯バカリ、戀ヒツツ不有者、岩木ニモ、爲ラマシモノヲ、物思ハズシテ」同、十二八「何時マデニ、生カム命ゾ、オホカタハ、戀ヒツツ不有者、死ヌルマサレリ」

あらずみ (名) 荒炭 〔荒ノ條ヲ見ヨ〕 堅キ炭。日常用キル炭ナルベシ。(和炭ニ對ス) 靈異記(天平勝寶)中、第十八緣、訓釋「炭、アラスミ」續修東大寺正倉院文書、後集、四十四「荒炭二石、經師等硯溫料」(寶龜二年三月三十日)內匠寮式「炭、一石二斗、和炭、二石」倭訓栞、あらすみ「延喜式ニ、荒炭、和炭アリ、是ハ今云フ堅炭、燒炭ナルベシ」

アラセイトウ (名) 紫羅蘭花 〔阿蘭陀語カ、羅甸語カ、此草、歐洲、地中海地方ノ原產ナリ〕 宿根草ノ名。莖、直立シテ、下部ハ灌木樣ナリ、高サ二三尺、葉ハ、長楕圓形ニシテ、軟毛密生ス、夏ノ初、紫花ヲ開ク、後、長キ莢ヲ結ブ、豇豆ニ似タリ。秘傳花鏡「紫羅蘭花」大和本草(正德)九、荒世伊登宇「三月發二紫花一、花有二四片一云

云、紅夷ヨリ來ル、寶流ノ外國、此實ヲ用テ、油ヲ煎ジ取ル」倭訓栞、後編、あらせいとう「[illegible]、蕃名也、紫羅仙也、寬文中ニ來ル」

あらそひ (名) 爭 アラソフコト。アラガヒ。源、九、葵十五「御挑心ヲ、ハカナカリシ所ノ車あらそひニ、人ノ御心ノ動キニケルヲ」(葵、上ト六條御息所トノ中違ヒヲ云フ、車爭ヒハ、牛車ノ立場ヲ、牛飼童ドモノ互ニ爭フナリ) 盛衰記、四十三、成直降人事「爭ひ果テテノ乳切木」(喧嘩過ギテノ棒チギリ、六日ノ菖蒲)

あらそ・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (自動、四) 爭 〔荒し合ふノ、あらさふ、あらそふト約轉シタル語ナルベシ、荒交ふト同義ナリ、(語合ふ、かたらふ。引きあらふ、ひきしろふ。さやく、そそやく)此語、上ニ、をノ辭ヲ承ケテモ、自動ナリ〕 互ニ競ヒテ、勝タムトス。アラガフ。ハリアフ。神代紀、上十八「速玉之男ノ神「與レ妹相鬪 於二泉平坂一」萬葉集、十九廿六長歌「名ヲ競爭ふト、タマキハル、命モ棄テテ、相爭ふニ」源、十七、繪合十一「竹取ノ翁ニ、宇津保ノ俊蔭ヲ、合ハセあらそふ」(竹取物語、宇津保物語) 拾遺集、一、春「吹ク風ニ、あらそひカネテ、足引ノ、山ノ櫻ハ、ホコロビニケリ」神事は、あらそはれぬ、ナド云フハ、もどかれずノ意。

あらぞめ (名) 荒染 退紅 〔洗染ノ語原ヲ見ヨ〕 (一)アラヒゾメ。染色ノ名。薄紅ニ染メタルモノ。桃色染。タイコウ。退紅 天智紀、六年十一月「桃染布、五十八端」通證「當レ訓二阿良曾米一」江家次第、荒染、彈正臺式、退紅、王建詩、肉色退紅嬌、注、淺紅色」萬葉集、十二廿四「桃花褐ノ、淺ラノ衣、(序)淺ラカニ、思ヒテ妹ニ、逢ハムモノカモ」縫殿寮式「退紅帛一疋、紅花、小八兩、酢一合」 (二)服ノ名ニモ、あらぞめ、又、退紅ト云フアリ、卽チ、桃色ニ染メタル、布狩衣ノ短キモノ。仕丁ノ着用スルモノナリ。江家次第、二、大臣家大饗次第「仕

…ア二人、[illegible]中、[illegible]「[illegible]下、大[illegible]ハ[illegible]、[illegible]ノ[illegible]、[illegible]八、[illegible]ス[illegible](大[illegible]氏)第二、[illegible]ニテ、[illegible]ムルナルベシ)

あらた (名) 荒田 〔荒シオク田〕 耕サヌ田。荒田。播磨風土記、託賀郡、賀眞里、荒田村「[illegible]」 古今集、十五、戀、五「あら小田ヲ、アラスキカヘシ、カヘシテモ、人ノ心ヲ、見テコソ止マメ」 八代集抄、六「返ヘス返ヘスヲ言ハムトテ、あら小田ヲト云ヘリ、荒レタル田ヲ、春、スキカヘス心也」 拾遺集、十三、戀、三「梓弓、春ノあら田ヲ、打チカヘシ、思ヒ止ミニシ、人ゾ戀ヒシキ」

あらた (名) 新田 〔あらきばりノ條ヲ見ヨ〕 新墾田。新田。名義抄[illegible]、アラタ」[illegible](天仁)[illegible]「[illegible]、アラタ」異本山家集、上[illegible]「[illegible]ガ、あら田ニ水ヲ、マカスレバ、ウレシ顏ニモ、鳴ク蛙カナ」

あらた (形) 新 あらたに(新)ヲ見ヨ。

あらた (副) 顯然 あらたに(顯然)ヲ見ヨ。

あらたか (名) 新鷹 〔新ノ條ヲ見ヨ〕 若鷹ノ、巣ヨリ捕ラヘタルママノモノ。六帖、二「あら鷹ノ、今ハ雲居ニ、ナリヌレド、來テモヤ井ルト、見スル手鷹」 後京極殿、鷹三百首「今日睦月、ナカバニナレバ、あらたかノ、山歸ビコエテ、古巣ニゾ入ル」 後訓栞、後編、あらたか「イマダ手馴レヌ鷹ヲ云フナリ」

あらたかに (副) 顯然 〔あらたハ、顯然ナリ、(あらたにノ條ヲ見ヨ)かにハ、副詞ノ接尾語[illegible]〕 [illegible]、イヤチコニ。アラタニ。語彙、あらたか「神、又、佛ナドノ威力ノ、[illegible]タルヲ云フ」[illegible]「あらたかニ現レテ」

あらた・し・シキ・シケレ・シク・シク (形、二) 新 〔[illegible]ノ[illegible]ヲ活用セシム、(おろか、おろかしき)あらたに、及ビ、あたらしヲ併セ見ヨ〕 アタラシ。アラタナリ。[illegible]、萬代マデニ」(此歌ヲ、朝島侯爵所藏ナル尊圓法親王ノ御親筆ニハ「安良多之支」トアリ、古葉類聚抄ニモ、然リト云フ) 名義抄「新、アラタシ、アラタシ」([illegible]、十八「[illegible]、春花ノ[illegible]リモ、安良多之ケム」トアルハ、古義ニ、異本ニ據リテ「安良多末多之」ト、脫字ヲ補ヘリ)

あらだ・つ・ツ・テ・タ・チ・テ (自動、四) 荒立 荒クナル。荒ビ始ム。激動 源、二、帚木「[illegible]神モ、あらだつマジキ御ケハヒナレバ」 千五百番歌合([illegible])十三、九百七番「神樂月、夕日ノ[illegible]ニ、ナリニケリ、あらだちソムル、沖津白波」

あらだ・つ・ツル・ツレ・テ・テ・テヨ (他動、下二) 荒立 アラダツヤウニナス。荒ダテル。激發 源、三十一、槇柱「あらだててハ、イミジキ事出デ來ナムト、オボシ鎭メテ」

あらだて (名) 略立 〔粗粗ノ演習、荒手番ノ、あらニ似タリ〕 歌舞伎芝居ニテ、狂言開場ノ初ニ、俳優ノ稽古スルコト。

あらたなる・つき (名) 新月 〔白氏文集ノ新月ノ訓讀、鮮なる月ト訓ズベキカ〕 陰曆、八月十五夜、即チ、仲秋ノ月。源、三十七、鈴蟲「十「今夜ノあらたなる月ノ色ニハ、ゲニ、ナホ、我ガ世ノ外マデコソ、ヨロヅ思ヒナガサルレ」(次ノ詩ノ譯ナリ) 白氏文集、十四、八月十五日夜「三五夜中新月色、二千里外故人心」(新月ハ、[illegible]月ノ意、三日月ニハアラズ)

あらたに (副) 新 「あらたハ、生立ノ略轉ナラムカ、生るノ條ヲ見ヨ、(賓客、まらうど)何れ、いづら。土群、つむれ。內舍人、うどねり)次條モ、現立ノ略ナルベシ」 新シク。アラタメテ。萬葉集、二十「正月四日、氏族人等宴、年月ハ、安多良安多良[illegible]、[illegible]レド、[illegible]ハ、[illegible]本ニハ「安良多安良多」トアリト云フ。古今六帖ノ[illegible]ニモ、[illegible]、[illegible]ハ、あらたに[illegible]トアリ。(コレニ因リテモ、あらた、あたら、兩語、同時ニ行ハレタルヲ知ル、猶、あらたしノ條ヲ見ヨ) 名義抄「新、アラタナリ」[illegible]モナク、谷ハ山サヘ、晴レケレバ、木ノ色コソ、あらたなりケレ」 拾玉集、五「敷島ヤ、ヤマトコトワザ、君ガ代ニ、あらたにナレル、惠ヲゾ知ル」

あらたに (副) 顯然 〔あらたハ、現立(現神)ノ下略ニテ、現ニ著クアル意ニテモアラムカ、(新ト云フ語モ、生立ナラム)〕 出典ノ著聞集ニモ、[illegible]ヲアラハストアリ」 靈驗、イヤチコニ。常ニ、あらたかにト云フ。[illegible]、四、下「あらたに[illegible]ノ[illegible]心寄セトハ、サダカニ[illegible]ナガラモ」[illegible]、[illegible]話「あらたなる、熊野[illegible]ノ、シルシヲバ、氷ノ[illegible]ニ、得ベキナリケリ」 著聞集、五、和歌「此邊ニ住ミ侍ル翁ノ參リツル、ト申セト言ヒ失セケリ、住吉ノ[illegible]神ノ、我歌ヲ感ゼサセタマヒテ、御詠ヲアラハシタマヒケルニヤ、フシギニあらたなる事カナ」([illegible]六、寺ノ大臣ノ、住吉社頭月ノ歌ヲ云フ)

あらたへ (名) 麁栲 〔たへ(栲)ノ條ヲ見ヨ、荒妙ト書ケルハ、借字ナリ、出典ノ孝德紀ニ、麁布トアリ、萬葉集、三十二ニ荒栲トアルガ、正字ナリ〕 (一)古クハ、織目ノ麁キ、スベテノ織物。細カキヲ、和栲ト云フ。大嘗祭式「[illegible]」 註「神語所謂、阿良多倍、是也」 孝德紀、大化二年三月、[illegible]「庶人、云云、[illegible]麁布[illegible]」 [illegible]詞、[illegible]、云云、和妙、荒妙」[illegible]者、細布」同、集解、四十「不限布麁細、[illegible]色布也」 (二)平安朝以後ハ、麻布ヲあらたへト云ヒ、絹布ヲにぎたへト云ヘリ。冠辭考、[illegible]、あらたへノ條、[illegible]、云云、以[illegible]服部[illegible]、[illegible]、[illegible]、云云、[illegible]氏、[illegible]、[illegible]九月一日[illegible]トアルヲ對ヘ見レバ、[illegible]たへ、布ヲ荒たへト云ヘリ」

あらたへ・の (枕) 麁栲乃 〔前條ヲ見ヨ、[illegible](萬葉)[illegible]ト云フ、[illegible]〕 [illegible]、[illegible]ハ、借字ナリ、[illegible]ト云フ[illegible]枕詞。[illegible]ニ、[illegible]、[illegible]ノ[illegible]、[illegible]シ」([illegible]布ノ[illegible]ナリ) 同、五[illegible]「[illegible]布衣」ナドアルハ、現實ヲ云ヘルニテ、枕詞ニハアラザルベシ。[illegible]

あらたま (名) 荒玉 〔新ノ條ノ(三)ヲ見ヨ〕 玉ノ、掘リ取レルママニテ、未ダ[illegible]モノ。[illegible]

あらたまの (枕) 安良多麻乃 〔萬葉集[illegible]代匠記、總釋枕詞、あらたまの「あらたまるナリ」(谷モ、挾ルナルベシ)此語原說、殊ニ不易ナルヲオボユ、然レドモ、語根ヲ枕詞トシタル例モナキヤウナレバ、強ヒテハ云ヒガタシ、倘、考フベシ、[illegible]開ト云フ說モアレド、開ト云フ意、落チツカズ、此外ニモ、諸說アレド、皆、[illegible]ニ落ツ〕 年ト云フ語ノ枕詞。[illegible]ハ、月ニモ用ヰラル。又、枕詞ヲ[illegible]テハ、此語ヲ略シテモ用ヰラル、「足引ノ(山ノ)木閒」ぬばたまの(夜ノ)夢」ノ例ナリ。古事記、中(景行)[illegible]アル語ニテ、寢覺ニ備ヘタルモノト云フ) 忠見集「あらたまの、(年ノ)春ヲモ知ラデ、古里ハ、雛田ノ山

ノ、霞ヲゾ見ル」又、萬葉集、十二[三十]「荒田麻之、一夜モ脱チズ、夢ニ見エコソ」トアル麻ハ、夜ノ誤寫ナリト、古義ニ云ヘリ。（あらたよ（新夜）ノ條ヲ見ヨ）

あらたま・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）【改革】〔次次條ノ語ノ自動（定む、さだまる、約む、つづまる）〕（一）新ラシクナル。變ハル。ナホル。古今集、一、春、上「百千鳥、囀ル春ハ、物毎ニ、あらたまれドモ、我レゾ舊リユク」（二）殊更ニ、容體ヲ正シクス。ヒラキナホル。正容「あらたまッテ話シ出ス」

あらたま・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）【革】〔革ノ字ノ漢籍讀ナリ、集韻「革、訖力切、音極、急也」トアレバ、きはまるト訓ズベキカ、ソレヲ、玉篇ニ「革、改也」トアルニ因リテ、誤リテ、あらたまるト訓ズルコトトナリシト思ハル〕病、重ル。危篤ナリ。禮記、檀弓、上篇「夫子、病革矣」註「革、急也」「病、俄革」

あらた・む・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ（他動、下二）【改革】〔新ヲ活用セシム（慥ム、たしかむ）〕（一）新ニス。舊キヲ變フ。變更ス。續紀、四、和銅元年正月、詔「御世年號改賜換賜」源、一、桐壺「里ノ殿ハ、修理職、内匠寮ニ、宣旨下リテ、二無ウあらため造ラセタマフ」夫木抄、八、夏「水無シト、聞キテ舊リニシ、勝間田ノ、池あらたむる、五月雨ノ頃」（二）取直ス。ナホス。悛。舒明即位前紀「自レ今以後、勿レ憚レ改レ意」「風俗ヲあらたむ」「品行ヲあらたむ」（三）調ブ。糺ス。吟味ス。撿「數ヲあらたむ」「人別ヲあらたむ」「關所ノ切手ヲあらたむ」

あらため（名）【改】（一）アラタムルコト。（二）糺スコト。シラベ。吟味。【點撿】「人別改」「宗門改」

あらたよ（名）【新夜】〔萬葉集ニ、荒田夜トアリ、（次條ノ新代モ、あらたよト讀ムベキナリ）日毎ニ經易リッツ、新シクナル夜ノ意ト云フ〕夜夜。毎夜。マイバン。夜夜 萬葉集、十二[三]「我ガ心ト、望ミ思ヘバ、新夜ノ、一夜モ落チズ、夢ニシ見ユル」（毎夜ノ一夜モ缺カサズ）同卷[三十]「今更ニ、寐メヤ我ガ夫子、荒田麻ノ、一夜モ落チズ、夢ニ見エコソ」（古義ニ、麻ハ、夜ノ誤寫ナリト云フ）同十三[三]長歌「新夜ノ、云云、夢ニ見エコソ」

あらたよ（名）【新代】【新世】〔前條ノ語原ヲ見ヨ〕（一）新シキ御代。即チ、大和國藤原宮ノ新京ニ御代知シメスコト。萬葉集、一[五十]藤原宮之役民作歌、長歌「圖負ヘル、神龜モ、新代ト、（序）泉ノ河ニ、云云」（泉ヲ、出ヅニカケタリ、泉川ハ、山城國ノ木津川ノ舊名）河圖洛書ノ條ヲ見ヨ。持統紀、八年十二月「遷二居藤原宮一」（二）新シク變リシ御代。即チ、山城國恭仁ノ地ニ遷都アリシ御代。萬葉集、六[四十三]悲二寧樂京故鄕一作歌、長歌「特メリシ、寧樂ノ都ヲ、新世ノ、事ニシアレバ、天皇ノ、引ノマニマニ、春花ノ、（序）移ヒカハリ」（引ハ、引遷シタマフヲ云フ、天平十六年ノ詠ナリ）續紀、十三、聖武天皇、天平十二年十二月「經二略山背國、相樂郡、恭仁鄕一以レ擬二遷都一故也」同、十四、天平十三年正月「天皇始御二恭仁宮一受レ朝」

あらちのせき（名）【愛發關】〔倭訓栞、あらし「暴風ノ義、山城ノあらし山、越前ノあらち山、モトハ同語ナルベシ」（風ノ條ヲ見ヨ）愛發ヲ、あらちニ用ヰタルハ、音通ニテモアルカ（晒す さらす。牛なから）〕古ヘニ謂ユル三關ノ一。越前國、敦賀郡ノ南境ト、近江國、高島郡ノ北境ト相接スル界嶺ナル有乳山ニアリキ、大和ノ京ヨリ、北陸道ニ趣ク道ナリ、驛所トシタリ、有乳山ノ北ニ、道口ト云フ地アリ、即チ、越の道口（越前）ナリ、此山ヲ越スニ因リテ、北陸道ヲ越ノ國ト云フ、此關、延暦・大同、ノ頃ニ廢セラル。令義解、軍防「凡置二關一處、云云、其三關者、謂、伊勢、鈴鹿、美濃、不破、越前愛發等、是也」續紀、廿五、天平寶字八年九月、惠美押勝逆謀「遣二精兵數十一而入二愛發關一、授刀物部廣成等、拒而却レ之」萬葉集、十[十一]柿本人麿呂「八田ノ野ノ、淺茅色ヅク、有乳山、峯ノ沫雪、寒ク降ルラシ」（大和ノ添下郡、矢田ノ地ニテ、草木ノ色ヅク頃、有乳山アタリハ雪ナラムト思フ、ト云フナリ）六帖、二[二]「人心、あらちノ山ニ、ナル時ゾ、契りおし路ノ、道ハ嶮シキ」（荒風ニカケタリ）新後拾遺集、六、冬「あらちやま、峯ノコガラシ、サキダテテ、雲ノ行手ニ、落ツル白雪」

あらちを（名）【荒男】あらしをノ條ヲ見ヨ。

あらづくり（名）【粗造】シタゴシラヘ。更級日記「丈六ノ佛ノ、イマダあらづくりニオハスル御顏バカリ、見ヤラレタリ」

あらっぽ・い（形）【粗暴】〔荒多しノ急呼、（安っぽい、理窟っぽい）〕荒荒シ口語ナリ。アラケナシ。手アライ。語彙、あらっぽい「人ノ性ノ荒キヲ云フ」「男ノ子ハあらっぽい」

あらっぽ・い（形）【粗笨】〔粗多しノ急呼、前條ノ語原ヲ見ヨ〕粗粗シ。精シカラズ。語彙、あらっぽい「コマヤカナラヌヲ云フ」「取調べガあらっぽい」

あらづもり（名）【粗積】大略ニ見積ルコト。概算「建築費用ノあらづもり」

あらて（名）【新手】〔ては、隊ノ意、一番手、寄手〕戰場ニ臨ミテ、未ダ戰ハズシテアル軍勢。生兵 平治物語、二、待賢門軍事「新手五百餘騎」盛衰記、二十、八牧夜討事「加藤次申シケルハ、殿儕ハ、宵ヨリ軍ニ疲レタルラム、休ミタマヘ、景廉ハ荒手ナリ、一當、當テ試ベシ」

あらて・く・む・ム・メ・マ・ミ・メ（他動、四）【粗手組】粗粗ト組立ツ。堀河院百首「あらてくむ、賤ガ垣根ノ、ホトトギス、鳴ケドモ汝ガ、聲ハヤツレズ」夫木抄、三十一「あらてくむ、賤カ松垣、花咲キテ、アナオモシロノ、雪ノ朝ヤ」倭訓栞、後編、あらてくむ「賤が垣根ト闘セリ、荒荒シク組立テタルナリ、又、あらてかくトモ云ヘリ」

あらてつがひ（名）【荒手番】まてつがひ（眞手番）ノ條ヲ見ヨ。

あらと（名）【粗砥】〔眞砥ニ對ス〕砥ノ一種。始メテ新刃ヲ研グニ用ヰルモノ。質、粗クシテ、ザラツク、赤キアリ、白キアリテ、樣ノ文アリ。礪 倭名抄、十五[八]「麁礪石、阿良止」

あらどこ（名）【荒床】〔荒磯ノ溫泉、荒湯。荒山ノ路、荒路〕荒磯ヲ寐床トスルコト。萬葉集、二[四十]讃岐國、狹岑島視二石中死人一長歌「荒磯面ニ、云云、浪音ノ、繁キ濱邊ヲ、敷妙ノ、枕ニナシテ、荒床ニ、コロブス君ガ、家知ラバ、往キテモ告ゲム、云云」

あらどこ（名）【新床】疊ノ床ノ、新調シタルモノ。

あらとほし（名）【粗籭】編目ノ粗キ篩。成形圖說（[illegible]）五、農事「稻ノ穗ヲ落シ、云云、芒毛ヲハナシタルヲ、粗籭ニテ搖リ透シ、穀ノ塵芥ヲ去リ除ク」

あらな（句）【欲有】〔ありノ未然形ノあらニ、希望ノ感動詞ノなノ添ハリタルナリ〕然アラムコトヲ欲ス。萬葉集、三[二十]讚レ酒歌「生者、遂ニモ死ヌル、モノナレバ、今生ル間ハ、樂シクヲ有名」

あらなは（名）【荒繩】〔あらハ、藁ニ通ズ、あらおもノ語原ヲ見ヨ〕藁繩ニ同ジ。「荒繩ニテ縛ル」

あらなみ（名）【荒波】荒レ立ツ波。怒濤 古事記、中（景行）[五十]「暴浪自伏、御船得レ進」赤染

[illegible]

あらに (名)［骨煮］あら(骨)ノ條ヲ見ヨ。

あらにこのはらへ (名)［荒和祓］〔荒栲、和栲ヲ奉ルト云フナルヲ、荒ブル神ヲ和ムル[illegible]〕[illegible]ナリト云フ[illegible]六月祓ノ[illegible] らにこのはらへ「荒和祓ト言ケリ、六月祓ヲ云フ也」同、あらにこのかみ「荒キ神ヲ和メシ給也、因テ、祓ノ歌ナドニ詠メリ」

あらぬ (名)［荒野］あらのヲ見ヨ。

あらぬか (名)［麁糠］もみぬかナルベシ。下[illegible]あら、[illegible]

あらぬら (名)［荒野］あらのヲ見ヨ。

あらぬり (名)［粗塗］初ニ粗ク塗ルコト。シタヌリ。(壁泥ナドニ云フ、中塗、上塗ニ對ス)十[illegible]ノ[illegible]ノアラウチ

あらねよし (枕)　ありねよし(在根良)ヲ見ヨ。

あらの (名)［荒野］〔荒ノ條ヲ見ヨ、野ヲ、[illegible]〕[illegible]キヲ、あらのトモ云フコトハ、[illegible]シ、のらノらハ、添ヘタル辭。らノ條ヲ見ヨ　人氣ノ遠ク、遠キ野。あらの、あらの、[illegible]［曠野］[illegible]

[illegible]大君ノ、敷キマス時ハ、都トナリヌ」倭名抄、一[illegible]野、阿良乃良」

あらのら (名)［荒野］荒野ヲ見ヨ。

あらは (副)［顯］あらはニヲ見ヨ。

あらはか (名)［荒陵］[illegible]アリ、陵形、缺損スレドモ、西南半面ニ湟ヲメグラシテ、方域二町餘アリ、御陵ノ形ハ具ヘタレド、何天皇ノナルカ、詳ナラズ、仁徳天皇[illegible]タド、ナホ[illegible]ナシ。[illegible]

[illegible]俗云荼臼山」

あらはかす (他動)［顯］あらはすヲ見ヨ。

あらばお (名)［麁筥］稻ヲ搗キテ、籾ヲ簸ルモノ[illegible]具、[illegible]ノ節ニテ、[illegible]ノ根キモノナ[illegible]

[illegible]ヲ簸ルトハ、籾ヲ簸シ篩ルナリ、麁筥トハ、麁篩ノ如[illegible]

あらばお (名)［麁筥、荒筥］[illegible]祭具、又、調進具ヲ納ル、ノ義ナリト云フ」[illegible]百十九合、麁筥廿八合、因幡國、荒筥廿五合、右以二正[illegible]料、荒筥八十八合」西宮記、八月、[illegible]「王卿以下、云[illegible]ヲ荒筥トモ云フ、長暦官符、荒筥一合、調進式目、荒筥一合、一尺四分四方トアリ」(註文)

あらはしぎぬ (名)［著衣］次條ヲ見ヨ。

あらはしごろも (名)［著衣］喪服ヲ着タルヲ、喪中タルヲ示ス衣ナリト云ヘル[illegible]ギステ侍ラムコトモ、イトモノウク侍ルモノヲ、云云、此歌あらはし衣ノ色ナクバ、エコソ思ヒタマヘ、別クマジカリケレ」河海抄「此祖母ノ著服ナラデハ、致仕ノ大臣ノ子トモ思ヒワクマジキト思フナリ」[illegible]ルベセシ、其老人ニテ候フナリ」(是レハ、源氏物語[illegible]ナリ、コレハ、前ノ葵巻ノ語ヲ、更ニ借リテ用ヰタルナルベシ)

あらはす ス・セ・サ・シ・セ(他動)〔あらはるノ他動、(毀る、こはす)あらはかすト云フハ、一[illegible]あそばかす。あろばす、あろばかす)〕顯ニス。隱サズニ見ス。隱レナクス。又、あらはかす。古事記、上[illegible]

テ、見顯かさベヤ、ト言合ハセテ」

あらはす ス・セ・サ・シ・セ(他動)［著］[illegible]著クスルナリ[illegible]書物ヲ作ル。著述ス。著作ス。[illegible]

「[illegible]十部ノ書ヲ著す」

あらはに (副)［顯現］〔あらはハ、生、[illegible]〕[illegible]あらはる、あらはすトナル」(一)著シク。隱ルルコトナク。[illegible]十九、[illegible]あらはハ言ヒナサデ、カスメウレヘタマフ」[illegible]ヘツ、夏[illegible]ノ、あらはニ[illegible]ユト、見エヌバカリゾ」[illegible]云[illegible]」トアルハ、現世ニ行ハルル萬事ナリ、幽事ハ、幽界ニテ、神ノ行ヒタマフ事ナナリ。

あらはみこと (名)［[illegible]］[illegible]

あらはひ (名)［洗］〔あらひノ延(呼び、よばひ。潤ひ、うるほひ。誘ぎ、ほがひ)〕洗フコト。[illegible]大和物語、上、法師「山ニ住ム聞ニ、あらはひナドスル人ノナカリケレバ、親ノ許ニ、衣ヲナム、あらひニ[illegible]

あらはる ル・ル・レ・レ・レヨ(自動、下二)［顯現］〔あらはみ(顯)ノ語原ヲ見ヨ〕(一)現ニナル。ムキダシニナル。[illegible]九、雜、上「住吉ノ、浪ニ洗レル、松ヨリモ、神ノシルシゾ、あらはれニケル」(二)隱シタルコトヲ、人ニ知ラル。露顯ス。[illegible]ク)安良波路マデモ、阿[illegible]ヲ阿[illegible]テバ」

あらひ (名)［洗］(一)洗フコト。洗[illegible]

ム、あらひニナコセタリケル」(二)あらひごひ（洗鯉）ノ條ヲ見ヨ。

二あらび（名）あらぶ、(荒)又、あらぶ(離散)ヲ見ヨ。

アラビア-うま（名）［亜剌比亜馬］〔亜細亜洲ノ西南ナル、亜剌比亜國ノ原産ヲ發達セシメタルモノ〕馬ノ種中、最モ優秀ナルモノノ稱。專ラ乘用トス。[illegible]ヨリ長大シ、今ハ、邦内ニテモ飼養セラル。丈ノ高キハ、五尺餘ナリ。頭小サク、頸長ク、骨格、緊縮シ、性質活潑、動作輕捷ナリ。

アラビア-ゴム（名）［亜剌比亜護謨］〔英語、Gum Arabic.〕ごむノ一種。オモニ、亜剌比亜國ニ産ズル、あかしあ屬ノ樹ヨリ取リタルモノ。白色、又ハ、黄褐色ナリ。水ニ溶解スル性アリ。工業用[illegible]トナリ、又、醫藥、又、糊ノ料トス。

アラビア-すうじ（名）［亜剌比亜數字］〔亜剌比亜國人ノ用キタルヲ傳ヘシニ因リテ名アリ〕一種筆算ニ用キル數字ノ稱。1 2 3 4 5 6 7 8 9 0ナリ。又、算用數字。

アラビア-ものがたり（名）［亜剌比亜物語］〔英語、Arabian night entertainmentsノ譯、千日一夜物語トモ云フ〕西洋ニテ有名ナル物語ノ集。亜剌比亜國、波斯國、印度等ノ古代ノ寓意談、[illegible]、口碑、傳説、數十篇ヲ集メテ載セタリ。

あらひ-かは（名）［洗革］〔洗革ノ略〕（[illegible]ヲ見ヨ）あらひかはハ、又、[illegible]洗鞣シ、[illegible]ヲ、薄紅ニ染メタルモノ。

又、[illegible]（古事類苑）

あらひかは-をどし（名）［洗革縅］前條ヲ見ヨ。

あらひ-がみ（名）［洗髪］婦人ノ、髪ヲ、洗ヒオトシタルモノ。乾クマデ、ソノママニ垂ラシ居ル。[illegible]はセテ、流リ流スハ、風ニゾアリケル」

あらひ-ごめ（名）［洗米］[illegible]

あらひ-ぐつわ（名）［洗轡］〔馬ヲ洗フ時ニ用キシヨリ云フトス〕轡ノ、簡單ナルモノ。二箇ノ環ヲ連結シ、其外端ニモ環アリテ、手綱ニツケタルナリ。[illegible]ひぐつわヲハメサセ、引客セ、ユラリト打乘リマハレバ」[illegible]あらいぐつはニテ馬乘ルコトアルベシ、[illegible]ハセテ乘ルベシ、コレ、あらひぐつわニテ馬ノ乘ルヤウナリ」

あらひ-こ（名）［洗粉］〔[illegible]〕顔ヲ洗ヒ、又、手[illegible]ノ粉。小豆ヲ細末ニシテ、粉トシ、香料ヲ加ヘタルモノ。水ニマゼテ、面、手ヲ洗ヒ、垢ヲオトスニ用キル。澡豆 [illegible]

あらひ-こ・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）［洗越］[illegible]

あらひ-こひ（名）［洗鯉］夏ノ料理、鯉ノ生肉ヲ、薄作リニシ、チョト温湯ニ入レテ後、冷水ヲ注ギテ洗ヒ、肉ノハゼテチヂミタルヲ、ソノママ、醬油ヲ塗シテ食フ。多クハ、略シテ、あらひトノミ云フ。又、鱸、鯛ナドニテ作ルモアリ、鯉ノあらひ、鯛ノあらひ、ナド云フ。[illegible]

あらひ-ざら（名）［洗盥］[illegible]

あらひ-ざらし（名）［洗晒］衣服ノ、數度洗ヒテハ、曝シタルモノ。其染色ノ褪メタル[illegible]

あらひ-ざらひ（副）［洗浚］（一）[illegible]ヲ見ヨ」アルホド、ナキマデ。アリタケ、ノコサズ。「あらひざらひ、話シテシマッタ」

あらび-しほ（名）［麁鹽］鹽ノ、下等ナルモノ。（語彙）大膳式、下「麁鹽、九合二勺」

あら-ひまり（名）［荒墓］あらはふり(荒[illegible]ヲ見ヨ。

あらひ-すすぎ（名）［洗濯］洗ヒ、又、ススグコト。洗濯。動詞トシテ、萬葉集、十六[illegible]

あらひ-ぜき（名）［洗堰］〔あらひこすノ條ヲ見ヨ〕川ヲ横切リテ設ケタル堰ニテ、水ハ其上ヲ洗ヒ流レ越スヤウニ築キタルモノ。是レハ、川水ヲ、横ニ分流セシメ、灌漑、舟運等ニ給スル入口ニテ、其川ノ水深ノ不足ナルニハ、此ヲ其下流ニ作リテ、水ヲ塞キ、水位ヲ高メ、

引[illegible]二[illegible]ナリ、[illegible]スル時ハ、大元ヲナヘラゲ、太鼓、自ラ静ニシテ、[illegible]
[illegible]ヲ用[illegible]
[illegible]
[illegible]
道下ニアリ、天平六年、再ヒ築カセラレ、一尺バカリ其高サヲ減ズ、太鼓ム時ハ、其上ヲ過ギテ洩レ落ツル故ニ、減ズル星ヘナシト云ヘリ」(記文)

あらひ-ぞめ（名）[illegible]〔[illegible]ヲ洗ひ[illegible]色ノ[illegible]ナリト云フ、
あらぞめトモ云フあらハ、あらひノ語根ノミ云フナリ、(躁物、あがもの。書言、ちかおとこ)あらひ革ト云フ語モ、洗染革ニテ、[illegible]、[illegible]記ノ十四ニ「退紅ヲあらぞめト訓ズ、コレあらひぞめノ略言ナリ、洗染ノ[illegible]ヘ、洗ひ乔シタル心ニテ、薄紅ノ革ヲ云フ」トアリ、退紅ハ、眞紅ニ對シテ、紅色ノ[illegible]ナリト云フ」[illegible]名ニ、薄紅ナルモノ、[illegible]云フ、其條ヲ見ヨ。 天治字鏡、十二[illegible]退紅、[illegible]
[illegible]
長、左右、各二人、退紅袍」

あらひ-だし（名）[洗出]（一）杉板ノ、正目ニモアレ、板目ニモアレ、ソノヤハラカキ[illegible]ヲ[illegible]洗ヒテ、目ヲ高クアラハシ出シタルモノ。杉戸ナドニ作ル。（二）今ノ[illegible]ニ、[illegible]ノ表面ヲ、[illegible]ナラズ、ソノママニアラハシオクコト。(あらはしだしノ意ナルカ)

あらひ-だて（名）[洗立]〔洗ふノ條ノ(二)ヲ見ヨ、立つるハ、起スナリ〕人ノ品

行[illegible]コト。[illegible]
あらひだてヲスル」

あらひと-がみ（名）[現人神]〔[illegible]〕[illegible]ナキニ人ノ[illegible]ニ現レ給フ[illegible]ト云フ[illegible]
[illegible]人ニシテ人[illegible]ナラヌ[illegible]
[illegible]ト云フモ、同義ナリ」天皇ヲ[illegible]マテ申シ[illegible]
〔「現人神、安良比止加美」景行紀、四十年十月、日本[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]ヒ[illegible]
テ、[illegible]ニ[illegible]
トギス、人知レズノミ、鳴キ居タルカナ、コレヲ[illegible]シテ、[illegible]スベキ由、[illegible]皇モ、あらひと[illegible]モ、[illegible]ホトトギス
[illegible]

あらひと-がみ（名）[荒人神]〔萬葉集ニ[illegible]
[illegible]荒人神[illegible]
[illegible]
[illegible]ノ出雲國造神賀詞ノ[illegible]ニ、萬葉集ニ、住吉ノ荒人神トアルハ、荒大神ノ誤ナリ、此大神ヲ、人ト申ス由ナシ」トアル、從フベキナリ、古事記、中(仲哀)[illegible]墨江大神之荒御魂」(萬葉集、十九[illegible]住吉ノ、吾ガ大御神)トアルニテ證スベシ、住吉ノ[illegible]
[illegible]
[illegible]
荒人神ト云フハ、此神ノ、雷トナレル傳說ニ因リテ、[illegible]

[illegible]ノ[illegible]
[illegible]
[illegible]
ノ、あら人神ニ、[illegible]ヒテモ、[illegible]
大藏、上、[illegible]只今ノ、北野ノ宮ト申シテ、あら人神ニオハシマ[illegible]
メ奉リタマフメリ」十訓抄、下、第十、十六條、[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]ナリ。

あらひ-ばん（名）[洗盤]　あらひざらヲ見ヨ。

あらひ-はり（名）[洗張]　トキアラヒギヌ。故キ衣服ヲ解キ洗ヒ、板ニ貼リツケテ、[illegible]
[illegible]あらひテ、[illegible]

あらひはり-や（名）[洗張屋]　[illegible]スル職人。[illegible]

あらひ-まき（名）[洗蒔]　稻種ヲ、水ニ漬ケズ、唯、洗ヒテ蒔キツクルコト。[illegible]
あらひまき「苗代ノ時、種ヲ水中ニ漬サズ、洗ヒ了テ、蒔クヲ云フ、砂石ノ田、新耕ノ田ニ宜シト云ヘリ」

あらひ-よね（名）[洗米]　カシヨネ。洗米。

あら・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ（他動、四）[洗]〔新ヲ活用セシム、(荒、あらぶ)新ニスル義、(淀[illegible]
[illegible]モ、更ニ[illegible]ナラ[illegible]
ニ、[illegible]

[illegible]
トナルカ」（一）[水ニ灑ギテ淨ムニ]スマ[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]ヲ洗ヒ去ル意ニ轉ジテ、アナグリアラ[illegible]
あらふ二(人ノ身[illegible]ノあらひだてヲスル)

あら・ぶ・ブ・ブ・ブル・ブレ・ビヨ（自動、上二）[荒]〔[illegible]
[illegible]
あれぶト云フハ、[illegible]
ざれ[illegible]
ル。あれぶ。[暴起]　神代紀、上「大己貴神曰、[illegible]
[illegible]
[illegible]
七月「[illegible]人民、云云、其[illegible]
ノ、云云、[illegible]スヲ、[illegible]シテ」又、[illegible]
トアルハ、黑川春村ノ[illegible]
ニ[illegible]
[illegible]

あら・ぶ・ブル・ブレ・ビ・ビ・ビヨ（自動、上二）[離散]
[illegible]トアリ)稀疏ニナル意、散くト同意、[illegible]
るトモ云フ、[illegible]
ヅカズ、[illegible]
匂ノ[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

あらぶる-かみ（名）[荒振神]〔あらぶるハ、荒ぶノ連體形。最速夫流ト同意ナ

リ、然レニ、神代紀、古事記、ニ云ヘルあらぶる神ハ、まつろはぬ神、寄りつかぬ神トモ解セラルルヤウナリ、然ル時ハ、相混離散ぶるニテ、語原ノ異ナルガ、相混ズ、語ノ本源ハ、相通ズルモノカ」荒レ立ツ國津神。強暴ナル國民。 古事記、上「天照大御神、言、此葦原中國者、我御子之所知國、言依所賜之國也、故以爲於此國道速振荒振國神等之多在、是使何神而將言趣」(天照御神ニ歸順ハヌ國津神ヲ云ヒタマヘルナリ、ことむけハ、征服ナリ) 神代紀、下「天照大神勅ニテ、曰、吾欲令撥平葦原中國之邪鬼、然、彼地多有螢火光神及蠅聲邪神、復有草木咸能言語、故汝先往平之」古事記、中(景行)「言二向平和荒夫琉神等、及退二撥不伏人等一」景行紀、四十年七月「東國不安、暴神多起、亦蝦夷悉叛、屢略人民」云云、神禰ヒニ掃ヒタマヒテ」(仲哀紀)「荒振神ニ頁像、六月晦大祓祝詞「荒ブル神ダニモ、今日ハ和シト、人モ知ラナム」文選、東京賦、注「魁狂二註「惡戾之鬼名」

あらほど (副) [彼程] あれほどヲ見ヨ。

あらほね (名) [骼] [現骨ノ義、あらト云フハ、下略ナリ] 肉ヲ離レタル骨。又、あら。魚肉ニ、骨邊肉ト云フモ、是レナリ、其條ヲ見ヨ。 字鏡集「骼、アラボネ」釋文「露骨曰骼」字類抄「骨、アラ」

あらほふし (名) [荒法師] [荒ノ條ヲ見ヨ、聖ハ、僧ノ稱、其條ヲ見ヨ] 又、荒聖。勇マシキ法師。猛キ僧。勇僧。 吉野忠信(寶永、近松作)二「辨慶、モトヨリコラヘヌ荒法師」平家物語、五、勸進帳事「文覺ハ、モトヨリ不敵第一ノあらひぢりニテハアリ」

あらぼり (名) [粗彫] 木彫ニ云フ語。あらけづりノ後ニ、小刀、叉ハ、鑿ニテ、粗ク彫リアグルコト。

あらまき (名) [粗蒔] 田耕セズシテ、稻種ヲ蒔キツクルコト。 字鏡六十「𥝱、丁計反、不耕而種也、阿良萬支」

あらまき (名) [苞苴] [藁卷ニ通ズ、あらまきノ語原ヲ見ヨ] 藁、蘆ナドニテ、魚ヲ包ミ卷キタルモノ。ワラヅト。 倭名抄、十四、調度具「苞苴、裹魚肉也、阿良萬岐」宇治拾遺、一、第五條「鯛ノあらまきヲ、多ク奉リタリケル」

あらまき (名) [粗卷] [粗、鹽ヲ薦卷キタル意ナルベシ、(荒卷、新卷ハ當字)越後ノ鹽鮭ニモ、あらまきト云フアリ、淡鹽ナリ、北海道ノ西海岸ナドノ鮭ハ、秋初ニ漁ス、(あきあぢノ條ヲ見ヨ)殘暑、尙甚シケレバ、多ク鹽ヲ施ク、西別邊ノモノハ、秋末ニ捕ル、故ニ鹽淡キナリ、性質モ良シ] 鮭ノ鹽引ノ、淡鹽ニシタルモノ。佳品ナリ、北海道ノ根室ノ西別ノ産、名アリ、價モ、常ノ鹽引ノ二倍ナリ

あらまし (名) [豫期] 「あらます」ノ名詞形 豫テ思ヒハカルコト。行末ノココロアテ。 風雅集、十七、雜、下「ヲリヲリノ、身ノあらましモ、カハリケリ、我ガ心サヘ、定メナノ世ヤ」太平記、九、山崎攻事「今度ノ合戰、名ヲ揚ゲムズルモノト、カネテ有增ノ事ナレバ、其日ノ馬、物具、アタリヲカガヤカシテ、出立タレタリ」(節文)

あらまし・シキ・シケレ・シク・シク (形、二) [荒] 「あらくましノ中略ナルカ(出雲、いづも。少なき、すない。かしかまし、かしまし)」 荒キ狀ヲ云フ語。アラアラシ。 源、四十八、寄生九十「あらましき東男ノ、腰ニ物佩ベル、アマタ具シテ」同卷五十六「心凄ウ、あらましゲナル水ノ音」同、五十、浮舟六十二「風ノ音モ、イトあらましう」濱松中納言物語、一、下「あらましき浪ノ上ニ、騷ギハナレ」

あらまし (副) [大抵] [前前條ノ語ノ轉] オホヨソ。アラカタ。タイガイ。「家作モ、あらまし出來上ツタ」

あらましごと (名) [豫期事] 前條ヲ見ヨ。 源、四十六、總角六十七「タダ、ナカラム後ノあらましごとヲ、アケクレ思ヒツヅケタマフ」拾玉集、四「何トナク、あらましごとヲ、思ヒシヲ、ヤガテ眞ノ、道ニナリヌル」萬代集、十三、雜、五「如何ニセム、思ヒナグサム、方ゾナキ、あらましごとモ、限リコソアレ」

あらま・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) [豫期] [有らまし(將有)ヨリ變ジタル語カ] 豫テ思ヒハカル。カネテ思ヒマウク。 拾遺愚草、中「三笠山、麓バカリヲ、尋ネテモ、あらまし思フ、路ノ遙ケサ」辨内侍日記、上、寶治三年正月十五日「何トマレ、杖(粥杖)ニ書キツケテ、梅形(窓)ヨリ差出ダサバヤ、ナド、サマザマあらますホドニ、夜モ明方ニナリヌ、イカニモカナハズ」太平記、十一、金剛山寄手等誅せらるる事「如何ナル山ノ奧ニモ、身ヲ隱サバヤト、心ニあらまされテソ、居タリケル」徒然草、百八十八段「行末久シク、あらます事ドモ、心ニカケナカラ」

あらまつりのみや (名) [荒祭宮] 「荒御魂ヲ祭る」 伊勢ノ皇大神宮ニ屬セル別宮。大神宮ノ荒魂ヲ祭ル。 伊勢大神宮式「荒祭宮一座、大神荒魂」 皇太神宮儀式帳、荒祭宮「在大神宮以北、相去廿四丈、稱太神宮荒魂宮、御形鏡坐」續神皇正統記、寬德二年八月「此頃、神宮ヨリ、外宮寶殿鳴動シテ、荒祭宮ヨリ、鏑矢、乾ノ方ヘ出ヅル由、注進ス、不思議ナリケル事ドモナリ」(節文)

あらまほ・し・シキ・シケレ・シク・シク (形、二) [欲有] [あらまくほしノ中略、(あらくまし、あらまし。かくばかり、かばかり。行かまくほし、ゆかまほし。見まくほし、みまほし)有ラムコト欲シキ意、いはく(曰)ノ語原ヲ見ヨ] 然樣ニアリタシ。アリガホシ。サウアレカシ。 源、廿三、初音四「何事ニツケテモ、末遠キ御契リヲ、あらまほしく聞エカハシタマフ」盛衰記、九、宰相申預丹波少將事「偏ニ、後ノ世ノ苦ヲ免ルル方便ヲコソ、あらまほしく侍レ」

あらみ (名) [新刃] [こだう(古刀)ニ對ス、其條ヲ見ヨ] 新ニ鍛ヘタル刃。新刃。新刀。 傾城反魂香(寶永、近松作)上「試シテ見タイ新みハ無イカ」

あらみかげ (名) [荒御蔭] あらみさきのかみヲ見ヨ。

あらみがはのはらへ (名) [荒見河祓] [あらみハ、荒忌ノ約ト云フ、(大忌、おほみ。小忌、をみ)散齋ノ河祓ナリ、はらへ(祓)ノ條ヲ見ヨ] 大嘗會ニ奉仕スル職員ノ爲ニ、行フ河祓。陰曆九月晦日ナリ、京都ノ西北ナル、紙屋川ノ川邊ニテ行ヒキ。 神祇官年中行事、臨時、大嘗會、荒見河祓ニ中臣二人、卜部四人、神部二人、參勤」代始和抄、大嘗會事「荒見河のはらへトテ、紙屋河ニテ、上卿以下、參向シテ、祓ノ事アリ」大嘗會儀式具釋、二、荒見河祓次第「大嘗會ノ荒忌ハ、十一月朔ヨリナレドモ、行事ノ弁史ハ、先ヅ、是レマデノ汙穢ヲ除カムガ爲ニ、九月晦ニ、河祓ヲナスナリ、云云、京ノ西北ニ、紙屋川ト云フアリ、今ノ人、かい川ト呼ブ、此川ノ、高橋ト云フ許ニテ、祓ヲ行ハル」

あらみかみ (名) [現御神] 明津御神ニ同ジ。 孝德紀、大化元年七月「明神御宇日本天皇」

あらみさき (名) [荒御鋒] 神功皇后、征韓ノ時、御船ニ現レタマヒシ、住吉ノ大神ノ荒御魂。 神功攝政前紀、九月、皇后征韓「神(住吉大神)有誨曰、云云、荒魂爲先鋒而導師船」盛衰記、四十三、神功攻新羅事「皇后、異賊ヲ攻ムベキ旨、天照大神ヘ申サレ、謹ミテ祭ルコトナカレトテ、二人ノ荒みさきヲ差副ヘタマヘリ、云云、異國ヘ渡リタマヒシニ、二人ノ荒みさき、舳、艫ニ立テ守リ奉リシカバ、新羅、高麗ノ西戎ヲ平ゲテ、日本ニ歸ル」

あらみ-さき-の-かみ (名) [荒御裂神] 人ノ仲ヲ裂ク神ノ名ナリト云フ。(女神ナル[illegible]、[illegible]アラミカゲ[illegible]キ[illegible]、[illegible]六、[illegible]ガ、コンハ、[illegible]ノ云フメレ、ナソコシ[illegible]ソ、ノ[illegible]リツラム、[illegible]人ノ仲ヲ離クル神ヲバ、あらみさき、又、あらみかげト云フ、「荒神ナリ」狹衣、一、下三十「物ノ妨ゲノシタテマツルナメリ、あらみさきト云フモノ、放タヌ人ハ、カク[illegible]カルヘキ[illegible]ハ、[illegible]シウナムオボユル」[illegible]、[illegible]、手向ニシツル、祈リナムハ、あらみさきひめ、[illegible]モゾスル あらみさきひめトハ、男女ノ中ヲサマタグル神也、我ガ持チタル鏡ヲタテマツレバ、神ノ[illegible]ト云フ」[illegible]、あらみさきのかみ「男女ノ中ヲサクル神也ト云ヘリ、伊勢ガ歌ニ、あらみさき[illegible]ト見エタリ、[illegible]ニ、[illegible]ト書ケリ、天一神ナルベシ」

あらみ-さき-ひめ (名) [荒御裂姫] 前條ヲ見ヨ。

あらみたま (名) [荒御魂] 〔みたまトハ、神靈ノ義、其條ヲ見ヨ〕神ノ御靈ノ德用ニ就キテ云フ語。御靈ノ、時トシテ、荒ビテ外ニ現レ、强暴ナルモノヲ打伏セムトシタマフガ、卽チ、荒御魂ナリ。御靈ガ、内ニ和ビテ鎭リマシテアルヲ、和御魂ト云フ。又、和御魂ノ德用ニ、二樣アリ、人ノ身ヲ守リテ幸クアラシメタマフヲ、幸御魂、又、幸魂ト云ヒ、奇シキ德用ヲ以テ、事業ヲ成サシメタマフヲ、奇御魂ト云フ。 神功攝政前紀、九月、皇后[illegible]、[illegible]、而[illegible]、[illegible]「和魂[illegible]、[illegible]」(魂ハ、招グナリ、正字通「魂、手指麾也」) 神代紀、上「[illegible]神光照[illegible]、忽然有[illegible]浮[illegible]、云云、大己貴神問曰、[illegible]、對曰、吾是汝之幸魂奇魂也」同巻[illegible]

[illegible]雷魂也」奇魂、此云二倶斯美拕摩二」大己貴神ノ荒御魂ハ、[illegible]、[illegible]ノ[illegible]ニ[illegible]、[illegible]、[illegible]ノ大[illegible]ニ[illegible]フル。 [illegible]ノ[illegible]宮ナレ荒[illegible]宮ハ、[illegible]ノ[illegible]ヲ記ルモノナリ。 [illegible]、さきたま[illegible]、[illegible]行ク舟ノ、さきたま祭ル、[illegible]ナレバ、疾風西南風モ、涼シトゾ思フ」

あらみち (名) [荒道] 〔荒磯ノ溫泉ヲ、あら湯ト云フ〕 荒山ノ路。 夫木抄、廿一、西行「岩國ノ、山ノあら道、手向ケシテ、越ユル今日シモ、空ゾ時雨ルル」(あらし(荒凉)ノ條ノ萬葉集ノ歌ヲ見ヨ)

あら-む (句) [將有] 〔動詞ノ有らト、助動詞ノ推量ノ意ノむト、熟シテ句トナリタルナリ〕 口語ノ、であらうノ文語。 源三十三、藤裏葉 四十「何ノクルシキコトカあらむ」 著聞集、五、和歌「天井ノウヘニ、アクビシテヤあらむト覺ユル聲ニテ、アラアハレトイヒテケリ」

あらむ-ざ (名) [荒武者] (一)荒荒シキ武者。我武者。 猛士 宇治拾遺、十、第六條「力强ク、心猛ク、ムクツケキあらむざやノ、オノヅカラ出デ來テ」(二)振舞ノ、テアラキコト。ガムシャラ。粗暴 「アノ男ノ子ハ、あらむざ[illegible]ダ」

あらむしろ (名) [粗筵] 編目ノ粗キ筵。 七十一番歌合(文安)八番、筵うち「打絕エテ、絲目マバラノ、荒筵、寢ノ寐ラルベキ、月ノ影カハ」

アランニャ (名) [阿蘭若] 〔梵語、Aranya. (森林ノ義)寂靜處ト意譯ス、蘭若ト云フハ、上略ナリ〕阿彌陀、彌陀、阿修羅、修羅)〕寺院ノ異稱。又、蘭若。 大藏法數「梵語、[illegible]、此云[illegible]、[illegible]比丘當[illegible]住[illegible]空寂[illegible]」 杜甫詩「[illegible]高處、[illegible]」

あら-め (名) [荒布] 〔和布ニ對シテ、[illegible]ノ粗きヲ云フ、め、海藻、昆布ノ條ヲ見ヨ〕 海藻ノ名。海底ノ石ニ着キテ生[illegible]、黄、[illegible]長クシテ、一根ヨリ數十[illegible]、[illegible]アリ、食フベシ、[illegible]、[illegible]料トシ、又ハ、肥料トス。 [illegible] 十七「滑海藻、俗用二荒布ニ阿良女」大膳職式「荒布」[illegible]「芋モ、あらめモ、[illegible]モナシ、カウヤウノ物、無キ國ナリ」(國ハ、所ノ意、土佐國、大湊、停泊ノ船中ニテナリ)

あらめ-いも (名) [異母妹] 〔出典ノ倭訓栞ヲ見ヨ〕 異母ノ妹。異母ノ兄ヲ、あらめいろねト云フ。 古事記、中(景行)八十「大江王娶庶妹銀王」(訓[illegible]) 倭訓栞、あらめいも、日本紀ニ、異母妹ヲ[illegible]メリ、古事記ニ、[illegible]トモ[illegible]、あらめハ、[illegible]ノ義、古ヘ[illegible]妹ヲ娶リシ事、無ナシ、又、忌マザリシハ、紀ニ見エタリ」同、あらめいろね「古事記ニ、庶兄ヲ訓ゼリ」

あらめ-いろね (名) [庶兄] 前條ヲ見ヨ。

あら-もと (名) [糲] 〔糠本ノ義、あらぬかノ條ヲ見ヨ〕 舂キ精グル時、碎ケタル米。さめさき。卽チ、粉米ノ古言ナリ 倭名抄、十七「糲、米麥[illegible]也、古米佐木、[illegible]」「倭名鈔ニ、糲、云云、さめさき、米製也、[illegible]ケ[illegible]ケシヲ云フ也、卽今、俗ニ、粉米ト云フモノ、[illegible]也」

あら-もの (名) [荒者] 荒荒シキ者。勇猛ナル人。 [illegible]、[illegible]ハ、醍醐ニ登リ、出家シテ、禪師公全濟トゾ申シケル、希代ノ荒者ニテ、[illegible]ト云ヒケリ、中、乙若ハ、云云ニ(惡ノ條ヲ見ヨ)

あら-もの (名) [新物] 新ニ作リテ、未ダ用キザルモノ。 語彙、あらもの「新ニ作リタル器物ヲ云フ」

あら-もの (名) [荒物] 〔新物ニテ、煮タル、ニ對シテ、生鳥、鮮魚ノ意ナルベシ、新ノ條ヲ見ヨ〕 室町時代ノ進物ノ名。魚鳥[illegible]、[illegible]ノ[illegible]。[illegible]物「進物ニ、荒物ト云フ事アリ、[illegible]式[illegible]ト云フ時ハ、[illegible]シテ折ニ入レテ遣ハスナリ、然ルニ、魚鳥ヲ[illegible]、[illegible]、[illegible]トスル[illegible]」

あら-もの (名) [荒物] 〔粗き物、粗雜ナルモノ〕 [illegible]、[illegible]、竹器、[illegible]ナドノ商品。 此品品ヲ賣ル店ヲ、荒物屋ト云ヒ、[illegible]ヲ[illegible]ル商家ヲ、荒物問屋ト云フ。 [illegible]

あら-やま (名) [荒山] 〔荒ノ條ヲ見ヨ〕 人氣ナキ山。 萬葉集、一二挽歌「コモリクノ、泊瀨ノ山ハ、眞木立ツ、荒山道ヲ」同、九 二十「アシビキノ、荒山中ニ、[illegible]」同、十三、長歌「荒山モ、人シ依スレバ、依ルトゾ云フ」

あら-ゆ (名) [荒湯] 〔荒ハ、荒磯ナリ、荒磯ノ床ヲ、荒床ト云フ〕 荒磯ニ沸キ出ヅル溫泉。 [illegible]「[illegible]、[illegible]ノあらゆハ、我レナレヤ、身ヲ海ニノミ、思ヒ入ルラム」(海ヲ、憂みニカケタリ)

あら-ゆ (名) [新湯] 〔新ノ條ヲ見ヨ〕 湯ノ、新ニ沸カシタルモノ、サラユ。新湯。

あら-ゆみ (名) [荒弓] 荒木弓ヲ見ヨ。

あら-ゆる [illegible] 〔所有〕 〔あゆる(有)ノ古語)ノ連體形、所謂ルト同形ナリ、彼ノ條ヲ見ヨ〕 アリトアル。アルカギリノ。 [illegible] 古事記、上「[illegible]」 有現シキ靑人草」「アリトあらゆる物ヲ取出シテ」[illegible]

あら-よ [illegible] [荒節] よなり(節折)ヲ見ヨ。

あらら-かみ [illegible] 〔あららハ、荒荒ノ約、(あらら松原ノ語原ヲ見ヨ)かみハ、

副詞ヲ形作ル接尾語（定かに、靜かに）、荒荒シキ狀ニ。甚ダ荒ク。源、廿二、玉葛十「ウトマシク、あららかなるフルマヒ見ユルモ、ユユシクオボユ」同、四十三、竹川九十「風あららかに吹キタルタツ方」

あららぎ（名）〔蘭〕〔疎疎葱ノ義、（あらら松原ノ語原ヲ見ヨ）蒜ノ野生ナルハ、稀疏ナリ、葷菜ナレバ、葱ト云フ、蘭ノ字ヲ用キルハ、蘭蒿草ノ略、ふぢばかまニアラズ〕（一）野蒜ノ古名。允恭記、二年二月「初皇后、隨母在家、獨遊苑中、闘鶏國造從籬謂皇后曰、能作園乎、壓乞戶母、其蘭一莖」（節文）本草和名、下四十「蘭蒿草、阿良良木」倭名抄、十六九「葷菜類 蘭蒿、阿良良岐」箋注、四六十八「蒜之生於山者、今俗呼野蒜者是也、云云、是物自生稀疏、不得、如園種蒜葱之稠密、故云阿良良」字鏡五十六一「蒜、阿良良支」同六十一「蒜、家阿良良支」大膳職式「蘭十把」（二）水松ノ異名。

あららぎ（名）〔塔〕「倭訓栞、あららぎ「齋宮ノ忌詞ニ、塔ヲ云フハ、阿蘭若ノ意ト云ヘド、葱臺ノ貌、九輪ノアタリニ似タルヲ以テ、俗ニ塔のたつト云フ意ニテ、蘭葱ヨリ出デタル詞ナルベシ」（前條ノ語原ヲ見ヨ）」たふ（塔）ノ異名。齋宮ノ忌詞ナリ。齋宮寮式、忌詞「塔稱阿良良岐」

あららぎまひ（名）〔阿良良岐舞〕〔あららぎハ、蘭ノ臺ノ如キ意カ、又ハ、塔ノ如キカ〕舞樂ノ曲ニ、庶人三臺ト云フアリテ、女姿ノ舞アリ、卽チ、あららぎ舞ナリ、初ハ、人ノ丈ホドナルガ、漸次高クナリテ、二丈ニ及ビ、入ル時ハ低クナル、相撲ノ節ニ行ハルルモノナリ。倭名抄、四廿二曲調類、道調曲「庶人三臺」樂家錄、廿八、ケ倉ニ「庶人三臺、會仁並佐幸太以、臺字濁」教訓抄（天福）六、大食調、庶人三臺「武樂、相撲節ニ、あららぎト云フ事ノアリケルニ、近來ハ、舞絕エテ、早物也、云云、古記云、舞出、自樂屋時、其長甚短、漸進至上時、其長高長、承明門見、舞了入時、如本漸滅」吉野樂書「庶人三臺ニハ、あららぎト云フ舞アリケリ、女房ノ姿ニテ、紅ノ袴ニ、薄衣ヲ着、市女笠ヲ着テ舞フ、從女一人アリ、黃ナル袙ヲ着タリ」續古事談、五、諸道「一條院ノ御時、相撲ノ拔手ノ日、あららぎまひト云フ舞、御覽ジケリ、コレハ藥師寺ノ風俗トゾ、女姿ニテ、始ハ、人ノ丈ホドニテ、ヤウヤウ高クナリテ、二丈ニ及ビケリ、從女アリケリ、其後、帝程ナク、崩レオハシマシケレバ、ヤガテ此舞ナシ」倭訓栞、あららぎ「舞ニ、あららぎト云フハ、倭名抄、道調曲ニ、庶人三臺ト云フ、是レ也ト云ヘリ、醉鄕日月ニ、三臺曲ハ、唐ノ則天作ル、ト見エタリ」（唐ヨリ傳ヘタル舞ナルベシ、則天武后ノ作リサウナル舞ナリ）

あらら・ぐ・グル・グレ・ゲ・ゲ・ゲヨ（他動、下二）〔荒〕「あららかにノ語根ヲ活用セシム（苛ぐ、ろ、平ぐる）」アラクス。アララカニス。「聲あららげテ叱ル」

アララ-せんにん（名）〔阿羅羅仙人〕〔あららハ、梵語、阿羅羅迦邏摩（Alara-kalama.）ノ略〕釋迦ノ出家セシ後、暫時、師事セシ老哲學者ノ名。翻譯名義集ニ見ユ

あらら-まつばら（名）〔稀疏松原〕〔あららハ、疏疏ノ約、（散散、はらら。遲遲、うらら）字鏡十六「粗、麁、阿良良」あらら葱（蘭）モアリ、荒かにト云フあららモ、荒ノ約ナルコト、同趣ナリ、あられ松原ト云フハ、音通ナリ、（荒ぶ、あれぶ。さざら波、さざれ波）此松原ハ、攝津、和泉ノ境ニアリテ、地名ノヤウニモナリタレド、語原ハ、同ジト思フ〕稀疏ナル松林。又、あられ松原。神功紀、元年三月、「彼方ノ、阿邏邏摩菟麼邏ニ」（彼方ハ、山城國、宇治ノ地名）萬葉集、一廿「霰打ツ、（序）安良禮松原、住吉ノ、弟日少女ト、見レド飽カヌカモ（松原ト弟日娘トヲ見ルナリ）」遺保百首（藤原定家）「小夜深ケテ、あられ松原、住吉ノ、浦吹ク風ニ、千鳥鳴クナリ」道遙院殿高野詣行（永正、三條西實隆）「住吉ノ社、津守ノ浦、泉ノ境ヲ越ユトテ、あられ松原ト云フ所ヲ過グトテ「木枯ノ、吹キシヲル色ト、見ルバカリ、名ニアラハルル、あられ松原」（節文）

あられ（名）〔霰〕「散くノ語根ヲ重ネテ、あらあら、あららノ約轉ナルベシ、前條ノ語原ヲ見ヨ、（生、新。何れ、いづら）東雅（享保）一、天文、雨ノ條「あられトハ、散ナリ、迸リ散ルノ義ナルベシ、日本紀ニ、散ノ字、讀ミテ、あらけト云フガ如キ、是レナリ」倭訓栞、あられ「霰ヲ訓メリ、雹ハ、和俗ノ造字ナリ、萬葉集ニ、丸雪ヲ義訓セリ」」（一）空中ノ水蒸氣ガ、氷點以下ノ溫度ニ會ヒ、液化シタルガ、俄ニ凝固シ、圓粒トナリテ降ルモノ。白色ニシテ、不透明ナリ、大小均シカラズ、冬時ニ限ルモノナリ。古事記、下（允恭）二長歌、笹葉ニ、打ツヤ阿良禮ノ」萬葉集、十二六十「霰降リ、板敢風吹キ、寒キ夜ヤ、旗野ニ今夜、吾ガ獨リ寐ム」（六帖、一二、此歌ヲ載セテ「あられふり板間」トアリ）同、七廿八「丸雪」金槐集（源實朝）冬、霰「武夫ノ、矢並ツクロフ、射韝ノ上ニ、霰タバシル、那須ノ篠原」（二）上世ニハ、夏月ニ降リテ、後世、氷雨（雹）ト云フモノヲモ、あられト云ヒキ。同樣ノモノナレバナリ。推古紀、三十六年四月「雹零、大如桃子」天武紀、下、八年六月「氷零、大如桃子」天治字鏡、一七十「雹、雨氷也（氷ノ誤）阿良禮」（倭名抄、同ジ）

あられ（名）〔霰〕〔前條ノ語ヨリ移ル、雨霰ニハ、少シ稜アルガ如シ〕（一）鑿目ノ如キ、小方形ナルモノ、又、散散ナルモノ、又、細カキモノヲ云フ。（二）霰地ヲ見ヨ。（三）霰餠ヲ見ヨ、（四）みぢんこニ砂糖ヲ和ゼテ、揑テ方形ニ切リタルモノ。（語彙）（五）砂糖ヲ、鑿目ニ固メ製セルモノ。（語彙）（六）あられ蕎麥ヲ見ヨ。（七）細カキ糒ヲ炒リ焦シテ、湯ニ點ジテ飲ムモノ。（語彙）

あられ（名）〔蹈歌〕あらればしり（阿良禮走）ヲ見ヨ。

あられ-いし（名）〔霰石〕〔霰形ヲ成ス〕はうげせき（方解石）ノ一名。俚言集覽、あられいし「美濃ニテ、方解石ヲ云フ」

あられ-うぢ（名）〔荒療治〕漢方外科醫ノ手荒キ手術ヲ稱シタル語。

あられ-がひ（名）〔霰貝〕〔霰釜ニ似タリ〕螺ノ類。俚言集覽、あられがひ「螺類、外面ニ、小サキ疣、竝ビツキテ、形、あられがまニ似タルモノ」

あられ-がま（名）〔霰釜〕鐵釜ノ外面ニ、霰ノ如キモノヲ、密ニ高ク竝ベテ鑄出シタルモノ。佛頭ノ、螺髮ノ如シ。雅筵醉狂集（享保、正親町公通）「霰釜茶當酒」語彙、茶具備討集、釜部、霰」

あられ-かん（名）〔霰羹〕羊羹ノ一種。寒天ニ砂糖ヲ加ヘテ、水ニテ煮テ、毛篩ニテ漉シ、煠デタル薯蕷ヲ霰形ニ切リテ、交ゼタルモノ。

あられ-がゆ（名）〔霰粥〕〔肉ヲ霰ト見ル〕粥ヲ煮立テタルニ、鯛ノ肉ヲ刻ミタルヲ入レテ搔キマゼ、煮熟シタルモノ。煮出汁ト、醬油トニテ加減シタル、清汁ヲ注ケテ食フ。

あられ-さんさん（句）〔霰來來〕ゆきさんさんノ條ヲ見ヨ。

あられこもん (名) [霰小紋] 染模樣ノ名。[illegible]、あられこもん[illegible]、[illegible]ナク、[illegible]ノ如キ小粒ノ点ヲ[illegible]ヲ云フ。

あられざけ (名) [霰酒] 〔糯米ノ粕ヲ、霰ト見ル〕奈良ノ産ナル釀造物。其製法、組、味醂ニ同ジクシテ、味モ相似タリ、糯米ノ粕、溶化セズシテ交ル。[illegible]六子集(寛永六、冬)「[illegible]ヨリモ、[illegible]ニナシタキ、[illegible]カナ」[illegible]國土記(元祿)廿七、[illegible]酒「此酒、本ハ南都ニテ釀セリ、[illegible]、[illegible]ニテ甘釀ノ釀シ出セリ、粕交リテ[illegible]ニ似タリ、味、[illegible]ナリ」(寬文)[illegible]守貞長(大和國[illegible])時[illegible]上、十二月、[illegible]南都[illegible]酒、[illegible]

あられしやうが (名) [霰生姜] 古撰生姜ノ皮ヲ剝ギ、一分角ホドニ刻ミ、浸物、膾ナドノ上ニ撒キテ、香料トスルモノ。

あられそば (名) [霰蕎麥] 〔はしらヲ、霰ト見ル〕 かけそばノ上ニ、ばかがひノはしらヲ煮テ、散布シタルモノ。あられトノミモ云フ。

あられぢ (名) [霰地] 〔いしだたみ(市松模樣)ノ形ヲ霰ト見ル、地ハ、織地ノ地ナリ〕 絹布ノ織紋ニ、いしだたみヲ織出シタルモノ。あられトノミモ云フ。表袴ニ用キルハ、三位以上ノ公卿ニ限ラル。[illegible]、廿九、[illegible]袴、云云、あられぢノ[illegible]小[illegible]ト、佳キ衣箱ニ入レテ[illegible]あられ地ハ、くはんノあられノ文ナリ」(くはんハ、窠ナリ) 久安百首「衣手ソ、サエワタリケレ、あられぢハ、[illegible]ノ[illegible]ニ、[illegible]バナリケリ」中務内侍日記(弘安)「あられぢノ表御[illegible]ニ、[illegible]ヲ[illegible]」[illegible](正[illegible]、[illegible]作君ガ、[illegible])[illegible]石[illegible]ノ中ニ、窠ノ[illegible]リ申シ[illegible]物ニ[illegible]、[illegible]文ノあられ「織物ノ文ニ云フハ、三條裝束抄ニ、小石疊[illegible]也ト見ユ」

あらればしり (名) [阿良禮走] 〔あられトハ、ありノ未然形ノあらニ、敬語ノ助動詞ノツキタル、あらるノ命令形ニテ、あられよノ意ナリ、古格ニテハ、助動詞ニテモ、命令形ニよヲ添ヘズ、萬葉集、五[illegible]天道思良之米ニ(令ノ知)千萬年御在世あらせられよト云フナリ、まじりト云フハ、普通ナリ、(小林、鳥羽野始。(皇極紀三年六月)荊、うまら)〕 (一)たうか(踏歌)ノ異稱。此歌辭ノ終リニ、萬年阿良禮ト云フ詞ヲ、繰返シ歌ヒツツ、足早ニ走リテ退クガ故ニ、此稱アルナリ。又、あられまじり。持統紀、七年正月丙午(十六日)「是日、漢人奏踏歌」[illegible]二(慶長板本ノ傍訓ニ「アラレ」トノミアルハ、闕損シタルナリ) 釋紀、十五、踏歌「私記曰、今俗曰阿良禮走、師說、此歌曲之終、必重稱萬年阿良禮(今改曰萬歲樂是古語之遺也)」續紀、十、天平二年正月、[illegible]歌 且奏、且行、引入宮裏、以賜酒食」 公事根源、正月 踏歌節會ヲバ、あればしりの豐[illegible]トモ申スニヤ、或ハ、あられまじりト、宣命ノ譜ニハ訓メリ」(二)步法ノ練步ニ、早練、霰步ト云フアリ、足早ニ走ルコトト思ハル、踏歌ヨリ移レル語ナルベシ、練步ノ條ヲ見ヨ。

あらればしり (名) [霰走] 連歌ニテ、笹ノ葉ナド云フニ、附ケ合スル詞。俚言集覽、あらればしり「授童集、[illegible]ジテ、[illegible]原、笹原、笹の葉、笹の屋、板屋ナド付クルハ、霰ノ走ルナリ」古事記、中(允恭)二長歌「笹葉ニ、打ツヤ阿良禮ノ」 萬葉集、二十[illegible]ノ[illegible]ニ、安良禮多婆之里」

あらればひ (名) [霰灰] 茶道ニテ用キル、霰粒ノ狀ヲナセル灰。精粗ノ篩ニカケテ製ス、爐ニテ炭手前ヲスル前ニ、灰器ニ盛リテ、灰匙ニテ、常ノ灰ノ上ニ撒キテ淨ムルモノ。

あられふり (枕) [霰零] 〔霰ノ降ル音ノ〕 きしまニカカリ、音トツヅキテ、普通ニテ、ソノとヲ、遠ニカク」鹿島、杵島ガ岳、又、遠ノ枕詞。[illegible]七[illegible]「霰零、鹿島ノ崎」(常陸ノ地名) 同、二十[illegible]「阿良例布理、鹿島ノ神」肥前風土記、杵島郡「阿良禮[illegible]、[illegible]ガ岳」[illegible]岳」(肥前) 同、七[illegible]「丸雪降、遠江ノ」 同、十一[illegible]「霰[illegible]、遠津大浦ニ、[illegible]」

あられまじり (名) [阿良禮走] あらればしりノ條ノ(一)ヲ見ヨ。

あられまつばら (名) [稀疏松原] あらまつばらヲ見ヨ。

あられもち (名) [霰餅] 餅ヲ、[illegible]目ニ刻ミテ、干シタルモノ。[illegible]リテ食フ。常ニ略シテ、あられトノミ云フ。 櫻井、佐ノ句(文明中、京都ノ連歌師)「老松ノ、葉ニハ吹カムヤ、霰餅」(大日本[illegible]辭典) [illegible]、あられ[illegible]ニ云フハ、梓弓也ト云ヘリ、二言集ニ「拂ヒツム、赤ノ折敷ノ、[illegible]ナクバ、何ニあられノ、[illegible]マシ」俚言集覽、あられ「餅ヲ細カニ切リタルヲ云フ、山居錄、[illegible]霰、煎ニ切[illegible]乾[illegible]、[illegible]加[illegible]、故名[illegible]」

あられもない (形) 〔有ルモ無イノ義〕 有ルベクモナシ、有リ得マジ、[illegible]、あらぬ、俗ニ、あらぬ事ナ、あられぬ事ト云ヒ、又[illegible]ジテ、あられなき事トモ云フ」あられもない、なノ[illegible]

あらを (名) [荒男] あらしをヲ見ヨ。

あらをだ (名) [新小田] 〔小田ト云ヒテ、田ノコトナリ、をだノ條ヲ見ヨ〕 新墾ノ田。古今集、十五、[illegible]、あらをだヲ、アラ[illegible]キカヘシ、(序)カヘシテモ、人ノ心ヲ、見テコソヤマメ」(思ヒヤマメ) 貫之集「春ニノミ、年ハアラナム、荒小田ヲ、(序)カヘスガヘスモ、花ハ見ルベク」

あり (名) [在] アルコト。現在スルコト。

あり (名) [illegible] [illegible]、[illegible]キ夜スラヲ」「ありノマガヒ」ありノスサビ」ありノママ」(各條ヲ見ヨ)

あり (名) [蟻] 「穴入ノ約ト云フ說アリ、ムツカシ」 昆蟲ノ名、六足、[illegible]ヲ有シ、體、小ナルハ一二分、大ナルハ七八分、黑キアリ、赤キアリ、[illegible]、[illegible]ノ間、[illegible]ク括レテ、[illegible]ノ如シ、頭上ニ[illegible]アリ、大[illegible]ナシテ、朽木、又ハ、土中ニ巢ヲ作リテ棲ム、群中ニ、雌ハ一疋ニシテ、女王ト稱シ、雄ハ數疋アリ、其外ハ、職蟻ト稱シテ、[illegible]ナク、專ラ、營巢、求食、育兒、戰鬪等ノ事ニ當ル。[illegible]安[illegible]、[illegible]比[illegible]、[illegible]ノ字ニ、[illegible]モアリ、[illegible]ノ[illegible]アルヲ、[illegible]セシナリ[illegible]「火蟻、蚍蜉一名、馬蟻、於保阿利」桑記、蟻子」[illegible]「蟻、蚍蜉也」トシテ、委シク辨ジテアリ。

あり (名) [在] 〔蟻ノ義、蟻ノ[illegible]ノ括レタル形ヲ以テ名ヅク、(腰細ノ蜾蠃)其使用ニ因リテ、合入ノ約ト云フハ、イカガ〕 (一)輪鼓、又ハ、𦝫ノ形ヲナシタルモノ。〔工〕ノ形ナリ。裁縫ニ云ヒ、木工ノ仕組ニ云フ。[illegible]、[illegible]安[illegible]五、上、[illegible]八[illegible]、[illegible]中、[illegible]レテ、[illegible]ノ[illegible]あるニ、ありト云フ、云云、[illegible]アルモノヲ、ありト云フベクバ、[illegible]子等ヲモ、ありト云フベシ、云云、[illegible]二、りうごノ[illegible]得タル[illegible]ニ、ありト云ハズ」(二)袍、直衣ノ襴ノ左右ニアル、耳ノ如キモノ。其端ヲ、ありさきトモ云フ。深窓秘抄、御直衣「御襴ノ高サ、七寸五分、御蟻、六寸五分、御蟻先、五寸五分」 連阿口傳抄「襴ノ左右ニ、耳ノ樣ナル物ヲバ、ありト云フ」(古事類苑、ありさき) 武家裝束抄、二、袍「襴ノ左右ニ出テタルヲ、ありさきト云フ」 (三)木工、又ハ、指物師ノ語ニ、木ニテ[illegible]ノ作レルモノ、ヲレ、中[illegible]シタル形ノ穴ヲ、兩材ノ各端

ニ刻リ、其穴ニありヲ塡メテ、密着セシメ離レシメズ。此中斷シタル形ノ柄ヲ、ありほぞト云フ、其條ヲ見ヨ。禮記、檀弓、椁ノ衽、疏云、小要也、其形、兩頭廣、中央小、旣二兩頭合際處一、作二坎形一、則以二小要一連レ之」(節文、要ハ、腰ナリ、腰ノ括レタルナリ) 合類節用(元祿)七、器財、衽、要二合木一者、兩端大、而中小」 爾雅(享保)九、器用、九、栓ノ條「ちぎりト云ヒ、ありト云フモノアリ、禮記ノ檀弓ニ衽ト云フモノニテ、兩端、大ニシテ、中、小シキナルナリ、ありトハ、蟻也」(節文) 倭訓栞、ありざし「工人ノ、ありヲサスト云フハ、蟻ノ形ナルベシ、龍鼓ノ形モ亦同ジ」

あ・り・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、良變) 有在 〔此語、後世ハ、常ノ四段活用ニテ、あるトナル、其條ヲ見ヨ、在ノ字ノ意ナル時ハ、辭ノにニ應ズ、故ニ、在ノ字ヲ、にありト呼ブ、家有レ人、人在レ家ニ〕(一)ソノママナリ。(無シノ反) 居ル。存在ス。現在ス。 古今集、二、春、下「殘リナク、散ルゾメデタキ、櫻花、ありテ世ノ中、果ノ憂ケレバ」 源、四、夕顏「コノある人人モ、カカル御志ノ、オロカナラヌヲ見タレバ」 同、十四、澪標「ヲサヲサ知ラヌ人モ、家ニ額ニフレテ、迎ヘ取リテあらスレド」「主人ハ、家ニあり、彼ニハ父あり」 (二)世ニ生キテ居ル。生キナガラフ。存生ス。(死シタルヲ、無シト云フ) 生存 萬葉集、十一「カクバカリ、戀ヒツツ有らズハ、高山ノ、磐根シ枕キテ、死ナマシモノヲ」「在りツツモ、君ヲバ待タム、打チナビク、吾ガ黑髮ニ、霜ノオクマデニ」(後ノ歌ハ、思ヒカヘシテ云ヘルナリ、前ノ歌ニテ、後ノありハ、生存ノ意ナリト解ス) 古今集、九、羇旅、京ノ人、角田川ニテ、都鳥ニ「名ニシ負ハバ、イサ言問ハム、都鳥、我ガ思フ人ハ、ありヤなしヤト」同、十八、雜、下「あり果テヌ、命待ツ間ノ、程バカリ、憂キコト繁ク、思ハズモガナ」 寶物集、三、小大君「あるハ無ク、無キハ數添フ、世ノ中ニ、アハレ何時マデ、あらムトスラム」 新續古今集、十六、哀傷、尼、西蓮「別レテハ、生存フベクモ、ナカリシニ、あればあらるる、憂身ナリケリ」

あり (感) 安林 蹴鞠ニ云フ語。ありおゑヲ見ヨ。

あり-あけ (名) 有明 〔ありあけのつきヲ見ヨ〕(一)〔有明の月アル頃ノ〕曉。殘月天　晨明 名義抄「晨明、アリアケ」古今集、十三、戀、三「有明ノ、ツレナク見エシ、別レヨリ、曉バカリ、憂キモノハナシ」源、二、帚木四十「月ハ、ありあけニテ、光收マレルモノカラ、影清カニ見エテ、ナカナカヲカシキ曙ナリ」 金葉集、三、秋「思フコト、有明方ノ、月影ニ、アハレヲ添フル、小牡鹿ノ聲」 玉葉集、八、旅「月影ヲ、袖ニカケテモ、見ツルカナ、須磨ノ浮寢ノ、ありあけノ波」(二)轉ジテ、夜通シテ、夜明ニ至ルコト。ヨモスガラ。ありあけのひノ條ノ(一)ヲ見ヨ。終夜 (三)錢。十五文ノ異稱。 類聚名物考、調度、十五、錢ヲ數フル異稱、楊弓ノ賭錢ニ十五錢、有明ニ十六夜以後コソ、有明ナルニ、十五日ヲ云ヘルハ、當ラネドモ、古習ハセシナルベシ)

ありあけ-アンドン (名) 有明行燈 ありあけのひノ條ノ(二)ヲ見ヨ。

ありあけ-づくよ (名) 有明月夜 次條ヲ見ヨ。

ありあけ-の-つき (名) 有明月 〔倭訓栞、ありあけ「有明ノ義、十六夜以下ハ、夜ハ、已ニ明クルニ、月ハ、ナホ入ラデアル故ニ云フナリ」萬葉集ニ、月夜トアルハ、唯、月ノ事ナリ、其條ヲ見ヨ〕夜ハ、既ニ明ケナガラ、ナホ天ニ殘リテ照リ居ル月。大方ハ、陰暦十六七日過ノ月ヲ云フ。ありあけ月夜。朝月夜。アカツキヅクヨ。殘月 萬葉集、十、四十「白露ヲ、玉ニナシタル、長月ノ、有明之月夜、見レド飽カヌカモ」同、十一、廿「此夜ノ、在開月夜、(序)アリツツモ、君ヲオキテハ、待ツ人モナシ」 枕草子、十二、百五十六段「九月バカリニ行キテ、有明の月ノ、イミジウ照リテオモシロキナゴリニ」 千載集、三、夏「ホトトギス、鳴キツル方ヲ、ナガムレバ、タダありあけの、月ゾ殘レル」 八雲御抄、三、上、天象「ありあけの月ヘ、十五日以後ヲ云フ由、在二匡房往生傳一」

ありあけ-の-ひ (名) 長夜燈 〔ありあけの月ノ光リヲ、燈火ニ移シテ云フナリ〕(一)燈火ノ、終夜、點シ置クモノ。ありあけトノミモ云フ。 曾根崎心中(元祿、近松作)觀音廻、有明の燈モ消エタ」 狂言記、子盜人「此緣ノ戶ヲアクレバ、座敷ヂャ、サラバ、戶ヲアケウ、サラサラサラサラ、ハア、コレハ、ありあけガアル、宵ニ客ガアッタト見エタ」(二)後世ハ、方形ノ箱ノ側面ニ、穴ヲアケ、內ニ油皿ヲ置キテ、點火スルモノヲ作リ出デタリ。コレヲ有明あんどんト云フ、寢床ニ臥シナガラ、書見スルナドニ用キタリ、就眠スル時ハ、燈心ノ數ヲ減ラシ、油ヲ注ギ添ヘテオク。 雅遊漫錄(大枝流芳)二、書燈「板ヲ以テ、上、狹ク、下廣ク、三方、圓竅アリ、前ニ開戶アリ、上ニ煙拔ノ竅アリ、有明行燈ト云フモノ、是レナリ」(古事類苑)

ありあけ-ぶくろ (名) 有明袋 〔ありあけノ條ヲ見ヨ、曉每ニ持出ヅル故ニ名アリト云フ〕旅ニ行ク人ノ、杖ナドニツケテ攜フル袋。表ハ貲布、裏ハ紅ニテ、燧鎌、艾、かちぐり、おまめナド入ルトゾ。(海錄、十二)

あり-あは・す・スル・スレ・セ・セ・セヨ (自動、下二) 有合 〔ありあふ場合ニアリ〕 持チアハス。其場ニアリ。現在 「ありあはせタル酒肴ニテ、モテナス」

ありあひ (名) 有合 アリアフコト。アリアヒタルモノ。現在「ありあひノ品デ、間ニアハセル」

ありあ・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (自動、四) 有合 〔下二段活用ニテモ同意義ナルハ、ありたがふ、ありたがふるナドト同例アリ〕 正ニ、其場ニアリ。アリアハス。現在 土佐日記、二月九日「到レリシ國ニテゾ、子生メル者共、ありあへる、皆人、船ノ止ル所ニ、子ヲ抱キツツ降リ登ス」 山家集、下「言ノ葉ノ、ナサケ絕エヌル、ヲリフシニ、ありあふ身コソ、悲シカリケレ」此動詞、下二段ニモ活用ス 千五百番歌合(建仁)二、八十五番「梅ノ花、懷フ人ノ、袖每ニ、ありあへタルハ、匂ヒナリケリ」

あり-あま・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 有餘 入用ニ餘ル。溢ル。剩 「小人數ニ、酒肴ガありあまる」

ありあり (感) 蹴鞠ニ云フ語。ありおゑノ條ヲ見ヨ。

あり-ありて (副) 在在 〔ありのままノありヲ重ネテ、意ヲ強ム、又、生存ノ意モアリ、あり(有)ノ條ノ(二)ヲ見ヨ〕 久シク世ニアリ經テ。ナガラヘテ。 萬葉集、十二「在有而、後モ逢ハムト、云フノミヲ、形見ニシツツ、逢フトハナシニ」 源、三十八、夕霧四十「ありありて末ニ、恥ガマシキコトヤアラム」 大和物語、中「イト徒ニ物シタマフト聞キシ人ヲ、ありありて、カク逢ヒタテマツリ」

ありあり-と (副) 歷歷 〔在りヲ重ネテ、強ク云フ、在リツツアルガ、鮮明ニ目ニ映ル」〕アキラカニ。ハキト。分明ニ。 宇治拾遺、九、第一條「我ガ身ヲハジメテ、郞等共、皆、あり、あり、ト云ヒケリ(是レハ、魔術ニテ、主從共、陰莖ヲ取ラレタルヲ、思ヒノ外ニ、元ノ如クありト云ヒシナリ、サレド、是レ等ヤ、此語ノ語原ナルベキ)「ありありと目ニ見タリ」ありありと見屆ケタリ」

あり・う・ウル・ウレ・エ・エ・エヨ (自動、下二) 在得 獨リシテ居ルコトヲ得。 萬葉集、十五

シ、「甚シクモ、鬪リ安果字識、モノニアレヤ、鳥ノ棲ノ木、隠レテアルラム」同、二十長歌「番信ノミヲ、聞キテ有不得名、吾ガ戀フル、千重ノ一重モ、慰ムル、心モアリヤト」

ありうさん (名) [亞硫酸] 〔英語、[illegible]ノ譯語〕硫黄ノ酸化物ニ、二酸化硫黄トモ云フ、無色、刺戟臭ノ氣體ナリ、硫黄ヲ空氣中ニ熱スレバ生ズ、寒度ニテ、液體トナリ、固體トナル。殺菌用、漂白、消毒等ニ用キラル

ありうち (名) [有内] 〔案の内ナドノ、内ナリ〕往往、アルコト。アリガチナルコト。「少シノ過ハありうちノ事」

ありおとし (名) [在落] ありぼそ(在納)ヲ見ヨ。

ありか (名) [在所] 〔かハ、どころノ義、其條ヲ見ヨ〕物ノ、アリドコロ。所在。信井集、十一月、中「散隠レ、雉子ノありかノ、隠ノト、アヤナク冬ノ、野ニヤタハレム」源、四、夕顔三十「ありか定メメ名ニテ、ココカシコ尋ネケル程ニ」

ありか (名) [在香] 〔存在スル香〕香ハ、シキカヲリ。ニホヒ。香氣。拾遺集、[illegible]「藤袴、草ノ枕ニ、匂フナリ、誰カ脱ギオケル、ありかナルラム」

ありか (名) [在臭] 前條ノ意ニ同ジ。狐臭ニ云フハ、生レナガラある臭ノ義 (一)臭キニホヒ。臭氣。東關紀行(仁治)「コレゾコノ、釣リスル海人ノ、苫庇、厭フありかヤ、袖ニ殘ラム」 (二)腋臭。ワキクソ。狐臭。四十二の物あらがひ(室町時代カ)「西目ノワロキト、ありかノアルト」(語藝) 乳母草子(明和)「人ノ身ニ、オノヅカラ、ありかナドアル人ハ、時時、住カラム沈ナド御焚キ候テ、云云、ソノありかヲ失フバカリ、御タシナミ候へ」

ありかけ (名) [在懸] ありぼこヲ見ヨ。

ありかず (名) [有數] 〔有經ル年ノ數〕年數。古今集、七、賀「渚ノ眞砂ヲ、數ヘツツ、君ガ千年ノ、ありかずニセム」新千載集、二十、慶賀「[illegible]ノ千ノ、ありかずニ、[illegible]ありかずハ、今日數フトモ、[illegible]キシトゾ思フ」

ありかた (名) [在形] 現在スルカタチ。アリサマ。スガタ。[illegible]最行紀、四十年十月、[illegible]寶基地形之略[illegible]云云」

ありがた・い (形) [難有] 次次條ヲ見ヨ。

ありがたう (副) [難有] 〔次條ノ語ノ連用形、ありがたくノ音便ニテ、關西ニテハ、普通ナレド、關東ニテハ、ありがたく思フト云フ、ソレガ、下ニ敬語ノ添フ時ハ、音便ニ云フガ如シ、是レハ、江戸開府ノ初ニ、夥シキ京畿ヨリノ移民ノ語ノ、遺レルモノト思フ、おはやう、おめでたうナド、同ジ〕 (一)ありがたうございますナド云フハ、謝禮ニ、挨拶トシテ述ブル語、下略シテ、感動詞ノ如ク發スルコトアリ、次項ナルモ、同ジ。多謝。謠曲、松風「御宿参ラセタク、云云、御志ありがたう候」 (二)又、人家ヲ訪レテ、唯、別レヲ告グル時ニモ云フ、是レハ、一通リ、接待ヲ謝スルナリ。さやうならト云フト、略同ジ。珍重「御暇申シマス、ありがたう」

ありがた・し・キ・ケレ・ク・ク (形、一) [難有] 〔世ニあるコト難しノ義、(二)ナルハ、稀ナル恩ニ感ズトノ意ニ移リタルナリ〕 (一)世ニ稀ナリ。比類少シ。希有ナリ。萬葉集、十七、[illegible]長歌「手離モ、還復モ易キ、コレヲ措キテ、復ハ安果我多[illegible]、[illegible]、[illegible]ありがたくメヅラシキマデ、見エタマフ」同巻[illegible]「ありがたき[illegible]人ニナム」[illegible]ありがたけれバ[illegible] (二)後ニハ、感謝ノ心ヲ表スル語トナリテ、カタジケナシ。アリガタイ。史記抄(文明)十「[illegible]ハレタレバ、ありがたいト云テ、一命ヲ棄テ」同、十四「コレハ、漢ヲ、ありがたいト、思ハセジトテゾ」

ありがたち (名) [有形] 在來ノ、本ノママノアリサマ。舊形「門モ家モ、ありがたちニテ、變ハラズ」

ありがたなみだ (名) [難有涙] 敎旨、又ハ、恩惠ノ尊サ、嬉シサニ、深ク感ジテ出ヅル涙。隨喜ノ涙。感淚

ありがためいわく (名) [難有迷惑] 人ノ懇ナルガ、我ガ迷惑トナルコト。俚言集覽、ありがためいわく、我ハ厭ブヘキスヂニテ、人ハ、却テ難有ニテ、ウレシカラスノ云フナリ

ありがち (名) [有勝] 往往、アルコト。キコトアリウチ。ソンナ事ハありがちタ

ありか・ぬ・ヌル・ヌレ・ネ・ネ・ネヨ (自動、下二) [不堪在] 〔あり(在)ノ條ヲ見ヨ〕居ルニ堪ヘズ。萬葉集、[illegible]「筑波嶺ヲ、ヨソニ見ナガラ、有リカネテ、雪消ノ道ヲ、嶮ミ來ルカモ」

ありがね (名) [有金] 現在、手許ニアル金錢。現在金。通鑑、唐紀、五十八「現在銀、十萬[illegible]」

ありかべ (名) [在壁] 〔長押ヲ在帛ニシタルヨリノ語、ありぼこノ條ヲ見ヨ〕天井ト長押トノ間ノ壁。其間ニ、[illegible]小壁トモ云フ。

ありがほ (名) [有顔] [illegible]

ありがほ・し・シキ・シケレ・シク (形) [在欲] 〔ありハ、住住ニて[illegible]〕テ、存在シテアラムコトガ欲シナリ(見ホシ[illegible]ナド) [illegible]住ミタシ。[illegible]

ありがも (名) [蟻鴨] 蟻鴨ノ條ヲ見ヨ。[illegible]ルラク惜シモ」

ありかよは・す・ス・セ・サ・シ・セ (自動、四) [在通] 〔次條ノ語ノ敬語〕行キ通ヒタマフ。古事記、上、八千矛神[illegible]

ありがよ・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (自動、四) [在通] 〔ありハ、歩行くノ語根[illegible]日本紀ニ歩行ヲ[illegible]メリ、云云、古事記ノ歌ニ、ありたたし、ありかよはせト見エタルモ、此義ナリト云ヘリ」在通、[illegible]字ナリ、此語、敬語トシテ、ありかよはすト云フ〕行キ通フ。往來ス。萬葉集、六[illegible]

磐ノ海ノ、沖津白浪、安利我欲比、𛀁年毎ニ、見ツツシヌバム」(布勢海ハ、越中國、ありがよひハ、見つつニ𛀁カル) 同、十八ノ長歌「三吉野ノ、此大宮ニ、安里我欲比、見シタマフラシ」 同、三十四下「筑紫國ニ時、海路作歌「大王ノ、太宰府ト、齋ふ、島門ヲ見レバ、神代シ思ユ」(瀬戸内海ノ航路ノ美景ヲ云ヘリ)

ありき (名) |歩行| アリクコト。アユミ。雄略紀、元年三月「女子行歩」源、九、葵「大殿ニハ、カヤウノ御ありきモ、ヲサヲサシタマハヌニ」

ありきぞめ (名) |歩行初| 小兒ノ、歩行シ始ムル時、特ニ、儀式トシテ歩マスルコト。アルキゾメ。拾遺愚草、下「中將ノ子ヲ、ありきぞめニツカハシタル、手本ノ包紙ニ」 增鏡、十二、老浪「御子ノ御ありきぞめトテ、萬里小路ニワタラセタマフ」

ありきたり (名) |在來| 元ヨリアルコト。モトヨリ傳ヘタルコト。在來。從來。 俚言集覽、ありきたり「在來ニテ、もとよりのままナリ」「ありきたりノ持物」ありきたりノ儀式」

ありきちが・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (自動、四) |歩交| あるきたがふト云フ語ト、異ナリ、其條ヲ見ヨ」 行交フ、右往左往ス。落窪物語、二「人騷ガシク追討シツベク、ありきちがへバ」

ありぎぬ (名) |織衣| [おりぎぬノ音轉、皮衣ニ對シテ云フ語ナリトゾ、(織氈ありがも。於母、阿母。枋モ、賀子ナルベシ) 袖中抄(歌僧、顯昭)十五「ありぎぬハ、おりぎぬト云フカ、おトあト同音ナリ」さわ、さゑさゑトスルナリ、此語ニ、尙、絹布ノコトナリ、サレバ、衣摩ノ音、さわ種種ノ語原說アレド、皆、當ラズ」 絹布ノ衣服。 萬葉集、十五三十「命ヲシ、全クシアラバ、安里伎奴ノ、(序)アリテ後ニモ、逢ハナラメヤモ」(ありてハ、存命ヘテナリ) 同、十四三十「安利伎奴ノ、(序)サヱサヱ沈ミ」(さゑさゑハ、衣摩ノ音ナリ、さわさわノ條ヲ見ヨ)

ありぎぬの (枕) |織衣乃| [ありぎぬハ、前條ノ語ナリ、衣ハ、重ネテ着ルヨリ、三重ニツヅキ、絹布ヲ賞美スルヨリ、寶ニツヅク、珠衣トモ云ヘリ、亦、賞美ノ語ナリ、其條ヲ見ヨ] 三重、又、寶ト云フ語ノ枕詞。 古事記、下(雄略)八十長歌「阿理岐奴能、三重ノ子ガ」(伊勢國、三重郡出身ノ采女ナリ) 萬葉集、十六八長歌「全爲ヤシ、(枕)麻續ノ兒等、蟻衣之、寶之子等ニ」(子寶ノ意、蟻ハ、借字)

ありきり (副) |有限| アルカギリ。アラムカギリ。又、ありたけ。急呼シテ、ありッきり、ありッたけトモ云フ。 悉皆 「品付ヲ、ありきり出シテ見セヨ」

あり・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (自動、四) |歩行| [足繰行くノ約略ナルベシ、(見まくほし、みまほし。少なき、すなき。かくばかり、かばかり)萬葉集、十五三十「於毛布惠爾、(思フ故ニ)そゑそとて、(其故ニトテ)(駿河モ、搖動河ノ上略)或ハ、足搖行くノ約略トモ見ラル、あゆむトモ云フナリ、あるくト云フハ、音通ナリ、(栗栖、くるす。白膠木、ぬるで)ありく、あるくノ二語、同時ニ、竝ビ行ハレタルヤウナレド、本居宣長ハ、ありくハ、後ナリト云ヘリ、尙、考フベシ] 又、あるく。兩脚ヲ、互ニ繰返シ動カシテ、進ミ行ク。 足ヲハコブ。アユム。 允恭卽位前紀「久離二篤疾一不レ能二歩行一」 天智紀、元年十二月「與二敵所一在之間、一夜可二行一」 和泉式部日記「常ニありき、常ニハタラキありかセタマフ」 方丈記「常ニありき、常ニハタラクハ、養生ナルベシ」 神代紀、下四「事代主神遊二行在於出雲國三穗之碕一」 萬葉集、三四十「河鼠ノ、宇キ長谷ヲ、歎キツツ、君ガ阿流久ニ、似ル人モ逢ヘヤ」

あり・く・クル・クレ・コ・キ・コヨ (自動、加變) |在來| 年月ヲ經テ、アリキタル。 雄略紀、九年五月「同國近隣之人、由來尙矣」 同、二十年「百濟國者、日本國之宮家、所由來遠久矣」 萬葉集、十七四十越中立山、長歌「古ヘユ、阿理吉ニケレバ、磊嵬シカモ、岩ノ神サビ、タマキハル、(枕)幾代經ニケム」 古今集、十七、雜、上「今コソアレ、我レモ昔ハ、男山、榮行ク時モ、ありこシモノヲ」(坂行くニカケタリ) 同、五九長歌「赤駒ニ、下鞍打チ置キ、ハヒノリテ、遊ビ阿留伎シ」 字異記、下、第三十八縁「周ク行於天下國」訓釋「周行、女久利安留久」 字鏡、十「徘行、往來、阿留久」

ありくひ (名) |食蟻獸| 南亞米利加洲ノ熱帶地ニ棲ム獸ノ名。體ノ長サ、六尺バカリ、毛、暗黑ナリ、尾、甚ダ長クシテ、長毛密生ス、口吻、長ク尖リ、細長ノ舌ヲ出シテ、蟻ヲ舐リテ食餌トス。

あり・くる (動) |在來| 前前條ヲ見ヨ。

あり・ぐる・し・シキ・シケレ・シク・シク (形、二) |在苦| 居ニクシ。居ルニ堪ヘズ。 俠衣、一、上五「アマリコチタキ御志ドモヲ、オトナビタマフママニ、ありぐるしく思スヲリヲリモアルベシ」

ありごゑ (名) |安林聲| [鞠ノ神ニ、春楊花、夏安林、ト云フアリ、(まりのかみヲ見ヨ)掛聲ノ、やくッ、又、ありハ、コレヨリ出デタルカト云フ、ありくット云フハ、二語ヲ混ジタルモノカ] 蹴鞠ニテ云フ語。蹴ムト思フ時、鞠ヲ乞フニ發スル聲ヲ、ありト云ヒ、重ネテ、ありありト云ヒ、又、やくッ、ありくット云フ聲モアリ。 遊庭秘鈔、下、鞠「我レ蹴侍ラムト思フ時、聲ヲ出シテ鞠ヲ乞フ也、此上ニ、サマザマノ乞ヒヤウアリ、或ハ、やくわ、或ハ、ありくわ、又、をト乞フ、或云、ありくわノ聲、やくわノ聲ハ、宿德ノ人ノ乞フ聲ナリ、云云、やくわノ聲ハ、昔モ聞及ビ侍リシカド、ありくわノ聲ハ、身ノ一期ニ不レ聞也」 蹴鞠大槪「人ノ乞フ時、我レ乞ヒ勝タムトテ、ありありト乞フ事ハアルベシ」初ハ、あり聲ヲ永メテ、ヤサシク乞フナリ」 松下十卷書「やノ聲ハ、受取ル聲ナリ、うかがひ聲ト云フ、ありノ聲ハ、自分ノ聲ナリ」 吾吟我集(慶安)三、菓「蹴アケタル、鞠ノ如クニ、フタメキテ、庭ノ梢ニ、ありヤありの實」

ありさき (名) |鉦先| 鉦ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。

ありさし (名) |鉦差| 「鉦納ヨリ出デタル語、其語原ヲ見ヨ、是レハ、橫ニ長ク差込ムナリ、ありめぞハ、ありみぞノ訛」 大工、指物師ノ語。板ノ反ルヲ豫防スルタメニ、板ノ木目ト打違ヘニ、細長キ溝ヲ刻ルヲ、鉦溝ト云フ、別ニ細長キ木ヲ作リ、コレヲ、溝ノ一端ヨリ差込ミオクコト。溝モ木モ三角形ナリ、ありトノミモ云ヒ、ありを入るナド云フ。 下駄、足駄ノ臺木ニモ設ク。 倭訓栞、ありさし「工人ノ、ありヲさすト云フハ、蟻ノ形ナルベシ」

ありさま (名) |有樣| 物事ニアリツキタル狀。ヤウス。ヤウダイ。 狀態 光景 形勢 神代紀、上六「具奏二其狀一」 伊勢物語、廿一段「世ノ中ヲ憂シト思ヒテ「出デテ往ナバ、心輕シト、言ヒヤセム、世ノありさまヲ、人ハ知ラネバ」 榮花物語、十一、莟花「アサマシクメデタキ、殿ノありさまナリ」

ありさりて (句) |在去而| [在りし在りてノ約、ありありてニ、强ク指ス辭ノ、しノ加ハレルモノ、萬葉集、七七十九「名草山、事ニシ在リケリ」トアルヲ、袖中抄、一ニ「事ニざりケリ」トシタリ] 世ニアリ經テ。ナガラヘテ。 生存 萬葉集、四七十九「存風ノ、(序)聲ニシ出ナバ、有去而、今ナラズトモ、君ガマニマニ」(言葉ニダニ言ハバ) 同、十二五廿「ユフダタミ、(枕)田上山ノ、狹名葛(序)、在去テシモ、今ナラ

ズトモ」同、十七「阿里佐利而、後モ逢ハムト、思ヘ(バ)コソ、露ノ命モ、繼ギツツワタレ」

ありしな (名) 〔在品〕 アリアハセタル商品。「ありしなテ、…ニ合セテオキマスー」

ありしよ (名) 〔在所〕 「ありどころノ湯桶讀、有樣ヲ、ありやうト云フ、同ジ」 アリドコロ。アリカ。所在 生玉心中(正德、近松作)上「…ガ、一昨日カラ、在所も知レズ」 俊寬僧都、ありか、在所、云云、今、在所ト、書ニ呼ベルモ同意也」

ありしよりけに (副詞句) 〔異ニノ條ヲ見ヨ〕 過ギ去リシ時ヨリモ、上越シテ。 伊勢物語、廿一段「忘ルラムト、思フ心ノ、ウタガヒニ、ありしよりけに、物ゾ悲シキ」 同、六十五段「イトド悲シキ事、數マサリテ、ありしよりけに、戀シクノミオボエケレバ」 古今集、十四、戀、四「忘レナムト、思フ心ノ、ツクカラニ、ありしよりけに、マヅゾ悲シキ」

ありす (名) 〔在巢〕 〔居るトコロノ巢〕 鳥、又、蟲ノ棲メル巢。 壬二集、上「…リニケル、森ノ梢ニ、移リ來テ、ありす顏ナル、テラツツキカナ」 林葉集(俊頼ノ子俊惠)二、夏「雲ノ上ニ、ナノリテ過グル、ホトトギス、大内山ヤ、ありすナルラム」 夫木抄、二十、春部ニ、高キニウツル、鶯ヤ、位ノ山ノ、ありすナルラム」

ありすぐ・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) 〔在過〕 時ヲ過シ來ル。 經過 榮花物語、八、初花「精進、齋戒ヲシツツ、ありすぐし、ヒタミチニ佛神ヲ禮ミ奉リテ」

アリストクラシイ (名) 〔英語、Aristocracy.〕 貴族政治、古昔、希臘國ニテ、貴族ガ、一國ノ政權ヲ執リ居タルヲ稱セシ語。今ハ、貴族社會ノ意トナレリ。

ありすひ (名) 〔蟻吸鳥〕 〔蟻ヲ吸ひ食フ〕 小鳥ノ名。きつつきノ小サキモノ。目赤クシテ、白キ環アリ、頭ト背トハ、淺褐ニシテ、黒キ斑アリ、喉ヨリ腹ハ、淺黄ニシテ、黒キ斑アリ、尾長クシテ、淺黄ニテ、赤黒キ斑アリ、翮モ淺黄ナリ、其舌、蛇ノ如ク、細ソクシテ長シ、能ク蟻ナドノ小蟲ヲ啄ミ食フ。啄木鳥一種 喚子鳥、上、ありすい「ひよ鳥ニ、小サク細ソシ、云云、舌ヲ出シテ、蛇ノ如シ、云云、[illegible]、下、有木ニ此鳥、秋春ヨリ眞ル、三四月頃マデハ、所所ニテ、飼ヒ置クモノナリ」

ありすん (名) 〔在寸〕 實在ノ寸。杉ノ六分板ト云フモ、厚サ六分ハナクテ、ありすんハ四分五厘ナリナド云フ。

ありそ (名) 〔荒磯〕 あらいそノ條ヲ見ヨ。

ありだか (名) 〔在高〕 現在、アルホドノ嵩。現在數 「米ノ有高、三千俵」

ありたけ (副) 〔有丈〕 ありきりニ同ジ。アリッタケ。悉皆

ありだけ (名) 〔蟻菌〕 菌ノ一種。ぶらじる國ノ產ナリ、一種ノ蟻アリテ、此菌絲ヲ、其巢中ニテ栽培シテ、常食物トス。

ありたた・す・ス・セ・サ・シ・セ (自動、四) 〔在立〕 〔歩行き立たすノ義、ありがよふノ語原ヲ見ヨ、たたすハ、立つノ敬語(遊つ、あはたす。取る、とらす)〕 歩行キテ、出立チタマフ。 古事記、上、八千矛神長歌「遠遠シ、高志ノ國ニ、賢シ女ヲ、在リト聞カシテ、云云、小結婚ニ、阿理多多斯、結婚ニ、阿理加用婆勢」(出雲國ヨリ、越國ヘ出發シタマフナリ) 萬葉集、一、廿長歌「埴安ノ、堤ノ上ニ、在立之、見シタマヘバ、云云、香具山、云云、畝傍山、云云、耳無山」

ありた・つ・ツ・テ・タ・チ・テ (自動、四) 〔在立〕 立チテアリ。 萬葉集、十三、長歌「近江ノ海、泊八十アリ、八十島ノ、島ノ崎崎、在立有、云云」

ありたやき (名) 〔有田燒〕 いまりやきヲ見ヨ。

ありぢごく (名) 〔蟻地獄〕 蟲ノ名。すりばちむしヲ見ヨ。

ありづか (名) 〔蟻塚〕 〔蟻ノ塚ヲ見ヨ〕 蟻ノ、地下ニ巢ヲ作ル時、其蟻ノ、其地中ノ土ヲ出シテ、地上ニ積ミテ、塚ノ如キモノヲ作レルモノ。全體、堅クナリテ、大小ノ穴ヲ成スコト、海綿ノ如ク、多クハ、黒褐色ナリ。又、三重、五重ノ塔ノ如ク、高サ三四尺ニ作ルアリ、コレヲ蟻塔ト云フ。蟻垤 蟻封 天治字鏡、五「垤、[illegible]也、阿利豆加」 [illegible]天覽、十二、[illegible]塔ヲ組ム事「五雜組、人有穴地得蟻城、有街市、屋宇、樓閣、門巷、井[illegible]、[illegible]、中一丘高大、旁三四丘、高各數尺、竟日而散去」

ありつかは・し・シキ・シケレ・シク・シク (形、二) 〔有附〕 〔次次條ノ語ノ未然形ノ、ありつかヲ活用ス(似つく、似つかはし)〕 似ツカハシ。似合ハシ。 住吉物語[illegible]「[illegible]マニツバカリノマサリニテ、姿、アリサマノ、ありつかはしく、物ナド言ヒイダシタルサマモ、イトアラマホシクゾ見エ侍リケル」

ありつぎ (名) 〔在繼〕 ありぼそヲ見ヨ。

ありつ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (自動、四) 〔有附〕 似ツク。似合フ。似ツカハシクアリ。此語、多クハ、下ヲ、打消ニテ受ク。 源、四十六、總角「[illegible]盛リ過ギタル狀ドモニ、アザヤカナル花ノ色色、似ツカハシカラヌヲ、着紛ヒ有ツツ、ありつかズツクロヒタル姿ドモノ」 同、五十二、手習二十「カカル古代ノ心ドモニハ、ありつかズ、今メキツツ、腰折レ歌、好マシゲニ、若ヤグケシキドモ」

ありつ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (自動、四) 〔在附〕 〔あれつくト云フ語モ、是レナリ〕 (一) 居ツク。住ミツク。落チツク。安堵。安住 [illegible] 「[illegible]ありつくベキヤウニ物セヨト宣フ」 宇治[illegible]「[illegible]」 (二) 身ヲ安ンズル所ニ取リツク。生活ノ道ヲ得。得所 侍 竹取物語、孫安仁ノ條「醉、ヤウヤウ人トナルホドニ、父、母、世ニありつかムコトヲ祝ギイトナム」 [illegible]ありつく」

ありつ・く・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ (他動、下二) 〔在附〕 〔前條ノ語ノ他動〕 アリツカシム。 [illegible] 彌陀如來、婦ヲバ極樂ヘ具シテ行キ、[illegible]カラム嫁ヲ尋ネツツ、ありつけ候ヘ」(群書類從)

ありつり (名) 〔在吊〕 ありぼそヲ見ヨ。

ありてい (名) 〔有體〕 〔有體ノ字ノ湯桶讀(有樣、ありやう)〕 アリノママ。僞リカザラヌコト。實在。實情 [illegible]事、ありていニ申上ゲヨ」

ありとある (連體) 〔所有〕 アルカギリノ。アラユル。 孝德紀、大化元年七月「所有公民」 竹取物語「[illegible]ありとある人[illegible]」 [illegible]遺集、十九、雜、戀「何レヲカ、ありしト思ハム、三輪ノ山、ありとシあるハ、杉ニザリケル」

ありどころ (名) 〔在所〕 人ノ居ルトコロ。物ノアルトコロ。アリカ。在所。所在 伊勢物語、第四段「西ノ對ニ住ム人、アリケリ、[illegible]正月十日、許ニ隱レニケリ、あり所ハ聞ケド、人ノ行キカヨフベキ所ニモアラザリケレバ、ナホ憂シト思ヒツツナム、アリケル」 宇治拾遺、七、第五條「ココナル男コソ、水ノあり所ハ知リタルラメ」

ありどほし (名) 〔虎刺〕 〔物類稱呼(安永)

三、生植、ありどほし「九月、實、生リテ、翌年マデ持ツユエ、江戸ニテ、ありどほしト云フ」」 小灌木ノ名。山中ノ陰地ニ生ズ、高サ二三尺ニ過ギズ、葉ハ長サ四五分、卵形ニシテ尖リ、葉ノ本毎ニ鋭刺アリ、故ニ、小鳥止らずノ名モアリ、春、葉ノ間ニ白花ヲ開ク、後、圓キ實ヲ結ブ、熟スレバ紅ナリ、冬ヲ歷テ落チズ。倭訓栞、ありどほし「木ノ名ニ呼ブハ、花鏡ニ云フ虎刺也ト云ヘリ」

ありどほし-みゃうじん (名) 蟻通明神 和泉國、泉南郡(舊、日根郡)、長瀧村ノ北ニアル神社ノ稱。枕草子、十、百十六段、ありどほしの明神「昔、云云、唐土ノ帝、云云、七曲ニワダカマリタル玉ノ、中ハ通リテ、左右ニ口アキタルガ、小サキヲ奉リテ、コレニ緒ヲトホシテタマハラム、云云、大キナル蟻ヲ、二ツ捕ヘテ、腰ニ細ソキ絲ヲツケ、又、ソレニ、今少シ太キヲツケテ、アナタノ口ニ、蜜ヲ塗リテ見ヨ、ト云ヒケレバ、サ申シテ、蟻ヲ入レタリケルニ、蜜ノ香ヲ嗅ギテ、マコトニ、イト疾ウ、穴ノアナタノ口ニ出デニケリ、サテ、其絲ノ貫カレタルヲ遣ハシタリケル、云云、其人ノ、神ニナリタルニヤアラム」(中將ト云フ人ノ父ノ考案ナリ) 紀貫之集、九、ありどほしの神ト云フヲ聞キテ「掻曇リ、アヤメモ知ラヌ、大空ニ、ありどほしヲバ、思フベシヤハ」(星ニカケタリ)此明神ノ事、大鏡、古事談等ニモ見ユ。祖庭事苑「世傳、孔子厄於陳、穿九曲珠、遇桑間女子授之以訣云、密爾思之、思之密爾、孔子遂曉、乃以絲繫蟻、引之以蜜而穿之」倭訓栞、ありどほし「代醉編ニ、孔子得九曲珠、欲穿不得、遇二女、敎以塗脂於線、使蟻通焉」ト見エ、俚言集覽、蟻通明神「此說、雜寶藏經ノ趣ニ因テ、假ニ作リナセルモノナリ」應永年中ノ作ナル謠曲ニ、蟻通ト題スルアレド、貫之集ノ歌ノ事ノミ演ジテ、七曲玉ノ事ナシ。

ありなぐさ-む ・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ (他動、下二) 在慰 アリアリテ、心ヲ慰ム。萬葉集、十一、六四ト「カクシツツ、有名草目而、魂緒ノ、絶エテ別レバ、方便ナカルベシ」同、十二、二九〇一ト「在千潟、(序)在名草目而、行カメドモ、家ナル妹伊、イブカシミセム」

ありなし (名) 有無 (一)あると、なきと。濱松中納言物語、三「ヤガテ、跡絶エニシカバ、世ニありなし(存亡)ヲ知ラルル方ナク、過シ侍リヌルヲ」 (二)カスカナルコト。(あるかなきかノ意) 幽微 千載集、十七、雜、中「小山田ノ、庵ニ焚ク火ノ、ありなしニ、立ツ烟モヤ、雲トナルラム」

ありなし-ぐも (名) 有無雲 (前條ノ(二)ヲ見ヨ) カスカニタナビク雲。薄雲 倭訓栞、ありなしぐも「有カト見レバ、ヤガテ消行、雲ノ體ヲ云フ也」夫木抄、十九、雲「世ノ中ハ、ありなし雲ノ、山ノ端ニ、カカレバ消ユル、例ナリケリ」

ありなし-の-ひ (名) 有無日 中古、朝廷ニテ、五月廿五日ノ稱。此日ハ、村上天皇ノ御忌日ニテ、政務ヲ行ハレズ、又、急事アレバ行ハル。中右記、嘉承三年(天仁元年)五月廿五日「今日、宮中號ニ有無日、強無ニ結政、或又有ニ急事ニ者可ニ行ニ政歟、依謂ニ之稱ニ有無、是官中故實也、是村上先帝御忌日也、不雖不ニ置ニ國忌、我朝聖主、後人戀ニ遺德、依ニ強不ニ行ニ政歟」公事根源、五月廿五日、有無日「是ハ、村上天皇ノ御國忌ナリ、云云、政務日ニハアラザレドモ、政行ハレ侍ラズ、又、急事ナドアレバ、俄ニ政事アリ、サテ、有なしの日トハ申スナリ」

ありな-む ・ム・メ・マ・ミ・メ (他動、四) 有否 〔ありいなむノ約、ありハ、ありありて、ノ義、絶えずノ意ト云フ〕 絶エズ否ム。否ト云ヒテ爭フ。拒絶 萬葉集、十三、廿 長歌「引ヅラヒ、有雙スレド、言ヒヅラヒ、有雙スレド、有雙得ズゾ、言ハレニシ、我ガ身ニ(否ト云ヒテ爭ヒツレド、否ミ得ズシテ、人ニ言立テラレシ意ト云フ)」

ありなら-ふ ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (自動、四) 有慣 慣ヒ來ル。アリナルル。榮花物語、十三、木綿四手「モトヨリ、遊ビノ心ノミ、ありならひニケレバ」大和物語、中「前ト逢ナム、諸トモニありならひニケレバ、斯テ行クコトヲ、イト悲シト思ヒケル」

ありな-る ・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ (自動、下二) 在馴 馴レ來ル。アリナラフ。榮花物語、二十、御賀「ありなれシ、契モ絶エテ、今更ニ、心ケガシニ、千代ト云フラム」

アリナレ-がは (名) 鴨綠江 〔ありハ、鴨綠ノ字ノ朝鮮ノ字音ニテ、なれハ、朝鮮古語、江ノ義、水色、綠頭鴨ノ如キ意ト云フ、國語ノかはヲ加ヘテ、重言トナレリ、後世ノ、湯湯婆ノ如シ、あふりょくかう節ノ條ヲ參見セヨ〕 鴨綠江ノ古名。朝鮮ト滿洲トノ境ノ大河、東北ノ白頭山脈ニ發源シテ、西南流スルコト百四十里、西、朝鮮海ニ入ル。神功皇后攝政前紀、皇后、三韓ヲ征討シテ、新羅王出デ降リ「冀日、非東日更出、西、阿利那禮河返以逆流、及、河石昇爲星辰、殊廢年之朝貢、天神地祇共討焉」(意改文)通證、十四、阿利那禮河「阿、鴨也、利、綠也、那禮、三韓、河之俗語、卽、江也、今案、唐志、鴨綠江、其水如鴨頭綠也(節文)」倭訓栞、ありなれがは「朝鮮ノ鴨綠江ヲ云フ、云云、和泉式部「厭ザリシ、君ヲ忘レム、モノナレヤ、ありなれ川ノ、石ハ盡クトモ」

ありに (名) 在荷 現在、手許ニアル貨物。「在荷三百梱」

ありにく-し ・キ・ケレ・ク・ク (形、一) 在惡 生キテ居ニクシ。榮花物語、八、初花「世ヲ、ありにくく、憂キモノニナム、思シミダレケレバ」

ありね-だ (名) 在根太 ありぼそヲ見ヨ。

ありね-よ-し (枕) 在根良 〔在根よト呼ビカケテ、しヲ添ヘタルナリ、(麻裳よし、靑土よし)〕 橘守部ノ萬葉集檜嬬手、二、在根「對馬國、在明山ヲ指セルナリ、云云、古ク在嶺ト云ヒケムヲ、後ニ在明山ト訛レルカ、木ヨリ在明山ナルヲ、省キテ、在嶺ト詠ミタルカ、定メガタシ」(陸奧ノ安太多良ノ嶺ガ、安達ノ山トナレリ)有明山ハ、對馬ノ最高山ナリ、嚴原ノ西ニアリテ、直立、六百五十米突アリ、海船、皆、此山ヲ目標トシテ航行ス」 對馬島ノ枕詞。萬葉集、一、六二 遣唐使ノ隨員ニ贈レル歌「在根良、對馬ノ渡、海中ニ、幣取リ向ケテ、早歸リ來ネ」(海神ニ手向シテ、平安ニ早ク歸リ來レ)同、十四、卅「對馬ノ嶺ハ、下雲有ラナフ、神嶺ニ、靡ク雲ヲ、見ツツ偲バモ」

ありのあな (名) 蟻穴 蟻の穴から、堤が崩れる、ト云フ諺ハ、小事ナリトモ、忽ニスレバ、大禍ヲ招クト云フナリ。倭訓栞、ありのあな「俗語ニ、千町の堤も、蟻の穴から崩る、ト云ヘリ、漢書ニ、堤潰ニ蟻孔ニ、注ニ、韓子曰、千丈之堤、以ニ螻蟻之穴ニ而潰(韓非子、喩老篇)ト見ユ、西方合論ニ、一縷之蟻孔、能穿ニ遶山之堤ニト云ヘリ、丹波與作(寶永、近松作)上「ドウ妨ゲニナラウヤラ、蟻の穴から、堤もくづれる、輕イヤウデ、重イコト」

ありのおもひ (名) 蟻思 諺ニ、ありのおもひも、天までとどく、ト云フハ、微小ナルモノモ、念力ヲ凝セバ、志ヲ達スト云フナリ、蟻ハ、小蟲ナレドモ、體ニ比スレバ、甚ダ力強キモノナリ。微賤ノ者ノ、努力シテ、非常ニ立身シタルヲ、蟻の天上ト云フ諺モ、是レナリ。文武二道萬石通(天明、朋誠堂喜三二)「蟻の思ひも、天にのぼるトハ、鞠ノ事ヂャ、ネエカ」(蹴鞠ノ掛聲ノ、ありニカケタリ、ありおうノ條ヲ見ヨ) 浮世風呂(文化、三馬)二、下「蟻のおもひも、天にとどく、トヤラデ、一心ニ介抱スレバ、マタ佳イ日ノ照ルコトモ、ナクッテサ」

ありのくだり (名) 有件 アリシコトガラ。事件ヲ、ソノママ。宇治拾遺、十、第一條

「蟻ヘ争ヒケレドモ、我モ〔illegible〕リスベクト、言ヒケレバ、ありのくだりノ〔illegible〕ヲ申シテケリ」

ありのくまのまゐり（アリノクマノマイリ）（名）［蟻熊野詣］蟻ノ、一筋路ヲ、縦列シテ行クコト。ありのとわたり〔illegible〕「くまのまゐりヲ見ヨ」〔illegible〕ツ、入替リ入替リ、夜昼、老若、蟻の熊野詣スル如ク、〔illegible〕ありのとわたり（蟻の熊野詣ト云フハ、中古、貴賤老若、〔illegible〕一道ヲ〔illegible〕ヒ、〔illegible〕ニスシテ、〔illegible〕キコリノ〔illegible〕ナルベシ」

ありのおとおと（副詞句）［在盡］アルモノヲ、コトゴトク。アルカギリ。悉皆（スノカタギスアリノコトゴトク）〔illegible〕

ありのすさび（名）［有遊］（ありへ、生存ノ義、猶、すさぶ（遊）ノ義ヲ見ヨ）存命シテアルニ任セテ、等閑ニ打過グルコト。又、ありのすさみ。〔illegible〕アルトキハ、ありのすさびニ、〔illegible〕シキモノト、〔illegible〕レテゾ知ル」中務内侍日記（弘安）「花鳥ノ、色ニモ音ニモ、シノブアト、ありのすさみモ、アフハアラマシ」

ありのタフ（アリノトウ）（名）［蟻塔］ありづかヲ見ヨ。

ありのおごく（アリノジゴク）（名）［蟻地獄］すりばちむしノ異名。其條ヲ見ヨ。

ありのてんぢやう（アリノテンジョウ）（名）［蟻天上］ありのおもひヲ見ヨ。

ありのとわたり（名）［蟻門渡］（とわたるヲ見ヨ」（一）蟻ノ、一道ヲ縦列シテ、歩ミ行クコト、蟻の熊野詣ヲ併セ見ヨ。コレニ寄セテ、人ノ行クニモ云フ〔illegible〕山家集、下「蟻の戸わたりト云フ所ニテ（吉野大〔illegible〕）〔illegible〕ありのとわたり〔illegible〕人ノ、陰嚢ト肛門トノ間〔illegible〕ありのとわたり〔illegible〕其一道ノスヂアルヲ以テナリ」〔illegible〕語（天文）五、〔illegible〕クナリタレバ、大事アリト知ルベシ」（古事類苑）合類節用（元禄）五、肢体門「会陰、両股之間」

ありのひふきぐさ（名）［〔illegible〕］〔illegible〕カラズ〔illegible〕ニヤ〔illegible〕蟻の道草」〔illegible〕蟻の火吹ト云フナシ、重修本草綱目啓蒙ニハ、桔梗ノ一名ニ、ありのひあふきトモアリ」ききやう（桔梗）ノ古名。〔illegible〕上二十八「桔梗、〔illegible〕安利乃比布岐（倭名抄、同ジ）

ありのまがひ（アリノマガイ）（名）［莫莫紛紛］（多ク入乱レテ見紛フ意ニヤ、（ありのすさびト同種ノ語）但シ、紀ノ文ニテハ、此場合、副詞ナルカ）〔illegible〕アリテ、極メテ多キコト。〔illegible〕十四年九月〔illegible〕

ありのまにまに（副詞句）［有任任］（まにノ條ヲ見ヨ）物事ノアルヤウニ。アリノママニ〔illegible〕ケルニ、夜、〔illegible〕ありのまにまに、〔illegible〕

ありのまま（名）［有儘］（一）物事ノアル姿、ソノママ。〔illegible〕四十二、付川〔illegible〕「誰レモ誰レモ、隠ナカラムコトハ、ありのまま」

ニモ〔illegible〕メタマハデ」〔illegible〕十六、本要「カカリケル〔illegible〕ノ事ニ、サルベキ用意アルベカリケルモノヲ、〔illegible〕クロヒ〔illegible〕マナルコト。アリテイ。白地　今昔物語、廿六、第五語「責メテ問ヒケレバ、落チテ、有のままニ、事ドモ言ヒテケリ」〔illegible〕（寛永）「迷ハヌモ、迷〔illegible〕

ありのみ（名）［有実］〔illegible〕りのみ〔illegible〕（一）〔illegible〕チタル〔illegible〕ベカリナル、なしナレド、千代ありのみト、人ハ言フナリ」山家集、下、四月ニ、なしノ花ノ咲キタリケルヲ見テ、なしノ欲シキ由ヲ頼ヒケルニ、云云、枯レタル〔illegible〕ニ〔illegible〕ミシ折、なしヲ、〔illegible〕ヒトツ〔illegible〕云云「花ノ折、かしは二包ム、信濃なしハ、ヒトツナレドモ、ありのみト〔illegible〕一〔illegible〕レドモ、食フニニツノ、味ハヒハナシ」吾吟我集（慶安）九、〔illegible〕二、アラハありのみ、〔illegible〕

ありは・つ・ツル・ツレ・テ・テ・テヨ（自動、下二）［在果］（あり（有）ノ條ノ（二）ヲ見ヨ）生キテ居ル。存命ス。生存〔illegible〕〔illegible〕ク、思ヘズモガナ」玉葉集、十八、〔illegible〕ク、オキトコロナク〔illegible〕ありはつマジキ〔illegible〕

アリヒシ（名）［南］（今ノ朝鮮語ニ、あるぶ（前ノ義）ト云フ」南、ノ三韓語。〔illegible〕紀、四十九年三月「南加羅」云云〔illegible〕

ありふ・フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ（自動、下二）［在〔illegible〕］〔illegible〕（一）〔illegible〕スメ、〔illegible〕月〔illegible〕四、〔illegible〕「ありふるニツケテ、イトハシタナク、〔illegible〕ヘガタキ事、多カル世ナレド」〔illegible〕十二、〔illegible〕ズ〔illegible〕ニありへテモ、コレヨリマサルコトモ〔illegible〕シナリシ（二）ナガラフ。存命ス。生存〔illegible〕ノ中ハ、ナカナカ身ヲゾ、歎カサリケル」〔illegible〕九、〔illegible〕「心ニカナハム世ニハ、ありふマジキモノニコソアリケレ」

ありふ・れる・ルル・レレ・レ・レ・レヨ（自動、下一）［有触］〔illegible〕

アリヘイ（名）［有平］あるへいたうヲ見ヨ。

ありほそ（名）［〔illegible〕］（ここニ〔illegible〕ノ〔illegible〕（三）ヲ見ヨ）〔illegible〕及ビ、其條ノ（二）ヲ見ヨ。〔illegible〕云フナリ。此語、下略シテ、ありト云フ、ありつき、ありかけ、ありおさし、ありつり、皆、是レナリ、又、指物師ノ、ありさしト云フ語モ、同ジ語原ナリ」木工ノ語。木材ノ端ニ、突出セシメテ作〔illegible〕廣ク、末窄ク、三角形ヲナス、他ノ木材ニ、同形ノ枘穴ヲ作リ、コレニ填メテ、〔illegible〕密着セシム〔illegible〕下略シテ、ありト云ヒ、此〔illegible〕〔illegible〕井ノ上ノ吊木ト竿縁トニ、此仕組ヲ作〔illegible〕

フ、(切退太ニ對ス) 東雅(享保)九、器用、九、杙ノ條「ありト云フモノアリ、杙ト云フモノナリ、漢ニ、馬蹄筍ト云フモノアリ、又、筍トモ、直筍トモ云フモノヲ、此ニハ、ほぞト云フナリ、ほぞトハ、集林ノ榫アルニ似タルガ故也、或說ニ、枘、讀ミテほぞト云フナリ(節文、杙ノ條ヲ見ヨ) 倭訓栞、ありざし「工人ノ、ありニさすト云フハ、云云、西土ノ書ニ、筍頭ト云ヘリ、筍ノ皮ノ、段段ナルニ、兩方ヨリ重ナリ合テ、シックリト、透間ナキヲモテ也ト云ヘリ、何氏兵錄ニ、鐵砲ノありのほぞヲ、馬蹄筍ト云フ、是也トモ云ヘリ」

ありまい (名) 【在米】 有合ノ米。現在スル米。在米。見存米 「在米三千石」

ありまき (名) 【蚜蟲】 〔蟻卷ノ義、蟻ノ群リック意〕 小昆蟲ノ名。草木ノ新芽、綠葉ニ寄生、群棲ス、體ノ大キサ、黍ノ粒ホドニテ、綠色ナリ、四翅、六脚ナレドモ、疾行、飛翔スルコト能ハズ、或ハ翅ナキモアリ、尾端ニアル、二條ノ排蜜腺ヨリ、甘キ蜜汁ヲ滲出シ、蟻多ク集リテネブル、甘露ト云フモノ、此蜜汁ナリト云フ。 倭訓栞、後編、ありまき「蚜蟲ナリト云ヘリ」 重修本草綱目啓蒙(享和)廿八、竹蝨「ありまき、此蟲、味甘シ、故ニ、蟻多ク集リテ舐ル、愈舐リ、愈繁息ス、云云、後ニ、羽化シテ、風ニ隨ヒ飛ビ去ル、祕傳花鏡、蚜蟲、癸辛雜識、竹蟲、長崎、あぶらむし」 俚言集覽、ありまき「又、あぶろじ」(其條ヲ見ヨ)

ありまさ (名) 【在方】 〔人名ナリ、出典ヲ見ヨ〕 占者ノ異名。算置。 鎭昆陽漫錄(明和)七「近頃、板本ノ曆林問答ヲ見レバ、序アリ、應永中年、孟春日、正議大夫、司曆、賀茂在方書ス、トアリ、在方、占ヒノ名人故、今モ、占者ヲ、ありまさト云フ、トカヤ」

〜**ありまーすげ** (名) 【有馬菅】 攝津國ノ、有馬ノ地ニ產ズル菅。名アリキ。 萬葉集、十二 四十二「皆人ノ、笠ニ縫フチフ、有間菅、(序)在而ノ後モ、逢ハムトゾ思フ」

ありまちのよ (名) 【有待世】 〔次條ヲ見ヨ〕 臨終ヲ、待チテアル世ノ義ナルベシ、又、ウダイノヨ。 活版、倭訓栞、確外、ありまちのよ 信云、(伴信友)太平記、又、應永十三年了譽作ノ古今集序注、有待の世ト作リ、人ノミマカルコトハ、スベナキ由ニ云ヘル言也」

〜**ありま・つ・ツ・テ・タ・チ・テ** (他動、四) 【有待】 待チテアリ。 萬葉集、四 四十「戀ヒ戀ヒテ、逢ヒタルモノヲ、月シアレバ、夜ハ隱ルラム、須臾ハ蟻待て」 同、十三 九十三「高市皇子薨、舍人挽歌、長歌「有雖」待、召シタマハネバ、云云、展轉ビ、漬チ泣ケドモ、飽足ラヌカモ」

ありまつーなぼり (名) 【有松絞】 なるみなぼりヲ見ヨ。

ありまーふで (名) 【有馬筆】 攝津國、有馬ノ地ニテ製出スル、玩具ノ筆。軸ニ色絲ヲ卷キ、軸ノ中ニ、小サキ人形ヲ、絲からくりニテ仕込ミ、筆ヲ立テテ、文字ヲ書ケバ、人形、上ニ出デ、倒セバ、引込ム。人形筆。 佐夜中山集(寬文)「水莖ノ、ヲカシキフシヲ、イヒタテテ、筆ノ舳ニモ、ツケル人形」

ありまーりう (名) 【有馬流】 劍術ノ一派。有馬乾信ノ創メタルモノ。神道流ヨリ分ル、足利時代末期ノ人ナリ。 武術流祖錄、刀術「有馬流、有馬大和守乾信」(古事類苑)

〜**ありまーをんせん** (名) 【有馬溫泉】 攝津國、有馬町ニアル溫泉。京都ヨリ十四里、大阪ヨリ九里、京畿ノ地ニアレバ、古來、其名著ハル、鹽類泉ニシテ、溫度百度ナリ、近傍ニ、新湯、鐵砲水ナド云フモアリ、舒明天皇、孝德天皇、白河法皇(大治三年)、後白河法皇(安元二年)行幸アリ、天正十三年、豐臣秀吉モ來リテ浴セリ。 舒明紀、三年九月「幸ニ于攝津國有間溫泉ニ」 同、十年十月、幸ニ有間溫湯宮ニ」 孝德紀、大化三年十月「幸ニ有間溫湯ニ」 攝津國風土記「有馬郡、又有ニ鹽之原山ニ、此山間在ニ鹽湯ニ」(釋紀、十四) 萬葉集、三 五十五「石川命婦、依ニ餌藥事ニ、往ニ有間溫泉ニ」

〜**ありーめぐ・る・ル・レ・ラ・リ・レ** (自動、四) 【在廻】 〔歩行廻るノ略、ありがよふノ語原ヲ見ヨ〕 行キメグル。經廻。 萬葉集、二十 八十「長歌「大君ノ、命ノマニマ、武夫ノ、心ヲ持チテ、安里米具里」 同卷 七三十「長歌「島傳ヒ、伊漕ギ渡リテ、安里米具利」(以上、二首、共ニ、防人ノ、筑紫ノ巡廻、守備ヲ云フ)

ありーめぞ (名) 【衽溝】 〔めぞハ、みぞノ訛〕 ありさしノ條ヲ見ヨ。

〜**ありーもど・く・ク・ケ・カ・キ・ケ** (自動、四) 〔ありわたるノ語原ヲ見ヨ〕 抵捂くニ同ジ。 蜻蛉日記、中、中 六十「イザヤ、ありもどくマジウ思ヒニタル世ノ中ニ、心ナゲナル事ヲヤ、爲置カム」

⁂**ありゃーありゃ** (感) 〔あれは、あれは、ノ急呼(あれはあれは、ありゃありゃ)〕 物ヲ認メテ驚クニ發スル聲。アラアラ。アレアレ。 娥歌加留多(正德、近松作)四「ヤレ身ヲ投ゲルハ、ありやありや、投ゲルハ、投ゲルハ」 町火消ノ纏持ナドガ、火事ヲ望ミテ勇ミ進ムニ、ありゃりゃんト云フ。 俚言集覽、ありやりやんりう「爐遊笑覽、此頃、小兒、走リユキツ、ありやト云フコトヲカサネテ、やんト云フ、云云、りうトハ、物ヲ振リ、物ヲ打ツナドノ勢ヒヲ云フ」

ありーやう (名) 【有樣】 〔有樣ノ湯桶讀、(有體、ありてい)あるやうノ條ヲ參見セヨ〕 (一)【アリサマ。アルヤウ。容子。狀態】 土佐日記、正月十一日「人、皆、マダ寢タレバ、海ノありやうモ見エズ」(碇泊ノ船中ニテ云フ) 太平記、十二、廣有怪鳥を射る事「孫庇ノ蔭ニ立隱レテ、此鳥ノ有やうヲ窺ヒ見ルニ」 (二)眞實ノ狀。有體。實情 狂言記、枕物狂「ありやうニ仰セラレマセ、何ト、カナヘテヤロ」

ありーやう (名) 【有樣】 アルベキ理由。所以 「ソンナ事ハ、ありやうガナイ」

ありゃうぢ (名) あふりゃうぢ(痘後瘡)ヲ見ヨ。

ありーやけ (名) 【有明】 〔やけハ、あけノ通韻、おやじ(同)ヲ、おなじト云フ類〕 ありあけヲ見ヨ。

⁂**ありゃーなりゃ** (名) 【顚倒】 〔あれはされはノ急呼(あれはあれは、ありゃありゃ)〕 ウラハラ。カヘサマ。アチラコチラ。アベコベ。顚倒。「物事がありゃなりゃニナル」

〜**ありーやーなしーや** (句) 【有耶無耶】 〔ありハ、生存ノ義、あるかなきかトハ、意、異ナリ〕 健在ナルカ、亡クナリシカ。存否 伊勢物語、九段、武藏國、すみだ川ニテ「名ニシ負ハバ、イザ言問ハム、都鳥、我ガ思フ人ハ、ありやなしやト」(都ノ友ノ消息ヲ聞カムトナリ) 拾遺集、十八、雜、賀、懸想シ侍リケル人ノ、ツレナクノミ侍リケレバ、今ハ、サラニ世ニモアラジト云ヒテ、云云「心アリテ、問フニハアラズ、世ノ中ニ、ありやなしやノ、聞カマホシキゾ」

⁂**ありゃーりゃん** (感) ありゃありゃヲ見ヨ。

〜**ありーよ・し・キ・ケレ・ク・ク** (形、二) 【在吉】 住ミテ居ルニ好シ。 萬葉集、六 五十四「三香原荒墟長歌「在吉しト、人ハ云ヘドモ、在吉しト、吾レハ思ヘド、云云、住ミ好キ里ノ、荒ルラク惜シモ」(山城國、相樂郡、聖武天皇ノ甕原ノ宮址)

〜**ありーわた・る・ル・レ・ラ・リ・レ** (自動、四) 【在渡】 〔コレラノありハ、意ナキ接頭語ノ如シ、(打聞く、搔曇るノ、打、搔、ノ類ナリ) ありもどくナド云フ語モ、同ジ〕 飛ビワタル。飛ビユク。 萬葉集、十八 九十七「行方ナク、安里和多流トモ、ホトトギス、鳴キシワタラバ、カクヤ偲バム」

〜ありわた・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 在渡 〔ありありて、月日ヲわたる〕 時日ヲ[illegible]メハジメテル、[illegible]（秋ヨリ冬マデ、散ラズアラムガタメニ） 伊勢物語、六十五段[illegible]ありわたるニ、[illegible]イタヅラニナリヌベケレバ、終ニホロビヌベシ」

ありわづら・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (自動、四) 在煩 世ニアリテ、思ヒワヅラフ。 栄花物語、八、初花「イデヤ、世ニありわづらひ、官、位、人ヨリハ低シ、人ト等シクナラムナド、思ヒテ」

〜ありわ・ぶ・ブル・ブレ・ビ・ビ・ビヨ (自動、上二) 在侘 居悪ク思フ。住ミワブ。 伊勢物語、第七段「昔、男アリケリ、京ニありわびテ、東国ヘユキケルニ」

〜ある (連体) 或 〔あり(有)ノ連体形、世ニあるノ意〕 ソレト定マラヌ、又ハ、知ラヌ物事ヲ指シテ云フ語。然ル。某ノ。 神代紀、上廿「一書曰」 孝徳紀、白雉元年二月「一所」 持統紀、六年七月「午 光、午 設」 名義抄「或、アルトキ」或、アルヒト」 古今集、十四、恋、四「ある女ノ、業平朝臣ヲ、所定メズホキスト思ヒテ」 土佐日記「二月五日、京ノ近ヅク喜ビノアマリニ、ある童ノ詠メル歌、云云」

〜あ・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ (自動、下二) 生 〔生る二通ズト云フ、(豈、何。などか、あどか)新ニ生る意〕 (一)生ル。アラハル。出現ス。 神代紀、上二「天先成、而地後定、然後、神聖生二其中一焉」 萬葉集、[illegible]長歌「久堅ノ、天原ヨリ、生れ来シ、神ノ命[illegible]」 (二)生ル。誕生ス。他動詞ニハ、あらすトナル。(即チ、生むナリ)あれますノ條ヲ見ヨ。

〜あ・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ (自動、下二) 散 (一)散ク。離ル。別ル。散ル。散ズ。 新撰[illegible]位前紀「[illegible]臣一離二於大臣家一[illegible]」 竹取物語「[illegible]第二、オドロオドロシク、二十人ノ人ノ昇リテ侍レバ、あれテ[illegible]」 (二)散ズ、[illegible] 離散 古事記、下(清寧)[illegible]長歌「其ガ阿礼[illegible]バ、心恋シケム」(其ハ、鳩子ヲ指ス) 萬葉集、十一廿八「妹ガ髪、(序)上小竹野ノ、放駒(序)、荒れユキケラシ、合ハヌ思ヘバ」(髪ヲ結フヲ、上ぐト云フ) 古今集、十四、恋[illegible]ニ、アラマモノカラ、昔ガタメニ、人ノ心ノ、あれテ見ユラム」

〜あ・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ (自動、下二) 荒 〔前條ノ散るノ意ノ、一轉シタルナルベシ〕 荒ぶニ同ジ。(和ぶノ反)荒レ立ツ。暴起 日本紀竟宴歌[illegible]田田根子ヲ、求メサリセバ、夢ニ見シ、大物主ノ、神安和ナマシ」(崇神紀、七年八月、夢ノ告アリシニ因リテ、大田田根子命ヲ尋ネ求メタマヒ、大物主大神ヲ祭ラシメラレシヲ云ヘルナリ) 萬葉集、七[illegible]吹キテ、海ハ荒るトモ、明日ト言ハバ、久シカルベシ、君ガマニマニ」 源、九、若紫「霰、降りあれテ、凄キ夜ノ状ナリ」

あ・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ (自動、下二) 荒廢 〔前條ノ語ノ一轉ナルベシ〕 (一)〔廢ル〕スタル。ルママニテアリ。(賑ふノ反)荒廢ル。(田園ナド、草ノ生フルニ任セ、家ナド、破ルルママナルナリ) 萬葉集、六[illegible]三香原、荒墟[illegible]三香原、久邇ノ京ハ、荒れニケリ、大宮人ノ、遷リ往メレバ」 伊勢物語、五十八段「あれニケリ、アハレ幾代ノ、宿ナレヤ、住ミケム人ノ、オトヅレモセズ」 土佐日記、二月十六日、家ニ帰ル「言フカヒナクゾ毀レ破レタル、家ヲアヅケタリツル人ノ心モ、あれタルナリケリ」 (二)荒ブ。衰フ。荒涼 遊仙窟「室宇荒涼」 平家物語、五、文覚被流事「公卿モ、殿上人モ、コハイカニト騒ガレテ、御宿直モ既ニあれニケリ、院中ノ騒ギ斜ナラズ」(文覚ガ、法皇ノ御所ノ御庭ニ乱入シタルナリ) (三)あれるノ條ヲ見ヨ。

あ・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 有 〔良行変格活用ノ転、良行四段活用ノ動詞多ケレバ、遂ニ四段ニ移リシナリ、居りノ、居るニ移レルト同ジ〕 良行変格活用ノ[illegible]

あるいえ (副) 或 「有り伊え[illegible]ノ義、奈良朝文法史)伊ノ條ヲ見ヨ」 [illegible]景雲三年十月、詔[illegible]此[illegible]捨伊ハ、謗ヲ招キツ」 アル時ハ。アルモノハ。若シクハ。 神代紀、上五[illegible]生[illegible] [illegible]或、アルヒハ」 倭訓栞、あるひは「助語辞ニ不レ指二名其人一、但以二或字一代レ之ト見エタリ」

〜あるいえ (接) 或 〔前條ノ語ノ轉〕 異ナル一ツノ事情ヲ、並ベテ云フ語。あるえトモ云フ。又ハ。 竹取物語「人人、或え、笛ヲ吹キ、あるひえ、歌ヲウタヒ、唱歌ヲシ、あるひえ、口笛ヲフキ」(ひハ、いノ誤) 古今集、序「あるえ、年毎ニ、鏡ノ影ニ見ユル雪ト浪トヲ歎キ、云云、あるえ、昨日ハ栄エ驕リテ、今日ハ時ヲ失ヒ、云云、あるえ、松山ノ浪ヲカケ、云云、あるえ、呉竹ノウキフシヲ、人ニ言ヒ」 竹取物語「宮アリ、天ノ羽衣入レリ、又、あるえ、不死ノ薬入レリ」

〜あるかぎり (副) 有限 有ル程ヲ尽クシテ。アリタケ。アリキリ。ノコラズ。悉皆 竹取物語「[illegible]ノ内ノ絹、綿、銭、ナド、あるかぎり取出デテ」

〜あるかたち (名) 在形 物事ノ様子。アリカタチ。アリカタ。アリサマ。 神代紀、下「[illegible]以二事之本末一」 同巻[illegible]以二情之[illegible]」 雄略紀、二十四年九月[illegible]其行[illegible]

あるかなきか [illegible] 〔あるかなきか[illegible]なしやトハ、意、異ナリ〕 (一)アルヤラム、ナキヤラム。アルヲアリトモ言ハレヌ意ヲ云フ。 後撰集、十六、雑、二「アハレトモ、憂シトモ言ハジ、陽炎ノ、(如ク)あるかなきかニ、消ヌル世ナレバ」 [illegible] (二)[illegible] 衰微 枕草子、二、二十四段「あるかなきかノ香染ノ狩衣」(コレハ、色ノ淡メタルヲ云ヘリ) 源、一、桐壺「あるかなきかニ消入リツツ、物シタマフヲ御覧ズルニ、云云、泣ク泣ク契リ宣ハスレド、御答ヘモ聞エタマハズ」(桐壺ノ更衣ノ病ノ[illegible]) [illegible]ナリシ中門ナド、マシテ、形モナクナリテ」 平家物語[illegible]あるかなきかノ[illegible]

アルカリ (名) 亜爾加里 〔英語、Alkali〕 金属、又ハ、あんもにうむノ水酸化物。水ニ溶解シ易ク、あるかり性反應ヲ呈ス、酸ト作用シテ、鹽類ヲ作ル。

あるき (名) 歩行 (一)〔アルクコト。アユミ。アリキ。 萬葉集[illegible] (二)往時、村ノ役場ノ小使ノ称。

あるきたが・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (自動、四) 歩 〔ありきちがふト云フ語ニ同ジ〕 行違フ。出違フ。[illegible]意、異ナリ。[illegible]はデアレ、物ヘ行カムニ、具セムトアリケレド」此語、下二段活用トモナリ、あるきたがふコトヲスル意トナル。 清輔集「人ノ許ヘ罷リケルニ、あるきたがヘタル由ヲ云ヒテ、入レザリケレバ、言ヒ入レケル(歌)」

あるき-つき (名) 歩附 〔顔つき、手つき〕アルク狀。アシナミ。アシドリ。歩趨 歩調

ある-く (動) 歩行 ありく(歩行)ヲ見ヨ。

アルコオル (名) 亞爾箇保兒 〔蘭語、Alcohol. あるこほるトモ云フ〕酒類ノ主成分ヲ成ス、液體ノモノ。米、馬鈴薯ナドヨリ製ス、種種ノ用トナル。酒精。アルコホル。

アルコホル (名) 前條ヲ見ヨ。

アルシ (名) 下 韓語、下ノ義。欽明紀、二年七月「下韓任那」私記「下、讀二阿留之一」同、四年十一月「任那之下韓百濟郡」

ある-じ (名) 主 主人 〔客人ニ對シテ云フガ、元ナリ、饗應ヲ、主設ト云フ、是レナリ、倭訓栞、あるじ「家ニあるぬしノ約也」或ハ又、吾大人ノ約ニモアラムカ・じヲ濁ルハ、宮主、刀自ノ例ナリ、あろじトモ云フハ、音轉ナリ(遙遙、はろばろ。着物、きるもの)〕(一)其家ノ主。主人。又、あろじ。神代紀、下三十「海神、彥火火出見尊ヲ迎ヘテ「設二饌百机一、以盡二主人之禮一」拾遺集、十六、雜、春、流サレ侍リケル時、家ノ梅ノ花ヲ見侍リテ「東風吹カバ、匂ヒオコセヨ、梅ノ花、あるじナシトテ、春ヲ忘ルナ」(菅原道眞) 源、四十六、總角四十五「此君ハ、あるじガタニ、心ヤスクモテナシタマフモノカラ、マダまらうど居ノ、カリソメナル方ニ、出シハナチタマヘレバ、云云」雄略紀、九年三月、新羅ノ戰ニ、大將、大伴談ノ從人「入二軍中一尋二覓其主一」云云、吾主大伴公、何處在也」(是レハ、主ヲ云ヘリ) 萬葉集、二十五十九酒宴歌(客ノ詠ミタルナリ)「ハシキヨシ、今日ノ安路自ハ、磯松ノ、(如ク)常ニ座サネ、今モ見ル如」(庭ノ池ノ磯ノ松ナリ) (二)次次條ヲ見ヨ。

❖**ある-じ-くゎんぱく** (名) 主關白 〔關白職ホドノ權威アリト云フ意、嚊天下ト、一對ノ語ナリ〕一家ニハ、何事ニモ、主人ガ第一位ニアリトノ意ヲ云フ俗語。文正草子「横座ニナホリ、杯ヲ取リテ申スヤウ、あるじ關白ト申ス事ノ候ヘバ、先ヅ飲ミ候フベシトテ、三度飲ミテ後、中將殿ニマヰラセケレバ」(諺語大辭典)

ある-じ-まうけ (名) 饗 〔主人設ノ義〕主人、奔走シテ食料ヲ求メ、酒饌ヲ設ケテ、客ヲ迎フルナリ、源、二、帚木三十五「あるじモ、肴求メムト、コユルギノ、イソギ歩ク」客ヲ迎ヘテ、饗スルコト。多クハ、下略シテ、あるじトノミモ云フ。モテナシ。フルマヒ。饗應。チソウ。伊勢物語、百一段「左兵衞督在原行平、云云、左中辨藤原良近ト云フヲナム、主客ニテ、其日ハ、あるじまうけシタリケル」神代紀、下三十一「設二饌百机一以盡二主人之禮一」宇津保物語、俊蔭十七「あるじノ事スベキニ、ハヤ被物ノ事セサセタマヘ」枕草子、二、十四段、すさまじきもの「方違ニ行キタルニ、あるじセヌ所」大和物語、下「あるじナド、人人シケレバ、物ナド食ヒテ」名義抄「饗、アルジ」

ある-づ (名) 有圖 〔圖ノ條ヲ見ヨ〕往往、出會フコト。俚言集覽、有圖「よくあるづト云フ事」「ソンナ事ハ、あるづダ」

ある-に-まかせ-よ (句) 足ルコトヲ知リテ、分ニ安ンゼヨト云フ意ノ諺。本朝俚諺(正德)九「世俗、七字ノ口傳ト云ヒ傳フル三事アリ、あるにまかせよ、あるべきやうに、身の程を知れ、以上、三事ナリ」(依二本分一ノ三字、此三事ヲ兼ヌト云フ) 醒睡笑(元和)四、唯有、或人、友達ノ貧シキ人ノ許ヘ、詠ミテ贈レル歌「あるときは、あるにまかせテ、過ギテユケ、又無キ時ハ、ナキニマカセヨ」返シ「あるときは、あるにまかせテ、過ギシカド、又、無キ時ハ、エコソマカセネ」

ある-に-も-あらぬ (連體句) 〔あるハ、生存ノ義、あり(有)ノ條ノ(二)ヲ見ヨ〕生存ヲ認メガタキ。アルカナキカ。伊勢物語、六十五段「サリトモト、思フラムコソ、悲シケレ、あるにもあらぬ、身ヲバ知ラズテ」十訓抄、上、第一、五十五條「女房ノ車ヲ、惡シク遣リテ、打チ覆ヘシタルアリケリ、イミジキ騷ギニテ、女房、或ルハ、額ヲ突キカキナドシテ、各、心モ失セテ、あるにもあらぬケシキナルニ」(是レハ、生キタル空ナキナリ) 倭訓栞、あるにもあらぬ「有ニカヒナキ意也、又、有ニアラレヌ意ニモイヘリ」

ある-ゑ (接) 或 あるいはヲ見ヨ。

アルパカ (名) 〔英語、Alpaca. 南亞米利加洲、あんでゑ山中產ノ動物ナリ〕一種ノ綿羊類ノ名。綿羊ニ似テ、頸長シ、其毛、柔カニシテ長ク、暗褐色ナリ。其毛ヲ、木綿絲ニマゼテ織リタル織物ヲ、專ラ、あるぱかト云フ。「あるぱかノ裏地」

アルハベット (名) 〔英語、Alphabet. 元ト、ぎりしあ文字ノ首ノ、α (Alpha) β (Beta) ノ二字ヲ合セテ呼ビテ、總稱シタルニテ、我ガ國ノいろは歌四十七字ヲ、いろはト總稱スルガ如シ〕西洋文字ノ字母。卽チ、ABC 等、二十六字ノ總稱ナリ。

アルバム (名) 〔英語、Album.〕寫眞、繪葉書、切手、新聞雜誌ノ切拔等ヲ貼込ミ、又ハ、插込ミ置ク帖。

アルヘイ (名) 有平 (一)次次條ヲ見ヨ。(二)女ノ髮ノ結方ノ名。有平糖ノ軸形ニシテ、捩ヂタルニ似タレバ云フ、片はづしヲ、直ニシテ平メテ、髮ノ本末ヲ同ジクス。

アルヘイ-ざいく (名) 有平細工 次條ヲ見ヨ。

アルヘイ-たう (名) 有平糖 〔あるへいハ、葡萄牙語、Alfeloa. ノ訛、砂糖菓子ノ義ナリ、あるへい糖ハ、重言トナレリ〕又、あるへい。あるへる。ありへい。南蠻菓子ノ一。白砂糖ヲ銅鍋ニ入レ、水ヲ加ヘテ、中火ニテ煮テ沸カシ、コレヲ、胡麻油ヲ塗リタル別鍋ニ移シ、水上ニ浮ベテ、暫シ冷ヤシ、兩手ニテ引キ伸バシテ堅飴ノ如クシ、又、紅花ノ汁ヲ混ジタルヲモ作リ、紅白ノモノヲ並行セシメテ、縞ノ如クシ、ソレヲ、玉形ニ、或ハ、筆ノ軸形ニシテ捩ヂ、又、板形ナド、種種ニ作ル。氷絲糖 窩絲糖 又、鳥獸、蟲魚、野菜ナドノ形ヲ作リテ、彩色スルアリ、コレヲあるへい細工ト云フ、飴細工ノ如シ。太閤記、一、凡例「伴天連、云云、上戶ニハ、チンダ、葡萄酒、云云、下戶ニハ、云云、あるへい糖、コンヘイ糖ナドヲモテナシ、我ガ宗門ニ引入ルル事、尤モ深カリシ也」洞房語園(享保)饅頭賦「さつき餅ハ、其性糯ニテ、團子ヨリ出デ、あるへいガ尻マヒスルモノナリ」倭訓栞、後編、あるへいと「寒具ニ云フ、蠻名也、あるへるトモ見エタリ」守貞漫稿、後集、一、食類、菓子「有平、金平、共ニ、昔ハ舶來セシナルベシ、近世舶來無レ之、有平ハ、諸國ニ諸店ニテ製レ之、云云、又、有平ハ、專ラ、種種ノ形ヲ手造リニスルモノ多シ、然ルニ、近年、京坂ニテ、鎔製ニスルモノアリ、白砂糖ヲ煉リ、鎔形ヲ以テ燒キ而後ニ、筆刷毛等ニテ彩ヲ施シ、鯉鮒、獨活、竹子、蓮根等ヲ製ス、眞物ノ如シ、號ケテ金花糖ト云フ、嘉永ニ至リ、江戶ニモ傳ヘ製ス」俚言集覽、あるへい「あるへいざいくハ、あるへいニテ、花卉、鳥獸ヲ作リタルモノ」

アルヘイル (名) 有平 前條ヲ見ヨ。

あるべ-かかり (名) アルベキ、カカリアヒノ意ト云フ。倭訓栞、あるめかしく「あるべかかりト云フモ、可レ有かかり合ノ事ヲ云ヘリ」俚言集覽、有べかかり「有のかかりトモ云フ」

あるべかし (形、二) シキ・シケレ・シク・シク　可有　〔有ルベキ様ノ意、あるべし、ノ語幹ヲ、活用セシメタル語ナリ、あるめかし、ト云フハ、音通ナリ、(うしろめたし、うしろべたし)後世、然つべらしい、ナド云フ語モアリ〕 然ルベシ。サモアルベシ。相應ナリ。あるめかし。 源、廿二、玉鬘「二物マメヤカニ、あるべかしう書キタマヒテ」 狹衣、三、上廿「今様ノ人ハ、幼ウヨリ、あるべかしうコソアレ、コレハ、如何ナルコトニカ」 同、中三「何モ(事ヲ)下リヌレバ、(大將)道季ニ、此人、アリツカズ思フラム、局ナドモ、あるべかしう、心シテシツラヘ」 今昔物語、廿七「内ノあるめかしきコト、タグヒナシ」(類聚雅言集覧)

あるべかり ルル・レ・ラ・リ・レ(自動、良變)　可有　〔あるべくありノ約〕 然アルベクアリ。サヤウナリ。 狹衣、四、下三十八「カヤウニ、人ニモ言ハセ奉リ、我レモ、ヘカナキ口遊ニ、あるべかりシ人ノ御事カハ、ナド思ス」

アルボオス (名) 〔英語、[illegible]〕 消毒劑ノ名。帶黄白色ノ固體狀ノ物質ニシテ、水ニ溶ケ易ク、樟腦ニ似タル強キ臭氣アリ。

あるみ (名)　荒海　荒海ノ條ヲ見ヨ。

アルミ (名) 次條ヲ見ヨ。

アルミニウム (名) 〔英語、Aluminium.〕 金屬ノ名。色白クシテ、輕ク軟カナリ、延性、展性ニ富ミ、空氣中ニテ光澤ヲ失ハザレド、強ク熱スレバ、酸化物トナル、加工、容易ナレバ、種種ノ器物ニ製セラル。此金屬ノ三四分、乃至、一割二三分ト、銅ト、合金シタルヲ、あるみ銅ト云フ、黄色ニシテ堅シ。

あるめかし (形) あるべかしヲ見ヨ。

あるものがほ (名)　有物顔　無ナル物ヲ、有ト思ヒ顔ナルコト。 古今集、十九、誹諧「カリソメニ、心ノ宿ト、成レル身ヲ、あるものがほニ、何思フラム」

あるやう (名)　有様　(一)アリサマ。アリヤウ。容子。狀態。 源、四十六、總角「一條ノ宮ノあるやうナド、人ノ語ルヲ思シヤリタマヒテ」 同、二十四、胡蝶十八「世ノ中ノあるやうヲ見知リタマヘバ」 (二)事ノワケ。子細。事由。 宇津保物語、國讓上「た[illegible]、事ノあるやうヲ、委シク聞エタマフ」 同、藏開、下「此源宰相、此殿ニノミオハスレバ、人人、此君ハ、あるやうアリテヤ、カク籠リ居タマヒツラム」

あれ (名)　村　〔在ト通ズルカ、(皂莢、くれかは。やつがり、やつがれ)在處(住地)ノ意ナラムト云フ、倭訓栞、あれ「村ヲ、日本紀ニ訓メルハ、ありかノ義ナルベシ」〕 村ノ古言。 神武紀二「邑有ㇾ君、村有ㇾ長」 私記「安閑」 景行紀、四十年七月「村之無ㇾ長、邑之勿ㇾ首」

あれ (名)　生　〔生るノ名詞形、其條ヲ見ヨ〕 生ルルコト。ウマレ。 神樂歌、韓神「我ガ阿禮ハ、皆人知ラズ、父ガ方、母ガ方トモ、神ゾ知ルラム」

あれ (名)　阿禮　〔奉幣ノ義、あれをさめノ語原ヲ見ヨ〕 例年四月ノ賀茂祭ニ奉ル、大キナル榊、綵帛ヲ垂レタルモノ。コレニツケタル綱ヲ引キユクヲ、あれひきト云フ。御阿禮ノ條ヲ併セ見ヨ。 内藏寮式、賀茂祭「下社、上社、松尾社、社別、阿禮料、五色帛、各六疋、云云、盛二阿禮一料筥、八合」 年中行事秘抄、上「夜半、天曉前子、云云、置二奧山賢木一立二阿禮一、垂二種種綵色一」 貫之集、三「あれ引きニ、引キツレテコソ、チハヤブル、加茂ノ川波、打チワタリケレ」

あれ (名)　荒　荒風ノ、荒レスサブコト。オホアレ。暴風ノ條ヲ見ヨ。 暴風雨「二百十日ノあれ」「八朔ノあれ」

あれ (代)　吾我　〔われ(我)ノ語原ヲ見ヨ〕 自稱ノ代名詞。我ニ同ジ。 古事記、下(仁德)十長歌「阿禮コソハ、世ノ長人」(武内宿禰ノ自稱) [illegible] 元年十一月 [illegible] 萬葉集、十五 [illegible]「我ガ宿ノ、まつノ葉見ツツ、安禮待タム、ハヤ歸リマセ、戀ヒ死ナヌトニ」 催馬樂、[illegible]「安禮ト[illegible]、いるさノ山」

あれ (代)　彼　〔これ、(是)われ(我)ノ語原ヲ見ヨ〕 (一)遠キ物事ヲ指シテ呼ブ代名詞。(これ、それニ對ス) 枕草子、五、五十段「何ノ襌、差出シタルヲ、常ヨリモ惡ク見シ遣リテ居タレバ、あれハ誰ガ料ゾト云ヘバ」 鷺流、狂言記、鬼瓦「六角堂ノ鬼瓦「あれハ、恐イ面體ヂャナア」 (二)他稱ノ代名詞。彼ニ同ジ。(我れニ對ス) 枕草子、一、四段「あれハ誰ソ」 讚岐内侍日記(建長)「アヤシノ姿シタルガ五六人、籠ト云フモノ肘ニカケテ來ル、あれモ、オホヤケノ者ゾカシ」 古今著聞集、十七、變化「一人、西向ノ坪ノ、格子ノ許ニカシコマリテ居タリ、大納言、あれハ何者ゾ、ト問ヒケレバ」

あれ (動) 生る、散る、荒る、又、荒廢る、ヲ見ヨ。

あれ (感)　嗟　〔あらノ轉、其條ヲ見ヨ〕 驚キテ發スル聲。重ネテ、あれあれ。 徒然草、二百三十段「殿上人ドモ、黒戸ニテ碁ヲ打チケルニ、御簾ヲ掲ゲテ見ル者アリ、誰ソト見向キタレバ、狐、人ノヤウニ、ツイヰテ差覗キタルヲ、あれ、狐ヨ、トドヨマレテ、惑ヒ逃ゲニケリ」 [illegible](正平)「[illegible]川ニ溺ヲ人レテ水ニ落ツ「烏帽子バカリ、水ノ上ニ見エケルヲ、あれあれト云フガウチニ、頭バカリ差出シテ、打笑フ」

あれあれ (感) 前條ヲ見ヨ。

あれい (名)　啞鈴　〔英語、Dumb bell.ノ譯語、鈴ノ形シテ、鳴ラズ〕 學校ノ體操ニ用ヰル具。ダンベル。形、ノ如ク、兩手ニ、一箇ヅツ、柄ヲ握リテ振ル、男子用ノモノハ、柄ノ長サ三寸許、球ノ直徑二寸餘、[illegible]、長短、大小アリ、[illegible]、又ハ、[illegible]テ遣ルアリ。

あれしき (名)　[illegible]式　[illegible]ノ條ヲ見ヨ。

あれしやう (名)　荒性　あれる(荒)ノ(二)ヲ見ヨ。

あれた (名)　荒田　打チ捨テテ、耕サヌ田。荒田。發田 [illegible]

あれたつ ツ・テ・タ・チ・テ(自動、四)　荒立　〔立つハ、起ルナリ〕 アラアラシクナッテ、振ヒ動ク。「[illegible]あれたつ[illegible]あれたつ」

あれち (名)　荒地　田畠ノ地ナド、水害、地辷ナドニテ、耕作成ラズ、打チ捨テテアルモノ。荒蕪。 地方凡例錄、荒地之事「地震ニテ搖込ミ、又ハ出水ノ度毎ニ、上土、押流シ、涸渇、地面衰ヘ、手間代モナク、荒シオク類ヲ云フ」(雅文)

あれつかす (動) 次條ノ語ノ敬語。其條ヲ見ヨ。

あれつく ク・ケ・カ・キ・ケ(自動、四)　安禮衝　〔在得附くノ約、(かかりあふ、かからふ)ありつくノ意ナルベシ、其條ヲ見ヨ、(他ノ語原說、背ハルルモノナシ)敬語トシテハ、あれつかすト、佐行四段活用トナルハ、定格ナリ、(聞く、きかす。歎く、なげかす)安禮ハ、阿禮乎止女ノ阿禮ト同ジクテ、奉仕ト云フ意ナリトノ說アリ、(あれをとめノ條ヲ見ヨ)然レドモ、ソレノミニテハ、あれつかすニ通ゼズ〕 宮中ニ住ミツク、臣下ヨリシテハ、奉仕スル意トナル、敬語トシテ

ハ、あれつかす卜云フ。萬葉集、一廿四「藤原ノ、大宮仕ヘ、安禮衝くヤ、（高知るヤ、天飛ぶヤ）少女ガ輩ハ、羨シキロカモ」（持統天皇ノ新京、藤原宮ニ奉仕ノ宮女ニ云ヘリ、板本ニ、末句、之吉召賀聞トアルヲ、古義ニ、乏吉呂トシタリ、ソレニ從フ）同、六四十長歌「八千年ニ、安禮衝之ツツ、（住ミツキタマヒツツ）天ノ下、知シメサムト、百代ニモ、變ハルベカラヌ、大宮處」（聖武天皇ノ山城ノ新京、久邇宮ヲ讃ヘ奉レル詠ナリ）

〔あれ-つ・ぐ・グ・ゲ・ガ・ギ・ゲ（自動、四）［生繼］〔生るノ條ヲ見ヨ〕代代、生レ繼グ。萬葉集、四十二長歌「神代ヨリ、生繼ぎ來レバ、人多ニ、國ニハ滿チテ」

あれ-てい（名）［彼體］〔爲體ノ、體ナリ、是體ト云フ語モアリ〕アノヤウナル狀。平治物語、二、信頼沒落事「金王丸、コレヲ見テ、右衛門殿（信頼）コソ落チサセタマヘ、追駈ケマヰラセムト申セバ、義朝、タダ措ケ、あれ體ノ不覺人、あれハ、ナカナカ軍ガセラレヌゾ」

あれ-ねずみ（名）［荒鼠］荒レクルフ鼠。我ガママニ振舞フ者ニ譬ヘテモ云フ。心中卯月潤色（寶永、近松作）中「家一杯ニ荒鼠、父御ヲタラス、見苦シヤ」

あれ-の（名）［荒野］荒野。人氣遠ク、草生ヒ繁リタル野原。曠野

〔あれ-の-はた（名）［阿禮幡］〔阿禮ハ、奉仕ノ意ナルベシ、あれをとめノ語原ヲ見ヨ〕古ヘ、正月十七日ノ射禮ノ時、豐樂殿ノ庭上ニ建テラレシ幡ノ稱。兵庫寮式「阿禮幡十二旒、各著レ柄、左、第一、紫色、次深緑、次緋、次緑、次黄、次淺緑、右方準レ之」掃部寮式「觀二射豐樂殿ハ、設二阿禮幡北一丈二」

あれ-ば（名）［荒場］歌舞伎芝居ニテ云フ語。修羅場ニ同ジ。

〔あれ-は-たれ-どき（名）［彼誰時］たそがれどきニ同ジ。其條ヲ見ヨ。

〔あれ-は・つ・ツル・ツレ・テ・テ・テヨ（自動、下二）［荒果］全ク荒ル。源、四十八、寄生七十二「あれはつる、朽木ノ許ヲ、宿木ト、思ヒオキケル、ホドノ悲シサ」平家物語、五、月見の事「庭上露茂シ、蓬ガ杣、淺茅ガ原、鳥ノ臥所ト、あれはてテ」

〔あれ-ひき（名）［阿禮引］阿禮、竝ニ、御阿禮ノ條ヲ見ヨ。

〔あれ・ぶ（動）［荒］あらぶ（荒）ヲ見ヨ。

あれ-ほど（副）［彼程］アレクラヰ。アラホド。語彙、あれほど「彼程ニテ、あのやうヰナリ」辨内侍日記（建長）「鞠ハ、美シイモノカナ、あれほど、左衛門督ヲ走ラスルコトヨ」諺草（元祿）六「彼程、あらほどハ誤」

〔あれ-ま・す・ス・セ・サ・シ・セ（自動、四）［生座］〔ある（生）、竝ニ、ます（座）ノ條ヲ見ヨ〕（一）生レタマフ。生リタマフ。アラハレタマフ。神代紀、上三「高天原所生神名、日二天御中主尊一」（二）生レタマフ。誕生マシマス。古事記、中（神武）十二「阿禮坐之御子名、日子八井命」萬葉集、一十六長歌「タマダスキ、（枕）畝傍ノ山ノ、橿原ノ、聖ノ御世ユ、阿禮座しシ、神ノコトゴト」（神武天皇以後、御歷代）同、六四十二長歌「阿禮將座、御子ノ嗣繼」

〔あれ-まど・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ（自動、四）［荒惑］荒レスサブ。源、六、末摘花廿七雪降「イト、アハレニ、サビシウあれまどへるニ、松ノ雪ノミ、イト暖ゲニ、降リツメル、山里ノ心地シテ」花鳥餘情「松ノ雪ハ、白キ綿ヲムシリタルヤウナレバ、あたたかげなるト云フニヤ」同、四十六、總角八十三「風、イタク吹キテ、雪ノ降ルサマ、アワタダシウあれまどふ」

あれ-や（名）［荒屋］荒レタル家。アバラヤ。爲忠集「葎ハフ、あれやノ月ヲ、ナガムレバ、風ハラハラト、影モスサマジ」

〔あれ-ゆ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ（自動、四）［荒行］荒レナガラニ、年月ヲ經。萬葉集、六四十二「ナツキニシ、奈良ノ都ノ、荒行けバ、出立ツゴトニ、歎キシマサル」平家物語、五、都うつりの事「軒ヲ爭ヒシ人ノ住居、日ヲ經ツツあれゆきテ、云云、タダナリニ、花ノ都ハ、田舍ニナルコソ悲シケレ」

❖あ・れる・レル・レレ・レ・レ・レヨ（自動、下二）［荒］（一）ある（荒）、ある（荒廢）ノ口語。（二）肌理、粗糙トナル。冬時、皮膚ニ起ルコトニテ、膩乏シクナリテ、皸裂ナドトナルコトナリ。人ノ、此性質ナルヲ、荒性ト云フ。

あれ-わた・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）［荒亙］廣ク荒レテ見ユ。新古今集、十七、雜、上「あれわたる、秋ノ庭コソ、アハレナレ、マシテ消エナム、露ノ夕暮」

〔あれ-をとこ（名）［阿禮男］次條ヲ見ヨ。

〔あれ-をとめ（名）［阿禮少女］〔あれつく少女ノ中略ナルベシ、（うまはり子、うま子）即チ、奉仕女ノ意ナリ、あれつくノ條ヲ見ヨ、齋宮ノ、齋くモ、あれつくノ意トナル、此阿禮ト云フ語、スベテ、奉仕、奉祭、奉幣ノ意ニ用ヰラル、阿禮、御阿禮、阿禮の幡、ノ各條ヲ見ヨ〕賀茂ノ齋宮内親王ノ異稱。類聚國史、五、天長八年十二月、賀茂ノ齋内親王ヲ替ヘタマフ「皇太神ノ阿禮乎止賣ニ、云云、時子女王ヲト定メテ進狀ヲ」三代實錄、三十、元慶元年二月、賀茂齋内親王ヲト「可レ令レ奉レ仕キ物ナリト爲テナモ、敦子内親王ヲト定メテ、阿禮乎度女ニ進狀ヲ」又、阿禮男ト云フアリ、賀茂祭ノ祭主ノ稱ナリト云フ。朝野群載、十二、賀茂祭、宣命「阿禮乎止己、阿禮乎止女、走馬進ラルト申ス」

❖あろ（句）あらう（將有）ヲ見ヨ。

〔あろ-じ（名）［主］あるじヲ見ヨ。

あ-わ（名）［泡沫］「空丸ノ略轉カ、雨沫モ、空形ナルベシ、（空、むろ、うろ。みづかさ、みかさ。旨し、甘し）法華經、隨喜功德品「世皆不二牢固一、如二水沫泡焰一」」（一）〔水中ニ、空氣ヲ含ミテ、圓ク脹レアガレルモノ。忽ニ破ルル故ニ、消エヤスキモノニ云フ。ウタカタ。ミナツボ。ミツボ。アブク。氣泡。神代紀、上三「沫、阿和」靈異記、下、第十八緣「漚、阿和」古今集、十五、戀、五「水ノあわノ、消エテうき身ト、言ヒナガラ、流レテナホモ、頼マルルカナ」（流れてヲ、存命へてニカケタリ）源、三十五、柏木廿六「あわノ消入ルヤウニテ、失セタマヒヌ」（柏木ノ死ニ云フ）（二）〔沫緒ノ略。其條ヲ見ヨ。（三）硝子ノ中ニ生ジタル空虛。氣眼（四）口沫ノ略。其條ヲ見ヨ。（五）あわをくふ、又、あわをふくハ、各條、及ビ、あわつヲ見ヨ。

あわ-いと（名）［沫絲］沫緒ノ條ヲ見ヨ。

あわ-きり（名）［泡切］茶筅ノ穗ノ心。茶道ニテ、末茶ヲ湯ニ點テテ、泡ノ立テルヲ、コレニテ、茶碗ノ内ヲ、左ヨリ右ニ引キ、泡ヲ消シテ、茶ノ色ヲ見ル。

〔あわ-さ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ（自動、四）［沫咲］沫、起チ出ヅ。沫立ツ。古事記、上六十二「猨田毘古神「沈二溺海鹽一云云、其阿和佐久時名、謂二阿和佐久御魂一」記傳「阿和佐久ハ、沫咲ナリ、沫ノ起出ヅルヲ云フ」神代紀、下廿一「秀起浪穗」秀起、此云二左岐陀豆屢一」

〔あわ-しほ（名）［沫鹽］〔堅鹽ニ對シテ云フ語、沫雪ト、同趣ノ語ナリ、其條ノ語原ヲ見ヨ〕人人ノ、常ニ食用トスル鹽ノ古言。食鹽。燒鹽ヲ、堅鹽ト云ヘリ。本草和名、上九「鹵鹹、煎レ鹽釜下凝滓也、人常所レ食也、阿和之保」倭名抄、十六八十「鹽梅類「白鹽、人常所

食也、阿和之保」

あわただ・し・シキ・シケレ・シク・シク（形、二）［匆忙、忙然］［あわだたし（あわたて）しノ轉ナルカ、（轉、うたた）或ハ、泡立しノ未然形ナルカ、（おぼたたし）其條ノ語原ヲ併セ見ヨ］俄ナル事ニ周章テテ、心忙シ。 宇津保物語、藏開、下「あわただしきを心ニテ、［illegible］言リメレバ、［illegible］、トアハセタリツレバ、心あわただしくテ」［illegible］、二十三、［illegible］心あわただしき［illegible］ニ、［illegible］ヒ騒リタマヒメ」

あわだ・つ・ツ・テ・タ・チ・テ（自動、四）［泡立］泡、起ル。［末茶ガあわだつ、茶筒ガあわだつ」

あわ・つ・ツル・ツレ・テ・テ・テヨ（自動、下二）［狼狽、周章］［倭訓栞、あわてる、日本紀ニ、急字、遑字ヲ訓メリ、沫立ノ意ヲ轉用セルナルベシ」（あわさくノ條ヲ參見セヨ）然ラバ、沫ヲ活用セシメシ語カ、沫つ（澆）ト云フ語モアリ、急雨ノ庭潦ニ、沫ノ立ツガ如ク、心ノ躍ル意ナルニヤ、倘、考フベシ］俄ニ驚キテ、騷ギ惑フ。ウロタヘサワグ。トチメク。アタフタス。（とちめんぼうノ條ヲ參見セヨ） 欽明紀、十五年十二月［illegible］、不［illegible］一字鏡［illegible］、安［illegible］」伊勢物語、四十段［illegible］絶エ入リニケリ、親、あわてニケリ」（人ノ、氣絶シタルナリ） 源、五十、浮舟廿「火、暗ウナセ、ト宣ヘバ、アナ、イミジト、あわて惑ヒテ、火ハトリヤリツ」 倭訓栞、あはてる「文選ニ、周章ヲ訓メリ」俗ニ、あわを食ふト云フあわハ、狼狽ノ下略ナリ、（笑壺、ゑつに入る）食ふハ、出合ノ意ナリ、（不意ヲ食ふ）ウロタヘサワグヲ云フ。（あわを噴かすト云フハ、口沫ノ條ヲ見ヨ） 俚言集覽、あわをくふ「驚キアワテタルサマヲ云フ」

あわつぶ（名）［泡粒］水ノ泡ヲ、粒形ヲナセルニ就キテ云フ語。ミナツボ。ミツボ。 ［illegible］、あわつぶ［illegible］ナスヲ、［illegible］ト云フ也」

あわて・ふため・く・ク・ケ・カ・キ・ケ（自動、四）［狼狽］［ふためくハ、はためくノ轉、略シテ、あたふたトナル］狼狽テテ立チ舞フ。アワタダシク立騷グ。アタフタス。 ［illegible］集、十六、［illegible］、あわてふためきテ［illegible］リタリケルニ」

あわてもの（名）［狼狽者］アワテ騷グ者。トモスレバ、ウロタヘヤスキ人。 ［illegible］、あわてもの「物ニ驚キテ、心落チツカヌ者ヲ云フ」

あわ・てる（自動）［狼狽］あわつ（狼狽）ノ口語。

あわふきむし（名）［泡吹蟲］昆蟲［illegible］二類シテ、身長二三分、夏ノ初、草木ノ枝葉ノ間ニ生ジ、腹部ヨリ口沫ノ如キ液ヲ分泌シテ、其中ニ棲ム、老熟スレバ、羽化ス。蟬蟲。 俚言集覽、あわふきむし「ツバキムシ、山茶ナドノ枝葉ノ間ニ生ジ、泡沫ヲ出シ、其中ニ棲ム小蟲ナリ、後、羽化シテ、くさぜみトナル」（山茶ハ、誤レリ）

あわぶく（名）［口沫］［沫吹くノ義、口沫ヲ吹き出スナリ、あぶくト云フハ、約メテ云フナリ、（さわだつ、さだつ）終止形ヲ名詞トス、糞拭（廁）ト云フ語モアリ、沖繩ニテ、あわぶく、駿河ニテ、ぶくぶくト云フ］（一）口沫ニ同ジ。唾ノ沫。あぶく。 ［illegible］（明和）「口［illegible］ヨリ、あわぶく垂リテ物言ヘバ、イカニウツクシキ口ツキモ、アシクナリ［illegible］」（二）水ノ沫ヲ、［illegible］、トモ云フ。

あわゆき（名）［沫雪］［雪ヲ、其脆キニ就キテ、沫ニ比シテ云フ語ナリ、（白キニ就キテハ、白雪ト云フ）［illegible］一切經［illegible］、淡雪ハ、春ノ物ニ云ヒ、萬葉集ノ歌ニ多ク詠ゼシ沫雪ハ、冬ニ云ヘルガ多シ」雪ヲ、其質ノヤハラカキニ就キテ云フ語。あはゆき（淡雪）ノ條ヲ併セ見ヨ。 ［illegible］萬葉集、八［illegible］「十二月ニハ、沫雪降ルト、知ラネカモ、梅ノ花咲ク、含メラズシテ」［illegible］、比日ノ［illegible］ギテ、カク降ラバ、梅ノ初花、散リカ過ギナム」（以上、二首共ニ、冬十二月ノ詠ナリ）

あわわ（名）小兒ノスルワザ。口ヲ開キ、手ノ平ニテ、口ヲ叩キツツ、あノ聲ヲ發ス。 嬉遊笑覧（寛永）「蕨手ハ、あははヲスルカ、山ノ口」長唄、童子［illegible］面かぶり（明和）「トカク、子供タチヤ、イタイケガ、ヨイモノヂャ、云云、てうち、てうち、あわわ、かぶりかぶりシ」 倭訓栞、あはわ「小兒ニ教ヘテ、物ヲ言ヒナラハセルニ、口ヲタタキテ、カク云フ」

あわわのさんたらう（名）［阿房三太郎］［あはう（阿房）ノ語原ヲ見ヨ、丁稚ヲ、三太ト云フ、丁稚ハ、惡戲スルニ因リテ云フナルベシ、三太ノ語原ヲモ見ヨ」愚者ノ稱名。 おほうつけ、三太郎ナドトモ云フ。痴漢 川柳「芥川、本ノあははの、三太郎」（日本［illegible］名［illegible］、在原業平ガ、連レ出シタル婦人ヲ、芥川ニテ奪ヒ返サレタルヲ云フ）

あわを（名）［沫緖］［［illegible］（安政、黑川春村）二云、沫緖ハ、所謂、今ノうち紐トモ云フモノノ如キ、中ノ虚ニシテ、［illegible］ナルベシ、打紐ノ中ノ虚ニシテ、組眼レタルヲ、水ノ沫ニ比シテ云ヘルカ、山彦冊子カカル紐モアリシナルベシ、山彦冊子ノ卷三ノ說ノ如キハ、「堅ナリ」一種ノ紐ノ名。 ［illegible］集、［illegible］「玉緖ヲ、沫緖ニ縒リテ、結ベラバ、アリテ後ニモ、逢ハザラメヤモ」（玉緖ハ、魂緖ニテ、生命ナリ、結ブト云フ事ヲ云ハンタメニ、沫緖トシテ二解ル、［illegible］ノ［illegible］ル歌ハ、皆此歌ヲ據トシテ、沫ノ解ケヤスキヲ、緖ノ解ケヤスキニ寄セテ云ヘリ、あわトノミモ云ヒ、あわ緖ナドトモ云フ） 伊勢物語、三十五段、昔シ、男、心ニモアラデ、絶エタル人ノ許ニ「玉緖ヲ、沫緖ニ縒リテ、結ベレバ、絶エテノ後モ、逢ハムトゾ思フ」 ［illegible］之集、上「春來レバ、瀧ノ白絲、イカナレバ、結ベドモナホ、あわニ［illegible］、［illegible］シ、瀧ノ白絲、［illegible］レバ、［illegible］リ」 枕草子、五、四十六段「薄氷、あわニ結ベル、紐ナレバ、カザス日影ニ、ユルブバカリゾ」 堀河百首、［illegible］、片思「あわ緖ノ、［illegible］リモ合ハセズ、［illegible］ルモ、誰レ故ゾソモ」

あわをくふ（句）［あわハ、あわつノ語根、食ふハ、出合フ意（すややくふ、けんつくをくふ）］狼狽ツベキ場合ニ會フ（とちめんぼうノ條ヲ見セヨ） ［illegible］、あわをくふ「驚キアワテル［illegible］ヲ云フ」

あわをふかす（句）［吹泡］次條ヲ見ヨ

あわをふく（句）［吹沫］口沫ヲ噴キ出ス。口泡ヲ、あわぶく、（名詞）ス、あぶくト云フ、其條ヲ見ヨ。他動詞ニシテ、あわをふかすト云フハ、人ヲ苦シムルヲ云フ、人、甚シク苦シム時ハ、口沫をふくナリ。 著聞集、十、相撲強力「タダ縮メニ縮メマサリケレバ、［illegible］、あわをふきテ、［illegible］ナムトシケリ」［illegible］（［illegible］）［illegible］、見ヨ、［illegible］ニ［illegible］

かぜ、眞兵二誘ノ明代トナシ一伊賀越道中雙六（天明、近松半二）二藏方ヨリ吾セヌサキ、コチテニ逆害セシテ、上杉二泡ふかせム」

あゐ (名) [藍] 「東雅、十五「藍、あゐハ、青ノ轉語也」(居り、居る)倭訓栞、あゐ「青キ汁ノ居ルモノ」(青居、あゐ。青麻、あさ。薫、かをり。雲居、基居)我邦ニ野生ノアリテ、染料トセリ、サルニ、今、單ニ、あゐト云フハ、藥用ノタメニ外國種ヲ渡シタルナリ、外來ノ當時ハ、其葉、蓼ニ似タレバ、固有ノあゐニ別チテ、蓼藍ト名ヅケ、隨ッテ固有ノあゐニ、山藍ノ名ヲ生ジ、後ニハ、たであゐノ、染色ノ勝レタルニ因リ、あゐノ名ヲ専ラニセシナラム、(生薑モ、舶來ノ時ハ、呉の椒ト云ヒシガ、後ニハ、はじかみノ名ヲ専ラニセリ)蓼藍ト云フハ、本草ニ見ユレド、藍澱ニナラズトアレバ、文字ノ、國語ト偶合シタルニテ、同ジカラズ」(一)〔蓼科ノ草ノ名。又、蓼藍。高サ一二尺、莖ニ紅色ヲ帶ブ、枝多シ、葉ハ互生シ、形橢圓ニシテ、深緑ナリ、夏、枝梢毎ニ、穗ヲナシテ、細花ヲ開ク、蓼ノ花ニ似テ、桃色ナリ、花衰ヘテ、子ヲ結ブ、藥用トス、葉ヲ、藍色ノ染料トス。陸田ニ栽培ス。又、水田ニ作ルモノハ、京都地方ニアリ、水藍ト云フ。享保年中、支那ヨリ渡セルニ、江南ノ大青ト、浙江ノ大青ト、ノ二種アリ、其性、稍、異ナリ。字鏡「藍、染草、阿井」本草和名、上「藍實、阿為乃美、蓼藍、不レ憚レ腐レ澱」倭名抄、十四「染色具、藍、染草也、蓼藍、日本本草ハ多天阿井」内膳式「營二藍陸田一料、陸田五町」吾妻鏡、三十二、暦仁元年五月十一日「河内國、藍御作手奉行」(二)〔藍草ヨリ製スル、藍色ノ染料ノ名。葉ヲ刻ミ、干シテ、數日ノ間、莚ヲ覆ヒテ返ス、コレヲ染ト云フ、又、少シ水ヲ和シテ搗キテ、塊メタルヲ、玉藍、又、藍玉ト云フ、(製造法、今ハ種種ナリ)是レ等ヲ染料トシ、又、繪具、其外、種種ニ用キラル、青空ノ色ヨリ濃ク、紺色ヨリハ淺シ。藍靛 延喜式、縫殿寮、靑染用度、淺藍一疋、藍半圍」和漢三才圖會、九十四、末「藍靛、能採、以二麁師一去二莖葉一、每一年黃、俗名二藍、又、末レ經レ藍者、白浸、丸如レ瓷、俗名二玉藍一」(三)次條ノ語ノ略。(四)藍よりも濃しト云フハ、藍靛ノ色ハ、藍草ヨリ製セラレテ、藍草ノ色ヨリモ濃シト云フニテ、尋常ノ人モ、學問スレバ、拔群ノ人トナル意ニ云フ。移シテハ、弟子ノ、師ヨリ優リ、子ノ、父ヨリ、新代ノ、古代ヨリ勝ルルナドニ云フ。荀子、勸學篇「學不レ可三以已一、青取三之於藍一、而青三於藍一」(註、以レ喩下學則才過中其本性上也)云云、不レ肖二於先王之遺言一、不レ知二學問之大一也」史記、三王世家「青采出二於藍一、而質青二於藍一者、教使レ然也」靑采ハ、染料ニ製セルモノヲ云ヒ、藍ハ、藍草ヲ云フ」異本山家集、郭公「青ノ、古巢ヨリ立ツ、ホトトギス、あゐよりも濃き、聲ノ色カナ」萬代集、十六、雜、三「古ヘノ、あゐよりも濃き、御代ナレヤ、淺緑ノ、色ヲ見ルニモ」異本拾玉集、皇ノ、千歳ノ松ノ、春ノ色、あゐよりも濃く、染ム心カナ」

あゐいろ (名) [藍色] 藍染ノ色。青ノ、極メテ濃キモノ。紺色ノ、稍淡キモノ。常ニ略シテ、藍トノミ云フ。「あゐノ羽織」

あゐがは (名) [藍革] 鹿ノなめし革ヲ、藍ニテ染メタルモノ。又、あをかは。あゐなめし。あをなめし。鎧ノ緘毛、太刀ノ足革、弓小手、ナドニ用キラレ、模様ヲ染メタルアリ、菖蒲革ナド、是レナリ。倭名抄、下、毛革「無文藍革、青韋」同「毛革類、青韋、無文青革、青韋也」世俗淺深秘抄、下「東宮羈裝、云云、裝束青滑革」同「節會、云云、藍奈女志」

あゐがへし (名) [藍返] 〔染返ナリ、黃がへしト同意ノ語〕染物ノ名。小紋ナドノアル上ヲ、更ニ藍ニテ染メタルモノ。

あゐがみ (名) [藍紙] つゆくさノ汁ニテ染メタル紙。コンガミ。アヲガミ。近江ノ栗太郡、山田村ノ産ナルハ、一種ノ花ノ大キナルモノヲ用キテ、名アリキ。其草ハ、冬、種ヲ下シ、春ノ末ニ、移シ植エ、夏、花ヲ開ク、其花瓣ノ汁ヲ榨リテ染ム、繪具トモシタリ。

あゐがめ (名) [藍瓶] 又、アキツボ。藍染ノ藍水ヲ貯フル瓶。紺屋ニテ用キル。瓶、數箇ヲ並ベテ、半ヲ土中ニ埋メ、其間ヲ漆喰ニテ固メ、其下ニ、藍水ニ温度ヲ與フル装置ヲナス。[靛缸]

あゐがめやく (名) [藍瓶役] 往時、紺屋ノ用キル藍瓶ニ課セラレタル税。又、藍役。紺屋役。壬生家文書、一、享元元年十二月(鎌倉時代)「可レ停三止藍役一事「右、件藍、國衙之昔、云云、領家已令二免除一畢、云云、宜レ令三停止一也」享保集成絲綸錄、三十六、寛文八年十月「紺屋藍瓶役之事、任二天正二十年二月晦日、云云、御朱印之旨ハ云云、藍瓶壹口ニ付、米一斗ヅツ、令二收納一云云、自今以後ハ、相二定鳥目貳百文一候訖」地方凡例錄、五「紺屋役ハ、云云、藍瓶ニ掛ケ、役錢差出スニ付、藍瓶役ト云フ」

あゐぐま (名) [藍隈] 隈取ノ條ヲ見ヨ。アヲグマ。

あゐけねずみ (名) [藍氣鼠] 〔ねずみハ、ねずみいろノ下略〕染色ノ名、ねずみいろニ、藍ノ色ヲ帶ビタルモノ。アキネズミ。染物早指南「藍氣鼠、灰墨少少、唐藍同斷、明礬水、豆汁、藍蛋白、唐藍、藍ボチリ、カラシ水、豆汁」(古事類苑、産業、一、染法)

あゐざめ (名) [藍鮫] あをざめ(青鮫)ヲ見ヨ。

あゐしる (名) [藍瀋] 〔藍汁ノ義〕藍草ノ、刻ミテ乾シタルヲ、瓶ニ入レ水ニ浸シ、石灰ヲ入レ、能ク攪キマゼ、澄シテ水ヲ去リ、底ニ沈ミタル青黑色ナルモノ。コレヲ藍染ノ料トス。倭名抄、十四「染色具、藍澱、阿井之流、說文云、澱、滓也」本草綱目二藍、末作レ澱、俗作レ靛」

あゐずみ (名) [藍墨] あゐらふずみ(藍蠟墨)ヲ見ヨ。

あゐずり (名) [藍摺] 〔あをずりノ條ヲ見ヨ〕布帛ニ、山藍ニテ、花鳥ナドノ模様ヲ摺リツケ染メタルモノ。アヲズリ。萬葉集、九、長歌「山藍持チ、摺れる衣着テ」貞觀式「藍摺綿袍」人車記、保元三年八月十七日、御厩舍人裝束「藍摺袴」

あゐずりゑ (名) [藍摺繪] 錦繪ノ一種、藍色ノミニテ、彩色摺ニシタルモノ。文政年間以後ノ出版ナリト云フ。

あゐぞめ (名) [藍染] 藍ニテ布帛ヲ染ムルコト。コレヲ業トスル者ヲ、藍染屋ト云ヒ、略シテ、藍屋、又、染屋ト云フ、後ニハ、專ラ、紺屋、こうや、トナレリ。(青屋ヲ參見セヨ) 大名出仕記「藍染小袖」京都御役所向大概覺書、二「洛中、洛外、藍染屋之事、家數二百三十二軒、正德六年改」(古事類苑) 雍州府志(天和)八、悲田寺「所レ在二洛内外一之紺屋、以二藍汁一染二衣服一者、稱二藍屋一、如今、紺屋稱二染屋之通稱一」

あゐたけ (名) [藍茸] 菌ノ名。蓋ハ、厚

クシテ、(三)二三寸、(四)ハ、一二三寸、[illegible]ハ[illegible]色ナル、食フベシ、味、淡シ。

あゐだま (名) 【藍玉】 藍ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。

あゐつぼ (名) 【藍壺】 あゐがめニ同ジ。

あゐなめし (名) 【藍革】 〔なめしハ、なめし革ノ下略(あゐねずみいろ、あゐねずみ)〕 あゐがは(藍革)ヲ見ヨ。

あゐねずみ (名) 【藍鼠】 あゐけねずみヲ見ヨ。

あゐばな (名) 【藍花】 つゆくさノ古名。(其條ヲ見ヨ)ツキクサ。鴨跖草

あゐぼう (名) 【藍棒】 あゐらふずみヲ見ヨ。

あゐみるちゃ (名) 【藍海松茶】 染色ノ名、茶色ニ藍氣アルモノ。 倭訓栞、後編、あゐみるちや「藍海松茶ノ義」俗語考(橘守部)「或書云、藍見茶ト云フ染色ハ、其初すみる茶ト云ヘリ、ソハ、松羅ノ實ノ綿ノ色、皆此色ニ染メテ舶來セシ故ノ名也、是ヲ京師ノ染屋ニテ、摸擬シ染出デシ後、海松ノ色ト思ヒ混ヘテ、藍海松ト云ヒ出デシカ、又、常ノ茶ニ少シ藍ヲ見セタル樣ナル故ニ、藍見茶ト心得タルカ」

あゐや (名) 【藍屋】 あゐぞめヲ見ヨ。

あゐやく (名) 【藍役】 あゐがめやくヲ見ヨ。

あゐらふ (名) 【藍蠟】 〔質、蠟ノ如シトテ云フナルカ〕 藍澱ヲ作ル時、藍瓶ノ上ニ浮キタル泡ヲ取リテ、陰干ニシタルモノ、繪具トス。 青黛 靛花 今、多クハ、故キ藍染ノ布ヲ集メテ、煮テ取ル。

あゐらふずみ (名) 【藍蠟墨】 藍蠟ヲ、墨ノ形ニ作リタルモノ。大筆ノ軸ノ如シ、繪具トス。アキズミ。アヲズミ。藍棒。 靛墨 青黛墨

あを (名) 【青】 〔倭名抄、九「青木、安乎木」〕 (一)〔七色ノ一〕晴天ノ空ノ如キ色。「青雲」「青黄」 (二)〔二〕青、綠ノ泛稱。萬葉集、二十五「水鳥ノ、鴨ノ羽色ノ、青馬ヲ、云云」「青海」「青貝」「青銭」「青蠅」「青蛙」「青草」「青葉」 (三)六位ノ位袍ノ、深縹ナルヲ云フ。「青侍」(八雲御抄、三、下「六位、あをきころも」) (四)青毛ノ馬ノ略。其條ヲ見ヨ。 (五)未熟ノ果實。「青梅」「青杏」 (六)人柄、技前ノ、未熟ナルコト。「青道心」「青書生」「青二歳」(なまなまノ博士)

あを (名) 【襖】 〔玉篇「襖、烏老切、袍也」允恭紀、五年七月「甲服、襖中ニ」字鏡、八「襖、袴也(袍ノ誤)古己呂毛」(小衣ナルカ)字音假字用格(安永、本居宣長)ニ、あう、襖、和名抄ニ、襖子ヲ阿乎之トアルハ、うノ韻ヲ、をニ轉ジテ、御國言ノ如ク言ヒナセル例ナリ」トアリ、芭蕉、はせを。紅梅、こをばいナドハ、歌ノ物名ニ詠ミコミタルナレバ、國語ニ言做セルトモ言ハルベケレド、消息、せをそこ。簫、せを。刀、鳩。(以上、各條ヲ見ヨ)又、江談抄、二、相通名「紀長谷雄、發昭」ナドモアリ、漢呉音徵(文化、太田方)廿五「襖、倭名鈔、襖子、阿乎之、愚按、あうヲあをトスルハ、脣内音ナル故ニ、和行ノ通ナリ、蕉字モ同ジ」備字例(天保、關藤政方)「豪、爻、宵、蕭、ノ韻ノうハ、和行ノうナリ」トアリ、然レドモ、漢字ノ韻ノ、うナルモノ數多アルニ、古書中ニ、をトシタルモノ數語アルノミ、[illegible]然ラズ、[illegible]、[illegible]スベキナリ、芭蕉ノ現今ノ字音ハ、はせう、おナリト聞ク、漢口、青島ナドモアリ、又、[illegible]ヲさえ、才、財、ヲざえ、弟ヲてえ、倭ヲねえ、[illegible]ヲはえ、表背(表裝)ヲへうほい(宋音カ)、へうほえナドアリ、何レモ漢字音ナリ、音轉ナルカ、是レ等數語ニ限リテ轉ズト云フモ、異ナモノニテ、研究ノ問題ナリ、暫ク、アヅカリオク」 (一)衞府ノ武官ノ、儀仗ノ日ニ着用スル、闕腋ノ袍ノ稱。襴ナク、尻長シ、綾ニテ製シ、裏アリ、綿ヲ入ル。位階ニ因リテ、染色ニ制アレバ、位襖トモ云フ。(位袍ト同ジ)表服令「武官禮服、位襖」集解「位襖、[illegible]之也」 儀式、六、元正朝賀儀「近衞大將著[illegible]」衞門府式、大儀「督著[illegible]襖」近衞府式、中儀、少將已上、並著位襖」 (二)かりあを(狩襖)ヲ上略シテ、あをトノミ云ヒ、あを(襖子)ヲ下略シテ、あをトモ云フ、各條ヲ見ヨ。

あをあかざ (名) 【青藜】 あかざノ條ヲ見ヨ。

あをあづき (名) 【青小豆】 やへなりヲ見ヨ。

あをあぶ (名) 【青蝱】 あぶノ條ヲ見ヨ。

あをあへ (名) 【青和】 鱠ナド、青豆ヲ擂リテ韲ヘタルモノ。 料理物語(寛永)鱠「煎海鼠ヲ、能ク湯煮シテ、ダシタマリニテ能ク煮候フテ、あをまめヲスリ、和カゲンシテ、あへ申ス事也」

あをアン (名) 【青餡】 白餡ニ、青粉ヲマゼタルモノ。

あをあらし (名) 【青嵐】 [illegible]タル青嵐モ、折知リ顏ニ、イトスサマジ」謡曲、あをあらし「青葉ヲ吹キワタル風ナリ」

あをあをと (副) 【青青】 [illegible]「[illegible]ノ木末、あをあを[illegible]」

あをい (名) 「青い物ノ略ナルベシ」 [illegible]ノ、女房詞。 [illegible]「[illegible]、あをい」

あをいき (名) 【青息】 〔顏青ザメテツク息ノ意カ、吐息トイフハ、青反吐ト通ズルカ〕 苦心シテ、息ツクコト。 [illegible]

あをいし (名) 【青石】 庭石ナドニ用ヰル、色ノ青キ石。伊豫產ノモノ、其質、密ニシテ滑ラカニ、色濃シ、最上トス、紀伊產ノモノハ、色、稍淡クシテ、粗糙ナリ。

あをいたコブ (名) 【青板昆布】 昆布ヲ、長サ一尺五寸、幅二寸餘ニ切リソロヘ、丹礬、又ハ、綠礬ヲ溶シタル水ニテ煮テ、乾カシタルモノ。昆布卷ナドニ用ヰル。又、あをこぶ。

あをいろ (名) 【青色袍】 〔青色ハ、[illegible]ナリ、麴塵ノ條ヲ見ヨ〕 麴塵ノ御袍ノ異稱。至尊ノ御服ナリ、サレド、近侍ノ臣、賜ハレバ着ルヲ得ルナリ。西宮記、十六、禪「青色、帝王、及、公卿已下侍臣、聽レ便服レ之」西三條

裝束抄「麴塵袍、黃櫨、青色ハ、天子ノ御袍ナリ、云云、但、藏人是ヲ著ス、云云、拜領ノ由ナリ」枕草子、五、四十五段「六位ノ藏人、云云、イミジキ君達ナレドモ、エシモ着タマハヌ綾織物ヲ、心ニマカセテ着タルあをいろ姿ナド、イトメデタキナリ」

あをうきくさ (名) 【青浮草】 うきくさ(浮草)ノ條ヲ見ヨ。

あをうなばら (名) 【青海原】 〔うなばらヲ見ヨ〕 海原ヲ、蒼蒼ト廣ク見ユルニツキテ云フ語。アヲウミ。滄溟　神代紀、上、「滄溟」同卷「滄海原」萬葉集、二十、六十二「阿乎宇奈波良、風波ナビキ、往クサ來サ、愼ムコトナク、船ハ疾ケム」新年祭祝詞「青海原住物者、鰭廣物、鰭狹物」土佐日記、正月二十日「あをうなばら、振リサケ見レバ、春日ナル、三笠ノ山ニ、出デシ月カモ」

あをうま (名) 【青馬】 (一)青毛ノ馬。クロミドリ。又、青駒。續紀、廿九、神護景雲二年九月「得二肥後國所レ獻青馬白髮尾一」(節文) 萬葉集、二十、三十三「青駒ノ、足搔ヲハヤミ、雲居ニゾ、妹ガアタリヲ、過ギテ來ニケル」同、二十、五十「水鳥ノ、鴨ノ羽色ノ、青馬ヲ」後世ハ、專ラ黑毛ノ馬ヲ、あをうまト云ヒ、單ニ、あをトノミモ云フ。あをげ(青毛)ノ條ヲ見ヨ。(二)青、白、雜毛ノ馬ヲモ云フ。字鏡、三十「驄、騘、馬、白色、又、青色、阿乎支馬」倭名抄、十一、三「說文云、驄、青、白、雜毛馬也、漢語抄云、驄、青馬也」(三)次條ヲ見ヨ。

あをうまのせちゑ (名) 【白馬節會】 〔此儀式ニ、初ハ、青毛馬ヲ牽カセラレキ、(前條ヲ見ヨ)馬ハ、陽獸ニシテ、青ハ、青陽ノ春ノ色ナリ、ト云フニ起レル事ナルベシ、倭訓栞、あをうま「禮記ニ、春ヲ東郊ニ迎ヘテ、青馬七尺ヲ用フト見エタリ」玉勝間、十三「貞觀儀式ニハ、青

岐馬トサヘアリ、初ハ、青馬ヲ牽カセラレタルニ、後ニ白毛ノ馬トナリ、文ニハ白馬ト書キナガラ、語ニハ、ナホ、古ヘノママニ、あをうまト訓メリシナリ」山背國ヲ、山城國ト改メラレシニ、尙、舊稱ニテ、やましろト云フ、同例ナリ〕 陰曆正月七日ニ行ハセラレシ節會。又、白馬の宴。此日、先ヅ、青馬御覽ノ儀式アリ、馬寮ノ御監ヨリ、馬ノ毛附ヲ奏聞ス、コレヲ、あをうまの奏ト云フ、左右ノ馬寮ノ官人、あをうまの陣(春華門內)ニ竝ビ、次第ニ、七疋ヅツ、三度、牽キヲタス、主上、正殿ニ出御アリテ、御覽ゼラル、春ノ陽氣ヲ助クルナリト云フ、然ル後ニ、節會アルナリ。萬葉集、二十、三十八「天平寶字二年正月七日、侍宴ノ詠「水鳥ノ、鴨ノ羽色ノ、(序)青馬ヲ、今日見ル人ハ、彊(命ノ)ナシト云フ」續後紀、三、承和元年正月戊午(七日)「天皇御二豐樂殿一、覽二青馬一、宴二群臣一」文德實錄、四、仁壽二年正月甲戌(七日)「幸二豐樂院一、以覽二青馬一、助二陽氣一也、賜二宴群臣一、如レ常」儀式、七、青馬儀、宣命「常毛見留、青岐馬見太萬閇」內裏式、上、正月七日「左右馬寮、引二青馬一入レ自二延明門一」土佐日記、承平五年正月七日「七日ニナリヌ、同ジ湊ニアリ、今日ハ、あをうまヲ思ヘド、カヒナシ、唯、波ノ白キゾ見ユル」(土佐守從泊中ノ事ナリ、朱雀天皇ノ承平年中、旣ニ、白毛ノ馬トナレルヲ知ル) 紀略、後篇、三、天曆元年正月七日「白馬宴」年中行事祕抄、正月七日「十節錄云、馬性以レ白爲レ本、云云、是日見二白馬一、卽、年中邪氣、遠去不レ來」是レ等ノ說ニ因リテ、白毛ノ馬ニ移リタルカト云フ。玉海、治承四年正月七日「白馬節會也」北山抄、一、正月七日節會「左右御監、進二白馬奏一」拾芥抄、中、末「春華門、謂二之白馬陣一」

あをうまのそう (名) 【白馬奏】 前條ヲ見ヨ。

あをうまのぢん (名) 【白馬陣】 前前條ヲ見ヨ。

あをうみ (名) 【青海】 〔あをみト云フハ、約ナリ(近江の海、あふみのみ)〕 海ヲ、其色ノ蒼キニツキテ云フ語。アヲウナバラ。又、あをみ。蒼海　倭名抄、五、六「參河國碧海郡、阿乎美」千載集、七、雜別「敎ヘオク、カタミヲ深ク、シノバナム、身ハあをうみノ、波ニ流レヌ」(コレハ、舞樂ノ樂曲ノ青海波ヲ、文字讀ニシテ、詠ジタルナリ)

あをうみがめ (名) 【青海龜】 しやうがく(正覺坊)ヲ見ヨ。

あをうめ (名) 【青梅】 梅ノ實ノ、未熟ニシテ、青キモノ。

あをうり (名) 【青瓜】 (一)しろうりノ一種、皮ノ青キモノ。倭名抄、十七、六「青瓜、阿乎宇利」語彙、あをうり「越瓜ノ、皮青クシテ、光アルモノ、常ノ白瓜ヨリハ、後レテ出ヅ、田雞瓜」(二)又、まるづけうりノ一名。

あをえ (名) 【青江】 備中國、青江ノ地、(都窪郡、菅生村、大字、子位莊ノ舊名)及、其附近ノ鍛工ノ作レル刀劍ノ稱。武將感狀記、八、淺野長政「秀吉、後刀ヲ召寄セ一覽アルニ、備中青江ノ作ニテ、二尺五寸アリ、是レ名物ナリ」又、德川家康、及、其子秀忠ノ御用鍛冶トナリ、康ノ字ト、葵ノ紋章トヲ賜ハリシ、下坂康繼ト云ヘル鍛工アリ、俗ニコレヲ御紋康繼、或ハ、葵下坂トイヒ、又、刀劍ノ呼稱トモス、此ノ初代康繼以後、代代德川家ニ仕ヘテ、幕末ニ至レリ。(世ニ、青江下坂ト云ヘルハ、葵下坂ノ誤ニテ、其祖ヲ安次トスルハ、同ジク青江ノ上工、安次ト康繼トヲ混同シタルモノナリ) 後藤伊達目貫(延享)三「五斗ガ[illegible]ヤルノニ、タダヤッテハ分ガ立ヌ、コレハ是、重代ノ腰ノ物、あをい下坂、百三十二文デ買タケレド、暇ノ印ニ持ッテ行ト、九寸五分ヲ投出シ」

あをがき (名) 【青柿】 柿ノ實ノ、未熟ニシテ、青キモノ。[illegible]十、[illegible]「青柿が熟柿弔ふ、五十步ヲ以テ百步ヲ笑フ意」傾城[illegible](安永、[illegible])「青柿が熟柿弔ふト、身共ノ惡イ[illegible]レガ口カラ、カウ云フハ、異ナモノナレド」

あをがきやま (名) 【青垣山】 青山ノ、垣ノ如ク、國ヲメグレルモノ。略シテ、アヲガキ。景行紀、十七年三月、長歌「タタナヅク、阿烏伽枳夜摩、許莽例屢、大和シウルハシ」出雲國造神賀詞「出雲ノ國ノ、青垣山ノ內ニ、下津石根ニ、宮柱太敷キ、云云」古事記、上、四十六「倭ノ青垣ノ東ノ山」(御諸山)

あをがさ (名) 【青傘】 日傘ノ、藍ノ染紙ニテ貼レルモノ。(紅葉傘ヲ幷セ見ヨ) 萬金產業袋(享保)青傘「此頃ノハヤリ事ニテ、藍ノ染紙、一ツ色ニ張リ、日除傘トスル、仕樣、紅葉傘ノ類ナリ、物好ノ人仕始メ、今ノ醫者、儒師、ノヤカラ、取アツカフ」

あをがしは (名) 【青柏】 生ノ柏ノ葉ノ、青キモノ。御食ニ敷クベキ料ノモノナリ。內膳司式「山城國所レ進供御料、青柏、每日一荷五十把」

あをかすげ (名) 【青糟毛】 馬ノ毛色ニ、糟毛ニ、青ミアルモノ。蜷川親俊記、天文八年十一月十九日「御馬一疋、青糟毛」

あをかづら (名) 【青葛】 あをつづらヲ見ヨ。

あをかは (名) 【青革】 あゐがは(藍革)ヲ見ヨ。

あをかび (名) 【青黴】 菌類ノ一種。餅、糊、ナドニ生ズ、全體、白色ノ細ソキ菌絲ニシテ、夥シキ綠色ノ胞子ヲ生ズ。

あをがひ (名) 【青貝】 〔鮑殼ニテ作ルハ、

[illegible]ニ比スレバ、色青シ、故ニ云フナル[illegible]ベシ」（二）螺鈿ノ條ヲ見ヨ。（三）[illegible]殼ノ裏面ヲ切リ磨リテ、螺鈿ノ代リトシテ用キルモノ。色白ク、綠ニシテ光ル、[illegible]ノ彩色ニ作リ、漆器ニ塗リコメナドシテ、飾トス。細末ニ碎キテ用キルヲ、微塵あをがひト云フ。（嬉遊笑覽、三）其工人ヲ、かひずり、又、青貝師ト云フ。御供古實（文明、伊勢貞藝）「青貝ノ鞍ノ事、若キ人々ハ召シ候マジク候」名物六帖（正德）器財、五「螺鈿」倭訓栞、あをがひ「青貝ノ義、螺鈿ヲ云フ、泊宅編ニ、螺鈿器、本出ニ倭國ニト見エタリ」俚言集覽、あをがひ「螺鈿ヲ云フ、近來ハ、九孔螺ヲ用キテ作ル」和漢三才圖會（正德）四十七、鮑「以ニ有ニ青白之光ニ殼片可ニ飾ニ漆器ニ俗云、青貝、是也」人倫訓蒙圖彙（元祿）五、青貝師「青貝ハ、二條河原町ヲハジメテ、其外、所所ニテ、コレヲ磨ルナリ、コレヲ援取リテ、諸ノ繪樣ヲ作リ、器ニ嵌クルナリ、偉師、外ニアッテ、コレヲ得テ、蒔ヲ塗ルナリ」

〰あを-がへる（名）［青蛙］かへるノ一種。背部ハ綠色ニシテ、黃綠、黑斑ヲ雜ヘ、腹部ハ白シ、腹、細ソク、後足、長ク、嘴、尖ル、水田、池沼ノ中ニ棲ミ、春、喧シク鳴ク。倭名抄、十九ニ「青蝦蟇、阿乎加閉流」

あを-がみ（名）［青紙］（一）薄青ク染メタル紙。宇津保物語、國讓、中ニ十「青キ色紙ニ書キテ、松ニツケタルハ、萩ニテ、夏ノ詩」内局柱礎抄、上、依記料紙「青紙、黃紙、宿紙等」（二）あゐがみ（藍紙）ヲ見ヨ。

あを-き（名）［青木］（四時常綠ナレバ名トス）木。大ナルハ一二丈ニ達ス、幹ハ青綠ニシテ、葉ノ長サ三五寸アリ、粗キ鋸齒アリテ、對生ス、夏ノ初、細小ナル暗紫ノ花、簇リ開ク、實ノ形、棗ノ如シ、冬、熟シテ紅ナリ。和漢三才圖會（正德）八十五、靑

あを-ぎす（名）［青鱚］形、鱚ニ似テ、稍、大ナリ、背部、青ク、側面ニ、一條ノ銀線アリ、淡水、河水ノ混ズル所ニ產ズ。

あを-ぎなこ（名）［青黃粉］黃粉ニ青粉ヲ交ヘテ、色ヲ綠ニシタルモノ。

あをき-みや（名）［青宮］「青宮ノ文字讀、青ヲ東方ノ色トシ、青陽ノ春ナド云フ」皇太子ノ御異稱。東宮。春宮。八雲御抄、三、下、異名部「春宮、ハルノミヤ、アヲキ宮」拾芥抄、中、本、唐名「春宮、青宮、儲君」

あを-きん（名）［青金］「色、青ミヲ帶ビタリ」金、約六六一ニ、銀、約三三九ヲ混ジタルモノ。金箔、金粉ナドトス。

〰あを-ぎり（名）［青桐］桐ノ一種。一名、イツサキ。樹、直ニ聳エ、三丈ニ達ス、多ク枝ヲ分ツ、樹皮青綠ナリ、葉ハ深綠ニシテ、三五裂セリ、夏、枝ノ頭ニ、長キ穗ヲ出シ、枝ヲ分チテ、小花集リ開ク、五瓣、黃白色ナリ。古ヘ、和琴ヲ作ルニ、此材ヲ用キタリ。梧桐　碧梧　萬葉集、五ニ十「梧桐日本琴一面」倭名抄、二十七ニ十「梧桐、俗訛呼爲ニ青桐ニ是也」後ニ、角ノ如キモノヲ生ジテ、内ニ實アリ、圓クシテ大豆ノ如ク、炒リ、又、煮テ食フベシ。梧桐子

あを-くげ（名）［青公家］歌舞伎ニテ、公家衆ノ惡人形ニ扮裝ツモノ。顏ニ、青隈ノ隈取ヲナス。

〰あを-くさ（名）［青草］草ノ、蒼ク生ヒタルモノ。神代紀、上ニ十「束ニ青草ニ以[illegible]」[illegible]表ニ（青草束ノ義ナルカ、サルニ、私記ニハ、結[illegible]

[illegible]タレ[illegible]ナレヘシ、[illegible]代記ニ、[illegible]ノ[illegible]ニテ、[illegible]ヲ地ニ敷クナリ」」宇津保物語、蔵開、中「御殿ノ交染ル「北方ハ、青草ノ色ニナリテ、今夜、呼ビモテ往ナンズルニコソアメレト、淚ヲ流シテ、伏シマロビ給フ」

あを-くさ・し・キ・ケレ・ク・ク（形、二）［青臭］青草ナドノ如キ臭アリ。草[illegible]

〰あをくさ-づか（名）［青草束］前前條ヲ見ヨ。

あを-くちば（名）［青朽葉］襲ノ色目ノ名。表ハ青、裏ハ朽葉色ナルモノ、夏ノ着用ナリ。飾抄、上、下襲色之事「保元二年四月十五日、祭歸立、近衞使、右中將信賴朝臣、今日着ニ青朽葉半臂下襲ニ云云」」裝束雜事抄（應永）「面、青、裏、黃、又、両葉一面三條裝束抄」下襲、青朽葉、大黃色也、最時満ノ頃ヨリ、七月中旬マデ着ス、是レ[illegible]ノ時ト云ヘリ」

あを-くび（名）［青頸］（青頸鴨ト云フガ成語ナルベシ）眞鴨ノ頭ノ羽ノ、綠色ナルモノ。卽チ、雄ナリ。綠頭鳧　林逸[illegible]用（文明）生類「青頸」倭訓栞、かも「上品、青首ト稱スルモノアリ、云云、詩疏ニモ、綠頭者爲ニ上味ニト見エタリ」重修本草綱目啓蒙、三十二、鳧「カモ、まがもト呼ブモノ、肪多ク、味美ニシテ、上品トス、雄ヲあをくびト云フ、云云、頭頸ノ毛、[illegible]紫色ニシテ綠色アリ」萬葉集、十二ニ十九「足引ノ、（枕）山河水ノ、（序）音ニ出デズ、人ノ子故ニ、戀ヒワタル青頭鷄」（青頭鷄ハ、鴨ニテ、哉ノ借字ナリト云フ、サラバ、此借字ハ、青頸ナルガ如シ）

あを-ぐま（名）［青隈］隈取ノ條ヲ見ヨ。アヲグマ。

〰あを-くも（名）［青雲］（晴レタル大空ヲ、蒼蒼ト見ユルニ就キテ云フ語、（青雲ノ[illegible]

[illegible]色ノ青キ雲ト云フハ、雲シ、たなびくトハ、雲ニモ霧ニモ、押シ靡ベテ、遍く亘るト云フ意ナリ（古事記傳、青雲之白肩津）」）青空ト云フニ同ジ。蒼天　[illegible]、二[illegible]、[illegible]ナビク[illegible]ノ、[illegible]ノ、[illegible]リユク、月ヲ[illegible]リテ[illegible]神サビ、青雲ノ、タナビク日スラ、小雨ソボフル」（[illegible]）

〰あをくも-の（枕）［青雲之］（青雲トハ、青空ナリ、前條ヲ見ヨ、白トツヅクハ、晴天ノ明キヨリ云フ（古事記傳）白しノ條ヲ見ヨ、萬葉集ノ歌ナルハ、天句ノ相見ニツヅク、青空ハ、仰ギ見ルモノナレバナリ（古義））白、又ハ、相見るト云フ語ノ枕詞。古事記、中（神武）三「泊ニ青雲之白肩津ニ」萬葉集、十四ニ十八「汝ガ母ニ、嘖ラレ我ハ往ク、安乎久毛ノ、伊[illegible]テ、[illegible]、[illegible]テ往カム」

あを-ぐろ・し・キ・ケレ・ク・ク（形、二）［青黑］青氣アリテ、黑シ。黝

あを-げ（名）［青毛］（青馬ノ義）二、黑毛ノ條ヲ見ヨ）馬ノ毛色ノ名。黑色ノ、潤澤ニシテ、青ミ立チテ見ユルモノ。古ヘニ云ヒシ、黑綠ナリ。又、あをうま、今、單ニ、あをト云フ。[illegible]記、[illegible]元年十月廿六日「青毛馬一[illegible]」[illegible]、馬ノ毛ノ[illegible]、青ノ色濃ク黑キハ、黑ニ紛ルルナリ、其差別ハ、黑馬ハ、耳ノ内ノ毛マデ黑シ、青馬ハ、イカホド黑クトモ、耳ノ内ノ毛ハ青毛ナリ」（爾文）

あを-げら（名）［けらハ、けらつつきノ略（青啄木鳥）］小鳥ノ名。けらつつきノ一種、背部ハ、濃綠ニシテ、胸部ハ、[illegible]綠ナリ、腹下ニ黑條アリテ、深紅ヲ雜フ。

あをこ (名) 青粉 (一)青海苔ノ粉。武家調味故實(天文)「青粉ト云フハ、青のりヲ粉ニシテ、餅ノ勢ハ、椋子ホドニシテ、其上ニコロバスナリ」(二)今云フハ、おほばがらしノ葉ヲ乾シテ、粉トセルモノ。食物ニ、綠ノ色ヲツクルニ用キル。

あをごけ (名) 青苔 土石、樹木ナドニ付キテ生ズル、綠ナル苔。

あをこぶ (名) 青昆布 あをいたこぶヲ見ヨ。

あをごま (名) 青駒 あをうまノ(一)ヲ見ヨ。

あをさ (名) 青藻 〔阿波ニテ、ちさのりト云フ〕 海藻ノ名。海中ノ石ニ付キテ生ズ、形、あまのりニ似テ、綠ナリ、乾セドモ紫ニ變ラズ、粘リアリ、食用トス。石蓴 倭訓栞、後編、あをさ「岩ニツキテ生ズル海苔ナリ、あをそトモ云、石蓴ナリト云ヘリ」 重修本草綱目啓蒙、二十「石蓴、アヲサ、チサノリ(阿州)」

あをさぎ (名) 青鷺 (一)鷺ノ類ノ、最モ大ナルモノ。背、淡青ク、冠毛、黑ク長シ、頭上ヨリ頸マデ、長毛白クシテ、淡黑キ斑アリ、腹白ク、翅ノ端、黑シ。 吾妻鏡、十、建久元年九月十八日「野箭一腰、云云、以二青鷺羽一爲二表箭一」 (二)次條ヲ見ヨ。

あをさぎのこま (名) 青鷺駒 〔青鷺ノ背ノ、うすあをきニ似タル由ナリ〕 淡青毛ナル馬。 夫木抄、三「春深ミ、ユルギノ森ノ、下草ノ、繁ミニ食ムヤ、あをさぎの駒」 散木集、八、戀、下、寄二馬毛一戀「暇モアラバ、小畔ニ立テル、あをさぎの、おまおまトコソ、言ハマホシケレ」 比古婆衣(伴信友)九、七日の青馬「青鷺毛、云云、蒼鷺ノ羽色ニ似タル由ナリ、俗ニ、水青ト云ヘルゾ、當ルベキ」

吾妻鏡、十一、建久二年十一月廿二日「馬五疋、云云、一疋、あをさぎ糟毛、一疋、黒」

あをざし (名) 青差 〔さしハ、映すノ名詞形ニテ、(影さす、光さす)青ミアル意ニモアラムカ、尚、考フベシ〕 青麥ニテ作リタル食物。 枕草子、九、百十三段「三條ノ宮ニオハシマス頃、五日ノ菖蒲ノ輿ナド持チテ參リ、云云、あをざしト云フ物ヲ、人ノ持チテ來タルヲ、青キ薄樣ヲ、艶ナル硯ノ蓋ニ敷キテ、コレませおしニ候ヘバトテ、參ラセタレバ、云云」春曙抄「青麥ニテ調ジタル菓子也」(萬葉集、十二廿八「馬柵越ニ、麥食ム駒ノ、云云」) 後世、民間ニテ、青麥ヲ炒リテ、臼ニテ搗キテ、絲ノ如ク製シタルモノヲ、あをざしト云フ。 德元千句(寛永)「麥ヲモハタク、坊ノ臼杵」「青ざしヤ、旦那ノ方へ、送ルラム」(柳亭記、下) 合類節用(元祿)六、服食門「初熟麥」 東雅(享保)十二、飲食「民間ニシテ、青麥ヲモテ、糯米ノ如クセシモノヲ、あをざしト云フナリ」 夏山雜談(寛保)五「青ざしト云フモノハ、古ヘハ、高貴ノ方モ食サレタル物ナリ、今、民間ニ用フル青ざしモ、コレナルニヤ」 倭訓栞、あをざし「大和故事ニ、青麥ヲ煎テ、臼ニテ碾レバ、縒リタル糸ノ如シ、因テ青ざしト云フト云ヘリ」 重修本草綱目啓蒙(享保)十七、小麥「麥ノ全ク熟セザル時、穗ヲ採リ、炒リテ、石碾ニテ磨シ食フ、云云、コレヲあをざしト呼ブ」

あをざし (名) 青緡 〔ぜにづら、ぜにさしヲ見ヨ〕 錢ヲ、緡ニ貫キタルモノ。下賜、又ハ、贈進スル時ニ云フ。青銅ナド云フニ同ジ。 倭訓栞、あをざし「俗ニ、錢緡ヲ青ク染メタルヲ禮トス、因テ、青ざしト云ヒテ、錢ノ事ニナレル也」 俚言集覽、青ざし「緡ニ貫キタル錢ヲ云フ、人ニ錢ヲ贈リ與ヘナドスルニ、青学ノ緡ニ貫ク故ニ、青緡錢ト云フベキヲ略シテ、カク云フト云ヘリ」 空華日工集、三、康曆二年三月二日「令子孫眉殿、贈二鞍馬一匹、阿堵貳拾緡一蓋、管領子息、上杉武庫也」 戶隱神社者、古文書、元祿元年「孔方五十緡、爲二當社修理一可レ奉レ供二權現寶前一者也」(古事類苑) 「青緡十貫文、拜領」

あをさしば (名) 青鶻 〔さしばヲ見ヨ〕 隼ノ類。 西園寺三百首、小鷹部「春ノ野ノ、草ニ取入ル、あをさしば、鷹ノシルシニ、鈴ヤ鳴ルラム」 語彙、あをさしば「毛色、形狀、スベテ隼ニ似テ小ク、青色ナルモノ」

あをさば (名) 青鯖 鯖ヲ、其色ノ青キニ就キテ云フ語。 倭名抄、十九ニ「鯖、阿乎佐波」(同卷、鰆、加世佐波、鰤魚、奈波佐波ナドニ別チテ云ヘルナルベシ)

あをさぶらひ (名) 青侍 〔青トハ、六位ノ位袍ノ染色ハ、深綠ナレバ云フ、因リテ其妻女マデヲモ、青女房ト云フ、此ニ生ノ語ヲ、未熟ノ意ト解キタルアルハ、生侍、生女房ナド云フ語ト同ジト見テ云フナリ、次ニ擧グル出典ニ、青年、未熟ノ意ハ見エズ、中右記ニ「青侍ハ、未熟之義也」トアリト云フ、然レドモ、非ナリ〕 公卿ノ家ニ祗候、奉仕スル六位ノ侍。其妻女ノ祗候スルヲ、青女房ト云ヒ、侍女房トモ云フ。 合類節用(元祿)四、人倫門「青侍、堂上家ノ布衣以下侍、曰二青侍一」 夏山雜談(寛保、小野高尙)四「青侍ト云フハ、六位ノ侍ノ事也、六位ハ、綠ノ袍ヲ着スル故也、青女房トハ、六位ノ侍ノ妻室女子等ヲ云フ由也」 南嶺遺稿(寶曆、多田義俊)三、青女房「宮仕ヘセザル侍女房ノ事ナリ」 明月記、嘉祿二年六月六日「强盜入二父家一、青侍指得」 太平記、二、天下怪異の事「主上、忍ビテ内裏ヲ出デサセタマフ「七大寺詣スル、京家ノ青侍ナドノ、女性ヲ具足シタル體ニ見セテ、御輿ノ前後ニゾ、供奉シタリケル」 親長卿記、文明十年四月二日「宮御方御輿、御共、就二北面一祗候男(注、予青侍)源大納言青侍、備後守等、兩人也」 明月記、元久元年十二月二日「二條殿青女房、云云」 太平記、二、長崎新左衛門意見事「當今、御謀叛ノ事、露顯ノ後、御位ハ、持明院殿ヘゾ進ランズラムト、近習ノ人人、青女房ニ至ルマデ、喜ビアヘル處ニ」 應仁記、一、亂前御晴之事「將軍義政公ノ、天下ノ成敗ヲ、有道ノ管領ニ不レ任、

只、御臺所、云云、或ハ、春日局ナド云、公事政道ヲモ不レ知給ハ、青女房、比丘尼達、計ヒトシテ、酒宴婬樂ノ紛レニ申沙汰セラル」 視聽草(天保)五集、七、女御御入内之記(將軍秀忠息女)「江戸ノ御營ヲ出御ナラセタマフ、云云、五衣ニ緋ノ袴ヲ著シ、云云、青女房ニ、裾ヲ引カセテゾ入ラレケル」(古事類苑、服飾、地紙)

あをざ・む・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ (自動、下二) 青褪 顏色ナド、青白ク變ハル。アヲビル。甚シク弱リタル狀ナリ。 面色蒼白 鳴門中將物語「咎アルベキ由仰セラル、藏人、あをざめテ罷出デヌ」 七十一番歌合(文安)廿七番、貝磨「色ニ出デテ、人ニ心ヲ、クダキガヒ、青ざめヘツル、戀モスルカナ」

あをざめ (名) 青鮫 又、藍鮫。海魚ノ名。實ハ、胎生ナリ、體、長サ、八九尺ニ至ル、背ハ藍色ニシテ、腹ハ白シ、皮ニ砂粒ノ如キモノ附ケリ、性、强暴ニシテ、屢、人ヲ嚙ム、肉味ハ、脂肪少クシテ劣レド、骨ハ明骨トシ、鰭ハ、鱶鰭トシテ需用セラル、往時ハ、此皮、刀劍ノ鞘ヲ卷クニ用キラレキ。 青炒魚 宗吾大雙紙(室町時代)太刀打刀之作やうの事「あをざめナド懸ケタルハ、年寄リタル人ハ、差サレ候ヒシ」

あをし (名) 襖子 〔あを(襖)ノ語原ヲ見ヨ、說文新附「襖、裘屬」トアレバ、毛衣ニ寄セテ、寒ヲ防グニ因リテ、此字ヲ用キタルカ、鑿ナルカ、子ハ、物ト云フホドノ意ニテ附クル語ナリ、帷子、瓶子、椅子ノ類〕 布製ノ冬服ノ名。綿ヲ入ル、今云フ、綿入ばんてんノ類ナルベシ、賤人ノ用ナリ、略シテ、あをトノミモ云フ。帛製ニシテハ、貴人モ用キタマヘリ、防寒ノタメナルベシ。狩襖ヲ參見セヨ。 倭名抄、十二八十「唐令云、諸給二時服一、冬則白

襖子一領、襖子、衵子之」[illegible]天長十年五月[illegible]二、布ノあを、綿厚ク入レテ、イト多ク持タセ、山臥ドモ著集メテ、あを一ツヅツ取ラス」(盛衰)

(二)あを-し(名) 襖子 〔前條ノ語原ヲ見ヨ、然レドモ、コレハ、狩襖ヨリ轉ジタルモノナルベシ〕童女ノ著ル、一種ノ服。宇津保物語、[illegible]「ワラハ四人、あをし、[illegible]」[illegible]汗衫ニ同ジク、童女ノ服ニモ用キシナリ」

あを・し・キ・ケレ・ク・ク(形、二) 青 (一)青ノ色シタリ。(二)綠ノ色ナリ。[illegible] 古事記、上[illegible]萬葉集、[illegible]見テハ、黄葉ヲバ、取リテゾシヌブ、青きヲバ、置キテゾ歎ク(青きハ、黄葉セヌ葉ナリ)(三)甚シク、怖ヂテ、顏色ノ青ザムルヲ、あをく爲ろト云フ。面色蒼白 宇津保物語、[illegible](四)人柄、技前、未熟ナリ。[illegible]あを(青)ノ條ノ(六)ヲ見ヨ。[illegible]、あをこぶらひ「今モ、未熟ナルヲ、青しト云ヘリ」

(二)あを-ぢ(名) 青瓷 〔瓷のうつはものヲ見ヨ〕(一)せいぢ(青磁)ニ同ジ。枕草子、九、百十三段「[illegible]」(二)染色ニモ云ヘリ。[illegible]、三十四、下、若菜、下「童女ノ装「紅梅二人、櫻二人、あをぢ[illegible]」

あを-じ(名) 青鵐 あをしとどノ下略。

あを-じし(名) 羚羊 〔青鹿ノ義、毛色ニ青ミアリ〕羚羊ノ一名。

あを-じそ(名) 青紫蘇 紫蘇ノ葉ノ、表、裏、綠色ナルモノ。

あを-じた(名) 青舌 〔あをたハ、あをたびらめノ下略(青けらつつき、青げら)〕魚ノ名。形、鞋底魚ニ似テ、鱧、半面ハ、青黑クシテ、一條ノ黑線アリ、半面ハ白シ、尾ニハ黄アリ。

あを-しとど(名) 青鵐 〔[illegible]ニ似テ、羽ニ青ミアルモノ、あをぢトモ云フハ、下略ナリ(項後、うなぢ。帶縛、おびぢ)〕小鳥ノ名。あをぢトモ云フ。大キサほほぢニ似テ、頭、背ハ黑羽褐緣、眉ハ淡黄褐ナリ、腹ハ淡黄ニシテ、翼ハ黑ニ褐緣ヲ帶ブ、尾、觜、黑ク、脛ハ淡赤シ、雌ハ、胸ニ暗褐色ノ條線アリ、秋、群リ來リテ、能ク囀ル、捕リテ食フベシ。蒿雀 和漢三才圖會(正德)四十二「蒿雀、似雀而[illegible]青黄色、[illegible]」

あを-しば(名) 青柴 葉ノツキタル柴。[illegible]

あを-しま(名) 青縞 〔縞ハ目ニ見エネド、經緯ノ絲ヲ、同色ニ染メテ織レバ、ヤハリ縞ナリ〕紺無地ノ綿布。オリイロ、メクラジマ。

あを-じゃしん(名) 青寫眞 〔英語、Blue-print ノ譯語〕寫眞ノ一法、青地ニ白色ノ線ヲ顯シ、又ハ、白地ニ青色ノ線ヲアラハスモノ。圖面、又ハ、表ナドヲ寫スニ用キル。

あを-しょせい(名) 青書生 若年ニシテ、學問未熟ナル學生。白面書生

(一)あを-すがやま(名) 青菅山 〔菅ハ借字ニテ、淸ノ義ナリト云フ〕木立、繁ク青ク、淸淸シキ山。萬葉集、一「藤原宮御井歌」長歌「大和ノ、云云、耳無(耳梨山)ノ、青菅山ハ、背面ノ、大御門ニ、宜シナベ、神サビ立テリ」(古言)

あを-すだれ(名) 青簾 青竹ヲ編ミ作レルスダレ。翠簾

あを-すぢ(名) 青筋 (一)青色ノ線。(二)人ノ皮膚ニ、透キテ青ク見ユル靜脈ノ色。烈シク怒ル時ハ、顏ニ、鮮ヤカニ見ユ。「青筋ヲ立テテ腹立ツ」

あを-ずみ(名) 青墨 〔朱墨ナド云フ、同例ナリ〕あゐらふずみ(藍蠟墨)ヲ見ヨ。

あを-すもも(名) 青李 (一)李ノ一種。實、紅熟セズシテ、食フニ堪ヘザルモノ。(語彙) 新六帖、六「[illegible]ナラヌ、片山藍ノ、青すもも、身ハアルカヒモ、ナクナリニケリ」(二)李ノ一種。實、熟スレドモ、皮ノ色青キモノ。

(二)あを-ずり(名) 青摺 〔あゐずりヲ參見セヨ、[illegible]ニ對ス[illegible]ナト云フ」(一)[illegible]山藍ヲ以テ、[illegible]模樣ヲ摺リツケ染メタル衣。上代ニハ、[illegible]官人、臨時祭ノ舞人ナドノ服ニセリ、但シ、舞人ハ、[illegible](二)小忌衣モ、青摺ナリ、其條ヲ見ヨ。(三)又、紙ニモ云フ。[illegible]云、書イタル[illegible]、薄樣、墨ガチニ、打チマゼ亂レタルモ、人ノ程ニツケテハ、ヲカシト御覽ズ」河海抄「あをずりノ紙トハ、青キ紙ニ、[illegible]ル也」

あを-せん(名) 青錢 「壺錢ノ分量多ケレバ、色靑シ」寬永錢ノ、眞鍮製ナルモノ。四文錢。

あを-そ(名) 青麻 〔麻ト云フ語ハ、[illegible]、あをそノ[illegible]、あさ、麻、そ(麻)ノ條ヲ見ヨ〕(一)[illegible]青キニツキテ云フ語。封内風土記(明和、仙臺、田邊希文)奥州、宮城郡、岩切村、[illegible](二)[illegible]ト云フ」

あを-ぞら(名) 青空 晴天ノ空ノ、蒼蒼ト仰ギ見ラルルモノ、空氣中ニ浮遊スル細塵ニ、日光ノ反射スルガタメナリ。蒼穹 [illegible]

氣ハ、而青翠昔爲レ青」莊子、逍遙遊篇「天之蒼蒼者、其正色耶」

あをた（名）［篠輿］ あうた（篠輿）ヲ見ヨ。

あをた（名）［青田］ 早苗ノ生ヒタチテ、青青トシタル田。青田ノ盛リナルヲノミ喜ビテ、秋ノ豐凶ニ考ヘ至ラヌヲ、青田褒ト云フ。 盛衰記、三十三、木曾洛中狼藉事「神社佛閣、權門勢家ノ御領ヲモ嫌ハズ、青田ヲ刈取テ、秣ニ餧ヒ」

✣**あをた**（名）［青太］（青田ニ實入ナシト云フ謎ナリ）芝居、觀場ナドニ、木戸錢ヲ出サズ、押入リテ見ル者ノ稱。（關西）デンバウ。アブラムシ。無錢見物。

あをだいしやう（名）［青大將］（青大蛇ノ延ト云フ、東雅、二十、蛇ノ條「俗ニ、青大蛇ト云フハ、綠蛇ナリ」和漢三才圖會、四十五「青蛇」）蛇ノ一種。青クシテ、大キク、長サ六尺ニ至ルモノアリ。所在ニ多シ、擧動、遲緩ニシテ、人ヲ害セズ、時ニ人家ニ入リ、梁ヲツタヒ、鼠、雀ノ雛ナド捕リ食フ。黃頷蛇 本朝食鑑（元祿）十二、蛇「青大將、長者三四尺、能捕ニ鳥鼠一」物類稱呼（安永）二、蛇「一種、大蛇、東國ニテ、あをだいしやうト云フヲ、近江ニテ、あをそトト云フ」俚言集覽、青だいしやう「青色ニシテ、形大ナル蛇ナリ、擧動遲緩、人ノ害ヲナサズ」

あをだうしん（名）［青道心］（あをハ、未熟ノ義、だうしんハ、道心者ノ下略、各條ヲ見ヨ）出家シテ、未ダ、其道ニ疎キ者。今道心。ナマジヒナル慈悲心ニモ云フ。 盛衰記、十三、熊野新宮軍事「太政入道（清盛）宣ヒケルガ、大方、賤スマジキハ、弓取ノ青道心ニテアリケリ、承曆元年ニ斬ルベカリシ賴朝ヲ宥メオキテ、今、カカル大事ヲ仰下サルルコソ安カラネ」（諸國源氏蜂起ニ云フ）同、廿二、入道申ニ官符一事「幼稚ナレバヨモ知ラジナンド、青道心ヲナシテ候ヘバ、今ハ、アハレ胸ヲ燒クト申ス譬ヘニ合ヒテ侍リシ」（清盛、十三歲ノ賴朝ヲ救シテ、伊豆ニ流シタルヲ云フ）心中天網島（享保、近松作）上「炮碌頭巾ノ青道心」

あをたけ（名）［青茸］ 初茸ノ、色ノ青キモノ。 倭訓栞、後編、あをたけ「青茸ノ義、五六月ノ頃ニ出デテ、味ヨロシ、蓋ノ裏白シ、青はつトモ云フ」

あをだけ（名）［青竹］ 生竹ノ、青キ幹。青竹のてすりト云フハ、なまずれノ謎ナリ。

あをだたみ（名）［青疊］ 新製ノ藺ノ表ノ疊。波平ラカナル海面ヲ、青疊を敷いたやうだト云フ。

あをたぼめ（名）［青田褒］ あをた（青田）ノ條ヲ見ヨ。

あをだま（名）［青玉］（一）（青色ノ玉ニテ作レル玉ナルカ。（玉ハ、和産ニナキカ）出雲國造神賀詞「御禱ノ神寶、獻ラクト奏ス、白玉ノ、云云、赤玉ノ、云云、青玉水江ノ玉、云云」（水江ハ、借字ニテ、木ノ稚枝ノ如ク、青ク瑞瑞シキ意ト云フ）倭訓栞、後編、あをだま「本草ニモ、古玉以ニ青玉一爲レ上ト云ヒ、藝文類聚ニモ、青玉出ニ倭國一ト云ヘリ」（二）蟲巢玉ノ一種。

✣**あをたん**（名）［青簞］ あをべうたん（青瓢簞）ノ略。其條ノ（二）ヲ見ヨ。

✣**あをち**（名）［羽織］（あをちト書クハ、あふちノ誤、其語原ヲ見ヨ、あふつハ、煽ルニ同ジ、被る意ナリ、はおりモ、被りナリ、あをち、あをち風、準ジテ知ルベシ）羽織ノ異名。賤者ノ語ナリ。

あをぢ（名）［青地］ 織物ノ地ノ色ノ、青キモノ。 夫木抄、十五、紅葉「稻荷山、杉間ノもみち、來テ見レバ、タダあをちナル、錦ナリケリ」盛衰記、二十、石橋合戰事、岡崎與一「其日ノ裝束ニハ、青地ノ錦ノ直垂ニ、赤威肩白鎧ノ裙金物打チタルヲ着テ」

あをちかぜ（名）［煽風］（前條ノ語原ヲ見ヨ）吹キ煽ル風。 薩摩歌（寶永、近松作）上「數帳打明ケルあをち風」

あをぢくのうめ（名）［青軸梅］（ぢくノ條ヲ見ヨ）梅ノ一種。蔕、嫩枝、共ニ綠ナルモノ。花ノ色ハ、白クシテ、一重ナリ、八重ナルモアリ、植木師ハ、誤リテ玉蕚梅ト云フ。綠蕚梅 秉穗錄（寬政、岡田挺之）二「四朝聞見錄ニ、光堯問ニ主僧一曰、此梅喚作ニ甚梅ハ、主僧對曰、青蒂梅」

あをつ（動）［煽］ あふつ（煽）ノ條ヲ見ヨ。

あをづか（名）［青塚］（青墓ヲ參見スベシ）草ノ、青青ト生ヒタル塚。 太平記、三、主上御ニ沒落笠置一事「晝ハ、道ノ傍ナル青塚ノ陰ニ、御身ヲ隱サセタマヒテ、寒草ノ疎ナルヲ、御座ノ茵トシ」

〜**あをつづら**（名）［青葛］（つづらノ條ヲ見ヨ）又、あをかづら。今、つづらふぢ。蔓性灌木ノ名。山野ニ多シ、莖ハ蔓ヲナシテ、極メテ細ソク長クシテ、物ニ這ヒ纏フ、葉ハ互生シ、長サ一寸、乃至、三寸、銳尖ナルモノ、鈍尖ナルモノ、三尖ナルモノアリ、莖、葉ニ、毛茸アリ、夏、新葉ノ閒ニ、六瓣ノ小サキ圓錐花ヲ開ク、淡青色ナリ、後ニ、實ヲ結ブ、秋ニ至リテ、熟スレバ黑シ。莖ヲ藥用トス。防己 本草和名、上三十「防己、阿乎加都良」（倭名抄、同ジ）重修本草綱目啓蒙、十五「防己、アヲカヅラ、アヲツヅラ、ツヅラカヅラ、ツヅラフヂ」古今集、十四、戀、四「山賤ノ、垣ホニ延ヘル、青つづら、（序）人ハくれドモ、言傳モナシ」（來ルヲ、長キ蔓ヲ繰ルニカケタリ）拾遺集、十九、雜、戀「鷹狩スル、鷹ノツマヅク、あをつづら、（序）君コソ我レハ、絆ナリケレ」宇津保物語、俊蔭四十九「青つづらヲ、大イナル籠ニ組ミテ」

✣**あをつぱな**（名）［青涕］（あをばなノ急呼（草葉、くさっぱ。餓鬼、がっき））兒童ナドノ垂ルル、青キ涕汁。

あをてんじやう（名）［青天井］ 青空ヲ、天井ト見ルコト。卽チ、家ノ外ナルコト。野天、［露天］ コレニ對シテ芝居スルヲ、草疊ト云フ、野宿ノ草臥ノ意ナリ。「青天井ニ草疊」

あをてる（名）［青照］（あかてるト云フモアリ）寄席ニテ、怪談ニ用キル幽靈火。

〜**あをと**（名）［青砥］ 砥ノ一種。あらとまとトノ閒ニ用キテ研グモノ。質ノ緻密ナル青灰色ノ石ニテ作ル。青礪 倭名抄、十五八「青礪、阿乎度」

あをとかげ（名）［青蜥蜴］ とかげノ一種、青翠色ナルモノ。 和漢三才圖會（正德）四十五、蜥蜴「青蜥蜴、小者三四寸、大者七八寸、皆青綠色而光、有ニ縱斑文ハ腹白、口大、云云、最有レ毒」

あをどさ（名）［青土佐］ 紙ノ名、こんどさノ條ヲ見ヨ。

あをとんぼ（名）［青蜻蛉］ とんぼノ一種。色、青キモノ。青蜓

あをな（名）［青菜］（一）（スズナ。フユナ。菘 古事記、下（仁德）四「採ニ其地之菘菜一云云、大御歌「山縣ニ、蒔ケル阿袁那モ、云云」（其地ハ、吉備國ナリ）（二）（蕪菜。 持統紀、七年三月「蕪菁」萬葉集、十六廿七「蔓菁、食キ、蕪菁煮持チ來」字鏡五十二「蔓、蕪、菁也、阿乎奈」（根莖ノ條ヲ見ヨ）本草和名、下三十五

[illegible]、淺黄、[illegible]（[illegible]）（二）[illegible]ラ、[illegible]ヲ云フ。青菜ニ鹽ト云フハ、[illegible]ヲ振リカクレバ、クタクタトナルヲ云フ、人ノ、力ナク打萎ルルニ譬ヘテモ云フナリ。俗語大辭典「俠客傳、二、向後ヲキット愼シミネト云ハレテ、昔話、青菜ニ鹽ノ、容ヲアラタメ、顏ノツキテ、云云」

あをなし（名）【青梨】梨ノ一種、實ノ皮、青ク、形、稍、長クシテ、早ク熟スルモノ。味、好シ。（語彙）宮内省式、諸國例貢御贄「甲斐國、青梨子」

あをなます（名）【青鱠】あをぬた（青沼田）ヲ見ヨ。

あをなみ（名）【青浪】青青ト見ユル波。蒼波　萬葉集、八、二十長歌「イナムシロ、（枕）河ニ向キ立チ、云云、青浪ニ、望ミハ絶エヌ、白雲ニ、涙ハ盡キヌ」（天河ニテ、牽牛ト織女トノ會ナリ）同、二十 四十七夕歌「安乎奈美ニ、袖サヘ濡レテ、漕グ舟ノ、戕牁振ルホドニ、小夜深ケナムカ」

あをなめし（名）【青革】〔なめしハ、なめしがはノ下略〕あゐがは（藍革）ヲ見ヨ。

あをに（名）【青土】〔土ノ條ヲ見ヨ〕（一）いはろくしゃう（岩綠青）ノ古名。染料トシタリ。常陸風土記、久慈郡、河内里「所レ有土色如二青紺一、用レ畫麗之、俗云二阿乎爾一」賦役令「青土、一合五勺」抄「青土、破レ石取二其中一也、用二彩色一也」醫心方、一「綠青、安乎仁」（二）襲ノ色目ノ名。表、裏、共ニ、青土ノ色ナルモノ。（桃華蘂葉）源、三十四、下、若菜、下廿九「童女ノ姿バカリハ、殊ニツクロハセタマヘリ、あをにニ、柳ノ汗衫、葡萄染ノ袙ナド」花鳥餘情「あをにハ、表着也、青丹ヘ、濃青ニ、黄ヲサシタル也」（木賊色ナルカ）

あをに（名）【青煮】蕨、ぜんまいナドヲ、青ミヲ失ハシメズニ、煠デナスコト。銅錢ト共ニ沸湯ニ入ル、青色ソノママナリ。（料理通、三篇）類聚往來、上ニ、青[illegible]トアルモ同ジキカ。

あをにぎて（名）【青幣】にぎてノ條ヲ見ヨ。

あをにさい（名）【青二歳】〔青ノ（六）、二歳ノ（二）ヲ見ヨ〕年若キ者ヲ卑シメテ呼ブ語。ニサイ。セガレ。黄口。乳臭兒　俚言集覽（文化）青にさい「年若キ男ヲ云フ、青ハ、未熟ノ義、二歳ハ、小魚ノ稱ナリ」

あをにび（名）【青鈍】〔喪服ノ墨染ノ、アマリニ見ダテナキニ、中昔ヨリ、青花ヲ加ヘタルガ、鈍色、青鈍ナリ、にびいろノ條ヲ見ヨ〕（一）染色ノ名。濃キ縹色ノ、青ミアルモノ。喪中ノ服色ナリ。源、九、葵廿九「菊ノケシキバメル枝ニ、濃キあをにびノ紙ナル文ツケテ、差シオキテ往ニケリ」弄花抄（牡丹花肖柏）「あをにび、花田ニ青ケノマジレル也、服者ノ方ヘノ紙ノ色也」（二）襲ノ色目ノ名。飾抄「深花田、裏同」西三條裝束抄「青鈍、花田濃色也、尼ナド用色ト云フ」今昔物語、廿二、第七語「青鈍ノ狩衣袴着」

あをにゃうばう（名）【青女房】あをさぶらひノ條ヲ見ヨ。

あをによし（枕）【青丹余之】〔青土よし、（麻裳よし、眞菅よし）青土ハ、染料ナリ、其條ヲ見ヨ、青土ヲ、眉ニモ、繪ニモ、埏シ熟ラシテ用キルニ因リテ、ならニカクルナリ、神武紀ナル埴安ト云フ地名モ、埴埏スノ意ナリ（萬葉集古義）〕大和國ノ奈良ノ枕詞。仁德紀、三十年九月、長歌「阿烏邇豫辭、奈良ヲ過ギ」萬葉集、一 三十長歌「青丹吉、奈良ノ山ノ」[illegible]、十七 二[illegible]「[illegible]奈良ノ[illegible]」[illegible]レテハ、奈良ヲ離シテモ用キテ[illegible]集、五「[illegible]シカモ、アクニ[illegible]マセバ、[illegible]良ノ、國内コトゴト、見セマシモノヲ」（筑前守ニテ、任ニ居ル人ノ、奈良ナル妻女ヲ思ヒテ、讀メルナリ）足引ノ（山ノ）木間、百敷ノ（大宮ノ）軒端、ナド同ジ。

あをぬた（名）【青沼田】〔葉汁ヲ擂リコミタルぬた〕コレニテ魚肉ヲ和ヘタルヲ、青鱠ト云フ。包丁聞書（室町時代）「青[illegible]ハ、青ぬたニテ、和ヘタルヲ云フ也」淺井備前守宿所饗應記、天文三年八月廿日、御膳之次第「三獻、さざい、あをなます」大草殿相傳聞書（天和）「青鱠ノ事、先ヅ葉がらしヲ能ク擂リ、又、酒ノ粕ヲスリ、酒ニテぬたヲ溶キ、鹽ニテ白メタル魚ヲ入レテ和ヘル」（[illegible]）

あをねろ（名）【青嶺】〔ろハ、添ヘタル辭ニテ、意ナシ、らノ條ヲ見ヨ〕青山ト云フニ同ジ。萬葉集、十四 廿七「安乎禰呂ニ、タナビク雲ノ、（序）イサヨヒニ、物能ヲゾ思フ、年ノコノゴロ」（能ノ字ノ下ニ、安ノ字アルハ、衍ナリ）同、三十七 十「青山ノ、嶺ノ白雲」

あをのく（動）【仰】あふむくヲ見ヨ。

あをのり（名）【青海苔】海苔ノ一種。海中ニ生ズ、甚ダ細ソクシテ、絲ノ如クニテ綠ナリ、長サ二三寸ヨリ、一尺ニ及ブ、干シテ食用トス。倭名抄、十七 九海菜類「陟釐、阿乎乃利、俗用二青苔一」（陟釐ハ、かはあをのりナリ）大膳職式、下「正月修二太元帥法一料、青苔五百八十條」下學集（文安）下、草木「青海苔」

あをば（名）【青葉】（一）樹木ノ、青キ葉。古事記、中（垂仁）四十「飾二青葉山一而立二其河下一、將レ獻二大御食一」（二）初夏ノ頃、若葉ノ生ヒ茂リテ、青青トシタルヲ云フ語。新綠　續古今集、三、夏「尋ネバヤ、あをばノ山ノ、オソザクラ、花ノ殘ルハ、春ノトマルカ」金葉集、二、夏「夏山ノ、青葉マジリノ、遲櫻、初花ヨリモ、メヅラシキカナ」山口素堂句「眼ニハ青葉、山ホトトギス、初ガツヲ」

あをば（名）【青羽】鳥ノ羽ノ、色青キモノ。[illegible]

あをはか（名）【青塚】〔青塚ノ條ヲ見ヨ〕[illegible]

あをばかま（名）【襖袴】（一）狩襖ノ下ニ着ル袴。即チ、指貫ナリ。[illegible]（二）隨身、車副ナド、襖子ヲ着タル下ニ着ク袴。[illegible]

あをばかま（名）【青袴】六位ノ青侍ノ袴ナルベシ。[illegible]

あをはた（名）【青旗】青キ色ノ旗。萬葉集、[illegible]

葬具儀、赤旗、青幡、交錯飄颺」

〜**あをはたの**（枕）［青旗乃］〔萬葉集代匠記ニ、木ノ繁リ、葛ノ這ヒ上レルガ、青旗ヲ立テタルヤウニ見ユルヲ、譬ヘテ云ヘルナルベシトアリ、冠辭考ニ、忍坂ハ、押坂トモアリ、おしさかヲ略ケル語ナレバ、旗、多ク立テテ押シユク意ナルカトアリ、尙、考フベシ〕葛木山、又、忍坂の山ノ枕詞。萬葉集、四六長歌「青旗乃、葛木山ニ、タナビケル、白雲隱リ」云云」同、十三三十長歌「青旗之、忍坂ノ山ハ、走出ノ、宜シキ山」（葛城山、忍坂の山、共ニ、大和國ニアリ）

あをばづく（名）［青葉木菟］〔木菟ノ條ヲ見ヨ、青葉ノ繁ル樹ニ棲メバ名トス、木葉づくト云フモアリ〕ふくろふノ一種。體、小サク、頭、大キクシテ圓ク、耳ナシ、全體、黑褐色ニシテ、腹ト尾トハ稍白ク、眼ハ黃金色ナリ、夜間、ほうほうト聞ユル鳴聲ヲ發ス。語彙、あをばづく「みみづくノ、羽色、蒼黑ナルモノナリ、白晝、物ヲ見ルヲ、異ナリトス」

あをばと（名）［青鳩］山ニ棲ム、形、どばとノ如クニシテ、大ナリ、鳴ク聲、尺八ヲ吹クガ如シトテ、尺八鳩トモ云フ。語彙、あをばと「狀、鴿ノ如クニテ大ナリ、全身綠色ニシテ、黑ヲオビ、胸、微黃ニシテ、綠色ノ斑毛アリ、眼ハ白色綠文、脚、紅色、青鶴」

あをばな（名）［青花］（一）つゆくさノ一名。大和本草（寶永）九、鴨跖草「月草トモ、露草トモ云フ」物類稱呼（安永）三、鴨跖草「畿内ニテ、あをばな、又、つゆくさト云フ」（二）うつしばなノ條ヲ見ヨ。

あをばなインコ（名）［青花鸚哥］いん

こノ一種。體ノ、綠色ナルモノ。俚言集覽、青ばたいんこニ鸚哥ノ一種也、大サ鳩ノ如ク、遍身綠、尾黑クシテ碧點アリ、兩翼ノ裏、鮮紅」

あをばのすだれ（名）［青葉簾］〔四月ハ、青葉ノ候ナリ〕昔、陰曆四月朔日ニ、禁中ニテ、特ニ懸ケラレシ簾。此日、更衣ノ儀アリ。倭訓栞、あをばのすだれ「青葉簾也、卯月朔日ニ、大内南ノ角ニテ、諸櫛トテ、相向テ二株生タルニ懸ケ、其日ノ暮ニ取入タマフト云ヘリ」

〜**あをばへ**（名）［青蠅］蠅ノ、青黑クシテ、大キサ、四分許アルモノ、聲高シ。［蒼蠅］宇津保物語、嵯峨院上「蠅ヒカナシビ、待チ居テ、あをばへノアラムヤウニ、立去リモセデオハスレバ」

あをばむ・ム・メ・マ・ミ・メ（自動、四）［青］〔接尾語ノばむノ語原ヲ見ヨ〕青ミヲ帶ブ。アヲム。

あをはんめう（名）［青斑猫］甲蟲ノ名。形、斑猫ヨリ狹ク小サクシテ、長サ六七分許アリ、體色、濃綠ニシテ金光アリ、腹、最モ光ル、觸角ハ黑シ、往時、蘭船持來リテ發泡劑ニ用キラレキ。カンタリス。マダラムシ。［芫青］重修本草綱目啓蒙、廿七「芫青、アヲハンメウ」

あをばもの（名）［白歯者青葉者］〔借字ナリ、青ハ、青道心、青二歲ナド云フ青ニテ、未熟ノ意、はものハ、半者ニテ、半下者ノ意、仲間ナド云フト同ジト認ム、端武者、木葉武者ト同趣ニテ、雜兵ノ内ニテモ、未熟ノ者ヲ稱シタル語ナルベシ、サルニ、白歯ハ、歯黑ヲツケヌ者、又ハ、大樹（將軍）ノ末ノ青葉、ナド云フハ、附會モ極レリ、借字ニ繩リテ、語原ヲ云フ者、皆、此ノ如シ〕室町時代ノ末期ニ、雜

兵ノ異名。甲陽軍鑑、九、上、品第廿四「セリアヒ合戰ナドニ、追頸ノ、シカモ、あを葉者ヲ、一人討チテハ、鑓先ニ血ヲツケ、五人モ十人モ突キタルヤウニ損ザシ、云云」合類節用（元祿）四、人倫門「白歯者、本朝俗呼ニ雜兵ニ云」爾、今云ニ若黨ニ是矣」延寶錄（明和）「室町殿ノ時分、云云、白歯者ト申スハ、下部ノコトナリ、白歯者ト書キテ、あをばもの卜讀メリ、白馬ヲ、あを馬ト云フガ如シ」倭訓栞、あをばもの「古へ、雜兵ヲ稱シテ云フハ、白歯者ノ義ト云へリ、云云、又、甲冑ヲ着ザル素肌者ヲ、青葉者ト云フト云ヘリ」

あをび（名）［青火］鬼火。イウレイビ。［燐火］

あをび（名）［鵁］あふび（鵁）ヲ見ヨ。

〜**あをひえ**（名）［竹刀］〔青𦙶ノ義、青ハ、青竹ナリ、ひえハ、𦙶ゆノ名詞形、名義抄「䏶、ヒユ、ヘグ」字類抄「䏶、ヒユ」折ぐノ義、（へぐモ、ひえぐノ約、篦モ、ひえらノ約ト云フ）切取ル意、後世、ほぞのをヲ繼ぐト云フハ、切るヲ忌ミテ、言替フルナリ〕竹ヲ削リテ作レル小刀。兒ノ生レタル時、儀式トシテ、臍緒ヲ切取ルニ用キル。後世ハ、篦トモ云ヒ、切るヲ、繼ぐト云ヘリ、然レドモ、切ル眞似ヲスルノミ。神代紀、下七十「以ニ竹刀ー截ニ其兒臍ー」私記「竹刀、阿乎比衣」山槐記、治承二年十一月十二日、安德天皇御降誕「奉レ切ニ御臍緒ハ先遣ニ切生氣方河竹ー作ニ竹刀ハ只一削作、内大臣取ニ竹刀ー奉レ切レ之」（節文）產所之記（足利時代）「へらナドハ、削ル人體ノ事、一段長久、子孫多キ可レ然筆、削ラレベク候」產廳中舊記（明應）「御產所へ成リ候テ、公方樣、御胞ヲ御つぎ候」倭訓栞、あをびえ「神代紀ニ竹刀ヲ訓メリ、云云、臍ノ緒ヲツグニ用ウル也、南殿ノ平竹ニテスルト、醫師仲成ノ說ナリ、タダ、一刀ヅツ、七ツ、作テ進ヨト、西花門院ノ女房、中シケル由、三藻一統ニ見エタリ」倭名抄、十五七膠漆具、竹刀ノ條ニ「日本紀、私記云、竹刀、阿乎比衣、言、以ニ竹刀ー剪ニ金銀薄ー

也」トアルハ、日本紀ノ截臍竹刀ノ舊訓ナルノミ、倭名抄編成ノ頃、剪薄ノ竹刀ヲ稱シタルニハアラジ。

あをびかり（名）［青光］青ミタル光。「燐火ノあをびかり」

〜**あをひとくさ**（名）［青人草］〔人ノ、生レ出デ殖エユクヲ、草ノ、彌益シニ生ヒ茂ルニ譬ヘテ云ヒシ語ナリ、天之益人ト云フ語モ、同意〕又、人草、民草トモ云フ。人。民。國民。人民。蒼生　神代紀、上十二「是物（粟、稗、麥、豆）者、則顯見蒼生可ニ食而活ー之也」同卷十二「蒼生、此云ニ阿烏比等久佐ニ」古事記、上三十「宇都志伎青人草、云云、汝國之人草、云云」倭名抄、二十四微賤類「人民、比止久佐」四季物語、第六「此神、民草ノ疫ヲツカサドラシメ、又、癒シタマハムノ御誓、著ケレバ」

あをびる・ル・ル・レ・レ・レヨ（自動、下二）［青］〔きたなびるノ語原ヲ見ヨ〕青ザム。疲レテ青クナル。宇治拾遺、十三、第十條「色、アサマシウあをびれタル者ドモノ、痩セ損ジタル、アマタ臥セリ」榮花物語、十一、莟花「古御ダチナドハ、髮ノ裾細ウ、色あをびれナドシタレバコソ、心苦シケレ」（是レハ名詞形ト思ハル、瘦レタル意ナルベシ）

あをひれをとこ（名）［青髭男］〔ひれハ、鰭ニテ、髭ヲ云フト思ハル、旁出シタルモノナレバナリ、髭面男ト云ハムガ如キカ、前條ノ語ト見テハ、意ヲ成サズ〕男ヲ、罵リテ呼ブ語。狹衣、一、下三十三「ナホ泣キ伏シタルヲ、吾ガ君（狹衣）ヲコソ、（道成）カヤウニ戀ヒ悲シメ、ソノあをひれ男ニ因リテ、命絶エヌベクモ見エタマフコソ、カヘリテハ、心ヅキナケレ」（淸水濱臣ノ語林類葉ニ、あをひれをとこ、青侍ト云フニ同ジ、罵リテ云フナリ）

あをぶくれ（名）［青脹］人ノ面、又、腫物ナド、色、青バミ脹レタルニ云フ語。

あをふしがき（名）［青柴垣］青葉ノ柴ニテ作レル垣。古事記、上、三十「青柴垣」註「訓柴云布斯」

あをぶち（名）［青淵］水色青キ淵。碧潭。萬葉集、十六、十七「虎ニ乘リ、古屋ヲ越エテ、青淵ニ、鮫龍取リ來ム、劔太刀モガ」名義抄「碧潭、アヲブチ」

あをぶち（名）［青駮］〔康熙字典「駮、獸ノ駮同ジ」〕青毛ノ馬ノ、駮アルモノ。吾妻鏡、十一、建久二年八月十八日、馬、十六疋「一疋、青駮、武田五郎進」

あをぶちじる（名）［青淵汁］〔青海苔ヲ燒キテ注ク〕とろろ汁ノ古名。運歩色葉集（天文）「青淵汁」、類聚往來（慶安上梓）「青淵汁」貞丈雜記、六、飮食「青淵汁トハ、とろろノ事ナリ、擂鉢ニテモ、鳥ノ身ヲ、チヒサクド地カケテオキ、とろろヲ座敷ヘ出ダス時、鳥ヲ入レテ出ダスナリ、からみアルヘシ、俵調菜、後編、とろろ青淵汁ト云フハ、青のりヲ雜フルヲ以テ云フナリ」（今モ然リ）

あをべうし（名）［青表紙］（一）濃紺ノ染紙ノ表紙。往時、儒學ノ經書ニハ、多ク此表紙ヲ用キタレバ、直チニ、經書ノコトヲ、青表紙ト云ヒキ。（二）淨瑠璃節ノ稽古本ニモ此稱アリ。（けいこぼんヲ見ヨ）

あをべうたん（名）［青瓢簞］（一）へうたんノ、生ナルモノ。（二）人ノ顏ノ、長クシテ、青黑キヲ嘲リ呼ブ卑語。略シテ、アヲタン。

あをへど（名）［青反吐］〔青息ト通ズルカ、反吐ヲ、黃水トモ云フ、語彙ニハ、あをハ、生ナル意トアリ〕甚シク船醉シタル者ノツク反吐。竹取物語、大伴御行、筑紫ノ海ニ[illegible]、船ノ底ニ入ラズハ、[illegible]カカリヌベシ、[illegible]リテハ、楫取ノ申ス事ヲコソ、高キ山ト侍メ、ナド、[illegible]、[illegible]モシ[illegible]ナキ[illegible]ノ申スゾト、あをへどヲツキテ宣フ」

あをほん（名）［青本］くさざうしノ條ヲ見ヨ。

あをまめ（名）［青豆］大豆ノ一種。粒大キク、色淡綠ナルモノ。多クハ、きなこトス。綠大豆 和爾雅（元祿）六「青豆」（左訓、アヲハダ）重修本草綱目啓蒙、十七、大豆「青大豆、アヲマメ、一名、アヲハダ（勢州）」大膳職式、七寺盂蘭盆供養料「青大豆三十把」

あをみ（名）あをうみ（青海）ヲ見ヨ。

あをみ（名）［青味］〔みハ、赤み、厚みナドノ、みナリ〕吸物、燒肴、刺身ナドニ盛リ合セテ、點綴ニスル菜蔬ノ稱。

あをみいづ・ヅル・ヅレ・デ・デ・デヨ（自動、下二）［青出］「青むヲ見ヨ」青ミテ生ヒ出ヅ。青青ト萌エ出ヅ。源、三十五、柏木四「庭モ、ヤウヤウあをみいづる若草、見エワタリ」

あをみかん（名）［青蜜柑］たちばなノ類、實ノ青キ時ヨリ食フベキモノ。朝鮮ノ種ナリ。（語彙）綠橘

あをみづひき（名）［青水引］みづひきノ條ヲ見ヨ。

あをみづら（枕）［青角髪］〔萬葉集古義ニ、南部巌男ノ説トテ、青角髪ハ借字ニテ、碧海面（海面）ノ義、碧海郡ノ地面ノ意、依網郷、同郡中ニアリト云フ、然ルトキハ、枕詞ニテハ、アラヌコトトナル、冠辭考ノ説ハ、迂遠ナリト思ハル」參河國ノ郡名、依網ノ枕詞」萬葉集、七[illegible]、依網ノ原ニ、人モ逢ハヌカモ、[illegible]抄、五[illegible]、碧海郡[illegible]」同、六[illegible]、依網郷[illegible]」

あをみどり（名）［青綠］綠色ノ濃キモノ、深綠 延喜式、織染用度、青綠帛一疋、紺、黃蘗二斤」拾玉集、三「住吉ノ、松ノ梢ノ、あをみどり、松ナキ庭ノ、景色ナリケリ」

あをみどり（名）［青綠］〔みどろト云フハ、音通ナリ、黑、くり。（涅）かぶり、（被）かぶろ（童丱）〕小藻ノ名。今、あをみどろト云フ。溜水ニ生ズ、綠色ニシテ、絲ノ如シ、水面ニ浮ブ。水綿 新六帖、五、みどり「片淵ノ、水ニ浮キタル、青みどり、何ヲ種トモ、ナキ世ナリケリ」拾遺愚草、上「雪消ユル、片山藤ノ、青みどり、岩根ノ苔モ、春ハ見セケリ」

あをみどろ（名）［青綠］前條ヲ見ヨ。

あをみなづき（名）［青水無月］〔青葉、彌ガ上ニ繁ル頃ナレバ、云ヘルカ〕陰暦六月ノ異稱。夫木抄、九「アカネサス、あをみな月ノ、日ヲ痛ミ、扇ノ手風、溫クモアルカナ」「旅人ノ、端山ノ裾ニ、休ラヘバ、あをみな月モ、涼シカリケリ」

あをみやうばん（名）［青明礬］綠礬ノ一名。（伊勢）

あをみわたる・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）［青亘］一面ニ青ム。和泉式部集、一「春雨ノ、日ヲ經ルママニ、我ガ宿ノ、垣根ノ草ハ、あをみわたりヌ」玉葉集、二、春、下「彌生ノ末ツ方、楷、あをみわたりテ、雨降リケルヲ御覽ジテ」

あをむ・ム・メ・マ・ミ・メ（自動、四）［青］〔青ヲ活用セシム（赤む、黑む）〕（一）青クナル。字鏡、十二「艶、阿乎彌豆志牟」夫木抄、廿八「春ノ池ニ、一重凍レル、薄氷、あをむ玉藻モ、隠レザリケリ」風雅集、八、冬「オノヅカラ、垣根ノ草モ、あをむナリ、花ノ下ニモ、春ヤチカヅク」（二）青ザム。顏色蒼白トナル。[illegible]「[illegible]セテ、アサマシウ、ハカナゲニテ、打臥シタマヘル」（顏青ナリ）散木集、八、雜、下「語ラヒセル人ノ、コノ頃ハ、イカナルコトニカ、色モあをみ衰ヘタルハ」

あをむく（動）［同］あふむくヲ見ヨ。

あをむけ（名）［仰］あふむくヲ見ヨ。

あをんざう（名）［青藏］〔あをざうノ音便、（ほだはら、ほんだはら。おぼる、おんばる）［堅藏、若藏、下卑藏ノ類］〕卑語ニ、面色ノ青ザメタル者ノ渾名。

あをむし（名）［青蟲］小昆蟲、前翅ハ、長三角、後翅ハ、底圓三角形ニシテ、樺褐色ナリ、下脣鬚、突出シ、上方ニ曲リ、觸角アリ、脚ニ刺毛ヲ具ス、（羽化後ノ貌）螟蛉 倭名抄、十九、十二「螟蛉、阿乎無之」註「小蟲、小宛篇「螟蛉有子、[illegible]之」[illegible]、其色青而細小、或在草萊上ニ」（似我蜂ノ條ヲ見ヨ）

あをめじま（名）［青梅縞］〔あをめハ、あをうめノ約（尾上、をのへ。岸上、きしね）〕武藏國、西多摩郡、青梅ノ地、及ビ、其近傍ヨリ產ズル織物、粗ナル絹絲ヲ經トシ、綿絲ヲ緯トシテ織ル。

あをめわた（名）［青梅綿］〔文化、文政ノ頃、多ク、武藏ノ青梅ノ地ヨリ產ゼシヨリ、此名アリト云フ〕前條ヲ參見セヨ〕もめん綿ノ、上等ナルモノノ稱。多ク蒲團ノ入綿トス。

あをもじ（名）［青文字］木ノ名。くろもじノ條ヲ見ヨ。

あをもち (名) [青餅] くさもちニ同ジ。

あをもち (名) [青持] 〔俳諧師龜成ト云フ者、此落語ヲ始ム、青持ハ、其別號ナリト云フ〕 落語ノ一種。古今ノ事ヲ附會シテ、ワザト、時代違ヒノ噺ヲスルモノ。

あをもの (名) [青物] クサビラ。畑ニ作ル、青キ野菜類ノ總名。センザイ。ヤホヤモノ。[蔬菜] 天滿青物市場覺書、天明三年六月廿日「畑物、瓜、茄子、諸青物、問屋ニテ賣捌、云云、中買、町方、八百屋小商人マデ呼集メ、市ニ掛ケ候、云云」寶曆四年ノ文書モアリ。(古事類苑) 江戸職人歌合(文化)「青物賣」

あをもみぢ (名) [青楓] (一)楓ノ葉ノ、夏時、未ダ紅葉セヌモノ。 春雨抄(寛永)あをもみぢ「繁リ合フ、青キもみぢノ、下涼ミ、暑サハ蟬ノ、聲ニユヅリス」 (二)襲ノ色目ノ名。表ハ青、裏ハ朽葉色ナルモノ。(胡曹抄) 秋ノ着用トス。

あをや (名) [青屋] エタ類ノ異名。(あゐぞめヲ參見セヨ) 雍州府志(天和)八、悲田寺「紺屋、號二青屋一、又稱二藍屋一、如今、紺屋爲二染家之通稱一、其中、青屋、元、エタ之種類也、エタ、非、青屋、每レ有二刑戮一出二其場一、或磔レ尸、或梟レ首」(節文) 倭訓栞、あゐ「藍屋ヲ賤シムハ、大方等陀羅尼經ニ、不レ得三藍染家往來一ト云フ制アルニ因レリト云ヘリ、青ヲ染ムルニハ、多ク虫ヲ殺スト云フ事、薩婆多論ニ見エタリ」

あをやうかん (名) [青羊羹] 羊羹ノ、青粉ヲ加ヘテ製シタルモノ。

〜あをやかに (副) [青] 〔やかにハ、副詞ニ作ル接尾語(艶やかに、細やかに)〕 青ク鮮ニ。青青ト。 名義抄「碧、アヲヤカナリ」

源、廿五、螢十「御簾あをやかに懸ケワタシテ」同、四、夕顔三「切掛ダツ物ニ、イトあをやかなる葛ノ、心チヨゲニ匍ヒカカレル」

あをやぎ (名) [青柳] 〔あをやなぎト云フガ本語ナレド、多クハ、あをやぎト云フ、中略ナリ(科長、しなが。ものながら、ものから)〕 (一)〔あをやなぎ。枝垂柳ノ、青葉ノウルハシキヲ云フ語。 萬葉集、五、宴會賦二園梅一「阿乎夜奈義、梅トノ花ヲ、折リカザシ、飲ミテノ後ハ、散リヌトモヨシ」 同卷六「梅ノ花、咲キタル園ノ、阿乎夜疑ヲ、鬘ニシツツ、遊ビクラサナ」 同、十九廿長歌「青柳ノ、(如キ)細ソキ眉根ヲ、笑ミマガリ」 古今集、序「青柳ノ絲絕エズ、松ノ葉ノ散リ失セズシテ」(絲ハ、枝垂ヲ云フ)後撰集、二、春、中「青柳ノ、(序)いとツレナクモ、ナリユクカ、イカナルすぢニ、思寄ラマシ」(絲ヲ、最ニカク)三體詩、五言絕句「客舍青青柳色新」 (二)〔催馬樂ノ曲ノ名。律、春中用レ之。 催馬樂、青柳「安乎夜支ヲ、片絲ニ搓リテ、鶯ノ、縫フト云フ笠ハ、梅ノ花笠」 (三)襲ノ色目ノ名。表、裏、共ニ、濃キ青ナルモノ、春ニ着用ス。 語彙、あをやなぎ「重色目ナリ、口傳抄、面濃青、裏同」

あをやぎの (枕) [青柳乃] 〔青柳ヲ鬘ニスルヲ移シタルナリ、前條ノ萬葉集ノ歌ヲ見ヨ〕 葛城山ノ枕詞。山ハ、大和國ニアリ。 新古今集、一、春、上「白雲ノ、タエマニナビク、あをやぎの、葛城山ニ、春風ゾ吹ク」 萬葉集、十一九「春楊、葛山ニ、發ツ雲ノ、(如ク)立チテモ居テモ、妹ヲシ思ユ」(青柳ト云フニ同ジ)

〜あをやなぎ (名) [青柳] 前前條ヲ見ヨ。

〜あをやま (名) [青山] 草木ノ繁茂シタル山。青嶺。 古事記、上三十八長歌「阿遠夜麻ニ、鵺ハ鳴キ」 神武紀ニ「東有二美地一、青山四周」 萬葉集、七廿旋頭歌「垣越ユル、(序)犬呼ビ越セテ、鳥狩スル君、青山ノ、葉繁キ山邊、馬休メ(ヨ)君」

〜あをやまぶき (名) [青山吹] 襲ノ色目ノ名。表ハ青ク、裏ノ黃ナルモノ。(胡曹抄) 春ノ着用ナリ。 枕草子、六、五十八段「紫ノイト濃キ指貫、白キ青山吹ノ、イミジクオドロオドロシキ」

あをゆで (名) [青煠] あをに(青煮)ヲ見ヨ。

あをゆべし (名) [青柚餅子] 青キ柚子ニテ製シタル柚餅子。

あを・る (動) [煽] あふる(煽)ヲ見ヨ。

あをわかめ (名) [青若布] 海藻ノ名。色、綠ニシテ赤ミアリ、通常ノ若布ニ似テ、質剛クシテ、品劣ル。

あをわらは (名) [青童] 〔青女房ヨリ移リタル語ナルベシ、其條ヲ見ヨ、童、固ヨリ未熟ナレバ、未熟童ト云フニハアラズ〕 君側ニ近ク奉仕スル女童ナルベシ。 盛衰記、十六、仁寛流罪事、醍醐寺仁寛阿闍梨「彼仁寛ハ、三宮(輔仁親王)御持僧ナリ、御位ノ御宿願ヲ遂ゲサセタマハムガ爲ニ、或ハ、青童ノ貌、或ハ、內侍ノ形ニテ、日夜ニ便宜ヲ伺ヒ奉リキ」(五歲ニマシマス鳥羽天皇ヲ、侵シ參ラセムトセシナリ)

あをゐ (名) [青藺] ふとゐニ同ジ。 字鏡集「莞、アヲヰ」

あをゑ (名) [青繪] ごす(吳須)ノ條ヲ見ヨ。

あををんな (名) [青女] 〔青女房ノ、青ニテ、宮仕セズシテアル意ナルベシ〕 宮仕セヌ、尋常ノ女房。 吾妻鏡、一、治承四年九月十日、一條次郎等、諏方ノ上宮ノ邊ニ止宿ス「及二深更一青女一人、來レ于二一條次郎忠賴之陣一云云、女云、吾者、當宮大祝、篤光妻也、爲二夫之使一參來、云云」

い

い 五十音圖、阿行第二ノ假名。(あノ條ヲ見合スベシ)

〜い (名) [脯] 腹中ノ諸機關ノ總稱。 靈異記、上、第一縁「小子部栖輕者、云云、雄略天皇之隨身、肺脯侍者也」訓釋「肺脯、肺、肝也、下、音布、訓、伊也」トアリ、(股肱ノ臣ナドト同趣カ) 漢書、貨殖傳「胃脯」註「作二沸湯一燖二羊胃一云云」ナド見ユ。 上古ハ、內臟ノ肺、肝、胃、膽、等ノ機關ヲ、區別ナク、おほろ、又ハ、きもナドト總稱セリ、此語モ、總稱ナリ、區別シテ、各、名稱ヲ附シタルハ、支那ヨリ醫術傳來シテ後ナリ。

〜い (名) [膽] 〔きもトモ云フ、きも太し、(大膽)前條ヲ見ヨ、醫術、支那ヨリ傳來ノ後、膽ノ字ニ附シタル訓ナリ、語原、詳ナラズ、强ヒテ言ハバ、沃るノ語根ニテ、膽汁ヲ、胃ニ沃懸クル意ニモアラムカ、サレド、此說ハ、西洋醫學ニ因リテ傳ヘタルコトト思ヘバ、古言ニハ合ハヌカ〕 動物、腹中ノ機關ノ一。右ノ脇、肝臟ノ下ニアリ、圓長ナル囊ノ如シ、因リテ膽囊ト云フ、肝臟ノ分泌物、卽チ、膽汁ヲ受ケテ貯フ、膽汁ハ胃中ニ入リテ、食物消化ノ用ヲナス。 齊明紀、五年三月「膽振鉏蝦夷」註「伊浮梨娑陛」(地名ナリ) 天治字鏡、一三十「膽、伊」(倭名抄、同ジ) 和漢三才圖會(正德)十一、經絡「膽、和名、伊、云云、爲二清淨之府一受二水之氣一」 說文「膽、連レ肝之府」

〜い (名) [齋] 〔氣ノ下略、神事ニ不淨ヲ忌避スル意〕 清淨ナル氣。潔キモノ。(不

淨ノ氣ニ對ス）」ニミ、古事記、下二十八紫、カミツ瀬ニ、伊久比ヲ打チ、シモツ瀬ニ、麻久比ヲ打チ、伊久比ニハ、鏡ヲカケ、麻久比ニハ、眞玉ヲカケ」萬葉集、十三「チハヤフル、神ノ伊垣モ、コエヌベシ、今ハワガ名ノ、惜シケクモナシ」

い (名) 寐 眼ヲ閉ヂテ寐入ルコト。ぬる ノ、臥スコトヲ廣ク云フト、稍、異ナリ、寐ぬる、寢ネテモ云フナリ。古事記、上「長歌 眞長ニ、伊ハ寐サムヲ」萬葉集、一四「大和戀ヒ、寐ノ寐ラエヌニ、心ナク、此洲ノ崎ニ、田鶴鳴クベシヤ」同、十三「寐ヲモ寐ズ、(哭を泣くト同趣)吾ガ思フ君ハ、何處邊ニ」拾遺集、二、夏「五月雨ハ、いコソ寐ラレネ、ホトトギス、夜深ク鳴カム、聲ヲ待ツトテ」詞花集、十、雜、下「夢ナラデ、又モ逢フベキ、君ナラバ、寐ラレヌいヲモ、歎カザラマシ」新古今集、三、夏「ホトトギス、一聲鳴キテ、往ヌル夜ハ、イカデカ人ノ、いヲヤスク寐ル」(一聲鳴 安寐)

い (名) 蛛絲 〔絲ノ下略、(莎草苞、くぐつ)くもの絲ト云フガ成語ナリ〕又、くものい、くものいと。蜘蛛ノ尻部ヨリ出ス、極メテ細ソキ白絲ノ如キモノ。コレヲ、物ヨリ物ニ亙シテ、空中ニ網ノ如キモノヲ作ルヲ、くものあみ、又、今、くものすト云フ、(其條ヲ見ヨ)作るヲ、かくト云フ、(構くノ條ヲ見ヨ)因リテ、くものいがき、くもノ巣がきト云フ。源順集「イツコトモ、イサヤ白波、立チヌレテ、下ナル草ニ、カケル蜘ノい」十訓抄、上、第一、第六條「岩ノモトニテ、いト云フモノ、いヲカケタリケルニ、大ナル蜂ノカカリタリケルニ、いヲ繰リカケテ、巻キ殺サムトシケル、云云」金葉集、七、戀、上「荒カリシ、風ノ後ヨリ、絕エヌルハ、くもでニすがく、絲ニヤアルラム」永久百首、雜「枯レノコル、荻ノアヤメヲ、タヨリニテ、繰リカヘシ引ク、くものいとすち」小大君集「彥星ノ、來ベキ夜トヤ、蜘蛛ノ、くものいがきモ、カケテ見ユラム」拾遺集、十七、雜、秋「秋風ハ、吹キナ破リソ、我ガ宿ノ、アバラ隱セル、くものすがきヲ」

い (名) 意 (一)ココロバセ。オモヒコミ。オモハク。意志。晉書、羊祜傳「人生貴二得意一」史記、項羽紀「[illegible]」晉書、羊祜傳「天下不レ如レ意者、恒十居二七八一」意到りて、筆隨ふト云フハ、文ヲ作ルニ、思フママニ筆ノハコブト云フ心ナリ。春渚紀聞「東坡曰、吾生平作レ文、意之所レ到、則筆力曲折無レ之、無レ不レ盡レ意」(二)ココロ。ワケアヒ。意味。意義 英吉利ニ、英爾、吉利、利益ノ意ナシ、唯、音譯シタルノミ、外國文ノ意譯ナド云フモ、是レナリ。

い (名) 移 〔唐ノ制ニ據レル語ナリ、他ノ司ニ移す義ナリ、移文ト、義ハ異ナレド、語原ハ同ジ〕諸司、事ヲ記シテ、互ニ往復スル文書ノ稱。唐六典、一、尙書都省「諸司自相質問、其義有レ三、曰レ移、謂レ移二其事於他司一」令義解、公式、移式「刑部省移二式部省一、其事、云云、故移」續修東大寺正倉院文書、十五、右馬寮移、武藏國移」朝野群載、廿二、諸國雜事「上野國移二民部省一」法曹至要抄、上、作二官文書一事「詐僞律云、詐二爲官文書一者、技一百二注「符、移、解、牒、之類」字類抄「移、イ、書名也」

い (名) 醫 〔說文「醫、治レ病工也」增韻「療也、或作レ毉」(巫醫ノ條ヲ見ヨ)〕(一)クスシ。病ヲ癒スコトヲ專業トスル人。醫師。醫者。專ラ學問ニカムルヲ、學醫ト云ヒ、專ラ治療ニ就クヲ、侍醫ト云フ。禮記、曲禮、下篇「醫不二三世一不レ服二其藥一」史記、扁鵲傳「扁鵲來入二咸陽一、聞二秦人愛二小兒一、即爲二小兒醫一」宋書、顏延之傳「許胤宗、云云、或勸二其著レ書、貽二後世一者、答曰、醫特意也耳、吾意所レ解、口不レ能レ宣也」(二)醫ノ技。醫術 帝王世紀「黃帝使二岐伯嘗二草木一、典二醫療疾病一」海錄(文政、山崎成美)二十、十三條「醫ハ仁術ト云フ事、古來、言ハザル事ニテ、今、人口ニ膾炙セリ、我邦ガ書說ノ諸端甲辰、康熙ノ序ニ、藥、醫仁術、云安、老保レ安、防レ己濟レ人之道備、焉トアリ、醫、古クアルベシ」

い (名) 異 異ナルコト。奇異。「人人、コレヲ異ナリトス」(異ナ事)

イ (名) 〔異本、又ハ、一本ノ略〕 按合シタル書ニ、文字ノ傳ニ、「イ」ト記シタルアリ、別ノ書ニ、此ノ如クアリ、ト云フ標ナリ。

い (數) 五 〔「一、二、三、四、五、六、七、八」いつト云フモ、五箇ナリ、三箇、四箇〕イツ。イツツ。五。但シ「五十」「五百」ナド、稀ニ接頭語トシテ用キラルルノミ。古事記、下(雄略)長歌「[illegible]伊保知モ、伊保知モガモ」(五百箇)萬葉集、十八「長歌」[illegible]伊保知モガモ」(五百箇)景行紀、十二年十月、土蜘蛛「五人」六帖、一、雪「岩ノ上ノ、松ノ梢ニ、降ル雪ハ、いそかへり降レ、後マデモ見ム」(五十)

い (數) 五十 〔前條ヲ見ヨ、五十ノ略ナルベシ〕五十。五十。他ノ語ニ冠シテ用キラルルノミ。垂仁紀、廿五年三月「五十鈴川」(五十鈴)萬葉集、九、長歌「冬ノ夜ノ、明カシモ得ヌヲ、五十モ寐ズニ、我レハゾ戀フル、妹ガタダカニ」(寐も寐ずナリ)同、十三、長歌「五十槻ガ枝ニ」「五十日ノ祝」

い (動) 沃 沃るヲ見ヨ。「沃サセタマヒ沃カケテ」

い (感) 馬聲 「いななく、いばゆノ語根、ヒンヒン」馬ノ、イナナク聲ニ云フ語。萬葉集、十二、卅六「馬聲蜂音石花蜘蛛荒鹿、妹ニ逢ハズテニ」(いぶせしノ條ヲ見ヨ)

い (辭) 伊 名詞ノ下ニツケテ、其主語タルヲ示ス辭(奈良朝文法史)續紀、長歌「[illegible]伊、石[illegible]伊持チ、[illegible]テシ止マム」(續紀、石[illegible]八、[illegible]ノ名ナリ、其條ヲ見ヨ)續紀、廿四年十月「毛野若子伊、[illegible]キ上ル」萬葉集、[illegible]伊、[illegible]メテムカモ」同、十二、三十「家ナル妹伊、イブカシミセム」又、動詞、助動詞ノ連體形ノ下ニモ

[illegible]、[illegible]、[illegible]トナルベシ。[illegible]、三十、[illegible]レヲ致シ、捨ツル伊ハ、[illegible]リヲ[illegible]キツ」萬葉集、七、三十「向岡ノ、若楓ノ木、下枝取リ、花待ツ伊、間ニ、歎キツルカモ」同、十八「靑柳ノ、絲ノ細シサ、春風ニ、亂レヌ伊、間ニ、見セム子モ欲得」同、三五十、長歌「玉緖ノ、絕エジ射、妹ト、結ビテシ、言ハ果サズ、思ヘリシ、心ハ遂ゲズ」あるいは(或)ト云フ語モ、或伊ナリ。

い (接頭) 伊 以 〔[illegible]〕[illegible]語ナリ、少シモ意味ナシ、[illegible]、[illegible]ニ冠ス、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]「[illegible]」[illegible]伊隱ル」以逆フ」以向フ」伊、其ダ多シ。

い-あつ (名) [illegible] 札ヲ音ニ云フ語 [illegible] 遊詩「津札猶有二短檠一」

い-あん (名) 醫案 醫者ノカンガヘ。又、ソレヲ記シタルモノ。

イイ (數) 二 〔字ノ唐音〕ヒトツ。イチ。(算盤ノ語)「二、兩、三」

い-い (形) 好 〔よし、よきガ、よいトナリ、又、いいト轉ジタル語ナリ(好き、美しき。寄せる、いせる)〕好しニ同ジ。(東京)えい、(關西)。よいヲ參見セヨ。「天氣がいい」「いい物ガアル」

い-い (副) 易易 (一)安平。安康。禮記、[illegible]飮酒義「孔子曰、[illegible]知二王道之易易一也」(二)今、容易ノ意ニ用キル。ヤスヤスト。「其事、處分セムコト易易タリ」

い-い (副) 依依 (一)シナヤカナル意ヲ云フ語 [illegible]、小雅、[illegible]、[illegible]依依、[illegible]、今我來思、雨雪霏霏」(二)慕ヒ思フ意ヲ云フ

語。楚辭、九思篇「志戀戀兮依依」蘇武詩「胡馬失二其群一、思心常依依」

いい（副）【怡怡】〔說文「怡、和也」爾雅、釋言「悅也」玉篇「樂也」〕ヤハラギヨロコブ意。論語、鄕黨篇「逞二顏色一怡怡如也」同、子路篇「兄弟怡怡」

いい（感）【唯唯】〔倭訓栞、いい「唯ノ字ヲ訓ムモ、音ノ響キニハアラズ、倭語ノ答辭ナルベシ」應聲考（伴信友全集、三）「いハ、いらふ（應）ノ首ノ、いナリ」いいハ、いヲ長ク引キテ發スルナリ、（椅桐、いいぎり。貽貝、いいがひ）漢語ノ唯唯ト、音相似タリ、（其條ヲ見ヨ）萬葉集、十六「竹取翁曰、唯唯」ト旁訓シタルハ誤レリ、（字音ニハアラジ）國語ナレバ、いナルベシ、尙、唯唯ノ條ヲ參見セヨ」應フルニ發スル聲。オオ。今ノ、はいはい。論語、里仁篇「子曰、參乎、（孔子門人、曾參）吾道、一以貫レ之、曾子曰、唯」（古訓、應聲考）

いい（感）【噫】嗚呼ニ同ジ。論語、先進篇ニ「顏淵死、子曰、噫、天喪レ予、天喪レ予」トアルニ、家藏ノ假名論語ニ「がんねんしぬ、しの、のたふまく、いい、てん、われをほろぼしつ、てん、われをほろぼしつ」トアリ、此書ハ、總平假名書ニテ、卷首ニ、大學頭菅原朝臣在茂ト、附箋アリテ、高山寺ノ朱印アリ、菅家ニテ、兒童ニ、訓點ヲ口誦セシメムトテ、記シタルモノト思ハル。在茂ハ、高倉天皇ノ頃ノ人ナリ。

いいああ（感）【咿咿啞啞】〔咿啞咿啞ナリ、虛虛實實、虛實虛實〕艪ヲ漕グ艪ノ音ニ云フ語。俚言集覽、咿咿啞啞「小說語ナリ、舟ヲ漕グ時、舟ノ鳴ル音」

イイアブック（名）〔英語、Year-book.〕年鑑。

いいえ（副）【否否】いいやヲ見ヨ。

⁂いいかげん（名）【好加減】〔東京語、加減モ、位モ、程合ナリ〕（一）ホドヨキコト。いいくらゐ。好適「風呂ガいいかげんニ沸イタ」「いいくらゐ取ッテオケ」（二）ホドヨクマジクナフコト。心ヲ盡シテ處分セヌコト。いいくらゐ。糊塗「いいかげんナ事ヲ云フ」「仕事ヲいいくらゐニシテオク」

いいがひ（名）【貽貝】いがひ（貽貝）ヲ見ヨ。

⁂いいきみなる（句）【自讚】〔いいきハ、好い氣〕自ラ己レヲ可シトス。ヒトリヨガリス。オノボレル。（東京）

⁂いいきび（名）【好氣味】〔氣味ノ條ヲ見ヨ〕ココロヨキコト。惡人ノ、罰セラレタルナドニ云フ。（東京）痛快

いいぎり（名）【椅桐】〔又、いぎりトモ云フ、韻會「椅、於宜切、音猗」字音ニテ、椅桐ニテ、貽貝、鸊鷉、ト同趣ノ語ナルベシ、いいハ、延ベテ云フナルベシ、陸璣草木疏「梓實、桐皮、曰レ椅」此樹、野生アリ、いぬぎりトモ云フ、コレ本語ナルベシ〕又、いぎり。いぬぎり。落葉喬木。木曾、紀伊、伊豆、九州、琉球等ノ山中ニ產ズ、幹ノ高サ四五丈、樹皮ハ、白褐色ニシテ、褐色ノ斑點多シ、葉ハ、柄三寸、心臟形ニテ、粗ナル鋸齒アリ、長サ四五寸、幅四寸許、五月、梢頭ニ、黃花數十、簇リテ下垂ス、香氣アリ、實ハ、ふんてんニ似テ、稍大ナリ、集リテ垂ル、冬、紅熟シテ美觀ナレバ、人家ニ植エラル、味、甘クシテ、苦味アリ、材堅實ニシテ、諸器具ニ造ラル。（日本百科大辭典）

いいぎり（名）【竈馬】〔きりこ、いいぎりこ、竈ぎりす、ナドノ異名モアリ、いいハ飯ニテ、廚下ノ殘飯ヲ食フ意ナリト云フ、きりハ、きりぎりすノ略〕蟲ノ名。おかまこほろぎノ異名。俚言集覽、いいぎり「秋ノ夜、竈邊、廚下ニ出デテ、殘食ヲ求メテ食フ蟲ナリ」

いいぎりこ（名）【竈馬】前條ヲ見ヨ。

⁂いいくらゐ（名）【好位】いいかげんヲ見ヨ。

⁂いいこ（名）【好兒】（一）小兒ヲ褒ムル語。（東京）「坊ヤハいい子ダ、ネンネシナ」（二）己レヒトリ、人ニ褒メラレムト振舞フヲ、いいこにならうとするト云フ。（東京）

いいこ（名）【竈馬】いいぎりヲ見ヨ。

⁂いいこと（名）【好事】〔東京語〕（一）好キ事ノ口語。「いいことガアル」（二）好運ニ出合ヒテ喜ブニ云フ語。幸福「玩具ヲ貰ッテ、いいこと」（小兒ニ）

イイスタア（名）【復活祭】〔英語、Easter.〕基督敎ノ祭ノ名。基督ノ、十字架上ニ磔殺セラレテ、第三日ニ復活シタリ、トノ傳說ニ因リテ、追念ノ爲ニスルナリ、春ノ彼岸後、第一新月ヨリ數ヘテ第十四日以後、最初ノ日曜日ニ行フ。

いいつきひのした（名）【好月日下】いいつきひのしたに生れた、ナド云フハ、好運ナル人ニ云フ。

⁂いいつらのかは（名）【好面皮】〔東京語ナリ、惡キ面ヲ、戲レニ、反對ニ云フ、面白いヲ、面黑いト云ヒ、鼬ノ面ヲ、みめよしト云フ類ナリ、つらのかはトハ、其目ニ遭ヒタル面皮ヲ云フカ、恥晒ノ意モアリ〕カサネガサネ、割ノワルイ目ニアヒタルナドニ云フ卑語。「物ヲ取上ゲラレタ上ニ、叱ラレタ、いいつらのかはダ」

⁂いいとり（名）【好鳥】〔鳥網ヨリ起レル語〕いいとりがかかったナド云フハ、思ハヌニ、好キ獲物ガ、我ガ手中ニ陷レリト云フ意ノ語。

いいめ（名）【好目】〔博奕ノ骰目ヨリ起ル〕いいめがでるナド云フハ、好運ニ出合フ意ヲ云フ。

⁂いいや（副）【否否】〔いやいやノ略、（うら、うらら。きはきは、きはは）いやノ條ヲ見ヨ、音ヲ轉ジテ、いえ、いいえトモナル〕打消ス意ヲ云フ語。いや。いやいや。いえ。いいえ。

いう（名）【優】（一）スグレタルコト。マサリタルコト。（藝能ニ）いうにノ條ヲ併セ見ヨ。名義抄「優、イウナリ、マサレリ、スグル」天德四年內裏歌合「左右歌俱以優也、不レ能レ定二中勝劣一」「優劣」（二）シトヤカナルコト。落着キテ、品ノ好キコト。（容貌ニ）源、二、帚木五「トルカタナク、クチヲシキキハト、いうナリトオボユバカリ、スグレタルトハ」

いう（名）【有】〔詩經、商頌、玄鳥篇「奄二有九有一」傳「九有、九州也」〕タモツ物。モチモノ。所有。所持。「我ガ有ニ歸ス」官有　私有

いう（接）【有】又。ソノウヘニ。書經、堯典篇「朞、三百、有、六旬、有、六日」註「有、又也」詩經、邶風、終風篇「不レ日有レ曀」「一年有半」「十有五年」「三尺有奇」

いうあい（名）［友愛］兄弟ノ間ノ情愛。[illegible] 又、[illegible]

いうあく（名）［優渥］［詩經、大雅、瞻卬篇「天之降レ罔、維其優矣」說文「渥、霑也」］恩澤ノ、十分ニ浸ミ入ルコト。詩經、小雅、[illegible]

いうい（名）［有意］［無意ニ對ス］心アルコト。意味アルコト。世說、文學、中篇、[illegible] 之所レ貴、[illegible] 正在ニ有意無意之間ニ

いういう（名）［幽憂］憂鬱病ノ類ナルベシ。憂鬱ノ條ヲ見ヨ。莊子、讓王篇「我適有ニ幽憂之病、方且治レ之」續紀、十二、天平九年十二月 [illegible] 夫人 [illegible] 幽憂、久廢ニ人事ニ」

いういう（副）［優優］［爾雅、釋訓「優優、和也」］ユッタリシタル狀ニ云フ語。詩經、商頌、長發篇「不レ剛不レ柔、敷レ政優優」注「言ニ人君德政寬緩ニ也」

いういう（副）［優遊］（一）閒暇アル狀ニ云フ語。ノビヤカニ。詩經、大雅、卷阿篇 [illegible] 優遊 [illegible] 自得ニ」（二）タメラヒ居ル狀ニ云フ語。グヅグヅシテ。漢書、元帝紀贊 [illegible] 優遊不斷ニ」（決斷セズ）

いういう（副）［悠悠］（一）ユッタリシタル狀ニ云フ語。悠然。詩經、[illegible]（二）遙ケキ狀ニ云フ語。詩經、[illegible]「悠悠蒼天、曷其有レ極」（三）渺渺トシテ、トリトメナキ狀ニ云フ語。[illegible] 題ニ長安主人壁ニ詩「世人結レ交須ニ黃金、黃金不レ多交不レ深、縱令 [illegible] 許、終是悠悠行路心」（[illegible] フ人ノ冷淡ナルガ如シ）

いういうくわんくわん（副）［悠悠緩緩・優優緩緩］（一）ユルヤカナル狀ニ云フ語。ユッタリシテ。詩經、小雅、車攻篇「悠悠旆旌」[illegible] 百事是 [illegible] 朗詠集、下、[illegible]（二）俗間ニハ、急グベキニ急ガズ、悠長ニ構ヘ居ル意ニ用ヰル。[illegible]「時刻ガ來タノニ、いういうくゎんくゎんトシテ居ル」

いういう・し・シキ・シケレ・シク・シク（形、二）［優優］優ナリ。シトヤカナリ。落着キテ、品好シ。堤中納言物語、花櫻折る少將「物言ヒタルモ、ラウタキ物ノ、いういうしく聞ユ」

いういうふだん（句）［優遊不斷］優遊ノ條ノ（二）ヲ見ヨ。

いういはん（名）［有意犯］犯罪ノ成立ニ、故意アルコトヲ必要トスル犯罪ノ總稱。無意ナルヲ、無意犯ト稱ス。

いういん（名）［誘引］イザナフコト。サソフコト。後漢書、西羌傳「秋、鮮卑、復率ニ八九千騎ニ入レ塞、誘ニ引東羌ニ與共盟詛ニ（鮮卑、東羌、共ニ胡人種ノ稱ナリ）庭訓往來（元弘）正月五日「尋常射手 [illegible] 少少有ニ御誘引ニ、思食立 [illegible] 本望也」

いういん（名）［遊印］［遊戲の印ノ意］印ニ、己レガ名、又、號ヲバ用ヰズ、他ノ詩句、成語ナドヲ刻リタルモノ。己レガ書畫ノ關防ニ押シ、周圍ニ押シ、又、落款ノ下ナドニモ押ス。今體印令、詩句印「後人不 [illegible] ノ俗尙ナラム、近人、成語印、盛ニ行ハル、但、明末ノ [illegible] ニ「畫印アリ、云云、コレ皆、古人ノナキコトニテ、遊戲ノ印ト稱スベシ」（[illegible]）

いうう（名）［友于］［書經、君陳篇ニ「惟孝友ニ于兄弟ニ」トアル、其歇後ノ語ナリ、歇後ノ條ヲ見ヨ］（一）兄弟ノ仲ノ可愛シキコト。兄弟、ナカヨキコト。[illegible]（二）直チニ、兄弟ヲ云フ。陶淵明詩「一欣ニ侍溫顏、再喜見ニ友于ニ」（[illegible] 兄ハ、父母ナリ）杜甫詩「山鳥山花吾友于」（兄弟ノ如ク愛ス）續紀、廿三年八月「[illegible] 川下、心懷 [illegible] 行間ニ友于ニ」

いううつ（名）［憂鬱］イブセキコト。心ノムスボホルルコト。氣ノフサグコト。コレニ因リテ病トナルヲ、憂鬱病ト云フ。

いうえい（名）［游泳］［說文「泳、潛行水中也」「游、浮行也」］オヨギ。水泳。水練。朱栢詩「[illegible] 游泳多」

いうえき（名）［郵驛］ウマヤ。ウマツギノ宿場。宋史、[illegible]「[illegible]」字 [illegible] 字「郵驛、イウエキ、ムマヤ、旅宿也」

いうえき（名）［誘掖］［詩經、陳風、衡門篇、序「誘ニ掖其君ニ」疏「誘 [illegible] 在 [illegible] 前導レ之、掖 [illegible] 在 [illegible] 傍扶レ之」］ミチビキタスクルコト。[illegible] 左右。誘益 [illegible]

いうえき（名）［誘益］ミチビキ、タスクルコト。誘掖。[illegible] 後漢書、孔 [illegible]「[illegible] 後進ニ」

いうえき（名）［有益］［無益ニ對ス］事ニ益アルコト。[illegible]「日有レ益、月有レ功」

いうか（名）［有價］アタヒアルコト。直打ノ高キ物。「有價物件」

いうかい（名）［幽界］［顯界、又、現界ニ對ス］カクリヨ。アノヨ。ヨミヂ。冥土。

いうかい（名）［誘拐］［正字通「拐、[illegible]」］勾引。カドハカシ。新刑法ニテハ、未成年ノ男女ヲ誘拐シタルハ、誘拐罪トシテ、三月以上、五年以下ノ懲役ニ處セラル、以上、[illegible] アリ。

いうがいくわしゃ（名）［有蓋貨車］[illegible] ノ貨車ニ、蓋アルモノ。運送ノ手荷物、馬、魚ナド、雨露、霜雪ノタメニ、損傷ノ生ズベキ貨物ニ用ヰラル。

いうがいしょくぶつ（名）［有害植物］次條ヲ見ヨ。

いうがいどうぶつ（名）［有害動物］[illegible] 植物ノ生育ニ害ヲナス動物。殊ニ、農作物ヲ害スル昆蟲、鳥獸ノ類。又、同ジク、植物ニ寄生シテ害スル植物ヲ、有害植物ト云フ。

いうかう（名）［有效］［無效ニ對ス］キキメアルコト。功能アルコト。「[illegible] 效ノ藥」

いうかう（名）［遊行］（一）アソビアルクコト。[illegible]（二）遊行ノ條ヲ見ヨ。

いうかうぢょふ (名) 遊行女婦 〔遊行ハ、浮浪レ歩行クニテ、一夫ヲ定メズ、定住ナキ意、即チ、後世ニ云フ、遊女ノ起リナルベシ、倭名抄、二「遊女、遊行女兒、宇加禮女」(遊行女婦ニ、女郎ノ字、多ク見ユ、今ノ世ニ、娼妓ヲ女郎ト云フ、相似タリ)うかれめハ、平安京ヨリノ語ナリ、奈良朝時代ノ遊行女婦ノ國語ハ、何ト云ヒケム、萬葉集、十八 二十六「言ニ佐夫流ニ者、遊行女婦之字也」トアレド、歌ニハ「左夫流其兒」トアリ、動詞ノ連體形ト見ユ、(字ハ、稱ノ意カ)變リ行ク意ノ荒るナルベク、左夫流兒ハ、遊行女婦ノ訓ナルベシ〕奈良朝時代ニ、京師、及ビ、諸國ニ遊行レテアリシ、一種ノ婦女ノ稱。女郎トモ云ヒ、娘子トモ云フ、宴ニ侍リ、枕席ヲモ勸メタリ、何レモ、詠歌ニ巧ミナルヲ見レバ、諸國ナルモ、貴人ノ下向止宿ノ驛館ナドニ、國司ノ祗承ノタメニ、京都ノ女ヲ迎ヘオキ、寢ニ御セシメシモノナルベシ。萬葉集、六 廿三 卅四 太宰帥大伴卿(旅人)上京ノ時「有ニ遊行女婦一其字曰ニ兒島一也、於レ是娘子、傷ニ此易レ別、嘆ニ彼難レ會、拭レ涙自吟ニ振レ袖之歌ニ「凡ナラバ、左毛右毛セムヲ、恐ミト、振リタキ袖ヲ、忍ビテアルカモ」(袖を振るハ、別レヲ惜シミテ招ク狀ナリ) 同、十八 廿五 教ニ喩史生尾張小咋一歌、長歌「射水川、流ル水沫ノ、寄ル方無ミ、左夫流其兒ニ、紐ノ緒ノ、(如ク)伊聯綴リ合ヒテ、鳰鳥ノ、(如ク)二人並ビ居」註「言ニ左夫流ニ者、遊行女婦之字也」(越中ノ國衙ノ史生ノ、遊行女婦ニ惑溺シタルナリ) 同、九 廿五 抜氣大首任ニ筑紫一時、娶ニ豐前國娘子紐兒一作歌「豐國ノ、香春ハ吾家、紐兒ト、伊聯綴リ居レバ、香春ハ我家」(香春ハ、田河郡中ノ地名、赴任ノ時ノ旅宿ナルベシ) 同卷 廿七 石河大夫遷レ任上レ京時、播磨娘子贈歌「君無クバ、ナゾ身裝ハム、櫛笥ナル、黄楊ノ小櫛モ、取ラムト思ハズ」 同、二十「久米禪師娶ニ石川女郎一」 同卷二十「大津皇子竊婚ニ石川女郎一日並皇子尊贈ニ賜石川女郎一御歌」註「女郎、字曰ニ大名兒一」 同卷六 廿 石川女郎贈ニ大伴田主一歌「風流士ト、吾レハ聞ケルヲ、宿貸サズ、吾レヲ還セリ、愚鈍ノ風流士」(女ノ方ヨリ結婚ヒタルナリ、此石川女郎ハ、遊行女婦ノ眞面目ヲ發揮シテアリ)

いうかく (名) 遊客 アソブヒト。遊人。史記、蔡澤傳「爲ニ楚悼王ニ立レ法、一ニ楚國之俗ハ禁ニ遊客之民一」

いうがく (名) 遊學|游學 故郷ヲ去リ、他方ニ出デテ、學問スルコト。史記、始皇紀「厚招ニ游學一」 同、孟子荀卿傳「荀卿遊ニ學於レ齊」

いうかしょうけん (名) 有價證券 財産權ヲ確認シ、且、證書其物ニ價格アル證券ニシテ、コレニヨリテ直接所得ヲ收メ得ベク、又、通常、時價ニヨリテ賣買、讓與セラルルモノ。(公債證書、株券、債券等ノ類)

いうき (名) 有期 時ノ、限リアルコト。(無期ニ對ス)「有期公債」有期刑」有期徒刑」

いうき (名) 有奇 一定ノ數ノ外ニ、ハシタノアルコト。有餘。

いうき (名) 誘起 イザナヒ、オコスコト。サソヒ、タタスコト。

いうぎ (名) 友誼 トモダチノヨシミ。

いうぎ (名) 遊戲 (一)アソビゴト。タハムレ。幼稚園ナドニテハ、智識ヲ進ムル教育ノ一方法トス。史記、周紀「其遊戲、好ニ種ニ樹麻菽一」 (二)諸學校ノ、體操競爭ノ諸技ヲ以テ、體軀ノ健康ヲ圖ル一方法トス。(三)いうげ(遊戲)ノ條ヲ見ヨ。

いうきう (名) 悠久 ハルカニ、久シキコト。中庸、第二十六章「博厚所ニ以載レ物也、悠久所ニ以成レ物也」「歳月悠久」

いうきくわがく (名) 有機化學 〔無機化學ニ對ス〕くわがく(化學)ノ條ヲ見ヨ。

いうきけい (名) 有期刑 〔無期刑ニ對ス〕次次條ヲ見ヨ。

いうきこうさい (名) 有期公債 償還ノ時期定マレル公債。

いうきじいうけい (名) 有期自由刑 〔無期自由刑ニ對ス〕期間ヲ有スル自由刑ノ總稱 新刑法ニ定ムル有期懲役、有期禁錮、及、拘留ハ、之レニ屬ス、有期ノ懲役及禁錮ハ、各一月以上十五年以下トシ、加重スルトキハ、二十年ニ至リ、輕減スルトキハ、一月以下ニ下スコトヲ得、拘留ハ、一日以上三十日以下トス。

いうきたい (名) 有機體 化學ノ語。動物、植物等、體ニ、死活、生枯ノ機關ヲ具ヘテ生長スルモノノ稱。其物ヲ、有機物ト云フ。鑛物ノ如キ、生長ノ機關ナキヲ無機體ト云ヒ、其物ヲ、無機物ト云フ。

いうきとけい (名) 有期徒刑 舊刑法ニ定ムル重罪ノ主刑ノ一。コレハ十二年以上、十五年以下ノ期間、島地ニ發遣シ、定役ニ服セシムル自由刑ナリ。但シ、島地ニ發遣スルハ男子ニ限リ、女子ハ内地ノ懲役場(今ノ刑務所)ニ於テ、定役ニ服スルモノトス。

いうきふ (名) 有給 〔無給ニ對ス〕俸給ノアルコト。俸給ヲ有スル業。

いうきふ (名) 優級 いうとう(優等)ニ同ジ。

いうきぶつ (名) 有機物 〔無機物ニ對ス〕生活機能ヲ備ヘタル物體。即チ、生物、殊ニ、顯微鏡的動植物、又、生活體ヲ構成セル組織。一ニ、有機體トモイフ。

いうきん (名) 游禽 オヨグ鳥。ミヅトリ。(水禽ニ同ジ) 王融詩「游禽暮知レ返」

いうきん (名) 遊金 アスビキン。使ハズシテアル金錢。

いうきやくのやうしゆん (名) 有脚陽春 〔溫和ナル春ノ、歩ムガ如シ〕巡廻シテ、人民ニ恩澤ヲ施スコト。開元天寶遺事「宋璟愛レ民恤レ物、朝野歸レ美、時人咸謂ニ璟爲ニ有脚陽春ハ言ニ所レ至之處如ニ陽春煦レ物也」

いうきよ (名) 幽居 閑居ニ同ジ。禮記、儒行篇「幽居而不レ淫」 神代紀、上 廿「由レ此發慍、乃入ニ于天石窟ハ閉ニ磐戸一而幽居焉」

いうぎよ (名) 游魚 水中ニ游ギ居ル魚。陸機、文賦「若ニ游魚ノ銜レ鉤而出ニ重淵之深一」

いうきよう (名) 遊興 遊ビ興ズルコト。ナグサミ。雲州消息、二月晦日「遊興之事、于レ今無ニ其招ハ若是鶯鳳之群、偏嫌ニ鳥雀之類一歟」

いうく (名) 憂苦 ウレヘ、クルシムコト。心配シテ、苦ニヤムコト。史記、文帝紀「朕夙興夜寐、勤ニ勞天下ハ憂ニ苦萬民一」

いうぐ (名) 憂虞 〔虞ノ條ヲ見ヨ〕ウレヘ、オソルルコト。易經、繫辭、上傳「悔吝者、憂虞之象也」

いうぐう (名) 優遇 いうたい(優待)ニ同ジ。

いうくん (名) [遊君] (きみ(君)ノ條ヲ見ヨ) いうぢょ(遊女)ノ條ヲ見ヨ。

いうぐん (名) [遊軍] ウキゾナヘ。ウキゼイ。アキテ。古ヘ、戰列外ニアリテ、時機ヲ見計ヒ、敵ニ當リ、味方ヲ援クル部隊。遊兵、浮勢、又ハ浮武者トモイヒ、謙信流ニテハ、諸勢トモイフ。今日ノ豫備隊ニ相當シ、又、遊擊隊ニモ等シキナリ。 宋書、武帝紀「以二羸弱一爲二遊軍一」甲陽軍鑑、十一、上、品第三十五「一戰ヲイソギ度思召候ヘドモ、山縣ヲ始、ゆうぐんノ八備ヲ、にろねヨリ志田邊ノ道へ、云云」根井家日記、二、栗田口合戰「跡ヨリ參陣ナサレ候ヘトテ、注進ト一度ニ、御手廻衆ニ、遊軍衆少少ツレラレ」

いうくんしゃ (名) [有勳者] 勳章ヲ拜受シタル人。

いうくわい (名) [誘誨] いうだう(誘導)ニ同ジ。 僞章文「欲下以誘二誨學者一、庶中幾千古上也」

いうぐわい-そう (名) [遊外僧] 海外ニ往キテ遊ビシ僧。僧徒ノ、遠遊スルモノ。 紀略、七、天元五年八月十六日「天台僧奝然、依二本寺讓一入宋」同、十、長保四年三月十五日「入道前三河守大江定基(註、法名寂照)上狀向二大宋國一」

いうくわく (名) [遊郭] いうぢょ(遊所)ニ同ジ。クルワ。イロザト。

いうくわん (名) [憂患] ウレフルコト。心配。心痛。 大學「有レ所二憂患一、則不レ得二其正一」

いうくわん (名) [遊觀] 遊ビナガラミルコト。遊覽。 劉楨詩「登レ高且遊觀」

いうげ (名) [遊戲] アソビ、タハムルルコト。イウギ。アソビゴト。 「遊戲ノ印」「遊戲印」「遊戲三昧」

いうげ (名) [遊化] 遊行シテ、人ヲ化導スルコト。

いうけい (名) [有形] 形ノアルコト。形アリテ、目ニ見ユルコト。(無形ニ對ス)

いうげい (名) [遊藝] 遊興ニ屬キタル藝能。謠、舞、茶ノ湯、生花、軍談、落語、手品、輕業、淨瑠璃、踊、芝居ナド。又、ピアノ、ヴァイオリン、オルガン等ノ洋樂ヲモ含ムニ至レリ。

いうげき (名) [遊擊] 遊軍ノ、出デテ、敵ニ攻メカカルコト。

いうげきたい (名) [遊擊隊] 兵法ニ於テ、敵軍ノ交通、連絡ヲ遮斷シ、其軍資ヲ損害セシメ、若シクハ奪略セシメ、或ハ敵情ヲ收集スル等、多クハ、敵ノ背後、若シクハ側面ニ動作スル、特種ノ部隊。 嘉永明治年間錄、十五「慶應二年十月廿三日、遊擊隊ヲ置ク、槍術方奥詰、同講武所詰、遊擊隊仰付ラレ、此後講武所劔術師範役名御廢止、遊擊隊頭取被二仰付一」

いうけふ (名) [游俠] ヲトコダテ。 史記、游俠傳「游俠任二氣節一」

いうけん (名) [有權] 權利ヲ有ツコト。

いうげん (名) [幽顯] 幽世ト、顯世ト。幽明。 神代紀、下「吾所レ治顯露事、皇孫當レ治、吾將退治二幽事一」舒明紀、元年正月「幽顯心」

いうげん (名) [幽玄] 玄ノ條ヲ見ヨ。

いうげん (名) [有限] 物事ニ、一定ノカギリアルコト。(無限ニ對ス)

いうげんせきにん (名) [有限責任] 一定ノ財産ヲ限リテ、債務ノ辨濟ニ充ツベキ責任。(無限責任ニ對ス)例ヘバ、有限責任會社トイヘバ、其會社ノ債務ハ、會社財産ヲ限リトシテコレヲ辨濟シ、社員ハ總テ直接ニ、自己ノ財産ヲ以テ會社ノ債務ヲ辨濟スル責任ナキガ如シ。

いうげんたい (名) [幽玄體] 和歌、連歌、俳諧等ノ風姿ノ一體。 毎月抄「歌ノスガタニ、アマタノ風姿アリ、十體トテ、古クハ家家ニタテオキテ侍ニヤ、十體ト申スハ、幽玄體、長高體、有心體、事可然體、麗體、濃體、有一節體、面白體、見樣體、拉鬼體、是ナリ、云云、此外ノ體ノミ可二存知一事アマタ侍リ、イハユル寫古體、景色體、哀體、存直體、行雲體、廻雪體、理世體、撫民體ト申スコトアリ、云云、行雲廻雪體ト申スハ、幽玄ノ歌ニトリテノ姿也、幽玄ノ歌ノ中ニ、ワキテ、行雲廻雪トイハルル姿侍リ、心幽玄、詞幽玄トテ、兩種アルベシ、今ノ體ハ、詞幽玄ニテ侍ルベキニヤ」連歌百韻、五十七箇「連歌ノ句體ニ、總ジテイヘバ、十體アリ、幽玄體、長高體、有心體等也」[illegible]「[illegible]中侍シ、[illegible]ニ、ソノ數ヲ分侍ラムコト、ユメユメアルベカラズ、タダ何トナク長高クシテ、幽玄有心ナル體、肝要候歟」[illegible]「一、三十體、十體ノ内ヨリ出ル事ナリ、發句ノ心得ニ、イカニモ成ルベシ、云云、幽玄體、行雲廻雪、長高、高山、遠白、遠海、有心、云云」幻住庵俳諧有也無也關「發句八體之事、幽玄體、人モ見ヌ春ヤ鏡ノウラノ梅、ヤガテ死ヌ氣色ハ見エズ蟬ノ聲、古池ヤ蛙飛込ム水ノオト」

いうこう (名) [有功] (無功ニ對ス) 功アルコト。テガラアルコト。 易經、上、隨卦「出レ門交有レ功」

いうこく (名) [憂國] 一國ノ大事ヲ、心ニカクルコト。 漢書、成帝紀「同レ心憂レ國者也」「憂國ノ志士」

いうこく (名) [幽谷] 山奥ノ、幽ナル谷。 詩經、小雅、鹿鳴之什、伐木篇「鳥鳴嚶嚶、出レ自二幽谷一、遷二于喬木一」

いうこん (名) [幽魂] 死者ノ靈魂。亡魂。幽靈。ナキタマ。

いうこん (名) [遊魂] 魂魄ノ、肉體ヲ離レ去ルコト。 易經、繫辭、上傳「精氣爲レ物、遊魂爲レ變」[illegible]「[illegible]物、聚極則散、而遊魂爲レ變也、遊魂言二其遊散一也」

いうこん (名) [遊魂] 易ノ卦ノ稱呼、火地晉ヲ乾宮ノ遊魂トシ、雷山小過ヲ兌宮ノ遊魂トシ、天水訟ヲ離宮ノ遊魂トシ、澤風大過ヲ震宮ノ遊魂トシ、山雷頤ヲ巽宮ノ遊魂トシ、地火明夷ヲ坎宮ノ遊魂トシ、風澤中孚ヲ艮宮ノ遊魂トシ、水天需ヲ坤宮ノ遊魂トス。

いうざう (名) [有造] 〔造ハ、爲也「造也、作也、僞也」易經、上經、乾卦「大人造也」、なすノ義〕 造成スル所ノアルコト。有心故造。 詩經、大雅、思齊篇「肆成人有レ德、小子有レ造」

いうし (名) [有司] ツカサビト。官吏。官員。役人。總ベテ、官衙、公署ニ、職務ヲ奉ズルモノヲイフ。 論語、泰伯篇「籩豆之事、則有司存」

いうし (名) [有志] 其事ニ志アルコト。 後漢書、[illegible]「[illegible]人有レ志、不レ[illegible]行一」

いうし (名) [遊絲] かげろふ(陽炎)ニ同ジ。イトユフ。 杜甫詩「落花遊絲白日靜」

いうし (名) [遊子] 他國ニ出デテ、遊ビ居ル人。タビビト。旅人。行客。 [illegible]「遊子傷二行役一」[illegible]

いうし (名) [遊士] みやびを(風流士)ヲ見ヨ。

いうじ（ユウジ）（名）|猶子| 禮記、檀弓、上篇「兄弟之子猶レ子也」トアルヨリ起ル」兄、弟、親族、若シクハ、他人ノ子ヲ、己レガ子トスルコト。貴族ニ用キラル。養子ト同ジケレド、繼嗣トスルアリ、名義ノミナルアリ。義子 執次詰所本御系圖「光明院、後伏見院第二宮、爲二光嚴院猶子一」（古事類苑）皇胤紹運錄「良純法親王、元和元年六月、爲二東照宮御猶子一」百錬抄、十一、建仁元年十二月十八日「今日春宮行二啓安井殿一、是依二殷富門院御猶子儀一也」太平記、九、六波羅攻事「河野對馬守ガいうじニ、七郎道遠トテ、今年十六ニナリケル若武者、父ヲウタセジトヤ思ヒケム」

いうじ（ウジ）（名）|虹|〔夕虹（ユフニジ）ノ略〕虹ノ方言。物類稱呼、一、天地「西國ニテいうじト云、萬葉ニぬじ、又、のすトモ詠リ」

いうしう（ウシユウ）（名）|憂愁| ウレフルコト。オモヒニシヅムコト。ウレヘ。史記、屈原傳「憂愁幽思、而作二離騷一」韓愈詩「憂愁費二晷景一、日月如二跳丸一」蘇軾詩「憂愁不平氣、一寓筆所レ騁」

いうしう（ウシユウ）（名）|幽囚| 囚屋（ヒトヤ）ニ幽セラルルコト。戰國策、秦策「使二臣得一レ進レ謀、如二伍子胥一、加レ之以二幽囚一、終身不二復見一、是臣說之行也、臣何憂乎」史記、管晏傳「公子糾敗、召忽死之、吾幽囚受レ辱」

いうじう（ウジユウ）（名）|優柔| 人ノ性質ノ、物ヤハラカニテ、活潑ナラヌコト。洞簫賦「優柔溫潤、又似二君子一」易通「優柔平中、德之盛也」

いうしうくわん（ウシユウカン）（名）|遊就館|〔遊就ノ名義ハ、荀子、勸學篇「君子居必擇レ鄉、遊必就レ士、所下以防二邪僻一而近中中正上也」トアルニ由ル」東京、九段、靖國神社境內ニ設ケタル、古武器、戰利品、軍事記念品等ヲ陳列、縱覽セシムル所。其家屋ノ構造ハ、原形ヲいたりあノ古城ニ則リ、煉瓦石造ノ二階建ナリ。（改造前）

いうじうふだん（ウジユウフダン）（名）|優柔不斷| ハキハキトキマラザルコト。グヅグヅトシテ、定マリノ附カザルコト。

いうしか（ウシカ）（名）|有志家| 志ノアル家。同情ヲ以テスル人。有志者。「有志家ノ寄附ヲ仰グ」

いうしき（ウシキ）（名）|有識| モノシリ。イウショク。學問、見識アル人。後漢書、宋淳傳「凡學レ事、毋下爲二有レ識者所一レ笑、而爲中見二仇者所一レ快上」

いうしき（ウシキ）（名）|有職| いうしよくヲ見ヨ。

いうししや（ウシシヤ）（名）|有志者| いうしか（有志家）ニ同ジ。

いうしべう（ウシビヨウ）（名）|遊絲描|〔絲結（イトユヒ）ノ如ク、線ノ垂レ下ガリタル描畫〕畫法ニ、細ソク、極メテスラスラトシタル描線。筆（フデ）尖（サキ）ニテ、絲ノ如クニ描（エガ）クモノニテ、吳道子以前ノ畫、及、我ガ天平時代ノ繪畫ハ、皆此法ナリ。

いうしん（ウシン）（名）|幽深| いうゐ（幽邃）ニ同ジ。易經、繫辭、上傳「无レ有二遠近幽深一、遂知二來物一」

いうしん（ウシン）（名）|郵信| 郵書（イウシヨ）ニ同ジ。

いうじん（ウジン）（名）|友人| トモダチ。朋友。

いうじん（ウジン）（名）|幽人| 世ヲ避ケテ、閑靜ナル地ナドニ隱レテ居ル人。心ノ閑暇ナル人。文選、北山移文「或歎二幽人長往一、或怨二王孫不一レ遊」易經、上經、履卦「履レ道坦坦、幽人貞吉」

いうじん（ウジン）（名）|遊人| 物見、遊山スル人。遊客。

いうじん（ウジン）（名）|優人| 優長ナル人。氣ノ長キ人。

いうしんこざう（ウシンコゾウ）（句）|有心故造| 心ニタクラミテ、故意（ワザ）トスル。有造。

いうしんろん（ウシンロン）（名）|有神論| 神ノ有ルコトヲイフ論者。（無神論ニ對ス）

いうしやう（ウシヨウ）（名）|優賞| 厚ク褒ムルコト。韓愈、元和聖德詩「優二賞將吏一、扶レ珪綴レ組」

いうしやう（ウシヨウ）（名）|優獎| 十分ニ、褒（ホ）メススムルコト。南史、齊、武帝紀「今區宇寧晏、宜レ加二優獎一」

いうじやう（ウジヨウ）（名）|友情| 兄弟、朋友ニ對スル情愛。友愛ノ情。

いうじやう（ウジヨウ）（名）|有情|（一）心アルコト。ナサケアルコト。（無情ニ對ス）莊子、齊物論「有レ情而無レ形」（二）有情（ウジヤウ）ノ條ヲ見ヨ。

いうしやく（ウシヤク）（名）|有爵| 次條ヲ見ヨ。

いうしやくしや（ウシヤクシヤ）（名）|有爵者| 公、侯、伯、子、男ノ五爵ノ中、其一ヲ有スル華族ノ戶主。此ノ有爵者ノ夫人ハ、戶主ニ均シキ禮遇、及、名稱ヲ享ク、其ノ他ノ家族ハ、華族ナレド、有爵者ニ非ズ。

いうしゆ（ウシユ）（名）|遊手|（一）手明ノ人。アキテ。手ヲ休マセテ、用キザルコト。儀禮、聘禮篇「大夫二手受レ栗」注「受授不二游手一、愼レ之也」（二）何事モ、スルコトナクテアルコト。後漢書、章帝詔「務盡二地力一、勿レ令二游手一」「遊手徒食」

いうしゆう（ウシユウ）（名）|有衆|〔衆ハ、「說文、多也、徐曰、國語、三人爲（ヲ）レ衆（スト）、數成（タル）二於三（ニ）一也」トアリテ、多クアル人ヨリイフ」國民。人民。書經、胤征篇「予以二爾有衆一、奉二將天罰一」「爾衆士、同二力王室一、尙弼レ予」

いうしゆう（ウシユウ）（名）|有終| 物事ノ、終リヲ全ウスルコト。詩經、大雅、蕩之什、蕩篇「靡レ不レ有レ初、鮮二克有一レ終」書經、說命、上篇「嗚呼欽二予時命一、其惟有レ終」易經、上經、謙卦「謙亨、君子有レ終、吉」「有終ノ美ヲ濟ス」

いうしよ（ウシヨ）（名）|郵書| 郵便ニテ送ル手紙。郵信。

いうじよ（ウジヨ）（名）|宥恕| ナダメ、ユルスコト。カンニンスルコト。寬宥。宥免。王珪文「宥二恕刑獄一、優二保驟眞一」保元物語、二、謀反人誅せらるる事「我忠正ヲ斬リタラバ、定メテ義朝ニ父ヲ斬ラセラルベシ、縱令宥恕ノ儀アリトモ、此旨ヲ以テ支ヘ申サン」

いうじよ（ウジヨ）（名）|宥恕| 刑法上、刑罰減輕ノ一ノ場合。法律上、刑罰ヲ宥恕スベキ理由トシテ、規定セル事情アル場合ニ限リ、刑罰ヲ減輕スルヲイフ。例ヘバ、舊刑法第八十一條ニ、罪ヲ犯ス時、滿十六歲以上二十歲ニ滿タザルモノハ、其罪ヲ宥恕シテ、本刑ニ一等ヲ減ズ、トアルガ如シ。然ルニ、現行法ハ、コレヲ法律上ノ減輕ニ包含セシメ、特ニ、宥恕減輕ナルモノヲ認メズトゾ。

いうじよ（ウジヨ）（名）|遊所| 遊女（イウヂヨ）ノ居ル所。イロザト。イロマチ。クルワ。惡所（アクシヨ）。遊郭。遊里。狹邪 狹斜

いうしよう（ウシヨウ）（名）|優勝|（一）スグレタルコト。他ニマサレルコト。（二）スグレタル勝（カチ）。拔群ナル勝利。「優勝旗」（三）力ノ優レタル者ノ、他ニ勝ツコト。ツヨイ

モノガチ。コレニ對シテ、劣リタル者ノ負クルヲ、劣敗ト云フ。「優勝劣敗」

いうしよう-き（ユウショウ・キ）（名）［優勝旗］競技ニ優勝シタル者ニ授クル旗。

いうしよう-れっぱい（ユウショウ・レッパイ）（句）［優勝劣敗］〔英語、Survival of the fittest. ノ譯語、四圍ノ境遇ニ適セル者ノ生存スル意ナルヲ、誤用スルナリ〕優レタルモノハ勝チ、劣レルモノハ負ク。卽チ、ツヨイモノガチ。（自然淘汰ノ條ヲ見ヨ）

いうしよく（ユウ・シヨク）（名）［遊食］キグヒ。遊ビ居テ、衣食スルコト。徒食。荀子、成相篇「臣下職莫二遊食一」

いうしよく（ユウ・シヨク）（名）［右族］優レテ、勢力アル家柄。イウゾク。柳氏家訓「余見二名門右族一、莫レ不下由二祖先忠孝勤儉一以成立之上」晉書、[illegible]傳「建字堅石、世爲二豪方右族一」易林補用集（慶長）言語「右族、イウショク」

いうしよく（ユウ・シヨク）（名）［右職］官位ノ高キコト。高官ノコト。漢書、循吏傳「遇者以二貲入一財爲レ官、不レ署二右職一」同、文翁傳「選二郡縣小吏、開敏有レ材者一親自飭厲、遣二詣京師一受二業博士一、數歲皆成就、還歸得二右職一」注「師古曰、郡中高職也」

いうしよく（ユウ・シヨク）（名）［有職］〔元來、有識ノ字ナルヲ、後世、職官ノ事ヲ、兼ネテ論ズル故ニ、職ノ字ニ誤リシナリ、卽チ、後世ニハ專ラ式例ナドヲ明カニスル學ヲ、有識トイフコトトナリタリ、ソハ安齋隨筆、四、有職者、後代、官職其外、公家方ノ故實ヲ知リタル人ヲ、有職トイヒ、又、略シテ、職者トイフ、コレ地下ニテイフノミニアラズ、堂上衆モ常ニ言ヒ習ハサレ

シ詞ナリ、コレ後代ノ俗言ナリ、耳偏ノ職ノ字ヲ用フルハ誤ナリ、本ハ、言偏ノ識ノ字ナリ、有識ノ有ハ、有德、有司ナドノ有ニ同ジク、たもつノ義ナリ、識ハ智識ニテ、ものしりナリ、云云、何ノ道ニテモ、ソノ故實ヲ知リタルモノ、其道道ノ有識者ナルナリ、云云、後代、識ヲ職ト取リ違ヒテ・官職ノ事ヲ知ルヲ有職トイフゾト思ヒ誤リ、俗習トナレルナリ」トアルガ如シ〕凡ベテノ道ニ明カナル人。故實、典禮ニ明カナル人。イウシキ。イウソク。イウソコ。續紀、四十、延曆九年七月「紀文曰、應神天皇命二上毛野氏遠祖荒田別一、使レ於二百濟一、搜二聘有識者一云云、以爲二皇太子師一」續後紀、十五、承和十二年、二月、善道眞貞條「遷二明經博士一、是時有識公卿一兩人、依二詔旨一、與二眞貞等一修二撰令義解一」永昌記、大治元年三月十九日「參院、今夕可レ奏二一代一度仁王會卷數一云云、雖二恒事一、近代無レ存レ之之人、仍委記レ之、後奏二卷數一、尤不レ分明、重可レ尋二有識一歟」讀耕齋詮、下、蒔菲遣使「別當一人、世俗號二、補二大理一之人、可レ備二七德一、所レ謂譜第、器量、才幹、有職、近習、容儀、富有、云云」宇津保物語、吹上、下「父コソ下人ナレ、子ハいうそくニテ、イト心ニクカリシモノゾ」源、廿一、少女卅「マコトニ、天ノ下ナラブ人ナキいうそくニハ物セラルメレド」宇津保物語、菊宴五「カノヌシいうそこナレド、此道ニナレバ、カクコソハアレ」

いうしよく-じんしゆ（ユウ・シヨク・ジンシユ）（名）［有色人種］色ノ有ル人種ニテ、黃色人種、黑色人種等ノ稱。（白色人種ニ對ス）

いうしよく-びな（ユウ・シヨク・ビナ）（名）［有職雛］ぉろざゑもんびなニ同ジ。

いう・す（ユウ・ス）スル・スレ・セ・シ・セヨ（他動、左變）［有］モツ。タモツ。所有ス。（無ニ對ス）孟子、梁惠王、上篇「庖有二肥肉一、廐有二肥馬一」

いう・す（ユウ・ス）スル・スレ・セ・シ・セヨ（他動、左變）［幽］オシコム。[illegible]

いうすゐ（ユウ・スイ）（名）［幽邃］〔說文「邃、深遠也」〕靜ニ、奧ブカキコト。幽深。幽遠。文選、[illegible]

いうせい（ユウ・セイ）（名）［遊星］星ノ一類ノ、太陽ヲ中心トシテ、各、其軌道ヲ行キテ、太陽ノ周ヲメグルモノ。自轉シテ晝夜ヲナシ、公轉シテ年ヲナス、水星、金星、地球、火星、木星、土星、天王星、海王星ノ八ヲ大ナルモノトシ、其外ニ、小遊星トイヒテ、四百七十三個アリ。別名、行星。惑星。（恆星、衞星、彗星ナドニ別ツ）

いうせい（ユウ・セイ）（名）［優勢］〔劣勢ニ對ス〕勢ヒノ、他ヨリスグレタルコト。

いうせい（ユウ・セイ）（名）［幽棲］閑居ニ同ジ。靜ニ暮スコト。[illegible]運詩「資レ此永幽棲一」杜甫、寶去詩「幽棲地僻經過少、老病人扶再拜難」

いうぜい（ユウ・ゼイ）（名）［遊說］〔廣韻「說、舒芮切」增韻「說、誘也、謂下以二言語一諭上レ人使レ從レ己也」〕四方ニ說キマハリテ、人ヲ誘フコト。史記、齊太公世家「遊二說諸侯一無レ所レ遇」常山紀談、二「信玄、云云、長遠寺ノ僧ヲ使ニセラル、遊說ノ人ナリ」

いうぜい（ユウ・ゼイ）（名）［郵稅］郵便稅。郵便料。

いうせい-の-ぐわ（ユウ・セイ・ノ・ガ）（名）［有聲之畫］詩ノ異名。歌ヒテ景アル意。コレニ對シテ、畫ヲ、無聲の詩ト云フ。岑安卿詩「無聲詩生二有聲詩一、詩畫工夫見二揮灑一」

いうせう（ユウ・シヨウ）（名）［優詔］優渥ナル詔。ア

[illegible]

いうせん（ユウ・セン）（名）［遊船］ユサンブネ。宋史、[illegible]

いうせん（ユウ・セン）（名）［郵船］郵便船。[illegible]

いうぜん（ユウ・ゼン）（名）［友禪］いうぜんぞめノ略。其條ヲ見ヨ。

いうぜん（ユウ・ゼン）（副）［悠然］心ノユルヤカナル狀ニ云フ語。悠悠。[illegible]

いうぜん-あふぎ（ユウ・ゼン・オオギ）（名）［友禪扇］いうぜんぞめノ條ヲ見ヨ。人倫訓蒙圖彙、五、扇折「近世、由禪扇トテ、一風アリ」

いうせん-かぶ（ユウ・セン・カブ）（名）［優先株］優先權アル株。現行法ニテハ、會社ガ其資本ヲ增加スルタメ、新株ヲ發行スル場合ニ於テノミ、此株券ノ發行ヲ許ス。

いうせん-くつ（ユウ・セン・クツ）（名）［遊仙窟］唐代ノ、戲讀ノ事ヲ記セル書。或說ニ、作者、張文成、自ラ則天武后ノ宮闈ニ入リテ、其醜行ヲ目擊シ、事ヲ神仙ニ託シテ作リタルモノトカヤ、書中ノ詩賦ハ、皆、纖俗、猥瑣ニシテ、笑罵、諧謔ヲ弄セザルハナシ、然レドモ、其機鋒、警策ノ、談柄ヲ資クルモノアルハ、慎ル地トス、而シテ、此書、支那ニテハ失シタリシニ、早ク我ガ國ニ傳ハリ、中古以來、文士間ニ愛讀セラレタルモノナリ、又、古訓ヲ寫フハ、

良書トイフベシ。明文抄、三、人倫「故人傳曰、遊仙窟、詫在以與、天曆御時、有ニ御談之御志一、而當時傳ニ其說一之人、只木島神主知レ說之由風聞、仍江納言維時卿、忽策ニ疋馬一、詣ニ木島神主一、示レ可レ受ニ此說一之旨、神主歎ニ荒廢於庭上一、具授ニ其說一了、維時卿䋣歸、參ニ禁裏一奉レ授レ之」遊僊窟類標「遊仙窟ハ、イトミダリガハシキコトドモノミ、書ツヅリタレバ、サノミ珍重スベキコトカハナド、世ニハ、カタブク人モアメレド、ソハイフニシモ足ラヌ業ニテ、此文、文章ノメデタキノミカハ、ソノ訓點ハタ、古言トオボシキガ多クテ、必ズ古學ノ證トスベキコト少カラズ」

いうせん-くゎいしゃ（名）［郵船會社］海上運送ヲ目的トスル、株式組織ノ會社。明治十八年、政府ノ命ニヨリ、郵便汽船、三菱會社、共同運輸會社ノ三社ヲ合併シテ設立シタルモノナリ。

いうせん-けん（名）［優先權］他ニ先ンジテ行使スルコトヲ得ル權利。コレ、權利ノ實質ニ依レル區別ヨリ來ルモノニ非ズシテ、行使ノ體樣ヨリ區別シタルモノナリ。

いうぜん-ぞめ（名）［友禪染］〔貞享、元祿中、京都祇園町ノ繪師、法橋、宮崎友禪（或ハ梅丸氏）工夫シ、下繪ヲ書キテ、鴨川ノ水ニテ染メサセシニ起ルト云フ、後、加賀ノ金澤ニ移住シ、加賀友禪、加賀紋モ、此人ノ工夫ニ出ヅトゾ〕染模樣ノ一法。下繪ヲ摸シテ染ム、墨モアレド、專ラ、種種ノ彩色ニテ、人物、花鳥ヲ鮮麗ニ絹帛ニ染メ出ダス。又、鴨川染モアリ。骨本福園（高平春ト）「友禪ハ、其姓氏不詳、衣服、扇面、畫紙ノ繪ヲナス、都鄙、遠近、友禪模樣トイヒナラハス、布上ニ濃淡ノ繪具ヲ施ス、水ニ流シ洗フニ、少シモ繪具ノ落ツルコトナシ、畫法ノ外ニ運筆ヲ得タリ、云云」女用鑑「ココニ、友禪トイフ繪法師アリケラシ、一流ヲ扇ニ書キ出ダシシカバ、貴賤ノ男女、喜悅ノ眉ウルハシク、丹花ノ唇ヲホコロバセリ、是ニヨリテ、衣服ノヒナ形ヲ作リテ、吳服師ニ與ヘシ、云云」嬉遊笑覽、二、上、丸裸「友禪ガ畫ヲ見シニ、天和、貞享ゴロノサマナリ、落欵ニ風流、東友禪頭筆トアリ、云云」松落葉、古今節「イナリ參ノ振袖ユカシ、ゆうぜんモヤウデ、ソンレハヘ」

いう-ぜん-と（副）［悠然］ノドヤカニ。落着キテ。悠悠ト。（いうぜん（悠然）ニ同ジ）

いうせん-やど（名）［遊船宿］遊興ヲ主トシテ、船ヲ貸出スヲ業トスル家。フナヤド。

いう-そう（名）［郵送］郵便ニテ送ルコト。郵致。

いう-ソウ（名）［遊僧］僧ノ勤ムル、延年舞ノ役ノ名カト云フ。謠曲、安宅「イザヤ、舞ヲ舞ハウヨ、本ヨリ、辨慶ハ、三塔ノ遊僧、舞延年ノ時ノ和歌、是レナル山水ノ、落チテ巖ニ響クコソ、鳴ルハ瀧ノ水」謠曲評釋「興福寺延年舞ノ次第ニ、遊僧ト云フ目アリ、遊僧ト云フ曲ニヤ、役ノ名ニヤ、詳ナラザレドモ、辨慶ガ、三塔ニテ、遊僧ヲ勤メタル事アルニ因リテ、今其舞ヲ覺エ居ル由ナリ」

いう-そく（名）［有職］いうしょく（有職）ヲ見ヨ。

いう-ぞく（名）［右族］いうしょく（右族）ヲ見ヨ。

いう-そこ（名）［有職］いうしょく（有職）ヲ見ヨ。

いう-そ-ち（名）［有租地］地租條例ニ依リ、所有者ニ地租ヲ賦課スル土地。（無租地ニ對ス）

いう-だ（名）［遊惰］ナマケ、オコタルコト。南史、孔靖傳「禁ニ罰遊惰ハ、境內肅清」

いう-たい（名）［優待］手厚クモテナスコト。重ク取扱フコト。優遇。宋史、王罔宗傳「少カレ學、自奮遊ニ京師ハ、以レ文謁ニ王欽ハ、頗見ニ優待一」

いうたい-けん（名）［優待券］特別ノ待遇ヲナス招待券。

いう-たう（名）［遊蕩］アソビニ耽ルコト。放蕩。放埒。多クハ、遊女狂ヒナドニ云フ。魏志、武帝紀、注「少好ニ飛レ鷹走レ狗、遊蕩無レ度」晉書、食貨志「敎ニ授人時ハ、各從ニ其業ハ、遊蕩知レ反、務レ末自休」

いう-だう（名）［有道］人ノ道ヲタモチ居ルコト。論語、學而篇「就ニ有道一而正焉」「有道之士」

いう-だう（名）［誘導］イザナヒ、ミチビクコト。テビキスルコト。誘掖。吳志、士燮傳「誘ニ導益州豪姓雍闓等一」

いう-だう（名）［誘導］電氣ノ、電界內ニアル物體ニ及ボシ、又、磁氣ノ、磁界內ニアル物體ニ及ボス作用。靜電氣誘導、磁氣誘導、及、流電誘導等ノ別アリ。

いうだう-たい（名）［誘導體］〔英語、Derivate. ノ譯語〕化學ニ、或一箇ノ基礎體中ノ或原子ヲ、他ノ原子、或ハ、原子團ニヨリテ、交換スルヨリ生ズル物體。其交換法ハ區區ナルヨリ、隨ッテ、生ズル誘導體ノ數モ、亦數多アリト。

いうだう-の-し（名）［有道之士］人ノ道ヲタモチテ居ル人。列子、楊朱篇「列禦寇、蓋有道之士也」

いう-だん（名）［游談］（一）遊說スルコト。戰國策、齊策「賓客游談之士、無下敢曦ニ忠於前一者上」（二）浮游ノ談ヲスルコト。遊言。後漢書、仇覽傳「天子修ニ設大學ハ、豈但使ニ人游ニ談其中一」

いう-ち（名）［郵致］いうそう（郵送）ニ同ジ。

いう-ち（名）［誘致］オビキヨスルコト。サソヒイダスコト。漢書、武帝紀「誘ニ致單于一」

いうちう-の-うた（名）［有注歌］短册ナドニ、歌ノ終ニ、有注ノ二字ヲ書クコト。北邊隨筆、初篇、一「有注の歌トイフ事アリ、題ハ得ナガラ、ソノ題意ヨリ外ニ、必ズ詠マデカナハヌ事アル時、ソレヲ詠メバ、題意ウスク聞ユベキガ故ニ、サヤウノ歌ハ、人ノフト見ムニ、心得ガタカルベケレバ、コレヲバ有注の歌トイヒテ、短册ナドニカクニ、歌ノ終ノ所ニ、有注ノ二字ヲ書クナリ、云云、サレド歌道ノ本意ヲ失ヒテ、詩ノ詠物ノ如クナリヌルガ故ニ、カク有注の歌トイフ事モイデキシナリ」

いう-ちゃう（名）［優長］優レタルコト。物ニ長ケタルコト。唐書、韓琬傳「弟又學ニ文藝、優長、賢良方正科一」保元物語、二、左府御最後事「能藝、優長ニシテ、才智、人ニ勝レタリ」

いう-ちゃう（名）［悠長］（一）心オチツキテ、急カヌコト。氣ノ長キコト。「氣ノ悠長ナ人」（二）久シキコト。長キコト。悠遠、長久。宋書、孝義傳「涉ニ春夏ハ日月悠長」

いう-ぢょ（名）［遊女］〔遊女ノ字ノ音讀〕ウカレメ。アソビメ。人ノ招キニ應ジテ、歌舞ヲナシ、枕席ヲススムルヲ業トスル女。遊君トモ云ヒ、君トモ云フ、後ニハ、女郎、ヲヤマ、其他、種種ノ名アリ。其上等ナルヲ傾城、太夫ナドト云フ。

娼妓 [illegible]ノ遊女記ニ、河内ノ江口、[illegible]ノ[illegible]ナ[illegible]ノ遊女、[illegible]ニ至リ[illegible]、[illegible]ノ[illegible]メ、歌ウタフ、[illegible]ハ[illegible]ニ及フマデ、接ラズト云フコトナカリキトアリ。古事談、二ニ、小野宮大臣、[illegible]、共ニ、一[illegible]君ヲ愛スルコトナ[illegible]記セリ、[illegible]、十三、[illegible]久四年九月十五日[illegible]、[illegible]已下、[illegible]遊女、[illegible]、[illegible]見[illegible]、云云、[illegible]者、[illegible]名之由、[illegible]付、云云」

いうぢょぐるひ(名) 遊女狂 遊女ニ馴染ミテ、遊ビ耽ルコト。遊蕩

いうぢょや(名) 遊女屋 遊女ノ居ル家。女郎屋。貸座敷。妓樓。娼家 青樓

いうてい(名) 友悌 〔友ハ、說文「同ㇾ心爲ㇾ友」禮記、儒行篇「善ニ于兄弟ニ爲ㇾ友」書經、君陳篇「惟孝、友ニ于兄弟ニ」トアリ、悌ハ、說文「善ニ兄弟ニ也、从ㇾ心、弟聲、經典、通ニ用弟ニ」トアリテ、兄弟ノ中ノ善キ事、コレラヨリ出ヅ〕弟ヲ慈シミ、兄ニ順フコト。兄弟ノ間、睦ジキコト。北史、王昕傳「昕弟昭、少好ニ儒術ニ、又願以ニ武藝ニ自許、件[illegible]篤、以ニ友弟ニ知ㇾ名」

いうとう(名) 優等 等ノ、マサリタルコト。(劣等ニ對ス) 優長。優級。

いうとく(名) 有德 (一)德アルコト。德行アルコト。(二)道德ノアル人。書經、皐陶謨篇「天命ニ有德ニ、五服五章哉」管子、牧民篇「錯ニ國於不ㇾ傾之地ニ者、授ニ有德ニ也」

いうどく(名) 有毒 〔有毒植物ノ語略〕次條ヲ見ヨ。

いうどくしょくぶつ(名) 有毒植物 毒質ヲ有スル植物ノ總稱。植物ノ種類中ニハ、有毒ノモノ尠カラズ、過チテコレヲ害ムレバ、腹痛、煩悶、吐瀉、痲酔ナド、種種ノ中毒症ヲ發シ、毒性猛烈ナルトキハ、忽チ死ニ至ルコトアリ。

いうに(副) 優 (一)マサリテ。アマリアリテ。ユルヤカニ。ユタカニ。「優ㇾ寨ノ[illegible]タリ優ㇾ下人ヲ容ル」(二)〔タクミニ。妙ニ。巧妙 源、三十四、下、若菜、下三十「イト、ヨク、物ニ響キアヒテ、いうニナリニケル御琴ノ音カナ」同、九、葵廿九「常ヨリモいうニモカイ給ヘルカナ」(三)〔シトヤカニ。ミヤビテ。落チツキテ、品好ク。優美 竹取物語 かぐや姬ノ容貌、イトいうニオハストナリ」源、五十二、手習四六十「若ク侍リシ時ヨリ、いうニオハシマスト見奉リシミニシカバ」

いうねん(名) 遊年 〔名義ハ、五行大義、五「遊年之名、皆以ニ運動不ㇾ住爲ㇾ義、以ニ其隨ㇾ歲行遊不ㇾ定ニ一所ニ也」トアルヨリ起ル〕陰陽家ニテ、八卦ニ配當シ、人人ノ年ニヨリテ、禁忌スル方角ノ名。拾芥抄、下、末、八卦「八卦忌事、謂ニ遊年禍害、絕命方等ハ、件三方不ㇾ可ㇾ犯ニ土造作ハ云云、遊年禍害絕命、此方 造作出行移徙嫁娶等、万事皆可ㇾ忌ㇾ之」玉海、文治四年三月廿八日「此夜於ニ營成佛院ハ、避ニ遊年丑方ニ」

いうはう(名) 友邦 親シキ交際アル國。書經、泰誓、上篇「嗟、我友邦冢君、越我御事庶士」

いうはう(名) 遊放 心ノママニ遊ブコト。南史、謝靈運傳「在ㇾ郡遊放、不ㇾ異ニ永嘉ニ」雲州消息「ト三水石之地ハ可ニ遊放ニ侍」

いうばう(名) 有望 望ミアルコト。行末ノ見込ミアルコト。中庸「遠ㇾ之則有ㇾ望、近ㇾ之則不ㇾ厭」岑參、寄ニ山東職許ニ山人ニ詩「蒼生今有ㇾ望、飛詔下ニ林丘ニ」

いうばつ(名) 由跋 草ノ名、古名、カキツバナ。天南星ノ別種、形狀、大抵、相似タリ、莖、高サ二三尺、葉ハ品字形ヲナシテ、左右ナルハ大キク、中ナルハ短小ナリ、花瓣ハ、天南星ヨリ闊クシテ、紫黑色ニテ、鐙ノ如シ。

いうび(名) 優美 シトヤカニ、美シキコト。ミヤビテ、品高キコト。北史、魏諸王傳「三人才學雖ニ負優美ニ」[illegible]、七、事讚「若[illegible]優美、不ㇾ宜ㇾ處ニ之冗散ニ」平他字類抄、下「優美」

いうひつ(名) 右筆 「右手ニ筆ヲ執ルノ意カ、給ヲ、左筆ト稱スル語モアリト云フ」(一)筆ヲ執リテ、文ヲ書クコト。執筆 雲州消息、中、末「右筆非ㇾ暇、追可ㇾ注申ニ一百餘訓要抄「參議、陣ノ座ニテ、物ヲヨミ、右筆スル器也」壒囊抄、二廿七「右筆、フムデヲトル」(二)轉ジテ、文學ヲ以テ奉仕スル者。右文左武ノ語モアリ。文筆 平家物語、一、殿上闇討事「忠盛、云云、我レ右筆ノ身ニアラズ、武勇ノ家ニ生レテ」吾妻鏡、二、壽永元年五月十二日「伏見冠者藤原廣綱、初發ニ武衛ハ是右筆也」(三)轉ジテ、武家ノ職名、文書ヲ作リ書クコトヲ掌ルモノ。カキヤク。モノカキ。書記。筆吏 庭訓往來、八月「管領、寄人、右筆、奉行」 德川幕府ニテハ、(祐筆ナドトモ記ス)表右筆、奧右筆ナドアリ、奧右筆ト云フモノ、古記錄、前例ヲ考ヘ、幕府ノ公文ヲ作ル機密ニ參シテ、權力アリキ。

いうひん(名) 游牝 ユヒ。ツルビ、獸ノ交尾ムコト。禮記、月令篇「季春之月、云云、合ニ累牛騰馬ハ遊ニ牝于牧ニ」倭名抄、十八「遊牝、俗云ニ由比ハ、豆流比」廐牧令、義解「凡牧、牝馬四歲遊牝、(遊牝、猶ニ交接ニ也)五歲責ㇾ課、牝牛三歲遊牝、四歲責ㇾ課」武烈紀、八年三月「使 女裸形ハ坐ニ平板上ハ牽ㇾ馬就前遊ㇾ牝」法成寺攝政記、寬弘二年七月六日「滿季家地有ㇾ放母牛ハ而馬來遊牝、其牛卽斃」

いうびん(名) 郵便 〔[illegible]ノ條ヲ見ヨ〕政府ノ管掌スル、信書、及、其他ノ物件、遞送ノ事業。

いうびんいんし(名) 郵便印紙 いうびんきってノ條ヲ見ヨ。

いうびんかけばこ(名) 郵便掛函 郵便函ノ一種。各郵便局ノ內外、及、鐵道停車場ニシテ、郵便柱函ノ建テザル地ニ設クルモノ。現今ノモノハ、檜類ノ材ニテ、堅箱ニ作リ、厚サ八分以上壹寸マデノモノヲ用ヰ、差入口ハ、笠板下ヨリ五分下リニテ切開ケ、其ノ差入口ノ上ニ、蝶番、雨覆蓋ヲ取付ケテアリ。

いうびんかはせ(名) 郵便爲替 郵便局所ニ於テ取扱フ、一種ノ送金方法ニシテ、其目的ハ、全國都鄙ニ普及、散在セル郵便局所ヲ利用シ、コレガ事業ニ附帶シテ、金融ノ利便ヲ謀ルニ在リ。其爲替ノ種類ニ三アリ、一ヲ通常爲替トイヒ、二ヲ電信爲替トイヒ、三ヲ小爲替トイフ、其ノ通常爲替ハ、明治八年創業ノ際ニ設ケラレタルガ、十八年九月ニ至リ、電信爲替、及、小爲替ヲ施行スルコトトハナリニケリ、コレニ組ムベキ金額ニ差等アリ。

いうびんきって(名) 郵便切手 郵便、電信、電話、郵便爲替、及、郵便貯金ニ關シ、使用スル目的ヲ以テ、政府ニ於テ發行スル證票ノ一種。現今、切手ノ種類ハ、十八種ニシテ、五厘、壹錢、壹錢五厘、武錢、參錢、四錢、五錢、六錢、八錢、十錢、十二錢、十五錢、二十錢、二十五錢、五十

錢、壹圓、五圓、十圓等、是レナリ。尚、一般公衆ノ利便ヲ計ルタメ、內國郵便切手帖、及、外國郵便切手帖ノ設ケアリ。古クハ、郵便印紙ト稱シタリキ。

いうびんきってちょきん（ユウビンキッテチョキン）（名）[郵便切手貯金] 郵便切手貯金臺紙ト稱スル式紙ニ、郵便切手ヲ貼付シ、一般郵便貯金最下制限額、卽チ、拾錢ニ達シタルトキ、郵便局所ニ持參セバ、通貨ヲ以テ預入シタルモノト同ジク、貯金トシテ預ケ入ルルコト。

いうびんきょく（ユウビンキョク）（名）[郵便局] 郵便、爲替、貯金等ノ事務ヲ取扱フ官署。所ニヨリ、電信、又ハ、電話事務ヲ兼掌ス、局ニハ、一等、二等、三等ノ區別アリ。

いうびんしふはいにん（ユウビンシュウハイニン）（名）[郵便集配人] 郵便局所管區內ノ郵便物ヲ集聚シ、又ハ、配達スル人。

いうびんぜい（ユウビンゼイ）（名）[郵便稅] 郵便料ニ同ジ。郵稅。

いうびんせん（ユウビンセン）（名）[郵便船] 郵便物ヲ運送シ、兼ネテ、航海中ハ、船中ニテ、郵便事務ヲ取扱フ船。郵船。

いうびんちょきん（ユウビンチョキン）（名）[郵便貯金] 郵便局所ニ於テ取扱フ貯金。其形式ニ於テハ、郵便事業ノ一部ナレド、其實質ニ於テハ、貯蓄銀行ノ貯金ト差異ナシ、唯其異ナル點ハ、其目的ハ營利ニアラズシテ、勤儉、貯蓄ノ美風ヲ獎勵、涵養スルニアリ。

いうびんはがき（ユウビンハガキ）（名）[郵便葉書] 郵便料金ヲ表彰スル證票ヲ具備シ、第二種郵便物トシテ使用スルタメ、政府ニ於テ發行スルモノ。此葉書ハ、其種類ヲ分チテ、通常葉書、往復葉書、封緘葉書、萬國郵便聯合通常葉書、萬國郵便聯合往復葉書等ノ五種トス。又、別ニ、郵便法令ニ依リ、私製葉書ノ發行ヲ許可セラル。

いうびんばこ（ユウビンバコ）（名）[郵便函] 郵便器具ノ一。郵便柱函、及、郵便掛函ノ二アリ、普通郵便ニ依ル通常郵便物ヲ差入ルルタメニ、各郵便局所、及、郵便切手賣捌所ノ近傍、若シクハ、必要ナル場所ニ設置シアルモノ。

いうびんはしらばこ（ユウビンハシラバコ）（名）[郵便柱函] 郵便函ノ一。郵便物取集上、最モ緊要ノ器具ニシテ、郵便物ノ保安上、コレヲ設ク。

いうびんぶつ（ユウビンブツ）（名）[郵便物] 郵便ノ目的物トシテ、局ニ差出セル物ノ總稱。其物ヲ大別シテ、通常郵便物、及、小包郵便物ノ二種トス、又、取扱ノ方法ニヨリテ、普通取扱郵便物ト、特殊取扱郵便物トニ分ツ、而シテ、其料金ノ有無ニヨリテ、有料郵便物ト無料郵便物トニ分チテアリ。

いうびんれう（ユウビンリョウ）（名）[郵便料] 郵便物ノ運送ニ對スル賃金。郵便稅。

いうふかん（ユウフカン）（名）[有夫姦] 夫アル女ノ姦通。法曹至要抄、上、罪科「雜律云、奸者徒一年、有夫者徒二年」 續紀、十三、天平十二年六月、勅「宜大赦天下云云、奸他妻云云、不在赦限」 御成敗式目、密懷他人妻罪科事「不論强奸和奸懷抱人妻之輩、被召所領半分可被罷出仕云云」 吾妻鏡、四十二、建長四年十月十四日、密懷他人妻事「名主百姓等中、密懷他人妻事、訴人出來者、可召決兩方可尋明證據、名主過料三十貫文、百姓過料五貫文、女罪科、以同前」 御定書百箇條「密通御仕置之事、一、密通イタシ候、妻、死罪、密通之男、死罪」

いうふく（ユウフク）（名）[有福] 富ミテ、ユタカナルコト。有得。富裕。易經、上經、泰卦「勿恤其孚于食有福」 左傳、僖公十三年「救災恤鄰道也、行道有福」

いうぶつ（ユウブツ）（名）[尤物] 〔說文「尤、異也」〕（一）多クノ中ニテ、スグレタルモノ。莊子、徐無鬼篇「夫子、物之尤也」註「言於人物之中爲之最」 （二）專ラ、美婦人ヲ云フ。左傳、昭公廿八年、叔向、申公巫臣ヲ娶ラムトス「尤物足以移人」 故事成語考「女貌嬌嬈、謂之尤物」（故事熟語大辭典）

いうぶん（ユウブン）（名）[右文] 〔右文左武ノ、右文トハ異ナリ〕 右文字。ひだりもじノ條ヲ見ヨ。

いうへい（ユウヘイ）（名）[幽閉] 家ニ押シ籠メテ、人ト交ハラセヌコト。唐書、李光弼傳「出爲賊幽閉者厚恤其家」

いうへい（ユウヘイ）（名）[幽閉] 舊刑法ニ依レバ、流刑ニ處セラレタル囚徒ノ拘禁。

いうほ（ユウホ）（名）[遊步] （一）アソビニアルクコト。ソゾロアルキ。散步。列仙傳「遊步仙庭」 （二）精神ヲ、物事ニ寄與スルコト。魏志、管輅傳「遊步道術」

いうぼく（ユウボク）（名）[遊牧] 水草ヲ逐ヒテ牧畜スルコト。又、其民族ヲ遊牧ノ民（英語、Nomads.）ト云フ。（清ノ張穆ニ、蒙古遊牧記ノ著アリ）

いうぼくのたみ（ユウボクノタミ）（名）[遊牧之民] 〔英語、Nomads. ノ譯語〕 群畜ヲ飼養シ、水草ヲ逐ウテ移轉スル民族ノ稱。

いうまうのいくゎん（ユウモウノイカン）（名）[優孟之衣冠] 〔楚ノ俳優ノ孟トイフモノ、楚ノ宰相ノ孫叔敖ノ衣冠ヲ着シテ、其ノ姿ニ擬シタルヨリイフ〕 外形ヲノミ學ビテ、精神ヲ傳ヘザルコト。史記、滑稽傳「優孟、卽爲孫叔敖衣冠、抵掌談語、歲餘像孫叔敖、楚王、及、左右不能別也」

いうみん（ユウミン）（名）[遊民] ウカレビト。サスラヒビト。職業ナク、徒ラニ居ル人。遊手。禮記、王制篇「無曠土、無遊民」 漢書、食貨志「末技遊食之民」

いうみゃう（ユウミョウ）（名）[幽冥] カスカニシテ、クラキコト。（幽冥ニ同ジ） 無量壽經「壽終後世尤深尤劇、入其幽冥、轉生受身」

いうむ（ユウム）（名）[有無] アルト、無キト。有無。史記、越世家「交易有無之道、通」 老子、第四十章「天下萬物生於有、有生於無」「有無、相通ズ」

いうめい（ユウメイ）（名）[有名] 〔無名ニ對ス〕 世ニ名アルコト。名高キコト。韓愈文「愈也道不加修、而文日益有名」 水滸傳、第二回「來到州橋之下、一箇潘家、有名的酒店」

いうめい（ユウメイ）（名）[幽明] （一）暗キト、明ラカナルト。無形ノモノト、有形ノモノト。幽ハ天地ノ道、明ハ萬物ノ理。易經、繫辭、上傳「仰以觀於天文、俯以察於地理、是故知幽明之故」 （二）愚鈍ニシテ成績不良ナルト、賢明ニシテ成績良好ナルト。書經、舜典篇「三載考績、三考黜陟幽明」 柳宗元、送薛存義序「吾賤且辱、不得與考績幽明之說」 （三）幽ハ鬼神ヲイヒ、明ハ人間ヲイフ。冥土

ト、現世ト、[illegible]」

いうめい (名) 幽冥 (一)カスカニシテ、クラキコト。[illegible]クシテ、微妙ナルコト。[illegible]」(二)アノ世。ヨミヂ。冥土。幽界。

いうめい-む-じつ (句) 有名無實 名ノミニテ、實、伴ハズ。[illegible]「[illegible]、並、行偽、貌、有、名無、實」[illegible]「[illegible]侯慾、以、河南地、降、梁、逆亂相尋、有、名無、實」

いうめん (名) 宥免 宥メ、免スコト。カンニンスルコト。宥恕。北史、郭祚傳「罪不、問、輕重、皆蒙、宥免」

いうもん (名) 幽門 胃ノ下部ノ、腸トノ界ノ、狹マリタル所。卽チ、食物ノ下ノ出口ナリ。コレニ對シテ、胃ノ上部ノ、食物ノ入口ヲ、噴門ト云フ。

いうやう (名) 幽揚 カスカニ、ヒラメクコト。太平記、三十八、細川相模守討死事「城ヲ差ニ見上ゲタレバ、敵早入替リヌト覺エテ、見ザリシ旗ノ紋ドモ、翩、梢ノ上ニ幽揚ス」

いうやう (名) 悠揚 遠ク、長キコト。冬日賦(顧子陽)「日悠揚而少、色、天陰霖而四下」[illegible]詩「世事悠揚春夢裏、年光寂寞旅愁中」

いうや-らう (名) 遊冶郎 〔遊冶ハ、身形ヲ飾ルコト、正韻「冶、裝飾也」艶冶ト云フ語モアリ〕(一)タハレヲ。風流ナル伊達者。李白詩「岸上誰家遊冶郎、三三五五映ニ垂楊一」(二)放蕩モノ。ダウラクモノ。ノラモノ。

いうよ (名) 有餘 (一)餘アルコト。アマリ。餘分。餘裕。禮記、檀弓、上篇「祭禮與ニ其敬不足、[illegible]」(二)數詞ニ添ヘテ、一定ノ數ノ外ニ、餘リアルコトヲ云フ語。以上。有奇。「三十[illegible]」

いうよ (名) 猶豫 〔孟子、公孫丑、上篇、疏「先、事而慮謂、之豫、後、事而慮謂、之猶」〕(一)進退ヲ決セザルコト。タメラフコト。タユタフコト。離騷「欲、從、靈氛之吉占一兮、心猶豫而狐疑兮」吳子、治兵篇「用、兵之害、猶豫最大、三軍之災、生、於狐疑」[illegible]八、第八條「人ノ躊躇テ不、得、進、事之猶豫スルトイフハ、何ノ心ゾ」(二)免シテ、時日ヲ延バスコト。

いうよう (名) 有用 用ヲ爲スコト。役ニ立ツコト。有益。(無用ノ反對) 莊子、人間世篇「人皆知ニ有用之用一而莫、知ニ無用之用一」

いうよく (名) 游弋 〔游ハ泳ぐ、弋ハ獵ノ義トスル語ナルベシ、史記、李斯傳ニ游弋ノ語、見ユ、[illegible]「韓昭釐侯出弋」注「弋、獵也」〕軍艦ノ、敵船ヲ索メテ航行スルコト。

いうよ-び (名) 猶豫日 〔英語、Days of grace.〕(一)商家ニ、あいきやうび(愛敬日)トモ云フ、愛敬ノ條ヲ見ヨ。(二)質屋ニテ、質入期限後、猶豫スル三日間。

いうらん (名) 遊覽 (一)遊ビニ覽ルコト。[illegible]「遊覽、又云、遊觀」[illegible]十四、[illegible]「[illegible]其[illegible]太多、春有ニ[illegible]之花一、夏有ニ百尺之泉一、秋有ニ千里之月一、冬有ニ[illegible]之雪一[illegible]勝地一[illegible]」[illegible]門山一詩「[illegible]遊ニ山水一、長忘ニ[illegible]情一、安得ニ[illegible]」(二)物見。遊山。萬葉集、十九[illegible]

いうり (名) 遊里 いうぢよ(遊所)ニ同ジ。イロザト。

いうり (名) 遊離 魂ノ、體ヲハナレイヅルコト。夫木抄、三十六、哀傷「イツマデカ、彼ニヤドル、たましひノ、離レヌホドヲ、アリトタノマン」元輔集「サダカニモ、ユキ過ギナヤメ、故郷ノ、サクラ見ステテ、カヘルたましひ」

いうり (名) 遊離 〔英語、Liberation.〕化學ニテ、二ツノ異ナリタルモノニ分解シ得ザルモノ、卽チ、單體ガ、他ト化合セズシテ存在スルコト、若シクハ、化合物ヨリ分ルルコトヲ云フ。例ヘバ、窒素ガ化合セズシテ、空氣中ニ存在スルヲ、遊離窒素トイフガ如シ。

いうり (名) 有利 利益ノアルコト。有益。禮記、禮器篇「天時有、生也、地理有、宜也、人官有、能也、物曲有、利也」史記、[illegible]傳「小國之與ニ大國一從、事也、有、利則大國受ニ其福一、有、敗則小國受ニ其禍一」

いうりよ (名) 憂慮 ウレヘ、オモフコト。心配。キヅカヒ。諸葛亮、出師表「受、命以來、夙夜憂慮、恐付託不、效、以傷ニ先帝之明一」陶潛詩「値、歡無ニ復娛一、每每多ニ憂慮一」

いうりよく (名) 有力 (一)强力ノアルコト。腕力ノアルコト。莊子、大宗師篇「夜半有、力者負、之而走」史記、秦紀「秦武王有、力好、戲、力士任鄙烏獲孟說、皆至ニ大官一」(二)勢力ノアルコト。權勢ノアルコト。[illegible]」

いうれい (名) 幽靈 〔幽靈ハ、多クハ、人ノ精神作用ヨリ、幻覺ヲ起シタルモノナリ、例ヘバ、疲勞、憂患、哀痛、恐怖、[illegible]、專心、熱情等ノ場合ニ、妄像、幻影ヲ見ルコトアルノ類、是レナリ、[illegible]ニ同一ノ幽靈ヲ見ルハ、幻影トハ云ヒ難ケレドモ、カクノ如キ場合ハ、頗ル稀有ノコトニテ、往往、[illegible]ニアラザルモノヲ、偶然[illegible]シテ、幽靈トナスコトアレバ、容易ニ信據スベカラズ、縱令、人ノ靈ハ、死後、身體ヲ脫離シテ、永存シ得ルモノトストモ、耳目、手足ノ如キ、形體ヲ有スベキモノニアラザルナリ、佛敎ニテハ、[illegible]、幽靈ノ說ナシ、唯、小乘敎ニ於テ、中有トイフコトヲ說ケリ、中有トハ、死有ト生有トノ中間ニシテ、死後、未ダ來趣ノ生ヲ受ケザル、中間ノ心身ヲイフナリ、儒敎ニテハ、易經ニ、遊魂變ヲナスノ言アリ、人死シテ、其[illegible]ナホ散セズ、遊魂トナリテ形ヲ顯スモノノ如ク說キ來レリト、井上哲次郎ハ云ヘリ〕(一)死シタル人ノ靈。亡キ魂。亡魂。[illegible](二)又、想像ニ、其靈ノ、形ニ現レテ見ユトスルモノ、[illegible]ニハ、常ニ、人ノ、亂髮、白衣ニテ、腰以下ナキモノヲ畫キ、幽靈火ヲ伴フ。[illegible]「[illegible]、出[illegible]」[illegible]「[illegible]ノ[illegible]ナリ」

いうれい-さう (名) 幽靈草 次條ヲ見ヨ。

いうれい-だけ (名) 【幽靈茸】 草ノ名、山林、陰地ニ生ズ、莖、葉、花、共ニ水白色ニシテ 萌芽ノ如シ、高サ五六寸、鱗ノ如キ葉ヲ着ク、莖ノ上ニ、一花傾キ開ク、形、臘梅ノ花ノ、開カザルモノノ如シ。イウレイサウ。ギンリャウサウ。ヤマツクックシ。ツユザエモン。スキシャウラン。野菰

いうれい-ばな (名) 【幽靈花】 まんぢゅしゃげ(曼珠沙華)ノ異名。物類稱呼、三、生植門「シビトバナ、(伊勢ニテ)セソビ、(中國及武州ニテ)シビトバナ、又、ヒガンバナ、又、キツネノカミソリ、(上總或ハ美作ニテ)イウレイバナ、又、ヒガンバナ、(越後、信濃ニテ)ヤクビウバナ、(京ニテ)カミソリバナ、(大和ニテ)シタコジケ、(出雲ニテ)キツネバナ、(尾州ニテ)シタマガリ、(駿河ニテ)カハカンジ、(西國ニテ)ステゴバナ、(肥唐津ニテ) ドクズミタ、(土佐ニテ)シレイ、又、シビトハナ、又、スズカケ、ト云、又、マンジュシャケト云」

いうれい-び (名) 【幽靈火】 オニビ。アヲビ。繪ノ幽靈ノ傍ニ畫ク火。鬼火 演劇、怪談ナドニ、幽靈ノ出ヅル時、傍ニテ燈スハ樟腦火ナリ、色青シ。

いうれう (名) 【有料】 料金ノアルコト。(無料ニ對ス)

いうれう-いうびんぶつ (名) 【有料郵便物】 料金ノ納付ヲ要スベキ郵便物。(無料郵便物ニ對ス)

いうれき (名) 【遊歷】 國國、處處ヲ歷廻ルコト。名蹟ヲ尋ネ、風俗ヲ觀ムガ爲メニスルアリ、遊學ノ意ニテ、書生ノ、諸名家ヲ歷訪シテ、知識ヲ請ハムガ爲メニスルアリ。晉書、王獻之傳「遊歷既畢、傍若無人」陸游、遊廬山東林記「神運殿寺極大、連日遊歷、猶不能徧」日本教育史資料、十七、諸藩、補遺「他國ヨリ遊歷ノ書生ナド、備前ニ至ル時ハ、講堂ニ請ジテ、家中ノ者、講釋ヲ聽聞ス」(備前)

いうれつ (名) 【優劣】 マサルト、オトルト。オトリマサリ。高下。晉書、陸機傳「議者以此、定二陸(陸機ト陸雲ト)之優劣」錢鵬詩「出處未用相劣優」雲州消息「各異優劣」「優劣無シ」

いうれふ (名) 【遊獵】 魚、鳥獸ナド、漁獵シテ遊ブコト。(職業トスルニ對ス) 後漢書、安帝紀「永初元年、以廣成遊獵地、及被災郡國公田」唐書、趙武孟傳「少遊獵、以所獲饋母」金史、章帝紀「明昌元年制、諸王任外路者、許遊獵五日、過此禁之」宇津保物語、國讓、上五十七「極熱ニ、此釣殿ヘコソハタ、いうれふシニ參リシカ」萬葉集、六、長歌十四「朝獵ニ、鹿フミ起シ、夕狩ニ、鳥蹋ミ立テ、馬並テ、御かりゾタタス、春ノ茂ヌ野ニ」

いうわく (名) 【誘惑】 ヲコヅルコト。惡シキ方ヘ誘ヒ惑ハスコト。淮南子、氾論訓「天下莫易於爲善、云云、適情辭餘、無所誘惑」

いうゐ (名) 【有位】 〔無位ニ對ス〕 (一)位階ヲ有スルモノ。位階ハ、令制以前ニハ、冠位トイフモノアリシガ、令制施行トナリテ、廢止セラレタリ、今傳フル令制ニハ、一品以下四品ニ至ル四階、一位ヨリ初位ニ至ル三十階アリ、此三十階ハ、一位ヨリ三位マデ、正、從ノ二級アリ、四位ヨリ八位マデ、正、從ノ二級ト、上、下ノ二等トアリ、初位ニハ、大、少ノ二級ト、上、下ノ二等トアリ、例ヘバ、正四位上、正四位下、從四位上、從四位下、正五位上、正五位下、從五位上、從五位下、大初位上、大初位下、少初位上、少初位下、トイハンガ如シ、而シテ、一品ヨリ四品マデヲ、親王ノ位階トナシ、其餘ヲ、諸王及諸臣ノ位階トナシ、五位以上ヲ勅授トナシ、內八位、外七位以上ヲ奏授トナシ、外八位及內外初位ヲ判授トナセリ。(內位トハ、在京ノ官人ニ與フルモノニテ、外位トハ、地方官人ニ與フルモノナリ、其外位ニハ、三四位ハ無ク、正五位上以下少初位下ニ至ル、二十階アリトゾ) (二)現今ノ位階ハ、從八位以上正一位ニ至ル十六階アリ、而シテ、其位ハ、華族、勅奏任官、及、國家ニ勳功アル者、又ハ、表彰スベキ功績アル者ヲ敍スルモノニシテ、從四位以上ハ、勅授トシ、宮內大臣、之ヲ奉ジ、正五位以下ハ、奏授トシ、同大臣、之ヲ宣スルモノトス、又、從四位以上ノ者ハ、有爵者ニ準ジ、禮遇ヲ享クルモノトス。

いうゐ (名) 【有爲】 (一)爲スコトアルコト。役ニ立ツコト。孟子、公孫丑、下篇「將大有爲之君、必有所不召之臣」「有爲ノ士」有爲ノ材」 (二)事業ノアルコト。李白詩「莫戀漁樵興、人生各有爲」

いうゑん (名) 【幽遠】 ハルカニ、トホキコト。オクフカキコト。漢書、桓榮傳「五經廣大、聖言幽遠」

い-え (動) 【被射】 〔被ノ條ヲ見ヨ、射被、欺被、誅被、等ノれ、られヲ、古クハ、えト發音シタルナリ、而シテ、受身相ノ動詞トナル〕 イラル。イラレル。神武紀、十四「五瀨命中矢而薨」(被射ノ約) 天武紀、上廿「蹈板度之便斷、著板網以被矢、入陣衆悉亂而散走」

いえ (副) 【否】 いやヲ見ヨ。

イエス (名) 【耶蘇】 〔英語、Jesus.〕 耶蘇ニ同ジ。

イエス (副) 〔英語、Yes.〕 應フル語。英語ヲ用キル。はいノ意。サヤウ。

い-える (動) 【癒】 癒ゆノ口語。

い-おと-す ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) 【射落】 矢ヲ射中テテ倒ス。雄略紀、九年五月「射墮韓子宿禰於中流」平家物語、十一、嗣信最期ノ事「能登殿(平教經)ノ矢先ニ廻ル者、一人モ射落さレズト云フコトナシ」

い-か (名) 【五十日】 〔五十ヲ、いト云フ、其條、並ニ、日ノ條ヲ見ヨ〕 (一)日數、五十。五十日。崇神紀、元年二月「五十日鶴彥命」倭訓栞、いがらし「今ノ氏姓ニ、五十嵐ト書ケリ、神名帳、越後國、蒲原郡ニ、伊加良志神社アリ、五十日帶ノ轉語也、五十日足彥命ノ事、垂仁紀ニクハシ」(五十川ト云フ氏アリ、武藏國、兒玉郡ニ五十子村アリ、是レ等ハ、日ノ字ヲ略シタルナルベシ) (二)いかのいはひヲ見ヨ。

いか (名) 【烏賊】 〔語原、知ルベカラズ、倭訓栞「形モイカメシク、骨モ異樣ナレバ、名ヅクルナルベシ」胥ハレバ、然レドモ神功攝政前紀ニ、中臣烏賊津使主ト云フ人ヲ、姓氏錄、上、左京、神別、上、中臣志斐連ノ條ニ、天兒屋根命十一世孫雷大臣トアリ、倘、熟考スベシ、倭名抄ニ、南越志ヲ引キテ「烏賊、常自浮水上、烏見以爲死啄之、乃卷取之、故以名之」トアルハ、字ニ就キテノ附會ナリ、說文「烏鰂魚」正字通「墨魚、一名、黑魚」トアリ、烏トノ、黑キ義、腹中ノ墨ヲ云フナリ、此物、烏賊魚ト云フガ成語ナルベシ、出典ヲ見ヨ〕 (一)〔海產ノ軟體動物ノ名。體ハ圓筒狀ノ小嚢ノ如ク、十脚アリテ集リ着ク、八脚ハ短ク、其前端ニ吸盤アリ、物ニ吸着スル用ヲナス、二脚ハ

頗ル長ク、尺餘アリ、赤、[illegible]ニ變ズ[illegible]ソテ、物ヲ捕ヘ、口ハ[illegible]ノ間ニアリ、眼ハ口ノ上ニアリ、總體、灰色ニシテ、褐斑アリ、肉ハ白シ、生食、煮食スベシ、味、佳ナリ。一名、眞烏賊ト云フ、するめいか、あふりいか、尺八いか、やりいかノ類名ト別チテ云フナリ、各條ヲ見ヨ。又、烏賊ノ體中ニ、墨液ヲ含ミ居リ、又、一枚ノ骨アリ、いかのくろみ、いかのこふト云フ、各條ヲ見ヨ。 說文「烏鰂魚」字鏡、九十「鰂、伊加」本草和名、下十「烏賊魚、以加」倭名抄、十九十「烏賊、伊加」賦役令「烏賊三十斤」主計寮式「烏賊十斤」語彙「古來、令、式等ニ載セタルモノハ、するめいかノ乾シタルモノニシテ、中古來、するめト稱スルモノナリ」 (二)いかのぼりヲ見ヨ。 (三)いかのくろみヲ見ヨ。

いか (名) 〔紙鳶〕 いかのぼりノ略。

いか (名) 〔衣架〕 いかう(衣桁)ヲ見ヨ。

いか (名) 〔醫家〕 醫者ノトモガラ。 俚言集覽、醫家手加減ニテ毒ヲ變ズル「醫書云、茅元儀野航史話云、余嘗怪、岐黃家稱、醫者、意以、手爲レ使、云云、斯方醫家、亦坐ニ于此弊一」(雜文)

いか (名) 〔以下〕 (一)コレヨリ下。以下(モ)。以降。(以上ニ對ス) 論語、雍也篇「中人以下、不レ可ニ以語一上也」 (二)目見ノ條ヲ見ヨ。

いか (副) 〔如何〕 〔いかに、いかばかり、いかやうナドノ語根〕 イカニ。イカガ。ドノヤウニ。 萬葉集、八 三十長歌「伊加ト伊可ト、アル我ガ背ニ、百枝(モモエ)サシ、生フル橘」(いかにトいかにトノ意)

いが (名) 〔栗梂、栗刺〕 〔嚴皮(イカカハ)ノ略カ、(海人(アマビト)、あま。香薬(カウソ)、かう) 内皮ノ仁(ニン)ヲ包ムモノヲ、鬼皮(オニカハ)ト云フ、嚴(イカ)キモノノ意ナリ、古クハ清音ナリ、出典ヲ見ヨ、オソロシキヨリ觸ルカ、日本釋名(二、[illegible])下ニ「[illegible]ハ、怒(イカリ)ナリ、怒ツベキヲ云フ」、實紫ニテ、いがト云フ、[illegible]、針毛ノ義ナルベシ」ト云ヘルハ、イカガ〕 栗ノ實ノ外皮ニ、刺ノ如ク簇リ生ヒタルモノ。 いがぐりノ條ヲ參見セヨ。 天治字鏡、七八「梂、久利乃伊加」 倭名抄、十七六「栗刺、久利乃以加」 枕草子、七、六十九段「おそろしげなるもの「くりのいか」」

いが (連體) 〔爾之〕 〔我(ア)がノ轉、伊賀風土記「清見原天皇御宇、以ニ吾娥(アガ)郡一分爲ニ國之名、後改ニ伊賀一、吾娥之音轉也」(總國風土記)自稱ノ代名詞ヲ、他稱ニ用キタルハ、今ノ世ニ、人ヲ貶シメテ、おのれ(ナンヂ)ト云フト相似タリ、意禮ト云フモ、同ジ、其條ヲ見ヨ、琉球ニテハ、今モ、此意ニテ、いがト云フト聞ク〕 汝が、汝が、ト云フニ同ジ。但シ、貶(オト)シメテ云フ。 古事記、中(神武)六「道臣(ミチノオミ)命等、召ニ見宇迦斯(エウカシ)一罵詈曰、伊賀所作仕奉於ニ大殿內一者、意禮先入、云云、而退入之時、云云」(殺戮、殿内ニ、押機ヲ張リオキテ、陷シ入レムトセシナリ) 皇極紀、二年十一月、蘇我臣蝦夷、嘖罵曰、噫、入鹿(イルカ)、云云、專行ニ暴惡一、儞之身命、不ニ亦殆一乎」

いかい (名) 〔意改〕 書中ノ文章、文字ナドヲ、證トテハナケレド、意味ヲ推シテ釋キテ、改ムルコト。

いかい (連體) 〔嚴(イカ)きノ音便、いっかいハ、急呼ナリ(如何(イカ)なコト、いっかな聽カヌ)〕 (一)オホイナル。オホキイ。いかい。(畿內)デッカイ。大 倭訓栞、後編、いかいおと「京ニテ、大キナルヲ、いつかい物ト云フ」「いかい物」「いかい御世話」「いかい御苦勞」「いっかい頭(アタマ)」 (二)多(オホ)キ。タクサンナ。多 「いかい事」「いかい物入(モノイリ)」「いかい見物人」

いかいか (副) 〔嚴嚴〕 イカイカシク。烈シク。 榮花物語、一、月宴「御子(ミコ)、いかいかト泣キタマフ」 今昔物語、廿七、四十三語「兒ノ音ニテ、いかいか[illegible]」 [illegible]「諸形ヲいかいかト、諸眉附キテ、左折ガ所望」

いかいか・し・シキ・シケレ・シク・シク (形、二) 〔嚴嚴〕 「嚴(イカ)しヲ見ヨ、重ネテ云フハ、意ヲ強ムルナリ」 甚ダ嚴シ。猛ク強シ。 [illegible]、九、「タケクいかき、ヒタブル心出デ來テ」 [illegible]抄「猛 辛(タケクイカキ)」五音律抄「いかいかしき體(テイ)ナリ」

いかい-どろふみ (名) 〔大泥蹈〕 〔いかいハ、(大)ノ條ヲ見ヨ〕 跣(ハダシ)で逃げるト云フ謎。 [illegible]笑(元和)二、「[illegible]バ[illegible]ニナシ、非ヲバ理ニナシ、云云、物毎、横サマニワメク者ヲ、ナベテ世ノ人、アレハいかいどろふみヨト云フコト、はだしちやトノ謎語ナリ」

いかい-おと (名) 〔嚴(イカ)き事ノ音便〕 (一)イカメシキコト。 狂言記、宗論、三「國ニハバカルホドノ法問ヂャ」マヅ、いかい事ヲ云ハズトモ、語ラセマセ」 (二)甚ダ多キコト。 狂言記、[illegible]「いかいおとノ雑魚(ザコ)デオヂャル」 副詞ニ用キテ、「雪ガ、いかいおと降積(フリツモ)ッタ」

いかう (名) 〔衣桁〕 〔玉篇ニ「桁、屋桁、屋橫木也」トアレバ、けたナリ、杜甫詩「翡翠鳴ニ衣桁一」岑參、山房春事「數枝園柳低ニ衣桁一」鳥ガ止(トマ)リ、柳ノ枝ガ垂ルトアレバ、元ハ、屋外ニテ、衣ヲ日ニ曝ラス架(サヲ)ナリ、かけざをト云フ、是レナラム、コレヲ、一種ノ製トシテ、屋内ノ具トセシナルベシ、みぞかけトハ、御衣懸(ミソカケ)ナリ〕 又、衣架(イカ)。みぞかけ。かけざを。室内ニ据エテ、衣服ヲ懸ケオク具。形、鳥居ノ如ク、臺アリテ、其左右ノ端ニ、二本ノ柱ヲ立ツ、徑一寸程、高サ四尺七寸、中貫アリ、幅五尺、兩ニ柱ノ上ニ、長サ六尺ノ橫木ヲ亙シ、左右ノ柱ニアマル、臺ト共ニ、[illegible]二寸、[illegible]、貴人ノ用ナルハ、金蒔繪ナドス。又、二枚折ノ屛風ノ如クニ作レルヲ、衣桁屛風ト云フ。 [illegible]「不レ同ニ施桁一」說文「桁、衣架也」古樂府、東門行[illegible] [illegible]裝束抄(治承)一「いか、一ツヲ立テテ、マヅ御袴ヲ、いかノ下ノ段ニ、右ヲ上ニ、タタミテ懸クベシ、上ノ段ニ、御衣ニ、上着、打衣、單衣ニシテ、右ヲ上ニテ、[illegible]ヘシ[illegible]カケタリ」

いかう (名) 〔以降〕 いか(以下)ノ(一)ニ同ジ。 史通「曹馬以降、上出ニ齊賓一、下陳ニ謙讓一」

いかう (名) 〔意向〕 心ノ向フトコロ。ココロザシ。オモハク。志向 [illegible]

いかう (名) 〔已講〕 〔已(スデ)に講じ畢(ヲ)ヘタル意、正韻「已、音以、正韻、止也、畢也」[illegible]〕 芥抄、中、末、[illegible]之有職ニ[illegible] 僧ノ職名。三會已講師ノ略。奈良ノ三會ノ講師ヲ勤メシ者ヲ稱シキ、又、其三會ノ講師ヲ勤メタル者ヲモ稱セリ。さんゑ(三會)ノ條ヲ見ヨ。 大鏡、下、道長、[illegible]

いかう (副) 〔甚〕 〔嚴くノ音便〕 甚シク。キック。ヒドク。(關西) 狂言記、[illegible]「[illegible]共モ、いかう[illegible]ウ思ヒマスル」 倭訓栞、いかう「甚ノ意ニ云ヘリ、[illegible]ナルベシ」[illegible]「いかうギャウサンニアル」

いかう (名) 〔一向〕 〔いっかうノ約、[illegible]

せ志ゃう)」一向。ヒタスラ。源、三十八、夕霧「修法ヲナム、故大宮ノ宣ヒツケタリシカバ、いかうニサルベキ事、今ニ承ケタマハル所ナレド」

いかう-びやうぶ (名) [衣桁屛風] いかう(衣桁)ノ條ヲ見ヨ。

〰いか-が (副) [如何] [いかにかノ音便、いかんがノ約] (一)疑ヒ、又、危ブミ思フ意ヲ云フ語。何ト。ドノヤウニ。イカニ。天治字鏡、十二ノ廿六「何作、伊加加世年」「いかがアラム」(二)疑ヒ問フ意ヲ云フ語。「いかが思ヘル」(三)イカデ。イカデカ。源、二、帚木八「ハカナク爲出デタル言葉モ、故ナカラズ見エタラム片カドニテモ、いかが思ヒノ外ニ、ヲカシカラザラム」

❖いかが-さま (副) [如何樣] いかが(如何)ト云フヲ、丁寧ニ云フ語。

いかが-は・しい (形) [可疑] [如何ニカアラムト疑フ意、みだりがはしナド、同趣ノ語] 疑ハシ。イブカシ。「いかがはしい申條」

い-かき (名) [笊籬] [笊ヲ、ゆかけトモ云ヘバ、(出典ヲ見ヨ)湯注ノ轉ナラム、(尿、いばり。狐、けつね)笊ヲ、いざるトモ云フハ、湯去ナルベシ、元ハ、むぎすくひ、いひ志たみノ用ナリシナリ、(其各條ヲ見ヨ)倭訓栞、いかき「飯籭ヲ云フ、いひかだノ轉ナルベシ」チト無理ナリ」 笊ニ同ジ。下學集(文安)器財門「笊籬、イカキ、サウリ、味噌漉也」合類節用(元祿)七、器財「飯籭、笊籬、筲」物類稱呼(安永)四ノ四「筲、畿内ニテいかき、江戸ニテざる、安藝ニテ志たみ、遠江ニテゆかけ」

い-かき (名) [蛛網] くものいとヲ見ヨ。

〰いか・き (形) [嚴] いかし(嚴)ヲ見ヨ。

〰い-がき (名) [齋籬] [いハ、齋む(忌む)ノ語根、(齋く、齋ふ、同ジ)齋ミ淨メタル意、東雅(新井白石)四、神祇「瑞籬、ミヅカキ、云云、いがきトモ云ヒシハ、いトハ、齋也」齋串、齋杙、齋籠る、皆、同義ナリ、齋ト通ズ、(壹岐、ゆき。的、ゆくは)齋庭、齋種」 神社ノ垣。瑞籬。神籬。萬葉集、十一ノ廿九「チハヤブル、神ノ伊垣モ、越エヌベシ、今ハ吾ガ名ノ、惜シケクモナシ」拾遺集、十七、雜、秋「チハヤブル、神ノいかきニ、雪降リテ、空ヨリカカル、木綿ニゾアリケル」倭名抄、十三ノ四「瑞籬、美豆加岐、以賀岐」靈異記、下、第三十一縁「家内立二忌籬一而齋」訓釋「籬、可支、齋、イツク」

〰いかき-もの (名) [猛者] [嚴き者] イカイカシキ者。アラアラシキ人。宇津保物語、俊蔭四十九「四五百人ノ兵、云云、オソロシゲニいかき者ドモ、一山ニ滿チテ、目ニ見ユル鳥獸、色ヲモ嫌ハズ、殺シ食ヘバ」

い-かく (名) [異客] [故郷ト異なりタル地ヲ異郷ト云ヒ、其地ニ假居スル故ニ異客ト云フ] 他郷ニ寄寓シテ居ル身。異郷、卽チ、他郷ナリ。王維、九月九日憶二山中兄弟一詩「獨在二異郷一爲二異客一、毎レ逢二佳節一倍思レ親」

〰い-か・く・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ (他動、下二) [沃懸] [いる(沃)ヲ見ヨ] 注ギカク。アブス。アビセル。注 枕草子、十一、百四十六段「ソト立チハシリテ、白キ水いかけサセヨ」源、三十一、槇柱五十「火取ヲ取寄セテ、殿ノ後ニ寄リテ、サトいかけタマフ」(灰ヲ)

い-か・く・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ (他動、下二) [射掛] 矢ヲ射テ遣ル。平治物語、二、忠致心替事「留メムト思ハバ留メヨ、ト呼ビケレドモ、遠矢、少少射かけタルバカリニテ、近ヅク者ナカリシカバ、玄光ハ鷲栖ニ留リ、金王ハ都ヘ上リケリ」

い-がく (名) [異學] [朱子學ニ異なる學] (一)德川時代、儒學ノ中ニテ、朱子學ニ對シテ、他ノ古學・陽明學、折衷學ナドヲ稱シタル語。寛政二年、幕府、令シテ、他ノ學ヲ制止セリ、コレヲ異學の禁ト云フ。憲教類典、四、寛政二年五月廿四日、松平越中守殿、林大學頭ヘ御渡「朱學之儀ハ、慶長以來、御代代御信用之御事、云云、然ル處、近頃、世上種種新規之說ヲナシ、異學流行、云云、此度異學相二禁之一、云云、正學講究致シ、人才取立候樣相心掛可レ申候」(節文、古事類苑)(二)佛門ニテハ、外道ナドヲ云フ。一念多念證文「異學ト云フハ、聖道外道ニオモムキテ、餘行ヲ修シ、餘佛ヲ念ズ、云云、コレハ外道ナリ」(佛敎大辭彙)

い-がく (名) [醫學] 醫科ノ術ヲ修ムル學。運歩色葉集(天文)「醫學、醫術」

い-がくかう (名) [醫學校] 醫學ヲ敎授スル學校。往時、漢方ノ醫學校ハ、德川幕府ノ醫學館ヲ始メ、諸藩ニモ、ソレゾレ設ケラレテアリシガ、文久元年、幕府ニテ西洋ノ醫學所ヲ立テ、明治ニ至リテ、官立、公立、私立ノ醫學專門學校、高等醫學校等、各府縣ニ夥シク設立セラレタリ。政事要略、九十五、至要雜事、學校事、下「陰陽、典藥寮病、在二典藥中一」杏林雜話「享保中、見宜有二時譽一、官特命開二書院於二神田橋門外一、講二醫經於二其中一、使二都下醫生聽一レ之」(大阪人、古林見宜、古事類苑、醫學校)

い-がくくわん (名) [醫學館] 德川幕府官立ノ、漢方醫學研究所ノ稱。明和二年、幕府ノ醫員多紀元孝ガ、江戸、神田、佐久間町、二丁目ニ設ケタル躋壽館ト云フ私立ノモノヲ、寛政二年ニ官立トセシナリ、元孝ノ孫、安長、學館ノ事ヲ掌リテ、世襲セリ、幕府ノ醫員、陪臣醫師、町醫師等ノ子弟ヲ養成シタリキ。文化三年燒失後、新橋(美倉橋)ノ北ニ移ル。

い-がくし (名) [醫學士] 大學令ニ據ル大學醫學部ノ卒業生ノ稱號。

いが-ぐみ (名) [伊賀組] 德川幕府ニ仕ヘタル、伊賀國ノ鄕士ノ組合ノ稱。又、伊賀者トモ云ヒキ。同心タリシ者ハ、伊賀同心ト稱セリ。東照記聞、二、伊賀組「天正十年織田氏變也、神祖自二泉南一經二間道一、自二和州一至二伊州一之時、伊州之住人及凡民等、迎而奉レ送二之勢州白子一也、同年招二之尾州鳴海一而給二食祿一、而士列二眤近一、以下爲二同心一也」德川御實紀附錄、四ニハ、此年(天正十年)六月、尾張ニテ召出サレシ者ドモハ、專ラ陣中ノ間諜ヲ勤メ、後ニ、大奥ノ廣敷番トナリ、伊賀の者ト云フトアリ。嘉永三年武鑑、三、御鐵砲百人組「伊賀組、組屋敷、靑山百人町」世ニ、伊賀袴ト云フアリ、此組ニテ用キシニ起ルト云フ。

いが-ぐり (名) [梂栗] 栗ノ實ノ、栗梂ニ包マレテアルモノ。字類抄「梂栗、イガグリ」行宗集「いがぐりハ、心ヨワクゾ、落チニケル、コノ山姫ノ、笑メル顔見テ」夫木抄、三十二、刀「手ニ取レバ、人ヲ刺ステフ、いがぐりノ、笑ノ内ナル、刀オソロシ」倭訓栞、いが「唐書ニ、義甫、笑中有レ刀ト見エタリ」

いがぐり-あたま (名) [梂栗頭] [髮風ヲあたまト云フ、其條ヲ見ヨ] 男子ノ頭髮ヲ、短ク刈去レルモノ。一般ニ夜郎頭ナリシ世ニ云ヒシ語、今日ノ頭髮、卽チ、いがぐりあたまナリ。俚言集覽、いがぐりあたま「頭髮ヲ短ク切リタルガ、栗ノ毬彙ニ似タルヲ云フ」

〰い-か・く・る (動) [いハ、發語] 隱る(四段活用)ニ同ジ。古事記、下(雄略)二十六「少女ノ、伊加久流岡ヲ」萬葉集、一ノ十三長歌、額田王下二近江國一時作歌、長歌「アヲニヨシ、奈良ノ山ノ、山ノ間ニ、伊隱るマデ、云云、委曲ニ、見ツツ行カムヲ」

いかけ (名) [沃懸] [沃懸くノ名詞形、注

ギカクルナリ」水ニテ身ヲ淨ムルコトナシ[illegible]、[illegible]何トナク心ノ奥ユカシクテ「思ヒキヤ、濁ラヌモノヲ、我ガ心、今朝シモ何ノ、[illegible]セヨトハ」

いかけ（名）［鑄掛］〔沃懸くノ名詞形、鎔金ヲ沃懸くるナリ〕（一）鐵器、銅器ナドノ破損ノ處ニ、同質ノ金屬、又ハ、よろめナドヲ鎔カシ、注ギカケテックロフコト。[illegible] 俚言集覽、いかけ「銅鐵ナドノ器ノ[illegible]ヲ止ムルタメニ、金ヲ鎔シ、其[illegible]ニ沃かくるヲ云フ」（二）鑄掛ノ事ヲ生業トスル者ヲ、鑄掛師ト云フ。人倫訓蒙圖彙（元祿）六、鑄掛師「佛前ノ三具足ヲ始メ、金ノ器物破損ヲツクロヒいかけ、[illegible]釜ノモ、同ジ類ナリ」[illegible]いかけ「いかけ師アリ、宋小說ニ、老學庵筆記ヲ引テ、市井中、有下補[illegible]之者上[illegible]ト見エタリ」（三）いかけやノ條ヲ見ヨ。

〜い-かけ（動）［沃懸］沃懸くヲ見ヨ。

いかけ-志（名）［鑄掛師］前前條ノ（二）ヲ見ヨ。

いかけ-ぢ（名）［沃懸地］〔いかけハ、沃懸くノ名詞形、金泥ヲ注ギカクル意、地ハ梨地、濃地ノ、地ノ如シ、いっかけト云フハ、急呼スルナリ（進、いっち。あつぱれ、あっぱれ）〕（一）漆塗ノ上ニ、一面ニ金泥ヲ塗リタルモノ、後ニ揩梨子地トモ云フ、其上ニ蒔繪スルナリ。又、いっかけ地、現今ハ、褐色ノ漆ニテ地溜ヲシ、其上ニ、金ノ[illegible]ヲ蒔キ、揩漆ヲシ、其上ヲ揩リ磨キテ、光澤ヲ生ゼシム。此製ヲ、[illegible]立ト云フ。[illegible]「沃懸地ノ金覆輪ノ鞍置テ」夫木抄、四「オモシロヤ、[illegible]ノ[illegible]ニ、フブカレテ、[illegible]ノ[illegible]ナキ、花ノいかけぢ」[illegible]日記（[illegible]）[illegible]三年六月廿八日「[illegible]

ノモ、いかけぢニ、[illegible]、[illegible]一七十一[illegible]ドコロノ、切金ノ、光コトナル、秋ノ夜ノ月」貞丈雜記、八、[illegible]、太刀ノ[illegible]ニモ、[illegible]ニモ、手箱ナドノ類ニモ、沃懸地ト、[illegible]記ニアルハ、地ヲ金泥ニテ塗リテ、其上ニ、かたかひトハ、今ノ、まきゑノコなし地ト云フ也」註「かたかひスル也、今ハ、すりトナリ」（二）後世ハ、漆器ノ緣ニノミ沃懸シタル、又、金銀ヲ以テ緣ヲ覆ヒタルヲ、いっかけトノミ云フ。貞丈雜記、八、いつかけ「箱ノ端、香[illegible]ノ端ナドニ、金泥塗リタルヲノミ、いつかけトオボエタル人アリ、云云」倭訓栞、いかけ「今ノ俗、いつかけト云フ、云云、釦ヲ訓メリ」說文「釦、金飾ニ器口ニ也」後漢書、鄧皇后紀「釦器」註「釦、音口、以ニ金銀ニ緣レ器也」

いかけぢ-の-くら（名）［沃懸地鞍］金泥ニテ裝飾セル鞍。參考保元物語、二、義朝白河殿夜討事「重盛ニ於テハ、云云、[illegible]毛ナル馬ニ、[illegible]懸地ノ黃覆輪ノ鞍置テゾ乘リタリケル」（京都本）盛衰記、二十三、忠文祝ニ神事「維盛、云云、連錢葦毛ノ馬ノ太逞キニ、[illegible]懸地ノ黃覆輪ノ鞍置タリ」

いかけぢ-の-たち（名）［沃懸地太刀］金泥ニテ裝飾セル太刀。名目抄、衣服「沃懸地太刀（大理用ニ之、蒔繪太刀巡散）」飾抄、中「沃懸地釦、宿老之人、撿非使[illegible]用ニ之」

いかけ-や（名）［鑄掛屋］（一）いかけ志ニ同ジ。但シ、二箇ノ箱ニ、鑄掛道具ヲ入レ、天秤棒ニテ肩ゲテ、市中ヲ、いかけいかけト呼ビテ步キマハリ、戶戶ヨリノ注文ヲ受ケテ、小鞴ヲ出シ、卽時ニいかけヲ行ヒシ者ノ稱ナリキ。天秤棒ハ、長サ六尺ナルモノナルニ、此者ノ用キルハ、七尺五寸ニテ、六尺ノ處ニ、小釘ヲ打チオキテ、先端ハ、空シク前ニ出デタリ、因リテ、出過者ノ謎ニ、いかけやのてんびんぼうト云ヒキ、是レハ、軒　七尺五寸アル處ナラデハ、火ヲ用ヰルコトヲ、其[illegible]ニ[illegible]ジタルニ因ル[illegible]、[illegible]六、[illegible]ルタメナリ、[illegible]、ふいごヲ[illegible]ヘ[illegible]、[illegible]ノ[illegible]、[illegible]ニ[illegible]之、其[illegible]、三[illegible]、[illegible]、其ダ長キヲ用ヰルコト[illegible]、[illegible]ヘ、てんびんぼう）（二）大阪ニテハ、夫婦連立チ行クヲ、いかけト云ヘリ。[illegible]、[illegible]の流行唄（文政）「老人夫婦、[illegible]ノヒビキ[illegible]レタルヲ直シ、[illegible]ヲ止メルフヲ渡世トシ、夫婦連立チ、[illegible]のいかけ、[illegible]のいかけト呼ハリテ、浪花ノ市中ヲ日每ニ廻リシヨリ、云云、夫婦連立行クヲ、[illegible]のいかけトノミ云ヒ、或ハ、[illegible]トバカリ云ヒテ、[illegible]テ、いかけト異名シテ、ハヤラセリ、夫レモ、後ニハ略語シテ、いかけトノミ云ヒ、或ハ、[illegible]トバカリ云ヒテ、[illegible]サヘ、夫婦中ニ連レタル小兒ヲ、急燒ヲツレルナドトモ云ヘリ」（現代ノ東京ニハ、いかけ、街頭ニ陸續タリ、[illegible]ハ、大阪、元[illegible]町、[illegible]、[illegible]兵衛、木村明啓ノ作ナリ、狂名ヲ曉鐘成ト云フ、萬延元年歿、六十八、人多ク、木村[illegible]ト[illegible]ス、[illegible]リテ[illegible]ズ）

いか-お（名）［五十日兒］いかのいはひノ條ヲ見ヨ。

〜いか-さま（名）［何方］〔方ノ條ヲ見ヨ〕如何ナル方。イカヤウ。ドノヤウ。萬葉集一七長歌「何ガニ、思シケメカ」源、三十、藤袴「忘レナムト、思フモ物ノ、悲シキヲ、いかさまニシテ、いかさまニセム」同、廿二、玉葛「いかさまニシテ、都ニ率テタテマツリテ、父大殿ニ知ラセ奉ラム」狹衣、三、中「今ハ、いかさまニモ、（ドノミチニモ）ソレニ由ルベキ御事ナラネバ、心安ク」

∴いか-さま（名）［欺罔］〔いかおはしき樣ノ意ナルカ、語義、いかさま、人ヲ欺キテ、何さま尤もト承引カシムルコトニ云ヘリ」いかほどナルベシ、いかさま師ハ、いかさま[illegible]ナリ、いかものハ、いかさまものノ中略ナリ（つばくらめ、つばめ。きさはし樣、きざはし）ニ似セテ、[illegible]ノ[illegible]ニいかさまニハメ[illegible]」[illegible]、いかさと[illegible]、[illegible]、又、いかものトモ云フ。[illegible]、[illegible]俚言集覽、いかさつ[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]云フ」[illegible]ノ如[illegible]ヲ、[illegible]
いかさま師、又、いかものおトモ云フ。詐僞師。又、相撲ノ立合ニ、相手ヲ、ヤット叫ビテ、突掛ケ來ルヲ、待ッたト見セテ、タメラハシメ、其力ノ拔ケタルヲ見テ、ヤット叫ビテ立チアガルナドヲ、いかさま立、又、べてんだちト云フ。

いか-さま（副）［如何樣］〔何方ニ思ヒテモ[illegible]リト[illegible]ノ意ニテ、モアルカ〕[illegible]リト云フ意ニテ引ク意ニ云フ語。ナニサマ。實ニ。[illegible]然[illegible]、[illegible]、[illegible]べキニコソトテ」俚言集覽、いかさま「ナニサマ、ナルホド、尤モノ意ナリ」「いかさま、[illegible]」

いかさま-志（名）前前條ヲ見ヨ。

いかさま-だち（名）欺罔ヲ見ヨ。

いかさま-もの（名）欺罔ヲ見ヨ。

〜いか・し・キ・ケレ・ク・ク（形、二）［嚴］〔嚴ヲ活用セシム、（凹、くぼし）いかし若、いかし御世ナドトアルハ、終止形ノ、連體形ノ口語ニ、いかい事、いっかい物、いかつい顏ナド云フハ、此語ノ遺ナリ」（一）イカメシ。オゴソカナリ。嚴重ナリ。[illegible][illegible]、[illegible]、此云ニ伊柯之比ニ」[illegible]紀、四、[illegible]四年七月、詔「重　位ニ織ギマス事」（二）盛ンナリ。[illegible][illegible]

史大系本、重彌勞彌トアルヲ、語彙ニ、いかしきト擧ゲテ、重支勞支トシテ、形容詞ノ第二活用トシタリ、熟考スベキナリ）（三）猛シ。アラアラシ。イカラシ。猛　宇津保物語、俊蔭四十八「四五百人ノ兵ニテ、云云、オソロシゲニ、いかき者ドモ、一山ニ滿チテ」源、五十二、手習六「鬼、云云、いかき狀ヲ、人ニ見セムト思ヒテ」

いか・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）　活　〔生く（四段活用）ノ他動、（透く、すかす。沸く、わかす）此語、古クハ、見エヌヤウナリ、古事記、上四三十「令二作活一ヲ、つくりいかさしむト訓ミタルハ、アラズ、つくりいけしむナルベシト云フ」〕（一）生クルヤウニス。死ナセズ。（殺すノ反）　吾妻鏡、十、文治六年（建久元年）九月三日「以二景能助成一活レ命」（大庭景能ガ、河村義秀ノ誅セラルベキヲ助ケタルナリ）（二）生ケテオク。世ニ存命セシム。令生活　平治物語、三、頼朝遠流ニ定メラルル事「アハレ尼ガ命ヲ生かさムト思召サバ、兵衞佐ヲ助ケテタマハレカシ、ト歎キタマヘバ」（淸盛ノ母、池禪尼ガ、淸盛ニ、頼朝ノ助命ヲ請ヘルナリ）「魚ヲいかしオク」（三）效力アルヤウニ用キル。（死金ニセズ）　活用　「金錢ヲいかしテツカフ」

いかだ　（名）　筏　〔いかハ、浮ぶノ語根ノ轉ナルベシ、（魚、いを）たハ、板ノ上略（衣板、きぬた。足板、あしだ）〕（一）材木、板、ナドヲ並べ繫ギ合セテ、舟ノ如ク作レルモノ。川ニ浮ベ、筏師乘リテ、棹サシ流シテ運漕ス。竹ナルモアリ。孝德紀、白雉四年七月「採レ竹爲レ筏」　萬葉集、一廿二長歌「泉ノ河ニ、持チ越セル、眞木ノ抓手ヲ、モモタラズ、五十日太ニ作リ、云云」　靈異記、下、第廿五縁「取レ木編レ桴」訓釋「桴、伊可多」　倭名抄、十一二「筏、桴、以加太」（二）今世、俗間ニ、小饅ノ蒲燒ヲ云フ、竹串ニ刺シタル形、筏ニ似タリ。

いがた　（名）　鑄型　金類ノ器ヲ鑄テ造ル具。鑄ベキ器ノ形ヲ空虛ニ作リ、コレニ鎔シタル金類ヲ注ギ入レテ鑄ル。今ハ、西洋ヨリ傳ヘナドシテ、其方法、種種ナリ、活字ノ鑄造モ、然リ。鎔　倭名抄、十五八鍛冶具「鎔、鑄レ鐵形也、伊賀太」　撮壤集（享德）中、術藝、鑄師「鎔」

いがたうめ　（名）　伊賀專女　〔うがたま（倉稻魂）ノ延轉ナルベシ、（魚、うを。給ぶ、たうぶ。天、あま）國性爺後日合戰（享保、近松作）「稻倉、鏡ノ宮」言元梯（天保、大石千引）「伊賀專、宇賀魂」伊賀ハ、眞名書ノ字、（伊賀國ナドニ關係ナシ）專女ハ、音通ノ借字、たうめ（狐）ノ條ヲ併セ見ヨ〕（一）狐ノ異名。たうめトノミモ云フ、狐ヲ、倉稻魂、卽チ、稻荷ノ神ノ使ナリトスルヨリ、狐ヲモ、稻荷ノ神ノ如クニ祭ル、東國ニテ、狐ノ異名ヲ、稻荷トモ云フモ、是レナリ。狐　新猿樂記、第一、本妻「野干坂伊賀專之男祭」（二）狐ハ、人ヲ魅スト云フヨリ、媒妁口キキテ、人ヲタバカル者アルヲ、狐ニ譬ヘテ云フ。源、四十九、東屋五十七「辨尼ガ、薫大將ノタメニ媒セムト云フ詞ニ「近キホドニコソ、御文ナドヲ、見セサセタマヘカシ、フリハヘ、サカシラメキテ、心シラヒノヤウニ思ハレ侍ラムモ、今更ニ、いがたうめニヤ、ツツマシクテナム」細流抄「いがたうめ、狐ノ名ナリ、ココノ心ハ、媒ヲ云フナリ、媒ノ物ヲ云フハ、狐ノ人ヲバカスガ如シ、尼ノ身トシテ、今更ニ媒ニヤ成リ侍ラム、ツツマシキトノ義也」　藻鹽草（足利時代）十五、いがたうめ「媒也、一說ニ、伊賀多部女トカク」

いかだし　（名）　筏師　〔いかだ爲ナリ〕　筏ニ乘リ、棹サシテ、川ノ上ヲ流シ行ルヲ業トスル者。いかだのり。　宇津保物語、祭の使六四十「淺キ世ニ、なげきテ渡ル、いかだしハ、イクラノ榑カ、流レ來ヌラム」山家集、下「いかだしノ、波ニ沈ムト、見エツルハ、雪ヲ積ミツツ、下スナリケリ」新古今集、六、冬「いかだしヨ、待テ言問ハム、水上ハ、イカバカリ吹ク、山ノ嵐ゾ」七十一番歌合（文安）四十二番、筏士、詞「コノホドハ、水シホヨクテ、イクラノ材木ヲクダシツラム」　人倫訓蒙圖彙、三、筏師「嵯峨ノ大井川ノ筏、歌ニ詠メリ」

いかたてまつ・る・ル・レ・ラ・リ・レ（他動、四）　嚴奉　〔嚴シク奉る〕　謹ミテ奉ル。　續紀十五、天平十五年五月、歌「天津神、御孫ノ尊ノ、取リ持チテ、此豐御酒ヲ、伊可多氏末都流」

いかだなます　（名）　筏鱠　〔柳ノ葉ヲ、筏ノ如ク並ベテ盛ルト云ヒ、大草殿相傳聞書（天和）ニハ、檜垣ノヤウニ組ミテ、上ノ板ニ、五刀ニ切リテ、六ツニ盛ル、又、板ニ、檜垣盛ナリ、ナドト見ユレバ、細切ノ肉ヲモ、組ミ作レルナリ、何レモ、筏ノ形ニスル製ナリ、　嬉遊笑覽（文政）十、上、飮食ノ條ニ、庖丁家書ヲ引キテ、筏鱠、皮をひくニ依テ云フナリ、筏ハ、川を引くノ謎ナリトアルハ、附會ナルベシ、皮ヲヒキテスルハ、他ノ料理ニモ、イクラモアルナリ、細作トアルつくりハ、つくりみ、卽チ、さしみナリ〕　鮎ノ料理ノ名。鮎ノ酢鹽ナリ。　庖丁聞書「鮎ノいかだ鱠ト云フハ、鮎ヲオロシテ、細作ニシテ、柳葉ヲ、いかだノ如ク皿ニ並べ、其上ニ盛リテ出スベシ」　風呂記「鮎ノ筏なます、云云、酢鹽うすぬたナリ、云云、搔敷ハ、柳ノ葉ナルベシ」　大草殿相傳聞書「いかだのすしほハ、佳キ酒一杯ニ、梅干五ツホド入レ、鯉ヲ細ニケヅリ、一ツニ入レ、半分ニ煎ジテ、云云」

いかだのり　（名）　筏乘　筏師ニ同ジ。

いかだぶし　（名）　筏節　あふりょくかうぶし（鴨綠江節）ヲ見ヨ。

いかつ・い　（形）　猛　〔嚴强いノ略ナルベキカ、（豐島、としま。迷子、まひご）いかい、いっかい、いかつい〕　イカメシ。猛シ。　倭訓栞、いかめし「源氏ニ見エタリ、いかつしト云フ俗語モ、古言ナルニヤ」　俚言集覽、いかつい「關東ニテ、いかついト云フハ、日本紀ニ嚴字、重字、ヲいかしト訓メル意ナルベシ」「顏ガいかつい」いかつい風采」

いかづち　（名）　雷　〔嚴之靈ノ義、靈ノ條ヲ見ヨ、つヲ濁ル、出典ヲ見ヨ、（秋津島、安吉豆之萬）上代ノ人ハ、嚴ク畏ルベキ神トシタリ、サレバ、直チニ神ト云ヒ、鳴神トモ云ヒキ〕（一）かみなりニ同ジ。カミ。ナルカミ。雷。　神代紀、上六十「雷神」　萬葉集、三廿二「伊加土」　佛足石歌（奈良朝時代）「伊加豆知」　倭名抄、一二十「雷公、以加豆知」　枕草子、八、七十六段、名おそろしき物「いかづちハ、名ノミナラズ、イミジウオソロシ」（二）嚴ク猛キ物ノ稱。　神代紀、上八十「伊弉諾尊、遂而走還、是時、雷等皆起追來、時、道邊有二大桃樹一、云云、因採二其實一以擲レ雷者、雷等皆退走矣、此用レ桃避レ鬼之緣也」（黃泉ノ醜類ナリ、鬼トアリ）　雄略紀、七年七月、少子部蜾蠃「登二三諸岳一、捉二取大蛇一、示二天皇一、其雷、目精赫赫、使レ放二於岳一、仍改賜レ名爲レ雷」（節文）

いかづちのひかり　（名）　雷光　雷鳴ト共ニ發シテ、空中ニ閃メク光。（かみなりノ條ヲ見ヨ）　電　電光　常ニ、相通ジテ、いなびかり、いなづま、トモ云フ。（其條ヲ見ヨ）　佛足石歌「伊加豆知乃、比加利ノ如キ、コレノ身ハ」

いかで　（副）　爭　〔如何までノ音便、いかんで、約メテ、いかでナルベシ〕（一）如何ニシテ。何トシテ。ドウシテ。イカデカ。「いかで知ルベキ」いかでカクハアルベキ」いかで及バム」（二）何トカシテ。ドウゾシテ。（願フ意）　拾遺集、六、別「便リアラバ、いかで

[illegible]ヒテ」

〔いかでか　(副)　[爭]　前條ノ(一)ニ同ジ。名義抄、爪部「爭、イカデカ」

〔いか-と-いか-と　(副)　[如何如何]　いか(如何)ノ條ヲ見ヨ。

いが-どう-しん　(名)　[伊賀同心]　伊賀組ノ條ヲ見ヨ。

❖いかな　(連體)　〔いかなるノ下略〕　如何ナル。ドノヤウナル。ドンナ。「いかな日デモ出カケヌ事ハナイ」「いかな人デモ褒メル」

❖いか-な　(句)　いかなおとノ(二)ノ下略。何トシテモ。力ヲ入レテ云フ時ハ、急呼シテ、いッかな。「いかないかな聞入レヌ」「いッかな承知セヌ」

❖いかな-いかな　(副)　如何なりヲ重ネ言ヒテ、諾ハヌ意ニ言フ語。イカデ、イカデ。

いかな-ご　(名)　[玉筋魚]　〔語原、詳ナラズ、如何な子ノ義ニテ、梭子魚ト混ジテ、知ラレヌ意ナリナド云フ説アリ〕　海魚ノ名。身長四五寸、體長ク圓筒狀ヲナス、鱗、細小ナリ、脊鰭、頂後ヨリ長ク尾ニ連ル、下顎、突出ス、體色淡蒼ニシテ、銀色ヲ帶ビ、腹ハ色淡シ、春夏ノ際ヲ旬トス、肸多シ、煮テ醬油ヲ取ル、肉、生食スベク、又、煮干トシ、四方ニ送ル。和漢三才圖會(正徳)五十一「玉筋魚、俗云、以加奈古、又名、加末須古(かますごノ條ヲ見ヨ)」

いかなご-しやうゆ　(名)　[玉筋魚醬油]　いかなごニテ製シタル液汁。讃岐國ノ名產ナリ、新鮮ナルいかなご一升ニ、鹽五合ノ割合ニテ、樽ノ中ニ鹽漬トシ、蓋ヲ[illegible]シテ、[illegible]モスレバ、液トナル、コレヲ、生紙ノ袋ニ入レテ、漉シテ煮レバ、一種ノ醬油トナル、色モ、效用モ、醬油ノ[illegible]油ニ異ナラズ。[illegible]

いかな-こと　(連語句)　「いかなること」　(一)ドウ云フモノカ。ナゼカ。狂言記、貢聟「コレハいかなこと、此處ヘモモドラヌト申スカ」(二)ナントシテモ。イッカナ。「いかなこと、手放スモノカ」「いッかな聞ハヌ」

〔いか-み　(副)　[如何]　(一)知ラレヌ事ヲ、疑ヒ問フニ云フ語。音便ニ、イカン。何ト。ドノヤウニ。萬葉集、五卅八「常知ラヌ、道ノ長手ヲ、クレクレト、伊可爾カ行カム、餉ハナシニ」(二)推シ量リテ定ムル語。サコソ。サゾ。サゾカシ。源、五、若紫十六「いかみ、ハカバカシキ御イラヘ聞エサセタマハム」重之集「花ノ上ニ、散リクル雪ノ、我レナラバ、いかみ嬉シキ、命ナラマシ」(三)物言ヒカクルニ云フ語。ナント。萬葉集、四六「乞如何、吾ガカク戀フル、吾妹子ガ、逢ハジト言ヘル、事モアラナクニ」同、七卅二「浪高シ、奈何梶取、水鳥ノ、浮キ寢ヤスベキ、猶ヤ漕グベキ」盛衰記、三十三、光[illegible]向ニ木曾許ニ事ニ中納言ハ、青ク興醒テメサズ、木曾是ヲ見テ、如何み猫殿ハ不レ食ゾ、合子ヲ簡ビ給フ歟」平家物語、十一、那須與一ノ事、義經「いかみ與一、アノ扇ノ眞中射テ、敵ニ見物セサセヨカシ」謠曲、善知鳥「いかみ、此家ノ内ヘ案内申シ候ハム」

〔いかみ-か　(副)　[如何]　〔音便ニ、いかんがトナリ、約メテ、いかがトナル〕　ドノヤウニカ。ドウシテ。イカンガ。萬葉集、五六「家ニ行キテ、伊可爾可我ガセム、枕ツク、妻ヤサブシク、思ユベシモ」平家物語、五、朝敵ぞろへの事、延喜帝、神泉苑行幸、池ノ汀ノ鷺「六位ヲ召シテ、アノ鷺捕ッテマヰレ、ト仰セケレバ、いかんが捕ラルベキトハ思ヘドモ、綸言ナレバ、云云」

いかみ-ぞ-や　(副)　[如何]　〔モノヲ咎ムル語〕　ナニトシテカ。ドウシテカ。[illegible]御集「いかみぞや、ナノリソナリト、間ハンニモ、ワスレ草トヤ、アマハ告ゲマジ」後撰集、第十四段「和[illegible]コソ、[illegible]モノナレ、云云、[illegible]モノヲウニ、いかみぞや、コトバノ外ニ、アハレニ、ケシキオボユルハナシ」

いかみ-も　(副)　[如何]　〔如何み思ヒテも〕　ナニサマ。實ニ。ナルホド。「いかみもソノトホリ」

〔いか-の-いはひ　(名)　[五十日祝]　〔いか、(五十日)並ニ、もも(百)ノ條ヲ見ヨ〕　兒生レテ五十日目ニ行ハレタル祝賀。略シテ、いかトノミモ云ヘリ、中古以來、貴族ノ間ニテセシ事ニテ、儀式アリ、生兒ヲ、吉方ニ向ハシメ、父、又ハ、外祖父ナド、自ラ箸ヲ取リテ、餅ヲ哺マシム、コレヲ、いかの餅ト云フ、(七夜ノ條ヲ見ヨ)又、百日目ナルヲ、百日の祝ト云フ、儀式、同ジ。大鏡、上、[illegible]村上カ、生レオハシマシタル御いかのもちゐヲ、殿上ニ出ダサセタマヘルニ、云云」山槐記、治承三年正月六日「今日、東宮(安德天皇)御五十日也、供[illegible]、主上(高倉天皇)渡御、東宮令レ向二吉方一給、主上令レ含二御、以二木箸一二度令レ含二(餅文)同年二月廿二日「今日、東宮御百日也、云云、其儀皆如二御五十日次第一」拾遺集、十八、雜、賀「大貳國章、孫ノいかニ、破子調ジテ、云云」枕草子、八、八十三段「イッシカト、待チ出デタル兒ノ、いか、ももかナドノ程ニナリタル、云云」字類抄「百日、モモカ」五十日ト百日トヲ合シテ、百十日ノ祝ヲ行ヒシ[illegible]トナル。山槐記、治承四年二月十一日「小兒([illegible]男)食二百日餅一(註、去七日、滿百日)五十日餅、混合也」吾妻鏡、十一、建久三年十一月廿九日「新誕若君、五十日百日儀也」(玉かつま、一二、實朝、此年八月九日生ル、拾モ百十日ニアタル、後世ノ祝モ、百十日ナリトアリ)　倭訓栞、いか「兒生レテ五十日ニ當ル、云云、玉篋[illegible]ニ、人之初生、以二七日一爲二一臘一

いかの-くろづくり　(名)　[烏賊黑作]　するめいかノ腸、腑ヲ去リ、胴ヲ二三枚ニ切リ、其[illegible]中ノ墨ヲ加ヘ、[illegible]ニシタルモノ。[illegible]

〔いか-の-くろみ　(名)　[烏賊墨]　烏賊ノ體内ニアルモノ。指頭大ノ薄キ囊中ニ、紫黑色ノ墨液ヲ貯フ、今、いかの墨ト云フ、襲ハルレバ、水中ニ噴キ出シテ、其身ヲ晦マス、[illegible]ニ、[illegible]、いかをきめるナド云フ。倭名抄、十九「[illegible]」

いか-の-こふ　(名)　[烏賊甲]　〔甲、呉音、こふ、(其條ヲ見ヨ)龜の甲)〕　眞烏賊ノ體內ニアル、骨ノ如キモノ。石灰質ニシテ、形、長楕圓ニテ平タク、兩端尖リテ、長ル、玩具ノ小舟ノ如シ、いかのふねトモ云フ、色白ク、粉末ニシテ、齒磨ノ材料トシ、又、細密ナル[illegible]、古ヘハ、藥用トモシタリ。[illegible]

いか-の-しほから　(名)　[烏賊鹽辛]　するめいかノ肉ニテ製スル鹽辛。きりおみトモ云フ。相模國、小田原ノ地ノ名產ナリ、腹ヲ割キテ墨囊ヲ去リ、目ト嘴トノ間ニテ切放シ、[illegible]、[illegible]ヲ除ケ、水ニテ洗ヒ、[illegible]ヲ二分バカリニ輪切ニシ、[illegible]腑ヲ洗ヒテ少シ加ヘ、肉ニ對シテ一二三

割ノ、上等ノ鹽ヲ混ジテ、桶ニ漬込ムナリ、後ハ、毎日、朝夕、三度ヅツ掻キマゼ、一週間ノ後ニ、肉ノ三割ノ麴ヲ加ヘ、密封シ、和熟セシメテ成ル。

いかのすみ (名) 烏賊墨 いかのくろみヲ見ヨ。

いかのふね (名) 烏賊舟 いかのこふノ條ヲ見ヨ。

いかのぼり (名) 紙鳶凧巾 〔合類節用ニ、烏賊幟トアリ、(一名、旗トモ云フ)畿内ノ語ナリ、關東ニテハ、章魚ト云ヒ、凧ノ字ヲ記ス、(章魚幟ノ略ナルベシ、凧ハ、鳳巾ノ合字)風ニ顚倒シヤスケレバ、鎭トシテ、下ニ、數尺ノ繩ノ脚ヲツク、其狀、烏賊、章魚、ノ脚ニ似タレバ名トスルナリ、此物ハ、支那ヨリ渡來セシモノト思ハレ、紙鳶ト云ヘバ、鳶凧ヲ元トストオボシ、倭名抄ニ、紙老鴟トモアリ〕 兒童ノ玩具ノ名。畿内ノ語ナリ、(いかトノミモ云フ)關東ニテハ、凧ト云フ。竹串ヲ縦横ニ、平タク互シテ骨組ヲシ、一面ニ一枚ノ紙ヲ貼リツケ、四周ニ絲ヲツクルコト、數尺、ソレヲ前ニテ一處ニアツム、コレヲ絲目ト云フ、ソレニ、稍太ク長キ絲ヲツケテ、風ニ吹カシメ、高ク放チテ、空中ニ上ス、下ニハ、數條ノ繩ヲ、脚トシテ垂ラス、其形、多クハ長方形ナレド、尙、大、小、方、圓、種種ナリ、字ヲ書ケルヲ、字凧ト云ヒ、繪ヲカケルヲ、繪凧ト云フ、其他ニ、鳶凧、奴凧ナドモアリ。(各條ヲ見ヨ)又、極メテ巨大ナルモノヲ作リテ、大人ノ玩トスルアリ。凧ハ、東京ニテハ、多クハ、正月、二月ニアグルモノトスレド、各地方ニテハ、時季、區區ナリ。紙鳶ハ、支那ニテ、事物紀原ニ、韓信所レ造トアリ、又、通鑑ノ梁高祖紀ニ見エ、唐書、田悅傳ニ、張伾爲ニ紙鳶一、詢蒭錄ニ、五代漢隱帝ノ時、李鄴造ルナド、區區ニ傳フ、何レニモ、我ガ邦ナルハ、支那ヨリ渡リシモノナリ。 倭名抄、四十九雜藝具「紙老鴟、以レ紙爲ニ鴟形一、乘レ風能飛、師勞之、一云、紙鳶」 積山井(寛文)いかのぼりノ、木ニカカリケレバ「魚ヤ木ニ、のぼりノいかノ、絲櫻」 雍州府志(天和)七十三土産門、下、風車ノ條「紙鳶、云云、以レ紙造ニ烏賊之形一、故、或謂ニ烏賊旗一、又、稱ニ章魚一」 合類節用(元祿)七、器財門「鳳巾、烏賊幟、紙鳶」 物類稱呼(安永)四、紙鳶、いかのぼり「畿内ニテいかト云ヒ、關東、又、土佐ニテたこト云フ、西國ニテ龍、長崎、又、伊勢ニテ旗、上野、信州ニテ鷹、奥州ニテてんぐばた、(仙臺ニテ、てんばた)畿内、東海道ニテいかをのぼすト云ヒ、江戸ニテたこをあぐるト云ヒ、相模ニテたこをながすト云フ」 風箏全書、後編二、紙鳶ノ飛揚法「拷、可 揿、尉火、風車(左訓、まひをくふ)」(古事類苑、紙鳶) 江戸時代ノ兒童ノ語ニ、だまをだすト云ヘルハ、玉ニ卷キオケル絲ヲ、長ク繰出シ遣ルヲ云ヒキ、又、風烈シクシテ、凧ノ廻リ覆ルヲ、水ヲ汲む、又、めんくらふト云ヒキ、舞を食ふノ訛ナリ、食ふハ、出會フコト。(すやヲくふ) 賤のをだ巻、延享、寛延ノ頃「世上ニテ凧ヲ上グルニ、樣樣ノ物好ヲシテ、尤大凧ヲモ上ゲタリ、云云、大人ノ慰ニテ、子供ノ所作ニテハナシ、云云、八ツ花、九曜の星ナド云フ繪凧ヲ拵ヘテ上ゲタリ」 蜘蛛の絲巻(岩瀬京山)「十二三ノ頃(天明)字凧ト唱ヘテ、龍、鬮、鶴、ノ字ナド、雙鉤字ノメグリヲ、藍、又ハ、紫ニ色取リタルヲ、珍トシ寶トシテ喜ビケル」

いかのもちひ (名) 五十日餅 いかのいはひヲ見ヨ。

いがのもの (名) 伊賀者 伊賀組ヲ見ヨ。

いがばかま (名) 伊賀袴 〔伊賀組ノ者ノ用ヰシニ起ルト云フ〕 半袴ノ裾ヲ、紐ニテ膝ニ括リツケ、下ニ、別ニ、脚絆ヲ用ヰルモノ。野服トシタリ。裁着ノ類ナリ。 烈公行實(水戸斉昭)「公資性節儉、云云、在レ國、賞布外袴、伊賀袴」 守貞漫稿(嘉永)十三、男服、安政追書「頃日、益益、砲術ヲ學ブ故カ、伊賀袴着用ノ士、甚多シ、墨夷船來、是風俗一變ノ一端也」

いかばかり (副) 如何許 (一)イクバク。イクラバカリ。ナニホド。ドレホド。ドノクラヰ。幾何 萬葉集、四三十七「幾許、思ヒケメカモ、敷妙ノ、枕片去リ、夢ニ見エコシ」同、五十五「行ク舟ヲ、振リ止ミ兼ネ、伊加婆加利、戀シクアリケム、松浦佐用姫」「いかばかりアラム」 (二)ナニホドカ。ドノヤウニカ。如何 「いかばかり喜バム」 (三)限リモナク。 源、廿二、玉葛「今ハ天下ヲ御心ニカケ給ヘルオトドニテ、いかばかりイツカシキ御中ニ」 新六帖、六「世ニシアラバ、行キカフ人モ、いかばかり、蓮ノ門ニ、市ヲナサマシ」

いかはす ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) 射交 いくふ(射)ノ條ヲ見ヨ。

いがひ (名) 貽貝 〔唐韻「貽、與之切」爾雅、釋魚「貽貝」註「黑色貝也」東雅(享保)十九「貽貝、いがひ、いハ、卽チ、貽字ノ音ヲ呼ビ、かひハ、貝ノ字ノ訓ヲ呼ビシト見エタリ」貽の貝トモ云フ、(貽鮨ト云フアリ、次次條ヲ見ヨ)音訓並べ云フ、鮒魚、羆熊ノ類ノ語ナリ、サルニテモ、此物、我ガ邦四周ノ海ニ多ケレバ、外來ノモノナラズ、固有ノ稱ナクハアラズ、一名、ひめがひナド、ソレナルベキカ、うみうなぎノ稱アルニ、海鰻ノ字ヲ充テテはもト音讀シタルガ、普通語トナリシガ如キカ、又、いいがひト云フハ、延ベテ云フナリ、椅桐ガ、いいぎりトナル例ナリ〕 又、姫貝。いい貝。いの貝。海ニ産ズ、殼、左右相等シク、卵圓形、若シクハ、稍三角形ニテ、後方ハ圓ク、頂端ハ尖ル、大ナルモノハ三四寸、外面ハ黑クシテ、內面ハ眞珠色ナリ、肉ハ紅ニシテ、味美ナリ、煮テ干シテ、支那ヘ輸出スルコト、多シ、此物、殼ノ一偏ニ、黑キ毛ノ如キモノ簇生ス、動物學者ハ、足ナリトシテ、足絲ト稱ス、其狀、陰毛ニ似タルヲ以テ、姫貝ト云フナリ、又、似たり貝ト云ヒ、東海夫人ノ稱アリ、海參ヲ海男子ト稱スルガ如シ。 主計寮式、諸國貢調「貽貝四十六斤」 字鏡六十九「蛾、伊加比」 倭名抄、十九七「貽貝、伊加比」 朝倉亭御成記(室町時代)「三獻、御湯漬、いい貝」 運歩色葉集(天文)「貽貝」 本朝食鑑(元祿)十「貽貝、伊乃加比」 重修本草綱目啓蒙(享和)三十一「淡菜、延喜式、貽貝、ひめかひ、伊勢、いのかひ」 大和本草(寶永)十四、淡菜「本草ニ、一名、東海夫人ト云フ、其形ヲ以テ名ヅクト云ヘリ」 倭訓栞、いがひ「貽貝、云云、一名、東海夫人、云云、淡菜也、似ニ女陰ニト云ヘリ」

いがひのしりをり (名) 貽貝後折 次條ヲ見ヨ。

いがひのすし (名) 貽貝鮓 貽貝ヲ以テ漬ケタル鮨。又、貽鮨トモ云フ。殼ナガラ漬ケタルヲ、貽貝の後折ト云フ。 賦役令、輸ニ雜物ニ者「貽貝鮓三斗」貽貝後折六斗」令抄、一「貽貝後折、停ニ其貝尻ニ而附レ貝奈加良作也」 土佐日記、正月十三日「いずし、鮨鰒」

いかふ フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (他動、四) 射交 いくふ(射)ノ條ヲ見ヨ。

いかふ フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ (他動、下二) 鑄易 鑄直ス。 徒然草、二百廿段「西園寺ノ鐘、

[illegible]二語ラルベシトテ、アマタタビ謡カヘラレケレドモ、カナハザリケルヲ」

いかへ・す（イカヘス）[illegible]（他動、四）[illegible]（一）[illegible]（二）[illegible]

いかへ・る（イカヘル）（自）[illegible]「いハ、[illegible]」[illegible]トモアニ同ジ。古事記、下（允恭）[illegible]

いかほかぜ（イカホカゼ）（名）伊加保風 〔伊加保ハ、上野國、群馬郡ノ山名、山腹ニ、有名ナル温泉アリ〕伊加保嶺ヨリ吹キ來ル風。[illegible]「伊加保風、[illegible]」[illegible]時無カリケリ」

いかほど（副）如何程 イクバク。イカバカリ。ナニホド。

いかまほ・し・シキ・シケレ・シク・シク（形、二）[illegible]「いかハ、[illegible]」[illegible]生キムコトヲ[illegible]「カギリトテ、ワカルル道ノ、カナシキニ、いかまほしきハ、命ナリケリ」

いがみあ・ふ（イガミアフ）・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ（自動、四）啀合 （一）互ニ啀ム。（獸ニ）（二）轉ジテ、爭フ。[illegible]

いかん（副）如何 いかにノ音便。名義抄「何、イカム」「いかんトス」

いかん（句）不成 〔成くノ打消ノ、いかぬノ音便〕[illegible]ン。「仕事ガ旨クいかん」

いかん（句）不可 いかぬノ音便。アカン。（關西）イケナイ。「ソンナ事ヲシテハいかん」

いが・む・ム・メ・マ・ミ・メ（自動、四）[illegible]「[illegible]」[illegible]活用ス、（不む）ニハ[illegible]ニ同ジテ[illegible]「狗欲ン齧」犬、猫ナド、怒リテ噛付カムトス。[illegible]大キニナレバ[illegible]

いが・む（他）[illegible] いがむヲ見ヨ。

いがん（名）[illegible] [illegible]ノ條ヲ見ヨ。

いかんが（副）如何 いかにかヲ見ヨ。

いかんぞ（副）如何 〔いかにぞノ音便〕何トシテ。如何ナレバトテ。書經、五子之[illegible]

いかんとならば（副詞句）如何則 〔其故、如何にとならばノ略〕如何ニト云フナラバ。[illegible]「[illegible]」[illegible]二放矢スルナドノ暴狀ヲ擧ゲタリ」

いかめ・い（形）嚴 〔次條ノ（二）（三）ヲ見ヨ〕（一）いかめしノ音便。盛ンナリ。壯大 史記抄（天明）[illegible]ンドト云テ、道ヲ重ヌルゾ」同卷「いかめい志ガアリテ、天子ナンドナラウト思フホドニ」（二）オソロシ。[illegible]ベ、いかめうナサルルト云テ」

いかめ・し・シキ・シケレ・シク・シク（形、二）嚴 〔嚴見ノ約、いかめヲ活用セシ語〕（一）[illegible]ナリ。名義抄「嚴、イカメシ」宇津保物語、[illegible]上三十六ケノ[illegible]大夫、品共ニ、いかめしくテ[illegible]タリ」[illegible]う共作法シタルニ」[illegible]しうナム」（二）盛ンナリ。スバラシイ。壯大 宇津保物語、吹上、下「[illegible]大キナル池、大キナル山ノ中ニ、いかめしき[illegible]明石「山水ノツラニ、いかめしき[illegible]テ、三昧行ヒニ（三）[illegible]

いかめな（連語）可怖 「いかめハ、嚴しノ語根、前條ノ（三）ヲ見ヨ、いかめなるノ略」[illegible]同、故要「いかめた忠ガ居ル」

いがもち（名）毬餅 糝粉ヲ捏ネテ蒸シタルモノヲ、小サク千ギリテ平メニ、[illegible]小豆餡ヲ包ミテ、外面ニ、水ニ浸シオケル糯米ヲ付ケテ、又、善ク蒸シタルモノ。俚言集覽、いがもち「[illegible]ノ上面ニ飯ヲ着ケテ、栗毬ノ如シト云フ意ナリ」

いかもの（名）厳物 ヲ見ヨ。

いがもの（名）伊賀者 伊賀組ノ條ヲ見ヨ。

いかものぐひ（名）厳物喰 〔厳嚴シキ物喰ノ意〕[illegible]ワコト。[illegible]野千[illegible]黨下ノ者共モ、[illegible]ヲ示サムト、[illegible]ド食ヒシ事アル、[illegible]

いかもの（名）厳物 ヲ見ヨ。

いかものづくりのたち（イカモノヅクリノタチ）（名）[illegible]刀 「いかハ、嚴メシキナリ、富樫記ニハ、怪物作トアリ、古製ト、後世ノ製ト、[illegible]ニ據ル」太刀ノ金具ヲ、悉ク銀製ニシタルモノ。[illegible]十二「いかもの作りの太刀モ、[illegible]ツ入レテ、[illegible]ヲ通スナリ、一の足、二の足、合ハセテ、[illegible]十四ナリ、云云、[illegible]ニハ、[illegible]ノ金ノ[illegible]ルナリ、一體、[illegible]シク、いかつらしく見ユル故ニ、[illegible]ハ、[illegible]ノ和トテ引カレタリ、[illegible]ケン[illegible]若事「[illegible]云云、二尺九寸ノいかもの作[illegible]

いかやうに（イカヤウニ）（副）如何樣 〔いかやうハ、いかさまノ[illegible]〕如何ナル樣ニ。ドノヤウニ。[illegible]「いかやうニ思シヲタセ給ヒテ、カヮ樣ニハト聞エ給フ」

いがやき（名）[illegible]

(今、阿山郡)丸柱村ニテ製出スル陶器。建武年間ノ創業ナリト云フ。通常ナルハ、釉ノ色、青黄濁白ナリ、花瓶、水差、茶器ナドナリ。本朝陶器攷證、一「伊賀燒、寛永十二亥年、領主ヨリ世話有レ之、京都陶工孫兵衛、傳藏、差加ヘラレ、君命ニテ、水指、數、百三十三燒候、云云」(領主ハ、藤堂氏ナリ)

いかよ・ふ (動) 通 〔いハ、發語〕通ふト云フニ同ジ。萬葉集、八 三十四 七夕ノ歌「霞立ツ、天ノ河原ニ、君待ツト、伊往還ホドニ、裳ノ裾濡レヌ」

いからか・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) 稜起 次次條ヲ見ヨ。

いから・し (形) 嚴 〔嚴しノ一轉(かはゆし、かはゆらし)〕嚴しノ(三)ニ同ジ。猛シ。烈シ。名義抄、雜部「甚、イカラシ」字類抄「酷、烈、イカラシ」愚管抄、三、一條篇「隆家ノ、若クいからきヤウナル人ニテ、鏡ヒテ、矢ヲ持チテ射マヰラセタリケレバ、御衣ノ袖ヲ綮地ニ射ツケタリケリ」(花山院法皇ニ對シ奉リテノ逆擧ナリ)

いから・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) 稜起 〔稜起ルノ他動、いからかすハ、一轉ナリ(すべる、すべらす、すべらかす。走る、はしらす、はしらかす)〕稜立タス。又、いからかす。イララグル。ソビヤカス。又、怒張 宇治拾遺、八、第四條「軍士ドモ、目ヲいからし、云云、我レヲ見ツケテ、疾ク寄テ來カシト思ヒタル氣色ニテ」(池邊義象ノ校註國文叢書ニ據ル) 續古事談、一、王道后宮「御髭ヲいからかして、殊ノ外ニ御憤リアリケレバ」發心集、四、第四條「オビタダシク手ヲタタキテ、眼ヲいからかして、陶工惑ヒテ、絕入リヌ」宇治拾遺、十五、第十二條「目大ニシテ、見クルベカス、鼻ヲ吹キいからかし」「肩ヲいからす」鼻ヲいからす」

∴**いがらっ・ぽ・い** (形) ゑがらっぽいノ條ヲ見ヨ。

いかり (名) 碇 錨 〔石碇泊ノ約略ナルベシ、(あかがり、あかがり)海中ノ岩石ヲ、いくりト云フモ、石塊ナラム、船、湊ニ碇泊る、船がかりト云フモ、碇ニ起ル、水底ノ沙土ニ懸リテ止マルナリ、碇ノ定ナリ、上古ハ石ヲ用ヰキ、播磨風土記ニ、沈石、萬葉集モ、重石ト書ケリ、又、木造ナルアリ、椗ト記ス、後ニ、鐵造四爪ノモノトナレリ、支那製ヲ摸シタルナルベシ、鐵猫ト記シ、合字シテ錨ト記ス、猫ノ爪ニ象リテナリ〕船ヲ一處ニ泊メムガタメニ、綱ヲツケ、水底ニ沈メオキテ、鎮トスル具。古クハ、石ヲ用ヰタリ。又、木造ナルアリ、きのいかりト云フ。椗 後ニハ、鐵ニテ作ル、かないかりト云フ。其端、四ツニ裂ケタル如ク、爪ノ形ヲナシテ、上ヘ曲ル、大小、種種ナリ。錨 又、今、西洋製ナルハ、何レモ鐵造ニシテ、形モ異ナリ、巨大ナルモアリ。播磨風土記、飾磨郡、伊加里「船不レ能ニ進行一、遂被ニ打破一、云云、沈石落處者、即號ニ沈石丘一」萬葉集、十一 三十六「大船ノ、タユタフ海ニ、重石下シ」倭名抄、十一ニ「海中以レ石駐レ舟曰レ碇、伊加利」箋注「按、古人駐レ舟皆用レ石、故、矴、碇字、從レ石、後人用レ鐵造有ニ四爪一、名曰ニ鐵猫一、或曰レ錨」三才圖會「北洋可レ施ニ鐵猫一、南洋水深、惟可レ下ニ木椗一」名物六帖(正德)二、器財「木 椗」和漢船用集(寶曆)十一、木碇「曲レル枝ノ木ヲ以テ、一角叉ヲ作リ、コレニ石ヲククリツケテ、碇トスルナリ、云云、鐵 錨、云云」俗ニ、一處ニ落チツクヲ、いかりをおろすト云フ。尻ヲスヱル。

いかり (名) 怒慍 〔怒るノ名詞形〕ハラダチ。立腹。雄略卽位前紀「天皇忿怒彌盛」名義抄「嗔、イカリ」源、三十八、夕霧 十二「人ノ御いかり出デ來ナバ、長キ絆トナリナム」怒をうつすト云フハ、甲ノ人ニ怒リテ、其怒ヲ、乙ノ人ニモ向クルヲ云フ。アタリチラス。ヤツアタリス。論語、雍也篇「不レ遷レ怒、不レ貳レ過」

いかり・ぐさ (名) 碇草 次次條ヲ見ヨ。

いかり・ごゑ (名) 怒聲 怒リテ、アラアラシク發スル聲。盛衰記、五、成親以下被レ召捕ニ事「相國(平淸盛)云云、西光法師ヲ、一時睨ミテ、嗔聲ニテ、言甲斐ナキ下﨟ノ、過分ニ成上リ、云云、剰ヘ、入道(淸盛)ヲ亡サムト申シ行ヒケル條ハ、アラ奇怪ヤ」

いかり・さう (名) 碇草 〔花ノ形、碇ノ如シ、下ノ記事ヲ見ヨ〕古名、ウムキナ。今、又、いかりぐさ。宿根草ナリ、林中陰地ニ生ズ、莖、高サ、五寸乃至一尺、莖每ニ三枝アリテ、枝每ニ三葉アリ、卵形ニテ銳頂ナリ、刺毛多シ、夏、莖上ニ數花、總ノ狀ヲナシテ開ク、四瓣ニシテ、倒ニ垂レ、尖、裂ケテ、端、上ニ向ヒテ曲ル、色ハ、白、淡紅、淡紫等ナリ、花、美ナレバ、庭園ニ植エ、又、盆栽トシテ賞セラル。淫羊藿 元祿ノ合類節用、和爾雅ニハ、淫羊藿、いかりぐさトアリ、寶曆ノ物類品隲ニハ、いかりさうトアリ、享和ノ重修本草綱目啓蒙ニモ、いかりさう、江戸花家ニ、くもきりさうトアリ。

いかり・づな (名) 碇綱 碇ニツクル綱。藁、麻ニテ作ル。イカリナハ。或ハ、鎖ヲモ用ヰル。字類抄、雜物「紼、イカリヅナ」

いかり・なは (名) 碇繩 碇ニツクル繩。イカリヅナ。拾遺集、十一、戀、一「湊出ヅル、海人ノ小舟ノ、いかりなは、(繰るノ序)苦シキ物ト、戀ヲ知リヌル」

いかり・ばうふう (名) 碇防風 濱防風ノ莖ノ端ヲ四五裂ニシテ、外ヘ曲ゲタルモノ。さしみ、なますナドノあへしらひニ用ヰル。俚言集覽、いかりばうふう「防風ノ本ヲ裂キテ、形ヲ、舟ノ碇ニ似セタルモノ、食物ナリ」

いかり・ゆ (名) 慍湯 〔出典ヲ見ヨ〕吹上ノ湯。間歇溫泉。豐後國風土記、日田郡、五馬山「一處湯、其穴似レ井、口徑丈餘、無レ知ニ深淺一、水色如レ紺、常不レ流、聞ニ人之聲一、驚慍騰ニ泥土一丈餘許一、今謂ニ慍湯一是也」(群書類從、第拾七輯)

いかり・ゐ (名) 怒猪 怒リ猛ル猪。古事記、中(仲哀) 六十「大怒猪出、掘ニ其歷木一、卽咋ニ食其香坂王一」雄略紀、五年二月、御獵「嗔猪從ニ草中一暴出逐レ人」拾遺集、七、物名「いかりゐノ、石ヲククミテ、嚙ミ來シハ、象ノ牙ニコソ、劣ラザリケレ」宇治拾遺、十、第六條「猪のししト云フモノノ、腹ダチシカリタルハ、イトオソロシキモノナリ」

いか・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 怒 忿 〔嚴ヲ活用セシメタル語ナラム、(逆、さかる。太、ふとる)瞋むモ、嚴むナルベシ、神代紀、上 廿二「素戔嗚尊對曰、云云、不意、阿姉翻起ニ嚴顏一」纂疏「嚴顏、怒色也」倭訓栞、いかる「氣上るノ義ナリ、素問ニ、怒則氣上ト見エタリ」いきあがるガ、いかるトハ爲リカヌルヤウナリ〕意ニ逆フコトニ堪ヘズシテ、氣、烈シク起ツ。イキドホル。ハラダツ。オコル。立腹ス。神代紀、下 三「忿然作レ色」私記「以加利」齊明紀、六年九月「赫然發憤」字鏡 九「很、戾也、暴也、伊加留」名義抄「忿、怒、イカル」源、七、紅葉賀 廿七「タダイミジウいかれるケシキニモテナシテ、太刀ヲ引拔ケバ」

いか・る・ル・レ・ラ・リ・レ (他動、四) 稜起 〔前條ノ語ノ轉、他動ニ、いからす、いからかすトナル〕カドダツ。アララグ。ソビユ。源、廿六、常夏 廿五「靑キ色紙一重ニ、イト草ガ

チニいかれる音、云云、タダヨヒタル響キザマ」(草トハ草書、草假名ナリ)蹈月抄「いかれる、カドカドシキナリ」[illegible]「[illegible]ニいかッテ居ル」鳴ガいかる」

いか・る・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四)［生］〔生けらるノ約、(助けらる、たすかる)あづかるノ語原ヲ見ヨ、他動ニ云ヘバ、生花ナリ〕水ニ插サレテアリ。[illegible](巻本)八「扱扱、コノ野州ハ、善ウいかり参ラセショ」「花ガ瓶ニいかる」

いか・る・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四)［埋］〔埋けらるノ約、あづかるノ語原ヲ見ヨ〕埋メラレテアリ。「炭火ガ、灰ニいかッテアル」

〔いか・る(動)［刈］〔いハ、發語〕刈るト云フニ同ジ。萬葉集、十三 長歌「蓮管ノ小菅、編マナクニ、伊苅持チ來、敷カナクニ、伊苅持チ來テ」(遠智ハ、地名ナリ)

〔いかるが(名)［斑鳩］〔斑、太ク短ク、圓錐形ニシテ、嘴、内ニ曲ル、稜角[illegible]ノ下略ニモアラムカ、([illegible]檻、おばしま。莎苞、くぐつ。濁音ノ顚倒スル例ハ、いづつしノ語原ヲ見ヨ)倭名抄ニ、鵤大トアリ、爾雅ニ、桑扈、鵤曲ト見ユ、交喙鳥モ、鵤ノ形ニテ名ヅケラレタリ、斑鳩ハ、古クヨリ充テラレタル字ナレド、コハ、數珠掛鳩ナリ〕小鳥ノ名。今世、まめまはしト云フ、形状ハ、其條ヲ見ヨ。桑鳲 [illegible]紀、八年二月「斑鳩、伊加流我」(名ナリ)推古紀、九年二月「皇太子、初興二宮室于斑鳩一」(地名ナリ、後ニ法隆寺トナル、今ノ大和國、生駒郡、法隆寺村)[illegible]内、[illegible]ノアタリナリト云フ「伊[illegible]」[illegible]十三、長歌、[illegible]、云云、[illegible]、伊[illegible]、[illegible]字鏡「[illegible]、伊[illegible]我」倭名抄、十八 [illegible]「[illegible]大、[illegible]、伊加流加」

いき(名)［生］(一)〔生キテアルコト。(死ニ對ス)[illegible]深キ、中ナレバ、いきモ未にヲモ、共ニコソセメ」「生死長生」(二)魚ナドノ、鮮カナルコト。(仙臺)いきガよいト云フ、日ヲ經タルヲ、いきガわるいト云フ。生氣

いき(名)［息氣息］〔生く(四段活用)ノ名詞形、日本釋名(元祿)中「息、生ナリ」倭訓栞「生ノ義、韓詩外傳、人得レ氣則生、失レ氣則死」〕(一)〔又、おき〕生活體ノ生存中、外界ノ空氣ナドヨリ、酸素ヲ攝取シテ、體内ニ輸入シ、新陳代謝ノ機ニ因リテ、形成シタル炭酸ヲ、體外ニ排除スル機能、鼻ヨリ肺臟ニ達リ、胸郭ノ擴縮ニ因リテ、肺モ擴縮ス、其擴張ヲ吸息トシ、其縮小ヲ呼息トス。即チ、呼吸ニテ、いきヲつくト云フ。雄略即位前紀「呼吸氣息」萬葉集、五 長歌「喚ヒ來マシテ、伊企ダニモ、未ダ休メズ」字鏡「[illegible]、伊支」[illegible]ニいきモ絶エッツ、[illegible]エマホシテ[illegible]、火[illegible]切、鼻息[illegible] 息を繼ぐト云フハ、息フ、又、休息スルナリ。陰德太平記、大内[illegible]尾ノ城ヲ取巻キ、息をも不レ繼攻メ戰フ」(大内義隆ナリ) 息を凝らす、息を殺す、ト云フハ、靜ニ呼吸ヲ抑ヘ居ルナリ 息を切る、息切るる、ト云フハ、喘グ、又ハ、死ヌ、ヲ云フ。(二)いきあひノ(二)ヲ見ヨ。(三)〔風ノ事ヲ、氣ト云フ。上古ノ人ハ、風ヲ、神ノ氣息ナリト信ジテ居タリシガ如シ。神代紀、上「[illegible]、云云、[illegible]也」〕萬葉集、二 長歌「神風ニ、伊吹き惑ハシ」(四)〔イキホヒ。イキグミ。ケハヒ。(漢語ノ[illegible]紀、下「靈異之威、起、[illegible]」名義抄、雜語「氣、イキ、ケハヒ」(五)カヲリ。ニホヒ。氣味 京童(明曆、中川喜雲)「茶ヲ飲ミシマヒテノ後ニ、茶碗ヲ鼻ニ寄セテ、いきガ佳シト褒ムルハ誤ナリ、いきト云フハ、飲マヌ前ノ香ナリ」

いき(名)［行］行クコト。出向クコト。(歸ニ對ス)「彼家ニハ、いきニ立寄ル」

いき(名)［清爽］〔俚言集覽、いき、意氣アル人ノ、風采、瀟洒シタルヨリ出ヅ」〕サッパリトシテ、イヤミナキコト。粹ナルコト。婀娜タルコト。俚言集覽、いきがる「自ラ風流ビタリト自負スル意ナリ」「いきナ姿ノ婦人」

い-き(名)［意氣］(一)ココロバヘ。氣合。心情 [illegible]「[illegible]」云、一介之士、得[illegible]、[illegible]衣錦之榮一者也」「意氣投合」(二)イキゴミ。氣概 三國志、[illegible]、[illegible]「[illegible]」[illegible]「意氣揚揚」「意氣消沈」「[illegible]」(三)イキハリ。意氣地。意地。抗氣。[illegible]ニ、はるおま、伊ノ町「コチノ町ノ達父タチハ、いきモ張モ強イハイノ、きんぴらダンベイ、サッテモ名譽ノ太夫衆」(きんぴらヲ見ヨ)

〔い・き(動)［生］生く(四段活用、又、上二段活用)ヲ見ヨ。

い-き(副)［依稀］〔正字通「依稀、彷彿也」〕サモ似タリトノ意ヲ云フ語。羅隱詩「惟有二夢魂南去日一、故郷山水路依稀」

い-ぎ(名)［意義］ココロ。コトワケ。意味。趣意。[illegible]「[illegible]」[illegible]易、小小作レ文、皆有二意義一」

い-ぎ(名)［異義］異ナレル意義。別ノ意味。公羊傳、序「[illegible]、其中多二非常異義一」

い-ぎ(名)［異儀］物ノ、カハリタル狀。異狀。[illegible]「[illegible]」

い-ぎ(名)［異議］他ニ異ナル議論。[illegible]。異見。[illegible]「[illegible]」

〔いきあか・る・ルル・ルレ・レ・レヨ(自動、下二)［行散］〔あかるヲ見ヨ〕行キ別ル。[illegible] 蜻蛉日記、上、上三十「我ガ心ザシケル佛ヲバ靈カセタル、其日過ギヌレバ、皆己ガジシいきあかれぬ」

いきあが・る・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四)［生上］イキカヘル。ヨミガヘル。イキイヅ。蘇生 [illegible]入テ、ワヅカニ息バカリ[illegible]一時バカリアリテ、いきあがりニケル」

いきあたりばったり(副)〔ばったりハ、倒ルル音ノばったりカ、或ハ、はたト、はったト止マルノ延カ(ぐた、ぐったり。ひた、ひったり)〕心算ナク、顧慮スルナク、行爲ヲ進メテ行クヲ云フ語。失敗シタラママヨノ意。[illegible]」俚言集覽、いきあたりばったり「自然ニ任スルヲ云フ」

いきあひ(名)［息合］(一)呼吸ノ工合。イキヅカヒ。倭訓栞、後編、いきあひ「息合ノ義、呼吸ノ[illegible]ヲ云フ也、いきづかひトモ云ヘリ」(二)演劇ニ、二人ノ俳優、問答ナドスル時、高低、緩急、呼吸ノ、度ニ當ルコト。常ニ略シテ、いきト云ヒ、いきが合ヒ、合ハストモ云フ。九代目市川團十郎ノ講演、初代市川左團次ノ富樫左衛門ノ押問答ノ場合ナドナリ。

いきあひきゃうだい(名)［行合兄弟］〔母ガ後妻ニ行キテ、兄弟トナレリ、トノ意

ニモアルカ」胤變ノ兄弟。又、ユキアヒキャウダイ。異父兄弟 俚言集覽「いきあひきやうだい、ゆきあひきやうだい「同母異父ノ兄弟ヲ云フ」

いき-あ・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ（自動、四）〔行逢〕 道ニ行觸ニ逢フ。ユキアフ。落窪物語、二「いきあひ來あひ、相觸エ觸ルル事モコソアレ、云云、いきあふトモ、吾レ等ガ子供、イカガセム」菩提心集、中「山ノ口ニ、山賊スル者、いきあひテ」

いき-いき（副）〔活潑〕「生きテアルガ如ク、重ネテ意ヲ強ム」壯ンニ、活氣アリテ。俚言集覽、いきいき「物ノ盛リニ勢ヒアルヲ云フ」「いきいきトシタ魚」

〔**いき-い・づ**・ヅル・ヅレ・デ・デ・デヨ（自動、下二）〔息出〕 ヨミガヘル。イキカヘル。イキアガル。（死入るニ對ス）蘇生 伊勢物語、四十段「男、云云、今日ノ入相バカリニ絶入リテ、又ノ日ノ戌ノ時バカリニナム、辛ウジテ息出でタリケル」源、五十二、手習九「いきいでタリトモ、賤シキ不用ノ人ナリ、人ニ見セデ、夜、此川ニ落シ入レ給ヒテヨ」

〔**いき-う・し**・キ・ケレ・ク・ク（形、二）〔行憂〕 行クコト、イトハシ。イキヅラシ。古今集、八、離別「人ヤリノ、路ナラナクニ、大方ハ、いきうしト云ヒテ、イザ歸リナム」釋雲記、上「末マデモ、同ジ宿リノ、路ナラバ、我レいきうしト、思ハマシヤハ」

〔**いき-う・す**・スル・スレ・セ・セ・セヨ（自動、下二）〔行失〕 行方無クナル。行キ隱ル。失蹤 枕草子、十、百三十三段「片時、アルベキ心地モセデ、イヅチモイヅチモ、いきうせナバヤ、ト思フニ」

いき-うつし（名）〔生寫〕〔摸形ノ、實物ソノママ、生くるガ如シノ義、寫生ノ意〕 書キタル書畫ナドノ、眞物ト紛フバカリニ妙ナルコト。酷似 本朝吉風俗（貞享、西鶴）二「心ヲツケテ見ルホド、女筆ナガラ、イツゾヤノ手ニいきうつし」

いき-うま（名）〔生馬〕 いきうまの目を拔くト云フハ、人ヲダシヌキテ、スバヤク事ヲスルノ意ナリ。[illegible]（文明、一條兼良）「目ヨフナラバ、味方ノ物ヲモ奪取リ、生馬の目をくじりツベシ、法ニハヅレタルあふれ者共ナリ」

いき-うめ（名）〔生埋〕 人ヲ、生ケナガラ、地ニ埋メテ殺スコト。石子詰ナドモ、是レナリ。（刑ニ云フ）

〔**いき-かく・る**・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ（自動、下二）〔行隱〕 去リテ、行方知ラレズナル。行キ失ス。失蹤 源、五十一、蜻蛉三「深ク疑ヒタレバ、外へいきかくれムトニヤアラム」

いき-がけ（名）〔行掛〕 行キ向フ時。イキシナ。いきがけの駄賃ト云フハ、問屋ナドヘ、荷物ヲ受取ニ行ク駄馬ノいきがけニ、路スガラ、傍カラ頼マレテ、荷物ヲ駄送シテ、其賃ヲ得ルヲ云フ。コレヲ、スベテ、事ノ序ニ、一寸、利益ヲ占ムルコトニ譬ヘテ云フ。甲陽軍鑑、九、上、品第廿三、穴山伊豆守「其、傾ヒナケレバ、行がけの駄賃トヤラム、下劣ノ申スハ是レナリ、若キ屋形樣ノ身ニ譬ヘ申スベシトテ、云云、人馬ノ疲レヲナホシ、備ヘクバリアリ」

いき-かはり-しにかはり（句）〔生替死替〕 （一）死シテハ、又、生キカヘル。萬葉集、三十三「海ノ、沖ニ持行キテ、放ツトモ、ウレムゾ、此ガ、將死還生」（舊訓ナリ、うれむぞハ、いかんぞナリ、其條ヲ見ヨ、頓子ガ、乾 蘇ヲ倫ニ隱リテ、蘇レニ、呪シテ蘇生ラセタマヘト云ヒシナリ）（二）死ンダリ、生レタリ。生ガカハルニテ、佛說ナリ。太平記、十六、正成兄弟討死事、楠正成、弟ノ正季ニ向ヒテ「抑、最後ノ一念ニ依リテ、善惡ノ生ヲ引クト云ヘリ、云云、正季、七生マデ、只同ジ人間ニ生レテ、朝敵ヲ滅サバヤトコソ存ジ候へ、云云、正成、罪業深キ惡念ナレドモ、云云、イザサラバ、同ジク生ヲ替ヘテ、此本懷ヲ達セム、ト兄弟共ニ差違ヘテ、同ジ枕ニ臥シニケリ」蟬丸（元祿、近松作）貴船詣「生きかはり死にかはり、生生、世世ニ恨ミヲナサム」

いき-がひ（名）〔生詮〕 世ニ生キテアル效シ。源氏冷泉節（貞享、近松作）下「夫ニ恥辱ヲ取ラセテ、何ノ生甲斐アルベキゾ」

いき-かへり（名）〔往歸〕〔次條ノ語ノ名詞形〕 往復。往返。いきもどり。往還

いき-かへ・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）〔往歸〕 イッタリ、カヘッタリスル。往復スル。

〔**いき-かへ・る**・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）〔生返〕 再ビ生ク。ヨミガヘル。イキイヅ。蘇生 源、四、夕顔三十「いきかへりタラム時、イカナル心地セム、見捨テテ行キ別レニケリト、ツラクヤ思ハムト」著聞集、九、武勇「猿、云云、今、いきかへりナム、其時、放ツベシ」字類抄「蘇 活」

いき-がほ（名）〔生顏〕 人ノ、生存中ノ顏色。死後ナルヲ、死顏ト云フニ對ス。吉野都女楠（正德、近松作）「生顏ト死顏ハ、相好ノ變ハルモノ、大概似タラバ、似タト申シアゲラレヨ」

いき-がみ（名）〔生神〕 恩澤ナド施セル人ヲ、其生前ニ、人民ヨリ崇メテ云フ語。（生佛ト、同趣）

いき-が・る（動） 清爽ノ條ヲ見ヨ。

いき-き（名）〔往來〕〔往くト、來るト〕 行キ交フコト。ユキキ。ワウライ。「いききの繁キ參詣路」

いき-ぎも（名）〔生肝〕〔古ク、きもト云ヒシハ、臟腑ノ總稱ナリ、きもノ條ヲ見ヨ、いきぎもヲ拔クナド云フ、其遺ナリ、後ニ、肝、又、膽ノ名トナル〕 動物ノ、生キナガラノ肝。切取リテ藥用トスレバ、特效アリト云フ迷信アリ。「猿ノいきぎも」 いきぎもを拔くトハ、[illegible]コトナリ。[illegible]（享保、近松作）四「いき肝、切拔テクレン」倭訓栞、いきぎも「生キナガラ人ノ肝ヲ取ル、妖術ニ云ヒ侍リ」

いき-き・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ（自動、下二）〔息切〕 烈シク息急ク。アヘグ。イキダハシクアリ。喘 俚言集覽、いききる「末森記「餘リ御言葉、メイメイニ御カケ候テ、御息きれ候ヘバ、切何」

いき-ぎれ（名）〔息切〕〔前條ノ語ノ名詞形〕 息ノ、急シクテ、ツヅカヌコト。アヘグコト。喘

〔**いき-くさ**（名）〔活草〕〔倭訓栞、後編、いきくさ「土ヲハナレテ生きテ居ル義」〕 辨慶草ノ古名。辨慶草ト云フモ、強キ意。景天 字鏡八五十「景天、伊支久佐」（本草和名、倭名抄、同ジ）

いき-くち（名）〔生口〕 口寄ノ條ヲ見ヨ。

いき-ぐみ（名） 次條ノ語ノ轉音。

いき-ごみ（名）〔息込〕 イキザシ。イキセイ張ルコト。いきぐみ。氣勢「勝タムトスルいきごみ」

いき-ご・む・ム・メ・マ・ミ・メ（自動、四）〔息込〕 いきせいはる（息急張）ヲ見ヨ。

〔**いき-ざし**（名）〔息差〕〔さしハ、さしアラハス意（芽ざし、きざし）〕 息急クコト。イキヅカヒ。氣勢 神代紀、下「武甕槌神・經津主神、曰、豈、唯、經津主神獨爲二丈夫一、吾非二丈夫一者哉、其辭氣慷慨」源、廿二、玉葛十「マシテ監ガいきざし、氣色、思出ヅルモ、ユユシキコト限リナシ」細流抄「大夫監ガ事也」河海抄「いきざし、腹立ツナリ、いきどほる心歟」蜻蛉日記、下、中五「サマザマニ歎ク人人ノいきざしヲ聞クモ、アハレニモアリ、ヤスカラズモアリ」

〔いきざし〕 [illegible] 〔前條ノ語原ニ同ジ〕 [illegible] 名義抄「縉紳、イキザシ」唐物語(續群書類從)胡貴妃「楊家ノ娘、云云、其いきざしハ、夏ノ池ニ、クレナヰノ[illegible]、始メテ開ケタルニヤト見ユ」[illegible]ものいきざしノ[illegible]」

いきさつ (名) [illegible] 〔行沙汰ノ訛ニモアルカ、たぶて、つぶて。(礫)あつみ、あたみ(熱海)〕 ナリユキ。イキガカリ。吉原源氏(元文)二「いきさつ、嘸ニ成リユクホドニ」

いきしな (名) 行時 〔時ノ條ノ語原ヲ見ヨ〕 出向フ時。イキガケ。來ル時ヲ、きしなト云フ。[illegible]笑(元和)五「いきしなニ、萬ウダ花ガ、來しなニハ、エジカッタリヤ、桶トヂノ花」(異本)

いきしに (名) 生死 生クルト、死スルト。シャウジ。源、四十三、竹河三十「アハレトテ、手ヲユルセカシ、いきしにヲ、君ニマカスル、我ガ身トナラバ」(コレハ、碁ニカケテ云ヘリ) 生死ノ境トハ、事ノ成否ニ因リテ、關係ノ大ナルヲ云フ。

いきしにのふたつのうみ (名) 生死二海 〔しゃうじ(生死)ノ條ヲ見ヨ〕 佛教ノ語。生ト死トノ苦海。娑婆ニテ遂ヘル衆生ガ、ココニ溺レテ居ルヲ云フ。萬葉集、十六[illegible]「生死ノ、二ツノ海ヲ、厭ハシミ、潮干ノ山ヲ、偲ビツルカモ」(山ハ、彼岸ヲ云フ、生死ノ海ノ乾キタルニナシテ云ヘリト云フ) 新六帖、三「いきしにの、二つの海ヲ、渡スナリ、アヤキサト漕グ、沖ノ釣舟」

いきじびき (名) 活字引 經驗ヲ積ミ、事ヲ記憶シテ知リ居ル人ノ呼名。何事ヲモ聞キ出シ得テ、字引ノ如シト云フ意。

[illegible]日、諸公、百害也、今人謂之讀、害多而不能用者、[illegible]ニコレ、[illegible]ノミニテ、[illegible]ト云ヘリ」

いきしろ・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (自動、四) 噓 〔しろふハ、物ヲ行フ態ニテ、かいしろふ、ひきしろふナドノ如キモノ〕 イキヲ吹ク。イキヲ吐ク。ウソブク。字類抄、人事、噓「イキシロフ」莊子、天運篇、[illegible]

いきす (名) 海髮 〔語原、知ルベカラズ〕 海藻ノ名。又、いきすのり。莖、長サ一尺許、[illegible]細ソクシテ、多クノ枝ヲナシテ、亂髮ノ如ク、暗褐色ナリ、干シテ藏シテ貯フ、糊ノ材料トシ、刺身ノつまトシ、煮テ溶カシ、凝ラシメテ、酢味噌ニテ食フ。天治字鏡、十二 七「[illegible]海菜、伊支須」內膳司式、供御月料「伊支須、九斤」倭名抄、十七 九「海髮、小凝菜、以木須」

いきすだま (名) 生靈魂 〔すだまヲ見ヨ〕 (一)生靈ニアラズ、其條ヲ見ヨ。窮鬼ハ、生靈、怨靈。字類抄「生靈、イキスダマ」遊仙窟「誠知腸欲斷、窮鬼故調人」註「人夢[illegible]鬼、[illegible]通、言、我心中、正[illegible]十[illegible]八忽即夢見、[illegible]、忽此鬼作夢[illegible]我、故[illegible]之曰窮鬼也」源、九、葵四「大殿(葵上)ニハ御物怪メキテ、イタク病ヒタマヘバ、云云、物怪、いきすだまナド云フモノ、多ク出デ來テ、種種ノ名ノリスル中ニ、人ニ、更ニうつらず、タダ、自ラノ御身ニ、(葵上)ツト副ヒタル狀ニテ」花鳥餘情「御息所ノ生靈ナリ、よりましニモウツラヌナリ」(口寄ノ憑ましナリ) 謠曲、葵上「左大臣ノ御息女、葵上ノ御物怪、以外ニ御座候程ニ、云云、ココニ、照日ノ神子トテ、隱レナキ梓ノ上手ノ候ヲ召シテ、生靈、死靈ノ間ヲ、梓ニカケサセ申セトノ御事ニテ候」落窪物語、一「イカデカ、いきすだまニモ、入リテシガナ、トテ、手がらみヲシテ宣フ」(てがらみハ、指がらみナリ、生靈トナリテ取リツカムトマデ怨ムナリ) (二)轉ジテ、死靈ニモ云フ。源、[illegible]二十六、[illegible]いきすだま、[illegible]房[illegible]「父大臣ハ、御息所ノ父君ノ死靈ヲ云フナリ」

いきすぢはる (動) 息筋張 〔顏ニ青筋ヲ張ル意ナルベシ〕 又、次條ニ同ジ。[illegible](寶永、近松作)中「[illegible]三郎ガ息[illegible]リ、至十夜大[illegible]テ、タ一夜ノ[illegible]」

いきすのり (名) 海髮 いきすヲ見ヨ。

いきせいは・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 息急張 〔息急張るノ音便(さきはひ、さいはひ。さきつおろ、さいつおろ)〕 力ヲ盡ス。イキゴム。努力。長町女腹切(元祿、近松作)中「息せい張テ、喉ガカワク」[illegible]いきせいはる「息勢張るニテ、骨ヲ折テ物事ヲスルヲ云ヘリ」

いきせうちん (句) 意氣消沈 イキゴミノ、シヅムコト。ココロモチノ、消エイルコト。(意氣揚揚ニ對ス)

いきせ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (自動、四) 息急 息ヲキラス。俚言集覽、いきせいはる「いきせきハ、氣息急きニテ、氣息ヲ切テイソグヲ云フ」「いきせき走ル」

いきそさう (句) 意氣沮喪 イキゴミノ、碎ケハバミタルコト。勢ノ失スルコト。

いきたけ (名) 裄丈 〔ゆきたけノ轉(ゆがむ、いがむ。ゆすぐ、いすぐ)〕 (一)裄丈ノ轉。其條ヲ見ヨ。(二)いきたけ知れたナド云フハ、裄、丈、縱横ノ寸法ノ意ヨリ移リテ、物事ノ資格ノ程度ノ、知レキッタルヲ云フ。貶シテ云フ心アリ、高の知れたト云フト同ジ。浦島年代記(元禄、近松作)四「いきたけ知れた[illegible]、一人」世間子息氣質(正德、其磧)三「いきたけノ知れた商賣ヲ見限リ」

いきたしょうもん (名) 生證文 〔生字引、同趣〕 現ニ見認メタル人。目擊者ノ存在。

〔いきた・つ・ツ・テ・タ・チ・テ (自動、四) 行立 立チ出ヅ。門出ス。首途。[illegible]

いきた・つ・ツ・テ・タ・チ・テ (自動、四) 行立 事、進ミテ成立ツ。成立[illegible]、[illegible]いきたつ[illegible]事ノ行立ツニテ、事ノ進ミテ成リユクヲ云フナリ」「商賣ガいきたつ」

〔いぎたな・し・キ・ケレ・ク・ク (形、二) 貪眠 〔寢ノきたなしノ義〕 寐入リテ、目覺メズ。眠リヲ貪リテ、起キズ。(いざさし、めざとしニ對ス) 源、三、空蟬[illegible]「いぎたなきサマナドゾ、云云、アサマシク、心ヤマシケレド」同、二、帚木[illegible]「[illegible]モ寢ネズ、人人[illegible]テ、イトいぎたなかりケル夜カナ」[illegible]、十三[illegible]「[illegible]ノ花失セニケル、イカニ、カクハ猛マセシゾ、いぎたなかりケル女房達カナ」

〔いきだは・し・シキ・シケレ・シク・シク (形、二) 息急 〔息勞しノ約ナルベシ、(來到る、きたる。引板、ひきた) いきどほしハ、音轉ナリ、(いきだはし、いきどほろし。いたはし、いたほし)[illegible]〕 息急シ。又、いきどほし。名義抄[illegible]「いきどほし」ト云ヘリ。字類抄「疫癘、イキタハシ」[illegible]、いきだはし「息切ルル狀ナリ」著聞集、七、能書「[illegible]レテいきだはしきトテ、物言ハルルモ分明ナラザリケルガ、カラクシテ言ハレケルハ」

いきだは・し・シキ・シケレ・シク・シク (形、二) 懷悒 〔息喘きて惱しノ義、懷ハ念、悒ハ憂ニテ、念ニ憂鬱ノアリテ、息ノセカセカトシテ、惱マシキ貌、正字通「說文、悒、不安也、又、憂也、楚辭、天問、武發殺[illegible]

レ殷何所レ悒、古借用レ邑、烏悒、短氣也、作於邑」ト見エタレバ、息ノ苦シキヨリ轉ジテ、憤ルコトトナリタルナリ、文選、北征賦「於邑」トアルハ是レナリ、因リテ、なげきうれふヨリ、はらだちトナリシナラム」いきどほる(懷悒、憤)ノ條ヲ見ヨ。

いきだふれ (名) 行倒 路ヲ行キナガラ、倒レテ死ヌルコト。道殣

いきち (名) 生血 動物ノ、生キナガラノ血。浦島年代記(元祿、近松作)一「千歳ヲ經ル者ノ生血ヲ取リ、孕女ニ與フレバ、ソノママ平産」生血を吸ふトハ、己レヲ肥サムトテ、人ヲ虐グルヲ云ヒ、酷薄ナル所業ノ意ニ云フ。

✣**いきぢ** (名) 意氣地 〔意氣衝天ノ意氣ナドナルベシ、意氣ノ條ヲ見ヨ、意地ト云フ語ハ、古クアリ、(其條ヲ見ヨ)此語ノ地モ、ソレナルベキカ〕 己ガ意見ヲ立テトホシテ、退カヌコト。意地。イキハリ。抗氣 俚言集覽、いきぢ「意氣地ノ音ナルベシ、人ト競合フ事ニ云ヘリ」常磐津節、三世相錦繡文章(安政、種清)「互ヒノ心モ、相手ニ、乘セテネヂメヲ、定メタラ、引カヌガ江戸ノ、意氣地ナリ」

いきちが・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ(自動、四) 行交 〔ちがふ(交)ヲ見ヨ、交叉ニナルナリ〕 コレ行キ、カレ來ル。行交フ。ユキチガフ。アリキチガフ。右往左往ス。枕草子、三、廿八段「五位、六位ナドノ、云云、トカクいきちがふニ、云云、隨身ノ出デ入ル、イトツキヅキシ」更級日記「ソコラ、榜敷ドモニ移ルトテ、いきちがふ馬モ、車モ、徒人モ」

いきちが・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ(自動、四) 行違 テチガヒニナル。合ハズ。齟齬 名詞形ニ、いきちがひ。

いきち・る・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) 行散 散リ散リニナリテ行ク。イキワカル。離散 源、五十一、蜻蛉四十「皆人ドモ、いきちりテ」

いきづか・し・シキ・シケレ・シク・シク(形、二) 息衝 〔いきづくノ未然形ヲ活用セシム、(なつく、なつかし。なげく、なげかし)大息ヲつくナリ〕 歎カハシ。歎息 萬葉集、十四三十「鳰ノ棲ム、沙ノ入江ノ、隱沼ノ、(息ヅノ序)アナ伊伎豆加思、見ズ久ニシテ」(久シク相見ズシテ、嗚呼ナゲカハシ)

いきづかひ (名) 息遣 呼吸ノ緩急。イキザシ。氣息「いきづかひセハシクテ」

いきつぎ (名) 息繼 〔切ルルバカリノ息ヲ繼ぐ〕 急シク働キタル後ニ、暫時休ムコト。休息。休憩

いきつ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ(自動、四) 行着 (一)志ス所ニ到リ終ル。到着ス。源、廿二、玉葛卅「其所ト、いきつくベキ故郷モナシ」更級日記「詣デツキテ、僧房ニいきつきタルホド、カキシグレタル紅葉ノ、類ヒナクゾ見ユルヤ」 (二)終ハル意ヨリ轉ジテ、イキツマル。盡キ果ツ。破産ス。心中天網島(享保、近松作)四「身代いきついテノ、金ガ手ヅマッテ、ナンドト」(三)再轉シテ、命終ル。命終トナル。俚言集覽、いきつく「行着、云云、轉ジテ、事ノ終ルヲ云フ、身上ガいきつく、命ガいきつくナド云フ類ナリ」「病氣デいきついタ」

いきづ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ(自動、四) 息衝 (一)苦シキ息ヲツク。アヘグ。喘 古事記、中(應神)七十長歌「鳰鳥ノ、潛キ伊岐豆岐」太平記、十六、將軍筑紫ヘ御開の事「轍魚ノ泥ニいきづき、窮鳥ノ懷ニ入リシ風情シテ」字類抄「喘、イキヅク」

(二)大息ヲツク。歎ク。歎息 萬葉集、五卅「斯ノミヤ、伊吉豆伎居ラム、アラタマノ、來經行ク年ノ、限リ知ラズテ」(國司ノ在任、年久シクテ、京戀シヤト云フナリ)同、卷八二十長歌「晝ハモ、歎カヒ暮ラシ、夜ハモ、息豆伎明シ」竹取物語「大納言、南海ノ濱ニ吹寄セラレタルニヤアラムト思ヒテ、いきづき臥シタマヘリ」

✣**いきつま・る**・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) 行詰 (一)進ミテ、止マル。「路ガいきつまる」(二)迫ル。「心ガいきつまる」

いきづ・む・ム・メ・マ・ミ・メ(自動、四) 息詰 息ヲ、腹ニ張リツムル。イキバル。イキム。著聞集、十六、興言利口「屎ヲいきづまバ、一定モロトモニ出デヌベシ」(屁ニ云フ)

いきづら・し・キ・ケレ・ク・ク(形、一) 行憂 いきうし(行憂)ニ同ジ。

いきづゑ (名) 息杖 〔暫シ肩ヲ外シテ、息繼スル意ナリ〕 道中駕籠ナドノ棒ニ支ヒオク杖。明和ノ川柳「息杖デ、ハネノケテ行ク、馬ノ沓」

いきとしいけるもの (名) 生生物 〔生きと生くニ、指ス意ノ辭ノ、しヲ加ヘタルナリ〕 世ニ生キテアル程ノモノ。アラユル生物。古今集、序「いきとしいけるもの、イヅレカ歌ヲヨマザリケル」

いきどど・く・ク・ケ・カ・キ・ケ(自動、四) 行屆 いきわたる(行亙)ニ同ジ。

いきどほ・し (形) いきだはし(息急)ヲ見ヨ。

いきどほり (名) 懷悒 〔次次條ノ語ノ名詞形〕 鬱悒ク思フコト。應神紀、四十年正月「長　　　　若多鬱二悉善、既爲二成人一、更無レ悒、矣」

いきどほり (名) 憤 〔次次條ノ語ノ名詞形〕 怒ルコト。ハラダチ。著聞集、五、和歌「惡シク振舞ヒケルニ因リテ、後白河院、御いきどほり深カリケレバ」運歩色葉集(天文)「憤」

いきどほ・る・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) 懷悒 〔懷悒しト通ズ、(其條ノ語原ヲ見ヨ)說文「悒、不レ安也」玉篇「憂也」〕 鬱悒ク思フ。思ヒムスボホル。字鏡七十六「悒、伊支度保留、又、伊太彌宇禮不」同八十「怫悁、意不二舒泄一也、伊支止保留」集韻「怫悁、心不レ安也」名義抄「悒、ナゲク、イキドホル」垂仁紀、五年十月「日夜懷悒、無レ所二訴言一」允恭紀、廿三年三月「悒懷少息」萬葉集、十九十長歌「合ハセ遣リ、振放見ツツ、伊伎騰保流、心ノ内ヲ、思ヒ延ベ、嬉ビナガラ、云云」(狩リニ、鷹ヲ放チヤリタルナリ)

いきどほ・る・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) 憤 〔前條ノ語ヨリ移ル、怒るモ、思ヒムスボホルルヨリ起ルナリ〕 怒ル。ハラダツ。オコル。名義抄「憤、イキトホル」今物語「蓮華王院ノ寶藏ニ納リケルヲ、我ガ所ニコソ置クベケレトテ、いきどほり申シケル」(僧坊ノ柿ノ木ヲ伐リタルニ、南無阿彌陀佛ノ文字アラハレタルヲ、後白河院ニ奉レルヲ、僧ノ憤リタルナリ)論語、學而篇「人不レ知而不レ慍、不二亦君子一乎」集註「慍、含レ怒意」學在レ己、知不レ知在レ人、何慍之有」

いきどほろ・し・シキ・シケレ・シク・シク(形、二) 懷悒 〔前前條ノ語ノ語根ノ、いきどほヲ、形容詞ニ活用セシメタル語ナリ、(恐る、おそろし)〕 念晴レズ、心ノ行カヌ意ナリ〕 イブセシ。憂ハシ。神功紀、攝政元年、末「淡海ノ海、瀨田ノ渡ニ、潛ク鳥、目ニシ見エネバ、異枳廼倍呂之モ」(武内宿禰ガ、兵ヲ率キテ、忍熊王ヲ追ヒシニ、王、遁リニテ水ニ沈ミテ死シテ、捕ヘ得ザリシヲ、歎キ憂ヘテノ詠ニテ、口惜シク思フナリ)語彙、いきどほろし「心ノ不平ニテ、憂フル狀ヲ云フ

ナリ」天[illegible]字典、十[illegible]、[illegible]ニ[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

いきどまり (名) 【行止】 路ノ先ノ塞ガリテ、行クベキナキ所。進ムベク通ズルヲ、行拔、通拔ト云フ。

いきとま・る・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四)【生止】イキナガラフ。生キテ此世ニ存ル。源、同、夕顔上「斯云フ吾ニ、手習セ「イカデ死ナムトゾ思ヒワタリタマヘド、サバカリニテ、いきとまりタル人ノ命ナレバ、云云」

いきながら・ふ (動) 【生存】 ながらふヲ見ヨ。

いきながれ (名) 【生流】 胎兒ノ、形體ヲ成シテ流産セシモノ。(りうざんノ條ヲ見ヨ)

いきなり (副) 【行成】 〔行ノ成ニ任スル意、さんばうハ、行成狀ガ、音便ニ、さんまう、さんばう、ト延轉シタルナラム、(さざめく、ざんざめく。締る、しまばる)はうだいハ、其條ヲ見ヨ〕物事ニ出會ヘル時、善ク考ヘモセズ、直チニ行爲スルニ云フ語。いきなりさんばうトモ云フ。ヤニハニ。ブッツケニ。率爾突然「紙ヲ出シテ、いきなり書キツケル」いきなりクッテカカル」いきなりさんばう飛込ンデ行ク」いきなり次第、いきなりはうだいナド云フハ、事ノ成行ニ打任セテ、カマハヌニ云フ。ナゲヤリ。(いひなり次第、いひなりはうだいナド云フモ、同趣ナリ)放任。放棄 語彙、いきなり「唐突ニ物言ヒ、又、ツッカケニ事ヲスルヲ云フナリ」俚言集覽、いきなりさんばう、いきなりニ同ジ、俚言[illegible]
[illegible]シオクヲ云フ」

いきなりさんばう (副) 前條ヲ見ヨ。

いきにへ (名) 【牲】 いけにへヲ見ヨ。

いきにんぎゃう (名) 【生人形】 生寫ニ作ル人形。嘉永六年、江戸、兩國橋ノ東詰ニ、生人形ノ見世物出デタリ、京都ノ大石龍眼齋ノ作ニテ、其容貌、生クルガ如クナリキ、コレ江戸ニテノ初ナリ、ト武江年表ニ見ユ。

いきにょらい (名) 【生如來】 いきぼとけヲ見ヨ。

いきぬき (名) 【氣拔】【息拔】 (一)氣ヲ漏ラスニ作レル、窓、穴ナド。(二)いきつぎ。

いきぬけ (名) 【行拔】 (一)路ナドノ、行止ナラヌコト。トホリヌケ。(二)轉ジテ、筒ナドノ、底ナキコト。ツツヌケ。

いきのこ・る・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四)【生殘】 生キ止マリテ、世ニアリ。死ヌベキ順ニアル者ニ云フ。生存 謠曲、藤戸「世ニ生殘りタル母ガ身ヲモ、云云、若キヲ先立テテ、ツレナク殘ル老鶴ノ、云云」

いきのした (名) 【息下】 〔雅言集覽「物言フ聲ノ、カスカナルヲ云フ」〕息ノ絶エムトスル際。多クハ、物言フ聲ノ、低キニ云フ。氣息奄奄 源、二、帚木「ワツカナル聲聞クバカリ言寄レド、いきのしたニ引入レ、言少ナルガ」謌月抄「聲ヲモ、アザヤカニ聞カセヌナリ」同、[illegible]人タガヘニコソ侍ルメレ、ト言フモ、いきのしたナリ 謌月抄「聲立テズ言フナリ」 宇治拾遺、三、第五條「いきのしたニ、オロオロ言ハレケル」降信集、下、戀、四「いきのしたニ、死ヌト云ヒテ」

いきのね (名) 【息根】 〔息の本〕 イキノヲ。イノチ。生命 いきのねを止めるナド云フハ、殺すノ意トナレ。

いきの・びる・ル・ビレ・ビ・ビ・ビヨ(自動、上二)【生延】 〔死ヌベキニ、尙生ク〕 イキノコル。イキナガラフ。「疾病治リテいきのびる」

いきのを (名) 【生緒】 〔萬葉集ニ、生緒ト記セルアルガ、正字ナリ、古事記、中(崇神)ニ「意能賀袁」トアルヲ、記傳ニ「己ガ緒」ニテ、生緒ノ緒ナリ、續ケテ絶エザラシムル物ヲ、緒ト云フ、生緒、卽チ、命ニテ、生ノ續キテ絶エザル程ヲ云フナルベシ、魂緒モ、同ジ、年緒モ、長ク續クコトナリ」トアリ〕(一)命。魂緒。生命 此語、生緒に思ふ、生緒に戀ふ、生緒に歎く、ナド云ヒテ、命にかけて、ノ意ニ用キラレタルガ、多シ。 萬葉集、十一、[illegible]「生緒ニ、思ヘバ苦シ、玉ノ緒ノ、絶エテ(序)亂レナ、知ラバ知ルトモ」(亂れたハ、放蕩トナラムノ意ト云フ、縱ヤ、人ハ知ルトモナリ) 同、四「ナカナカニ、絶エネト言ハバ、カクバカリ、氣ノ緒ニシテ、吾ガ[illegible]ヒメヤモ」同、十八、二十七夕歌、長歌「伊吉能乎ニ、歎カス子等、渡守、舟モ設ケズ」(織女星、天河ニ臨ム)同、四、三十「氣乃緒ニ、思ヒシ君ヲ」同、八、長歌、氣緒ニ、吾ガ思フ妹ニ」(二)後ニハ思ヒ僻メテ、息ノ事ニ用キタリ。 三十二番歌合(文安)廿四番、かねたたき「息のをノ、苦シキ時ハ、鉦鼓コソ、南無阿彌陀佛ノ、聲タスケナレ」

いきは (名) 【行端】 行方。行ク所。「いきはガワカラヌ」いきはガナイ」

いきはぎ (名) 【生剝】 〔解釋ハ、橘守部ガ鐘のひびき、三ニ據ル、生剝、逆剝ハ、獸ノ苦シムヲ、面白ガリテスルナリト云フ、慘酷極マレリト云フベシ、栗鷺曰[illegible]尊ノ暴動ニ就キテ、無狀トアル、眞ニ然リ、逆ハ、逆ふナリト云フ、(河ニ逆上ル[illegible])[illegible]ナリ」生キタル獸ノ皮ヲ剝ギ取ルコト。生カシオキナガラ[illegible]ト[illegible]ハ、いけはぎト云フ[illegible]ト、身ヲモガクニ逆ヒテ剝ゲ[illegible]云フ。[illegible]天津罪トシテ、生剝、逆剝[illegible]六、[illegible]ユルカナ、コノいけはぎニ、セラレザリツル」栗田口大納言忠良、[illegible]いけはぎニ、セラレザラムモ、コトワリヤ、骨ト皮トノ、ヒッキサマニハ」此大納言ハ、痩セホソリタル人ニテオハシケレバ、カク返シマヰラセラレケルトゾ」

いきはだたち (名) 【生膚斷】 〔解釋ハ、大祓詞後釋(上)ニ據ル、膚つトハ、切リ[illegible]ニアラズ、今世、イササカニテモ疵ヲツクルヲ、手ヲ切ル、足ヲ切ルナド云フ、是レナリト云ヘリ、罪ト云フコト、前條ノ語原ヲ見ヨ〕 生キタル膚ニ、疵ヲツクルコト、屍ニ疵ヲツクル、[illegible]ト云フ。他ニ疵ヲツケタルモ、他ニ疵ヲツケラレタルモ、血ヲ見ルニ因リテ、共ニ罪穢トナルナリ、屍ナルモ穢レナリ。大祓ノ祝詞ニ、國津罪トシテ、生膚斷、[illegible]ト擧ゲタリ。 倭訓栞、後編、いきはだたち「延喜官符ニ、其殺傷重者、被除之外、依法科罪」

いきはぢ (名) 【生恥】 いきはぢなどニ[illegible]ナド云フハ、生キナガラ恥ヲカキテ、遍ク諸人ニ知ラルルヲ云フ。死シテ後ニ知ラルルヲ、死恥ト云フ。

いきはり (名) 【意氣張】 〔俚言集覽、いき[illegible]

はりづく「いきはりニ同ジク、づくハ、腕づく、力づくナドノ、づくナリ」」 意氣地ヲ張ルコト。ハリイヂ。抗氣 ソレヲ張リ盡シテ競フヲ、いきはりづくト云フ。此語、江戸、新吉原ノ遊女ニ就キテハ、略シテ、はりト云ヒ、特色トシテ稱セラレキ。好色一代男(天和、西鶴)六「京ノ女郎ニ、江戸ノはりヲ持タセ、云云」浪花[illegible]、二、道郭、新町「京ノ女郎ニ、長崎ノ衣裳ヲ着セ、江戸ノ張ヲ持タセテ、大坂ノ揚屋デ遊ビテイ、ト云フハ、新町ノ事デアリヤス」 異本、洞房語園(天明、[illegible])下、三十五、散茶「開ヨリ吉原ヘ來リシ遊女ハ、未ダ、はりモナクテ、客ヲふるナド云フコトハナシ、サレバ、いきはりモナク、云云」(意氣地ノ條ヲ見ヨ、開トハ、開場所、即チ、江戸市中、所所ノ茶屋女ナリ)

いきはりづく (名) 意氣張盡 前條ヲ見ヨ。

いきばる・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 息張 イキヅム。イキム。俚言集覽、いきばる「息ヲ腹中ニ張るヲ云フ」

いきぶれ (名) 氣觸 〔氣ニ觸るるナリ、道行觸ノ、觸ト同趣〕 觸穢ノ一。死者ニ出會ヒタルナドニ云フ。源、四、夕顏三十五「此人ノ俄ニ、エ出デ敢ヘデ亡クナリニケル、[illegible]シケルガ、俄ニ、[illegible]カナルいきぶれニカカラセタマフゾヤ」倭訓栞「いきぶれ、氣觸ノ義ナルベシ、氣觸ハ氏ニ見ユ、觸穢ヲ云ヘリ、延喜式ニ見ユ」語彙「いきぶれ、今云フ、[illegible]ノ穢レナリ、いきぶれのけがれト云フベキナリ」

いきボサツ (名) 生菩薩 次條ヲ見ヨ。

いきボトケ (名) 生佛 〔生身の佛ノ義、生如來、生菩薩、同義〕 (一)高德ノ僧、善智識ノ僧ノ稱。生如來。生菩薩。宇治拾遺、五、第九條「御室戸ヲバ隆明ト云フ、一乘寺ヲバ增譽ト云フ、此二人、各、尊クテ、いき佛ナリ」

([illegible]、寶治三年成、至明、[illegible]) [illegible](寶永、[illegible]作)中「[illegible]ノいき[illegible]」 (二)[illegible]ノ人ノ稱。[illegible]「[illegible]」[illegible]ト見エタリ、活佛ノ字、唐書ニ見エタリ」 (三)美人ヲモ、生菩薩ト云フ、女菩薩、歌舞の菩薩ナドモ云ヘリ。唐語林、裴[illegible]、妻ヲ[illegible]「年少之時謂ニ之生菩薩ニ、云云、及ニ見女[illegible]謂ニ之九子母ニ、云云」(鬼子母)

いきほひ (名) 勢 〔次次條ノ語ノ名詞形〕 (一)〔競フ氣色。〕盛氣 伊勢物語、四十段「人ノ子ナレバ、マダ心ノいきほひ無カリケレバ、止ムルいきほひナシ」 (二)〔他ヲ壓倒セムトスル氣色。〕烈シキ氣勢。勢力 源、一、桐壺三十「春宮ノ御祖父ニテ、終ニ世ノ中ヲ知リタマフベキ、右ノ大臣ノ御いきほひハ、物ニモアラズ壓サレタマヘリ」 同、三十二、梅枝十「葦手ノ冊子ドモゾ、云云、水ノいきほひ、豐ニ書[illegible]シ」「勢如ニ[illegible]」「政府ノ勢」「多人數ノ勢」 (三)〔他ニ勝ツ力。〕他ニ優ル力。威力 神武紀、己「背負ニ日神之威ニ、[illegible]」 顯宗紀、三年四月「[illegible]盛壯、所ニ向皆破ニ」 (四)發ラムトスル氣。發力「燃ユル火ノ勢」「押シ流ス水ノ勢」 (五)進ムニ連ルルハヅミ。ツリアヒ。機勢 史記、孟嘗君傳、「天下之游士、無ニ不ニ欲ニ彊ニ齊而弱ニ秦、[illegible]、此雌雄之國也、勢不ニ兩立ニ」(二國ノ釣合ニテ、兩立セヌナリ)「勢不ニ得ニ已」

いきほひ (名) 德 〔前條ノ語意ノ轉、倭訓栞、いきほひ「神代紀ニ、德ヲ訓メリ、[illegible]祝詞ニモ、德ハ勢也ト見エタリ」〕 威德。神代紀、上「伊弉諾尊、功旣至矣、德亦大矣」私記「以ニ[illegible]」

いきほふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (自動、四) 勢 〔氣競ふノ約、(倭人、ひきびと)假名遣ハ、前前條ノ語ヲ見ヨ、勢ヲ張ル事ヲ、いきまく(勢、息卷)ト云フモ、同趣〕 (一)氣盛ンニ發ツ。更級日記「其程ノアリサマハ、物騷ガシキマデ、人多ク、いきほひタリ」 (二)時メク。時花ル。 宇津保物語、國讓、下、上、中、下「花ノ如、飾リテアルガ中ニ、いきほひテ住ミタマフ」 源、廿二、玉鬘十「肥後國ノ守ノ北ノ方モ書デタリケリ、イカメシクいきほひタルヲ、云云」(大和ノ長谷寺ノ觀音)

いきボン (名) 生盆 いきみたまノ條ヲ見ヨ。

いきまく・ク・ケ・カ・キ・ケ (自動、四) 勢 〔前條ノ語原、及、其條ノ(二)ヲ見ヨ〕 勢フ。時メク。時花ル。 源、三十四、上、若菜、上廿二「故院ノ御時ニ、大后ノ、坊(故桐壺ノ帝ノ、春宮坊ニオハシシ時)ノ初ノ女御ニテ、いきまきタマヒシカド、ムゲノ末ニ參リタマヘリシ入道ノ宮(薄雲)ニ、暫シハ壓サレタマヒキ」細流抄「いきまき、威勢アリテトナリ」

いきまく・ク・ケ・カ・キ・ケ (自動、四) 息卷 〔前條ノ語意ノ一轉、氣盛ンニ發ツヨリ、氣急ク意ニ移レルナラム〕 氣急キテ怒ル。烈シクハラダツ。烈怒 徒然草、百六段「上人、ナホいきまきテ、何ト云フゾ、非修非學ノ男、ト、アララカニ云ヒテ、キハマリナキ放言シ」 合類節用集(元祿)八、言辭門「敦圉、俗云、立腹、師古云、盛怒貌」又「敦圉」

いきみ (名) 生身 生キテ居ル身。(死身ニ對ス) 平家物語、三、有王島下の事「姫ガ事バカリコソ、心苦シケレドモ、ソレハ生身ナレバ、歎キナガラモ過サンズラム」(鬼界ガ島ニテ、俊寬ノ詞) 生身は死身、ト云フハ、生者必滅ノ意。心中刃氷朔日(寶永、近松作)中「生身は死身、モシヒヨツト、死病受ケタリトモ」

いきみたま (名) 生御靈 〔死者ノ靈祭ニ對スル語、([illegible])、十二月ニモ、七月ニモ行ヘリ、其條ヲ見ヨ〕盂蘭盆經ニ「[illegible]使ニ現在父母、壽命百年、無ニ病無ニ一切苦惱之患ニ」[illegible]、生靈トモ書クハ、いきこだまト混ジヌルニテ、[illegible]行ノ日モ、異ナリ、凡ソ、精靈祭(盂蘭盆會、七月ノ魂祭)ト、生靈ト、中元ノ燈籠トノ三事ハ、甚シク紛糾、混淆シテ、區別スベカラズ、甚シキハ、盆祭ニ對シテ、生盆ナド云フニ至レリ」 陰曆七月ニ、卑屬ノ者ガ、生ケル父母、又ハ、尊長ニ、物ヲ獻ジ、又ハ、饗應スル儀式。八日ヨリ十三日マデノ内ニテ、吉日ヲ擇ビテ行ヘリ、其壽命ノ長久ナラムヲ祝セシナリ、盆祭ト混ジテ、生盆ナド云ヘリ、陽氣ナル盆踊ナドモ、此祝賀ニ伴ヒテ起リタルモノナルベシ。 齊明紀、五年七月「詔ニ群臣、於ニ京内諸寺、勸ニ講盂蘭盆經、使ニ報ニ七世父母ニ」(コレハ、死者、生者、共ニ宣ハセタルナリ) 親長卿記、文明八年七月十一日「若宮御方已下、有ニ御祝之儀ニ、號「いきみたま」」 東山殿年中行事、七月十一日「御所御所ヘ御參リアリテ、御生み玉ヘ獻御申也」 合類節用集(元祿)二、時候門「生御靈、本朝俗、七月饗ニ父母ニ云ニ爾」 華實年浪草(天明)七、上、七月「公、武、兩家、各設ニ饗ニ尊親、是謂ニ生身魂、又稱ニ生盆ニ」 輪池叢書(屋代弘賢)六、御所方生見玉「是ハ、八日ヨリ十三日マデノ内、吉日ヲエラビテ、御厨子所、高橋、大隅、兩家ヨリ奉ル」

いきむ・ム・メ・マ・ミ・メ (自動、四) 息急 〔息ヲ活用ス、腹む、(孕)嵩む〕 息ヲ、腹ノ中ニ張ル。イキバル。(通氣、産氣ナドニ) イキヅム。 倭訓栞、後編、いきみ「病腹ニ云フハ、努力ナリ」

いきん (名) 衣衾 衣ト、衾ト。衣服ト、夜着ト。 禮記、内則篇「[illegible]衣衾不ニ見ニ裏ニ」

いきんのえい (名) 衣錦之榮 錦ヲ衣テ故郷ニ歸ル榮譽。富貴ノ身トナレルニ云フ。相州晝錦堂記(歐陽修)「仕宦而至ニ將相ニ[illegible]」

[illegible]

いきめぐら・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ(自動、四) 生廻 〔めぐらふハ、めぐるノ延(交る、まじらふ。渡る、わたらふ)〕(一)生廻ル。生キナガラフ。生存 源、四十二、紅梅「ケヂカキ人ノ、後レ奉リテ、いきめぐらふハ、おぼろけノ命長サナラジ」(二)生キテ、メグリアフ。大和物語、下「死ナムヲ期ニテ思ウタマフルヲ、マタナム、カクアヤシキコトハ、いきめぐらひ侍ル」

いきめぐ・る・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) 生廻 生キナガラフ。生存。とりかへばや物語、一「ワビシク堪ヘガタク、カクテハいきめぐる心地モセズ」落窪物語、三「忠頼、若ウ侍フバコソ、いきめぐり、御覧ムトモ思ヒ侍ラメ、老衰ヘテ、今日明日トモ知ラズヲ」

いきもどり (名) 行戻 いきかへりニ同ジ。往復。往還「いきもどりニ立寄ル」

いきもの (名) 生物 生キテ居ル物。命アル物。動物。セイブツ。氣形 天武紀、下、五年八月「詔諸國以放生」

い-きやう (名) 異香 世ニ異ナルニホヒ。榮花物語、十七、音樂「火舍トモニ、イロイロノ寶ノ香トモヲ焚カセタマヘレバ、いきやう薰ジタリ」易林節用集(慶長)言語「異香」

い-きやう (名) 異鄕 他鄕。他國。九月九日憶山中兄弟詩(王維)「獨在異鄕爲異客、毎逢佳節倍思親」

い-ぎやう (名) 異形 常ニ異ナル形ヲ現スコト。天魔、鬼神ナドニ云フ。金光明經ニ「[illegible]現異形」易林節用集(慶長)言語「異儀、異形」

い-ぎやう-だう (名) 易行道 〔行體ニ就キテ云ヘバ、易キ行ナリ、修相ニ就キテ云ヘバ、行ジ易キナリ、難行モ、コレニ准ジテ知ルベシ〕佛教ノ語。難行道ニ對ス。現生ニ聖道シテ、自力ニテ佛果ヲ得ルハ難シ、コレヲ難行道ト云フ。(天台、眞言)コレニ反シテ、阿彌陀佛ノ願力ノミニ依レバ、淨土ニ往生スルコト容易ナレバ、易行道ト云フ、卽チ、他力法ニテ、念佛ノ法門ナリ、後世、淨土門、念佛宗ニテ、念佛ダニスレバ往生ストテ、所依ノ宗教トス。印度ノ龍樹菩薩ノ十住毘婆沙論ニ「[illegible]」又「佛法有無量門、如世間道有難有易、陸道步行則苦、水道乘船則樂、菩薩道亦如是」法然上人、一枚起請文「唯、往生極樂ノ爲ニハ、南無阿彌陀佛ト申セバ、疑ヒナク往生スルゾト思取テ申ス外ニハ、別ノ仔細候ハズ、云云、智者ノフルマヒヲセズシテ、唯、一向ニ念佛スベシ」(節約文)

いきやうやう (句) 意氣揚揚 〔意氣消沈ニ對ス〕意氣アガリテ、自得ス。心ニ滿足シテ、タカブル。史記、晏嬰傳「晏子爲齊相、出、其御(御者)之妻、從門閒而窺其夫、其夫爲相御、擁大蓋、策駟馬、意氣揚揚、甚自得也」(晏子ノ威ヲ假リテ、誇カニ自慢振レルヲ云ヘリ)

いきよ (名) 生世 世ニ生キテアル時。生ケル世。在世 一谷嫩軍記(寶曆、並木宗輔)「此首ノ、いきよノウチ、逢ヒ見ヌコトノ悔シヤ」

い-きよ (名) 依據 いたく(依託)ニ同ジ。

い-ぎよ (名) 衣魚 〔本草綱目「衣魚、生久藏衣帛中、及、書紙中、其形、稍似魚、其尾、又分二岐、故得魚名」〕蟲ノ名、しみむしノ漢名。

い-きよく-どう-こう (句) 異曲同工 同工異曲ヲ見ヨ。

い-ぎり (名) 椅桐 いいぎり(椅桐)ヲ見ヨ。

いきりた・つ (自動) 熱立 次次條ノ(二)ヲ見ヨ。

いきりやう (名) 生靈 〔いきすだまノ條ヲ併セ見ヨ〕イキスダマ。生キタル人ノ怨靈ノ、他ノ人ニ取リツキテ惱マスコト。死シタル人ノ怨靈ナルヲ、死靈ト云フ、共ニ迷信ナリ。古事談、二、臣節「朝成[illegible](謙德公伊尹)[illegible]云云」(原文) 平家物語、三、赦文の事「[illegible]新大納言成親ノ卿ノ死靈、西光法師ノ惡靈、鬼界ガ島ノ流人ドモノ生靈、ナドゾ申シケル」續紀、十六、天平十八年六月「[illegible]、云云、世相傳云、爲藤原廣嗣靈所害」(死靈ナリ)

いき・る・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) 熱 〔氣ヲ活用セシム、(息む、陰る、雲る)倭訓栞、いきる「鬱蒸ノ氣ヲ、いきるト云フハ、氣ヲハタラカシタルモノナルベシ」〕(一)熱クナル。ホトボル。イキレル。[illegible]「眼華、耳熱」名義抄「熱、イキル、アツシ、ホトボル」(二)血ヲ沸シテ、息マク。力ミタツ。嚇氣 淺生隅田川(享保、近松作)三、大塚「イキイキいきり出シ」いろは文庫(天保、爲永春水)四十四「若キ者共、コトサラいきりテ、サテサテ、イサギヨク見エ申候」「いきり立ツ」

いき・る・ル・レ・ラ・リ・レ(他動、四) 射切 射中テテ、斷ツ。射斷 仁德卽位前紀、長歌「[illegible]眞弓、伊枳羅ムト、心ハ思ヘド」(讃岐ノ大山守皇子ニ對シテ、菟道稚郎子ノ御詠ナリ) 保元物語、二、白河殿夜討事「御曹司ノ弓手ノ草摺ヲ、縫ヒサマニ射切リタル」

✤**い・きる** (動) 生 生く(上二段活用)ノ口語。

✤**いき・れる・レル・レレ・レ・レ・レヨ**(自動、下一) 熱 〔熱る(四段活用)ノ變〕いきる。熱クナル。ムレル。[illegible]

いき-わか・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ(自動、下二) 行別 別カレテ行ク。行散レ。[illegible]四、夕顏「生キカヘリタラム時、イカナル心地セム、見奉テいきわかれニケリト、ツラクヤ思ハム」

いき-わか・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ(自動、下二) 生別 生キナガラニ、遠キニ別ル。(死別ルニ對ス) 名詞形ニテ、いきわかれトナル。生別。[illegible]

いき-わた・る・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) 行亙 一面ニ施ク。イキトドク。[illegible]「命令、各地方ニいきわたる」

いき-ゑ (名) 生餌 小鳥ナドノ餌ニ、小蟲、又ハ、肉ナド用ヰルモノ。〔擂餌ニ對ス〕

い・く・ク・ケ・カ・キ・ケ(自動、四) 生 〔名詞ニ、生(息)ト云ヒ、此語、古クハ、[illegible]、四段活用ナリシガ如シ、但シ、已然形、命令形ハ見エヌヤウナリ〕(一)息アリテ、世ニアリ。イキル。生存ス。(死ぬニ對ス) [illegible] 拾遺集、六、別「龜山ニ、いく藥ノミ、アリケレバ、トドムルカタモナキ別レカナ」源、一、桐壺「限リトテ、別ルル道ノ、悲シキニ、いかマホシキハ、命ナリケリ」同、五十二、手習「其兒ハ、死ニヤ沈ミシ、ト云ヘバ、いきテ侍リキ」同、夢浮橋「尼ニナシタテマツリテ、ヤアノミナム、いく方モアルベキ[illegible]」三、廿一誥「相撲、脇ヲ播テ、已ガ胸ナムニハ、生か

ジ、足立ナクテコソ生かメ、必ズ蹴侍ラム」 同、廿五、十一語、源頼信、盜人ニ「汝ハ、其童ヲ質ニ取リタルハ、我ガ命ヲ生かムト思フ故カ」盜人「只、命ノ惜シク候ヘバ、生かムトコソ思ヒ候ヘバ、若シヤトテ、取奉リタル也」(二)ヨミガヘル。イキカヘル。蘇生 靈異記、上、第五縁、屋栖古連公、卒「屍有レ異而甦矣、云云、經レ之三日、乃蘇甦矣」訓釋「蘇、左米、甦、イキタリ」

い・く・クル・クレ・キ・キ・キヨ(自動、上二) 生 (前條ノ語ノ轉、轉ジテモ、自動ナリ、(垂る、たるる。觸る、ふるる、ノ類)上二段活用ノ生くハ、平安朝時代末期ニ出現シタル語ナリト思ハル、今ハ、四段ハ全ク滅ビテ、上二段ノミ行ハル」 前條ノ語ニ同ジ。イキル。 宇治拾遺、二、第十二條「此里ノ人人、疾ク逃ゲノキテ、命いきヨ」 參考、保元物語(半井本)二、義朝白河殿夜討事「矢一ツ取ラセム、此矢ヲ賜ハリナム後ハ、生くるコトハヨモアラジ」 參考、平治物語(半井本)二、義朝落ニ着青墓一事「頼朝ニ離レヌルコソ悲シケレ、敵ニ捕ラレテ斬ラルルカ、雪ノ中ニテ空シクナルカ、生くる事ハヨモアラジ」 盛衰記、廿二、衣笠合戰事「郎等、多ク討タレテ、生くる者ハ少ナク、死ぬる者ハ多カリケレバ」 寶物集、三「此鳥、生キカヘルマジキカト問フ、既ニ頭碎ケヌ、いくるコトナシ」 太平記、一、頼員同忠事「千ニ一ツモ、命いきンズルコト、難シ」

い・く・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ(他動、下二) 生 (前前條ノ語ノ他動、(附く、つくる。續く、つづくる)池モ、魚ヲ生けオク所ナリ、生簀モアリ」(一)生キテアラシム。活ス。 神代紀、上、三十六「溺苦無レ由レ可レ生、云云、若活レ我者、吾生兒八十連屬、不レ離ニ汝之垣邊一、當レ爲ニ俳優之民一也」 源、五十二、手習「尼君ハ、親ノワヅラヒタマフヨリモ、此人ヲいけ果テテ見マホシウ惜シミテ、打付ケニ副ヒ居タリ」 蜻蛉日記、上、上十三「死ナムト思ヘド、いくる(活ス)人ゾ、イトツラキヤ」(愁歎ニ病ミテ、死ニタク思フニ、藥ヲ飮マセナドスル人アルヲ云フナリ) 舊、今昔物語、廿四、廿二語、算置ノ名人「人ヲ置キ殺シ、置キいくる術モアリ」 菩提心集(大治三年、珍海)下「一ツヲ殺シテ、十ヲ生くト云フ事モアリ」 宇治拾遺、十、第十條「此僧一人ハ、いけムトテ、船ニ載セツ」 竹齋物語(寛永)「大聲アゲテ呼ビいくる」(郎等ノ死シタルナリ) (二)炭火ヲ、灰ノ中ニ埋ム。火力ヲ保タシムル意。口語ニ、いけるト云フ。(香爐、生火) 江家次第、十四、卽位「主殿、圖書、就レ爐焚レ香」註「主殿、先生レ炭、圖書焚レ香」

い・く・ク・ケ・カ・キ・ケ(自動、四) 行 (行くト通ズ(齋庭、齋垣。夢、いめ)) ゆく(行)ニ同ジ。足ヲハコビテ進ム。 萬葉集、十五、十三「大伴ノ、御津ノ泊リニ、舟浮ケテ、龍田ノ山ヲ、イツカ越エ伊加ム」 同、二十、十九「武夫ノ、靫取負ヒテ、出デテ伊氣バ、別レヲ惜シミ、歎キケム妻」 同卷八、廿「天地ノ、神ヲ祈リテ、幸矢貫キ、筑紫ノ島ヲ、サシテ伊久我レハ」

い・く・ク・ケ・カ・キ・ケ(自動、四) 成 (前條ノ語意ヨリ移ル、成き得るノ意ニ、いけるト云フ」 成ル。オコナハル。デキル。イケル。「ウマクいく」損ガいく」 打消ニ、「ドウモいかヌ」サウハいかナイ」 倭訓栞、いく「可レ成事ヲ、いくト云ヒ、不レ可レ成事ヲ、いかぬト云フ俗語モ、往、不レ往ノ義ナルベシ」

いく (接頭) 幾 (如何ト通ズルカ(かがまる、くぐまる)) 物ノ數、又、程ノ知ラレヌ意ヲ云フ語。イクバクノ。ナニホドノ。 古事記、中(景行)五十二「筑波ヲ過ギテ、伊久夜カ寢ツル」 拾遺集、十二、戀、二「逢ヒ見テモ、ナホ慰マヌ、心カナ、幾千夜寢テカ、戀ノ褪ムベキ」 玉葉集、二、春、下「吾ガ身世ニ、ふるトモナシノ、ながめシテ、いく春風ニ、花ノ散ルラム」「幾度」幾日」幾人」

いくいく (副) 郁郁 文物ノ盛ンナル狀ニ云フ語。 論語、八佾篇「子曰、周監レ於ニ二代一、郁郁乎文哉、吾從レ周」(夏、殷、周ノ三代ヲ云ヘリ)集註「監、視也、郁郁、文盛貌」

いくえい (名) 育英 英才ノ士ヲ、敎育スルコト。 孟子、盡心、上篇「得ニ天下之英才一而敎ニ育之一、三樂也」

いくか (名) 幾日 (日ノ條ヲ見ヨ) イクバクノ日數。ナニホドノ日數。 萬葉集、八、三十八「秋立チテ、幾日モアラネバ、(アラヌニ)コノ寢ヌル、朝明ノ風ハ、袂寒シモ」 枕草子、六、五十八段「いくかバカリ、籠ラセタマフベキ、ナド問フ」

いくかへり (名) 幾遍 幾返 いくへんニ同ジ。 源、十八、松風、十一「いくかへり、行キカフ秋ヲ、スグシツツ、浮木ニ乘リテ、吾レカヘルラン」 狹衣、二、上、四十一「今ハカウダニ聞エジト、いくかへり思ヒ念ジ侍リ」

いくき (名) 幾寸 (寸ノ條ヲ見ヨ) 幾疋ト云フニ同ジ。 詞花集、三、秋「逢坂ノ、杉間ノ月ノ、ナカリセバ、いくきノ駒ト、イカデ知ラマシ」

いくき (名) 幾木 幾本ノ木。木叢。數十百本ノ木木。 長秋詠藻、下「オシテルヤ、濱ノ南ノ、松原モ、いくきノ千代ヲ、君ニ添フラム」(難波ノ濱ノ南ノ松原ト云ヘバ、あられ松原ヲ詠ミシナリ、あらら松原ノ條ヲ見ヨ)

いくくすり (名) 生藥 (いくハ、四段活用ノ生くノ連體形、倭訓栞「生活スベキ藥品ヲ云フ、不死ノ藥也」) 生活スベキ藥。 拾遺集、六、別「陸奥國守されどもガ罷下リケルニ、彈正ノ御子ノ、膏藥遣ハシケルニ「龜山ニ、いくくすりノミ、アリケレバ、止ムル方モ、ナキ別レカナ」(山城國、嵯峨、龜山、法華堂陵、增鏡ニ、後嵯峨院ハ、嵯峨、藥草院ニ葬ルトアリ、緣アルカ) 夫木抄、三十二、藥、住吉討三十首「君ガタメ、蓬ガ島モ、ヨリヌベシ、いくくすり採ル、住吉ノ浦」

い・く・む・ム・メ・マ・ミ・メ(自動、四) 憤 (氣含むノ約、(氣競ふ、いきほふ。氣噴く、いぶく) 倭訓栞「氣含むノ義ナルベシ、いき、ふ、反、く也」) 怒ヲ含ム。イキドホル。 神武紀、十四「天皇銜レ之、常懷ニ憤懟一」

いくさ (名) 射 (いくハ、射るノ語根、さハ、箭ナリ、各條ヲ見ヨ、箭ヲ射ふ、卽チ、射箭ナリ、(贖物、あがもの。馳使部、はせつかべ)賀茂眞淵云「伊久佐ハ、射合箭ト云フコトナリ」) 弓ヲ引キテ、矢ヲ放ツコト。卽チ、弓術。射術。 持統紀、三年七月「勸ニ習射所一」同年八月「觀レ射」

いくさ (名) 軍 (一)いくさびとヲ見ヨ。(二)いくさだちヲ見ヨ。

いくさがみ (名) 軍神 武運ヲ守ル神。合戰ノ勝利アラムコトヲ祈ル。弓矢神。軍神。武神 專ラ、武甕槌神(鹿島ノ神)經津主神(香取ノ神)ヲ稱シ、源家ニテ尊崇シタルニ因リテ、又、八幡大神ヲモ稱セリ。 參考、保元物語、二、義朝白河殿夜討事(京師本)「サラバ軍神ニ祭ラムトテ、暫シ弓ヲ引持チ、表ニ進ミタル伊藤六ガ眞中ニ、押當テテ發チタリ」(血祭ナリ) 太平記、六、赤坂合戰事「六波羅ニ誡メオキテ、軍神ニ祭リテ、人ニ見懲サセヨトテ、一人モ殘サズ、首ヲ刎ネテ懸ケラレタリ」(節文、河内國、赤坂城ノ守兵ノ、降參シタルナリ) 兵家ニテハ、北斗星ヲモ祭リ、(其第七ニ、破軍星アリ)或ハ、佛ノ摩利支天、勝軍地藏、三寶荒神ノ眷屬、夜叉神ナドヲモ祭リキ。

いくさぎみ (名) 將軍 元帥 いくさのきみ(軍君)ノ條ヲ見ヨ。

✣**いくさおっこ** (名) 戰競 (接尾語ノくらべノ語原ヲ見ヨ、大日本國語辭典ニハ、いくさおことト擧ゲタリ) 兒童ノ遊戲。衆兒集リテ、短キ竿ナド持チテ、打合フナリ、年長ノ者、强キ者、統率者トナリテ指揮ス、終リニ、小高キ所ニ上リテ「お山の大將、我れ一人」ト叫ビナドス。擬戰兒戲

いくさ-だいしやう (名) 軍大將 主將ノ命ヲ受ケ、其日ノ軍勢ノ[illegible]ヲ掌ル人。矢島十二頭記(出羽國)一、慶長五年八月「酒田ノ城主志田修理亮ヨリ、[illegible]、軍大將トシテ、[illegible]城ヘ遣ハシ候テ、攻落シ可レ申(原文)」武家名目抄、職名、三「軍大將ハ、其職分ニハカカハラズ、其日ノ合戰ヲバ、悉ク主將ヨリ許サレテ、進退スルモノヲ云フト見エタリ」

いくさ-だち (名) 軍立 〔射立ノ義、(射ノ條ヲ見ヨ)たちハ、役立ノ、立ニ同ジ、(亦、其條ヲ見ヨ)射、即チ、弓矢ノ役ニ立つ義ナリ、いくさトノミ云フハ、下略ナリ、(海人、あま。たなばたつめ、たなばた)扨、いくさト云ヒテ、戰爭ノ意トスルハ、後世ノ事ニテ、古クハ見エズ、上代ニいくさト云ヒシハ、軍人ノコトナリ、(景行紀、十二「愷悌還之」トアルハ、軍人ノ條ヲ見ヨ)然ルニ、軍人ノ義ナル語ハ、夙ク滅亡シテ、戰爭ノ意、其稱ヲ專ラニスルニ至レリ〕(一)合戰ニ趣クコト。戰爭ヲ始ムルコト。出陣。 出軍 出師 崇神紀、十年九月、大彦命向ニ山背ニ擊ニ埴安彦ニ「率ニ精兵ハ進登ニ那羅山ニ而軍之」神功紀、攝政元年二月「忍熊王、復引ニ軍退、到ニ菟道ニ而軍之」(二)後ニハ、直チニ、軍事、たたかひ、合戰、戰爭ノ意ニ移リテ、專ラ、いくさトノミ云フ。 軍旅 戰鬪 字類抄「軍、師、イクサタチ」宇津保物語、初秋、下「唐土ノ帝ノ、いくさニ負ケタマヒ」保元物語、二、白河殿攻落事「坂東ニテ、多クノ軍ニ逢ヒテ候ヘドモ、兒有、軍立嚴シキ敵ニ、未ダ逢ハズ候」(鎌田正清ガ、爲朝ノ軍ニ就キテ云ヘルナリ)同卷「命アリテコソ、いくさヲモシ、高名ヲモアラハサメ」太平記、八、四月三日合戰事「武家ノ軍立、京都ノ形勢、恐ルルニ足ラズト見透カシテケレバ、云云、又、京ヘ押寄セタリ」(赤松勢ナリ)(三)いくさのかどでヲ見ヨ。

いくさ-あいだん (名) 軍内談 いくさひやうぢやう(軍評定)ヲ見ヨ。

いくさ-ならし (名) 軍馴 調練。軍陣ノ操練。

いくさ-にん (名) 軍人 いくさびとヲ見ヨ。

いくさ-の-かどで (名) 軍門出 〔かどでヲ見ヨ〕出軍ノ首途。イクサダチ。 繪本太功記(寛政、近松柳)十段目(太十ト云フ)「コレ見タマヘ光秀殿、軍のかどでニ、クレグレモ、御諫メマウシタ其時ニ、思ヒトマッテタマハラバ、カウシタナゲキハアルマイモノ」(明智光秀ガ妻みさをノ詞)枕詞づくし「昔、平通盛ハ、軍の門出ニ、具足ヲ着シ、云云」(俚諺語辭彙)(此事、謡曲、通盛ヲ見ルベシ)

〔いくさ-の-きみ (名) 軍君 〔君ハ、長ナリ(邑君)〕將軍、元帥、ノ古名。 崇神紀、十年九月「以ニ大彦命ニ遣ニ北陸ハ詔曰、有ニ不レ受レ教者ハ擧レ兵伐レ之、既而爲ニ將軍ニ」(節文) 雄略紀、八年二月「行軍元帥」名義抄、雜部「帥、イクサギミ」 新續古今集ノ序ニ、征夷大將軍ヲ「えびすをたひらぐるいくさの君の司」トアリ。

いくさ-の-には (名) 軍庭 いくさばヲ見ヨ。

〔いくさ-の-のり (名) 軍法 軍法、兵法ノ古言。 天武紀、下、十二年十一月「詔ニ諸國ハ習ニ陣法ニ」持統紀、七年十二月「遣ニ陣法博士等ハ教ニ習諸國ニ」

〔いくさ-の-ふね (名) 軍船 又、いくさぶね。水戰ニ用ヰル船艦ノ總稱。兵船。往時ナルハ、木造、帆船ナリ、豐臣氏ノ造レル大ナルモノヲ、安宅船ト云ヒキ、德川氏ノ初世ニ、安宅丸ナド云フ大兵船モアリキ。(各條ヲ見ヨ) 兵船 今世ノ軍艦モ、いくさぶねナルガ、西洋製ヲ傳

ヘテ、製造精巧ナリ、(其條ヲ見ヨ)[illegible]也、以久佐乃不禰[illegible]

いくさ-ば (名) 軍場 〔又、軍の庭ト云フ、(其條ヲ見ヨ)庭トハ、一面ノ地ヲ云フ、場ハ、庭ノ約マレル語ナリ〕軍スル地。イクサノニハ。修羅場。戰場。 戰地 盛衰記、二十、石橋合戰事「[illegible]、弓矢取レ身ノ、[illegible]、軍場ニ過ギタル事候フマジ」[illegible]往來(元以)六月「一族[illegible]」[illegible]ハ、師[illegible]也」後三年合戰記、中「[illegible]ノ中ヨリ下ル、二人、鬪の庭ニ寄リアヘリ」北條五代記、二「此野ハ、人馬ノ備所セバカラズ、求ムルニ辛ナル修羅場ナリトテ、陣ス」

いくさ-はじめ (名) 軍始 戰爭ヲ始ムルコト。 開戰 信長記、一、軍初、三河國小豆坂合戰事「軍始アラムトテ、云云、三河國、吉良、大濱ヘ推寄セ、在在、所所、一字モ不レ殘放火シテ、其日ハ野陣ヲカケラレ、云云」

〔いくさ-びと (名) 軍人 〔射人ノ義、(射ノ條ヲ見ヨ)射、即チ、弓射ル人ノ義、戰爭ノ武器ハ、弓矢ヲ主トシタリキ、後世、弓矢取、又、弓取ナド云フモ、是レナリ(今ハ銃砲)〕ツハモノ。戰爭ニ出デテ、タタカフ人。イクサニン。 軍士 軍卒 略シテ、いくさトノミモ云フ。(いくさだちノ略ナル、いくさト混ズベカラズ)然レドモ、此處ノ意ナルいくさト云フ語、夙クヨリ滅亡シタリ。 神武紀、六「命ニ諸將ハ練ニ士卒ニ」[illegible]神代紀、上「起ニ兵[illegible]聞」景行紀、十二「[illegible]」[illegible]萬葉集、二十、長歌「雞ガ鳴ク、東ノ國ノ、御軍士ヲ召シタマヒ」同、六「千萬ノ軍」宇津保物語、[illegible]

「天ノ下ノイラナキいくさナリトモ、打勝チナムヤ」

いくさ-ひやうぢやう (名) 軍評定 合戰ノ前ニ、將帥會合シテ、戰略ヲ議定スルコト。軍内談トモ云フ。[illegible]河内守、申シケルハ、元春(吉川)御存生ノ時、隆景ト五ノ軍評定、直談セサセタマハザル時ハ、兩人ヲ使トシタマヒシ事ハ、御存知ニ候、云云」(節文) 大塔物語「村上滿信者、九月三日(應永七年)屯レ兵打立、小笠原長秀、[illegible]」(節文)

いくさ-ぶぎやう (名) 軍奉行 〔奉行ノ條ヲ見ヨ〕鎌倉幕府ノ設ケタル職名。侍所ノ別當、所司、之ニ任ジテ、軍陣ノ諸般ノ事ヲ總括ス、其任、重クシテ、今ノ參謀長ノ如シ、室町幕府モ、コレニ倣ヒシガ、應仁以後、其制、廢亡シテ、所司以外ノ人モ、此職ニ當ルニ至レリ。又、大名諸家ニテモ、臨時ノ職トシテ、軍事ニ[illegible]功アル者ヲ用ヰタリ。 武家名目抄、廿四ニ記セル概要「保元物語ニ、源爲朝、軍ノ奉行ニ任ゼラレシ事ヲ記シ、平家物語ニ、源義經、自軍ノ奉行ヲ承ハリシ由ヲ記セルモ、一時ノ事ナリ、[illegible]リテ、侍所ノ別當所司タル者、必ズ軍中ノ奉行ヲ[illegible]スルコトトナレリ」 松隣夜話、上、永祿四年八月「貝律ニ、シタタメスル飯膏、[illegible]上ルヲ、謙信見タマヒテ、[illegible]行トシテ、[illegible]也」(節文) 太閤記、十、九州[illegible]合戰ニ出立チ、[illegible]第、下知ヲ[illegible]」

いくさ-ぶね (名) 軍船 いくさのふねヲ見ヨ。

いくさ-ぼし (名) 軍星 北斗星ノ一名。其第七星ヲ破軍星ト云フ、[illegible]し「北斗ヲ云フ、兵學家ニ、北斗ヲ軍神トス、故ニ此名アリ、[illegible]、イクサボシ」

いくさもよひ (名) 軍催 〔雨催モアリ〕 開戰ヲ催スコト。戰ヲ挑ムコト。承久軍物語「やすむらハ、五十騎ノ勢ヲ相從ヘ、宇治橋ノ邊ニ押寄セ、いくさもよひセラレケリ」

いくさよばひ (名) 軍喚 戰場ニテ、鬨ノ聲ヲツクルコト。盛衰記、十三、熊野新宮軍事「源氏ノ方ニハ、カクコソ切レ、平家ノ方ニハ、カクコソ射レトテ、軍よばひ、六種震動ノ如シ」同、四十八、女院六道廻物語事「耳ニ聞ユルモノハ、矢叫、いくさよばひノ聲ノミナリ」

いくじ (名) 郁子 蔓草、むべノ漢名。倭訓栞、むべ「和名抄ニ、郁子、むべト訓ズ、延喜式、諸國貢進ノ菓子ニ、近江國、郁子ト見エタリ、今モ蒲生郡白部村ヨリ、霜月ニ貢セリ、凌ワラニテ小サキ殿ヲ作リ、其内ニ赤ク熟シタルヲ釣サケタリ」

いくじ (名) 育兒 兒ヲ、ソダツルコト。「育兒ノ事」

いぐし (名) 齋串 〔いハ、齋むノ語根、齋籬ノ條ヲ見ヨ、串ハ、竹木ヲ柄ニシタルヲ云フ、祓串ナドモアリ、串ノ長短、寸法ハ、玉串ノ條ヲ見ヨ〕 (一)〔榊、小竹ナドニ、幣ヲ懸ケテ、神ニ供フルモノ。玉串。萬葉集、十三「五十串立テ、神酒座ヱマツル、祝部ノ、髻華ノ山蔭、見レバ乏シモ」夫木抄、五、春田「丈夫ガ、溝ノ路ニ、いぐし立テ、水口祭ル、程ハ來ニケリ」同、九、荒和祓「水無月ノ、淸キ河原ニ、いぐし立テ、祓フル事ヲ、神承ケツラシ」隆信集、上「禊スル、いぐしノ垂ニ、風スギテ、涼シクナリヌ、水無月ノ空」(紙垂ナリ) 八雲御抄、三、下、雜物「いぐし、紙ヲ木ニ挿シタルナリ」 (二)移リテ、只ノ竹ノ串ヲ云ヘリ。 吳竹集(足利時代)「一、いぐしさす「小サキ御幣ナリ、五十串ト書ケリ、連歌ニハ、節分ノ鰯ノ頭ヲ、窓門ニサスヲ云フ、歌ニモヨメリ」

いくしほ (名) 幾入 「しほ(入)ノ條ヲ見ヨ、一入、二入」 幾度染。 拾遺集、八、雜、上「海ニノミ、浸ヂタル松ノ、深綠、いくしほトカハ、知ルベカルラム」中務集「住吉ノ、岸ノ藤浪、春深ミ、いくしほニカハ、色マサルラム」

いくじゐん (名) 育兒院 孤兒、又ハ、貧者ノ兒女ヲ受ケテ、敎育スル所。又、孤兒院トモ云フ。多クハ、乳兒ヨリ養育シ、學齡ニ達スレバ、小學ノ敎育ヲ受ケシメ、十二三歲ニ至レバ、男兒ニハ、商工等ニ關スル業ヲ授ケ、女兒ニハ、裁縫、看護法等ヲ敎ヘテ、各、自營獨立ノ道ヲ得シム。奈良朝ノ頃、光明皇后ガ、悲田院ヲ設ケテ、棄兒ヲ養ヒタマヒシ事ナドハアリシカド、今ノ世ノ此業ハ、明治以後、宗敎家、慈善家ノ志ニテ、設ケラレタルモノニテ、各地方、處處ニアリ。

いくせ (名) 幾瀨 幾何ノ瀨。 金葉集、八、戀、下「メヅラシヤ、岩間ニ淀ム、忘レ水、いくせヲ過ギテ、思ヒ出ヅラム」

いくせ (名) 幾瀨 〔せハ、處ノ意、せノ條ヲ見ヨ〕 イクバク。ナニホド。ドレホド。幾何 心中刃氷朔日(寶永、近松作)下「淺瀨ノ罪ヲ作リシ身ガ、善イ所ヘハ、ヨモ行クマイ」吉野都女楠(正德、近松作)二「幾瀨、心ヲ盡クストハ」長唄、老松(文政)「嬉シキヨヨニ、アヒオイノ、いくせノ思ヒ、限リ知ラレズ」

いくせ (名) 幾何 〔幾十、いくそばくノ轉ナルベキカ、(うつせみ、うつそみ)背、背面)或ハ、出典ノ金葉集ノ歌ナド、瀨ヲ幾何ニカケタリ、處ト云フ意ノせト云フ語モアリ、其條ヲ見ヨ〕 イクバク。ドレホド。ドノクラヰ。 金葉集、八、戀、下「メヅラシヤ、岩間ニ淀ム、忘レ水、いくせヲ過ギテ、思ヒ出ヅラム」(瀨ニカケタリ) 山家集、下「汀近ク、引寄セラルル、大綱ニ、いくせノモノノ、命コモレリ」

いくそ (副) 幾許 〔倭訓栞、いくそ「幾十ノ義トス」〕 幾許ニ同ジ。いくそばくトモ云フ。イクラバカリ。數限リナキ意ニ云フ。 後撰集、十六、雜、二「みよし岡、いくそノ世世ニ、年ヲ經テ、今日ノ行幸ヲ、待チテ見ツラム」後拾遺集、一、春、上「行キ歸ル、旅ニ年經ル、かりがねハ、いくそノ春ヲ、餘所ニ見ルラム」曾丹集、九月、中「網代守ル、宇治ノ川長、年積リ、いくそ月日ヲ、數ヘ來ヌラム」白氏文集、廿九「芳情鄕思知多少」(此多少ハ、帶說ノ語ニテ、唯、多キ意ナリ) 六帖、六「夕影ニ、來鳴クひぐらし、いくそばく、日每ニ聞ケド、飽カヌ聲カナ」榮花物語、三十、鶴の林「長キ夜ノ闇ヲタドル人、いくそばくカハアル」名義抄、人部「幾何、イクソバク」

いくそたび (副) 幾許度 〔前條ノ語原ヲ見ヨ〕 幾度。何遍。 忠見集「いくそたび、春ノ櫻ニ、懲リヌラム、シバシノ色ニ、頼メラレツツ」

いくそばく (副) 前前條ヲ見ヨ。

いくた (副) 幾多 〔あまたニ、幾多ノ字ヲ充テタルヲ、湯桶讀ニシタル語〕 アマタ。イクバク。「幾多ノ艱難ヲ經來リテ」

いくだ (副) 幾何 〔いくらト通ズ(おほおほら、おほだ)〕 いくらニ同ジ。イクバク。ナニホド。 萬葉集、十「幸寢初メテ、何大モアラネバ、白栲ノ、帶乞フベシヤ、戀モ盡キネバ」(ツキヌニ) 織女星ガ、牽牛星ニ對シテ詠メルナリ。(同、十七、二十「年月モ、伊久良モアラヌニ」)

いくたち (名) 生太刀 〔いくハ、生ク(四段活用)ノ連體形ナリ、生弓矢モ、同ジ〕 大穴牟遲神ノ所持ノ太刀ノ稱。 古事記、上「須佐能男命「呼謂ニ大穴牟遲神ニ曰、其汝所ニ持之生太刀、生弓矢以而、汝庶兄弟者追ニ伏坂之御尾ニ、亦追ニ撥河之瀨ニ云云」(古事記傳ニ、出雲國造神賀詞ニ、今日能生日能足日ナドモアル、生ニテ、執持ツ主ノ命長ク、生ベキ德アル太刀、弓矢ナリトアリ) 倭訓栞、いくたち「素戔嗚尊ノ生太刀、古事記ニ見エタリ、大己貴命ニ傳ヘラル、生ハ、不殺ノ美稱ナルベシ」(大己貴命ガ、生太刀、弓矢ノ威靈ニ因リテ、荒ブル神ヲ平伏セシメ、大八洲ヲ平治シタマヒケレバ、美稱シテ云フナリ、トモ云ヘリ)

いくたて (名) 推移 〔行立つノ、變ジテ成レル語ナルカ、おたてハ、語路ニ因リテ添ヘタルモノ〕 事ノ經來リシ徑路。ナリキタリ。イキサツ。 俚言集覽、いくたて「いくたておたてトモ云フ、既往ノ由來ヲ云フ」

いくたび (副) 幾度 度カサナリテ。タビタビ。幾廻 續紀、元年三月「幾廻」拾遺集、十四、戀、四「津國ノ、生田ノ池ノ、(序)いくたびカ、ツラキ心ヲ、我レニ見スラム」

いくたま (名) 生魂 いくひのたるひ(生日足日)ノ語原ヲ見ヨ。

いくたり (名) 幾人 〔たり(人)ノ條ヲ見ヨ〕 多クノ人。 源、四十八、寄生三十「宮タチト聞ユル中ニモ、系異ニ、世人、思ヒ聞ニタレバ、いくたりモ、いくたりモ、得タマハムコトモ、モドキアルマジケレバ、」(すぢおとよ、湖月抄「匂宮ハ、坊がねゾト也」)

いくたりう (名) 生田流 〔前ニ、八橋流アリ〕 筑紫琴ノ彈奏ノ一派。寶永年中、江戸ニテ、生田檢校、始メテ弘メテ、巧妙ナルヲ以テ、大イニ行ハル。後ニ、江戸ニ、山田流起ルニ及ビテ、稍、壓倒セラレシカド、生田流ハ、古風ヲ保チテ、淫猥ノ聲モ少ク、上流ノ間ニ行ハレ、今モ、關西ニハ勢アリ。

いくち (名) 兎缺 缺脣 〔兎口ノ轉(魚、いを。茨、いばら)〕 又、うくち。人ノ生得ニテ、鼻ノ下ノ人中ノ、裂ケタルヤウニナリテ、口ニツラナレルモノ。今ノ俗ニモ、いくちト云ヒ、又、專ラ、みつくちト云フ。胎兒ノ、胞衣ノ、傾キテ口ニカ

カ[illegible]テ、[illegible]ヲ惜メタ[illegible]モノト云フ[illegible] [illegible]、三[illegible] [illegible]いくちニ生レル ソ」和漢三才圖會(正德)十、人倫之用「兎脣、兎缺、以久知」 醫心方、五三十「缺」 箋注倭名抄、二五十「兎缺、[illegible]」六字久[illegible]「うくち」ト云フヲ、いくちト云ヒナセリ、いつくしト云フヲ、俗ニハ、うつくしト云フカ、兎缺ト書キテ、うくちト讀ムベキ也」[illegible]人有生而兎缺[illegible]」

いくぢ-しほ (名) 生道鹽 尾張國、知多郡、生路ノ地ヨリ產出シタリシ堅鹽ノ名產トシタリ。 主計寮式「尾張國、調、生道鹽、一斛六斗」[illegible]生道、堅鹽也、大如[illegible]」

いくぢ-な・し・キ・ケレ・ク・ク (形、二) 無氣力 〔いくぢハ、意氣地ノ轉カ、(あふさきるさ、あふさくるさ。まぎるる、まぐれる) 意地ト云フ語、古クヨリアリ〕 (一)ヲヂナシ。イフカヒナシ。 承久記、上「壹岐判官知康ト申スいくぢなしガ勸メニツカセタマヒテ、院中ニ兵ヲ召サレ、合戰候ヒシカバ、淺マシキ事ドモ出デ來リキ」(名詞ニ用ヰラレタリ) 語彙、いくぢなし「儒 惰ナク、物ノ用ニ立タヌヲ云フ」 (二)取リシマリナシ。惰容 そぞろ物語(慶長)「滿ニ醉ヒ、在鄕ノ百姓、片言ニ云ヒテ、いくぢなき風情ニ[illegible]ずり女房、いくぢない」

いくちよ (名) 幾千夜 いくよ(幾夜)ヲ見ヨ。

いくちよ (名) 幾千代 いくよ(幾代)ヲ見ヨ。

いくつ (名) 幾箇 〔箇ノ條ヲ見ヨ〕 イクバクノ數。多クノ數。 後拾遺集、十八、雜、四「オボツカナ、筑摩ノ神ノ、タメナラバ、いくつカ鍋ノ、數ハイルベキ」

いくせ ([illegible]) 幾度 〔いくたびニ、幾度ノ字ヲ充テタルナリ、[illegible]ニシタル語〕 イクタビ。ナンド。ナンベン。 幾回 「いくど[illegible]テモ同ジ事」

いく-どう-おん (句) 異口同音 多人數、口ヲソロヘテ言フ。 [illegible]傳三[illegible]、[illegible]天竺、異口同音[illegible] 宋書、[illegible]之傳「異口同音[illegible]」 [illegible]一、廿三[illegible]中將ノ[illegible]來テ、[illegible]佛像ヲ見テ、異口同音ニ南無阿彌陀佛ト稱ス」 易林節用集(慶長)言語「異口同音」

いくとせ (名) 幾年 〔とせノ條ヲ見ヨ〕 年ノ數ヲ經ルコト。イクネン。 狹衣、一、上「いくとせヲ限リニ、生ヒユカムトスラム」(髮ノ事ニ云フ) 續古今集、四、秋、上「袖ノ上、枕ノ下ニ、宿リ來テ、いくとせ馴レヌ、秋ノ夜ノ月」

いくねん (名) 幾年 〔いくとせニ、幾年ノ字ヲ充テタルヲ、湯桶讀ニシタル語〕 前條ノ語ニ同ジ。「此仕事ハ、いくねんカカルカ」

いくは (名) 的 〔古事記傳、廿二ニ、射はれノ下略、射らるる物ノ意カトアリ、(慰、戀ノなぐさ。狩競、かりくら) 射ふノ條ヲ見ヨ、ゆくはトモ云フ〕 的ノ古言。又、ゆくは。射垜ヲ、いくはハ所ト云フ。 景行紀、十八年八月「的 邑」私記「以久波」(筑後國、生葉郡ナリ) 仁德紀、十二年九月「的臣 祖盾人宿禰、射二鐵的一通焉」 字鏡、十「的、由久波」

いくばく (副) 幾許 〔幾許ノ轉、かがまる、くぐまる〕 いくらニ同ジ。數ノ、確ト知ラレヌニ云フ語 イクソ。イクソバク。ソコバク。ココバク。イクラバカリ。ドノクラヰ。イクホド。ナニホド。ドレホド。 いくばくも無くハ、程無ク、永ク時ヲ過ギズシテノ意 無幾 萬葉集、八「吾カ夫子ト、二人見マセバ、幾許カ、此降ル雪ノ、嬉シカラマシ」 同、十一「幾多モ、降ラヌ雨ユヱ、ワ[illegible]」 [illegible]九、[illegible]「いくばくノ、田ヲ作レバカ、時鳥、シデノ田ヲサヲ、朝ナ朝ナ呼ブ」 伊勢物語、七十八段「[illegible]人シテ[illegible]、いくばくもなくて[illegible]」 白氏文集、四「[illegible]」

いくは-どころ (名) 的所 〔前前條ヲ見ヨ〕 あづち(射垜)ノ古言。 倭名抄、四「[illegible]垜、以久波止古呂」

いぐひ (名) 齋杙 〔いハ、齋むノ語根、齋ミ淨メタル杙ナリ、(齋垣、イガキ) 齋ノ條ヲ見ヨ〕 齋串ト云フ語モアリ、倭訓栞、いくひ「いハ、忌ノ義ナルベシ、眞杙ハ、鄰ヘテ云フナリ」 神祭ニ、幣物ヲカクル料ノ杙。 古事記、下(允恭)三十長歌「コモリクノ、泊瀬ノ河ノ、上ツ瀬ニ、伊久比ヲ打チ、下ツ瀬ニ、眞杙ヲ打チ、伊久比ニハ、鏡ヲ掛ケ、眞杙ニハ、眞玉ヲ掛ケ」[illegible]ノ河[illegible]ナド、此處ナルベシト云フ、出雲國風土記ニ、[illegible]臣猪麻呂ガ、和邇(鰐)ヲ串ニ刺シテ、路傍ニ立テ、神助ヲ謝スル捧物トシタリト云フ事、見ユ。

いぐひ (名) 伊具比 〔倭訓栞、いぐひ「出雲風土記ニ見ユ、今云フ、うぐひニヤ」 (魚、うを。鱗、うろくづ)〕 河魚ノ名、後ニ云フ、うぐひナルベシト云フ。 出雲風土記、意宇郡、意宇川「[illegible]年魚、伊具比[illegible]」 內膳司式「大和國吉野御厨所[illegible]、云云、伊具比[illegible]レ得加進」

いくひき (名) 幾疋 いくき(幾寸)ト云フニ同ジ。(寸ノ條ヲ見ヨ)

いくひさ (名) 幾久 次條ヲ見ヨ。

いくひさ・し・シキ・シケレ・シク・シク (形、二) 幾久 〔いくひさハ、語根ナリ、いくひささハ、いくひさしさノ中略ナリ〕 幾世、久シ。末、永ク久シ。 長久 [illegible] 名ノ活用ヲ取入レタリ) 大和國、大三輪神社、大物主大神ナリ。 萬葉集、十一 二十「相見テハ、幾久さモ、アラナクニ、年月ノ如、[illegible]」(幾久さ、名詞トナル) 宇津保物語、國讓上、下五十「いくひさしさカハト寛ヘバ、イカデカハ、イト疾ク見ナラハセタマハジ」 六帖、五、上「いくひささ、我レ降リヌレヤ、身ニ副ヘル、涙モ疾ク、ナリニケルカナ」 [illegible]「[illegible]ノ杖、[illegible]久さニ[illegible]、イクタ木滿キ、[illegible]上條」

いくひ-の-たる-ひ (名) 生日足日 〔いくハ、生く(四段活用)ノ連體形ナリ、祝詞考(宣長)下「生日ハ、生キル日、足日ハ、足滿ツル日也、生魂、足魂ナドノ生、足ニヒトシ、其當日ヲ賞ギテ云フ語、[illegible]日ノ意」 出雲國造神賀詞「八十日ハアレド、今日ノ生日足日ニ、出雲國[illegible]、恐ミモ申シタマハク」

いくひろ (名) 幾尋 〔尋ハ、六尺ナリ。枕草子[illegible]ニ見テ、いくひろカアラムナド云フニ」

いく・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (他動、四) 射交 〔射交(イカハ)[illegible]ノ轉ニテ、(ゆかし、いつかし、いつくし)射るニ連リテ、他動トナリ、射交ナノ意ト[illegible]レルナルベシ、明け暮らすモ、自動ト他動ト合シテ、他動トナル〕 射るト云フニ同ジ。[illegible] [illegible]及百濟ノ合[illegible] [illegible]人ト[illegible]射をハシタルナリ」[illegible]

月「射₂於朝庭₁」(左訓、イクヒス、コレモ、射術ヲ競ヒ行フナリ、次モ同ジ) 天武紀、下、四年正月「公卿大夫、及百寮諸人、初位以上、射₂于西門庭₁」

〔いく・ぶ・ブ・ベ・バ・ビ・ベ(自動、四) 憤 〔いくくむノ略轉(さぐくむ、さくむ。かなしむ、かなしぶ)〕 イククム。イキドホル。 皇極紀、三年正月「中臣鎌子連、云云、憤₃蘇我臣入鹿、失₂君臣長幼之序₁、挾₃闚₂社稷₁之權₁、云云」

いく・へ (名) 幾重 〔重ノ條ヲ見ヨ〕 (一) 幾許ノ重リ。多クノカサナリ。 堀河百首「春深ミ、井手ノ川水、影添ハバ、いくへカ見エム、山吹ノ花」 千載集、七、離別「別レテモ、心隔ツナ、旅衣、いくへ重ル、山路ナリトモ」「幾重山河」 (二) クリカヘスコト。「いくへニモ御詫ビ申ス」

いく・へん (名) 幾遍 幾返 〔いくかへりノ湯桶讀〕 イクカヘリ。イクタビ。イクド。「いくへんモ繰返シテ讀ム」

いく・ほど (名) 幾程 幾何。ドレホド。 濱松中納言物語、二「いくほどノ年ヲ隔テズ」 玉葉集、十四、雜、一「春ノ花、ナガムルママノ、心ニテ、いくほどモナキ、世ヲ過サバヤ」

〔いくみ・だけ (名) 叢竹 〔いくみハ、次條ノ動詞ノ名詞形、隱竹ノ意、(隈篶、隈笹ノ類)たまみハ、たモ、發語、(寛のたゆた)まみだけハ、繁竹ナリ、二種アルニアラズ、一ツノ竹ヲ言換ヘテ云フ文ナリ〕 葉ノ繁リタル竹叢。 古事記、下(雄略)三十一長歌「山ノ峽ニ、云云、本方ニハ、(蘿)伊久美陀氣生ヒ、末方ニハ、(頂)多斯美陀氣生ヒ」(稜威言別ノ校訂ニ據ル) 繼體紀、七年九月、長歌「泊瀨ノ川ユ、流レ來ル、竹ノ、以矩美鄧闍、節竹」

〔い・く・む・ム・メ・マ・ミ・メ(自動、四) 隱 〔いハ、發語、くむハ、隱るノ約轉ナリト云フ、(屈る、さおむ)伊隱ろト同意ナリ、倚、前條ヲ見ヨ〕 隱るト云フニ同ジ。 古事記、

下(雄略)三十一長歌「イクミダケ、(序)伊久美ハ寐ズ、タシミダケ、(序)諟ニハ率寐ズ」(大殿隱るナリ)

い・く・む・ム・メ・マ・ミ・メ(他動、四) 射組 五ニ射ル。射交ス。 今昔物語、廿五、第三語「各、楯ヲ寄セテ、今ハ、いくみナムトスルホドニ」又「軍ヲ不₂令₂射組₁」

いく・め (名) 幾目 幾多ノ量目。 源順集「露ヲ重ミ、堪ヘヌバカリノ、靑柳ハ、いくめカケタル、黃金ナルラム」

いく・めぐり (名) 幾回 イクタビ。幾遍。 玉葉集、五、秋、下「哀レトハ、我レヲモ思ヘ、秋ノ月、いくめぐりカハ、眺メ來ヌラム」

〔いく・ゆみや (名) 生弓矢 生太刀ノ條ヲ見ヨ。

〔いく・よ (名) 幾夜 イクバクノ夜。多クノ夜。幾千夜。 古事記、中(景行)二五十「新治、筑波ヲ過ギテ、伊久用カ寐ツル」 金葉集、四、冬、關路千鳥「淡路島、通フ千鳥ノ、鳴ク聲ニ、いくよ寐覺メヌ、須磨ノ關守」 拾遺集、十二、戀、二「逢見テモ、ナホ慰マヌ、心カナ、幾ちよ寐テカ、戀ノ覘ムベキ」

〔いく・よ (名) 幾代 イクバクノ代。幾千代。幾世 萬葉集、一八十「白浪ノ、濱松枝ノ、手向草、幾代マデニカ、年ノ經ヌラム」 新古今集、十七、雜、中「槇ノ板モ、苔蓙スバカリ、ナリニケリ、いく代經ヌラム、瀨田ノ長橋」 元輔集「藤崎ノ、軒ノ巖ニ、生フル松、今いくちよカ、子日過サム」

いくよ・もち (名) 幾世餅 〔出典ヲ見ヨ〕 餅ヲ炙リテ、赤小豆餡ヲツケタルモノ。元祿年中、喜兵衛ト云フ者、江戸、兩國橋ニ、店ヲ開キテ賣リ弘メ、大イニ流行リキ。 近代世事談(享保)一、飮食、幾世餅「兩國橋西詰ニアリ、云云、元祿十七年ニ、始メテ店ヲ構フ」 耳嚢(天明)上、三「兩國橋、小松屋、云云、新吉原町ノ遊女幾世ト云ヘルヲ 妻トナシテ、夫婦ニテ餅ヲ搗へ、云云、吉原町ノ幾世、幾世ト中縮シ、殊ノ外商ヒモアリシ、云云」 俚言集覽、いく世餅「江戸兩國ノ名産、餡ヲツケタル餅也、一ツ五文宛」江戸名物詩(天保)初編、若松屋幾世餅、兩國吉川町「兩國一番若松屋、雜煮汁粉客來頻、世爾名物多零落、幾代獨歷幾代春」

〔いく・ら (副) 幾等 〔らハ、添ヘタル辭、其條ヲ見ヨ〕 數ヲ、オホヨソニ云フ語。イクラバカリ。イクバク。イクダ。ココラ。ナニホド。 萬葉集、十七二廿長歌「年月モ、伊久良モアラヌニ、ウツセミノ、世ノ人ナレバ、ウチナビキ、床ニコイ臥シ」 古今集、十三、戀、三「ウバタマノ、闇ノウツツハ、サダカナル、夢ニいくらモ、マサラザリケリ」 山家集、上「春毎ニ、野邊ノ小松ヲ、引ク人ハ、いくらノ千代ヲ、延ブルナルラム」 拾遺集、五、賀「靑柳ノ、綠ノ絲ヲ、クリカヘシ、いくらばかりノ、春ヲヘヌラム」

いくら・ばかり (副) 幾等許 前條ヲ見ヨ。

〔い・くり (名) 石 〔石塊ノ略轉ナルベシ(石懸、碇。石打、いんぢ。塊石、くりいし。皀皮、くれかは)〕 石ノ異名。 應神紀、三十一年八月、長歌「由良ノ門ノ、門中ノ異句離」 繼紀「句離、謂₂石也₁」 袖中抄、十六「船路ニハ、石ヲバ、くりト云ヘリ」 萬葉集、二九長歌「石見ノ海、辛ノ崎ナル、伊久里ニゾ、深海松生フル」 同、六十六長歌「淡路ノ、野島ノ海人ノ、海ノ底、沖津伊久利ニ、鰒珠、多ニ潛キ出デ」 十六夜日記(阿佛尼)「大井河トイフ河ヲワタル、水、イトアセテ、聞キシニタガヒテ、ワヅラヒナシ、河原いくりトカヤ、イト遙ナリ」 物類稱呼(安永)一、石「畿内ニテ、おろたト云フハ、石ノ小ナル物ヲ云フ、東國ニテ、石まろト云フ、山陰道ニテ、くりト云フ、細小ナルモノカ」

いく・り (名) 郁李 ニハウメ。

い・くる (動) 生 生く、(上二段)又ハ、生く(下二段)ヲ見ヨ。

い・ぐるみ (名) 矰繳 いづる(弋射)ノ條ヲ見ヨ。

い・くゎ (名) 醫科 醫術ニ關スル內科、外科、眼科、產科、小兒科、皮膚病、精神病、生理、病理、解剖等ノ學科ヲ總稱スル語。

い・くゎい (名) 醫會 醫學ニ就キテノ集會。醫者ノ組合。

い・ぐゎい (名) 意外 オモヒノホカ。案外。 運歩色葉集「意外、イグヮイ」「意外ノ出來事」

い・ぐゎい (名) 以外 〔以ノ字ハ、よりノ意ナリ、「是より以外」ナド云フハ、實ハ、重言トナルナリ〕 ヨリ、外。其物事ノ外。「是レ以外」ソレ以外」

い・くゎがく (名) 醫化學 〔英語、Medical chemistry. ノ譯語〕 醫術ニ適用スル化學。

い・くゎん (名) 衣冠 (一) 衣ト、冠ト。 論語、堯曰篇「君子正₂其衣冠₁、尊₂其瞻視₁、儼然人望而畏₂之」 梁書、武帝紀「帝性方正、雖₂居₂小殿暗室₁、恒理₂衣冠₁」 (二) 轉ジテ、衣冠着タル人。官吏。 漢書、游俠傳、陳遵傳「郡國豪桀至₂京師₁者、莫₂不₁相因到₂遵門₁、云云、所₂到衣冠、懷₂之唯恐₂在₁後」 南史、梁文獻皇后傳「后生₂武帝₁、將₂産之夕、后見₂庭內₁、若₂有₂衣冠陪列₁焉」 盛衰記、十八、松名宇佐勅使事「雲ノ中ニ、衣冠ノ俗アリテ云フ、神ハ非禮ヲ稟ケズ、必ズ正直者ヲ守ラム」(宇佐八幡ノ託宣ナリ、松名ト云フハ、和氣清麿呂ナルベキナリ)

い・くゎん (名) 衣冠 略式ノ朝服ノ稱。尋常參內ノ裝束ナリ、束帶ヲ、晝裝束ト云フニ對シテ、とのゐ裝束、とのゐ衣トモ云フ、冠ト、袍ト、指貫ト、腰帶トナリ。(束帶ノヤウニ、下襲、表袴、裾、革帶等ヲ用キズ)笏ニ代ヘテ、蝙蝠扇ヲ持チ、淺沓ヲ用キル。 江家次第、十二、伊勢公卿勅使「參₂豐受太神宮₁、云云、內人二人著₂衣冠₁、禰宜等五

人東帯[illegible]（[illegible]）[illegible]抄、上、保安五年十月廿一日、[illegible][illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]之[illegible]、[illegible]。裝束抄、二、布衣の事「そくたいハ、四月一日ヨリ、夏ノヲ着レドモ、いくはんハ、五位六位モ、衣裳ノ程ナドマデハ、冬ノヲ着ルナリ」西三條裝束抄（內大臣實隆、後奈良天皇御代）衣冠「常ノ袍ニ、指貫ヲ着スルヲ云フ、公事ニアラスシテ、[illegible]ノ時、用ユ」

い-くゎん（名）|[illegible]官| [illegible]務ニ從事スル官職。又、其人。

い-ぐゎん（名）|依願| 當人ヨリノ願出デニ依ルコト。「依願免官」依願退職」

いけ（名）|池|〔生ノ義、生水ト云フガ成語ナラム、（萬葉集、二十二「伊[illegible]美豆ニ、影サヘ見エテ」）養魚ノ用ヲ根源トシタル語ナリ、（生實、同國）出具ノ宇津保物語ノ文ヲ見ルベシ、桑家漢語抄（文明元年、一條兼良ノ按本奧書アリ）二、地理、池「伊計、或、伊計須、案、字園云、自川河取魚、而外備水于池中、以魚生養茲所也、故以伊計之訓、魚於伊計於具之義也」〕（一）地ヲ掘リクボメテ、水ヲ湛ヘオク處。庭園ナドニ設ケテ、眺望ノ料トモシ、又、養魚ノ用トモス。泉水。園池 倭名抄、一八「池、畜水也、以介」推古紀、三十四年五月、[illegible]馬子[illegible]家於飛鳥河之傍、乃庭中開小池、仍興小島於池中」宇津保物語、祭使「公卿「釣殿ニ參テタマヒヌ、云云、御前ノいけニ、網オロシ、云云、[illegible]揚ラセ」（[illegible]ノ條ヲ見ヨ、[illegible]モシタルナリ）（二）人工ニテ造リ、雨水、溪水ヲ集メ、田ノ用水トシテ貯ヘオク處。崇神紀、六十二年七月「河內狹山埴田、水少、云云、其多開池溝、以寬民業」同年十月「造依網池」（三）又、天然ニ、大キナル窪地ニ、河水ノ溜リ居ル處、湖ヨリ小ナルモノ。山城國、久世郡ノ[illegible]ノ[illegible]、一名、大[illegible]ナド、是レナリ、上古ハ、宇治河ノ曲江ニテ、今ヨリハ廣大ニシテ、入江ト云ヒキ、萬葉集、九十「宇治河作歌「巨椋ノ、入江響ムナリ、射目人ノ、（其條ヲ見ヨ、ココニテハ、伏見ノ序ナリ）伏見ガ田居ニ、雁渡ルラシ」

い・け（動）|活| 生く（下二段）ノ條ヲ見ヨ。

いけ（接頭）〔一奴 詞ナルベキカ、語原、解スベカラズ、或ハ、餘計ノ略轉カ、（萬いい）長崎ニテ、餘計ナル分量ヲ、いけえしおト云フ、又、或ハ、元祿、享保ノ頃、大阪詞ニ、いけ、又、いきト云フアリテ、同義ナリ、長町女腹切（元祿、近松作）上「半七ノいき陶兒メ、ヨウモ、親方ヲ蹈ミツケタナ」心中天網島（享保、近松作）中「女房、子供ノ身ノ皮剝ギ、其金デおやま狂ヒ、いけドウ掏兒メ」浦島年代記（元祿、近松作）五「大騙ノ生賣僧」（いきカ、いけカ）然レドモ、其語原ハ知ルベカラズ、接頭語ノあたヲ參見スベシ〕種種ノ語ニ冠シテ、強ク罵ル意ヲナス卑語。俚言集覽、いけ「卑シメ罵ル詞也、いけヅウヅウシイ、いけフトイ、いけシャアシャア、いけヤカマシイ、いけドウヨク、皆、生 僧ノ、生ト同ジキカ、奴俳諧「月花ヲ、いけヅクニウハ、眺メ入リ」「いけ年ヲシテフサケル」いけゾンザイナ」いけ騷騷シイ」いけヅルイ」いけスカナイ」

い-げ（名）|以下| ソレヨリ、下。以下。著聞集、十八、飮食「萬壽二年正月三日、關白（賴通）いげ、大臣ヘ參リタマヒテ、盃酌ノ事アリケリ」易林節用集（慶長）言語「以上、以下」

い-けう（名）|異教| 己ガ奉ズル宗教ト異ナル宗教。殊ニ、基督教ニテ云フ。佛敎ニテ、[illegible]ト云ヒ、[illegible]ノ人ノ、[illegible]、[illegible]ノ[illegible]、[illegible]ニ[illegible]、[illegible]。

いけうを（名）|生魚|〔生けテオク魚〕水ニ入レテ飼ヒオク魚。カヒウヲ。語彙、いけうを「潭中ニ畜ヒオク、食用ノ魚ヲ云フ」攝津名所圖會（寬政）八、上、矢田部郡、兵庫生洲「上ニ雨覆屋根アリ、中ニ海水ヲ湛ヘ、云云、[illegible]生テ、常ニ貯フ、コレヲ兵庫ノ生魚ト云フ」（いけすノ條ヲ見ヨ）

いけがき（名）|生籬|〔生けナガラ垣トス、伐リテ作レルニ對ス〕根ノアル木竹ヲ植エワタシテ、籬トシタルモノ。立木ノ籬。字鏡六十「籬、竹柴等類、志波加支、又、竹加支」

いけおひ（名）|生餵|〔生けテオクナリ〕鯉ヲ、水槽、生簀ナドニ、養ヒオクモノ。生魚ノ鯉 語彙、いけおひ「[illegible]キテ、[illegible]チテ[illegible]スル鯉ヲ云フ」新六帖、三「水[illegible]ニ、浮キテ[illegible]振ル、いけおひノ、命待ツ間モ、セハシナノ世ヤ」

いけ-お・む・ム・メ・マ・ミ・メ（他動、四）|埋込| 地ニ埋ケ入ルル。掘立ノ柱ナドニ云ヒ、又、埋火ニモ云フ。

いけす（名）|池簀|生簀|〔池ノ語原モ、生ナリ、簀ノ條ヲ見ヨ〕（一）「池ノ中ニ、簀ヲ建テマハシテ、生鯉ナド畜ヒオク處 倭名抄、十五「漁釣具「簀、池水中編竹養魚也、以介須」[illegible]仲正集「[illegible]ヒ死ナバ、おひモ死ネカシ、ナゾモカク、おやノいけすニ、ナブラレテ[illegible]ル」（鯉ニカケタリ）新六帖、三「世ノ中ハ、淀ノいけすノ、[illegible]魚、身ヲ心ニモ、マカセヤハスル」（[illegible]河岸ニいけすノアリシナルベシ）（二）後世ハ、海岸ノ地ニテ、一區域ヲ圍ヒ、種種ノ海魚ヲ養ヒオク處ヲモ云フ。攝津名所圖會（寬政）八、上、矢田部郡、兵庫生洲「當津、南濱、今在家町ニアリ、長サ十三間、巾四間許、四方ヲ廻ラテ、上ニ雨覆ノ屋根アリ、中ニ海水ヲ湛ヘ、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]ニ[illegible]、コレヲ[illegible]ト云フ」

いけず（名） いけすものヲ見ヨ。

いけずき（名）|生唼|生食|〔食ふヲ、すくト云フ、其條ヲ見ヨ、文選、上林賦「[illegible]」[illegible]、[illegible]、正字通、[illegible]也、又、[illegible]、[illegible]、[illegible]人、[illegible]也、史記、[illegible]、[illegible]「[illegible]ハ、昔時、[illegible]ナリシニ因リテ、此字ヲ用キシナリ、池月ト書キタルアルハ、當字ナリ」有名ナル馬ノ名。鎌倉將軍源賴朝ガ愛乘ニテ、[illegible]ノ逸物ナリシト傳フ、佐佐木高綱、此馬ニ乘リテ、宇治川ヲ先登シタリ。盛衰記、三十四、佐佐木賜生唼事「生唼トハ、黑栗毛ノ馬、高サ八寸、云云、[illegible]、七寸ノ[illegible]、云云、[illegible]モ人ヲモ食ヒケレバ、生唼ト名ヅケタリ」（平家物語ニハ、おたりをはらってくひければ）塩嚢抄（文安）一、七十一「[illegible]ニ、[illegible]モ[illegible]キニヤ、生唼八五尺二寸アリケル也」（寸ノ條ヲ見ヨ）易林節用集（慶長）氣形「生唼、馬名」

いけずみ（名）|埋炭| 櫟ノ炭火ヲ、埋火トスルモノ。

いけずもの（名）|惡漢|〔不成者ノ義、いけろ（得成）ノ條ヲ見ヨ、成らずもの、同義〕ワルモノ。ナラズモノ。略シテ、いけず。（京都）

いけだずみ（名）|池田炭|〔攝津國、河邊郡、東谷村、一庫ノ地ニテ燒キ出シ、豐能郡、池田町ヨリ四方ヘ運リ出スヨリ、名トス〕櫟ノ村ニテ燒キ成セル炭。京畿ノ轉ニテ、關東ニテ、佐倉炭ト云フ、是レナリ。ヒトックラズミ。櫟炭 [illegible]（元祿）作、[illegible]、[illegible]之[illegible]、[illegible]第一」

物類稱呼(安永)三十橡實ノ條「くぬぎ、云云、池田炭ハ、此木ヲ以テ燒ク、攝州、一倉ト云フ所ニテ燒クトイヘドモ、池田炭ト稱ス」茶譜、五「池田炭ハ、第一、炭性强シ、湯ノ沸クヤウモ、外ノ炭トハ各別也、云云、古田織部時代ヨリ、池田炭引切テ、水ヘ入レ、四五日ホド干シテ、仕フ」(節文)

いけづくり (名) 生作 〔つくりハ、魚軒ナリ〕鯉ノ料理ノ名。俚言集覽、いけづくり「鯉、鮒等、活動スルモノヲ、細切シ、臠ニセズ、食用ニスル制作ヲ云フ」日本百科大辭典「生キタル鯉ノ腹部、大骨ニ、庖丁ヲ觸レシメズシテ、肉ヲ切取リ、刺身ニツクリテ、又、原形ノ如ク肉ヲ排列シテ、皮ヲ覆ヒオクナリ、客ノ前ニ出シテ、箸ヲ大骨ニ觸レシムレバ、盤上ノ鯉、潑剌トシテ活動ス」

❖**いけどし** (名) 〔いけ(接頭)ノ條ヲ見ヨ〕俗ニ、年長ケタルニ、年ニ副ハヌ所業スルヲ罵リ云フ語。「いけどしヲシテ戯ケル」

いけどり (名) 生捕・生擒 (一)〔イケドルコト。萬葉集、十六十三長歌「韓國ノ、虎ト云フ神ヲ、生取ニ、八頭取リ持チ來、其皮ヲ、疊ニ刺シ」下學集(文安)下、態藝門「生捕」常山紀談、十五「田中兵部大輔吉政、石田(三成)ヲ生捕ニセラレシガ、イト懇ニ會釋シテ、云云」 (二)イケドリタル人。トリコ。捕虜 小右記、寛仁三年六月廿九日、刀伊賊徒「生虜者勘問」平家物語、十一、一門大路わたされの事「平氏ノいけどりドモ、鳥羽ニ着ク」

いけど・る・ル・レ・ラ・リ・レ (他動、四) 生捕・生擒 生ケナガラニ、搦メ捕ル。(殺サズニ) 奥州後三年記、下、武衡、池ノ中ニ隱ル「兵者ドモ、云云、池ヨリ引出シテいけどりツ」吾妻鏡、三、壽永三年二月七日「本三位中將(重衡)於明石浦、爲景時家國等被生虜」常山紀談、廿二「長曾我部ヲ生捕テ、云云、白洲ニ引居エタリ」

❖**いけない** (形) いける(得成)ノ條ヲ見ヨ。

いけながら (副) 乍生 生ケテオキナガラ。生キタルママニ。宇治拾遺、四、第七條「牲ト云フコトニ、猪ヲいけながらオロシケル」(裁切ル)

いけにへ (名) 犧牲 〔生贄ノ義、犧牲ノ語原ヲ見ヨ〕(一)〔生類ヲ、生ケナガラニ、贄トシテ、神ニ供フルモノ。倭名抄、十三四祭祀具「犧牲、伊介邇倍」太神宮儀式帳、祭料「從志摩國神戸百姓進上手生贄」祈年祭祝詞「御年皇神ノ前ニ、白馬、白猪、白鷄、種種色物ヲ備ヘ奉リテ、云云」伊豫國三島神社緣起「永觀二年、云云、毎日之生贄、鹿一頭」倭訓栞、いけにへ「本邦ニテハ、賀茂ノ鯉、熊野ノ鯛、云云、穰災ノ三牲ハ、大鹿、小鹿、豕ヲ用ヰラルル由、延喜式ニ見エタリ」今昔物語、廿六、第七語、美作國、中參高野神社「毎年ニ一度、其(一本、ソレヲ)祭リケルニ、生贄ヲゾ備ヘケル、其生贄ニハ、國人ノ娘ノ、未ダ不嫁ヲゾ立テケル」(人身御供ヲ見ヨ) 宇治拾遺、四、第七條「三河國ニ、風祭ト云フ事ヲシケルニ、いけにへト云フコトニ、猪ヲ生ケナガラオロシケル」(切リケル)祭祀ニ犧牲ヲ供スルコト、支那ノ禮ノ移レルナリ、前ニ擧ゲタル釋奠ナル、是レナリ、上代ニハ、血ヲ穢レトシテ忌ミタルナリ、皇極紀、元年七月「隨村村祝部所教、或殺牛馬、祭諸社神」是レ等、初見ナラム。(二)犧牲ノ條ヲ見ヨ。

いけのかがみ (名) 池鏡 澄ミタル池水ニ、物ノ影ノ、善ク映ルヲ云フ語。古今集、一、春、上「年ヲ經テ、池のかがみト、ナル水ハ、チリカカルヲヤ、曇ルト云フラム」源、三十三、藤裏葉八「七日ノ夕月夜、影、ホノカナルニ、池の鏡、ノドカニワタレリ」山家集、上「タグヒナキ、花ノ姿ヲ、女郎花、池のかがみニ、映シテゾ見ル」白氏文集、四、兩朱閣「柳似舞腰池似鏡」

いけのこゝろ (名) 池心 〔漢語、池心ノ訓讀ナルカ、倭訓栞、いけのこゝろ「心ハ、中ヲ云フ、又、底ヲモ云フベシ、池心ハ、詩ニモ詠メリ」〕池水ノ面。源、一、桐壺三十「本ノ木立、山ノタタズマヒ、面白キ所ナルヲ、池の心、廣ク爲成シテ、メデタク造リノノシル」榮花物語、三十二、歌合「舟二ツニ乘リテ、云云、いけのこゝろニマカセテ、棹サシマヰル」詞花集、五、賀「誰レニトカ、池の心モ、思フラム、底ニ宿レル、松ノ千歲ヲ」

いけのつらら (名) 池氷 〔つららノ條ヲ見ヨ〕池ニ張リタル氷。拾玉集、四「アハレニモ、鳴キテゾ通フ、夜ノ鴛鴦、池のつららノ、隙ヲタヅネテ」

いけのばう (名) 池坊 りつくわ(立花)ノ條ヲ見ヨ。

いけのべ (名) 池邊 池ノホトリ。池ノ岸。又、いけべ。大和國、磯城郡、安倍村ニ、用明天皇ノ皇居アリキ、池邊ノ宮ト稱セラレキ。萬葉集、七廿七旋頭歌「池邊ノ、小槻ガ下ノ、細竹莫刈リソネ、ソヲダニ、君ガ形見ニ、見ツツ偲バム」堀河百首、春、山吹「蛙鳴ク、眞野ノ池べヲ、見ワタセバ、岸ノ山吹、花咲キニケリ」

いけはぎ (名) 生剝 いきはぎノ條ヲ見ヨ。

いけばな (名) 生花 〔水氣ニテ、生けテオク(活シオク)意トモ解セラレ、又、水中ニ埋けテオク(埋メオク)意トモ解セラル〕花卉、莖葉ヲ伐リ取リテ、花瓶ノ水中ニ挿シテ賞翫スル技藝ノ稱。花ナキ草、實ノ成レル木ヲモ用ヰレドモ、花ヲ主トスレバ、いけばなト云フ。數莖ヲ屈折セシメテ立ツ、其姿勢ノ、屈折ノ度ノ少キヲ眞ト云ヒ、稍多キヲ行ト云ヒ、甚シキヲ草ト云フ、又、數莖ノ空ヲサスニ、中央ノ高キヲ心ト云ヒ、左側ノ低キヲ副ト云ヒ、右側ノ最モ低キヲ留ト云フ。插花 插花ノコトハ、夙ク平安朝時代ヨリ見エタレド、ソレヲ遊技ト立テシハ、室町時代ノ中期以後ナルガ如シ、當時ハ、立花ノ法ヲ主トセシガ、茶道ニ投入ノ法起リ、江戸時代ニ至リテ、投入ヨリ、又分レテ、いけばなハ起レルナリ。其技ニ、池坊流、遠州流、石州流、靑山流、宏道流等ノ流派、數十ノ多キアリテ、各流ニ於テ其法種種ナリ、江戸ニハ寶曆年中ニ傳ハリ、寛政中ヨリ大イニ行ハル。りつくわ(立花)、投入ノ各條ヲ併セ見ヨ。近世ハ、女學校ニテ、一ノ教科ニ立テラレ、又、洋室ノ卓上ニ飾ルニ、一變體ヲ生ゼリ。仙傳抄(天文)「鈞花瓶、云云、花ハいけばなナリ」古クハ、多ク、花ヲ插すト云ヒキ。西宮記、延長四年九月九日「以金瓶挿菊花」古今集、一、春、上「染殿ノ后ノ御前ニ、花がめニ、櫻ノ花ヲささセタマヘルヲ」伊勢物語、百一段「瓶ニ花ヲさせリ、其花ノ中ニ、アヤシキ藤ノ花アリ」正風遠州流挿花獨稽古、後編「いけ花ノ文字ニ、生花、活花、挿花ノ字ヲ書クモアリ、生ハ、古來用ヰル字ニテ、草木ヲいかしテ器ニ入ルル也、又、挿ハ、さしいれ花ノ意ナルベシ」(節文、古事類苑)

いけび (名) 埋火 〔埋るノ條ヲ見ヨ〕ウヅミ火。灰ノ中ニ埋ケタル炭火。(香爐ヲ、ひいけト云フ) 倭訓栞、いけび「江次第ニ生火ト見エタリ」(下二段活用ノ生くノ(二)ヲ見ヨ)「いけびガ、善ク保ツ」

いげふ (名) 醫業 醫ノ生業。醫術ハ、人ノ生命ニ關スルガ故ニ、今世ハ、一定ノ資格ニモトヅキテ免狀ヲ得タル者ニ非ザレバ、醫ヲ業トスルコトヲ許サズト定メラレテアリ。宋史、劉翰傳「世習醫業」

いけぶくろ (名) 生袋 鷹ノ餌袋ノ、雀ナド、生ケナガラ入レ置クニ用ヰルモノ。林逸節用集(文明)「生袋、鷹具」

いけぶね (名) 生槽 生魚ヲ養ヒオク水槽。又、金魚ヲ飼フモノニモ云フ。語

魚、いけ[illegible]ノ[illegible]、いけ[illegible]（[illegible]）[illegible]水清ク、云云」（江戸池端ナルヲ云ヘルナリ）江戸[illegible]

いけ-べ　（名）［池邊］　いけのべヲ見ヨ。

いけ-ま　（名）［生馬］　〔ばちぇらあ氏ノ蝦夷(アイヌ)語辭書ニ、Ikema. 蔓草ノ名トアレバ、蝦夷語ナラムトモ思ハルレド、此草、内地ニ野生アリ、其根、諸病ニ效アリトシ、馬醫、專ラ用キルニ因リテ、生馬ト稱スルトモ云ヘバ、内地名ノ、蝦夷ニ移リタルカトモ思ハル、其土人モ諸病ニ用キルナリ〕　蘿藦(ガガイモ)科ノ蔓生ノ宿根草ノ名。山林、原野ニ自生ス、莖ハ、細長クシテ、他物ニ纏フ、紫色ヲ帶ブ、葉ハ、對生ニテ、卵形ヲナシテ、頂尖ル、夏、葉腋ヨリ長梗ヲ出シテ、繖形花ヲツヅル、五瓣ニシテ淡黃色ナリ、實ハ、長サ三寸許、兩端尖ル、熟スレバ、裂ケテ、種子飛散シテ白絮ヲ生ズ、根ハ肥大ニシテ、黑ク、味苦シ、山民コレヲ消食、解毒、血症ノ藥ニ用キ、又、種ニ作リ、救荒ノ食トス。牛皮消[illegible]

いけ-みぐさ　（名）［池見草］　〔池ニテ見ル意カ、花ノ美ナルニ見ヤラルル意カ〕　蓮(ハチス)ノ異名。　[illegible]玉集（應永、二條良基）夏、池見草、[illegible]影ウツム、花ヤ[illegible]、いけみ[illegible]ニカカリテ、青葉見エツツ」（夜鶴草、八ニハ、影映すトアリ）

いけ-みづ　（名）［生水］　いけ（池）ノ條ノ語原ヲ見ヨ。

い-けん　（名）［意見］　[illegible]所、意也、見者、見也」存　寄ナリ」　（一）人人ノ心ニ思ヒ所ルコト。ココロバヘ。ミコミ。　[illegible]　（二）人ノ非ニ心ヅキタル時、我ガ意見ヲ述ベテ、諫ムルコト。（意見封事ノ、意見ナリ）今、多クハ、卑屬ニ對シテ戒メ諭スニ云フ。規諫(イサメ)。戒飭。　倭訓栞、いけん「人ニいけんヲ云フハ、意見ナルベシ、異見ニハアラジ」「放蕩息子ニ意見ヲ加ヘル」

い-けん　（名）［異見］　他人ニ異ナル意見。異存。異論。異議。　水經、注「莫ᆞ不ᆞ返[illegible]以[illegible]異見[illegible]」[illegible]「五生二異見二」

いけん　（句）　次次條ヲ見ヨ。

いけん-ふうじ　（名）［意見封事］　〔存寄言(ゾンジヨリ)上ナリ〕　諸臣ノ、意見ヲ書シテ、密封シテ奉ルモノ。國家ニ事アル時ハ、求言ノ勅書ヲ降シ、公卿、諸道博士、諸司長官等ヲシテ、獻ゼシメラレキ、醍醐天皇ノ延喜十四年ニ直言ヲ求メタマヒシ時、三善清行ノ意見十二箇條、村上天皇ノ朝ニ、菅原文時ノ封事三箇條等、著シキモノニテ、本朝文粹ニ載セラレテアリ。　公式令、義解、意見、封事「凡有ᆞ事、陳二意見ᆞ欲ᆞ封進ᆞ者、[illegible]封上、少納言受得奏聞、不ᆞ須ᆞ開看ᆞ」註「是志在ᆞ忠正ᆞ[illegible]之利害ᆞ者也、凡意見、密封者、云云、直上ᆞ二大政官ᆞ不ᆞ由ᆞ中務省ᆞ云云」　新儀式、五、意見、封事[illegible]名二下給、云云」

い・ける　ケル・ケレ・ケ・ケ・ケヨ（自動、下一）［得］　成（[illegible]）成き得るノ約、成(ナ)くノ條ヲ見ヨ、（書き得る、かける）」成シ得ル。オコナハル。デキル。「ウマクいける」ヨクいけタ」打消ニ、「いけズ者」いけヌ」いけン」いけナイ」

い・ける　ケル・ケレ・ケ・ケ・ケヨ（他動、下二）［埋］　（下二段活用ノ、生(イ)くノ口語、其條ノ（二）ヲ見ヨ、倭訓栞、いける「插花ニ云フハ、生るノ義也、炭火ニいけるト云ヒ、モ、[illegible]ノいきながらナド云ヘバ、義、同ジ、物ヲ地ニ埋ムヲ、スベテいけるト云フモ、生類ヨリ出デタル調ナル[illegible]」　（一）埋(ウヅ)メオク。（香爐ヲ、ひいけト云ヒ、生火(イケビ)ト云フ語モアリ）「炭火ヲ、灰ノ中ニいける」　（二）土中ニ植エ立ツ。植　「種卞ヲ[illegible]ニいける」柱ヲ地ニいける」

い・ける　ケル・ケレ・ケ・ケ・ケヨ（他動、下二）［插］　（生(イ)く（下二段活用）ノ口語調、水ニ活(イ)カシオク」　花枝ヲ、瓶ノ水ニ插シオク。「牡丹花ヲ、花瓶(ハナイケ)ニいける」

いける-かぎり　（名）［生限］　生キテアル内。一生。　生涯。[illegible]、廿一、少女「[illegible]ヲ得テ、老ノいける限りノ[illegible]ト思ヒテ、[illegible]ニツケテ、老ノムツカシサモ思メム」續拾遺集、十八、雜、下「思(ウツツ)ノ、身ノアラマシニ、見ル夢ヲ、いける限りノ、現トモガナ」

いける-かひ　（名）［生詮］　身ノ、生キテ居ル效力(イキガヒ)。　貫之集、五「[illegible]ケタテバ、マヅ[illegible]ノ、[illegible]ミ、絶エテ逢ハズバ、ナ[illegible]いけるかひ」　[illegible]、三十四、下、[illegible]「住(スミ)江ヲ、いけるかひ（貝ニカク）アル、渚トハ、年經ル海人モ、今日ヤ知ルラム」　新續古今集、十八、雜、中、人數ニ、アラズなる身ノ、（鳴海ニカケタルカ）あまナレバ、いけるかひヲモ、エコソ拾ハネ」

いける-じやうど　（名）［生淨土］　此世ニテノ極樂。　[illegible]、十五、[illegible]ノ[illegible]八[illegible]ニ參リテ侍リツルナリ、イトカシコウ、いける淨土ノ莊嚴ニ劣ラズ、イカメシウ、オモシロキコトドモノ限リヲナム、シタマヒマツル」[illegible]、いける淨土、[illegible]十[illegible]」

いける-ともなし　キ・ケレ・ク・ク（形、二）［無生氣］　〔とハ、利しノ語根、利心(トゴコロ)ノ意ト云フ（木村氏）〕　生キテ[illegible]、心地モ[illegible]。[illegible]

いける-ホトケ　（名）［生佛］　生身(ナマミ)ノ如來。イキボトケ。　源、廿三、初音三「春ノ御殿ノ御前、[illegible]ノ香モ、[illegible]いける佛ノ御國トオボユ」[illegible]十二、[illegible]シクモシツルカナト、コレノミゾ、いける佛ハ、シルシアリテ、覺エタマヒケル」

いける-み　（名）［生身］　生キテアル身。生身。　拾遺集、十一、戀、一「戀死ナム、後ハ何セム、いける身ノ、タメコソ人ハ、見マクホシケレ」　源、十五、[illegible]「いける[illegible]、カク、[illegible]ルタグヒハ、侍ラズヤアラム」

い-ゐ　（名）［飯櫃］　〔飯櫃(イヒビツ)ノ約、[illegible]〕　イヒビツ。（京都）メシバチ。オハチ。　[illegible]言集覽、いゐ「京師ニテ飯櫃ナリ、いひびつヲ云フ」下[illegible]ニテモ、飯器ヲいゐト云フ、飯笥(イヒケ)ノ轉カト云ヘリ」

い-ご　（名）［以後］［已後］　コレヨリ、後(ノチ)（以前ニ對ス）以來。　史記、三皇本紀「自ᆞ人皇ᆞ已後、[illegible]」

い-ご　（感）［咿唔］　讀書スル聲。吾伊トモ云フ。[illegible]

歌一首、題ニ寄ニ吾伊、比ニ月見、月ニ寄ニ竹枝ニ 正字通「伊吾、吟咏聲、亦作ニ咿唔ニ 顏書「書聲咿唔」、讀書聲也。口吾讀ノ書、故有ニ咿聲ニ」(故事熟語大辭典)

✣✣いおか・す (動) 〔次次條ヲ見ヨ〕 うおかすニ同ジ。

い-こく (名) 異國 コトクニ。アダシクニ。己ガ國ト異ナル國。異邦 外國 左傳、莊公廿二年「此其代」陳有」國乎、不」在」此其在ニ異國ニ」 平家物語、五、都遷事「異國ノ軍ヲシヅメサセタマヒテ」(神功皇后ノ征韓ヲ云フ) 太閤記抄、七「條奉龍、東西ニ、津輕領ト申ス所候、異國ノ人ノ參レル時、罷ル所ニテナム候ヒケル」 天保集成綏論錄、百五、寛政三年九月「先頃、筑前長門石見之沖ニ、異國船一艘、漂流之樣子ニテ、云云」

✣✣いご・く (動) 動 〔うごくト通ズ(魚、いを。発缺、いくち)〕 うごくニ同ジ。「電車、いごきマス」 名詞形ニ、いごきがない、いごきが取れぬナド云フハ、金錢ナドノ融通ノ利カヌヤウニナレルヲ云フ。

いこく-ばり (名) 異國張 〔安政ノ頃、長崎ヨリ流傳シ來レリト云フ、阿蘭陀法ナド云ハムガ如キカ〕 故衣ヲ洗張シテ、新ナルガ如クスル、一種ノ工。

いこ-ぢ (名) 〔えこぢノ轉、いぬお、えのお(狂)〕 依怙地ノ轉。其條ヲ見ヨ。

いこじ (名) 根掘ノ條ヲ見ヨ。

い-こつ (名) 醫骨 〔骨法ノ條ヲ見ヨ〕 醫術ノ骨法。醫道ノ心道。 沙石集、二、上、第一條「或ル在家人、山寺ノ僧ヲ信ジ、云云、藥マデモ問ヒケリ、此僧、醫骨モナカリケレバ、萬ノ病ニ、藤ノ瘤ヲ煎ジテ召セトゾ教ヘケル」 庭訓往來、十一月十二日「爲ニ療治ニ、灸治鍼トニ招ニ尋醫骨之仁ニ候、藪藥師醫者、聞見來歟、和氣丹波之典藥、曾以難ニ逢候」

いごの・ふ (動) 伊碁能布 〔のふハ、償ふノ、のふニ同ジト云フ説アレド、下ノ松屋筆記ニ據レバ、活用異ナルコトトナル、トニモカクニモ、古事記ニ、唯一處、見ユルノミノ語ナレバ、斷ゼラレズ〕 不可解ノ語ナリ、古事記、中、七ニ「エエシヤコシヤ」ト云フ語ヲ解キテ「此者伊碁能布ゾ」ト見ユ、賀茂氏ノ説ニハ、息ふナリト云ヘリ(本居氏ノ説ハ、氷解セラレズ)又、松屋筆記(高田與清)七十一ノ五ニ、散木集、三、秋の田「山里ハ、いでいこのへる、(出息延ヘル)袂ニモ、風ソヨメキテ、袖シボルナリ」(其書ヲ見ヨ)ヲ擧ゲテ、此語ノ解ニ參セリ、亦、氷解セラレザレド、參考トシテ記ス、此語ノ語原、確定セザレバ、古事記ノ上ノ句モ、説キ得ズ。

いこ・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (自動、四) 息憩 〔息養ふノ略轉(氣噴、いぶき。轟、とどろかし。屈む、おおむ)喘グ息ヲヤシナフナリ〕 息ヲ繼ガムト、休ム。休息ス。 萬葉集、一 廿九 長歌「川ノ氷凍リ、冱ユル夜ヲ、息ふコトナク、通ヒツツ」 字鏡「憩、息也、伊己不」 白氏文集、六、遊ニ悟眞寺ニ詩「首憩ニ賓位亭ニ」

いこ・ふ・フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ (他動、下二) 息 〔前條ノ語ノ他動(艶ふ、いろふる)〕 息ハシム。休ムル。 仁德紀、四年三月「自」今之後、至」于三載、悉除ニ課役、息ニ百姓之苦ニ」

いこも・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 齋籠 〔齋籠ノ條ヲ見ヨ〕 齋戒シテ、籠居ス。 江家次第、十九、賭弓事「前一日夜、忌ニ籠可」然所ニ」 名義抄「齋籠、イコモル」 字類抄、人事「齋、イコモル」 山家集、上「不」尋聞ニ子規ニ「時鳥、卯月ノいみニ、いこもるヲ、思ヒ知リテモ、來鳴クナルカナ」

いこよか-に (副) 岐嶷 いよやかにヲ見ヨ。

いさ (名) 鯨 〔勇ノ義ニモアルカ〕 鯨ノ一名。 壹岐國風土記「鯨伏郷、云云、俗、鯨爲ニ伊佐ニ」(仙覺萬葉抄、二)

いさ (副) 不知 〔倭訓栞、いさ「いなト通ヘリ、否ノ義ナリト云ヘリ」 萬葉集、一二廿「不言ト言ハムカモ」古寫本ニ、不知ニ作レリト云フ、同、三卅「不聽ト云ヘド」(次條(不ニ聽許ニノ意)此語ハ、清音ニテ、(次條ノ率ト混ズベカラズ)いさ知らず、ト熟語トナルベキ語ナリ、サルニ、常ニ然言馴レテハ、終ニ下略シテ、いさトノミモ云フ、因リテ、不知ノ字ヲ、直チニ、いさニ用キルニ至レリ、足引の山、足引の(山ノ)木間、ぬばたまの夜ナルヲ、ぬばたまの(夜ノ)月、ト云フガ如シ〕 知らずト云フ語ニ冠ラセテ云フ語。いいや、どうぢゃやらノ意ヲ成ス。知らずヲ略シテ、いさトノミモ云ヒテ、ナホ、知らずノ意トナル。 枕草子、七、六十八段、なぞなぞ合「いさしらず、サラバ莫賴マレソ」 濱松中納言物語、二「姫君ナドヲ、いさしらずト、オボメキタマフベキ御事ニアラジ」 古今集、一、春、上「人ハいさ、心モ知らず、古郷ハ、花ゾ昔ノ、香ニ匂ヒケル」 神功皇后紀「答曰、有 無 不知焉、遂不ニ言ニ且有ニ神矣」 萬葉集、十一 三十「狗上ノ、(近江國、犬上郡)鳥籠ノ山ナル、不知也河、(序)不知トヲ聞セ、吾ガ名告ラスナ」(をハ、カヲ入レテ云フ辭、知ラズト宣ヘ、ノ意ナリ) 落窪物語、二「何ノ名ゾ、落窪、ト云ヘバ、女、イミジウ恥カシクテ、いさト應フ」

い-ざ (感) 率去來 〔いハ、發語、さハ、誘フ聲ノ、ささ(さあさあ)ノ、さナリ、いざいざト重ネテモ云フ、(伊彌、いや。伊莫、否)發語ヲ冠スルニ因リテ濁ル、伊弉諾尊、誘ふノいざ、是レナリ、率ノ字ハ、ひきゐるニテ、誘引スル意、開化天皇ノ春日率川宮モ、古事記ニハ伊邪河宮トアリ、去來ノ字ヲ記スハ、かへんなむいざノ條ヲ見ヨ〕 (一)人ヲ誘フ時、又ハ、心ノ進ム時ニ、先ヅ發スル聲。いざいざ。イデ。サア。 神武紀、二「天神子召」汝、怡奘過〔いざわノ條ヲ見ヨ〕 古事記、中(景行)「吾トイザ、伊奢合ニ刀」 雄略紀、二「去來穗別天皇、去來、此云ニ伊弉ニ」 萬葉集、六 廿「去來子ドモ、香椎ノ潟ニ、白妙ノ、袖サヘ濡レテ、朝菜摘ミテム」 雲景記、中、第三景「率、イサ」 古今集、二、春、下「いざ櫻、吾レモ散リナム、ヒトサカリ、アリナバ人ニ、憂目見エナム」 同、十七、雜、上「鏡山、いざ立寄リテ、見テ行カム、年歷ヌル身ハ、老イヤ死(一説、爲)ヌルト」 宇治拾遺、十四、十一條「女房ドモ、コレヲカシキ事ニテアルカ、アルカト、いざいざ笑ハムナド、アザケルヲ」 いざさらばト云フハ、イデ然ラバ、サアソレナラバノ意。 公忠集「いざさらば、今日明日歷ナム、秋ノ空、今幾日カハ、野邊ニ殘ラム」 月詣集、四「ホトトギス、待テド來鳴カズ、いざさらば、思ヒ思ヒニ、行キテタヅネム」 コレヲ略シテ、いざさばト云フ。(さまらばれヲ、さばれト云フガ如シ) 續後拾遺集、十七、雜、下「住ミワビヌ、いざさば我レモ、隱レナム、世ハ憂キモノゾ、山ノ端ノ月」 いざせト云フハ、いざ爲よナリ。古格ハ、よナクトモ、命令形ナリ、誘ヒ立テテいそげノ意ナリ。 萬葉集、十四 三廿「麻苧ヲ、苧笥ニ多ニ、績マズトモ、明日キセザメヤ、伊射西小床ニ」 續紀、二十、天平寶字元年七月、詔「此事、倶佐西ト伊射奈布ニ依リテ、倶佐西ムト、事ハ許シテ」(倶ハ、伊ノ誤ト云フ) いざさせたまへト云フハ、いざ爲させたまへノ略、いそぎたまへノ義ニテ、おはしませノ意ナリ。 宇津保物語、嵯峨院、た、八十「いざさせたまへトテ、率テ入リテ」 和泉式部集「いざさせたまへ見ム、ト宣ハスレバ」 宇治拾遺、一、十八條「いざさせたまへ、湯浴ニ、大夫殿」 いざたまへト云フハ、

いざさせたまへヲ、更ニ略シタルナリ。(畏附く、かしづく) 宇津保物語、俊蔭 五十「外ニ、いざたまへ、麻呂ガマカル所へ」源、九、葵 十「祭、云云、いざたまへ、モロトモニ見ムヨ」狹衣、一、下 廿六「昔無ノ里、尋出デタラバ、いざたまへヨ」(オハシマセ) 梁塵祕抄(後白河院御製)二、雜「いざたまへ、隱殿、大津ノ西ノ浦へ、雜魚搔ニ」 いざかしト云フハ、いざたまへかしノ略。枕草子、五、五十段「いざたまへかし、内へ」源、五、若紫 七 三十「いざかし、寢ブタキニ」和泉式部日記「ウツロハヌ、常葉ノ山モ、紅葉セバ、いざかし行キテ、ノドノドト見ム」(二)いざかまくらノ條ヲ見ヨ。

いさい (名) 異采 尋常ト異ナレル彩色。尹文子「昔、齊桓好衣レ紫、四境不レ鬻二異采一」白居易、繚綾歌「異采奇文相隱映」

いざいざ (感) 率率 前前條ノ(一)ヲ見ヨ。

いさう (名) 異相 尋常ニ異ナル人相。老學庵筆記「李順、逃至二荊渚一入二一僧寺一有レ僧熟視曰、汝有二異相一當レ爲二百日偏霸之主一」盛衰記、三十九、重衡讃二法然房一事「此法然上人ト申スハ、云云、生レテ異相アリ、拔萃ニシテ聰敏也」

いざうれ (感) うれ(感)ノ條ヲ見ヨ。

いざかし (句) 率ノ條ノ(一)ヲ見ヨ。

いさかひ (名) 諍 〔次條ノ語ノ名詞形〕(一)クチアラソヒ。イヒアヒ。口論。榮花物語、廿一、後悔大將「異公達ハ、遊ビいさかひナド、セサセタマフ」(二)喧嘩。タタカヒ。爭鬪 宇津保物語、藏開、中 廿「イミジキ御いさかひアリテ、御衣引キ破ラレ、ヨロヅノ所、搔キ毀ハレタマヒテ」大和物語、中「人ノいさかひスル音ノシケレバ、云云、嫉キ者、打殺シ侍リヌ」字類抄「鬪、イサカヒ」平家物語、十一、志度合戰事「いさかひ果テノ乳切木カナトゾ笑ハレケル」(義經、既ニ四國ヲ攻落シテ後ニ、梶原景時、兵ヲ率キテ來リシナリ)コレハ、期ニ後レテ用ヲナサズト云フ諺ナリ、六日の菖蒲ト同意、今ハ、喧嘩過ぎての棒乳切ト云フ。

いさかふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (自動、四) 諍 〔いハ、發語、言逆ふナリ(そひなる、そなるる)〕(一)言ヒ爭フ。言合フ。口論ス。源、四十九、東屋 二「歎カシク、恨メシキ事モナク、互ニ打チいさかひテモ、心ニアハヌコトヲバアキラメツ」月詣集、九「粟田讃岐守兼房、りきト云フ遊女ヲ思侍リケルガ、いさかひテ、家出シタリケルニ」(二)轉ジテ、鬪フ。喧嘩ス。爭鬪 大和物語、中「イミジウ鬪ノ如、いさかふナリ、云云、嫉キ者、打殺シ侍リヌ」名義抄「鬪、競、イサカフ」

いざかまくら (名) 率鎌倉 〔率ノ條ヲ見ヨ〕スハヤ、大事起リタル時ト云フ意ニ云フ語。謠曲、鉢木「只今ニテモアレ、鎌倉ニ御大事アラバ、云云、一番ニ馳セ參ジ」(佐野源左衛門ガ、行脚僧、即チ、最明寺時賴ニ云フ詞)

いさかる (動) 離 〔いハ、發語、離るノ語原ヲ見ヨ、積ノ字ヲ記シタルハ、さかト音轉シタルナリ、萬葉集、十一 六「百積ノ船」(尺ノ條ヲ見ヨ)倭名抄、五 九「陸奧國、安積郡、阿佐加」ナド、是レナリ〕離るト云フニ同ジ。ハナル。萬葉集、一 三十 額田王下二近江國一時作歌、長歌「アヲニヨシ、奈良ノ山ノ、山ノ閒ニ、伊隱ルマデ、道ノ隈、伊積流マデニ、委曲ニモ、見ツツ行カムヲ」舊訓、伊積流トアリ、萬葉集略解(橘守部)五 二四 ニ「ハヤク、若沖、似閑、共ニ、いさかるト訓 改メタリ」トアリ。

いさき (名) 鷄魚 鯆魚 〔いしさき、いつさき、ノ異名アレド、語原、詳ナラズ、梧桐ノ異名ヲ、葉ノ形ニ因リテ、五尖、又、いさきト云フ〕海魚ノ名。長、一尺ニ至ルアリ、形、めばるニ似タレド、稍圓クシテ、口小サシ、總身、暗褐色ニシテ、體側ニ、茶褐色ノ縱線、三條アリ、脊鰭、相連リテ、十數條ノ刺アリ、夏ヨリ秋ノ閒ニ、多ク食フベシ。本朝食鑑(元祿)八「伊佐鷄魚、名義未レ詳」大和本草(正德)十三、海魚「いさき長一尺バカリ、其形、めばるニ似テ長シ」

いさき (名) [illegible] あなぎらノ條ヲ見ヨ。

いさぎよ・し・キ・ケレ・ク・ク (形、二) 潔 清 〔甚清しノ音轉ナルベシ(腐る、くさる。塞ぐ、ふさぐ。段、きだ)〕(一)〔甚ダ清シ。〕崇神紀、六十年七月「[illegible]、曰、[illegible]清冷、願欲二共游沐一」千載集、十九、釋教「いさぎよき、池ニ影コソ、浮ビヌレ、沈ミヤセムト、思フ我ガ身ノ」字類抄「淨、清、イサギヨシ」(二)〔轉ジテ、志操、清清シ。〕腹ギタナクナシ。廉潔 垂仁紀、五年十月「有二五婦人一志並貞潔」孝德紀、大化二年正月「郡司、並取下國造性識清廉、堪二時務一者上爲二大領小領一」(三)再轉シテ、卑怯レズ。甚ダ勇シ。精悍「いさぎよき決心」「いさぎよき討死」不屑ト云フ漢語ヲ、いさぎよしとせずト訓ムハ、詩經ノ註ニ、不屑ハ、不潔トアルヲ、字ニ就キテ訓讀シタルニテ、眞意ハ、不用、又ハ、不要、用キズ、要ラズ、カマヒツケズナリ。詩經、鄘風、君子偕老篇「鬒髮如レ雲、不レ屑レ髢也」註「屑、潔也、人少レ髮則以レ髢益レ之、髮自美則不レ潔レ於レ髢也」髢、音弟」(入髮ナリ) 正字通「凡過二事物一輕視不レ加レ意、曰二不屑一」孟子、告子、下篇「孟子曰、教亦多レ術矣、予不屑之教誨也者、是亦教二誨之一而已矣」(自發シテ思ハシムルナリ)

いさ・ぐ・グル・グレ・ゲ・ゲ・ゲヨ (他動、下二) 射下 的ノ下へ、矢ヲ射中ツ。中原高忠軍陣聞書(足利義政臣)「射さげハヅスベシ、空嘯射ル時、的ノ下へいさげテ、云云」

いさくさ (名) 紛糾 〔行くさ來さノ約ナラムカ、(かくばかり、かばかり)時代懸隔ノヤウナレド、いくさくさト云フ語、連歌、俳諧ナドニハ、稀ニ用ヰテアリシナリ、[illegible]〕[illegible]雙方ノ意思ノ纏レテ、打解ケヌコト。モツレアヒ。[illegible]「近時ノ口語ニ云ヘリ」「いさくさガ起ッタ」いざこざガ[illegible]ク治マッタ」

いさご (名) 沙子 すなごヲ見ヨ。

いざござ (名) 前前條ヲ見ヨ。

いさごむし (名) 沙蟲 蟲ノ名。清流ノ水底ニ棲ミ、沙ヲ集メテ巢ヲ作リテ居ル、形ハ蛹蛹ニ似テ、[illegible]、頭ハ小サクシテ、脛ノ節ニ、毛刺多シ、捕リテ釣ノ餌トス、げなト云フ。石蠶 重訂本草、下四十一「石蠶、伊佐古無之」重修本草綱目啓蒙、廿七「石蠶、古名、イサゴムシ、京都、ゲナ」

いささ (接頭) 細小 〔いハ發語、ささハ、細小ノ義、(海中ノ岩ヲ、いくりト云フ)〕ささ波、ささ栗 イササカナル。ササヤカナル。萬葉集、十九 四十「我ガ宿ノ、伊佐左村竹、吹ク風ノ、音ノカソケキ、此夕カモ」(かそけきトハ、かすかなるナリ)夫木抄、廿六、水、藤原長方「門ノ、いささをがはノ、眞清水ノ、(序)マシテゾ思フ、君ガ人ヲバ」新六帖、二「片山ノ、いささ小川ノ、石傳ヒ、(序)心細ソクモ、世ヲ過スカナ」

いさざ (名) 鯆魚 〔細小魚ト云フガ成語ナルベシ、前條ヲ見ヨ〕(一)海産ノ小魚。攝津ノ兵庫ニテハ、李作ニ、布引ノ海磯ニ布キテ採レリト云フ、體長、一寸許ニシテ、白クシテ微黑ヲ帶ビ、水ト一色ナリ、目睛、黑ク、纖、精滑ニシテ、泥鰌ノ如シ。此魚ヲ煮テ乾シタルヲ、ちりめ

んざこ(鰯細雜魚)ト云ヒ、又、薄ク板ノ如ク拵ヘテ乾シタルヲ、東京ニテ、志らすぼし、(白素乾)又、たたみいわし(疊鰯)ト云フ。和爾雅(元祿)六「鱵魚」重修本草綱目啓蒙(享和)廿九「鱵魚、一名、鷺毛魚、いさざ、ちりめんざこハ、是レ鷺毛鱉ナリ」(二)又、近江國、和邇ノ地ノ湖水ニ產ズル淡水魚、幷ニ、越前國、足羽川ニ產ズル河魚ヲ、共ニ、いさざト云ヒ、又、一名、さのぼりトモ云フ。

〜いささか (副) |聊| 〔次條ノ語ノ下略ニテ、(何ぞ、なぞ)少シ意ヲ變ジタリ、倭訓栞、いささか「素冠詩注ニ、聊、不敢博大之辭ト注ス」〕ワヅカバカリ。些少。雄略紀、九年五月「小事」枕草子、二、二十段「格子ノアガリタレバ、御簾ノ端ヲいささか上ゲテ」源、四、夕顏三十「マダいささか變ハリタル所ナシ」同、三十八、夕霧六十「いささかノ暇ヲダニト、イミジウ聞エタマヘド」

〜いささかみ (副) |聊| 〔細小ニ、副詞ヲ形作ル接尾語ノ、かみノ添ハリタル語、(あたたかみ、志たたかみ)博雅「聊、苟且也」〕カリソメニ。率爾ニ。ツイチョット。萬葉集、十九廿「伊佐佐可爾、思ヒテ來シヲ、多胡浦ニ、(越前)咲ケル藤見テ、一夜經ヌベシ」源、三十一、槇柱廿「姬君、檜皮色ノ紙ノカサネ、タダいささかみ書キテ」拾遺集、二十、哀傷「櫻ノ花盛ニ、家ノ花ヲ見テ、いささかみ思ヒヲ述ブト云フ題ニテ」後拾遺集、序「近キ世ノ歌ニ、心ヲトドメムコト難クナムアルベキ、然ハアレド、後見ムタメニ、云云、いささかみ此集ヲ撰ベリ」

〜いささけ・し・キ・ケレ・ク・ク (形、二) |些少| 〔いささかヲ轉音シテ活用セシム(靜、志づけし。遙、はるけし)〕些少ナリ。スコシバカリナリ。神武紀、七「親率二皇兵一」續紀、廿四、天平寶字六年六月、詔「小事

ハ、今ノ帝行ヒタマヘ」土佐日記、正月四日「まさつら酒好キ物奉レリ、云云、いささけ事セサセズ、物モナシ」(土佐ノ海ノ泊船中ノ事ニテ、些少ノ報酬モ爲シ得ヌヲ云ヘリ)

〜いささこ (名) |魦| 〔細小子ノ義カ、さハ、添ヘタル辭(うるりさ、すもりさ)〕氷魚。いささひを。天治字鏡、九、三「魦、比乎、又、伊佐佐古」倭名抄、十九、八「魦、氷魚」箋注倭名抄、八三「魦、出雲國謂之伊佐佐、又、伊佐佐比乎」

〜いざさせたまへ (句) 率ノ條ノ(一)ヲ見ヨ。

〜いざさば (句) 率ノ條ノ(一)ヲ見ヨ。

いささひを (名) |魦| ササヤカナルひを。いささこ(魦)ヲ見ヨ。

いささむらたけ (名) |細小叢竹| ササヤカナル竹叢。いささノ條ヲ見ヨ。

いさざめ (名) 魚ノ名。體長二寸弱、體形長ク、鱗ナク、粘液アリ、體色白ク、腹側ニ七個ノ黑點アリ。十月頃、川ヲ溯リテ產卵ス。

〜いささめみ (副) |率爾| 〔いささめハ、細小間ノ轉カ(雨、あま。かりさま、かりそめ)〕カリソメニ。イササカニ。率爾ニ。チヨット。萬葉集、七、四十「眞木柱、作ル杣人、伊佐左目丹、假庵ノタメト、作リケメヤモ」同、十五、五十「率爾、今モ見ガ欲シ、秋萩ノ、(如ク)撓ニアラム、妹ガ光儀ヲ」(二ハ、豆ノ誤ナラムト云フ) 大和物語、下「いささめみ、吹ク風ニヤハ、靡クベキ、野分過シシ、君ニヤハアラヌ」

〜いざさらば (句) 率ノ條ノ(一)ヲ見ヨ。

いささをがは (名) |細小小川| ササヤカナル小流。いささノ條ヲ見ヨ。

〜いさしらず (句) 不知ノ條ヲ見ヨ。

〜いざせ (句) 率ノ條ノ(一)ヲ見ヨ。

〜いざたまへ (句) 率ノ條ノ(一)ヲ見ヨ。

〜いさ・ちる (動) |泣| 次條ノ語ノいさつるニ同ジ、知ノ字ヲ、都ノ音ニ用キタルナリト云フ。古事記、上、十八「詔二何由汝哭伊佐知流一」(二(眞文、伊弉諾尊ノ、素戔嗚尊ヘノ御詞ナリ)舊印本ニハ、コノ知ノ字ニ、都ト、訓ヲツケテアリト云フ。欽明紀、十五年十二月「飼馬、坂、苦都」註「更名、谷智」碩鼠漫筆、四、伊佐知流「儀式、卷三、大嘗祭中ニ、知岐黑綿一屯トアル、知岐ハ、罰ナルベキ事著シ」倘、荒ぶノ條ノあらびる、又、うれふ(憂)ノ條ノうれひヲ見ヨ。

〜いさ・つ・ツル・ツレ・チ・チ・チヨ (自動、上二) |泣| 泣くノ古言。神代紀、上、二「常以啼泣爲行」古事記、上、十一「啼伊佐知岐」垂仁紀、廿三年九月「年既三十、云云、猶泣如兒」雄略紀、十四年四月「不覺涕垂哀泣」八雲御抄、四「いさつる、泣也」いさち、泣也」倭玉篇(長享)「泣、イサツ、ナク」

〜い・ざと・し・キ・ケレ・ク・ク (形、二) |寢聰| 〔寢ノ條ヲ見ヨ、語彙、いざときノ目ノ覺ムル事ノ疾きヲ云フ〕眼覺メヤスシ。よざとし。(いぎたなしノ反)メザトシ。源、六、末摘花廿四「凄ウ、ウタテ、いざとき心地スル夜ノサマナリ」同、五十、浮舟六十七「殿居ニアル者ドモノ、云云、乳母ノ、いざときコトナドモ語ル」枕草子、六、六十二段、はづかしきもの「いざとき夜居ノ僧」倭訓栞、いざとき「俗ニよざときト云ヘリ」增補雅言集覽、いざとし「中島廣足云、肥後ノ俗ニ、よざとくト云ヘリ」

〜いさともいさや (句) イヤヂヤゾ、イヤヂヤゾ。イナヤ、イナヤ。後撰集、十八、雜、四「世ノ中ハ、いさともいさや、風ノ音ハ、秋ニ秋ソフ、心地コソスレ」

〜いさとよ (句) 〔不知と云フよ、ノ義ニモアラムカ〕イナトヨ。イイヤ。イヤモウ。源、三十四、下、若菜、下、三十八「ト聞ユレバ、いさとよ、(宮ノ詞)見シホドニ、(文ヲ)入リ給ヒシカバ、(源氏ノ)フトモ、エ起キアヘデ、サシ挾ミシヲ、忘レニケリトノ給フニ」拾玉集、七「打チシグレ、サビシキ宮トナリニケリ、いさとよ秋ノ、鹿鳴カズトモ」

いさな (名) |磯魚| 〔磯魚ノ轉、ささやく、ささやく。(密語)魚肆ヲ、いさばト云フモ、磯魚場ノ約ナリ〕磯邊ノ魚。俗語考(橘守部)いさばし、中原集「いさな捕ル、夏ノ小川ノ、柳蔭、イザヤ童子ニ、借リテ涼マム」草根集(長祿、徹書記)六、鷺立汀「淺瀨行ク、いさな捕ルトヤ、夢ニサヘ、汀(見るト、汀トニカク)ノ鷺ノ、眠リ立テルハ」打チムレテ、鵜ノ居ル川ノ、水際ニ、オノレサバシル、いさな白鷺」

〜いざなぎのみこと (名) |伊弉諾尊| 〔みことノ條ヲ見ヨ、いざなハ、誘ふノ語根、きハ、君ノ略、(吾君、あぎ)伊弉冊尊ノ、みハ、女君ノ約略、(神魯伎命、神魯美命、同ジ)古事記ニ、伊邪那岐神、伊邪那美神、トアリ、互ニ誘ヒ合ヒテ夫婦ト成リタマヒシニ因リテ、稱シマツルナリ、諾ヲ、なぎト云フハ、字ノ音、諾、奴各反、吳音、なく、にやくノ轉、冊ハ、冉ニ同ジ、奴甘反、吳音ニテ、なむノ轉ト云フ、(南、なみ。曇、つみ)木村正辭ノ欄齋雜攷ニ、微細ニ說キテアリ〕神代ノ神ノ御名。御妻ヲ伊弉冊尊ト申シ、天地ノ開闢ニ、國土、山海、草木ヲ成シ、天照大神ヲ生ミタマヘリ。神代紀、上、六「二神巡レ柱、陽神自レ左、陰神自レ右、既遇之時、陽神先唱曰、姸哉、可愛少女歟、陰神後和之曰、姸哉、可愛少男歟」

〜いさなどり (枕) |伊佐魚取| 〔磯魚捕ノ轉、前前條ヲ見ヨ、(橘守部ノ說)漁ト同意、鯨ト書ケルハ、鯨ニ、伊佐ノ名モアルニ因リテ、當字トシタルナリ、鯨ノ、濱、又ハ、湖ニ居ルベキニアラズ〕海、

繼演、謝ノ祝詞 [illegible]

[illegible]

いざな・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ(他動、四) 誘 〔率ヲ、活用セシム、(珍なふ、宜なふ)いざト云ヒテ、引立ツルナリ〕誘フ。モヨホシタツル。誘引ス。萬葉集、十七 長歌「丈夫ノ、友伊射奈比テ」字鏡「佐、勸也、於人、伊佐奈不、又、佐會不」同「率、伊佐奈不」萬葉集、九 長歌「率而、少女、壯士ノ、往キ集ヒ」續紀、廿六、天平神護元年三月、詔「人ニモ伊佐奈方レズ、人ヲモ伊佐ハズ」源、十五、蓬生「此君ヲ、ナホモいざなはムノ心深クテ」

いざなみ-の-みこと (名) 伊弉冊尊 いざなぎのみことノ條ヲ見ヨ。

いさ-は (名) 斑葉 〔似非葉ノ轉ニテモアルカ、(癩、えのご、せぜらぐ、ささら ぐ)尙、考フベシ〕斑入ノ葉。植物ノ葉ニ、線、點ノ色彩ヲ現出スルモノ。斑入ノ條ヲ見ヨ。倭訓栞、いさは「關東ニテ、文入ノ葉ノ、半ばナルヲイヘリ」

いさ-ば (名) 魚肆 〔磯魚場ノ約、(磯魚ノ條ヲ見ヨ)倭訓栞、いさば「今、魚肆ヲ云ヘリ、磯場ノ義ニヤ」俗語考(橘守部)いさばし「魚あきなひスル者ヲ、いさば師ト云フ、いさばハ、いさ魚場ニテ、魚捕ル獵場也」五十集ト書クハ、五十ヲ磯ニ集ムルナド云フ當字ナルベシ、又、いさば師ノ、しハ、爲ノ義(弓し、矢し、鑄物し)〕魚ヲ商フ處、專ラ、乾魚、醃魚ニ云フ。コレヲ生業トスル者ヲ、いさば師ト云ヒ、其商店ヲ、いさば屋ト云フ。

[illegible]

いさ-ば (名) 磯邊府ノ略轉カト云フ、志陽略誌ニ、志摩國、伊雜神社ヲ、磯部宮ト云フト見ユ〕小舟ノ名 [illegible]「いさば、小船ニシテ、[illegible]ヲ以テ名トス」

いさば-し (名) 魚肆師 前前條ヲ見ヨ。

いさば-もの (名) 五十集物 磯場ノモノ。乾魚、醃魚ノ類ノモノ。いさば(魚肆)ノ條ヲ見ヨ。

いさば-や (名) 魚肆屋 いさば(魚肆)ヲ見ヨ。

いさ・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ(他動、四) 叱 呵 〔禁む、諫む、ト通ズト云フ、天治字鏡、十二「勸、諫、伊佐不」〕叱ルノ古言。禮記、曲禮、上篇「尊客之前不叱狗」(古訓)字鏡「誘、訕、伊佐不」名義抄「叱、譏、イサフ」字類抄「呵、嘖、イサフ」易林節用集(慶長)「訶」

いさぶ・る (動) 搖 ゆさぶるノ轉。

いさまし・シキ・シケレ・シク・シク(形、二) 勇 〔勇むノ未然形ナルいさまヲ、形容詞ニ活用セシム(そねむ、そねまし。うらやむ、うらやまし)〕勢ヒ强シ。雄雄シ。猛シ。宇津保物語、俊蔭「俊蔭、いさましき心、早キ足ヲ出シテ行クニ、カラクシテ、其山ニ到リテ」

いさみ (名) 勇 〔勇むノ名詞形〕イキホヒ。勇氣。氣力。宇津保物語、俊蔭「父母相見ズシテ、長ク別レテ、悲シミハ餘リアリトイヘドモ、終ヒツカウマツルいさみハナシ」同、嵯峨院「世ノ中ニマジラヒ侍レド、何ノいさみモ侍ラヌニ」

いさみ (名) 勇 [illegible] 〔[illegible]〕

[illegible]

いさみ (名) 勇 〔肌ノ條ヲ見ヨ〕市人ノ、氣概ヲ衒フ者。其氣立ヲ、いさみ肌、キホヒハダ、ト云フ。[illegible]ノ義、市人ノ中ノ、膂力氣慨アリテ、容止、粗暴ナル者ヲ云フ、市虎」

いさみ-はだ (名) 勇肌 前條ヲ見ヨ。

い-さ・む・ム・メ・マ・ミ・メ(自動、四) 勇 〔氣進むノ約略ナルベシ(氣嘖く、いぶく。憤むモ、息含むノ約略)〕勢ヒテ進ム。(憤る ノ反)勇氣ヲ振フ。[illegible]、七年七月「[illegible]邑有三勇 悍士」[illegible] 萬葉集、二十 長歌「鷄ガ鳴ク、東男ハ、云云、伊佐美タル、猛キ軍卒ト、勞ギタマヒ」天治字鏡、三「勇、伊佐牟」

い-さ・む・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ(他動、下二) 慰 〔勇むノ他動ナラム、(たわむ、たわむる。あからむ、あからむる)倭訓栞、いさむ「俗ニ、神ヲいさめるト云フモ、勇ヨリ出デタリ」〕慰ムル。夫木抄、二十「吹ク風ヲ、神ヤいさめム、手向山、折レバカツ散ル、花ノ錦ニ」(神樂ヲ、神いさめト云フ)傾城酒呑童子(享保、近松作)二「御化粧ヲいさめムタメ」

い-さ・む・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ(他動、下二) 禁 〔言進むるノ約略カ、(言逆ふ、いさかふ。おもひみる、おもみる)强ク言ヒテ止ムル意ナラム、叱ふト通ズ〕抑ヘ止ム。

[illegible] 禁制ス。[illegible]

[illegible]

い-さ・む・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ(他動、下二) 諫 〔前條ノ語ノ轉〕[illegible]

[illegible] イサム、アラソフ、[illegible]「我レ亡クナリヌト、タケノシウ[illegible]カヘスガヘス、いさめオカレ侍リシカバ」同、二十四、上、若菜、上「我ガ心ニ惲リタマヒ、いさむる言ニ從ヒタマフベキ」[illegible] ク泣ク、[illegible]

いさめ (名) 禁 〔前前條ノ語ノ名詞形〕[illegible] 數々ノ[illegible]ノいさめノ、數數ニ、思合ハセテ、哭ヲノミゾ泣ク」同、四「ツムキケル、親ノいさめノ、報トテ、ナホウタタネハ、止ム時モナシ」(寢覺ニカケタルカ)

いさめ (名) 諫 〔前前條ノ語ノ名詞形〕[illegible] 御方ノ御いさめヲノミゾ、ナホ、賴ハシク、心苦シウ思ヒ聞エサセタマヒケル」[illegible]

い-さめ (名) 寢覺 〔い(寢)ノ條ヲ見ヨ〕寢覺ニ同ジ。六帖、二「[illegible]ノ、いさめノ[illegible]

初秋ノ、長キ夜ヲヒトリ、明ス我ガ名ゾ」(美濃國、揖斐郡、今ノ八幡村ノ大字、片山ノ地ノ古名ナリト云フ、又、ねざめの里トモ云フ)

いさめ-の-つづみ (名) 諫鼓 諫鼓ノ訓讀。其條ヲ見ヨ。

✣**いさ・める** (動) 慰む、又、禁む、諫むノ口語。

いざ-や (感) 誘 イデヤ。サア。ドリャ。 いざわ(怡奘過、率和)ヲ見ヨ。

〜**いさよひ** (名) 躊躇 〔いさよふノ名詞形〕ヤスラヒテ、進マヌコト。タメラフコト。 萬葉集、十四廿「青嶺ニ、タナビク雲ノ、伊佐欲比ニ、(序)物ヲゾ思フ、年ノ此頃」 古今集、十四、戀、四「君ヤ來ム、我レヤ往カムノ、いさよひニ、眞木ノ板戸モ、刺サズ寐ニケリ」(六帖ニハ、やすらひニトアリ)

いさよひ (名) 十六夜 次條ノ(一)(二)(三)ヲ見ヨ。

いさよひ-の-つき (名) 十六夜月 〔日沒ヨリ少シ後レテ出ヅルニ因リテ、躊躇ふト云フナリ、いさよふハ、唯、やすらふ意ノ語ナレド、特ニ、此夜ノ月ニ云フナリ、次條ヲ見ヨ、倭訓栞、いさよひ「よひヲ、宵ニ通ハシ云フ也」十七夜ノ月ヲ立待の月ト云ヒ、十八夜ノ月ヲゐまち(居待)の月ト云フ」 (一)〔陰暦十六日ノ夜ノ月ノ稱。既望月 八雲御抄、三、上、天象「いさよひの月ハ、十六日月也、云云、故人說、皆十六日也、尤可レ然」 撮壤集(享德)上、天像「不知夜月」 運歩色葉集(天文)「十六夜 月」 源、六、末摘花四「宜ヒシモ著ク、いさよひの月、ヲカシキ程ニオハシタリ」 新六帖、一「秋風ニ、峯行ク雲ヲ、出デヤラデ、マツホド過グル、いさよひの月」 (二)十六日ノ夜ヲ、いさよひト云フ。既望夜 合類節用集(元祿)二、時候門「既望夜、十六夜、又作二不知宵一、並和俗所レ用」 (三)又、十六日ヲモ、いさよひト云フ。既望 阿佛尼ノ海道紀行ノ十六夜日記ト云フハ、建治三年十月十六日ニ京ヲ立出デテ、其日ヨリ記シ始メタルニ因リテ、名ヅケタルナリ。

〜**いさ-よ・ふ**・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (自動、四) 躊躇 〔不知ノ活用ニテ、否ノ義ニ移リ、否ミテ進マヌ意ニテモアラムカ、よふハ、搖キ定マラヌ意ノ、助動詞ノ如キモノ、ただよふ、(漂蕩)もこよふ(蜿蜒)ノ類〕 行カムトシテ、行キ敢ヘズ、留ラムトシテ、留リアヘズ。ヤスラフ。タユタフ。タメラフ。 靈異記、下、第卅三緣「躊躇、多千意左與比」 萬葉集、三廿八「武夫ノ、八十宇治川ノ、網代木ニ、不知代經波ノ、行方知ラズモ」 同卷、四十「コモリクノ、泊瀨ノ山ノ、山ノ際ニ、伊佐夜歷雲ハ、妹ニカモアラム」 新六帖、一「雲霧ノ、タナビキ消ユル、秋風ニ、いさよひ昇ル、山ノ端ノ月」 源、四、夕顏廿「いさよふ月ニ、ユクリナク、アクガレム事ヲ、女ハ思ヒヤスラヒ、云云」 細流抄「愛ハ、十五夜ノ月ノ入方ニ、山ノ端ニ、シバシヤスラフナリ」

❀

〜**い-さら** (接頭) 細小 〔いハ、發語、さらハ、細小らノ約カ、(さ波、さざなみ、さざらなみ)侚、いささ、ノ條ヲ見ヨ〕 ササヤカナル。スコシノ。チヒサキ。 「いさら水」「いさら井」「いさら小川」

いさら-なみ (名) 霧 〔前條ノ語ヲ見ヨ、霧ヲ波ニ見立テテ云フナリ〕 霧ノ異名。 八雲御抄、三、上、天象「霧、いさらなみ」 保安二年關白家歌合、四番、山月「いさらなみ、晴レニケラシナ、高砂ノ、尾上ノ空ニ、澄メル月影」

〜**いさら-みづ** (名) 水潦 〔前前條ノ語ヲ見ヨ〕 (一)イササカナル出水。 安閑紀、元年七月「此出者、天旱雖レ濺、水潦易レ浸」 (二)ニハタヅミ。庭潦 皇極紀、四年六月「是日雨下、潦水溢レ庭」

〜**いさら-ゐ** (名) 淺井 〔細小ノ條ヲ見ヨ〕 水ノ少キ井。(井ハ、水ノ溜レル處ヲ云フ) 源、三十三、藤裏葉廿「亡キ人ハ、影ダニ見エズ、ツレナクテ、心ヲヤレル、いさらゐノ水」 同、十八、松風廿「いさらゐハ、ハヤクノ事モ、忘レジヲ、モトノ主ヤ、面ガハリセル」

いさら-を-がは (名) 細小川 〔いさらヲ見ヨ〕 細キ流川。イササヲガハ。 永久百首、秋「岩間ユク、いさら小川ノ、セハシキニ、割レテ宿レル、アリアケノ月」

〜**いさり** (名) 漁 〔漁るノ名詞形〕 魚ヲ捕フルコト。スナドリ。れふ。(獵) 萬葉集、六廿七「沖津波、邊波靜ケミ、射去スト、藤江ノ浦ニ、船ゾ騷ゲル」 同、十五三十「伊射理スル、海人ノ少女ハ、小舟乘リ、列列ニ浮ケリ」 同卷廿「久方ノ、月ハ照リタリ、イトマナク、海人ノ伊射里ハ、燈シアヘリ見ユ」(是レハ、漁火ノ略)

〜**いさり-び** (名) 漁火 夜間、漁船ニテ燒ク炬火、篝火ノ類。魚ヲ誘ヒアツメムトテスルナリ。 萬葉集、十二三十六「能登ノ海ニ、釣スル海人ノ、射去火ノ、光ニイマセ、月待チガテラ」 夫木抄、廿三「雲ノ行ク、堅田ノ沖ヤ、シグルラム、山影シメル、蜑ノいさり火」

〜**いさり-び-の** (枕) 漁火 ほハ、火ノ古言ナレバ、ほニ掛ケテ云ヒ、又、漁火ハほのかニ見ユルガ故、ほのかニ掛ケテモ云フ。 萬葉集、十九廿九「鮪突クト、アマノトモセル、伊射里火之、ほニカ出デナム、ワガシタモヒヲ」 後撰集、十、戀、二「いさり火の、夜ハほのかニ、カクシツツ、アリヘバ戀ノ、下ニケヌベシ」

いさり-ぶね (名) 漁舟 漁スル舟。又、漁小舟。獵船。 光明峯寺攝政家歌合、九十二番「ミルメナキ、志賀津ノ蜑ノ、いさり船、君ヲバヨソニ、こがれテゾ經ル」(焦る、漕るヲカケタルカ) 夫木抄、三十三、船「浪ノ寄ル、いさり小舟ノ、見エツルハ、霞ヲ隔ラレネバ、見ユルナリケリ」

いさり-を-ぶね (名) 漁小舟 前條ヲ見ヨ。

〜**い-さ・る**・ル・レ・ラ・リ・レ (他動、四) 漁 「磯求食るガ、いさざる、いさるト約マレル語ナラム、(おそあるらめ、おざるらめ。いくくむ、いくむ)すなどるト云フ語モ、磯魚捕るノ約、磯邊ニテ捕る語ガ移リテ、沖ニモ云フヤウニナレリト思ハル(口論ノいさかひガ、爭鬪ノ意トナル)」 海ニテ、魚類ヲ捕ル。スナドル。アサル。湖水ニモ云フ。(漁、又、漁火ノ條ヲ併セ見ヨ) 萬葉集、十五廿七「海原ノ、沖邊ニ燈シ、伊射流火ハ、明カシテ燈セ、大和島見ユ」 同、十七八「海少女、伊射里燒ク火ノ、オホホシク、ツヌノ松原、思ホユルカモ」 同、二十廿五長歌「大御饌ニ、仕ヘマツルト、遠近ニ、伊射利釣リケリ」(難波宮ニ奉ルナリ)

〜**い-ざる** (名) 笊 〔湯去ノ轉、(ゆばり、いばり。あるく、ありく)笊ノ語原ヲ見ヨ、元ハ、專ラ、飯滑ニ用ヰタルナルベシ、いヲ省キタレバ、今ハ、ざるト、濁音ヲ存ス」 笊ノ古言。イカキ。 字鏡六十三「篅、笸、盛レ穀竹器也、志太彌、伊佐留」 急就篇、註「篅、笸、皆所三以盛二米穀一」 倭訓栞、いざる「新撰字鏡ニ、云云、今云フざる也、甲斐ノアタリニテハ、いさるト云ヘリ」

〜**いざ-わ** (感) 怡奘過、率和 〔率ノ條ヲ見ヨ、倭訓栞、いざわ「いざやト同ジ」(さやぐ、さわぐ) 神武紀ノ註ニ「過、音倭」トアリ、(私記ノ攙入ナリト云フ)過ノ音ハ、くゎナリ、廣韻ニ「過、音倭」トアリ」 いざやト云フニ同ジ、誘フニ發スル聲。 神武紀、二十「時、鳥到二其營一而鳴之曰、天神子召レ汝、怡奘過、怡奘過」(稜威道別(橘守部)十二、三百九十「率参レト云フコトヲ、烏ト云フニ託シテ設ケタル効言也」)(烏ノ鳴聲ニ寄セタルカ) 萬葉集、十三三十四長歌「愛シ

[illegible]キ、十市ノ[illegible]、[illegible]ヲ[illegible]ム」

いさを（名）[illegible] 〔倭訓栞、いさをし、功勤「勇ミ雄雄シキ義ナルベシ」〕イサヲシキコト。イサヲシ。テガラ。功名。神武紀「天皇定レ功行レ賞、[illegible]」(續[illegible]ノ宣命ニ從フ)

いさを（名）|桀豪|渠帥| 〔倭訓栞、いさを、渠帥、勇男ノ義ナルベシ」〕武力ノ優レタル人。豪傑。神代紀、下「天稚日命、是、[illegible]之僞也」(吉云) 景行紀、十二年十二月、[illegible]文、[illegible] 崇峻紀「是兩人、[illegible]之[illegible]、[illegible]多[illegible]」前紀「美濃軍將等、與大倭桀豪、共誅大友皇子」

いさをし（名）|功| 〔次條ノ語ノ終止形ヲ、名詞ニ用キタルモノ、古事記、下(允恭)ニ「宇流波斯ト、率寐シ率寐テバ」(可愛し妹ナリ、いさをし人ト云フ語モアリ)生細ヲ、淸しト云ヒ、燈ヲ、明し、鎭子ヲ、重しト云フ、皆、終止形ヲ名詞ニ用キルナリ」前前條ノ語ニ同ジ。テガラ。神代紀、上「獨[illegible]五十猛命、[illegible]有功之神」天武紀、上「天皇美男依之勲」(村國男依)四季物語(鴨長明)一、正月「君ト臣トノ掟正シク、父母ノいさをし著クシテ」

いさを・し・シキ・シケレ・シク・シク（形、二）|有功| 〔功ヲ活用セシム、公しき、哀しき、ト同例ノ語ナリ」(一)功ヲ立テタリ。功名シタリ。垂仁紀、二十二年七月「天皇[illegible]賞[illegible]」天武紀、上「[illegible]有功[illegible]」顯露賞」(二)勤シ。精勤シタリ。敏達紀、元年五月「王辰爾、高麗ノ表疏ヲ讀ミ釋ク、天皇[illegible]美セラル、勤[illegible]」[illegible]「[illegible]」

いさを・し・シキ・シケレ・シク・シク（形、二）|強| 〔いさを、ヲ活用セシメタル語、(大人しキ、[illegible]シキ、[illegible])[illegible]〕[illegible]

いさをしびと（名）|豪傑| 〔桀豪しき人ナルヲ、終止形ノママ名詞ニ連ネタルナリ(空しき車、むなし車。嬉しき涙、うれし涙)〕猛ク强キ人。剛勇ナル族。天武紀、上「招二十二族、及名二桀豪一[illegible]」[illegible]

いし（名）|石| (一)〔礦物ノ名。人ノ善ク知ルモノナリ、通俗ニハ、巖ヨリハ小サク、砂ヨリハ大キナルモノヲ云フ。垣、橋、礎、ナド、建築ノ用、極メテ多シ。古事記、上「以火燒[illegible]大石而轉落」萬葉集、五「長歌」「[illegible]玉如[illegible]ツノ伊斯」倭名抄、一「[illegible]石、以之」〕(二)枕石漱流ト云フ漢語ハ、山水ノ地ニ隱遁スル意ヲ云フナリ。コレヲ誤リテ、漱石枕流ト云ヒシ者アリ。晉書、[illegible] 太平記、二十、諸葛孔明事、蜀ノ劉備、孔明ガ草庵ニ臨ミテ、出デ仕ヘムコトヲ勸ム「夫レ、石を枕にし、泉に嗽いテ、幽棲ヲ樂ムハ、一身ノ爲ナリ、國ヲ治メ、民ヲ利シテ、大化ヲ致サムハ、萬人ノ爲ナリ、云云、孔明、辭スルニ詞ナクシテ、遂ニ、蜀ノ丞相ト成リニケリ」晉書、孫楚傳「孫楚、云云、少時欲二隱居一、謂二王濟一曰、當レ欲レ枕二石漱一レ流、誤云二漱レ石枕一レ流、濟曰、流非レ可レ枕、石非レ可レ漱、楚曰、所三以枕二流、欲レ洗二其耳一、所三以漱二石、欲レ礪二其齒一」(此事、世說、三、言語、中ニモ記セリ) 俗ニ、[illegible]、さすがト云フ語ニ用タリ、流石ハ、晉ノ孫楚ノ故事ニ因レリ、さすがニヨク牽合セリト云ヘリ」(二)碁石。「白石」黑石」(三)石拳ノ、拳。

いし（名）|倚子| 〔倚ハ、倚りかかりナリ、子ハ、册子、瓶子、帽子ナドノ、子ニ同ジ、支那製ヲ移シタルモノナリ(椅子ノ條ヲ見ヨ)[illegible]、四角ニ、[illegible]、背ニ[illegible]アリ、左右ニ肘掛アリ、[illegible]ニテ、[illegible]ニテ〕倚子ト云フモノモ、是レナリ。[illegible]「[illegible]倚子一[illegible]」[illegible]「[illegible]、一尺三寸、長、一尺三寸、[illegible]」[illegible]「[illegible]」云云」[illegible]、冠、者ノ御座、引込ノ大臣ノ御座、御前ニアリ」(東宮ノ御元服ヲ云フ) 字類抄、雜物「倚子、イシ」 天皇ノ着御ナルハ、倚子御座、又、御倚子ト申シ、紫宸殿ナルハ黒柿作リニテ、淸涼殿ナルハ紫檀ナリ。[illegible]「御[illegible]、」云云、紫宸殿設二黑柿木倚子一」天德[illegible]「後涼殿ノ渡殿ニアタリテ、西向キニ、いしのおまし装ヒテ、オハシマス」今鏡、中、第四、白川のわたり「御倚子トテ、殿上ノ奥ノ座ノ上ニ立テラレ侍ルナリ、紫檀ニテ造ラレ侍ルナル、云云」拾遺集、十六、雜、春「同ジ御時(天曆)梅花ノ御許ニ、御いし立テサセタマヒテ、花宴セサセタマフ」名目抄、雜物「御倚子」

いし（名）|醫師| 〔周禮、天官篇「醫師、掌醫之政令」トアルハ、醫ノ長ナリ、(書經、說命篇、註「師、長也」)典藥寮、其他ノ職員醫師ハ、敎師ノ義ナルベシ」〕(一)典藥寮ノ職員。療病、又、醫生ノ敎授ヲ掌ル。其他、六衞府、諸國等ニモ、此職ヲ置カレタリ。職員令、典藥寮「醫師十人、掌下療二諸疾病一及診候上」[illegible]、典藥寮「醫師、[illegible]七位下」[illegible]、類聚三代格、四、仁和元年十二月廿九日、太政官符「[illegible]六衞府醫師[illegible]任二事一」職員令、[illegible]「國博士、醫師、國別、各一人、其學生、大國五十人、云云」[illegible] (二)德川幕府ノ職員。治療ノ事ヲ掌ル、奧詰醫師、奧醫師、表醫師、寄合醫師、番醫師等アリキ。往時、幕府ノ醫師ハ、剃髮、僧服ニテ、僧位ノ法印、法眼、法橋ヲ授ケラレ、上下ノ者、何何院ナド稱シタリ、[illegible]、醫師モ、皆剃髮シ、上下一齊ニ[illegible]、僧名ノ如キヲ用キタリ、[illegible]師、剃髮スルコトナシ、京都將軍家ノ醫師ヲバ、上池院トモ云フ、年中[illegible]ニ見エタリ、其頃ハ、剃髮シタリト見エタリ」

いし（名）|醫師| 〔藥師ニ、醫師ノ字ヲ充テテ、音讀シタル語、くすりしノ語原ヲ見ヨ〕クスリシ。クスシ。醫術ヲ行フヲ業トスル人。醫者。醫 七十一番歌合(文安)三十四番、[illegible] [illegible]、[illegible]醫師ノ寶子「醫師ノ類ハ、家業有レ之モノニ付、家業宜シク、早速ノ御用ニモ立チ候フモノヲ[illegible]ヒ候ハバ、御目見以下、[illegible]、[illegible]」[illegible] 今世ノ制度ニテハ、醫術ヲ修得シテ、一定ノ資格ヲ有シ、內務大臣ノ免許ヲ受ケタルモノニシテ、醫師タルコトヲ得。

いし（名）|以次| 〔以ハ、よりノ義、ソレより次ナリ、(以上、以下、以前、以後)次ヲ淸音ニ呼ブハ、字ノ漢音ニテ、濁ルハ、吳音ナリ、次第、次席、自然、自己〕いしいしト重スルヲ、顚倒漫衍ノ間ニ、一ノ轉ナリト云ヘルハ、持てまはりナリ、語ニ簡義モアリ、又、重ネテ云フハ、多クハ、南北朝時代ヨリ室町時代末期マデ行ハレタル語ナリト思ハル」(一)上席ノ人ニ引キツヅクコト。順番ノ次席。[illegible]、以次以次ト、重ネテモ云フ。[illegible]「[illegible]臣、入レ自レ南、以次大臣以下、入レ自二良角一」二水記、

大永二年正月二日、洲醉「第一大臣外、取レ酌之人無レ之歟、已次之大臣、只、杯許歟」 北山殿行幸記(應永)「次ニ、關白、いしいし、公卿、次第ニ着坐ス」 同「其後、關白、いしいし、次第ニ、罷出タマフ」 白重の記(延德)「御簾ノ内ニハ、親王御方ヲ始メマヰラセテ、伏見殿、仁和寺宮、梶井宮、いしいし、參リ集ヒタマフ」 (二)轉ジテ、次次。次第次第。順順。續續 圖太曆、延文元年八月廿一日「益守僧正、狀云、去十四日、洪水、殊、此弊坊、第一ノ水鼻ニテ、先、馬屋邊、いしいし、皆押破リ、門モ已ニ倒レ候ヒシヲ」(節文) 北山殿行幸記(應永)「常ノ御所、夜御殿ノ御衣、いしいしノ御設ケモ、イカメシキ事ドモ、聞エシカド」 椿葉記(永享)「執柄、門跡、いしいしノ御使モ、群參スレバ」 春日社參記(寛正)「新院ノ御幸、いしいし、室町殿ヘアリシカバ」 御湯殿上日記、永祿五年五月十六日「今日ハ、御祈禱ドモアリ、女中ノ御長柄、御杯參リテ、皆皆、御いしいしト御祝ヒアリ」

い-し (名) [意思] オモヒ。オモハク。カンガヘ。 三國志、吳志、陸孫傳「意思深長」「意思、疏通ス」

い-し (名) [意志] オモヒヤリ。思案。 訓幼字義、七「意トハ、意志トツヅキテ、心ノ内ニタクワヘオモフコトナリ、物事取リツ、置キツ、思案ヲシ、又、思ヒヤリ、推量スル、皆、意ナリ」(古事類苑)

い-し (名) [意志] 〔英語、Will. ノ譯語〕 心理學ノ語。選擇シ、又、決行スル心ノ作用。心ノ能動。(知、情、意ノ、意)

い-し (名) [異志] コトナリタル志。謀反ノ志。二心。 左傳、襄公十六年「諸侯有二異志一矣」

い-し (名) [頤指] 〔頤デ人ヲつかふトノ意ニテ、頤使ナドト書ク〕 頤ヲ動カシテ指圖スルコト。人ヲ自在ニ使フ ニ云フ。 漢書、賈誼傳「今、陛下、力ニ制天下一、頤指如レ意」 註「但動二頤指揮一、則所レ欲如レ意」 舊唐書、郭子儀傳「麾下老將、若二李懷光輩一數十人、皆王侯重貴、子儀、頤指進退、如二僕隷一焉」

い-し (名) [縊死] 縊レテ死ヌルコト。クビククリ。 仁德紀、五十五年「田道、蝦夷ニ敗ラレテ死ス、有二從者一、取二得田道之手纏一、與二其妻一、乃抱二手纏一而縊死」

〜い・し (形) [稚] 〔し、しき、しく、ノ活用ナルベケレド、終止形ノ外ハ、書ニ見エズ、是レナ初しノ約(うひうひし)ト云フモ、是レナラム〕 若シ。成リトトノハズ。 神代紀、上「開闢之初、國稚 地稚之時、譬猶二浮膏一而漂蕩」 口決「稚、宇比志也」 古事記、上「國稚 如二浮油一」 コレハ、終止形ノいしヲ、名詞ニ用ヰタルナリ、すずし、(生絹)あかし(證)ノ例ナリ。

い・し・シキ・シケレ・シク・シク (形、二) [美好] 〔吉し、美し(形、一ノ轉ナラム、(日吉、ひよし。住吉、すみよし。さざえ、さざい)東京ニテ、えい)女詞ニ、味旨キヲ、おいしいト云フ、(團子ヲ、いしいし)形、一ノ活用ノ、形、二トナルコト、あつき、あつしき。(篤)かまびすき、かまびすしき(喧)ナドノ例アリ〕 (一)美シ。イミジ。美事ナリ。 綏靖卽位前紀「不能致果」(此語ノ條ヲ見ヨ) 宇津保物語、吹上、下三十「いしき盃ナド、イトメヅラシク、異ナリ」 (二)巧ナリ。上手ナリ。 [巧妙] 盛衰記、十七、祇王、祇女、佛前事「白拍子佛御前、入道淸盛ノ前ニテ歌舞ス「君ヲ始メテ、見ル時ハ、千代モ經ヌベシ、姬小松、御前ノ池ナル、龜ガ岡ニ、鶴コソ群レ居テ、遊ブナレ」ト折返シ、折返シ、三度歌ヒケレバ、云云、歌ノ音ノヨサヨ、いしいししト嘆メラレタリ」(いししハ、破格ナリ、惡しし、惜ししナド、皆不可ナリ) (三)旨シ。味、佳シ。 [甜美] 太平記、廿三、土岐賴遠參二合御幸一致二狼藉一事「賴遠、醉ヒテ御幸ニ行合ヒ、御車ニ矢ヲ射懸ク、大逆ニ因リテ斬首セラル、何者カ狂歌一首「いしかりシ、時ハ夢窓ニ、食ハレテ、すさいバカリゾ、皿ニ殘レル」 (賴遠、足利氏ニ軍功アリ、恩祿モ他ニ異ナリ、天龍寺ノ夢窓和尙ニ賴ミテ、赦命ヲ乞ヒシガ、聽カレザリシナリ、賴遠ノ弟周濟房ハ赦サル、いしかりシ時トハ、好運ナリシ、(旨カリシ)時メキシヲ云フ、すさいハ、醉菜ニテ、周濟ニカケタリ) 永正五年正月二日、狂歌合、判詞「花片餅ノ、いしゲナル氣味」(いただきもちヲ見ヨ)

い-じ (名) [異事] 常ニ異ナレル事。變事。 禮記、曲禮、下篇「繫レ朝而顧、不レ有二異事一、必有二思慮一」故繫レ朝而顧、君子謂二之固一」「異事無レ之」

い-じ (名) [醫事] 醫術ニ關スル事件。

いし-あたま (名) [石頭] 頭ノ、頑固ナルモノ。 七偏人(安政、梅亭金鵞)初篇、上「根ッカラ葉ッパリ、痛ガラネエノハ、鐵槌アタマカ、石天窓カ」

いし-あはせ (名) [石合] 物合ノ一。石投取ノ石ニテ行フモノ。 散木集、五「伊勢齋宮ニ侍ル頃、石投取ノ石あはせト云フ事ヲセサセタマヒケルニ、小サキ草子ノ、石投取ノ石ノ大キサナルヲ作リテ、十ノ石ニ、一ツヅツ書キ侍リケル(歌)」

〜いし-あやめ (名) [石菖蒲] 〔石菖ノ文字讀〕 石菖ニ同ジ。 語彙、いしあやめ「異本大同類聚方殘篇、石菖、伊斯阿夜女」

い・しい (形) [美] 美しヲ見ヨ。

いし-いし (名) [團子] 〔梅園日記「團子ヲいしいしト云フハ、美しヲ重ネテ云フナリ、(美しノ條ヲ見ヨ)旨し旨しノ意、婦女ノ詞ニ、美味ヲ、おいしいト云フ是レナリ」ト云ヘリ、小兒語ニ、食物ヲ、うまうまト云フガ如シ〕 女詞ニ、團子ヲ云フ。 梅園日記(弘化、北靜廬)いしいし、團子「慶長十八年ノ寒川入道筆記ニ、隱レナキ藤戸石ヲ、上京、細川殿御屋敷ヨリ、室町畠山樣御屋敷ヘ、信長公御引キナサルル、數日、御手間入リケレバ、イタヅラモノ「花ヨリモ、團子ノ京ト、ナリニケリ、今日モいしいし、明日モいしいし」 物類稱呼(安永)四十九「團子、女詞ニ、いしいしト云フ」

い-じ-い-じ (名) [以次以次] 以次ノ條ヲ見ヨ。

いし-い・し (形) [美美] 美しノ條ノ(二)ヲ見ヨ。

いし-いも (名) [石芋] 〔弘法大師、諸國修行ノ時、土人ニ芋ヲ求メシニ、芋堅ケレバ、御僧ノ歯ニ合ヒガタシトテ、與ヘズ、コレヨリ其里ノ芋、石ノ如シ、大師ガ封ジタルナリト、此事、諸地方ノ傳說ニアリ〕 芋ノ一種。苗、さといもニ似テ、光澤多シ、食ハレズ。 語彙、いしいも、くはずいも「東京ニテ、まんぢういもト云フ、暖國ニ自ラ生ズル芋ニシテ、食フベカラズ、野芋」

い・しう (形) [美] 美しくノ音便。美しノ條ヲ見ヨ。

いし-うす (名) [石臼] 石ニテ造レル臼。 [碾] 專ラ、碾臼ナルニ云フ。其條ヲ見ヨ。此臼ノ下石ノ中央ニ、鐵(又、木、竹モ)ノ小サキ突起アリ、臍ト云フ、コレガ上石ノ底ノ穴ニハマリテ、上ハ廻リテ、下ハ動カズ、因リテ、物ノ中心ニ居テ動カヌモノヲ、いしうすのへそト云フ。

いしうす-げい (名) [石臼藝] 〔能ク何物ヲモ碾レドモ、極細末ニハナラヌトノ意ナルベシト云フ〕 人、多ク藝能ヲ知レドモ、何レモ精通セザルコト。螻蛄才。 狂歌咄(寛文、淺井了意)「何ニツケテモ、心得侍リケレド、世ニ云フナル、石臼藝トナリツツ、身モ成立タズ」 諺草(元祿)一、石臼藝「人ノ、藝能多ケレドモ、精シカラザル者ハ、石臼ノ、物トシテ碾ラザルハナケレドモ、其器、貴カラザルガ故ニ、世話ニ、石臼藝ト云ヘリ」 慶益俗說辨(正德)「用ニ立タヌ藝ヲ、少シヅツ覺エタル者ヲ、石臼藝ト云フ」 甲陽軍鑑、十三、品第四十、上、長坂長閑、今川氏眞、北條氏政自

幕ノ羽織二枚ヲ、武田信玄ニ示ス「信玄御覽ジニハ、鷹持ノ、武功ナクシテ、花車ナルハ、結句、賤シキニ譬ヘタリ、云云、石臼ト云フ物ハ、種種ノ用ニ立テドモ、百姓サヘ、座敷ヘ上ゲヌナリ、扨又、茶臼ト云フ物ハ、茶ヲ引ク一種ナレドモ、是レハ又、侍ノ所ニテ、一人[illegible]イタス、信玄ガ見立ハ、[illegible]無能ハ黄臼、氏政、氏眞ノ手跡ノ能ト歌ノ作ハ、只、石臼ノ如シト、信玄ノ御批判也」(是レハ、[illegible]用ナル無能ハ、賤シムベシノ意トナル)

いしうすのへそ (名) 【石臼臍】 前前條ヲ見ヨ。

いしうち (名) 【石打】 小石ヲ打チ合フ鬪。石戰

いしうちのそや (名) 【石打征矢】 次條ヲ見ヨ。

いしうちのはね (名) 【石打羽】 鶺鴒ヲ、石たたき、又、庭たたきト云フハ、尾ヲ上下シテ、庭ヲタタクガ如キヲ云フナリ、石打の羽ト云フモ、同意ナラム、最下ニアル羽ナレバ、觸ルルコト多ク、自ラ堅キニ因リテ、擇(エリ)取リテ、矢ノ羽ニ用キルナルベキカ、四季草、一「敵ヲいしく打つ(美しノ條ヲ見ヨ)ト云フ事ニ取成シテ、其名詮ヲ稱美スル也」ニ、鷹ノ尾ノ羽、十數枚扁列ス、其左右ノ端ノ羽ヲ稱スル語。尾ノ最下ニ重ナリテアリ。(鷲ノ尾ノ羽ニモ云フ) 此羽ヲ矧ギタル矢ヲ、石打の矢ト云フ、征矢(ソヤ)ナルヲ、石打の征矢ト云ヒテ、大將軍ノ所用トシタリ。又、ソレヲ盛リタルヲ、石打の胡籙(ヤナグヒ)ト云フ。 易林節用集(慶長)財「石打征矢」貞用辨略(貞享)三、弓矢「石打の羽ト云フハ、鷹ノ尾ノ石打也、此羽、強キガ故ニ、取分ケテ是ヲ用、何ノ鳥ニモ石打ハ侍レドモ、別シテ石打の征矢ナド云テ、鷹ニ限ル事也」四季草(伊勢貞丈)一「石打の征矢、大鷹(大鷹)ノ石打の羽ニテハギタル征矢ヲ云フ也、是レハ、[illegible]三十、實盛[illegible]ヘ八幡ノ神ヲ着テ[illegible]ト云フ事ニ侍レバ、今度、生國ノ下向ニ、錦ノ直垂ニ石打征矢、[illegible]リ候ハム」同、三十五、宇治川先陣事「[illegible]、云云、石打の[illegible]ニ、紫威ノ鎧ヲ着テ」

いしうちのや (名) 【石打矢】 前條ヲ見ヨ。

いしうちのやなぐひ (名) 【石打胡籙】 前前條ヲ見ヨ。

〔**いしうま** (名) 【石馬】 石ニテ造リタル馬。

いしぐら(石倉)ノ條ヲ見ヨ。

〔**いしうら** (名) 【石占】 古代ノ占(ウラナヒ)ノ一種。其方法、詳ナラズ。 萬葉集、三[四十六]長歌「夕占(ユフケ)問ヒ、石卜(イシウラ)以チテ、吾ガ宿ニ、御諸ヲ立テテ、枕邊ニ、齋瓮(イハヒベ)ヲ居(ス)ヱ、云云」(契冲云、石卜ハ、石ヲ蹈ミテウラナフナリ) 景行紀、十二年十月「天皇、初將レ討レ賊、次ニ于柏峽(カシハヲ)大野、其野有レ石、長六尺、云云、天皇祈(ウケヒテ)之曰、朕得レ滅ニ土蜘蛛ニ者、將レ蹶ニ茲石ニ如ニ柏葉ニ而擧ら焉、因蹶之、則如ニ柏葉ニ上ニ於大虛ニ、故號ニ其石ニ曰ニ蹈石ニ也」 神功攝政前紀「逮ニ皇后之開胎ニ、皇后則取ニ石ニ插レ腰、而祈(ウケヒテ)之曰、事竟還日、產ニ於茲土ニ、其石今在ニ于伊都縣道邊ニ」(筑前) 久安六年御百首、夏「石神ノ、うらニヲ問ハム、此暮ニ、山ホトトギス、聞クヤ聞カズヤ」 塵添壒嚢抄(天文)四、道祖神「さへノ神トテ、小社、圓キ石ヲ置クハ、石神歟、道祖神也、云云、此神ニ祈テ、事ノ實否ヲ問フ時、石ニ告ケテ輕重ヲ定ムルガ、路行キ人ヲ護ル神也」

いしうるし (名) 【石漆】 割レタル石ヲツグニ用キル漆。 倭訓栞、後篇、いしうるし「石ノ破ヲツグニ用フルヲ以テ名ヅク」

いしがき (名) 【石垣】 (一)石ヲ積ミアゲテ造レル垣。 齊明紀、二年九月、兩槻宮「累ニ石垣ニ」常陸風土記、久慈郡「石壁之峯、鄙在ニ天[illegible]」[illegible] (二)城郭ノ側面ヲ、切石ニテ積ミアゲ築キタルモ、石垣ト云フ。(是レハ、石壁ノ意ナルベシ、構くノ條ヲ見ヨ) 堤防、河海ノ岸ノ土止(ツチドメ)ナルニハ、切石ナルアリ、積石ナルアリ。イシガケ。 石壁 足利時代ノ末期ニ至リテ、西洋ノ築城技ヲ傳ヘシヨリ、安土城ヲ始メ、大阪城、江戸城ノ石垣、壯大、堅固、精緻ヲ極メタリ。 關八州古戰錄、三、上杉景虎武州忍城攻事「此城、[illegible]構ヘ、石垣高ク築キタレバ」 信長記、安土城普請事「四月朔日(天正四年)ヨリ、本丸石垣ノ石ヲ引リセラルルニ、大石ヲ引キアゲル事、日ニ[illegible]シ、月ニ累リケリ」

いしがけ (名) 【石崖】 (がけ、いしがき、いしがけしぼりヲ見ヨ) 山、又ハ、堤ナドノ側面ニ、石ヲ疊ミアゲタルモノ。

いしがけしぼり (名) 【石崖絞】 「切石ノ石崖ノ合目(アハセメ)ノ如シ」 絞染(シボリゾメ)ノ模様ニ、六角ナル形(カタ)ヲ、縱橫ニ密接ニ連ベタルモノ、龜甲形ノ如シ。 俚言集覽、いしがけしぼり「文脈、六角ニシテ、石ヲ疊ミタル如キ絞(シボリ)ヲ云フ」

〔**いしがに** (名) 【石蟹】 やまがにニ同ジ。 倭名抄、十九、龜貝類「石蟹、生ニ海際石下ニ、故以名レ之、以之加爾(イシガニ)」

⁂**いしがへし** (名) 【意趣返】 いしゆがへしノ訛。(東京)

〔**いしがみ** (名) 【石神】 石ヲ、神トシテ祀レルモノト云フ。後世、石神(シャクジ)ト云フモノモ、是レナルベシ。 三代實錄、廿六、貞觀十六年九月八日「石見國上言、石神二、自出ニ雲國ニ來、是日授ニ從五位下ニ」 延喜式、神名帳、河内國、大縣郡、石神社一 金葉集、八、戀、下、[illegible]石神[illegible]フコトヲ、聞フ石神ノ、ツレナキニ、吾ガ心ノミ、動キヌルカナ」(石占ニカケテ詠メルカト云フ)

〔**いしがめ** (名) 【石龜】 倭訓栞、いしがめ「倭名抄ニ、此(コレ)、山中龜也ト見エ、山中ノ石下ニ生ズルヲ以テ名ヅク、龜トノミ云フハ、多クハ是レナリ」 石龜、山龜ト云フハ、海龜ニ對シテ云フ、[illegible] 龜ノ一種。又、やまがめトモ云ヒ、常ニハ、單ニ、かめ、又、かめのこト云フ。龜ノ條ヲ見ヨ。 [illegible]、九ニ龜、石龜[illegible] 倭名抄、十九[五]「本草云、秦龜、陶隱居注云、此(コレ)山中龜也、伊之加米(イシカメ)」[illegible]八[illegible]「今[illegible]山龜」」

いしがめのぢだんだ (名) 【石龜地團太】 (ぢだんだノ條ヲ見ヨ、龜ハ、足ヲ擧ゲテ地ヲ蹈ムコト能ハズ) 身ノ程ヲ思ハズシテ、人ノスルコトニ倣ハムトスルコト。 [illegible]上ノ者ナレドモ、石龜モぢだんだ、トカヤ、[illegible]シテ金銀ヲ出シ」 假名手本忠臣藏(寬延、竹田出雲)[illegible]十、カンデ見テモ、石龜のぢだんだ、及バヌコト」[illegible] 倭訓栞、いしがめ「[illegible]ベバ石龜モぢだんだト[illegible]フ諺ハ、根本律ニ、[illegible]大旱ハ、池水皆空、[illegible]東南ニ去云、ト云ヘルカ如シ」

いしがれひ (名) 【石鰈】 かれひノ一種。表ノ黒キ方ニ、鱗無クシテ、鰭ノ兩邊ニ、黒クシテ扁(ヒラ)キ石ノ如キモノ、並ビ著ケリ、身長、大ナルハ、二尺餘アリ、味、殊ニ美ナリ。 俚言集覽、いしかれひ「北目魚(カレヒ)ノ一種、上面ノ黒皮ニ、扁ナル小石ノ如キモノ、並ビツクモノナリ」

〔**いしき** (名) 【石槨】 (槨(キ)ノ條ヲ見ヨ) 石造リノ槨、内棺ヲ藏ムルタメニ、土中ニ、上下、四方、石ヲ疊ミテ築キタル窟(イハヤ)。又、石城(イハキ)。 [illegible]、云云、石城(イハキ)[illegible]、云云、[illegible]石槨[illegible]之」大[illegible]、六

年二月、小市岡上陵「不㆑忘㆓石陽之役㆒」美濃國風土記、□治郡、華佗山、石室コチタケバ、小泊瀬山ノ、伊波爲ニモ、率テ籠ラナム、莫思ヒソ吾背」萬葉集、十六「二事シアラバ、小泊瀬山ノ、石城ニモ、隱ラバ倶ニ、莫思ヒ吾ガ夫」同、九「葦屋處女墓、長歌「タマボコノ、道ノ邊近ク、磐構ヘ、作レル塚ヲ」

い-しき (名) 意識 〔英語、Consciousness. ノ譯語〕心理學ノ語。心ノ覺メテ、ナホ、ボエノアル狀態。(熟睡ノ時ナドニ對ス)

いしぎく (名) 石菊 がくゎんせき(鵝管石)ニ同ジ。

〜いしきな-し (句) 不能致果 〔美しき無しニテ、美カラズノ意ナルベシ、(美しノ條ヲ見ヨ)〕日本書紀通證、九「不能致果、今云㆓伊志久毛㆒是也」左傳、宣公二年「殺㆑敵爲㆑果、致㆑果爲㆑毅」正義「謂、爲㆑致㆑果敢、殺㆑敵之心、是爲㆓強毅㆒」致果ハ、剛毅キ意ナリ)懦弱ナシ。力、堪ヘズ。 綏靖卽位前紀「神八井耳命曰、吾是乃兄、而懦弱不能致果」(國史大系本ノ旁訓ニ從フ、神八井耳命ガ、庶兄、手研耳命ヲ射殺サムトシ、畏レテ敢ヘテセズ、弟、神渟名川耳尊、代リテ殺シシニ因リテ、言ヒタマヘル詞ナリ)

いしきり (名) 石切 (一)石ヲ切リ刻ミテ、諸物ヲ造ルコト。彫石 内匠寮式、御帶「切石料、大坂沙、一石」(こんがうしゃ(金剛沙)ヲ見ヨ) (二)石切ヲ業トスル者。石ノ工匠。石作。石工。石屋。石工 勸進聖判歌合(文安)二十番、石切「アナ尊、作ル作ルモ、石切ノ、光ヲヤガテ、敲ツ御佛」和爾雅(元祿)三、人物「石工、石匠」人倫訓蒙圖彙(元祿)三、石伐「都ノ北、白川ノ里ハ、石ヲ伐出シテ業トス」

いしきりのみ (名) 石切鑿 石工ノ用キル鑿。鋼鐵ニテ造リ、太ク短クシテ、本闊ク、末尖ル。イシノミ。石鑿 和爾雅(元祿)五、器用「石鑿」和漢三才圖會(正德)廿四、百工「鑿、以之木里乃美」

いしく (名) 石工 (一)前前條ノ(二)ニ同ジ。(二)石工ノ手間賃。

〜い-しく・ク・ケ・カ・キ・ケ (自動、四) 及 〔い八、發語〕及くト云フニ同ジ。追ヒツク。及ブ。 仁德紀、三十年九月「山背ニ、伊辭鷄之鳥山、(舍人ノ名)伊辭鷄之鷄、(命令形)吾ガ思フ妻ニ、伊辭鷄鷄會ハムカモ」雄略紀、十三年九月「ヌバタマノ、甲斐ノ黑駒、鞍著セバ、伊志柯孺アラマシ、甲斐ノ黑駒」

い-しく (形) 美 美しノ條ヲ見ヨ。

いしくなぎ (名) 鶺鴒 〔石搖ノ義、にはくなぶりノ條ヲ見ヨ〕鶺鴒ノ一名。イシタタキ。 多賀高忠軍陣聞書(寬正)「射マジキ鳥、云云、いしくなぎ、庭鳥、木鼠」林逸節用集(文明)生類「鶺鴒」

いしくばり (名) 石配 又、石立。圍碁ニ云フ語。打始メニ、碁盤面ノ各要點ニ布石シテ、大體ノ陣構ヘヲシ、攻守ノ準備ヲスルコト。

〜いしぐら (名) 石倉 〔土倉、板倉アリ〕石ニテ造リタル倉。 筑後國風土記、上妻縣「有㆓筑紫君磐井之墓墳㆒云云、及處亦有㆓石馬三匹、石殿三間、石藏二間㆒」(釋紀、十三) 運步色葉集(天文)「石倉」

いじくる (動) 弄 いじる(弄)ノ條ヲ見ヨ。

いしぐるま (名) 石車 〔修羅ト云フ事、其條ヲ見ヨ〕大石ヲ載セテ運ブニ用キル車。車臺低クシテ、其下ニ、小サクシテ幅厚キ四輪ヲ着ク。修羅トモ云フ。 語彙、いしぐるま「大石ヲ運ブ車ナリ、高サ、尺ニ滿タズ、其輪小サク、四輪ヲ着ク」

いしぐるま (名) 石車 〔回轉クヲ、車ニ譬ヘテ云フ〕坂路ナドニテ、小石ヲ蹈ミツケ、其石ノクルメキニ因リテ轉ブコト。 松風村雨束帶鑑(元祿、近松作)三「一心ノ下坂、石車ニ乘テ」

いしくれ (名) 石塊 〔土くれヲ見ヨ〕小石。石子。イシコロ。

い-しくゎい (名) 醫師會 醫師ノ團體。醫事衞生ニ就キテ、官府ノ諮問ニ應ジ、又ハ、建議ヲスル機關ナリ、市醫師會、區醫師會ト、道、府、縣醫師會トアリ。

いしげ (名) 石毛 〔細小ニシテ、毛ノ如シ〕海藻ノ名。海中ノ暗礁上ニ生ズ、全體細小ニシテ、二三寸、乃至、五六寸、黑褐色ニシテ、枯枝狀ヲナシ、末ハ扁平ナリ、味、佳ナラズ、多ク、肥料トセラル。

いしけん (名) 石拳 「蟲拳ヨリ移ル、(其條ヲ見ヨ)初ニ拳トシテ出スニ因リテ、石、紙、鋏ノ內ニ、石ヲ主トシテ名トス、じゃん拳ト云フハ、石拳ノ音便ナラム、(けんつく、つくけん、つんけん。石榴、溫石)ぽいト云フハ、ぽいト掛聲スルナリ」二人以上相對シテ、右手ノ拳、掌、指ニテ行フ競技ノ遊戲。 東京ニテハ、じゃん拳トモ云フ、拳ヲ石ニ比シ、開キタルヲ紙ニ、人差指ト中指トヲ出シタルヲ鋏ニ擬ヘ、鋏ハ紙ヲ切リ、紙ハ石ヲ包ミ、石ハ鋏ニ勝ツトシテ、互ニ出シテ、勝負ヲ決ス、人人、同時ニ、じゃんけんぽいト發聲シ、し、し、し、ノ掛聲ニテ、拳ヲ、二三度上下シテ、卽チ始ム。石拳ハ、遊戲ノミナラズ、スベテ、事ヲ行フニ、順番ノ先後ヲ定ムルニモ行フ、咄嗟ニ決セラレテ、鬮ナドヨリモ便利ナリ。

いしけり (名) 石蹴 兒童ノ遊戲。地上ニ數多ノ區劃ヲ作リ、數人、順次ニ出デ、片足ニテ立チ、其立チタル足ニテ、一個ノ小石ヲ蹴ツツ、區劃內ニ蹴込ム。

いしこ (名) 石子 イシクレ。イシコロ。小石。礫 「石子詰」

いしこ (名) 石粉 燧石ノ類ノ石ヲ碎キテ、粉トセルモノ。鎔カシテ、硝子ヲ造ル。

いしごき (名) 茶碗 「磁器ノ合器、石皿ト云フモアリ」茶碗ノ異名。 博多小女郎波枕(享保、近松作)上「石ごき二、三杯」物類稱呼(安永)四、茶碗「肥前、鍋島、奧州、二本松ニテ、いしごきト云フ」

⁂いしこっぱ (名) 石屑 「石ノ木端ノ意」切石ヲ刻ミテ落チタル缺片。 語彙、いしこっぱ「石ヲ刻ミタル屑ヲ云フ」

いしこづみ (名) 壙 〔石子積ナルカ〕壙墓ノ上ヲ、小石ニテ築キ固メタルモノヲ云フカ、土饅頭ナドナルベシ。 和爾雅(元祿)一、地理「塋、塚、云云、壙」註「墓上積㆑石、石壙」

いしこづめ (名) 石子詰 中世ニ、往往、行ハレシ私刑。人ノ、生キナガラナルヲ、坑ノ中ニ入レ、小石ニテ埋メ殺シタルナリ。奈良ニテ、春日ノ神ノ使ト稱スル鹿ヲ殺シタル者ハ、此刑ニ處シタリト云フ。奈良ノ興福寺ノ東南、菩提院ハ、俗ニ十三鐘ト云フ。平城坊目遺考ニ、昔、十三ノ兒童、鹿ヲ殺シ、此境內ニテ石子詰ニセラレシト云ヘリ。 俚言集覽、いしこづめ「小石ニテ、人ヲ生ナガラ埋ムル刑ナリ、中古、邊土ニテ、往往アリシ事也」

いしこひ (名) 〔石鯉|鯪鯉〕 せんざんかふ(穿山甲)ノ又、にんぎよ(人魚)ノ條ヲ見ヨ。

∴いしころ (名) 〔石子〕 〔東國語ナルベシ、ろハ、嶺ろ、尾ろ、犬子ろノ類、(らノ條ヲ見ヨ)いしくれノ轉ニハアラジ〕 石子。小石。細石。 語彙、いしころ「さざれいしニ同ジ」

いしざか (名) 〔石坂〕 石ニテ段ヲ疊ミ作レル坂。石階。イシダタミ。イシダン。磴 語彙、いしざか「いしだたみニ同ジ」

いしさき (名) 〔鰯魚〕 いさき(鷄魚、鰯魚)ノ條ヲ見ヨ。

いしざら (名) 〔石皿〕 〔石トハ、磁製ナリ(いしごきノ條ヲ併セ見ヨ)〕 石燒ノ皿。磁皿 好色二代男(貞享、西鶴)四「丸盃ニ二ツ盃、石皿ニ小鱠魚、裂キ入レテ」 世間胸算用(元祿、西鶴)一「淺燒ノ石皿、五枚」

いしざら (名) 〔石皿〕 貝塚ナドノ掘出品ニ、楕圓、扁平ナル石ノ上面ヲ、窪メ刻リタル如キモノアリ、考古學ノ人ハ、コレヲ石皿ト云フ、大ナルハ、長徑一尺餘ナルモアリ。

いしじき (名) 〔石敷〕 〔板敷モアリ〕 建築ノ語、地上ニ、平面ノ石ヲ敷キツメタル處。イシダタミ。 石甃

いしずみ (名) 〔石炭〕 せきたんノ一名。 重修本草綱目啓蒙、五、石類、上「石炭、カラスイシ、筑前ニテ、イシズミ」

いしずり (名) 〔石摺〕 (一)石碑ニ刻リタル文字ヲ、摺リ取レルモノ。碑面ニ白紙ヲ當テテ、水ニテ濡ラシ、輕ク叩ケバ、紙、文字ノ所ニ窪ム、綿ヲ布ニ包ミタルたんぽニ、墨水ヲツケテ、其上ヲ打テバ、地ハ黒クナリ、文字ハ白ク寫ル。(乾打碑ノ條ヲ見ヨ) 打碑 (二)轉ジテ、能書、名畫ナドヲ摸シテ、板ニ刻リ、前ノ方法ニテ摺リ取レルヲモ、石摺ト云フ。拓本 拾遺古今、四、塲詞、九、第一段「義之ガいしずり、一帖十二枚」(古事類苑、書籍) 二老略傳「日本源始墨本、云云、今ノ正面石摺ヲ製スルモノ、廣澤先生(細井氏)ヲ始トス」(同上) 倭訓栞、いしずり「石板ヲ云フ、石刷ノ義也、石ニ鐫ルヲ、上石ト云ヒ、石刻ト云フ、法帖ノ類ニ云フハ、能書ノ手ヲ、石ニ刻リタルヲ摺リタル也、打碑、是也」

いしずゑ (名) 〔礎〕 〔石据ノ義、積石ト云フハ、地下ヨリ石ヲ積み堅ムル義ト思ハル、(つめいしモ、詰石)つみしトハ、約メテ云フナリ、(播磨國、明石、あかし。和泉國、取石、とろし)正韻「礎、音楚、柱下石也」〕 (一)〔つみいし。つみし。〕 柱ノ下ニ石ヲ据エテ、承トスルモノ。今ハ、土臺石ト云フ。上古ハ、皆、掘立柱ナリキ、礎ヲ用ヰルハ、韓、漢ノ建築術ノ入リシヨリノ事ナリ、礎ハ、先ヅ地中ニ小石ヲ埋メ、ソレヲ築キ固メテ後ニ、据エオクナリ、近代ハ、西洋技ヲ傳ヘテ、石ヲ、こんくりいとニテ固メテスルナリ。 推古紀、元年正月「以二佛舍利一置二于法興寺刹柱礎中一」 倭名抄、十「柱礎、都美以之、以之須惠」 名義抄「礎、ツミイシ、ツメイシ、イシスヱ」 夫木抄、六、春、菫菜「菫花咲ク、奈良ノ都ノ、跡トテハ、いしずゑノミゾ、形見ナリケル」 (二)建築ノ初ニ、礎ヲスヱツクル儀式。 庭訓往來(元弘)三月「釿立、礎居、柱立、棟上之吉日者、課二陰陽頭以下一可レ被二定下一歟」 (三)大事ニ任ジテ、頼トナル人ヲ、國のいしずゑ、又、柱石の臣ト云フ、各條ヲ見ヨ。

いしぞこ (名) 〔石底〕 〔固クシテ破レヌ意ニ〕 足袋ノ底ニ用ヰル、厚キ綿布、[illegible] 實ノ條ヲ見ヨ。[illegible]

いしだき (名) 〔石抱〕 江戸時代ノ拷問ノ方法。三角ノ木ノ角ヲ上ニシテ並べ造リタル臺ニ、罪人ヲ坐セシメ、更ニ膝ノ上ニ、平タキ長方形ノ石ヲ載セ、二枚、三枚、四枚、五枚、ト順ニ重ネ終リ、身ヲ搖ガシテ痛メ責ムルナリ。ソロバンぜめ。

いしたけ (名) 〔石竹〕 〔石竹ノ文字讀〕 草ノ名。石竹ニ同ジ。又、いしのたけ。 永久百首、夏、瞿麥「いしたけノ、花咲ク宿ニ、イカニシテ、節ヨキ竹ヲ、籬ニ結ハマシ」 散木集、五、祝、撫子に祝ひの心を寄せて「君ガ代ノ、タメシニ引カム、春日野ノ、石の竹ニモ、花咲キニケリ」 雑打追加(寛文)「石の竹ノ、露ハ重カ、五六月」(五六ノ條ノ(二)ヲ見ヨ)

いしだこ (名) いひだこ(飯蛸)ニ同ジ。

いしたたき (名) 〔鶺鴒〕 〔にはたたきノ條ヲ見ヨ〕 鶺鴒ニ同ジ。其條ヲ見ヨ。 言塵集(應永、今川了俊)「稲負鳥、鶺鴒アレドモ、石たたきナリ」 塵袋抄(文安)一、五十八條「鶺」 易林節用集(慶長)氣形部「鶺鴒」

いしだたみ (名) 〔石階〕 〔石ヲたたみアゲテ造レルナリ〕 石階。石坂。石段。 續古今集、七、神祇「三熊野ノ、神倉山ノ、石だたみ、登リ果テテモ、ナホ祈ルカナ」

〜いしだたみ (名) 〔甃〕 〔石疊トモ記ス、石造ノ敷疊ノ義、唐いしきトモ云ヘバ、支那ノ制ヲ移シタルモノナリ、いしきハ、石敷ノ略、(石甃、碇。足蹈、鐙)今世モ、建築語ニ、いしきト云フ、井敷、居敷ナド書ケルハ、當字ナリ、易經、井卦、疏「甃、以レ塼壘レ井ニ」〕 又、唐石敷。地上ニ、方形平坦ナル石ヲ、縱横、密接ニ敷キ並ベタル處。[illegible]ニシテ[illegible]今モ、宮ケ、[illegible]門、玄關ナドニ見ル。[illegible]語、國語、上、八十「大殿ノ段ノ上ヨリ、太出シテ、いしだたみノ許マデ、水潦キ入レテ」 金葉集、九、雑、[illegible]ノ雨シケレバ、石だたみ敷カレテ侍ルメル、ト申スヲ聞キテ「石だたみ、アリケルモノヲ、君ニ又、ゐくものナシト、思ヒケルカナ」 源氏行幸記(建仁二)二月二十八、[illegible]、あられノ[illegible]、いし[illegible](次條ヲ見ヨ) 古事談、四、[illegible](堀川左大臣)打二圍基一所ニ相具二郎等、云云、将二太刀一、有二中門内唐居敷ニ」 和漢三才圖會(正德)八十一、宮室之用、敷、唐居敷 云、石[illegible]、[illegible]之石疊、[illegible]、名[illegible]、からいしきト云フハ、唐石敷ナリ、唐ノ宮ニハ、[illegible]、石ノ敷ク也、ソノ如ク、門ノ下ニ、四角ナル石ヲ敷キツメタルヲ、からいしきト云フ、石だたみノ事也。[illegible]書、四「石疊、又、甃ノ字ヲ用フ、大抵、門ニ[illegible]アル所ハ、石疊、石階アリ、玄關ト云フモノ出來テ後ハ、門ヨリ玄關ノ道、又、玄關ノ前、石疊ヲ用フル事トナレリ」

いしだたみ (名) 〔礴花〕 〔前條ノ語ノ義カ、礴ハ、甎ト同ジ、廣韻「甎、[illegible]」 顔會「甓、[illegible]也」花ト云フハ、模樣ナリ〕 又、あられ。(其條ヲ見ヨ) 地紋ノ名。甎ノ線ノ如キ縱横線ノ、各方形ノ上下、左右一ツヅツ隔テテ、色違ニシタルモノ。染物、織物ナドニス、後世ハ、市松染トモ云フ、高木細工ニモ云フ。[illegible] (正和)「上袴、壯年ノ人、浮線綾ト稱シテ、白キ浮織物、地ハ小石疊、[illegible]」

いしだて (名) 〔石立〕 石配ヲ見ヨ。

いしだん (名) 〔石段〕 切石ニテ作レル階。石坂。石階。

いしだん-いし (名) 〔石段石〕 (一)往時、

茶室外ノ庇ノ下ニ、高ク刀掛アリ、其下ニ、蹈段トシテ据エオキタル石。天然ニ、一方高ク、一方低ク、段ヲ成セルモノヲ擇ビ用キタリ、士分以上ノ茶客ノ、脫刀シテ室ニ入ルノ設ケナリキ。(二)庭ノ中ノ蹈石ニ、平面ノ自然石ヲ、大、小、交ゼテ、相接セシメテ作レルモノ。幅一尺五寸許、長サハ不同ナリ。

いし-ぢ　(名)　[石地]　(一)石多キ土地。磽确　用明天皇職人鑑(寶永、近松作)二「石地ヲヒラキ、畠ヲウツ」　(二)次條ヲ見ヨ

いしぢ-ぬり　(名)　[石地塗]　漆塗ニ、淡灰色ニ、細點密布シテ、石ノ地面ノ如キモノ。

いし-ついぢ　(名)　[石築地]　〔ついぢヲ見ヨ、石垣、同ジ〕　石造リノ築地。應仁別記(群書類從)浦上美作守ガ小者一若「堀ヲ飛越エ、石築地ヲ飛擧リ、陣屋ノ片脇ヘ火ヲカケレバ、云云」

いし-つき　(名)　[石附]　〔沙ノつきテアル意ナルカ〕　松茸ナドノ根。倭訓栞、いしつき「菌類ノ根ヲ云フ」

いし-づき　(名)　[石突]　〔刀劍略說「凡ソ太刀ハ、後下リニ佩クモノナリ、云云、太刀ヲ佩キテ蹲踞スレバ、鞘尻ハ必ズ石ヘツク、云云、庭上ニハ、必ズ甃アルベキ故ニ、石づきト云ヘルカ」鐺ノ字ヲ書キタルアルハ、かなものノ當ルト云フニ合字ナリ〕　(一)鞘尻。又、ソレヲ包ム金物。又、コジリ。鏢　字鏡三「鏢、石豆支」廣韻「鏢、刀劍鞘下飾也」古事談、一、王道后宮「延喜野行幸之時、被入二腰輿一之御劍ノ石付落失、云云」刀劍略說「石著、一ニハ、石突トモ書ク、鞘尾ノ事ナリ、今ハ、小尻ト云フ」　(二)戈、槍、長刀、ナドナルニモ云フ、尖レルアリ、(鐏)平ナルアリ。(鐓)　參考太平記、廿五、住吉合戰事「鐏ニ金ヲ入レタル鎗ヲ、馬ノ平頸ニ引添テ」太平記、十七、野中八郞事「長刀ノ石づき取伸ベテ、向フ敵一人、諸膝薙ギテ切リスヱ」

いし-づくり　(名)　[石作]　〔石棺作ト云フガ、成語ナルベシ〕　(一)古ヘ、石棺ヲ作ル手人ノ長トシテ仕ヘ奉リシ職。姓氏錄、左京、神別「石作連、垂仁天皇御世、奉下爲二皇后日葉酢媛命一作中石棺上獻レ之、仍賜二姓石作大連公一也」古事記、中(垂仁)四十「大后、比婆須比賣命之時、定二石祝作一」記傳「祝ノ字ハ、棺ノ誤ナリ」　(二)石切。石工　長秋記、天承元年四月十二日、石塔ヲ建テラル「召二法成寺石作一被レ造也」同、長承三年八月十三日「檜皮工、壁塗、石造、三人、云云」　(三)石ニテ造リタルコト。(木造ナドニ對ス)　石造「石造ノ家」

いし-づけ　(名)　[石漬]　〔柴漬ト同趣〕　水ノ淺キ處ニ、石ヲ中窪ニ積ミオキ、魚ノ集ルヲ待チテ捕フルコト。

いし-づたひ　(名)　[石傳]　〔後世ノ、いそとび、さはとびノ如キモノ〕　小川ノ瀨瀨ノ石ヲ、蹈ミツタヒテ渡ルコト。新六帖、二「片山ノ、細小川ノ、いしづたひ、(ノ如ク)心細ソクテ、世ヲ過スラム」(萬葉集、七十「飛鳥川、瀨瀨ニ渡シシ、石橋モ」トアル、此意ナルベシ、倘、いはばしノ條ヲ見ヨ)

〜**いし-つつ-い**　(名)　[石槌]　かぶつち(頭槌)ノ條ヲ見ヨ。

いし-つぼ　(名)　[石壺]　〔思フつぼナド云フ、坐スベキ點ノ意カ、石造ナリ〕　伊勢神宮ノ宮域內ニ設ケラレタル版位。祭儀ヲ行フ時、勅使、神官等ノ、着座スベキ所ヲ示スモノ。拜所ナリ。伊勢太神宮式、九月神嘗祭「使中臣、次使王、入就二內院版位一」皇太神宮儀式解、廿三、版位「何時ノ頃ヨリカ、石ヲ並ベ疊ミテ、局ヲ作レリ、石壺トモ云フ、云云、今ノ世、第四御門ノ內東方、石壺四箇アリ、使王、使中臣、使忌部、及、卜部ノ版ナリ、同、西方ニ、石壺十一箇アリ、正員禰宜十人、宇治內人ノ版ナリ」新後撰集、十、神祇「榊モテ、八ツノ石つぼ、蹈ミナラシ、君ヲゾ祈ル、宇治ノ宮人」

いし-つぼ　(名)　[石坪]　〔坪ハ、中庭ノ意、其條ヲ見ヨ(桐坪、梅坪)〕　第宅內ニアリテ、小石ヲ敷キツメタル一地域。後世ノ白洲ノ類ナルベシ。吾妻鏡、三、元曆元年正月廿七日「遠江守義定、蒲冠者範賴、源九郞義經、云云、三人使者、皆依レ召參二北面石壺一、間二召巨細一」

いし-つみ　(名)　[石積]　兒童ノ遊戲。數人寄合ヒ、細小ノ石ヲ積ミアゲテ、一人ヅツ其內ノ石ヲ拔キ取ルナリ、人差指一本ニテ行ヒ、他ノ石ヲ動カサヌヤウニシテ取ル、動カセバ、次ノ者替ハリテ取ル、取得タル石ノ多少ニテ勝負ヲ定ム。

〜**いしーでん**　(名)　[一身田]　〔いつかうノ、いかう(一向)トナリ、いつせんずりノ、いせずりトナル類〕　いつしんでんノ條ヲ見ヨ。

いし-どうろう　(名)　[石燈籠]　(一)石ニテ造レル燈籠。地上ニ建ツ、普通ノ製ナルハ、火袋、笠石、脚石、臺石アリテ、高シ、神社、佛閣ノ前ニ据エテ、夜、火袋ノ中ニ火ヲ點ズ、大小、長短、方圓、形態、彫刻、種種ナリ。大和國、高市郡、橘寺ハ、聖德太子ノ創建ト云フ、此寺ニアル石燈籠、古色、最モ深シ、世ニ、日本最古ノモノト稱ス。又、奈良ノ春日神社ノ神苑ニハ、千七百餘基モアリテ、長曆年中ニ獻ゼシモノ、最、古シト云フ。(春日形ノ條ヲ見ヨ)攝津ノ住吉神社ニハ、高大ナルモノアリ。(二)石燈籠ハ、又、庭園ノ樹間、池邊、手洗所ノ前ナドニ据エテ、裝點トシ、點火ス、殊ニ、茶室ノ前庭ニ設クルハ、寂ビテ苔產シタルナドヲ用キテ、古色ヲ愛セリ。茶道筌蹄、一、庭之部「石燈籠、古寺、古社ニアリシヲ用ユ」南方錄、二、「石燈籠、露地ノ趣ニ隨ヒ、手水鉢ノ邊、又、木蔭ノ闇キ所ニ置クベシ、石燈籠ノ古ビタル、佳シ」

〜**いし-どの**　(名)　[石殿]　石ニテ造リタル殿舍。いしぐら(石倉)ノ條ヲ見ヨ。

〜**いし-なげ**　(名)　[擲石]　次條ヲ見ヨ。

いし-なご　(名)　[擲石]　〔なごハ、投げノ音轉、(鹿毛まだら、かのこまだら)和漢三才圖會(正德)十七、嬉遊、擲石「和名、以之奈介、俗云二石奈古一、介與レ古通」いしなどりハ、いしなごどりノ略、(橫切る、過る。沙子、すな)取りハ、玉取、鈴取ニ同ジク、翫弄スル意ナリ、いしなどりノ方、早ク書ニ見ユレド、語原ヲ說クニ、先ヅ此ノ如シ〕　遊戲ノ名。小石ヲ投ゲアゲテ、其落ツルヲ、手ノ表裏ニ承ケテ取ルナリ。コノ行爲ヲ、いしなどりト云フ、石ハ、碁石ノ如キモノナルベシ。此技ハ、後世、少女ノ弄ブ、手玉、おてだまト云フモノト、全ク同ジト思ハルレバ、其條ヲ見ルベシ。倭名抄、四十八雜藝類、八道行成ノ條「拾 抱、擲石」拾遺集、十八、雜賀、東宮ノ、いしなどりノ石、召シケレバ、三十一ヲ包ミテ、一ツニ一文字ヲ書キテ、參ラセケル「苔產サバ、拾ヒモカヘム、サザレ石ノ、數ヲ皆取ル、齡幾世ゾ」蜻蛉居雜錄(眞淵)いしなどり「拾遺集ニ、云云、右ノ繪ニ、女房二人向ヒ居テ、一人ノ手ノ甲ヘ、石二ツ三ツ載セ、下ニモ多ク散リテアリ」玄玄集(能因)いしなどりノ石ヲ中宮ニ奉ル「スベラギノ、後方ノ庭(後庭、後宮)

ノ、石ゾコレ、[illegible]ア、[illegible]、[illegible]二十二、下「石なごノ、玉ノ音チクレ、ホドナサニ、[illegible]グル月日ハ、カハリヤハスル」俚言集覽、いしなど[illegible]リ」[illegible]、[illegible]、具[illegible]、具[illegible]、[illegible]、[illegible]石[illegible]以テ、[illegible]、江戸ニテ、[illegible]ト云フ、[illegible]ニテ、石なんご、又、たつナトモ云フ、中國、及、[illegible]ニテ、石なごト云フ」俗語考(橘守部)いしなご「[illegible]ノ[illegible]ニテ、たんごト云フハ、いしヲ省キテ、なごヲ、音便ニ、なんごトハ云フ也」

いし-な-だんご　(名)　〔禹餘糧〕　〔石の團子ノ轉ナラムカ、(手の心、たなごころ)糧ハ、石中ノ粉ヲ云フ」　はったい　いしノ異名。其條ヲ見ヨ。　重修本草綱目啓蒙、六「禹餘糧、イシナダンゴ、ハッタイイシ」(讃岐)

いし-な-どり　(名)　〔擲石〕　前前條ヲ見ヨ。

いし-の-うへ　(名)　〔石上〕　石の上にも三年ト云フ諺ハ、能ク辛抱スル意ヲ云フ、耐忍ノ德ヲ守ル。　西鶴織留(元祿)四「商人、職人ニヨラズ、住馴レタル所ヲ替フルナカレ、石の上にも三年ト、俗語ニ傳ヘシ」

〔**いし-の-おび**　(名)　〔石帶〕　革帶ノ背部ノ飾ヲ、玉、叉、白石ニテ造リタルモノ。石帶。(革帶ノ條ヲ見ヨ)　倭名抄、十二13「革帶、以₂其所₁レ附金玉石角等₁爲レ名、故有₂白玉帶、紀伊石帶、出雲石帶等名₁」　宇津保物語、藏開、中ㇾ「螺鈿ノ帶ノ匣ニ、云云、引キ出デ見タマヘバ、貞信公ノいしのおび、イトカシコキナリ」　藤原忠平)　西三條裝束抄「白石帶、大外記、是ヲ用ユナリ、彈正式、紀伊國石の帶ノ白クカガヤケルハ、六位已下不レ可レ用由見エタリ」

いし-の-おまし　(名)　〔倚子御座〕　倚子ノ條ヲ見ヨ。

いし-の-たけ　(名)　〔石竹〕　いしたけ(石竹)ノ條ヲ見ヨ。

〔**いし-の-ち**　(名)　〔石鍾乳、[illegible]乳石〕　〔石の乳ノ義、石鍾乳ノ[illegible]ナルベシ、或ハ、其垂下スル狀、乳房ノ如キニ云ヘルカ〕[illegible]乳　石ノ古名。其條ヲ見ヨ。　ツララ イシ。[illegible]心、[illegible]一ロ「石鍾乳、伊之乃知」倭名抄、一ロ「石鍾乳、出₂備中英賀郡₁以之乃知」三代實錄、二、貞觀元年二月七日「[illegible]、[illegible]、從五位上、出[illegible]國[illegible]、[illegible]備中國[illegible]石鍾乳二」

〔**いし-の-はし**　(名)　〔石階〕　いしばし(石階)ヲ見ヨ。

いし-の-ひ　(名)　〔石火〕　燧石ニテ打出セル火。瞬ク間ニ消ユレバ、ハカナキコトニ云フ。　夫木抄、十九、火「石の火ニ、此身ヲ寄セテ、世ノ中ノ、常ナラズサヲ、思ヒ知ルカナ」倭訓栞、いしのひ「燧石ノ火也、澤庵和尙「幾程ゾ、世ハ石の火ヲ、うつノ山、光ノ間サヘ、辿ル細道」電光石火ノ意也」佛足石歌(奈良朝時代)「雷ノ、光ノ如キ、是レノ身ハ」

いし-の-ま　(名)　〔石間〕　權現造ノ神社ノ、本殿ト拜殿トノ間間ノ稱。地ヲ石甃トス。　古今要覽稿(屋代弘賢)神祇、五、神社制作「神明造、石間造、春日造」

〔**いし-の-まくら**　(名)　〔石枕〕　極メテ重キ枕。(いしまくらノ條ヲ參照セヨ)　六帖、五、枕「獨寐ノ、床ニタマレル、涙ニハ、石の枕モ、浮キスベラナリ」(落涙ノ甚シキコト、重キ石造ノ枕モ、浮キアガルベシノ意ナラム)

いし-の-み　(名)　〔石鑿〕　いしきりのみニ同ジ。

いし-の-みまし　(名)　〔石御座〕　〔石ノ上ニ御座すノ義〕　かなめいしノ(一)ノ條ヲ見ヨ。

いし-の-ゆか　(名)　〔石床〕　〔臥床ト云ヘルカ〕　巖石ノ表面。　拾遺愚草、下「仙人モ、住マデ幾世ノ、石のゆか、霞ニ花ハ、ナホ匂ヒッツ」

〔**いし-ばし**　(名)　〔石橋〕　〔板橋、土橋ニ對ス〕　石ニテ造リワタセル橋。シャクケウ。[illegible]、十一[illegible]、[illegible]、[illegible]」[illegible]治拾遺、四、第五條「西院ノ邊近クナリテ、石橋アリケル水ノホトリ[illegible]、云云」[illegible]るト云フ諺ハ、用心堅固ノ意ニテ、念ニハ念ヲ入レルト云フナリ。

〔**いし-ばし**　(名)　〔石階〕　石ニテ疊ミアゲタル階。石ダタミ。石段。又、いしのはし。　字鏡、七「[illegible]、伊志波志」(下[illegible])[illegible]日記、中、中二「[illegible]キカヘルコト、タビタビニナリヌ、一町ノ程ヲ、いしばし降リ昇リナドスレバ」源、十二、須磨五十「竹編メル垣シワタシテ、石のはし、松ノ柱、オロソカナルモノカラ、メヅラカニヲカシ」(白氏文集ヲ飜シタルナリ、下、同ジ)　夫木抄、三十「石のはし、松ノ柱ニ、住ミソメテ、老ヲ送リシ、山ゾユカシキ」白氏文集、十六、香爐峯下、新卜₂山居₁草堂初成、偶題₂東壁₁「五架三間新草堂、石階松柱竹編墻」

〔**いし-はじき**　(名)　〔石彈〕　彈碁ノ類。小石ヲ用ヰ、人指ノ爪尖ヲカガメ、拇指ノ腹ニカケテ、此處ナル石ヲハジキヤリテ、彼處ニ立テタル石ニ當ツル遊戲ナリ。後世ノ、將棋はじき、きさごはじき、此ノ遺ナリ。　宇津保物語、祭使四「男、女、方別キテ、石はじきシタマフ」倭名抄、四「彈碁、一名、指石」和漢三才圖會(正德)十七、嬉戲「指石、俗云₂波之木₁」徒然草、百七十一段「碁盤ノ隅ニ石ヲ立テテ彈クニ、向ヒナル石ヲ守リテ彈クハ、當ラズ、我ガ手許ヲ能ク見テ、ココナル聖目ヲ、直ニ彈ケバ、立テタル石、必ズアタル」

〔**いし-はじき**　(名)　〔拋石〕　〔石彈ノ義、はじくハ、放ツ意ナルベシ〕　古ヘノ軍器ノ名。機ニテ、石ヲ敵ノ上ニ投ゲ落スモノ。石礮ト、同趣ナリ。　推古紀、廿六年八月「[illegible]、[illegible]、拋石」軍防令、義解「[illegible]、[illegible]拋石」註「[illegible]、石[illegible]也」[illegible]文、[illegible]大木[illegible]石其上、[illegible]以[illegible]以追レ敵也」倭名抄、十三、征戰

いし-バチ　(名)　〔石鉢〕　大イナル石ヲ、鉢ノ形ニ造リ、[illegible]モノ手水鉢トシ用ヰルモノ。[illegible]色一代女(貞享、西鶴)二「いし[illegible]、[illegible]ハアリトモ、改メテ、[illegible]ヘサセ[illegible]」

いし-はなび　(名)　〔石花火〕　灌木ノ名。いしまつニ同ジ。

〔**いし-ばひ**　(名)　〔石灰〕　〔[illegible]ト云ヘモ、石灰ノ音ノ訛ナリ〕　一種ノ礦石ノ、石灰石ト云フモノヲ燒キタルモノ。山ヨリ掘リ出シタルモノハ、白質ニシテ、靑ミアリ、コレヲ、本山石灰ト云フ、(貝石灰ニ對ス)近江國、伊吹山ノ麓、山城國、鞍馬山、其他、諸處ヨリ出ヅ、燒キタルママナルハ、塊ヲナス、コレヲ、あらばひ、又、生いしばひト云フ、三十日許ヲ歷レバ、自ラ解ケテ粉トナル、コレヲ、ふけばひト云フ。風化石灰　又、あらばひヲ溫メオキテ、水ヲ注ゲバ、即時ニ解ケテ粉トナル。水化石灰　石灰ニ、化學ノ作用ヲ加ヘテ、藥品トシ、又、漆喰、染色、製茶等、諸般ノ用途、甚ダ多シ。後世ハ、蠣殼、蛤貝ナド燒キテ作レルアリ、スベテ同ジ、コレヲ、かひいしばひ、又、かきがらばひト云フ。(以上、本草綱目譯義、九、重修本草綱目啓蒙、五、日本百科大辭典等ニ委シ)　本草[illegible]名、上「石灰、以之波比」(倭名抄、同ジ)　博物志「燒₂白石₁作₂白灰₁既訖、[illegible]、[illegible]、[illegible]」本邦、石灰ヲ用ヰタルコト、甚、古シ、桓武天皇、大內裏御造營ノ時、用度多カリシナルベク、清涼殿內ニ、石灰壇ナド設ケラレタリ。[illegible]、[illegible]、承和二年九月、木工寮「石灰工一人」

いしばひ-いし (名) 石灰石 前條ヲ見ヨ。

いしばひ-の-だん (名) 石灰壇 清涼殿ノ東ノ廂内ノ、南ノ方ノ一室ノ稱。床ヲ、石灰ニテ塗リアゲ、板敷ト同ジ高サニ造レリ、天皇、此處ニテ、毎朝、伊勢ノ大神宮ヲ遙拜シタマヒ、又、内侍所ヲモ拜セラレシナリ。又、石灰の間。 名目抄(長祿)「石灰壇」 侍中群要(寛平)十、塗二石灰壇一事「塗閒、乘二母屋御簾一、近衞司候レ之、塗畢、上二御簾一」 夏山雜談(寛保、小野高尚)一「石灰の壇ハ、云云、御座敷ノ中ニ、石灰ニテ壇ヲ築キ、砂ヲ撒キアル由ナリ」 禁祕御抄(順徳院御作)上、恒例、毎日次第「自二清涼殿帳北一著二石灰壇一、内侍兼敷二大床子圓座於二石灰壇南頭中央一、立二廻四季御屛風一、典侍獻二御笏一、主上正二御心一著御、巽向、神宮、内侍所、已下御祈禱」 辨内侍日記(建長)「日頃降ル雪、冱エ凍リタルニ、いしばひの閒ニ歸立チ、ツクヅクト待居タリシ冷エザマモ、イト堪ヘガタシ」

いしばひ-の-ま (名) 石灰閒 前條ニ同ジ。

〜**いし-はら** (名) 石原 (原ノ條ヲ見ヨ) 小石ノ、多クアル地。 名義抄「磧、イシハラ」

いしはら-がに (名) 石原蟹 (古言、あしはらがに、是レナルベシ) 海濱、沙地ニ穴居スル蟹。 重修本草綱目啓蒙、三十一、蟹ノ條「沙狗、イシハラガニ、スナガニ「海邊、潮水退キタル後ノ沙上ニ、穴多シ、蟹、其旁ニ出デ居ル、人ノ聲ヲ聞ケバ、速ニ走リテ、穴ニ隱ル、甲ハ、方ニシテ、上、廣ク、下、狹ク、色黑シ、一螯ハ、大ニシテ、色白ク、一螯ハ小ナリ、其大ナルモノハ、甲、大サ二三寸、事言要玄ニ、沙蟹」

いし-ばり (名) 砭 (倭訓栞、いしばり「砭ヲ訓メリ、石針ノ義也」) 支那ノ鍼術ニ、石ニテ作リテ、燒キテ用キルモノト云フ。名義抄「砭、ヤキイシ」 說文「砭、以レ石刺レ病也」 史記、倉公傳「不レ當二砭灸一」 寒氣、骨に砭すト云フハ、寒サノ、強ク身ニ染ムノ意ナリ。

いし-ひき (名) 石引 大石ヲ、車ニ載セテ、引キ運ブコト。往時、城郭、佛殿ナドノ建築ニ、多人數ニテ引ケリ、人氣ヲ鼓舞セムガ爲ニ、石ノ上ニ登リ、石引唄ト云フヲ、音頭ヲ取リテ、高聲ニ謠ヒ、衆ヲシテ唱和セシメ、曳聲出シテ運ビタリ。今世ハ、西洋ノ方法ニテ、架空線、運搬機ナドノ機械力ヲ用キテ、容易ク引クコトトナレリ。 閑田次筆(文化、伴蒿蹊)四「京都大佛殿建立ノ大石ヲ引ク事ニ就テ「加藤清正、音頭ヲ取リテ、松坂越エタ、ヤッサト、謠ヒハヤシテ曳サレシト云ヘリ、云云、予ガ藏スル圖ニ、車上ノ童子ノサマ、石曳人數、一樣ノ出立ナルモ、マコトニ、一時ノ壯觀ナルベシ」 大幣(貞享)石引唄「ココハ三條かたノ座カ、エイエイ、エイエイ、サラサラノ石ヲ引ク、エイヤット云フテ引カバ、オナビキャロカ、殿」(節文)

いしひき-うた (名) 石引唄 前條ヲ見ヨ。

いし-ひぢり (名) 石聖 (ひぢりハ、僧ノ事、其條ヲ見ヨ) 頑固ナル僧ノ意ナルベシ。 沙石集、一、上、第四條「東大寺ノ石ひぢり經住ガ、我レハ、觀音ノ化身也ト名ノレドモ、人信ゼヌ儘ニ、夥シク誓狀スルヲ、或人、神通ナンドヲ現ジテ見セヨカシト言ヒケレバ、餘リニ久シク現ゼデ、神通モ忘レテ侍ルモノヲヤ、ト云ヒケル」(節文)

いし-びや (名) 石火矢 (火矢ノ條ヲ見ヨ、小石ノ彈丸ヲ用キル火矢ナリ) 古製ノ大砲。支那ヨリ傳來ノ物ニ云ヒ、又、西洋舶齎ノ古大砲ニモ云ヘリ。砲石 事物紀原「砲石、以レ機發レ石攻レ城具、范蠡兵法、飛石、重十二斤、爲二機法一行三百步」 和漢三才圖會、廿一「砲石、中華從來雖レ有レ之未レ精、至二大明一盛行、以爲二第一兵器一、凡砲石之玉、自二四五百目一至二三四五貫一、以二機巧一放出、謂二之石火矢一也」 砲家便要秘義、上、石火矢「四五貫目ヨリ六七貫目マデノ石火矢ヲ用ヒ、玉ハ、葛ヲ以テ巢中ニ合セ、中ニ小石ヲ入レ、長一尺計ニシテ、敵陣、三四町ニ近寄ル時、打放スノ器也」 大友興廢記「去天正四年丙子ノ夏、南蠻國ヨリ、大ノ石火矢到來ス、云云、宗麟公御悅喜ナサレ、國崩ト、是ヲ號セラルル」 太閤記、十四「大船、押寄セ押寄セ、大筒、石火矢ヲ以テ、打チスクメ」 長崎土産(延寶)「聞イテヨキモノ、石火矢ノ音」(阿蘭陀船、長崎入港ノ號砲)

いし-ぶぎゃう (名) 石奉行 (奉行ノ條ヲ見ヨ) 武家ノ職名。城郭ナドノ建築ニ、石垣等ノ石ノ事ヲ掌ルモノ。 信長公記、九「天正四年正月中旬ヨリ、江州安土山御普請、觀音寺山、長命寺山、所所之大石ヲ引下シ、安土山ヘ被レ上候、石奉行、西尾小左衞門、云云」(節文) 大猷院殿御實紀、四十四、寛永十七年五月「今度、本城構造不日ニ成功シ、云云、石奉行、石野六左衞門、金三枚賜フ」

〜**いし-ぶし** (名) 杜父魚 (石伏ノ義、常ニ、水底、沙上ニ居リテ、浮游セズ、福州府志ニ石伏魚トアル、是レナリト云フ) 淡水ノ魚。今、かはかぢかト云フ。 倭名抄、十九「鮖、性、伏沈、在二石閒一者也、伊師布之」 宇津保物語、國讓、上、六十九「鮎一籠、鮖、いしぶし、小鮒、入レサセ、苞苴ナド、副ヘサセテ」 源、廿六、常夏二「西川ヨリタテマツレル鮎、近キ川ノいしぶしヤウノモノ、御前ニテ調ジテマヰラス」(西川ハ、大井川、近キ川ハ、賀茂川) 夫木抄、廿七、鰒「誰レカサハ、網ノ目見セデ、すくふべキ、淵ニ沈メル、石ぶしノ(如キ)身ヲ」(掬ふ、救ふ、兼ネタリ)

いし-ぶね (名) 石船 石材ノ運漕ニ用キル船。 新續古今集、十九、雜、下、淨土宗の心、長歌「重キいはほヲ、積ム舟ノ、風待チ得タル、帆ヲ揚ゲテ」 和漢船用集(寶曆)五、石舟「攝州川舟ノ石舟、云云、此石舟ハ、船側ノ上ニ、板ヲ敷キナラベ、釘付ニシテ、其上ニ石ヲ載セテ、運送スルノ舟也」

いし-ぶみ (名) 碑 (石文ノ義、ふみハ、文字ナリ) 文字ヲ石ニ刻リツケテ、地上ニ建テオクモノ。 新古今集、十八、雜、下、前大僧正慈圓「ふみニテハ、思フ程ノ事モ、申シ盡シガタキ由、申シ遣シテ侍リケル、返事ニ「陸奧ノ、岩手信夫(言ハデ忍ブ)ハ、エゾ(蝦夷)知ラヌ、書キツクシテヨ、壺ノいしぶみ」(其條ヲ見ヨ) 夫木抄、三十二、述懷「いしぶみヤ、津輕ノ遠ニ、アリト聞ク、エゾ世ノ中ヲ、思ヒハナレヌ」 和爾雅(元祿)一、地理「石碑」

いし-ぶろ (名) 石風呂 石ヲ燒キテ、水ヲ注ギ、其湯氣ニ浴スル風呂ナルベシ。蒸風呂ノ條ヲ見ヨ。 慶長日件錄、慶長八年二月廿六日「齋了、氷室ヘ登山、入二石風呂一」 梵舜日記、慶長十三年四月九日「羽倉於二宿所一、石風呂用意、食振舞」 愛媛面影、五、宇和郡、穴風呂「栗浦ニアリ、云云、内ニテ火ヲ焚キ、其溫ニ依テ、汗ヲ發ル治療ナルベシ、云云、越智郡、櫻井、大濱等ニモ、石風呂ト云フモノアリ、皆、此類ナリ」

いし-べい (名) 石塀 (板塀、土塀ニ對ス) 石牆 イシツイヂ。切石ニテ造レル垣。

∴**いし-べ-きん-きち** (名) 石部金吉 (堅キ物ニテ、氏名ヲ作レル語) 物堅キ人、謹直ナル人ヲ云フ語。 世間妾形氣(明和、上田秋成)「物堅キコト、石部金吉ニテ、忠義專ラノ士」(諺語大辭典)「石部金吉鐵兜」

いし-へん (名) 石偏 漢字ノ偏ニアル、石ノ字ノ稱。砂、硯、砲、砥、碑等ノ如シ。石旁 運步色葉集、遍、片畫「石」

いし-ボトケ (名) 石佛 石ニテ刻ミ作レル佛像。 宗像軍記「此石佛ヲ、神社(宗像)ノ傍ニ安置セリ、云云、靑紫色ノ石也、表ニハ無量壽佛、裏ニハ彌陀經ヲ彫付ケタリ、其製造、善盡シ美盡セリ」(節文、宋國ノ帝ヨリ平重盛ニ送リ越シタル像ナリ) 和州舊跡幽考、三、添上郡、十輪院「御堂ナドヲ石ニテ造ラレケル、云云、石佛ノ地藏尊ノ、三四尺バカリナルヲ、同ジ石ニテ造リ添ヘラレタリ」

〜**いし-ま** (名) 石閒 谷川ナドノ、石ノア

ヒダ[illegible]行キナヤミ、空渡ム月ノ、影ゾ流ルル」源重之女[illegible]マサルナリ」

〔いしま (名) [illegible] 〔いしむノ名詞形、いしみノ轉、(組貫く、拱く。傴僂、くづま)或ハ、いしむノ語根、いしみ閉ノ義(無言モ、口ノいすみ閉ナルベシ)〕 陶器ナドノ、ユガミ。ヒズミ。クボミ。瑕(キズ)。ワレメ。俗ニ云フ、やまきず。名義抄「[illegible]、イシマ」[illegible]、イシマ」字類抄「窳、イシマアリ、器不」吉是也」(吉ハ、苦ノ誤ナルベシ)史記、五帝紀「器不」苦窳」」(窳むヲ見ヨ) 倭訓栞、いしま「史記ニ、器不苦窳トアルヲ、ゆがみ、いしま、あらずト訓メリ、文選ニ、窳」良雜」苦トアル、苦ヲ、あしきト訓メル心ナリ」内大臣家歌合(元永元年十月、[illegible])五番、時雨ニハ、菅ノ小芳モ、水[illegible]リテ、道ノ旅人、濡レヤシヌラム」[illegible]詞「水濁ルトハ、玉だれノ瓶ナドノ、石閉アラム心地ゾシ侍ル」

いしまくら (名) 【石枕】石ヲ、枕トスルモノ。又、いしのまくら。コレニ就キテハ、奇怪ナル傳說、諸所ニアリ、次次ノ文ヲ見ヨ。[illegible]雜記(文明、[illegible]道興准后)二「此里(淺草)ノホトリニ、石枕ト云ヘル不思議ナル石アリ、云云、中頃ノ事ニヤアリケム、生(ナマザムラヒ)侍侍リ、娘ヲ一人持チ侍リキ、云云、カノ父母、娘ヲ遊女ニ仕立テ、道行ク人ニ出デムカヒ、彼石ノホトリニ誘ヒテ、云云、共寢シタリケル男ノ頭(カウベ)ヲ打碎キテ、衣裝以下ノ物ヲ取テ、一生ヲ送リ侍リキ、サル程ニ、カノ娘、ツヤツヤ思ヒケルヤウ、アナ淺マシヤ、イクバクモナキ世ノ中ニ、カカルフシギノ[illegible]ヲシテ、云云、先非ニオキテハ、悔テモ益ナシ、云云、或時、路行ク人アリト告ゲテ、男ノ如クニ出立チテ、彼石ニ臥シケリ、イツモノ如クニ心得テ、[illegible]ヲ打碎キケリ、云云、見レバ、我ガ娘ナリ、云云、父母、遂ニ[illegible]心シテ、云云、娘ノ菩提ヲモ深ク弔ヒ侍リケル、云云、罪侍ノ、[illegible]クレ世モナキ、石枕、サコソハ重キ、思ヒナルラメ」百卷本、鹽尻(享保)五十三「尾張國、石枕の里ハ、昔、東國ニ道フ路ナリシニ、[illegible]舍ノ老嫗、旅人ノ、宿リニツケバ、[illegible]ノドニ、[illegible]シ、[illegible]、[illegible]ミナン[illegible]大字ニ存スト云フ)倭訓栞、後編、いしのまくら「名[illegible]ニハ、[illegible]、ひとつ屋ノ、石のまくらヤ、野守アルテフ」淺ガ原ハ、江戸淺田ノ中ニアリ、ひとつ屋ハ、[illegible]ノ[illegible]ニアリ、野守ハ、今ノ淺草寺ナリ、コノひとつ屋ニ就キテ、[illegible]傳ヘタル[illegible]アリ」[illegible]文ニ記セル事ナルベシ)

〔いしみ (名) 【[illegible]】〔語原、詳ナラズ、或ハ、次次條ノ語ノ名詞形ニテ、歪(ユガミ)アル製ノモノナリシカ〕 蔬菜ナド入レテ持運ブ器ナラム、竹製ナリシガ如シ。名義抄「畚、小筐、イシミ」夫木抄、一、若菜「心ザシ、深キ深谷ニ、摘ミタメテ、いしみ搖(ユス)リテ、洗フ岸カナ」

いしみかは (名) 【赤地利】〔和漢三才圖會、九十六、赤地利「倭方、用二赤地利蔓葉一爲二折傷、金瘡、要藥、接レ骨如レ膠、故名二石膠、美加波者、仁加波乃訛也」(鳰(ニホ)、みほ。薙、みら)倭訓栞、いしみかは「杠板歸ヲ云フ、云云、河內、石見川村ノ產ヲ佳トス」〕 蔓草ノ名。山野、路傍、溝瀆ニ生ズ、莖、蔓延シ、葉ハ、三角ニシテ、互生シ、莖ト共ニ刺(トゲ)アリ、夏ノ末、梢頭ニ花ヲツヅリ、總狀ヲナス、色白シ、實ハ、稍、三角形ニシテ、黑色ヲ帶ブ。和爾雅(元祿)七「赤地利(イシミカハ)」和漢三才圖會(正德)九十六、蔓草「赤地利、以之美加波」重修本草綱目啓蒙(享和)十五、蔓草「赤地利、ツルソバ、云云、古ヨリ、いしみかはト訓ズルハ、非ナリ」

〔いし・む・ム・メ・マ・ミ・メ (自動、四) 【窳】〔いしまヲ併セ見ヨ、韻會「窳、勇主切」說文「汚窳(クボキ)也、亦、病(キズ)也」〕 歪ム。ヒズム。クボム。陶器ニ云フ。名義抄「窪、イシマ、クボム」

[illegible]、イシマ、ユガム、ヒズム」[illegible]四條「河濱ニアリテ、陶作リスル、器物、皆、不」苦、[illegible]」

い-しん (名) 【懿親】〔懿德ノ條ヲ見ヨ〕 美シキ親族。[illegible]公廿[illegible]兄弟、如[illegible]兄弟[illegible]小[illegible]不[illegible]懿親二」

い-しん (名) 【異心】 コトゴコロ。フタゴコロ。左傳、昭公三十一年「若得二從レ君而歸一、則固臣之願也、敢有二異心一」

い-じん (名) 【異人】 (一)異(コト)ナリタル人。ホカノヒト。別人。[illegible]、小[illegible]之什、[illegible]弁「豈伊異人、兄弟匪レ他」(二)尋常ニ異(コト)ナレル人。偉人。漢書、公孫弘傳、贊「上、方欲レ用二文武一、求レ之如レ弗レ及、云云、[illegible]士奐焉、異人並出」(三)我レト異ナリタル國ノ人。異國人。外國人。[illegible]中、橫濱ニ寓セシ時、宿ノ主ガ、今來タノハ、南京ヂヤナイ、いじんダヨ」ト云フ詞ヲ發セシヲ聞ケリ、支那人ト西洋人トヲ云ヒシナリ。

い-じん (名) 【夷人】 エビス。開化セヌ國ノ人。

い-しん-でん-しん (句) 【以心傳心】 禪家ニテ、傳法相承ニ云フ語。佛祖ノ心ヲ以テ、衆生ノ心ニ傳フ。師ガ悟了セル所ヲ以テ、直チニ弟子ノ心ニ悟ラシム。師、機緣(キエン)ニテ傳ヘ、弟子、機緣ニテ會得ス。禪ノ不立文字(フリフモンジ)、敎外別傳(ケウゲベツデン)ノ意ナリ。劍術家ナドニモ用キテ、奧義ガ、言句、文字ニテハ傳ヘ難キヲ云フ語トス。[illegible]錄、十三、佛滅後、付二法於迦葉一、以レ心傳レ心」宗鏡錄「達磨、以レ心傳レ心、不レ立二文字一、何用ヲ廣引二佛菩薩敎一」太平記、廿四、依二山門嗷訴一公卿僉議事「禪傳、云云、一枝ノ花ヲ拈ジタマヒシニ、會中ノ大比丘衆、無二知事一、[illegible]、一人、破顏微笑シテ、拈華瞬目ノ妙旨ヲ以レ心傳レ心タリ、此事、大梵天王問佛決疑經ニ載レ說タリ」

〔いしむら (名) 【石群】 石ノ群(ムレ)。[illegible]紀、十年[illegible]

いしむろ (名) 【石室】 (一)石造ノ窟(イハヤ)。墳墓ナルニ云フ。山吹日記(寬政)「武藏國、大里郡、菅谷村、小高キ稻荷社ノ下ニ、石室アリ、廣サ七尺バカリ、[illegible]、云云、[illegible]山際ニ、いしむろアリ、南ニ向ヒテ、入口ノ高サ五尺餘リ、橫三尺アマリ、內ニ入リテ見レバ、高サ七尺餘リ、深サ五間バカリ、橫九尺バカリモアラム、云云」(二)[illegible]屋ノ中ニ安ンズル、石造ノ厨子。[illegible]ヲ藏ムルナリ。字鏡集[illegible]、イシムロ」[illegible]會「[illegible]、石室、宗廟中[illegible]、主石室也」

いし-め (名) 【石目】 〔石ノ地面ノ如シ、石地金ヲ併セ見ヨ〕 金屬ノ彫刻ニ、面ニ、[illegible]ヲ、一面ニアケタルモノ。[illegible]ハアラズ、[illegible]ニテ作ルナリ。染模樣ニモ、石目小紋ト云フアリ。

いしめ-こもん (名) 【石目小紋】 石ノ目ノ形ニ染メタル、小紋ノアル織物。前條ヲ見ヨ。

いじ・める・メル・メレ・メ・メ・メヨ (他動、下二) 【虐待】 〔弄る(イジル)ノ條ヲ見ヨ〕ノ語[illegible]ニ、別ニ、口語動詞ノ活用ヲ生ジ[illegible]ベク、[illegible]ノ所[illegible]ト思ハル、俚言集覽(シフラン)、いぢめる「いぢるトモ云ヘリ」〕 虐グ。シヲル。キタム。サイナム。浮世風呂(文化、三馬)二編、下、女湯、小兒二人ノ爭ヒ「ヤッタラムシャウニいぢめ散ラシテ、着物ガキタネヘノ、貧乏人ダノト、色色(イロイロ)ナコトヲ云ッテ」又「新婦(ヨメ)ヲいぢめる姑(シウトメ)ノコト、主人ヲソシル下女ノ事、云云」

いし-も (名) 【石藻】 〔堅キコト、石ノ如シ〕 [illegible]藻ノ化石。石灰ノ沈澱物ヲ多量ニ含ミ、[illegible]狀、又ハ、蘭菊狀ヲナス。

〔いし-もち (名) 【石首魚】 〔頭ノ中ニ石ヲ有(モ)

いしや いしや いしや

〔一〕海魚ノ名。體、側扁シテ、長シ、稍脊鰭長ク、鱗細カク、頭短小ニシテ、尾ニ岐ナシ、身長、三四寸、灰綠ナリ、肉白ク、脂少ク、味美ナリ、頭ノ中ニ、白ク硬キ小石ノ如キモノ、二ツアリ。此魚、長ジテ七八寸ニ至レルヲ、くちト云ヒ、更ニ長ジテ一二尺ニ至レルヲ、にベト云フ。(各條ヲ見ヨ) 倭名抄、十九「䱜、石首魚、伊之毛知」 本朝食鑑(元祿)八「石首魚、訓二石持一云云、按、江都魚市、謂二小者一曰二石持一、中者曰二久知一、大者曰二仁倍一云云、京師俗、通謂二久知一也」

いし-や (名) 石屋 〔一〕いしきりノ〔二〕ニ同ジ。石工。石工 地方凡例錄(寛政)五、「石屋役、是レハ、石工之役錢ナリ」〔二〕切石、庭石ナドヲ賣ル商家。

い-しや (名) 醫者 醫術ヲ行フヲ業トスル人。クスシ。醫師。「醫者ノ不養生」

い-しやう (名) 衣裳 衣ト、裳ト。コロモ。衣服。今ハ、一般ニ、着物ト云フ。(仙臺ニテハ、今モ、スベテ衣裳ト云フ) 易經、繋辭、下傳「黄帝、堯、舜、垂二衣裳一而天下治」 倭名抄、十二ノ八十 衣服類「野王案、在レ上曰レ衣、在レ下曰レ裳、總謂二之服一也」 簾中舊記(明應)「女房いしやうノ事「正月召物ノ事、朔日、朝、小袖染物、云云」 運歩色葉集(天文)「衣裳、衣類」

い-しやう (名) 衣裳 〔一般ノ衣服ノ稱ナル衣裳、今ハ、普通語ニ用キラレズシテ、專ラ、演戲ノ裝束ニ云フヤウニナリシハ、衣ノ、僧衣ノ專稱トナリシガ如シ〕〔一〕能樂ノ役者ノ出立ノ衣服ノ稱。普通ニハ、裝束ト云フ。扮裝 コレヲ着スル人ヲ、衣裳着、又、衣裳附ト云フ。雍州府志、八、古蹟門、芝居「能大夫於二樂屋一刷二裝束一、云云、若有二不正之事一、則使ド着二其衣裳一者改ト正之上、其人稱二衣裳著一」 能之衣裳付、序「夫能之衣裳の著せ樣、云云、マダ初心ノ衣しやうきせ、又ハ、人人ノ便ニナラムカシト、合二板行一者也」(古事類苑) 〔二〕歌舞伎芝居、又、踊ニテモ、能ニ摸シテ、裝束ヲ、衣裳ト云フ。江戸時代ニ、昔ハ、俳優ハ、衣裳ヲ自調セリ、但シ、下級ノ者ニハ、興行主ヨリ貸シ與ヘタリ、衣裳藏ニ納メテアルニ因リテ、コレヲ藏衣裳ト云ヒ、コレヲ取扱フ者ヲ衣裳方ト云ヒキ、後ニハ、一切、興行主ノ負擔トナレリ。

い-しやう (名) 意匠 〔おほろだくみナリ〕 繪ヲカキ、詩ヲ作ルナドニ、心ニ工夫ヲ凝ラシテスルコト。杜甫、丹青引「詔謂將軍拂二絹素一、意匠慘澹經營中」 戴復古詩「意匠如二神變化生一、筆端有レ力任二縱橫一」

い-しやう (名) 意匠 〔英語、Design. ノ譯語〕 專ラ、工業上ニ於ケル意匠。其物品ニ應用スベキ形狀、模樣、色彩、又ハ、其結合ニカカル、新シキ裝飾上ノ考案ナリ。意匠ノ案出者ハ、意匠法ト云フ規定ニ因リテ、意匠ノ登錄ヲ受ケ、一定ノ期間、コレヲ專用スルコトヲ得。「意匠登錄」「意匠專用權」

い-じやう (名) 異狀 常ニ異ナルアリサマ。カハリタルコト。異事。杜甫、石硯詩「巨璞禹鑿餘、異狀君獨見」 山海經、注「後世所二降育一、多有二殊類異狀之人一」「異狀無レ之候」

い-じやう (名) 以上已上 〔以ハ、以前、以後ト同ジク、よりノ意、已ハ、以ト通ズ〕〔一〕コレヨリ上。(以下ニ對ス) コレヨリ前。(以後ニ對ス) 記載ニ云フトキハ、コレヨリ右ノ方。(右之通申上候) 論語、雍也篇「中人以上、可二以語一上也、中人以下、不レ可二以語一上也」 史記、仲尼弟子傳「公孫龍、字子石、少二孔子一五十三歳、自二子石一已右、三十五人、顯有二年名一」「以上、申述候次第ハ、云云」〔二〕德川幕府ノ制ニ、臣下吏員ノ階級ノ稱。御目見以上ノ略ナリ。目見ノ條ヲ見ヨ。

い-じやう (接) 以上已上 〔前條ノ語ノ轉〕 然ル上ハ。論語、述而篇「子曰、自レ行二束脩一以上、吾未二嘗無一レ誨焉」 平治物語、一、頼信謀叛事「去ル保元ニ、門葉ノ輩多ク朝敵トナリテ、親類皆梟セラレ、已上、義朝、一人ニ罷成リ候ヘバ、清盛モサゾ計ラヒ候ハム」「惡口シタル以上、唯ハ捨置カレヌ」

い-じやう (副) 到底 イカニストモ。ドウシテモ。語彙、いじやう「以上ノ轉ニテ、いじやうイカヌ、いじやうデキヌナド、始終ノ意ニ用キルナリ」

い-じやう (句) 以上 上申文、書狀文、進上物目錄ナドノ末ニ記ス語。百卷本、鹽尻(享保)三十四「近世、書札ノ終ニ、以上ト書ク、云云、コレ、其本、贈物目錄ノ終ニ、以上ト書ス、下文ノ終ニ、以下ト書ス、官長ヨリ令スル文書ナリ、贈物ハ、先方ヲ尊ビテ、以上ト書ス、夫ヨリ書札ニモ、以上ノ字ヲ書セシト、云云」(節文)

い-しやう-がた (名) 衣裳方 衣裳(能樂ノ)ノ條ノ〔二〕ヲ見ヨ。

い-しやう-きせ (名) 衣裳着 衣裳(能樂ノ)ノ條ノ〔一〕ヲ見ヨ。

い-しやう-ぐら (名) 衣裳藏 衣裳(能樂ノ)ノ條ノ〔二〕ヲ見ヨ。

い-しやう-だんす (名) 衣裳簞笥 たんすノ條ヲ見ヨ。

い-しやう-つけ (名) 衣裳附 衣裳(能樂ノ)ノ條ノ〔一〕ヲ見ヨ。

い-しやう-にんぎやう (名) 衣裳人形 女兒ノ玩具。人形ニ、金襴、錦、縮緬ナドニテ、衣服ヲ着セタルモノ。野野口立圃ノ作ナド、名アリ。雍州府志(天和)七、土產門、服器部「衣裳人形、木偶人、作二男女小形一、施二衣裳一」 人倫訓蒙圖彙(元祿)七「衣裳人形」

い-しやう-まく (名) 衣裳幕 婦女ノ衣裳ヲ懸ケワタシテ、幕トシタルモノ。江戸、上野ノ花見ノ時、山ノ芝生ニ筵ヲ敷キテ、小宴ヲ開キ、綱ヲ樹樹ニ張リマハシテ、コレニ花見小袖(其條ヲ見ヨ)ヲ懸ケツラネ、隔テノ幕トシタルナリ、絢爛、目ヲ眩セリト云フ。貞享、元祿頃ノ奢侈ノ風俗ナリ。西鶴諸國咄(貞享)江戸、上野山ノ花見「衣裳幕ノ内ニハ、小歌マジリノ女中姿」 紫の一本(天和)下、東叡山花ノ條「松山ノ内、清水ノウシロ、云云、幕多キ時ハ、三百餘リ、云云、連レ立チタル女房ノ上着ノ小袖、男ノ羽織ヲ、辨當カラゲタル細引ヲ通シテ、櫻ノ木ニ結ビツケテ、假リノ幕ニシテ、毛氈、花筵、敷キテ酒飲ムナリ」 誹諧の海(元祿)「武藏ノ國ノ吉野山、春ノ盛リモ、氣色立チ、京ニ目馴レヌ衣裳幕、衣掛山モ壓サルベシ」

いし-やき (名) 石燒 〔土燒ニ對ス〕 やきものノ條ヲ見ヨ。磁器。

いしやき-どうふ (名) 石燒豆腐 〔豆腐百珍ニ「元ハ、火熱セル石ノ上ニ、油ヲ塗リテ燒キタレバ、其名遺レルナリ、石ニテ燒クヲ略シテ、鍋ヲ用ユルナリ」鋤燒ト云フモ、同趣ナリ〕 料理ノ名。燒豆腐ヲ、二寸角ホドニ切リ、多量ノ煮出汁ニテ、温火ニテ煮込ミ、淡醬油ヲ加ヘテ、又十分ニ煮込ミテ、其煮汁ト共ニ椀ニ盛リ、生姜ノ榨汁ヲ注ギテ成ル。(豆

醫百診ノ [illegible]「石焼豆腐アリ、焼豆腐ヲ、醬油ニテ煮タル也」

いしやのふやうじやう (句) 醫者不養生 (紺屋の白袴ナド、同趣) 醫者ハ、患者ニ對シテハ、養生ノ法ヲ嚴シク説諭スレドモ、己ガ身ニハ却ッテ守ラズト云フコト。[illegible]（寳暦、平賀源内）「醫者の不養生、坊主ノ不信心、昔ヨリシテ然リ」

いしやだふし (名) 醫者倒 「苦味ノ藥効著ク、醫者ヲ要セズトノ意ナルベシ、後家倒ト云フ語ト、好一對」 藥草、せんぶりノ異名。其條ヲ見ヨ。俚言集覽、いしやだふし「肥後ニテ云フ、一名、センブリ、ヤマニガ、云云、山豆根」

いしやま (名) 石山 (一)石ノ、重ナリタル山。岩石ノ山。狹衣、二、下五十四「御前ノ松山ノケシキ、谷ノ下水ノ流レナド、タダいし山トゾオボユル」(高野山ニ云フ) (二)石材ヲ切出ス山。山中ノ石切場。

いしゅ (名) 異種 カハリダネ。常ノ物ノ中ニ、少シ異ナレル種類。「綠萼梅ハ、梅ノ異種ナリ」

いしゅ (名) 意趣 ココロバセ。心ノ向フトコロ。小學、稽伊川曰、教レ人未レ見二意趣一、必不レ樂レ學」 保元物語、一、内府意見事「其趣ヲ申サレム爲ニ出ヅルナリ、全ク別ノ意趣ニアラズトテ、敢テ御承引ナケレバ、云云」 易林節用集(慶長)言語「意趣、意巧、意念」

いしゅ (名) 意趣 〔專ラ、恨ムルニツキテノ意趣ト云フナリ〕 恨ミノ、心ニ積ルコト。憤ヲ含ミ居ルコト。遺恨。積憤。此恨ミニ報ユルヲ、いしゅを返す、いしゅ返、いしゅ晴ト云ヒ、其相手ヲ斬ルヲ、いしゅ討、いしゅ斬ト云フ。

いしゅうち (名) 意趣討 前條ヲ見ヨ。

いしゅがへし (名) 意趣返 前前條ヲ見ヨ。

いしゅぎり (名) 意趣斬 いしゅ(意趣、積憤)ノ條ヲ見ヨ。

いしゅつ (名) 移出 ゆしゅつ(輸出)ノ條ヲ見ヨ。

いじゅつ (名) 異術 魔法。魔術。後漢書、杜篤傳「守二國之利一、同二歸異術一」 晉書、禮志「諸儒分レ流、堤防之仁ハ、是棄二諸說一異術一」 俚言集覽、いじゅつ、異術「妖術、幻術等、日用レザル術ヲ云フ」

いじゅつ (名) 醫術 〔醫ノ方術〕 疾病ヲ癒ス術。(醫科ノ條ヲ見ヨ) 吳志、虞翻傳「呂蒙傳二取關羽一、稱レ疾還二建業一、以二翻兼知一醫術一、請以自隨」 晉書、裴頠傳「頠通博多聞、兼明二醫術一」 字類抄「醫方、醫療、醫家、醫術」 運歩色葉集(天文)「醫學、醫術」

いしゅばらし (名) 意趣晴 いしゅ(意趣、積憤)ノ條ヲ見ヨ。

いしゆみ (名) 石弩 〔切ッテ落スヲ、切ッテ放ツ意トシテ、弓ト云フナルカ〕 寄手ノ敵ノ上ニ、石ヲ投ゲ落ス裝置。拋石ト云フモ同種ナリ。奥州後三年記、上「遠キモノヲバ、矢ヲ以テコレヲ射、近キモノヲバ、石弓ヲハヅシテコレヲ討ツ、死スルモノ數ヲ知ラズ」(說苑「徑立二矢石之所一」又、「犯二矢石一進」ナド云フ、是レナリ)同合戰繪卷二、大綱ニテ、大石ヲ、城ノ石垣ノ中腹ニ吊リオキテ、敵近ヅカバ、切テ落スベク仕掛ケタルヲ書ケリ。盛衰記、九、堂衆軍事「早尾坂ノ城、云云、岡ニハ、大石ヲ並ベテ、石弓ヲ張ル、云云、多クハ、石弓ニ打タレテゾ亡ビケル」 承久軍物語、三「上ノ山ニハ、いしゆみ張リ立テ、敵寄セバ、外シカケムト用意シタリ」 運歩色葉集(天文)「石弩」

いしょ (名) 醫書 醫術ノ事ヲ記シタル書。今ハ數限リナシ、古キモノ、一二三ヲ記ス、[illegible]五十卷、[illegible]三十卷、云云、[illegible]ナリ」 運歩色葉集(天文)「醫書」

いしょう (名) 稱唯 〔倒讀スベキ慣例ナリ、漢語ノ稱唯ヲ、稱、唯ト訓ムナレバ、(おおとをす)ソレヲ、ソノママ、いしょうト云フナルベシ、定考ヲかうぢゃうト倒讀スル例ナドモアリ、宣胤卿記(文明)「稱唯、せうゐト書キテ、さかさまニ讀ムナリ」〕 召ニ御請スルニ、おおト、高ク長ク聲ヲ發シテ應ヘ申スコト。(唯唯ノ條ヲ見ヨ) 續後紀、十一、承和九年五月「中務大輔、高階石川朝臣、云云、選少納言ハ父子相襲居二斯職一、以二當二聲音一也、時論以爲、稱唯之音、細而且高、猶勝二於父一」(節文)少納言ハ、奏宣ヲ掌ル職ナルガ故ニ、聲音、大事ナリ。(下かつま、十二) 江家次第、五、列見「上卿、令二召史一、云云、唯、云二召使一、雨儀、立、稱唯、唱文」同、六、二孟旬儀、下「天皇目レ之、大臣稱唯、高長」 世俗淺深祕抄(一條兼良)上、警蹕稱唯之差別事「警蹕ハ、伏シザマニ稱スルナリ、稱唯ハ、起キサマニ稱スルナリ」

いしょう (名) 異稱 いみょう(異名)ニ同ジ。一名。「好文木トハ、梅ノ異稱ナリ」

いしょく (名) 衣食 「食ノ條ヲ見ヨ」 衣服ト、食物ト。人ノ生計、糊口ニ必要ナルニ云フ。管子、牧民篇「倉廩實則知二禮節一、衣食足則知二榮辱一」 儲光羲、田家雜興詩「衣食既有レ餘、時時會二親友一」 運歩色葉集(天文)「衣食」

いしょく (名) 移植 ウエカヘ。「樹木ヲ移植ス」

いしょくぢゅう (名) 衣食住 衣服ト、飲食ト、住居ト。人身生活ノ三要件ナリ。

いしらまかす (動) 射白 次條ヲ見ヨ。

いしらます・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) 射白 〔しらますハ、白むノ他動、其條ヲ見ヨ、いしらまかすハ、一轉ナリ(すべらす、すべらかす。いからす、いからかす)〕 矢ヲ烈シク射カケテ、敵勢ヲ挫ク。又、いしらまかす。長門本、平家物語、十八「羽官ハ、いしらまされテ、イカガアルベキト思ヒワヅラヒタマヒケル」 太平記、十七、山門攻事、三「上勢ナリト云ヘドモ、山ト海ト、搦手ニ射しらまされ」 保元物語、二、白河殿攻落事「射白まかす」

いしる・ル・レ・ラ・リ・レ (他動、四) 弄 〔又、いぢくる、翻國語ニテ、いぢる、ト云フ、其轉ジタルナリ、(現身、うつせみ)くるハ、一轉ナリ、(ねぢる、ねぢくる)此語、せせる、せせくるニ同意ノ語ナル、綺ふノ略シテ、其いヲ冠シタルナラム(綺、狎ふ、うかねらふ。拜む、をがむ)〕 又、いぢくる。モテアソブ。ナブル。イロフ。テウス。物類稱呼(安永)五、たぶる「關西ニテ、いらふト云ヒ、東國ニテ、いぢるト云フ」 浮世風呂(文化)二、三編、下「近所ノ餓鬼ヤ、何ヤカヤ、いぢり散ラシマシテ、人聞キモワルウゴサイマス」

いしわた (名) 石綿 鑛物ノ名。纖維狀ヲナシ、柔カキコト、絲ノ如ク、綿ノ如シ、然レドモ、強靭ナレバ、編ミ合セ、又ハ、織ルコトヲ得、耐火力強ク、防火用、或ハ、防濕用トシテ、用途廣ク多シ、歐米各國ニテハ、諸所ニ産ス、我ガ國ニモ、稀ニ山山ニアリ、コレヲ織リタル布ヲ、火浣布ト云フ。(其條ヲ見ヨ) [illegible]義、九、石、五色石脂「[illegible]アリ、[illegible]ニ出ヅル、上品ナリ、方言ニ、石わたト云フ、コレハ、石ノ間ヨリ、乳ノ出ヅル如ク吹キ出デテ、[illegible]ナリ」(古事類苑、下、同) 本草一家言、四、石、五色石脂「[illegible]」 [illegible]後編、いしわた「石絨ノ義也」

いしーわり (名) [石割] ひくひいどりノ一名。倭訓栞、後編、いしわり「鳥ニ云フ、石割ノ義、背託ヲ云フ、玉匣記ニ、如ニ啄ニ食鐵石一ト見エタリ」俚言集覽、いしわり「鳥名、ひくひどりヲ云フ」

いしわりーがひ (名) [石割貝] 介ノ名。海邊ノ岩石ノ穴ニ生ズ、略、貽貝ニ似テ、長シ。大和本草(寶永)十四、介、石わり貝「筑紫ノ海濱、石中ニアリ、割リテ取ル、色淡白ナリ、大サ蛤ノ如シ、殼、厚シ、殼ノ文理、横ニアリ」

いしわりーせきだ (名) [石割席駄] 〔鐵ニテ、路上ノ小石ナド、蹈ミ割る意ナルカ〕席駄ノ踵ニ、鐵片ヲツケタルモノ。(せきだノ條ヲ見ヨ) 我衣「貞享頃マデハ、云云、革足袋ヲ商フ人、大津ノ石割トテ、强向キノ雪踏ヲ賣ル、尤モ流行ル」(温知叢書) 色芝居草子(寶永)他ノ女房ノ上ヲ「大津せきだトヤラ、生枝トヤラデ、アノ人ノ尻ニハ、かねガ付テ來タレバ、ソレダケノ威勢、云云」

いしーゐ (名) [石井] 〔ゐ(井)ノ條ヲ見ヨ〕岩間ノ溜水。古今集、八、離別、志賀ノ山越ニテ、いしゐノモトニテ「掬ブ手ノ、雫ニ濁ル、山ノ井ノ、アカデモ人ニ、別レヌルカナ」後拾遺集、十九、雜、五「女ノ、石井ニ水汲ミタル象、繪ニカキタルヲ」

いす (名) [蚊母樹] いすのきを見ヨ。

イース (名) [椅子] 〔倚子(其語原ヲ見ヨ)ノ宋音、倚ヲ、椅トス、倚子ハ廢語トナリテ、此語、今、專ラ行ハル〕禪寺ニテ用キル腰掛。俗間ニテモ一般ニ用キラル。倚掛アリ、肘掛アルモアリ、普通ナルハ方形ナリ、今、西洋製ニ倣ヒテ造レルハ、形狀、種種ナリ、腰ヲ載スル處ヲ、織物ニテ張リ、心ニ、鉋屑、馬毛ナドヲ詰メ、鋼鐵製ノ彈機ヲ入ルルモアリ、安樂椅子ナド云フモアリ。正韻「俗呼ニ坐 聲ニ爲ニ椅子ニ」正字通「椅、木名、又借ニ高坐具ニ、後、有ニ倚者ニ、今俗呼ニ椅子ニ」下學集(文安)下、器財門「椅子」運步色葉集(天文)「椅子、禪家所ニ乘物ニ」

いーぞ (名) [柚子] 〔ゆぞノ轉(好し、いい。搖する、いする)〕ゆぞノ一稱。俚言集覽(文政)いぞ「江戸、及、出雲ニテ、ゆぞヲ云フ」「柚子湯」

いーぞう (名) [異數] 〔易經、下經、節卦「君子以制ニ數度ニ議ニ德行ニ」疏「數度、謂ニ尊卑禮命之多少ニ」〕特別ノ禮遇ヲ受クルコト。左傳、莊公十八年「名位不レ同、禮亦異レ數」「待遇、異數ナリ」

いーすーう・ウル・ウレ・ヱ・ヱ・ヱヨ(他動、下二) [射居] 矢ヲ射中テテ倒ス。射伏ス。太平記、廿一、鹽冶判官讒死事「追手ノ兵共、云云、拔テカカレバ、いすゑラレテ、矢場ニ死セル者十一人、手負フ者ハ數ヲ知ラズ」

いすか (名) [鶍鶍] 〔佷しノ語根、(次條ヲ見ヨ)嘴ノ形ニ就キテ云フ、用字ハ、解シ難シ、韻會ニ「鵙、郎、伯勞鳥、云云、一名、苦吻鳥」ナドアルヲ誤用セルモノカ、壒嚢抄ナルハ、其譌ナルベシ〕小鳥ノ名。雀科ノモノニテ、體ハ、雀ヨリ稍肥大ナリ、其特徵ハ、上嘴ノ端ハ下ニ曲リ、下嘴ハ上ニ曲リ、上、下、交叉シテ合ハズ、(次次條ヲ見ヨ)然レドモ、能ク、荏子、稗子ナドヲ拾ヒ食フ、其羽色ハ、雄ハ紅ヲ帶ビ、雌ハ黃綠ヲ帶ブ、雌、雄、共ニ、翼、尾ハ灰黑ナリ、秋ノ末、北地ヨリ來ル。交喙 壒嚢抄(文安)一、鳥類字「鶍」林逸節用集(文明)生類「鶍」武江產物志(文政)山鳥類「交喙」

いすか・し・シキ・シケレ・シク・シク (形、二) [佷] 〔原語ヲ、いすくはしト云フ、其約ナリ、囂しト、音、通ズルカ、各條ヲ見ヨ、(歪む、ひがむ。板モ、直ナルベシ)神武紀、繼體紀ニ佷ト記ス、佷ニ同ジ、唐韻「佷、胡懇切」說文「不ニ聽從ニ也」國語、吳語、註「佷、違也」後漢書、董卓傳「董卓自佷用」正字通「佷、同レ很、舊註、何庚切、音恆、誤」爾雅、釋訓「徘徊」疏證「各本、皆作ニ徘徊ニ、睢、影宋本、作ニ徘徊ニ」萬葉集、三 五十「徘徊」同、四 四二「徘徊」〕性質、ネヂケタリ。ヒスカシ。カタマシ。神武紀 五十五「長髓彥、稟性、愎佷、不レ可ニ教以ニ天人之際ニ」繼體紀、廿四年十月「毛野臣、爲レ人傲佷、不レ閑ニ治體ニ」(いすかしくして(あはずまニノ條ヲ見ヨ) 續後紀、十九、嘉祥二年三月、長歌ノ脫ナルベシ)

いすかーのーはし (名) [鶍嘴] 〔前前條ヲ見ヨ、輪軒小錄(伊藤東涯)「世間ニ、人事ノクヒチガフ事ヲ、いすかのはしト云フ」〕事ノ、齟齬フ意ヲ云フ語。吾吟我集(慶安)六「我ガ中ハ、離レモヤラズ、逢ヒモセズ、いすかのはしノ、哭ヲノミゾ泣ク」小町踊(寛文)「夏ト秋ト、いすかのはしヤ、夕涼」假名手本忠臣藏(寛延、竹田出雲)六段、勘平腹切「イカナレバ此勘平ガ、スルコト、ナスコト、いすかのはしホドクヒチガヒ」「世ノ中ノ、伊須賀志總ヲ、添ヘ飾リ、申シゾ上ル、云云」(嚴し矛、空し車、ナドト、同用法ナリ)

✤✤**いす・ぐ** (動) [濯] 〔東京ノ發音ナリ、ゆする、いする〕ゆすぐノ轉。

いすくは・し (形) [佷] 〔形、二ノ活用ナルベク思ハルレド、古事記、中(神武)ニ、唯一處見ユルノミノ語ナレバ、臆斷セズ、此語、後ニ、約マリテ、佷しトナル、騷がはし、さわがし。忙がはし、いそがしト同趣ナリ、各條ヲ見ヨ、諸說、皆、枕詞トスレド、然ラズ、現實ヲ云ヘル語ナリ〕違ヒタリ。クヒチガヘリ。釋紀、廿三「伊殊區波辭、私記曰、師說、云云、言レ不レ違ニ本懷ニ也」古事記、中(神武)長歌「宇陀ノ高城ニ、鴫罠張ル、我ガ待ツヤ、鴫ハ佐夜良ズ、伊須久波斯、久知良佐夜流」宇陀ノ高城ハ、大和國ノ宇陀ノ地ニ、賊、兄宇迦斯ガ、山ニ構ヘシ要塞ナリ、久知良ハ、嘴喜ニテ、久知トハ、鷹ノ古名ナリ、佐夜流ハ、鳥ガ羂ニ罹るヲ云フ。(くち、井ニ、さやるヲ見ヨ)語說、久知良ヲ、鯨ト解ケリ、大和ノ山地ニ、鯨ノアルベキ理アラムヤ。萬葉集、十七 四十七「二上(山)ノ、彼面此面ニ、網サシテ、吾ガ待ツ鷹ヲ、夢ニ告ゲツモ」

いーすく・む・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ (他動、下二) [射竦] 矢ヲ射テ、敵ヲ竦マシム。太平記、五、大塔宮熊野落事「跡ニ續キテ追ヒケル者共、コレヲ見テ、敵ヘテ近ヅク者一人モナシ、タダ遠矢ニ射すくめケレバ、云云」

いーずし (名) [貽鮨] 〔貽貝ノ條ヲ見ヨ〕貽貝ノ鮨。土佐日記、正月十三日「老海鼠ノツマノいずし」主計寮式「貽貝、富耶交鮨」

いーすずーがは (名) [五十鈴川] 〔五十ヲ、いト云ヒ、數多キ意、すずハ、瀨瀨ノ轉ナラム、(神代紀ニ「天安河」古語拾遺ニ「天八湍河」(說文「湍、疾瀨也」)後撰集、十八、雜、四「いせ渡ル、川ハ袖ヨリ、流ルレバ、訪フニ訪ハレヌ、身ハ浮キヌメリ」いせハ、五十瀨ニテ、川瀨ノ多キ意ナルベシ、又、或ハ、いハ、發語ニテ、すずハ、淸しき意ト云フ說モアリ、イカガアルベキ、其他、語原說、種種アリ〕伊勢國、度會郡ノ川。即チ、內宮ノ前ヲ流ルル淸流ナリ、御裳濯川、トモ云ヒ、又、宇治川トモ云フ、(宇治ハ、此地ノ地名)此川ノ名ニ因リテ、內宮ヲ、五十鈴宮トモ申ス。垂仁紀、廿五年三月、倭姬命求ニ鎭ニ坐大神ニ之處ニ云云、到ニ伊勢國ニ云云「興ニ齋宮于ニ五十鈴川上ニ」類聚國史、四、神祇、天長四年四月、制「度會ノ五十鈴之川上ニ坐ス、皇太神ノ大前ニ申シ給ハ

[illegible]、いすゞノ宮ノ[illegible]、[illegible]、[illegible]ハ、天照大神、思兼神ナリ」

〔いすゝ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ（自動、四）〔倉皇〕〔いハ、發語、すすくハ、進む、すすろぐト通ズ、うすすくハ、普通ナリ、（愛む、うつくしむ。抱く、いだく）倉皇ハ、周章つ、戚ヱナリ」又、うすすく。心、落チ居ズ。身ブルヒスル。スズリゲ。古事記、中（[illegible]）「其美人、驚而立走、伊須須岐伎」大殿祭[illegible]夜女ノ[illegible]ク[illegible]、名[illegible]ナリ、よめハ、夜目ニテ、睡眠ノ覺クコトナク、熟睡スルナリ、おどろくトハ、目覺ムル[illegible]、[illegible]、うすすき出デ來テ、夜ニモエ開ケ寒ゲナルケハヒ、うすすき出デ來テ、夜ニモエ開ケヤラズ」

〔いすずのみや（名）〔五十鈴宮〕前前條ヲ見ヨ。

いすのき（名）〔蚊母樹〕〔古クハ、ゆすト云フ、語原、詳ナラズ、今、ゆす、又、いすト云フハ、其轉ナリ、（鮎、あい。搖る、いする。雉、きぎす。退る、すざる）いすの木ト云フハ、榎ヲ、えの木ト云フガ如シ、倭名抄ニ、柞ヲ由之トスレド、誤レリト、箋注ニ考證セリ、蚊母樹ノ字モ、當レリヤ否ヲ知ラザレド、姑ク揭ゲタリ〕常綠ノ喬木、古名、ゆし、今、又、ゆす。諸處山中ニ自生ス、暖地ナルハ、高サ三四丈、周ミ三四尺ナルアリ、葉ハ、互生シ、長サ二寸許、[illegible]ニシテ全綠ナリ、春ノ末、新芽ヲ發生セル後、葉腋ヨリ花穗ヲ抽クコト一二寸、紅色ノ細花、總狀ヲ爲シテ開ク、後、三分バカリノ圓實ヲ結ブ、熟スレバ黑シ、材ハ、堅實、緻密ニシテ、試ヘバ光澤ヲ生ズ、屋柱、業器、其他ノ[illegible]ニ[illegible]、[illegible]ニ[illegible]、故ニ樹名ヲ、一佳良ナリトテ、名アリ、故ニ樹名ヲ、一ニ、柟木ト云ヒ、近江國ニテハ、かたらけ[illegible]リト云フトゾ、此樹ニ、蟲癭ヲ生ズ、一種ノ蚜蟲ノ巢ナリ、夏ノ末、葉ノ上ニ[illegible]ヲ生ジテ、蚜蟲其內ニ居ル、後、圓マリテ桃ノ實ノ如ク黃褐色トナリテ、蟲、孔ヲ穿チテ飛去ル、內、空シクシテ、口ニテ吹ケバ、ひょんひょんト鳴ル、故ニ、此樹ヲ、又、ひょんの木トモ云フ。倭名抄、二十「柞、由之」合類[illegible]六、生[illegible]、柞、圭訓、ユス」和漢三才圖會（正德）八十四「柞、由之、云云、今作[illegible]是也」俵[illegible]、ゆす「柞、今俗、くしのきト云フナリ、ひょんのき也」（[illegible]文）同、ゆす「柞、今、いすト云ヘリ」同、いす「木ノ名ニ云フハ、ゆすノ轉ゼルナリ、朝鮮いすアリ、[illegible]也」俚言集覽、いす「樹ノ名、蚊子木、此木、良材也、さし櫛ニ挽キテ、最モ宜シ」語彙、いすのき「蚊子ノ木」同、いすのくし「蚊子ノ木ニテ造レル櫛ナリ」日本百科大辭典、いすのき=蚊母樹、ユスノキ、ヒンノキ」

イスパニア（名）〔西班牙〕〔Espana Spain.〕古ハ、いすぱにあ。今ハ、すぺいん。歐羅巴洲、いべりあ半島ノ大部ヲ占ムル共和國。北ハ佛蘭西國、及、びすかや灣ニ、西ハ、大西洋、及、葡萄牙國ニ接シ、東南一方ハ、地中海ニ瀕シ、南端ハ、ぢぶらるたる海峽ヲ隔テテ、亞弗利加洲ニ對ス、面積、三萬二千四百六十方里アリ、邦制上、ばれあろ諸島、亞弗利加洲北岸ノ、せうた、めりりあ、及、かなりあ諸島等ヲ包括ストゾ。此國人ノ、我國ニ來リシハ、慶長ノ頃ヨリナリト云フ。增訂采覽異言、三「イスパニア（和呼、イスパンヤ、又云、[illegible]）[illegible]云、此國、[illegible]、ひすぱにあ、[illegible]伊斯把[illegible]云フ、此ひすぱにあノひハ、喉音ニテ、唇音ニ非ズ、故ニ、いト[illegible]、[illegible]ト云フ、又此國ノ古名ヲ、[illegible]百利亞ト云フ、コレ[illegible]、[illegible]ニアリ、[illegible]リ、又、[illegible]ニハ、[illegible]ニハ、[illegible]ニ作ル、明ノ[illegible]八、此國ノ人ナリト云、又、此國ヲ、[illegible]ニハ、[illegible]、又[illegible]ニ[illegible]テハ、此國ヲ呼デ、[illegible]把印ト云」通航一覽、百八十五、[illegible]セリ、[illegible]、[illegible]ニ著岸シテ、拜謁ノ事ヲ請フ、サレドモ、邪敎ノ國タルニヨリ、許サレズシテ、歸帆ヲ命ゼラル」（コレ、本[illegible]ノ來リシ初メナリ、[illegible]、[illegible]呂宋[illegible]ヨリノ[illegible]ニシテ、[illegible]ニハ、アルヘカラズ）蘭使日本紀行、五「西班牙人、日本將軍御所[illegible]ニ[illegible]、其[illegible]、日本[illegible]ニ入ルノ[illegible]、[illegible]シ、まにらヨリ[illegible]ノ[illegible]、[illegible]ノ[illegible]ニ[illegible]シ、[illegible]、古シ、日本人之ヲ[illegible]セバ、[illegible]ト云フベシ、[illegible]ドモ、日[illegible]ハ[illegible]ニ、之ニ[illegible]マルノ[illegible]シ、何ノ港ヲ可トスルヤヲ知ラズ、終ニ、日本ニ於テ、船ヲ製造センコトヲ請フ、云云」

＊いすぶ・る（動）〔搖〕〔東京ノ發音、ゆすぐ、いすぐ〕ゆすぶるニ同ジ。

＊いぞゆ（名）〔柚子湯〕〔いそノ語原ヲ見ヨ〕柚子湯ヲ見ヨ。

＊いすり（名）〔強請〕次次條ヲ見ヨ。

＊いすりば（名）〔強請場〕次條ヲ見ヨ。

＊いす・る・ル・レ・ラ・リ・レ（他動、四）〔強請〕〔ゆする（搖）ノ轉、いたぶる意、東京ノ發音ナリ、ゆすぶる、いすぶる。ゆひなふ、いひなふ（結納）〕非理ノ言掛リヲシテ、人ヲ威シ、財物ヲ取ル、イタブル。芝居ノ世話狂言ナドニテ、無賴漢ノ、物ヲ強請ルワザヲ演ズルトコロヲ、いすり場トロフ。

〔いすろぶ・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ（自動、四）〔いハ、發語、[illegible]、すすろぶふノ約ト云フ」すすろぐニ同ジ。[illegible]、[illegible]スヲ、[illegible]直シ、和シ坐シテ」

いせ（名）〔僞〕〔えせ（僞）ノ轉ナルベシト云フ、（吉し、美し。榮螺、さざい。才、さえ）〕僞。伊勢人ハ僞事ス、ナド云フモ、えせ人ヲ、いせびとト云ヒ、伊勢ノ字ヲ充テタルナラム、[illegible]、大江山ニ「大[illegible]坊ト云フえせ人」ナドトアリ、（比叡山ヲ追出サレタル者ガ、傳敎大師ヲ云ヘルナリ）俚言集覽「いせ人ハヒガコトスナリ、いせ人ハ、ゑせ人ノ意也」似テ非ナルコト。[illegible]ミタルコト。[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]せナラバ、僻事ゾトヤ、思ハマシ、やまとナルテフ、みまさかノ[illegible]」此語、[illegible]ニ[illegible]シテ、[illegible]語ノ如ク用キラル。[illegible]、伊勢人[illegible]止ハ、奇シキモノヲヤ、何テヘバ、小舟ニ乘リテ、波ノ上[illegible]ヲ[illegible]、[illegible]ニ、[illegible]、[illegible]、[illegible]ニ、伊勢ノ[illegible]ト云フ[illegible]ニ[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]ニ、[illegible]ノ[illegible]スルニ、伊勢ハ僻ト云フ故ナリト云ヒ、云云、比紙ニ、アヤシク伊勢ノ物語ナルニヤト見ユレバト云フ、云云、又、齋宮、業平ヨリ、世ニ傳ヘテ、其名ヲ[illegible]ミテ、伊勢人ト云ヒ、[illegible]シケ[illegible]ニヤト云ヘリ」

＊いせ（名）〔綺縫〕いせるノ條ヲ見ヨ。

いせあみがさ（名）〔伊勢編笠〕[illegible]

いせい（名）〔異姓〕我レト異ナル姓。（同姓ニ對ス）　書經、旅獒篇「王乃昭ニ德之致ニ于異姓之邦ニ、無レ替ニ厥服ニ」　獄令、義解「凡婦人犯ニ死罪ニ、懷レ子、云云、無ニ近親ニ付ニ四鄰ニ、有レ欲ニ養爲レ子者、雖ニ異姓ニ皆聽レ之」

いせい（名）〔異性〕（一）性質ノ、異ナリタルモノ。（二）男女、雌雄、互ニ相對スル名稱。

いせい（名）〔醫生〕〔典藥寮ナルハ、いしさうト訓ムベキカ（文章生、學生）〕（一）古ヘ、典藥寮ノ職名。職員令、義解「典藥寮、醫生、四十人、掌レ學ニ諸醫療ニ」諸國ノ國學ニモ、設ケラレテアリキ。（二）今、一般ニ、醫術ヲ學ブ學生。

いせえび（名）〔伊勢蝦〕海蝦ノ、味、最モ美ナルモノ。單ニ、えびトノミモ云フ。體、長大ナルモノハ、一二尺ニ至ル、兩眼、紫黑ニシテ、高ク突キ出デ、口ニ四ツノ堅キ鬚ノ如キモノアリ、其二ツハ、長サ、身ニ同ジ、腹脚、左右ニ五對アリ、全身紫黑色ニシテ、所謂、海老茶色ナリ、鬚根、頭殼、粗クシテ刺多シ、頭邊ニ毛アリ、尾ノ端、花瓣ノ如シ、煮レバ、全身、赤紅トナル、腰、前ニ曲ガルガ故ニ、常ニ海老ノ字ヲ宛テ、海の翁ナド云ヒテ、老人ノ長壽ニ寄セ、又、海老ヲ、偕老ニ寄セテ、婚姻等ノ祝事ニ用キル。一名、カマクラエビ。（關東）〔龍蝦〕　倭訓栞、えび「伊勢えびハ、龍蝦也、昔ヨリ、賀壽、饗宴ノ席、正月ノ蓬萊盤中ニ、必ズ此物アルハ、海老ノ名ニ因リテ、祝壽ノ物トスル也」　物類稱呼（安永）二「海蝦、ゑび、關西ニテ、いせゑび、關東ニテ、かまくらゑびト云フ、又、年ノ初ニ、飾海老トスルモノハ、關東ニテモ、いせゑびナリ、西國ニテハ、其近海ノ產アレドモ、いせゑびト呼ブ」

いせおしろい（名）〔伊勢白粉〕〔往時、伊勢國、飯野郡、射和村ニ、土產ノ水銀アリテ製セシガ、上品ナリキ、故ニ名トセリ、後ニハ、京都ニテ製ス、京おしろいト云フ〕輕粉。又、ハラヤ。おしろいノ條ノ（一）ヲ見ヨ。　狂言記、素襖落「奧樣ヘハ、伊勢おしろい」　持統紀、六年閏五月「鉛粉」通證、三十五「水銀粉、和名、波良夜、俗云ニ伊勢於志呂伊ニ、出ニ勢州射和ニ爲ニ精品ニ」

いせおんど（名）〔伊勢音頭〕〔音頭ノ條ヲ見ヨ〕伊勢國ニテ謠ヘル小唄ノ名。此謠ニ伴ヒテ踊ルヲ、伊勢踊ト云フ、足利時代ノ末世ニ、關東ニモ行ハレシガ、其聲曲、舞姿、詳ナラズ。武德編年集成、五、永祿四年九月「今川上總介氏眞、云云、倭歌、蹴鞠ニ耽リ、伊勢をどり、亂舞ニ長ジ、云云」江戶時代ニ到リテ、伊勢ノ古市ノ近地、川崎ニテ謠ヘルヲ、川崎音頭ト云ヒ、ソレガ古市ニ移リテ、伊勢音頭ト云ヒ、伊勢踊、コレニ伴フ、コレモ、江戶其他マデ移レリ、然レドモ、歌謠、舞容、古キハ、知ラレズ。合類節用集（元祿）八、言辭門「伊勢躍、慶長十九年秋、自ニ伊勢ニ始故名、見ニ江源武鑑ニ」寬永ノ松永貞德ノ俳書ニ、伊勢踊ト題スルアリ。紫一本（天和）下「延寶巳年ヨリ、伊勢をどり流行リ、老イタルモ、若キモ、云云、坊主モ女モ、浮キ立テ踊ル」同、川納涼「當世風流、伊勢音頭」古市ノ地、後ニハ繁華トナリ、油屋、備前屋、杉本屋ナド云フ大妓樓起リ、寬延ノ頃、備前屋ノ主人創意シテ、遊女數人ニ出デ踊ラシム。伊勢參宮名所圖會（寬政）四ニ、古市、云云、間山節、云云、何時ノ頃ヨリカ移リテ、川崎音頭流行シ、コレヲ伊勢音頭ト稱シ、都鄙共ニ、華巷ノ謠物トハ成リタリ、云云、トアリテ、二圖ヲ出ス、何レモ、大廣間ニテ行ヘリ、一圖ハ、遊女數十人、大輪ヲ成シ、手足ヲ動カシテ廻リ進ム、盆踊ノ狀ナリ、他ハ、中央ニ、三味線、胡弓ノ女座シ、一種ノ謠ヲウタフ、正面左右ノ側ニ、細長キ床ヲ構ヘ、欄干ヲ施シ、數十女、左右ヨリ出デ、正面ニテ入違ヒ、各、左右ニ進ミテ入ル狀ヲ畫ケリ、今ハ、三妓樓モ、職ヲ轉ジタリト聞ク。

いせき（名）〔醫籍〕內務省ニアル帳簿ニテ、醫術開業免狀ヲ得タル醫師ノ氏名、本籍ヲ登錄シタルモノ。

いせこう（名）〔伊勢講〕〔講ノ條ヲ見ヨ〕人人、組合ヲ立テ、掛錢シテ、他ニ貸シ、其利息ヲ得テ、順繰ニ、組合人ノ中ニ渡シテ、伊勢參宮ノ費用トスルヲ云フ。太太講ト云フモノモ、此類ナリ。　槇窓筆記、上ニ、吉田鈴鹿家記ヲ引キテ、永享二年八月「來ル廿八日、伊勢講、私所ニテ仕候」　犬筑波集（大永）「結解ヲヤスル、伊勢かうノ錢」　翁草（神澤杜口、寬政中、歿）百九十二「伊勢講ト稱シ、結衆錢ヲ集メ貸レ之、其息ヲ聽シテ、參宮ノ費用トスルコト、云云、永祿中、卽チ、此事アリ、室町日記ニ見エタリ」

いせこじき（名）〔伊勢乞食〕あふみどろばういせこじきヲ見ヨ。

✤✤**いせこち**（名）〔伊勢東風〕〔東風ノ條ヲ見ヨ、伊勢國ハ、京都ノ東南ニアタル〕東南風ノ異名。　袖中抄、二十「辰巳ノ風ヲバ、伊勢こちト云フ」　出雲ノ方言ニ、いせちト云フトゾ。丹後國、竹野郡、經ガ崎附近ニテハ、東南風ヲいせかぜト云フ。

いせごひ（名）〔伊勢鯉〕〔出典ヲ見ヨ〕鯔ノ一名。（關西）　和玉篇（長享）「鯔、イセゴヒ」　物類稱呼（安永）二「鯔、なよし、伊勢ごひ、いせごひトハ、勢州、鳥羽ノ海濱ニテ、多ク是ヲ捕リ、又、鯉ニ類スルヲ以テ、いせ鯉ト云フ、關西ノ稱ナリ、東ニテハ、ぼらトノミ呼ブナリ」

いせごよみ（名）〔伊勢曆〕〔こよみノ條ヲ見ヨ、此曆ハ、本曆ナレド、他ニ、三島曆、大宮曆、會津曆ナドアリシカバ、別チテ稱セシナリ〕伊勢神宮齋主、藤浪家ニテ板行シテ、御師、神宮ノ御祓箱ニ添ヘテ、全國ニ配賦シタル曆。當時、公行ノモノナリキ。今ハ、神宮ノ神部署ニテ、全國ニ發行シ、本曆ト稱ス。　賀茂家文書、天文十四年九月十三日「從ニ御先代ニ當國（伊勢）曆之儀、杉大夫出置候、自ニ他國ニ曆、御停止候」（節文、古事類苑、伊勢曆）　俗神道大意（平田篤胤）二「伊勢曆ノ出處ハ、每年、祭主藤浪家ヨリ、朝廷ヘ御奏達アッテ、土御門家ノ曆ヲ、寫本デ申受ケ、夫ヲ伊勢デ板行ニ致ス事デ、右曆師ハ、宇治（伊勢山田）ニ居テ、佐藤伊織ト申シ、藤浪家ノ御家來分ナリ」（節文）

いせざきおり（名）〔伊勢崎織〕上野國、佐波郡、伊勢崎地方ヨリ產出スル織物。紬、太織、縞等ナリ。イセザキジマ。イセザキ銘仙。

いせざきじま（名）〔伊勢崎縞〕前條ヲ見ヨ。

いせざきめいせん（名）〔伊勢崎銘仙〕前條ヲ見ヨ。

いせさんぐう（名）〔伊勢參宮〕伊勢國、兩大神宮ニ參詣スルコト。又、參宮トノミモ云フ。上古ハ、臣下、庶民ノ、參宮ヲ禁制セラレタリ、後ニハ禁弛ミテ、室町時代ニハ、將軍、公家衆ナドノ參宮アリ、江戶時代ニ至リテ、貴賤、上下、誰レニテモ參レリ、いせまゐりト云フ。（おかげまゐりノ條ヲ見ヨ）但シ、僧侶ハ、昔ヨリ江戶時代マデ、禁制ナリキ、明治五年、スベテノ禁ヲ解カル。　謠曲、須磨源氏（應永）「日向國、宮崎ノ社官、云云、イマダ伊勢太神宮ヘ參ラズ候フ程ニ、此度思立チ、伊勢參宮ト志シテ候」　奇異雜談集（天文）二「山崎ニアル人ノ下人、暇ヲ請ハズ、伊勢參宮ヲイタス」　望一千句（慶長、元和）「何方モ、治マル御代ノ、いせ參、太太神樂、數ノ小カグ

ラ」七部集、春の日集「春メクヤ、人サマザマノ、伊勢まゐり」[illegible]

いせしま (名) 伊勢島 志摩國ヲ云フ。答志、英虞ノ二郡アリシヲ、明治[illegible]後、志摩一郡トナシ、伊勢國ニ併セラル。(倭訓栞、志摩國ノ志摩モ、島ノ義也、古事記ニ見ユ、(國書、上「島之速贄」ニ續後紀ニ、伊勢答志郡ト見エテ、伊勢ノ分テリト云フ、因テ伊勢島ナド云ヘリ、或ハ、元ト伊勢、三河ノ中間ニアリシガ、海ノ爲ニ淪沒セラレタリト云フ」諸國名義考(文化、齋藤彥麻呂)上、志摩「或書ニ、志摩國風土記ノ逸文トテ引キタルニ、志摩ハ、爲ニ伊勢島ニ之意也、放ニ埼出ニ海中ニ之島也」神樂歌入文(橘守部)弓立「伊勢嶋ヤ、海人ノ刀禰等ガ、燒ク火氣」註「伊勢島トハ、志摩國ノ事也、云云、いせ島ヤ、礒等ガ崎、いせしまヤ、答志ノ浦ニナド、詠ミタルハヨシ、中昔後ノ歌ニ、いせ島ヤ、いちしノ浦ナド、伊勢ノ事ニヨミシハ、僻事ナリ」(一志郡ハ、北ノ方ニアリ)

いせしま (名) 伊勢縞 いせもめんヲ見ヨ。

いせじんぐう (名) 伊勢神宮 次次條ヲ見ヨ。

いせずり (名) 一錢剃 いっせんぞりノ條ヲ見ヨ。

いせだいじんぐう (名) 伊勢大神宮 大神宮ハ、伊勢國、度會郡、宇治鄉、五十鈴河上ニ在リ、天照大神ヲ奉祀ス、神體ハ八咫鏡ニシテ、大神ノ、親ラ天孫瓊瓊杵尊ニ授ケ、同牀、共殿ニ奉安セシメ給ヒシ所ナリ、崇神天皇ノ六年ニ至リ、皇女豐鍬入姬命ニ命ジテ、始メテ之レヲ倭ノ笠縫邑ニ移シ奉リ、更ニ八十餘年ヲ歷テ、垂仁天皇ノ二十五年ニ、皇女倭姬命ニ命ジテ、鎭座ノ地ヲ求メシム、是ニ於テ、神宮ヲ伊勢國ニ建ツ、之レヲ皇大神宮ト申シ奉ル。(大神宮ノ、大ノ字、古來、太ノ字ニ用キシヲ、明治五年九月十五日、太政官、第二百七十二號觸布告「神宮神號太字、自今、大字可ニ相用一事」トアルヨリ、以後ノ文書ハ、大ノ字ヲ書クコトトハナレリ)

いせだいじんぐうじ (名) 伊勢大神宮寺 神宮寺ハ、神社ニ附屬セル寺院ノ稱ナリ、故ニ、又稱シテ、神宮院ト云ヒ、宮寺ト云ヒ、或ハ又、之ヲ神願寺、神護寺、神供寺ナドトモ云ヘリ、多クハ、神社ノ境域内ニ建立セリト雖、稀ニハ、遠隔ノ地ニ設置セルモノナキニアラズ、此レハ、伊勢大神宮ニ附屬セルヲ以テ、伊勢大神宮寺ト云ヒ、略シテ、伊勢寺トモ云ヒシナリ。續紀、廿七、天平神護二年七月「遣ニ使造ニ丈六佛像於ニ伊勢太神宮寺ニ」同、三十二、寶龜三年八月「徙ニ渡會郡神宮寺、於ニ飯高郡度瀨山房ニ」(房、恐秀誤)太神宮諸雜事記、一「神護景雲元年十月三日、逢鹿瀨寺、永可レ爲ニ太神宮寺ニ之由、被レ下ニ宣旨ニ既畢」

いせたいびょう (名) 伊勢大廟 伊勢國、度會郡、五十鈴ノ川上ニ宮所ヲシメ、天照大神ヲイツキ奉リタル廟ヲ云フ。御鎭座傳記「天照太神則主ニ火氣ハ、止由氣太神則主ニ水氣ハ、而萬物長養也、故兩宮者、天神地祇大宗、君臣上下元祖也、惟天下大廟也、國家社稷也」碧山日錄、長祿三年九月七日「近歲諸州路國俗之强豪者、置レ關以征ニ之、往來悉難焉、相公命ニ諸吏ニ而破レ之、因爲レ改ニ造伊勢之大廟ハ、於ニ安城之七路ニ(自ニ諸州ニ入レ京之路、其數七也)」

いせぢ (名) 伊勢路 〔都路、東路〕伊勢國ヘ行ク路。五雜便覽「伊勢路、云云、美濃路」(古事類苑)

いせつ (名) 異說 他ニ異ナル說。晉書、

いせデラ (名) 伊勢寺 いせだいじんぐうじノ條ヲ見ヨ。

[illegible]

いせのうみ (名) 伊勢海 (一)伊勢國ノ海。神武紀、長歌「神風ノ、伊勢能于彌ノ、大石ニヤ、イハヒモトホル、細螺ノ」萬葉集、三ニ「伊勢海ノ、沖津白浪、花ニモガ、裹ミテ妹ガ、家苞ニセム」古今集、十九、長歌「伊勢ノ海ノ、浦ノ汐貝、拾ヒアツメ、採レリトスレド、云云」(二)催馬樂ノ歌曲ノ名。催馬樂、伊勢海「伊世乃宇美ノ、淸キ渚ノ、シホカヒニ、神馬藻ヤ摘マム、貝ヤ拾ハム、玉ヤ拾ハム」(催馬樂入文ニ、しほがひハ、潮之閒ノ約ニテ、汐ノ干タルアヒダナリトアリ)榮花物語、三十二、歌合「いせのうみト云フ催馬樂ヲ、筆手ニ縫ヒタリ」

いせのしょうにん (名) 伊勢上人 伊勢國、宇治、浦田町、慶光院ノ住職ノ稱。此寺ハ、尼寺ニシテ、代代、上人ノ位ニ進ミ、伊勢の上人ト呼ビテ、寺號ヲ稱セズ、寺院ナレド、佛堂、鐘鼓ナク、禪家ナレド、派末ト云フコトナク、直ニ傳奏ヲ經テ、紫衣ヲ許サレ、宮家ノ息女、代代住職セシガ、維新後廢セラレテ、今ハ其遺跡、神宮祭主ノ官舍トナリタリ。遠碧軒記、神祇「伊勢ヘ、淺井家ノ比丘來リテ、內外ノ宮ニ住ス、此時、後奈良院ノ時也、亂後故ニ、二十一年目ノ遷宮ノナラヌヲ見テ、近江一國ヲ勸進シテ、淺井家ノ光ニテ、造營ヲ遂グ、因テ遷宮上人トイフ」年山紀聞、一、伊勢の上人「永祿元年日記、後六月三日、中山亞相(神宮傳奏)被レ談云、去月廿三日、神宮(外宮)上棟無事令ニ沙汰ニ之由、注進有レ之、或比丘尼號ニ上人ニ(先皇御代被レ下ニ上人號ニ女房初例歟)名はし號ニ慶光院ニ以ニ諸國勸進之力ニ此上棟取立者也、云云」慶光院文書、二「周香可レ爲ニ上人ニ事、所レ有ニ勅許ニ也、彌可レ奉レ祈ニ天下泰平、寶祚安全者ニ天氣如レ此、悉レ之以レ狀、元祿十五年五月一日、左大將、(花押)伊勢國、

いせのつかひ (名) 伊勢使 伊勢大神宮ヘ[illegible]使、[illegible]幣使[illegible]使アリ、臨時ノ奉幣使[illegible]七、伊勢使、[illegible]內、[illegible]上卿[illegible]仰ニ伊勢使事ニ」(古事類苑)

いせのはまをぎ (名) 伊勢濱荻 はまをぎノ條ヲ見ヨ。

いせのふろふき (名) 伊勢風呂吹 むしぶろヲ見ヨ。

いせは (名) 伊勢派 伊勢流(俳諧ノ)ニ同ジ。

いせばうふう (名) 伊勢防風 はまばうふうヲ見ヨ。

いせびと (名) 伊勢人 いせ(俳)ノ條ヲ見ヨ。

いせぶろ (名) 伊勢風呂 むしぶろヲ見ヨ。

いせへいし (名) 伊勢平氏 平氏ノ武士ノ、伊勢國ニ住居セルモノ。伊勢武者。盛衰記、一、五節夜闇打事、御前ニ召サレテ、忠盛ノ舞ヒケル時ニ、云云、俄ニ拍子ノ替ヘテ、伊勢平氏ハ、すがめナリケリト、ハヤシタリケリ、目ノすがみタリケレバ、取リナシ、ハヤサレケル」(伊勢瓶子、醋瓶、眇ニカク)同卷、兼家季仲、云云、等拍子事、忠盛ハ、云云、常ハ、伊勢ニノミ居住セシ人ナレバ、此一門ヲバ、伊勢平氏ト申シケル」

いせへいじ (名) 伊勢瓶子 前條ヲ見ヨ。

いせまゐり (名) 伊勢參 伊勢參宮、井ニ、おかげまゐりヲ見ヨ。

いせみち (名) 伊勢道 五十町ヲ一里ト

スル稱。（一里ノ條ヲ見ヨ）倭訓栞、後編、いせみち「俗ニ、程遠キ譬ヘニ云ヘリ、内外宮ノ間、五十町ヲ、一里トスルニ起レリ」

い-せん（名）［意錢］あないちヲ見ヨ。

い-ぜん（名）［以前］〔以後ニ對ス〕（一）コレヨリ前。史記、趙世家「今、三世以前」榮花物語、十一、蕾花「四月御安禮ノ日ヨリ、手斧始メテ、來年ノ四月いぜんニ、作出サザラムヲバ、官ヲ取リ、國ヲ召シカヘシ、ナドセサセタマヒ」（二）ソノカミ。サキツコロ。往時「以前拜而致候節」

い-ぜん（副）［依然］〔昔我往矣、楊柳依依ノ、依ナリ〕故ノママニ。ソノママニ。韋嗣立詩「偶來伊水曲、谿嶂各依然」蘇軾、題ニ蕙詩「蕙木蘭之族、依然臭味同」

い-ぜん-けい（名）［已然形］從來、動詞、形容詞、助動詞等ノ第五變化ヲ、已然言、已然段トカ呼稱スレドモ、ソハ、言トイヒテハ、言中ニ言アリテ、不理ナリ、段モ、四段活用、下二段活用ト紛ラハシ、近來多クハ、形トセリ、是レ、活用ノ變化ノ形ナレバ、穩カナリ。

い-ぜん-げん（名）［已然言］前條ヲ見ヨ。

いせ-むしや（名）［伊勢武者］伊勢國ノ住居ノ武士。專ラ、伊勢平氏ノ者ヲ云ヘリト見ユ。平家物語、四、橋合戰事、伊勢ノ官兵、水ニ溺レ、武者三人、網代ニ流レカカリケルヲ「伊勢武者ハ、皆緋威ノ、鎧着テ、宇治ノ網代ニ、懸リヌルカナ」是等ハ、三人ナガラ、伊勢國ノ住人也」（ひをどしヲ、氷魚ニカケタリ）

い-ぜん-だん（名）［已然段］已然形ヲ見ヨ。

いせ-ものがたり（名）［伊勢物語］〔いせ（僻）ノ語原ヲ見ヨ、眞名伊勢物語ノ題名ニ、妹背物語トアリ、いもせノ、いせト約レルカナド云フ說モアリ、其他、書名ニモ、作者ニモ、諸說、紛紛タレド、妥當ナラヌガ、多シ〕書名。在五中將物語トモ云フ、在原業平ノ日記ヤウノモノノ、遺リシニ、後人ノ、他事ヲモ加ヘテ作爲シタルモノナリト云フ。延喜以前ノモノナルベク、記中ノ文ニ、歌多ク、男女相思ノ事、淫奔ノ記ノミナリ、然レドモ、文章、遒勁、艷麗ニシテ、筆法、古雅ナレバ、古來、古今集ト竝ベテ賞揚セリ。

いせ-もめん（名）［伊勢木綿］伊勢國ヨリ產出スル木綿縞織ノ名。往時ハ、同國產出ノモノノ總名ナリシガ、現時ハ、安濃、河藝、鈴鹿、諸郡ノ產ナルヲ、伊勢縞ト云ヒ、一志、飯南、多氣、諸郡ノ產ヲ、松坂木綿ト云フ、（飯南郡、松坂）地質ノ强靱ナルト、染色ノ、正藍ニテ、褪色セザルトニ因リテ、名高シ。近年ハ、新式機械ヲ用キテ、愈、進步ヲ圖レリ。（日本百科大辭典）

いせ-や（名）［伊勢屋］〔伊勢國ノ人、江戶開府ノ頃、移リ來テ、商業ヲ營メル者、屋號ヲ伊勢屋ト云フ、（山城屋、大和屋、近江屋）市中ニ數多アリ、其家家ノ習慣ナルニヤ、多クハ儉約ナリト云フ、古キ事ナリシナルベシ〕川柳界ニテ、節儉家ノ代表語。天明ノ川柳「伊勢屋ニ鰹、つんばうニ時鳥」（江戶市中ニテ、初鰹ヲ賞美セリ、其價極メテ高カリキ、はつがつをノ條ヲ見ヨ）文政ノ川柳「日ニ三箱、伊勢屋チットモ、カカハラズ」（江戶ノ日本橋ノ魚市場、芝居町、新吉原町ニハ、各、每日、千兩箱一箇ヅツノ金錢ガ落チタリト云フナリ）

いせ-や-ひうが（句）［伊勢日向］〔出典ヲ見ヨ〕物ノ合一セヌ、又、事ノサダカナラヌ意ヲ云フ語。神代紀、下「天照大神、皇孫瓊瓊杵尊、日向ニ天降リマサムトシタマヒシ時、猿田彥大神、迎ヘ奉リテ待ツ「天鈿女命、復問曰、汝何處到耶、云云、對曰、天神之子、則當レ到ニ筑紫日向高千穗槵觸之峰、吾則應レ到ニ伊勢之狹長田五十鈴川上」諺艸（元祿、貝原益軒）一、伊勢や日向の物語「俗諺ニ、アナタコナタノ、一方ナラヌ物語ヲ云ヘリ」ト云ヒテ、右ノ神代紀ノ文ヲ引キテ「是レヨリ起レル諺也、新考」ト記シテアリ。語彙、いせやひうが「知顯抄ニ「アル事ノ、次第不同ニシテ、サダカナラズ、左ザマナルコトヲ、いせやひうがのト、言ヒナラハシタルナリ」謠曲、歌占（應永）「嚴ト云フモ、云フモ、云云、難波ノ事モ問ヒタマヘ、人心、引ケバ引カルル、梓弓、伊勢や日向ノ事モ、問ヒタマヘ」古今夷曲集（寬文）「思ヒキヤ、日向ノ人ニ、相馴レテ、伊勢物語、寢ネテセムトハ」國性爺後日合戰（享保、近松作）相生參宮「足輕ゲナル拔參リ、行クモ歸ルモ別レテハ、知ルモ知ラヌモ、大幣ノ、伊勢や日向の物語」此語ニ就キテ、雜和集、本朝俗諺志ナド云フ書ニ、伊勢ノ人ト日向ノ人ト、魂魄入リカハレル談ヲ說キテ、諺ニ、相違ノ事ニ、斯云ヘリナドトアリ、噴飯スベシ。

いせ-りう（名）［伊勢流］武家禮法ノ一派。（別ニ、武家弓馬ノ道ニ、小笠原流アリ）將軍足利義滿ノ命ニ因リテ、伊勢武藏守滿忠ノ定メタルモノ。子孫相嗣ギテ、政所別當職ニ補シ、將軍殿中ノ禮法、故實ヲ掌レリ、座敷ノ設備、配膳、元服、婚禮等、百般ノ禮ニ當レルナリ。後裔、德川幕府ニモ仕ヘテ、遵行シタリキ。貞丈雜記（伊勢平藏貞丈）一、禮法之部「我ガ家ニ傳ヘ來ル所ノ禮法故實ハ、京都將軍ノ御家風ナルニ因リテ、流義ヲ名ツケ云ハバ、足利流ト云フベキ事ナレドモ、世上ニテ、左樣ニハ云ハズ、伊勢流ト云フナリ」

いせ-りう（名）［伊勢流］俳諧ノ一派ノ名。天文年中ノ人、伊勢內宮ノ神主、荒木田守武ハ、十七字俳諧ノ元祖ナリ、後ニ、古風、（貞德）檀風、（宗因）蕉風（芭蕉）ナド起リテヨリ、守武ノ流レヲ汲ムモノヲ、伊勢流、又、伊勢派ト云ヘリ、杉田望一、岩田涼菟、中川乙由ナド、是レナリ。守武ノ俳諧「元日ヤ、神世ノ事モ、思ハルル」撫子ヤ、夏野ノ原ノ、落シ種」誹論、一、伊勢流、勢州ノ誹諧「開發ハ、天文年中、守武ヨリ起リ、祖ハ守武ナレドモ、伊勢流ト號スルコト、乙由ヨリ稱ス」（節文、古事類苑）

い・せる・セル・セレ・セ・セ・セヨ（他動、下二）［縮縫］〔寄せるノ轉（鰯ハ、よわしナリト云ヒ、好しヲ、いいト云フ）〕裁縫ノ語。今ハ、女學校ナドニテ、よせるト云フトゾ。布帛ヲ、絲ニテ縫ヒチヂムルヲ云フ。縫目さき、又、足袋ノ爪先ナドニ行フ、又、名詞形ニシテ、いせト云ヒ、縫縮トモ云フ。合類節用集（元祿）八「縮、縫レ衣所レ言」倭訓栞、いせる「縫物ナドニ云フ詞ナリ、兩方ヲ縫合ハスルニ、一方ノ長キナドヲ、其心シテ、一方ハ緊ク、一方ハ徐カニスルヲ云ヘリ、いせる、寄るト音通ズ、歸ノ字ヲ訓メリ」俚言集覽、いせ「襞也、又、いせる、衣類ノ袖形、裾、ふきノ所ニ、皺ヲ寄セテ縫フヲ云フ、云、いハ、發聲、せるハ、狹る義カ」

いせ-をどり（名）［伊勢踊］いせおんどノ條ヲ見ヨ。

いせ-の-あま（名）［伊勢蜑］〔倭訓栞、いせをのあま「伊勢ノ蜑也、をハ、助語ナルベシ」次條ヲ參見セヨ〕伊勢ノ海ノ蜑。後撰集、十一、戀、三「鈴鹿山、いせをのあまノ、捨衣、シホナレタリト、人ヤ見ルラム」源、十二、須磨「浮海布刈ル、いせをのあまヲ、思ヒヤレ、藻汐垂ルテフ、須磨ノ浦ニテ」細流抄「須磨ニテ、伊勢の蜑ヲオボシヤレト也」千載集、十二、戀、二「シホタルル、いせをの蜑ヤ、我レナラム、サラバみるめヲ、刈ル由モガナ」

いせ-の-みや（名）［伊勢宮］〔前條ヲ參

見セヨ」 伊勢ノ大御宮、……宮ノ、世世ノ古道」(參宮記) 貞治元年十首歌合「いせのみや」

いそ (名) 礒 〔……いそ、礒ノ字ヲ讀メリ、いしノ轉ナリ、云云、石ヲ、いそトモ讀ム、(あしそ、あそそ、石上)玉篇「礒、水中磧也」本邦ノ古書ニ、多ク、礒字ヲ用キタリ、唐韻「磯、石磯也」ナドアルヨリ通用シタルモノカ〕水邊ノ波打際ニ、岩石ノアル處。 古事記、上、長歌「打見ル、島ノ埼埼、……見ル、伊蘇ノ崎オチズ」……土記、……石ノ名……伊曾布利……萬葉集、九……「礒、礒、二字義同」(礒ハ、礒ノ誤ナルベシ) 古今集、七、賀「志ほの山、差出ノ礒ニ、棲ム千鳥、君ガ御代ヲバ、八千代トゾ鳴ク」

いそ (名) 礒 〔前條ノ語ヨリ移リタルカ、水邊ト、側縁ト〕(一)和琴、又ハ、箏、琵琶ノ槽ノ、兩側面ノ稱。首ヨリ尾マデヲ云フ。 ……七、和琴之名所「礒、是、左右頭之總名也」……八、箏之名所「礒、是、……」……九、琵琶之名所「礒、是、……」(二)琵ノ縁ノ稱。 下學集(文安)下、器財門「礒、……」……

いそ (数) 五十 〔五ト、十トヲ見ヨ〕十ヲ五倍ニセル數。五十。イソヂ。 六帖、一「岩ノ上ノ、松ノ梢ニ、降ル雪ハ、いそかへり降レ、……」……五十迺手ト云フ人名、見ユ。

いそいそ (副) 〔急ぐノ語根ヲ重ヌ〕急グサマニ云フ語。「心、いそいそ進ム」

いそがき (名) 礒牡蠣 牡蠣ノ一種。形小サキモノ、石ノ間シ、海中ノ岩石ニ附ク。一名。小蠣。 宮内省式、諸國例貢御贄「伊勢、礒蠣」語彙、いそがき「牡蠣ノ一種、小ナルモノナリ、……」

いそがくれ (名) 礒隱 〔礒ハ、石ト通ズ、其條ヲ見ヨ〕 海中ノ石ノ下ニアルコト。 萬葉集、六……「見渡セバ、近キモノカラ(モノヲ)、石隱、輝フ珠ヲ、取ラズハ已マジ」(礒、珠ナリ) 同、廿……「ウラメシヤ、沖津玉藻ヲ、潛クマデ、礒がくれケル、蜑ノ心ヨ」(コレハ、動詞トシテ用キタリ) 新古今集、……「……がくれ、思ヒ莫カケソ、沖津白浪」(蜑人ヲ云ヘリ)

いそが・し シキ・シケレ・シク・シク (形、二) 忙 〔急ぐノ未然形ノ、いそがヲ活用セシメシ語(さわぐ、さわがし)〕 急ガハシ。イソガシイ。 伊勢物語、六十段「昔、男アリケリ、宮仕へいそがしくて、心モマメナラザリケレバ、……」……廿一、少女「いそがしき御政トモヲバ、……ナリケリ」頼實集「五月雨ヲ、待タバ早苗ヤ、老イヌベキ、水引ク田子ノ、いそがしきカナ」

いそが・す ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) 急 〔いそぐノ他動(沸く、わかす。動く、うごかす)〕 急グヤウニナス。急キタツル。ウナガス。 宇津保物語、……「……いそがしテ……」……

いそがは・し シキ・シケレ・シク・シク (形、二) 忙 〔いそがしノ轉(さわがし、さわがはし。もどかし、もどかはし等ノ語原ヲ見ヨ)〕 忙シキ状ナリ。セハシイ。 名義抄「……イソガハシ」 夫木抄、十四、蟲「夢サムル、床ノ下ナル、キリギリス、寝いそがはし、明ケヌ此夜ハ」

いそがばまはれ (句) 近クトモ、危險ナル路ヲ取ルナ、遠クトモ、安全ナル路ヲ行ケト云フ諭ナリ。……「いそがばまはれ」……

いそかひ (名) 礒貝 貝殼ノ、一片ノミトナリテ、礒邊ニアルモノ。 萬葉集、十一……「水クグル、珠ニマジレル、礒貝ノ、(如ク)片戀ノミニ、年ハ經ニツツ」(同巻「礒ノ貝ノ、片思ニシテ」)

いそぎ (名) 急 (一)急グコト。 萬葉集、二十……「水鳥ノ、立チノ(如キ)已發ニ、父母ニ、物言ハズ來ニテ、今ゾ悔シキ」(東國人ノ、防人トナリ、筑紫ノ守備トシテ赴キシナリ) (二)忙ハシク支度スルコト。準備。 ……

いそぎあし (名) 急足 急ギテ歩クコト。ハヤアシ。疾歩

いそぎく (名) 礒菊 菊科ノ……、海濱、海地ニ生ズ、高サ一二尺、葉ハ、楔形……ハ、倒卵形ニシテ、……毛密生ス、秋、梢末ニ黄花ヲ開ク。

いそく (名) ……(一)……律ノ一、……(二)陰暦、七月ノ異名。 ……七月異名」

いそ・ぐ グ・ガ・ギ・グ (自動、四) 急 〔息急ノ略轉ナルカ、(息吹、いぶく。せはせはし、そはそはし)等ふト云フ語ト、同趣ナリ〕 (一)息セキナス。急ク。アセル。 …… (二)忙シク營ム。用意ス。支度ス。準備 大和物語、上「……九月ノ晦ニ、……いそぎハテテケリ」……

いぞく (名) 異族 我レト異ナル種族。(同族ニ對ス)

いそくさ・し キ・ケレ・ク・ク (形、二) 礒臭 礒邊ノ臭アリ。

いそげばまはる (句) いそがばまはれノ條ヲ見ヨ。

いそさなふ (動) 射狙 いそ……ニ同ジ。

いそざんせう (名) 礒山椒 〔葉ノ形、略、山椒ニ似タリ〕 小灌木ノ名。熱地ノ海邊ニ產ズ、葉ハ互生シ、深緑色ナリ、冬凋マズ、夏、五瓣ノ小白花ヲ開ク、實、小サク、圓シ、琉球、小笠原島等ノ產ナリ。

俚言集覽、いそざんまよ「ハマザンセウ、小笠原島ニ自生多シ、海邊、岩石ノ上ニ這ヒ生ズト云フ」

いそ・し・シキ・シケレ・シク・シク（形、二）　勤　〔倭訓栞、いそし「いさをしきヲ云フ」歷朝詔詞解、一「伊蘇ハ、伊佐乎ノ切レルニテ、いそしハ、いさをしト同ジ」萬葉集、九ニ直佐麻トアリテ、夏麻、綜麻ナドノ語アリ〕　能ク勤メタリ。イサヲシ。出精ナリ。字鏡ハ「仂、勤也、伊曾志久」玉篇「仂、勤也」　筑前國風土記、仲哀天皇筑紫ニ行幸アリ、怡土縣ノ五十迹手、五百枝ノ賢木ヲ奉ル「天皇於レ斯譽ニ五十迹手ニ曰ニ恪手ニ」註「謂ニ伊蘇志ニ」（釋紀、十）　敏達紀、元年五月「高麗表疏、諸史皆不レ能レ讀、王辰爾能奉ニ讀釋ハ由レ是、天皇與ニ大臣ニ倶爲ニ讚美ニ曰、勤乎、辰爾」（左訓、イサヲシキカナ）（節文）　文德實錄、四、仁壽二年二月、楢原東人「天平勝寶元年爲ニ駿河守ハ于レ時土出ニ黄金ハ東人採而獻レ之、帝美ニ其功ニ曰、勤哉臣也、遂取ニ勤臣之義ハ賜ニ姓伊蘇志臣ニ」　源、廿九、行幸廿九「イトカヤスクいそしく、云云、堪ヘヌ雜役ヲモ、立チ走リ」

いそし・む・ム・メ・マ・ミ・メ（自動、四）　勤　〔前條ノ語ヲ動詞トス。嘉しむ、喜しぶ、同趣〕　（一）勤シクス。能ク勤ム。出精ス。（二）功アリトス。　持統紀、六年六月「勤而不レ懈」　續紀、十七、天平勝寶元年四月、詔「伊蘇之美、嘉シミ、忘レタマハズ」（藤原不比等ノ功ニ宣ヒシナリ）　同紀、三十一、寶龜二年二月、宣「賢臣等ノ累レ世而仕奉マサヘル事ヲナモ、辱ケナミ、伊蘇志美思坐ス」

いそ-ぢ（名）　磯路　磯邊ノ路。　拾遺愚草（定家）上、述懷「海渡ル、浦漕グ舟ノ、（如ク）イタヅラニ、いそぢヲ過ギテ、濡レシ波カナ」（五十年ニカケタリ）

いそ-ぢ（數）　五十　〔五十箇ノ轉〕　（一）五ノ十倍。五十。　後拾遺集、序「歌、百餘いそぢヲ書キ出ダシ」　（二）五十年。　竹取物語「翁、今年ハ、いそぢバカリナリケレドモ」　續古今集、八、釋教「數フレバ、十市ノ里ニ、衰ヘテ、いそぢアマリノ、年ゾ經ニケル」

いそ-つぐみ（名）　磯鶇　いそひよどりヲ見ヨ。

イソップものがたり（名）　伊蘇普物語　伊會保物語ヲ見ヨ。

いそ-とび（名）　磯飛　〔磯ノ飛石ノ意、澤飛ト云フハ、水ノ流レヲ云フ〕　古名、イハバシ。今、又、澤飛。庭ノ瀧、又、井ナドノ下流ノ中ニ、點點配置シテ、蹈ミ行クニソナフル飛石。（造庭師ノ語）

いそ-な（名）　磯菜　磯ニ生フル草ノ、採リテ食物トスベキモノノ泛稱。　古今集、二十、東歌「小餘綾（相摸地名）ノ、磯立チナラシ、磯菜摘ム、目ザシ濡ラスナ、沖ニヲレ浪」　夫木抄、廿六、磯「浦人ノ、採ルヤいそなモ、タユムラム、響ノ灘ノ、五月雨ノ頃」

いそ-な-どり（名）　磯鳥　〔磯の鳥ノ轉カ〕　ちどりノ異名。　吳竹集、二「いそなどり、千鳥ノ異名ナリ」

いそ-ね（名）　磯寐　磯邊ニ宿リテ寐ルコト。イソマクラ。　夫木抄、三十六、言語「松島ヤ、濱風寒キ、いそねカナ、蜑ノ刈藻ヲ、引敷物ニテ」

いそ-の-かみ（名）　石上 磯上　大和國ノ地名ナリ、ココニ布留村アリ、布留神社アリ。（次條ヲ參見スベシ）　倭名抄、六 六十「大和國、山邊郡、石上郷、伊曾乃加美」　履中卽位前紀、仁德天皇、八十七年正月「太子便居レ於ニ石上振神宮ニ」　三代實錄、十四、貞觀九年三月「進ニ石上神階ハ加ニ正一位ニ」　顯宗卽位前紀「石上振之神椙」　武烈卽位前紀、長歌「伊須能箇瀰、布留ヲ過ギテ」

いそ-の-かみ（枕）　石上　〔前條ヲ見ヨ、倭訓栞、いそのかみ、石上、布留「ふるノ枕詞トス、因テ零トモ雨ナドニモ詠メリ、宣長ノ說ニハ、いハ發語、昔時舊ノ義ナリト云ヘリ」雅言集覽「契沖云、崇神天皇ノ御時、始メテ布留ノ社ハ、齋ハレサセタマヒテ、瑞籬ノ久シキ所ナレバ、昔ヨリ、古キ心ニ言ヒナシ來ル也」〕　古、舊ノ枕詞。轉ジテハ、降るニモ用キル。　六帖、二「いそのかみ、舊リニシ奈良ノ、都ニモ、色ハカハラズ、花咲キニケリ」　古今集、三、夏「いそのかみ、古キ都ノ、ホトトギス、聲バカリコソ、昔ナリケレ」　大和物語、上「白露ノ、（如ク）起キ臥シ誰レヲ、戀ヒツラム、我レハ聞キオハズ、いそのかみニテ」冠注「一轉シテ、君ニ舊ルサレタレバ、ワガ身ニハ、聞キオハズト云ヘル、イトザレタル、此頃ノロツキ也」　萬葉集、四 四十「石上、降るトモ雨ニ、障ラメヤ、妹ニ逢ハムト、契リシモノヲ」

いそ-の-みや（名）　磯宮　〔五十鈴川ノ邊ナレバ、磯ト申スナルカ〕　伊勢內宮ノ地ニアリテ、古クハ、齋宮ノ御居所ナリシトオボシ。　垂仁紀、二十五年三月、倭姬命「隨ニ大神教ハ其祠立レ於ニ伊勢國ハ因興ニ齋宮于ニ五十鈴川上ハ是謂ニ磯宮ハ則天照大神始自レ天降之處也」　續古今集、七、神祇「神風ヤ、五十鈴ノ河ノ、いそのみや、常世ノ波ノ、音ゾノドケキ」

いそ-ば（名）　五十集　いさば（魚肆）ノ條ヲ見ヨ。

いそ-はく（名）　勤勞　〔爭ふヲ、いそはくト云ヒテ、爭ふことト云フ名詞トナル、願ふ、ねがはく、同ジ、いはく（曰）ノ語原ヲ見ヨ、爭ふガ、競ふノ意トナリ、轉ジテ、勤むノ意トナリシナルベシ、倭訓栞、いそふ「日本紀ニ爭、文選ニ競ヲ訓メリ、萬葉集ニ、いそはくト云フモ、爭ノ意ナルベシ」（節文）〕　勤ムルコト。勞クコト。（勤ムルヤウハ、勞クヤウハ、ノ意）　萬葉集、一 廿長歌「持チコセル、檟ノ抓手ヲ、百足ラズ、（五十ヲいト云フ、いかだノいノ序トシタリ）筏ニ作リ、上スラム、伊蘇波久見レバ、神隨ナラシ」（神、ソノママニテアルラシ、神代ヨリノ忠節ノナラハシヲ云フ、此長歌ハ、藤原宮御造營ノ材木ノ筏ヲ、筏師ガ泉河（後ノ山城ノ木津川）ニ押上スヲ云ヘルナリ）

い-そば・ふ（動）　〔いハ、發語〕　そばふノ條ヲ見ヨ。ソバヘル。

いそ-ひよ（名）　次條ヲ見ヨ。

いそ-ひよどり（名）　磯鵯　〔いそひよハ、下略ナリ（青鵐、あをじ）〕　いそひよト云ヒ、いそつぐみトモ云フ。常ニ海岸ノ岩上ニ棲ム、形體ハ、鶇又ハ、鵯ニ似タレド、尾ハ稍短ク、羽色ハ異ナリ、雄ハ、灰黑ニシテ、薄色ノ細線アリ、雌ハ、背青ク、腹赤シ。

い-そ・ふ（動）　副　〔いハ、發語〕　副ふト云フニ同ジ。　古事記、中（應神）一 七十長歌「吾ガ見シ子ニ、云云、伊蘇比居ルカモ」

い-そ・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ（自動、四）　爭　〔いハ、息ノ略、（息吹、いぶき。氣含む、いくくむ）そふハ、あらそふ、きそふノ、そふニ同ジ〕　爭フ。競フ。　皇極紀、二年二月「國內巫覡等、云云、爭陳ニ神語入微之說ニ」　遊仙窟「頻上華開似レ鬪レ春」　字類抄「爭、競、イソフ」

いそ-ぶし（名）　磯節　小唄ノ名。常陸國、東茨城郡、祝町（今ノ磯濱町）磯の濱ニテ謠ヒ始メタルモノ。「磯デ名所ハ、大洗樣ヨ、松ガ見エマス、ホノボノト」（松林ノ中ニ、大洗神社アリ）「船ハチャンコロデモ、炭薪ハ積マヌ、積ンダ荷物ハ、米ト酒」「三十二反ノ、帆ヲ卷キアゲテ、行クヨ、仙臺、石卷」（石卷ハ陸前ノ北上川口ノ湊）

いそ-ぶな（名）　磯鮒　海魚ノ名。體扁長ニシテ、五六寸アリ、櫛狀鱗ニテ被ハ

レ、黄褐色ナリ。

いそ-ふり (名) [illegible]〔[illegible]〕[illegible]ノ[illegible]ヲ見ヨ。[illegible]磯ニ打寄スル浪。[illegible]土記「讃會郡、兒達郷、[illegible]、有三速浪一崩」石、人名 [illegible] 伊[illegible]、月十八日「いそふりノ、寄スル磯ニハ、年月ヲ、イツトモ[illegible]、[illegible]ノミゾ[illegible]」[illegible]、[illegible]聞きて「いそふりニ、騒グ波ダニ、高ケレバ、峯ノ木葉モ、今日ハトマラデ、[illegible]」

いそ-べ (名) 〔磯邊〕磯ノ邊。イソモト。萬葉集、十一「シラマユミ、(磯ノ枕詞)石邊ノ山ノ、常磐ナル、命ナレヤモ、戀ヒツツ居ラム」後拾遺集、十一、戀、二「カクナムト、海人ノ漁火、ホノメカセ、いそべノ波ノ、[illegible]モヨカラバ」新勅撰集、三、夏「夏衣、ユクテモ涼シ、梓弓、いそべノ山ノ、松ノ下風」

イソホ-ものがたり (名) 〔伊曾保物語〕〔Æsop's Fables.〕又、伊蘇普物語。世界ニ弘ク行ハルル、教訓上ノ物語集ナリ。西洋紀元前六世紀ニ、きりしあ人、いそほト云フ者ノ作ナリト云フ、文ニ諸篇ヲ加ヘテ、笑ハシムルコト多シ。我ガ國ニテ、慶長、元和ノ頃、國文ニ翻譯セルモノアリ、萬治二年ニ、繪入假名草子トシテ出版セラレテアリ、明治ノ初年ニ、中村敬助、更ニ、西洋渡來ノ原本ニ就キテ、譯シテ刊行セリ。海錄(文政、天保、山崎美成)十五、九十、西洋學原始「伊曾保物語ト云フ草子ニ[illegible]アリ、元和、寬永ノ比、ヤンゴトナキ方ノ、書カセタマフ[illegible]ト、[illegible]川氏云ヘリ、云云、此書、[illegible]書ヲ翻譯セシ始ナリトゾ」

いそ-ま (名) 〔磯間〕〔間ハ、内ノ意、萬葉集、十五、ニ、[illegible]島ノ、伊付未ノ浦ニト アルニ因リテ、いそみト云フ語モアルヤウニ云フ説モアレド、未ノ誤ナルベシ、磯麻ハ、現ニアルニ、伊付未ハ、他ニ見エヌヤウナリ、尙、探リ得タラバ加フベシ」[illegible]ノ、内ニ入リ[illegible]。萬葉集、九[illegible]、[illegible]テ、遊ビシ磯麻、見レバカナシモ」同、十七、廿「馬並メテ、イザ打行カナ、シブタニノ、淸キ伊蘇末ニ、寄スル[illegible]」[illegible]ノ、[illegible]ヲ[illegible]

いそ-まくら (名) 〔磯枕〕磯邊ニ寐ルコト。萬葉集、十[illegible]「[illegible]フル、[illegible]ノ面、今夜モカ、天ノ河原ニ、石枕マク」堀河百首、七夕「彦星ノ、天ノ岩舟、舟出シテ、今夜ヤ磯ニ、磯枕スル」

いそ-まつ (名) 〔磯松〕庭ノ池邊ノ松。萬葉集、二十[illegible]、中臣清麿[illegible]宅宴歌「ハシキヨシ、今日ノ主ハ、伊蘇麻都ノ、(序)常ニ在サネ、今モ見ルゴト」

いそ-まつ (名) 〔磯松〕〔磯ハ、海岸ヲ云フ、松トハ、幹ノ、松ノ樹皮ニ似タルヲ云フカ〕小灌木ノ名。暖地ノ海岸ニ生ズ。イシハナビ。草木六部耕種法、十、磯松「南國暖地ノ海岸ナル岩[illegible]ニ、自ラ生ズ、幹ハ、[illegible]ノ如ク、[illegible]形アリ、細枝ヲ生ジ、其葉ハ、石竹ニ似テ圓ク、九月下旬ニ至テ花ヲ開ク、其形狀、[illegible]ノ花ノ如クニシテ、黄色ナリ」(古事類苑)

いそ-まめ (名) 〔磯豆〕蔓草ノ名。宿根ヨリ生ズ、暖地ノ海邊ニアリ、莢ヲ結ブ、長サ二寸餘、豆ハ扁クシテなたまめノ如ク、[illegible]黑ナリ、毒アリト云フ。倭訓栞、後編、いそまめ「海邊ノ野ニ生ズ、因テ磯豆ト呼ブ、一名、はまたまめ、葉ハ葛ニ似タリ、實ハ刀豆ノ如シ」

いそ-み (名) 〔磯廻〕いそまノ語原ヲ見ヨ。

い-ぞん (名) 〔異存〕他ニ異ナル存寄。異見「[illegible]、異存無之候」

い-そん・ず・ズル・ズレ・ゼ・ジ・ゼヨ (他動、左變) 〔射損〕射テ外ル。イソコナフ。平家物語、十一、[illegible]「[illegible]ノ[illegible]コレヲ射損ずるモノナラバ、長キ[illegible]ノ弓矢ノ[illegible]ニテ候フヘシ」太平記、十六、[illegible]合戰事「[illegible]矢ヲいそんじテ、[illegible]、身方ニ[illegible]ハレ」

いそ-め (名) 〔磯蚯蚓〕〔磯めめずノ下略〕(毛唐人、けたうじ)[illegible]蟲ノ名、海岸ノ泥沙中ニ棲ム、[illegible]ニ似テ、[illegible]ニシテ、長サ五六寸乃至一尺、體ノ兩側ニ、[illegible]足ト[illegible]スル[illegible]アリ。釣ノ[illegible]トス。

いそ-め・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (自動、四) 〔急〕〔いそハ、急ぐノ語根、いそいそトス(ひそめく、ひしめく)〕急ガハシキ狀ナリ。辨内侍日記(建長)上「[illegible]大納言[illegible]小路、[illegible]言ナド、ソノ紛レニモ、ユユシゲニいそめきアハレケルニ」

いそ-もと (名) 〔磯許〕磯ノ際。磯邊。萬葉集、七、三「大海ノ、磯本搖リ、立ツ波ノ、[illegible]セムト思ヘル、濱ノ清ケク」

いそ-や (名) 〔磯屋〕磯邊ノ、漁人ナドノ住家。又、磯屋形。千載集、八、[illegible]「[illegible]ガ下ニ、漏ル時雨、旅寐ノ袖モ、シホタレヨトヤ」夫木抄、廿六、[illegible]荒レハテテ、人モナギサノ、磯やかた、イツヨリ海人ノ、住ミウカレケム」

いそ-やかた (名) 〔磯屋形〕前條ヲ見ヨ。

いそ-やけ (名) 〔磯焼〕海岸ニ於ケル、海水ノ鹽分ノ增減、其他ノ原因ニヨリテ、海藻ノ枯死セル現象ノ一種ヲ云フ。

いそら-が-さき (名) 〔磯等崎〕〔志摩國、答志郡、(三[illegible])志摩郡)[illegible]取ト云フ地ノ南ノ端ノ崎ノ名ナリ」[illegible]ノ曲ノ名。[illegible]、[illegible]「伊[illegible]ニ、[illegible]ル海人モ、[illegible]子ガ為メニ、[illegible]ヲ[illegible]、志摩ヤ、海人ノ刀[illegible]カ、[illegible]、伊[illegible]崎ニ、カヲリアフ」夫木抄、廿六、[illegible]、伊勢島ヤ、いそらが崎ノ、朝[illegible]ニ、櫂ナシ小舟、漕ギハナレツツ」

いそ-わ (名) 〔磯回〕〔わハ、輪ガ、原ニテ、物ノ周圍ヲ回旋レル所、永久百首、春「アハレシヤ、燒野ニ漏レシ、米ノわノ、[illegible]」[illegible]ナドノ、[illegible]ハ、[illegible]ナリト[illegible]ヲ見ヨ、[illegible]見スベシ」磯ノメグリ、海水ナドノ灣入シタル所。萬葉集、七、廿「[illegible]ミ、磯回ニ居レバ、遊スル、海人トヤ見ラム、旅行ク我レヲ」同、十二、[illegible]「海ノ底、沖ハ恐シ、磯回ヨリ、漕ギタミ往マセ、月ハ經ヌトモ」夫木抄、四、花「[illegible]路島、いそわノ[illegible]、[illegible]ニケリ、[illegible]、[illegible]ノ[illegible]」

いそ-わし (名) 〔磯鷲〕鷲ノ一種。[illegible]、いそわし「[illegible]ノ一種、小ニシテ、海邊ニ棲ムモノナリ」

いた (名) 〔板〕〔而ト通ズルカ(いすかし、ひすかし)〕(一)鋸ニテ、木材ヲ、薄ク平カニ挽割リタルモノ。字鏡[illegible]「板、[illegible]、伊太」倭名抄、十五、三「板、伊太」(二)或ハ、金屬ナドヲ、薄ク展バシタルヲ云フ、西洋[illegible]ニテ、機械力ヲ用キルモアリ、黄金、銅板、亞鉛板、又、板石、板硝子ナドモアリ。(三)[illegible]依板ノ下略、其條ヲ見ヨ、下、同ジ)(四)板敷ノ下略。(五)板物ノ下略。(六)眞魚板ノ上略。(七)板前ノ下略。

いた (副) 〔[illegible]〕〔[illegible]くノ語根、[illegible]シ、萬葉集、十五[illegible]ハ、[illegible]ノ[illegible]ナルベキカ(いたはし、いとほし、みどろし、みたらし)〕甚ク。ハナハダシク。最。古事記、下(允恭)[illegible]伊多[illegible]カバ、人[illegible]リヌベシ、[illegible]ニ[illegible]オケ、汝ガ鳴ケバ、吾ガ思フ心、伊多モスベナシ」

いたい (名) 〔[illegible]〕[illegible]

いたい-け（名）〔幼氣〕〔傷き氣ノ音便、いたはし氣、いたいたし氣ノ意、倭訓栞、いたひけ「幼稚ニ云フ詞、沙石集ニ見ユ、痛氣ノ義ナルベシ」語彙、いたいけ「勞シ氣ナリ」〕幼ク小サキ狀ニ云フ語。幼氣。イトホシサ。平家物語、六、小督事「門ヲ細目ニアケ、幼氣シタル小女房ノ、顏バカリサシ出デテ」沙石集、三、下、第六條「繼母アマリニウレシク思ヒテ、いたいけシタル弄物取具シテ、文ヲヤリケル」守武千句（天文）「梢眺ムル、姿ハいたいけ」「花房ヲ、乳房ナリトヤ、思フラム」尤雙紙（寛永）「祖父ノ頭巾、孫ノ着テ、親ノ履ハク、いたいけサヨ」

いた-いし（名）〔板石〕（一）自然石ノ、平タク、板ノ如キモノ。筆のすさび（天保、菅茶山）二、對馬、天然の板石「長四尺許、廣四尺許、厚三四寸、土人、橋トナス」（二）石ヲ、長サ三尺許、幅一尺餘、厚サ三寸程ニ切出シタルモノ。多クハ、敷石ニ用キラル、御影石ナルガ、多シ。

いた-いた-ぐさ（名）〔痛痛草〕〔莖、葉ニ刺多シ、刺サルレバ痛き意カ、小兒ノ語ナラム〕いらくさニ同ジ。

いた-いた・し・シキ・シケレ・シク・シク（形、二）〔傷傷〕〔傷しヲ重ヌ（輕し、かろがろし）〕甚ダイタマシ。カハイサウナリ。〔愍然〕丹波與作（寶永、近松作）上「可愛ノ姿ヤ、いたいたしヤ」

〜**いたう**（副）〔甚〕いたく（甚）ノ條ヲ見ヨ。

〜**い-だう**（名）〔醫道〕醫術ノ道。醫者ノ學。易林節用集（慶長）上、伊、言語「醫道」

いた-えん（名）〔板緣〕〔緣ノ條ヲ見ヨ〕板ニテ張リタル緣側。（竹緣ナドニ對ス）

いた-おひ（名）〔板笈〕修驗者ノ背ニ負フ笈。薄板ニ太キ緣ヲツケ、下端ヲ長クシテ脚トシタルモノ。

いた-おろし（名）〔板卸〕江戸時代、書肆ノ語。板ノ初摺。〔開版〕

いた-か（名）〔板書〕〔佛敎大辭彙「いたか、板書ノ略」（馬塞、馬柵）〕昔、一種ノ乞食僧。亡者ニ、功德ノ爲ニトテ、小サキ板塔婆（小サキ板ヲモテ作リタル卒塔婆）ニ文字ヲ書キ、川ニ流シ、讀經シテ物ヲ乞ヘルモノ。七十一番職人盡歌合（文安）三十六番、いたか「文字ハヨシ、見エモ見エズモ、夜メグル、いたかノ經ノ、月ノ空讀ミ」詞「流灌頂、流サセタマヘ、卒塔婆ト申スハ、大日如來ノ三摩耶形」（圖ニハ、僧ノ服着テ、蹲坐シ、耳頭ヲ覆ヒ、黑塗ノ笠ヲ被リ、板塔婆ヲ右ニ捧ゲ、前ニモ三四ヲ置ケリ）倭訓栞、いたか「職人歌合ニ、流灌頂ヲシテ物ヲ貰フ者ヲ云ヘリ、流灌頂ハ、竺土ニハ、產所ノ穢物ヲ江河ニ流スヲ以テ、水神ヲ汚セリ、因テ水神ヲ祭ル事アルヲ謬レルナルベシ、追薦ト心得ルハ非ナルベシト、白河燕談ニ見エタリ」（節文）

〜**いた-がき**（名）〔板垣〕〔石垣ナドニ對ス〕板ニテ作レル垣。キリカケ。ハタイタ。板屛。〔板牆〕等由氣宮儀式帳「板垣弖重、廻長、百十六丈、高壹丈」源、十五、蓬生「周圍ノ見苦シキニ、いたがきト云フ物打チカタメ、ツクロハセタマフ」湖月抄「常陸ノ宮ノメグリナリ」

いた-がこひ（名）〔板圍〕建築工事中ナドニ、周廻ノ圍ヒトシテ、假リニ、羽目板張リニテ作リ設クルモノ。

いた-がす（名）〔板糟〕酒糟ヲ、板ノ如ク固メタルモノ。

いた-がね（名）〔板金〕（一）いた（板）ノ條ノ（二）ヲ見ヨ。（二）銀ヲ、板ノ如ク薄ク延ベタルヲ、切リタル貨幣。

〜**いた-がひ-の-おうま**（名）〔櫪飼御馬〕〔いたハ、板ニテ、廐ノ内ノ櫪ナリ、其條ヲ見ヨ、板立ト云フハ、廐ノ內ニテ飼育てタル意ナルベシ（三戶立ノ馬ヲ參見セヨ）〕御馬ノ、廐ノ内ニテ飼ヒオカルルモノ。（牧飼ニ對ス）又、板立の御馬。廐内ニ於テ、繫飼ナルアリ、放飼ナルアリ。太神宮式「凡、二所太神宮、櫪飼御馬、各二疋、齋ニ幣馬內ハ恆令ニ養飼ハ官外馬、皆、放ニ神牧こ」等由氣宮儀式帳「御馬飼、內人、云云、常板立御馬二疋、云云、飼仕奉」左右馬寮式「四月廿八日、御監駒式、云云、櫪飼御馬八十疋、國飼三十一疋」同、衞府、馬牛「左近衞看督馬二疋」註「櫪飼一疋、放飼一疋」倭訓栞、いたがひ「櫪ヲ訓メリ、板飼ノ義ナリ、儀式帳ニ、板立御馬トモ見エタリ、云云、繫飼、放飼、ナドノ品アリ」

いた-かぶ（名）〔板株〕專賣書ノ板木ノ株。江戶時代ノ書肆ノ語。賣買シタリ、今ノ版權、出版權ニ似タリ。

〜**いだか・ふ**・フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ（他動、下二）〔抱〕〔いだくノ轉、いだき延ふるノ約ナルベシ、今、だかへるト云フ（崇む、あがまふる。瞰む、にらまふる）〕抱くニ同ジ。ダキカカヘル。ダカヘル。竹取物語「嫗、塗籠ノ內ニ、かぐや姬ヲいだかへテ居リ」

いた-かべ（名）〔板壁〕〔土壁ニ對ス〕板張ノ壁。義經記、三、書寫山炎上の事「小法師バラヲ二三十人集メテ、板壁ヲタタイテ、同音ニドット笑ハセケル」

いた-がみ（名）〔板紙〕〔俎紙ノ上略ナルベシ、俎前ヲ、板前ト云フ、其語原ヲ見ヨ〕俎ニテ料理スル時、用キル紙。日本百科大辭典、いたがみ「武家ノ禮式ニ、料理ヲナス時、俎ノ上ニ敷ク紙、伊勢家禮式ニ、板紙ノ事、大略、杉原（紙ノ名）ナルベシ、若、引合（紙ノ名）ナドスル事モアルヤラム、云云、鶴、白鳥ナドノ時モ、別ノ事ナシ」

いた-がみ（名）〔板紙〕〔日本百科大辭典ニ「べえすぼおるど、（Paste board.）又、單ニ、ぼおるどト云ヒ、俗ニハ、ぼおる紙トモ云フ」板目紙トハ、固ヨリ異ナリ〕又、ぼおる紙。西洋製法ノ一種ノ紙。特別ノ抄紙機械ニテ漉キアハセテ作ル、粗糙ニシテ、板ノ如ク厚シ。原料ニハ、多クハ藁ヲ用キル、黃色ナレバ、馬糞紙ナド云フ、包紙、紙箱、書籍ノ表紙ナドニ用キラレ、壁板ニモ貼ラル。

いた-ガラス（名）〔板硝子〕〔がらすノ條ヲ見ヨ〕硝子ヲ、板ノヤウニ製セルモノ。大小、厚薄、種種ニ作リ、姿見ノ鏡トシ、障子ノ棧ニ嵌メコムヲ、がらす障子ナド云フ。

いた-カラど（名）〔板唐戶〕板ヲ二枚ナラベ、上下ニはしばみヲ附ケタル戶。

いた-ぎん（名）〔板銀〕板金ノ銀貨幣。（いたがねノ條ノ（二）ヲ見ヨ）鷹筑波集（寛永）「大黑ト、夷子ハ中ヤ、ヨカルラム、歪ウダ紙ニ、包ムいた銀」（大黑銀ト、えびす紙トニカケタリ）

いた-きれ（名）〔板切〕板ヲ挽キテ用キタル殘片。語彙、いたつきれ「小板ヲ云フ」

い-たく（名）〔依託〕（一）依ルコト。依據スルコト。李劭、上ニ封事ニ表「陛下、天縱生知、又嗜ニ學不ニ倦、臣敢依ニ託經史ハ敷ニ陳下情こ」（二）委ネアヅクルコト。賴ムコト。陸軍、海軍ヨリ、學費ヲ給シテ、他ノ官立學校ニ敎授ヲ託スルヲ、依託（委託）學生ト云フ。

〜**いたく**（副）〔痛甚〕〔甚しノ連用形、（其條ヲ見ヨ）いたうト云フハ、音便ナリ（長

く、なが[illegible]、あら[illegible]たく、おりがた[illegible]又、いたうトモ云フ。ハナハダシク。キツク。ヒドク。[illegible] 萬葉集、十[illegible]「[illegible]久[illegible]ギテアリケリ」 萬葉集、八「呼子鳥、痛莫鳴キソ、吾ガ戀マサル」 古今集、十七、雜、上「數フレバ、トマラヌモノヲ、としト云ヒテ、今年ハいたく、老イゾシニケル」 伊勢物語、第六段「雨モいたう降リケレバ」 源、五、若紫「夕暮ノ、いたう霞ミタル」 同、卷五十「夜モいたう更ケニケリ」

いだ・く・ク・ク・カ・キ・ケ(他動、四) 抱 (古言、うだくノ轉、(うつくしむ、いつくしむ)だくト云フハ、上略ナリ(いきほふ、きほふ。いきづむ、きづむ)) (一)兩腕ニテ抱ヘ持ツ。今ハ、だくト云フ。 名義抄「抱、イダク、ウダク」 源、二、帚木「イトチヒサヤカナレバ、搔キいだきテ、障子ノ許ニ出デタマフ」 枕草子、三、三十七段「物言ハヌ兒ノ、ソリクツガヘリテ、人ニモいだかレズ、泣キタル」「母ガ、赤子ヲだく」 (二)闇ミテ内ニス。心ニ思ヒコム。懷 欽明紀、五年六月「[illegible]守任那[illegible]」 神代紀、下「深懷二慙恨一」「大志ヲいだく」

いたく-がくせい (名) 依託學生 いたく(依託)ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。

いた-ぐら (名) 板倉 (土藏、石倉ニ對ス) 板壁造リノ倉。校倉ナドモ、同趣ナリ。

いた-ぐるま (名) 板車 車ノ屋形ヲ、板張ニシタルモノナルベシ。 西宮記、臨時、四、板車「上下通用、近代無、後用之人」 [illegible]抄、車輿、板車「吉、下[illegible]之輩、及、武士等乘之輿、[illegible]之」

いたけく (名) 苦痛 (痛きノ轉、いはく(曰)ノ語原ヲ見ヨ、名詞ニテ、痛キコト、ノ義(いたけしノ活用ナドニハアラズ、然ル形容詞ハ無シ)) 痛ムコト。苦シムヤウ。 萬葉集、十七ニ長歌「打チナビキ、床ニ臥シ、伊多家久シ、日ニ異ニ增ル」(痛メルナリ)

いた-ご (名) 板子 (古ハ、紙子、綿子、ノ類) 舟ノ中ノ床ニ用キル板。諺ニ、板子一枚、下ハ地獄ト云フハ、舟子ノ業ノ危險ナルヲ云フ。 通俗編、十四「乘レ船走レ馬、去レ死一分」

いた-ごし (名) 板輿 腰輿ノ一種。屋形ノ屋、左右ヲ、白木板ニテ張リ、前ニ簾ヲカケタルモノ。多クハ、旅行ノ時ナド用キキ。木輿。四方輿。 海人藻芥(應永)上「[illegible]輿、是昔、田舍等用之、臨時、板輿ト云フ」 [illegible]准后記、正長二年九月廿一日「南都下向、云云、宗濟僧都等、板輿[illegible]、御後參了」 建内記、永享十二年二月十一日「春日祭也、予爲上卿、仍、早旦進發、内内用板輿(近頃也)」(顯房、時房ナリ) 貞丈雜記、七、輿「板ごし、一名、木ごし、云云、又、四方ごしトモ云フ」

∴いた-ごと (名) 痛事 (苦痛ヲ感ズルナリ) 費用ヲ多ク出サネバナラヌコト。「子供ノ宮參リノ衣裳ヲ新調スルハ、いたごとダ」

いた-こぶし (名) 潮來節 (常陸國風土記「行方郡、板久村、近邇ニ海濱、安ニ置驛家ニ」 鹿島志「板來ト書キタルヲ、西山公、鹿島ニ、潮宮アリテ、常陸ノ方言ニ、潮ヲいたト云フハ、興アルコトトオボシテ、カク書改メラレタリトカ」(西山公ハ、水戸光圀)) 常陸國、行方郡、潮來ノ地ニ起レル俗謠。同地ハ、霞ガ浦、潮岸ニアル要津ニテ、船舶ノ出入多ク、妓優多シ、[illegible]ノ元唄ハ、卽チ、浮草(文政ノ小唄集)「潮來出島ノ、眞菰ノ中デ、菖蒲咲クトハ、シホラシヤ」長キ唄ノ末句ナリ、其他、長短、種種ナル替唄アリ。明和年中、此謠、江戸マデ流行リ、文化ノ頃、よしさの節ト唱ヘ、節モ變ジ、天保ニテ[illegible]節トナレリ、[illegible] 潮來出島ノ[illegible]、[illegible](文政)[illegible]ト云ヘルモノ、江戸ニ流行セシ事アリ、[illegible]二上リ三下リいたこ、ト ニリトン、トレイツナ[illegible]」

いた-こんがう (名) 板金剛 こんがうざうり(金剛草履)ノ條ヲ見ヨ。

いた・し・キ・ケレ・ク・ク(形、二) 痛 (至るノ語根ヲ活用セシム、(涼む、すずし。憎む、にくし)切ニ肉身ニ感ズル意、痛むノ條ヲ見ヨ) 身ニ痛ム感ジアリテ、惱シ。(痒シニ對ス) 疵、瘡、頭痛ナド、總テニ云フ。 萬葉集、五、三十長歌「イトノキテ、痛伎瘡ニハ、辛鹽ヲ、灌グチフ如ク、云云、病ヲラ、[illegible]ヘテアレバ」 倭名抄、三、瘡類「痛、伊太之」 源、四、夕顏「[illegible]、イトいたくテ、苦シク侍レバ」「痛くない腹、探られな」ト云フ諺ハ、(痛ミモセヌ腹ヲ按腹セラルナ)他人ヨリ嫌疑ヲ受ケヌヤウニセヨノ意ナリ。 [illegible](元祿、貝原益軒)一、痛なき腹さぐられな「此諺ノ意ハ、萬ノ事ニ愼テ、人ノ疑ヒノ立タヌヤウニセヨト云フ事ナリ、文選、君子行曰、君子防二未然一、不レ處二嫌疑間一」痛くも痒くもなしト云フ諺ハ、身ニ取リテ、利害ナシノ意。 晉書、范宏之傳「於二下官之身一、有二何痛癢一」[illegible]

いた・し・キ・ケレ・ク・ク(形、一) 痛切 甚 (前條ノ轉意、事情ノ甚シキナリ、字ニ[illegible]「痛、甚也、漢書、食貨志、市物痛騰躍」(痛快、痛飲)副詞ノ痛、痛くノ條ヲ併セ見ヨ、甚しト云フ形容詞モアリ、其條ヲモ見ヨ、次項ノ絶好ナル意ハ、甚ダ佳シト含メ云ヘルナルベシ) (一)ハナハダシ。强シ。手痛シ。 欽明紀、廿三年六月「有レ譖二馬飼首歌依一云云、卽收二延尉一、鞫問極切」 萬葉集、十二、「[illegible]ヲ痛ミ、[illegible]ル浪ノ、[illegible]ナク、(序)吾[illegible]妹モアラナクニ」 名義抄「[illegible]、イタシ、アラアラシ」 (二)[illegible]好シ。[illegible] [illegible]「[illegible]國ノ前[illegible]守[illegible]ノ娘、カシヅキタル家、イトいたしカシ」 同、十三、明石「[illegible]遣レルサマ、木深ク、いたき所マサリテ、見所アル住ヒナリ」 湖月抄、師「いたきハ、美メタル詞ナリ」 同、廿八、野分「[illegible]ナトケ、[illegible]エバ[illegible]、小[illegible]引キオトシテ、ケヂメ見セタル、イトいたし」(明石ノ[illegible]) 同、五十一、[illegible]「小宰相ノ君ト云フ人、容ナドモ清ゲナリ、云云、此宮モ、年頃、イトいたき者ニシタマヒテ、[illegible]ナル由モ云ヘリ」 湖月抄「匂宮モ、小宰相ヲ、よき人ト思召スナリ」 行宗集、雜、二十首「餅コソハ、いたき奴ナレ、貴人ノ、[illegible]田トノミモ、名ヅクト思ヘバ」(編田餅)

いた・し・キ・ケレ・ク・ク(形、二) 傷 (痛しノ意ノ移レルナリ、切ニ心ノ惱ムナリ、痛し、傷むノ語原ヲ見ヨ、爾雅、釋詁「傷、憂思也」) (一)切ニ意識ニ感ジテ、心苦シ。ナヤマシ。(俗ニ、入費ノ多キニ惱ムヲ、痛事ト云フ) 萬葉集、三五十二「世ノ中シ、常[illegible]ノミト、[illegible]レド、痛きハ、[illegible]ヒカネツモ」 同、二十三七夕歌「秋ト云ヘバ、心ゾ伊多伎、[illegible]ニ、花ニ[illegible]テ、[illegible]マク[illegible]リカモ」 [illegible]思フニ[illegible]ス) (二)アハレナリ。イタハシ。[illegible] [illegible]何[illegible]、今以後、[illegible]ナル御書カキナレド、いたしや、此御手ヨ、昔ハ、上手ニモノシタマヒケルヲ、年ヲ經ヘテ、云云、御手震ヒテケリ」 細流抄「いたしやハ、いたはしやト」

いだし-あこめ (名) 出衵 いだしぎぬノ條ノ(二)ヲ見ヨ。

いだし-うちき (名) 出袿 いだしぎぬノ條ノ(一)ヲ見ヨ。

いたし-かゆし (句) 痛痒 利ト害ト兩様

ニ互リテ、如何ハセムト云フ意ニ云フ諺。‖一利一害‖ 語彙、いたしかゆし「爲テモ善キカ、惡キカト云フ詞ニテ、癢キヲ搔ケバ、痛シトテ、搔カネバカユシ、如何セムト云フ意ナリ」

いたじき (名) |板敷| 〔縁側ハ、元ハ、竹ヲ編ミテ作レル簀子ナリシニ、後ニハ、板ニテ張リ敷クヤウニナリタレバ、板敷ト云ヘド、尚、舊名ヲ遺シテ、すのこトモ云ヘリ、其條ヲ見ヨ〕 (一)〔スノコ。板縁。縁側。略シテ、板。倭名抄、十六 屋宅具「簀、須乃古、功程式、板敷」 伊勢物語、第四段「荒廢ナル板じきニ、月ノ傾クマデ臥セリテ」(縁側ナリ) 江家次第、五、復奏事「掃部寮鋪ニ莚道於ニ講道四面板敷上一」(同上) 枕草子、一、十三段「戸口ノ前ナル、細ソキいたじきニ居タマヒテ、物ナド奏シタマフ」(同上) 今昔物語、十九、第四語「板敷ヨリ丸ビ墮チ」(同上) 今物語、降雪朧月條「殿上人、云云、中門ノ板ニサブラヒテ、寢殿ナル女房ニ、云云、此朧月ハ、イカガシ候フベキト言ヒタリケレバ、女房、返事ハナクテ、取リアヘズ、内ヨリ疊ヲ押出シタリ」(朧月夜に若くものぞなき(敷物ニカケタリ)ト云フ古歌ニ寄セタリ、おぼろづきよノ條ヲ見ヨ) (二)〔又、昔ノ寢殿ノ室内ノ床ハ、スベテ板張ナリキ。又、板間、板閒ト云ヒ、略シテ、板。今モ、人家ノ臺所ナドヲ、板敷、板の閒ト云フ。‖地板‖ 枕草子、二、廿段「艶ナル板ノ端近ウ、アザヤカナル疊一枚、カリソメニ打敷キテ」(善ク拭ヒテ光澤アルナルベシ) 落窪物語、二「夜深クルマデ板ノ上ニ居テ、冬ノ夜ナレバ、身モスクム心地ス」 家屋雜考「古代ノ殿舍ハ、總板敷ニテ、主客ノ坐スベキ所所ニノミ、時ニ臨ミテ、敷物ヲ設ケシ事ナレバ、古キ物語ドモニ、御座ヲ敷ク、御座ヲ敷ク、ナド書ケル事多シ、コハ、疊、圓座ナド、敷キ設クルヲ云フナリ」 (三)歌舞伎芝居ニテ、舞臺ノコトヲ板ト云フ、板敷ノ略ナリ。演劇ヲ上演スルヲ、板ニかける、板ニつく、ト云フ。

いだしぎぬ (名) |出衣| 〔きぬト云フハ、衣服ニテ、仕立ハ小袖ノ如シ、此ノ語ハ、出褄、出袙、出袿、ナドノ總名ナラムト思ハル〕 (一)直衣ノ内、指貫ノ表ニ着タル衣ノ、裾ノ端ヲ、少シ顯シテ着ルコト。出褄、出袙、出袿、ナド云フ、皆、是レナリ。新野問答(正德、新井君美ト野宮中納言定基)「出衣ト申候ハ、直衣ニ衣冠等ヲ著スル時、風流ノタメ、衣ノ裾ヲ、聊、袍ノ裾ニ見セ候ヤウニ著成ス事ニ候、是ヲ出衣トモ、出袿トモ申ス」 宇治拾遺、十一、第一條「直衣ノ、長ヤカニ、メデタキ裾ヨリ、靑キ打チタルいだしあこめシテ」(打ちたるハ、打衣ナリ) 辨内侍日記(建長)「殿上ノ櫛形アル閒ニハ、德大寺ノ大將實基ヲ始メテ、上達部ノいだしづまノ姿ドモ、目ニトマリテゾ見ユル」 今昔物語、廿八、第四語「殿上人、藏人ノ出袿ヲシ、織物ノ指貫ヲ着」 深窓祕抄(應仁ノ奧書アリ)「出衣、又、打衣」 (二)女房用ノ牛車ノ下簾ノ下ヨリ、女房ノ衣ノ裾、ナドヲ出シテ乘ルコト。(いだし車ニモ、此裝ヲ云ヘリ、次條ヲ見ヨ) 雅亮裝束抄(治承ノ頃、伊賀守雅亮)三「衣ノ色ヲモ定メ、車三輛トモ、五輛トモ、定メラレバ、厚衣、夏モ冬モ、必ズ出スベシ」 續古事談、三、臣節「堀河院ノ御時、内ノ女房車アマタ、色色ノ衣出シコボシテ、花見ニ、花山ヘ向ハレタリ」 太平記、二、天下怪異事「藤房卿進ミテ申サレケルハ、云云、早御忍ビ候ヘトテ、御車ヲ差寄セ、云云、下簾ヨリ出絹ヲ出シテ、女房車ノ體ニ見セ、主上(後醍醐)ヲ扶ケ乘セマヰラセテ、陽明門ヨリ成シ奉ル」

いだしぐるま (名) |出車| 〔官物ヲ、貸出スノ義ト云フ、出典ヲ見ヨ、移馬ノ類ト思ハル〕 行幸、諸儀式、賀茂祭ナドノ諸祭事ニ、女官、女房ノ乘用ノ牛車。官物ヲ貸シ出シタマフモノト云フ。又、だしぐるま。源、十、榊十「齋宮ハ、十四ニゾ成リタマヒケル、云云、出デタマフヲ、待チタテマツルトテ、八省ニ立テツヅケタルいだし車ドモノ袖口、色合モ、目馴レヌサマニ、心憎キケシキナレバ、殿上人共モ、私ノ別レヲ惜シム、多カリ」 花鳥餘情「大極殿ヲ、八省院ト云ヘリ、云云、出車ハ、八省ノ東路ニ立テツヅクルナリ」(齋宮ノ御供女官ノ乘レルニテ、出衣ノ袖口ナリ) 今鏡、上、第二、白河の花宴、保安五年「白河ノ花、御覽ゼサセタマフトテ、行幸セサセタマヒシ、云云、院(鳥羽院)ノ御車ノ後ニ、待賢門院(藤原璋子)引キツヅキテオハシマス、女房ノだしぐるまノ打チ出デ、白銀、黃金ニシカヘサセタリ、云云、又、いだし車十兩ナレバ、四十人ノ女房、思ヒ思ヒニ、裝ドモ、心ヲ盡シテ、云云」 類聚雜要抄、三、五節雜事「出車、金作檳榔毛一兩、檳榔毛五兩、網代二兩」 有職問答(三條西實隆)一、出車事「女車ニテ候、攝家、清花ヨリ、支配ニ付テ被レ借進レ之、其ニ女房被レ駕候、云云、七八輛モ、或ハ十輛モ、其用候ニ隨ヒテ被レ進レ之、出スニ因リテ、出車ト申ス由、被ニ仰出一畢」(節文)

いだしづま (名) |出褄| 前前條ノ(一)ヲ見ヨ。

いたじとみ (名) |板蔀| 〔たじとみノ條ヲ見ヨ〕 板塀ノ類。外ヨリ見透サレヌヤウニ、目隱ニ設クルモノナリト云フ。又、竪蔀。土居ヲ置キ、閒毎ニ柱ヲ立テ、一閒ニ、二枚ヅツ、格子ヲ、竪ザマニ立テオク、白木ナリ。蔀ハ、横ナルニ、コレハ、竪ザマナレバ、竪蔀トモ云フ。(家屋雜考) 散木集、七、戀、上「風吹ケバ、タジログ宿ノ、板じとみ、(序)破レニケリナ、忍ブ心ハ」 源、廿八、野分九「風雨ノ後「所所ノたてじとみ、透垣ナドヤウノ物、ミダリガハシ」湖月抄「崩レ倒レタルサマナリ」 續古事談、一、王道后宮、殿上一種物「異人人、多クハ雉ヲ出セリ、主殿司取リテ、たてじとみニ寄セ立ツ」

いだしぬく・く・ケ・カ・キ・ケ (他動、四) |出拔| だしぬくニ同ジ。十訓抄、中、第七、廿四條「本ノ大丸(笛ノ名)ハ、ササイナク吹行ケレバ、大夫(伏見修理大夫俊綱)ノオコニテヤミニケリ、始ハユユシク、ハヤリタチタリケレドモ、終ニいだしぬかレニケリ」

いだしふづくえ (名) |出文机| 古クハ、室ノ一邊、縁側ニ食出サセテ作リタル、棚ノヤウナルモノ。幅、六尺バカリ、奧行二尺バカリ、其下ノ方ニ、文机ノ高サニ、板ヲ互シ、外面ニ明障子ヲ設ケテ、讀書シタリ。後ニ、禪寺ニ、書院ト云フモノ出來テ、其名ヨリ附書院ト云フ、今世、在俗ノ家ニモ、往往、設ケタルアリ。(其條ヲ見ヨ)いだしふみだな。圓光大師傳「上人、黑谷ニシテ、華嚴經ヲ講ジタマヒケルニ、靑キ小蛇、机ノ上ニアリケルヲ、法蓮坊信空ニ、取テ捨ツベキ由、仰セラレケレバ、法蓮坊、出文机ノ明障子ヲ明ケテ、投ゲ捨テタリ」(節文) 紙上蜃氣(寶曆)「附書院、出府机」

いだしふみだな (名) |出文棚| 前條ニ同ジ。

いたじめ (名) |板締| 〔板ニテ、布帛ヲ挾メテ染ム〕 古ク、夾纈。染物ノ一法。薄板ニ模樣ヲ雕リヌキ、其板、二枚ヲ以テ、固ク布帛ヲ挾ミテ、雕リタル所ヨリ、染汁ヲ注ギ、善ク染マリタル時、板ヲ解ケバ、模樣アラハル。守貞漫稿(嘉永)十九「板じめト云フハ、縮緬紅染ニモ、其他絹木綿トモニ、紅、藍、何ニテモ製レ之、薄キ板ニ紋ヲ彫リ、縮緬以下、固ク挾レ之ミ染レ之ニ、板形ノ如ク、白ク染メ除ク也」 浪花の風(安政)大坂「木綿地合宜シク、殊ニ京染ナレバ、縮緬ト見紛フナリ、中形ノ物ナド、スベテコレヲ板じめト唱フ、江戸ニテハ、板じめト云ヘバ、縮緬ノヤウニ覺居ル者多シ」(節文、古事類苑)

いたじめらふ (名) |板締蠟| 魚油中ヨリ取リタル蠟。西洋蠟燭ノ原料トナル。

いたす・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) |致| 〔至ルノ他動(渡る、わたす。降る、くだす)〕 (一)〔至ラシム。 持統紀、四年十月、大伴部博麻、愛國顯忠「賜ニ絁五匹、綿一十屯、云云、水田四町一、其水田及ニ至曾孫一也」 横紀、三十、神護景雲三年

十月、[illegible]名義抄「致、イタス」(二)〔一トドカス。盡ス。〕[illegible]ハいたしケレバ、[illegible]シキワザモ慣ハサリケレバ、汝、女ノ肩ヲ張破リテケリ」源、三十八、夕霧「心ヲいたしテツカウマツル御修法ニ、シルシナキヤウヤハアラム」(三)〔爲ル。ナス。オコナフ。〕[illegible]「下臈ノ無禮ヲいたすダニ、立所ニ罰セサセオハシマス」「滿足いたす」「倹約いたす」(四)後ニハ、爲るノ敬語トス。「カヤウニいたしマシテ」(五)俗ニ、タバカル。ダマス。(欺レニ敬語ヲ用キルカ)「ウマクいたしテヤッタ」(ダマシテヤッタ)「マンマトいたさレタ」(ダマサレタ)(六)委ス。任ス。〔官職ヲ〕[illegible]ノ語ナラム。次項ノ語モ、同ジ。委、[illegible]、下、[illegible]、君子以致命遂志」[illegible]、事君能致其身」字典「致、[illegible]也」(七)[illegible]シテ退ク。致仕。[illegible]、曲禮、上篇「大夫、七十而致事」註「致其所掌之事於君而告老」字典「致、納也」

いだ・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) 〔出〕〔出づノ他動、(果つ、はたす)だすハ、上略ナリ(抱く、だく)〕(一)〔内ヨリ外へ遣ル。後世ハ、だす。〕萬葉集、十五「大船ヲ、荒海ニ伊太之、行マス君、障ムコトナク、早還リマセ」(遣新羅使ヘノ贈歌、其妻ノ詠ナルベシト云フ) 伊勢物語、廿四段「戸、云云、開ケテ、歌ヲナム詠ミテ、いだしタリケル」同、六十九段「女ノカタヨリいだす盃ノ皿ニ、歌ヲカキテ」「袖カラ手ヲだす」(二)〔謠ヒイダス。〕源、三十二、梅枝「辨少將、拍子取リテ、梅枝いだしタルホド、イトヲカシ」(梅枝ハ、催馬樂歌ナリ) 枕草子、八、八十三段「歌謠ヒナドスルニ、云云、露ハ別レノ涙ナルベシト云フコトヲ、頭ノ中將、打チいだしタマヘレバ、云云」(朗詠集ノ句ヲ謠ヒタルナリ、和漢朗詠集、上、秋、七夕、菅原道眞「露應別涙珠空落、雲是残粧鬟未成」)(三)始ム。「讀ミいだす」「書キだす」

いただき (名) 〔頂、顚〕〔戴くノ名詞形、頭ノ上ニアリ、戴餅ナド云フアリ、いなだきト云フハ、音通ナリ、(戴く、おなく。隔る、へなる)頭ニいただくヨリ、結髪ヲモ云フナルベシ、説文「頂、顚也」揚子方言「顚、頂上也」[illegible]「謂頭上也」〕(一)〔頭ノ上。頭上。アタマノテッペン。〕字鏡「頭、頂、伊太太支」(倭名抄、三、同ジ) 神代紀、上「[illegible]之頂」堀河院百首、雪「年經レバ、我ガいただきニ、オク霜ヲ、草葉ノ上ト、何思ヒケム」(二)〔頭上ノ結髪ヲ、いなだきト云フ。〕字鏡「髻、伊太太支」神代紀、上「天照大神、以八坂瓊之五百箇御統、纏其髻鬘及腕」萬葉集、三「伊奈太吉ニ、[illegible]ル玉ハ、二ツ無シ、カニモカクニモ、君ガマニマニ」(結髪ニ飾リタル玉ヲ、類無シト美メテ、無雙ナル君ガ意ノママニ隨ハムト云フナリ)(三)〔轉ジテ、山ノ上。頂上。絶頂。テッペン。〕巓 字鏡「[illegible]、山頭、伊太太支」倭名抄、一「巓、山頂也、以太太木」神武紀「天皇陟彼菟田高倉山之巓、瞻望域中」(大和國、宇多郡) 日本靈名(元祿)上廿「頂、山上ヲ、いただきト云フ、人ノ頭上ヲ、いただきト云フヨリ通稱ス」(四)〔スベテ、物ノ、最モ上ナル處。頭ナル處。〕頭 天武紀、下、八年十二月「是年、紀伊國、伊刀郡、貢芝草、其狀似菌、莖長一尺、其蓋二圍」(後世、靈芝、又、萬年茸ト云フモノ) 枕草子、十一、百四十六段「皆、火ヲ搔キ遣リ、炭ヲ重ネオキタルいただきニ、火ドモ置キタルガ、イトムツカシ」夫木抄、二十「日吉山、嶺ノ小松ノ、いただきニ、彌高カラム、千代ノ初春」(五)次條、及、次次條ノ下略。其條ヲ見ヨ。

いただきもち (名) 〔戴餅〕「餅ガ、餡ヲ戴きテアル意ナルベシ」糝ノ餅ニ、餡ヲ載セタルモノ。下略シテ、いただき。倭訓栞、いただきもちひ「葩餅ニ、小豆ノ煮タルヲ少シ置キタルヲ、小いただきト稱ス」(葩ハ花ナリ、次ノ俚言集覽ニ、はなくさもちトアリ) 俚言集覽、いただき「ハナクサモチ、圓扁ナル糕ヲ凹メテ、中ニ、小豆[illegible]

いただきもちひ (名) 〔戴餅〕〔祝言ヲ戴キ奉ゼシムル意カ、此事、[illegible]ノ風俗ヲ始シタルナリ、出典ヲ見ヨ〕昔、貴族ノ家ノ小兒ニ、毎年元日ニ行ヒシ祝儀、下略シテ、いただきトノミモ云フ。小餅ヲ以テ、小兒ノ頭ニ觸レシメ、祝言ヲ唱ヘタリ。古事談(平安朝時代)六、[illegible]守[illegible]子之時、正月[illegible]之間[illegible]父[illegible]文章[illegible]父、云云[illegible]」榮花物語、三十九、布引の瀧「中宮ニハ、男宮、女宮、御いただきもちひノホド、イミジウメデタシ」[illegible]子ノ、春ノ初ノ、いただきニ、官位ハ、ソナヘアゲツ」桃華蘂葉(一條兼良)承元四年正月一日、小兒戴餅事「女房一人抱兒、一人持餅盞、[illegible]先取餅合戴祝詞、官位高カレ、命幸堅カレ、以餅三度當頂了」東山左府記(享德)「正月戴餅、及五歳マデ沙汰シ來ル也」[illegible]記、民間、九日以[illegible]小兒頂、乳母祝云、百事皆高」

いただ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (他動、四) 〔戴〕「語原、難解ナリ、先輩ノ二三ノ說アレド、採ルベクモアラズ、強ヒテ、試ミニ、予ガ牽強說ヲ言ハバ、いハ發語、ただくハ、手手上くノ約、別く、別くるナド、共ニ他動ニテ、二活用アルモアリ、濁音ノ顚倒スル例モアリ、(いづつしノ語原ヲ見ヨ)サレド、我レナガラ失笑ス、尚、ツラツラ考フベシ、又、先哲ノ明解アレドモ、知ラズシテアラムモ、知ルベカラズ」(一)〔頭ノ上ニ載ス。〕萬葉集、二十「[illegible]母刀自モ、玉ニモガモヤ、伊多太伎テ、角髪ノ中ニ、和ヘ卷カマクモ」(東國ノ防人ガ、[illegible]中、[illegible]ノ母ヲ思ヒテノ詠ナリ) 拾遺集、九、雜、下「老ハテテ、雪ノ山ヲバ、いただけド、霜ト見ルニゾ、身ハ冷エニケル」[illegible]神宮[illegible]、[illegible]物忌[illegible]、春[illegible]持[illegible]主御前[illegible]天ニ(コレラハ、捧グル意ナルカ如シ)

(二)[illegible]大明ニ、[illegible]持[illegible]集、五[illegible]「大御命ヲ、[illegible]持チテ、[illegible]國ノ、還キ[illegible]ニ、遣サレ」後拾遺集、二十、神祇、祭主輔親「[illegible]父、孫[illegible]、三代マデニ、いただき奉ル、皇大神」(三)俗ニ、戴きテ受クル意ヨリシテ、貰ふノ敬語、[illegible]「御褒美ヲいただく」(四)又、食ふ、飲むノ敬語。[illegible](五)[illegible]又、[illegible]江戸ノ卑語[illegible]ナリ) 俚言集覽、いただく「江戸ニテ、事ヲ[illegible]損フヲ云フ」

いただたみ (名) 〔板疊〕板ヲ心トシテ作レル疊。床間ナドニ用キル。

いただてのおうま (名) 〔板立御馬〕いただひのおうまヲ見ヨ。

いたたふば (名) 〔板塔婆〕いたか(板書)ノ條ヲ見ヨ。

いたち (名) 〔鼬〕〔語原、解セラレズ、氣立ノ義、氣ヲ吹クガ、自ラ火ト見ユルヨリ、鼬ノ火柱ト云フト云ヒ、又、いたちのみちきりト云フヨリ、行斷ナラムナド云フ、何レモ附會ナリ、尚、熟考スベシ〕小獸ノ名。吻ヨリ尾端マデ、一尺五寸バカリ、全身、細長クシテ、毛色、黄赤ナリ、頭短ク、口邊黒ク、尾大ナリ、身、甚ダ柔軟ニシテ、能ク狹キ隙ヲ穿チテ出入ス。堂社、敗屋ナドニ棲ミ、夜出デテ、鷄、鼠ナドヲ捕フ、多クハ、肉ヲ食ハズ、血ヲ吸フノミ。又、善ク水ニ入リテ、魚ヲ捕ルヲ、水いたちト云フ。(いたちみめよしノ條ヲモ參見セヨ) 同種ニ、貂アリ、其條ヲ見ヨ。倭名抄、十八「鼬鼠、以太知」源、四十九、東屋[illegible]ケナル[illegible]ヒオキテ、ウシロヤスクハ積ミ開エサセナガラ、いたちノ侍ラム

ヤウナル心地ノシハベレバ、ヨカラヌモノドモニ、憎ミ恨ミラレ侍ルト聞ユ」細流抄「いたちハ疑心アルモノナリ、ウシロヤスクハ思ヘドモ、疑ハシキ心ノアルトナリ」和漢三才圖會、三十九、鼬ノ條、水鼬「本此一種、常棲二屋壁穴一、覘二瀦池一、入レ水捕レ魚」

いたちうを (名) 鼬魚 〔出典ヲ見ヨ〕頭、大キク、身、圓クシテ、身長、一尺五寸ニ至ル、尾ニ岐ナク、鱗、細カクシテ光リ、油色シタリ、味、鯖ニ似テ、臭氣アリ。別名、アブラメウヲ。 和漢三才圖會、四十九「油身魚、鼬魚、阿布良女魚、伊太知以乎、謁有レ光、頷似二油色一、又似二鼬毛色一、故名レ之」

いたちぐさ (名) 連翹 いたちはぜノ條ヲ見ヨ。

いたちおっお (名) 鼬競 〔おっおハ、かけっくらノ語原ヲ見ヨ〕(一)江戸時代、兒童ノ戲。二人相對シ、一人、己ガ右手ノ指ニテ、他ノ手ノ甲ヲ抓ミテ、我ガ左手ヲ其上ニ載スレバ、他ハ、下ノ手ヲハヅシテ、我ガ甲ヲ抓ミ、斯クシテ、代ル代ルニ、いたちおっお、ねずみおっお、ト唱ヘテ、互ニ抓ミ合ヒテ果ナシ。野鼠ヲ學ブナリト云フ。(嬉遊笑覽、十二) (二)轉ジテ、人人、互ニ同ジ事ヲシテ、益モ無キコト。 語彙、いたちおつお「二人互ニ手背ヲ摘ミアヒテ、ツギツギニ同ジ事ヲスル戲ナリ、轉ジテ、相互ニ同ジ事ヲスルニモ云フ」

いたちささげ (名) 茳芒 〔鼬豇豆ノ義ニモアルカ〕宿根草。形狀、豌豆ニ似タリ、春生ズ、葉ハ互生シ、そらまめニ似テ薄ク、末ニ細ソキ鬚アリ、夏、花ヲ開ク、あづきニ似テ、穗ヲナシ、莖ノ梢ニ生ズ、初メ淡黃ニシテ、後ニ褐色トナル、莢ノ長サ一寸餘アリ。ヤマエンドウ。

いたちのさいごっぺ (名) 鼬最後屁 「最後ノ條ヲ見ヨ」鼬ガ、他ニ襲ハルルコト甚シキニ到レバ、身ヨリ、極メタル惡臭ヲ放チテ、コレヲ防グヲ云フ。コレハ、肛門腺ト云フ、肛門附近ニ開口スル腺ヨリ分泌スル液體ノ臭氣ナリ。(日本百科大辭典、いたち) 倭訓栞、いたち「鼬の最後屁ト云フ諺ハ、本草ニ、畏レ狗逐レ之、急便撤レ屁數十、滿室惡臭不レ可レ嚮ト見エタリ、刊本、此語ヲ闕キタリ」

いたちのひばしら (名) 鼬火柱 鼬ノ群ガル處ニハ、焰氣立ツコト、火ノ如シト云ヒ、火ニ祟ルトモ云フ、怪シキ言傳ヘナリ。 本朝食鑑(元祿)十一、鼬鼠「村市、夜闇空中有二焰氣一、高升如レ立レ柱、呼稱二火柱一、其消盡處、必有二火災一、此言二群鼬作一レ妖也」倭訓栞、いたち「鼬ノ幾ツモ累リテ、氣ヲ吹クガ、自ラ火ト見ユルヲ、俗ニ鼬の火柱ト云ヘリ」嬉遊笑覽、十二、上、禽獸、鼬「いたち、火ニ祟ルト云フコトモ、望一千句(慶長)「いたちバカリゾ、月ニチロメク」小夜深ケバ、心掛ケヨノ、火ノマハリ」

いたちのまかげ (名) 鼬目蔭 〔まかげヲ見ヨ〕鼬ノ、立チテ、前足ヲ目ノ上ニカザシテ、人ヲマモルコト。怪シミ疑ヒテスルコトナリト云フ。 源、四十九、東屋四十七「いたちノ侍ラムヤウナル心地ノシハベレバ、云云、ウシロメタゲニ、ケシキバミタル御まかげコソ、ワヅラハシケレ」同、五十二、手習四十二「いたちトカ云フナルモノガ、サルワザスル、額ニ手ヲ當テテ、怪シ、コレハ誰ゾ」孟津抄「尼公ノ、手習君ヲ見ル體ナリ、鼬の目蔭さすト云フコトナリ」盛衰記、十三、鳥羽殿鼬沙汰事、治承四年五月十二日「鼬ノ、云云、御前(後白河法皇)ニ參リ、踊リ上リ、踊リ上リ、月影ナンドシテ失セニケリ、大ニ淺間シク思召シテ、禽獸鳥類ノ恠ヲナスコト、先蹤多シトイヘドモ、此獸ハ、殊ニ權アルベシト覺エタリ」

いたちのみちきり (名) 鼬路切 〔いたちノ常ニ往來スル路ヲ蹈ミ切レバ、人ノ交リ絕ユト言傳フ、倭訓栞、いたち「鼬の道をきるト云フハ、旅發ナドノ時ニ忌ム諺也、往斷ト云フ義ニ取ルナルベシ」〕常ニ往來セシ人ノ、絕エテ音ヅレズナルコト。音信不通。 東雅(享保)十八、鼠ノ條「古キ諺ニ、いたちの道ヲ斷チスレバ、ソノヨシミ絕ユル事アルナリナド云フ也」

いたちはじかみ (名) 秦椒 〔はじかみハ、即チ、山椒ノ古名、(其條ヲ見ヨ)樹皮ノ暗褐色ナルガ、鼬ノ毛色ニ似レバ云フカ、いたち草(連翹)ト云フモアリ、かはト云フハ、樹皮ヲ、辛皮トテ、食用トスレバ云フナルベシ〕椒ノ一名。即チ、今云フ、山椒ナリ。又、かははじかみ。 字鏡五十一「秦椒、伊太知椒」(秦椒ハ、山椒ナリ) 天治字鏡、七十五「秦椒、伊太知波自加彌、加波(波)自加美」本草和名、上五十七「秦椒、加波波之加美」(本草和名、上五十六ニ山茱萸、以多知波之加美、トアルハ、不審ナリ、又、同書、下二十二蔓椒、以多知波之加美(倭名抄、二十七同字、同訓)トアルモ、然リ) 重修本草綱目啓蒙、二十「蔓椒、和産、詳ナラズ」

いたちはぜ (名) 連翹 〔倭訓栞、後編、いたちはぜ「鼬ハ、臭氣ヲ云ヒ、はぜハ、其實ノはぜる意ニヤ、又、いたちぐさトモ見エタリ」イカガアルベキ、尙、熟考スベシ、連翹ノ文字ハ、其ノ條ヲ見ヨ〕灌木ノ名。れんげう(連翹)ノ古名。いたちぐさ。 字鏡五十九「連翹、伊太知波世」本草和名、上四十二「連翹、以多知波世、一云、以多知久佐」(倭名抄、二十八同ジ)

いたちめよし (句) 鼬眉目佳 〔みめノ條ヲ見ヨ、嬉遊笑覽、十二、上、禽獸、鼬みめよし「惡シキヲ、佳シト云フハ、反語ナリ、見タクナキ惡シキ物故、然云フナルベシ」面白いヲ、面黑いナド云フト同趣ナルカ、又(二)ナルハ、醜面ヲ打返シテ褒メ、吉ヲ求ムル意ナルベシ〕(一)鼬ノ顏ニ云フ語。 醒睡笑(元和)八、秀句ノ處、世話「鼬眉目よし、マイチド覗見ウ」鷹筑波集(寛永)二「顏ヲ洗ヘバ、ナホモみめよき」來イ來イト、呼バレテ出ヅル、水いたち」(みづいたちハ、いたちノ條ヲ見ヨ) 犬子集(寛永)十五、雜、下「簾ヨリ、みめよき顏ヲ、サシダシテ、いたちバカリヤ、住メル古宮」 (二)鼬ノ出デタル時ノ呪文。 倭訓栞、いたち「群ヲ成シテ鳴ケバ、必ズ、吉ト凶トアリ、因テ、祝シテ、鼬みめよしト云フ時ハ、凶、變ジテ吉兆トナルトモ云ヘリ」

いたつ (名) 已達以達 〔已に達せりト云フ意、已講ト云フト同趣、已、以、相通ズ(以上、已上)〕僧ノ階級ノ稱。 語彙、いたつ「佛家、四度化行ノ終ハリタル僧ヲ云フ」 易林節用集(慶長)上、言語「以達」

いたつかはし・シキ・シケレ・シク・シク (形、二) 煩 〔勞くノ未然形ノ、いたつかヲ活用セシム、(歎く、なげかはし。急ぐ、いそがはし)種種ニ勞キテ煩ハシキナリ〕煩ハシ。 欽明紀、三十一年五月「莫煩飾語」(旁訓、イタツカハシク莫飾リ言ヒソ) 白氏文集、十九、和二殷協律琴思一「煩二君五指分明語一、知是琴心佯不レ聞」(古訓、煩、イタツカハシウス) 賦役令、水旱蟲霜田損「不レ滿二五分一者唯注二租帳一、不二勞言上一」名義抄「煩、イタツカハシ、ワヅラハシ」 徒然草、九十三段「存命ノ喜ビ、日日ニ樂マザラムヤ、愚ナル人、此樂ミヲ忘レテ、いたつかはしく外ノ樂ミヲ求メ」

いたつき (名) 平題箭 〔不可解ナリ、倭訓栞、いたつき「板着ノ義ニヤ」(木造ノ的ヲ射突くト云フカ)尙、考フベシ〕鏃ノ一種。尖ノ平ナルモノ、的矢ニ用キ。後世、鏟頭ト云フモノ、是レナルカト云フ。(其條ヲ見ヨ) 倭名抄、十三七「平題

[illegible]、[illegible]、之ヲ[illegible]、[illegible]、今之[illegible]、以上[illegible]、[illegible]二[illegible]キ矢竹アリ、今ハ[illegible]ク、[illegible]ノ[illegible]ニ[illegible]フ」[illegible]、[illegible]「いたつきト云ヘルハ、[illegible]ナリ、[illegible]ニハ、いたつきヲスグル故ナリ」吉記[illegible]抄「平題、長七分」左右兵衛督[illegible]、[illegible]一具[illegible]伊多都伎、一具角[illegible]伊多都伎、[illegible]伊多都伎、云云　倭訓栞「いたつき[illegible]ノ義也、平題箭ノ、いたつきト訓メリ、古今集(序)ニ「二[illegible]ネテ詠メル歌、咲ク花ニ、思ヒツク身ノ、アヂキナサ、身ニいたつきノ、いるモ知ラズテ」

いたづき (名) 【勞】 〔次次條ノ語ノ名詞形、其條ヲ見ヨ、勞力ノ意〕 心身ヲ勞スルコト。氣ヲツカフコト。 大和物語、中、此幼キ者ナム、思ヒワヅラヒニテ侍ル、云云、ソノいたづき、限リナシ」

いたづき (名) 【病】 〔病くノ名詞形、其條ヲ見ヨ〕 ヤマヒ。ワヅラヒ。所勞。病氣。 古今集、序「咲ク花ニ、思ヒツク身ノ、アヂキナサ、身ニいたづきノ、入ルモ知ラズテ」遠鏡「身ニ心勞ナコトノ、デケテ來ルモ知ラズニサ」宇津保物語、吹上、上卅「大將殿ノ宮、若子君、物怪ツキテ、イタク煩フ、云云、此阿闍梨ニツケ奉レバ、カシコクテ、いたづきヤメツ」同、祭使八「殿ノ御いたづき入レズ、子ノ世、孫ノ世、後安クテ、オハシマサム」雅言集覽「いたづき「いたづきのいるトハ、苦勞のかかるニテ、いれずトハ、かけぬ意ナリ」(古今ノ序ト、祭の使トヲ云ヘルナリ) 藻鹽草(宗祇弟子、宗碩)十六「病、イタツキ」

いたづく ク・ケ・カ・キ・ケ (自動、四) 【勞】【煩勞】 傷つくノ義、(秋づく、老づく)傷むノ條ヲ見ヨ、切ニスル意ナリ、倭訓栞、「いたづき「煩勞ノ義ナリ」」 務ム。イソシム。ホネヲル。能クハタラク。 神功紀、征韓、新羅王降「不[illegible]、[illegible]海遠、以後年貢[illegible]男女之調」(猶シトセズ) 蜻蛉日記、上、上卅「カクテ、トカウモノスル事ナド、いたづく人多クテ、皆、[illegible]」

いたづく ク・ケ・カ・キ・ケ (他動、四) 【勞】 〔前條ノ語ノ自動ノ意ヲ、他動ニ用ヰタルナリ、(勞るノ語原ヲ見ヨ)慰勞ノ意〕 深切ニ思ヒヤル。イタハル。 源、十七、繪合五「アハレ、御座セマシカバ、イカニカヒアリテ、思シいたづかマシト、昔ノ御心ザマ、オボシ出ヅルニ」河海抄「いたづかまし、勞、いたはる心ナリ」(いたづくノ未然形ノいたづかニ、ましノ添ヒタルナリ) 同、五十、浮舟「サバカリ、上ノ、思ヒ、いたづき聞エサセタマフモノヲ」孟津抄「母君ノ思シ歎クニトナリ」

いたづく ク・ケ・カ・キ・ケ (自動、四) 【病】 〔前條ノ語ノ轉義、勞きテ病ムナリ、病ヲ、いたづきト云フ、此語ノ名詞形ナリ〕 病ム。イタハル。ワヅラフ。 雄略紀、廿三年八月、天皇遺詔「不レ謂、遘ニ疾彌留、至レ於ニ大漸一云云、筋力精神、一時勞竭、如レ此之事、本非レ爲レ身、止欲レ安ニ養百姓一」(身ノ字、集解ノ補ヘルニ據ル)

いたつけくぎ (名) 【板附釘】 五寸釘ノ條ヲ見ヨ。

いたつけざうり (名) 【板附草履】 古クハ、イタコンガウ。草履ノ裏ニ、其形ニ傚ヒタル厚キ板ヲ附ケタルモノ。又、ざうりげたト云ヒ、鼻緒ニ、眞田紐ヲ用ヰタリ、今ハ、スタレタルガ如シ。 語彙、いたつけざうり「草履ノ裏ニ板ヲ着ケタルニテ、泥土ノ道ヲ行クニ用ヰルモノナリ」

いたって (副) 【至】 〔至りてノ急呼、(切手、きって。取置、とっとき)著聞集、二、釋教「慈悲、いたりて深キ故、云云」〕 キハメテ。至極ニ。「至ッテヨロシイ」

いたづら (名) 【惡戲】 〔徒事ノ略、(いたづらノ條ヲ見ヨ)無益、無用ノ意ヨリ、見セ[illegible]ニ[illegible]リ〕 (一)[illegible]キタハムレ。ワルイタヅラ。ワルサ。 狂言記、布施無經「子供衆ガ多ウゴザルニ因テ、いたづらニ[illegible]ナセラレヌ事モコザアウ[illegible]」 (二)ヨコシマナル意ヨリ轉ジテ、女ノ、みだらナルコト。 私奔 [illegible] 近松作)「アリャ繪ニカイテアル唐ノ后、いたづらシテ流サレタモノ」 語彙、いたづら「私奔ヲ云フ」

いたづらいね (名) 【徒稻】 實ラヌ稻。 後撰集、十六、雜、四「秋ノ田ノ、刈リ穗ノ[illegible]モ、(假初[illegible])シテケルガ、いたづらいねノ、何ニツママシ」 六帖、五、下、稗「我ガツメル、いたづらいねノ、數ナラバ、あふはかりナク、何ニカケマシ」(一、首、共ニ、徒稻、即チ、いたづらね、いたづらぶしニカケタリ)

いたづらこ (名) 【惡戲童】 惡戲スル兒童。惡太郎。 語彙、いたづらこ「徒事ヲナスル小兒ヲ云フ」

いたづらごと (名) 【徒言】 無用ノ言。アダコト。 散木集、十、雜、下、長歌「なるをノ松ノ、ツレヅレト、いたづらごとヲ、書キ集メテ」 拾遺愚草、員外(定家)雜歌、上、老ノ後ノ、いたづらごとヲ書キツケテ」

いたづらじに (名) 【徒死】 無益ニ死ヌルコト。犬死。 今昔物語、廿七、四十四語「食ハレナバ、何カハ死ヌマジキ、いたづらじにセヨカシ」

いたづらに (副) 【徒】 〔いたづらハ、痛空ノ約ナルカ、(うつらうつら、つらつら)最空ノ轉トモ解セラル(いたはし、いとほし。はらぐ、ほろろぐ)〕 (一)物無クシテ廣キニ云フ語。空シキ意ナリ。 空閑 孝德紀、大化元年八月「於ニ閑曠之所一起ニ造兵庫一、[illegible]國郡刀[illegible]弓矢」 更級日記「[illegible]人工ノいたづらなる[illegible]ドモニ、異物モ無ク、松原ノ[illegible]レル中ヨリ、浪ノ寄セカヘル」 (二)空シク。無益ニ。

無用ニ。ムダニ。 [illegible] 豆良爾、過シヤリツレ」 六帖、四「何ヲシテ、身ノいたづらニ、老イヌラム、年ノ思ハム、事ゾ恥シキ」 いたづらなる、又、いたづらになすト云フ語ハ、命空シクナル、又、命ヲ空シクス、即チ、死ぬる意ニ云フ事アリ。 伊勢物語、[illegible]「[illegible]我ガ身ハ今ゾ、消エハテヌメル」ト書キテ、ソコニいたづらになりニケリ」 [illegible]、五十、[illegible]テ、陷チ入リ侍リニケル、スベテ、いたづらなる人多カル事ニ侍リ、[illegible]一、[illegible]、一「夏蟲ノ、身ヲいたづらニ、なす事モ、ヒトツおもひニ、因リテナリケリ」(ひヲ、燈火ニカク)

いたづらね (名) 【徒寢】 〔前條、[illegible]ニ、いたづらいねヲ參見セヨ〕 空シク獨リ寐ルコト。いたづら臥。アダネ。アダブシ。 孤衾 中務集「人待ツト、[illegible]、夜[illegible]ハ、いたづらねニモ、ナリヌベキカナ」 兼盛集、女ノ許ニマカリテ、いたづらニ[illegible]コトノ、[illegible]きツツ歸ル、夜夜ハ、いたづらねニモ、ナリニケルカナ」 源、二、帚木二十「君ハ、トケテモ寐ラレタマハズ、いたづらぶしトオボサルルニ、御目覺メテ」 湖月抄「[illegible]ナキ獨寢ナルコト」

いたづらびと (名) 【徒人】 〔前前條ヲ見ヨ〕 (一)不用ナル人。用ヲナサヌ人。又、いたづら者。 宇津保物語、俊蔭三十「御供ニツカフマツリタルヲシ、人人ハ、皆、ハナツキ[illegible]レヌ、忠政等モ、いたづら人ニナリヌベクテナム」 萬代集、十九、雜、六「引ク[illegible]モ、ナクノヤミヌル、[illegible]ノ、(序)いたづらものハ、我ガ身ナリケリ」 うたたねの記(阿佛尼)「ツユバカリ起キモアガラズ、いたづらものニテ臥シタリシヲ」 (二)零落レテ、身ノ徒ニナルモノ。 [illegible]、二十[illegible]カル人ヲ[illegible]シタマフトハ、ホノ聞キナガラ、いたづら人ヲバ、ユユシキ[illegible]コソ思ヒテ、[illegible]タマフノメ、ト[illegible]シツ

ルヲ」細流抄「罪ニアタリタル身ニテ侍レバ、ト卑下シテ富フナリ」孟津抄「我ガ身ノ如キ流人ヲバ、ト源氏ノ卑下ノ詞也」(ゆゆしきハ、イマイマシキ也)

いたづらぶし (名)【徒臥】前前條ヲ見ヨ。

いたづらもの (名)【徒者】前前條ノ(一)ヲ見ヨ。

いたづらもの (名)【悪戯者】(一)所行ノ、極メテ悪キ者。ナラズモノ。【悪漢 無頼漢】狂言記、子盗人「イツモノいたづら者ドモ寄合ヒテ、勝負ヲ致シタレバ」(博奕ナルベシ) 倭訓栞、いたづら「いたづらものハ、西土ニ云フ光棍ナリト云ヘリ」語彙、いたづらもの「粗暴、驕恣ニシテ、制スルヲ聞カヌモノナリ」寒川入道筆記、織田信長、洛中ニテ大石ヲ引ク「数日御手間入リケレバ、いたづらもの「花ヨリモ、團子ノ京ト、ナリニケリ、今日モいしいし、明日モいしいし」(女詞ニ、團子ヲいしいしト云フ、其條ヲ見ヨ、コノいたづらものハ、落首シテ、悪キ戯レヲスルモノト云ヘルナリ) (二)淫奔ナル女ノ渾名。語彙、いたづらもの「淫奔ナル女ヲ云フ」天神記(正徳、近松作)一「コレ、いたづら者、云云、子ガイヤナラバ、男ニ逢フ時カラ、其差引シタガヨイハイノ」(三)鼠ノ呼名。(アバレモノノ意)江戸時代、馬喰町ノ吉田屋製ノ鼠取藥ヲ、市中ニ行賣スル者、藥名ヲ記シタル幟ヲ立テテ「いたづらものハ、居ナイカナ」ト呼バヒアルケリ。(ねずみとりぐすりノ條ヲ見ヨ) 天保ノ川柳「馬喰町、いたづらものノ、元祖ナリ」

いたづらわざ (名)【徒事】いたづら(悪戯)ノ條ヲ見ヨ。

いたで (名)【痛手】鬪ニ、痛キ手ヲ負ヒタルコト。深手。重手。【重傷】古事記、中(神武)三「向_レ日而戰不_レ良、故、負_二賤奴之痛手_一」神功紀、攝政元年三月、長歌「頭槌ノ、伊多手負ハズバ」

いたど (名)【板戸】板張リノ戸。古事記、上二長歌「少女ノ、鳴スヤ伊多斗ヲ、オソブラヒ」萬葉集、十一「奥山ノ、眞木ノ板戸ヲ、押開キ、シヱヤ出デコネ、後ハイカニセム」

いたどこ (名)【板床】床間ヲ、板敷ニシタルモノ。(薄縁ヲ敷カズ)

いたどこ (名)【板床】疊ノ床ニ、板ヲ用キタルモノ。(藁ニセズ)

いたどり (名)【虎杖】〔倭訓栞、後編、いたどり、虎杖「疼取ノ義也、本草ニ、血痛、墜撲ナドニ用フ」支那醫術ノ本草學傳ハリシヨリ、古名ノたぢひハ廢レテ、藥效ニ因リテ、新名ヲツケタルナルベシ、植物ノ語原ノ解スベカラザルハ、效力ニ起レルモノ多カルベク、研究スベキナリ、(あやめたむノ語原、參見スベシ)〕虎杖ト云フ漢語ハ、嚴シキ杖ノ意カ、出典ノ枕草子ヲ見ヨ〕古名、タヂヒ。宿根草、山野ニ多シ。春生ズ、新芽ハ、形、うどニ似テ、綠色、微紅ニシテ、斑點アリ、生食ハ酸シ、煮テ食フベシ、莖ノ高サ一丈ニ至ルモノアリ、圍ミ二三寸アリ、中、空シクシテ節アルコト、竹ノ如ク、老イタルハ杖トスベシ、葉ハ互生シ、圓ク長クシテ、大イナルハ六七寸、一尖アリ、夏、葉ノ間ニ、小花、穗ヲナシテ集リ開ク、紅ト白トノ二種アリ、實ハ三角ニテ、薄キ翅ノ如キモノアリ。反正即位前紀「多遲花、落在_二于井中_一、云云、今虎杖花也」字鏡十六「虎杖根、伊太登利」倭名抄、二十十二「虎杖、伊太止里」枕草子、八、七十七段「いたどりハ、マシテ、とらのつゑト書キタルトカ、杖ナクトモアリヌベキ顔ツキヲ」爾雅「虎杖」註「似_二紅草_一而麤大、有_二細刺_一可_二以染_一_レ赤」

いたのま (名)【板間】〔間ハ、室ナリ〕(一)家ノ内ニ、床ヲ板敷ニシタル所。(板敷ノ(二)ヲ見ヨ)多クハ、臺所ナドニ云フ、床下ニ薪炭ナドヲ置キ、上板ヲ設ケテ開閉ス。(二)特ニ浴場ニテ、垢搔スルニ設ケタル板敷。備前老人物語「渡邊水庵ハ、云云、風爐屋ヲ焚ク時ハ、男二人、板の間ニ置テ、垢カキ二三人置テ、用事トトノヘ、云云」東京ノ錢湯ニテハ、垢搔ノ板間ノ外ニ、一段高ク板間ヲ設ケ、浴客ノ脱衣場トス。ココニテ、衣服等ヲ盗去ル者アリ、コレヲいたのまかせぎナドト云フ。

いたのまかせぎ (名)【板間稼】前條ノ(二)ヲ見ヨ。

いたのもの (名)【板物】〔貞丈雜記、三、小袖ノ條ニ「織物ヲ卷キタルヲ、卷物ト云ヒ、心ニ薄板ヲ入レ、平タクタタミタルヲ、板の物ト云フ也、純子モ、昔ハタタミタルニ、後ニハ卷物トナル、專ラ板の物ト云フハ、唐織ノコトニテ、蜷川記(室町時代)ニ、あつ板、うす板、ト云フ事アリ、唐織ノ厚キト薄キトヲ云フ也」(節文)〕絹織物ノ稱。織方ノ厚キヲ、厚板ト云ヒ、薄キヲ、薄板ト云フ、又略シテ、板トモ云フ。琥珀織、綾、紗綾、緞子、繻子、羅紗、ナド、是レナリ。昔ハ、唐織、舶來物ナリキ、後ニハ、本邦ニテモ織レリ。太閤記、二、秀吉蔵身御禮「妻子ノ衣類、一万石所持ノ侍ハ、京染等ノ小袖、五千石ヨリ下ハ、薄板、五百石ヨリ下ハ、紬」語彙、いたのもの「纁中備忘抄ニ、後水尾院ノ御代ナドハ、羽二重ヲ板のものト稱シタルニ、當時ハ、繻子、綾、紗綾ナドヲ、板のものト云フナリ」毛吹草(寛永)三、山城「厚板物」註「綾綸嶋、紋嶋等」羅板物」

いたば (名)【板場】いたまへ(板前)ノ條ヲ見ヨ。

いたばさみ (名)【板挾】〔板ト板トニテ挾まる〕雙方ヨリ責メラレテ、進退ニ窮スルコト。

いたは・し・シキ・シケレ・シク・シク (形、二)【勞】〔勞るノ語根ヲ活用セシム、其條ヲ見ヨ(目霧る、まぎらはし。厭ふ、いとはし)〕(一)勞ル狀ナリ。勤シ。イタツカハシキサマナリ。景行紀、四十年七月「東夷叛之、何日建_二于大平_一矣、臣雖_レ勞之、頓平_二其亂_一」(日本武尊、雄誥ノ語) 績紀、三、慶雲四年四月、詔「朕乎助奉仕奉事乃、重支勞支事乎、所念坐御意坐爾依而」(二)思ヒ苦シ。不便ナリ。可憐ナリ。イトホシ。【傷心】枕草子、十、百三十二段、たのもしきもの「ゲスナドノホドモ、親ナドノカナシウスル子ハ、目立テ見タテラレテ、いたはしうコソオボユレ」狹衣、一、下三十「ウキ身トノミ思ヒイラレツルヲ、スコシいたはしうナルモ、アハレナリ」(三)大事ニ思ヒテ、心置カル。心配ニ思フ。源、四十四、橋姫四「いたはしくヤンゴトナキ筋ハ、マサリテ」宇津保物語、樓上、下四十五「カノ内侍ノカミヲ、父母ノカナシガル人ニテ、限リナクいたはしう、又ナキ物ニ思フ」

いたは・し・シキ・シケレ・シク・シク (形、二)【病惱】〔前條ノ語ノ轉意、病むハ、勞るナリ〕病ミテ、惱シ。ヤマシ。萬葉集、五廿八長歌「己ガ身シ、伊多波斯ケレバ、云云、打チ臥イ伏シテ、思ヒツツ、歎キ伏セラク、云云」狹衣、一、下四十「我ガ身、スコシいたはしう成リニタルヲ、コノ頼モシ人ヤ、イカガモテナシ果テムトスラム」

いたばし (名)【板橋】〔石橋モ、土橋モアリ〕板ニテ作レル橋。堀河百首、雜、橋「打チワタス、槙ノ板橋、朽チニケリ、稀ニモ人ノ、來バイカニセム」倭訓栞、いたばし「唐詩ニ、人跡板橋霜ト見エタリ」

いたはじかみ (名)〔いたハ、痛ニテ、刺アルニ云フカ、朝倉山椒ニ刺ナシ〕秦椒

ノ古名。(にじかみノ條、見合スベシ)

いたばめ (名) 板羽目 板張ノ羽目。シタミ。

いたはり (名) 功 [勞る(自動)ノ名詞形、其條ヲ見ヨ] 功。功名。テガラ。ホネヲリ。[illegible] 經ニ濟天下一之大功ム也、今按、大造、謂略ニ六凡ハ績、[illegible] 之中ハ而求ト可ヒ立ニ功名一者主ハ便附ニ心於ニ中大兄ニ [illegible] 持統紀、四年十月、大伴部博麻、愛國賣ヒ己、顯ニ務大 [illegible]

いたはり (名) 勞 [勞る(他動)ノ名詞形、其條ヲ見ヨ] (一)懇ニアツカフコト。大切ニスルコト。[illegible] ノいたはりモナク [illegible] モ」同、二十三、初音、此ノいたはりナキ白妙ノ衣ハ、七重ニモ、ナドカ重ネ給ハザラン」(二)憐ムコト。メグムコト。イタハシクスルコト。愛撫 宇津保物語、[illegible] 中ノオトドニ住ミ給フ、御門、殿ノ御いたはりニテ、ユタカニ養タマフ」

いたはり (名) 病 [病る(自動)ノ名詞形、其條ヲ見ヨ] 病氣。疾病。ヤマヒ。宇津保物語、吹上、上、三十「コノ阿闍梨ニツケ奉レバ、カシコクテ、いたはりヤメツ」

いたばり (名) 板張 板ニテ張リ造レルコト。[illegible] 板羽目ナド、コンナリ。

いたは・る・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) 勞 [傷ムノ一轉ナルカ、(痛む、ゆまはる。生む、[illegible]) [illegible] 傷ムナリ、(其條ヲ見ヨ) [illegible]] イタヅク。勞ム。ホネヲル。[illegible] 年十二月、預藤原鎌足、入臣ノ勞ヲ述ル [illegible] 後、勿使ニ勞ト人一(ほねをそらシムルナリ、をヲ [illegible]) [illegible] 語、俊蔭、十七「此殿ニ、相撲ノかへりあるニアルベケレバ、大殿、北ノ方ニキコエタマフ、云云、饗ノ事ナド、いたはりシタマヘ」

いたは・る・ル・レ・ラ・リ・レ(他動、四) 勞 [前條ノ語意ニ同ジ、但シ、他動詞トナル、同活用ニシテ、自動トモ、他動トモナルモノ、往往アリ、いたづく、ひらくノ如シ、務メテ懇ニ扱フ意トナル、倭訓栞、いたはる「人ノ勞ヲ勞トシテねぎらふ [illegible]] (一)ネギラフ。[illegible] アツカフ。[illegible] イタヅク。(二)イタハシク [illegible] イトホシム。憐ム。愛撫 伊勢物語、六十九 [illegible] 宮ナリケル人ノ親、常ノ使ヨリハ、此人ヨクいたはれト言ヒヤリケリ、親ノ云フ事ナリケレバ、イトネモゴロニいたはりケリ」(此末句ヲ、諸書ニ「いたつ [illegible] 用シタリト思ハル、前ニ、いたはれトアレバ、末モいたはりナラズハアルベカラズ) 源、五十二、手習六十「冠シタルハ、藏人ニナシ、いたはりタマフ」(前文) 落窪物語、一、三 宮ニ、云云、藏人少将ニ合ハセタマヒテ、いたはりタマフ事、限リナシ」(結婚セシメシナリ)

いたは・る・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) 病 [前條ノ語ノ轉義、其條ヲ見ヨ、勞シクナル意アリ] 病ム。イタツク。[illegible]「日頃、いたはる事侍リテ、[illegible]」[illegible]「イザ、カカル [illegible]」[illegible] いたはらムト宜ヒテ」(コレハ、疾病ノ意カ) [illegible]「いたはる事アリテ、ミマキラヌヲ」

いたび (名) 木蓮子 [illegible] 殿ノ山ニ自生ス、[illegible] 如ク、木石ニ纏ヒツク、葉ハ、互生シ、長橢圓形ニシテ、[illegible] ニシテ、冬凋マズ、夏、花アレドモ見エズ、葉ノ間ニ實ヲ結ブ、[illegible] 熟スレバ黒クシテ、味甘シ、[illegible] (享和)十五「木蓮、イタビ、イタビカヅラ、キマンヂウ」

いたび (名) 板碑 板形ノ石塔婆、中央ニ佛像、又ハ、佛名ヲ刻シ、下部ニ花瓶、年號、姓名ヲ刻スルヲ常トス、追善、又ハ、逆修ノ爲ニ建ツ。

いたひき (名) 板挽 材ヲ、板ニ挽キ割ルノミヲ業トスル工人。

いたひき (名) 板引 漆塗ノ板ノ上ニ、糊ヲツケタル絹ヲ貼リツケ、燥カシテ、引離シタルモノ。[illegible] ム。紅絹、白絹アリ [illegible] 延寶三年、御うちぎぬ「御表、いたひき、小袴也」(古事類苑)

いたびさし (名) 板庇 庇ヲ、板ヲ並ベテ作レルモノ。[illegible] ノ關屋ノ板庇ノ [illegible] 板びさし、[illegible] ラザリケリ「[illegible] キ、不破ノ關屋ハ、此程ノ、時雨モリモ [illegible] 不破ノ關屋ハ、昔ダニ荒レニケレバ、法ノヤウナル板びさし、竹ノ編戸バカリゾ殘リケル、ゲニ秋風モタマルマジウ見エタリ」昔ダニ、荒レニシ、ふはの關ナレバ、今ハサナガラ、名ノミナリケリ」[illegible] びさし、疾ク住ミアラセ、不破ノ關守」(足利義教ノ詠ナリ、古事類苑)

いた・ぶ・ブ・ブル・ブレ・ビ・ビヨ(自動、上二) [illegible]

いたぶき (名) 板葺 [illegible] (一)屋根ノ、板ニテ葺キタルモノ。又、[illegible] 檜皮葺、又ハ、厚ク長キ板ニテ葺ケルナリ。[illegible] 寸」大神宮儀式帳、正殿一字「以ニ板葺一」[illegible] 月「板屋司、拔枝、一准ニ板葺一」[illegible] 時ニ、法皇ヲ、三間ノ板屋ニ遷ス、人呼テ、宮御所ト云フ」(二)小サキ家ノ、板ヲ以テ葺キ [illegible] 屋根ハ、山近シ、飛鳥取リテ、持チ來ル [illegible] 屋根葺カム料ノ黒木ナラムト云フ」[illegible] ぶきナリシナドハ、竹ノミワヅカニ殘リテ、立チドマル下衆ダニナシ」枕草子、六、六十段、わびしげに [illegible] (三) [illegible] 小羽板葺 [illegible]

杮葺ヲ云フ。

いた-ぶね（名）|板舟| 田舟ヲ、板作リナルニ就キテ云フ語。夫木抄、七、早苗「今日モマタ、田子ノ板舟、差浮ケテ、沼江ヲ深ミ、取ル早苗カナ」

いた-ぶんこ（名）|板文庫|〔書籍ヲ藏ムルニ因リテ、文庫ト名ヅケタルカ〕二枚ノ板ニテ、寫本、草稿ナドヲ挾ミ、紐ニテ括リオクモノ。柳亭隨筆（文政、栗原信充）一、「板文庫、勸解由小路家記「韶光卿ノ御好トカヤ、長八寸七分、幅七寸、厚四分、極上島桐、ハシバミ入、四万眞黑塗、金高蒔繪、菊唐草」（享保十四年逝、年六十七）安齋隨筆、十二「近世、堂上玩器ニ、板文庫ト云フ物アリ、コレモ草子挾ノ如シ、是レ織物ニテ板ヲハリテ、下ノ板ニ、二所ヅツ、緒ヲ通スヤウニシテ、上ノ板ノ面ニテ結ブナリ、緒ハ、紫村濃ノ平組ナリ」

✤**いたぶ・る・ル・レ・ラ・リ・レ**（他動、四）|强請|〔ゆたぶる（搖）ノ轉、ゆする、いする。ゆすぐ、いすぐ（濯）〕他ニ迫リテ、金錢ナド、セビリ取ル。（江戸俗言）浮世風呂（文化、三馬）三編、上「伯父ゴデモいたぶらネエキャア、出所ハネエハナ」

いた-ぶろ（名）|板風呂|〔蒸風呂ナドニ對シテ云ヘル語ナルベシ〕浴槽ニ沸カシタル湯ナラム。今物語（文治、承久）「僧アリ、或所ニ、いたぶろト云フモノヲシテ、人人入リケル、云云、裸ナル法師ノ、隱所モ打出シテ、アナ溫ノ風呂ヤ」

いた-ぶろ（名）|版風爐| 茶事ニ用キル一種ノ風爐。板作リノ方形ノ箱ナリ、大キサ一尺八分四方、高サ八寸四分、内ニ炭火ヲ入レ、上面ノ中央ニ圓穴アリテ・ココニ釜ヲ架ス、庭上ナドニテ用キタリ。和漢茶誌、三、「版風爐、造レ之以二杉六片一、其内塗二四方上下一、上一片穿、兩中設二洪穴一、樣二爾于木一以架レ釜、前面二一口一漏レ煙、宗易於二小田原一造レ之也、或、山林亭齋、或、石指甃瓦之間、皆供二其用一也」（節文、古事類苑、遊戯部、茶湯具、上）

いた-べい（名）|板屏|〔石屏、土屏アリ〕ハタイタ。板ニテ作レル屏。板垣。板牆|語彙、いたべい「家ヲ遮ル爲ニ、板ニテ作レル屏カ垣ナリ」

いた-べう志（名）|板表紙| 折手本、法帖ナドノ表紙ノ、板ニテ作レルモノ。語彙いたべう志「摺帖ノ表ニ貼リタル板ヲ云フ」

いた-ボトケ（名）|板佛|〔扁平ナルコト、板ノ如シ、板碑ナド云フト、同趣〕銅板ノ面ニ、佛ノ像ヲ打出シタルモノ。大和ノ法隆寺ニ、金銅ノ板佛アリ、彌陀、觀音、勢至ノ三尊ナリ、支那、唐時代ノ製ナリト云フ、其外、木版ニ刻リタルアリ、諸所ノ寺寺ニ存ス、何レモ、往古、追善、供養ノ爲ニ、佛堂内ノ壁ニ懸佛トシタルモノナルベシト云フ。（佛敎大辭彙）

いた-ま（名）|板間| 板葺ノ屋根ニ生ジタル隙。萬葉集、十一 卅七「十寸板持チ、葺ケル板目ノ、（如ク）合ハザラバ、如何ニセムトカ、吾ガ寐初メケム」（板ノ隙目ナリト云フ、そぎたハ、殺板ナリ）詞花集、九、雜、上「板間ヨリ、月ノ漏ルヲモ、見ツルカナ、宿ハ荒ラシテ、住ムベカリケリ」新六帖、一「荒屋ノ、いたまツヅキノ、長キ夜ニ、ウタタ目覺マス、月ノ影カナ」

いた-ま（名）|板間|〔板敷ナル室ノ義〕いたぢきノ（二）ニ同ジ。板間。

いたま・し・シキ・シケレ・シク・シク（形、二）|傷|〔傷むノ未然形ナル、いたまヲ活用セシム、（羨む、うらやまし）仙臺ニテ、捨テルノハ惜しいナド云フ時、いたましいト云フ〕イタハシ。イタイタシ。アハレナリ。|慘然| 十訓抄、下、第十、七十四條「主人ノ下知ニ因リテ、爲出デタル事ユヱ、忽ニ命ヲ失フコト、セチニいたましくオボエケレバ」徒然草、第一段「聲ヲカシク拍子取リ、いたましうスルモノカラ、下戸ナラヌコソ男ハヨケレ」（コレハ、酒飲ムコトヲつらしトスル意ニ聞ユ）

いた-まへ（名）|板前|〔魚板前ノ上略、（鱧ノミニ云フハ、又、板前ノ下略、（重箱、ぢゅう。田子桶、たご）板元、板紙ノ條ヲ見ヨ〕小切、ぶんぎり。とおろてん、てん）板ト江戸ニテ、料理屋ナドノ料理人ノ異名。略シテ、板。京阪ニテ、板場。寛政ノ川柳「稽古場ノ、ヤウニ板前、懸ケテオキ」（劍術ノ道場ニ寄セテ、大出刃庖丁、刺身庖丁ナドヲ懸ケツラネタル狀カ）文化ノ川柳「氣ノ利イタ板、鯥ノ子ノ、洗ヒヤウ」（老中板倉内膳正ト、伊達氏ノ幼主龜千代丸トニテ、伊達氏寛文内訌ノ裁判ニ寄セタル句ナリ、類句、文政ノ川柳「井ニ板ガ、ナイトアブナイ、雀ノ子」（井ハ、大老酒井雅樂頭）以上ノ川柳二句ハ、西原柳雨ノ說）

いたみ（名）|痛|〔痛むノ名詞形〕痛ク感ズルコト。舊事紀、天神本紀「若有二痛處一者云云」「疵ノいたみ」胸ノいたみ」

いたみ（名）|傷|〔傷むノ名詞形〕毀レ。損ジ。損失。毀損「器ノいたみ」會計ノいたみ」

いたみ-ざけ（名）|伊丹酒| 攝津國、伊丹町ヨリ製出スル清酒。銘酒トシテ世ニ著ハル、慶長年中ヨリ、馬背ニテ、始メテ江戸ニ送ル、四斗樽（釀造元ニヨリ多少ノ差違アリ）二箇ヲ一駄ト呼ブ、元祿年中ヨリ、親船ノ海運トナリ、明治以後ハ汽車、汽船トナル、樽入、及、硝子瓶詰ノ二種アリ、近地、池田ノ釀造モ、著名ナリ。（淸酒、及、灘酒ノ條ヲ併セ見ルベシ）攝津名所圖會（寛政）六、河邊郡、伊丹「名產伊丹酒、酒匠ノ家六十餘戶、皆、美酒數千斛ヲ造リテ、諸國ヘ運送ス、云云、家家ノ銘ヲ、斗樽ノ外巻ニ印シ、云云、渡海ノ船ニ積ミテ、多クハ關東ヘ運ハス」（今ハ、大ニ變動アリ）

いたみ-ふう（名）|伊丹風|〔伊勢風、談林風、蕉風、ナドニ對ス〕十七字俳諧ノ一派。攝津國、近衛殿ノ領地、伊丹町、造酒ノ豪家、鬼貫ノ始メタルモノ。本名ハ平泉與三兵衛、鬼貫ハ俳號ナリ、初メ談林風ニ入リシガ、其蕪雜、奇ヲ衒フヲ排シ、幽奥、自然ノ風ヲ立テタリ、（元文三年歿、七十八）其流ヲ汲ミ、伊丹風ヲ繼グ者アリシガ、優レタル者ナク、衰微セリ。隨齋諧話ノ坤ニ、鬼貫、或時、京ノ近衛殿ヘ參リシ時、小野小町ノ像ノ掛繪ヲ見テ、其上ニ「アチラムケ、後モユカシ、花ノ色」ト賛シタリト見ユ。（古事類苑）

いたみ-わけ（名）|傷分| 相撲ニ、負傷シタルニ因ル引分。

〔**いた・む・ム・メ・マ・ミ・メ**（自動、四）|痛|〔至る（强る、つよむ）切ノ語根ヲ活用セシム、（强る、つよむ）切ニ肉身ニ感ズルナリ、痛しノ語原ヲ併セ見ヨ〕身、外ヨリ侵サレ、又ハ、病ムトコロアリナドシテ、其局所、切ニ惱ム。古事記、上 三十「裸菟伏也、云云、其身皮、悉風見ニ吹拆、故痛苦泣伏者」神武紀、四「五瀨命、矢瘡痛甚」

いた・む・ム・メ・マ・ミ・メ（自動、四）|傷|〔前條ノ轉意、心、切ニ思ヒ惱ムナリ、傷しノ語原ヲ併セ見ヨ、爾雅、釋訓「傷、憂思也」〕（一）〔切ニ悲シク感ズ。深ク歎ク。心痛ス。字鏡 八十「悲傷、伊太牟」天治字鏡、十「愴悒而憂、伊太無奈介久」神代紀、上 三一「脚摩乳ガ、其女ヲ八岐大蛇ニ食ハレムトスル恐亦見」否、是以哀傷」謂

[illegible]夜モ、寝リ居テ、歎キ廻フラム、ココ思ヘバ、胸コソ[illegible]、[illegible]死ナドアル、[illegible]ヲ受ケツモ、自動[illegible]ナリ。（門を過グ、境を越ユ）（二）毀ル。ソコナハル。損ズ。敗傷。[illegible]、たむ [illegible]代ガいたむ」書經、說命、上篇「若跣[illegible]弗レ視レ地、厥足用傷」[illegible]（三）俗ニ、腐ル。（魚類ナドニ云フ）腐敗

いた・む・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ（他動、下二）［傷］〔前條ノ語ノ他動、（撓む、たわむる）正字通「傷、損也」〕ソコナフ。コハス。イタメル。夫木抄、十五、[illegible]「露ムスフ、秋ノ末ニモ、ナリヌレバ、裾野ノ草モ、風いたむナリ」（此なりハ、[illegible]ノモノト[illegible]ム、[illegible]ガイタメル ナリ、古今集、四、秋、上「秋風ニ、初雁音ゾ、聞ユなる」秋ノ野ニ、人まつ蟲ノ、聲ぞなり」）「足ヲいためテ」胸ヲいためテ」

いたん（名）［異端］我ガ守ル道ト異ニシテ、別ニ一端ヲナス道。儒教ヨリシテハ、老子、莊子、楊子、墨子等ノ學ヲ云フ。佛教ニテハ、外道。論語、爲政篇「子曰、攻乎異端、斯害也已」集註「異端、非聖人之道、而別爲一端、如楊墨是也、其率天下至於無父無君」合類節用集、八、言辭門、異端、性理字訓「[illegible]、[illegible]、[illegible]正道、是曰異端」

いため（名）［板目］板ノ木理ノ、直ク揃ハヌモノ。〔正目ニ對ス〕世俗[illegible]抄（[illegible]笠内大臣[illegible]良、[illegible]以[illegible]板目、[illegible]代用[illegible]也、[illegible]板目也」

いため・がは（名）撓革〔いためるヲ見ヨ〕牛皮ヲ、鐵槌ニテ打チカタメテ、薄クシタルモノ。又、煉革。[illegible]財寶部「撓[illegible]皮」[illegible]、十四[illegible]、いた[illegible]トモ云フ、[illegible]ガ[illegible]ニ、[illegible]ジトラナシテ、サマシ、ソレニ牛皮ヲ浸シ、心マテ衣ノ透リタ

[illegible]ムルノ意ニ、いため紙アリ、撓槌ニテ打チカタムル二、いため革アリ、各條ヲ見ヨ。（二）[illegible]、[illegible]二石灰ヲマブシ、摺リツケテ、日ニ乾スナリ、コレヲ[illegible]、[illegible]作ル、[illegible]厚ク スルニハ、二枚、三枚、重ネテ打ツ、云云」（[illegible]）

いため・がみ（名）［板目紙］〔撓紙ナリ、いためるノ語原ヲ見ヨ〕紙ヲ、數枚、糊ニテ貼リカサネテ壓搾シ、乾カシテ堅ク厚ク作レルモノ。商店ノ帳簿ノ表紙、其他、種種ノ用ニ供セラレタリ、今モ、呉服店ノ段物ノ包紙ニ用ヰル。又、ブツガミ。イタガミ。合楮 俚言集覽、いためがみ[illegible]トナク、糊ニテ貼リ重ネタル紙ナリ」

いため・ぎんみ（名）［痛吟味］德川幕府評定所ノ語。がうもん（拷問）ノ條ヲ見ヨ。

いため・ぢほ（名）［撓鹽］〔次次條ヲ見ヨ、固クシタル意〕燒鹽ニ、堅鹽ノ名アリ」燒鹽ノ古言。枕草子（[illegible]類從、異本）文字に書きて、あるやうあらめど、心得ぬ物の名「いためぢほ、[illegible]、[illegible]子、[illegible]子、[illegible]、云云」[illegible]、室町時代、[illegible]めぢほ、トロロ、ナド、盛リ具シテマイラス」（燒鹽ヲ[illegible]リテ、[illegible]ノ[illegible]二添ヘタルナルベシ）俚言集覽、いためぢほ「燒鹽ノ類ナリ」

いため・つ・ける（動）次條ノ（二）ヲ見ヨ。

いた・める・メル・メレ・メ・メ・メヨ（他動、下二）［撓］〔他動下二段活用ノ傷むノ、口語ニ轉ジタルカ、壓固ムル意、明應年中ニ成レル林逸節用集ノ財寶部ニ、撓皮トアレバ、姑ク此字ヲ記セリ、撓めるノ意ニテモアルカ、然シテ、いためぢほト云フハ、古語ナレバ、下二段ナルベシト思ハルレド、いたむる、いたむれとモ見エザレバ、先ヅ此ニ入レタリ〕（一）固ムルノ意ニ、[illegible]、打チ固ムル二、いため紙アリ、撓槌ニテ打チカタムルニ、いため革アリ、各條ヲ見ヨ。（二）責ク苦シムル。[illegible]、[illegible]、老武者「此年寄ッタ者ヲ、シタタカニいためヲッテ、[illegible]ニナルマイゾ」（大日本國語辭典）俗ニ、酷シク咎ムルヲ、いためつけるト云フ。語彙、いためつける[illegible]、其人ノ[illegible]ルヲ云フ」

いた・める・メル・メレ・メ・メ・メヨ（他動、下二）［[illegible]］前條ノ語ノ移レルカ、油ニテ煮固ムル意ナルベシ（一）胡麻油、菜種油ニテ、蔬菜、魚肉ナドヲ煎リツケ、[illegible]、いためる「[illegible]以ニ、[illegible]、ヲモノ、コハ、ヤハ[illegible]」肉ノ[illegible]キヲ殺グヲ云フ、[illegible]ノ[illegible]ナリ、[illegible]、[illegible]濡也」「[illegible]切ノ牛蒡ヲいためる」鱓ヲいためる」

いた・もと（名）［板元］〔俎役ノ元締ノ義ニモアルベキカ、賄頭ナドノ意ナルベシ、或ハ、板前ト云フト、同意ナルカ〕禁裏ノ御料理人 光[illegible]、[illegible]、板元十人衆、其例、役等之下役、少少[illegible]、[illegible]、[illegible]料理人、[illegible] 天保三十、[illegible]上[illegible]、[illegible]味役、早川内膳」

いた・や（名）板屋（一）〔板葺ノ家〕〔板葺ノ條ヲ見ヨ〕[illegible]、[illegible]（[illegible]）下（[illegible]ノ家ニハ不レ造、[illegible]皆板屋作リナリ」[illegible]、[illegible]、[illegible]板屋ノ造リ、精粗サマザマアリ、檜ノ板屋、杉ノ板屋ナドイフ類ナリ」（二）杮葺ノ條ヲ見ヨ。

いた・や・がひ（名）板屋貝〔殼ノ表面ノ凹凸、縱線、古ヘノ板屋ノ如シ、前條ヲ見ヨ〕いたらがひト云フハ、音轉ナリ（鮮、あざらか。嗟、あら）〕（一）〔又、いたらがひ。海ニ産ズ、帆立貝ニ似テ、小サシ、殼ハ、大キサ二三四寸、一片ハ凹レ、一片ハ平カニシテ、[illegible]、凹凸シテ、十二條アリ、外面ハ、淡紅褐色ニテ、内面ハ白シ、肉ハ白クシテ、食フベシ、かひのは[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]ニ[illegible]、[illegible]、杓子貝ノ名モアリ、[illegible]、[illegible]（倭名抄、同ジ、但シ、蛤ハ、はまぐりナリ）[illegible]、[illegible]ノ、スミカナリケリ」奢シクゾ、ウラメヅラシキ、いたや貝、苫賣ク海士ノ、習ヒナラズヤ」[illegible]、[illegible]「[illegible]」倭訓栞、後編、いたやがひ「板屋貝ノ義、西土ニ[illegible]ト云ヘリ、[illegible]、いたらがひト云ハ、轉訛也」（二）日本百科大辭典ニハ、いたらがひハ、帆立貝ニ似テ、[illegible]ナシ、大キサ二寸ニ達ス、殼ノ表面ハ、大小ノ[illegible]十四條アリテ、板屋貝ノ[illegible]リモ小ナリ、云云、トアリ、昔ハ、同名ナリシヲ、近代區別シタルカ、[illegible]ハ同[illegible]ノモノナリ。

いた・やき・みそ（名）［板燒味噌］燒味噌ノ一製法、羽子板ニ似タル板ノ表ニ、[illegible]ニテ、交叉菱ノ筋目ヲ掻キタルニ、胡麻味噌ヲ塗リ、爐ノ灰ノ中ニ斜ニ立テテ、火ニ燒キタルモノ、下野國、日光ノ邊ニテ行ハル。板ヲ、下駄ト見レバ、下駄と燒味噌、ト云フ諺ハ、コレニ緣アルカ。

いた・や・ぐし（名）［痛矢串］〔出典ヲ見ヨ〕痛手ヲ負ハセタル矢。古事記、中（神武）二「五[illegible]、[illegible]手[illegible]」ハ、物ヲ貫クモノ、御體ヲ穿チテ徹リタルヲ云ヘルナリ」神武紀「五瀨命、矢瘡痛甚」倭訓栞、いたやぐし「西土ニ、痛棒ト云フガ如シ」

いた・やね（名）［板屋根］杮葺、屋根[illegible]板屋

いたらがひ (名) 伊多良貝ノ條ヲ見ヨ。

いたり (名) 至 [至るノ名詞形。通人ノ服ナド、表ヲ綿布、裏ヲ絹布ニシタルヲ、底いたりト云ヒ、大阪ニテ手ノコミタルヲ、染方ニテ、いたりぞめ、煮方ニテ、いたり料理ナド云フモ、此條ノ語ナリ] (一)至ルコト。キハマリ。至極「喜ビノいたり」無禮ノいたり」若氣ノいたり」 (二)[學問ノ、]深キニ達キタルコト。造詣 枕草子、十、百十六段「此中將モ、若ケレドモ、オアリ、いたりカシコクテ、時ノ人ニオボスナリケリ」 (三)[心ノ、]ユキワタルコト。思慮 源、二、帚木「心オキテヲ思ヒメグラサムカタモ、いたり深ク」同、三十四、下、若菜、下「いたりスクナク、タダ人ノ聞エナス方ニノミ、寄ルベカメル御心ニハ、タダ、オロカニ淺キトノミ思シ」大鏡、中、伊尹、此義懷ノ中納言ノ御出家、惟成ノ辨ノ、勸メキコエラレタリケルトゾ、イミジウいたりアリケル人ニテ、今更ニ、ヨソ人ニテ交ヒタマハムホド、見苦シカリナム、ト聞エサセケレバ」

いたりぞめ (名) 至染 前條ノ語原ヲ見ヨ。

いたりれうり (名) 至料理 前前條ノ語原ヲ見ヨ。

いた・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 至 [行足るノ略カ、(かきなぐる、かなぐる)萬葉集、十九「唐國ニ、行き足らはして、歸來ム、丈夫武男ニ、御酒タテマツル」(行キトドキテ)] (一)トドク。オヨブ。達ス。仁德紀、十六年七月「明日之夕、速待詣于玖賀媛之家ニ(速待ハ、人名ナリ)名義抄「達、届、イタル」土佐日記、十二月廿五日、守(土佐守)ノ館ヨリ、云云、呼バレテ、いたりテ」「初ヨリ終ニいたるマデ」 (二)行キツク。到着ス。到 神代紀、上「素戔嗚尊持二其瓊玉一而到二之於天上一也」私記「到、以多流」萬葉集、十四「間遠クノ、雲居ニ見ユル、妹ガ家ニ、イツカ伊多良ム、歩メ我ガ駒」古今集、九、旅「隅田川ノホトリニいたりテ」 (三)行キワタル。ユキトドク。普遍 古今集、二、春、下「春ノ色ノ、いたりいたらヌ、里ハアラジ、咲ケル咲カザル、花ノ見ユラム」 (四)極ル。極盡 萬葉集、三、長歌「天雲ノ、退方ノ極ミ、天地ノ、至流マデニ」朱熹、中庸章句、序「堯之一言、至矣盡矣」 (五)爲ル。化 常養娘物語(群書類從)「朝ニハ、世路ニホコレドモ、夕ニハ、我レトナク、白骨ニいたる」

いたれりつくせり (句) 至矣盡矣 達カヌ所ナシ。此上ナシ。朱熹、中庸章句、序「堯之一言、至矣盡矣」

いたわり (名) 板割 [挽割り成シタルモノ] 松板ノ、厚サ一寸ナルモノ。但シ、墨掛一寸ナレバ、實際ハ、八分五厘バカリナリ。(東京)

いたゐ (名) 板井 [流井、走井ナドニ對ス] 井ノ周ヲ、板ニテ圍ヒタルモノ。井筒ノアルヲ、板井筒ト云フ。神樂歌、杓「我ガ門ノ、伊多爲ノ清水、里遠ミ、人シ汲マネバ、水荒ビニケリ、水草集ニケリ」夫木抄、二「我ガ宿ノ、板井ノ水ヤ、溫ムラム、去年ノ蛙ノ、聲スダクナリ」爲尹千首、秋「月ハナホ、底ニ留レド、いたゐづつ、袖ニモ同ジ、影宿リケリ」

いたゐづつ (名) 板井筒 前條ヲ見ヨ。

いち (名) 市 [倭訓栞、いち「市ヲ云フ、五十路ノ義ナルベシ、萬葉集ニ、八十ノ街ト云ヘルガ如シ」四通八達ノ路ナリ] (一)人ノ多ク來リ集フ地。唯、集フコトニモ云フ。神代紀、上「會二八十萬神於天高市一」(たけちノ條ヲ見ヨ) 武烈卽位前紀ニ、大和國、城上郡、海柘榴市ノ巷ニ、人集リテ、歌垣ヲ行ヒシコト見ユ。萬葉集、十二「紫ハ、灰サスモノゾ、(序ナリ、紫染ニハ椿灰ヲ入ル)海石榴市ノ、八十ノ街ニ、會ヘル兒ヤ誰レ」新六帖、六、蓬「世ニシアラバ、行交フ人モ、イカバカリ、蓬ノ門ニ、市ヲナサマシ」孟子、梁惠王、下篇「昔者、大王(後ノ周文王)居レ邠、云云、去レ邠踰二梁山一、邑二于岐山之下一居焉、邠人曰、仁人也、不レ可レ失也、從レ之者如レ歸レ市」呂氏春秋、仲夏、關市無レ索、註「市、人聚也」 (二)市ト云フ語ハ、人ノ集ル地ナルニ因リテ、物ヲ交易シ、賣買スル所ノ稱トナレリ。顯宗卽位前紀「旨酒、餌香市不以直買」釋紀、十二、私記曰、師說、高麗人、來住二餌香市一、釀二旨酒一、時人競以二高價一買飮故云ニ(此市ハ、今ノ河內國、南河內郡、道明寺村、國府ノ舊名ナリト云フ) 續紀、三十、寶龜元年三月、權任二會賀市司一」出雲風土記、島根郡、朝酌促戶渡「大小雜魚、濱藻家闐、市人四集、自然成レ鄽」(今、八束郡ニ入ル、今モ、朝酌村アリ) (三)奈良朝ニ至リテ、京城ノ左市街ヲ、東西ニ大別シテ、東市、西市トセラレタリ。山城ノ京都モ、亦然リ。(東の市、西の市ノ條ヲ見ヨ) 天文本、倭名抄、一、居宅、肆「說文云、市、賣買之所也、以知」易經、繫辭、下傳「日中爲レ市、致二天下之民一、聚二天下之貨一、交易而退」 (四)後世ハ、時日ヲ定メテ市ヲ行フ、神社ノ祭日、佛寺ノ緣日、盆ノ草市、年末ノ歲市、書籍ノ賣買市ナドアリ、コレヲ、市が立つ、市を立てる、ト云フ。(たてるハ、始メル意) 寂蓮法師集(俊成ノ姪)「七條ノ市ノたちケル、云云」 今、各地ニ、四日市、八日市、ナド云フ地名、存セリ。又、米市、魚市、青物市、ナド云フハ、毎日、時ヲ定メテ行フ、コレヲ市場ト云フ。盛衰記、十九、佐佐木取レ馬下向事「蒲生郡、小脇ノ八日市ヘ行ク者也」中斐國志、百一「商賈ノ所レ會聚一、二日市、三日市、四日市、云云、八日市、云云」(東京、日本橋、江戶橋ノ間ニ、四日市ト云フ地名アリ)

いち (名) 神巫 神巫ノ條ヲ見ヨ。

いち (名) 一 [次次條ヲ見ヨ] (一)第一。最上。ヒトツメ。枕草子、五、五十段「思フベシヤ否ヤ、第一ナラズバイカガ、云云、スベテ、人ニハ、一ニ思ハレズバ、更ニ何カセム、云云、二、三ニテハ、死ヌトモアラジ、一ニテヲアラム、云云、第一ノ人ニ、又、一ニ思ハレムトコソ思ハレメ」宇津保物語、初秋「只今ノ琵琶ノ一ハ、頭少將(良岑行正)コソハベメレ」同、菊宴「彼人ハ、只今ノ世ノ一ニテ、云云、殊ニ思ヒキコエタマフ」宇治拾遺、十四、第六條「荒キ浪風ニ逢ヒヌレバ、船ノ中ニ、一ノ寶ト思フ物ヲ、海ニ入ルナルニ」小町踊(寬文)冬、雪「一ト云ヒテ、似タ山モ無シ、富士ノ雪」「一ノ御子」一ノ大臣」一ノ內侍」天下一」世一」三國一」日本一」江戶一」 (二)次第、順序ノ、最初ノモノ。「コレヲ一トス」一ノ宮、二ノ宮、三ノ宮」(姬君ナドニ、又、諸國ノ神社ニ)一ノ鳥居、二ノ鳥居」一番、二番」一等、二等」 (三)熟語ニ用キテ、全キ、同ジキ、意トス。「一日」一夜」一面」 (四)三味線ノ三絃ノ絃ノ、最モ上ニアリテ、最モ太キモノ。二ノ絃、三ノ絃ト、次第ニ細クナル。(琵琶ニテハ、一ノ緒、二ノ緒ナドト云フ) (五)男子ノ結髮ノ髻ノ、一ノ字ノ如クナルヲ云フ。まげノ條ヲ見ヨ。

いち (名) 一都 盲人ノ名ニ云フ語。一名ノ條ヲ見ヨ。

いち (數) 一 壹 [唐韻「一、於悉切」呉音、いち、(質、しち)壹ト書ク字ノコト、大字ノ條ヲ見ヨ] ヒト。ヒトツ。イツ。漢書、董仲舒傳「一者、萬物之所二從始一也」拾芥抄、下、物充官位部、九九「二二四、一一一」一を聞きて十を知るトハ、始ヲ聞キテ、終ヲモ察シ知ルト云フナリ。論語、公冶長篇「子謂二子貢一曰、女與レ回也孰愈、對曰、賜也、何敢望レ回、回也、聞レ一以知レ十、賜也、聞レ一以知レ二」(一から十までナリ、顏回、及、端木賜、字、子貢、共ニ孔子ノ

門人ナリ」荀子「以レ近知レ遠、以レ一知レ萬」

(二)いち [illegible] 一昨日)いちおるしモ、最著しナルベシ、[illegible]、いちおろく[illegible]き義ナリ」案ズルニ、優レタル意ニテ、一ナルベキカトモ思ハレ、又、普通ニ用キラルル逸ノ字モ、[illegible]ハ、いちナリ、(一、いち)正字通ニ「逸、超也」トアリテ、逸才、逸品ナドトモ云フ、然レドモ、上古ニモ見ユル語ナレバ、漢字音ヲ混ズベキニアラズ」最モ逸レタル意ヲ云フ語。後世ハ、いちトモ云フ、其條ヲ見ヨ。「いち速シ」いち著シ」いち先ニ」(各條ヲ見ヨ)

いぢ (名) [illegible] 地ハ、存在スルトコロヲ云フ、地ノ字、漢音、ち、呉音、ぢ」 コロネ。心根。意思。[illegible]

いぢ (名) 意地 (前條ノ語ヲ發動セシメテ云フナラム、意地を張る(いぢ、はり)ナド云フ意ヲ含メテ解スベシ、轉ジテ、意地がわるい(いぢわる)ノ意ニモ移ル、(各條ヲ見ヨ)意氣張、意氣地ナド云フモ、コレヨリ出デタル語ナリト思ハル」 我意ヲ張リトホス心。抗敵氣
大鏡、中、兼通「心、いぢニテオハセシ殿ニテ、サバカリ限リニオハセシニ、疾サニ、内ニ參リテ申サセタマヒシホド、異人ハ、スベウモナカリシコトゾカシ」[illegible]テ令内シ、他人ニ[illegible]ノ我任ヲ[illegible]シタルナリ」

いちあし (名) 逸足 逸ノ條ヲ見ヨ。 疾ク走ルコト。疾足。[illegible] 合戰事「引クモ[illegible]ケ、逸フモ[illegible]セバ、云云、坂東道[illegible]二四十六里ヲ、[illegible]ガ[illegible]ニツ逸ヒツキタル二六町一里ナリ」

いちいたいすゐ (名) 一衣帶水 (一筋ノ帶ノ如キナリ) 細ソキ川。細流。南史、[illegible]

いちいち (副) 一一 (一)ヒトツ、ビトツニ。一ツ毎ニ。[illegible]ノ大賽、イカガアリシト、問ヒキコエサセタマヘバ、云云、シマジカト、いちいちニ申サセタマヘバ」[illegible] (二)ヒトリ、ビトリニ。人人 太政官式「[illegible]」正親司式「座定執レ簿、一一喚レ名」

いちいよ (副) 一意 (意ヲ一つにシテ、側目モ振ラズ、ノ義) いっかう(一向)ノ(二)ニ同ジ。

いちいふ (名) 一揖 (揖ハ、名義抄、[illegible]、手ノ條ニ、かしおまる、うやまふト訓アリ、コレ座作、進退ノ行儀ヲ云ヒタルニテ、拜禮スルコトヲ云フ」 いふ(揖)ノ條ヲ見ヨ。 名目抄、[illegible]「一揖」除目[illegible]抄「一揖([illegible])」[illegible]任[illegible]官抄、[illegible]「先[illegible]」年中行事[illegible]子下、一揖[illegible]云、[illegible]列」[illegible]一揖」

いちう (名) 一宇 (宇ハ、簷ナリ、一軒ト云ハムガ如シ) 家、ヒトツ。一棟。 臨時祭式「[illegible]、各、一宇」大[illegible]省式「立[illegible]一宇」 梅松論(貞和)下「三條殿ハ、六十六箇國ニ、寺ヲ一字ヅツ建立シ」

いちう (副) 一宇 「宇ノ中、宇リテノ意ヨリ移ル、宇治拾遺、十、第一條「ひと家、泣キノノシルト」 全ク。一切。「一宇[illegible]之」「字不存候」

いちうち (名) 一打 「うちハ、打書く意カ」 [illegible]條書ノ[illegible]條ノ首ニ、一ノ字ヲ書[illegible] 字ヲ記スルヲ、一打ト云フ」

いちえう (名) 一腰 太刀、刀、等ナド、一腰。ヒトコシ。[illegible] 「イチエウ、太刀」易林節用集(慶長)言語「一腰、太刀」

いちえふ (名) 一葉 ヒトハ。一ツノ木葉。桐ノ葉一ツ落ツルヲ見テ、ハヤ秋來レリト知ル意ニ云フ、[illegible]ノヒトハ。 書言故事「一葉知レ秋」注「一葉落、梧葉也」文選ニ、唐人詩「一葉落知二天下秋一」淮南子、說山訓「以レ小[illegible]」

いちえふ (名) 一葉 「舟ヲ、葉ノ形ニ見立テテ云フナルベシ」 舟ノ異名。 [illegible] (三)御山ハ、紀伊國、熊野三山、王子ハ、同國、熊野[illegible]道ノ王子[illegible]トハ、此御宇ヨリ始マレリ」(コレハ、支那ノ昔、黃帝ノ臣貨狄ト云フ者、水ニ浮ビタル柳ノ一葉ニ、蜘蛛ノ乘リ、風ニ吹カレテ、汀ニ寄レルヲ見テ、巧ミテ舟ヲ作リテ[illegible]ジタリト云フナリ」

いちえふのまつ (名) 一葉松 (五葉の松ナドニ對ス) 松ノ、一葉ナルモノ。 甲斐國史、百廿三、[illegible]一葉松、[illegible]中ニアリ、寶品ナリ」

いちえふらん (名) 一葉蘭 諸國、深山ノ陰地ニ生ズル宿根草。莖、一葉、一葉ナリ、葉ノ長サ二三寸、幅二寸許、形、橢圓ナリ、葉ノ側ヨリ、一花莖ヲ抽クコト四五寸、頂ニ一花ヲ開ク、淡黃綠色ニテ、建蘭ノ花ニ似テ、小サシ。

いちゑん (名) 一[illegible] [illegible]

いちおう (副) 一[illegible] いちわう(一往)ニ[illegible]

いちがい (名) 一概 [illegible] 米ナドノ、盛リアガリタルヲ、量概ニテ一掃シテ平スナリ、大概モ、大率ニテ、一平ノ意ナリ」 一平。押シナベテ、ト云フ意ノ語。[illegible]「不レ可二一概而論一」「いちがいニハ申サレマセヌ」

いちがい (名) 一[illegible] (天ノ[illegible]) [illegible]

いちがう (名) 一號 (年號、稱號ナドノ、號ナリ) 大小ノ物ニ附シテ、其順序ヲ標スル語、番ト云フニ同ジ。[illegible]發遣スル命令書、又ハ、[illegible]ノ次第ナドニ記ス。第一ナルガ、一號ナリ。二號、三號、五號、十號。

いちがう (名) 一毫 いちもう(一毛)ノ條ノ二ヲ見ヨ。

いぢがきたない (形) [illegible] [illegible] 云フ、コノ上略ナルベシ、(鰌小切、おんきり。ささなりびつ、なりびつ)いぢきたなハ、[illegible] いぢわるい、[illegible]

いちがさかえた (名) 一期榮 (いち[illegible]

ハ、一期ノ轉(廣る、ひろがる)〕草紙、物語、小兒ノ御伽噺、昔話ナドノ終結ニ「ソレデいちがさかえた」ト云フ、一期榮えたノ轉ナラムト云フ、祝言ナルベシ。俚言集覽、一期榮「小兒ノ咄ノ終ニ、一期さかえたト云フハ、咄毎ニ云フナリ」玄同放言(文政、曲亭馬琴)三、下、三十八、人事條、鉢かづきト云フ物語ニ「備中守さねたかノ息女、云云、金銀財寶、アマタ出デシ事、中將宰相ノ妻ニナリテ、一期メデタクさかえたる、云云」

いちかた (名) 一方 びはほふし(琵琶法師)ノ條ヲ見ヨ。

いちがのながれ (名) 一河流 いちじゅのかげ(一樹蔭)ノ條ヲ見ヨ。

いちかばちか (句) 投機〔一か罰かナルベシ、博徒ヨリ出デタル語ナリト思ハル、壺皿ニ伏セタル骰子ニ、一ガ出ルカ、失敗ルカノ意ヲ云フナルベシ、出たとこ勝負、出たら出たら目、ナドト、意、通フ、一擲賭乾坤ト云フ語アリ、其條ヲ見ヨ〕事ヲ行フニ、運否ハ、自然ニ任スル意。又、成敗ヲ、一擧ニ試ミル意ヲ云フ語。菅原傳授手習鑑(延享、竹田出雲)四、寺子屋ノ場、武部源藏ガ、菅秀才ヲ助ケムト、贋首ヲ以テ、首撿分ノ松王丸ニ示サムト、女房ト語ラフ所「サア、ソコガ、一かばちか、生顏ト死顏ハ、相好ノ變ハルモノ、面ザシ似タル小太郎ガ首、ヨモヤ贋トハ思フマジ」小野道風靑柳硯(寶曆、竹田出雲)「ヒヨット高イモノデアラウモ知レヌ、一か八か、爲テ試モノ」

いちがふ (名) 一合〔漢書、貨殖傳、註「蘖麴、以二斤石一稱レ之、輕重齊則爲レ合、鹽豉以二斗斛一量レ之、多少等亦爲レ合、合者、相配耦之言耳」〕(一)枡目ノ名。一升ノ十分ノ一。二合、三合、五合、ナドト云フ。俚言集覽、一合「一合ヲ容ルル量、木、厚サ三分五釐、內、方二寸一分、深サ一寸四分五釐」(江戸時代ノ制ニテ、一合枡ノ寸法ナリ)(二)駿河ノ富士山ニ登ル路ハ、十ニ割リテ、其一ヲ、合ト云フ、麓ヨリ、一合、二合、五合ナド數ヘテ、頂上ヲ十合トス、(合ト合トノ間、長短、齊シカラズ)他ノ高山ニモ、此稱アルベシ。(三)宅地ノ地坪、建物ノ建坪、卽チ、面積ニ云フ語。一坪ノ十分ノ一ナリ、四分ノ一ヲ、二合半ナド云フ。「百五十坪五合」

いちがふ (名) 一合〔がふき(合器)ニ云フナリ〕蓋アル器ヲ數フル語。二合、三合ト數フ。神宮寺資財帳「金泥銅火爐、壹合」同「染塗、轆轤椀、貳合」

いちがん (名) 一眼〔眼一ト云フハ、倒ナリ〕カタメ。メッカチ。ガンチ。古クハ、いちげんト云ヘルカ。獨眼 寶物集(治承)二、二人ノ同行、餅ヲ爭フ論ノ事「佛法ニ値ヘルコトハ、一眼ノ龜ノ、浮木ニ乘ルガ如シ」運歩色葉集(天文)「一眼、イチガン」

いぢかりまた (名) 萎縮股 いぢける(萎縮)ノ條ヲ見ヨ。

いぢかりゆび (名) 萎縮指 いぢける(萎縮)ヲ見ヨ。

いぢがわるい (句) 拗戾〔意地ノ條ヲ見ヨ、いぢわるハ、語根ヲ名詞トスルナリ(いぢがきたない、いぢきたな)〕意地ヲ張リテ、人ニ逆フ意ヲ云フ語。クネクネシ。佞ケタリ。名詞ニ、いぢわるト云フ。狂言記(大藏流)どぶかっちり「意地のわるい事ヲナサレルニ困テ、私マデ、ヒトシボリニナリマシタ」諺艸(元祿、貝原益軒)一廿二意地「心根ノ惡シキヲ、意地惡きト云フ」俚言集覽、いぢわるき「心ノわるきニテ、物事ヲ、他ニサカラヒテ爲ルヲ云フナリ」「いぢわる根性」

いちぎ (名) 一義 ヒトツノ理。ヒトツノ意義。一理。李邕、大雲寺禪院碑「傳燈三葉、分座一義」梅松論、上「御ムカヒアラバ、冑ヲヌギ弓ヲハヅシ、頭ヲノベテ參ルベシ、コレマタ一義ナキニアラズ」

いちぎ (名) 一儀〔一義ノ當字〕一ツノコトガラ。一件。「彼ノ一儀如何相成候哉」

いちぎ (名) 一議 只、一度ノ評議。「一議ニモ及バズ、執行ス」

いぢきたな (名) 貪食 いぢがきたない ヲ見ヨ。

いちぎゃう (名) 一行 (一)物ノ、ヒトツラ。一列。二行、三行ナドトモ云フ。掃部寮式「南舍敷二座二行、前一行爲二辨官、井、諸司五位已上座一」(二)數書キタル文字ノ、ヒトクダリ。雜式「其字必令二分明一、不レ得三一行過二十三四箇字一」「一行二十字、三行六十字」

いちぎゃうじ (名) 一行寺〔此寺ノ種ヲ播植シタルモノト思フ、其所在、チョット記シ得ズ、探ルベシ〕楓ノ一種、葉ノ形、大ナルモノ。一名、オホサカヅキ。

いちぐ (名) 一具〔詩經、小雅、常棣篇、註「具、俱也」具備ノ意、附屬シタル物ヲ、ヒトマトメニシテ云フ〕ヒトヨロヒ。ヒトソロヒ。二具、三具ヲモ云フ。三代實錄、三十三、元慶二年六月、蝦夷征討「賜二春風、好蔭、甲冑各一具一」(鎭守將軍小野春風、陸奥權介坂上好蔭)宇津保物語、國讓、下十四「內侍のすけ、御衣櫃ニ、女ノ裝束一具、夜ノ裝束一具、云云、入レテ取ラセタマフ」類聚雜要抄(大治)三「唐櫃一具、泔坏一具、裝束三具、屯食七具」(節文)樂家錄(元祿)十三、序破急之說「樂者、以二序、破、急、三曲一爲二一具一也、然或以二序與レ破、破與レ急耳爲二一具一者、亦有レ之」

いちぐさしかけ (名) 一具差懸 一具指懸 次條ニ同ジ。高忠聞書「御ウツボニシンドウ三ツ添フベシ、一具指懸ヲ添フベシ、指カケヲバ、一具ト云フナリ、モロサシカケトハ云ハヌナリ」

いちぐゆがけ (名) 一具弓懸 一具韘〔武用辨略、四、射事「韘ハ、今ノ指懸也、一具韘、雙韘ナド云テ、左右ノ手ニ指也、木式ノ韘トス、中指ト無名指トヲ、色革、紋革ニテ續也」トアリテ、指ヲ懸くるヨリ云ヒシナルベシ〕射術ノ具。ユガケノ一具。高忠聞書「一具ゆがけサシテ、貴人ノマヘニ出ヅルコト」

いちくら (名) 肆〔市座ノ義、市ハ、市街ナリ、座ハ、物ヲ置ク所、(其條ヲ見ヨ)材木座ナド、座トモ云フ、店家ハ、町屋ナリ、店屋ハ、湯桶讀ナリ、明治以前ニハ、江戸ニテ、賣店ノ食物ヲ、てんや物ト云ヒキ〕見世棚ノ古名。又、店家。店屋。卽チ、商家ノ店前ニ、商品ヲ並べ置ク處。倭名抄、十二十一「肆、伊知久良」華嚴經音義「肆、伊知久良、謂二陳レ貨賣物也」關市令「市、每レ肆立レ標、題二行名一」義解「題二行名一者、假令題二標牓一云二絹肆、布肆一之類也」かう(行)ノ條ヲ見ヨ。(後世ノ暖簾、看板ハ、此遺ナリ)倭名抄、十三十一店家「店、俗云、東西町、是也、坐賣レ物舍也」伊呂波字類抄(治承)「店家、マチヤ、坐賣舍也」下學集(文安)上、家屋門「見世棚、店屋」

いちくらずみ (名) 一庫炭〔いちくらハ、ひとつくらノ讀誤〕いけだずみヲ見ヨ。

いちぐゎつ (名) 一月 一月ノ(二)ニ同ジ。

いちげあんご (名) 一夏安居 一出典ノ

[illegible]安居[illegible]、[illegible]ニ、夏安居[illegible]アリ、[illegible]、他ノ[illegible]ハ[illegible]語ナラム[illegible]二夏ノ呉音、(上下、ぢゃうげ)一夏トハ、夏中ノ義ニ、一年中ニハ、時ノ唱[illegible]、其年、[illegible]、[illegible]ニテ、夏期ハ、霖雨多ク、旅行ニ適セザルノミナラズ、地ニ無數ノ蟲類アリ、踏ミ傷ルコトアレバ、[illegible]、其比弟子ヲシテ[illegible]、修道セシメタルナリト云フ、[illegible]、安居ノ條ニ「無事修行、妨修[illegible]、[illegible]、傷[illegible]」[illegible]トアリ、安居トハ、安穏・靜居ノ意、一處ニ定住シテ、道心ヲ修養スルナリ、穏坐道ナドトモ云フ」佛道ニ云フ語。又、夏安居、夏籠、夏行ナドトモ云ヒ、下略シテ、一夏、又、夏トノミモ云フ。僧ノ、四月十六日(陰暦ノ)ヨリ七月十五日マデ、外出セズ、[illegible]、修道シテ居ルコトニテ、即チ、[illegible]ノ[illegible]ナリ。四月ニ始ムルヲ、結夏ト云ヒ、七月ニ解散スルヲ、解夏、又、夏明ト云ヒ、七月十六日、自由トナルヲ、自恣ト云フ。「行事鈔、上、僧、自恣ノ條ヲ見ヨ」安居ニ[illegible]ズル者ヲ、夏衆ト云ヒ、參會ノ回數ノ多キヲ、長老トシ、夏臘ト云ヒ、此間、[illegible]文ヲ[illegible]スルヲ、夏經ト云ヒ、供養ノタメニ、[illegible]文ヲ[illegible]スヲ、夏書ト云フ。天武紀、下、十二年七月「是夏、始請僧尼、安居于宮中」[illegible]、[illegible]ニ[illegible]シテ、十[illegible]、[illegible]二始テ、安居ノ事アリシコト、[illegible]ニ、[illegible]ユ。[illegible]宗ニテハ、安[illegible]ヲ、[illegible]ト云ヒ、又、別ニ、十月十六日ヨリ、一月十六日マデ安居スルヲ、[illegible]安居ト云フ。[illegible]、山[illegible]山ノ[illegible]リ、[illegible]ニ[illegible]シテ、[illegible]、[illegible]、三井[illegible]、[illegible]モ[illegible]バ、供花ノ事モ絶エニケリ」義經記、三、書寫山炎上[illegible]、[illegible]モナク閉メケル」謠曲、通小町「是レハ、八瀬ノ山里ニ、一夏ヲ送ル僧ニテ候」心中天網島(享保、近松作)下、名殘の橋づくし「一夏三部、夏書セシ、大慈大悲ノ普門品」

いちげい　(名)　〔一藝〕　何事ニヨラズ、ヒトツノ技藝。一道。論語、子罕篇、注「射、御、[illegible]、[illegible]、[illegible]」[illegible]、兵法者ノ[illegible]、[illegible]一藝[illegible]

いちげ-さう　(名)　〔一花草〕　一輪草ヲ見ヨ。

いちげつ　(名)　〔一月〕　(一)ヒトツキ。一箇月。(二)一年ノ初ノ月。イチグヮツ。正月

いちげん　(名)　〔一元〕　天皇御一代中、同一ノ年號ヲ用キサセタマフコト。明治、大正、是レナリ。(改元ノ條ヲ見ヨ)　慶應四年九月八日、[illegible]、[illegible]四年ヲ[illegible]メテ、明治元年トナシ、自今以後、[illegible]ヲ[illegible]シ、一世一元、以テ永式ト[illegible]

いちげん　(名)　〔一言〕　ヒトコト。いちごん。[illegible]、[illegible]子曰、詩三百、一言以蔽之曰、思無邪」[illegible]、[illegible]凡詩之言、善者可以感發人之善心、惡者可以懲創人之逸志、其用歸[illegible]使人得其情性之正[illegible]」同、子張篇「子貢曰、君子、一言以爲知、一言以爲不知、言不可不[illegible]」(知者、不知者)

いちげん　(名)　〔一見〕　第一見參ノ見參。初對面。初會。初謁　心中刃氷朔日(寶永、近松作)中「今日ノ客ハ、一げんノ田舍ノ侍」

いちげん-きん　(名)　〔一絃琴〕　(一)絃、一[illegible]ナル琴。其形狀、[illegible]、[illegible]ラズ、[illegible]ニモ、[illegible]ヲ見エタリ[illegible]、[illegible]琴ノ條ヲ見ヨ

✢✢いぢ・ける・ケル・ケレ・ケ・ケ・ケヨ　(自動、下二)　〔萎縮〕　〔怖けるノ音轉ナルベシ、(動く、おぢく、いおく)ちぢむハ、怖ヂタル狀ナリ、いぢかり股、えぢかり股ハ、いぢけ股ノ變轉ナラム、(かじかむ、かじける)〕　蚊燻、かえぶし)りハ、添ヘタルモノ、(がたひし、がたりひしり。ちらと、ちらりと)いぢかりハ關東ニテ、えぢかりハ關西ナルカ、出典ノえぢかりハ、京都人ナリ」チヂハヽチヂコマシ縮ム。又、えぢかる、いぢかる[illegible]、[illegible]、いぢかり股、又、えぢかり股ト云フ、[illegible]ニいちけテ、[illegible]書方がいちけテ居ル」醒睡笑(元和)五「行キシナニ、[illegible]ウタ花ガ、[illegible]ンナニハ、[illegible]たりて、[illegible]トチノ[illegible]、東海道名所記[illegible]宿ノ間「足ハクタビレタリ、ゑじかり股ニテ、宿ヲ通ル」(草臥レタルナリ)狂歌江戸名所圖會「温泉ノ、いじかり[illegible]テ、[illegible]ル客ヲ、まつだ[illegible]ニテ、ヒキタ[illegible]一ヲ、買ヒニ[illegible]、[illegible]ノ[illegible]ニ、[illegible]ヲ[illegible]シタルナリ、江戸、[illegible]、[illegible]ニテ[illegible]」(川柳江戸名物)　天保ノ川柳「いちかり指デ、玉水

いちお　(名)　〔神巫〕　〔[illegible]、いちニ神前ニ神樂ヲスル女ヲ、いちト云フハ、いつきノ義ニヤ、[illegible]、[illegible]、ちナリ[illegible]〕　[illegible]ナリ、松尾神社ニ齋子アリ、春日神社等ニ、齋女アリ、此語、口寄スル市子トハ、全ク異ナリ」[illegible]、神前ニ、神樂ヲスル[illegible]、神樂女。神巫。略シテ、いちトノミモ云フ[illegible]、[illegible]ト[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]ス其後、[illegible]出サレケルハ、一ハ當社ノ神主ナルカ、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、心モ[illegible]、[illegible]、名目類聚抄(元祿)五、神官、巫、一[illegible]、神樂ノ[illegible]ナリ[illegible]

いちお　(名)　〔市子〕　あづさみこ[illegible]ノ條ヲ見ヨ

いちお　(名)　〔[illegible]〕　〔[illegible]〕　此語ハ、いちびおノ中略ナルベシ、其條ヲ見ヨ、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]ごめナドノ如キ、中略ナリ」いちびお。亞灌木、路傍ニ多シ。葉ハ、ごびニ似テ、[illegible]、[illegible]、葉ニ、毛[illegible]シ、春ノ末ニ、枝ノ梢ニ、五出ノ白キ花ヲ開ク、大キサ一寸許、[illegible]、[illegible]赤シ、大キサ六七分アリ。同種ニ對シ[illegible]、[illegible]、[illegible]、又、同種ノ内ニ、[illegible]、[illegible]いちおノ名モアリ。蓬藥　同種ニ、きいちお、[illegible]、いちお[illegible]、[illegible]、又、[illegible]ニ、へびいちおアリ、又、蔓生ナルニ、さっくりいちおナドアリ、皆、各條ニ注ス。倭名抄、十七三「覆盆子、以知古」枕草子、三、二十六段、あてなるもの「イミジウウツクシキ兒ノ、いちおナド[illegible]、[illegible]」[illegible]集、六、[illegible]、[illegible]、[illegible]」[illegible]集、五、[illegible]歌「北條四郎時政ガ(候ヒケルガ、連歌ヲナムシケル「守山ノ、いちおサカシク、ナリニケリ」

いちご (名) 一期 〔期ノ呉音、(一)、(去年、過去、班婕妤、自悼賦「永終ノ死以爲ノ期」)〕人ノ、世ニ生存スル間。一生。イッシヤウガイ。保元物語、二、爲義最後事「爲義法師ガ頸ヲ刎ヌベキ由、云云、人ノ身ニハ、一期ノ終ヲ以テ一大事トセリ、ソレヲ、暗暗ト殺シタテマツラムコト、情ナク侍リ」著聞集、十一、蹴鞠「名人成通「庭ニテ鞠ヲアゲラレケルガ、云云、山がらノ、モドリウツヤウニ、飛ビカヘラレケル、云云、我ガ一期ニ、コノとんぼうがへり、一度ナリトゾ、自稱セラレケル」運歩色葉集(天文)「一期、イチゴ」諺艸(元祿)一「人壽ハ、百年ヲ以テ期トス、老少、コレヲ以テ準トスル故ニ、人ノ一世ヲ、一期ト云フ」

いちこく (名) 一石 (一)米、酒ナドノ分量ノ稱。石ノ條ヲ見ヨ。(二)此語、秀句トシテ、種種ナル意ニ用キラル、出典ヲ見ヨ。物類稱呼(安永)五「天正、文祿ノ頃、曾呂里新左衛門ト云フ者、云云、太閤秀吉公、朝鮮征伐ノヲリカラ、一首ノ落首ヲゾタテケル「太閤ガ、一石米ヲ、買ヒカネテ、今日モ、ごとかひ、明日モ御渡海」(五斗、五斗、一石ナリ、度、渡海セムトシテ、決行セザリシナリ)又云フ、江戸ニ一石橋ト云フアリ、江戸砂子(享保)二「後藤氏ノ兩家、カノ橋ノ前後ニアリ、故ニ、一石橋ト名ヅク」江戸名所圖會(寛政)一、一石橋ノ條ニ、日本橋ヨリ二町バカリ西ノ方、同ジ川筋ニカカル、此橋ノ北ニ、金座、後藤庄三郎、南ニ、呉服所、後藤縫殿助ノ宅アル故ニ、其昔、五斗五斗ト云フ秀句ニテ、俗ニ、一石橋ト名ヅケシトナリトアリ。寛永ノ江戸地圖ヲ見ルニ、橋北ノ、今ノ日本銀行ノ地ニ、金座、後藤ノ屋敷見エ、橋南、呉服橋トノ間ニ、幕府ノ呉服所、後藤ノ住宅見ユ。前ニ擧ゲタル物類稱呼ノ同所ニ「一こく日和ト云フハ、雨降ラムヤ、降ルマイヤト云フヲ、筑紫ニテ、降ラウごと、降ルマイごと云フ、云云、如如ヲ、米穀ナドノ五斗五斗ニナゾラヘテ、一石日和ト云フ」(ごとハ、如くノ語根ニテ、應仁記、十三年九月、長歌、雷ノ語等、聞エシカド」源、十三、明石六十三「思ヒノごと、榮エタマハバ」ナドトアリ、地方ニハ、古言ノ存スルコト、此ノ如シ)

いちこくびより (名) 一石日和 前條ノ(二)ヲ見ヨ。

いちごしやう (名) 一期生 一期。一生。謠曲、江島「一度モ歩ミヲ運ブ輩ハ、云云、一期生ノ後ニ、早ク再、天ノ位ニ至ル」

いちこちてう (名) 次條ヲ見ヨ。

いちこつてう (名) 壹越調 〔こつハ、越ノ朝鮮音ナリト云フ、同ジ十二調子ノ黄鐘調ヲ、わうじきト云フモ、同ジカルベシ、(小杯ヲ、ちよくト云フモ、鐘ナルベキカ)尙、識者ニ問フベシ、是レニ參考スベキハ、倭名抄、十九八「蟛蜞、彭越、二音」トアリ、箋注、八五十二ニ蟛アリ、こちト云フハ、呉音ナリ(僭越、越後)」又、いちこち調。じふにてうし(十二調子)ノ一、其條ヲ見ヨ。倭名抄、四二十曲調類「壹越調」源、三十四、下、若菜、下三十「箏ノ琴「いちこちてうノ聲ニ、はちノ絃ヲ立テテ、フトモ調ベヤラデ、サブラヒタマヘバ」河海抄「發ノ弦、箏ノ調子ノ絃也」字類抄(治承)「壹越調、イチコチテウ」拾芥抄(洞院公賢)上、末、音樂、十二律、十一月「壹越調」

いちごん (名) 一言 〔いちげんトモ云フ、其條ヲ見ヨ〕ヒトコト。ヒトクチ。今昔物語、廿五、第十一語、河内守源頼信、云云、盜人、逃ゲ得ズ、五六歲ノ童ヲ質ニ取リテ、壺屋ニ入リ、刀ヲ拔キテ、童ノ腹ニ差シアテテ居タリ、頼信、出デテ云フ「我ガ心バヘハ、音ニモ聞クラム、慥ニ刀ヲ投ゲヨト云ヘバ、刀ヲ投ゲ童ヲ免シテ、逃グルヲ得シメ、頼信ガ一言ニ憚リテ、質ヲ免シケム」(大節文)太平記、六、赤坂合戰事「本間ガ子息源内兵衛資忠ニ、初ヨリノアリサマヲ語ル、資忠、父ガ首ヲ見テ、一言モ出サズ、只、涙ニムセビテ居タリケルガ、云云」

いちごんはんく (名) 一言半句 一言ト、ソノカタワレ。本朝俚諺(正德)一言半句「明心寶鑑云、一言半句、重キコト千金ニ」俚言集覽、一言半句「俗語錄、一言半句灼然親切、北條早雲二十一

簡條、上下萬民ニ對シテ、一言半句ニテモ、虛言ヲ申スベカラズ」

いちごもどき (名) 苺擬 「もどき」ノ條ヲ見ヨ」料理ノ名。おろし大根ト、蜜柑ノ肉トノ酢和。俚言集覽、いちごもどき「蘿蔔ヲ擦シ、酢ヲ以テ柑肉ヲ和ヘタルモノ、狀、いちごノ如シ、故ニ云フ」

いちざ (名) 一坐 〔一同ノ意〕一室ニ併ビ坐スル者。同席。史記、封禪書、年九十餘老人「爲ㇾ兒時、從ニ其大父ニ識ニ其處ニ一坐盡驚」(遊射セシ處ナリ)八雲御抄、一「スベテ、一座ノ連歌ニ、イタク同ジ事ノ多カルハ、惡事ナリ」「一坐ノ人人」「一坐、皆、起ツ」

いちざ (名) 一座 いっき(一基)ニ同ジ。「一座ノ佛」(長谷觀世音像ノ類)

いちざ (名) 一座 第一ノ座。カミザ。上席。(一座の宣旨ノ條ヲ見ヨ)首席 宇治拾遺、十三、十二條「今日ノ齋筵ハ、手長ノ役アルベカラズ、各、鉢ヲ飛バセヤリテ、物ハ受クベシ、云云、諸僧、一の座ヨリ、次第ニ、鉢ヲ飛バセテ物ヲ受ク、三河入道、末の座ニ着キタリ」

いちざ (名) 一座 〔一ハ、擧リテノ意、一家、一山ハ、家ぢゆう、山ぢゆうナリ〕能樂、歌舞伎、其外、興行物ノ、上下藝人ドモノ一連中。(座ノ條ヲ見ヨ)「勸進能ノ一座」觀世能ノ一座」市川團十郎一座」曲馬ノ一座」寄席ノ一座」

いちざい (名) 一劑 〔正字通、說文「劑、齊也」漢書、藝文志「百藥齊和」註「與ㇾ劑同」〕種種ノ藥品ヲ、定量ニ應ジテ、合セ製シタルモノ。典藥寮式「白散一劑、屠蘇散一劑」齋宮寮式「呉茱萸丸、芍藥丸、溫白丸、各、一劑」

いちさがり (名) 一下 ほんてうし(本調子)ノ條ヲ見ヨ。

いちさき (名) 逸先 〔逸ノ條ヲ見ヨ〕

マッサキ。第一。最初。最先 「いちさきカケテ走リ出ヅ」

いちざのせんじ (名) 一座宣旨 〔宣旨ノ條ヲ見ヨ〕攝政、關白タル人ハ、官次ヲ守ラズ、太政官中ニテ、第一ノ座ニ著クベク賜ハル宣旨。葉黃記、寬元四年十月十七日「參ニ殿下ニ申ニ承萬事ハ、其中、一座宣旨事、君被ㇾ仰ニ子細ハ云云」(殿下ハ、藤原實經)職原抄(北畠親房)上、太政官「執柄、必蒙ニ一座之宣旨ニ」標注職原抄(安政、近藤芳樹)上「古注ニ、爲ニ攝關ニ之人、不ㇾ守ニ官次ハ著ニ一座上ニ之義也」(古注トハ、壺井義知ノ注解)

いちし (名) ぎしぎし(羊蹄)ノ古名。萬葉集、十一、十七「道ノベノ、壹師ノ花ノ、イチジロク、人皆知リヌ、我ガ戀妻ハ」八雲御抄、三、上「羊蹄、いちしのはな」藻鹽草、八、草「いちしのはな」

いちじ (名) 一事 ヒトコト。事柄、ヒトツ。一事は萬事に亙るト云フハ、一ツノ事ガ、多クノ事ニ及ブト云フ意。松屋筆記、七十八、八十二條「俗ニ、一事は萬事ト云ヘリ、一事ニ聰キ者ハ、萬事ニサトキ由也、云云、中陽軍鑑、十四、品第四十、下「内藤ガ云、一樣ニ上手ナル人ハ、萬事にわたりテ、物ヲ能ク聞知ル也、云云」曾我五人兄弟(元祿、近松作)四「カヤウノ事モ知ラヌ故、一事が萬事にわたり、不孝ナルモコトワリゾ」

いちじ (名) 一字 (一)字、ヒトツ。一字、三字、五字、十字。蘇軾、試詩「平生五千卷、一字不ㇾ救ㇾ飢」左右京職式「凡鑄文以ニ一字明ハ、皆令ニ通用ニ」(二)尊長ノ二字名ノ中ノ一字ヲ、卑族ニ授クルニ云フ、又、片名トモ云フ、身分アル人ニ限ルコトナリ。受ケタル者ハ、其字ヲ、己ガ二字名ノ中ニ用キテ、名乘トス。名匠略傳(群書類從)日本、下、寂光大師「延曆十六年、夏、發心淳到、叡岑ハ大師(最澄)倪ニ其來ハ即、落髮爲ニ弟子ハ取ニ自名一字ハ號ニ圓澄ニ」吾妻鏡、一、治承四年十月二日、下野國、小山政光「以ニ猶子息ハ可ㇾ令ㇾ致ニ眤近之奉公ニ之由望申、仍召ニ出

之ハ自加ニ首服ニ給、取ニ御烏帽子ニ授ケ之給、號ニ小山七郎宗朝ハ(後改ニ朝光ニ)今年十四歳也」[illegible]三十六、鷲尾一(?)谷[illegible]内舎事、[illegible]三郎、生年十七、元服ニ名[illegible]

[illegible]

ルコト多シ。武家時代ニハ、將軍ノ親族、大ナル大名ノ嫡子ナド、元服シテ名乘ヲ用キル時ハ、主將ハ、烏帽子親トナリ、冠者ハ、烏帽子子トナリ、一字ヲ授クルコト、定例トナリ、(げんぷくノ條ヲ見ヨ)大名ノ、其臣下ノ、身分アル者ニ於ケルモ、然リ、スベテ君臣、主從ナルニハ、御一字拜領ト稱シタリ。

いちじ (名) |一字| 〔錢ノ、一文(イチモン)ノ條ヲ見ヨ〕一文ノ錢ノ、四分ノ一ヲ稱スル語。錢ノ面ニハ、文字、四ツアレバナリ。合類節用集(元祿)十、數量門「一字(イチジ)、土俗以三二分五厘一爲[illegible]

[illegible]一云、兩个青錢雙白鷺、一封緘寶百黄金、云云」(孔方兄(ハウケイ)ハ、錢(ゼニ)ノ異名、其字ノ見ヨ、兩个ノ青錢(リヤウカ)トハ、百文ヅツ錢(ゼニ)緡ニ貫キテ、二本ヲ云フ、即チ、二百文ニテ、一文ニ四字アリ、二百文ニ、八百字アルナリ)

いちじ (名) 一字 〔[illegible]時計ノ面ニ記ス羅馬數字ニ因リテ、字トシタルカ〕明治ノ初年、太陽暦ヲ用キラレシ頃、午後、一時、二時、三時ナドヲ、一字、二字、三字ト記シタリ、暫時ニシテ、今ノ如ク改メラレヌ、サレド、其頃成レル文書ニ

[illegible]云フ、日中ヨリ漸ヘハジメテ、夜半ニ至リテ、十二字、夜半ヨリ日中ニイタリテ、又、十二字ナリ」

いちじ (名) |一時| (一)ヒトトキ。(二)第一時。一時(トキ)ノ條ヲ見ヨ。(三)同時。漢書、[illegible]相傳「[illegible]明經道二知陰陽一者四人[illegible]」

いちじ (名) |一時| ソノ時カギリ。臨時(リンジ)。副詞ノいちじニヲ見ヨ。[illegible]

いちじ (副) |一時| 〔俚言集覽、一時(イチジ)ニ、一寸ノ字ヲ、ちよつとト讀ムハ、時ノ字ノ略字ヲ、寸ニ作レバナリ」いつときトモ云フハ、湯桶讀(ユトウヨミ)ナリ」シバシ。暫時。チヨト、京都ニテ、いつとき、[illegible]ル」いつとき待ツテクナハレ」

いちじ-いってん (名) |一字一點| 〔點トハ、訓點ヨリ云フカ〕字、ヒトツ、點、ヒトツ。[illegible]

(雁行ノ亂レザルヲ云ヘルカ)日本百科大辭典、一字一[illegible]ヘテ[illegible]字一[illegible]言ニテモ、[illegible]言ハヌ事ハ、言フマジト云ヘル如ク、一字一點ノタメニ、全體ノ意味異ナルモノナレバ、注意スベキモノナリ」(てにをはノ、にトはトノ區別ヲ云ヘリ)

いちじ-いん (名) |一字印| 一字板(イチジバン)ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。

いちじき (名) |一食| 僧ノ、一日、一食ナル制。齋(トキ)ノ條ヲ見ヨ。僧徒ノ頭陀ノ行、十二種ノ第四ニ「數數(ソクソク)ノ食ヲ斷ジテ、一食ヲ行フ」トアリ。(佛教辭林、頭陀ノ條)

いちじきん (名) |一時金| 巡査、看守ナド、事故アリテ退職シタル時、其時限リ給セラルル金。

いちじく (名) |無花果| 〔[illegible]〕(正德)八十八、無花果「俗云ニ一熟ニ云云」一月而熟、[illegible]

いちぢく「一熟ノ義」重修本草綱目啓蒙(享和)廿二「無花果、イチジク」佐渡志(文化)五「無花果、イチジク」音韻假字用例ニ、[illegible]ニ、[illegible]ぢくハ、中[illegible]トアリ、いちぢく、ぢゅく、ぢゅくせい(熟生)ナド發音スル者ハ、一人モナシ、大和本草(正德)十、無花果「花無クシテ、實アリ」此樹ノ花ハ、花托ノ内面ニ寄生ストアレバ、人ノ目ニ見エヌナリ」落葉喬木ノ名、外來種ナリ、高サ一丈許、[illegible]ハ互生シテ、表面ハ分裂シ、掌狀ヲナシ、裏面ニハ、細毛密生ス、切レバ白汁ヲ出ス、春、夏ノ際ニ、[illegible]小ノ白花、花托ノ内面ニ密生ス、夏ノ半ニ果實ヲ結ブ、圓クシテ、大キサ一寸バカリ、いたびニ似タリ、初メ綠色ニシテ、熟スレバ紫色トナル、味、甘美ナリ。大和本草[illegible]

[illegible]

リ、[illegible]シ」

いちじ-こんりん (名) |一字金輪| 〔きんハ漢音、こんハ呉音〕一字トハ、大日如來ノ咒文ノ稱。如來ガ、一切[illegible]三摩地ト云フ定ニ入リテ說ケル咒文、[illegible]アリ、其内ノ勃嚕唵(ボロオン)(Bhrūm)ト云フヲ、一梵字ニ書キ記スナリ。佛像ハ、寶冠ヲ戴キ、金輪ヲ持シ、結跏、趺坐シテ、手ニ智拳印相ヲ結ブ。阿娑縛抄、五十六「一字金[illegible]

字眞言ニ具ニ此ニ云ニ一字金輪ニ也」(序文、古事類苑)[illegible]長元元年九月八日[illegible]十三日三七箇日、[illegible]

一字金輪法ハ云云、是、[illegible]也」

いちじ-さんらい [illegible] |一字三禮| [illegible]うさんらい(一刀三禮)ノ條ヲ見ヨ。

いちじ-さん (名) [illegible]

[illegible]

いちじ-せんきん (名) |一字千金| 一ツノ字ニテ、千金ノ價ニ當ル[illegible]

[illegible]門ハ懸(カケ)三千金其上ハ延ニ諸侯游士賓客ハ有ニ能增ニ損一字ニ者ハ予ニ[illegible]

[illegible]貫ニ勇而貴ニ忍、此眞一字千金之兵法也」[illegible]

[illegible]

ヲ報ゼムト」

いちじ-だい (名) |一字題| 和歌ノ題ノ、一字ナルモノ、花、月、風、秋、ノ如シ。二字題ハ、立春、落花、四字題ハ、[illegible]ハ、海上明月[illegible]

[illegible]

字ヨリ後ハ、題ノ字ヲ、甲乙ノ句ニ分チオクベシ」

いちじちにち (名) |一七日| (一)七日(シチニチ)。一週間。(二)初七日(シヨナヌカ)ニ同ジ。

いちじつ [illegible] |一日| (一)ヒトヒ。[illegible]ニチ[illegible]一日之[illegible]氏來云」(三)ツイタチ。「一月一日」

いちじつ (名) |一實| 佛經ノ語。平等、無差別ノ實相、又、唯一ノ眞[illegible]

[illegible]

玉篋、[illegible]ノ尊容ヲマモリ、一實ノ道ヲ開キテ、[illegible]

[illegible]ノ[illegible]ニ合セ

いちし

いちじつ-さんしう-の-ごとし (句) 一日三秋 (一日如三秋一) (二)秋ハ、孟秋、(七月)仲秋、(八月)季秋、(九月)ノ三箇月ナルベシ、詩經ノ疏ニ、年有二四時、時皆三月、三秋、謂二九月一也、トアレド、理、合ハズ、九ハ、三ノ誤ナルベシ、諸書、皆、九箇月トス、何ノ謂ナルカ、解スベカラズ」一日ハ、數十日ノ如シ。逢ハザルヲ、待遠シク思フ意、慕フ情ノ甚シキヲ云フ。 詩經、王風、采葛篇「一日不レ見、如二三秋一兮」 註「三秋則不ニ止二三月一矣」

いちじつ-の-ちやう (名) 一日之長 (一)他ヨリ少シ、年齢ノ長ケタルコト。 論語、先進篇「子曰、以二吾一日長一乎レ爾、毋二吾以一也」(集註ニ、年少シ汝ニ長タリト云ヘドモ、吾ガ長ヲ以テ言フヲ憚ル勿レト云フ) (二)才藝、少シク、他ヨリ優リタルコト。 唐書、王珪傳「臣于二數子一亦有二一日之長一」

いちじ-な (名) 一字名 人ノ名ノ、一字ナルモノ。 名字辨「一字ノ名モ古クアリ、續紀ニ、津守 連通、鴨朝臣助、小野朝臣老、云云」(古事類苑) 崇峻紀、二年七月「捕鳥 部萬」 續紀、廿九、神護景雲三年六月「吉備朝臣泉」 文德實錄、四、仁壽二年十二月「小野朝臣篁」 皇胤紹運錄、嵯峨天皇皇子「源信、源弘、源常」 盛衰記、十五、宇治合戰事「渡邊黨ニ、省、覺、競、唱、云云」

いちじ-ま (副) 一時 (一)モロトモニ。同時ニ。一度ニ。 神武紀「十一道臣命、猛卒ヲ率ヰテ、賊、八十梟ヲ討ツ「一時殺レ虜、無二復噍類者一」 (二)俗ニ云フ、いちどきま。(一時ノ湯桶讀)「來客ガ、一時ま集ル」

いちじ-の-し 一字師 (師トハ、教ヘラレタルヲ云フ) 自作ノ詩文中ナドニ、一字、非ナルアルヲ、改訂セラレタル人ニ謝スルニ云フ。 [illegible] 無二一事一ハ蒼鬱村、請改レ恨爲レ幸、詠曰、子、眞ニ一字師」(譚語大辭典) 本朝俚諺(正徳、井澤長秀)一字の師「鼠ニ云、管齋已、詠二早梅一詩云、前村深雪裏、昨夜數枝開、鄭谷云、數枝非レ早也、未レ若二一枝一ハ、齋已拜レ谷爲二一字師一」

いちし

いちし-の-はな (名) 壹師花 (仙覺抄ノ七ニハ、いちしの花ナリト云ヒ、本草綱目啓蒙、十六、水草類ニハ、羊蹄の花ナリトス、共ニ、指シテ據ル所ナシ、現存六帖ノ歌ハ、萬葉ノ詠ヲ取リテ讀メルナリ、花ノ色ハ、白しナド云ヘルハ、木歌ニ、灼然トアルヲ、白くト心得タルナリ、いちしろくハ、灼然ニテ、いち著くナリ、いちしるしノ條ヲ見ヨ、又、夫木抄、廿九ニ、逸師ト題シテ、六帖ノ歌ヲ、ソノママニ載セテ、木ノ部ニ列シタリ、何ニ據レルニカ) 植物ノ花。詳ナラズ。 萬葉集、十一、十二「路邊ノ、壹師花ノ、(如ク)灼然、人皆知リヌ、我ガ戀フル妻」 現存六帖「立ツ民モ、衣手白シ、ミチノベノ、いちしの花ノ、色ニマガヘテ」

いちじ-はいりやう (名) 一字拜領 一字ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。

いちじ-ばさみ (名) 一字挾 花柳界ノ藝妓、雛妓ナドノ、戲レニツカヒシ詞。(下ノ出典ヲ見ヨ)例ヘバ、さけ(酒)ヲ、さかけけト云ヒ、ゆび(指)ヲ、ゆくびきト云フ、甚シキハ、客ノ面前ニテ、すかないヲ、すくかかなかいきナド云フ、田舍人ナド、何モ心ヅカズ、聞キテアリシナリ、無禮ノ至リナリ。明治ノ初頃ニ、挾詞トテ聞キシガ、今ハイカガ、知ラズ。 嬉遊笑覽、九、下「一字ばさみト云フコトアリ、明和七年、辰巳園ト云フ册子ニ、唐言ト名ヅケテ、あかさたた、此通りへ、かの字、いききちに、此通りへ、きの字、云云、右ノ如ク、かきくけこノ五音ノ字ヲ付ケテ云フナリ」

いちし

いちじ-ばん (名) 一字板 一字版 (一)又、一字印。植字版。活字版。銅製、木製ノ一個ノ立方形ナルモノニ、一字ヅツ字形ヲ作リツケ、コレヲ寄セ集メテ一版トシ、墨ヲツケテ、紙ニ摺取ルモノナリ。聚珍版 コレニ對シテ、一面ノ板ニ、數十百字ヲ刻リテ用キルヲ、木版、又、整版ト云フ。我ガ邦ノ一字板ニハ、東大寺ニ、堀河天皇ノ寛治二年ニ刊行シタル成唯識論アリト云フ、其後ハ、多ク聞カズ、文祿、慶長ノ征韓ノ役ニ、彼國ノ銅製ノモノヲ、多數渡シ來リシヨリ、我ガ邦内ニ、銅製、木製ノ業、盛ンニ起リテ、廣ク刊行セラルルコトトナリ、慶長版、元和版、寛永版ノ書、多ク世ニ存セリ。 永祿以來出來初之事、秀吉公御代ノ事「一字板、是ハ、高麗入アリシ故也」(古事類苑「一字板」) 時慶卿記、文祿二年閏九月廿一日、禁中參上「はん考ノ字ヲ、十一兩人ニ仰付ケ撰候(此間日日參上)廿四日、如レ昨禁中ヘ字撰ニ參候、云云、十一月六日、板校ノ字、其類ニ撰集候、云云、十六日、古文孝經ノ板、出來候」(板校ハ、板行ナルベク、字撰ハ、字えりト讀ムベキカ、今ノ活版ニテ云フ、文選ナルベシ) 補注、蒙求、下、跋「甫庵ナリ、是歲十月、慶長元年ト改マル」 錦繡段、跋「一字板ハ、鑄二此書一云云、惟時、文祿第五、小春」(小瀨甫庵道喜、新刊ニ「悉取二諸籍文字一ハ、鏤二一字於一梓一ハ、其二布 諸 一版一印二一紙一ハ、云云、此規模、頃出二朝鮮一ハ、慶長第二歲、云云」(勅版ナリ) 慶長日件錄(清原秀賢)慶長十年七月廿八日「長橋御局ヘ參リ、高麗銅一字印、返進上」(德川家康、獻上トアリ) 圓光寺由緒書ニ、足利學校ノ庠主、閑室元佶(一名、三要)慶長中、東照宮ニ召出サレ、京都ニ學校ヲ建テラレ、植字判木、拾萬字餘、拜領」(古事類苑 一字ハ以二植字版一、今、活版所ニテ、植字ト云フ) 此活字、一乘寺村、圓光寺ニ傳ヘテ、現存セリ。 辨疑書目錄、中、第七、植字書目、云云、植字本ハ、多クハ無點本ナリ」(古事類苑) 倭訓栞、うゑぢ「活板ヲ云フ、植字ノ義ナリ」 譯筌大集(元祿)八十四、新刊周易本義、序「使二洛人以二活字一刻中本義上云云、活字本、一出不レ得二再刻一」 慶長十三年、角倉與一素庵、整板ヲ復活セシメ、先ヅ伊勢物語ヲ刊行シ、次第ニ、和漢ノ典籍ニ及ベリ、(嵯峨本ノ條ヲ見ヨ)此後、一字板ハ衰ヘタリ、大槻如電云、一字板ハ、附假名出來ズ、皆、無點本ナレバ、廢レタルナリト、江戸時代ノ末期ニ及ビテ、貧弱ナル木活字、行ハレタリ、コレハ、整板ハ、官許ヲ得ザレバ刊行セラレズ、然ルニ、木活字ハ、書寫ニ代フルト云フ名義ニテ、許可ヲ要セズ、絶板トナリシ海國兵談ナド、印行セリ、此活字ヲ用キタル書、數百部アリテ、世ニ存セリ。 (二)くわつじばん(活字版)ノ條ヲ見ヨ。

いちじふ-いつさい (名) 一汁一菜 膳部ノ飯ノ副食物ニ、唯、吸物一種、菜一種ナルコト。又、二汁三菜、三汁五菜ナドト云フモアリ。 玉かつま(鈴屋)十四、饌ノ條「常ノ饌ハ、羹一ツ、菜一ツニテ止ムベシ、品品、數多ケレバ、サシモメデタクオボエズ、但シ、他ノ饗饌ハ、數少クテハ、寂寂シキ心地ス」(節文) 年中行事大成(文化)「一汁ヲ設ケ、云云」

いちじん (名) 一人 (語彙、いちじん「いちにんト云フベキヲ、いちじんト唱フルハ、凡人ニ差別シテ申スナリ」一人ト云フ時ハ、攝政、關白ノ人ノ稱) 天子ノ御異稱。 書經、君奭篇「一人有レ事二于四方一、若二卜筮一罔レ不二是孚一」傳「一人、天子也」 禮記、玉藻篇「凡自稱、天子曰二予一人一」 令集解、一、職員、太政官「太政大臣一人、右師二範一人一ハ、儀二刑四海一」同「一人者、天子也」 中家實錄(中原家ノ記錄ナルベシ、一名、異本弘安禮節)「一人、伊賀ノ守、奉レ稱二主上一」(語彙) 名目抄(洞院實熙)「一人」 さかゆく花、上、永徳元年三月十一日、後圓融天皇行幸「凡、いちじん、出テタマフ事、タヤスカラズ、云云」(古事類苑)

いちじやう-いちげ (句) 一上一下 上ヨ

リ打チオロシ、下ニテ打チハラフ。」刀劔ニテ相闘フナドニ云フ。「一上一下、[illegible]」

いちぢく [illegible] いちじくノ條ヲ見ヨ。

いちじゅ-の-かげ (名) 一樹蔭 一樹ノ蔭、[illegible]ト云フ語ト、併稱ス、佛教語ナリ。[illegible]ル。知ラヌ人ト、同ジ木陰ニ雨宿シ、同ジ河水ヲ汲ミ合フモ、皆、前世ヨリノ因緣ナリナド云フ。[illegible]（寛保、小野高尚）三、古文類談（隋、張即子）「汲二流一河一樹下、汲二一河流、云云、皆是先世結緣」夏山雜談 [illegible] ヒトツ問答ニアラズ、[illegible]ノ家人ナリ。

いちじゅん (名) 一旬 [illegible]「十日爲一旬」(一)日數、十ノ稱 [illegible]「三百有六旬、有六日」(二)一箇月ヲ三分シ、前ノ十日ヲ上旬、中ノ十日ヲ中旬、後ノ十日ヲ下旬ト云フ。正字通「楊愼曰、俗以二上旬、中旬、下旬一」

いちじょう (名) 一乘 一トハ、唯一無二ノ義、乘トハ、乘物ノ舟車ナドニテ、如來ノ教法、衆生ヲ載運シテ、生死界ヲ去ラシムル意トナルト云フ」佛教ノ語。衆生ノ成佛スベキ、最上ノ教法。廣ク法ル語ナレド、普通ニハ、特ニ、妙法蓮華經ノ法門ヲ云ヒ、一乘經、又ハ、一乘妙典ナドト云フ。[illegible] 物語、一、官軍召集せらるる事「傳教大師、比叡山ヲ開基シテ、一乘妙典ヲ[illegible]」[illegible]

[illegible] ノミゾ、三世ノ佛ノ、師トハナリケル

いちじょう-きょう (名) 一乘經 前條ヲ見ヨ。

いちじょう-の-ほふ (名) 一乘法 前前條ヲ見ヨ。

いちじょう-めうてん (名) 一乘妙典 いちじょうヲ見ヨ。

いちじょう-の-めうもん (名) 一乘妙文 いちじょうヲ見ヨ。

いちじる・し・キ・ケレ・ク・ク (形、二) 著 (最著しノ轉、(逸ノ條ヲ見ヨ)いちじろしハ、音轉ナリ(辛、あろき、惡し、わろし)) 又、いちじろし。明カニ、著シ。目ニタチテ、カクレナシ。イヤチコナリ。[illegible] 如二日月一也 [illegible] 山之什、正月篇「滔蹉」伏、亦孔之昭」(古訓) 貫之集、四「いちじるき、シルシナリケリ、荒玉ノ、年ノ若ルルハ、雪ニサリケル」[illegible] 萬葉集、十四「灼然、時雨ノ雨ハ、降ラナクニ、大[illegible]ノ山ハ、色ヅキニケリ」同、十七[illegible]（如ク二下從ヒアマリ、白[illegible]ノ、如ク）伊知之路久出デヌ、人ノ知ルベク」同、十二[illegible]ノ、下ヨハ戀ヒム、市白久、人ノ知ルベク、歎キセメヤモ」

いちじる・し・シキ・シケレ・シク・シク (形、二) 著 (前條ノ語ノ活用ヲ變ジタルモノ、うたてき、うたてしき。かまびすき、かまびすしきノ類ナリ、此活用、古クハ多ク見エズ、遇見ユルモ、意味ノ變レルコト、下ノ如シ、但シ、口語ノいちじるし

いハ、古意ト同ジ」(一)感覺、強シ。感[illegible] 人、[illegible]大事、[illegible]大寺實定、大將ヲ平宗盛ニ超エラレ [illegible] いちじるしき人ニテ、思ヒ直サルル事モアリナム、[illegible] ケルコソ、イトホシケレ、云云」(ヤガテ、重盛ノ左大[illegible]) 中ニ、いちじるしきトいちじるきト兩出セリ、意ハ相同ジ) (二)口語ニハ、いちじるしいトナリテ、前條ノ語ト同ジ。「いちじるしい違ヒガアル」

いちじろ・し (形) 著 前前條ヲ見ヨ。

いちぜん (名) 一前 (一佛、又ハ、貴人ノ御前ニ供フル意ナルベシ」[illegible] 饗、机、膳ナド數フルニ云フ語。一前、十前ナドモ云フ [illegible]

いちぜん (名) 一膳 (膳ノ條ヲ見ヨ」 (一)一具ノ膳部。運歩色葉集(天文)「一膳、イチゼン」 (二)飯、一椀。(次條ヲ見ヨ)

いちぜん-めし (名) 一膳飯 路傍ノ屋臺店ナドニテ、飯ヲ、器ニ一杯ヅツ盛切ニテ、賣ルモノ。賤人ノ食ナリ。[illegible]（寛永）島原「甚ダ淋シ、中の町トオボシキ所、一せんめしノ[illegible]」一膳飯は食はぬものト云フ諺アリ、是レハ、家ニアリテ、常ノ膳部ニテ、唯、一椀ニテ止ムベカラズ、ト云フナリ。賣店ニテ、賤人ノスルワザヲ嫌ヒテ云フニモアルベキカ。

いちぞく (名) 一族 同ジ族。同族。一家。[illegible]

[illegible] 集メテ、「誤哉ノ計略ヲゾメグラサレケル」(千早ノ城ノ圍ミヲ解キテ歸京シテナリ)

いちぞん (名) 一存 己レ一人ノ存寄。「一存ニテハ、決著致シカネ候」

いちだ (名) 一朶 ヒトエダ。白居易詩「綠衣紅蓮一朶開」

いちだ (名) 一駄 駄ノ條ヲ見ヨ。

いちだい (名) 一代 [illegible] 代がはりノ條ヲ見ヨ」 (一)天子ニハ、御在位ノ間ヲ申シ、常人ニハ、其家督ヲ繼ギテアル間ヲ云フ。一世。[illegible] 件」梅松論、下「建武三年十一月廿二日ノ夜、君ハ、御和睦ト號シテ、都ヘ還幸アリケレバ、云云、去ル元弘元年ノ秋、笠置ヨリ六波羅ヘ入ラセタマヒシヲダニ、思ヒノ外ニ申シケルニ、御一代ノ内ニ、又、カカル事ハ、イカナリケルニヤトテ、萬人歎キ悲ミケル、云云」 (二)一生涯。畢世。[illegible] 年十月廿五日 [illegible]、云云、サルベキ人、人、一代ニ、一度ノ見モノニテ、田舍世界ノ人ダニモ見ルモノヲ」「一世一代ノ演藝」

いちだい (名) 一代 當代。當世。[illegible]

いちだい (名) 一臺 車、又ハ、釣臺ナド數フル語。[illegible]

いちだい-いちど (名) 一代一度 [illegible] 御一生涯ニ、一度。[illegible]

いちだい-き (名) 一代記 人ノ、一代中ノ出來事ヲ記シタル書。傳。行状。[illegible]

兄弟(元曉、近松作)五「河津三郎ガ一代記ヲ、京都ニテ曾我物語ニ作リ、曾我物語ト申シテ」

いちだいじ (名) 〔一大事〕 最一ノ大事。容易ナラヌ事件。俚言集覽、一大事「謝渓堂詩「神明從二遠公二了二此一大事一」保元物語、二、爲義最期事「人ノ身ニハ、一期ノ終ヲ以テ、一大事トセリ」太平記、六、正成天下寺未來記披見事「楠正成、天王寺ニ詣デテ、大般若經ヲ轉讀セシム、寺僧、卷數ヲ捧ケ來ル「楠、則チ對面シテ申シケルハ、正成不肖ノ身トシテ、此一大事ヲ思立チテ候事、涯分ヲハカラザルニ似タリト云ヘドモ、敕命ノ輕カラザル禮儀ヲ存ズルニ依リテ、身命ノ危キヲ忘レタリ、云云」同、廿八、宮方京攻事「足利尊氏、九州ニアリ、吉野殿、京都ニ迫マル、早馬ニテ急ヲ告グ、時ニ、高師泰ガ石見國ヲ退治セムトシテアリシガ、飛脚ヲ以テ「其國ハ兎モ角モアレ、先ヅ、京都一大事ナレバ、夜ヲ日ニ繼ギテ上洛スベキ由ゾ、告ゲラレケル、云云」

いちだう (名) 〔一道〕 〔藝道トモ云フ〕 一藝ニ同ジ。徒然草、百六十七段「一道ニタヅサハル人、アラヌ席ニ臨ミテ、アハレ我ガ道ナラマシカバ、カク餘所ニ見侍ラジモノヲト云ヒ、云云」

いちだう (名) 〔一道〕 東海道、乃至、東山道等ノ一。俚言集覽、一道「五畿、七道ノ其一ナリ、其道ニ屬セル國國ヲ合ハセテ、一道ト云フ、式部省式、下「引二一道國郡司、進屯二昇下二」

いちだん (名) 〔一段〕 〔一段ノ意、ひときはモ、一層ノ意ナリ〕 (一)ヒトキリ。文章ノ中ノキレメ。二段、五段、十段。一段落 儀式、一、新年祭儀「中臣、進就二座座一讀二祝詞一每二一段了一祝部稱 唯」「義太夫節一段」假名手本忠臣藏五段目」 (二)ヒトキハ。ヒトシホ。一層。 黄庭堅詩「眉宇之間如二大華一一段翠氣連二修南一」眉ヲ美メタルナリ」 新撰□□往來(永祿頃ノ作、慶安板)「可レ增二一段之光□一候」 副詞ノ如クニモ用ヰラル。□□、□□□八、一段上達セリ」

いちだん (名) 〔一團〕 一團ハ、團體 ヒトカタマリ。次次條ヲ見ヨ。 范梈詩、拾得炎洲月一團」「一團ノ火焔」一團ノ觀光客」

いちだんくわつよう (名) 〔一段活用〕 上一段活用ノ條ヲ見ヨ。

いちだんのくわき (名) 〔一團和氣〕 〔和氣ノ、集リテ、一團ヲ成セルガ如シ〕 人ノ、溫和ナル氣象ヲ云フ語。 性理大全、程明道ノ條「上蔡謝氏曰、先生坐如二泥塑人一接レ人則渾是一團和氣一」明道ハ、支那宋代ノ大儒、程顥ナリ、聖人ノ道ヲ明カニセムト主張ス、稱シテ明道先生ト云フ」謝氏ハ門人、謝顯道ナリ」

いちだんのはたらき (名) 〔一段活用〕 前前條ニ同ジ。

いちだんらく (名) 〔一段落〕 ヒトキリ。ヒトクサリ。(一落ニ同ジ) 「話ノ一段落」「一篇ノ一段落」

いちぢ (名) 〔市路〕 〔市ノ條ヲ見ヨ、都路、東路〕 市ノアル地ニ通フ路。 萬葉集、三「一世燒津ヘニ、吾ガ行キシカバ、駿河ナル、阿倍ノ市道ニ、逢ヒシ兒等ハモ」(燒津、阿倍、共ニ駿河ノ地名) 夫木抄、三十一、市「大和ナル、三輪ノ市路ニ、急ギテモ、何時マデ世ニハ、布留ノ山越」三輪モ、布留モ、大和ノ國ノ地名、但シ、經るニカケタリ)

いちぢん (名) 〔一陣〕 (一)第一ノ陣。先陣。(二陣、三陣トモ云フ)一番手。先鋒 保元物語、二、白河殿攻落事「御方ノ大將軍タル、其代官トシテ、鎭西八郎爲朝、一陣ヲ承リテ堅メタリ」(大將軍トハ、父爲義ヲ云フ) (二)一番駈。サキガケ。先登 盛衰記、三十七、熊谷向二大手一事「一ノ谷城「熊谷ハ、明日ノ軍ハ、打込ノ合戰ニテ、誰レ先陣ト云フ事アラジ、一方ノ一陣ヲ懸ケテ、名ヲモ揚ケバヤト思フナリ、云云」宇治川ニテモ、先陣ヲ志シテ渡リシニ、佐佐木四郎、生□ニ乘テ渡リシカバ、直實、二陣ニサガリメ」(證文)

いちぢん (名) 〔一陣〕 一陣。 韓偓詩「昨夜三更雨、今朝一陣寒」 太平記、二、阿新殿事、日野資朝、佐渡ニテ辭世ノ頌「五蘊假成レ形、四大今歸レ空、將レ首當二白刃一截斷一陣風」

いちぢやう (名) 〔一丈〕 ぢやう(丈)ノ條ヲ見ヨ。

いちぢやう (名) 〔一定〕 事ノ、ヒトムキニ定マレルコト。タシカナルコト。 愚聞抄、(藤原朝隆、永曆元年ノ奥書アル本アリ)四月、平野祭事、註「女房布施、或二叢、或三叢、其員無二一定一」(群書類從) 宇治拾遺、五、第八條「此子ト云フ人コソ、一定ノ由言ヒテ、親ノ家ニ居タナレ」(タルナレ) 今昔物語、廿七、四十三語「季武ガ、河ヲ渡ラム一定ヲ見ムト思ヒテ、竊ニ走リ出テ、季武ガ馬ノ尻ニ後レジト走リ行キケル」 徒然草、三十九段、法然上人ハ、云云、往生ハ、一定ト思ヘバ一定、不定ト思ヘバ不定ナリト云ハレケリ、コレモタフトシ」(一枚起請文ノ條ヲ見ヨ)

いちぢやう (副) 〔一定〕 ウツナク。タシカニ。キット。必。 盛衰記、九、中宮御懷姙事 平家ノ、斯榮エタマヘバ、一定、皇子ニテゾオハサムト、外人モ色代申シケリ」(安德天皇、生レサセタマフ) 平家物語、十一、那須の與一の事「判官、イカニ與一、アノ扇ノ眞中射テ、敵ニ見物セサセヨカシ、ト宣ヘバ、與一、云云、是ヲ射損ズルモノナラバ、長ク味方ノ御弓矢ノ疵ニテ候フベシ、一定、仕ランズル仁ニ、仰付ケラルベクモヤ候フラム」

いちぢやうのしゆんむ (句) 〔一場春夢〕 〔春ノ一夜ノ夢ハ、ヂキニ覺ム〕 人生ノ榮枯ハ、忽チ變遷ス。 侯鯖錄「東坡行歌二田間一、□婦曰、內翰、昔日富貴、一場春夢、坡然レ之、人呼二此婦一曰二春夢婆一」(故事熟語大辭典)(□□、鑛、餉、田食)

いちぢよ (名) 〔一女〕 ヒトリノムスメ。「一男、一女ヲ生ム」

いちづに (副) 〔一途〕 一途ニ 「一路指シテ」 ヒタスラ。一向ニ。 吉□□女鑑 正德、近松作)四「イヤイヤ、ソレモ一づノ軍法」「いちづに思込ム」

❖いぢつぱり (名) 〔意地張〕 いぢをはる(抵抗)ノ條ヲ見ヨ。

いちでう (名) 〔一條〕 (一)〔ヒトスヂ。二條、三條モアリ。 神宮資財帳「苧白布帳一條」李白詩「一條□□練、萬點□峰晴」「帶、一條」 (二)ヒトクダリ。一ケ條。 □□、選舉志、「問二大義一條」、總三條」 規則、一條」 (三)一事ノ、一部始終ヲ云フ語。一件。「彼ノ一條ハ、如何相成候哉」

いちでふ (名) 〔一帖〕 「帖ハ、疊ムナリ、其條ヲ見ヨ、折手本ヲ、はふでふ(法帖)ト云フモ、是レナリ」 (一)〔折リタタミタル物ヲ數フルニ云フ語。二帖、三帖、五帖ナドモ云フ。 內匠寮式「屛風、一帖」江家次第、九、十一日小安殿行幸裝束「大宋御屛風、二帖」同、五、圓宗寺最勝會「上紙三十帖、但馬」 源、十七、繪合「九「かたわナルマジキ一でうヅツ、サスガニ浦浦ノアリサマ、サヤカニ見エタルヲ撰リタマフ」細流抄「かたわナルマジキハ、此中ニテ勝レタルヲ撰リタマフナリ」(繪合ニ出ス繪ナリ、一枚ノ條ノ(二)ヲ見ヨ) (二)紙ノ枚ニ云フコトハ、前項ノ江家次第ニモ見エタルガ、後世ハ、專ラ廣ク紙ニ云フ。半紙ハ二十枚ヲ一帖ト云ヒ、美濃紙ハ四十八枚ヲ一帖トシ、タリ、コレハ、三尺幅ニテ腰板アル紙障子ヲ貼ルニ、四十八枚ニテ過不足ナキニ因ルナリト聞ケリ、其外、何紙、某ノ紙トテ、一帖ノ枚數ヲ定ムルコト、區區ナリキ、然ルニ、大正十四年八月、東京ト大阪トノ紙商同業組合ニテ、半紙ヲ二十枚一帖トシ、十帖ヲ一束、二千枚ヲ一締、六締ヲ一丸トシ、美濃紙、五十枚ヲ一帖、十帖ヲ一束、五束ヲ一締トシ、

四緒ヲ一丸トシ、其外、各種ノ紙、皆、五十枚ヲ一帖トシタリ。江戸、東京ニテ、乾海苔ハ、十枚ヲ一帖ト云フ。

いちど (名) [一度] [illegible]度ノ條ヲ見ヨ」古ク天文學ニ云ヒシハ、地球ノ周ヲ、三百六十ニ分チタルヲ、一度ト云フ、其長サ、二十八里八町十八間四尺三寸二分ナリ、一度ノ六十分ノ一ヲ、一分ト云ヒ、一分ノ六十分ノ一ヲ、一秒ト云フ、北極星ノ、地平ノ上ニ出ツル高サヲ云フニ、赤道下ヨリ望メバ、北極、地平ニアリ、北ニ向ヒテ一度進メバ、北極、地平ヲ離ルルコト一度ナリ、十度進メバ、十度ニ上ル、九十度ニ至レバ、頂上ニアルベキナリ、故ニ、地位ヲ測ルニ用キテ、北極出地、何十何度ト云ヘリ。(俚言集覽)

いちど (名) [一度] ヒトタビ。イッペン。(いちどにト云フ副詞ヲ見ヨ) [一回] 二度、三度ナドハ、フタタビ、ミタビ。榮花物語、[illegible]、花山「二三度ガ中ニ、御歸リハ、[illegible]ソ、謀エサセタマヒケル」宇治拾遺、四、第六條、イミジキ惡人「囚ニ七度ゾ入リタリケル、云云、一二度、四ニ入ラムダニ、人トシテハ、ヨカルベキ事カハ」

いちどう (名) [一同] (一)一身同心ナドノ、同ナリ。多人數ノ、總[illegible]。[illegible]子、術同、中[illegible]「明ヲ乎民之無ヲ正長以一ニ同天下之義ヲ、而天下亂也」、云云、一ニ同其國之義ヲ、云云、一ニ同其里之義ヲ、云云、一ニ同其[illegible]之義ヲ」[illegible]之[illegible]平[illegible]、八、[illegible]ニ[illegible]、[illegible]シテ、年、二十一ニテ、[illegible]ノ[illegible]ニゾ入ラセタマフ、兄弟、親族、一どう惜ミタマヘド、カヒゾナキ」

いちどき-に (副) [一時] (いちどきハ、一時ノ湯桶讀、一時モ、同シ、次次條ヲ見ヨ」一時ニ。イチドニ。イッショニ。「い[illegible]イタ」

いちどくくわい (名) [一讀會] だいいちどくくわい(第一讀會)ニ同ジ。

いちど-に (副) [一度] コゾリテ。イッショニ。イチドキニ。[一擧] 宇津保物語、たづのむらどり、上「御使ノ君タチ、一度ニ歸リタマヘリ」大鏡、中、師輔「重六出テ來トテ、打タセタマヒケルニ、タダ、一度ニ出デ來ルモノカ」(重六トハ、雙六ノ二ツノ筆目ニ、揃ヒテ六ノ目ノ出ヅルコト、さいのめノ條ヲ見ヨ)

いちどの (名) [一殿] 神樂ノ條ヲ見ヨ。

いちドル (名) [一弗] どるらるノ條ヲ見ヨ。

いちな (名) [一名] (日本百科大辭典ニ、いちな、郡名、ト擧ゲテ記シテアリ、一ノ字ヲ、郡、又ハ、市)ト記セルモノアリ、其意、解セラレズ、京都ノ市街ヲ管轄スル職ヲ、市司ト稱セラレキ、コレニ寄セタルモノカ、[illegible](ナルカ)) 琵琶法師ノ城一ノ弟子ノ中ニ、如一ト、城元トアリ、各、派ヲ成シテ、如一ノ派ノ代代ノ弟子ヲ、一方ト稱シテ、其派ノ者ハ、皆、某一、何一ト名乘リタリキ、是レ、一名ナリ。(城元ノ派ヲ、城方ト云ヒキ、委シクハ、琵琶法師ノ條ヲ見ヨ) 嬉遊笑覽、六、上「醒睡笑(元和)六「和泉ノ堺市ノ町ニ、金城ト云フ平家ノ下手アリト云フニ、金城ニ、きんいちト假名ヲ付ケタル、云云(誤レリ、城ハ、いちト言ハズ、前ニ[illegible]ケリ)市ノ[illegible]ハ、[illegible]ニアレバ、[illegible]ヲ假リタルカ、[illegible](其[illegible])ニ、凡ソ、[illegible]丸ヨリ官ヲツグ、座頭ノ都トハ如何ニト言ハレテ「三味線ニ、彈イテ殘リシ、四緒(四絃ノ琵琶)ノ、一ハ盲ノ、名ニナリニケリ」

いちなん (名) [一男] (一)ヒトリノ、ヲトコノコ。[illegible]一ニ[illegible]、ニ女[illegible]一ノ男子。男ノ、一番子。長男。[illegible] 江[illegible]、云云、[illegible]後之事「三子アリ、一男爲九郎義乳ト云フ、是ハ先[illegible]ナリ、[illegible]三男[illegible]ト云フ、是ハ[illegible]ナリ」

いぢ-に-かかる (動) い[illegible]はるヲ見ヨ。

いちにち (名) [一日] 一箇月ノ、第一ノ日。ツイタチ。イチジツ。[illegible]、三十六「寶治元年八月一日」[illegible]、文安五年八月一日」 一日祭ト申ス御祭典ハ、毎年一月一日ニ、東京皇居内ノ賢所、皇靈殿、神殿ニテ行ハセラルルヲ申スナリ。

いちにち (名) [一日] (一)ヒトヒ。ヒネモス。朝ヨリタマデノ間。終日。太[illegible]式「前一日、少納言奏[illegible]」[illegible]、五十三、[illegible]「一日ノ出家ノ功徳ハ、[illegible]ナケレバ」 副詞ノ如ク用キラル。「一日、遊ビクラス」「一日、働イタ」(二)(朝ヨリ、翌日ノ朝マデノ間。ヒネモス、ヨスガラ。一日一夜。一晝夜。孟子、告子、上「孟子曰、雖レ有二天下易レ生之物一也、一日暴レ之、十日寒レ之、未レ有二能生者一也」集註「暴、温也」源、三十九、御法「一にち一やニテモ、齋ムコトノシルシコソハ、空シカラズ侍ルナレド」河海抄、[illegible]「一日一夜、[illegible]持八[illegible]、俗[illegible](隔守部)いちにちいちや、中[illegible]云、一日一夜、萬死萬生」(三)或日。「一日、或人ノ來タ時ニ」(副詞ノ如シ)

いちにち-おき (名) [一日置] 其日ニ事ヲシテ、翌日ハ措キテ、翌翌日、復、スルコト。隔日。二日おき、五日おき、十日おきナドトモ云フ。一箇月おきナルヲ、ひとつきおきト云フ。隔月。一箇年ナルヲ、いちねんおきト云フ。隔年。二年おき、三年おき、十年おきナドトモ云フ。

いちにち-かはり (名) [一日替] 一日置ニ、代ハリ合フコト。隔日交替。「[illegible]、一日かはりニ宿直スル」

いちにち-さい (名) [一日祭] いちにち(一日)ノ條ヲ見ヨ。

いちにち-ばれ (名) [一日晴] [illegible]ハ、[illegible]ニ對スル語、(其[illegible]ヲ見ヨ) 職原抄、下、職人所「下[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]下[illegible]之[illegible]、[illegible]之[illegible]ノ[illegible]、はれ着)」(二)儀式ノ服裝ナドニ、其日限リ、[illegible]ニ、異常ニ[illegible]コト。[illegible]、十二條亭行幸次第、寛永三年九月六日「凡供奉公卿以下、[illegible]、一日晴[illegible]也、[illegible]式トハ[illegible]ナリ、[illegible]」(二)轉ジテ、其日、其時限リ、一日晴[illegible]ニ[illegible]モノ。[illegible]三[illegible]、[illegible]之器[illegible]」(白木ノ檜作リナドニテ、かけながしニシタルナラム、かけばんノ條ヲ見ヨ) (三)轉ジテ、物ノ、尋常ニ變ハリタルモノ。[illegible]、[illegible]レハ、[illegible]ニテ、又[illegible]ナト、アナガチ[illegible]ルヽ事ナシ、云云、一日晴ト用ヒテ、尋常ニ變ハリ侍ルナリ」

いちにち-びゃくしゅ (名) [一日百首] 詩歌ナド、一日ノ中ニ、百首作ルコト。

いちにち-へんし (名) [一日片時] ヒトヒ、カタトキ。心中二枚繪草紙(寶永、近松作)血死[illegible]道行「[illegible]メテ、一日片時ナリトモ、[illegible]ノ[illegible]ト生セント」「一日片時モ忘レズ」

いちに-も-およばず (句) [不及一二] [一ッ二ット分ケテ書クコトヲセズノ意。手紙ノ文ノ末ニ記ス詞。[illegible]ニ[illegible]ト同ジ。不一、不備、不具、匆匆ナド記スト、同ジ。庭訓往來(元弘)「萬事期[illegible]念之際、不レ及二一二一、[illegible]、[illegible]月六日」

いちに-の-はし (名) [一二橋] いちのは

しノ(一)ヲ見ヨ。

いち-にん　(名)　【一人】　右大臣ノ異稱。有職小說、中、官爵「本朝ノ諺ニ、天子ヲ一人、太子ヲ一人、關白ヲ一所、相國ヲ一人、左府ヲ一上、右府ヲ一人ト云、醍醐帝ノ御宇ヨリ起レリトゾ」

いち-にん　(名)　【一任】　(一)一切ノ任務。漢書、王吉傳「吉、上疏諫二昌邑王一曰、大王孑レ臨則子也、孑レ位則臣也、一身而二任之責加焉」　(二)一切ノ事ヲ、打任スルコト。宋史、仁宗紀「詔二館閣官一須レ親レ民一任こ」

いち-にん　(名)　【一任】　古ヘ、地方官ノ、一定ノ任期。國司ノ一任ハ、奈良朝以前ハ、六年ナリキ、其後、度度、變更セラレシガ、類聚三代格、五、太政官謹奏、承和二年七月三日ニ、一任ハ、四年ト一定セラレタリ。但シ、太宰府、陸奧、出羽ハ、五年トセラレヌ。(國司、地頭ノ條ヲ見ヨ)　雜式「凡、國司一任之內、不レ得三所部交關一、但聽レ買二衣食一」

いちにん-しょう　(名)　【一人稱】　文典上、自稱ノ代名詞ノ名。名義抄、二「吾、ワレ、オノレ」同、九「我、ワレ、ワガ、余、ワレ」字類抄、和、人事「我、ワレ、卬、吾、言、朕、台、儂、卬、予、余(已上同)」書言字考節用集、四、人倫「朕、儂、我、吾」

いちにん-たうせん　(句)　【一人當千】　〔千ト云フモ、唯、多人數ノコトナリ〕　一人ノ勇力ヲ以テ、敵、千人ニ當ル。一騎當千トモ云フ。涅槃經「人下有二大力士一、其力當レ千、無下用能降二伏之一者上、其故、此人稱二一人當千一」　皇極紀、二年十一月「軍中之人、相謂之曰、一人當千、謂二三成一歟」(三成ハ、奴ノ名)　平家物語、九、木曾最後事「巴、云云、弓矢、打物取テハ、云云、一人當千ノ兵ナリ」太平記、五、大塔宮熊野落事「其勢僅ニ三十二人、是皆、一騎當千ノ兵トハイヘドモ、敵、五百餘騎ニ打合ヒテ、戰フベキヤウナカリケリ」　粮井家日記、六、久下城兵出張事「淺多野主水秀範ヲ大將トシテ、云云、七千餘騎ニテ候、何レモ金鐵ノ勇士ニテ、云云、一騎當千ノ人人ニテ候」(古事類苑、兵事部、四百十五)

いちにん-まへ　(名)　【一人前】　〔一人前ノ膳部ナド云フガ、原ナルベシ、まへ(前)ノ條ヲ見ヨ〕　(一)人、一人ニ充テタル分。「一人前ノ膳部」一人前ノ仕事」　(二)大人ニナレルコト。成人トナリタルコト。「成長シテ、一人前トナル」　(三)藝術ナド、習ヒ得テ、人並トナレルコト。俚言集覽、一人前「諸藝術等ノ、一人分練習シタルモノヲ云フ」

いちにん-やく　(名)　【一人役】　一人分ノ課役。(半役ニ對ス)　長曾我部元親式目「諸侍之役之事、銀役ニ定、但物成米五十石ニ付テ、壹人役也」

いちにん-りき　(名)　【一人力】　三人張ノ條ヲ見ヨ。

いち-によ　(名)　【一如】　〔眞如ノ條ヲ見ヨ〕　佛教ニ、眞如ノ理ヲ云フ語。不二、不異トモ云フ、眞如ニハ、自他ト云フコト無ク、平等、無差ナリト云フナリ。首楞嚴三昧經「魔界如、佛界如、一如無二如一云云」　參考盛衰記、九、宰相申二預丹波少將一事、聖道ノ修行「聖、元ヨリ二ナシ、自身ノ外ニ、佛ヲ求ムベカラズ、邪、正、自ラ一如ナリ」

いち-ねん　(名)　【一年】　〔漢書、董仲舒傳「春秋謂二一、元之意、師古曰、隱公始卽レ位、何不レ稱二一年一、而言二元年一也」〕　天子ノ御卽位、又ハ、改元ノ第一年。元年ト云フニ同ジ。元史、亦黑迷失傳「至元一年、入備二宿衞一」　同、百官志「至大一年、始置二諸物庫一」　法隆寺金堂、釋迦佛造像記「法興元世、一年、歲次辛巳、十二月、鬼前大后崩二(法興元世ハ、年號ニアラズ、辛巳ハ、推古天皇二十九年ニテ、鬼前太后ハ、厩戶皇子ノ妃ヲ申ス、皇子ハ、蘇我氏ト謀リテ、佛法ヲ興隆セラル、當時、蘇我氏ハ、大和ノ飛鳥ノ地ニ、法興寺(後ニ元興寺トナル)ヲ建ツ、ココニ法興元世ト云ヘルハ、語ニ據アルカ)

いち-ねん　(名)　【一年】　ヒトトセ。一箇年。臨時祭式「後第一年、更入朝、奏二神壽詞一」

いち-ねん　(名)　【一念】　(一)物事ニ對シテ、心ニ強ク起ル意旨。參同契、註「精勤不レ退、一念通レ天」　(二)專ラ、佛力ヲ信ズル一念。無量壽如來會(阿彌陀如來)「聞二無量壽如來名號一、能發二一念淨信一、歡喜愛樂」　往生禮讚「乘レ華一念至二佛國一、直入二彌陀大會中一」　太平記、十三、藤房卿遁世事「百年ノ榮耀ハ風前ノ塵、一念ノ發心ハ命後ノ燈ナリ」

いちねん-いうよ　(名)　【一年有餘】　有餘ノ條ノ(一)ヲ見ヨ。

いちねん-おき　(名)　【一年置】　いちにちおきヲ見ヨ。

いちねん-しぐわんへい　(名)　【一年志願兵】　本人ノ志願ニ因リテ、一箇年間、陸軍現役ニ服スル兵。滿十七歲以上、廿八歲以下ニシテ、官立學校、府縣立師範學校、中學校ヲ卒業シ、其他、夫レ夫レノ資格アル者、志願スルコトヲ得。食料、被服、裝具等ハ、自辨スルナリ。現今ハ、幹部候補生トイフ。

いちねん-ぢゆう　(名)　【一年中】　年中ヲ見ヨ。

いち-の-いた　(名)　【一板】　(一)むないた(胸板)ノ異稱。(二)よろひ(鎧)ノ條ヲ見ヨ。保元物語、二、白河殿攻落事「草摺ナラバ、一の板共、二の板共、矢ツボヲタシカニ承ツテ仕ラン」

いち-の-おとど　(名)　【一大臣】　〔おとどヲ見ヨ〕　(一)いちのひとヲ見ヨ。(二)次條ヲ見ヨ。

いち-の-かがみ　(名)　【市鏡】　〔市トハ、支那蜀國ノ成都ノ市街ヲ云フ〕　支那ニテ、夫婦離散スル時、鏡ヲ破リ、各、其半ヲ分チテ逃レ、後ニ、標トシテ再會セリト云フコト。倭訓栞、いちのかがみ「古今詩話ニ、陳ノ徐德言、國ノ破レシ時ニ、鏡ヲ破リテ、其妻ト、半ヲ分チ、情緣絕エズバ、成都ニ賣ラムト、正月ノ望日ヲ約シ、後ニ、其妻ヲ得タリシ事ヲ載セヌ」　草庵集(南北朝、頓阿)「年月ヲ、メグリモアハデ、移リユク、市の中ナル、鏡ナラネバ」

いち-の-かみ　(名)　【一上】　〔第一の上ノ義、參議以上ヲ、上ト云フ(上達部ノ、かみ)〕　左大臣ノ異稱。イチノオトド。職原抄、上、太政官「宮中事、一向左大臣統二領之一、故云二一上一、關白之人爲二左大臣一之時、右大臣行二一上事一、是依二關白與奪一也」(與奪トハ、唯、讓ルコトナリ、其條ヲ見ヨ)　徒然草、八十三段「竹林院入道左大臣(公衡公)、云云、一の上ニテ止ミナム、トテ出家シタマヒケリ」

いち-の-かみ　(名)　【市正】　いちのつかさ(市司)ノ(二)ヲ見ヨ。

いち-の-きさき　(名)　【一后】　〔後宮ニテ、第一ノ義〕　くゎうごう(皇后)ニ同ジ。濱松中納言物語、二「一の后ノ父、一大臣」

いち-の-くに　(名)　【一國】　第一ノ、好キ國。縣召ノ除目ノ時ニ、國司ニ任ゼラレタルナドニ云ヘリ。枕草子、九、九十九段、したり顏なるもの「除目ニ、其年ノ一の國得タル人ノ、喜ビナド言ヒテ、イト、カシコウ成リタマヘリナド、人ノ云フ、云云」

いち-の-くらゐ　(名)　【一位】　我國ノ舊算法ニ云ヘル語。今云フ、單位ナリ、其條ヲ見ヨ。俚言集覽、一の位「算法、米穀量數ハ、石ヲ一トシ、金ハ、兩ヲ一トシ、銀ハ、匁ヲ一トシ、度ハ、寸ヲ一トシ、錢ハ、一文ヲ一トシ、永錢ハ、貫ヲ一トス」

いち-の-ざえ　(名)　【一才】　〔才ノ條ヲ見ヨ〕　學ビ得タル技ノ中ノ、第一ナルモノ。

[illegible]、十七、[illegible]えニテ、次ニハ、横笛、琵琶、箏ノ琴ヲナム」[illegible]上ニ「今夜ノ宴ニハ、候フ限リノ人、一ノオヲ、手ノカギリ尽シマデ、ヒトツヅツ試ミム」

いちのしゃうけい (名) 一上卿 しゃうけいヲ見ヨ。

いちのぜん (名) 一膳 (膳、并ニ、一ノ御臺ヲ見ヨ) [illegible]ニ出ス、第一ノ食膳。中央ノ座前ニ供ス、本膳トモ云フ。二の膳、三の膳等モアリ、本膳ノ周圍ニ出ス。(身分アル人ニ供スルニ云フ) 甲陽軍鑑、十六、品第四十四「[illegible]、七五三也、云云、[illegible]、[illegible]、御汁[illegible]、[illegible]、御香之物、[illegible]、云云、御二の膳、云云、御三の膳、云云」

いちのたい (名) 一對 對屋ヲ見ヨ。

いちのだいじん (名) 一大臣 左大臣ノ異稱。イチノオトド。

いちのつかさ (名) 市司 (市ハ、市街ノ事ナリ、市ノ條ヲ見ヨ)(一)京ノ市街ノ事ヲ掌ル官衙。市ハ、東西ニ二分セラレテ、東市、西市ト云フ。孝徳紀、大化二年三月「[illegible]市司、要路津濟渡子之調賦」扶桑略記、五、文武、大寶三年「是歲、立東西市」萬葉集、三「[illegible]東市ノ、殖木ノ、木垂ルマデ、逢ハズ久シミ、宜戀ヒニケリ」同、七「西ノ市ニ、タダ獨出デテ、目並ベズ、買ヘリシ絹ノ、商[illegible]カモ」(以上、二首ノ歌ナルハ、平城ノ京ノ東西市ナリ、めならぶハ、目利スルナリ、あき[illegible]ハ、[illegible]、ヒソコナヒナリ、各條ヲ見ヨ) 延喜[illegible]、十三、[illegible]、延暦十三年七月「遷二東西市於新京一」(平安京) (二)山城國、平安ノ京ニ、東市司、西市司ヲ立テラレ、其長官ヲ、東市正、西市正ト稱セラレ、左右京職ノ被官タリキ。(然ルニ、西市ハ、後ニ、廢滅シタレバ、ひむがしノ市ヲ[illegible]マスヤウニナレリ、片桐東市正且元ノ如キ、是レナリ、内藏頭モ、うちハ讀マズ) [illegible]五三「東市司、必奈加之乃以知乃官、西市司、爾之乃以知乃豆加佐」下學集(文安)上、官位門「市 正、市令」

いちのて (名) 一手 次條ヲ見ヨ。

いちのてだて (名) 一手段 「手段ヲ見ヨ、いちのてト云フハ、下畧(動詞、ちう」)第一ノ計略。下略シテ、一手トモ。上計。[illegible](足利尊氏ノ戰記)上「凡ソ敵ノ大勢ニ向フ時ニ、御方小勢ニテ、川ヲ後ニアテテ戰フ時ニコソ、退クマジキ議ニ、身ヲ[illegible]、舟ヲ切ルコソ、[illegible]略ノ一の手だてナレ」(是レハ、陷止マル手段ナリ) [illegible]、にぐ迄ノ字ヲ[illegible]メリ、云云、[illegible]ニ、にぐるが一の手ト云フハ、齊王敬則ガ、檀公三十六策、走是上計ト云ヘル、是レナリ」[illegible]「三十六計、走爲上計」(以上、二條ハ、逃グル手段)

いちのどう (名) 一胴 ためしぎりノ條ヲ見ヨ。

いちのところ (名) 一所 いちのひとノ條ヲ見ヨ。

いちのないし (名) 一内侍 こうたうのないしヲ見ヨ。

いちのはし (名) 一橋 (一ニ道ヲ横切リテ數箇流ルル川ニ、架ケタル第一ノ橋。二の橋、三の橋等アリ。因リテ、一二の橋ナドト云フ。枕草子、七、六十八段「上ノ御社ノ一の橋」(山城國、上賀茂神社) 京都ノ加茂川ノ東ノ大和大路ニモ、一の橋、二の橋、三の橋等アリ。保元物語、一、官軍方方手分の事「[illegible]、大和路ヲ南ヘ發向スルニ、法性寺ノ一のはしノ邊ニテ、馬上十騎バカリ、云云、都ヘ打テゾ上リケル」(法性寺ハ、[illegible]寺トナレリ、唯、地名ニ存ス) [illegible]、三十五、[illegible]渡二宇治河一事「大勢、河(宇治川)ヲ渡リヌレバ、千騎、二千騎、云云、法性寺ノ一二の橋ヨリ入ルモアリ」梅花無盡藏(文明)一「[illegible]日山東福寺前、有二一橋、二橋、三[illegible]ノ川ノ處處ニ、間ヲオキテ、横切リテ架スル橋ヲ、一の橋、二の橋ナドト云フ。江戸(東京)本所ノ竪川ハ、西ノ隅田川(大川)ヨリ、東ノ中川ニ至ル五十町、其間、五箇ノ架橋アリ、西ヨリ第一ノモノヲ、一の橋ト云フ、(一目)東ヘ數ヘテ、五の橋(五目)ニ終ハル。[illegible]「[illegible]トトギス、一二のはしノ、[illegible]」

いちのひと (名) 一人 (一上、一所ノ別稱アリ、一トハ、第一ナリ、一上トハ、第一ノ上座ナリ、一座ノ宣旨、又ハ、一上ノ宣旨ヲ蒙ルト云フハ、[illegible]チ、第一ノ上座ニ着クベク命ゼラルルナリ、一所トハ、第一ノ居所ヲ云フ)攝政、關白ノ人ノ異稱。一上トモ、一所トモ云フ、攝關ノ人ハ、一座ノ宣旨、又、一上宣旨(宣旨ノ條ヲ見ヨ)ヲ蒙リテ、官次ニ拘ハラズ、スベテ百僚ノ上座ニ居ルナリ。又、一大臣ト云フモ、左大臣ナラム。台記、久安三年三月九日、[illegible]「天養二年正月十六日、[illegible]一上宣旨、[illegible]」[illegible]抄、上、太政官「左大臣 官中事、一向左大臣[illegible]之、故云二一上一、關白之人爲二左大臣一之時、右大臣行二一上事一、是依二關白與奪一也」(與奪トハ、唯、讓ルコトナリ、其條ヲ見ヨ) 同「[illegible]」枕草子、五、四十七段、めでたきもの「一の人ノ御歩行、春日詣、葡萄染ノ織物、スベテ紫ナルハ、何モ何モ、メデタクコソアレ」(歩行ト云フハ、外出ノコトナルベシ) 榮花物語、二、花山「關白殿ノ姫君、内ニ參ラセ奉リタマフ、世ノ一の所ニオハシマセバ、イミジウメデタキウチニ」同、三十六、根合「メデタク、世ノカタメト爲ラセタマフベキ一の人[illegible]」[illegible]言物語、一「一ノ后ノ父、一の大臣」

いちのふで (名) 一筆 (一)軍陣ニ、一[illegible]モノ、[illegible]、同族[illegible]ヲバ、[illegible]小平太[illegible]ル、其日ノ高名ノ一ノ[illegible]永)一、[illegible]、上「一の筆ニ、[illegible]セム者ナ[illegible]」(コレハ、唯、此植物ノ地上莖ノ形ノ、東ノ筆ニ似タルニ寄セテ云ヘルノミ、美稱ニ過ギタリ、此語、食フベシ、サレド、美味ト云フベキニアラズ) (二)年頭ノ書初。[illegible]三十文字アマリ、一の筆」(三十一文字ノ和歌)

いちのまつ (名) 一松 [illegible]ニ指ヒテ植エ列ネタル三株ノ小松ノ中ノ、最モ舞臺ニ近キモノ。又、[illegible]、此松ニ當ル處。[illegible]

いちのまひ (名) 一舞 舞ノ内ニテ、最初ニ舞フモノ。枕草子、七、六十八段、賀茂臨時祭[illegible]ノ舞、イトウルハシク、袖ヲ合ハセテ二人、走リ出テ、[illegible]」[illegible]「舞人ニハ、誰レ誰レ、ソレゾレノ君ダチナド數ヘテ、一のまひハ、コノ關白殿ノ君ニコソハ、舞ハセタマヒシカ」

いちのみこ (名) 一御子 第一ニ生レタマヘル皇子。一の宮。二の御子、三の宮モアリ、[illegible]「一の宮コソハ、ソレゾ、サラニ、タダノ人トハ見エタマハズ」源、一、桐壺「一のみこハ、右大臣ノ女御ノ御腹ニテ、[illegible]、疑ヒナキ[illegible]ヅキ聞ユレド」[illegible]抄「一のみこハ、朱雀院ナリ」枕草子、五、四十五段、めでたきもの「今上ノ一の宮」[illegible]、一の御子後深草院、二の御子龜山院ノ事ニ於テハ、一の御子孫、十年ヲ限リニ、打替ヘ打替ヘ、御治世アルヘキ[illegible]」

いちのみだい (名) 一御臺 (臺ハ、臺盤ノ下略。(面 形、假面。庖丁刀、はうちゃ

う)臣下ニテハ、一の膳」第一ニ奉ル御食膳。 雲圖抄(崇德、近衛天皇ノ頃ノ書)「藏人頭爲二陪膳一、先取二御臺一居二御箸一雙一進出」

いちのみや (名) 一宮 (一)〔前前條ヲ見ヨ。(二)諸國ノ神社ニ、一の宮、二の宮、三の宮等ノ稱アリ、(相摸國ニハ、一、二、三、四、五アリ)社ノ等級ナリト思ハル、卽チ、國ノ一の宮ハ、一國中ノ總鎭守ナルベシ、然ルニ、一郡内ノ一の宮ト云フモアリ、又、神社ト神社ト稱ヲ爭ヒシモアリ、詳ナルコトハ知ル能ハズ。古事類苑、神祇部、八、社格ノ解題ニ「一宮、二宮、云云、此稱ノ、明ラカニ書冊ニ見エタルハ、今昔物語ニ、周防國ノ一宮ヲ擧ゲタルヲ以テ始トス、事ハ、一條天皇長德年間ニアリ、云云」山城國、賀茂神社、攝津國、住吉神社、備前國、津高郡、吉備津神社、武藏國、北足立郡、氷川神社、陸前國、宮城郡、鹽竈神社ナド、今ノ世ニモ聞エタル一の宮ナリ。 金葉集(白河院、大治)十、雜、下、能因法師、伊豫國ニアリ、大ニ旱ス「守、(範國)能因、歌詠ミテ、一宮ニマヰラセテ雨祈レ、ト申シケレバ、云云」(歌ヨミテ、大雨降レリ、同國、宇知郡、三島神社ナルベシ) 吾妻鏡、二、養和二年(壽永元年)八月十三日、御馬「被レ奉レ于二鶴岳宮、當國一宮二」(鎌倉) 同、十二、建久三年八月九日「御臺所御產氣、云云、相摸國神社佛寺奉二神馬一、一宮、河勾大明神、云云、三宮、冠大明神、云云、四宮、前取大明神」新編、相摸風土記、四十八、大住郡、平塚、八幡社「當社ハ、當國第五の宮」

いちのもの (名) 一物 ひとつのものノ誤。其條ヲ見ヨ

いちのや (名) 一矢 〔はやハ、端矢ナルカ〕矢二本ヲ一手ト云ヒ、其第一ニ射出ス矢。甲矢。第二ナルヲ、二の矢、又、乙矢ト云フ。 左兵衛府式「歩射、四十六歩、十箭中レ的、四巳上者爲二及第一、若一箭不レ中レ皮者、以二二的一准折」 保元物語、二、義朝白河殿夜討事「爲朝、云云、一の矢ヲバ射サセンズ、二の矢ヲ番ハム所ヲ射落サンズ」 盛衰記、二十、工藤介自害事「佐殿、安カラズ思ヒタマヒケレバ、唯、一人留リテ、一の矢番ヘテ射タマヘバ、荻野ガ弓手ノ草摺ニ、縫フヤウニ射込マレタリ」 宇津保物語、初秋三十「大鳥ノ、羽ヤ片羽ニ、ナリヌラム、今ハおとやニ、霜ノ降ルラム」(不具ニカケタリ) 著聞集、九、弓箭「はやヲ射ルニ、云云、おとやニテ、又、後ノ串ヲ射テケリ」

いちのゐん (名) 一院 ゐん(院、上皇)ノ條ヲ見ヨ。

いちば (名) 市場 いち(市)ノ(四)ヲ見ヨ。 拾遺集、十九、雜戀「スゴロクノ、いちばニタテル、人妻ノ、逢ハデヤミナン、モノニヤハアラヌ」

いちばい (名) 一倍 倍ト言フニ同ジ。其條ヲ見ヨ。

いちばい (副) 一倍 他ヲ越エテ。一段。一層 天神記(正德、近松作)三「ソレデハ、酒モ一倍ウマイ」「人一倍働ク」

いちはち (名) 次條ヲ見ヨ。

いちはつ (名) 鳶尾草 〔倭訓栞、後編、いちはつ「鳶尾草也、最初ノ義、此花ノ種類、最多シ、ソレガ中ニ、早ク花咲クモノ也」(逸ノ條ヲ見ヨ)春末ニ花ヲ開クト云ヘバ、かきつばたノ類ニシテハ、早キ方ナリ、狗猧集、三、夏「千種アレド、先ヅ一はつノ、花野カナ」(古事類苑、鳶尾)いちはちトモ云フハ、當字ニ、一八ト記シテ、ソレヲ音讀シテ、云フナリ、八ノ字ハ、漢音、はつニテ、吳音、はちナリ、論語ノ八佾篇ヲ、はついつト讀ム、(質、しち)鳶尾草ノ語ハ、おやすぐさノ條ヲ見ヨ〕又、いちはち。宿根草ノ名。葉ハ細長クシテ一尺許、劒ノ如クニシテ背ナク、數葉扁列ス、春夏ノ際ニ、葉間ヨリ莖ヲ出スコト一尺バカリ、梢ニ花ヲ開ク、かきつばたニ似テ、大キクシテ、三瓣ナリ、色ハ紫碧ニシテ、紫點アリ。 林逸節用集(明應)草木「一八」 和爾雅(元祿)七、草木「鳶尾」 御湯殿上日記、永祿六年四月九日「飛鳥井ヨリ、一八參ル」 剪花翁傳、二「一八、三月開レ花」(古事類苑、鳶尾)

いちばん (名) 一番 〔正韻「番、遞也」廣韻「更遞也」〕(一)〔ヒトツガヒ。二人ヅツ、又ハ、二人以上ヅツ、一組トナルコト。二番、五番、十番ナドトモ云フ。 大舍人寮式「凡、車駕行幸者、舍人四番、以二三十二人一爲二一番一」 枕草子、七、六十八段、なぞなぞ合「左ノ一番ハ、己レ言ハム、然思ヒタマヘ、ナド頼ムルニ」 源、四十三、竹河「君ダチハ、打チサシタマヘル碁、打チタマフ、云云、三ばんニ、數一ツ勝チタマハムカタニ、花ヲ寄セテム」(櫻ノ賭物) 湖月抄「三番ニ、二番勝チタルナリ」 八雲御抄、一、歌合「一番、左可レ然人得レ之」(二)轉ジテ、能樂、謠曲、歌舞伎狂言ナドノ一曲。(衆人、番ヒテスル意ナルベシ)「羽衣一番」道成寺一番」(三)物事ノ順序、先後ヲ云フ語。(前後、相番フ意ナルベシ)一番、二番、五番、十番ナド次第ス。(次條ヲ見ヨ) 大學寮式、釋奠、三牲「其貢進之次、以二左近一爲二一番一」 宇治拾遺、一、第三條「奥ノ座ノ三番ニ居タル鬼」 甲陽軍鑑、十二、品第三十九、城ヲ乘取タル時「堀淺ク狹ク、無堅固ナル所ヲ、早ク乘タル人ヲ、一番ノ手柄ト云フ」「一番備、二番備、三番備」一番槍、二番槍」一番弟子、二番弟子」一番鷄、二番鷄」(各條ヲ見ヨ) (四)一度。 俚言集覽、一番「小說語、猶二一次ハヒトタビ」一番勝負ト云フ語ハ、二度トセヌ意ニ云フガ如シ。

いちばん (副) 一番 「前條ノ(三)ヲ見ヨ」(一)逸先ニ。サイサキニ。 太平記、六、赤坂合戰事「明日ノ合戰ニ、先駈シテ、一番ニ討死シテ、其名ヲ末代ニ殘サムト存ズル」 (二)最モ。第一ニ。「此仕事ガ、一番ムヅカシイ」是レハ一番美事ナモノ」

いちばんがけ (名) 一番駈 いちぢん(一陣)ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。

いちばんがひ (名) 一番貝 軍陣ニ、最初ニ吹ク陣貝ノ音。 太閤記、九、秀吉依二池田父子討死一出馬事「秀吉卿、急ギ貝ヲ立テヨ、云云、鞭二汗馬一急ギタマフ、一番貝ニ、先勢、ハヤ出デシカバ、御馬印ノ瓢ヲ、庭前ニ押立テタマヘリ」

いちばんからかさ (名) 一番傘 第一ノ大形ノ傘。 著聞集、十六、興言利口「一番からかさバカリナル物、落チキツレバ、云云、逃ゲテ參リタル」

いちばんぐさ (名) 一番草 〔草ハ、草ヲ取ノ略〕稻田ノ早稻ノ間ニ生フル雜草ヲ、最初ニ取除クコト。次次ナルヲ、二番草、三番草ナド云フ。 除草ハ、四五回行フベキモノ、何レモ、稻ノ穗ヲ出サヌ前ニスルナリ。

いちばんくび (名) 一番首 合戰ニテ、最初ニ取リタル、敵ノ首。 房總治亂記「今日、萬喜方ヘ討捕ル首九十三級、火子坂ニテ實撿ス、一番首ハ東平源五郎也、時ニ、十七歳」 增補、筒井家記、天正五年和州片岡城没落「細川與市郎十五歳、頓五郎十四歳ノ初陣ニ、一番首ヲ得タリ、信長公感レ之、兩人ニ感書ヲ賜フ」 武敎全書(明曆、山鹿高祐)一、撰功、一番首之事「是ハ、追首印ノ内ニ、一二ヲ改メ知ルベキ爲也」

いちばんご (名) 一番子 一番ニ生レタル子。長男。ソウリャウ。二番子、三番子モ云フ。 長子 俚言集覽「一番子、誰身の上(明曆)三「樂シキ庄屋殿、一番子ヲ一人設ケ」鳥ノ雛ヲ、一番子、二番子、三番子ト云フ」 小町踊(寛文)春、上「立春ノ、日ヤいざなぎノ、一番子」(日神ヲ申シ奉レルカ)

いちばんせうぶ (名) 一番勝負 いちばん(名詞ノ)ノ條ノ(四)ヲ見ヨ。

いちばんぞなへ (名) 一番備 次次條ヲ

見ヨ。

いちばん-だいこ (名) 一番太鼓 往時、江戸ノ歌舞伎芝居ニテ、顔見世狂言ノ興行アリシ時、其初日(陰暦、十一月朔日)ノ曉ノ八時(午前二時)ニ、一番ニ打ツ大鼓ノ音。又、時ヲオキテ打ツヲ、二番太鼓ト云ヒキ。(一番鷄ノ條ヲ併セ見ヨ) 貴久屋壽々免、顔見世狂言「八ツ時ニ一番太鼓打込ミ、二番太鼓打テ、吉例ノ三番叟始マル」

いちばん-て (名) 一番手 (て(隊)ノ條ヲ見ヨ) 戰場ニテ、最先ニ立ツ軍勢。又、一番備。一陣。先陣。先鋒。又、二番手、三番手、二番備アリ。 玉海、壽永三年(元暦元年)正月二十日、木曾義仲「於[illegible]被伐取了、云云、東軍一番手九郎、(軍兵かち渡羅平三、云云」(近江國、瀬津、源九郎義經、梶原平三景時) 根井家日記、三、桂川合戰、明智ガ宗徒ノ明智次郎右衞門、同左馬助、云云、等ハ、一番備ニ居申シ候、日向守ハ、後陣備ニ控ヘ申シ候」 繪撰清正記、一、肥後國天草合戰「此時ノ一番備ノ大將ハ、加藤善右衞門尉、二番の備ハ、未明ニ出勢シテ、云云」 一話一言(大田南畝)廿七、高田領(越後)淺川百姓騒動「淺川陣屋ヘ、櫛倉ヨリ、三番手マデ罷出デ、白川ヨリモ、壹番、貳番手マデ罷越シ、三番手ハ、領分境マデ相詰メ申候」

いちばん-でし (名) 一番弟子 弟子ノ内ノ、最モ優レタルモノ。高足弟子 高弟

いちばん-どり (名) 一番鷄 鷄ノ、曉ニ、第一ニ鳴ク聲。大抵ハ、明八時(今ノ午前二時)ナリ。時ヲオキテ、又鳴クヲ、二番鷄ト云フ。 [illegible]記([illegible]、合戰部)「扨、陣中ヘ、明十九日(天正十九年十一月)一番鳥ニ打立ツト、申觸レ候ヘトモ、正宗[illegible]候間、先ヘ可働候」(舊仙臺領内ノ葛西一揆ノ時ナリ、此時、政宗ハ、古城ト云フ處ニ居陣シテアリキ」 江戸名所圖會(寛政)二、十「顔見世ヤ、一番太鼓、二番鳥、[illegible]」(顔見世、及、一番太鼓ノ條ヲ見ヨ)

いちばん-のり (名) 一番乘 眞先ニ敵ノ城ニ乘入リテ、陷入ルルコト。 [illegible]書、朝鮮ノ戰[illegible]、八月(慶長二年)十五日ノ夜、[illegible]二百六十九首取リ候[illegible]後藤又兵衞一番乘、[illegible]ケ、城中ニテ、[illegible]ココカシコノ[illegible]申候」

いちばん-やり (名) 一番槍 (槍ノ條ヲ見ヨ) 合戰ニ、眞先ニ、槍ニテ敵陣ニ突入ルコト。天晴ノ功名トセラル。二番槍ナドモアリ。 武功雜記(秀吉、家康時代ノ戰話)上「敵味方、鐵炮競合濟ミ、互ニ大勢守リ合ヒ候フ中ニ、一番ニ進ミ出デテ、鑓ヲ合ハスルヲ、一番鑓ト云フ」 鳴霞小說、上、蜂谷牛之丞ハ、三州土呂[illegible]ノ合戰ニ、一番槍ヲ心掛ケシ所ニ、云云、二番槍ハ、いやナリト、槍ヲ小者ニ渡シ」 駿臺雜話、三、德川家康ノ言「主人ノ怒ヲモ顧ミズ、諫言ヲ入ルル家老ハ、戰場ニテ一番槍ヲスルヨリモ、遙ニマサリタル心バセト云フベシ」

いちはや-し・キ・ケレ・ク・ク (形、二) 逸速 (いち(逸)ノ條ヲ見ヨ) (一)最、速シ。スバシ。疾速 伊勢物語、初段、春日ノ里「其里ニ、イトナマメイタル女、姉妹住ミケリ、云云、男、着タリケル狩衣ノ裾ヲ切リテ、歌ヲ書キテ遣ル、其男、忍摺ノ狩衣ヲナム着タリケル「春日野ノ、若紫ノ、摺衣、しのぶノ亂レ、限リ知ラレズ」昔人ハ、斯いちはやき風流ヲナムシケル」(古今集「陸奥ノ、しのぶもぢずり、誰レ故ニ、亂レソメニシ、我レナラナクニ」) 源、十二、須磨五「今ハ、世ノ中、憚ルベキ身ニモ侍ラネド、いちはやき世ノ、イトオソロシウ侍ルナリ」 (二)嚴シ。烈シ。嚴烈 欽明紀、五年十二月、佐渡島ニ肅愼人據有ス「肅愼人移就瀨波河浦、浦神嚴忌、人不敢近、渴飮其水、死者且半」 宇治拾遺、三、第十四條「鎌田ノ叟、いちはやくオハシマシテ、オノヅカラ、笠ヲモ脱ガズ、馬ノ頭ヲ向ケ、[illegible]ヲ致ス者ヲバ、ヤガテ、タチドコロニ罰セサセオハシマシケレバ」 (三)心、鋭シ。勝氣ナリ。鋭氣 源、七、紅葉賀、后ノ御心、いちはやくテ、カタガタ思シツメタル事トモノ、[illegible] 記、十七、建王孫女佛前事「入道(清盛)ハ、云云、天下ハ、[illegible]事ニモ、[illegible]、いちはやき人ニテ」

いちはや-ぶ・ブル・ブレ・ビ・ビ・ビヨ (自動、上二) [逸速 (いち(逸)ノ條ヲ見ヨ、速ぶるハ、速帶ぶるノ意、(はやめく)祝詞ニ、一ト書ケルハ、當字ナリ、ちはやぶるハ、上略ナルベシ(其條ヲ見ヨ)] 勢ヒ烈シク、荒ブ。チハヤブル。 鎮火祭祝詞「[illegible]イチハヤビタマハジト[illegible]」 [illegible]氏「火ノ神、火結ノ神ニ、荒ビタマハヌヤウニト祭ルナリ」)

いぢ-ば・る (動) いぢをはるヲ見ヨ。

いち-ひ (名) 石櫧 [語原、考ヘズ、いちひがしトモ云フ、(出典ヲ見ヨ)かしハ、櫧ニテ、花ハ、櫧、又ハ、櫟ノ花ニ似テ、實モ、かしノ如クナレバ云フナリ、サレド、櫟ノ字ヲ此樹ニ當ツルハ、アラジ] 又、いちひがし 常綠ノ喬木。幹、直立シテ、高サ三丈ニ及ブ、葉ハ互生シ、長橢圓形ニテ、頂尖リ、緣ニ深鋸齒アリ、花ハ櫧ニ似タリ、實モ、相似テ圓ク、炙リテ食フベシ、材ハ堅密ニシテ、諸器ニ作ル。 萬葉集、十六、長歌「アシビキノ、此片山ニ、二立ツ、伊智比ガ本ニ」 倭名抄、十七、果「櫟子、以知比」 倭訓栞、いちひ、櫧、いちひがし、實ヲ食物ニセシコト、閑居友ニ見エタリ、かしハ、苦櫧ナリ(閑居友ハ、鎌倉時代初期、[illegible]ノ作ト言フ) 俚言集覽、いちひ、いちひがし、云云、石櫧」

いち-び (名) 莔麻 [此幹ニテ火口ヲ製スレバ、打火(燧火)ノ轉ニモアラムカ、(魚、いを。抱く、いだく)此語、眞字書ニ記セルハ、皆、清音ノ比ナリ、[illegible]、いちびハ[illegible]、清音ナル如シ、其條ヲ見ヨ、出典ノ和漢三才圖會ニ、以知比、[illegible]、びハ、後世ノ音ナレド、今、俗ニ從フ] 一年草ノ名。春、種ヲ下ス、成長シテ、高サ六七尺、莖毛、密生ス、葉ハ、互生シ、心臟形ニシテ、頂尖ル、長サ三寸許、實ノ形ハ、石臼ノ十分ノ如シ、圓クシテ、高サ五分許、實サ六七分、頂ハ凹ミテ、褐紋ヲナス、內ニ黑キ種子アリ、莖ヲ水ニ浸シ、外皮ヲ去リ、麻ヲ取ル、白色ニシテ、繩ニ綯ヒ、布ニ織ルベシ、綻綱トシ、帶長ノ經線トシテ、強シ。幹ヲいちびがら、ほくちがらト云ヒ、火口トスルニ、火保チテ消エガタシ。 本草和名、上[illegible] 倭名抄[illegible]、莔麻、俗用市尾字、以知比」 倭訓栞、いちび、莔麻、本草ニ、北人取[illegible]作[illegible]、續[illegible]引火甚速」 重修本草綱目啓蒙(享和)十、莔麻、イチビ「皆ヲ、江戸ニテ、ほくちがらト云フ、白クシテ輕虛ナリ」 俚言集覽、いちび、莔麻「いちびがら、莔麻ノ幹ナリ、[illegible]トシテ、火口ニ用ヰルナリ」

いちひ-がし (名) 樹ノ名、前前條ニ同ジ。

いちび-がら (名) 莔麻幹 前前條ヲ見ヨ

いちび-こ (名) 莓 [いちびこノ語原、詳ナラズ、但シ、莓ハ、此語ヲ中略シタルナルベシ、こハ、子ナラム、物ト云フ意ニ添フル例アリ、犬[illegible]子、[illegible]子ノ如シ、莓ノ條ヲ見ヨ] 莓ニ同ジ。 雄略紀、九年七月「蓬蔂、此云伊致寐姑」 字鏡五十九「覆盆、伊知比古、實似莓」

いち-びと (名) 市人 市ニテ、物ヲ賣ル者。商人。アキンド。女ナルヲ、市女ト

云フ。　倭名抄、二ニ「市人、伊知比止」商人、阿岐比止」　夫木抄、九、夕立「掻キクラシ、思ヒモアヘヌ、夕立ニ、市人騒グ、三輪ノ山本」

〔いちひ-ばばき〕　(名)　｜商麻脛巾｜　商麻ノ皮ヲ裂キテ、編ミ作レル脛巾。上ノ方ハ、絲ニテ編ミツケ、下ノ方ハ、裂キバナシニシテ、總ノ如シ。隨身ナド着ク。　倭名抄、十四、九上「商脛巾、以知比波波岐」(原本ニ、商ノ字ヲ誤記セリ)　西宮記(村上天皇ノ頃)「市比脛巾」左經記、長元元年正月三日「伊知比脛巾」　太平記、十三、藤房卿遁世事「看督長十六人、云云、いちひはばきニ、亂緒ヲ着テ、列ヲヒク」

いちひめ　(名)　｜市姫｜　〔宗像、三女神ノ一、市杵島姫命ヲ祀ルト云フ(橋姫ト云フモアリ)〕　京都ノ東市、西市ヲ守護スル女神。　金光寺縁起「東市屋市姫大明神、三座、延喜十四年五月七日、贈相國冬嗣公、祭二宗像大神子一東西市一、爲二守護神一、因號二市姫一」(古事類苑、京都ノ寺町、市屋ノ金光寺ニアリ)　爲頼集(藤原氏、一條天皇ノ御代頃ノ人、拾遺集ナドノ作者)「今ノ左大辨ノ御子ノ、五十日ニ、大割子ノ蓋ニ、いちひめノ像ナド畫ケルトコロニ「市姫ノ、神ノ齋垣ノ、イカナレヤ、商物ニ、千代ヲ積ムラム」　山槐記、治承三年正月六日、安德天皇御五十日「還レ買二市餅一」註「買レ餅之市社號二市姫一云云、坐二市屋東方一」

いちぶ　(名)　｜一分一步｜　〔分ノ條ヲ見ヨ〕　(一)十分ノ一。「三寸一分」　(二)百分ノ一。「一割一分」　(三)一分金、一分銀ノ各條ヲ見ヨ。(四)田畠ノ一坪ヲ、一步ト云フ。

〔いちぶ〕　(名)　｜史生｜　〔一分ノ義〕　國司ノ官人ナル、史生ノ異稱。國司ニテ、公廨稻ノ剩餘ヲ分割シテ、守、介、判官、主典、史生ノ職俸ニ給スルヨリ起レル語ナリ。出典ヲ見ヨ。　倭名抄、五ニ「職員令云、史生」註「俗二云二當如一賃今、案、官局以上、及、諸國一分、皆謂二之史生一、一分者、蓋俸斷之分法、長官五分、次官四分、判官三分、主典二分、史生一分之義也」　職原抄、上、式部省「每年於二本省一行二諸國一分召一也、一分召者、任二諸國史生一之名也、史生謂二之一分一」　百寮訓要抄(二條良基)式部省「昔ハ、一分めしの除目トテ、此省ニテ、諸國ノ史生ナドヲ任ゼラレシナリ」

いちぶ　(名)　｜一部｜　書籍ノ、ヒトクミ。ヒトソロヒ。二部、五部、十部ナドモ云フ。一册ニテ、一部ト云フモノモアリ。

いちぶ-きん　(名)　｜一分金｜　一分判ヲ見ヨ。　世說、文學、上「得二論衡一部一」

いちぶ-ぎん　(名)　｜一分銀｜　〔一方ト云フハ、方形ナレバナリ〕　銀貨幣、一兩ノ四分ノ一ニ當ル。天保年中、始メテ鑄出シタリト云フ、天保一分銀、安政一分銀ナドアリ、大小アレド、何レモ長方形ナリ。略シテ、一分トノミモ云フ、天保以後、明治以前、漢學者ハ、此貨幣一ツヲ、一方ト云ヒキ。　吹塵錄、十八、天保八年十月廿六日「此度、位最上之銀ヲ以テ、新規、壹分銀吹立被二仰付一候間、右壹分銀四ツヲ以テ、金壹兩之積、云云」(古事類苑)「銀、一分二朱」

いちぶ-しじゅう　(名)　｜一部始終｜　(一)一部ノ書物ノ、卷首ヨリ卷末マデヲ云フ語。｜全編｜　林逸節用集(明應)雜用「一部始終」　俚言集覽、一部始終「一言芳談ニ、學問スベシト云ヘバトテ、一部始終ヲ心得ワタシ、文文、句句、分明ニ存知セムナド云フ志ハ、ユメユメアルベカラズ」　(二)轉ジテ、一事件ノ、始メヨリ終リマデ。　俚言集覽、一五一十的話「小說語、いちぶ始終ノ話」「一部始終ノ物語」

いちふじ-にたか-さん-なすび　(句)　｜一富士二鷹三茄子｜　〔解說、種種アレド、皆附會ナリ、其一二ヲ載ス〕　夢ニ云フ語。駿河國ノ諺ナルベシト云フ、コレヲ夢見ル時ハ、吉瑞ナリトス。　笈埃隨筆(寬政、京都、百井塘雨)二ニ「一富士、云云、駿州ノ名産ノ次第ヲ云フコトナリ、富士ハ更ナリ、富士ヨリ出ヅル鷹ハ、唐揮ニテ、良キナリ、茄子ハ、我國第一ニ早ク出ス、所ノ名産ナレバナリ」(節文、昔ハ、久能山麓ニ產ズル初茄子ハ、幕府ヘ獻ジタリト聞ケリ)　嬉遊笑覽、八、末「世ニ吉キ夢トテ、一富士、云云、駿河ナドノ國ノ諺トハ見エタリ、昔ハ、初茄子、駿河ヨリ出ヅ、云云、古キ諺ニ、夢ト鷹トハ合ハセガラト云フコトアリ、明曆二年板ノ世話盡ニモ出デタリ」(夢合ヲ云フ)　萬葉集、十七、四十七「二上(山)ノ、彼面此面ニ、網刺シテ、吾ガ待ツ多可(鷹)ヲ、伊米(夢)ニ告ゲツモ」(夢ニ鷹、古クモ云ヘリ)

いちぶ-だめし　(名)　｜一分試｜　ためしぎりヲ見ヨ。　丹波與作(寶永、近松作)下「髮頭ヨリ爪先マデ、一分だめしニ試サレテモ」

いちブツ-じょうど　(名)　｜一佛淨土｜　〔一ハ、同一ナリ〕　同ジ佛界淨土。　落窪物語、二「衞門、少納言、一佛淨土ニ生レタルニヤアラムトオボユ」

いちブツ-せかい　(名)　｜一佛世界｜　一佛ノ、利生、化益ヲ下ス所化ノ世界。一佛ノ範圍ノ地域。　大智度論「百億須彌山、百億日月、名曰二三千大千世界一、是名二一佛世界一」

いちぶ-ばん　(名)　｜一分判｜　〔一分金トモ云フ、共ニ、一分判金ノ中略ナルベシ〕　一分金、又、一分トモ云フ。金貨幣、一兩ノ四分ノ一ニ當ルモノ。歷代改鑄シテ、名ニ異稱アリ、慶長一分判、元祿一分判、享保一分判等、尙、多クアリ。　本朝寶貨通用事略「慶長四年、始造二一分判一」(古事類苑)

いちぶ-ぶん　(名)　｜一部分｜　全體ノ中ノコワケ。「百ノ内ノ一部分ヲ取ル」

いちぶん　(名)　｜一分｜　〔其一身ノ分際〕　身ノ面目。　賀古敎信七墓廻(元祿、近松作)二「大事ノ命、若シ過ッテハ、一分立タズ」　俚言集覽、一分「一ぶんト濁リ云フハ、一身ヲ云フ、一分ガ立タヌトモ云フ」

いちぶ-めし　(名)　｜史生召｜　史生ノ條ヲ見ヨ。

いちべつ　(名)　｜一別｜　一度ノワカレ。　杜甫詩「一別星橋夜、三移斗柄春」

いちべつ　(名)　｜一瞥｜　一度、流シ目ニ見ルコト。チラト見ルコト。　范成大、光武廟詩「不レ用二劍鋒一能刜レ石、氷河一瞥已通レ神」

いちぼく　(名)　｜一木｜　〔一本ノ支柱〕　一木、大廈の崩るるを支ふる能はずトハ、國家ノ覆ラムトスル時ハ、一人ノ力ニテ、支持スルコト能ハズト云フ意ナリ。　文中子「大廈將レ顚、非二一木所一レ支」　宋書、袁粲曰、本知二一木不一レ能レ支二大廈之崩一、但以二名義一至レ此、爲二國家一盡二爲レ臣職分一耳」

いちまい　(名)　｜一枚｜　〔正字通「物數枚、謂二之个一、凡數二物幾个一曰二幾枚一」又、个也、書經、大禹謨篇「枚二卜功臣一」註「一一トレ之也」〕　(一)一箇。三枚、十枚、百枚。　史記、田完世家「梁王曰、若二寡人國一小也、尙、有二徑寸之珠、照二車前後各十二乘一者、十枚上」　後漢書、東平王蒼傳「今送二列侯印十九枚一」　四時祭式、上「五色木綿一百枚、朸一枚」　太神宮式「玉串一枚、鉇一枚」　(二)專ラ、極メテ薄ク平タキモノニ云フ。三枚、十枚、百枚。｜一片｜　「二枚繪」「一枚看板」「紙十枚」「筵百枚」

いちまい-かんばん　(名)　｜一枚看板｜　〔他ヲ連記セザル意〕　京阪ニテ、歌舞伎芝居ノ看板ニ、演藝脚本ノ一外題ヲ記シテ揭グルモノ。外題看板トモ云フ。此看板中ニ、名題役者ノ名ヲ書入ル、此役者ヲモ、直チニ、一枚看板ト云フ、江戸ニテ、大名題トモ云ヘリ。此看板ニ、四圍

ヲ華美ニ飾リ、上部ヲ庵形(イホリガタ)ニシタルモノ [illegible]
芝居ノ女形ノ評「京デ食ハレヌ赤下手ヲ、一枚かんばんニシテ、今日ハ、上上吉ナドト、評判ニ逢フ」

いちまい-かんばん (名) 一枚號衣 〔武家ニテ、中間(チユウゲン)、小者(コモノ)ナドニ給スル法被(ハツピ)ヲ、かんばん(號衣)ト云ヒキ、其條ヲ見ヨ〕 小者ナンバ、號衣ノ外ニ服ナシ、コレニ起リシ稱ナリ」 所持ノ衣服、唯一枚ニテ、着替(キガヘ)ナキコト。いっちゃうら(一張羅)ノ條ヲ併セ見ヨ。

いちまい-きしゃうもん (名) 一枚起請文 一枚、書キタル起請文。起請トノミモ云フ。三枚起請、七枚起請、百枚起請ナドモアリ、同ジ文言ナリ。(きしゃう(起請)ノ條ヲ見ヨ) [illegible] ル觀念ノ、念ニモアラズ、又、學問ヲシテ、念(念佛ノ [illegible] 生スルゾト、思取テ申ス外ニハ、別ノ子細候ハズ、但シ、三心四修(四修トシタルアリ)ナンド申ス事ノ候フハ、[illegible] ゼバ、二尊ノアハレミニハヅレ、本願ニ漏レ候フベシ、[illegible] 二年正月二十三日、源空御判」(此文ハ、上人入滅ニ [illegible] ベ、現當、空シキ身トナルベシ」

いちまい-ずり (名) 一枚摺 〔[illegible]〕 [illegible] ニ對ス」 紙一枚ニ摺リタル摺物。[illegible] アリ、一枚繪ト云フモ、是レナリ。其條ヲ見ヨ。

いちまい-だて (名) 一枚楯 一枚ノ板ニテ作リタル楯。 [illegible] 二出デ立チテ、態ト白晝ニ京へ入ル」

いちまい-だな (名) 一枚棚 〔棚(タナ)ノ條ヲ見ヨ、一枚棚舟ト云フガ、成語ナルベシ、無棚小舟(ムタナヲブネ)〕 小舟ノ名。舟ノ兩側ノ外板ガ、一枚ノ板ニテ成レルモノ、舟底モ、廣キ一枚ノ板ニテ作ル、吃水(ミヅアシ)淺ク、輕便ニシテ、田舟ニ用キ、淺キ川ニテ、漁業ノ用トモス、稍大キナルヲ、三枚棚ト云フ。 [illegible] モノ、通舟、又、耕作舟ニ用」三枚棚、武備志ニ、三板 [illegible] フヘキヲ、三枚棚ト呼來レリ、是レモ棚なし舟也、云云、[illegible] 二三寸、云云、河海ニテ、耕作舟トス」

いちまい-まぜ (名) 一枚交 鎧ノ札(サネ)ヲ、撓皮ト、鐵ト、一枚ヅツ交(マ)ゼテハギタルモノ。盛衰記、十四、三井寺僉議事「圓滿院太輔ハ、云云、鎧ノ一枚まぜナル、草摺長ニササメカシ、白柄ノ長刀、云ニツキテ」

いちまい-ゑ (名) 一枚繪 〔後ニ、錦繪出デテヨリ、二枚ツヅキ、三枚ツヅキトナル〕 昔時行ハレシ、紙、一枚摺(イチマイズリ)ノ繪。 骨董集(山東京傳)上編、上「板行ノ一枚繪ハ、延寶、天

[illegible] 京傳)一枚繪「他邦ノ名、江戸ヨリ渡ルニハ、江戸繪ト云テ、必ズ是ヲ求ムルコトトナレリ、世俗、コレヲ [illegible] ノ一枚繪ト云フモノヲ、寫セル人アリテ、西内ト云フ紙一枚ホドノ大キサアリテ、多クハ、武者繪ニテ、[illegible] 送リシ文ナリト云フ」

いちまう-だじん (名) 一網打盡 〔一網ニ [illegible] 打チテ、群魚ヲ捕リ盡ス [illegible]〕 一群ノ [illegible] ヲ、悉ク捕ヘテ、罪ニ陷ル。 [illegible]

いちまき (名) 一巻 〔一ハ、殘ラズノ意、一ノ條ヲ見ヨ、いちまけト云フハ、音轉ナリ(いときなし、いとけなし、稚(キヨモノ)き、けもの)〕 (一)一巻ノ書物、書詞ノ、一部始終。 (二)轉ジテ、話ノ顚末。 [illegible] (寶永、近松作)中「平野屋小かんいちまきハ、語ルモ聞クモアハレナリ」(鄙ラ、物語ナリ) (三)更ニ音ヲ轉ジテ、一族親類ヲ、いちまけト云フ。仙臺ニテハ、癩病系ノ一族ヲ、まけト云フ。

いちまけ (名) 一族 前條ノ(三)ヲ見ヨ。

いちまつ (名) 一抹 「[illegible] 抹、[illegible] 也」 [illegible] 是淮流轉處山」

いちまつ (名) 市松 次次條ヲ見ヨ。

いちまつ-がた (名) 市松形 次條ヲ見ヨ。

いちまつ-ぞめ (名) 市松染 又、市松形。

[illegible] 松、好ミテ著シタルナリ」 [illegible] ノ狂言ニ、[illegible] 上下ノ模樣ニ、[illegible] ラルルコトトナリ、文化七八九年ノ頃、又、コノそめ、時行(ハヤ)リタリ」

いちまつ-にんぎゃう (名) 市松人形 〔市松ト云フ孝子ノ姿ヲ作レルモノト云フ、いちまハ、下略ナリ(野呂(ノロ)松人形、のろま人形)〕 小兒ノ玩具。人形ヲ、小サク土燒ニシタルモノ。京阪ニテ、いちま人形。

いちま-にんぎゃう (名) 前條ヲ見ヨ。

いちまんど-の-はらひばこ (名) 一萬度祓箱 〔一萬度トハ、唯、度數ノ多キニ云フ、祓(ハラ)ふ、祓串(ハラヘグシ)、數祓(カズバラヒ)、[illegible] 數ノ條ヲ參見スベシ〕 江戸時代、伊勢神宮ノ御師ガ、歲末每ニ、諸國ノ檀家ニ配リテ、錢ヲ受ケタルモノ。[illegible] シテ、長方形ノ箱ニ入ル、箱ハ白紙ニテ包ミ、一萬度御祓ト [illegible] 江戸市中、[illegible] ドト云ヘリ。 [illegible](享保)七「祓ヲ修スル、云云、

御祓箱ハ、卷數ノ皆リナリ、是レ、祓ノ數取ナリ」（古事類苑） 嬉遊笑覽、七「伊勢御師ガ、檀家ヘ配ル御祓、一萬度ト云フ、云云、彼ノ一萬度の祓箱ニ、幣ヲ立テ、四手ヲ付ケテ、獅子舞ドモ持テアルク」

いちみ (名) 一身一味 〔みハ、身方ノ下略、（一の手段、いちのて）味ハ、當字ナリ〕 同ジ身方。一身同心トモ云フ。同盟 盛衰記、四、涌泉寺喧嘩事（加賀國、白山ノ寺）「若、目代師經（加賀ノ目代）ニ枉ゲラレテ、理訴、非ニ處セラレバ、我寺寺ニ跡ヲトドムベカラズ、ト議定シテ、各、白山權現ノ神前ニシテ、一味ノ起請ヲ書キ、云云」 江濃記「中比、應仁亂ノ時、六角方ハ山名一味、京極方ハ細川一味ニテ、兩家不レ圖ニ、敵味方トナリテ、互ニ彼ヲ亡シテ、近江一國ヲ合ハセテ知行セムトス」 相州兵亂記「二階堂ノ人人、持朝ノ被官、一味同心シテ、大藏ノ御所ヘ攻寄セケル」

いちみ (名) 一味 （一）食味ノ、一樣ナルコト。 杜甫詩「敕廚惟一味」 涅槃經「如來語、一味、猶如二大海水一」（說ク所、多樣ナレド、一ニ歸スルハ、衆河ノ水ノ、海ニ入リテ、同一ノ鹹味トナルガ如シ） （二）漢方醫ノ語。藥種ノ一品。一劑。 林逸節用集、雜用「一束、一把、一味」「甘草一味ヲ加フ」 （三）涼風ノ、一趣味アルコト。 王安石詩「南來一味涼」

いちみ-どうしん (名) 一身同心 前前條ヲ見ヨ。

いちみ-の-あめ (名) 一味雨 〔前前條ノ涅槃經ノ、一味ヨリ移リタルガ如シ〕 國土、草木ノ、遍ク潤フ雨。佛敎ニ、佛ノ平等說ガ、一般ニ流布セルニ譬ヘテ云フ。 法華經、藥草喩品「佛平等說、如二一味雨一」同卷「譬如下大雲雨二一味雨一、諸草木各得中生長上」 後拾遺集、二十、釋敎「モロトモニ、三 車ニ、乘リシカド、我レハいちみの、雨ニ濡レニキ」 謠曲、現在七面「法華經ハ、佛、七十餘歲ニテ、始メテ說カセタマヒシニ、ソヨヤ一味の法の雨、ヒトシク注グ濕ヒニ」

いちみやう (名) 一名 本名ノ外ニ持ツ名。アザナ。又ノ名。一名。異名。別名。 書經、疏「言、帝者、天之一名」

いちむろ-づくり (名) 一室造 うちむろづくりヲ見ヨ。

いちめ (名) 市女 市街ニ住ミテ、物ヲ商フ女。ヒサギメ。販婦 兼盛集、京ノ人ノ家ニ、いちめ來リテ、酒賣ル「なよ竹ノ、末ノよオソキ、ワタラヒハ、市女モ我レモ、變ハラザリケリ」 源廿二、玉葛「都ノ內トイヘドモ、ハカバカシキ人ノ住ミタルワタリニモアラズ、アヤシキいちめ、商人ノ中ニテ、イブセク世ノ中ヲ思ヒツツ」 夫木抄、三十三、布「飾磨ナル、市女ガ持テル、褐布ノ、（如ク）色深クノミ、人ヲ戀ヒツツ」（播磨國、飾磨ノ地） なぐさめぐさ（慶安、松永貞德）近江ノ守山「森ノ陰ノ一村里ニ、市女商人ノ、物サハガシキノミナリ」

いちめい (名) 一名 いちみやうヲ見ヨ。

いちめい (名) 一名 〔名ノ條ヲ見ヨ〕 ヒトリ。一人。二名、五名、十名。「靈官一名」門人五名」

いちめい (名) 一命 一人ノ命。 庭訓往來（元弘）六月十一日「弃二一命一、被レ竭二粉骨合戰一者」

いちめ-がさ (名) 市女笠 〔市女（其條ヲ見ヨ）ノ用キタルニ因リテ名トス、下ノ（二）ヲ見ヨ、然ルニ、貴婦人ノ歩行スルニモ用キラレ、又、雨降ル日ニハ、公卿ノ被ラルルニ至レリ、賤シキ笠ノ變遷モ、甚シ、枕草子、八、七十九段、えせもの の所得る時の事ノ條ニ「雨降ル日ノいちめ笠」トアルハ、えせものモ、貴ク利用セラルルヲ云ヘルナルベシ〕 （一）市女ノ、市ニテ、物ヲ商フ時、被ル笠。實際、市女ノ用キタルモノハ、其製ヲ知ラズ、サレド、大方ハ、下ノ（二）ナルモノト同ジカリシナルベシ。 散木集（俊賴）十、雜、下、市ニ、いちめがさ多カルヲ見テ「市見レバ、いちめがさコソ、黑キモセネ、黄ナル瓜ヲ、賣キナラベタルヲ見テツク」 （二）此笠、貴人ノ用トモナレリ、極メテ薄キ檜ノ剝板ニテ作リ、頂ノ中央ヲ突出セシム、內外面ニ紙ヲ貼レルモノト思ハル、全體、黑漆ニテ塗レリ、笠ノ四緣、廣ク張リ、四端、更ニ彎曲シテ垂ル、コレ、古畫ニ見ユル所ニテ記セルナリ。貴婦人ハ、被衣ヲ被リタル上ニ、此笠ヲカブリテ歩行セリ、又、雨降ル日ニハ、公卿ノ、行幸供奉ノ時ナドニ用キラレタリ。（雨ノ横吹ヲ防ガムタメナルベシ） 西宮記、臨時、四「行幸時、王卿已下、雨具用二市女笠一」同、臨時、五、行幸、京內「雨降者、五位以上、著二市女笠、雨衣一」 小右記、治安三年（後一條天皇年號）五月十三日「女等、以二市女笠一隱レ形、參二功德所一」 平家物語、四、信連合戰事「御髮ヲ亂リ、重ネタル御衣ニ、市女笠ヲゾ召サレケル」（高倉宮ノ南都落、貴婦人ノ裝ヒシタマヘルナリ） 貞丈雜記、八、調度「婦人ノ笠ニ、市女笠ト云フ物アリ、古畫ニ見エシハ、婦人、何レモ、衣ヲカヅキ、被衣ノ上ニ、此笠ヲカブリタル體也、笠深クテ、顏ヲ隱スニ可シ」

いちめん (名) 一面 〔平面ノ意〕 平ナル物ヲ數フルニ云フ語。一面、三面モ云フ。 俚言集覽、一面「神宮寺資財帳、太鼓壹面」 元祿二年外宮正遷宮記「御硯四面」「碁盤一面」將棊盤二面」

いちめん (名) 一面 〔一方面ノ中略（古來稀、古稀）〕 一方ニ同ジ。 史記、留侯世家（張良）「漢王之將、獨、韓信、可下屬二大事一當中一面上」

いちめん (名) 一面 〔一面會ノ略〕 最初ノ面會。一面識ト云フハ、知人トナル意。一面、舊の如しトハ、一面會シテ、舊交ノ如シト云フナリ。 晉書、張華傳「陸機兄弟、志氣高爽、云云、人、洛不レ推二中國人士一、見レ華一面如レ舊、欽二華德範一、如二師資之禮一焉」

いちめん-しき (名) 一面識 前條ヲ見ヨ。

いちめん-に (副) 一面 〔ひとつら（一連）〕 （一）押並めてノ意ヲ云フ語。滿面ニ。 莊子、逍遙遊篇「垂天之雲」釋文「垂、猶レ邊也、其大如二天一面雲一也」「雪、一面ニ降ル」 （二）轉ジテ、打ち連れてノ意トナル。 相州兵亂記「射向ノ袖ヲ差シカザシテ、一面ニ切リムスブ、城中ノ兵ドモ、間宮討タスナ、ウタスナト、聲聲ニ呼ブ」太田源六、同源五郎ナド云フ慓敢ノ者共、一面ニ打ッテカカル」（俚言集覽）

いちもう (名) 一毛 〔毛トハ、毫ヲ省キテ毛トシ、ソレヲ、もうト讀ムナリ〕 （一）秤、又、貨幣ニハ、一厘ノ十分ノ一。「一厘一毛モ、損ハセヌ」 （二）尺度ニモ、一厘ノ十分ノ一。正シクハ、一毫ト云フ。

いちもく (名) 一目 〔二ツアルベキモノナレバ、一目ナリ〕 片目。ガンチ。メッカチ。 梁書、元帝紀「初生患レ眼、高祖自下レ意治レ之、遂盲二一目一、彌如二愍愛一」

いちもく (名) 一目 〔目ニ見ワタス〕 一目ニ見ルコト。一覽。一見。 遼史、楊遵勗傳「簿書塡委、遵勗、一目五行俱行、剖決如レ流」「一目瞭然」吉野山ノ櫻、一目千本」

いちもく (名) 一目 〔目ハ、碁盤ノ上ノ目〕 碁盤ノ石、ヒトツ。一子 運歩色葉集（天文）「一目、碁」 俚言集覽、一目「碁ノ一石ヲ一目ト云フ、毛吹草（寛永）立春、元日「勝初ムル、碁ノ一もくヤ、今日ノ春」

いちもく-おく (句) 置一目 〔圍碁ニ、上手ニ向ヒ、力足ラザレバ、打ツ先ニ、碁盤ノ某ノ所ニ、一石ヲ下シおくナリ（二目モ、三、五目モ置クコトアリ）〕 我レニ優レタル人ニ對シテハ、讓リテ、一段下ニ居ル。讓一歩

いちもくさん (副) 一目参 〔脇目モフラズ、一途ニ目ざして參る意ト思ハル、いっさんハ、中略ナラム、[illegible]〕[illegible]又、いっさんニ。大急ニ走リ行クニ云フ語。[illegible]マシクラニ。[illegible] 横山井(寛文)二「義馬ニ、一目さんヤ、[illegible]ノ一日ニカケタリ」 語彙、いっさん「逸散ノ義ニテ、一スヂニ走ルヲ云フ、[illegible]、見モ返ラズ、一さんニ敵陣ヘ駈入テ」「一目さんニ駈ケダス」

〜いちもち (名) 逸物 次條ヲ見ヨ

いちもつ (名) 逸物 〔一の物ノ義(其條ヲ見ヨ)ヲ、一物ト讀ミタルニハアラジカ、尙、逸ノ條ヲモ見ヨ、もちトモ云フハ、呉音ニ讀ムナリ(質、シツ、ち。一八、いちはち)〕衆ニ勝レテ、拔ケ出デタルモノ。又、いちもち。人、馬、犬、鷹ナドニ云フ。尤物 字類抄「書字、逸物、イチモツ、牛馬也、人也」 宇治拾遺物語、[illegible]ニ右ノ馬[illegible]いちもちヲ選ビ[illegible]」[illegible]、下、「内ノ[illegible]ノ名人、云云、三十人ノ名ドモゴソハ、只今ノ一もちニハ侍ルナレ」今昔物語、廿五、第五語「[illegible]ガ持チタル大葦毛ニコソアルナレ、ソハ極メタル一物トコソ聞ケ」同、廿八、三十七語「アハレ一物ヤ、極ノ乘馬カナ」 毛吹草(寛永)「[illegible]ノ[illegible]モ、敎サネバ捕ラズ」

いちもつ (名) 一物 (一)一個ノモノ。 語彙「いちもつ、ひとつの物ヲ云フナリ、儀式、十「毎レ賜二一物二拍レ手」」(二)ヒトツノ心計。丹波與作(寶永、近松作)中「ドウデ心ニ一物アル、譯ヲ聞カネバ、遣リハセヌ」「腹ニいちもつアリ」

いちもん (名) 一門 ヒトツノカド。一箇所ノ門。 大[illegible]式 [illegible]

いちもん (名) 一門 〔出典ノ大鏡ニ、ひとつかどト云ヘリ、一門ハ、ソレヲ文字ニ書キテ、音讀シタリトモ思ハル、かどトハ、家系ノコトナリ、(其條ヲ見ヨ)正字通「[illegible]、門閥、門地」仙臺藩内ニテハ、門閥ヲ、一門、一家、準一家、一族、[illegible]ナドニ云ヒ、[illegible]、一門ハ、藩主政宗ノ[illegible]ケシ稱ニテ、藩主ノ次三男、兄弟、叔姪ノ家ナリキ〕 同一ノ族。同族。一家。[illegible]ニ云フ。宗族。[illegible] 大鏡、下、道長「入道殿下ノひとつかどバカリコソ、太皇太后宮、皇太后宮、中宮、三所オハシタレ[illegible]」 [illegible]六、小松殿再諫父之事「國郡、半ハ、一門ノ所領トナリ、田園、悉ク、一家ノ進止タリ、是レ希代ノ朝恩ニ候ハズヤ」 平家物語、一、禿童事「平大納言時忠ノ卿、宣ヒケルハ、コノ一もんニアラザラム者ハ、皆、人非人タルベシ、トゾ宣ヒケル」 承久軍物語、五「イカニ高井殿、御邊ハ、同ジ一門ノ中ニテモ、殊更、兄弟ノ睦ビヲナシ申シシニ違ハズ、云云、兼義八十六、高井八十六、刺違ヘテゾ死ニケル」

いちもん (名) 一門 〔一ハ、同一ノ義ナルベシ〕佛家ノ語。師、弟子、相傳フル所ノ法門。同門末。 著聞集、二、釋敎「[illegible]法相、花嚴(共ニ、佛敎宗旨ノ名)ノ法文ヲ修學ス、東坊南第二ノ室ニ住ミケリ、其後、一門ノ僧、相繼テ居住シテ、修學、今ニ絶エズトナム」(大師文、校讎ノ校本ニ據ル)

いちもん (名) 一文 〔文ハ、面ニ鑄出シタル文字ヲ云フ、通俗編ニ「錢曰文者、以其面字言之、而仍不以字數計上也」(錢ノ、一字ノ條ヲ見ヨ)此語、一文錢ト云フガ、成語ナルベシ、下略シテ云フナリ、(南天燭、ふんてん。一文字笠、いちもんじ)一錢ト云フハ、中略ナリ、(一方面、いちめん)錢ノ條ヲ參見セヨ〕 (一)江戶時代、銅鑄ノ穴明錢、一枚ノ稱。一文錢トモ、一錢トモ云ヒ、一千枚ヲ一貫トス、通貨ノ最モ下位ノモノナリキ。[illegible]トモ、[illegible]、一貫[illegible]ナリシコトアリ。(一錢剃ノ條ヲ見ヨ) 水經、註「[illegible]都、父老、人持二百錢一出送、[illegible]」 [illegible]詩「把二一文錢一與二匠人一」文致ノ川柳「一文ノ、[illegible]」 (二)江戶時代、[illegible]ノ、一箇、錢一文ノ價ナリシモノ。一文菓子」(駄菓子)一文風」(小風)一文人形」(土偶) 一文錢ハ、明治以後、絕エタレド、其名ハ、最少ノ意ヲ代表シテ言ハル、「一文ノ値打モナイ」「一文惜シミノ百知ラズ」一文無シ (其條ヲ見ヨ)

いちもんじ (名) 一文字 〔一ト云フ文字ノ如シ、眞一文字トハ、強ク云フナリ〕 (一)横ニ、眞直ナルコト。眞一文字トモ云フ。又、ソノ如キ線ニ云ヒ、ソノ如ク進ムニ云フ。[illegible] 平家物語、九、宇治川事「佐佐木高綱、宇治川早シトイヘドモ、[illegible]トイフ、世一ノ馬ニハ乘リタリケリ、一文字ニ、サット渡シテ、向ヒノ岸ニゾ打上リタル、[illegible]ノ乘リタリケル[illegible](馬ノ名)ハ、川中ヨリ、篦撓形ニ押流サレ、遙ノ下ヨリ打上ゲタリ」(のだめハ、矢ノ曲ヲタメナホス具ナリ、其條ヲ見ヨ)此文ニテ、一文字ト云フ語、分明ニ解セラル。上杉謙信、注進[illegible]「[illegible]、眞一文字ニ乘寄テ」[illegible]名家記、二、高田[illegible]合戰「[illegible]ノ旗本ニ役テ入ラムト、一文字ニ進ミ[illegible]ル」 [illegible]料理大全、鯔川魚小切形「一もんじトハ、オロシテ、尾ノ方ニ、横ニ包丁ヲ立テテ、一文字ニ切ルコトナリ」(古事類苑、一文字) (二)次次條ノ語ノ略。其條ヲ見ヨ。

いちもんじ (名) 一文字 〔横ニ長ク付ケタル意〕 (一)書畫ノ掛物ノ表裝ニ云フ語。中央ノ書畫ノ絹、又ハ、紙ノ上下ニ接シテ、横ニ細ソク付クル綾、錦、金襴ナドヲ云フ。其竪幅ハ、掛物ノ大小ニ因リテ、廣狹アリ、出典ヲ見ヨ。上引首[illegible]一寸九分」和漢[illegible]志ニハ、一文字、上ノ方、幅一寸、下ノ方、幅五分ナドトアリ、[illegible]ナリ。(古事類苑)又、左右ニモ、[illegible]長ク入レテ、上下ノ一文字ニ接セシムルモノアリ、コレヲ一文字[illegible]ト云フ。[illegible]スルコトナリ。(二)歌舞伎芝居ノ舞臺ノ正面ノ上ノ方ニ[illegible]テ[illegible]長キ黑幕ヲ、一文字ト云フ。(掛物ノ一文字ヨリ移リタル語ナルベシ) 造鳥ナド、此幕ノ蔭ニ飛ビ隱ル。

いちもんじがさ (名) 一文字笠 〔眞、平カニシテ、一ト云フ文字ノ形ヲ成ス、一文字トノミ云フハ、下略ナリ(菰莚、薦。)〕 面形、[illegible]」[illegible]ノ一種。其形、圓キ紙ヲ二折ニシテ、折目ヲ上ニシタル如キモノ。單ニ、一文字トモ云フ。此笠ヲ、前下ニカブルヲ、伏編笠ト云フ。 [illegible](天和)「古來ヨリ、コレヲカムル女ノ[illegible]絹、或ハ、[illegible]ノ紐、引通シテカムル、一文字ト云フ」同「役者、古來ハ、一文字笠ヲカムル」骨董集(文化、山東京傳)上編、中、[illegible]「[illegible]笠ヲカブリタルハ、振袖ノ少女也、云云、男子モカブレリ、又、一文字ト云ヘルハ、形ニ因レル名也、前サガリニカヅキテ、面ノ見エザルヤウニスルヲ、スベテ、伏編笠ト云ヘリ」

いちもんじだな (名) 一文字棚 床間ノ脇棚ノ、一枚板ニテ、架ケホシタルモノ。(ちがひ棚ナドニ對ス)

いちもんじまはし (名) 一文字廻 いちもんじ(裱具)ノ條ノ(一)ヲ見ヨ。

いちもんせん (名) 一文錢 〔四文錢、百文錢、當百ナドニ對ス〕 錢ノ、一文ニ當ルモノ。一文ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。

いちもんぞり (名) [一文剃] いっせんぞりヲ見ヨ。

いちもん-なし (句) [無一文] 極メテ貧シキコト。無一文。赤貧 上略シテ、もんなしト云ヒ、遊人ハ、藝者の羽織ナドト、謎ニ云フ。(紋なしノ洒落ナリ)

いちもん-ふ-ち (句) [一文不知] 又、一文不通。目ニ一字モ見知ラズ、書キ得ズ、一字ノ意味ニモ通ゼズ。文盲ナリ。不知一丁字 法然上人ノ一枚起請文(其條ヲ見ヨ)「一文不知ノ愚鈍ノ身ニナシテ、尼入道ノ無智ノ輩ニ同ジ」沙石集、九、上、第四條「中頃、南都ニ、惡僧アリケリ、武勇ノ道ヲノミ好ミテ、一文不通ナリケルガ、云云」紫式部日記「いちト云フ文字ヲダニ、書キワタシ侍ラズ、イト、手約ニ、アサマシク侍リ」

いちもん-ふ-つう (句) [一文不通] 前條ヲ見ヨ。

いちもんめ (名) [一匁] もんめヲ見ヨ。

いちもん-をしみ (名) [惜一文] 一文惜しみの百知らずト云フ諺ハ、小費ヲ惜シミテ、大失費ニ遭ハムニ心ヅカズトノ意。 世話盡(承應、僧、皆虛)「一文まうけの百うしなひ」日本新永代藏(元祿、京ノ俳人、北條團水)四「筆一本ヲコラヘ、棒ノヤウナルヲツカヒ、紙ノ大分要ルコトヲ知ラズ、云云、一文をしみの百知らずト云フコトヲ、ヨクヨク存ズベキ事ナリ」 通俗編「遂子請ニ金齊王ニ以賞レ軍、齊王怒不レ給、及レ戰大敗、云云、此貪レ于ニ小利ニ以失ニ大利ニ者也」

いちや (名) [一夜] ヒトヨ。夜ノ間。 後漢書、第五倫傳「吾兒子常病、一夜十往、退而安寢」「一夜ノ宿ヲ假ル」「一夜白髮」「一夜百首」

いちやう (名) [一樣] 同樣。一般。 唐ノ韋碣、長安春日詩「六宮羅綺同時泊、九陌煙花一樣飛」(故事熟語大辭典)「服裝、皆、一樣ナリ」

イチャウ (名) [鴨脚子|銀杏樹] 〔鴨脚ノ字ノ、支那、宋代ノ音ナリ、現在ノ支那音ハ、廣東ニテ、いちゃお、揚子江北ニテ、やちゃおナリ、鴨ハ、我ガ邦ノ漢音、あふ、呉音、えふナレバ、え、い、や、ノ轉ナリ、此樹ノ實ナル銀杏ヲ、ぎんあんト云フ、即チ、宋音ナリ、脚ヲ、ちゃト云フハ、我國ノ明應年中ニ成レル林逸節用集(饅頭屋本)ノ雜用部ニ「行脚」「アンギャ」ト旁訓セリ、林氏ハ、宋代ニ歸化セル者ノ家ナリ、(沖繩ニテ、脚半)支那、浙江省邊ニテハ、きゃナリト思ハル、鴨脚子ハ、我ガ邦ニ野生ナシ、植物ノ博士、三好學ノ談ニ、巨大ナルモノニテモ、樹齡六七百年ニ過ギズトアリ、七百年前鎌倉時代ニ、禪僧、日本、支那ノ間ニ、頻リニ往復セリ、其頃、支那ハ、宋ノ代ナリ、禪僧ノ、銀杏ヲ携ヘ來リテ、植ヱツケタルニ起レリト思ハル、又、明ノ本草綱目ニ、鴨脚子トアリ、子ノ字無カルベカラズ、子ハ、唯、物、ト云ハムガ如シ、(椅子、册子、銅鉢子)子ヲ略シテハ、唯、蹼ノ義トナル、我ガ邦ニテモ、いちゃうの木ト云ハバ、成語トナルベシ、此樹ヲ、漢名ニ、公孫樹トモ云フ、其條ヲ見ヨ〕 (一)落葉喬木ノ名。支那ノ原產ヲ移植セシモノナリ、巨大ナルハ、幹ノ高サ六七丈、圍ミ二丈ニ及ブモノアリ、梢ニ枝多ク、四出ス、春季ニ葉ヲ生ズ、五六枚叢生ス、形ハ鴨ノ蹼ノ如シ、霜後ニ黃葉シテ美ナリ、春時ニ、叢生ノ葉柄ノ下ニ、淡青小花ヲ開ク、雄花ニ實ナシ、雌花ニハ果實ヲ結ブ、銀杏ト云フ。(其條ヲ見ヨ)樹ノ材ハ、淡黃色、堅實ニシテ、

木理緻密ナレバ、碁盤、其他、諸器ニ造ラレテ美麗ナリ。老樹ニハ、往往、横枝ヨリ、瘤ノ如キモノヲ生ジ、下垂シテ、長短數條、長キハ丈餘ニ及ブモノアリ、鍾乳石ノ垂ルルガ如シ、鴨脚の乳ト云フ、(乳房ト云フナリ)冠辭考、六、ちちのみノ條ニ、相摸國、箱根ノ人ハ、銀杏ヲ、ちちの木ト云フ由ヲ記セリ。 本草綱目(支那、明代)三十「鴨脚子、葉似ニ鴨掌ニ」下學集(文安)下、草木門「銀杏(左訓、ギンキャウ)異名、鴨脚、葉形如ニ鴨脚ニ故、山谷句云、風林收ニ鴨脚ニ」壒囊抄(文安)六、十二條「銀杏」後水尾院年中行事(御製)上、十月亥子餅「高檀紙ニ包ミタル、云云、いちやうト忍トナリ、銀杏ノ葉ニ、申出ス人ノ名ヲ書キテ、包紙ニサシハサムナリ」(延寶八年崩、聖壽、八十五) 好古日錄(寬政、藤原貞幹)慶長勅版神代紀「正保帝ノ下鴨、鴨脚某ヘ恩賜ノ本モ、此印文ナリ」(山城國、下賀茂神社ノ神官ナリ) 此樹名ノ假名遣、語原ハ、元祿時代ニ及ビテ、一葉ノ約、いてふナリトノ說起リテ以後ハ、いてふノ假名、天下ヲ風靡セリ、此樹ヲ、一葉ト云フコト、和漢共ニ、更ニ無シ、(唯、小舟ノ異名トスルノミ)予ガ言海初刊ノ時、滿腹ノ疑ヒアリツレド、當時、眞ノ語原ヲ究メ得ザリシカバ、姑ク世俗用ニ從ヒキ、慚愧ニ堪ヘズ、此語原ハ、予ガ三四十年間、苦心シテ得タルモノナリ。 (二)次次條ノ語ノ下略。(其條ヲ見ヨ) (三)いちゃうだいこんノ下略。(其條ヲ見ヨ)

イチャウ-あし (名) [銀杏脚] 〔蝶脚ト云フハ、いちゃうヲ上略シテ、(抱く、だく。出だす、だす)當字ニ、蝶ト書クナリ、蝶ノ翅ニハ似ズ〕 貴人所用ノ膳ナドノ四脚ヲ、各、末廣ク、先ヲ外ニ反ラシテ作レルモノ、形、銀杏ノ葉ノ如シ。上部ノ食器ヲ置ク所ハ、四面ニ緣アリ、ココヲ朱漆ニシ、他ハスベテ黑漆ナリ、懸盤ノ、一變シタルモノ。一名、蝶脚。

イチャウ-がしら (名) [銀杏頭] 夜郎頭ノ髷ノ刷先ヲ、末廣ク扁クシテ、銀杏ノ葉ノ如クシタルモノ。俠客ナド、結ヒタリ。略シテ、いちゃう。 色道大鏡(延寶、箕山)二「髮ノ結ヒヤウハ、立髮、銀杏がしら、太元結、コレ、六法向キノ陽氣者ノ好ム所ナリ」 武士、若者ノ大いちゃうアリ、相撲いちゃうモ大キシ、商人ノ小いちゃう、女ノいちゃうがへしモアリ。

イチャウ-がへし (名) [銀杏返] 〔かへしト云フハ、髮末ヲ覆し綰ヌル意ニモアラムカ〕 中年增ノ結フ髮風。髻ノ毛末ヲ、左右ニ二ッニ分ケテ、其兩端ヲ半圓形ニ綰ネ出シテ、粗、いちゃうノ葉ノ如シ、(小娘ノ髮風ハ、多クハ、ももわれナリ)サレド今ハ、大イニ變化セシナラム。いちゃうまげト云フ語ヲ聞キシヤウナレド、今ハ見ザルヤウナリ、いちゃうがへしト同趣ノモノカ。

イチャウ-だいこん (名) [銀杏大根] 大根ヲ薄ク輪切ニシ、ソレヲ十文字ニ切リタル一片。形、銀杏ノ葉ニ似タリ。略シテ、いちゃう。「大根ヲいちゃうニ切ッテ」

イチャウ-の-ちち (名) [鴨脚乳] いちゃうノ條ノ(一)ヲ見ヨ。

イチャウ-ば (名) [銀杏羽] をし(鴛鴦)ノ條ヲ見ヨ。

イチャウ-ば (名) [銀杏齒] 下駄ノ齒ノ、形ヲ、末廣ニ作リタルモノ。

イチャウ-まげ (名) [銀杏髷] いちゃうがへしヲ見ヨ。

いちやうらいふく（イチ・ヨウ・ライ・フク） (句) 一陽來復 〔陰[illegible]月ヲ[illegible]陽[illegible]陰ニ[illegible]テ、[illegible]ト[illegible]シ、十一月ヲ[illegible]ノ卦ニ當テテ、一陽來[illegible]復スト云フ[illegible]十一月、冬至ノ日ヲ[illegible]スル[illegible]ニテハ、冬至ハ、大凡十二月ノ廿二日ナリ。

いちやくさう（イチ・ヤク・ソウ） (名) 一藥草 〔[illegible]、後[illegible]、いちやくさう[illegible]一[illegible]草ノ[illegible]、鹿[illegible]也トコヘリ[illegible]武江産物志、[illegible]草[illegible]鹿[illegible]草[illegible]きつかうト云フハ、龜甲ナルカ〕葉、[illegible]圓ニシテ厚ク、龜ノ甲ノ如キ[illegible]アリ[illegible]常[illegible]ノ宿根草。江戸ニテ、きつかうさうトモ云フ、山中陰地ニ生ズ、莖ノ高サ四寸許、葉ハ、對生シテ、徑二寸許、[illegible]圓ニシテ厚ク、深[illegible]アリ、夏、梢ニ花莖ヲ抽ク、高サ七八寸、其梢ニ、枝ニ、六瓣ノ小白花ヲ開ク、花ノ徑、三四分、花、蕊、下ニ向フ。[illegible]「イチヤクサウ、江戸ニテ、キッコウサウ」武江産物志、[illegible]草「道[illegible]、キッカウサウ、大宮ニモ[illegible]」

いちやけんげう（イチ・ヤ・ケン・ギョウ） (名) 一夜撿挍 〔けんげうハ、まうくゎん(盲官)ノ長ナリ、其條ヲ見ヨ〕(一)平盲人モ、金千兩ヲダニ、其筋ニ出セバ、直チニ撿挍ノ職ヲ買ヒ得タリト云フ、其盲人ノ渾名トス。[illegible]

(二)[illegible]

いちやざけ (名) 一夜酒 ヒトヨザケ。一夜醸ノ酒[illegible]

いちやしらが (名) 一夜白髮 甚シク苦心スレバ、一夜ニシテ、[illegible]、白髮トナルトコト[illegible]ヲ、髮ノ白クナルト云フハ、漢光武ノ語ニ、[illegible]シム、一夕ニシテ成ル、鬢髮、悉ク白シトアリ。小町[illegible](寛文)炭「[illegible]トナルヤ、一夜白髮カ、炭[illegible]頭」

いちやずし (名) 一夜鮓 〔元來、鮓ハ、鮓ニアレ、鮎ニアレ、其魚ト飯トヲマゼテ、二三日或ハ四五日間モ[illegible]テ、ナレテ食スルモノナルヲ、一夜ニテ、ナレテ食スルヨリ云フ〕ヒトバンズシ。マチャレズシ。ハヤズシ[illegible]飲食[illegible]「ムカシノ鮓ハ、飯ヲ腐ラシタルモノニテ、ミナ、[illegible]料理物語、一夜ずしノ仕[illegible]、鮎ノ鮓ヲ苞ニ入レ、燒火ニ[illegible]テ、オモシヲ強クカクル、又ハ、柱ニ[illegible]ケテ、シメタルモヨシ、一夜ニテ、ナルルトイヘリ」[illegible]、一夜ずしノ[illegible]、鮎ヲアラヒ、メシヲ[illegible]トニツツミ、庭ニ火ヲタキ、ツトトモニアブリ、ソノ上フ、コモニテ[illegible]マキ、カノ火ヲ[illegible]上ニオキ、オモシヲ強クカケ候、又、柱ニ[illegible]ケ、強クシメタルモヨシ、一夜ニナレ申候[illegible]鮓[illegible]ずし、[illegible]ノ形ニシテ、[illegible]ノ葉ニ包マクナリ」[illegible]本鮓ト云、彦根ノ鮒ノ鮓、尾州ノ鮎ノ鮓ナドハ、魚ト[illegible]テ粟ノ飯ニテ造ル、二三ケ月モカコハルルナリ、コレ[illegible]ニアツラフレニ、[illegible]云ニヨリ、コレヲおちつれずしト云、[illegible]本鮓ハ、直ニ[illegible]、[illegible]

いちやづくり（イチ・ヤ・ズクリ） (名) 一夜造 一夜ノ中ニ造ルコト。[illegible]

いちやづけ（イチ・ヤ・ズケ） (名) 一夜漬 漬物ノ方法。大根、[illegible]、菜ヲ、[illegible]メテ[illegible]ヲ[illegible]桶ヘテ[illegible]ミ、桶ニ入レ、[illegible]シテ、[illegible]ヲ載セ、一夜ニシテ成ル。

いちやづけ（イチ・ヤ・ズケ） (名) 一夜附 〔前條ノ語ヨリ移レル語ナラムカ〕歌舞伎狂言作者ノ語、其時時ノ世ノ出來事ヲ取リ、十日間位ニ、脚色ニ綴リ成スコト。今、急作ノ小說ナドニモ、移シテ云フ。

いちやのまつ (名) 一夜松 せんりのひばい(千里飛梅)ヲ見ヨ。

いちやびやくしゆ (名) 一夜百首 和歌、俳句、又ハ、詩ノ題、百ヲ立テテ、一夜ニ百首ヲ詠ズルコト。一日百首ト云ヘルモアリ[illegible]五十[illegible]年一日[illegible]二年)[illegible]一首[illegible](烏丸光廣)二、慶長四年後三月廿二日「一夜百首ナドモ、稽古ニハ詠ミテ、人ニ見セヌガヨキト、三光院殿仰セラレタリ」[illegible]、一「一夜百首ノ名ハ聖シクナルトモ、歌ニ滿テムトノミ思ハデ、ホドホド[illegible]一夜百首「[illegible]年十七ナリ、云云、秋分ノ日、大[illegible]ラ、筆ニ任セテ詩ヲ賦ス、夜、イマダ半ナラザルニ、

いちゆう (名) 意中 心ノ中。心中。[illegible]

いぢゆう（イ・ジュウ） (名) 移住 (一)他ノ地ニ移リテ住ムコト。杜甫詩、故將、移住南山邊」(二)今ハ、一家族、親族、或ハ、一箇村、數箇村ノ人、[illegible]、北海道、[illegible]、又ハ、外國ニ、住居ヲ移スコトヲモ云フ。

いちゆうのひと (名) 意中人 心ニ思ヒ寄ル人。[illegible]

いちらく (名) 一落 〔一段落ノ略カ〕一段落ノ事、一件[illegible]コノ御所ヘハ戻ラレズ、伯耆守方ヘト心附キ、自ハ内證デ、探ネニ人ヲ遣ハシタ、コノ一落ハ今日ガ日[illegible]

いちらく (名) 一樂 次條、又ハ、次次條ヲ見ヨ。

いちらくあみ (名) 一樂編 [illegible]工人、[illegible]リト云フ、年代、[illegible]一種。いちらくトノミモ云フ。極メテ細ツク[illegible]、精好ニ[illegible]作リ、[illegible]管筒ナドニ、多ク見ル。

いちらくおり (名) 一樂織 〔[illegible]〕合、一樂編ニ似タレバ、名アリト云フ」絹布、[illegible]ルモノ

いぢらしい（イ・ジ・ラ・シイ） (形) 可憐 〔いぢハ、いぢける(萎縮)ノ語根ナルベシ(可愛し、かは

ゆらし)」傷ハシ。カハイサウナリ。小兒ナド、力ナキ狀ニ云フ。

いちらふ (名) 一﨟一臈 「一法臘ノ中略語、僧侶ハ、古來、長幼ノ序ヲ定ムルニ、法臘ヲ以テナストゾ、廣韻二、入聲、盍、臘、臘蜡、盧盍切、﨟、俗こ」佛敎ノ語。一法臘ハ、每年四月十六日ヨリ七月十五日ニ至ル、一夏九旬ノ安居、修道ヲ稱スルナリ。因リテ、年功ヲ積ミタルモノヲ、一臘トハ云フナリ、後世ハ、僧侶ノミニ限ラズ、一般仕官人ノ年功ヲ數フル稱トハナレリ。 撫華鈔「比丘出レ俗、不下以ニ俗年一爲中計、乃數ニ夏臘ニ耳」

いちらふ (名) 一﨟 〔前條ノ佛徒ノ語ヲ、ソノママ、堂堂タル官府ノ職名ニ用キラレシナリ、當時、佛敎ノ熾烈ナリシコト、想像セラル」(一)藏人所ノ首席ノ藏人ノ稱。極﨟トモ云フ。次ニ、二﨟、三﨟等アリ。 侍中群要(延久以後、侍中トハ、藏人ノ唐名)十、分配「臨時事、依ニ貫首、若、一﨟藏人ハ定ニ行之ニ一」雲圖抄(崇德天皇、近衞天皇頃)上、十一月、五節事「一﨟藏人爲ニ行事ハ有ニ故障ニ之時、二三﨟勤レ之」職原抄、下、藏人所「藏人者、不レ依ニ年齒老少ハ以ニ當參次第ニ定ニ上下ハ至レ于ニ極﨟一者、必預ニ巡爵ハ云云、第二﨟、稱ニ之差次ニ」(二)鎌倉幕府ニテ、當番人ノ筆頭ノ稱。 吾妻鏡、六、文治二年四月八日、左衞門尉祐經「歷ニ一﨟上日之職ハ自携ニ歌吹曲ニ」(靜女ガ、鶴岡宮ノ舞ニ、鼓ヲ打チタルナリ) 東鑑要目集成、一、一﨟上日之職「一﨟ハ、當番人ノ筆頭ト云フガ如シ、上日ハ、當ノ番ナリ」 大日本史、列傳、百五十四、伊東祐親傳「祐經、少宿ニ衞京師ハ爲ニ左衞門尉ハ稱ニ工藤一﨟ニ」

いちらん (名) 一覽 ヒトワタリ、見ルコト。一見。 晉書、惠宣傳、「寄有レ聞、人生興ニ憂懼一生、不レ知ニ此語何出ハ宣云、出ニ莊子至樂篇ハ客曰、君言レ不レ讀ニ老莊ハ何由知レ之、宣笑曰、小時嘗一覽」雲圖抄(延久以後)「除目之事「貫首一覽之後、返ニ給藏人ニ」

いちらんばらひてがた (名) 一覽拂手形 手形ノ支拂ノ方法ニ、支拂人ガ、先方ヨリ手形ヲ出サレタル時、一覽シテ、直チニ、手形ト引換ニ、金錢ヲ支拂フモノヲ云フ。

いちらんへう (名) 一覽表 〔へう(表)ノ條ヲ見ヨ(吉野山ノ櫻ノ一目千本)」種種ノ事件ヲ、數字ニ計算ナドシテ、見ワタスベク作リ成シタル表。

いちり (名) 一里 〔正字通「路程以ニ三百六十步一爲レ里」公羊傳、註疏「古、六尺爲レ步、三百步爲レ里」〕(一)路程ニ云フ語。五里、十里、百里、千里ト數フ、里トイフハ、單位ナリ、其内ニハ、町ト云ヒ、間ト云フ、小別アリ、支那ニテ、凡ソ六町ヲ一里トスト云フ、古ヘハ、我ガ邦ニテモ六町ナリキ、然ルニ、後鳥羽天皇、文治年中ニ、三十六町一里、見ユ、其外、諸書ニモ記シタルアリ、其後、六町、三十六町、諸國、區區ナリシガ、下リテ慶長年中、全國、三十六町一里ト公定セラレタリ、今モ然リ。(スベテ下ノ出典ヲ見ヨ) 陸奥國(今、陸前)宮城郡ノ多賀城址ニアル 孝謙天皇、天平寶字六年ニ建テラレタル石碑ニ「去レ京一千五百里」トアリ、此京ハ、大和國、平城ノ都ニテ、六町一里ナリ、三十六町トスレバ、凡ソ二百五十里トナル、舊仙臺藩領、黑川以北ハ、江戶時代ニハ、スベテ六町一里ナリキ、コレヲ小道ト云ヒ、三十六町ヲ大道ト云ヒキ。(今ニテモ老人ナドハ、六町ヲ稱スルナルベシ) 上總國、夷隅郡ノ東北端、大東岬ヨリ、下總國、海上郡、銚子ニ至ル沙濱ヲ、九十九里濱ト云フ、(今ノ路程ニテ、十五里)上總國志ニ、九十九里濱、古道六町ヲ以テ、一里ニ算スルナリ」 相摸國、鎌倉ノ稻村が崎ヨリ、西、腰越ニ至ル沙濱ヲ、七里が濱ト云フ、亦、同ジ。(二)古クヨリ、三十六町ヲ一里トセシハ、次ノ如シ。 東大寺造立供養記ニ、文治二年、周防國ヨリ材木ヲ出シシ事ヲ記シテ「木津至レ海七里」註「三十六町爲ニ一里ニ」(山城國、木津川ヨリ、難波ノ海ニ至ル)(梅園日記(弘化、北靜廬)四、一里町數ノ條ニ據ル) 長門本、平家物語、十二、兵庫島築始事、清盛、經ノ島ヲ築ク「端ヨリ沖へ、一里三十六町出シテゾ、築出シタリケル」(三)一里ノ町數亂レテ、各地ニテ區區トナリシガ、慶長七年德川幕府、全國ニ令シ、改メテ、三十六町ト定メタリ。 地方凡例錄(寬政)六、壹里塚始之事「三拾六町ヲ以テ一里ト定メラル、一步ハ六尺、一段ハ六間、一町ハ六拾間、一里ハ六百間、此坪數、六六ノ數ヲ伸ベテ、三十六町一里ト極リタル由」(一里塚ノ條ヲ見ヨ)

いちり (名) 一理 ヒトツノ道理。「言フトコロ、一理アリ」

いちり (名) 一利 一利を興すは、一害を除くに若ずトハ、世ノ利害ヲ處置スルニ、能ク其方法ヲ計ルベシト云フ意ナリ。 元史、耶律楚材傳「耶律楚材爲レ相、每レ陳ニ民生休戚ハ辭色懇切、太宗嘗曰、汝又欲下爲ニ百姓一哭上耶、楚材每言、興ニ一利一不レ若レ除ニ一害ハ生ニ一事一不レ若レ減ニ一事ハ人以爲ニ名言ニ」

いちりう (名) 一流 (一)技術ノ一派。 漢書、藝文志「儒家流、道家流、陰陽家流、云云、各有レ所ニ從出ニ」 庭訓往來(元弘)十一月「權 侍ニ醫邊ハ讀ニ一流書籍ニ」 辨慶物語(足利時代)「法華經一部讀誦スル、固ヨリ音曲一流、極ハメタレバ、聞クニ心モタヘガタシ」(二)事物ノ一等。 人物志「一流之人、能識ニ一流之善ハ二流之人、能識ニ二流之美ニ」「一流ノ旅館」

いちりう (名) 一旒 〔詩經、商頌「旒」箋「旒旗之垂者也」〕旗ヲ數フル語。 禮記、玉藻篇「天子玉藻、十有二旒」註「天子以ニ五采一爲レ藻ニ」多賀神宮寶財帳「小幡、壹拾旒」

いちりがね (名) 一里鐘 鐘ノ音ノ、一里ノ遠キニ聞ユルニモ云ヒ、又、一撞ノ聲ノ長クシテ、路行ク人ノ一里步ム間、響キ居ルト云フニモ云フ。 俚言集覽、一里鐘「小町踊(寬文)ちらし、春霞八景 道遠キ、寺ヤ霞ノ、一里鐘」江戶名所圖會(文化)三、芝、三緣山增上寺大鐘「一撞ノ間ノヒビキ、尤モ長クシテ、行人、一里ヲ歷ルトテ、諺ニ、一里鐘ト稱ス、云云、安房、上總ヘモ聞ユルトモ云ヘリ」三緣山志(文政)二「鐘、長、一丈、口、指渡、外 法、五尺八寸、口、厚六寸五分、四千貫匁、延寶元年ニ鑄テ成ル」事蹟合考ヲ引キテ、鐘、壓波ル、藏砲御用ノ、井上外記、こたんト云フ金ヲ入レテ鑄ルベシト云フ、鑄立テタルニ、今ニ至リテ少シモ破レズ、何十里モ響クナドトアリ。(節文) 增上寺ノ鐘ハ、山門ノ內、右側ニアリ、每日、八時七分(午後四時前)ニ撞キシナリ、因リテ、七分の鐘トモ云ヘリ。 文政ノ川柳「品川ノ、米福七分、芝ノ鐘」(金錢ニヒビカス、僧徒ノ登樓)

いちりき (名) 一力 己レ一人ノ骨折。獨力 平治物語、三、經宗惟方遠流事「一年、保元ノ亂ニ、親類ヲ離レテ御方ニ參リテ、忠ヲ致シ候ヒキ、去年、一力ヲ以テ凶徒ヲ誅シ仕リ、一命ヲ輕ジテ、君ヲ位ニ卽ケマヰラセ候」(平清盛ガ、後白河院、二條天皇ニ申シアゲタル語)

いちりき (名) 一力 〔りがふめいぢ(離合迷字)ノ條ヲ見ヨ〕万ノ字ヲ分チテ、二字トシテ云フ、謎ノ如キ語。 忠臣藏ノ大星由良之助ガ、京都ノ祇園新地ニテ遊ビタル娼家ヲ、一力亭ト云フハ、万屋ナリ。彼ノ身代ハ、一力以上ダ、ナドト云フハ、一萬兩ト見積リテ云フナリ。

いちりつ (名) 一律 〔十二律ノ一〕(一)同一ノ律。單一ノ調子。 淮南子、說林訓「異レ音者不レ可ニ聽以ニ一律ハ異レ形者不レ可レ合レ於ニ一

[illegible]一律ノ條ヲ見ヨ。

いちり-づか（名）一里塚　古ヘ、國國諸街道ニ、一里毎ニ、道ノ左右ニ設ケル、小高キ塚ノ稱。上ニ樹木ヲ植ウ、等ラ旅人ヲシテ、里數ヲ知ラシメムトテナリ。（善ク出典ヲ見ヨ）里程　此塚、明治以後、諸道共ニ、廢頽セリ、汽車、自動車アレバ、無論ノ事ナリ、サレド、古蹟保存トシテ、處處ニ遺レルモアリ。[illegible]（永祿六年、[illegible]）[illegible]長野業政、卒ニ臨ミ、死セバ、一里塚同ジニ築キコメ、特ニ墓ヲモ立ツヘカラズ（上野國、[illegible]郡ニ、箕輪城ノ跡アリ、長野氏ハ、其城主ナリキ）玄蕃（寛文、太田藤右衛門記）元龜元年、近江國、安土ヨリ京マデ、一里塚ヲ築キ、道ノ邊ニ松ヲ植エ申シ候（織田信長、松ノ並木）武徳編年集成、五十「慶長九年二月四日、台徳公（將軍秀忠）東海、東山、北陸三道ニ、一里塚ヲ築カシメタマフ、天正ニ、織田信長、分國ノ中ニ、一里塚ヲ築カシム、其時マデハ、一里ノ町數定メザリシヲ、三十六町ニ定メ、（里毎ノ一里ノ條ヲ見ヨ）塚ノ上ニ榎ヲ植エラル、此度モ准ゼラルヘキ旨、有司ニ命ゼラル」（譯文）[illegible]武州ハ、凡、日本東西ノ中國ニ當レリト[illegible]アリテ、江城、日本橋ヲ、一里塚ノ元ト定メ、云云」本朝世事談、五ニ、天正年中、一里塚ヲ築キ、塚ニ松杉ヲ植ユベキカト、信長公ニ伺ヒシニ、餘ノ木ヲ植ユヘシト云フ、聞キタガヘテ、榎木ヲ植エケル由トアリ、[illegible]ナリ、靜岡方言辭典（明治四十三年）ニ、よのき、エノキ、[illegible]トアリ。俳家[illegible]元日[illegible]ノ句「門松ヤ、冥途ノ旅ノ、一里塚」メデタクモアリ、メデタクモナシ」（前句附ナルベシ、小西來山ノ句ナリ。（大阪ノ元祿頃ノ談林派俳人）コレヲ一休和尚ノ句トスルハ、笑フベシ、和尚ノ頃、世ニ、一里塚ハナシ」北史、[illegible]孝[illegible]傳、廢帝二年[illegible]刺史、先ハ是、[illegible]一里、[illegible]土[illegible]云云、孝寛臨州、[illegible]（周文帝）[illegible]代之、周文[illegible]令ニ天下同レ之、於レ是令ニ諸州夾レ道、一里種ニ一樹、十里種ニ三樹、百里種ニ五樹ト焉」

いちりふ（名）一粒　ヒトツブ。丸藥ナドニ云フ。[illegible]

いちりふまんばい（句）一粒萬倍　（一）一粒ノ種ヲ蒔ケバ、積モリテ、萬倍ノ粒トナル。[illegible]（二）物事　次第ニ伸ビテ、甚ダ廣クナル。太閤記、二十「才徳タクマシクシ、度量甚ダ大ニ伸ビテ、忠義ヲ立テムト思フ人、自然ニアルモノナリ、是レ一粒萬倍ト成ル才智ナリ、諺云、才智ニ廣狹アリ、一人ノ才、五十人、百人ニモ當ルアリ、又、千萬倍ニモ及ブオアリ、如此ノ人ヲ尊ビ用キ、天下ヲ事ニ治メシ人、和漢、多シ」

いちりん（名）一厘　釐ノ條ヲ見ヨ。

いちりん（名）一鱗　魚、一疋。俚言集覽、一鱗、後竹林院左府記、文明十一年九月九日「鳥羽松千代、鯉一鱗進上」

いちりん（名）一輪　一輪ノ如ク圓キモノ」（一）明月ヲ稱スル語。孟郊詩「高秋數奏レ琴、澄潭一輪月」謠曲、姨捨（寛永）「我ガ心、慰メカネツ、更科ヤ、姨捨山ニ、照ル月ヲ見テ、云云、一輪滿テル、淸光ノ影、團團トシテ、海嶠ヲ離ル」（信濃國、更科郡ノ山）（二）開キタル花、ヒトツ。二輪、三輪モ云フ。宗長手記（大永ノ頃）「冬ノ梅ハ、一りん二りん、カスカニ咲キテ、匂フコソ、アハレ深カラメ」運歩色葉集（天文）「一輪、花」一輪草ト云フ宿根草ハ、莖上ニ一花ヲ開クモノナリ、次次條ヲ見ヨ。

いちりん-いけ（名）一輪生　生花ニ、花、一輪ナルモノ。[illegible]記、享保十年十二月廿八日「總ジテ、一輪ヲ生クルハ、枝ヲ生クルト合點スベシ、椿ナドノ花ノ枝ニ、好キ所ヲ得テ咲キタルハ、稀ナルモノ也」一輪插トモ云フ。ソレニ用キル小サキ花瓶ヲモ云フ、小形ナルハ、丈二三寸ノモノモアリ。

いちりん-さう（名）一輪草〔花、唯、一輪ナリ、一花草ト云フモ、然リ〕又、一花草。宿根草ナリ、山麓ノ陰地ニ生ズ、早春、苗ヲ抽ク、莖、高サ一尺許、葉黑色ニシテ、葉ト共ニ毛茸アリ、春夏ノ際ニ、梢ニ一花ヲ開ク、色白ク、梅花ノ如クニシテ大キシ。俚言集覽、いちりんさう、いちげさう、草名、三四月、莖端白色ノ一花ヲ開ク、[illegible]、梅花ニ似テ大ナリ」

いちりん-ざし（名）一輪插　前前條ヲ見ヨ。

いちりゃう（名）一兩　江戸時代、量目ノ稱。五兩、十兩アリ。[illegible]文選、註、[illegible]二十四銖ヲ爲ニ一兩ニ」俚言集覽、一兩「物ノ匁カタ[illegible]匁三分ヲ、一兩目ト云ヒ、金壹兩ト云フ、今通用ノ小判金ナリ、銖ヲ二十四合ハセタルナリ、古今ノ一兩ハ、古ヘノ大一兩ナリ、又、藥種ナド量ルニ、四匁ヲ一兩トシ、又、四匁三分、又、四匁四分、又、五匁ヲモ云フ」雜令「權衡、二十四銖爲レ兩、三兩爲ニ大兩一兩ニ」林逸節用集（明應）雜用「一兩、具足、藥」易林節用集（慶長）言語「一兩、[illegible]」

いちりゃう（名）一輛・一兩　後漢書、吳祐傳注「車有ニ兩輪、故稱レ兩」韻會、輛、車數也」（一）車ヲ數フルニ云フ語　三輛モ、五輛モ云フ　儀式、二、[illegible]抄、三「出車、金作檳榔毛一兩」有職問答（三條西實隆）一、女車、七八輛モ、或ハ、十輛モ、[illegible]ニ隨ヒテ、被レ進レ之」（二）轉ジテ、履物、左右、一對ノモノニモ云フ、車ノ兩輪ヨリ移レルナルベシ。四時祭式、上、[illegible]錦鞋、一兩」[illegible]式「[illegible]一兩」元祿[illegible]年外宮正遷宮式「[illegible]御鞋、二兩」

いちりゃう（數）一兩　ヒトツ、又ハ、フタツ。俚言集覽、一兩日「一二日ト言ハズシテ斯云フ」（一日、二日）「一兩年」「一兩人」

いちりく（名）[illegible]
[illegible]ニ「露ノ日ヤ、アレモ人の子、樽「拾」トアル、瀬川ノ人子ト云ヘルヲ詠ミ入レタルナリ、たるひろひノ條ヲ見ヨ）

いちる（名）一縷　縷、ヒトスヂ。[illegible]傳「一縷之任、係ニ千鈞之重ニ」「一縷ノ望ミアリ」

いちれん（名）一連　（一）鰹魚節ナド、數箇並ベテ、細ソキ繩ナドニテ、編ミツケ連ネタルヲ數フルニ云フ語。一連、二連、三連モアリ。儀式、三、[illegible]（二）穴アル玉ナド、數箇、絲ニテ貫キ連ネタルニモ云フ。[illegible]元祿二年外宮正遷宮式「五色[illegible]一連」

いちれんたくしゃう（句）一蓮托生　佛敎ノ語　死後、諸共ニ、一ツ蓮華ノ上ニ生レムト云フコト。念佛衆ノ唱フル語ニテ、佛經ニ、極樂往生ノ人ハ、一ツ蓮華ノ上ニ生ズト說ケル故ナリ、此語、一處ニ往生シテ離ルマジトノ意ニ用キル[illegible]法然上人ノ歌「露ノ身ハ、ココカシコニテ、消ユルトモ、心ハ同ジ、花ノ臺ゾ」俚言集覽、一蓮托生[illegible]二ツ[illegible]ノ上ニ[illegible]ツナク、二ツトキイア[illegible]類ミニテ」（コレハ、法然上人ノ一枚起請文ヲ云ヘルナリ、[illegible]）[illegible]

いちろく（名）一六　江戸時代ニ、一箇月ノ中ノ一日、六日、十一日、十六日、廿一日、廿六日ノ六日ヲ、統ベテ言ヒシ

語。倘、二七、三八、四九、五十ト云ヒシモ、同意ナリ、各、寄合日トシ、講釋日、稽古日、又ハ、休日ナドトシテ、種種ノ事ニ用キラレタリ、今ハ、廢セラレタリト思ヘド、倘、稀ニハ、言ハルルナリ。明治九年三月達、第二十七號「從前、一六日休暇ノ處、來ル四月ヨリ、日曜日ヲ以テ休暇ト被レ定候條、此旨相達候事」當時、一六どんたく、大一座ナド云フ語アリキ、どんたくノ條ヲ見ヨ。

〜いちろく (名) 【一六】「次次條ヲ見ヨ」雙六、又、博奕ニ、采目ニ、一ト六トノ出デタルヲ云フ語。下端ニモ云フ。催馬樂、大芹「伊知六ノ簺ヤ、四三ノ簺ヤ」

いちろく-ぎんかう (名) 【一六銀行】次次條ヲ見ヨ。

いちろく-せうぶ (名) 【一六勝負】〔博奕ニ、壺皿ニ伏セタル采目ニ、一ガ出ルカ、六ガ出ルカ、何レニカ賭ケテ勝負ヲ決スト云フ語ナリ〕運否ノ測ラレザル事ヲ、決行スルニ云フ語。イチカ、バチカ。行險‖ 俚言集覽、一六勝負「勝負トモ、此一度ニアリト、危キ事ヲ、決心シテ行フヲ云フ」

いちろく-や (名) 【一六屋】〔一ト、六ニテ、七(質)トナル謎詞ナリ、七屋〕質屋ヲ云フ隱語。ナナツヤ。役者丸裸(延寶)「身ノマハリマデ、一六屋ヘオクリ」(柳亭記、下) 近年ハ洒落レテ、一六銀行ナドトモ云フ。

いちわう (名) 【一往】‖ ヒトワタリ。ヒトトホリ。イチオウ。皇侃、論語義疏「一往觀二回終日默識不レ問、殊似二於愚魯一」

いちわうじ (名) 【一王子】紀伊國中、熊野神社ノ參詣道ニ、九十九所ノ王子ノ社(熊野ノ遙拜所)アル中ニ、同國、海部郡、(今、海草郡)藤白ニアル、若一王子ノ社ノ稱。京都ヨリ行キテ、コレヲ第一ノ王子トス、世ニ、熊野ノ一ノ鳥居トモ云フ、外ニ、諸國ニモ、社寺ノ山ノ坂口ニ、一王子ト云フ社、多シ。

いちわり (名) 【一割】〔高ヲ割分ツ意ナルカ〕總金高ノ十分ノ一。ソレヲ、更ニ十ニ分チタルヲ、一分トス。「利子配當、一割一分」「二割三分」「三割五分」

⁂いぢわる (名) 【拗戾】いぢがわるいヲ見ヨ。

いちゐ (名) 【一位】第一ノ位。くらゐノ條ヲ見ヨ。

いちゐ (名) 【一位】「笏ニ作ル料トシテ名アルガ故ニ、前條ノ一位ニ寄セテ名ヅクトゾ」樹ノ名、高サ丈餘ニ及ブ、葉ハもみ、又ハ、かやノ如ク、柔ニシテ、茂ル、實ハ豆ノ如ク、熟スレバ紅ニシテ、甘シ、材、甚ダ好ク、木理、奇南香ノ如シ、笏ニ作ル、飛驒ノ位山ノ材、名アリ。一名、アララギ。オンコ。オッコ。水松‖ びゃくだんのき、又ハ、きゃらぼくト稱スル樹モ、此類ナリ。

いちゐ (名) 【一葦】‖〔一枚ノ葦ノ葉ノ小サキニ譬ヘテ云フ語ナルカ〕小舟ヲ稱スル語。詩經、衛風、河廣篇「誰謂二河廣一、一葦杭レ之」(支那ノ黃河ヲ云フ、杭ハ、航ト通ズ) 骨董雜談(新井白石)「世ニアル所ノ畫ニ、蘆葉ノ達磨トテ、水上ニ蘆葉ヲ浮ベ、其上ヲ蹈テ渡ル圖アリ、コレハ、達磨大師、梁ヲ去テ、魏ニ往ク時ノ圖ナルベシ、遠ニ去ルヲ以テ、詩經ノ一葦杭レ之ノ文ヲ假リテ畫キタルナルベシ」(節文) 玄同放言(文化、馬琴)三、蘆江達磨「江達磨、江ヲ渡ル(支那ノ揚子江)ノ圖畫ヲ視ルニ、一本ノ蘆ヲ踏ミテ、波ノ上ヲ過ク處、多カリ、宋僧善卿曰、達磨始來、見二梁武帝一、帝既不レ契、祖師不レ欲三人知二其行一、是夜潛レ廬西邁、故曰二暗渡レ江也一(大節文) 俚言集覽、蘆の葉達磨「俗稱蘆葉僧言ニ、達磨ガ蘆葉ニ乘ジテ渡リシハ、舟ノ事ナリ、今、蘆葉ニ乘リシ圖ヲ畫クハ、誤ナリ、東坡ガ赤壁賦ニモ、舟ヲ一葦トモ云ヘリ」

いちゐん (名) 【一院】ゐん(院)ノ條ヲ見ヨ。

いちゐん (名) 【一員】‖ 一人。太神宮式「大宮司一員、少宮司一員」

いちゐん-たうてい (句) 【一韻到底】‖「たうてい(到底)ノ條ヲ見ヨ」古詩、長篇ノ押韻ニ云フ語。韻ハ、平韻ニテモ、仄韻ニテモ、體ハ、五言ニテモ、七言ニテモ、終篇、同一ノ韻ヲ蹈ムナリ。

いちゑん (名) 【一圓】我ガ邦、金貨本位ノ貨幣ノ數ヲ云フ單位ノ稱。一錢ノ百倍、卽チ、百錢ナリ、圓形、扁平ニシテ、徑、四分、重量ハ四分四厘三毛餘アリ。二圓金貨、五圓金貨、十圓、二十圓モアリ。補助貨幣トシテハ、五十錢銀貨、二十錢、十錢、五錢等アリ、次第ニ、小トナル。又、一圓紙幣、一圓札アリ。

いちゑん (副) 【一圓】〔ひとまとめノ意ナルカ、一向ノ意ナルモ、同ジカルベシ〕(一)殘ラズ。總體。悉皆‖ 平治物語、三、頼朝擧二義兵一事「小所ナレドモ、先ヅ馬ノ飼トテ、多紀莊、半分ヲゾ賜ハリケル、云云、多紀莊ヲバ、一圓ニ賜フベシト仰セ遣ハサレケル」(正治元年、頼朝ヨリ源五盛安ニ) 建武式目「禁裏、仙洞、御料所、寺社佛神一圓領」天保武鑑、二、松前志摩守「無高、松前蝦夷、一圓領レ之」(二)サラニ。一向。(下ヲ、打消シノ語ニテ受クルヤウナリ) 俚言集覽、一圓「一圓聞キ入レズナド云フ、云云、一向ナド云フニ同ジ」「一圓、存ゼズ」「一圓、知ラズ」

いちゑん-さつ (名) 【一圓札】前前條ヲ見ヨ。

いちゑん-しへい (名) 【一圓紙幣】いちゑん(貨幣ノ)ノ條ヲ見ヨ。

いぢを-とほす (句) 次條ヲ見ヨ。

いぢを-はる (句) 【抵抗】「意地ノ條ヲ見ヨ。張るハ、肘ヲ張ルト同ジク、いぢばるトモ云フ、相手ヲ突キノケル意、いぢっぱりハ、名詞形ニテ、急呼スルナリ、(とばしる、とばっちり)いぢにかかる、いぢをとほすハ、押シカケテ徹底セシムルナリ」我意ヲ起シテ、押シカカル。いぢばる。いぢっぱりヲスル。いぢをとほす。いぢにかかる。俚言集覽、いぢばる「我ガ思フ所ヲ、強ヒテ言ヒツノリ、又、爲募ルヲ云フ」

〜いつ (名) 【稜威】〔漢書、李廣傳「威稜憺二乎隣國一」注「李奇曰、神靈之威曰レ稜」文選「稜威」〕(一)嚴靈ナル威光。鋭利ナル威勢。古事記、上十「所レ斬之刀名、謂二天之尾羽張一、亦名、謂二伊都之尾羽張一」神代紀、上三十「奮二稜威之雄誥一、發二稜威之嘖讓一」(二)忌ミ淨ムルコト。出雲國造神賀詞「弱肩爾太襷取掛天、伊都幣能緒結」

〜いつ (代) 【何時】‖ 時、ノ不定ノ代名詞。何レノ時。萬葉集、八 三十五「吾ガ夫子ヲ、何時ゾ今カト、待ツ並ニ、於毛也ハ見エム、秋風ノ吹ク」(古義ニ、於毛也ハ、面輪ニ通ズトテ、數例ヲ示セリ) 同、十五 九十「秋風ハ、日ニケニ吹キヌ、吾妹子ハ、伊都トカ我レヲ、齋ヒ待ツラム」拾遺集、十二、戀、二「思フナト、君ハ言ヘドモ、逢フコトヲ、いつト知リテカ、吾ガ戀ヒザラム」

い・う・ツル・ツレ・テ・テ・テヨ (自動、下二) 【冱】凍

ル」いでる。[illegible]、いでシ未ヲ、埋ミオキテ、ハヤ氷室トハ、イフニゾアリケル」[illegible]、來、いで、[illegible]ノ小川モ音モセズ」

いつ (副) 何時 [前條ノ語ヲ、副詞ニ用キルナリ] 何レノ時ニ。源、四十二、紅梅「いつ[illegible]、二[illegible]ノゴト、オボメカレユク、世ノ中ニ、いつ訪ハムトカ、オトヅレモセヌ」

いづ イヅ (名) 嚴 いつ(稜威)ニ同ジ。出雲國造神賀詞「伊豆能眞屋[illegible]、伊豆能[illegible]支天」

い・づ イ・ヅ ツル・ツレ・デ・デ・テヨ(自動、下二) 出 (一)發ル。生ズ。イデル。デル。萬葉集、十四「伊[illegible](温泉)」 [illegible]「フタガミ上山ノ、木間ヨリ、出づれバ明クル、夏ノ夜ノ月」(二)家ノ外ニ行ク。立出ヅ。天智紀、九年五月、「[illegible]橋ノ、[illegible]ノ遊ビニ、伊提マセ子」萬葉集、十一「[illegible]ノ、[illegible]ノ、トトトモスレバ、[illegible]ニ、出でテゾ見ツル、若シハ君カト」

い・づ イ・ヅ ツル・ツレ・デ・デ・テヨ(他動、下二) 出 [他動ノ入るるモ、自動ニ、吹きいるるト云フガ如シ] いだすニ同ジ。萬葉集、十七、四十長歌「言ニ伊泥テ、言ハバユユシミ」宇津保物語、俊蔭「[illegible]ノ實ノ木「一寸ヲ持チテ、空シキ土ヲ叩クニ、一萬恒沙ノ寶ヲいづべキ木也」榮花物語、一、月の宴「御前ニ召シいでテ、碁、雙六打タセ」

(反厚タチノ)

いついう イッ・ユウ (名) 逸遊佚遊 キマリナク、遊ビ居ルコト。氣儘ニ遊ブコト。潘岳、西征賦「[illegible]」論語、季氏篇「[illegible]樂佚遊ニ」

いづいし イズ・イシ (名) 伊豆石 伊豆國ノ諸所ヨリ産出スル石材ノ汎稱。堅キ質ノモノヲ、小松石ト稱シ、軟ナルモノハ凝灰岩ナリ、共ニ、建築、其他、種種ノ工事ニ用キル。

いつか (名) 五日 (一)日數、五ツノ日。[illegible]いつか[illegible]マキレリ」(二)毎月、第五ノ日。枕草子、一、第四段「五月五日ハ、曇リクラシタル」

いっか (名) 一家 (一)一戸ノ家。禮記、[illegible]「[illegible]人[illegible]以天下[illegible]一家」(二)一家族。家中。一家。大學「一家仁、一國興ㇾ仁、一家讓、一國興ㇾ讓」「一家、皆喜ブ」(三)學藝ノ一流。一派。俚言集覽「一家、[illegible]術ナド、一流ヲ創メテ、一家ノ風ナルヲ云フ」

いっか (名) 一箇一個 [廣韻「箇、古賀切」正韻「數也」正字通「個、與ㇾ箇同」集韻「箇、俗作ㇾ個」個ノ字、漢字書ニ、音ヲ記シタルモノ見エズ、一個人ナド云フモ、いっかんナルベシ] 物事、ヒトツ。一箇、五箇、十箇。荀子、議兵篇「負矢五十箇」杜甫詩「兩箇黄鸝鳴翠柳」靈異記、中、第廿四話「經ニ箇日ニ、[illegible]金剛般若經百卷」[illegible]式「[illegible]箇」尺素往來(文明)「年始慶賀之日、[illegible]式之[illegible]箇」「一個」「一箇月」「二箇年」「三箇條」「五箇條」

いっか (名) 一个 [个ハ、箇ニ同ジ、物ヲ數フル語ナリ] (一)一人、又、一夫ト云フニ同ジ。左傳、昭公二十八年「君亦不ㇾ使ニ一个辱在ニ寡人ニ」(二)物ノ數ヲ云フ語。周禮、考工記「[illegible]門容ニ大扃七个、闈門容ニ小扃參个ニ」

いっか (名) 一荷 杤ニテ、物ヲ肩ニ荷フモノ。前後ニ、一箇ヅツナリ。一荷、五荷、十荷。大嘗祭式「以ニ二籠ニ爲ニ一荷ニ」宇津保物語、國讓、下「炭十荷」類聚雜要抄(大治)「三荷折櫃、一荷」運歩色葉集(天文)「一荷、イ、カ、擔ニ」

いっか (名) 一時 [ひとはなト云フ語ヲ、字ニ、一花ト書キテ、音讀シテ、いっかト發音スルナリト云フ、(ひとはなノ條ヲ見ヨ)合類節用集(元祿)言辭門、伊部ニ「一花、[illegible]、一花、[illegible]文、一[illegible]、出典ヲ見ヨ」] シバシノアヒダ。[illegible]、一花[illegible]終ナキヲ、一花ト云フ」俗語考「いつくわ「いつくわハヨケレド、長ク保タヌナド云フハ、ひとはなト云フ詞ナリ」いっか凌ナド云フ語モアリ。[illegible]云フ、[illegible]

いつか (副) 何時 [何時歟ナルベシ] (一)何時ゴロニカ。未來ニ待ツ心ナリ。早晩。古今集、三、夏「我ガ宿ノ、池ノ藤浪、咲キニケリ、ヤマホトトギス、いつか來鳴カム」名義抄「早晩、イツカ」(二)イツノマニカ。古今集、五、秋、下「濡レテ干ス、山路ノ菊ノ、露ノ間ニ、いつか千年ヲ、我レハ經ニケム」(三)マヘカタニ。曾テ。枕草子、三、第十七段「いつかハ、若ヤカナル人ナドノ、然ハ爲タリシ」

いっかい (名) 一階 官ノ等級ノ、一段。式部省式、上「降ニ一階ニ敍」宇津保物語、國讓、下、九三十「七月ニナリテ、人人、加階シタマフ、云云、女官、一かい越エテ、内侍長官、三位ノ加階シタマフ」運歩色葉集(天文)「一階、イッカイ、官等級」

いっかい (名) 一介 [一夫ヲ、一介ト云フト云ヒ、又、介、通ジテ、芥ニ作ル、草芥ノ芥ト同ジトアリ、(出典ヲ見ヨ)サラバ、草芥、塵芥ノ心ニテ、微小ノ意トナルカ] (一)一人ノ人。單獨、微小ナル意ニ云フ。左傳、襄公八年「不ㇾ使ニ一介行李告ニ于寡君ニ」杜注「一介、獨使也」(かうりモ、使者ノコト、其條ヲ見ヨ)舒明即位前紀「非ニ一介之使ニ、遣ニ重臣等ニ而教覺、是大恩也」字典「一夫、曰ニ一介ニ」正字通「介、通作ㇾ芥」「一介ノ書生」(二)少シナルコト。イササカナルモノ。孟子、萬章、上篇「非ニ其義ニ也、非ニ其道ニ也、一介不ニ以與ㇾ人、一介不ニ以取ニ諸人ニ」集註「介、與ニ草芥之芥ニ同」

いっかい (名) 一蓋 [蓋ハ、蓋ふ意] 被ル笠ヲ數フル語。[illegible]「大笠一蓋」「三蓋笠」(馬標ナドニ)三蓋松」

いっかい (名) 一首 古詩ノ一首ヲ呼ブ語。古今集[illegible]「[illegible]倭歌以ニ三十一字ニ爲ニ一首ニ、中國以ニ三[illegible]」

❖**いっか・い** (形) 嚴 いかい(嚴)ヲ見ヨ。[illegible](享保、[illegible])中「[illegible]ニアル[illegible]、いかい[illegible]」

いっかう イッ・コウ (名) 一更 かう(更)ノ條ノ(一)ヲ見ヨ。

いっかう イッ・コウ (名) 一行 ミチヅレ。同行。同伴。「何某ノ一行、今日出發ス」

いっかう イッ・コウ (名) 一行 [ひとつらノ意ナルベシ、書狀、一通ナリ、此語、いちぎゃうト讀ムハ、非ナリ、出典ノ假名ヲ見ヨ] 綸旨令書。使令書。吾妻鏡、三、壽永三年二月十七日「居ニ住西國ニ之輩、[illegible](元暦三[illegible])可ニ[illegible]上司之旨、賜ニ御一行ニ、當ニ于三月日ニ云云」太閤記、六「今度於ニ[illegible]戰功ニ者、[illegible]賞之事、各千石之一行ヲ令ニ頂戴ニ、入部之規式、光勇勇シク見エテケリ」易林節用集(慶長)上、言語「一行、カウ、[illegible]」

いっかう イッ・コウ (副) 一向 [ひとむきノ意、[illegible]一向者、正一直向也] (一)ヒタスラ。一意ニ。[illegible]一向好[illegible]、亦自貫[illegible]、三代實録、十七、貞觀十二年、二月、[illegible]云云、識ニ專當ニ還致ニ物煩ニ[illegible]、從ニ停止ニ府司一向充易事ㇾ之[illegible]從ㇾ之」[illegible]、上、文政官[illegible]中事、一向、[illegible]大臣[illegible]之」運歩色葉集(天文)「一向、イッカウ」(二)俗ニ、全ク。更ニ。一切。「一向、存ジマセス」

いっかう イッ・コウ (副) 一向 [前條ノ語ト同一義ナレド、佛經語トシテ、別ニ説ク] 佛教

ノ語。餘事ヲ思ハズ、唯、一事ニノミ心ヲ向クルサマ。六十華嚴、十四「一向專求二無上菩提一」無量壽經、下「一向專念二無量壽佛一」法苑珠林「一向唯樂、無レ苦」

いつかう-いっき（名）〔一向一揆〕いっき（一揆）ノ條ノ土一揆ノ（二）ヲ見ヨ。

いつかう-しう（名）〔一向宗〕「今ノ淨土眞宗、又ハ、眞宗ヲ、世ニ久シク、他ヨリ稱セシ宗名ナリ、無量壽經、下ニ「一向專念二無量壽佛一」（阿彌陀佛）トアルニ因リテ、名ヅケラレタルナリト云フ、安永年中、兩本願寺ヨリ、宗名ヲ立テテ、淨土眞宗ト公稱セムトセシガ、淨土宗ニテ拒ミタルニ因リテ、能ハザリキト云フ、淨土宗ハ、德川家ノ歸依スル所ナリ（又、淨土宗ノ眞實ノ宗ト聞ユルニモアラムカ）」佛敎ノ一派。眞宗ノ條ヲ見ヨ。

いつか-がへり（名）〔五日歸〕婚姻後、五日目ニ、里歸スルコト。曾我五人兄弟（元祿、近松作）二「聟入リ、舅入リ、今日コソ五日歸リトテ」

いっ-かく（名）〔一角〕（牙ヲ、角ト見做シテ稱スルナリ、且、一角ト云フハ、舶來シタル時ノ牙ノ稱ナリ、動物トシテハ、一角獸トシタルガ、成語ナルベシ、秇苑日涉（寬政、村瀨之熙）「集韻、蓺、古作レ秇」）十二、一角ノ條ニ、金蓊退食筆記ヲ引キテ、獨角獸トシテアリ、六物新志（天明、大槻玄澤）上、一角ノ條ニ、和蘭醫書ノ圖ヲ載セ、此動物ノ頂ニ、潮吹穴アリテ、潮水ヲ噴出シテアリ、固ヨリ海獸ナリ、然シテ、新志ニハ一角魚トシタリ、尾ニ岐アリテ、魚ニ似タレバ、云ヘルナルベシ、此新志ノ記事ハ、古ケレド、其頃ノ蘭書數十部ヨリ譯出シテ、委曲ナリ、板本ニアリ、又、うにこおるトモ云フハ、羅甸語ノ、「Uni.(一) Corn.(角)ナリ、又、此語、支那書ニハ見エヌヤウナリ」）又、うにこおる。游水類ノ動物、多クハ、歐洲ノ北氷海ニ棲息ス、體ハ、海豚ニ似テ、腹白ク、背ニ黑キ斑アリ、尾ハ兩岐トナレリ、體ノ長サ、二丈ニ及ブモノアリ、上顎ニ二牙ヲ有ス、右ノ牙ハ、甚ダ小ナレドモ、左ノ牙ハ、長大ニシテ、前ヘ正直ニ突出シ、其末細ソク鋭シ、牙ノ表面ニ螺旋樣ノ刻ミアリ、江戶時代ニ、和蘭人、牙ヲ舶來セリ、醫家多ク、中毒ノ藥トシ、解熱ノ劑トシタリ。和漢三才圖會（正德）三十八、獸、一角ノ條ニ、牙ノ狀ヲ記セルヲ摘錄ス、長サ六七尺、周、三四寸、色、象牙ニ似タリ、末一二尺、細尖ナリ。

いっ-かく（名）〔一角〕〔角ト云ヘバ、方形ナルカ、然レドモ、貞享、享保ノ時代ニハ、方形ノ金銀貨幣ハ、世ニ無カリシガ如シ、（長方形ノ金銀ハ、安政ニ至リテ始メテ作ラレタリ）不審ナリ、尙、研究スベシ〕貨幣一箇ヲ云ヘルガ如シ。好色一代女（貞享、西鶴）二「男盛リノ座敷ヘハ、少シヌルスギテ見エケル、一人ヲ、金一角ニ定メオキシハ、カルユキナル呼ビモノナリ」博多小女郎波枕（享保、近松作）上「ヤッチャ、一角セシメムト、人ノ中着、當ニシテ」

いっ-かけ（名）〔沃懸〕いかけぢノ語原、及、其（二）ヲ見ヨ。

いっかけ-ぢ（名）〔沃懸地〕いかけぢノ（一）ヲ見ヨ。

いっか-げん（名）〔一家言〕自家ノ論說。史記、太史公自序「序略以拾レ遺補レ藝、成二一家之言一」晉書、王接傳「常謂、左氏辭義贍富、自是一家書」

いつ-かし（名）〔齋橿〕〔古事記傳、下（雄略）四十一ノ解釋ニ、伊都ハ、忌ミ淸メテ齋ク意、齋槻ノ類ナリトアリ、齋くノ語根、いつきがしナリ、（告說言、のりと）垂仁紀ノ嚴橿ノ振假名、諸板本、淸音ナリ〕神樹ナル橿ヲ、齋クニ就キテ云フ語。垂仁紀、廿五年三月「是以、倭姬命以二天照大神一、鎭二坐於磯城嚴橿之本一而祠レ之」（磯城ハ、大和國ノ地名ナリ）古事記、下（雄略）三十長歌「三諸ノ、伊都加斯ガ本」（三諸ハ、神社ナリ）

いつか・し・シキ・シケレ・シク・シク（形、二）〔莊重〕〔神ニ事フル意ノ齋くノ未然形ノ、いつかヲ、形容詞ニ活用セシメタル語ナルベシ、（歎く、なげかし。懷く、なつかし）いつかしき人ハ、齋クベクアルナリ〕イカメシ。イックシ。源、廿一、少女六十「良房ノ大臣、（忠仁公）白馬ノ節會、云云、內宴ノ儀式ヲ移シテ、昔ノ例ヨリモ事添ヘテ、いつかしき御アリサマナリ」同、廿二、玉葛廿「今ハ、天下ヲ御心ニカケタマヘル大臣ニテ、イカバカリいつかしき御中ニ」

いっか-しのぎ（名）〔一時凌〕暫時ノシノギ。いっか（一時）ノ條ヲ見ヨ。

いつか-しらん（副詞句）何時ノ間ニカ知ラヌニ。思ハヌニ。「いつかしらん花ガ咲イタ」

いづ-かた（代）〔何方〕何レノ方。ドチラ。伊勢物語、廿一段「いづかたニ求メ行カムト、門ニ出デテ、トミカウミ見ケレドモ、いづこヲハカリトモ覺エザリケレバ、歸入リテ、云云」

いっ-かど（名）〔格段〕〔俗語考（橘守部）いつかど、源氏物語ニ「ひとかど故ヅケテ」「ひとかど爲出デ」ナド云ヘル一角ヲ、湯桶讀ニ云ヒナセル也」（才ノ條ヲ見ヨ）一廉ト書クハ、當字ナリ〕格段ニ優レタルコト。「いっかどノ人物」「いっかどノ手際」「いっかどノ財產」

いっか-な（句）いかな（句）ノ條ヲ見ヨ。

いつか-の-かぜ（名）〔五日風〕五風十雨ヲ見ヨ。

いつか-の-せちゑ（名）〔五日節會〕〔節會ノ條ヲ見ヨ、節トノミアルハ、下略ナラム、（里內裏、さとだい）公事根源ニ、節會トアリ〕朝廷年中行事ノ一。每年五月五日（端午）ニ、天皇、武德殿ニ出御アリテ、群臣ニ宴ヲ賜ヒ、騎射ヲ行ハセタマヒシナリ。續紀、十七、天平十九年五月「天皇御二南苑一、觀二騎射走馬一、詔曰、昔者、五日節、常用二菖蒲一爲レ縵、比來、已停二此事一、從レ今而後、非二菖蒲縵一者、勿レ入二宮中一」公事根源（應永、一條兼良）中、五月、五日節會「天皇、武德殿ニ出御ナリテ、宴會ヲ行ハレ、群臣ニ酒ヲ賜フナリ、云云、群臣ニ藥玉ヲタマフ、云云、其後、騎射ノ事アリ、云云、推古天皇ノ御宇ヨリ始マル、今ハ絕エテ、幾代ニカ成リヌラム」推古紀、十九年五月五日「藥二獵於菟田野一」トアルノミナリ、藥ハ、藥玉ノ因ヲナスカ。

いつか-の-せつ（名）〔五日節〕前條ヲ見ヨ。

いっかん-かみこ（名）〔一閑紙子〕〔紙子ヲ見ヨ〕紙子ヲ、極メテ强ク、斷レヌヤウニ製シタルモノ。本朝世事談綺（享保、菊岡沾凉）一、一閑紙衣「大阪一閑ト云フ者、コレヲ製ス、至テ强ク、手纏ニスルニ、切レズ、米ヲ煮、豆ヲ煎ル焙碌ノ代ヲスト云ヘリ」

いっかん-ばり（名）〔一閑張〕〔出典ヲ見ヨ〕漆細工ノ名。器物ノ上ニ、紙ヲ幾重ニモ、糊ニテ貼リ固メ、表面ニ漆ヲ塗リタルモノ。机、茶入筒ナド、諸器ニ作ラレタリ。日本百科大辭典、一閑張「創製者ハ、明ノ

歸化人ニシテ、[illegible]一關ト稱シ、云云、寶永ノ頃、京都ニ來リテ、[illegible]ノ[illegible]シ、[illegible]ニ、[illegible]、又ハ、閑ノ一字ヲ記ス、其質、堅剛、世ニコレヲ一閑張ト名ヅケ、大ニ行ハレキ」俚言集覽、一かん張「机、其外ノ箱ナドヤウノ物ヲ、[illegible]、[illegible]ヲ以テ、[illegible]モ張リ、[illegible]ノカケテ、[illegible]ミタルヲ云フ、[illegible]一閑ト云フ人ノ[illegible]ニテ、[illegible]ノ[illegible]フ、[illegible]ニテ[illegible]リタル器ヲ、スベテ一閑張ト云フ」

い-つが・る（動）〔いハ、發語〕 連繫るニ同ジ。其條ヲ見ヨ。

いつき（名） 齋 〔忌ミ潔マハリタル皇女ノ名稱、源、十、榊「賀茂ノいつきニハ、孫王ノ居タマフ例、多クモアラザリケレド、サルベキ女ミコヤ、オハセザリケン」〕 (一)いつきのみやヲ見ヨ。(二)いつきのゐんヲ見ヨ。

いつき（名） 齋 齋女ノ下略。其條ヲ見ヨ。

い-つき（名） 五十槻 〔いか(五十日)ノ條ヲ見ヨ、サレド、出典ノ萬葉集ノ歌ナドニテハ、唯、數アル意ニ言ハル、但シ、五十ノ字ヲ用キタルニ因リテ、隨テ、百足らずト云フ序ヲ加ヘタルナリ〕 數ノ枝ノ茂レル槻木。 仁德紀、四十年二月「隼ハ、天ニ上リ、飛ビ翔リ、伊箇岐ガ上ノ、鷦鷯捕サネ」萬葉集、十三長歌「埴津田ノ、池ノ堤ノ、百不足、五十槻ガ枝ニ、瑞枝サス、秋ノ赤葉」

いっ-き（名） 一紀 〔十二年ヲ云フ、運歩色葉集ニ、一紀、十二年也、歲星一周天之義トアルニテ明カナリ〕 十二年ノ名稱。 國語、晉語「蓄力一紀」書經、畢命「旣歷三紀、世變風移」 和名抄、一、歲時「一紀、十二年也」續紀、三十六、天應元年正月、詔「朕以寡薄、恭承寶基、無レ善ニ萬民、字臨一紀ニ」 類聚三代格、十五、太政官符「應、勸行班田事、左大臣宣、奉レ勅六年一班、朔望[illegible]、官、[illegible]一紀一[illegible]、[illegible]田[illegible]役口[illegible]」

いっ-き（名） 一揆 〔[illegible]雅、[illegible]言「揆、度也」出典ノ孟子ヲ見ヨ〕 (一)一致ト云フニ同ジ。 孔安國、尙書、序(書註)「雖ニ[illegible]異、其歸一揆一」孟子、[illegible]、下篇「先聖、後聖、其揆、一也」集註「揆、度也、其揆一者、言、度レ之而其道無レ不レ同也」 百[illegible]抄、十四、円條院、嘉禎元年八月五日「[illegible]承法印參ニ御使一登レ山、(比叡)仰ニ合子細一之間、衆徒一揆、諸堂閉レ戶、神輿自ニ山上一歸ニ座本社一」 (二)一身同心。 吾妻鏡、一、治承四年十一月八日「天下勇士、可レ奉レ合ニ一揆之力一」 庭訓往來(元弘)十月「內威外威之一族、令ニ一揆一者也」 [illegible]合戰物語、文明二「[illegible]林ニハ、一揆知音ノ衆、皆、死出立シテ、云云、中島ヲ攻落サズバ、生キテカヘラジ、云云」 (三)軍陣中ノ一手、一手ニ、各、同族ノ兵、團結シテ、其武裝、又ハ、旗ノ紋ヲ同一ニシタルヲ、何一揆、某一揆ト云ヒキ。 太平記、廿五、住吉合戰事、山名時氏、細川顯氏、天王寺ヘ向フ「坂東、坂西、藤、橘、伴ノ者共、五百騎ヅツ、一揆ヲ結ンデ、大旗、小旗、下濃ノ旗、三流立テ、三手ニ分ケ、一足モ不レ引可ニ討死一ト神水ヲ飲テゾ打立チケル」 同、廿九、將軍上洛事「加茂川ヲ前ニ境ヒテ、赤旗一揆、扇一揆、鈴附一揆、二千餘騎ヲ三所ニ控ヘテ、云云」 同、三十一、二條武藏野合戰事「是モ五手ニ一揆シテ、云云、鍬形一揆、母衣一揆、是モ五箇所ニ陣ヲ張リ、云云」 此一揆ノ團結ハ、主君ニ抵抗スル原因トモナルガ故ニ、後ニハ、禁止セラレタリ。 甲州法度次第「親類、被官、私令ニ誓約一之條、可レ爲ニ逆心同前一、但、於ニ戰場之上一爲レ勵ニ忠節一致ニ盟約一歟」

いっ-き（名） 一揆 〔土一揆トモ云フ、土民一揆ノ中略ナリ、(土鍋、土瓶) 侍一揆ニ對ス、下ノ百姓一揆ノ條ノ甲陽軍鑑ヲ見ヨ、一揆トノミ云フハ、更ニ上略ナリ、(一分判金、一分金。卒塔婆、塔婆)〕 此語、前條ノ(三)ノ末ノ記事ガ、實現セシナリ、一[illegible]ノ[illegible]、[illegible]、[illegible]ノ[illegible]トナレリ」 (一)又、土一揆トモ云フ。徒黨シテ亂暴スル惡徒ノ稱、洛中、洛外ノ神社、佛閣、又ハ、貴賤ノ家ニ打入リ、掠略、放火シ、其外、種種ナル惡業ヲハタラケル者ナリ。(應仁ノ亂ニ、同ジ狼藉ヲセシ、足輕ト稱スル者アリキ、其條ヲ見ヨ) 土匪 [illegible]長以來追加(北朝、貞治)[illegible]條「[illegible]ニ一揆衆一致ニ[illegible]坊一事「近年、[illegible]、[illegible]、[illegible]他人之所領ニ對ニ[illegible]使一妨ニ遵行一、[illegible]、私宿[illegible]、及ニ合戰一、云云」 [illegible]記、文明十八年九月十五日「入レ夜上邊土一揆、物念無レ極、一條高倉邊放火、酒屋、土藏、[illegible]兵粮、伏見殿、右府許等、[illegible]酒肴料一」 [illegible]助往來記、天文十五年十月晦日「土一揆、禁中江參、致ニ訴訟一、先代未聞珍事有レ之、云云」(古事類苑、政治部、四、德政一揆) 御湯殿の上の日記、天文十五年十月七日「一きドモ、そふせう(訴訟)ヲ申シテ、是非モナキ事ニテ、云云、八日、武家ヨリ御警固參ラルル」 (二)江戸時代ニ、百姓一揆ト云フアリ、農民ノ、蜂起シテ強訴スルアリ、サレド、常ニ云フハ、地頭、領主ナドノ苛政ニ堪ヘズ、憤リ積リテ起リ、竹槍、蓆旗ヲ押立テ、役所ニ迫ルヲ云ヘリ。前項ニ記セル一揆ト云フモノ、全ク絕エテノ後ハ、專ラ百姓一揆ヲ、單ニ、一揆ト稱スルニ到レリ。 甲陽軍鑑、末書「侍一揆ニハ、先、無事ヲナシ、引退テ、禮ヲ盡スベシ、百姓一揆ニハ、推シツメテ、食ヲ斷チ、後、和ヲ入ルベシ」(武家名目抄、稱呼、八、下、所引) 信長公記、三、元龜元年十月廿日「江州ニ在レ之大坂門家之者、一揆ヲ起シ、云云、百姓等之儀ニ候間、云云、木下藤吉郎、丹羽五郎左衞門、在所、在所ヲ打廻リ、一揆共切捨テ、大方相靜ル」(是レハ、難波ノ石山ノ一向宗、本願寺ノ門徒ノ、近江ニ居タル者共ニテ、一向一揆ト云フ、法華一揆モアリキ) 續武家閑談、十「出羽國中、十二郡ノ[illegible]地、[illegible]、[illegible]使ハ大谷刑部也、云云、六郷ニテ大谷衆、[illegible]ヲ入ルニ、百姓ト[illegible]モ、強ニ訴訟スルヲ、大谷衆、權強ク、三人ハ斬伏セ、云云、一揆[illegible]、[illegible]、[illegible]云云」[illegible]

いっ-き（名） 一季 (一)〔春、夏、秋、冬ノ、何レカノ一時。〕[illegible] 式「一季祿」(春秋ノ二季、何レカニ賜ハル祿) (二)江戸時代、出替スル奉公人ニ就キテ云フ語。一年ヲ一季ト云ヒ、半年ヲ半季ト云ヒキ。「一季、半季ノ奉公人」

いっ-き（名） 一基 立テルモノヲ數フルニ云フ語。一座。二基、三基。 [illegible]「一基」 太神宮式「銀[illegible]多利、一基」 [illegible]式「[illegible]一基」

いっき-うち（名） 一騎打 〔打つハ、乘るナリ〕 (一)一騎ヅツ、前後連リテ乘リ行クコト。 [illegible]「一騎打」 (二)雙方一騎ヅツ打合ヒテ、勝負ヲ爭フコト。「一騎打ノ勝負」

いっきう-なっとう（名） 一休納豆 〔一休和尙ノ創製ナリト云フ(近代世事談、三)〕 濱名納豆ノ一種、豆ノ粒大キク、色褐メテ黑クシテ、光澤アリ、ヤハラカニシテ、味美ナリ。京都ノ大德寺塔中、眞珠庵ヨリ製出ス。(此庵ハ、一休和尙ノ舊居ナリ)

いっき-がけ（名） 一騎驅 唯一騎ニテ驅出ヅルコト。 別所長治記「[illegible]ヲ切ヘ、一騎掛ニカケラル」

いっき-か-せい（句） 一氣呵成 〔呵ハ、苛ト通ズ、漢書、王莽傳「掖門僕射、苛問ニ」〕 ヒトイキニ、文章一篇ヲ書キ了フル。「一文、一氣呵成」

いっ-きく（名） 一掬 〔掬ハ、掬ト通ズ〕 兩

ノ掌ニテ、物ヲ掬ヒアグルコト。○詩經、小雅、魚藻之什、采綠篇「終朝采レ綠、不レ盈二一匊一」太平記、三十三、將軍御逝去事（足利尊氏）「身ハ、忽ニ化シテ、暮天數片ノ煙ト立上リ、骨ハ、空シク留リテ、卵塔一掬ノ塵トナリニケリ」

いっきくのなんだ（名）【一掬涙】 兩手ニイッパイニ滿ツル涙。 李白、秋浦詩「遙傳二一掬涙一、爲レ我達二揚州一」

〜いつきこ（名）【齋子】 いつきめヲ見ヨ。

いっきたうせん（句）【一騎當千】 いちにんたうせんヲ見ヨ。

✣✣いっきに（副）【一氣】（一氣呵成、物類稱呼（安永）五、言語「直ニト云フコトヲ、大坂、尾州邊、又ハ、土佐ニテ、いっきにト云フ、其意ハ、休マズシテ、一息ニ物ヲスルコトナリ」）チキニ。スグニ。イマノマニ。（關西語） 東海道中膝栗毛（文化、十返舎一九）六編、上、淀川ノ夜船、北八「モシ、乘合モアリヤスカ」船頭「乘ルナラ、早ウ乘リナンセ、いっきに出スサカヒ」 同編、下、彌次郎「酒ガ早ク飲ミテヘノ」女郎吉彌、いっきに參ジルワイナ」

〜いつきのみこ（名）【齋王】〔齋く、及、次條ヲ見ヨ、齋內親王ヲ略シテ、齋王ト申シ、更ニ略シテ、齋トノミモ申スナリ〕 天皇御卽位ノ初ニ、皇女、若シクハ女王ヲ、トヒ定メテ、伊勢ノ大神宮ノ御許ニ奉仕セシメタマフ稱。齋內親王。齋王。又、齋。 神嘗祭祝詞ニ「齋內親王」トアリ、齋院司式ニ「齋王」（いつきのみこ）以上共ニ、最舊板本ノ訓點ナリ、源氏物語ノ榊ニ、賀茂ノ齋院ヲ「女みこ」ト記セリ、姫御子ナルベシ、其條ヲ見ヨ。 齋宮寮式「凡、天皇卽位者、定二伊勢大神宮齋王一、仍簡二內親王未レ嫁者一卜之、若無二內親王一者、依二世次一、簡二定女王一卜レ之」 續紀、八、養老五年九月「供二幣帛於伊勢太神宮一、以二皇太子女井上女王一、爲二齋內親

王一」（皇太子ハ、聖武天皇） 三代實錄、三、貞觀元年十月五日「卜二定恬子內親王一、爲二伊勢齋一」

〜いつきのみや（名）【齋宮】（一）大嘗祭ノ時ノ悠紀、主基ノ兩神殿ノ稱。 續紀、九、神龜元年十一月「立二神楯於齋宮門一」（二）伊勢、賀茂ノ齋王ノ住所。（三）前條ヲ見ヨ。

〜いつきのみやのかみつかさ（名）【主神司】 此司ハ、初メ、齋宮寮ニ隷屬セシガ、後ニ神祇官ノ被管ト爲リ、中臣、忌部、宮主ヲ置キ、內院ノ神殿ニ關スル一切ノ事ヲ掌ル。 倭名抄、五三「職員令云、主神司、以豆岐乃美夜乃加美官」 享祿本、類聚三代格、四「主神司、中臣一人（從七位官）忌部一人、宮主一人（已上從八位官）」 簾中抄、下「齋宮主神司、中臣、忌部、宮主」 齋宮寮式「凡內院神殿者、令二主神司專一勤守一、若致二破損一、奪二其俸料一」

いつきのゐん（名）【齋院】 さいゐん（齋院）ノ條ヲ見ヨ。 字類抄、伊、人事「齋院」

いっきふ（名）【一級】〔禮記、曲禮、註「級、等也」〕 上下ノ次第ヲ云フ語。等級。階級。二級、三級。（多クハ、官位ニ云フ） 正字通、級「進二爵一級一」

いっきふ（名）【一級】〔しゅきふ（首級）ノ條ヲ見ヨ〕 戰爭ニ、討取リタル敵ノ首、一箇。二級、三級、五級。 史記、樊噲傳「斬二首十五級一」

いっきん（名）【一斤】〔集韻「斤、權二輕重一之器」一斤染ト云フアリ、其條、及、斤ノ條ヲ見ヨ〕（一）秤目ノ名。古ヘハ、十六兩ナリ、江戸時代ニハ、通例、百六十匁ヲ云ヘリ、然レドモ、藥品、其他、品ニ因リテ、種種ナルガアリキ。二斤、三斤。 漢書、律曆志「十六兩爲二一斤一」 雜令「權衡、廿四銖

爲レ兩、十六兩爲レ斤」 拾芥抄（文安）下「十六兩爲二一斤一（小一斤）三斤爲二大一斤一、四十八兩也」 四時祭式、上「木綿一斤」 太神宮式「生絲、一斤四兩」（二）近世、歐米ヨリ舶來スル物品ニハ、スベテ、百二十匁ヲ、一斤トス。二斤、三斤。（英語、Pound. 我ガ百二十匁、九五八）

〜いつきむすめ（名）【愛女】〔いつきカシヅク女ナリ〕 大切ニ愛シ育ツル女。又、かしづきむすめ。 源、廿一、少女廿五「帝ノ御いつきむすめ」河海抄「醍醐天皇ノ皇女」 同廿七「朝臣（維光）ノいつき娘、云云、宮仕ヘ、ヤガテセサスベク、思ヒオキテタリ」 同、四十九、東屋廿六「帝ノ御かしづきむすめヲ得タマヘル君ハ、イカバカリノ人ヲカ、マメヤカニハ思サム」（薰ヲ聟ニシタマヒシナリ）

いっきんぞめ（名）【一斤染】 いっこんぞめヲ見ヨ。

〜いつきめ（名）【齋女】〔齋くノ條ヲ見ヨ、（神巫ト云フ語アリ、參見セヨ）いつきトノミ云フハ、下略ナリ（棚機津女、たなばた）〕 春日神社、大原野神社、松尾神社ナドニ居テ、神事ニ奉仕スル少女ノ稱。又、いつき子。略シテ、いつき。 儀式、一、春日祭禮「立二幄於河頭一、祓日時刻、齋女駕レ車向二祓所一云云、向レ社行事前一日、鷄鳴、齋女駕レ車參レ社」 三代實錄、十三（淸和）貞觀八年十二月廿五日「以二藤原朝臣須惠子一、爲二春日、井、大原野神齋一」 字類抄（治承）末、諸社、松尾「本朝文集云、大寶元年、秦都理、始建二立神殿一、立二阿禮一、居二齋子一供奉」（いつき子トハ、松尾神社ニ限リテ云フ稱ナルカ）

いっきゃう（名）【一驚】 オドロクコト。ビックリスルコト。 南瓜咄「二人イフヤウハ、晩ニハ、御身トサシチガヘ申サウトイフ、宿、アマリノ不測サニ、是ハいっきゃうナル事カナ」

いっきゃうをきっす（句）【喫一驚】〔正字通「喫、音乞」說文「食也」增韻「啗也、飲

也」禪語ニ、喫二一棒一、我ガ俗語ニテ、叱ヲくふ、おおどをくふ、ナド云フハ、其場ニ出遭フ意ナリ〕 驚駭ニ出會フ。 水滸傳、楔子「洪大尉喫二了一驚一、叫聲阿呀」

いっきゃく（名）【一脚】 什具ノ、脚アルモノヲ數フルニ云フ語。二脚、三脚。 內匠寮式「榻、一脚」 雲圖抄「机、一脚」「椅子、三脚」

いっきゅう（名）【一弓】〔楊愼ノ轉注古音ニ弓音穋、卽、說文糾字、道經借爲二卷帙之卷一ト、又、升庵文集ニ、道書以二一卷一爲二一弓一、音周、與レ軸通トアリ〕 一卷ト云フニ同ジ。

いっきょ（名）【逸居】 怠ケ居ルコト。 孟子、滕文公、上篇「飽食煖衣、逸居而無レ教、近二於禽獸一」

いっきょ（名）【一擧】〔擧ハ、擧動〕 一度ニ、一事ヲスルコト。 圖書寮式「寮官人、左右、各一人、進就二榻下一共燒香、一擧畢、卽共復二本列一」 「一擧兩得」

いっきょう（名）【一興】 ヒトツノオモシロミ。 尺素往來（一條兼良）五月五日、桂川、夜川ノ鵜飼「炷レ舟篝火之影、映二於水面一云云、是又時之一興、爲二御見物一可レ有二登臨一候哉」

いっきょう（名）【逸興】 勝レタル興味。オモシロキコト。 王勃、滕王閣序「遙吟俯暢、逸興遄飛」

いっきょく（名）【一曲】 音樂ノ一節。一切。一段。 絕交書「嵇康曰、濁酒一杯、彈琴一曲、志願畢矣」 傳燈錄「唱二無生一曲一」

いっきょく（名）【一曲】（一）一度、奏ヅルコト。 儀式、四「奏二風俗歌舞一曲一」（二）管絃ノ一段。 四時祭式、下「先吹二笛一曲一」

いっきょしゅいっとうそくのらう（句）【一擧手一投足之勞】〔チョット手を擧げ、

チット足ヲ踏ミ出サズ」[illegible]
カト云フ語。[illegible]

いつきょりょうとく（句）　一擧兩得　一事ヲ擧行シテ、二益ヲ收メ得ルコト。[illegible]二文字、爲ㇾ心謀者、[illegible]之功、一擧兩得」

いつ・く・ク・ケ・カ・ム・ケ（自動、四）　[illegible]　〔いハ、[illegible]、いはき、[illegible]、いぐし〕つくハ、附くナリ、かしづくト同ジ、齋ミ清リテ事フル意〕　[illegible]フ。崇メタテマツル。崇メ祭ル。　古事記、上[illegible]之[illegible]、[illegible]ナリ、日神ノ、皇孫ニ宣フ所ナリ〕　神代紀、上十三「此[illegible]少[illegible]、云云、[illegible]集、十九「[illegible]、伊都久、[illegible]之、[illegible]ト、行クトモ來トモ、船ハ早ケム」（入唐使ノ讌ノ宴ノ歌）

いつ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ（自動、四）　傅　〔前條ノ、神ニ云フ語ノ、愛護ノ意ニ移リタルナリ、集韻「傅、音附、近也」說文「相也」〕カシヅク。（大切ニスル、大事ニスル意）此語、專ラ愛女ニ就キテ云フ、いつき娘ナド云フ語モアリ。　萬葉集、十九廿長歌「[illegible]衛ニ、貯ヒオキテ、伊都久云フ、玉ニマサリテ、思ヘリシ、吾ガ子ニハアレド」（詠吾ノ女子ヲ云ヘリ）[illegible]シナリ」[illegible]、云云、[illegible]大[illegible]ハ、[illegible]ニ[illegible]ラムナ[illegible]ナシコウいつき傅リシヲ」（內[illegible]二）同、[illegible]、[illegible]、女君ノ御容ノ、マホニ美シゲニテ、限リナウいつきスヱタラム姬君モ、カバカリコソハ、オハスベカメレ」

いっく（名）　一口　〔口、漢音、アこう、吳音、く（功名、功力）〕（一）生物ノ、口アルモノ。[illegible]三十六、[illegible]十口」[illegible]上、[illegible]七[illegible]大[illegible]四口」（二）物ノ、口ノ[illegible]口」[illegible]第一口」[illegible]

いっく（名）　一區　〔正字通[illegible]〕[illegible]

いっく（名）　一[illegible]　[illegible]等ヲ[illegible]香[illegible]一[illegible]二

いっく（名）　一句　詩ニテハ、五言、又ハ、七言ノヒトキリ。（六言モアリ）　和歌ニテハ、五文字、又ハ、七文字ノヒトキリ。　[illegible]一「[illegible]頭歌、三十一字ニ、今一句ヲソヘタル也、旋頭歌ハ五句、コレハ六句也」

いっく（名）　一句　（一）一言。又ハ、ヒトキリ。　異制庭訓往來「百萬里之外、飄ニ手一句之中ニ」（二）一段。　ヒトクサリ。　ヒトクギリ。　俚言集覽「琵琶法師ノ平家ハ、一段ヲ一句トイフ」

一韵

いっく（名）　一[illegible]　〔[illegible]ハ、[illegible]音、せきニテ、[illegible]ノ一段落ヲ云フ、字彙補「傳奇中一[illegible]、[illegible]一[illegible]、俗讀作尺、或云、[illegible]是[illegible]字[illegible]、作[illegible]、[illegible]、食之[illegible]久、復出[illegible]之、今傳奇進而復出、故有ㇾ取ニ于[illegible]ニ云」ト云フヨリ出ヅ〕　前條ノ（二）ヲ見ヨ。（句ハ、齣ノ借字）

いづく（代）　何處　〔いづハ、何ノいづ、いづれ、（原始語）いづこトモ云フ、くト、こト通ズ、（蹴うる、こゆる。圍む、かこむ）共ニ、處ノ意、（此處、其處）今、いづこヲ、どこト云フ、いヲ省キテ、つこ、どこト轉ジタリト思ハル、（來、まだ出づる、づる、夕[illegible]、ゆふまぐい）サレバ、首音ヲ濁ル、何ヲ、どれト云フモ同ジ、いづくト云フハ、奈良朝以前ニテ、いづこハ、平安朝[illegible]二[illegible]二[illegible]ラレタルヲ示サムガタメナリ〕　又、いづこ。イヅチ。不定ノ地位ノ代名詞。何レノ處。ドコ。　古事記、中（[illegible]）[illegible]伊豆久ノ[illegible]」　萬葉集、五、長歌「紅ノ、面ノ上ニ、伊[illegible]ヨ」　伊勢物語、四十段「いづくマデ、送リハシツト、人問ハバ、飽カヌ別レノ、涙川マデ」　古今集、一、春、上[illegible]、[illegible]いづ[illegible]八降リツツ」　同、二十、東歌「[illegible]奥ハ、いづくハアレド[illegible]、[illegible]ノ、[illegible]ニ[illegible]ノ[illegible]カ、[illegible]人ニ、[illegible]ム」　同、五、若紫七「心モアクガレ惑ヒテ、いづくニモ、いづくニモ、參出タマハズ」　拾遺愚草（定家）中「[illegible]トモ、花トモ言ハジ、春ノ影、いづこハアレド、[illegible]ノ浦」　草廬集（南北朝、[illegible]）「櫻咲ク、いづくハアレド、春每ニ、尋ネテゾ入ル、三吉野ノ山」

いっくう（名）　一空　多クノモノガ、[illegible]クシクナルコト。　[illegible]代史、[illegible]六[illegible]、[illegible]人、[illegible]之一空ニ[illegible]

いっくう（名）　一空　佛教ノ語。宇宙ノ萬有ハ、無キガ如シト云フ[illegible]、いちくう、ヨソ、萬有ハ、[illegible]スレバ、[illegible]シテ、[illegible]ムハ、モノ[illegible]、コレヲ、[illegible]ト云フ、[illegible]シテ、[illegible]、[illegible]フ宿モナシ、實ニ三界ハ所ナシ、ダタ一空ノミ」

いつくさのたなつもの（名）　五穀　〔五種の種之物ナリ、（たねのもの）ねノ、なトナルハ、船、ふなばた。棟、むなぎノ[illegible]和漢ノ書ニ列擧スル所、甚シク區區ナリ、稻ハ穀ノ主ナルモノ、ソレヨ擧ゲザ[illegible]モアリ、[illegible]一切[illegible]異本ニ、多クハ乘ニ作レレバ、今改メタリ、正字通ニ「禾、嘉穀總名也」トアリ〕[illegible]五種ノ穀[illegible]又、いつつのたなつものト云ヘルモアリ[illegible]、又[illegible]、[illegible]

いつ・く・し・シキ・シケレ・シク・シク（形、二）　儼然　〔嚴くノ終止形ヲ活用セシメタル語ナルベシ、（和ぐ、なぐし）嚴くヨリ、嚴ナル意ニ移レリト思ハル〕　[illegible]イカメシ。　[illegible]ミツ、大和ノ國ハ、皇神ノ、伊都久志吉國、言靈ノ、幸ハフ國ト、語リ繼ギ、言ヒ繼ガヒケリ」　[illegible]記、下、[illegible]、イツクシク[illegible]遑フベシヤハ、いつくしき、數、蕭牧[illegible]、清ハルトモ」

いつ・く・し・シキ・シケレ・シク・シク（形、二）　美麗　〔[illegible]ノ[illegible]ナラム、[illegible]シノ、[illegible]シトナ[illegible]、此語、音[illegible]テ、美シトモナル、其條[illegible]

ヲ見ヨ」うつくし。ウルハシ。源、三十四、上、若菜、上「いつくしくアザヤカニ、目モ及バヌ心地スル、云云、愛敬ヅキ、ナツカシクうつくしきコト、ナラビナキ、云云」同、四十六、總角「イツキスヱタラム姫君モ、カバカリコソハオハスベカメレ、思ヒナシノ我ガカタザマノ、イトいつくしきゾカシ」細流抄「后腹ノ思ヒナシニヤトナリ」

いつくし・ぶ・ブ・べ・バ・ビ・ベ（他動、四）［慈愛］次次條ニ同ジ。今昔物語、廿六、第五語「取リワケテコレヲ寵びテ、物アレバ取ラセナドシケレバ、云云」

〜いつくしみ（名）［慈愛］イックシムコト。メグミ。恩澤。古今集、序「遍キ大御いつくしみノ波、八洲ノ外マデ流レ」合類節用集（元祿）八、言辭「慈」

いつくし・む・ム・メ・マ・ミ・メ（他動、四）［慈愛］鍾愛］〔形容詞ノ美麗しノ終止形ヲ活用セシメタル語、いつくしぶトモ云フ、音通ナリ、（怪し、あやしむ、あやしぶ。悲し、かなしむ、かなしぶ）美麗シキモノハ、慈愛シク思フナリ、又、うつくしむ（慈愛）ト云フ語アリ、全ク同義ニテ、音通ナリ（抱く、うだく。僞る、うつはる）〕愛ヅ。うつくしむ。カハユガル。字類抄（治承）辭字「慈、思、惠、イツクシム」平他字類抄（北朝、嘉慶二年ノ奥書アリ）「慈、イツクシム」

いづくんか（副詞句）［惡乎］次條ヲ見ヨ。

〜いづくんぞ（副詞句）［焉何烏惡］〔何處ぞノ音便、いづくんかハ、何處ぞ歟ナリ、二語ノ意、大抵同ジ（先ぞ出づ、さきんづ。往にし年、いんじ壽永ノ年）〕何處ニゾ。又、いづくんか。（共ニ、漢籍讀ノ訓語ト思ハル）下ヲ、推量ノ語ニテ承ク。詩經、衞風、伯兮篇「焉得二諼草一、言樹二之

背一」（諼草ハ忘草ナリ、背ハ室後ナリ）名義抄「何、イヅクンゾ」同、一部「焉、イヅクンゾ」倭訓栞「いづくんぞ「いづくんかモ同ジ、小爾雅ニ、惡、乎ハ、於レ何也ト見エタリ、惡ハ、平聲（虞韻）烏ト通用ス」唐藝賓下、討二則天武后一檄「一抔之土未レ乾、六尺之孤安在」（何處ニアルカ）

いっくゎ（名）［一窠］〔くゎ（窠）ノ條ヲ見ヨ〕窠ノ紋ヲ、一ツヅツ織リ出シタルモノ。二窠、三窠モ。主計寮式「一窠綾、二窠綾」織部司式「一窠錦」

いっくゎ（名）［一顆］〔顆ハ、說文「小頭也」韻會「今言二物一顆、猶二一頭一也」トアリ、六書故「凡圜物以レ顆計、又、珠琲曰レ顆」ト見エタリ、故ニ、頭ノ如キ圜キモノヲ稱フルニテ、小ナルモノハ、粒ト云ハムガ如シ〕玉、又ハ、果實ヲ數フル語。白居易、東林寺白蓮詩「欲レ收二一顆子一、寄向二長安城一」

いっくゎい（名）［一回］〔回ハ、回轉、二回、三回モ云フ〕（一）ヒトタビ。一度。杜甫詩「一柱觀頭眠幾回」孟郊詩「一日踏レ靑一百回」（二）年ノ、ヒトメグリ。一周。易林節用集（慶長）言語「一回、一年」（三）次條ノ語ノ略。其條ヲ見ヨ。（四）小說本ナドニ、一册ノ文ノ中ニ、一章。一段。俚言集覽、一回兒「小說語、ヒトタビ」「第一回」第三回」

いっくゎいき（名）［一回忌］〔一回ハ、一年ナリ、回、廻、同ジ〕一周忌ニ同ジ。（其條ヲ見ヨ）一回トノミモ云フ。吾妻鏡、十三、建久四年三月十三日「迎二舊院御一回忌辰一（後白河院）」二水記、永正十七年十月五日「詣二菊亭一、今日、是音院一廻也」（菊亭季孝）宣胤卿記、文龜二年四月十二日「今日、北堂一回正忌也」（北堂トハ、母ヲ云フ）

いっくゎいにく（名）［一塊肉］〔一塊ノ肉身、俚言集覽、一塊生「小說語、ヒトカタ

マリ、一塊トモ云フ、堅クナリ、ヒトマロメト云フコト」〕唯、一人ノ子。宋史、帝昺紀「楊太后聞二帝崩一、撫レ膺大慟曰、我忍レ死艱關至レ此者、正爲二趙氏一塊肉一耳、今無レ望矣」

いっくゎく（名）［一畫］くゎく（畫）ノ條ヲ見ヨ。

いっくゎん（名）［一卷］くゎん（卷）ノ條ヲ見ヨ。

いっくゎん（名）［一貫］一スヂニツラヌクコト。一理ノ、首尾貫通スルコト。論語、里仁篇「吾道、一以貫レ之」「論理、始終一貫ス」

いっけ（名）［一家］ヒトツノ家。典藥寮式「一家有レ藥、則一里無レ病」

いっけ（名）［一家］同ジ家系ノ族。［同族］北山抄、三「左大臣跪二長押上一、右大臣跪二長押下一、兄弟之間、其儀不レ同、一家之說何異乎」榮花物語、三、樣樣の悅「左京大夫殿ノ御上、（藤原道長妻倫子）云云、女君、生レタマヒヌ（彰子）此御一家ニハ、始メテ、女生レタマフヲ、必ズ后がねト、イミジキ事ニ思シタレバ、云云」同、廿七、衣の珠「此大納言殿、入道殿ヘ、一家ニテ、ムツマジキ御中ゾカシ」

いっけい（名）［一頃］〔頃ハ、玉篇「田百畝爲レ頃」トアリ〕田地ノ一區域ノ廣サ。二頃、三頃モ。後漢書、五行志「京都童謠曰、茅田一頃中有レ井、四方纖纖不レ可レ整」

いっけつ（名）［溢血］身體ノ組織ノ間ニ出血スルコト。「腦溢血」

いっけつ（名）［一闋］〔闋ハ、玉篇「止也、終也」博雅「訖也」增韻「樂終也」〕音樂ノ曲ノ、一度終ハルコト。二闋、三闋モ。周禮、夏官、大司馬「鼓戒三闋、車三發、徒三刺」

いっけん（名）［一見］（一）ヒトワタリ見ルコト。一覽。漢書、趙充國傳「百聞不レ如二一見一」雲圖抄「頭一見、聊加二按正一」（頭藏人ガ、文書ヲ按正

スト云ヘルナルベシ）太平記、廿七、雲景未來記事、貞和五年六月二十日、山伏「是ハ、諸國一見ノ者ニテ候フガ、云云、大伽藍ニテ候フナレバ、一見仕候ハバヤト存ジテ、天龍寺ヘ參リ候フナリ」（二）初對面。「一見、舊ノ如シ」

いっけん（名）［一件］〔說文「件、分也」六書故「物別也、又、各件、條件、俗號二物數一曰二若干件一」件（件の如し）ノ條ヲ參見スベシ〕（一）ヒトクダリ。一條。二件、三件、五件。「約束ノ事、一件」條約五件」（二）契約ナドスル時、別ニ、附帶シテ要求スル事ヲ、條件がつくト云フ。（三）俗ニ、事實ヲ言ハズ、あの事ナド云フ意ニ用フ。俚言集覽、一件「一條ノ事ヲ云フ、又俗ニ轉ジテハ、隱シテ指シ云フ語トナレリ」「例ノ一件ハ、ドウナリマシタカ」

いっけん（名）［一軒］〔軒ヲ以テ數フルカ〕一戸ニ同ジ。二、三軒。「家、一軒」三軒目ノ店」

いっけん（名）［一間］（一）家ノ內ノ、柱ト柱トノ間ヲ云フ語。建築ニ因リテ、其距離ニ長短アリ。宇治拾遺、四、十七條「煎大豆ヲ投ゲヤルニ、一間バカリ退キテ居タマヒテ、一度モ落サズ、挾マレケリ」（二）後世ハ專ラ、六尺ヲ一間ト云フ。拾芥抄（應永）中、末、殿舍「紫宸殿、九間四面庇」（三）六尺ナルヲ、田舍間ト云ヒ、六尺三寸ヲ、一間トスルアリ、コレヲ京間ト云フ、京トハ、貴人ノ宅ニ用キル故ニ云ヒ、田舍トハ、平人ノ家ニ云フ語ナラムカ、サレド、推測ナリ。

いっけんじゃう（名）［一見狀］證判狀ノ條ヲ見ヨ。

いっけんや（名）［一軒家］ヒトツヤ。隣ナキ家。軍隊語ニ、獨立家屋。孤屋

いっと（名）［一戶］一箇ノ家。一家族ノ

家。一軒。三戸、五戸、十戸。戸令「凡戸以ニ[illegible]一戸ニ、[illegible]ニ一人ハ當ニ一戸ニ」

いっ-こ (名) 一己 オノレ、ヒトリ。一箇人。關尹子文「聖人不下以ニ一己ニ治ニ天下ニ而以ニ天下ニ治ニ天下ニ」「一己ノ所存」

いっ-こ (名) 一顧 チョト、フリムクコト。漢書、外戚傳、李延年歌曰、北方有ニ佳人ニ、絶世而獨立、一顧傾ニ人城ニ、再顧傾ニ人國ニ」

いっ-こ (名) 一鼓 くれつづみノ條ヲ見ヨ。

いづこ (代) 何處 いづくヲ見ヨ。

いっ-こう (名) 逸口 〔逸ハ、廣韻「失也、過也、縱也」〕言ヒ過グルコト。失言。書經、盤庚、上篇「相ニ時憸民ニ、猶胥ニ顧ニ于箴言ニ、其發有ニ逸口ニ」

いっ-こう (名) 一喉 一喉ノ字、漢字書ニ、魚ニ就キテノ意ナシ、解スベカラズ、強ヒテ言ハバ、喉ノ鰓ノ穴ニ、細縄ヲ通シテ吊リオク意カ、出典ニ、一鈎ハ、一吊ナリトモアリ、尙、熟考スベシ、一こんトモ讀ムコト、是レ亦、出典ヲ見ヨ」魚ヲ數フルニ云フ語。いっこんトモ云フ。鹽添塩囊抄(天文)三、廿三條「魚、一こんト云フハ、何ノ字ゾ、一喉ト書クナリ、鈎ノ字ヲ一こん、二こんト讀ム、一つり、二つりト云フ心ナリ」大館文、書賜、かんのとの、鰤し、かんぱし、御鰭ノ條ヲ見ヨ。下學集(文安)下、數量門「一喉、魚之數也」 村隱節用集(明應)雜用「一喉、魚」易林節用集(慶長)言語「一喉、コン、魚」

いっ-こう (名) 一口 刀劍、釜、鼎等ノ器ヲ數フル語。二口、三口。竹書、[illegible]、[illegible]ニ[illegible]一口ニ 酉陽雜俎「[illegible]石[illegible]、[illegible]一口ニ」

いっこう-かう (名) 一口餻 〔小サクテ、一口ニ食ハルル意ニモアルカ〕 餅菓子ノ名。形、圓クシテ、五分バカリ、うどん粉ヲ捏ネテ、砂糖餡ヲ包ミ、一面ヲ燒キタルモノ。長崎ノ近郊ナル茂木ニテ製出ノモノ、又、尾張ノ知多郡、大野ノ鶴屋ノ製ノモノナド、名アリ。(鶴屋ニテハ、一口香ト記ス) 俚言集覽、一口香「尾張名產[illegible]ニテ製スル菓子、云云、五分程ノ丸饅頭ヲ似セテ作リタリ、知多郡大野ニテ製スルガヨシ、蟹殼餅」語彙、いつこうかう「麪粉ヲ捏ネ、中ニ紫糖ヲ包ミ、一面ヲ焦シタル果子ナリ、一口餻ノ字ヲ用キ來レリ」

いっ-こく (名) 一刻 ヒトトキ。一時間。「いっこくモ早ク、追ヒツクヤウ」

いっ-こく (名) 一刻 〔前條ノ語ヨリ移ル、極メテ短キ時間ナレバ、急速ノ意トナル〕 烈シク急クコト。一息ニスルコト。清水宗治申來覺書「高松ノ城、二重、三重ニ取卷キ、一刻攻ニ乘崩スベキト、云云」(史籍集覽)(此城址ハ、備中國、賀陽郡、高松村ニアリ、毛利氏臣、清水長左衞門尉宗治、城主ナリシガ、天正十年、羽柴秀吉ニ攻落サレシナリ) 信州川中島合戰(享保、近松作)二「口カラロヘ、いっこく飲ミ」

いっ-こく (名) 狠戾 〔前條ノ一刻ノ、急ク義ヨリ、燥急ノ意ニ移リタル語ナラム、又、一國ト書クハ、當字ナリ〕 (一)人ノ、意見ナド受ケタル時、直チニ怒ル性質。俚言集覽、一國「人ニカマハズ、我ガママナルヲ云フ」「いっこくナ人、人ノ言フコトヲ聽カズ」(二)いっこくナ者、ヤヤモスレバ、腹ヲ立ツ」(三)いっこくものノ略。燥急ナル人。頑固ナルモノ。

いっ-こく (名) 一國 (一)一ツノクニ。(次條ヲ見ヨ)「一國ノ人、皆歡ブ」(二)五畿七道ノ内ノ、一箇ノ國。式部省式、下「先引ニ東海道一國朝集使、及郡司等ニ入也ニ立庭中ニ」(三)國中。擧國。易林節用集、上、言語「一國平均」

いっこく-いちじやう (名) 一國一城 一箇國、又、一國城、其領主ノ大名ナドニ云フ。俗語考(橘守部)一國一城「禮記云、一國之人、[illegible]云云、一村、一城、一[illegible]、云云、[illegible]、[illegible]ナル事ヲ、一國一城ト云フ(國、城ヲ、[illegible]ニ守ル[illegible]ナルカ)

いっこく-せんきん (句) 一刻千金 春夜ノ景ハ、樂シクシテ、一刻ノ時ニモ、千金ノ價アリ。蘇軾、春夜詩「春宵一刻直千金、花有ニ清香ニ月有ニ陰ニ」

いっこく-もの (名) 狠戾者 〔下略シテ、いっこくトモ云フ〕 いっこく(狠戾)ノ條ノ(三)ヲ見ヨ。

いっこ-じん (名) 一個人 〔英語、Individual. ノ譯語、いっかじんナルベシ、個ノ字ニ、こノ音、見エズ、サレド俗ニ從フ、一箇ノ條ヲ見ヨ〕 國家、社會ナドノ團體ニ對シテ、人、ヒトリノ稱。公人ニ對スル私人。一己。上略シテ、個人トモ云フ、然ルトキハ、複數ニモ用キラル。

いづこ-はか (副詞句) 何處許 いづこをはかり見ヨ。

いづこ-はかり (副詞句) 何處許 いづこをはかりヲ見ヨ。

いっ-こん (名) 一獻 爾雅、釋詁「享、獻也」疏「致ニ物於尊者ニ曰ニ獻」貴人ニタテマツリ、高官ニ勸ムルナリ、唐韻「獻、音憲」漢音ナリ、吳音、こん(權、ごん)」貴人、又ハ、高官ニ、酒肴ヲ饗スルコト。二獻、三獻等アリ、古昔ナルハ、其式ノ詳ナルヲ知ラズ、室町幕府以來ノ儀式ハ、出典ノ四季草ヲ見ヨ。西宮記、二月十一日、列見ノ上卿以下ノ獻盃ニ、二獻、三獻、見ユ、江家次第、二、[illegible]ノ條ニ、[illegible]、乃至、四獻、云云、延喜式[illegible]ニ不レ過ニ五獻ニ、如ニ式文ニ者、可レ及ニ七八獻ニ歟」[illegible]人[illegible][illegible]ニ[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]ニ[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]ニ[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]ニ[illegible]、[illegible]ニ[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]伊勢貞正宜守ノ作、[illegible]ハ、盃ナリ) 同「後光嚴院、御遷幸ニテ、云云、其御代ヨリ獻數加增シテ、云云、九獻マデ鼓ニ聞召ニタリ」四季草(伊勢貞丈)六、秋、下、獻數ノ條ヲ摘錄スレバ「一こんト云フハ、肴ヲ出シ、盃銚子ヲ出シテ、三度勸メテ、其肴ノ膳ヲ撤シ、盃モ銚子モ入ル、是、一こんナリ、次ニ、二獻ナリ、獻數多ルトモ、皆同ジ事ナリ、[illegible]ノ[illegible]ヨリ、德川幕府ニ傳フル、武家有職家、伊勢流ノ式ナリ」

いっ-こん (名) 一喉 一喉ヲ見ヨ。

いっこん-ぞめ (名) 一斤染 〔斤ハ、漢音、きん、吳音、こん、(金、こん)こんト書キタルハ、出典ニアリ〕 紅花一斤ニテ、絹一匹ヲ染メタルモノ。色薄シト云フ。延喜式、[illegible]、一、[illegible]、[illegible]、延喜十八年三月十九日[illegible]非違使、云云、以ニ紅花大一斤ニ[illegible]染ニ絹一匹ニ之色[illegible]山槐記、治承三年三月三日宇治一切經會[illegible]、云云、左衞門權佐光長、[illegible]一斤染、[illegible]」年中行事裝束抄、[illegible]使ハ、[illegible]、[illegible]ニ、「一こんぞめ」[illegible]抄、上「別當時忠、著ニ一斤染衣ニ」

いっ-こんに (名) 一喉煮 一喉ノコトハ、いっこう(一喉)ノ條ヲ見ヨ」魚ノ、煮ツケタルモノ。[illegible]五月十七日、[illegible]、[illegible]ニ[illegible]事、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]マボコ、[illegible]モノ、一こんに[illegible]日、[illegible]之中[illegible]、[illegible]同前(丹後少將)一物、ふな、一こんに」

いつ-ごろ (副) 何時頃 いつごかり(何時許)ニ同ジ。

いづこ-をはか (副詞句) 何處許 次條ヲ見ヨ。

〜いづこをはかり（副詞句）何處許〔はかりハ、程ノ意、富士ノ山ハ、比叡ノ山ヲ、十ばかり重ネタル、（しほしりノ條ヲ見ヨ）いづこはかりモ同ジ、いづこをはかト云フハ、下略ナリ、（郡司、こほのつかさ。剩、あまさへ）いづこはかり、いづこはかモ、同ジ、但シ、皆、をヲ省ケリ〕何處ノ程。何處ノアタリ。いづこをはか。いづこはかり。いづこはか。伊勢物語、廿一段「何方ヲ求メ行カムト、門ヲ出デテ、トミ、カウミ、見ケレドモ、いづこをはかりトモ覺エザリケレバ、歸リテ入リテ、云云」後撰集、十、戀、二「今日過ギバ、死ナマシモノヲ、夢ニテモ、いづこをはかト、君ハ訪ハマシ」同、七、秋、下「アカカラバ、見ルベキモノヲ、雁ノ、いづこはかりニ、鳴キテ行クラム」寛平歌合、冬「我ガ宿ハ、雪降ル野邊ニ、路モナシ、いづこはかトカ、人ノ認メ來ム」

いっ-さい（名）一菜　飯ノ菜ノ、一品ナルコト。運歩色葉集（天文）「一菜」「一汁一菜」

いっ-さい（名）一切〔切ノ字ハ、漢音、せいニテ、吳音、さいナリ、（萬歲、萬歲）唐韻「切、七計切、音砌、衆也」正字通「大凡也」法苑珠林「一者、以二普及一爲レ言、切者、謂レ盡レ際爲レ語」〕世界中ノ衆多ノ事物ヲ、總括シテ稱スル語。次條、及、一切衆生ヲ併セ見ヨ。法華經、化城喩品「唯願世尊、哀二愍一切一轉二於法輪一」遺敎經「一切種植、及、諸財寳」字類抄（治承）「一切、イッサイ」野守の鏡、下（伏見天皇、永仁二年）「蓮臺野ト名ヅケテ、一切ノ人ノ墓所トナレリ」（此野ハ、京都ノ千本通ノ北端ニアリ）謠曲、谷行「一切有爲ノ世ノ習ヒ、如二夢幻泡影一、如レ露亦如レ電」

いっ-さい（副）一切〔前條ノ語ヲ、副詞ニ用ヰルナリ〕コトゴトク。スベテ。ミナ。殘ラズ。史記、李斯傳「諸侯人、來事レ秦者、大抵爲二其主一游二閒於レ秦耳、請一切逐レ客」註「索隱云、一切、言二盡逐一之也」彈正臺式「雙六者、無レ論二高下一、一切禁斷」此語ヲ、俗間ニテハ、いっせつ仕ラズ、いっせつ存ゼズ、いっせつ無用ナド云フハ、誤ナリ、切ルノ意ノ切ト思ヒテ云フナリ、一切ヲ、一切ト云フハ、百姓讀ナレバ、用ヰルベカラズ、然レドモ、漢土ノ儒士モ、亦、誤レルコトアリ、下ヲ見ヨ。佩文韻府、去聲、霽韻ニ「一切、七計切、衆也、漢書、平帝紀、元始元年正月、賜二天下民爵一級一、吏在位二百石以上、一切滿レ秩如レ眞、晉書、元帝紀、遠近禮贊、一切斷レ之」同書、入聲、屑韻「切、千結切、割也、刻也、史記、李斯傳（全文、前ニ記セリ）請一切逐レ客、註、索隱曰、一切、言二盡逐一之也、言レ切者、譬二若利刀之割一、一運レ斤無レ不レ斷者」（不當ノ解ナリ、盡ト云ヘバ、ソレデ一切ナリ）漢書、趙廣漢傳、一切治理、威名流聞、註、諸事、皆治理也」（諸事ハ、卽チ一切ナリ、スベテ切ルト云フ心トシテ、義ヲ成サズ）俚言集覽、一せつ（一切）ノ條ニ、梅園日記稿ヲ引用シテ、以上ノ外ノ一切ヲモ記シテ、唐土人スラ誤レリト云ヘリ。（引用書ハ、北靜廬ナルベシト思ヘド、板本ニハ見エズ、日記稿トアレバ、未刊ノモノニヤ）易林節用集（慶長）上、言語「一切、セツ」（二樣ニ云ヘリ、迷ヘルナルベシ）元祿ノ諺艸ニモ、漢書ノ誤ニ因リテ、一切トシタリ。元祿ノ合類節用集、言辭、八ニ「一切、大凡也」同、九ニ「一切、索隱、猶二一例一云云」大學蒙引「一齊也」（一切ナリ）

いっさい-がっさい（副詞句）一切合財〔一切ノさいノ音調ヲ、がっさいト寄セタルカ、財ヲ合はするニハアルマジ〕住居ヲ引拂ヒテ、家財一切ヲ携ヘテ、ノ意ニモアルカ、俗語ナリ。「いっさいがっさい、持ッテ行ク」

〜いっさい-きゃう（名）一切經〔釋迦ノ所說ノ經典（經、律、論ノ三大部類）ヲ、一切悉皆集メテ編纂シタルモノ〕佛經、だいざうきゃう（大藏經）ノ一名。其條ヲ見ヨ。天武紀、下、二年三月「始寫二一切經於川原寺一」三代實錄、廿七、貞觀十七年三月「勅遣二傳燈大法師位安宗、於二太宰彌勒寺一、安二置一切經三千四百三十二卷一」枕草子、十、百三十三段「法師、院ノ積善寺ト云フ御堂ニテ、一切經供養セサセタマフ」（一切經供養トハ、貴人ガ、全部寫サシメ、大寺ニ寄附スル時、行ヒタマフ法會）

いっさい-しゅじゃう（名）一切衆生〔一切ノ、イキモノ〕佛敎ノ語。世ニアラユル生物。專ラ、人類ヲ云フ。法華經、譬喩品「衆聖中尊、世間之父、一切衆生、皆是吾子」涅槃經「一切衆生、悉有二佛性一」欽明紀、六年九月、佛像願文「願、普天之下、一切衆生、皆蒙二解脫一」（二）さしもぐさノ條ヲ見ヨ。

いっさい-てん（名）一齋點　佐藤一齋ノ訓點シタル四書、五經ナド。訓點ノ條ヲ見ヨ。

いづさ-いるさ（副詞句）出入〔さ（時）ノ語原ヲ見ヨ〕出ヅル時ト、入ル時トニ。夫木抄、廿一、關「モノノフノ、いづさいるさま、枝折スル、トヤトヤトホリノ、無耶無耶ノ關」

いっ-さう（名）一雙　一對ニ同ジ。史記、項羽紀「白璧一雙、欲レ獻二項王一」杜甫詩「沙鷗並一雙」大鏡、中、伊尹「明理、行成ト、一雙ニ言ハレタマヒシカドモ」著聞集、十二、博奕「盃酌ノ後、圍碁アリケリ、云云、少納言成隆、能忠等、二雙仕フマツリケル」（二人相對シテ、碁打ツコト、二番ナリ）

いっ-さう（名）一左右〔さう（左右）ノ條ヲ見ヨ〕一度ノ通報。「先方ヨリノ一左右ヲ待ツ」

いっ-さき（名）梧桐〔五尖ノ急呼、葉ノ形、五ツニ裂ケタリ、或ハ、五裂ノ轉カ、（十六ささげ、ささぎ）いさきト云フハ、略ナリ（一向、いかう。雜喉、ざこ）〕あをぎり（梧桐）ノ異名。又、いさき。倭訓栞、後編、いつさき「葉ノ五尖ナルヲ以テ名ヅク、木モ葉モ、梧桐ニ似タリ」

いっさき（名）いさき（鷄魚、鰯魚）ノ條ヲ見ヨ。

いっ-さく（名）一昨〔昨日ヲ見ヨ〕幾日、幾年ノ間ニ、一日、又ハ、一年ヲ隔テ、過ギ去レルヲ云フ語。二日、又ハ、二年ナルヲ、一昨昨ト云フ。會眞記「張生詣二書于崔一、崔報云、一昨拜辭、倏逾二萬歲一」明衡往來（藤原明衡）「一昨日進二暇文一」「一昨日」「一昨年」「一昨昨日」「一昨昨年」

いっさく-さくじつ（名）一昨昨日　前條ヲ見ヨ。

いっ-さつ（名）一册一冊〔册、冊、二字、同ジ、正字通「册、編簡也」然ルニ、正韻、其他ノ字書ニ「恥革切、音策」トノミアリテ、さつノ音見エズ、サレド、普通ニ云フ所ニ從フ、研究スベキナリ、册子ヲさうしト云フハ、音便ナリ〕綴本、一箇。五册、十册、百册。俚言集覽、一册「元宇文公諒傳、挾二手記一册一」

いっ-さつ（名）一札（一）カキモノ、一枚。一紙。後漢書、循吏傳「光武手跡賜二遼國一、皆一札十行、細書成レ之」運歩色葉集（天文）「一札」（二）證書、手形ノ類、一通。「證文一札ヲ入ル」「仍而一札如レ件」

いっ-さつ（名）一撮〔撮ハ、量ニ云フ語ニテ、一抄ノ十分ノ一〕極メテ微細ナル目方。漢書、律曆志「量二多少一者、不レ失二圭撮一也」易林節用集（慶長）「撮、撮、合、勺」

いっ-さん（名）一粲〔廣韻「粲、明也」穀梁傳、昭公四年「軍人粲然皆笑」註「粲然、盛笑貌」蘇軾詩「笑齒粲如レ玉」笑ヘバ、白齒明ラカニ見ユ〕笑フ貌ニ云フ語。ヒトワラヒ。一笑。范成大詩「我乃不レ能レ答、

付録[illegible]、詩文ナド、人ニ示シテ[illegible]一粲ニ」ト云フハ、一笑ヲ供ふト云フ意ナリ。

いっさんみ (副) 一參 いちもくさんヲ見ヨ。

いっ-サンマイ (名) 一三昧 〔一三昧ヲ見ヨ〕其事ニノミ、心力ヲ入ルルコト。一心不亂。專心 「學問ニ一三昧」

いっし (名) 一子 (一)多數ノ子ノ中、嫡子一人。 漢書、[illegible]傳「自ㇾ秦至ㇾ漢五世、而傳二一子一」 式部省式、上「正六位上、隨ㇾ位一子ニ蔭敘ニ嫡子ニ」 (二)技藝ノ祕訣ヲ、數子ノ内ニテ、一子ニ限リテ相傳スルヲ、一子相傳ト云フ。 古事類苑、樂舞部、十五、能樂、四、和泉流(狂言)名寄「一覽、[illegible]、一番習ノ條 一子相傳、釣狐、[illegible]、三番叟ノ外、秘藏アリ」 同、遊戲部、九、茶道三、茶事談、上、宗易(千利休)ガ茶事、宗易ニ至テ、太閤秀吉公ノ命ニ因リ、茶道ノ極意ハ、一子相傳トナル(嫡男、家督ナルニ因テ、宗淳傳ヲ受ス、云云トアリ)

いっし (名) 一紙 (一)紙、一枚。一枚ノ文書。一札。 拾遺記、三「盧光啓毎ㇾ致ㇾ書、一事別爲二一紙一」 尺素往來、奉行散狀、一紙、合二進覽一候」 (二)同ジ紙。 太政官式「錄存連二修一紙一」「一紙ニ認ム」

いっし (名) 逸史 「散逸セル史事ノ義」史事ノ、正史ニ漏レタルモノ。「日本逸史」

いつじ (名) 逸事 軼事 普ク人ニ知ラレザル事跡。 柳宗元文「段太尉逸事狀」 史記、管晏傳、贊「至二其書一、世多有ㇾ之、是以不ㇾ論、論二其軼事一」

いっしう (名) 一周 (一)漢書、劉向傳「周回五里有餘」周、市也。「周ノ字ハ、漢字書ニテ、口ノ部ニテ引クナリ」 ヒトメグリ。ヒトマハリ。 爾雅、釋天、疏「凡三百六十五度四分度之一、是天之一周之數也」 春宮坊式、[illegible]「一周、雜樂作ㇾ樂ニ一地ヲ一周ス」 一周年、一[illegible]、全一年ナリ。

いっしう (名) 一週 〔玉篇「週、與ㇾ周同」字彙「週、迴也」七曜日、一周ノ意ナルベシ〕日曜日ヨリ土曜日マデノ、一七日ノ稱。此間ヲ、一週間ト云フ。

いっしうかん (名) 一週間 前條ヲ見ヨ。

いっしうき (名) 一周忌 〔一周ノ條ヲ見ヨ、俗ニ、いっそいきト云フ、しトそト、うトいト轉ジタル語ナキニモアラネド、到底、いっしうきノ訛語ナリ〕ハテ。ムカハリ。人、其ノ月日ニ逝去アリテ、一箇年ノ後ニ、其月、其日ヲ、佛事ヲ營ムニ就キテ云フ語。一回忌。(俗ニ、いっきいき)回忌ノ條ヲ併セ見ヨ。小祥忌 [illegible]涼軒日錄、寛正五年九月廿八日「來八月八日、普知院殿、一周忌御佛事、云云」(足利義政母、重子) 二水記、大永七年四月七日「今日、先皇、御一周忌也」(後柏原天皇)

いっしうねん (名) 一周年 いっしう(一周)ヲ見ヨ。

いつしか (副) 〔何時し歟ノ意、しハ、強ク指ス意ノ辭〕(一)何時カ、早ク。(待ツ意) 萬葉集、八、三「秋風ノ、吹キコシ日ヨリ、何時可ト、吾ガ待チ戀ヒシ、君ゾ來マセル」(牽牛星、織女星ノ相會スルコトニ云フ) (二)知ラヌ程ニ。イツノマニヤラ。 千載集、十一、戀、一、初戀「思フヨリ、いつしか濡ルル、袂カナ、涙ゾ戀ノ、シルベナリケル」 拾玉集、六「穗ニ出ヅル、門田ノ稻葉、今朝見レバ、いつしか重キ、秋ノ白露」

いっしき (名) 一式 「皆式」 物事ヲ統ベテ云フ語。一切。悉皆。 [illegible]三番[illegible]子(享保、近松作)下「[illegible]、長持、其ノ外、嫁入道具一しき、積ミ重ネ」「假[illegible]道具、一式ノ[illegible]書」

いっしき (名) 一色 ヒトイロ。他ヲ雜ヘヌニ云フ。 毛吹草(正保)「紅葉スル、山ハ一色、に[illegible]きカナ」 小町踊(寛文)「[illegible]一色ヤ、五色ニマサル、六ノ花」

いっしさうでん (名) 一子相傳 一子ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。

いっしつ (名) 一室 一間。同ジ部屋。「一室ニ籠ル」

いっしどうじん (句) 一視同仁 [illegible]彼レノ差別ナク、ヒトツニ見テ、同ジク仁愛ヲ施ク。 韓愈、原人「聖人一視而同仁、篤近而擧遠」

いつしば (名) 五柴 〔萬葉集古義、四、五十之葉草ノ義ト云フ〕繁ク生ヒタル柴草。 萬葉集、八、十二「天霧ラシ、零毛零ラヌカ、イチジロク、コノ五柴ニ、降ラマクヲ見ム」 同、十一、十四「路ノ邊ノ、五柴原ノ」

いっしはんきふ (名) 一資半級 僅少ノ官位。 柳氏家訓「急於名宦、匿近權要、一資半級、雖ㇾ或得ㇾ之、衆怒群猜、鮮ㇾ有存者」

いっしはんせん (名) 一紙半錢 紙一枚ト、錢半文ト。僅少ナル意ニ云フ。佛家ニテ、僅少ノ施物。 謠曲、安宅(觀世小次郎)「普阿彌ノ子」「一紙半錢ノ奉財ノ輩ハ、此世ニテハ、無比ノ樂ニホコリ、當來ニテハ、數千蓮華ノ上ニ坐セム」(安宅關ニテ、辨慶ガ讀ミアゲタル勸進帳ノ文ナリ) 宗長手記、[illegible]「女ハ水ヲ汲ミ、男ハ爪木ヲ拾ヒ、子ハ目前ニ、人ノ奴トナリ、ハヒカシコマル[illegible]、云云、一紙半錢ノ事モ、コレラニコソト云フ人モ侍リシ」

いっしふ (名) 一襲 上着、下着ドモヲ總ベテ云フ語。 春宮式「女孺人各給小袖一襲二」

いっしん (名) 一心 (一)心、ヒトツ。他念ナキコト。 莊子、天道篇「一心定、而萬物服」 華嚴經「三界唯一心、心外無別法」 (二)心、イッパイ。專一ニ思フコト。一念。專念 法華經、[illegible]「一心ヲ込メテ」「一心ニ思フ」「一心不亂」

いっしん (名) 一新 [illegible]事ヲ新ニスルコト。特ニ、明治元年、武家政治ヲ廢セラレ、王政ニ復古セシメラレタルヲ、御一新ト云フ。[illegible]

いっしん (名) 一身 (一)己レノ身、ヒトツ。 梅松論、下「國ノ案内者ニテ候間、一身ハ定メテ[illegible]」「一身ノ事[illegible]」 (二)其身體、コゾリテ。全身。 [illegible]「一身ヲ擧ゲテ從事ス」 (三)一身阿闍梨、及、一身田ヲ見ヨ。

いっしん (名) 一審 訴訟事件ノ、最初ノ裁判。再審、及三審アリ。

いつじん (名) 逸人 人ノ號ノ下ナドニ用キル語。世俗ヨリ逸シタル人、世外ノ人ノ意。

いっしんアジャリ (名) 一身阿闍梨 宮、攝政ノ子息ノ、得度、受戒ノ後ニ、其身一生、補セラルル阿闍梨ノ稱。[illegible]上「一身阿闍梨者、其人一人被ㇾ下ニ宣旨一也、[illegible]」云、被ㇾ下ニ宣旨一以ㇾ之稱ニ一身阿闍梨一」(古事類苑)

いっしんしょうみゃう (名) 一心稱名 佛教ノ語。心ヲ一ツニシテ、佛ノ名號ヲ稱フルコト。 法華經、觀世音菩薩普門品「一心稱ニ名觀世音菩薩一、即時觀ニ其音聲一、皆得ニ解脫一」

いっしんすべてしれたん (名) [illegible] [illegible]

いっしん-せん-ねん (名) 一心專念 心ヲ一ツニシテ、專ラ念佛ヲ稱フルコト。往生論「心常作願、一心專念、畢竟往ニ生安樂國土ニ」

いっしん-でん (名) 一身田 (一身ニ下賜セラルル田地、輶軒小錄、一身田之事ノ條「伊勢ニ一身田ト云フ所アリ、專修寺ト云フ寺アリテ、親鸞宗ノ一本寺ナリ、世ニ高田ト云フ、一身田ト云フコト、イカナル故ヲ知ラズ、近頃、三代實錄ヲ見レバ、一身田ト云フハ、口分田、世業田ノ類ニテ、其一身ニ下賜セラルル田地ノ名ト見エタリ、昔コノ田ヲ賜フ處、後世遂ニ地ノ名トナルト見エタリ」」其身一代、賜フ田地。いしでん。類聚國史、百七、職官、大同四年五月「在ニ河內國ニ內藏寮田十一町、賜ニ正五位下伊勢朝臣繼子ニ、其一身之後、收爲ニ寮田ニ」三代實錄、三十三、元慶二年六月二日「勅、以ニ參河國播磨郡荒廢田一百町ハ、賜ニ孟子內親王ニ、爲ニ一身田ニ」(今モ、伊勢國、河藝郡ノ南界、專修寺ノアル地ヲ、一身田ト云フ、古ヘ、一身田ヲ賜ハリシ人ノ所有ナリシナルベシ)

いっしん-にが-びゃく-だう (句) 一心二河白道 佛敎ノ譬喩。人アリ、西ニ向ヒ、百千里ヲ行カントスルニ、忽然、途中ニ二河アリ、一ハ火ノ河ニシテ、南ニアリ、一ハ水ノ河ニシテ、北ニアリ、二河、各闊サ百歩、深サ底ナシ、水火ノ中間ニ、一白道アリ、闊サ四五寸バカリ、水浪、火焰、交來リ侵シ、危險イフベカラズ、後ヨリハ群賊、惡獸、競ヒ來リテ殺サントス、其人思ヘラク、止マルモ死シ、行クモ亦死ス、寧ロ此道ヲ尋ネテ前進セント、カクテ、終ニ西岸ニ到達スルヲ得タリト、水火ノ二道ハ、衆生ノ、貪愛、水ノ如ク、瞋憎、火ノ如キニ譬ヘ、中間ノ白道ハ、衆生ノ貪瞋、煩惱中、能ク清淨ニシテ、往生ヲ願フ心ヲ生ズルニ喩ヘシナリ。(諺語大辭典ノ涅槃經、廿三卷、及、大智度論ニ據ル)

いっしん-ふ-らん (句) 一心不亂 心、一三昧ニシテ、亂レズ。他念ナク、其事ニノミ、心ヲ傾ク。阿彌陀經「執ニ持名號ニ者、若一日、云云、若七日、云云、一心不亂」

いっしゃう (名) 一生 イキノウチ。人ノ、生レテ、死ヌルマデノ間。一期。一世。一生涯。晉書、畢卓傳「右手持ニ酒盃ハ、左手持ニ蟹螯ハ、拍ニ浮酒船中ハ、便足レ了ニ一生ニ矣」竹取物語「一生ノ恥、コレニ過グルハアラジ」

いっしゃう (名) 一餉 (餉ハ、集韻「自レ家之レ野曰レ餉」トアル如ク、外出ノ時ニ携フル乾飯ヲ云フ) 一飯。一度ノ食事。張耒詩「寄ニ身愛憎間ハ、得失眞一餉」

いつ-じゃう (名) 揖讓 (揖ハ、一入切ニテ、音ハ、いふナリ、サレド、ふハ、入聲ノ韻ナレバ、他ノ字ノ上ニ熟語トナルトキハ、立ヲ立身、立禮、入ヲ入聲トモ云フナリ、六書故「揖、拱レ手上ニ下左右之ヲ、以相禮也」(楚辭、大招、註「上レ手延登曰レ揖、壓レ手退避曰レ讓」)) 他ニ、會釋シテ、讓ルコト。論語、八佾篇「君子無レ所レ爭、必也射乎、揖讓而升、下而飲、其爭也君子」(大射ノ禮ニ云フナリ) 禮記、仲尼燕居篇「進退揖讓、無レ所レ制」字類抄(治承)「揖讓、イツジャウ」揖、イフス」

いっしゃう-がい (名) 一生涯 一世ノ生涯。一生。畢生

いっしゃう-けん-めい (名) 一生懸命 一所懸命ノ訛。其條ノ(二)ヲ見ヨ。

いっしゃう-こう-なって-ばん-こつ-かる (句) 一將功成萬骨枯 一人ノ將軍ハ、大戰ニ敵ヲ敗リテ、其身ノ功ハ成レリ、サレド、配下ノ萬人ノ兵卒ハ、皆戰死シテアルナリ。三體詩、七言絕句「澤國江山入ニ戰圖ハ、生民何計樂ニ樵蘇ハ、憑レ君莫レ話封侯事、一將功成萬骨枯」

いっしゃう-さん-たん (句) 一唱三歎 (一)一人唱ヒテ、三人相和ス。禮記、樂記篇「淸廟之瑟、朱絃而疏越、壹倡而三歎、有ニ遺音ニ者矣」註「倡、與レ唱通、朱子曰、一倡而三歎、謂ニ一人倡而三人和ハ、今解者、以爲ニ三歎息ニ非也」(二)此語、誤用セラレテ、傑作ノ詩文ナドニ、一度讀ミテ、三度歎稱ス、ノ意トス。

いっしゃう-ふぼん (句) 一生不犯 佛敎ノ語。一生涯、邪淫ノ戒ヲ犯サズ。盛衰記、十一、靜憲熊野詣事「右衞門佐ト中シタル女房、云云、一生不犯ノ女房ニテオハシケレバ、淸キ者ナリトテ、法皇モ、幼稚ノ御時ヨリ、近ク召仕ハセマシマシ、云云」吾妻鏡、一、治承四年八月十六日「有ト號ニ法音ニ之尼ハ、爲ニ一生不犯之者ニ」

いっしゃう-ぼう-こう (名) 一生奉公 奥方ニ仕フル女中ナド、奥方ノ身ヲ終フルマデ仕フルコト。御一生ト云フベキナリ、自身ノ老死スルマデト云フニアラズ。

いっしゃく (名) 一勺 量ニ云フ語ニテ、一合ヲ十ニ割リタル、其一ヲ云フ。俗ニ、一夕トモ記ス。四時祭式、上「鹽一勺二撮」拾芥抄、下「十撮爲レ夕」

いっしゃく (名) 一尺 (隻ノ字ハ、借字也) 魚、一尾ヲ云フ語。四時祭式、上「鮭、五隻」宇治拾遺、一、十五條「イカナル女御、后ナリトモ、腰ニ、さけノ、一二尺ナキヤウハアリナンヤ、トテ云ヒタリケレバ」俚言集覽「兼異記、下、鮭八隻トアレバ、鮭ノミニアラズ、他ノ魚ニモイフベシ」

いっしゃ-せんり (句) 一瀉千里 (河ノ水ガ、一度流レテ、千里ヲ走ル意) (一)勢ノ激シク通ルコト。「議案ヲ、一瀉千里ニテ決ス」(二)文章ノ力強キニ云フ語。福惠全書、二十九「早ニ馳燕隱ハ、儼然[illegible]裡輕舟、片刻一瀉而千里」

いっしゅ (名) 一朱 一朱銀ヲ見ヨ。

いっしゅ (名) 一株 (一)樹木ニ云フ語。南史、宋孝武帝紀「淸暑殿西甍鴟尾中央、生ニ嘉禾ハ、一株五莖」(二)箸ニ云フ語。イッポン。大膳式「箸竹、二百三十株」

いっしゅ (名) 一首 (燕居雜話、二「一首トハ、各編、首尾、相具スルノ略言ニヤ」ト、此說、從フベカラズ」) 詩歌、文章ノ、作リタルモノヲ數フル語。舂霽錄「史記、田儋傳贊、蒯通者、善爲ニ長短說ハ、論ニ戰國之權變ハ、爲ニ八十一首ハ、首之字、始見ニ于此ハ云云、後世、詩文一篇稱ニ一首ハ、恐出ニ於此ニ」萬葉集、一ニ「作歌一首」運步色葉集「一首(詩歌)」

いっしゅ (名) 一炷 香ヲ、ヒトタキトボスコト。香ヲ一ツトモスコト。香ノヒトクユリ。觀音經、鈔註「一炷香薰ニ三千界ニ」易林節用集、言語「一炷(香)」

いっしゅ (名) 一種 (一)一種物ノ條ヲ見ヨ。(二)同類ノ中ニテ、少シ異ナルモノ。異種。「吉野櫻ハ、山櫻ノ一種」(三)次條ヲ見ヨ。

いっしゅ-いっぺい (名) 一種一瓶 一種物ヨリ出デテ、肴ノ異名。吾妻鏡、十一、建久二年九月廿一日「各相ニ具一種一瓶於盃ニ獻レ之」庭訓往來、正月「一種一瓶者、衆中之課役、賭物引出物者、亭主奔走歟」

いっしゅう（名）二｜一首｜ 俳歌ノ、一個ノ首。[illegible]旨[illegible]

いっしゅきん（名）二｜一朱金｜ 文政七年、德川幕府ヨリ發行セシ、銖ノ金貨。卽チ、一分金ノ四分ノ一ニ當ル。（いちぶきんノ條ヲ見ヨ）

いっしゅぎん（名）｜一朱銀｜ 德川幕府ニテ、文政十二年ニ鑄造セル、銖ノ銀貨。十六枚ヲ以テ、金一兩ニ充ツ、長サ五分、幅三分、安政年間ニ鑄造ノ物ハ、更ニ小ナレバ、小粒ト唱ヘタリ。時ニ、江戶、品川灣ノ神ニ臺場ヲ築ク、多ク其人夫ノ賃ニ拂ヒタルニ因リテ、俗ニ、おだいばト稱シタリ。略シテ、いっしゅ。

いっしゅく（名）｜一宿｜ 一夜、ヤドルコト。ヒトバン、トマルコト。左傳、莊公三年「凡師一宿爲レ舍、再宿爲レ信、過レ信爲レ次」大學寮式、皆淸ニ齋於學館ニ一宿一

いっしゅく（名）｜一縮｜ 〔一支具、或ハ、一式ノ當字ナリト云フ、卽チ、具足ノ意〕鎧、具足、ノ異名。又、鎧ヲ着タル武者。着るヲ、一縮すト云フ。運歩色葉集（天文）「一縮註、具足」林逸節用集（文明）「一縮註、武者」太平記、二十六、楠正行最期事、「和田新兵衛正朝一鎧、一縮シテ徒立ニ成テ、太刀ヲ右ノ脇ニ引キソバメ」

いっしゅつ（名）｜逸出｜ 拔ケ出ヅルコト。ハナレ、デルコト。

いっしゅん（名）｜一瞬｜ 一度、メバタキスル間。極メテ短キ時間ニ云フ。ヒトマクナギ。ヒトマタタキ。刹那。 [illegible]前赤壁賦「天地曾不能以一瞬」[illegible]丸（[illegible]作）五「一瞬、刹那ガ其ノ間ニ、忽チ安養無二世界、[illegible]快樂ノ都ニ至ラン」

いっしゅもの（名）｜一種物｜ いっしゅものノ

條ヲ見ヨ

いっしょ（名）｜逸書｜ 〔逸ハ、廣韻「失也」韻會「通作ノ佚」[illegible]〕 世ニ失セテ傳ハラヌ書物。[illegible]

いっしょ（名）｜一書｜ （一）一部ノ書籍。「一書ヲ藏ス」（二）同ジ書籍。同書。「一書ニ云」（三）或ル書籍。一本。異本。「一書ニ曰ク」（四）一通ノ書狀。「一書呈上仕候」

いっしょ（名）｜一處｜ （一）ヒトトコロ。一箇處。（二）同ジトコロ。同處。（三）ヒトツニナルコト。相伴フコト。相倶。「一處ニ讀ム」「一處ニナル」

いっしょ（名）｜一緒｜ 「緒ハ、說文「絲耑也」トアリテ、絲ノ線ヲ云フ」一線。一筋。晉書、陸機傳、論「一緒連レ文、則珠流璧合」

いっしょう（名）｜一升｜ 量ニ云フ語ニテ、一合ヲ十アハセタル數。雜令「量十合爲二一升一、三升爲二大升一升一」四時祭式、上「漆一升」

いっしょうます（名）｜一升枡｜ 物一升ヲ容ルル枡ノ名。斗梁アリテ、内、方四寸九分、深サ二寸七分一厘。水枡ハ、斗梁ナクシテ、深サ一厘ヲ減ズ。

いっしょけんめい（句）｜一所懸命｜ 〔命ヲ懸くるトハ、生活ノ賴ミトストノ意、（二）ノ意ハ、一所懸命ト云フ中古語ハ、解セラレズ、サレド、唯、何ガナ耳ニ挾ミテ居ルニ、遂ニ、いっしょヲいっしょうト延ベテ、一生ノ字ヲ塡メテ、全ク違ヘル意義ニ用ヰ始メタルナルベシ（讒訴、ざんぞう。土突、どうづきナドノ語モアリ）〕（一）唯、一箇所ノ領地ノ租ヲ得テ、生活

ス。[illegible]修理大夫顯季朝臣、與二三河守義光一相二爭所領地一白川[illegible]一所懸命ノ地行ニモアタハズ」義殘後覺（文祿）一「此木食ハ、生國、江州北郡ノ住人ナリシガ、一所懸命ノ地ニ離レシカバ」（木食上人）（二）右ノ語、一生懸命ト訛リ唱ヘラレ、命ニカケテ事ヲスルコトノ意ニ用ヰラル。必死。 [illegible]作（寶永、近松作）下「一生懸命ノ時節到來、死 損ハセテクレルカ」「一生懸命ニ追ヒカケ、オヒカケ」

いっしょくた（名）｜一處腐｜ 〔くたハ、あくた、おみくた、おたくたノくたニテ、腐ナリ、めちゃくちゃノ條ヲ見ヨ〕物事、ヒトツニ入リマジリ、マゼコゼトナルコト。混亂

いっしょに（副）｜一諸｜ いちどきに（一時）ニ同ジ

いっしょふぢゅう（句）｜一所不住｜ ヒトツトコロニ住マズ。居所、定マラズ。

いっ・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ（自動、左變）｜逸｜ （一）ハナレ走ル。ソルル。遁ル。ニグ。「馬、逸す」（二）散リ失ス。散逸ス。「古書、多ク逸す」

いっ・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ（他動、左變）｜逸｜ （一）ハナス。ニガス。上杉謙信詩「濱羅光底逸二長蛇一」（二）ワスル。オトス。「書名ヲ逸す」「人名ヲ逸す」

いっせいき（名）いっしゅうき（一周忌）ノ條ヲ見ヨ。

いっせいいっぺい（名）｜一種一瓶｜ いっしゅいっぺいノ條ヲ見ヨ。

いっせん（名）二｜一寸｜ 〔（一）[illegible]〕[illegible]ミテヤリツ」（二）少シノ間。小サキモノ。「一寸先ハ闇」「一寸ノ光陰」「一寸ノ蟲」

いっせん（名）｜一寸｜ 操ニ用ヰル人形ノ頭ノ[illegible]、一寸[illegible]ニ、始メテコレヲ用ヰシヨリ、此名アリトゾ）

いっせんあし（名）｜一寸足｜ 小股ニ歩ムコト。キザミアシ。滑路ナドニテスルコトニテ、兩足共ニ力ヲ入ルルナリ。大股ニ歩メバ、兩足共ニ力ナクシテ、スベル。（渡邊幸庵對話）

いっせんさきはやみ（句）｜一寸先暗｜ 未來ノ、豫知スベカラザルヲ云フ語。江戶名所記、七「一生ハ夢ノ如シ、誰アッテ百年ヲ保チタル、何ノワザクレ、一寸さきは瑠ナリ」小町踊、ちらし、夏「ホタル火ノ、一寸さきや、五月闇」唐谷[illegible]「萬事付之一笑、前程事暗如レ漆」

いっせんしたはぢごく（句）｜一寸下地獄｜ 〔俗諺集「俗ニ、船ニ乘テ水行スルヲ、一寸の地獄ト云フ、風波ノ難ハカリガタク、至テ危キ事ナレバ也」〕 船ニ乘ルモノノ、危險ナルヲ云フ語。[illegible]

いっせんだめし（名）｜一寸試｜ 試切ヲ見ヨ。

いっせんど（名）｜一寸戶｜ 去リテ、戶障子ヲ閉ヅルニ、幾分カ閉ヂ殘シテ立去ルコト。下郎の一寸戶、下衆の一寸ナド云ヒテ、マサナキ擧動トシテ、蔑ス。

いっせんのがれ（名）｜一寸逃｜ 〔いっせん

ハ、一寸(一時ノ省字)ノ字ノ音讀、其條ヲ見ヨ」其場合ダケヲ免カレムトスルコト。一時ノガレ。「いツすんのがれノ云ヒワケ」

いつすんのくわういん (句) ［一寸光陰］ 僅ナル光陰。少シノ閒。宋、朱熹、偶成詩「少年易レ老學難レ成、一寸光陰不レ可レ輕、未レ覺池塘春草夢、階前梧葉已秋聲」

いつすんのした (名) ［一寸舌］ 僅少ノ物事。些カナルモノト侮レルガ、遂ニハ、害ヲ被ルニ云フ語。世話盡「一寸の舌ニ五尺ノ身損ス」

いつすんのびればひろのびる (句) ［一寸延尋延］ 少數ノ時間ノ猶豫モ、多少ノ便ヲ與フルコト。壇浦兜軍記(享保、文耕堂)二「一寸のびれば尋のびると、偽リハ偽ッタガ、宿ノシマヒハ、思案ガアルカ」毛吹草「寸のびば、尋のびぬベシ、綠柳」

いつすんのむしにごぶのたましひ (句) ［一寸蟲五分魂］ 幼少ナルモノニモ、思慮、膽力アルコト。天智天皇(元祿、近松作)五「靑蠅ハ小サケレドモ、毒アッテ、腹中ニ入ッテ、五尺ノ人ノ命ヲトル、一寸の蟲にも五分の魂」太平記忠臣講釋(明和、近松半二等)「人デモ蟲デモ、心ガナクバ論ニ及バズ、一寸の蟲にも五分の魂」

いつすんぼふし (名) ［一寸法師］ (大太法師ノ反、法師ハ、擬人スル語、なみだぼふしヲ見ヨ」背ノ低キコトヲ嘲リテ云フ語。ヒキビト。約メテ、いつすんぼし。チンチクリン。［矮人］ 犬子集(寬永)「鷦ノ子ハ、竹ノ一寸法師カナ」洛陽集(延寶)「蓮華葉ヤ、一寸法師ノ、座下ノ草」至來集(延寶)「人ナラバ、冬ノ日脚ヤ、一寸坊」(足新翁記、二)

いつすもの (名) ［一種物］ 殿上人ナド、各、肴ヲ一種ヅツ携ヘ、便宜ノ所ニ會シ

テ、酒宴スルコト。(後世云フ、持寄辨當ノ類) 今鏡、中、第六、花散庭の面「殿上ノ一す物」紀略、後篇、四、康保元年(村上天皇)十月廿五日「是日、於左近陣座、諸卿有二一種物、魚鳥珍味、毎」物兩種」續古事談、三、臣節「多クノ上達部、一種物ヲ具シテ、參リ集リタマヒケリ、云云、閑院ノ大將ハ、銀ノ鯉ノ腹ノ中ニ、子鮠フエコミ、云云、小一條大將ハ、銀ノ鮨鮎ノ桶、云云、左衞門督重光ハ、酒一瓶、子雉一枝、云云、盃酌、管絃アリ」塵添壒囊抄、四、三十五條「一種物事、いつす物ト云フハ何事ゾ、常ニ、鳥目廿文ノ厚サ、一寸アル故ニ、廿文各出ダスヲ、一寸物トイヘリ、甚ダ下賤ノ僻言也、一種物ナルベシ、一種物トイフ事ハ、朝廷古來ノ詞也、喩ヘバ、各一種物ヲ隨身シテ、殿上ニ於イテ饗宴アリ、是レニ擬ヘテ、下樣マデモ、各一種物ヲ隨身シテ會合スル也、云云」

いつすゐ (名) ［一水］ (一)ヒトスヂノ流レ。曹唐詩「去隔銀河一水長」 (二)ヒトタラシ。一滴 「酒ハ一水モ飮メヌ」一水ノ水モナシ」

いつすゐ (名) ［一穗］ (炎ノ、穗ノ如キ意) タダ一ツノトモシビ。「一穗寒燈」

いつすゐ (名) ［一炊］ ヒトタビ、飯ヲ炊グコト。謠曲、邯鄲、夜ノ閒ハ、粟飯ノ一炊ノ閒ナリ」

いつすゐのゆめ (句) ［一炊夢］ (盧生ノ故事ニ據ル」 かんたんゆめのまくら (邯鄲夢枕)ノ條ヲ見ヨ。謠曲、鉢木「盧生ガ見シ、榮花ノ夢ハ五十年、其ノ邯鄲ノ假枕、一炊の夢ノサメシモ、粟飯炊グ程ヅカシ」

いつせ (名) ［一世］ (一)一代。一生涯。終生。曾我扇八景(寶永、近松作)中「一世一度ノ分別袋、跡ノホコロビ氣ヅカハシ」 (二)父子、唯一代、移レルヲ云フ語。(孫ノ二世、曾孫ノ三世ニ對ス) (三)三世ノ一。謠曲、仲光「親ト子トノ一世ノ契リノ、二タビ逢フゾ嬉シキ」 (現世) 追腹ヲ、二世の御供ト云フ。(現世、未來) (四)歐洲各國ニ於テ、同一帝王

中、其ノ第一代ヲ稱フル語。

いつせ (名) ［一畝］ 田地、三十步ヲ呼ブ稱。(昔ハ、三十六步ナリトゾ)

いつせい (名) ［一世］ (一)其ノ時代。當時。蘇軾文「固一世之雄也」 (二)生レテヨリ、死ヌルマデノ閒。杜甫詩「俳徊悲二生雛一、局促老二一世一」 (三)國君、家主、トアリタル閒一代。左傳、昭公元年「一世無道、國未レ艾也」

いつせい (名) ［一成］ (一)方十里ヲ呼ブ稱。左傳、哀公元年「有二田一成一、有二衆一旅一」 (二)音樂ノ一曲、結了ヲ呼ブ稱。(字典「成、終也、凡樂一終爲二一成一」) 書經、益稷篇「簫韶九成」

いつせい (名) ［一齊］ (齊ハ、正韻「無二偏頗一也」 荀子、富國篇、註「齊、等也」) (一)ヒトシキコト。平等。等一。莊子、秋水篇「萬物一齊、孰長孰短」 (二)同ジ時。同一。「一齊射擊」一齊明滅」

いつせい (名) ［一聲］ (一)ヒトコヱ。「杜鵑一聲」 (二)謠曲ノ曲節ノ一種。我ガ心、又ハ、其處ノ景色ヲ敍ブルニ、調子ヲ高メテ、キッパリト謠フモノ。例ヘバ、高砂ニテ「高砂ノ松ノ春風吹キクレテ」松風ニテ「汐汲車ワヅカナル」ト謠ヒ出スノ類ナリ。又、役者ノ、舞臺ニ出ヅル時ノ囃子ノ一種。此囃子終リテ、役者、一聲ノ謠ヲ謠ヒ出スナリ。易林節用集(慶長)「一聲、鼓勢」 (三)芝居ノ囃子ノ名。役者ノ舞臺ニ出ヅル時、又ハ、引込ム時ニ用キルモノ。

いつせいいちげん (名) ［一世一元］ 天子ノ御一代ニ、年號ノ、一ツナルコト。古來、天子ノ一代中ニ、數度、年號ヲ改メタルガ、支那ノ明朝、淸朝ニ至リテ、一世一元トナレリ、我ガ邦ニテモ、明治天

皇ヨリ、一世一元トセラレタリ。(いちげんヲ見ヨ) 皇室典範、第二章、第十二條「踐祚ノ後、元號ヲ建テ、一世ノ閒ニ、再ビ改メザルコト、明治元年ノ定制ニ從フ」

いつせいしやげき (名) ［一齊射擊］ 部隊ガ、同一ニ、敵ニ對シテ射擊スルコト。

いつせいちだい (名) ［一世一代］ (重言ノヤウナリ、次條ノ語ノ訛ニテモアルカ) 能役者、歌舞伎役者ナド、スベテ演伎ヲ業トスル者ノ、或ル技ヲ演ジテ、此度限リ、後、再ビ其技ヲ爲ズ、最後ノ演伎ナル意ヲ云フ語。猿樂傳記、上、觀世大夫「渠家ノ一世一代ノ能、京都ニテ興行ノ時、云云、是、足利ノ時ニ、糺馬ノ堂、建立ノ時、勸進能ノ例也」戲場節用集、一「一世一代、戲子、舞臺納メヲ云フ」花江都歌舞妓年代記「延寶六午年、市村座、四代目竹之丞、伎藝ノ譽レ世ニ高ク、殊ニ、容貌美麗ナリシガ、故アッテ、無常ヲ悟リ、菩提ノ門ニ入テ、今年、廿五才、佐藤兵衞憲淸、發心シテ、西行法師ノ狂言ヲ、一世一代ト極メ、舞臺納ノ日、剃髮シ、舞臺ヨリ笈ヲ背負ヒ、諸國修行ニ出、云云」

いつせいちど (名) ［一世一度］ (一)一生涯ノ中ニ、一度ナルコト。後藤伊達目貫(延享)三「女房見カネ走寄リ、コレ五斗殿、マア時モ時、折モ折、一世一度ノ出世ノ場所、榁ダラノ、イヤ喰ヒダヲレト、名ヲ立テラレ、無念ニハナイカイノウ、クヤシウハ思ハズカ」 (二)藝人ナドガ、一代ニ一度限リスル演伎。(前條ニ同ジ)

いつせいに (副) ［一齊］ ヒトソロヒニ。ソロヒテ、同時ニ。「一齊ニ聲ヲアグ」一齊ニ射擊ス」

いつせいめいめつ (名) ［一齊明滅］ 光ガ、同時ニ、明クナリ、又ハ、消エタリスルコト。

いつせう (名) ［一笑］ 一笑スルコト。笑ヒ樂シムコト。一粲 漢書、盧宣傳「歸對二妻

子ニ冠[illegible]、一笑[illegible]
[illegible]別後之一笑」易林節用集(慶長)「言語、一笑」

いっせう イッ・ショウ (名) 一宵 ヒトヨ。一夜。一夕。「一宵ノ[illegible]」

いっせき (名) 一夕 或ル夜。ヒトバン。新撰類聚往來(慶安、[illegible])「一夕有二[illegible]來訪一、多生嘉會也」

いっせき (名) 一隻 〔隻ノ字ハ、雙ノ半分、正韻「隻、之石切、音炙」説文「持二一隹一曰レ隻、持二二隹一曰レ雙」增韻「單曰レ隻」〕一對ノ物ノ、片方。後漢書、方術傳「得二一隻舃一」[illegible]神宮寺資財帳、寺木印壹隻」民部省式、上「圓檻一隻」

いっせき (名) 一跡 〔跡ハ、後裔ノ義、跡目ト云フ語モ、コレヨリ出ヅ〕(一)家筋ノツヅキ。一系統。太平記、三十五、北野通夜物語事「大家ノ一跡、此時斷亡セムコト、勿體ナク候」(二)轉ジテ、身代。財産。狂言記、子盗人「家一跡ハ中スニ及バズ、女共ガ身ノマハリマデ、打チ込ウデゴザルニヨッテ」東海道名所記(萬治)一「山ノ神ガ目ヲシノビテ、一跡ノ財産ヲ質ニオキ」古[illegible]江戸咄(貞享)「主、親ヲ倒シ、一せきヲタタキアゲテ」

いっせつ (副) 一切 副詞ノ、いっさいノ條ヲ見ヨ。

いっせつたしゃう イッ・セツ・タ・シャウ (句) 一殺多生 〔小ノ蟲ヲ殺シテ、大ノ蟲ヲ救フノ意アリト云フ〕強盜一人ヲ殺シテ、衆ヲ助ク。佛教ノ語。一衆生ヲ殺シテ、多衆生ヲ救フ。[illegible]夜ノ[illegible]ニ忍ビノボテ、[illegible]ヲツカフ、[illegible]ノ仕[illegible]カナ、云云、或ル夜、忍ビテ[illegible]ヲツカフ、狙フ人人、ヘット寄リ、一殺多生ノ理ニマカセ、彼レヲ殺セト言合ヘリ、云云(一人ヲ殺シテ、多クノ[illegible])」

いっせのげんじ (名) 一世源氏 皇子ノ、臣下ニ降リ、始メテ源ノ氏ヲ賜ハリシヲ申ス。嵯峨天皇ノ皇子、源信ヲ、源氏ヲ賜ハリシ第一トス、又、清和天皇ノ皇子、貞純親王ノ第一子、經基王ニ源氏ヲ賜ヘリ、コレヲ二世の源氏ト云フ。(世ニ、六孫王ト稱ス、貞純親王ハ、第六ノ皇子ナレバナリ) 岷江入楚、源氏ノ姓「帝王ノ御子ノ、臣下ニクダルヲバ、一世の源氏ト云フ、又、親王ノ子ノ臣下ニナルヲ、二世の源氏ト云フ、天子ノ御孫ナリ、天子ノ曾孫、又、其子マデモ、三世ノ源氏、四世の源氏トモ云フベキゾ」(摘錄)源、十九、薄雲「一世の源氏、又、納言、大臣ニ成リテ、後ニ更ニ皇子ニモ成リ、位ニ即キタマヘルモ、アマタノ例アリケリ」河海抄、宇多天皇、貞觀十二年賜二源氏姓一、仁和三年爲二親王一、卽二帝位一」其外、倘、例ヲ擧ゲタリ。

いっせん (名) 一戰 唯一度、戰フコト。左傳、莊公十年「可二以一戰一、戰則請從」俗語錄(寛文、[illegible])「唐書、猶可二一戰一、生死以之[illegible]」

いっせん (名) 一洗 〔悉ク洗ひ流ス〕不可ナルコトヲ、除キ去ルコト。「舊弊ヲ一洗ス」

いっせん (名) 一錢 漢語ニ、一匁ナリ。典藥寮式「平旦以二温酒一服二一錢ヒ一」

いっせん (名) 一錢 (一)一文錢ニ同ジ。古[illegible]漢書、高帝紀「實不レ持二一錢一」俚言集覽、一錢[illegible]節用集、一錢、一文ノ義也」(二)一錢剃ヲ見ヨ。

いっせん (名) 一錢 明治以後、鑄造セラレタル貨幣、一圓ノ百分ノ一ニテ、銅造ナリ、又、一箇ニテ、十錢、二十錢、五十錢ナルアリ、銀造ナリ、以上、スベテ正圓ニシテ扁平ナリ、大形、中形、小形アリ。後ニ五錢、十錢ノ白銅貨、出ヅ。

いっせんぎり (名) 一錢切 一錢(一文)ノ斬賃ニテ、ゑたニ首ヲ斬ラスルヨリ云フナリ、次次條ノ一錢剃ヲ見ヨ、一錢盜ムモ斬ル、又、一錢限沒收スト云フ說モアレド、出典ノ軍律ノ文ト合ハズ」室町時代ノ末期(元龜、天正ノ頃)ニ、軍律ニ用キタル、斬首ノ刑ノ稱、ゑたヲシテ斬ラシムル、最下等ノ刑ナリシト思フ(類聚名物考ノ刑法ノ記事ヲ見ヨ)兵士ト云フトモ、嚴禁ノ軍律ヲ犯ス者ハ、身分ヲ庶人ニ貶シテ、一錢斬ニ行フハ、刑ノ嚴ヲ示セルナルベシ。德川氏ノ刑制ニ、士分モ、罪ノ甚シキハ、貶シテ刑セリ、斬首ノ刑ニ、士分、浪人ナルニハ、斬罪ト云ヒ、庶人ニハ斬罪ト云ヒテ、ゑたニ扱ハシメタリ。ゑたノ首切淺右衞門ト云フモノアリキ、どんざいノ條ヲ見ヨ(赤穗義士ノ復讎ハ、忠節ニ免ジテ、卽テ切腹ニ處セラレタリ) 信長記、一、下、芥川、小清水、瀧山城開退「信長卿ハ、清水寺ニ在シケルガ、於二洛中洛外一上下ミダリガハシキ輩アラバ、一錢ぎりト御定メアッテ、云云」小田原陣ノ制札「對二土民百姓一、自然非分之儀申懸族有レ之者、可レ爲二一錢切一、云云、天正十八年卯月日」(青木文藏採收、伊豆國大仁村文書、松屋筆記、八十八)淸正記、二、定「軍勢於二味方一亂妨狼藉輩、可レ爲二一錢切一事、云云、天正二十年(文祿元年)正月、[illegible]吉、征[illegible]中ノ制札ナリ)[illegible]、十五ノ[illegible]ニモ、コレト、ホボ同文ノ物見ユ、[illegible]貞明元年六月[illegible]、[illegible]大[illegible]志、太宗紀[illegible]以上、支那ニテ云フ[illegible]ハ、一[illegible]タルナリ。(此外ニモ、同樣ノ記事、尙、諸書ニ見ユ)コレヲ引キテ、一錢切ノ證トスル人アリ、然レドモ、支那六朝ノ後梁ハ、我ガ天正年中ヨリ一千二百[illegible]ノ一錢斬ハ、出陣中ノ軍律ナリ、思ヒ紛フベカラズ。

いっせんずり (名) 一錢剃 次條ヲ見ヨ。

いっせんぞり (名) 一錢剃 江戸時代ノ初期ニ、街道ニ床店ヲ構ヘテ、男子ノ月代ヲ剃リ、髮ヲ結フヲ業トセシ者ノ稱。其賃、錢一文ナリキ、一文剃トモ云ヒキ。昔ハ、男子、人人、スベテ自鬢ナリシガ、世ノ中、忙シクナリシニ因リテ、此業モ出來シナリ、後ニ髮結床トナリ、(其條ヲ見ヨ)明治以後ハ、理髮店ト、一變セリ。[illegible]ニハ、兵士多カラズ、諸浪人ハ言フニ不レ及也、下人、町人、一錢ぞりマデ、兵士ニナシテ、云云」我衣(文化)[illegible]ノ床、初ナリ、云云、コレヲ、一文ぞりト云フ」[illegible]トノミ云ヘリ。[illegible]何カノ物語ニ、月代ノいちせんニ剃ノセバヤト云フヲ、ソハ何者ゾト尋ネケルニ、髮結ノ事也ト云ヘリ、昔ハ、[illegible]サルワザセシ也。(類聚名物考ノ記事ノ摘錄)後世ハ、賃、一錢ニハアラズ、五錢モ、十錢モ取リシナルベク、唯、古言ヲ存シテ言ヘルナルベシ、いっせんトノミ云フハ、現今ニテモ、京俊、久留米ニテ、髮結床ヲ、直チニいっせんト云フト聞ケリ、各地ニハ、古[illegible]ノ遺、多シ。[illegible]シトテ、一錢職分、渡世致シ居リ、云云、トアリ。(大節[illegible])勿論ナリ、元祿ト享保トハ、百六十年隔テタリ。

いつせんぢやや (名) 【一錢茶屋】 一服、一錢ニテ、煎茶ヲ賣ル店。 寛文二年正月十九日、町觸「葺屋町河岸端ニ罷在候一錢茶屋、向後置キ申間敷事」(筠庭雜考、四)

いつせんどのおはらひ (名) 【一千度御祓】 數祓ノ條ヲ見ヨ。

いつそ (副) 【寧】 〔語原、言ハズモガナ、一層ノ音、一雙ノ音ナド云フアリ、雲ヲツカムガ如シ〕 ムシロ。左右言ハズニ。 倭訓栞、いつそ「俗ニ、いつそノコトナド云ヘリ」 俚言集覽、いつそ「寧ト云フ意ニテ、此樣ナラバ、いつそ、サウシタガヨイナド云フ」

いつそう (名) 【一艘】 船ヲ數フル語。五艘、十艘。 內膳司式「川船一艘、長三丈」 吾妻鏡、七、文治三年八月廿日「民部大輔行景使者、自土佐國參着、以弓百張、井、魚、鳥、干物、以下ハ、積一艘船進上之」

いつそう (名) 【一層】 家ヲ重ネテ造レルモノ。二層、三層アリ。 孟浩然詩「欲窮千里目、更上一層樓」(一說、王之渙ノ詩)

いつそう (副) 【一層】 いちだん(一段)ノ(二)ニ同ジ。 杜荀鶴詩「都思釣魚處、一雨一層苔」 方岳詩「柱上風烟更一層、瘦藤對倚玉崚嶒」

いつそうりう (名) 【一噌流】 〔一噌ノ號ハ、主上ヨリ、一口曾ト云フ意ニテ賜ヒシモノト云フ(一噌家譜)〕 能ノ笛吹ノ一流、中村一噌ヲ祖トス。(慶長五年、歿)

いつそく (名) 【逸足】 〔逸ハ、廣韻「奔也」〕 左傳、成公二年「馬逸不能止」 (一)アシバヤ。早ク走ルコト。 高適、酬李太守詩「逸足橫千里、高談注九流」 北條九代記、五「御使ハ椎松トテ、無雙ノ逸足ナリ」 (二)スグレタルコト。敏捷ナルコト。「逸足ノ進步」高村逸足」

いつそく (名) 【一足】 兩足ニ穿クモノヲ數フル語。二足、三足。 類聚雜要抄(大治)三「錦鞋一足」「木履三足」「足袋五足」

いつそく (名) 【一束】 いちでふ(一帖)ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。

いつそくいつぽん (名) 【一束一本】 僧侶ナドノ禮物ニ云ヒシ語。(武家時代)紙一束、(十帖)扇子一本、ト定マレリキ、麁紙ニ、本束ト云フガアリ、(一束一本ノ略) 此儀ニ用キルモノナリ、播磨ヨリ出ヅル、鬼杉原ト云フ紙ナリ。(嬉遊笑覽、附錄) 蜷川親俊記、天文八年七月十三日「佛陀寺祠堂御下知、御禮、一束一本持參之」 御湯殿上日記、元龜四年八月八日「ほんふく寺ノ長老、御禮申サル、一束一ぽん參ル」 續百一錄、享保廿一年十一月廿二日「禁裏御所ヘ、一束一本、末廣、御使者、求馬、長上下、右、寶慈院樣ヨリ御使」(古事類苑)

いつぞや (副) 【日外】 〔何時ぞやノ義ニテ、やハ、不定ノ辭、過ギシ何時ノ頃ナリシカ、ノ意ヨリ轉ズ〕 サキツコロ。過ギシ頃。 源、四十六、總角六十「いつぞやモ、花ノ盛リニ、一目見シ、木ノモトサヘヤ、秋ハサビシキ」

いつたい (名) 【一帶】 〔長クツヅク、帶ノ如シ、一衣帶水〕 ヒトツヅキ。ヒトスヂ。 白居易、別草堂詩「三間茅舍向山開、一帶山泉遶舍廻」

いつたい (名) 【一體】 佛像ヲ數フルニ云フ語。三體、五體。 宇治拾遺、五、第一條「地藏菩薩ヲ一體、作リ奉リタリケルヲ」

いつたう (名) 【一刀】 (一)刀、ヒトツ。「一刀ヲタバサム」 (二)ヒトタチ。ヒトキリ。 梅松論(貞和、足利尊氏ノ事ヲ記ス)下「明日ノ合戰ニハ、國人等、必ズ御方ヘ參ルベク候、菊池武敏バカリハ、賴尙ガ、一刀ヲ以テ誅伐セムコト、案ノ內ニテ候」(足利氏ノ將士、少貳賴尙)

いつたう (名) 【一黨】 〔黨ハ、釋名ニ朋也、輩也トアリ〕 ヒトツノトモガラ。同類。仲間。 太平記、八、四月三日合戰事「伊東、松田、頓宮、富田判官ガ一黨、井ニ眞木、葛葉ノアブレ者共ヲ加ヘテ」

いつたうさんらい (句) 【一刀三禮】 佛像ヲ彫リ作ルニ、信仰ノ念ニテ、一刀ヲ下ス毎ニ、三度ヅツ禮拜ス。又、經文ノ一字ヲ寫ス毎ニ、三拜スルヲ、一字三禮ト云フ。 叡岳要記、下、最澄大師一生記「一削三禮、奉造立佛像」 廣隆寺由來記、大講堂「長和元年(三條天皇御代)源信僧都、云云、來于當寺、瞻禮尊像、手親一刀三禮、刻二尊像」 大佛師正統系圖「定朝佛師、云云、惠心御衣木、加持而命定朝弟子七人作之、僧都、各加一刀三禮、而開眼供養」 叡岳要記、下、慈覺大師如法經事「天長八年(淳和天皇)初秋天、手自以草爲筆、以石爲墨、以禪定智水、一字三禮、書寫妙法蓮華經」 吾妻鏡、六、文治二年六月十五日、安能寺務後、始置佛神事「毎月屈十口僧侶、一字三禮、令書寫如法經、納銅筒、奉籠寶殿事」

いつたうりう (名) 【一刀流】 〔一心、一刀ヲ念トスル意ト云フ〕 劍術ノ一派、伊藤一刀齋景久ノ創メシモノ。(德川二代將軍ノ頃)景久ノ門人、小野次郎右衛門忠明(前名、神子上典膳)ヲ二代トス。其長子、典膳忠也、伊藤氏ヲ繼ギ、次子、次郎右衛門忠常、小野氏ノ二代トナリ、コレヲ小野派一刀流ト稱ス。又、景久ノ門人、古藤田勘解由左衛門唯心ノ創メシヲ唯心一刀流ト云フ。又、安政ノ頃、千葉周作ノ創メシヲ北辰一刀流ト稱ス。

いつたうりやうだん (句) 【一刀兩斷】 〔一刀ニテ斬りテ、二つにする〕 斷然タル處分ヲス。 諺語大辭典、一刀兩斷「情實ヲ顧慮セズ、斷乎タル處置ヲスルコト、五燈會元ニハ、一刀兩段トアリ、朱子語錄「克己者、是從根源上、一刀兩斷、便斬絕了」

いつたん (名) 【一段】 〔說文「段、分段也」 此語ヲ、一反、二反トモ記ス、コレ古クヨリアリシコトナリ、(出典ヲ見ヨ) 案ズルニ、段ノ草書ノあヲ、反ト書傚シタルナリ、コレヨリ移シテ、一端ヲモ、反ト書ク、たん、同音ナレバ、誤記スルナリ〕 (一)土地ノ廣狹ヲ區劃スルニ云フ語。田ノ一町ノ十分ノ一ナリ、古ヘハ、廣サ三百六十歩ナリ。 俗語考(橘守部)「いつたん、一段也、唐史云、朱仁軌誨子弟曰、終身讓畔、不失一段」 孝德紀、大化二年正月「凡、田、長、三十歩、廣、十二歩爲段、十段爲町」(田令、同ジ) 拾芥抄、中、末「凡、田、以方六尺爲一歩、四面、各、六尺也、三十六歩爲一段頭」 尙、畝ノ條ヲ見ヨ。 俗語考、いつたん、にたん「絹布ナドヲ、一反、二反ト云フ、台記ニ、布三反、又、布二反ナドアリ、其比、既ニ、端、段ナドヲ、反ト書キシニコソ」(台記ハ左大臣藤原賴長ノ日記、近衛天皇ノ御世ノ人) (二)豐臣秀吉ハ、全國ヲ撿地セシメテ、一段ヲ、三百歩ト改メタリ、以後、多クハ、コレニ從ヘリ。 地方凡例錄(寛政)一、出目高之事、往古ノ撿地「上代ハ、六尺五寸竿、云云、壹反、三百六拾歩ノ積、天正、文祿頃之撿地ハ、六尺三寸竿、壹反三百歩、云云」

いつたん (名) 【一端】 〔正字通「端、小爾雅、布帛爲端、杜預曰、二丈爲端、二端爲兩、所謂疋也」此語、一反、二反トモ記ス、前條ノ語原ヲ見ヨ〕 布帛ニ、一定ノ長サアリ、ソレニ就キテ云フ語。二端ヲ、一匹ト云フ、古ヘノ一端ノ長サ、後ニ云フト同ジキカ、否カヲ知ラズ、後世ナルハ、二丈七八尺ナリ。 持統紀、十年四月「布二十端」 四時祭式、上「曝布、一端八尺」 中務省

[illegible]一[illegible]

いったん（名）[一[illegible]]　ヒトハシ。カタハシ。[illegible]十分之一[illegible]

いったん（名）[一旦]　一朝、又、一日ニ同ジ。史記、淮陰侯傳「成安君有二百戰百勝之計一、一旦失レ之、[illegible]」[illegible]

いったん（副）[一旦]　〔前條ノ語ノ轉用〕ヒトタビ。一時。太閤記、四、前田利家、能登ノ末森[illegible]後攻「昔ノ[illegible]ナドハ、一旦ノ勇コソアラメ、カク[illegible]ニ[illegible]レモヤシタマフヤウニオハシマスヨ」「一旦思立ッタ事ハ、ヒルガヘサレヌ」

いったん-じ（名）[一彈指]　〔彈指ハ、人差指ヲ内ヘ曲ゲテ、親指ノ腹ニカケテ彈くコト、（細螺彈スルヤウ）此語、一彈指頃トアルガ、成語ナルベシ、頃ハ、程ノ意ト思ハル〕佛經ニ見ユル語。極メテ短キ時間ノ稱。倶舎論「有力之丈夫、一彈指頃、有二六十刹那一」（刹那ノ條ヲ見ヨ）

いったん-の-し-いっ-ぺう-の-いん（句）[一簞食一瓢飮]　〔簞海「簞、竹葦器、盛レ飯者、國曰レ簞」食ノ字、飯ノ意ノ時ハ、音、しナリ、出典ヲ見ヨ〕　少許ノ飲食ノ義ニシテ、清貧ニ安ンジ居ル意ヲ云フ語。論語、雍也篇「子曰、賢哉回也、一簞食一瓢飲、在二陋巷一、人不レ堪二其憂一、回也不レ改二其樂一、賢哉回也」集註「食、音嗣、簞也」（孔子ノ高足弟子、顔回、字、子淵）和漢朗詠集、下、草「瓢簞屢空、草滋二顔淵之巷一、藜藿深鎖、雨濕二原憲之樞一」（ふくべヲ、へうたんト云フハ、此文ニ起ル、其條ヲ見ヨ）

いっち（名）[一致]　ヒトツニナルコト。心ヲ同ジクスルコト。易經、繫辭、下傳「天下同レ歸殊レ途、一致而百慮」大玄經「百慮而一致」

いっち（副）[逸]　〔逸ノ急呼、其條ヲ見ヨ（可惜、あったら。如何な、いっかな）〕最。モットモ。史記抄（文明）「士卒ノ一ち賤シイ音ト、[illegible]ニ[illegible]ハシャ[illegible]」[illegible]オイラガ、[illegible]ニテ、[illegible]ノ[illegible]、[illegible]ノ[illegible]ノ花[illegible]、[illegible]人ニテ、[illegible]ノ[illegible]ノ[illegible]ニ、各自ニ、[illegible]十株植ヱタリ、新造女郎ガ、其姉女郎ノ植ヱタルヲ褒メタルナリ、おいらんノ條ヲ見ヨ）寬政ノ川柳「惚ル藥、佐渡カラ出ルガ、いっち利」「いっち長イ」いっち後」

いづち（代）[何方]　〔口語ノどち、どっちト云フ語ハ、いづちノ轉ジタルモノ、其條ヲ見ヨ〕不定ノ方向ヲ云フ代名詞。イヅカタ。ドチラノ方。萬葉集、五「タラチシノ、母ガ目見ズテ、オボホシク、伊豆知向キテカ、我ガ別ルラム」古今集、三、夏「五月雨ニ、物思ヒ居レバ、ホトトギス、夜深ク鳴キテ、いづち行クラム」竹取物語「いづちモ、いづちモ、足ノ向キタラム方へ、往ナムトス」拾玉集、四「頃ハ秋、獨寐ル夜ノ、鐘ノ音ヲ、いづちカ誘フ、庭ノ松風」「いづちへナリトモ」

いっちうや（名）[一晝夜]　一日ノ條ノ（二）ニ同ジ。

いっちう-を-ゆ-す（句）[輸一籌]　〔籌ハ、算木ニテ、勝負ヲ爭フ時ノ數取ノ具、輸ハ、イダスコトニテ、負クルコト、然レバ、籌ヲ出シテ、ト云フコトニテ、負クルノ義〕負クルコト。遊二嵩山一記（喬宇）「至二白鶴觀一、觀去二山絕頂一尙二三里、君采桑淸臞、至二觀前一已疲甚、不レ能レ至二絕頂一、予歸顧而笑曰、若輸二我一籌一矣」

いっちつ（名）[一帙]　ちつノ條ヲ見ヨ。唐書、李密傳「以二蒲韉一乘レ牛、挂二漢書一帙角上一、行且讀」尺牘雙魚「近得二某書一帙一」

いっちは（名）[一致派]　にちれんしゅうノ條ヲ見ヨ。

いっち-はん-かい（名）[一知半解]　學問ノ、[illegible]

いっちゃう（名）[一丁]　〔一人ノ丁ヲ云フ〕夫役、一人ノ稱。主計式、上「凡左右京、五畿内[illegible]、一丁[illegible]、[illegible]時[illegible]一」

いっちゃう（名）[一丁]　豆腐、鼓、剃刀、[illegible]輿、鋤、鐵等、一箇ノ稱。[illegible]色[illegible]「一丁、輿、紙」

いっちゃう（名）[一町]　（一）路程ニテハ、六十間ノ稱。運歩色葉集「一町」宇治拾遺、三、第四條「風モ吹カヌニ、此ユク舟ノ、云云、一町バカリガウチニ寄リキタリ」（二）田地ニハ、十段、三千六百歩ノ廣サノ稱。（後世ハ、三千歩）孝德紀、大化二年正月「凡田長三十歩、廣十二歩爲レ段、十段爲レ町」拾芥抄、中「凡稱一町積、三千六百歩也」

いっちゃう（名）[一挺]　墨、[illegible]、鐵炮、[illegible]等ヲ數フル稱。五雜俎「徐常侍得二李超[illegible]一挺二」俗語[illegible]「一挺、蠟燭數也、或、[illegible]」

いっちゃう（名）[一張]　弓、琴、幕、袈裟、皮等ヲ數フル稱。ヒトハリ。宋書、[illegible]傳「[illegible]不レ解二音聲一、而畜二素琴一張一」劉禹錫詩「一隻短筋、一張斑鹿皮」內藏寮式「梓弓一張、矢四具」宇治拾遺、四、十四條「義家朝臣ニ召サレケレバ、眞弓ノ黑ヌリナルヲ一張、參ラセタリケルヲ」東大寺獻物帳「御弓壹佰張、梓御弓八十四張」新儀式「御琴二張、又、袈裟二云」和漢三才圖會、三十一、家飾具、陣幕「以二二張一爲二陰陽一對一」

いっちゃうら（名）[一張羅]　〔俚言集覽「一挺蠟トイフ事ニテ、たしなき卜云フ意也、ソレヲ訛テカクイヘリ」トアリ、嬉遊笑覽「今、部屋方のものの、一ちゃうらト云フコトハ、衣服モタヌモノノ、只一ツアルヤウノ事ニイフハ、後ニ轉リタルナリ」トアルヲ思ヘバ、初ハたしなきノ意ナリシヲ、後ニ、一ツアル衣服ト云フニ轉ジテ、かけがへナキモノトシテ、美服、又ハ、晴着トナリシナルベシ」〕　晉替ノナキ美服。一枚ギリノ晴着。（一枚看衣ヲ見ヨ）[illegible]清水、[illegible]ナドイヒテ、立ヅ日ナリ、マシテソノ上ツカタ、[illegible]浮世風呂（文化、三篇）初編、上「[illegible]サン、[illegible]サントイフ、天窓ヲシテ、ナケナシノ一ッてでら（一張羅、一挺蠟ノ轉訛ナルベシ）ヲ、[illegible]二[illegible]切テ仕マウタ」

いっちゃくしゅ（名）[一磔手]一[搩手]　〔又、一搩手トモアリ、[illegible]、[illegible]切、[illegible]切、[illegible]、搩、張也、開也、[illegible]、搩、[illegible]、手度物也、長サヲ度ル方法ニッキ、ハ、俚言集覽ニハ「人手ノ大指ト中指トヲ磔リタルヲ、磔ト云フ」トアリ、此事、諸書ニモアレド、其出典ヲ見ズ、前ニ擧ゲタル集韻ニ、手度レ物也トハ見エタリ、又、尺度ノ長サニ就キテ、佛書、其他ニ記セル說、甚ダ區區ニシテ、適從スル所ヲ知ラズ、唯、翻譯名義集ニ記セルモノ、稍、分明ナルヲ覺ユ、其外ハ載セズ、我ガ邦、古代ニ、さかト云フ、尺度ノ名アリ、相似タリ、其條ヲ見ヨ、又、因ニ云フ、搩ト記シタルモノ往往アリ、俗字ナリ、漢字書ニ絕エテ見エズ〕　印度ニテ、尺度ニ云フ語。手ノ親指ト中指トヲ張リヒロゲタル長サナリト云フ、コレヲ半倍ニスルヲ、一磔手ト云ヒテ、我ガ邦ニテハ、常ニ持佛ナド造ル高サノ定則トス、凡ソ、一尺二寸ナリトゾ。[illegible]名義集、三、[illegible]「[illegible]上、[illegible]、[illegible]尺、人一尺、佛二尺、唐[illegible]一寸上[illegible]一分、一尺上

壇二寸、無周尺八寸也、云云、佛指、肘二寸」平家物語、二、善光寺炎上事「一ちやくしゆはんノ彌陀ノ三尊ニ、中巌(寛永)造佛、佛像寸法「一搩手半、云云、一搩手半者、其手之半分量也」

いっちやくしゆはん (名) 一搩手半 前條ヲ見ヨ。

いっちうぶし (名) 一中節 京ノ淨瑠璃節ノ一派。都太夫一中ト云フ者、正德年中、江戶ニ來リテ語ル、土佐節ヨリ分レタルモノナルガ、節ヲヤハラゲテ、流麗、健雅ノ風ニ富ミタレバ、貴紳ノ間ニ賞セラル、コレヲ初代トス。此一中節ノ三味線彈ノ菅野序遊ト云フモノ、七代目一中ノ時、(天保十年)別ニ菅野派ヲ立テタリ、又、コレモ七代目一中ノ時、(嘉永二年)都一閑齋、宇治紫文ト改名シテ宇治派ヲ興セリ、現今、都ハ十代目、菅野ハ五代目、宇治ハ四代目、共ニ現存ス。竹豐故事(寶曆)上、三ケ津、淨瑠璃流布ノ條ニ「都太夫一中ト云ヒシ人ハ、京都ノ本願寺派ノ僧ナリシガ、淨瑠璃ヲ好ミ、山本土佐椽等ノ流義ヲ和ラゲ、一流ヲ語リ出シ、寶永、正德ノ比、一中節トテ、他國マデ賞翫セシナリ」守貞漫稿(嘉永)廿三、音曲、一中節「都太夫一中ヲ祖トス、云云、正德五年、元祖一中、初テ江戶ニ下リ、市村座ニ出勤ス」

いっちよくせん (名) 一直線 (一)直線ト云フニ同ジ。(二)ヒトスヂニ、マッスグナルコト。眞一文字。

いつつ (名) 五時 五時ノ略。ときノ條ヲ見ヨ。

いつつ (數) 五 物ノ、一ツノ、五ツ合セタル數。イツ。ゴ。拾玉集、四「急ギユク、宿シカハラヌ、道ナレヤ、いつつノ品ノ、四ノマコトヲ」

いっつう (名) 一通 〔字彙「書首末全曰レ通」〕(一)文書ノ、一部始終ナルモノ。一篇。曹子建、與楊德祖書「辭賦一通」主稅寮式、上「造損益帳一通、留寮」雲圖抄、藏人所「中文表卷、云云、二卷書之、一通獻殿下也」(二)書狀、一封。運步色葉集(天文)「一通、狀」「手紙、一通」

いつつがさね (名) 五重 次條ニ同ジ。

いつつぎぬ (名) 五衣 〔袿ヲ五つ重ネタルガ本名ナリシヲ、後ニハ、五枚ナラデモ、多ク重ネタルヲ云ヘリ〕 女房裝束ノ一種。唐衣、上衣ノ下、單衣ノ上ニ着ルモノナリ、其重ネ方ニヨリテ、種種ノ名アリ、又、官位ニヨリテ、其地質ヲ異ニス。裝束要領抄、後附、女官「五衣、是ハイニシヘノ重袿ナルベシ、或ハ、カサネヌ時モアリ、時宜ニヨルベシ、ココニイヘル五衣ハ、表何色ニテモ、同ジ色ナル五ツカサネテ、裏ハ一ツ一ツ、紅ノ平絹ヲ付タリ、又、色ガハリトテ、五ツナガラ、別イロナルモアリ、カサネ樣、五ニ色ヲ尊ハヌヤウニカサヌル事、古來ノ有識ナラヒナリト承リヌ、色ガハリノ時ハ、裏ハ、古儀ノナラヒニ隨フベシ、五ツナガラ、同ジキヌノ時ハ、文モ皆オナジキ也、云云」裝束集成、十二、女官「女房裝束用次第、文容云、云云、五衣(青色唐花唐草、薰色唐草、赤色梅花、白色桐唐草、紫色唐花唐草、以上、五色也)」宇津保物語、忠社上「バクチ、打チカタブキテ、トミニ取ラズ、北方手ヲスリテ、いつつぎぬ五十ヒキトラセテ、ノタマフ」平家物語、十一、なすの與一事「小船一ソウ、ミギハヘ向ッテ漕ギヨセ、云云、舟ノ中ヨリ、年ノヨハヒ十八九バカリナル女房ノ、柳ノ五つ衣ニ、クレナヰノ袴キタルガ、云云」增鏡、第十、老波「女院ノ御車ニ、姬宮モタテマツル、出車アマタ、ミナ白キ袷ノ五つぎぬ、コキ袴、同ジ單ニテ、三日過テゾ、色色ノ衣ドモ、フヂ、ツツジ、ナデシコ、ナド、キカヘラレケル」御湯殿上日記、慶長十三年正月一日「ハルル、四方拜アリ、云云、アサガレイ、ゴンスケ、ヘイナイシ殿、イヨ殿、御マワリアリ、タカタ五ぎぬニテ、コワク御マイル」

いづつ・し・シキ・シケレ・シク・シク (形、二) 伊豆都志 〔いハ、發語、づつしハ、約しナリ、發語ノ下ニ、連聲ニテ、清濁顚倒スルナリ、てづつ、くちづつト云フ語モ、手約、口約ナリ、屈む、さぐくむ。被る、かがふるノ、さモ、かモ、發語ナレバ、此ノ如シ、ほぞ、(臍)とぼそ。(戶臍、樞)偶違、すぢかひ(筋違)モ、同例ナリ」 つづし(約)ト云フニ同ジ。(其條ヲ見ヨ) 足ラハヌ意ナリ。大殿祭祝詞(御殿ヲ造レル賀詞)「取葺ケル萱ノ噪無ク、御床ツヒノ響(無ク)、夜女(夜目)ノ伊須須伎(すすくヲ見ヨ)伊豆都志伎事無ク、平ケク、安ケク護リ奉ル神ノ御名ヲ白サク、云云」(睡眠ノ寐ツカレヌコトナク、足ラハヌコトナク、平安ニ熟眠シタマフ意ナリ)

いつつだうぐ (名) 五道具 〔道具トハ、武家ニテ專ラ槍ヲ云フ、武家名目抄、道具衆ノ條「凡ソ戰陣ノ具、多カル中ニモ、接戰ノ料ハ、鎗ヲ以テ第一トスル故ニ、常ニ道具トイヘバ、鎗ノコトトナレルナリ」ト、コレ、戰國時代ニハ、槍ノ勝負ヲ貴ビ、一番槍ヲ以テ、武功ノ第一トスル風習トナリシカバ、槍ヲ、道具ト稱シタルナリ〕 武家ノ行列中ニ、槍ヲ五本立ツルコト。(槍ノ外ニ、打物、臺笠、立傘等ヲ加ヘテモ云フ) 曾我會稽山(享保、近松作)一「引馬ニ五つ道具、乘物ノ戶、八文字ニ開カセ」

いつつどき (名) 五時 とき(時)ノ條ヲ見ヨ。

いつつのたなつもの (名) 五穀 いつくさのたなつものヲ見ヨ。

いつつのにごり (名) 五濁 佛敎ノ語。ごぢよく(五濁)ノ條ヲ見ヨ。

いつつのもじ (名) 五文字 〔後宮名目ニ、世ニ、女子ヲ五文字ト稱ス、ト見エタルハ、婦人ノ五德トテ、清、貞、美、讓、

胎、ノ德義アルヨリ云フ」 婦人ヲ美シム語。倭訓栞「上西門院ノ命婦、身マカリヌルヲイタミテ、辨局「人ノイツ、いつつのもじノ、跡キエテ、オモカゲサヘニ、カキ曇リヌル」ト詠ミ侍ル歌、信西ノ日記ニアリ」

いつつのをしへ (名) 五敎 仁、義、禮、智、信ノ、五常ノ道ノ敎。夫木抄、三十六、述懷、爲家「人ゴトノ、いつつのをしへ、タエハテヌ、神モ佛モ、何ヲ守ラム」

いつつめ (名) 五日目 婚禮ノ後、五日目ノ稱。婚禮推陳記「婚禮ノ以後、振廻ノ日限ハ、三日、五日、七日、九日ナドト中也、師傳ニ、出生ノ時ハ、三夜、七夜ナドト、夜ノ字ヲ云、死ニタル時者、三日、七日ナドト云ヒ、日ノ字ヲ付ル、婚禮ハ、生死ノ間ニ執行ユヱ、三日、五日ナドト、日ノ字ヲ付ト知ルベシ」

いつつもん (名) 五紋 〔一紋、三紋ニ對ス〕 いつところもんヲ見ヨ。

いっつゐ (名) 一對 物、二箇、對セシメタルモノ。一雙。東坡集「特賜二衣一對一」庭訓往來(元弘)九月「盆、一對」「龍虎、梅竹、唐繪、一對」(二幅對ヲ、一對ト見タルカ) 易林節用集(慶長)「一對、雙」

いつつを (名) 五緒 〔牛車ノ簾ノ左右ノ緣ト、コレニ平行シタル中央ノ革緒トノ間ニ、同ジ革ニテ、一條ヅツノ風帶ヲ垂レタルモノニテ、緣ト共ニ合セテ五條ナレバ云フ〕 (一)牛車ノ簾ノ一種ノ稱。 (二)次條ノ語ノ略。桃華蘂葉「庇車、薄靑緣五緒」徒然草、六十四段「車ノ五緒ハ、必人ニヨラズ、ホドニツケテ、キハムル官位ニ至リヌレバ、乘ルモノナリトゾ」

いつつをのくるま (名) 五緒車 牛車ノ、天井ヨリ下レル、五ツノ緒ノ簾ノ懸ケタルモノ。イツツヲ。

いって（名）［一手］（一）一筆、象棋ニ[illegible]ニヒトナ[illegible]（二）[illegible]ニ、一ツノ[illegible]ヲ云フ[illegible]一手ノカウテ、[illegible]シシシ」

いってい（名）［一定］（一）一ツニ定マリタルコト。定マリテ、動カザルコト。[illegible]（二）物ノ、標準ニヨリテ、確ニ範圍ノ定マレルコト。「一定ノ[illegible]ニ定ノ條件」

いってい-じ-を-しらず（句）［不識一丁字］「一丁字ハ、一个字ノ誤寫、出典、并ニ、箇ノ字ノ條ヲ見ヨ」目ニ、一箇字ヲモ知ラズ。一文不知ナリ。正字通、一部、丁「五代史、[illegible]、天下無事、[illegible]、不如[illegible]一丁字[illegible]作二一个[illegible]」

いってう（名）［一調］謠曲ノ獨吟［素謠］ニ、樂器一ツ入レテ囃フモノ。大鼓ノミナルアリ、小鼓ナルアリ、太鼓ナルアリ。[illegible]

いってう（名）［一朝］（一）ヒトアサ。アサ。[illegible]（二）一時。一旦。史記、[illegible]「三[illegible]之[illegible]」（三）[illegible]セザルヲリ。思ヒ設ケザル時。「一朝、事變起ラバ」

いってう-いっせき（名）［一朝一夕］［一日一夜］短キ時日。[illegible]「一朝一夕ニハ行ハレズ」

いってき（名）［一滴］ヒトシヅク。[illegible]合スレバ、大海ノ一滴、九牛ガ一毛ナリ、只尋常ノ如クニ軍ヲセバ、勝ツコトヲ得難シ」雜筆往來（永正）「大海之一滴、九牛之一毛也」

いってき（名）［一擲］〔擲ハ、正韻「投也、擲也、[illegible]也、掉也」〕ヒトタビ、ナゲウツコト。李白詩「太山一擲輕鴻毛」

いってき-けんこん-を-とす（句）［一擲賭乾坤］〔乾坤ハ、天地ナリ、賭ハトアレバ、博奕ニ云フ、天下ヲ賭物ニシテ、[illegible]ヲなげうつ義、俗語ニ、いちかばちかト云フ語、略、同意ナリ〕天下ヲ取ルカ失フカ、試ミニ一大事ヲ行フ。[illegible]

いってつ（名）［一跌］〔跌ハ、說文「踢也」玉篇「仆也」揚子方言「蹷也」師古曰「跌、足失、據也」〕一度、ツマヅクコト。一失敗。[illegible]

いってつ（名）［一轍］「一轍ノ跡」同ジアト。同ジスヂ。文選、[illegible]「大觀[illegible]一轍」

いってつ（名）［一徹］〔出典ヲ見ヨ、當字ニ、一徹ト書ケルモアリ〕短氣ニシテ、思ヒヲ押通ス性質ノ者。剛愎［合類節用集］[illegible]誤ナリ）諸家前太平記（正德）十二「稲葉伊豫守貞通、入道シテ三位法印一鐵ト號セラル、今ノ世ニ、勇猛ニシテ氣短ナル人ヲ、一鐵ナリト云フ事ハ、此人ヨリゾ始マレル」倭訓栞、後編、いってつもの「世ニ、[illegible]一鐵ト號セシヨリノ事ナリト云ヘリ、天正ノ頃ノ人也、[illegible]ノ文字ヲ書ケリ」（貞通ハ、美濃ノ曾根ノ城主ナリ、[illegible]ニ仕ヘ、[illegible]）倭訓栞、いってつもの「頭ニシテ、短慮ナル人ヲ云フ」

いってつ-もの（名）［一徹者］前條ヲ見ヨ。

いってに（副）［一手］他人ヲ加ヘズ、獨占ニスル狀。「建築ヲ、一手ニ引キ受ケル」

いづて-の-ふね（名）［伊豆手船］〔てハ、之方ノ約、（面之方、面。後之方、うしろで）其向、其趣ノ心ヨリ、其型ノ意トナル、（安政二年、伊豆國、[illegible]ニテ、始メテ造レル[illegible]ヲ、[illegible]ト名付ケタル、同ジ趣キナリ、其條ヲ見ヨ）奥手の稻、[illegible]手の茶碗ナド云フ］伊豆國ニテ造ル型ノ船。伊豆手船トモ云フ。[illegible]ツクメ、[illegible]立チス、[illegible]モ[illegible]ノ防人ガ（其條ヲ見ヨ）[illegible]江ヲ[illegible]シテ、[illegible]ヘ行クナリ）同卷十九「防人ノ、堀江漕出ル、伊豆手舟、楫取ル間ナク、戀ハ繁ケム」（故郷ヲ戀シク思フナリ）[illegible]紀、五年十月、科二伊豆國一令レ造レ船、長十丈、[illegible]之、試浮二于海一、便輕泛疾行如レ馳（[illegible]）[illegible]ヲ思合セラル、同國ノ造船ノ手人ノ、巧ミナリシコト、知ルベシ）八雲御抄、[illegible]三、下、[illegible]いつて「万、伊豆ヨリ出ル舟也」夫木抄、三十三、船「いづて舟、追風早ク、ナリヌラシ、見穂ノ浦囘ニ、寄スル白波」

いづて-ぶね（名）［伊豆手船］前條ヲ見ヨ。

いってん（名）［一點］〔紅一點ヲ見ヨ〕（一）ヒトツノ點。[illegible]「一字、一點モ忘レズ」「空ニ一點ノ雲ナシ」（イササカナル事ナリ）（二）[illegible]刻ノ語。其條ヲ見ヨ。「寅ノ一點」

いってん（名）［一天］〔空中、一山、皆、花〕（一）大空、一面。天下、全體。[illegible]年七月二日、第二[illegible]レサセタマヒヌ、云云、一天暮レテ、日月ノ光ヲ失ヘルガ如ク、萬人歎キテ、[illegible]（二）天[illegible]

いってんか（名）［一天下］天下擧リテナルコト。[illegible]宮、御方方ノ御染ドモ、云云、一天下ノ人、[illegible]ノヤウナリ」（[illegible]）[illegible]一天四海[illegible]一天下ヲ知シメス主ヲ、一天の君、一天のあるじ、一天萬乘の君トモ申ス。天子。[illegible]スメレ」盛衰記、四十三、二位禪尼入海事「昔ハ一天の主トシテ、[illegible]ヅケシカドモ」

いってん-しかい（名）［一天四海］一天下、并ニ、四海。アメノシタ。世界。[illegible]字ノ中ニ握リタマフ」「一天四海、[illegible]」

いってん-の-あるじ（名）［一天之主］次次條ヲ見ヨ。

いってん-の-きみ（名）［一天之君］次條ヲ見ヨ。

いってん-ばんじょう-の-きみ（名）［一天萬乘之君］一天ハ、一天下ノ下略、[illegible]裏、ささたい、ばんぜう、ト、萬乘之國ト、各條ヲ見ヨ」天子ノ御異稱。又、一天の君。萬乘の主。一天の主。保元物語、三、新院[illegible]ベキ[illegible]バ逃レタマハズト、思召シ慰ム、云云」盛衰記、四十三、[illegible]天[illegible]一天の主[illegible]

所アリ。伯耆卷(群書類從)「長高承リ、少シ差退キ、袖掻キアハセ、涙ヲハラハラト流シテ申シケルハ、忝クモ、一天の君ノ勅定ヲ蒙リナガラ、イカデ子細ヲ可ニ申候ハ縦ヒ、千度萬度、身ヲ滅シ、命ヲ失ヒ申ストモ、ナドカ辭シ可ニ申候ニ」(後醍醐天皇、舟ニテ隱岐ヲ逃レ、伯耆ノ船上山ニ御在所ヲ定メタマヒ、成田小三郎ヲ、名和庄ノ村上長高ニ遣サレ、賴マレマヰラセヨ、ト勅定ヲ申聞ケタルナリ)

いっ-と (名) 一途 ヒトミチ。ヒトスヂ。元史、李孟傳「帝毎與レ孟、論ニ用レ人之方ハ孟曰、人才所レ出、固非ニ一途ニ」「政令、一途ニ出ヅ」

いっ-と (名) 一斗 量ニ云フ、十升ノ稱。雜令「三升爲ニ大升一升ハ十升爲レ斗」四時祭式、上「瞎一斗」橘子一斗」宇治拾遺、十五、第七條「コレハ二斗ト候ヘドモ、一斗ヲ奉レトナム候ヒツルナリ」

いっ-とう (名) 一統 〔統一ト云フモ、同義〕 (一)支那ニテハ、帝王ノ、衆諸侯、及、四夷ヲモ、ヒトツニ統轄シテ、其上ニ立ツコト。公羊傳ノ初ニ「何言レ乎ニ王正月ハ大一統也」史記、始皇本紀「今海内賴ニ陛下神靈ハ一統皆爲ニ郡縣ニ」正シク一統シタルヲ、正統ト云フ、然ラザルヲ、閏ト云ヒ、其位ヲ、閏位ト云フ。(閏月ヲ、後月ト云フ)支那本部ニ、魏、蜀、呉、三國割據シタル時ニ、魏ヲ正統トシ、蜀ヲ閏統トシタル論アリ、(三國志、通鑑)蜀ヲ正統トシ、魏ヲ閏統トシタル論アリ。(通鑑綱目) (二)皇國ニテハ、系統ノ義ヲ用ヰテ、系統ノ正シキヲ、正統ト云フ、准后源親房ノ作リシ神皇正統記ト云フ書アリ、末ニ、北朝ヲ、僞王ト記シ、南朝ニテハ、神璽ヲ傳ヘタマヘルヲ主張シタリ。(三)統ベテノ天下。一天下。尺素往來(一條兼良)「天下一統、海内無爲」運歩色葉集(天文)「一統(天下)」(四)一ツニ統ベタルコト。總體。淨土眞聞「佛化一統、嘆外道レ逆」大原經「以ニ一陽ニ乘ニ一統ハ萬物資レ形」

いっ-とう (名) 一等 等ノ條ヲ見ヨ。

いっ-とう (名) 一頭 〔かしらヲ以テ數トスルカ〕馬、牛、羊、鹿、豕等ヲ數フルニ云フ語。二頭、三頭。漢書、西域、烏孫傳「馬、牛、羊、驢、槖駝、七十餘萬頭」(故事熟語大辭典)大學寮式、釋典、三牲「右、六衛府、別大鹿、小鹿、豕、各一頭、先レ祭一日、進レ之以充レ牲」

いっとう-うち (名) 一頭打 一人宛、馬ニ乘リテ、行列ニ立ツコト。鹿苑院殿御元服記「今度供奉一頭打」

いっとう-しん (名) 一等親 親族ノ條ヲ見ヨ。

いっとう-ちを-いだす (句) 出一頭地 他人ヨリ、一段階ヲ拔キ出ヅ。宋史、蘇軾傳「軾以レ書見ニ歐陽修ハ修語ニ梅聖愈ニ曰、吾當ニ避ニ此人一出ニ一頭地ニ」

いっ-とき (副) 一時 一時(副詞ノ)ノ條ヲ見ヨ。

いっ-とく (名) 一德 純一ノ德。書經、咸有一德篇「非ニ商求ニ于下民ハ惟民歸レ于ニ一德ニ」

いっ-とく (名) 一得一德 オノヅカラ得タル、ヒトツノ利益。異制庭訓往來、五月「世間所レ有、無レ不レ受ニ用之ハ偸盜之一德也」

いっとく-いっ-しつ (句) 一得一失 一ツノ利得アレバ、一ツノ損失アリ。史記、淮陰侯傳「智者千慮必有ニ一失ハ愚者千慮必有ニ一得ニ」

いつ-ところ-もん (名) 五所紋 次條ヲ見ヨ。

いつ-ところ-もん (名) 五所紋 着物、羽織ニ、家ノ紋ヲ附クルニ、背ノ中央、頂ノ下ニ一所、左右ノ袖表ニ二所、左右ノ肩下ノ前ニ二所、染メ出シタルモノ。イットコモン。五紋。好色一代男(天和、西鶴)四「紋所ハ、銀ニテ、ほノ字切リヌカセ、五つ所ノ光」

〔いつ-とせ (名) 五年 〔とせハ、年經ノ約ナリト云フ、(早稻、わせ)年ヲ數ヘ言フ時ニノミ用キラル〕年數、イツツ。萬葉集、五廿六「アマサカル、鄙ニ伊都等世、住ヒツツ、都ノ風俗、忘ラエニケリ」同、十一五「アラタマノ、五年經レド、我ガ戀フル、シルシナキ戀ノ、止マズアヤシモ」土佐日記、十二月廿一日「縣ノ四とせ五とせ果テテ」(あがたトハ、國司ノ任ノコト、其條ヲ見ヨ、紀貫之ガ、土佐ノ國司ノ任期、滿了セリト云ヘルナリ)

いっ-とます (名) 一斗枡 物、一斗ヲ容ルル枡ノ名。斗梁アリテ、內方一尺零五分、深サ五寸九分一厘。一名、斗枡。

〔いつ-とも-の-ふみ (名) 五部書 〔一部ノ條ヲ見ヨ〕易經、書經、詩經、春秋、禮記ノ五部ノ經書。コレヲ、ごきやう(五經)ト云フ、其條ヲ見ヨ。日本紀竟宴和歌、得ニ段楊爾ハ博士惟宗朝臣具範「伊苑斗毛能、布彌讀ム人ハ、哆玾也宇玾、コレヲ旨トゾ、倶ニ則ル」(倭訓栞「下ノ句ハ、惟宗ノ具範ヲ裁入レタリ」)繼體紀、七年六月「百濟、云云、貢ニ五經博士段楊爾ニ」

〔いつ-とものを (名) 五伴緖 とものをノ條ヲ見ヨ。

い-づな (名) 飯綱 〔大日本地名辭書「奇區一覽云、飯綱山ヨリ戸隱山ヘ(東)一里、其道筋、峰ヨリ北ヘ十四五町下レバ、方十步許ノ濕地アリ、此處ノ土砂、大麥ノ割飯ニ似テ、喫スルニ、味、麥飯ニ變ハルコトナシ、因リテ、飯砂ト、山ノ名ニ負フトゾ」(節文、消す、けつ。洗染、あらぞめ)此語原、イササカ據リドコロアリト思ハル、或ハ、握飯ヲ綱ニツケテ、狐ヲ釣リテ、手馴ラシタルナリナド云フハ、飯綱ノ當字ニツキテノ附會ナリ〕信濃國ノ北境、水內郡、飯綱山(戸隱山ノ東、一里)ノ頂ニアル祠ヲ、飯綱明神ト云ヒキ、(今ハ、神社ト云フ)天竺ノ陀吉尼天ヲ祀ル、(其條ヲ見ヨ)小天狗ガ、狐ニ跨レル像ナリト云フ。陀吉尼天ヲ狐トシ、其靈ヲ使ヒテ妖術ヲ行フヲ、飯綱の法ト云ヒ、いづなつかひト云フ、きつねつかひノ類ナリ。シカシナガラ、今ハ然ルコトハ、全ク無クナリシト思ハル。應仁後記「管領細川政元、云云、魔法、飯綱の法、愛宕ノ法ヲ行ヒスマシ、出家、山伏ノ如クナレバ」明治九年、飯綱神社ノ上申ノ內ニ、甲州武田家ノ弘治三年三月ノ文書ヲ載ス「飯綱山之事、云云、武運長久祈念、不レ可レ致ニ退轉ニ者也」(以上、大日本地名辭書)貞德獨吟百首(寬永)「月ノ影ノ、長刀ノ、白刃取リ」夜ヤいづなの、法ノオコナヒ」本朝食鑑、十一、狐「近世、本邦術家、有ニ使レ狐者ハ呼稱ニ飯綱法ニ」

いづな-つかひ (名) 飯綱使 前條ヲ見ヨ。

いづな-の-ほふ (名) 飯綱法 前前條ヲ見ヨ。

いつ-ゝ (副) 一壹 (一)ヒトツニハ。或ハ。「一ハ何ト名ヅク」(漢籍讀ニ用ヰル、下、同ジ) (二)ヒトヘニ。大學、第一章「自ニ天子ニ以至ニ於庶人ハ壹是皆以レ修レ身爲レ本」「一ハコレニ從フ」

いつ-ねんがう (名) 逸年號 年號ニシテ、正史ニ見エズ、僅ニ、金石文ニ存スルモノ、又、古キ年代記、古社寺緣起等ニ記サレタルモノノ稱。二中歷、二、年代「年始、五百六十九年、內、三十九年無號、不レ說ニ支干ハ其間結レ繩刻レ木以成レ政、繼體五年、(元、丁酉)善記四年、(元、壬寅、同三年發護成始文、善記以前、武烈卽位)正和五年、(元、丙午)敎到五年、(元、辛亥、舞遊始)僧聽五年、(元、丙辰)明要十一年、(元、辛酉、文書始出來、結レ繩刻レ木止畢)貴樂二年、(元、壬申)法淸四年、(元、甲戌、法文唐渡僧善知傳)云云」

〔いつ-の-かをり (名) 嚴呪詛 〔古へ、神ニ祈リ、人ヲ呪詛スルコト〕クシビナ

ル祈リ。オゴソカナル祈リ。神武紀、[illegible]

〔いつのおろび [illegible] 大ナル[illegible]

〔いつのたかとも (名) 稜威高鞆 勢ノ烈シキ、[illegible]ナル鞆。[illegible]

〔いつのちわき (副) 稜威道別 勢烈シク分ケ通ル狀。神代紀、下「排二分天八重雲一、稜威之道別道別而、天二降於日向襲之高千穗峯一矣」

〔いつのま (名) 何時間 何時カ知ラヌ間。萬葉集、五、長歌「カグロキ髮ニ、伊都乃麻カ、霜ノ降リケム」類聚集「吾妹子ガ、袂ニ交フ、移リ香ノ、いつのまニカ、心ナルラム」

〔いつのをたけび (名) 稜威雄誥 身ヲ奮發シテ、雄誥シク健ビ誥ブコト。[illegible]代紀、上「[illegible]稜威之嘖譲一[illegible]」

いつは (名) 五葉 いつはのまつ(五葉松)ヲ見ヨ。

いっぱ (名) 一派 (一)川水ノ、別レテ流ルルモノ。分派。[illegible] (二)流儀、宗旨等ヨリ出デタル、一ツノ派。聖德太子傳記[illegible]二刀ノ[illegible]テ、一派立テタ身ナレドモ」

いっぱ (名) 一羽 鳥、ヒトツ。二羽、五羽。[illegible]

いっぱ (句) 言者 〔いふはノ急呼(尊し、たっとし)〕 言ふはト云フニ同ジ。謠曲、羽衣(觀世世阿彌)「ソレ、久方ノ天トいっぱ、二[illegible]モ無ケレバトテ、久方ノ空トハ名ヅケタリ」北條五代記、[illegible]

一ノ[illegible]トいっぱ、手ニカナヒナバ、如何ホドモ長キヲ用ヒベシ」俚言集覽、いつは(言ふは)ト云フヲ、いつぱト云フ」

いっぱい (名) 一杯 (一)杯ニ、[illegible] [illegible]満々シタルコト。[illegible] (二)[illegible]少シ飲ムコト。一獻。一椀。少酌。「一杯[illegible]」(三)二合五勺ノ稱。[illegible]「一ぱい入リタル袋ヲ、鹿ノ皮ニテ包メリ」(大日本國[illegible])一杯喰はすトハ、(酒ヲ飲マス、飴ヲネブラス、同意)ダマス。アザムク。末廣十二段「正直正[illegible]ナコチトラヲ、トント一杯喰はすノカ、ソリャナラヌコト」[illegible]一ダマサレテ、一杯くうた、[illegible]、勇田ノ長猿、ウシロカラ水」

いっぱい (副) 満 「一杯ノ義」 (一)満チテ溢レズ、十分ニ。[illegible]集、五、第六[illegible]二[illegible]シテ[illegible]カナシミケレ[illegible]、大ナル手洗ニ一ぱい有リケリ」「袋ニいっぱい綿ヲ入レテ」空いっぱい雲ガ出テ」今年いっぱい勤メテ」 (二)アル限リ。アリタケ。「精いっぱい働ク」力いっぱい出シテ」

いっぱい-きげん (名) 一杯機嫌 少シ酔ヒテ、心ヨキコト。ホロヨヒ。微醺

いっぱい-さぎ (名) 一杯鷺 〔俚言集覽、一盃鷺、肉少ク、僅ニ一杯ニ盈ツル意ニ〕 鷺ノ一種。形、極メテ小サキモノ。

いっぱう (名) 一方 (一)ヒトツノ方。カタイッパウ。或ル向。[illegible]「所謂伊人、在二水一方一」「天ノ一方二一方ノ大將」 (二)一途。一事。一ヘ一三昧。[illegible]

いっぱう (名) 一方 衝重ノ、一方、穴ノ彫リタル器。[illegible]「一方ノ事、前ニ註スカシ有ル也、一說ニ、二方ハ四位ノ人、一方ハ五位ノ人ト云ヘドモ、[illegible]

いっぱう (名) 一方 〔長方形ナリシニ因ル〕[illegible]一分[illegible]ヲ見ヨ。

いっぱう (名) 一報 一度ノ報知。[illegible]「安得二黄鶴羽一、一報佳人一知」「一報ヲ待ツ」[illegible]

いつばうのあらそひ (名) 鷸蚌之爭 「正[illegible]、以律切、戰國策「[illegible]曰、鷸蚌相持、翠鳥曰レ鷸(翡翠ナリ)正字通「蚌、嘗浸切、音棒、蚌[illegible]」鷸蚌之爭[illegible]夫之利」ト云フハ、二人、利ヲ爭フ間ニ、他ニ横取セラルル意ヲ云フ。[illegible]

〔いつばかり (副) 何時許 〔いづなをはかりノ語原ヲ見ヨ〕 何時ノ程ニ。イツゴロ。古今集、十八、[illegible]いつばかり作レルゾト問ハセ給ヒケレバ、詠ミテ奉リケル「神無月、時雨降リオケル、楢(奈良)ノ葉ノ、名ニ負フ宮ノ、古言ゾコレ」躬恒集、下「白雪モ、マダ消エハテヌ、山里ハ、いつばかりカハ、夏ヲ知ルラム」

いっぱつ (名) 一發 弓、銃、砲ナドニテ、矢、彈丸ヲ、一度發ツコト。[illegible]一發[illegible]一發砲二十一發」

いっぱつ (名) 一髮 〔髮、ヒトスヂ、青ハ、[illegible]〕 青山ノ、遙ニ幽ニ見ユルニ云フ語。[illegible]

いっぱつ-せんきんを-ひく (句) 一髮引千[illegible]

いつはのまつ (名) 五葉松 ごえふのまつ(五葉松)ニ同ジ。略シテ、いつは。[illegible]、いつはのまつ[illegible]レド、春ヒトシホノ、[illegible]ヲゾ見ム」拾遺集、一、春、[illegible]ノ、[illegible]ヲコソ、[illegible]イフベカリケレ」

いっぱん (名) 一飯 一度ノ食事。[illegible]飯、報二漂母一飯之上而以報一其所」

いっぱん (名) 一般 〔[illegible](元祿)一「語錄解義云、一般、一樣也」〕 (一)一樣。同樣。[illegible]「水邊秋去青雖」[illegible]、竹露歸來色一般」 (二)轉ジテ、一同。[illegible] 一般ノ[illegible]

いっはん (名) 一斑 [illegible] (一)豹ノ毛ノ斑ノ、一點[illegible] (二)物事ノ一部分。カタハシ。[illegible]

〔いつはり (名) 僞 [illegible]ソラゴト。[illegible]同二詐、伊豆波利己止」古今集、十四、戀、四「いつはリノ、[illegible]シカラマシ[illegible]リナバ、櫻花、いつはり人ニ、我レヤナリナム」

〔いつはる・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 僞 詐 [illegible]

(うつくしむ、いつくしむ。魚、いを。芋、うも)」然ラヌコトヲ、然リトス。嘘ヲ云フ。字鏡廿「詐、伊豆波留」景行紀、十二年十二月「天皇、則通ニ市乾鹿文ニ而陽寵」(時ニ、天皇、日向國、高屋宮ニ居タマフ、市乾鹿文ハ、熊襲渠帥ノ長女ナリ)論語、憲問篇「子曰、晉文公、譎而不レ正、齊桓公、正而不レ譎」

〰いつ-は・る・ル・レ・ラ・リ・レ(他動、四)［僞］〔允恭紀ニ、虛言ヲ、うつはりごとト訓ゼリ、サラバ、空張るナルベキカ〕ウツハル。アザムク。タブラカス。ダマス。字鏡廿「欺、伊豆波留、又、阿佐牟久」宇津保物語、藤原君四十「事ヲいつはりテ、物ヲ盜メルナリ」

いつ-び(名)［溢美］〔溢ハ、說文「器滿也」爾雅、釋詁「盈也」孝經、諸侯章「滿而不レ溢也」美ハ、正韻「嘉也、好也」玉篇「或作レ媺」〕嘉キコトノ、盈ツルコト。美メ過グルコト。莊子、人間世篇「兩喜必多ニ溢美之言、兩怒必多ニ溢惡之言」

いっ-ぴ(名)［一臂］カタウデ。己ガ力ト恃ム人ナドニ云フ。北史、薛道衡傳「出撿ニ襄州總管、帝愴然曰、今、汝之去、朕如レ斷ニ一臂」

いっ-ぴき(名)［一匹・一疋］〔絹帛ニ匹ト云フハ、說文「匹、四丈也」漢書、食貨志「布帛、廣二尺二寸爲レ幅、長四丈爲レ匹」トアレバ、四丈ヲ云フ稱、錢ニ疋ト云フハ、俚言集覽「錢ヲ鑄ル每、十文ニ、駒引錢一文ヲ、數取リニ鑄ルガ故ニ、十文ヲ一疋トイフ」ト見エタル說ハ、イカガ、獸類ニ匹、或ハ、疋ヲ云フハ、群書札記「韓詩外傳、顏回望ニ吳門、見ニ一匹練、孔子曰、馬也、然則、馬之光景、一匹長耳、故後人、號ニ馬爲ニ一匹、或曰、馬夜行、目明照ニ前四丈、故曰ニ一匹」」ト見エタルガ、イカニヤ〕(一)〔絹帛、布帛ナドニ用キタルハ、春宮坊式「凡東宮初立、賻料絹一百五十疋」宇津保物語、國讓、下三「キヌ五十ひき、俵ニ入レテ三俵、今ヒトツニハ、イミジクウルハシキ綿二十入レタリ」(二)錢ニ用キタルハ、葉黃記(葉室定嗣)一、寬元四年十一月廿五日「用途不足事、各中ニ子細、云云、前前各給ニ廿余萬匹、而今度再三被ニ勘減」吾妻鏡、二十二、建保四年正月廿八日「始安ニ置御本尊於ニ御持佛堂、卽有ニ供養之儀、云云、請僧分口別、褒物二、靑鳧千疋」徒然草、六十段「師匠、死ニザマニ、錢二百貫ト、坊ヒトツヲ讓リタリケルヲ、坊ヲ百貫ニ賣リテ、彼レ是レ三萬疋ヲ、芋頭ノ錢ト定メテ」(三)獸類ニ用キタルハ、六書正譌「馬影四丈、亦借用曰レ匹、別用レ疋非」宇治拾遺、十三、第十條「我ガ山ノ三寶タスケ給ヘ、ト手ヲスリテ祈請シ給フニ、大キナル犬一疋出デ來テ、大師ノ御袖ヲ食ヒテ引ク」

いっ-ぴつ(名)［一筆］(一)ヒトツ筆。獨自ノ筆跡。宋史「張愛賓云、惟、王獻之、能爲ニ一筆書」「一筆ニ書ク」(二)同一人ノ筆跡。同筆。著聞集、二、釋敎「年來、大般若、一筆書寫ノ志アリ」「二幅對ノ書、一筆ナリ」(三)筆ヲ執リテ書クコト。一筆啓上仕候トハ、男子ノ書狀ノ書出ニ云フ慣例語ナリ。(婦人ニハ、ひとふで申上ゲマヰラセ候)謠曲、鞍馬天狗「西谷ノ花、今ヲ盛リト見エ候フニ、ナド御音信ニモアヅカラザル、一筆啓上セシメ候、云云」

いっ-ぴつ(名)［一筆］一語、又ハ、一句ノ文ヲ云フ語。黃山谷詩「薰狐南史一筆無」唐書、鍾傅傳「嘗募ニ求西京石經、厚賜以レ金、揚州人至、相語曰、十金易ニ一筆、百金償ニ一篇、況得レ士乎」

いっ-ぴん(名)［一品］(一)ヒトシナ。「肴一品」(二)第一ノ品。特リ勝レタル品。絕品。俚言集覽、一品「極メテ、品ノヨロシキヲ云フ」「世間ニ一品」「天下一品」

いっ-ぴん-いっ-せう(名)［一嚬一笑］憂ヘテハ顏ヲ顰メ、喜ビテハ笑フコト。韓非子、內儲說、上篇「韓昭侯曰、明主愛ニ一嚬一笑」(憂喜ヲ色ニアラハサズ)

いっ-ぷうりう(名)［一風流］ヒトフシ、尋常ニ變リタル氣性ノ人ヲ云フ語。偏人。畸人。合類節用集(元祿)言辭門「一風流」

いっ-ぷく(名)［一幅］〔薄ク、幅ノ廣キモノナレバ、幅ト云フカ〕書、畫ノ掛物、ヒトツ。庭訓往來(元弘)九月「細金彩色繪像、各、一幅」同ジ畫工ガ、一筆ニテ、左右ニ、二幅、花鳥ナド書ケルヲ、二幅對ト云ヒ、其中ニ、佛像ナド加フルヲ、三幅對ト云フ。(後ニハ、佛像ナラヌヲモ、然云フ)槐記(近衛家熙)享保十年正月廿一日「御床ニ、尙信ガ(狩野)三幅對ノ(註「中、文珠、右、枯木ニ尾長鳥、左、枯木ニ鳩」)左右ノ表具ハ齊シク、云云、中ニ限リテハ、兩脇トハ、別ニスルガ作法ナリ」

いっ-ぷく(名)［一服］〔服ハ、呑ムコトナリ、服すノ條ヲ見ヨ(服藥)〕(一)煎藥、一杯。五服、十服。侯鯖錄「只消ニ一服淸涼散」」運歩色葉集(天文)「一服」俚言集覽、一服盛る「罪人ヲ毒藥ニテ殺スヲ云フ」(江戶牢屋ノ罪人ニ、判決シ難キ事情ナドアルモノ)(二)煎茶、一杯。烟草、一吸。

いっ-ぷく(名)［一腹］次條ヲ見ヨ。

いっ-ぷく-いっ-しゃう(名)［一腹一生］〔一生ハ、同じ生れノ義〕同ジ父母ノ間ニ生レタル兄弟、姉妹。同生。太平記、十七、山門攻の事「一腹一生ノ弟ニ討タレテ、世ニ類ナキ不思議ヲ顯シケル」易林節用集(慶長)言語「一腹一生、同父母」

いっ-ぷく-いっ-せん(名)［一服一錢］(一)昔シ、路傍ナドニテ、一服ノ抹茶ヲ、錢一文ニテ賣リタルコト。七十一番職人歌合(文安)廿四番、一服一錢、詞「十葉ノ御茶、召シ候ヘ」(十葉ハ、粉ナルカ)「立ツル茶ノ、あはれ消ユトモ、逢フ事ノ、一せニカフル、命ナラバヤ」判ノ詞「立ツル茶ノあはれトツヅケテ、一錢ヲひとせにトナズラヘタル、イトヤサシク聞ユ」(戀ノ歌ト思ハル、一せハ、一世ニモカケルカ、繪ニハ、僧形ノ者、地上ニ席ヲ敷キ、坐シテ、茶碗ニ、茶筅ニテ茶ヲ立ツル所ナリ)海東諸國記(朝鮮人、申叔舟、我ガ文明三年)「人喜飮、茶、路傍置ニ茶店ニ賣レ茶、行人投ニ一錢ニ飮ニ一碗」(日本ノ風俗)(二)又、路上ニテ、烟草一服、一錢ニテ吸ハセタルアリ。八水隨筆(享保)「多葉粉、云云、予ガ父、弱年ノ頃、大坂、高麗橋ニテ、唐人ノ裝束シタル商人、竹ノきせるニテ、一ふく一錢ヅツニテ、人ニ呑マセタル由、云云」

いつ-ぶん(名)［逸文］(一)世ニ知ラレヌ、ヨキ文章。スグレタル文章。郭璞文「逸文不レ堅ニ於世」」(二)散逸セテ、世ニ傳ハラヌ文章。書キ落シタル文章。皇甫湜文「是以多ニ闕載、多ニ逸文」」

いっ-ぷん(名)［一分］時刻ニ、一時ノ六十分ノ一。

いっ-ぷん(名)［一分］秤目ニ、匁ノ十分ノ一。銀目ニ云フモ、同ジ。

〰いつ-べ(名)［嚴瓮］〔稜威、及、瓮ヲ見ヨ〕いはひべ(齋瓮)ニ同ジ。出雲國造神賀詞「伊豆ノ眞屋ノ麁草ヲ、イツノ席ト苅リ敷キテ、伊都閉黑マシ」

いっ-ぺい(名)［一瓶］瓶子、卽チ、酒ヲ入レオク細高キ陶磁器、一本。庭訓往來(元弘)正月十五日「一種、一瓶者、衆中之課役」(いっせものヲ見ヨ)易林節用集(慶長)言語「一瓶、酒也」

いっ-ぺう(名)［一俵］〔俵ノ條ヲ見ヨ〕ヒトタハラ。昔ハ、米ハ五斗入ナリキ。(仙臺ニテモ江戶時代、スベテ然リキ)後世、諸國ナルハ區區ナリシカド、普通ニハ、三斗五升ナリキ、其他、スベテ穀物、

果、関ナド八ル分域八、一定セズ、[illegible]字治橋ノ八、[illegible]レバ、隆ナドノツヅキタルヤウニ、残リノ伎ドモツ[illegible]ヘルナリ」

いっぺき-ばん-けい (句) 一碧萬頃 海上、一面ニ碧ク見ユ。范仲淹、岳陽樓記「春和景明、波瀾不驚、上下天光、一碧萬頃」

いっぺん (名) 一片 (一)ヒトヒラ。一枚。杜甫、曲江詩「一片飛花減却春」易林百用集(慶長)言語「一片」(二)一輪。李白、子夜呉歌「長安一片月、萬戸擣衣聲」(三)江戸時代ニ、二朱銀貨、一枚ノ稱。(ヒトヒラ)但シ、學者間ノ語ナリキ。「南鐐一片」

いっぺん (名) 一遍 いちど(一度)ヲ見ヨ。

いっぺん (名) 一篇一編 (正韻「篇、簡成章也」漢書、武帝紀「元光元年、詔賢良、咸以書對、著之于篇」同、儒林傳、註「編、所以聯次簡也」)(一)書物ノ首尾、一マトマリニナリタルヲ、一篇ト云フ。一部始終ナルモノ。三篇、五篇、十篇モアリ。漢書、陸賈傳「賈、新語ト云フ書十二巻ヲ著ス、毎奏一篇、高帝未嘗不稱善」(二)文書、又ハ、自說ヲ記シテ、一ツニ編ミ綴リテ成セル書ヲ、一編ト云フ。史記、留侯世家「出一編書、父喜曰、讀此則爲王者師矣」(詩文)

いっぺん (名) 一變 ヒトカハリ。全ク、變ハルコト。「時勢、昔ト一變シテ」

いっぽ (名) 一步 ヒトアユミ。ヒトアシ。「一步、進ム」

いっぽう (名) 一封 (封ハ、禮記、王制篇「名山大澤不以封」鄭註「封、繊也、[illegible]以封[illegible]之封事」一通、一封。[illegible]一封朝奏九重天、夕貶潮州路八千」

いっぽう-の-つち (名) 一抔之土 (集韻「抔、蒲侯切、手掬物也」)(一)手掌ニテ、一掬ノ土。漢書、張釋之傳「假令、愚民取長陵一抔土、陛下且何以加其法乎」二高祖陵ノ土ヲ云フ、殘ぐノ意ナラム)(二)轉ジテ、直チニ、陵墓ノ事ヲ云フ。唐書、駱賓王、討則天武后檄「一抔之土未乾、六尺之孤安在」(唐ノ高宗帝ノ陵ニ云フ、前ノ漢書ノ一抔之土ノ文ヲ取リ入レテ、直チニ陵ヲ指シテ云ヘルナリ、武后ハ高宗ノ后ナリ、嗣子中宗ヲ立テテ廢シ、己レ政ヲ事ラニス、抵抗スル唐ノ宗室、重臣、多ク殺サル、陵墓モ築キテ、未ダ乾カサル程ニ、前帝ノ子ハ何處ニアルカト責メタルニテ、一抔ト、六尺ト、對セシム)

いっぽん (名) 一品 (禮記、檀弓篇、疏「品、階格也」倭名抄、五位階「唐令有官品、今本朝、以位代品、云云、品讀之奈(科ナリ)」)親王ノ位ノ稱。一品、二品、三品、四品アリ。(臣下ノ一位、二位、三位、四位ニ當ル) 官位令、義解、親王「一品、二品、三品、四品」一品、註「謂品、位也、親王稱品、別於諸王、公式令云、應敍者、親王四品、諸王五位、諸臣初位以上、是也」

いっぽん (名) 一本 (一)細長キモノヲ數フル語。五本、十本ト數フ。宋史、太祖紀「麥、百六十五本」「扇子一本」餡三本」燈臺六本」樹十本」(二)劍術ニ、竹刀、一本。「一本マヰラウ」ハ、一勝負セウ、「一本マヰッタ」ハ、負ケテ降參シタ。

〰いっぽん (名) 一本 (本ト云フハ、書籍ノ事、其條ヲ見ヨ) 或書。一書。別ナル書籍。神代紀、上「一書曰」「一本御書所」ニ其條ヲ見ヨ)

いつぽん (名) 一本 同腹。心中卯月紅葉 [illegible]ト云ヒシニ」

いっぽん-がかり (名) 一本懸 蹴鞠ノ庭ニ、楓、松、櫻、柳ノ木ヲ、懸トシテ植ウベキヲ、略シテ、一木ノミ植ウルコト。蹴鞠略抄、上「又、一本かかりモアリ、随セバキ所ニ一本植エ、メグリニハ、八人マハリ蹴之」

いっぽん-ぎ (名) 一本氣 氣性ノ、ヒトスヂニテ、情實ナキコト。直情徑行

いっぽん-ぎゃう (名) 一品經 法華經二十八品ヲ、一品ヅツ、一軸ニシタルモノ。千載集、十九、釋敎「後冷泉院ノ御時、皇后宮ニ、一品經供養セラレケル時、薬草品ノ心ヲヨメル」

いっぽん-ざし (名) 一本差 二本差ヲ見ヨ。

いっぽん-すぎ (名) 一本杉 (一本松モアリ) 唯、ヒトモト生ヒ立テル杉。「野中ノ一本杉」

いっぽん-だち (名) 一本立 (一)他ノ力ヲ頼マズ、己レ一人ニテ事ヲ爲スコト。ヒトリダチ。獨立 (二)一人ニテ、伴ナキコト。孤立 用明天皇職人鑑(寶永、近松作)二「親王ハ一本立ち、誰レカシヅク者モナク」

いっぽん-でうし (名) 一本調子 (一)歌フ聲ニ、抑揚ナキコト。單調。(二)所爲ニ、曲折、變化ナキコト。

〰いっぽん-の-ごしょどころ (名) 一本御書所 (御書所、並ニ、一本(書籍ノ)ノ條ヲ見ヨ) 普通ニアル書ヲ、別ニ寫シテ、御覽ノ用トスルモノヲ納メオク所。西宮記、臨時、五、所所事「一本御書所」註「在侍從所南、有公卿別當、預、幷、書手、熟食、世間書一本進公家、進月奏」貞信公記、天曆二年三月廿日「本宮御書所預、書手等、使補一本御書所」平治物語、一、信頼、親朝等、謀反シ、後白河法皇ノ御所ノ三條殿ヘ[illegible]右ニ打圍ミテ、大内ヘ入レマヰラセ、一本御書所ニ押籠メ奉ル」

いっぽん-ば (名) 一本歯 下駄ノ歯ノ、一枚ナルモノ。高ク作リテ、行者ナドハク。

いっぽん-ばし (名) 一本橋 ひとつばしトモ云フ。一本ノ木ニテ渡シタル橋。獨木橋、行道ナルモ云フ、倭名抄、十「獨木橋、比度豆波之、一名、獨梁」太和志(享保)十、吉野郡「獨木梁、跨木津川上」[illegible]下、天明六年九月「白川ノ流レノ末、知恩院近キ渡リニ、一木橋トテ、カリソメニ、石ヲ二枚バカリ渡シタル處」

いっぽん-まつ (名) 一本松 (ひとつ松ノ條ヲ見ヨ、一本杉モアリ) ヒトツマツ。唯、ヒトモト生ヒ立テル松。孤松 [illegible](橘守部)一本松「迴歴手記ト云フ書ニ「諸國ニ、一本松トテ、禿山ノ嶺ニモ、一株ノ古松ノ殘レル處、多キニ、云云」

いっぽん-やり (名) 一本槍 (一)狙ヒシ槍、ヒトツキニテ、敵ヲ、シトムルコト。甲陽軍鑑、三、品第十一「讒言ノ取リタル鎗ナドノ、高名帳ニ載セ、一本槍ヲツキタルホドニ譽ヒマハレド」(首帳)(二)目ザス所ヲ誤ラズ、ヤリブツルコト

〰いつまで (副) 何時迄 イヅレノ時代マデ。萬葉集、十五 三十四「ヒト國ニ、君ヲイマセテ、伊都麻豆カ、アガ戀ヒヲラム、時ノ知ラナク」

〰いつまでぐさ (名) 壁生草 (何時迄草ノ義ニテ、生フル所、ハカナキ意カト云フ) 壁ナドニ生ズル草ノ泛稱ナリト云フ。枕草子、三、三十三段「いつまで草ハ、生フル所、イトハカナク、アハレナリ、岸ノ額ヨリモ、コレハ崩レヤスゲナリ」(きしのひたひノ條ヲ見ヨ) 堀河百首、雑「壁ニ生フル、いつまで草ノ、いつまでモ、

枯レズト經(訪ふトカク)ベキ、篠原ノ里」月詣集(壽永)九「秋深キ、壁ノ中ナル、キリギリス、いつまで草ノ、ネヲヤ鳴クラム」林逸節用集(足利時代)「壁生草、イツマデグサ」

いづみ (名) [泉] (出水ノ轉、(出湯ニ對ス)果尾、はつを。泊瀨、はつせ。出石、いづし) 地ヨリ涌キ出ヅル水。播磨國風土記、揖保郡、出水里「此村出二寒泉一、故因レ泉爲レ名」倭名抄、五十五「山城國、相樂郡、水泉鄕、以豆美」

いづみどの (名) [泉殿] 寢殿造ノ東ノ廊ノ南端ノ、池泉ノ中ニ造リカケタル建物。又、泉の屋。西ノ廊ノ南端ナル、釣殿ト相對ス。宇津保物語、樓上、上廿八「時鳥カスカニ鳴キワタリ、云云、コナタカナタノ人ハ、いづみどのニ出デテ聞ク」吾妻鏡、四十二、康元元年八月廿三日「供二盃酒一、三獻之後、渡二御泉屋一(醉ヲサマスタメナラム)思のままの日記(北朝ノ攝關、二條良基)「ヤガテ御覇アリ、云云、事、果テヌレバ、又、泉のやへ歸ラセタマフ」(群書類從) 倭訓栞、いづみどの「泉殿ト、百錬抄ニ見エタリ、水閣ナリ、東鑑ニ云フ、泉屋モ同ジ」家屋雜考、二「泉殿ハ、必ズ水邊ニアリ、四方、壁ナシ、納涼ナドノ爲ニ設クルナルベシ」

いづみのげん (名) [和泉監] (げんハ、呉音、(監、將監)三郡ヲ監理スル職ノ意ナルベシ、小國ノ國司ナリ、芳野監、コレト同ジ、攝津職モ、然リ) 和泉國中ノ、三郡ノ地ヲ掌ル長官。續紀、七、靈龜二年四月「割二大鳥、和泉、日根、三郡一、始置二和泉監一」同、十三、天平十二年八月「和泉監幷二河內國一焉」後ノ倭名抄、五十六「三郡共ニ、和泉國中ニアリ。

いづみのや (名) [泉屋] 前前條ヲ見ヨ。

いつみん (名) [逸民] (逸ハ、正韻「隱也」遁也」) 世ヲ遁レテ、隱レ居ル人。論語、微子篇「逸民、伯夷、叔齊、虞仲、夷逸、朱張、柳下惠、少連」

いづみりう (名) [和泉流] 能ノ狂言ノ一派。狂言ノ條ヲ見ヨ。

いつも (副) [何時] イツニテモ。常ニ。例トシテ。例「いつも來ル」

いづもぐつわ (名) [出雲轡] (出典ヲ見ヨ) 馬銜ノ一種。今ノ所謂、十文字轡ナリト云フ。盛衰記、二十、石橋合戰事、佐奈田與一「乘リタル馬ハ、云云、元來強キ馬ナリケレド、己ガカヲ憑ミツツ、出雲轡ノ大ナルニ、手綱二筋縒リアハセテゾ乘リタリケル」愚得隨筆(日下部景衡、新井白石ノ妻ノ弟)九、鞍馬、出雲銜、明珍ガ先祖、出雲守宗介ガ作リシ銜ヲ叡覽アリテ、玉ノ如ク明ラカニ、珍物也ト勅アリシヨリ、明珍ト名乘ルト云フ、今世ノ銜、出雲銜ナリ、宗介ガ作リシ形ナルガ故ニ、出雲銜ト云フナルベシ」

いつもとやなぎ (名) [五本柳] (陶淵明ノ五柳ノ訓讀、(其條ヲ見ヨ) 奈良朝ノ頃、漢學盛ンナリキ) 門邊ノ柳。カドヤナギ。萬葉集、二十 三十一「我ガ門ノ、以都母等夜奈枳、(厚)イツモイツモ、母ガ戀スナ、業座シツツモ」(防人ノ旅中ノ詠、家ノ母ガ、我レヲ思フ意ヲ云フ) 夫木抄、三「吹ク風ニ、いと亂レタル、我ガ宿ノ、いつもと柳、寄リテコソ見メ」

いづものおくに (名) [出雲於國] 初メテ歌舞伎ヲ行ヒタル婦人ノ名。歌舞妓事始、二、芝居「元來、今イフ芝居ハ、出雲の於國、織田信長ノ免許ヲ請、北野ニアリシ人升ヲ拜領シ、始テ芝居トイフ也トゾ」

いづものかみのえんむすび (名) [出雲神緣結] (俗間ニ遍ク云フ語ニテ、出雲國ノ大社ノ神ガ、男女ノ緣ヲ結ビタマフト云フナリ、此ノ如キ事、何ノ古典ニモ見エズ、全クノ空言ナリ、コレハ、京都ノ出雲路ノさへの神(障神、其條ヲ見ヨ)ヲ轉音シテ、さいの神、卽チ、幸の神ト云フ、(幸ノ音便、幸、さいはひ)コレガ緣ヲ結ビ幸福ヲ成サシムト妄傳スルナリ、下ノ出典ヲ見ヨ) 京都ノ北邊ニアル出雲路ノ幸神ガ、男女ノ緣ヲ結ブト云フナリ。倭名抄、五ニ、山城國、愛宕郡ノ鄕名、出雲、以都毛、トノミアレバ、路ヲ省キテ、いづもの神のえんむすびト云へバ、略聞ユルナリ。扶桑略記、廿五、天慶二年「或記云、同九月二日、云云、近日東西兩京、大小路衢、刻レ木作レ神、相對安置、凡厥體像、髣二髴丈夫一云云、作二女形一對二丈夫一而立レ之、臍下腰底、刻二繪陰陽一云云、號曰二岐神一云云」盛衰記、七、笠島道祖神事「奧州、名取郡、笠島ノ道祖神、云云、コレハ、都ノ賀茂ノ河原ノ西、一條ノ北ノ邊ニオハスル、出雲路ノ道祖神ノ女ナリケルヲ、イツキカシヅキテ、ヨキ夫ニ合ハセムトシケルヲ、商人ニ嫁ギテ、親ニ勘當セラレテ、此國へ追下サレタマヘリケルヲ、國人、コレヲ崇メ敬ヒテ、神事再拜ス、上下、男女、所願アル時ハ、陰相ヲ造テ、神前ニ懸莊リ奉テ、是ヲ祈申スニ、叶ハズト云フ事ナシ」淨瑠璃物語、七段、むすびの段「戀モ、アマタニ分ケラレタリ、逢フ戀、見ル戀、云云、天竺ニハ、むすぶノ神、云云、我ガ朝ニテハ、出雲路ノ、さいはらさいの神」(此物語ハ、室町時代ノ中世ノモノナリ、出雲路ノ道祖神ヲ、むすぶノ神トシタル、最モ古ク見ユルモノカ) 校訂淨瑠璃物語評釋(須藤求馬、明治廿九年、吉川弘文館刊)ヲ摘錄ス、さいはらさいの神ハ、出雲路ノ道祖神ナリ、又、幸神トモ稱ス、往昔ハ京極、一條ニアリ、朱雀天皇天慶二年、出雲路ノ京極ニ遷サル、云云トアリ。(天慶二年トシタルハ、前ニ載セタル扶桑略記ノ文ニ思寄セタルカ) 倭訓栞、さいのかみ「幸神ト書ケリ、男女ヲ幸シ、婚ヲ結ブ神也ト云ヘリ、サレド、道祖ノ轉ナルベシ」

いづもむしろ (名) [出雲筵] 出雲國ヨリ織リ出ス筵。枕草子、八、七十二段、いやしげなるもの「いづもむしろノタタミ」齋宮寮式「絁五疋、云云、出雲席一枚」

いづもやき (名) [出雲燒] (一) 陶器ノ名。出雲國、松江ノ樂山燒ノ稱。此レハ、名人倉崎權兵衞ノ名、高カリシカバ、權兵衞燒ト云フ名モアリト。(二) 同ジ陶器ニテ、出雲國、宍道湖ノ南岸ナル、布志名ヨリ製出ス、黃釉ナル、多シ。此レハ名人長岡住右衞門ト云フモノ、技量拔群ニテ、其作ニ、神品トモ云フベキモノ、多カリシ、爲ニ權兵衞ノ名ヲ襲ガセ、(安永頃カ)後ノ權兵衞ト稱シタリト。

いつもる ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) [伊積] (いハ、發語、積るニ二義アリ、一ハ降リ重ナルコト、一ハ經重ナルコト、此レハ經重なるノ義ヲ採ルベシ、萬葉集古義、一、上ノ額田王下二近江國一時作歌ニ、道隈伊積流萬代爾ノ條ニ、いつもるまでにト訓ル、宜シ、(略解ニ、いさかる、ト訓メルハ通エガタシ)サテ按フニ、都母流テフ詞ニ、竪横ノ差別アリ、タトヘバ、雪ナドノ降重ル、又、木葉ナドノ落重ルヲ、都母流ト云フハ、竪ナリ、又、月日ノ經行ヲ、都母流ト云フハ、横ナリ、ココニ、道隈伊積流トアルモ、道ノ隈隈ノ經重ナルヲ云ヘルニテ、横ナリ、トアルニテ知ラルルナリ」) 經重ル。萬葉集、一 三十長歌「靑ニヨシ、奈良ノ山ノ、山際ニ、伊隱ルマデ、道隈、伊積るマデニ、ツバラカニ、見ツツ行カム」

いづら (代) [何] (いづれト通ズ、どち、どちら、ノ條ヲ見ヨ) いづれ、(代名詞ノ)又ハ、いづちニ同ジ。萬葉集、十五 廿四「伊波多野ニ、宿リスル君、家人ノ、伊豆良ト我レヲ、問ハバ如何ニ言ハム」伊勢物語、六十二段「古ヘノ、匂ハいづら、櫻花、扱ケルカラトモ、ナリニケルカナ」

いつらく (名) [逸樂] 安逸、安樂ニ暮ラスコト。勞セズニ、遊ビ居ルコト。詩經、

[illegible]

いづらふ (自) 〔四〕 〔[illegible]ろノ、ろノ延音、はなちるノはなちらふ、わたるノわたらふノ類〕 イヅル。デル。 枕草子(清輔)三「[illegible]、いづらふ[illegible]ドメヨ」

いづる (名) 〔弋射〕 〔箋注倭名抄、二八十「蓋、射𦁛之義、言ニ矢有ㇾ繳也」(絲ヲ、つるト見ル)いぐるみト云フハ、絲ニテ飛鳥ヲ包むるナリ、へまきハ、綜𦁛ナリ、綜緒ノ條ヲ見ヨ〕 飛鳥ヲ射捕ルニ、矢ニ絲ヲ附ケ遣リテ、其體ニ纏キツクベキ裝置アルモノ。いとゆみ。いぐるみ。 繳ニテ、其絲ヲ操リ收ム。 倭名抄、[illegible]「弋射[illegible]」 [illegible] 色葉字類抄 [illegible] 節用集 [illegible] いでさるト讀ム」 [illegible] いづると云フ、云云、弋、或ハ、讀ミテ、いぐるみト云フナリ、倭訓栞、いぐるみ、繳ヲ云フ、射くるめるナリ」

いづれ (代) 〔何〕 〔かれ(是)ノ語原ヲ見ヨ〕 不定ノ事物ニ用キル代名詞。イヅラ。イヅク。イヅコ。ドコ。ドコラ。ドチラ。ドレ。 萬葉集、十五「大伴ノ、三津ニ船乘リ、[illegible]」

いづれ (副) 〔何〕 ドレガ、ドコカ。 拾遺集、十四、戀、四「八百日ユク、濱ノ眞砂ト、ワガ戀ト、いづれマサレリ、沖ツ島守」 新古今集、十六、雜、上「[illegible]モナク、雪フル頃ハ、アレニケリ、いづれ昔ノ、垣根ナルラム」 伊勢物語、五十段「行クホト、過グル齡ト、散ル花ト、いづれ待テテフ、コトヲ聞クラム」

いづれ (副) 〔何〕 イヅレニシテモ。遂ニハ。ドノミチ。「いづれ雨ガ降ラウ」いづれソノウチニ話サウ」

いづれか (副) 〔孰〕 〔何れ歟ノ意〕 何ノ物カ。ドチラカ。 「[illegible]」

いづれ-とも-な・し・キ・ケレ・ク・ク (形、一) 〔無何共〕 ドレト云フコトナシ。ドレモ、ドレモ。 拾遺集、九、雜、下「オホカタノ、秋ニ心ハ、ヨセシカド、花ミル時ハ、いづれともなし」 後拾遺集、一、春、上「袖カケテ、ヒキゾヤラレヌ、小松原、いづれともなき、千代ノケシキニ」 枕草子、一、廿段、心ゆくもの「色アヒ、花花トイミジク、匂ヒアザヤカニ、いづれともなき中ノカタビラヲ」 後撰集、三、春、下「チリヌベキ、花ノ限リハ、オシナベテ、いづれともなく、ヲシキ春カナ」 源、廿一、少女三十九「五節ノ參ル儀式ハ、いづれともなく、心心ニナクシ給ヘルヲ」

いつわ (名) 〔逸話〕 ウヅモレテ、世ニ知ラレザル話。逸事。

いて (名) 〔射手〕 〔て(人)ノ條ヲ見ヨ(乘手、書手)〕 弓射ル人。 弓手 吾妻鏡、三、元暦元年三月十八日「武衛(頼朝)進ニ[illegible]、是[illegible]也、下河邊庄司行平、新田四郎忠常、云云、等、可ㇾ爲ニ御前之射手ニ[illegible]」 [illegible](北朝、貞治)十五番、騎射「射手人ノ、菖蒲ノ鬘、長キ根ニ、今日ノ眞弓ヲ、引キヤ添ヘマシ」[illegible] 夫木抄、一、射手、心アル、いてノ舍人ノ、ケシキカナ、下鳧ク庭ニ、[illegible]キテ」

いで (感) (一)誘ヒ立ツル時、又ハ、思ヒ立ツ時ニ云フ聲。常ニ、言語ノ首ニ用キル。 允恭紀、二年二月「[illegible]、其[illegible]一莖焉」 [illegible] 萬葉集、十二「[illegible]乞イカニ、言ガカク戀フル、ワギモ子ガ、アハジトイヘル、事モ有ラナクニ」 (二)イヤモウ。 枕草子、四、四十三段「何ニナリ給ヘルゾト問ヘバ、いでマコトニウレシキコトノ、[illegible]、[illegible]二十六、[illegible]キカセ給ラザラン、罪エガマシサナド思フモ、いでイカデナハアルベキ事ゾト、[illegible]思ヒヨルベクナシ」

いてい (名) 〔異體〕 尋常ニ異ナル體。異風。

いてき (名) 〔夷狄〕 エミジ。エビス。 中庸、第十四章「素ニ富貴ニ行ニ乎富貴ニ、素ニ貧賤ニ行ニ乎貧賤ニ、素ニ夷狄ニ行ニ乎夷狄ニ、素ニ患難ニ行ニ乎患難ニ、君子無ニ入而不ニ自得ニ焉」

いで・く・クル・クレ・コ・キ・コヨ (自動、特變) 〔出來〕 〔いでまうでくト云フモ、同ジ事ナリ、參出來ヲ、音便ニ、まうでくト云フ、ソレナリ、ヤハリ、來るノ意〕 (一)立チ出デ來ル。出テ來ル。 萬葉集、二十「大君ノ、命恐ミ、伊豆久禮バ」 伊勢物語、六十三段「三郎ナリケル子ナム、ヨキ御男ゾ出で來ムト逢ハスルニ」 (二)現レ出ヅ。生ズ。いでまうでく。 現出 土佐日記、正月廿一日「[illegible]モ[illegible]カズ、ヨキ日いできテ、漕ギ行ク」(土佐ノ海、舟行ノ[illegible]) 萬葉、五、若葉五十「我ガ心モ、少シ逢フフシモ、いでくヤト心オカレ、人モ惧ミガチニ、思ヒノ外ノ事モ、オノヅカラ出でくるヲ」 同、三十四、上、若菜、上「アヤシキ昔ノ事ドモ、出でまうできツラムトヤ」 同卷、下「程ダニ經ズ、カカル事ノ、出でまうで來るヨ」 (三)出來ス。成就ス。デキル。成 源、十、[illegible]「カウヤウノ折コソ、ヲカシキ[illegible]ナド、いでくるヤウモアレ」

いでしほ (名) 〔出汐〕 入汐ノ反、うしほ(潮)ノ(一)ヲ見ヨ。デシホ。アゲシホ。 謠曲、高砂「月モロ共ニ出でしほノ」

いでたた・す・ス・セ・サ・シ・セ (自動、四) 〔出立〕 〔たたすハ、立つノ敬語、八十蔭ハ、御殿ナリ、各條ヲ見ヨ〕 出立チタマフ。出御[illegible]

[illegible]

いでたち (名) 〔出立〕 〔いでたつノ名詞形〕 (一)旅路ニ、イデタツコト。出デテ行クコト。カドデ。タビダチ。 啓行 [illegible]「[illegible]、心ノ内ニ、[illegible]、いでたちモセズ」 源、廿二、玉鬘「夕ダ京ノいでたちヲスレド、云云」 (二)門ヲ出デ、立チタル所。(入ル所ヲ、はひりト云フニ對ス) 門前 [illegible]記、[illegible]「山ハ、伊底拕智ノ、宜シキ山、走出ノ、ヨロシキ山」 萬葉集、[illegible]「出立ノ、[illegible]ノ木」

いでたち (名) 〔出立〕 (一)外記ノ、政始ノ時ノ作法ノ名。 公事根源、[illegible]テ、南ノ庭ニテ[illegible]アリ、いでたちト[illegible]各作法アリ」 (二)世ニ、成リ出ヅルコト。立身。 榮達 源、五、[illegible]「[illegible]、いでたちモスベカリケル人ノ、世ノ[illegible]ニテ、マジラヒモセズ、近衞ノ中將ヲステテ」

いでたち (名) 〔扮裝打扮〕 〔前前條ノ、首途ノ行裝ヨリ、意ヲ轉ズ〕 演伎ナドニ、演者ノ身ノ服裝。衣裳付。

いでた・つ・ツ・テ・タ・チ・テ (自動、四) 〔出立〕 (一)立出ヅ。 萬葉集、六四十「懷キニシ、奈良ノ都ノ、荒レユケバ、出立つ毎ニ、歎キシマサル」 同、十二[illegible]「[illegible]月夜ヲ[illegible]ニ出立ち、[illegible]行ケ[illegible]ヤ、[illegible]ムヤ」[illegible]ル、心モ空ニ、白雲ノ、出でたつ方ヲ、知ラセヤハセ[illegible] 源[illegible]、ヨロヅノ哀レヲオボシ捨テテ、ヒタミチニ出でたちタマフ」

いてのそう (名) 〔射手奏〕 〔白馬の奏ナド、同ジ〕 [illegible]行ハルル時、其射手ノ姓名ヲ奏聞スルコト。 公事根源、五日節會「馬弓ノ事アリ、大將、射手の奏ヲ取ル」

いでまうで・く・クル・クレ・コ・キ・コヨ（自動、加變）［出參出來］ いでく（出來）ノ條ノ語原、及、其（二）ヲ見ヨ。

いでまし（名）［出座］ イデマスコト。行幸。行幸 天智紀、九年五月、長歌「打橋ノ、頭ノ遊ニ、出坐子、玉代家ノ、八重込外ニ、伊提麻志ノ、悔ハ有ニゾ、出坐子、玉代ノ家ノ、八重込ノ外ニ」萬葉集、一、長歌「手ダスキ、懸ケノ宜シク、遠ツ神、吾ガ大君ノ、行幸ノ、山越ノ風ノ、獨座」

いでま・す・ス・セ・サ・シ・セ（自動、四）［出座］（一）行きます、來ます、居ます、三義アルコト、俗語ニ、いらつしやるト云フニ、同ジ意ナリ」（一）出づノ敬語。ユキタマフ。行幸 神代紀、下「皇孫遊行之状」同卷「天照大神之子、所幸道路」崇神紀、七年八月「天皇卽親、臨于神淺茅原」景神紀、六年二月「天皇幸于近江國」（二）來ノ敬語。來タマフ。來臨 神代紀、上「吾夫君尊、何來之晩也」萬葉集、八「閨ノ夜ハ、宜モ來マサズ、梅ノ花、咲ケル月夜ニ、伊而座左ジトヤ」（三）居るノ敬語。居タマフ。萬葉集、六、三十長歌「刺並ノ、國ニ出座、ハシキヤシ、吾ガ夫ノ君ヲ」

い-てん（名）［移轉］（一）移リ轉ルコト。人物志「偏材之性、不可移轉矣」（二）住居ヲ變フルコト。ヤウツリ。ヒキコシ。詩經、箋「見其心栗而居ハ不復移轉也」

い-てん（名）［移點］ 點ヲ移スコト。醫心方、八「天養二年二月以字治入道大相國（賴通）本移點、云云、移點比校之間、所見及之不審、直講中原師長、醫博士丹波知康、重成等、相共合醫家本畢、文殿所加之續物、師長以墨書之、合宋合點」雲州消息、中、本「請中五帝本紀、周公世家、梁毅傳、右爲移點、所中請如件」

いで-ゆ（名）［出湯］ をんせん（溫泉）ニ同ジ。ユ。クスリユ。出雲風土記、意宇郡、忌部出湯、忌部神戸、云云、國造、神吉詞奏參向朝廷時、御沐之忌里、故云忌部、卽川邊出湯、出湯所在、兼海陸」後拾遺集、十一、戀、二「七久里（信濃）ノいでゆ」千載集、二十、神祇「有馬ノいでゆ」

いで-ゐ（名）［出居］ 次條ヲ見ヨ。デキ。

いでゐ-の-ざ（名）［出居座］〔いでゐト云フハ、いでゐるノ名詞形、次條ヲ見ヨ、此語、いでゐトノミモ云フ、然レドモ、いでゐのざト云フガ、成語ナリ、下ノ出典ニ列擧スルヲ見ヨ、又、でゐトノミ云フハ、上略ナリ、（出で、出づ。で、づ。抱く、だく）上略スレバ、濁音存ス、首音ノ語ノ濁ルハ、大抵、此例ナリ〕（一）昔シ、京都ノ貴族ノ邸宅ノ、寢殿造ナリシ時、中央ノ母屋ノ外、廂間ノ內部ニ設ケ成シタル一室ノ稱。此室、多クハ、客ノ饗應ノ用トシタリ、母屋ハ奧マリテ、稍暗ク、廂ハ明ケレバ、此設ケアリシナルベシ、客數ニ多少アレバ、廣狹齊シカラズ。此語、いでゐトノミモ云フ。齋宮式、造備雜物「出居殿御座、裝束之類、給主神司中臣ハ殿內雜物、給國司忌部」御堂關白道長記、寬弘三年三月、南殿、云云、從南三間、西間數高麗端疊ヲ爲公卿座、ハ北高麗端疊、紫端疊ヲ爲出居」續古事談（建曆）一、王道后宮「後三條院、云云、其御時マデハ、いでゐの御座ニテ供御參リケル」明月記、建久七年五月廿五日、陰雨大風「庭中似海、仍出居座疊引出長押上」（下長押ナリ）（二）［御でゐ、又、でゐトノミ云ヒシ例。源、四十九、東屋廿「客人ノ御でゐ、サブラヒ、トシツラヒ騷ゲバ」宇治拾遺、五、第八條「見マキラセバ、御でゐノ狀、故殿ノオハシマシ候フシツラヒニ、ツユ、タガハズ」（京都ノ貴族ノ子ガ、父ヲ御でゐサマト云フハ、此語ニ起ル、其條ヲ見ヨ）（三）民家ニテモ、客間ヲ、でゐト云ヒキ。義經記、二、伊勢三郎義經ノ臣下トナル事「我ガ身モ、出居ノ莚ヲアゲテ、疊臺ニ所ニ立テ、云云」醒睡笑、一、章「ソチニ遠スト云ヒ敎へ、御でゐニ置キヌ」堤中納言、此部ノ憂景、農民ノ客間ニ、今モ、でゐノ稱アリ。

いで-ゐる・キル・キレ・キ・キ・キヨ（自動、上一）［出居］ 出デテ居ル。源、十、賢木「若若シウ出ゐムガ、今更ニツツマシキ事ト思ス」同、五、若紫「サル海ヅラニ、出ゐタル、ヒガヒガシキヤウナレド」

いと（名）［絲］（一）繭、綿、麻等ニテ、細ソク長ク延キテ撚リ作レルモノ。（二）スベテ、甚ダ細ソク長クシテ、絲ノ如キモノノ稱。線「はりがねノいと」（三）琴、三絃ナドニ張リテ鳴ラス絲。生絲ニテ作ル。絃

いと（名）［幼兒］〔愛し、若シクハ、幼なしノ語根、いと姬君、いと若君ナドモ、是レナリ。紫式部日記ニ、いと宮、いと姬君ト云フアリ〕小兒ノ稱。（大阪）專ラ、女兒ニ云フガ如シ。（男兒ヲ、ぼんト云フ）イトサン。トウサン。ボコ。榮花物語、八、初花「いと姬宮、二ツ、三ツバカリニテオハシマセバ、殿ノ御前、御戴餅セサセ給ハムトスルニ、云云、ウルハシキ御ヨソホヒニテ、いとわか君ノ、御戴餅セサセ奉ラセ給フ」

いと（副）［最甚太］ モットモ。イタク。ハナハダシク。源、一、桐壺「いとヤンゴトナキ際ニハアラヌガ」伊勢物語、初段「いとナマメイタル女」古事記、上、卷「其久難待ハ遊仙窟「太無情」

いと-いん（名）［絲印］ 室町時代ノ中世ヨリ、江戶時代初期ニワタリ、明國ヨリ輸入セル生絲ノ絲荷ノ中ニ、一包每ニ籠メテ送リ來リシ、銅印ノ名、絲ノ包紙ニ其印ヲ押シ、請取書ニモ押シ、斤量ヲ改メテ受ケタル證トセシナリト云フ。此印、鑄物ニテ、皆、朱字ナリ、大小齊シカラズ、單線、複線ノ輪郭アリ、面ハ方、圓、五角、八角、色色ナリ、鈕ニハ、人物、牛、馬、犬、魚、獅子、ナド、種種ナリ、文字ハ、篆、隷ナド、讀マレヌ多シ、稀ニハ、封信、守愚、又ハ、孝悌忠信ナド、讀ミ得ルモアリ。熱田神宮所傳ノ關白二字ノ周圍ニ、壽比南山福如東海ノ印モ、絲印ナリ。

いと-いり（名）［絲入］ 木綿絲ノ中ニ、絹絲ヲ入レテ織リタル綿布。

いと-おり（名）［絲織］ 絹ノ撚絲ニテ織リタル織物ノ名。

いと-き-な・し・キ・ケレ・ク・ク（形、二）［幼］〔おときなしノ轉（息、いき）〕 いとけなしニ同ジ。名義抄「稚、イトキナシ、ヲサナシ」源、四、夕顏三十「いときなきヨリ、懷サヒシモノノ」

いと-きり（名）［絲切］〔絲ニテ轆轤ヨリ切リ取レバ云フ〕 陶器ノ底。イトゾコ。イトジリ。

いときり-だんご（名）［絲切團子］ 米ノ粉ヲ捏ネテ、細長ク棒ノ如ク作リ、蒸シテ、絲ニ纏ヒテ、輪切リニ絞リ切レルモノ。

いときり-ば（名）［絲切齒］〔絲ヲ食ヒ切るニ用キル〕 犬齒ノ俗稱。人ノ牙。奇牙（けんし ノ條ヲ見ヨ）

い-とく（名）［懿德］〔支那五代ノ時ノ女官ノ稱〕 德ノ秀デタルヲ稱ヘテ云フ語。詩經、大雅、烝民篇「民之秉彝、好是懿德」徐夤、寄月君詩「懿德好書箋女誡、素容堪畫上銀屛」

いと-ぐら（名）［絲倉］〔絲座ノ義〕 三味線ノ名所。棹ノ上部、絲卷ヲ貫ク處。（しやみせんノ條ヲ見ヨ）

いと-くり（名）［絲繰］（一）いとわくニ同ジ。（二）草ノ名、をだまきニ同ジ。

いとくり-ぐるま（名）［絲繰車］ 古名、オホ

ガ。繭ヲ鍋ニテ煮テ、絲ヲ引キ出シ、繰リテ絡フ具。大キナル木ノ枠ニ、いとわくヲ付ケテ絡フ。イトトリグルマ。繰車

いとぐるま (名) 絲車 いとよりぐるまノ略。其條ヲ見ヨ。

いとげ (名) 絲毛 (一)鎧ノ緘毛ノ、絲ナルモノ。(革ナラズ)イトヲドシ。太平記、廿四、天龍寺供養事「色色ノ絲ノ鎧ニ、烏帽子カケシテ」(二)絲毛の車ノ略。其條ヲ見ヨ。

〔**いとけ・し**・キ・ケレ・ク・ク (形、二) 幼 次條ニ同ジ。御堂關白集「いとけくテ、春ノ都ト、見ルカラニ、過ギケム花ノ、モトフシゾ思フ」

いとけな・し・キ・ケレ・ク・ク (形、二) 幼 アドケナシ、ヲサナシ。頑是ナシ。いときなし。イトケシ。後拾遺集、七、賀「いとけなき、衣ノ袖ハ、狹クトモ、コフノ石ヲバ、撫デツクシテン」夫木抄、三十一「いとけなき、ワガ子ノ奈良ノ、里ニオキテ、今宵ノ月ニ、面カゲニタツ」續千載集、十、戀「知ラデコソ、結ビ置キケメ、總角ノ、いとけなかりし、ホドノ契リヲ」

〔**いとげのくるま** (名) 絲毛車 牛車ノ一種。青絲毛、紫絲毛、赤絲毛等ノ種類アリ、イヅレモ名ノ如キ色ノ絲ニテ、車箱ヲ装飾シタルモノニテ、主トシテ婦人乘用ノモノ。略シテ、いとげトノミモ云フ。西宮記、臨時、八「絲毛、式部卿、佐二分召」[illegible]榮花物語[illegible]寛治六年二月日[illegible]中宮[illegible]毛車[illegible]式部日記[illegible]ニハ宮ノセンジ乘ル、[illegible]殿ノウヘ、少輔ノメノト、若宮イダキ奉リテ乘ル」[illegible]絲毛、イトゲ」

〔**いとこ** (名) 從弟 〔愛(イト)しき子ノ義〕人ヲ親愛シテ稱フル語。[illegible]十六[illegible]伊刀古、ナセノ君ハ、居リ居リテ、物ニイ行クトハ」

〔**いとこ** (名) 從兄從弟從姉從妹 前條ノ語意ニ同ジ、[illegible]子女ニ[illegible]、愛ヲ愛シければ云フト云フ〕父ノ兄弟ノ子女。[illegible]兄之子、弟之子[illegible]是爲從父兄弟姉妹〈以上古〉」父ノ姉妹ノ子女ヲモ云フ。外從兄 弟姉妹 今ハ、母ノ兄弟姉妹ノ子女ヲモ云フ。

いとこちがひ (名) 從弟違 父母ノいとこ。從祖父 諸例集、一「玄蕃頭賢從弟違、田沼[illegible]先代[illegible]」

いとこどし (名) 從弟同士 〔次條ノ轉、けち、けし(消)〕 いとこどち。互ニ從兄弟ナルコト。中表

〔**いとこどち** (名) 從弟共 〔どち(共)ノ條ヲ見ヨ〕今、いとこどしト云フ。前條ヲ見ヨ。宇津保物語、樓上、下「[illegible]カノ御方ノ侍從ノ君、對ノ御方ノ少將ノ君トハ、いとこどちナレバ、云云」

いとごんにゃく (名) 絲蒟蒻 蒟蒻ヲ、絲ノ如ク細ソクシタルモノ。シラタキ。

いとざくら (名) 絲櫻 しだりざくらニ同ジ。

いとさん (名) 幼兒ノ敬語。

いと・し・シキ・シケレ・シク・シク (形、二) 愛惜 〔いとほしノ約〕 いとほし。カハユラシ。狂言記、子盜人「ワコ樣ヲ捨テテ逃ゲヲッタ、ナウいとしや」

いとしん (名) 絲心 絲ヲ心トシテ造レル[illegible] 燈心ヲ心トシタルニ對ス)

いとしら・し・シキ・シケレ・シク・シク (形、二) 愛惜 イトシキヤウナリ。イトシ。カハユラシ。

いとじり (名) 絲尻 絲切ニ同ジ。イトゾコ。

いとすげ (名) 絲菅 菅ノ一種。山陰、[illegible]ニモアリ、[illegible]ク、[illegible]、長サ一尺許、一根ニ叢生ス、夏、莖ヲ出シ、穗ヲナシテ花ヲ開ク、色黑シ。[illegible]

いとすぢ (名) 絲筋 (一)絲ノ線。イト。イトメ。[illegible]十四[illegible]「[illegible]」(二)スベテ、絲ノ如ク細ソキモノ。[illegible]、いとすぢ[illegible]リ出デテ、花ノ鎖ヲ、寒ムルスレ[illegible]」

いとずみ (名) 絲墨 スミナハ。サゲスミ。[illegible]かた言[illegible]ヨリサゲテ、物ノユガミ、スグナルヲ量ル、云云」

〔**いとせめて** (副) 最迫 〔せむ(迫)ノ條ヲ見ヨ〕いとのきてト、同趣ノ語。甚シク迫リテ。セツナク。ジュツナク。セツパ詰マッテ。古今集、十二、戀、二「いとせめて、戀シキ時ハ、ウバダマノ、夜ノ衣ヲ、返シテゾヌル」

いとぞこ (名) 絲底 (一)陶器ノ底ノいときり。(二)轉ジテ、陶器ノ底ニアル座。空足

いとたけ (名) 絲竹 〔絲竹ノ訓讀ナルベシ〕(一)樂器ノ總稱。絃ハ琴、箏、琵琶ノ類ナリ、竹ハ笛、笙、篳篥ノ類ナリ。絲竹。增鏡、第十六、秋のみやま「いとたけノ調ベハ、時アシケレバ」(二)轉ジテ、音樂。管絃。[illegible]十二段[illegible]絲竹ノ道[illegible]カラズ、[illegible]折パヤ折ラン花ノ宴、[illegible]絲竹ノ、[illegible]分タレシ」[illegible]絲竹ノ遊」

いとだて (名) [illegible] 麻絲ヲ經トシ、[illegible]ヲ緯トシテ織レル席。

いとづつみのゆみ (名) 絲裹弓 麻絲ニテ卷キツメテ、漆ヲ塗リタル弓。[illegible]六月、弓者、木[illegible]」

いとづめ (名) 絲爪 三味線ヲ彈ク人ノ、左ノ人差指ノ爪ノ[illegible]、[illegible]タルモノ、絃ト擦レテ生ズルナリ。又いとみち(絲道)トモ云フ。

いとど (名) [illegible] [illegible] (幾久し、いくひさ)聲ノせはせはしく聞ユル意カト云フ〕 おほろぎノ異名。其條ヲ見ヨ。[illegible]小、最微[illegible]」物類稱呼、二「竈馬、いとど、京ニテ、クロロ、伊勢及[illegible]ニテ、カマド、[illegible]リス、遠江ニテ、カンナゴ、西國ニテ、クロツヅ、又、イヒゴ、近江ニテ、クロト云フ、コレ古ヘノおほろぎトイヒシ物也、今イフおほろぎノ種類ニシテ、小ナル物也、竈ノアタリニスム」

〔**いとど** (副) 深甚 〔最最(イトイト)ノ約(いよいよ、いよよ、ますます、まとど)〕彌、甚シク。イヨヨ。マスマス。伊勢物語、八十二段「散レバコソ、いとど櫻ハ、メデタケレ、[illegible]カ、久シカルベキ」源、一、桐壺「イトイタウ思ヒワビタルヲ、いとどアハレト御覽ジテ」金葉集、三、秋「サラスダニ、玉ニ紛ヒテ、置ク露ヲ、いとどミガケル、[illegible]ノ夜ノ月」

〔**いとどし**・シキ・シケレ・シク・シク (形、二) 深甚甚 〔前條ノ語ヲ活用ス(あはれ、あはれし)〕 イヨイヨ甚ダシ。伊勢物語、第七段「いとどしく、過ギ行クカタノ、戀シキニ、羨マシクモ、カヘル波カナ」[illegible]ニ、いとどしき朝露ニ」

いととりぐるま (名) 絲取車 いとくりぐるま(絲繰車)ニ同ジ。

いとな・し・キ・ケレ・ク・ク (形、二) (一)暇無

シ。イソガハシ。忙　後拾遺集、一、春、上「一歳ニ二度モコヌ春ナレバ、いとなく今日ハ花ヲコソ見レ」（三）少シバカリナリ。僅ナリ。

いとなみ　（名）　營　（一）イトナムコト。ツトメ。仕事。源、十四、澪標「御オコナヒ、功徳ノ事ヲ、常ノ御いとなみニテ、オハシマス」同、四、夕顔「アヤシキ賤男ノ聲聲、云云、己ガジシノいとなみニ起キ出デテ、ソソメキ騒グ」（ぢぢトハ、自恣ナリ、其條ヲ見ヨ）　（二）イソギ。用意。支度。準備　玉葉集、十四、雜、一「年暮レシ、ソノいとなみハ忘ラレテ、アラヌ状ナル、いそぎヲゾスル」（常業ハ措シオキテ、明年正月ノ支度スルトノ意ナルベシ）

いとな・む・ム・メ・マ・ミ・メ（他動、四）　營　〔前條ノ語根、いとなヲ、動詞ニ活用セシナリ、隙なしニ務ムル意トナル、はかなしノ、はかなむトナリ、たしなし（困窮）ノ、たしなむ（窘）トナルト、同趣ナリ〕（一）務メテ、爲ル。イソシム。源、五、若紫「物ノ数いとなむケハヒナド、シルケレバ」玉葉集、十五、雜、二「起キテ今朝、マタ何事ヲ、いとなまム、此夜明ケヌト、鶏鳴クナリ」　（二）作リ調フ。經營　靈異記、下、第十縁「沙彌、云云、卽、俗收レ家、營造塔菜」訓釋「營造、意東那三」　字鏡、六「營、豆久利以止奈牟」（三）イソグ。支度ス。用意ス。準備　堀河百首、冬、除夜「門松ヲ、いとなみ立ツル、ソノホドニ、春明方ニ、夜ヤナリヌラム」月清集（建久）四「千世經ベキ、松サヘ山ヲ、出デニケリ、春ヲいとなむ、賤ニヒカレテ」（是レ亦、正月ノ門松ヲ云ヘルナラム）宇治拾遺、十五、第九條「食物、下人ドモニモいとなまセズ、夫婦手ヅカラ自ラシテ、召サセケリ」

いと-のきて　（副）　加之　〔最抽きてノ轉カト云フ、野、の。ぬるし、のろし。（鈍）いとせめてト、同趣ノ語ナリ〕　イドドシク。イヤガウヘニ。萬葉集、五、貧窮問答長歌「伊等乃伎提、短キ物ヲ、端切ルト、云ヘルガ如ク、答　取ル、里長ガ聲ハ、寢屋處マデ、來立チ呼ビヌ」同卷、十二、長歌「伊等能伎提、痛キ瘡ニハ、鹹鹽ヲ、灌グチフ如ク」

いと-の-くつ　（名）　絲鞋　絲鞋ノ條ヲ見ヨ。倭名抄、十二、三「絲鞋、伊止乃久都」

いとは・し・シキ・シケレ・シク・シク（形、二）　可厭　〔厭ふノ未然形、いとはヲ活用ス、わづらふ、わづらはし（煩）〕厭フベシ。嫌ハシ。忌ムベシ。源、十三、明石三十「常ハいとはしき夜ノ長サモ、疾ク明ケヌル心地スレバ」徒然草、百七十段「いとはしゲニ言ハムモ、ワロシ」

いと-ばな　（名）　絲花　はなむすびニ同ジ。ムスビバナ。德川幕府ニ、御絲花師アリキ。

いと-びん　（名）　絲鬢　頂ヲ剃リ下ゲ、兩ノ鬢ヲ、絲ノ如ク細ソク殘シテ結ビタル、男子ノ髮。好色一代男（天和、西鶴）二「世ノ風俗モ、絲鬢ニシテクリサゲ、一筋懸ノ髻、上髭殘シテ」

いと-ひめぎみ　（名）　幼姫君　幼キ姫君。いと（幼兒）ノ語原ヲ見ヨ。

いと・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ（他動、四）　厭　〔傷思ふノ約カ、腕纏く、うだく。（抱）言合ふる、おたふ（答）〕（一）忌ミキラフ。否ニ思フ。イヤガル。萬葉集、十五、三十「向ヒ居テ、一日モオチズ、見シカドモ、伊等波ヌ妹ヲ、月ワタルマデ」（二）佛意ヨリ、世俗ヲ疎ミ棄ツ。厭世　源、四十四、総角四十「タダいとひ離レヨト、コトサラニ佛ナドノ勸メオモムケタマフヤウナル」（厭離穢土ノ意）（三）危キヲ厭ヒ護ル意ヨリ轉ジテ、イトホシク思フ。イタハル。カバフ。自愛「身ヲいとふ」

いとほ・し・シキ・シケレ・シク・シク（形、二）　〔心痛はしノ轉〕（一）哀レナリ。不便ニ思フ。愍然　（二）イトシ。カハユシ。可憐

いとほし・む・ム・メ・マ・ミ・メ（他動、四）　愛憐　イトホシク思フ。不便ニ思フ。山家集、下「我レノミゾ、我ガ心ヲバ、いとほしむ、憐ム人ノ、ナキニツケテモ」

いと-ま　（名）　暇　〔暇ノ間ノ義〕（一）事ノナキ時。閑暇。萬葉集、二十、四十「夜ノ伊刀末ニ、摘メル芹コレ」同、三十三「滋賀ノ蜑ハ、藻刈鹽燒キ、無暇、ツゲノ小櫛ヲ、取リモ見ナクニ」　字鏡、一「暇、伊止万」（二）官人ノ、時ヲ定メテ暇ヲ請フコト。休暇ヲ申請スルコト。賜暇　雄略紀、八年二月「高麗軍士一人、取暇歸國」宇津保物語、忠社十「いとま許サセ給ハヌヲ、强ヒテ申シテ、アカラサマニ罷出ヌ」　（三）官人ノ、喪中ニ、暇ヲ賜ハリテ引籠リ居ルコト。忌引スルコト。假トモ云フ。服假　宇津保物語、國譲、中、三「御髮オロシタマヒテ、隠レタマヒヌ、云云、カクテ殿ノ公達、大殿モ、御いとまニナリタマヒヌレバ、云云」（四）長ク暇ヲ請フ意ヨリシテ、官人ノ、任ヲ辭スルコト。辭職。致仕　宇津保物語、樓上、下、五十「オホヤケノ事ヲ物セズ侍ラムトテ、院ニいとま申シ侍リシヲ」奉公人ノ勤ヲ止ムルヲ、いとまを取るト云フ。（五）罷リ去ルコト。別レテ往ヌルコト。平家物語、七、忠度都落事「サラバ暇申シテトテ、馬ニ打乘リ、云云」（暇乞スノ敬語）「おいとま致シマス」（六）妻ヲ離緣スルコト。「いとまヲ遣ル」

いとま-あき　（名）　暇明　イトマアクコト。暇ニナルコト。遑　文選、秋興賦「夙興晏寢、匪レ遑二底寧一」

いとま-あ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ（自動、四）　暇明　イトマニナル。ヒマニナル。遑　名義抄「遑、イトマアク」　類聚集「今日ナムいとまあきタル、ト聞エタマヒケルニ」

いと-まき　（名）　絲卷　（一）絲ヲ卷キ置クニ用キル具。細小ナル板ニテ作ル。古キハ楓ノ葉ノ形シタリ、後ナルハ多クハ方形ニシテ、四邊ノ中央ヲ彎曲ニ内ヘ剜リタルモノニテ、絲ヲ十字ニ卷キツク。（二）女ノ髻ノ結ビ方、方形ノ絲卷ニ絲ヲ卷キタル如キモノ。（三）次條ノ語ノ略。光源院殿御元服記「次、藤中納言殿、就二御裝束方之儀一、絲卷被レ進二上之一」（四）三味線ノ轉手。

いとまき-の-たち　（名）　絲卷太刀　柄、及、帶取ノ下ヲ、絲ニテ卷キタル太刀。（雜問答考）細革ヲ用キルモアリ。康富記、康正元年八月「絲卷御太刀被レ下」

いとまき-ひとで　（名）　介ノ名。ひとでノ條ヲ見ヨ。

いとま-ごひ　（名）　暇乞　別レヲ告グルコト。告別　文選、高唐賦「去而辭曰」

いとまごひ・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ（自動、左變）　暇乞　別レヲ告グ。告別

いとま-ぶみ　（名）　暇文　病中ナドニ、出仕ノ暇賜ハラムコトヲ願フ文書。請暇ノ願書。宇津保物語、藏開、下、廿二「病ミワヅラヒテナム、日頃、いとまぶみ奉リテ、參ラズハベリ」

いとまうし　（名）　暇申　イトママウスコト。マカリマウシ。景行紀、四十年十月「將レ討二諸叛者一、故辭之」

いとまう・す・ス・セ・サ・シ・セ（自動、四）　暇申　（一）休暇を乞ふノ敬語。マカリマウス。竹取物語「朝廷ニハ、筑紫國ニ、湯浴ニマカラムトテ、いとまうして」（二）暇乞すノ敬語。玉葉集、十八、雜、五「鳥羽院ニ、出家ノいとま申し侍ルトテ」（西行歌）　景清草子（室町時代）清水坂ニテ討手「いとまうしテ、サラバトテ、天井

ニアザリ、云云」

いどみ (名) 挑 イドムコト。アラソヒ。キソヒ。夢ノ物語、花山、女房タチ、[illegible]六ノホドノ御いどみモ、イトヲカシクテ」同、廿四、若枝「劣ラン勝ランノいどみ、ムネサワガシカルベシ」

いどみ-ごと (名) 挑事 勝負ノ戯。正子内親王繪合、殿上人、いどみごと定メソムル日ナルヲ、カチマケハイミアル事ニナムト」

いと-みち (名) 絲道 (一)いとづめ(絲爪)ニ同ジ。寛政ノ川柳「糸道ノ、ナクナル頃ニ、世帶ジミ」(鑿音フ云ヒシナリ) 浮世風呂(文化、三馬)三編、上、女ノ指ノ爪ニ、糸道トフ物ノ殘レルハ、世ニ云フ舞子、白拍子ノタグヒトオボシ」(二)三味線ヲ彈ク技。人並ニ彈キ得ルヤウニナリシヲ、絲道があいたト云フ。

いと-みづ (名) 絲水 軒ヨリ、絲ノ如ク垂ルル水。卽チ、アマダレ。軒ノ玉水。堀河百首、夏、五月雨ノ、晴レセヌ頃ハ、葦ノ屋ノ、軒ノいとみづ、絶エセザリケリ」新續古今集、一、春、上「春雨ニ、軒ノいとみづ、長キ日ノ、傾クホドモ、見エヌ空カナ」

いと-みみず (名) 絲蚯蚓 蚯蚓ノ類ニテ、極メテ細ソク赤キモノ。溝ナドノ泥ノ中ニ棲ム、捕リテ、金魚ノ餌トス。アカコ。

いと-みや (名) 幼宮 幼少ナル宮。ヲサナキ宮。紫式部日記「いと宮抱キ奉ラント、殿、宣フヲ、イト嬾キコトニシ給ヒテ、アアトサイナム」

いと-みゃく (名) 絲脈 絲ノ一端ヲ、病人ノ寸關尺ニ懸ケ、醫師ハ、隔リテ他ノ一端ヲ持チ、脈搏ヲ絲ニ傳ヘテ診察スルコト。貴婦人ノ病ナドニ、醫師ノ、其膚ニ觸ルルコト能ハザルニ、スルコトナリ。明和ノ川柳「糸脈デ、丁稚ヲオコス、朝歸リ」(店者ナドガ、丁稚ノ寢床ニ糸ヲ引張リテ、ソト戸ヲアケサセル趣向ト見ユ)

いど・む・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ (他動、下二) 射止 射ヤホス。射ハタス。射トル。狂言記、ほんくゎい「彼ノ狐ヲ、ツヒニ射どめタ」

い-ど・む・ム・メ・マ・ミ・メ (他動、四) 挑 [射響動むノ約ニテモアルカ、戰ヒヨリ起リテ、爭フ意ニ移リタルナラム] (一)兩軍、戰ハムト、誘ヒ競フ。古事記、中(崇神)十「各中挾河而對立相挑、故號其地謂伊杼美」(山城國、泉河) (二)爭ヒ張合フ。競爭ス。枕草子、五、四十七段「御衣、片身ヅツ、誰レガ疾ク縫ヒ出ヅルト、いどみツツ」(三)戀慕ヲシカク。源、二十、朝顔「コノ、サカリニいどみシ女御、更衣」

いと-め (名) 絲目 (一)[イトスヂ。線] 弱竹集、下、青柳ノ、いとめモ見エズ、春毎ニ、花ノ錦ヲ、誰レカ織ルラム」(二)紙鳶ノ面ニ着クル、數條ノ絲。(三)金にいとめは附けぬナド云フハ、金錢ヲ出シシブラヌヲ云フ。前項ノ紙鳶ヲ、絲目ニテ引キトメズ、飛バシ出ス意ナルカ、或ハ、いとめハ、厭目ノ約カ。(言ひさかひ、いさかひ(諍)ナドモアリ)

いと-や (名) 絲屋 絹、木綿ノ絲類、打紐ナド賣ル商家。

いと-やなぎ (名) 絲柳 しだりやなぎニ同ジ。やなぎノ條ヲ見ヨ。

いと-ゆひ (名) 絲結 [此語、スベテノ書ニ、いとゆふトアリ、然ルニ、碩鼠漫筆、六、絲ゆふノ條ニ「故細井貞雄ガ比校セシ古鈔本ニハ、いとゆひの御几帳(出典ノ宇津保物語ヲ見ヨ)トアリ、云云」是レ確正ナルコトニテ、此ノ如クナラザレバ、語ヲ成サズ、各書ヨリ出典トシテ擧ゲタルモ、此改訂セムトモ思ヘド、他ハ、コノミハ證モアレバ改メタード、他ハ、皆ク舊ニ據ル、あそぶいとゆふノ條ヲ參見スベシ、ココハ終止形ヲ名詞トスルナリ、あぎとふ、(腮拔)うるふ、(潤)すまふ(相撲)」 (一)[几帳ノ飾ニ懸クル緒ノ、處處、揚卷ニ結ヒテ垂レタルモノ。宇津保物語、祭使ニ「夕暮ニ、公達、御簾アゲテ、いとゆひノ御几帳ドモ、立テワタシテ」榮花物語、十七、音樂「いとゆひナドノ裾濃ノ御几帳、村濃ノ紐具シテ」(二)紐ノ、絲結ノ如ク結ビテアルヲ、いとゆひむすびト云フ。榮花物語、十七、音樂「或ハ、いとゆひむすび、唐衣ナドノ、言ヒツクスベウモアラヌニ、唐紅ノ三重ノ裾トモ、皆、綾ナリ」少年ノ着ル狩衣ノ袖括ノ露ヲ、花むすびニシタルヲモ、いとゆひむすびト云フ。雅亮裝束抄、三「いとゆひむすびノ狩衣、幼キ人ノ柳、櫻、梅ナドニテ、着ルモノナリ」

いとゆひ-の-みきちゃう (名) 絲結御几帳 几帳ハ、一幅一幅ノ上ニ、絹ノ平縫ノ細紐ヲ垂レタルト、又、絲ヲ幾筋モ結ビ垂レタルト、二樣アリテ、其絲ヲ結ヒタレタル方ヲ、絲ゆひの几帳トハ云フナルベシ、但、是レヲ訛謬リテ、絲ゆふのみき帳ト呼ビナレタルナリ。(碩鼠漫筆、六)

いとゆひ-むすび (名) 前前條ノ(二)ヲ見ヨ。

いと-ゆふ (名) 陽炎 あそぶいとゆふヲ見ヨ。

いと-ゆみ (名) 繳弓 弋射ノ條ヲ見ヨ。

いと-より (名) 絲搓 次次條ニ同ジ。

いとより-ぐるま (名) 絲搓車 又、いとぐるま。綿ヨリ絲ヲ紡ギ出シ、又ハ、紡ギタル絲ヲ撚リ、合スル具、左ニ紡錘アリ、之レニおびいとトテ、太キ絲ヲ纏ヒ、綿ヲ紡錘ニカケテ、車ヲ轉ズレバ、紡錘モ轉ジテ、絲ヲ出ス。紡車

いとより-だひ (名) 絲搓鯛 形、全クあまだひニ似テ、薄赤ク、黃ト青トノ數條、頭ヨリ尾ニ至ル、尾ノ上ニ一條ノ黃線ヲツク、長サ身ニ齊シク、泳グ時ハ金絲ヲ搓ルガ如シ、味、眞鯛ヨリ淡シ。又、イトウヲ。イトクリウヲ。略シテ、いとより。金線魚

い-と・る・ル・レ・ラ・リ・レ (他動、四) 射取 射テ取ル。長門本、平家物語、十四、伊東九郎討死事「スハ平家ハ落ツルハ、一騎モ洩ラスナ、いとれヤ者共、トテ、云云」

いと-わかぎみ (名) 幼若君 幼キ若君。いと(幼兒)ヲ見ヨ。

いと-わく (名) 絲籰 絲ヲ繰リ絡フ籰、軸アリテ、轉ズ。イトクリ。籰子

いと-をどし (名) 絲縅 鎧、及、腹卷ノ、絲ニテ縅シタルモノ。(革縅ニ對ス) 長門本、平家物語、十五、貞仲申[illegible]事「[illegible]黃ヲ黃ナル[illegible]リケルガ」本朝軍器考、九、甲冑鎧ノ威毛ノ色ナドハ、云云、或ハ絲、或ハ綾、或ハ革ナドイフ事、サダカナルヘキニモアラズ、白絲、黑絲、黃絲、紺絲、紫絲、淺黃絲、萠黃絲威ナドイフ物ハ、疑フ所ナシ、コレハ皆、絲威ナリ」

いな (名) 稻 [ふね、ふな(船)かね、かな(金)ナド、同趣ナル、多シ] 稻ノ轉ク、熟語ニ用ヰラル。崇峻紀、本[illegible]天[illegible]ユフシデノ、神ノ幸田ニ、伊奈(稻)ノ穗ノ」「稻蟲、稻穗」

いな (名) 鯔 魚ノ名。ぼらノ條ヲ見ヨ。クチメ。名吉。名吉。

〔いな (副) 否 〔唯莫ノ義ニモアルカ〕他ノ言ヲ背ハズシテ、打消ス語。イヤ。萬葉集、十六 二十「否モ諾モ、欲スルママニ、ユルスベキ」同、二十 五十「見ムト言ハバ、伊奈ト言ハメヤ」

イナオ (名) 〔蝦夷語、Inao〕木ヲ削リテ作レル幣。其形、けづりかけノ如シ。

〔いなおほせどり (名) 稲負鳥 〔いなおほせハ、稲課ノ義、稲刈ヲ課する(催促)鳥ノ意ナリ〕黄鶺鴒ノ古名。此鳥、秋ノ末、稲ノ熟セシ頃、晝夜、空中ニ飛ビ鳴キワタリ、田ノ面ニ群リ來ル、農民コレニ促サレテ、稲ヲ刈取ルナリ。倭名抄、十八 十二「稲負鳥、以奈於保世鳥」古今集、四、秋、上「我ガ門ニ、稲おほせ鳥ノ、鳴クナベニ、今朝吹ク風ニ、雁ハ來ニケリ」夫木集、九月、「田刈ル所ニ、鶺アリ」「カラクシテ、急ギ刈リツル、山田カナ、いなおほせどりノ、ウシロメタサニ」(鶺鴒ノ、稲刈ヲ促スガ心ガカリナレバ、急ギ刈リ終ヘタリトノ意) 和泉式部集「會フコトヲ、いなおほせ鳥ノ、教ヘズバ、人ハ戀路ニ、惑ハザラマシ」(鶺鴒ヲ云ヘリ、とつぎをしへどりノ條ヲ見ヨ)

〔いなぎ (名) 稲置 〔稲君ノ略カ、(吾君、あぎ)貢納ノ稲ヲ置ク所ヲ司ルニ因リテ、稲置ノ字ヲ用キシナラムト云フ〕(一)古ヘノ地方官ノ名、縣主ノ次ニ居リシガ如シ。景行紀、二十七年十月「尾張田子之稲置」古事記、上 二十「蒲生稲寸」(近江) 成務紀、五年九月「縣邑置稲置」北史、倭傳「有軍尼一百二十人、猶中國牧宰、八十戸置一伊尼翼、(稲置)如今里長也、十伊尼翼、屬一軍尼」(國造) (二)後ニ、可婆禰ノ名。允恭紀、二年二月「貶闘鶏國造、…云云、賤ニ其姓、謂ニ稲置」天武天皇ノ朝ニ、第八等ノ可婆禰ト定メラル。

〔いなぎ (名) 稲城 事、急ナル時、稲ヲ、俵ナガラニ高ク積ミ重ネテ、城ニ築キ、敵ヲ防グモノ。垂仁紀、五年十月、[illegible]稲城[illegible]

いなぎ (名) 稲木 〔はつきノ條ヲ併セ見ヨ〕ハツキ。ハタ。ハテ。刈リタル稲ヲ掛ケテ乾ス具。竹木ヲ立テテ作ル。

〔い-な・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (自動、四) 〔いハ、馬聲ナリ〕馬、嘶グ。嘶 天治字鏡、二 廿一「嘶、馬鳴也、馬伊奈久、又、馬伊奈久」[illegible] 字類抄「嘶、イナキ、[illegible]」

〔いなくさ (名) 稲草 稲田ニ生フル雜草。莠。名義抄「稂、イナクサ、アナシホ」

〔いなぐら (名) 稲倉 刈リタル稲ヲ納メ置ク倉。ヨナグラ。コメグラ。廩 倭名抄、十 廿一「廩、伊奈久良」

いなご (名) 稲子 〔子ハ、殻子、呼子鳥ナドト云フニ同ジ〕蟲ノ名。狀、螽斯ニ似テ、首圓ク、眼大ナリ、長サ七八分、翅アリ、色ハ緑ト褐トアリ、鳴クニ、股ヲ相擊チテ聲ヲナス、稲ノ葉ヲ食フ。此蟲ヲ、山民ハ、乾シ炒リテ食トス、都人ハ、鳥ノ餌ナドトス。蟲螽一種 又、おほいなごハ、形、大キクシテ、長サ一寸餘アリ。京都ニ、オイタチ。東京ニ、トノサマバッタ。蟲螽 今鏡、中、第五、濱千鳥「いなごナドイフ蟲ノ心ヲ、少シ持タセ給ハバ、ヨク侍ラマシ」下學集、上、氣形門「螽、イナゴ」

いなこき (名) 稲扱 又、いねこき。稲ノ穗ヲ引キカケテ、實ヲ扱キ取ル具。形、大キナル櫛ノ如ク、竹、又ハ、鐵ニテ齒ヲ作ル。センバコキ。カナコキ。ヤモメダフシ。ゴケダフシ。(やもめだふしノ條、見合スベシ) 拖杷 和漢三才圖會、三十三、農具「拖杷、以奈古木、[illegible]」

い-なごと (名) 異言 いなものヲ見ヨ。

い-なごと (名) 異事 いなものヲ見ヨ。

〔いなごまろ (名) 稲子麿 〔いなごト、まろトノ條ヲ見ヨ〕蟲ノ名。狀、螽斯ニ似テ、背尖リ、兩角列ブ、雄ハ長サ一寸、雌ハ三四寸ニ及ブ、色ニ緑色ナルト褐色ナルトアリ、背後、尾ニ至リテ色赤シ、飛ブ時ハ、内羽、黄ニシテ美シ。シャウリャウバッタ。イナムシ。蚱蜢 本草和名、下 三「蚱蜢、以奈古末呂」(倭名抄、同ジ) 堤中納言物語「ヒラ、いなごまろ、アマビコ」

いなさ (名) 東南風 〔語原、詳ナラズ、さハ、風ノ轉ナルベシ、西北風ヲあなぜ、あなぜト云フ〕タツミカゼ。東南ノ間ヨリ吹キ來ル風ノ稱。(東國ノ舟子ノ語) 物類稱呼、一「江戸ニテハ、東南ノ風ヲいなさト云フ」

いなさく (名) 稲作 田ニ稲ヲ植エ作ルコト。米作。(畑作ニ對ス)

いなしき (名) 稲敷 (一)藁ヲ地ニ敷キテ、席トスルコト。堀河百首、雜「いなしきヤ、伏屋ヲ見レバ、庭モセニ、門田ノ稲ハ、刈リ乾シテケリ」(二)轉ジテ、田舍。永久四年百首、冬「いなしきヤ、民ノ寢ナク、路モセニ、盡キセズ運ブ、貢物カナ」八雲御抄、三、上「いなしきハ、ゐなかナリ」鹽尻、五十三「いなしき、田舍ヲ云フ、稲敷也」

いな・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) 令往 往ナシム。去ラス。逐フ。イナセル。遣 狂言記、文山だち「いたしタモノガ行カイデ、何トセウ」

〔いなせ (名) 諾否 〔せハ、然ノ轉、(せ(諾)ノ條ヲ見ヨ)竹取物語「大伴大納言ハ、龍ノ頸ノ玉取リテオハシタル、いな、さモアラズ」〕否ト、諾ト。イナヲ。イヤオウ。後撰集、十三、戀、五「親ノ守リケル女ヲ、いなトモせトモ、言ヒハナテト申シケレバ」「いなせ(令往ニカケタルカ)トモ、言ヒハナタレズ、憂キモノハ、身ヲ心トモ、セヌ世ナリケリ」

✣いなせ (名) 〔令往ノ義ヨリ轉ジテ、生粹兒ノ意トナレリ〕粹ニシテ、勇肌ナルコト。(東京俗語) 新吉原ニ地廻リノ勇肌ナル者アリテ、美聲ニテ「いなせトモナキ、ソノ心カラ、歸ラシャンセト、ホレタ情」ト云フ小唄ヲ唄ヒ歩キタルガ名高クナリ、遂ニ粹ナルコトニナレリト云フ。俠粹 俠肌 勇俠 安政ノ流行唄、伊名勢節「着物ハごほん手、みそおしか、帶、ふたおしデ、諸事、いなせゴト、ばら緒ノ[illegible]カケ」

✣いな・せる (動) いなす(令往)ノ口語。

いなだ (名) 稲田 稲ノ植エテアル田。

いなだ (名) 魚ノ名。ぶりノ條ヲ見ヨ。

〔いなだき (名) 頂 〔いただきト通ズ、へだたり、へなたり(隔)〕いただき(頂)ノ語原、及、其(二)ヲ見ヨ。(今モ靜岡縣ニテハ、戴くヲ、いなだくト云フ)

〔いなたばり (名) 秉 〔稲手張ノ義、禾ヲ束ネテ握ニ盈ツル意ト云フ〕稲ノ一束。稲束。(束ノ條ヲ見ヨ) 箋注倭名抄、九 三「秉、禾束也、伊奈太波利、稻、刈把數也」名義抄、「禾、秉、イナタバリ、イナタバリ、イナツカ、イナツミ」

〔いなたま (名) 稲魂 いなびかりヲ見ヨ。

いなつか (名) 稲束 前條ト、束トノ條ヲ見ヨ。

〔いなつきがに (名) 稲舂蟹 〔螯ヲ上下スルヲ、舂クト見タル名、伊豫ニテ、米舂蟹ト云フ〕蟹ノ一種、又、いねつきがに。今、ころがにト云

ヲ[illegible]其條ヲ見ヨ。[illegible] 倭名抄、十九、二[illegible]、[illegible]ノ、余川支加仁ノヤ、[己レサヘ、新嘗ヲ得ズトテ、捧ケテハ下シヤ、下シテハ捧ゲヤ、時[illegible]ヲスルヤ」(新嘗ヲ招ク意ニ云ヘリ)名義抄「蟷螂、イネツキガニ」

〔いなつび (名) [稃] 稻粒ノ義、稻ノ實ノ粒。いなつぶ。コメツブ。倭名抄、十七「[illegible]、伊奈豆比 [illegible]、イナツブ、コメツブ」

いなつぶ (名) [粒] 前條ニ同ジ。

いなづま (名) [稻妻] (一)[いなびかりニ同ジ。(二)模樣ノ名。稻妻ノ光ハ、屈折シテ見ユルニ因リテ、其象ヲ圖ス、多クハ、渦卷ヲ方形ニシタルヲ云フ。雷文方形ナルヲ、菱形ニシタルヲ、稻妻菱ト云フ。(三)折釘ノ一種、尖ノ、上方ヨリ内方ヘ、方形ニ屈折シタルモノ。床ノ間ノ天井ニ、上ヨリ垂ルルヤウニ打付ケテ、掛物ノ紐ヲカク。

いなづまびし (名) [稻妻菱] 前條ノ(二)ヲ見ヨ。

いなつるび (名) [稻交接ノ義、いなびかりノ語原ヲ見ヨ] いなびかりニ同ジ。

〔いななく・ク・ケ・カ・キ・ケ (自動、四) [嘶] [馬聲ヲ、いト云フ、ななくハ、之鳴くノ轉、手の心、たなあさろ(掌)] 馬、聲高ク鳴ク。嘶ク。 倭名抄、十一「嘶、伊奈奈久、以波由」

いなのうす (名) [鑷臼] 次條ヲ見ヨ。

いなのへそ (名) [鑷臍] 古ヘハ、いなのうす。鑷ノ腹中ヨリ出ヅル、臍ノ形シタルモノ。 三好長慶御成記[illegible]ハ、云云、御クヮシ、コクシ、いなのうす」

いなのほ (名) [稻穗] いねのほ、又、いなほニ同ジ。

〔いなのみ (名) [稻實] 稻ノ實。大嘗祭ニ用ヰラルル稻實ヲ精ゲル所ヲ、稻實屋ト云ヒ、コレニ關スル卜部ヲ、稻實卜部ト云ヒ、コレヲ守ル者ヲ、稻實公ト云フ。 大嘗祭式「稻實卜部二人、云云、其一人、[illegible]稻實、[illegible]、[illegible]色人、云云、稻實公、一人」

〔いなのみのうらべ (名) [稻實卜部] 前條ヲ見ヨ。

〔いなのみのきみ (名) [稻實公] 前前條ヲ見ヨ。

〔いなのみのや (名) [稻實屋] いなのみヲ見ヨ。

〔いなのめの (枕) [いなのめハ、寢の目ノ轉、あくニカカル、いねむしろ、いなむしろ。(寢筵)いねのほ、いなのほ(稻穗)ノ例] (一)明くノ枕詞。萬葉集、十七「相見マク、飽キ足ラネドモ、稻目、明けユキニケリ、舟出セム妹」(二)轉ジテ、名詞トシテ、夜明。アカツキ。シノノメ。夫木抄、二十一「橋「いなのめの、岩ノ懸橋、ホノボノト、シバシヤスラヘ、マホナラズトモ」

いなばきむしろ (名) [稻掃席] [扱キタル稻穗ヲ掃き寄スルニ用ヰル意ナラム] 稻穀ヲ扱フニ用ヰル、藁席ノ、麁ナルモノ。 築城記「いなばき筵」實悟記(本願寺蓮如ノ子、兼俊)「御堂ノ大庭ニハ、いなばきヲ繩ニテツナギテ、總ノ庭ニ敷カレ候」(碩鼠漫筆、五) 中陽軍鑑、十九、品第五十一、信玄葬送「道六間廣ク、兩方ニ虎落ヲ結ヒ、いなばきヲ敷キ、云云」

いなひ (名) [稻雲雀ノ略ナラム] たひばりニ同ジ。

〔いなびかり (名) [稻光] [稻光、稻魂ト云フハ、炎旱ノ日ニ、電光、雷雨ヲ得テ、稻實ノルト云フニ因ル名。東雅、一、天文] 稻妻、稻交接ト云フハ、稻、穗ヲ孕ムト云ノ意ノ名ナリ」] 秋ノ晴夜ニ、遠キ雲間ニ、忽チ發シ、忽チ消ユル光。日中ノ暑氣ノ、空中ノ濕氣ニ會ヒテ、電氣ヲ發スルモノ、電光ニ同ジケレド、雷聲ハ遠クシテ聞エザルモノト云フ。又、イナヅマ。イナツルビ。イナタマ。 熱閃いなびかり、いなづまハ、常ニ轉ジテ、いかづちのひかりニモ云ヒ、いなづまハ、忽チ發シ、忽チ消ユルヨリ、事ノ、瞬ク隙ナル意ニモ云ヒ、又、敏捷キ意ニモ云フ。 神武紀「金色靈鵄、云云、光[illegible]電」 倭名抄、一「下[illegible]云、電、雷之光也、伊奈比加利、伊奈豆流比、伊奈豆末」 名義抄「電、イナタマ」 古今集、十一、戀、一「秋ノ田ノ、穗ノ上ヲ照ラス、稻妻ノ、光ノ間ニモ、我レヤ忘ルル」 六帖、一、いなづま「稻妻ハ、陽炎バカリ、アリシ時、秋ノタノミハ、人知リニケリ」 謠曲、熊坂「追ヒカケ、追ヒツメ、捕ラムトスレドモ、陽炎、稻妻、水ノ月カヤ、姿ハ見レドモ、手ニ取ラレズ」

〔いなぶ・ブ・ベ・バ・ビ・ベ (他動、四) [辭] [否ヲ活用ス] (一)否ト云フ。いなむ。ガヘンゼズ。承知セズ。 允恭紀、元年十二月、即位「群臣之請、事理灼然、何遂辭耶」 名義抄、雜部「辭、イナブ」 (二)辭退ス。コトワル。 續紀、二十二、天平寶字三年六月、詔「進ムモ知ラニ、退クモ知ラニト伊奈備マヲス」 撰集抄、八、伊勢歌之事「道ニテ思ハザル事侍ルトモ、いなぶ心アルベカラズ」

〔いなぶ・ブル・ブレ・ビ・ビ・ビヨ (他動、上二) [辭] 前條ノ語ニ同ジ。いなむ。 神武紀「[illegible]於天、事無所辭」 遊仙窟「不敢推辭、定爲醜拙」

〔いなぶね (名) [稻舟] 刈リタル稻ヲ積メル舟。柴舟ノ類。 古今集、二十、東歌、最上川「のぼればくだる、いなぶねの、(序)いなニハアラズ、コノ月バカリ」

〔いなほ (名) [稻穗] [illegible]

いなほご (名) [稻穗子] [大蠹子、稻穗子ニ同ジ] [illegible]

いなむ・ム・メ・マ・ミ・メ (他動、四) [辭] [いなぶノ轉] (一)[いなぶ。背ハズ。承知セズ。 竹取物語「親ノ宣フコトヲ、ヒタブルニいなみ申サムコトノ、イトホシサニ」(二)辭退ス。 曾[illegible]集、九、弓[illegible]物定アリケレバ、いなみ申シヘトモ[illegible]ナクテ」

いなむし (名) [稻蟲] (一)稻ヲ害スル蟲ノ名。種類、多シ。オホネムシ。 蝗 (二)イナゴマロ。

いなむしろ (名) [稻席] 藁ノ席。 新古今集、四、秋、上「秋ノ田ノ、假廬ノ床ノ、いなむしろ、月宿レトモ、架ル露サナ」 新後拾遺集、四、秋、上「小山田ニ、風ノ吹キ敷ク、いなむしろ、夜鳴ク鴫ノ、[illegible]ナリケリ」(風ニ倒レタルヲ、席ト見タルナリ)

〔いなむしろ (枕) [寢筵] [いねむしろノ轉、(寢筵)いなのめ、夫婦寢ルニ用ヰル、二枚刺シツナギタル筵] [ひよく、ござ] 因リテ、敷くニカカリ、二枚刺シ交スヨリ、かはニモカカル(綾威言別、一) 敷く、又、河ノ枕詞。 萬葉集、十一「タマホコノ、道行キ疲レ、伊奈武思侶、敷きテモ君ヲ、見ム由モガモ」 顯宗即位前紀「伊儺武斯盧、川副楊」 萬葉集、八長歌「伊奈牟之呂、河ニ向キ立チ」

いなむら (名) [稻叢] 稻ヲ、刈リタルママニテ、竿ニ掛ケテ乾スモノ。 夫木抄、十九「雁鳴キテ、ウチ積ミワタル、いなむらノ、秋ノ穗コソ、春ニ蒔クラメ」

〔いなめがさ (名) [稻目瘡] はしか(痲疹)

ノ古言ニアカモガサ。紀略、後篇、十、長德四年七月「今月天下衆庶煩＝疱瘡＝、世號＝之稲目瘡＝、又、號＝赤疱瘡＝」

い-な-もの (名) ［異物］ 異ナルモノ。常ニ異ナルモノ。妙ナモノ。オツナモノ。柿本氏系圖「形コソいな物ナレ、外ニハ胎藏黒色ノ相ヲアラハシ、云云」「緣ハいなもの、味ナモノ」言、又ハ、事ニ就キテ、いなおとト言フ、同ジ。「いなおとヲ言フ」

〔**い-な-や**〕 (句) ［不否］ 〔否ニ、耶ノ感動詞ヲ添ヘタルナリ〕(一)然ラズヤ。齊明紀、五年七月、註「日本國天皇、平安以不」天智紀、二年六月「福信之罪既如此焉、可斬不」枕草子、五、五十段「思フベシヤいなや、第一ナラズハ、イカガ」(二)打消シテ言フ語。イヤイヤ。古今集、十九、誹諧「思ヘドモ、思ハズトノミ、言フナレバ、いなや思ハジ、思フカヒナシ」

いなや (副) ［否］ 〔前條ノ語ノ轉〕タダチニ。スナハチ。卽。「手紙ヲ見ルヤいなや、引裂ク」

い-なり (名) ［稲荷］ 〔稲生ノ約、神代紀、上「保食神(宇賀魂)實既死矣、云云、腹中生稲」山城國風土記(逸文)伊奈利社「用餅爲的者、化爲白鳥、飛翔居山峯、伊禰奈利生、遂爲社名」(神名帳、頭注)神像、稲ヲ荷ヘリ、因リテ稲荷ノ字ヲ用キル〕(一)山城國、紀伊郡、深草村ノ、稲荷山ニ鎭座スル神ノ稱。宇賀魂。又、コレヲ勸請シタルモノノ稱。枕草子、八、八十一段、うらやましきもの「いなりニ、思ヒオコシテ參リタルニ、中ノ御社ノホド、ワリナク苦シキヲ、念ジテノボル」(二)いなりまち(稲荷町)ノ略。

いなり-こう (名) ［稲荷講］ 〔講ノ條ヲ見ヨ〕衆人、組合ヒテ、山城國、稲荷神社ニ參詣ヅルコト。梅窓筆記「吉田鈴鹿家記、應仁元年十二月「聖護院村、田中村、吉田村、春ノ稲荷講ニ、三箇村衆、寄合被申候」江戸時代ニ、市中所在ニ、稲荷ノ小社アリ、毎年、二月初午ノ祭ニ、兒童、群ヲ成シテ「いなりこう、萬年こう、御十二銅オアゲ」ト叫ビナガラ、戸戸ニ就キテ、錢ヲ請ヒ、供物ヲ捧ゲ、餘分ヲ以テ、各自ニ、菓子ナド買ヒテ食フナラハシアリキ。

いなり-ずし (名) ［稲荷鮨］ 〔狐ヲ、稲荷ノ神ノ使トシテ、あぶらげヲ供スルコトアルヨリ云フ〕煮出汁、醬油、砂糖ニテあぶらげヲ煮テ、内ニ鮨飯ヲ込メ、煮タル干瓢ニテ束ネタルモノ。信田ノ狐ニ寄セテ、志のだずしナドトモ云フ。

〔**いなり-まうで**〕 (名) ［稲荷詣］ 山城ノ稲荷ノ社ノ、二月初午ノ祭ニ詣ヅルコト。貫之集、一、延喜六年「二月はつうま、いなりまうでシタル、云云」

いなり-まち (名) ［稲荷待］ 〔つきまちノ條ヲ見ヨ〕次次條ニ同ジ。(關東)

いなり-まち (名) ［稲荷町］ 〔稲荷ノ神ヲ勸請シテアル、其隣部屋ニ居ルヨリノ名〕芝居ノ樂屋ニ、新聞中ト稱スル、下廻リノ役者ノ居ル所。又、其役者。略シテ、いなり。劇場新話、上「稲荷町、囃子町ハ、樂屋ノ兩側ニアリ、稲荷ノ宮アル方ニ居ル役者ヲ、おほたのわかいしゆ(御下若衆)ト云フ」天保ノ川柳「地名ニアラズ、囃子町、稲荷町」文化ノ川柳「飛車前ノ、歩ノヤウニ死ヌ、稲荷町」同「毛氈デ、死ヌノヲ稲荷、願フナリ」(名題以上ノ役者ニアラザレバ、毛氈ヲ使ハズ、文化ノ川柳「黒幕デ、稲荷ノ死骸、カタヅケル」)

いなり-まつり (名) ［稲荷祭］ 稲荷ノ神ノ祭、通例ハ、二月、午ノ日トス。いなりまち。山城ノ稲荷神社ノ祭典、四月上旬トス。中右記、永久二年四月十日、乙卯「稲荷祭」

いなり-まんねんこう (名) ［稲荷萬年講］ いなりこうノ條ヲ見ヨ。

いな-ゐ (名) ［稲井］ 稲田ニ引ク水ヲ溜メタル所。金葉集、五、賀「苗代ノ、水ハいなゐニ、マカセタリ、民安ゲナル、君ガ御代カナ」

〔**いな-を**〕 (名) ［否諾］ 〔をハ、諾ト通ズ、をノ條ヲ見ヨ〕否ト、諾ト。然ルト、然ラザルト。イナセ。萬葉集、十一　廿七「相見テハ、千歳ヤ往ヌル、否乎カモ、(然ルカ然ラザルカ)我レヤ然思フ、君待チガテニ」同、十四　三「筑波根ニ、雪カモ降ラル、伊奈乎カモ、愛シキ子呂(古義板本)ガ、布乾サルカモ」

〔**いに-し-へ**〕 (名) ［古］ 〔往にし方ノ義、昔方ト同趣〕(一)今ヨリ以往。遠ク過ギ去リシ時。コシカタ。キシカタ。ムカシ。萬葉集、十八　廿長歌「伊爾之敝ヨ、今ノ現ニ」靈異記、下、第三十一縁「往古今來、未都見聞」訓注「往古、イニシヘ」名義抄「以往、既往、イニシヘ」(二)舊キ由緒。源、一、桐壺　三「父ノ大納言ハナクナリテ、母北ノ方ナム、いにしへノ人ノ、由アルニテ」湖月抄「故アリテ、タダナラヌ人ニテ、ト云フ心ナリ」

〔**いにしへ-びと**〕 (名) ［古人］ フルナジミ。ムカシナジミ。舊知 故舊 萬葉集、十一　三十二「眉根搔キ、心イブカシミ、思ヘルニ、去家人ヲ、相見ツルカモ」謠曲、蘆刈「唯今ノ蘆賣ル人ハ、妾ガいにしへびとニテ候フ」(往時ノ夫) 舊夫

い-にふ (名) ［移入］ ゆしゅつ(輸出)ヲ見ヨ。

いぬ (名) ［犬 狗］ 〔鳴聲カ、わんわん、いさむ、あさむ(諫)〕(一)家ニ畜フ獸ノ名、人ノ善ク知ル所ナリ。最モ人ニ馴レ易ク、怜悧ニシテ、愛情アリ、走ルコト速ク、狩ニ用キ、夜ヲ守ラスルナド、用、少カラズ、種類、多ク、近年、舶來ノ種アリテ、愈、一ナラズ。神代紀、下　十三「狗人」倭名抄、十八　廿二「㺃、以奴乃太末比、犬吐也」(二)犬ハものけヲ退ケ、魔ヲ避クトテ、幼兒ノ額ニ、犬ノ字ヲ書クコトアリ。小兒ノ傍ニ、犬箱、犬張子ヲ置キ、小兒ノねおびれタル時、いんのお、いんのおト呪スルコトアルモ、是レナリ。大府記、康和五年八月二十七日「東宮遷＝御高松第＝云云、宗通卿御額、奉レ書＝犬字＝」(年山紀聞、一) 菟玖波集(文和)「犬コソ人ノ、守ナリケレ」緣子ノ、額ニ書ケル、文字ヲ見ヨ」小笠原傳書「宿直ノ犬(犬箱)ナキ方ハ、額ニ犬ノ字ヲ、色書ニスル也」(松屋筆記、百十五) 賀古敎信七墓廻(元祿、近松作)一「犬の子犬の子トユタモナ目ナカケソ、ココナ子ハイクツ、十三七ツ」天神記(正德、近松作)一「寢ンネコ寢ンネコ寢ンネコセ、音セデオヨレ、犬の子犬の子」(三)犬追物ノ略。其條ヲ見ヨ。(四)物ノ類ノ、似テ非ナルモノノ稱。(大キナルヲ馬蛭、馬蟬ト云フ、同趣)「犬稗」犬蓼」犬ホホヅキ」(五)人ヲ賤シメテ云フ語。「犬神人」犬侍」(六)徒ナルコト。益ナキコト。「犬死」犬骨折」犬カハユガリ」(七)頭タル人ニ使ハレテ、竊ニ人ノ隱事ヲ嗅ギツケテ告グル者。支那ニモ、鷹犬ノ語アリ、獵犬ヨリ移シテ云フ語ナリ。マハシモノ。間者。探偵

〔**いぬ**〕 (名) ［戌］ 〔犬ノ義〕(一)支干ノ名。(其條ヲ見ヨ)(二)方角ノ名。(えとノ條ヲ見ヨ)(三)時ノ名。(其條ヲ見ヨ)

〔**い・ぬ**・ヌル・ヌレ・ネ・ネ・ネヨ〕 (自動、下二) ［寢 寐］ 〔寢ヲ寐る意〕萬葉集、十三　卅四「ソノ夜ハ、吾レモ、宿モ寐カネテキ」同、十三　廿六「眠不

[illegible]ニ沈ノ、[illegible]人[illegible]眼リニツク。[illegible]集、二十[illegible]、八[illegible]、[illegible]ドモ、[illegible]シ、[illegible]ニシアラネバ、[illegible]、又、[illegible]、イヌ」

い・ぬ・ヌル・ヌレ・ナ・ニ・ネ（自動、奈變）［往］〔行果ヌノ義カ、いきのうち、いのち。（命）いきほふ、いきほふ（勢）」（一）〔往キ去ル。立チ去ル。 神代紀、上九「還遁之於二根國一矣」 齊明紀、五年七月「[illegible]於友郡役丁所二[illegible]一而去」 萬葉集、五[illegible]「春去レベ、未[illegible]リテ、霞ゾ、鳴キテ伊奴ナル、鶯ガシツエニ」（二）〔過グ。（經）（年月ニ） 萬葉集、十一[illegible]「相見テハ、千歳ヤ去[illegible]、イナヲカモ、我レヤ然思フ、君待チガテニ」（三）死ヌ。字鏡集「死、イヌ、シヌ」（四）[illegible]ガ家ニ歸ル。（畿内）

いぬ-あはせ（名）［犬合］犬ヲ集メテ嚙ミ合シメテ、觀ルコト。イヌクヒ。鬪犬 太平記、五、相模入道翫二田樂幷犬一事「月二十一度、犬合せノ日トテ定メ、云云、一二百匹ヅツ放シ合セタリケレバ、云云、上ニナリ、下ニナリ、嚙合フ聲、天ヲ響カシ、地ヲ動カス」 增鏡、第十八、むら時雨「相模守高時ハ、云云、イカニゾヤ、ウツツナクテ、朝夕好ム事トテハ、犬くひ、田樂ナドヲゾ愛シケル」

いぬ-あららぎ（名）［香薷］〔犬蘭ノ義ナルカ〕いぬえノ（一）ニ同ジ。

いぬ-いたどり（名）［犬虎杖］いたどりノ一種、小サキモノ。山ニ生ズ、高サ一尺餘ナリ。コイタドリ。蛇莔草

いぬ-うど（名）［犬獨活］ししうどニ同ジ。

いぬ-え（名）［犬荏］（一）いぬあららぎ。一年草ノ名。春、生ジ、夏、長ズ、犬種ナルハ、高キハ三四尺ニ至リ、葉大キク、荏ノ如ク、小種ナルハ、葉小サク長シ、莖、方ニシテ、枝葉對生シテ、葉、莖、皆、毛アリ、秋ノ末、枝ノ梢毎ニ、寸餘ノ穗ヲ

生ジ、小花ヲ綴リ開ク、一邊ニ連リテ、少シ反リテ、薙刀ノ如シ、故ニ、類名ニ對シテ、なぎなたかうじゅノ名アリ、大種ナルハ花色淡ク、小種ナルハ濃シ、共ニ、實ヲ結プ、苗葉、枯レテ、香多シ、藥トス。香薷 本草和名、下二「香薷、以奴衣、以奴阿良良岐」 倭名抄、十七二「香薷、以奴衣」（二）紫蘇ノ古名。のらえノ條ヲ見ヨ、

いぬ-おふもの（名）［犬追物］〔犬ノ追物射ノ略ナラムト云フ、おひものいノ條ヲ見ヨ〕騎射ノ式ノ名、略シテ、犬トノミモ云フ、弓杖七十杖、四方ノ馬場ヲ作リ、竹垣ヲ回ラシ、騎馬、直垂、素袍ナドニテ、蟇目ノ矢ニテ、犬ヲ逐ヒ射テ、勝負ヲ別ツ、一手ハ十二騎ナルヲ正式トス、二手、三手アリ、犬ハ百五十匹ナリ。 下學集、下、態藝門「犬追物」 吾妻鏡、二十六、承久四年二月六日「於二南庭一有二犬追物一若君御入興」 參考太平記、八、四月三日京合戰事「多年稽古ノ犬追物、笠懸、今日ノ用ニ立タズバ、イツヲカ期スベキ」 金言和歌集（戰國時代）「高キ賤シキ、モロモロノ人人、云云、犬、カサガケニ、日ヲクラシ」

いぬ-およぎ（名）［犬泅］犬ノ泅グガ如ク、兩手ニテ、互ニ下部へ水ヲ搔キツツ泅グコト。 盛衰記、四十三、平家亡虜人人事、平宗盛清宗父子入海シ「究竟ノ犬游也、云云、二人ナガラ沈マズ、竪サマ、横サマ、立游、犬游シテ、沈ミタマハザリケル、云云」

いぬ-かうぢゅ（名）［犬香薷］草ノ名、原野ニ生ズ。莖、方ニシテ、高サ一二尺、枝葉、對生ス、葉ハ香薷ニ似テ、短クシテ、毛少シ、夏、莖梢ノ葉ノ間ニ、長サ三四寸ノ花穗ヲ出ス、花ハ紫蘇ニ似テ、淡紫ナリ、種類、多シ。爵床

いぬ-かうたけ（名）［犬革茸］かうたけニ

似テ、[illegible]キモノ、[illegible]、生ズ、[illegible]アリ、

いぬ-かさがけ（名）［犬笠懸］犬追物ト、笠懸ト。いぬおふものノ條ヲ見ヨ。

いぬ-がし（名）［犬樫］やぶにくけいノ類ニシテ、大樹ト爲ル、葉ハ桂ニ似テ、縱理アリ、春、莖ヲメグリテ、紅花、多ク開ク、形、くろもじノ花ニ似テ、美シ。マツラニクケイ。紅木犀

いぬ-かはゆがり（名）［犬愛］〔猫かはゆがりト、同意義〕教諭モセズ、徒ニ愛ガルコト。溺愛

いぬ-かひ（名）［犬飼］鷹狩ノ犬ヲ飼フ者。狩ニ使ヒテ、鳥ヲ追ヒタテシム。官ノ、コレヲ職務トスル人ヲ、犬飼部ト云フ。 安閑紀、二年八月「置二國國犬養部一」 西宮記、臨時、六、下「有二犬飼一人二」 大鏡、下、道長、醍醐天皇野ノ行幸「いぬかひノ、犬ノ前アシヲ、二ツナガラ、肩ニヒキコシテ」

いぬかひ-べ（名）［犬飼部］前條ヲ見ヨ。

いぬかひ-ぼし（名）［犬飼星］〔支那思想ノ牽牛星、織女星ノ、夫婦ナルニ因リテ、彥星（男星）ハ設ケタル名ナリ、サレバ牽牛ハ、うしかひトコソ設クベキニ、いぬかひト云フコト、解スベカラズ、いぬノ約、うナレバ、うしかひナリト云フハ、イカガ〕ひこぼしニ同ジ。 倭名抄、一二「牽牛、比古保之、又、以奴加比保之」

いぬ-がみ（名）［犬神］犬ノ精ヲ使フ靈ノ術、いづなつかひノ類ナリ。四國、九州ニアリト云フ、飢エタル犬ヲ繫ギテ、食物ヲ見セ、頻リニ乞フ時、其頸ヲ切レバ、首、走リテ食ヲ嚙ムヲ、器ニ入レテ呪

ストテフ。（外法ノ條ヲ併セ見ヨ）狗蠱 犬蠱 犬神ヲ持チタル者ハ、良民嫌ヒテ、通婚セズト云フ。 [illegible]、四國アタリニ、犬神ト云フ事アリ、犬神ヲモチタル人、誰ニテモ、[illegible]シト思ヘバ、[illegible]テ病ヲ受ケ、若シクハ死スルト云フナリ」

いぬ-がや（名）［犬榧］かやノ一種。葉大キクシテ薄ク、背白シ、實熟シテ、皮、赤シ、食フベカラズ。仁ヨリ燈油ヲ取ル。粗榧

いぬ-がらし（名）［犬芥］陰濕ノ地ニ生ズ、形、葉、芥ニ似テ、小サシ、春、四五寸ニシテ、枝ヲ分チ、小花ヲ開ク、四瓣、黃色、なづなノ花ニ似テ、穗短シ、莖、葉、共ニ辛シ、煠キテ食フベシ。タガラシ。ノガラシ。山芥菜

いぬ-ぎり（名）［犬桐］あぶらぎりニ同ジ。

いぬ-くぐり（名）［犬潛］垣ノ間ナドノ、犬ノ出入スル穴。狗竇

いぬ-ぐこ（名）［犬枸杞］灌木ノ名、くこ（枸杞）ノ條ヲ見ヨ。

いぬ-くす（名）［犬楠］やまくすニ同ジ。

いぬ-くひ（名）［犬喫］いぬあはせヲ見ヨ。

いぬゑ（名）［瘂］（一）モモノツケネ。鼠蹊 伊達日記（伊達成實）天正十六年三月、太田主膳「小坂迄乘上候處ヲ、三郎（志賀三郎）上矢（鉄丸ナリ）ニ打候[illegible]、[illegible]ノ後[illegible]ヲ打[illegible]、[illegible]ウツムキニ[illegible]リ、云云、[illegible]」（二）ものつけねノ、腫脹シ堅マリテ痛ムモノ、瘡ナシ。訛シテ、いのゑ。嚥、腋下ナドニモ出ル。いぬゑが張るト云ヒ、京都ニテ、犬がさすト云フ。[illegible]

いぬ-ごばう（名）［犬牛蒡］やまごばうニ

同ジ。薊陸

いぬごま (名) 〔犬胡麻〕 小木ノ名、山ニ産ス。葉ハ對生シテ、長サ三寸許、色綠ニシテ、粗キ皺文アリ、鋸齒ヲナス、胡麻ノ臭アリ、夏、梢ニ、小白花簇リ開ク、がまずみノ花ニ似タリ、實、秋ニ熟シテ、赤シ。土欒樹

いぬころ (名) 〔犬兒〕 〔ろハ、添ヘタル辭、(ろノ條ヲ見ヨ)萬葉集、十四「愛シキ兒呂ガ」〕 犬ノ兒。チンコロ。

いぬざくら (名) 〔犬櫻〕 樹、葉、櫻ニ似テ、春ノ末、三寸餘ノ穗ヲナシ、小白花、群リテ垂レ開ク、夏ノ末、實ヲ結ブ、黃ニシテ、山椒ノ實ニ似タリ、鹽漬ニシテ食フベシ。夫木抄、四、花、俊頼「山陰ニ、痩セサラボヘル、犬ざくら、追ヒハナタレテ、引ク人モナシ」

いぬざくり (名) 〔犬疏〕 〔馬疏ノ條ヲ併セ見ヨ〕 犬ノ、走リツツ、蹈ミ疏リタル脚痕。犬追物ノ詞ニテハ、さくりトノミ云ヒテ、犬ノ足ノ運ビヲ云ヒ、卽チ、犬ノ尻ニ立チ、馬ヲ馳スル事ナリト云フ。梅花無盡藏、二、文明十七年九月八日、尾之清洲城、備後殿明第、見二犬追物一、犬已起、羈、箭各飛、長篲檢見有二天機一、忽論遠近疏南北、八以前三百疋時」自註「遠近、背、疏字、犬追物常談也」謠曲、殺生石、三浦介、上總介、奈須野ノ妖狐ヲ狩ル「野干ハ犬ニ似タレバ、犬ニテ稽古アルベシトテ、百日、犬ヲゾ射タリケル、是レ、犬追物ノ始トカヤ、云云、草ヲ分ッテ狩リケルニ、云云、顯ハレ出デシヲ、狩人ノ、追ッ捲ッツ、さくりニツケテ、矢ノ下ニ射伏セラレテ、云云、奈須野ノ原ノ露ト消エ」松屋筆記、七十四、三十一條「さくりハ、さくるナド云ヒテ、鍬モテ、畠ヲ條條ニ決リ分クル事也、云云、馬ざくり、駒ざくり、ナドモ同ジ詞也、云云、犬ざくりト云フ詞モ見ユ」

いぬざんせう (名) 〔犬山椒〕 野生ス、葉ハ常ノ山椒ヨリ狹クシテ長シ、夏、梢ニ、小淡紫花簇リ開ク、實、小サクシテ臭シ、食フベカラズ。ノザンセウ。崖椒 和漢三才圖會、八十九「崖椒、野椒、俗此亦名二犬山椒一」

いぬざむらひ (名) 〔犬侍〕 武士ヲ罵リ呼ブ語。

いぬじに (名) 〔犬死〕 イタヅラジニ。空シク死ヌルコト、無益ノ死。徒死 浪死 平家物語、九、河原合戰事、源義仲、敵ノ追レルニ、女房ニ名殘ヲ惜シムヲ、越後中太諫メテ「只今犬死セサセ候ヒナンズ、疾ウ疾ウ御出デ候ヘ」

いぬじんにん (名) 〔犬神人〕 〔犬ノ條ノ(五)ヲ見ヨ〕 京都ノ建仁寺門前ニ住ム特殊ノ賤民。同地ノ祇園祭ノ神幸ニ、甲冑シテ先驅ス、戰國時代ニ、武裝シテ、戰場ノ死屍ヲ片付ケ、神幸ニ從フモ、前路ノ不潔物ヲ取除クル役ナルノ遺ナリト云フ、禁裏ニ、鳥獸ノ斃死アル時、コレヲ收ムルニ出入シ、洛中ノ死屍ヲモ收ム、清水寺ノ地主神ノ祭ニモアヅカリ、東西本願寺、佛光寺ノ門主ノ葬儀ニ、荼毘ノ役ヲ執ル。一名、つるめそ。太平記、二十四、依二山門嗷訴一公卿僉議事「遣二流陳石法師一而於二天龍寺一以二犬神人一可レ令二破却一之由、可レ奏二聞公家一觸二訴武家一」後愚昧記、應安四年四月四日「佐川下人死人等、川原者取二棄之一取二衣裳一之間、犬神人等、稱下可二管領一之旨上」

いぬじもの (副) 〔犬自物〕 〔じものノ條ヲ見ヨ〕 犬ノ如ク。萬葉集、五二十八長歌「伊奴(犬)時母能、道ニ臥シテヤ、命過ギナム」

いぬぜきしやう (名) 〔犬石菖〕 草ノ名、田ノ畔ニ生ズ。葉、扁ク電ナルコト、せきしやうノ如ク、綠ニシテ光ル、心ヨリ莖ヲ出シテ、花ヲ開ク、形、稍、はますげノ花ニ似タリ。

いぬぜんまい (名) 〔犬薇〕 ぜんまいノ一種、小サキモノ、莖、堅クシテ、食フベカラズ。武藏國、豐多摩郡、代代木ノ邊ニ生ズ。毛薇

いぬそらまめ (名) 〔犬蠶豆〕 からすのゑんどうニ同ジ、のゑんどうノ條ヲ見ヨ。

いぬたで (名) 〔犬蓼〕 〔犬ノ條ノ(四)ヲ見ヨ〕 (一)草ノ名。今、おほけたで。本草和名、上、三十六「葒草、以奴多天」(倭名抄、同ジ) (二)今、いぬたでト云フハ、野生ニシテ、辛味無ク、食フニ堪ヘザル蓼類ノ總名。長大ニシテ、黑キ斑アルアリ、花白クシテ、端ハ淡紅ナリ、秋、紅葉シテ、觀ルベキアリ。オニタデ。馬蓼

いぬだら (名) 〔犬楤〕 はりぎりニ同ジ。

いぬつげ (名) 〔犬黃楊〕 つげノ條ヲ見ヨ。

いぬどくさ (名) 〔犬木賊〕 古名、アマナ。カツネグサ。形、すぎなニ似テ、大キクシテ、枝無シ、年ヲ歷レバ長大トナル、夏、葉ヲ出シテ、花ヲ開ク、つくしノ花ニ似タリ。節節草 麻黃

いぬなし (名) 〔犬梨〕 やまなしニ同ジ。

いぬなづな (名) 〔犬薺〕 古名、ハマタカナ。アシナヅナ。ハマゼリ。今、又、スズメノキンチャク。小草、原野向陽ノ地ニ多シ。葉ハよめなニ似テ、短ク厚ク、色淺クシテ、毛アリ、地ニ就キテ叢生ス、春、莖ヲ抽クコト、四五寸ヨリ尺ニ至ル、上ハ綠ニシテ、下ハ紫ナリ、其葉、互生シ、莖頂ニ長ク穗ヲ成シテ、細花チ開ク、四瓣ニテ、なづなノ花ニ異ナラズ、但、色黃ナリ、莢ヲ結ブ、初夏ニ莢開キテ實落ツ、けしのみヨリ小サク、茶褐色ナリ。葶藶

いぬのふぐり (名) 〔實ノ、陰嚢ニ似タル故ノ名カ〕 草ノ名、春、原野ニ生ズ。葉ハ、いぬかうじニ似テ三分許、鋸齒アリ、葉ノ間每ニ、一花ヅツ開ク、色淡紫ナリ、蒂ノ中ニ實ヲ結ブ、靑クシテ圓ク、二顆ヲナス。婆婆納

いぬのふし (名) いんのふしヲ見ヨ。

いぬのをば (名) 〔犬叔母〕 〔犬、降雪ニ逢ヘバ喜ビ戲ル〕 雪ノ異名。天明ノ川柳「犬千代ハ、伯母ヲ萬代、御獻上」(加賀前田家ヨリ、每年六月朔日ニ、雪ヲ幕府ヘ獻ジタリ)

いぬばこ (名) 〔犬箱〕 〔狛犬ヨリ移リタルモノナルベシ、其條ヲ見ヨ〕 犬ノ伏シタル形ニ作レル小箱。宿直の犬ト云ヒ、小兒ノ傍ニ置ク、犬ハもののけヲ退ケ、魔ヲ避クト云フ、(小兒ノねおびれタル時、いんのこ、いんのこト呪スル、是レナリ)大小、一對ナリ、體ハ蓋ト身トニ成リ、鶴龜、松竹ナドノ繪ヲカク。小笠原傳書「宿直之犬一對、男ハ左向ヲ第一ニ用ル事ニテ、守ヲ入ル也、右向ニハ、何ニテモ翫物ヲ入ベシ、女ハ右向ニ、化粧ノ道具ヲ入ル也」(松屋筆記、百十五)齋所之記(伊勢貞陸)三「天兒、一ツ、云云、御伽ノ犬箱アルベシ」俳諧世話盡(明曆)「大犬モ、小犬モ同ジ、君ノモノ、ソモジノ數ニ、張拔ノ箱」後ノ犬張子ハ、此遺ナリ。

いぬばしり (名) 〔犬走〕 (一)古クハ、いぬゆき。築地ノ構外、溝トノ間ノ狹キ空地。左京職式「大路、廣十丈、自二垣中一至二溝邊一八尺」註「垣、基三尺、犬行五尺」參考保元物語、二、白河殿攻落事(半井本)小八郎大夫景重「景重、門ヨリ西、築地ノ犬走ニ打テ出、長刀脇挾テ立タリ」新六

帖二、信貴「崩レソフ、破レ築地ノ、犬はしり、距マヘ[illegible]モ、[illegible]」(二)[illegible]ノ、[illegible]ト[illegible]トノ間ナルニモ云フ。 榮花記(永祿)「土居ノ堺ヨリ内ハ、武者はしりト云フ、外ハ犬はしりト云フ」(三)江戸、大傳馬町ノ、道幅八間、左右[illegible]アリ、[illegible]ヨリ内一間ヲ犬走ト稱シ、コレニ庇ヲカケテ、往來ニ便ニス、雨雪ニ、傘ヲ用キザリキ。

いぬ-ばへ (名) 〔犬蠅〕 蠅ノ一種、犬ノ身ニ着キテ、血ヲ吸フ。身甚ダ堅ク、背、平ニシテ、色、黄赤ナリ。狗蠅 倭名抄、十九「狗蠅、一名、犬蠅、着二於犬一者也」

いぬ-はりこ (名) 〔犬張子〕 小兒ノ傍ニ置ク具、昔ノ犬箱ノ遺ナリ、其條ヲ見ヨ。但シ、犬張子ハ、紙ノ張子細工ニテ、面、身、全ク犬ノ形ニテ、四脚ニ立テル形ニ作リテ、一匹ヲ用キル。 [illegible]の記「今ノ犬張子モ、云云、拒魔犬ノ形容ヲウツシテ、雛調度ノ中ニテモ、第一ノ物トスルハ、惡魔ヲ拂ヒ、災害ヲシリゾクル、云云」

いぬ-ひ (名) 鳥ノ名、いぬひばりノ略。たひばりニ同ジ。

いぬ-びえ (名) 〔犬稗〕 ひえノ條ヲ見ヨ。

いぬ-びと (名) 〔狗人〕 隼人ノ異稱。神代紀ノ下ニ、彦火火出見尊ノ兄、火酸芹命、罪ヲ謝シテ、吾ガ子孫、常ニ汝ガ狗人タラムトテ、其苗裔ノ隼人等「至レ今不レ離二天皇宮牆之傍一、代ニ吠ル犬一而奉事者也」トアリ、犬ニ代リテ、吠エテ守護スル意ナリ、隼人ハ、遠キ行幸ニ隨ヒ、國界、及、山川道路ノ曲ニテ聲ヲ發シ、元日、卽位、大嘗會ニハ、白赤木綿、耳形ノ鬘ヲ着ケテ、儀ニ列シ、聲ヲ揚グ、犬吠ト云フ。後ニハ、大嘗會ノミトナレリ。

[illegible]人司式、大嘗會式」日本紀口訣「大嘗會日、[illegible]」

いぬ-びは (名) 〔犬枇杷〕 小木、葉、互生シ、切レバ白汁出ヅ、形、ゆづりはニ似テ青ク、厚クシテ潤澤アリテ、本、闊ク、末、尖ル、夏秋ノ交、葉ノ間ニ實ヲ結ブ、二三顆群ル、形、無花果ニ似テ小サク、熟シテ紫赤ナリ、内ニ白キ細子滿ツ、食フベシ。一名、カラビハ。イチジク。タウガキ　イヌホホヅキ。サルガキ。(駿河) 天仙果

いぬ-ひばり (名) 〔犬雲雀〕 たひばりニ同ジ。

いぬ-ふせぎ (名) 〔犬禦〕 丈低キ柵。多クハ佛堂内ノ、内陣ト外陣トノ結界ニ据エオクモノニ云フ。 枕草子、六、五十八段、長谷寺「犬ふせぎノ中ヲ見入レタル心地、イミジク尊ク、云云、犬ふせぎニ、簾ヲサラサラト懸クルサマナドゾ、イミジク、云云」 更級日記、清水寺「御帳ノ方ノ犬ふせぎノ中ニ、靑キ織物ノ衣ヲ着テ、云云、僧ノ、云云」 明月記、寛喜三年八月十九日「丈六堂、云云、佛壇立二犬禦一」同、文曆元年八月二十二日「御墓上置二石倉一立二犬禦一」

いぬ-ぶな (名) 〔犬橅〕 樹ノ名、ぶなのきノ一種。葉ノ鋸齒、最モ淺ク、或ハ、無クシテ、毛アリ。

いぬ-ぼえ (名) 〔犬吠〕 いぬびとノ條ヲ見ヨ。

いぬ-ぼねをり (名) 〔犬骨折〕 〔犬ノ條ノ(六)ヲ見ヨ〕 益ナキ、ホネヲリ。ムダボネヲリ。ホネヲリゾン。徒勞 犬骨折ツて鷹に取らるト云フハ、狩ニ云フ、功ヲ、他ニ奪ハル。

いぬ-ほほづき (名) 〔犬酸漿〕 〔犬ノ條ノ(四)ヲ見ヨ〕 (一)古名、コナスビ。クサナスビ。一年草。春、苗ヲ生ズ、高サ一二尺ヨリ三四尺ニ至ル、枝、互生シ、横ニ繁ク延ブ、葉モ互生シ、ほほづきノ葉ニ似テ、短毛多シ、夏、葉ノ間ニ、數十蔓、一莖ニ簇リ垂レテ、五瓣ノ小白花ヲ開ク、たがらしノ花ニ似タリ、實ハふんてんノ子ノ如ク、初メ靑クシテ、熟スレバ紫黑ナリ。一名、ウシホホヅキ。龍葵 (二)いぬびはノ一名。

いぬ-まき (名) 〔犬槇〕 古名、柀。今、又、くさまき。各條ヲ見ヨ。

いぬ-まねき (名) 〔犬招〕 〔猪目貫ノ訛、(好古小錄、坤)穿チタル穴ノ、猪目形ヲ成セルガ元ナル名ナルベシ、ゐのめ(猪目)ノ條ヲ見ヨ〕 鞘卷ノ刀ノ、鐺ノ上ノ所ニ穴ヲ穿チ、革紐ヲ貫キテ、結ビテ羂ヲ作リ、結ビアマリヲ、三寸ホド、垂ラシオクモノ。鎧着テ、鞘卷ヲ刺シタル時、其下緒ヲ、此羂ニ通シテ、帶ニ絡ゲ留ム。(貞丈雜記、十二)

いぬ-むぎ (名) 〔犬麥〕 こうぼふむぎノ條ヲ見ヨ。

いぬ-やま (名) 〔犬山〕 犬ヲ率キテ、山ニ獵スルコト。 [illegible]、今昔物語、二十六、第七語「コノ人、いぬやまト云フ事ヲシテ、數ノ犬ヲ飼ヒテ、山ニ入リテ、猪鹿ヲ犬ニ合セ、噛殺サセテ取ル事ヲ業トシケル」

いぬ-ゆき (名) 〔犬行〕 いぬばしりノ(一)ヲ見ヨ。

いぬ-ゆり (名) 〔犬百合〕 おにゆりニ同ジ。

い・ぬる (動) いぬ(寢)ヲ見ヨ。

い・ぬる (動) いぬ(往)ヲ見ヨ。

いぬ-わし (名) 〔犬鷲〕 くまわしニ同ジ。

いぬ-わらび (名) 〔犬蕨〕 [illegible]、濕地ニ生ズ、一根ニ叢生ス、葉[illegible]ニ分レテ、柔カナリ、蕨ノ類ナラズ、食フベカラズ。オニワラビ。ヤマワラビ。[illegible]

いぬ-ゐ (名) 〔戌亥〕 方角ノ名、西北ノ間。〔えとノ條ヲ見ヨ〕 乾 [illegible]「[illegible]北有レ山」

いぬ-ゐ (名) 〔犬居〕 〔犬ノ踞ナリ〕 坐リテ、兩手ヲ地ニ突キ居ルコト。[illegible]記、二、五節夜闇打事、平忠盛ノ郎黨「左右ノ手ヲ土ニツキテ、犬居ニ居テ、[illegible]ヲ伺ヒテ、云云」 太平記、二十九、[illegible]「[illegible]上ノ[illegible]タマヘル馬ノ三頭、平頸、三太刀斬ラレテ、犬居ニドウト伏シタリケル」

いぬ-ゑんじゆ (名) 〔犬槐〕 ゑんじゆノ一種。葉大キクシテ、藤ノ葉ノ如クニシテ、厚ク、面、白粉ヲ帶ブ、夏、穗ヲ出シテ、黄花ヲ開ク。 懐槐

いぬ-ゑんどう (名) 〔犬豌豆〕 のゑんどうノ條ヲ見ヨ。

い-ね (名) 〔稻〕 〔飯根ノ約、[illegible]、[illegible]ト云ヒ、白[illegible]ト云フ〕 草ノ名。其實ヲ米ト云ヒ、我ガ國人ノ、日常食用ノ最トスル穀物ニテ、瑞穗國ノ精華ナリ。春、種ヲ下シ、夏ニ至リ、苗ヲ分チテ、水田ニ移ス、莖ノ高サ三四尺、葉ハ細ソク長シ、夏末ニ、莖ノ頂ニ花ヲ生ズ、穗ニシテ、長サ七八寸、秋、實ル、數十百粒綴リテ、芒多シ、其子、卽チ、米ナリ、實ニ粳、糯、秈ノ別アリ、又、水稻ト早稻トアリテ、其熟スルニ、早稻、中稻、

晩稲、ノ三等アリ、スベテ、品類極メテ多シ。神代紀、上廿「稻一萬葉集、十四廿「伊禰掲ケバ、鄙ル吾ガ手ヲ」箋注倭名抄、九二「稻、以禰」

いね-あぐ（動）［稻擧］いねつむヲ見ヨ。

い-ねう（名）［遺尿］〔尿ハ、説文「人小便也、今亦作レ溺」〕イビタリ。ヨツバリ。ネセウベン。史記、太倉公傳「病見ニ寒氣ハ則遺溺」

いね-かり（名）［稻刈］秋、稻ノ熟シタルヲ刈リ取ルコト。收稻

いね-きび（名）うろきびニ同ジ。きびノ條ヲ見ヨ。

いね-おき（名）［稻扱］いなおきニ同ジ。

いね-つき（名）［稻舂］稻ノ子ヲ、臼、杵ニテ搗キ精ゲテ、白米トスルコト。コメツキ。春米

いねつき-うた（名）［稻春歌］大嘗會ニ用キラルル稻ヲ、春キシラグル時ニウタフ歌。榮花物語、十、日蔭蔓「悠紀ノ方ノいねつきうた」

〔**いねつき-がに**（名）［稻春蟹］いなつきがにヲ見ヨ。

〔**いね-づき-おまろ**（名）〔稻附子ニ、まろノツキタル語カ、いなおまろノ語原ヲ見ヨ〕きりぎりすノ異名ナルベシ。倭名抄、十九十「螽蟖、以禰豆木古萬呂」

いね-つむ（動）［稻積］〔活用セサセタルヲ見ズ、滑稽雜談(正徳)「寢臥ト、尋常ノ如ク唱フルハ、病床ナドニ紛ラハシケレバ、カク云フナリ」〕寢ぬ、寐る、ねるノ、正月ノ忌詞。起くるヲ、稻擧ぐト云フモ、同ジ。俳諧ニテ、新年ノかざし詞トシ、初春ノ季トス、昔ノ寶船ニ、米俵ノミ積ミタルヲ圖セルアリ、卽チ、稻積ナルベシ、枕ノ下ニ敷キテ寢ネテ、初夢ヲ占ヒシナリ。

いね-の-ほ（名）［稻穗］いなぼニ同ジ。

いね-の-まる（名）［稻丸］紋所ノ名。稻ノ莖ト穗トヲ、圓ク輪トシテ圖キタルモノ。

いね-むしろ（名）［寢筵］いなむしろ(寢筵)ニ同ジ。

い-の-いちばん（名）［以一番］(一)物ノ番號ヲ、いろはニテ附ケタルモノノ、其いノ第一。圖、下足札ナドニ云フ。(二)物事ノ第一。一番先。

い-の-かひ（名）貽貝ニ同ジ。其條ヲ見ヨ。

いのお（名）［瘞］いぬおノ(二)ヲ見ヨ。

い-の-おし（名）［射遺］正月十七日、射禮ノ時、不參セシ四衞府ノ者ニ、翌日、射ヲ行ハシメラルルコト。江家次第、三、射禮「外記著ニ藏人所ハ令レ奏下有ニ射遺一由上」公事根源、上、正月、射禮「射禮ノアクル日ハ、射遺トテアリ、ソハ昨日射禮ニ參ゼザル四府ニ、今日射サシムルガ故ニ、射のおしトハ申スナリ」名目抄「射遺」

い-の-お（名）［以字］紋所ノ名。輪ノ内ニ、平假名ノいノ字ヲ書キタルモノ。

〔**い-の-ち**（名）［命］〔息の内ノ約〕(一)生キタル物ノ、息アリテ世ニアル元。イキノヲ。タマノヲ。イキノネ。身命。壽命。生命。古事記、中(景行)五五十長歌「伊能知ノ、全ケム人ハ」雄略紀、十三年九月、長歌「甲斐ノ黑駒、鞍着セバ、伊能致死ナマシ」萬葉集、四五十「家路ヲモ、吾レハ忘ラジ、命死ナズハ」(二)賴ミ。タヨリ。後撰集、十三、戀、五「今來ムト、言ヒシバカリヲ、いのちニテ、待ツニケヌベシ、サクサメノトジ」「命ト思フ」命ト恃ム」命の親トハ、死スベカリシ命ヲ、救ヒクレタル恩人。命過ぐトハ、死ヌ。萬葉集、五八廿長歌「大ジモノ、道ニ臥シテヤ、伊能知過ギナム」命の洗濯トハ、平生ノ勞ヲ慰ムルコト。命を取るトハ、殺ス。宇津保物語、忠杜八十「罪アル時、いのちをもとらルルモノナレバ」

いのち-かぎり（名）［命限］命數ノ運命。易林節用集(慶長)「天命」

いのち-がけ（名）［命掛］命ヲ賭ケテ、事ノ成否ヲ期スルコト。生死ヲ顧ミズシテ、事ヲ行フコト。懸命。賭命

いのち-からがら（副）〔からハ、辛クシテナリ〕命バカリ助カリテ。命ビロヒシテ。「持物ハ皆取ラレ、いのちからがら逃ゲテ」

いのち-くらべ（名）［命比］何レガ長生スルカト、競フコト。夫木抄、三十六、賀「鶴龜ノ、いのちくらべノ、勝チ負ケヲ、君コソ知ラメ、萬代ヲ經テ」

いのち-げ（名）［命毛］筆ノ穗先ノ毛。小町踊(寛文)「命毛ヤ、長キ試筆ノ、手六十」墨談、一「筆ノカヘリ、命毛ノハコビ、ヨク見エテ、ヨロシカルベシ」

いのち-おひ（名）［命乞］(一)命ノ、長カラムコトヲ祈ルコト。榮花物語、二十六、楚王夢「世ノ固メニテオハシマセバ、何レノ民モ、タダ殿ノ御いのちおひヲノミ申シ思ヘリ」(二)殺サルベキ命ヲ、助ケムコトヲ乞フコト。請命

いのち-おらず（名）［命不知］(一)命ノ危キヲ顧ミズシテ、敢ヘテ事ヲ行フコト。敢死　暴虎馮河　(二)物ノ、弱ルコトナク、長モチスルコト。强ク織レル綿布ナドニ云フ。日本永代藏(貞享、西鶴)二「此ノ手紬ノ碁盤縞ハ、命知らずトテ、オヤヂノ着ラレシガ」

〔**いのち-なが・し・キ・ケレ・ク・ク**（形、一）［壽］〔命長しノ義〕長イキナリ。長命ナリ。皇極紀、三年三月「無レ病而壽」名義抄、雜部「壽、イノチナガシ」

いのち-びろひ（名）［命拾］死ヌベカリシ命ノ、助カリタルコト。命カラガラ、死ヲ免レタルコト。

いのち-みやうが（名）［命冥加］神佛ノ冥加ニテ、死ヲ免レタルコト。鑓權三重帷子(享保、近松作)下「ヤレヤレ、アブナヤ、命冥加ナ孫ドモヤ」

イノンド（名）［蒔蘿］〔語原、詳ナラズ、外來語ナルベシ〕草ノ名。莖、直立シテ、二三尺許、花、葉共ニ、茴香ニ似テ、香氣アリ、花ハ夏開キテ、黃ナリ、實ハ小サクシテ、扁平ニ、兩側ニ狹キ翅アリ、微黑色ナリ。油ヲ取リ、藥用トス。

〔**いのり**（名）［祈禱］イノルコト。祈願。竹取物語「いのりヲシ、願ヲ立テ、思ヒヤメムトスレドモ、ヤムベクモアラズ」

いのり-おろ・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）［祈殺］神佛ニ祈リ、其通力ニ依リテ、仇ノ命ヲ絕ツ。呪殺　愚管抄、六、文治八年「祈殺シテ歸リタルニテ」

いのり-の-お（名）［祈師］身ノ息災ノタメニ、祈禱ヲセサスル法師。源、廿二、玉葛二十「右近ガ局ハ、佛ノ右ノ方ニ近キ間ニシタリ、此御師ハ、マダ深カラネバニヤ、西ノ間ニ遠カリケルヲ、云云」花鳥餘情「祈りの師」榮花物語、二十七、衣珠「佛神ヲ尋ネツツ、いのりの師ドモスヱサセタマフ」

〔**い-の・る・ル・レ・ラ・リ・レ**（他動、四）［祈禱］〔齋宣るノ義〕神佛ニ請ヒ願フ。ホザク。ネグ。ノム。願ヲカク。祈願ス。神代紀、上二十「計ニ其可レ禱之方一」字鏡十二「祜、謂ニ中神祇一求ニ福壽一之貌、祈也、禱也、伊乃留」

いは（名）【岩】（一）〔石ノ、大キナルモノ。イハホ（イシ）、巌[illegible] 古事記、上「[illegible]石、[illegible]」伊波[illegible]、倭名抄、一[illegible]、[illegible]（二）[illegible]石ヲ、[illegible]トスルモノ、[illegible]十六、[illegible]、上「いはオロス、カタコソナケレ、[illegible]ノ[illegible]ノ、[illegible]ニカカル、[illegible]人ノ釣舟（三）[illegible]網ノ綱ニ、數多ク付ケオク錘。石、又ハ、鉛ナドニテ作ル。網錘（オモシ）夫木抄、三十三、網「人知レズ、身ノミ思ヘバ、牛窓（地名）ニ、引キ干ス網ノ、いはデ過ギヌル」（四）石ニ似テ、一種、質ノ柔カキモノ。滑ナド、諸器ニ作ル。

いは（名）【家】〔家ノ轉、萬葉集、十四、二十東歌ニ「狙ヘリ」ヲ「彌良波里」同、二十、四十「筑紫ヘ遣リテ」ヲ「都久志波夜利弖」トモアリ〕家ノ、東詞。萬葉集、二十、三十九「草枕、旅行ク夫カ、丸寐セバ、伊波ナル吾レハ、紐解カズ寐ム」同、四十「伊波呂（呂ハ助辭）ニハ、葦火焚ケドモ、住ミ良ケヲ、筑紫ニ至リテ、戀シケモハモ」（共ニ、武藏國人ノ歌ナリ）同、二十「松ノ木ノ、並ミタル見レバ、伊波妣等（家人）ノ、我レヲ見送ルト、立タリシ如（モコロ）」

いば（名）【射場】弓射ル場。「射場始」

いはう（名）【醫方】醫術ノ方法。

いはうみやう（名）【醫方明】ごみやう（五明）ノ條ヲ見ヨ。

いはうやうな・し・キ・ケレ・ク・ク（形、二）〔言はむ樣無しノ音便〕言ハムカタナシ。言フベキ方法ナシ。「いはうやうなき美シサ」

いはおこし（名）【岩粔枚】菓子ノ名、おこしおめヲ、飴ニテ固メタルモノ。凸凹、磐ノ如シ。

いはがき（名）【岩垣】〔岩閾ノ約ナルベシ〕岩石ノ、立チ圍ミタル沼、又ハ淵。萬葉集、十一、二十三「青山ノ、石垣沼ノ、水隱ニ」同、二十[illegible]ノ、[illegible]リノミ」「[illegible]」

いはがく・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）【磐隱】〔石城ニ隱るる義ニテ、葬ラルル意、萬葉集、十六「事シアラバ、小泊瀨山ノ、石城ニモ、隱レバ共ニ、莫思ヒソ、吾ガ夫（セ）」〕ミマカル。敬語ヲ添ヘテ、かくれたまふノ義ニ用キ、神去るノ意トス。鎭火祭祝詞、伊弉冊尊「吾ハ下津國ヲ知ラサムト申シテ、石隱リタマヒテ、黃泉枚坂ニ至リマシテ」萬葉集、二ノ「高市皇子殯宮ノ長歌「眞神ノ原ニ、云云、神サブト、磐隱リマス」倭姫命世記、倭姫命「自退ニ尾上山峯、石隱リマス」

いはがくれ（名）【岩隱】岩ノ蔭。源、五、若紫ニ「いはがくれノ苔ノ上ニ並ミ居テ、土杯參ル」

いはかせ（名）【醫博士】典藥寮ノ官。諸藥方、脈經ヲ掌リ、呪術ヲ行ヒ、醫生等ニ敎授ス。又、女醫博士モアリ。欽明紀、十四年六月「醫博士」

いはがね（名）【岩根】いはねニ同ジ。萬葉集、三、卅四「磐金ノ、コゴシキ山ヲ、超エカネテ、哭ニハ泣クトモ、色ニ出デメヤモ」

いはがねさう（名）【岩根草】いはれんげノ一種。葉ノ形、方ニシテ、大キサ三四分、甚ダ厚シ、夏、花ヲ開ク、形、色、つるれんげニ似タリ。

いはき（名）【石木】（一）〔石ト、木ト。萬葉集、四、四十八「カクバカリ、戀ヒツツアラズハ、（アラムヨリハ）石木ニモ、ナラマシモノヲ、物思ハズシテ」同、五、七長歌、「穿沓ヲ、脫棄ル如ク、踏ミヌキテ、行クチフ人ハ、伊波紀ヨリ、成出シ人カ」（二）〔非情ノモノ。木石 源、四十九、東屋十三「アハレナル御心ザマヲ、岩木ナラネバ、思ホシ知ル」千載集、十二、戀、二「逢フコトノ、カク難ケレバ、ツレモナキ、人ノ心ヤ、岩木ナルラム」（三）[illegible]（近江國、甲賀郡、[illegible]村）

いはき（名）【石槨石城】いしき（石槨）ノ條ヲ見ヨ。

いはきがみ（名）【磐城紙】磐城國、磐城郡ノ地ニ產ズル紙。大小、種種アリ。

いはきつつき（名）【岩啄木鳥】鳥ノ名。きつつきノ一種、深山ニ棲ム、大キサめぢろノ如ク、全身、深綠ニシテ、頂ト腹トニ紅色アリ。イハゲラ。

いはく（名）【醫伯】〔說文、伯「長也」〕醫者ノ敬稱。

いはく（副）【曰】〔曰ふノ延音、宣ふノ、宣はく、忍ぶノ、忍ばくノ類〕イフ。イフニハ。神代紀、上「一書曰、天地初判、一物在二於虛中二」土佐日記、二月五日「梶トリノ曰く、コノ住吉明神ハ、例ノ神ゾカシ」竹取物語「カグヤ姬、翁ニいはく」孟子、公孫丑、上篇「敢問、何謂二浩然之氣一、曰、難レ言也」

いはくえ（名）【岩崩】岩ノ、風水ノタメニ崩ユルコト。萬葉集、十四、六「鎌倉ノ、美胡之ノ崎ノ、伊波久叡ノ、君ガ久由（悔）ベキ、心ハ持タジ」（崩ヲ、悔ノ序トシタリ）相摸國風土記「鎌倉郡、見越崎、每レ有二速浪一崩レ石」（萬葉代匠記、十四、上）

いはくぐり（名）【岩潜】鳥ノ名。ほほぢろニ似テ大キク、頭ハ灰色ニテ、背ニ黑褐ノ斑アリ、かざきりハ黑白ノ斑交ル、翅ハ黑クシテ、其端、赤褐ナリ、尾モ同ジ。イハスズメ。

いはくさ（名）【岩草】ひとつばノ古名。イハノカハ。本草和名、上十六「石韋、以波久佐」

いはくすぶね（名）【磐楠船】あめのいはくすぶね（天磐楠船）ノ條ヲ見ヨ。

いはぐすり（名）【石斛】〔岩藥ノ義カ〕せきこく（石斛）ノ古名。スクナヒコノクスネ。本草和名、上十三「石斛、[illegible]」倭名抄、[illegible]（倭名抄、同ジ）

いはくにちぢみ（名）【岩國縮】周防國、岩國町ニテ製出スル縮布。夏衣トシテ、上品ナリ。

いはくにばんし（名）【岩國半紙】周防國、玖珂郡、山代ニ產ズル紙、岩國町ヨリ、諸方ニ出ス。

いはぐみ（名）【岩組】岩石ノ組合（クミアハセ）。庭石ナドニ云フ。

いはぐみ（名）【卷柏】〔岩組ノ間ニ生ズル意ノ名カ〕いはおけノ一名。今云フ、いはひば。本草和名、上、卷柏、伊波久美、伊波古介」（倭名抄、同ジ）

いはくや・す（動）【岩崩】〔岩崩すノ意、くやす（崩）ノ條ヲ見ヨ、岩石ヲ崩し落スハ懼ルベシ、故ニ、恐惶（カシコ）くニカク〕かしおしト云フ語ノ序詞ニ用キラレタリ。仁德紀、十六年七月「三日摩（速き）ノ序）播磨速待、（人名）以播區夜輸、恐（カシコ）クトモ、吾レ養ハム」（天皇ノ、宮女ヲ養ハムト云フナリ）

いはくら（名）【磐座】あまのいはくらノ一名。

いはげら（名）鳥ノ名、いはきつつきノ條ヲ見ヨ。

いはごけ（名）【卷柏】〔岩苔ノ義ナルベシ〕いはぐみ（卷柏）ヲ見ヨ。

いはこす（イワコス）（名）［岩越］琴柱ノ先ニ溝ヲ作リテ、絃ヲ受ケシムル處。十訓抄、上、第一、二十三條「琴柱ノサキニ、緒ノアタル所ヲバ、いはこすト申スニヨリテ、思ヒ寄ラレケリ」樂家錄、七二岩越、「是柱之頭作レ溝、乘レ絃之處也」

〜**いはさか**（イワサカ）（名）［磐境］あまついはさかヲ見ヨ。

〜**いはしみづ**（イワシミズ）（名）［岩清水］岩間ヨリ涌キ出ヅル清水。箋注倭名抄、一五上「下總本、石清水、以波之三豆」名義抄、水部「石清水、イハシミヅ」袋草子、四「君ガ代ニ、水底澄メル、石清水、流レテ千代ニ、ツカヘマツラム」

いばしんゑん（イ-バ-シン-エン）（名）［意馬心猿］佛敎ノ語。一切衆生ノ、煩惱ノタメニ、情ノ動キテ制シ難キヲ、馬、又、猿ノ、トモスレバ逸セムトスルニ譬ヘテ云フ語。ココロノコマ。慈恩寺三藏傳、九「制ニ情猨之逸躁一、㮣ニ意馬之奔馳一」（海錄、四、四十三條）

いはず（イワズ）（名）［不言］〔ものいはずノ略〕啞ノ異稱。（備後、出雲）

いはすずめ（イワスズメ）（名）［岩雀］いはくぐりニ同ジ。

いはだおび（イワダオビ）（名）［岩田帶］〔齋肌帶ノ義ナラム、岩田ノ字ハ、堅固ナラムヲ祝シテ書クナリ、纈ト記セルアレド、括染ハ用キズ〕婦人孕ミテ五箇月目ニ、腹ニ締ムル布帛。白、又ハ、紅ノ無地ナリ、貴婦人ハ白絹ヲ用キル、卽チ、懷妊ノ着帶トテ、祝ヒアリ。（ちゃくたいノ條ヲ見ヨ）ゆはだおび。ハラオビ。寬竹集（寬文）一「いはだ帶、纈帶ト書ク、女子、孕ミテ五月メニ、肌ニ結ブ帶ナリ「心苦シキ、月ヲコソ待テ」人知レズ、肌へ二結ブ、いはだ帶」合類節用集、服食門「襷 帶、婦人妊帶」和事始、衣服門「結肌帶」

いはたけ（イワタケ）（名）［岩茸］深山ノ巖石ニ生ズル菌。形、きくらげノ如ク、圓ク薄クシテ、皮ノ如シ、重リテ生ズ、大キナルモノハ二三寸アリ、面ハ褐色ニテ、粉ノ狀ヲナシ、背ハ黑クシテ、毛アリ、背ノ中ニ短キ莖アリ、乾シテ食フ。石茸　下學集、下、草木門「石耳」

いはちどり（イワチドリ）（名）［岩千鳥］（一）ちどりノ一種。全身、黑クシテ、胸白ク、尾ニ岐アリテ、燕ノ如シ、川ノ上ニ群リ飛ブ。兼輔集「岩ちどり、アヤナカルネハ、行ク末ノ、ナカスノ濱ノ、鳴カズモアラナム」（二）草ノ名。深山ノ巖石ノ閒ニ生ズ、一莖、一葉ニシテ、高サ三四寸、梢ニ六七ノ小花ヲ開ク、蘭ノ花ニ似テ、淡紅紫ナリ。

い-はつ（イ-ハツ）（名）［衣鉢］えはつ（衣鉢）ヲ見ヨ。

いはつきもめん（イワツキモメン）（名）［岩槻木綿］武藏國、岩槻ニ產ズル綿布。織目、厚シ。

いはつぐみ（イワツグミ）（名）［岩鶫］鳥ノ名。いそつぐみニ同ジ。

い-はづ・す（イ-ハズ・ス）・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）［射外］射テ、中ラズ。著聞集、九、弓箭「三段バカリノキテ立タラムヲバ、エ射給ハジ、云云、若射はづしヌル物ナラバ、云云」

いはつつじ（イワツツジ）（名）［岩躑躅］（一）岩閒ナドニ生フルつつじノ泛稱。つつじノ條ヲ見ヨ。（二）つつじノ一種。花ノ赤クシテ、きりしまつつじノ如キモノ。

いはつばめ（イワツバメ）（名）［岩燕］つばめノ一種、尾ノ短キモノ。夏來リテ、深山中ノ絕壁ニ棲ム、日光山ノ華嚴ノ瀧ニ群飛スルモノ、名高シ。日光山志、四「岩燕、華嚴ノ幽谷ニ巢クヒ、常ニ谿間ヲ囘翔ス」

いはつぼ（イワツボ）（名）［岩壺］（一）岩石ノ穴。神功紀、六十二年、註「沙至比跪知レ不レ免、入ニ石穴一而死也」（韓人ナリ）新六帖、二「いはつぼニ、籠フバカリノ、山ノ井ニ、ツツガナクテモ、世ヲ過サバヤ」（二）はったいいしノ類ニシテ、大小、一ナラズ、外ハ黑褐ニシテ、沙石雜リツキ、內、空ニシテ、粉アリ、黑褐、又ハ、黃褐ナリ。オニノツブテ。太一餘糧

いはつめ（イワツメ）（名）［岩爪］化石ノ一。形、爪ニ似テ、大ニシテ、甚シク尖ル。鮫ノ齒ナリト云フ。

いはつらら（イワツララ）（名）［岩氷柱］イシノチ。つららいしニ同ジ。

〜**いはと**（イワト）（名）［岩戶］石槨ノ門戶。萬葉集、三四三五「河內王葬ニ豐前國鏡山一之時、手持女王作歌「豐國ノ、鏡山ノ、石戶タテ、隱リニケラシ、待テド來マサヌ」

〜**いはと**（イワト）（名）［岩戶］あまのいはや、及、あまのいはとヲ見ヨ。

いはとかぐら（イワトカグラ）（名）［岩戶神樂］〔天岩屋戶ノ神樂ニ擬シテ云フ〕里神樂ニ同ジ。

〜**いはとかしは**（イワトカシワ）（名）〔磐常堅磐ノ約ト云フ〕永久、堅固ナルコト。萬葉集、七七「吉野川、石迹柏ト、常磐ナス、吾レハ通ハム、萬世マデニ」（イツモカハラズ、勝景ヲ賞翫セムトノ意）

いはどくさ（イワドクサ）（名）［岩木賊］石斛ニ同ジ。

〜**いはどこ**（イワドコ）（名）［石床］（一）石槨ノ中ノ屍床、死者ノ葬ラレテアル處。萬葉集、十三廿長歌「岩ガ根ノ、コゴシキ道ノ、石床ノ、根延ヘル門ニ、朝ニハ、出居テ嘆キ、云云」（二）堅キ床。萬葉集、一廿長歌「栲ノ穗ニ、夜ノ霜降リ、磐床ト、川ノ氷凍リ」

いばどの（イバドノ）（名）［射場殿］ゆばどのヲ見ヨ。

いはな（イワナ）（名）［岩魚］谷川ノ岩穴ニ棲ム魚。形、鱒ニ似テ小サク、背ハ青黑ク、腹ハ白シ。嘉魚

いはなし（イワナシ）（名）［岩梨］灌木。富士、日光等ノ高山ニ生ズ、高サ二三寸、地ニ敷キテ密生ス、葉ハ柞ニ似テ、對生シ、夏季ニ淡紅小花ヲ開キ、實、秋ニ熟シテ赤ク、ふんてんノ實ニ似タリ、食フベシ。ハマナシ。コケモモ。越橘　方丈記「或ハ、ツバナヲ拔キ、岩なしヲトル」

いはにし（イワニシ）（名）［岩螺］にがにしノ一種。拇指ノ頭ノ程ニテ、外ハ黑クシテ、疣多シ、肉、黃赤ニシテ、甚ダ辛シ。カラニシ。イボニシ。

いはぬいろ（イワヌイロ）（名）〔いはぬハ、口無ノ意〕梔子ノ色。新古今集、十六、雜、上「九重ニ、アラデ八重咲ク、山吹ノ、いはぬ色ヲバ、知ル人モナシ」

〜**いはね**（イワネ）（名）［岩根］〔根ニ、意ナシ、杵根、羽根、垣根、同ジ〕岩ト云フニ同ジ。いはがね。神代紀、下廿「磐根、木株、草葉、猶能言語」新年祭祝詞「下津磐根ニ、宮柱太知リ立テ」萬葉集、十五五「妹ニ會ハズ、アラバ方便ナミ、伊波禰ム、生駒ノ山ヲ、越エテゾ吾ガ來ル」

〜**いはのかは**（イワノカワ）（名）［石韋］〔漢名、石韋ノ、文字讀ノ語、石韋トハ、石ニ生ジテ、柔韌ナルコト、韋ノ如キ意〕いはくさノ一

名。今云フ、ひとつば。[illegible]之一

いはば (接) 言 言ヒテ見バ。タトハバ。

いはばし (名) 石橋岩橋 (一)川ノ淺瀬ニ、石ヲ竝ベオキテ、傳ヒテ渡ルベキ路トシタルモノ。今云フ、澤飛、飛石ノ如シ。 萬葉集、二 三十 長歌「明日香ノ河ノ、上ツ瀬ニ、石橋渡シ、下ツ瀬ニ、打橋渡ス」(石橋ノ下ニ「一云、石浪」トアルハ、石竝ナリ) 同、二十 十四「秋サレバ、霧タチワタル、天ノ川、伊之奈美(石竝)置カバ、續ギテ見ムカモ」 (二)石橋。 夫木抄、二十一「暮レ行ケバ、木ノ下暗キ、岩橋ノ、御手洗川ニ、飛ブ螢カナ」 (三)くめのいはばしノ條ヲ見ヨ。

いはばしの (枕) 石橋 〔石橋ニ竝みタル、石ト石トノ間ヨリシテ、近き、遠き、竝みト云フ語ノ枕詞〕 萬葉集、四「ウツセミノ、人目ヲ繁ミ、石走の、間近き君ニ、戀ヒワタルカモ」 同、十一 二「明日香川、明日モ渡ラム、石走の、遠き心ハ、思ホエヌカモ」 同、十三 長歌「石走の、神南備山ニ」

いばはじめ (名) 射場始 ゆばはじめノ條ヲ見ヨ。

いはばしる (枕) 石走 〔淡海ヲ、溢水トシテ、カケタルカト云フ(萬葉古義、枕詞解)〕 淡海ノ枕詞。 萬葉集、一 長歌「石走、淡海ノ國ノ」 同、七 二「石走、淡海縣ノ、物語セム」 「石走る垂水」「石走る激流」トツヅケタルハ、枕詞ニアラズ、現實ヲ云ヘル語ナリ。

いはひ (名) 齋 (一)齋フコト。謹ミテ祀ルコト。 神代紀、下 二、齋主 神、號二齋之大人二」(經津主神ヲ云フ) [illegible] 宮于五十鈴川上二」 雄略紀、元年三月、稚足姫[illegible]

いはひ (名) 祝 祝フコト。コトホギ。 賀 源、二十三、初音二「齒固ノいはひシテ」

いはひうた (名) 祝歌 祝ヒ、コトホグ歌。頌歌 古今集、序「六ツニハ、いはひ歌」

いはひご (名) 齋兒 大切ニ齋キ育ツル兒。ホンソウゴ。 萬葉集、九 三十 長歌「錦綾ノ、中ニ包メル、齋ヒ兒モ、妹ニ若メヤ」

いはひごと (名) 祝事 祝フベキ事。慶事 源、二十三、初音二「年ノ内ノいはひごとドモシテ、ソボレアヘルニ」

いはひだけ (名) 祝茸 れいし(靈芝)ニ同ジ。

いはひづき (名) 祝月 正月、五月、九月ノ稱。 日次紀事、九月「祝月、云云、凡一年中、正五九月、凶月也、故忌之、號謂祝月」

いはびと (名) 家人 いは(家)ノ條ヲ見ヨ。

いはひどの (名) 齋殿 神ヲ齋ヒ祭ル建物。 北山抄、九、勘出事「齋殿」

いはひぬし (名) 齋主 神ヲ齋ヒ祭ル人。 神代紀、下 二、齋主 神、號二齋之大人二」(經津主神ニテ、軍ノ首途ヲ祭リシナリ) 神武紀十「用汝爲齋主、授以嚴媛之號二」

いはひのみや (名) 齋宮 伊勢ノ大神宮ノ別稱。 垂仁紀、二十五年三月「隨大神教、其祠立於伊勢國、因興齋宮于五十鈴川上二」 萬葉集、二[illegible] 伊吹キマドハシ」

いはひば (名) 岩檜葉 古名、イハゴケ。イハグミ。イハマツ。宿根草ノ名。深山ノ岩ニ生ズ、葉ハ、ひのきニ似テ、薄クシテ繁ク、莖ノ上ヲメグリテ着ク、四時、緑ニシテ、高サ、或ハ、一二三尺ニ至ル。卷柏

いはひび (名) 祝日 祝事ノアル日。

いはひべ (名) 齋瓮 〔瓮ノ條ヲ見ヨ〕 古へ、神ヲ齋フニ供フル酒ヲ盛ル器、形、種種ナリ、陶製ニシテ、多クハ底圓クシテ、スワラズ、地ニ掘リスエ〻ルガ如シ。イムベ。イツベ。 崇神紀、十年九月「忌瓮」 萬葉集、三 三十 長歌「齋瓮ヲ、齋ヒ堀リスエ」 同、二十 九 長歌「障マハズ、歸リ來マセト、伊波比倍ヲ、床邊ニスヱテ、云云」

いはふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (自動、四) 這 〔いハ、發語〕 這ふト云フニ同ジ。 萬葉集、二 五 長歌「鹿ジモノ、伊波比伏シツツ」

いはふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (他動、四) 齋 〔いまふ(齋)ト通ズ、(齋ハ、齋戒ナリ)かはち、かまち。(輔車)ゆまし、ゆばし(暫)〕 (一)齋ミ清マハリ、謹ミテ祀ル。イマフ。イツク。齋祀 神武紀[illegible] 景行紀、二十年二月「令祭天照大神」 萬葉集、十五「祝部等ガ、齋フ社ノ、黄葉モ」 同、二十 十二「竈中ノ、阿須波ノ神ニ、小柴刺シ、我レハ伊波波ム、歸リ來マデニ」 同、「天地ノ、神ニ幣オキ、伊波比ツツ、イマセ吾ガセナ、吾レヲシ思ハバ」 名義抄「齋、イハフ、イム」 (二)齋ヒテ、守リマサシム。 萬葉集、十九 三十「大船ニ、眞楫シジヌキ、此吾子ヲ、唐國ヘ遣ル、伊波敝神タチ」 (三)イツキマモル。大切ニス。 萬葉集、二十 三十「チハヤブル、神ノ御坂ニ、幣マツリ、伊波負命ハ、母父ガタメ」(齋ガ命ヲ大切ニスルハ、母父ガタメナラズ) 夷、兒ナド云フモ、[illegible]

いはふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (他動、四) 祝 〔前條ノ語ノ轉、內ニ齋ひ清メテ、吉ナラシメムトスル意〕 吉アラシメムトス、ホギ、コトホグ。コトブク。賀ス。祝ス。賀。慶。 名義抄「祝、イハフ」 新年祭祝詞「皇御孫命ノ御世ヲ、手長ノ御世ト、堅磐ニ常磐ニ、齋ひマツリ」 日本紀竟宴歌[illegible]、心ヘ君ヲ、伊波布ナリケリ」 古今集、序「祝ニツケテ、君ヲ思ヒ、人ヲモいはひ」 後撰集、二十、賀「君ガタメ、いはふ心ノ、深ケレバ、聖ノ御代ニ、アトナラヘトゾ」

いばふ・フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ (自動、下二) 嘶 〔嘶ゆ、さかふノ類〕 いばゆノ轉。其條ヲ見ヨ。イナナク。 字類抄「嘶、イバフ、馬鳴也」 [illegible]

いはぶき (名) 岩蕗 ゆきのしたノ類。葉大キクシテ、つはぶきノ如ク、兩面共ニ緑ニシテ、毛無シ、花小サク、穗、長大ニシテ、枝アリ。

いはふぢ (名) 岩藤 亞灌木、山中ニアリ、一根ニ叢生ス、高サ一二尺、葉ハ藤ニ似テ、小サク、夏、葉ノ間ニ三四寸ノ穗ヲ出シテ、小蝶花ヲ綴リ開ク、ふぢまめノ花ニ似テ、稍小サシ、又、紅花、白花モアリ。ナツフヂ。ニハフヂ。胡豆

いはふね (名) 磐船 〔磐トハ、堅固ニ造レルヲ云フ、天磐櫲樟船、其ノ條ヲ見ヨ〕 (一)神代ノ神話ニ、空中ヲ飛行スル船。又、天磐船。 萬葉集、十九 三十 長歌「天雲ニ、磐船浮ベ、艫ニ舳ニ、眞櫂繁貫

キ、伊禮ギッツ、國見シセシテ、天降リマシ(瓊瓊杵尊ノ御事ヲ云ヘルナリ)同、三三十「久方ノ、天之探女ガ、石船ノ、泊テシ高津ハ、淺セニケルカモ」(あまのさぐめノ條ヲ見ヨ) 神武紀五十「嘗有乘二天磐船一自レ天降止、號曰二櫛玉饒速日命一」日本紀竟宴歌、得二饒速日命一「空ミツニ、阿摩能伊波布祢、降シシハ、聖ノ御代モ、ワタストテナリ」(二)移シテ、天河ノ渡舟ヲ云フ。堀河百首、秋「牽牛星ノ、あまのいはふね、舟出シテ、今夜ヤ磯ニ、磯枕スル」新千載集、四、秋、上「織女星ノ、あまの岩舟、今夜コソ、秋風吹キテ、眞帆ニアフラメ」

いばふ-みみ-の-もの(イバウ・ミミ・ノ・モノ)　(名)　|嘶耳物|　〔いばふハ、いなくニ同ジ、馬ノ嘶ク時ハ、耳ヲ立ツ、大祓詞ニ「高天原ニ耳振立テ聞ク物ト、馬牽立テテ」トアリ、(魚ヲ、鰭の廣物ト云ヒ、獸ヲ、毛の荒物ト云フナドト、同趣ノ語ナリ)此語、仙覺萬葉抄ノ宇摩人ノ解ニ見エタリ、嵯峨野物語(二條良基)「馬ハ、昔、唐國ヨリ渡リシ時、耳ノ獸ト云テ、云云」〕　我ガ國、固有ノ、體格ノ小サキ馬。即チ、小馬、果下馬、ノ古名ナリ。各條ヲ見ヨ。

✣**いは・へる**(イワ・エル)　(動)　|結|　ゆはふるノ口語。

いはほ(イワ・オ)　(名)　|巖|　〔岩秀ノ義ト云フ〕大キナル岩。字鏡八十三「巖、伊波保」倭名抄、一四「巖、以八保」

いはま(イワ・マ)　(名)　|岩間|　岩ト岩トノ間。拾遺集、一、春「岩間ヲモ、分ケクル瀧ノ、水ヲイカデ、散リ積ム花ノ、堰キ止ムラム」

いはまく(イワ・マク)　(名)　|言|　〔言はむヲ轉ジテ名詞トスル、一ツノ語格ニテ、言ふヲ、いはく(曰)ト云フト、同趣ナリ、其條ヲ見ヨ、立たむヲ、立たまく、懸けむヲ、懸けまく、見むヲ、見まくト云フナド、皆、是レナリ、又、言はま欲し、あらまほし、聞えまほし、見まほし、見ま憂しナド云フハ、くヲ略シタルナルベシ(少き、すない。斯様、かやう)〕　言ハムコト。言ハムヤウ。萬葉集、三五十七長歌「懸けまくモ、アヤニ畏シ、言巻モ、忌忌シキカモ、吾ガ大君ノ、御子ノ命」

いはまつ(イワ・マツ)　(名)　|岩松|　いはひばノ一名。

いはま-ほ・し(イワマ・ホ・シ)・シキ・シケレ・シク・シク(形、二)　|欲言|　〔前前條ノ語原ヲ見ヨ〕　言ハムコト、欲シ。イヒタシ。狹衣、一、下八「心ニ思フコトモ、いはまほしき事モ、ツツマシク、ハヅカシウテ」

いはみ-ぎんざん(イワミ・ギン・ザン)　(名)　|石見銀山|　石見國、邇摩郡ノ銀山ニ産ズル礜石ニテ製セルモノ。鼠ニ食ハセテ殺スニ用キル。

いは・む(イワ・ム)・ム・メ・マ・ミ・メ(自動、四)　|滿|　集マリ滿ツ。充滿ス。神武紀八「有二兄磯城軍一布二滿於磐余邑一」廣兵滿レ路、難二以往還一」同十六「屯聚居、此云二恰波瀰萎一」皇極紀、四年六月「雨下、潦水溢レ庭」齊明紀、六年九月「各營二一所一誘二聚散卒一」

いはむ-かたな・し(イワン・カタ・ナ・シ)・キ・ケレ・ク・ク(形、二)　言ハム方法無シ。言ノ外ナリ。‖不可名狀‖　竹取物語、蓬萊玉枝「或時ニハ、いはむかたなくムクツケゲナル者ノ來テ、食ヒカカラムトシキ」

いはむ-すべ(イワン・スベ)　(名)　言フベキ方法。言ハムヤウ。萬葉集、十九三十四長歌「心違ヒヌ、將言爲便、爲ム爲便知ラニ」

いはむ-や(イワン・ヤ)　(句)　‖況矧‖　〔下ニモ、をやヲ言ヒテ「言はむやは何何セムコトを言はむやは」ノ意ニテ、反語ナリ〕(一)言フニ及バズ。言フニヤ及ブ。宇津保物語、藤原君九二「天女ト申ストモ、降リマシナム、いはんや婆婆ノ人ハ、國王ト聞ユトモ、趣キタマヒナムをや」寶物集、五、第五條「源信僧都ハ、丈六ヲ作ル人、決定往生ノ行ナリトコソ宣ヒケレ、申サムや、十六丈をや、況や金銅をや」(大佛ノ製造ニ云フ)(二)副詞ノ如ク用キラレテ、マシテ。ソノウヘ。竹取物語、此玉、タハヤスクハエ取ラジヲ、いはんや龍ノ頸ノ玉ハイカガ取ラム、ト申シアヘリ」伊勢物語、百七段「文モヲサヲサシカラズ、詞モ言ヒ知ラズ、いはんや歌ハ詠マザリケレバ」

いはむら(イワ・ムラ)　(名)　|磐叢|　磐ドモノ、ムラガリタル處。神代紀、上六十「天八十河中所レ在五百箇磐石」萬葉集、一四十「河上ノ、湯津磐村ニ、草產サズ、常ニモガモナ、常少女ニテ」

いはむろ(イワ・ムロ)　(名)　|岩室|　次次條ニ同ジ。名義抄「窟、イハヤ、イハムロ」

いはもみ(イワ・モミ)　(名)　|岩樅|　灌木、高山ニ生ズ。高サ五六寸、葉ハ、きゃらぼくニ似テ、小サクシテ、柔カナリ、夏、小花ヲ開ク、形、どうだんノ花ニ似テ、淡紅ナリ。

いはや(イワ・ヤ)　(名)　|岩屋|　巖ニ、横穴ヲ穿チテ作レル住所。イハムロ。‖窟　石室‖　萬葉集、三廿五「常磐ナス、石室ハ今モ、アリケレド、住ミケル人ゾ、常ナカリケル」同三三十「大己貴、少彥名ノ、座シケム、志都ノ石室ハ、幾代經ヌラム」倭名抄、十三上「窟、伊波夜、土屋也、掘レ地爲レ窟也」

いはやど(イワヤ・ド)　(名)　|石屋戸|　〔石ハ、堅固ナル意カ、あまのいはやノ條ヲ併セ見ヨ〕　家ノ戸。萬葉集、三廿五「石室戸ニ、立テル松ノ樹、汝ヲ見レバ、昔ノ人ヲ、相見ル如シ」(古義ニ、戸ハ、外ノ借字ナリトモ云ヘリ)同、十二八「屋戸閉勿勤」

いはやなぎ(イワ・ヤナギ)　(名)　|岩柳|　灌木。高サ二三尺、莖、葉、やなぎニ似テ、小サシ、春、細花ヲ開ク、白クシテ、五瓣ナリ。コゴメヤナギ。近江御息所歌合「いはやなぎ、花色見レバ、山川ノ、水ノ文トゾ、誤タレケル」

い-ば・ゆ(イ)・ユル・ユレ・エ・エ・エヨ(自動、下二)　|嘶|　〔馬聲、吼ゆノ轉、(もとほる、まつはる。いとほし、いたはし)かか鳴くト云フ、同趣ナリ〕(一)〔いなくニ同ジ。イバフ。箋注倭名抄、七八十「嘶、馬鳴也、以波由、伊奈奈久」源、十二、須磨四十七「黑駒奉リタマフ、云云、風ニアタリテハいばえヌベケレバ、ナド申シタマフ」同、四十六、總角四上「馬ドモノいばゆるヲモ」夫木抄、廿六「日ヲ經ツツ、みつ野ノ澤ノ、眞菰草、靑メバ春ノ、駒ゾいばゆる」(二)鷄ノ鳴クニモ云ヘリ。濱松中納言物語、一、上「此關(函谷關)ハ、鷄ノ聲ヲ聞キテナム、開クルト云フコトヲ知ルト聞キテ、御供ノ人ノ中ニ、いばへ(え)タル者アリテ、イザ試ミムトテ、云云」

いは-ゆぎ(イワ・ユギ)　(名)　|磐靫|　〔あまついはさか(天津磐境)ノ條ヲ見ヨ〕靫ヲ贊メテ云フ語。堅固ナル靫。神代紀、下廿二「天忍日命、云云、背負二天磐靫一」

いは-ゆる(イワ・ユル)　(連體)　|所謂|　〔被レ言ノ連體形、あらゆる、同趣、被ノ條ヲ見ヨ〕　世ニ言ハル。常ニ言フ。神代紀、上六三十「一劔、此所謂、草薙劔也」宇津保物語、藤原君四八十「いはゆる貴宮ゾカシ」

い-ばら　(名)　|茨|　〔うばらノ轉、うを、いを(魚)ノ例〕　刺アル小木ノ總名。ウバラ。ムバラ。バラ。‖荊棘‖

い-ばら　(名)　|薔薇|　〔茨ノ義〕一名、いばらきゃうび。又、略シテ、ばら。灌木ノ名。野ニ生ズルヲ野薔薇ト云フ、高サ五六尺、枝茂ク、刺多シ。大葉ノモノハ、葉ニ光ナク、鋸齒アリテ、互生ス、夏ノ初、枝ノ梢毎ニ、五六分ノ五瓣白花ヲ開ク、香氣、多シ、汁ヲ蒸溜シテ、外科ノ藥用ト

ス。小葉ノモノハ、葉、さんせう(ショ)ニ似テ、厚クシテ光ル、花、稍、大キクシテ、數少ク、香モ少シ。二種、皆、實ヲ藥トシ、營實ト云フ。又、家ニ植ウル種ハ、樹、小サクシテ、花ヲ賞ス、色ニ白、紅、黄等、種種アリ、花大キク、香、最モ高シ。

いばらせうび (名) 前條ニ同ジ。

いばり (名) 尿 〔ゆばりノ轉、ゆく、いく(行)ノ例〕 ゆばりニ同ジ。小便。

いばりぶくろ (名) 尿袋 ばうくゎう(膀胱)ニ同ジ。

いば・る ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 威張 〔息張るノ義、息吹く、息競ふノ例〕 勢ヲ張ル。強キヲ示ス。エバル。リキム。示威

いはれ (名) 謂 〔被レ言ノ義〕 言ハルルコト。言フベキ理由。 名義抄、言語、無謂、イハレナシ」 山家集、上「花見レバ、ソノいはれトハ、ナケレドモ、心ノ内ゾ、苦シカリケル」

いはれんげ (名) 岩蓮華 草ノ名、古キ瓦屋ノ上ナドニ生ズ。つめれんげノ一種ニテ、葉闊クシテ、尖ラズ、形、蓮華ノ如クニシテ、粉白色ヲ帶ブ。佛甲草

いはろ (名) 家 いは(家)ノ條ヲ見ヨ。

いはろくせう (名) 石緑青 アヲニ。ろくせうノ條ヲ見ヨ。

いはゐ (名) 岩井 岩間ノ泉ヲ、井トセルモノ。 萬葉集、七「アシビナス、榮エシ君ガ、掘リシ井ノ、石井ノ水ハ、飲メド厭カヌカモ」 源、十、榊「年暮レテ、岩井ノ水モ、氷トヂ、見シ人影ノ、アセモ行クカナ」

いひ (名) 飯 〔忌火ニ縁アル語カ〕 米ヲ蒸シ、又ハ、水ニテ煮タルモノ。蒸シタルヲ強飯ト云ヒ、煮タルハ姫飯ニテ、今、通常ノ飯ナリ。(麥、粟ニモ云フ) 神代紀、上「保食神、云云、自レ口出レ飯」 顯宗紀、元年六月「會ニ群臣、設以ニ酒食ニ」 武烈即位前紀、長歌、玉笥ニハ、伊比サヘ盛リ」

いひ (名) 樋 〔樋ハ正字、域ハ俗字ナルコト明カナリ、其ハ、箋注倭名抄、一、池、樋附ノ條ニ、說文、樋、甕器也、轉爲ニ決塘水ニ、見ニ廣韻ニ、決塘水之樋、俗從レ土作レ域、以別ニ樋器字ニ、見ニ玉篇ニ、今本淮南子、从レ土者、蓋用ニ是字ニ、其作レ域、字形近而誤也、當下據ニ此所ニ引改正上、諸字書不レ載ニ域字ニ、可レ證ニ其譌字ニ、阮元經籍纂詁、引ニ淮南子是文ニ、附ニ錄域韻ニ、不レ知ニ域是域字之譌ニ也、按、伊介乃以飛、見ニ後撰集ニ、或省レ言レ飛、武烈紀、塘樋、訓ニ伊計乃比ニ、今俗呼ニ比乃久知ニ、或呼ニ以利ニ者、蓋、以、飛之譌也、トアルヲ以テ辨フベシ〕 板ニテ箱ノ如ク作リ、地ニ埋メ置キ、水ヲ出シ納ルベキ所。ヒ。イリ。 倭名抄、一「淮南子云、決レ塘發レ域、許慎云、域、所ニ以通ニ陂竇ニ、和名、以比」 拾遺集、十九、雜、戀「トモカクモ、いひハナタレヨ、(言ひ放つニカク)池水ノ、深サ淺サヲ、誰レカ知ルベキ」 後拾遺集、十八、雜、四「鳥モヰデ、幾代ヘヌラム、カツマタノ、池ニハいひノ、跡ダニモナシ」

いひ (名) 謂 (一)言フコト。 榮花物語、二十一、後悔大將「ヨロヅニ、いひノママニ、セサセタマヒシホドニ」 (二)イハレ。ワケ。ユヱ。理由。 易經、上經、臨、象傳「大君之宜、行レ中之謂也」 正字通「援ニ古釋ニ義而言、亦曰レ謂」

いび (名) 指 〔ゆく、いく(行)〕 ゆびノ轉。

いひあか・す ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) 言明 語リテ、夜ヲアカス。カタリアカス。 枕草子、十一、百四十五段「夜マデいひあかしテ歸リヌ」

いひあが・る ル・レ・ラ・リ・レ (他動、四) 言揚 言ヒツノル。 落窪物語、二「タダ言ヒニいひあがリテ、車ノ床[illegible]ヲナム切リテ」

いひあ・つ ツル・ツレ・テ・テ・テヨ (他動、下二) 言中 推シハカリ言ヒテ、實ニ中ツル。 源、一、帚木「心アテニ、ソレカ彼レカナド問フ中ニ、いひあつるモアリ」

いひあつか・ふ フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (他動、四) 言扱 噂ニス。 枕草子、十、百三十二段「アサマシウ、カカル中ラヒニ、イカデトコソ、人ハ思ヒタメレナド、いひあつかふハ」

いひあは・す スル・スレ・セ・セ・セヨ (他動、下二) 言合 (一)互ニ話シ合フ。相語 枕草子、三、二十三段「イト艶ナル返リ言書カムト、いひあはせ、語ラフドチハ、見セアハセナドスル、ヲカシ」 (二)互ニ言契ル。口約束ヲス。知會 宇治拾遺、二、十二條「明日又來テ見ムニ、成シテ走ラセテ笑ハムト、いひあはせテ」

いひあはせ (名) 言合 言ヒアハスルコト。口約束。知會

いひあひ (名) 言合 (一)言ヒ合フコト。相語 (二)イサカヒ。クチアラソヒ。モノイヒ。口論。爭論

いひあ・ふ フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (他動、四) 言合 (一)互ニ言フ。話シ合フ。相語 源、五十、浮舟「人ドモいひあへり」 (二)イサカフ。クチアラソヒス。口論ス。爭論

いひあらは・す ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) 言顯 口上ニ顯シテ云フ。イヒイヅ。 源、九、葵「サマザマノスキゴトドモヲ、カタミニ隈ナ

クいひあらはし給フ」

いひあり (名) 飯蟻 〔廚ニ入リテ、飯ナドニツク義ナラムト云フ〕 あかありニ同ジ。 倭名抄、十九「赤蟻、伊比阿里」

いひいだ・す ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) 言出 言葉ニアラハス。イヒハジム。イヒイヅ。 新續古今集、十一、戀、一「池水ノ、深キ心ヲ、年經トモ、いひ(言ひヲ、樋ニカク)出さズバ、イカデモラサン」

いひい・づ ヅル・ヅレ・デ・デ・デヨ (他動、下二) 言出 〔他動下二段活用ノ、いづ(出)ノ語原ヲ見ヨ〕 言ヒイダス。言ヒアラハス。 後撰集、十二、戀、四「池水ノ、いひいづる事ノ、(樋ニカク)難ケレバ、水隠リナガラ、年ゾ經ニケル」

いひい・る ル・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ (他動、下二) 言入 言ヒテ通ズ。言ヒ込ム。 枕草子、二、十七段、夜一夜、イヒツル事ノ殘リヲ、女ノ耳ニいひ入れ」

いひいれ (名) 言入 (一)言ヒ入ルルコト。イヒコミ。申込。 (二)結婚ノ申込。 薩摩歌(元祿、近松作)下「媒頼ミ、作リ名シテ、言入れノ結納贈ッタハ、此三五兵衛デアッタ」

いひうまや (名) 飯驛 みづうまやヲ見ヨ。

いひうゑ (名) 飢饉 〔飯飢ノ義〕 飢ウルコト。饑饉。 [illegible]、元年五月、[illegible]不レ可レ療レ飢」

いひおき (名) 言置 イヒオクコト。又、其言。

いひお・く ク・ケ・カ・キ・ケ (他動、四) 言置 言ヒ殘シ置ク。 貫之集、十「[illegible](式部丞三統元夏)ガ許ニ至リタルニ、不在カリケレバ、カクナム書

デ來ツルト、いひおきテ歸リニタル」千載集、七、離別「歸リ來ム、程ヲバイツト、いひおかジ、定メナキ身ハ、人ノ頼メナリ」

いひ-おと-す（イイオトス）・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）［言落］（一）言ヒノコス。言ヒモラス。（二）〔貶〕シテ言フ。言ヒクサス。 源、四十二、竹川二十「心狹ゲニコソ見ユメレ、ナドいひおとす」

いひ-がかり（イイガカリ）（名）［言懸］無實ヲ誣ヒテ責ムルコト。

いひ-か-く（イイカク）・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ（他動、下二）［言懸］（一）言ヒ始ム。（二）〔向ヒテ言フ。 竹取物語「家ノ人ドモニ、物ヲダニ言ハムト、いひかくれドモ、事トモセズ」（三）誣ヒテ、罪ヲ負ハス。誣

いひかけ（イイカケ）（名）［言懸］（一）イヒカクルコト。話シ始ムルコト。（二）歌文ニ、一語ヲ、二語ニ代用セシムル修辭法。異語ナルヲ、同音ナルニ因リテ、兼用スルモノナリ、一語中ノ一部ヲ用キルモアリ。カケコトバ。秀句。 萬葉集、九廿「龍ノ上ノ、三船ノ山ユ、秋方ニ、來鳴キワタルハ、誰レよぶこ鳥」（誰レヲ呼ブ、呼子鳥） 古今集、八、離別「立チ別レ、いなばノ山ノ、峯ニ生フル、まつトシ聞カバ、今歸リ來ム」（往なば、因幡。松、待つ） 後撰集、九、戀、一「淵瀨トモ、イサヤしら波、立チ騷グ」（知らず、白波） 新古今集、十八、雜、下「陸奥ノ、いはでしのぶハ、えぞ知らぬ、書キ盡シテヨ、坪ノ石文」（岩手、信夫、言はで忍ぶ。蝦夷、得ぞ） 太平記、二、俊基再關東下向事「汐干ニ今ヤ、なるみ潟、（成る、鳴海潟）云云、末ハ何處ト、とほたふみ、（問ふ、遠江、と一音ニカク）濱名ノ橋ノ、夕汐ニ、ひく人モナキ、捨小舟」（退く、引く）

いひかた（イイカタ）（名）［言方］いひざまニ同ジ。

いひ-かた-む（イイカタム）・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ（他動、下二）［言固］言ヒテ、固ク約ス。固ク口約束ス。 宇治拾遺、十一、第一條「若シ漸ク起請シテ後、青ツネノ君ト呼ビタラム者ヲバ、酒、菓物ナド取リ出ダサセテ贖ヒセム、トいひかためテ」

いひ-か-ぬ（イイカヌ）・ヌル・ヌレ・ネ・ネ・ネヨ（他動、下二）［言難］言フコトヲ得ズ。 風雅集、十一、戀、二「サテモ又、イツゾトダニモ、云ひかねテ、咽ブ涙ニ、オキ別レヌル」

〜**いひ-かは-す**（イイカワス）・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）［言交］（一）互ニ言フ。語リ合フ。 枕草子、六、五十段「皆醉ヒテ、女房ト物いひかはすホド」（二）言語ニテ誓フ。言ヒカタム。 伊勢物語、二十一段「アリシヨリケニいひかはしテ」

いひかはせ（イイカワセ）（名）［言交］言ヒ交スルコト。言語ニテノ誓約。口約束。

〜**いひ-かひ**（イイカイ）（名）［飯匙］飯ヲ器ニ移シ盛ルニ用キル具。オダイガヒ。メシジャクシ。 伊勢物語、二十三段「手ヅカラいひかひ取リテ、笥ノウツハモノニ盛リケルヲ」字類抄「木刀、イヒカヒ」

いひ-がひ-な-し（イイガイナシ）・キ・ケレ・ク・ク（形、二）［無言甲斐］（一）〔言ヒテ、詮無シ。イフカヒナシ。 枕草子、十一、百三十九段「物語コソ、惡シウ書キナドスレバ、いひかひなく」（二）心ナシ。性根ナシ。 海人藻芥、下「同宿等、主人ノ心中ヲ不レ知者、云甲斐なき事ナルベシ」（三）卑怯ナリ。フガイナシ。イクヂナシ。怯

いひ-か-ふ（イイカウ）・フル・フル・ヘ・ヘ・ヘヨ（他動、下二）［言易］外ノ言葉ニテ言フ。言ヒナホス。

いひ-かぶ-せる（イイカブセル）・セル・セレ・セ・セ・セヨ（他動、下二）［言被］言葉ニテ、罪ヲ着ス。

いひ-かへ-す（イイカエス）・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）［言返］（一）繰返シテ言フ。復言（二）〔辯ジテ答フ。逆ラヒテ言フ。クチゴタヘスル。

イナビ云フ。逆命 源、三十四、下、若菜、下五十九「シバシコソ、イトアルマジキコトニいひかへしケレ、物深カラヌ若人ハ、人ノ、カク身ニカヘテ、イミジク思ヒ宣フヲ、エいなびハテデ」

〜**いひ-かま-ふ**（イイカモウ）・フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ（他動、下二）［言構］能ク言做ス。 源、五十、浮舟六十七「カドカドシキ人ニテ、兒角いひかまへテ、尋ネテ逢ヒタリ」

〜**いひ-がみ**（イイガミ）（名）［飯嚼］飯ヲ口ニ嚼ミヤハラゲテ、兒ニ哺ム者。 神代紀、下三十四「取ニ婦人一爲ニ乳母、湯母、及、飯嚼、湯坐一」纂疏「嚼レ飯哺レ兒者」

〜**いびき**（名）［鼾］イビクコト。クヅチ。眠レル間ニ、鼻息ノ、高ク聲ヲ發スルモノ。其聲ヲ發スルヲ、かくト云フ。 字鏡七十「鼾、伊比支」 太平記、一、土岐多治見被レ殺事「高いびきかきテ、寐入リタリ」

いひ-きか-す（イイキカス）・スル・スレ・セ・セ・セヨ（他動、下二）［言聞］（一）〔告グ。諭告 源、十五、蓬生八「ナマニクゲナル詞ドモ、いひきかせツツ」（二）委シク諭ス。說諭 說得

いひきたり（イイキタリ）（名）［言來］イヒツタヘ。傳說

いひ-ぎり（イイギリ）（名）［椅］樹ノ名。いいぎり（椅桐）ノ條ヲ見ヨ。

いひ-ぎり（イイギリ）（名）［竈馬］蟲ノ名。いいぎり（竈馬）ノ條ヲ見ヨ。

いひ-き-る（イイキル）・ル・レ・ラ・リ・レ（他動、四）［言切］（一）言ヒテ、終ハル。言ヒ果ツ。（二）〔必ズ然リト言フ。斷言 源、五十、浮舟六十九「右近ハ、いひきりツル由、云ヒ居タルニ」

〜**い-び-く**・ク・ケ・カ・キ・ケ（自動、四）［鼾］〔息響ノ約、たびびと、たびと（旅人）」鼾ヲカク。 枕草子、二、十七段、にくきもの「サルマジウ、アナガチナル所ニ、隱シ臥セタル人ノ、いびきタル」 源、五十二、手習四十「尼ドモ二人臥シテ、劣ラジトいびきアハセタリ」

〜**いひ-くく-む**（イイククム）・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ（他動、下二）［言含］いひふくむニ同ジ。 枕草子、四、四十四段「コレニ、ソノ白カラム所、ヒタモノ入レテ持テ來、キタナゲナラム所ハ、掻棄テテ、ナドいひくくめテヤリタレバ」

いひ-ぐさ（イイグサ）（名）［言種］イヒゴト。言フベキ種。言フベキコトガラ。辭柄 口實

いひ-くさ-す（イイクサス）・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）［言腐］劣シテ言フ。輕シメテ言フ。イヒオトス。イヒクタス。

〜**いひ-くた-す**（イイクタス）・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）［言腐］前條ニ同ジ。 枕草子、二、十七段「昔物語ナドスルニ、我ガ知リタリケルハ、フト出デテ、いひくたしナドスル、イト憎シ」

いひ-くら-す（イイクラス）・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）［言暮］其事ヲノミ言ヒテ、日ヲ暮ラス。「亡キ母ノ事ヲいひくらす」

いひ-くろ-む（イイクロム）・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ（他動、下二）［言黑］誣ヒテ實ラシク言フ。「鷺ヲ鴉トいひくろむ」

〜**いひ-け**（イイケ）（名）［飯笥］飯ヲ盛ル笥。 四時祭式、下、鎭魂祭「供御飯笥」內匠寮式「銀器御飯笥」

いひ-け-す（イイケス）・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）［言消］（一）我レ言ヒテ、他ノ話ヲ斷ツ。イヒケツ。（二）前ノ言ヲ、變ヘテ言フ。

〜**いひ-け-つ**（イイケツ）・ツ・テ・タ・チ・テ（他動、四）［言消］前條ノ（一）ニ同ジ。 源、二、帚木二 光源氏、名ノミ、コトゴトシウいひけたレタマフ咎、多カナル

二」字類抄「謂、イヒケツ」

〰いひ-けらく (名) 〔言ひけるノ延、いはく(曰)ノ條ヲ見ヨ〕 言ヒケルコト。言ヒケルヤウ。古今集、九、羇旅「皇子ノいひけらく、狩シテ天ノ川原ニ到ルト云フ心ヲ詠ミテ、盃ハサセト言ヒケレバ、云云」

〰いひ-こしら・ふ・フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ (他動、下二) 〔言拵〕 言ヒツクロフ。サマザマニ言ヒテ、ナダムル。源、三十四、下、若菜、下「アイナキ御オトシメゴトニナムト、ハテハテハ腹立ツヲ、ヨロヅニいひこしらへテ」

いひ-ごと (名) 〔言事〕 (一)いひぐさニ同ジ。大鏡、下、道長「ソノ頃ノいひごとニシケルハ」宇治拾遺、十二、二十二條「悔キ、男ノいひごとカナ」 (二)クチアラソヒ。口論。 盛衰、竹取「サキニチト、いひごとヲシテアレバ、云云、母ノ方へ、告ロシニ行キテアルナ」

いひ-こみ (名) 〔言込〕 イヒコムコト。イヒイレ。申シ込ミ。

いひ-こ・む・ム・メ・マ・ミ・メ (他動、四) 〔言込〕 言ヒ入ル。申シ込ム。

いひ-こ・める・メル・メレ・メ・メ・メヨ (他動、下二) 〔言籠〕 論ジテ、他ニ閉口セサス。イヒフセル。論伏。

いひ-さし (名) 〔言止〕 イヒサスコト。言ヒテ、中間ニ止ムルコト。

〰いひ-さ・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) 〔言止〕 言ヒテ、中間ニ止ム。伊勢物語、八十六段「若キ男、若キ女ヲ相言ヒ合ヘリケリ、オノオノ親アリケレバ、愼ミテ、いひさしテ、ヤミニケリ」

いひ-ざま (名) 〔言様〕 物言フ樣。語ル容子。イヒカタ。イヒヤウ。

〰いひ-したみ (名) 〔飯湑〕 〔飯ヲ湑むモノノ意〕 飯ハ、湯去ナセテ如シ、一度ヲ蒸ストキ、甑ノ底ニ敷ク竹籠。飯簀。倭名抄、十六二「[illegible]、以竹爲之、[illegible]竹器也」

〰いひ-し・る・ル・レ・ラ・リ・レ (他動、四) 〔言知〕 言フヤウヲ知ル。伊勢物語、百七段「マダ若ケレバ、文モヲサヲサシカラズ、言モいひしらズ、況ンヤ歌ハ詠マザリケレバ」年中行事歌合「タケ高ク、詞いひしりテ、ヨロシク侍レドモ」打消ニ云フニハ、多クハ、言ふに言はれずノ意トナル。古今集、十三、戀、三「明ケヌトテ、イマハノ心、ツクカラニ、ナドいひしらぬ、思ヒ添フラム」枕草子、三、二十三段「九重ノ内ヲ始メテ、いひしらぬ民ノ住處マデ」

〰いひ-しろ・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (他動、四) 〔言爭〕 〔しろふハ、引キしろふ、突キしろふ(すめらぎ、すめろぎ、しろ、しら)ナドモ云ヒテ、あらそふ意、擧ゲつらふ、引きつらふナドモ、同ジ〕 言ヒ爭フ。イヒヅラフ。イサカフ。源、三十八、夕霧「トカクいひしろひテ、此御文ハ引キ隱シタマヒツレバ」

いひ-すぎ (名) 〔言過〕 言ヒ過グルコト。過言。

❖いひ-す・ぎる (動) 〔言過〕 次條ノ口語。

いひ-す・ぐ・グル・グレ・ギ・ギ・ギヨ (他動、上二) 〔言過〕 いひすごすニ同ジ。

〰いひ-すぐ・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) 〔言過〕 次次條ニ同ジ。源、三十四、下、若菜、下、一「オホカタノ、侮リニクキアタリナレバ、エシモいひすぐしタマハデ、オハシマシソメヌ、イトニナク傅キ聞エタマフ」

いひ-すごし (名) 〔言過〕 イヒスゴスコト。

[illegible]中納言物語「[illegible]ノヨソヘニモ、[illegible]ア、レナル氣色ヲ見テ、いひすごしヲシツベク覺エケレバ」

いひ-すご・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) 〔言過〕 程ヲ越シテ言フ。分ヲ過ギテ言フ。イヒスグス。イヒスグ。イヒソス。

いひ-ずし (名) 〔飯鮓〕 鮓ノ條ヲ見ヨ。

〰いひ-す・つ・ツル・ツレ・テ・テ・テヨ (他動、下二) 〔言捨〕 言ヒテ、答ヘヲ待タズ。言ヒタルママニス。源、三十三、藤裏葉「イタク[illegible]ミテ侍ルナレバ、罷リ入リヌト、いひすてテ、入リ給ヌ」

いひ-すて (名) 〔言捨〕 言ヒ捨ツルコト。讃岐内侍日記、建長二年八月十五夜、連歌、云云、いひすてナラムコソ念ナケレ、少將、覺エヨ」

いひ-そこなひ (名) 〔言損〕 言ヒソコナフコト。イヒアヤマリ。失言。

〰いひ-そこな・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (他動、四) 〔言損〕 言ヒ誤ル。言ヒ損ズ。失言ス。枕草子、十二、百四十八段「下司ニ譽メラルルハ、女ダニワロシ、又譽ムルママニ、いひそこなひツルモノヲバ」

〰いひ-そ・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) 〔言殺〕 いひすごすニ同ジ。源、二、帚木八「カシコク教ヘタツルカナト、思ヒタマヘテ、我レタケクいひそしハベルニ、スコシ打笑ヒテ、云云」細流抄「ツヨクいひすごすナリ」河海抄「[illegible]也、いひすごすナリ」花鳥餘情「殺ノ字、詩ニモ、愁殺、惱殺ナド作レリ」

いひ-そび・れる・レル・レレ・レ・レ・レヨ (他動、下一) 〔そびれるヲ見ヨ〕 言ヒワヅラフ。言ヒコジケル。

〰いひ-そ・む・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ (他動、下二) 〔言初〕 言ヒ始ム。萬葉集、十一 二「河千鳥、住ム澤ノ上ニ、立ツ霧ノ、著ケムナ、相言始テハ」後拾遺集、四、夏「いひそめし、昔ノ宿ノ、カキツバタ、色バカリコソ、形見ナリケレ」

いひ-そや・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) 〔言囃〕 〔そやすノ條ヲ見ヨ〕 いひはやすニ同ジ。

いひ-だこ (名) 〔飯蛸〕 蛸ノ類ノ、小サキモノ、長サ、頭ヨリ足マデ七八寸、春ノ初、頭中ニ、飯粒ノ如キ白キ肉、滿ツ。イシダコ。望潮魚。

いひ-た・つ・ツル・ツレ・テ・テ・テヨ (他動、下二) 〔言立〕 (一)取リ出デテ、言ヒ述ブ。拾遺集、九、雜、下「無キ名ノミ、高尾ノ山ト、いひたつる、君ハ愛宕ノ、峯ニヤアルラム」 (二)事ヲ、強ク言フ。主張。 (三)上ヘ言フ。申シ上グ。稟。

いひ-たて (名) 〔言立〕 (一)言ヒ立ツルコト。 (二)言種。口實。心中重井筒(寶永、近松作)上「道ナラ[illegible]テ、ソレヲいひ立ニ、夜ノ目ハ[illegible]ウトイフ事カ」

い-びたり (名) 〔寢浸ノ義〕 眠レル中ニ、尿ヲ漏スコト。ヨツバリ。イビタレ。

い-びたれ (名) 前條ノ語ノ轉。ネセウベン。遺尿。

いひ-ちら・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) 〔言散〕 (一)言ヒ觸ラス。源、廿二、玉鬘「人ニモ漏ラセテ、尼ニナシテ、ワガ世ノ限リハモタラム、トいひちらしタレバ」 (二)言ヒテ、他ノ説ヲ破ル。

い-びつ (名) 〔飯櫃〕 〔いひびつなりヲ略シテ、飯ヲ容ルル器ノ、圓キ形ノ、歪ミタルコト〕 文化ノ川柳「傾城ノ、腹ハいびつニ、減ッテ居ル」(楕圓形ノ小判)

〔いひ-つが・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (他動、四) [言繼] 〔いひつぐノ延〕言ヒツグ。言ヒツヅクル。萬葉集、五 長歌「倭ノ國ハ、云云、言靈ノ、サキハフ國ト、語リ繼ギ、伊比都賀比ケリ」

いひ-つか・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) [被言付] 〔あづかるノ語原ヲ見ヨ〕言ひつけらるノ約。命ヲ受ク。「用事ヲいひつかる」

いひつぎ (名) [言次] (一)〔言ヒツグコト。イヒツタヘ。萬葉集、十八「タルヒメノ、浦ヲ漕ギツツ、今日ノ日ハ、樂シク遊ベ、移比都伎ニセム」(二)言葉ノ取次役。

〔いひ-つ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (自動、四) [言付] 言ヒ寄ル。後撰集、十、戀、二「心懸ケテ侍リケレド、いひつかム方モナク、ツレナキ狀ニ見エケレバ」

〔いひ-つ・く・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ (他動、下二) [言付] (一)仰ス。言ニテ命ズ。命‖ 枕草子、二、十四段「物ノ折ノ扇、云云、心アリト知リタル人ニ、いひつけタルニ」(二)ツゲグチヲナス。告發‖ 枕草子、八、八十三段「人ニ恥ガマシキ事、いひつけタルト恨ミテ」

〔いひ-つ・ぐ・グ・ゲ・ガ・ギ・ゲ (他動、四) [言繼] 語リツグ。語リツヅクル。萬葉集、五 長歌「萬世ニ、伊比都具ガネト」同「天地ノ、共ニ久シク、伊比都夏ト、此ノ奇御玉、敷カシケラシモ」

いひ-つ・ぐ・グ・ゲ・ガ・ギ・ゲ (他動、四) [言次] 言語ニテ傳フ。言ヒ傳フ。傳說‖

いひつけ (名) [言付] イヒツクルコト。仰セ。命‖「いひつけヲ守ル」

いひつけ-ぐち (名) [言付口] イヒツクルコト、ツゲグチ。

〔いひ-つた・ふ・フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ (他動、下二)

[言傳] 話ニ傳フ。語リ傳フ。續後紀、十九、嘉祥二年三月、長歌「唐ノ、詞ヲ借ラズ、書キ記ス、博士雇ハズ、此國ノ、云傳布良久」

いひつたへ (名) [言傳] 話ニテ傳ヘ來レル事。(書記ニハアラデ) 口碑‖ 傳說‖

いびつ-なり (名) [櫛圓] 〔飯櫃形ノ約略〕長ク圓キ形。コバンナリ。御飾記、十二「常ノいびつ形ノ花瓶、古銅ノ物ニ、花立テラレ」

いひ-つの・る・ル・レ・ラ・リ・レ (他動、四) [言募] 愈烈シク、言ヒ張ル。イヒアガル。昂論‖

いひ-つ・める・メル・メレ・メ・メ・メヨ (他動、下二) [言詰] (一)極處マデ言フ。(二)イヒコメル。

いひ-づら・し・キ・ケレ・ク・ク (形、二) [言難] 言フコト、難シ。イヒニクシ。

〔いひ-づら・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (他動、四) [言論] 〔つらふノ條ヲ見ヨ〕言ヒ爭フ。アゲツラフ。萬葉集、十三 廿二長歌「曾朋舟ニ、綱取リカケテ、引ヅラヒ、有否スレド、日豆良賓」

いひ-でう (名) [言條] 言フベキ條件。

いひ-とほ・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) [言通] 強ク推シテ言フ。イヒハル。主張‖

〔いひとよ (名) [茅鴟] 怪鴟ノ類。皇極紀、三年三月「休留」註「休留、茅鴟」爾雅「茅鴟、一名、怪鴟」字鏡 六十五「鴟、伊比登與、又、與太加」倭名抄、十八 四上「怪鴟、與多加」同、同 六十七「鵂鶹、以比止與」

いひ-と・る・ル・レ・ラ・リ・レ (他動、四) [言取] 言語ニ移シテ述ブ。口說‖

いひなし (名) [言做] 言ヒナスコト。然ルガ如クニ言フ コト。拾遺愚草、中「三吉野

ノ、花モ云ひなしノ、空目カト、分ケ入ル峯ニ、ニホフ白雲」

〔いひ-な・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) [言做] 然アラヌヲ、然ルガ如クニ言フ。後撰集、十、戀、二「天ノ戶ヲ、アケヌアケヌト、いひなしテ、空鳴シツル、雞ノ聲カナ」源、二十一、少女 二十五「隱レアルマジキ事ナレド、心ヲヤリテ、アラヌ事トダニいひなさレヨ」「虛ヲ實ニ言做す」

いひ-なづけ (名) [許嫁] 〔結納附ノ約轉ト云フ、(髮結、かみいひ。強請る、いすゞる。納言、ふごん。納屋、ふや)つけハ、買附、手附金ナドノ、つけナリ、結納ヲ取交シテ、豫約ヲ固メオクヨリ起レル語ナルベシ〕 雙方ノ親ドモノ合意ニテ、男子、女子ノ、幼キ時ヨリ、結婚ノ契約ヲ結ビオクコト。

〔いひ-なほ・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) [言直] 改メテ言フ。言ヒカフル。枕草子、五、四十七段、ねたき物「サ言ヒテアランヤトテ、源少納言、新中納言ナド、いひなほし給ヒシ」

いひ-なや・む・ム・メ・マ・ミ・メ (他動、四) [言惱] いひわづらふ(言煩)ニ同ジ。狹衣、四、上 三十六「ツヒニ院ノ女御卄給ヒヌ、打ツヅキ春日ノ神モイカガ覺サント、世ノ人人ハいひなやめド」

いひならはし (名) [言習] イヒナラハスコト。

いひ-ならは・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) [言慣] 習慣ニテ、言ヒ傳フ。

いひ-なり (名) [言成] 〔いきなりノ語原ヲ見ヨ〕言フガママナルコト。「いひなりニナル」言成次第、言成はうだい、言成さんばう、ナド云フハ、言フガママニマ

カスルコト。

〔いひ-な・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ (他動、下二) [言馴] 口ニ馴レテ言フ。枕草子、三、二十八段「若クテヨロシキ男ノ、下司女ノ名ヲ、いひなれテ呼ビタルコソ、イト憎ケレ」

〔いひ-にく・し・キ・ケレ・ク・ク (形、二) [言惡] 言フコト、難シ。イヒヅラシ。枕草子、十二、百五十六段「いひにくきモノ、云云、ハヅカシキ人ノ、物オコセタル、返リゴト」

いひ-にげ (名) [言逃] 言ヒテ紛ラスルコト。言ヒクロムルコト。イヒヌケ。

いひぬけ (名) [言脫] イヒヌケルコト。イヒニゲ。遁辭‖

いひ-ぬ・ける・ケル・ケレ・ケ・ケ・ケヨ (他動、下一) [言脫] 他ノ事ニ言ヒテ、紛ラスル コト。イヒニ 言ヒクロメテ、逃ル。遁辭‖

いひ-のこ・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) [言殘] (一)〔話シ餘ス。源、三十八、夕霧 二十「内内ノ御心淸ウオハストモ、カクマデ言ヒツル法師バラ、良カラヌ童部ナドハ、正ニいひのこしテムヤ」(二)言ヒ置ク。

〔いひ-はじ・む・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ (他動、下二) [言始] 語リ始ム。イヒソム。竹取物語「コレヲナン、玉サカルトハ、いひはじめケル」

いひ-は・つ・ツル・ツレ・テ・テ・テヨ (他動、下二) [言果] イヒヲハル。イヒキル。夫木抄、廿四「イナバ川、否トシ終ニ、いひはてバ、流レテ世ニモ、スマジトゾ思フ」

〔いひ-はな・つ・ツ・テ・タ・チ・テ (他動、四) [言放] 推シテ言ヒ切ル。斷言‖ 後撰集、十三、戀、五「否然トモ、いひはなたレズ、憂キモノハ、身ヲ心トモ、セヌ世ナリケリ」源、十八、松風 十「サラヌ別レ

ニ、御心動カシタマフナ、ナドいひはたつモノカラ」

〜いひ-はや・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) [言榮] 榮アルヤウニ、言ヒフラス。イヒソヤス。讃說 [illegible]「[illegible]ニヨリ、[illegible]トハ定メ兼ネタルゾヤ、トいひはやし給フ」

いひ-は・る・ル・レ・ラ・リ・レ (他動、四) [言張] 理ヲ言ヒテ、推シトホス。主張

いひ-びつ (名) [飯櫃] めしびつニ同ジ。メシツギ。メシバチ。オハチ。字類抄「飯櫃、イヒビツ」

いひひらき (名) [言開] イヒヒラクコト。イヒワケ。辨解「言ひ開きガ立ツ」

いひ-ひら・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (他動、四) [言開] 言ヒテ、所以ヲ開ニナス。言ヒワク。辨解 [illegible]、今昔物語、三十、第二語「疾ク行テ、有ツル有樣モ云ヒ開ナム」

いひ-ふく・む・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ (他動、下二) [言含] 含ムルヤウニ、委シク言フ。イヒククム。懇諭 [illegible]、今昔物語、二十七、十五語「此ノ女ノ童ニ、此ノ由ヲ云ひ含テ過グルニ」

いひ-ふ・せる・セル・セレ・セ・セ・セヨ (他動、下二) [言伏] 論ジテ、他ヲ屈伏セサス。イヒコメル。論伏

いひ-ぶん (名) [言分] 言フベキ分。イヒグサ。辭柄

いひ-ふら・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) [言觸] (一)世ニ弘マルヤウニ言フ。イヒチラス。聲言「身ノ潔白ヲ、いひふらす」(二)世ニ評判ス。ウハサス。流言

〜いひ-ふ・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ (他動、下二) [言舊] 言ヒフルス。[illegible]「[illegible]ハ、[illegible]、いひふれぬママニ、[illegible]レシコトモ、アリヌタキニ」同、四、夕顔三十一「タノモシク、イヒニト、いひふれタマフベキ、モナシ」

いひ-ふる・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) [言舊] 常ニ言ヒテ、珍シカラズアリ。陳說 [illegible]、一、下[illegible]「心ノツマトカ、いひふるしタル、夕暮ノ空、霧リワタリテ」西宮左大臣(源高明)集「皆人ノ、云ひふるしテシ、コトナレド、此ノ五月雨ハ、アヤシカリケリ」

〜いひ-ぼ (名) [飯粒] めしつぶノ古言。神功皇后紀、四月「勾レ針爲レ鉤、取レ粒爲レ餌」

〜いひ-ぼ (名) [疣] [形、飯粒ニ似タリ] 皮膚ニ生ズルモノ。タリ。今、いぼ。字鏡「疣、伊比保、又、太利」(倭名抄、同ジ)

〜いひぼ-むしり (名) [蟷螂] [疣ヲ除ク意、爾雅、蛸「一名、乾眈」東壁本草「燕趙之間、謂二之蝕肬一、肬、即、疣子、小肉贅也、今人病レ肬者、往往捕二此食レ之一」東雅、二十] 蟲ノ名。略シテ、いぼむしり。又略シテ、いぼうぢり。又、音便ニ、いぼうぢり。又略シテ、いぼぢり。いぼむし。いぼくひ。今専ラ、かまきりト云フ。其條ヲ見ヨ。字鏡[illegible]「蛄、伊比保牟志利、蟷螂」蟷螂之母也」(蟷螂ハ、おほぢがふぐりニシテ、蟷螂ノ巣ナリ) 倭名抄、十九二「蟷螂、以保無之利」字類抄「蟷螂、イホウジリ」新猿樂記「蟷螂」

いひ-まぎら・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) [言紛] 事ヲ、マギラシテ言フ。イヒマギラハス。イヒクロムル。

〜いひ-まぎらは・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) [言紛] 他ノ事ニマギルルヤウニ言フ。イヒマギラス。イヒクロムル。源、四、夕顔[illegible]「[illegible]いひまぎらはし[illegible]」

いひ-ま・ぐ・グル・グレ・ゲ・ゲ・ゲヨ (他動、下二) [言撓] 理ヲ非ニ言フ。

いひ-まく・る・ル・レ・ラ・リ・レ (他動、四) [言捲] 論ジテ、他ノ言ヲ追ヒ退クル。說破

❖いひ-ま・げる (動) [言曲] 前前條ノ口語。

いひまはし (名) [言廻] イヒマハスコト。

いひ-まは・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) [言廻] (一)詞巧ミニ言ヒ取ル。源、二、帚木二十九「消息文、云云、ウベウベシクいひまはし侍ルニ」(二)言ヒ觸ラス。宇治拾遺、三、第一條「同輩トモニ、カウル所コソアレト、いひまはしテ」

いひ-まへ (名) [言前] [まへハ、分ノ義、まへ(前)ノ條ヲ見ヨ] イヒブン。イヒデウ。言ヒ張ルベキ種。口實

〜いひ-むか・ふ・フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ (他動、下二) [言逆] 逆ラヒ言フ。源、七、紅葉賀十三「トモスレバ、事ノツイデ毎ニ、いひむかふるクサハヒナルヲ」

いひ-もら・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) [言洩] (一)祕スル事ヲ、洩ラシ言フ。源、二、帚木六十「人ノいひもらさムヲ、聞キツケタラム時」(二)言ヒ殘ス。イヒオトス。

いひ-やう (名) [言樣] いひざまニ同ジ。

〜いひ-やぶ・る・ル・レ・ラ・リ・レ (他動、四) [言破] 言ヒテ負カス。イヒフセル。說破 源、五十一、蜻蛉[illegible]「[illegible]イト[illegible]キ言ニシ給ヒテ、誰ノいひやぶり給ヘド、ナドカサシモ、珍シゲナクハアラムト、心强ク嫉キサマナルヲ」

〜いひ-や・る・ル・レ・ラ・リ・レ (他動、四) [言遣] (一)言ヒ放ス。[illegible]長歌「道守ノ、問ハム答ヘヲ、言ヒ遣ル、爲便ヲ知ラニト」(言フベキ便ナリ) 榮花物語、二、花山「アナ、アサマシヤトモ、いひやらムカタナクオボサレテ」(二)書狀、又ハ、言傳ニテ、告ゲ知ラス。寄語 [illegible]、六十九段「常ノ使ヨリハ、コノ人ヨクイタハレト、いひやれリケレバ」

いひ-よ・す・スル・スレ・セ・セ・セヨ (他動、下二) [言寄] 因ミテ言フ。イヒカク。

〜いひ-よ・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) [言寄] 物言ヒカケテ、近ヅク。[illegible]、帚木八廿「ハカナキツイデニ、いひよりテハベリシヲ」

〜いひ-り・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (他動、四) [いひハ、飯] [illegible]ふト云フニ同ジ。萬葉集、十六、長歌「小螺ヲ、伊拾持來テ、石持チテ、ツツキ破リ」

❖いび・る・ル・レ・ラ・リ・レ (他動、四) [火熬るヲ他動ニ用キテ、いぶすノ意トス] (一)イブス。炙リ燒ク。炙「するめヲいびる」(二)イブス。サイナム。イヂメル。苛責

〜いひ-わ・く・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ (他動、下二) [言分] 事ノ實ヲ、別ケテ言フ。分疏 宇津保物語、俊蔭二十「我ガ領スル庄庄、ハタ多カレド、誰レカハいひわく人アラン、アリトモ、誰レカ云ヒマツハシ知ラセン」

いひわけ (名) [言分] イヒワクルコト。分疏 辯解

いひわたし (名) [言渡] (一)イヒワタスコト。命。傳令 (二)裁判所ノ宣告。

いひ-わた・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) [言渡] 言ヒ傳フ。仰ヲ告グ。傳令

〜いひ-わた・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) [言渡]

言ヒ寄ル。落窪物語、一、上「日日ニアラネド、絶エズいひわたり給ヘド、絶エテ御返リナシ」千載集、十二、戀、二「陸奥ノ、十編ノ菅ニ、操ル編ノ、タエズモ人ニ、いひ渡ルカナ」

いひ-わづら・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ（他動、四）【言煩】イヒナヤム。言ヒ惡クアリ。源、十五、蓬生五十「サレド、動クベウモアラネバ、ヨロヅニいひわづらひクラシテ」

いひ-わ・ぶ・ブル・ブレ・ビ・ビ・ビヨ（他動、上二）【言侘】言ヒナヤム。イヒワヅラフ。源、五十二、手習四十「タダ氣近クテ聞エムコトヲ、聞キニクシトモ、オボシコトワレド、ヨロヅニいひわびテ、イト心憂ク」

いふ（名）【揖】〔正字通「說文、讓也、一曰、手著レ胷也、六書故、拱レ手上下左右、以相禮也」〕笏ヲ把リテ拜スル禮。江家次第、二、七日節會「宣命使、云云、當二日華門北扉下一、南向揖、西折、經二公卿列南一、就二宣命版一」新任辨官抄「欲レ揖之間、以二左右手一同把レ笏（不レ顯レ手）笏本引寄前、笏上傾レ外二寸餘ニテ、身并笏共傾天揖、笏平揖、笏端不レ仰不レ昻程也」

い-ふ（名）【異父】父、異ナリテ、母、同ジキコト。タネガハリ。禮記、檀弓、上篇「公叔木、有二同母異父之昆弟一死」「異父兄弟」

い-ふ（名）【夷俘】俘囚ノ條ヲ見ヨ。

い・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ（自動、四）【言】モノイフ。言問フ。口ヲキク。古事記、上四十長歌「泣カジトハ、汝ハ伊布トモ」同、下（仁德）七長歌「知ラズトモ伊波メ」舊事紀、十二年十月、長歌「我ガ命モ、長クモガト、伊比シ匠ハヤ」

い・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ（他動、四）【言・云・曰】（一）言ニ出ダス。語ル。述ブ。話ス。古今集、序「歌ヲいひテゾ慰メケル」（二）名ヅク。稱フ。謂。雄略紀、七年八月「名二大羽主一」「上謂レ天、下謂レ地」

い・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ（他動、四）【結】結フノ轉。永久四年百首「石竹ノ、花咲ク宿ニ、イカニシテ、簡好キ竹ヲ、籬ニいはマシ」東海道名所記（萬治）三、島田「旅籠屋ノ、女ハ塵ノ、ツクモ髮、セメテ島田ニ、いふ由モガナ」諸國盆踊歌（寛文）播磨「髮ヲ島田ニ、いはウヨリ御方、心シマダニ、モチナサレ」

い-ふう（名）【異風】尋常ニ異ナル風。人並ナラヌ風俗。

い-ふう（名）【遺風】後ニ遺リタル風儀。ムカシノナゴリ。

いぶか・し・シキ・シケレ・シク・シク（形、二）【鬱悒】〔不明しト緣アル語カ、いぶかる、いぶかしむ、いぶせしヲ併セ見ヨ〕（一）オボオボシ。オボツカナシ。ムスボレテアリ。萬葉集、十二 二十「ウタテ異ニ、心鬱悒し、事計、吉爲吾ガ兄子、會ヘル時ダニ」（二）案ジ煩ヒテアリ。ユカシ。萬葉集、四 二十九「相見ズテ、ケ長クナリヌ、比日ハ、イカニ好クヤ、言鬱悒吾妹」

いぶか・し・シキ・シケレ・シク・シク（形、二）【不審】〔前條ノ語ノ轉、おぼつかなしヨリ、うたがはしニ移ル〕疑ハシ。不審ナリ。欽明紀、二年七月「未審、何緣輕用二浮辭一」同、五年二月（註）「語訛而不レ正、未詳」名義抄「不審、イブカシ」

いぶかしみ（名）【鬱悒】イブカシムコト。思ヒムスボホルルコト。萬葉集、十二 二十九「相見マク、欲シケクスレバ、君ヨリモ、吾レゾマサリテ、伊布可思美スル」同、三十「在千潟、在リナクサメテ、行カメドモ、家ナル妹伊、鬱悒セム」

いぶかし・む・ム・メ・マ・ミ・メ（他動、四）【鬱悒】イブカシク思フ。思ヒムスボホル。氣ガフサグ。萬葉集、十 二十二「秋萩ノ、散リユク見レバ、鬱悒三、戀ヒスラシ、小牡鹿鳴クモ」同、十一 二十四「眉根搔キ、心伊布可之美、念ヘリシ、妹ガ容儀ヲ、今日見ツルカモ」

いふ-かた-な・し・キ・ケレ・ク・ク（形、二）【無言方】言フベキ方法無シ。イハムカタナシ。枕草子、十一、百三十三段「メデタウ興アルサマ、いふかたなし」

いふ-かひ-な・し・キ・ケレ・ク・ク（形、二）【無言甲斐】〔此語、上略セラレテ、ふがひなし、かひなしトナル〕（一）言ヒテ、詮ナシ。イヒガヒナシ。源、四、夕顏五十三「心ノ內ニハ、いふかひなく悲シキ事ヲオボスニ」大和物語、下「制スベキヤウモナクテ、いふかひなし」（二）イクヂナシ。フガイナシ。伊勢物語、二十三段「モロトモニ、いふかひなくテアラムヤハ」蜻蛉日記、中、上卅「いふかひなき聲引キ出デテ、歌ヒテ行ク」同、下、上三十「年ヨリモ、イト小サク、いふかひなく幼ゲナリ」

いぶか・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）【鬱悒】イブカシクアリ。オボオボシクアリ。イブセクアリ。鬱陶シクアリ。萬葉集、九 二十二長歌「雲居雨降ル、筑波嶺ヲ、清ニ照ラシテ、言借リシ、國ノ眞保良ヲ、委曲ニ、示シタマヘバ」（山神ニ云フ）古今集、序、注「王仁ト云フ人ノ、いぶかり思ヒテ」

いぶか・る・ル・レ・ラ・リ・レ（他動、四）【訝】〔前條ノ語ノ轉、おぼおぼしヨリ、疑ふ意ニ移ル〕不審シク思フ。怪シミ疑フ。名義抄「訝、イブカル」

いぶき（名）【息吹】イブクコト。息。神代紀、上 二十二「天照大神ノ「吹棄氣噴之狹霧」（氣噴、此云二伊浮岐一）」風ノ吹クハ、神ノ息ヲ吹キタマフナリトテ、風ニモ云フ。神代紀、上 十「伊弉諾尊ノ「吹撥之氣、化爲神、號曰二級長戶邊命一」云云、是風神也」萬葉集、二 三十五「度會ノ、齋宮（大神宮）ヨ、神風ニ、伊吹き惑ハシ、天雲ヲ、日ノ目モ見セズ、常闇ニ、覆ヒタマヒ、云云」

いぶき（名）樹ノ名、いぶきびゃくしんノ略。

いぶき-とらのを（名）【伊吹虎尾】〔初メ、近江ノ伊吹山ヨリ出ヅ、以下、伊吹ヲ冠スル語、皆、同ジ〕草ノ名。葉ハしのねニ似テ、小サク狹ク厚クシテ、深綠ナリ、夏ノ初、一二尺ノ薹ヲ出シテ、梢ニ、穗ヲナシテ、小花簇リ開ク、六瓣ニシテ、淡紅ナリ。拳參

いぶき-ばうふう（名）【伊吹防風】草ノ名。葉ノ形、胡蘿蔔ニ似テ、毛ナク、深綠ナリ、高サ二三尺ノ薹ヲ出シ、夏、枝ヲ分チテ、小白花集リ開ク、芹ノ如シ、根ヲ防風ニ代ヘテ、藥用トス。邪蒿

いぶき-びゃくしん（名）【伊吹柏槇】略シテ、いぶき。樹ノ名。びゃくしんニ似テ、別ニ、ひのきニ似タル葉ヲ交ヘ出ス、材赤シ。檜柏

いぶき-よもぎ（名）【伊吹艾】艾ノ一種、近江ノ伊吹山ノ麓ニ多シ。高サ丈餘ニ及ブ、葉モ尺ニ過ギテ、香氣少ク、背ニ白毛多シ、故ニ、うらじろノ名モアリ、多ク、もぐさニ製ス。一名、オホヨモギ。ヌマヨモギ。蔞蒿

い-ふく（名）【衣服】キヌ。コロモ。キモノ。衣裳。詩經、小雅、小旻之什、大東篇「西人之子、粲粲衣服」論語、泰伯篇「惡二衣服一而致二美乎黻冕一」

い-ふく（名）【異腹】コトハラ。ハラチガヒ。ハラガハリ。異母。

い-ぶ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ（自動、四）【息吹】〔いきふくノ略、息競ふ、いきほふ、（勢）同趣〕（一）息ヲ吹ク。雄略即位前紀「呼吸氣息、似レ於二朝霧一」大祓詞「氣吹戶主ト云フ神、根ノ國、底ノ國ニ氣吹き放チテム」（二）風、吹ク。息吹ノ條ヲ見ヨ。萬葉集、二 三十五長歌「神風ニ、

いふけいてい（名）［異父兄弟］タネガハリノ兄弟。 伊[illegible]

いぶし（名）［燻］（一）燻スコト。（二）硫黄ヲ燻シテ、金銀器ニ、烟黑ノ色ヲツクルコト。（三）カヤリビ。カイブシ。

いふきう（名）［揖譲］いつきう（揖譲）ノ條ヲ見ヨ。

〜いふす［射伏］射中テテ倒ス。 [illegible]日記、中、上「[illegible]のり弓、云云、いふせラレヌ」

いぶす・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）［燻］火鬱ル他動、とぼる、とぼす」（一）物ヲ焚キテ、烟ヲオコスヿ。フスベル。クスベル。訛リテ、えぶす。（二）炙リ燒ク。イビル。「乾魚ヲいぶす」（三）金物ニ、燻ラ付ク。（燻ノ（二）ヲ見ヨ）（四）蚊遣火ヲ焚ク。「天ノ川[illegible]ツラヌイテ、蚊ヲいぶす也」（五）蚊ヲいぶすガ如ク、人ヲ責メ苦シムル。イビル。イヂメル。苛責

いぶせし・キ・ケレ・ク・ク（形、二）［鬱悒］〔鬱悒狹しノ義ナルベシ、いぶかし、こゝろせしノ語原ヲ見ヨ〕（一）〔心ムスボホレテ、ユカシク戀シ。萬葉集、十一「[illegible]」[illegible]（二）鬱陶シ。氣ガフサグ。萬葉集、四[illegible]「ヒサカタノ、雨ノ降ル日ヲ、唯獨リ、山邊ニ居レバ、鬱[illegible]有ケリ」同、八[illegible]「雨[illegible]、心鬱悒ミ、（イブセサニ）出デ見レバ、春日ノ山ハ、色ヅキニケリ」同、十[illegible]「[illegible]」（三）厭ハシク、キタナシ。[illegible]石集、一、上、[illegible]ニテ[illegible]シテ侍ルガ、云云、人ハいぶせき事ニ思ヒテ、見訪フ者モナシ」

〜いふならく（名）［謂道］〔言ふなるノ延、いはく（曰）ノ條ヲ見ヨ〕言フコト。言フヤウ。[illegible]「[illegible]、イフナラク」

いふもおよぶ（句）言フニ及ブヤハ。言フマデモナシ。

いふえ（句）［言者］イフモノハ。イッパ。「カクいふえ」

〜いふばかりな・し・キ・ケレ・ク・ク（形、二）［無言許］言ヒモ盡サレズ。言ハム方ナシ。不可言 宇津保物語、あて宮十「少將、いふばかりなく泣キ惑ヒテ」拾玉集、二「[illegible]眺ムレバ、袖コソカネテ、[illegible]ルメレ、いふばかりなき、空ノケシキニ」

いぶん（名）［異聞］コトナリタル、キキゴト。[illegible]、季氏篇「子亦有異聞乎」

いぶん・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ（他動、左變）［以聞］申シ上グ。キコエタテマツル。奏上ス。上聞ス。（臣民ヨリ、天子ニ）[illegible]、倉子[illegible]、有司以聞曰、云云」漢書、武帝紀[illegible]吏民能假貸貧民者以聞」

〜いふやう（副）［言樣］言フサマハ。言フコトニハ。竹取物語「翁、カグヤ姬ニいふやう」「彼ノ人ノいふやう」

〜いぶり（名）［憤］〔息吹ノ轉、振、揮、相通ズ、詞ハ出サズ、息吹くガ如ク怒ル意ナルベシト云フ〕イキドホルコト。心ニ怒ルコト。神代紀、上「[illegible]、有憤恨以安忍」[illegible]私記「伊夫理流」（安忍ノ字ハ、左傳、隱公四年ニ「安忍無親」[illegible]、[illegible]ト）アリ、殘害ハルル方ヨリ用キタルカ）心中萬年草（寶永、近松作）中「甘ヤカサレテ、親ニ、我儘言ヒシナラハシモ、心ニ[illegible]持タレバ、いぶりモナラズ、[illegible]ラレズ」

いぶり（名）［火鬱］イブルコト。

いぶ・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）［火鬱］〔燻ると通ズ〕火、燃エズシテ、煙ル。フスブル。フスボル。クスブル。[illegible]リテ、えぶる。

〜いへ（名）［家］〔寢戸ノ義ニテ、寢所ノ[illegible]カト云フ〕（一）人ノ、住ムガタメニ作レル建物。屋。ヤケ。ヤカ。ヤカス。イハ。[illegible]古事記、下[illegible]伊勢ノアタリ[illegible]字[illegible]宅、伊戸」倭名抄、十二「[illegible]人所居處也、伊閇」（二）[illegible]家。自宅。萬葉集、十五[illegible]長歌「愛シケヤシ、伊敝ヲ離レテ」「家ニ歸ル」「家ヲ出ル」（三）妻。宇津保物語、忠[illegible]「フビンナルコトナレド、左大臣ノいへ、昔ヨリ、ヨロシカラズ、心キコユル人ナリ」（四）ウカラ。ヤカラ。家族。一族。竹取物語「右大臣[illegible]」（五）先祖ヨリ相續シ來レル、代代ノ跡。名跡。家名。「家ヲ繼グ」「家ヲ治ム」「家ノ亂レ」[illegible]人ハ、寶器カニ、家ヒロキ人ニゾオハシケル」「家ヲ興ス」（六）家柄。門地。源、二十九、行幸十二「家高ウ、人ノオボエ輕カラデ」（七）小道具ヲ納メ置クガタメニ、特ニ作レル小箱ノ類。鏡箱ヲ鏡の家ナド云フ、是レナリ。萬葉集、四四十「人事ヲ、繁ミヤ君ヲ、二鞘ノ、家ヲ隔テテ、戀ヒツツ居ラム」倭名抄、十三「鞘、刀室也、佐夜」下學集（文安）下「[illegible]、刀子室也」家を出づ、家を捨つトハ、僧トナル（出家ス）（俗家ヲ出デテ、佛門ニ入ル意）[illegible]、三十九、[illegible]「ヒトタビ家を出でタマヒナバ、カリニモ此世ヲ顧ミムトハ、オボシオキテズ」續古今集、十九、[illegible]、下「サテモマタ、何處ヲツヒノ、スミカトテ、家を出でムト、思ヒタツラム」

いべ（名）［射部］射手ノ部曲。

いへう（名）［意表］オモヒノホカ。意外。案外。[illegible]

〜いへかぜ（名）［家風］我ガ家ノ方ヨリ吹キ來ル風。又、我ガ家ヨリ[illegible]、[illegible]ト六、[illegible]萬葉集、二十[illegible]「[illegible]、日ニ日ニ吹ケド、吾妹子ガ、伊倍其登モチテ、來ル人モナシ」

いへがまへ（名）［家構］家ノ[illegible]。イヘヅクリ。

いへがら（名）［家柄］〔柄ノ條ノ（二）ヲ見ヨ〕（一）家系ノ品位。門位 「家柄高シ」「家柄低シ」（二）專ラ、高キ家柄。名家。門閥 「家柄ノ生レ」

いへかり（名）［家借］他人ノ家ヲ借リテ住ムコト。借家。

〜いへごと（名）［家言］いへかぜ（家風）ノ條ヲ見ヨ。

いへごみ（名）［家籠、家込］家ノ、キビシク建チツヅキタルコト。

いへざくら（名）［家櫻］人家ニ咲ケル櫻。（山櫻ニ對シテ）新古今集、十六、雜、上「[illegible]河院ニオハシマシケル頃、[illegible]ノ[illegible]ラセニ遣ハストテ、圓融院御製「垣ゴシニ、見ルアタ人ノ、家櫻、花散ルバカリ、行キテ折ラバヤ」

いへすぢ（名）［家筋］一家、代代相續ノ系。家系

いへぢ（名）［家路］（一）其家ノ方ヘ行ク路。萬葉集、[illegible]（二）[illegible]家ニ歸ル路。歸路。[illegible]「[illegible]、イトド家路ゾ、イソガレス、待ツラムト思フ、人シナケレバ」

〜いへついも（名）〔家之芋ノ義、山の芋ニ

對ス」 さといもノ古名。本草和名、下、三十一「芋、以倍都以毛」倭名抄、十七「芋、以閉都以毛、葉似₂荷₁、其根可₂食₁之」

いへ-づかさ (名) 家司 家司ニ同ジ。ケイシ。源、三十四、上、若菜、上、廿七「大納言ノ朝臣ノいへづかさ、望ムナル」

いへ-つき (名) 家附 元ヨリ、其家ニ屬キタルコト。「家附ノ祿」家附ノ女」

いへ-つぎ (名) 家繼 かとく(家督)ノ(二)ニ同ジ。

いへ-づくり (名) 家作 家ノ造法。イヘガマヘ。ヤヅクリ。家作。結構 源、十五、蓬生、四「此頃、受領ドモノ、面白キ家づくり好ムガ」

いへ-つづき (名) 家續 家家ノ、建テ連リテアルコト。比屋

いへ-づと (名) 家裹 我ガ家ニ持チ歸ル苞苴。家ヘノみやげ。萬葉集、三三十九「伊勢ノ海ノ、沖ツ白波、花ニモガ、裹ミテ妹ガ、家裹ニセム」同、十五、八二十「伊敝豆刀ニ、貝ヲ拾フト、沖邊ヨリ、寄セクル波ニ、裳ノ裾濡レヌ」

いへ-つ-どり (枕) 〔家之鳥ノ義、庭つ鳥ト同意〕鷄ノ枕詞。萬葉集、十三、五廿九長歌「家鳥、鷄モ鳴ク」

いへ-で (名) 家出 (一)家ヲ出デテ、他ヘ行クコト。他出。外出。詞花集、九、雜、上「サビシサニ、家出シヌベキ、山里ヲ、今宵ノ月ニ、思ヒトマリヌ」(二)家ヲ出デテ、再ビ歸ラヌコト。出奔。逐電。出蹤 (三)〔僧ニナルコト。出家。欽明紀、十六年八月「無₂勞出俗₁、如欲₂果₁願、須₂度₂國民₁」推古紀、二十二年八月「大臣臥₂病、爲₂大臣₁而男女井一千人出₂家」

いへ-とうじ (名) 家刀自 次次條ヲ見ヨ。

いへ-どころ (名) 家所 スミカ。スマヒ。住居。屋敷。神武紀、十八「賜₂道臣命宅 地₁」萬葉集、九十九長歌「水ノ江ノ、浦島ノ子ガ、家 地見ム」

いへ-とじ (名) 家刀自 其家ノ刀自。家ノ妻ノ尊稱。延ベテ、いへとうじ。内儀。主婦。靈異記、中、第十六條「家室、告₂家長₁曰」訓釋「家室、家刀自」遊仙窟「主人母」伊勢物語、四十四段「疎キ人ニシアラザリケレバ、いへとうじニ盃ササセテ」加茂保憲女集「玉ノ臺ノいへとうじトモ成リテ」

いへ-ども (助) 雖 〔漢文ノ訓讀ヨリ來ルナリ〕云ふけれども、ト云ヒテ、確定ノ意ヲ表ハス語。大學「心誠求₂之、雖₂不₂中不₂遠矣」

いへ-な (名) 家名 其住宅ノ呼名。南家、北家、小松殿、門脇殿ノ如シ。又、商家ニテ、梅屋、菊屋、伊勢屋ノ如シ。屋號トモ云フ。(屋ノ條ヲ見ヨ)

いへ-なし (名) 無家 住居定マラズ、流浪シテアルコト。「三界ニ家なし」

いへ-なみ (名) 家並 (一)家家ノ、並ビタルコト。家並。比屋「家並ノ好イ町」(二)家毎ニモノスルコト。カドナミ。家家「家並ニ稅ヲ出ス」

いへ-にれ (名) 蒐葵 〔東雅、十二ニ、いへト云フハ、いへついも(芋)ノ如シ、にれハ滑ナリ、煮テ食フニ、なめらかナレバ云フト〕せつぶんさうノ古名。倭名抄、十七「野菜類「蒐葵、以倍仁禮」

いへ-ぬし (名) 家主 (一)〔家ノ主人。枕草子、一、第四段「家ぬしナレバ、案内ヲヨク知リテ」(二)貸家ノ持主。ヤヌシ。又、其取締リ

スル人。大屋。(江戶)

いへ-の-いも (名) 芋 さといもニ同ジ。いへついも。字類抄「芋、イヘノイモ」

いへ-の-かぜ (名) 家風 〔漢語ノ、家風ノ文字讀〕家風。其家、代代傳フル業。拾遺集、八、雜、上「久方ノ、月ノ桂モ、折ルバカリ、家ノ風ヲモ、吹カセテシガナ」(桂ノ條ノ(二)ノ、桂を折るヲ見ヨ) 源、三十四、上、若菜、上、四十四「家の風ノ、サシモ吹キ傳ヘ侍ラムニ」山家集、下「家のかせ、吹キツタヘケル、カヒアリテ、散ル言ノ葉ノ、メヅラシキカナ」(何レモ、家名ヲ揚グル意ナリ)

いへ-の-きみ (名) 家君 其家ノ主人。イヘヌシ。枕草子、十二、百五十六段「家の君ニテアルニモ、誰レカハヨシアシヲ定ムル」

いへ-の-ぐ (名) 家具 家ノ内ニテ用キル道具。家具。イヘノモノノグ。家ノ具足。宇津保物語、國譲、下、四十四「厨子、唐櫃、几帳、屛風ヨリ始メテ、人ノ家の具アリ」宇治拾遺、二、十二條「子孫ドモニ、いゑの具足共オホセ持タセテ、己レモ持チテ、手惑ヒシテ、皂移リシヌ、云云、子マゴモ引具シテ、家のものの具、一モ失ハズシテ」

いへ-の-ぐそく (名) 家具足 前條ヲ見ヨ。

いへ-の-こ (名) 家子 (一)〔其家ニ生レタル人。同ジ家門ノ人。萬葉集、五三十一長歌「天ノド、奏シタマヒシ、家子ト、選ビタマヒテ、云云、唐ノ、遠キ境ニ、ツカハサレ」(天平五年、遣唐使、多治比廣成ニ贈リシ詠ナリ、廣成ハ、宣化天皇ノ裔ナリ) (二)次男、三男以下、支族ノ者ノ、其本家ノ從僕トナレルモノ。庭子。家人。吾妻鏡、三、元暦元年九月十四日「河越太郎重頼、息女上洛、云云、家子二人、郎從三十餘輩、從₂之」(三)後ニハ、タダ、其家ニ仕フル從僕ノ者。家僮

いへ-の-しふ (名) 家集 〔勅撰ノ歌集ナドニ對シテ云フ語ナルベシ〕其人ノ詠メル和歌ノミ集メタル書。家集。一人ノ歌集。貫之、躬恆、伊勢、中務、源順、能宣、好忠ノ集、散木弃歌集、(俊賴)山家集、(西行)拾遺愚草(定家)ナド、是レナリ。

いへ-の-とぎ (名) 家研 本阿彌氏ノ家ニテ、刀劍ヲ研グコトノ稱。鎌倉時代ノ末ニ、相摸ノ鎌倉ニ、妙本阿彌ト云フ者アリテ、刀劍ノ新古、眞贋ノ目利、幷ニ、磨礪ヲ業トシタルガ、足利尊氏ニ從ヒテ、京都ニ移住セリ、松田氏ナリ。其子、本阿彌氏ヲ家名トシテ、代代相繼ギテ、德川氏ニ仕ヘタリ。

いへ-の-にようばう (名) 家女房 貴族ノ奧ニ仕フル女中。落窪物語、一「三河守殿ハ、德川殿第二ノ御子、御母ハ家の女房」

いへ-の-もののぐ (名) 家物具 いへのぐヲ見ヨ。

いへ-の-もん (名) 家紋 紋ノ條ヲ見ヨ。

いへ-の-ゑ (名) 家繪 狩野派ノ條ヲ見ヨ。

いへ-ば-えに (句) 〔にハ、不ノ轉〕言ヘバ、言ヒ得ズ。エ、イハレズ。六帖、四、恨「いへばえに、言ハネバ苦シ、世ノ中ヲ、歎キテノミモ、藎スベキカナ」新千載集、十三、戀、三「いへばえに、コガルル胸ノ、逢ハデノミ、思ヒ暮セル、ケフノ細布」

いへ-ばち (名) 家蜂 蜜蜂ノ、人家ニ畜フモノ。

いへばと (名) [家鳩] はとノ條ヲ見ヨ。

いへばへ (名) [家蠅] 蠅ノ一種。普通ニ、人家ニ住ムモノ。

いへびと (名) [家人] (一)我ガ家ノ人。家族。萬葉集、[illegible]「[illegible]島、齋ヒ待ツラム、旅行ク我レヲ」(二)家ニ仕フル人。家人。[illegible]ニコソアラネド、ナホ親シキ家人ノ内ニハ、數ヘタマヒケリ」(三)貴族ノ家ニ出入、伺候スル人。伊勢集「前栽植エテ、砂鋪ヒケルニ、家人ニモアラヌ人ノ、參ラムトテ、砂子オコセタルニ、アキカタノ少將ナリケリ」

いへぼり (名) [家彫] 後藤彫ノ條ヲ見ヨ。

いへん (名) [異變] 常ニ異ナリ變レル事。非常ノ事。

いへむら (名) [家群] 家ノ、群リテアル所。[illegible]

いへもち (名) [家持] (一)一家ヲ立テテ居ル主人。戶主。[illegible] (二)一家ノ生計ヲアツカフコト。

いへもと (名) [家元] 道藝ナドニテ、其流派ノ正統ナル家。[illegible]

いへもり (名) [家守] 人ノ家ヲ守リテ居ル人。ヤモリ。和泉式部集「カク書キテ、家もりニ取ラセテ、オハシヌ」

いへやう (名) [家樣] 書風ノ名。オイヘリウ [illegible] 餘、一、世尊寺、清水谷ハ、能書ノ家也、是ヲ家樣ト云

いへらく [illegible]

いへゐ (名) [家居] 家ニ住ムコト。家ヲ作リテ住フコト。住處。[illegible] 近キ人ノ、家居、アリサマ」

いへゐる ヰル・ヰレ・ヰ・ヰ・ヰヨ (自動、上一) [家居] 家ヲ作リテ、住ミ居ル。貫之集、一「山里ニ、香ヲタヅネテヤ、梅ノ花、ニホヘル里ニ、いへゐソメケム」

いほ (名) [庵] 草木ヲ結ビテ作レル、假ノ家。カリホ。クサノカリヤ。[illegible]

いほ (數) [五百] [五ト、百トヲ見ヨ] (一)五百。萬葉集、八「[illegible]「五百代小田」」竹取物語「[illegible]」(二)數ノ多キヲ云フ語。[illegible]

いぼ (名) [疣] [いひぼノ約] (一)古言、イヒボ。タリ。病ニ因リテ、皮膚ノ大キサニ、凸ニ、肉ノ生ズルモノ。[illegible] (二)スベテ、疣ノ如ク突起シタルモノ。[illegible]棒ナドニ云フ。

いぼ (名) [異母] ハラガハリ。ハラチガヒ。異腹。(同母ニ對ス) [illegible]「異母兄」「異母弟」

いぼうじり (名) [螳螂] [いひぼむしり] ノ條ヲ見ヨ。かまきりニ同ジ。

いぼがへる (名) [疣蛙] 古名、ツチガヘル。かへるノ一種。形頗ル大キク、色黑ク、背ニ疣多クシテ、臭シ。ガマ。クソガヘル。[illegible]

いぼく (名) [異木] 常ニ異ナリテ、珍シキ樹。[illegible]「[illegible]草而一レ香」「珍禽、異木」

いぼくさ (名) [疣草] いぼとりぐさニ同ジ。

いぼくひ (名) [螳螂] [いひぼむしりノ條ヲ見ヨ] かまきりニ同ジ。(相模)

いほさす ス・セ・サ・シ・セ (自動、四) 庵ヲ作ル。又、いほりさす。新古今集、四、秋、上「秋ノ田ニ、いほさす賤ノ、苫ヲ粗ミ、月ト共ニヤ、モリアカスラム」詞花集、四、冬「庵りさす、楢ノ木蔭ニ、漏ル月ノ、曇ルトモレバ、[illegible]」續古今集、十、[illegible]、夕[illegible]、シバシナ暮レソ、いほりさすマデ」

いぼしめぢ (名) いぼたけニ同ジ。

いぼむしり (名) [螳螂] [いひぼむしりノ條ヲ見ヨ] かまきりニ同ジ。

いほしろをだ (名) [五百代小田] 五百代アル小田。廣キ田面。萬葉集、八「[illegible]、五百代小田ヲ、刈リミダリ、田ブセニ居レバ、[illegible]、いほしろ小田ニ、[illegible]テケリ」

いぼぜ (名) [疣背] 魚ノ名、いぼだひニ同ジ。

いぼた (名) [水蠟樹] (一)次次條ノ語ノ略。(二)いぼたらふノ略。

いぼたけ (名) [疣茸] ゑめぢノ類ニシテ、一顆ニ叢生シ、初生ハ、疣ヲ積ミタルガ如シ。イボシメヂ。

いぼたのき (名) [水蠟樹] [いぼたハ、[illegible]] [illegible] 三四寸ナリ、[illegible] 白花、[illegible] ラズ、おほめばなノ名アリ、實、熟スレバ黑ク、鼠ノ糞ニ似タリ。ゴネズ。樹ヨリ、いぼたらふヲ生ズ。(次次條ヲ見ヨ)

いぼだひ (名) [疣鯛] まながつをノ一類ニシテ、小サキモノ。長サ五六寸、頭小サク、身圓ク、目ノ上突リ、背ニ連リテ、[illegible]ヲ塗レル如クニテ、淡紅ヲ帶ブ。イボゼ。

いぼたらふ (名) [蟲白蠟] 一略シテ、いぼた。[illegible] 二生ズル者ニ、最多シ、其巢、白クシテ、[illegible] テ、水ニテ煮テ、布ニテ漉シ、[illegible] 戶、善ク走ル、故ニ、さすべり、とばしり、ノ名アリ。

いぼぢ (名) [疣痔] 痔ノ一種、肛門ノ邊ニ、疣ノ如キ[illegible] ホドアリ、大イナルハ[illegible]ノ如ク、[illegible] 色ナリ。

いほつ (數) [五百箇] 數多キヲ云フ語。いほ(五百)ノ條ヲ見ヨ。

いぼ-とり-ぐさ (名) 【疣取草】 水邊ニ生ズル草。形、つゆくさニ似テ、細長シ、夏、枝ノ梢毎ニ小花ヲ開ク、三瓣ニシテ、形、どちかがみノ花ニ似テ、色、淡紫ナリ、能ク疣ヲ治スト云フ。イボクサ。水竹葉

いぼ-にし (名) 【疣螺】 いはにしニ同ジ。

いぼひ (名) 【灸傷】 灸ノ痕ノ、イボフコト。イボリ。

いぼ-ひ (名) 【疣結】 いぼゆひニ同ジ。

〜いほ-ひき-いは (名) 【五百引石】 〔千引の岩モアリ〕 五百人ノ力ニテ引キ動カシ得ベシト云フ大石。古事記、上三十六「五百引石、取二置其室戸一」

いぼ・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (自動、四) 【灸傷】 いぼるノ轉。望一後千句(慶長)「いぼひサヤリシ、灸ノカズカズ」

〜いほ-へ (數) 【五百重】 多ク重ナリタルヲ云フ語。いほ(五百)ノ條ヲ見ヨ。

い-ほん (名) 【異本】 同ジ書ニテ、傳來ナドニ因リ、文句ノ、處處、異ナルモノ。南史、王僧孺傳「僧孺好二墳籍一、聚レ書至二萬餘卷一、率多二異本一」

いぼ-むし (名) 【螳螂】 〔いひぼむしりノ條ヲ見ヨ〕 かまきりニ同ジ。

いぼ-むしり (名) 【螳螂】 〔いひぼむしりノ條ヲ見ヨ〕 蟲ノ名、かまきりニ同ジ。

いぼ-ゆひ (名) 【疣結】 縄、紐ノ結樣ノ名。端ヲ中ニ出シ、ソノ周ヲ絡ヒ、引キ通シテ結ブ、形、疣ノ如シ。約メテ、いぼひ。

〜い-ほり (名) 【霧氣】 〔氣昇ノ略ト云フ、いきぶき、いぶき。(氣噴)なみのおり、なおり(波殘)〕 雲霧ノ、立チノボルコト。大祓詞「高山ノ伊穗理、短山ノ伊穗理ヲ撥キ別ケテ」

いほり (名) 【盧庵】 (一)〔イホルコト。盧ニ宿ルコト。萬葉集、一 廿五「氣長キ妹ガ、廬利セリケム」同、十五 廿「田鶴ガ音ノ、聞ユル田居ニ、五百入シテ、吾ガ旅ナリト、妹ニ告ゲコソ」 (二)〔盧。萬葉集、十四 十九「秋田苅ル、旅ノ廬入ニ、時雨フリ、我ガ袖濡レヌ、乾ス人ナシニ」 (三)〔軍隊ノ、一時宿ル所。軍營 倭名抄、十 十二「營、伊保利、軍營也」神武卽位前紀、十二「徙二營於別處一」 (四)次次條ノ語ノ略。

いぼり (名) 【灸傷】 灸ノ痕ノ、イボルコト。イボヒ。

いほり-がた (名) 【庵形】 山形。屋根形。將棋頭ノ像。紋所ナドニハ、兩柱ヲ添フ。略シテ、いほり。「庵ニ木瓜ノ紋所」庵點」庵看板」

いほり-かんばん (名) 【庵看板】 上部ヲ庵形ニシタル看板。一枚看板、及、名題役者ノ條ヲ見ヨ。後者昔物語「御アヤツリトイフいほり看板ハ、其ノ時ヨリナド云ヒシ」

いほり-さ・す (動) いほさすニ同ジ。

いほり-てん (名) 【庵點】 庵形ノ點。箇條書キノ文書、連書ノ和歌、連署ノ姓名ナドノ肩ニ、〽ノ如ク、朱墨ニテ記スモノ。閱シタル證、可トシタル證トス。武者物語「人ノ名ナドニ點ヲカクルハ、いほり點ヲ忌ムベキ儀アリ、首帳ニ點カクルニ、いほり點ヲ用フル故ナリ」

〜いほ・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 【盧】 〔盧ヲ活用セシム、宿るノ例〕 盧ニ宿ル。萬葉集、二十 四十二 長歌「荒磯回ニ、廬作而見レバ、浪ノ音ノ、繁キ濱邊ヲ、云云」同、六 二十八「河口ノ、野邊ニ廬而、夜ノ歷レバ、妹ガ袂シ、念ホユルカモ」

いぼ・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 【熇】【灸傷】 灸ニテ燒キタル痕、爛ル。轉ジテ、いぼふ。字鏡集「熇、イボリス、ヤク」王充、論衡「中身則皮膚灼熇」玉篇「本作レ焚」

〜い-ま (名) 【今】 目ノ前ノ時。サシアタル時。マノアタリ。現在。目下。古事記、上 二十九 長歌「伊麻コソハ、千鳥ニアラメ、後ハ、ナドリニアラムヲ」佛足石歌「伊麻ノ藥師、タフトカリケリ」伊勢物語、三十二段「古ノ、賤ノヲダマキ、繰リカヘシ、昔ヲいまニ、ナス由モガナ」

〜いま (副) 【今】 (一)スミヤカニ。急ニ。古事記、中(神武)九 長歌「戰ヘバ、我レハヤ飢ヌ、島津鳥、鵜飼ガトモ、伊麻助ニ來ネ」 (二)新タニ。神代紀、下 十二「汝應レ住二天日隅宮一者、今當二供造一」土佐日記、二月十六日、松「片枝ハナクナリニケリ、今生ヒタルゾ、雜レル」 (三)程過ギヌ間ニ。近キウチニ。オッツケ。ヤガテ。古事記、下(雄略)三十一「汝不レ嫁夫、今將レ喚」萬葉集、十三 廿七「痛クシ戀ヒバ、今歸リ來ム」古今集、四、秋、上「今日ヨリハ、いま來ム年ノ、昨日ヲゾ、イツシカトノミ、待チワタルベキ」 (四)少シ前ニ。イマガタ。イマシガタ。タッタイマ。最前。「いま來テ歸ッタ人」

〜いま (接頭) 【今】 〔今更ノ意カ〕 コノウヘニ。更ニ加ヘテ。マ。モ。モウ。更 萬葉集、八 十五「吾ガ宿ノ、萩ノ花咲ケリ、見ニ來マセ、今二日バカリ、アラバ散リナム」催馬樂、難波海「漕ギモテノボル、小舟大舟、云云、以末スコシノボレ、山崎マデニ」「いまヒトツ」いま一日」いま一度」

いま-いま・し・シキ・シケレ・シク・シク (形、二) 【忌忌】 〔齋むノ未然形ノ、いまヲ活用ス、いたむ、いたまし〕 (一)〔齋ミ愼ムベクアリ。イミジ。ユユシ。源、一、桐壺 十七「ユユシキ身ニハベレバ、カクテオハシマスモ、いまいましうカタジケナク、ナド宣フ」狹衣、一、上 三十七「月日ノ光ニモアテジト、危クいまいましき物ニ思ヒタルモノヲ」 (二)忌ミ嫌ハシ。イマハシ。著聞集、五、和歌「いまいましきエセモノニテナム侍リケレドモ」同、十一、畫圖「古キ繪ノ、いまいましゲニ破レタルヲ、二三卷」吉野拾遺「其頃モ、世ノサワギノ中ナレバ、供奉ノ人人トテモ乏シク、いまいましき御狀ニテ、嶮シキ山路ヲ凌ガセタマフ」 (三)嫌ハシク憎ク、腹ダタシ。「いまいましき奴」

〜いま-いま-と (副) 【今今】 (一)今カ今カト。古今集、十六、哀傷「俄ニ病ヲシテ、いまいまとナリニケレバ」 (二)今ニ今ニ。チカヂカニ。ヂキニ。落窪物語、四「いまいまと云ヒテ、更ニ思ヒモ立タネバ」

いま-いり (名) 【今入】 新ニ入リ來レル者。新參。好色一代男(元祿、西鶴)四「ひとや、云云、今入ノ小男」

いま-がた (副) 【今方】 暫シ前ニ。イマシガタ。タッタイマ。サイゼン。適間 「いまがた見タリ」

いまがは-やき (名) 【今川燒】 〔江戸、今川橋ニテ賣リ始メタルニ起ルト云フ〕 銅版ニ、ごまのあぶらヲ延キ、銅ノ輪ヲ載セ、うどんこヲ水ニ溶シタルヲ注ギ入レ、餡ヲ包ミ、打返シテ炙キタルモノ。

〜いま-き (名) 【今來】 新ニ來レルコト。イママキリ。新參。新來 儀式、六、元正朝賀「番上隼人、今來隼人」韓人、漢人ナドノ、新ニ歸化シタルニモ云フ。新歸化 雄略紀、七年八月「百濟所レ貢、今來才伎」推古紀、十六年九月「新漢人大國」

い-まき (名) 【湯卷】 〔ゆまきノ轉、神齋氣、神今食。ゆく、いく。(行) ゆばり、

いばり(尿)」(一)湯卷ニ同ジ。貴人ノ浴ニ[illegible]着ル者ノ、衣服ノ上ニ卷キ着ル服。侍中群要、五「今支、參ニ仕御湯殿一之人、所レ著[illegible]」(二)女ノ湯具。女褌。

いまおろ (名) 今頃 今ノ時ノ頃。「昨日ノ今頃」明日ノ今頃」

いまさかもち (名) 今坂餅 餅ニ餡ヲ包メルモノ。形、卵ノ如シ。

いまさ・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (自動、四) 座 〔いますノ延、續キテいます意、かへす、かくさふ。(隱)かへす、かへさふ。(復)同ジ〕 います(自動、四)ニ同ジ。陰陽寮式「平ケク穩ニ、伊麻佐布ベシト申ス」 續紀、二十八、[illegible]年八月、宣命「[illegible]ノ大法[illegible]ガ、理ノ如ク[illegible]メ[illegible]佐比」

いまさら (副) 今更 次條ヲ見ヨ。

いまさらみ (副) 今更 今トナリテ、更メテ。略シテ、いまさら。萬葉集、十二三十「雨モ降リ、夜モ深ケニケリ、今更ミ、君往メヤモ、紐解キ[illegible]」六帖、五「いまさらみ、思ヒ出テジト、忍ブレド」源、五、若紫三十「いまさら、ナド忍ビタマフラハ、[illegible]ノ上ニ、[illegible]トノコモレコ」

いまし (代) 汝 〔座しノ義、敬語ニテ、みましト同義ナリ(其條ヲ見ヨ)〕 汝ニ同ジ。みまし。神代紀、上[illegible]「[illegible]汝[illegible]」雄略紀、八十八年七月「[illegible]」萬葉集、十一「[illegible]タラチネノ、母ニ問ラバ、イタヅラニ、伊麻思モ吾レモ、事成ルベシヤ」字鏡九「儞、汝也、伊万志、又、支三」

いまし (副) 今 〔しハ、指シテ云フ助辭〕 今ト云フ今。マノアタリ。スナハチ。[illegible] 名義抄、雜部「向來、イマシ、タダイマ[illegible]乃、イマシ、[illegible]十八ナニ」

いまし・む・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ (他動、下二) 戒 〔忌ましむノ義ニテ、忌ミ避ケザラしむる意〕 (一)〔心ユルスナ、ト敎フ。過ツコト勿レ、ト諭ス。名義抄「誡、訓、戒、イマシム」警、イマシム、オドロカス」 (二)禁ム。禁制ス。禁 榮花物語、[illegible]花山、カカル人ハ、世ニアリテハ、オホヤケノ御タメニ、大事出來侍リナム、カヤウノ人ハ、いましめタルコソヨケレ、ナド奏シ給ヒテ」 (三)縛ル。縛 宇治拾遺、十五、第十條「深ク罰チコメテ、重クいましめテオケ」著聞集、九、武勇「いましめタル繩、金グサリ、蹈ミ切リテ、逃レ出デヌ」

いましめ (名) 戒警 (一)イマシムルコト。心ヅクルコト。(二)〔禁制。源、一、桐壺廿「宮ノ内ニ召サム事ハ、宇多ノ帝ノ御いましめアレバ」 (三)縛ルコト。「いましめノ繩」 (四)〔備ヘ守ルコト。警戒 枕草子、四、四十四段「雪ノ山、云云、後メタケレバ、オホヤケ人、スマシ、ヲサメナドシテ、タエズいましめニヤリ」

いま・す・ス・セ・サ・シ・セ (自動、四) 座在 〔いハ、發語〕 (一)座すニ同ジ。居タマフ。イマスカリ。イマソカリ。オハス。オハシマス。ゴザル。雄略紀、四年八月、長歌「玉纏ノ、胡床ニ伊麻伺、云云、我ガ伊麻西バ、云云」私記「伊者、發語、座也、出入相兼云也」萬葉集、一廿長歌「畝火ノ、此美豆山ハ、云云、山サビ伊座す」 (二)行キタマフ。オハシマス。萬葉集、四四十「タ闇ハ、路タヅタヅシ、月待チテ、行セ吾ガ夫子、其間ニモ見ム」同、十五四 大船ヲ、荒海ニ出シ、伊麻須君、障ムコトナク、ハヤ歸リマセ」 (三)來タマフ。竹取物語「安倍ノ大臣ハ、火鼠ノ皮衣持テいましテ、カグヤ姫ニ住ミタマフトナ」

いま・す・スル・スレ・セ・セ・セヨ (自動、下二) 座在 (一)前條ノ語ノ(一)ニ同ジ。居タマフ。宇津保物語、俊蔭「[illegible]ガ子ノいませムニハ、イツキモイツキモ、カカラム」[illegible]、十、[illegible]三十三段「[illegible]ナリトテ、カク笑ヒいますゐガ恥カシ」 (二)前條ノ語ノ(二)ニ同ジ。行キタマフ。伊勢物語、第九段「カカル道ハ、イカデカいますゐ、ト云フヲ、云云」源、五十、浮舟「右大將ノ、宇治へいまする事、猶絶エハテズヤ」

いま・す・スル・スレ・セ・セ・セヨ (他動、下二) 座 座サシム。居らすノ敬語。欽明紀、十三年二月「[illegible]三尺ハ大會殿ニ[illegible]」萬葉集、十二、「雲ノ日ニ、出デニシ月ノ、高高ニ、君ヲ座セテ、何ヲカ思ハム」

いま・す (動) ゐます(歸)ノ轉。其條ヲ見ヨ。「褒ヲいます」

いますか・り・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、良變) 在 〔座すト、意ハ同ジ、只活用ノ變化ノミ異ナレリ、次條ノ、いまそかりモ、同趣〕 イマス。オハス。ゴザル。宇津保物語、忠[illegible]「イササカ立チナラブ人ナクテ、ヒトリ子ニいますかりケリ」伊勢物語、六十五段「大息所トテ、いますかりケル」大和物語、下「カク世ニいますかるト聞ク時ダニトテ、母モヤリケレバ」宇津保物語、忠[illegible]「父オトドノいますかればコソ、カクアナヅリ給へ、いますからズバ、何カツツマム」源、四十三、竹川四十「世中ヲ、心ノママニオゴリテ、ツカサ位ヲバ、何トモ思ハズ過シいますからふ(るノ延音)ヤ」

いまそか・り・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、良變) 在 〔前條ノ語ト同意〕 イマス。オハス。ゴザル。伊勢物語、七十七段「たかい子ト申ス、いまそかりケリ」撰集抄、一、第一條「ムカシ增賀聖人トイフ人、いまそかりケル」

いまだ (副) 未 「今、だまノ略、其時ニ、ナラズシテ。イマダニ、略シテ、まだ。(既まノ反) 古事記、上、長歌、「大刀ガ緖モ、伊麻陀解カズテ、襲ヲモ、伊麻陀解カネバ」萬葉集、十九、廿長歌「ホトトギス、伊麻太來鳴カズ」同、二十廿二「月數メバ、伊麻太冬ナリ、シカスガニ、霞タナビク、春立チヌトカ」

いまだいり (名) 今内裏 一時、假リニ[illegible]ハシマス皇居。枕草子、二、十七段「小一條院ヲバ、今内裏トゾイフ」榮花物語、二、花山「堀川ノ院ヲ、いまだいりトイヒテ」

いまだうしん (名) 今道心 今發リノ道心者。アラダウシン。[illegible]松作)「ナウ、ソモジモ見レバ、今道心、サゾ、ツムリガ冷エサウナ」

いまだ・し・シキ・シケレ・シク・シク (形、二) 未 イマダナリ。マダ、ソノ如クナラズ。まだし。未熟ナリ。名義抄「未、イマダシ」

いまだみ (副) 〔未まノ義〕 イマダ。イマニ。マダ。於今 「いまだみ通知ナシ」

いまどやき (名) 今戶燒 東京、今戶ノ地ニ産ズル陶器ノ稱。江戶名所圖會、七「今戶燒」

いまみ (副) 今 (一)〔今ニ至リテモ、イマダニ。源、三十一、眞木柱「如何ナリケル事ナラムト、今み心得ガタク思ヒケル」 (二)近キウチニ。オッツケ。「いまみ雨ガ降ッテコヨウ」「いまみ出テ[illegible]シマス」

いまのうへ (名) 今上 今上ニ同ジ。源、二十一、少女四十「帥ノ宮ト聞エシ、今ハ兵部卿ニテ、今のうへニ、御カハラケ參リタマフ」

いまのま (名) 今間 差當リタル、今ノ時ノ内。暫シノ内。拾遺集、九、雜、「[illegible]いまのまモ、見ネバ[illegible]シキ」續紀、二十五、天平寶字八年十月、詔「今乃間、此太子ヲ定メタマハズアル故ハ、云云」玉葉集、十、戀、二「今の間モ、イカニカ思ヒ、ナリヌルト、待ツ宵シモゾ、シヅ心ナキ」

いまは (名) 今際 死ヌル時ニ云フ語。

最後、臨終。臨死　宇津保物語、國讓、中、中三十「いまはノヲリニゾ、參テニ見奉リシ」(岸本由豆流校正本)　源、一、桐壺ニ「故大納言、いまはト爲ルマデ」同、四十、幻ニ「いまはノタ」

〔**いま-は**　(句)　今ハ限リゾ、ナド云フベキ意ノ語。　貫之集、二「海手寫キ、今はト守ヲ、漕ギ出デバ」伊勢物語、十六段「今はトテ行クヲ、最哀レト八思ヒケレド」玉葉集、十四、雜、一「月モ今はノ、西ノ山ノ端」

いまは・し・シキ・シケレ・シク・シク(形、二)　〔忌〕　〔忌ふノ未然形、いまはヲ活用ス、いとふ、いとはし。うれふ、うれはし〕　忌ムベクアリ。イミジ。ユユシ。嫌ハシ。不吉ナリ。　宇治拾遺、二、第六條「數多ノ御子タチノタメ、コトニいまはしカルベシ」著聞集、十、馬藝「モシ不慮ノ事モアラバ、公、私、いまはしカリヌベシ」

いまは・る・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四)　〔齋〕　〔いまふノ延音〕　次次條ノ、いまふ(齋)ヲ見ヨ。

いまひ-ごと　(名)　〔忌言〕　イマフコト。物忌シテ、言變フル言葉、イミコトバ。カザシコトバ。火事ヲ水流、笏(骨)ヲ尺、葦(惡)ヲよし、鰌(否)ヲ名吉、梨(無)ヲありのみト云フガ如シ。

いま・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ(他動、四)　〔齋忌〕　〔いむノ未然形ノ、いまヲ活用ス、(笑む、ゑまふ)轉ジテ、いもふ〕　齋む、忌むニ同ジ。イモフ。物忌、忌言ナド云フ語アリ。　高橋氏文ニ「令ニ火鑚ニテ、此ヲ忌火トシテ、齋ヒ由麻閉テ供ニ御食ニ」トアルハ、下二段活用ナレド、同趣ノ動詞ナルベシ。

いま-ふう　(名)　〔今風〕　いまやう(今様)ノ條ノ(一)ヲ見ヨ。

〔**いま-まゐり**　(名)　〔今參〕　新參ニ同ジ。イマキ。　源、五十、浮舟五十「サルベカラムアタリヲ尋ネテ、いままゐりハトドメタマヘ」枕草子、十一、百三十三段「マダ初ニ初シキ程ナルいままゐりドモハ、イトツツマシゲナルニ」

いま-みち　(名)　〔今道〕　古ヘノ、六町一里ナルニ對シテ、後世ノ、三十六町一里ノ里法ノ稱。

〔**いま-みや**　(名)　〔今宮〕　今、生レタヘル皇子(前ニ生レタマヒシニ對ス)　源、四十三、竹川八三十「オロカナラザリケル御宿世ナド、世人オドロク、御門マシテ、限リナウメヅラシト、此今宮ヲバ思ヒ聞エタマヘリ」

〔**いま-めか・し**・シキ・シケレ・シク・シク(形、二)　イマメクヤウナリ。當世風ナリ。　源、八、花宴ニ「奥マリタルケハヒハ立チオクレ、いまめかしき事ヲ好ミタルワタリニテ」

いま-め-がし　(名)　樹ノ名。うばめがしニ同ジ。

いま-めか・す・ス・セ・サ・シ・セ(他動、四)　イマメクヤウニナス。當世風ニナス。

〔**いま-め・く**・ク・ケ・カ・キ・ケ(自動、四)　當世風ニナル。今様ナリ。　源、四十二、紅梅ニ「北ノ方、イトハレバレシウ、いまめきタル人ニテ」

〔**いま-やう**　(名)　〔今様〕　(一)今ノ世ノ様。時様。舊様ナラヌ、新様。今風。當世風。　源、二十四、胡蝶三「戯レガマシキ、今やうノコトノ、便ナイコト、爲出デナドスル」枕草子、一、第四段「是レハ昔ノ事ナリ、今やうハ易ゲナリ」徒然草、二十二段「何事モ、古キ世ノミゾ慕ハシキ、今やうハ、ムゲニ賤シクコソナリユクメレ」　(二)今様歌ノ略。

いまやう-あはせ　(名)　〔今様合〕　今様歌ノ歌合。　百錬抄、八、承安四年九月一日「於二太上法皇御所一、有二今様合事一、[illegible]人一云云、被レ決二勝負一、[illegible]判者一」

〔**いまやう-いろ**　(名)　〔今様色〕　染色ノ名、濃キ紅梅色ナリト云フ。(西三條裝束抄、胡曹抄)　宇津保物語、藏開、上三十二「いまやう色ノ御衣、濃キ襲、奉リテ」

〔**いまやう-うた**　(名)　〔今様歌〕　〔新ニ流行リ出デタル歌ノ意〕　唱歌ノ一種、略シテ、いまやうトノミモ云ヘリ。催馬樂、風俗歌ニ次ギテ、世ニ行ハレタリ、多クハ、七音句、五音句ノモノ、四句ニテ成ル、今日、雅樂ニテハ、平調ノ越天樂ニ合セテ歌フ、佛教ノ和讃ヨリ出デタルモノナリ。以呂波歌ノ「色ハ匂ヘド、散リヌルヲ、我ガ世誰レゾ、常ナラム、有爲ノ奥山、今日越エテ、淺キ夢ミジ、醉ヒモセズ」平家物語、一、妓王事「佛モ昔ハ、凡夫ナリ、我レ等モツヒニハ、佛ナリ、イヅレモ佛性、具セル身ヲ、隔ツルノミコソ、悲シケレ」ナド、皆、佛意ヲ詠メリ。後ニハ、風物、祝意、何事ヲモ詠メリ。　紫式部日記、寛弘六年三月十一日「若ヤカナル公達、いまやう歌ウタフ」枕草子、十一、百三十五段、歌は「今やうハ長クテ、クセヅキタル」狹衣、四、下十「アヤシノ今やう歌ドモヲ、イトシラジラシキ聲ニテ歌ヒテ過グルケシキ」明衡往來、中、末、十月「遊女一兩船、於二蘆葦之間一、發二今様之歌曲一、可レ謂二象外之遊一」平家物語、五、月見事「古キ都ヲ、來テ見レバ、淺茅ガ原トゾ、荒レニケル、月ノ光ハ、隈ナクテ、秋風ノミゾ、身ニハ沁ム」拾玉集、五、今様、花「春ノ彌生ノ、曙ニ、四方ノ山邊ヲ、見ワタセバ、花サカリカモ、白雲ノ、カカラヌ峯コソ、ナカリケレ」盛衰記、十七、祇王祇女佛前事「蓬萊山ニハ、千歳歷ル、萬歳千秋、重レリ、松ノ枝ニハ、鶴巢クヒ、巖ノ上ニハ、龜遊ブ」

〔**いまやう-すがた**　(名)　〔今様姿〕　其當時ノ風、いまやう。　白氏文集、四「時世粧、時世粧、出レ自二城中一傳二四方一、時世流行無二遠近一」名義抄、米部「時勢粧、イマヤウスガタ」長明無名抄、下、近代古體「今やう姿ノ歌ノ中ニモ、好ク詠ミツルヲバ、諸家トテ、ソシルコトナシ」

〔**いまやう-だ・つ**・ツ・テ・タ・チ・テ(自動、四)　〔今様立〕　今メク。　源、五十二、手習二十二「山籠ノ御羨ミハ、ナカナカ今やうだちタル御物マネビニナム」

いまやう-のう　(名)　〔今様能〕　能ノ變體ノモノ。　文政、天保ノ頃、能役者、堀井千助、京都ノ劇場ニテ演ジ始メタリ、故ニ、千助能ノ名モアリ、男女合併ニテ演ジ、假面ヲ用キズ、舞ニ三味線ノ合方ヲ用キ、又、ちやぎり、引幕等ヲモ用キタリ。

いま-よし　(名)　〔今良〕　ごんりやう(今良)ノ條ヲ見ヨ。

いまり-づち　(名)　〔伊萬里土〕　〔次條ヲ見ヨ〕　ゑらつちノ條ヲ見ヨ。

いまり-やき　(名)　〔伊萬里燒〕　肥前國、松浦郡、大河内、三河内、有田ノ三村ヨリ産出スル磁器。伊萬里ニ出シテ、四方ニ送ル、いしやきニテ、そめつけノ創製ナリ、三河内ハ平戸ノ松浦ノ舊領ナレバ、平戸燒ト稱シ、大河内、有田ハ鍋島氏ノ舊領ナレバ、鍋島燒ト稱シ、又、ありたやきト稱ス。文祿征韓ノ時、鍋島軍ノ伴ヒ來リシ朝鮮人、李參平等ノ窯法ヲ傳フト云フ、白磁、青磁、燒付ナド、種種ノ製品アリ。

〔**いみ**　(名)　〔齋忌〕　(一)齋ムコト。忌ムコト。　持統紀、五年二月「行二月六齋一」　(二)祭事ニ、穢レヲ忌ムコト。　臨時祭式「凡緣二無限遊一請レ暇者、限日未レ滿、名學入者、不レ得レ預二祭事一」　(三)物忌。方違ナド。　源、二、帚木四十「サルベキ方ノ、いみ待チ出デ給ヒテ、俄ニマカデ給フ」　(四)喪ノ中ノ時限ノ稱。(服ノ條ヲ

見ヨ」[illegible]ナンド聞コエ給ヘバ」

いみ (名) 意味 ココロ。ココロモチ。ワケガラ。意義。[illegible]

い-み (名) 異味 尋常ニ異ナル食物。[illegible]僖、宣公四年「子公之食指動、以示子家曰、他日我如此、必嘗異味」

いみ-あけ (名) 忌明 忌ノ期ノ、果テタルコト。忌明。（服ノ條ヲ見ヨ）

いみ-あひ (名) 意味合 意味ノホド。

いみ-がかり (名) 忌掛 親族ノ忌ヲ受クベキツヅキ。喪次

いみ-がき (名) 齋垣 齋籬ニ同ジ。

いみ-がたき (名) 忌敵 忌ミ嫌フ仇。讎敵「商賣いみがたき」

いみ-き (名) 忌寸 〔今來ノ轉カ、(まさかり、みさかり。かたま、かたみ)或ハ云フ、歸化人ヲバ神宮ニ奉ル例ニテ、齋置ノ約ナリト(稻置、いなき)〕戸ノ名。多クハ韓、秦、漢、ノ歸化人ニ賜ハル、天武紀十三年十月、八色ノ姓ヲ定メラレシ時、第四等トセラル。續紀、二十二、天平寶字三年十月「天下諸姓、云云、伊美吉以二忌寸一」萬葉集、十八、廿「秦伊美吉石竹」同、八、四十「文忌寸馬養」

いみ-くら (名) 齋藏 祭器ヲ納ムル藏。上古ハ、神物、官物ヲ納メタリ。古語拾遺「神物官物亦未二分別、宮內立レ藏、號曰二齋藏一」

いみ-ことば (名) 忌詞 (一)〔忌ミテ、反對ノ語ニ言ヒ變ヘル言〕。齋宮寮式ニ、內(內典)ノ七言、中子、(佛)染紙、(經)アララギ、(塔)瓦葺、(寺)髮長、(僧)女髮長、(尼)[illegible]、(齋)[illegible]、外(外典)ノ七言、直ル、(死ヌ)ヤスミ、(病)鹽垂ル、(哭)汗、(血)撫ツ、(打ツ)菌、(宍)壤、(墓)別ノ忌詞、香燃、(堂)角筈(優婆塞) (二)泛ク、イマヒゴト。カザシコトバ。

いみ-ごめん (名) 忌御免 喪中ニ、出仕ヲ許スコト。除服ノ條ヲ見ヨ。[illegible]

いみ-さぶらひ-や (名) 齋侍屋 伊勢ノ大神宮ニアル建物、潔齋スル人ノ、コモリ居ル所。皇太神宮儀式帳「齋侍屋一閒、長各四丈、弘各一丈六尺、高八尺五寸」

いみ-じ・ジキ・ジケレ・ジク・ジク (形、二) 忌 〔齋、忌ヲ活用ス、其事ダツ意〕(一)齋ミテアリ。竹取物語「いみじく靜ニ、官ニ御文奉リタマフ」(二)甚シ。ユユシ。スサマジ。コトノホカナリ。(善惡、邪正ニ通ジテ云フ)甚。紫式部日記、寬弘五年八月十一日「御物怪ノ、いみじうコハキナリケリ」源、一、桐壺二十「いみじき贈物ドモヲ、捧ゲタテマツル」同、二、帚木廿「いみじう霙降ル夜」更級日記、三月一日「髮モ、いみじう長クナリナム」讃岐典侍日記、十月十九日「院モ、大臣殿モ、世ニいみじトモアラシマヰラセ給ハズ」宇治拾遺、二、第十條「昔、袴垂トテ、いみじき盜人ノ大將軍アリケリ」枕草子、一、第四段「いみじゲニ睡レ、アサマシゲナル犬ノ、ワビシゲナルガ」

いみ-だけ (名) 齋竹 不淨ヲ齋ムタメニ立ツル竹。[illegible]注進記「令下陰陽大夫於二祠官宗家門門一立中忌竹上禁二僧尼重輕服穢人一」

いみ-だち (名) 齋館 神館ノ(一)ニ同ジ。次條ヲ見ヨ。

いみ-どの (名) 齋殿 神事潔齋ノ時、神官ノ參籠スル所。齋館。神館。神館。皇太神宮儀式帳「禰宜齋館一院、齋殿一閒」太神宮儀式解、五「齋殿ハ、伊美登能トヨムベシ」

いみ-な (名) 諱 〔忌名ノ義、生曰レ名、死曰レ諱〕(一)〔人ノ名ヲ、死後ヨリ云フ稱。[illegible]大鏡、上、文德天皇「文德天皇、云云、いみな八道康」(二)轉ジテ、謚。大鏡、中、良房「御謚、忠仁公ト申ス」(三)[illegible]實名ノ敬語。貴人ノ名ノ一字ヲ賜ハルヲ、御諱ノ字ヲ賜ハルナド云ヘリ。

いみ-はたどの (名) 齋服殿 齋ミ淨メタル機殿。いむはたどの。神代紀、上廿「見三天照大神方織二神衣一居中齋服殿上」私記「伊美波多止乃」

いみ-び (名) 齋日 忌日 禍ナドアリトシテ、齋戒スル日。

いみ-べ (名) 齋部 いむべ(齋部)ノ條ニ註セリ。

い-みん (名) 移民 移住スル人民。後ニ、植民(殖民)トナル。

い-みゃう (名) 異名 〔異稱ノ別名ヲ云フ〕コトナルナ。マタノナ。アザナ。一名。老子、第一章「同レ出而異レ名」海人藻芥、下「內裏、仙洞ニハ、一切ノ食物ニ、異名ヲ付テ被レ召事也」祕藏抄、上「十二月ノ異名ハ、コノ賓名ヲモチテ、サキノ異名ヲバ作ナリ」長明無名抄、下「人人二百首ノ歌ヨマセ給事侍リキ、ソノタビ、イミジキ人人、ヒガ事ヨミテ、ハテニ、異名サヘツキ給ヒニキ」

いみ-わ・れる (動) 罅割 罅裂るヲ見ヨ。

い-む (名) 醫務 醫ノ事ニカカルツトメ。

い-む・ム・メ・マ・ミ・メ (自動、四) 齋 〔齋ヲ活用ス〕凶穢ヲ避ケテ、身ヲ淨メ愼ム。神ニ事フルニ云フ。イマフ。イマハル。名義抄「齋、イム、ツツシム」宇津保物語、吹上、上三十「長月ハ、いむニツケテモ、慰メツ、秋ハツルニゾ、悲シカリケル」

い-む・ム・メ・マ・ミ・メ (他動、四) 忌 〔前條ノ語ノ轉、穢事ヲ避ケ嫌フ意ヨリ移ル〕(一)嫌ヒ避ク。(穢事ヲ)神代紀、下三十[illegible] (二)憚[illegible] (三)[illegible]「小人、君子ヲ忌む」

いん (名) 印 (一)オシデ。シルシ。印形。印章。印判。判。文字ヲ、木、又ハ、金、石ナドニ刻リ付ケ、或ハ、銅ニ鑄出シタルモノ。朱、又ハ、墨ニテ、文書ニ捺シテ契トス。寶印、認印、雅印、關防印、遊印モアリ、大小官衙ノ印、民間組合ノ印ナドモアリ。[illegible]天皇[illegible]私ニ、太政官ノ印ヲサシテ」(二)[illegible]ニテ行フ、印相ノ略。其條ヲ見ヨ。

いん (名) 音 音ニ同ジ。其條ヲ見ヨ。

いん (名) 引 漢文ノ一體、序文ノ類。[illegible]初學記、古琴曲、有二九引一」文心雕龍、[illegible]序引共紀」

いん (名) 陰 (一)いんやう(陰陽)ノ條ノ(一)ヲ見ヨ。(二)カクシドコロ、玉莖。玉門。おん(陰)ノ條ヲ見ヨ。

いん (名) 淫 〔小爾雅「男女不レ以レ禮交、謂二之淫一」〕(一)淫慾。[illegible]沙石集、九、下、第九條「心ニ淫ヲ絕タサル、ナホ魔道ニ墮ツ」(二)ホゾ。シナタリ。淫水。精液。[illegible]倭名抄、二、四「精液、俗云、淫」今昔物語、二十九、四十話、蛇ト交ハリタリト夢醒メテ「蛇死テ口ヲ開キテアリ、云云、淫、口ニアリテ吐出シタル」今昔物語、二十六、第二話「身ノ內ニ淫入ヌレバ、此ナム子ヲ生ケルトナム」

いん (名) 因 佛敎ニ云フ語、いんえん(因緣)ノ條ノ(一)ヲ見ヨ。傳燈錄「欲レ知二前世因一今生受者是」

いん-あ (名) 婣亞 左傳、昭公廿五年、注「壻父曰レ姻、兩壻相謂曰レ亞」トアルヨ

リ起ル」緣戚。アヒムコ。詩經、小雅、祈父之什、節南山篇「瑣瑣姻亞、則無二膴仕一」

いん-あ (名) 暗啞・瘖瘂 聽クト、語ルトノ機能ノ、缺ケタルモノ。オフシ。オシ。瘖啞 唐書、刑法志「一歲再赦、好人瘖啞」蘇軾詩「撫レ掌笑二先生一、年來效二瘖啞一」

いん-あい (名) 陰喝 胸ノ、噎ビ塞ガルコト。又、聲ノ、シハガルルコト。後漢書、竇憲傳「陰喝不レ得レ對」

いん-あく (名) 陰惡 人ノ知ラザル、惡シキコト。雲笈七籤「人爲二陰惡一」

いん-あく (名) 隱惡 隱レテ、顯レヌ惡事。秦韜詩「高辭振二幽光一、直筆誅二隱惡一」

いん-いつ (名) 隱逸 世ヲノガレ、カクルルコト。又、其人。隱遁。後漢書、岑彭傳「招二聘隱逸一、與參二政事一、無爲而化」字類抄、疊字「隱逸」

いん-いつ (名) 淫逸・淫佚 放蕩ナルコト。タハケテ、ミダラナルコト。史記、樂書「所下以養二行義一、而防中淫逸上也」左傳、隱公三年「驕奢淫佚、所二自邪一也」

いん-いん (名) 陰隱 カクシテ、アラハサザルコト。左傳、服虔註、疏「陰隱爲レ惡也」

いん-いん (名) 陰霪 ナガアメ。賈島詩「陰霪一以掃」

いん-いん-と (副) 陰陰 クモリタルサマ。ウス暗ク、寂シキ狀。蘇軾詩「陰陰日光淡」杜甫詩「擁垣竹埠梧十尋、洞門對レ雷常陰陰」

いん-いん-と (副) 隱隱 音ノ、遠ク響キ渡ル狀。易林「雷君出裝、隱隱西行」法言「或問二大聲一曰、非レ雷非レ霆、隱隱眩眩、久而愈盛」

いん-いん-と (副) 殷殷 雷聲、砲聲、車聲ナドノ、轟キ響ク音ニ云フ語。ゴロゴロト。史記、蘇秦傳「轉轂殷殷、若レ有二三軍之衆一」

一雷聲、殷殷トシテ聞ユ」

いん-う (名) 陰雨 曇リテ、雨降ルコト。詩經、邶風、谷風篇「習習谷風、以陰以雨」同、小雅、都人士之什、黍苗篇「芃芃黍苗、陰雨膏レ之」

いん-うつ (名) 陰鬱 鬱陶シキコト。ムシアツキコト。元稹文「蒸瘴陰鬱」

いん-うん (名) 陰雲 アマグモ。庾肩吾詩「濕風含二酒氣一、陰雲助二麥寒一」

いん-えい (名) 陰曀 (一)空ノ曇リテ、風ノ吹クコト。劉基詩「白日慘二陰曀一」(二)世ノ、亂ルルコト。阮籍詩「時俗蕃而陰曀兮」

いん-えい (名) 陰翳 (一)ウスグラキカゲ。陳子昂詩「陽彩皆陰翳」(二)樹木ノカゲ。詩經、疏「枝葉茂レ地者爲二陰翳一」

いん-えい (名) 印影 印ヲ押シタル形。

いん-えん (名) 因緣 (一)〔佛敎ノ語。譬ヘバ、穀ヲ地ニ植ウレバ、稻ヲ生ズ、穀ハ因ナリ、地ハ緣ナリ、稻ハ果ナリ、然シテ、コレヲ行フコトヲ業ト云フ。因リテ、因緣、因果、因業ナド、人事ノ成立ハ、皆、因アリ、緣ル所アリテ、果ニ至ルコト、豫メ定マレリトス。智度論「眞不レ立、獨妄難レ成、因緣和合、從二顚倒一說」宇津保物語、俊蔭「日ノ本ノ國ニ、契リ結ベルいんえん有ルニヨリテ、ソノ報、豐カナルベシ」(二)由來。由緒。「謂レ、因緣」

いん-えん (名) 夤緣 〔夤、緣、連也〕寄リスガルコト。テヅルヲ求ムルコト。韓愈詩「靑壁無レ路難二夤緣一」舊唐書、令狐楚牛僧孺傳、賛「喬松孤立、蘿蔦夤緣」

いん-えん (名) 陰煙 クモルコト。劉長卿詩「徘徊忘二瞑色一、泱漭成二陰煙一」

いん-か (名) 印可 〔印、信也、可、許也〕藝術ノ、免許ニ同ジ。皆傳ノ條ヲ見ヨ。

維摩經、弟子品「若能如レ是坐者、佛所レ印可一」論語、皇侃義疏「皆被二孔子印可一也」日本敎育史料、六、舊三日月藩 廢業留、云云、武術課程ノ大概、云云、劍術、云云、(注、天心流)印可免許」

いん-かう (名) 印行 文書ヲ印刷シテ、世間ニ出スコト。印刷、發行。

いん-かつ (名) 陰黠 陰險ニシテ、ワル賢シキコト。唐書、魚朝恩傳「陰黠善宣二納詔令一」

いむか・ふ (動) 〔い ハ、發語〕向ふト云フニ同ジ。神代紀、下廿「國神有二强禦之者一」萬葉集、十三十二長歌「天ノ川、射向居リテ、一年ニ、二度會ハヌ、妻戀ヒニ」

いん-かん (名) 殷鑑 〔詩經、大雅、蕩篇「殷鑑不レ遠、在二夏后之世一」支那ノ古ヘノ夏、殷、周ノ三朝ヲ、三代ト云フ、殷人ノ戒ムベキ手本ハ、近ク、前代ノ夏ノ滅亡ナリノ意〕鑑戒トスベキ、前人ノ例。

いん-かん (名) 印鑑 (一)印形ノ見本。之レヲ鑑トシテ、其印影ヲ照シ合セ、眞僞ヲ證明スニ用キル。判鑑。(二)印ヲ押シタル券。關門ノ通行ナドニ用キル。

いん-かん (名) 陰乾 カゲボシ。抱朴子、內篇、金丹卷「乃煞レ之、陰乾百日」

いん-かん (名) 陰姦 カクレタル惡事。韓愈詩「森沈固含蓄、本以儲二陰姦一」

いん-き (名) 陰氣 (一)陰ノ氣。禮記、郊特牲篇「凡飮養二陽氣一也、凡食養二陰氣一也」(二)氣分ノ開ケヌコト。イブセキコト。幽鬱。柴據詩「玄林結二陰氣一、不レ風自寒涼」

インキ (名) 〔英語、Ink.〕西洋ノ書寫、印刷等ニ用キル、有色ノ液。墨汁。

いん-きん (名) 印金 紗、帛等ヘ、漆、糊、ヲ用キテ紋ヲ押シ、上ニ金箔ヲ貼ケタルモノ。下學集、下、絹布門「印金」

いん-きん (名) 陰金 いんきんだむしノ略。

いん-ぎん (名) 慇懃 ネンゴロナルコト。親シムコト。丁寧ナルコト。安房ニテ、袴ノ事ヲいんぎん袋ト云フ。司馬遷文「未下嘗銜二杯酒一、接中慇懃之歡上」狂言記、鑓庖丁「慇懃ニセズトモ、平ニユルリト居サシメ」

いん-ぎん (名) いんげんささげ、又ハ、いんげんまめノ略訛。(東京)

いんぎん-こう (名) 慇懃講 〔慇懃ハ、懇ナルヨリ、眞面目トナリタル意〕禮儀ヲ重ンジテノ會。(無禮講ニ對ス) 犬筑波「春ノ野ニ、いんぎん講ノ、始マリテ、マヅツクツクシ、袴ヲゾキル」鑓田兵衛名所盃(元祿、近松作)下「慇懃講モ取リオキ、打チ寬イデ機嫌ヨウ」

いんきん-だむし (名) 陰金田蟲 陰囊ニ生ズルたむし。たむしノ條ヲ見ヨ。瘍科祕錄、五「腎囊風、和名ヲいんきんだむしト云フ、是モ、頑癬ノ一種ナリ」

いんぎん-まめ (名) 隱元豆 いんげんささげ(隱元豇)ノ條ヲ見ヨ。

いん-きやう (名) 陰莖 男子ノ陰部。ハセ。ヲハセ。マラ。ラ。ラコン。勢。男根。玉莖。陽物。ヘノコ。チンボウ。下學集、上、支體門「陰莖、男前陰」

いん-ぎやう (名) 印形 (一)印ノ形。印ヲ捺シタル痕。(二)印ニ、姓名ナド刻リツケタルモノ。種種ノ文書ノ、姓名ノ下ナドニ捺シテ、證トスルニ用キル。近古以來ノ事ニシテ、古ノ押手、手形ノ遺ナリ。印判。判形。其中ニ、己ガ實名ナド刻リテ、重キ公文、證書ナドニ用キ

ルヲ、實印ト云フ。〔[illegible]十二年[illegible]八月[illegible]日[illegible]〕

いん-きょ (名) 隱居 (一)世ヲ避ケテ、山野ナドニ隱レ住ムコト。〔[illegible]〕 (二)仕ヲ辭シ、或ハ、家ヲ子ニ讓リナドシテ、閑散ノ身トナルコト。〔夫木抄、廿四、[illegible]ミ吉野ノ、山ノアナタノ、トホツ川、イヅミノ原モ、アハレウキ世ヲ」謠、倉大雙紙、上「[illegible]皇若大丸ニ家ヲ渡シ、[illegible]居可、仕[illegible]、云云」〕

いん-きょ (名) 允許 差支ヘナシト許スコト。許可。〔[illegible]〕

いん-きょ (名) 陰渠 土中ニ樋ヲ埋メテ、水ヲ通スコト。暗渠。〔[illegible]之内ニ〕

いん-く (名) 印矩 角ナル印ヲ押スニ用キル定規。木ニテ、小サキ曲尺ノ如クニ作リ、其内ニ當テテ用キル。印影ノ、曲ガラスタメ、又ハ、印肉ヲツケカヘテ、二度押シスルタメノ用ナリ。

いん-くんし (名) 隱君子 世ニ隱レタル、有德ノ人。隱遁ノ君子。〔史記、老莊申韓[illegible]「老子、隱君子也」〕

インクライン (名) 〔英語、Incline.〕 勾配ノ強キ地ニ、軌道ヲ設ケ、水力、又、電氣ナドニテ、船舶、貨物ヲ昇降セシムル裝置。

いん-くゎ (名) 陰火 オニビ。イウレイビ。キツネビ。〔[illegible]〕

いん-ぐゎ (名) 因果 (一)因ト、果ト。(因緣ノ條ヲ見ヨ) 〔法華經、[illegible]〕 [illegible]報。(多クハ、惡シキニ云フ) 〔狂言記、[illegible]「生キナガラ鬼ニナルトノ事ハ、何ノ因果デゴザルゾ」〕 (三)フシアハセ。不幸モノ。〔假名手[illegible]「[illegible]モ因果ナ者ナラ」〕

いん-くゎい (名) 湮晦 (湮ハ、かくるるコト、晦ハ、くらきコト) クラク、カクルルコト。〔[illegible]「大道之湮晦、遂含悲而吐曲」〕

いん-ぐゎ-ざらし (名) 因果晒 〔己ガ惡業ノ報イアルヲ、人ニ晒シ知ラス〕 業ザラシ。〔女殺油地獄(享保、近松作)中「[illegible]身ノ[illegible]ヲ、一寸ヅツソイデ賣ルヤウナ因果晒メ」〕

いん-くゎ-しょくぶつ (名) 隱花植物 顯花植物ノ條ヲ見ヨ。

い-むけ (名) 射向 〔弓射ル時、左ヲ敵ニ向ク〕 鎧ノ左側ノ稱、射向の板ト云フ、背面ノ、押付ナドニ對ス。左ノ袖ヲ射向の袖ト云フ、馬手の袖ニ對ス 〔平治物語、二、待賢門軍事「重盛ノ射向の袖ニ、ハタト中リ」〕

いん-けい (名) 印契 いんざう(印相)ニ同ジ。佛經ノ語ニ、いんかいト云フ。

いん-げい (名) 陰霓 虹ニ同ジ。〔沈佺期詩「[illegible]陰霓」〕

いむけ-の-いた (名) 射向板 いむけヲ見ヨ。

いむけ-の-そで (名) 射向袖 いむけヲ見ヨ。

いん-けん (名) 引見 延キ入レテ、對面スルコト。〔[illegible]「及至、[illegible]日引見」〕

いん-けん (名) 隱見 或ハ隱レ、或ハ見ユルコト。ミエカクレ。〔後耳目志、[illegible]「[illegible]見」〕

いん-けん (名) 隱顯 ミエカクルコト。〔[illegible]〕

いん-けん (名) 隱劍 おんけんノ條ヲ見ヨ。

いん-けん (名) 陰險 人ノ性質ニ、ウハベハ温和ニシテ、心ニ害意アルコト。

いん-げん (名) 隱元 いんげんささげ、又ハ、いんげんまめノ略。

いん-げん (名) 因言 (一)僭越ナル言振。〔[illegible]「時宗組ミ留メテノ、曾我ノ五郎ト組ンデナド、因言吐カバ、[illegible]ノ藤ヨリ、エラ骨[illegible]」〕 (二)無禮。失敬。〔心中天網島(享保、近松作)中「太兵衛メガ、いんげんコキ」〕

いん-げん-がほ (名) 因言顏 僭越ラシキ顏。高慢ラシキ顏。〔[illegible](寶永、近松作)中「又五郎いんげん顏、あれオ見ヤレ」〕

いん-げん-ささげ (名) 隱元豇 〔明ノ僧、隱元、承應三年歸化シ、始メテ齎セリト云フ〕 豆類。苗モ葉モ、ふぢまめニ似テ、細小ナリ、葉ノ間ニ、白、紅、紫等ノ花ヲ開ク、ふぢまめヨリ早ク莢ヲ結ブ、形、扁ク、長サ四五寸、未熟ナルハ、莢ト共ニ煮テ食フ、さやいんげんト云フ。豆ハ、そらまめヨリ小サク、白クシテ光ル、變種ナルハ種種ノ色アリ、一年ニ再三熟ス。又、インゲンマメ。インギンマメ。共ニ東京ノ稱。一名、タウササゲ。ギンササゲ。エドフラウ。カマササゲ。

いん-げん-な (名) 隱元菜 (一)たうなノ一名。(二)はぼたんノ一名。

いん-げん-はう (名) 隱現砲 大砲ノ砲架ヲ、發射ノ時ハ高ク上ゲ、終レバ低ク下グルヤウニ裝置ケタルモノ。砲臺ニ[illegible]

いん-げん-はうだい (名) 隱現砲臺 前條ヲ見ヨ。

いん-げん-まめ (名) 隱元豆 (一)いんげんささげ(東京)。(二)[illegible]

いむ-お (名) 齋子 〔いみこノ音便〕 (一)大嘗會ノ時ニ奉仕スル童女。〔字類抄「忌子、イムコ、童女、イムコ、大嘗會供奉人名也」〕 (二)[illegible]

いむ-コ (名) 忌火 〔火ノ末音、こナリ、下火ナドモ云フ〕 忌火ノ、火ヲ、[illegible]讀ニ傚ヒタル妄訓ナリ。〔江家次第、七、六月「忌火御飯」〕

インコ (名) 音呼 〔鸚哥ノ唐音カ〕 鳥ノ名、熱帶地方ニ産ズ、鸚鵡ノ屬ニシテ、形小サク、赤、黄、人語ヲ學ブ、羽ノ色、赤、綠、紫、黑等アリテ、最モ美ナリ、種類多シ。鸚哥

いん-ご (名) 隱語 カクシコトバ。〔[illegible]十五日「[illegible]有二隱語、云云」〕

いん-こう (名) [illegible] ノンド。ノド。〔戰國策、秦策「[illegible]、天下之咽喉」〕

いんこう-カタル (名) [illegible] 病ノ名、感冒ニ伴ヒテ發ス、咽喉ノ粘膜腫レテ、烈シク痛ミ、[illegible]、咳痰出デテ、聲嗄ル。

いん-こく (名) 印刻 印板ヲホルコト。〔東觀餘論「但若二印刻字二耳」〕

〔**いむ-おと** (名) 齋言 〔齋言ノ音便〕 佛

敎ノ戒。佛戒。崇峻卽位前紀「家出之途、以レ戒爲レ本」紫式部日記、寬弘五年八月十一日「御頂ノ御髮オロシ奉リ、御戒言受ケサセ奉リタマフ」

〔いん-おと (名) 前條ヲ見ヨ。

いん-ごふ (名) 因業 (一)因ト、業ト。(因緣ノ條ヲ見ヨ) 劉禹錫、廣宣師碑「佛以二大慈一救二諸苦一、廣起二因業一、故劫濁而益尊」(二)頑ニシテ、苛キコト。心ネヂケテ、情ノナキコト。(惡業ニ因リテ然リトスル意)苛酷「いんごふナ翁」

いん-ざい (名) 印材 印ニスベキ料ノ物。木、蠟石、銅ナド。黃庭堅集、謝二王仲至惠一黃玉印材一詩」

いん-さう (名) 陰相 陰部ノ形。盛衰記、七、笠島道祖神事「上下、男女ノ、所願アル時ハ、陰相ヲ造リテ、神前ニ懸ケ莊リ奉リテ」

いん-ざう (名) 印相 〔梵語、母陀羅(Mudrā.)ノ譯語、佛菩薩ノ本誓ヲ表ハス標識ノ意ナリト云ヘバ、印相ノ義ナルベシ〕又、印契。眞言宗ニテ、陀羅尼ヲ誦スルト共ニ、兩手ノ十指ヲ、種種ノ形ニ屈折セシムルコト。略シテ、印トノミモ云ヒ、胎藏界ノ印、金剛界ノ印、大日ノ印、不動ノ印ナド、無量ナリ、其屈曲セシムルヲ、印を結ぶ、印を作ルト云ヒ、多クハ、袖ノ内、袈裟ノ下ニテ行フ、其意義ハ、祕密ナリ。盛衰記、九、山門堂塔事「本尊ト申スハ、傳敎大師ノ作ナリ、中堂ノ藥師ト、印相更ニ違ハズ」源、五十二、手習四「心ニサルベキ眞言ヲ誦ミ、いんをつくりテ」徒然草、五十四段「印、コトゴトシクむすび出デナドシテ」

いん-ざう (名) 印象 佛經ノ語。カタチノ映リタル形跡。大集經、十、海中、皆有二印象一

いん-ざう (名) 隱藏 カクレ、潛ムコト。東方朔文「懷二計謀一而不レ見、用舍、藏二穴處一而隱竄」

〔いん-さき (副) 曾 〔往にし前ノ音便約〕曾テ。マヘカタ。以前。往時。神代紀、下七「見二其矢一曰、此昔我賜二天稚彥一之矢也」雄略卽位前紀「御馬皇子、以二曾善三輪君身狹一」舒明卽位前紀、吾曾將レ訊二叔父之病一」

いん-さく (名) 陰朔 北方ノ夷ノ地。王僧孺詩「螢光卓二長空一、漢兵出二陰朔一」

いん-さつ (名) 印刷 文字、圖畫等ノ版面ニ、いんきヲツケテ、紙面ニ押シテ、其形ヲ移シ取ルコト。夢溪筆談「作二一鐵板一、一板印刷、一板已自布レ字」

いん-し (名) 印紙 (一)印形ヲ押シタル文書、證文、券ノ類。通鑑、唐紀「武后以二印紙一、遺二王慶之一」(二)證券印紙。收入印紙。(其條ヲ見ヨ)

いん-し (名) 隱士 隱遁シタル人。隱者。南史、何點傳「世論以レ點、爲二孝隱士一」

いん-し (名) 蔭子 おんしヲ見ヨ。

いん-し (名) 禋祀 〔禋ハ、潔クシテマツル、祀ハ、祭ルコト〕神ヲ祭ルコト。詩經、大雅、生民之什、生民篇「克禋克祀、以弗レ無レ子」周禮、春官「以二禋祀一祀二昊天上帝一」

いん-し (名) 淫祠 祀ルベカラザル者ヲ祀リタルヤシロ。唐書、狄仁傑傳「毀二吳楚淫祠千七百所一」

いん-じ (名) 印璽 璽ト云フニ同ジ。漢書、食貨志「賜二單于印璽一、與二天子一同」

いん-じ (名) 陰事 祕密ゴト。カクシゴト。ミソカゴト。史記、信陵君傳「有下能探二得趙王陰事一者上」

いん-じ (名) 隱事 祕メ隱シオク事。淮南子、脩務訓「官無二隱事一、國無二遺利一」「隱事ヲ發ク」

いん-じ (連體) 往 〔往にしノ音便〕過ギ去リタル。嬉歌加留多(正德、近松作)二「已ニいんじヲ咎メズ」吉野拾遺、下、熊王條「父ニテ侍ル六郞ハ、いんじ住吉ノタタカヒニ、ウタレテサブラフヲ」「いんじ壽永ノ春」いんじ某ノ年」

いん-しぜい (名) 印紙稅 證券印紙(收入印紙)ノ代價。政府ニ收入セラルルニ就キテ云フ。印稅。

いん-しつ (名) 陰騭 天ガ、冥冥ノ中ニ、人民ヲ安定スルコト。書經、洪範篇「惟天陰二騭下民一、相二協厥居一」

いん-しふ (名) 因襲 從來ノ例ニ因リ襲グコト。シキタリ。劉歆、移二太常博士一書「仲尼之道又絕、法度無レ所二因襲一」

いん-しん (名) 音信 オトヅレ。タヨリ。おんしん。李白、大隄曲「不レ見眼中人、天長音信斷」「音信、不通」

いん-しん (名) 陰森 樹木ノ繁リテ、ウスグラキコト。孟浩然詩「萬木何陰森」

いん-しん (名) 殷賑 盛ンニシテ、賑カナルコト。張衡、西京賦「郊甸之內、鄉邑殷賑」

いん-しん (名) 隱賑 ニギハフコト。文選、蜀都賦「邑居隱賑、夾レ江傍レ山」

いん-じゃ (名) 隱者 隱遁シテ居ル人。隱士。論語、微子篇「子曰、隱者也」運歩色葉集「隱者」

いん-しゃう (名) 印章 印。インギャウ。漢官儀「吏秩比二千石以上、銀印龜鈕、其文曰レ章、刻曰、其官之章」

いん-しゃう (名) 印象 (一)物ノ面ニ印セラレタル形象。(二)心理學ノ語。對象ノ、心ニ意識セラレタル狀態。又、ソノモノ。

いん-しゃう (名) 陰症 病ニ、熱ナドノ、表ニ發セヌコト。七偏人(安政、梅亭金鵞)一、上「上ガ陰デ、中ガ陽ナラ、サット陰症ノ傷寒(瘍チブス)ダカラ」

いん-じゃう (名) 引聲 佛敎ノ語。聲ヲ引キ、節ヲツケテ、念佛、又ハ、經文、偈頌等ヲ唱フルコト。古事談、三、公事「慈覺大師、音聲不レ足、令レ座給之間、以二尺八一引聲ノ阿彌陀經ヲ令レ吹傳ヘタマヒヌ」

いん-じゃう (名) 引唱 〔引導唱稱ノ義〕じゃうかう(唱考)ニ同ジ。續紀、九、神龜三年二月「太政官奏、諸選人於レ官引唱不レ到者、明日引唱」

いん-しゅ (名) 飲酒 酒ヲ飲ムコト。佛敎ノ語ニ、オンジュ。詩經、小雅、鹿鳴之什、常棣篇「儐二爾籩豆一、飲酒之飫」

いん-じゅ (名) 印綬 支那ニテ、官吏ノ、官印ヲ、綬ニテ帶ビ居ルコト。史記、項羽本紀「項梁持二守頭一、佩二其印綬一」官ヲ罷ムルヲ、印綬を解くト云フ。

いん-じゅ (名) 印呪 佛經ノ語。陀羅尼ヲ唱フルコト。陀羅尼集經「若人誦レ持此印呪一、所レ須財物隨レ意」

いん-しゅ-いん (名) 引首印 くゎんばう(關防)ニ同ジ。

いん-じゅつ (名) 隱恤 イタミ、アハレムコト。魏志、王修傳「修親隱二恤之一、病愈乃去」

いん-じゅん (名) 因循 (一)何事モ、故ニ因リ、舊キニ循ヒテ行フコト。漢書、循吏傳「因循守レ職、無レ所二改作一」(二)進ミ爲ス心ナキコト。イキハリナキコト。韓愈詩「多才自勞苦、無レ用祇因循」

いん-じょ (名) 隱所 かはや(廁)ニ同ジ。

花園天皇宸記、元亨二年閏月二十六日「今日忝公議[illegible]、[illegible]文中心之書(文選)[illegible]、云云」[illegible]せついんニハ、靈ナド居ルコトアリ、云云」

いん-しょう (名) 引證 他ノ事ヲ引キ來リテ、證據トスルコト。[illegible]後漢[illegible]學者子文用引[illegible]之用引[illegible]也」

いん-しょく (名) 飲食 飲むト、食ふト。飲物ト、食物ト。易經、上彖傳「雲上於天、需、君子以飲食宴樂」禮記、禮運篇「飲食男女、人之大欲存焉」菅家文草、十八「飲食」

いん-しょく (名) 印色 印肉ニ同ジ。學古編「以印色置其上使自沁」

いん-し (名) 印子 黃金ノ、自然ニ塊ヲナシテ、氷柱ノ形シタルモノ。色美シケレドモ、下品ナリトス。黃牙 大和本草、三、金「瞭ハ、時珍云、粗惡也、五金皆有粗石衝之、金銀ナド、皆石中ニマジリ有之ヲ、其石ヲクダキユリテ、金銀ヲトル、其石ヲ瞭ト云、印子金、精金ナリ、云云、印子金ハ瞭雜レリ、非精金、山金ヲ精煉シタル、是[illegible]金ナリ」

いむ-すき (名) 齋鋤 (いみすきノ音便) 齋ミ淨メタル鋤、神事ニ用キルモノ。大殿祭祝詞「齋鉏ヲ以テ、齋柱立テ」

インスピレイション (名) 靈感 〔英語、Inspiration.〕 普通ノ理ニテ判ジガタク、不思議ニ感ズルコト。天來ノ感得。

いん-すゐ (名) 飲水 ノミミヅ。飲料水。謠曲、大原御幸「海ニ臨メドモ、潮ナレバ飲水セズ」

いん-すゐ (名) 引水 田ノ用水ヲ引キ通ズルコト。

いん-すゐ (名) 淫水 精液。

いん-せい (名) 淫聲 ミダリガハシキ音曲。[illegible]

いん-せい (名) 陰晴 くもるト、はるるト。晴曇。王安石詩「天意未必司陰晴」

いん-せい (名) 陰擠 人知レズカクレテ、推シノクルコト。宋史、李季宣傳「左右近侍、陰擠正士、而陽稱道之」

いん-ぜい (名) 印稅 (一)印紙稅ノ略。(二)撿印料。

いん-せき (名) 姻戚 婚姻ヲ結ビタル家ノ者。姻族。緣家。緣者。後漢書、鄧皇后紀「宗門廣大、姻戚不少」

いん-せき (名) 陰石 いんやうせき(陰陽石)ヲ見ヨ。

いん-ぜふ (名) 引接 佛經ノ語。阿彌陀佛ノ、來迎シ、極樂ヘ導クコト。彌陀經私記「人恐不如來引接之語」平家物語、一、妓王妓女事「聖衆ノ來迎ニテマシマセバ、ナドカ引接ナカルベキ」盛衰記、九、康頼熊野詣事「當ニハ來迎引接、必得往生ノ本願ニ疑ナシ」

いん-ぜん-と (副) 隱然 アラハニアラハレザレド、陰ニ隱レテ居ルニ云フ語。唐書、溫造傳「威重隱然」

いん-ぞく (名) 姻族 姻戚ニ同ジ。後漢書、張綱傳「冀妹爲皇后、云云、諸從姻族滿朝」

いん-そつ (名) 引率 ヒキヰルコト。狂言記、文藏「三千餘騎ヲ引率シ」

いん-たい (名) 陰苔 濕レル苔。蘇軾詩「古甃缺落生陰苔」

いん-だう (名) 引導 (一)ヒキ、ミチビクコト。テビキ。南史、王僧辯傳「有[illegible]魚、躍水飛、牽引導」明月記、寬喜二年七月十六日「右大臣殿、此事引導入、可進名簿歟」(二)佛敎ニ、衆生ヲ導キテ、佛道ニ入ラシムルコト。[illegible]十四、[illegible]「今[illegible]、[illegible]」[illegible]ノ時、導師ノ、棺前ニ立チ、法語ヲ誦シテ、死者ノ、淨土ニ到ルベキ方所ヲ示スコト。コレヲ、引導をわたすト云フ。智度論「大愛道比丘尼涅槃、佛自在前、擎香爐引導」

いん-たく (名) 隱宅 隱居シタル人ノ住家。カクレガ。唐書、田游巖傳「天子自書榜其門、曰隱士田游巖宅」

インタロゲエション-マアク (名) 疑問符 〔英語、Interrogation mark.〕 文句ノ問ヲカクル詞、又ハ、文句ノ疑アル所ニ記ス符。?ヲ記ス。

いん-ち (名) 印池 肉池ニ同ジ。

いん-ち (名) 陰地 日光ノ達セザル處。カゲノ地。王建詩「古苔陰地冷淒淒」

いん-ち (名) 引致 引キ寄スルコト。引キ立テテ、連レユクコト。周書、宇文深傳「欲引致左右圖議政事」

インチ (名) 英寸 吋 〔英語、Inch.〕 英尺ノ十二分ノ一。我ガ八分三厘八一。

いん-ぢ (名) 印地 〔石打ノ略轉ト云フ、(宍道、志んぢ)加多言(慶安)ニ「いんちハ、石うちナルベシ」明惠上人傳、下「或時ハ石ヲ拾ヒテ、石打ヲ獨シタマヒケリ」いんぢ打トモ云フハ、重言ナリ、博打打ノ如シ〕(一)多人數、二手ニ別レ、飛礫ヲ打合ヒテ戰フ戲。石戰戲 盛衰記、二十二、衣笠合戰事「若者共ノ、カ量ノ樣コソヲカシケレ、云云、京童部ノ向礫、河原印地ノ樣ナリ」後愚昧記、應安二年四月二十一日「雜人等、及晚頭出[illegible]一條大路合戰、俗是ヲ伊牟地ト稱ス」尫弱ナル兵ヲ云ヘリ 盛衰記、三十四、法住寺城郭合戰事「物ノ用ニ立ツベキ兵アリトモ覺エズ、云云、飛礫ノ[illegible]、云云、合戰ノ[illegible]、[illegible]五十人[illegible]押寄セタリ」(二)後ニ、五月五日、端午ノ日ト定メテ、童部、[illegible]、河原ナドニ集リ、印地シテ戲ル。印地打。[illegible]トモ云ヘリ。端午石戰戲 [illegible]ノ頃、[illegible]ゼラル。南窓閑話(信長、秀吉ノ頃)「五月五日ノ日ハ、休ノ事ナレバ、印地打ヲ遊トナス」堀河狂歌集(慶安、元和頃)「いんぢスル、礫ニ中ル、アタマヨリ、タラリタラリト、[illegible]あやめ草、[illegible]」[illegible]二「印地ト云フベキヲ、ゐんぢんト云フ、云云」武德安民記、二十「河原陰陣」

いんぢ-うち (名) 印地打 前條ヲ見ヨ。

いん-ぢん (名) 〔印地ノ音便〕 前前條ノ(二)ヲ見ヨ。

いん-ちん-かう (名) 茵蔯蒿 カハラヨモギ。

いん-ちゅう (名) 陰蟲 陰ニ棲ム蟲。[illegible]丹詩「陰蟲切切不堪聞」

いん-づ (名) 引頭 いんとうノ條ノ(一)ヲ見ヨ。

イン-ツウ (名) 銀子 銀子ノ宋音。

インデックス (名) 〔英語、Index.〕 見出シ。索引。

インデン (名) 印傳 〔いんでんハ、India.(印度)ノ訛〕 次條ノ語ノ略。

インデン-がは (名) 應帝革 印傳革 〔初メ、印度ヨリ渡レリ〕 羊、又ハ、鹿ノなめしがは。小さ[illegible]ニテ、皺、[illegible]ノ如シ、最モ柔ニシテ、諸具ニ用キルベシ、略シテ、いんでん。

インデン-や (名)【印傳屋】印傳革、及、其製品ヲ商フ店。生玉心中(正德、近松作)中「嘉平次ドノハ未ダデゴザルカ、云云、西國橋いんでん屋長作カラ參ッタ」

いん-どう (名)【引頭】(一)佛事供養ノ節、衆僧ノ先導ヲナスモノ。いんづ。江家次第、十三、興福寺供養「次引頭、率衆僧等隨之」(二)大工ノ棟梁。吾妻鏡、三十一、嘉禎三年四月十九日「大工散位長宗、(束帶)相具引頭(束帶)參上」

いん-とく (名)【陰德】人ニ知ラセズ、善事ヲ行フコト。淮南子、人間訓「有陰德者、必有陽報」

いん-とく (名)【隱匿】竊ニカクスコト。カクマフコト。史記、五帝紀「堯曰、悉擧貴戚及疎遠隱匿者」

いん-とん (名)【隱遁】世事ヲ遁レテ、山野ナドニ隱レ住ムコト。晉書、孔稚珪傳「有隱遁之懷」字類抄、伊、辭字「隱遁」

イントロダクション (名)〔英語、Introduction.〕(一)ヒキアハセ。紹介。(二)ハシガキ。緒言。

いん-あう (名)【陰囊】フグリ。陰莖ノ下ニ垂ルルモノ。中ニ、睾丸アリ。

いん-にく (名)【印肉】印ニ染メテ、形ヲ押スニ用キル料ノ物。艾ニひましのあぶらヲ和シテ煉リ、朱、黑、青等ノ色ヲツク。略シテ、肉。印色

いんにく-いれ (名)【印肉入】印肉ヲ貯ヘ置ク器。ニクイレ。肉池。印色池

✤いんにゃ (副) いいえ(否)ニ同ジ。浮世風呂(文化、三馬)初編、下「いんにゃサ、御前マデガ、オカジメル事ア無エハナ」

いん-ねん (名) 因緣ニ同ジ、連聲ノ轉呼ナリ。

いん-の-こ (名)【犬子】〔いぬのこノ音便、絹垣、きんがい〕小兒ノねおびれタル時、撫デテ唱フル呪詞。犬ハもののけヲ退クトテ、小兒ノ額ニ犬ト云フ字ヲ書クコトアリ。(いぬ(犬)ノ條ノ(二)、並ニ、犬箱ノ條ヲ見ヨ) 油糟(寬永)「額ノシハス、寄リアフヲ見ヨ」百年ヲ、暮ラセト祝フ、いんのこニ」屠龍工隨筆(安永)「小兒ノ額ニ紅ヲツクルヲ、犬の子ト云ヒ、兒ノ泣クヲ、犬の子、犬の子トテ、スカスモ、犬張子ニ起ル」

いん-の-ふし (名)【陰節】〔常香盤ノ香ノ雷文ノ、長キヲ陽ト云ヒ、短キヲ陰ト云フ、其陰ノ一節延ブル意ト云フ、或ハ、疊ノ蘭目の節ナリト云フハ、イカガ〕冬至ノ日以後、日日少シヅツ、日脚ノ延ビユクヲ云フ語。疊ノ目、一節ヅツ延ブナド云フ。イヌノフシ。

いん-ばい (名)【淫賣】隱レテ、色ヲ賣ルコト。カクシバイヂョ。

〜いむ-はしら (名)【齋柱】〔いみはしらノ音便〕しんのはしらヲ見ヨ。

〜いむ-はたどの (名) いみはたどの(齋服殿)ヲ見ヨ。

インバネス (名)〔英語、Inverness cloak. ノ略〕身ノ丈ヨリ短キ鳶合羽。薄キ羅紗、せるナドニテ作ル。夏鳶。

いん-ばん (名)【印板】版木ニ同ジ。孔氏雜記「昔時文字、未有印板、多是寫本」黑谷上人語燈錄、元亨元年、跋「衆生ヲ、往生ノ正路ニ趣カシメムガ爲ニ、此和語ノ印板ヲヒラク」(松屋筆記、二)

いん-ばん (名)【印判】〔書判ニ對スル語〕印形、又、實印ニ同ジ。曾根崎心中(元祿、近松作)「鼻紙袋ヲ落シテ、印判共ニ失ウタ」

いんばん-や (名)【印判屋】印判ヲ刻リ作ル工人。印匠

〜いむ-び (名)【忌火】〔いみびノ音便、齋み淨メタル火ノ義〕火鑽ニテ發セシメタル火。高橋氏文「膳臣遠ヲ令火鑽テ、此ヲ忌火トシテ齋ヒ由麻ヘテ、供御食」四時祭式、上「齋火庭火祭」江家次第、十五、大嘗會「主殿寮以齋火設燈燎於兩院」忌火の御飯ト云フハ、忌火ニテ炊ギタル飯ヲ、供御ニ奉ルモノ。六月、十一月、十二月ノ一日ニ、特ニ奉ルナリ。江家次第、七、六月「忌火御飯、六月、十一月、十二月一日早旦、供之內膳司」江次第抄、七「毎至神態、鑽火炊饌、謂之忌火也」

いん-び (名)【隱微】〔中庸「莫見乎隱、莫顯乎微」トアルヨリ起ル〕カクレテ、カスカナルコト。ホノカナルコト。高適詩「嵯峰盡隱微」

いん-ぴ (名)【陰庇】オホフコト。カバフコト。于邵文「私賜以陰庇之地、永爲子孫之狀」

〜いむ-ひと (名)【齋人】〔いみひとノ音便〕齋戒シテ、神事ニ與ル人。四時祭式、下、住吉「齋人潔衣、絁二疋」

いん-ぴん (名)【陰濱】川ノ、南方ノ邊。郭璞、江賦「浮磐肆于陰濱」

いん-ぶ (名)【允武】武德ノ、允ニ盛ンナルコト。(允文ニ對ス)いんぶんいんぶヲ見ヨ。

いん-ぶ (名)【陰部】カクシドコロ。陰。男女ノ體ニ、尿道ヲ通ジ、子ヲ生ス機關。生殖器。

いん-ぷ (名)【陰符】軍書。兵書。戰國策、秦策「蘇秦乃夜發書、陳篋數十、得太公陰符之謀」

いん-ぷ (名)【印譜】種種ノ印影ヲアツメタル書。學古編「宣和印譜四卷」

いん-ぷ (名)【殷富】サカンニ、富ムコト。史記、文帝紀「是以海內殷富、興于禮義」

いん-ぷ (名)【淫婦】淫奔ナル女。

いん-ぷう (名)【陰風】冬ノ風。朔風。梁元帝纂要「冬風曰陰風、寒風、哀風」

いん-ぷく (名)【陰伏】カクレ、伏スコト。ナイショ。祕密。漢書、楊惲傳「好發人陰伏」

いん-ぶん (名)【陰文】やうぶん(陽文)ノ條ヲ見ヨ。

いん-ぶん-いん-ぶ (名)【允文允武】允ニ、文武ノ德ニ秀デサセタマフコト。天子ノ德ヲ贊スル語。詩經、魯頌、泮水篇「允文允武、昭假烈祖」

インフルエンザ (名)【流行性感冒】〔伊語、Influenza. 影響感化ノ義〕ハヤリカゼ。傳染性ノ熱病。惡寒、高熱ヲ生ジテ、頭痛、咳嗽、喀痰、甚シク、呼吸苦シ。

〜いむ-べ (名)【齋部】【忌部】〔いみべノ音便、齋みキヨマハリテ奉事スレバ、名アリ〕いみべ。上古ノ職名。祭器ヲ作リ、祭事ニ仕フ。後ニハ、姓トナル。神代紀、上「忌部首遠祖、太玉命」古語拾遺「令天富命率諸齋部諸氏、作種種神寶」又「捧持天璽鏡劍、奉安正殿」

〜いむ-べ (名)【齋瓮】〔いみべノ音便〕齋瓮。嚴瓮ニ同ジ。(びぜんやきノ條、見合スベシ)崇神紀、十年九月「忌瓮」

いん-ぺい (名)【隱蔽】オホヒ、カクスコト。漢書、翟方進傳「懷姦朋黨、相爲隱蔽」

いんべ-やき (名)【伊部燒】びぜんやきノ

[illegible]ヲ見ヨ。

いんぼう (名) [陰謀][隱謀] 隱密ニ企ツル謀。[illegible]

いんぼつ (名) [湮沒] カクレ、ウスルコト。[illegible]

いんぽん (名) [印本] 版本ニ同ジ。

いんぽん (名) [淫奔] 私ニ、漫ニ、淫スルコト。淫亂。(多ク、女ニ就キテ云フ)[illegible]

いんま (名) [今] いまノ音便。「いんまノ間」「いんまノ前」

いんまう (名) [陰毛] 陰部ニ生フル毛。

いんみやう (名) [因明] ごみやう(五明)ノ條ヲ見ヨ。

いんめつ (名) [湮滅] 「集韻、湮、音因、說文、湮、沒也」 湮沒ミテ、ホロブルコト。謝惠連、祭古冢文「銘誌湮滅、姓字不傳」「證據湮滅」

インモ (副) [恁麼] 〔支那、宋ノ世ノ俗語、され、その(此)ノ意〕 カクノゴトク。[illegible]

いんもつ (名) [音物] 音信ノ贈物。(多ク、賄賂ニ云フ) 餽贈

いんもん (名) [陰門] 女子ノ陰部。ホト。ツビ。クボ。シナタリクボ。ヒナト。カイヒン。ソソ。へへ。玉門。朱門。女根。

いんやう (名) [陰陽] 〔釋名「陰、蔭也、氣在内、奧蔭也、陽、揚也、氣在外、發揚也」〕 (一)漢土ノ理學ノ語。易ノ理ヨリ出デテ、太極、分レテ陰ト陽トノ二ツトナリ、二者相往來、交感シテ、宇宙間ノ萬物、化成、消長ストス。因リテ、萬物相反シタルモノヲ、此二ツニ配シテ云フ、例ヘバ、日、火、男、夏、南等ヲ陽トシ、月、水、女、冬、北等ヲ陰トスルガ如シ。今、又、電氣ナドノ學ニ、積極ヲ陽トシ、消極ヲ陰トス。[illegible] (二)おんやう(陰陽)ノ條ヲ見ヨ。

いんやうくわく (名) [淫羊藿] イカリサウ。

いんやうすい (名) [陰陽水] ウメユ。

いんやうせき (名) [陰陽石] 女ノ陰部ノ形シタル石ヲ陰石ト云ヒ、男ノ陰部ナルヲ陽石ト云フ。迷信ニ因リテ、二石ヲ併セテ祀リナドス。水經、注「雞留城即山也、云云、二大石横立穴中、俗名陰陽石、陰石常濕、陽石常燥」

いんやく (名) [陰約] ヒソカニ、約束スルコト。[illegible]

いんゆ (名) [陰諭] ヒソカニ、サトスコト。漢書、李陵傳「握其足陰諭之」

いんよう (名) [飲用] 水ヲ、飲ムニモチヰルコト。

いんよう (名) [引用] 他ノ書物ニアル文句ヲ引キ來リテ、用ヰルコト。ヒキゴト。「引用書」

いんよく (名) [淫慾] 色情ノ慾。[illegible]

いんらく (名) [淫樂] 淫シ、[illegible]ムコト。[illegible]「淫樂ニ耽ル」

いんらん (名) [淫亂] [illegible]

いんりん (名) [陰燐] 鬼火。キツネビ。

いんりん (副) [隱淪] カクレ、シヅム狀ニ云フ語。[illegible]

いんりょく (名) [引力] 物理學ノ語。萬物ノ性ニ具ハリテ、互ニ引キ寄スル力。

いんれい (名) [引例] 引用シタル例。[illegible]

いんれう (名) [飲料] 飲用ノ料ニスルコト。又、其物。ノミモノ。ノミレウ。

いんれき (名) [陰暦] 太陰暦ノ略。こよみノ條ヲ見ヨ。

いんろう (名) [印籠] 〔元來ハ竹籠ナリキト云フ、魚袋ノ遺ニシテ、官印ヲ入レテ帶ビタルモノトゾ〕 甚ダ小サキ平圓ナル器。三五重ニシテ、上ノ底ハ、下ノ子口蓋トナルヤウニ作リ、緒ニ貫キ、緒締、根付ヲツケテ、腰ニ佩ビテ、禮服ノ具トス。專ラ煉藥、蜜丸、丹劑ナド貯ヘテ、急病ノ用トス、多クハ蒔繪、堆朱ナド、精巧ニ作レ。掛吊 [illegible]

いんろうづけ (名) [印籠漬] 白瓜ノ兩端ヲ切リステ、瓤ヲ去リテ、内ニ紫蘇、蕃椒ナド詰メテ、鹽漬ニセルモノ。輪切[illegible]

いんろうぶた (名) [印籠蓋] [illegible]ルモノ。印籠ノ製、多クハ是レナレバ云フ。ヤロウブタ。

いんゐ (名) [陰萎] [illegible]

いんゐ (名) [陰痿] 男子ノ陰部ノ、[illegible]

いんゐ (名) [蔭位] おんゐヲ見ヨ。

いんゑん (名) [隱遁] カクレテ、トホキコト。[illegible]

いめ (名) [夢] 〔寢見ノ約、沖縄ニテハ今モいめ、いみト云フ〕 ゆめノ古言。[illegible]

いめ (名) [射目] 〔射部ノ轉〕 狩ノ時、鳥獸ヲ射ル手(人)ノ部。射目人トモ云フ。萬葉集、八[illegible]

いめあはせ (名) [夢合] ゆめあはせノ古言。[illegible]

いめい (名) [遺命] 死後ニ遺セル命令。

いめい (名) [異名] いみやう(異名)ニ同ジ。

いめひと (名) [射目人] 射目ヲ見ヨ。

いも (名) 【妹】 (一)男ヨリ、妻ヲ始トシテ、スベテノ女ヲ親シミ呼ブ語。 雄略卽位前紀「吾妹」注「稱レ妻爲レ妹、蓋古之俗乎」 仁賢紀、六年九月、注「古者不レ言二兄弟長幼一云云、男以レ女稱レ妹」 古事記、上四十長歌「伊毛ノ命」(八千矛神ノ、嫡后須勢理毘賣命ヲ呼ビタマヒシナリ) 萬葉集、一八「家ナル妹ヲ、懸ケテ偲ビツ」(妻) 同、十二九「妹ト云ヘバ、無禮ク恐シ、シカスガニ、懸ケマク欲シキ、言ニアルカモ」(他ノ婦人) (二)又、女ドチノ間ニモ呼ブコトアリ。 萬葉集、十九ニ、大伴家持ノ女弟ノ、家持ノ妻ヘ贈レル歌ニ、妹トアリ。 (三)女弟。 神代紀、上四「五十猛神、妹大屋津姫命」 古事記、上四十二「阿遲鉏高日子根神、次、妹高比賣命」

いも (名) 【芋薯蕷】 〔うもノ轉、うを、いを(魚)〕 古名、うも。さといも、やまのいも、さつまいも等ノ總名。各條ニ注ス。 字鏡五十五「蕷、芋、伊毛」

いも (名) 【痘痕】 いもがほ(痘顏)ノ略。

いもアン (名) 【薯餡】 さつまいもヲ蒸シテ、擂リ碎キテ、砂糖ヲ和シタルモノ。あづき餡ノ如ク用キル。

いもいし (名) 【芋石】 蛤ノ類ノ化石。形、芋子ノ如シ。

いもうと (名) 【妹】 〔妹人ノ音便〕 いもひと。後ニ生レタル、同胞ノ女子。イモ。イモト。イロト。(姉ニ對ス) 女弟 字鏡二十六「妹、伊毛止」 天治字鏡、三二十「妹、伊毛人」 倭名抄、二十七「妹、伊毛宇止」

いもうとぢょらう (名) 【妹女郎】 遊女仲間ニテ、妹分トスル遊女。(新參ノ者ナリ、姉女郎ニ對ス) 大磯虎稚物語(元祿、近松作)三「妹女郎、花車、禿、引舟ナンド」

いもうとぶん (名) 【妹分】 おやぶんノ條ヲ見ヨ。

いもうとむこ (名) 【妹壻】 我ガ妹ノ夫。

いもがかど (名) 【妹門】 催馬樂ノ曲名。 催馬樂、妹之門「伊毛可可度、夫ガ門、行キ過ギカネテヤ、我ガ行カバ、肘笠ノ、雨モヤ降ラナム、シデタヲサ、(時鳥)雨宿リ、笠宿リ、宿リテマカラム、シデタヲサ」

いもがかど (枕) 【妹門】 〔妹が門ニ出デ入ルトカカル〕 入る、出づト云フ語ノ枕詞。 萬葉集、九十一「妹門、入リ出見河ノ、トコナメニ、三雪殘レリ、未ダ冬カモ」 同、七十七「妹門、出入ノ河ノ、瀨ヲ早ミ、吾ガ馬ツマヅク、家思フラシモ」

いもかけどうふ (名) 【薯掛豆腐】 やまかけどうふニ同ジ。

いもがさ (名) 【疱瘡】 〔面瘡ノ轉、おき、いき。(息)おおく、うおく(動)ノ例、尙、もがさノ語原ヲ見ヨ〕 もがさ。はうさう(疱瘡)ニ同ジ。 榮花物語、十六、本雫「今年モ、いもがさト云フモノ、オコリヌベシ」 字類抄「皰瘡、イモガサ、モガサ」

いもがしら (名) 【芋頭】 さといもノ根ノ塊。オヤイモ。 芋魁 蹲鴟 字類抄「蹲鴟、イモガシラ」 同「魁、イモガシラ、芋根也」

いもがてを (枕) 【妹手】 取るト云フ語ノ枕詞。 萬葉集、九十「妹手を、取リテ引キヨヂ、打チ手折リ、吾ガカザスベキ、花咲ケルカモ」 同、十二四十「妹手乎、取石(地名)ノ池ノ、波ノ間ユ、鳥ガ音異ニ鳴ク、秋過ギヌラシ」

いもかはうどん (名) 【芋川饂飩】 東海道、參河國、芋川ノ名物トスル平饂飩。 好色一代男(天和、西鶴)二、三州、二川「芋川ト云フ里、云云、所ノ名物、ひら饂飩」

いもがひ (名) 【芋貝】 螺ノ類。形、いものこニ似テ、大小、種種ナリ、色モ、白クシテ、赤、黑、ノ斑アルナド、種種ナリ。

いもがほ (名) 【痘顏】 〔いもがさがほノ略〕 顏ニ、疱瘡ノ癒エテ、殘レル痕アルモノ。略シテ、いも。ジャンカ。ジャンコ。アバタヅラ。ミッチャ。 痲面 痘痕 本朝若風俗(貞享、西鶴)「世間ノいも顏ヲ、一人シテ負擔リ」

いもがゆ (名) 【薯蕷粥】 (一)薯蕷ノ粉ヲ、甘葛ノ汁ニマゼテ煮タルモノ。禁中ノ饗ナドニ用キラレキ。 西宮記、御齋會內論議ノ條、雅亮裝束抄、大饗穩座ノ條等ニ見エタリ。 倭名抄、十六四十「薯蕷粥、以毛加由」 (二)さつまいもヲ入レタル粥。

いもがら (名) 【芋柄】 (一)里芋ノ莖。イモシ。 芋莖 倭名抄、十七七十「芋、以閉都以毛、莖、芋莖也、以毛加良、一云、以毛之、俗用二芋柄二字一」 內膳司式「芋莖二把」 (二)今ハ、芋ノ莖ヲ乾シタルヲ、いもがらト云フ。 芋龍 其生ナルヲ、ずゐきト云フ。

いもがり (名) 【妹許】 〔許ノ條ヲ見ヨ〕 妹ノ許。女ノ居ル所。 萬葉集、十四三十「廣橋ヲ、馬越シカネテ、心ノミ、伊母我理遣リテ、吾ハ此處ニシテ」 拾遺集、四、冬「思ヒカネ、いもがり行ケバ、冬ノ夜ノ、川風寒ミ、千鳥鳴クナリ」

いもきんとん (名) 【芋金團】 きんとんノ條ヲ見ヨ。

いもこ (名) 【妹子】 〔子ハ、意ナク附クル語、夫子、男の子、孃子ノ如シ〕 妹ト云フニ同ジ。多クハ妻ヲ云フ。 萬葉集、二十三十五「吾ガ伊母古ガ、偲ビニセヨト、ツケシ紐、絲ニナルトモ、吾ハ解カジトヨ」「吾妹子」

いもざけ (名) 【薯酒】 やまのいもヲ擂リテ加ヘタル酒。

いもざし (名) 【芋刺】 芋ノ子ヲ連ネテ、竹ノ串ニ刺スガ如ク、槍ニテ敵ヲ刺シ貫クコト。

いもし (名) 【芋莖】 いもがらノ(一)ニ同ジ。其條ヲ見ヨ。

いもし (名) 【鑄物師】 〔いものしノ略、作物所ヲつくもどころ〕 いものしニ同ジ。典鑄司ヲ「いもしノツカサ」ト云フ。 宇津保物語、吹上、下三十二「いもしノ所ニ、男ドモ集リ、蹈鞴フミ、物ノコガタ鑄ナドス」 落聞集、十六、興言利口「コレノ御かまヲ見レバ、云云、カク候フモノハいもしニテ候フゾ、參ラセムハイカニ」

いもじ (名) 湯文字ノ轉。ユマキ。イマキ。

いもじうとめ (名) 【妹姑】 おじうとめノ條ヲ見ヨ。

いもしんじょ (名) 【薯糝薯】 やまのいも、又ハ、つくねいもヲ擦シ、豆腐ニ和シテ、煮デタルモノ。

いもじり (名) 【蟷螂】 いぼむしりノ略轉。カマキリ。 易林節用集(慶長)「蟷螂」

いもじる (名) 【芋汁】 芋ノ子ヲ入レテ煮タル味噌汁。

いもじる (名) 【薯蕷汁】 とろろじるニ同ジ。 類聚往來「薯蕷汁、イモジル」

いもせ (名) 【妹背】 (一)妹ト、夫ト。夫婦。メヲト。 鎭火祭祝詞「神伊佐奈伎、伊佐奈美命、妹背二柱嫁繼ギタマヒテ」 (二)兄妹。姉弟。 後撰集、十七、雜、三「はらからノ中ニ、イカナル事カアリケム、常ナラヌサマニ見エケレバ「ムツマジキ、いもせノ山ノ、中ニサヘ、隔ツル雲ノ、晴レズモアルカナ」

いもだこ (名) 【芋蛸】 芋の子ト、蛸ノ肉トヲ、共ニ煮ツケタルモノ。

いもち (名) 【稻熱】 稻ノ病。莖、葉、黃褐色トナリ、白色トナリテ枯ル。一種ノ菌ノ寄生ニ因ルト云フ。 耕稼春秋、四「ニチ入、云

云、是ヲいもちトモ云也」

いも-でんがく (名) 芋田樂 さといもノ根塊、子、共ニ串ニサシ、豆腐ノでんがくノ如ク、味噌ヲ塗リテ炙リタルモノ。

~いも-と (名) 妹 いもうとヲ見ヨ。

~いも-なね (名) 妹名根 なねノ條ヲ見ヨ。

~い-もの (名) 鑄物 金類ヲ鎔カシテ、鑄テ作レル器ノ總稱。(鍛物ニ對ス) 鑄器 名義抄「鎔、イモノ」

いもの-こ (名) 芋子 さといもノ條ヲ見ヨ。

いもの-し (名) 鑄物師 鑄物ヲ作ル小工。いもじ。鑄工 下學集、上、人倫門「鑄物師、イモノシ」

いもの-やま (名) 芋山 ぐりはまノ條ヲ見ヨ。

いも-ばたけ (名) 芋畠 さといもヲ植エタル畠。

いも-ばたけ (名) 薯蕷畠 さつまいもヲ植エタル畠。

~いもひ (名) 齋 齋フコト。モノイミ。齋戒 土佐日記、中、中旬「今日ハ十五日、いもひナドシテアリ」(十五日ハ、六齋日ノ一ナリ) 宇津保物語、忠こそ「只、いもひ精進ヲシタマヒテ、忠こそニ相見ムトノミ、行ヒタマフ」 名義抄、一部「齋、イモヒ、モノイミ」

~いも-ひと (名) 妹 いもうとノ條ヲ見ヨ。

いも・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (自動、四) 齋忌 (齋むノ、いまふ、いもふト轉ジタルナリ」) (一)齋ム。齋フ。齋ヒ祭ル。 江家次第、十二、[illegible]「[illegible]」 河海抄、十七「神垣ニ、神籬立テテ、いもヘドモ、人ノ心ハ、守リ敢ヘヌモノヲ」(萬葉集、十一、[illegible]「神名帳ニ、ヒモロギタテテ、齋ヘドモ、人ノ心ハ、守リアヘヌモノニ」) (二)忌ミ嫌フ。[illegible]、十一、[illegible]、三[illegible] ヲコソシタマフベカリシカド、平家ノシタマヒシヲ忌うテ也」

いも-むし (名) 芋蟲 (一)芋ノ葉ノ上ニ生ズル蟲、形、蠶ニ似テ、大キナ、一二寸ヨリ三四寸ニ至ル、色ハ綠、黑、褐ナド、數種アリ、後ニ羽化シテ、大蝶トナル、あげはノ蝶、是レナリ、種類、多シ。烏蠋 (二)兒童ノ遊戲、衆童縱列ニ蹲マリ、各、前童ノ後帶ヲ取リ、芋蟲ごろごろト唱ヘツツ蹲リ進ム、烈シク進ミテ、倒ルルモノアルヲ興トス。(三)玩具ノ名。たはらがへり。

いも-めいげつ (名) 芋明月 陰暦八月十五夜ノ月ノ異名。此月見(月見ノ條ヲ見ヨ)ニハ貴賤共ニ、きぬかつぎノ芋子ヲ湯煮ニシテ、十五箇、三方ニ載セテ月ニ供フ。又、九月ノ十三夜ナルニハ、栗、又ハ、大豆ヲ供フ、因リテ、栗明月、豆明月ト云フ。 女房日記(室町時代)「十五夜名月ノ御祝ヒ、芋葉ニテ、云云、月ヲ上覽、芋ノ葉ニテ穴ヲアケテ、穴ヨリ御覽ゼラル」([illegible]、六) 宗長日記、享祿四年「八月十五夜、九月十三夜ハ、[illegible]イツクモ、月ニ愛デアソビ、芋、豆ヲ手向トシテ、云云、月見ト云フ」 日次紀事(延寶)八月十五日「今夜地下良賤、家家ニ賞月、各煮ル芋而食レ之、故俗稱ニ芋明月ニ」 犬子集(寬永)月節「食スルヤ、栗名月ノ、蟲喰ヒ」

いや (名) 否應 否ト應フコト。應セヌコト。 [illegible]、三、上、[illegible]法ニスギ、ナサケ深クテ、目ヲミセム、人ニ睦バム、ソノ外ハいや」 閑吟集(大永)「フテテ一度言ウテ見ウ、いやナラバ、我モタダソレヲカギリ」「いやニ思フ」「いやデモおおデモ」

いや (副) 否 〔いなノ轉、あなにく、あやにく(生憎)ニ〕 否ニ同ジ。打チ消ス意ヲ云フ語。イニ。 著聞集、十六、興言利口「イカナラム世マデモ、件ノ田ハ、相違アルマジナド云ヘバ、權守、取リモアヘズ、いや、田ニオキテハ、ハヤハヤ、取ラレヌト言ヒタリケル」 重ネテ、いやいやト云ヒテ、意ヲ強クス、[illegible] 落窪物語、[illegible]、いや、いや、[illegible]子ノ[illegible]ル、サ知リタマヘ、コノアンナル子、ユメユメ常ミタマフナ」 狂言記、柿賣「身ヲバ知ッタカ、いいや、ソナタハ知ラヌワイノ」

い-や (感) 「いハ、發語」 驚歎スル聲。ヤ。「いやコレハ」「いやハヤ」

~いや (接頭) 彌 〔愈ニ通ズ、にぎやか、にぎよか(温柔)〕 (一)イヨイヨ。イヨイヨ。イトド。 萬葉集、十二 三十「近クアレバ、名ノミモ聞キテ、慰メツ、今宵從戀ノ、益マサリナム」「いや高シニ」「いや遠シ」 (二)イチ。イ・チ。最。 古事記、中(神武)長歌「伊夜佐岐立テル」 同、中([illegible])長歌「我ガ心シ、伊夜許ニシテ、今ゾ悔シキ」

~いや-いとこ (名) 彌兄弟、彌姉妹 父母ノいとこノ子。フタイトコ。再從兄弟 再從姉妹 倭名抄、二「再從兄弟、伊夜伊止古」

いや-いや (副) 否否 (一)〔打チ消ス意ヲ云フ語。いや(否)ノ條ヲ見ヨ。(二)嫌フ意ヲ云フ語。「いやいやナガラ、出テ會ヒマシタ」 小兒ノ語ニ、名詞ノ如ク用キテ、かぶりふるコトヲ云フ。

~いや-いや (副) 彌彌 いよいよ(愈)ニ同ジ。 名義抄「頻、イヤイヤ、シキリナリ、シバシバ」

い-やう (名) 異樣 常ニ異ナルサマ。カハリタルサマ。コトヤウ。 續文獻通考「異樣百色」

いや-おお (名) 否應 イナ、ウ。イナ、ヲ。否ヤ、諾ト。承知、不承知。諾否「いやおお言ハセズ」「いやおおナシニ」

いやおな・し・キ・ケレ・ク・ク (形、一) 無否應 (前條ヲ見ヨ) 是非ヲ言ハセズ。[illegible]「いやおおなしノ[illegible]」

いや-おひ (名) 彌生 (一)草木ノ、イヨイヨ生ヒ重ナルコト。 萬六帖、一「梓弓、春野ノ草ノ、いやおひニ、春サヘ深ク、ナリゾシニケル」 (二)陰暦、三月ノ稱、いやおひの月ト云フ、草木、日ニ[illegible]。やよひ。三月 [illegible]記、序「萬ノ民モウケヤスキ、[illegible]二年ノ春、[illegible]、いやおひの月、[illegible]カヘリナムトスルコロホヒ」

いや-がうへ-に (副) 彌上 イヨイヨ、其上ニ。 [illegible] 太平記、十七、山門攻事「南北ノ谷ヘ被ニ追落一テ、人馬いやがうへニ落チ重リシカバ」

いや-が・る (自) いとふ(厭)ノ(一)ニ同ジ。

い-やく (名) 醫藥 (一)病ヲ醫スルクスリ。[illegible]「醫藥、效ヲ奏セズ」 (二)醫術ト、藥品ト。

い-やく (名) 意譯 原書ノ文言ニ拘ハラズ、其意味ノミヲ取リテ、[illegible]スルコト。義譯。

いや・し・シキ・シケレ・シク・シク (形、二) 賤卑 (一)尊カラズ。身分、低シ。 字鏡「賤、伊也志」[illegible]「[illegible]卑し」 (二)[illegible]「[illegible]卑し」 (三)[illegible]

~いや-しき (副) 彌重 イヨイヨ、シキリニ。 萬葉集、四 六十「春ノ雨ハ、彌及降ルニ」 同、十九 三十「鳴ク鷄ハ、彌及鳴ケド」 同、十八 七十「歎キシモ、

伊夜之伎等スモ」

いやし-くも (副) 苟 〔賤しくもの意ヨリ、かりそめニ轉ズ、苟ノ字ノ漢籍讀ノ語ナルベシ、字書ニ「苟、且也」トアリ〕假初ニモ。シバラクモ。音便ニ、いやしうも。神武紀、七「苟有レ利レ民、何妨二聖造一」晏子、雜、上篇「行廉不レ爲二苟得一、道義不レ爲二苟合一」 最明寺殿百人上﨟、義經含狀「義經、いやしくも、清和ノ臺ヲ出デシヨリ」 源、四十九、東屋五十二「何某等ガ女 子ヲコソ、いやしうも尋ネ宣フメレ」

いやし-ばう (名) 賤坊 〔いぢきたなしヲ擬人シタル語ナルベシ、悔しん坊、黑ん坊、赤ん坊、同趣〕食ヲ貪ル者ノ渾名。(長崎) 安房ニテ、やしばう。仙臺ニテ、いやしお、東京ニテ、くひしんばう。イヂキタナ。

いやしみ (名) 賤 イヤシムコト。サゲスミ。「人ノ賤しみヲ受ク」

いやし・む・ム・メ・マ・ミ・メ (他動、四) 賤 賤シト見ル。見下ス。輕ンズ。サゲスム。字鏡九十二「蔑、伊也志牟」

いやしん・ず・ズル・ズレ・ゼ・ジ・ゼヨ (他動、左變) 賤 〔賤みすノ音便〕前條ニ同ジ。

いや・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) 癒 〔癒ゆノ他動、ひゆ、ひやす。(冷)きゆ、きやす(消)〕病ヲ治ム。ナホス。治ス。名義抄「療、イヤス」 十訓抄、上、第一、序論「ヤブレタル蚫ヲ見テ、毒ヲツケテいやす、蚫、助カリテ去ヌ」

いや-ちこ-に (副) 灼然 〔いやちこハ、彌然ノ轉カ、こそこそ、ちぢむ(縮)こごろかし、とどろこし。(轟)けし、けち(消)〕イチジルク。キハダチテ。甚ダ明カニ。崇神紀、二「理實灼然」 崇神紀、十年九月「言理灼然」 景行紀、五十一年正月「灼然、此云二以耶知擧二」

いや-つぎ-つぎ-に (副) 彌繼繼 永ク跡ヲ繼ギテ。萬葉集、一、二十六長歌「彌繼嗣爾、天ノ下、知シ召シシヲ」

いや-つ-こ (名) 臣 〔彌奴子ノ約ナルベシト云フ〕(一)賤キカシヅキ仕ヘ奉ル者。やいつことモ云ヒ、臣ヲ、やつことモ云フモ、此語ノ約マレルナリト云フ。神功紀、攝政元年三月「貴人ハ、貴人共、野伊徒姑ハ、(夜)伊徒姑共」(稜威言別) (二)通ジテ、陪臣ノ事ニモ云フ。欽明紀、十三年十月「百濟王、臣、明、謹遣二陪臣怒唎斯致契一、奉レ傳二帝國一云云」

いや-とし (副) 彌年 〔いやとしのはノ略〕年毎ニ。毎年。萬葉集、二、十四「去年見テシ、秋ノ月夜ハ、照ラセレド、會ヒ見シ妹ハ、彌年放ル」 同、十九、三十二「新シキ、年ノ初ハ、彌年ニ、雪踏ミナラシ、常カクニモガ」(萬葉集、十七、三十六長歌「伊夜登之能波ニ、思フドチ、カクシ遊バム、今モ見ルゴト」)

いや-とほ-なが・し・キ・ケレ・ク・ク (形、一) 彌遠長 イヨイヨ、遠ク長シ。萬葉集、三、五十一長歌「彌遠長、親ノ名モ、繼ギユクモノト」 同、十四「富士ノ根ノ、伊夜等保奈我伎、山路ヲモ」 同、十八、廿長歌「仕ヘマツラメ、伊夜等保奈我ニ」

いや-とよ (感) 否 〔否とふよノ略ナルベシ〕人ノ言ヲ、打消スニ云フ感動詞。イヤ。イイヤ。イイエ。謠曲、八島ニ、義經、弓ヲ海中ニ落シ、敵ノ迫ルヲ切拂ヒテ拾フ、兼房、其輕擧ヲ諫ム「判官コレヲキコシメシ、いやとよ、弓ヲ惜ムニアラズ、云云、義經ハ小兵ナリト云ハレムハ、無念ノ次第ナルベシ、云云」

いや-は (名) 彌齒 やへば(齵齒)ニ同ジ。オシバ。オソバ。和漢三才圖會、十二「齵、イヤハ、齒重生也」

いや-はや (感) いやト、はやトヲ重ネテ、呆レタルニ發スル聲。

いや-ま・し・シキ・シケレ・シク・シク (形、二) 否 〔荒まし、かしまし、かしかましナド、同趣ナリ〕否ニ思フ。嫌ハシ。唐物語、呂后、いやましく心憂キ事ニゾ思シケル」

いや-まし-に (副) 彌增 イヨイヨ增シテ。マスマス。彌。萬葉集、四、三十一「磯邊ヨリ、滿チ來ル潮ノ、(序)彌益荷、念ヘカ君ガ、忘レカネツル」

いや-み (名) 嫌味 イヤムコト。嫌ハシキ態度。「いやみヲ云フ」いやみタップリ」

いや・む・ム・メ・マ・ミ・メ (他動、四) 否 〔いなむノ轉、おなじ、おやじ。(同)あなにく、あやにく(生憎)〕辭ミ、嫌フ。厭フ。宇治拾遺、三、十四條「國司ムヅカリテ、國司モ國司ニコソヨレ、我等ニ會ヒテカウハ云フゾトテ、いやみ思ヒテ」

いや-め (名) 否目 〔否む目ざしノ意〕嫌フ眼光。厭フ目ツキ。源、五十二、手習二十八「イトドいやめニ、尼君ハ物シタマフ」 同、五十一、蜻蛉十三「カクスズロナル、いやめノケシキ知ラセジト、カシコクモテ隱ス」 榮花物語、十四、淺綠「北ノ方、トモスレバ、いやめナル兒ドモノヤウニ、打チヒソマリタマフ」

いや-もて (名) 嫌持 嫌ナガラ、持テルコト。心ニハ嫌ヘドモ、表ニハ好クアヘシラハルコト。

いや-やか-に (副) 岐嶷 いよやかにヲ見ヨ。

いや-ら・し・シキ・シケレ・シク・シク (形、二) 嫌 〔否らしノ義〕(一)嫌ハシ。厭ハシ。(畿內) (二)嫌ハシク、色メカシ。

い-や・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 〔言はるノ轉〕言ふノ敬語。狂言記、薩摩守「知ラヌ人ノ、菜ヲクレウトいやる」

いや-をち-に (副) 彌變若 〔をつ(變若)ノ條ヲ見ヨ〕幾度モ、初ニカヘリテ。萬葉集、二十、五十三「我ガ宿ニ、咲ケル撫子、賄ハセム、ユメ花散ルナ、伊也乎知爾咲ケ」

い・ゆ・ユル・ユレ・エ・エ・エヨ (自動、下二) 瘉 病、治マル。治ス。全快ス。本復ス。名義抄「瘉、瘳、イユ」 著聞集、二、釋教「我病、溫泉ノ効驗ヲ頼ムトイヘドモ、忽ニいえム事難シ」

い・ゆ (動) 所射 〔射らゆノ略、(知らる、知るる) 射るノ受身ナリ(らゆ(被)ノ條ヲ見ヨ)〕射らるト云フニ同ジ。齊明紀、四年五月「伊喩之之ヲ、ツナグ河邊ノ、若草ノ、(序)若クアリキト、我ガ思ハナクニ」私記「言二被レ射之鹿一也」 萬葉集、十六、二十七「所射鹿ヲ、ツナグ河邊ノ」 共ニ、終止形ヲ連體形ニ用キラル。萬葉集、十四、二十「於布之毛等(生フ茂木)」 同、十八、二十六「射水河、流ル水沫」ノ例ナリ。神武紀、上「昔、云云、五瀨命中レ矢而薨」 天武紀、上、十二「瀨田戰「大分君稚臣、云云、被レ矢入レ陣、衆悉亂而散走」

い-ゆ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (自動、四) 行 〔いハ、發語〕行くニ同ジ。天智紀、十年十二月「赤駒ノ、以喩企憚ル、眞葛原」 萬葉集、一、二十九長歌「佐保川ニ、伊去到リテ」

いゆ-しし-の (枕) 所射鹿 〔いゆししハ、射らるる鹿ノ義ニテ、(前前條ヲ見ヨ) 痛む、死ぬニカカル〕痛む、死ぬト云フ語ノ枕詞。萬葉集、九、四十三長歌「所射十六乃、心ヲ痛み」 同、十三、三十四長歌「所射完乃、行キモ死なムト、思へドモ」

いよ (副) 愈 次次條ニ同ジ。「いよ以テ」

いよ (感) 喝采ハヤス聲。次次條ヲ見ヨ。

いよ-いよ (副) 愈彌 〔彌彌ニ通ズ〕(一)物事ノ、ヤウヤウ進ミユクヲ云フ語。マスマス。いよよ。名義抄「愈、イヨイヨ」 論語、子罕篇「仰レ之彌高」 (二)事、極マリテ。終ニ。結句。到頭。「彌、此ノ如ク決ル」

いよ-いよ (感) 〔一 好(いっち(最))ノ條ヲ

見ヨ)ヲ約メテ、ちょい、ちょいト云フ褒詞アリ、其條ヲ見ヨ。ソノいちょいい、ちょいノ、いいト轉ジタル語カト云フ」唄、三味線、踊ナドノ姿態ヲ褒ムルニ發スル聲。いよう、いよう。よう、よう。いや、いや。やんや、やんや。或ハ、ちょい、ちょい、や、ち、や、ち。[illegible]本朝[illegible]俗(貞享、西鶴)「いよういよう千之助サマ、萬人ノ中ニ、又トゴザルマイ」(若衆歌舞伎ナリ) 一心二河白道(元祿、近松作)「ようようや ちょっト譽メタマヘバ」 本朝談故比事(元祿)「諸ノ拍子ヲ、いやいやト譽ムルコトアリ」狂言記、とぶかっちり「やんや、やんや、サテモ、サテモ」

いよがすり (名) 伊豫飛白 伊豫國ヨリ産出スル、綿布ノ飛白織。

いよかづら (名) すずめのをおけノ、蔓生ナルモノ。葉ハくそかづらニ似テ、長クシテ、毛ナク、臭ナシ。秋、葉ノ間ニ小叉ヲ出シテ、數小花ヲ開ク、五瓣ニシテ、色、紫黒ナリ、ふなばらノ花ニ似タリ、莢モ同ジ。蔓生白前

いよおろめ (名) 伊豫鐵 〔伊豫ノ産、其名ヲ專ラニス〕鑛物、硫化安質母尼。色、鉛ニ似テ、芒線ナシ、質堅クシテ、碎ケ易シ。藥用トシ、又、活字、或ハ、半鐘ヲ鑄ルナド、種種ノ工作ニ用キル。 愛媛面影、一、新居郡「白鑞、大生院村、大野山、一川ト云所ヨリ出ス、上品也、俗ニ伊豫白鑞ト名ク」

いよす (名) 伊豫簾 次條ヲ見ヨ。

いよすだれ (名) 伊豫簾 又、いよす。伊豫國、浮穴郡、父野川ヨリ産出スル簾。露ノ峯ノ山中ノ篠、極メテ細ソク、六七尺モ延ブ、其莖ニテ編ムト云フ。 宇津保物語、藤原君二「[illegible]代遣ハヅレタル、いよすだれヲカケテ」枕草子、八、七十二段、いやしげなるもの「いよすノ、筋太キ」

いよぞめ (名) 伊豫染 染物地紋ノ名。いよすだれヲ重ネテ、日ノ影ヲ透シ見タル文ニ象レルモノナリ。木理ノ如クニシテ、地ニ密線アリ。 本朝世事談綺、二、衣服「伊豫染、備前ノ大守御好ニテ、ハジメテ染ル」

いよだ・つ・ツ・テ・タ・チ・テ (自動、四) 彌立 森森ニ立ツ。寒サ、又ハ、怖レ、ナドニテ、毛孔アハダツ。略シテ、よだつ。毛竪 名義抄「竪、イヨダツ」菩提心集、上「身ノ毛いよだたむ時ニハ」夫木抄、三十二、琴「琴ノ音ノ、琴柱ニムセフ、夕暮ハ、毛モいよだちヌ、スズロ寒サニ」

いよまさ (名) 伊豫正 伊豫國ノ東方諸郡ヨリ産スル正目紙、大ナルヲ兩條止ト云フ。多ク、錦繪ナド摺ルニ用キル。

いよめ (名) 〔みほノ轉カト云フ說アリ〕みほ、にほ(鳰)ニ同ジ。(阿波)カイツブリ。

いよやか・ナ (副) 森森岐嶷 〔倭訓栞、いよやか「いよハ、彌彌ノ義、やかハ、副詞ヲ形作ル接尾語、いややか、いよよか、同ジ、よかハ、やかノ轉、(にほやか、におよか。さやぐ、そよぐ)いおよかノいおハ、嚴ノ轉ナラムト云フ、(ごどろかし、ごどろおし。炊、甑)說文「森、木多貌」文選、射雉賦「蕭森繁茂」詩經、大雅、生民篇「克岐、克嶷」朱傳「岐嶷、峻茂之貌」〕丈高キ狀ニ云フ語。又、いややかに。いよよかに。いおよかに。 字鏡「森[illegible]」和玉篇(長享)「森、イヨヤカ」倭訓栞、いよやか「文選ニ、嶷ノ字、常ニ、嶷ノ字ヲ[illegible]メリ」[illegible]「天皇、[illegible]岐嶷、少有[illegible]之容」(文選、[illegible]「[illegible]岐、少而賢者」) 仁徳即位前紀「大王[illegible]、[illegible]岐[illegible]、イヤヤカニ)天武紀、上「[illegible]」雨有二枝、[illegible]之姿、及レ壯[illegible]拔」

いよよ (副) 愈 〔いよいよノ約、いさいさ、いさど。おさおさ、おさどど〕 いよいよニ同ジ。 萬葉集、五「世ノ中ハ、空シキモノト、知ル時シ、伊與余マスマス、悲シカリケリ」[illegible]二十[illegible]「劍太刀、伊與[illegible]研グベシ、古ヘユ、淸ケク負ヒテ、來ニシ其ノ名ゾ」

いよよか・ナ (副) 岐嶷 前前條ヲ見ヨ。

いら (名) 刺 (一)草木ノ刺。イララ。 字鏡「[illegible]、[illegible]、木芒、木乃伊良」同「[illegible]、木芒、伊良」(二)いらくさ。

いら (接頭) 苛 甚シキ、エラヒドキ意ヲ云フ接頭語。「いら高數珠」いらラグ」いらナシ」いらダツ」

いらい (名) 依賴 人ニ依リ頼ムコト。 [illegible]使、[illegible]民永有ニ依[illegible]ニ」

いらい (名) 以來 (一)ソレヨリ、コノカタ。 左傳、昭公十三年「自二古以來、未二之或一失也」「開闢以來」(二)誤リテ、コノノチ、以後。「以來ハ愼ムベシ」

いらいら (副) 刺刺 刺ナド、肌ニ觸ルル感アルニ云フ語。

いらいら (副) 苛苛 氣ノ苛立ツサマニ云フ語。

いらいら・し・シキ・シケレ・シク・シク (形、二) 苛苛 心苛ツコト、甚シ。甚ダモドカシ。ジレ・タシ。 燥氣 十訓抄、中、第七、序「[illegible]ダ來ラザラム[illegible]ヲ、いらいらしく[illegible]ヒ求メテ」字類抄「苛、イライラシ」運歩色葉集「早意、イライラシ」

いらか (名) 甍 〔苛處ノ義、高ク尖リタル意ト云フ、棟ト同義、鱗ノ轉ナド云ヘド、上古、瓦ト云フモノ、アラズ〕 (一)[illegible]ノ背。[illegible]ノ上[illegible] [illegible] 伊良加、甍、同上」(倭名抄、同ジ)說文「甍、屋棟也」(二)今誤リテ、切妻屋根ノ棟ノ、端以下、桁、梁以上ノ稱。

いらくさ (名) 刺草 [illegible]林中ニ[illegible]、高サ二三尺、叢生ス、莖ハ方ニシテ、葉ハからむしニ似テ、尖リテ對生ス、又、互生スルモアリ、莖、葉、共ニ刺アリテ、觸ルレバ刺ス、花、實、からむしニ同ジ、但シ、種種ノ、上ニ[illegible]ル、[illegible]ナリトス、葉ノ皮ヨリ絲ヲ製スベシ、亦、からむしニ似テ美ナリ。いら。オニアサ。イタイタグサ。 蕁麻 字鏡二十「苛、小草也、伊良」倭名抄[illegible]

いらし (名) 貸 貸スコト。貸シツクルコト。官ヨリ人民ニ貸シツケラルル稻ヲ、貸稻、貸[illegible]トス、春ニ貸サレテ、秋ニ、稻ニテ、利息ヲ納メシメラルルナリ、コレヲ、出擧稻ト云フ。 字類抄、[illegible]字、出擧、イラシ」[illegible]吉備[illegible]「諸國貸稅」云云、中戶以下、應二與貸一」

いらしのいね (名) 貸稻 前條ヲ見ヨ。

いらしのおほちから (名) 貸稅 前前條ヲ見ヨ。

いら・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) 貸 貸ス。借ルノ反。 [illegible]「天下[illegible]、下、[illegible]」察二百姓、云云、中戶以下應二與貸一」天治字鏡、十八「貸、借[illegible]、人、[illegible]」「作ル酒息[illegible]利」袖中抄、十三「田作ル者ノ、春ノ時、米ヲ人ニ取ラセいらしテ、夏ニナリテ、云云、田ヲ植エサスルヲコソ、田ツクトハ申セト云ヘリ」

いらたかあぢ (名) 苛高鯵 あぢノ一

種、大キサ三四寸ナルモノ、皮厚ク、刺多シ。

いらたか-じゅず (名) |苛高數珠| 數珠ノ類ノ、扁クシテ、稜角高キ製ノモノ。修驗者ノ用キルモノナリ、揉メバ、高ク音ヲ發ス。法師裝束抄、鈍色着樣事「念珠(マロズズナリ、鈍色ノ時ハ、いらたかずずヲバ持タズ)」江戸鹿小路(延寶)「いらたか數珠、西瓜ノ核ヤ、ヤンチャ坊」(足薪翁記、一) 女殺油地獄(享保、近松作)中「イデ一薦ト錫杖振立、いらたか數珠、サラリサラリト押モンダリ」

いらだ・つ・ツ・テ・タ・チ・テ (自動、四) |苛立| 苛ツ氣、烈シクナル。甚シク急ク。焦燥「心、いらだつ」

いらだ・つ・ツル・ツレ・テ・テ・テヨ (他動、下二) |苛立| 苛立ツヤウニス。甚シク急カス。燥氣「氣ヲいらだてテ」

いら・つ・ツ・テ・タ・チ・テ (自動、四) |苛| 心、急ク。心焦レスル。アセル。性急ニナル。焦燥 謠曲、熊坂「五ニカカルヲ待チケルガ、いらッテ熊坂、云云、案ク長刀ヲ二心、いらつ」

いら・つ・ツル・ツレ・テ・テ・テヨ (他動、下二) |苛| 「苛ふ(四段)ノ他動」苛ツヤウニス。急カス。燥氣 太平記、四、笠置囚人死刑事「近江ノ柏原ニテ斬リ奉ルベキ由、探使襲來シテ、いらてケレバ」

〜いらつ-こ (名) |郎子| 〔色之子ノ轉、愛ハシキ意、こ、こら。(白)すめろぎ、すめらぎ(皇)〕古ヘ、男子ヲ愛シミ親シミテ呼ベル語。女ニ、いらつめ、又、いらつひめト云フ。仁德紀位前紀「太子菟道稚郎子」景行紀、二年三月「稚日大郎姫、郎姫、此云二異羅菟咩一」雄略紀、元年三月「娘子」古事記、下(仁賢)「春日大郎女」

いらっしゃ・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) |被爲入| 「入らせらるノ、約マリテ、四段活用ニ轉ジタルモノ、仰せらるノ、おっしゃる、くださる、なさる、同ジ、あづかる(與)ノ語原ヲ見ヨ」(一) 入り來るノ敬語。來タマフ。來マス。キヤハル。(二) 先方ヘ入らせらるノ意ニテ、行クノ敬語。行キタブ。行キマス。イキャハル。(三) 同ジ活用ニテ、居らせらるノ約マレル語ニテ、居るノ敬語ナルアリ。居タマフ。居マス。キヤハル。

〜いらつ-ひめ (名) |郎姫| 前前條ヲ見ヨ。

〜いらつ-め (名) |郎女| いらつこノ條ヲ見ヨ。

いら-な (名) |刺菜| 芥ノ一種。葉大キクシテ、色、紫ヲ帶ビ、周ニ、細カキきざみ多キモノ。花芥

〜いらなけく (副) |甚| 〔次條ノ活用ノ、いらなくノ延ト云フ、寒く、さむけく。憂く、うけく。悲しく、かなしけくノ例〕甚シク。イミジク。古事記、中(應神)七十八長歌「妹ヲ思ヒ出、伊良那祁久、ソコニ思ヒ出、悲シケク、ココニ思ヒ出」萬葉集、十七 三十六長歌「悲シケク、ココニ思ヒ出、伊良奈家久、ソコニ思ヒ出」

〜いらな・し・キ・ケレ・ク・ク (形、二) |尤甚| 〔苛甚しノ義、あらけなし、いさけなしノ、なし〕キハダチテ、甚シ。ケヤケシ。イミジ。コトゴトシ。エラヒドシ。宇津保物語、藤原君二十「天ノ下ノいらなき軍士ナリトモ、打勝チナムヤ」大和物語、下「候フ人人モ、いらなくナム泣キアハレガリケル」宇治拾遺、十、第六條「いらなき太刀ヲミガキ」同卷、同條「ムシリ綿ヲ着タルヤウニ、いらなく白キガ」徒然草、五十四段「數珠押シスリ、印コトゴトシク結ビ出デナドシテ、いらなくフルマヒテ」

いら-ぬ (連語) |不入| 〔要るノ打消ナリ〕用キナキ。イタヅラナル。不用ナル。無益ナル。徒爲 雲玉和歌集(寛永)「足弱キ、人ノいらざる、富士參リ」「いらぬ差出口」

いら・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (自動、四) |苛| 氣ノ、セカセカスル。氣ノ、イラツ。

いら・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (他動、四) |弄| モテアソブ。イジル。狂言記、磁石「キーツが寢タアトヲ、いらうテ見マシタレバ」

〜いら・ふ・フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ (自動、下二) |應答| 〔唯ヲ語根トス、ねぎらふ、ためらふ、はぢらふ〕答フ。返答ス。返辭ス。名義抄「應答、イラフ」和泉式部集「起キ臥シニ、ナゾヤナゾヤト、言ハルレバ、タエズいらふる、ココチコソスレ」宇治拾遺、十、第六條「イカニモイカニモシタマヘ、トいらふれバ」

〜いら・ふ・フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ (他動、下二) |借| 借ル。貸すノ反。天武紀、下、朱鳥元年七月「天下百姓由二貧乏一而貸二稻及貨財一者云云」天治字鏡、十八「貣、借取レ於レ人、伊良不」今モ、靜岡縣ニテハ、借るヲ、いらふト云ヒ、安房ニテ借りて來よヲ、いらッておいト云フ。

〜いら-へ (名) |答| イラフルコト。コタヘ。枕草子、九、九十七段、ふたりがほなる物「一ノ國エタル人ノ、ヨロコビナド云ヒテ、イトカシコウナリ給ヘリ、ナド、人ノ云フいらへニ」

いら-ぼ (名) |伊羅保| 〔朝鮮ノ地名カト云フ、或ハ、肌苛ダチタレバ、苛疣ノ約カトモ云フ〕一種ノ高麗燒ノ茶碗ノ名。肌、粗ニシテ、小石ヲ含ミ、帶黃色ノ釉ヲカク、茶家ニ珍重ス。似我蜂物語(寛永)今の都のはやりもの「河原歌舞妓、いらぼノ茶碗」近代世事談(享保)二「高麗棘朏」

イラン (名) |伊蘭| 〔梵語、Eranda. ノ略〕天竺ノ樹ノ名。惡臭、遠ク四十由旬ニ及ビ、花ハ紅色ニシテ、人、之ヲ食フトキハ發狂スト云フ。[illegible]記、十一、[illegible]事「栴檀ハ二葉ナレドモ、四十里ノ伊蘭ヲ消シ」

〜いら-むし (名) |刺蟲| 毛蟲ノ中ノ、大キナルモノ、梅、林檎、桑等ニ棲ミテ、葉ヲ食フ、長サ七八分、形、扁ク、色黃黑ニシテ、毛、處處ニ集リテ生ジ、人ヲ刺ス、其巢ヲ、すずめのたごト云フ。(其條ヲ見ヨ) 夏、巢ニ孔ヲ穿チテ、褐色ノ蛾ニ羽化ス。蛅蟖 字鏡「虫偏二里ノ字、伊良虫」

いら-め・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (自動、四) 〔苛めくノ義〕カドカドシ。塵添壒囊抄、一、二十二條「石ノ角ナドノ、いらめきタル」

いら-ら (名) 〔刺刺ノ約、連連、つらら〕刺ノ條ノ(一)ヲ見ヨ。

〜いらら-が・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) |苛| 〔次條ノ語ノ他動、ゆらぐ、ゆらがす(搖)〕イララグヤウニナス。イララグル。怒ラス。怒張 落窪物語、二、上「鼻ヲいららかし、差仰ギテ居タルヲ」續古事談、三、臣節「御鬢ヲいららがしテ、走リテカカル」(猪ニ云フ) 舊、今昔物語、五、第二十語「鼻ヲ吹キいららがしテ」

〜いらら・ぐ・グ・ゲ・ガ・ギ・ゲ (自動、四) |苛| 〔苛ヲ活用ス、連ぐ、薄ぐ、同趣〕怒張ル。カドダツ。稜起 源、四十四、橋姫十二「寒ゲニ、いららぎタル顏シテ」言律抄「寒キ時、鳥肌立ツヲ云フナリ」同、五十二、手習二十四「コハゴハシク、いららぎタル物ドモ着タマヘリ」落窪物語、二、下「鼻打仰ギ、いららぎテ、孔ノ大キナルコトハ」字類抄「苛、イララグ」同、疊字「利鬯、イララグ、譬也」

〜いらら・ぐ・グル・グレ・ゲ・ゲ・ゲヨ (他動、下二) |苛| 〔前條ノ語ノ他動〕イララグヤウニス。イララガス。カドダツル。イカラス。怒張 落窪物語、二、上「鼻ノ孔ヨリハ、人通

リヌベク、吹キいららげテ」太平記、二十六、四條畷合戰事「目ヲいららげ、歯ガミヲシテ」

いら-ぐさ (名) [莘麻] 草ノ名。[illegible]ノ地ニ生ジ、高サ二三尺、葉ハ[illegible]ニ似テ、花白[illegible]ノト云フ。[illegible]、上[illegible]、伊良良久佐」倭名抄、二十[illegible]、伊良良久佐、[illegible]桃花ニ而白」

いら・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ(自動、下二) [焦] 焦ろノ、焦らるトナレルガ、一語トナレルナリ、焦るニ同ジ、苛偲はる、然思はるナド、同意ナリ」思ヒヲコガス、イライラシク思フ。ジレル。宇津保物語、菊宴「イミジク喜ビいられタマフメルヲ」源、二十四、胡蝶「いられカマシキ侘言トモヲ、書キ集メタマヘル御文」落窪物語、一、下「泣キいらるれバ、ツカフ人モ安カラズ」 心いられト云フ語モ、是レナリ

いら・れ (動) 前條ヲ見ヨ。

いり (名) [入] (一)入ルコト。ハヒルコト。「出ト、入ト」「金ノ入」「見物人ノ入」(二)見エズナルコト。沒スルコト。「日ノ入」(三)谷間ノ奥。(武藏、相摸) (四)いりおとノ略。テマシゴト。

いり (名) [要] 要ルコト。イリメ。カカリ。入用。費用。所須

いり (名) [圦] [樋ノ轉] ひのくちニ同ジ。いひ。

いり-あげ・る (動) [入揚] いれあげる(入揚)ニ同ジ。

いり-あし (名) [入脚] ふなあしノ(二)ニ同ジ

いり-あひ (名) [入相] 日ノ、山ノ端ニ入ル頃。タソガレ。日沒 名義抄「日沒、イリアヒ」入相ハ鐘トハ、黄昏ニ撞ク鐘ノ[illegible]拾遺集、二十、哀傷「山寺ノ、入相の鐘ノ、聲ゴトニ、今日モ暮レヌト、聞クゾ悲シキ」

いり-あひ (名) [入合] 山林ノ枯木取、原野ノ草刈取、海上ノ漁ナド、數村ノ人民、互ニ立入リテ取ルコトヲ得ルコト。

いり-あ・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ(自動、四) [入合] いりみだる(入亂)ニ同ジ。

いり-あや (名) [入綾] 「舞ノ手ヲ、あやおりノ手ニ譬ヘテ云フ語カト云フ」 舞樂終ハリテ入ラムトシテ、又、取テカヘシテ舞ヒテ入ルコトト云フ 源、七、紅葉賀「舞樂ノ所ニ「後ナキ手ヲ盡シタル、入あやノホド、ソゾロ寒ク、(ゾットスルホド面白ク)此世ノ事トモオボエズ」河海抄「舞有レ取ニ綾手ハ故云二入綾ニ」花鳥餘情「更ニ取テカヘシテ、面白ク舞フコトナリ」源、三十四、上、若菜、上「落蹲ノ舞、云云、舞ヒ果ツルホドニ、權中納言、衞門督、降リテ、いりあやノホノカニ舞ヒテ、紅葉ノ蔭ニ入リヌル名殘、飽カズ興アリ」

いり-あられ (名) [炒霰] 灌祭ニ供フル菓子。餅ニ砂糖ヲマゼ、色ヲツケテ、青、赤、白ノ三色ニ搗キアゲタルヲ、小サク賽目ニ切リテ、炒リタルモノ。

いり-うど (名) [入人] [入人ノ音便] にふぶ(入夫)ニ同ジ。安房ニテハ今モ、いりうどト云フ。

いり-うみ (名) [入海] 海ノ、陸ニ入リコミタル處。いりえ。ウチウミ。内海(大海ナドニ對ス) 玉葉集、五、秋、下「橋立ヤ、松吹キワタル、浦風ニ、入海遠ク、澄メル月カゲ」

いり-え (名) [入江] 岸ヘ入リコミタル江。海、湖ノ、陸ヘ入リタル處。灣 古事記、下(雄略)「日下江ノ入江ノハチス」萬葉集、十五[illegible]伊里江ノ[illegible]、[illegible]モル、[illegible]レテ、[illegible]ニ[illegible]ヘシ」

いり-がく (名) [入角] すみきりがくノ條ヲ見ヨ。

いり-かは (名) [入側] [家ノ内ノ緣側ノ意カ] 大家ノ内ノ、座敷ト緣側トノ間ニ、細長ク、人ノ歩ム道トスル所。幅、六尺乃至九尺、疊敷ナリ、寢殿造ノ簀子ニ、疊ヲ敷キタルナリ。いるかは。エンザシキ。エンドホリ。

いり-ガハラ (名) [炒鍋] [炒瓦器ノ略] いりなべ(炒鍋)ニ同ジ。ハウロク。約メテ、いりがら。京都ニテ、いりおら。字類抄、雜物「瓮、イリカハラ」

いりかはり (名) [入代] イリカハルコト。イレカハリ。交替

いり-かは・る・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) [入代] 入リテ、他ニ替ハル。いれかはる。交替

いり-かや (名) [炒榧] 榧ノ子ヲ、炒リタルモノ、菓子トス。諸國咄(貞享、西鶴)「硯箱ノ蓋ニ、云云、御所落雁、煮榧、サマザマノ菓子積ミテ」

いり-がら (名) [煎殼] (一)鯨肉ノ脂ヲ煎リ取リタル、後ノモノ。食用トス。(二)豆腐ノからヲ煎リテ、味ヲ添ヘタルモノ。

いり-ガラ (名) いりがはら(炒鍋)ヲ見ヨ。

いり-きりう (名) [入寄留] 寄留ノ條ヲ見ヨ (出寄留ニ對ス)

いり-くち (名) [入口] (一)入ルベキ戸口。戸口。戸 (二)物事ノ初メ。端緒。

いり-く・む・ム・メ・マ・ミ・メ(自動、四) [入組] 入リ雜ル。コグラカル。複雜ス。「仕事、[illegible]、入りくむ」

いり-こ (名) [煎海鼠] [海鼠ノ本名ハ、こナリ] なまこノ腸ヲ去リテ、煮テ乾シタルモノ。再ビ水ニ漬シテ、煮テ食フ。一名、ホシコ。タハラゴ。コレヲ串ニ貫キタルヲ、くしこト云ヒ、藁ニカラゲタルヲ、からこト云フ。海參 [illegible]「[illegible]海鼠、伊里古」內膳司式[illegible]「[illegible]」[illegible]

いり-こ (名) [炒粉] 米ノ粉ヲ、炒リタルモノ。菓子ノ種トス。

いり-こさく (名) [入小作] 入作ヲ見ヨ

いり-ごひ (名) [煎鯉] 料理ノ名、刺身ノ如ク切リタル鯉ノ肉ト子トヲ、酒醋[illegible]テ煎リツケタルモノ。[illegible]「[illegible]、云云、煎鯉モ右之如ククリツケ出ス[illegible]」

いり-こみ (名) [入込] (一)イリコムコト。差別ナク、入リ雜ルコト。(二)湯槽ニ、諸人、男女、同浴スルコト。(錢湯ノ條ヲ見ヨ) 參考、保元物語、二、[illegible]「[illegible]人押寄セ、浴室ヲ四重、五重ニ押圍ム、云云、湯屋ノ內、震動シテ、男女周章迷走出」(寺ノ施行ノ浴場ナリ) (三)芝居ナドノ見物場ニ、知ラヌ諸人ノ、入リテ同席スルコト。

いり-こ・む・ム・メ・マ・ミ・メ(自動、四) [入込] 押シテ入ル。又、差別ナク、入リ雜ル。

いり-ごめ (名) [炒米] 米ヲ炒リタルモノ。

いり-ゴラ (名) いりがはら(炒鍋)ノ條ヲ見ヨ。

いり-さく (名) [入作] 他村ノ民ノ、或ル

村ニ田地ヲ持チ、ソコニ入來リテ耕作スルコト。其民ヨリスレバ、出作ト云フ。ソレガ小作ナル時ハ、入小作、出小作ト云フ。地方落穗集、四「御領所ヨリ私領ヘノ出作ハ、私領ニテハ入作ナリ」地方凡例錄、四「入小作ト云フハ、他村ヨリ小作イタスヲ云フ」

いり-ざけ (名) 【煮酒】 古酒ニ、醬油、鰹節、鹽ナド加ヘテ、煮ツメタルモノ。膾、刺身ナドニ用キル。煉酒　當流節用料理大全「煎酒ノ仕樣、云云」

いり-ぢぎと (名) 【入仕事】 手間仕事ニ同ジ。略シテ、いり。

〔いり-ぢぎ〕 (名) 【熬肉】 熬リタル肉。天治字鏡、一「熬、伊利自志」

いり-しほ (名) 【入汐】 (一)出汐ノ反。ひきしほニ同ジ。續古今集、六、冬「霜枯ノ、横野ノ堤、風サエテ、いりしほ遠ク、千鳥鳴クナリ」(二)滿チテ入リ來ル汐。サシシホ。玉葉集、十五、雜、二「浦荒レテ、風ヨリノボル、いり汐ニ、オロサヌ舟ゾ、浪ニ浮キヌル」

いり-ぢほ (名) 【炒鹽】 鹽ヲ炒リタルモノ。

いり-ずみ (名) 【入隅】【入角】 すみきりがくヲ見ヨ。

いりたち (名) 【入立】 (一)〔入リ立ツコト〕親シク出入スルコト。枕草子、十、百三十二段「オホヤケ所ニいりたちスル男、家ノ子ナド」(二)簾中入立ノ略。十訓抄、上、第一、廿六條「昔ハ女房ノいりたちナリシ人ノ、今ハサモアラザリケレバ」

〔いり-た・つ〕 ツ・テ・タ・チ・テ (自動、四) 【入立】 (一)入るニ同ジ。タチイル。入リコム。土佐日記、二月十六日「京ニ入りたちテ」宇津保物語、藤原君「學問ニ心入レテ、遊ビ(音樂)ノ道ニモ入りたち給ヘリ」(二)親シク出入ス。源、二十八、野分「十「御參リノホドナド、童ニテいりたち馴レキコエタマヘレバ、女房ナドモ、イト、ケウトクハアラズ」

いり-だひ (名) 【煎鯛】 鯛ノ肉ヲ炙リテ、ムシリタルモノ。料理物語、煮物「いり鯛、サシミヨリ少シ厚ク作リ候、云云」

いり-たまご (名) 【煎玉子】 たまごノ肉ニ、醬油、砂糖ナド加ヘテ、煎リタルモノ。

いりちがひ (名) 【入交】 入リチガフコト。

いり-ちが・ふ フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (自動、四) 【入交】 (一)我レ入リ、彼レ出ヅ。イキチガフ。交錯 (二)タガヒチガヒニ入リ込ム。クヒチガフ。犬牙

いり-つ・く ク・ケ・カ・キ・ケ (自動、四) 【煎附】 煎ラレテ、水氣盡クルニ至ル。煎詰マル。

いり-つ・く クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ (他動、下二) 【煎附】 水氣ノ盡クルマデ煎ル。煎詰ム。

いりつけ (名) 【煎附】 煎附ケタル食物。易林節用集(慶長)「熬付、イリツケ」

いり-どうふ (名) 【煎豆腐】 豆腐ヲユデテ、水ヲシボリ、煮出汁、醬油、砂糖ヲ和シテ、掻キマゼナガラ、汁ノナクナルマデ煎リツケタルモノ。葱、椎茸ナドヲ細カク切リ、胡麻ノ油ニテイタメタルモノヲ加フルコト、常ナリ。

いり-どり (名) 【煎鳥】 鴨、雞ナドノ肉ヲ細カク切リ、醬油、砂糖、味醂ナドニテ煎リツケタルモノ。刻ミタル牛蒡、蒟蒻、ユデタル銀杏ナド加フルヲ、常トス。料理物語、煮物「いり鳥、云云」

いり-なべ (名) 【炒鍋】 米、豆ナド、炒ルニ用キル、淺キ土鍋。ハウロク。いりがはら。いりがら。立身大福帳(元祿、唯樂軒)七「醬油屋ニ、小麥イルナベヲ、いりなべトイフ」

いり-なべ (名) 【煎鍋】 鐵鍋ノ、淺キモノ。肉、菜ナド煎リツクルニ用キル。鏊

いり-に (名) 【炒煮】 油ニテ炒ルコト。スキヤキ。油煠

いり-に (名) 【入荷】 〔出荷ニ對ス〕 產出地ナドヨリ送リ來レル品品。

〔いり-ひ〕 (名) 【入日】 暮方ニ、西ノ方ニ見エズナル日。夕日。落日　萬葉集、一　廿「ワタツミノ、豐旗雲ニ、伊理比サシ、今宵ノ月夜、清ク照リコソ」

いり-びた・る ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 【入浸】 (一)水ニ入リテ、浸ル。(二)他家ニ居ツヅケテ、歸ラズ。「妾宅ニいりびたる」

いり-びと (名) 【入人】 にふぶ(入夫)ニ同ジ。

いり-ふね (名) 【入船】 港ニ乘入ル船。(出船ニ對ス) 進港船　夫木抄、十三「照ル月ニ、ミヲノシルシノ、アラハレテ、ヤスラヒモセヌ、ワタノいり舟」「入船千艘、出船千艘」

〔いり-ほが〕 (名) 【鑿】 〔いりおがト發音スル語ナラム、入穿ノ、いりおげ、いりおがトナレルヲ、假名違ニ記セル語ナルベシ、神武紀「六「穿邑、此云二于介知能務羅二」トアルハ、古事記ニ「蹈穿越」トアル地ナリ、又、うはぎ、おはぎ。(薺蒿)うむかし、おむかし(嘉)ナド、う、お、相通ゼリ」 (一)和歌ヲ作ルニ、意匠ノ、餘リニ深ク入リ過グルコト。八雲御抄、六「言葉ノいりほがトハ、譬ヘバ、霧ノアリアケ、風ノタグレ、露フケテ、雲タケテナド云フ風情ナリ」定家卿消息(每月抄)「宜シキ歌ト申候ハ、歌每ニ心ノ深キノミゾ申タメル、餘リニ又深ク心ヲ入レムトテ、ネヂ過グセバ、いりほがノ入リクリ歌トテ、云云、心ナキヨリハ、ウタテク見苦シキ事ニテ侍ル」(二)考證、理詮ノ、穿鑿ニ過ギテ、魔道ニ入ルコト。ウガチスギ、アナグリ損ズルコト。

いり-まじ・る ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 【入雜】 【入交】 いりくむ(入組)ニ同ジ。

いり-まひ (名) 【入舞】 舞樂ノ終リノ、入綾ノ事ナルベシ。二舞ト、同趣ノ語ナリ。移シテ、事ノ終リノ意ニ用キラル。盛衰記、二十八、拜賀事「東國、北國モ亂レタリ、諸寺、諸山、靜ナラズ、云云、世既ニ至極セリ、入舞ニヤ」

いり-まめ (名) 【炒豆】 (一)大豆ヲ、炒リタルモノ。厨事類記「カチグリ、いりまめ、ウツクシクツキフルヒテ」(二)マメイリ。

いり-み (名) 【入身】 (一)柔術ニ、白刃ヲ以テ來ル人ニ、空手ニテ進入ルコト。(二)相撲ノ手ニ、我ガ身ヲ敵ニ寄セテ押スコト。相撲傳書「上手之入身」

いり-みだ・る ルル・ルレ・レ・レ・レヨ (自動、下二) 【入亂】 入リ合ヒ、モミアヒ、戰フ。亂鬪　保元物語、二、白河殿攻落事「互ニ入り亂れテ、追ヒツ返シツ戰ヒケレドモ」

い-りん (名) 【彝倫】 〔爾雅、釋詁「彝、常也」〕 人ノ、常ニ守ルベキ道。人道。倫理。書經、洪範篇「彝倫攸レ敍」

いり-むぎ (名) 【炒麥】 むぎこがしニ同ジ。字鏡集ニ、麥偏ニ豐ノ字ニ「イリムギ」

いり-むこ (名) 【入壻】 婦ノ家ニ入リテ、壻トナルコト。家女ヘノ壻養子。贅壻　柿本氏系圖「ソノ弟アリ、云云、武士ノガリ、入むこシテケリ」

いり-め (名) 【入目】 〔要リ高ノ義〕 費エ

タル金鐶ノ高、入費、入用、費用

いりめ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (自動、四) 焦氣 〔氣ヲ焦る意〕 イラダツ。ヒシメキ騷グ。 宇治拾遺、十五、第四條「コハ物ニ狂ハセタマフカ、ウナハタマテモ、[illegible]ツキナドシタマヘカシ、トいりめきアヒタリ」

いりもの (名) 熬物 (一)魚鳥ノ肉ヲ、熬リツケタルモノナルベシ。 倭名抄、十六「[illegible]膾、少汁[illegible]也、以利毛乃」 (二)マメイリ。

いりも・む・ム・メ・マ・ミ・メ (自動、四) 入揉 烈シク揉ミニ揉ム。押シアフ。 著、十三、明石、七「終日ニ、いりもみツル風ノサワギ」 增鏡、第二十、月草花「目ノ前ニ、死ヌウクル者、數ヲ知ラズ、一日一夜、いりもみドヨミ明カスニ」

いりも・む・ム・メ・マ・ミ・メ (他動、四) 焦揉 烈シク氣ヲ焦ル。 宇治拾遺、十一、第七條「[illegible]言フ根ミマウシテ、云云、いりもみマウシテ、御前ニウツブシ」

いりもや (名) 入母屋 阿闍屋ノ、棟ノ下、左右ノミヲ、切妻ニシタルモノ。

いりやまがた (名) 入山形 模樣ノ名、山形ヲ橫ニ並ベテ、打チチガヘタルモノ。

いりやまず (名) 不入斗 〔斗ハ、計ノ字ノ草書、入り數ずノ轉ナラムト云フ(いよ、いや(彌)ノ)〕 神田ニテ、貢稅ナキ地。所謂、守護不入ノ地ノ稱ナリト云フ。武藏國、荏原郡ニ不入斗村(今、新井村ト併セテ、入新井町)アリ、地ニ、磐井神社アリ、隣村、大井村、鹿島神社鍔口ノ銘ニ、入不讀村トアリト云フ、遠江國、山名郡、上總國、市原郡ニモ、入不斗村アリ、共ニ、古神社アリ。 節用集大全(延寶)以部、姓氏ニ「入不讀」

いりゆ (名) 炒湯 炒リ焦シタル飯ヲ、湯ニ入レテ、其香ヲ移シタルモノ。吸物ナドニ用ヰル。

いりよう (名) 入用 イリメ。ニフヨウ。

いりよね (名) 入米 かひよね(買米)ニ同ジ。 [illegible]

いりわう (名) 入王 將棋ニテ、我ガ王將ノ、進ミテ、敵地ニ入レルモノ。 將棋盤ノ條ヲ見ヨ。

いりわけ (名) 入譯 入リクミタル仔細。 曾根崎心中(元祿、近松作)「內方ノ入譯モ、喘デ聞イテ居マスレド」

い・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 入 (一)內ヘ行ク。中ニ到ル。ハヒル。(出づノ反) 古事記、中(神武)八長歌「大室屋ニ、人多ニ、來伊理居リ」 (二)日月ノ影、見エズナル。落ツ。沒 「日、入る」月、入る」 (三)他ノ動詞ノ下ニ、熟語トナリテ、其意ヲ强クスル語トス。「消エ入る」痛ミ入る」恐レ入る」 心に入るトハ、覺ル。解ス。氣に入るトハ、好ニナル。身が入るトハ、心、一途ニナル。實が入るトハ、熟ユ。熟ス。

い・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 入 〔前條ヨリ移ル〕 用ヰニ入ル。無クテアラレズ。入用ナリ。費ヤスニ、要用ナリ。カカル。所須 要 宇津保物語、樓上、上十「ソレニ暇ノいるベク侍ルゾ」 同、藤原君、六二十「我ガタメニ、學バカリノ備ヘスナ、殘ストモ、打撒ニ米いるベシ」「暇ガいる」資本ノいる」

い・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ (他動、下二) 入 〔前前條ノ他動、ちぢむ、ちぢむるノ〕 (一)內ヘ遣ル。中ニ籠ムル。(出すノ反) 竹取物語「玉ノ枝ヲバ、長櫃ニいれテ」 枕草子、七、七十一段、きたなげなる物「油いるるモノ」 (二)藏メオク。收 「匣ニ入るる」倉ニ入るる」 (三)納ム。償フ。納 「年貢ヲ入るる」利息ヲ入るる」 (四)用ヰル。費ヤス。用 「力ヲ入るる」閑ヲ入るる」 (五)肯フ。承知ス。容 「諫ヲ入るる」 心を入る、念を入るトハ、深ク慮ル。注意

い・る・ル・レ・ラ・リ・レ (他動、四) 煎 鍋ニテ、水氣ノ盡クルマデ煮ル。煮詰ムル。 字鏡、七「[illegible]、煎也、伊留」「鳥ノ肉ヲ煎る」豆腐ヲ煎る」

い・る・ル・レ・ラ・リ・レ (他動、四) 炒 熬 〔前條ノ語ト通ズ〕 土鍋ナドニテ、炙リ焦ガス。(乾キタル物ニ云フ) 「米ヲ炒る」豆ヲ炒る」 肝をいる、氣をいるトハ、甚シク思ヒ苦シム。焦慮

いる・イル・イレ・イ・イ・イヨ (他動、上一) 射 〔遣るト通ズ、はやひと、はいと(隼人)〕 (一)弦ニ懸ケテ、放チ遣ル。(矢ヲ) (二)矢ヲ射テ、當ツ。 古事記、中(景行)七長歌「梓弓眞弓、伊切ラムト」「的ヲ射貫ク」 (三)用キテ、矢ヲ放ツ。 倭名抄、四十二「射、由美以留」 (四)サシ照ラス。「日光、室內ヲ射る」 (五)狙ヒテ取ル。「利ヲ射る」

いる・イル・イレ・イ・イ・イヨ (他動、上一) 沃 〔前條ヨリ移レル語カ〕 注グ。ススグ。アブス。イカクル。 神代紀、上三十七「每ニ口沃入」私記「以伊留」 榮花物語、三十六、根合 御產ノ事、「ナホオコタラセタマハネバ、云云、水ナドいサセタマヒテヤヨカラム、云云、御シツラヒシテ、い奉ル」 蜻蛉日記、中、中七十二「面ニ、水ナムいるベキ」 盛衰記、二十、石橋合戰事「晴サハ晴シ、雨ハいニいテ降ル」

いる・イル・イレ・イ・イ・イヨ (他動、上一) 鑄 〔沃ノ義〕 (一)諸金ヲ鎔シ、鎔ニ沃コミテ、器ニ作ル。鑄造 靈異記、中、第十七緣「鑄、伊留」 (二)鍛フ。 侍中群要、鑄衣刀使 雲井ノ春ニ、鎔ヤいテアリシト仰セアリケル」 堀河抄、[illegible]

いる・イル・イレ・イ・イ・イヨ (自動、上一) [illegible] 〔いゐるノ約〕 [illegible]用ヰラレテ、[illegible]ノ[illegible]トス。[illegible]語、九、宇治川合戰事、佐佐木ガ生唼(賴朝ノ愛馬)[illegible]サバ[illegible]ヘカリ[illegible]キニケル[illegible]六人[illegible]マデコレ[illegible]いヌ」

いるか (名) 海豚 海獸ノ名、全身圓ク肥エテ、長サ六七尺、黑クシテ、毛[illegible]、形、甚ダ鯨ニ似タリ、嘴長クシテ、上下相對シク、頭ノ後ニ、二ツノ孔アリテ、潮ヲ噴ク、皮厚クシテ、脂多ク、燈油トス、[illegible]ク、肉モ食フベシ。 古事記、中(仲哀)[illegible]入鹿魚 倭名抄、十九ニ江豚、伊[illegible]

いるかしま (名) 次條ヲ見ヨ。

いるがせ・み (副) 忽諸 〔[illegible]メテ、[illegible]ナラヌヲ云フ、俗ニ、ゆるがせニトモ云フ、諸ハ、助字ナリ〕 オロソカニ。ナホザリニ。粗忽ニ。[illegible]シカラズ。心ヲユルシテ。いるがしみ。ゆるがせみ。 [illegible]紀、元年[illegible]「イカデワレラヲバ、いるがせみハイフベキ」 文選、西征賦「貪二[illegible]一以賣レ國、不レ及レ[illegible]而[illegible]、[illegible]不レ祀忽諸一」 [illegible]伊利[illegible]世」

いるかは (名) 入側 いりかは(入側)ヲ見ヨ。

いるさ (名) 入方 〔時ノ條ノ語原ヲ見ヨ〕 入ル時。 新古今集、二、春、下「春深ク、尋ネいるさノ、山ノ端ニ、ホノ見シ雲ノ、色ゾ殘レル」

イルマ-おとば (名) 〔入間詞〕〔和歌ニ、言語ノ通ゼヌコトヲ、うるまの島人ト云フヲ、いるまト附會シテ、作リ出デタル語トオボユ、(魚、いを。茨、いばら)うるまノ條ヲ見ヨ〕(一)深きヲ淺きト云ヒ、老いヲ若しナド、スベテ、反ヲ云フ逆詞ノ意ノ語。狂言記、入間川(武藏ノ入間郡ノ川)ニ、或ル大名ノ、土地ノ者ニ、深キ所ヲ、淺シト言ハレテ、深瀨ニ陷ルコトヲ作リ出セルヨリ、此語アリ。(此狂言、寬正五年、紀河原勸進猿樂日記ニ見ユ) 週遊雜記(文明)「立寄リテ、影ヲウツセバ、入間川、我ガ年波モ、サカサマニ行ケ」謂ジテ、中シ通ハス言葉ナドモ、カヘサマナル事ドモナリ、異形ナル風情ニテ侍リ」(狂言ニ因リテ、設ケテ云ヘルナルベシ) (二)入間詞風ノ意ニテ、入間樣ト云フ語アリテ、事ノ裏ヲ云フ、意、少シ變ゼリ。 莫傘集(萬治)「若ヤグヤ、入間言葉カ、今朝ノ春」片言(慶安)「山崎宗鑑ノ「カシマシヤ、此里過ギヨ、ホトトギス、都ノウツケ、サコソ待ツラメ」ト詠ミシヲ、イト事醒メテ、憎キヤウナレド、是レハいるまやうトテ、狂歌、狂句ノ本體トコソ承ハレ」 嶺山の井(寬文)「あしト云フ、名ヤありのみノ、入間やう」

イルマ-やう (名) 〔入間樣〕 前條ノ語ノ(二)ヲ見ヨ。

イルマン (名) 〔以留滿〕〔葡語、Irmão. 法兄弟ノ義〕 伴天連ノ條ヲ見ヨ。

イルミネイション (名) 〔電光飾〕〔英語、Illumination.〕 數多ノ電燈ヲ點ジテ裝飾スルコト。

い-るゐ (名) 〔衣類〕 身ニ着ルモノノ總稱。コロモ、キモノ。衣服 運歩色葉集「衣類」

い-るゐ (名) 〔異類〕 類ノ、異ナリタルモノ。形ノ、尋常ニ異ナリタル物。 列子、黃帝篇「太古神聖之人、云云、悉解二異類音聲一」異類、異形」

いれ-あ・げる・ゲル・ゲレ・ゲ・ゲ・ゲヨ (他動、下二) 〔入揚〕〔あげる、終フル、果ス意〕 男女、情人ノタメニ、金錢ヲ使ヒハタス。 夕霧阿波鳴渡(寶永、近松作)中「給分一文、身ニツケズ、皆、コナタニ入上る」

いれ-あは・す (動) 〔入合〕 うめあはすニ同ジ。

い-れい (名) 〔異例〕 (一)常ト異ナル例。(二)身體ノ、常ナラヌコト。不例。病氣。

い-れう (名) 〔醫療〕 醫術ニテ、療治スルコト。治療。 華嚴經「醫二療衆疾一」 晉書、魏詠之傳「生而兔缺、云云、聞荊州刺史殷仲堪、帳下有二名醫、能療一之」

いれ-かけ (名) 〔入掛〕 相撲ナドニテ、小屋掛ノ、雨ニ逢ヒタル時ナド、其日ノ興行ヲ中止スルコト。

いれ-かたびら (名) 〔入帷子〕 衣服ヲ藏ムル時、包ムニ用キル物。後ノ、袱紗ノ如シ。 雅亮裝束抄、二「いれかたびらノ體ハ、平ヅツミノ、上ザシナキナリ」 類聚雜要抄、四「入帷二重、白唐綾、小文固文用レ之」 榮花物語、八、初花「コロモバコノ折立、入帷子、包、覆シタル机ナド」

いれかはり (名) 〔入代〕 イレカハルコト。イリカハリ。交替

いれ-かは・る (動) 〔入代〕 いりかはるニ同ジ。

いれ-か・ふ・フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ (他動、下二) 〔入替〕 別物ニ、替ヘテ入ルル。トリカフル。 玉葉集、十一、戀、三「我ガ魂ヲ、君ガ心ニ、いれかへテ、思フトダニモ、云ハセテシガナ」

いれかへ (名) 〔入替〕 イレカフルコト。トリカヘ。

いれ-がみ (名) 〔入髮〕 そへがみニ同ジ。イレゲ。義髻 唐船噺今國性爺(享保、近松作)中「マヅ、ミヅカラモ入れ髮シテ、夫始メ、娘ニモ知ラセヌコト」

いれ-き (名) 〔入木〕 版木師ノ語。彫刻ノ改ムベキ處ニ、他ノ材ヲ塡メ入レテ、刻リ改ムルコト。

いれ-げ (名) 〔入毛〕 そへがみニ同ジ。イレガミ。

いれ-こ (名) 〔入籠入子〕〔子ハ、物ノ意、懸子、張子ドモアリ〕 匣、文庫ナドノ製ニ、同形ノ大小數箇、順ニ重ネテ組ミ合セ、中ニ入ルベキヤウニ作レルモノ。子母匣 入子盃、入子重箱、入子鍋、入子鉢、入子枡ナド云フ、皆同ジ。 毛吹草、五「凉シサヤ、海ヲいれこノ、箱根山」

いれこ-いん (名) 〔入籠印〕 印ヲ、入籠ニ作レルモノ。子母印

いれこ-くび (名) 〔入子首〕 戰場ニテ捨首ヲ拾ヒ、兜ヲ着セテ、將士ノ首ト稱スルモノ。(夏山雜談、三)

〔いれこ-ざけ〕 (名) 〔內子鮭〕 子籠鮭ニ同ジ。 主計寮式「內子鮭一隻」

いれこ-まくら (名) 〔入子枕〕 箱枕ヲ、三ツ、五ツ、入子ニ作リタルモノ。ムサウマクラ。套枕

いれ-ごみ (名) 〔入込〕 男女、貴賤ノ別ナク、打雜ゼテ入ルルコト。

〔いれ-こ・む〕・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ (他動、下二) 〔入込〕 モノヲ、押シ入ルル。 源、四十九、東屋「二十「昇風ノ、袋ニいれこめタル、所所ニ寄セカケ、何カノ荒ラカナルサマニ、シハテチタリ」

いれ-しやうね (名) 〔入性根〕 入レ智慧。 長町女腹切(元祿、近松作)中「半七トイフ蟲ガサイテ、何ノ彼ノト入性根、オ花ガ一切呑コマヌ」 壬生大念佛(元祿、近松作)上「我我ガ事ヲ惡ザマニイヒ、姫ヘ入性根スルト聞タ、ナンノ、左樣ナ事ガゴザリマセウゾ」

いれ-ずみ (名) 〔入墨〕 (一)刑ノ名。肌ニ傷ヅケテ、墨汁ヲ差ス、後ノ標トスルナリ。德川氏ノ制ニハ、追放、敲等ニ附加テ行フ、二ノ腕ニ、幅三分ツヅ、二條入ル、或ハ左、或ハ右、又、或ハ顏ニモ入ル。 御定書百箇條「賣人、買人ヲ拵、似セ物商ヒ候モノ(注、入墨之上)中追放」 黥 (二)ほりもの。(其ノ條ヲ見ヨ) 劄靑 陰德太平記、七十三、高城兩虎合戰之事「二ノ腕ニ、云云、ト黥シテ在ケルトカヤ」

いれそこなひ (名) 〔入損〕 イレソコナフコト。イレチガヘ。

いれ-そこな・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (他動、四) 〔入損〕 次條ニ同ジ。

いれ-ちが・ふ・フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ (他動、下二) 〔入違〕 過チテ入ルル。入レソコナフ。

いれちがへ (名) 〔入違〕 イレチガフルコト。イレソコナヒ。

いれ-ぢゑ (名) 〔入智慧〕 他ヨリ告ゲ教ヘタル考ヘ。サシヂエ。ツケヂエ。

いれ-ば (名) 〔入齒〕 天然ノ齒ノ落チ缺ケ

タルヲ、人造ノ菌ニテ補ヘルモノ。假菌　義菌　[illegible]、[illegible]菌ノ入菌、有シ」

いればな（名）〔入端〕煎茶ノ煮バナ。デバナ。今宮心中（寛永、近松作）上「ハンナリ、入花ノ茶ビンゴ色」

いればな（名）〔入花〕狂歌、發句ナドニ、點ヲ附クル料。入花。

いれひも（名）〔入紐〕狩衣、直衣、袍ナドノ頸囲（クビカミ）、又、襴ナドニ、一方ニ附キタル、雌紐トテ、輪ニシタルニ、一方ニ附キタル、雄紐トテ、結ビ玉ニシタルヲ、其輪ニ差入レテ懸ケオクモノ。古今集、十一、戀、一「ヨソニシテ、戀フレバ苦シ、いれひもノ、（序）同ジ心ニ、イザ結ビテム」六帖、五「いれひもノ、サシテキツレト、カラ衣、カラク云ヒテモ、露シツルカナ」同、五、草花「結フトシケム、宵宵ハ、解ケザリキヤハ、下ノ入紐」（裾ノ入紐ナリ）

いれふだ（名）〔入札〕〔入簡〕古ク、隱し起請。價ヲ定メムトシ、又ハ、物事ヲ擇バムトスル時ナドニ、人人、各、其見込ヲ物ニ記シテ、密封シテ、匣ナドニ入ルルコト。コレヲ同時ニ開キテ、價ノ、最モ高キ、或ハ、最モ低キヲ採リ、又ハ、同意ノ多キヲ採ル。入札。投票。請射　武將感狀記、八「加藤肥後守清正、侍衣ノ者廿人ヲ選ビ定メントテ、國中ノ士ニ命ジテ、入簡（イレフダ）ヲセサセラル」

いれぶつじ（名）〔入佛事〕〔佛事ノ營ミノ施物ニ起レル語ナルベシ〕俗ニ、費ヲ出スノミニテ、利益ノ戻ラヌコト。

いれぼくろ（名）〔入黑子〕（一）腕ナドニ、人名ナドヲ、小サク劉靑（イレズミ）ニシタルモノ。髪童（カゲマ）、遊女（アソビ）ナドノ、事（ワザ）ニテ、情人（ソノヒト）ヲ永ク忘レヌ誓トスルナリ。名ノ下ニ、命（イノチ）ト刻ル。犬子集（寛永）「若衆ノ、肌（ハダヘ）ニイラヌ、いれぼくろ」一代男（貞享、西鶴）五、面三郎ト云フ野郎「左ノ腕ノ下ニ、けい一大事ト、いれぼくろアリシハ、カノ法師ヲけいぶんト申シケレトナリ」（二）文身。關東俠客傳「鐘彌左衞門ト云ヘル者、云云、其頸マデハ、入ぼくろ、大キナルハ珍ラシカリケルニ、横筋カヒニ肩ヨリ、南無阿彌陀佛ト、大文字ニ彫付ケタリ」

いれめ（名）〔入眼〕盲（メシヒ）ノ眼ニ塡（ハ）ムル、人造ノ睛（メダマ）。硝子（ビイドロ）（がらす）ナドニテ作ル。義眼　譬喩盡、九「片目アシカリシヲ、入眼セシカバ、ヨキ目ヨリハ、ヨク見ナサルヤウニ成タリ」

いれもとゆひ（名）〔入元結〕元結ノ上ニ、更ニ結ビテ飾ル元結。童ノスルコトナリ。エモトユヒ。

いれもの（名）〔入物〕物ヲ入ルベキ器（ウツハ）ノ總名。容器。宇津保物語、國讓、下、39「金銀ナドモ、銀、金、調ジテ、いれ物イトヲカシクテ」

い・れる・レル・レレ・レ・レヨ（自動、下二）〔炒（イ）らる、又ハ、煎（イ）らるノ約〕炒リ、或ハ、煎リテ成ル。（炒る、又ハ、煎ろノ條ヲ見ヨ）「豆ガ炒れる」豆腐ガ煎れる」肝がいれる、氣がいれるトハ、甚シク案ジ煩フ。苛（イラ）立ツ。心イラレス。ジレル。焦燥　焦慮　浮世風呂（文化、三馬）二編、上「人ガ一言イヘバ、十言ホドヅツ口答ヘヲスルカ、ホンニホンニ、肝の煎タコトヨ」

いれ・る（動）〔入〕入る（下二段）ノ口語。

いろ（名）〔色〕〔うるはし（麗）ノ、うるノ轉ナルベシ、うつくし、（美）いつくし。（嚴美）いちぢろし、いちぢろし（著）〕（一）〔光ニ固有ナル、一種ノ性ノモノニテ、物ノ體ヲシテ、眼ニ各種（サマザマ）ノ見（ミエ）ヲ生ゼシムルモノ。色ノ重ナルモノハ、太陽ノ光ヲ、硝子ノ三角柱ニ透カシテ見レバ、光線屈折シテ、赤、橙、黃、靑、綠、藍、紫トナル、之レヲ七色ト云フ。又、古クヨリ、五色、又ハ、正色（セイシヨク）ナド云フハ、靑、黃、赤、白、黑ナリ。其他ノ紫、緋等ノ色ヲ、間色ト云フ。萬葉集、二十　七「水鳥ノ、鴨ノ羽ノ伊呂ノ、靑馬ヲ」（二）階級ニテ定マレル染色。當色（クウジキ）。江家次第、五、春日祭使「諸大夫、着當色色袍」（三）〔禁色（キンジキ）〕色ゆるさるナド云フ。（其條ヲ見ヨ）（四）〔白粉（シロイモ）〕假粧（ケハヒ）。（いろかノ條ノ（二）ヲ見ヨ）（五）紅（ベニ）ノ、婦人語。おいろ。（六）〔鈍色（ニビイロ）ノ略。（其條ヲ見ヨ）（七）醬油ノ、婦人語。ムラサキ。（八）〔顏色。カホバセ。オモモチ。萬葉集、三　四十「岩ガ根ノ、コゴシキ山ヲ、越エカネテ、哭（ネ）ニハ泣クトモ、色ニ出（デ）メヤモ」拾遺集、十一、戀、一「忍ブレド、いろニ出ニケリ、我ガ戀ハ、物ヤ思フト、人ノ問フマデ」「恐ルル色ナシ」色、衰フ」色、白シ」色なしハ、恐レテ、顏色蒼白クナル。源、二十二、玉鬘　二十「ユクリカニ寄來タルケハヒニ、オビエテ、大殿（オトド）色モなくナリヌ」（九）〔ウルハシキコト。ウツクシキコト。艷　艶麗　天治字鏡、三三「艷、美也、以呂布加志」宇津保物語、藤原君　十「男子（ヲノコ）ドモ居並ミテ、いろナル娘ドモ居並ミテ」源、四十三、竹河　五「御髪（グシ）、いろニテ、柳ノ絲ノヤウニ、タヲタヲト見ユ」榮花物語、三十三、きるはわびしと歎く女房「黑キ單ノ御衣ニ、御髪（ミグシ）ハ、御衣ヨリハいろニテ、云云、ツヤツヤト」（十）〔シナ。タグヒ。種（クサ）。品類　新年祭祝詞、稻穗、御酒、菜、魚、云云「種種ノ色ノ物ヲ備ヘ奉リ」宇津保物語、俊蔭　九「一日ニ見ユル鳥獸、いろヲモキラハズ、殺シテ食ヘバ」「いろヲ易ヘ、品ヲ易フ」三色」七色」（十一）〔キザシ。アリサマ。容子。兆「敗色」負（マケ）色」引色（ヒキイロ）」（十二）ヒビキ。調子。韵「琴ノ音色」聲色（コワイロ）」（十三）ナサケ。アヂハヒ。オモムキ。沙石集、七、下、第六條「人ノ心ハ、ヤサシク色アレベシ」色ヲツケル　色ヲ持タセル

いろ（名）〔色〕〔白粉（シロエモノ）ノ色ノ義、婦人ノ假粧ヲ色ト云フ、[illegible]、いろかノ條ノ（二）ヲ見ヨ〕隨ッテ、色を好む、色を愛づ、色に迷ふナド云ヒ、女色ノ意トナル、此語意、平安朝ニ生[illegible]（一）〔女ヲ愛ヅル情。イロゴノミ。好色　女色　伊勢物語、[illegible]「[illegible]いろ好ム[illegible]」[illegible]「[illegible]いろニオハシマスナレバ」榮花物語、三十六、根合「マダキヨリ、いろニオハシマシテ、忍ビアリキ、イミジウセサセタマフ」（二）男女ノ、情ヲ通ハスコト。情交　色事　色氣（三）〔相戀フル人。戀人（コヒビト）。情人　六帖、六「[illegible]色ニモアルカ、松樹ヲ、下ニ宿シテ、遊レヲ呼ブラム」散木集、六、神祇「いろナル人ノ、親シキ人人ヲ數ヘケルニ」（四）嫖交。「色ヲ賣ル」（五）遊女ノ異名。心中刃氷朔日（寶永、近松作）中「[illegible]ノいろ、[illegible]行キシテ來ウト、[illegible]二出[illegible]」

いろ（名）〔倚廬〕〔[illegible]〕苫枕、塊、哭泣夜無時ニ、天子ノ、諒闇ノ喪ニ籠ラセラルル所。正殿ノ庭ノ板敷ヲ、地上ニオロシ、土殿トシ、御簾ヲ敷キ、葦ノ御簾、布ノ帽額ナリ、[illegible]ラセラレ、十三箇月ヲカヘテ、十三日籠ラセラル。文[illegible]、一、[illegible]三年三月[illegible]下[illegible]

いろあく（名）〔色惡〕〔色ハ、艷ノ意、いろ（色）ノ（九）ヲ見ヨ〕歌舞伎芝居ノ惡形（ガタ）ノ、綺麗ナル人物ニイデタツモノ。憎氣ナル、實惡（ジツアク）ニ對ス。

いろあげ（名）〔色上〕古キ布帛ナドノ、染色ノ褪（ア）セタルノ、再ビ染メテ、鮮ニスルコト。小町踊、春、上、梅「紅梅ノ、色ヲあげスヤ、夕日カゲ」

いろあひ（名）〔色合〕顏色、又ハ、染、畫、ナドノ色ノ、成リタル程合。色氣。イロ

ザシ。枕草子、三、二十四段、草の花は「龍膽ハ、云云、イト花ヤカナル色あひニテ」宇津保物語、國譲、下、二十四「御いろあひ、御髪ノ筋、母君ニ似給ヘレド」

いろいと (名) 色絲 (一)種種ノ色ニ染メタル絲。(二)三味線。吉原つれづれ草「小唄ヲ、いろいとニ彈キウタフ」

〔**いろいろ** (名) 色色 (一)種種ノ色。諸色 古今集、四、秋、上「緑ナル、一ツ草トゾ、春ハ見シ、秋ハいろいろノ、花ニゾアリケル」夫木抄、七「早苗取ル、御田ノ植女モ、色色ノ、袖ヲツラネテ、祝フ今日カナ」「花ノ色色、蟲ノ聲聲」(二)サマザマ。クサグサ。シナジナ。種種 多方 竹取物語、蓬萊ノ玉ノ枝「旅ノ空ニ、云云、いろいろノ病ヲシテ」源、三十九、御法四「イツノ程ニ、イトカクいろいろ思シ設ケケム」

いろいろごろも (名) 色色衣 種種ノ色ノ衣。夫木抄、三十三、衣「賤ノ女ガ、ツマ木伐リニト、朝起キテ、いろいろ衣、袖マクリシツ」

いろいろ・し・シキ・シケレ・シク・シク(形、二) 色色 (一)イロメカシ。好色メキタリ。榮花物語、二十八、若水「内ノ上、二十ニヤオハシマスラム、云云、東宮十九ニヤ、云云、皆いろいろしく、アダニオハシマスシモ、メデタゲナリ」今昔物語、二十八、第一語「重方ハ、モトヨリ、いろいろしき心アリケル者ナレバ」(二)キラビヤカナリ。ケバケバシ。義經記、六、靜若宮八幡ヘ參詣の事「幕ノ綻ビヨリ、座敷ノ體ヲサシノゾキテ、別シテいろいろしくモ出デ立タズ」

いろいろと (副) 泣ク聲ニ云フ語。宇治拾遺、十四、第九條「僧都、いろいろと打泣キテ」

いろいろをどし (名) 色色縅 鎧ノ、胴、袖、草摺ノ板ヲ、一枚ヅツ、異ナル色絲、又ハ、色革ニテ縅シタルモノ。段段縅。參考、太平記、八、山徒攻京事「結城九郎左衞門尉親光ハ、纐纈ノ直垂ニ、色色縅ノ鎧着テ」

いろうるし (名) 色漆 種種ノ繪具ヲ加ヘタル漆。

〔**いろえ** (名) 伊呂兄 〔いろは(母)ト、え(兄)トノ語原ヲ見ヨ〕兄ニ同ジ。いろね。コノカミ。履中紀、六年二月「太姫郎姫、云云、歎之曰、悲哉吾兄王、何處去耶」允恭即位前紀「我兄二天皇」

いろえんぴつ (名) 色鉛筆 えんぴつノ條ヲ見ヨ。

いろか (名) 色香 (一)花ノ色ト、其香。香色 古今集、一、春、上「ヨソニノミ、アハレトゾ見シ、梅ノ花、アカヌいろかハ、折リテナリケリ」(二)白粉ノ色ト、油綿ノ香ト。婦人ノ假粧。紅粉 雄略紀、七年八月「吉備上道臣田狹、云云、曰、天下麗人、莫レ若二我婦一、云云、諸好備矣、云云、鉛花弗レ御、蘭澤無レ加、曠世罕レ儔、云云」(鉛花ハ白粉ナリ、蘭澤ハ油澤ナリ、文選、曹植、七啓「玄眉弛兮、鉛華落」注「鉛花、粉也」同、宋玉、神女賦「沐二蘭澤一、含二若芳一」注「以レ蘭浸二油澤一、以塗レ頭」)(三)顏ノ、艶ナルコト。容色ノ、ウツクシキコト。艶色 艶容 「色香ニ迷フ」

いろがき (名) 色書 〔色ハ、品ノ意〕進上目錄ナドニ、一一打シテ、其下ニ、山鳥、鯛、樽ナドト、書キツラヌルコト。

いろかご (名) 色駕籠 遊女ヲ送迎スル駕籠。心中重井筒(寶永、近松作)血汐腫染「送リ迎ヒノ色駕籠モ、シバシ途絶エバ、云云」

いろがたき (名) 色敵 戀人ヲ、傍ヨリ爭フ者ヲ稱スル語。サヤアテ。

いろがは (名) 色革 そめかはニ同ジ。吾妻鏡、二、養和二年四月五日「牛追物、云云、依レ有二箭員一、各賜二色皮紺絹等一」

いろがはり (名) 色變 色ノ、他ノ色ト異ナルコト。

いろがひ (名) 色貝 種種ノ介ノ泛稱。夫木抄、二十七、貝「潮滿テバ、磯間ニナビク、色貝ノ、浮キミ沈ミミ、戀ヒワタルカナ」

いろがみ (名) 色紙 (一)種種ノ色ニ染メタル紙。ソメガミ。彩牋 (二)疊紙ニ、鳥子紙ヲ五色ニ染メワケタルモノ。夫木抄、十二、雁「雁ノ、書キツラネタル、玉章ハ、淺緑ナル、空ノ色がみ」

いろガラス (名) 色硝子 がらすノ條ヲ見ヨ。

いろきちがひ (名) 色狂 色情ノ爲メニ發シタル狂氣。色情狂。花風

いろくづ (名) 魚 〔いろこノいろニ、もくづ(藻屑)ノくづ、小魚ノ事ニモアルカ、音轉ジテ、うろくづ〕(一)又、うろくづ。うをニ同ジ。イヲ。新六帖、一「男山、秋ノ今日トヤ、誓ヒケム、河瀨ニ放ツ、ヨモノいろくづ」(放生會) 山家集、下、雜「水ヒタル、池ニウルホフ、滴リヲ、命ニタノム、いろくづヤ誰レ」榮花物語、十九、御裳着「宇治川ノ、底ニ沈メル、うろくづヲ、網ナラネドモ、スクヒツルカナ」(二)〔通ジテ、鱗〕(其條ノ語原ヲ見ヨ)

いろぐるひ (名) 色狂 女色ニ溺レ、遊蕩ルコト。多クハ、遊女ナルニ云フ。ウキヨグルヒ。遊蕩

いろけ (名) 色氣 (一)いろあひ。(二)色情。

いろけし (名) 色消 面白ミヲ殺グコト。殺風景

〔**いろこ** (名) 鱗 〔いろハ、魚ろノ約、(あをそ、あさ(麻))ろハ、助辭、こハ、甲ノ略轉カ(かめのこ)〕うろこニ同ジ。又、イロクヅ。ウロクヅ。コケラ。コケ。字鏡七十一「鱗、魚脊上骨、伊呂己」倭名抄、十九五「鱗、以呂久部、伊呂古」古事記、上六十「如二魚鱗一所レ造之宮室」宇津保物語、梅花笠「色色ノ螺ヲ、いろこノ如打ワタシテ」字類抄「鱗、ウロクヅ」

〔**いろこ** (名) 頭垢 〔鱗ニ似タレバ云フカ〕頭ノ垢。フケ。倭名抄、三二「雲脂、加之良乃安加、一云、伊呂古、頭垢也」

いろこ (名) 色子 男色ヲ賣ル者ニテ、歌舞伎役者トナルモノ。孌童。

いろこがた (名) 鱗形 うろこがたニ同ジ。太平記、十八、瓜生旗を擧ぐる事「大中黑(新田氏ノ紋)ホドメデタキ文ハアラジトオボユ、其故ハ、前代ノ文ニ、三鱗形ヲセラレシガ、滅ビテ」(北條氏ノ紋)

いろこそで (名) 色小袖 染色ノ小袖。白小袖ニ對ス。(いろなほしノ條ヲ見ヨ)

いろごと (名) 色事 男女、情ヲ通ハスコト。情事 痴情

〔**いろごのみ** (名) 色好 女色ヲ好ムコト。スキ。好色。竹取物語「いろごのみト言ハルルカギリ、五人」伊勢物語、六十一段「いろごのむト云フスキモノ」字類抄、人倫「好色、イロコノミ」

〔**いろごろも** (名) 色衣 色ノ美シキ衣。源、九、葵五十二「アマタ年、今日アラタメシ、いろごろも、着テハ涙ゾ、フル心地スル」(元日ノ裝束ニ云フ)

いろささえ (名) 色榮螺 ごきさゝえニ同ジ。

いろざし (名) 色差 (一)いろあひ。沙石集、一、下、第七條「御色ざし(顏色ノ)マコトニ目出タク、御心地ヨゲニ見エサセ給ヒケルガ」(二)處處ニ、色ヲ差シ入ルルコト。イロドリ。着色

いろざと (名) 色里 遊女ノ居ル街。イロマチ。遊里。クルワ。狹邪 花柳巷 心中刃氷朔日(寶永、近松作)中「色里ニ、誰ガ身ノ樂デ、身ヲ捨ル」

いろ-さ・む・ム・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ（自動、下二）〔色褪〕一色、淺クナル。色、衰フ。褪ス。褪（二）色、變ハル。面灰「面、色さむ」

いろ-ざな（名）〔色品〕〔色モ、品ノ意ナリ〕イロイロ。シナジナ。クサグサ。サマザマ。

いろ-ざろ（名）〔色白〕人ノ肌ノ、色白キコト。白皙

いろ-ずり（名）〔色摺〕（一）模様ヲ色ドリテ、摺リツケタルコト。紫式部日記、正月一日、坎日「青色ノ唐衣、いろずりノ裳」（二）見當摺ノ版木ニテ、種種ノ繪具ニテ、模様ヲ紙ニ摺出スコト。錦繪ナドニ云フ。

いろ-せ（名）〔伊呂兄〕〔いろは（母）ト、せ（兄）トノ語原ヲ見ヨ〕兄、又ハ、弟ヲ云フ語。古事記、上「須佐之男命、云云、吾者天照大御神之伊呂勢者也（弟）」同、中（垂仁）「沙本毘賣命之兄、沙本毘古王」

いろ-そ・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ（自動、四）〔色添〕色品、添ハル。添ヒ加ハル。玉葉集、十七、雜、四「アハレモ、イトドいろそふサマニ、言ヒオコセテ侍リケル」（平維盛ノ死ニ云フ）

いろ-だま（名）〔色玉〕石榴ノ異名。

いろ-づ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ（自動、四）〔色付〕色、ヲ生ズ。源、十、榊「モミヂノ、ヤウヤウいろづきワタリ」「花ノ若モ、赤ク色づく頃」

いろ-ど（名）〔伊呂弟〕〔母ノ語原ヲ見ヨ、とハ、弟ノ略〕弟、又ハ、妹ヲ云フ語。神代紀、下「味耜高彦根神之妹、下照姫」同卷二十五「[illegible]下照姫、云云、其女弟玉依姫」古事記、中（安寧）十五「二女、云云、弟名、[illegible]伊呂杼」垂仁紀、二十八年十月「天皇母弟、倭彦命」古事記、下（履中）「[illegible]伊呂弟水和氣命、云云、其伊呂弟水齒別命」

いろ-どり（名）〔色取〕イロドルコト。エドリ。彩色。

いろ-ど・る・ル・レ・ラ・リ・レ（他動、四）〔色取〕（一）種種ノ色モテ畫ク。エドル。彩色ス。〔彩色〕名義抄「彩、イロドル」（二）顏ニ、紅、白粉、黛ナド、ツク。假粧ヲスル。源、四十六、總角「[illegible]髮ヲヒキカケツツ、いろどりタル顏ヅクリヲヨクシテ」

いろ-なぐさ（名）〔色無草〕松ノ異名。續玉集（[illegible]永）「オク露モ、常盤ノ名ナル、色無草、カリソメノマモ、秋ハ來ニケリ」

いろ-なほし（名）〔色直〕白小袖ナルヲ、色小袖ニ着替フルコト。正式ニハ、婚姻ノ後、三日目ニ行フ、出産後ニハ、百一日目ニ行ヒ、或ハ、九日目ニ行フモアリ、略儀ナルベシ。又、民間ニテハ、婚姻ノ儀終ハリテ、宴ニ移ル時ニ行フ。宗五大雙紙、人ノ妻迎ヘ「初日ヨリ二日マデ、男女共ニ、白色ヲ着スベシ、三日目ニハ色直しトテ、色アル物ヲ着候」謎所記「百日ノ中ハ白小袖、百一日目、色直トテ、産婦、兒、並、仕女モ、色小袖ヲ着ス」河海抄、十三「御産當日、上下着白裝束、九夜改白裝束、復尋常也」

いろ-ね（名）〔伊呂根〕〔次次條ノ母、又、根（尊稱）ノ語原ヲ見ヨ〕兄、又ハ、姉ヲ云フ語。神代紀、下「木花開耶姫、因白、亦吾姉磐長姫在」綏靖即位前紀「庶兄手研耳命」古事記、中（安寧）「二女、兄名、蠅伊呂泥、云云、弟名、蠅伊呂杼」景行紀、四年二月「稚倭根入彦皇子、其兄神櫛皇子」孝德紀、大化五年三月「蘇我臣日向、云云、曰、僕之異母兄麻呂、云云」倭名抄、二「兄、一云、昆、古乃加美、伊呂祢」

いろ-ね（名）〔色音〕花ノ色ト、鳥ノ音ト。耳底記（烏丸光廣）「花鳥ノいろね」

いろ-は（名）〔伊呂波〕〔いろハ、可愛、友愛ノ、うろノ轉、（親、いろ。遙遙、はろばろ）郎子、郎女モ、是レナリト云ヒ、はは（母）ニ同ジ、生母ヲ云ヒ、伊呂兄、伊呂姉、伊呂弟、伊呂妹モ、同意、同胞ノ兄弟姉妹ヲ云ヒシニ起レル語ナルベシ、或ハ、いろハ、家ろノ略、（まへつぎみ、まちぎみ。あへおもふ、おもらふ。兒ろ、尾ろ、廬ろ）實母、舍兄、舍弟ノ義トモ云フ、イカガ〕母ニ同ジ。實母。生母。略シテ、いろ（かぞいろノ條ヲ見ヨ）神代紀、上「父、[illegible]一「母、日玉依姫」倭名抄、二十六「母、伊呂波、波波」

いろ-は（名）〔以呂波〕（一）假名四十七字（以呂波歌ノ）ノ總名。以呂波歌ノ首ノ三字ヲ取リテ名ヅケタルナリ。日本字母 台記、久安六年正月十二日「今日今[illegible]呂波[illegible]御前ニ依、初書ニ以呂波」二今[illegible]呂ハ、[illegible]長ノ息、[illegible]長ノ童名）千載集（文治）序「歌ノ道、云云、タダ假名ノよそぢアマリなな文字ノ内ヲ出デズシテ、心ニ思フ事ヲ、詞ニマカセテ、言ヒツラヌル、云云」（二）以呂波歌。倭片假字反切義解、序、釋守尊、著「四十七字伊呂波」（三）童兒ノ手習始ニ學バスルニ、以呂波歌ヲ、假名手本ニ記シテ授クルコト。今川了俊、落書露顯「手書ノいろはヲバ、イカガ學ブベキゾヤ」因リテ、スベテ、書初ナルヲ、いろはト云フ。初歩

いろは-うた（名）〔以呂波歌〕同ジ文字ナキ歌トテ、假名四十七音ヲ、七音、五音、八句ノ今樣歌ニ詠ミツラネタルモノ。（假名手本ノ條ヲ見ヨ）涅槃經ノ眞言四句ノ偈ノ意ヲ演ベタルモノト云フ。略シテ、いろは。[illegible]、序「色香[illegible]散畢、諸行無常也、[illegible]常住、是生滅法也、有爲奥山今日越、生滅滅已也、淺夢見志不醉、寂滅爲樂也」此歌、弘法大師ノ作ト傳フレド、今樣歌ト云フモノハ、和讚ヨリ移リテ、花山、一條天皇ノ頃ヨリ始マリシモノナレバ、時代合ハズ、同ジ文字ナキ歌ノ、あめつちノ歌、たゐにノ歌ノ次ニ出來シモノニテ、此歌ノ事ハ、承曆三年抄、金光明最勝王經音義ニ見エタルヲ、最モ古シトオボユ。源氏物語、三十二、梅ガ枝ノ條ニ、河海抄ニ「江談云、天仁二年八月、假名手本、云云、弘法大師所作、云云」ナドトモアリ。

いろは-がな（名）〔以呂波假名〕ひらがなニ同ジ。

いろは-ガルタ（名）〔以呂波骨牌〕骨牌ニ、以呂波短歌ノ趣ヲ畫キ、其歌ノ首字ヲ、假名ニテ一ツヅツ記シオキ、歌ヲ詠メバ、相合セテ取ル、其法、歌骨牌ヲ取ルガ如シ。小兒ノ事ナリ。

いろは-ざゅん（名）〔以呂波順〕物ノ名ノ順番ヲ、其頭字ヲ、以呂波歌ノ四十七音ノ次第ニ從ヒテ立ツルコト。以呂波附、以呂波番號ナドトモ云フ。

いろは-たんか（名）〔以呂波短歌〕以呂波四十七ノ音ヲ冒ラセテ、ツラネタル短キ諺、「犬モアルケバ棒ニアタル」ナド云フ[illegible]、以呂波骨牌ナドトシテ、小兒ヘノ教訓トス。

いろは-ぢゃや（名）〔以呂波茶屋〕天明ノ頃、江戸、谷中ノ感應寺、今ノ天王寺ノ門前ニアリシ水茶屋、[illegible]ヲ置ケ、何レモ、いろはノ字ヲ暖簾ニ染出ス。後ニハ娼樓トナリシガ、[illegible]ニ禁止セ[illegible]タリ。[illegible]、[illegible]ノ[illegible]ニ、[illegible]ヤナリメルいろは茶屋、ミン[illegible]ノ

殉ナニフシキト、アサキ事ミシエヒ心地ナルベシ」

いろは-づけ (名) 以呂波附 いろはぢゅハヲ見ヨ。

いろは-ばんがう (名) 以呂波番號 いろはぢゅんヲ見ヨ。

いろは-ぼたん (名) 以呂波牡丹 牡丹ノ一種。花、劣レルモノ。專ラ、接木ノ臺ニ用キル。平頭紫

いろは-もみぢ (名) 以呂波楓 楓ノ葉ノ刻缺ノ、七叉ナルニ云フ稱。

いろひ (名) 綺 イロフコト。カカリアフコト。クチダシ。テダシ。干渉 吾妻鏡、六、文治二年十月廿四日「現在甚反人訴之外著、可レ令レ停ニ止地頭綺一」太平記、三十、吉野殿與ニ相公羽林一御和睦事、本家、領家、年來進止ノ地ニ於テハ、武家一向、其綺ヲ可レ止ニテ候」

いろ・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (自動、四) 艶 「色ヲ活用ス、勝ふ、境ふ、歌ふ、同趣」(一)色ヲ生ズ。艶シクナル。名義抄「艶、イロフ、ウルハシ」和泉式部集、五「イカバカリ、思ヒオクトモ、見エザリシ、露ニいろへル、撫子ノ花」(二)色、映ル。源、三十四、下、若菜、下「何事ニモ、目ノミ紛ヒいろふ」(目移スル意)

いろ・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (自動、四) 綺 (一)「カカヅラフ。カカリアフ。タヅサハル。カマフ。取扱フ。關係ス。轉ジテ、いぢる。干渉 名義抄「綺、イロフ」平家物語、二、西光被レ切事「綺ふマジキ事ヲノミ綺ひ、過タヌ天台座主、流罪ニ申シ行ヒ」太平記、一、資朝俊基關東下向事「御治世ノ御事ハ、朝議ニ任セ奉ル上ハ、武家綺ひ申スベキニアラズ」徒然草、七十七段「世ノ中ニ、其コロ人ノモテアツカヒグサニ、云ヒアヘル事、いろふベキニハアラヌ人ノ」尺素往來「國衙分所務、任ニ先規ニ不レ可ニ相綺一」山家集「人ノウヘ、ヨシトモイヒテ、何カセム、いろへバ濁ル、山川ノ水」保元物語、一、新院御謀反事「天下ノ事ニ於テ、いろはセタマフ事モナカリシカバ」源、十八、松風「惟光ノ朝臣、例ノ忍ブル道ハ、イツトナクいろひツカウマツル人ナレバ、遣ハシテ、云云、用意ナドセサセタマヒケリ」(二)手ニ觸ル。弄 狂言記、佛師「いろうテ見マシヤレバ、マダ人肌デゴザッタ」

いろ・ふ・フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ (他動、下二) 彩色 〔前前條ノ語ノ他動、類ふ、たぐふる、同例、叉、此語ノ、いろどる、あやどるノ意トナレルカ、說文「綺、文繒也」〕色ヲ加ヘテ、麗シクイロドル。名義抄「錯、イロフ、マジフ」頌、イロフ」竹取物語「種種ノ麗ハシキ瑠璃ヲ、いろへテ作レリ」運正臺式「剪 綵作レ紐」

いろ-ふし (名) 色節 〔物ノ色、事ノ廉ノ意ナラム〕 際立チテ、キラビヤカナルコト。枕草子、五、四十六段「清涼殿ノ反橋ニ、元結ノ村濃、イトケザヤカニ出デ居タルモ、云云、上ノ仕、童ドモ、イミジキ色ふしト思ヒタル、イトコトワリナリ」徒然草、百九十一段「夜ニ入リテ物ノ映ナシト云フ人、イトクチヲシ、萬ノ物、綺羅、飾リ、色ふしモ、夜ノミコソメデタケレ」

いろ-ぶみ (名) 色文 艶書ニ同ジ。

イロヘロ (名) 覇王樹 〔蠻語ナリト云フ〕 草ノ名、さぼてんニ同ジ。

いろ-まち (名) 色町 イロザト。遊所。好色徒然草「風俗、シナシナト好キ女ハ、極メテ三ケノ色町ニモ限ラズ、云云」(嬉遊笑覽、九)

い-ろん (名) 異論 他ニ異ナリタル論。後漢書、明帝紀、註「議者不レ同、南北異レ論、疑不レ知レ所レ從、久而不レ決」

いろん-な (連體) 色色 〔いろいろなるノ約略〕 種種ナル。「いろんな物」

いろ-め (名) 色目 襲ネタル衣服ノ、染色ノ出合。萬代集、十三、戀、五「雲鳥ノ、綾ノ色目モ、思ホエズ、人ヲ褄見テ、程ノ經ヌレバ」「襲ノ色目」

いろ-め (名) 色目 (一)思ヒヲ、目ノ色ニモラスコト。世間手代氣質(享保、其頃)「手代ドモニ不屆アレドモ、必ズソノいろめ遊バスナ」(二)轉ジテ、色メカシキ目ヅカヒ。秋波

いろめか・し・シキ・シケレ・シク・シク (形、二) 色 色メク狀ニテアリ。好色ラシ。源、七、紅葉賀「色めかしうナヨビタマヘルヲ、女ニテ見ムハ、ヲカシカリヌベク」榮花物語、三、さまざまの悅「對ノ御方、イトいろめかしう、世ノタハレ人ニ、言ヒ思ハレタマヒツルニ」

いろ-めがね (名) 色眼鏡 (一)薄赤、薄青ナドノ硝子ヲ玉トシタル眼鏡。(二)エコヒイキノ見カタ。偏頗ナルミカタ。

いろめ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (自動、四) 色 〔めくノ條ヲ見ヨ〕 (一)時メキテ、色ヲ現ス。咲キ盛ル。發生 夫木抄、十四、秋、五「ヤヘムグラ、門サスマデモ、いろめくハ、菊コソ草ノ、アルジナリケレ」續後撰集、十六、雜、上「マドロマズ、ネヲノミゾ泣ク、萩ノ花、いろめく秋ハ、過ギニシモノヲ」(二)敗ルル兆、見ユ。敗兆 太平記、八、酒部瀨河合戰事「スハヤ、敵ハいろめきタルハ」(三)好色ニ見ユ。源、六、末摘花「アダアダシキフルマヒ言ハバ、女ノアリサマ苦シカラム、ト宣ヘバ、餘リいろめいタリトオボシテ、折折カウ宣フヲ、恥カシト思ヒテ」

いろ-も (名) 伊呂妹 〔母ノ語原ヲ見ヨ、もハ、妹ノ略〕 妹ニ同ジ。古事記、上「五十同、中(垂仁)「沙本毘古王、問ニ其伊呂妹一曰、云云」「阿治志貴高日子根神、云云、其伊呂妹、高比賣命」

いろ-もの (名) 色物 東京ノ寄席ニテ、講談、落語、淨瑠璃節ナドニ對シテ、手品ナドヲ云フ語。

いろり (名) 色利 〔煎煎ノ、いりり、いろりト約轉シタルニテ、(ひりふ、ひろふ。(拾)藥モ、草煎ナリ)クリカヘシ煎ッ意ノ語ナルベシ〕 煮ル物ニ加ヘテ、味ヲ添フル料ノ物。鰹の色利ハ、鰹節ヲ蒸シテ製スル時、出ヅル液ナリ、凝リ固マリテ、色、黑褐ナリ、古ヘ、煎汁ト云ヒ、今ハ煎脂、叉ハ、煮取ト云フ。魚膏 豆の色利ハ、大豆ヲ煎タル汁、亦、煎物ニ加フ。倭名抄、十六「塩梅類「堅魚煎汁、加豆乎以呂利」 事類記、調備部「色利煎汁、いろりトハ、大豆ヲ煎タル汁也、云云、叉ハ、鰹ヲ煮タル汁也」

いろ-わけ (名) 色分 圖ノ、線、界、ナドノ上ヲ、色取リテ區別スルコト。

いろ-ゑ (名) 色繪 彩色シタル畫。(墨繪ニ對ス) 着色畫

いろ-をとこ (名) 色男 (一)美貌キ男。美男子 (二)戀人。情夫

いろ-をんな (名) 色女 相戀フル女。情婦

い-わう (名) 醫王 藥師ニ同ジ。「醫王善逝」

い-わう (名) 以往 (一)コレヨリ、ユクサキ。コノノチ。以後。後來。史記、刺客傳「飮ニ于燕市一、酒酣以往、高漸離擊レ筑」神代紀、下「九十海神制曰、僕口女、(汝)從レ今以往、不レ得レ吞レ餌」(二)誤リテ、以前。往時

い-わう (名) 硫黃 (一)ゆわう(硫黃)ニ同ジ。(二)附木。(京都)

いわう-さう (名) 硫黃草 ゆわうさうニ同ジ。

いわ・く・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ（自動、下二）［驚駭］〔弱ノ轉ナル、いわヲ活用セシメシ語ナルベシ、よわし、いわし、(鰯)〕玉篇「駭、驚起也」驚キ、アワツ。[illegible]位前紀「[illegible]最[illegible]、不[illegible]」安[illegible]、元年四月「[illegible]而[illegible]」皇極紀、二年十一月「古人大兄皇子、[illegible]」

いわ・く・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ（自動、下二）［稚氣］〔前條ノ語ト、語原同ジカルベシ〕子メク。アドケナクテアリ。源、二十五、螢二十「マダいはけタル雛遊ナドノケハヒノ、見ユレバ」榮花物語、六、輝藤壺「マダ幼カルベキ程ニ、イササカいわけタルコトナク、云云、アサマシキマデ、おとなびサセタマヘリ」

いわけな・し・キ・ケレ・ク・ク（形、二）［稚氣］〔稚氣甚シノ義、前條ヲ見ヨ〕イワケタリ。子メキタリ。イトケナシ。源、一、桐壺二十「いはけなくオハシシ時ヨリ、見奉リ」狹衣物語、二「いはけなきモノカラ、ヲカシケレバ」（少女ニ云フ）六帖、三「逢フコトノ、カタヨセニスル、綱ノ目ニ、いはけなきマテ、戀ヒ（鯉ニカク）カカリヌル」

いわし（名）［鰯］〔弱しノ轉、死シヤスシ、字ハ、弱魚ノ合字〕海魚。東海、殊ニ多シ。形、鯵ニ似テ、小サク圓シ、細カキ鱗アリテ脱チ易シ、背、蒼黑ニシテ、腹、銀白ナリ、大キナルハ八九寸ニ至ル、夏、暖流ニ乘ジテ群リ來ル、水ヲ離ルレバ死シ易シ。脂多ケレバ、魚油ヲ取リ、又、ほしかトス、漁業ノ利アルコト、鯨ニ次グ、食スルハ千分ノ一ナリ。ムラサキ。オムラ。トホソ。イワシコ。海鰮 鰮魚 字鏡[illegible]「[illegible]、伊和志」倭名抄、十九「[illegible]、以和之」

いわし・あみ（名）［鰯網］海中ニテ、鰯ノ群ヲ圍ミテ捕ルニ用ヰル、大キナル網。日本山海名物圖會、五「鰯網、いはしあみハ、大小二網ナリ、云云」

いわし・くぢら（名）［鰯鯨］鯨ノ一種、南海ニ多シ。大キナルハ、二丈許、胸腹ノ皮、縦ニ畔ヲナシテ、竹ヲ編メルガ如シ、簀子皮ト呼ブ、又、脊鰭アルコト、他ノ鯨ニ異ナリ、口中ノ鬚、短クシテ、脂モ少シ、每ニ鰯ヲ驅リ來ル。一名、カツヲクヂラ。鰮鯨 本朝食鑑、九、鯨「鰯鯨者、常逐レ鰯而來、故名、大者不レ過ニ二三丈ニ、肉薄、好不レ采レ之」

いわし・ぐも（名）［鰯雲］うろこぐもノ條ヲ見ヨ。

✧✧**いわし・を**（名）［鰯］〔をハ、添ヘタル辭、いささを、うるりを、どぢやうを〕鰯ニ同ジ。東京魚商ノ語。

い・わたら・す（動）［渡］次條ノ語ノ敬語。わたらすノ條ヲ見ヨ。

い・わた・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）［渡］〔いハ、發語〕渡ルト云フニ同ジ。萬葉集、十八二十長歌「珠洲（能登）ノ海人ノ、沖津御神（可畏キ處）ニ、伊和多利テ、潛キ取ルト云フ、眞珠、云云」

いゐ（名）［依違］〔韻會「依違、不レ決也」漢書、孔光傳「猗違」注「猶ニ依違一也、依且違、言、兩可也」〕何ツカズナルコト。是非ヲ決定シカヌルコト。漢書、谷永傳「展レ意無レ所ニ依違ニ」字類抄「依違、ワヅラフ也」

いゐき（名）［異域］コトクニ。トツクニ。異國。外國。後漢書、班超傳「立ニ功異域一、以取ニ封侯一」

いゐ・ぢゅう・ぎゃう（名）［異位重行］朝廷ノ公事ノ日ニ、王卿以下、列立ノ次第ニ云フ語。貴キヲ前ニシ、卑シキ者、次第ニ、其後ニ重ナリ立ツ。內裏式、上、朝賀「親王以下五位以上、東西分頭立ニ庭中一、去レ版南一丈許、異位重行」代始和抄「一、異位重行、二位一列、三位一列、四位一列、コレヲ異位ト云フ、二三ノ位等、重ナリテ立ツヲ重行ト云フ也」建武年中行事、異位重行ニ「位中納言ハ大納言ノ末ニオメル、三位參議ハ中納言ノ末ニオメル也」

いゐん（名）［醫院］醫術ヲ行フ所。診察、治療スル所。

いゐん（名）［醫員］醫務ニツク職員。

いを（名）［魚］うを（魚）ニ同ジ。今、いをのめニ、其名存ス。駿河、伊豆ニテハ、今モいをト云フ。字鏡[illegible]「鮒、伊乎[illegible]」倭名抄、十九「魚、宇乎、伊遠」源、二、帚木廿「荒海ノ、イカレルいをノ姿」

いを（名）魚ノ名。鯽ノ一種、身圓クシテ、鯉ノ如キモノ。マルブナ。

いを・うり（名）［魚賣］うをうりニ同ジ。七十一番職人歌合、十五番「いをうり、イヲハ候、アタラシク候、メセカシ」

いを・ぐし（名）［魚串］うをぐしニ同ジ。今モ、駿河ニテ云フ。

い・を・さ（名）［箭］矢ニ同ジ。さ（箭）ノ條ヲ見ヨ。

い・を・すき（名）［商陸］〔いハ、發語、食草ノ意ニモアルカ〕草ノ名、やまごばうノ古名。本草和名、上四十八「商陸、以乎須岐」倭名抄、同ジ

い・を・とり（名）［魚捕］アマビト。アマ。スナドリスル人。レフシ。漁夫 倭名抄、二十四「漁子、伊乎止利」

い・を・ぬ・ヌル・ヌレ・ネ・ネ・ネヨ（自動、下二）〔寢を寐ノ義〕寐ヌ。寢ヌ。萬葉集、二十三十四「家思フト、伊乎禰ズ居レバ、鶴ガ鳴ク、蘆邊モ見エズ、春ノ霞ニ」古今集、十五、戀、五「夢ニダニ、逢フコトカタク、ナリユクハ、我レヤいをねヌ、人ヤ忘ルル」

いを・の・ふえ（名）［[illegible]］ふえノ條ヲ見ヨ。

いを・の・め（名）［魚目］古言、いをめ。力作ニ因リテ、手足ニ堅ク固ク生ズル肉、白大豆ノ大キサニシテ、疣ヨリ堅シ。疣目 石胞 字類抄「疣目、イホメ、イヲノメ、亦、イヲメ」

いを・め（名）［魚目］〔形、魚ノ目ニ似タリ〕今、いをのめト云フ。前條ヲ見ヨ。倭名抄、三十一「疣目、以乎女、手足生ニ[illegible]肉一、俗云レ於レ肉也」

う

う 五十音圖、阿行、第三ノ假名。（あノ條ヲ見合スベシ）

う 五十音圖、和行、第三ノ假名。（わノ條ヲ見ヨ）うさぎ、をさぎ。(兎)うそ、をそ。(獺)うけら、をけら。(朮)うや、ゐや。(敬)うゑ、うう(飢)等、相通ズレバ、是レ等ノうハ、和行ノうナラム、サレド、假名ノ形ヲ別チ得ザレバ、今ハ、皆、阿行ノうニ併セタリ。

う（名）［兎］〔此獸ノ本名ナルベシ、古事記上ニ「裸 菟伏也」繼體紀ニ「菟皇子」ナドアル、皆、うト訓ムベキモノノ如シ、尚、うさぎノ條ヲ見ヨ〕うさぎニ同ジ。神武紀ニ「菟田[illegible]」[illegible]萬葉集、十二「菟（卯）ノ花（卯）ノ比」[illegible]注倭名抄、二十「菟缺、宇久知[illegible]」[illegible]三十七、[illegible]ス、うノ毛ノイカニ、シナルラム、月ノ桂ノ、[illegible]タノミテ」

う (名) 卯 〔兎ノ義〕(一)支干ノ名。其條ヲ見ヨ。新六帖、四「宮ノ内ノ、ムツキハ上ノ、うノ日トテ、取ルテフ杖ハ、萬代ノタメ」(二)方角ノ名。支干ノ條ヲ見ヨ。(三)〔時ノ名。其條ヲ見ヨ。源、二十九、行幸「うノ時ニ出デ給ヒテ」

う (名) 鵜 〔鵜鶘ハ、がらんてうナリ、亦能ク鳥ヲ捕フルニ因リテ、字ヲ誤用セラル〕水鳥。形、鴉ニ似テ、色黑クシテ、背、肩ハ淡茶色ヲ帶ブ、喙長クシテ、末少シ曲レリ、蹼甚ダ廣ク、能ク水ニ沒シテ魚ヲ捕ル、畜ヒテ鵜飼ニ用キル。シマツドリ。鸕鷀 神代紀、下二十八「鸕鷀羽」(古事記、鵜羽) 神武紀十四長歌 宇介譬(鵜飼) 天治字鏡、八九「鵜、宇、鸕、宇」

❖う (名) 鰻 うなぎノ略。(京都)

う (名) ウ 紙ノ裏ノ略。お(オ)ノ條ヲ見ヨ。

う (名) 羽 五音ノ一。十二律ノ條ヲ見ヨ。周禮、春官、大師「皆文レ之、以二五聲一、宮、商、角、徵、羽一」

う (名) 迂 迂闊ニ同ジ。論語、子路篇「有レ是哉、子之迂也」「其論ノ迂ナルヲ笑フ」

う・ウル・ウレ・エ・エ・エヨ (他動、下二) 得 獲 (一)〔我ガ物トス。所有トス。手ニ入ル。雄略紀、二年十月「每レ獵大獲」「譽ヲ得」「利ヲ得」(二)〔娶ル。古事記、中(應神)八十一「汝得二此孃子一乎、答曰易 得 也」萬葉集、二十一「吾レハモヤ、安見兒(女名)得タリ、皆人ノ、得ガテニスト云フ、安見兒衣タリ」伊勢物語、二十三段「男ハ此女ヲコソえメト思ヒ」(三)遂ゲ行フ。力、能ク爲ス。「書ヲ讀ミ得」

う (形) 憂 憂しト云フニ同ジ。古今集、十八、雜、下「然リトテ、ソムカレナクニ、事シアレバ、マヅ歎カレヌ、アナう世ノ中」

う (感) 諾 〔宜ノ語根ナリ、むトモナリ、うんトモナル、をノ轉ナリ、萬葉集、十四二十三「否乎カモ」同、十六九「否モ諾モ、欲リスルママニ、ユルスベキ」〕(一)〔諾ヒ、承知スルニ發スル聲。信明集「今日ノ中ニ、否トモ、うトモ、言ヒハテヨ」蜻蛉日記、下、中八「人、告ゲニ來ルモ、何事トモオボエネバ、うトテ止ミヌ」拾玉集、一「サゾト云ヘバ、マコトニサゾト、アドウチテ、ナヤうヤト云フ、人ダニモナシ」(二)應フル聲。鳴門中將物語「御應ニ、男ハうト申シ、女ハおト申ス」

う (感) 〔うめく、うたく、うなるノ語根〕呻吟ク聲。ウン。宇治拾遺、三、第三條「うト云ヒテ、後方ニコソ伏シカヘリタリケレ」

う (接頭) 大 おほノ約レル語。おほけ、うけ。(食)おほみ、うみ。(海)おほし、うし。(大人)おほば、うば。(祖母)おほま、うま。(馬)おほしし、うし。(牛)おほかり、うかり。(鴻)沖繩ニテ、おほみづ、うみづ。(洪水)おほかみ、うかめ。(狼)

う (接尾) 宇 建物ヲ數フル語。宋書、高僧傳「林中有二一宇僧房一」臨時祭式、御巫等選替供神裝束「神殿各一宇」「佛堂、一宇」

う-あいさ (名) 鵜秋沙 鳥ノ名、あいさノ一種。嘴長キコト、鵜ノ如キモノ。

う-い (名) 羽衣 ハゴロモ。漢書、郊祀志「五利將軍、衣二羽衣一立二白茅上一」「霓裳羽衣ノ曲」

う-い (名) 雨衣 アマギヌ。蓑、雨合羽ノ類。許渾詩「自翦二靑莎一織二雨衣一」倭名抄、十四二十「雨衣、阿萬岐沼」

う-い (名) 雨意 アマモヨホ。雨氣。晁補之詩「巢居識二風鷙一穴藏知二雨意一」

う・い (連體) 〔よき、よい(好)ノ轉ナルカ、美しノ語原、參考〕怜悧キ。ケナゲナル。狂言記、烏帽子折「一段うい奴ヂャ、急イデトッテ參レ」本朝三國誌(享保、近松作)一「うい若者、出カシタ、出カシタ」諺草「有意奴、下郎ノ、ケナゲナルヲ譽ムル詞ナリ」

❖う・い (形) 憂し、憂きノ音便。靜岡縣「此仕事ハういナア」(つらしノ意)「旅ハ、ういモノ」

う-いう (名) 烏有 〔烏にぞ有らむノ意〕失ヒテ、無クナレルコト。史記、司馬相如傳「烏有先生者、烏有二此事一也」「物皆、烏有ニ歸ス」

ウイ-ウイ (名) 囘囘 囘囘ニ同ジ。

ウイスキイ (名) 火酒 〔英語、Whisky.〕西洋製ノ一種ノ酒。麥類ヲ蒸溜シテ作ル、酒精分强クシテ、燒酎ノ如シ。

ウウ (名) 五 〔唐音ナリ〕拳ノ語、五ニ同ジ。又、無手ヲモ、うう卜云フ。

う・う・ウル・ウレ・ヱ・ヱ・ヱヨ (自動、下二) 饑 飢 〔瘁ゆニ通ズルカ、飯ナキニ病ム意ナルベシ〕又、オウ。食、無クナリテ、胃ノ、空ナルニ苦シム。ウヱル。ヒダルクテアリ。ハラヘル。天治字鏡、四十「饑、伊比(飯)爾宇宇」推古紀、二十一年十二月「時飢者臥二道垂一云云、飯ニ惡テ」(うゑノ約) 欽明紀、五年十二月「渴 飲二其水一」

う・う・ウル・ウレ・ヱ・ヱ・ヱヨ (他動、下二) 植 地ニ埋メ立ツ。(うゑる(植)ノ條ヲ併セ見ヨ) 神武紀十四長歌「垣下ニ、宇惠シ 椒、口疼ク」萬葉集、十五三十三「人ノ宇宇流、田ハ宇惠マサズ」天治字鏡、七三十四「蓺、宇宇」

ウウロン-ちゃ (名) 烏龍茶 臺灣ニテ製スル、一種ノ茶。紅茶ト綠茶トノ中間ノ如キモノ。

ウエイタア (名) 〔英語、Waiter.〕西洋ニテ、食事ニ給仕ナドスル者。

う-えん (名) 有緣 佛敎ノ語。二者ノ間ニ、過去ヨリ、何等カ關係ノ因緣アルコト。佛ヲ信ズル者ヲ、佛ノ有緣ノ衆生ト云フ。コレニ反スルヲ、無緣ト云フ。(因緣ノ條ヲ見ヨ) 晉書、李密傳「人亦有レ言、有レ因有レ緣」榮花物語、二十二、鳥舞「今、我レ等有緣ノ佛ヲ見タテマツリツ、是レオボロゲノ緣ニアラズ」「緣ナキ衆生ハ、度シガタシ」

ウエルカム (名) 歡迎 〔英語、Wel-come.〕歡ビテ、人ヲ迎フルコト。

ウオッカア (名) 火酒 〔露語、Vodka.〕酒ノ一種。露西亞國ニテ製出ス、穀類ヲ原料トシ、醱酵セシメテ後、蒸溜シテ製ス。無色ニシテ、酒精分多ク、味、强烈ナリ。

うか-うか (副) 浮浮 〔うかれうかれての意カ〕(一)氣ノ、沈着カヌ狀ニ云フ語。恂恂 椿葉記「天下モ靜カナラズ、御惱モヒトカタナラズ、世ノ中ハうかうかトシテ、年モ暮レヌ」(二)考ヘモナク、心附カズニ居ル狀ニ云フ語。漠然「うかうか日ヲ送ル」うかうかシテ水ニ陷ル」

うかうか・し・シキ・シケレ・シク・シク (形、二) 浮浮 考ヘモナク、心附カズシテアリ。小夜のねざめ(文明、一條禪閤)「男モ女モ、うかうかしカラズ、正直ニ道理ヲ知リタラムヨリ外ハ、何事モ、徒事ニテ侍ルニヤ」

うかがひ (名) 窺伺 (一)〔伺フコト。ノゾクコト。宇津保物語、俊蔭五十五「人ノうかがひナドスルニ、尋ネ出デラレテ」(二)〔竊ニ敵陣ノ動靜ヲ探リ知ルコト。ウカミ。モノミ。シノビ。斥候 間諜 天治字鏡、三十一「諜、伊久佐乃宇加加比」(三)官ニ、事ヲ申立テテ、指令ヲ仰グコト。伺を立つるト云フ。

中案

うかが・ふ（ウカゴウ）・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ（他動、四）［窺伺］〔内窺ふるノ略ニテ、活用ヲ變ジタル語カ、うちとねり、うどねり、（内舎人）おちはふ、あぢはふる（味ふ）〕（一）竊ニ見ル。ノゾク。字鏡三十「闚、宇加加不」（二）竊ニ、機ヲ待チツケテアリ。「窃子ヲ窺ふ」「暇ヲ窺ふ」（三）竊ニ狙ヒテ取ラムトス。神代紀、上「當ニ有ニ奪レ國之志一歟、云云、敵ヲ窺覦（ウカゴフ）ニ手ニ（素戔嗚尊ノ、高天原ニ向フヲ云フ）崇神紀、十年七月、長歌「大キドヨリ、于介伽兜テ、殺サムト、スラクヲ知ラニ」（武埴安彦王ノ謀逆）

うかが・ふ（ウカゴウ）・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ（他動、四）［伺］〔窺ふノ義、豫メ其清息ヲ知ラムトスル意〕（一）問ふノ敬語。中案（二）訪（トブラウ）ふノ敬語。伺候ス。趨候（三）試ル。診「脈ヲ伺ふ」

うかく（名）［羽客］〔羽化ノ人ノ意カ〕仙人。神仙。懐風藻「仰ニ羽客于丹丘ニ」庾信、卭竹杖賦「和ニ神人之不レ真、符ニ羽客ニ以相迎」

うがく（名）［右樂］〔右方ニ用キル樂ノ義〕狛（コマ）（高麗）樂の總稱。吉野樂書「舞人、モトハ一ニテ有ケルガ、大神公持ガ時ヨリ、左右ノ舞ヲ分テリ、ムネトノ舞、胡飲酒、採桑老、納蘇利、青海波、陵王ナドヲモ、右ノ樂人トリコメテ、云云」

うかご（名）［鵜籠］鵜飼ニツカフ鵜ヲ入レオク竹籠。謠曲、鵜飼「鵜籠ヲ開キ、取出シ、云云、荒鵜ドモ、此河波ニパット放セバ、云云」

うかさ・れる・レル・レレ・レ・レヨ（自動、下一）［被浮］〔「浮かせらるノ約」〕心氣、浮キ立ツヤウニセラル。「三味線ニうかされテ踊ル」茶にうかされるト云フハ、濃キ煎茶ヲ多ク飲ミテ、夜、寐ツカレヌヲ云フ。茶ハ、眠ヲ妨グルモノナリ。

うか・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）［浮］〔浮くノ他動、すく、すかす。（透）わく、わかす（沸）〕浮クヤウニナス。ウカブル。赤染衛門集「花ノ形ヲ作リテ、うかしタリシ」

うがたま（名）［倉稲魂］いがたうめ（伊賀專女）ノ條ヲ見ヨ。

うがち（名）［穿］（一）穿ツコト。（二）機微（キビ）ヲ穿チ出シテ、説ヲナスコト。川柳ノ句ナドノ、諷刺ノ奇拔ナルニ云フ。啓發

うが・つ・ツ・テ・タ・チ・テ（他動、四）［穿］〔うぐる（穿）ノ他動、はぐる、はがつ（剝）〕（一）掘ル。孔ヲ明ク。神代紀、上七十「剝ニ天斑駒ニ穿ニ殿甍ニ而投納ニ」（二）掘リ貫ク。ツキヌク。雄略紀、八年二月「鑿ニ其鷄ニ地道ニ悉ニ為ニ轜車ニ」（三）ハク。着クル。漢籍訓ノ語。説文「穿、通也」正韻「穿、貫也」ノ義ニ據ルカ。「袴ヲ穿つ」沓ヲ穿つ」（四）飽クマデ、理ヲ究ム。穿鑿ス。鑿（五）深ク機微ヲ發ク。啓發「川柳ノ句ハ、人情ヲうがつ」

うかと（副）［浮］心付カズニ居ル狀ニ云フ語。ウッカリト。「うかと調子ニ乗ル」「うかと聞キ流ス」

うかねら・ふ（ウカネロウ）・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ（他動、四）［窺狙］〔うかがひねらふノ中略、うかがひみ、うかみ（斥候）ト云フ語モアリ〕ウカガヒ、ネラフ。萬葉集、八四十「此岡ニ、牡鹿踏ミオコシ、宇加遲良比」狩ニ、鳥見ノ役ノ人ノ、鳥ヲ狙フ意ヨリ、枕詞ニ用キラル。萬葉集、十六二十四、長歌「[illegible]（大和ノ斑鳩）寄ノ、若ク」

うかのみたま（名）［倉稲魂稲魂］〔食（ウケ）の靈（ミクマ）ノ轉、（竹、たか。酒（サケ）、さか）倉稲ハ、食稲ノ誤ニハアラヌカ〕食物、殊ニ、稲ノ

神、女神ナリ。ウケモチノカミ。ウカノメノ神。稲荷ノ神。神代紀、上二十一「倉稲魂、此云ニ宇介能美施磨ニ」大殿祭祝詞「稲霊、宇賀能美多麻」倭名抄、二十二「稲魂、宇加乃美太萬」

うかのめ（名）［稲魂女］〔食（ウケ）の女ノ轉、前條ヲ見ヨ〕糧米ノ神。女神ナリ。うけもちのかみ、又、前條ニ同ジ。神代紀、上二十「[illegible]」名義抄「稲魂女、稲魂女、此云ニ宇伽能迷ニ」

うかは（名）［鵜川］鵜ヲシテ、川水ヲ潜（カツ）カシメテ、鮎ヲ捕ラスル業、即チ、鵜飼ナリ。コレヲ行ハスルヲ、立つト云フ。萬葉集、一十長歌「芳野川、云云、大御饌ニ、仕ヘマツルト、上ツ瀬ニ、鵜川ヲ立テ」同、十九廿三「鵜河立テ、取ラサム鮎ノ」

うかひ（名）［鵜飼］〔鷹飼、牛飼、同趣ノ語〕鵜ヲ飼ヒナラシテ、川ニテ鮎ヲ捕ルヲ業トスル人。鵜使（ウツカヒ）トモ云ヒ、其長ヲ、鵜匠（ウシャウ）ト云フ、其事ヲ行フヲ、鵜川ト云フ、美濃ノ長良川ニテ行フモノ、最モ名アリ。今ノ方法ハ、夏秋ノ間、暗夜ニ、小舟ニテ、舳ニ篝火ヲ釣リ燒キテ、川中ニ出テ、鵜飼一人ニテ、十餘匹ノ鵜ノ頸ニ、各、鵜縄ト云フ檜縄ヲツケ、水中ニ放チ、縄ヲ左右シテ鮎ヲ呑マシム、頸ニ環ヲ嵌メオキテ、胃ニ送ル能ハザルヲ、引上ゲテ吐カシムルナリ。古事記、中（神武）長歌「宇加比ガ徒（トモ）」謠曲、鵜飼「御身如何ナル人、云云、是レハ鵜使ニテ候」（甲斐ノ石和川）

うがひ（名）［嗽］嗽（ウガ）フコト。水ヲ含（クク）ミ、又、吐キテ、口中ヲ淨ムルコト。クチススグコト。名義抄「嗽、ウカヒス」

うがひぢゃわん（名）［嗽茶碗］嗽（ウガヒ）ヲスル水ヲ盛ル、大キナル茶碗。女重寶記、五、女

[illegible]「嗽茶碗」

うかひぶね（名）［鵜飼舟］鵜飼ノ用キル舟。鵜舟。鵜船。千載集、三、夏「[illegible]、イカガ[illegible]」同「[illegible]夜ノ、[illegible]ケテ、陳ルモ涼シ、篝火ノ影」

うか・ぶ・ブ・ベ・バ・ビ・ベ（自動、四）［浮］（一）浮（ウ）ク（自動）ニ同ジ。ウカム。（二）動キ定マラズシテアリ。[illegible]「[illegible]鶴鳥ノ、遊ブ此池ニ、木ノ葉落チテ、浮べる心、吾ガ思ハナクニ」（三）出（デ）浮ク。[illegible] 嵯峨院七十五「明王ノ出デオハシマシテ、カクマカリうかびタル身ヲスレバ、馳走セムト思ヒ侍リツレド」（四）世ニナリイヅ。出身ス。[illegible]十四、澪標六「御子ドモナド、沈ムヤウニ物シタマヘルヲ、皆うかびタマフ」（五）想ヒ出ヅ。想起 新古今集、五、秋、下「來シカタハ、[illegible]、うかび来テ、行末照ラセ、秋ノ夜ノ月」「心ニうかぶ」（六）佛說ニ、亡者ノ魂、輪廻ヲ解脫シテ、往生ス。解脫 風雅集、十八、釋教「沈ミ來シ、吾ガ身ハイカデ、うかぶべキ、御法ノ舟ノ、法ニ逢ハズバ」謠曲、鵜飼「奈落ニ沈ミ果テテ、うかび難キ罪人ノ」

うか・ぶ・ブル・ブレ・ベ・ベ・ベヨ（他動、下二）［浮泛］〔前條ノ語ノ他動、たぐふ、たぐふる（類）〕（一）浮ブヤウニスル。ウクル。ウカス。萬葉集、[illegible]「[illegible]花、誰レカ有伽倍シ、酒杯ノ上ニ」（二）出世セサス。立身セシム。源、十三、明石六「深キ御ウツクシミ、云云、沈メル輩ヲコソ、多クうかべタマヒシカ」（三）思ヒ起ス。思想「心ニうかべテ」（四）諳誦ス。諳誦 榮花物語、十五、疑「アルハ、暗キニハ、空ニうかべ誦（ズ）ジナドシテ」同、十八、玉臺「[illegible]」（五）亡者ノ魂ヲシテ、[illegible]シテ、往生セシム。宇治拾遺、[illegible]「[illegible]ノモうかべ[illegible]ハム、トテ、[illegible]行ヒマカリアリク」

う-がふ (名) 烏合 〔烏ノ集リタル如キ意〕寄合勢力。　文選、干寶、晉紀總論「新起之寇、烏合之衆、非二吳、蜀之敵一」後漢書、耿弇傳「卜者王郎、集二烏合之衆一、震二燕趙之北一」

う-が・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (自動、四) 嗽 嗽ヲス。ロスグ。　名義抄「漱、澣、ウガフ、クチスヽグ」

∴**うか・べる** (動) 浮 浮ぶ(他動)ノ口語。

うか-み (名) 斥候 〔窺見ノ約、うかがひねらふ、うかねらふ(窺狙) ウカガヒ。モノミ。シノビ。間諜。　繼體紀、八年三月「置二斥候一」雄略紀、二十三年八月「間諜者一」孝德紀、二年正月「置二關塞、斥候、防人、驛馬、傳馬一」名義抄「間諜、ウカミス、伺見」

うか・む・ム・メ・マ・ミ・メ (自動、四) 浮 うかぶ(四段)ニ同ジ。ウク。　宇津保物語、吹上、上「二十年ナムヒタモノ、地獄ノ底ニ沈ミテ、うかむ世アラジ」

うか・む・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ (他動、下二) 浮 うかぶ(下二段)ニ同ジ。

うかむ-せ (名) 浮瀨 「せ(瀨)」ノ條ヲ見ヨ」(一)沈メル身ノ、世ニナリ出ヅル時。「身ヲ捨テテコソ、うかむせモアレ」(二)盃ノ異名。　類柑子(寶永)部烏、序「俗專吟、難波アタリノうつせあはびヲ、うかむせト名ヅケテ、奇物トセシハ、身ヲ捨テテコソノタハレゴトヨリ出デ、云云一件諧家調(寬延)「浮瀨ヤ、醫量クラベト菊ノ酒」

う-かんむり (名) 〔片假名ノ「ウ」ノ字ノ如クナレバ云フ〕漢字ノ上ニアル、宀ノ字、穴、宅、字、宇、守、等ノ如シ。寶蓋頭　運步色葉集、道、片蓋「宀」

う-がも (名) 鵜鴨 かもノ一種。全身、淡黑クシテ、赤ミアリテ、黑キ斑アリ、脚赤ク、背、細クシテ、尖レルコト、鵜ニ似タリ。

う-がら (名) 親族 〔生族ノ略、子孫ノ意、(族ノ條ヲ見ヨ)うみぢ、うがら(氏)やからハ、家族ナリ〕血脈ノ人。ヤカラ。ミヨリ。　神代紀、上「族、此云二宇我邏二」同、下「眷屬」私記「宇我良也加良」顯宗卽位前紀、十二月「親族」安閑紀、元年閏十二月「同族」舒明紀、五年七月「同姓」皇極紀、四年六月「皆族」

う-かり (名) 鴻 〔おほかりノ約、う(大)ノ條ヲ見ヨ〕鳥ノ名。ひしくひノ古名。　字鏡「鴻、宇加利」倭名抄、十八廿七「大曰レ鴻、小曰レ鴈、加利」

∴**うかり-と** (副) 浮 〔りハ、そろ、そろり、はた、はったりナドノ例〕物事ニ心ヲ付ケズシテ居ル狀ニ云フ語。ウカト。ウカウカト。ウッカリト。

うかり-ひょん-と (副) 茫然 〔うかりひょんハ、浮瓢ノ音便、(冠、かんむり)瓢、輕クシテ水ニ浮ブ、瓢輕ト云フ語モ、同ジ意ト云フ、靜岡縣ニテ、瓢輕ヲ、ひょんきんト云フ〕ウカウカト。ウカリト。ウッカリト。　續山の井(寬文)宗房(芭蕉)「夕顏ニ、見トルルヤ身モ、うかりひょん」(夕顏ハ瓢ナリ、花ヲ眺ムル身モ、瓢ノ如シノ意ト云フ)

うか・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ (自動、下二) 浮 「浮くノ動作ノ、自ラ起リテ止マラヌ意、昔、偲ばる、然、思はるノ例」(一)〔自ラ浮ク。　神代紀、上「渭蘡浮漂、譬猶三游魚之浮二水上一也」　(二)〔心、落チ居ズ。心、寄邊ナクタダヨフ。處、定ラズ、サマヨフ。浮浪　萬葉集、十一廿七「住吉ノ、津守網引ノ、泛子ノ緖ノ、(如ク)得干カ行カム、戀ヒツツアラズハ」新撰萬葉集、上「夜ミツツ、トドムル里ノ、ナカレバヤ、山ホトトギス、浮岩れテハ鳴ク」(三)面白サニ、心ススミユク。アクガル。興ニ乘ル。「月ニうかる　花ニうかれテ」

うかれ-がらす (名) 浮鴉 鴉ノ、月ノ光ナドニウカレ、栖ニ落居ズシテ鳴クモノ。月夜烏。　夫木抄、二十七、烏「月冴エテ、山ハ梢ノ、靜ケサニ、うかれがらすノ、ウタタ鳴クラム」

うかれ-づま (名) 浮妻 うかれめニ同ジ。　續千載集、十八、雜、下「一夜會フ、往來ノ人ノ、うかれづま、幾度カハル、契リナルラム」

うかれ-どり (名) 浮鷄 時ナラズ、ウカレテ鳴ク鷄。　遊仙窟「狂鷄三更唱レ曉」萬代集、十一、戀、三「ナゾモカク、人ノ心ノ、うかれどり、別レ催ス、聲ヲ立ツラム」

うかれ-びと (名) 浮浪人 「浮浪女モアリ」戶籍ヲ脫シテ、浮浪レ居ル民。課役ヲ避ケムガタメナリ。　靈異記、下、第十四條「浮浪、宇加禮比止」天智紀、九年二月「造二戶籍一斷二盜賊與二浮浪一」天武紀、下、六年九月「浮浪人、其送二本土一者、猶復還到、則彼此並科二課役一」三代實錄、五、貞觀三年十月「淡路國浪人、物部冬男」

うかれ-ぶし (名) 浮節 俗謠ノ一種。

うかれ-め (名) 遊女 「浮浪女ノ義、浮浪人ニ對ス、一定ノ夫ナク、遊行シテ衆男ニ接スレバ、浮浪ると云フ、萬葉集ニ、遊行女婦トアルモ、此意ナリ、うかれ妻ト云フモ、同ジ、遊女ノ、管絃女ノ義ト、異ナレド、其業ハ相混ズ」客ノ枕席ニ侍スルヲ業トスル女。管絃、歌舞ヲモシタリ。アソビメ。遊女。　萬葉集、十八九「遊行女婦土師」倭名抄、二廿五「遊女、遊行女兒、宇加禮女、阿曾比」宇津保物語、藤原君五十三「君達ノ御前ニ、うかれめ二十人バカリ、琴彈キ、歌ウタヒテ、御衣賜ハレリ」大和物語、中「亭子ノ帝、鳥飼ノ院ニオハシマシニケリ、云云、うかれめドモ、アマタ參リテサブラフ中ニ、聲オモシロク、由アル者ハ侍リヤ、ト問ハセ給フニ」

うかれ-もの (名) 浮者 ウカレ遊ビ居ル者。遊治郞。

∴**うか・れる** (動) 浮 うかるノ口語。

うき (名) 浮 (一)ウケ。釣絲ノ半ニツケテ、水ニ浮ブル、小サキ木片。其動クヲ見テ、鉤ノ餌ニ、魚ノツケルヲ知ル。泛子　浮子　(二)又、網ノ綱ニツケテ浮ブル木。網ノ、水中ニアル所ヲ知ル。

うき (名) 盞 〔內ニ酒ノ浮く意カ、酒ヲ浮油ト云フ〕酒坏ノ古言。ウクハ。　古事記、上「宇伎由比」(盞結ニテ、結婚ノコト)雄略紀、十、的邑「筑後國風土記、俗語、云二酒盞一爲二宇枳一」景行紀、十八年八月「昔筑紫俗、號レ盞曰二浮羽一」私記「宇久波」古事記、下(雄略)三十「長歌」捧セル、瑞玉盞ニ、浮キシ油」(酒ハ、酒ナリ)

うき (名) 埿 〔水ニ浮ノ意ニモアルカ〕泥深キ地。埿泥、卽チ、埿土ナリ。　萬葉集、七廿三「君ガタメ、浮沼ノ池ノ、菱採ルト、我ガ染衣、濡レニケルカモ」六帖、三三「菰ノ根ノ、弱キ心ハ、うきゴトニ、マヅ折レ代シテ、ネゾ泣カレケル」(二首共ニ、憂きニカク)宇治拾遺、十三、第一條「人モ住マヌうきノ、云云、一町バカリナルうきアリ、云云、主ハ不用ノうきナレバ、畠ニモ作ラルマジ」「うき沼」「うき泥」「うき田」

う-き (名) 憂 (一)〔憂キコト。ウレヘ。　後撰集、三、春、下「散ルコトノ、うきモ忘レテ、アハレテフ、コトヲ櫻ニ、宿シツルカナ」千載集、十三、戀、三「思ヒワビ、サテモ命ハ、アルモノヲ、うきニ堪ヘヌハ、涙ナリケリ」(二)憂身ノ略。千載集、十五、戀、五「ツラシトモ、恨ムル方ゾ、ナカリケル、うきヲ厭フハ、君ヒトリカハ」

う-き (名) 雨氣 アマモヨホ。アマケ。　鐵起詩　小澤近藤居、青蕉常雨氣」

う-き (名) 雨季 一年ノ中ニ、雨ノ、多ク降ル時節。梅雨ノ時ナドニ云フ。

うき（名）【烏鬼】〔夢溪筆談「按、夔州圖經稱、峽中人、謂鸕鷀爲烏鬼、蜀人臨水居者、皆養鸕鷀、繩繫其頸、使之捕魚、得魚則倒提出之、至今如此」〕鵜ニ同ジ。

〔う・き（形）【憂】 憂シノ條ヲ見ヨ。

うぎ（名）【雨儀】 朝中ノ中庭ノ儀式ノ、雨天ノ時ニ、省略セラルル事。一元日宴會雨儀、... 左經記、萬壽三年十一月十九日、雨儀、云云、依神事雨儀ニ」

うきあげぼり（名）【浮上彫】 うきぼり（浮彫）ニ同ジ。

うきあし（名）【浮足】 足ノ、踏ミシメ難キコト。逃足ニナラムトスルニ云フ。源平盛衰記、... 月十四日合戰之事「小田垣等ガ兵、色メキ、浮足ニ成ツテ見エテ」「浮足立ツ」

〔うきあぶら（名）【浮脂】（一）水ノ面ニ浮キタル脂。古事記、上「國稚ク如浮脂而」云云、漂ヘル時ニ」（二）杯中ノ酒。古事記、下（雄略）「長... 玉盞ニ、浮キシ脂」

〔うきいは（名）【浮石】 かるいしニ同ジ。

うきいを（名）【浮魚】 めだかニ同ジ。（伊豫）

うきぎう（名） 海藻ノ名。筑前、越前等ニ産ズ、ところてんぐさニ似テ、枝多クシテ、稍、細長シ、生ナルハ紫ニシテ、曬セバ茶色ニ變ハル、煮テ、寒天ノ如クニ製ス。

うきうきと（副）【浮浮】 心浮カルル狀ニ云フ語。新六帖、六「君ト云ヘバ、生フル荇菜ノ、泥水ニ、（浮）うきうきとノミ、ナル心哉」

うきうぼく（名）【浮木】 ナミキシハゼ。

うきおり（名）【浮織】 綾ノ類ニ、細カキ文ヲ、地ノ上ニ浮カセテ織リタルモノ。うけおり。ウキモン。絲ヲ引キシメテ織ルヲ、固織ト云フニ對ス。貞丈雜記、五「卯日、葡萄染ノうきおりものノ指貫」

うきかはたけ（名）【憂河竹】 かはたけの ながれのみノ條ヲ見ヨ。

〔うきき（名）【浮木】（一）又、うけき。船ノ異名。神代紀、下「浮木ニ乘リテ、海神ノ宮ニ至リマス」一書ニ、無目籠（竹籠）ニ浮木ニ次ノ一書ニ「無目堅間小船」トアリ、日本紀竟宴歌「年ヘタル、古キ宇岐木ヲ、サテネバゾ、サヤケキ雲ニ、遠ク聞ユル」（二）筏ノ異名。孝德紀、大化元年十二月「越國言、海畔枯査、向東移去、沙上有跡、如耕田狀」倭名抄、十一「浮木」宇岐岐」秋ノ波、イタクナ立チソ、オモホエズ、うききニ乘リテ、行ク人ノタメ（前漢ノ張騫ガ、槎ノ故事ニ寄セタリ）（三）水ニ浮ベル木。盲龜ノ、浮木ニ遇フト云フコトアルニ因リテ、遇ヒガタキ事ニ云フ。法華經、妙莊嚴王品「佛難得値、如優曇波羅華、又如一眼之龜、値浮木孔」涅槃經「生世爲人難、值佛世亦難、猶如大海中、盲龜遇浮木孔」拾遺集、二十、哀傷「業盡クス、ミタラシ川ノ、龜ナレバ、法ノ浮木ニ、アハヌナリケリ」狹衣、四、上「うききニ遇ハム事ヨリモ、難キ事ドモカナ」新千載集、十、釋教「遇ヒガタキ、法ノ浮木ヲ、得タル身ハ、苦シキ海ニ、何カ沈マム」

うきき（名）【浮木】〔性質ニシテ、浮キ泳グコト、浮木ノ如シ〕 魚ノ名。東海ニ産ズ、形圓ク扁クシテ、まかえひニ似タリ、大キナルハ丈餘ニ至ル、鱗ナクシテ、腹、脊ノ鰭、甚ダ長大ナリ、皮ハ鮫ニ似テ、...

うききまんばう（名） 魚ノ名。前條ニ同ジ。

〔うきくさ（名）【浮草】 溜水ニ生ズ、葉ノ大キサ一二分、圓クシテ光ル、面ハ綠ニシテ、裏ハ紫ナリ、三葉ノ下ニ、多クノ鬚根アリテ、地ニツカズ、水ノ上ニ浮キ漂フ、夏、小サキ淡綠色ノ花ヲ開ク。萍。水萍 本草和名、上「水萍、宇岐久佐」古今集、十八、雜、下「ワビヌレバ、身ヲうきくさノ、根ヲタエテ、誘フ水アラバ、往ナムトゾ思フ」 又、一種、葉小サク楕圓ニシテ、みづはおほばこノ如ク、面モ背モ綠ナルヲ、おほうきくさト云フ。青萍

うきくさ（名）【浮草】 池澤、田中ニ生ズ。根ハ蔓ノ如ク泥中ニ延ビ、莖ヲ水上ニ出シテ、春、葉ヲ生ズ、四小葉、合ヒテ一葉ヲ成ス、大キサ一寸許、かたばみノ葉ノ如クニシテ、田ノ字ノ形ヲナス、故ニ、田字藻ノ名モアリ、質ハ銀杏ノ葉ノ如シ、夏、別ニ莖ヲ出シテ、四瓣ノ白花ヲ開ク。別名、カツミ。カタバミモ。蘋 田字藻 四葉菜

うきぐつ（名）【浮沓】 水泳ノ浮囊ノ一種。木造、漆塗ノ大筒一ツト小筒二ツ、各、布袋ニ入レ、大キナルヲ背ニ、小ナルヲ左右ノ乳ニ括リツク。未熟ノ者モ水ニ入リ、立泳スルニ自在ナリ。

うきくも（名）【浮雲】 空ニ浮キ漂ヘル雲。フウン。千載集、十九、釋教「定メナキ、身ハ浮雲ニ、ヨソヘツツ、果ハ其レニゾ、ナリハテヌベキ」

うきこ（名）【浮粉】 米ヲ、水ニ浸シテ、沈澱シタルモノ。紅ヲ凝ラスルニ用ヰ、菓子、落雁ナド製スルニモ用ヰル。生麩ヲ曬シテ、似セテ用ヰルモアリ。

うきざうす（名）【浮藏主】〔藏主ハ、ざうすノ條ヲ見ヨ〕 浮氣ナル僧。正章千句（慶安）「新發意ヲ、ソソノカシヌル、うきざう主」紅梅千句（承應）「此頃ハ、俳僧ヲスルヤ、東福寺」

うきしづみ（名）【浮沈】（一）浮クト、沈ムト。フチン。（二）盛ユルト、衰フルト。榮枯。隆替。

うきしま（名）【浮島】 沼ノ水上ニ、泥炭、蘆根ナド集リ固マリテ、島ノ形ヲ成シ、浮キタダヨフモノ。大キナルモノハ、上ニ土ヲ生ジ、樹木ナド生ズ、山形縣ノ大沼ニアルモノ、名アリ、其小キモノ、浮洲トモ云フ。拾遺集、八、雜、上「...」ツカハシケル、常ニ浮島ノ絵ヲシ侍リテ」夫木抄、二十三、島「...底ニ根ザサス、うきしまハ、...ノ背ニ、積メル...」うきすノ名ノ、少シコナタノ...

〔うきしま（名）【浮島】〔泥上島ノ義ニテ、地ノ固マラヌ意カ〕 國ノ如キ、平カナル島アルベシ。神代紀、...

うきす（名）【浮洲】 前條ヲ見ヨ。

うきす（名）【浮巢】 にほどりノ巢。蘆ノ葉、枯葉ナドニテ、水上ニ作ル。水ノ高

低ニ隨ヒテ、浮沈ス。新後拾遺集、六、冬「下クグル、道ト見シマニ、鳰ドリノ、浮巢ヲカケテ、氷ル池水」

うきす (名) 魚ノ名。めだかニ同ジ。(尾張)

うきすのり (名) ふぢのりニ同ジ。

うきせ (名) 憂瀨 〔瀨ノ條ヲ見ヨ〕 憂キ時。苦シキ境遇。古事記、上「靑人草之、落ニ苦瀨ニ而患惚時、可レ助」

うきぜい (名) 浮勢 次條ヲ見ヨ。

うきぞなへ (名) 浮備 本隊ニ加ハラズ、其外ニ備ヘ居テ、戰ノ機期ニ應ジテ、出デテ敵ニ攻メカカル軍勢。浮勢。浮武者。アキテ。遊擊ノ軍隊。遊軍 籾井日記、八、萩野落城事「城城ヲバ名代守トシテ、受備ニシテ、面面ハ浮備トナリ」太平記、三十六、山名伊豆守落ニ美作城ニ事「山名右衞門佐師義、勝レタル兵八百餘騎ヲ率シテ、敵ノ近ヅカム所ヘ懸合ハセムト、浮勢ニナリテ控ヘタリ」幸若、高館「辨慶ハうき武者ニテ、大手ノ櫓ニ走リアガッテ、云云」

うきた (名) 浮田 〔濕田ノ義〕 泥深キ田。夫木抄、二十二「今サラニ、水モマカセズ、底深キ、沼ノうき田ニ、早苗取ルナリ」

うきた (名) 小魚ノ名、めだかニ同ジ。(大阪)又、ウキンダ。ウキイヲ。

うきたから (名) 浮寶 〔舊訓、うくたからトアレド、うきたからト訓ムベシトノ說ニ從フ〕 船ノ美稱。神代紀、上、三十九「韓郷之島、是有ニ金銀ニ、若使ニ吾兒所レ御之國、不レ有ニ浮寶ニ者、未ニ是佳ニ也」杉及ニ櫲樟ニ、此兩樹者、可ニ以爲ニ浮寶ニ」浮寶、言レ舟也、舟浮レ于レ水也」

うきた・つ・ツ・テ・タ・チ・テ (自動、四) 浮立 (一)立チアガル。起ル。續後拾遺集、五、秋、下「曇ルトモ、思ヒゾハテヌ、秋霧ノ、うきたつ空ニ、澄メル月影」(二)心、大イニ浮ル。源、三十一、眞木柱「暮レヌレバ、心モ空ニうきたちテ、イカデ出デナムトオボスニ」(三)心、騷立ツ。方丈記「世ノ中うきたちテ、人ノ心モヲサマラズ」

うきだひ (名) 浮鯛 安藝國、豐田郡、味潟ノ海ニ、毎年春夏ノ交、數日ノ間、鯛、水面ニ群リ浮ブコトノ稱。古ヘハ、櫻鯛ト云ヒシトゾ。詞花集、九、雜、上「花ヲ惜シム心ヲヨメル「春來レバ、あち潟ノ浦、一潟ニ、浮くテフ魚ノ、名コソ惜シケレ」(一潟トハ、潟一パイニノ意、花ノ名ヲ惜シムトアリ、卽チ、櫻鯛ナリ) 仲哀紀、二年六月、神功皇后、越前ノ敦賀ヨリ、船ニテ渟田門ニ到ル、鯛、多ク船ノ傍ニ聚ル、皇后、酒ヲ灑ギタマフ、鯛醉ヒテ浮キヌ、(故ニ、六月ニ至レバ、常ニ浮ク)七月、皇后豐浦津ヲ泊テタマフトアリ、コレヲ、安藝ノ沼田郡ノ、沼田ノ事トシテ、浮鯛ナリトスル說ハ、誤レリ、伴信友ノ說ニ、若狹ノ邊ニ、のたのとト云フアリ、今モ、夏ニ鯛浮クト云フ、長門ノ豐浦ト安藝ト、春ト夏ト、地理、時候、違ヘリ。新六帖、三、鯛「水無月ヤ、君ノ情ニ、逢ヒソメテ、浮くテフ鯛ハ、今モアリトカ」(コレハ、全ク仲哀紀ニ據リテ詠メルナリ) 日本書紀通證、仲哀紀「安藝國、味潟、云云、初夏、浮魚蔽レ海數日、稱曰ニ浮鯛ニ云云、古謂ニ之櫻鯛ニ也」

うきとうだい (名) 浮燈臺 船ノ帆柱ナドニ裝置ケタル燈臺。

うきドック (名) 浮船渠 どっくノ條ヲ見ヨ。

うきとり (名) 浮鳥 水ノ上ニ浮ビテ居ル鳥。新六帖、三「うき鳥ノ、サナガラ濡ルル、水遊ビ、何ゾハサテモ、カシラカラゲソ」

うきな (名) 浮名 無實ノ評判。噂。源、二十四、胡蝶「イミジウ人笑ハレノ、うきなニモアルベキ」狹衣、二、上「イカサマニシテ、うきなヲモテ[illegible]シテ」

うきな (名) 蕪菜ノ一名。

うきぬ (名) 浮沼 〔濕沼ノ義〕 泥沼。ウキヌマ。萬葉集、七、廿二「君ガタメ、浮沼ノ池ノ、菱採ルト、我ガ染衣、濡レニケルカモ」新六帖、一「イットテモ、身ノミうきぬノ、菖蒲草、逢フコト知ラヌ、ネコソツラケレ」新和歌集、二「思ヒキヤ、袖モアヤメモ、引キカヘテ、世ヲうき沼ノ、ネヲカケムトハ」

うきぬなは (名) 浮蓴 水面ニ浮キタル蓴。萬葉集、七、三十四「我ガ心、ユタニタユタニ、浮蓴、邊ニモ沖ニモ、寄リガテマシヲ」

うきぬま (名) 浮沼 前前條ヲ見ヨ。

うきね (名) 浮寢 (一)船中ニ寢ルコト。萬葉集、十五、六「海原ニ、宇伎禰セム夜ハ、沖ツ風、イタクナ吹キソ、妹モアラナクニ」同卷二十、長歌「明石ノ浦ニ、船停メテ、宇伎禰ヲシツツ」(二)安眠セヌコト。古今集、十一、戀、一「涙川、枕流ルル、うきねニハ、夢モサダカニ、見エズゾアリケル」(三)寢處ノ、一定セヌコト。六帖、三「人言ノ、繁サマサレバ、水鳥ノ、鴨ノ浮ねノ、ヤスケクモナシ」謠曲、杜若「タベタベノ、假枕、宿ハアマタニ變ハレドモ、同ジうきねノ美濃、尾張」

うきね (名) 浮根 〔地ニ固着セヌ意カ〕 水草ノ根。榮花物語、五、浦浦別「うきねノミ、袂ニ掛ケシ、アヤメ草、引キタガヘタル、今日ゾウレシキ」

うきは (名) 浮葉 蓮ノ葉ノ、水面ニ浮キ居ルモノ。枕草子、八、七十四段、うつくしきもの「蓮ノうきはノ、イト小サキヲ、池ヨリ取リアゲテ見ル」山家集、上「夕立ノ、晴ルレバ月ゾ、ヤドリケル、玉ユリスウル、蓮ノうきはニ」

うきはし (名) 浮橋 〔あまのうきはしヲ參見セヨ〕 船橋ノ一名。神代紀、下、三十「高橋、浮橋、云云、將供造」萬葉集、十七、九長歌「上瀨ニ、打橋渡シ、淀瀨ニハ、宇枳橋渡シ」倭名抄、十八「浮橋、宇岐波之」

うきひぢ (名) 浮泥 〔濕ト、泥ト重ネ云フ語、コレヲ略シタル語ガ、濕土ナリ〕 泥土。異本、山家集、追加「サミダレニ、小田ノ早苗ヤ、イカナラム、畔ノうきひぢ、洗ヒコサレテ」

うきぶくろ (名) 浮袋 (一)鰾。(二)水ヲ泳グトキ、身ニ副ヘテ、沈マヌ爲ニスル具。革ナドニテ袋ニ作リ、中ニ空氣ヲ貯フ。ウキグツ。如船。浮囊

うきふね (名) 浮舟 水上ニ浮ベル舟。和泉式部集、上「ソノカト、指シテモ寄ラヌ、うき舟ノ、又漕ギハナレ、思フトモナシ」

うきぼり (名) 浮刻 〔うけぼりヲ、正シトス〕 うけぼり。彫物ニ、文ヲ高ク刻リ上グルコト。ウキアゲボリ。隱起彫

うきまくら (名) 浮枕 浮寢ノ枕。浮寢スルコト。新後撰集、十四、戀、四「浪コユル、袖ノ湊ノ、うき枕、浮キテゾヒトリ、ネハ泣カレケル」同、十二、戀、二「池水ニ、ツガハヌ鴛鴦ノ、うきまくら、ナラブ方ナキ、戀モスルカナ」

うきみ (名) 憂身 憂日ニ當リテ居ル身。新古今集、十二、戀、二「うき身ヲバ、我レダニ厭フ、厭ヘタダ、ソヲダニ同ジ、心ト思ハム」同、十三、戀、三「ツラキヲモ、恨ミヌ我レニ、效フナヨ、うき身ヲ知ラヌ、人モコソアレ」うきみを窶すトハ、身ヲ粉ニシテスル。熱中

うきみみ (名) 憂耳 憂キ聞言。ツラキ話。平家物語、一、二代后事「家ヲモ出デ、世ヲモ逃レタリセバ、今カカルうきみみヲバ聞カザラマシ、トゾ御歎キアリケル」

うきん (名) 烏金 赤銅ニ同ジ。

うきむしや (名) 浮武者 うきぞなへ(浮備)ノ條ヲ見ヨ。

うきんだ (名) 魚ノ名、うきたノ音便。めだかニ同ジ。

うきんぢよ (名) 魚ノ名、めだかニ同ジ。(京都)

〜うきめ（名）|憂目| 〔めハ、境遇ナリ（辛目ニ）〕憂キ事。[illegible]ケレ」

〜うきもん（名）|浮文| 浮線ニシタル紋。浮線綾ナド、是レナルベシ。（固文ニ對ス）源、九、葵「うきもんノウヘノ袴」

うきやう（名）|右京| さきやう（左京）ノ條ヲ見ヨ。

うきやうしき（名）|右京職| きやうしき（京職）ノ條ヲ見ヨ。

うきやうてう（名）|右京兆| きやうてう（京兆）ノ條ヲ見ヨ。

うきやうのすけ（名）|右京亮| きやうしき（京職）ノ條ヲ見ヨ。

うきやうのだいぶ（名）|右京大夫| きやうしき（京職）ノ條ヲ見ヨ。

うきやく（名）|浮役| 徳川時代ノ雜税ノ一。定納ノ税以外ニ、年數ヲ限リ、又ハ、臨時ニ課セシモノ。[illegible]云云、小物成ハ總名ニシテ、浮役ハ其内ノ一ツナリ、[illegible]ヲ浮役ト謂フ」

〜うきゆひ（名）|盞結| 〔うきハ、盃ノ古言、ゆひハ、互ニ結ひ固ムルコト、うきト、ゆひト、ノ各條ヲ見ヨ〕酒杯ヲ取リ交ハシテ、契リヲ結ブコト。ナホ、[illegible]子神ト、須勢理毘賣命トナリ」

〜うきよ（名）|憂世| 世ノ中ヲ、憂キ事ノ多キニ云ヘル語。[illegible]八十二段「散レバコソ、イトド櫻ハ、メデタケレ、うき世ニ何カ、久シカルベキ」[illegible]

うきよ（名）|浮世| 〔漢語ニ浮世ノ語アリ、[illegible]ナド云フヲ、文字讀ニシタル語ナリ〕（一）世ノ中ヲ、ハカナキモノト見ナシテ云フ語。世ノ中。人世。[illegible]（李白）「天地者萬物之逆旅、光陰者百代之過客、而浮[illegible]」[illegible]同、十「人世」今鏡、下、第十、作物語の行方「惑ヒノ[illegible]、うき世ノ事ノ[illegible]ザナルトゾ」新古今集、六、冬「年ノアケテ、うき世ノ夢ノ、覺ムベクバ、暮ルトモ今日ハ、厭ハザラマシ」（二）轉ジテ、今ノ世ノ中。今樣。當世風。當世流行。時好。[illegible]見ルタビニ、オモシロケレバ、富士ノ嶺ノ、雪ハうき世ノ、[illegible]」「浮世繪」浮世[illegible]世姿「浮世染」ナドモ、是レナリ。（三）轉ジテ、イロゴノミ。好色。「浮世狂ヒ」浮世男」

うきよがたり（名）|浮世語| ヨガタリ。ウキヨバナシ。世間話。世談。[illegible]「[illegible]ノ男談、うき世がたりニナリニケリ」

うきよく（名）|迂曲新曲| 〔迂ハ、[illegible]〕偶切、穿牾、糾固ニ、ウネリ、マガルコト。管子、君臣篇、誥「迂曲不レ行、則道レ之使レ行」

うきよぐるひ（名）|浮世狂| 女色ニ迷ヒ狂フコト。イログルヒ。[illegible]入レモ、知ラズうき世ノ、わる（ぐるひ）」[illegible]テ、戻ルマヲトコ」はなひ草（寛永）「うきよぐるひナドハ、連歌ニアラズ、誹ノ世ニナルベシ」（[illegible]、上）[illegible]ひノ[illegible]）

うきよごさ（名）|浮世御座| 御座筵ノ文

ノ、[illegible]ノ如キモノ。[illegible]

うきよざうし（名）|浮世草紙| 天和ヨリ寛政ノ頃、行ハレシ一種ノ小說本。其當世ノ世態、遊里ノ事ナドヲ記シタルモノ。天和二年刊ノ好色一代男（西鶴）ヲ始トシ、多ク、其頃、自笑等ノ筆ニ成レリ。[illegible]

うきよじん（名）|浮世人| 當世風ノ人。[illegible]

うきよすがた（名）|浮世姿| 當世風ノ姿。今樣姿。時勢粧。[illegible]「昨日ノうき世姿ヲ、今日ノ[illegible]」

うきよぞめ（名）|浮世染| 當世流行ノ染色。[illegible]字「浮世ぞめ」

うきよばなし（名）|浮世話| ヨガタリ。ウキヨガタリ。世話。世間話。世談。街談。

うきよぶくろ（名）|浮世袋| 匂香ノ袋ノ、三角形ナルモノ。[illegible]うき世、袋カナ」

うきよぶし（名）|浮世節| 俗間ノハヤリウタ。俚歌。寛天見聞記「娘上ルリ、八人藝、浮世ぶしナド、藝人ヲ集テ」

うきよゑ（名）|浮世繪| 繪ノ一派、狩野派ノ唐繪ナドニ對シテ、[illegible]ノ風俗、時好ヲ寫ス、風俗繪ナリ。大和繪ヨリ分レテ、寛永中、岩佐又兵衛、浮世又兵衛ニ始ム、元祿中ノ菱川吉兵衛ニ至リテ盛リナリ、自ラ、大和繪ト

[illegible]

うきよをとこ（名）|浮世男| 好色ノ男。イロヲトコ。[illegible]うき世男アリテ、此女ヲ目ニテ忍ビ」

うきゑ（名）|浮繪| 享保ノ頃ニ行ハレタル、旅行ノ紅繪。奥村源六政信エガク、名所、戲場ノ圖、[illegible]ヤウナリ。[illegible]

うきをり（名）|浮折| 扇ノ骨ノ、[illegible]中啓ノ扇ノ、[illegible]骨ノ上端、外ヘ反リテ開キタル如ク[illegible]ルモノ。コレニ對シテ、常ノ扇ノ、堅ク締ルヲ、沈折ト云フ。[illegible]フハ、浮折ノ扇ニテ、末廣ノ先ノひらきノ、少キモノナリ」

う・く・ク・ケ・カ・キ・ケ（自動、四）|浮| （一）水ノ上ニ、[illegible]ム。[illegible]ヨリ、上ヘ上ル。（魚ナド）[illegible]（二）[illegible]タダヨフ。（雲ナド）拾遺集、十一、戀、一「ナドテ人、浮きタル雲ノ、[illegible]ヘザリケム」（四）心、身ニソハズ。ウカ[illegible]うきタルヤウニオボサレテ、[illegible]ノ、うきタル[illegible]モ、我レハスルカナ」[illegible]タルガ、利カズシテアリ。アスブ。（七）[illegible]

〜う・く・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ（他動、下二）［浮］ 浮ク〔前條ノ他動、つく、つゝる（着）〕ヤウニナス。浮ブル。ウカムル。ウカス。萬葉集、十七 長歌「布勢ノ海（越中）ニ、船字氣スヱテ、沖邊漕ギ」夫木抄、十七、冬、氷「ウナヰ子ガ、流レニうくる、笹船ノ、泊リハ冬ノ、氷ナリケリ」

う・く・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ（他動、下二）［受承］〔諸ヲ活用ス、香ぐ（嗅）ナドノ例〕（一）他ヨリ來ルヲ、身ニ取ル。受納ス。古事記、中（神武）「受ニ取其横刀ニ之時」「賜ヲ受く」教ヲ受く」（二）載ス。「手ニ受く」（三）迎ヘテ防グ。狂言記、秀句大名「刀ノ柄ニ、手ヲカケタレバ、傘デうけテ、ハヅシタハ」「受け損ズ」（四）被ル。被「疵ヲ受く」疑ヲ受く」（五）容ル。引受ク。容 仁德即位前紀「蓋 之 如レ天、容 之 如レ地ニ」「頼ミヲ受く」席ニ百人ヲ受く」（六）心ニ好シト認ム。ウベナフ。ウケヒク。聞キ入ル。信ズ。信認 諾 履中即位前紀「太子不レ信」安康即位前紀「遂逼以不レ聽矣」（七）前ニス。面「風ヲ受く」南ヲ受く」東ヲ受く」

う・く・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ（他動、下二）［請］〔贖ヒ受くる意〕價、給料ナドヲ償ヒテ、取戻ス。贖ヒテ返ス。ウケダス。（質物、年季奉公ナドニ）贖

〜う・く（形）［憂］ 憂しノ條ヲ見ヨ。

〜う・ぐ・グル・グレ・ゲ・ゲ・ゲヨ（自動、下二）［穿］〔うがつノ自動〕破レテ、穴、明ク。萬葉集、五 長歌「宇既脊ヲ、脱棄ル如ク、蹈ミ脱ギテ」字類抄「寛、ハナウゲタル」史記、侫幸傳「見ニ其衣裝ハ帶後穿」白氏文集、三 官牛「領穿亦無レ妨」

うぐさ（名）［鵜草］〔魚 骾ヲ治スレバ、名ヅクト〕ふぢさはぎくニ同ジ。

〜うく-たから（名）［浮寶］ うきたからヲ見ヨ。

〜うく-ち（名）［兎缺・缺脣］ いくち（兎缺）ノ條ヲ見ヨ。

〜うく-づ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ（自動、四）［馳驟］〔うくハ、動ニ通ズルカト云フ、かくむ、かゝむ。（圍）すぐす、すごす（過）〕馳ス。躍ル。欽明紀、七年七月「良駒、云云、服レ御隨レ心、馳驟合レ度」字鏡、九十「蹢、蹶也、宇久豆久、乎止留」（禮記、三年問篇「蹢躅焉、踟躕焉」）天治字鏡、五二「驕（正字通ニ、驕ノ謁字トス）荒馬、宇久豆支馬」名義抄「轉、カヒロク、ウクヅク」

〜うく-は（名）［浮羽］ うき（盞）ノ條ヲ見ヨ。

うぐひ（名）［鵜喰］〔鵜ノ食ふモノ〕 鮎ノ異名。神祇伯顯仲朝臣集、鵜川「篝火ノ、光ニ紛フ、玉藻ニハ、うぐひノ魚モ、隱レザリケリ」（玉かつま、十二） 林逸節用集「鱗、ウグヒ」（歲魚ハ、年魚ノ意カ）

うぐひ（名）［石斑魚］〔いぐひノ轉カ、うを、いを（魚）〕淡水ニ產ズル魚。形、鯇ニ似テ、長サ六寸許、大キナルハ尺ニ過グ、鱗細カクシテ、淡黑ト紅色トノ縱道、三條アリ、下ノ鰭赤ク、腹赤シ、肉ニ刺多シ。アカハラ。クキ。

うぐひ-す（名）［鶯］〔うくひハ、鳴ク聲、すハ、鳥ノ接尾語、（ホトトギす、キギす、カラす）古今集、十、物名、うぐひす「心カラ、花ノ雫ニ、ソボチツツ、うぐひすトノミ、鳥ノ鳴クラム」承曆二年殿上歌合「イカナレバ、春來ル毎ニ、うぐひすノ、己レガ名ヲバ、人ニ告グラム」（名言通、上）〕（一）鳥ノ名。めぢろニ似テ、肥エテ、背ハ綠褐ニシテ、腹ハ灰白ナリ、眼細ソク、嘴細ソク尖リ、脚、掌、共ニ灰黑ナリ、眉ニ三毛アリテ、灰白ナリ、吻ニ二三髭アリ、藪ナドニ棲ミテ、小蟲ヲ食トシ、早春ヨリ、聲ヲ引キテ囀ル、ほうほけきやうト聞ユ、人家ニ畜ヒテ、聲ヲ愛ス。（かひうぐひす、又、なきあはせヲ見ヨ）法吉鳥。金衣鳥。金衣公子。春鳥。黃鳥。黃鸝。萬葉集、五 廿八「春サレバ、コヌレ隱リテ、宇具比須ゾ、鳴キテ往ヌナル、梅ガ下枝ニ」倭名抄、十八 六「鶯、春鳥也、宇久比須」同、六十九 長歌「高圓（山）ニ、鶯 鳴キヌ」（二）次次條ノ語ノ略。（三）香式ノ組香ノ包紙ヲ刺シオク、串ノ名。銀、又ハ、赤銅ニテ作ル、長サ四寸餘ニシテ、兩端、尖ル。香ヲ聞キテ後ニ、包ヲ開キテ、銘ヲ尋ネ知ルナリ。續後拾遺集、一、春、上、順德院御製「飽カナクニ、折レルバカリゾ、梅ノ花、香ヲ尋ネテゾ、鶯ノ鳴ク」（四）草子ヲ綴ヅルニ用ヰル竹串。うぐひすとぢノ條ヲ見ヨ。（五）帶ナド縫ヒクケルニ用ヰル具。竹篦ノ如キモノノ端ヲ割リカケオキテ、縫フベキ所ニ挾ミオク。古今集、二十、神遊「青柳ヲ、片絲ニヨリテ、鶯ノ、縫フテフ笠ハ、梅ノ花笠」（六）狹匙ノ、女房詞。味噌ノ異名ヲ、香ト云フ。前ノ（三）ノ歌ヲ見ヨ。女重寶記（元祿）「五斗味噌ハ、さゝぎん、云云、せつかいハ、うぐひす」（七）葬式ノ隱語。東京ノ大工ナド、職人ノ詞。「泣き（鳴）ナガラ埋め（梅）ニ行ク」ノ意。（八）金時計ノ隱語。（盜人仲間ノ詞）

うぐひす-あはせ（名）［鶯合］ なきあはせ（鳴合）ノ條ヲ見ヨ。

うぐひす-いろ（名）［鶯色］ 染色ノ名。鶯ノ背ノ色、即チ、綠ノ、黑赤ミアルモノ。

うぐひす-かご（名）［鶯籠］ 飼鶯ヲ入レオク籠。形、種種ニテ、極メテ精巧ナルモノアリ。

うぐひす-かひ（名）［鶯飼］ 鶯ヲ家ニ飼ヒテ商フ者。かひうぐひすノ條ヲ見ヨ。勸進聖判職人歌合（天文）三番、うぐひすかひ「羽風ダニ、花ノタメニハ、あたゞ鳥、大原巣立ニ、イカガ合ハセム」

うぐひす-がひ（名）［鶯貝］（一）あこやがひノ一種。大キナルハ、長サ三寸餘、殼長ク、横ニ翅ノ如ク延ビテ、鳥ノ形シタリ。（二）又、ちどりがひノ、瑠璃色ナルモノ。

うぐひす-くゎい（名）［鶯會］ なきあはせ（鳴合）ノ條ヲ見ヨ。

うぐひす-だけ（名）［鶯茸］ 春末ニ生ズル、べにだけノ稱。色赤ク、炙レバ白シ、食フベシ。

うぐひす-ちゃ（名）［鶯茶］ 染色ノ名。鶯色ニ、茶色ヲ加ヘタルモノ。淺柳黃

うぐひす-とぢ（名）［鶯綴］〔うぐひすハ、宇佐、熊野、伊勢、住吉ノ首音ヲ採リタル語、後奈良院御撰何曾「宇佐モ宮、熊野モ同ジ、神ナレバ、伊勢住吉モ、同ジ神神」（紙紙）うぐひす」〕草紙ヲ綴ヅルニ云フ語。表紙ニ穴ヲ穿チオキ、數枚ノ紙ニ重ネ、其穴ニ錐ヲ貫キテ、絲ニテ綴ヅ。草子ヲ綴ヅルニ用ヰル竹串ヲ、うぐひすト云フモ、是レナルベシ。鷹筑波（寛永）「鶯デ、歌書ヲヤ綴ヅル、糸柳」

うぐひす-な（名）［鶯菜］（一）こまつなノ一種。春、夏ニ食フモノ、莖、葉、瘦セテ、光リアリ。（二）蕪ノ初生ノ、二三寸ナルモノ。（京都）（三）又、水菜ノ、小サキモノ。

うぐひす-の-いひね（名）【恆山】〔鶯の飯〕〔實〕ノ義ニ…實ヲ食トスル意ニモアラムカ、鶯のいひねモアリ〕灌木ノ名。くさぎ（恆山）ノ一名。本草和名、上十一「恆山、久佐岐、一名、宇久比須乃以比禰」

うぐひす-の-き（名）【鶯木】灌木 高サ五六尺、枝、葉、對生ス、葉ハ卵圓ナルモアリ、長キモアリ、春、葉ノ間ニ、絲ノ如キ莖ヲ垂レテ、五出ノ小紅花ヲ開ク、實ノ形、赤小豆ホドニテ、熟スレバ紅ナリ、鶯ノ食フト云フ、食フベシ、…トス、今、テウセングミ。ヘビグミ。駱駝布袋　倭名抄、十七「…鶯實、和字之實、宇久比須乃岐乃美」

うぐひす-の-さるがき（名）草ノ名、さるとりニ同ジ。本草和名、上三「拔葜、一名、與葜、和名、宇久比須乃佐留加岐、一名、佐留止利、一名、於保宇波良」

うぐひす-ばり（名）【鶯張】〔鳴ル音ヲ、鶯ノ聲ト聞ク意〕廊下ナドノ板敷ニ、一種ノ製作法アリテ、釘ヲ打タズシテ、張リ合セ作ルモノ。人、コレヲ蹈メバ、板ト板ト軋リテ鳴リ、室ニ居ル者、人ノ來ルヲ知ル、清涼殿ノ鳴板ト云フモノモ、是レナルベシ。

うぐひす-もち（名）【鶯餅】〔あをぎなこノ、鶯色ナルヨリ云フ〕餅菓子ノ名。白玉粉ト糯粉ヲ、湯ニテコネテ、蒸シ、砂糖ト青粉ヲ加ヘテコネ、ソレニあづきあんヲ中央ニ包ミ、橢圓ニ作リテ、あをぎなこヲ抹シタルモノ。兩端ヲ尖ラセテ作レバ、味ナキヲ、鶯餅のあさきト云フ

うぐ-も-つ（名）【墳】うごもつノ條ヲ見ヨ。

うぐろ-も-つ・ツ・テ・タ・ト…（動）【墳】うごもつ（墳）ニ同ジ。名義抄「隆、ウグロモツ」

う-くわ（名）【羽化】（一）蟲ノ一類ノ、蛹ヨリ、羽アル體ニ化スルニ云フ語　搜神記「木蠹生レ蟲、羽化爲レ蝶」（二）仙人トナリテ飛去ルコト。晉書、許邁傳「…遊ニ名山一、後莫レ測レ所レ終、…道者皆謂ニ之羽化一矣」

う-くわい（名）【迂回紆回】遠マハリ。マハリミチ。

う-くわつ（名）【迂闊】マハリドホキコト。心ノユキトドカヌコト。氣ノツカヌコト。ヌカルコト。韓愈、答竇秀才書「是以仲尼抗ニ浮雲之志一、孟軻養ニ浩然之氣一、彼豈樂ニ爲ニ迂闊一哉」

う-け（名）【食】〔大食ノ約、う（大）ノ條ヲ見ヨ〕食物。食。神代紀、上十…保食神、弘記「宇氣者、食之義也」

う-け（名）【槽】〔大筍ノ約、う（大）ノ條ヲ見ヨ〕うけぶね。大イナル槽。古事記、上…神代紀、上十…覆レ槽、…此云ニ于…一」貞觀儀式「御巫…宇氣槽…立ニ其上一以レ梓…」

うけ（名）【泛子】〔浮く（下二段）ノ名詞形、浮カシムルモノノ義〕泛子ノ古言。釣絲ニ附クルモノニモ、曳網ニ附クルモノニモ云フ。萬葉集、十一「住吉ノ、津守網引ノ、浮ノ緒ノ、ウカレカ行カム、戀ヒツツアラズハ」後撰集、十五、雜、一「伊勢ノ海人ノ、釣ノうけナル、サマナレド、深キ心ハ、底ニ沈メリ」倭名抄、十五「漁釣具「泛子、宇介」

うけ（名）【受】（一）受クルコト。（二）向ヒ當ルコト「南受」「…受」（三）物ヲ受クル物…。支…（四）…ノうけ」（五）氣請。「人ノうけガヨイ」「うけガワルイ」オホうけ」

うけ（名）【…】請フルコト。萬葉、一、…チマチノうけハセネド」「御請申ス」

うけ（名）【筌】〔魚ヲ受け入ルル義カ〕筌ニ同ジ。筍。

う-け（名）【有卦】うけむけノ條ヲ見ヨ。「有卦ニ入ル」

う-げ（動）穿ぐヲ見ヨ。

うけあひ（名）【請合】ウケアフコト。

うけ-あ-ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ（他動、四）【請合】身ニ引請ケテ、確ク誓フ　慥ナリトシテ、證人ニ立ツ。保證

うけ-い-る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ（他動、下二）【受入】受ケテ入ルル。收ム。

うけうと（名）海草、石花菜ニ似テ、細長クシテ、紫ナリ、晒セバ黄白ニナルヲ、煮テ、瓊脂ノ如ク製シテ食フ、筑前ニ產ズ。紅色ニ染メタルヲ、猩猩海苔ト云フ。

うけ-うり（名）【請賣】問屋ヨリ、卸賣ノ物ヲ買ヒ請ケテ、再ビ賣ルコト。販

うけおひ（名）【請負】工作ナドニ、預メ、日限、入費、ナドノ高ヲ定メテ、落成マデ、損得、自ラ負フベシト約シテ、仕事ヲ引請クルコト。（手間仕事ニ對ス）

うけ-お-ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ（他動、四）【請負】請負ノ仕事トシテ、引受ク。「…ヲ請負ふ」

うけ-おり（名）【浮織】うきおりニ同ジ。

うけがひ（名）【肯】…承知。うけがへ。…今日ハ…何カうけがひアラム」

うけ-が-ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ（他動、四）【肯】〔受け支ふ（四段）ノ義、あてがふ、うたがふ〕心ニ受ケテ、…承引ス。キク。承知ス。

うけ-が-ふ・フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ（他動、下二）【肯】〔受け易ふる義、彼ノ意ヲ受けテ、此方ノ意ト易ふる意〕前條ノ語意ト同ジ。…ウベナフ、ウケヒク…ガヘ、ふべーフ、キク、不肯、…〔…ヲ見ヨ〕

うけがへ（名）【肯】うけがひ（肯）ニ同ジ。名義抄「肯、ウケガヘ」同「不レ肯、カヘズ、イナブ、ウケガヘニセズ」

うけ-き（名）【浮木】うきき（浮木）ノ條ノ（一）ヲ見ヨ。

う-げき（名）【羽檄】〔漢書、高帝紀註…曰、羽檄…、有急事、則加以鳥羽插之、…〕至急ヲ要スル檄文。羽書。史記、陳豨傳「吾以ニ羽檄一徵ニ天下之兵一」

うけく（名）【憂】〔次條ノ語ノ、名詞トナリシモノ〕憂キコト。ツラキコト。古今集、十八、雜、下「世ノ中ノ、うけくニ…、…山ノ、木ノ葉ニ降レル、雪ヤ消ナマシ」

うけく（副）【憂】〔憂くノ延、寒く、さむけく。暑く、あつけく、同ジ〕憂ク。ツラク。…集、五…

うけぐつ（名）【穿沓】〔穿げタル沓ノ義、うぐ（穿）ノ條ヲ見ヨ〕弊レ沓。敝履。萬葉集、五「令レ反ニ惑情一歌、序、不レ顧ニ妻子一、輕レ於…」

レ說、覽、宇既具翁ヲ、脫ギ棄ル如ク、踏ミ脫ギテ、行クチフ人ハ」

うけこたへ (名) [受答] 問ヲ受ケ、又、答フルコト。應答。

うけこ・む・ム・メ・マ・ミ・メ (他動、四) [受込] ウケヒク。ヒキウク。合點ス。領承ス。

うけさく (名) [請作] こさく(小作)ニ同ジ。

うけじやう (名) [請狀] 請人ニ立ツ證書。保證スル書。保狀 運歩色葉集(天文)「請人、請狀」

うけしやうぎ (名) [受將棋] 將棋ノ駒ヲ用ヰテスル、兒童ノ遊戲。駒ヲ數人ニ分チ、一人駒ヲ出ス、ソレト同一ノ駒ヲ持チタル者、受ケテ出ス、代ル代ル此ノ如クシテ、早ク出シ切リタル者ヲ勝トス。

うけしよ (名) [請書] うけぶみ。承入リタル由ヲ記セル證書。

うけそう (名) [請奏] 請ヒ受ケム事ノ奏聞。江家次第、三、踏歌「坊家妓女裝束、依請奏給之」 建武年中行事、二月「神祇官ノ請奏下ス、使ノ王御馬車中スヨシ奏シテ、上卿、神祇官ニ參リテ、使使ニアカチ給フ」 神祇官年中行事、二月「廿二社幣物事、以本官請奏、參日付官」

うけそん・ず・ズル・ズレ・ゼ・ジ・ゼヨ (他動、左變) [受損] ウケソコナフ。うく(受)ノ(三)ノ條ヲ見ヨ。

うけだ・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) [請出] 贖ヒ出ダス。贖 「質物ヲ請出す」

うけだち (名) [受太刀] 切掛ケラレタルヲ、受ケ支フル太刀ノ用法。(劍術ナドニ) 盛衰記、九、堂衆軍事「堂衆八人、請太刀ニ成テ引ケルヲ」

うけたまはり (名) [奉] [承けたまはりテ行フ義、卽チ、奉行ノ意ナリ] 上命ヲ承ケテ、其旨ヲ執達スルコト。執達狀ニ、執達人ノ名ノ下ニ、奉ノ字ヲ書ク、是レナリ。平家物語、十、屋島院宣事「院宣此ノ如ク、仍テ執達件ノ如シ、壽永三年二月十四日、大膳大夫なりただ、うけたまはり、謹上、前平大納言殿へ」

うけたまは・る・ル・レ・ラ・リ・レ (他動、四) [承] [受け賜はるノ義] (一)受クノ敬語。奉承 神武紀「一蒙、承一事」訓ハ依以將、行一 崇神紀、四年十月「朕奉承大運、愛育黎元」 (二)轉ジテ、聽クノ敬語。拜聞 神功攝政前紀、註「願欲レ知ニ其名ニ」 雄略紀、元年三月「臣聞」

うけつ・く・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ (他動、下二) [受附] 受ク。引受ク。

うけつ・ぐ・グ・ゲ・ガ・ギ・ゲ (他動、四) [受繼] 後ヲ受ケテ、繼ギユク。繼續 新拾遺集、十九、雜、中「二代マデ、承け繼ぐ君ヲ、我ガ君ト、仰グ八十ヂノ、身コソ古リヌレ」

うけつけ (名) [受附] (一)ウケツクルコト。引受クルコト。(二)官衙、會社ナドニテ、書狀、來客等ノ取次ヲスル所。

うけづつ (名) [受筒] 鎧ノ胴ノ背ノ中央ニ、竪ニツケタル筒。指物ヲ刺ス。雜兵物語「請筒ニ、ツッパメベエ」

うけと・む・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ (他動、下二) [受止] 受ケ防グ。受ケ支フ。新續撰集、二十、物名「うけとめン、袖ヲシ豬ニテ、ツラヌカバ、涙ノ玉ノ、數ハミテマシ」

うけとり (名) [請取] (一)ウケトルコト。「請取ニ行ク」 (二)請取リタル由ヲ記セル證書。領票 收單

うけとりぶしん (名) [請取普請] 請負ノ

工事。世間娘氣質(享保、其磧)三「大キナルうけとり普請ニカカッテ、年年、大分儲ケ溜メ」

うけとりわたし (名) [受取渡] 受取ルト、引渡スト。ウケワタシ。授受

うけと・る・ル・レ・ラ・リ・レ (他動、四) [請取] (一)受ケテ、取ル。手ニ收ム。領收 (二)引受ク。擔當ス。狂言記、子盜人「盜人ガ入ッタ、ココハ某ガうけとッタ、裏ヘモ背戸ヘモ、人ヲマハセ」

うけなが・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) [受流] 受止メテ、外ヘ逸ス。「[illegible]ニ構トうけながす」

うけなは (名) [泛子繩] 泛子ヲツケタル釣繩。山家集、下「腹赤釣ル、大輪田崎ノ、うけなはニ、心カケツツ、過ギムトゾ思フ」

うけにん (名) [請人] 請合ニ立ツ證人。保證人。保人 東寺文書抄、三、延文元年十一月廿八日、名主職賣券狀ニ「うけ人」

うけは・し・シキ・シケレ・シク・シク (形、二) [詛] [誓はしノ義、うけふ(誓)ノ條ヲ見ヨ] 詛ヒガマシ。源、三十四、上、若菜、上「大北方ノ、常ニうけはしゲナル事ドモヲ宣ヒ出デツツ、云云、恨ミソネミタマフナルヲ」

うけはん (名) [請判] 請狀ニ押ス判。德川禁令考、後聚、十九、行刑條例「此者儀、請判イタシ、武家方中間奉公稼」致候、金八儀、云云」

うけはらひ (名) [受拂] 金錢ナド、受取ルト、拂渡スト。出納。

うけば・る・ル・レ・ラ・リ・レ (他動、四) [受張] 身ニ受ケ入レテ、押張ル。衒ヒ振舞フ。諸張 源、二十九、行幸「ヤンゴトナキ方方ヲ憚リテ、うけばりテ、ゾノ列ニハモテナサズ」 同、三十四、上、若菜、上「大將シタリ顏ニテ、カカル御ナカラヒニ、うけばりテ物シタマフ」 同卷七十「サルベキ方ニハ卑下シテ、憎ラカニモうけばらヌナドヲ、褒メ

ヌ人ナシ」

うけひ (名) [祈誓] [うけふ(祈誓)ヲ併セ見ヨ] (一)ウケフコト。祈ルコト。靈異記、下、第三十八縁「祈誓、有介比」 (二)神ニ祈リテ、誓フコト。誓約 神代紀、上卅「誓約、此云宇氣譬」 (三)神ニ祈リテ、詛フコト。呪詛 宇津保物語、國讓、下三十「アナカマヤ、カノ君ノトモノト聞キテ、イキ集マリテ、うけひ詛ゾセム」

うけひがり (名) [祈狩] 神ニ祈ヒテ、獲物ニテ吉凶ヲトセムトテ、獵スルコト。神功攝政前紀「麛坂王、忍熊王、共出菟餓野、而祈狩之曰、若有成事、必獲良獸」 祈狩、此云宇氣比誄利」

うけひ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (他動、四) [承引] ウケガフ。ウベナフ。ガヘンズ。承引ス。諾 源、一、桐壺「世ノうけひくマジキコトナレバ」 同、三十八、夕霧「モハラうけひかズト頭フリテ、只云ヒニイヒハナテバ」 同、二、帚木七十「ナニガシヨリ初メテ、うけひき侍ラズ」 拾遺集、十、神樂「ミソギスル、今日カラサキニ、オロス網ハ、神ノうけひく、シルシナリケリ」

うけひゆ (名) [誓湯] 探湯ニ同ジ。其條ヲ見ヨ。

うけ・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (他動、四) [祈誓] [うけひ(祈誓)ヲ併セ見ヨ] (一)祈ル。是非トモニト、神ニ賴ミ奉ル。神武紀、八「天皇、云云、是夜自祈而寢、夢有天神、訓之曰、云云、如此則虜自平伏」 古事記、上六十三「如木花榮一榮坐、宇氣比弖貢進」 萬葉集、十一八「水ノ上ニ、數書ク如キ、吾ガ命ヲ、妹ニ逢ハムト、受日ツルカモ」 (二)神ニ祈リテ、誓フ。誓約 神代紀、上三「請與姉共誓」 古事記、上廿「速須佐之男命、答白各宇氣比而生子、云云、宇氣布時、云云」 (三)神ニ祈リテ、詛フ。呪詛 古事記、中(垂仁)九三十「拜三此大神、誠有驗者、住是鷺巢池之樹鷺乎、宇氣比落」

云云、其[illegible]ノ地死ニ伊勢物語、三十一段「罪モナキ、人ヲうけヘバ、忘草、己ガ上ニゾ、生フト云フナル」

〔うけぶね (名) 〔宇気槽〕 うけ(槽)ノ條ヲ見ヨ。

うけぶね (名) 〔泛子舟〕 網ノ泛子ニ用キル舟。 夫木抄、十三、「[illegible]、雑賀島、浦ノ朝霧、晴レモセデ、夜(書ヲ二カク)ホドモ見エズ、網ノうけぶね」

うけぶみ (名) 〔請文〕 命ヲ承リタル由ヲ記セル文書。ウケシ。 [illegible]状ノ請文、書キテ奉ル」

うけぼり (名) 〔浮彫〕 一浮けテ彫ろ義一 うきぼりニ同ジ。 [illegible]太刀ハ、云云、うけぼり、毛ボリ、[illegible]子タルヘシ

うけみ (名) 〔受身〕 [illegible]ノ條ヲ見ヨ。

〔うげん (名) 〔繧繝〕 繧繝ノ條ヲ見ヨ。

うげん (名) 〔有験〕 祈禱ニ、效験ノアルコト。 [illegible]、三、[illegible]入道[illegible]、有験ノ高僧、貴僧ニ仰セテ、大法、秘法ヲ修シ」

うげん (名) 〔迂言〕 マハリ遠キコトバ。 呂覽、先己篇、孔子見ニ魯哀公一哀公曰、有[illegible]寡人[illegible]曰[illegible]之業上一者[illegible]

うけむけ (名) 〔有卦無卦〕 一有卦無卦、有[illegible]、ナドトモ書ス、大般若經ニ、貧窮無[illegible]人ニ有[illegible]ノ語アリト云フ、コレヲ「貧三[illegible]ほし」ト云フ諺ニ附會シテ、[illegible]あるヲ吉ト唱ヘ出シタルナラムト云フ」 人ノ生年ノ、木、火、土、金、水、ノ五性ガ、十二運ノ、[illegible]、[illegible]、長、[illegible]、[illegible]、[illegible]、臨、ノ年ニ當レバ、七年間、萬事都合吉シトシテ、有卦ト云ヒ、衰、病、死、墓、絶、ノ年ニ當レバ、五年間、[illegible]シトシテ、無卦トス。有卦ニ入レル者ハ、ななふの祝ひトテ、食物、器物ナド、頭ニ、ふノ音アルモノヲ、七品揃ヘテ祝フ、仁王經ノ七福即生ノ語ニ因ルナラムト云フ。

うけもち (名) 〔受持〕 ウケモツコト。引受ケタル業。擔當

〔うけもちのかみ (名) 〔保食神〕 〔うけもちハ、食ヲ保ツ義〕 食物ノ神。うかのみたまニ同ジ。ウカノメ。ミケツノカミ [illegible]代紀、上、[illegible]保食神[illegible]云[illegible]〕 [illegible]記曰、宇気者、食之義也、言、是保ニ持食物一之神也」

うけもつ・ツ・テ・タ・チ・テ (他動、四) 〔受持〕 己ガ業ト引受ク。擔當

うけもどす・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) 〔請戻〕 質物ヲ贖ヒテ、取返ス。

うけやど (名) 〔請宿〕 雇人ノ、請人ノ家。口入宿。ケイアン。

うけら (名) 〔朮〕 草ノ名。をけらノ條ヲ見ヨ。

☆う・ける (動) 受く、又ハ、請くノ口語。

うけわたし (名) 〔受渡〕 コレ受ケトリ、カレ引キワタスコト。受授

〔うご (名) 〔于古〕 〔う、を、通ズ、こ、つつ、をつつ(現)〕 可笑、ト通ズ [illegible]紀、十三年三月、長歌「我ガ心シ、イヤ于古ニシテ」

うご (名) 海草、おごのりニ同ジ (海[illegible])

うご (名) 〔雨後〕 アマアガリ。 李適民詩「[illegible]暢頭[illegible]二雨後ノ月」

うごうご (副) 〔蠢蠢〕 物ノ、ウゴメク狀ニ云フ語。ウヨウヨ。ウザウザ。 [illegible]天[illegible](寶永、近松作)[illegible]セバ[illegible]ニ[illegible]ンテ、うごうごト、マタ[illegible]道(へイ一リノク」

〔うごかす・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) 〔動〕 〔動くノ他動、わく、わかす(沸)〕 動クヤウニナス。[illegible]ユルガス。[illegible]竹取物語「[illegible]、いとうごかしキラシ」[illegible]又動スト[illegible]ハ、感ズ。思ヒ[illegible]。[illegible]ニ、[illegible]ウゴク[illegible]

うごき (名) 〔[illegible]〕 〔[illegible]、むらぎノ義〕 灌木ノ名、むらぎ、多ク人家ニ植エテ[illegible]トス、葉ハ五葉一簇ニシテ、[illegible]、形、人参ノ葉ニ似テ、[illegible]ナリ、春ノ嫩葉、食フベシ、夏、小白花綴リ開ク、實、熟スレバ黒シ。 [illegible]上[illegible]、ウコギノチノカハ」

うごき (名) 〔動〕 ウゴクコト。ユルグコト。 [illegible]、[illegible]、ヒジリ、うごきモニセスト、トカクシテ、[illegible]身ヲ[illegible]ラセ給フ二[illegible]シ」

〔うごく・ク・ケ・カ・キ・ケ (自動、四) 〔動〕 〔蠢ノ活用ナルベシ〕 止マリテアラズ。[illegible]マラズ。ユルグ。おぶく。いぶく。動搖ス。 字鏡六十「搖、動、宇己久」 心動クトハ、感ズ。思ヒ[illegible]ハル。 [illegible]、十八、[illegible]ホトトギス、[illegible]、[illegible]ク[illegible]ニ、[illegible]字[illegible]テ」

うこっけい (名) 〔烏骨鷄〕 をこっけいニ同ジ。

〔うごなはる・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 〔參集〕 〔蠢[illegible]ろノ義、[illegible]ろノ條ヲ見ヨ〕 參リ集ル。ウズスマル。 貞觀儀式、大[illegible]「參集、[illegible]天[illegible]宇古[illegible]二 [illegible]紀、二十三年八月「[illegible]等、[illegible]。 [illegible]、[illegible]紀、二年二月、[illegible]二[illegible]集[illegible]」

うごま (名) 〔胡麻〕 胡麻ニ同ジ。其條ヲ見ヨ。

うこん (名) 〔鬱金〕 (一)草ノ名。形、だしごくさニ似テ、稍大ナリ、高サ二尺許、秋、葉ノ心ヨリ花ヲ出シ、小苞多ク[illegible]シテ白ク、其末ハ紅ヲ帯ブ、苞ノ間[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]ヲ染料ニ用キル。(二)[illegible]、[illegible]、色、黄ナリ。

うこん (名) 〔右近〕 うこんゑノ略。このゑふノ條ヲ見ヨ。

うこんいろ (名) 〔鬱金色〕 [illegible]ノ(二)ノ[illegible]ヲ見ヨ。

うこんたいふ (名) 〔右近大夫〕 右近[illegible]將監(相當從六位上)ニシテ、五位ニ叙セラレタル者ノ稱。

うこんのたちばな (名) 〔右近橘〕 右近[illegible]橘ノ條ヲ見ヨ。

うこんのちん (名) 〔右近陣〕 [illegible]右近陣ヲ見ヨ。

うこんのつかさ (名) 〔右近衛〕 このゑふノ條ヲ見ヨ。

うこんばな (名) 〔鬱金花〕 樹ノ名。山中ニ生ズ、高サ一丈許、[illegible]ノ頃、小黄花、[illegible]ク[illegible]、花[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]クシテ、三尖アリ、[illegible]

うこんもめん (名) 〔鬱金木綿〕 鬱金ニテ染メタル、[illegible]十[illegible]木綿[illegible]

うこんゑ (名) 〔右近衛〕 このゑふノ條ヲ見ヨ。「右近衛大將」

うこんゑふ (名) 〔右近衛府〕 このゑふノ條ヲ見ヨ。

うごめく・ク・ケ・カ・キ・ケ (自動、四) 〔蠢動〕 [illegible]ウゴメク。ウゴウゴト動ク、[illegible]、[illegible]、[illegible]云フ語。オゴメク。ムクメク。

〔うごも・つ・ツ・テ・タ・チ・テ (自動、四) |墳| 〔蠢持つノ義カ、轉ジテ、うぐもつ、(過す、すごす)韻瑞「墳、土起也」集韻「墳、土膏肥也」〕 土、高クモチアガル。ウグモツ。ウゴモル。 字類抄「墳、ウゴモツ、ウゴモル」欽明紀、十四年十月「鉦野墳訣、平原滿過」書經、禹貢篇「厥土黑墳」

〔うごも・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) |墳| 〔蠢盛る義カ〕 前條ニ同ジ。 名義抄「墳、ウゴモル」

〔うごろもち (名) |鼹鼠| 〔動詞ノ、名詞形ナリ、名義抄ニ「隆、ウグロモツ、タカシ」トアリ、穿ぐるもちノ轉ニテ、鼹鼠、土中ヲ行ケバ、土穿げテ、上ニもちアガル意ナルベキカ〕 今、むぐらもちト云フ。其條ヲ見ヨ。 本草和名、下九「鼹鼠、宇古呂毛知」(倭名抄、同ジ)

うさい-おう (名) |于思翁| 〔左傳、宣公二年「于思」註「多鬚之貌」思、桑才切、音腮〕 能ノ翁舞ニ出ヅル、白髯ノ老翁ノ稱。音ヲ轉ジテ、をうさい。 運歩色葉集(天文)「于思翁、中楽三番奏之詞也」 謡曲、翁「おうさい、おうさい、悦ビアリヤ」卜養狂歌集(寛文)一「うさいをう、悦ビアリヤ、悦ビアレ、あどノ大夫ニ、鈴ナ參ラショ」

うざい-がき (名) |有財餓鬼| 〔佛經ノ語ヨリ出デテ、意ヲ轉ジタルナリ〕 財寶ヲ多ク所有シナガラ、尙飽カズ貪ル人ヲ稱スル語。長者、富に飽かずナド云フ、是レナリ。守錢奴。 世間子息氣質(正德、其積)三「銀持チラ、一生遊山衒ヒノ有財餓鬼」井筒業平河内通(享保、近松作)一「無用ノ忠節仁義ダテニ眼ヲホス事等、冥途デハうざいがき、其刀抜カバヌイテ見ヨ」

うさいかく (名) |烏犀角| 犀角ノ條ヲ見ヨ。

うざ-うざ (副) |蠢蠢| 〔うざハ、うずすまる(群集)ノ、うずノ轉ニモアルカ、蛆蟲、同ジ〕 蛆ナドノ、群リ蠢キテ、厭フベキ意ヲ云フ語。ウジャウジャ。ウジョウジョ。ウゴウゴ。ウヨウヨ。 |蠢爾 蠕蠕|

うざう-むざう (名) |有相無相| 〔相ハ、形ナリ、有象無象ナドトモ記ス、聖財集、下「有念無念、有相無相」(松屋筆記、六十八)ナドアルヨリ移ル〕 種種、雜多ナル人物。侮リ云フ意アリ。約シテ、うぞむぞ。

うさか-の-しもと (名) |鵜坂笞| 次次條ヲ見ヨ。

うさか-の-つゑ (名) |鵜坂杖| 次條ヲ見ヨ。

うさか-まつり (名) |鵜坂祭| 越中國、礪波郡、(今ハ婦負郡)鵜坂村ノ、鵜坂神社ノ祭。此祭日ニ、神主、祝詞ヲ宣ブル時、一鄕ノ女子ニ、其年逢ヘル男ノ數ヲ言ハセ、榊ノ杖ヲ以テ女ノ尻ヲ打ツ、コレヲ鵜坂の杖、又ハ、鵜坂の笞ト云フ、(筑摩祭ノ鍋ニ似タリ)因リテ、しもとだちの祭ト云フ。(倭訓栞) 散木集、六、神祇「戀の心をイカニセム、うさかノ森ニ、見エズトモ、君がしもとノ、數ナラヌ身ヲ」 八雲御抄、四、由緒言「うさかのつゑ、是ハ越中ノ國、うさかノ明神祭日、榊木シテ、女ノ、男ノ數ニ、隨宜ヲ打ツ事ナリ、彼祭ヲバ、しりだちの祭ト云フ」

〔うさぎ (名) |兎| 〔本名うニテ、さぎハ、梵語、舍舍迦(兎)ヲ合セテ略轉シタル語カトモ云フ、(穢し、かたなし。皸、あかぎれ)顚倒ナレド、乞魚、鮒魚、貽貝ナド、漢和ヲ合シタル語モアリ、朝鮮ノ古語ニ、兎ヲ烏斯含ト云ヘリト云フ(金澤庄三郎、日鮮古代地名)〕 う。東詞ニ、ヲサギ。小サキ獸。長サ二尺許、耳甚ダ長ク、全身灰褐色ニシテ、前脚短ク、後脚長ク、高キニ上ルニ捷シ、目赤ク、上脣缺ケテ、長キ髭アリ、山ニ穴シテ棲ム、肉美ナレバ、猛獸ニ食リ食ハル、毛ヲ筆ニ用キル、之ヲ野兎ト云フ。寒地ノモノハ、冬ハ、毛色、白ク變ズ、雪中ノ保護色ナリ、越後ニテ白兎ト云フ。|野兎| 家ニ畜フモノハ、かひ兎、又ハ、南京兎ト云フ、元ハ食用ニ畜ヘリ、今ハ玩トス、形、稍、小サク、毛色、種種ニシテ美シ。|家兎| 天武紀、上十一「置始連菟」 續紀、七、靈龜二年四月「置始連宇佐岐」 倭名抄、十八廿二「兎、宇佐木」(う(兎)ノ條ヲ見ヨ)

〔うさぎ-うま (名) |兎馬| 舶來ノ獸。形、馬ニ似テ小サク、耳長クシテ、兎ニ似タリ、全身、暗褐色ニシテ、背ニ黑キ條アリテ、肩ニテ十字ヲナス、尾ハ牛ノ尾ノ如ク、末ニ長キ毛アリ、性、鈍柔ナレドモ、物ヲ負フニ堪フ。うさぎま。|驢| 本草和名、下十「驢、宇佐岐宇末」(倭名抄、同ジ)

うさぎ-ばね (名) |兎跳| 一タビ、身ヲ屈メ、足ニ力ヲ入レテ、前へ飛ブコト。 盛衰記、十五、宇治合戰事「一來法師、兎跳ニゾ越エタリケル」

〔うさぎ-ま (名) |兎馬| 前前條ニ同ジ。 名義抄「驢、ウサギウマ、ウサギマ」

❖うざっ-た・い (形) |蠢爾| 〔うざったし、うざったきト云フベキ口語〕 ウザウザスル狀ナリ。多ク群リテ、厭フベシ。ウジャッコイ。(小蟲ナドニ云フ)

〔うさ-の-つかひ (名) |宇佐使| 御即位、又ハ、國家ノ大事、災變等ノ時、豐前國ノ宇佐神宮ニ遣シテ、告ゲ奉リ、幣帛等ヲ獻ゼラルル使。卽位ノ奉幣ハ、一代一度奉幣ト稱シ、和氣氏、五位ノ人ニ命ゼラル、其祖淸麻呂ノ、稱德天皇ノ時、使ヲ、此神宮ニ奉ジテ、國家ニ大功アリシニ因ル。 西宮記、臨時、六、進二發宇佐使一事「一代一度於二八省一給二宣命一、云云、御卽位時、遣二和氣氏五位一」 後拾遺集、八、別「よしみちノ朝臣、十二月ノコロホヒ、うさのつかひニ罷リケルニ、云云」

ウ-サン (名) |烏盞胡盞| 〔胡亂ノ條ノ語原ヲ見ヨ〕 けんざん(建盞)ノ條ヲ見ヨ。

ウ-サン (名) |胡散| 〔胡亂ノ條ノ語原ヲ見ヨ〕 疑ヒ怪シムベキコト。ウロン。|可怪| 傾城佛の原(元祿、近松作)一「サテモ、サテモ、胡散ナ事カナ」

ウサン-くさ・し・キ・ケレ・ク・ク (形、二) |胡散臭| ウサンラシ。怪シ。疑ハシ。|可怪|

〔うさ-ゆづる (名) |儲弦| 〔をさゆづるトモ云ヒ、藏弦ノ義カト云フ、うつつ、をつつ。(現)うを、をを(可笑)〕 懸替ノ弓弦。ヲサユヅル。 古事記、中(仲哀)四十「弭レ弓藏レ兵、陽自二頂髮中一、採二出設弦一、更張追擊」 神功紀、元年三月「僞レ兵投二河中一、而斷レ弦、云云、出二儲弦一、更張、以佩二眞刀一」

う-し (名) |大人| 〔うハ、おほノ約、う(大)ノ條ヲ見ヨ、しハ、人ノ意、某がし、とじ、(刀自)みやじ、(宮主)沖縄ニテ、王、又ハ、地方ノ頭ヲ、ううぬし(大主)ト云フ〕 (一)主宰ル人ノ稱。主。 神代紀、下十「大背飯三熊之大人、亦云二手志一」(出雲ノ三熊ノ地ヲ領ク主) 同、下十二「齋主神、號二齋之大人一」

(二)人ノ尊稱。履中紀位前紀「瑞齒別皇子啓ニ太子ニ曰、…」雄略紀、二年四月「…」(三)師。又ハ、學者ノ尊稱。大人。「鈴の舍ノうし」

うし (名) 【牛】〔大獸ノ約、う(大)ノ條ヲ見ヨ、乾肉、(ほじし)神武紀ニ「牛酒」東雅、十八「牛ヲ、韓語ニうト云フトアルハ、牛ノ韓音ナリ、其國語ニハ、そおト云フ」〕(一)獸ノ名。形、馬ヨリ大キクシテ、脚短ク、體甚ダ肥エテ、兩角アリ、尾短ク細ソクシテ、蹄、分ル、大小一ナラズ、毛色ハ、黑キヲ常トスレドモ、種種ナルモアリ、性、遲緩ナレドモ、力、甚ダ強ク、常ニ人家ニ畜ヒテ、耕作ニ用キ、又、車ヲ牽カス、其肉、乳、最モ人ニ滋養アリ、皮、骨、角、蹄、皆、用アリ。神代紀、上「保食神、云云、頂化爲牛馬」倭名抄、十一「牛、宇之」(二)牛曳榮、牛榮ノ略。

うし (名) 【丑】〔牛ノ義〕(一)支干ノ名、えとノ條ヲ見ヨ。(二)方角ノ名、其條ヲ見ヨ。(三)時ノ名、其條ヲ見ヨ。伊勢物語、六十九段「ねーツヨリ、うし三ツマデアルニ」

うし (名) 石炭ノ一名。(近江國、栗太郡、(今、甲賀郡、岩根村)

うし (名) 【雨師】雨ノ神。淮南子、原道訓「令雨師灑道、使風伯掃塵」

うし (名) 【羽士】〔羽化シタル人〕羽客ニ同ジ。道士。仙人。

うし (名) 【鷗齒】〔正シクハ、くし、集韻「鷗、顆羽切、音踽」〕ムシバ。ムシクヒバ。史記、倉公傳「齊中大夫病齲齒」

うし・キ・ケレ・ク・ク (形、二) 【憂】(一)思フママナラデ、苦シ。ウレハシ。ツラシ。萬葉集、十九「…」(二)ウルサシ。氣ニクハズ。ナクモ宇之」(二)ウルサシ。氣ニクハズ。萬葉集、五「世ノ中ヲ、宇之トヤサシト、思ヘドモ、飛立チカネツ、鳥ニシアラネバ」同、八「…」ク卷ノ上ノ、卯ノ花ノ、憂キ事アレヤ、君ガ來マサヌ」

うじ (名) 【蛆蜡】〔うじむしノ略、うじハ、うすすまる(群集)ノ、うずノ轉ナルベシ、うざうざ(蠢蠢)ト云フモ、是レカ〕蠅ノ子。うじむし。蟲ノ名。蠅ノ幼蟲ナリ、其卵ヨリ化生ス、初ハ、一頭、尖リテ、一頭ハ切リタルガ如シ、長サ一二分、漸ク長ジテ、五六分トナリ、色白クシテ、尾ヲ生ズ、後ニ、蛹トナリテ、蠅ニ羽化ス。神代紀、上「膿沸虫流」古事記、上「宇士タカレ、トロロキテ」字鏡六十七「蜡、宇自」

う・じ (動) 【倦】うんず(倦)ヲ見ヨ。

うしあはせ (名) 【牛合】牛ト牛トヲ、角ニテ鬪ハセテ、其勝負ヲ觀ル戲。ウシノツノツキ。鬪牛 西遊記、續編、三「牛合トイフ遊ビアリ、云云、牛ヲ雙方ヨリ出シテ、戰ハシメテ、見物スル事ナリ」

うしうま (名) 【牛馬】(一)牛ト、馬ト。ギウバ。(二)大隅國ノ種子島ニ產ズル、一種ノ馬。首ハ馬ニ似テ、身ハ牛ニ似タリ、形、常ノ馬ヨリ小サシ、其毛、チヂレテ生フ。

うしおに (名) 【牛鬼】佛經ニ云フ、牛頭鬼ノ文字讀。枕草子、八、七十六段、名おそろしきもの「…、鬼、云云、うしおに」

うしおひ (名) 【牛追】荷牛ヲ追ヒテ步マシムル者。ウシカタ(馬追ニ對ス)牛奴

うしおふもの (名) 【牛追物】犬追物ノ類ナリト云フ。吾妻鏡、二、壽永二年四月五日「…企… 牛追物ニ…」

うしかた (名) 【牛方】〔馬方、轡ケニ對ス〕牛ヲ扱ヒテ、荷ヲ運ブヲ業トスル者。ウシオヒ。牛奴

うしかひ (名) 【牛飼】(一)牛ヲ飼ヒ、又、使フ者。古事記、下、安康)ニ「…」倭名抄「…牛甘」(二)次次條ノ語ノ略。

うしかひぶえ (名) 【牛飼笛】牛飼ノ童子ナドノ、牛ニ乘リ、步マセナガラ吹ク笛。牧笛

うしかひわらは (名) 【牛飼童】〔わらはハ、被髮ノ義、大人ナルニモ云フ、其條ヲ見ヨ〕牛車ノ牛ヲ驅使フヲ職トスルモノ、少年アリ、大人アリ、童髮ニシテ、狩衣ヲ着ル。略シテ、牛飼。又、牛健兒。枕草子、三、二十八段「うしかひわらはノ、…シクテ、モタルコソアレ、云云、…ゲナルハ、心憂シ」沙石集、九、下、第六條「僧正ノ牛飼、御室ノ御車ト、車立爭ジテ、御室ノ御車ヲ、散散トシタリ」

うしき (名) 【有職】已講、內供、及、阿闍梨ノ總稱。平治物語、三、賴朝…義兵ノ事「…ノ惡禪師ハ、後、有職ニ任ジテ、駿河阿闍梨トイヒケルガ」

うしぐさ (名) 【牛草】〔能ク牛ノ病ヲ治スト云フ〕今、にはやなぎト云フ。たちまちぐさノ條ヲ併セ見ヨ。

うじぐさ (名) 【蛆草】〔醬ニ入ルレバ、蛆ヲ除クベシト云フ〕灌木狀ノ草。大キナルハ三四尺ニ至ル、萩ニ似テ、葉、細長シ、夏ノ末、花穗ヲ出ス、豆ノ花ニ似テ小サク、白クシテ黃ヲ帶ブ。

うしくすし (名) 【牛醫】專ラ牛ノ病ヲ療治スル醫者。字類抄「牛醫、ウシクスシ」

うしぐは (名) 【牛鍬】からすきニ同ジ。名義抄「犂、カラスキ、ウシグハ」字類抄「犂、ウシグハ、耕器也」

うしぐるま (名) 【牛車】(一)〔音讀シテ、ギッシャト云フ〕其條ヲ見ヨ。…(二)大キナル荷車ノ、牛ニ牽カスルモノ。…

うしこでい (名) 【牛健兒】〔こでいハ、健兒ノ條ヲ見ヨ〕牛飼童ニ同ジ。平家物語、八、猫間事、木曾義仲、牛車ニ乘ル「牛飼、木曾ニ云云、ソレニ從フ手形ト申スモノ、ニ、…マヘト言ヒケレバ、木曾、手形ニムコト…アハレ支度ヤ、牛こでいガハカラヒカ」

うしごや (名) 【牛小屋】ウシヤ。牛ヲ飼ヒオク家。牛部屋。牛舍

うしころし (名) 【牛殺】〔食料ニ供フル牛ヲ殺スヲ業トスル者。屠牛夫

うしころし (名) 【牛殺】〔うしのはなぎノ(二)ヲ見ヨ〕樹ノ名、かまつか(莢蒾)ノ異名。(武藏)

うしざき (名) 【牛裂】往時アリシ刑ノ名。兩手、兩足ヲ、四疋ノ牛ニ繫ギ、牛ニ柴ヲ負ハセ、火ヲ點ズレバ、四牛、四方ニ驅ケテ、體ヲ四裂スルモノト云フ。南蠻寺興廢記「泉州堺ニテ、磔パヌ者三人、內二人ハ、…一人ハ牛裂ニ…」…百箇條、第二十一「牛裂、釜煎等ノ嚴刑ハ、又、將軍家之不ㇾ及ㇾ行之處也」

ウシチ (名) 【烏瑟】次條ヲ見ヨ。

ウシチニサ (名) 【烏瑟膩沙】〔梵語、…內髻ト譯ス〕佛書ニ、佛ノ三十

二相ノ一、烏瑟膩沙相ト云フ、佛ノ頂骨、高ク起リテ、髻ノ狀ヲ成セルモノ。佛相。佛頂。肉髻。常ニ略シテ、烏瑟ト云フ。又、ウシツ。ウシュツ。翻譯名義集、五「烏瑟膩沙、此云二佛頂一、頂骨湧起、自然成レ髻、故名二肉髻一」祖庭事苑、四「烏瑟膩沙相、謂二佛頂骨肉合成、量如レ覆レ拳、靑圓殊妙一」榮花物語、二十二、鳥舞「體相、神德、魏魏タリ、烏瑟ミドリコマヤカニ、慈悲ノ御眼、蓮ノ如ク開ケタリ」平家物語、五、奈良炎上事「盧舍那佛、うしゆつ高クアラハレテ、半天ノ雲ニ隱レ」太平記、廿六、執事兄弟奢侈事「五智ノ如來ハ、烏瑟ヲ夜ノ雨ニ潤セリ」

ウシツ (名) [烏瑟] 前條ヲ見ヨ。

〜うしとら (名) [丑寅] 東北ノ方。えとノ條ヲ見ヨ。艮 神武紀、廿「東北」私記「宇之止良」字類抄「艮、ウシトラ」

〜うじな (名) [猯] むじなノ古言。推古紀、三十五年二月「陸奥國有レ猯」

うしな・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (他動、四) [失] 〔失ヲ轉ジテ、うしなふト活用シタル語カ、(さしもぐさ、させもぐさ)まけなふ、(設)まかなふ。(賄)あがひなふ、あがなふ〕(一)物ヲ、見エヌヤウニナス。無クス。無クナス。萬葉集、十五、三十四「白妙ノ、吾ガ下衣、宇思奈波ズ、持テレ我ガ夫子、タダニ逢フマデニ」(二)死別トナス。喪 伊勢物語、百九段「昔、男、友ダチノ、人ヲうしなへルガ許ニヤリケル」「父ヲ喪ふ」子ヲ喪ふ」(三)常ナラヌヤウニナス。喪 「心ヲ喪ふ」氣ヲ喪ふ」

うしのあゆみ (名) [牛步] 牛ノ步行ハ遲キガ故ニ、事ノ、ハカバカシカラヌニ喩ヘテ云フ語。家康御遺訓百箇條「怠ラズ、行カバ千里ノ道モ經ム、牛ノあゆみノ、ヨシ遲クトモ」

うしのさうめん (名) [牛索麪] 草ノ名、ねなしかづらニ同ジ。菟絲子

うしのした (名) [牛舌] (一)魚ノ名、したびらめノ一名。(東國) (二)樹ノ名、いぬびはノ一名。(豐前) (三)草ノ名、ふぢさはぎくノ一名。(山城) (四)又、羊蹄菜。(備後) (五)鹿茸。(河內)

うしのたま (名) [牛玉] (一)牛ノ額ニ生ズル、毛ノ塊、其瘤ナリト云フ。形圓クシテ、大キサ一寸餘、長キ毛カタマリテ、中ニ堅キ心アリ、白色、褐色ナド、種種ナリ。其白キモノヲ僞リテ、白狐ノ玉ト呼ブ、或ハ、僞製スルモアリ。牛玉ヲ轉ジテ、牛王ト云ヒ、牛王ノ符ニ附會シテ、寺院ナドニテ、寶物ナドトス。(二)又、ごわう(牛黃)ノ一稱。

〜うしのち (名) [牛乳] 牝牛ノ乳汁。昔シ藥用トシタリ。牛乳。醫心方、十二、六「牛乳、宇之乃知」

うしのつのがひ (名) [牛角貝] 介ノ名。牛ノ角ノ形シテ、太キ方ニ孔アリ、長サ寸餘ニシテ、縱條アリ、色白シ、又、淡褐色ナルモアリ。

うしのつのつき (名) [牛角突] うしあはせニ同ジ。

うしのつのもじ (名) [牛角文字] 〔ひノ字、牛ノ雙角ノ如クナレバ云フ〕平假名ノ、ひノ隱語。徒然草、六十二段、延政門院(後嵯峨天皇皇女)御幼時ニ、人ニ言傳ノ御歌「フタツ文字、(こ)牛の角文字、(ひ)直ナ文字、(し)ユガミ文字(く)トゾ、君ハオボユル」こひしく思ヒマヰラセタマフトナリ」

うしのときまうで (名) [丑時詣] 夜ノ丑ノ時(午前二時)ニ、神社、佛閣ニ詣デテ、特別ノ祈願ヲカクルコト。謠曲、橋辨慶「宿願ノ子細アツテ、五條ノ天神へ、丑の時詣でヲ仕リ候」

うしのときまゐり (名) [丑時參] 「前條ヲ見ヨ」妬ム事アリテ、女ノスル呪事。髮ヲ解キ、白衣ヲ着、高キ木履ヲハキ、金輪ニ蠟燭火ヲ立テテ戴キ、胸ニ鏡ヲカケ、神社ナドニ丑時詣ヲシテ、森ノ樹ニ、藁人形ヲ五寸釘ニテ打チツケ、仇ノ命ヲ縮メムト祈ル。台記、久壽二年八月廿七日ニ、呪詛ノ事ヲ記シテ「打二釘於愛宕護山天公像目一」平家物語、劍卷、嵯峨天皇ノ時、公卿ノ娘、妬シト思フ女ヲ取殺サムト、貴船ノ社ニ祈ル「長ナル髮ヲバ五ツニ分ケ、五ツノ角ニゾ造リケル、顏ニハ朱ヲ指シ、身ニハ丹ヲ塗リ、鐵輪ヲ戴キテ、三ノ足ニハ松ヲ燃シ、續松ヲ拵ヘテ、兩方ニ火ヲツケテ、口ニクハヘツツ、夜更ケ、人定マリテ後、大和大路ヘ走リ出デ、云云」蟬丸(元祿、近松作)一「アアモウ丑の時參り、仇ト情ト怨念ト、三ツノ鐵輪ニ燃ル火ニ」

うしのはなぎ (名) [牛鼻木] (一)鼻木ノ條ヲ見ヨ。倭名抄、十一、四「桊、牛乃波奈岐、牛鼻環也」(二)樹ノ名、かまつか(莢蒾)ノ異名。其材、堅クシナヤカナレバ、曲ゲテ牛ノ鼻木ニ用ヰル故ノ名ナリ。うしころしトモ云フ、意、同ジ。

うしのひ (名) [丑日] 支干ノ、丑ニアタル日ノ稱。夏ノ土用中ノ丑ノ日ニ行ハルル、種種ノ習慣アリ、灸ヲスエル、未明ニ紫陽花ヲ採リテ室內ニカケオク、(疫ヲ祓フト云フ)鰻ノ蒲燒ヲ食フ、(百五十年前ニ始マル)ナドアリ。萬葉集、十六、三十二「石麻呂ニ、我レ物申ス、夏瘦ニ、好シト云フ物ゾ、鰻取リ食セ」又、寒中ノ丑ノ日ニ、紅ヲ買ヒ用ヰルヲ、丑紅ト云フ、女ノ脣ニ塗ルニ、口中ノ病ヲ防グト云フ。(丑ノ日ニ行フト云フコト、其故、詳ナラズ)川柳ニ「寒ノ中、赤丑ヲ買フ、大ツレ」

〜うしのひたひぐさ (名) [牛額草] 〔牛、食ヒテ、其葉、額ニアル意ニモアルカ、一名、うしのひたひハ、牛のひたひニ同ジ、神武紀ニ「牛酒」一名、ふかつみハ、深之綠ノ略ナラムカ〕(一)草ノ名、又、シシノヒタヒ。フカツミ。今、たがらしト云フ。其條ヲ見ヨ。石龍芮 字鏡、廿五、十二「石龍芮、不加豆彌、牛乃比太比」本草和名、上、三十八「石龍芮、之之乃比多比久佐、布加都美」(二)草ノ名、又、タツノヒゲ。今、おひげト云フ。其條ヲ見ヨ。石龍芻 本草和名、上、廿「石龍芻、宇之乃比太比」(倭名抄、同ジ)

〜うしは・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (他動、四) [領] 〔其地ニ主人トナリテ佩ク義ト云フ、或ハ、食シ佩クノ轉ニハアラヌカ、をつつ、うつつ。(現)をめく、うめく(叫喚)〕(一)領ス。領知ス。(神ニノミ云フ)轉ジテ、うすはく。古事記、上、五十四大國主神ニ「汝之宇志波祁流葦原中國」萬葉集、九、二十三長歌「此山(筑波)ヲ、牛掃神ノ」(二)居ル。シヅマル。萬葉集、十九、二十六長歌「大御神タチ、船ノ舳ニ、宇之波伎イマシ、船艫ニ、御立シマシテ」遷二却祟神一詞「山川ノ淸キ地ニ遷リ出デマシテ、吾ガ地ト、宇須波伎座セト」

うしばくらう (名) [牛博勞] 牛ノ博勞。牛ノ賣買ヲ業トスル者。狂言記、牛馬「コレハ、山一ツアナタニ住ム、牛ばくらうデゴザル」

うしはこべ (名) [牛蘩蔞] 〔牛ハ、大ナル意、葉、常ノはこべヨリ大ナリ〕はこべノ一種、葉ノ長サ、寸餘ニ至ルモノ。

うしばへ (名) [牛蠅] 形、あをばへニ似テ、扁クシテ、利キ觜アリ、牛馬ニツキテ其血ヲ吸フモノ、大小二種アリ。䖟虻

うしばり (名) [牛梁] 次條ヲ見ヨ。

うしひきばり (名) [牛曳梁] 〔大ニシテ、牛車ニテ曳キ運バスル意カ〕梁ノ、大キナルモノノ稱。略シテ、牛梁。更ニ略シテ、牛。大芝居小屋ノ梁ナドニ云ヒ、大土藏ノ棟木ニモ云フ。

うしべに (名) [丑紅] うしのひ(丑日)ノ條ヲ見ヨ。

うしべや (名) [牛部屋] (一)牛小屋。牛屋。牛室 (二)うしふろくむさしノ條ヲ見ヨ。

うしほ (名) [潮] 〔海鹽(ウミシホ)ノ略ニテ、(うみのはら、うなばら)食鹽ニ對シテ云ヘル語ト云フ〕(一)(一)海ノ水ノ、日月ノ引力ニテ、高クナリ、又、低クナルコト。大抵、一晝夜ニ、二度高低ス、略シテ、しほトノミモ云フ。陸ニ寄スルヲ、あぐ、又、さすト云フ。イデシホ。デシホ。アゲシホ。サシシホ。上潮 最モ高クナルヲ、みつト云フ。ミチシホ。滿潮 沖ニ退クヲ、ひくト云フ。イリシホ。サガリシホ。サゲシホ。ヒキシホ。退潮 最モ低クナルヲ、ひるト云フ。ソコリ。乾潮 朝ニさすヲ、あさしほト云フ。潮 夕ニさすヲ、ゆふしほト云フ。汐 朔、望ニ、特ニ高クさすヲ、おほしほト云フ〔其條ヲ見ヨ〕顯宗紀、四年十月「淡ノ、于之哭ノ下(クダリ)」海「下(ウナクダリ)」倭名抄、一七「潮、海水朝夕來去波涌也、宇之保」(二)〔泛ク、海ノ水ノ稱。海潮 神功紀「頭浸海水(ウシホ)二」(三)次條ノ語ノ略。

うしほに (名) [潮煮] 四條流庖丁聞書(長享)「うしほにノ事、云云、浦ニテ、うしほヲ汲ミテ、鯛ヲ煮テ、參ラセシヨリ始マル也」) 鯛ノ吸物料理ノ名。略シテ、うしほ。今ノ製ハ、鯛ノ眼ノ處ヲ一寸五分角ニ切取リ、鹽ヲ振リカケ、一時間オキテ、熱湯ニテ煮テ、五合ノ昆布ノ煮出汁ニ入レテ、煎立チタル時、鹽九分、醬油一分、酒一勺ヲサシテ、椀ニ盛リ、木芽ヲ點綴(アシラ)フ。易林節用集(慶長)「潮煮」

うしほほづき (名) [牛酸漿] いぬほほづきノ(一)ニ同ジ。

うしまつり (名) [牛祭] 山城國ノ太秦(ウヅマサ)ナル廣隆寺ノ、大辟(オホサケ)ノ神ノ祭。陰暦九月十二日ナリ、前夜ニ、僧、異裝シテ、牛ニ乘リ、社堂ヲメグリ、祭文ヲ讀ム、牛祭祭文トテ、異樣ノ文體ノモノナリ。(惠心僧都ノ作ト云フ、寬仁元年寂ス)

うしみつ (名) [丑三] 午前二時半。漏刻(ロウコク)ノ條ヲ見ヨ。拾遺集、十八、雜賀「うしみつト、時申シケルヲ聞キテ」

うしん (名) [有心] 〔無心ニ對ス〕(一)心アルコト。思慮アルコト。榮花物語、三十六、根合「大人(オトナ)ビテ、うしんニ物シタマフ人ニテ」(二)かきのもとノ條ノ(二)ヲ見ヨ。

うしむし (名) 蟲ノ名、すりばちむしニ同ジ。

うじむし (名) [蛆蟲] うじ(蛆)ノ條ヲ見ヨ。人ヲ卑シメテ呼ブ語トモス。

うじもの (副) [鵜自物] じものノ條ヲ見ヨ。

うしや (名) [牛屋] (一)〔牛小屋。牛部屋。牛闌。牛室 宇津保物語、藏開、上、下三「うしやニ、好キ牛ドモ、云云、並ヘテ飼フ」東雅、六、宮室「厩、ムマヤ、云云、牛ニハ、牛室ノ字ヲ用ヒテ、うしやト讀ムナリ」(二)食料ノ牛肉ヲ賣ル商家。ギウヤ。牛肆

うじや (名) [烏蛇] 「烏ハ、黒キ意」色ノ黒キ蛇。カラスヘビ。藥用トスルニ云フ。

うしやう (名) [右相] 右大臣ノ唐名(カラナ)。右相府ノ略。百寮訓要抄「右大臣(右相府、右府、右僕射)」

うしやう (名) [羽觴] 〔隨園隨筆、十一「劉良曰、羽觴、杯上插羽、以速客飲也」羽書、羽檄ナドト、同意ノ語ナルベシ〕酒盃ノ異名。李白、春夜宴桃李園序「飛羽觴而醉月」班婕妤賦「酌羽觴兮銷憂」

うじやう (名) [有情] 佛經ノ語、生キテ居テ、情(コヽロ)アルモノ。生物ノ、感覺、感情ヲ具シテアルコト。(無情、非情ニ對ス) 仁王經「先禮天龍、諸有情等、倘皆聆護」沙石集、五、上、第一條「下劣ノ有情、タトヒ領解ナクトモ、云云」

うじやう (名) [鵜匠] 〔うかひヲ見ヨ〕鵜飼ノ職。永祿七年、織田信長、美濃ノ長柄川ノ鵜飼ニ祿ヲ與ヘテ、鷹匠ト同ジクシタリト傳フ。

うしやうこく (名) [右相國] 右大臣ノ唐名(カラナ)。拾芥抄、中、本「右大臣、今世、號右相府、或、右相國」

うじやうじや (副) [蠢蠢] うざうざノ轉。ウジョウジョ。

うじやく (名) [烏鵲] カササギ。魏武帝、短歌行「月明星稀、烏鵲南飛」

うじやける ・ケル・ケレ・ケ・ケ・ケヨ (自動、下二) [糜爛] ウジャウジャト、タダルル。ウジャジャケル。

うじやじやける ・ケル・ケレ・ケ・ケ・ケヨ (自動、下二) [糜爛] 前條ニ同ジ。

うじやじやい (形) [蠢爾] うざつさいヲ見ヨ。

うしゆ (名) [迂儒] 儒者ノ、道義、字義ナドノミ講ジテ、世情ニ迂闊ナルヲ嘲リ呼ブ語。クサレジュシャ。腐儒。「[illegible]人道是迂儒」

うしゆきつ (名) [温州橘] 〔うんしうきつノ語原ヲ見ヨ〕(一)古ニ云ヘルハ、今ノ、温州蜜柑(ウンシウミカン)。庭訓往來(元弘)三月「橘、温州(ウンジュ)橘(キツ)」林逸節用集(明應)「温州橘(ウンジュキツ)」(二)今、一種、雜生ノ橘ノ名、蜜柑ヨリ大キクシテ、味、酸ク苦ク、食フニ堪ヘズ。

ウシュツ (名) [烏瑟] うしちにさノ條ヲ見ヨ。

うしよ (名) [羽書] 羽檄ニ同ジ。其條ヲ見ヨ。

うじようしやう (名) [右丞相] 右大臣ノ唐名(カラナ)。

うじようじよ (副) [蠢蠢] ウザウザ。ウジャウジャ。

うしらん (名) [烏絲欄] 紙ニ、黒キ罫ヲ引キタルモノ。

うしろ (名) [後] 〔身後(ムシリ)ノ通音、むまノ、うま(馬)むめノ、うめ(梅)ト、同趣〕(一)〔シリヘ。アト。〔前ニ對ス〕萬葉集、十七、紀、葉賀「…ノうしろニ入リ給ヒヌ」同、十、櫛「…コカシコノ物ノうしろナドニゾ、サフラフ」(二)背。セナカ。榮花物語、十六、本雫「上達部、東ノスノコニ、勾欄ニ、うしろヲアテテ、ナミ居サセ給ヘリ」謠曲、卒都婆小町「うしろニ負ヘル袋ニハ」(三)〔身後ノ姿〕ウシロスガタ。枕草子、

九、九十八段、凪は、トリ集メ、オコシタテナドスルヲ、殺シゲニ、オシハカリテ、ツキマトヒタルうしろモヲカシ」(四)〔見エヌ處。ユクサキ。向後。源、四、夕顏四十「ナキ御うしろニ、ロサガナクヤハト思ヒ給フ」同、三十五、柏木廿五「ナカランうしろニモ、コノ勘ジ赦サレタランナン、御トクニ侍ルベキ」(五)〔下襲ノ裾。源、七、紅葉賀二十「御ゾノ御うしろ、ヒキツクロヒナド」枕草子、一、第四段、おとおとなる物「うしろヲマカセテ、笏トリテ、御前ノ方ニ向ヒテ立テル」(六)芝居ノ舞臺ニテ、役者ノ所作ヲナス間、唄フモノ。東海道中膝栗毛(享和、十返舍一九)七編、上「コワイロハ、江戸デモ一番トイフ男サ、誰デモ、うしろヲウタフ人ガアルト」

うしろ-あし (名) 〔後足〕 足ヲ後ニシテ、逃ゲムトスルコト。ニゲアシ。反踵 盛衰記、四十一、義經院參事「うしろ足ヲモ蹈ミ、命ヲモ惜シト思ハム人人ハ、是レヨリ歸リ下リタマヘ」

うしろ-あはせ (名) 〔後合〕 互ニ背向ケ合フコト。セナカアハセ。舊、今昔物語、廿七、廿七語「鳥丸面ニ、六角室ノ後合ニゾ住ミシ」

うしろ-おび (名) 〔後帶〕 婦人ノ、帶ヲ、背ニ結ブコト。(前帶ニ對ス)

うしろ-かげ (名) 〔後影〕 行ク人ノ、後姿。ウシロツキ。背影 平家物語、九、二ノ駈事「今ハ逆ニ下リヌラム、ヨモ後影ヲバ見タラジ」

うしろ-がみ (名) 〔後髮〕 後頭部ノ髮。うしろ髮を引かるトハ、殘リ惜シク、去リガタキ意ニ云フ。吾吟我集、六、戀、後朝戀「別レコシ、跡ニひかるる、うしろ髮、今朝クシクシ(櫛櫛ヲ、屈屈ニイヒカク)ト、思ヒ亂ルル」

〜うしろ-がろ・し・キ・ケレ・ク・ク (形、二) 〔後輕〕 うしろやすし(後安)ニ同ジ。續紀、三十一、寶龜二年二月、詔「汝大臣ノ、罷リ道モ宇之呂輕久、心モ樂ニ、云云」

うしろ-きず (名) 〔後疵〕 むかふきずヲ見ヨ。

うしろ-くぼ (名) 〔後窪〕 ぼんのくぼニ同ジ。項ノクボ。字類抄「腦後、ウシロクボ」

うしろ-ぐら・し・キ・ケレ・ク・ク (形、二) 〔後暗〕 (一)ウシロメタシ。顧慮 齊明紀、四年十月「子之靈モ倶例ニ」(背後、暗シ) (二)貳心アリヤ、疑ハシ。貳心 盛衰記、八、彗星出現事「君ヲモ、うしろぐらき御事ニ思ヒ奉リテ」

うしろ-ゲサ (名) 〔後袈裟〕 背ヨリ、袈裟掛ニ切ルコト。

うしろ-ざし (名) 〔後刺〕 簪ノ、耳ノ後ニサスニ用キルモノ。(前刺ニ對ス)

うしろ-すがた (名) 〔後姿〕 背面ノ姿。ウシロカゲ。ウシロツキ。背影 曾我物語、十一、虎來ニ曾我ニ事「虎ハ、母ガうしろ姿ヲ見送リ」

うしろ-だて (名) 〔後楯〕 (一)背ノ防ギトシテ、楯ニ取ルモノ。「松ノ樹ヲ後楯ニ取ッテ闘フ」(二)陰ニ居テ、扶クルコト。ウシロミ。後援 曾我物語、九、和田の屋形へ行きし事「うしろだてニハナリ候ベシ」

うしろ-つき (名) 〔後附〕 ウシロスガタ。ウシロカゲ。背影

うしろ-づめ (名) 〔後詰〕 〔詰むハ、攻むナリ、字類抄「征、ツム、迫軍也」後詰ハ、湯桶讀ニスルナリ〕 味方ヲ攻ムル敵軍ヲ、其背後ヨリ取卷キテ攻ムルコト。ウシロマキ。後詰。後攻。後援 梅松論、上「五十四郡ノ軍勢ヲ率シテ、後詰ノ爲ニ、不破關ヲ越エテ」 撮壤集、下、武略部「後 攻」史記抄(文明十二)七十「齊ヘ深入ラムト思ヘドモ、云云、韓、魏ガ、うしろづめヲセウズラウト思ヒテ、怖ヂウゾ」 太平記、十八、金崎落城事「後攻スル者ナクテハ、此城、今十日トモ堪ヘ難シ」 赤松再興記、永正十六年十一月「浮田能家、三石城爲ニ後卷ニ出張ス」 豐鑑、一、長濱眞砂、天正六年、毛利氏軍「上月ノ城(播磨)ヲ幾重モ圍ミヌ、鹿之助(山中氏)後責ヲ請ヒケレバ、秀吉、小寺氏ナド催シ加ヘテ向ヒ、高倉山ニ陣立シタマフ」

〜うしろ-で (名) 〔後方〕 〔後之方ノ約ト云フ、面之方ノ約ナル、おもてニ對ス〕 後ノ方。背面。ウシロスガタ。背面 古事記、中(應神)七十二、少女ノ(長歌)「宇斯呂傳」 源、五十二、手習二十五「姬君ノ立出デタマヘリツル、うしろでヲ見タマヘリケルナリ」

うしろ-で (名) 〔後手〕 兩手ヲ、背ニマハスコト。反縛 「後手ニ縛ル」

うしろ-ハチまき (名) 〔後鉢卷〕 はちまきノ條ヲ見ヨ。

うしろ-はば (名) 〔後幅〕 衣ノ、䘨ノ、背ニアタル幅。(前幅ニ對ス)

うしろ-ひぼ (名) 〔後紐〕 つけひぼノ條ヲ見ヨ。

〜うしろ-べた・し・キ・ケレ・ク・ク (形、二) 〔後方痛しノ約、背後ノ、氣ヅカハシク、心ガカリナル意、轉ジテ、うしろめたし、(すべらぎ、すめらぎ)其うしろめたニ、甚しヲ添ヘテ、うしろめたなし(むくつけし、むくつけなし)〕 見エヌ所、心モトナシ。キヅカハシ。(うしろやすしニ對ス) 後顧 顧慮 枕草子、一、第四段「乳母替ヘテム、イトうしろべたしト仰セラルレバ」 同、十二、百四十八段「イト危ク、うしろべたくハアラヌニヤ」 轉ジテ、うしろめたし、うしろめたなしトモ云フ。古今集、四、秋、上「女郎花、うしろめたくモ、見ユルカナ、荒レタル宿ニ、ヒトリ立テレバ」 蜻蛉日記、上、下四「火トモシツケヨ、イト暗シ、サラニうしろめたくバ、ナホ憂シ」 舊、今昔物語、十九、第五語「娘一人アリケリ、云云、相思フベキ兄弟モナシ、然レバ後めたなく思フコト、限リナシ」

うしろ-ボトケ (名) 〔後佛〕 げほふがしらノ條ヲ見ヨ。

うしろ-まき (名) 〔後卷〕 うしろづめヲ見ヨ。

〜うしろ-み (名) 〔後見〕 (一)後ニ居テ、他ノ事ヲ見ツツ扶クルコト。ウシロダテ。扶 宇津保物語、俊蔭六十二「男君、云云、年ヲ數フルニ、十二バカリニコソナルラメ、云云、ソノうしろみモ誰レカセム、親ナキ人ハ、身モイタヅラニナルモノナリ」 源、一、桐壺三「ハカバカシキ御うしろみシナケレバ、事トアル時ハ、云云、心細ゲナリ」(桐壺ノ更衣ノ事ナリ) (二)主ノ幼キカ、又ハ、女子ナルトキ、其家政ヲ扶ケ治ムルコト。又、其人。後見。輔佐 源、一、桐壺三廿「無品親王、云云、おほやけノ御うしろみヲスルナム、行クサキモ、頼シゲナルコト、云云」(政道ノ輔佐ナリ)

うしろ-むき (名) 〔後向〕 〔前向ニ對ス〕 背向ケテ居ルコト。背面。背面 出觀集、戀「人知レズ、磯マニ波ハ、寄セクレド、うしろむきナル、岩根松カナ」

〜うしろ-めた・し (形) うしろべたしニ同ジ。其條ヲ見ヨ。

うしろ-めた-な・し (形) うしろべたしニ同ジ。其條ヲ見ヨ。

うしろ-め-やす・し (形) 〔後目安〕 次次條ノ語ニ同ジ。其條ヲ見ヨ。

うしろ-や (名) 〔後矢〕 敵ニ内應シテ、後ヨリ味方ヲ射ルコト。ウラギリ。盛衰記、二十八、齊明射ニ蟆目ニ事「山川ノ習ニテ、水ハ程ナク早落候ベシ、其後、案内者シテ、後矢仕ルベシ」

〜うしろ-やす・し・キ・ケレ・ク・ク (形、二) 〔後安〕 〔後ノ事、安心ナリノ意、うしろめやすしトモ云フハ、後方やすしノ轉(うしろべたし、うしろめたし)〕 後ノ事、心安シ。見エヌトコロ、心ガカリナシ。ウシ

ロメヤスシ。ウシロガロシ。(うしろめたし二對ス) [illegible]ノ世、うしろやすくテオハシマサセムトナム聞コユル」源、二十二、玉鬘二十「我レニ似タラバシモ、うしろやすしカシト、親メキテ宣フ」狭衣、四、上三十「タダサル方ニうしろめやすく、心安キ方ニハ、ナドテカハ」

うしろゆび (名) 【後指】 背ヨリ、人ニ、指ヲ差サルルコト。(竊ニ嘲リ侮ラレ、又ハ、譏リ謗ヘルルナドニ云フ) [illegible]、八、[illegible]二笑ハレンゾ、うしろ指ヲササレ、家ノ恥ナルベシ」

〔一〕**うす** (名) 【臼】 穀ヲ精ゲ、又ハ、物ヲ碎キ、又ハ、餅ヲ搗ク器。木製、(石製モ)圓クシテ、上下、平ナリ、上ヲ凹クシテ、物ヲ容レ、杵ニテ舂ク。一名、搗臼。又、ひき臼、すり臼、からうす、ふみ臼等アリ、各條ニ注ス。[illegible]十二年二月ニ、[illegible]ニ[illegible]ストアリ。

う・す スル・スレ・セ・セ・セヨ(自動、下二) 【失】 (一)見エズヤウニナル。無クナル。[illegible]卿住崩記、長歌、川ゾヒ柳、云云、[illegible]キ起キ立チ、其ノ根ハ守セズ」 (二)死ヌ。亡 [illegible]、二、帚木「此人失セテ後、イカガハセム」 土佐日記、十二月二十七日「京ニテ生レタリシ女子、ココニシテ俄ニ失セニシカバ」 (三)うせろノ條ヲ見ヨ。

〔二〕**うず** (名) 【[illegible]】 [illegible]ノ略カト云フ說アリ」古ヘ、花木ノ枝葉ヲ、頭ニ插シテ、飾トセシモノ。卽チ、[illegible]、後ニ云フ、插頭花ナリ。古事記、中 [illegible] 長[illegible]ガ葉ヲ、字受ニ插セ」[illegible]、十九[illegible]ニ、[illegible]、字受ニ插シ、仕ヘマツルハ、卿大夫タチ」後ニハ、金銀、玉、鳥[illegible]ノ形ナドニテ造レリ。[illegible]紀、十一年十二月[illegible]云云、元日[illegible]、[illegible]、此云[illegible]」 同、十九年五月五日[illegible]良、云云、各著[illegible]、大德小德並用[illegible]、大仁小仁用[illegible]

[illegible]、三年十二月[illegible]

〔一〕**うた** (名) 【[illegible]】 [字ノ[illegible]ナリ] [illegible]ノ[illegible]ノ上ニ立ツル、[illegible]、[illegible]ノ[illegible]。[illegible]名抄、十五「鞍馬具「雲珠、宇須、鞍二馬飾二」字類抄「雲珠、ウンズ、[illegible]、[illegible]、[illegible]、本朝式用レ之」

〔二〕**う・ず** (副) 【[illegible]】 うんず(倦)ヲ見ヨ。

うすあかり (名) 【薄明】 朧月夜ナド、微ニ明キコト。[illegible]

うすアバタ (名) 【薄痘痕】 痘痕ノ、深カラヌモノ。ウスイモ。

うすあはび (名) 【薄鮑】 うちあはびヲ見ヨ。

うすいし (名) 【臼石】 形、小サクシテ、臼ノ如キ石、諸國、諸處ノ古墳ナドヨリ掘出ス、古ヘノ裝飾ノ具ナルベシト云フ。

うすいた (名) 【薄板】 (一)厚サノ、少キ板。特ニ、花瓶ヲ居エオクニ作レル板ナドヲモ云フ。 (二)次條ノ語ノ略。薄キ地ノ織物ノ稱。羅ノ類、(厚板ニ對スル稱、いたのものノ條、見合スベシ) 太閤記、二、秀吉蔵尋御禮事「妻子ノ衣類、云云、五千石ヨリ下ハ、薄板」 毛吹草(正保)三「羅 板物」

うすいたもの (名) 【薄板物】 前條ノ(二)ヲ見ヨ。

うすいちご (名) 【[illegible]】 灌木。樹、葉、花、實、甚ダうすのきニ似テ、葉ニ酸味ナシ、實、大豆程ニテ、稜アリ、上、圓クシテ臼ノ如ク、色赤シ。

うすいも (名) 【薄痘痕】 瘢面ノ、深カラヌモノ。ウスアバタ。[illegible]市川[illegible]、[illegible]八年死[illegible]、うすいもアリ」

うすいろ (名) 【薄色】 (一)染色ニ、薄紫

ノ稱。或ハ云フ、二藍ノ、薄キモノ。(西三條[illegible]) [illegible]、うすいろノナヨヨカナルヲ重ネテ」 (二)織物ニ、經、紫ニテ、緯、白ナルモノ。(桃華蘂葉) (三)[illegible]ノ色目ノ稱。表、うすはなだニ赤ミアルモノ、裏、濃キうすいろ。

うすうす (副) 【薄薄】 スコシ。ホノカニ。[illegible] [illegible]一代女[illegible]、[illegible])六、[illegible]ノ、うすうすト見エシタ暮」「うすうす知ル」

うすうた (名) 【臼歌】 臼ニテ穀ヲ搗ク時、ウタフ歌。[illegible]、三、[illegible]、[illegible]ノ歌ヲ「上齊之時、[illegible]山[illegible]下女ノ臼歌ニ[illegible]之、[illegible]之、拭レ淚」

うすえふ (名) 【薄葉】 うすやう(薄樣)ノ條ヲ見ヨ。

うすがね (名) 【薄金】 厚サノ少キ鐵ナド。「薄金ノ鎧」

うすかは (名) 【薄皮】 [illegible]ニ同ジ。

うすぎ (名) 【薄着】 厚着ノ條ヲ見ヨ。

うすぎたな・し キ・ケレ・ク・ク(形、一) 【薄穢】 キタナゲナリ。

うすぎぬ (名) 【薄帛】 ウスモノ。ウスハタ。紗、絹ノ類。[illegible] 字[illegible] [illegible]、ウスギヌ」

〔一〕**うすぎぬ** (名) 【薄衣】 〔あつぎぬニ對ス〕 薄キ衣。源、三、空蟬十「カノ脫ギスベシタル、うすぎぬヲ取リテ」

うすきね (名) 【臼杵】 兒童ノ遊戲、高サ二尺バカリノ[illegible]木ノ上ニ、長キ板ヲ橫タヘ、板ノ兩端ニ一人ヅツ對ヒ[illegible]、互ニ兩端ヲ踏ミアフリ、彼ヨリ此下ル[illegible]遊[illegible]、十三) 今、小學校ナドノ[illegible]ニテ、しいそおト云フ。

うすきみわる・し キ・ケレ・ク・ク(形、二) 【薄氣味惡】 キミワルゲナリ。

うすきりふ (名) 【薄切斑】 切斑ノ條ヲ見ヨ。

うすくず (名) 【[illegible]】 [illegible]ノ條ヲ見ヨ。

うずくま・る ・・レ・ラ・リ・レ(自動、四) 【[illegible]】 [蹲子屈まるノ義ナルベシ] (一)膝ヲ折リ立テテ居ル。シャガム。[illegible]記、中、[illegible]三十四條「蹲、ウズクマリ」名義抄「蹲、ウズクマル」[illegible]、上「蹲、ウズクマリ」 (二)前足ヲ立テテスワル。(獸ニ)

うすぐも (名) 【薄雲】 (一)[illegible]ク引キタル雲。源、十九、薄雲二「入日サス、峯ニタナビク、うす[illegible]ハ、物思フ[illegible]ニ、色ヤ[illegible]ヘル」 (二)介ノ名、どぶがひノ類。楕圓ニシテ、大キナルモノモ、二寸ニ足ラズ、白ク、[illegible]、黑キ斑アリ。

うすぐもり (名) 【薄曇】 日、(月、星モ)薄雲ニ覆ハレテ曇ルコト。[illegible]古今集、一、春、上「今朝、咲キヌト見エテ、うすぐもり、春ニ霞メル、世ノ景色カナ」

うすぐら・し キ・ケレ・ク・ク(形、一) 【薄暗】 微ニ暗シ。ノグラシ。[illegible]

うすくれなゐ (名) 【薄紅】 紅ノ色ノ、淡キモノ。[illegible]紅、[illegible]、[illegible]ノ、[illegible]ノ、花サカリ、[illegible]ニ[illegible]ハス、春ノ[illegible]」

うすぐろ・し キ・ケレ・ク・ク(形、二) 【薄黑】 淡ク黑シ。肌ニハ、あさぐろし。

うすげしやう (名) 【薄化粧】 ウスゲハヒ。[illegible]、八、[illegible]、[illegible]バカリノ[illegible]、[illegible]ニ[illegible]リ」

うすげみ (名) 【[illegible]】 うすらかみニ同ジ。

うす-けはひ (名) [薄粧] 前前條ノ語ニ同ジ。

うす-こうばい (名) [薄紅梅] (一)(紅梅ノ、花ノ色、淡キモノ。枕草子、九、九十一段「サシ出サセ給ヘル御手ノ、僅ニ見ユルガ、イミジウ匂ヒタル、うす紅梅ナルハ、限リナクメデタシ」(二)川魚ノ名。きすニ似テ、青黒クシテ、脇腹ニ赤キ條アリ。(下野)

うす-ごほり (名) [薄氷] ウスラヒ。薄ク張レル氷。枕草子、五、四十六段「うすごほり、アワニムスベル、紐ナレバ、カサズ日カゲニ、ユルブバカリヲ」

うす-ざいしき (名) [薄彩色] 彩色ノ條ヲ見ヨ。

うす-ざくら (名) [雲珠櫻] (山城國、鞍馬山ニアリト云ヘバ、唐鞍ノ雲珠ニ寄セテ名ヅケシナルベシ) 櫻ノ一種。花、單瓣、淡紅ニシテ、蒂長ク、花ノ心ヨリ、碎瓣一二三片ヲ出スモノ。定頼集、うず櫻「コレヤコノ、音ニ聞キツル、うぞ櫻、鞍馬ノ山ニ、咲ケルナルベシ」謠曲、鞍馬天狗「鞍馬ノ山ノうぞ櫻、云云、木蔭ニ並居テ、イザイサ、花ヲナガメム」

うす-ざむ・し・キ・ケレ・ク・ク (形、二) [薄寒] 寒氣ナリ。

うす-ざや (名) [薄鞘] 鞘ノ條ノ(三)ヲ見ヨ。

うす・し・キ・ケレ・ク・ク (形、二) [薄] (一)此面ヨリ彼面マデノ距離、少シ。厚カラズ。(物ニ云フ) 拾遺集、九、雜、下、長歌「沈ムミクヅノ、ハテハテハ、カキ流サレシ、カミナヅキ、薄キ氷ニ、トヂラレテ」(二)(少シ。淺シ。萬葉集、二十、四十五「サホ川ニ、氷リワタレル、ウスラヒノ、宇須伎心ヲ、ワガ思ハナクニ」「情薄し」(三)(濃クアラズ。淡シ。淡 古今集、五、秋、下「サホ山ノ、柞ノ色ハ、うすけれド、秋ハ深クモ、ナリニケルカナ」(四)氣味、少シ、アマシ。(羹、酒ナドニ) 稀薄 (五)コマヤカナラズ。ホノカナリ。(雲、霧ナドニ) 淡 (六)烈シカラズ。カロシ。(痛、傷ナドニ) 微

うす-す・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (自動、四) いすすくニ同ジ。其條ヲ見ヨ。

うず-すま・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) [群集] (蹲リ統ル義ナルカ) 群リ集マル。ウゴナハル。古事記、下(雄略)三十長歌「庭雀、(厍)宇受須麻理居テ」

うす-ずみ (名) [薄墨] (一)(墨ノ色ノ、淡キモノ。淡墨 源、二十一、少女十四「紛ラハシ書イタルうすずみ、うすずみ、草ガチニ打チマゼ亂レ」(二)次條ノ語ノ略。宿紙ノ條ヲ見ヨ。後拾遺集、一、春、上「薄墨ニ、書ク玉章ト、見ユルカナ、霞メル空ニ、歸ルカリガネ」「薄墨ノ綸旨」(三)そばがきノ、女房詞。大上臈御名之事「そばのかゆ、うすずみ」

うすずみ-がみ (名) [薄墨紙] 宿紙ニ同ジ。スキガヘシ。後ニハ、薄薄ト墨ヲ加ヘテ、新ニ漉キタリト云フ。

うすずみ-の-りんじ (名) [薄墨綸旨] うすずみがみニ書キテ下サルル綸旨。初メ、案紙ナルヲ、直ニ下サレシニ起レリト云フ。

うす-ず・む・ム・メ・マ・ミ・メ (自動、四) [薄] (くろずむ、たたずむ) 薄クナル。夫木抄、十三「朝霧ノ、ソコトシルシハ、ナケレドモ、うすずみワタル、三輪ノ杉叢」

うす-たけ (名) [臼茸] 茸ノ一種。高サ一二寸、蓋ノ上面クボミテ、臼ノ如シ、毒アリ。頓家往來、上「臼茸」林逸節用集「臼茸」

うす-だたみ (名) [薄疊] (厚疊ニ對ス) 又、薄帖。略シテ、たたみ。今ノ、うすべり。(たたみノ條ヲ見ヨ) 今昔語「或殿上人ヘ、云云、中門ノ板(板敷)ニサブラヒテ、疊薄ナル女房ニ、云云、此疊月ハ、イカガシ候フベキ、ト云ヒタリケレバ、女房、返事ハナクテ、取リアヘズ、内ヨリたたみヲ押出シタリ」(うすだたみナリ、疊月ニ志くもりゾナキト云フ古歌ノ意) 齋宮寮式「疊端帖、云云、但、薄帖二」

うす-だみ (名) [薄彩] (だむ(彩)ノ條ヲ見ヨ) 淡ク彩ミタルコト。薄彩色。淡彩

うす-だん (名) [薄緂] 「前條ノ語ノ轉、緂ノ條ヲ見ヨ」地ノ白キニ、薄紫ニ色ドリタルモノ。榮花物語、十九、御裳着「色紙形ニ、うすだんニテ、同ジ人、草ニ書キタマヘリ」

うす-ちや (名) [薄茶] (一)こいちやノ條ヲ見ヨ。(二)茶色ノ、薄キモノ。

うすちや-ぢやわん (名) [薄茶茶碗] 濃茶茶碗ノ條ヲ見ヨ。

うす-ちり (名) [薄塵] ちりぢ(塵地)ノ條ヲ見ヨ。

うす-つ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (自動、四) [臼搗] (一)物ヲ臼ニ入レ、杵ニテ搗ク。舂 (二)日、山ノ端ナドニ入ラムトス。下春 三體詩、上「隔レ浸遙見ニ夕陽 舂ニ」

うすつ-ぺら (名) [薄片] (一)物ノ薄キヲ、不足ニ思ヒテ云フ俗語。(二)奥深カラヌコト。淺薄 「うすつぺらナ學問」

うす-で (名) [薄手] 薄キ手疵。アサデ。(深手ニ對ス) 微傷 平家物語、九、敦盛最後事「我子ノ小次郎ガ、薄手負ヒタルヲダニモ、直實ハ心苦シク思フニ」

うす-で (名) [薄手] (てハ、樣ノ義、葦樣、錦樣) 薄キ風ノ製造。「薄手ノ茶碗」

うす-でふ (名) [薄帖] うすだたみ(薄疊)ヲ見ヨ。

うす-どり (名) [臼取] もねどりニ同ジ。夕霧阿波鳴渡(寶永、近松作)上「舘賃、云云、中居ノ萬ガ臼取ノ」

うす-どろ (名) 芝居ノ囃子ノ太鼓ヲ打ツニ云フ語。どろどろノ條ヲ見ヨ。

うす-にくいろ (名) [薄肉色] 肉色ノ、濃カラヌモノ。俳優ノ顏ノ假粧ナドニ云フ。

うす-にくぼり (名) [薄肉刻] 浮刻ノ、高カラヌモノ。

うす-にび (名) [薄鈍] 鈍色ノ、淡キモノ。宇津保物語、國譲、中五十三「うすにびノ張リアハセノ御衣、奉リテ」

うす-ねずみ (名) [薄鼠] ねずみいろノ、淡キモノ。シロネズミ。水墨色

うす-のき (名) [臼木] 灌木。高サ、三四尺、葉ハ卵圓ニテ、互生ス、長サ寸許、春夏ノ際、葉ノ間ニ小花ヲ開ク、どうだんつつじノ花ニ似テ、薄紅ナリ、實ノ形、小豆ノ程ニテ、赤ク、上、凹ミテ臼ノ如シ、味、酸ク、葉モ酸シ、紅葉ス。ウスノミ。

うす-のみ (名) 前條ノ語ニ同ジ。

うす-のろ・し・キ・ケレ・ク・ク (形、二) [薄鈍] 鋭敏カラズ。遲鈍

うす-ば (名) [臼齒] (一)(老人ノ齒ナドノ、空ニナリテ、臼ノ如クナリタルモノ。齟 倭名抄、三三「齟、宇須波、老人齒如レ臼也」(二)奥齒。臼齒。牙

うす-ば (名) [薄刃] (薄刃庖丁ノ略) 庖丁ノ、刃ノ薄キモノ。菜刀

うすばかげろふ（名）[薄羽蜻蛉] 昆蟲ノ一種、體ハ蜻蛉ニ似テ、翅ハ薄ク大形ニシテ、白粉アリ、幼蟲ハ、すりばちむしト云フ。

うすは・く（動）[領] うしはくノ條ヲ見ヨ。

うすはた（名）[薄機] 羅ニ同ジ。推古紀、十六年八月「羅　六端」五、佐保姫ノ、織リカケサラス、うすはたノ、カスミタチキル、春ノ野邊カナ」

うすばた（名）[薄端] 佛具ノ銅花瓶ナドノ、薄手ニ造リタルモノ。後撰夷曲集、七、文二「目ニハ見テ、食ハレヌモノハ、うすばたニ、ツキタテテアル、餅ツツジカナ」

うすはな（名）[薄花] 次次條ノ語ニ同ジ。「薄花染、薄花衣」

うすはないろ（名）[薄花色] 次條ノ語ニ同ジ。藻塩草、十七、色「薄花色」

うすはなだ（名）[薄縹] 縹色ノ、薄キモノ。（濃縹ニ對ス）ウスハナイロ。ウスハナ。

うすばん（名）[薄盤] 膳ノ名、さんばう（三方）ノ條ヲ見ヨ。

うすひきうた（名）[臼挽歌] 挽臼ニテ穀ヲ碾クニウタフ歌。伊豆國臼挽歌「挽ケド米カマズ、カマズトモ、廻ハレヨ、竹ノカル臼」上總「矢那ノ、五郎兵衞カ、立テタ臼、遣木押サズニ、マハル臼」

うすひきげい（名）[臼碾藝] いしうすげいニ同ジ。

うすびたひ（名）[薄額] あつびたひノ條ヲ見ヨ。

うすびん（名）[薄鬢] 丁髷ノ結ヒヤウノ名。鬢ノ毛ヲ剃リサゲタルモノ。厚鬢ト云フハ、フサフサト結ヒタルモノニテ、古ヘ神主ノ裝ヒシタル髪ノ形ナリ。（厚鬢ニ對ス）[illegible]（元祿）二「昔ノ傳、今ノ鬢奴ト成テ、うす鬢ノ一筋ニ、心ナキ身ト思ヘト」

うすべう（名）[護田鳥斑]〔下ノうハ、斑ノ音便ナルベシ、護田鳥、其條ヲ見ヨ〕矢ニ用ヰル鷲ノ羽ノ斑ニツキテ云フ語。長門本、平家物語、十六、義仲最後事「萌黄ノ腹卷ニ、重籐ノ弓、うすべうノ、二十四サシタル矢負ヒテ」盛衰記、三十八、平家公達最後事「滋籐弓ニ、十八指シタル護田鳥尾ノ矢」

うすべどり（名）[臼邊鳥] にはとりニ同ジ。下學集、上、氣形門「[illegible]、日本云ニ木綿付鳥、或云ニ白邊鳥ニ」

うすべり（名）[薄縁]〔うすべり疊ノ略〕ウスダタミ。一枚ノ蓙ニ、縁ヲツケタルモノ。ヘリトリ。涼簟　運歩色葉集、字「薄縁、薄疊」

うすみどり（名）[薄綠] モエギ。モヨギ。夫木抄、七、首夏「今朝見レバ、霞ノ衣、ヌギカヘテ、山モ一重ニ、うすみどりナリ」

うすみの（名）[薄美濃] 美濃紙ノ、甚ダ薄クシテ、透明ルモノ。

うすん・ず・ズル・ズレ・ゼ・ジ・ゼヨ（他動、左變）[薄]「薄みすノ音便、かろみす、かろんず。（輕）おもみす、おもんず（重）」薄シトス。篤カラズトス。貶ス。「某ノ志ヲ薄んず」

うすむらさき（名）[薄紫] 紫ノ、薄キ色。（濃紫ニ對ス）藤色。（襲ノ色目ニハ、面、薄紫、裏、青トアリ）源、三十、藤袴「タツヌルニ、ハルケキ野邊ノ、露ナラバ、うす紫ヤ、カゴトナラマシ」

うずめ（名）[護田鳥] 次條ノ語ノ略。

うずめどり（名）[護田鳥] おずめどりノ條ヲ見ヨ。

うすもの（名）[薄物] 薄キ織物、紗、羅ノ類ノ總稱。ウスハタ。羅　孝德紀、大化三年十二月「羅」源、十、榊、廿五「うすものノ直衣ヒトヘ」包袱ニモ用ヰラル。榮花物語、二十三、駒競「香染ノ薄物ノツツミドモナリ」舊、今昔物語、三十、第一語「香染ノ薄物ニ、筥ヲツツミテ」

うすやう（名）[薄樣]（一）〔又、薄葉〕紙ノ名、とりのこがみノ、薄ク漉キタルモノ。（厚樣ニ對ス）宇津保物語、初秋「走リ書イタル手ノ、うすやうニ書キタル」倭名抄、五、卅四「薄用紙」字類抄「薄樣」著聞集、五、和歌「ヤガテ、紅ノうすえふニ、書シヲ書キテ給ハセケル」（二）又、雁皮紙ノ、薄クシテ、すきうつしニ用ヰルモノ。輕便ニシテ、蟲バマズ。

うすゆき（名）[薄雪] 少シ降リ積レル雪。微雪　風雅集、八、冬「笹ノ葉ノ、上バカリニハ、降リオケド、道モカクレヌ、野邊ノ薄雪」

うすゆきこんぶ（名）[薄雪昆布] 昆布ヲ、甚ダ薄ク削リタルモノ。色白シ、大阪ノ產ニテ、名アリ。

うすらかみ（副）[薄] 薄キ狀ニテ。ウスラニ。ウスゲニ。源、九、葵、二十「鈍色ノ直衣、指貫、うすらかみ衣ガヘシテ」

うすら・ぐ・グ・ゲ・ガ・ギ・ゲ（自動、四）[薄]〔うすらヲ活用ス、やはらぐ、たひらぐ、同趣〕（一）漸ク薄クナル。薄ル。曾丹集「鴨ノヰル、入江ノ氷、うすらぎテ、底ノミクヅモ、アラハレニケリ」（二）減ル。景行紀、二十七年十二月「更深、人闌」（三）衰フ。淺クナル。輕クナル。「痛ミうすらぐ」暑サうすらぐ」色うすらぐ」情うすらぐ」

うすらみ（副）[薄] 前前條ノ語ニ同ジ。清愼公集「初雪ノ、うすらニ降レル、庭ノ面ハ、踏ミミムコトモ、[illegible]」

うすらひ（名）[薄氷] ウスキコホリ。ウスゴホリ。萬葉集、二十、四十「佐保川ニ、凍リワタレル、うすらひノ、[illegible]」[illegible]「フ春ノ、風ヲコソ待テ」

うする・ルル・ルレ・レ・レヨ（自動、下二）[薄]〔厚るニ對ス〕うすらぐニ同ジ。曾丹集「ケヲ寒ミ、サエユク冬ノ、夜モスガラ、目ダニモ、合ハズ、衣うすれテ」和泉式部集、二「今日ヨリハ、森ノ水ヤ、ヌルカラム、春ノタチドノ、氷うすれテ」

うすわた（名）[薄綿]〔薄綿入ノ略〕着物ニ、薄ク綿ヲ入レタルモノ。宇治拾遺、[illegible]、一、十八條「うすわたノ衣」

うすわら・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ（自動、四）[微笑] スコシ笑フ。ホホヱム。宇治拾遺、十、四條「門部府生、うすわらひテ」

うすゐ（名）[雨水]（一）アマミヅ。王建、孔雀詩「[illegible]」（二）二十四氣ノ一、其條ヲ見ヨ。

うずゐ（名）[踞踞]〔うずハ、うずすまる（群集）ノうずト通ズルカ〕ウズクマリテ居ルコト。醫心方、三、三「踞、ウズヰ」名義抄「夷、踞、ウズヰ、ウズクマル」論語、鄕黨編、原壤夷俟」[illegible]

うせい（代）[迂生] 己レヲ卑下シテ云フ自稱代名詞。野生。小生。

⁂うせ・う（動）うせる（失）ノ條ノ（二）ヲ見ヨ。

うせうえう（名）[鵜逍遙] 鵜飼ノ遊。[illegible]往來、六月「[illegible]欲レ企ニ參入一候之處」

うせうしやう (名) 【右少將】 右近衛府ノ少將。

うせうべん (名) 【右少辨】 スナイオホトモヒ。官名、辨ノ條ヲ見ヨ。

うせき (名) 【烏石】 うるしいしノ條ノ(一)ヲ見ヨ。

うせん (名) 【烏扇】 草ノ名、カラスアフギ。

うせもの (名) 【失物】 失セタル物。失ヒタル品。(盜マレタルナドニイフ) 遺失品。

〜うせ・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 【鼿】 〔此動詞、活用、詳カナラズ、姑ク、四段トス〕 鼻ニテ發ク。(豕ナドガ) 倭名抄、十八 三十三「鼿、宇世流、以レ鼻動レ物也」集韻「鼿、五忽切、音兀、獸以レ鼻搖レ物也」 字鏡 七 六十「䝌、豕以レ鼻發レ土也、保利於己須」集韻「䝌、渠勿切、音掘、豕食發レ土也」 新猿樂記「稻荷山阿小町之愛法、鼿二鰹破前一喜」(うせりてノ脫ナラム) 童蒙頌韻(天仁)「鼿、ウセリ」 元龜字彙、倭玉篇、共ニ「鼿、ウセル」

〜う・せる・セル・セレ・セ・セ・セヨ (自動、下二) 【失】 (一)失スノ口語。(二)居ラズナル。去ル。行ク。(罵リ云フ意トナル) 狂言記、河原新市「ドコヘうせる、ヤルコトデハナイゾ」此語、來る、居るノ意ニモ用キラル。又、未然形ノ失せむノ音便、うせうガ、失せよ、去れノ、命令ノ意トナル。「ソコ立ッテうせう」同ジ用法ニ、「退リ居らう」ナドモアリ。

うそ (名) 【嘯】 〔うそぶくノ條ヲ見ヨ〕 嘯吹ノ略。皮笛。口笛。 言塵集(應永、今川了俊)三 二十六「くち笛ハ、うその事也」 同、四 三十五「かは笛トハ、一說ニ、うその事ト、云云」

〜うそ (名) 【噓】 〔うそぶくノ、うそナルベシ、其語原ヲ見ヨ〕 をそ。イツハリ言。ソラゴト。虛言。コレヲ言フヲ、つく、又、ふくト云フ。(へどヲつく、へヲふく) 狂言記、富士松「うそヲつかヌ者ガ言ウタ」

うそ (名) 【獺】 かはうそ(川獺)ヲ見ヨ。 齊東俗談「うそハ、獺ナリ」

うそ (名) 【鷽】 うそどりノ條ヲ見ヨ。

うそかへ (名) 【鷽替】 〔昨年ノ凶ヲ噓ニシテ、當年ノ吉ニ易ふるニ寄スル意ナリト云フ〕 筑前、太宰府ノ天滿宮ニテ行フ神事。毎年陰曆正月七日ノ夜、群集ノ參詣人、木ニテ鷽鳥ノ形ヲ作レルヲ、互ニ袖ニ隱シ携ヘテ、うそかへむト詈リテ、雙方取リカヘテ行クトナリ、文政二年、大阪ノ天滿ニテ行フ、其頃ノ小唄ニ「心づくしノ神サンガ、うそヲ實ニかへサンス、ホンニうそかへ、オオウレシ」其翌年正月廿五日、江戸ノ龜井戸ナル天滿宮ニテモ行ヒ始メタリ。(海錄、一二) 神前ニ木鷽ヲ並ベテアリ、社前ニ木鷽ヲ賣ル者アリ、參詣人買ヒテ、神前ノモノト取替ヘテ歸ル。

うぞく (名) 【烏賊】 〔賊ハ、鰂ノ形聲字、烏ハ、黑キ義、腹中ニ墨アル故ナリ〕 海產ノ動物、いか。

うそじ (名) 【噓字】 正シカラヌ文字。園ヲ囲トスル類。

うそつき (名) 【噓吐】 〔つくハ、吐くナリ、へどヲつく〕 虛言ヲ言フ人。(噓ノ條ヲ見ヨ) 【妄語人】

うそどり (名) 【嘯鳥・鷽鳥・鸒鳥】 〔鳴ク聲、嘯ヲ吹クガ如クナレバ名アリト云フ、鷽ノ字ハ、礜鳥ノ合字ナルベシ、日本釋名ニ「鳴時隨レ聲兩脚互擧」トアリ、漢字ノ鷽ハ、鵲太鵲ナリ、鸒ハ、小鳩ナリ〕 小鳥ノ名。雀ヨリ大キク、頭深黑ニシテ、兩頰ヨリ頸ニ至リテ深紅ナリ、觜、短ク、肥エテ黑ク、背、脇、腹、翮ハ灰青ニシテ、赤ミアリ、尾、黑シ、秋來リ、冬去ル、畜ヒテ聲ヲ賞ス。略シテ、うそ。又、うそひめ。雄ヲ照うそ、雌ヲ雨うそト云フ。【拙老婆】 看聞日記、永享七年六月廿五日「鷽二小鳥二(註、うそ三)入レ籠、云云」 下學集、上、氣形門「鷽、音學、日本嘯鳥」 林逸節用集(明應)「鷽、ウソ」 運步色葉集(天文)「鷽、ウソ」 日本釋名(元祿)六「鷽、音預、云云、其聲圓滑而短、鳴時隨レ聲兩脚互擧、或以二形麗聲艷一曰二宇曾姬一、雄曰二照鷽一、常呼レ晴、雌常鳴呼レ雨、故曰二雨鷽一」 山家集、下「桃園ノ、花ニマガヘル、てりうそノ、群レ立ツヲリハ、散ル心チスル」

うそのかは (名) 【噓皮】 へちまのかはノ條ヲ見ヨ。

うそはっぴゃく (名) 【噓八百】 〔八百ハ、多キヲ云フ、萬八、千三、類語ナリ〕 噓ヲ、多ク云フコト。 雅筵醉狂集(元祿)雜「八百屋前噓八百」

うそひめ (名) 【鷽姬】 うそどりノ條ヲ見ヨ。

〜うそ・ぶ・ブ・ベ・バ・ビ・ベ (自動、四) 【嘯】 〔うそぶくノ略カ〕 うそぶく、うそむくニ同ジ。ウソム。 天治字鏡、十二 二十六「啾啾、小兒聲、宇曾布」

うそぶき (名) 【嘯】 (一)〔ウソブクコト。(二)〔口笛ヲ吹クコト。 源中最祕抄、天慶五年正月七日「引二靑馬一酒盃十一巡、王卿有二酒氣一、吹二皮笛一、今日李部王記、吹嘯之由有レ之」(松屋筆記、八十三、次條、併セ見ルベシ) (三)一種ノ假面ノ名。嘯クガ如ク、口ノ突出シタルモノ。シホフキ。ヒヨットコ。

〜うそ・ぶ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (自動、四) 【嘯吹】 〔うそハ、浮空ノ略ニモアルカ、(引剝、ひはぎ。そらさらぬ、そさらぬ) 虛空ノ事ナルベシ、うそむくト云フハ、音轉ナリ (かたぶく、かたむく)〕 (一)〔虛空ニ向ヒテ、息ヲ吹キ出ス。うそむく。ウソブ。ウソム。 神代紀、下 三十六「居レ潮而嘯之、時、迅風忽起」 萬葉集、九 二十二長歌「木ノ根取リ、嘯鳴登リ」(筑波山ニ) 字鏡 六十「嘯、宇曾牟久」 空うそぶくト云フハ、人言ヲ斥ケテ、聞入レヌ意。(二)吼ユ。「虎、風ニ嘯く」(安房ニテハ、犬ノ遠吠スルヲ、うそヲかくト云フ」 (三)〔小聲ニテ吟ズ。口吟。 源、四十六、總角 十六「時ニツケタル題出シテ、うそぶき誦シアヘリ」 堤中納言物語、はなだの女御「物寐入リヌルケハヒヲ聞キテ「秋ノ野ノ、千種ノ花ニ、ヨソヘツツ、ナド色ゴトニ、見ル由モガナ」ト打チうそぶきタレバ」 愚祕抄、下「西行ハ毎度歌ヲ詠マムトテハ、緣行道シテ、うそぶきヨミケル」 (四)〔うそをふくハ、口笛ヲ吹ク。 竹取物語「人人、云云、歌ヲウタヒ、或ハ唱歌シ、或ハうそをふき、扇ヲ鳴ラシ」(前條ヲ見ヨ)

〜うそ・む・く・ム・メ・マ・ミ・メ (自動、四) 【嘯】 〔うそぶくノ略カ〕 次條、前條ニ同ジ。ウソブ。 天治字鏡、二 廿七「嘯、宇曾牟」 皇極紀、四年正月「遙見有レ物而聽二猿吟一云云、就而視レ之、物便不レ見、尙聞二鳴嘯之響一」 名義抄「嘯、ウソム、ウソブク」

うそむく (動) 【嘯】 前前條ニ同ジ。其條ヲ見ヨ。

うぞむぞ (名) うざうむざう(有相無相)ノ約。

うそ・や・ぐ・グ・ゲ・ガ・ギ・ゲ (自動、四) 【仰鼻】 〔うそハ、うそぶくノ虛空、やぐハ、花やぐ、若やぐ、爽やぐノやぐニテ、めくノ意〕 鼻ガ仰鼻ニナル。(侮リテ空嘯ク

蔵ノ[illegible]、竹内、[illegible]山河ノ[illegible]、小法師バラマデモ、アハレ天狗ノ部[illegible] 笑ト聞エケレバ、六数入道、顔うそやきテゾ思ハレケル」 沙石集、四、上、第一條「或念佛者ノ云、觀音、地藏ナド云ヘバ、[illegible]うそニ[illegible]、云云、[illegible]シク候ラバ、[illegible]ノ[illegible]ニハ、[illegible]リハヅシナムカシ」

うそを-ふ・く（ウソ・オ・フ・ク）（動） うそぶくノ條ノ（四）ヲ見ヨ。

うた（名）［歌、謠］（一）聲ヲ長クシ、節ヲツケテ歌フ詞ノ總稱。多クハ、音樂ノ調ニ合セテ歌フ、[illegible]、[illegible]、今樣ナドヲ初トシテ、俗謠、俚歌、種類多シ。太神宮式[illegible]三人」（二）詠ミ綴ル一種ノ文詞、思フ事ヲ、言語ニアヤナシテ述ブルモノ。詩（カラウタ）ニ對シテ、やまとうた、又、和歌ト云フ、大抵、一句ヲ五音ト七音トニ定メテ、五、七、五、七、七、合セテ、五句、三十一音ナルヲ常格トス。其初ノ三句ヲ、上の句ト云ヒ、末ノ二句ヲ、下の句ト云ヒ、又、本末（モトスヱ）トモ云フ。然レドモ、六音、八九音ノモノモアリ、又、長歌（ナガウタ）、旋頭歌（セドウカ）、折句（ヲリク）、沓冠（クツカブリ）ナド、句法、種種ナルモアリ、各條ニ注ス。

うた-あはせ（ウタ・アワセ）（名）［歌合］ 歌人ヲ左右ニ分チ、方人（カタウド）ヲ立テテ、其詠メル和歌ヲ合セテ、判者ヲ置キテ、其優劣ヲ判ズルコト。講師、讀師、饗宴、[illegible]、引出物アリ。古今集、一、春、上「寛平御時、キサイノ宮ノ歌合ノ歌」[illegible]花[illegible]ニ、歌合ノ[illegible]アリ。

うだい（名）［宇内］「宇宙（ウチウ）ノ條ヲ見ヨ」アメノシタ、天下（テンカ）。史記、[illegible]「[illegible]天下」[illegible]擧宇内」

うだいじん（名）［右大臣］ 官名、史（シ）ノ條ヲ見ヨ。

うだいじん（名）［右大臣］ 右大臣（ミギノオホイマウチギミ）ノ條ヲ見ヨ。

うだいしやう（ウ・ダイショウ）（名）［右大將］ 右近衛大將ノ略、このゑふ（近衛府）、並ニ、大將（タイシヤウ）（將）ノ條ヲ見ヨ。

うだいべん（名）［右大辨］ オホイオホトモヒ。官名、辨（ベン）ノ條ヲ見ヨ。

うだいまつ（名）［鵜松明］ 鵜飼ノ、闇中ニ用キル松明（タイマツ）ノ稱、樺ノ皮ヲ用キル、（信濃）

うだいも（名） つくねいもニ同ジ。

うた-うたひ（ウタ・ウタイ）（名）［歌謠］［謳謡（マトメ）、同例ナリ］（一）歌ヲウタフニ巧ミナル人。天徳歌合日記「橘ノよりただナドハ、うたうたひニゾサブラフ」（二）ウタメ。アソビメ。歌妓。名義抄「倡、ウタウタヒ、ウタメ」（字類抄、同ジ）

うた-うら（名）［歌占］（一）偶然ニ歌ヒ出ス歌ノ意ニ因リテ、吉凶ヲ占フ事ナルカ。古事記、三、[illegible]行ニ、惡心[illegible]、巫女ニ心中ノ所願ヲ占ナヘトアリケレバ、歌占ニ[illegible]ヲ唱ヘテ「千萬億ノ國國ハ、海山隔テテ還ケレド、心ノ道ダニ直ケレバ、ツトメテ[illegible]トコソ聞ケ、ト占ヒタリケレバ」正卜考、三「平治物語、鎌倉本ニ「巫、心細キヤウナル歌占、少少仕テ申ケルコトコソ淺マシケレ」（二）婦女子、無心ニ、百人一首ノ草紙ヲ開キ、其見出シタル歌ヲ以テ、吉凶ヲ占フヲモ、歌占ト云フ。（梅園日記、一）

うた-がき（名）［歌垣］［歌耀歌（ウタカガヒ）ノ急呼ト云フ、うまかひ、（馬飼）うまき。（牧）かがひノ條ヲ見ヨ］（一）男女一場ノ地ニ集リテ、互ニ歌舞シ、唱和スルコト。又、カガヒ。後ノかけ踊、盆踊ノ如キモノ。武烈紀位前紀「太子、云云、立二歌場一衆ノ（ヒトナカニ）（大和ノ海

[illegible]

うたかぐさ（名） 草ノ名、あはぼニ同ジ。（とりのあしぐさノ條、見合スベシ） 本草和名、上「升麻、宇多加久佐、一名、止利之阿之久佐」

うた-がしら（名）［歌頭］ 踏歌ノ時、第一ニ發聲スル者ナルベシ。音頭取ノ類カ。續紀、十八、天平勝寶三年正月「踏歌、歌頭、女孺忍海伊太須、錦部河内」

うだか・す（ス・セ・サ・シ・セ）（他動、四）［抱］ 抱く（ウダク）ノ敬語 抱キタマフ。垂仁紀、五年十月「皇后ノ懐（ウケカンテ）ニ抱皇子こ」

うた-かた（名）［泡沫］［空形（ウツカタ）ノ轉ナルベシ、（礫（ツブテ）、たぶて）中、空ニシテ圓シ］ 雨水ノ溜マル上ニ生ズル泡。ミナハ。ミナツボ。ミツボ。ミツバウズ。倭名抄、一「泡沫、雨、雨滴上、浮起、若二覆盆一也、宇太加太」 うたかたハ、乍チ生ジ、乍チ消ユルニ因リテ、多クハ、ハカナク不定ナルコトニ譬ヘテ云フ。續後拾遺集、十八、哀傷「水ノ面ニ、浮キテ漂フ、うたかたノ、マダ消エヌ間ニ、變ハル世ノ中」赤染衛門集「雨降レバ、水ニ浮ベル、うたかたノ、久シカラヌハ、吾ガ身ナリケリ」

うた-かた（副）［[illegible]時］［泡沫ノ、ハカナク消ユル間モ、ノ意］（一）暫シモ。スコシノマモ。萬葉集、十七廿五「鶯ノ、來鳴ク山吹、宇多賀多モ、君ガ手觸レズ、花散ラメヤモ」同、三十一「[illegible]「ナガメスル、軒ノ雫ニ、袖ヌレテ、うたかた人ヲ、偲バザラメヤ」（二）危ク。アヤフゲニ。萬葉集、十七、「大船ノ、上ニシ居レバ、天雲ノ、手探（タドキ）

[illegible]

うた-がたり（名）［歌語］ うたものがたりニ同ジ、其條ヲ見ヨ。

うたが-は・し（ウタガワ・シ）（シキ・シケレ・シク・シク）（形、二）［疑］ 疑フベクアリ。イブカシ。不審ナリ。ガテンユカズ。可疑。[illegible]集海魚ハ食ニ間其鉤ハ云云、赤鯛疑是之乎」[illegible]

うたがは-りう（ウタガワ・リュウ）（名）［歌川流］ 浮世繪ノ一派、歌川豐春ヲ祖トス。（文化十一年[illegible]）

うたがひ（ウタガイ）（名）［疑］ ウタガフコト。アヤシミ。ウタグリ。不審（フシン）。疑念。萬葉集、十二「[illegible]」「大船ノ、[illegible]メテ、[illegible]テシ、[illegible]心ハ、[illegible]シ」 竹取物語「何ノうたがひカアラム」

うたが・ふ（ウタ・ゴ・ウ）（フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ）（他動、四）［疑］ 一語根ノうたニテ、疑ノ意ヲ成スカ、うつなし（決）ヲ、うたなし（無疑）トモ云フ、がふハ、行ふ意、爭（アラソ）がふ、下（シタ）がふ（從）ノ「實（マコト）ナラズ思フ。心ニ明カニ思ヒ得ズ。アヤシム。イブカル。うたぐる。天治字鏡、三十九「疑、宇太加布」 伊勢物語、二十三段「男、コト心アリテ、カカルニヤアラント、思ヒうたがひテ」

うたがふらく-え（ウタゴウ・ラク・ワ）（句）［疑］［疑ふノ完了、うたがへりノ活用ノ、うたがへらノ延轉、いはく（曰）ノ條ヲ見ヨ］ 疑ヘルコト、疑ヘルヤウ、ニ、ヒノ[illegible]ヘテ云フ語。（下ニ推量ノ語ヲオク）「疑ふらくハ[illegible]ラム」

うた-ガルタ（名）［歌、骨牌］［貝合（カヒアハセ）ト、骨牌トニテ成リタルモノ］ かるたニ、數

首ノ和歌ノ、上ノ句ト下ノ句トヲ分チテ書キタルモノ。多クハ、小倉百人一首ノ歌ヲ書ケバ、上下二百枚ナリ。數人相集リ、下ノ句ノかるたヲ撒キオキテ、上ノ句ヲ讀ムニ隨ヒテ取ル、取レルかるたノ多少ヲ以テ、勝負トシテ戲ル、コレヲ、ちらしト云フ、又、百枚ヲ分ケテ、面面ノ前ニ並ベテ取ルヲ、わけト云フ、コレハ、早クかるたノ無クナルヲ勝トス。別ニ、文字札ト云フアリ。

うたぎれ (名) 【歌切】 古人ノ眞蹟ノ、和歌卷物ナドナリシヲ、數寸ニ切リ取リ、手鑑ニ貼リ込ミナドシタルモノノ稱。何某ノ萬葉切、某ノ角倉切、(角倉氏舊藏)小野道風ノ本阿彌切、(本阿彌光悦舊藏)ナド稱スル、是レナリ。又、經文ナルモアリ、飯室切ト云フハ、嵯峨天皇宸筆ノ法華經ナリ。

うた・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (自動、四) 【咆哮】 〔うハ、聲、(うなる、うめく)たくハ、鳴クト通ズルカ、いただき、いなだき。(頂)へだたり、へなたり(隔)〕 猛リ吼ユ。又、あたく。 古事記、下(雄略)五十三「天皇以二鳴鏑一射二其猪一之時、其猪怒而、宇多岐依來、故天皇畏二其宇多岐一、(名詞)登二坐榛上一」 播磨國風土記、託賀郡、都麻里「狩二於此野一、一猪負レ矢、爲二阿多岐一、故曰二阿多加野一」

うた・ぐ (動) 【踞】 ゐりうたぐノ條ヲ見ヨ。

うだ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (他動、四) 【懷抱】 〔腕ニ纏クノ約ト云フ、轉ジテ、むだく、いだく、いだくトモナル〕 いだくニ同ジ。ムダク。 神功紀、攝政元年三月「懷二劍王一」 靈異記、下、第九縁「抱、于田支」 名義抄「抱、ウダク、イダク」 撰集抄、八、十八條「身ヲタヲヤカニナシテ、腕ヲうだき侍ルベシ」

うたぐち (名) 【歌口】 うたぶくろノ條ノ(二)ヲ見ヨ。 乳母の草子「寛平ノ御門ノコウキウハ、常ニ歌合ニ御スキ候、云云、ソノ御歌ぐち、イカガゾナド中傳ヘ候ナリ」

うたくづ (名) 【歌屑】 和歌ノ集中ノ、拙作ノモノ。 徒然草、十四段「貫之ガ、絲によるものならなくにト云ヘルハ、古今集中ノ歌くづトカヤ言傳ヘタレド、今ノ世ノ人ノ、詠ミヌベキ事ガラトハ見エズ」(古今集、九、羇旅「絲ニヨル、物ナラナクニ、別路ノ、心ボソクモ、オモホユルカナ」) 新古今集、六、冬「冬ノ來テ、山モアラハニ、木ノ葉フリ、殘ル松サヘ、峯ニサビシキ」ナドモ、ソレナリト云フ。

うたぐり (名) 【疑】 ウタグルコト。ウタガヒ。

うたぐ・る・ル・レ・ラ・リ・レ (他動、四) 【疑】 〔せせる、せせくる。ねぢる、ねぢくるノ類ノ語カ〕 うたがふニ同ジ。イブカル。

うたげ (名) 【宴】 〔掌ヲ拍上ノ約ト云フ、うちあぐノ條ノ(二)ヲ見ヨ〕 酒盛。宴會。酒宴。 古事記、中(景行)四十八「將二御室樂一、設二備食物一」 天智紀、七年七月「命二舍人等一、爲レ宴於二所所一」

うたごくわい (名) 【歌御會】 宮中ニテ催サルル詠歌ノ御會。和歌御會。今、新年一月十八日ノ歌御會始ハ、勅題ヲ出ダサレ、御製アリ、皇族、諸官員、詠進シ、遍ク臣民ノ詠進ヲモ許サル、題者、點者、奉行、讀師、講師、發聲、講頌等ノ職ヲ命ゼラレ、臣民詠進中ノ選歌ト共ニ、御前ニテ披講セラル。

うたことば (名) 【歌詞】 文章ニハ多ク用キズ、專ラ和歌ニノミ用キル語ノ稱。(小夜、手折る、ノ類) 沙石集、五、下、廿二條「中古ニ東大寺ニ、何物カシタリケルヤラン、立札ニ、東大寺、最第一ノ、寺ナレヤ、立札ニ付之、南京ニコソ、北ト云タレ、又立、歌詞ニ、北ト云事、聞ナレズ」

うたざはぶし (名) 【歌澤節】 端唄ヲ三味線ニ合セ、聲長ク唄フモノ、長唄ノめりやすヨリ移レリト云フ。安政年間、江戸幕府ノ御家人、笹本彥太郎始ム、笹丸ト號シ、歌澤大和大椽ト稱ス、弟子、疊職、虎右衞門、柴田金吉(柴金ト呼ブ)コレヲ承ク、虎右、家元トナリ、歌澤節ト稱シ、柴金、分離シテ、字ヲ改メテ、哥澤節ト稱ス。

うたせあみ (名) 【打瀨網】 地曳網ノ一種、小舟ニテ綱ヲ引ク。

うたせっきゃう (名) 【歌說經】 〔說經ノ條ヲ見ヨ〕 說經ニ節ヲツケ、由ナキ事ヲモ加ヘテ語ルモノ。 好色一代男(天和、西鶴)二、江尻宿「誰レトハ知ラズ、顏ヲ隱シテ、連節ニ歌說經、アハレニ聞コユ」

うたた (副) 【轉】 〔うたてノ轉、あわて、あわただし〕 (一)うたてニ同ジ。常ナラズ、奇シク。 後拾遺集、四、秋、上「思フ事、ナケレド濡レヌ、我ガ袖ハ、うたたアル野邊ノ、萩ノ露カナ」 名義抄「轉、ウタタ」 (二)イヨイヨ。ヤウヤウ。 仁德紀、四年二月「炊烟轉疎」 名義抄「漸、ウタタ」「與、轉疎シ」

うたたね (名) 【假寐】 〔現寐ノ轉、たぶて、つぶて。(礫)あつみ、あたみ(熱海)〕 寐ルトハナシニ寐ルコト。カリネ。コロビネ。 兼輔集「うたたねノ、ウツツニ物ノ、悲シキハ、昔ノかべ(夢)ヲ、見レバナリケリ」 兼澄集「うたたねノ、ヒルネノ夢ニ、菖蒲草、結ブト見ツル、現ナラナム」 名義抄、穴部「假寐、ウタタネ」

うだち (名) 【梲】 梁ノ上ニ立ツル、短キ柱。ウダツ。 倭名抄、十四「爾雅云、梁上楹、謂二之梲一、(宇太知)」 名義抄、木部「梲、ウタチ」 うだちがあがらぬトハ、壓シツケラレテ、頭ノ上ラヌ事ニ云フ。

うだつ (名) 【梲】 前條ノ語ノ訛語。 下學集、上、家屋門「宇立、ウダツ」

うたづかさ (名) 【雅樂寮】 うたれう(雅樂寮)ニ同ジ。ウタマヒノツカサ。 源、廿四、胡蝶「中島ノワタリ、云云、唐メイタル舟、云云、卸シ始メサセタマフ日ハ、うたづかさノ人召シテ、舟ノ樂セラル」

うたて (副) 【轉】 〔轉りてノ略轉、うつつね、うたたね。(假寐)うつかた、うたかた。(泡沫)あつまりて、あつまて。(集)(天治字鏡、三十「諵、阿豆萬弖加太留己惠」)きりて、きて(伐)(靈異記、下、第一縁「伐レ樹造レ船」訓釋「伐、支天」)〕 (一)物事、異樣ニ轉リ進ミテ、甚シク。(アサマシク感ズル意ヲ含ム) 古事記、上三十「猶其惡態不レ止而轉」 萬葉集、十二五「何時ハナモ、戀ヒズアリトハ、アラネドモ、得田直コノゴロ、戀ノ繁キモ」 (二)常ナラズ、奇シク。ウタタ。 武烈紀、八年三月「倡優、云云、設二奇偉之戲一」 古今集、一、春、上「散ルト見テ、アルベキモノヲ、梅ノ花、うたて匂ノ、袖ニトマレル」(此歌、菅家萬葉集ニモ載セテ、別樣トアリ) (三)カタハライタク。笑止ニ。 古事記、下(安康)廿八「宇多天物云王子、故慎」 源、九、葵四十八「年頃アハレト思ヒキコエツルハ、片端ニモアラザリケリ、人ノ心コソうたてアルモノハアレ」 (四)ツレナク。ナサケナク。イヤナ。 竹取物語「うたてアル主ノ御許ニ仕ヘマツリテ、スズロナル死ヲスベカメル」 源、二、帚木廿五「なさけナクうたてアル事ヲ、云云、言ハセタリケル、云云、サル憂キ事ヤアラムトモ知ラズ」 七十一番歌合、十八番、饅頭賣「今朝ハイマダ、商ヒナキうたてサヨ」

うたて・し・キ・ケレ・ク・ク(形、二)〔前條ノ語ノ活用、上條ヲ見ヨ〕(一)甚ナラブ、甚シ。[illegible]ナリ」(二)カタハライタシ。笑止ナリ。榮花物語、十一、若花「コチタク醉ヒノシリテ、うたてく亂ガハシキ事ドモ、云云」(三)〔ツレナシ〕ナサケナシ。宇津保物語、藏開、上「[illegible]ニ思ヒ歎クト聞キハベルハ、イトうたてくナム」

うたて・し・シキ・シケレ・シク・シク(形、二) 前條ノ語ニ同ジ。(いちぢるき、いちぢるし、同例)[illegible]、九、第八段「[illegible]フルマヒヲサヘシハベルコト、ゲニ先ノ世ノ宿習ノホド、思ヒ知ラレハベリテ、うたてしく覺エハベリシカ」

うたどころ (名)〔歌所〕〔大歌所トハ、異ナリ〕公家衆ニ、和歌ヲ專門トスル家筋。(繪所、某所ナド云フ例アリ)

うたな・し・キ・ケレ・ク・ク(形、二)〔疑無しノ意、うつなしトモ云フ、うたがふノ語原ヲ見ヨ〕疑無シ。ウツナシ。萬葉集、五、和歌「天ノ川、汀うたなく、マサルカナ、イカニシツラム、鵲ノ橋」

うたぬし (名)〔歌主〕和歌ヲ詠ミタル、其人。歌ノ作者。土佐日記、正月七日「此歌主、云云、一人モ返シセズ、云云、此歌ぬし、後マカラ(ン)ズト云ヒテ、立チヌ」

うたねんブツ (名)〔歌念佛〕節ヲツケテ、念佛ヲ歌ノモノ。後ニハ、別ニ唱歌ヲモ作レリ。隆達節集(寛永)「小歌節ニモ、中ス念佛ニ[illegible]山ノ井(寛文)「尼與、響ヤ[illegible]ノ、歌念佛」井筒業平河内通、享保、近松作「二アレ日暮ノ歌念佛、オ慰ニト興立サセ」

うたのかみ (名)〔雅樂頭〕雅樂寮ノ長官。

うたのすけ (名)〔雅樂助〕雅樂寮ノ次官。

うたのつかさ (名)〔雅樂寮〕うたれう(雅樂寮)ニ同ジ。宇津保物語、祭使「うたのつかさノ樂ノ、近ク聞ユルカナ」

うたひ (名)〔謠〕〔觀世流ニ謠ノ字、寶生ニ謳、金剛ニ唄、金春、喜多ニ謠ヲ用キルト傳フ〕ウタフコト。能ニ合セテ歌フ、一種ノうたひものノ名。足利義滿ノ童坊、觀世觀阿彌(清次、應永十二年歿)其子、世阿彌ノ創作ニ出デシモノ多シ。但シ、文ハ僧侶ナドノ手ニ成リテ、父子、節附セシナルベシ、後ニ成リシモアリ、其曲、內外等ノ名目アリテ、各、百番トシ、其他、尙アリ、音節ノ流派モ多シ。謠曲。(能ノ條ヲ併セ見ヨ)宗吾大雙紙、下、色色ノ事「謠ハ文字ノ扱ヒ、口ノウチ以下、口傳肝要候」

うたビクニ (名)〔歌比丘尼〕くわんじんびくに(勸進比丘尼)ノ條ヲ見ヨ。

うたひざ (名)〔謠座〕能舞臺ノ、地謠ノ座スル處。卽チ、舞臺ノ左方、勾欄ノ內ナリ。

うたひぞめ (名)〔謠初〕新年ニ、初メテ謠曲ヲウタフコト。德川幕府ニテハ、正月ノ一ノ儀式トシテ、殿中ニテ能アリキ、初ハ二日ナリシガ、承應三年正月ヨリ三日トセリ。年中恒例記、一「正月四日、云云、今日於三間之御庇、御うたひぞめ在之」

うたびと (名)〔歌人〕(一)〔雅樂寮ニ屬シテ、我ガ國古風ノ歌ヲウタフコトヲ勤ムル人。ウタヲ。天武紀、下、朱鳥元年正月「歌人等、賜袍袴」職員令、雅樂寮「歌師四人、掌教歌人歌女」云云、歌人三十人」萬葉集、十六、長歌「歌人ト、我ヲ召スラメヤ、笛吹ト、我ヲ召スラメヤ、琴引ト、我ヲ召スラメヤ」(二)和歌ヲ詠ミ作ル人。ウタヨミ。歌人。[illegible]、うたひ[illegible]ニアツメ[illegible]、アマタノ歌詠マセハベリケルニ」

うたひぼん (名)〔謠本〕謠曲ノ文ヲ記シタル書物。[illegible]

うたひめ (名)〔歌女〕うため(歌女)ノ(一)ニ同ジ。

うたひもの (名)〔謠物〕節ヲナシテ、聲長ク歌フベキ詞曲ノ總稱。神樂歌、催馬樂、今樣歌、宴曲、謠曲、長唄、小唄ナド、皆是レナリ。歌曲。淨瑠璃節ナドノ詞ヲ平語ノ如ク語ルヲ、かたりものト云フ。

うた・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ(他動、四)〔歌〕〔歌ヲ活用セシム、色ふ、境ふ、同趣〕(一)〔詞ヲ、聲ヲ長クシ、節ヲツケテ唱ヘ言フ。切ナル情ヨリ感發スルナリ。古事記、中(仲哀)六十長歌「宇多比ツツ、醸ミケレカモ、舞ヒツツ、醸ミケレカモ」(二)言ヒ立ツル。「事情ヲ前ニうたヒテオク」

うた・ふ・フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ(他動、下二)〔訴〕うッたふニ同ジ。申シ立ツル。訴訟ス。萬葉集、十六、卅四「京職ニ、出デテ將訴」名義抄「訴、ウタフ」宇治拾遺、六、第九條「誰レニカハうたへ申シ候ハム」沙石集、七、下、第十五條「領家ニうたふるニ」

うたぶくろ (名)〔歌袋〕〔古今集、序ニ「花ニ鳴ク鶯、水ニ棲ム蛙モ、イヅレカ歌ヲヨマザリケルト、アルナドヨリ名ヅケタルカ」(一)蛙ノ咽喉ニアル、特異ナル機關、鳴ク時、脹ル。聲囊。(二)和歌ノ詠草ヲ插シオク具、歌ノ作風ヲ、歌口ト云フヨリ名ヅケシナルベシ、大高檀紙ニテ作ル、高サ一尺二寸、幅六七寸、上方ヲ打違ヘ、水引ヲ付ケ、[illegible]テ柱ニカケ、左右開キ[illegible]口ニ[illegible]巻キテ、[illegible]ニ插[illegible]「イヤツラニ、鳴クヤ蛙ノ、歌[illegible]ロカナルニモ、思ヒ入レバヤ」(夫木抄、五、蛙ノ[illegible]ナリ、[illegible]ト書キ[illegible]モノナリト云フ」松屋筆記、二十三、[illegible]十六、好古叢誌、二、十)

うたへ (名)〔訴〕ウタフルコト。うッたへニ同ジ。訴訟。[illegible]續古事談、一、上[illegible]宮[illegible]束帶宮ノうたへヲ申入レケルニ」

うたへただすつかさ (名)〔訴糺司ノ義〕ぎやうぶしやう(刑部省)ニ同ジ。ウタヘノツカサ。倭名抄、五「刑部省、宇多倍多太須豆加佐」[illegible]

うたへのつかさ (名)〔刑官〕〔訴の司ノ義〕ぎやうぶしやう(刑部省)ニ同ジ。ウタヘタダスツカサ。天武紀、下、朱鳥元年八月「刑官」[illegible]

うたへぶみ (名)〔訴文〕訴訟ノ旨ヲ記シタル文書。訴狀。續古事談、一、「王道后宮、高キ机ノ上ニ、うたへぶみノ箱ト云フモノヲ置カレタリケレバ、アヤシノ民百姓マデ、申文ヲ持テマヰリテ、此箱ニ入ル」

うたまくら (名)〔歌枕〕〔詠歌ノ枕言ノ意ナルカ〕(一)〔[illegible]歌ニ詠ミ入ルベキ料ノ詞。古書、古歌ノ成語ナドノ、取リテ、材料トスベキ語ノ事ナドヲ記シ[illegible]、歌枕[illegible]ク宮內ニツクシテ、其中ノ詞ヲ取出ヅルニ」新撰髓腦「古ヘノ人、多ク本ニ

歌枕ヲ置テ、末ニ思フ心ヲナムアラハシケル」(頓阿)（二）專ラ、詠歌ノ料トスル名所、古詠。大鏡、中、伊尹「六十餘國ノうたまくらニ名アガリタル所所ナドヲ書キツツ、人人マヰラスルニ」無名抄、下「名所ヲ取ルニ故實アリ、國國ノ歌枕ニ、數モ知ラズ多カレド、云云」

うたまひ（ウタマイ）（名）【歌舞】歌ト、舞ト。樂。アソビ。天武紀、下、二年九月「奏二種種儛一」同、十年正月「置レ酒以賜二宴樂一」

うたまひのつかさ（ウタマイノツカサ）（名）【樂官】〔歌舞の司ノ義〕雅樂寮、大歌所、樂所、内教坊ノ總稱。樂府。持統紀、朱鳥元年正月「樂官」倭名抄、五「雅樂寮、宇多末比乃豆加佐」

うため（名）【歌女】（一）雅樂寮ニ屬シテ、古風ノ歌ヲウタフコトヲ勤ムル女人。男ナルヲ、歌男（ウタヲ）ト云フ、即チ、歌人（ウタビト）ナリ。天武紀、下、十四年九月「凡諸歌男歌女笛吹者、即傳二己子孫一、令レ習二歌笛一」職員令、雅樂寮「歌女一百人」後紀、十三、延暦廿四年十二月「雅樂、歌女、五十人」（二）ウタウタヒ。アソビメ。歌妓　名義抄「倡、ウタウタヒ、ウタメ」

うたものがたり（名）【歌物語】又、うたがたり。歌ニツキテノ物語。榮花物語、十四、淺緑「故殿ノ歌物語ヲ書キ、御濁度ヲシマウケテ、待チ奉リ、云云」源、廿六、常夏「ヲカシカラヌ歌がたりヲスルモ、靜（シヅ）カヒ、ツキヅキシクテ」

うたよみ（名）【歌詠】（一）歌ヲ詠ミ作ルコト。神武紀、七「爲御謠之曰、謠、此云二宇多預瀰一」枕草子、二、十四段「うたよみシテオコセタル」（二）ウタビト。和歌ヲ詠ムニ巧ミナル人。歌人。伊勢御、亭子院歌合日記「歌よみ、是則、貫之」紫式部日記「ハヅカシゲノ歌よみトハ、オボエハベラズ」

うだ・る（動）【茹】ゆだるノ轉。

うたれう（ウタリヨウ）（名）【雅樂寮】ウタマヒノツカサ。ウタヅカサ。ウタノツカサ。治部省被管ノ寮。舞樂、音曲ノ事ヲ掌ル。

うたゑ（ウタエ）（名）【歌繪】一首ノ歌ヲ、其中ノ或語ヲバ繪ニテ書キ、或語ヲバ文字ニテ書キ、繪ト文字トヲ綴リテアラハシタル繪。（葦手（アシデ）ノ條ノ（一）ヲ併セ見ヨ）榮花物語、三十六、根合、「衣裳ノ横様、心のゆきてナド云フ歌ヲ、金具ノ小サキヲ造リテ、歌繪ニテ、櫻ノ咲キコボレタル樣ヲ書キタリ、（古今集、七、賀「山高ミ、雲居ニ見ユル、櫻花、心のゆきて、折ラヌ日ゾナキ」）云云、花の鏡となる水はトテ、イトホシゲナルカネヲ、池ニオシタル人アリ（古今集、一、春、上「年ヲヘテ、花の鏡と、なる水は、散りカカルヲヤ、曇ルト云フラム」）」大鏡、上、實頼「御障子ニ、歌繪ドモ書カセタマヒシ、云云」

うたを（ウタオ）（名）【歌男】うためノ條ノ（一）ヲ見ヨ。

うち（名）【中・内】〔空（ウツ）ト通ズルカ、くちわ、くつわ。（轡）ちばな、つばな（茅花）〕（一）〔外（ソト）ノ反〕。中。萬葉集、三十「大宮ノ、内（ウチ）マデキコユ、網引（アビキ）スト、網子トトノフル、海人ノヨビゴヱ」「家ノうち」「箱ノうち」（二）〔外（ホカ）ノ反〕。物事ノ、現（アラハ）ナラヌ方。ウラ。雄略紀、四年十月「山越エテ、海渡ルトモ、面白キ、今來ノ禹知ハ、忘ラユマシニ」（三）〔アヒダ〕。間。閒　土佐日記、十二月廿一日「トカクシツツ、ノノシルうちニ、夜フケヌ」「多クノうち」「靈ノうち」「十日ノうち」（四）ソレヨリ下（シタ）。以内　以下　宇治拾遺、三、第四條「カク云フホドニ、一町バカリガうちニ寄リ來タリ」「三里ノ内」「三十歳内」（五）〔大宮ノ内〕。内裏。禁中。禁内　源、一、桐壺「今ハ、内ニノミサブラヒタマフ」「大内」「内ノ掃部（カニモリ）」（六）〔主上ノ尊稱〕。ウヘ。上　源、三十四、上、若菜、上「内、東宮、一院、后宮、ツギツギノ御ユカリ」平家物語、八、法住寺合戰事「主上ハ御舟ニ召シテ、云云、武士ドモ頻ニ矢參ラセケレバ、云云、コレハ内（ウチ）ニテワタラセタマフゾヤ、過チ仕ルナ、ト申サレケレバ、武士共、皆、馬ヨリオリテ畏ル」（七）妻ノ稱。室妻「内方」（八）家ノ内。家　菅信集、上「ヒトツうちナレド、文ニ書キツヅケテ、言ヒツカハシタルヲ」今鏡、下、第八、花の主（花園左大臣）「外ヨリ參ラネド、内ノ人ニテ、御營モユルコトナク」（九）己（オノ）ガカタザマ。ミカタ。（他人、外國ナドニ對ス）保元物語、三、無雙者事「外ニハ三國ノ軍アリ、内ニハ姦臣聚レリ」「内ニ叛臣アリ、外ニ敵アリ」（十）心ノ内。心中　論語、顔淵篇「内省不レ疚、夫何憂何懼」「思、内ニアレバ、色、外ニアラハル」

うち（名）【打】（一）打（ウ）ツコト。「一打（ヒトウチ）、打ツ」（打語らふ、打聞く、打散る、ナドノ意ハ、打つノ條ヲ見ヨ）（二）打殺スコト。討　狂言記、武惡「御意デ討（ウ）ちニ來タ、覺悟セイ」「敵ヲうちニ出ル」

うち（名）【鞭】むちノ條ヲ見ヨ。

うち（代）【内】我（ワレ）。オノレ。

うち（接頭）【打】「打ち鳴らす、打ち碎く」ナドハ、打つ意アルヲ、カヤウニ多ク他ノ動詞ニ重ネ用キルヨリシテ、遂ニ唯其意ヲ強クスルバカリノ用トモセシナラム、搔き曇る、かい伏す、差し控ふ、立ち越えて、取り亂す、もて惱む、相構へて、ナド、皆同ジ」動詞ノ意味ヲ強クスル接頭語。萬葉集、八、廿六「久方ノ、雨打（ウチフ）零ラバ」大鏡、中、道隆「物オボエヌ名海、打ち爲テ」沙石集、三、上、第二條「うち涙グミテ、感ジ申サレケレバ」「打ち續（ツヅ）ク」「打ち語（カタラ）フ」「打ち解クル」「打ち聞ク」

うぢ（ウジ）（名）【姓氏】〔生路（ウミヂ）ノ略ナラムカ、（生ノ系（スヂ）、子孫（ウミノコ）うみから、うがら。（族）或ハ、出（イデ）ノ轉、出自（シュツジ）ノ意カトモ思ヘド、イカガ」（一）〔家家ノ系統（スヂ）ニ隨ヒテ、一族、子孫、相傳ヘテ稱スル號（ナ）。即チ、人ノ名ノ外ニ立ツル家ノ名ニテ、人民繁殖スルニ因リテノ識別ナルナリ。但シ、我ガ皇室ニハ姓オハシマサズ、神代ヨリ一系ニシテ、紛ルルヤウナケレバナリ、萬國ニ冠タルコト知ルベシ。上古ヨリアル姓ハ、大伴、物部等ニテ、職掌ナリシガ、姓トナレリ。萬葉集、廿三、長歌「祖先ノ職ト、言立テテ、云云、子孫（ウミノコ）ノ、彌繼繼（イヤツギツギ）ニ、云云、大伴ノ宇治ト、名ニ負ヘル、丈夫（マスラヲ）ノ徒（トモ）」別ニ、朝廷ヨリ賜ハレルハ、源、平、藤原、橘等ナリ。（別ニ、かばねアリ、其條ヲ見ヨ）後ニ、子孫益延蔓スルニ及ビ、別ニ、北條、足利、織田、德川等、地名ナドヲ採リ、稱ヲ作リテ分テリ、コレヲ名字（ミヤウジ）、苗字（メウジ）、苗氏ナド云ヒ、亦、相繼ギテ、家ノ名ニ用キル、然レドモ、姓（ウヂ）ハ尙幾ハラザルナリ。今多クハ、源、平等ニ姓ノ字ヲ當テ、苗字ニ氏ノ字ヲ當ツ。（二）人ノ苗字ノ下ニ添ヘテ、稍、敬意ヲアラハスニ用キル語。「加藤氏（ウヂ）」「鈴木氏」音讀シ、苗字名ノ下ニ添ヘテ、「石部金吉氏（シ）」ナドトモ用キル。

うちあか（名）【内赤】もみうらノ條ヲ見ヨ。

うちあか・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）【打明】次條ノ（二）ニ同ジ。

うちあ・く・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ（他動、下二）【打明】（一）明（アカ）クル。「怒うちあけテ」（二）明シテ開カス。ツツマズ語ラフ。ウチアカス。欵語「うちあけテ話ス」

うちあ・ぐ・グル・グレ・ゲ・ゲ・ゲヨ（他動、下二）【打上】（一）上（ア）グル。宇治拾遺、十五、第四條「弓ヲサシカザシテ、暫シアリテうちあげタレバ」（二）〔兩掌ヲ打チ鳴ラス。酒ヲ飲ミ樂シム時ニスル事ニテ、ヤガテ、酒宴（サカモリ）スル意トナル。宴ヲ、うたげト云フモ、うちあげノ約ナリ。顯宗即位前紀、新室ノ宴ニ「酒酣、

云云、[illegible]試合之[illegible]、[illegible]、七日之後、[illegible]テうちあげ[illegible]ノ[illegible]ミ鋪リテ、うちあげノノシル」宇治拾遺、一、第三條「酒マヰラセ遊ブアリサマ、云云、うちあげタル拍子ノ、ヨゲニ聞コエケレバ、サモアレ、タダ走出デテ[illegible]ヒテム」（二）うちあげるヲ見ヨ。

うちあげ（名）［打上］（一）打上グルコト。夫木抄、二十八「ミサゴヰル、渚ノ眞砂ノ、うちあげニ、波ゾ見エテ、落ルモクヅカナ」（二）事ヲ終ヘタルコト。

うちあげ（名）［内揚］あげ（上、揚）ノ條ノ（二）ヲ見ヨ。

うちあげのりもの（名）［打上乘物］乘物ノ屋根ヲ、蝶番ニテ、上ヘ打上グベク作レルモノ。乘人ノ乘降ノ時、擧卸ス。[illegible]教類典、二十、一、大名[illegible]大[illegible]乘物之儀、云云、[illegible]代ニ而無之、打揚乘物相用候分」

うちあげはなび（名）［打上花火］花火ノ條ヲ見ヨ。

⁂**うちあけ・る**（動）［打明］うちあくノ口語。

⁂**うちあげ・る**・ゲル・ゲレ・ゲ・ゲ・ゲヨ（他動、下二）［打上］（一）うちあぐノ口語。（二）興行物ヲ仕舞ノ。太鼓ヲ打チ終ハル意ナリ。閉場。「[illegible]ノうちあげる」

うちあは・す・スル・スレ・セ・セ・セヨ（他動、下二）［打合］（一）合ハス。源、三十四、下、若菜、下「琴ニうちあはせタル拍子モ、云云」（二）互ニ打ツ。（二）預メ語ヒ置ク。［豫議］

うちあはせ（名）［打合］（一）打合スルコト。（二）豫メ語ヒオクコト。首尾スルコト。照會。［豫議］

〔**うちあはせ**（名）［打合］「[illegible]打合にすべき所ノ意」又、ウツモモ、今、[illegible]ちも。フトモモ。［髀］[illegible]、三十、[illegible]、宇治[illegible]世ノ名[illegible]、ウツモモ、モモ、ウチアハセ」

うちあはび（名）［打鮑］〔古ヘハ、打ち伸シテ薄クセリ、薄あはびトモ云ヒキ〕ウスアハビ。今、のしあはびト云フ。其條ヲ見ヨ。平治物語、三、[illegible]流事「打鮑ト云フモノナリ、云云、ソレ食ベヨト仰セラル」著聞集、六、歌舞「白キ米ヲカハラケニ入レタルト、うちあはびトヲ、折敷ニ入レテ」徒然草、二百十六段「[illegible]一獻ニ、うちあはび」[illegible]大嘗祭式「[illegible]四斤、生[illegible]」

うちあひ（名）［打合］（一）打チ合ノコト。タタカヒ。［鬪］（二）銃砲ノタタカヒ。砲戰（三）語學ノ語、かかりトむすびト合フコト。むすびノ條ヲ見ヨ。

うちあ・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ（他動、四）［打合］（一）合フ。カナヒ、ソロフ。合 源、二、帚木「モトノ品、時世ノオボエ、うちあひヤンゴトナキアタリノ」（二）互ニ打ツ。タタカフ。［鬪］[illegible]、鉢木「思フ敵ト寄リアヒ、うちあひテ」（三）互ニ放ツ。（銃砲ナド）砲戰

うちあぶみ（名）［内鐙］「打鐙ノ意カ」兩鐙ヲ打合スルコトナルベシ。盛衰記、三十五、宇治川先陣事「馬ニ石突セサスナ、常ニ内鐙ヲ合ハセヨ」

うちあみ（名）［打網］とあみニ同ジ。撒網

うちあ・り・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、良變）［打有］「打ちニ意ナシ、打ち見えテ、雨打ち降る、ナド、同趣ナリ」（一）ありト云フニ同ジ。紫式部日記「疑ハルベカメレド、イカデカハ我ガ心ノうちあるサマヲモ、深ウ押シハカラム」（二）常アリ。アリフレタリ。今鏡、

上、[illegible]ヲ[illegible]ト申セドモ、[illegible]タマヒケル」宇治拾遺、十五、第四條「是レハうちある矢ニモアラザリケリ、神箭ナリ」

うちいた（名）［打板］「打敷ノ板ノ意ナルベシ」地上ニ坐スル時、座トスル、方形ノ厚板。[illegible]古[illegible]、一、[illegible]小[illegible]ニうち板ヲ敷キテ、火ヲオコス」字類抄「打板、ウチイタ、續古[illegible]打板二」

〔**うちい・づ**・ヅル・ヅレ・デ・デ・デヨ（自動、下二）［打出］出ヅ。古今集、一、春、上「[illegible]ニ、解クル氷ノ、隙ゴトニ、うちいづる波ヤ、春ノ初花」

〔**うちい・づ**・ヅル・ヅレ・デ・デ・デヨ（他動、下二）［打出］「打ちニ意ナシ、他動下二段活用ノいづ（出）ノ語原ヲ見ヨ」（一）出ス。宇津保物語、國讓、上「[illegible]色ノ御衣一[illegible]、云云、うちいでテ見セ奉リタマヘリ」（二）言ヒ出ス。言ヒイヅ。聲ニ出ス 源、十三、明石「我ガ思フ事ハ、心ノママニモ、打出でて聞エヌヲ」枕草子、六、五十八段「其寺ノ佛經ヲ、イト荒荒シウ、高クうち出でテ讀ミタルニ」

うちいで（名）［打出］作リ出シタルモノ。約メテ、うちで。新作。七十一番職人盡歌合、三十一番、薄打「南鐐ニテ、うちいでワロキ」舊、今昔物語、廿五、第五語「手太キ弓ノ、革、所所卷タルヲ以テ、打出ノ太刀帶テ」白打出の笠ハ、銀作リノ笠ナルベシ 盛衰記、三十五、巴關東下向事「額ニ天冠ヲアテテ、白打出の笠ヲ着テ、眉目モ容モ優ナリケリ」義經記、七、判官北國落事「白うちでノ笠ヲ著セ奉ル」

うちいでのきぬ（名）［打出衣］牛車ノ、いだしぎぬニ同ジ。行宗集「千年トゾ、[illegible]ノ宮ノ、イツクシク、うちいでのきぬノ、色ニ知ラルル」

うちいと（名）［打絲］數線縒リアハセタル絲。

〔**うちい・ふ**（名）［打言］言ふト云フニ同ジ。枕草子、一、第四段「イカニワビシキ心チシケム、トうちいふ[illegible]」

うちいり（名）［討入］ウチイルコト。攻メ入ルコト。[illegible]

うちい・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）［討入］攻メ入ル。[illegible]ヒカカル。[illegible]

うちい・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ（他動、下二）［打入］（一）入る（下二段）ト云フニ同ジ。「[illegible]ニうちいれテ」（二）[illegible]ツギコム。イリアゲル。宇津保物語、忠社「心ヨロシカラズ、[illegible]ノ[illegible]ニテ、[illegible]ドハ、皆うちいれテ、セムカタナク籠リ居タルヲ」

うちう（名）［宇宙］アメノシタ。天地間。世界。宇内 淮南子、齊俗訓「往古來今謂之宙、四方上下謂之宇」文選、[illegible]光[illegible]、[illegible]宇、中所、[illegible]宙」同、答賓戲、注「宇宙、天地也」[illegible]代紀、上、「宇宙」

〔**うちうち**（名）［内内］（一）家ノ内。ウチノウチ。竹取物語「屋ノ上ニハ、云云、うちうちノシツラヒニハ、言フベクモアラヌ綾織物ニ繪ヲ畫キテ、間毎ニ貼リタリ」（二）外人ニ示サスコト。内曲。内内 源、四十八、[illegible]「[illegible]ナルうちうちノ事マデハ、イカガハ思シ寄ラム」同、四十九、東屋「同ジ事ト、うちうちニハ思フトモ」

うぢうぢ（副）［逡巡］「怖怖ノ轉、おぢおぢ、うおぢく（動）」勇氣ナク、進ミカネタル狀ニ云フ語。モヂモヂ。グヅグヅ。艶姿女舞衣（安政、竹本三郎兵衛）酒屋「お園モ、うちうち手ヲツカヘ」

うちうみ（名）［内海］（一）ミヅウミ。［湖］字類抄「湖、ウチウミ」（二）海ノ、陸ヘ入リコミタル處。イリエ。イリウミ。内海 灣

うち-うら (名) 〔内裏〕 ウチワ。ウチラ。

うち-えする (他) うちよするノ條ヲ見ヨ。

うちおき (名) 〔打置〕 衣服ノ上ニ打置キテ、鎮トスルモノ。嫁入記(室町時代)「うちおきトテ、カネニテ作リ、花形ナド透カシタルモノナリ、云云、蜜蓋ノ着物ノ上ノオソヒノ爲ナリ」

うち-お・く (動) 〔打置〕 おくト云フニ同ジ。萬葉集、五九長歌「赤駒ニ、下鞍宇知意伎」

うち-かうぶり (名) 〔内冠〕 〔かうぶりハ、位ナリ〕 内位ニ同ジ。宇津保物語、菊宴八十「七日ノ日、うちかうぶり賜ハリ、十一日ニ、大内記ニナサレ」

うち-かぎ (名) 〔打鉤〕 武具、鐵ノ鉤ニ、長キ柄アルモノ。盛衰記、三十三、水島軍事「敵ノ船ヲ、打鉤ニテ掻キ寄セ」

うち-がくし (名) 〔内隠〕 かくしノ條ノ(二)ヲ見ヨ。

うち-かけ (名) 〔打掛〕 (一)〔武官ノ服。うちかけよろひノ略。(二)道行ク時、衣服ノ上ニ被リ着ルモノ、道服ノ類。後ノ、羽織。幸若、高館、鈴木三郎重家、高館ヘ參ル「草鞋脱ギ捨テ、上ニ着タル打かけヌイデ、フハト捨テ」鹿苑院殿嚴島詣記(今川了俊)「此度ハ引キカヘテ、珍ラシキ御姿ドモニテ、縹色ニ目結トカヤ云フ紋ヲ染メテ、袖口ホソク、裾廣キうちかけト云フモノヲ、同ジ姿ニ着タマフ」 (三)武家ノ婦人ノ禮服、打掛小袖ノ略ナルベシ、表着ノ上ニ打掛ケテ着ル小袖ナリ。略シテ、かけトモ云フ。帶ヲセズ、褄ノ開クヲ、手ニテ掻キ取リツボヲルガ故ニ、かいどりトモ云フ、内裏女房ノ略儀ノ時ハ、小袿ヲ、表着ノ上ニ、打チカケテ着ル、ソレヲ學ベルナリト云フ。(四)盲官ノ名。其條ヲ見ヨ。

うち-がけ (名) 〔内掛〕 相撲ノ手ノ名。そとがけノ條ヲ見ヨ。

うちかけ-かたぎぬ (名) 〔打掛肩衣〕 肩衣ノ裾ヲ、袴ノ内ヘ入レズ、背ニ被リテ着ルコト。大名出仕記「打かけ肩衣ハ、一段緩怠ニ候、心安キ方ヘモ、うちかけテ見參スルコトアルマジク候」 後世、一向宗ノ信徒ノ禮佛スルニ、うちかけ肩衣ヲ用キ、袴ヲ着ス。

うちかけ-ぎぬ (名) 〔被〕 〔打掛衣ノ義〕 むしのたれぎぬニ同ジ。名義抄「被、ウチカケギヌ、ムシ」

うちかけ-こそで (名) 〔打掛小袖〕 うちかけノ(三)ノ條ヲ見ヨ。

うちかけ-よろひ (名) 〔挂甲〕 古ヘノ武官ノ禮服、後ニハ、大儀ノ時ニノミ用キル。略シテ、うちかけ。裲襠トモ云フ。二幅ノ緋地ノ錦ニテ作ル、兩袖ナク、胸ト背トニ打掛ケテ、袍ノ上ニ着ル。カケヨロヒ。兵部省式「挂甲」三代實錄、四十五、元慶八年二月廿一日「挂甲四百領、頒給左右近衛府、各二百領」倭名抄、十二十八「裲襠、兩襠、其一當胸、其一當背也、宇知加介」紀略、康保二年五月廿四日「左右近衛射者各十八人、著二打懸一」文安御即位調度圖「挂甲」

うち-がし (名) 〔内貸〕 内金ヲ貸スコト。渡スベキ金錢ノ内ノ、一部ヲ渡スコト。借ル方ヨリハ、内借ト云フ。内借。

うち-かた (名) 〔内方〕 (一)〔人ノ妻ノ敬稱。ウチギミ。ウラカタ。内室。内方。内儀。令閨。貫之集、上「延長四年、清貫ノ民部卿六十ノ賀ニ、恆佐ノ中納言ノ内方セラレケル」 (二)貴人ノ奥方。蜷川親元記、文明五年七月十四日「御内方衆、燈呂進レ之」

うち-がたな (名) 〔打刀〕 〔敵ト打合ふ刀ノ義、鞘卷、馬手差ナドノ、刺すニ對ス〕 (一)〔刀ノ、鍔アリテ、長サ一尺餘、片手打ニ用キルモノ。齋宮寮式「打刀子二枚、小刀子十一枚(十枚、長、各、五寸、廣、三分、一枚、長、一尺、廣、一寸)」吾妻鏡、十二、建久三年正月廿一日「懷中帶二尺餘打刀」著聞集、九、武勇「牛、云云、寢ノ内ヨリ大ノ童、打刀ヲ拔キテ」 (二)後ニハ、長ク作リテ、専ラ、鍔刀トモ云ヒ、單ニ、かたなトモ云フ、刀脇差ヲ大小ト云フ、其大ノ刀ト云フモノ、是レナリ、長サ二尺八九寸ナルヲ限リトス。幸若、高館「二尺バカリナル打刀ヲ、十文字ニサスママニ」室町殿日記、九「二尺五寸ノ打刀ニテ、云云、走リカカリテ、情ケナクモ、一太刀ニゾ打チマキラセケル」宗吾大雙紙(室町時代)上「打刀ヲ、つば刀トモ云フ」

うち-がね (名) 〔打金〕 火繩筒ノ火蓋ノ上ニツクル金具。火繩ヲ挾ミ、火口ニ打チオロシテ、口藥ノ火ヲ發セシム。小銃ノ火門ナルニハ、打チオロシテ、雷管ヲ打ツ。

うち-かひ (名) 〔打交〕 〔略シテ、ちがひ(違)ト云フ、是レナリ、行き交ひ、同ジ〕 カレトコレト、打違ヒニナルコト。萬葉集、十四卅「麻衣、裾ノ宇知可比、合ハナヘバ」二云「宇知可倍、合ハネドモ」(他動下二段活用モアルナリ) 新六帖、三「泉川、下ル小舟ノ、うちかひニ、淺瀨ゾ著キ、行キナヤミツツ」

うち-かひ (名) 〔打飼〕 〔打ちニ意ナシ、かひハ、馬ニ水養ふナドノ、かひナリ〕 (一)餌。餌食。(犬、鷹ノ打飼袋ナド云フ、是レナリ) 保元物語、一、左府頼長上洛事「御車ニハ重綱、登宣、二人ヲ乘セラレテ、云云、夜半バカリニ、基盛ガ陣ノ前ヲゾ遣リ通シケル、重綱、登宣、白河殿ニ參著シテ、アナオソロシ、鬼ノうちかひニナリタリツルトテ、ワナナイテゾ下リタリケル」(敵陣ノ危地ヲ過ギタルナリ) (二)次條ノ語ノ略。其條ヲ見ヨ。

うちかひ-ぶくろ (名) 〔打飼袋〕 〔前條ヲ見ヨ〕 (一)狩ノ、犬、又、鷹ノ餌袋、腰ニ纏ヒツケオクモノナリト云フ。略シテ、うちかひ。後世、餌差ガ、鷹ノ餌ノ雀ヲ捕ヘテ入ルル竹籠モ、後腰ニ纏フヤウニ作レリ。(二)轉用シテ、スベテ種種ノ物ヲ入レテ、腰ニツクル袋ノ名トナル。商家ニ、金錢ナド入レテ、腰ニ佩ブル胴卷ノ如キ袋ヲ、うちかひト云フ。甲陽軍鑑、十九、品第五十三、第八條「侍大將、馬ノ器持ツ三色ハ、うちかひ、又ハ、馬ノいきあひ、水入筒、腰ニサスナリ」(コレハ秣カ) 同、廿、品第五十四、第三條「段子ノうちかひ袋ニ、米ヲ入レ、云云」 訛シテ、うちかへ。冥途飛脚(正德、近松作)上「宰領ガうちかへヨリ、云云、方方ノ爲替金、高八百兩、グッラリグッラリト取リ出ス」

うち-かぶと (名) 〔内冑〕 冑ノ裏面、額ニアタル所。見上トモ云フ。保元物語、二、白河殿攻落事「眞向、内冑ハ恐レモ候」(爲朝ガ、兄義朝ヲ射ルニ云フ) 内冑を見透かさるト云フハ、我ガ内情ヲ、人ニ見ヌカルル意。堀川狂歌集「今ハトテ、忍ビ忍ビノ、緒ガ切レバ、内兜をヤ、人ニ見られむ」

うち-かへ (名) 〔打交〕 うちかひ(打交)ノ條ヲ見ヨ。

うち-かへ (名) 〔打飼〕 うちかひぶくろノ(二)ノ條ヲ見ヨ。

うち-かへ・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) 〔打返〕 (一)〔クリカヘス。同ジ事ヲ、幾度モ爲ス。反復。源、十九、薄雲七「イト心苦シケレバ、うちかへし宣ヒアカス」同、五十、浮舟七「うちかへし、アヤシト御覽ジテ」 (二)覆ス。顚覆。宇治拾遺、十三、第四條「此下ノ渡リニテ、船

うちかへしツ、ト書キシ」(三)カヘサマニス。ウラハラニス。ヒキクリカヘス。[illegible]染衛門集「雪ヲノミ、花トハ見シガ、うちかへし、花モ雪カト、見ユル春カナ」(四)耕ス。耕 金葉集、一、春「鴫ノキル、野澤ノ小田ヲ、うちかへし、種蒔キテケリ、標延ヘテ見ユ」(五)返報ニ打ツ。

うちかま (名) 内鎌 わにあしノ條ヲ見ヨ。

うちかみ (名) 打紙 槌ニテ打チ固メテ、光澤ヲ出シタル紙。[illegible]凡[illegible]長功、日[illegible]七百張[illegible]二人、日百二十張」

うぢがみ (名) 氏神 (一)己ガ氏ノ先祖ノ靈ヲ祀レル神。其社ヲ、氏社ト云フ、藤原氏ノ春日神社、大原野神社、橘氏ノ梅宮、平氏ノ平野神社ナド、是レナリ。伊勢物語、七十六段「昔、二條ノ后ノ、云云、氏神ニ詣デタマヒケルニ」(后ハ藤氏ニテ、大原野神社ニ詣デタマヒシナリ) 類聚三代格、寛平七年、太政官符、大和國、春日社、二月十一月祭「諸氏氏神多在畿内、毎年二月四月十一月、何廢先祖之常祀」(享祿本) 大鏡、下、道長「春日明神、云云、藤氏ノ御氏神ニテ」 八幡宮ヲ、源氏ノ氏神ト稱スルハ、源義家、此社前ニテ元服シ、八幡太郎ト稱セシニ因ルト云フ。(二)後ニ、地主神ヲ、氏神ト云ヒ、其里ニ生レタル人民ヲ、氏子ト云フ、氏神ノ生産シタマフ子ノ義ナリ、是レハ、眞ノ氏神ヲ、地主ノ神トセシモアリ、又、地主ノ神ヲ、氏神ニ合セ祀レルモアリテ、混ジタルベシト云フ。(うぶすなのかみノ條ヲ見ヨ) 臥雲日件錄、廿六、文安四年八月十三日「凡世人以神明生于其所生之地者、謂之氏神」

うちがり (名) 内借 うちがし(内貸)ヲ見ヨ。

うちぎ (名) 袿 〔内着ノ義、裝束ノ内ニ着ル意、袿ノ字ハ、衣條ノ婦人ノ服ナルヲ、假リテ書クナリ〕 (一)男子ノ裝束ノ下ニ着ル服、直衣、狩衣ナドノ下ニ着ル、平常ノ衣ナリ。出袿、出衣ナド云フモ、是レナリ。男子ニ祿ナドニ賜ハルニ、大うちぎト云フハ、衽、丈ヲ大キク縫ヒタルモノ、賜ハリタル者、己ガ身ニ合セテ、縫ヒ直シテ着ル、後世、上ヨリ賜ハル時服ト云フモ、是レナリ。後撰集、一、春、上「元日ニ、二條ノ后ノ宮ニテ、白キおほうちぎヲ賜ハリテ、藤原敏行「降ル雪ノ、ミノシロ衣、うちきツツ、春キニケリト、驚カレヌル」」 (二)御うちぎト云フハ、主上ノ御髮上ノコトナリ。其條ヲ見ヨ。

うちぎ (名) 袿 〔打着ノ義、上ニ打掛ケテ着る服ノ意、袿トモ書クハ、掛衣ノ合字、名義抄「袿、褂、ウチギ」〕 貴婦人ノ服ノ名、重ノ上衣ナリ。倭名抄、十二「袿、宇知岐、婦人上衣也」 儀式ノ時ハ、此上ニ唐衣、及、裳ヲ着ル。三領、五領、七領ト重ネテ着ル、其下ナルヲ、かさねうちぎト云ヒ、(コレヲモ略シテ、うちぎト云フ) 最モ上ナルうちぎハ、紅ノ打衣ニテ、下ニ重ヌルニ、次第ニ上ナルヲ短クス、後ニ云フ、五衣、是レナリ。又、小袿ト云フアリ、其條ヲ見ヨ。

うちぎき (名) 打聞 (一)ウチ聞クコト。聞キタル言。源、廿六、常夏「本末(上下ノ句)ヲ、シミタルサマニ打チ誦シタルハ、深キスヂオボエヌ程ノ、うちぎきニハ、ヲカシカンナリ」(二)聞書。枕草子、十、百三十三段、うれしきもの「物ノヲリ、若シハ人ト言ヒカハシタル歌ノ、聞エテ褒メラレ、打聞ナドニ書キ入レラルル、云云、ウレシ」(異本)

うちき・く (動) 打聞 〔打ちニ、意ナシ〕 聞クト云フニ同ジ。源、四十五、椎本「コノ夜中バカリニナム、亡セ給ヒヌル、ト泣ク泣ク申ス、心ニカケテ如何トハ、絶エズ思ヒ聞エ給ヘレド、うちききタマフニハ、アサマシク[illegible]」

うちきず (名) 打傷 〔切傷ニ對ス〕 打タレテ傷ツキタルモノ。ウチミ。打撲傷。

うちぎすがた (名) 袿姿 白袿ノミニテ、上衣ヲ着ズテアルコト。白衣。枕草子、四、四十三段「[illegible]、うちぎすがたニテ、[illegible]コソ、物ソコナヒニテ、口惜シケレ」 源、七、[illegible]「アザレタレうちぎすがたニテ、[illegible]キスサビツツ」

うちぎぬ (名) 打衣 紅ノ綾ノ打物ニテ、襲セシ服。卽チ、貴婦人正裝ノ時、五衣ノ、最モ上ニ着ル袿ナリ。枕草子、三、廿段「紅ノイトツヤヤカナルうちぎぬノ、霧ニイタク濕リタルヲ」 女官飾抄「うちぎぬノ事、紅ノ綾ヲ打チテ、云云、ヒキツクロフ時、[illegible]、常ニハ單バカリヲ重ヘルナリ、又、單ノ上ニ打衣ヲ重ヌルコトモアリ」

うちぎみ (名) 内君 人ノ妻ノ敬稱。ウチカタ。内方。内室。[illegible]形、書キタルヲ、コレハうちぎみニトテ、トブラフ人ノアリシカバ」

うちきん (名) 打金 商家ノ語、價低キ品ヲ、價高キ品ト取リ替フルトキ、價ノ不足ノ分ヲ補フ金錢。

うちきん (名) 内金 總金高ノ内ノ若干。「内金ヲ渡ス」内金ヲ請取ル」

うちきら・す (動) 打霧 きらす(霧)ニ同ジ。萬葉集、八「打霧之、雪ハ降リツツ、シカスガニ、吾家ノ園ニ、鶯鳴クモ」

うちきり (名) 打切 (一)ウチキルコト。(二)ヲハリ。シマヒ。終結。

うちき・る (動) 打切 (一)切るト云フニ同ジ。[illegible] (二)終トス、終フ、シマフ。終結「[illegible]ノ議論ハ、コレデうちきる」

うちくび (名) 打首 「[illegible]」 刑ノ名、首ヲ打切ルモノ、斬罪。[illegible]ノ條ヲ見ヨ。[illegible]

うちくん・ず (動) 打屈 くんず(屈)ト云フニ同ジ。枕草子、四、四十四段、[illegible]「[illegible]ノ事ナドカカル者ハ、うちくんじたるコソアハレナレ、ウタテモ、花ヤカナルカナ」

うちぐもり (名) 内曇 (一)鳥ノ子紙ノ、上下ニ雲形ヲ摺リ出セルモノ、短冊ナドトス、常ナルハ、上、青ク、下、紫ナリ、内事ニ用キルハ、之レニ反スト云フ。[illegible] (二)畫ニ用キル土器ノ、内ニ黑キ文アルモノ。(三)砥ノ名、山城國、鳴瀧山ニ出ヅ、黄白色ニシテ、紫色ノ紋脈アリ。鳴瀧砥。

うぢくらうど (名) 氏藏人 ろくゐくらうどノ條ヲ見ヨ。

うちくらべ (名) 内競 内内ノ競技、ウチウチノ競べ。ウチナラシノ技。競馬ノ豫行演習。[illegible]「[illegible]ノ馬場ニテ、日吉御幸ノ内くらべ、七番アリケリ」

うちぐり (名) 打栗 かちぐりヲ蒸シテ、砂糖ヲ加ヘ、紙ヲ隔テテ、敲キヒラメタルモノ、甲斐國ヨリ産ズ。又、ててうちぐりアリ。

うちくるぶし (名) 内踝 くるぶしノ條ヲ見ヨ。

うちぐるわ (名) 内郭 ハくるわノ條ヲ見ヨ。

うちけいせい (名) 内傾城 遊女屋、引手

茶屋、料理茶屋ナドニテ、其家ニ抱ヘオク女藝者。外ヨリ招ク者ニ對シテ云フ。

うちけし (名) [打消] (一)打チ消スコト。(二)語學ノ語。動詞ノ動作ヲ覆シ云フコト。否定。常ニ、助動詞ニテ其意ヲ成サシム。行くヲ、行かず、行かじ、行くまじ、トスルナドノ、ず、じ、まじノ如シ。

うちけ・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) [打消] (一)消ス。ウチケツ。(二)ホロボス。無クスル。取消ス。否認ス。否定ス。「人ノ話ヲ打消す」「前言ヲ打消す」

うちけ・つ (動) [打消] けつト云フニ同ジ。其條ヲ見ヨ。源重之集「水ノ上ノ、濱名ノ橋モ、燒ケニケリ、うちけつ波ヤ、寄リコザリケム」

うちこ (名) [打粉] 砥粉ヲ、布ニ圓ク包ミテ、刀ノ刃ニ粉ヲ打チツケテ拭フモノ。

うぢ-こ (名) [氏子] うぢがみ(氏神)ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。藤森社緣起「近鄉井京中、自二五條一至二九條一住民等、悉以爲二當社氏子一」

うちこし (名) [打越] (一)短歌、連歌等ニテ、病ト稱シテ嫌フ、一種ノ體。庭訓往來、二月「和歌者、云云、未レ窮二長歌、短歌、旋頭、混本、折句、沓冠、風情、輪廻、傍題、打越、落題之體一」(二)席順ナドニ依ラズ、名指シテ、盃ヲサスコト。東海道名所記(萬治)一、芝居「酒ノミテ、ツケザシニアヅカレバ、セメテ打越ナリトモ給ハラント、連歌ニハ嫌ヘド、酒モリニハ好ミテ」

うちこ・す・ス・セ・サ・シ・セ (自動、四) [打越] 越ス。超過ス。愚管抄、六、後鳥羽、建久元年十一月七日「我ヨリ先ニ、タシカニ七百餘騎アリケリ、後ニ三百餘騎ハうちこし(みィ)テ有リケリ」

うちこみ (名) [打込] (一)芝居ノ囃子ノ大太鼓ヲ、音高ク打ツコト。(二)劒道、相撲道ニ於テ、初心ノモノガ、先輩ニ對シテ、打ッテカカルコト。

うちこみ (名) [打込] 次第ナク、打チマジルコト。ウチマゼ。盛衰記、三十七、熊谷父子寄二城戸口一事「平山、熊谷二騎リケルハ、打ち込みノ軍ハ、剛臆見エズ」參考、太平記、廿四、天龍寺供養事「宗徒ノ氏族、外樣ノ大名、打込ニ、弓箭、兵杖ヲ帶シ」

うちこ・む・ム・メ・マ・ミ・メ (他動、四) [打込] (一)打チ入ルル。突キ入ルル。タタキコム。狂言記、文相撲「今度取ッタラバ、地ヘ三尺打ち込まウ」(二)男女、深ク思ヒ入ル。執着ス。心中宵庚申(享保、近松作)上「オ恥ヅカシイベイナガラ、小七樣ニ、トント打ち込み」

うちごろも (名) [裏衣] 法橋、寺主、維那以下ノ僧ノキル衣。平家物語、十、熊野參詣事「サメザメト泣キケレバ、那智籠ノ僧ドモモ、皆うち衣ノ袖ヲゾシボリケル」

うち-さぶらひ (名) [内侍] さぶらひどころヲ見ヨ。

うちしき (名) [打敷] (一)布帛ノ製ノ敷物。宇津保物語、俊蔭二十七「御座裝ハス、うちしき、褥、皆新ラシクセラレタリ」源、十七、繪合二十六「うちしきハ、靑地ノ高麗ノ錦」枕草子、六、五十一段「燈臺ノうちしきヲ踏ミテ立テルニ、新ラシキ油單ナレバ、强ウトラヘラレニケリ」(是レハ、油單ニテ足ニツキ纏ヒタルナリ)(二)佛壇前机ノ花立、香爐ナドノ敷物。多クハ、死者ノ衣服ニテ製シ、供養トス。鷹筑波集(寛永)二「摺箔ノ、小袖ヲ見テハ、物思ヒ」妻ノタメトテ、縫ヘル打しき」(亡妻ニ云ヘルナルベシ)(三)菓子ヲ器ニ盛ルニ敷ク白紙。

うちじに (名) [討死] 軍ニ、敵ヲ擊チ、鬪ヒナガラニ死ヌルコト。陣歿 戰歿 保元物語、三、義朝幼少の弟悉失はるる事「合戰ノ庭ニ出デテ、主君ト共ニ討死シ」

うち・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ (他動、左變) [打爲] (打ちニ意ナシ) 爲ト云フニ同ジ。爲ス。枕草子、二、十四段「欠ヲ、己レうちしテ」大鏡、中、道隆「物オボエヌ名譽、打ちしテ」

うちす・う・ウル・ウレ・エ・エ・エヨ (他動、下二) [打据] (一)据ウ。(二)挫ク。打チ倒ス。

うちすが・ふ (動) [打次] すがふト云フニ同ジ。源、五十二、手習四十「打ちすがひタル尼ドモ二人臥シテ、劣ラジト鼾キアハセタリ」

うちす・ぐ・グル・グレ・ギ・ギ・ギヨ (自動、上二) [打過] 過ぐト云フニ同ジ。うつ(打)ノ(三十)ノ條ヲ見ヨ。

うちず・す (動) [打誦] 誦すト云フニ同ジ。其條ヲ見ヨ。

うちすずめ (名) [内雀] 〔善ク家ノ内ニ入リ、又、形、略、鳥ニ似タレバ名トスト〕蟲ノ名、ひとりむしノ雌。一名、ザシキスズメ。(ひとりむしノ條、見合スベシ) 樗鷄

うちす・つ・ツル・ツレ・テ・テ・テヨ (他動、下二) [打捨] ステオク。ウッチャル。源、二、帚木八「直衣バカリヲ、シドケナク着ナシ給ヒテ、紐ナドモうちすてテ」同、四、夕顔三十九「うちすてテ、惑ハシ給フガイミジキ」

うちすて (名) [打捨] 切捨ニ同ジ。大友興廢記「甲首二百八十三、其他ノうちすてハ、其數ヲ知ラズ」

うちずみ (名) [内住] 宮女ナドノ、内裏ニ住居スルコト。源、一、桐壺廿五「うちずみノミ、好マシウシタマヘバ」同卷廿五「カク心細クテオハシマサムヨリハ、うちずみセサセタマヒテ」

うちす・ゑる (動) [打据] うちすうノ口語。

うちそと (名) [内外] うちとノ條ヲ見ヨ。

うちだし (名) [打出] 打チダスコト。ウチドメ。戲場新話「一番太鼓ハ、緣ヨリ打チハジメ、うちだしノ太鼓ハ、緣ニテ打チトメルナリ」

うちだ・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) [打出] (一)打チテ出ダス。(二)撿地ノ竿ヲ打チテ、餘ル地ヲ出ス。畳出 大福寺文書、三、頭書「撿地役人名印ノ御圖帳現存、其節ノ打出シ高如レ此」(三)かねノ器ノ形象ナドヲ、裏ヨリ打チテ、表ヘ高ク出ス。(四)芝居ナド畢リテ、太鼓ヲ打チ、觀客ヲ出ス。自動ニ、はねる、かぶるナド云フ。放場

うちたふ・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) [打倒] (一)打チテ倒ス。ナグリタフス。應神紀、九年四月「執二橫刀一以毆二仆甘美内宿禰一、遂欲レ殺矣」(二)倒すヲ强メテ云フ語。落窪物語、二「御車ヨリオリ給フママニ見給ヘバ、部屋ノ戸うちたふしテ、ウチタテモウチ散ラシケレバ」

うちた・ゆ (動) [打絶] 絶ゆト云フニ同ジ。源、十、榊廿六「うちたえテ、内、春宮ニモ參リ給ハズ、コモリオハシテ」

うちたれがみ (名) [打垂髮] スベラカシ。サゲガミ。拾遺集、二、夏「ホトトギス、ヲチ歸リ鳴ケ、ウナヰコガ、うちたれがみノ、サミダレノ空」堀河百首、柳「佐保姫ノ、うちたれがみノ、玉柳、タダ春風ノ、梳ルナリケリ」

うちちがひ (名) [打違] ウチチガフコト。ブッチガヒ。交叉

うちちが・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (自動、四) [打違] 〔ちがふ(交叉)ノ條ヲ見ヨ〕打チ交フ。十字ノ形ニナル。ブッチガフ。交叉

うちつくに (名) [内國] 〔内之國ノ義〕(一)天皇ノ都シタマフ國。大和國。神武紀、三「欲下東臨二膽駒山一、而入中中洲上」(二)畿

内（[illegible]ニ對シテ云フ）[illegible]、十年十月「[illegible]内[illegible]」北山抄、三、下、[illegible]、宇治[illegible]久仁」（三）日本（外國ニ對シテ云フ）

うちつけ-がき（名）［打付書］手紙ノ初ニ時候、見舞ナドノ文ヲ略シテ、直チニ當用ノ事ヲ書キ出スコト。又、終ニ結語ヲ略シテナスニモ）[illegible]トモ何共不書シテ、名字官爵、何ガシ殿ト書ヲバ、打付書トイフナリ」

うちつけ-ゑ（名）［打附］サシアテテ。端的ニ。ソツジニ。[illegible]之集、二、[illegible]ク風ニ、ナビク尾花ヲ、うちつけゑ、招ク袖カト、タノミケルカナ」後撰集、五、秋、上「うちつけゑ、物ゾカナシキ、木ノ葉散ル、秋ノ初ヲ、今日ゾト思ヘバ」

ウチ・ウズ・ク
うちつづ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ（自動、四）［打續］うちはふ（打延）ニ同ジ。

うちつ-みや（名）［中宮］（内之宮ノ義）中宮。後宮。垂仁紀、五年十月[illegible]以盈[illegible]後宮之數[illegible]」

うちつ-みやけ（名）［内官家］（内ハ、内附ノ意ナルベシ、皇極紀、元年九月「越邊蝦夷數千、内附」みやけハ、其條ヲ見ヨ）神功皇后、三韓ヲ征服シタヒシ後、其各地ニ建テテ、管轄セシメラレシ官府。海ヲ渡リテユク國リテ、渡屯家トモ云フ。神功攝政前紀「因以定內官家、是所謂之三韓也」[illegible]、六年十二月、高麗、百濟、新羅、任那等、云云、[illegible]、古事記、中（[illegible]）二「[illegible]屯家」

うちつ・る・ルル・レ・レ・レヨ（自動、下二）［打連］數人、共ニ行ク。連レ合フ。ツレダツ。同行。枕草子、五、[illegible]リコソ畏マリタレ、國ジヤウニうちつれアリク」

うちて（名）［討手］討ツ人。殺ス人。ウッテ。

うちで（名）［打出］うちいでニ同ジ。

うちで-し（名）［内弟子］師匠ノ家ニ寄宿シテ居ル弟子。[illegible]

うちで-の-かさ（名）［打出笠］うちいでノ條ヲ見ヨ。

ウチ・デ・ノ・コ・ズチ
うちで-の-こづち（名）［打出小槌］[illegible]ノ財寶ヲ、心ノママニ打出ヅベシト云フ小槌。實語集、一、第六條「人ノ寶ニハ、打出の小槌ト云フ物コソ、ヨキ寶ニテ侍リケレ、寶ヲ二出デテ、居ヨカラム家ヤ、面白カラム妻、男ヤ、[illegible]ヒヨカラム從者、馬牛、食物、衣物ナンド、心ニ任セテ打出シテアラムコソ、云云、ヨク侍ルベケレ」宇津保物語、俊蔭[illegible]、寶ノ木、大[illegible]ノ木ナリ、一寸ヲ持チテ、[illegible]シキ土ヲ叩クニ、一萬[illegible]ノ寶ヲ出ヅベキ木ナリ」

うちで-の-たち（名）［打出刀］新作ノ太刀。うちいでノ條ヲ見ヨ。

ウジ・デラ
うぢ-デラ（名）［氏寺］（氏神ニ擬ヘテ云フ語ナラム）一名族ノ、其先祖ノ爲ニ創立セル寺ヲ、其氏人ヨリ稱スル語。氏寺ニ對シテ、其氏人ヲ、[illegible]、又、[illegible]ト云フ、藤原氏ノ南都興福寺、和氣氏ノ高尾神護寺ノ如キ、是レナリ。後紀、十二、延[illegible]廿[illegible]年正月「定[illegible]寺、[illegible]之名、[illegible]在[illegible]記、不レ可[illegible]以[illegible]人事以[illegible]氏寺[illegible]」[illegible]云云」盛衰記、廿四、南都合戰燒失事「興福寺ハ是淡海公ノ御願、藤氏累代ノ氏寺也」字類抄「土師寺、[illegible]道明寺ハ、土師氏寺也、俗[illegible]菅原本姓ハ菅原氏寺也」盛衰記、十八、宇佐判官事「[illegible]ヲ建立シテ、云云、神[illegible]寺ト名ヅケタリ、故ニ此寺ハ、和氣ノ氏寺ナリ（光仁天皇、和氣清麿ニ勅シテ創立アリシナリ）」

うち-と（名）［内外］うちト、外ト。うちそと。奧ト、表ト。内、外。名義抄、[illegible]内外、ウチト」枕草子、六、五十八段「うちとナドノ許サレ

[illegible]、[illegible]ノ内宮、外宮ヲモ云ヒ、[illegible]二云フ、内宮、外宮ヲモ云フ。[illegible]、[illegible]ヲ、[illegible]シ、内外ノ宮ニ、[illegible]コソ[illegible]」[illegible]抄、三十二「何トシテ、内外ノ奥ヲ、學ビケム、卷クモ舒ブルモ、物憂カル世ニ」

うちと・く・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ（自動、下二）［打解］（一）解く（下二段）ト云フニ同ジ。拾遺集、一、春「氷ダニ、トマラヌ春ノ、谷風ニ、マダうちとけヌ、鶯ノ聲」（二）心ヲ打明ケテ、睦ミ親シム。（交リニ）款[illegible]、[illegible]「ヒトヘニ、うちとけタレ[illegible]見バカリヲシテ」[illegible]心ユルム。クツログ。源、七、紅葉賀廿「五十七八ノ人ノ、うちとけテ、物オモヒナゲナルケハヒ」

うちと・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ（自動、左變）［内外］出入ス。[illegible]花物語、十六、[illegible]年頃、[illegible]ノ御子ノヤウニ、思ヒ聞エサセタマヘリケレバ、御方方ニ、皆うちとしタマヘルウチニモ」

うち-とねり（名）［内舍人］内舍人ノ（一）ニ同ジ。倭名抄、五「内舍人、宇知止[illegible]利」

うち-どの（名）［打殿］（殿ハ、屋ノ如シ）絹帛ヲ、砧ニテ打チテ、光澤ヲ出ス事ヲスル所、即チ、絹帛ノ打物ヲ作ルナリ。精服引スル所ヲ、張殿ト云フ。綺殿ナドモアリ。源、廿二、玉葛三十「ココカシコノうちどのヨリ參ル物トモ、御覽ジクラベテ」三十二[illegible]人[illegible]舍、九[illegible]、はり殿[illegible]帛トモヲ、[illegible]ノ[illegible]シ、[illegible]モアヘズ、花見ノ出立、イソガルル頃。

うちと・む・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ（他動、下二）［打止］打チ中テテ、殪タリ。シトム。（銃ナドニテ）「猪ヲうちとむ」

うちどめ（名）［打止］（太鼓ヲ打ち止むるナリ）ウチヲサメ。ウチアゲ。ウチダシ。閉場。[illegible]、文化、三[illegible]）相撲、上「ドウモ打ちどめハ、サウクルテ」「相撲ノ打止」

うちと・める（動）［打止］前條ノ口語。

うちどり（名）［内取］すまひ（相撲）ノ條ヲ見ヨ。

うちと・る（動）［打取］取るト云フニ同ジ。宇治拾遺、三、十六條「六十バカリノ女ノアリケルガ、[illegible]うちとり[illegible]」

うちと・る・ル・レ・ラ・リ・レ（他動、四）［討取］（一）攻メテ、奪ヒ取ル。[illegible]、十、四十六段「モロコシノ帝、コノ國ノ帝ヲ、イカデ謀リテ、此國うちとらムトテ」「敵國ヲ討取る」（二）擊チテ、殺ス。「[illegible]ヲ討取る」

うちなし（名）［磬］（打鳴ノ義、なす（鳴））ノ條ヲ見ヨ。ウチナラシ。磬。[illegible]「[illegible]、ウチナシ」

うちな・す（動）［打鳴］なす（鳴）ノ條ヲ見ヨ。[illegible]、十一、[illegible]、ウチナス、[illegible]バ、時ニハナリヌ、逢ハナクモアヤシ」

うちならし（名）［磬］（打鳴らしノ義、元ハ石ノ磬ヲ用ヰタルモノカ）佛具、銅鈸ニ同ジ。磬。[illegible]、十三[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]宇[illegible]良之」

うちならし（名）［内習］内内ノ練習。シタゲイコ。[illegible]、[illegible]、三十[illegible]、[illegible]日ノ[illegible]遊ノうちならしニ、御琴ドモノサウゾクナドシテ、[illegible]ナド[illegible]、[illegible]シナ[illegible]」

うちに（名）［打荷］[illegible]ノ時、[illegible]ニ打[illegible]テタルモノ。

うち-ねずみ（名）［内鼠］家庭ニノミ籠リ居テ、[illegible]ヲ知ラズノモノ。[illegible]三「我レ一人ノ子持チタリトイヘドモ、此ノ子、うちねずみニテ、我ガウチヨリ外ヲ知ラズ」

うちのうち（名）［家内］家ノ内。家ノ中。家内。

うちのおとど (名) 内大臣 ナイダイジン。枕草子、十二、百五十七段「宮ノ御前(中宮定子)ニ、内のおとゞ(伊周)ノ奉リ給ヘリケルヲ」

うちのかしはでのつかさ (名) 内膳司 ナイゼンシ。持統紀、元年正月「奉膳」倭名抄、五三「内膳司、宇知乃加之波天乃官」

うぢのかみ (名) 氏上 次次條ヲ見ヨ。

うぢのくらうど (名) 氏藏人 差次ニ次グ、六位ノ藏人。其氏ヲ名ノリテ、藤藏人、源藏人ナド稱ス。

うぢのこのかみ (名) 氏長氏上 〔うぢのかみ(首)ノ條ヲ見ヨ、又、かみト云フハ、長官、頭ノ義〕 一氏族ノ長。宗家ノ主ニ命ゼラレテ、其一族ノ事ヲ掌ラシムル職ナリ。又、うぢのかみ。氏の長者。天智紀、三年二月「冠位階、名、及、氏上、民部、家部等事、云云、大氏之氏上、云云、小氏之氏上」天武紀、下、五年六月、物部雄君「賜氏上」同、八年正月「氏長」續紀、一、文武二年九月「无冠麻續豐足、爲氏上」

うぢのちゃうじゃ (名) 氏長者 前條ニ同ジ。後ニハ、王氏、源氏、藤原氏、橘氏ニノミ命ゼラル。德川將軍ニハ、代代、源氏長者、賜ハリキ。類聚國史、四十、采女、大同元年十月、貢氏女事「領氏之長者、擇氏中端正女貢之」 職原抄、下「凡稱氏長者六王氏、源氏、藤氏、橘氏、有此號」 百練抄、十、文治二年三月十二日「以右大臣(藤原兼實)可爲藤氏長者之由、被仰下」

うちのとねり (名) 内舍人 うどねりノ條ノ(一)ニ同ジ。詠百寮和歌(高大夫實無)内舍人「武士ノ、勢ノ有ル、ナリ姿、内の舍人ヤ、ナラヒ初メケム」

うちのひと (名) 内人 (一)家ノ内ノ人。家人。(二)妻ガ、他人ニ對シテ、其夫ヲ稱スル語。狂言記、壊座頭「ハヅカシナガラ、妾ガ内の人デゴザル」

うちのへ (名) 内重 外重ノ條ヲ見ヨ。

うちのべ (名) 打延 〔羅宇竹ヲ用キズ、雁首、吸口、打延ベテ作レル義〕 烟管ノ總體ヲ、銀、銅、又ハ、鐵ニテ作レルモノ。略シテ、のべ。ノベウチ。賤の小手巻(寶暦)「昔ハ打ちのべノきせるヲ持ツ者、十ニ二三モアリ」

うちのぼり (名) 内幟 〔家幟ノ義〕 ざしきのぼりニ同ジ。

うちのみこ (名) 内親王 ないしんわう(内親王)ニ同ジ。皇子、及、しんわう(親王)ノ條ヲ見ヨ。

うちのみやうぶ (名) 内命婦 みやうぶ(命婦)ノ條ヲ見ヨ。

うちのり (名) 内法 工匠ノ語、物ノ端ヨリ端マデノ寸法ヲ度ルニ云フ。例ヘバ、門ノ幅ニ、兩柱ノ間ヲ、柱ヲ加ヘズシテ度ルコト。(内規)又、柱ヲ加ヘテ度ルヲ、外法(外規)ト云フ。

うちは (名) 團扇 〔撲翳ノ義ニテ、蚊、蠅ナド、打拂フヨリノ名ナリト云フ、三體詩「輕羅小扇撲流螢」〕 (一)數條ノ細ソキ竹ヲ骨トシテ、紙、又ハ、絹ヲ貼レルモノ。形ハ、圓キアリ、橢圓ナルアリ、種種ナリ、柄アリ、動カシテ風ヲ起スニ用キル。便面。羽うちは、蒲葵うちはモアリ。倭名抄、十四「團扇、宇知波」宇津保物語、國讓、上、六十七「イト暑シト宣ヘバ、うちはモマキラセム」 (二)軍配團扇ノ略。其條ヲ見ヨ。

うちば (名) 内端 物事ヲ、控目ニスルコト。ウチワ。心中天網島(享保、近松作)中「内端ニ取ッテ、新銀三百五十匁、ヨモヤ貸サマイト云フコトハ、無イ物マデモ有リ顔ニ」「内端ニ計ル」

うちばかま (名) 打袴 絹帛ノ打物ノ袴。榮花物語、三十六、根合「袴ノコハキニ、金シテ繡物ニモ、うちばかまヲシタル人モアリ」

うちはし (名) 打橋 「移橋ノ約ニテ、(うちひさすハ、うつしひさす)何處ヘモ移シカケラルル意ト云フ」 板ヲ渡シテ通路トスル橋。神武紀、下、三十「於天安河、亦造打橋」 萬葉集、十、十三「機ノ、踏木持チユキテ、天ノ河、打橋ワタス、君ガ來ムタメ」 同、十七、九長歌「上ツ瀬ニ、宇知橋ワタシ」 源、一、桐壺「うちはし、渡殿、ココカシコノ道ニ」(渡殿ノ切レタル所ニ渡セル歩板)

うちはだいこ (名) 團扇太鼓 太鼓ノ、皮一面ニシテ、圓ク、柄アリテ、團扇ノ如キモノ。法華宗ノ信者、題目ヲ唱ヘツツ叩ク。

うちはた・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) 討果 撃チ殺シ了ハル。狂言記、居杭「コレハ堪忍ナラヌ、うちはたしテクレウ」

うちは・ふ・フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ (自動、下二) 打延 延ふト云フニ同ジ。打チツヅク。延ビツヅク。長引ク。萬葉集、十三、十四長歌、「打延ヘテ、思ヒシ小野ハ、(戀フル女ニ譬フ)遠カラヌ、其里人ノ、標結フト、(女ヲ得タルナリ)聞キテシ日ヨリ、云云、思ヒ亂レテ」 後撰集、三、春、下「うちはヘテ、春ハサバカリ、長閑ケキヲ、花ノ心ヤ、何急グラム」 宇津保物語、菊宴、五十一「うちはヘテ、落ツル涙ヤ、袖ノ上ニ、潮ノ滿チクル、海トナルラム」 枕草子、五、五十段「雨ノ、打ちはへ降ル頃」

うちはふぐ (名) 團扇河豚 河豚ノ一種。腹ノ皮、薄ク延ブルコト、團扇ノ如シ。稀ニ東海ニ產ズ。

うちはぶ・く (動) 打羽振 はぶく(羽振)ト云フニ同ジ。萬葉集、十九、二十二「打羽振キ、鷄ハ鳴クトモ、カクバカリ、降リシク雪ニ、君イマサメヤモ」

うちはへて (副) 打チツヅキテ。うちはふ(打延)ヲ見ヨ。

うちは・む (動) 打塡 はむ(塡)ト云フニ同ジ。萬葉集、十七、廿「鶯ノ、鳴ククラ谷ニ、宇知波米テ、燒ケハシヌトモ、君ヲシ待タム」

うちはらひ (名) 打拂 (一)塵拂。布帛ヲ用キル。(今モ靜岡縣ニテ、拂塵ヲうちはらひト云フ) 掃部寮式、踐祚大嘗會「設打拂巾一條(納筥)」 (二)銃砲ヲ放チテ、敵ヲ追拂フコト。砲擊

うちばらひ (名) 内拂 内金ヲ拂ヒ渡スコト。ウチワタシ。

うちはら・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (他動、四) 打拂 (一)拂フ。萬葉集、十五、十一長歌「吾ガ身ニハ、霜ナ降リソト、白妙ノ、羽サシカヘテ、宇知波良比」「塵打拂ふ」 (二)銃砲ヲ放チテ、敵ヲ追フ。砲擊

うちばり (名) 梁 うつばり(梁)ヲ見ヨ。

うちび (名) 打火 火打石ト火打鎌ト打合セテ取レル火。燧火 混ジテ、鑽火トモ云フ。謠曲、野守「打火カガヤク鏡ノ面ニ、寫ル鬼神ノ眼ノ光」

うちひさす (枕) 内日刺 〔うちひハ、現日ノ約ニテ、宮ハ高ク秀デタレバ、物ノ障リナク、現シク日光ノ指シカガヤク意ナリト云フ、うちはし(打橋)モ、うつしばし(移橋)ノ約ナリ、京ハ、宮處ナリ、うちひさつト云フハ、す、つ、相通ズルナリ、けす、けつ(消)〕 宮、又、都ノ枕

詞、又、うちひさつ。萬葉集、十一[illegible]宮路ヲ人ハ、[illegible]三宅ノ比左須、部ノ人二」同、十三「長歌」打久津、三宅ノ[illegible]」

うちひさつ (枕) 前條ヲ見ヨ。

うちひそ・む (動) 打顰 ひそむ(顰)ト云フニ同ジ。源、一、帚木「自ラ顔ヲ摂リテ、アヘナク心細ケレバ、うちひそみヌカシ」(早マリテ落飾セルヲ後悔セルナリ)

うちびと (名) 内人 「内ハ、親シク事ヘ奉ル由ノ名カト云フ」伊勢大神宮ノ神職、禰宜ノ次ナリ。皇大神宮儀式帳「禰宜一人、大内人三人、物忌十三人、物忌父十三人、小内人十三人」新後撰集、十、神祇「禰モテ、八ツノ石坪、蹈ミナラシ、君ヲゾ祈ル、うちノ宮人」

うぢびと (名) 氏人 同ジ氏ノ人。天武紀、下、十一年十二月「氏人等、各定ト可氏上一者上而申送」萬葉集、十八、廿三「物部ノ、八十氏人」

うちひも (名) 打紐 數線ノ絲ニテ、打チ組ミタル紐。圓キヲ、まるうち(丸打)ト云ヒ、扁キヲ、ひらうち(組[illegible])ト云フ。ウチヲ。

うちぶ (名) 打歩 〔打金ノ歩合ノ意ナルベシ〕株券、爲替券等ノ價格ノ、騰貴シテ、額面以上ニ至レル時、其額面價格トノ差金ノ名。打歩。

うちぶところ (名) 内懐 ふところノ條ヲ見ヨ。

うぢぶみ (名) 氏文 其氏ノ系圖。歴代ノ事柄ヲ記シタル文書。高橋氏文ト云フ書ハ、高橋氏ノ祖先ノ事ヲ記シタリ。盛衰記、廿七、信濃横田川原軍事、西七郎ト富部三郎トノ戰ニ、七郎、遠祖ノ功ヲ唱ヘテ名告ル「富部三郎中シケルハ、吾君ハ、軍ノアレカシ、氏文讀マムト思ヒケルカ、云云」

うちべんけい (名) 内辨慶 家人ニ對シテノミ強ガリテ、外ニ出ヅレバ、臆病ナル性質ヲ云フ語。陰辨慶。

うぢぼたる (名) 宇治螢 山城國、宇治川ニ產ズル螢、形大ナルヲ以テ名アリ。

うちまか・す・スル・スレ・セ・セ・セヨ (他動、下二) 打任 (一)任ス。一任。(二)尋常ト見ル。大方、一通リトス。放任。古事談、六、亭宅諸道「打任セテハ、有ルベカラサル事ナレドモ」宇治拾遺、四、第八條「此病ノアリサマ、うちまかせタル事ニアラズ」

うちまき (名) 打撒 〔打撒米ノ略〕(一)陰陽師ノ祓ニ、粳米ヲ撒キ散ラスコト。禍津比ノ神ノ入リ來ムヲ、饗ヘ和メテ、退カシムルナリト云フ。大殿祭祝詞、屋船豐宇氣姫命、註「今世、產屋以二辟木束稻一置二於戸邊一乃以二米散二屋中一之類也」宇津保物語、藤原君「祓ストモ、うちまきニ米要ルベシ」源、三十六、柏木「若君ノ御おびれニうちまきシ散ラシナドシテ、ミダリガハシキニ」今昔物語、廿七、三十語「うちまきノ米ヲ、多ラカニ掻摑テ、打投ケタリケレバ、此ワタル者共モ、サト散リテ」(二)〔うちまきノ米ノ、花米。散米。字鏡集「粢、ウチマキヨネ」紫式部日記、中宮御產所「頂ニハうちまきノ、雪ノヤウニ降リカカリ」後世、神社ニ詣デ、神前ニ米ヲ撒キ奉リテ、御散供ト云フハ、無禮ナリ。(賽錢、散錢ノ條ヲ併セ見ヨ)(三)米ノ、女房詞。

うちまく (名) 内幕 (一)軍陣ニ、外ニ張ル幕ヲ、外幕、大幕ト云ヒ、内ニ張ルヲ、内幕、小幕ト云フトゾ。新田由良家傳記「内幕ハ地萠黃」(武家名目抄、所引)(二)轉ジテ、内曲。ナイシ ヲ ウ ト 「内幕ノ話」

うちま・ず・ズル・ズレ・ゼ・ゼ・ゼヨ (他動、下二) 打雜 ウチマム、混ズ、混合ス。

うちまぜ (名) 打雜 雜ぜ合ハスルコト。ウチゴミ。混合。[illegible]〔打ちまぜノ狩リニハ、鹿論モ非道シト〕

うちまた (名) 内股 うちももニ同ジ。

うちまたがうやく (名) 内股膏藥 〔左右ノ股ニ粘リツク〕節操ナク、或ハ甲ニ從ヒ、或ハ乙ニ從フ者ヲ嘲リテ云フ俗語。[illegible]

うちまつ (名) 打松 〔篝ニ、松ヲ、打入レ打入レ焚ク意ナリト云フ〕松明ニ同ジ。源、廿七、篝火「打松、オドロオドロシカラヌ程ニオキテ」草根集(長祿)十三「暇モナク、浪ニ入ルナリ、島津鳥、うちまつ添ヘヨ、暗キ篝火」

うちまめ (名) 打豆 大豆ヲ、少シ煮テ、乾シテ、槌ニテ打チ扁メタルモノ、汁ニ入レ、煮テ食フ。易林節用集(慶長)「打豆、ウチマメ」

うぢまる (名) 宇治丸 〔まるハ、圓ノ轉ナリ、ソノ條ヲ見ヨ〕山城國、宇治川ノ產ノ鰻鱺。鎌倉亭御成記(永祿)「うちまるの御汁」四條流庖丁聞書(長享)「宇治丸ト云フハ、うなぎノ鮨ナリ」大草家料理書「宇治丸かばやきノ事、丸ニアブリテ、後ニ切ルナリ」

うちまゐり (名) 内參 參內ニ同ジ。源、四十三、竹川「年ノ數添フママニ、うちまゐりヨリ外ノ歩キナド、ウヒウヒシク成リニテ侍レバ」

うちみ (名) 打見 打見タルトコロ。表面ノ見。外見。

うちみ (名) 打身 人體ノ、打擲ノ、皮膚、皮下ノ組織ヲ破損シテ、痛ミ、充血シ、或ハ腫レ、或ハ暗黑色トナルモノ。

[illegible]イイオ[illegible]」(訓正[illegible]ノ[illegible]、古今[illegible]、四、秋、上、名ニメデテ、折レルバカリゾ、女郎花、我レ落チニキト、人ニ語ルナ」

うちみ (名) 打肉 魚ノサシミ。ツクリミ。[illegible]クラゲ、打鮑ニテ、[illegible]、うちみ」

うちみだりのはこ (名) 打亂箱 〔亂髮ヲ盛ル意〕(一)〔櫛笥ノ懸子。婦人結髮、若シクハ[illegible]時、[illegible]ナド[illegible]用キルモノ。略訛シテ、うちみだれ。源、十七、繪合「其日ニナリテ、[illegible]モ、御櫛ノ箱、うちみだりの箱、云云、心コトニ調ヘサセタマヘリ」花鳥餘情「うちみだりの箱ノ蓋ノ上ニテハ、髮ヲ梳ル時、打チミダシハベレバ、箱ノ名トセル也」[illegible]分、[illegible]一寸[illegible]詩[illegible]文、云云、女中心得之[illegible]タマフ時ハ、御モトヘうちみだれノ[illegible]、ソレニおもさヲ置クベシ」(二)〔沐浴ノ時、[illegible]、手巾ナド、一ツニ置キタルヨリ移リタルカ、專ラ、手巾ヲ入レオク用トナル。巾箱。倭名抄、十四、調度具、巾箱「[illegible]」云、打亂匣」(三)後ニハ、淺キ、蓋ナキ箱ノ、漆塗ノ物ヲ作リ、鼻紙入ナド、[illegible]ル物ヲ盛リオク器トナル。略訛シテ、みだれ箱ト云フ。合類節用集(元祿)七「亂箱」

うちみだ・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ (自動、下二) 打亂 みだる(亂)ト云フニ同ジ。源、十七、繪合「打ちみだれテ[illegible]モ」

うちみだれ (名) 打亂 前前條ノ(二)ヲ見ヨ。

うちみづ (名) 打水 塵ヲシヅメ、涼氣ヲ取ル等ノ爲ニ、地ニ打チ撒ク水。撒水。[illegible]

畫ハ露ニモアラヌニ、うち水ノ、葉末ニトマリシヲ」

うちみ・る (動) [打見] 見ルト云フニ同ジ。古事記、上四十二長歌「宇知微流、島ノサキザキ」

うちむさう (名) [内無雙] 相撲ノ手ノ名。むさう(無雙)ノ條ヲ見ヨ。

うちむろづくり (名) [内室造] 〔うちむろハ、空室ノ轉カト云フ、うつもも、うちもも(内股)〕 家ノ建築ニ、屋根裏ノママニテ、天井ヲ張ラヌモノ。紫宸殿、清涼殿、神社、寺院ノ金堂ナド、此制、多シ、古ノ遺ナリ。いちむろづくり。紙上蜃氣(寛政、溝口林卿)「内室造」

〔**うちめ** (名) [打目] 絹帛ノ打物ノ、槌ニテ打チタル痕。宇津保物語、藏開、中二「皆練重、云云、色香、うちめ、世ニナクメデタシ」

うちもの (名) [打物] (一)敵ヲ打切ル、太刀、刀類ノ武器。短兵。盛衰記、廿九、源氏軍配分事「弓矢取リテモ、打物取リテモ」 (二)打チ鍛ヘテ作リタル金類ノ器。(鑄物ニ對シテ云フ) 用明天皇職人鑑(寶永、近松作)職人盡「鍛冶屋、云云、相槌モ打チニ打物、モトハ燒刃ノ燒物ナレバ」 (三)絹帛ヲ、槌ニテ打チテ、光澤ヲ生ゼシメタルモノ。後ニ、板引トナリテモ、舊名ヲ稱シタルガ如シ。榮花物語、三十一、殿上花見「織物、うちもの、錦、繍物ナド」同、三十六、根合「打物、織物、村濃ナド、心心ニ、イトヲカシ」枕草子、二、廿段「紅ノイトツヤヤカナル袿」(打衣ヲ云フ) (四)樂器ノ、手ニテ打ツモノ。卽チ、鼓ノ類。新儀式「承香殿西簾下、不レ立二鼓所一、打物皆有二其間一」 (五)乾菓子ニ、みぢんこニ砂糖ヲ加ヘ、模ニ打チ込ミテ作レルモノ。

うちものし (名) [打物師] 打物ノ(一)ヲ作ル工。鍛匠。

〔**うちもも** (名) [内股] ウチアハセ。うつもも。股ノ内側。兩股ノ間。ウチマタ。名義抄「股、ウチモモ」

うちやう (名) [有頂] 次條ヲ見ヨ。

うちやうてん (名) [有頂天] (一)佛說ニ、九天ノ中ノ、最上ノ天。有頂トノミモ云フ。太平記、十九、靑野原軍事「水輪湧キテ、世界悉ク有頂天ニ飜ヘラムモ、カクヤト覺ユルバカリナリ」法華經、序品「從二阿鼻獄一、上至二有頂一」榮花物語、三十、鶴林「此娑婆世界ハ、云云、天上ノ樂シミモ、五衰早ク來リ、乃至、有頂モ、輪廻、期ナシ」 (二)有頂天ニ上リツムル意ヨリ轉ジテ、一心、好ム所ニ趣キテ、他事ニハ、ウハノソラナルコト。東海道名所記(萬治)一「三味線ヲ調ベテ、一曲ヲ唄ヘバ、生ナガラ有頂天ニナリテ」後日男「タハケガ心ヲうちやうてんニシテ、筒モタセト出テ、金銀ヲネダリ取リ」(嬉遊笑覽)

うぢやしろ (名) [氏社] 〔天津神ノ社ヲ天津社、氏神ノ子ヲ氏子ト云フガ如シ〕 氏神ノ社。盛衰記、三十六、平家延暦寺願書事「藤氏者、以二春日社興福寺一爲二氏社氏寺一」

うちや・る・ル・レ・ラ・リ・レ (他動、四) [打遣] (一)遣ル。源、二十六、常夏十六「腕ヲ枕ニテ、うちやられタル御髪」 (二)捨テ置ク。ウッチャル。措 放下

うちゆうじやう (名) [右中將] 右近衞府ノ中將。

うちゆうべん (名) [右中辨] ナカノオホトモヒ。官名、辨ノ條ヲ見ヨ。

〔**うちよする** (枕) [打緣流] 〔打ち動搖るノ轉、(足結、あよひ。歩ぶ、あよぶ)駿河ハ、動搖る河ノ略ニテ、(そゑまとて、)富士川ノ事ナルベク、急流ニテ、水勢動搖るヨリ云フナルベシト云フ、(大神景井ノ說、萬葉集古義枕詞解)今昔物語、三十、第十四語「朝モヨヒ、紀ノ川ゆすり、行ク水ノ」うちえするハ、よするノ轉(稗鳥、ひよどり。萌葱、もよぎ)〕 駿河ノ枕詞。又、うちえする。萬葉集、三廿七長歌「ナマヨミノ、甲斐ノ國、打緣流、駿河ノ國」同、廿一「宇知江須流、駿河ノ嶺ラハ」

うちら (名) [内] 〔うちうらノ約〕 内。又、家。

〔**うちろんぎ** (名) [内論議] 古ヘ正月十四日、御齋會結願ノ日、宮中ニテ、經文ノ意義ヲ討論スルコト。掃部司式「御齋會終日、設二論義僧座於内裏御前一」西宮記、正月、御齋會「内論議(舊例、僧綱以二論議文一、付二内侍一)公卿著二右近陣一」

うちわ (名) [内輪] 〔内曲ノ義〕 (一)家族、親族ノ内ノ事。(二)外人ニ示サヌコト。ウチウチ。ナイナイ。(三)ウチバ。ヒカヘメ。

うちわけ (名) [打分] 碁ヲ二番打チ、雙方、一勝一敗ニシテ、勝負ナシトナルコト。

うちわけ (名) [内分] (一)總締高ノ内ヲ、小分スルコト。內譯。(二)本家ノ知行ノ内ヲ、末家ニ分ケテ、尙、全ク獨立セシメズ、本家、其全高ノ名義ヲ稱シテ居ルコト。

うちわす・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ (他動、下二) [打忘] わする(忘)ト云フニ同ジ。「父母ノ言ヲ、うちわすれテ」

うちわた (名) [打綿] 繰綿ヲ、綿弓ニテ打チワケタルモノ。綿毳。

うちわたし (名) [内渡] 金高ノ内ノ一部ヲ渡スコト。

〔**うちわた・す**・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) [打渡] (一)渡ス。「橋ヲ打渡す」 (二)見渡ス。此語、打ちニ意ナシ、わたすト云ヒテ、見遣ルコトナリ。(拾遺集、十七、雜秋「船岡ノ、野中ニ立テル、女郎花、わたさヌ人ハ、アラジトゾ思フ」) 萬葉集、四五十「打渡、竹田ノ原ニ、鳴ク鶴ノ」古今集、十九、旋頭歌「うちわたす、遠方人ニ、物申ス」俊成五社百首「都ヨリ、伏見ヲ出ヅル、明方ハ、マヅ打渡す、櫃川ノ橋」

うちわたり (名) [内邊] 大内。內裏。狹衣、四、中三十七「内わたりノ宮仕ヘヨリモ、マヅマヅト、參リツドヒタマヒツツ」

うちわに (名) [内鰐] わにあしノ條ヲ見ヨ。

うちわもめ (名) [内輪揉] 家族、親族、身方同志ノアラソヒ。內訌

うちを (名) [打緒] うちひもニ同ジ。

うちをさめ (名) [打納] 〔太鼓ヲ打ちて、納ムルナリ〕 演劇ナド、行ヒ終フルコト。ウチアゲ。ウチダシ。千秋樂。「芝居ノうちをさめ」

〔**うつ** (名) [珍] うづ(珍)ニ同ジ。其條ヲ見ヨ。

うつ (名) [鬱] 鬱陶シキコト。氣ノ、フサグコト。「鬱ヲ散ズ」

う・つ・ツ・テ・タ・チ・テ (他動、四) [打擊] (一)〔强ク當ツ。タタク。ブツ。古事記、下(允恭)廿長歌「篠葉ニ、宇都ヤ霰ノ、タシダシニ、寢ネテム後ハ」 (二)〔打チテ、火ヲ出ス。景行紀、四十年十月「王(日本武尊)知レ被レ欺、則以レ燧出レ火之、向燒而得レ免」 (三)〔打チテ、鳴ラス。敲ク。

萬葉集、四 二十二「諸人ヲ、寐ヨトノ鐘ハ、打つナレド、君ヲシ思ヘバ、イネガテヌカモ」「半鐘ヲ打つ」(四)〔鍛ニテ、タタキコム。〕釘 古事記、下(允恭)二十二長歌「コモリクノ、ハツセノ河ノ、上ツ瀬ニ、伊久比ヲ宇知、下ツ瀬ニ、麻久比ヲ宇知」「釘ヲ打つ」(五)〔釘ニテ、打チ付ク。〕平家物語、一、額打論事「東大寺ノ額ヲうつ、云云、興福寺ノガクヲうつ」徒然草、百六十段「門ニ額カクルヲ、うつトイフハ、ヨカラヌニヤ、勘解由小路二品禪門ハ、額カクルト宣ヒキ」「制札ヲ打つ」(六)〔墨繩ヲツカフ。〕萬葉集、十一 三十三長歌「飛驒人ノ、打つ墨繩ノ」(七)スキカヘス。耕ス。 素性法師集「三月ニ、田うつヲ」「畠ヲ打つ」(八)タタキ延ベテ、作ル。「箔ヲ打つ」(九)取リ着ク。着ク。「鍬形打タル兜」「紋所ヲ打つ」(十)〔斬ル。〕殺ス。擊 古事記、中(神武)長歌「クブツツイ、石ツツイ持チ、宇知テシヤマン、云云、クブツツイ、石ツツイ持チ、イマ宇多バヨラシ」「首ヲ打つ」「仇ヲうつ」(十一)〔攻ム。襲フ。征伐ス。〕伐 討 欽明紀、五年二月「唯應ニ克滅ニ多羅、撲ニ強敵一」「敵ヲ打つ」「謀叛人ヲ討つ」(十二)放ツ。發ス。發射 「鐵砲ヲ打つ」(十三)射中テテ、殺ス。擊殺 「鳥ヲ打つ」(十四)騎ル。(打乘ル意カ) 名目抄「鞍 折、御幸之時、馬打つ様」「前ヲ打つ」「騎打」(十五)綿弓ニテ、彈キ分ク。彈 「綿ヲ打つ」(十六)批難ス。詰ル。批 (十七)鍛ヘ作ル。鍛 唐船噺今國性爺(享保、近松作)中「秘密ヲ盡クシ打つ劔」「刀ヲ打つ」(十八)〔構フ。張ル。〕構 宇津保物語、藤原君「賀茂川ノ邊ニ、サジキうちテ」「幕ヲ打つ」「假屋ヲ打つ」(十九)〔打チック。〕投グ。投 宇津保物語、藏開、中 四十二「南ノオトドヨリ、柑子ヲ一ツ投ゲテ、大將ヲうつ人アリ」「石ヲ打つ」「飛礫ヲ打つ」(二十)組ム。編ム。組 「紐ヲ打つ」「打紐」「マルうち」「ヒラうち」(廿一)搦ムル。「罪人ニ繩ヲ打つ」(廿二)撒ク。投ゲ下ダス。撒 狂言記、文相撲「…ヲナサレウホトニ、カカリヘ水ヲうたセテオケ」「網ヲ打つ」(廿三)據地ニ、竿、繩ニテ、段別ヲ量ル。丈量 (廿四)〔博奕、碁、雙六ナドヲ爲ス。〕博 源、三、空蟬 三「碁うたセ給フ」(廿五)蕎麥切、饂飩ナド作ル。(廿六)打金ヲスル。(打金ノ條、見合スベシ) (廿七)芝居、見世物ヲ興行ス(太鼓ヲ打つナリ) 開場 (廿八)締メ切ル。閉ヅ。閉 「城戸ヲ打つ」「大門ヲ打つ」(廿九)送ル。發 「電報ヲ打つ」(三十)他ノ動詞ノ上ニ、熟語トシテ、意ナク、或ハ、稍、意ヲ強クシテ用ヰル。「打ち通ル」「打ち任ス」「打ち開ク」「打ち絶ユ」「打ち出ヅ」「打ち忘ル」「打ち亂ル」「打ち續ク」「打ち開ク」「打ち遣ル」「打ち急グ」「打ち渡ス」

う・つ・ツ・テ・タ・チ・テ(他動、四) 決 サダム。決ス。 孝德紀、二年三月「若違ヘバ所レ誨、次官以上降ニ其爵位一、主典以下決ニ其笞杖一」天武紀、下、十一年十一月「當レ杖色、乃杖一百以下、節級決之」

う・つ・ツル・ツレ・テ・テ・テヨ(自動、下二) 〔擊つノ受身ノ擊たるノ、約リテ、一ノ自動詞トナレルモノ、(口語ハ、うてる)措かるノ、後るトナルト、趣ヲ同ジウスル語ナリ〕 (一)〔氣壓サル。〕弱ル。壓シ倒サル。負クル。所壓倒 所壓 源順集「言葉ハ、強ク見ユレド、相撲草、露ニハうつる、モノニザリケル」金葉集、十、連歌「取ル手ニハ、ハカナクうつる、花ナレド、引クニハ強キ、相撲草カナ」六帖、一「深ケシ夜ノ、行合ヒノ霜ニ、うてシカド、ナド身ニ寒ク、アタラザリケム」盛衰記、三十四、東國兵馬汰事「磨墨ニモ勝ル生唼ニ逢ヒタレバ、無下ニうてテゾ見エタリケル」(磨墨、生唼、共ニ名馬ノ名) 著聞集、十六、興言利口「壇光坊、相撲、今一度取ラムトテ、又寄合ヒテ取ルニ、此ノタビハ壇光うてニケリ」太平記、十三、時行滅亡事「大佛殿ノ棟梁、微塵ニ折レテ、云云、五百餘人、一人モ殘ラズ、壓ニうてテ死ニケリ」(二)神ニ罰セラル。平家物語、十二、土佐坊事「イカニ土佐坊、起請ニハ早クモうてタルゾカシ」(起請文ニ背キテ捕ヘラレタルナリ) 宇治拾遺、二ノ、第八條、鳥ニ矢ヲシカケラレ「此ノ鳥ハ、式神ニコソアリケレ、云云、オノレ只今、式ニうてテ、死ニ侍リヌ」

う・つ・ツル・ツレ・テ・テ・テヨ(他動、下二) 棄 棄つニ同ジ。ウツル。フツ。 神代紀、上 卅二「吹棄氣噴之狹霧」神功紀、元年三月「解レ刀投レ於河水ニ」高光集「ソラダキモノ、云云、橘ノナリタル枝ニ、實ヲ取リうつテ、ソレニ入レテタテマタス」衣笠、下、光仁「人皆僻事ト思ヒテ、殿下ヲ追ヒうつ中シテ後、云云」

うつ (接頭) 空 ウツロナル。字類抄、空、ウツ」「空穗木」

うづ (名) 珍 〔嚴ト通ズ、うな、いな。(魚)うだく、いだく。(抱)玉篇「珍、貴也、美也、重也」〕高ク、嚴シキコト。貴ク、愛デタキコト。うつ。 神代紀、上「伊弉諾尊曰、吾欲レ生ニ御宇之珍子一」珍、此云ニ于圖ニ」新年祭祝詞「宇豆ノ幣帛」萬葉集、六 廿長歌「天皇朕、宇頭ノ御手以チ、搔キ撫テゾ、勞ギタマフ」大殿祭祝詞「皇 我ガ字都ノ御子、皇御孫命」

うづ (名) 渦 〔埋水ノ略、(海水、うなづ)水勢烈シキ時ハ、凹ニナレバ云フナルベシ〕(一)水ノ、流ル勢ニ因リテ、一處ニ卷キ廻ルコト。 播磨風土記、揖保郡、石海里、宇頭川「有ニ紋水之淵ニ、故曰ニ 萬葉集、十五「鳴門ノ宇頭潮」(二)スベテ物ノ文ニ、渦ニ似タルモノ。ウヅマキ。(三)うづわがつをノ略。

うづ (名) 烏頭 古名、おう。 鳥兜菊ノ根塊ノ名、いもがしらノ如シ、周ニ付ク子ヲ、附子ト云フ、いものこノ如シ。春、附子ヲ植ヱテ、子ヲ生ズレバ、子ハ大キクナリ、母ハ小サクナリテ、鳥ノ頭ノ如シ、皆、藥用トス、大毒ナリ。 倭名抄、十二 烏頭、附子、似ニ烏頭、頭之烏頭云云、八月

うつ-あし (名) 腕 〔内脚ノ轉、裏脚ノ意カ〕……(以下判読不能)

うづ-あめ (名) 渦飴 固飴ノ、白キト、赤キトヲ卷キテ、橫切リニシタルモノ、其切口、白赤ノ渦ヲナス。

うつ-いうびやう (名) 鬱憂病 キヤミ。

うつ-いふ (名) 鬱悒 イブセキコト。氣ノフサグコト。 司馬遷、報ニ任安一書「鬱悒而誰與語」

うつ-う (名) 鬱紆 (一)心ガ結ボレテ、舒ビザルコト。 (二)山路ノ、廻リテ、ト

うつ-うつ-と (副) 鬱鬱 氣、コモリテ、心、フサギテ。 史記、淮陰侯傳「居常鬱鬱」東ト、安能鬱鬱久居ニ此乎一」「鬱鬱とシテ樂シマズ」

うづ-かひ (名) 鵜使 鵜飼ニ同ジ。其條ヲ見ヨ。

うっ-かり (副) 浮 〔うかノ音便、ひた、ひたりし〕ウカト。ウカリト。ウカウカ。

うっ-き (名) 鬱氣 籠リテ、開ケヌ氣。フサグ心。「鬱氣ヲ散ズ」

うつ-ぎ (名) 空木 (一)〔灌木ノ名。高サ六七尺、幹中、空ニシテ堅シ、木質、木釘トス、枝、葉、對生シテ、葉ハ、細ツク狹ク、綠ニシテ、鋸齒アリ、夏ノ初ニ、五瓣ノ白花、五六寸ノ穗ヲナシテ開ク、うのはなト云フ、(水晶花) 實、黑クシテ

小サシ、又、千葉ノモノ、重瓣ノモノ、紅花ノモノ等アリ。溲疏　本草和名、下九「楊櫨木、空疏、宇都岐」倭名抄、廿十二「溲疏、楊櫨、宇豆木」

(二)はまねうつぎノ略。

うづき（名）【卯月】〔植月ノ義、稻種ヲ植うる月、むつき（睦月）ノ語原ヲ見ヨ〕陰暦、四月ノ稱。神武紀、三「四月」日本紀通證、八「種月也、播稻種之義」古事記、中（仲哀）三六十「當四月之上旬」夫木抄、七「今見レバ、うゑ月近ミ、我ガ門ノ、早稻田ノ苗ハ、ミギハ生ヒニケリ」

うづきのはな（名）【卯月花】うのはなノ(一)ニ同ジ。（歌詞）續千載集、三、夏「神祭ル、卯月の花モ、咲キニケリ、山時鳥、ユフカケテ鳴ケ」

うづきばな（名）【卯月花】あゃくなげニ同ジ。（伊勢）

うつ・く・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ（自動、下二）【空】〔空ヲ活用ス〕(一)中、空ニナル。神功攝政前紀、注「譬如鹿角、以無實國也」異本、枕草子、廿二段「水ナシノ池コソ、アヤシウ、ナドカラうけタラムト問ヒシカバ」字類抄「空、虛、ウツケタリ、樹心空、身未搖」(二)心、茫然トシテアリ。倥侗　顯宗紀、二年八月「氣力衰邁、老耄虛羸」遊仙窟「心虛」

うづ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ（自動、四）【疼】【痠痛】動キヒヒラグ如クニ痛ム、上略シテ、ヅキヅキ痛ム。字類抄「膿、ウヅク」發心集、四、第二條、永心法橋「うづきヒヒラギ、身モホトボリテ」著聞集、十二、偸盜、盜人、禁メラレテ、歌「ハサマレテ、足ハうづき（名詞形、卯月ニカク）ノ、時鳥、泣キハ居レドモ、問フ人モナシ」

うつくし（名）つくつくぼうしょ（寒蟬）ノ條ヲ見ヨ。

うつくし（名）【愛】〔次條ノ名詞形、又、美しき意トナル〕イックシキコト。ウックシキコト。愛ラシキコト。カハユラシキコト。萬葉集、四二十長歌「物部ノ、八十伴緖ト、出行シ、愛し夫ハ、天トブヤ、輕ノ路」同、十一七「月見レバ、國ハ同ジゾ、山隔リ、愛し妹ガ、隔リタルカモ」字鏡廿九「娃、美女貌、宇豆久志乎美奈」

うつくし・シキ・シケレ・シク・シク（形、二）【愛】「逸奇しノ轉音、稜威靈ノ義」イックシ。愛ラシ。カハユラシ。萬葉集、五七長歌「メコ見レバ、メグシ宇都久志」齊明紀、四年十月、長歌「于都倶之枳、アガ若キ子ヲ、オキテカ行カム」土佐日記、正月七日「歌、云云、トナン詠メル、カクハ云フモノカ、うつくしけれバニヤアラム」

うつく・し・シキ・シケレ・シク・シク（形、二）【美】〔前條ノ語意ヨリ出デテ、美ムル義トナル〕(一)〔ウルハシ。アテヤカナリ。ツヤヤカナリ。奇麗ナリ。竹取物語「三寸バカリナル人、イトうつくしうテ居タリ」 陸信集「梅ノ花、云云、うつくしく咲キタル枝ドモ、折リテ」榮花物語、一、月宴「ウチフルマヒ入ラセ給フホド、イトうつくしけれバ、アナうつくしヤナド、メデキコユ」(二)〔心、ウルハシ。心、リッパナリ。萬葉集、十四五廿「橘ノ、コハノハナリガ、思フナム、己許呂宇都久志、イデ吾レハイカナ」(三)イサギヨシ。サッパリトシタリ。三世相錦繡文草（萬延、柳水亭種清）「厭キタニヨッテ、うつくしう別レテクダンセ」

うつくしが・る・ル・レ・ラ・リ・レ（他動、四）【愛】愛ラシト思フ。カハユガル。枕草子、六、五十段、口をしき物「松君ノ、ヲカシウ物ノ給フヲ、誰レモ誰レモ、うつくしがり聞エ給フ」

うつくしげ（副）【愛氣】愛ラシキサマ。カハユラシキフウ。源、一、桐壺二十六「名ダカウオハスル宮ノ御カタチニモ、猶ニホハシサハ、譬ヘンカタナク、うつくしげナルヲ」同、四、夕顔四十八「亂レカキ給ヘル、イトうつくしげナリ」

うつくしび（名）【慈愛】【恩惠】〔次條ノ語ノ名詞形〕メグムコト。アハレムコト。神功紀、五十一年三月「如朕存者、敦加恩惠」

うつくし・ぶ・ブ・ベ・バ・ビ・ベ（他動、四）【慈愛】【恩惠】次次條ニ同ジ。名義抄「仁、惠、ウツクシブ、メグム」

うつくしみ（名）【慈愛】【恩】〔次條ノ語ノ名詞形〕(一)ウックシムコト。カハユガルコト。源、十三、明石五「深キ御うつくしみ、大八洲ニアマネク」(二)メグムコト。アハレムコト。崇神紀、七年二月「豈亦夢教之、以畢二神恩」神功紀、五十一年三月「啓曰、貴國鴻恩、重於天地、何日何時、敢有忘哉」

うつくし・む・ム・メ・マ・ミ・メ（他動、四）【慈愛】いつくしむニ同ジ。ウックシブ。カハユガル。枕草子、八、七十四段、うつくしき物「ヲカシゲナル兒ノ、アカラサマニ抱キテ、うつくしむホドニ、カイツキテ寐入リタル」宇津保物語、俊蔭一四十「見ル人、抱キうつくしみテ」

うつくしよし（名）つくつくぼうしょ（寒蟬）ノ條ヲ見ヨ。

うっくつ（名）【鬱屈】氣ノ、イブセク、閉ヅルコト。韓愈詩「開籠聽其去、鬱屈尙不平」

うづくま・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）【蹲踞】〔埋隱ノ義カ〕膝ヲ折リテ座ス。箋異記、下、十八緣「踞、訓注、ウヅクマリヲリ」著聞集、十六、興言利口「うづくまりテ居タリケルヲ見レバ」

うつけ（名）【空】(一)空クルコト。(二)心ノ、茫然シタルコト。タハケ。倥侗　うつけ者ハ、痴者。愚者。オロカモノ。痴漢　かたまと（慶安）三、山崎宗鑑ノ入門樣ノ歌（天文頃）「カシマシヤ、此里過ギヨ、ホトトギス、都ノうつけ、サコソ待ツラメ」

うつ・け（動）【空】うつく（空）ヲ見ヨ。

うっけつ（名）【鬱結】(一)氣、暢ビズシテ、結ボルルコト。莊子、在宥篇「天氣不和、地氣鬱結」(二)不審。疑團　明衡往來、中、末「可散鬱結事、明月峽、件峽、月光照曜、過於他所哉、將、明月之夜、掉舟過之歟」

うっけつ（名）【鬱血】血液ノ、局部ニ停滯スルコト。

うつけもの（名）【空者】うつけノ(二)ヲ見ヨ。

うづこ（代）【何處】いづこノ古音。ドコ。景行紀、二十七年十月「吾得善射者、欲與行、其何處有善射者」

うっさうと（副）【鬱蒼】繁リコモリテ、アヲアヲト。「樹木鬱蒼とシテ」

うっさん（名）【鬱散】鬱氣ヲ散ズルコト。ウサハラシ。キバラシ。排鬱　消遣

うつし（名）【移】(一)移スコト。(二)〔物ノ色ヲ取リテ、物ヲ染ムルコト。萬葉集、七三十五「秋サラバ、影モセムト、我ガ蒔キシ、カラアヰノ花ヲ、誰レカ摘ミケム」(三)〔物ノ香ヲ、物ヘ移スコト。枕草子、一、第四段「菊、云云、覆ヒタル綿ナドモ、イタク濡レ、うつしノ香モ、モテハヤサレタル」宇津保物語、藏開、中「綾ノ袴、柳ガサネナド、云云、今日ノうつしハ麝香、薰物、薰衣香、物ゴトニシカクシタリ」(四)〔移花ノ略。(五)〔移馬ノ略。(六)〔移鞍ノ略。

うつし（名）【寫】(一)寫スコト。寫シタル書畫。寫本　謄本「戶籍ノうつし」(二)或ル品ニ擬ヘテ、其形ヲ造リタルモノ。模造品

うつ・し・シキ・シケレ・シク・シク（形、二）【顯】【現】〔うつつノ活用〕顯ナリ。ゲニゲニシ。現在ナリ。生キテアリ。神代紀、上廿「顯見蒼生」顯見、于都志枳「私記「顯見者、現在之義也」萬葉集、四五十六「僞リモ、似付キテゾスル、打布モ、眞吾妹兒、吾レニ戀ヒメヤ」

うつしいろ (名) [移色] 移花ニテ染メタル色。[illegible]「うつし色ナル織物ヲ著タリ」

うつしうま (名) [移馬] (官人、公事ニテ乘用ノ時、其所屬ノ本司ヨリ、其旨ヲ馬寮ニ移牒シテ、給セラルルヨリノ名カト云フ(後松日記、十一)) 官人、供奉ナドノ時、馬寮ヨリ、其乘用ニ給セラルル馬。ノリカヘノウマ。副馬。コレニ用ヰル鞍ヲ、移鞍ト云フ。移馬、移鞍、共ニ略シテ、うつしトモ云フ。又、私有ノモノニツキテモ、自乘ノ用ナラズ、人ニ給スルニハ云ヘリト見ユ。 西宮記、臨時、四、上「東宮行啓、公卿已下帶刀兵移馬」[illegible]「中將、うつしニ乘リテ、車ノ轅近ウ添ヒテ立ツ」 倭名抄、十五「[illegible]移鞍」[illegible]下、移、左右近將[illegible]一人、用[illegible]移、近代[illegible]之[illegible]、御[illegible]ノ御馬ノ中ニ、[illegible]乘レトモ皆ナカルベキ御馬、うつし[illegible]カセテタマヘ」宇治拾遺、五、第二條[illegible]ヘ、殿上人廿人許押寄セタリケルニ、云云、皆ニ[illegible]馬廿疋、各ニ馬ニうつしノ鞍置キテ、乘セテ迎シニケリ(衍文)

うつしがみ (名) [移紙] うつしばなノ條ヲ見ヨ。

うつしぐさ (名) [移草] (移花ニスル故ノ名) つきくさ、つゆくさノ一名。

うつしぐら (名) [移鞍] うつしうまノ條ヲ見ヨ。

うつしごころ (名) [現心] (一)現シキ心。うつつごころ。生キタルココチ。正氣。 萬葉集、十一「健男ノ、現心モ、我レハ無シ、夜晝ト云ハズ、戀シワタレバ」(二)ウツリギゴコロ。カハルココロ。ウツリギ。 萬葉集、十二「ウチ日サス、宮ニハアレド、月草ノ、移ロフ情ハ、我ガ思ハナクニ」 古今集、十四、戀、四「イデ人ハ、コトノミゾヨキ、月草ノ、うつし心ハ、アヒモ思ハズ」

うつしざま (名) [現樣] 現シキサマ。正氣ナルサマ。 源、十、賢木「世ヲモテ鎭メ給フ御心、皆亂レテ、うつしざまニモアラズ」

うつしばな (名) [移花] (色ヲ移す意) 鴨頭草ノ花ノ汁ヲ、紙ニ染メテ置クモノ、染料トス。略シテ、うつし。移紙トモ云フ。(あをがみノ條ヲ併セ見ヨ) 萬葉集、八「[illegible]秋ノ露ハ、移ニナリケリ、水鳥ノ、青葉ノ山ノ、色ヅク見レバ」 江家次第、五、興宗寺最勝會「鴨頭草移二帖」 吾妻鏡、十二、建久三年十二月廿日「移花十五枚」

うつしぶみ (名) [移文] (漢語、移牒ヲ訓讀シタル語ナルカ) 八省諸司ニテ、本司ノ檢校スベキニアラヌ事件ヲ、其所屬ノ司ニ言送ル文書。移。移牒

うづしほ (名) [渦潮] 渦卷ク潮。 萬葉集、十五「コレヤコノ、名ニ負フ鳴門ノ、宇頭之保ニ、玉藻刈ルトフ、海人少女ドモ」

うつしみ (名) [現身] うつせみ(宇都勢美)ノ條ヲ見ヨ。

うつしもの (名) [寫物] 或ル書ノ文ヲ寫シ取ルコト。

うつしゑ (名) [寫繪] (其景色ナド、寫シ取レル意) 繪ト云フニ同ジ。 廻國雜記(文明)「うつし繪ノ、扇ガ谷ヤ、是レナラム、月ハ海原、雪ハ富士ノ嶺」

うつしゑ (名) [映繪] かげゑニ同ジ。

うつ・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) [移] (移るノ他動、とほる、とほす。(透)かへる、かへす(歸)) (一)コレヲ、カレニ變フ。[illegible]ヲ移す」 (二)[ココヨリ、カシコヘ、置キ[illegible] 遷 [illegible] (三)物ノ色ヲ取リテ、染ムル。 拾遺集、十七、雜秋「秋ノ野ノ、花ノ色色、取リスベテ、我ガ衣手ニ、うつしテシガナ」 (四)[病ニ染マシム。傳染 枕草子、十二、百五十六段、いひにくきもの「モノノケニイタウ惱ム人ニヤ、うつすベキ人トテ、大キヤカナル童ノ」 (五)過ゴス。歷シム。過 徒然草、百二十三段「無益ナル事ヲシテ、時ヲうつすヲ、愚カナル人トモ、ヒガゴトスル人トモ云フベシ」

うつ・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) [寫] (字ヲ移す意) (一)他ノ文字、畫圖ヲ、別ニ書キ取ル。 佛足石歌「釋迦ノミアト、石ニ宇都志オキ、ユキメグリ、敬ヒマツリ、吾ガヨハヲヘン」 天治字鏡、二[illegible]「摹、寫也、志太加太於支天宇[illegible]」 (二)物ノ形、又、音ニ擬ヘテ作ル。模造 源、十四、澪標「源氏ノ大納言ノ御顏ヲ、二ツニうつシタランヤウニ見エ給フ」 十訓抄、下、第十、六十三條「師消トイフ人ヲ召シテ、此聲ヲ、琴ノ音ニうつし給フ」

うつ・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) [映] (影ヲ移す意) カシコノ影ヲ、ココニ見ス。 榮花物語、四十、紫野「御室ニハ、故院ノ御影ヲカキ奉リタリ、似サセ給ハネド、御直衣姿ニテ、御脇息ニオシカカリテオハシマス、イトアハレナリ、云云、中納言殿ノ「イカニシテ、うつしトメケム、雲居ニテ、アカズカクレシ、月ノヒカリヲ」

うっ・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ (自動、左變) [鬱] コモル。打チ開ケズ。心、フサグ。

うっすら (副) 次條ニ同ジ。

うっすり (副) 薄ク。ウッスラ。「うっすり見エル」「うっすり染マル」

うつせがひ (名) [虛貝] (空伏介ノ略ニモアルカ、(上總、かづさ)せ(彪蹄子)ノ介ト云フハ、アラジ) (一)[海濱ニアル、肉ノ脫ケテ、空ニナレル貝ノ殼[illegible] ヒガタ[illegible] 萬葉集、十一「住江ノ、濱ニ寄ルチフ、打背貝、實ナキ言モテ、我レ戀ヒメヤモ」 萬、今昔物語、廿四、第四十二條「女房ニ御覽ゼサセムトテ、黑キ貝ドモヲ拾ヒテ、箱一具ニ入レテ、持チ上リタリケルニ、女[illegible]ノ、うつせがひ、今ハ何レノ、浦ニ寄ラマシ」[illegible]ツヅク、ちくさノ濱ノ、うつせがひ、濱サヘ秋ノ、色ニ出ニケリ」 (二)うつほがひ[illegible]ノ異名。 (三)[illegible]ノ異名。

うっせき (名) [鬱積] イブセキコト。心ノ、ムスボホルコト。氣ノ、フサグコト。[illegible]

うつせみ (名) [宇都勢美] (現身ノ轉ト云フ。(さしもぐさ、させもぐさ)空蟬ハ、借字ナリ、死シテ見エヌニ對シテ云フ、うつそみハ、再轉ナリ(せはせはし、そはそはし)) (一)現シク世ニ生キテアル身。世ニアリアリトシタル身。又、うつそみ。現身 萬葉集、十九、長歌「足引ノ、山ノ木末モ、云云、移ロヒ、モミヂ散リケリ、宇都勢美モ、カクノミナラシ、云云」 同、二十、長歌「空蟬シ、神ニ勝ヘネバ、離レ居テ、云云[illegible]」(天皇崩御、皇后ノ御歌) 同、一「空蟬ノ、命ヲ惜シミ」 同、二[illegible] 時ニ、春ニハ、花折リカザシ[illegible]ナリ」 (二)轉ジテ、此ノ世。現世 [illegible]集、三「打背貝ノ、世ノ事ナレバ」 同、八[illegible]ノ、人ナル我レヤ」 同[illegible]身ナレバ」(以上、命、世、人、身ト言ヒテ、事足レル所ニモ、うつせみノヲ冠スル事モ多ケレバ、枕詞ノ如ク見做サルルモアリ) 同、十二「空蟬之、常ノ辭ト、思ヘドモ」 同、十九、長歌「宇都曾美能、八十伴男ハ」

うつせみ (名) [空蟬] (前條ノ語ヲ、多ク

借字ニ、空蟬ト記スニ因リテ生ゼシ語、佐瑳ガ嶺ノ、細小蟹トナリシガ如シ」（二）蟬ノ蛻。セミノヌケガラ。古今集、十六、哀傷「うつ蟬ハ、殼ヲ見ツツモ、慰メツ、深草ノ山、煙ダニ立テ」源、九、空蟬「御シツラヒヨリ始メ、アリシニ變ハルコトモナケレド、うつせみノ空シキ心地ゾシタマフ」（三）轉ジテ、蟬。後撰集、四、夏「うつせみノ、聲聞クカラニ、物ゾ思フ、我レモ空シキ、世ニシ住マヘバ」

うつそみ（名）前前條ヲ見ヨ。

うづだいこん（名）渦大根　さんごぢゅなヲ見ヨ。

うったう（名）鬱陶　憂ヘ憤リテ、心ノ結ボルルコト。書經、五子之歌篇「鬱陶乎予心、顏厚有二忸怩一」楚辭、九辯「豈不二鬱陶而思一レ君兮」太平記、廿一、佐佐木道譽流刑事「是モ只公家ノ成敗ヲ輕忽ジ、山門ノ鬱陶ヲ嘲哢シタル翔ナリ」

うったう・し・シキ・シケレ・シク・シク（形、二）鬱陶（一）氣、籠リテ、開ケズ。心、フサギテ、晴レヤラズ。「天氣、鬱陶し」（二）煩ハシ。ウルサシ。

うづだか・し・キ・ケレ・ク・ク（形、二）堆〔珍高しノ義カ〕雄略紀、十五年、秦酒公「奉二獻庸調御調一也、絹縑充二積朝庭一、因賜レ姓曰二禹豆麻佐一」注「盈積之貌也」」盛リアガリテ、高シ。積リテ、高シ。宇治拾遺、三、第一條「皮籠、云云、うづだかく蓋掩ハレ」

うった・ふ・フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ（他動、下二）訴〔うたふノ音便〕（一）〔うたふ。事ノ、曲直、正邪ノ裁決、制止ヲ乞ハムト、尊上ニ告グ。訴訟ヲナス。名義抄「訟、ウッタフ、アラソフ」（二）申シ出ヅ。申告ス。出世景清（元祿、近松作）五「南都ノ大佛御再興マシマシ、既ニ成就ト云ふれバ、供養ノ報謝ニ、急ギ大赦ヲ行フベシト、云云」（三）解決ヲ求ム。「腕力ニ訴ふ」砲火ニ訴ふ」

うったへ（名）訴　ウッタフルコト。訴訟。

うつたへに（副）〔うつたへハ、全椊ノ義、駁ナキ椊ノ意、駁ナク純向ノ義ヨリ、一向ノ意ニ轉ジタリ、ト云フ說アレド、萬葉集ノ用字ノ、細布ニ就キテノ考ナルベキカ、是レハ、若シハ、打勝ノ轉ナラムト思フハ、イカニ、（打ハ、接頭語、內股、うつもも）たふ（勝）ノ條ヲ見ヨ、おとたへ（故）ト云フ語モアリ」（一）ウチツケニ。直接ニ。歌林良材集、上「うつたへニ、打つけト云フ心也」萬葉集、四十八「神樹ニモ、手ハ觸ルチフヲ、打細丹、人妻ト云ヘバ、觸レヌモノカモ」同、十九「打細爾、鳥ハ食マネド、繩延ヘテ、守ラマク欲シキ、梅ノ花カモ」（二）ヒタブルニ。ヒタスラ。八雲御抄、四「うつたへ、うちたへて　ナリ、偏ト云フ心也」土佐日記、二月五日「うつたへニ、忘レナムトニハアラデ、戀シキココチ、暫シ休メテ、又モ戀フルカニセムトナルベシ」源、三十、藤袴「蘭ノ花、云云、持タマヘレバ、うつたへニ思ヒモ寄ラデ、取リタマフ」忠見集「春雨ハ、降リソメニシカ、うつたへニ、山ヲ綠ニ、ナサムトヤ見シ」

うったへる（動）訴　うったふ（訴）ノ口語。

うづち（名）卯槌〔卯杖ノ語原ヲ見ヨ〕古へ、正月ノ上ノ卯ノ日ニ、卯杖ト同ジク、絲所ヨリ奉ルモノ。槌ト云フモノ、長サ三寸、廣サ一寸、形、四角ナリ、桃ノ木ニテ作ル、邪鬼ヲ伏セシムト云フ。(桃ノ條ヲ見ヨ)槌ニ、竪ニ孔ヲ貫キ、十筋、或ハ十五筋ノ五色ノ絲ヲ通シテ、垂ルルコト五尺ナリ、晝の御座ノ西南ニ懸ケラル、臣下ノ家ニモ造リテ、相贈ル。江家次第、二、卯杖「絲所進二卯槌一、藏人取レ之、結二附晝御帳ノ懸二角柱一、云云、槌末出五尺許、可レ用二桃木一、又、四方可レ削」枕草子、七、六十八段「桃ノ木、云云、うづちノ木ノヨカラム、伐リテオロセ」

うっちゃらか・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）打遣〔やる、やらかす。おひやる、おひやらかす〕次條ノ語ノ俗語。ナゲヤリニス。

うっちゃ・る・ル・レ・ラ・リ・レ（他動、四）〔打遣るノ約訛〕（一）投ゲ棄ツ。拋棄（二）打捨テオク。ナゲヤリニス。ウッチャラカス。放置「仕事ヲうっちゃッテオク」

うつつ（名）現〔原語ハ、うつニテ、（現しき）うつうつノ約、いよいよ、いよよ。はらはら、はららノ例、をつつハ、音通ナリ、うを、をを。(可笑)うめく、をめく（叫喚）」（一）〔又、をつつ。現シクアルコト。アリアリトアルコト。現在。（死、夢ナドニ對ス）神功攝政前紀、註「將二現授一レ之」萬葉集、四五十八「打作ニハ、更ニモ言ハズ、夢ニダニ、妹ガ袂ヲ、纏キ寐トシ見バ」同、十一廿二「現ニモ、夢ニモ吾レハ、思ハザリキ、舊リタル君ニ、ココニ會ハムトハ」（ふりたるハ、ふるなゐみナリ）俗ニ、うつつを脫すト云フハ、うつつナクナル、正氣ヲ失フ、夢中ニナル意ナリ。喪心　博多小女郎波枕（享保、近松作）上「ソリャコソ御敵ト色メイテ、毛剃ガ運ドモ現を拔かし、額ニ餘念ハナカリケリ」（二）〔又、マノアタリ。メノマヘ。萬葉集、五三十「神ナガラ、神サビ坐ス、奇魂、今ノ遠都豆ニ、尊キロカモ」同、十七三十四長歌「古ヘユ、今ノ乎都豆ニ、カクシコソ、見ル人ゴトニ、カケテ偲バメ」（三）ゆめ、うつつト續ケテ云フヨリ、誤リテ、ユメゴコチ。マボロシ。

うつ・つ・ツル・ツレ・テ・テ・テヨ（他動、下二）打棄〔打棄つノ約〕棄つニ同ジ。スツ。萬葉集、五八三十長歌「サバヘナス、騷ク兒等ヲ、宇都弖テハ、死ハ知ラズ、見ツツアレバ、心ハ燃エヌ」同、十一五廿「古衣、打棄シ人ハ、秋風ノ、立チ來ル時ニ、物思フモノゾ」

うつつごころ（名）現心　うつしごころノ（一）ニ同ジ。

うつつな・し・キ・ケレ・ク・ク（形、二）無現〔現心無しノ意カ〕本心失セテアリ。モノグルホシ。喪心　增鏡、十五、むら時雨、相模守高時「心バヘナドモ、イカニゾヤ、うつつなくテ、朝夕好ム事トテハ、犬喰、田樂ナドヲゾ愛シケル」伽羅先代萩（天明、松貫）四、類兼、高尾「中シ殿樣、ココガマウ御屋敷、現ない御姿デ、御家中ノ見ル目モ氣ノ毒、心ヲオチツケ遊バセ」

うつ・て（動）打棄　うつつ（打棄）ヲ見ヨ。

うって（名）討手〔討人ノ音便〕賊軍、罪人ナドヲ追捕スル兵。追手。追討兵　保元物語、二、爲義降參事「若シ京都ヨリ討手下ラバ、爲朝、一方承ッテ、思フ樣ニ合戰シテ」

うってかは・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）打變　全ク變ハル。ウラハラニナル。菅原傳授手習鑑（延享、竹田出雲）五「是マデ敵ト思ヒシ松王、打ってかはッタ所存ハイカニ、イブカシサヨ」

うってがへ（名）打手替　コレ、入リテ、カレ、退クコト。入リカハルコト。

うってつけ（名）打附　ヨクアテハマルコト。相當。適當

うって・でる・デル・デレ・デ・デ・デヨ（自動、下一）打出　進ミカカル。オシダス。

うってんばってん（名）雲泥萬里ノ訛。浮世風呂（文化、三馬）四編、下「オラガ若エ時代ノ行作トハ、雲泥萬里ノ違ダ」

うっとり（副）〔うっとハ、うとうとノ、う

と ノ音便」氣ヲ喪ヘル狀ニ云フ語。茫然。[illegible]、[illegible]ニアッケヲレ事主、[illegible]ナシ（コレハ、たはけものノ意ナリ）「うっとり見惚レル」

うつな・し・キ・ケレ・ク・ク（形、二）|決|〔疑無しノ轉カ、（礫、つぶて。假ぬ、うつつね）或ハ、決ち甚しノ轉カ、（股、うちもも）うつ（決）ノ條ヲ見ヨ〕疑ヒ無シ。タシカナリ。決定ナリ。皇極紀、二年十一月「其勢必之」同、四年六月「於今日明日立俟、其誅決矣」

うづな・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ（他動、四）|納受|〔珍ノ活用ナルベシ、諾なふ、誘なふ、占なふ、商なふ、玉篇「珍、重也」天治字鏡、三十「謝、聽也、宇豆須」うづのふハ、音轉ナリ、わななく、をののく（戰慄）〕可シトシタマフ。納受シタマフ。（神ニ云フ）續紀、四、和銅元年正月、武藏國、秩父郡、獻和銅詔「天ニ坐ス神、國ニ坐ス神ノ、相于豆奈比奉リ、福ハヘ奉ル事ニ依リテ、顯シク出デタル寶ニアルラシ」同、三十一、寶龜元年十月、卽位詔「天ニ坐ス神、地ニ坐ス祇、相宇豆奈比奉リ、相扶ケ奉ル事ニ依リテ、此座ニハ、平ラケク安ク御坐シマシテ」大嘗祭祝詞「皇神等、相宇豆乃比奉リテ」

うつぬき（名）|全拔|〔うつハ、空ノ意、全剝モブリ〕全ノママニ、拔キ取ルコト。マルヌキ。古事記、上、卅四「內拔天香山之眞男鹿之肩拔而」

うづの・ふ（動）|納受| 前前條ヲ見ヨ。

うつは（名）|器| 次次條ノ語ノ略。其條ヲ見ヨ。

うつはぎ（名）|全剝|〔うつハ、空ノ意〕全ノママニ、剝ギ取ルコト。マルハギ。神代紀、上、六十「全剝 天斑駒之皮以作天羽鞴」（全剝、此云宇都播伎）

うつはもの（名）|器物|〔空物ノ轉、ほどろ、はだれ。ほびこる、はびこる〕（一）略シテ、うつはトモ云フ。中、空ニシテ、物ヲ受ケ入ルベキ物。イレモノ。伊勢物語、廿三段「手ヅカラ飯匙取リテ、笥子ノうつはものニ盛リケルヲ見テ」倭名抄、十六、二「盌、之乃宇豆波毛乃」（二）轉ジテ、器具ノ總稱。什器。垂仁紀、二年十月、詔「黃牛負田器、將往田舍」（三）又轉ジテ、事ヲ受ケ入レテ堪フル才能。器量。安閑卽位前紀「天皇爲人、墻宇巖峻」四季物語、春「ヨカルベキうつはニハ、位ヲ昇セ」「宰相タルベキ器」

うつはり（名）|僞| いつはりニ同ジ。うつはるノ條ヲ見ヨ。允恭紀、四十二年十二月「知虛言皆原之」

うつばり（名）|梁|〔うちばりトモ云フ、內張ノ轉ニテ、屋根內ニテ柱頭ニ張リワタスモノノ意カ、うつもも、うちもも。（股）うつあし、うちあし（膕）〕今、略シテ、はりトノミ云フ。其條ヲ見ヨ。字鏡、四十二「梁、宇豆波利」倭名抄、十、十四「梁、宇都波利」顯宗卽位前紀「梁」三十二番職人歌合、二十五番、はりどの「雨ノ日ヲ、漏ラス八惜シキ、商ヒニ、うちばり廣キ、殿作リセム」

うつは・る（動）|僞| いつはる（自動）ノ條ヲ見ヨ。持統紀、三年五月「僞清白、詐求幸媚」

うつは・る（動）|僞| いつはる（他動）ノ條ヲ見ヨ。

うつぶき（名）|俯| うつむきニ同ジ。ウツブシ。六帖、三「ネブレドモ、袖ヒヅ川ノ、うつぶきニ、嬉シキ人ノ、影ナカリケリ」

うつぶ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ（自動、四）|俯|〔うつむくニ通ズ、かたむく、かたぶく〕うつむく（四段）ニ同ジ。ウツブス。宇治拾遺、十一、第八條「うつぶきテ居ルニ」

うつぶ・く・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ（他動、下二）|俯| うつむく（下二段）ニ同ジ。

うつぶけ（名）|俯| ウツムケ。丹波與作（寶永、近松作）中「背骨ヲドウト踏ミケレバ、うつぶけニカッパト伏シ」

うつぶし（名）|俯| うつむきニ同ジ。ウツブキ。竹取物語「うつぶしニ臥セリ」

うつぶしめ（名）|俯目| ウツブシニナリタルコト。フシメ。今鏡、下、第八、ふし・ば「オホイ殿ハ、フト心エテ、色モカハリテ、うつぶしめニナリ給ヘリケルホドニ」

うつぶ・す・ス・セ・サ・シ・セ（自動、四）|俯|〔俯き伏す意〕うつむく（四段）ニ同ジ。名義抄「俛、ウツブス」落窪物語、一、上「うつぶしナガラ見タマヘバ」宇治拾遺、十四、第七條「扇ヲ笏ニ取リテ、少シうつぶしテ、ウズクマリ居タリ」

うつぶ・す・スル・スレ・セ・セ・セヨ（他動、下二）|俯|〔前條ノ語ノ他動〕うつむく（下二段）ニ同ジ。

うつぶせ（名）|俯| ウツブスルコト。ウツムケ。古事談、一、王道后宮「餅入タル折櫃ヲ、餅ヲバ入レ乍隱之、うつぶせニ置キタリケレバ」

うっぷん（名）|鬱憤| 積レル、イキドホリ。晴レヌウラミ。太平記、柳超條「以鬱憤成疾」字類抄「鬱憤、ウップン、イキドホル」「鬱憤ヲ晴ラス」

うっぷるいのり（名）|十六島海苔|「出雲方言（大正五年刊）ニ、島名、うっぷりナリト云フ、朝鮮語ニおっぷりト云フ地名アリ、變化アリシ地ノ意ト云フ、關係アリヤ、懷橘談（承應）下ニ、露ヲ打振ふ意

ト云ヘルハ、イカガト云フ、十六ノ字ハ、十六善神、[illegible]ノ地ナリト傳ヘ、略シテ書スルナリト云フ、（同書）氏ニ、十二神ト云フモアリ」出雲國、簸川郡、十六島ニ產ズル、一種ノ紫菜。岩石ニッキテ、衣ノ如クナリタル、冬季ニ剝ギ取リテ、[illegible]、[illegible]マ、ニ乾ス、長サ二三尺ヨリ丈餘ニ及ブ、色、黑綠ニシテ、厚キ革ノ如ク、乾リ[illegible]ニ、味美ナリ。往時、獻上品ニハ、婦人ノ髮ノ如ク結束シタレバ、かもじのりノ名モアリ。[illegible]家記（吉田社家）應永六年六月十六日、[illegible]、云云、[illegible]物、うつら袖、十六島」

うっぺい（名）|鬱閉| コモリ、トヅルコト。莊子、刻意篇、水之性、云云、鬱閉而不流、亦不能清」

うつほ（名）|空|〔空洞ノ略カ、（そらね、そらぬ）名義抄「空、ウチホラ」〕（一）中ノ、空ナルコト。ウツロ。名義抄「空、ウツホ」蒙頌韻「閑、ウチホラ」廿二、下[illegible]「山吹ノ花、云云、うつほニテ、打チカケタマヘリ」下襲ナキヲ云ヘルカ）徒然草、[illegible]「晉書（江戶幕府）ノ手ブリハ、衣冠トスヘバ、多クうつほニテ、衣ナド重ヌルコトハ、知リタル人モナシ」（二）岩ノ洞。窟 字類抄「洞、ウツホ」宇津保物語、俊蔭「[illegible]、子ヲ育ミツレテ住ム、うつほナリケリ」（三）樹木ノ、朽チタル穴。倭名抄、廿「空木天河、木ノ宇豆保ノ木」[illegible]、二、下「木ノうつほナドニテ、[illegible]ヲ[illegible]、[illegible]ノ葉ヲタベテ」盛衰記、廿一、兵衛佐殿隱臥木事「兵衛佐ハ、軍兵散散ニ成テ、臥木ノ天河ニ隱レケリ、云云、大臘、臥木不審ナリ、空ニ入テ見セ、當其下下知シケル」（四）うつほぐさ（空草）ノ略。卽チ、葱。海人藻芥、下、女房詞「葱ハ、うつほ」

うつぼ（名）|空穗靭|〔空ノ、濁音トナリシ語カ、此器、內、空シ、寶ノ字ヲモ用ホ

ルハ、兵書ニ、楠正成ニ始マルト云フ、(壒嚢抄、一 十五)ウツホノ合字ナリ」(二)數手ノ矢ヲ納レテ、腰、背ニ負フ器。太キ筒ニテ、下ニ口アリ、矢ヲ倒サニ入レ、下ヘ拔出スヤウニ作レリ、外面ヲ毛皮ニテ包メルアリ、又、唯、黑漆ニシタルアリ。吾妻鏡、廿六、元仁元年二月廿九日「弓二張、羽壺二」(三)魚ノ名。形、はもニ似テ、頸、黃ニシテ、黑キ斑アリ、口、甚ダ小サクシテ、齒、甚ダ利シ、大キナルハ、長サ四五尺、徑、三寸ニ至ル、鱗ナシ。鱓魚

うつぼがひ (名) 靭貝 螺ノ類。形、かたつぶりノ殼ニ似テ、大キサ一二寸、淡褐色ニシテ、光ル。ウツセガヒ。ツベタガヒ。

うつほかもん (名) 空勘文 「人名ノ空位トナレル勘文ノ意」 女敍位ノ時、敍位スベキ人ナクシテ、唯、其名目ヲノミ載セタル申文。江家次第、三、女敍位「空勘文、自二後朱雀院御時一、不レ載二可レ敍之者一、只載二例許一、故稱二空勘文一」

うつほぎ (名) 空木 幹ノ朽チテ、空ヲ成セル樹。現存六帖「古枝ノ、節ノミ殘ル、うつほ木ノ、立テルモ淋シ、ハタノヤケ山」

うつほぐさ (名) 空草 「莖ノ中、空ナリ」 ねぎノ異名。葱 七十一番職人盡歌合、四十番、ひともじうり「モミヂセデ、秋モモエギノ、うつほぐさ、露ナキ玉ト、見ユル月カナ」

うつぼぐさ (名) 靭草 草ノ名。葉ハ、薄荷ニ似テ、少シ尖リ、莖、方ニシテ、高サ一尺、夏ノ半ニ穗ヲ出シテ、脣形ノ紫花ヲ開ク、形、靭ニ似タリ。滁州夏枯草

うつぼつと (副) 鬱勃 雲氣、意氣ナドノ、籠リタルガ、發動セムトスル狀ニ云フ語。漢武內傳「雲彩鬱勃、叢爲二香氣一」「雲氣、鬱勃とシテ起ル」意氣、鬱勃たり」

うつほばしら (名) 空柱 「中ノ空ナル柱ノ義」 箱樋ヲ、屋ノ隅ニ立テテ、雨水ヲ受ケシムルモノ。タテドヒ。專ラ、禁中ナル、殿上ノ間ノ前ニアルヲ云フ。平家物語、一、殿上闇討事「うつほばしらヨリ內、鈴ノ綱ノ邊ニ、袍衣ノ者ノ候フハ、何者ゾ」夫木抄、三十三、樋「シノブ分ケテ、うつほ柱ニ、カクル樋ハ、漏ルテフ水ノ、くちヤナカラム」

うつほぶね (名) 空舟 大木ヲ刳リテ作レル舟。うつろぶね。マルキブネ。獨木刳舟 平家物語、四、鵼事「カノ變化ノ物ヲバ、空舟ニ入レテ流サレケルトゾ聞コエシ」

うづまき (名) 渦卷 (一)水ノ、渦卷クコト。盤渦 後撰集、十七、雜、三「タギツ瀨ノ、うづまきゴトニ、認メ來レド、猶尋ネ來ル、世ノ憂目カナ」(二)線ノ、圓ク卷キメグリテ、渦ノ狀ヲナセル象。うづ。

うづま・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (自動、四) 渦卷 水、渦ヲナシテ、卷キメグル。盤渦 名義抄「洄澓、ウヅマク」 拾遺集、八、雜、上「川ノ瀨ノ、うづまく見レバ、玉藻刈ル、散リ亂レタル、河ノ船カモ」

うづまさがた (名) 太秦形 「山城國、太秦ノ廣隆寺ニアルモノヨリ名トス」 石燈籠ノ一種、火袋ニ梟、松竹ヲ彫レルモノ。一名、梟燈籠。

うつまめ (名) 次條ノ語ノ略。

うつまめぐさ (名) 蛇銜 蛇含 略シテ、うつまめ。草ノ名。葉ハ、へびいちごニ似テ、五葉、或ハ七、八、九葉ノモノアリ、春ノ末、數莖ヲ抽クコト一尺餘ニシテ、枝ヲ分チテ、五瓣ノ黃花ヲ開ク、形、へびいちごノ花ヨリ小サシ。本草和名、上 三十「蛇含、蛇銜、(宇)都末女」醫心方、三三「蛇銜」康賴本草、上、廿七「蛇含、宇川末女久佐」

うづま・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 埋 「うづもるノ轉、(うもる、うまる)活用ノ變ジタルハ、わかる、(別)わかる(理解)ノ類カ」 うづもるニ同ジ。ウマル。(うづまヲ冠リタル語ハ、四段活用うづむヲ見ヨ)

うづみび (名) 埋火 爐ナドノ灰ニ、埋メタル炭火。イケビ。宿火 後拾遺集、六、冬「うづみびノ、アタリハ春ノ、心地シテ、散リクル雪ヲ、花トコソ見レ」玉葉集、十四、雜、一「埋火ヲ、ヨソニ見ルコソ、哀レナレ、消ユレバ同ジ、灰トナル身ヲ」

うづみひ (名) 埋樋 土中ニ埋メオキテ、水ヲ通ハス樋。ウメドヒ。(懸樋ニ對ス) 暗渠

うづみもん (名) 埋門 「うづみハ、上ヨリ覆ヒタル如キ意カ」 築地、石垣ナドノ下部ヲ、切拔キタル如クシテ作レル小門。關八州古戰錄、二十、太田氏房二度目夜討事「蒲生氏鄕ノ伊賀ノ者、町田輪之丞トテ、忍ビノ骨張ナリシガ、其夜ノ子刻計ニ、氏房ノ持口ノ埋門ニ付テ、城中ヲ伺ヒケレバ」

うづ・む・ム・メ・マ・ミ・メ (他動、四) 埋 「うづだかし(堆)ノうづノ活用、覆ヒテ高クスル意ナルベシ」 物ヲ下ニ入レテ、上ヲ覆フ。ウヅムル。ウムル。天治字鏡、五 十二「埋、宇豆牟」拾遺集、六、別「散ル花ハ、路見エヌマデ、うづまナム、別ルル人モ、立チヤトマルト」紫式部集「ココニカク、日野ノ杉葉、うづむ雪、ヲシホノ松ニ、今日ヤ紛ヘル」源、四十、幻 四「うづみタル火、熾シ出デテ」馬內侍集「オコシ火ノ、炭ヲバ灰ニ、カクシツツ、うづまレヌ名ノ、戀ヲコソ思ヘ」爲尹千首「雲ヤ今、うづまザルラム、甲斐ガ嶺ノ、サヤカニ見ユル、曙ノ空」夫木抄、十八、爐火「手ズサビニ、閣フ爐ノ、アタリマデ、うづめド消エヌ、おもひナリケリ」同、三十六、言語「思ヒヤル、ナガメモ今ヤ、絶エヌトヤ、心ヲうづむ、夕暮ノ空」謠曲、富士太鼓「鼓ヲ苔ニ埋まム」

うづ・む・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ (他動、下二) 埋 前條ノ語ニ同ジ。ウヅメル。ウメル。

うつむき (名) 俯 ウツムクコト。下ニ向クコト。うつぶき。ウツプシ。

うつむ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (自動、四) 俯 「內向クノ轉、うちもも、うつもも。(股)うつばり、うちばり(梁)」 頭ヲ前ヘ低レテ、下ヘ向ク。うつぶく。ウツブス。

うつむ・く・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ (他動、下二) 俯 「前條ノ語ノ他動」 面ヲ下ヘ向クル。うつぶくる。ウツブスル。うつむける。大草殿相傳之聞書「湯漬ノ膳、云云、右ノ手ヲうつむけテ、箸ヲ取リ、云云」

うつむけ (名) 俯 ウツムクルコト。面ヲ下ヘ向クルコト。ウツブセ。うつぶけ。

✤**うつむ・ける**・ケル・ケレ・ケ・ケ・ケヨ (他動、下一) 俯 前前條ノ語ノ口語。(他動)

うつむろ (名) 無戶室 「全室ノ義、全剝、全拔、同意」 四面ヲ、全マ塗リ塞ギテ、戶口ナキ室。神代紀、下 八「作二無戶室一、入二居其內一」私記「宇津牟呂」 古事記、上 六十二「作二無戶八尋殿一、入二其殿內一、以レ土塗塞」

✤**うづ・める** (動) 埋 うづむ(下二段)ノ口語。

うつもも (名) 股 〔内股ノ轉、裏股ノ意カ、うつあし、うちあし(蹠)〕うちももニ同ジ。ウチアハセ。字鏡「股、宇豆毛毛」

うづも・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ (自動、下二) 埋 〔うづむ(四段)ノ自動、ほほむ、ほほまる〕うもる。中ニ被ハレ隱ル。ウヅマル。ウマル。宇津保、俊蔭「立チ[illegible]メリシ武夫、崩ルル山ニうづもれテ、多クノ人死ヌレバ」(雄略紀、十五年二、秦酒公、[illegible]ジテ、充ニ積朝庭、内賜ノ姓曰二禹豆麻佐一註二「一云二禹豆母利麻佐、皆盈積之貌也」トアレバ、四段活用ノ語アルガ如クニモ思ハルレド、堆キ意ニテ、埋るトハ反對ナレバ、別語ナルベシ)

うつゆふの (枕) 虚木綿 〔木綿ノ苧手巻ノ、圓ク内方ヘ空ニ巻キタルヲ云フカ、因リテ、隱るニカカリ、又、狹きニカカルカト云フ(萬葉集古義枕詞解)〕まさき、又、すもりノ枕詞 神武紀、三十一年四月、内木綿之眞迮國「大和國、四方、山ニテ圍メリ」萬葉集、九、[illegible]長歌、[illegible]木綿乃、[illegible]作者」

うづら (名) 鶉 (一)〔うづらどり〕ノ條ヲ見ヨ。(二)東京ニ、芝居ノ下棧敷ノ稱。屋低クシテ、うづらかごノ如クナレバ、名トス。川柳ニ「鶉カラ、土間へ仲人、指ヲサシ」(三)錯ノ綱ニ、棧枡ノ毛ト加賀苧トヲ打チ絎ヒタルモノ。鶉ノ羽ノ斑ニ象リテ、名トス。

うづらあはせ (名) 鶉合 鶉ノなきあはせ。犬子集(寛永)九「籠持チツレテ、歸ルサノ袖暮ルルヨリ、鶉合せヤ、見テヌラム」

うづらいし (名) 鶉石 瑪瑙ノ、小サク圓キ形ヲナセルモノノ稱。津輕瑪瑙

うつらうつら (副) 熟 〔うつうつヲ約メテ現ト云フうつニ、助辭ノらノ添ハリタル語、(夜ら、幾ら、等ら、ノ略シテ、つらつらト云フ、是レナリ)〕現シク。つらつら。ツクヅク。萬葉集、廿ニ「家子ガ、花取リ持チテ、見レニ見[illegible]カヌ如ク宇都良宇都良、見マクノ欲シキ、君ニモアルカモ」土佐日記、二月五日「日モうつらうつら、鏡ニ神ノ心ヲコソハ見ツレ」

うつらうつら (副) 昏昏 〔前條ノ語ヨリ轉ズ、うつつノ(三)ヲ見ヨ〕眠氣ヲ催シ、微睡ム狀ニ云フ語。ウトウト。トロトロ。正章千句「雨ニ窓、風ニ障子ヲ、引キタテテ、うつらうつらト、物思フサマ」

うづらがうし (名) 鶉格子 〔形ノ、うづらかごニ似タレバ云フ〕遊女屋ノ格子ノ一種類。異本洞房語園、上「局女郎、局ノ構樣ハ、表ニ長押ヲ付、局ノ廣サ九尺ニ、奥行二間、云云、入口ハ三尺、表通リハ、横六尺ノうづら格子也」

うづらかご (名) 鶉籠 鶉ヲ畜フ籠。方ニシテ、屋、低シ。

うづらがひ (名) 鶉貝 螺ノ類。殼、圓クシテ薄ク、條太シ、大キナルハ、徑、三寸餘アリ、淡褐ニシテ斑アルコト、鶉ノ羽文ノ如シ。ウツセガヒ。琵琶螺

うづらぎぬ (名) 鶉衣 うづらのころもヲ見ヨ。

うづらごろも (名) 鶉衣 うづらのころもヲ見ヨ。

うづらたけ (名) 鶉茸 松茸ノ、上品ナルモノ。傘ノ上、松鱗ノ如ク起リ、其皮ノ斑ハ、鶉ニ似タリ。

うづらどり (名) 鶉 〔うづらハ、鳴キ聲ヲ名トスルカ、朝鮮語ニモ、もづら、又、も[illegible]きト云フト云フ〕常ニ略シテ、うづらト云フ。鶉ノ屬ニテ、原野ニ棲ム。形、鶏ノ雛ニ似テ、肥エ、首小サク、尾短ク、全身褐色ニシテ、黒白ノ斑アリ、鶉斑ト云フ、雄ハ足高ク、雌ハ短シ、鶉、又、一種、斑無キモノヲ、斑なしうづらト云フ。古事記、下(雄略)九三十長歌「宇豆良登理」字鏡「[illegible]、宇豆良」

うづらなく (枕) 鶉鳴 〔鶉ハ草深キ荒野ニ棲ムモノナレバ、荒れタル、舊りタルニカカク〕ふるノ枕詞 萬葉集、[illegible]、四「鶉鳴、舊リニシ里ユ、思ヘドモ」同、十一、二十「鶉鳴、人ノ古家ニ」

うづらのころも (名) 鶉衣 〔懸鶉衣ノ訓讀、詩經、魏風、伐檀篇「不狩不獵、胡瞻爾庭有縣鶉分」荀子、大略篇「子夏家貧、衣若縣鶉」杜甫詩「衣故有懸鶉」〕敝衣ノ形、鶉ヲ懸くるニ似タル意、破レタル衣。ウヅラゴロモ。ウヅラギヌ。夫木抄、三十三、雜、衣「今モナホ、野トナル里ニ、誰レ住ミテ、秋ハうづらの、衣打ツラム」[illegible]草、十八「うづらの衣、云云、衣ノ裾ノ破レタルニ、鶉ノ毛ノ似タルヲ云フナリ」呉竹集、五「うづら衣」擧白集、二(木下長嘯子)「鳴キタエヌ、秋倦レシヨリ、淺茅ヤ、うづらぎぬ打ツ、音ベカリシテ」

うづらのとこ (名) 鶉床 鶉ノ臥ス處。新千載集、四、秋、上「風拂フ、うづらのとこハ、夜寒ニテ、月影サビシ、深草ノ里」

うづらふ (名) 鶉斑 (一)褐色ニ黒白ノ點アルモノ、即チ、鶉ノ羽色ノ文ナリ。猶、うづらどりノ條ヲ見ヨ。(二)小鷹ノ色ノ、鶉斑ナルモノ。逸物ナリト云フ。

うづらまめ (名) 鶉豆 大豆ノ一種。或ハ、黒ク、或ハ、赤褐ニシテ、白キ斑アルモノ、[illegible]、鶉大豆

うづらもく (名) 鶉木理 やくすぎノ一名。

うづらもち (名) 鶉餅 大福ヲ見ヨ。

うづらやき (名) 鶉燒 餅菓子ノ名、餡餅ノ類、うづらもち [illegible] 中ニハ、あつさハ、薄皮ノ十字ノタグヒナラム」(嬉遊笑覽、十)筑波集(寛永)「音ニ高キ、次ニヤフケル、うづら餅」洛陽集(延寶)[illegible]

うつり (名) 移 (一)移ルコト。[illegible]、十八、雜、五「人モ世モ、思ヘバアハレ、幾ムカシ、移りうつりシテ、今ニナリケム」(二)他ヨリ贈物アリシ時、其器ニ入レテ返ス、輕微ノ品物ナキ時ハ、白紙一二枚ヲ用ヰル、[illegible]りがみ。婦人語ニ、おうつりナド云フ。又、或ハ、附木ヲモ用ヰル([illegible]ふ、ニカケテスル俗意ナリトゾ)京都ニテハ、紙、又ハ、貨物ヲ、使ノ者ニ贈ルヲ、おためト云フ。沙石集、六、下、第十八「返リ引出物トテ、紙一枚ヲゾ贈ヒクル」

うつり (名) 映 (一)映ルコト。(二)色ト色トノ出合 [illegible]「南天ノシン、正眞ノ紫苑、[illegible]ノアシラヒ、胴ニ伊吹ノうつりノヨサ」

うつりいろ (名) 移色 菊花ナドニ、白ニ薄紅ヲ含メルモノ。

うつりが (名) 移香 香ニ觸レテ、其香ノ、物ニ移リ殘ルコト [illegible] 古今集、十七、雜、上「鄙ノ羽ノ、夜ノ衣ハ、薄ケレド、うつり香濃クモ、匂ヒヌルカナ」[illegible]狹路ニ交フ、移香ノ、イツノマニ染ム、心ナルラム」

うつりかはり (名) 移變 (一)ウツリカ

ハルコト。過渡。變遷 (二)カレ、去リ、コレ、來ルコト。交替

うつり-かは・る ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 〔移變〕 次第ニ變ハリユク。變遷 源、三十七、鈴蟲「世ノ中、サマサマニツケテ、ハカナクうつりかはる有樣モ、思シ續ケラレテ」

うつり-がへ (名) 〔移替〕 季節ノコロモガヘ。(遊女ナドノ語) 更衣。

うつり-がみ (名) 〔移紙〕 うつり(移)ノ(二)ヲ見ヨ。

うつり-ぎ (名) 〔移氣〕 ウツシゴコロ。物事ニ、移リカハリヤスキ性質。 吾吟我集(慶安)六「カタヘニモ、增ス花アリテ、鶯ノ、飛ビノク如シ、うつり氣ノ人」

うつり-ばし (名) 〔移箸〕 膳部ニ向ヒ、一ノ菜ヲ食ヒ、直チニ一菜ニ移リテ食フコト。飯ト菜ト、代ル代ル食フヲ法トス。 躾方明記、四「餘多ノ菜ヘ、一度ニ箸ヲ付クベカラズ候、うつり箸トテ、大ニ忌ムナリ」

うつり-やまひ (名) 〔移病〕 病ニ、人ヨリ人ニ移リツクモノ。梅毒、痲疹、虎列剌ノ如キモノ。傳染病

うつ・る ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 〔移〕 (一)〔ゆつる。コレ、カレ、變ハル。變ハリユク。「心うつる」風俗うつりカハル」 (二)〔此地ヨリ彼地へ、處ヲ易フ。徙 遷 土佐日記、二月十五日「船ヨリ、人ノ家ニうつる」「還方へうつりテ住ム」 (三)〔過ギ行ク。經。過 萬葉集、廿五十「宇都里行ク、時見ル毎ニ、心イタク、昔ノ人シ、思ホユルカモ」佛足石歌「コレノ世ハ、宇都利去ルトモ、トコトハニ、サ殘リイマセ、後ノ世ノタメ、又ノ世ノタメ」「年、移る」時、移る」 (四)〔染ミツク。染 源、三十二、梅枝「花ノ香ハ、散リニシ枝ニ、トマラネド、うつらム袖ニ、淺ク染マメヤ」「紅、紙ニ移る」 (五)染マル。感ズ。傳染ス。染化 續古事談、五、諸道「疱瘡ト云フ病ハ、新羅國ヨリ起リタリ、筑紫ノ人、云云、從國ニツキテ、其人、うつり病ミテ來レリケルトゾ」「欠伸、移る」癖、移る」 (六)〔色、衰フ。ウツロフ。 古今集、二、春、下「花ノ色ハ、うつりニケリナ、イタヅラニ、我ガ身世ニフル、ナガメセシマニ」 (七)散ル。 新古今集、二、春、下「今日ダニモ、庭ヲ盛リト、うつる花、消エズハアリトモ、雪カトモ見ヨ」

うつ・る ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 〔映〕 〔影、移ろ意〕 (一)〔此ノ光、影、彼ニ見ハル。 源、六、末摘花「我ガ御影ノ、鏡臺ニうつれルガ」 (二)善ク出合フ。(色ト色ト、ナド)ハエアフ。

うつろ (名) 〔空洞〕 〔空ニ、助辭ノろノ添ハリタル語、兄ろ、兒ろ、嶺ろ、程ろ、犬子ろ〕 中ノ、空シキコト。內ニ物ナクシテ、空ナルコト。ウツホ。ウロ。空虛

うつろ (名) 〔洞〕 〔家ノ轉ナルベシ、うちもも、うつもも。(股)しろ、しら(白)〕 又、ウツロナカ。一族ノ意。室町時代ノ末世、常陸以北ノ用語ナルガ如シ、其頃ノ古文書ニ、多ク見ユ。同族 新編常陸國誌、十二、方言「うつろ、一家一門ノ事ヲ云ヘリ、笹子落册子ニ「うつろノ評議、トリドリナリ」トアルハ、卽チ、一門ノ評定、定マラヌ意ナリ、タトヘバ、嫡家ヨリ支流ノ輩ヲサシテ、洞中ト云フ、倚、一家中ト云フニ同ジ」

うつろ-なか (名) 〔洞中〕 前條ヲ見ヨ。

うつろ-は・す ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) 〔移〕 ウツロフヤウニナス。移ラシム。變ハラス。 源、四十六、總角「サルベキ處ニ、うつろはし奉ラム」

うつろひ (名) 〔移〕 (一)〔ウツロフコト。ワタマシ。家ウツリ。移住 源、九、葵「野ノ宮ノ御うつろひノ程ニモ」 (二)色、衰フルコト。褪 續千載集、廿、賀「ノドカナル、御代ノ春知ル、色ナレヤ、雲居ノ櫻、うつろひモセヌ」

うつろ・ふ フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (自動、四) 〔移〕 〔うつるノ延、ほこる、ほころふ。(誇)まつる、(奉)まつろふ。(服從)同例ナリ〕 (一)移ル。 萬葉集、十七「梅ガ枝ニ、鳴キテ移ろフ、鶯ノ、羽白妙ニ、沫雪ゾ降ル」 源、四十四、橋姫「うつろひ住ミタマフベキ所ノ、ヨロシキモ無カリケレバ」 (二)染ム。 萬葉集、七「鴨頭草ニ、衣色取リ、摺ラメドモ、移變色ト、云フガ苦シサ」 同、十二「百ニ千ニ、人ハ言フトモ、月草ノ、移情、吾レ持タメヤモ」(二首共ニ、次項ノ意ヲ兼ヌ) (三)變ル。 萬葉集、六「世ノ中ヲ、常ナキモノト、今ゾ知ル、奈良ノ都ノ、移徙見レバ」(遷都後ノ荒廢) 源、二、帚木「心ハうつろふ方アリトモ」 (四)衰フ。褪 萬葉集、十九、長歌「紅ノ、色モ宇都呂比ニ(紅顏)」 同、廿「八千種ノ、花ハ宇都呂布、常磐ナル、松ノサエダヲ、我レハ結バナ」 源、四十八、寄生「御前ノ菊、うつろひハテテ」 (五)散ル。 後撰集、三、春、下「風ヲダニ、待チテゾ花ノ、散リナマシ、心ヅカラニ、うつろふガ憂サ」

うつろ・ふ フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (自動、四) 〔映〕 〔映ノ延、前條ノ語原ニ同ジ〕 映ル。 萬葉集、十一「木ノ間ヨリ、移歷月ノ、影愛シミ、徘徊ルニ、小夜深ケニケリ」 夫木抄、五「歸ル雁、御洸川ニ、うつろひテ、水ノ調ベノ、琴柱ナリケリ」

うつろ-ぶね (名) 〔空舟〕 うつほぶねニ同ジ。

うづ-わ (名) 〔渦輪〕 次條ノ語ノ略。 本朝食鑑、九「鰹之小者、曰渦輪」

うづわ-がつを (名) 〔渦輪鰹〕 金鎗魚ノ一種。長、尺餘ニシテ、腹ニ條ナク、脊ヨリ尾マデ渦ノ文アルモノ、味、劣ル。(さをうだがつをヲ見合スベシ)略シテ、うづわ。又、うづ。最モ小サクシテ、冬、取ルヲ、橫輪ト云フ、是レハ、めぢがつをノ子ナリトゾ。

うづゑ (名) 〔卯杖〕 〔支那ノ剛卯ニ據ル名、漢書、王莽傳「劉字、卯金刀也、正月、剛卯、金刀之利、皆不レ得レ行」漢ノ天子ハ、劉氏ナリ〕 古ヘ、正月、上ノ卯ノ日ニ、六衞府ヨリ奉ルモノ。桃、其他、種種ノ木ニテ、長サ五尺三寸ニ切リタル杖ナリ、五色ノ絲ニテ卷キ、二束、三束ニ結フ、晝の御帳ノ四隅ニ立ツ、邪鬼ヲ逐フナリト云フ。(桃ノ條ヲ見ヨ) 剛卯杖 同時ニ、卯槌ノ奉進モアリ。 持統紀、三年「正月甲寅朔、乙卯、大學寮、獻二杖八十枚一」 文德實錄、四、仁壽二年「正月己卯、諸衞府獻二卯杖一、逐二精魅一也」 漢官儀「正月以二桃枝一作二剛卯杖一、厭二鬼也」

う・て (動) 〔棄〕 うつ(棄)ノ條ヲ見ヨ。

うで (名) 〔腕〕 〔腕ハ、釋名ニ「腕、宛也、言、可二宛曲一也」急就篇、注ニ「腕、手臂之節也」トアリテ、今云フ、うでくびナリ、サレバ、うでハ、元來、折手ノ轉、(現、をつつ。叫喚く、をめく)折レ搖ク意ニテ、(腕モ、手節ナリ)うでくびナルガ、臂ト混ジタルナルベシ〕 (一)〔肘ト腕頸トノ間。タダムキ。タブサ。 倭名抄、三「腕、太太無岐、一云、宇天」 最勝王經音註「臂、宇傳」二ノ腕ト云フハ、肱ナリ。 (二)轉ジテ、肩ヨリ腕頸マデノ總稱。手。(兩手、兩足ノ手) (三)腕ニテスル技。ワザマヘ。ウデマヘ。テナミ。伎倆 「腕ヲミガク」腕ニオボエアリ」 (四)腕ノ力。「腕立」腕クラベ」 腕を摩ルトハ、勝氣ニナル意。 岩淵夜話、別集、三、酒井金三郎「新參衆ノ中ニモ、上方衆、甲州衆、小田原衆ナドト、面面、洛格ノ意地ヲ立テテ、云云、互ニ

頭をさする」

うでい（名）［烏泥］朱泥（シユデイ）ノ條ヲ見ヨ。

うでおし（名）［腕押］タガヘシ。二人、腕ト腕トヲ、臂ニテ立テテ掌ヲ握リ合ヒ、互ニ押シ倒サムトシテ、力ヲ闘ハスル戲。ウデズマフ。闘腕 異制庭訓往來（貞治）大雜七月、指引、腕推」

うでかため（名）［腕固］うでまへヲ鍛フルコト。武術ナドヲ練ルコト。ウデダメシ。

うでぎ（名）［腕木］（一）肘木（ヒヂギ）。（二）柱ヨリ横ニ出シテ、垂木、庇ナド、支フル木。

うでき（名）［腕利］うでまへノ、能クハタラク者。伎倆（ワザ）ノ、勝レテ居ルコト。ウデコキ。鋭才 敏腕

うでくび（名）［腕頸］タブシ。タブサ。コウデ。腕ト肱（ヒヂ）トノ關節（ツガヒメ）、曲リ撓ク所。ウデブシ。 宇治拾遺、一、十五條「頭ノ腕首ヲ取リテ、引キトドメ」 腕頸を握るトハ、追從スル義ナリ、右手ニテ左手ヲ握リテ、恭敬ノ狀ヲアラハス意ナルベシ。 盛衰記、十四、三位入道入寺事「我レ、イカデカ相傳ノ主ヲ捨テ奉テ、今更平家ニ腕首を握らム」 同、廿、石橋合戰事「他人ノ門ヘ足蹈ミ入レズ、腕首取テ追從セズ」

うでぐみ（名）［腕組］兩ノ腕ヲ、胸ノ前ニテ叉（アザ）ヘテ、組ミ合ハスルコト。思案スル時ニスルコトナリ。扼腕「うでぐみヲシテ考ヘル」

うでくらべ（名）［腕競］うでまへ（エ）ノアラソヒ。 松風村雨束帶鑑（元祿、近松作）二「犬ト猿トノ腕競べ」

うでこき（名）〔うできき〕ノ轉ナルベシ〕腕利（ウデキキ）ニ同ジ。ウデッコキ。

うでずまふ（名）［腕相撲］うでおしニ同ジ。

うでだて（名）［腕立］〔力ヲ立てトホス意、男立ノ、たてニ同ジ〕腕力（ウデヂカラ）ヲ頼ミテ、ドコマデモ人ニ手向フコト。チカラヅク。ウデヅク。 史記抄（文明）三五「力ガ強ウテ、うでだてヲスルゾ」

うでたまご（名）［茹玉子］ゆでたまごノ轉

うでだめし（名）［腕試］腕力（チカラ）、伎倆（ウデマヘ）ノ優劣ヲ試ミルコト。ウデガタメ。

うでづく（名）［腕盡］〔づく（給）ノ條ヲ見ヨ〕腕力（ワンリキ）ノ限リヲ出スコト。チカラヅク。ウデダテ。 狂言記、胸突「うでづくデ、連レテ往ッテ見セウ」

❖**うでっこ**（名）［腕競］〔こハ、競（クラ）ベノ略轉、睨（ニラ）めくら、にらめっこ〕ウデクラベ。チカラクラベ。「うでっこデ勝負セウ」

うでっこき（名）［腕利］〔うでこきノ促音〕うできき（腕利）ニ同ジ。

うでっぷし（名）［腕節］うでぶしノ（二）ヲ見ヨ。

うでどけい（名）［腕時計］極メテ小サキ袂時計（タモトドケイ）ノ、腕頸ニ卷キオクモノ。

うてな（名）［臺］〔上棚（ウハタナ）ノ約轉カト云フ、（轉（ウタタ）、うたた）或ハ、大棚（オホタナ）ノ約、（大（ウ）ノ條ヲ見ヨ）字鏡四十「榭、太奈」倭名抄、十三「棚閣、多奈」桑家漢語抄、五「臺、其製高遠、四方於宇知奈雅無流之義也」〕（一）〔家ノ、高ク作ラレテ、四方ヲ望ムベキモノ。 字鏡四「峙樹、高屋也、无レ壁之屋也、高宇底奈」 倭名抄、十二「臺榭、土高曰レ臺、有レ屋曰レ榭、宇天奈」（二）禁中ノ文字臺。河竹臺（カハタケノテイ）、呉竹臺（クレタケノテイ）。 後拾遺集、十八、雜、すがたノ、たゞメシトナリミ、清涼殿ノ、うてなノ竹ノ、靡キ笑ハ」

うてな（名）［萼］〔臺ノ義カ〕花ノ蔕（ヘタ）ノ、四方ニ出デテ、花片ヲ受クル所。「蓮ノうてな」

うでぬき（名）［腕貫］（一）刀ノ柄頭（ツカガシラ）、鐔ニ、輪ヲ作リテ着ケオク緒。手首ヲ貫キテ提ル。 北條五代記、四、關東長刀事「北條氏直時代マデ、長柄刀トテ、人毎ニ、刀ノ柄ヲ長ク拵ヘテ、うでぬきヲウテツカニテ、人ヲ斬ルヘク拵タラクヲナセリ」（二）絹帛ナドニテ輪ヲ作リ、肱（カヒナ）、即チ、二ノ腕（ニノウデ）ニ貫キテ、嵌（ハ）メオクモノ。腕守ナド入レオクナリ。ウデワ。

❖**うてのつかひ**（名）［討手使］〔うてハ、討手（ウテ）ノ略〕征伐ニ差向ケラルル使。討手ノ大將。 大和物語、二「野大貳（小野好古）純友ガ騒ギノ時、うての使ニササレテ、少將ニテ下リケリ」 外記日記、天慶四年九月十日「討手使」 盛衰記、廿三、嚴島御幸事「討手使」

うでびき（名）［腕引］遊戲ノ一種。兩人、手拭ノ兩端ヲ、左ニ腕ノマガリ目ニ挾ミテ、之レヲ引キ合フコト。

うでぶし（名）［腕節］（一）タブシ。タブサ。うでくびニ同ジ。（二）腕ノ力。ウデップシ。

うでまくり（名）［腕捲］マクリデ。ソデマクリ。袖口ヲ捲（マク）リアグルコト。攘臂 冥途飛脚（寶永、近松作）中「投付ケツ投返シ、腕捲りシテギシミ合フ」

うでまへ（名）［腕前］〔まへ（前）ノ條ヲ見ヨ〕テナミ。ワザマヘ。テマヘ。伎倆 技能

うでまもり（名）［腕守］腕貫（ウヌキ）ニ包ミ込メオク、神佛ノ守札。

うてん（名）［雨天］雨降ル空（ソラ）。アメフリノ日。晴天ニ對ス。 天ニ「雨天、晴天」

❖**う・てる**・テル・テレ・テ・テ・テヨ（自動、下一）［熱］（一）うつ（被熱）ノ口語。氣熱（ケオ）サル。弱ル。所熱倒「暑ノ氣ニうてる、繩イ…こうてテ引込ム」（二）炎暑ニ弱リテ、腐レカカル。アザル。スユ。餒「魚がうてる」

う・でる（他動）［茹］〔こうふのゆば、ゆば（湯葉）〕ゆでるノ轉。ゆづ（茹）ノ條ヲ見ヨ。

うでわ（名）［腕輪］うでぬきノ（二）ニ同ジ。

うと（名）［烏兎］〔金烏玉兎ノ略、其條ヲ見ヨ〕日ト、月ト。ツキヒ。歳月。光陰。 左太沖、呉都賦「籠二烏兎於日月一、窮二飛走之棲宿一」「烏兎匆匆」

うど（名）［獨活］〔埋（ウヅ）ノ轉、（たづたづ、たどたど）芽ノ、土中ニアルヲ食フ意ト云フ、イカガ〕（一）草ノ名、山ニ生ズ、今、多ク、人家ニモ植ヱ作ル。春、宿根ヨリ生ズ、嫩苗ヲ食用トス、莖、高サ四五尺、葉ハ、莖ヲ抱キテ互生ス、夏、秋ニ至リ、小白花、傘ノ狀ヲナシテ集リ開ク。土當歸 字鏡十一「獨活、宇度、又云、乃太良」 本草和名、上「獨活、宇止、一名、都知多良」 倭名抄同ジ （二）又、おおうど」ノ其條ヲ見ヨ。

うとう（名）［善知鳥］〔ペッチ、ラア氏蝦夷語辭書、Otuye（海鳥ノ名）トアルハ、うとうナルベク、Yatotta（鷹ノ一種）トアルハ、やすかたナルベシ〕海鳥ノ名、北海ニ棲ム、大キサ小鴨ノ如ク、羽ノ色ハ

薄黑クシテ、嘴太ク、先尖リテ、黃黑ニシテ、横ニ四五ノ刻ミアリ、嘴ト眼トノ間ニ突起アリ、本薄紅ニ、末黃黑ニシテ、雞冠ノ如ク、眼ノ緣ニ圓座アリ、眼下ニ白毛垂ルルコト一寸餘、兩脚、尻ニツキテ、水掻アリ、尾甚ダ短シ。又、やすかたト云フ海鳥アリ、詳ナラズ、善知鳥ト連ネテ云ヘリ、同物ナリトモ云ヒ、津輕ノ安潟ト云フ地ニ多シ、子ヲ捕ヘラルル時鳴クト云ヒ傳フ。春雨抄(寬永、鱸重常)六、上ニ、夫木抄、定家卿「陸奥ノ、外ノ濱ナル、呼子鳥、鳴クナル聲ハ、うとうやすかた」(同抄ニハ見エズ)謠曲ニ、うとう(嵯峨本)アリ、善知鳥、又、烏頭ト記セリ。(觀世世阿彌作) 遲步色葉集、鳥名「善知鳥悉知鳥、觀世見レ之」 草根集、十二(永享、長祿)寄レ鳥戀「隔テユク、憂キ身ヲ外ノ、濱風ニ、クダク淚ヤ、やすかたノ鳥」 藻鹽草、十、鳥「子ヲ思フ、淚ノ雨ノ、笠ノ上ニ、カカルモワビシ、やすかたノ鳥」

うと-うと (副) 昏昏 〔うつらうつらノ、らヲ略シタル、うつうつノ轉ナリ、(鵯、ときヲ略シテ、つらつらガ、とろとろト轉ジ、とろりと眠ルナド云フ(白、しら)〕 眠氣ヲ催シ、微睡ム狀ニ云フ語。ウツラウツラ。トロトロ。トロリト。「うとうと居眠ヲス」

うと-うと・し シキ・シケレ・シク・シク (形、二) 疎 〔疎しヲ重ネテ、意ヲ強クス〕 甚ダ疎シ。甚ダ疎遠ナリ。太疎 源、二、帚木四十五「モテハナレテ、うとうとしう侍レバ、世ノ譬ヒニテ、睦レ侍ラズ」

うとく (名) 有德 德アリテ、尊ムベキコト。イウトク。「有德ノ僧」

うとく (名) 有得 〔富有得分ノ意ト云フ〕 富ミタルコト。得タルコト。裕福。ブゲン。富有 富豪 史記、天官書「五星皆從ニ太白ニ而聚乎、一舍其下之國可ニ以兵ニ從ニ天下ニ居、寔有得也」「有得ノ人」

うと・し キ・ケレ・ク・ク (形、二) 疎 〔空遠しノ約ニモアルカ〕 (一)親シカラズ。交リ淺シ。疎遠ナリ。神代紀、下十二「疏心」 新勅撰集、十九、雜、四「イツトナク、戀スルガ(駿河ニカク)ナル、有渡濱ノ、疎くモ人ニ、ナリマサルカナ」「去ル者ハ、日ニ疎し」「交リ疎し」 (二)善ク知ラズ。不案內ナリ。迂 「學ニ疎し」「世事ニ疎し」「商ニ疎し」

うど-ねり (名) 內舍人 〔うちとねりノ略、(討手ノ使、うてノ使)大舍人ニ對シテ、禁內の舍人ノ意〕 (一)〔ウチノトネ リ。うちとねり。中務省ニ屬スル職、帶劍、侍衞、供奉ノ職ナリ。古ヘハ、公卿ノ子弟ヲ、禁內殿上ノ事ニ習ハシメムトテ補セリ、後ニハ、源平等ノ、然ルベキ侍ヲ用キラル。源、五十、浮舟六十「うどねり」 (二)東宮職、又、主殿寮ノ下級ノ職、殿中ノ雜務ニ服ス。(三)今、宮內省ノ判任官。

うど-の-あし (名) 鵜殿蘆 攝津國、三島郡、鵜殿ノ地ニ產ズル蘆。苗大キクシテ、葉厚シ、其莖ヲ篳篥ノ舌ニ作ル。碧蘆

うと・ぶ ブル・ブレ・ビ・ビ・ビヨ (他動、上二) 疎 〔うとしノ、うとヲ動詞トス〕 次次條ノ語ニ同ジ。 祈年祭祝詞「疎夫留物」 御門祭祝詞「四方四角ヨリ、疎備荒ビ來ム、天ノ禍津比ト云フ神ノ」(御孫命ヲうとぶるナリ)

うとま・し シキ・シケレ・シク・シク (形、二) 疎 〔次條ノ語ノ未然形ナル、うとまヲ活用ス〕 疎ムベクアリ。キラハシ。 宇津保物語、俊蔭四十「うとましき獸ノ、充チ滿チタル中ヲ」 源、六、末摘花十四「荒レタル籬ノホドうとましく、打チ眺メタマフ」

うと・む ム・メ・マ・ミ・メ (他動、四) 疎 〔前前條ノ語ノ轉〕 疎ク思フ。親シムヲ好マズ。忌ミキラフ。ツレナクスル。ウトンズ。 源、二、帚木廿「我レヲうとみネト思フ方ノ、心ヤアリケム」 大和物語、中「ユユシクモ、オモホユルカナ、人ゴトニ、うとまレニケル、世ニコソアリケレ」

うと・む ムル・ムレ・メ・メ・メヨ (他動、下二) 疎 前條ノ語意ニ同ジ。 致忠集「人ニイヒうとめラレテ、返言セヌ人ニ」 源、四十三、竹川廿「上ハ、此處ニキコエうとむるナメリト、イト憎ゲニ思シノ給ヘバ」

う-どん (名) 饂飩 うんどんノ約。 宗五大雙紙「溫飩モ歸心ニテ候ヘドモ、殿上ニテモ私ニテモ、急度シタル一獻ニ見及バズ候」

ウドン (名) 優曇 次條ノ語ノ略。其條ヲ見ヨ。

ウドン-げ (名) 優曇華 〔うどんハ、梵語、優曇鉢羅 (Udumbara) ノ略、瑞應華ト譯ス〕 (一)〔天竺ニアリト云フ樹ノ名。常ニ、實アリテ花ナク、三千年ニシテ始メテ花アリト云フ、若シ此樹ニ金華アル時ハ、佛、世ニ出ヅト云ヒ、又、轉輪聖王、世ニ出ヅレバ、此花生ズトモ云ヒテ、世ニ稀ナルコトノ譬ヘトス。略シテ、優曇。 金光明經、讚佛品「希有、希有、佛出レ於レ世、如ニ優曇華時一現ニ耳」 源、五、若紫九「うどんげノ、花待チ得タル、ココチシテ、深山櫻ニ、目コソ移ラネ」 鴉鷺合戰物語、第十「寔是優曇ノ相現、盲龜ノ浮木、喜ビテ餘アルモノカナ」 (二)芭蕉ノ花ノ稱。寒國ニテハ、花、稀ニ開クガ故ニ、譬ヘテ云フ。 吾妻鏡、廿六、貞應二年七月九日、僧淨密ノ前庭ニ「優曇華開散之由、風聞、云云、芭蕉花之由、申レ之」 (三)草蜉蝣ノ卵。春夏ノ間、草木ノ葉ニツク、長サ五六分、絲ノ如キモノノ尖ニ、粟粒ヨリ小サキ白玉ツキテ、數十莖、簇生ス、花ノ雄蘂ノ如シ、コレガ、室內ノ天井、又ハ、柱ナドニツクコトアリ、昔ハ銀の花ト云ヒテ、恠異トセリ、後世ハ希有ナリトテ、吉事トス。 外記日記、康治元年八月六日、賀茂社「銀花一本、生ニ西侍屋柱寄ニ」 明月記、正治二年十月十八日「此宅ニ銀の花ト云フ物アリ、云云、有ニ物忌ニ云云、所ニ驚恐ニ也、總、近日怪異多、申云、尤可レ有ニ御愼ニ」

うどん-こ (名) 饂飩粉 うどんのこニ同ジ。

うどん・ず ズル・ズレ・ゼ・ジ・ゼヨ (他動、左變) 疎 〔疎みすノ音便〕 うとむニ同ジ。

うどん-どうふ (名) 饂飩豆腐 はちはいどうふノ條ヲ見ヨ。 大草家料理書「うどん豆腐料理ハ、常ニハ細ク切テ、湯煮ヲシテ、醬油ニ山椒胡椒ヲ入テヨキ也」

うどん-の-こ (名) 饂飩粉 〔多ク饂飩ニ製スレバ名トス〕 おむぎこニ同ジ。

うど-め (名) 獨活芽 (一)土當歸ノ根ノ芽ノ、紫ニシテ、寸ニ滿タザルモノ。秋冬ノ間、食物ノあへしらひニ用キル。(二)楤ノ木ノ芽。ふきのたうノ如シ、味噌、酢、ナドニテ、食フベシ、味、うどノ芽ノ如シ。ウドモドキ。吻頭 庭訓往來、四月「醍醐獨活芽」

うど-もどき (名) 〔獨活擬ノ義〕 (一)草ノ名。莖、葉、花、實、ししうどニ異ナラズ。但シ、莖、葉ノ節、深紫ナリ。山城國、高雄山ニ多シ。羗活 (二)楤ノ木ノ芽。味、獨活ノ芽ニ似タリ。(前條ノ(二)ヲ見ヨ) 吻頭

うな (接頭) 海 〔うみのノ略轉、うみしほ、うしほ。(潮)うみのはら、うのはら、うなばら(海原)〕 海ト云フニ同ジ。 齊

明紀、四年十月「湊ノ、瀉ノクダリ、手弱クダリ（海下二…）」

うな (接頭) 項 〔諸ニ起レル語ナルベシ、うなづくト云フ、是レナリ〕 播磨國風土記、讃容郡「雲濃里、大石命、此子稱於父心、故曰有怒」 ニ、頸ノ後部、頸ノ上。 古事記、上「長歌、一本ススキ、宇那カブシ、ナガ泣カサマク」 項突ク、項垂ル、項根

うな (句) 〔うぬはノ約音〕 汝ハ。オノレハ。 今宮心中(寶永、近松作)上「うた、ヨク身ヲブタセタナア、覺エテヰロ」

うなうな (名) 小兒ノ語。オドシ叱ルコト。 浮世風呂(文化、三馬)初編、上「憎イオ・カアメダノ、うなうなヲシテヤラウ」

うなかけ・り (動) 〔項絡くト云フ四段活用ノ動詞アリテ、其完了語ニテ、良行變格活用ナルベケレド、連用形ノミ、物ニ見ユ〕 項ニ、手ヲ纏ヒ合ヒ。 古事記、上四十「八千矛神ト沼河比賣ト帶シタマヒテ、宇伎由比（合ニ居）而」 萬葉集、十八ノ三「長歌、牽牛星、織女星、携リ、宇奈我既利居テ、思シキ、コトモ語ラヒ」

うながし (名) 領令 〔賦役ヲ課セ促ス意ナルベシ、仁德紀、十年十月「百姓之不レ領而、云云、竭レ力爭作」〕 京ノ坊ノ事ヲ掌ル職。 孝德紀、大化二年正月「京毎レ坊置二長一人、四坊置二令一人、掌下按二撿戸口、督中察姧非上」

うなが・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) 促 〔項ぐト云フ動詞アリテ、(うなげるノ語原ヲ見ヨ)項突ノ意アリテ、其他動ナルベシ、うながく、うながかす、いながく、いそがす〕 課セ急ガス。催シタツ。催促ス。セツク。 仁德紀、十年十月「百姓之不レ領、而云云、竭レ力爭作」(前條ヲ見ヨ) 催馬百首、葛城山、氷室ノオモノ、うながしテ、駒ノ足トク、都ヘゾ行ク」

うながせ・る (動) 〔項ぐト云フ動詞アリ、(うなげるヲ見ヨ)其敬語ノ左行四段活用、うながすノ完了語ナルベシ、但シ、連體形ノミ、物ニ見ユ〕 項ニ懸ケタマヒタル。 古事記、上五十二「長歌、弟棚機(機)ノ、宇那賀世流(項掛)」 萬葉集、十三、長歌「少女等ガ、盛有、領巾モ照ルガニ」(是レハ丁寧ニ云フ語ナリ)

うなかぶ・す・ス・セ・サ・シ・セ (自動、四) 項傾 〔かぶす(傾)ヲ見ヨ〕 項ヲ傾ス、頭ヲ垂ル。俯頭。 古事記、上卅「長歌、一本薄、宇那加夫斯、汝ガ泣カサマク、朝雨ノ、サ霧ニタタムソ」

うなかみ (名) 海上 海ノホトリ。海邊。 萬葉集、五ノ十七長歌「海ノ底、沖ツ深江ノ、宇奈可美ノ、子負ノ原」(筑前、深江村)

うながみ (名) 鬣 〔項髮ノ義〕 たてがみニ同ジ。タチガミ。 倭名抄、十一ノ十二「鬣、宇奈加美」

うながみど (名) 海上砥 下總國、海上郡、銚子ノ海岸、犬吠崎ノ邊ヨリ出ヅル礪ノ名。

うなぎ (名) 鰻 〔古言、むなぎノ轉〕 むなぎ。淡水ニ産ズル魚。秋、河川、湖沼ヨリ海ニ下リテ産卵シ、幼魚、春、河川ニ遡リ來ル、形、蛇ノ如ク、背ハ蒼黑ニシテ、肉鬣アリテ、尾ニ至ル、腹白ク、或ハ、淡黄ニテ、斜ニ紋アリ、鱗無ク、身甚ダ滑ナリ、大イナルハ數尺ニ至ル、脂多シ、多クハ、蒲燒トシテ食フ、味、濃美ナリ。鰻鱺

うなぎかき (名) 鰻掻 鰻ヲ捕フルヲ業トスル者。棒ノ端ニ曲鉤ヲツケ、鉤ノ内ニ、叉、鉤アルモノニテ、泥中ヲ掻キサグリテ採ル。 俳諧曲(享保)[illegible]ソノ頭ニ、[illegible]ヲ掻ミアゲ、掻ミサゲ、[illegible]ヲ新リノクルヲ、鰻掻[illegible]

うなぎどんぶり (名) 鰻丼 鰻飯ノ、丼ニ盛レルモノ。略シテ、うなどん。

うなぎのぼり (名) 鰻昇 〔鰻ヲ摑ムニ、粘アリテ昇ル、兩手代ル代ル摑ムニ、益ス昇リテ、降ルコトナシ〕 吏人ナド、官途ニ、次第ニ階級ヲ歷テ、スルスルト昇ルコト。

うなぎめし (名) 鰻飯 熱キ飯ニ、鰻ノ蒲燒ヲ入レタルモノ。京都ニテ、マムシ。

うなぎわた (名) 〔項着綿ノ義ナルベシ〕 綿帽子ノ一種。婦人、頂ヨリ頸ヘカケテ被ルモノ。 [illegible](寛永)「お[illegible]ヲ、ツケヌモ被ク、うなぎ綿」 萬金産業袋(享保)五「促綿、鬱金、淺黄ノ染綿ニテ作ル」

うなげ・る (連體) 〔項ヲ活用セサセテ、うなぐ(香ぐ、綱ぐ)ト云フ四段活用ノ動詞アリテ、項傾クノ意アリテ、其完了語、うなげりノ連體形ナルベシ、但シ、其他ノ活用形ヲ見ズ〕 項ニ懸ケタル。 神代紀、上卅四「其頸所嬰五百箇御統之瓊」 萬葉集、十六ノ廿七長歌「吾ガ宇奈宜流、玉ノ七條」

うなこぶ (名) 脰 〔項瘤ノ義〕 牛ノ項ニ、皮高クナリテ、軛ヲ受クル處。枕骨。 天治字鏡、一ノ廿五「脰、項舍羅處也、瘤、項也、宇奈己不、又、宇奈志」

うなさか (名) 海境 〔うな(海)ト、さか(境)トノ條ヲ見ヨ〕 海上ノサカヒ。海上ノ見ユル、眼ノ水平線ヲ云フカ。 古事記、上卅七「則塞海坂、而返入」 萬葉集、九ノ十九浦島子ノ長歌、海若ノ[illegible]往來[illegible]云云[illegible]サカニ」

うなさ・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ (自動、下二) 夢魘 〔神吟らしめらるノ約ナラム、さもおびえおれ、さまたげ〕 ネオビエテ、恐ルベキ夢ヲ見テ、聲ヲ立ツ。

うなじ (名) 項 〔項後ノ略、うなじりぞく〕 頸ノ後。臥スニ、枕ヲ當ツル所。エリクビ。 天治字鏡、二ノ二「項、宇奈自」(倭名抄、三ノ三同ジ)

うなじのくぼ (名) 項窪 ぼんのくぼニ同ジ。ウシロクボ。 今鏡、中、第六、弓のれ「イタク烏帽子ノ尻高クアゲタルニ、うなじのくぼニ結ヒテ、出デムト思フナリ」

うなだ・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ (自動、下二) 項垂 項ヲ前ニシテ、頭ヲ垂ル。ウツムク。物思フ時ニスルコトナリ。低個。 神代紀、下十三「低個」 源、十、榊「宮司トモノ親シキバカリ、ウチうなだれテ、見ナシニヤアラン、屈シ痛ゲニ思ヘリ」

うなづ (名) 海水 〔海水ノ略、埋水、うづ(渦)〕 海ノ水。潮。 天武紀、下、十三年十一月「大潮高騰、海水飄蕩」

うなづ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (自動、四) 項突 〔項ヲ前ヘ突クナリ、頭づく、額突くモアリ〕 頭ヲ、前ヘ搖ガス。(首肯ヲ示ス) 意ヲ示スナリ。領、點頭 天治字鏡、十二ノ廿五「點頭、宇奈豆久」 源、二、帚木廿四「中將、例ノうなづく」 著聞集、十八、飲食「僧正ノ、ネブリテうなづくヲ」

うなで (名) 溝 〔うなハ、畝ニ通ズ、手ハ、稻、いな(て)ハ、堰ノ、てニ同ジカルベシ、出雲國造神賀詞ニ、宇奈提(大和、高市郡、雲梯村)トアルモ、溝ニ因ル名ナルベ

シ」田ノ用水ノ溝。崇神紀、六十二年七月「河内狹山埴田、水少、云云、多開ニ池溝ニ以寛ニ民業ニ」夫木抄、五、春田「マスラヲガ、うなでノ道ニ、齋串立テ、水口祭ル、ホドハ來ニケリ」

うなどん（名）うなぎどんぶりノ略。

うなね（名）【項根】項ノ本。俗ニ云フ、くびねッこ。新年祭祝詞「鵜ジモノ、頸根衝キ拔キテ」（頸根ヲ、匍サニ水ニ突キ入ル）

うなは（名）【鵜縄】（一）鵜飼ノ、鵜ノ頸ニックル、檜ノ縄。長柄川ナルハ、長サ一丈二尺、一人ニテ十二羽、縄ノモツレヌヤウニ、左右ノ五指ノ股ニ分ケテサバク。新六帖、三「イカニシテ、使フうなはノ、（如ク）サバキツツ、行フ道ニ、心亂レジ」（二）漁ノ具。網ノ縄ニ、鵜ノ羽ヲ着ケテ、魚ヲ驚カシ捕ルモノ。山家集、下「見ルモ憂キハ、うなはニ逃グル、イロクヅヲ、ノガラカサデモ、シタムモチ網」

うなばら（名）【海原】〔うな（海）ノ條ヲ見ヨ、原ハ、廣キ意、天の原モアリ、うのはらハ、海の原ノ略〕又、うのはら。海ヲ、其廣キニ就キテ云フ語。滄海　神代紀、上四「滄溟」萬葉集、五廿九「宇奈波良ノ、沖行ク舟ヲ、歸レトカ、領巾振ラシケム、松浦佐用姬」大祓詞「大船ヲ解キ放チ、大海原ニ押放ツ事ノ如ク」萬葉集、廿七「大君ノ、命畏ミ、礒ニ觸リ、宇乃波良渡ル、父母ヲオキテ」

うなび（名）【海邊】〔うみべノ轉音〕ウミノホトリ。ウミベ。萬葉集、二十八長歌「カタハナクトモ、鯨魚トリ、海邊ヲサシテ、ニギタヅノ、荒礒ノ上ニ」

うな・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ（他動、四）〔畝ヲ活用ス、（稲、いな）歌ふ、色ふノ例〕鍬ニテ、土ヲ起シ、畝ヲ作ル。サクル。露忠百首、下「水タマル、谷ノエゴエゴ、掘リカヘシ、リリナクうなふ、小田ノ苗代」「畠ヲうなふ」

うなめ（名）【牸】〔牛の牝ノ略轉カ、足搔、あがき。海の原、うなばら〕牝牛。今モ伊豆ノ東岸ニテ、うなめト云フ。增補、下學集、上、二、氣形門「牸、牝牛也」廣韻「牸、牝牛」

うなめぬひ（名）【畝目縫】〔うなめハ、畝目ノ轉、稲、いな。船、ふな〕帛ヲ、絲ニテ、畝刺ニ縫ヒタルモノ。鎧ノ菱縫ナドニ云フ。

うなや（名）【檻】〔憂な屋ノ意カト云フ〕ヒトヤ。ヲリ。牢。監獄。神功紀、五年二月「捉ニ新羅使者三人ニ納ニ檻中ニ」私記「檻、宇奈也」八雲御抄、四「うなやハ、人ヲコムル所ヲイフ」

うなり（名）【唸】（一）呻吟ルコト。（二）凧ニ着ケテ、風ニ鳴ラスルモノ。籐、又ハ、鯨鬚ヲ、薄ク剝ギテ、小弓ノ弦ニ張リテツク。出雲ノ松江ニテ、鳴籐ト云フ。風箏

うな・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）【唸】〔うハ、聲、鳴くヲ、鳴るトモ云フ、（其條ヲ見ヨ）うたく、（咆哮）うめく、同ジ〕（一）苦シミテ、うう卜聲ヲ出ス。惱ミテ呼ブ。ウメク。呻吟（二）永ク鳴リ響ク。「鐘ノ音うなる」凧うなる」金銀がうなるト云フハ、充積スル意、鐘ニカケテ云フナリ。（三）吼ユ。ウタク。（猪、虎ナド）曾我虎磨（寶永、近松作）下「うなり出デタル暴レ猪ノ、槍モ矢先モ事トモセズ」（四）芝居ノ語。見物人、聲立テテ褒メル。貶ス聲ニハ、涌くト云フ。

うなゐ（名）【髫髮】〔項集ノ義〕（一）古ヘ、男女兒、生レテ二歳マデハ、髮ヲ鋏ミオク、三四歲、髮置ス、是レ被髮、童丱ナリ、七八歲、髮ノ中ノ毛ヲ頂ニ束ヌ、是レ、うなゐナリ、女兒ハ其外ノ毛ヲ垂レオキテ、肩ニテ切ル、コレヲうなゐ放、父、はなりトノミモ云フ。（以上諸語、其髮風シタル子ニモ云フ）字鏡六廿「髠（髫ノ誤）髮至レ肩垂貌、宇奈井」倭名抄、二廿「髫髮、宇奈爲、俗用ニ垂髮二字ニ謂ニ童子垂レ髮也」萬葉集、十六八長歌「カ黑ナル髮ヲ、眞櫛持チ、ココニ搔キ垂レ、取束ネ、擧ゲテモ纏キミ、解キ亂リ、童兒ニ成シミ」同、十六廿「橘ノ、寺ノ長屋ニ、吾ガ率寐シ、童女波奈理ハ、髮上ケツラムカ」稱ニ若冠女ニ（未著冠ノ誤脫カト云フ）日ニ放髮丱ニ」同、七三十「未通女等ガ、放ノ髮ヲ、結フノ山」同、九五長歌「八年兒（女兒）ノ、片生ノ時ユ、小放ノ、髮結クマデニ、云云」（二）幼キ童男、女。ウナヰ子。宇津保物語、梅花笠ニ「うなゐハ髮結ヒテ、馬ニ乘レ」大和物語、上「ソコナリケルうなゐヲバ、右京大夫呼ビ出デテ」拾遺集、二、夏「時鳥、ヲチカヘリ鳴ケ、うなゐ子ガ、打チ垂レ髮ノ、五月雨ノ空」

うなゐこ（名）【髫髮兒】（一）前條ノ（二）ヲ見ヨ。（二）オキナグサ。

うなゐばなり（名）【髫髮放】前前條ノ（一）ヲ見ヨ。

うに（名）【雲丹】【海栗】〔腸ノ漢名、海膽ノ文字讀ノ、海膽ノ約轉カ、にの、みの。（蓑）にな、みな。（蜷）にがし、みがし（苦）〕介ノ名、一名、カセ。海底ノ石ノ間ニアリ、殼ハ、圓ク扁クシテ、紫黑ナリ、外ニ、黑キ刺多ク生ジテ、栗ノ毬ノ如シ、故ニ、海栗ノ字ヲ記ス、刺、落ツレバ、星兜ノ如シ、かぶとがひ、うにつぼノ名アリ、其刺ヲ香箸貝ト云フ、肉、食フベカラズ。棘䖴　腸、甚ダ少シ、採リテ𛂞ほからニ製ス、色、黑褐、或ハ、赤褐ナリ。海膽　本草和名、下六廿「棘䖴子、貌似ニ橘而圓、其甲紫色、生ニ芒角ニ者也、宇爾」同七廿「石陰子、加世」倭名抄、十九六「石陰子、甲蠃、加世」棘䖴子、蕀甲蠃、宇仁」

うに（名）石炭、泥炭、ノ一名。（伊勢、伊賀）芭蕉句「香ニ匂ヘ、うに掘ル岡ノ、梅ノ花」

ウニウ（名）〔蝦夷語、Unen.〕ないとせいニ同ジ。

ウニコオル（名）〔羅甸語、Uni-cornus. 葡語、Uni-corne.〕一角ニ同ジ。平家女護島（享保、近松作）三「唐土ノうにおるト云フケダモノハ、水上ノ惡毒ヲ、オノレガ角ニテ、濯ギ消シ、國民ノ命ヲ助ク」

うにつぼ（名）【雲丹壺】海栗ノ殼。うにノ條ヲ見ヨ。

うぬ（代）【己】〔おのれノ略轉〕極メテ輕蔑スル時ニ云フ、對稱代名詞。國性爺合戰（享保、近松作）二「ヤアヤア、うぬハ何處ノ風來人」

うぬぼれ（名）【己惚】ウヌボレルコト。オノボレ。自慢。自負。

うぬぼれかがみ（名）【己惚鏡】びいどろかがみノ異名。其條ヲ見ヨ。

うぬぼ・れる（動）【己惚】おのぼれるニ同ジ。憎ミテ、他ヨリ云フ。

うね（名）【畝】【壠】【畦】〔浮土根ノ約略カ、（引剝、ひはぎ）ねニ意ナシ、羽ね、杵ね〕（一）〔畠ノ中ニ、幾筋モ並行セシメテ、土ヲ長ク盛リ起シタルモノ。其上ニ穀菜ヲ植エツク。詩經、小雅、谷風之什、信南山篇「南ニ東其畝ニ」朱註「畝、壠也」〕（二）畝ノ並行シタルニ似タルモノノ稱。「波ノうね」畝織　靈異記、下、第十六縁「畝、ウネ」倭名抄、一六「畝、宇禰」

うねうねと（副）【畝畝】（一）波ノ、疊ミテ打寄スル狀ニ云フ語。漣漪（二）山脈ナドノ疊マリ立ツ狀ニ云フ語。蜿蜒

うねおり (名) [畝織] 織物ニ、綾ヲ起シテ、高ク低ク、畦ヲナシ織レルモノ。

うねくね (副) 〔くねるノ條ヲ見ヨ〕紆。行ル貌ニ云フ語。ウネウネト。蜿蜒。

うねくる・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) [紆曲] 〔せせる、せせくる。ねぢる、ねぢくる〕うねるニ同ジ。ウネクレル。

うねくれる・レル・レレ・レ・レヨ (自動、下二) [紆曲] 前條ノ口語。

うねさ (名) おきなぐさノ(一)ノ一名。

うねざし (名) [畝刺] 〔刺シタル所、縞マリ、刺サヌ所、綿ニテ高クナリ、畝ノ状ヲナス〕布帛ヲ兩面ニシ、薄ク綿ヲ入レ、其上ヲ、間ヲオキテ、幾筋モ、絹絲、綿絲ニテ、粗ク揃ヒテ刺シ綴ヂタルモノ、粗、刺子ノ如シ。絹ナルハ、鎧ナドニ用キ、綿ナルハ木綿合羽ノ襟ニ使ヒ、多クハ足袋ニ用キテ、うねたびトモ云フ。浮世物語(寛文)一「うねざしノ踏皮ニ、ぼたんヲ入レ」東海道名所記(萬治)六、京ノ島原「うねたびノ筒ノ、タダクレヲナホシ」(昔ノ足袋ハ、筒、長カリキ)我衣「天和ノ比ヨリ、木綿ノうねざしノ足袋、ハヤル」

うねたび (名) [畝足袋] 前條ヲ見ヨ。

うねべ (名) [采女] 〔嬰部ノ約ニテ、(いしなげどり、いしなどり)領巾、襷ヲ嬰リテアル意ナルベシト云フ、(うなげるノ條ヲ見ヨ)采女ノ貢ニ供セラルル「采女肩巾田」ト云フモアリ(繼紀、三)〕下級ノ女官。後ニ音轉シテ專ラ、うねめト云フ。次條ヲ見ヨ。倭名抄、六「采女、宇禰倍」宇津保物語、樓上、上、九「ときもちガ妻ハ、朱雀院ノ御時、うねべヲナムシハベリシ」

うねめ (名) [采女] 〔うねべノ轉、(すべらぎ、すめろぎ)前條ノ語原ヲ見ヨ、後漢書、皇后紀、采女、采擇也、以、因、采擇而名之〕うねべ。後宮ノ下級ノ女官。供奉、御膳ノ事ニ奉仕ス、諸ノ少領以上ノ女ノ、容貌正シキ者ヨリ採用セラル、采女司ニ屬ス、後宮職員令ニ水司、膳司ノ下ニ、采女アリ。仁德紀、四十年二月「采女」孝德紀、大化二年正月「凡采女者、貢郡少領以上姉妹、及子女、形容端正者、[illegible]采女」

うねめつかさ (名) [采女司] ウメノツカサ。古ヘ、宮内省ニ屬セル司、采女ノ撿校等ノ事ヲ掌ル。

うねめのかみ (名) 次條ニ同ジ。

うねめのかみ ウネメ・ノ・ショウ

うねめのかみ 〔ウネメノ・ショウ〕

うねめのかう (名) [采女正] ウネメノカミ。采女司ノ長官。

うねめのつかさ (名) うねめつかさニ同ジ。

うねり (名) (一)ウネルコト。曲リメグルコト。(二)大浪ノ、高クウネリ立ツモノ。

うねる・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 〔畝ヲ活用ス、庵る、宿るノ例〕高ク低ク、或ハ、右ニ左ニ、曲ガリ廻ル。ウネクル。マガリクネル。蟠紆 紆行 文選、南都賦「容裔」註

うのあしがひ (名) [鵜脚貝] 介ノ名。よめがさらノ類ニテ、形、鵜ノみづかきニ似タルモノ。

うのけ (名) [兎毛] (一)兎ノ毛。極メテ細ソシ、筆ノ頭ニ作ラル。圖書寮式「造筆長功、日、兎毛十一管」調度歌合(三十番右、筆)「御硯ノ、うの毛ノ筆ニゾ、書キツケル」(二)物事ノ、極メテ微少ナルニ譬ヘテ云フ語。毛頭。秋毫。毫末 津國女夫池(享保、近松作)

ニ「[illegible]ノ毛ノ[illegible]モ、[illegible]モ、[illegible]ラ[illegible]「うノ[illegible]ノ[illegible]」(三)[illegible]ノ一名。拾遺愚草、上「露ヲ待ツ、うの毛ノイカニ、[illegible]ラン、月ノ桂ノ、[illegible]」

うのはな (名) [卯花] 〔空木ノ花ノ略、(早苗月、さつき)〕(一)空木ノ花。(つぎノ條ヲ見ヨ)溲疏花 大和本草 川柳「卯の花ノ、垣根ハ夏ノ、這入口」(二)襲ノ色目ニ、表、白ク、裏、青キモノノ稱。榮花物語、十九、御裳着「今日ハ、藤ノなるノ、色色ヲ着タリ、云云、寢殿ノ南ヨリ西マデ、ウチイダシタリ、藤、十人、卯花、十人、躑躅、十人、款冬、十人ゾアル」

うのはな (名) [卯花] 〔豆腐ノ空ヲ嫌ヒテ、得ぬ花ト云フ、梨ヲ、ありのみト云フト、同趣〕豆腐ノカラ。きらず(雪花菜)ノ異名。

うのはないり (名) [卯花煎] 「烏賊ノ色ヲ、白キ卯花ニ見立テテ云フカ」烏賊ヲ細ソク切リテ、淡キ味噌ニテ煮タルモノ。四条流庖丁聞書(長享)「うのはないりトハ、烏賊ヲ切リ、うすたれニテ煮ルナリ」易林節用集(慶長)「卯花煎」

うのはなくたし (名) [卯花腐] 「次條ノ語原ヲ見ヨ」ウノハナクタスコト。サミダレ。サツキアメ。ツユ。迎梅雨 書言、歌占(?)「うのはなくたしノ五月雨モ、降レヤトバカリ、面ニハ白汗ノ流シテ、袂ニハ露ノ玉」合類節用集「迎梅雨」

うのはなくたす・ス・セ・サ・シ・セ (自動、四) [卯花腐] 「卯の花ハ、陰曆四月ニ咲ク、五月ニ散リタルヲ、霖雨ノ腐ラスル意ナルベシ、又、梅雨ニ限ラズ、トモ云フ」一五月雨降リ始メテ、卯花ヲ腐ラス。ヤガテ、さみだるノ意トナル。萬葉集、十九、長歌五月ノ詠「宇能花ヲ、令腐霖雨ノ、始水ニ、寄ルコ

[illegible]、[illegible]、[illegible]、家ガ垣間ハ、荒レニケルカモ」堀河百首、夏、五月雨「イトドシク、賤ガ篠屋ノ、イブセキニ、卯花くたし、五月雨ゾ降ル」

うのはなる (名) [卯花[illegible]] 「うのはなニ[illegible]」

うのはなづき (名) [卯花月] 陰曆、四月ノ異稱。[illegible](文、[illegible]月、[illegible]月)

うのはなづきよ (名) [卯花月夜] 次條ヲ見ヨ。

うのはなづくよ (名) [卯花月夜] 〔月夜トハ、唯、月ト云フ事ナリ、其條ヲ見ヨ〕卯花ノ白キヲ、月ノ光ニ見立テテ云フ語。又、うのはなづきよ。萬葉集、十、五月「山、宇能花月夜、ホトトギス、聞ケドモ飽カズ、マタ鳴カムカモ」[illegible]「[illegible]、心ニ秋モ、アリヌベシ、うのはなづきよ、[illegible]ガメツツ」

うのはなやき (名) [卯花燒] 鯖ヲ炙リテ、酢ヲカケ、雪花菜ヲ散ラシカケタルモノ。

うのはなをどし (名) [卯花縅] 〔卯月ハ、卯花ハ、白シ、衣ノ[illegible]ハ、[illegible]〕[illegible]ノ鎧ニ、一段ハ白、一段ハもえぎト、段段、色ヲ易ヘテ縅シタルモノ、又、上半部ヲ白ク、下半部ヲもえぎニシタルモノ、又、上下、反對ニシタルヲモ云フ。[illegible]、白河殿攻落事「[illegible]ノ住人、根井大彌太、[illegible]ノ直垂ニ、卯の花縅ノ鎧」

うのはら (名) [海原] うなばらノ條ヲ見ヨ。

うのみ (名) [鵜呑] (一)鵜ハ、魚ヲ噛マズシテ、呑む」(一)食物ヲ、全マヽニ呑ムコ

ト。マルノミ。(二)文章、或ハ、事ノ意味ヲ考ヘズシテ、其儘採ルコト。浮世風呂(文化、三馬)三編、上、序「假令、揚雄ガセンボヲ語ンジ、牛ニガサンショヲ鵜呑ニスルトモ」

うのめ-がへし (名) 畝目返 〔うのめハ、畝目ノ轉、うなめぬひヲ見ヨ〕 裏表ヨリ、畝目縫ニシタルモノ。畝刺ナルベシ。女諸禮集、三「御供ノ衆、ムカヒ警護ニ至ルマデ、袴、肩衣ニ、うのめがへしノ裝束アルベカラズ」(俚言集覽) 我衣(安永)將軍吉宗鷹野「うのめがへしノ御股引、紺ノ差足袋ヲ召シタリ」

うのめ-たか-のめ (名) 鵜目鷹目 〔鵜ノ鮎ヲ、鷹ノ小鳥ヲ、鋭キ眼ニテ窺ヒ狙フニ因リテ云フ〕 數人、目角ヲ立テテ、他ノ爲ス事ヲ、鋭ク見守ルコト。

う-の-め-ゆわう (名) 鵜目硫黄 ゆわう(硫黃)ノ條ヲ見ヨ。

うは (名) 上 〔上ノ轉、苗、なはしろ(苗代)ノ類〕 上ト云フニ同ジ。熟語ニノミ用キル。「上書」上 皮」上 包」上 前」

うば (名) 祖母 〔おほばノ約ナル、おばノ轉、う(大)ノ條ヲ見ヨ〕 オホバ。オバ。ババ。隆信集、上「うばニテ侍リシ人、ミマカリテ、云云、母ノ、カノ服着ラレシ日、云云」ホのびね物語、上「若君ハ、うば君ニイトヨク懷キタマヒテ」字類抄「祖母、ウバ」林逸節用集「祖母」祖母 懷」

うば (名) 姥 〔嫗ノ轉、おはぎ、うはぎ。(薺蒿)うおく、おおく(動)ノ(一)嫗。老イタル女。老婆。嫗 曾丹集、十二月、終「年經レバ、うばノ玉蔓モ、老イニケリ、烏ノ髮ニ、雪積リツツ」 (二)轉ジテ、乳母。メノト。チヅケ。ママ。オンバ。乳母 夫木抄、三十五、女「イチゴ守ル、うば女嫗ノ、重ネ持ツ、兒手柏ニ、面ナラベム」著聞集、五、和歌「守山ノ、イチゴサカシク、ナリニケリ、うばラガイカニ、ウレシカルラム」 (三)とうふのうばヲ見ヨ。

うば-あいさ (名) 姥秋沙 鳥ノ名。形、あいさニ同ジクシテ、唯、眼ノ上ニ黑キ條アリ、翅ノ上ニ黑キ羽雜レリ。

うは-あご (名) 上顎 あご(顎)ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。

うばい (名) 烏梅 〔古ヘハ、烏梅ト訓ミキ、(梅ノ條ヲ見ヨ)烏ハ、黑キ義、燻ベラレテ黑シ〕 又、烏梅。梅ノ實ヲ燻ベテ、乾シタルモノ。香氣アリ、藥用、又、染料トス。本草「梅實、采二半黃者一以レ烟熏レ之爲二烏梅一、靑者、鹽淹曝乾爲二白梅一」倭名抄、十二二藥名類「烏梅丸、治二丁腫下痢一」醫心方、五十四「烏梅」康賴本草、上十六「梅實、牟女、五月採レ之、大乾烏梅者、見二諸藥入ロ之」和漢三才圖會、八十六「烏梅、布須倍牟女」

ウバイ (名) 優婆夷 〔梵語、Upasika.〕 うばそくノ條ヲ見ヨ。

うはう (名) 右方 舞樂ノ條ヲ見ヨ。

うばう (名) 羽旄 鳥ノ羽ヲ飾レル幢。孟子、梁惠王、下篇「百姓聞二王車馬之音一、見二羽旄之美一、擧欣欣然有二喜色一」

うは-うは (副) 上上 心ノ浮キテ、沈着カヌ狀ニ云フ語。「氣ガうはうはスル」

うは-おき (名) 上置 (一)物ノ上ニ、置キ添フルモノ。(二)雜煮餅、卓袱蕎麥ナド、汁物ノ上ニ載スルモノ。里芋、青菜、椎茸、燒豆腐、蒲鉾ナド、味付ケ煮テ用キル。雪女五枚羽子板(寶永、近松作)中「ゴマメ鱠ノ素浪人、雜煮ノ上置、輪ン切リ大根」

うは-おそひ (名) 上襲 表衣ノ上ニ被ヒ着ル衣。字鏡八十二「襴、衣上副、宇波於曾比」

うは-おび (名) 上帶 (一)表衣ノ上ニ用キル、常ノ帶。(下帶ニ對ス) 同本記「ナカ帶ノ上ニ十德着、白キうはおびヲシテ」(二)鎧ノ上ニ用キル帶。多クハ、麻布ノ括帶ナリ。平治物語、二、六波羅合戰事「腹ヲ切ラント、上帶ヲ押切ケレバ」(三)箙ノ上ニ掛ケテ、腰ニ結ビトムル紐。雅亮裝束抄、二「ヤナグヒヲ負フ、うはおびハヒクベシ」

うは-おほひ (名) 上被 スベテ、物ノ上ニ被フ席、布、ナドノ稱。被物

うは-がき (名) 上書 ウハブミ。書狀、書物、匣、ナドノ表ニ書ク名稱、外題ナド。表書 伊勢物語、第十段「云云、ト書キテ、うはがきニ、武藏鐙ト書キテ」

うばがね-さう (名) 次條ニ同ジ。

うばがね-もち (名) 灌木ノ名、山麓ノ樹下ニ生ズ。莖細ソクシテ、高サ三四尺アリ、葉ハ、樫ニ似テ、冬枯レズ、秋、葉ノ間ニ、小サキ穗ヲナシテ、花ヲ開ク、ねぢのきノ花ニ似テ、小サクシテ白シ、實ハ圓クシテ二分許アリ、白クシテ紫ノたてすぢアリ。ウバガネサウ。イッセンリャウ。杜莖山

うは-かは (名) 上皮 (一)皮ノ上ノ、更ニ薄キ皮。(二)スベテ、物ノ表ヲ被ヘルモノ。外被 傾城酒呑童子(享保、近松作)四「ソモ人間ノ皮一重、下ハ恐ロシ、上皮ハマヅ美シキ上臈」

うは-かは (名) 上側 物ノ側ノ、上ニナリタル方。ウハベ。ウハツラ。(下側ニ對ス) 表面

うは-がひ (名) 上交 〔うはがへトモ云フ、交ハ自動ニテ、交ハ他動ナリ、左右ノ衽ヲ打チ違ヒニシ、又ハ、打チ違フル意ナリ、うちかひノ條ヲ見ヨ〕 又、うはがへ。まただがひ、まただがへト共ニ、衽ノ上前、下前ナリ。字鏡廿九「衽、衣前衿也、宇波加比」元服次第「小袖疊ミヤウノ事、常ニハ、下がひヲ上ヘナシ候、此時ハ、上がひヲ上ノ方ヘナルヤウニ疊ミ候也」(松屋筆記、三) 雅亮裝束抄、二「脇明ノうはがへノ裾ヲ、足ノ頸ニツカセテ、まただがへヲバ、一寸バカリ引キアゲ」宇津保物語、俊蔭三十「まただがひノ衽」蜻蛉日記、下、下七「唐衣、亂レニシ褄ヲ、打チカヘシ、我がまたがひニ、ナス由モガナ」

うば-がひ (名) 姥貝 あかがひノ一種。縱ノ筋、最モ細カクシテ、殼ノ一片短キモノ。肉ヲ乾シテ、食用トス。

うは-かぶき (名) 上傾 〔かぶく(傾)ノ條ヲ見ヨ〕 (一)物ノ、頭ガチニテ、傾クコト。頭大 (二)ウハックコト。浮氣。浮虛 好色一代女(貞享、西鶴)四「大阪ハ、思フヨリ、人ノ心うはかぶきニシテ、末ノ算用合フモ合ハヌモ、緣組華麗ヲ好メリ」世間娘容質(享保、其磧)一「世間ノ娘ノうはかぶきナルコト、コレニ限ラズ」

うは-がへ (名) 上交 うはがひノ條ヲ見ヨ。

うは-がみ (名) 上紙 (一)上包ノ紙。(二)表紙。

うば-が-もち (名) 姥餠 〔寬永ノ頃、佐佐木義賢ノ後裔ノ幼兒アリ、其乳母、養育ノ資ニトテ、往還ノ大名、高家ニ歎キ、由緒ヲ述ベテ、餠ヲ賣リシニ起ルト云フ(東海道名所圖繪)〕 近江國、草津驛ニテ賣ル餠。名物トシテ、名高シ。丹波與作(寶永、近松作)道中双六「オ姫樣ヨリ、マヅ姥が餠、一口、二口、ミナロドヂャウ、踊リコエ」

うはがり (名) [上借] 金銀ヲ、借リタル上ニ、又借ルコト。

うはがれ (名) [上枯] 草木ノ上ノ方ノ、枯ルルコト。ウラガレ。 夫木抄、二十、雑部「うはがれノ、草葉ハ霜ニ、ナホ消エテ、春メキヤラヌ、小野ノ古道」

うはき (名) [上氣、浮氣] 浮キテ、オチツカヌ心。輕佻。客氣。 甲陽軍鑑、九、下、品第廿七、板垣信形「弓矢功者ノ侍大將ナレドモ、當未ノ正月ヨリ、分別うは氣ニナラレ、備ヘ悉ク違ヒ、云云」

うはぎ (名) [薺蒿] 草ノ名、よめなノ古名。おはぎ。 萬葉集、十「春日野ニ、煙立ツ見ユ、少女等シ、春野ノ菟芽子、摘ミテ煮ラシモ」

うはぎ (名) [上着] 衣ノ、最モ上ニ着ルモノノ稱。表衣 金葉集、四、冬「ナカナカニ、霜ノうはぎヲ、重ネテモ、鴛鴦ノ毛衣、サエマサルラム」 堀河百首、秋「籬ノ内ニ、八重咲ク菊ノ、朝ゴトニ、霜コソ花ノ、うはぎナリケレ」

うばくか (名) [右幕下] (幕下ノ條ヲ見ヨ) (一)右近衛大將ノ居所。(二)其大將ノ敬稱。 吾妻鏡、二十三、建保六年三月十六日「御使入洛之時、任(故大將軍(賴朝)之例)、可(被任右)、仍右幕下(被辭中)之刻、云云」

うはぐすり (名) [上藥] 陶器ノ表面ニ塗ル釉藥。

うばくち (名) [姥口] (老婆ノ、齒ナキ口ノ狀ニ云フカ、面頰ノ口ニ、齒ノ作リツケテナキヲ、姥頰ト云フモ、姥口ナリ) 茶人ノ、壺口シタル狀ノモノ。茶家ノ茶碗、茶入ナドニ云フ。

うはぐつ (名) [上沓] 床上ニ用キル、淺キ沓。(地上ニ用キルニ對ス)

うばぐるま (名) [乳母車] 幼兒ヲ乘セテ、後ヨリ押シ進ムルヤウニ作リタル小車。籐ナドニテ作ル、モトハ、西洋製ノモノナリ。

うはごと (名) [浮言] 熱病ナドニ浮サレテ、精神ヲ喪ヒ、條理無キコトヲ語ルコト。譫語。囈語。

うはさ (名) [噂] (浮沙汰ノ略ニモアラムカ) 事事ニツケテ、世上ニ言觸ラス話。風說。世評。 曾根崎心中(元祿、近松作)道行「アヤナヤ昨日今日マデモ、ヨソニ云ヒシガ、明日ヨリハ、我レモ噂ノ數ニ入リ、世ニ歌ハレン、歌ハバ歌ヘ」

うはざうり (名) [上草履] 板敷ナドノ上ニ用キル草履ノ稱。(地上ニ用キルニ對ス) 天明ノ川柳「上草履、ヌイダヲ聞イテ、空寢入」

うばさぎ (名) [姥鷺] あをさぎ(一)ノ一種。小サクシテ、全身ニ淡赤ミアルモノ。

うばざくら (名) [姥櫻] (落花マデ葉なきヲ、齒無きニ寄セテ名トス) (一)彼岸櫻ニ同ジクシテ、後レテ開クモノ。花ハ重瓣ニシテ大キク、莖短ク、密ニ着ク。(二)年增女ノ、色氣アル者。 賀古教信七墓廻(元祿、近松作)櫻祭文「小町櫻モ老イヌレバ、身ハ百歲ノ姥櫻」

うはざし (名) [上刺] (絲ヲ表ニアラハシテ、刺シ縫フ意ナルベシ) (一)布帛ノ地ニ、稍太キ絲ヲ以テ、表裏ニカケテ、碁盤ノ目ノ如ク、縱横ニ掬縫ニ刺シ綴ヂタルモノ、絲、面ニアラハレテアリ。碁盤縫トモ云フ、後ニ云フ、刺子ナリ。平包、(風呂敷)布袋ナドニスルコトニテ、破レシメザラムガ爲ナリ。 雅亮裝束抄、二「平包ノうはざし」 書札雜雜聞書「うはざし袋へ、[illegible]ヲ入レテ[illegible]事」(二)[illegible]、[illegible]ナドニ、[illegible]テ、一筋、上差シタルモノ。 今鏡、上、第二、[illegible]、[illegible]ノ[illegible]、白河ノ花ノ宴、[illegible]ノ[illegible]ニモ、[illegible]ヲシタレニ、[illegible]ノ[illegible]ニモ、シロガネノ[illegible]テ、うはざしハ、玉ヲツラヌキテ飾ラレ侍リケル」(三)次次條ノ語ノ略。

うはざし (名) [上差] 軍將ノ胡籙ニハ、征矢十九本、內ニ入レテ刺ス、コレヲ、中差ト云フ、別ニ一本ノ鏑矢、又ハ、雁股ノ矢ヲ表ニ刺ス、是レ、上差の矢ナリ。神社ニ祈請スル時ニ、上差を奉ると云フハ、此大雁股ナリ。上差の矢ナルヲ略シテ、上矢トモ云フ。(松屋筆記、一) 表矢 [illegible]、三十六、清盛射鹿事、[illegible]、云云、「[illegible]ノ上差拔キ出シテ」 今昔物語、廿七、四十三語「負ヒタル胡籙ノ、上差ノ箭ヲ、一筋」 太平記、九、篠村八幡宮足利高氏願書事「上差ノ鏑一筋副ヘテ、寶殿ニ納メラレケレバ、云云、相從フ人人、我モ我モト、上矢一ヅツ奉リケル」 平家物語、七、木曾願書事「源義仲敬白ト書テ、我ガ身ヲ初メテ、十三人ガ上矢ノ鏑ヲ拔キ、願書ニ取副ヘテ、八幡大菩薩ノ御寶殿ニゾ納メケル」

うはざしぶくろ (名) [上刺袋] 上刺シタル布帛ニテ作レル袋。方圓ノ底ヲナシ、上ノ口ニつがりヲ作リ、紐ヲトホシテ締ム。略シテ、うはざし。昔シ專ラ、他行ノ時、衣服ナド入レテ、從者ニ持タセタリ。(ふくろかづきノ條ヲ併セ見ヨ) 女房方故實「うはざしぶくろノ事、男ノうはざしハ、つがりノ數、三十三アルベシ、女房衆ノハ、二十二カ、三十アルベク候」(貞丈雜記、八、調度)

うばざめ (名) [姥鮫] (齒ナシトシテ、老婆ト云フカ) 鮫ノ類、皮ニ皺アリテ、齒極メテ小サク、全身灰白ナルモノ。大キナルハ、長サ五尋ニ及ブ。ウバブカ。

うはしき (名) [上敷] (一)床疊ノ上ノ敷物。 名義抄「茵、ウハシキ、シトネ、ニク」(二)敷物ニ同ジ。 [illegible]、云云、敷物ハ、アヲラシノ[illegible]」

うばしぎ (名) [姥鷸] (一)鷸ノ一種、[illegible]渡リ來ル、全身淡褐色ニシテ、黑キ斑アリ、但シ、翅、尾ノ斑ハ、黑クシテ細長シ、嘴ハ長ク黑ク、脛ハ灰色ナリ。山間ノ濕地、小柴ノ中ナドニ居ル、因リテ、田鷸ト別チテ、山鷸ノ名モアリ、肉、味美ナレバ、豚鷸ノ名モアリ。(二)又、一種、頭ヨリ尾マデ、黑クシテ、白羽交リ、腹、白ク、嘴、赤黃ニシテ、脚、長ク、三指ニシテ、赤キモノ。

うはしる (名) [上汁] 上澄ノ汁。上汁を吸ふトハ、人ニ務メサセ、己レハ勞セズシテ其利益ヲ取ルヲ云フ。上前ヲ取ル。

うはすだれ (名) [上簾] 牛車ノ屋形ノ、前後ニ掛クル簾。(下簾ニ對スル語) 中右記、天永二年七月十四日 民部卿[illegible]、[illegible]下簾上簾、[illegible]用二[illegible]色」

うはすべり (名) [上滑] 物事ノ、上調子ニテスルコト。輕浮。

うはずみ (名) [上澄] (一)水ニ濁リタル物ノ、澱ミテ、上ノ方ニ澄ミタル水。(二)濁酒ノ糟、澱ミテ、上ニ澄ミタルヲ汲メルモノ。

うはぜい (名) [上背] 身長ト云フニ同ジ。

ウバソク (名) [優婆塞] (梵語、Upāsaka. 近住ノ義、戒ヲ受ケテ、僧ニ近事スル

意」齋宮ノ忌詞ニ、角筈。俗ニアリテ、佛門ニ入レル男子ノ稱。近事男、又ハ、信士男ナド譯ス。女ナルヲ、優婆夷ト云フ、近事女、又ハ、信士女ナド譯ス。圓覺經「優婆塞、優婆夷、此在家二衆」源、四、夕顏廿「うばそくガ、行フ道ヲ、シルベニテ、來ム世モ、深キ契リ違フナ」徒然草、百六段「四部ノ弟子、云云、優婆塞ヨリ、優婆夷ハ劣レリ」盛衰記、十九、文覺發心事「此女房ハ、觀音、優婆夷ノ身ヲ現ジテ、我等ガ道心ヲ催シタマフ」

うばたま（名）〔烏羽玉〕餅菓子ノ名。ぎうひニ餡ヲ包ミテ、三盆砂糖ヲ抹シタルモノ。

うばたまの（枕）〔烏羽玉之〕ぬばたまのニ同ジ。拾遺集、九、雜、下「うば玉の、夜ハ戀シキ、人ニ逢ヒテ、糸ヲモヨレバ、逢フトヤハ見ヌ」同、十七、雜秋「うば玉の、ワガ黑髮ニ、年クレテ、鏡ノカゲニ、フレル白雪」

うはちどり（名）みやおどりノ一名。

うはつく・ク・ケ・カ・キ・ケ（自動、四）〔浮付〕アダク。氣ガ、ウハウハス。ウハキニナル。芭蕉ノ句「花蝶モ、うはつきダツヤ、花ノ雲」

うはつソウ（名）〔有髮僧〕僧ニシテ、剃頭セザル者。修驗者ナドニアリキ。又、在俗ニシテ、佛道ヲ修スル者ヲモ云フ、何レモ、肉食妻帶ナリ。

うはづつみ（名）〔上包〕（一）〔凡テ、物ノ上ヲ包ムモノ。被。名義抄「䙓、ウハツツミ」（二）書物ノ帙。フマキ。（三）〔書狀ノ上ヲ包ム紙。封皮。源、十四、澪標廿七「御文、云云、うはづつみバカリヲ見セ奉ラセ給フ」

うはつぱり（名）〔上張〕衣ノ汚ルルヲ防ガムニ、更ニ其上ニ被ヒ着ル單衣ナド。

うはづみ（名）〔上積〕船車ノ積荷ノ、上ノ方ニ積マレタルモノ。上荷。（下積ニ對ス）

うはつら（名）〔上面〕ウハカハ。ウハベ。表面。

うはづる・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）〔上釣〕（一）ツリアガル。度ヲハヅレテ、高クナル。（聲、又ハ、樂器ノ音ナドニ）（二）ウハック。ウハウハス。ウハスベリス。（人ノ氣性ニ）輕浮

うはて（名）〔上手〕（下手ニ對ス）（一）上ノ方。夫木抄、廿一、橋「ワタノベヤ、橋ノうはてヲ、始メニテ、多カルキヂノ、ツマヤシロカナ」（二）風ノ、吹キ來ル方。カザカミ。上風（三）水ノ、流レ來ル方。ミナカミ。カハカミ。上流　平家物語、四、橋合戰事「弱キ馬ヲバ下手ニ立テヨ、强キ馬ヲバ上手ニナセ」（四）技、又、智、ナドノ、他ヨリ勝リタルコト。上手。優　竹齋物語（烏丸光廣、寬永十五年憂）「南無藥師、堂ハ下谷ニ、建テルトモ、うはてクスシト、我レヲナサセヨ」

うはてうし（名）〔上調子〕〔主ノ調子ヨリ、從ハ一調子高ケレバ、高ク響ク、因リテ、上ト云フ」（一）三味線ノ合奏ニ云フ語。主タル人、本調子ニテ彈クニ、從タル人、コレニ加ハリテ、二上調ニテ合セ、又、主ノ二上調ニハ、從ハ三下調ニテ合セ、從ノ手ハ、主ノ手ト、不卽不離ニ彈クナリ。（二）人ノ、思慮、振舞ニ、浮ツキテ、落チツカヌコト。輕浮

うはてなげ（名）〔上手投〕相撲ノ手ノ名。ゐたてなげノ條ヲ見ヨ。

うはなげし（名）〔上長押〕今云フ、つけかもえ。なげしノ條ヲ見ヨ。十訓抄、上、第一、三十二「西泉ノ透廊、云云、御輿ノ寸法ヲハカラヒテ、上長押ヲ打タザリケル」

うはなみ（名）〔上波〕水ノ面ニ立ツ波。夫木抄、十七、氷「岩ガ根ノ、シマワヲ分クル、山川ノ、うはなみ氷ル、冬ノ曙」萬代集、十六、雜、三「入海ノ、セトノサキナル、高岩ニ、うはなみ越エテ、荒ルル潮風」

うはなり（名）〔次妻、後妻〕（一）おなみ（嫡妻）ノ條ヲ見ヨ。（二）次次條ノ（二）ヲ見ヨ。

うはなりうち（名）〔次妻打〕〔おなみ（嫡妻）ノ條ヲ見ヨ」（一）嫡妻ガ、嫉ミテ、次妻ヲ打チタタクコト。康頼、寶物集、上「村上ノ御門ノ宣耀殿ノ女御、云云、九條右大臣師輔ノ女御ヲ、土器ノ破ニテ打チタマヒケルトゾ聞エシ、云云、アヤシノ下子ドモノ、うはなりうちトカヤヲシテ、髮ヲカナグリ、取組ミ、引組ミスルハ、理ニゾ侍ルベキ」盛衰記、一、兼家季仲等拍子事、村上天皇ノ御宇、左中將兼家、北方三人アリ「或時、此三人ノ北方、一所ニ寄合ヒテ、妬ム色ノ顯ハレテ、打合ヒ、取合ヒ、髮カナグリ、衣引破リナンドシテ、見苦シカリケレバ」台記、康治二年十一月七日「進士宗廣、妾、上成打」（二）室町時代ヨリ、離別ノ妻ガ、後妻ニ仇スルコト。夫ノ、妻ヲ離別シテ、後妻ヲ娶レル時、其娶リカタニ因リテ、前妻、其親シキ女ドモヲ語ラヒ、使ヲ以テ告ゲオキテ、後妻ノ家ヲ襲ヒ、其家什ナド打チ暴ラシタルナリ、コレヲ、相當打、又、騷動打ト云ヒキ。（昔昔物語）林逸節用集（文明）「嫌　打」追加望一千句「うはなりヲ、うてる姿ノ、オソロシヤ」アラヌナゲキヲ、すり小木ノサキ」（三）女ノ怨靈。次條ヨリ移レル語ナリ。謠曲、三山「妬サモ妬シ、うはなりヲ打ちチラシ、打ちチラス」松屋筆記、八十六「うはなり殷　若、宗固隨筆ニ、人ノ怨靈ヲ、うはなりト、中古ヨリ云フ詞也」

うはなりねたみ（名）〔次妻嫉〕「おなみ（嫡妻）ノ條ヲ見ヨ」（一）嫡妻ガ、次妻ヲ嫉ムコト。古事記、下（仁德）三「大后、石之日賣命、甚多ニ嫉妬、故天皇所ν使之妾者、不ν得ν臨ニ宮中ニ」（二）ネタムコト。嫉妬。リンキ。略シテ、うはなり。舒明卽位前紀、境部毛津「逃ニ匿于ニ尼寺瓦舍ハ、卽姧ニ二尼ハ、於ν是一尼、嫉妬令ν顯」名義抄「妬、ウハナリ」

うはに（名）〔上荷〕馬、車、船ノ、上積ノ荷。萬葉集、五三十七長歌「マスマスモ、重キ馬荷ニ、表荷打ツ」

うはにぶね（名）〔上荷船〕船ノ上荷ヲ、運送スルはしけぶね。京都御役所向大概覺書、三「淀上荷船之事」

うはぬり（名）〔上塗〕（一）〔最上ノ面ヲ塗ルコト。（壁塗、漆塗ナドニ云フ、中塗、下塗ニ對ス）仁德紀、元年正月「宮垣室屋、弗ニ堊色ニ也」（二）俗ニ、轉ジテ、事物ノ上ニ、添ヘ加フルコト。博多小女郞波枕（享保、近松作）下「一門ノ頰ニ血ヲ注ギ、親ヘハ不幸ノ上塗ト思ヒ」「恥ノ上塗」

うはのそら（名）〔上空〕（一）〔虛空。天上。天空　源、十四、澪標八十「オシナベテ、叩ク水雞ニ、オドロカバ、うはの空ナル、月モコソ入レ」散木集、七、戀、上「オシナベテ、答ヘヌ山ノ、山彥ヲ、うはのそらニモ、呼子鳥カナ」（二）空シキコト。何ノ心モ情モナキ風。今鏡、下、第七、敷島のうちぎき、女ノ物見車ニ言ヒヤル「タレタレゾ、タレゾサヤマノ、ホトトギス」女ノ車ヨリ「うはのそらニハ、イカガ名ノラム」新古今集、十三、戀、三「聞クヤイカニ、うはのそらナル、風ダニモ、まつニ音スル、ナラヒアリトハ」古今集、十一、戀、一「夕暮ハ、雲ノハ

タテニ、物ゾ思フ、あまつそらナル、人ヲ思フトテ」

(三)心、定マル一方ニ浮キアコガレテ、他ノ物事ニトマラヌコト。有頂天。浮空　萬葉集、十二、卅「立居スル、方法モ知ラニ、我ガ心、天津空ナリ、地ハ踏メドモ」

うはのり (名) [上乘] 荷ノ上ニ乘リ添ヒテ、守リ送ル人。

うはは (名) [上端] 定數ニ餘リタル端下。

うはば (名) [上齒] 上ノ齦ニアル齒。(下齒ニ對ス)

うはばみ (名) [蟒蛇] 〔大蝮(大蛇)ノ轉カ、うおく、おおく。うつほもの、うつはもの。やほら、やはら〕 (一)蛇ノ類ノ、極メテ大キクシテ、人ヲ害スルモノノ汎稱 ヲロチ。ヤマカガチ。蛇。大蛇。新撰集(文明)「蟒蛇、ウハバミ、ハミ、ハミムシ」(動植名彙、七) 易林節用集(慶長)「蟒蛇」 (二)大蛇、能ク物ヲ呑ムト云フヨリ、大酒飲ノ人ノ渾名。

うはひ (名) [外障眼] そこひノ條ヲ見ヨ。

うばふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (他動、四) [奪] (一)強ヒテ取ル。理不盡ニ取ル。神代紀、上、二十「吾弟之來、豈以善意乎、謂當有奪國之志歟」 (二)ススム。掠メ取ル。竊。名義抄「掠、ウバフ、カスム」 (三)君ヲ除ケテ、其位ニ代ハル。簒。字鏡五十三「簒、宇波不」

うばぶか (名) [姥鱶] うばざめニ同ジ。

うはぶみ (名) [表文ノ意] 外題。ウハガキ。孝德紀、大化二年二月「[illegible]」 蜻蛉日記、中、下「聞ヒタマヘル御返リニ、心ボソク書キ書キテ、うはぶみニ、西山ヨリト書イタルヲ」

うはべ (名) [上邊] (一)上ニ見ユル處。オモテ。表。[illegible]「[illegible]、うはべハ、云云、實イタマヘリ」 (二)内實ハ然アラヌヲ、表ニノミ、ソレト見スルコト。[illegible] 源、二十二、[illegible]「タダ、うはべバカリノ情ニテ」「うはべヲ飾ル」

うはへなし・キ・ケレ・ク・ク (形、一) [無情] 〔上重なしニテ、露骨ナル意ニモアルカ〕 スゲナシ。愛想ナシ。萬葉集、四、三十六「宇波弊無、モノカモ人ハ、然バカリ、遠キ家路ヲ、歸シシ思ヘバ」 同卷、四十「得羽重無、妹ニモアルカモ、カクバカリ、人ノ心ヲ、盡サス思ヘバ」

うはぼね (名) [上骨] 扇ノ、オヤボネ。

うばほほ (名) [姥頰] 面頰ノ一種。うばくち(姥口)ノ語原ヲ見ヨ。

うはまい (名) [上米] うはまへ(上前)ノ條ヲ見ヨ。

うはまはり (名) [上廻] 歌舞伎役者ナドノ、上流ノ者。下流ノ者ヲ、下廻ト云フ。

うはまへ (名) [上前] ウハガヒ。ウハガヘ。衣ノ左右ノ衽、襟ヲ、前ニテ打違ハスルニ、上ニナル、左ノ分。ウハンマヘ。下ニナル右ノ分ヲ、シタガヒ、シタガヘ、下前ト云フ。シタンマヘ。

うはまへ (名) [上前] 〔上米ノ訛、類聚名物考、政事部ニ、住吉社記ヲ引キテ「往古、攝州、住吉神社ニテ、年貢ノ米ノ中ヲ、幾分ヅツ調進セシムルヲ、上分米(初穗ノ意ト云フ)ト云ヒキト云フ、其上ロヲ取ル故ニ、上米、口米トモ云ヒ、錢ニ代ヘテ出スコトアルヲ、口錢ト云フ」〕 受ケ次ギテ仕拂フ、代料、賃錢ナドノ内ノ幾分。口錢。コレヲ收ムルヲ、上前ヲ取ル、又ハ、撥ルト云フ。[illegible](寛保、近松作)三、[illegible]分ヅツノ金子ハ、申シ受ケタレドモ、ソレソノ、マヅ先ナ、ヒガラ目ガ、上前ニ取リ上ゲ、十分一モ、ワレワレガ手ニツケサセズ」

うはみ (名) [裙] 〔うはもノ轉、もなか、みなか。(最中)よも、よみ(黃泉)〕 うはも(裙)ニ同ジ。

うはみずざくら (名) 次條ニ同ジ。

うはみぞざくら (名) 〔上溝櫻ノ轉カ、(あららぎ、まばゆら)卽チ、太古、龜トニ用ヰテ、朱櫻ト云フ、一名、はうはざくらトモ云フ、ははかノ音便ナリ〕 樺櫻(一)ノ一名。うはみずざくら。ハウコザクラ。

うはみづ (名) [上水] (一)上澄ノ水。(二)江戶時代、米相場會所ノ役員。

うはむき (名) [上向] (一)上ニ向キタルコト。仰グコト。(下向ニ對ス) (二)表ニ見ユル處。ウハベ。

うはむしろ (名) [表筵] 疊ノ上ノ敷物。錦綾ニテ、綿ヲ入レテ作レルモノ。雅亮裝束抄、一「唐錦ノ表、錦ノ緣サシマハシテ、綿入レタル、云云、コレヲうはむしろト云フナリ」 宇津保物語、吹上、上、廿「オモシロキ褥、うはむしろ、[illegible]ヘテ、公達着キナミタマヘリ」 源、三十四、下、若菜、下「御シトネ、うはむしろ、屛風」

うはんまへ (名) [上前] 衣ノうはまへノ音便。

うはめ (名) [上目] (一)睛ヲ、上ニ向クルコト。「上目ヲツカフ」 (二)はかりざを(秤)ノ上面ニ盛レル星ヲ宛ニテ稱ルコト。(向目ナドニ對ス) (三)皆掛。

うばめ (名) [乳母女] 乳母。ウバ。(姥) 夫木抄、三十五「イヤコヤモ、うばめ[illegible]、コノテガシハ、[illegible]ナラベニ」

うばめがし (名) [姥目樫] 樫ノ類。葉ハ、ひさかきニ似テ、鋸齒アリ、夏、黃ナル花ヲ開キ、秋ニ實ヲ結ブ。材、極メテ堅シ。燒キテ炭トス、びんちやうト云フ、火力、極メテ強シ。うばめがしは。うばめのき。イマメガシ。バメガシ。

うばめがしは (名) [姥目柏] 前條ニ同ジ。夫木抄、廿九「冬來レバ、霜ヲ頂ク、うばめノ木、老ノ姿ヤ、イトド見ユラム」

うばめのき (名) 姥目木 前條ニ同ジ。

うはも (名) [裙] 〔上裳ノ義、又、うはみ〕 袴ノ上ニ著ル、平メナル裙ナリト云フ。志びら(褶)ト云フモノ、同ジ類ノモノナリ。うはもノ下ニ著ルヲ、志たもト云フ。倭名抄、十二「褶、宇波美(下裳、宇波毛)[illegible]袴上之衣也」 [illegible]ガ門ニ、宇波毛ノ[illegible]レ、之志モノ[illegible]レ、[illegible]ミ、夕菜摘ミ」 女房衣色「志びらトハ、上裳ノ事ナリ、男ハ袴ノ上ニ着、女ハ唐衣ノ上ニ着ル」

うはもり (名) [上盛] 物ノ上ニ盛ルコト。汁物ノ上置。小町踊、春、上「芽出タサノ、上もりヲスル、猫子カナ」

うはや (名) [上屋] 〔下屋ニ對ス〕 柱ニ屋根ノミアル建物。壁ナシ。又、港ノ棧橋ニ附屬スル、陸上ゲ荷ノ物置。

うはや (名) [上矢] 上差ノ矢。うはざし(上差)ノ條ヲ見ヨ。

うはやく (名) 上役 役人ノ、上位ニ居ル者。支配頭ナド。下位ニ居ルヲ、下役ト云フ。

うばら (名) 荊棘 〔又、むばらトモ云フ、群刺ノ略轉カ、うだく、むだく。(抱)なれつく、なつく。(馴付)つくりた、つくた(佃)〕(一)刺アル小木ノ總稱。ムバラ。イバラ。天治字鏡、十二、三「棘、宇波良」倭名抄、五八「常陸國、茨城郡、牟波良岐」 (二)野薔薇。イバラ。ムバラ。ウマラ。本草和名、上、卅四「墻薇、宇波良」倭名抄、廿、十六「薔薇、無波良」萬葉集、廿、廿二「路ノ邊ノ、宇萬良ノ梢ニ、還豆ノ」

うばら (名) 姥等 古ヘ京都ニテ、歳末ニ、乞食ノ妻、白木綿ヲ以テ頭面ヲ覆ヒ、腰ニ赤キ前垂ヲ掛ケ、手ニ籃ヲ携ヘ、遍ク人家ヲ歴テ、米錢ヲ乞ヒタルモノ。ミヅカラ婆等ト稱ス。(滑稽雜談)

うばらぐつわ (名) 蒺藜銜 〔うばらハ、荊棘ノ義〕馬銜ノ鐵ノ、左右ニ出デタル所ニ、刺ノ如キモノノアルモノナルベシ。天治字鏡、十二、廿九「蒺藜銜、宇万良久豆良(和)」倭名抄、十五、三「蒺藜銜、宇波良具都和」

うはゑ (名) 上繪 布帛ナドニ染メヌキタル色ノ暈ノ上ヲ、更ニ、繪ノ具ニテ畫キワクルコト。外国

うはを (名) 後夫 〔上夫ノ義ニテ、重ナル意〕後ノ夫。またを(前夫)ノ條ヲ見ヨ。倭名抄、二、廿九夫妻類「後夫、宇波乎、一云、伊萬乃乎宇止」

うひ (名) 初 〔生ト通ズ、みそか、ひそか(密)〕始メテナルコト。初。古今集、廿、物名、さうび(薔薇)「我レハけさ、うひニゾ見ツル、花ノ色ヲ」「初ノ子」初冠」初學ビ」初陣」初産」此語多クハ、接頭語トシテ用キラル。金葉集、九、雜、上「嬉シクモ、秋ノミヤマノ、松風ニ、うひ琴ノネノ、通ヒケルカナ」

うひうひ・し・シキ・シケレ・シク・シク (形、二) 初初 始メテラシ。物馴レヌ狀ニテアリ。宇津保物語、藏開、上、廿「カカル里住ニモ、うひうひしき心地シハベレバ」 枕草子、十一、百三十三段「マダうひうひしきホドナル、今參リドモハ」

うひうひしげ (副) 初初氣 始メテラシゲ。モノナレヌサウ。源、六、末摘花、廿六「人ニ物聞エンヤウモ知ラヌヲトテ、奧サマヘヰザリ入リ給フサマ、イトうひうひしげナリ」

うひうひしさ (名) 初初様 〔さハ、様ノ略音〕モノナレヌサマ。ヲサナラシキコト。源、二十二、玉蔓、三十八「昔、光源氏ナド云フ名ハ、聞キワタリ奉リシカド、年頃ノうひうひしさモ思ヒ聞エザリケル」

うひかうぶり (名) 初冠 (一)元服シテ、始メテ冠ヲ着クルコト。單ニ、かうぶりトノミモ云フ。伊勢物語、初段「ムカシ、男、うひかうぶりシテ、奈良ノ京、春日ノ里ニ、云云、狩ニ往ニケリ」仲哀紀、元年十一月「朕未レ逮レ于ニ弱冠一、而父王既崩之」 拾遺集、八、雜、上「菅原大臣、かうぶりシハベリケル夜、云云」(道眞十五歲元服) 宇津保物語、俊蔭ニ「十二歲ニテかうぶりシツ」 (二)初位。孝德紀、三年十二月「初位、又、名ニ立身ニ」

うひげんざん (名) 初見參 始メテ見參スルコト。初對面。

うひご (名) 初子 初産ノ子。ハツコ。初生兒 首子 犬子集(寛永)一「天ノ原ノ、うひ子ガ出ヅル、太郎月」

うひごと (名) 初事 始メテスル事。榮花物語、八、初花「二月ニ、春日ノ使ニ立チタマフ、殿ノ始メタルうひごとニオボサレテ」

うひごと (名) 初琴 琴ノ、習ヒハジメ。源、廿三、初音、七「イワケナキうひ琴習フ人モ、アメルヲ」同、四十八、寄生、七十五「片成ナルうひごと」

うひざん (名) 初産 始メテ、子ヲ産ムコト。ハツザン。

うひ・し・シキ・シケレ・シク・シク (形、二) 初稚 初ニテアリ。稚シ。ウヒウヒシ。神代紀、上、三「古國稚地稚之時」口決「稚、宇比志也」出雲國風土記、意宇郡「出雲國ハ狹布ノ稚國ナルカモ、初國小サク作ラセリ」

うひだち (名) 初立 ウヒダツコト。始メテ起ツコト。宇津保物語、祭使、二「夏バカリ、うひだちスナル、時鳥、巣ニハカヘラヌ、年モナラジナ」源、九、葵、卅三「イブセサニ、今日ナム、うひだちシハベルヲ」

うひだ・つ・ツ・テ・タ・チ・テ (自動、四) 初立 立チ始ム。曾丹集、夏「時鳥、うひだつ山ヲ、里(然ノ意ニカク)知ラバ、木ノ間ヲ行キテ、聞クベキモノヲ」夫木抄、二、霞「山里ノ、人ノミナカゲ、今朝見レバ、ウスク霞ノ、峯ニうひだつ」

うびたひのうま (名) 戴星馬 〔うびたひハ、空額ノ略カ、うつろ、うろ(空)〕つきびたひ、つきぼろニ同ジ。倭名抄、十一、六「戴星馬、宇比太非能無麻」

うひぢ (名) 埿土 〔埿泥ノ略、(うき(埿)ノ條ヲ見ヨ)ひきはぎ、ひはぎ。(引剝)ひきさぐ、ひさぐ(提)〕ひぢ、どろニ同ジ。神代紀、上、三「埿土、此云ニ宇毗尼一」仁德紀、十一年四月「道路亦埿」允恭紀、四年九月「埿納レ釜煮沸」

うひぢん (名) 初陣 始メテ軍ニ出ヅルコト。初戰 甲陽軍鑑、九、下、品第廿五「横田子息彥十郎、云云、十六歲ニテ初陣仕始」

うひまご (名) 初孫 始メテ生レタル孫。

うひまなび (名) 初學 (一)學問ヲ始ムルコト。ウヒヤマブミ。(二)未熟ノ學問。

うひやうゑのかみ (名) 右兵衞督 ひやうゑふ(兵衞府)ノ條ヲ見ヨ。

うひやうゑふ (名) 右兵衞府 ひやうゑふ(兵衞府)ノ條ヲ見ヨ。

うひやまぶみ (名) 初山蹈 (一)始メテノ山蹈。初登山。(二)始メテ、學問ノ道ニ入ルコト。ウヒマナビ。初學

うひよう (名) 雨氷 樹木、其他ノ地物ノ、氷ヲ纏ヒタル如ク包マルルモノ。天候ノ極メテ靜穩ナル時、氷點下ニ冷却セル雨滴ノ、雨ト氷トノ中間性ノママニ降リ來リ、地物ニ衝突スル瞬間ニ、直チニ氷結スルナリ。木氷 雨淞 又、霧氷ト云フハ、霜ニ似テ、樹木ノ枝、又ハ、地物ニ、一面ニ花ノ如キ氷片ノツクモノナリ、霧ニ關シテ成ルモノニテ、極寒ノ地ニ生ズ、信濃ノ諏訪ニテハ、木花ト云フ。霧淞 字林「寒氣結レ木如レ珠、見レ晛乃消、齊魯謂ニ之霧淞一」

うふ (名) 右府 右大臣ノ唐名。拾芥抄、中、本、官位唐名部「右大臣(右丞相、右僕射、右府、今世、號ニ右相府一)」

うぶ (名) 産生 〔生ニ通ズ、さぶらふ、さむらふ。(候)むすぶノ神ヲ、うぶノ神トモ云フ〕(一)〔子ノ、産レタルコト。多クハ、接頭語トシテ用キラル。「産屋」産婦」産着」 (二)産レタル時ノママナルコト。兼澄集「撫デキケム、うぶノ黑髮、ヤブリシテ、變ハレル筋ハ、心細シヤ」「産毛」うぶノママ」

(三)本質ヲ失ハズ、飾リナキコト。ウヒウヒシキコト。「うぶノ娘」

うぶがみ (名) [產神] うぶのかみニ同ジ。

うぶがみ (名) [產髮] うぶげニ同ジ。

うぶぎ (名) [產著] 生レタル兒ニ、始メテ着スル衣。ウブギス。產衣

うぶぎぬ (名) [產衣] 前條ニ同ジ。ムツキ。狹衣、四、下「御うぶぎぬノアリケルヲ、マヅ取リイダシテ、御覽ズルニ」

うぶげ (名) [產毛] 兒ノ、胎中ヨリ生エテ居ル髮。ウブガミ。胎髮 漫步色葉集「胎毛」

うぶこ (名) [產子] 產レ落チタル子。ミヅコ。アカゴ。[illegible]

うぶごゑ (名) [產聲] 兒生レテ、始メテ泣ク聲。

うぶすな (名) [產土本居] 「產住場ノ約カト云フ」(一)人ノ、其生レ出デタル土地。本籍ノ地。產地。生地。推古紀、三十二年九月、蘇我大臣ノ奏「葛城縣者、元、臣之本居也」續後紀、三、承和二年六月「大和國人、作宿禰[illegible]五人、改本居貫附左京二」平治物語、三、頼朝遠流事「[illegible]ニ罰ヲカケ、胡馬北風ニイバヘケルモ、生土ヲ思フ故ゾカシ」(二)次條ノ語ノ略。

うぶすなのかみ (名) [產土神][產神] 「諸人ノ產土の神ノ義」其地ヲ敷キマシ、鎭マリマス神。地主ノ神。鎭守ノ神。コレヲ、氏神トモ云フ。「其條ヲ見ヨ」略シテ、うぶすな。[illegible]土記「[illegible]、宇多[illegible]ノ[illegible]アリ、[illegible]人[illegible]」([illegible]女[illegible]ノ[illegible]也、故ニ[illegible]アリ」今昔物語、三十、第六話「[illegible]ノ[illegible]、云云、七條邊ニテ[illegible]レタリケレバ、產神ニオハストテ、二月ノ初午ノ日、稻荷へ參ラムトテ、大宮ヨリ東ニ上ヲ、云云」四季物語、一、賀茂神社「みかどノ御うぶすなの神ナレバ」

うぶすなまうで (名) [產土神詣] 次條ニ同ジ。

うぶすなまゐり (名) [產土神參] 小兒生レテ後、百日ト云フニ、始メテ、其產土ノ神ニ參詣スルコト。ウブスナマウデ。ミヤマヰリ。走衆故實「天文五年十一月廿八日、若君樣、始テうぶすな參、還御候テ、各、御太刀參ル」(簡用集[illegible]宮[illegible])

うぶぞり (名) [產剃] 小兒生レテ、七日目ニ、始メテ產毛ヲ剃ルコト。

うぶだて (名) [產立] 古ヘニ云フ、うぶやしなひ。誕生アリシ家ニ、外戚、又ハ、親族ヨリ、餅ヲ贈ル式。コイタダキモチ。東國ニテハ訛シテ、おぼだてト云フ。年中記(天文)ニ、うぶだてニ鳥子餅ヲ折ニ置キ、祝ル儀、見ユ。(俗語考、おぼだて)

うぶね (名) [鵜舟] うかひぶね(鵜飼舟)ニ同ジ。其條ヲ見ヨ。

うぶのかみ (名) [產神] むすぶのかみニ同ジト云フ。又、うぶがみ。[illegible]儀抄、中、下「ヨロヅノ物ニ、ツカサドレル神オハス、云云、むすぶの神ハ、うぶのかみナリ」日本[illegible]吾妻鑑(二[illegible]保、近松作)四「[illegible]美シウ生マセタル、うぶ神ニモ恨ミアリ」

うぶんさぶ (句) [右文左武] 又、左文右武。文學、武術、共ニ修ムベシト云フコトナリ。文武ハ、車ノ兩輪ノ如シ、ノ意。文武兩道ヲ用キテ、天下ヲ治ムベキニ云ヒ、士人ノ身ニ、備ヘズハアルベカラザルニモ云フ。潘[illegible]君臣[illegible]「或右文而左武、或先武而後文」李[illegible]用[illegible]公亭牡丹詩「左文右武[illegible]」[illegible]史記、[illegible]、五十八、[illegible]、三、[illegible]十二年六月二十一日、[illegible]文[illegible]右文之道也、不可不[illegible]、[illegible]也、云云」

うぶめ (名) [產目] 產兒ノ風眼。

うぶめ (名) [產婦] 子ヲ生ミテ、間、產褥ニアル婦。[illegible]倭名抄、一「[illegible]」

うぶめ (名) [姑獲鳥] 支那ノ想像ノ傳說ニ、產婦ノ化シタル鳥ナリト云フ、夜中ニ飛行シテ、小兒ヲ害ス、鳴ク聲、小兒ノ泣クニ似タリナドモ云ヘリ。本草綱目、山禽「姑獲鳥、產婦所化、陰慝爲妖」今昔物語、廿七、四十三話、女ノ妖怪「產女、兒ヲ哭カセテ、コレ抱ケト云フナル」云云、此產女ト云フハ、云云、女ノ、子產ムトテ死ニタルガ、靈ニ成リタルト云フ人モアリトナム語リ傳ヘタル」[illegible]見聞集、[illegible]、余ガ幼キ時、乳母ドモガ、姑獲鳥ガ來レト云ヘバ、身ニ染ミテ恐ロシキ夜、多カリシ」([illegible]覽、六)

うぶや (名) [產屋] (一)上古、子ヲ產マム爲ニ、別ニ作レル家。神代紀、下「豐玉姬、[illegible]云云、海[illegible]產室、全用鸕鶿羽爲草葺之」(二)產ヲスル室。宇津保物語、藏開、上「うぶやノ設ケ、白キ綾、御調度ドモ」母屋ノ御簾ノ内ニゾ、うぶや裝束シタル衆ドモ、イト多ク居タリ」(白裝束ナリ)

うぶやしなひ (名) [產養] 貴族ノ家ニテ、小兒出產アリテ、三夜、五夜、七夜ニ、親族等ヨリ、產婦ノ衣服、嬰兒ノ襁褓、其他、飮食物等ヲ贈リテ、祝賀ノ饗ヲスルコト。後世、俗間ニ、產立ト云フモ、是レナリ。李部王記、天曆四年七月七日「是夕、藤女御[illegible]產之事二」宇津保物語、藏開、中「三日ノ夜、一ノ宮、うぶやしなひシタマフ、五日夜ハ大將殿、七日夜ナム、東宮ヨリ、御ノ御トブラヒハアリケリ」紫式部日記、九月「三日ニナラセタマフ夜ハ、宮司、大夫ヨリ、始メテ御うぶやしなひ仕ウマツル」拾遺集、五、賀「[illegible]ノ七夜ニマカリテ「君ガ經ム、八百萬代ヲ、數フレバ、カツカツ今日ゾ、七日ナリケル」」

うぶゆ (名) [產湯] 生レタル兒ニ、始メテ浴セサスルコト。[illegible]湯 [illegible]「十五日[illegible]」[illegible]作)牛若宮[illegible]「玻璃ガロヨリヌル湯ヲ出ダシ、產湯ヲヒカセタリ」

うぶゐ (名) [產井] 產湯ノ水ヲ汲ミ取ル井。

うへ (名) [上] (浮方ノ義カ、うきひぢ、うひぢ。(泥土)つきおもり、つおもり(晦)) (一)最モ高キ部。カミ。(下ニ對ス) 繼體紀、七年九月、長歌「三諸(山名)ガ紆陪ニ、(登リ立チ)」萬葉集、一、[illegible]「[illegible]ノ宇倍」(二)勝レタルコト。貴キコト。「目上」年上」上手シ」(三)[主上]ヲ呼ビ奉ル語。ウチ。カミ。上 宇津保[illegible]、藏開[illegible]「うへモ、[illegible]モ、[illegible]ハ、シ、ウツクシミタマフ」國讓院歌合、宮ノ御方ニ、うへオハシマシテ」(四)[主上ノ大御遊近]キヲ、ト、源、一、桐壺「うへニ候フ内侍ノスケ」「うへノ宮仕」うへノ局、うへノ女房」(五)[illegible]シテ、將軍、公方ノ稱、代名詞ノ上樣ノ條ノ(二)ヲ見ヨ)北條高時ニサヘ、其臣下ヨリ稱シキ。太平記、十、長崎次郎[illegible]、右[illegible]申フナ、上ノ御存命ノ間ニ、今一度、快ク敵ノ中ニ懸入リ、云云」高時ニ對シテ云フナリ」(六)[貴人、又、其内室ノ稱] [illegible]レタマヒシ、[illegible]うへハ、云云」(七)[貴婦人ノ稱號ニ附ケテ呼ブ語]「葵ノ上」(八)[illegible]長ノ稱、ノ後ニツケテ云フ語。「父上」母上」兄上」(九)[オモテ。マヘ(前)。表ニ對ス] 表 萬葉集、九、三十「下行ク水ノ、上ニ出デズ」源、二、帚木二十「うへハツレナク、ミサヲ作リ」「上ノ衣」表ノ袴」(十)[邊。]「川ノ上」井ノ上」野ノ上」(十一)[增ス

コト、加フルコト。萬葉集、十九四五「アシビキノ、山下ヒカゲ、鬘ケル、宇倍ニヤ更ニ、梅ヲ偲バム」土佐日記、正月廿一日「海賊報セムト云フナル事ヲ思フうへニ、海ノ又、オソロシケレバ」「アルガ上ニ」其上ニ」（十二）（其物事ニ就キテノコト。萬葉集、廿五十三「群鳥ノ、（如ク）朝タチ往ニシ、君ガ宇倍ハ、サヤカニ聞キツ、思ヒシ如ク」源、二、帚木二十六「打チササメキ、云フコトドモヲ聞キ給ヘバ、我ガ御うへナルベシ」「人ノ上」身ノ上」文ノ上」酒ノ上」話ノ上」

〜うへ（名）［筌箉］「魚居ノ約カ」魚ヲ捕ル竹器。後世ニ云フ、筌、筌ナルベシ。倭名抄、十五四「筌、捕レ魚竹器也、笱、取レ魚竹器也、宇倍」萬葉集、十一四十「山川ニ、筌ヲ伏セオキテ、守リアヘズ、年ノ彌歲ヲ、吾ヲ竊マヒシ」（欺キシ）莊子、外物篇「得レ魚而忘レ筌」

〜うべ（名）［郁子］（苞苴、おほんべ。うんべ、うべ（倭訓栞））蔓性木ノ名、今、むべト云フ、其條ヲ見ヨ。往古ヨリ、近江國、蒲生郡、奥之島村、王ノ濱ヨリ、毎年霜月朔日、郁子ヲ藁ニ包ミテ、禁裏ニ奉ル例アリキ。本草和名、下「郁核、宇倍」大膳式、下、諸國貢進菓子「近江國、郁子二輿籠」

〜うべ（副）［宜］（得可ノ義、肯得ベキ理ノ意、爲可（手段）ト、同趣）肯フ意ニ云フ語。實ニ、然モアルベク。ゲニ。ムべ。綏靖卽位前紀「宜哉乎、汝之光二臨天位一云云」萬葉集、六四十「今造ル、久邇ノ都ハ、（山城）山河ノ、サヤケキ見レバ、宇倍知ラスラシ」

うへ-うへ（名）［上上］上ノ人ガタ。ウヘツガタ。下下、下下、末末ニ對ス。貴顯　狂言記、土産鏡「うへうへハ申スニ及バズ、我レ等如キ者マデ」女重寶記（元祿）「女中ノ衣裝、染メヤウハ、上上方ハ、昔ガ今ニ、カハルコトモナク」

うべ-うべ・し・シキ・シケレ・シク・シク（形、二）［宜宜］實ニサモアルベシ。モットモラシ、宜然　增鏡、第十七、春別「天下ニ、イサギヨクうべうべしき人ニ、思ハレタル頃ナレバ」

うへ-さま（名）［上樣］（上方ノ義）（一）上ノ方。宇治拾遺、十二、廿二條「三度うへさまへ、蹴上ゲ蹴上ゲシテ」（二）貴キアタリ。太平記、七、船上臨幸事「上樣ニハ、イマダ知ロシメサレ候ハズヤ」（三）幕府ノ方。公邊。曾我物語、三、兄弟を母制する事「うへ樣ノ御耳ニ入リナバ、召取ラレ、禁獄、死罪ニモ行ハレナム」

うへ-さま（代）［上樣］（前條ノ義ニ同ジ）（一）主上ヲ申シ奉ル語。上　太平記、十八、金崎落城事「上樣ノ御事ハ、タトヒ敵ノ中へ御出デ候フトモ、失ヒマヰラスルマデノ事ハ、ヨモ候ハジ」（二）僭シテ、將軍ニモ用キル。足利將軍、德川將軍、皆、然リ。太平記、廿八、直冬朝臣蜂起事「遠國ノ亂ヲ鎭メムガ爲ニハ、末末ノ御一族、乃至師直ナンドコソ、可レ罷下ニテ候へ共、是ハイカニモ上樣ノ、自ラ御下リ候テ、御退治ナクテハ叶フマジキニテ候」關白秀吉ニツキテ、上樣日和ノ語アリ、次條ヲ見ヨ。

うへさま-びより（名）［上樣日和］往時、相摸國、小田原海上ニテ、數十日、日和ノ續クヲ稱シタル語。常山紀談、九、豐臣秀吉、小田原征伐ノ海運ニツキテ「秀吉、城ヲ圍マレシ間、五十餘日、風靜カニ波穩カナリ、是ヨリシテ、小田原海、風ナキ日ヲ、上樣日和ト言ヒナラハシケリ」

〜うべ-し（副）［宜］（しハ、强ク指ス助辭）宜ヲ、强ク云フ語。古事記、下（仁德）二十長歌「高光ル、日ノ御子、宇倍志コソ、問ヒタマへ」萬葉集、廿廿長歌「宇倍之神代ユ、始メケラシモ」

うへだ-じま（名）［上田縞］信濃國、小縣郡、上田ニ產ズル縞織ノ紬ノ稱。今ハ武藏國ノ八王子、青梅、等ヨリモ、摸シテ出ダス。ウヘダツムギ。萬金產業袋（貞享）四「上田島、云云、ソノ昔、信州、上田ヨリ出タルへ、云云、至極ツヨシ」辰巳之園（明和、夢中山人）「跡ニ續イテ二人來ル、是ハ晴手用人ノ下役モ代ト云フナリノ男ブリニテ、郡内島ノ綿入羽織ニ、小モンノ秩父絹ノ小袖、一人ハ、太織ノ羽織ニ、上田縞ノ小袖」

うへだ-つむぎ（名）［上田紬］前條ニ同ジ。萬金產業袋（貞享）四「上田紬、幅九寸、丈五丈四尺、信州上田ヨリイヅル、信濃紬トイフ」

うへ-つ-がた（名）［上方］上ノ人ガタ。身分貴キ人人。ウヘウヘ。ウヘガタ。貴顯　狂言記、牛馬「此馬ト申スハ、うへつがたニ御重寶ナサレテ」色道大鏡（延寶）「鼻紙入、云云、今ハ上つがたマデ用キタマへバ、下輩ハ沙汰ニ及バズ」

うへ-つ-ぶみ（名）［上文］神代文字ト稱スルモノ。字ノ形、粗筆ノ繪ノ如シ、日文、あないちノ類ナリ。

〜うへ-つぼね（名）［上局］宮女ノ、常ノ局ノ外ニ、御座所近キアタリニ、別ニ設ケ賜ハル休息所。上の御局。宇津保物語、藏開、中廿「夜ハマウノボラセ、晝ハうへつぼね賜ヒナドシテ」源、五十一、蜻蛉三十八「カリソメニ、几帳ナドバカリ隔テテ打チヤスム、うへつぼねニシタリ」同、一、桐壺八「弘徽殿ニハ、久シウうへのみつぼねニモ、マウノボリ給ハズ」大鏡、上、花山「オリオハシマシケル夜ハ、藤壺ノうへの御つぼねノ小戶ヨリ、出デサセ給ヒケル」

〜うべ-つ-みち（名）［東海道］（海邊之道ノ略、（うみきほ、うきほ。海の原、うのはら）又、轉ジテ、うめつみち（かんだちべ、かんだちめ））東海道ノ古稱。うめつみち。北山抄、三、下、讀奏事「東海道、宇倍都道、宇女都美千」

〜うべ-な-うべ-な（句）［諾諾］（なハ、感動詞）然アルベキコトヨ。ソノ筈ヨ。尤ナルコトヨ。仁德紀、五十年三月、長歌「我ガ大君ハ、于倍儺于倍儺、我レヲ問ハスナ」萬葉集、十三廿長歌「諾諾名、母ハ知ラズ、諾諾名、父ハ知ラズ」

うへ-な・し・キ・ケレ・ク・ク（形、二）［無上］コレヨリ上ニ立ツモノ無シ。無上ナリ。最上ナリ。新古今集、十二、戀、二「富士ノ峯ノ、煙モ猶ゾ、タチノボル、うへなき物ハ、オモヒナリケリ」

うべ-な・ふ・フ・へ・ハ・ヒ・へ（他動、四）［宜］（宜ノ活用、珍なふ、（納受）誘なふ）（一）宜ト思フ。同意ナリト許ス。ウケガフ。ウベナム。諾（二）（服ス。服從ス。神代紀、下五「其所レ不レ服者」綏靖卽位前紀「神八井耳命、憖然自服」應神紀、三年十一月「百濟國殺二辰斯王一以謝之」

〜うべ-な・む・ム・メ・マ・ミ・メ（他動、四）［宜］（さきなむ、さいなむ（呵責））前條ニ同ジ。續紀、廿六、天平神護元年三月、詔「天地ノ宇倍奈彌許シテ、授ケタマヘル人ニモアラズ」

〜うへ-の-おんぞ（名）［表御衣］次條ノ語ノ敬語。源、九、葵四十三「無紋ノうへの御ぞニ、鈍色ノ御下襲」

〜うへ-の-きぬ（名）［表衣］はう（袍）ニ同ジ。倭名抄、十二十八「袍、宇倍乃岐沼、一云、朝服、着レ襴之袷衣也」名目抄「位袍、又號二表衣一」源、八、花宴二「皆人ハ、うへのきぬナルニ、アザレタル大君姿ノ、ナマメキタルニテ」

〜うへ-の-はかま（名）［表袴］束帶ノ時ニ、表ニ着ル袴。織物ニテ、文ハ、三位以上ハ窠ニ霰、其外、種種ナリ、下官ハ白キ平絹ナリ、共ニ、裏ハ紅ナリト云フ。倭名抄、十二九十「表袴」源、九、葵五「下襲ノ色、うへのはかまノ文、馬鞍マデ、皆、調ヘタリ」

〜うへ-の-みつぼね（名）［上御局］うへつぼね（上局）ノ條ヲ見ヨ。

〜うへ-の-をのこ（名）［上男］ウヘビト。殿

上人。古今集、雜、上、「秋立ツ日、うへのをのこドモ、鴨ノ河原ニ逍遙シケル」

うへびと (名) 上人 でんじやうびと(殿上人)ニ同ジ。うへノヲノコ。源、一、桐壺「[illegible]云云、[illegible]ケシキヲ見奉ルうへびと、女房ナド」「雲ノ上人」

うへぶし (名) 上臥 殿上ニ夜直スルコト。平家物語、二、少將乞受事「丹波少將成經ハ、其夜シモ、院ノ御所、法住寺殿ニ上臥シテ、未ダ出デラレザリケルニ」同、六、紅葉事「上臥シタル殿上人、上日ノ者ニ仰ス」辨内侍日記、上「九重ノ、雲ノうへぶし、袖サエテ、マドロムホドノ、時ノマモナシ」

うへみぬわし (名) 上不見鷲 〔上ニ立ツ物ヲ見ずノ意ナルベシ〕人ノ權勢ノ無上ナルヲ云フ語。新六帖、二「又ハヨモ、羽ヲ並ブル、鳥モアラジ、うへみぬわしノ、空ノ通路」

うべんくわん (名) 右辨官 辨ノ條ヲ見ヨ。

うへわらは (名) 上童 殿上、又ハ、貴族ノ召使ノ童男、童女。宇津保物語、國讓、下、十「近ク使ヒタマフうへわらは赤へテ、クリ出ダシ」源、四十六、總角、十二「コトゴトシキ御使ニモアラズ、例奉レタマフうへわらはナリ」

うほ (名) 禹歩 反閇ノコトナルベシ。師仲記、康安七年六月十三日、陰陽頭高倩臣參進、禹歩退」

うぼく (名) 烏木 こくたんニ同ジ。

うぼくや (名) 右僕射 右僕射ノ條ヲ見ヨ。

うぼぜ (名) 魚ノ名、いぼぜノ轉。いぼだひヲ見ヨ。

うぼんさい (名) 盂蘭盆齋 盂蘭盆ニ、僧尼ニ供養スルコト。事物起源「今世、七月十五日、營僧尼供、謂之盂蘭盆齋」

うま (名) 馬 (一)〔牧ニ飼ヒ、家ニ畜ヒテ、人、物ヲ載セ、又、車ヲ牽ク等、最モ用アル獸、人ノ知ル所ナリ。面長クシテ、鬣アリ、蹄圓クシテ、底凹メリ、尾ノ長サ、身ノ高サニ等シ、前齒ハ、上下、各、六枚アリ、老ユルニ從ヒ、其數ヲ減ズ、コレヲ見テ老少ヲ知ルベシ。毛ノ色、種種ニシテ、名目、多シ。高サ四尺以下ヲ駒トシ、四尺以上ハ、寸ヲ以テ計リ、八寸ニ餘ルヲ、長に餘るトス。推古紀、二十年正月、長歌「宇摩ナラバ、日向ノ駒」(二)〔雙六ノ簺。(三)物ノ、常ニ異ナリテ、大キナルモノノ稱。「うま蛭」うまウド」うま芹」

うま (名) 午 〔馬ノ義〕(一)支干ノ名。其條ヲ見ヨ。枕草子、六、八十一段「二月、うまノ日ノ曉ニ」(二)時ノ名。其ノ條ヲ見ヨ。枕草子、六、六十段「六七月ノうま、ひつじノ時バカリニ」(三)方角ノ名。えとノ條ヲ見ヨ。

うまあぶ (名) 馬虻 虻ノ、牛馬ニ着クモノ。大キサ、蠅ノ如シ。

うまい (名) 旨寢 ウマイネ。快ク寐入ルコト。熟睡。萬葉集、十三、十三長歌「人ノ寐ル、味寢ハネズニ」

うまいかだ (名) 馬筏 數馬ヲ繫ギ合セ、押並ベテ、川ヲ渡ルコトナルベシ。太平記、四、吳越軍事「馬ヲ河水ニ打入レサセ、馬筏ヲ組ミテ打渡ス」同、八、三月十二日赤松京合戰事「佐用、上月ノ兵三千餘騎、一度ニ颯ト打入リテ、馬筏ニ流レヲセキアゲタレバ」

うまいくさ (名) 馬軍 (一)〔ウマツハモノ。騎馬ノ兵士。騎兵 天武紀、上、十五「騎士遽レ鋒而進レ之」(二)騎兵ノ戰。騎戰

うまいしや (名) 馬醫者 ウマクスシ。馬ノ疾ヲ療治スル醫師。伯樂。馬醫。

うまいち (名) 馬市 馬ヲ賣買スル市。「[illegible]、二十三、一、馬市九、云云」

うまいね (名) 旨寢 うまいニ同ジ。繼體紀、七年九月、長歌「吾ガ手ヲバ、妹ニ纏カシメ、眞木サキ、タタキ[illegible]、寢[illegible]シトニ、庭ツ鳥、雞ハ鳴クナリ」

うまうど (名) 馬獨活 草ノ名。しゝうどニ同ジ。

うまうま (名) 旨旨 〔元ト乳味ヨリ起リテ、食物ニ移レルナリ、母ヲ、おもトモ云フモ、是レナリ、(其條ヲ見ヨ)まんまト云ヒ、約メテ、乳母ヲ、ままト云フ〕小兒ノ語。飯。食物。タベモノ。

うまうまと (副) 旨旨 〔うまうまハ、旨く旨くノ略〕巧ミニ。手際ヨク。まんまと。生玉心中(正德、近松作)上「うまうまと、ヨウ噴ハセタナ」「うまうまと噴ヲタバカル」

うまおひ (名) 馬追 (一)荷馬ヲ追ヒテ歩マシムル者、ウマカタ。馬子。(牛追ニ對ス)馬奴 丹波與作(正德、近松作)中「千三百石カラ馬追マデ、成下ルボンノ窪」(二)次條ノ語ノ略。

うまおひむし (名) 馬追蟲 莎雞ノ類。鳴ク聲、紡車ヲマハスガ如シ、故ニ、つむ、又、すいっちよノ名モアリ。略シテ、うまおひ。

うまかけ (名) 馬駈 競馬ニ同ジ。クラベウマ。

うまかし (名) 馬借 〔馬ヲ借シテ、人ノ荷ヲ運ブ意〕馬ニテ、荷ノ宿次ヲ業トスル者。駄賃取。馬借。庭訓往來、四月「大津、坂本馬借」

うまかた (名) 馬方 〔牛方、船方ニ對ス〕駄馬ヲ引クヲ業トスル者。ウマゴ。マゴ。ウマオヒ。駄夫 東海道名所記(萬治)一「[illegible]、馬方、牛ツカヒナドハ、ロガマシク、言葉遣シウ、我ガママナル者ナレバ」

うまがた (名) 馬形 馬ノ形ヲ造リテ、神ニ奉ルモノ。駒形ノ條ヲモ見ヨ。[illegible]馬形五十四疋」

うまかひ (名) 馬飼 馬ヲ飼ヒ扱フ者。ウマビト。圉人 古事記、下(安康)[illegible]」

うまがへし (名) 馬返 高山ノ麓、登山ノ路ニ、乘リ來レル馬ヲ、乘棄テテ還シヤル所ノ名。山路、ソレヨリ急ニシテ、徒歩トナル。駒ガヘシ。

うまがほ (名) 馬顏 人ノ、生レツキテ、上下ニ長キ顏。ウマヅラ。好色一代女(貞享、西鶴)四「馬顏ニテ、横ヘヒロガリシ面影」

うまき (名) 牧 〔馬飼ノ約、うまかひ、たかがひ(歌垣)うたがき。(歌垣)或ハ、馬置ノ略カ、稻置、いなぎ〕約メテ、まきト云フ。其條ヲ見ヨ。天智紀、七年七月「多置牧而放馬」倭名抄、一五「牧、無萬岐」名義抄「牧、ウマキ」

うまき (名) 鵜卷 山川ニテ、鵜、集リテ、魚ヲ取卷キテ、河ニ簇スルコト。

うまきたし (名) 鱧腸草 草ノ名。たかさぶろうノ古名。本草和名、上、十六「鱧腸、宇末岐多之」倭名抄、同ジ

うま-き-どの（名）〔武徳殿〕〔馬城殿ノ義ニモアルカ〕武徳殿（ブドクデン）。倭名抄、十三「武徳殿、牟萬岐止乃」

うま-ぎぬ（名）〔馬衣〕馬ニ被ヒ着スル布。倭名抄、十五三「馬衣、无麻岐奴、馬被也」

うま-くさ（名）〔秣〕〔馬草（ウマクサ）ノ義〕まぐさ（秣）ニ同ジ。天治字鏡、八二「秣、宇末久佐」

うま-ぐし（名）〔馬梳〕ウマハタケ。馬ノ毛ヲ洗フニ用キル梳（アラグシ）。神功攝政前紀「馬梳（ウマノクシ）」

うま-くすし（名）〔馬醫〕うまいしゃニ同ジ。壒囊抄、七「馬藥師ヲ伯樂ト云フ、何ゾ」

うま-ぐは（名）〔馬鍬（ウマグワ）〕今、まぐは（ワ）ト云フ。倭名抄、十五九「馬杷、宇麻久波、作レ田具也」内膳司式「馬鍬」

うま-げた（名）〔馬下駄〕うまのつめノ條ノ（二）ヲ見ヨ。

うま-けむり（名）〔馬烟〕馬ノ走リテ起ル塵埃（ツチホコリ）。馬塵。太平記、十、新田義貞擧二義兵一事「二千騎許、馬煙ヲ立テ馳來ル」

うま-ご（名）〔孫〕〔蕃息子（ウマハリコ）ノ義、あらきりばり、あらきばり（新墾）〕（一）ヒコ。子ノ子。今約メテ、まご。倭名抄、二十八「子之子爲レ孫、無萬古、一云、比古」喪葬令、集解、四十「嫡孫、衆孫、俗云二宇麻古一」（二）ウミノコ。子孫。宇津保物語、俊蔭十五「三代ノうまご」

うま-ご（名）〔馬子（ウマゴ）〕うまかたニ同ジ。狂言記、見物左衛門「何ト云フ、馬子タチ、具足ガ販ケルト云フカ」

うま-ごめひ（名）〔離孫（ウマゴメイ）〕うまごをひ（オイ）ノ條ヲ見ヨ。

うま-ごや（名）〔馬小屋〕廐（ウマヤ）ニ同ジ。

うま-ごやし（名）〔馬肥〕〔秣（マグサ）トシテ、良シ〕オホヒ。草ノ名、原野ニ多シ。一根ヨリ叢生ス、莖、地ニ延キテ蔓生シ、長サ二三尺、葉、互生シ、形、萩ノ葉ニ似テ、小サクシテ鋸齒アリ、春ノ末、葉ノ間ニ、三、四、五ヅツ、小黄花、穗ヲナシテ開ク、亦、萩ノ花ニ似テ、小サシ。まごやし。エンザヅル。苜蓿

うま-ごり（名）〔美織〕次條ヲ見ヨ。

うま-ごり（枕）〔味凝〕〔美き（ウマ）織（オリ）ノ約、綾（アヤ）ニカクト云フ〕あや（アヤ）ト云フ語ノ枕詞。萬葉集、二廿六長歌「味凝、文（アヤ）ニ乏シキ」同、六十一長歌「味凍ノ、綾ニ乏シキ」

うま-ごをひ（名）〔離孫（ウマゴオイ）〕〔孫甥ノ義、うまごめひハ、孫姪ノ義〕兄弟、姉妹ノ男孫。女孫ナルヲ、うまごめひ（イ）ト云フ。倭名抄、二十八「甥之子爲二離孫一、男、無萬古乎比、女、無萬古女比」

うま-さく（名）〔青葙〕〔馬草ノ誤カ〕今、のげいとうト云フ。本草和名、上四十二「青葙、宇末佐久」醫心方、一四十「青葙子（ウイクサ）」

うま-ざくり（名）〔馬決〕〔馬疏〕〔さくりハ、さくる（決）ノ名詞形、其條ヲ見ヨ〕（一）又、駒（コマ）ざくり。馬じゃくり。路行ク馬ノ、蹈ミサクリタル脚痕（アシアト）。略シテ、さくり。太平記、廿九、高師直以下誅せらるる事「名モ知ラヌ田舍武士、言フバカリナキ人ノ若黨ドモニ、押隔テラレ、押隔テラレ、馬ざくりノ水ヲ蹴カケラレテ、衣、深泥ニ塗（マ）レヌレバ、云云」新六帖、二、馬「數ナラヌ、身ニ知ラレタル、駒ざくり、サノミヤ同ジ、跡ヲ蹈ミミム」倭訓栞、うまざくり「新六帖ニ詠メリ、駒ノ、道ヲさくりタルヲ云フ、今、馬じゃくりト云ヘリ」易林節用集（慶長）言辭「足跡（サクリ）」（二）馬場ニテ、馬上ニテ馬ヲ行ル（ヤ）ニ、馬ノ進ミ行クベキ路トシテ掘リオク、淺キ空溝（カラミゾ）。略シテ、さくり。（犬ざくりモアリ）字擧雜抄（辭書類從）保延三年九月廿四日、仁和寺競馬「今日騎射、馬決淺、馬頻走上、多レ不二射中一之者上」安多武久路、仁「享保ノ頃、相廣（アヒヒロ）ノ馬場ヲ、御植留ノ末ニ置カセタマヒテ、諸士ノ、馬藝稽古ノ場所トセサセタマフ歟、其場ノ内ハ、一面、芝地ニテ、挾物射習フさくりハ、長サ二町計、横ノ廣サハ四五尺バカリ、芝ヲ掘リオコシテ、砂ヲ入ルル、又、笠懸射習ノ跡ハ、長サ一町バカリ、横二尺バカリ、云云、是等ハ、異國ニテモ、調馬路ナドト云フベキモノ也」笠掛之卷「跡之事、長、五十一杖也、云云、深サ、六寸」（古事類苑）

うま-ざけ（名）〔旨酒〕酒ヲ、味美（ウマ）シト、稱贊シテ云フ語。美酒　顯宗卽位前紀「旨酒餌（エ）香市（カノイチ）（河内國、古市郡）不二以レ直買一」釋紀「私記曰、師說、高麗人來住二餌香市一、釀二旨酒一、時人競以二高價一買飲、故云」

うま-ざけ（枕）〔味酒〕〔神酒（ミワ）ヨリ、三輪ニカケ、其みノ音ヨリ、三室ニカク、醸嘗（カミナ）むヨリ、神名備（カムナビ）ニカケ、啜（スス）るヨリ、鈴鹿ニカク〕三輪山、三室山、神名備山、鈴鹿國、ノ枕詞。萬葉集、一三十長歌「味酒、三輪乃山」同、七六「味酒、三室山」同、十三三十長歌「味酒ヲ、神名火山」倭姫命世記「味酒、鈴鹿國」（萬葉集、十六廿七長歌「琴酒乎、押垂小野從、出流水」トアルハ、美酒（ウマザケ）ヲ押垂（クルヌ）水野ヨ（ヨリ）出ヅル水」ノ誤ナルベシト云フ）

うま-さし（名）〔馬差〕驛（ウマヤ）ニ居テ、人、馬ニ役（ヤク）ヲ宛ソル者。丹波與作（正德、近松作）中「公用勤メル馬方ガ、馬さし、問屋ヘ斷ラレ、何處デ身ガ立ツ物ゾ」

うま・し・キ・ケレ・ク・ク（形、二）（一）心、耳、眼（メ）、口ニ感ジテ、甚ダ好シ。愛デタシ。妙（クハ）シ。美（イ）シ。結構ナリ。美　神代紀、上三可美、此云二于麻時一」同四「可美少女（ウマシヲトメ）」同、下廿六「可怜小汀（ウマシヲバマ）」萬葉集、一七長歌「何怜國（ウマシ）ゾ、秋津島、大和國ハ」（何怜ノ字ハ、誹諧（ハイカイ）ノ條ヲ見ヨ）懷風藻「美稻（ウマシイネ）」（二）味（アヂ）、口ニ好シ。甘シ。甘美　旨　字鏡四「厚味、宇万志」欽明紀、二年七月「食不レ甘レ味（ウマシトセ）」（三）技（ワザ）ニ好シ。巧ミナリ。熟練セリ。上手ナリ。巧妙　欽明紀、二年七月「新羅甘（ウマク）言、希レ誑、天下之所レ知也（イヒテメヅラシクアザムクコトハ）」

うま・し・シキ・シケレ・シク・シク（形、二）〔美〕〔前條ノ語ノ（一）ノ意ヨリ移ル、あつき、あつしき（篤）ノ例〕樂（タノ）シ。竹取物語「翁、云云、ナデフ心地スレバ、カク物ヲ思ヒタルサマニテ月ヲ見タマフゾ、うましき世ニ、ト云フ、かぐや姫、月ヲ見レバ、世ノ中、心細ソクアハレニ侍リ、云云」

うま-じもの（副）〔馬自物〕〔じものノ條ヲ見ヨ〕馬ノ狀シテ。馬ノ如ク。萬葉集六三十六長歌「馬自物（ウマジモノ）、繩取リ附ケ」同、十三三十六長歌「馬自物、立チテツマヅキ」

うま-じゃくり（名）〔馬決〕うまざくりノ條ヲ見ヨ。

うま-じるし（名）〔馬標〕〔馬印〕〔馬驗〕武具ノ一種。軍陣中ニアリテ、大將ノ馬ノ側ニ立テテ、其居所ヲ示シ、軍中ノ目じるしトスルモノ。信長記、十五、馬驗之事「永祿ノ比マデハ、馬驗ト云事ナカリキ、元龜ノ比ヨリ初リ、次第ニ長ジテ、今ハ、シルシノ要トス、云云、一、金ノカラカサ、信雄卿、一、瓢簞ニ金ノキリサキ、秀吉卿」北條五代記、一、小田原北條家旗馬じるし事「氏康ハ、云云、馬じるしハ、五色ニ段段ノ大ノボリナリ」

うま-じるし-もち（名）〔馬標持〕馬標ヲ持チテ、大將ノ側ニ侍スル役。清正記、一「清正ノ傍ニアル者ハ、云云、弓持ノ水谷安之丞、馬印持ノ善吉、草履取ノ乙若」

うま-ずめ（名）〔不生女〕子ヲ生（ウ）マヌ女ノ稱。イシムスメ。カラヲンナ。石女　愚管抄、四「其御女、北政所ニテオハシマシケレド、遂ニうまずめニテ、御子ノ出來ザリケレバ」嵐雪ノ句「石女（ウマズメ）ノ、雛カシヅクゾ、アハレナル」

うま-せ（名）〔馬柵〕〔馬塞（ウマセキ）ノ略（ませきが）き、（閒塞垣）まがき。（籬）昇籠（カキコ）、かご。板書（イタガキ）、いたがき）〕廐ノ入口ノ貫木（クワンノキ）。逸出ヲ防グモノ。又、うまふせぎ。萬葉集、四廿三「赤

駒ノ、違ユル馬等ノ、厭ヒシ、牙ガルハ、噛ヒモナシ」同、十四ニ「宇麻勢越シ、麦食ム駒ノ、ハツハツニ、ニヒ膚レシ、子ロシ愛シモ」字鏡「[illegible]、馬夫從支」

うまぜみ (名) [馬蟬] 〔馬ハ、大ノ意〕今ノ、ハルぜみ。[illegible]ぜみ。倭名抄、十九「馬蟬、蟬中最大者也、無末世美」

うまぜり (名) [馬芹] 當歸ノ古名。やまぜりノ條ヲ見ヨ。本草和名、上「當歸、也末世利、一名、宇末世利」

うまぞひ (名) [馬副] 乗馬ノ人ニ附添ヒテ行ク從者。枕草子、七、六十四段「うまぞひノ、細ウシタテタルバカリシテ」

うまぞろへ (名) [馬揃] 軍馬ヲ集メテ、其良否ヲ撿分スルコト。簡馬。常山紀談、山内氏「今度、京ニテ馬揃アルベシト承レバ、此事、天下ノ見物ナリ」常山紀談、九「秀吉、大坂ニテ馬揃ノ時、千貫矢宙ニ上リ、觸ラレシニ、早キ馬ノ、未クタクマシキニ乗テ、紅ノ旌ヲ後輪ニ付ケヲル者アリ、徳川家ノ士、成瀨小吉ナリト申ス」

うまだし (名) [馬出] (一)〔馬場ノ、馬ヲ乗リ出ス場所〕馬場本。宇津保物語、祭使「馬だしヨリ、馬トドメマデ、ヒマナク」(二)城門ノ外ニ、半圓形ニ築ケル土壘。左右ニ出口アリ、前ニ堀アリ。甕城。甕門城。甲陽軍鑑、十一、上、品第三十六「馬だしヲ取ラセ、田中ノ城ト名ヅク」

うまたて (名) [馬立] 馬ヲ立テオク處。ウマツナギ。馬柵。

うまだまり (名) [馬溜] 城門ノ内外ナドニ、數多ノ馬ヲ立ツルガタメニ、設ケ置ク空地。甲陽軍鑑、十五、品第四十二、城取の事「馬たまりノ事」

うまだらひ (名) [馬盥] ばだらひニ同ジ。

うまつき (名) [馬付] 乗馬ノ口付。クチトリ。べタウ。馬丁。

うまつぎ (名) [馬繼] 驛。驛馬ヲ繼ギ立ツル所。宿場。驛。享保集成絲綸録、二十二、享保三戌年十月「内藤新宿之儀、云云、宿場相ニ候ニ付而、馬次之儀モ、古來ノゴトク、日本橋ヨリ高井戸宿、馬次ニ可ニ申付ニ候」

うまつなぎ (名) [馬繫] (一)馬ヲ繫ギ置ク所。ウマタテ。馬牙。(二)草ノ名。おまつなぎノ條ヲ見ヨ。

うまつはもの (名) [馬兵] ウマイクサ。騎士。騎兵。仁德紀、五十三年五月「精騎」

うまづら (名) [馬面] 馬顏ヲ嘲リ呼ブ語。

うまとがめ (名) [馬咎] 馬ニ乗リタルマニテ打過グルヲ咎ムルコト。乗打ヲトガムルコト。かさとがめノ條ヲ見ヨ。

うまとどめ (名) [馬留] 馬場ノ、馬ヲ留ムル所。馬場末。うまだし(馬出)ノ條ノ(一)ヲ見ヨ。

うまに (名) [馬荷] 駄馬ニテ送ル荷。負駄。萬葉集、五、三十九、長歌「重キ馬荷ニ、上荷打ツ」天治字鏡、十二、九「馬駄、馬荷於保須」

うまに (名) [旨煮] 料理ノ法。煮出汁ニ味醂、砂糖、醬油ヲ加ヘ、漫火ニテ煮立テタルモノニテ、魚鳥肉、くわゐ、つくいも、ナドノ蔬菜ヲ、濃ク甘ク煮ツケタルモノ

うまぬすびと (名) [馬盜] (一)馬ヲ盜ム盜人。今昔物語、十三、第二十語「此ノ馬ハ、先年ニ我ガ被ニ盜タリシ馬也、云云、此レ馬盜人ノ法師也ト云テ、捕ヘテ縛テ」(二)魚ノ名。あかめだひ。(三)又、魚ノ名。あかをノ異名。

うまのあし (名) [馬脚] 歌舞伎芝居ノ造馬ニ、前脚ト後脚トノ役ヲ務ムル者、下等ノ役者ノスルコトニテ、亦、伎巧ヲ要スレドモ、轉ジテ、賤、下等ノ役者ヲ嘲リ呼ブ語トス。天明ノ川柳「馬の足、出世ヲスルト、首ガ飛ビ」

うまのかひ (名) [午貝] 午ノ時(正午)ノ至レルヲ知ラスルタメニ、法螺ノ貝ヲ吹キ立ツルコト。古ヘハ、時ノ至ル毎ニ吹ケリ。千載集、十八、雜「今日モマタ、午のかひコソ、吹キツナレ、ひつじノ歩ミ、近ヅキヌラム」

うまのかみ (名) [右馬頭] 右馬寮ノ長官。めれう(馬寮)ノ條ヲ見ヨ。伊勢物語、八十二段「うまのかみナリケル人ノ、詠メル」

うまのきぼね (名) [食槽] きぼねノ條ヲ見ヨ。

うまのくぼがひ (名) [紫貝] 〔貝ノ腹ノ穴、牝馬の陰ニ似タリ、形狀ハ、たからがひノ條ヲ見ヨ〕にきがひノ古名。うまのつぼがひ。倭名抄、十九「紫貝、宇萬乃久保加比」本草和名、下「貝子、宇末乃都保加比」

うまのす (名) [馬尾] 馬ノ尾ノ毛。太ク長クシテ、種種ノ用ヲナス。

うまのすけ (名) [右馬助] 右馬寮ノ次官

うまのすずくさ (名) [馬鈴草] 〔實ノ形狀、馬ニ附クル鈴ニ似タルヨリ云フカ〕蔓草ノ名、原野ニ多シ。春、舊根ヨリ生ズ、葉ハ、やまのいもニ似テ、厚クシテ互生シ、苗ト共ニ黑ミアリ、夏、葉ノ間ニ、紫綠ノ花一箇ヅツ開ク、本ハ筒ニシテ、末ハ二瓣ニ分レ、屈曲ス、實ハ垂ル、橡ノ莢ニ似テ白ク、形、鷄卵ノ如シ。馬兜鈴

うまのせごえ (名) [馬背越] 山中ナドニ、左右ハ深キ谷トナリテ、馬ノ背ヲ越エ渡ルガ如キ難路。

うまのたま (名) [馬玉] 馬、或ハ、牛、羊、猪、鹿、豚、犬、等ノ腹中ニ生ズル、石ノ如キモノ。鱗片ナド、食物ニ和シテ腹ニ入リ、久シクシテ、卵殼ノ如キ皮、疊リ包ミテ成ルト云フ。大ナルハ西瓜ノ如ク、小ナルハ豆ノ如シ、裁レバ、渦文アリ、色、灰、油、褐、等ナリ、輕キモノハ、中ニ、黑色、又、褐色ノ毛アリ、けだまト云フ。ヘイサラバサラ。ドウサラバサラ。石糞。鮓答

うまのつかさ (名) [馬寮] 〔馬の司ノ義〕めれう(馬寮)ノ條ヲ見ヨ。

うまのつぼがひ (名) うまのくぼがひノ條ヲ見ヨ。

うまのつめ (枕) [馬爪] 〔馬ハ、爪ヲつきテ歩ムニ〕つくト云フ語ノ枕詞。萬葉集、廿、長歌「[illegible]、筑紫ノ崎ニ、留リ居テ」(防人ノ歌)

うまのはなむけ (名) [餞] 〔馬の鼻向ノ義〕はなむけ(餞)ニ同ジ。字鏡「餞、馬乃波奈牟介」土佐日記、承平四年十二月廿二日「コレゾ正シキヤウニテ、馬の餞シタル、守ガラニヤアラン」

うまのぶす (名) [馬附子] 〔附子ハ、毒藥ナリ、あしびノ語原ヲ見ヨ〕馬醉木ノ異名。

うまのほね (名) [馬骨] 〔生レ所ノ意ナラム〕人ノ、素性ノ分ラヌヲ罵リテ云フ語。「何處ノ馬の骨カ分ラヌ奴」

うまのり (名) [馬乗] (一)馬ニ乗レル人。

能宣集 末ノ松山ニ、うまのりドモオリテ、休ミ侍ル」(二)武家ニ、馬ヲ乘リナラスヲ業トスル者。馬役。馬術家。調馬師 著聞集、十、馬藝「武藏國ノ住人、都築ノ平太經家ハ、高名ノ馬乘、馬飼ナリケリ」(三)馬ニ乘ル如ク、物ニ跨ガルコト。跨 「馬乘ニナル」(四)子裂羽織ノ、脊ノ裂目。好色二代男(貞享、西鶴)五「算崩シノ布子ニ、馬のり明キシ木綿羽織」

うまのり-そめ (名) 【馬乘初】 新年ニ、始メテ乘馬ヲ試ミルコト。暦ニ、其事ニ吉ナルベキ日ヲ記ス。飛馬始。滑稽雜談、一「陰陽暦曰、馬乘初、又、飛馬始ト、云云、是ヲ以テ、二事トス、心得ガタシ、飛馬ハ稱美ノ詞也、和邦ノ武門ノ祝スル乘物ナレバ、カク云ニヤ」

うまのり-ばかま (名) 【馬乘袴】 馬ニ乘ルニ用キル袴。まち高ク、裾廣ク作ル。今ハ、平袴ナクナリテ、世ノ人ノ普ク用キテアルハ、卽チ、馬乘袴ナリ。再訂、江戸總鹿子、新增大全、七、諸細工名物「馬乘袴、芝神明町、松葉や理右衞門、寛永ノコロ、元祖理右衞門ヨリ仕裁出ス處ノ袴、馬上ニテ宜樣ニ勘考ス、云云、是、馬乘袴根元也」

うま-ば (名) 【馬場】 〔馬場ノ約〕(一)馬ヲ馳驅スルニ設ケタル地。今、馬場ト云フ、武德殿ノ前ニアリ、左右近衞府ニモアリ。伊勢物語、九十九段「右近ノうまばノヒヲリノ日」 榮花物語、二十三、駒競「東ノ對ヲ、ヤガテ、うまばノ大殿ニセサセタマヒテ」 (二)良馬ヲ產ズル地。

うま-ばしり (名) 【馬走】 馬場ノ、馬出ヨリ馬留マデノ間ノ稱。笠懸記「未申カタヘ、馬ノ頭ヲ向ケ、云云、馬ばしりニカキ入ル所ニテ」

〜**うまは・す**・ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) 【利殖】 〔蕃殖ノ他動、まつはる、まつはす。(纏)あらはる、あらはす〕 貸シテ、利息ヲ殖ス。靈異記、中、第三十二縁「貸ニ用寺息利ニ不ニ償死ニ(名詞ニ用キタリ)訓釋「息、イ良シ利、于万皮志」(皮ハ、波ノ省字)

〜**うま-はたけ** (名) 【馬刷】 馬ノ毛ヲ洗フ刷毛。ウマグシ。倭名抄、十五 三「馬刷、于麻波太氣」字類抄「馬刷、ムマノクシ、ムマハタケ」

うまば-どの (名) 【馬場殿】 武德殿ノ一稱。殿前ニ馬場アリ、端午ニ騎射ナドヲ御覽ゼラル。うまばのおとど。ウマキドノ。ババドノ。榮花物語、三十六、根合「五月ニハうまばどのニテ、駒競セサセタマフ」 源、三十三、藤裏葉 廿四「うまばのおとどニ、左右ノ寮ノ御馬曳キナラベテ、左右ノ近衞タチ副ヒタル作法、五月ノ節ニ、アヤメワカレズ通ヒタリ」

〜**うまば-の-おとど** (名) 【馬場殿】 前條ヲ見ヨ。

〜**うまは・る**・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) 【蕃殖】 〔蕃殖ふノ自動、まとふ、まとはる。(纏)よこたふ、よこたはる(横)〕 殖ユ。フエユク。フエヒロガル。允恭紀、四年九月「一氏蕃息、更爲二萬姓一」 仁賢紀、八年十月「戶口滋殖」 雄略紀、九年七月「女產兒」(名詞) 同、二十年冬「百濟心許非常、臣每見之不覺自失、恐更蔓生」

〜**うま-びと** (名) 【貴人】 〔可美人ノ義〕 位高キ人。身分貴キ人。歷歷ノ人。仁德紀、廿二年正月「于嗚臂苦ノ、立ツル言立」 萬葉集、二十「宇眞人サビテ、否ト言ハムカモ」(貴人ブリテ)

〜**うま-びと** (名) 【馬人】 馬飼。宇津保物語、國讓、下 廿九「米モ、炭モ、深山ノ草刈、うま人召シテ、仰セテ」

〜**うまびと-の-こ** (名) 【良家子】 (一)貴人ノ子。良家ニ生レタル子。顯宗卽位前紀「退讓以明レ禮、可レ謂ニ君子一」(億計王ノ、播磨ノ縮見屯倉首ノ家ニ潛居シタマヒシ時ナリ) 欽明紀、廿一年九月「差ニ良家子一爲レ使者、不レ可下以ニ卑賤一爲上レ使」 萬葉集、五 廿「漁スル、海人ノ子ドモト、人ハイヘド、見ルニ知ラエヌ、有麻必等能古ト」(二)素性正シキ人。顯宗卽位前紀「搢紳」

〜**うま-びる** (名) 【馬蛭】 熊蛭ノ古言。倭名抄、十九 廿二「馬蛭、蛭之大也、無末比流」

〜**うま・ふ**・フ・へ・ハ・ヒ・へ(他動、四) 【蕃殖】 〔產むノ延、ぬすむ、ぬすまふ。(盜)自動ニ、うまはルト云フ〕 產ム。殖ス。萬葉集、十六 廿「寺寺ノ、女餓鬼申サク、大神ノ、男餓鬼賜リテ、其子將レ播」(契沖ノ訓、大神奥守ガ痩セタルヲ嘲リタル歌)

〜**うま-ふせぎ** (名) 【馬防】 馬柵ノ條ヲ見ヨ。

〜**うま-ぶね** (名) 【馬槽】 カヒバヲケ。箋註倭名抄、五 六十「馬槽」昌平本「无麻舟」 馬寮式「以二歷一艘一宛二馬二疋一」 宇津保物語、初秋 九「御前ニうまぶね立テテ、御馬ドモニ秣飼ハレ」

〜**うま-ふぶき** (名) 【牛蒡】 〔馬款冬ノ義、款冬ニ似テ、大ナリ〕 ごばう(牛蒡)ノ古名。キタキス。倭名抄、十七 廿「牛蒡、岐太岐須、宇末不不岐」

うま-へん (名) 【馬偏】 漢字ノ偏ニアル、馬ノ字。駒、駄、馳、駿等ノ如シ。馬旁 運歩色葉集、遍「馬」 雙生隅田川(享保、近松作)狂女道行「我ガ詞偏詖クシテモ、其ノ馬偏ノ耳偏ニ、風ガ吹クトモ、聞キ入レヌ」

うま-まはり (名) 【馬廻】 (一)乘馬ノ大將ノ周圍。太平記、三十一、新田起二義兵一事「將軍(尊氏)戰場ニ打出デタマハムズル時、ワザト馬廻ニ扣ヘテ、合戰已ニ半ナラムズル最中、將軍ヲ眞中ニ取籠メ奉リ、云云」(貳心謀叛ノ者ナリ) (二)馬廻ヲ警衞スル、騎馬ノ士隊。馬廻組。應仁記、二、相國寺炎上事「六郞殿ノ、馬廻バカリニテ、總門ヲ堅メ」勝元ノ手勢、云云、諸國被管等、馬廻衆六萬餘騎」 太閤記、廿二「御馬廻、七頭」

うままはり-ぐみ (名) 【馬廻組】 前條ノ語ノ(二)ヲ見ヨ。

うま-み (名) 【旨】 (一)旨キ味ノホド。(二)巧ミナルホド。上手ナル度合。「藝ノうまみ」

〜**うま-や** (名) 【厩】 〔馬屋ノ義〕 馬ヲ飼ヒ置ク家。馬小屋。倭名抄、十一 廿二「厩、無萬夜」 萬葉集、廿四二「宇麻夜ナル、繩タツ駒ノ、オクルガヘ、妹ガ云ヒシヲ、オキテカナシモ」

〜**うま-や** (名) 【驛】【驛家】 〔馬屋ノ義〕 驛家。ウマヤカ。驛路。往還ノ人ノ用ノ爲ニ、驛馬、傳馬ヲ備ヘ置ク處。古ヘハ、三十里(六町一里)每ニ、一處ヅツ設ケラルル制ニシテ、驛ニ、長一人アリ、驛子、傳子、屬ス。山陽道ヲ大路トシ、太宰府ニ通ズ、東海道、東山道ヲ中路トシ、鎭守府ニ通ズ、其餘ハ、小路トス、大路ニハ、各驛ニ驛馬二十匹、中路ニハ十匹、小路ニハ五匹ヲ配セラレキ、後世ハ、距離、制度、齊シカラズ。旅店ナドアリテ、市街ヲ成ス。ウマツギ。宿。宿場。天武紀、上 五「驛家」 倭名抄、十 八十「驛、無末夜」 名義抄「郵、ムマヤ」

うま-やく (名) 【馬役】 武家ニ、馬ヲ乘リ馴ラスコトヲ掌ル役人。馬乘。

うまや-ごえ (名) 【厩肥】 馬小屋ノ敷藁ナドノ、糞尿ニ塗レタルヲ、肥料トスルモノ。農家肥培論、下「厩肥、云云」

〜**うまや-だち** (名) 【驛館】 驛ニ設ケタル館。旅館。神功紀、五十年五月「久氐等至レ自二百濟一、云云、增二賜多沙城一、爲二往還路驛一」 敏達紀、十四年三月「海石榴市亭」

うまや-ぢ (名) 【驛路】 ハユマヂ。ハイマヂ。驛ノアル道。エキロ。カイダウ。驛ノ條ヲ併セ見ヨ。合類節用集(元祿)一「驛路」

撰女和歌集(飛鳥井雅有)四「染メ染マヌ、夜半ノ時雨ノ、むもらのモ、今朝ノ紅葉ノ、色ニ[illegible]エケリ」

うまや-づたひ-の-すず（ウマヤ・ズタイ・ノ・スズ）(名) 驛路鈴 〔うまやづたひハ、驛傳ノ義、傳馬(テンマ)ト云フ、是レナリ〕うまやのすず。驛路鈴(エキロノスズ)ニ同ジ。驛鈴。堀河百首、[illegible]、[illegible]ノ[illegible]守、出デテ見ヨ、うまやづたひの、鈴聞ユナリ」 新六帖、二「旅人ノ、山越エワブル、夕霧ニ、うまやの鈴ノ、聲響クナリ」

うまや-の-すず (名) 驛鈴 前條ヲ見ヨ。

うまや-の-べったう（ウマヤ・ノ・ベットウ）(名) 厩別當 べったう(別當)ノ條ヲ見ヨ。今昔物語、廿六、第十四語「自然ラ出來ケル馬ノ事共ヲバ、云云、沙汰セサセナドシテ、厩の別當ニ可レ仕樣ニ持成ケレバ」

うまや-の-をさ（ウマヤ・ノ・オサ）(名) 驛長 驛(ウマヤ)ノ事ヲ掌ル者。青墓ノ驛ノ長者ナド云フモ、是レナリ。大鏡、上、時平、同名ノ驛(ウマヤ)ト云フ所ニ、御宿リセシメタマヒテ、うまやのをさノ、イミジウ思ヘルケシキヲ御覽ジテ、作ラセタマヘル詩、云云」(菅公ナリ)

うま-ゆみ (名) 騎射 〔馬弓(ウマユミ)ノ義〕久、まゆみ。馬ニ騎リテ、弓射ルコト。(歩射(カチユミ)ニ對ス)多クハ、武德殿前ニテ、端午(タンゴ)ノ儀トシテ行ハセラルルニ云フ。騎射。倭名抄、四、廿「騎射、宇末由美」 天武紀、下、九年九月「於長柄杜乃俾馬的射(ウマユミ)之」 年中行事歌合、騎射「射手人ノ、當[illegible]ノ[illegible]、長キ根ニ、今日ノまゆみヲ、引キヤソヘマシ」

うま-よろひ（ウマ・ヨロイ）(名) 馬鎧 乘馬ノ、面ト頸トニ懸クル具。後世ナルハ、布ニ鍍金シタル銅片、革片、鎖(クサリ)ヲ縫ヒツケテ作ル。軍防令、義解「馬甲」 常山紀談、九、小田原征伐「秀吉公ハ青[illegible]ノ御[illegible]、[illegible]ノ御冑、云云、金ノ瓔珞ノ馬鎧カケタル、七寸アル御馬ニ召シ、云云」

うまら (名) 荊棘 〔うばらノ轉〕うばら(荊棘)ニ同ジ。ムバラ。イバラ。萬葉集、廿、[illegible]「道ノ邊ノ、宇萬良ノ末(ウレ)ニ、云云」[illegible]「棘、宇末良」

うまらに (副) 旨 〔らハ、助辭、ささなみ、さざらなみ。さかしら、いくら〕旨(ウマ)ク。[illegible]、十九年十月、長歌「大御酒、宇麻良爾、[illegible]開コシモチ飲セ」[illegible]部位前[illegible]「美[illegible]、[illegible]、哉」

うま・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 埋 〔うもる、うづもる、うづまる。かもしか、かましし(羚羊)〕うもるニ同ジ。ウヅモル。ウヅマル。打消ニ、うまらぬト云ヒテ、缺損(アナ)ニ盈タズ、償フニ足ラズ、ノ意ニ用キルコトアリ。堀河百首、[illegible]「[illegible](萬治二夏蔵、シテモうまらぬ、借錢ノ、淵ハ瀬ナラヌ、飛鳥川カナ」

うま・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ (自動、下二) 生 〔生むノ自動、たたむ、たたまる。しぶ、しぶまろ〕兒、胎(ハラ)ヨリ出ヅ。出產ス。誕 萬葉集、五、(廿一) 長歌「我ガ中ノ、產(ウマ)レ出デタル、白玉ノ、吾ガ子古日(フルヒ)ハ」 後拾遺集、十、哀傷「契リアリテ、此世ニ又モ、うまるトモ、面變リシテ、見モヤ忘レム」

うまれ (名) 生 (一)生ルルコト。生レツキタルコト。拾遺集、七、物名「うまれヨリ、ヒツジ作レバ、山ニサル、獨イヌルニ、人井(ヰ)テ在セ」 (二)生レタル地。產地 (三)ウマレツキ。ソダチ。狂言記、老武者「不調法なうまれデ、面目モゴザラヌ」

うまれう（ウマ・リヨウ）(名) 右馬寮 めれう(馬寮)ノ條ヲ見ヨ。

うまれ-お・つ・ツル・ツレ・チ・チ・チヨ (自動、上二) 生落 胎兒、生レ出ヅ。宇津保物語、俊蔭(七)「うまれおつるスナハチ、嫗(オウナ)、己ガ布(ヌノ)ノ懷ニ抱キテ」

うまれかはり（ウマレカワリ）(名) 生變 生レカハルコト。轉生。中山[illegible]、十四、[illegible]四十、[illegible]ト云行人ノ生れがはり、ソノ首尾マサシク候由」

うまれ-かは・る（ウマレ・カワ・ル）・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 生 變 動物ノ死シタル魂、再ビ、他ノ動物ト變ハリテ生ル。(佛說)轉生。[illegible]、中、第四、伏見の雪の朝「昔、尾張ノ國ニ、すんがうト云ヒケル聲ニテオハシケルヲ、云云、むまれかはりテ、ソノ國ノ守ニナリテ」

うまれ-こきゃう（ウマレ・コキョウ）(名) 生故鄕 生レタル地。產地。鄉貫。

うまれ-ぞこなひ（ウマレ・ゾコナイ）(名) 生損 人ノ生レツキノ、滿足ナラヌコト。世間[illegible]氣質(京[illegible]、其[illegible])二「今ノ世ニ、芝居ヲ[illegible]フハ、生れぞこなひト云フモノ」

うまれ-たち (名) 生立 人ノ生立(ナリタチ)。ウマレツキ。資性。

うまれ-たて (名) 生立 〔立つるハ、始ムル意、誓ヲ立つる、推シ立つる〕生レ出デテ、其時ナルコト。初生。

うまれ-つき (名) 生付 生レツクコト。生レツキタル狀。生レナガラノ狀。生得。性分。天稟。平家物語、一、妓王事「ナンデフ、名ニヨリ、文字ニハヨルベキ、幸ハ只、前生ノ生付ニコソアンナレ」

うまれ-づき（ウマレ・ズキ）(名) 生月 其人ノ生レタル月。

うまれ-つ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (自動、四) 生付 生レナガラニ、身ニツキソナハル。稟生。

うまれ-どし (名) 生年 其人ノ生レタル年。

うまれ-ながら (副) 有生 生レテ、ソノママ。生レツキテ。「うまれながら、國王ノ位ニ居ル」

うまれ-び (名) 生日 誕生日 其人ノ生レタル日。誕生日。

うま・れる (動) 生 生るノ口語。

うま-をさ（ウマ・オサ）(名) 馬長 〔騎馬ノ長ノ義ニテ、行列ノ先頭ニ立ツ意ナルベキカ〕六月十四日ノ京都、祇園社、御靈會ノ神事ニ、禁中ヨリ引カルル馬ニ乘ル人。衣服ヲ着飾リテ騎リワタル、見物(ミモノ)トシタリ。放免の附物ノ類カ。枕草子、四、四十二段「おほちよげなるもの、御靈會ノ馬長」 本朝世紀、久安五年六月十四日「[illegible]御靈會也、内、一院、新院、三所之殿上人、[illegible]馬長各一[illegible]、[illegible]押小路御所御覽、云云、馬長、以二御簾一造レ花、插レ簾」 照光記、建久七年六月十四日「於二北大路棧敷一見物、云云、以[illegible]、[illegible]、馬長廿[illegible]」(吾妻鏡、二十八)

うみ (名) 海 〔大水(オホミ)ノ約轉、う(大)ノ條ヲ見ヨ、禮記、月令篇「爵入(スズメ)二大水一爲レ蛤」註「大水、海也」〕(一)湖、海、スベテ、大イニ水ヲ湛フル處。古事記、上、五十「科野國之洲羽海」 同、中(仲哀)[illegible]長歌「[illegible]近江ノ海ニ」 萬葉集、三、[illegible]「大日八、[illegible]ニシマヒ八、[illegible]ノ立ツ、荒山中ニ、海ヲ成スカモ」「淡海(アハウミ)」「湖ノ湖」 (二)地球ノ面ニテ、廣大ニ鹹水ヲ湛フル所。即チ、內海(ウチウミ)、大洋(オホウミ)、等ノ總稱。アマ、ワタ。ワタツミ。倭名抄、一、[illegible]「海、云云、[illegible]川ノ[illegible]也、宇三」 (三)水ノ溜レル、海ニ擬ヘテ云フ語。「硯ノ海」「袖ノ海」「[illegible]ノ海」

うみ (名) 生 生ムコト。生ミタルコト。親生「生ノ親」「生ノ子」

うみ (名) 膿 〔膿汁(ウミシル)ノ略〕膿ミタルモノ。ウミシル。瘡、疵ナドノ、癒ユルニ進ムトキ、皮膚、筋肉ノ間ニ釀サレテ、分泌スル液。

うみうさぎ (名) 【海兎】〔肉角、耳ノ如シ〕海產ノ動物。あめふらしニ同ジ。

うみうし (名) 【海牛】〔肉角アレバ、名ヅク〕海產ノ動物。あめふらしニ同ジ。

うみうそ (名) 【海獺】〔字ノ文字讀〕葦鹿ノ一名。又、臘虎ヲ云フ。

うみうなぎ (名) 【海鰻】〔海鰻鱺ノ文字讀ノ語ノ移リタルカ、沖繩ニテハ、はもヲ、うみんなじト云フ〕あなごニ同ジ。

うみうま (名) 【海馬】〔漢名、海馬ノ文字讀〕たつのおとしごニ同ジ。

うみうめ (名) 【熟梅】熟ミタル梅ノ實。金葉集、九、雜、上「葉隱レニ、ツハルト見エシ、ホドモナク、コハうみ梅ニ、ナリニケルカナ」

うみうを (名) 【海魚】川魚ニ對シテ、海ニ產ズル魚ノ稱。

うみえび (名) 【海蝦】蝦ノ條ヲ見ヨ。

うみおとす・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) 【生落】〔うまれおつノ他動〕兒ヲ產ミ終ル。分娩 竹取物語「燕ハ、子產マムトスル時ハ、尾ヲ捧ゲテ、七度メグリテナム、うみおとすメル」

うみが (名) 【海處】〔陸處ノ對ト云フ〕海ナル處。古事記、中(景行)五十六長歌「宇美賀行ケバ、腰ナヅム」

うみがた (名) 【海形】海ノ景色ノ繪。宇津保物語、國讓、上十五「左大將殿、大イナルうみがたヲシテ」

うみがつき (名) 【孕月】又、うむがつき。今、うみづき。臨月。蓐月 神代紀、下三十「孕月已滿、産期方急」私記「孕月、宇美加津岐」神功攝政前紀「適當二皇后之開一胎」榮花物語、五、浦浦別「承香殿ノ女御、うみがつきモ過ギサセタマヒテ、イトアヤシク音ナケレバ」

うみがに (名) 【海蟹】(一)〔かざめニ同ジ。字鏡六十九「蝤、海我爾」(二)しまがにニ同ジ。

うみかんざし (名) 【海簪】うみやなぎノ條ノ(二)ヲ見ヨ。

うみがめ (名) 【海龜】龜ノ類ノ、最モ大ナルモノ、海ニ產ズ。大ナルハ、長サ五六尺ニ至ル、四足皆鰭ニシテ、爪アリ、前足ハ長ク、後足ハ短シ、甲ハ、いしがめニ同ジクシテ、十三ノ六角ヲナス、色、黑シ、或ハ、黃ナル斑アルアリ、肉、脂、皆、食用トシ、腹ノ甲ヲ瑇瑁ニ擬製シ、朝鮮鼈甲ト云フ。正覺坊。蠵龜 天治字鏡、九二「鼂、海加女」倭名抄、十九廿「蠵、宇美加米」

うみがも (名) 【海鴨】かもめノ條ヲ見ヨ。字鏡六十二「鷗、海加毛」

うみくちなは (名) 【海蛇】(一)エラブウナギ。(二)ウミヘビ。

うみさうめん (名) 【海索麪】海藻ノ名。形、索麪ノ如ク、細長クシテ、深綠ナリ。鹽ニ漬ケ、又、灰ニ和シテ乾シ貯ヘ、煮テ食フ、味、甘シ。サウメンノリ。

うみさち (名) 【海幸】幸ノ條ヲ見ヨ。

うみし (名) 【生字】〔生むハ、引く、字ハ、音ノ意〕謠物、語物ニ、一音ノ母韻ヲ引クコト。つき(月)ヲつゥきィト云フガ如シ。韻

うみしか (名) 【海鹿】〔肉角アレバ、名ヅク〕海產ノ動物。あめふらしニ同ジ。

うみしじみ (名) 【海蜆】蜆ノ、海中ニ產ズルモノ。大ナルハ、徑二寸ニ至ル、外面、黑褐、或ハ、黃褐ナリ。

うみしる (名) 【膿汁】今、專ラ、膿トノミ云フ。倭名抄、三五十上「膿、宇美之留」靈異記、下、第三十四緣「癰瘡自然口開、流二出膿血一」訓釋「膿、ウミシル」

うみすぎ (名) 【海杉】うみひばノ類。葉、繁クシテ、杉ノ葉ニ似テ、細カク小サク、淡黑褐色ナリ。

うみすずめ (名) 【海雀】(一)海鳥ノ名。かいつぶりニ似テ、翅小サク、尾ナキモノト云フ。(二)魚ノ名、すずめふぐノ一種ニシテ、稍、小サキモノ、頭ニ二角アリ。海牛

うみすひいし (名) 【膿吸石】圓ク扁クシテ、石ノ如キモノ。稀ニ舶來ス、膿ヲ吸ハシム、龍骨ノ類ナリト云フ。吸毒石

うみそ (名) 【績麻】績ミタル麻絲。ウミヲ。

うみたけ (名) 【海茸】介ノ名、九州邊ノ泥海ニ生ズ。殼ハ、どぶがひニ似テ、圓ク白ク、質脆シ、常ニ泥中ニアリテ、肉ヲ上ニ出スコト、筍ノ如シ、色黑ク、大キサ二三寸、內、空シ、腸ヲ去リテ、食用トシ、鹽漬トシテ、遠キニ送ル。泥筍 料理物語、海魚部「海茸ハ、アヘ物、サシミ」

うみたなご (名) 魚ノ名。形、かいづニ似テ、扁ク闊ク、長サ、大キナルハ一尺、色黑ク、或ハ、赤ミアリ。海鯽

うみち (名) 【膿血】膿ニ、血ノ混ジタルモノ。東海道名所記(萬治)一「佛ノ御顏ニ、鎗ノ燒痕ツカセ給ヒ、濃血ノ流レ給ヒシト也」

うみぢ (名) 【海路】海ノ上ノ、船ノ通路。ウミツヂ。船路。(陸路ニ對ス) 萬葉集、三三十四長歌「海路ニ出デテ、喘ギツツ、我ガ漕ギ行ケバ」

うみづき (名) 【產月】ウミガツキ。ウムガツキ。孕ミテ、子ヲ產ムベキ月。臨月。蓐月

うみつく・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ (他動、下二) 【生付】(一)〔生ミテ、其性ヲ受ケシム。宇津保物語、藤原君七「兵衞打笑ヒテ、カバカリニ、親うみつくラム人ノヤウニモコソ」(二)生ミテ、物ニ着クル。(魚、蟲、ノ卵ナドニ)

うみつぢ (名) 【海路】〔海之路ノ義〕海上ヲ、船ニテ行ク路。ウミヂ。フナヂ。シホヂ。萬葉集、九廿八「海津路ノ、和ギナム時モ、渡ラナム、カク起ツ波ニ、船出スベシヤ」

うみつび (名) 【海螺】ホラガヒ。ウミツブ。字鏡六十九「蠃、大者、海豆比」康頼本草、下四十四「海螺、宇美川不、保良加伊」

うみつぶ (名) 【海螺】前條ヲ見ヨ。

うみづら (名) 【海面】海ノ上。海上。源、五、若紫五「サル海面ニ出デタマヒタル」

うみて (名) 【海手】〔海之方ノ約〕海ノ方。(山手ニ對ス) 浦島年代記(元祿、近松作)一「隼人ハ山手、平馬ハ海手、急ゲ急ゲト追ヒタテ」

うみてふてふ (名) 【海蝶】とびのうをニ同ジ。

うみどうがめ (名) かぶとがにニ同ジ。

うみどぢやう (名) 【海泥鰌】ぎんぽうニ同ジ。

うみながし (名) 【產流】流產。增鏡、第十二、老の波「コレモ御うみながしニテ、俄ニ失セサセタマヒケリ」

うみなり (名) 【海鳴】遠海上ニ起ル、一種ノ響キ。海底ノ地震ナドニ因ルト云フ。

うみにな (名) 【海蜷】 介ノ名、海ニ產ズルになナリ。形、色、蜷ニ同ジクシテ、端、禿ビズ。

うみのおきな (名) 【海翁】 「えびニ、海老ノ字ヲ當ツ、其文字讀」蝦ノ異名。續古今集、十九、誹諧「人ノ、えびヲ乞ヒニオコセタルニ、アリケルママニ、十九ヤルトテ「世ノ人ハ、海のおきなト、云フメレド、マダ二十ニモ、足ラズゾアリケル」

うみのおや (名) 【生親】 己レヲ生ミタル親。實父母。(養父母ナドニ對ス)五十年忌歌念佛(近松作)上「うみの親ノ我レラヨリ、清十郎メガ命の親」

うみのかみ (名) 【海神】 海ヲツカサドル神。海若(ワタツミ)。神功皇后紀、十月「海神(ウミノカミ)[illegible]侯」

うみのこ (名) 【生子】 子子、孫孫。ハツコ。スヱ。アト。子孫 神代紀、下「瑞穗國、是吾子孫(ウミノコ)可王之地也」雄略紀、十四年四月「子子(ウミノコ)孫孫(ヤソツヅキ)八十聯綿」

うみのつき (名) 【海月】 「字ノ文字讀」くらげノ異名。夫木抄、廿七「我ガ戀ハ、海の月ヲゾ、待チワタル、くらげノ骨ニ、アフ夜アリヤト」

うみのはは (名) 【生母】 我レヲ生ミタル母。實母。(養母ナドニ對ス)冥途飛脚(近松作)下「故鄕ノ土ニ身ヲナシテ、生みの母ノ墓所、一所ニ埋マレ」

うみのみやこ (名) 【海都】 龍宮(リユウグウ)ニ同ジ。草枕集、上、(微書記)ニ、「海、海神ノ都ネテハ、ナド逢ハザラム、人住マズ、海の都ノ、アリカナリトモ」

うみばうず (名) 【海坊主】 (一)うみがめノ、大ナルモノ。(筑前)(二)海上ニ現ルト云フ妖怪ノ名。

うみばた (名) 【海端】 海ノホトリ。ウミベタ。ウミベ。海岸。

うみひば (名) 【海檜葉】 珊瑚ノ類、海底ノ石ノ上ニ生ズ、大イナルハ四五尺、小サキハ數寸アリ、枝長ダ多ク、網ノ如クツキテ、帆ノ如ク、又、佛像ノ後光ノ如シ、色、紅、黃、紫、白、青、黑、褐等、種種ナリ、外ハ柔ニシテ、內ニ骨アリ、紅、黃、二種ノ外ハ、外皮ヲ去レバ、骨、珊瑚ノ如シ。石帆

うみぶくれ (名) 【海脹】 つなみニ同ジ。海嘯

うみべ (名) 【海邊】 海ノホトリ。ウミベタ。ウミバタ。萬葉集、十八「[illegible]ヨリ、我ガ打チ行カバ、宇美邊ヨリ、迎ヘモ來ヌカ、海士ノ釣舟」

うみべた (名) 【海邊】 「へたノ條ヲ見ヨ」ウミベ。ウミバタ。神代紀、下「海濱」私記「宇美倍太」

うみへちま (名) 【海絲瓜】 うみわたニ同ジ。

うみへび (名) 【海蛇】 魚ノ名。形、はもニ似テ、圓ク長ク、三尺許、背ハ淡灰ニシテ、腹ハ淡紅ナリ、口闊ク、鋭キ齒牙アリ、腮(アギ)、闊ク大キクシテ、紅ナリ。ウミクチナハ。(伊豆)ナマダ。(安房)ウツボ。(紀伊)

うみほっす (名) 【海拂子】 ほっすがひノ一名。

うみほほづき (名) 【海酸漿】 長螺(ナガニシ)ノ卵巢。形、巾着ノ如クニシテ、大キサ寸ニ滿タズ、色、黃白ニシテ、皮堅ク、中ニ液アリ、疊マリ連リテ、海中ノ石ニ着キテアリ。梅酢ニテ赤ク染メ、小孔(アナ)ヲ穿チ、女兒、ほほづきニ代ヘテ、玩トス。又、紅螺(アカニシ)ノ卵ナルヲ、長刀(ナギナタ)ほほづきト云フ、形、細長ク闊リテ、長刀ノ刃ノ如ク、長サ一寸許、亦同ジク、ほほづきトス。

うみまつ (名) 【海松】 (一)海邊ノ松。夫木抄、廿五「ナダノ浦ノ、磯ニナゾサフ、うみまつヲ、汀ノ波ゾ、年ハ經ニケル」(二)〔みるノ漢名ノ海松(カイシヨウ)ヲ、文字讀ニシタル語〕みるノ條ヲ見ヨ。土佐日記、正月廿九日(子ノ日)「オボツカナ、今日ハ子ノ日カ、海人ナラバ、うみまつヲダニ、引カマシモノヲ」(三)珊瑚ノ一種。形、松ニ似テ小サシ、うみひばノ類、枝少ク、扁平ナラズシテ、黑ク光ル、枝上、稀ニ葉アリテ、杉ノ葉ニ似タリ、間ニ細カナル穴多シ。黑珊瑚

うみやなぎ (名) 【海柳】 (一)あまも。(二)珊瑚ノ類、泥海ニ生ズ、形、箒ノ如クニシテ、五六寸ヨリ三五尺ニ至ル、肉ハみみずニ似テ、末闊(ヒロ)クシテ、少シ曲ル、本ニ、蛸ノ疣ノ如キモノアリ、骨ハ、箒ノ如クニシテ、圓キアリ、方(カク)ナルアリ、箒トス。オトヒメノカンザシ。ウミカンザシ。越王餘算

うみわた (名) 【海綿】 海產物、海岸、水底ノ石、貝ニツキテ見出ス、質、綿ノ如クニシテ、色、黑褐ナリ、多ク水ヲ吸ヒ入レ、壓セバ、忽チ水ヲ吐ク、種種ノ用ヲナス。ウミヘチマ。ミヅワタ。海綿。スポンジ。海絨

うみを (名) 【績麻】 績ミタル麻縷。ウミソ。萬葉集、六「[illegible]少女等ガ、績麻懸クトフ、鹿背(杯ニ言掛ク)ノ山、時シ往ケレバ、都トナリヌ」

うみをそ (名) 【海獺】 あしかニ同ジ。ウミウソ。

うむ (名) 【有無】 (一)有ルト、無キト。有(イウ)無。「有無ニかかはらズ」(二)否ト、諾ト。「有無ノ論ナク」「有無ヲ言ハセズ」

う・む ム・メ・マ・ミ・メ (自動、四) 【熟】 (一)十分ニ成長ス。ツエ。熟ス。(果ナド)萬葉集、九、雜、上「うみタル梅ヲ、オコセタリケレバ」(二)[illegible]

う・む ム・メ・マ・ミ・メ (自動、四) 【倦】 〔熟むヲ、飽き足るニ移シタル意カ〕作業ニ厭ク。[illegible]スル。アグム。イヤニナル。退屈ス。萬葉集、十二、廿六「少女ラガ、績ミ麻ノタタリ、ウチソカケ、績(ウム)時ナシニ、戀ヒワタルカモ」[illegible]ニ、コレヤコノ世ヲ、うみ(海ニ、倦ヲカク)渡ル船」

う・む ム・メ・マ・ミ・メ (他動、四) 【生産】 (一)胎(ハラ)ノ兒ヲ生ス。孕ミシ子ヲ產ズ。古事記、上(神代)「[illegible]生ニ成國土」[illegible](二)生ズ。出ダス。フヤス。殖「金ガ利息ヲ生む」

う・む ム・メ・マ・ミ・メ (他動、四) 【績】 麻、苧ヲ細ソク析キテ、長ク合セテ撚ル。萬葉集、十四「[illegible]ラフ、麻苧ヲ、[illegible]ズトモ、明日來セサメヤ、率セ小床ニ」

う・む ムル・ムレ・メ・メ・メヨ (他動、下二) 【埋】 (一)〔うづむ(他動、四段)ニ同ジ。ウヅム。[illegible]「埋、ウム、ウヅム」太平記、十五、建武二年正月十六日合戰事「其死骸、谷ヲうめ、溝ヲうづみケレバ、道[illegible]ニ成ル」此語、[illegible]活用セシモノカ。[illegible](二)〔濕ニ水ヲ加ヘテ、溫クス。[illegible]

「主殿寮御湯マヰラス、御槽ニ取ルナリ、召スホドニうめタリ」 (三)うめるノ條ヲ見ヨ。

うん (名) 運 〔運命ノ略〕 人ノ身ニ運リテ來ル、善惡ノ象。天命ノマハリアハセ。 千載集、十六、雜、上「運ヲ出ヅル百首ノ歌、詠ミ侍リケル」「運善シ」「運惡シ」

うん (感) 〔諾ノ音便〕 肯フ意ヲアラハスニ發スル聲。承諾スル聲。

うん (感) 感動詞ノ、うノ音便。呻吟ク聲。「天窓ヲ强ク擊タレ、うんト云テ、ノケゾル」「うんうんウナル」

うん-あう (名) 蘊奧 〔玉篇「蘊、積也、聚也、蓄也」〕 學問、技藝ナドノ、奧深キ所。オクソコ。奧義。極意。 宋史、理宗紀「發揮聖賢蘊奧、有補治道」

うん-う (名) 雲雨 (一)くもト、あめト。古クハ連聲ニテ、うんぬト發音セリ。 詩經、召南、殷其靁、傳「山出雲雨、以潤天下」 (二)男女ノ契。 文選、高唐賦「楚襄王、云云、昔者先王、夢見一婦人曰、願薦枕席、王因幸之、去而辭曰、妾在巫山之陽、且爲朝雲、暮爲行雨、朝朝暮暮、陽臺之下、云云」(節文) 劉廷芝、公子行「爲雲爲雨楚襄王」 李白、淸平調詞「雲雨巫山枉斷腸」

うん-うん (名) 云云 〔連聲ニテ、うんぬんト云フ〕 (一)事、多端ニシテ、其所ニ用ナキ語ヲ省クニ云フ語。斯斯云フコト。然然云フコト。 漢書、汲黯傳「上方招文學儒者、上曰、吾欲云云」註「云云、猶言如此如此也、史略其辭也」 說苑、至公篇「君子幾當從其子云云乎、以君子之知、豈必待其子云云、然後知所以斷獄哉」 宇治拾遺、二、第四條「小キ文字ニテ、金御嶽云云ト、悉ク書カレタリ」 (二)句トシテ、「と云へり」となり」ノ意ニ用キラル。 吾妻鏡、四十二、建長四年九月三十日「於鎌倉中所所民家所註之酒壺三萬七千二百七十四口、云云」

宣胤卿記、文明十二年十二月二日、神拜口傳事「一向無被問事、諸家無敬神歟、云云、余敬神異于他、以來、次可授云云、則口傳之」

うん-うん (名) 紜紜 亂ルル狀。紛紛。 晉問(柳宗元)「草木短縮、鳥獸墜匿、而馬蕃焉、師師兟兟、溶溶紜紜、轠轠轔轔」

うん-うん (名) 芸芸 物ノ、多キ狀。 老子、第十六章「夫物芸芸、各復其根」

うん-うん (名) 沄沄 水ノ、沸キ流ルル狀。 楚辭、九思篇「窺見兮溪澗、流水兮沄沄」

うん-えき (名) 瘟疫 疫病。ハヤリヤマヒ。 抱朴子、內篇、微旨「經瘟疫則不畏、遇急難則隱形」

うん-えん (名) 雲烟 (一)くもト、けむりト。雲、烟ノ群レル空。 劉孝孫詩「飛軒俯松柏、抗殿接雲烟」 (二)墨色ノ鮮カナルニ喩フル語。 飮中八仙歌(杜甫)「脫帽露頂王公前、揮毫落紙如雲烟」

うんえん-くゎ-がん (句) 雲烟過眼 眼ニ見テ、心ニ留メズ。一時、見過ス。 蘇東坡、寶繪堂記「書畫見可喜者、雖時復蓄之、然爲人取去、亦不復惜也、譬之、烟雲之過眼、百鳥之感耳、豈不欣然接之、去而不復念也」

うん-か (名) 雲霞 (一)くもト、かすみト。 杜審言詩「雲霞出海曙」 (二)物ノ、夥シク集レルヲ形容シテ云フ語。 保元物語、一、官軍方方手分事「軍兵、雲霞ノ如ク召シ具シテ」

うん-か (名) 浮塵子 〔雲霞ノ如ク群リ來ル意ナラムカ〕 飛蟲ノ名。形、蟬ニ似テ、長サ二分許、頭突出シ、背尖リ、翅アリテ、多數群飛シ來リテ、稻ノ若葉、及、花ノ液ヲ吸ヒテ枯レシムル大害蟲ナリ、種類、多シ。コヌカムシ。 除蝗錄「蝗ヲ、ナベテうんかト唱ル所、多シ」

うん-が (名) 運河 船荷ノ運送ニ用キル、掘割ノ川。 宋史、河渠志「水運之程、自大江而下至鎭江、則入漕、經行運河、如履平地」

うん-かう (名) 運行 メグリ、ユクコト。 易經、繫辭、上傳「日月運行、一寒一暑」

うん-かう (名) 芸香 〔芸ハ、香ノ善キ草ナリ、故ニ名ヅク〕 書籍ノ中ニ入レテ、紙魚ヲ防グ草。クサノカウ。 夢溪筆談「藏書辟蠹用芸、卽七里香」 洛陽宮殿簿「含英殿前、芸香一株」

うん-かく (名) 雲客 クモノウヘビト。殿上人。月卿ノ條ヲ見ヨ。 太平記、一、資朝俊基被捕下向關東事「上臥シタル月卿、雲客」

うん-かく (名) 雲鶴 綾ナドノ織模樣ノ名。雲ト鶴トヲ配合シタル象ヲ織出ス、袍ナドノ用トス、雲飛鶴袍ト云フ、多クハ親王ノ御料トス。

うん-かく (名) 芸閣 〔芸 草ノ香ニテ、蠹魚ヲ防グヨリ名アリ〕 書籍ヲ藏スル所。圖書室。芸臺。 李季蘭、寄韓校書詩「不知芸閣史、寂寞竟何如」 蠡蒙興略「芸香辟紙魚蠹、故藏書臺稱芸臺、閣稱芸閣」 新續古今集、序「延喜ニ、芸閣ノ風、響バシク」 大納言石上宅嗣(光仁天皇ノ御代)圖書室ヲ芸亭ト號シ、公開シテ、人ニ縱覽セシメシナドモ、是レナリ。

〜うむか・し (形) おむかしノ條ヲ見ヨ。

〜うむかし・む (動) おむかしむノ條ヲ見ヨ。

〜うむ-が-つき (名) 產月 〔終止形ヲ用キタルニ、調の船ナドノ例アリ〕 うみがつきニ同ジ。其條ヲ見ヨ。

うん-かん (名) 雲漢 アマノガハ。天漢。 詩經、大雅、蕩之什、雲漢篇「倬彼雲漢、昭回于天」

〜うむ-き (名) 海蛤 〔出雲國風土記、島根郡、法吉鄕ニ、宇武賀比比賣命(古事記、上三十四ニ「蛤貝比賣」)見ユレバ、海介ノ約轉カトモ思ハルレド、海介ハ、蛤ニ限ラズ、或ハ、海栗ノ約轉ナルベシ、濱栗、同義ナリ〕 蛤ノ、古名ト云フ。 景行紀、五十三年十月「得白蛤、云云、爲膾而進之」 字鏡六十八「蚶、宇牟支」 本草和名、下十四「海蛤、宇牟岐」

うん-き (名) 雲氣 雲ノケハヒ。クモユキ。雲ノ、晴雨ナドニ乘ジテ動ク象。 左傳、僖公五年「日南至、公登臺、以望雲氣」 後紀、二十一、弘仁二年七月丁未「大極殿龍尾道上有雲氣、狀如烟、須臾歇滅」「雲氣ヲ考フ」

うん-き (名) 溫氣 アツサ。暑氣。 王充、論衡「火與溫氣同、水與寒氣類」

〜うむき-な (名) 淫羊藿 〔海蛤菜ノ義、葉ノ形、其殼ニ似タレバ云フカト云フ〕 今、いかりさうト云フ。 本草和名、上二十二「淫羊藿、宇无岐奈、也末止利久佐」(倭名抄、同ジ)

うん-きゃく (名) 雲脚 (一)雲ノ脚。クモアシ。 韓愈詩「雲脚飛銀線」 (二)粗惡ナル末茶ノ異名。 下學集、下、飮食門「雲脚、惡茶名也、言茶泡早滅、如浮雲脚早過去也」

うん-くゎん (名) 雲鬟 〔鬟ハ、說文「總髮也」〕 婦人ノ髮ヲ、綠雲ニ擬シテ云フ語。 韋應物詩「高髻雲鬟宮樣粧」

うん-げい (名) 雲霓 〔霓ハ、虹ナリ〕 雨雲。 孟子、梁惠王、下篇「民望之、若大旱之望雲霓」

うん-げん (名) 暈繝 繧繝 〔暈り間ふる義、繧ハ、暈ト雲トノ音通ニ、糸偏ヲツケタル借字ナリ〕 (一)〔織模樣ノ名。縱線ニ赤、藍、淺葱等ノ色ヲ並べ交ヘタルモノ。其ノ間ニ花形、菱形ヲ織り出シタルヲ、暈繝錦ト云ヒ、此錦ヲ緣トシタ

ル疊ヲ、暈繝緣ノ疊ト云フ。讀例ニ、うげん。蔭涼司式、暈繝鑰」名目抄、雜色「暈繝」枕草子、八、八十四段、昔おぼえて不用なるもの「うげんべりノ疊ノ舊リテ、節出デキタル」海人藻芥、疊之事「帝王、院、暈繝也、神佛供御、用二暈繝一、此外更不レ可レ用者也」（かうらいべりヲ併セ見ヨ）（二）畫工ノ語。クマドリ。

〔うんげん-にしき（名）暈繝錦　前條ノ（一）ヲ見ヨ。

うんげん-べり（名）暈繝緣　前前條ノ（一）ヲ見ヨ。

うんげんべり-の-たたみ（名）暈繝緣疊　うんげん（暈繝）ノ（一）ノ條ヲ見ヨ。

✣うん-こ（名）糞　〔うんハ、息張ル聲、こハ、添フル辭、屎ヲこッこ。玉子、茶子〕小兒ノ語。糞。ババ。

うんこく-は（名）雲谷派　〔畫僧雪舟、周防國、山口ナル雲谷寺ニ住シタル事アルニ因リテ、名アリ〕畫風ノ名。雪舟流ニ同ジ。

うん-こん（名）雲根　（一）山ノ異名。雲ハ、山ヨリ出ヅ。宋、孝武、登二作樂山一詩「積水溺二雲根一」（二）石ノ異名。雲ハ、岩石ノ間ヨリ出ヅ。賈島詩「移レ石動二雲根一」

うん-ざ（名）運座　人人集リテ、互ニ俳句ノ題ヲ出シ、各題、一首ヅツ作リ、互選シテ、點ノ高下ヲ定ムル會。

うんさい-おり（名）雲齋織　〔創意シタル人名ニ起ル〕綿布ノ、厚クシテ、地ヲ粗ク、斜ナル織文ニ織リタルモノ。多ク、足袋ノ底ニ用キル、うんさいたびト云フ。好色一代男（天和、西鶴）七「小菊ノ鼻紙、うんさい織ノフクロ足袋」

うんさい-たび（名）雲齋足袋　前條ヲ見ヨ。

うん-さう（名）運漕　船ニテ、物ヲ運ブコト。フナマハシ。魏志、鄧艾傳、水路「通二運漕一」

うん-ざう（名）溫糟　次條ノ語ノ略。其條ヲ見ヨ。

うんざう-の-かゆ（名）溫糟粥　〔禪家ノ臘八粥ナドニ緣アルカ〕味噌、酒糟ヲ加ヘテ煮タル粥。（貞丈雜記）或ハ、昆布、串柹、大豆、粉藥ヲ加フトモ云フ。（二中記）略シテ、うんざう。庭訓往來、十月、「溫糟」狂言記、文藏「汝ガ食ベタハ、うんざうのかいデアラウ」

うん-ざん（名）運算　式ノ示ス所ニ從ヒテ、所要ノ數値ヲ算出スルコト。演算。

✣うんざり（副）〔倦ずありノ約カ〕倦ミ厭キタル狀ニ云フ語。（東京）「うんざりスル」

うん-し（名）雲脂　頭ノ垢。イロコ。フケ。倭名抄、三「雲脂、加之良乃安加、一云、伊呂古」

うん-じ（名）云爾　カヤウニテアルト云ヒテ、上文ヲ結ブ語。論語、述而篇「不レ知二老之將一レ至、云爾」

〔うん-じ（動）倦　うんず（倦）ヲ見ヨ。

うんしう-みかん（名）溫州蜜柑　〔古ヘ、支那、浙江省、寧波府、溫州ノ種ヲ渡セルハ、溫州橘ナリ、後ニ德川賴宣、再ビ溫州ノ種ヲ求メテ、紀伊ノ有田郡ニ繁殖セシメシモノ、溫州蜜柑ナリト云フ〕蜜柑ノ類、紀伊ニテ培植シタルモノ。今、諸國ノ暖地ニ移シ植ウ、實ハ、蜜柑ヨリ大キク、扁クシテ、皮薄シ、春ニ至リテ、其味、殊ニ甘美ニシテ、核ナキヲ特色トス。乳橘。

うん-しつ（名）雲實　ハマササゲ。カハラフヂ。ジャケツイバラ。

うん-しふ（名）雲集　雲、霞ノ如クアツマルコト。文選、西都賦「浮游往來、雲集霧散」榮花物語、十五、疑「黑白衣之雲集、豈啻三千五百之遺衆」

うん-しや（名）蘊藉・溫藉・醞藉　柔カニシテ、穩カナルコト。史記、酷吏傳「治敢行少二蘊藉一」漢書、薛廣德傳「爲レ人溫雅有二醞藉一」

うん-じやう（名）雲上　くものうへノ條ヲ見ヨ。

うん-じやう（名）運上　（一）公物ヲ、運送、上納スルコト。吾妻鏡、十二、建久三年十二月廿日「運上、相摸國、吉田御庄、御年貢送文事、云云、染衣五切、上品八丈絹六疋、綿布九反、云云、右付二夫領一、助弘運上如レ件」雜筆往來（永正）「併二貢（公物）ハ永無二運上之心一」（二）轉ジテ、運上スベキ物。商人等ノ營業稅。（稅ノ條ノ（二）ヲ見ヨ）室町殿日記、九、永祿八年七月、云「洛中、洛外、諸商賣人等座之輩、先規之運上、雖レ無二皆濟一、被二免許一之條、向後急度可二上納一候事」

うんじやう-かた（名）運上方　運上所ノ役人。

うんじやう-しよ（名）運上所　運上ノ稅ヲ納ムル役所。

うんじやう-す・スル・スレ・セ・シ・セヨ（自動、左變）〔うんハ、倦んず、じやうハ、往生ノじやうヲ取リテノ造語ナルベシ〕勢力盡キテ、アキラム。

うんしゆ-きつ（名）溫州橘　うんしゆきつノ條ヲ見ヨ。

うん-しゆう（名）雲[illegible]　雲ノ、群リ起ルコト。鵩鳥賦（賈誼）「水激則悍兮、矢激則遠、萬物回薄兮」

〔うむ-す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）蒸　〔熱むヲ活用ス、（後世ノ吊す、同趣）上略シテ、蒸す、轉ジテ、うもす（むぐら、もぐら）〕うもすトモ云フ。むす（蒸）ニ同ジ。字鏡「炊、宇牟須、又、可志久」名義抄「蒸、ウセス、ムス、カシグ」文章、無題詩、書二「うむしやき」（二條院讃岐）ノ語、見エ、靜岡縣ニテハ、今モうむすト云ヒ、出雲ニ、ウムシ米ノ語、存ス。（出雲方言）

〔うん-ず・ズル・ズレ・ゼ・ジ・ゼヨ（自動、左變）倦　〔倦すノ音便、うすみす、うすんす、（再）おもみす、おもんす（重）〕（一）倦むニ同ジ。約メテ、うず。宇津保物語、國讓、中「消息斷タレケレバ、ソレニ思ヒうんじテ、コモリタルトナム」枕草子、四、四十三段「ムゲニコソ、思ヒうんじニシカ」馬內侍集「心憂キ事ヤ聞キケム、うじタレバ、女モムヅカリテ」（二）厭ヒ思フ。伊勢物語、百二段「世ノ中ヲ、思ヒうんじテ、京ニモアラズ、遙ナル山里ニ住ミケリ」

ウン-スン-カルタ（名）骨牌ノ一種。葡萄牙ヨリ傳來ノモノ。うんハ葡語、（二ノ義）ト稱スル牌五枚、すんト稱スルモノ五枚、其他、數種、各數枚ヅツ、合計七十五枚ニテ取ル、其取方モ、常ノ骨牌ト異ナリ、（大正四年刊行、日本外來語辭典ニ委シ）雍州府志（天和）七、宇牟須牟加留[illegible]多、其法有二若干一」

うん-すゐ（名）雲水　〔行雲、流水ノ義、くもみづノ行方定マラヌ意〕禪僧ノ、諸國、山河ヲ跋涉シテ、道心ヲ修練スルコト。行脚ノ條ヲ見ヨ。黃庭堅詩、「[illegible]雲水僧一」

うん-せう (名) 雲霄 (一)青雲ノアル空。晉書、陶侃傳「志凌二雲霄一」(二)高キ位。送二李處士一詩(朱慶餘)「雲霄未得路、江海作二閒人一」

うんぜん-つつじ (名) 溫泉躑躅 〔初メ、肥前ノ溫泉岳ニ出ヅ〕躑躅ノ一種。枝、頗ル細小ニシテ、葉モ細ソクシテ、いぬつげノ如ク、花モ小サクシテ、濃紫ナリ。又、淡紅、淡紫、白色等モアリ。

うん-そう (名) 運送 (一)物ヲ運ビ送ルコト。運輸。(人、馬、舟、車ニテ) 北齊書、虞叔武傳「穀食豐饒、運送不絶」太平記、一、關所停止事「關所、云云、年貢運送ノ煩アリ」(二)七八。

うん-そん (名) 雲孫 ツルノコ。玄孫ノ玄孫。倭名抄、二十八「雲孫、爾雅云、仍孫之子爲二雲孫一言、輕遠如二浮雲一也、今按、八代孫也」

うん-たい (名) 芸臺 うんかく(芸閣)ノ條ヲ見ヨ。

うん-たい (名) 蕓薹 アブラナ。

うん-ちく (名) 蘊蓄 學術ノ知識ヲ、腦裏ニ蘊ミ蓄ヘテアルコト。素養ノ深キコト。左傳、昭公廿五年「衆怒不可蓄也、蓄而弗治將蘊、蘊蓄民將生心、生心同求將合」

うん-ちん (名) 運賃 物ヲ運送スル賃錢。脚錢 民部省式、下、年料租舂米「右十八國、各以二租穀內一舂收、云云、其精代運賃、用二正税一」

うん-ぢやう (名) 醞釀 カモシテ、成ルコト。カモシナスコト。張耒詩「醞釀纔淡日、芳甘已盈壺」

うん-てい (名) 雲梯 雲中ニ聳ユル、高キ梯。クモノカケハシ。六韜、虎韜、兵略篇「視二城中一則有二雲梯飛樓一」

うん-でい (名) 雲泥 アメツチ。天地。霄壤。懸隔ノ甚シキニ云フ語。荀濟詩「雲泥已殊路、暄涼詎同節」平家物語、四、源氏汰事「朝敵ヲ平ゲ、宿望ヲ遂グルコトハ、源平何レ勝劣無カリシカドモ、今ハ雲泥交リヲ隔テテ、主從ノ禮ニモ猶劣レリ」「雲泥ノ差アリ」雲泥萬里

うんでい-ばんり (名) 雲泥萬里 〔前條ヲ見ヨ〕物事ノ、格外ニカケハナレタルコト。訛シテ、ウンデン、バンデン。ウッテン、バッテン。霄壤之差 橘正通詩「花月一窗交昔睦、雲泥萬里眼今寫」

うん-てん (名) 運轉 (一)メグリ、メグルコト。クルクルト、廻ハルコト。莊子、天運篇「意者其運轉、而不能二自止一邪」「天地ノ運轉」(二)クリマハスコト。ヤリクルコト。「資金ノ運轉」

うんてん-しゆ (名) 運轉手 電車、汽車ナドニ乘リ、車ヲ運轉スルヲ掌ルモノ。

うんでん-ばんでん (名) 雲泥萬里ノ訛語。浮世風呂(文化、三馬)二編、下「オラン所ノ氣位トハ、雲泥萬里ノ違ヨ」

うん-と (副) 〔うんハ、力ム時ニ息ヲ詰メテ發スル聲ナリ〕(一)力ヲコメテ。ウントコ。「うんとリキム」うんと踏張ル」大石ヲうんと持チアゲル」(二)多ク。タクサンニ。ドッサリ。「うんと叩キノメス」うんと持ッテコイ」金ガうんと溜マル」

うん-どう (名) 運動 (一)メグリ、ウゴクコト。董仲舒、雨雹對「運動抑揚、更相動薄」(二)體育ニ、身體ヲ動カスコト。(三)ソゾロアルキ。散歩。(四)事ヲ遂ゲムトテ、奔走、盡力スルコト。

うんどう-くわい (名) 運動會 多人數集リテ、種種ナル運動、遊戲ヲスルコト。

うん-とん (名) 雲屯 物ノ、雲ノ如ク集ルコト。陸機詩「胡馬如雲屯、越旗亦星羅」

うん-どん (名) 餛飩 〔餛ハ、溫ナルニ、飩ノ食偏ニ連レテ、連字改偏旁セシナリ、輻湊ヲ輻輳、爛漫ヲ爛熳トスル類〕約メテ、うどん。おむぎこニ鹽ヲ加ヘテ、水ニテ固クコネテ、薄ク展ベ、細ソク切リタルモノ。煮デテ、汁ニ浸シテ食フ。溫飩 切麪 麪條 庭訓往來、十月「餛飩」

うん-にや (副) 〔否ノ音便〕否ム意ヲ云フ語。イヤ。イナ 浮世風呂(文化、三馬)二編、上「うんにや、本ノ事サ」「うんにや知ラヌ」

うん-ぬ (名) 雲雨 雲雨ノ音便、連聲ノ轉呼ナリ。其條ヲ見ヨ。

うん-ぬん (名) 云云 云云ノ音便、連聲ノ轉呼ナリ。其條ヲ見ヨ。

うん-の-つき (名) 運盡 滅亡ノ時期。文選、豪士賦、序「事窮運盡、必二於顚仆一」

うん-ばん (名) 雲版 禪寺ノ樂器ノ名、物ノ合圖ニ叩キ鳴ラスニ用キル。からかねノ板ニテ、架ニ懸ク、上方ハ、雲形、下方ハ、洲濱形ニテ、腹ニ空孔アリ。

うん-ぱん (名) 運搬 〔運ハ、移徙ノ義、搬ハ、轉送ノ義〕物ヲ、運ビ移スコト。運送。運輸。夢溪筆談「運搬之勞」

うん-ぴ-かく-はう (名) 雲飛鶴袍 うんかく(雲鶴)ノ條ヲ見ヨ。

うん-ぴつ (名) 運筆 フデノハコビ。フデヅカヒ。文字ヲ書クサマ。梁武帝、答二陶弘景一書「運筆邪、則無二芒角一」「運筆自在」

うん-ぷ-てん-ぷ (句) 運否天賦 運ノ吉キト凶シキトハ、天ノ定ムル所ナリ。

うん-ぺう (名) 雲表 雲ノ上。雲ノソト。文選、西京賦「承二雲表之淸露一」「山、雲表ニ聳ユ」

うん-ぺき (名) 運甓 〔甓ハ、說文「瓴甓也」博雅「瓴也」爾雅、釋宮「瓴甋」トアレバ、瓴ヲ運ブヨリ、働ク義出ヅ〕勞働スルコト。晉書、陶侃傳「朝運二百甓於齋外一暮運二於齋內一」

うん-ぺん-かう (名) 雲片糕 菓子ノ名。米ノ粉ニ砂糖ヲ加ヘテ固メ、竪二寸、橫一寸許ニ薄ク切ル、長崎ニテ製ス。

うん-む (名) 雲霧 くもト、きりト。文選、西京賦「交綺豁以疏寮、干二雲霧一而上達」

うん-めい (名) 運命 天命ノ、運行リ來ルコト。略シテ、運トノミモ云フ。南史、羊玄保傳「人仕官、非二唯須ニ才、亦須二運命一」「運命、强シ」運命、盡ク」

うん-めい-でん (名) 溫明殿 禁中ノ殿舍ノ名。紫宸殿ノ東南ニアリ、卽チ、內侍所、賢所ナリ。字類抄「溫明殿、ウンメイデン」

うん-めん (名) 溫麪 餛飩ヲ、汁ニ煮タルモノ。

うん-も (名) 雲母 キララ。キラ。

うん-もん (名) 雲文 模樣ノくもがた。

うん-ゆ (名) 運輸 〔うんしゆナルベシ、輸出ノ條ヲ見ヨ〕運送ノ(一)ニ同ジ。運搬。司馬相如、諭二巴蜀一檄「擅爲二轉粟運輸一」

うん-よう (名) 運用 メグラシ、モチキルコト。ハタラカスコト。宋史、岳飛傳「陣而後戰、兵法之常、運用之妙、存二乎一心一」

うん-ゐ (名) 云爲 云ふコトト、爲るコトト。シワザ。言行。易經、繫辭、下傳「是故變化云爲、吉事有祥、象事知器、占事知來」文選、東都賦「焉識二大漢之云爲一乎」

うーめ (名) 梅 〔朝鮮語、梅、我ガ邦ニ野

生ナシ、紀、記ニ見エズ、萬葉集ニ、飛鳥藤原ノ朝ヨリノ歌アリ、初メ、外來ノ烏梅(其條ヲ見ヨ)ヲ藥用トシ、字音ニテ、烏梅(藥名「取ニ半黄梅實一、籠盛置ニ竈突上一、薫乾則成ニ黑色一、故曰ニ烏梅一」烏ハ、黑色ノ意、梅ノ實ノ燻製)ト云ヒシニ、藥用ノ必用ナルヨリ、其生實、若シクハ、苗木ヲ取寄セテ植エテ、烏梅の木ト云ヒシガ、遂ニ樹名(萬葉集、三五十三「吾妹子ガ、植エシ梅樹(ウメノキ)、見ル每ニ、心咽セツツ、涙シ流ル」又、賀茂眞淵ノ梅辭アリ)トナリシナリ、象牙、渡リテ、斑文アルニ因リテ、段ト呼ビシガ、象(ザウ)ノ名トモナリシガ如シ」(一)樹ノ名。高キハ二三丈ニ及ブ、早春、衆木ニ先ダチテ花ヲ開ク、單瓣、五ニシテ圓ク、(其形ヲ、紋所トシテ、梅鉢ト云ヒ、移シテ、五ノ意ニ用キル)香氣、甚ダ高シ、多ク、人家(ヒトヤ)ニ植エテ、花、香ヲ賞ス、重瓣アリ、單瓣アリ、色、多クハ、白、又、紅ナレドモ、其外ニ、種類甚ダ多シ、實、圓クシテ、梅雨中ニ熟シテ、味、酸シ、うめぼしトシ、又、梅醋ヲ作リテ、種種ノ用トス。好文木(カウブンボク)。萬葉集、五十四「正月(ムツキ)立チ、春ノ來タラバ、カクシコソ、烏梅(ウメ)ヲ折リツツ、樂シキヲ經(ヘ)メ」倭名抄、十七五「梅、宇女」(二)梅ノ實。本草和名、下十三「梅實、烏梅、白梅、宇女」醫心方、三十四「梅實、宇米」枕草子、三、廿八段、にげなきもの「齒モナキ女ノ、梅食ヒテ、酢ガリタル」

〔うめ (副) うべ(宜)ニ同ジ。神武紀、五「諾、此云ニ宇毎(ウメ)鳧利一」

うめあは・す・スル・スレ・セ・セ・セヨ(他動、下二) 埋合 損得、相償ハス。入レアハス。ツグノフ。マドフ。損益乘除

うめあはせ (名) 埋合 ウメアハスルコト。金ニテ、損ヲ償フコト。

うめうつぎ (名) 灌木、[illegible]ノ一種。花ノ、梅ニ似タルモノ。

〔**うめがえ** (名) 梅枝 (一)梅ノ樹ノ枝。萬葉集、八十七「香(カ)メリト、云ヒシ梅我枝、今朝降リシ、沫雪ニ會ヒテ、咲キヌラムカモ」(二)催馬樂ノ歌曲ノ名。催馬樂、梅枝「梅枝ニ、來居ル鶯、春カケテ、鳴ケドモ、未ダ雪ハ降リツツ」

うめがえでんぶ (名) 梅枝田麩 でんぶノ條ヲ見ヨ。

〔**うめがか** (名) 梅香 梅ノ花ノ匂(ニホヒ)。古今集、一、春、上「梅が香ヲ、袖ニ移シテ、留メテバ、春ハ過グトモ、形見ナラマシ」後拾遺集、一、春、上「梅が香ヲ、タヨリノ風ヤ、吹キツラム、春珍シク、君ガ來マセル」

うめがさね (名) 梅襲 襲ノ色目ノ稱、表ハ白、裏ハ蘇芳、(胡曹抄)又、表ハ濃キ紅、裏ハ紅梅。(桃花蘂葉) 增鏡、第五、內野の雪「左衛門督(實藤)ハ、梅がさねノウキ織物ノ半臂、下ガサネ、浮紋ノウヘノ袴」

うめカン (名) 梅羹 羊羹ニ、梅醋ヲ加ヘタルモノ。

うめき (名) 埋木 隙(スキマ)ニ材(キ)ヲ埋(ウ)メテ、ツクロフコト。

〔**うめ・く**・ク・ケ・カ・キ・ケ (自動、四) 呻吟 〔うハ、聲ナリ〕(一)憂ヘテ、大息ツク。源、六、末摘花三十二「カカルワザハ、人ノスルモノニヤアラムト、ウチうめきタマフ」(二)思ヒ煩ヒテ、吟詠ス。苦吟。枕草子、四、四十四段「うめき誦(ズン)ジツル歌モ、イトアサマシク、カヒナク」(三)ワメク。ヲメク。ウナル。叫喚。枕草子、三、三十八段「色ニ出デテハ、エ云ハズアルト、高ヤカニ打チ云ヒ、うめきクルモ」著聞集、廿、魚蟲「牛、夜ゴトニ必ズ、うめくコト侍リケリ」

うめくさ (名) 埋草 (一)堀、溝ナドヲ埋ムルニ用キル草。太平記、廿、[illegible]ヲ埋メ[illegible]ニ、うめ[illegible]ヲ、國中ノ人夫ニ持チ寄セサセ」(二)缺ケタル部分ヲ塡メ補フ料。「半頁ノ埋草ガイル」(雜誌ノ編輯ナドニ)

うめごよみ (名) 梅曆 〔山中無ニ曆日一、梅ノ花ニテ春ヲ知ル意ノ語〕 梅ノ花 連歌ナドニ、梅の曆ト云フ。小町踊、冬、宗祇「葵スルヤ、今日早咲キノ、梅曆」(俚言集覽)

うめしゅ (名) 梅酒 一種ノ酒。青梅二升、一夜、灰ニマブシ、翌日、水ニテ洗ヒ、白砂糖七斤、古酒五升、壺ニ封ジテ、二十日經レバ成ル、年歷レドモ、味損セズ。(松屋筆記、七十四)

うめず (名) 梅醋 梅ノ實ヲ鹽漬ニシテ、搾リ取レル汁。味、酸シ、染料ナドトス、食用トスルニハ、紫蘇ノ葉ヲ加ヘテ、赤ミヲ加フルモアリ。梅鹵

うめぞめ (名) 梅染 染色ノ名、紅梅ノ木ノ皮ノ汁ニテ染メシモノト云フ、黃味ナリ。宗五大雙紙、タダ、男ハ、若キモ老イタルモ、白キ帷子似合候、其外ハ、梅染ナドヨク候」貞丈雜記、三「加賀梅ぞめト云フハ、加賀國ヨリ出ヅル梅染ノ絹ナリ」

うめた・つ・ツル・ツレ・テ・テ・テヨ (他動、下二) 埋立 次第ニ、埋メユク。天正日記「小石川ノ末ニテうめたて候所、大方、屋敷ニ割リ渡シテ」

うめち (名) 埋地 沼澤ノ地ナドニ、新ニ土ヲ盛リテ、埋メ立テタル處。

うめちゃ (名) 梅茶 「五瓣ナルニ因リテ、梅花ヲ五ノ意ニ用キルコト、常ナリ、ソレニ散茶ノ茶ヲ、取添ヘテノ遊語ナリ」享保以前、江戸、新吉原ニテ、五寸局ノ遊女ノ稱、下等ノモノナリ。[illegible]格子ノ內ヲ局屋敷ニ揃ヘタルヲ、散茶ニ對シテ、うめ茶ト、戲レニ云ヒケル、云云」

うめづけ (名) 梅漬 (一)梅ノ實ノ鹽漬。殿中申次記(室町時代)「梅漬一桶」(二)だいこん、ちやうがナドヲ、赤紫蘇入リノ梅醋ニ漬ケタルモノ。色赤キヲ賞ス。

〔**うめつぼ** (名) 梅壺 禁中殿舍ノ名、本名、凝花舍(ギヨウクワシヤ)。倭名抄、十一「[illegible]」

〔**うめつみち** (名) うべ(つみ)ちノ轉、其條ヲ見ヨ。

うめどひ (名) 埋樋 ウヅミビ。地中ニ埋メ設クル、水ノ樋。暗竇。地方凡例錄、七「一、埋樋、[illegible]、云云、埋樋ハ土中樋ニ成、[illegible]ニ成」

〔**うめのき** (名) 梅木 うめ(梅)ノ條ノ語原ヲ見ヨ。

うめのごよみ (名) 梅曆 うめごよみヲ見ヨ。

〔**うめのはながさ** (名) 梅花笠 梅花ノ花片ノ並ビテ、中ノクボメルヲ、笠ニ譬ヘテ云フ語。古今集、廿、大歌所「青柳ヲ、片絲ニ縒リテ、鶯ノ、縫フテフ笠ハ、梅の花笠」(縒リテ、縫ふト云フ)

うめのはながひ (名) 梅花貝 小サキ介(カヒ)ノ、白梅花ノ一瓣ニ似タルモノ。拾ヒテ、玩具ナドトス。夫木抄、廿七、貝「春風ニ、波ヤ折リケム、ミチノクノ、鹽竈ノ島ノ、梅の花貝」藻鹽草、十三、花貝、梅花貝、櫻貝、小貝([illegible]ナドモ云ヘリ)」

うめバチ (名) 梅鉢 「梅桴ノ義ニテ、雅樂ノ大鼓ノ桴ノ頭ニ玉アリ、其五本ノ本ヲ集メ、頭ヲ五出セシメテ、梅花ノ

形ニ擬シタル象ナリト云フ(海錄、九)」紋所ノ名。五單瓣ノ梅花ヲ、正面ニ見テ、圖シタルモノ。葉柄、五線ノ中央ニ集レルヤウニ書キタルヲ正樣トスト云フ、單ニ、圓點ヲ中央ニ一ツ、周ニ五ツ書キタルヲモ、梅桴ト云ヘド、是レハ、六曜星ト云フ紋ナリ。土岐累代記、齋藤家氏神之事「齋藤家ノ紋ハ、梅鉢ヲ付ル」

うめバチ-さう (名) 〔梅鉢草〕 高サ四五寸、葉ノ形、略、圓ク、厚ク、小サク、靑クシテ赤ミアリ、夏、莖頭ニ五瓣ノ白花ヲ開ク、一重ニシテ、梅ノ花ニ似タリ。

うめ-びしほ (名) 〔梅醬〕 梅干ノ肉ヲ擂リツブシ、砂糖ナド加ヘテ製シタルひしほ。紫蘇ノ葉ヲ加ヘタルヲ、さらさトテ云フ。

うめ-ぼし (名) 〔梅干〕 (一)〔梅ノ實ノ、半バ熟セルヲ、鹽ニ漬ケテ、日ニ晒スコト數日ニシテ、又、紫蘇ノ葉ニ包ミナドシテ、漬ケ貯フルモノ、食用トス。ウメボフシ。京都ニテ、クルブシ。醃梅 霜梅 醫心方、五十四「烏梅」(二)老イテ、皺ノ寄リタルモノノ渾名。「梅干老爺」梅干婆」

うめ-ぼふし (名) 〔梅法師〕 〔擬人シタル語、涙法師、影法師ノ類〕 前條ノ語ノ(一)ノ異名。新撰犬筑波集(萬治)夏「花ノ色ハ、ウツリニケリナ、梅ぼふし」

うめ-み (名) 〔梅見〕 郊外ノ梅林ナドノ開花ヲ見テ、賞スルコト。觀梅

うめ-みぞ (名) 〔埋溝〕 埋樋。ウメドヒ。

うめみ-づき (名) 〔梅見月〕 陰曆、二月ノ異名。藻玉集、二月「梅見月」

うめ-もどき (名) 〔梅擬〕 樹ノ名。高サ一丈許、枝細ソシ、葉ノ形、梅ノ葉ノ如クニシテ、光ナク、枝ノ間ニ集リテ互生ス、夏、五瓣、淡紅ノ小花ヲ開ク、實ハ圓クシテ、冬ニ至リテ、熟シテ紅ナリ、又、黃、白等モアリ。落霜紅

うめ-ゆ (名) 湯ニ水ヲ塡メテ、溫クシタルモノ。陰陽水

う・める・メル・メレ・メ・メ・メヨ (他動、下二) (一)埋ムノ口語。(二)足ラヌニ塡ム。明キタルヲ充タス。「落字ヲうめる」不足ヲうめる」

うも (名) 〔芋萸蕷〕 〔埋ニテ、根塊ニ就キテノ名カ、沖繩ニテ、うむ〕 いもノ古名。萬葉集、十六廿七「蓮葉ハ、カクコソアルモノ、意吉麻呂ガ、家ナルモノハ、宇毛ノ葉ニアラシ」(さといも) 天治字鏡、七三十五「署預、有毛」(やまのいも)

うもし (名) 〔おもし(重)ノ本音〕 オモリ。フンドウ。名義抄「秤、ウモシ、ハカリ」

う-もじ (名) 〔う文字〕 (一)宇治茶ヲ云フ、女房詞。毛吹草(正保)五「大フクハ、年モうもじノ、ウヂ茶カナ」 (二)内方ヲ云フ、女房詞。

う・も・す (動) 〔蒸〕 うむすニ同ジ。其條ヲ見ヨ。

う-もん (名) 〔有文〕 文アルコト。模樣、彫刻ナドアルモノ。(無文ニ對ス) 江家次第、一、元日宴會「公卿、有文玉帶」

う・も・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ (自動、下二) 〔埋〕 うづもるニ同ジ。ウマル。ウヅマル。天武紀、下、十三年十月「伊豫溫泉、沒而不ㇾ出」 此語ニ、四段活用モアリキトオボユ。續紀、三十、神護景雲三年十月、詔「體ハ灰ト共ニ、地ニ埋利ヌレドモ、名ハ烟ト共ニ、天ニ昇リヌ」

うもれ-いた・し・キ・ケレ・ク・ク (形、二) 〔鬱屈〕 〔埋れ甚しノ義〕 心ムスボホレテ、晴レヤカナラズ。源、十三、明石廿五「若キ人ノ愛デザラムモ、イトアマリうもれいたかラム」 濱松中納言物語、一「オドロオドロシウ苦シキ事ハ侍ラネド、唯うもれいたく、心地ノムツカシキヲ」

うもれ-ぎ (名) 〔埋木〕 木幹ノ、太古ヨリ水底ノ土中ナドニ埋レテ、化石ノ狀ニ變ジタルモノ、質、黑檀ノ如シ。年代ハ、泥炭ト石炭トノ間ニアリ。陸奧ノ名取川ノモノ、名高シ、今、仙臺ニテ、其地ノ廣瀨川ノ產ヲ取リテ、埋木細工ノ諸器ヲ作ルモノ、名アリ。此語、多クハ、物事ノ、埋レテアラハレズ、又、世ニ捨テラレテ顧ミラレヌ身ナドニ譬フルニ用キラル。萬葉集、七三十八「眞鉋モチ、弓削ノ河原ノ、埋木ノ、(如ク)顯ハルマジキ、事トアラナクニ」 古今集、十三、戀、三「名取川、瀨瀨ノうもれぎ、アラハレバ、イカニセムトカ、アヒミソメケム」 平家物語、四、宮御最後事、源賴政「うもれ木ノ、花咲ク事モ、ナカリシニ、みノナルハテゾ、悲シカリケル」

うもれ-みづ (名) 〔埋水〕 物ノ蔭ニ隱レテ、顯レヌ水。金葉集、八、戀、下「モラサバヤ、細谷川ノ、うもれ水、影ダニ見エヌ、戀ニ沈ムト」

うもれ-ゐ (名) 〔埋井〕 埋レタル井。ウモレミヅ。

うや (名) 〔禮〕 〔ゐやノ轉〕 ゐや。ウヤウヤシクスルコト。禮儀。允恭紀、七年十二月「不ㇾ言ㇾ禮事」 名義抄「禮、敬、ウヤ」

うや-うや・し・シキ・シケレ・シク・シク (形、二) 〔恭〕 〔ゐやゐやしノ轉〕 ゐやゐやし。敬フ狀ニテアリ。續紀、廿四、天平寶字六年六月、宣命「宇夜宇夜自久、相從フコトハ無クシテ」 名義抄「恭、キヤキヤシ、ウヤウヤシ」

うや-か・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) 〔飢〕 〔あそばす、あそばかす。(遊)あらはす、あらはかす(顯)〕 次條ノ語ニ同ジ。飢エシム。太平記、三十五、青砥左衞門事「母ヲうやかし殺シタリシ、其因果ニ依リテナリ」

う-やく (名) 〔烏藥〕 舶來藥品ノ名。色、黑褐ニシテ、香アリ、木根ノ舊キモノナリト云フ。

う・や・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) 〔飢〕 〔飢うノ他動、くゆ、くやす。(崩)さゆ、さやす(肥)〕 飢ウルヤウニナス。うやかす。飢エシム。空腹ニナス。

うや-な・し・キ・ケレ・ク・ク (形、一) 〔無禮〕 〔ゐやなしノ轉〕 ゐやなし。ナメシ。無禮ナリ。失禮ナリ。景行紀、五十一年八月「晝夜喧譁、出入無ㇾ禮」

うや・ぶ・ブ・ベ・バ・ビ・ベ (他動、四) 〔敬〕 〔ゐやぶノ轉〕 ゐやぶ。キヤマフ。ウヤマフ。推古紀、十一年十一月「恭拜」

うや-ま・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (他動、四) 〔敬〕 〔ゐやまふノ轉〕 尊ビテ、禮ヲ行フ。ゐやまふ。アガム。尊敬ス。佛足石歌「釋迦ノ御蹟、石ニ撰シオキ、行キメグリ、宇夜麻比奉リ、我ガ代ハ終ヘム」

う-や-むや (名) 〔有耶無耶〕 アリヤ、ナシヤ。分明ナラズ。アヤフヤ。ムニャムニャ。陸前、柴田郡ヨリ羽前ニ越ユル笹谷峠、古名、大關山ト云フ關アリテ、有耶無耶關ト云ヒシト傳フ、其說アレド、附會ナリ。(奧羽觀蹟聞老誌) 歌林良材、下「武夫ノ、出ヅサ入ルサニ、枝折スル、トヤトヤトリノ、むやむやノ關」 歌枕「越シヤセム、越サデヤアラム、是レヤコノ、鳥屋トヤトリノ、もやもやノ關」

う・ゆ (動) 飢う、又ハ、植うノ誤。

う-よ (名) 〔雨餘〕 アマアガリ。梁簡文帝詩

「[illegible]ノ[illegible]」

うよ（名）紆餘 （一）ウネルコト。ウネクルコト。[illegible]（二）トホマハシニテ、ヒマ[illegible]ナラスコト。[illegible]（三）人ノ、才アリテ、綽綽トシテ餘裕アルコト。[illegible]

うようよ（副）蠢ク狀ニ云フ語。ウゴウゴ。ウザウザ。ウジャウジャ。蠕蠕 [illegible]「うようよ居ル」

うよく（名）羽翼 （一）羽ト、翼ト。禮記、[illegible]（二）[illegible]必有二股肱羽翼一」「羽翼トナル」

うよく（名）右翼 （一）鳥ノ、右ノツバサ。左ナルハ、左翼ナリ。（二）中軍ノ、みぎぞなへ。左ナルハ、ひだりぞなへ。[illegible]

うよりやう（名）[illegible] ハタイイシ。コモチイシ。[illegible]名之」

うら（名）裏 裡 （一）表ナラヌ方。ウチ。ウチラ。ナカ。[illegible]うらニ、錦ノカタヲ、鏽ツケサセ侍リテ」（二）衣ナドノ裏ニツクル布帛。反裡 [illegible]「針袋、取リ上ゲ、前ニ置キ、反サヘバ、オノトモオノガ[illegible]」（三）背後。後方。背後。[illegible]（四）[illegible]直チニ、腹[illegible]スルコト。（五）表ガ、裏ニナルコト。物事ノ、全ク相異ナルコト。ウラウヘ。ウラハラ。反對。[illegible] かくトハ、背後ニマハリテ攻ム。敵ノ案外ニ出デテ、バシスク。ウラギリス[illegible]

うら（名）心 〔裏ノ義、外面ニアラハレズ、[illegible]ノ意〕こころ。シタ。オモヒ。[illegible]ヲ云フ。切ナル語ナリ。[illegible]多ク[illegible]語ノ如ク用キル。萬葉集、廿[illegible]「秋風ニ、今カ今カト[illegible]」[illegible]集、十、[illegible]「ワタツミト、頼メシコトモ、アセヌレバ、我レゾ我ガ身ノ、うらハ恨ムル」同卷「流レテハ、行ク方モナシ、涙川、我ガ身ノうら（浦ニカク）ヤ、[illegible]リナルラム」[illegible]うらサビシ　うらカナシ　うらメヅラシ」うらハヅカシ」

うら（名）占 卜 〔事ノ心ノ意〕事ノ成行ノ吉凶ヲ、神ニ問ヒ奉リテ、其御心ヲ承ケテ定ムル法。ウラヘ。ウラナヒ。其法、種種ナリ、太古ニ、鹿ノ肩ノ骨ヲ燒キテ行フ、太占アリ、後ニ、韓國ヨリ、龜ノ甲ヲ燒キテ行フ、龜卜ノ法、渡リ、[illegible]後ニ、[illegible]ヨリ、蓍ヲ數ヘテ行フ、易ノ法、渡ル、卜筮ト云フ、今專ラ行ハルルハ、卜筮ナリ。又、古ヘニ、足占、石占ナドアリ、其外、灰占、辻占ナドモアリ、各條ニ釋ス。[illegible]卜事ヲ以チテトヘトモ、出ヅル神ノ御心モナシ」萬葉集、十一[illegible]タトニモ、占ニモ告レル、今宵ダニ、來マサヌ君ヲ、何時トカ待タム」同、十四「[illegible]ニ告ラヌ君ガ名、うらニ出デニケリ」

うら（名）浦 〔裏ノ義、外海ノ表ニ對シテ、内海ノ意、或ハ、風浪和ギテうらうらノ意、船ノ泊スル所〕（一）海、湖ノ、曲リテ、陸地ニ入リコミタル處。入江。[illegible]倭名抄、一[illegible]宇良」（二）近ク、海邊。水涯ノ稱。

✣**うら**（代）己 〔おのれ、おれ、うれ、うら、ト[illegible]稱ノ代名詞。我。わら。（卑語ナリ）[illegible]（元和）八、秀句「今度ノ[illegible]ガ、うらハ一向、氣ニアハナンダ」

うらあはせ（名）裏合 二ツノ物ノ、裏ト裏ト向キ合フコト。ウシロアハセ。セナカアハセ。「屋敷ト屋敷ト、うらあはせ」

うらあ・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ（自動、四）占合 占ニ當ル。[illegible]マツルラシ」

うらいた（名）裏板 屋根裏ニ、屋根[illegible]ニ板ヲ張リツケタルモノ。[illegible]「寢殿ノ裏板ノ壁」夫木抄、十三、月「我ガ宿ノ、軒ノうら板、數見エテ、隈ナク照ラス、秋ノ夜ノ月」

うらうち（名）裏打 （一）衣服ニ、裏ヲ着ケタルモノノ稱。ウラツケ。拳公覺悟之事「武家ノ直垂ハうら打タルベシ、公家ハ一重直垂也」（二）紙、又ハ、革ナドノ裏ニ、糊ニテ、更ニ紙、又、布ナドヲ貼リ合セテ厚クスルコト。裝背「繪ヲうらうちスル」

うらうづがひ（名）裏渦貝 螺ノ類。大キサ寸許、上尖リ、下平ニシテ、外ハざらつきテ青白ク、處處ニ黑キ斑アリ、底ニ渦ノ文アリ。夫木抄、廿七、貝「立チ騷グ、[illegible]ノ、カキワケテ、うらうづ貝ヲ、拾ヒツルカナ」

うらうへ（名）裏表 （一）うらト、おもてト。ウラオモテ。倭名抄、十二[illegible]「說文云、裏、衣內也、宇良、表、[illegible]」「なほしノ、うらうへヒトシウ細ヤカナル」（二）裏ガ表ニ、表ガ裏ニナルコト。物事ノ、互ニ逆ヒテ、全ク、其趣キヲ異ニスルコト。カヘサマ。ウラハラ。アベコベ。（上、下、左、右、白、黑、ノ如シ）表裏 反對 [illegible]ヲカサネ、云云、祭ノ日ハ、うらうへノ色ナリ、[illegible]キ二人、薄キ二人、ヤガテ同ジ色ノ裏表、唐衣ナリ」[illegible]ミタル鬼、裏ヲ知ラズ」

うらうめ（名）[illegible] （一）[illegible]ニ、梅花ヲ、裏面ヨリ見タル象。（二）[illegible]ノ色目ノ稱。ぉらうめニ同ジ。

うらうらと（副）[illegible] 次條ノ語ニ同ジ。

うらうらに（副）遲遲 〔うるはし（麗）ト通ズ〕空ヲロタリユク[illegible]ノ、[illegible]シク長閑ナルニ云フ語。ウラウラト。[illegible]第三段「彌生三日、うらうらとノドカニ照リタル」[illegible]ル天神ノ御卜云フ）源、廿四、胡蝶「[illegible]春ノ日ノ、うららサシテ、行ク舟ハ、棹ノ雫モ、花ゾ散リケル」

うらえり（名）裏襟 [illegible]帛。エリウラ。[illegible]ノ羽織、云云、うらえり白ク」

うらおき（名）[illegible] [illegible]ノ條ヲ見ヨ。

うらおもて（名）裏表 うらうへ（裏表）ノ（一）ノ條ヲ見ヨ。

うらがき（名）裏書 （一）卷物ナドノ裏ニ、註、又ハ、心覺エノ事ドモヲ記シオク文。古ヘ[illegible]ヨリハ、[illegible]トス。「大鏡裏書」吾妻鏡、廿、建曆二年十月十一日「[illegible]」[illegible]日記「殘ル蓮トカコチケル、ト云フ所ノうらがきニ、

云云」（二）法律ノ語。證書ノ裏ニ、其證書面ノ權利ノ讓渡ヲナシタル旨ヲ記載シ、署名スルコト。（三）轉ジテ、スベテ、事件ニ證據立ツルコト。立證。證明。

うらか・く・ク・ケ・カ・キ・ケ（自動、四）［裏搔］ 矢、中リテ、物ノ裏マデトホル。貫通ス。射洞　盛衰記、三十五、粟津合戰事「遠矢ニノミソ射ケル、サレドモ冑ヨケレバ、裏かかズ、明キ間ヲ射ネバ、手モ負ハズ」

うらが・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）［慰］〔樂ぐノ敬語、自動ガ他動ニ變ズ、ささぐ、ささがす（提）〕 慰メタマフ。ナダメ、スカシタマフ。　出雲國風土記、仁多郡、三津鄕、祖神、御子ヲ「船ニ載セテ、八十島率巡、宇良加志タマヘドモ、ナホ止マズ、泣キマシキ」

うらかぜぐさ（名）［裏風草］ かはらざいこノ（一）ニ同ジ。ウラジロ。翻白草

うらかた（名）［卜兆］ 太占、龜卜ニ顯レタル象。ウラハヒ。ウラハミ。こほかみゑみための條ヲ見ヨ。　敏達紀、十四年二月「大臣卽遣二子弟一、奏二其占狀一」　爲忠前百首「思ヒカネ、戀シキ人ヲ、エモノニテ、問フニカナヘル、うらかたモナシ」

うらかた（名）［裏方］ ウチカタ。內室。奧方。「本願寺ノ裏方」

うらかたぎ（名）［裏形木］〔模木ニテ色ヲ摺込ムナリ〕 倭名抄、四十四裁縫具「模、加太岐」 衣ノ裏ニ、模樣ヲツケタルモノ。ウラモヤウ。隨身、雜色、小舍人童、牛飼ナド用ヰタル、晴ノ風流ノモノナリ。　吉記、安元二年四月廿九日「隨身、萌木、裏形木、上下」　人車記、保元三年二月十六日「小舍人童、牛飼等、裝束、裏形木」

うらがな・し・シキ・シケレ・シク・シク（形、二）［心悲］〔うらハ、心ナリ〕 心ニ、悲シ。　萬葉集、十五 四「別レナバ、宇良我奈之ケム、吾ガ衣、下ニヲ着マセ、タダニ逢フマデニ」　源、廿二、玉鬘 九「舟人モ、誰レヲ戀フトカ、大島ノ、うら（浦ニ、心ヲカク）がなしゲニ、聲ノ聞ユル」

うらがね（名）［裏尺］ まがりがねノ條ヲ見ヨ。

うらがぶぎやう（名）［浦賀奉行］ 德川幕府ニテ、相摸國、浦賀湊ニ置ケル役人。諸國ヨリ出入スル商船ヲ撿ス、外交ノ事ヲモ掌レリ。　吏徵別錄、上、布衣以上「浦賀奉行、享保五年庚子十二月廿一日、始置二一員一」

うらがへし（名）［裏返］ ウラガヘスコト。「著物ヲうらがへしニ着ル」

うらがへ・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）［裏返］ 裏ヲ返シテ、表トス。ヒックリカヘス。翻　宇治拾遺、三、第五條「圍碁盤ヲうら返シテ置キテ」

うらがへ・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）［裏返］（一）裏、返リテ、表トナル。ヒックリカヘル。翻　榮花物語、三十八、松下枝「難波江ニ、心トマリテ、蘆ノ葉ニ、うらがへるベキ、心地コソセネ」（二）味方ガ、敵トナル。反覆　唐船噺今國性爺（享保、近松作）中「褒美ヲ貪リ、國主ヘ注進、裏返る陶民子ト見立テテカ」

うらが・る・ルル・レ・レ・レヨ（自動、下二）［末枯］ 末枯ス。　萬葉集、十一 十「我ガ夫子ニ、我ガ戀ヒ居レバ、我ガ宿ノ、草サヘ思ヒ、浦乾ニケリ」　清輔集「山里ハ、庭ノ叢草、うらがれテ、蟬ノ鳴ク音モ、秋メキニケリ」

うらがれ（名）［末枯］ 草木ノ梢ノ、枯ルルコト。ウハガレ。老女ノ髮ナドニモ云フ。　萬葉集、十四 六十「シラトホフ、乎爾比多山ノ、守ル山ノ、宇良賀禮セナナ、常磐ニモガモ」

うらき（名）［末木］ 木ノ末。コズエ。「本木ニ勝ル、うら木無シ」

うらぎく（名）［裏菊］〔裏梅ナドモアリ〕 菊ノ花ノ裏面ヲ圖シタルモノ。模樣ニ、紋所ニス。

うらきん（名）［裏金］ 陣笠ノ裏ニ、金箔シタルモノ。侍大將ナド用ヰル。次ナルハ、裏銀ナリ。

うらぎん（名）［裏銀］ 前條ヲ見ヨ。

うらぎり（名）［裏切］ 軍ニ、味方ノ、竊ニ敵ニ內應シテ、後ヨリ切リ出ヅルコト。ウシロヤ。カヘリチュウ。轉ジテ、軍事以外ニモ云フ。反應　背信　總見記、十八、大臣家軍將御手分事「是ハ、城中ニ謀叛人有テ、相圖ヲ定メ、今日返忠ノ裏切り仕ルベキ由、御約束申スニ依テナリ」

うら・ぐ・グル・グレ・ゲ・ゲ・ゲヨ（自動、下二）［樂］〔心穿ぐノ約ニモアルカ、敬語ニ、うらがすトナル〕 心、蕩ク。快ナル。（多クハ、酒ニ醉ヘルニツキテ云フ）陶然　古事記、中（應神）七十五「天皇宇二羅宜是所一レ獻之大御酒一而、御歌曰、云云」 同、下（履中）四十上「於二大御酒一宇良宜而、大御寢坐也」

うらぐし（名）［卜串］ 龜卜ノ卜兆ヲ記シタルモノヲ、筥ニ入レタルヲ押出シテ、合、不合ヲ見ルモノナルベシ。　江家次第、十二、間三奉幣使卜串一儀「外記入二卜串三枚於一レ筥、參二膝突一覽レ之、上卿推出、外記開レ之」註「不レ開二不合一」　塵添壒囊抄、八、第六條、仲實朝臣ノ歌「波波迦火ニ、誓ヘル龜ノ、占ぐしヤ、人ト走ルハ、君ガアヘルカ」　倭訓栞、かめのうらぐし「龜卜串ノ義、江次第ニ出デタリ、串三枚ヲ筮ニ盛リ、事ニ臨ンデ押出シ、吉凶ヲ占フ、是レ闔筒ノ本ナリト云ヘリ」

うらぐち（名）［裏口］ 背門。家ノ、後ノ方ノ出入口。　好色一代女（貞享、西鶴）六「裏口ヨリ、雪踏ノ音ノ聞エシガ」

うらくづれ（名）［裏崩］ 前軍ノ敗ニ、後軍ノ崩レ亂ルルコト。　江濃記「後ニ控ヘタル堀ガ勢、裏崩シテ敗北スレバ」

うらぐは・し・シキ・シケレ・シク・シク（形、二）［心妙］〔くはし（微妙）ノ條ヲ見ヨ〕 心ニココチヨシ。厭クコトナシ。愛シ。　雄略紀、六年二月、長歌「泊瀨ノ山ハ、奇ニ于羅虞波斯」　萬葉集、十三 九、長歌「內日刺ス、大宮仕ヘ、朝日ナス、目細しモ、夕日ナス、浦細しモ」

うらぐみ（名）［裏組］ くみうたノ條ヲ見ヨ。

うらくりう（名）［有樂流］ 茶道ノ一派、織田有樂齋（源五郎長益、信長ノ弟）ヲ祖トス。　茶傳集、茶人系譜「織田有樂、諱長益、信長ノ弟、源五郎、有樂軒、如庵ト號、有樂流ノ祖ナリ」

うらごし（名）［裏漉］ 茹デ、又ハ、蒸シナドシタル食物ヲ精製スル時、水嚢ヲ伏セテ、簀ノ底ヨリ押シテ漉スコト。滓ヲ殘シ去ルニスルコトナリ。

うらごすはう（名）［裏濃蘇芳］ 襲ノ色目ノ稱、表ハ薄キ蘇芳ニ、裏ハ濃キ蘇芳ナルモノ。（雅亮裝束抄）

うらごひ・し・シキ・シケレ・シク・シク（形、二）［心戀］ 心ニ、戀シ。　萬葉集、十七 四十「宇良故非之、我ガ夫ノ君ハ、撫子ガ、花ニモガモナ、朝朝見ム」 同、十二 四十「裏戀しケム、後ハ會ヒヌトモ」

うらご・ふ・フル・フレ・ヒ・ヒ・ヒヨ（他動、上二）［心戀］ 心ニ、戀フ。　萬葉集、十 六十「我ガ夫子ニ、裏戀居レバ、天ノ川、夜舟漕ギ響ム、楫ノ音聞コユ」

うらごか・る（動）［裏濃有］〔濃く有るノ

約音、さかるハ、形容動詞ナリ、善く有るノ、よかる、惡しく有るノ、惡しかるト、同趣)　心深ク。深ク心ヲコム。拾遺集、雜、冬「神無月、時雨シテラシ、冬ノ夜ノ、うら(心)ニカクテさかる音ニ、聲モ高クナリ」

うらごゑ　(名)　裏聲　三味線ノ高キ調子ヲ離レテ、低キ聲ニテ唄フコト。

うらざし　(名)　裏刺　おづか(小柄)ノ條ヲ見ヨ。

うらさび・し・シキ・シケレ・シク・シク　(形、二)　心淋　心、淋シ。古今集、十六、哀傷「君座サデ、煙絶エニシ、鹽竈ノ、うらさびしくモ、見エワタルカナ」夫木抄、十二、鹿「玄手ノ、山ノ麓ニ、立ツ鹿ノ、うらさびしきハ、アカツキノ聲」

うらさ・ぶ・ブル・ブレ・ビ・ビ・ビヨ　(自動、上二)　心荒　(一)心、荒(スサ)ブ。心、殺風景ニナル。萬葉集、一、「浦佐夫流、心サマネシ、久方ノ、天ノ時雨ノ、ナガラフ見レバ」同、一「ササナミノ、國津御神ノ、浦佐備テ、荒レタル都、見レバ悲シモ」(御陵婦指ジテ)　(二)心、不樂シクナル。萬葉集、十七、長歌「晝ハモ、浦不樂(ウラサビ)暮ラシ」

うらざん　(名)　裏棧　板ノ棧ノ、板裏ニ打チツケタルモノ。

うらしまたらう　(名)　浦島太郎　たまばこノ條ヲ見ヨ。

うらじゃく　(名)　裏尺　まがりがねノ條ヲ見ヨ。

うらじろ　(名)　裏白　(一)草ノ名、しだニ同ジ。葉ノ裏、白ケレバ名トス、歳ノ首ニ、注連其他ニ飾リトス。心ノ裏マデ潔白ナリト祝フ意ナリト云フ　(二)かはらざいこノ(一)ノ一名。(三)いぶきよもぎノ一名。(四)樹ノ名、ゆづりはノ如クニテ、秋、紅實ヲ結ブモノ。

うらじろ　(名)　裏白　土藏ノ入口、觀音開キノ内ニ設ケオク引戸、扉ナク、一枚ニテ、表、裏、土塗ニテ、表ハ鼠漆喰、裏ハ白漆喰ニテ塗レバ、名アリ、火災ノ時ニノミ引キ閉ヅルニ用キル。萬寶鄙事記、一、藏を塗る法「うら白ハ、土薄クシテ惡シ」

うらじろのき　(名)　裏白木　山中ニ生ズ。葉ハ、はしばみニ似テ、鋸齒、稍、粗ク、裏ニ白キ毛アリ、夏ノ半ニ、葉ノ間ニ、小花集リ開ク、色白シ、實ハ、櫻ノ實ニ似タリ、熟スレバ赤クシテ甘ク酸シ。

うらす　(名)　浦洲　浦邊ノ洲。古事記、上[九十三]長歌「我ガ心、宇良須ノ鳥ゾ、今コソハ、千鳥ニアラメ」萬葉集、六[四十]長歌、「浦渚(ウズ)ニハ、千鳥妻呼ビ」

うらだな　(名)　裏店　(表店ニ對ス)　裏(ウラ)家ニ同ジ。享保集成絲綸錄、三十九、寛文二、寅年九月「右之輩、町屋、表店ニ差置申間敷候、裏店ニ宿借シ候共、云云」

うらぢ　(名)　裏地　衣服ノ裏ニ用キル布帛。衣食住記「裏ぢハ紅ウラ」

うらつけ　(名)　裏附　衣裳ナドノ、裏ヲツケルモノノ稱。(單(ヒトヘ)ナルニ對ス)「裏附ノ袴」裏附ノ上下」

うらつけざうり　(名)　裏附草履　草履ヲ重ネテ、綴ヂツケタルモノ。内ニ革ヲ入ルルモアリ。

うらづたひ　(名)　浦傳　浦ヨリ浦ヘ、傳ヒ行クコト。源、十三、明石[廿一]「遙カニモ、思ヒヤルカナ、知ラザリシ、浦ヨリ遠(ヲチ)ニ、浦づたひシテ」

うらて　(名)　裏手　(裏之方(ウラノヘ)ノ約)　裏ノ方。シリヘ。裏面。背後

うらて　(名)　占手　(裏手ノ義ニテ、次ノ人ノ意ニモアルカ)　(一)相撲ノ最手ノ脇(ワキ)。今ノ、關脇。すまひ(相撲)ノ條ヲ見ヨ。内裏式、中、七月七日、相撲式「先出、占手、[illegible]」[illegible]占手、最手、脇ナト見ユ。(二)、歌合ニ云フ語。後撰集、うらで、寛平ノ時、歌合ノ歌ヲ出シ物ニ、一番ヲ占手ト書リ、[illegible]ニ、是貞ノ、土ノ下ニテ、歷シモノヲ、ケフノ占手ニ、アフ女郎花」

うらと・く・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ　(自動、下二)　心解　心、打チ解ク。後撰集、三、春、下「春日サス、藤ノ裏葉ノ、うらとけテ、君シ思ハバ、我レモ頼マム」

うらと・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ　(自動、四)　占問　(占(ウ)ニ、吉凶ヲ問ふ)　ウラフ、ウラナフ。崇神紀、七年二月「會二八十萬神、以卜問之」萬葉集、十六[十一]「卜部ヲモ、八十ノ衢モ、占問ヘド、君ニ逢ヒ見ム、方便知ラズモ」

うらながや　(名)　裏長屋　裏屋ノ長屋。

うらなぎ　(名)　浦凪　浦ノ波風ノ、ナギテ穩カナルコト。萬代集、十六、雜、三「うらなぎニ、釣ノ緒垂レテ、來ル我レゾ、イタクナ立チソ、沖ツ白波」

うらなげ　(動)　心歎　(心歎(ウラナゲ)きノ略、告說(ノリ)言(ゴト)、のりとごと(祝詞))　心ニ歎キ。トイキヲツキ、鵺鳥ニツキテ、連用形ニ用キタル外ハ、見エズ。萬葉集、一[八]長歌「ムラギモノ、心ヲ痛ミ、鵺子鳥、(ノ如ク)ト歎居(ウラナゲ)レバ」同、十[廿五]「鵺鳥ノ、(如ク)裏歎(ウラナゲ)座シツ」名詞ニ用キテ、萬葉集、十七[三十二]長歌「奈良ノ吾家ニ、鵺鳥ノ、(如ク)宇良奈氣シツツ、心(シタ)戀ニ、思ヒウラブレ」

うらなし　(名)　裏無　緒太(ヲブト)草履ノ、裏附(ウラツケ)セヌモノ。禁秘御抄、下、「侍臣脱裏無」盛衰記、三、澄憲祈雨事「沼ノ砂(マサゴ)ニ、裏なしヲ脱ギ置キタル所ヘ、二三度バカリ、往(ユキカヘ)還リタル跡アリテ」

うらな・し・キ・ケレ・ク・ク　(形、二)　無裏　(一)又、うらもなし。心ニ、裏表(ウラオモテ)ナシ。何心モナシ。萬葉集、十二[廿一]「梓弓(ツクユミ)ノ、一頭ノ、(序)裏毛無ク、アルラム兒(女)故、戀ヒワタルカモ」同、十三[二十二]長歌「浦裏無く、寢ネタル人ハ」蜻蛉日記、下、上「イト心ヤスク、夜モうらもなう打臥シテ寢タリ」枕草子、十二、百四十八段、打ち解くまじきもの「戀シト言ハルル人、サルハ、密シト知ラレタルヨリハ、うらなくゾ見ユル」(二)隱スコトナシ。遠慮ナシ。後拾遺集、十四、[illegible]「[illegible]、サラニ思ヒゾ、カヘサレヌ、戀ハうらなき、モノニゾアリケル」小大君集「君ハカク、忘貝コソ、拾ヒケレ、うらニモモノハ、我ガ心カナ」[illegible]、十、[illegible]利口ニ申シツケテ、ソノ憚リアレドモ、うらなく申サバ、コモ心オキタマハジ」

うらなひ　(名)　占　ウラナフコト。ウラヘ。ウラトヒ。今ハ、專ラ、易占ヲ行フ術。卜筮(サンオキ)ハ、ケオキ。ウラヤサン。宇治拾遺、一、第八條「コノ女ノ親ノ、うらなひノ上手ニテ」

うらなひしゃ　(名)　占者　卜筮(ウラナヒ)ヲ業トスル人。八卦置(ハッケオキ)。算置(サンオキ)。ウラヤサン。占家。卜者。路ノ辻ニ出デ居テ、往來ノ人ノ頼ムニ、錢ヲ取リテスルヲ、辻うらなひト云フ。賣卜者

うらな・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ　(他動、四)　占　占ヲ行ふ、罪なふ、商なふ、諾なふ　占(ウ)ヲ行フ。古ニ因リテ考フ。ウラフ。ウラトフ。(占ノ條ヲ見ヨ)今ハ、專ラ、易占ヲ行フコト、即チ、卜筮(ボクゼイ)ノ術(ワザ)ヲスルニ云フ。神代紀、上、以太占(フトマニ)卜合之(ウラナヒテ)萬葉集、十一[二十七]「玉ボコノ、道ユキウラニ、占相バ、妹ニアハムト、我レニ云ヒツル」

うらなり　(名)　末成　(末(ウレ)、うら)　瓜類ノ、蔓ノ末ニ成熟リタルモノ。

うらにほん（名）【裏日本】おもてにほんノ條ヲ見ヨ。

うらのかみ（名）【陰陽頭】〔占の長官ノ義〕おんやうれう（陰陽寮）ノ長官。

うらのし（名）【陰陽師】〔占の師ノ義〕陰陽師ニ同ジ。萬葉集、五廿「陰陽師礒氏法麻呂」（古義ノ訓）

うらのつかさ（名）【陰陽寮】〔占の官ノ義〕おんやうれう（陰陽寮）ニ同ジ。天武紀、下、四年正月「陰陽寮」（舊訓）

うらば（名）【末葉】〔末、うら。枯、から山。連、つらなる〕莖、枝ノ、末ノ葉、梢葉 古事記、下（雄略）「長歌「枝ノ宇良婆ハ」萬葉集、七廿「葉ノ末葉ヲ」「藤ノうらば」葛ノうらば」

うらはく（名）【裏箔】生絹ノ切地ノ裏ニ、金銀箔ヲ置キタルモノ。前面ヨリ絹ヲ透カシテ、隱然トシテ光ヲ見ル。

うらはず（名）【上筈】〔末筈ノ義〕はずノ條ヲ見ヨ。

うらはづか・し・シキ・シケレ・シク・シク（形、二）【心恥】〔うら（心）ノ條ヲ見ヨ〕心羞シニ同ジ。古事記、上「豐玉毘賣命、知二其伺見之事一、以爲二心恥一」

うらはひ（名）【占兆】〔はひハ、容子ノ意、氣はひ、齢はひ〕太占ノ占形。神武紀九「以二夢辭一爲二吉兆一」履中紀、五年九月「因以トレ之、兆云、云云」

うらはみ（名）【卜食】〔食むハ、裂クル意カ〕龜トノ占形。神祇官、賀擣、壽詞、凡ト畜、並先卜食二、然後行之、若卜レ食、是爲三卜食二

うらはん（名）【裏判】（一）文書ノ表ニ名ヲ書キ、裏ヨリ、表ノ名ニアタル所ニ、書判ヲ書クコト。上書ナド、謹上スル文書ニスルコトナリ。吾妻鏡、六、文治二年八月五日「須頃、裏御判一トアルハ、袈裟ナリ。家中竹馬記「裏判、並、裏判之事」（二）今ハ、スベテノ書類ノ裏ニ、表書ノ事ヲ證セムガ爲ニ、署名、押印スルコト。

うらはら（名）【裏腹】うらうへニ同ジ。カヘサマ。アリャコリャ。浮世親仁氣質（元文、其磧、自笑）一「世間ニハ、御子息ニ、親御ノ御世話ヲナサルル習ナルニ、御前ノハ、裏はらニテ、云云」

うらび・れ（動）うらぶるノ條ヲ見ヨ。

うら・ふ・フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ（他動、下二）【占合】〔占合ふるノ約、占ニ合ハスル意、（自動ニハ、四段活用ノ占合ふアリ）占フ事ト占形トヲ合セテ、吉凶ヲ知ル意〕うらなふニ同ジ。ウラトフ。神代紀、上六「天神以二太占一而卜二合之一」景行紀、三年二月「卜レ幸于紀伊國、將レ祭二祀群神祇一、而不吉」古事記、中（垂仁）三十布斗摩邇ニ「占相而求ニ何神之心一」

うらぶみ（名）【卜書】卜定シタル趣キヲ記シタル書。ウラノフミ。徒然草、百六十三段「吉平ガ自筆ノうらぶみノ裏ニ書カレタル御記、近衞關白殿ニアリ、點ウチタルヲ書キタリ」

うらぶ・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ（自動、下二）〔心觸るノ義、心ノ、物ニ觸れテ思ヒヲ起ス意ト云フ、うれふ（憂）ノ語原ヲ見ヨ〕思ヒ侘ブ。憂ヘ萎ルル。快快 萬葉集、十五十「君ニ戀ヒ、萎エ浦觸、吾ガ居レバ、秋風吹キテ、月傾キヌ」同、十一十「山高菅ノ、白露重ミ、浦經、心ヲ深ミ、吾ガ戀ヒヤマズ」同卷四十「浦觸而、物莫思ヒソ」源、十三、明石五「海ニ、萎エうらぶれ、蛭ノ子ノ、足立タザリシ、年ハ經ニケリ」夫木抄、十七、千鳥「象潟ヤ、柴ノトボソノ、明方ニ、聲うらぶれテ、千鳥鳴クナリ」此語、音ヲ轉ジテ、うらびれトモ用キラル。（くたびれ、わるびれノ類カ）但シ、連用形ナルヲ見ルノミ。古今集、四、秋、上「秋萩ニ、うらびれ居レバ、足引ノ、山下トヨミ、鹿ノ鳴クラム」新葉集、十四、戀、四「色カハル、小萩ガモトニ、うらびれテ、イツまでか、ノ音ニ、なくト知ラセム」

うらへ（名）【占】ウラフルコト。ウラナヒ。神代紀、下四「太占之卜事」萬葉集、十五廿長歌「壹岐ノ海人ノ、秀手ノ宇良敝ヲ、肩燒キテ」（太占ノ條ヲ見ヨ）

うらべ（名）【浦邊】浦ノホトリ。ウラミ。ウラワ。千載集、三、夏「五月雨ハ、蜑ノモシホ木、朽チニケリ、浦ベニ煙、タエテ程ヘヌ」

うらべ（名）【卜部】龜トノ事ヲ掌ル職、神祇官ニ屬ス。對馬、壹岐、伊豆ヨリ出ヅ。職員令、神祇官「卜部二十人」臨時祭式、卜部取三國卜術優長者一「伊豆五人、壹岐五人、對馬十人」萬葉集、十六三十長歌「卜部座セ、龜モ莫燒キソ」

うらへだ（名）【卜定田】占ヘ定メタル田。神供ノ稻ヲ作ラムガ爲ナリ。神代紀、下廿七「卜定田、云云、以二其田稻一釀二天甜酒一」

うらぼし（名）【裏星】草ノ名。山崖、又ハ、巖石ニツキテ生ズ、莖細ソクシテ堅ク、葉ハ狹クシテ、長サ二三寸、面ハ深綠ニシテ、背ハ色淺クシテ、黃ナル點アリ、冬ヲ歷テ枯レズ。（筑前）金星草

ウラボン（名）【盂蘭盆】うらぼんゑヲ見ヨ。七十一番職人盡歌合、七十一番、心太賣「うらぼんノ、牛バノ秋ノ、ヨモスガラ、月ニスマスヤ、我ガ心テイ」

うら・ボン（名）【後盆】しやうりやうまつり（精靈祭）ノ條ヲ見ヨ。

ウラボン・く（名）【盂蘭盆供】次條ヲ見ヨ。

ウラボン・ゑ（名）【盂蘭盆會】〔盂蘭盆ハ、梵語、うらむばな（Ullambana）ニテ、倒懸ト譯ス、釋迦ノ弟子目連、法眼ヲ以テ、其亡母ノ、地獄ノ餓鬼道ニ在リテ、頭下足上ノ苦ヲ受ケ居ルヲ見テ、救ハムコトヲ釋迦ニ請ヒ、其教ニ因リテ、餓鬼ニ施サムノ心ニテ、七月十五日、百味ノ飲食ヲ供ヘテ衆僧ニ供養シ、母ノ倒ニ懸カルヲ解カム（解倒懸ト云フ）トシタリト云フ、（盂蘭盆經）十六日ニ行フハ、僧ノ自恣ノ日ヲ期シタルナルベシ〕陰暦七月十五日ニ修スル佛事ノ名。盂蘭盆供（供ヲ讀マズ）トモ云ヒ、略シテ、盂蘭盆、更ニ略シテ、盆、又、盆ト云ヒ、又、盆祭、精靈祭トモ云フ。各條ヲ見ヨ。齊明紀、三年七月辛丑（十五日）「設二盂蘭瓫會一」續紀、十一、天平五年七月庚午（六日）「始令三大膳職備二盂蘭盆供養一」吾妻鏡、十四、文治六年七月十五日「盂蘭盆、云云、被レ勤二修萬燈會一」名目抄「盂蘭盆供、不レ讀二供字一何也」

うらまち（名）【裏町】〔表町ニ對ス〕通街ノ後ノ町。後街

うらみ（名）【怨】ウラムルコト。ウラムコト。竹取物語「コレヨキ事ナリ、人ノうらみモ有ルマジ」

うらみ（名）【浦回】〔接尾語、び（傍）ノ條ヲ見ヨ〕浦ノメグリ。ウラベ。ウラワ。萬葉集、九八「由良ノ崎、汐干ニケラシ、白神ノ、礒ノ浦箕ヲ、敢ヘテ漕ギ動ム」

うらみがほ（名）【怨顏】怨ムオモモチ。赤染衛門集、二「秋風ハ、スゴク吹クトモ、葛ノ葉ノ、うらみ（裏見ニカク）がほニハ、見エジトゾ思フ」

うらみち（名）【裏路】街道ノ外ニアル道。間道

✣うらみっこ （名）〔かけっくらノ語原ヲ見ヨ〕互ニ怨ムコト。雙方ノ不滿足。延ベテ、うらみッこいトモ云フ。「うらみッこナシニ分ケル」うらみッこいノナイヤウニ分ケテヤル」

✣うらみッこい （名）前條ヲ見ヨ。

✣うらみッぽ・い （形）〔うらみおほしノ約、わすれっぽい、おこりっぽいナドモアリ〕怨ミ心、多シ。ウラミガチナリ。

うらみつらみ （名）〔うらみノ語調ニ因リテ、辛苦みト重ネ云フナリ〕怨メシキコト、辛苦キコト。曾我會稽山（享保、近松作）二「今ノうらみつらみヨリ、端サッタ歎キモ有ラウカト」「うらみつらみヲ言ヒ立テル」

うら・む・ム・メ・マ・ミ・メ（他動、四）［怨］〔次條ノ語ノ活用ヲ變ジタルモノ、報ゆ（上二）[illegible]活用ノ[illegible]四段活用ト變ジタルガ如キカ〕次條ノ（一）ヲ見ヨ。

〔うら・む・ムル・ムレ・ミ・ミ・ミヨ（他動、上二）［怨恨］〔心見るノ轉〕（一）他ノ仕向ケヲ惡シト見テ、心中ニ憤ル。疾ミ思フ。不平ニ思フ。[illegible]六、[illegible]花[illegible]、[illegible]、トうらむるモ、ネタケレド」字津保物語、藤原君四十六「うらむれド、歎ク數ニモ、キス瀬ヤ、深キアタゴノ、楽トナルラム」[illegible]、三十八、夕[illegible]ナルル身ヲ、うらみンヨリハ、松島ノ、アマノ衣ニ、タチヤカヘマシ」（二）不平ヲ云フ。[illegible]フコボス。[illegible]、廿九、行幸[illegible]マヘノツラクオハシマスナリ、トうらみカクレバ」

ウランボン （名）［盂蘭盆］盂蘭盆會ノ語原ヲ見ヨ。

うらむらくえ （句）［恨憾］〔うらむらくハ、恨むるノ延、いはく（曰）ノ條ヲ見ヨ〕恨ムルヤウ、恨ムコト、ニ、えノ助辭ヲ添ヘテ云フ語。「恨[illegible]不レ會ニ其人二」

うらむらさき [illegible]〔[illegible]うらハ、末ノ[illegible]〕[illegible]ト云フニ同ジ。[illegible]ナドニ、[illegible]、恨むニ[illegible]ト云フ。[illegible]、うらむらさきノ、藤ノ花、カヘルタヨリニ、染メヤシツラム」

うらめ （名）［裏目］まがりがねノ條ヲ見ヨ。

〔うらめ・し・シキ・シケレ・シク・シク（形、二）［怨］[illegible]〔うらむノ未然形ノ、うらまし卜活用シタル、ソノ轉カ、うらやむ、うらやまし〕ウラムベクアリ。遺恨ナリ。神代紀、下「以[illegible]、[illegible]」萬葉集、五[illegible]ノ[illegible]ラバ、[illegible]ハアラムヲ、宇良賣斯企、妹ノ命ノ、云云、家離リイマス」

〔うらめづら・し・シキ・シケレ・シク・シク（形、二）［心珍］心ニ、珍ラシト思フ。古今集、四、秋、上「我ガ夫子ガ、衣ノ裾ヲ、吹キ返シ、（裏ノ序）うらめづらしき、秋ノ初風」

〔うらもとな・し・キ・ケレ・ク・ク（形、二）〔うらハ、心ナリ〕おぼろもとなしニ同ジ。萬葉集、十四[illegible]「君ガ來マサヌ、宇良毛等奈久モ」

〔うらもな・し （形）［無裏］うらなし（無裏）ニ同ジ。其條ヲ見ヨ。

うらもん （名）［裏門］邸ノ、後ノ方ノ門。（表門ニ對ス）後門 羽尾記「内處ヘ入ルト見エシガ、裏門ヨリ退出シ」

うらもやう （名）［裏模様］婦人ノ小袖ノ裏地ノ帛ニ、繪ナドノ模樣ヲツケタルモノ。古ヘノうらかたぎカ、所謂、底到ナルベシ、明和、安永頃ノ流行ト云フ、今ハ專ラ、[illegible]模樣ノミナリ。[illegible]（明和）「京、難波ノ富家ノ婦人、又ハ、遊君體ノ者マデ、裏模[illegible]トシテ、[illegible]ヲカキ、[illegible]ヒヲ第シ、東坡流ノ[illegible]竹ノ畫ナド、風流美盡とリ」

うらや （名）［裏家裏屋］商家ナドノ背後ノ、[illegible]ナドニ[illegible]ノ[illegible]店。

うらやさん （名）［[illegible]］〔[illegible]ノ轉、たはへす、たやす、同[illegible]〕[illegible]ニ同ジ。其條ヲ見ヨ。ウラナヒ者。[illegible]

〔うらやす （名）［心安］心ガカリナキコト。安心。萬葉集、十四[illegible]「春方咲ク、藤ノ末葉ノ、（序）宇良夜須ニ、[illegible]ル夜ソナキ、[illegible]」[illegible]畿内ノ大和國、[illegible]ジテ、日本國ヲモ、浦安國ト云フモ、同ジ。[illegible]安國ト云フモ、安泰ナル國ノ意。安國ト云フモ、同ジ。[illegible]日本書紀[illegible]、云云」[illegible]ト定メ奉リ」夫木抄、三十、[illegible]「波立タデ、風治マレル、君ガ代ニ、其名アラハス、うらやすのくに」（浦ノ意ニ云ヒシナリ）

〔うらやま・し・シキ・シケレ・シク・シク（形、二）［妬］〔次條ノ語ノ未然形、うらやまヲ活用ス、やむ、やまし ねたむ、ねたまし〕（一）ネタマシ。ソネマシ。[illegible]、上、第十二段「妬忌、于良ヤマシ」（二）羨ムベクアリ。ケナルシ。［羨］源、十二、須磨[illegible]「ヨル波ノ、カツカヘルヲ見給ヒテ、うらやましくモト打チズシ給ヘル」

〔うらや・む・ム・メ・マ・ミ・メ（他動、四）［妬］〔心病むノ義ニテ、他ヲ見テ心惱む意ナルベシ、恨むト、相同意〕（一）ネタム。ソネム。推古紀、十二年四月、[illegible]、第十四[illegible]「[illegible]、[illegible]、[illegible]」[illegible]中、第一[illegible]、嫉妬、ウラヤミ」字鏡[illegible]「[illegible]、[illegible]也、心不[illegible]也、宇良也牟、又、阿太牟」（二）他ノ好キヲ嫉ミテ、ソノ如クナラムヲ望ム。［羨］古今集、序「花ノ[illegible]テ、[illegible]フうらやみ」

うらゆき （名）［裏行］奧行ニ同ジ。[illegible]紅葉（寶永、近松作）上「表口五間半、裏ゆき、町並二十間」

✣うらら （代）［己等］うら（己）ニ同ジ。[illegible]

〔うららか・ム （副）［天晴］（一）天晴レテ、日影、[illegible]ニ云フ語。[illegible]三段「翠[illegible]、日ノうららかニサシ出デタル程ニ」（二）[illegible]ニ、サヤカニ。［爽快］[illegible]四、朗詠「[illegible]ノ、うららかなる音ニ」徒然草、二百三十四段「うららかニ言ヒ[illegible]」

〔うららム （副）うらうらムヲ見ヨ。

ウラル・アルタイ （名）［烏拉爾亞爾泰］亞細亞洲中ノ烏拉爾山、亞爾泰山地方ニ[illegible]ル民族ノ言語ニ云フ語。[illegible]人、蒙古人、滿洲人、ツングウス人、朝鮮人、土耳古人、其他ノ[illegible]トス。[illegible]、日本語モ、此中ニ入ルト云フ。

うらわ （名）［浦曲］〔曲ノ條ヲ見ヨ〕浦ノメグリ。ウラミ。ウラベ。夫木抄、十四、[illegible]「秋ノ日ノ、磯ノうらわノ、海人ハ、菊咲ク道ニ、[illegible]ヤ波ムラム」

〔うらわか・し・キ・ケレ・ク・ク（形、二）（一）〔末若シ〕草木ニ[illegible]。萬葉集、四[illegible]、[illegible]「[illegible]」（二）心シ[illegible]。[illegible]十、[illegible]ふまで「[illegible]ノうらわかき初聲モ、ウレハシケレバ、[illegible]クヲ[illegible]フナドアリケンモ」

うり （名）［瓜］〔潤ニ通ズルカ、（あるく、ありく）實ニ光澤アリ〕（一）〔又、ふり。〕一年生ノ蔓草ニシテ、蔓ニ、大イナル實ヲ結ブモノノ[illegible]名。葉、大ク、三五尖リナシテ、皺アリ、毛アリ、莖ニ鬚アリ。まくはうり、きうり、かもうり、ひめうり、まくはうり等、各條ニ註ス。[illegible]、五「字

利ハメバ、子ドモオモホユ」倭名抄、十七「𤬪、宇利乃佐禰、瓜瓠𤬪也」（二）紋所ノ名。くゎ（窠）ノ條ヲ見ヨ。

うり （名）［賣］賣ルコト。「賣買」賣ノ直」賣リニ行ク」

うりあげ （名）［賣揚］ウリアゲルコト。賣リ終ヘタルコト。「賣揚ノ勘定」

うりあげちやう （名）［賣揚帳］商家ニテ、賣リ揚ゲタル品物、直段ヲ記シオク帳面。

うりあ・げる・ゲル・ゲレ・ゲ・ゲ・ゲヨ（他動、下二）［賣揚］賣リ終ヘテ、錢ヲ收ム。

うりいへ （名）［賣家］賣ルベキ家。川柳「うりいヘト、唐様ニ書ク、三代目」

うりい・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ（他動、下二）［賣入］うりこむノ條ノ（一）ニ同ジ。

うりかけ （名）［賣掛］〔賣リ切ラヌ意〕物ヲ賣リテ、未ダ代料ヲ收メズシテアルコト。略シテ、かけ。集古文書、三十七、永正十七年德政條目「賣懸、買カケノ事、先規無二其沙汰一之條、不レ及二德政之沙汰一」

うりかけきん （名）［賣掛金］賣掛ニナリ居ル代金。

うりかひ （名）［賣買］賣ると、買ふと。バイバイ。アキナヒ。

うりき・る・ル・レ・ラ・リ・レ（他動、四）［賣切］悉ク賣リ盡ス。ウリハタス。絕賣　狂言記、河原太郎「定メテ酒モ、モハヤ賣りきッタデアラウ」

うりき・れる・レル・レレ・レ・レ・レヨ（自動、下二）［賣切］賣リ盡シ終ハル。

うりぐすり （名）［賣藥］藥屋ニテ製シテ賣ル藥。醫師ノ診察、投劑ニ對シテ云フ。賣藥。本朝若風俗（貞享、西鶴）「和中散、うりぐすりアリ」

うりくち （名）［賣口］うりさきニ同ジ。

うりぐひ （名）［賣食］所持ノ品ヲ賣リ、其金錢ニテ生活スルコト。他ニ收入ノ道ナキニ云フ。傾城色三味線（元祿、自笑、其磧）「辨慶、七ツ道具ノ賣食ト云フ、總外題」天明ノ川柳「賣喰ヲ、女衒ノ見込ム、ムゴイコト」

うりけんぢやう （名）［沽券狀］沽券ニ同ジ。

うりこ （名）［賣子］商家ノ奴ノ、歩キナガラ物賣ルモノ。販夫　狂言記、酢薑「位ニ負ケタラバ、ソノ方ハ、うり子ニナルカ」

うりこか・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）［賣倒］無理ニ賣ル。妄リニ賣ル。ウリトバス。

うりことば （名）［賣言葉］仕向ケラルル詞。ソレヲ受ケ云フヲ、買言葉ト云フ。多クハ、批雜、惡口ノ問答ニ云フ。他我身の上（明曆、山岡元隣）「世話ニ、賣詞ニ買詞、けんにョナケレバ胸サワガズトアルハ、云云」

うりこみ （名）［賣込］ウリコムコト。

うりこ・む・ム・メ・マ・ミ・メ（他動、四）［賣込］（一）賣リ入ルル。（二）賣リ熟ルル。

うりさき （名）［賣先］賣ルベキ先ノ相手。ウリクチ。サバケクチ。花主

うりざけ （名）［沽酒］酒ヲ賣ル商人。酒屋。庭訓往來、四月「商人、沽酒、酢造」

うりさ・げる・ゲル・ゲレ・ゲ・ゲ・ゲヨ（他動、下二）［賣下］官府ヨリ、民間ニ賣ル。拂ヒ下ゲル。

うりざね （名）［瓜核］瓜ノ核。瓠瓣　譬筑波集（寬永、山本西武）「中子マデ、正シキ刀、賣リニキテ、瓜ざねナリノ、牢人ノ顏」

うりざねがほ （名）［瓜核顏］人ノ顏ノ形ノ、圓クシテ、稍長キモノ。瓜子臉

うりさばき （名）［賣捌］ウリサバクコト。

うりさば・く・ク・ケ・カ・キ・ケ（他動、四）［賣捌］手配リシテ賣ル。賣ル。

うりしぶ・る・ル・レ・ラ・リ・レ（他動、四）［賣澁］賣ルニタメラフ。タヤスク賣ラズ。

うりしろな・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）［賣代成］賣リテ、錢ノ代トナス。

うりすゑ （名）［賣居］家、藏ヲ据エオキタルママニテ、賣ルコト。明和ノ川柳「賣据ゑヲ、氣ノ毒ソウニ、茶屋ナガメ」

うりぞめ （名）［賣初］商品ヲ、賣リ始ムルコト。ウリダシ。發賣　狂言記、河原新市「酒、云云、マダうりそめ致サヌ」

うりだか （名）［賣高］賣リ上ゲタル、商品ノ數。又、其金高。

うりだし （名）［賣出］ウリダスコト。賣リ始ムルコト。發賣

うりだ・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）［賣出］（一）賣リ始ム。發賣（二）名ヲヒロム。

うりた・つ・ツ・テ・タ・チ・テ（自動、四）［破瓜］〔漢語、破瓜ノ文字讀ト云フ、其條ヲ見ヨ〕少女、始メテ、男ニ遇フ。催馬樂、山城「山城ノ、狛（地名）ノワタリノ、瓜作、云云、なりヤシヌラシ、宇利多川マデニ」（少女ノ成長ヲ云フ）拾遺集、九、雜、下「音ニ聞ク、狛ノワタリノ、瓜作、トナリカクナリ、なる心カナ」返シ「定メナク、なるナルうりノ、つら（蔓、面）見テモ、たち（破瓜ニ）ヤ寄リ來ム、狛ノスキモノ」（少女ヲ薦メシ歌ナリ、催馬樂ノ意ニ因ル）

うりだにいし （名）［瓜谷石］紀伊國、日高郡ノ瓜谷川ニ產ズル石、川底ヨリ掘起シテ採ル。堅緻ニシテ、自然ニ山岳ノ姿ヲナシ、磨ケバ光澤アリ、黑クシテ青ミヲ帶ブ、文房具ニ愛玩セラルルコト、古屋谷石ニ同ジ。

うりだめ （名）次條ノ語ノ略。安永ノ川柳「賣溜ガ、ナクバ黃精、デモオキナ」

うりだめきん （名）［賣溜金］商品ヲ賣リテ取レル代金ノ、積リタルモノ。略シテ、うりだめ。

うりぢ （名）［賣地］賣ルベキ土地。

うりつく・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）［賣盡］うりきる（賣切）ニ同ジ。

うりつくり （名）［瓜作］瓜ヲ、畠ニ植エツクル者。專ラ山城國、相樂郡、狛村ノ產ナルニ云フ。催馬樂、山城「山城ノ、狛ノワタリノ、宇利川久利」曾丹集「うりウエシ、狛野ノ原ノ、御園生ノ、繁クナリユク、夏ニモアルカナ」年中行事祕抄、五月「內膳司供二早瓜一事、云云、山城國御園所レ供也」

うりづけ （名）［瓜漬］胡瓜、白瓜ナドノ鹽漬。

うりつ・ける・ケル・ケレ・ケ・ケ・ケヨ（他動、下二）［賣附］押附ケテ、賣リ込ム。狂言記、合柿「汝ハ横着者ヂャ、澁柿ヲ賣りつけウトシタ」

うりて （名）［賣手］物賣ル人。（買手ニ對ス）ウリヌシ。賣主

うりとば・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）［賣飛］妄リニ賣ル。ウリコカス。

うりぬし （名）［賣主］物ヲ賣ル方ノ人。（買主ニ對ス）ウリテ。

うりね （名）［賣直］他ニ賣ルベキ價。（仕

入ノ、元直ナドニ對ス）**賣價**

うりのき（名）瓜木 落葉灌木。高サ一丈ニ達ス。葉ハ瓜ニ似テ、夏、白花ヲ開ク、まくはうりノ香アリ。實、楓ニモ似タレバ、うりはだかへでノ名モアリ。幹ノあまかはヲ剥ギテ、[illegible]馬ノ頸ニカケテ、[illegible]ヒトス。

うりばう（名）瓜子 〔瓜坊ノ義、獵人シタル語〕猪ノ一二歳ノモノハ、尻圓ク、口吻尖リ、首ヨリ尾マデ、腹部ニ縦ニ白毛一道アリテ、全身、きんまくはうりニ似タリ」野猪ノ子。キノコ。今モ、安房ニテ云フ。

うりはだかへで（名）瓜膚楓 前前條ヲ見ヨ。

うりばたけ（名）瓜畠 瓜類ヲ植エツクル畠。ウリフ。[illegible]

うりはた・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）賣果 賣リテ、終ハル。ウリキル。

うりばへ（名）瓜蠅 蟲ノ名。形、略、螢ニ似テ、色黄ナリ、瓜、かぼちゃナドニ生ジテ、其葉ヲ食フ。守瓜 倭名抄、十九「守瓜、[illegible]」

うりはら・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ（他動、四）賣拂 賣リ放ツ。

✤✤**うりひろめ**（名）賣弘 ウリヒロメルコト。ウリダシ。

✤✤**うりひろ・める**・メル・メレ・メ・メ・メヨ（他動、下二）賣弘 廣ク、世ニ賣リ出ス。

うりふ（名）瓜生 瓜畠。長方集、[illegible]「[illegible]フ、園ノうりふノ、一ツラニ」

うりふたつ（名）瓜二 〔瓜ヲ二つニ割レルヲ見レバ、雙方ノ面象、一樣ナリ〕親子、兄弟ナドノ顔ノ、酷ク似タルニ云フ語。[illegible]コロヒツンテ、[illegible]ナル、瓜ノ皆、瓜ヲ二つニ、ワルタグヒカナ」

うりぶね（名）瓜舟 〔形、舟ニ似タレバ云フ〕瓜ヲ、縦ニ、二ツニ割リタルモノ。散木集、十、連歌「うり舟ハ、うみ過ギテコソ、マヰリタレ、浪ニ振ラレテ、ミナ底ニ見ユ」

うりん（名）羽林 近衛府ノ唐名。近衛大將ヲ羽林大將軍、又、羽林上將ト云ヒ、中將ヲ羽林中郎將ト云ヒ、少將ヲ羽林次將ト云フ、皆、唐名ナリ。

うりんけ（名）羽林家 公家衆ノ家格ニ、侍從ヨリ近衛ノ中少將ヲ歴テ、次第ニ昇進スルモノ。故實拾要、十一「羽林家」

うりもの（名）賣物 賣ルベキ品。賣貨 宇治拾遺、三、第一條「うり物ナドヲ持タセテ、來テ見ルニ」

うりもみ（名）瓜揉 胡瓜、白瓜ナドヲ、薄ク刻ミ、鹽ヲ撒リカケ、揉ミテ、酢、味醂ナドニ韲ヘタルモノ。

うりやう（名）雨量 雨雪ノ、降リタル分量。其度ノ多少ヲ計リ知ル器ニ、雨量計アリ。

うりやうけい（名）雨量計 〔英語、Ombrometer; Rain-gauge.〕一定ノ場所ニ設ケ置キテ、或時間中ノ降雨ノ量ヲ計ル器械。今普通ニ行ハルルモノハ、亞鉛、又ハ、銅製ノ圓筒器ニシテ、三部分ヨリ成ル、一ハ受水器ニシテ、恰モ漏斗形ヲナシ、二ハ測水瓶、三ハ瓶ヲ蔵スル外筒ナリ、瓶ハ常ニ、[illegible]ノ中ニ收ムルヲ常トス、其量ヲ以テ雨量ヲ測定スルニハ、外筒ヲ地中ニ埋メ、受水器ノ面ヲ、平水ニ据附クルモノトス。

うりよね（名）賣米 米ヲ貯ヘオキテ、時機ヲ見テ賣リ出スモノ。糶 コレヲ買ヒ入ルルヲ、かひよねト云フ。糴 [illegible]

うりをしみ（名）賣惜 賣ルコトヲ欲セヌコト。ウリシブルコト。

うる（名）粳粳 〔潤ノ義ニテ、子ニ光澤アル意ト云フ〕稻、粟、黍、等ノ子ノ、秋ギテ粘ナキモノ。わせ、なかて、おくて、皆、コレアリ。（糯ニ對ス）「粳稻」粳粟」粳黍」

う・る・ル・レ・ラ・リ・レ（他動、四）賣 〔買ふニ對ス〕（一）價ノ錢ト易ヘテ、物ヲ與フ。ヒサグ。ウリサバク。販賣ス。古今集、十八、雜下「世ヲうりニ詠メレ」（二）名ヲ、聞ノ爲ニ弘ム。「名ヲ賣る」（三）欺ク。ダシヌク。（漢籍讀ニ）「人ヲ賣る」國ヲ賣る」

う・る（　）得 得ノ條ヲ見ヨ。

うるあは（名）粳粟 粳ノ語原ヲ見ヨ）粟ノ子ノ、粘ナキモノ。

うるいさう（名）〔うるいハ、夏枯草ト混ジタル名ナルカ〕草ノ名。玉簪花ノ條ヲ見ヨ。

うるか（名）[illegible]鱁 〔潤臭ノ義ニモアルカ、或ハ、鰷魚ト縁アル語カト云フ〕鮎ノ腸ノ鹽辛。鹽漬ニシテ三四十日擱キマゼテ成ル、[illegible]うるか、[illegible]うるか、[illegible]うるかナドトモ云ヒテ、其滋味ヲ賞ス。拾遺集、七、物名ニ、うるかアリ。下學集、上、氣形門「鰷鱁、ウルカ」[illegible]ト云ヘル菓子ニ、後拾遺集、[illegible]「[illegible]川ノ、瀬ニ住ム鮎ノ、腹ニコソ、うるかト云ヘル、わたハアリケレ」（松屋筆記、六十六）又、鮎ノ頭ト鰭トヲ除キ、腸ノママ、肉ト共ニ庖丁ニテ叩キ、少シ麹ト味醂トヲ加ヘ、鹽漬ニシタルヲ、切込うるかト云フ。又、鮎ノ鯑ノミヲ鹽漬ニシタルヲ、子うるかト云フ。

うるか・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）潤 〔うるけるノ他動〕ふやける、[illegible]ウルホス。[illegible]。フヤカス。「豆ヲうるかす」

ウルカン（名）[illegible]〔[illegible]〕[illegible]ノ神、[illegible]切支丹宗ノ教ノ名、[illegible]、吉利支丹ト云ル法ヲ説シメケルガ」

うるき（名）夏枯草 〔本草和名、上「夏枯草、宇留比」トアルハ、うるきノ音便、うるいナルヲ誤記セシモノカ〕草ノ名。おふひこぐさノ古名。ウルヒ。倭名抄、[illegible]「夏枯草、[illegible]ウルキ[illegible]サ」

うるきび（名）粳黍 粳ノ語原ヲ見ヨ）きびノ條ヲ見ヨ。

うるけぢ（名）[illegible]鉤 〔うるけハ、未詳〕ノ鉤ト云フ、ちハ、鉤ナリ〕海幸ノ鉤ヲ、亂ヒテ云ヒシ語。神代紀、下「[illegible]」古事記、上「[illegible]」「宇流鉤」トアリ。

うる・ける・ケル・ケレ・ケ・ケ・ケヨ（自動、下二）潤 ウルホフ。フヤケル。「豆ガうるける」

うるしめ (名) 粳米 うるしね、うるちニ同ジ。

うるさ・し・キ・ケレ・ク・ク (形、二) 煩瑣 「うるせしノ轉ニテ、(ふせぐ、ふさぐ)敏捷ノ過グルハ煩シクナル意ヨリ、移リタルナルベシ、五月蠅ノ字ヲ書クハ、さばへノ條ヲ見ヨ」(一)ワヅラハシ。ナヤマシ。面倒ナリ。伊勢物語、第十三段「武藏アブミ、サスガニカケテ、頼ムニハ、問ハヌモツラシ、問フモうるさし」源、五、若紫九「尼君、髮ヲ掻キ撫デツツ、梳ルコトヲモうるさがりタマヘド」(二)轉ジテ、厭ハシ。嫌シ。嫌厭 後撰集、十八、雜、四「常ニマウデ來トテ、うるさがりテ隱レケレバ、大和ノ國、上ニ、親ノ許ニ、衣ヲナム洗ヒニオコセタリ、云云、法師ニナリヌル人ハ、カクうるさき事ヲ云フモノカ」堀河百首「哭ノ聲ノ、ハヒリノ庭ニ、置ク蚊火ノ、煙うるさき、夏ノ夕暮」

うるし (名) 漆 〔潤液ノ略カ、(蛙手、楓)或ハ、濃液ノ略カ(ぬばたま、うばたま。濃艶、鈍し)〕うるしのきノ脂。樹ノ皮ニ鋸痕ヲ入レテ、流レ出ヅル液ヲコソゲトリテ製ス、夏ヨリ秋ノ末マデ取ル、種種ノ器ニ塗ル料トス。(うるしのきヲ見合スベシ) 倭名抄、十五 工具「漆、宇流之」

✣うるし・い (形) うれしき(嬉)ノ口語。卜養狂歌集(寛文)冬「タマハリシ、木地三ツグミノ、塗物ハ、うるしい、うるしい、カタヂウケナイ」

うるし-いし (名) 漆石 (一)色黑ク光リテ、漆ノ如キ石、北國ニ多ク産ズ。烏石 (二)石炭。(越後)

うるし-かぶれ (名) 漆ニ氣觸レテ生ズル瘡。ウルシマケ。漆瘡 倭名抄、三 十四「漆瘡、宇流之加不禮」

うるし-こし (名) 漆漉 吉野紙ヲ、漆ヲ漉スニ用キルトキノ稱。狂言記、塗師平六「うるしこしニ水ヲ入レテ」

うるし-ぬり (名) 漆塗 漆ニテ物ヲ塗ルコト。塗漆 倭名抄、十六 十「髹子、宇流之沼利乃佐良」

うるしね (名) 粳稻 〔粳ト、稻トノ語原ヲ見ヨ、印度語ニ、うるひト云フトゾ〕稻ノ、粳ナルモノ。今云フ、うるち。本草和名、下 四十「粳米、宇留之禰」倭名抄、十七 二「粳米、宇流之禰」

うるし-のき (名) 漆樹 高キハ六七間ニ至ル。葉ノ形、ぬるでノ葉ニ似テ、鋸齒ナシ、一柄ニ、三四對ニ排生ス、夏、枝ノ梢ニ、長キ穗ヲ出シテ、黃白ノ小花ヲ開ク、亦、ぬるでノ花ニ似タリ、雌樹ニハ實アリ、圓ク扁ク、大キサ一分許、黃褐ナリ、煮テ、上品ナル蠟ヲ得、此樹ノ脂ヲ、うるしトス。專ラうるしヲ取ルモノハ、培養シテ五七年ナルヨリ取リテ、後ニハ伐リ倒スナリ。(うるしノ條、見合スベシ)やまうるしハ、山中自生ノモノナリ、漆ヲ出スコト少シ、亦、實ヨリ蠟ヲ採ルベシ、大樹ナシ。

うるし-ばく (名) 漆箔 塗リタル漆ノ上ニ、金銀箔ヲ押シタルモノ。

うるし-ばけ (名) 漆刷毛 漆塗ニ用キル刷毛。製、大小、種種ナリ。髹筆 倭名抄、十五 工具「髹筆、波介」

うるし-ぶぎやう (名) 油漆奉行 〔油奉行、漆奉行ヲ合併シタルナレバ、油漆ト書ケド、油ノ字ハ訓マヌ例ナリ〕德川幕府ノ職名。漆ト燈油ノ事ヲ掌ル、勘定奉行ノ支配下ナリ。大猷院殿御實紀、四十二「寬永十六年、此年、漆奉行大河内善左衛門政憲ハ、云云」

うるし-まけ (名) 漆瘡 〔漆負ノ義ニテ、侵サレタル意カ〕うるしかぶれニ同ジ。

うるし-むろ (名) 漆室 漆塗シタル器ヲ入レテ乾カス土室。今訛リテ、風呂ト云フ。箋注倭名抄、三 六 屋宅類「窨、地室也、一云、漆屋、宇流之毛路」東北院職人歌合(建保)八番、塗師「露トノミ、ヌリヤル袖ノ、涙コソ、土むろシテモ、乾サレザリケリ」長門本、平家物語、五、嚴島詣事、遊女歌「花うるし、ぬる人モナキ、我ガ身カナ、むろアリトテモ、何ニカハセム」

うるし-もん (名) 漆紋 麻布ノ帷子ナドニツクル紋所ヲ、漆ニテ書キタルモノ。寶のすさみ「生平ノカタビラニ、漆紋ナドツケ」

うるし-ゆみ (名) 漆弓 漆塗ノ弓。塗弓。(白木弓ニ對ス) 兵部式「凡武官人等、皆用二漆弓一」兵庫式、踐祚大嘗會新造雜物「梓弓、云云、塗レ漆三遍、毎遍乾、二日」

うるし-ゑ (名) 漆繪 墨摺ノ繪ノ上ニ、膠ヲ引キテ光澤ヲ出サシメ、其上ニ金泥ナド用キテ、繪ヲカキタルモノ。享保ノ頃、江戸ニテ行ハレ、畫工奧村政信ナド書キタリ。(浮世繪類考)

うる-せ・し・キ・ケレ・ク・ク (形、二) 敏捷 〔心狹しノ轉カ、(心愛し、可愛し。いぶせしト云フ語モアリ)氣早キモノハ、心急クナリ〕カシコシ。スルドシ。スバシコシ。宇津保物語、俊蔭 廿「日本ヘ歸リ來タリ、云云、御門、イトうるせかりシ者ノ、歸リマウデ來レルコトト悅ビタマヒテ」源、三十四、下、若菜、下 四十二「宮ノ御琴ノ音ハ、イトうるせくナリニケリナ」宇治拾遺、二、第九條「童ナレドモ、かしこく、うるせき者ハ、カカル事ヲゾシケル」同、十、第九條「才かしこく、心バヘモうるせかりケレバ、六位ナガラ、世ノオボエ、ヤウヤウ聞エ高クナリモテユケバ」

うる-ち (名) 粳米 〔うるしねノ略轉、さいかし、さいかち。どち、どし(共)〕古名、ウルシネ。又、ウルゴメ。稻ノ、粳ナルモノ。其米ハ卽チ、飯トシテ、人ノ常食トスルモノ。

うる-ぢ (名) うるけぢノ條ヲ見ヨ。

うるは・し・シキ・シケレ・シク・シク (形、二) 親愛 〔心愛しノ轉ナラム、うるせし(敏捷)モ、心狹しノ轉ト思ハル、靈異記、中、第廿七縁「姝、于留和シ」字鏡 八十二「嫺媛、美麗之貌、宇留和志」トアルハ、音便ニ記シタルナリ〕(一)愛シ。愛ヅベシ。愛スベシ。ウラグハシ。イトホシ。ウツクシ。神代紀、上 十一「我愛之妹」古事記、中(景行) 五十 長歌「青垣山、コモレル大和シ、宇流波斯」萬葉集、廿 廿六「宇流波之卜、吾ガ思フ君ハ」(二)交リ、睦ジ。ナカヨシ。友善 神代紀、下 三「友善」私記、宇留波之」履中卽位前紀「素好仲皇子」常陸國風土記、行方郡「然ニ其愚動ニ惡漸、所以此野謂ニ宇流波斯之小野」伊勢物語、四十六段「昔、男、イトうるはしき友アリケリ」(三)ウツクシ。イツクシ。麗 美麗 神代紀、上 「此子、光華明彩、照徹於六合之內」名義抄「嬋娟、ウルハシ、タヲヤカナリ」

うるは・む・ム・メ・マ・ミ・メ (他動、四) 親愛 ウルハシク思フ。ウツクシム。愛ス。古事記、中(應神) 七十二 長歌「古波陀少女ハ、云云、宇流波志美思フ」名詞ニ用キテ、萬葉集、十八 四十 讌歌「サユリバナ、後モ會ハムト、思ヘコソ、今ノ眼前モ、宇流波之美スレ」

うるひ (名) 夏枯草 うるきノ語原ヲ見ヨ。

うるひ (名) 潤 潤フコト。ウルホヒ。拾

[illegible]上、[illegible]ノ、[illegible]ニ、ヒ[illegible]レ[illegible]、[illegible]レゾメグミノ、身ニ餘リヌル」 夫木抄、七、早苗「オシナベテ、植ヱヌ荒田モ、ナカリケリ、雨ノうるひノ、御代ノ早苗ハ」

うるひ(ウルイ) (名) 閏 次條ヲ見ヨ。 六帖、一、うるふ月「うるひサヘ、アリテ行クベキ、年ダニモ、春ニカナラズ、逢フ由モガナ」

うるふ(ウルウ) (名) 閏 〔うるひト云フガ正シカルベシ、伺シ、終止形ヲ名詞トスルニ、あきさふ、(嬰孩)いとゆふ、やまふ(病)ノ類モアリ〕 閏(ジュン)ノ字ハ、欽明紀ニ、皆始メテ傳來シ、説文ニ「閏、餘分之月也」トアリテ、餘ろ義ナリ、うるひ、うるふト讀ムハ、敏達紀、持統紀等ニ「潤月」ト記サル、集韻ニ「閏音潤」ト見エテ、音通ノ字ナルヲ、此潤ノ字ヲ、文字讀ニセシヨリ起レルナルベシ、後撰集、三、春、下、彌生ニうるふ月アル年、云云「あまりサヘ、アリテ行クベキ、年ダニモ」トアルあまりハ、閏ノ字ノ正訓ナリ、又、仲哀紀元年ニ、追記ニハアレド「閏十一月(ノチノシモツキ)」ノ傍訓モアリ、のちのつきノ條ヲ見ヨ」 又、うるひ(イ)。太陰暦ニ、一年ヲ三百六十日トシテ、コレヲ十二箇月ニ分テドモ、月ノ朔望ノ運行ニ合ハズシテ、餘時日ヲ生ズルヲ積ミテ、一月トシテ、一年ニ加ヘテ十三箇月トスルモノ、コレヲ閏(ウルフ)月ト云フ、五年ニ二度ノ閏月アリ、十九年、七閏ニ及ビテ、餘分無シ。コレヲ一章ト云フトゾ。(おとよみノ條、見合スベシ)閏月アル年ヲ、閏(ウルフ)年ト云フ。太陽暦ニテハ、一年ヲ三百六十五日トシ、四年毎ニ一日餘ルヲ積ミテ、二月ニ加フ。欽明紀、十五年正月、[illegible]月(ウルフヅキ)[illegible]日」 古今集、二、春、上「彌生ニ、うるふ月ノアリケル年」 名義抄「閏、ウルフ」 字類抄「潤月、ウルウヅキ」

うる・ふ(ウル・ウ)・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (自動、四) 潤 うるほふノ(一)ニ同ジ。 名義抄「霑、潤、滋、需、ウルフ」 類千載集、十、釋教「一時ニ、ソソギシ雨ノ、うるひツツ、三草二木モ、枝サシテケリ」 萬代集、一、春、上「降ル雨ノ、遍クうるふ、春ナレバ」 公任集「ヒトツ雨ニ、うるふ草木ハ、[illegible]ナレド、[illegible]ニハモトニ、カヘラザラメヤ」 榮花物語、十、日蔭鬘「あめノ下、富ノ小川ノ、末ナレバ、何レノ秋カ、うるはザルベキ」

うる・ふ(ウル・ウ)・フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ (他動、下二) 潤 〔前條ノ語ノ他動、たぐふ、たぐふる(類)ノ例〕 うるほ(オ)すニ同ジ。 著聞集、十七、變化「酒、云云、我モ飲ミ、ソコニモ、喉(ノンド)うるへタマヘ」

うるふづき(ウルウヅキ) (名) 閏月 うるふ(閏)ノ條ヲ見ヨ。

うるふどし(ウルウドシ) (名) 閏年 うるふ(閏)ノ條ヲ見ヨ。

うるほ・す(ウルオ・ス)・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) 潤 〔次條ノ語ノ他動、にぎはふ、にぎはす、同例〕 (一)水氣ヲ含マシム。浸ス。漬クル。シメス。 字鏡「[illegible]、漬也、比太須、宇留保須」 (二)恩澤ヲ受ケシム。豐ニナス。富マス。利ス。「國民ヲうるほす」

うるほひ(ウルオイ) (名) 潤 (一)ウルホフコト。シメリ。ウルヒ。 散木集、六、釋教「植エオキシ、心ノ葉(ハナ)ス[illegible]、開ケナム、[illegible]フ涙ヲ、うるほひニシテ」 (二)富ムコト。マウケ。利潤

うるほ・ふ(ウルオ・ウ)・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (自動、四) 潤 〔うるふノ延、よそふ、よそほふ、同例、假名遣ハ、前條ヲ見ヨ〕 (一)うるふ。水氣ヲ含ム。浸(ヒタ)ル。漬(ツカ)ル。シメル。 新古今集、十九、[illegible]「オホミタノ、うるほふバカリ、セキカケ

[illegible]、[illegible]ニ[illegible]、[illegible]「[illegible]」 (二)[illegible]、[illegible]ニ[illegible]ニ、[illegible]ヒテ、[illegible] 後白河院御即位事「恩光ニ照サレ、徳澤ニ潤ひテ、[illegible]モ[illegible]、[illegible]」

ウルマ (名) 于陵 〔朝鮮、東海海上ノ鬱陵島、[illegible]ハ、入聲、[illegible]音、うろ、[illegible]、[illegible]チ、島ノ義、うろまきノ略ナルベシ、(言)代、おほろ、新羅、三國史記、智證王、十三年「鬱陵天皇辛卯年、于山島(ウサン)、神代紀上「葦原中國之宇佐島矣、今在海北道中」」 我ガ云フコトヲ聞キ知ラズ、返答ナシト云フ意ヲ、うるまノ島ノ人ト云フ。一條天皇、寛弘年中、朝鮮ノ鬱陵島ノ人、因幡國ニ漂着ス、當時、其島ヲうるまト云ヘリ、其人、言語通ゼザリシニ因リテ、此語ヲ成ス。(いるまさとばノ條、見合スベシ) 權記、寛弘元年「因幡國[illegible]、于陵(ウルマ)島人十一[illegible]、[illegible]」 本朝麗藻、下、代[illegible]于陵島人二「[illegible]人[illegible]俗[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]代[illegible]之ノ[illegible]ノ[illegible]二[illegible]之中、有[illegible]島人、云云」 公任集「志らぎ(新羅)ノうるまノ島人來テ、ココノ人ノ言フ事モ聞知ラズ、ト聞カセタマヒテ、[illegible]エザリケル人ニ「オボツカナ、うるまノ島ノ、人ナレヤ、我ガ恨ムルヲ、知ラズ顏ナル」 千載集、十一、戀、一ニ、四ノ句ヲ「我ガ言ノ葉ヲ」トス。 狹衣、一、下「言フニ答ヘナキニ「コハイカニトヨ、うるまノ島ノ人トモ覺エハベルカナ」

うるみしゆ (名) 潤朱 漆塗ノ語。朱ニ黒ミアルモノ。黝朱

うるみわん (名) 潤椀 うるみしゆニテ塗リタル椀。 元祿曾我物語、三、うるみ椀ニ、イツカケシタ[illegible]」

うる・む・ム・メ・マ・ミ・メ (自動、四) 潤 (一)透(スキ)明(トホ)ラズ。(玉(ギヨク)ノ色、漆ノ色ナドニ) (二)鮮カナラズ。(染色ナドニ) (三)澁ル。(泣ク聲ナドニ)「聲、うるむ」

うる・む・ム・メ・マ・ミ・メ (自動、四) 潤 〔前條ノ語ト同意ニテ、水分ヲ含ミテ色ヅクヲ云フカ〕 [illegible]、[illegible]、乳ニ[illegible]、[illegible]、[illegible]ニ[illegible]、[illegible]、[illegible]ニト、うるむバカリモ、摘ミシガナ、人ニスミレノ、花ト知ル知ル」

うるめ (名) 潤目 次條ノ語ノ略。

うるめいわし (名) 潤目鰯 鰯ノ一種。[illegible]ツシテ、長サ六寸許、眼大ナリ、[illegible]、[illegible]、脂、赤ミウルミタルモノ、[illegible]ク、味劣シ、多ク、乾魚トス、略シテ、うるめ。[illegible] [illegible]、[illegible]、十七、うるめ[illegible]ノメシ、[illegible]ニ仕ヘラレシ事モ有シ」

ウルユス (名) 〔空ノ字ヲ三分シタル、離合遊字ノ語、[illegible]ウツボ[illegible]ノ合[illegible]ト、スルト、離合ノ對、物ノ條ノ語原ヲ見ヨ〕腸ヲ空(カラ)しうすノ意ト云フ〕 賣藥ノ名。 看板ニ、片假名ニテ書ケリ、[illegible]カシテ附シタル名ナリ、[illegible]ノ下劑ト[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]」

うるりいわし (名) 細魚 〔汀ニ添ヒテ鈍(ウル)ケタル獸ニテ潤ル、故ニ名アリト云フ、ヤヤスク捕ヘラル、[illegible]ハ、[illegible]ヘ[illegible]、[illegible]、いささ、(鮅)いわしいノ例〕 小魚ノ名。越前ノ足羽川ニ、うるりい、一名、いささト云ヒ、鰕虎魚ニ似テ、寸許ノ魚アリ、是レカト云フ。(和名抄[illegible]、八[illegible]) 鮅魚一種 [illegible]、十九[illegible]、[illegible]」

うれ (名) 末 〔末枝(カウエ)、約マリテうれトナリ、うれ、又、他語ニ連スレバ、うらガれ、(末枯)うらば(末葉)トナル〕 木ノ上ノ末(スヱ)。梢(コズヱ)。うら。 萬葉集、十一「柳ノ字端ニ、[illegible]キツ」 土佐日記、正月九日、「松ノうれ[illegible]ニ、[illegible]ム

鶴ハ」東遊、駿河歌「小松ガ宇禮ニ、網ナ張リソヤ」」

うれ (名) 〔賣〕 賣ラレユクコト。ウレユキ。「うれガヨイ」「うれガ遅イ」

うれ (感) 〔對稱ノ代名詞、おれノ轉、(動ク、おおく。薺蒿、うはぎ)おのれノ意ナルガ、呼ビカクル聲トナリシナリ〕 人ヲ呼ビカクル聲。貶シテ云フ意ナリ。平家物語、七、實盛最後事、實盛、手塚太郎ガ郎等ニ「己レハ日本一ノ剛者ト、組んでうず、ヨ、ナ、うれ、トテ、我ガ乘リタリケル鞍ノ前輪ニ押シツケテ」(組んでうずハ、組みてむずノ音便) 感動詞ノいざヲ添ヘテ、いざ、うれト云ヒ、誘フ意ヲ云フ。平家物語、十一、能登殿最後事「安藝太郎ヲバ、弓手ノ脇ニ掻挾ミ、云云、いざうれ、己等、死出ノ山ノ供セヨトテ、生年二十六ニテ、海ヘツットゾ入リタマフ」

うれ-くち (名) 〔賣口〕 賣ラレテユク相手。ウレサキ。

うれ-さき (名) 〔賣先〕 賣レユク方。ウレクチ。

うれ・し・シキ・シケレ・シク・シク (形、二) 〔意歡 娛嬉〕 〔愛しノ、うらし、うれしト轉ジタル語ナルベシ、(賓客、まらうど。うらあふ、うらふ、うれふ(愁)ト、同趣ナルガ如シ、說文「意、悅也」歡、喜、樂也」娛、樂也」嬉ハ、博雅ニ「戲也」增韻ニ「遊也」トアリ、樂シク遊ブ意ニテ、充テテ書クナルベシ〕 (一)愛シク、快シ。ヨロコバシ。愉快ナリ。神代紀、上四「憙哉」字類抄「嬉、歡、娛、ウレシ」萬葉集、十一廿「思ハヌニ、到ラバ妹ガ、歡ミト、笑ム眉曳、思ユルカモ」同、十九四四 新嘗祭ノ歌「天地ト、相榮エムト、大宮ヲ、仕ヘ(造リ)マツレバ、貴ク宇禮之伎」續紀、三十、神護景雲三年十一月、詔「伊豫國ヨリ白祥鹿ヲ奉リテアレバ、有禮志 喜シトナモ見ル」 (二)イツクシ。可愛。土佐日記、二月五日、住吉ノ神ニ「欲シキ物ゾオハスラムトテ、幣奉レドモ、風止マズ、幣ニハ、御心ノユカネバ、御舟モ行カヌナリ、ナホうれしト思ヒタブベキモノ、奉リタマヘト云フ」 (三)カタジケナシ。アリガタシ。感佩。大和物語、上「院ノ御消息ノ、イトうれしく侍リテ、カク色許サレハベルコト、ナド聞エタマフ」

うれし-がほ (名) 〔嬉顏〕 ウレシキオモモチ。ココロヨササウナル顏。風雅集、三、春、下「眞菅生フル、荒田ニ水ヲ、マカスレバ、うれしがほニモ、鳴ク蛙カナ」

うれし-が・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 〔嬉〕 ウレシク思フ。枕草子、七、六十八段「明日還リタラム、召シテ舞ハセムナド、仰セラルル、云云、うれしがリテ、云云、集マリテ申シ惑ヒシカバ」

うれし-なき (名) 〔嬉泣〕 嬉シサノ感極マリテ、泣クコト。感泣。沙石集、九、上、第一條「淨土房ハ恙ナシ、弟子共、餘リノ事ニテ、うれしなきニゾ泣キケル」

うれし-なみだ (名) 〔嬉涙〕 ウレシサニ餘リテ、出ヅル涙。感涙。

うれし・ぶ・ブ・ベ・バ・ビ・ベ (自動、四) 〔嬉〕 ウレシク思フ。ウレシム。歡喜。萬葉集、十九十長歌「イキドホル、心ノ内ヲ、思ヒノベ、宇禮之備ナガラ」 天治字鏡、三十七「悅、宗(宇)禮之不」

うれし・む・ム・メ・マ・ミ・メ (自動、四) 〔嬉〕 前條ノ語ニ同ジ。遣唐使奉幣祝詞「船居、作リタマヘレバ、快ビ嘉志美」 推古紀、十七年四月「泊レ于ニ聖帝之邊境一以歡喜」

うれ-だか (名) 〔賣高〕 ウレユキタル商品ノ數。又、其金高。

うれた・し・キ・ケレ・ク・ク (形、二) 〔慨哉〕 〔心痛しノ約轉カ、(何、いづれ)嫉し、恨めしト、意通ズ〕 憎ク、恨シ。ツラク、ニクシ。イマイマシ。古事記、上三十九長歌「鷄ハ鳴ク、宇禮多久モ、鳴クナル鳥カ」 神武紀、上四「慨哉、大丈夫被レ傷於レ虜手、將ニ不レ報而死一耶」註「慨哉、此云二于黎多棄伽夜一」 舒明紀、九年三月「慷哉、爲二蝦夷一將レ見レ殺」 萬葉集、八十二長歌「宇禮多伎ヤ、醜霍公、曉ノ、ウラガナシキニ、追ヘド追ヘド、尙シ來鳴キテ」 神樂歌、小前張、蟋蟀「キリギリスノ、妬サ宇禮太サヤ、御園生ニ、マヰリキ、木ノ根ヲ、掘リ食ムデ」

うれた・む・ム・メ・マ・ミ・メ (自動、四) 〔慷愾〕 慨哉ト思フ。恨ミ、憤ル。古事記、中(應神)二十「兄慷二恨弟之婚一以不レ償二其宇禮豆玖之物一」 同、下(安康)廿六「慷愾忿怒」

うれ-づく (名) 〔宇禮豆玖〕 〔うれハ、慨哉ノうれ、づくハ、給ナリ、上ノ語ヨリノ連聲ニテ、清濁顚倒スルナリト云フ、(古事記傳、三十四)顚倒ノ事ハ、いづつしノ條ヲ見ヨ、給ぐノ終止形ノ、名詞トナルハ、調の船ノ例アリ、貧クレバ慨憤みテ償フ意ナリト云フ〕 古事記、中(應神)八十二、少女アリ、又、兄弟二人アリ、兄、少女ヲ得ムトスレドモ得ズ、弟ハタヤスク得ムト云フ、兄云フ、汝、少女ヲ得タラバ、酒、山河ノ物ヲ備ヘテ、宇禮豆玖ヲセムト云フ、弟、少女ヲ得タレドモ、兄慷愾ミテ、宇禮豆玖ノ物ヲ償ハズトアリ、賭物ノ意ナリ。賭酒、賭物給、賭給ノ語モアリ。

うれ-は (名) 〔末葉 梢葉〕 末ノ葉。うらば。拾遺愚草員外、雜、上「初雪ノ、窓ノ吳竹、フシナガラ、重ルうれはノ、程ゾキコユル」「萩ノうれは」

うれは・し・シキ・シケレ・シク・シク (形、二) 〔憂〕 〔はしハ、形容ノ接尾語、奇はし、いかがはし、迫はし〕 憂フベシ。ナゲカハシ。古今集、十九、誹諧「足引ノ、山田ノソホヅ、己レサヘ、我レヲ欲シト云フ、うれはしきコト」 源、十三、明石「ココラ悲シキ、サマザマノうれはしき事ノミ、多カルニ」 名義抄「吁、ウレハシ、ナゲク」 同、雜部「憂、ウレハシ」

うれ・ふ・フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ (自動、下二) 〔愁 憂〕 〔心合ふるノ、うらふるト約リテ、又、うれふるト轉ジタルナルベシ、うれし(歡)モ、うるはし、うらし、うれしト約轉シタル語ナラム、(其條ノ語原ヲ見ヨ)思ヒヲ、他ノ心ニ合ハセムトテ、述ブル意(うらぶるノ語原、見合スベシ)〕 (一)歎キ思フ事ヲ、他ニ告ゲ訴フ。愁訴ス。神代紀、上三十七「脚摩乳、手摩乳「夫妻共、愁、乃告二素戔嗚尊一曰、我生兒雖レ多、每レ生、輙有二八岐大蛇一來呑、云云、是以哀傷」 宇津保物語、貴宮二十「政事カシコキ世ニ、うれへ奏ラムトテ、うれへ文ヲ作リテ、文挾ニハサミテ、出立チタマフ」 六帖、四「ミゴモリノ、神ニうれへム、カクバカリ、戀シキ人ヲ、見ズト思ヘバ」 源、三、空蟬十「一昨日ヨリ、腹ヲ病ミテ、云云、人少ナリト召シシカバ、云云、ナホ、得堪フマジクナムトうれふ」 同、三十三、藤裏葉「宿直所、讓リタマヒテムヤト、中將ニうれへタマフ」 (二)歎ク。心配ス。神代紀、下廿三「彥火火出見尊、憂苦甚深、云云、老翁曰、勿二復憂一」 私記「末太奈宇禮倍末之曾」 萬葉集、五三十長歌「妻子ドモハ、足ノ方ニ、圍ミ居テ、憂吟」 字鏡七十六「忡、心憂也、宇禮不」 最勝王經音義「慼、宇禮不」 名義抄「愁、ウレフ」 三代實錄、十三、貞觀八年九月、宣制「日夜無レ間久、憂禮比念保之御坐須」トアル、比ハ、閇ノ音ニ用ヰタルナリ。 類聚國史、廿五、崇道盡敬皇帝「此大禍乎、取總持天、親王爾送奉止、敎比宣夫」 續紀、廿五、天平寶字八年十月、詔「六千乃兵乎、發之等等乃比一」 萬葉集、廿二「行キメグリ、可比利來マデニ」 同「加敝流底」 倭名抄「加比留提」(楓) 萬葉集「佐比豆流」 字鏡「左戶豆留」(螬)

うれ・ふ・フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ (他動、下二) 〔愁〕 〔前條ノ語ヲ、他動ニ用ヰルモノ、後ニ

起レルコトナルベシ」（一）歎キ言フ。萬代集、十九、雜、六「イヅレヲカ、マヅうれヘマシ、心ニハ、能ハヌ事ノ、多クモアルカナ」（二）心ヲ傷メ思フ。案ジル。憂「國ヲ憂ふ」「家ヲ憂ふ」（三）[illegible]ム。ワノラフ。[illegible]

うれ・ふ・フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ（他動、下二）[憂] [illegible]他動ニ、思ふ意トシテ、[illegible]ヲ憂ふト云ヒ、[illegible]む意トシテ、[illegible]ナド用キルハ、漢文ヲ訓讀スルニ起レルナルベシ。[illegible]

うれへ（名）[愁]（一）〔愁フルコト。〕申シ訴フルコト。愁訴スルコト。竹取物語「カノうれへセシ工匠等ヲバ、かぐや姫呼ビスヱテ、ウレシキ人ドモナリト云ヒテ、祿イト多ク取ラセタマフ」宇津保物語、七、[illegible]ヒテ聞ヒケレバ、我ガうれへ成リニタリト悅ビテ、コトゴトシク伸ビアガリテ、言ヒケレバ」（二）カナシミ。ナゲキ。「うれへニ沈ム」（三）〔喪〕オモヒ。[illegible] 天武紀、下、七年十月[illegible]（其ニ、親ノ喪ナリ）」（四）〔心ヲ傷ムルコト。案ジルコト。心配。憂 萬葉集、九、[illegible]ノ、[illegible]ヒ積ミ來シ、憂ハ止ミヌ」（五）人ノ憂ヘトナルベキコト。ワザハヒ。患「國ノうれへ」[illegible]ノうれへ」

うれへがほ（名）[愁顏] 愁フルオモモチ。風雅集、十五、雜、上「眺ムレバ、身ノ憂キ事ノ、オボエケリ、うれへがほニヤ、月モ見ルラム」

うれへぶみ（名）[愁文] 訴訟ノ狀。又、新願ノ書。[illegible]ニうれへ[illegible]ムトテ、うれへぶみノ作リ[illegible]、[illegible]ニ挾ミテ出立チタマフ」兼盛集「元ノ人ノ許ニハ、マウラザリケレバ、[illegible]ニうれへハベリケルうれへぶみニハ、シハベリケル」

※うれ・へる（動）[憂] 憂ふノ口語。

うれんぞ（副）〔いづれぞノ約轉カ、五[illegible]〕[illegible]

うれゆさ（名）[賣行] ウレユクコト。サバケ。

うれ・ゆ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ（自動、四）[賣行] 進ミテ賣レル。サバケル。ウレル。

う・れる・レ・レレ・レ・レヨ（自動、下一）[賣]〔うらるる（被賣）ノ約、轉ジテ、自動詞トナレルモノ、うたるる、（被撃）うてる。（被持）もたるる、もてる、（優待）同ジ〕賣ルニ、ヨクサバケル。ウレユク。

うろ（名）[空虛洞]「うつろノ中略カ」（一）ウツロ。（二）アナ。竅

うろ（名）[雨露]（一）あめト、つゆト。[illegible]（二）イツクシミ。恩。[illegible]「聖代試今多二雨露、暫時分レ手莫二躊躇一」「雨露ノ恩」

うろ（名）[烏鷺]〔からすト、さぎト〕黑キト、白キト。黑石ト白石トニテ碁ヲ打ツヲ、烏鷺ノ爭ヒ、又ハ、烏鷺ヲ鬪ハスト云フ。

うろ（名）[迂路] マハリミチ。劉克莊、過二永福[illegible]」

うろ（名）[有漏]〔漏泄ある義、煩惱ノ意、〕煩惱ハ、[illegible]ノ緣ニ觸レテ、貪欲、瞋恚ノ過チヲ漏ラスコト、極マラスナリ、「諸漏已盡、無二復煩惱一」ト云ヘリ」佛語ノ[illegible]

うろうろ（副）[彷徨]〔うろたへるノ、うろヲ重ネタルナリ〕行ク方ニ迷ヘル狀、見込ノ一定セヌ狀ニ云フ語。[illegible]

うろうろぶね（名）「うろへきテ、漕ギマハル意」[illegible]江戶、兩國川ノ納涼ノ時ナドニ、飲食物ヲ載セテ、船船ノ間ヲ、處定メズ漕ギメグリテ、賣リマハル小舟。吉原雀鳴記（寛文）「[illegible]川三ツ日ノ[illegible]ノうろうろ[illegible]」

うろうろまなこ（名）ウロツキタル目ツキ。

うろおぼえ（名）[疎覺]〔おろおろおぼえノ轉〕物覺ノ、タシカナラヌコト。おろおぼえ。

うろくづ（名）[魚]〔いろくづノ轉〕（一）魚。イヲ。（いろくづノ條ヲ見ヨ）榮花物語、十九、御裳著「宇治川ノ、底ニ沈メル、うろくづヲ、網ナラネドモ、スクヒツルカナ」（二）鱗。コケ。

うろこ（名）[鱗]〔いろこノ轉〕（一）いろこ、イロクヅ、ウロクヅ。又、コケ。魚ノ皮ノ上ニ、重ナリテツキテアル、小サク圓ク薄ク堅キモノ。蛇ノ皮ナドニモ云フ。（二）[illegible]（三）[illegible]。[illegible]（四）[illegible]ノ名。もろこ。

うろこいし（名）[鱗石] 鱗形ニ作リタル石。敷石ナドニ用キルモノ。

うろこがた（名）[鱗形] いろこがた。（一）[illegible]模樣、紋所ナドニ、三角ヲ[illegible]蛇ノ鱗ヲ圖シタルモノト云フ。略シテ、うろこ。衣服ノ模樣ナルハ、[illegible]重ヌ、多クハ、鬼女ナドノ服トス。紋所ナルハ、一箇ナルヲ、ひとつうろこト云ヒ、二箇並ベテ、其上ノ中央ニ一箇重ヌルヲ、みつうろこト云フ。（いろこがたノ條ヲ見ヨ）俗ニ妻、女房ヲ、うろこトト云フハ、ヤヤモスレバ嫉妬シテ怒ルニ因リテ、鬼女ノ、兩角アルニヨソヘテ云フナリ。

うろこぐも（名）[鱗雲] ミヅマサグモ。夏秋ノ[illegible]、[illegible]ノ如キ白雲ノ、魚鱗ノ狀ヲナシテ、空ニタナビクモノ、雨兆トス。又、此雲出ヅレバ、[illegible]ノ[illegible]トシテ、[illegible]雲トモ云フ。[illegible]

うろたへもの（名）[狼狽者] 次條ヲ見ヨ。

うろた・へる・ヘル・ヘレ・ヘ・ヘ・ヘヨ（自動、下一）[狼狽]〔うろハ、鈍、失意ノ意、たへるハ、倒れるノ約〕アワツ。迷ヒサワグ。アワテフタメク。トチメク。トッチル。マゴツク。うろたへる人ヲ、うろたへ者ト云フ。[illegible]君コソうろたへものナレ、ト云ヒケレバ」

うろつ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ（自動、四）【彷徨】迷ヒ歩ク。ウロウロスル。

うろぬ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ（他動、四）【疎拔】〔おろぬくノ轉〕おろぬく。多クアルモノヲ、間ヲ隔テテ拔キ取ル。マビク。ヌキスカス。「大根ヲうろぬく」畠ヨリ嫩キ大根ヲウロヌキテ食スルヲ、うろぬき大根ト云フ。

ウーロン（名）【胡亂】〔劉氏鴻書「五胡亂レ華、漢人避レ兵者、凡事皆倉卒、不レ能ニ完備ニ、相率胡亂」（附會ナルベキカ）支那ノ俗語ナリ、うろんトハ、字ノ宋音ニテ、鎌倉時代ニ、禪僧ノ傳ヘタル語ナルベシ、胡散、胡盞、胡曹抄ナド云フ音モ、同ジ〕（一）ミダリナルコト。烏亂。壒囊抄(文安)七、第三條「烏亂」下學集(文安)下、態藝門「烏亂」諺草(元祿、貝原益軒)四、俗語「うろんハ、唐音ナリ、又、胡說、亂道ハ、モト中華ノ俗語ナリ、ミダリガハシキコトヲ云フ」俚言集覽、胡亂「小說語、うろんト訓ズ、妄リガハシキコト、胡論、胡說、トモ讀ム、ミダリニ、ト云フコト、又、ヤリバナシト云フコトニモ叶フ、胡罵、亂罵ハ、メッタニ叱ルコト」（二）轉ジテ、タシカナラヌコト。合點ユカヌコト。怪シク、疑ハシキコト。ウサン。【涉疑】「うろんニ思フ」「うろんナ奴」

ウーロン（名）【烏亂】前條ノ（一）ヲ見ヨ。

うわうざわう（名）【右往左往】右ヘモ往キ、左ヘモ往クコト。四散。平治物語、一、院御所仁和寺御幸事「兵ドモ、右往左往ニ馳セチガヒ」

うわ・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）【植】〔植うノ自動、すう、(据)すわる(坐)〕植エラレテ、立ツ。風俗歌、アダチノ原ニ、タタルカラニ、宇和流カラニ」

うゐ（名）【有爲】佛經ノ語。スルコトアルコト。種種ノ因緣合ヒテ爲サルル生、住、異、滅ノ諸現象。其生、滅、變ジテ極マリナキニ因リテ、有爲轉變ト云フ。コレニ對シテ、無生無滅ナルヲ、無爲ト云フ。以呂波歌「うゐノ奥山、今日越エテ」永久四年百首、雜「うゐノ世ハ、今日カ明日カノ、鐘ノ音ヲ、アハレイツマデ、聞カムトスラム」萬代集、十八、雜、五「有爲ノ世ハ、イヅラ常ナル」太平記、三十三、將軍逝去事「六十餘州、命ニ隨フ者多シトイヘドモ、有爲ノ境ヲ辭スルニハ、伴テ行ク人モナシ」同、三十六、淸氏叛逆事「有爲轉變ノ世ノ習ヒ、今ニ始メヌ事ナレドモ」

ウヰウヰ（名）【回回】ふゐふゐノ條ヲ見ヨ。

うゐき（名）【禹域】〔支那、夏ノ禹王ノ足跡ノ及ビシ區域〕支那ノ異稱。左傳、襄公四年「芒芒禹跡、畫爲二九州一」（跡ハ域ニ同ジ）

ウヰきゃう（名）【茴香】【懷香】〔うゐハ、茴、懷ノ唐音〕支那種ノ草、因リテ古ク、吳のおもノ名アリ。春、宿根ヨリ叢生ス、葉互生シテ、細ソク長キコト絲ノ如ク、莖ト共ニ、白色ヲ帶ビテ香氣アリ、苗ノ高サ六七尺、莖、圓クシテ粗ナリ、夏、枝上ゴトニ、五瓣ノ細小黃花、群リ開クコト、傘ノ如シ、實ヲ藥用トス、長サ二分許、細稜アリ。下學集、下、草木門「茴香」

うゐてんぺん（名）【有爲轉變】うゐ(有爲)ノ條ヲ見ヨ。

ウヰラウ（名）【外郞】〔字ノ唐音〕次條、及、うゐらうもち(外郞餅)ノ條ヲ見ヨ。東海道名所記(萬治)三「小田原、云云、宿ノ右ノ方ニ、外郞アリ、東國海道第一ノ名物也」

ウヰラウうり（名）【外郞賣】〔前條、及、透頂香ノ條ヲ見ヨ〕（一）外郞藥ヲ賣リ行クヲ業トスル者。（二）歌舞伎十八番ノ一、二世市川團十郞、相摸ノ小田原ナル虎屋ノ、外郞藥ノ行商ニ扮シテ、功能ノ科白ヲ、息モツカズ、快辯ニ述ベテ演ズルモノ。

ウヰラウぐすり（名）【外郞藥】とうちんかう(透頂香)ノ條ヲ見ヨ。略シテ、うゐらう。

ウヰラウまめ（名）【外郞豆】たんきりまめノ一名。痰ヲ治スルコト、うゐらうぐすりノ如シトテ、名トス。

ウヰラウもち（名）【外郞餅】米ノ粉ヲ黃ニ染メ、砂糖ヲ加ヘ、蒸シテ方ニ切リタルモノ。色、黑褐ニシテ、形、色、うゐらうぐすりニ似タレバ云フ。略シテ、うゐらう。

うゑ（名）【飢】飢ウルコト。腹ノ減ルコト。神代紀、下二十八「飢饉之始、困苦之根」「飢ヲ忍ブ」飢ニ迫ル」

う・ゑ（動）飢うノ活用、其條ヲ見ヨ。

う・ゑ（動）植うノ活用、其條ヲ見ヨ。

うゑかへ（名）【植替】樹、草ヲ移シテ、植エツクルコト。移植

うゑき（名）【植木】（一）〔他ヨリ移シ來リテ、庭ナドニ植エテ立テル木。萬葉集、廿九「内庭假植ニ樹木ヲ、以作ニ林藪ヲ、云云「打チ靡ク、春トモ著ク、鶯ハ、宇惠木ノ樹間ヲ、鳴キ渡ラナム」（二）小サキ花木ナドヲ、鉢ニ移シ植エタルモノ。盆栽。徒然草、百五十四段「うゑ木、云云、鉢ニ植エラレケル木モ、皆掘リ捨テラレニケリ」

うゑきし（名）【植木師】植木ヲ培養スルヲ業トスル者。種樹家。橐駝

うゑきバチ（名）【植木鉢】植木ヲウヱオクニ用ヰル、方圓、種種ノ瓶。花盆

うゑきや（名）【植木屋】植木ヲ養ヒ、又ハ、庭作リヲ業トスル者。花戶。園丁

うゑこなぎ（名）【植小水葱】水葱ノ條ヲ見ヨ。

うゑこみ（名）【植込】庭先ナドニ、樹木ヲ繁ク植エ込ミタル處。前栽。

うゑこ・む・ム・メ・マ・ミ・メ（他動、四）【植込】草木ヲ、繁ク植ウ。爲忠百首、上「カリニダニ、來ル人モナキ、柴ノ戶ハ、タダ植込めヨ、室ノ早ワセ」

うゑじに（名）【餓死】飢エ果テテ、死ヌルコト。餓死。

うゑじばん（名）【植字版】くっつじばん(活字版)ノ條ヲ見ヨ。

うゑじふ（名）【右衞士府】衞士府ヲ見ヨ。

うゑた（名）【植田】早苗ヲ植ウル田。田植。長元二年大納言家歌合「程モナク、茂キうゑ田ノ、早苗カナ、マジル草葉ノ、取リアヘヌマデ」

うゑつき（名）【植月】〔四月、卽チ、植月ノ義ナリ〕稻種ヲ植エテ、早苗ノ生ヒ出ヅル月。夫木抄、七、早苗「今見レバ、うゑ月近ミ、我ガ門ノ、早稻田ノ苗ハ、ミギハ生ヒニケリ」

うゑつけ（名）【植付】（一）ウヱツケルコト。（二）田植。

うゑつ・ける・ケル・ケレ・ケ・ケ・ケヨ(他動、下二) 植付　植エテ、根ヲ着カシム。

うゑばうさう (名) 植疱瘡　人ノ輕症ノ疱瘡ノ[illegible]ヲ取リテ、人ノ體ニ植エ移スコト。因リテ、天然ノ惡瘡ヲ防グ。天保ノ末年、阿蘭陀ヨリ傳ハル、コレヲ、人痘ト云フ。種痘　牛ニ移シテ、再ビ移スモノ、最モ輕シ、嘉永二年ニ傳ハル、コレヲ、牛痘ト云フ。コレヨリ、スベテ牛痘ノミナリ。牛痘

うゑん (名) 迂遠　マハリドホキコト。直ニ用ヲナサヌコト。(心、術、手段ナドニ云フ) 史記、孟子傳「以爲迂遠、而闊於事情」

うゑめ (名) 植女　(一)田植スル女。早少女。夫木抄、七、早苗「ホトトギス、聲ニうゑめノ、ハヤサレテ、山田ノ早苗、怠マデゾ取ル」 (二)專ラ、攝津ノ住吉神社ノ祭ニ、和泉ノ堺ノ乳守ノ遊女ノ、神ノ御田ニ田植スルヲ云フ。[illegible]女等、ツマ[illegible]メタル[illegible]女トモ、[illegible]レテ、ひぢニオリタルカアラム、ソボチ[illegible]フ程ニ」 夫木抄、七、早苗「早苗取ル、御田ノ植ゑ女モ、色色ノ、袖ヲツラネテ、祝フ今日カナ」

うゑもの (名) 植物　(一)草木ノ類、地ニ生ヒテアルモノ。植物　(二)田畠ニ植エ作ル蔬菜類。

うゑもんふ (名) 右衛門府　ゑもんふ(衛門府)ノ條ヲ見ヨ。

✣う・ゑる・ヱル・ヱレ・ヱ・ヱ・ヱヨ (自動、下二) 饑　うう(飢)ノ口語。

✣う・ゑる・ヱル・ヱレ・ヱ・ヱ・ヱヨ (他動、下二) 植　(一)植うノ口語。種ヲ植エツケル。「野菜ヲうゑる」 [illegible]二[illegible]メコム。[illegible]ベ立テル。[illegible]」

うを (名) 魚　[illegible]ノ[illegible]ニモアルカ、[illegible]語ニ、なト云フ、魚ノ字ノ音ナリ」 いを。ハタノヒロモノ。ハタノサモノ。今又、サカナ。水中ニ棲ミテ、鰭ニテ泳グ、冷血、卵生ノ動物ノ總名。大抵、形、狹ク扁ク長クシテ、鱗アリ、腹ニ鰾アリ、鰓裂ケテ呼吸ス。[illegible]、七年八月、長[illegible]、[illegible]」 萬葉集、十五「宇乎」 倭名抄、十九「魚、宇乎、俗云、伊遠」

うをいち (名) 魚市　魚ヲ賣買スル市。山城名勝志、十八、久世郡「魚市、在淀内、土人云、今淀城地者、昔之魚市也」 江戸名所圖會、一、魚市、[illegible]町、小田原町、安針町等ノ間、悉ク鮮魚ノ[illegible]ナリ、遠近ノ浦浦ヨリ、海陸ノケヂメモナク、鮮魚ヲココニ運送シテ、日夜ニ市ヲ立テ、甚賑ヘリ」

うをうり (名) 魚賣　魚ヲ賣ルヲ業トスル者。いをうり。サカナウリ。サカナヤ。魚商

うをがし (名) 魚河岸　河海ノ魚ヲ上ゲテ、魚市ナド立ツル、水邊ノ地。略シテ、カシ。(東京語)

うをぐし (名) 魚串　魚ノ肉ニ刺シテ炙ルニ用ヰル串、竹、又、銅、鐵、ニテ作ル。いをぐし。

うをごころ (名) 魚心　人ニ好意アレバ、己レモ好意ヲ生ズルコトヲ、魚心あれば水心ト云ヒ、水魚の交りトモ云フ。三國志、蜀志、諸葛亮傳「先主與亮、情好日密、云云、先主曰、孤之有孔明、猶魚之有水也」(先主ハ劉備、字玄德、諸葛亮、字孔明) [illegible]千兩[illegible]、安政、[illegible]ニ「ソレトモ取テ見ヨウト思フナラ、魚心あれば水心ある、岩川、土俵テ逢ハウ」

うをせんべい (名) 魚煎餅　魚肉ヲ、煎餅ノ如クニ作リタルモノ、鱚、[illegible]等ノ肉ヲ[illegible]ニテ包ミ、[illegible]キ、薄ク[illegible]、[illegible]ニテ乾カス。

うをたか (名) 魚鷹　(好ミテ魚ヲ食ヒ、[illegible]ニ似タリ[illegible]) [illegible]ノ異名

うをだな (名) 魚店　(一)ウヲノタナ。(二)ウヲヤ。サカナヤ。

うをつき (名) 魚附　魚ノ、寄リ集ルコト。[illegible]三十六、[illegible]ニ[illegible]付ノ[illegible]ベ、[illegible]人知リ」

うをつけ (名) 魚附　海邊ナドニ植エツケタル、黒松ナドノ森林ノ名。影、海水ニ落チテ、水中暗ク、魚類ヲ寄附カシメ、又、森林中ニ棲ム蟲類、[illegible]生物ヲ海中ニ送リ、魚ノ餌トモナルナリ。

うをのたな (名) 魚棚　魚屋多キ街。サカナダナ。魚肆　[illegible]日記[illegible]ノ、[illegible]クキモ[illegible]シ、魚のたな」

うをのみ (名) 魚躬　魚ノ肉ノ、乾シテ、側ルベキモノ。[illegible]

うをへん (名) 魚偏　漢字ノ偏ニアル、魚ノ字ノ稱。鯛、鯉、[illegible]等ノ如シ。魚旁　[illegible](天文[illegible]魚」

うをみ (名) 魚見　海邊ノ高キ處ニ居テ、海中ニ魚ノ集ル處ヲ見届クルコト、漁夫ニ、出魚ノ方向ヲ告ゲ知ラス。[illegible]魚見番所」

うをや (名) 魚屋　魚類ヲ賣ル家。ウヲダナ。サカナヤ。魚戸

え

え　五十音圖、[illegible]行、第四ノ假名。(あノ條ヲ見合スベシ)此音ハ、う、又ハ、ふ(うノ如ク呼ブモノ)ニ連ルトキハ、よノ如ク呼ブコトアリ、えう、(要)えふ(葉)ノ如シ。

え (名) 兄　(上ノ約ニテ、(年上)ノ約ナラム)男ノ、弟ニ對スル語。[illegible]抄、六「兄國、江久爾」 あに、又、おね(兄)ハ、男ニ限ル、多クハ、[illegible]ニ用ヰラル。古事記、中「[illegible]」 [illegible]、七年八月、兄[illegible]、[illegible]弟媛」

え (名) 枝　えだ(枝)ノ條ヲ見ヨ。

え (名) 肢　えだ(肢)ノ條ヲ見ヨ。

え (名) 江　(湖海ノ枝ノ義カ) 湖海等ノ、陸ニ入リコミタル處。イリエ。[illegible] 古事記、下「[illegible]」[illegible] 名抄、一八河海類「江、衣」

え (名) 柄　(枝ノ義) 器ニツキテ、長ク出デテ、用ヰル時ニ持ツ處。[illegible] 倭名抄、十六、[illegible]「[illegible]ノ柄」「銚子ノ柄」 詞尻ヲ取リオサヘテ、理窟ノ種トスルヲ、柄をすげるト云フ。

え (名) 胞　(家ノ約カ、胎兒ヲ包メバナリ) [illegible]子乃[illegible]、[illegible]「[illegible]」 神代紀「先以淡路洲爲胞」 景行紀、二年二月「[illegible]小碓尊、一日同胞而雙生」(同腹ノ意)

え (名) 役　(古キ語ニテ、役ノ音ナラズ、和訓栞ニ、[illegible]ノ語ナリト云フ[illegible]、[illegible]、ゆき

ノ、ゆノ轉カト云フ、徭役ハ、身行ナリ」エダチ。ミユキ。役。夫役。崇神紀、十二年九月「始校二人民一、更科二調、役一」仁德紀、六十年十月「差二白鳥陵守等一、充二役丁一」天武紀、下、二年三月「課役、悉免」萬葉集、十六廿「檀越ヤ、然モナ言ヒソ、テコラ我ガ、課役ハタラバ、汝モ半カム」姓ニ、役連、役君ナドアルハ、役ノ事ヲ掌リシ家ナルベシ。

え (名) 疫 〔疫ノ音ニハアラズ、和漢暗合ノ語、人人ノ病ムガ、役ニ差サレテ立ツニ似タル故ノ名カト云フ、說文「疫、民皆疾也」釋名「疫、役也、言有レ鬼行レ役也」〕エヤミ。トキノケ。疫病。流行病。崇神紀、五年「國内多二疫病一」古事記、中(崇神)六廿「疫病多起、人民死爲盡」大鏡、下、道長、長德年中、疫行ハレテ「大臣、公卿、多ク失セタマヒシニ、云云、中關白殿(道隆)ハ、四月六日出家シタマヒテ、十日失セタマヒヌ、ソレハ、世ノえニハオハシマサズ」(日本紀略ニ、長德四年赤疱瘡大ニ行ハルトアリ)

え (名) 好 〔形容詞ノ、えし(好)ノ語根、通ジテ、よし(可)〕好キコト。愛シキコト。美シキコト。古事記、中(神武)十一「最先立テル、延ヲシ纏カム」(一行中ノ美人ナリ) 神代紀、上六「可愛少男」可愛、此云レ哀」「日吉」住吉」吉方」

え (名) 荏 草ノ名。苗、葉、花、實、共ニ、紫蘇ニ同ジクシテ、莖、葉ノ、色ノ青ク、花ノ白キヲ異ナリトス、因リテ、白紫蘇ノ名アリ、植ヱ作リテ、子ヨリえのあぶらヲ取ル、油荏、荏胡麻ノ名モアリ。天治字鏡、七十八「花、衣」(倭名抄、同ジ) 書言字考節用集、六、生植「白蘇草、荏(木名、亞麻)」

え (名) 榎 えのきノ條ヲ見ヨ。

え (名) 宴 宴ノ約。サカモリ。堤中納言集「三月下ノ十日、京極ノ藤ノ花ノえ、シ侍リケル時」清正集「内ニ、十月十四日ニ、壺ノ前栽ノ菊ノえニ」

え (動) 得ノ活用、其條ヲ見ヨ。

え (副) 能 〔形容詞ノえし(好)ノ活用ノ、えくヲ略シテ、副詞ニ用キルナリ、卽チ、能くナリ、關西ニテ能う讀まぬ、能う書かぬト云フ、是レナリ〕(一)能ク。堪ヘテ。下ニ必ズ、打消シ、又ハ、反語ヲ呼應セシム。(な行キそ、な取リその如シ) 萬葉集、十二三十四「旅寐、得爲ヤ、長キ此夜ヲ」伊勢物語、第五段「女ヲ、え得ズナリニケルコト」竹取物語「燕ノ子安貝ハ、云云、サテハえ取ラセタマハジ」同、龍ノ首ノ玉「男ドモ申サク、此玉、タヤスクハ、え取ラジ」宇津保物語、藏開、下二十三「今宵ハえ(行カジ)ト云ヒテ、シブラセタマフ」(下略シテモ、打消ノ意ハ聞コユ) (二)敢ヘテ。强ヒテ。神代紀、上十八「不敢來」源、三、空蟬「ワビシケレドモ、えヘタ押シカヘサデ」大和物語、百四十三段「强ヒテモ、え言ヒニククテ」(三)ヨクモ。ヨウモ。源、十三、明石二十「えモイハヌ、入江ノ水ナド、繪ニカクハ、心ノイタリ少カラント」宇津保物語、祭使二「舍人三十人、えモイハズソウゾカセテ」玉葉集、十四、雜、一「霜氷、トヂタル頃ノ、水莖ハ、えモ書キヤラヌ、ココチノミシテ」

え (感) 〔あニ通ズ〕應フル聲。エイ。エエ。

えい (名) 纓 〔纓、冠系也トアレバ、上緖ナリ、其餘垂ニ、纓ノ名ノ移リシモノカ、或ハ、燕尾ヲ、えひト約メ、纓ヲ借字トセシモノカ〕冠ノ具。元ハ巾子ノ根ヲ締メタル紐、卽チ、上緖ノ餘リノ、背ニ垂レシモノ。後ニハ、別ニ羅ヲ以テ作レリ。一名、燕尾。幞頭後脚 冠脚 天皇ノ纓ハ上ニ向フ、立纓ト云フ、諸臣ノハ垂ル、垂纓ト云フ、武官ノハ内ニ卷ク、卷纓、卷纓ト云フ、其六位以下ノハ、形、細ソシ、細纓ト云フ、又、繩纓アリ。倭名抄、十二八十冠帽具「纓、俗云、燕尾」源、三十、藤袴三「宰相中將、云云、直衣姿、云云、えい卷キ給ヘル」

えい (名) 影 影像ノ略。尊ビテ、御影ト云ヒ、影供、御影供、影堂ナド云フ語モアリ。著聞集、十一、畫圖「北面下﨟、御隨身ナドノ影ヲ、左京權大夫信實朝臣ヲ召シテ、書カセラレケルニ」

えい (名) 永 〔永ハ、ゑいノ音ナレド、姑ク舊慣ノ假名遣ニ從ヘリ、次條以下ノ詠、咏、榮等モ、然リ〕永代、永高ノ略。永樂錢ノ條ヲ見ヨ。深谷記「御褒美ニ、次郎兵衞ニ被レ成、永拾貫之處被レ下候事」

えい (名) 詠咏 (一)詠ズルコト。歌フコト。詠ミタル詩歌。「御製ノ詠」花鳥ノ詠」(二)舞樂ノ舞ノ中ニ、舞人ノ朗詠スル詞。囀トモ云フ、其條ヲ併セ見ヨ。源、七、紅葉賀二「源氏ノ中將ハ靑海波ヲゾ舞ヒタマヒケル、云云、舞ノ足踏ミ、オモモチ、世ニ見エヌサマナリ、詠ナドシタマヘルハ、是レヤ、佛ノ御迦陵嚬迦ノ聲ナラムト聞コユ、云云、詠ハテテ、袖打チ直シタマヘルニ」續教訓抄(文永)「舞詠事、或人云、舞樂ノ曲ニ、詠ト云フコトアリ、思ヲノブル義ナリ、其心ヲ、口ニノブル故ニ、囀トモ云ヘリ」

えい (名) 榮 〔辱ニ對ス〕サカエ。ホマレ。面目。名譽。老子、道德經「知二其榮一、守二其辱一」「一身ノ榮ナリ」

えい (名) 營 兵士ノ宿舍。陣屋。史記、淮陰侯傳「足下、深レ溝高レ壘、堅レ營勿二與戰一」

えい (名) 穎 カヒ。稻ノ穗ヲ切リタルモノ。主稅式、下「穀若干石、穎若干束」江家次第、四、定二受領功課一事「本穎條、莂レ本謂二之稻一、切レ穗謂二之穎一」

えい (名) 銳 〔鈍ニ對ス〕(一)スルドキコト。利。「其銳、不レ可レ當」(二)ツハモノ。强キ兵士。「蓄レ銳來攻」

えい (名) 裔 スヱ。ハツコ。アト。子孫。「何某ノ裔ナリ」

えい (名) 翳 〔急就篇、註「翳、謂下凡鳥羽之可二隱翳一者上也、舞者所レ持、羽翻以自隱翳、因名爲レ翳」〕(一)ハ。サシバ。キヌガサ。(二)オホヒ、カクスコト。クモルコト。司馬相如文「搶二長狹一以自翳兮」「大空、一點ノ翳ナシ」

えい (名) 嬰 音譜ノ一種。或ル音ノ度ヲ、半音高クセントスル時ニ、其ノ譜ノ左側ニ、附記スル♯ノ形ノモノ。

エイ (名) 英 英吉利ノ略ニテ、英ノ字ヲ音讀スル語。「英國」英人」英學」英語」

✤えい (形) 吉し、吉きノ音便。好シ。好キ。關西ノ口語。關東ノ、いい。

えい (感) 應フル聲。エ。エエ。宇治拾遺、一、十二條「スベナクテ、無期ノ後ニ、えいト應ヘタリケレバ」

えい (感) 曳 (一)力ヲ入ルルトキ、發スル聲。國性爺合戰(享保、近松作)千里竹「聲ヲ力ニえいえいえい」(二)呼ビカクル聲。謠曲、檀風「コチノ風、向ウテ西ニナサウゾ、えい」(三)激シタルトキ、發スル聲。薩摩歌(寶永、近松作)下「えい、ヨイ加減ナ事バカリ」(四)驚キタルトキ、發スル聲。狂言記、二人大名「えい、コナ、何ト思ウテ、御出デ御ザルゾ」

えい-あづけ (名) 永預 刑ノ名。あづけノ(二)ヲ見ヨ。

えい-い (名) 銳意 一心コムルコト。專心。後漢書、朱穆傳「及レ壯耽レ學、銳意講誦」

えい-えい (副) 永永 ナガク、ナガク。イツマデモ。永久。漢書、匡衡傳「永永不レ易」義經腰越狀(千蔭莊主人)「未來永永、大事ノ我子」

えい-えい (感) 曳曳 曳ノ條ノ(一)ヲ見ヨ。

えい-えい-と (副) 營營 イトナミ、イト

ナミテ。ウキミヲヤツシテ。齷齪。[illegible]日ヲ送ル」

えいえう（名）榮耀 榮ニ榮ユルコト。約メテ、ええう。榮華。[illegible]

えいくわ（名）詠歌 （一）歌ヲ詠ズルコト。和歌ヲ詠ミ作ルコト。（二）詠ミタル歌。ヨミウタ。[illegible]（三）御詠歌ノ條ヲ見ヨ。

えいがい（名）嬰孩 「釋名、人始生曰ニ嬰兒、胷前曰ニ嬰、抱ニ之嬰前、乳ニ養之、故曰ニ嬰、一曰、女曰ニ嬰、男曰ニ孩」ミドリゴ。チゴ。チノミゴ。嬰兒。老子、第二十章「如ニ嬰兒之未ニ孩」[illegible]「嬰孩、エイガイ」

えいかく（名）鋭角 角度ノ條ヲ見ヨ。

エイがく（名）英學 いぎりす國ノ語學。[illegible]

えいかん（名）叡感 天子ノ、感ジオボシメスコト。御感。[illegible]

えいかんぶし（名）永閑節 江戸淨瑠璃節ノ一派。[illegible]ノ頃、薩摩淨雲ノ弟子、虎屋永閑ノ創メタルモノ。

えいき（名）鋭氣 スルドキ氣性。史記、淮陰侯傳「鋭氣挫ニ於險塞ニ[illegible]」「鋭氣、勃勃タリ」

えいき（名）盈虧 （一）月ノ旋ル位置ニ因リテ、其光ノ、盈チ、又、虧クルコト。

[illegible]衰フルト。榮枯。[illegible]

えいきう（名）永久 ナガク、ヒサシキコト。永永。永遠。詩經、小雅、彤弓之什、六月篇「來ニ歸自ニ鎬、我行永久」

えいきうし（名）永久齒 齒ノ條ヲ見ヨ。

えいきやう（名）影響 原因ト、結果ト、必ズ相伴フコト。サシヒビキ。書經、大禹謨篇「惠ニ迪吉、從ニ逆凶、惟影響ニ」漢書、江充傳「下之應ニ上、猶ニ影之隨ニ形、響之應ニ聲」

えいきよく（名）郢曲 （郢ハ、支那ノ楚國ノ都ノ名、其地ノ俗曲ト云フ語）うたひものノ名。催馬樂、朗詠、今樣歌等ニ、宴曲ヲモコメタル總稱。十訓抄、下、第十、十七條「成通卿、郢曲ニスグレタマヘリ」徒然草、十四段「梁塵祕抄ノ郢曲ノ詞コソ、マタアハレナル事ハ多カメレ（梁塵祕抄ハ、後白河院ノ御作）」太平記、十二、公家一統政道事「無ニ指事ニ郢曲妓女ノ輩、蹴鞠伎藝者共」

えいぐ（名）影供 神、佛、故人ナドノ影像ニ供物シテ、祀ルコト。尊ビテハ、御影供ト云フ、其條ヲ見ヨ。續古今集、十九、雜、下「建長六年正月、柿本ノ影供シ侍リシニ、眞影ヲワタシツカハストテ、云云」十訓抄、上、第四、第二條「柿本人麿畫像、六條修理大夫顯季卿、云云、信茂ヲカタラヒテ、書キ寫シテ持タレタリケリ、云云、本尊トシテ、始テ影供セラレケル時ニ」

エイくわ（名）英貨 いぎりす國ノ貨幣。「[illegible]貨磅」

えいぐわ（名）榮華 「爾雅、釋草「木謂ニ之華、草謂ニ之榮ニ」」（一）花盛リノ如ク、映ユルコト。時メキ、榮ユルコト。富貴ナルコト。榮耀。[illegible]

[illegible]物語、百一段「大キオトドノ榮花ノ盛リニミマソカリテ、藤氏ノ殊ニ榮ユルヲ思ヒテ詠メル」（二）[illegible]別當ニ成リタマフ、云云、然雅卿ハ榮華ノ人ナリ、家榮ニテ、榮エラレケルコソ遺恨ナレ」

えいぐわええう（名）榮華榮耀 ええうハ、えいえうノ條ヲ見ヨ。[illegible]

えいけつ（名）英傑 智力ノ、衆ニスグレタル人。英雄。豪傑。[illegible]

えいけつ（名）永訣 「說文「訣、別也」」永別ニ同ジ。多クハ、死ニ云フ。[illegible]

えいげふ（名）營業 ナリハヒ。スギハヒ。ヨワタリ。渡世。

えいげふぜい（名）營業稅 商工、等、營業ノ利益ニ就キテノ稅。一定ノ率アリテ課セラル。

えいこ（名）榮枯 榮ユルト、枯ルルト。盛ンナルト、衰フルト。消長。[illegible]

えいご（名）英悟 スグレテ、サトキコト。[illegible]

えいご（名）穎悟 サトク、カシコキコト。[illegible]

エイご（名）英語 いぎりす國ノ言語。[illegible]

エイこく（名）英國 いぎりす國ノ略稱。[illegible]

えいごふ（名）永劫 ヤウゴフ[illegible]ノ條ヲ見ヨ。[illegible]

えいこん（名）英魂 英傑ノ亡魂。死者ノ靈ヲ褒ムル詞。英靈。[illegible]

えいごゑ（名）曳聲 感動詞ノ、曳ノ條ノ（一）ヲ見ヨ。宇治拾遺、一、第三條「スヂリモヂリ、えいごゑヲ出シテ、一庭ヲ走リマハリ舞フ」

えいさい（名）英才 勝レテ敏キ才。[illegible]

えいさう（名）詠草 詠歌ノ草稿。[illegible]

えいさう（名）營倉 陸軍ノ罪人ニ課スル罰。一定ノ日數アリテ、兵營内ノ一處ニ禁錮セラル。

えいざう（名）影像 略シテ、影。エスガタ。繪。畫像。肖像。[illegible]「影ハ、御えいざうヲ書カムトテ、イソギケリ」

えいざう（名）營造 イトナミ、ツクルコト。營作。[illegible]

えいざうぶつ（名）營造物 家、建物、道路、鐵道、公園ナドノ稱。

えいさく（名）營作 營造ノ語ニ同ジ。[illegible]

えいさま（名）永樣 人ノ名宛ノ下ニ書ク、樣ノ字ノ下ノ、永ノ字ヲ、分明ニ書クコト。即チ、行書、草書ナラズ、楷書ニ正シク書クナリ、最モ尊敬スル書法

ナリ。次ナルハ、旁ヲ美ノ字ノ草體ノ如クニ書クヲ、びざまト云フ。

えい-さん　(名)　叡算　〔叡ハ、說文「深明也、通也」トアリテ、物事ニ通明ナルヨリ、スグレタル義、算ハ、カゾフル義〕天子ノ御年齡。寶算。歐陽修、祝壽「叡算綿長、等乾坤而不老」

えいざん-かたばみ　(名)　叡山酸漿　〔近江ノ比叡山ヨリ出ヅ、以下、叡山ト冠スル語、皆、同ジ〕酸漿ノ一種。葉大キクシテ、一寸ヨリ二寸ニ至リ、末ニ尖アリ、春、白花ヲ開ク、大キサ七八分、又、淡紅花ナルモノモアリ。白花酸漿草

えいざん-こう　(名)　映山紅　キリシマツツジ。遵生八牋「映山紅、木名、山躑躅花、類杜鵑稍大、單瓣色淺、若生滿山頂、其年豐稔、人競採之」

えいざん-ごけ　(名)　叡山苔　あたごごけニ同ジ。

えいざん-すみれ　(名)　叡山菫　えぞすみれニ同ジ。

えいざん-びる　(名)　叡山蒜　蘭(茖葱)ニ同ジ。

えい-し　(名)　叡旨　〔集韻「叡、古作睿」、然今經傳、通作睿」(康熙字典)〕天子ノオボシメシ。梁元帝、法寶聯璧序「仰稟神規、恭承睿旨」

えい-し　(名)　英姿　スグレタル、スガタ。後漢書、二十八將傳、論「英姿茂績、委而勿用」

えい-し　(名)　英資　スグレタル、ウマレツキ。班固、薦謝夷吾表「英資挺特、奇偉秀出」

えい-し　(名)　詠史　歷史ノ事實ヲ、詩歌ニ詠ムコト。別ニ、詠物ト云フアリ。晉書、袁宏傳「會爲詠史詩、是其風情所寄」

えい-じ　(名)　嬰兒　〔嬰孩ノ語原ヲ見ヨ〕ミドリゴ。チノミゴ。嬰孩。老子、第二十章「嬰兒之未孩」、終日號而不嗄」

エイ-じ　(名)　英字　いぎりす國ノ文字。

えいじ-ぎん　(名)　永字銀　永字丁銀、及、永字豆板銀ノ總稱。永中。永中銀。中字銀。二寶字銀。貨幣通考「寶永七年三月六日、又、新銀ヲ鑄ル、其ノ銀、寶字、兩頭ニ二ツ、中ニ、永字ノ極印アリ、之ヲ、中銀トモ、永字銀トモ、二ツ寶字銀トモ云フ」

えいじ-こばん　(名)　永字小判　德川幕府ニテ、寶永七年ニ鑄造、發行シタル小判金、永ノ字ヲ極印ス。又、永字銀モアリ。

えいじ-ちゃうぎん　(名)　永字丁銀　寶永七年三月、德川幕府ノ鑄造セシ丁銀。面ノ兩頭ニ寶ノ字二ツ、中ニ永ノ字ノ極印アリ、縱ハ三寸二分、横ハ一寸、重量ハ四十七匁八分ニシテ、品位ハ銀四、銅六ナリト。

えい-じつ　(名)　永日　晝ノ間ノ永キ日。長日。春ノ日ニ云フ。春日。遲日。朗詠集、上、三月盡「竹院君閑銷永日、花亭我醉送殘春」

えい-じつ　(名)　營實　薔薇ノ實ヲ、藥用トスル時ノ稱。

えいじ-はっぽふ　(名)　永字八法　書法ノ運筆ヲ、永ノ字ヲ例トシテ、其一字ノ內ノ諸畫ニテ、示シ敎フルコト。支那、漢ノ蔡邕ノ創定トモ傳ヘ、或ハ、晉代ノ某夫人ノ唱ヘ出シタルコトトモ云フ。永ノ上ノ點ヲ上點(又、側)、次ノ横畫ヲ平横、(勒)直畫ヲ中直、(努)其末ノ跳ヲ下勾、(趯)左方ノ初畫ヲ左挑、(策)其次ノ畫ヲ右拂、(掠)右方ノ初畫ヲ左撇、(啄)其次ノ畫ヲ右捺(磔)ト云フ。事類全書「法苑曰、王逸少(羲之ノ字)工書、十五年中偏工永字、以其八法之勢能通一切字也、永字八畫也」

えいじ-まめいたぎん　(名)　永字豆板銀　寶永七年三月、德川幕府ノ鑄造セシ豆板銀。面ニ寶ノ字、背ニ永ノ字ノ極印アリ、縱ハ五分强、横ハ五分五厘、重量ハ二匁八分ニシテ、品位ハ百分中、約銀四十分、銅六十分ナリト。

えい-しん　(名)　詠進　詩歌ヲ詠ミテ奉ルコト。

エイ-じん　(名)　英人　いぎりす國ノ人。

えい-しゃ　(名)　影寫　スキウツシ。シキウツシ。

えい-しゃく　(名)　榮爵　(一)爵位ヲ、譽レアルモノトシテ云フ語。史記、平津侯主父傳、賛「寵備榮爵、身受肺腑」(二)五位ノ異稱。始メテ五位ニ敍セラルルヲ、敍爵ト云ヒテ榮譽トス。五位以上ヨリ位田アルガ故ナリ、五位ヲ賣買スルコトナレリ、位田附屬スレバナリ。江記、天仁元年十一月廿一日「銀千三百兩進了之後、更有三百兩之責、予後問行事辨、辨云、依寬治例、募榮爵一人所催也、依銀不足也」今昔物語、廿七、第十七語「今昔、東ノ方ヨリ、榮爵尋テ買ハムト思テ、京ニ上リタル者アリケリ」

えい-しゅ　(名)　贏輸　ゆえい(輸贏)ニ同ジ。

えい-しょ　(名)　營所　陣屋。兵營。後漢書、种暠傳「桓帝擢暠爲度遼將軍、暠到營所、先宣恩信、誘降諸胡」

エイ-しょ　(名)　英書　いぎりす文ノ書籍。

えい-じょく　(名)　榮辱　榮ト、辱ト。易經、繫辭、上傳「言行君子之樞機、樞機之發、榮辱之主也」

えい・ず・ズル・ズレ・ゼ・ジ・ゼヨ(自動、左變)　映　ウツル。「影、鏡ニ映ず」

えい・ず・ズル・ズレ・ゼ・ジ・ゼヨ(他動、左變)　詠　〔說文「詠、歌也」玉篇「長言也」〕(一)詩歌ヲ、聲永ク讀ム。ウタフ。吟ズ。書經、益稷篇「戞擊鳴球、搏拊琴瑟以詠」崇神紀、十年九月「重詠之先歌」(二)詩歌ヲ作ル。詠ム。

えい-せい　(名)　叡聖　叡智アル聖。天子ノ聖德ヲ稱贊シ奉ル語。漢書、敍傳「賈生嬌嬌、弱冠登朝、遭文叡聖、屢抗其疏」「叡聖文武皇帝陛下」

えい-せい　(名)　營生　生活ヲイトナムコト。ナリハヒ。スギハヒ。クチスギ。晉書、陶潛傳「不營生業」

えい-せい　(名)　永世　永キ世。世ノアルカギリ。世世。永代。永年。詩經、周頌、小子之什、閔予小子篇「於乎皇考、永世克孝」

えい-せん　(名)　永錢　永樂錢ノ略。其條ヲ見ヨ。深谷記「ツラ役ト名付、永錢壹文ヅツ、三十三鄕御取被成」

えい-ぜん　(名)　營繕　(土木ニ云フ)修理。ツクロヒ。修復。晉書、桓伊傳「比年營繕、並已修整」

えい-せんじ　(名)　永宣旨　永代、不易ノ宣旨。太平記、十七、山門牒送南都事「當國(近江)ノ國衙ヲ、山門(延曆寺)永代管領スベキ由、永宣旨ヲ成シテ、補任セラル」

えい-ぞく　(名)　永續　ナガク、ツヅクコト。ナガモチ。(家名、商業ナド)繼紹

えい-たい　(名)　永代　永世ニ同ジ。魏武帝、令「趙奢竇嬰之爲將也、受賜千金、一朝散之、故永代流聲」

えいたい (名) [永代] 永樂錢ノ條ヲ見ヨ。

えいだう (名) [影堂] 先祖ナドノ影像、位牌ナドヲ祀リ置ク堂。[illegible]

えいだか (名) [永高] 永樂錢ノ條ヲ見ヨ。[illegible] 永高ハ、貫高トハ別ニシテ、石高以前ノ東國ニテ、年貢ヲ永樂錢ニツモリテ、知行、[illegible]ナドニ、直チニ此ノ永高ヲ用フル」

えいたつ (名) [榮達] 高位、高官ニ進ムコト。 荀子「[illegible]以自富、[illegible]以道自正」

えいだつ (名) [穎脫] (穎ハ正字通「士才能拔類者」) 群ヲ拔キイデタルコト。 史記、平原君傳「使遂蚤得處囊中、乃穎脫而出」

えいたん (名) [詠歎] 感歎ニ同ジ。多ク、詩歌、言語ノ上ニ就キテ云フ。 禮記、樂記「[illegible]詠歎之、[illegible]之」

えいだん (名) [英斷] 敏クシテ、躊躇ハズ決斷。勇斷。 [illegible]

えいち (名) [叡智] 勝レテ敏キ智。 易經、繫辭、上傳「古之聰明叡知、神武而不殺者夫」

えいちう (名) [裔冑] 遠キ子孫。後裔。 左傳、襄公十四年「昌、我諸戎、是、四嶽之裔冑也」

えいちがうし (名) [江市格子] 次條ノ語ノ略。

えいちやがうし (名) [江市屋格子] (元祿ノ頃、江戸ノ町人、江市屋宗助、創意セシモノト云フ (嬉遊笑覽、一)) 格子戸ノ子ヲ、三角ニ削リテ、僅ナル透間ヲ置キ、竝べ打チツケタルモノ。内ヨリハ透カシテ外ヲ見得レドモ、外ヨリ内ハ見エズ。(狐格子ヲ併セ見ヨ) 略シテ、えいちがうし。

えいちう (名) [營中] [illegible] 江戸城ニテハ、殿中ト云ヒキ。[illegible]

えいぢう (名) [永住] 永ク、一所ニ住付クコト。

えいてん (名) [榮典] 映アル典。人ノ名譽ヲアラハス表章。

えいてん (名) [榮轉] 高キ地位ノ職ニ轉任スルコト。 宋書、武帝紀「[illegible]」

えいでん (名) [營田] 營作スル田地。王朝時代ニ、官府ノ壯丁ヲシテ營作セシムル者ヲ、公營田ト云ヒ、人民ノ私費ヲ以テ營作スル者ヲ、私營田ト云フ。 類聚三代格、易田并公營田事、弘仁十四年二月廿二日、太政官謹奏「應令大宰府管内諸國、佃公營田事、云云、須下調庸者、夏月以正稅充價而交易、秋收之後、以營田之穫返納上」

えいとう (感) (叟と叟叟との延) 勢ヨク進ム掛聲。 狂言記、老武者「老武者ナレドモ、切先ヲ揃エテカカリケリ、えいとうえいとう」 芝居ナドノ口上言ノ詞「えいとうえいとう、御來駕ノ程、願ヒ奉ル」

えいねん (名) [永年] 永世ニ同ジ。ナガネン。 北史、邢巒傳「臣寧容不務永年之宅」

えいびん (名) [銳敏] (一) サトキコト。ハシコキコト。 左傳、哀公十一年「子羽銳敏」「天性銳敏」 (二) 感覺ノ、スルドキコト。「神經銳敏」

えいぶつ (名) [英物] 衆ニスグレタル人。英傑。 晉書、桓溫傳「溫生未期、溫嶠見之曰、此兒有奇骨、可試使啼、及聞其聲曰、眞英物也」

えいぶつ (名) [詠物] 詩ノ一體。物事ヲ題トシテ、其物事ノ名ヲ言ハズ、其物事ヲ形容スル詞ノミ連ネテ、其物事ナリト覺リ知ラルルヤウニ詠ムモノ。多クハ、五言律、七言律ニテ作ル。 [illegible]詩ヲロズサム、牡丹カナ」

えいぶん (名) [叡聞] 天子ノ、聞セタマフコト。 [illegible] 入洛ノ由、叡聞ニ及ブ間」

エイぶん (名) [英文] いぎりす語ノ文章。

えいべつ (名) [永別] (別ハ、增韻「解也、訣也」トアリ) 永ク、別レ遠ザカルコト。永訣。

えいまい (名) [英邁] (詩經、小雅、註「邁、過也」) タチマサリ、スグレタルコト。 梁書文帝、作詩序「英邁八解心、高蹈七花意」

えいめい (名) [榮名] 光榮アル名譽。榮譽。 史記、[illegible] 三國誌(享保、近松作) 二「小節ヲハカルモノハ、榮名ヲナスコトナク」

えいみん (名) [永眠] 永久、ネムルコト、即チ、死スルコト。

えいや (名) [永夜] 夜ノ間ノ、永キコト。ナガヨ。冬ノ夜ナドニ云フ。 王安石詩「松聲悲永夜、荷風[illegible]初涼」

えいや (感) 感動詞ノ、叟ノ條ノ(一)ヲ見ヨ。 平治物語、二、待賢門軍事「[illegible]云云、てへんニ打懸テ、えいやト引バ」

えいやう (名) [榮養] (蘭語、Voeding. (英語、Feeding.) ノ譯語ナリ、此語、營養ト書クハ、誤ナリ) 動物ガ、外物ノ養分ヲ、鼻口ヨリ取リ、消化ノ作用ニ因リ、[illegible]ガ體ヲ養ヒテ榮エシメ、生活ヲ維持スルコト。(植物ニモ、此理行ハル) 晉書、[illegible] 杉田玄白書牘(和蘭醫事問答、下)「血ハ榮ニ[illegible]」 [illegible] 原病要ニモ、榮養トアリ。

えいやおう (名) 感動詞ノ、叟ノ條ノ(一)ヲ見ヨ。「ナギタル朝ノ海ニ、舟人ノえいやおう、珍ラシク聞ユル」

えいやっと (感) 叟叟ノ[illegible]便、力ヲ出ス聲ヨリ轉ジ[illegible] ヤウヤク、ヤット。 [illegible]リケレバ「えいやっと、越エヌル年ヤ、二マタゲ」

えいやっと (感) 次條ノ音便。[illegible]「下ヨリモ、えいや、と云ウテ、ハネカヘシ」

えいやと (感) 力ヲ入ルル時、發スル聲ニ云フ語。

えいゆ (名) [贏輸] (輸ハ、廣韻「式朱切」集韻、韻會「春朱切」正韻「商朱切」竝ビニ音輸ナルヲ、ゆト讀ムハ、慣習ニテ、誤リナリ、えいしゅト讀ムヲ本音ナリトス) ゆえい(輸贏)ニ同ジ。

えいゆう (名) [英雄] (一) 才能、智力ノ、萬人ニ勝レタル人。 [illegible] (二) 次條ノ語ノ略。其條ヲ見ヨ。

えいゆうけ (名) [英雄家] 清華ノ家ノ異稱。榮華。花族。略シテ、英雄トノミモ云フ。 [illegible] 今鏡、中、第六、宮城野「[illegible]」 平家物語、一、鹿谷事ノ條ニモ、實定ヲ花族英雄トアリ。

えいよ (名) [榮譽] 映アル譽。 常建詩「榮

譽失ニ本眞ニ」

えい-よ　(名)　［贏餘］　アマリ。ノコリ。

えい-らう　(名)　［永牢］　刑ノ名。德川氏ノ制ニ、終身、牢ニ禁メ置クモノ。

えいらく-せん　(名)　［永樂錢］　支那ノ明代ノ、永樂年間ニ鑄テ、發行セシ錢ノ名。面ニ永樂通寶ノ字アリ、將軍足利義滿、明國ト交通シ、此一文錢、多ク我ガ邦ニ渡リ、遍ク民間ニ通用セリ。略シテ、永錢トモ云ヘリ。錢質、良好ニシテ、永錢一文ニ、當時通用セシ他ノ鐚錢四文替ヘノ價格ナリシト云フ。物ヲ、永錢ニ代ヘテ算用スルヲ、永代ト云ヘリ。又、永樂錢知行ト云フコトアリキ、分錢ノ貫高ヨリ移リテ、租米ヲ、永錢ニテ代納セシコトアリシヨリ、起レルナルベシ、略シテ、永高、又、永トノミモ云ヒ、知行永幾貫文ナド云ヘリ、永高ト云フモノ、一貫文ハ、後ノ十石ニ當ルト云ヘド、各地ニテ區區ナリキ。(貫ノ條ヲ併セ見ヨ)　房總志料、一ニ、里見氏、永錢ニテ知行ノ割アリシニ、一貫文ハ十石ナル由、見ユ。夏山雜談(寬保)三、永樂錢知行「畿內近國ハ、百貫ヲ千石ニ宛テ、遠國ハ八百石、七百石、六百石、五百石ニ宛テタル所モアリ、畿內近國、其外、廳邑ハ、運送タヤスキ故ニ、八木ノ價賤シ、遠國僻地ハ、運送艱難ニシテ、價ヤヤ貴シ、是故ニ、國國、價、同ジカラズ」

えいらく-やき　(名)　［永樂燒］　陶器ノ名。文化年中、京都ノ風爐師、善五郞了全ト云フモノ、支那、明ノ永樂年製ノ陶器ヲ摸シテ燒キ始メ、永樂ヲ氏トス。赤繪、靑繪、金襴手等、種種アリ。

えい-らん　(名)　［叡覽］　天子ノ、覽ハスコト。天子ノ御覽、天覽。鏡起、蓋地圖賦「資ニ重華之叡覽ニ」　參考、保元物語、一、後白河院御卽位事「雲井ノ月ヲ、叡覽アリケルニ」

えい-り　(名)　［銳利］　刃物ナドノ、スルドキコト。田錫、倚ニ天劍ニ賦「天老練ニ日時之吉ハ、太一詳ニ銳利之符ニ」

えい-り　(名)　［榮利］　榮譽ト、利益ト。魏志、張範傳「範性恬靜、樂ニ道、不ニ求ニ榮利ニ」

えい-り　(名)　［營利］　利益ヲイトナムコト。カネマウケ。

えい-り　(名)　［贏利］　利益。儲。左傳、昭公元年「贏」杜註「言、譬如ニ商賈求ニ贏利ニ者ニ」

エイ-り　(名)　［英里］　いぎりす國ノ里程。まいる(哩)ノ條ヲ見ヨ。

えい-りよ　(名)　［叡慮］　天子ノオボシメシ。聖慮。宸慮。保元物語、一、後白河院御卽位事「一宮重仁親王ヲ位ニ卽奉ラントヤ思召ケム、叡慮計ガタシ」

えい-れい　(名)　［英靈］　英魂ニ同ジ。

えい-ゐ　(名)　［英偉］　〔偉ハ、增韻「大也」〕スグレタル大人。英俊。晉書、陳頵傳「夫、英偉大賢、多出ニ于山澤ニ」

えい-ゐき　(名)　［塋域］　〔說文「塋、墓也」〕其家、代代ノハカバ。家ノ墓地。墓所。柳宗元、寄ニ許京兆孟容ニ書「不ニ敢望ニ歸掃ニ塋域ニ、退託ニ先人之廬ニ、以盡ニ餘齒ニ」

えい-ゑん　(名)　［永遠］　年月永キアヒダ。千萬世。永久。書經、君奭篇「我亦不ニ敢寧ニ于上帝命ニ、弗ニ永遠念ニ天威ニ」

えう　(名)　［要］　(一)趣意ノ、第一トスルコト。カナメ。肝腎。肝要。史記、太史公自序「采ニ儒墨之善ニ、撮ニ名法之要ニ」「忘レザルヲ要トス」(二)要ズルコト。必ズト、要ムルコト。必要。要用。伊勢物語、第九段「其男、身ヲえうナキモノニ思ヒナシテ、京ニハアラジ、東ノ方ニ、住ムベキ國モトメニトテ、行キケリ」　宇津保物語、藏開、上「文ドモモ、えうアルハ、取出デテ見タマフ」　又、今昔物語、十二、第十一語「要事アリテ、鄕ニ出ヅルニ」

えう　(名)　［幼］　ヲサナキコト。幼少。禮記、祭義篇「敬ニ長慈ニ幼」「幼ニシテ敏シ」

えう　(名)　［妖］　アヤシゲナル、ワザハヒ。史記、殷本紀「帝太戊立、伊陟爲ニ相、亳有ニ祥、桑穀共生ニ於朝ニ、一暮大拱、帝太戊懼問ニ伊陟ニ、伊陟曰、臣聞、妖不ニ勝ニ德、帝之政其有ニ闕與、帝其修ニ德、太戊從ニ之、而祥桑枯死而去ニ」

えう　(名)　［曜］　しちえう(七曜)ノ條ヲ見ヨ。

えう　(名)　［瑩］　瑩貝ニテ、光澤ヲイダスコト。榮花物語、廿九、玉飾「九十九疊ハ、手輿ト云フモノニ乘セ奉リテ、靑ク裹えうシタル絹袴キテ、四人ヅツ持チ奉リタリ」

えう　(名)　［徭］　公役ニツトムルコト。徭夫。夫役。徭役。エダチ。史記、李斯傳「賦歛愈重、戍徭無ニ已」

えう-えい　(名)　［耀映］　テリ、カガヤクコト。保元物語、一、新院御謀反露顯事「再耀ニ映光羅居ニ事、更不ニ可ニ有ニ疑者也」

えう-えい-と　(副)　［搖曳］　搖メキ、曳キハヘテ。鮑照、代擢歌行「搖曳高帆擧」

えう-えう-と　(副)　［夭夭］　(一)少ク、好シキサマ。詩經、周南、桃夭篇「桃之夭夭、灼灼其華」(二)盛ンナルサマ。詩經、邶風、凱風篇「棘心夭夭、母氏劬勞」　(三)顏ノ、和ゲルサマ。論語、述而篇「子之燕居、申申如也、夭夭如也」

えう-えう-と　(副)　［杳杳］　暗キサマ。遠キサマ。ハルカナルサマ。楚辭、九章、懷沙篇「眴兮杳杳、孔靜幽默」　班彪文「飛ニ雲霧之杳杳ニ、涉ニ積雪之皚皚ニ」

えう-えう-と　(副)　［搖搖］　心ノ、落チツカザルサマ。詩經、王風、黍離篇「彼黍離離、彼稷之苗、行邁靡靡、中心搖搖」

えう-えう-と　(副)　［呦呦］　〔詩經、朱注「呦、音幽也」〕鹿ノ鳴クサマ。詩經、小雅、鹿鳴之什、鹿鳴篇「呦呦鹿鳴、食ニ野之苹ニ」　曾我會稽山(享保、近松作)一「呦呦と鳴クサヲ鹿ノ」

えう-えき　(名)　［徭役］　エ。エダチ。夫役。徭夫。民部省式「飛驒匠丁、云云、役畢還ニ國者、免ニ當年徭役ニ」

えう-おん　(名)　［拗音］　〔字典「拗戾、固相違也」〕語學ノ語。きゃ、きゅ、ちゅ、くゎ、ナド、假名二字ニテ書取ルベキ音ノ名。

えう-がい　(名)　［要害］　〔我レニ要ニシテ、敵ニ害アル義〕(一)ヌマ。地ノ利ヲ占ムルコト。山河ノ險阻ナル處ナド、スベテ、敵ヲ防グニ便ナル地ノ稱。險隘。賈誼、過秦論「良將勁弩、守ニ要害之處ニ」(二)轉ジテ、砦。家忠日記、追加、六「大阪、中村、兩城ノ間ニ、取出ノ要害ヲ築カシメタマフ」

えう-かう　(名)　［要港］　軍事上、重要ナル地點ト指定シタル港。要港部ヲ置キテ其守備ヲ掌リ、兼ネテ、軍需品ノ配給、艦船、兵器ノ小修理ヲナス。

えうかう-ぶ　(名)　［要港部］　要港ノ防禦、及、其ノ附近ノ海岸、海面ノ警備ヲ掌ル所。

えう-がく　(名)　［幼學］　〔禮記、曲禮、上篇「人生十年曰ニ幼、學」疏「鄭康成云、十五以下、今云ニ十年ニ曰ニ幼學ニ、是十歲而就ニ業也」〕ウヒマナビ。ヲサナキ時ノ學

問。初學。

えうがひ（名）［瑩貝］貝ニテ、紙、帛等ヲミガキテ、光澤ヲ出ス具。（金、又ハ、竹ニテモ作ル）

えうき（名）［妖姬］美シク、アテヤカナル女。陳後主詩「妖姬臉似花含露」

えうき（名）［妖氣］アヤシキ氣。人ヲ害フ氣。左傳、宣公六年、杜注「言人君ハ妖氣守之」

えうきう（名）［要求］是非ニト、請ヒモトムルコト。楚辭「下垂釣於谿谷兮、上要求於仙者」

えうきやく（名）［要脚］錢ヲ、脚ト云フ、其條ヲ見ヨ、白玉蟾詩「腰下有錢三百疋」要、腰、相通ズ。（一）物買フ時ノ錢ノ異名。又、用脚。太平記、三十九、神木入洛事「近年八彼依、許價、諸事ノ要脚、※闕如シヌレバ」易林節用集（慶長）要脚、錢也、用途、同」下學集、下、器財門「用脚」（二）稅金。太平記、三十五、青砥左衛門事、寺、道場ニ要脚ヲカケ、償物、過料ヲ責ルコトヲ業トス」（三）費用ニ供スル料。太平記、三十九、神木入洛事「此所ハ、每年維摩會ノ要脚タルノミニアラズ、云云」

えうきよく（名）［謠曲］うたひノ條ヲ見ヨ。

えうくん（名）［幼君］ヲサナキ君。幼主。

えうくわい（名）［妖怪］バケモノ。變化。切韻「狐能爲妖怪」荀子、天論篇、脩道而不貳、云云、妖怪不能使之凶」武、祇、鬼、妖同」

えうけい（名）［瑤瓊］ウツクシキ寶玉。白居易、白牡丹詩「素華比于色人一得如瓊瑤」

えうげき（名）［要擊］マチブセシテ、擊ツコト。漢書、匈奴傳「將五千騎要擊單于、單于夫人聞而去」

えうけつ（名）［要訣］（說文「訣、法也」韻會「訣、方術要法」（二）決定不疑也）肝要ナル理。奧義。列仙傳「長生要訣」

えうげつ（名）［妖孽］（孽ハ、漢書、五行志「蟲豸之妖、謂之孽」）不思議ナルワザハヒ。左傳、昭公十年「蘊利生孽」註「蘊、畜也、孽、妖害也」焦氏易林「政令無常、下民多孽」

えうげふ（名）［窯業］陶磁器、瓦、硝子等ヲ製造スル業。

えうけん（名）［要件］必要ナル條件。肝要ナル條件。

えうげん（名）［妖言］オヨヅレゴト。凶事アリナド、言ヒフラスコト。大鏡、下、道長「今年コソハ、天變頻リニシ、世ノえう言ナド、ヨカラズ聞エ侍ルメレ」

えうこ（名）［腰鼓］くれつづみ、（腰鼓）及、さんのつづみ（三鼓）ノ條ヲ見ヨ。

えうさい（名）［要塞］國防上、要害ノ地ニ設ケタル城塞。禮記、月令篇「孟冬、云云、備邊境、完要塞」

えうさつ（名）［夭札］次次條ノ語ニ同ジ。左傳、昭公四年、註「短折爲夭、夭死爲札」

えうし（名）［幼子］イトケナキ子。禮記、曲禮、上篇「幼子常視、毋誑、童子不衣裘裳」

えうし（名）［夭死］（博雅「不盡天然」、謂之夭」說文「夭、屈也」名義抄、大部「夭、屈也、盡也、エウ」）年ユカスニ、死スルコト。ワカジニ。早世。夭折。字類抄、江、※字「夭死」

えうじ（名）［要事］要用ナル事。史記、倉公傳「慶愛公、欲盡以我禁方書悉教公」…今昔物語、十七、第…事アリテ、…ニ出ツルニ」

えうじ（名）［幼兒］ヲサナゴ。

えうじ（名）［拗字］えうたい（拗體）ヲ見ヨ。

えうじや（名）［幼者］年ユカヌモノ。

えうじやく（名）［幼弱］弱年ナルコト。禮記、明堂位篇「成王幼弱、周公踐天子之位、以治天下」

えうしゆ（名）［幼主］幼君ニ同ジ。陳琳文「將衛幼主」平家物語、六、紅葉事（高倉院ノ御事）「イマダ幼主ノ御時ヨリ、性ヲ柔和ニ愛ケサセ給ヒ」

えうじゆ（名）［遙授］遠ク、官ヲ授クルコト。國司ニ任ゼラレテ、赴任セズ、身ハ京ニ居テ、下官ヲシテ國務ヲ掌ラシムルコト。遙任。續後紀、九、承和七年五月、勅「拜外官、留身京輦、皆將相以僚佐、令得代耕、云云、諸使便衙之遙授人、以使公文、除於失誤、責物頗於宿忠」居家必用、十五「遙授、不親公務之官也、俗云遙職」職原抄、下「國司、云云、權守者、多是遙授之官也」

えうじゆ（名）［徭戍］邊彊ヲ守ル兵。李華、弔古戰場文「蒼魏徭戍、荊韓召募」

えうじゆ（名）［要須］カナメナルコト。必要。要用。職員令、…財用…今非有要須…者、…太平記、六、人見本間拔懸事、父ノ資貞ハ、無雙ノ弓矢取ニテ、國ノタメニ要須タリ」

えうじゆつ（名）［妖術］魔法。幻術。元史、…以妖術陰謀…

えうしよう（名）［要衝］敵ノ攻メ來ルヲ防グ、要害ノ所。杜甫詩「此邦俯要衝」

えうしよく（名）［要職］肝要ナル職。肝要ナル官。

えうす・スル・スレ・セ・シ・セヨ（自動、左變）［夭］〔釋名「少壯而死、爲夭」〕年ユカズシテ死ス、ワカジニス。…不…

えうす・スル・スレ・セ・シ・セヨ（他動、左變）［要］（一）必ズト要ム。用ヰニ欲シ。（二）サヘギル。マチブセス。「人ヲ路ニ要す」

えうず・ズル・ズレ・ゼ・ジ・ゼヨ（他動、左變）［要］前條ノ（一）ニ同ジ。竹取物語「玉ノ枝ヲ造ラセタマヒテ、六六、かぐや姬ノ、うしタマフベキナリ」…ジテ、ワザトソノ人、カノ人ニセサセタマヘル」

えうするに（副）［要之］之ヲ要するに（ノ略）ツマルトコロ。畢竟。

えうせい（名）［妖星］妖彗星。アヤシキホシ。災ノ兆トテ、アラハルル星。左傳、昭公十年…氏任氏實守…云云、有…星…告邑姜也」

えうせう（名）［幼少］ヲサナキコト。イトケナキコト。幼稚。禮記、月令篇「養幼少、存諸孤」保元物語、一、新院…幼少…リ、西國ノ方ヘ追ヒ下シテ候ガ」（爲朝ノ事ヲ云フ）

えうせつ（名）［夭折］夭死ニ同ジ。ワカジニ。三國志、吳志、孫登傳「三國有上智之才、而天折…神代紀、上…常以…行、故令國內人民、多以夭折」

えうぜんと（副）［杳然］ハルカナルサマ。李白、山中答人詩「桃花流水杳然去、別有天地非人間」

えうそ（名）［要素］事物ノ成立ニ必要ナ

ル根源。

えうたい (名) 腰帶 かくだ(石帶)ノ條ヲ見ヨ。

えうたい (名) 拗體 作詩ニ云フ語。絶句ナドノ起句ノ第二ノ字ガ、平韻ノ字ナル時ハ、第三ノ句ノ第二ノ字ハ、仄韻ノ字ナルベキニ、平韻ノ字ヲ用キルナリ。又、拗字トモ云フ。

えうだい (名) 瑤臺 (一)月ノ異名。 離騷「望二瑤臺之偃蹇一兮、見二有娀之佚女一」 (二)ウルハシキ、ウテナ。 張衡、東京賦「夏癸之瑤臺、殷辛之瓊室」

えうたう (名) 腰刀 コシガタナ。 北魏書、傅豎眼傳「以二腰刀一爲レ信」

えうち (名) 幼稚 ヲサナキコト。幼少。 漢書、王莽傳「君年幼稚」

えうちゆう (名) 幼沖 〔書經、金縢篇、註「沖、幼也」〕前條ニ同ジ。 書經、大誥篇「弗レ弔天、降二割于我家一、不二少延一、洪惟我幼沖人」

えうちゆう (名) 幼蟲 動物學ノ語。昆蟲ナドノ、卵子ヨリ孵化シテ、未ダ成蟲トナラザルモノ。蠅ノ蛆ノ如キ、是レナリ。

えうぢよ (名) 幼女 ヲサナキ女。イトケナキ女。 元稹詩「陸家幼女託二良壻一」

えうちゑん (名) 幼稚園 〔獨逸語、Kinder garten.ノ譯語〕學齡未滿ノ小兒ヲ保育スル校舍。

えうつう (名) 腰痛 コシノイタミ。 神仙傳「臣年六十五、時苦二腰痛一」 豐家天正記、乾、下「持明院中納言八十四常腰痛作」

えうてう (名) 窈窕 タヲヤカナルコト。 詩經、國風、周南、關雎篇「窈窕淑女、君子好逑」

えうてん (名) 腰纏 腰ニマトフ財嚢。 殷芸小說「有レ客相從、各言レ所レ志、云云、其一人曰、願腰纏二十萬貫一、騎レ鶴上二揚州一」

えうてん (名) 要點 主眼。主要ナル箇處。要領。

えうどう (名) 幼童 ヲサナキコドモ。ワラベ。童子。 蔡邕文「年踰二三十一、鬢髮二色、叔父親レ之、猶若二幼童一」

えうにん (名) 遙任 遙授ニ同ジ。

えうにん (名) 要人 用人ノ條ヲ見ヨ。

えうねん (名) 幼年 ヲサナキ齡。弱年。 漢書、匡衡傳「朕以二幼年一云云」

えうはい (名) 遙拜 フシヲガミ。隔タリタル地ヨリ、遙ニ拜ムコト。 晉書、江逌傳「祭二天于雲陽一、祭二地于汾陰一、在二于別宮一遙拜、不レ詣二壇所一」 太神宮式「太神宮司、云云、遙拜二諸宮一」

えうぶ (名) 徭夫 えうえき(徭役)ニ同ジ。

えうべうと (副) 杳渺 ヒロビロト、見渡サルルサマ。

えうへん (名) 窯變 陶器ノ、窯ノ内ニテ燒カルル時、形ノ、ユガミカハルコト。建盞ニ星ノアルヲ、星建盞ト云ヒ、又、曜變ナド云フハ、星ヲ、曜トシテ云フ誤ナリ、又、茅變トモ云フ、茅ハ、釉ノ損ジタルニテ、是レ亦、誤レリト云フ。

えうま (名) 妖魔 マモノ。ヘンゲ。妖怪。惡魔。 歐陽修、讀二徂徠集一詩「存レ之警二後世一、古鑑照二妖魔一」

えうみやう (名) 幼名 ヲサナナ。ワラハナ。童名。小字

えうめい (名) 要盟 人ヲシテ、强ヒテ盟ハシムルコト。 左傳、襄公九年「且要盟無レ質、神弗レ臨也」

えうもん (名) 要文 經文中ノ、肝要ナル文句。 太平記、十、鹽田入道自害事「年來誦ミタマヒケル持經ノ紐ヲ解キ、要文、處處打チ上ゲ、心閑ニ讀誦シ給ヒケリ」 謠曲、知盛「亡キ人ノ追善トオボシクテ、要文サマザマ書キシルシ」

えうよ (名) 腰輿 手輿ノ條ヲ見ヨ。 通鑑、梁紀「腰輿」胡注「腰輿者、人擧レ之而行、其高爲至レ腰」 貞觀儀式、御禊行幸「左右近衞、云云、腰輿在二其間一」

えうよう (名) 要用 必ズ入用ナルコト。必要ナルコト。要須。 漢書、藝文志「凡百八十二家、刪二取要用一、定著二三十五家一」 舊、今昔物語、十七、第四十一語「要用アルニ依テ、馬ニ乘テ里ニ出ヅル程ニ」

えうらん (名) 搖籃 ユサハリ。ユサブリ。ユサ。ユリカゴ。 戒菴漫筆「今眠二小兒一竹籃、名二搖籃一」

えうりやう (名) 要領 次次條ヲ見ヨ。

えうりやく (名) 要略 要ヲ採リテ、其餘ヲ略スルコト。(書物等ニ) 齊書、竟陵王子良傳「集二學士一抄二五經百家一云云、爲二四部要略千卷一」

えうれい (名) 要領 〔漢書、張騫傳、註「師古曰、要、衣要也、領、衣領也、凡持レ衣者、則執二要與一レ領」字典「要、與レ腰通」〕 又、えうりやう。趣意ノ、重ナル所。事ノ、トリトムベキトコロ。 漢書、張騫傳「從二月氏一至二大夏一、竟不レ能レ得二月氏要領一」

えうれいぼし (名) 妖靈星 妖星ニ同ジ。 太平記、五、相摸入道弄二田樂一事「媚者ガ、天王寺ノえうれいぼしト歌ヒケルコソ怪シケレ、イカサマ天王寺邊ヨリ、天下ノ動亂出來テ、國家敗亡シヌト覺ユ」

えうろ (名) 要路 專ラ政權ヲ執ル職務ヲ稱スル語。卽チ、政務上ノ主要ナル位置。 唐書、崔湜傳「丈夫當下先據二要路一以制上レ人、豈能默默受二制于人一哉」「要路ニ立ツ」要路ノ大官」

✣え・え (形) えい(好)ノ轉。(關西)

ええ (感) 〔「ああ、おお」ニ通ズ〕 (一)應フル聲。肯フ聲。エ。エイ。「おまへガ書イタノカ、ええ」 (二)嫌ハシキニ發スル聲。「ええアブナイ」「ええキタナイ」「ええニクラシイ」

ええう (名) (一)榮耀ノ約。榮華。 謠曲、邯鄲「夜晝トナキ樂シミノ、榮華ニモ、ええうニモ、ゲニ此上ヤアルベキ」 (二)榮耀ニ長ジテ奢ルコト。驕奢 餡餅ノ皮ヲ除キテ、餡ノミ食フヲ、ええうヽ餅の皮を剝くト云フ。 嬉遊笑覽、十「榮耀ヽ餅の皮をむくトモ云ヘリ、今、おぼろ饅頭ト云フハ、上ノ皮ヲムキタルナリ、云云、エモ言ハレヌ美食、費ヲ顧ミザルモノ、枚擧シ難シ」

ええうえいぐわ (名) 榮耀榮華 ハエカガヤキヲ極ムルコト。ハデヤカヲツクスコト。奢リヲ極ムルコト。えいぐわええう。 曾我扇八景(寶永、近松作)中「榮耀榮華ニ、大事ノ子、勘當ガ成ルモノカ」

エエカア (名) 〔英語、Acre.〕 いぎりす國ノ地積ノ單位、我ガ國ノ四段二十四步ニ當ル。エエクル。

エエクル (名) 前條ニ同ジ。

エエス (副) いえす(副)ヲ見ヨ。

エエテル (名) 〔依的児〕〔英語、Ether〕 (一)光、熱、電氣、磁氣ノ假定ノ媒體。極メテ稀薄ニシテ、彈性ニ富ミ、宇宙ニ充ル所ニ存スト假定セラル。(二)有機ノ名、あるこおるニ硫酸ヲ混ジ、蒸餾スレバ、之ヲ得。無色ニシテ、一種ノ香氣アリ、流動シ易ク、揮發シ易ク、又、燃燒シ易シ、有機化合物ノ溶劑ニ用キ、又、痲醉劑ニ用キル。

えが (名) 〔いがノ轉、いぬゑ、えのゑ。(痤)〕 いぶる、えぶる(燻)栗毬ノ訛。

えかう (名) 影向 やうがう(影向)ニ同ジ。

えかうろ (名) 柄香爐 香爐ノ横ニ、長キ柄アルモノ。

えかがみ (名) 柄鏡 圓鏡ノ下ニ、柄ノツキタルモノ。鷹筑波集(寛永)「柄鏡ノ、月影ヲ汲ム、水柄杓」

えがち (名) 得勝 心得顔ナルコト。枕草子、二、十七段、にくきもの「ナンデフ事ナキ人ノ、スズロニえがちニテ、物イタウ言ヒタル」

えがはざけ (名) 江川酒 伊豆ノ大川ノ地ニ産ズル酒。(渡邊幸庵對話)

えがはら (名) 痞 〔疫ガ腹ノ義カト云フ、說文「痞、痛也」〕 小兒ノ腹ノ病。倭名抄、三、病「衣賀波良、小兒病也」

えき (名) 易 易經、繫辭、上傳「設レ卦觀レ象、繫レ辭焉而明ニ吉凶一、剛柔相推而生ニ變化一、是故吉凶者、失得之象也」 古ノ一法。筭木ト筮竹トヲ用キテ、吉凶ヲ判ズルコト。史記、仲尼弟子傳「商瞿魯人、云云、孔子傳ニ易於瞿一」 保元物語、二、左府薨逝事「臥シナガラ[illegible]給ヒケリ」

えき (名) 益 〔損ニ對ス〕 (一)物事ノ、益シテ、爲ニナルコト。利益。利得。マウケ。(二)[illegible]

えき (名) 役 戰ニ役立ツコト。イクサダチ。タタカヒ。戰爭。左傳、桓公十三年「蒲騒之役」[illegible]「明治十年西南ノ役」

えき (名) 疫 エヤミ。疫病。禮記、月令[illegible]

えき (名) 液 シル。ツユ。白虎通「[illegible]露英[illegible]」

えき (名) 驛 (一)ウマヤ。ウマツギ。[illegible] (二)汽車ノ停車場。ステエション。

え・き (形) 善 えし(善)ノ條ヲ見ヨ。

えぎ (名) 緣起ノ約。宇津保物語、[illegible]「其ノ寺ニモ、メグリノ寺ニモ、御讀經セサセ、えぎ讀マセナドシ給ヒテ」(岸本由豆流ノ校訂ニ據ル)

えきいう (名) 益友 〔損友ニ對ス〕 交リテ、益アル友人。論語、季氏篇「益者三友、云云、友レ直、友レ諒、友ニ多聞一、益矣」

えきう (名) 液雨 シグレ。荊楚歲時記「十月、云云、此月內一雨謂ニ之液雨一、百蟲飲レ此而蟄、俗呼爲ニ藥水一」

えきえきと (副) 役役 骨折リテヤマヌ狀ニ云フ語。營營と。莊子、齊物論篇「終身役役、而不レ見ニ其成功一」「營利ニ役役たり」

えきえきと (副) 奕奕 「字典「奕、美也」」 (一)美シキ狀ニ云フ語。「新彩奕奕」(花ノ色) (二)光ル狀ニ云フ語。北齊書、[illegible]「[illegible]眼光奕奕、[illegible]射レ人」

えきえふ (名) 奕葉 〔字典「奕、[illegible]」〕 累代、累世ニ同ジ。[illegible]

えきか (名) [illegible] ヤケ、ヤカ、ウマヤ、ウマツギ。[illegible]

えきき (名) 疫鬼 疫病神。[illegible]

えきき (名) 奕棊 奕ハ、棊ナリ、棊ハ、其合字、棊ヲ打ツコト。圍棊。西京雜記、杜陵、杜夫子、善ニ奕棊一、爲ニ天下第一一」

えきさう (名) 繹騷 〔繹ハ、連續ナリ、騷ハ、騷擾ナリ〕 ツヅキテ、騷ガシキコト。詩經、大雅、常武篇「徐方繹騷、震ニ驚徐方一」

えきさく (名) 易簀 簀ノ條ヲ見ヨ。

えきしう (名) 奕秋 支那、古代ノ圍棊ノ名人。孟子、告子、上篇「奕秋、通國之善レ奕者也」

えきしゃ (名) 易者 ウラナヒシャ。賣卜者。

えきしゃ (名) 驛舍 えきてい(驛亭)ノ(一)ニ同ジ。宋史、李重誨傳「眞宗悼ニ其沒一、於還[illegible]其子一、乘レ傳往護ニ柩、歸レ鄕、止ニ驛舍之別室一」

えきじょと (副) 繹如 ツヅキテ、タエザルサマ。論語、八佾篇「從レ之純如也、皦如也、繹如也、以成」

えき・す ・スル・スレ・セ・シ・セヨ (他動、左變) 役 エダツ。人ヲツカフ。使役ス。

エキスプレッション (名) 〔英語、Expression〕 表情。表現。

えきせい (名) 奕世 〔奕葉ノ語原ヲ見ヨ〕 累世、累代ニ同ジ。國語、周語「奕世載レ德、不レ忝ニ前人一」

エキセプション (名) 〔英語、Exception〕 (一)例外。除外例。(二)[illegible]

えきたい (名) 液體 [illegible] 固體、又ハ、瓦斯體ノ條ヲ見ヨ。

えきたん (名) 驛站 [illegible] 子「臣等皆站而來、驛傳レ到此」

えきちゃう (名) 驛長 (一)ウマヤノヲサ。驛家ヲ掌ル者。美濃ノ青墓ノ長者ナドイフ、是レナリ。[illegible] (二)鐵道停車場ノ長。

えきちゅう (名) 益蟲 昆蟲ナド、農業ノ害蟲ヲ食ヒ除キテ、益アルモノ。小鳥ナルヲ、益鳥ト云フ。(害蟲、害鳥ニ對ス)

えきてい (名) 掖庭 〔字典「宮旁舍曰ニ掖庭一」〕 ウチツミヤ。後宮。後庭。漢書、百官公卿表「武帝更名ニ永巷一爲ニ掖庭一」[illegible]仁紀、五年十月「掖庭」

えきてい (名) 驛亭 〔釋名「亭、停也、道路所ニ舍、人停集一」〕 (一)驛ノ家。驛舍。晉書、天文志[illegible]驛亭一也」 (二)驛ノヤドヤ。旅館。

えきてい (名) 驛遞 (一)ウマツギ。宿繼。[illegible] (二)郵便。

えきていきょく (名) 驛遞局 郵便、信書ヲ通ズル官。

えきてう (名) 益鳥 益蟲ノ條ヲ見ヨ。

えきでん (名) 驛傳 宿繼ノ傳馬。ウマツギ。[illegible] 三代實錄、四十二、元慶六年十月廿五日「驛傳貢進」

えきはかせ (名) 易博士 ヤクノハカセ。

陰陽寮ノ官、陰陽博士兼任シタリト云フ、周易卜筮ノコトヲ講ズ。欽明紀、十四年六月「易博士」書紀、二十、天平寶字元年十一月、諸國博士、講ズベキモノ「陰陽生者周易」十訓抄、上、第三、第八條「播磨刻博士季親ト云フ者アリケリ、周易ノ博士ニテ、其道ハ世ニオボエアリケレドモ」

えきびやう（名）［疫病］やくびやうニ同ジ。

えきふ（名）［驛夫］鐵道停車場ニテ、勞働ニ使用スル者。

えきま（名）［驛馬］ハユマ。ハイマ。古ヘ、驛路ノ各驛ニ、官人旅行ノ用ニ設ケ置カレタル馬。驛鈴ヲ驗トシテ發ス、急事ノ用トスレバ、早馬ノ名アルナリ、又、傳馬ト云フアリ、傳符ト云フヲ驗トシテ發ス、事ノ緩ナル時ノ用トス。うまや(驛)ノ條ヲ併セ見ヨ。史記、鄭當時傳「每三五日洗沐、常置驛馬長安諸郊」孝德紀、大化元年正月「置驛馬、傳馬」廐牧令「凡諸道置驛馬、大路廿疋、中路十疋、小路五」

えきり（名）［疫痢］ハヤテ。烈シキ傳染性ノ下痢。夏時、五六歲ノ小兒ニ多シ、寐冷、又、氷水、不熟果ノ飲食ニ起ル、急ニ高熱ヲ發シ、下痢シ、痙攣ヲ起シ、甚シキハ、十二時間程ニテ死スルアリ。

えきれ（名）［鱠切ノ約カ］赤鱏ノ裁賣。(京畿)

えきれい（名）［驛鈴］ウマヤヅタヒノスズ。ウマヤノスズ。エキロノスズ。古ヘ、官使ノ、諸國ヲ往來スルトキ、驛家ノ馬ヲ役スル爲ニ、公ノ符トシテ給セラルル鈴。鈴ニ刻ミアリテ、十刻アレバ十疋ヲ役ス、親王、一位ハ十刻、三位以上ハ八刻ヨリ次第ニ差アリテ、初位以下、二刻ニ至ル、路ニ振リ鳴ラシツツ行ク、歸レバ官ニ納ム。(公式令)形、種種ナリシガ如クナレド、梔子形ノモノ、常ナリシガ如シ。公式令、義解「親王及一位、驛鈴十刻、云云」太神宮式「凡驛使入太神宮界者、到飯高郡下樋小河、止鈴聲」

えきれい（名）［疫癘］エヤミ。疫病。後漢書、質帝紀「詔以疫癘水潦、令人半輸今年田租」後紀、十三、延曆廿四年七月壬辰「疫癘之時、民庶相憚、不通水火」

えきろ（名）［驛路］ウマヤヂ。カイダウ。杜荀鶴、秋宿臨江驛詩「驛路鈴聲夜過山」續紀、廿七、天平神護二年五月丁丑「藤野郡者、云云、承山陽之驛路、使命不絕」

えきろのすず（名）［驛路鈴］驛鈴ノ條ヲ見ヨ。

エクレシヤ（名）次條ヲ見ヨ。

エケレシヤ（名）［葡語、Ecclesia.］又、エクレシヤ。天主敎、卽チ、切支丹宗ノ寺院。

エゲレス（名）［英機黎］［葡語、Inglez.］慶長年中ニ渡來セル、いぎりすヲ稱セシ語。(元和年中ニ、商利ナシトテ、自ラ去レリ)正章千句(慶安)六「黑船ハ、ゑげれすノ舟ノ、アヒチカミ」俄ニ風ノ、カハル洋中」

えこ（名）［長子］［兄子ノ義］長男。孝德紀、大化五年三月、蘇我倉山田麻呂「大臣長子興志」

えこ（名）［依怙］［說文「依、倚也」怙、恃也」］(一)賴ムコト。タヨルコト。法華經、譬喩品「多病痟瘦、無所依怙、雖親附人、人不在意」(二)カタチハヒ。エコヒイキ。カタビイキ。偏頗。平家物語、五、文覺被流事「廳ノ下部ノ習ヒ、カヤウノ事ニツイテコソ、自ラえこモ候へ」庭訓往來、三月「敵以不可存自由依怙」

えこぢ（名）［依怙地］［依怙意地ノ略、偏意地ノ意］拗ケタル意地張。カタイヂ。いこぢ。執拗。

えこひいき（名）［依怙贔屓］依怙、ト云フニ同ジ。

えごま（名）［荏胡麻］［子、胡麻ノ子ニ似タリ］荏ニ同ジ。其條ヲ見ヨ。

えざけ（名）［江鮭］あめのうをノ一名。今モ、近江國ニテ云フ。鯇 倭名抄、十六六「鯇、阿米、江鮭」

えさまさ（感）力ヲ入ルルトキ、發スル聲。榮花物語、十五、疑「大ナル木ドモニハ、太キ綱ヲツケテ、聲ヲ合セテ、えさまさト引キ上ゲ騷グ」

えさらぬ（連體）［え避らぬノ義、能う避けられぬノ意、え(能)ノ條ヲ見ヨ］避リガタキ。逃ガレラレヌ。源、一、桐壺五「或時ハ、えさらぬ馬道ノ戶ヲサシコメ」(通行セネバナラヌ)同、五十三、夢浮橋十「えさらぬ事モ、數ノミ添ヒツツ、過セド」

えし・き・けれ・く・く（形、二）［善好］よし(善)ニ同ジ。天智紀、十年十二月、童謠「美曳之野(三吉野)ノ、曳之野ノ鮎、鮎コソハ、島邊モ曳岐(島邊ニ居ルゾ好キ)云云、何ノ流言、直ニシ曳鷄ム」萬葉集、十四廿「子等ガ襲着ノ、有コソ要志モ」同卷九廿「兒等ガ金門ヨ、行カクシ要思モ」

エスカレエタア（名）［英語、Escalator.］昇降機。一種ノ運搬機械ニテ、主ニ人ヲ、低キヨリ高キニ運ブニ用キル、二箇ノ大キナル車ヲ廻轉シ、ソノ周圍ニ一聯ノ梯子ヲ動カス、廻轉中、傾斜ノ場所ニテハ、階段トナリ、平面ナル所ニテハ、階段上下ノ蹈板ガ一平面トナルモノ。

エスキモオ（名）［佛蘭西語、Esquimaux.］一種ノ人種ノ名。亞細亞洲ノ極北東端ヨリ、北亞米利加洲ノ北部ぐりいんらんどニ亙リテ、極北地方ニ住ス、身長極メテ矮シ。

エスペラント（名）［世界語］［Esperanto. 希望アル人ノ義、此ノ語ノ創意者ノ匿名ニ出ヅ］世界各國ニ共通セシメムトテ、新ニ作レル言語。波蘭ノ眼科醫師、ざあめんほふノ創意ニ出デ、明治二十年成レリ、語格極メテ簡單ナリ。國際補助語トモ云フ。

エスまき（名）［S卷］女ノ束髮ノ一種。髮ヲ縱ニ、Sノ字形ニ結フモノ。

えせ（接頭）［似非］［僻］［え爲ぬノ略、元ハ正シキモノニ爲リ得ヌコトヲ言ヒタリト思ハル、(平安朝文法史)卽チ、似テ非ナル意ナリ、え(能)ノ下ハ、必ズ打消ノ語、又ハ、反語ニテ受クベキナレバ、ソレヲ略シテモ聞ユルナリ、枕草子、六、五十段ニ「今宵ハえ(行カジ)ト云ヒテ、シブラセタマフナドトモアリ(いさ知らずヲ、いさト應ふナドモ、同趣ナリ)」(一)似テ非ナル。其物ト見エテ、然ラヌ。えせ幸福、(枕草子、一、十三段)えせ歌詠、(無名抄、上)えせ方人、(義經記、五、第五條)(二)惡シキ。えせ受領、(源、九、葵九)えせ者、(枕草子、一、十三段)えせ牛、(同、六、六十段)えせ車、(同、九、百十三段)えせ親、(同、十二、百四十八段)えせ小鷹、(建武年間記)又、動詞ノ連用形ノ如ク用キラレタルアリ。四季物語、四月「えせタル蟲」運步色葉集「惡、エセタリ」

えそ（名）［䱥］魚ノ名。體、長サ一尺餘、口、闊クシテ、上脣ノ肉、左右ニ餘リ、目甚ダ口ニ近シ、背ハ淡褐、腹ハ銀白色ニ

シテ、體ハ二三節ノ[illegible]ナリ。[illegible]、エゾ[illegible]、[illegible]ニ包ミ[illegible]ニソヘテ食セムトスル時」

えぞ (名) 蝦夷　えみし(蝦夷)ノ條ヲ見ヨ。

えぞぎく (名) 蝦夷菊　實生ノ草。葉ハ、鷄兒腸ニ似テ、粗大ニシテ光ル、秋ノ初、莖ヲ出シテ、花ヲ開ク、大キサ一二寸、菊花ノ如クニシテ、心ニ簡蘂集ル、色ハ、紫、紅、白ノ三種アリ。又、秋ニ子ヲ蒔クモノハ、夏ノ初ニ花アリ。菊トハ云ヘド、スベテ、菊ト別種ノモノナリ。

えぞすみれ (名) 蝦夷菫　すみれノ一種。葉、五岐ニシテ、深キ鋸齒アリ、夏ノ後、變ジテ兩岐トナル、春、花ヲ開ク、形、すみれニ同ジクシテ、大ナリ、且、其莖ノ兩枝、相對シテ分ルルヲ異ナリトス。エイザンスミレ。オホスミレ。カクレガサ。胡菫草

えぞち (名) 蝦夷地　明治以前、北海道、千島、樺太ヲ稱シタル語。 七十番[illegible]集、六十二、外國「蝦夷地御屋形師可レ被二仰付一者、云云」「古事類苑、方技部」

えぞにしき (名) 蝦夷錦　一種ノ錦。支那產ニシテ、滿洲ヲ歷テ、樺太島ニ渡リ、又、蝦夷ノ地ニ渡リ來ル、織紋、種種ナレドモ、紺地ニ、龍ヲ織レルモノ、多シ、五爪ナルヲ、最トシ、三爪、四爪ノモノ、コレニ亞グト云フ。蟒緞 蟒 [illegible]編、三、絹布名號「一、蝦夷錦ハ極細キ金糸ニテ、金銀二色織リ、彩色ヲツクシテ、種種色數ヲ織ル」

えぞまつ (名) 蝦夷松　[illegible]まつニ似テ、葉、粗、長ク、色深キモノ、冬、落葉ス、材、檜ニ似テ、代ヘ用ヰルベシ、今ハ蝦夷地以外ノ土ニ產ズ。トド。トドマツ。[illegible]

えだ (名) 枝 〔本言ハ、えナリ、えだハ、枝出ノ轉カ、小枝ヲ、こやでト云フ、肢ヲ、モ、えト云フハ、身體ノ枝ノ義、又、えだトモ云フハ、枝手ノ轉カ、(柄ヲ、手トモ云フ)うたて、うたた、(轉)相通ズ、肢ノ事ハ、次條ヲ見ヨ〕(一)本言、え。草木ノ莖、幹ヨリ分レテ、生ヒ出ヅルモノ。 雄略紀、五年二月、長歌「[illegible]」廿「枝、條、衣太」古事記、下(雄略)「[illegible]長歌、瀰ガ延ハ、本延ハ、天ヲ覆ヘリ」寛平御時后宮歌合「何レノえヲカ、花トハ折ラム」「梅ガ枝 梅ガ枝」(二)物事ニ、スベテ本ヨリ分レ出デタルモノ。分派。支 名義抄「支、エダ」「枝川」枝路」話ノ枝葉」

えだ (名) 肢 〔前條ノ語原ヲ見ヨ〕(一)本言、え、身體ヨリ出デタル手足。 倭名抄、三「身體類「肢、衣太」雄略紀、二年七月「張二夫婦四支於木一」(二)ウカラ。ヤカラ。親族。一族 名義抄「族、エダ、ヤカラ」榮花物語、四十、紫野「えだえだ榮エ出デサセタマフヲ、春日ノ神モ心ユカセタマヒテヤ」父祖ヨリハ子孫ノ劣リタルヲ、えだおとりト云フ。 宇津保物語、祭使「本見レバ、高キ桂モ、今日ヨリヤ、えだおとりスト、人ノ言フラム」

えだ (接尾) 枝 〔古ヘハ、心葉トテ、贈物ニ生花、造花ノ花枝ヲ添ヘタレバ云フ〕贈物ヲ數フルニ云フ語。 源、廿九、行幸「雉一えだ奉ラセ給フ」大和物語、上「捧ゲ物、一えだ、二えだセサセテ」平家物語、十、三日平氏「長持三十えだニ、黄金、卷絹、染物、絹ノ物ヲ入レテ奉ラル」

えたい (名) えてい(爲體)ノ條ヲ見ヨ。

えだおとり (名) 肢劣　肢ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。

えだがき (名) 枝柿　(一)柿ノ實ヲ、枝ナガラニ、折レルモノ。(二)[illegible]がきヲ串ニ貫キタルモノ。クシガキ。 大饗次第「[illegible]年六月九日」五[illegible]、云云、白柿 [illegible]、甘栗、枝柿」

えだがは (名) 枝川　本筋ノ川ヨリ、分レテ流ルル川。支流 萬葉集、十七、[illegible]ニフス、萩ノ下這フ、枝川ノ、[illegible]毛花ノ、色ゾ移ロフ」

えだがみ (名) 枝神　本社ノ神。[illegible] 止由氣宮儀式帳、九月例「[illegible]ノ枝神ニ分奉ル」 類聚三代格、一「祖神則貴而有レ封、其爲神則微而無レ封」

えだざし (名) 枝差　枝ノ、差シ出デタル状。エダブリ。枝姿 宇津保物語、藏上、上「枝ざしヲカシウ、メヅラカナル木ドモ、小松ドモ、遣水ノ此方、彼方ニ多カリ」枕草子、三、廿四段「あすはひの木、云云、枝ざしナドノ、イト手觸レニクゲニ、粗粗シケレド、云云」

えださんご (名) 枝珊瑚　珊瑚ノ條ヲ見ヨ。

えださんごじゅ (名) 枝珊瑚樹　珊瑚樹ノ條ヲ見ヨ。

えだしろ (名) 枝城　出城ニ同ジ。 關八州古戰錄、七、小幡泉龍寺「本領ナレバトテ、云云、[illegible]、枝城ノ[illegible]ハ、云云」

えだずみ (名) 枝炭　躑躅ノ小枝ヲ燒キ成シタル炭。甚ダ細ソシ、茶家ニ、いけだずみノ上ニ積ミ置キテ、爐火ヲオコス媒トス、コレニ、石灰ヲ抹シタルヲ、白炭ト云フ、和泉國ノ横山ニ產ズレバ、横山炭ト云ヒ、又、河内國、光瀧ヨリモ出ヅ。 [illegible]、枝炭トモイフ」[illegible]、何トシテ、イカニ[illegible]、和泉ナル、横山炭ノ、白ク[illegible]ユラム」[illegible]、オク炭ノ、ナガレモ白シ、光の[illegible]」滑稽太平記(萬治)「白炭ヤ、燒カヌ昔ノ、雪ノ枝」

えだち (名) 役　(一)[illegible]コト。役。夫役。 [illegible] (二)人民ヲ、戰ニ役立ツルコト。イクサダチ。タタカヒ。戰爭。 [illegible]

えだつ ツ・テ・タ・チ・ツ (自動、四) 役　[illegible]條ヲ見ヨ。役ニ[illegible]サレテ、[illegible]、[illegible]ク夫役ニ宛テラレテ出ヅ。[illegible]

えだつ ツル・ツレ・テ・テ・テヨ (他動、下二) 役 〔前條ノ語ノ他動〕夫役ニ宛ツ。古事記、下(仁德)「[illegible]」[illegible]、不レ得レ不レ使内[illegible]之」

えだは (名) 枝葉　(一)枝ト、葉ト。 六帖、三「白樫ノ、えだはオシナミ、霜降レド、馴レタル山ハ、路モ迷ハズ」(二)本分ナラヌコト。エダミチ。「[illegible]ガ枝葉ニナル」[illegible]

えだぶり (名) 枝風　エダザシ。枝ノ[illegible]シタル姿。枝姿

えだまめ (名) 枝豆　大豆ノ、枝附ノモノ、ソノママ茹デテ、莢ノ中ノ豆ヲ食フニツキテ云フ。ユデマメ。ユデサヤマメ。 [illegible](文化、大田南畝)「夏ノ頃、枝ナガラ、アリキナガラ賣フハ、[illegible]、ミツマタニ[illegible]出シノ新地出來シ時ヨリナリ」

えだみち (名) 枝路　(一)本道ヨリ分ルル路。岐路 (二)本分ナラヌスヂ。エダ。 ハ[illegible]枝葉之事

えたりかしこし (句) 得賢　望ムトコロ

ヲ占メ得タリ、早クツケイルベシ。思フ圖ニハマリテ、心ノ進ム時ニ發スル語。

えたりがほ (名) |得顏| 得意顏。シタリガホ。デカシガホ。今鏡、上、第一、司召「上達部タチ、云云、ナド宣ハセケルヲ、隆方ツカウマツリテ侍ランナド、得たりがほニ云ヒケルヲ」

えたりやおう (感) 〔おうハ、唯ノ延、や卜共ニ、感動詞ナリ〕 巧ク占メ得タル時ニ發スル聲。平家物語、四、鵼事「手ゴタヘシテ、ハタト中ル、えたりやおうト、矢サケビヲコソシテンゲレ」

えだる (名) |柄樽| 酒樽ノ上ニ、兩角ノ如キ柄ヲ作リ添ヘテ、朱塗ナドニシタルモノ。酒ヲ人ニ贈ル時ナド、匣ニ入レテ用キル。ツノダル。

⁂**えぢかりまた** (名) |萎縮股| いぢけるヲ見ヨ。

⁂**えぢ・かる** (動) いぢける(萎縮)ヲ見ヨ。

えつ (名) |謁| 謁見ニ同ジ。オメミエ。オメドホリ。「群臣ニ謁ヲ賜フ」

えつおう (名) |蠮螉| ジガバチ。埤雅「蜾蠃、一名蠮螉」

えつき (名) |悅喜| ヨロコブコト。ヨロコビ。漢書、鮑宣傳「庶衆歙然、莫レ不ニ悅喜一」

〰**えつき** (名) |役調| 役ト、調ト。仁德紀、四年三月「悉除ニ課役一以息ニ百姓之苦一」欽明紀、三十年正月「脫ニ籍免レ課者衆」

エッキス (名) |越幾斯| 〔英語、Extract.ノ略〕藥、又ハ、滋養物等ノ精分ヲ浸出セシメテ、濃厚ニシタルモノ。

エッキスくゎうせん (名) |X光線| 次條ニ同ジ。

エッキスふくしゃせん (名) |X輻射線| 電氣ノ作用ニヨリテ輻射スル光線ノ一種。眼ニハ見エザレド、所謂、螢光物ヲシテ螢光ヲ放タシメ、普通ノ光線ニ對シテ不透明ナル木材、筋肉、厚紙等ヲモ能ク通過ス。明治二十八年(西曆一八九五年)獨逸國、レントゲン氏ノ發見スル所。れんとげんノエッキス光線。エッキス光線。

えっけん (名) |謁見| 會フコトノ敬語。マミユルコト。オメミエ。謁。後漢書、卓茂傳「茂詣ニ河陽一謁ニ見光武一」

〰**えっさい** (名) |悅哉| 〔餌取幸、えちさい、えっさいト轉ジタル語ナラムト云フ、(倭名抄、五ニニ、大炊ヲ於保爲ト訛シタリ)名義抄「雀鷂、エチサイ、小鷹」すずみだかハ、すずめだかノ轉、つみハ、すずみノ略轉、すぎ、つぎ。(次)つつみ、(障)つみ(罪)〕 鷹ノ屬。大キサひよどりノ如シ、コレ、雄ナリ。雀鷂 雌ヲ、すずみだか、又ハ、つみト云フ、形、稍、大ナリ。雀鷂 共ニ、能ク小鳥ヲ捕フ。倭名抄、十八[四十]「雀鷂、悅哉、小鷹也、雀鷂、須須美多加、或云ニ豆美一、善捉ニ雀者也」

えっしゃ (名) |謁者| マウシツギ。トリツギ。漢書、百官公卿表「謁者、掌ニ賓讚受ニ事」

えっ・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ (自動、左變) |謁| 會フノ敬語。マミユ。

えっぷく (名) |悅服| ヨロコビ、シタガフコト。心服。書經、武成篇「大賚ニ于四海一而萬姓悅服」

えっぺい (名) |閱兵| 列立ノ兵隊ヲ、檢閱スルコト。觀兵。

えつらん (名) |閱覽| 閱シ見ルコト。梁昭明太子、答ニ湘東王一書「發レ函伸レ紙、閱覽無レ斁」

えつり (名) |棧| 〔枝吊ノ義、木舞ト云フモ、細枝ノ轉カト云フ、棧ノ字、審ナラズ、說文ニ「棧、棚也」トアリ、棧道ハ、かけはしナリ〕 (一)〔屋根木舞ノ古言。やねしたぢノ條ヲ見ヨ。屋笮 顯宗卽位前紀「蘆藋、此云ニ哀都利一」(上代ニハ、蘆ニテ作レルナリ)倭名抄、十三[十三]「棧、瓦乃衣都利」(瓦ハ、屋ノ誤カ)字鏡[四十六]「枌、屋乃衣豆利」同[四十八]木偏ニ連ノ字ニ「衣豆利」(二)今ハ、土藏ヲ作ル時、柱ノ外面ニ切懸ヲシテ懸クル木舞。(三)壁下地ノ木舞。

えつれき (名) |閱歷| 經歷ニ同ジ。舊唐書、吐蕃傳「發レ兵以助、閱ニ歷三旬一」

えて (名) |得手| 人ノ爲ル事ノ中ニテ、最モ巧ミナルモノ。得意 史記抄(文明)十八[廿九]「物ニハ、えてガアルゾ」得手に帆をあげるトハ、得意ニ乘ル。

えて (名) |猿| 〔得手ノ義、猿ハ物ヲ摑メバ離サズ、人ノ、金錢ヲ握リテ出サヌヲ忌ミテ、藝人、職人ナドノ、反語ニ言ヒ變フル語ナリト云フ、或ハ、猿ノ、去ルニ通ズルニ忌ミテ云フトモ云フ〕 猿ノ異名。えて物ナドトモ云ヒ、猿戶ノ、さるナドヲモ云フ。

えて (副) |輒| 〔得てノ義ニモアルカ〕 トモスレバ。ヤヤトモスレバ。ヨク。アリガチナルニ云フ語。狂言記、拔殼「此ノヤウナ事ヲバ、えて、例ニシタガルモノヂャ」「えてアルコト」えてスル」えて忘ル」

えてい (名) |爲體| 〔爲體ノ轉、(いばる、えばる。えこぢ、いこぢ)爲體ノ字ヲ音讀シタル語、所爲ヲ、せゐト讀ム類ナリ〕 えたい。スガタ。正體。本性。「えていガワカラヌ」えていノ知レヌ物」

えてかって (名) |得手勝手| 我意ニ任セテモノスルコト。ワガママナルコト。恣意 堀川波鼓(寶永、近松作)上「女房オ種ハ酒好ニテ、云云、オ肴モ無イ酒ナレバ、否デアゲルガ御馳走ト、得手勝手ヨリカヘ銚子」

えてもの (名) |得手物| (一)得手トスル技。得意ノモノ。雪女五枚羽子板(寶永、近松作)中「殿ハ、ナ、小鼓ノ、ヤ、えてもの」(二)猿。

え・てる・テル・テレ・テ・テ・テヨ (自動、下一) |得手| 〔得手ヲ活用ス、怖氣る、霜氣る、同趣〕 其事ニ得手ニテアリ。巧ミナリ。巧者ナリ。熟ス。熟練「手紙ヲ書クニえて居ル」

えと (名) |干支| 〔兄弟ノ約、干支ハ、幹枝ニテ、兄弟ノ如シト云フ意ナリト云フ、仁德紀、四十年三月「敦ニ干支之義一而、忍レ之勿レ罪」〕 曆ニ用キル語。木、火、土、金、水ノ五行ヲ、各、兄卜弟トニ分チ呼ブ、卽チ、木兄、(甲)木弟、(乙)火兄、(丙)火弟、(丁)土兄、(戊)土弟、(己)金兄、(庚)金弟、(辛)水兄、(壬)水弟、(癸)ト分チテ、相配ス、コレヲ總ベテ、十干ト云フ。又、十二支ト云フモノアリ、子、丑、寅、卯、辰、巳、午、未、申、酉、戌、亥ナリ、コレヲ、鼠、牛、虎、兎、龍、蛇、馬、羊、猴、鷄、犬、猪ノ十二ノ生物ニ當ツ、コレヲ十二生肖ト云フ。此ノ十干ト十二支トヲ、甲子、(木兄、鼠)乙丑、(木弟、牛)ナドト配合シテ、六十配ヲナシ、曆ノ上ノ年、月、日等ニ當テテ用キル。轉ジテ、十干、十二支ヲ併セテ、えとトモ稱シ、干支、又、

支干トモ云フ。十二支ヲ、又、方角ノ[illegible]トモス、北ヲ子トシ、東ヲ卯トシ、其間ヲ三分シテ、其界ヲ丑、寅トス、コレニ準ジテ、辰巳ヲ[illegible]、[illegible]ヲ午トシ、未申[illegible]ヲ酉トシ、戌、亥ニテ終ヘル。（時刻ノ條ヲ見ヨ）又、十二支ヲ、時ノ名ニモ用ヰル。時ノ條ニ注ス。[illegible]ニ、十干、十二支ヲ、物名ノ[illegible]トシテ詠メル歌、十[illegible]首アリ。

えどいち（名）江戸一　江戸ノ地ニテ、第一等ナルモノ。天下一、三國一、日本一、ナドト、同ジ趣キノ語。何等ノ第一等ナルヲ、江戸一ト云フ。[illegible]ノ條ヲ見ヨ。[illegible]「江戸一ト云フ者、イツトモナク[illegible]レリ」

えどうた（名）江戸唄　ぶんごぶしノ條ヲ見ヨ。

えどおもて（名）江戸表　田舍地方ヨリ、江戸ノ地ヲ指シテ云フ語。「江戸表へ出向キタリ」「江戸表ニ大火アリ」

えどがはがみ（名）江戸川紙　東京、小石川區ナル、江戸川ノ邊ニテ製出スル一種ノ紙。

えどがらう（名）江戸家老　大名ノ家老ノ、江戸詰ナル者。（國家老ニ對ス）

えどざ（名）江戸座（伊勢風ナドニ對スル語）俳諧ノ一派ノ名。元祿、寶永ノ頃ノ、芭蕉ノ門人、榎本其角、晩年、洒落風ノ俳諧ヲ作レリ、其流ヲ汲ムモノノ稱。

えどざくら（名）江戸櫻（一名、伏櫻ノふしヲ、武士トシ、江戸ニハ武士多ク住ムト云フ意ニ取リテ名ヅケタルナリト云フ）櫻ノ一種。[illegible]、花ハ大輪ニテ、[illegible]ナリ、[illegible]長ク、下ニ垂レ、故ニ臥シテ見ルト云フ心ニテ、昔ハ、伏見櫻、伏櫻ト云ヒキト云フ。（[illegible]、六）

えどじだい（名）江戸時代　江戸幕府ノ條ヲ見ヨ。

えどじやうるり（名）江戸淨瑠璃　京阪ノ淨瑠璃ニ對シテ、江戸ニテ起リタル淨瑠璃ノ稱。大薩摩節、其初ナリ。[illegible]十二「江戸淨るりノ初ハ、結城孫三郎トイフ說經ブシフ、フキ屋町ニヤグラヲアゲテ興行セシガ、ハジメ也、[illegible]トイフモノ有、是ガ語タルヲゐいかんぶしト云ヲ語リハジメタリ、外記トイフモノ有、外記ぶしト云ヲ語リ初タリ、外記ヨリ分レテ、土佐ぶしハ出來タルナリ、此外記、後ニ薩摩左内ト名ヲカヘタリ、外記ぶしノ元祖也、市村竹之丞ガ弟、善[illegible]トイフモノ、左内ノ弟子ニナリテ、大薩摩主膳ト云テ、[illegible]ぶしヲ語リハジメタリ」（[illegible]）

えどすずめ（名）江戸雀（京雀、樂屋雀ナドト云フニ同ジ）江戸市中ノ事ヲ、何クレト、善ク知リ居ル者ノ渾名。

えどぢやうづめ（名）江戸定詰　江戸詰ノ條ヲ見ヨ。

えどつこ（名）江戸兒　江戸ニ生レテ、自ラ生粹ナル大江戸人ナリト誇リテ稱スル語。氣象、爽快ナルヲ旨トス、但シ、多クハ、町人、職人、鳶ノ者、魚賣ナド、勇肌ナル中、腹者ノ、べらんめえ詞ヲツカヒ、任俠ヲ以テ任ジ居ルモノヲ云フ。アヅマッコ。

えどづま（名）江戸褄　そうもやう（總[illegible]）ノ條ヲ見ヨ。

えどづめ（名）江戸詰　江戸時代、大名ノ、[illegible]、江戸ニ參勤、又詰スルニ、江戸ニ居ル時ノ稱。領地ニ居ル時ヲ、國詰ト云フ。又、[illegible]スルコトナク、常ニ江戸ニノミ居ルヲ、江戸定詰、又、定府（府ノ條ヲ見ヨ）ト云フ。其家來ニ就キテモ、亦、然云フ。「[illegible]」

えどなまり（名）江戸訛　江戸ノ人ニ訛レル發音、又ハ、方言。ひもの（干物）ヲしもの、だいこん（大根）ヲでえこ。

えどに（名）江戸煮　さくらにノ條ヲ見ヨ。

えどのり（名）江戸海苔　淺草海苔ノ一名ナルカ。[illegible]、慶長十九年十一月十一日「江戸海苔、枝柿、[illegible]ズ」

えどばくふ（名）江戸幕府　又、德川幕府。武藏國、江戸ニアリシ幕府。慶長八年、德川家康、征夷大將軍ニ任ジテヨリ、十五代ヲ歷テ、慶應三年、政權ヲ朝廷ニ返上セシマデ、二百六十五年ニテ廢セラル。此間ヲ江戸時代、又、德川時代ト云フ。

えどばらひ（名）江戸拂　刑ノ名。德川氏ノ制ニ、江戸市中ヨリ追放シテ、再ビ入ル事ヲ許サヌモノ。（追放ノ條ヲ見合スベシ）[illegible]「一、江戸拂（品川、板橋、千住、本所、深川、四ツ谷、大木戶）ヨリ內、[illegible]」

えどびな（名）江戸雛　江戸ニテ製セル雛人形。古今雛ニ同ジカルベシ。[illegible]覽、六、下「オモフニ、江戸びなト稱スルモノハ、享保[illegible]ナリ」

えどふう（名）江戸風　江戸ノフリ。江戸ノ流儀。エドマヘ。

えどぶし（名）江戸節（一）一名、半太夫節。江戸淨瑠璃ノ一派、江戸半太夫、[illegible]ニ始ム、[illegible]ヨリ分レタルモノ、貞享、元祿ノ頃起リテ、寬保、延享ニ至リテ止ム。支レテ、河東節起ル。（二）河東節ノ一名。「[illegible]、一[illegible]東節トイフ淨瑠璃ハ、江戸半太夫弟子ノ、河東トイフモノ、享保中ヨリ、一流ヲカミリイダシテ、[illegible]ナレリ」

えどほほづき（名）江戸酸漿　たんばほほづきニ同ジ。「[illegible]姬ヤ、色ゴノミ」（女奴ハ、遊女駿山ナドヲ云フ、[illegible]笑覽、六、下）

えどまへ（名）江戸前（まへ（前）ノ條ヲ見ヨ）江戸ノ持前、江戸風。[illegible]子、一、「江戸名[illegible]、中ぶくらト云、此ニノ名目也、總ジテ、云云、江戸前ニテ漁ヲ、前の魚ト稱シテ、[illegible]二佳品也」「江戸前ノ[illegible]」

えどまへ（名）江戸前　江戸ノ前面ノ[illegible]、東京灣ノ[illegible]ニ云フ語、中川ノ下流ノ産ナルヲ云ヘド、飛切物ハ、品川海中ノ[illegible]ノモノトス、[illegible]ルヲ、最モ賞美ス。

えどまめ（名）江戸豆　大阪ニテ、いんげんまめノ稱。

えどむらさき（名）江戸紫（武藏野ニ名アル紫草ニ因メル名ナルベシ）江戸ニテ染ムルむらさきノ染色ノ稱。色稍淺クシテ、アカルキモノ。[illegible]古代紫ニ對ス、むらさきノ[illegible]ヲ見ヨ。

えどやま (名) 江戸山 〔石ハ、山ヨリ切リ出セバ、名トス〕 江戸ノ石屋ノ語。墓碑碣石ヲ賣買スルニツキテ云フ、價、安シ。

えどゑ (名) 江戸繪 (一)京都、大阪ニテ、江戸ニテ製セシ浮世繪、紅繪ナドノ稱。(浮世繪類考) 浮世繪類考「鳥井清信ハ、江戸畫ノ祖トイフベシ」 (二)江戸製ノ錦繪。

えな (名) 胞 〔胞幅ノ轉ニモアルカ、てのごゝろ、たなごゝろ、(掌)胞ノ條ヲ見ヨ〕 古言、え。胎中ノ兒ノ、包マレテアル、膜ノ如キモノ。胞衣。 神代紀、上四「先以二淡路洲一爲レ胞」 醫心方、廿三「子胞」

えながたな (名) 胞刀 アヲヒエ。胎兒ノ胞ヲ切ル用ノ竹刀。

えなつぼ (名) 胞壺 胞ヲ入レテ、土中ニ埋ムル用ノ壺。(胞桶ノ條ヲ併セ見ヨ)

エナメル (名) 〔英語、Enamel.〕 はふらう(琺瑯)ニ同ジ。

えならず (句) 〔え爲らずカ、或ハ、え在らずノ轉カ、(豈、なに。何、あど)能う無心に爲り得ず、在り得ずノ意ニモアラムカ、えさらぬト同趣ノ語ナリ、其語原ヲ見ヨ〕 ず、ぬ、ねト活用スル句。言フニ言ハレズ。淺カラズ。 源、十三、明石二十「御シツラヒナド、えならずシテ、住マヒケルサマナド、ゲニ都ノヤンゴトナキ所所ニ異ナラズ」 同、五、若紫四三十「イワケナキ、田鶴ノ一聲、聞キシヨリ、葦間ニナヅム、舟ゾえならぬ」 今昔物語、廿八、第三十六語、嗚呼繪ノ上手「タダ一筆ニ書キタルニ、心地えならず見エルハ、ヲカシキ事限リナシ」

えなをけ (名) 胞桶 中古ノ禮ニ、胎兒生レタル後、其胞ヲ納レテ、土中ニ埋ムル用キル器。曲輪ニテ、凡ソ高サ八寸、廣サ七寸ト云フ、胡粉ニテ塗リ、雲母ニテ松竹、鶴龜ナド畫ク。一名、押桶。

えに (名) 緣 〔字ノ音、緣ノ轉、錢ヲぜに、蘭ヲらにト云フニ同ジ〕 ユカリ。エン。 蜻蛉日記、下、下九廿「カバカリモ、訪ヒヤハシツル、ホトトギス、花橘ノ、えにコソアリケレ」 和歌ニ多ク、江ニカケテ云フ。 後撰集、十二、戀、四「水鳥ノ、ハカナキアトニ、年ヲ經テ、通フバカリノ、えにコソアリケレ」 新續古今集、十五、戀、五「恨ミテモ、ナホ頼ムカナ、ミヲツクシ、深キえにアル、シルシト思ヘバ」 又多クハ、指シテ云フ意ノ助辭ナル、しヲ伴ヒテ用キラレ、ソレガ連續シテ、一名詞ノ如クモ用キラル。 六帖、五「徒人ノ、渡レド濡レヌ、えにしアレバ、又逢坂ノ、關ハ越エナム」 新續古今集、二十、神祇「世世カケテ、深クゾ頼ム、住吉ノ、えにしアリケル、神ニ事ヘテ」 更級日記「サキニ、上總介ニテ下ラレシえにしアレバ、上總ニ行ク」

えにし (名) 緣 前條ヲ見ヨ。

エニシダ (名) 〔蘭語「エニシタ」ノ轉ナリト云フ、原字、索メ得ズ〕 灌木。高サ四五尺、枝細ソクシテ圓ク、深綠ナリ、葉ハわうばいニ似テ、互生ス、春ノ末ニ黃花ヲ開ク。

エネルギイ (名) 精力 〔獨語、Energie.〕 事ヲ爲シ得ベキ力。元氣。

えのあぶら (名) 荏油 荏ノ子ヨリ取レル油。桐油紙、雨傘ナド塗ルニ用キル。 七十一番職人盡歌合、二十二番、傘張「えのあぶらガ、足ラヌケナ」

えのき (名) 榎朴 本名、え。樹ノ名。高キモノハ三四丈ニ至ル、葉ハ、櫧ニシテ、先、尖リ、端ニ鋸齒アリテ、枝ノ間ニ互生ス、夏ノ初、淡綠ノ花ヲ開ク、實ノ大キサ、豆ノ如シ、生ナルハ綠ニシテ、熟スレバ黑褐ナリ、味、甘シ。 天治字鏡、七六「榎、衣乃木」 倭名抄、廿「榎、衣」 天武紀、上四「大伴朴本連大國」

えのきだけ (名) 榎茸 榎ニ生ズル茸。黃褐色ナリ、食フベシ。 本朝食鑑、三、茸耳「榎茸、訓二惠乃木多計一」

えのお (名) 瘂 病ノ名、いぬおノ條ヲ見ヨ。

えのみごせう (名) 荏實胡椒 こせう(胡椒)ニ同ジ。東國ノ稱。 重修本草綱目啓蒙、二十二、味「胡椒、通名、ゑのみごせう、東國」

えはう (名) 惠方 兄方 吉方 としとく(歲德)ノ條ヲ見ヨ。 閑田耕筆、一「曆ニ兄方トイフコトヲ、此ニ惠方ト書ハ、惠ヲウクル方ト心得タルニヤ、然ラズ、甲丙庚壬等ノ方ニアタレバ、兄弟ノ兄也、甲乙ヲモテ兄弟トスル也」 鹽尻、三十「歲德ノ方ヲ、俗ニゑ方ト云、吉方トカクナリ、伊勢守記、寬正六年八月、今出川殿ノ夫人産ノ所ニ見ヘタリ、吉ヲゑトヨム事、住吉ヲすみのゑト讀ムト同ジ」 江家次第、十四、大嘗會御禊「出御門吉方、御禊吉方」

えはうだな (名) 惠方棚 兄方棚 歲德神ヲ祭ル神棚。 年中行事大成、一、正月「歲德棚、又、兄方棚トモ云、其歲ノ吉兆ノ方ヲ兄方ト稱シ、家毎ニ其方ニ向ヒ、高ク棚ヲツリ、蓬萊ヲ飾リ、供物、燈火ヲ獻ジ、コレヲ祭ル」

えはうまゐり (名) 惠方參 年ノ始ニ、惠方ノ方位ニ當ル神社ニ詣デテ、福德ヲ祈ルコト。 家相祕傳集、下「新年ノ歲德方ヘ詣リ、當年安全守護ノ禮拜ヲナス、歲德詣(惠方參)ト云、是ナリ」 夕霧阿波鳴渡(正德、近松作)中「天滿トヤラノ神明樣ヘ、吉方參リ」

えハツ (名) 衣鉢 〔謠曲、殺生石ニ、えはつトアリ〕 (一)佛敎ノ徒ノ、釋迦ヨリ世世相傳ヘ來レリト云フ、衣ト鉢トノ稱。達磨大師、携ヘテ梁ニ入リ、慧可ニ傳フト云フ。 傳燈錄「五祖忍、以二衣鉢一付二慧能一」 六祖壇經「池州使者問二五祖一曰、會中有二五百僧一、不レ付二衣鉢一、爲レ甚却付二盧行者一云云」 (二)轉ジテ、宗敎、學術ノ道ナド、スベテ、師父ヨリ、子弟ヘ相傳フルコト。 邵氏見聞錄「范質舉二進士一、主司和凝愛二其才一、以二第十三一登第、謂、質曰、君文宜レ冠二多士一、屈居二十三一者、欲下君傳中老夫衣鉢上耳」

えばる (動) 威張 〔いばるノ轉、いぶす、えぶす(燻)〕 いばるノ口語。其條ヲ見ヨ。

えひ (名) 鱝 魚ノ名。形圓ク扁クシテ、大ナルハ、圍ミ七八尺ニ至ル、周邊ニ鰭アリテ、鱗無シ、首ハ、蓑ニ似テ、眼、大キク、口ハ頷ノ下ニアリ、尾、細長クシテ尖リ、尾ノ本ニ刺アリテ、人ヲ刺ス。 海鷂魚 其中ニテ、赤鱝ヲ最トス、背ハ、淡黑、黃赤ニシテ、腹、白ク、中ニ、紅斑相對セルモノナリ。 魟魚 其他、眞鱝、鳥鱝、鵄鱝、牛鱝、すぶた鱝、よおさ鱝ナド、種類多シ。 本草和名、下八十「鱝魚甲、衣比」 字鏡七十「鱝、衣比」

えひ (名) 裛衣 えひかう(裛衣香)ノ略。其條ヲ見ヨ。

えび (名) 鰕蝦 〔腰、曲ルガ故ニ、老人ニ比シテ、海老トモ書キ、(萆薢ヲ野老ト記スト、同趣)ソレニ就キテ、うみのおきなト訓ミテ、異名トス〕 (一)〔海產ノ動物。身細長クシテ、全身、殼ニオホハレ、背ニ數斷節アリテ、腰曲ル、鼻尖リテ、二鬚長ク立チ、五對ノ足アリ、能ク躍ル、大抵、生ナルハ薄黑ク、煮レバ紅ナリ。海ナルヲ海蝦ト云フ、海蝦ニ、車

えび、芝えびナド、種類多シ、又、同種ニテ、淡水ニ棲マルヲ、川蝦ト云フ、此種ニ、手長えび、杖突えびナドアリ。(二)〔軍ニ、伊勢えびヲ云フ。[illegible]〕(三)伊勢ニテ、髮ノ髷ノ稱、形、蝦ノ、腰ヲ折レルニ似タレバ云フ。マゲブシ。

えび (名) (一)蝦蔓ノ略。(二)葡萄ノ(一)ノ略。

えびいろ (名) 海老色 〔茹デタル伊勢海老ノ頭ノ色〕紺色ノ、赤ミアルモノ。

えびかう (名) 裹衣香 〔えひハ、裹衣ノ音、えふえノ轉カト云フ、倭名抄ニ「裹、於業反」トアリ、(唐韻 裹香 類書「香襲衣也」)或ハ、衣被ナルカ、花鳥餘情ニハ、「裹皮ノ音ナリトス」〕煉香ノ名、略シテ、えひトノミモ云フ。裹 香ニ用キテ、衣服ニ薫ズルモノナルベシ、楷櫨ノ葉皮ヲ春キ、篩ヒテ製スト云フ、或ハ、三種ト云ヒテ、麝香、沈香、白檀ヲ等分ニシテ、甘葛煎ニテ合セ、檳榔子ノ皮ヲコソゲ入レタル香、是レナリトモ云フ。源、廿三、初音「火桶ニ、侍從(煉香ノ名)ヲクユラカシテ、物ゴトニシメタルニ、えひかうノ香ノ紛ヘル、イト艶ナリ」倭名抄、十二「裹衣香、裹、於業反、俗云二衣比二」宇津保物語、藏開、上「えひ、丁子、金ノ臼ニ入レテ、搗カセタマフ」源、六、末摘花「えひノ香、イトナツカシウ薫リ出デテ」花鳥餘情「香字抄云、採二梅檀葉皮一、[illegible]、香、故云二裹皮一」新猿樂記「沈香、麝香、衣比、丁子、云云」

えびかづら (名) 〔鬚アリテ、蝦ニ似タル故ノ名カト云フ〕(一)葡萄ノ古名。神代紀、上「蒲萄」(二)えびづるノ古名。本草和名、上[illegible]、和名、衣比加豆良」(三)髪ノ[illegible]、廿三、[illegible]、えびかづらシテゾ、ツクロヒタマフベキ」

えびがに (名) 蝦蟹 ざりがにニ同ジ。

えびざこ (名) 蝦雜魚 小蝦ノ中ニ、小魚ノ雜リテアルモノ。えびぢゃこ。

えびさやまき (名) 海老鞘卷 〔形、茹デタル車海老ノ如ク、總體赤シ〕海老作ノ鞘卷。鞘卷ノ刀ノ、總體、朱漆ニテ塗リタルモノ。(さやまきノ條ヲ見ヨ) 光源院殿御元服記「刀、海老作鞘卷也、云云、海老鞘卷刀ヲ指サル也」刀劔問答「えびさや卷、云云、柄モ、鞘モ、海老ノ殼ノ如ク、刻目ヲ付ケテ、朱塗ニスル也、鐺ノ所、海老ノ腰ヲカガメタル如クニシテ、尾ノ形ヲモ刻ム也、云云、かがみめノかたハ、少シ太シ」

えびぢゃこ (名) 前前條ヲ見ヨ。

えびす (名) 夷 〔えみじノ轉、ひじき、ひずき。(鹿尾菜)さずき、さぢき(棧敷)〕(一)蝦夷ニ同ジ。古ヘ、東國ニ住ミシ、荒荒シキ人種ナリ。[illegible]、九年二月、蝦夷數以不朝」天治字鏡、十二「蝦夷、衣比須」[illegible]第廿二[illegible]「蝦夷、衣比須」(二)轉ジテ、東人ノ稱トモシテ、スベテ、物ノ情ヲモ知ラヌ、荒荒シキ人ヲ云フ語。堤中納言物語、逢坂越えぬ權中納言「心深ケニ聞エ續ケタマフ事ドモハ、奥ノえびすモ思ヒ知リヌベシ」狹衣、一、上「荒キえびすモ泣キスベキ御サマナリ」京都ノ人ヨリハ、東國ノ武士ヲ、荒荒シク思ヒテ、えびす、又、あづまえびすト云フ。(三)又轉ジテ、賤シク、鄙ビタル田舍人ヲ云フ語。伊勢物語、十五段「女、限リナクメデタシト思ヘドモ、サルサガナキえびす心ヲ見テハ、イカガハセムハ」源、四十九、東屋「えびすメキタル人ヲノミ、見ナラヒテ」(四)〔開ケタル己ガ國ヨリ見テ、四邊ノ、開ケヌ外國ノ民。東夷、南蠻、北狄、西戎。

夷狄[illegible] (五)えびすさぶらうノ略。其條ヲ見ヨ。

えびすあふぎ (名) 惠比須扇 年ノ初ノ祝ヒニ用キル扇。伊勢國、山田邊ニテ作ル、粗造ナルモノ。伊勢音頭二見眞砂「今宵ゾ[illegible]、[illegible]、笑ウニ逢ウタル、[illegible]ノ、えびす[illegible]ノ、千代カケテ」

えびすかき (名) 夷舁 惠比須舁 〔惠比須ノ人形ヲ箱ニ入レ、紐ニテ頸ニ舁キテ胸ニ垂レ、人形ヲ舞ハシタレバ名トセシナルベシ〕惠比須舞ニ同ジ。其條ヲ見ヨ。傀儡子 東海道名所記(萬治)六、京「淨瑠璃ハ其頃、京ノ次郎兵衞トカヤ云フモノ、云云、西ノ宮(攝津)ノえびすかきヲ語ラヒ、四條河原ニシテ、[illegible]ノ故ガ事ヲ語リテ、人形ヲアヤツリ」

えびすがけ (名) 夷懸 〔えびすさぶらうノ條ノ(二)ヲ見ヨ〕(一)絲、紐ナドヲ、上ニアラハシテ、打チチガヘテ絡ゲ縫ヒツクルコト。後ニ云フ、閑清縫ニ同ジカルベシ。新六帖、二、[illegible]「我ガ事ハ、奥ノ郡ノ、えびすがけ、トニモカクニモ、引キチガヘツヽ」三條家裝束抄「上袴、壯年ノ人ハ、云云、股立ニ有二夷懸ノ絲一(白糸、太キ也)」(松屋筆記、七十四)(二)着坐ノ式ニ云フ語。兩側ノ席順ヲ、千鳥懸ニスルコトナルベシ。コマドリ。二水記、八、大永二年正月二日、著坐事相分著之(註、謂二江比須加介一)已上文與端相分著也」(松屋筆記、七十八)

えびすがほ (名) 惠比須顏 〔惠比須ノ神ノ、笑顏ナルニ寄セテ云フ、惠比須ト書クモ、笑みすニ寄スルナリ〕笑顏。ワラヒガホ。「借リル時ノ惠比須顏、還ス時ノ閻魔顏」

えびすがみ (名) 夷紙 〔えびすさぶらうノ條ノ(二)ヲ見ヨ〕紙ヲ數枚重ネ揃ヘテ、裁ツ時、一、二枚折レ込ミテ、ヤツ知ラズニ裁チモラシ、後ニ其端出デテ、使ノ紙ト異ナルモノ。[illegible]「[illegible]紙、齋初ヤ、マヅ心ヨキ、えびす紙」

えびすぎれ (名) 惠比須切 〔長短不具ナレバ云フ、えびすさぶらうノ條ノ(二)ヲ見ヨ〕呉服店ニテ賣ル、端切ノ布帛。

えびすぐさ (名) 夷草 〔夷地渡來ノ意ナルベシ〕(一)エビスグスリ。ヌミグスリ。芍藥ノ古名。字鏡[illegible]「[illegible]、衣比[illegible]」本草和名、上「芍藥、[illegible]、和名、[illegible]」(倭名抄、同ジ)(二)決明ノ古名。本草和名、上「[illegible]、衣比[illegible]久佐」(倭名抄、同ジ)

えびすぐすり (名) 夷藥 前條ノ(一)ヲ見ヨ。

えびすくひ (名) 蝦掬 川蝦ヲ掬ヒ捕ル具。手網ノ類ナリ。

えびすこう (名) 夷講 惠比須講 〔えびす[illegible]〕商家ノ惠比須神ノ祭、商業ノ神トシテ祭ルナリ、十月二十日ニ行フ、大イニ饗應シテ、商業ノ繁昌ヲ祈リ、假ニ商業取引ノ定マレルニ擬シテ、主客共ニ手ヲ叩キテ祝ヒナドス、江戸開府ノ初、京都ノ商人、貨物ヲ持チテ、十月廿日發足シテ江戸ニ來リ、賣買ヲ終ヘテ、正月ニ歸京ス、故ニ、京都ニテハ、正月十日ニモ惠比須祭ヲ行ヒ、([illegible])習文挿ノ後、十一月二十日ニモ行フ。改正月令博物筌、十月廿日、惠比須講[illegible]ノ川[illegible]「夷講、踊子ヲヨブ、息子ノ代」(親ノ代ニハ夢ニモ見ズ)[illegible]、六、[illegible]、十月廿日 俳[illegible]、正月「夷祭、十日」

〔えびすおろ（名）［夷心］ヒナビタル心。情ヲ知ラヌ心。えびすノ(三)ノ條ヲ見ヨ。

えびすごろも（名）［戎衣］〔戎衣ノ字ノ文字讀、說文「戎、兵也」書經、武成篇「一戎衣、天下大定」又、武士ヲ夷ト云ヘルニ寄セタル心モアリ〕戰爭ノ衣服。鎧。ソレヲ着タルヲ、えびすがたト云フ、專ラ、公卿ノ人ニ云フ。小島のすさび(二條關白良基)「朝衣ノ人ハナクテ、えびすごろもトカヤノ姿、メヅラシキ事ナリ」權大納言、今出川宰相中將ナドハ、ナホえびす姿ニテ、行幸ニハ供奉セズ」(北朝ノ公卿ナリ)

えびすさぶらう（名）［夷三郎］〔神代紀、上九ニ、諾册二尊、日神、月神ヲ生ミタマヒ、次ニ蛭兒ヲ生ム、三歲ニ至ルマデ脚立タズ、船ニ載セテ、順風ニ放チ棄ットアリ、不具ナルニ因リテ、夷ト云ヒ、第三子ナレバ、三郎ト云ヘルカ〕(一)攝津國、武庫郡、西宮ノ蛭子ノ神ノ稱。常ニハ、惠比須ト云ヒ、訛リテ、えべすナドト云フ、其像ハ、肥エテ、笑顏シ、(笑みすニ因リテ、惠比須ト書クカ)狩衣、指貫ヲ着テ、風折烏帽子ヲ冠リ、右手ニ釣竿ヲ持チ、左手ニ鯛ヲ抱ヘタル狀ヲナス。此神、常ニ、大黑天ト並べ稱シ、又、七福神ノ一トシ、最モ商家ニ崇メ祭ラル。盛衰記、九、宰相申ニ預丹波少將ニ事「一ノ雖山アリ、峯高ウシテ谷深シ、其名ヲ鬱岳ト云フ、彼岳ニハ夷三郎殿ト申ス神ヲ齋ヒマツリ、岩殿ト名ヅケタリ」(硫黃ガ島ナリ)太平記、廿五、自ニ伊勢ニ進ニ寶劒ニ事「蛭子ト申スハ、今ノ西宮ノ大明神ニマシマス、生レタマヒシ後、三年マデ御足立タズシテ、かたはニオハセシカバ、磐樟船ニ乘セテ、海ニ放チ奉ル、云云」(二)蛭子ノ神ノ不具ナルニ因ミテ、物ノクヒチガヒ、ヤリチガヘタル、又、常ニ異ナルニ、えびすがけ、えびす紙、えびす膳ナド云フ語アリ。

えびすすがた（名）［戎姿］前前條ヲ見ヨ。

えびすぜに（名）［惠比須錢］繪錢ノ一種。面ニ、惠比須ノ姿ヲ鑄出シタルモノ。奉使小錄(靑木昆陽)「今アル夷錢ハ、通用ノモノニアラザルヤウナレド、武州、秩父郡ヨリ出セル古書ニ見レバ、通行ノ錢ト見エタリ、其文、左ノ如シ、云云、右代物、如ニ前前ハゑびす錢、村鄉中大小人ヘ借候、云云、甲戌八月十七日、朱印アリ、北條氏ノ印ナルベシ」

えびすぜん（名）［夷膳］〔えびすさぶらうノ條ノ(二)ヲ見ヨ〕誤リテ、食盤ノ側面ヲ、人ニ供スルコト。折敷ナルヲ、えびすをしきト云フ。寬永發句帳「櫻鯛、スユルハえびす、折敷カナ」

えびすだひ（名）［夷鯛］(一)鯛ノ一種。めばるニ似テ、目、口、大キク、全身ニ紅ト綠トノ斑アリ。(二)又、一種。鰭、尾ニ、堅ク鋭キ刺アリ、鱗、赤堅ク、赤クシテ、紅ナル點アリ。(三)又、黑鯛ニ似テ、眼大キク、形、肥エテ、色、暗紫ナルモノ。

〔えびすね（名）［夷根］〔夷地產ノモノカ〕又、アヤメタム。われもかう(地楡)ノ古名。本草和名、上三十「地楡、衣比須禰、阿也女多牟」(倭名抄、同ジ)

えびすば（名）［惠比須齒］大黑齒ノ條ヲ見ヨ。

えびすぶな（名）［夷鮒］眞鮒ノ形ニテ、肩ニ節アリ、首、甚ダ小サキモノ。

えびすまつり（名）［夷祭］えびすこうノ條ヲ見ヨ。

えびすまはし（名）［惠比須舞］〔初ハ專ラ、惠比須ノ神ノ人形ヲ舞はしタルヨリノ名ナルベシ〕攝津ノ武庫郡、西ノ宮ナル惠比須神社ノ邊ヨリ出ヅル人形舞ノ稱。エビスカキ。クグツマハシ。

〔えびすめ（名）［昆布］〔夷布ノ義、蝦夷ノ海ニ產ズルガ故ニ云フ、め、(海藻)幷ニ、昆布ノ條ノ語原ヲ見ヨ〕昆布ノ古名。其條ヲ見ヨ。

えびすゆみ（名）［夷弓］〔夷トハ、常ニ異ナル意ナルベシ〕短キ弓ノ名。吾妻鏡、廿六、元仁元年二月廿九日「弓二張、云云」註「頗短似ニ夷弓ハ以レ皮爲レ弦」天正本、太平記、三十二、直冬上洛事「黑革ノ腹卷ニ、夷弓持チテ」

えびすをしき（名）［夷折敷］えびすぜんヲ見ヨ。

えびぜめ（名）［海老責］德川時代、拷問ノ一種。罪人ニアグラヲカカセ、伏セテ、頭ノ、足ニ着クヤウニ縛リ締ムルモノ。法曹後鑑、牢問致方之事「海老ト申候ハ、胡床ヲカカセ、兩足首ヲ一ツニ結、右足首ヨリ首江繩ヲ懸、前之方江段段〆寄セ申候」

エピソオド（名）〔英語、Episode.〕插話。枝話。閒ノ出來事。

〔えびぞめ（名）［葡萄染］〔葡萄ノ條ヲ見ヨ〕(一)染色ノ名。紫葡萄ノ實ノ色、即チ、紫ノ、淺キモノ。衣服令、義解「蒲萄染者、紫色之最淺者也」(二)織物ニ、經、紅ニ、緯、紫ナルモノ。ブダウイロ。枕草子、十一、百三十三段「えびぞめノ織物ノ指貫ヲ着タレバ、云云」名目抄、雜物篇「蒲萄染、經、赤、緯、紫歟」(三)襲ノ色目ニ、表、蘇芳ニ、裏、花田ナルモノ。(桃花蘂葉)榮花物語、八、初花「蒲萄染ノ五重ノ御衣、蘇枋ノ御小袿ナドヲゾ奉リタル」

⁂えびぞろ（名）えびづるノ口語。

えびちやいろ（名）［海老茶色］海老色ノ、茶色ヲ帶ビタルモノ。

えびぢやう（名）［海老錠］〔ぢやう(鎖)ノ條ヲ見ヨ〕(一)錠ノ一種。腰ノ曲レル海老ノ形シタルモノ。唐櫃ナドニ用キル。南京錠。魚鎖。魚鑰(二)門ノ貫木ニ鎖ス、大キク、絃ノ形シタル錠。

えびぢよらう（名）［海老女郎］女兒ノ玩具。茹デタル伊勢海老ノ目ヲ取リテ、紙雛ノ頭トシタルモノ。俳諧三物(寬文)「裏白ヤ、海老上﨟ノ、シタガサネ」(骨董集、上下、後)

えびづくりのさやまき（名）［海老作鞘卷］えびさやまき(海老鞘卷)ニ同ジ。

えびづる（名）古名、エビカヅラ。エビ。蔓草、山ニ多シ。春、舊根ヨリ生ジテ、甚ダ茂ル、葉ハ、葡萄ニ似テ、小サク厚ク、種種ナル變葉アリ、共ニ、面ハ深綠ニシテ、背ニ白毛或ハ褐毛アリ、互生ス、夏、葉ノ閒ニ穗ヲ出シテ、圓キ實ヲ結ブ、數十下リ垂ル、ふんてんノ實ヨリ小サクシテ、熟スレバ黑ク、味酸シ。えびぞろ。(口語)蘡薁

えびね（名）［海老根］〔根ニ節多クシテ、蝦ノ脊ニ似タリ〕草ノ名、葉ノ形、白及ニ似テ、闊ク短シ、夏ノ初、莖ヲ出シ、十數花ヲ着ク、赤、しゆらんニ似タリ、花ノ色、褐色、淡黃白色等アリ。

えびむし（名）［蝦蟲］水蠆ニ同ジ。

〔えひめ（名）［長女］〔兄姬ノ義、(弟姬ニ對ス)兄ノ條ヲ見ヨ〕第一ノ女。皇極紀、

三年正月「長女[少女]」

(一)えびら (名) [蠶箔] 〔葡萄葛ノ略ニテ、(洞、うろ)葡萄ノ蔓ニテ作リシモノカ〕養蠶ノ具。古製ハ知ラズ、後世ナルハ、竹籠ニテ、かひさかおト云フ、其條ヲ見ヨ。今モ、相模、又ハ、武藏ノ八王子邊ニテハ、えびらト云フ。又、[illegible]ノ名モアリ。倭名抄、十四[illegible]「[illegible]」[illegible]ソレニコソ、両作ラセテ、繇引ナサメ」[illegible]一、[illegible]ノ[illegible]ニ作ル頃、云云、[illegible]テ、[illegible]スルヲリニ、えびらト云フナルモノニスナルヲ、云云」

えびら (名) [箙] 〔[illegible]ノ略ニテ、竹籠製ノ竹箙ガ、本ナルベシ、今昔物語、廿九、廿三語ニ「竹蠶簿、箭十バカリ刺シタルヲ搔負テ」トアリ〕箭ヲ盛リテ、背ニ負フ器。古製ナルハ、胡籙ニ同ジ。後ニハ、平胡籙ニ似タル製ノ物ノ稱トナリテ、逆頬箙、柳箙、角箙、竹箙ナド、種種アリ。矢ノ數、二十四本ニテ、其一本ハ、矢だらみノ緒ニテ、箙ニカラミツク。 平家物語、四、宮御最期「二十四刺シタル矢ヲ、差シツメ引ツメ、散散ニ射ル、矢庭ニ敵十二人射殺シ、十一人ニ手負ウセタレバ、箙ニ一ツゾ殘リタル」

えびらがたな (名) [箙刀] 〔鎧ノ上帶ノ右手ノ背寄ノ方、箙ニ近キ邊ニ指ス故ノ名カト云フ〕短刀ノ名。馬手刺ニ同ジキカト云フ。 [illegible]、えびら刀、首カキ刀」[illegible]、今ハ馬手指ト云フ歟」(松屋筆記、九十九)

えびを (名) [海老尾] (一)琵琶、三味線ノ名所。棹ノ頂端ニ、轉手アリテ、背ニ反レル狀、海老ノ尾ノ如キ所。 宗五大雙紙「琵琶ヲ人ニ參ラスルニハ、云云、琵琶ヲアヲノケテ、[illegible]ニ[illegible]」 (二)金黄ノ一種、其尾ノ頭ノ尾ニ似タルモノ。金覆魚

えふ (名) [葉] 〔合葉ノ略ニテ、其葉ノ[illegible]ノ、開ク刳リ入リタル象ニ因リテ云フ語ナルベシ〕曲線ト曲線ト相會シタル點ノ、刳リ込ミタル如キ象ヲ云フ語。限切角ニ葉入ト云フモ、是レナリ。 徒然草、三十三段「今ノ内裏造リ出サレテ、云云、玄輝門院[illegible]、閑院殿ノ櫛形ノ穴(小窓)ハ、開ク縁モナクゾアリシト仰セラレケル、云云、是ハえうノ入リテ、木ニテ縁ヲシタリケレバ、アヤマリニテ、直サレニケリ」

えふ (接尾) [葉] 紙ナド、數フルニ云フ語。枚ニ同ジ。ヒラ。「紙、三百葉」

えぶ (名) [厭舞] 〔厭舞ノ約、閻浮ヲモ、えぶト云フガ如シ〕厭舞ノ條ヲ見ヨ。

(一)エブ (名) [閻浮] 閻浮提ノ略。其條ヲ見ヨ。

えふいり (名) [葉入] すみきりがくノ條ヲ見ヨ。

えぶ・す (動) [熰] 熰すノ口語。

えふてつ (名) [葉鐵] ブリッキ。

えぶな (名) [江鮒] (一)鯔ノ、色赤キモノト云フ。(松屋筆記、十二) 山家集、下「種漬クル、壺井ノ水ノ、引ク末ニ、えぶな集ル、落合ノ淵」 (二)鯔ノ、小サキモノ。すばしりニ同ジ。(畿内) (三)又、關西ニテ、魚ノ名、ゑくち、ノ小サキモノ。

えぶのらんじやう (名) [厭舞亂聲] 厭舞ノ振桙ノ曲ニテ、三度桙ヲ振ル、初メノ亂聲ハ天ノ分、第二度ハ地ノ分、第三度ハ人ノ分、三才ニ配當シテ、桙ヲ振ル間ニ、唱フル頌文アリトゾ。[illegible]、厭舞ノ條ヲ見ヨ。

(一)えぶり (名) [杁] 〔柄杁ノ義、またふり、ふりわけノ、ふりナリ、玉篇「杁、無齒杷也」〕柄ノ長キ木杷ノ、頭ノ、橫板ナルモノ。土塊ヲ碎キ、又ハ、穀實ヲ搔キ集ムルナドニ用キル。 天治字鏡、十二「[illegible]、江夫利」倭名抄、十五、農耕具「杁、江布利、[illegible]之無齒者」[illegible]御抄、雪山ノ[illegible]「柄振」

えぶりいた (名) [杁板] 築地、又ハ、常ノ庇ノ材木ノ上ノ、出桁ノ端ヲ覆フ橫板。緣ヲ渦渦形ニ刳リテ、飾リナドス。

エブリコ (名) 〔蝦夷語、Epirika.ナルベシ〕落葉松、とどまつニ寄生スル、木耳ノ如キモノ。北海道、其他ノ寒地ニ産ズ、厚サ五六寸、質、堅ク輕ク、黄白色ニシテ、光澤アリ、味、甚ダ苦シ。[illegible]痛、[illegible]痛ナドニ效アリト云フ。落葉松寄生

えぶ・る (動) 火熰るノ口語。

エプロン (名) 〔英語、Apron.〕西洋式ノ、前掛ヲ兼ネタル上張。主ニ、小兒、及、食堂、かふえ等ノ給仕ノ間ニ用キラル。

えふわん (名) [葉椀] クボテ。

えべ・す (名) 惠比須ノ口語。

えへへ (感) 穩カニ笑フ聲。

えへん (感) 咳バラヒスル聲。人ニ注意セシムルナドニ發ス。

(一)えぼうし (名) [烏帽子] 〔烏ノ字ノ古音、お、え(唐韻「烏、哀都切」)ナレド、後ニ、を、ゑ(玉篇「烏、於乎切」)トナリテ、我ガ邦ニモ、を、ゑノ音ニ用キタレド、[illegible]ニモ、[illegible]テ、えノ音ニ用キ、又音便ニ、えんト發音セリ、[illegible]コトハ、くれのおもつ[illegible]ノ名、音便ニ、えんぼうしトモ云ヒ、專ラ約メテ、えぼしト云フ、又、其條ヲ見ヨ〕 [illegible]

ゑぼし (名) [烏帽子] 「前條ノ語ノえぼうしノ約、其語原ヲ見ヨ」又、エボウシ。エンボウシ。[illegible] 上代、黑キ紗、又ハ、帛ニテ作レル帽子ナリ。[illegible] 鳥羽天皇ノ頃ヨリ、紙ニテ作リ、黑漆ニテ塗リ固ムルモノトナリ、貴者ハ冠、袍、ナラヌ時ニ用キ、賤者ハ常用トス、貴賤ニ因リテ、形ト塗トニ別アリ、立烏帽子ハ、高貴ノ用ナリ、[illegible]ニ折リ居エタルホド、卑賤ノ用トナル。風折烏帽子、揉烏帽子、引立烏帽子、平禮烏帽子、侍烏帽子、納豆烏帽子等、尚、種種アリ。

(一)えみし (名) [夷] 〔能不見ノ義ニテ、[illegible]ハシクシテ見ルコトヲ欲セヌ意ナルベシ、終止形ノ、名詞トナルハ、古事記、下(元恭ノ)「[illegible]」ト、佐寶シ佐寶テバ、ナドアリ、えみじニ、蝦夷ノ字ヲ當テテ書ケルハ、東夷ノ事ナリ、蝦ノ字ハ、蛙ノ義ニテ、東夷ヲ穴居セル事

ハ、常陸國風土記、茨城郡ノ條ニ見エタリ、穴居セルガ、蛙ニ似タレバ當テタルナリ、萬葉集、八 五十一「黄葉蝦手」(楓)トアリ」(二)上代ノ一種ノ人種ノ名。土蜘蛛ノ類ニシテ、穴居セリ、大和國ノ穴居ノ人、八十梟帥ドモヲ、愛瀰詩ト云ヘリ。(神武即位前紀、戊午年十月)(二)轉ジテ、古ヘ關東、奧羽、越後ニ住ミシ人種ノ名ニ移レリ、其族、猖獗ニシテ、亦穴居シタリ。蝦夷、遐夷、遐狄ナドノ字ヲ當ツ。(敏達紀ニ、毛人トモアリ、其人、毛深キ故ナリ)轉ジテ、えびすト云ヒ、又、えぞトモ云フ。(各條ヲ見ヨ) 景行紀、廿七年二月「東夷之中、云云、其國人、云云、總曰二蝦夷一」 齊明紀、五年七月、註「蝦夷幾種、云云、類有二三種一、遠者名二都加留一、次者麁蝦夷、近者名二熟蝦夷一」

えん (名) 緣 (一)〔ユカリ。ヨスガ。ヨルベ。エニ。エニシ。緣故。 枕草子、四、四十一段「次次、えん尋ネテ、文得ムト云ハスレバ」 (二)五倫ノツヅキアヒ。「父子ノ緣」夫婦ノ緣」 (三)專ラ、夫婦ノツヅキアヒ。「緣組」緣談」緣家」緣ヅク」 (四)和歌ニ云フ語。えんのことばノ條ヲ見ヨ。 (五)〔佛經ノ語。いんえん(因緣)ノ條ノ(一)ヲ見ヨ。 源、五十二、手習 三十一「初瀨ノ觀音、云云、何カ、ソレ、えんニ從ヒテコソ導キ給ハメ、因ナキコトハイカデカ」「緣ナキ衆生ハ度シガタシ」

〔えん (名) 緣椽 〔家ノ緣ノ意、椽ハ「音傳、榱也」ノ義ニアラズ、緣木ノ和製合字ナリ、社木ノ合字ノ、杜ノ如シ〕 (一)母屋ノ廂ノ端。廣緣、落緣ナドアリ。 大和物語、下「男、えんニ上リテ居ヌ」 枕草子、四、四十四段「えんニ、人人、出居ナドシタルニ」 更級日記「庇ノ、えんノモトマデ來テ、打鳴イタル」 (二)エンガハ。座敷ノ外側ノ、細長キ板敷。 枕草子、六、五十段、口をしき物「御文トリイレテ、淺[illegible]ハ細ソキえんナレバ、コナタノえんニ、シトネサシ出シタリ」

〔えん (名) 宴 ウタゲ。約シテ、え。酒食、歌舞ナドシテ興ズルコト。サカモリ。酒宴。 左傳、昭公廿五年「明日宴、飲レ酒樂」 宇津保物語、藤原君 三十七「彌生バカリ、御前ノ花ノ盛リニ、花ノえんシタマヒケルニ」「月ノ宴」

〔えん (名) 艷 ツヤメキタルコト。ウックシキコト。イロメキタルコト。 源、十三、明石 二十二「えんニマバユキサマハ、マサリザマニゾ見ユル」 枕草子、九、百十三段、人の家につきづきしき物「人ノモテキタルヲ、青キウスヤウヲ、えんナル硯ノ蓋ニ敷キテ、コレ、マセゴシニサフラヘバトテ、マヰラセタレバ」

えん (名) 衍 衍字ノ略。

えん (名) 延 延音ノ略。

えん (名) 鹽 化學ノ語。酸ノ中ニアル水素ヲ、金屬元素、又ハ、コレニ類スルモノト置キ換ヘテ生ズル、中性ノ化合物。硫酸鹽、鹽化なとりうむナド、是レナリ。是レ等ヲ、鹽類ト云フ。

えん (名) 炎 病ノ名。炎症ヲ見ヨ。

えん-あん (名) 宴安 何事モナサズシテ、遊ビ居ルコト。 左傳、閔公元年「諸夏親暱、不レ可レ弃也、宴安酖毒、不レ可レ懷也」

えん-いう (名) 緣由 ユカリ。緣故。 杜甫詩「中原正格鬪、後會何緣由」

えん-いう (名) 奄有 土地ヲ掩ヒ有ツコト。 書經、大禹謨篇「皇天眷命、奄二有四海一、爲二天下君一」 徐幹、法象論「成湯不三敢怠遑一、而奄二有九域一」

えん-いう (名) 愆尤 あやまちト、とがめト。 張衡、東京賦「卒無レ補二於風規一、祇以昭二其愆尤一」

えん-いん (名) 延引 常ニ、いんヲ、連聲ニ、にんト云フ。約シタル時ハ、延ビ後ルルコト。遲滯。 通鑑、唐憲宗紀「延二引歲月一、賊勢益張」 紀略、後篇、四、天德二年二月十三日「有二犬死穢一、仍大原野祭延引」

えん-いん (名) 燕飲 宴飲 酒ヲ飲ムコト。サカモリ。 史記、齊悼惠王世家「朱虛侯言入二侍高后一燕飲、高后令レ爲二酒吏一」 南史、曹景宗傳「帝于二華光殿一宴飲連句」

えん-いん (名) 緣因 佛經ノ語。モノノ緣ニヨルコト。 大藏法數「緣即緣助、謂二一切功德善根一、資二助了因一、開二發正因之性一、故名二緣因一」

えん-う (名) 煙雨 煙ノコメタル雨。 杜牧、江南春詩「南朝四百八十寺、多少樓臺煙雨中」

えん-うん (名) 煙雲 けむりト、くもト。 班固、西都賦「紅塵四合、煙雲相連」

えん-えい (名) 掩映 オホヒ、カクスコト。 李白、大鵬賦「掩二映乎四海之半一」

えん-えき (名) 演繹 〔英語、Deduction. ノ譯語、歸納ハ、Induction. ノ譯語〕 論理學ノ語。推論ノ二大法ノ一。既知ノ原理ヨリ、特殊ノ事ニ論下スル推論。コレニ對シテ、多クノ特殊ノ事實ヨリ、一致ノ點ヲ求メテ、一般ノ原理ニ論及スル推論ヲ、歸納ト云フ。

えん-えん-と (副) 燄燄 炎炎 火ノ、燃エ上ル狀ニ云フ語。 詩經、大雅、蕩之什、雲漢篇「旱既太甚、則不レ可レ沮、赫赫炎炎」 書經、洛誥篇「無レ若二火始燄燄一、厥攸レ灼敍、弗レ其絶上」

えん-えん-と (副) 奄奄 息ノ、フサガル狀ニ云フ語。アヘグサマ。 李密、陳情表「日薄二西山一、氣息奄奄」

えん-えん-と (副) 掩掩 香氣ノ、サカンニ起ツサマ。 宋玉、高唐賦「聯延夭夭、越香掩掩」

えん-えん-と (副) 晻晻 ウスグラキ狀。 班彪、北征賦「日晻晻其將レ暮、今覩二牛羊之下來一」

えん-えん-と (副) 淵淵 奧深キサマ。 中庸、第三十二章「肫肫其仁、淵淵其淵、浩浩其天」

えん-えん-と (副) 燕燕 ヤスラカナル狀。 詩經、小雅、北山篇「或燕燕居息、或盡瘁事レ國」

えん-おん (名) 延音 〔約音ニ對ス〕 一音ノ、延ビテ、二音トナルコト。略シテ、延。むか、むよか、むいか。(六日)やか、やうか。(八日)やや、やうやう。(漸)よそふ、よそほふ。(裝)うつる、うつろふ。(移)ノ類ナリ。

えん-か (名) 緣家 姻族ノツヅキアヒ。緣者。ミウチ。 唐書、高儉傳「緣家在二壽陽一」

えん-か (名) 烟霞 けむりト、かすみト。 沈約、桐柏山金庭館碑銘「吐二吸烟霞一、變二煉丹液一」 烟霞の痼疾トハ、甚シク山水ノ景ヲ愛スル性癖。 唐書、田遊巖傳「遊巖隱二箕山一、高宗幸二嵩山一、親至二其門一、遊巖野服出拜、帝曰、先生比佳乎、否、答曰、臣所レ謂泉石膏肓、烟霞痼疾者也」

えん-か (名) 嚥下 喉ニ呑ミクダスコト。

えん-が (名) 燕賀 〔燕ハ、人家ニ巣クフモノナレバ、人、大家屋ヲ造レバ、己レモ住居ヲ得ル故、相賀シテ喜ブト云フヨリ出ヅ〕 家屋ノ落成ヲ賀スルコト。 淮南子、說林訓「大廈成、而燕雀相賀、憂樂別也」

えん-かい (名) 沿海 (一)海ニ沿フコト。又、海ニ沿ヒタル陸地。 國語、吳語「命二范蠡舌庸一、率レ師沿レ海泝レ淮、以絶二吳路一」 (二)陸地ニ沿ヒタル海。

えん-かく (名) 沿革 〔舊ニ沿ふト、革るト〕 物事ノ、ウツリカハリ。 柳宗元、陳京行狀「崔從二太和初一爲二博士一、最以二禮家沿革一」

えんがく (名) 縁覺 佛經ノ語。十二因縁ヲ觀ズルヲ縁トシテ、涅槃ニ覺悟スル者。其位ハ、菩薩ノ下、聲聞ノ上ニ在ルモノトス。獨覺トモ云フ。[illegible]

エンガワ
えんがは (名) 縁側 えん。座敷ノ外ニ、別ニ添ヘタル、細長キ板敷ノ處。[illegible]

えんがん (名) 沿岸 (一)水ニ沿ヘル岸。河海ニ沿ヘル地。[illegible] (二)岸ニ沿フコト。「沿岸ノ海」

えんが・る・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) 艶ナル風ヲス。源、二十二、梅枝「何事モ物好ミシ、えんがりオハスル御子ニテ」

えんき (名) 延期 定メタル期ヲ、延バスコト。「開會ヲ延期ス」「發行延期」

えんき (名) 鹽基 化學ノ語、酸ヲ中和シテ、鹽ヲ生ズル物質。水酸化かりうむ、水酸化銅等、是レナリ。

えんぎ (名) 縁起 (一)〔佛教ノ語〕因縁ノ起源、由來。[illegible] (二)〔佛寺ノ草創ノ由來、又ハ、佛ノ靈驗ナド、言傳フルコト。又、其事ヲ記セル書物。推古紀、三十二年九月「具録二其寺所造之縁一」[illegible] (三)〔寺ヨリ移リテ、神社ノ由來ヲ記シタルニモ云フ。[illegible]記 北野縁起、序、北野天満自在天神宮、創[illegible]野上林[illegible]縁起一 (四)由來ノ義ヨリ轉ジテ、事ノ手始ノ吉凶ノ兆。又、象。サイサキ。[illegible] 祝フヲ、えんぎなほしト云フ。

えんぎ (名) 演義 事ノ義理ヲ演ブルコト。潘岳、西征賦「晉演二義以獻一說」

えんぎ (名) 演技 技ヲ行フコト。

えんぎ (名) 演戯 芝居狂言ヲスルコト。

エンキュウ
えんきう (名) 淹久 〔淹ハ、爾雅、釋詁「淹、留久也」〕 久シク、トドマルコト。淹留。左傳、僖公三十三年「吾子淹二久於敝邑一」

えんぎだな (名) 縁起棚 〔えんぎハ、陰形ノ訛ト云フ〕 遊女屋ニテ、棚ヲ設ケテ、男根ノ形ヲ祭ルモノ。後ニハ、吉兆ノ名ヲ取リテ、藝妓、藝人、料理屋、芝居、等ニテモ、神佛混淆ノ神棚ヲ設ケテ祭ルモノヲ稱シ、客ノ來ラムコトヲ祈ル。

エンギナオシ
えんぎなほし (名) 縁起直 縁起ノ條ノ(四)ヲ見ヨ。

エンキョウ
えんきやう (名) 炎經 〔炎ハ、火滅ノ二字ノ省合、法華經、方便品「入二無餘涅槃一、薪盡火滅」或ハ、灰滅ノ二字ノ省合、小乘涅槃經「灰レ身滅レ智」〕 涅槃經ノ異名。[illegible]上、第廿[illegible]法師[illegible]炎經[illegible]而不レ能レ引レ車」

エンギョウドウ
えんぎやうだう (名) 縁行道 長キ縁ヲ、誦經ナドシナガラ、行道スルコト。[illegible]記、九、[illegible]上人、大谷ノ庵室ニ[illegible]行道シタマヒケルガ」和歌ヲ苦吟シナガラ、行道スルニモ云フ。[illegible]抄、下「西行ハ、毎度歌詠ムトテ、[illegible]行道シテウソブキヨミケル」

えんきよ (名) 燕居 〔集韻「燕、安也、息也」〕 休息シテ居ルコト。假息。論語、[illegible]

えんきよ (名) [illegible] [illegible]ヨリドコロヲ引クコト。[illegible]

えんきよく (名) 宴曲 うたひものノ名、今樣歌ト朗詠トヲ混ジタルガ如キモノ、鎌倉時代ノ末ニ行ハレテ、室町時代ニ及ブ。

えんぐみ (名) 縁組 夫婦、又ハ、養子女ナドノ縁ヲ結ブコト。將軍徳川家禮典錄、十二「[illegible]縁組、[illegible]規則」

エンカ
えんくわ (名) 鉛花 〔白粉ハ、鉛ニテ製ス〕 シロキモノ。シロイモノ。オシロイ。[illegible]七啓「玄眉[illegible]」雄略紀、七年八月「天下麗人、莫レ若二吾婦一云云、鉛花弗レ御、蘭澤無レ加」

エンカ
えんくわ (名) 烟火 ハナビ。[illegible]

エンガ
えんぐわ (名) 偃臥 ハラバヒニ臥スコト。

エンカイ
えんくわい (名) 宴會 酒盛ノ寄合。酒宴ノ會。ウタゲ。古語[illegible]今日良宴會、歡樂難二具陳一」

エンカナトリウム
えんくわナトリウム (名) 鹽化那篤僧謨 〔英語、Natrium chloride.〕 鹽素ト、なとりうむトノ化合物、海水中ニ、多量ニ含有ス。食鹽。シホ。

エンカン
えんくわん (名) 捐館 〔下學集、下、態藝門「捐館、エンクヮン、新圓寂義也、人死去、捐二平生館舍一也」〕 病ミテ、己ガ家ニテ死ヌルコト。戰國策、趙策「今奉陽君、捐[illegible]

エンカン
えんくわん (名) 烟管 キセル。[illegible]

えんけい (名) [illegible] [illegible]

えんげい (名) 演藝 公衆ノ前ニテ、技藝ヲ行フコト。

えんげき (名) 演劇 芝居、狂言。

えんげき (名) 掩擊 えんごふ(掩擊)ニ同ジ。北史、[illegible]

えんげつ (名) 煙月 煙ノコメタル月。[illegible]

えんげつ (名) 偃月 ユミハリヅキ。半月。戰國策、中山策[illegible]

エンゲツトウ
えんげつたう (名) 偃月刀 ナギナタ。三才圖會「[illegible]偃月刀、刀勢[illegible]大、云云」

えんけん (名) 延見 延キテ見ルコト。人ヲ呼ビテ、面會スルコト。漢書、金安上傳「[illegible]

えんけん (名) 偃蹇 (一)ホコルコト。オゴルコト。タカブルコト。左傳、哀公六年「彼皆偃蹇、將レ棄二子之命一」 (二)轉ジテ、岩石ナドノ、突出デタルコト。柳宗元、鈷鉧潭西小邱記「石之突怒偃蹇、負レ土而出」

えんけん (名) 鳶肩 〔後漢書、梁冀傳、注「鳶、鴟也、鴟、肩上竦也」〕 肩ノ、ソバダテルコト。[illegible]虎目[illegible]

えんけん (名) 淵源 ミナモト。物事ノ、基ヅキ起ルトコロ。漢書、[illegible]四[illegible]

えん-げん (名) 〔延言〕 延音ノコトバ。延語。

えんけん-と (副) 〔偃蹇〕 ヤサシキサマ。シトヤカナルサマ。楚辭、九歌、東皇太一篇「靈偃蹇兮姣服、芳菲菲兮滿レ堂」

えん-こ (名) 〔縁故〕 ユカリ。ヨスガ。ヨルベ。カカリアヒ。關係。

えん-ご (名) 〔縁語〕 えんのおとばヲ見ヨ。

えん-ご (名) 〔延語〕 延言ニ同ジ。

えん-こさく (名) 〔延胡索〕 草ノ名。莖高サ七八寸、葉ハ橢圓形ナリ、夏、花ヲ開ク、色、碧紫ナリ。多識篇、二、山草「延胡索、世無布、異名、玄胡索」

えん-ざ (名) 〔宴座〕 えんのざノ條ヲ見ヨ。

えん-ざ (名) 〔縁坐〕 親族ノ縁ニ因リテ、連累トナリテ罪セラルルコト。書經、疏「殷周以後、其罪或相緣坐」平家物語、三、大臣被レ流事「父惡左大臣殿ノ緣坐ニ依テ、兄弟四人流罪セラレ」

エンサイクロペヂア (名) 〔英語、Encyclopedia.〕 百科全書。百科辭典。

えん-さう (名) 〔烟草〕 タバコ。沈穆、本草洞詮「烟草、一名、相思草、言、人食レ之、則時時思想、不レ能レ離也」

えん-ざう (名) 〔醃藏〕 〔醃ハ、廣韻「鹽漬魚也」集韻「漬藏物也」〕 シホヅケ。

えん-さき (名) 〔縁先〕 緣側ノ端。丹波與作（正德、近松作）上「御前近クモ、無遠慮ニ、椽先ニあげ足シテ」

えん-さく (名) 〔淹數〕 〔淹ハ、滯ル意ニテ、遲ノ義、數ハ、急グ意ニテ、速ノ義〕 遲きト、速きト。遲速。賈誼、鵩鳥賦「吉乎告レ我、凶言二其菑一、淹數之度兮、語二予其期一」

えん-ざしき (名) 〔緣座敷〕 入側ニ同ジ。

えん-さん (名) 〔鹽酸〕 鹽素ト水素ト化合シタル瓦斯ノ、水ニ溶ケテ生ジタル酸。强キ酸味ヲ有シ、酸性强クシテ、種種ノ金屬ヲ溶解ス、工業上、多量ニ用キラレ、又、醫藥ニモ用キラル。

えん-さん (名) 〔烟散〕 烟ノ如ク、散リ失スルコト。「烟散霧消」

えん-ざん (名) 〔鉛槧〕 〔古ヘ、支那ニテ、未ダ紙ナカリシ世ニ、鉛ヲ以テ槧ニ刻ミテ文字ヲ記シタルコトモアルニ因ル語ト云フ、群碎錄「鉛槧、槧、板長三尺、謂二以レ鉛刻一レ於レ槧而書レ之」（昆陽漫錄、廿五）王充、論衡「斷レ木爲レ槧」玉篇「槧、削ニ板牘一」〕 筆紙。文章ヲ書クコト。文筆ノ業。操觚。西京雜記「揚雄懷レ鉛提レ槧、從二諸計吏一訪二殊方絶域之語一、作二方言一」

えん-ざん (名) 〔演算〕 うんざん(運算)ニ同ジ。

えん-し (名) 〔鹽豉〕 味噌。史記、貨殖傳「孽麴鹽豉千答、蓋四物也、今京俗謂レ豉曰二鹽豉一」（事物紀原）

えん-し (名) 〔偃師〕 木偶ノ戲ヲナスモノ。傀儡師。列子、湯問篇「周穆王西巡狩、道有二獻レ工人一、名二偃師一、王問曰、若有二何能一、曰、臣已有レ所レ造、願王先觀レ之」（節文）

えん-じ (名) 〔臙脂〕 (一)生臙脂ノ條ヲ見ヨ。(二)紅。和漢三才圖會、二十五、容飾具「本綱云、其始起レ自レ紂、以二紅花汁一凝作レ之、調レ脂飾二女面一、本産二燕地一、故名二燕脂一」 (三)繪ノ具、紫ト赤トヲ混ジタルモノ。土塊ノ如シ。

えん-じ (名) 〔衍字〕 〔韻會「衍、水溢也」〕 餘ル文字。語句ノ中ニ誤リ入レル、不用ナル文字。文句ナルヲ、衍文ト云フ。詩經、國風、疏「瓊英、猶二瓊華瓊瑩一、兼言二瓊瑩一者、蓋衍字也」

エンジェル (名) 〔英語、Angel.〕 天使。

えん-しくゎ (名) 〔燕子花〕 カキツバタ。

えん-しふ (名) 〔演習〕 演ベ習フコト。稽古スルコト。特ニ、軍隊ノ調練。

えん-しふ (名) 〔沿襲沿習〕 ナラハシ。シキタリ。習慣。禮記、樂記篇「五帝殊レ時、不二相沿一樂、三王異レ世、不二相襲一禮」避暑錄話「士大夫家祭多不レ同、蓋五方風俗沿習、與二其家法所一レ從來各異」

えん-しふ (名) 〔掩襲〕 不意ニ、襲ヒ撃ツコト。掩撃。晉書、羊祜傳「祜每與二吳人一交レ兵、不レ爲二掩襲之計一」

エンジン (名) 〔英語、Engine.〕 器械。機器。機關。

えん-じゃ (名) 〔緣者〕 えんか(緣家)ニ同ジ。吾妻鏡、一、治承四年八月九日「北條者、已爲二彼緣者一」承久記、三「其後、緣者尋ネ來リ」

えん-しゃう (名) 〔垣墻〕 カキネ。書經、費誓篇「無二敢寇攘一、踰二垣墻一、竊二馬牛一、誘中臣妾上」

えん-しゃう (名) 〔炎症〕 〔炎ハ、熱アル病ヲ、火ノ炎炎タルニ比シテ云フヲ元トシテ、他ノ病ニモ移シテ云フナリ〕 病ノ、溫熱、潮紅、腫脹、疼痛アルモノニ稱スル語。略シテ、炎。肺炎、肋膜炎、腦膜炎、結膜炎、盲腸炎、腎臟炎、口内炎ナドアリ。

えん-じゃう (名) 〔炎上〕 〔書經、洪範篇「火曰二炎上一」トアルヨリ轉ズ〕 火災ニテ燒クルコト。平家物語、一「淸水炎上ノ事」

えん-じゃく (名) 〔燕雀〕 つばめト、すずめト。禮記、三年問篇「小者至二于燕雀一、猶有二啁噍之頃一」 小人物ヲ、小鳥ニ喩ヘテ云フ語トス。史記、陳涉世家「嗟呼燕雀安知二鴻鵠之志一哉」

えん-じゅ (名) 〔延壽〕 壽命ヲ、長ク延ブルコト。延命。蘇軾、與二李公擇一書「每加二節儉一、亦是惜レ福、延レ壽之道」

えん-じゅつ (名) 〔淹恤〕 久シク他鄕ニトドマリテ、憂フルコト。左傳、襄公二十六年「君淹恤在レ外十二年矣」

えん-しょ (名) 〔炎暑〕 夏ノ、モユルガ如キ暑サ。李光、正陽城門銘「正陽南面、炎暑赫融」

えん-しょ (名) 〔爰書〕 〔爰ハ、換ナリ〕 口舌ニ換フル文書。史記、張湯傳「湯、云云、劾レ鼠掠治、傳二爰書一」

えん-しょ (名) 〔艷書〕 ケサウブミ。イロブミ。エンゾ。吾妻鏡、二、壽永元年七月十四日「廢雖レ通二御艷書一云云」

えん-じょ (副) 〔宛如〕 意ノ欲スルママニスルサマ。姚康、巨魚縱二大壑一詩「得レ志寧相忌、無心任二宛如一」

えんしょ-あはせ (名) 〔艷書合〕 懸想ノ歌ノ歌合。堀河院艷書合「内ニテ、殿上ノ人人、歌ヨムト聞ユルニ、宮仕ヘノ人ノ許ニ、けさうのうた詠ミテヤレト仰言ニテ（歌）」今鏡、上、第二、玉梓「女、恨ミタル歌ヨミテ、男ノガリ遣リナドシタル、堀川院ノ艷書合トテ、末ノ世マデトドマリテ、好キ歌ハ多ク、撰集ナドニ入レルナルベシ」

えん-す (名) 〔燕窩〕 熱帶地ノ、燕ニ似タル鳥ノ巢、水ニ沿ヒタル巖窟ノ内ニ、白藻ヲ含ミ來リテ造レルモノト云フ。色白クシテ、透明リ、處處ニ黑キ羽ノ付キタルアリ、支那人、食用ノ珍トス、かぶらぼねノ刻メルモノノ如シ。燕窩菜

えん・ず・ズル・ズレ・ゼ・ジ・ゼヨ（他動、左變） 〔演

(一)[illegible]ニ適フ、[illegible]ス。(二)[illegible]ニ[illegible]スル、オコナフ、[illegible]行ス。[illegible]

えんすゐ (名) [淵酔] [illegible]ノ意、さかみづくコトナリト云フ」 正月、又、十一月、五節ノ寅ノ日、禁中ニテ賜ハル酒宴ノ稱。又、臨時ノ大嘗ニモ行ハル、コレヲ、殿上の淵酔ト云ノ。(中右記、寛治七年十一月十八日、[illegible] 右京大夫集、五節ノ比、[illegible] んすゐニテ、[illegible]アリ、藏人頭已下、事ニタヘタルヲトコドモ、[illegible]ニツク、六位藏人勸盃ス、朗詠二首、今樣一首」)

えんすゐ (名) [鉛垂] 垂直ヲ見ヨ。

えんせい (名) [厭世] 世ノ中ノ事ノ煩ハシキヲ、厭ヒ思フコト。現實世界ヲ悲觀スルヲ、厭世觀ナド云フ。(莊子、天地篇「千歳厭レ世、去而上僊」)

えんせい (名) [鹽埜] えほト、つけなト。([illegible])

えんせいくゎん (名) [厭世觀] 前前條ヲ見ヨ。

えんせいとう (名) [衍聖公] 文宣王ノ條ヲ見ヨ。

えんせう (名) [焰硝] [火ヲ得レバ焰ヲ生ズ、故ニ云フ] (一)せうせき(硝石)ニ同ジ。(二)俗ニ、がふやく(合藥)ノ稱。

えんせう (名) [延燒] 火災ノ、燒ケヒロガルコト。(史記、[illegible]、延燒千[illegible]家」)

えんせき (名) [宴席] 酒宴ノ座席。宴會。

[illegible]

えんせき (名) [燕石] [山海經、北山經ニ曰、燕山、多嬰石、[illegible]注ニ石似レ玉、有符彩嬰帶、所謂燕石者」ノ如ク、燕石ハ、燕山ニ出ヅル石、玉ニ似テ非ナルモノト云フ] 價ナキモノヲ、寶トシテ、人ニ誇ルコト。小才ノ慢心。([illegible])

えんぜつ (名) [演說] [古語ナレド、今ハ、英語、Speech ノ譯語トス] 衆人ノ前ニテ、己レガ意見ヲ演ベ說クコト。([illegible])

えんぜつ (名) [演舌] 口上ニテ、用事ヲ演ブルコト。口演。(書狀ニ對ス) ソレヲ書キ取リタルヲ、演舌書ト云フ。

えんぜつがき (名) 演舌書 前條ヲ見ヨ。

えんぜんと (副) [宛然] 人ニ遜リ讓ルサマ。(詩經、魏風、葛屨篇「好人提提、宛然左辟」)

えんぜんと (副) [婉然] シトヤカナルサマ。シナヤカナルサマ。([illegible])

えんぜんと (副) [嫣然] 巧笑ニ[illegible]ナルサマ。([illegible])

えんぜんと (副) [淵然] モノヲ、深ク藏ムルサマ。([illegible])

えんそ (名) [鹽噌] [鹽豉ノ訛カ] 味噌ニ同ジ。味噌藏ヲ、鹽噌藏ナド云フ。

えんそ (名) [鹽素] 氣體元素ノ一。綠黃色ニシテ、窒息性ノ惡臭アリ、空氣ヨリ二倍重シ、酸化まんがんヲ、鹽酸ト共ニ熱スレバ生ズ。

えんぞ (名) [豔書] えんしょ(豔書)ヲ見ヨ。(倭訓栞「豔書ノ音也、えんぞ合トイフ事アリシ、堀川院ノ時也」)

えんそう (名) [演奏] 音樂ヲ、カナヅルコト。

えんそう (名) [淵藪] [淵ハ、魚ノ聚ル所、藪ハ、獸ノ聚ル所] 物事ノ、寄リ集ル所。([illegible])

えんそく (名) [偃息] ヤスムコト。燕居。休息。([illegible])

えんたい (名) [延滯] 事ノ、トドコホルコト。ノビノビニナルコト。延引。遲滯。([illegible])

えんたい (名) [鉛黛] おしろいト、まゆずみト。([illegible])

えんたい (名) [演題] 演說ノ題目。

えんだい (名) [緣臺] [緣側ニ代用スル臺ノ意カ] 腰掛臺ニ同ジ。

えんたいにち (名) [厭對日] 曆ノ語ニ[illegible]

[illegible]

えんだう (名) [筵道] 筵ヲ敷キテ、通路トスルモノ。(枕草子、一、第四段「[illegible]ノ車ナドハ、門、小サケレバ、障リテ、エ入ラネバ、例ノ筵道[illegible]」)

えんだう (名) [沿道] 行ク路ニ沿ヒタル[illegible]

えんだう (名) [羨道] [集韻「羨、夷然切、音延、墓道也」] 塚墓ノ入口ヨリ、玄室ニ至ルマデノ道。我ガ國ノ古墳ニアリ。(史記、衛世家「共伯入ニ釐侯羨一自殺」)

えんたつ (名) 烟突ノ口語。ケムリダシ。

えんだ・つ ツ・テ・タ・チ・テ (自動、四) [艷立] 艷ニナル、アデメク。([illegible])

えんたん (名) [鉛丹] 酸化鉛ヲ空氣中ニテ強ク熱シテ生ズル、赤色ノ粉末、顏料ニ用ヰ、又、工業用ニ供セラル。丹。

えんだん (名) [緣談] 緣組ノ相談。[illegible]

えんだん (名) [演壇] 演說者ノタメニ設ケテアル高壇。

えんぢん (名) [煙塵] チリ、ホコリ。([illegible])

えんちゃう (名) [延長] 引キ延ヘタルコト。長ク延ビタルコト。([illegible])

えんちゃく (名) [延着] 時日ヲ引シテ、到着スルコト。([illegible])

えんちょ (名) [延佇] ナガク立チ佇マル

コト。雜願「惜ニ相道之不ロ察兮、延佇乎吾將レ反」

えんちょく（名）[鉛直] 垂直ヲ見ヨ。

えんづか（名）[縁束] 縁ノ下ノ束柱。

えんづく・ク・ケ・カ・キ・ケ（自動、四）[縁付] 嫁グ。ヨメイル。嫁

❖えんづける・ケル・ケレ・ケ・ケ・ケヨ（他動、下二）[縁付] 嫁ガシム。ヨメイラス。嫁

えんてい（副）[淵底]（淵底ノ字ヲ音讀シテ、副詞ニ用キタル語）深ク、委シク。下學集、下、言辭門「淵底、エンテイ、窮レ事義也」清正高麗陣覺書、清正歸、增田右衞門尉所へ被レ參「其段ハ、淵底我等存候」寛文十一年四月、伊達兵部少輔仕置申渡「先代之樣子、淵底乍レ存、一入爲ニ不屆ニ」

えんてき（名）[檐滴 簷滴] アマダリ。アマダレ。潘岳詩「春風緣レ隙來、晨霤承ニ檐滴ニ」

えんてん（名）[炎天] 暑中ノ、モユルガ如キ天。孔融詩「巖巖鍾山首、赫赫炎天路」小町踊、夏「雲嶺「富士山ヤ、炎天ニ見ル、雲ノ峯」

えんでん（名）[鹽田] 鹽ヲツクル田地。宋史、食貨志「政和五年、福建利路茶戶山園如ニ鹽田ハ例発ニ方量均税ニ」

えんとう（名）[烟筒]（一）キセル。烟管（二）ケムリダシ。烟突

えんどく（名）[鉛毒] 鉛ニ含マレテアリテ、人身ニ毒トナルモノ。

えんとつ（名）[烟突] ケムリダシ。訛リテ、えんたつ。

えんどほ・し・キ・ケレ・ク・ク（形、二）[縁遠] 夫婦ノ縁ヲ得ルコト遲シ。

えんどほり（名）[縁通] 入側ニ同ジ。エンザシキ。

えんのう（名）[延納] 期限ヲ延ベテ、上納スルコト。（租税ナドニ）

～えんみ（副）[艷]（一）ツヤメキテ。優美ニ。源、廿、朝顏十「雪、打散リテ、えんなるタソガレ時ニ」榮花物語、三、樣樣悅「東ノ對ノツマノ紅梅ノ、えんみサカリナリシモ」增鏡、第一、おどろの下「茅葺ノ廊、渡殿ナド、ハルバルト、艷みヲカシウセサセタマヘリ」天治字鏡、三三「艷、以呂布加志」（二）アダメキテ。イロメキテ。源、二、帚木三「えんみ物恥シテ」枕草子、三、廿三段「イトえんなる返事書カム、ト言合ハセ」

えんにち（名）[縁日]（其佛佛ノ、娑婆ニ有縁ナル日ノ義ノ、轉ジタルナリト云フ）（一）佛ノ降臨、示現、或ハ、新堂遷佛ナドノ日ニテ、詣ヅルニ有縁ナル日ノ稱。香期 毎月八日ヲ藥師佛、十八日ヲ觀世音、廿八日ヲ不動尊ノ縁日トスルガ如シ。此日、參詣人ノ賑フヲ常トシ、路傍ニ露店ヲ出シテ、種種ノ物ヲ賣ル、コレヲ、縁日商人ト云フ。著聞集、廿、魚蟲「十五日、十八日ハ、阿彌陀、觀音ノ縁日ナレバ」懷子俳諧集（萬治）「今日縁日ト、參ル淺草」（二）佛ヨリ、神ニモ移リテ、五日ヲ水天宮、十日ヲ金刀比羅（金毘羅）廿五日ヲ天滿宮ノ縁日ナドトス。太平記、廿三、雲客下車事「其日ハ殊更、聖廟ノ御縁日ニテ」

えんにちあきんど（名）[縁日商人] 前條ノ（一）ヲ見ヨ。

えんにん（名）[延引] えんいん（延引）ヲ見ヨ。

えんにん（名）[延任] 重任ノ條ヲ見ヨ。金葉集、九、雜、上「陸奧守、云云、延任シット聞キテ」

えんねつ（名）[炎熱] 火ノアッサ。夏ノ烈シキ暑サ。唐文宗、與ニ柳公權ニ聯句「人皆苦ニ炎熱ニ、我愛ニ夏日長ニ」

えんねん（名）[延年]（一）年齡ヲ延ブルコト。長命スルコト。延命。晉書、李壽傳「宜ニ急改レ元易ロ號、廼得ニ延年益壽ニ」庭訓往來、二月「花鳥風月者、好士之所レ與、詩歌管絃者、遐齡延年之方也」菊ニ、延年ノ名アリ、重陽ニ、菊ノ着綿ノ露ヲ以テ顏ヲ撫デ、老ヲ拭ヒ棄ツナド云フモ、是レナリ。（きせわた、きくゐノ條ヲ見ヨ）（二）次次條ノ語ノ略。其條ヲ見ヨ。

えんねんさう（名）[延年草]（一）つくばねさうノ一種ニシテ、大キナルモノ。葉ハ、圓ク尖リテ、細長カラズ、三葉毎ニ莖ノ端ニ並ビツキテ、傘ノ狀ヲナス、中心ヨリ莖ヲ出シテ、三瓣ノ花ヲ開ク、色ハ、紫、綠、又ハ、白粉紅ナルナドアリ。（二）又、えんれいさうノ一名。

えんねんのまひ（名）[延年舞]（遐齡延年ノ義ニ據ル名ト云フ）僧家ノ舞。略シテ、延年トノミモ云フ。平安朝ノ末、既ニ行ハル、比叡山ノ延暦寺、奈良ノ興福寺ニテ大會ヲ行フ時、必ズ奏セリ、其他、神事ニモ、酒宴ノ興ニモ舞ヘリ。場ハ、方三十間許、二人ノ小法師、裹頭、赤袍、白大口、白袈裟ニテ舞ヒ、數僧、諸フ、樂器ハ、銅鈸子ト、鼓トナリ。床拂、拂露、開口ナド、種種ノ目アリ。興福寺延年舞ノ歌「梅ガ枝ニコソ、鶯ハ巢ヲクヘ、風吹カバ、イカガセム、花ニ宿ル鶯」ナドアリ。比叡山ニ、亂舞ノ遊僧トテ、種種ノ藝モスルナリ。圓光大師傳、九「文治四年九月、後白河法皇、如法經奉納ノ爲ニ、首楞嚴院ニ臨幸アリ、云云、衆徒庭上ニ群參シテ、延年、種種ノ藝ヲホドコス」吾妻鏡、十九、承元五年正月三日「今日及ニ御前盃酒ハ有ニ延年等ニ」

えんのいと（名）[縁絲] ぜんのつなノ條ヲ見ヨ。

えんのことば（名）[縁詞] 和歌ノ修辭法ニ、縁アル語ヲ、巧ミニ言ヒ寄スルモノ。縁語。悅目抄「えんの詞ト云フハ、秀句（いひかけ）ニアラデ、タダ、事ノ便アルコトナリ、タトヘバ、沖津浪、立ちゐそまされナド云フヤウナル事ナリ」金葉集、九、雜、上「隱シテアリケルニ、子ヲ生ミテケルガ許ヨリ、ウミタル梅ヲオコセタリケレバ「葉ガクレニ、つはるト見エシ、程モナク、ゐハうみ梅ニ、ナリニケルカナ」（惡阻ゐ、熟ゐ。子は、此は。生み、熟み）新古今集、六、冬「夢カヨフ、路サヘ絕エヌ、吳竹ノ、ふしみノ里ノ、雪ノ下折」（夢、臥見、伏見）平家物語、十、橫笛事、橫笛ト云フ女ノ出家シタルニ「そるマデハ、恨ミシカドモ、梓弓、眞ノ道ニ、いるゾウレシキ」（剃ゐ、反ゐ。入ゐ、射ゐ）是レ等、縁の詞ナルベシ。

～えんのざ（名）[宴座] 又、宴座。朝廷ノ節會、臣下ノ大饗ナドノ時ノ、酒宴ノ座ノ稱。尊者ヨリ順次ニ、三獻ノ勸盃アリ、更ニ威儀ヲクツロゲテ、管絃、舞樂ナドアルヲ、穩座、又、穩座ト云フ。二座ヲ合セテ、宴穩座ト稱ス。太政官式「大臣已下史以上、謝座著ニ宴座ニ」江家次第、二、大臣家大饗「敷ニ穩座ハ尊者以下著ニ穩座ニ」穩座者、非ニ嚴重威儀之座ハ自他舒レ懷、故曰レ穩」建武年中行事、二月「釋奠、上丁日、云云、上卿ノ外モ參リテ、ベウハイニ立チ、えんをんのざニ著ク」

えんのした（名）[縁下] 床下ニ同ジ。縁下の舞、縁下の力持トハ、骨折リテモ、人ニ見知ラレズ、徒ラナルコト。ムダボネヲリ。放屁論（平賀源內）後篇「生レツイタル不物好、ワルカタマリニカタマッテ、緣の下の力持ち、ムダ骨ダラケノ其ノ中ニ」

えんのつな（名）[縁綱] ぜんのつなノ條ヲ見ヨ。

えんば（名）[簷馬] 軒端ノ風鈴。芸窗私志

[illegible]夜中聞ㇾ風相襲、疑ㇾ之為ㇾ環ㇾ竹」

えんぱ（名）【烟波】廣キ河海ナドニ、遙ニ、烟レル如クニ波ノ立ツコト。宋之問、[illegible]

えんばい（名）【鹽梅】あんばい（鹽梅）ノ條ヲ見ヨ。

エンバウ
えんぱう（名）【[illegible]】[illegible]ノ訛音。

えんばく（名）【燕麥】ちゃひきぐさノ條ヲ見ヨ。[illegible]

えんぱん（名）【鉛版】組ミアゲタル活字ヲ[illegible]ニ取リ、之レニ、鉛ニあんちもにいト錫トヲ加ヘタルモノヲ鑄込ミテ作リタル印刷版。ステレオタイプ。

えんび（名）燕尾〔[illegible]〕[illegible]日旃[illegible]注[illegible]帛續[illegible]旒末[illegible]爲[illegible]燕尾[illegible]古製ナルハ、二條ニ垂レテ、燕ノ尾ニ似タリ」

（一）冠ノ具。纓ニ同ジ。倭名抄、十二「纓、[illegible]「冠ノえんび」（二）掛軸ノ表裝ニ、幅狹ク、長サ尺餘ノ二條ノ帛ヲ、上部ノ中央ニ並ベテ垂レシムルモノ。

えんび（名）【鳶尾】（一）トビノヲ。（二）草ノ名　イチハツ。コヤスグサ。

えんびき（名）【緣引】緣ノ引援、交リノ緣ニ因リテ、贔屓スルコト。手引。

えんぴつ（名）【鉛筆】筆ノ一種、西洋製ヲ傳ヘタルモノ。筆ノ軸ホドノ木ノ中心ニ、[illegible]ホドニ作リタル黑鉛ヲ、長ク込メタルモノ。其尖ヲ、次第ニ削リテ用キル。木筆。ホッ、トロオド。赤、藍ナド、繪ノ具ヲ中心ニ加ヘタルヲ、色鉛筆ト云フ。鉛筆ヲ用キテカキタル繪ヲ、鉛

筆[illegible]ト云フ。[illegible]

エンピツガ
えんぴつ-ぐヮ（名）【鉛筆畫】前條ヲ見ヨ。

えんび-ふく（名）【燕尾服】洋服ノ一種、ふろっくこおとノ下腹部以下ヲカキオトシ、後ハ割レテ、燕ノ尾ノ狀ニ垂ルルモノ。今日、通常禮服トシテ用キル。

えんび-ぼう（名）燕尾帽　僧、又ハ、瞽者ノ撿挍、勾當ナドノ被ル帽子。山高ク、左右ノ垂、長クシテ背後ニ及ブ、燕ノ尾ノ如シ。綾、緞ニテ作ル。

えんぶ（名）厭舞〔韻會ニ「厭、益涉切、[illegible]入聲」二「正韻ニ「厭、於[illegible]切、音[illegible]」トアレバ、厭ノ去聲ハ、えんナリ、文選、西京賦「厭ニ火祥ニ」厭、於冉反」トアリ、說文「厭、笮也」徐曰、笮、鎭也、壓也、一曰、伏也　邪鬼ヲ厭シ鎭ムル義、[illegible]ノ意、桙ヲ振ルニ因リテ、振桙、振舞ナド記シテ、ナホ、えんぶト讀ムナリ」〕舞樂ノ初ニ奏スル舞ノ名。又、振桙、振舞トモ記シ、約メテ、えぶトモ云フ。初ニ亂聲ヲ奏シ、左右ノ伶人二人ヅツ舞臺ニ上リ、桙ヲ振リテ三節ニ舞フ、聖朝安穩、政和世理、國家太平、雅音成就ナド云フ鎭詞アリ。（教訓抄、一）西宮記、七月、相撲召仰「左右垣代桙、各廻ニ相撲繪ニ立、左亂聲[illegible][illegible]、云云、右如ㇾ此」[illegible]（弘安）七、[illegible]振ルヲえん舞ト云フハ、云云、厭舞ト書ク也、厭ノ字ヲバまじなふト讀ム、云云、[illegible]ヲ降伏シ、災[illegible]ヲ消スガタメナル故ニ、[illegible]ヒテ最初ニ是ヲナス、えぶの亂聲トテ、三度桙ヲ振ル」樂家錄、廿八「振桙、[illegible]」

えんぶ（名）演武　武藝ヲ行フコト。[illegible]演武場」

えんぶ（名）【[illegible]武】武[illegible]セテ、用キ[illegible]コト。[illegible]

エンブシユウ
エンブ-志う（名）【閻浮洲】次條ヲ見ヨ。

エンブダイ（名）【閻浮提】〔梵語、Jambu-dvīpa. 元來ハ、須彌四洲中、南方ニアル大陸ヲ指ス、印度大陸ノ名ナリト云フ（日本外來語辭典）〕佛經ニ、北世界ノ稱。又、閻浮洲。略シテ、閻浮。又、南贍部洲。佛教徒ハ、日本國ヲモ、閻浮提ノ內ナリト見タルガ如シ。[illegible]今昔物語、十一、第一語「閻浮提ノ善惡ノ事ヲ語リタマフ」[illegible]、廿四、南都合戰事、東大寺「日本[illegible]ノ[illegible]也、閻浮[illegible]ノ大佛ナレバ、云云」閻浮の身トハ、此世ニ生ヲ受ケタル身ノ義ニテ、凡夫ノ意ナリ。古今集、十九、[illegible]ルノ、[illegible]ナバ消エヘク、思ヘトモ、えぶの身ナレバ、ナホヤマズ、思ヒハ深シ、云云。[illegible]七、[illegible]えぶの身ナガラ、コノママニ、悟リノ位、動キナク」

エンブダ-ごん（名）次條ヲ見ヨ。

エンブダン-ごん（名）【閻浮檀金】【閻浮提金】〔梵語ニ、Jambu-nadi. ト云フ河ヨリ出ヅル金ノ義ニテ、前前條ノ語ト、譯字ハ同ジケレド、語原ハ異ナリト云フ（日本外來語辭典）〕天竺ニテ精良ナル金ノ名、約メテ、えんぶだごん。[illegible]「林中有ㇾ河、底有ニ金砂、名爲ニ閻浮檀金ニ」[illegible]抄、六、第二條「閻浮[illegible]、金モ、只、金也」平家物語、二、善光寺炎上事「月[illegible]長者ガチセイニヨテ、龍宮城ヨリえんぶだごんヲ得テ、云云、[illegible]シタマヘル、云云、[illegible]ノ三尊」[illegible]、[illegible]時ノ佛閣ノ御作リノ品品、云云、[illegible]ノ金實ニ至ルマテ、閻浮[illegible]金ナルトカヤ」

えん-ぶん（名）【艶聞】色メキタル風聞。

えんぶん（名）【[illegible]】[illegible]

えん-ぺん（名）【緣邊】（一）緣家ニ同ジ。[illegible]物語、三「同シ[illegible]バラト云ヘド、只今ノ[illegible]ナキ人ニ云フニ、えんぺんニナリヌルコソ、タノモシク、嬉シケレ」（二）婚姻。武家諸法度「公家ト於ニ結ニ緣邊ニハ、遂ニ奉行ニ可ㇾ受ニ差圖ニ事」

えんぼ（名）【淵謨】深キハカリゴト。[illegible]

えんぼう（名）[illegible]「[illegible]」

青[illegible]、[illegible]、長也」長サ[illegible]マデノ遠サ[illegible]

えんぼう志（名）烏帽子　えぼう[illegible]ノ條ヲ見ヨ。

エンマ（名）【閻魔】〔[illegible]、或ハ、閻羅トモ云フ、梵語、閻摩羅闍（Yamarāja.）ノ下略、又、中略ナリ、靜息、或ハ、遮止、ト譯ス、能ク造惡者ノ不善業ヲ止ムル意ナリ」〕佛說ニ、地獄ノ王。亡者ノ魂ヲ司リテ、其行事ヲ賞罰スト云フ。其廳ヲ、閻魔の廳ト稱ス。又、閻[illegible]其ノ顏、極メテ[illegible]ナル相ヲナス、えんまがほト云フ。此像ヲ安置スル寺院ニハ、一月ト七月トノ十六日ニ、人ノ詣ヅル習ヒトス、えんままゐりト云フ。[illegible]

エンモウ
えん-まう（名）【[illegible]】〔藥師經、纂解「[illegible]、[illegible]二、光[illegible]珠網[illegible]、光明無[illegible]

也」」佛經ノ語。光明ノ、限リナキコト。藥師經、嚴莊嚴、過二於月日一」榮花物語、十七、音樂、如來、コノ座ノ上ニシテ、法報、應化、えんまう、サウカウ、具足シ給ヘリ」

エンマ-がほ (名) 閻魔顏 前前條ヲ見ヨ。狂言記、胸突「借ル時ノ地藏顏、ナス時ノ閻魔顏トハ、ヨウ申シタモノデゴサル」

エンマ-おほろぎ (名) 閻魔蟋蟀 〔陰曆七月十六日、閻魔まゐりノ頃、盛ンニ出ヅル故ノ名カ〕おほろぎニ似テ、黑褐ニシテ、頭ノ大ナルモノ。

エンマ-まゐり (名) 閻魔參 えんまノ條ヲ見ヨ。

エンマラ (名) 閻魔羅 閻魔ノ條ヲ見ヨ。

えん-み (名) 鹽味 〔鹽梅ヨリ移レル語〕事ノ心ヲ斟ミワケ、加減スルコト。斟酌。酌量 伊達家治家記錄、天正十九年十二月「不便ニ思召サレ、許多ノ御憐愍ヲ加ヘラルル所、云云、能能鹽味有テ、相尋可レ然、云云」政宗公、淺野長政ヘノ絕交書「上意、御重恩ドモ數度蒙リ、一代之內、是非トモ御奉公ト存詰メ候トカ、上樣忝以二御鹽味一、身上無二異儀一候ヒツルトカ」

えん-む (名) 煙霧 けむりト、きりト。楊烱、青苔賦「藹兮若二遠山之松栢一兮、汎兮若二平郊之煙霧一」

えん-むすび (名) 緣結 (一)さへのかみ(障神)ノ條ノ(三)ヲ見ヨ。(二)宿世結。遊女ナドノスル戲レ。數多ノ男女ノ名ヲ、數條ノ紙ニ記シテ捻リ、無心ニ合セ結ビテ、偶然ノ配合ヲ占フ。

〔一〕**えん-めい** (名) 延命 命ヲ延ブルコト。壽命ヲ保ツコト。延壽。李同與「壽レ佳延レ命」宇津保物語、梅花笠上「女ハオシナベテハ、ゑんめい息災ヲ宗トシテ」延命觀音、延命地藏ト云フアリ。

えんめい-さう (名) 延命草 えんれいさうニ同ジ。

えんめい-ぶくろ (名) 延命袋 寶ノ名。錦囊ノ、腹脹レタルニ、其口ヲ括リタルヲヱガク。

えん-や (名) 艷冶 〔正韻「冶、裝飾也」〕遊冶ト云フ語モアリ〕身形ヲ、ナマメカシク飾ルコト。庾肩吾詩「少婦多二艷冶一、花鈿繁二石榴一」

えんやら (感) 〔えんやハ、曳ノ轉、えいさ、えいさら〕力ヲ入ルル時、發スル聲。えいや。エイト。

えんやら-やっと (副) 〔えんやらト、やっトノ熟語、前條ノ語原ヲ見ヨ〕エイヤラヤット。エイヤット。ヤット。カラウジテ。ヤウヤウ。

えん-よう (名) 艷容 アテヤカナルカタチ。ツヤメキタルスガタ。

えん-よう (名) 婉容 柔順ナルコト。オトナシキコト。禮記、祭義篇「孝子之有二深愛一者、必有二和氣一、有二和氣一者、必有二愉色一、有二愉色一者、必有二婉容一」

エンラ (名) 閻羅 閻魔ニ同ジ。其條ヲ見ヨ。隋書、韓擒虎傳「生爲二上國柱一、死作二閻羅王一是矣」平家物語、五、勸進帳事「是豈、えんら獄卒ノ責ヲ免レムヤ」

えん-らう (名) 煙浪 煙ノコメタル浪。劉禹錫詩「白首相逢處、巴江煙浪深」

えん-らく (名) 宴樂 酒宴シテ、樂シムコト。易經、上經、需卦「君子以飲食宴樂」

えん-らん (名) 烟嵐 〔集韻「嵐、山氣也」〕霧。靄。賈島詩「浩渺浸二雲根一、烟嵐沒二遠村一」朗詠集、下、僧「重疊烟嵐之斷處、晚寺僧歸」

えん-らん (名) 延攬 人ヲ招キテ、心ヲ攬ルコト。後漢書、鄧禹傳「方今之計、莫レ如下延二攬英雄一、務悅二民心一、立二高祖之業一、救中萬民之命上」

えん-り (名) 厭離 佛經ノ語。此世ヲ厭ヒ離ルルコト。往生要集(惠心僧都)上、本「十門、一、厭離穢土、二、欣求淨土、三、云云、四、云云、三界无レ安、最可二厭離一」

えん-りう (名) 淹留 えんきう(淹久)ニ同ジ。楚辭、九辯篇「時亹亹而過レ中兮、蹇二淹留而無レ成一」

えん-りう (名) 簷溜 軒端ヨリ滴ルアマダレ。雨滴。趙嘏詩「簷溜丁東斷復連」

えんり-ゑど (名) 厭離穢土 〔穢土ハ、淨土ニ對シテ、穢れタル世界、ゑどノ條ヲ見ヨ〕佛敎ノ語。欣求淨土ト聯絡ス、生死ノ娑婆ヲ厭ヒ離レテ、極樂ノ淨土ニ往生セムコトヲ、欣ビ求ム、トナリ。是レ等ノ語、經論ノ中ニハナシ、惠心僧都(寬仁元年寂、七十六)ノ往生要集、上、本、二「十門、一、厭離穢土、二、欣求淨土、三、極樂證據、四、正修念佛、五、助念方法、六、別時念佛、七、念佛利益、八、念佛證據、九、往生諸業、十、問答料簡」トアルガ出所ナリ。

えん-るゐ (名) 緣類 緣者、緣邊ニ同ジ。

えん-るゐ (名) 鹽類 えん(鹽)ノ條ヲ見ヨ。

えん-れい (名) 艷麗 ツヤメキ、ウルハシキコト。南史、張貴妃傳「詩、云云、采二其尤艷麗者一、以爲二曲調一」

えんれい-さう (名) 延齡草 〔藥トシテ、其功能ニ據ル名カ〕常ニ、約メテ、えれいさうト云フ。深山ノ陰地ニ生ズ、一根ニ一莖ニシテ、高サ尺許、頂ニ三葉相對シテ生ズ、一葉ノ狀、心臟樣ニシテ、端、尖リ、中心ヨリ一梗ヲ出スコト一二寸、淸明前後ニ、其頂ニ一花ヲ開ク、三瓣ニシテ、紫、白、淡綠ナリ、又、白クシテ紫ヲ帶ブルモアリ、實ハ、小暑前後ニ熟ス、黑クシテ、內ニ細子多シ、根ハ塊ヲナス、藥用トシテ、甚ダ苦シ。一名、延命草。延年草。養老草。

えん-ゐん (名) 掩韻 キンフタギ。

えん-ゑん (名) 燕婉 人ノヨキモノ。好人物。詩經、邶風、新臺篇「燕婉之求、遂篨不レ鮮」

えん-を (名) 厭惡 〔集韻「惡、烏故切、憎也」〕イトヒ、憎ムコト。嫌ニ思フコト。智度論「色界中、多二味著禪定樂一、無二厭惡心一」

えん-をん-の-ざ (名) 宴穩座 えんのざノ條ヲ見ヨ。

〔一〕**え-も** (副) 能ノ(三)ノ條ヲ見ヨ。「えも言ハヌ」えも忘ラレズ」

✣**えもぎ** (名) 草ノ名。よもぎノ口語。易林節用集「蓬」

え-もじ (名) え文字 (一)海老ノ女房詞。(二)鱛ノ女房詞。

〔一〕**え-もの** (名) 得物 獵漁ニ、捕リ獲タル物。獲 名義抄、犬部「獲、エモノ」

え-もの (名) 得物 槍、長刀ナドノ武器ノ、己ガ技前ニ得手ナル物。用明天皇職人鑑(寶永、近松作)五「五人ガ五人ニワカッテ、得物得物ニ渡リ合ヒ」「得物ヲ提ケ、立向フ」

え-もん (名) 衣文 〔多クハ、衣紋ト記ス〕(一)官服等ノ裁縫制度、裝束着用等ノ

衣文、[illegible]時代ヨリ[illegible]、山階ノ二家、[illegible]外ニえもんヲ好ミタマヒテ、[illegible]ノ程ナド、僅カニシタタメタマヒテ」武家[illegible]、二「衣文ニ候ゼムニハ、アラカジメ其具ヲ製スベシ」[illegible]

えもんかがみ (名) [衣文鏡] [illegible]シテ、[illegible]ヨリカヨニ用キル鏡。姿見ノ鏡。[illegible]子集(寛永)二「天人ノ、衣紋繕フ、空ノ月」

えもんかけ (名) [衣紋懸] (一)衣桁(イカウ)。[illegible]ニ懸ケオクモノ。竹製ナルヲ、衣紋竹トモ云フ。

えもんかた (名) [衣紋方] [illegible]ノ家ノ職。[illegible]武家[illegible]ノ衣文ノ法式ヲ學ビテ、其事ヲ掌ル。衣紋者トモ云フ

えもんけ (名) [衣紋家] えもんノ條ノ(一)ヲ見ヨ。

えもんだけ (名) [衣紋竹] えもんかけヲ見ヨ。

えもんつけ (名) [衣紋附] えもんかたヲ見ヨ。

えもんながし (名) [衣紋流] [illegible]ニ云フ語。立チナガラ少シ俯シテ、鞠ヲ一方ノ肩ニ載セ、背(ウナジ)シテ項(ウナジ)ノ襟ヲ渡ラセ、一方ノ肩ノ上ニ到ラスルナリ。[illegible]夷曲集(寛文)九「老イヌレバ、えもんながしモ、アリトイヘバ、イヨイヨ[illegible]」

[illegible]集(享保)「[illegible]香モ、[illegible]ノ、[illegible]ノたおし、花ノ[illegible](…ノ…)ニ、身ニ添フ[illegible]ト云フヲ、[illegible]」

えもり (名) [illegible]

えや (副) イカデカ。エヤハ。[illegible]

えやは (副) [illegible]ニ同ジ。[illegible]「色ナラバ、移ルバカリモ、染メテマシ、思フ心ヲ、えやは見セケル」

えやみ (名) [疫病] [illegible]ノ條ヲ見ヨ。[illegible]トキノケ。疫病。[illegible]

えやみ (名) [瘧] 「疫病ト同義ノ語ニテ、[illegible]」病ノ名。ワラハヤミ。サムヤミ。今、おこりト云フ、其條ヲ見ヨ。字[illegible]

えやみぐさ (名) [瘧草] 瘧草ノ義、[illegible]ヲ[illegible]トス、味、苦シ、瘧ヲ治スト云フ、[illegible]ニテ此草ヲ、おこりおとしト云フ」草ノ名、りんだうノ古名。ニガナ。[illegible]

えやみのかみ (名) [疫神] 人ヲシテ、瘧ヲ病マシムル神ト云フモノ。オコリノカミ。[illegible]

えよぼろ (名) [役丁] 役ニ立ツ丁。[illegible]ノ名[illegible]

えら (名) [腮] 「魚入ノ約轉カ、(いきばる、いばる。ててれ、ててら)[illegible]ニテ、いげト云フ」魚ノアギト。魚ノ頰ノ下ニ[illegible]

えら・し・キ・ケレ・ク・ク (形、二) [甚大] 「苛苛しノ略轉シテ、(いこち、えこち。いねぶ、[illegible])[illegible]」イラナシ。イミジ。ハナハダシ。[illegible]スバラシ。[illegible]

えらび (名) [擇] エラブコト。エリトルコト。[illegible]

えらひど・い (形) [illegible]

えら・ぶ・ブ・ベ・バ・ビ・ベ (他動、四) [擇] 「擇るノ延、(わたる、わたらふ。まもる、まもらふ)[illegible]」(一)えるえらむ。見分ケテ、取ル所[illegible](二)[illegible]集メテ、書ヲ作ル。撰ス。[illegible](三)轉ジテ、書ヲ編ミ作ル。[illegible]萬葉集ヲえらばセタマフ」[illegible]えらびテ奉リタマフ、今用キル所ノ、[illegible]

えらぶうなぎ (名) [永良部鰻] 蛇ノ類、大隅ノ大島[illegible]、沖の永良部島ノ邊海ニ[illegible]尾ノ端ニモ鱗アリテ、尖ラズ、毒牙アリ[illegible]

えらみ (名) [擇] えらびニ同ジ。

えら・む・ム・メ・マ・ミ・メ (他動、四) [擇] えらぶニ同ジ。

えり (名) [襟] [illegible]りん(領)ノ條ヲ見ヨ。萬葉集[illegible]ハあをえりト謂マレタレド、此語、サホド古キモノトハ思ハレズ」(一)古言、[illegible]

えり (名) [魞] 「入ノ轉ナルベキカ、字ハ、魚入ノ合字」漁具ノ名、罠(ワナ)ノ類。水中ニ竹簀ヲ[illegible]立テ[illegible]タルモノ。ソレヲ、手網ニテ掬ヒ捕ルナリ。近江ノ湖水ニテ[illegible]

えりあか (名) [襟垢] 衣ノ襟ニツキタル垢。

えりあし (名) [領脚] ボンノクボノ、髪ノ毛ノ生エ[illegible]

えりあて (名) [襟當] 女兒ノ服ノ襟ノ後ニ、背ノ紋ノ隱ルルホドニ當テオク[illegible]

「今ハ、えりあてヲ賣ル呉服屋モアリ」

えりい・づ・ヅル・ヅレ・デ・デ・デヨ（他動、下二）［擇出］（他動下二段活用ノいづ（出）ノ語原ヲ見ヨ）擇リ分ケテ、取リ出ス。ヨリダス。源、十二、須磨「御供ニ從ヒキコユル限リハ、マタえりいでタマヘリ」

えりうら（名）［襟裏］うらえりニ同ジ。

えりおしろい（名）［領白粉］女ノ領元ニツクル白粉。製、異ニシテ、殊ニ濃ク用キル。

えりかざり（名）［襟飾］洋服ノ襟ニ、飾トシテ附クルモノ。種種ナル色ノ絹織物等ヲ用キル。ネクタイ。

えりかた（名）［襟肩］衣服ノ背縫ノ、襟ニ接スル所ヨリ、左右ノ肩ニ及ブ所、浮世風呂（文化、三馬）二編、下「解物ヲスル時、襟かたヲ引裂イタ事」

えりきらひ（名）［擇嫌］好ムヲ擇リ取リ、嫌フヲ棄ツルコト。

えりくづ（名）［擇屑］好キヲ擇リ取リタル後ニ殘リタルモノ。宇津保物語、樓上、上九「身ニ餘リタル事シタラム人ゾ、サハアラム、えりくづの人ハ」

えりくび（名）［領頸］頸ノ後部。ウナジ。エリモト。

えりさき（名）［襟先］襟ノ、衽ニ沿ヒテ前ヘ垂リテ、其端ノ、腰ノ邊ニテ絕ユル處。

えりした（名）［襟下］襟先ヨリ下、褄ノ端ニ至ル丈。「襟下幾尺寸」

えりしん（名）［襟心］襟ノ心トシテ、縫ヒ込ム布。

えりたておろも（名）［領立衣］領ノ、項後ニ突出シタル製ノ僧衣。僧綱以上ノ者、着用ス、因リテ、そうがうトモ云フ。

えりどり（名）［擇取］好ムママニ、擇リテ取ルコト。ヨリドリ。

えりど・る・ル・レ・ラ・リ・レ（他動、四）［擇取］好物ヲ擇リテ取ル。ヨリドル。

えりぬき（名）［擇拔］エリヌクコト。擇リテ取リタルモノ。ヨリヌキ。選拔。擇粹。

えりぬ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ（他動、四）［擇拔］擇リテ拔キ取ル。ヨリヌク。擢。

えりびと（名）［擇人］擇リ拔キタル人物。ヨリビト。

えりまき（名）［衿卷］寒天ノ頃、頸ニ絡ヒテ、風ヲ防グモノ。絹布、綿布、毛織物、毛皮等、種種ナリ。護領　風領　書言字考節用集、六、服食「衿卷」

えりもと（名）［領元］ウナジ。エリクビ。クビスヂ。えりもとに附くトハ、諂フ。追從ス。

えりわ・く・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ（他動、下二）［擇分］擇リテ、善惡ヲ分ツ。ヨリワケル。

エル（名）［呎］〔英語、Ell. 蘭語、El. 獨語、Elle.〕西洋尺度ノ名。多ク、布帛ニ用キル。英國ナルハ、我ガ三尺七寸七分餘。（四十五英寸）佛國ナルハ、三尺二寸〇九厘餘。和蘭ナルハ、三尺三寸强。獨逸ナルハ、二尺一寸九分二厘餘。

え・る・ル・レ・ラ・リ・レ（他動、四）［擇］〔善しノ語根ヲ活用セシム、善キモノヲ取ル意ナルベシ、薪ヲ樵るモ、木ノ活用ナリ（薄る、熱る）〕延ベテハ、えらぶト云フ。スグル。ヨル。源、十、榊九「サラヌ上達部モ、ヤムゴトナク、オボエアルヲえらセタマヘリ」同、十四、澪標十「由アル受領ナドヲえりテ」

え・る（動）［得］得ノ口語。其條ヲ見ヨ。

エレキ（名）［越氣］次條ノ語ノ略。

エレキテル（名）［越氣丁兒］〔蘭語、Electriciteit. ノ略〕電氣。略シテ、えれき。平賀鳩溪實記、三「紅毛ノえれきてるト申ス、奇妙ナル道具」

えれさう（名）延齡草ノ約。

エレベエタア（名）［昇降機］〔英語、Elevator.〕電力、蒸氣力、又ハ、水力等ニヨリテ、人、又ハ、貨物ヲ、上下ニ運搬スル機械。

エレメント（名）〔英語、Element.〕元素。

えをぢ（名）［伯兄］〔兄小父ノ義〕父ノ兄。字鏡十「阿伯、父之兄、江乎地」

えをとこ（名）［好男］ヨキヲトコ。ウツクシキ男。好男子。古事記、上三「伊邪那美命、先言、阿那邇夜志、愛袁登古袁」

えをとめ（名）［好女］ヨキヲンナ。ウツクシキ女。古事記、上三「伊邪那岐命、言、阿那邇夜志、愛袁登賣袁」

お

お　五十音圖、阿行、第五ノ假名。（あノ條ヲ見合スベシ）

お（名）［才］表ノ首音ヲ取リテ、符喋トスル語。書籍ノ丁數ノ、表ナルコトヲアラハス、片假名ニテ記ス。裏ノ「ウ」ニ對ス。「神武紀、八丁オ」

お（感）［唯］〔假名遣ハ、おおノ條ヲ見ヨ〕應フル聲。オオ。オウ。源、廿九、行幸六「コナタニト召セバ、をト、イトケサヤカニ聞エテ、出デ來タリ」鳴門中將物語、小式部內侍「人ノ召シ侍ル御いらへニ、男ハうト申シ、女ハをト申スナリ」名義抄「吁、ヲオ、女答詞」

お（接頭）［御］〔御ノ約〕（一）常ニ、天子、神、佛、尊長ノ上ナド、萬ヅノ物事ニ被ラセテ、尊ビ云フ語。同輩ニモ、他ヲ敬ヒテ用キル。オン。ゴ。（御）ミ。（御）神代紀、上八「麁、此云於筒（箇ノ誤）美」源、五十、浮舟七「若君ノ御前ニトテ、卯槌參ラセ給フ、オホキお前ノ御覽ゼザランホドニ」（二）中世以後、婦人ノ名ニ被ラセテ、敬ヒ呼ブ語。太平記、廿二、佐佐木信胤爲宮方事「菊亭殿ニ御妻トテ、ミメカタチ類ナク、其品イヤシカラデ、ナマメキタル女房有リケリ、云云、おさいノ局ヘ召サレテ、云云」以貴小傳「小督ノ局、名ハおまんノ御方、永見志摩守、小野吉英ガ女ニテ、第二ノ御子、結城殿ノ（德川秀康）御母ナリ」

おあかつき（名）［御垢附］貴人ノ着用シタリシ衣服ヲ、賜ハルニツキテ云フ語。「御垢附、一枚、拜領」

おあし（名）錢ニ同ジ。（婦人ノ語）狂言記、比丘貞「此祝儀ニ、おあし百クヮン、マイスゾ」

おあひだ（名）［御閒］閑暇。不用ナルコト。安政年間ノ流行語ナリ。閑却　安政二年、大地震、よしこの節「地震コノカタ、世ノ中ニ、暫クおあひだ、太鼓持、役者ハオヤスミ、ダンマリ場」

おあん（名）［御庵］庵室住ミノ尼ヲ、敬ヒ呼ブ語。御寮。狂言記、比丘貞「此御寮ヲ、おあ

ん、おあんト御セラルルホドニ」おあん物語ト云フ書アリ、石田三成ノ臣、山田某ノ女ノ、大垣城ニテ、實歴見聞ノ記ナリ、老後ニ、尼トナリテノ物語ナルベシ。

おい (名) 老 老ユルコト。年寄リタルコト。古今集、十七、雜、上「大方ハ、月ヲモ愛デジ、コレゾコノ、積レバ人ノ、老トナルモノ」源、十三、明石「[illegible]ノカニ見ヤルヨリ、[illegible]レ、[illegible]心地シテ」「老いヲ養フ」「老いノ身」

おい (感) (一)物事ニ出合ヒタル時、發スル聲。[illegible]草子、七、六十四段「おい、[illegible]君ニコソ、ト云ヒタルヲ聞キテ」(二)「オ、オオ」。應フル聲。源、四十八、[illegible]、[illegible]云、ト申ス、ニ、おいヤ、聞キシ人ナンナリ、トオボシ出デテ」(三)人ヲ呼ビカクルニ發スル聲。オイオイ。今昔物語、廿五、第十一語「守、おい、サルニトハ、其刀ヲ投ゲヨ」

おい-おい (感) 〔おいハ、お(唯)ノ延〕(一)諾フニ發スル聲。榮花物語、一、月宴「おいおい、サナリ、サナリ、ト宣フホド」(二)呼ビカクル聲。今昔物語、三十、第九語「[illegible]、おいおいト叫ベド、男、答ヘモセズテ、逃ゲテ、家ニ返リヌ」(三)泣クニ、發スル聲。 落窪物語、二、下「北ノ方、云云、腕ツキソコナヒテ、おいおいト泣キタマフ」讃岐典侍日記、上「おいおいト、クドキタテテ泣カルルヲ聞クゾ、イト堪ヘガタキ」

おい・おい・し・シキ・シケレ・シク・シク (形、二) 老老 年ヨリメキタリ。榮花物語、一、月宴「御息所モ、清ゲニオハスレド、モノおいおいしく、イカニゾヤオハシテ」

おい-かけ (名) 老懸 「老人ノ懸緒ノ略、古ヘノ冠ハ、髻ヲ巾子ニ入レ、上緒ニテ結ヒ括リ、笄ヲ刺シテ留メタルニ、老人ノ髻ハ、細ソクナルニ因リテ、更ニ懸緒ヲ懸ケ始メシナリト云フ」(一)カウブリノヲ。即チ、冠ノ懸緒。略シテ、かけ。かけをノ條ヲ見ヨ。 倭名抄、十二

[illegible]「[illegible]、一名、老懸、冠乃乎、於以加計、或說云、老[illegible]記、延慶二年十一月廿六日「雜色長、布衣、白身又着ニ[illegible]」(二)武官ハ、[illegible]ニ、[illegible]ノ[illegible]チザラムガ爲ニ、皆、[illegible]ヲ用キ、後ニハ、別ニモニテ、菊花ヲ半切ニシタル如キモノヲ作リテ、兩鬢ニ當ツ、[illegible]緒ノ兩端ノ下垂ノ餘ニ起ル、頰ヲ被フニ因リテ、一名、頰助ト云ヒ、俗ニ、形ノ似タルヲ以テ、鍋取ト云フ。倭名抄、十二「老懸、一云、[illegible]保[illegible]介、云云、今不」[illegible]老少、武官皆用」之」[illegible]宮式[illegible]、八十八條」

おい-が・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ (自動、下二) 老嗄 老イテ、聲、嗄ル。 源、四十六、總角「[illegible]「陀羅尼讀ム、老いおれニタレド、イト功ヅキテ、タノモシウ聞ユ」

おい-き (名) 老木 「若木ニ對ス」 年舊リタル木。老樹 源、三十三、藤裏葉三「ソノカミノ、老木ハウベモ、朽チヌラム、植ヱシ小松モ、苔生ヒニケリ」

おい-くち (名) 老朽 オイクツルコト。オイボルルコト。老朽。 水鏡、下、光仁「おいくちハ、己レガ、老イボレタルヲバ知ラズシテ」

おい-く・つ・ツル・ツレ・チ・チ・チヨ (自動、上二) 老朽 オイボル。オイクヅホル。オイコム。

おい-くづほ・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ (自動、下二) 老頽 老イテ、クヅホル。オイサラボフ。オイボル。 耄 源、廿一、少女[illegible]「おいくづほれタラム人ノヤウニモ宣フカナ、ト宣ヘバ」

おい-ぐ・む・ム・メ・マ・ミ・メ (自動、四) 老 老イバム。年、フケタリ。 異本、曾我物語、六「ハルカニ見ネバヤ、老くみテ見ユルモノカナ、十郎ヨリおいぐみテ見ユル」

おい-ご (名) 老子 年寄リテ設ケタル子。

トシ[illegible]、[illegible]ノ[illegible]ヘバ、サテヂニ、[illegible]セタマフ」

おい-こみ (名) 老込 オイコムコト。年寄リタルコト。

おい-こ・む・ム・メ・マ・ミ・メ (自動、四) 老込 次第ニ老ユ。年長ク。年寄ル。 老

おい-さ・ぶ・ブル・ブレ・ビ・ビ・ビヨ (自動、上二) 老 老イ進ブ。オイコム。 [illegible]「[illegible]見レバ、花ノサカリノ、過ギハテテ、おいさびニケル、草ノ霜カナ」

おい-さらぼ・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (自動、四) 老衰 「老曝るノ延、ふる、ふらぼふ(曝)、よろぼふ、よろぼふ(蹣)」 老イ衰フ。オイクヅホル。オイクツ。 徒然草、百五十二段「[illegible]犬ノ、アサマシク老いさらぼひテ、毛ハゲタル」

おい-さり-と (句) 「おいハ、感動詞、さりハ、然ありノ約」 オオ、然リト。 源、廿二、玉蔓二「おいさり、おいさりとウナヅキテ」[illegible]物語、一、月宴「云云、ト聞コエタマヘバ、おいおい[illegible]り然なりとウナヅキテ」

お-い・し・シキ・シケレ・シク・シク (形、二) 〔御美しノ義〕 旨シ。(婦人ノ語) 美味 浮世床(文化、三馬)二編、下「ナンゾおいしい物ガ、ゴザイマスナラ」

おい-しら・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (自動、四) 老痴 「次次條ノ老痴るノ延、ながる、ながらふ(流)」 オイシル。オイボル。オイボク。 耄 源、廿六、常夏「おいしらへル女房ナドシテ」

おい-しら・む・ム・メ・マ・ミ・メ (自動、四) 老白 老イテ、白髮ニナル。 宇治拾遺、十一、第三條「昔、晴明ガ土御門ノ家ニ、おいしらみタル老僧、キタリヌ」

おい-し・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ (自動、下二) 老痴 「[illegible]ヲ見ヨ」 [illegible] 「[illegible]レノミ貧シク、おいしれニタルヤ」

おい-そけ-もの (名) 〔おいそけハ、老退カ、老削カ〕 老イ衰ヘタル者。老イボレタル人。 紫式部日記「ハヅカシク、人ニカウ、おいそけものト見オトサレニケルトハ、思ヒハベレド」

おい-それ (句) 「おいハ、感動詞、それハ、其」 事ニ當リテ、[illegible]ニ[illegible]語。「おいそれトハ受取レヌ」「おいそれトハデキヌ」

おい-そ・れもの (名) 事ヲ受ケテ、深ク[illegible]考ヘズ物スル人。

おい-た (名) 御板 [illegible]ノ[illegible]ノ[illegible]詞 [illegible]女房内内記」

おい-づ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (自動、四) 老就 〔つくハ、さ爲る、めくノ意、秋づく、景色づくナド、同ジ〕(一)老トナル。年寄ル。 萬葉集、十九、[illegible]、[illegible]「[illegible]モトナ見エツツ、カク戀ヒバ、[illegible]伊豆久吾ガ身、蓋シ敢ヘムカモ」(二)老人メク。オヨヅク。 [illegible]「[illegible]ノ[illegible]從、云云、イト小サク細ソク、ナホ前ニテアラセマホシキ狀ヲ、心トおいづきヤツシテ、ヤミハベリニシ」

おい-つ・む・ム・メ・マ・ミ・メ (自動、四) 老積 年齡積モル。年寄ル。 貫之集、三「[illegible]春ノ夕コリニ、[illegible]レバ、おいつむ身コソ、ワビシカリケレ」

おい-て (辭) 於 〔置きての音便〕 ニテ。ノ上ニ。ニ就キテ。 保元物語、一、[illegible]「早ク因幡ヲ追討シテ、[illegible]ヲ休メ[illegible]バ、[illegible]ス所ノ[illegible]ニおいてハ、[illegible]アルベカラズ」

おい-で (名) 御出 〔次條ノ語ノ名詞形〕 出ヅルコト、來ルコト、又、居ルコト、等ノ敬語。「おいでノ待ツ」

おい・でる・デル・デレ・デ・デヨ（自動、下一）［御出］來る、去る、居る、等ノ敬語。

おい-どれ（名）〔老蕩ノ意ニモアルカ、およづれト同根ノ語カ〕老イボレタルコト。

おい-にょ（名）［老女］次條ノ語ノ略。

おい-にょうばう（名）［老女房］夫ヨリ、年上ノ妻。略シテ、おいにょ。雪女五枚羽子板（寶永、近松作）中「我等八丁度、疵ナシニ二十六、云云、此ノ女ガ、私ニ六十二ノ老女房、當年八十八歲」

おい-ぬ（名）［御犬］德川將軍家ノ奧向ニ仕フル少女ノ稱。おいぬ子供ト云フ。川柳、三角ナ、雪見お犬ガ、嬉シガリ」

おいぬ-こども（名）［御犬子供］前條ヲ見ヨ。

〔おい-の-かず（名）［老數］老イタル、年ノ數。古今集、十九、長歌「積レル年ヲ、シルセレバ、五ツノ六ツニ、ナリニケリ、コレニ添ハレル、ワタクシノ、おいのかずサヘ、ヤヨケレバ」

おい-の-かたうど（名）［老方人］年老イテ、學問ノ、一方ニ重鎭トナル人。學藝ニ老功ナル人。徒然草、百六十八段「年老イタル人ノ、一事勝レタル才能アリテ、コノ人ノ後ニハ、誰ニカ問ハンナド言ハルルハ、老の方人ニテ、生ケルモ徒ナラズ」

おい-の-さか（名）［老坂］年齡ノ、積リノボルコト。後拾遺集、七、賀「君ヲ祈ル、年ノ久シク、ナリヌレバ、おいのさかユク、杖ゾウレシキ」

〔おい-の-なみ（名）［老波］〔顏ノ皺ヲ、波ニ譬フ〕年老イテ、顏ニ、皺ノ寄ルコト。源、三十四、上、若菜、上「おいの波、サラニ立チカヘラジト思ヒトヂメテ、此浦ニ、年頃侍リシホドモ」

おい-の-まくら（名）［老枕］老人ノ寢床。

夫木抄、三十二「霜ニオク、曉起キノ、鐘ノ音ヲ、おいの枕ニ、タグヘテゾ聞ク」

〔おい-は・つ・ツル・ツレ・テ・テ・テヨ（自動、下二）［老果］老ノ極ニ至ル。オイコム。耄　日本紀竟宴和歌「十丈餘リ、八丈ヲ越ユル、龍ノ駒、君スサメネバ、於伊波傳ヌベシ」

おいばみ（名）［老］オイバムコト。年ヨリメクコト。

〔おい-ば・む・ム・メ・マ・ミ・メ（自動、四）［老］おいぐむニ同ジ。枕草子、二、十七段「老いばみタル者コソ、火桶ノハタニ、足ヲサヘモタゲテモ云フ」

〔おい-びと（名）［老人］〔若人ニ對ス〕年老イタル人。トシヨリ。皇極紀、三年六月「老人」萬葉集、十八、廿長歌「老人モ、女ノ童兒モ」

お-いへ（名）［御家］貴族ノ家ノ敬稱。「御家流」御家騷動」

おいへ-きゃうげん（名）［御家狂言］次條ヲ見ヨ。

おいへ-さうどう（名）［御家騷動］江戸時代ニ、諸大名ノ家ナドニテ、家督爭、其外、其家中限リノウチハモメ。內訌　加賀騷動、伊達騷動、黑田騷動、鍋島騷動、ナド云フ、是レナリ。芝居狂言ニテ、コレラヲ仕組ミテ演ズルヲ、御家狂言、御家物ト云フ。（時代物ノ條ヲ見ヨ）

おいへ-さん（名）［御家樣］中等ノ家ノ妻ノ敬稱。オエサン。（大阪）

おいへ-もの（名）［御家物］前前條ヲ見ヨ。

おいへ-やう（名）［御家樣］次條ヲ見ヨ。槐記、享保十二年閏正月廿八日「尊圓樣トモ、御家樣トモ申シ」

おいへ-りう（名）［御家流］（一）書法ノ名。伏見天皇ノ皇子、青蓮院第十七世、尊圓法親王、能書ニオハシテ、書法一變セリ、後嗣ノ法親王ニ、能書相續キタレバ、其流ヲ御家流、御家樣、又、尊圓流ト云フ。（二）香道ノ一流ノ稱。其條ヲ見ヨ。

〔おい-ぼ・く・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ（自動、下二）［老耄］次次條ニ同ジ。落窪物語、一、下「老いぼけテ、物ノ覺エヌママニ」

おいぼく・れる・レル・レレ・レ・レ・レヨ（自動、下二）［老耄］〔前條ノ語ノ、おいぼくノ轉、ねちく、ねぢくれる〕前條ニ同ジ。オイボル。

〔おい-ぼ・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ（自動、下二）［老耄］老イテ、心、愚ニナル。耄ル。オイシル。オイボク。老耄ス。顯宗紀、二年九月「老耄虛羸」類政集、下「イヅコゾヤ、妹ガ玉章、カクシオキテ、覺エヌ程ニ、老いぼれニケリ」

おいぼれ（名）［老耄］老耄レタルコト。新六帖、二「タラチネノ、親ノ諫メモ、昔ニテ、身ハおいぼれノ、果ゾカナシキ」

おい-まつ（名）［老松］〔若松ニ對ス〕年舊リタル松。謠曲、三笑「年ヲおい松モ、綠ハ若木ノ姬小松」

〔おい-ゆが・む・ム・メ・マ・ミ・メ（自動、四）［老歪］老イテ、貌、醜クナル。源、四十七、早蕨、四十「おいゆがめルカタチモ知ラズ、ツクロヒサマヨフニ」

おい-ら（代）［己等］〔おのれらノ略〕自稱ノ代名詞。ワレラ。（東京）

〔おい-らか-み（副）［穩］〔大らかみ、ノ約カト云フ、（おほよそ、およそ）おほらかみト云フ語モアリ〕オホドカニ。オホヤウニ。オダヤカニ。オトナシク。蜻蛉日記、上、下、廿六「人ノ心ノコトナル時ハ、おいらかみゾアリケル」源、三十四、上、若菜、上、三十一「イトおいらかみノミ、モテナシタマヘリ」定鏡［illegible］、ヲヒラカナリ、ヲダヤカナリ」

〔おい-らく（名）［老來］おゆらくノ轉、其條ヲ見ヨ。

おいらん（名）［花魁］〔己等のノ轉、新造、禿ナドノ、其姉女郎ヲ、おいらの所ノ姉サンナド云フベキヲ、おいらんさおト云ヒ、又、略シテ、おいらんト云ヒナラヒシヨリ起ルト云フ〕江戸、新吉原町ノ、上等ノ遊女ノ稱。京阪ニテ、大夫ト云ヒシニ同ジ。元祿中、新吉原、仲ノ町ニ、遊女ドモ、櫻ヲ多ク植ヱタリ、其時、岸田屋何某ノ句ニ「おいらんガ、イッチヨク咲ク、櫻カナ」（おいらガ姉女郎ノ植ヱタル櫻ガ、一番ヨク咲ク）此時ヨリ、大夫ヲ、おいらんト稱スト云ヘリ。（近世事物考）櫻鏡（享保）「イッチヨク、咲イタおいらガ、櫻カナ」（享保十八年、淺草寺ニ櫻ヲ多ク植ウ、樹每ニ、願主ノ札ヲ立ツ、吉原ノ遊女、多シ、此時、かしくガ句ナリ。（嬉遊笑覽、九）辰巳之園（明和）自序「姉女郎、御亭樣ノカヘ名アレバ、茶屋ノ女房ヲ一統ニ、おばさんトヨブ」おいらん詞ト云フアリ、さとおとばノ條ヲ見ヨ。

お-いり（名）［御入］入リ來ルコトノ敬語。オコシ。オイデ。入來。來臨

おい・る（動）［老］老ゆノ口語。

お-いろ（名）［御色］べにノ婦人語。浮世風呂（文化、三馬）初編、上「紅ヲ付ケテ、化粧ヲシテ」

おう（名）［翁］〔おハ、音韻假名用例ニ據ル〕（一）オキナ。老人ノ稱。漢書、匈奴傳、集注「翁者、老人之稱」玉篇「翁、老稱」（二）老人ノ尊稱。揚子方言「凡尊レ老、周、晉、秦、隴、謂二之公一、或、謂二之翁一」正字通「翁、長老之稱」孟子、梁惠王、上篇ニ、梁惠王、（魏侯㽦）孟子ニ會シテ「叟不レ遠二千里一而來」集註「叟、長老之稱」（三）父ノ

翁、[illegible]父也」正字通「今俗ニ人父ヲ曰ヒ、[illegible]日ニ翁、[illegible]、若、翁」

おう (名) [illegible] 一、謡曲「[illegible]ヲウクルニハ、やくットイヒ、ありトイヒ、おう(一)ト、(二)ト云フ」

おう (感) 唯 〔唯ノ延〕 應フル聲。オ。「オオ[illegible]、ハタト中ル、エタリヤおう、ト矢サケビヲコソシテンゲレ」[illegible]おうおうト、[illegible]門」

おうあ (名) 歐亞 歐羅巴洲ト、亞細亞洲ト。

おうあう (名) 翁媼 ぢぢト、ばばト。[illegible]

おううつと (名) 蓊鬱 草木ノ、大イニ茂ッ状ニ云フ語。[illegible]

おうえん (名) 應援 他ノ志ニ應ジテ、援クルコト。救フコト。加勢。助勢。

おうか (名) 謳歌 (一)徳ヲ謳ヒテ、歸向スルコト。謳吟。[illegible] (二)風說。風聞。[illegible]

おうき (名) [illegible] ハキケ。胸ノ、ムカツクコト。

おうき (名) 應器 〔應量器ノ略〕 おうりやうきノ條ヲ見ヨ。[illegible]

おうきふ (名) 應急 危急ノ間ニアハスルコト。[illegible]

おうぎん (名) 謳吟 (一)おうか(謳歌)ノ(一)ニ同ジ。[illegible] (二)歌ヲ謳フコト。[illegible]

おうぐ (名) 應供 〔梵語、阿羅漢ノ譯語〕 佛經ノ語。阿羅漢ノ地位ニ進スレバ、無量ノ功德ヲ具有シ、能ク他ノ供養ニ應ジ、福田トテ、他ニ幸福、利益ヲ與フル淵源トナリ得ルコト。(阿羅漢ノ條ヲ見ヨ)

おうくわ (名) 歐化 歐米諸國ノ風ニ化スルコト。西洋風ニナルコト。

おうけ (名) [illegible] 返答、承諾ノ敬語。

おうげ (名) 應化 〔應現、變化ノ謂ナリ〕 佛經ノ語。佛菩薩ガ、自己ノ證得セル眞實ノ形體ヲ隱メ、他ノ迷ヘルモノヲ救濟センガ爲ニ、種種ニ、ソノ身ヲ變現スルコト。西域記「隱レ迹應化、爲ニ一老父一」[illegible] 太平記、十二、聖廟事「垂迹ヲ申セバ、天滿大自在天神ノ應化ノ身、利物日ニ新ニシテ、一來結緣ノ人、所願心ニ任セテ成就ス」

おうけう (名) 應敎 [illegible]ノ條ヲ見ヨ。

おうげん (名) 應現 佛經ノ語。實身ヲ變ジテ、他ノ形體ヲ示現スルコト。

おうご (名) 擁護 佛經ノ語。諸佛、諸菩薩等ガ、衆生ノ所願ニ應援シ、或ハ顯ニ、或ハ冥ニ、其ノ衆生ヲ保護スルコト。太平記、廿九、[illegible]「[illegible]ニテゾアリケル、是ハ八幡大菩薩、擁護ノ手ヲ加ヘ[illegible]ランズルニヤ、[illegible]ニハ[illegible]タンズラン」

おうさ (名) 應作 〔種種ニ應現シテ、作[illegible]スルノ[illegible]ナリ〕 佛經ノ語。[illegible]

おうさいつくつく (名) つくつくぼうしヲ見ヨ。

おうしう (名) 應酬 コタヘ。ウケコタヘ。應答。[illegible]

おうしん (名) 應身 佛經ノ語。佛ハ妙用ヲ現シテ、諸種ノ機類ニ應ジ、時ニ隨ヒ、處ニ隨ヒテ、無數ノ色身ヲ變現シ、種種ノ法ヲ說キ、諸衆生ヲ濟度スルコト。[illegible]ハ、化身ノ相ナリ」

おうじやく (名) 應迹 〔應現、垂迹ノ略〕 佛經ノ語。本地ノ實體ヲ變ジテ、他ノ形相ヲ示現スルコト。[illegible]「神明ノ本地ヲ云フコトハ、様ナラヌ類多ケレド、大菩薩ノ[illegible]ニハ、昔ヨリ[illegible]オハシマスニヤ」

おうしよう (名) 應鐘 (一)十二律ノ一。其條ヲ見ヨ。[illegible] (二)陰曆、十月ノ異稱。[illegible]

おう・ず ズル・ズレ・ゼ・ジ・ゼヨ (自動、左變) 應 (一)答フ。返答ス。(二)從フ。「命令ニ應ず」[illegible] (三)合フ。カナフ。アテハマル。[illegible]「身ニ應ず」事ニ應ず」 (四)其病ニ驗アリ。

おうせい (名) 應制 勅命ニ應ジテ詠進[illegible]ドニ記ス。三六、九等ノ命ニ應ジタルヲ、應敎ト云フ。敎ハ、親敎書ノ敎ノ如シ。[illegible]

おうせつ (名) 應接 人ニ、應ヘ、アヘシラフコト。會見。[illegible]

おうせん (名) 應戰 敵ノ挑ムニ應ジテ、戰フコト。

おうだ (名) 毆打 人ノ身體ヲ、ウチタタクコト。打擲。

おうたい (名) 應對 ウケコタヘ。應答。[illegible]

おうたどころ (名) 御歌所 宮内省ノ一局、宮中ニテ、詠歌ノ事ヲ掌ル官所。長、主事、寄人、參候等ノ職員ヲ置カル。

おうたふ (名) 應答 問ヒニ答フルコト。ウケコタヘ。[illegible]

おうつり (名) [illegible] うつりがみノ、婦人語。移ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。

おうと (名) 嘔吐 歐吐 ヘドツクコト。[illegible]

おうな (名) 嫗 おみなノ音便。其條ヲ見ヨ。老女。

おうな・し キ・ケレ・ク・ク (形、二) [illegible] あふなし([illegible])ノ條ヲ見ヨ。

おう-にん-のらん (名) 【應仁之亂】 後土御門天皇ノ御宇、應仁元年、山名宗全ト細川勝元ト、京都ニテ戰ヲ始メ、凡ソ十年間ノ戰亂ヲ稱スル語。

おう-の-かひ (名) おほ(蛤)ヲ見ヨ。

おう-はう (名) 【應報】 佛經ノ語。善惡ノ業因ニ應ジテ受クル、苦樂ノ果報。中論「況、人事之應報乎」「因果應報」

おう-ぶん (名) 【歐文】 西洋ノ文。英文、獨逸文等ノ總稱。(漢文、和文ニ對ス)

おう-ぶん (名) 【應分】 身分ニカナフコト。分相應。「應分ノ寄附」

おう-へん (名) 【應變】 事ノ變ニ應ズルコト。晉書、孫楚傳「臨勝之算、應變無窮」「臨機應變」

おう-ぼ (名) 【應募】 募ニ應ズルコト。

おう-ぼつ-と (副) 【滃渤】 雲霧ノ、盛ンニ出ヅル狀ニ云フ語。郭璞、江賦「氣滃渤以霧杳」

おう-ゆう-む-へん (句) 【應用無邊】 佛經ノ語。佛ノ應現ノ妙用、無碍自在ニシテ、時トシテ現レザルナク、處トシテ顯レザルナク、ソノ變現ノ、無量、無邊ナルコト。太平記、廿九、井原石窟事「凡ソ諸佛、薩埵ノ利生、方便、區區ニシテ、彼ヲ是、此ヲ非トスルオボエ、應用無邊ニ候ヘバ、何レヲマサリ、何レヲ劣リタリトハ申シ難ク候」

おう-よう (名) 【應用】 其物ノ能處ヲ利用シテ、他ノ方面ニ應ゼシムルコト。理論、原理ヲ、實際ニハタラカシ用キルコト。宋書、袁湛傳「器以應用、商以通財」

おう-よう (名) 【甕牖】 「甕ノ破レタルロヲ、壁ニハメコミテ牖トス」貧シキ家ニ云フ語。禮記、儒行篇「篳門圭窬、蓬戶甕牖」

おうよ・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 【奥寄】 あうよる(奥寄)ノ條ヲ見ヨ。

おう-りやう-き (名) 【應量器】 〔梵語、鉢多羅(Pātra.)ノ譯語〕 佛、及、佛弟子ノ、布施、供養ヲ受クルニ用キル器。卽チ、鉢。應器。祖庭事苑「鉢、梵語、鉢多羅、此方云ニ應量器ニ」

おえ-さん (名) 【御家樣】 〔おいへさんノ約〕 大阪ニテ、町家ノ妻ノ敬稱。オカミサン。

〜おお (感) 【唯】 〔唯ヲ、長呼シテ云フナリ、唯唯ノ條ヲ併セ見ヨ〕 謹ミテ、應フル聲。召ニ御請スル聲。稱唯ノ聲。(其條ヲ見ヨ) 神武紀五高倉下(人名)「忽夜夢、云云、曰ニ唯唯ニ而寤」(板本ニハ、をを) 應永本、私記「於於止末宇須止美弖」(伴信友、應聲考) 新年祭祝詞「神主祝部等、諸聞食ト宣リタマフ、神主祝部等、稱レ唯」天治本、神樂次第、四「仰云、御火白呂久獻津禮、又、唯稱須」(神樂入綾、上、所レ引) 台記、仁平二年正月廿六日、大饗、師經曰、史生女世ト、官掌豎屈、先稱ニ宇宇津ニ後、稱レ唯」

おお (感) (一)笑フ聲。(後ニハ、拍子詞ノ如クナル) 源順集、思「思ヒヲモ、戀ヒヲモセシヲ、禊スト、人形撫デテ、祓ヘテハおお」(首尾ニ、おノ音ヲ詠ミ入レタル歌) (二)思ヒタツ時、俄ナル事ニ遇ヘル時、ナドニ發スル聲。「おお、其事ヨ」おおコハヤ」

オオケストラ (名) 〔英語、Orchestra.〕 (一)劇場ノ、奏樂所。(二)音樂隊。合奏團。又、管絃樂。

おお-おは (感) 〔おおハ、感動ノ聲、おはハ、恐怖しノ略〕 婦人ノ、物ニ恐レタル時ニ發スル聲。

お-おさへ (名) 【御抑】 相手ノ、我レニササムトスル盃ヲ抑ヘテ、重ネテ又飲マシムルコトノ敬語。醒睡笑「又、おおさへノオ手元ハ、シツコイ飲手ヂャナイカイナ」

オオソリテエ (名) 〔英語、Authority.〕 (一)權威。威光。教權。(二)典據。又、典據トスベキ書物。又、其道ノ大家。泰斗

お-おそれ-ながら (副) 【乍御畏】 畏レ多クハ候ヘドモ。長門本、平家物語、二「おおそれながら、君モ悔シクコソ、渡ラセタマハムズラメ」新撰犬筑波集、秋「おおそれながら、入レテコソ見レ足洗フ、盥ノ水ニ、月サシテ」

オオバア-コオト (名) 【外套】 〔英語、Over coat. おおふるこおとト云フハ、發音ヲ誤ルナリ〕 外套ノ條ヲ見ヨ。オオフルコオト。

オオフル (名) 次條ノ語ノ略。

オオフル-コオト (名) 【外套】 前前條ヲ見ヨ。

オオ-ライ (感) 次次條ニ同ジ。

オオル (名) 〔英語、Oar.〕 櫂。主トシテ、短艇ナルニ云フ。

オオル-ライト (感) 〔英語、All right.〕 よろしト云フ意。

お-が (名) 大鋸ノ略。下學集、下、器財門「大鋸、オガ」「大鋸屑」

お-かあ-さま (名) 御母樣ノ、小兒語。オカサマ。

お-かうこ (名) 〔かうこハ、かうかうノ約〕 香の物ノ、小兒、婦人語。其條ヲ見ヨ。

お-かか (名) 【鰹節】 〔かつをぶしノ首音ノミヲ重ネテ、おヲ冠ラセタル語〕 鰹節ノ、小兒、婦人語。皇都午睡、三編、上、江戶ニテ、云云、鰹節ヲ、かつぶし、又、おかか」

お-かがみ (名) 【御鏡】 おかがみもちノ、婦人語。鏡餅ノ條ヲ見ヨ。曾我會稽山(享保、近松作)二「大聖不動ノ尊像、云云、供ヘノオ神酒、お鏡」

お-が-くづ (名) 【大鋸屑】 大鋸、又ハ、鋸ニテ挽キテ出デタル、竹木ノ屑。ノコクヅ。鋸屑 勸進聖判職人歌合(天正以前)四番「のこぎりノ、コノメモ春ノ、山風ニ、花ノ香ナガラ、おがくづゾ散ル」後撰夷曲集(寬文)二「吉野ナル、カヤノおが屑、フスブレバ、蚊モナウナリシ、山蔭ノ庵」

お-かげ (名) 【御蔭】 (一)タスケ。冥助。(神佛ノ) 加護 狂言記、釣女「惠比須三郎殿ノおかげニヨリ、云云、妻ヲ授ケテ下ダサレイ」(二)メグミ。恩。(人ニ) 庇蔭 犬子集「待人ハ、おかげカウブル、月夜カナ」

おかげ-まゐり (名) 【御蔭參】 〔おかげハ、お惠みノ義、沿道ノ家家ニテ、宿食セシムル意ナリト云フ〕 伊勢大神宮ヘ、諸國ノ老若、男女、群ヲナシテ、詣ヅルコト。大抵、六十年目ニ、此事アリ。寶永二年ナルガ、初ナルカト云フ。玉勝間、三「伊勢ノ御蔭參、云云」

お-かさ (名) 【御蓋】 椀ノ蓋ノ、婦人語。木皿トシテ用キルニ云フ。オキセ。

お-か-さま (名) 御母樣ノ、小兒語。オカアサマ。冥途飛脚(正德、近松作)下「忠三殿ニ、おか樣ハ無カッタガ」

お-かざり (名) 【御飾】 一月ノ標飾ヲ、丁寧ニ云フ語。川柳「お飾ニ、ツツマレテ行ク、田舍馬」(出荷)

お-かず (名) 【御數】 〔かずハ、數數アル

義一覽ノ裳ノ、女房詞。オメグリ、オマヘリ。オソヘ。 御湯殿上日記、慶長三年五月四日「准后ノ御方ヨリ、御こゝへ、おかずトテ、御肴魚マヰル」ト發千句(寛文)「イリ昆布ニ、又ヨロ昆布ノ、おかずニテ、旅ノ名僧、シバシトドメム」

おかた (名) 御方 (一)人ヲ指シテ、敬ヒ云フ語ニ、[illegible]ノ御方ニ (二)貴人ノ妻女ノ敬稱。(貴人ノ母ヲ、大方ト云フ、同根ノ語カ) 內方。 吾妻鏡、三十三、延應元年八月八日「二品御方(將軍[illegible])[illegible]」 靜岡縣ニテハ、奥樣ノ意ニ用キル。 (三)庶人ノ妻ニモ云フ。仙臺、安房ニテハ、今モ然リ。 [illegible] 松の葉(元祿)「おかた薮笠、七年ハヤイ」 伊豆ニテハ、新婦ヲ云フ。

おかた-ごしよ (名) 御方御所 大臣家ノ部屋住、將軍家ノ嫡子ノ敬稱。 鎌倉年中行事(享德)「大御所樣、御方御所樣ヘモ役人參」 親元日記(寛正)「御方御所」

おかた-ばうちやう (名) 御方庖丁 烟草庖丁ノ、關西ノ異名。 近代世事談(享保)二、「御方庖丁、泉州、堺ヨリ出ヅルたばこ庖丁也、[illegible]治、己ガ妻ニ相槌ヲ打タセ、宜シクコレヲ鍛フ、夫婦トモニ鍛煉シテ、世ニ名ヲ得タリ、云云、關西ノ民俗、妻ヲ稱シテ、御方トイフ也」

おかち (名) 御徒 徒侍ノ略、敬稱。 吏徵、下、御目見以下「御徒、四百五十人」

おかちん (名) 餅ノ、小兒、婦人語。オモチ。

おかっさま (名) 御方樣 〔おかたさまノ音便、おかた(御方)ノ(三)ヲ見ヨ〕 庶人ノ妻ノ尊稱。オカミサン。 狂言記、釣女「おかっさま」同、い文字、太郎冠者、大名ニ、おかさまノヨロコビサ、シャル程ニ、安ウ賣レサ、シャル、子安ノ貝ヲ[illegible]ニ、[illegible]シャレ」今モ甲斐國[illegible]ニテ、此語ヲ用キテ、おかつ[illegible]ト云フ。

おかは (名) 御厠 〔御厠ノ略カ、樋ノ側ニ因ル名カ〕 古言、オホツボ。今、又、オマル。大小便ヲ受クル、楕圓ナル桶。小兒、又ハ、病者ノ用トス。

おがひき (名) 大鋸挽 木挽ニ同ジ。 [illegible]人數合、四番「おかひき」

おかひこぐるみ (名) 御蠶括 〔絹布ノ服ヲ襲ネテ着ル意〕 金滿家ノ、着飾リテアル生活ヲ云フ語。

おかぶ (名) 御株 〔かぶハ、もちまへノ意〕 (一)其人ノ得手トスル行爲。(二)常習ノ癖。

おかべ (名) 御壁 〔かべハ、豆腐ノ異名ノ白壁ノ略、しらかべヲ見ヨ〕 豆腐ノ、女房詞。 しろきものトモ云フ。 [illegible]「田樂ヲ、[illegible]ビシモ、秋ニシテ、トクニおかべハ、[illegible]モ及バズ」

おかま (名) 御竈 〔噴火ニ因リテ、竈ト云フ〕 死火山ノ舊噴火口ニ、水ヲ湛ヘタル所ノ稱。形、多クハ圓クシテ、深シ、山神ノ竈ニ對シテ、御竈ト尊稱ス。富士山ニテハ、御鉢料ト云フ。おかまを興すトハ、俄ニ財産ヲ得。(一竈(一戸ノ家)ヲ興スト云フナリ) 東海道中膝栗毛(文化、一九)初編、上「サウイケバ、アイツメハ、おかまをおこすほどダガ」

おかまこほろぎ (名) 竈馬 〔竈ノ邊ニ居ルこほろぎノ意〕 蟲ノ名。秋ノ夜ニ、廚ノ竈ノ邊ナドニ出デテ、棄テタルモノヲ食フ、長サ七分許、首小ク、身大ク、背高ク、頭、尾、低ク、脚、長ク、[illegible]ニ似テ、褐色ニシテ黑斑アリ、雄ハ黑キ翅アリテ、稀ニ鳴ク、雌ハ翅無クシテ鳴カズ、共ニ六七寸ノ鬚アリ。方言、別名、甚ダ多シ。

おかみ (名) 龗 大神ノ約、[illegible] 常陸風土記、[illegible]、大蛇多栖焉、因名」 山、又ハ、水ニ居テ、雨雪ヲ掌ル神、蛇身ナルモノトオボシ、龍神ナド云フモノナルベシ。 神代紀、上ニ「闇龗」 同[illegible]「高龗」[illegible]

おかみ (名) 御上 天子、官、尊長、夫人ナドノ尊稱。

おかみ (名) 御上 次條ノ語ノ略。東京ニテ、藝者ナドノ、料理屋ノ妻ナドヲ稱スル語。(御亭ニ對ス) 其女主人ヲモ云フ。女將。「待合ノおかみ」

おかみさん (名) 御上樣 東京ニテ、町家ノ妻ノ敬稱。畿內ニテ、オヘサマ。 三世相[illegible]文章(安政、柳水亭種清)「何カラ何マデ、おかみさんノ介抱」

おかん (名) 御燗 酒ノ燗ヲ、丁寧ニ云フ語。 堀川波鼓(寶永、近松作)上「お燗ヲ見テト、引受ケテ、サラリト干シ」

おカン (名) 御羹 〔かん(羹)ノ條ヲ見ヨ〕 一月ノ雜煮餅ノ婦人語。 洞房語園、異本考異「おかん、正月中ノ節ノ食物ノ事ナリ」(温知叢書)

おかめ (名) 阿龜 おふく、おたふくニ同ジ。 四方山人、[illegible]「阿龜、阿[illegible]、阿[illegible]、[illegible]是皆[illegible]名」

おかもじ (名) [illegible] 〔[illegible]もじノ[illegible]〕 [illegible]ノ婦人語。 [illegible](享保、竹田出雲)三「サテモキツイ[illegible]、コレデモ[illegible]」

おかりみや (名) 御假宮 [illegible]ニ同ジ。

おき (名) 息 いきニ同ジ。 天武紀、上「[illegible]」 [illegible]萬葉集、廿[illegible] 坂田郡、息長[illegible]」 倭名抄、六、[illegible]

おき (名) 沖 〔奥ト通ズ〕 (一)〔海上ノ、陸ヨリ遠キ處、洋中。 古事記、上[illegible] (二)湖、池、川ニ就キテモ云フ。 萬葉集、十一「[illegible]シラズトモ、[illegible]茂ミ、奥邊ニハ、鴨妻喚ヒ」 同、十六「猪名川ノ、奥ヲ深メテ」 (三)平野ノ、遠キ處。 郊

おき (名) 熾 (一)〔熾火ノ略、其條ヲ見ヨ〕 (二)薪ノ、火トナリテ、未ダ灰トナラザルモノ。 謠曲、[illegible]「[illegible]モ、[illegible]死ニテ、其ノ跡ノ燼ハ積モッテ山ノ如シ」

おき (名) 置 除クコト。中ニ隔ツルコト。隔。「一日置」「三ツ置」「十人置」

おきあか・す ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) 明 眠ラズシテ、夜ヲアカス。 後撰集、七、秋、下「我ガ如ク、物思ヒケラシ、白露ノ、夜ヲイタヅラニ、おきあかしツツ」

おきあがりこぼふし (名) 起上小法師 玩物ノ名。紙ニテ、人物ナドノ、張拔ニ作リ、底ニ、乾土ヲ包ミ、倒ストモ、忽チ起キカヘルヤウニ作レルモノ。約メテ、おきあがり。おきあがりこぼし、[illegible]男ニテ、ウテカヘリコボシ。不倒翁 狂言記、長光「是レハ子供ノもてあそび也デ、おきあがり小法師、[illegible]」

吟吟集(寛安)一、春草、春雨ノ、ウチマルタビニ、ウツブキテ、おきあがりこぼし、タンポポノ露」

〔**おきあがる**・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四)［起上］臥シタルヨリ、起ツ。起　竹取物語、龍ノ頸ノ珠ノ條、大伴御行ノ大納言「國ノ司詣デ訪ラフニモ、エおきあがり給ハデ、船底ニ臥シ給ヘリ」

おきあげ（名）［起揚］彫物、蒔繪ナドニ、模樣ヲ、地ヨリ高クスルモノ。隱起

おきあさり（名）［沖淺蜊］あさりノ一種。殼、厚ク、肌、粗クシテ、斑モ種種ナルモノ、殼ニ毛多シ。毛蛤

おきいし（名）［置石］(一)砌ノ石。　殿中以下年中行事「御幣ノ役ハ、置石近クニテ、馬ヨリ下リ」(二)圍碁ノ語、上手ノ者ニ對シテ打ツトキ、初ニ盤面數點ニ置キ布ク碁石。

おきう（名）［御灸］(一)灸ノ、小兒、婦人語。(二)コラシメ。懲罰。「禁足三日ノおきう」

おきがかり（名）［沖掛］船ノ、陸ヨリ遠ク碇泊スルコト。　博多小女郎浪枕(享保、近松作)下「沖がかりノ大船ニ、通路ヲ求メ」

おきかき（名）［熾搔］(一)おきびヲ搔キタツル具。ヒカキ。　御産所日記、御産所之御具足色色紿ニ注文ニ「一、御おきかき」(二)十能。

おきがき（名）［沖蠣］沖中ニ生ズル牡蠣。殼、どぶがひニ似テ、偏ナラズ。

おきがけ（名）［起掛］おきぬなニ同ジ。

おきかふ・フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ（他動、下二）［置易］彼レト此レト、易ヘテ置ク。　續拾遺集、六、冬「見シ秋ノ、露ヲバ霜ニ、おきかへテ、花ノ跡ナキ、庭ノ冬草」

おきかへ（名）［置替］舊ノ質種ヲ、別ノ質種ニ易フルコト。

〔**おきかへる**・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四)［起返］オキアガル。オキナホル。　源、六、末摘花「松ノ木ノ、己レおきかへりテ、サト零ルル雪モ」　後撰集、十三、戀、五「現ニハ、臥セド寐ラレズ、おきかへり、昨日ノ夢ヲ、イツカ忘レム」

おきぐち（名）［置口］箱ノ緣、又ハ、袖口ナドニ、ヘリヲトルコト。又、其ヘリ。　榮花物語、十六、本雫「經箱ハ、云云、黃金ノスヂヲ、おきぐちニセサセタマヘリ」同、八、初花「若キ人人ハ、蘿物、螺鈿ナド、袖口ニおきぐちヲシ、シロガネノ左右ノ緣シテ、フセグミシ」

〔**おきくら**（名）［置座］截物ヲ載スル臺。　大祓祝詞「天津金木ヲ、本打切り、末打斷チテ、千座ノ置座ニ置キ足ラハシテ」

オキクルミ（名）「蝦夷語、(Okikurumi.)」蝦夷ノ開闢ノ神ノ稱。又、或ハ、源義經ヲモ稱ス。

おきごたつ（名）［置火燵］火燵ノ、匣造リニテ、移シ置クベキモノ。　鷹筑波(寛永)「暮レテユク、春ノ形見ヤ、置ごたつ」　猿蓑、芭蕉「住ミツカヌ、旅ノ心ヤ、置ごたつ」

おきざより（名）［沖鱵］魚ノ名。だつニ同ジ。

おきざり（名）［置去］後ニ棄テオキテ、去ルコト。　國性爺合戰(正德、近松作)二「此小睦ヲ置去ニ、親子夫婦四人連レ、唐ヘ身代引ク氣ジャノ」

おきじ（名）［置字］漢文ヲ訓讀スルニ、措キテ讀マヌ、也、焉、矣、等ノ助字。　神武即位前紀「是夢也、天皇志存二必克一」　垂仁紀、五年十月「今日夢也、必是事應焉」

おきしな（名）［起時］「時ノ條ヲ見ヨ」寐タルヨリ、起クル時。オキガケ。寢起

おきじゃうるり（名）［置淨瑠璃］「おきハ、前置ノ意ナラム」芝居ノ、幕アキテ、役者ノ未ダ舞臺ニ現ハレヌ間ニ語ル、淨瑠璃ノ一段落。

おきすゑ（名）［置据］据ヱオキタルママニスルコト。オキツケ。スエオキ。留置

おきせ（名）［蓋］「お被ノ義ナルベシ」椀ノ蓋ノ、婦人語。オカサ。

〔**おきそ**（名）［息］［息嘯ノ約ナラムト云フ、息ヲ霧ト云ヘルハ、古事記、上ニ「吹棄ツル氣吹ノ狹霧」ナド］いき(息)ノ(一)ニ同ジ。　萬葉集、五、六「大野山、霧タチワタル、我ガナゲク、於伎蘇ノ風ニ、霧タチワタル」

おきそふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ（自動、四）［置添］モノノ、有ル上ニモ、又、オキ加ハル。　新拾遺集、十一、戀、一「知ラレジナ、シノブノ杜ノ、下草ニ、置添ふ露ハ、結ボルルトモ」　新葉集、五、秋、下「サノミヤハ、更ケテハ露ノ、置添はム、月ニ涙ノ、落ツルナリケリ」

おきそふ・フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ（自動、下二）［置添］前條ニ同ジ。　新古今集、八、哀傷「置きそふる、露ト共ニハ、消エモセデ、涙ニノミモ、浮キ沈ムカナ」　續千載集、廿、賀「行ク末モ、幾世ノ霜カ、おきそへム、雲間ニ見ユル、鶴ノ毛衣」

おきそふ・フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ（他動、下二）［置添］オキソハス。オキソヘル。　後拾遺集、廿、神祇「八重菊ニ、蓮ノ露ヲ、置き添へテ、九品マデ、ウツロハシツル」

✣**おきそへる**・ヘル・ヘレ・ヘ・ヘ・ヘヨ（他動、下一）［置添］前條ノ語ノ口語。

おきそむ・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ（自動、下二）［置初］オキハジム。　新後撰集、四、秋、上「おきそむる、露コソアラメ、イカニシテ、涙モ袖ニ、秋ヲ知ルラム」　續古今集、十、羈旅「旅寐スル、袖ニモ露ノ、おきそめテ、草葉ニアマル、月ヲ見ルカナ」

〔**おきそむ**・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ（他動、下二）［置初］オキハジメシム。　古今集、十二、戀、二「露ナラヌ、心ヲ花ニ、おきそめテ、風吹クゴトニ、物思ヒゾツク」

〔**おきたがふ**・フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ（他動、下二）［置違］彼レト此レト、違ヘテ置ク。　蜻蛉日記、下、下廿九「蓮ニモ、玉ヰヨトコソ、結ビシカ、露ハ心ヲ、置きたがへケリ」

おきたがへ（名）［置違］オキタガフルコト。オキチガヘ。

〔**おきたつ**・ツ・テ・タ・チ・テ（自動、四）［起立］オキアガル。オキイヅ。　萬葉集、十三、廿七長歌「奧床ニ、母ハ睡タリ、外床ニ、父ハ寢タリ、起立たバ、母知リヌベシ、出行カバ、父知リヌベシ」

おきちがふ・フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ（他動、下二）［置違］おきたがふニ同ジ。

おきちがへ（名）［置違］オキチガフルコト。オキタガヘ。

おきつ・ツル・ツレ・テ・テ・テヨ（他動、下二）［掟］「置當つノ略ニモアラムカ、おちあぶる、おちぶる(零落)」定ム。定メテ命ズ。　源、十四、澪標「二二トカクノ御事ナド、おきてサセ給フ」同、四十六、總角「思シおきつる」　宇治拾遺、六、第九條「大ナル聲ヲ放チテ、走リ廻リテおきてケレバ」　奧州後三年軍繪詞「其舌ヲ切ルベキ由おきつ」　徒然草、百九段「高名ノ木のぼりト云ヒシ男、人ヲおきてテ、高キ木ニ上セテ、梢ヲ切ラセシニ」

〔**おきついくり**（名）海底ノ巖石。　萬葉集、六、廿六長歌「淡路ノ、野島ノ海子ノ、海ノ底、奧津伊久利ニ、鰒タマ、サハニ潛キテ」

〔**おきつかい**（名）［沖津櫂］「沖之櫂ノ義」沖ヲ漕グ船ノ櫂。岸邊ヲ漕グヲ、邊津櫂ト云フ。　萬葉集、二、廿長歌「イサナドリ、淡海ノ海

ヲ、[illegible]ケ、[illegible]ル[illegible]、[illegible]テ、[illegible]ル[illegible]、[illegible]、[illegible]ク[illegible]ソ、[illegible]、[illegible]ク[illegible]ソ」

〔おきつかぜ (名) 沖津風 〔沖之風ノ義〕 沖ヲ吹ク風。岸邊ヲ吹クフ、邊津風ト云フ。「海風」 神代紀、下「[illegible]風、[illegible]風」 萬葉集、十五「海原ニ、浮寐セム夜ハ、於伎都風、痛クナ吹キソ、妹モアラナクニ」

〔おきつき (名) 奧津城 〔おくつきノ轉〕 其條ヲ見ヨ。神ノ御靈ノ、鎭リマス所。神ノ宮居。 [illegible]、[illegible]、「於支津支ニ、[illegible]タチヲ、齋ヒ來シ、心ハ今ゾ、タノシカリケル」

おきつぎ (名) 置注 人ノ、手ニ取ラズ、膳ニ置キタルママナル盃ニ、酒ヲ注グコト。頻リニ酌ヲシテ、勸ムルニスルコトナリ。

おきづきん (名) 置頭巾 まるづきんヲ見ヨ。

おきつけ (名) 置付 他ニ移サズシテ、其處ニスエオクコト。オキスエ。存在「置付ニスル」

〔おきつしほさゐ (名) 沖津潮騷 しほさゐヲ見ヨ。

〔おきつしま (名) 沖津島 〔沖之島ノ義〕 沖ニアル島。オキツシマネ。海島 萬葉集、十八「吾妹子ガ、心慰ニ、遣ラムタメ、於伎都之麻ナル、白玉モガモ」

おきつしまね (名) 沖津島根 〔根ニ、意ナシ、岩ね、羽ね、杵ねノ〕 前條ノ語ニ同ジ。

〔おきつしまもり (名) 沖津島守 海島ニ居ル島守。島人。萬葉集、四「八百日ユク、濱ノ眞砂モ、我ガ戀ニ、豈マサラメヤ、奧津島守」(間ヒカクルナリ) 和泉式部集、三「七日ニモ、餘リニケリナ、便リアラバ、[illegible]ヘ聞カセヨ、おきつしまもり」

〔おきつしらなみ (名) [illegible] [illegible]ニ[illegible]ツ白浪。[illegible]、十五「[illegible]ケバ、[illegible]、[illegible]ミト、[illegible](其[illegible]ノ[illegible]名)ノ[illegible]ニ、[illegible]多夜ゾ寐ル」

〔おきつすたへ (名) 奧津棄戸 おくつすたへヲ見ヨ。

おきつだひ (名) 興津鯛 あまだひノ一種。形、稍、異ニシテ、白ミアリ、大キナルハ一尺ニ至ル。駿河國、興津ノ海ニ產ズ、多ク、一鹽ニシテ、生干ニス、炙リテ食フ、味最モ美ナリ。

おきつち (名) 置土 地ノ上ニ、更ニ土ヲ置キ添ヘタルモノ。客土 壖

〔おきつとり (枕) 沖津鳥 海鳥ノ枕詞。「鳥つ鳥、鵜、家つ鳥、鷄」ノ例ノ如シ。古事記、上「意岐都登理、鴨ドク島ニ」 萬葉集、六十四長歌「奧鳥、味經ノ原」(鴨 鴨ニ寄ス)

〔おきつなみ (名) 沖津浪 「沖之波ノ義」 沖ニテ立ツ浪。海波 岸ノホトリノ波ヲ、邊波、又、邊津波ト云フ。 萬葉集、十一三十「奧 浪、邊浪ノ來寄ル、左太ノ浦ノ」 同、六十五長歌「[illegible]ヲ滿ミ、云云、邊津浪ノ、[illegible]頻ニ」

〔おきつなみ (枕) 沖津波 〔前條ノ語原ヲ見ヨ、折リ重ナリテ、頻き、競ひ、撓み、又、高く起ツノ〕 しく、きほふ、とをむ、たかしノ枕詞。 萬葉集、十一廿二「奧津浪、敷而ノミヤモ、戀ヒワタリナム」同、十三長歌「奧津浪、諍ヒ濱入來、海人ノ釣船」同、十九長歌、於吉都奈美、等乎牟眉ビキ、大船ノ、ユクラユクラニ」古今集、十七、雜、上「沖津浪、たかしノ濱ノ、濱松ノ」(和泉ノ地名、高師)

〔おきつふね (名) 沖津舟 「沖之舟ノ義」 沖ヲ行ク舟。海舟 源、三十一、槇柱四「おきつ舟、[illegible]ノ」

〔おきつみとし (名) 奧津御年 [illegible] 「年ハ、稻ノ義、其條ヲ見ヨ」 晩稻ノ稻。[illegible]、[illegible]、取リ作ラム奧津御年ヲ、八束穗ノ[illegible]ニ、[illegible]タチノ、依サシキラバ」

〔おきつも (名) 澳津藻 〔澳之藻ノ義〕 海底ノ藻。 神代紀、下「[illegible]ハ、[illegible]ハ[illegible]レドモ」 萬葉集、二長歌「荒磯ノ上ニ、カ青ナル、玉藻息津藻」

〔おきつもの (枕) 澳津藻 〔澳津藻ハ、水底ニ隱り、又ハ、水ニ靡く〕 隱る、靡くノ枕詞。萬葉集、一廿二「吾ガ夫子ハ、何所行クラム、己津物、隱ノ山ヲ、今日カ越ユラム」(己ハ、起ニ通ズ、隱ハ、伊賀ノ地名、名張ニカク) 同、十一四十「奧藻之、靡キシ君ガ、言待ツ吾レヲ」

おきづり (名) 沖釣 海上ニ出デテ、釣スルコト。(陸釣ナドニ對ス) 丘釣[illegible]ニ文政、[illegible]「大洋釣ハ丘釣ヲ揶ナリト笑ヒ、丘釣ハ沖釣ヲ亡命者ト[illegible]ル」

〔おきて (名) 掟 (一)オキツルコト。サダメ。トリキメ。所定 源、二十、帚木「[illegible]ノおきてニ違ヘリト思ヒ歎キテ」同、廿一、少女二「水ノオモムキ、山ノおきてヲ改メテ」 (二)定メオク法則。法度ノ條目。置目。 法制 雄略紀、廿三年七月「賞罰支度」 四季物語、第一「君ト臣トノおきて正シク」 建武元年落書「鎌倉ノ右大將ノ掟」

おきてがみ (名) 置手紙 「書置ノ意」 人ノ不在ナドニ逢ヒ、用事ノ旨ヲ記シテ、置キ去ル手紙。置文ト云フモアリ。

〔おきど (名) 置戸 「置處ノ義、置座ニ同ジカルベシ」 贖物ヲ載スル臺。 神代紀、上「千座置戸」 [illegible]「於是、素戔嗚尊、而科之以千座置戶、遂促徵矣」

おきどけい (名) 置時計 柱、壁ナドニ掛ケズ、[illegible]ニ[illegible]ヘオク時計。(懸時計、[illegible]中時計ナドニ對ス)

おきごたつ (名) 置炬燵 床ニ[illegible]ヲ、[illegible]ニ小サク作リ、持チ運ブベク作レルモノ。 [illegible]上[illegible]「置床」

おきな (名) 翁 〔おきなびとノ略、其[illegible]ヲ見ヨ(嫗ニ對ス)〕 (一)〔おきなびと〕 老人。 神代紀、上「[illegible]、[illegible]」 萬葉集、十七[illegible] 年老イタル人。トシヨリ。 古今[illegible]、[illegible]、[illegible]人也、[illegible]二[illegible](二)翁 人ヲ親シミ敬ヒテ呼ブ語。 安閑紀、元年十月「[illegible]大伴大連金村日、云云、大伴伯父、[illegible]何[illegible]」 (三)翁渡ノ略。式三番ヲ見ヨ。

おきな (名) 「大魚ノ義カ」 蠏夷ノ海ニ棲メリト云フ大魚ノ名。鯨モ畏ルト云フ、[illegible]ナラズ。

おきなあめ (名) 翁飴 水飴ニ、かんてんヲ加ヘテ固メタルモノ。

おきながひ (名) 翁貝 介ノ名。どぶがひニ似テ、色白シ。

おきなぐさ (名) 翁草 〔漢名、白頭公ノ意譯ノ語ナラム〕 (一)又、ナカクサ。春、宿根ヨリ數葉叢生ス、春夏ノ交ニ、一尺許ノ莖ヲ出シ、頂ニ、小葉簇リ付キ、上ニ、數枝ヲ分チ、枝毎ニ、一花、側ニ垂レテ開ク、六瓣ニシテ葉赤ナリ、中ニ、一群ノ紫絲アリ、後ニ、長ズルコト二寸許、白色ニ變ジテ、飛ビ去ル、[illegible]根ハ小子ヲ結ブ。一名、ウナヰコ。ウネコ。ゼガイサウ。白頭翁 本草和名、上「[illegible]、白頭公、[illegible]、[illegible]久佐、一云、奈加久佐」[illegible]「[illegible]、白頭公、[illegible]人[illegible](假名抄、同ジ) (二)松ノ異名。 [illegible]

〔翁草、於ニ〕(三)菊ノ異名。千載集、五、秋、下「今朝見レバ、サナガラ霜ヲ、戴キテ、翁サビユク、白菊ノ花」ト云フ歌ニ因ルトゾ。又、菊ニ延壽ノ意モアリ。菊水、きせわたノ條ヲ見ヨ。(四)麥門冬ノ一種ニテ、嫩葉ノ、白キモノ。

おきな-さ・ぶ・ブル・ブレ・ビ・ビ・ビヨ (自動、上二) 翁然 〔さぶ(然)ノ條ヲ見ヨ〕翁メク。オキナブル。老人ラシクナル。伊勢物語、百十四段「翁さび、人莫咎メソ、狩衣、今日バカリトゾ、鶴モ鳴クナル」千載集、五、秋、下「今朝見レバ、サナガラ霜ヲ、イタダキテ、翁さび行ク、白菊ノ花」名詞トシテ、萬葉集、十八 七三十一「翁佐備爲ム」

おぎなひ (名) 補 (一)オギナフコト。ツクロヒ。タシマヘ。(二)次條ノ語ノ略。

おぎなひ-ぐすり (名) 補藥 精力ノ衰ヘタルヲ、助ケムガ爲ニ用ヰル藥。

おきな-びと (名) 翁人 〔大成人ノ略カ、(おとな、おみな)或ハ、息長人ノ略ナリトモ云フ(繼體即位前紀、註「中、此云レ那」倭名抄、五 四十「肥後國、日高郡、比多」)〕年老イタル人。老人。常ニ略シテ、おきなトノミモ云フ、其條ヲ見ヨ。翁 倭名抄、二 三十「遊仙窟云、古老、於岐奈比止」枕草子、五、四十六段「ソノ傍ナルおきなびとタチモ、打チステツツ、トモカクモ言ハヌヲ」

おきな・ぶ・ブル・ブレ・ビ・ビ・ビヨ (自動、上二) 翁振 〔翁帶ぶノ約ナルベシ、(思ふ、もふ)おぶハ、色ヲおぶナド云ヒテ、感クル意アリ、宮ぶ、鄙ぶ、大人ぶナド、皆同ジ〕翁ノ狀ナリ。オキナサブ。源、四、夕顔 廿「翁びタル聲ニ」同、五十一、蜻蛉 四十「翁び果テニタル心地シ侍ルヲ」

おぎな・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (他動、四) 補 〔おきぬふノ轉、其條ヲ見ヨ〕缺ケタルヲ足ス。足ラザルニ充ツ。ツクロフ。字類抄「補、オギナフ」

おき-なほ・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 起直 臥シタルヨリ、改メテ起ク。起坐 出雲集(覺性法親王集、鳥羽院皇子、嘉應元年寂)秋「露繁ミ、朝踏ム人モ、ナキ野路ハ、遲ク小萱ノ、おきなほるカナ」

おきな-め・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (自動、四) 翁然 おきなさぶニ同ジ。

おきな-わたし (名) 翁渡 能樂ノ曲ノ名。式三番ヲ見ヨ。

おき-ぬけ (名) 起拔 朝ニ、臥床ヲ出デテ、直ナルコト。

おき-ぬ・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (他動、四) 補綴 「厭縫ふノ義ニモアルカ、轉ジテ、おぎなふトナル」縫ヒ綴ル。字鏡 廿七「綴、合着也、止也、連也、於己奴不」(顯宗即位前紀「川沿柳、水行ケバ、靡キ於己立チ」) 名義抄「補、オキヌフ、ツヅル」

おき-の-けんてう (名) 鳥ノ名。あはうどりニ同ジ。

おき-の-たいふ (名) 沖大夫 鳥ノ名。あはうどりニ同ジ。

おき-の-どく (名) 御氣毒 他人ノ苦痛、困難ヲ思ヒヤリテ、自己ノ心ヲイタムルコトニ云フ語。

おぎ-のり (名) 賖 オギノルコト。カケガヒ。字鏡 七十「賖、貰(貫ノ誤)也、於支乃利」十佐日記、正月九日「昨夜ノ奏ヲ、虛言ヲシテ、おぎのりワザヲシテ、錢モ持來ズ、云云」

おぎ-の・る・ル・レ・ラ・リ・レ (他動、四) 賖 〔假名遣ハ、前條ヲ見ヨ、賖賭る義ニモアルカ、凌ギ借ル意、おく(賖)ノ條ヲ見ヨ、字彙「不レ交レ錢而買曰レ賖」〕價ノ錢ヲ借リテ買フ。(あきさすノ反)かけうりニテ買フ。かけがひニス。筑前、博多ニテハ、今モ此語ヲ用ヰル。名義抄「賖、オギノル」高野山文書、七「左衞門太郎殿、五郎大夫ノ馬ヲおぎのらレテ、價ノ錢ヲ、酷ク責メ申シテ候ヒケルトテ、燒カレテ候」尺素往來「貰二于村酒一、補二枯腸一」

おき-はじ・む・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ (自動、下二) 置初 物、初メテ置ク。オキソム。

おき-び (名) 熾火 〔おおしび(熾火)ノ約、神武即位前紀 十一「取二菟田川水一、以灌二其炭火一」〕炭火ノ、赤クオコリタルモノ。オコシビ。略シテ、おき。字鏡 六「熛、於支比」倭名抄、十二 十五「熾熛、熾、猛火也、於岐比」靈異記、中、第十縁「熛、於紀」同、下、第三十六縁「熛、於支比」信明集「手スサビニ、火桶ノおきヤ、割リテケム、戀シキ人ニ、逢ハヌ頃カナ」

おき-ひき (名) 置引 盜ミニ云フ語。荷主ノ、荷車ヲ置キテ、暫時立去レル間ニ、其荷ヲ盜ミ去ルコト。

おき-ふし (名) 起臥 起キ、又、寐ヌルコト。(日常、朝夕ノ意) 源、九、葵 廿四「おきふし思シワヅラフ」狹衣、四、中 廿二「おきふしニツケテ、物ノミ恐ロシク、心細キ心地ノミシタマヒテ」

おき-ふ・す・ス・セ・サ・シ・セ (自動、四) 起伏 起キタリ、伏シタリス。後拾遺集、四、秋、上「秋風ニ、折レジトスマフ、女郎花、幾タビ野邊ニ、おきふしヌラム」

おき-ぶみ (名) 置文 書置ノ文書。吾妻鏡、三十三、延應元年五月廿六日「仍誡二後年退轉一、今日被レ定二置文一」難太平記、上「義家ノ御置文ニ云、我ガ七代ノ孫ニ、吾レ生レ替リテ、天下ヲ取ルベシ」

おき-へ (名) 沖方 沖ノ、カナタ。海ノ、遠キ方。萬葉集、十五 六「於吉敝ヨリ、舟人ノボル、呼ビ寄セテ、イザ告ゲヤラム、旅ノヤドリヲ」

おき-まど・は・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) 置惑 (一)他ノモノト、見分ケ難キ狀ニオク。古今集、五、秋、下「心アテニ、折ラバヤ折ラム、初霜ノ、おきまどはせル、白菊ノ花」(二)何レニカ置キ忘レテ、見失フ。源、四、夕顔 四「鑰ヲおきまどはしハベリテ、イト不便ナルワザナリヤ」

おき-まよ・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (自動、四) 置迷 置所ヲマヨフ。オキアヤマル。新古今集、五、秋、下「色カハル、露ヲバ袖ニ、おきまよひ、ウラガレテユク、野邊ノ秋カナ」

おき-み-づかさ (名) 正親司 〔おきみハ、諸王ノ約〕おほきんだちのつかさニ同ジ。

おき-みやげ (名) 置土産 去ル時ニ、後ニ遺シオク贈物。留贈 擧白集(慶安、木下長嘯)五「イカ樣ノ、おきみやげトテ、眉ノ霜、頭ノ雪ヲ、クル年カナ」

おき-め (名) 置目 〔掟ノ目安ノ意カ〕掟。法度。武德安民記「御奉公、御置目等諸事、可レ爲レ如二今迄一儀、勿論候」

おき-めばる (名) 沖目張 小魚ノ名。めばるニ似テ、目、口、大キク、全身ニ紅ト緑トノ斑アリ。

おき-もじ (名) 御氣文字 御氣の毒ノ、婦人ノ文ノ詞。

おき-もの (名) 置物 床間ノ裝飾ニスヱオク器物ノ總名。

おき-や (名) 置屋 遊女ヲ抱ヘ置クヲ家業トスルモノ。(京阪)

お-ぎやう (名) 御形 〔ごぎやうノ語原ヲ見ヨ〕草ノ名。ごぎやうニ同ジ。

おさゝがりおほゑ (名) おさゝがりおほゑヲ見ヨ。

おきよどころ (名) [御清所] 宮中、[illegible]ノ臺所ナリ、但シ、供御ノ物ヲ調フル所ヲ、御清所ト云フナリ。[illegible]

おきる (動) [起] 起(オ)く、ノ口語。

おきろ (名) [奧] 〔假名遣ハ、おきろなしヲ見ヨ、おきハ、奧ノ義、ろハ、助辭ナリ、[illegible]ト云フ、寂ろ、空(ウ)ろノ如シ〕(一)奧處ノ、廣キコト。極メテ奧深キコト。廣大無量。欽明紀、六年九月、造丈六佛、功德甚(オキロナリ)大」(左[illegible]、オホイナリ) 易[illegible]、上傳「聖人有以見天下之[illegible]」 (二)甚シキコト。非常。 太平記、廿五、住吉合戰事「一足モ退カズ討死スベシト、神水ヲ飲ミテゾ打立ケル、事ノ體、實ニ思切リタル體カナト、先ヅ凉シクゾ見エタリケル」

おきろく (名) [隱岐綠] 次條ノ語ノ略。

おきろくしやう (名) [隱岐綠靑] 〔古へ、隱岐ヨリ産ジタリト云フ、或ハ云フ、同國ノ産、佳ナレバ云フト〕綠靑ノ一種。繪ノ具ニ用ヰルモノ。略シテ、おきろく。 下學集、下、彩色門「隱岐綠」

おきろな・し キ・ケレ・ク・ク (形、二) [隨] 〔おきろノ條ヲ見ヨ、なしハ、甚しノ義〕極メテ廣シ。廣大ナリ。 萬葉集、廿[illegible]長歌「ソキタクモ、於[illegible]高尓伎カモ、コキバクモ、寛ケキカモ」(雜[illegible]ノ、寬ク寛ナルヲ云フ)

おきわ・ぶ ブル・ブレ・ビ・ビ・ビヨ (自動、上二) [起侘] 朝ニ、寢床ヨリ、起キニクガル。 [illegible]、中[illegible]、マダ知ラズ、[illegible]ニ、おきわびテ、八重立ツ霧ニ、迷ヒヌルカナ」

おく (名) [奧] (一)〔内ヘ深ク這入リタルトコロ〕 萬葉集、十四「於久ヲナカネソ、眼前(マサカ)シ善カバ」「山ノ奧」道ノ奧」奧ノ細道」陸奧ノ奧」 (二)〔家ノ内ノ、後(ウシロ)ノ方〕家族、妻女ノ、常ニ居ル所。(表ニ對ス) 萬葉集、十三[廿五]長歌「奧床(オクトコ)ニ、母ハ寢ネタリ、外床(トドコ)ニ、父ハ寢ネタリ、[illegible]」 (三)奧方(オクガタ)ニ居ル意ヨリ轉ジテ、貴人ノ妻ノ稱。内方。内室。夫人。富商ノ妻ヲモ稱セリ。 俗つれづれ草(元祿)、[illegible]八四十四五ナル奧ノ、昔ヲ今ノ、兵庫髷ヲカシゲニ、云云」 (四)末ノ方。末尾。 千載集、六、冬「外山吹ク、嵐ノ風ノ、音聞ケバ、マダキニ冬ノ、おくゾ知ラルル」「卷物ノ奧」書物ノ奧書(オクガキ)」 (五)事ノ、祕密ニシテ、知リヤスカラヌコト。奧祕。「心ノ奧」技(ワザ)ノ奧ノ手」 (六)晩稻(オクテ)ノ略。

おく (數) [億] 數(カズ)ノ稱、十萬ヲ云フ。十進ニテ、千、萬、億、兆ト唱フ。或ハ、又、百萬ヲモ、千萬ヲモ、萬萬ヲモ云フアリ。今ハ定メテ、萬萬ヲ云フ。 禮記、内則篇、疏「算法、億之數、有大小二法、小數以十爲等、十萬爲億、十億爲兆也、大數以萬爲等、萬至萬、是萬萬爲億也」

お・く ク・ケ・カ・キ・ケ (自動、四) [置] 降(オ)ル。ムスブ。(霜、露ニ) 萬葉集、十五「秋サレバ、於久露霜ニ、アヘズシテ、都ノ山ハ、色ヅキヌラム」

お・く ク・ケ・カ・キ・ケ (他動、四) [置] (一)〔据エツク。栽ス。 萬葉集、五「赤駒ニ、倭文(シツ)鞍打チ置起(オキクラ)」 (二)〔手向(タム)ク。(置座ニ置く意)〕 萬葉集、三「佐保(地名)過ギテ、奈良ノ手向(タムケ)ニ、置く幣ハ」名義抄「八部、幣、オク」 (三)〔葬ル。(上古ハ、棺ヲ埋メズ、墓穴中ニ置くアリ、或ハ、地上ニ置きテ土ヲ掩フアリ)〕今、葬ルヲ、取置くト云フ、是レナリ。葬[illegible] (四)〔サシオク。除ケスツ。措。 古事記、上、長歌「汝ヲ岐(措ノ約)テ、夫ハ無シ」 古今集、廿、東歌「君[illegible]

[illegible]ニ[illegible]アリ。[illegible]ニトトキ[illegible] イタモスベナシ」「一年置く」二日置く」 (六)養フ。抱フ。召シツカフ。「食客ヲ置く」下女下男ヲ置く」 (七)設ケ備フ。 カネテ用意ス。「貯ヘテ置く」記シテ置く」覺エテ置く」 (八)作リ附ク。 蒔繪、箔ナドヲ。 [illegible]、八、初花[illegible]ノ[illegible]、[illegible]おかセア[illegible]ヲおく」 (九)〔預ケ入ル。(質物ヲ) 典(ハカン)〕 宇津保物語、吹上、下「武藏帝ニ質(シチ)ニおキタマフ[illegible]、[illegible]ニおかム」 (十)算木ヲ使ヒテ數フ。(算木ノ條ヲ見ヨ) 發心集、二、第二條「算ヲイクラモイクラモ、おきヒロゲテ」 心を置く、氣を置くトハ、キヅカフ。ハバカル。隔心。

お・く ク・ケ・カ・キ・ケ (他動、四) [厭] 〔置くノ意、物ノ上ニ物ヲ置けバ、厭(オソ)サルルナリ〕厭(オソ)ス。厭シ凌グ。犯ス。 古今集、六、冬「梅ノ香ノ、降りおける雪ニ、移ヒセバ、誰レカコトゴト、別キテ折ラマシ」 後撰集、七、秋、下、「白露ノ花[illegible]レリトテ、人ノ言ヒハベリケレバ「イタヅラニ、露ニおかルル、花カトテ、心モ知ラス、人ヤ折リケム」 [illegible]忠百首「時鳥、己ガ上毛ニ、雨ヲおきテ、[illegible]ナク[illegible]ノ、モラス頃カナ」[illegible]曲、島戎「[illegible]ノ葉、ハヒヒロゴリテ、露ニおかレ、霜ニセメラレ」 つみおかすト云フ、左行四段活用ノ他動詞モ、置く意ニ起リ、厭(オソ)くト同意ナルベシ。 拾遺集、九、雜、下、長歌「大原野邊ノ、ツボスミレ、つみおかしアルモノナラバ、(摘み置くノ、[illegible]ニカク)」 [illegible]、三十四、下、若菜、下「クヤシクゾ、つみおかしケル、[illegible]草、神ノユルセル、カザシナラヌニ」同、四十、幻「大カタハ、思ヒステテシ、世ナレドモ、アフヒハ猶ヤ、つみおかすヘキ」

お・く クル・クレ・キ・キ・キヨ (自動、上二) [起] 〔活(イ)くノ轉カ、興(オコ)るノ變カ〕(一)眠リタルヨリ、覺(サ)メテ立ツ。 神武紀、五「醒起(オキス)」 後撰集、九、戀、一「夕暮ハ、待ツニモカカル、白露ノ、おくる[illegible]ヤ、消エハハツラム」 (二)倒レタルヨリ、立ツ。オコル。アガル。 顯宗即位前紀ハ「川沿(ソヒヤナギ)楊、水行ケバ、靡キ起(オ)キ立チ」

おく・い (名) [奧意] (一)心ノ底。(二)奧(オク)義。オクノテ。

おく・いうひつ (名) [奧右筆] 右筆ノ條ノ(三)ヲ見ヨ。

おく・いし (名) [奧醫師] 德川幕府ノ醫師ノ、將軍ノ治療ヲ掌ル者。 [illegible]、[illegible]「奧醫師、若年寄支配、云云」

おく・いん (名) [奧印] 奧書ニオス印。 明良洪範、九「入用御帳面、云云、貴殿ノ用人ハ陪臣ノ事故、貴殿、奧印有ベシ」

おく・う (名) [屋宇] 家。 [illegible]、[illegible]、[illegible]「理宇(ヲ)宇、乃得[illegible]、主已[illegible]、[illegible]」

おく・か (名) [奧處] 〔かハ、處(トコロ)ノ義、山が、住かノ如シ〕奧マリタル處。ソコヒ。行ク末。 萬葉集、十二「[illegible]、思ヒ出ハテ、スベナキ時ハ、天地ノ、奧香モ知ラズ、戀ヒツツゾ居ル」 同、十七「長歌、大[illegible]ノ、[illegible]久可モ知ラズ、行ク我レノ」

おく・がき (名) [奧書] (一)書物ノ末ニ、其書ノ由來、傳來ナドヲ記シタル文。(はしがきニ對ス) [illegible]、十六夜日記「歌ノ冊子トモノ、おくがきナドシテ」 (二)文書ノ末ニ、他人ガ、其旨ヲ證明セムガ爲ニ、書キ添ヘタル文。

おく・がた (名) [奧方] 〔家ノ奧ノ方ニ住ムガ故ニ、其居所ヲ指シテ稱スルナリ〕貴人ノ妻ノ敬稱。オクサマ。夫人。

おくかな・し キ・ケレ・ク・ク (形、二) [無奧處] 〔奧處ノ條ヲ見ヨ〕行クハテナシ。何處トモ知ラズ。 萬葉集、十二「[illegible]立ツ、春日ヲ、奧香(オクカ)無ク、知ラヌ山路ヲ、戀ヒツツカ來ム」

おくがらう　(名)　|奥家老|　〔表家老ニ對ス〕　貴族ノ奥ノ方ノ事務ヲ掌ル要職。

おくぎ　(名)　|奥義|　奥義ニ同ジ。

おくけん　(名)　|臆見|　〔臆測ノ語原ヲ見ヨ〕　オシアテノミコミ。臆測ノ意見。

おくご　(名)　|御供御|　供御ノ條ヲ見ヨ。

おくごしやう　(名)　|奥小姓|　〔表小姓ニ對ス〕　貴族ノ奥ノ方ニ勤ムル小姓。　營中御日記、二、寛永二年四月四日「日光御成ニ付、奥御小性、表御小性衆ヘ金子被レ下」

おくごてん　(名)　|奥御殿|　〔表御殿ニ對ス〕　貴族ノ奥方ノ住ム建物。

おくコフ　(名)　|億劫|　〔こふ(劫)ノ條ヲ見ヨ〕　(一)佛經ノ語。時ノ、極メテ長キモノ。萬萬劫。　法華經、如來壽量品「百千萬億劫」「億劫ニモ會ヒ難シ」(二)轉ジテ、久シキ暇ノカカルコト。容易カラヌコト。不容易　訛リテ、おっくうト云ヒ、めんだうノ意トス。「おっくうニ思フ」

おくさま　(名)　|奥様|　〔奥方ノ義、奥方ト、意同ジ〕　奥方ニ同ジ。おくさん。　狂言記、墨塗「御國許ヘ下ラセラレテ、美シイ奥様ニ御目ニカカラセラレタラバ」　好色一代女(貞享、西鶴)三「猫、云云、奥様ノ御髪ニ掻キツキ」

おくさん　(名)　|奥様|　前條ノ語ノ音便。

おぐし　(名)　|御髪|　〔みぐし(御髪)ノ語原ヲ見ヨ〕　髪ノ、敬語。　好色一代女(貞享、西鶴)三「猫、云云、奥様ノおぐしニ掻キツキ」

おくしま　(名)　|奥縞|　〔縞ノ條ヲ見ヨ〕　桟留縞ノ、赤絲入ノ竪縞ノモノ。(ごほんでヲ見ヨ)　東海道名所記(萬治)六、京、島原「奥島ノ道服」

おくじやうるり　(名)　|奥淨瑠璃|　舊仙臺領内ニ存スル淨瑠璃。瞽者、三味線ニ合セテ演ズ、元和、寛永ノ頃ノ京阪ノ古淨瑠璃ノ、ソノママ殘レルモノ、極メテ古樸ナリ、八島ト云フナドハ、幸若ソノママナリ、其外、阿彌陀胸割ナド、曲、多シ、舊地ノ者ハ、御國淨瑠璃ト稱シ、他所ヨリハ、仙臺淨瑠璃トモ云フ、古淨瑠璃ハ、扇拍子ノミニテ語リキ、奥淨瑠璃モ久シク然リキ。　俳枕(寛文)「奥淨瑠璃、猪熊ノ橋ヤ、古扇」(緒絶ニテ、三味線ナキヲ聞カス)　其俗(元祿)「ミチノクノ、三絃聞ケバ、扇カナ」　城札節、かほ一節、重一節、ノ三派アリ、此三人、寶曆頃ノ者トオボシク、始メテ三味線ヲツケタルモノト見ユ、明和ノ作ナル常磐津節「蜘蛛の絲」ニ、三味線ニテ、仙臺淨瑠璃ヲ語ルコトヲ云ヘリ。今モ、舊地ニテ語ル者、稀ニアリ。　梓町中間(安永、大田南畝)「チヨット御コトワリ申上マス、是ヨリせんだい上るり初リ、サヤウニ、トウザイトウザイ」

おくじゆしや　(名)　|奥儒者|　德川將軍ノ侍讀。　吏徵附錄、内職「奥儒者一人、若年寄支配、布衣」

おくしよゐん　(名)　|奥書院|　奥ノ方ノ書院。　浦島年代記(元祿、近松作)三「アノ爪音ハ隣屋敷、玄上延尉之介ガ奥書院」

おく・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ(自動、左變)　|臆|　〔說文「臆、胷骨也」釋名「臆、猗也、抑也、抑、氣所二塞也」〕　怖ヂ畏ル。氣後レス。畏縮　源、廿一、少女八「博士ドモモ、ナカナカおくしヌベシ」　同卷三十「少シモおくせズ、讀ミハテタマヒツ」

おく・す・ス・セ・サ・シ・セ(他動、四)　|送來|　〔おゝす(下二段)ノ轉ジテ、活用ヲ變ジタルモノ、おそぐる、くすぐる〕　おゝす。ヨコス。クス。　狂言記、萩大名、松ノ枝「鋸ヲおくせイ、引切テ心ニ立テウ」

おくすぢ　(名)　|奥筋|　奥州ノ地方。　日本武尊吾妻鑑(享保、近松作)五「五十鈴ノ川上ニ現レ給フ天照神ノ乙女巫女、今年ハ奥筋ノ道者少ク」

おくぜい　(名)　|奥勢|　奥州ノ軍勢。　太平記、十九、青野原軍事「奥勢ノ、伊達、信夫ノ兵共、三千餘騎、云云」

おくせいご　(名)　魚ノ名、いさき(鷄魚)ニ同ジ。(奥州)

おくせつ　(名)　|臆說|　〔次次條ノ語原ヲ見ヨ〕　推量ノ說。　富鄭文「但且欲レ證ニ臆說ニ焉」

おくせん　(名)　|奥仙|　〔奥州、仙臺領ノ產ノ意ナルベシ、信夫郡、伊達郡ノ產ニ對シテモ、奥地ナリ〕　陸前、本吉郡、登米郡、及、陸中、氣仙郡地方ニテ、製出スル生絲ノ稱。

おくそく　(名)　|臆測|億測|　「說文「臆、胷骨也」韻會「臆、通作レ意」〕　我ガ心ニテ推シ量ルコト。　後漢書、李通傳、論「夫天道性命、聖人難レ言之、況乃億ニ測微隱ニ」

おくそこ　(名)　|奥底|　(一)理ノ、奥深キトコロ。蘊奥　(二)心ニ深ク思ヒコミ居ルトコロ。心底。深意

おくそで　(名)　|奥袖|　袖ノ、衽ニツキタルトコロ。(端袖ニ對ス)

おくだか・し・キ・ケレ・ク・ク(形、二)　|臆高|　〔臆すノ語原ヲ見ヨ〕　ヲヂナシ。臆病ナリ。　源、廿一、少女四十「學生試題「御題賜フ、云云、おくだかきモノドモハ、物モオボエズ、繫ガヌ舟ニ乘リテ、池ニハナレ出デ、イトスベナゲナリ」

おくたく　(名)　|臆度|億度|　心中ニテ推シ量ルコト。　唐書、江夏王道宗傳「不レ宜下以ニ臆度一使中自猜危上」

おくだん　(名)　|臆斷|　〔臆測ノ語原ヲ見ヨ〕　推シ量リテ、決ムルコト。　蘇軾、石鐘山記「事不ニ目見耳聞一、而臆ニ斷其有無一可乎」

オクタント　(名)　|八分圈儀|　〔蘭語、Octant.〕　しやうげんぎ(象限儀)ノ條ヲ見ヨ。

おくちもな・し　(句)　|無奥口|　イヒガヒモナシ。イフカヒモナシ。　義經記、五、忠信吉野山合戰事「衆徒ノ軍ヲ見候ニ、マコトニ、おくちもなくシナサレテ候モノカナ」

おくちゆう　(名)　|臆中|億中|　心中ニ考ヘタルコトノ、善ク中ルコト。　論語、憲問篇「有レ德者必有レ言」注「億不レ可ニ以億中一、故必有レ言」

おくつき　(名)　|奥津城|　〔奥之棺ノ義ト云フ、奥ハ、地下ノ意、或ハ、置棄ノ轉カ、葬ルヲ、置くト云フ、おきつきト云フ語モアリ〕　墓、ノ古言。墓所。おきつき。　萬葉集、三、四十八長歌「眞間ノ手兒名ガ、奥槨ヲ」　同、九、三十五長歌「奥津城ニ、妹ガ臥セル」　同十八、二十「大伴ノ、遠キ神祖ノ、於久都奇ハ」　同、十九、廿七長歌「奥墓」

おくづけ　(名)　|奥附|　出版書ノ末ニ附ケ添ヘテ、著者、發行者、印刷者ノ姓名、發行年月等ヲ記シタル紙。

おくつすたへ　(名)　|奥津棄戸|　〔奥之棲之上ノ轉、(けつもの、けだもの)奥ハ、家ノ奥、棲ハ、住處ノ義ナリト云フ〕　人民ノ住屋。又、おきつすたへ。　神代紀、上、十四「蛟可ニ以爲ニ顯見蒼生奥津棄戸將レ臥之具ニ」　棄戸、此云ニ須多杯ニ」私記「於久津須太倍」(臥すハ、日常起臥スル意)

おくて　(名)　|奥手|　〔奥様ノ義、晚キ種類ノ意、中手ニ對ス〕　(一)稻ノ一種、秋ニ

至リテ、最モ後レテ熟スルモノ。新年祭祀詞ニ奥津御稲ト云フモ、是レナリ。略シテ、おく。わせ(早稲)ノ條ヲ見ヨ。(二)草木ノ、時ニ後レテ花咲クモノ。萬葉集、八「[illegible]ノ萩ハ咲クトモ、ウツロフハ惜シ、奥手ナル、長キ心ニ、ナホ[illegible]カズケリ」[illegible]云フ)わさはぎ(早稲萩)ト云フ語モアリ。

おく-てう (名) 【億兆】〔數ノ億ト兆ト、數多キ意〕ヒトクサ。萬民。後漢書、[illegible]

おく-どこ (名) 【奥床】家ノ奥ノ方ノ臥所。萬葉集、十三「[illegible]奥床ニ、母ハ寢ネタリ、外床ニ、父ハ寢ネタリ」

おく-に (名) 【御國】(一)大小名ノ家來ノ、其主人ノ領地ノ敬稱。(二)人ノ生國地方ノ敬稱。

おくに-かぶき (名) 【於國歌舞伎】出雲國ノ巫女ノ、國ト云フ者、慶長八年、京都ノ五條河原ニテ演ゼシ歌舞ノ遊戲。女歌舞伎ト云フ。是レ、歌舞伎芝居ノ初ナリ。

おくに-じやうるり (名) 【御國淨瑠璃】おくじやうるり(奥淨瑠璃)ノ條ヲ見ヨ。

おく-の-ぬの (名) 【奥布】奥州ニ産ズル布。古今著聞集、十七、「[illegible]仁三年[illegible]月五日、奥布二百端」

おく-の-こしよゐん (名) 【奥之小書院】奥ノ方ノ書院ノ、小ナルモノ。(翁物語「奥の小書院ナドニコソ、[illegible]タクミ成ル石ヲ居ヘ、木ヲ植テ、水打立テ置ナバ、[illegible]シク候カルベシ」)

おく-の-ごしよゐん (名) 【奥之御書院】奥書院ノ敬語。駿府政事錄「慶長十八年正月六日、奥[illegible]」

おく-の-て (名) 【奥手】〔手ノ、袖ノ奥ニアル所ノ意〕[illegible]ト云フ語モアリ(二)腕。[illegible]萬葉集、九「[illegible]ハ、腕ニアラナム、我手ノ、[illegible]キテ[illegible]ナマシヲ」

おく-の-て (名) 【奥手】〔手ハ、技ノ意〕技藝ノ祕訣。才能ノ蘊奥。奥義。[illegible]本地(寶永、近松作)三「親ヲダシニ使フハ、物[illegible]ノ奥の手」

おく-の-ゐん (名) 【奥院】寺院ニテ、本堂ノ外ニ、更ニ其奥ノ方ニ一堂ヲ設ケテ、祕佛ナド安置スルモノ。吾妻鏡、十七、建仁三年九月三日「源性[illegible]頭、進ニ發高野山ニ可レ奉レ納ニ奥院ニ(死者ノ[illegible]ナリ)」

おく-ば (名) 【奥齒】口ノ奥ノ方ニアル齒。人ニハ、絲切齒ノ次ヨリ、最奥ニ至ルマデノモノ、上下、左右ニ、五枚ヅツアリ、形大キク、力強ク、食物ヲ嚙ミ碎ク用ヲナス。臼齒。[illegible]「おくばモ、キバモ、マダ在レバ、青梅、カチ栗、食ヒツベシ」奥齒に物が挾まったやうトハ、氣ニナル、隔テアル、隔心アル意ヲ云フ語。

おく-び (名) 【噯】〔息吹ノ略轉、(欠ぶ、あきぶ。稲粒、いなつぶ)沖縄ニテ、いきぶい〕胃ニ溜レル空氣ノ、喉ヲ衝キテ出ヅルモノ。ゲップ。乾噫。名義抄、雜部「上氣、オクビ」おくびにも出さぬトハ、少シモ口ニ言ハズ。[illegible]物語(文明)一「武勇ノ道ヲバ、おくびにもたてず、見ルニモ片腹痛キ、花奢風儀ヲノミ好ミテ」

おく-び (名) 【衽】おほくび、及、おくみノ條ヲ見ヨ。

おく-びやう (名) 【臆病】〔臆スノ條ヲ見ヨ、病ハ、怖ヅル癖ノ、病ノ如キ意ナルベシ、五雜組ニ、畏病トアリ〕ヲヂナキコト。オクダカキコト。怖ヂ臆スルコト。オヂケ。[illegible]「右衞門督殿ハ、アレホド臆病ニハオハシマス」[illegible]

おくびやう-かぜ (名) 【臆病風】怖氣ヲ感ズルコト。オヂケダツコト。「臆病風ニ吹カル」

おくびやう-がみ (名) 【臆病神】〔死神ナド、類語アリ〕怖氣立タセラルルコト。鴉鷺合戰物語(文明)九「臆病神ニアフリタテラレテ、太刀、長刀ヲ棄テテ逃ゲケレバ」「臆病神ニ誘ハル」

おくびやう-ぐち (名) 【臆病口】芝居ノ本舞臺ノ、下座ノ方ノ出入口。

おく-ふか・し・キ・ケレ・ク・ク (形、二) 【奥深】(一)奥ノ方へ深シ。深遠。源、[illegible]「おくふかうモアラズ、云云、少シ、ケ近キ心地シテ」(二)事ノ意、深ク遠クシテ、容易ク知リ難シ。深奥。枕草子、三、廿八段「おくふかき[illegible]心ザマヲ見知リタレバ、オシナベタラズ、ナド御前ニモ啓シ」

おく-ま (名) 【御稱】くまねノ略、敬語。其條ヲ見ヨ。狂言記、目近米名「おくまノ[illegible]物ヲ園ニツケテ、云云、田ノヨネヲ、此内ヘコメタ」

おくま・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 奥深クテアリ。深奥。源、五、若紫五「少シおくまりタル山住ミモセデ」同、八、花宴二「心ニクク、おくまりタルケハヒハ、立チオクレ」

おく-み (名) 【衽】〔おほくびノ約ナル、おくびノ轉〕衣ノ前ノ左右ノ端ニテ、襟ヨリ裾マデ、狹ク長ク用ヰル、一幅ノ布ノ稱。上狹ク、下廣シ。ノボリ。其上ノ端ヲ、衽先ト云ヒ、ソレヨリ上、襟肩ニ[illegible]、[illegible]ノ前ニ、衽下ト云フ。

おくみ-さがり (名) 【衽下】[illegible]ヲ見ヨ。

おくみ-さき (名) 【衽先】前前條ヲ見ヨ。俗つれづれ、四「選衣、衽先ヲ少シ揚ゲテ、帶ノ下ニ挾ミ」

おく-めん-なし (名) 【無臆面】臆スル面色ナキコト。衆人ノ前ニ恥ラハヌ人。アツカハ。

おく-やま (名) 【奥山】山ノ、奥深キ處。深山。萬葉集、十四[illegible]ノ、マキノ板戸ヲ、[illegible]

おくゆか・し・シキ・シケレ・シク・シク (形、二) 【奥床】(一)奥、深ク[illegible]。(二)〔深キ思慮アリゲナリ〕(形、貌ナドニ)源、六、末摘花二「[illegible]レクツガヘル、今様ノ由バミヨリハ、コヨナウおくゆかしく思シワタル」

おく-ゆき (名) 【奥行】家、地面、ナドニ、表ヨリ奥ヘノ距離。間口ニ對ス。ウラユキ。

おく-ゆるし (名) 【奥許】かいでん(皆傳)ノ條ヲ見ヨ。

おくら (名) 芝居ニ云フ語。千秋樂ノ條ヲ見ヨ。

おくら-か・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) 【後】〔次條ノ語ノ、おくらすノ轉、いからか、いからかす。すべらす、すべらかす、すべらかす、ナド、同趣ナリ〕オクラス。後ルルヤウニナス。源、四十六、[illegible]「おくらかしキコエバ、イミジウツラカラム」同、五十六、[illegible]「車ナド、カタヘハおくらかし、先ニ立テ、ナドシタレド」

おくら・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) 【後】〔後ルノ他動〕後レシム。[illegible]

今集、八、離別「限リナキ、雲居ノヨソニ、別ルトモ、人ヲ心ニ、おくらさムヤハ」

おくらほふもん（名）[御庫法門] 次條ヲ見ヨ。

おくらもんと（名）[御庫門徒]〔門徒宗ナリ、御庫法門ナドトモ記ス〕怪シキ宗教ノ名、一向宗ヨリ出ヅ。明和年中、下總、行德ノ産、善兵衞ト云フ者、（俗形ニテ、法名、善生）敎主トナリテ唱ヘシガ、忽チニシテ罪ナハル。其敎ハ、人ヲ誘ヒテ、誠ノ道ヲ求ムルニ、身命ヲ惜シマズ專念セヨト誓ハセ、土藏ノ中ニテ、佛像ニ向ヒ、目ヲ閉ヂテ、助けたまへト唱ヘシメ、多人數コレニ和シテ、次第ニ聲高ク唱ヘシメ、人事不省ニ至ル、敎主、耳ニ口シテ、助けたりト云ヒ、コレヲ、往生ノ業ヲ成就セリトスト云フ。

おくり（名）[送]（一）〔人ノ行クヲ、送ルコト。ミオクリ。古今集、八、離別「武藏介ニマカリケル時ニ、送リニ、逢坂ヲ越ユトテ」「門出ノ送リ」（二）葬送。送るノ（四）ヲ見ヨ。「野邊ノおくり」（三）送狀ノ略。

おくりおほかみ（名）[送狼] 狼ノ、人ノ行ク後ニツキ來ルコト。人馳スレバ、狼モ馳ス。人ノ、人ノ後ヲツケ狙フニ譬ヘテ云フ。本朝食鑑、十一、狼「若人、夜獨行二山野之幽蹊一而狼見レ人、或前或後、成レ列隨行、此俚俗謂二送狼一」寬天見聞記「樽ンダラ、喰ハウ喰ハウト、付イテ行ク、藝者ノ母ノ、おくり狼」

おくりがな（名）[送假名] ふりがなノ條ヲ見ヨ。

オクリカンキリ（名）[蝲蛄石]〔羅甸語、Ocu i-cancri.〕蝲蛄ノ體中ヨリ出ヅル、石ノ如キモノ。形、米粒ノ如ク、白クシテ堅シ、炭酸石灰ニ成ル。往時ハ、利水ノ藥トシタリ。和漢三才圖會（正德）五十一、江海無鱗魚類、蝦蛄「於久里加弁木里、蝦蛄頭中小石、能治二五淋一通二小便一蠻人祕藥也、然未レ見下有レ石者上」

おくりきん（名）[送金] 爲替ナドニテ、人ニ送リヤル金錢。

おくりこ・む・ム・メ・マ・ミ・メ（他動、四）[送込] 送リテ入ルル。「茶屋へ、客ヲおくりこむ」

おくりじ（名）[送字] をどりじニ同ジ。

おくりじやう（名）[送狀] 他ニ送ルベキ物ニ添ヘテ、其員數ナドヲ記シタル書付。略シテ、おくり。庭訓往來、十二月「租穀租米送狀」江戸政要「科人送狀之覺」

おくりだし（名）[送出] 相撲ノ手ノ名。相手ノ手ヲ手繰リ込ミ、ソノのめるニツケ、我ガ體ヲカハセテ、相手ノ背ヲ突キ、押出スコト。

おくりてがた（名）[送手形] 物、又、人、ヲ送ルニ添フル劵。

おくりな（名）[諡]〔贈名ノ義〕人ノ死後ニ、其行狀ナドニツキテ、別ニ定メテ贈ル名。支那ノ制ニ據リテ設ケラレタルモノ。公式令、義解、平出「謂レ謚者、累二生時之行迹一爲二死後之稱號一、卽經二緯天地一爲レ文、撥レ亂反レ正爲レ武之類也」神武天皇、文武天皇、勝寶感神聖武皇帝（續紀、天平勝寶二年八月）ナド稱シ奉ル、是レナリ。臣下ニモ贈リ賜ハレルアリ、藤原不比等ノ淡海公、藤原忠平ノ貞信公ナドアリ。

おくりび（名）[送火]（一）しやうりやうまつり（精靈祭）ヲ見ヨ。續史愚抄、東山「元祿二年七月十八日壬子、今夕有二諸山送火一（去十六日依レ雨不レ燃）」（二）葬送ニ、棺ヲ家ヨリ出ス時、門前ニテ焚ク薪火。カドビ。

おくりぶみ（名）[送文] 物品ヲ送ルトキ、添フル文書。蜻蛉日記、下、中五「例ノゴト調ジテ、マドコロノおくりぶみソヘテアリ」

おくりもの（名）[贈物]（一）〔客ノ歸ル時、贈リ與フル物。餞 宇津保物語、吹上、下三十九「おくりもの、引出物、設ケタル數ノゴト、奉リタマフ」源、一、桐壺八廿「源氏ノ君、鴻臚館ニテ高麗人ト對話「御子モ、イトアハレナル句ヲ作リタマヘルヲ、限リナウメデ奉リテ、イミジキおくりものドモヲ捧ゲタテマツル」（二）人ノ許ニ遣シ贈ル物。進物。ツカヒモノ。贈遺 敎令類纂、二集、六十七、寶曆六丙子年五月「御禮事、其外老中、若年寄ヘ一統、贈物有レ之候節、云云」

おく・る・ル・レ・ラ・リ・レ（他動、四）[送]（一）彼方ヘ遣ル。ツカハス。（二）〔人ノ行ク後ヲ、守リ行ク。萬葉集、五廿五「天飛ブヤ、鳥ニモガモヤ、都マデ、意久利マヲシテ、飛ビカヘルモノ」（三）〔人ノ旅立ツヲ、暫シ送ル。ミオクル。萬葉集、廿五十「堀江越エ、遠キ里マデ、於久利ケル、君ガ心ハ、忘ラユマシモ」（播磨ヘ行ク人ヲ見送レルナリ）（四）〔葬送ス。萬葉集、九三十四「アシビキノ、荒山中ニ、送リ置キテ、歸ラフ見レバ、心苦シモ」（弟ヲ葬リタル歌）古今集、十六、哀傷「前ノ大臣ヲ、白川ノアタリニおくりケル夜、云云」（野邊ノおくり）（五）過ス。クラス。月詣集、十二「誰レモ皆、馴レニシ年ノ、過ギ行クヲ、おくらヌ人ハ、アラジトゾ思フ」「日ヲ送る」（六）カヘス。報ユ。報「恩ヲ送る」（七）順次ニ移シ動カス。「膝ヲ送る」（ひざおくり）

おく・る・ル・レ・ラ・リ・レ（他動、四）[贈]〔送リ與フル意〕與フ。クル。ヤル。ツカハス。字鏡九廿「餽、餉、於久留」萬葉集、十八七三十「雲ノ上ニ、照レル月夜ニ、梅ノ花、折リテ於久良ム、愛シキ子モガモ」

おく・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ（自動、下二）[後]〔措くノ受身ノ措かるノ、ツヅマリテ、一ノ自動詞トナレルモノ、擊たるノ、壓つトナル例ナリ〕（一）〔後ニ遺サル。留マル。遺留 萬葉集、二廿九「遺れ居テ、戀ヒツツアラズハ、（アラムヨリハ）追ヒ及カム、道ノ隈回ニ、標結ヘ吾ガ夫」同、九廿六「於久禮居テ、吾レハヤ戀ヒム、春霞、タナビク山ヲ、君ガ越エナバ」（二）〔生キ殘ル。死後ル。生存 源、二、帚木三十七「是レハ故右衞門督ノ末ノ子、云云、幼キホドニ、おくれハベリテ」千載集、九、哀傷「女ニおくれテ、歎キハベリケル頃」（三）後ニナル。遲クナル。（時ニ云フ）後（四）外レテ殘ル。伴ハズ。及バズ。落後「同行ニ後る」流行ニ後る」（五）〔劣ル。次ノモノトナル。劣 源、三、空蟬五「少シ品おくれタリ」狹衣、一、上六「心ヲツクス人人、高キモおくれタルモ、サマザマニ」（六）〔短クテアリ。源、九、葵十「額髮ハ少シ短クゾアメルヲ、ムゲニおくれタルスヂノ無キヤ」名詞ニ、「おくれ毛」（七）臆ス。氣オクレス。畏縮

おくれ（名）[後]（一）オクルルコト。遲クナルコト。狂言記、雙六僧「雙六ノおくれヲ打ツ其心、牛一ツバカリノ額ミナリケリ」（二）劣ルコト。負クルコト。失敗「おくれヲ取ル」（三）氣後スルコト。畏縮 源氏冷泉節、冷泉節「恩愛、執着ニ命ヲ惜シミ、思ハヌおくれモ取ルコトアリ」「おくれガ出ル」

おくれがけ（名）[後駈] おくればせノ（一）ニ同ジ。易林節用集（慶長）「殿 懸」

おくれがみ（名）[後髮] 後レテ延ビタル髮ノ毛ノ、短クテ、髻ニトドカズ、垂ルルモノ。おくれげ。色道大鏡（延寶、箕山）男子ノ鬢風ニ「鬢ノ厚キハ、云云、生さがりハ無キカタマサルベシ、おくれ髮ハ、一筋アリテモ惡シシ」

おくれげ（名）[後毛] 前條ノ語ニ同ジ。

おくればせ（名）[後馳]（一）他ニ後レテ、

[illegible]リ」(二)人ニ後レテ、用意ノツクコト。

✧✧おく・れる (名) 後ろノ口語。

おくろう (名) [屋漏] 屋根ノ、漏ルコト。

おくろど (名) [御黒戸] 「[illegible]」禁中ノ御佛壇ノ、女房詞ナリト云フ。([illegible])

おくゎんがい (名) [御菅蓋] 菅ニテ作レルサシ笠、大嘗祭[illegible]天皇ノ渡御ノ時用ヰ給フ。

おけさぶし (名) 越後ノ新潟邊ニテ歌フ俗謠。コレニ伴フおけさをどりト云フモノ、活潑ナリ。

おけし (名) [御芥子] けしがらあたまノ、婦人語。

おけそく (名) [御華足] けそくニ同ジ。

おけら (名) 螻蛄ノ、婦人、小兒ノ語。

おこ (名) [蠶] [illegible]蠶ノ[illegible]、蠶ノ本名、こナリ」かひこ(蠶)ニ同ジ。(關東)

おこ (名) 海草ノ名、おこのりノ條ヲ見ヨ。

おご (名) [御御] 〔御ハ、貴婦人ノ稱、其條ヲ見ヨ〕(一)身分アル人ノ妻ノ敬稱。音便ニ、おごご、[illegible]人。[illegible]、イツモおごう様カラ女ドモヘ、古着ノ御小袖ヲ下サルル」(二)娘ヲ云フ。[illegible]四、以屋部批判「母ノ、娘ニ向ヒ、ソチハ、八ヤ年二十二ナレド、[illegible]、コレノお五八今年二十二コソナラルレ、[illegible]モ、ツク時分ガアルモノゾ」昨日は今日の物語「おごう様、お乳ノ人ヲ召シテ、[illegible]カシメ、云云」仙臺ニテハ、近クマデ、士族ノ娘ヲ、おごト云ヒキ。安藝、石見ニテハ、今モ、妻女ドモニ、おごうト云フトゾ。

おごう (名) [御講] ほうおんこう(報恩講)ノ條ヲ見ヨ。

おごう (名) [御御] 前前條ヲ見ヨ。

おこうなぎ (名) [御講凪] ほうおんこう(報恩講)ノ條ヲ見ヨ。

おご・く (動) [動] 〔動くノ轉、うごめく、おごめく〕うごくニ同ジ。[illegible]手ヒトツ持チタルヲ、[illegible]アリテ、ナホおごくヲ、云云」名義抄「[illegible]、オゴク、ウゴク」

おとご (名) [御供御] 供御ノ條ヲ見ヨ。

おここ・し・シキ・シケレ・シク・シク (形、二) [嚴] 嚴しノ約カ、オゴソカナリ。イカメシ。[illegible]

おこし (名) [御越] 〔おこす(遣來)ノ名詞形、御おこしノ約ナルベシ〕入リ來ルコトノ敬語。オイリ。オイデ。來臨。

おこし (名) [粔] 次條ノ語ノおこしごめノ略、其製法、今ハ變レリ」糯米ヲ蒸シテ、乾シテ、炒リタルモノ。乾菓子ノ種トシ、水飴ト米ノ粉トニ和シテ、方、圓、種種ニ作ル。(次條ヲ併セ見ヨ)大ナルハ、いはおこしナドノ名アリ。又、粟ヲ炒リテ製スルヲ、あはおこしナドモ云フ。

おこしごめ (名) [興米] 〔おこしハ、炒リテ脹レおこらしむる意ニモアルカ〕米ヲ蜜ニ和シテ煎リタルモノ。[illegible]米」

おこしずみ (名) [熾炭] 熾シタル炭火。[illegible]「[illegible]炭火」[illegible]「[illegible]、おこしずみ」

おこしび (名) [熾火] 熾シタル炭火。オキビ。オキ。[illegible]びノ、[illegible]ニ、カクシツツ、[illegible]ソ思ヘ」

おこ・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) [起興] 〔起くノ他動、すぐ、すごす。(過)なぐ、なごす(和)〕(一)[伏]シタルヲ、立ツ。[illegible]十九[illegible]シ」(二)[眠]リタルヲ、覺マス。[illegible]四、夕顔「ワレ、人ヲおこさム」(三)始ム。爲シ初ム。「業ヲ起す」「稿ヲ起す」「亂ヲ起す」(四)新ニ建ツル。「家ヲ興す」「國ヲ興す」(五)表ニ生ゼシム。發「怒ヲ發す」「病ヲ發す」(六)開ク。闢 發ス。拓 [illegible]「[illegible]田井、打チおこすベキ、時ハ來ニケリ」「田地ヲおこす」(七)[炭火ノ氣ヲ、盛ンニス。熾 枕草子、一、第一段「イト寒キニ、火ナド、急ギおこしテ」

おこ・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) [遣來] 次條ノ語ノ轉。轉ジテ、おくすトモ云フ。狂言記、[illegible]、おこさレテゴザルホドニ」同、法師物狂「往ネナラバ往ナウホドニ、[illegible]ヲおくし」

おこ・す・スル・スレ・セ・セ・セヨ (他動、下二) [遣來] 遣リ來タス。ヨコス。コス。おくす。クス。[illegible]、十八[illegible]ノ、[illegible]ヲ、手ニムスビ、[illegible]人ハ、[illegible]シクモアルカ」同、十九[illegible]「吾妹子ガ、形見ガテラト、紅ノ、八鹽ニ染メテ、おこセタル[illegible]モセタリケレバ」[illegible]、十八、[illegible]「文ヲおこする人アリト聞キテ」[illegible]

おこそか・な (副) [嚴] 〔おこハ、大おこるナド云フ、[illegible]ノ約カ、[illegible]〕[illegible] 名義抄「嵩、オコソカニ」字類抄「[illegible]、オコソカナリ」

おこそづきん (名) [御高祖頭巾] 日蓮宗ノ高祖、日蓮上人ノ像ニ倣ラスルモノ、此頭巾ナリ」袖頭巾ノ異名。今、婦人ノ用ヰルモノ、皆、是レナリ。

おこたり (名) [怠] (一)〔オコタルコト。[illegible]〕(二)[illegible]リテ生ゼタル過。[illegible]ダ、ミヅカラノおこたりニナム侍ル」同、十三、明石二十「スベテ[illegible]シキ人ニ從ヒケル、心ノおこたりゾトニゾフ」(三)過チヲ詫ブルコト。謝罪 [illegible]記、四、白山神輿登山事ノ次、加賀國河嶋失「[illegible]、良翼ガ罪名ヲ宥メラレツツ、サマザマノ御おこたり申サセタマヒケリ」曾我物語、八、同じく別當に[illegible]云、オソナハリ候」(四)病ノ、少シ癒エタルコト。少間

おこたりぶみ (名) [怠文] 〔前條ノ(三)ヲ見ヨ〕我ガ過ヲ詫ブル旨ヲ記シタル文書。怠狀。アヤマリジョウモン。ワビジョウモン。[illegible]「名簿ニ、おこたりぶみヲ添ヘテ出ダス」

おこた・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) [怠惰] 〔起垂るノ義ニテ、たゆむ意カ〕(一)タユム。爲スベキ業ヲ爲ズ。ハタラカズ。

ナマケル。皇極紀、二年九月「親發無レ倦」名義抄「怠、惰、懈、オコタル」(一)油斷シテ、過ツ。名義抄「過、オコタル」(二)少シ癒ユ。(病ニ)少閒 古今集、十五、戀、五「心地ソコナヘリケル頃、云云、心地おこたりテ後、云云」 宇津保物語、樓上、上七十「忽ニ、病おこたり」

おこづ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (自動、四) 得意ニナリテ談話ス。調子ヅキテ物語ス。 著聞集、十六、興言利口「何ヲアダニカ思ヒケム、仲正ガコトヲ、嘲りおこづくヤウニ云ヒケレバ」 沙石集、一、下、第十條「堀取ノ光明ヲ蒙ラン行人ヲバ、神明モイカデ罰シ給フベキトテ、おこづきアザムキケリ」

おこづ・る・ル・レ・ラ・リ・レ (他動、四) 誘 いざなふ(誘)ニ同ジ。 神武紀、十「盛設二宴饗一誘レ虜而取レ之」 名義抄「佞、オコヅル」誘、アヤツル、オコヅル」

おこと (代) 御事 親シミテ云フ、對稱ノ代名詞。ソナタ。アナタ。オンミ。 落窪物語、四「おこと、ヨキ事知リ、物ノ心知リタラン人、推シハカリテ申セカシ」 發心集、七、第一條「空也上人トハ、御おことヲ申スニヤ」

おことじる (名) 御事汁 往時、十二月八日ト、二月八日ト、兩度ニ、芋、菎蒻、小豆等ヲ雜ジヘテ煮タル味噌汁。

おことはじめ (名) 御事始 往時、十二月八日ニ、煤掃ナドシテ、新年ノ準備ヲ施スコト。二月八日ニ、歳德ノ神ノ棚ヲ撤廢スルヲ、御事納トイフ。

おことをさめ (名) 御事納 前條ヲ見ヨ。

おこなは・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) 行 おこなふノ敬語。オコナヒタマフ。 龍田風神祭祝詞「思志行波須」

おこなは・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ (自動、下二)

行 〔おこなふノ他動、然ルニ、つたふ、つたはる。よこたふ、よこたはる(四段活用)ニ考フレバ、此語、おこなふノ受身ナルガ、一語ノ如クナレルナラムカ〕 (一)人人ノ、行ヒユクヤウニナル。障リナク成リユク。(二)ハヤル。流行ス。 (源、十三、明石三「仁王會ナド、おこなはるべシトナム、聞エハベリシ」ナドハ、おこなふノ敬相ナリ)

おこなひ (名) 行 (一)オコナフコト。(二)起居、動作。所業。行狀。行跡。身持。 允恭紀、八年二月「吾カ夫子ガ、來ベキ夜ナリ、ササガネノ、蜘蛛ノ於虛奈比、今夜著シモ」

おこなひ (名) 行 〔佛教ノ語、行ノ訓讀〕 佛道ヲ學ブコト。佛ノ戒行ヲ修スルコト。 天武紀、上三「入道修行」 源、五、若紫廿三「おこなひノラウハ、積モリテ」

おこなひすま・す・ス・セ・サ・シ・セ (自動、四) 行澄 心ヲ澄シテ、行ヲ修ス。 狹衣、三、下五「佛ノ御カザリ、ナベテナラズ、云云、おこなひすましタマヘルケハヒ、イミジウアハレナリ」

おこなひびと (名) 行人 〔佛經ノ語、行人ノ訓讀、佛道ノ行ヲ修スル者ノ義〕 僧。法師。沙門。 敏達紀、十三年二月「修行者」 天武紀、下、十一年七月「道俗悉見レ之」 源、三十四、下、若菜、下四十「山伏ノ聖心ニ、カカル事ドモヲ思寄リケムト、云云、假初ニ身ヲヤツシケル、昔ノ世ノおこなひ人ニヤアリケム、ナド思シメグラス」

おこな・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (他動、四) 行 〔興行ふノ義ニテ、(贖なふ、罪なふ)事ヲ興シユク意ニアラムカ、於ノ假名遣ナルハ、おこなひノ條ヲ見ヨ〕 (一)爲。爲ス。アツカフ。マカナフ。 土佐日記、二月九日「米、魚ナド乞ヘバ、おこなひツ」 落窪物語、三「コトコモトハ、トカクセヨ、ナドおこなひ直サズ」 名義

抄「行、オコナフ」 (二)佛道ノ行ヲ修ス。 源、四、夕顏、十二「優婆塞ノ御ニ望テ、おこなへる足ノ佳ヒ、イトアハレナリ」

おごのり (名) 於期海苔 海草ノ名。海中ノ石ニ生ズ、狀、亂髮ノ如クニシテ、長サ一二尺、黑クシテ、青ミアリ、灰ヲ加ヘテ煮レバ、綠トナル。料理ノつまナドニ用キル。略シテ、おご。又、うご。頭髮菜 大膳職、主膳監式「於期菜」 本草和名、上三十六「海藻、一名海髮、於古」

おこは (名) 御强 〔こはハ、强飯ノ略〕 (一)强飯ノ敬語。 太神宮年中行事「御强」 資益王記、明應十年正月「おこは、次ニ比目」(姫飯) (二)强飯ノ、婦人語。 蜷耳草紙(貞享)、侍ナドノ詞ニ、聞キニクキハ、云云、汁ヲおつけ、强飯ヲおこは、云云」

おこは (名) 〔「おお恐怖や」ノ約略、女ノ發スル聲〕 美人局ニ同ジ。有夫ノ女、夫ト共謀シテ、他人ト通ズ、夫、其寢床ニ蹈込ミ、姦通ヲ脅嚇シ、金錢ヲ强奪ル、此奸計ニ陷ルヲ、おこはにかかるト云フ。(天保ノ名言通、下)

おこぶし (名) 御拳 德川將軍ノ、冬時、野ニ出デ、自ラ鷹ヲ拳ニスエテ、鶴ヲ狩リ捕フルコト。捕リタルヲ、御拳の鶴ト云ヒ、京都ニ送リテ、禁裏ニ獻ジ、又、三家、大大名ナドニモ頒ツ。鶴ヲ捕リタル鷹ニハ、紫ノ總ヲ着ク。 文政ノ川柳「お拳モ、紫ニナル、野ノ寒サ」

おこん (名) 御獻 〔獻ノ條ヲ見ヨ〕 酒ノ、女房詞。

おごめ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (自動、四) 蠢動 〔うごめくノ轉、うごく、おごく〕 うごめくニ同ジ。ウゴウゴト動ク。 源、二、帚

木二十「サテサテヲカシカリケルコトト、イダマフヲ、心ハ得ナガラ、鼻ノワタリおごめきテ語リナス」(可笑シサヲ堪フル狀ナリ) 徒然草、七十三段「我レモマコトシカラズ思ヒナガラ、人ノ言ヒシママニ、鼻ノホドおごめきテ云フハ、其人ノ空言ニハアラズ」(偽ノ、顏ニアラハル狀ナリ)

おこも (名) 御薦 〔こもハ、こもかぶり(乞食)ノ略〕 乞食ノ、小兒、婦人語。

おこもり (名) 御籠 社寺ノ參籠ヲ、丁寧ニ云フ語。

おこら (名) 御子良 子良ノ條ヲ見ヨ。

おこり (名) 起 (一)起ルコト。モトヅクトコロ。起原。 源、一、桐壺三「唐ニモ、カカル事ノおこりニコソ、世モ亂レ、惡シカリケレ」 (二)ハジマリ。創始 「音樂ノおこり」

おこり (名) 瘧 〔發病ノ略、隔日ニおこり、さめスル意〕 古言、ワラハヤミ。エヤミ。サムヤミ。フルヒヤミ。間歇熱ノ一種、寒、熱、日ヲ隔テテ、時ヲ定メテ發ルモノ。ギャク。其發ルヲ、ふるふト云フ。 冷戰 寒噤 發ル日ヲ、おこりび、あたりびト云ヒ、癒すヲ、落すト云ヒ、癒ゆるヲ、落つるト云フ。 明月記、元久元年六月十四日「二條殿御發心地、今日又令レ發給」 十六夜日記「わらはやみニヤ、日マゼニおこるコト、二度ニナリヌ」 園太曆(正平)「春宮大夫、瘧病未レ落居、今日發日也」 萬安方(元徳)「瘧、オコリヤミ」

おごり (名) 驕 驕ルコト。タカブルコト。驕慢。 源、七、紅葉賀廿「御心おごり、イトコヨナクテ」

おごり (名) 奢 奢ルコト。分ヲ過シテ、費ヤシ飾ルコト。奢侈。過差。 太平記、十二、千種忠顯事「朝恩身ニ餘リ、其侈目ヲ驚セリ」「奢リニ長ズ」

おおりぢゃうご 一（名）［怒上戸］酒客ノ、酔ヘバ怒ル癖アルモノ。ハラダチジャウゴ。（わらひぢゃうご、なきぢゃうごニ對ス）

⁂おおりつぽ・い（形）［怒り易し］ノ轉、忘れつぽい、飽きつぽい、同趣］怒リヤスシ。人ノ性ニ、ヤヤモスレバ怒ル癖アルニ云フ。

おおりび（名）［發日］瘧ニ云フ語。其條ヲ見ヨ。

おおりやみ（名）［瘧病］おおり（瘧）ヲ見ヨ。

おお・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）［起興發］（一）〔始〔起くト通ズ、廣ぐ、ひろおる〕（一）〔始マル。出デ來。古今集、序「ヤマト歌ハ、云云、須佐ノ雄ノ尊ヨリゾおおりケル」（二）〔起キアガル。盛リニナル。［illegible］名［illegible］、六［illegible］、オコル」「國興る」家興る」（三）〔病ミ初ム。發［illegible］「病發る」（四）炭火ノ氣、盛ンニナル。熾 拾玉集、四「冴ユル夜ノ、枕ニ消エヌ、埋火ノ、オコスニおおる、（［illegible］立ニ云ヒカク）世フ折ルカナ」

⁂おお・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）［怒］〔氣ノ昂チ發る意〕イカル。ハラダツ。立腹ス。

おお・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）［驕傲］〔大おるナドノ意カ、大キガルヲ云フ、ひろおる、ほどおる〕（一）〔［illegible］ガナ學、［illegible］權、ナドヲ、人ニ誇リ示ス。オモヒアガル。タカブル。［illegible］十二、［illegible］、不［illegible］世、於己［illegible］（二）［illegible］力張リテ、抑ヘガタクアリ。［illegible］（馬ニ云フ）［illegible］

おお・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）［奢］〔驕り

［illegible］費ヤス意〕（一）［illegible］、身ノ［illegible］ノ事ニ費ヤシ飾ル。贅澤ヲスル。名義抄「奢、オゴル」（二）俗ニ、自ラ費ヤシテ、饗應ヲナス。フルマフ。［illegible］

おごれん（名）ごれうにん（御料人）ノ條ヲ見ヨ。

おこゑがかり（名）［御聲懸］くちぞへ（口添）ノ敬語。

おざ（名）［御座］座席ヲ、丁寧ニ云フ語。おざがさめるト用ヰル、親宴ニ不吉ナル語ナドシテ、座興ノシラクルヲ云フ、殺風景ニナル意ナリ。御座なりト云フ語モアリ。

おさい（名）［御菜］菜物ノ、婦人語。オカズ。

おざう（名）［御草］〔御草履ノ略〕武家ノ草履取。「嬉遊笑覽、九」明和ノ川柳「おざう泣く、［illegible］ノスボム、［illegible］」

おさがり（名）［御下］（一）神佛ノ供物ヲ、取下ゲタルモノ。（二）貴人ノ供膳ナドノ殘物、又ハ、所用品ノ不用トナレルヲ、下下ニ賜ハリナドスルモノ。オシタ。オスベリ。

おさがり（名）［御下］俳諧ニ云フ語。雨雪ノ稱、歳首ノ季トス。華實年浪草（天明）一、上「御降、［illegible］抄ニ云、世俗ニ、歳始ニ降ル雨雪ヲ、おさがりト云フ、按ズルニ、あまさがるノ轉語也、一說、元日ニ降ル雨ヲ云フ、今式ニ云、凡、何月三日ノ內ニ降ル雨ヲ吉瑞トス、［illegible］月集ニ出ツ、云云、十月朔日、雨降リケルニ、おさがりト、云ハム小春ノ、時雨カナ、［illegible］レ、十月朔日ヲ、小春ノ元日ニ、取合ハセタル句作也」

おさき（名）［御先］（一）先立ノ、敬語。（二）

手先ヲ、丁寧ニ云フ語。［illegible］レル」ナド用ヰル、［illegible］サレテ事ニ當ルヲ云フ。

おさきまくら（名）［illegible］

おさお（名）［御匙］次條ノ語ノ略。

おさじい［illegible］（名）［御匙醫師］［illegible］レバ、敬稱ス］將軍、大名等ノ病ヲ診スルヲ職トスル醫師ノ稱。略シテ、おさお。

おさだう（名）［御茶道］江戸幕府、城中ノ茶坊主。

おさつ（名）［御薩］さつまいもノ婦人語。浮世［illegible］（文化、［illegible］下）「おさつサン、何ヲ御持チダネ、お寶カ」

おさと（名）［御里］（一）生家ヲ、丁寧ニ云フ語。（二）素性。以前ノ身分。「おさとガ知レル」

おざなり（名）［御座成］「なりハ、成レルママノ意ニテ、ソレなりニシテオク、言フなり次第ナドノ、なりナリ」當座ニ背ハレヌ話ヲ聞キナドシテモ、然ルベシナド、先ヅ挨拶シテ置クコト。場當合ヲ合ハスルコト。「御座なりヲ言フ」

おさ・ふ・フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ（他動、下二）［抑押］押し支ふノ約ナルベシ、假名遣ハ、次條ヲ見ヨ］（一）〔オシトドム。支フ。萬葉集、十三［illegible］、［illegible］ノ小［illegible］ヲ、［illegible］ヘ制ス」名義抄「抑壓、オサフ」（二）〔堪ヘ忍ブ。顯宗即位前紀［illegible］、不能自［illegible］」（三）捕フ。捕拿「盜賊ヲ押ふ」（四）取リテ動カサズ。押留ス。「［illegible］ヲ押ふ［illegible］」

ふ」（さしおさへ）（五）他ノ獻サムトスル盃ヲ止メテ、再ビ飲マシム。［illegible］（寶永、近松作）上「母おおさへマシ、アイヲ致シテ上ゲマセン［illegible］」

おさへ（名）［抑］（一）抑フルコト。支フルコト。（二）壓スニ用ヰル物。オモシ。オシ。［illegible］（三）［illegible］、［illegible］、［illegible］「［illegible］佐信ノ姓ゾ」（四）殿陣、又ハ、行列ノ、最後ヲ守ル者。殿 押後 ［illegible］

⁂おさへつ・ける・ケル・ケレ・ケ・ケ・ケヨ（他動、下二）中「アトニおさへノ對道具」

おさへば（名）［押齒］［おしば、おそばノ轉］やへば（八重齒）ニ同ジ。齵齒

⁂おさ・へる（動）［抑押］おさふ（抑）ノ口語。

おさん（名）［下女］〔御三ノ間ノ略、三ノ間ヲ見ヨ〕下女ノ異名。同業ヨリハ、おさんどんト呼ブ。下婢 大學當爾道（享保、竹田出雲）一「御清所ノ供御炊グ、お［illegible］デアンス」

おさんごう（名）［御散供］〔さんごうハ、散供ノ訛〕うちまき、散米ノ敬語。

おさんどん（名）前前條ヲ見ヨ。

⁂おさ・ゆ（動）抑ふノ口語。

おさらば（感）さらば（然者）ヲ、丁寧ニ云フ語。別ルル時ノ詞。［illegible］作）上「太夫様、おさらば」おさらばみなるト

おざ・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）［御座］おざあるニ同ジ。

おし（名）［押］（一）押スコト。（二）俗ニ、

恥ヂズシテ、飽クマデモスルコト。「押ガ強イ」

おし (名) 壓 (一)壓スコト。(二)壓シテ置クニ用キル物。オサヘ。オモシ。鎭子 (三)漬物ナド、壓スニ用キル石。壓石 (四)人ヲ制スル威勢。オモシ。威壓「壓ガキク」

〜おし (名) 鼠弩 (壓ノ義カ) ねずみおとしノ類。倭名抄、十五 三「鼠弩、於之」拾遺集、七、物名「おしアユガスナ、鼠捕ルベク」

おし (名) 押機 〔襲、詳ナラザレド、壓ノ義ナルベシ〕 弃ノ類。ココヲ蹈メバ、カシコノ機動キテ、人、陷リ壓サレテ、死ヌベク構ヘタルモノノ如シ。神武紀 六「兄猾(人名)云云、殿内施レ機、欲三因以請饗以作レ難、云云、乃自蹈レ機而壓死」古事記、中(神武)六「兄宇迦斯、云云、作レ殿、其内張二押機一將三待取一云云、乃己所レ作押 見レ打而死」

おし (名) 啞 おふしノ約、其條ヲ見ヨ。

お志 (名) 御師 〔お志ハ、祈師ノ略〕 (一)僧ノ祈師ノ敬稱。源、二十二、玉蔓 二十一「右近ガ局ハ、佛ノ右ノ方ニ近キ間ニシタリ、此御師ハ、云云」(いのりのお志ヲ見ヨ) (二)神社ニモ移リテ、祈禱師ノ敬稱トス。大神宮、石清水、春日神社、其他ニモアリ。吾妻鏡、三、壽永三年正月三日「依レ爲二年來御禱師一、被レ付二攝津國宜光親神主一」 渡會延經隨筆ニ、弘安元年公卿勅使記ヲ引キテ「無二風雨之難一云云、殊可三祈請一之旨、可レ仰二本宮御師并祭主宮主一云云、御師ハ、太夫ヲ稱ス」 家忠日記、天正二十年三月三日「伊勢ノお志歸リ、葦毛ノ馬ヲ取ラセ候」 後ニハ、大神宮ノ下級ノ神人ノ、某太夫ト稱スル者ヲ、お志、又、おんお志ト唱フ、年年、御祓箱ヲ、國國ノ人家ニ配リ、初穗ヲ求メ、僧寺ノ師檀ノ如クナリテ、各地ヨリ參宮スル時ハ、各、宇治、山田ナル、其御師ノ家ニ宿スル定メトセリ。

〜お志 (感) 〔稱唯ノ聲ノおおト、警蹕ノ聲ノお志お志トヲ重ネテ云フナルベシ、內侍所御神樂次第ニ「阿知女於於於於、志志志志」トアリ〕 警蹕ノ聲。(其條ヲ見ヨ) 鳴ヲ鎭ムルニ發スル聲。御先追ノ聲。重ネテ、お志お志。侍中群要、三、供御事「初供二御膳一人、先取二蓋盤一入二立鬼間御障子之間一、稱二警蹕一、其詞、オシ」 源、四十八、寄生 八上「オホン盃捧ゲテ、お志ト宣ヘル」 枕草子、一、十三段「晝ノ御座ノ方ヘ、御膳參ル足音高シ、けいひつナド、お志お志ト云フ聲聞ユ」

〜おし-あけがた (名) 押明方 〔おしニ、意ナシ、おし謙る、おし直るノ如シ〕 あけがたニ同ジ。アカツキ。曉 源、十、榊 廿九「おしあけがたノ月影ニ、法師バラノ、閼伽奉ル」

おし-あ・つ・ツル・ツレ・テ・テ・テヨ(他動、下二) 押當 (一)當テテ、掩フ。源、三十九、御法 五十「御袖ヲ、顏ニおしあて給ヘルホド」 (二)推シ量ル。スヰリャウス。

〜おし-あて (名) 推當 オシアツルコト。推シ量ルコト。アテズヰリャウ。源、八、花宴 四十「何故カト、おしあてニ宣フヲ」 月詣集、四、戀、上「ソノ人トモ知ラデ、見ハベリケル女ノ許ニ、おしあてニツカハシケル」

おし-あ・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ(他動、四) 押合 互ニ押ス。國性爺合戰(正德、近松作)四「渡レヤ渡レト五百餘騎、押し合ひ、詰メ合ヒ、我レ先ニト」

〜おし-あゆ (名) 押鮎 〔壓すノ(二)ヲ見ヨ、鮎ヲ年魚トモ書クニ因リテ、年始ニ用キルナリト云フ、名義抄「押年魚、オシアユ」〕 鮨鮎ノ、頭ヲ切リ取リタルモノ。古ヘ、元旦ノ供トス。土佐日記、正月元日「芋モ荒布モ齒固モナシ、タダおしあゆノ口ヲノミヅ吸フ」(土佐ノ船中ニテナリ) 西宮記、一、正月元旦、供御藥「押鮎、一盤(切盛置頭二串)」

おし-いた (名) 押板 (一)座敷ノ、板張ノ床間。曾我物語、十、追善事「おしいたニハ、古今、萬葉ヲ初トシテ、源氏、伊勢物語ニ至ルマデ、數ノ冊子ヲ積ミオキ」 林逸節用集「押板」 (二)後ニハ、机ノ大キサホドノ板。低キ脚アルナド、襲、種種ナリ、室中ニ置キテ、文房具、其外、物ヲ飾リオク臺トス。甲陽軍鑑、十九、品第五十一「武田ノ御重代、左文字ノ御腰物ヲ、おしいたノ上ニ立テオキタマフ」

おし-いだしぎぬ (名) 押出衣 女房ナドノ、御簾ノ外ヘ、衣ノ端ヲ出スコト。出衣、打出の衣ト、同ジヤウナルモノナリ。枕草子、五、五十段「唐衣ハ皆、御簾ノ外ニおしいだされタレバ」 雅亮裝束抄、三「打出ニハ、菊、紅葉ノ衣ハ、オボロゲニテハナシ、おしいだしぎぬニハ、常ノ事ナリ」

おしいり (名) 押入 人家ニ押入リテ、財ヲ奪フ盜人。オシコミ。強盜。傾城反魂香(寶永、近松作)上「夜盜、押入りノ手引カ」

おし-い・る・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) 押入 強ヒテ、入ル。無理ニ入リ込ム。榮花物語、廿八、若水「家ドモノ程廣キニ、おしいるサマニテ、込ミ居タリ」「人家ニ押入る」

〜おし-い・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ(他動、下二) 押入 押シ遣リテ、入ルル。オシコム。伊勢物語、第六段「アバラナル倉ニ、女ヲバ、奧ニおしいれテ」

おしいれ (名) 押入 家財ヲ押入レテ置ク戶棚。壁廚

おし-うつ・る・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) 推移 移リカハル。過ギ行ク。(世事ニ、年月ニ) 榮花物語、四、見果てぬ夢「淺マシウ、ヲコガマシカリツル御有樣ノ、おしうつりタリシ程ヲ」

おし-うり (名) 押賣 强ヒテ賣リツクルコト。ツキツケウリ。强賣 俳虞曲(享保)「藪入ニ、押賣スルゾ、フクサ帶」

お志-おき (名) 御仕置 仕置ヲ、丁寧ニ云フ語。刑罰。專ラ、死罪ニ云フ。御定書百箇條「御仕置仕形之事」

おし-おくりぶね (名) 押送舟 帆ノ力ヲ假ラズ、數十人、艪ニテ波ヲ押シ切リテ、海ヲ渡ル舟。多クハ、漁舟ニ云フ。諸造船式圖「押送船」

〜お志-お志 (感) 警蹕ノ聲。お志(感)ノ條ヲ見ヨ。

おし-か・く・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ(自動、下二) 押掛 (一)進ミテ襲フ。進擊 宇治拾遺、一、十八條「利仁、狐ヲ押しかくれバ、狐、身ヲ投ゲテ逃グレドモ、追ヒ責メラレテ、エ逃ゲズ」 (二)俗ニ、招カザルニ、往ク。淀鯉出世瀧德(寶永、近松作)上「此方カラ先越シテ、ニョット押しかけテハ、ドウ御座ンショ」

おしかけ (名) 押掛 (一)押掛クルコト。浮世床(文化、三馬)二編、下「ナンゾオイシイ物ガゴザリマスナラ、押しかけノオ客ニ參リマス」 (二)馬具ノ名。馬ノ頭、胸、尻ニ繫クル組緒。靮 頭ヨリくつわニ繫クルヲ、面繫ト云フ。羈 胸ヨリ鞍ニ繫クルヲ、胸繫ト云フ。鞅 尾ヨリ鞍ニ繫クルヲ、尻繫ト云フ。鞦 以上ヲ合セテ、三繫トモ云フ。

おし-かへ・す・ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) 押返 進ミ來レルヲ、押シテ退クル。榮花物語、四、不見果夢「四月ノ祭ノ使ニ出給ヒシカバ、ヨロヅニシタテサセ給ヒテ、おしかへしテ、アヤシノ御車ニテ御覽ジテ」

おし-がみ (名) 押紙 紙ニ趣意ヲ記シ、糊ニテ物ニ押貼ルコト。附箋ニモ、揭

ホノ權威ナドニモ云フ。[illegible]〔後白河院御時、年中行事ヲ繪ニカカレテ、御覽[illegible]ノ餘リ、松殿ヘ進ゼラレタリケリ、コマカニ御覽ジテ、御不審アル處處ニ押紙ヲシテ、ソノ誤ヲ、御自筆ニテ記シツケテ」(二)[illegible]ニ同ジ。

おしから (名) 押柄 〔押し進ム性質ノ義、(人柄、身柄ノ後ニ、押柄ト音讀シテ、高ぶるコトニ云フハ、誤、一轉シタルナリ)〕 氣ノ強レルコト。キハダカナルコト。オシノ強キコト。剛強。[illegible]アリ、新太廿八、廿三[illegible]云云、[illegible]クシテ、押柄ニナムアリケル」續古事談、一、王道后宮「カヤウニおしがらアリテ、ユユシカリケル人ナリ」(白河院、[illegible]ノ多キニ億マセタマヒテ、立タセラレタルニ、強盗、大神宮ノ訴ヲ讀ミアゲタレバ、主上、踊リツカセタマヘルヲ云フナリ)

おしがり (名) 押借 強ヒテ、金錢ナド借ルコト。御仕置[illegible]集、二六、五、寛政四子年三月「去[illegible]ヲ押借イタシ、同人不承知ニ候處、云云」

おじぎ (名) 御辭儀 (一)辭儀ノ、敬語。(二)ヌカヅクコト。頭ヲサゲテ禮スルコト。稽首 (三)俗ニ、商店ナドノ、失敗シ、資力盡キテ、閉店スルコト。

おしきり (名) 押切 (一)秣、蘆ノすさナド刻ム器。クサキリ。カヒバキリ。(二)次次條ノ語ノ略。

おしきりちやう (名) 押切帳 金錢受取ノ旨ヲ記サシメ、押切判ヲ押サセオク帳面。

おしきりばん (名) 押切判 〔おしきりハ、判ヲ押し了フル意ナルカ〕 割判ニ同ジ。略シテ、おしきり。[illegible]「[illegible]之トヰ日ニハ、役人、[illegible]云云、五人組、内外ニ、急度押切判可ゝ仕候」

おしき・る ル・レ・ラ・リ・レ(他動、四) 押切 (一)押シテ切ル。(二)[illegible]

おしくみ (名) 押裹 オシククミタルモノ。ヒラツツミ。フロシキ。金葉集、十、雜、下「大路ニ、子ヲ棄テテ侍リケルおしくみニ、書キツケ侍リケル歌」

おしく・む (動) 押裹 裹むニ同ジ。其條ヲ見ヨ。源、四、夕顏三十「ウハムシロニおしくみテ」榮花物語、三十三、着佗歎女房「ウセサセ給ヒヌレバ、云云、御ぞニおしくみテ、キテオロシ參ラセ給フ」

おしくさ (名) 玄參 〔生し草ノ約ニテ、此草、直立、繁殖スレバ、此名アルカト云フ〕 ごまのはぐさノ古名。字鏡九十「玄參、於之久佐」本草和名、上十「玄參、於之久佐」

おしくる・む ムル・ムレ・メ・メ・メヨ(他動、下二) 押包 卷クヤウニシテ、包ム。「本ヲ、風呂敷ニ押しくるむ」

おしけ・つ ツ・テ・タ・チ・テ(他動、四) 押消 〔けつハ、消すナリ〕 打チ消ス。勢ニテ貶カス。壓倒 源、九、葵八「上達部ハイト異ナルヲ、一所ノ御光リニハ、おしけたレタメリ」

おしこと (名) 推言 推當ノ言。アテズキリヤウノ説。臆説 著聞集、十一、書畫「サテハ其事正體ナシ、此人ハおしことスル人ニコソ、ト沙汰アリテ」

おしこみ (名) 押込 (一)押シ込ムコト。(二)戸棚。オシイレ。(三)人家ニ押入ル強盗。オシイリ。

おしこ・む ム・メ・マ・ミ・メ(自動、四) 押込 (一)強ヒテ、入ル。宇津保物語、[illegible]「雨ケ降ヘバ、公達おしこみ入リテ」(岸本由豆流ノ校訂) (二)強盗ニ入ル。

おしこ・む ムル・ムレ・メ・メ・メヨ(他動、下二) 押籠 (一)押シテ入ル。(二)押籠ノ刑ニ行フ。[illegible]

おしこめ (名) 押籠 (一)押シ籠ムルコト。(二)徳川氏ノ制ニ、刑ノ名。蟄居ニ同ジ。[illegible]

おしこ・める (動) 押籠 前前條ノ語ノ口語。

おしごらう (名) 唖五郎 〔五郎ハ、惡太郎、香太郎(八專次郎、十川三郎)ノ類、太郎ノ條ヲ見ヨ〕 (一)唖、おし、ニ同ジ。[illegible]約メテ、おしごろトモ云フ。[illegible]多言)越前ニテ、うしごろ。今、京都ニテ、上略シテ、ごろ。(二)唖蟬ノ異名。

おしこ・る ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) 推凝 推シ集フ。オシアヒ、ヘシアフ。[illegible]五、四十六段「宮ノ御方ノ女房二十人バカリ、おしこりテ、コトゴトシウ[illegible]ヒタル」源、九、葵[illegible]女房三十人バカリおしこりテ、濃キ薄キ鈍色ドモヲ着ツツ、云云」蜻蛉日記、下、下十九「アカキ人、黑キ人、おしこりテ、數モ知ラヌ程ニ立テリケリ」

おしごろ (名) 前前條ノ語ノ約。[illegible]誕生會(元祿、近松作)四「前生デ嘘ツケバ、唖ごろニ生レル」

おしさ・ぐ グル・グレ・ゲ・ゲ・ゲヨ(他動、下二) 押下 押ヘテ、下ヘ遣ル。「胸ヲおしさぐ」

おしずし (名) 壓鮨 すし(鮨)ノ條ヲ見ヨ。

おしぜみ (名) 唖蟬 〔鳴カザレバ、名トス〕 古名、ナハゼミ。今、又、オシゴラウ。オシゴロ。蟬ノ雌。

おした (名) 御下 貴人ヨリ、物ノ餘分ヲ賜ハルコト。オロシ。オサガリ。

おしたいこ (名) 押太鼓 〔おしハ、押進ム意、押すノ(三)ヲ見ヨ〕 軍陣ニ、敵ニ[illegible]打ツ[illegible]太鼓。カカリダイコ。(ひきがねニ對ス) 信長記、八「[illegible]、押太鼓ヲ打テ懸リ來レバ」

おしだし (名) 押出 (一)押シ出スコト。(二)多人數ノ前ヘ立出[illegible]、「[illegible]しだしガ立派」

おしだ・す ス・セ・サ・シ・セ(自動、四) 押出 多人數揃ヒテ出カケ[illegible]、コトニ[illegible]。「[illegible]おしださウ」

おしだ・す ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) 押出 押シテ、外ヘ出ス。[illegible]おしだす」

おした・つ ツ・テ・タ・チ・テ(自動、四) 押立 (一)立つヲ、強メテ云フ語。[illegible]上、[illegible]おし立テ[illegible]テ歸セ給フ」(二)強ヒテ、振舞ヲナス。無[illegible]ナリ。[illegible]イトおしたち、カドカドシキ所、モノシ給フ御方ニテ」

おした・つ ツル・ツレ・テ・テ・テヨ(他動、下二) 押立 (一)立つるヲ、強メテ云フ語。宇津保物語、[illegible]上、[illegible]フママニ、[illegible]奉リテ、おしたてテ遊ビテ、殿ニオハス」(二)強ヒテ振舞ハス。

おしたふし (名) 押倒 オシタフスコト。

おしたふ・す ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) 押倒 オシテ、タフス。ツキタフス。枕草子、十二、心づきなきもの「[illegible]ノヤウナルモノノ、アヤシキ衣着タルガ、イト憎キ、立チ居ヌカヅキタルハ、おしたふしツベキ心チコソスレ」(坂本)

おしち (名) 於七 放火ノ謎詞。八百屋お七ノ、放火シタルニ因ル。(次條ヲ見ヨ)

おしちかぜ (名) 於七風 天和ノ頃、江

戸、本郷ノ八百屋お七ノ放火事件ノ後ニ起レル、流行性感冒ノ稱。

おし-つ・く・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ（他動、下二）［押附］（一）强ク押ス。オシツムル。玉葉集、十六、雜、三「大納言ノ三位、キヌヲヌギ置キテ、局ヘオリニケルガ、夕立ノ漏リテ、イタク濡レテ侍リケレバ、唐衣ノ袖ニおしつけテ給ハセケル」（二）强ヒテ、人ニ寄セック。カヅケル。「難儀ヲ人ニ押附く」

おしつけ（名）［押附］（一）押シ附クルコト。（二）强ヒテ人ニ寄セックルコト。カヅケルコト。壽門松（享保、近松作）上「押付ガマシイ事ナレド、チョットバカリノ御盃、是デ上ッテ下サレ」（三）次次條ノ語ノ略。

おし-つけ（副）［押付］後ニ附キテ。ヤガテ。ホドナク。多クノ閒ナク。刻下。浮世風呂（文化、三馬）初編、下「おしつけ治ラア」

おしつけ-の-いた（名）［押附板］鎧ノ名所。胴ノ背面、肩ニアタル所。染革ナドニテ包ム。略シテ、おしつけ。盛衰記、三十、實盛被討事「己レハ手塚ガ郎等ニヤ、餘スマジト云フママニ、鎧ノ押附の板ヲツカマヘ」平治物語、二、待賢門軍事「二ノ矢ヲ射タリケレバ、押附ニチャウト中タリ」甲陽軍鑑、九、上、品第三「敵ノおしつけヲ見ズンバ、武士、弓矢ヲ取ル甲斐ハナシ」

おし-つど・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ（自動、四）［推集］おしあつる（推凝）ニ同ジ。

お-ふ-づまり（名）［御寢］オシヅマルコト。オホトノゴモリ。日中行事（後醍醐天皇）「おふづまりノホドニ、殿上ノ簡ヲ、校書殿ノ簡ノモトニ寄セカケテ、各臥シアヘリ」

おし-つま・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）［押詰］「おしニ、意ナシ、おし籠る、おし立つノ類」ツマル。キハマル。切迫ス。「今年モおしつまりマシテ、オ忙シウゴザイマセウ」

お-ふ-づま・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）［御寢］「御靜るノ義、前前條ヲ見ヨ」寢ヌノ敬語。御寢ナル。ゲシナル。オヨル。

おし-つ・む・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ（他動、下二）［押詰］强ク押ス。オシツクル。壓迫。落窪物語、二、上「車、云云、片輪ヲ、堀ニおしつめラレテ」

おして（副）［押而］强ヒテ。無理ニ。オシキリテ。萬葉集、十四、三十七「於志氐否ト、稻ハ舂カネド、波ノ秀ノ、甚振ラシモヨ、昨夜一人寢テ」源、二十二、玉蔓八「危ガリテ、おして此國ニ越エキヌ」

おし-で（名）［押手］〔古ヘ、掌ニ墨ヲ塗リ、文書ヲ捺シテ、信トシタルヨリ起レル語、手形、手印ト云フ語モ、是レナリ〕朝廷ニテ、文書ノ證トシテ、捺シタマフ印。璽。印。符。仁和大嘗會ノ歌「神代ヨリ、天ノ於志弖ノ、動キナキ、シルシニ立テシ、岩屋山カモ」崇峻卽位前紀九「朝廷下レ符傳」續紀、廿五、天平寶字八年九月、詔「官ノ印ヲ押シテ、天ノ下ノ諸國ニ書ヲ散チテ、告ゲ知ラシメ」增鏡、十七、月草の花「璽ノ箱ヲ、御身ニ添ヘラレタレバ」名義抄、一部「印、オシデ、シルシ」

おし-で（名）［押手］琵琶、琴ナドノ彈法ニ、左手ニテ絃ヲ押シ、（弓道ニテモ、弓ヲ押ス）右手ニテ彈キテ、音ヲ發セシムルコト。源、四十二、紅梅八「琵琶ハ、おしでシヅヤカナルヲ、ヨキニスルモノナルニ、云云」

おして・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）［押照］押シ並ベテ、照ル。萬葉集、八、廿五「我ガ宿ニ、月押照有、ホトトギス、心アル今夜、來鳴キトヨモセ」同、七、三「春日山、押而照有、此月ハ」

おしてる（枕）［押照］〔前條ノ語ニ同ジ、浪華ニカケテ光る花ノ意、萬葉集、十九「能登河ノ、水底サヘニ、光るマデニ、三笠ノ山ハ、咲キニケルカモ」同、三、三十八「ア

シビキノ、山サヘ光リ、咲ク花ノ」神武卽位前紀ニ「浪速國、亦曰ニ浪華ニ、今謂ニ難波ニ訛也」〕難波ノ枕詞。感動詞ヲ添ヘテ、おしてるやトモ云フ。萬葉集、三、五十「長歌「押光、難波ノ國」同、四、五十一長歌「押照、難波ノ菅」古事記、下（仁德）長歌「於志弖流夜、難波ノ埼」萬葉集、廿、廿六「於之弖流夜、難波ノ津」同、六、十五長歌「臨照、難波ノ宮」枕詞ヲ、言ヒ慣レテハ、直チニ難波ノ事トス。萬葉集、廿、廿六「櫻花、今盛リナリ、難波ノ海、於之弖流（難波ノ）宮ニ、聞コシメス並ベ」（天下ヲ治メタマフニ連レテ）

おしてる-や（枕）［押照哉］前條ヲ見ヨ。

おし-とど・む・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ（他動、下二）［押止］オサヘテトドム。おさふ（押）ノ條ノ（一）ヲ見ヨ。

おし-どり（名）［押取］理不盡ニ取リ去ルコト。强奪。保元物語、三、左府公達、附、謀反人各遷流事「御馬ヲバ下部取テケレバ、押取ニシタル鞍ナレ共」

お-ふな（名）〔ふなハ、信濃ノ略〕江戸ニテ、信濃ヨリ出デ來レル下女ヲ、侮リ呼ビシ俗語。下男ナルヲ、ふな助ト云ヒキ。安永ノ川柳「富士山ハ、おふなニ賣リャト、御新造」（富士山ハ飯ノ山見ナリ、信濃者大食ナレバ云フ）

おし-な・ぶ・ブル・ブレ・ベ・ベ・ベヨ（他動、下二）［押靡］（一）〔オシ、ナビカス。萬葉集、六、六十七「印南野ノ、淺茅押靡、左寢ル夜ノ、ケ長クアレバ、家シ偲バユ」同、十七、四十「婦負ノ野ノ、薄於之奈倍、降ル雪ニ、宿借ル今日シ、悲シクオモホユ」（二）オシナラス。平ニス。蜻蛉日記、下、中十「先ニ燒ケニシ處、此度ハおしなぶるナリケリ」（三）オシワタス。萬葉集、一、七長歌「大和ノ國ハ、押奈戸テ、吾レコソ居レ」（天皇ノ、スベテ知シメス意）枕草子、三、廿四段「花ノ木ドモ散リハテテ、おしなベタル綠ニナリタル中ニ、云云」源、一、桐壺三十「御方方ノ人人、世ノ中ニおしなベタラヌヲ擇リトトノ

ヘ、スグリテ（皆選ナラヌ意）同、二、帚木二「おしなベタラヌ若人ドモニ」

おしなべて（副）［押靡］〔前條ヲ見ヨ〕オシナビカセテ、一ツニ。オシナラシテ。伊勢物語、八十二段「おしなべて、峯モ平ラニ、ナリナナム、山ノ端ナクバ、月モ入ラジヲ」

おし-な・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）［押直］ヒキナホス。正シクナホス。源、二、帚木二「同ジクハ、ワガ力入リ、おしなほしヒキツクロフベキ所ナク」

おし-なほ・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）［押直］改メテ、正シテ坐ル。狂言記、鱸庖丁「板モトニおしなほり」

おし-な・み（動）［押靡］〔おしなぶノ連用形、おしなべノ轉ナルベシ、四段活用ノ動詞ハ見エズ〕おしなぶニ同ジ。古今集、六、冬二「今ヨリハ、ツギテ降ラナム、我ガ宿ノ、薄おしなみ、降レル白雪」新古今集、十、羇旅「旅寢シテ、曉方ノ、鹿ノ音ニ、稻葉おしなみ、秋風ゾ吹ク」萬葉集、十一、十七「山城ノ、泉（泉川）ノ小菅、（序）凡浪ニ、妹ヲ心ニ、我ガ思ハナクニ」（コレハ押靡ヲ、並並ノ意ニカケタリ）

おし-なら・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）［押均］均シクス。平均ニス。オシナプ。おしなぶ（押靡）ノ（二）ノ條ヲ見ヨ。

お-ふね（名）［晩稻］〔おそいねノ義〕オク。オクテ。（奧手ノ條ヲ見ヨ）新古今集、十八、雜、下「ウキ身ニハ、山田ノおふね、（次句ノおしノ序）押込メテ、世ヲヒタスラニ、恨ミワビヌル」

おし-の・く・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ（他動、下二）［押退］おしやる（押遣）ニ同ジ。

お-ふのび（名）［御忍］微行ノ敬語。狂言記、老武者「ツット、お忍びノ事デゴザルニヨッテ」

おし-ば（名）［押齒］やへば（緊齒）ノ古言。

……オソバ。古事記、下(顯宗)段ニ「[illegible]如三[illegible]」[illegible]

おしば (名) 押葉 [illegible]ノ葉ヲ、[illegible]、又ハ、枝ノ間ニ挿シハサミ、乾カシ[illegible]ルモノ。植物學ノ[illegible]ナドトス。[illegible]

おしはかり (名) 推量 オシハカルコト。推量。臆度 [illegible]、[illegible]アヤシヤ[illegible]おしはかりニナム[illegible]、三十八、夕顔「おしはかりニ入リ給フ」

おしはか・る ル・レ・ラ・リ・レ(他動、四) 推量 此事ノ心ヲ推シテ、他ノ事ノ上ヲ考フ。推量ス。臆度 忖度 [illegible]「[illegible]心[illegible]」枕草子、三、廿八段、受領ナド、大人之、未必相似「[illegible]ダチタル人ハ、太キ、イトヨシ、餘リ痩セ枯メキタルハ、心苦レタラムトおしはからル」

おしはだぬ・ぐ グ・ゲ・ガ・ギ・ゲ(自動、四) 押 乳覩 肌ヲ脱グ、ヲ、強メテ云フ語。太平記、五、大[illegible]宮[illegible]、[illegible]セント思シ召シテ、既ニおしはだぬがせ[illegible]ヒケリ」

おしはな・つ ツ・テ・タ・チ・テ(他動、四) 押放 ハナレサス。遠クニ放チヤル。大祓祝詞「大津[illegible]、[illegible]押放事之如久」

おしは・る ル・レ・ラ・リ・レ(他動、四) 押貼 物ニ貼リツク。糊ニテツクル。貼附

おしひし・ぐ グ・ゲ・ガ・ギ・ゲ(他動、四) 壓拉 オシツク。オサヘツク。枕草子、九、百十三段、「人の[illegible]につきづきしき[illegible]キラキラシウ良キ[illegible]ドヲバ、エサシモおしひしがズカシ」

おしひら・く ク・ケ・カ・キ・ケ(他動、四) 推開 推シ遣リテ、開ク。排 [illegible]紀、八年十二月「於蘇羅[illegible]ネ、三輪ノ殿戸ヲ」續紀、七年六月、長[illegible]ノ[illegible]戸ヲ、[illegible]、我レ入リマシ」

おしひろ・ぐ グル・グレ・ゲ・ゲ・ゲヨ(他動、下二) 推廣 推シ延ベテ、廣グル。擴

おしひろ・む ムル・ムレ・メ・メ・メヨ(他動、下二) [illegible] [illegible]

おしぶち (名) [illegible] 竹ノ押縁ニ打付クル、細ソク長キ竹木ノ稱。[illegible]

おしぶみ (名) 押文 貼紙ノ文書。押紙。[illegible]ヲ見テ、驚キテ、云云」

おしへ・す ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) 押壓 「壓す」ノ條ヲ見ヨ。押シツクル。[illegible] 枕草子、二、十九段、過ぎにし方戀しきもの「[illegible]裂帛ノ、おしへされテ、冊子ノ中ニアリケルヲ見ツケタル」

おしへ・る ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) 押謙 「謙る」ノ條ヲ見ヨ。謙リクダル。持統[illegible]明前紀「[illegible]好[illegible]」

おしほん (名) 御四方 「おしほんハ、四方ノ音便」さんばう(三方)ノ條ヲ見ヨ。

おしまづき (名) 机 〔押座机ノ略カ、(おはしまノ條ヲ見ヨ)或ハ、押曲突ノ略(ひざまづく)ナラムカ」ワキヅキ。けふそく(脇息)ニ同ジ。齊明紀、四年十一月「[illegible]」[illegible]十四[illegible]臥具「几、於之萬都岐、几、[illegible]脇息之名こ」

おしまひ (名) 御仕舞 (一)しまひ、終ノ、敬語。(二)假粧ノ、婦人語。

おしまへ (名) 押前 〔押すノ(三)ヲ見ヨ〕戰場ニ進ムコト。進軍。[illegible]

おしめ (名) 押目 押シ下グルコト。サ

おしめ (名) [illegible] [illegible]ノ婦人語。[illegible]ムツ。

おしも (名) 御下 [illegible]

おしもんだふ (名) 押問答 押シ合ヒ、問答スルコト。

おしや (名) [illegible]ハ、[illegible]、おしわ、[illegible]」[illegible]ノ婦人語(東京)

おしゃく (名) 御酌 (一)酒ノ酌ヲ、丁寧ニ云フ語。[illegible] (二)東京ニテ、酒席ニ招カレ、酌ヲナシ、又、踊ヲスルヲ業トスル少女。又、半玉トモ云フ。成長スレバ藝者トナル。京阪ニテ、舞子。雛妓

おしゃくひ (名) 御杓 東京ニテ、女工ノ遊戯。細螺ノ殻ヲ撒キチラシ、[illegible]ノ殻ニテ杓ヒ取リ、其多少ニテ勝負ヲ決ス。

おしゃし (名) 御釵子 釵子ノ條ヲ見ヨ。

おしやな (名) 東南風 「西北風ト因アル語ナルベシ、肥前ノ松浦ニテハ、押穴ト云フ」東南ヨリ吹キ來ル風。[illegible]

おしゃぶり (名) 御舐 東京ニテ、乳兒ノ玩具ノ名。木ニテ小サク作ル、中クビレテ、兩端球ヲナス。乳兒、其球ヲ舐ル。

おしゃべり (名) 御多辯 多辯る者ヲ稱スル、婦人語。

おしゃま (名) 「次條ノ語ノ略、多辯ル意ナルベシ」東京ニテ、女ノ出過者ノ稱。

おしゃま・す (自) 〔おっしゃいますノ約〕 仰セヤマス。[illegible]

おしゃん・す (自) 〔おしゃりますノ音便轉、ござります、ござんす〕仰セラレマス。[illegible]

おしゃらく (名) [illegible] (一)身形ヲ飾ルコト。オシャレ。[illegible]スッテ、マウ一遍、おしゃらくヲスル氣ダモノヲ」 (二)宿場ナドノ賣女ノ異名。オジャレ。[illegible]おしゃらくト云フ」

おしゃり (名) 御舍利 (一)舍利ノ、敬語。(二)[illegible]ノ、痛ミテ死シテ、色ノ白クナハレルモノ。白殭蠶 又、黒ク腐ルヲ、たりさトモ云フ。烏殭蠶

おしや・る ル・レ・ラ・リ・レ(他動、四) 押遣 押シテ、遣ル。押シ退クル。[illegible]

おしゃ・る ル・レ・ラ・リ・レ(他動、四) 仰 〔仰せらるノ約〕仰セラル。オッシャル。[illegible]

おしゃ・る ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) 御座 [illegible]ノ間ハおしゃらヌカ」

おしゃれ (名) 御洒落 シャレルコト。身形ヲ飾ルコト。婦人ノ語。[illegible]

おしゃれ (名) 前條ノ語ノ命令形、ござれニ同ジ、客ヲ呼ブ詞。宿場ノ賣女

ノ異名。オシャラク。大阪ニテ、總嫁ノ類ニおちゃらト云フアリ。物類稱呼(安永)一、人倫、旅人宿ノ下女「東海道筋ニテおぢゃれト云フ」

おしょく (名) [御職] (一)同列ノ中ニテ、頭立ツ人。一臈。班頭 (二)東京、新吉原町ノ遊女屋ニテ、其家家ノ遊女ノ首座ノ者ノ稱。をしゃう(和尚)ノ轉ニハアラヌカ、其條ノ(二)ヲ見ヨ。明和ノ川柳「鈴ノ音、シバラクアッテ、お職出ル」(夕方、見世へ出ル前、鈴ヲ振リ、神棚へお參リスル)

おしよ・す ・スル・スレ・セ・セ・セヨ (自動、下二) [押寄] 競ヒテ、進ミ掛カル。襲フ。オシカケル。保元物語、一、「軍評定事」「高松殿ニ押寄、三方ニ火ヲ懸」宇治拾遺、五、第二條「伏見修理大夫ノ許へ、殿上人廿人計、おしよせタリケルニ」

おしる (名) [御汁] 味噌汁ヲ、丁寧ニ云フ語。

おしろい (名) [白粉] 〔御白いノ義〕 (一)婦人ノ顏ノ化粧ニ用ヰル、白粉、しろいもの、ノ婦人語。昔ノモノハ、多ク米粉ニテ作レリ。しろきもの條ヲ見ヨ。異本、四季物語(長明)正月「空ノケシキ、云云、縹ノ紙ニ、おしろいツキタルヤウニ、處處白ウ見ナサレ、云云」(嬉遊笑覽、二) 七十一番職人盡歌合(文安)十四番、しろいもの賣「イクラモ召セ、イカホドヨキ御しろいガ候フゾ」慶長、元和ノ頃、和泉ノ堺ノ錢屋宗安、明國ノ人ヨリ傳習シテ、始メテ輕粉ヲ再ビ燒キテ煉リ作ル、(近代世事談)細末ノ粉ニシテ、色、最モ白シ。又、鉛ヲ沸カシテ、薄片トシテ蒸セバ、白霜、上リテ甑ニ充ツルヲ、再ビ、水飛シテ、乾カシテ用ヰルモノアリ、又、てんくゎふん(天花粉)ニテ製スルモアリ、今ハ、無鉛ト稱スルモノ出來タリ。(二)次次條ノ語ノ略。

おしろいした (名) [白粉下] 白粉ヲ施クル前ニ塗ル、液體ノモノ。(くりいむモアリ)拭ヒ去リテ、白粉ヲ用ヰル、善ク肌ニノル。廣益國產考、四、王瓜「若キ婦人ハ、白粉下ニ塗リテ、其上ニ白粉ヲ塗ルニ、キメヲ細カニシ、艶ヲ出ス」

おしろいばな (名) [白粉花] 〔實、圓クシテ、其中ニ白キ粉アリ〕 草ノ名。莖圓ク、高サ二三尺、枝、四方ニ繁ク、節、高ク、紅ニシテ、秋海棠ノ莖ノ如シ、枝、葉、兩兩相對ス、葉圓ク深綠ナリ、秋、枝ノ梢每ニ、花、簇リ生ズ、牽牛ノ花ニ似テ、五尖ナリ、花心ヨリ長キ鬚出ヅ、紅、黃、白等、種種ナリ、金化粧、銀化粧等ノ名アリ。紫茉莉

おしろいやけ (名) [白粉燒] 鉛製ノ白粉ニ毒セラレテ、顏ニ汚點ヲ生ジタルモノ。トノコジミ。

✣**おしろこ** (名) [御汁粉] 〔しろこハ、しるこノ訛〕 汁粉ノ、小兒婦人語。(東京)

おしわ・く ・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ (他動、下二) [押分] 左右ニ分ケテ、押シ遣ル。排 神代紀、下五「排二分天八重雲一」萬葉集、十七、四十長歌「白雲ノ、千重ヲ於之和氣、天ソソリ、高キ立山」源、三十一、槇柱四十一「人人ノ中ヲおし分けテ、出デヰ給フ」

おしわぐ・む ・ム・メ・マ・ミ・メ (他動、四) [押綰] 〔搔いわぐむト云フ語モアリ〕 押シ卷ク。宇津保物語、藏開、下五十一「此女、例ナラヌ氣色ヲ見テ、イト心憂シト思ヒテ、前ナル硯ニ、手習ヲシテ、云云ト書キテ、おしわぐみテオイタルヲ」

おしわた・す ・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) [押渡] おしなぶ(押靡)ノ(三)ノ條ヲ見ヨ。ヒキクルム。トリマトム。

おしゑ (名) [押繪] 〔壓すノ(四)ヲ見ヨ〕 (一)紙ニ押シ摺リタル板行繪。好色一代男(天和、西鶴)三、寺泊「屏風引廻ハシテアリケル、おしゑヲ見レバ、花扇ゲテ、吉野參リノ人形、板木おしノ弘法大師、鼠ノヨメイリ、云云、是レ皆、大津ノ追分ニテ書キシ物ゾカシ」 (二)人物、草木、禽獸ナドノ貌ヲ、厚紙ニテ剪リヌキ作リ、錦、帛ニテ包ミ、糊ニテ物ニ押シ貼リテ、繪トセルモノ。

おしをけ (名) [押推] えなをけ(胞桶)ニ同ジ。鎌倉年中行事「典藥頭、胎ヲ申シイダシ、政所ヨリ參リ、推桶ニ入レテ、云云」

おす ・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) [押推] (一)〔力ヲ用ヰテ、彼方へ遣ル。天治字鏡、十五「押、於須」 (二)〔艪ヲツカヒテ、舟ヲ遣ル。源、廿二、玉葛十四「例ノ舟子ドモ、からどまりヨリ、川尻おすホドハ、ト謠フ聲ノ、云云」 (三)軍陣ノ語。軍勢ヲ進ム。進軍 甲陽軍鑑、十一、上、品第三十五「其後ニツキ、山縣(昌景)押へ候へバ、山縣ニツキ、七頭モ岨傳ヒニおす」(武者押、押前、押太鼓ナド云フ語モ、是レナリ)「押し寄ス」押シテ行ク」 (四)紙ヲ、糊ニテ押シ貼ル。禁腋祕抄、殿上ノ御簡ニ「名ノ下ニ紙ヲ おしテ、上日ヲツク」(押紙ト云フモ、是レナリ) (五)上へ推ス。イタダク。仰グ。推擧 「推しテ大將トス」 (六)準フ。オシナブ。「其外ハ推しテ知ルベシ」己ガ心ヲ推シテ、人ニ及ボス」 (七)漢詩ノ每句、又ハ、隔句ノ末ニ、同ジ韻ノ字ヲ用ヰル。(韻ノ條ヲ見ヨ) 押韻 (八)究メ考フ。推究 「理ヲ推す」 (九)強フ。無理ニナス。強 新六帖、五「イタヅラニ、マダ手モ觸レヌ、ソリマ弓、人ハおしタル、ハリ事ナセソ」「押し入ル」押し賣リ」 (十)敢ヘテ爲ス。強忍 冒 「病ヲ押す」風波ヲ押す」

おす ・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) [壓] 〔下へ押す義〕 (一)〔重ミニテ、下ニ抑フ。神武卽位前紀、二十「壓音、厭翳」天治字鏡、八七「壓、於須」 (二)切ル。(壓し切る意カ、忌詞カ) 舊、今昔物語、廿八、廿三語「鮨鮎ノ、大キニ、廣ラカナルヲ、尾頭バカリヲ押シテ、三十バカリ盛リタリ」(押鮎ト云フ、是レナリ) (三)印ニ、朱、墨ヲツケテ、其象ヲ紙ニツク。古ヘハ朱墨ヲ塗リキ、後ニハ印肉ヲ用ヰル。捺印 (四)模木、版木ニテ摺ル。榮花物語、三十六、根合「打チタル袴ナド、例ノコトナリ、瑠璃ヲ紋ニおしナド、イミジウ盡サレタリ」好色一代男(天和、西鶴)三、寺泊「屏風引廻ハシテアリケルおし繪ヲ見レバ、云云、板木おし(名詞)ノ弘法大師、鼠ノ嫁入」 (五)勢ヒニテ負カス。オシケツ。壓倒 夫木抄、六「深綠、端山ノ色ヲ、おすマデニ、藤ノムラゴハ、咲キミチニケリ」 (六)虐グ。壓制

おすぎおたま (名) [於杉於玉] 伊勢ノ山田ノ閒山ニテ、三味線、胡弓ヲ彈キ、唄ヲ謠ヒテ、神宮參詣人ニ錢ヲ乞フ少女ノ稱。風流旅日記(貞享)「閒ノ山、お杉お玉ガ庭前ニ、紅ノ綱ヲ張リ、三味線引キ、小歌、云云、參宮ノ者、錢ヲ打ツニ、顏ニアタラズ」(三味線ノ棹ニテ受ケ止ムルナリ、嬉遊笑覽、七)

おず・し ・キ・ケレ・ク・ク (形、二) [強悍] 〔押すヲ活用セサセタル語ナルカ、(齋く、いつくし)恐シク思フニ因リテ濁ル、(淡む、あばむ)押ノ強キ意ナラム、おぞしト云フハ、音轉ナリ、(數ふ、かずふ)後ノ、えずいト云フ語モ、此轉ナルベシ〕 強情ニテ、勝氣ナリ。(多ク、女ニ云フ)又、おぞし。オズマシ。オゾマシ。古語拾遺「天鈿女命、古語、天乃於須女、其神強悍猛固、故以爲ㇾ名、今俗、強女、謂ㇾ之於須志、此緣也」神代紀、下十「天鈿女「目勝二於人一神也」古事記、下(仁德)十「因二大后之強一」源、五十、浮舟六十四「世ノアリサマヲモ知ルカタ少クテ、生シタテタル人ニシアレバ、少シおずかルベキコトヲ、思ヒ寄ルナリケムカシ」(川ニ身ヲ投ゲムトスルナリ)孟津抄「おずハ、おぞひト云フ心ナリ、アラアラシク、オソロシキ事フ、思ヒタチタマフ

トナリ」同、四十九、東屋「[illegible]物ノツミセズ、取リカニ、おぞき人ニ[illegible]」宇津保、[illegible]、上 卅八「内ノ后、イトおそく、心カシコクオハシタマフ」

おすひ (名) 襲 〔おそひト通ズ、(ますかがみ、まそかがみ。いますかり、いまそかり)押覆ふ意ト云フ、朝鮮語ニ、衣ヲ、おすト云フトゾ〕 服ノ名。上代ニハ、男女用ヰタリ、頭ヨリ被リテ、衣裳ノ上ヲ覆フモノト云フ、面ヲ掩ヒテ隱ブニ用ヰタルモノカ。古事記、上、長歌「太刀ガ緒モ、未ダ解カズテ、襲ヲモ、未ダ解カネバ」(八千矛ノ神ノ、沼河姫ノ家ニ夜行ノ時ナリ) 同、中(景行)「美夜受比賣ノ長ニ意須比ノ襴」同、下(仁徳)「速總別、下ノ宮[illegible]御意須比」 後ニハ、婦人專用ノモノトナル、白絹ニテ製シ、全身ヲ包ム、後世ノ被衣ハ、此遺ナルベシ。萬葉集、三、長歌「[illegible]手弱女ノ、押日取リ懸ケ」外宮儀式帳「神主同版女、云云、天押日蒙リテ」太神宮式、御裝束「帛意須比、八條、長一丈五尺、廣二幅」

おすべ-どり (名) 護田鳥 おすめどりヲ見ヨ。

おすべり (名) 御辷 (一)貴人ノ供膳ノ殘物。オサガリ。オシタ。(二)蒲團ノ異名。貞丈雜記、三、小袖「今ノ世、夜具ノ内ニ、蒲團ト云フ物アリ、云云、蒲團ト云フハ、[illegible]ノ事也、ねざねノ事ヲ、ふとんト云フハ、アヤマリ也、夜ノねどねヲバ、公家ニテハ、よるのおましトモ、御すべりトモ被レ申由也」

おず-ま・し・シキ・シケレ・シク・シク (形、二) 強悍 〔強悍しノ一轉、(奇し、くすはし、同趣)おぞましハ、音轉ナリ、おずしノ語原ヲ見ヨ〕 おずし、おぞしニ同ジ。オソロシ。又、おぞまし。源、三十八、夕霧五十「人聞キモウタテ、おずましかるべキワザヲトオボセバ、[illegible]、帚木[illegible]何ノ腹ダチ[illegible]ニ、カクおぞましくバ、イミジキ契リ深クトモ、絶エテヌ見ジ」

[illegible]鏡、第十九、久米のさら山「イヅクニモ、守護ト云フ[illegible]ノ、[illegible]代ヨリおぞましき[illegible]スエタレバ」

おすまひ (名) 御住 (一)住ひノ敬語。(二)御守殿ノ條ヲ見ヨ。

おずめ-どり (名) 護田鳥 〔[illegible]女ニ[illegible]リテ、強悍き鳥、(おずしノ條ヲ見ヨ)人ヲ見テモ去ラザレバ名トスルナリト云フ(箋注倭名抄、七)〕 鳥ノ名。轉ジテ、うずめどり。うずべ。みぞごゐノ古名。字鏡[illegible]「護田鳥、於須女鳥」倭名抄、十八[illegible]「[illegible]護田鳥也、[illegible]中ニ見、人[illegible]、共有[illegible]主守官、故以名之、[illegible]」 扶桑略記、廿四、延長六年六月廿八日「[illegible]女鳥、[illegible]南殿[illegible]位南二」 字類抄「護田鳥、ウズメ」[illegible]林[illegible]「護田鳥、ウズベ」

おすもじ (名) 御酢文字 鮨ノ、婦人語。

おすや (名) 御須屋 「素屋、倒チ、上屋ニテ、假屋根ノ意」 御陵墳築造ノ時、工事ノタメニ、假ニ設クル上屋。

おすわり (名) 御坐 (一)坐るコトヲ、丁寧ニ云フ語。小兒、婦人ノ詞。(二)坐餅ノ、婦人語。オソナヘ。

おする (名) 御末 (一)禁中ニテ、下司ノ女房ノ居ル所。海人藻芥、下「内裏ニ御すゑト云フ所アリ、常ノ人ノ所ナラバ、仲居ナドノ邊ニヤ、云云、近頃ハ其外ニモ、御すゑト申ストカヤ」室町將軍ニモ稱シキ。義輝將軍御成記、永祿四年三月「木下古御殿、御末マデ御座敷構、北ニ平張打チ[illegible]御末[illegible]」 (二)江戸城中ノ大奥、諸大名ノ奥向ナドニ、婢女ノ居ル所。又、其婢女ノ稱。[illegible]良[illegible]、世[illegible]、御末、諸向町人ノ奥モ、[illegible]ニテスム」

おせうし (名) 御笑止 (一)御氣ノ毒。(靜岡) (二)御恥シキコト。(仙臺)

おせおせ (名) 押押 末ヨリ中、中ヨリ前ヘト、順次ニ押シ進ムコト。

おせぐく (副) 〔大背屈ノ轉カ〕 セタケ大ニシテ、背マガリテ。宇治拾遺、[illegible]

おせぐむ・ム・メ・マ・ミ・メ (自動、四) 〔大背屈むノ略カ〕 セタケ大ニシテ、稍屈ム。宇治拾遺、九、[illegible]「丈高くおせぐみたる者、[illegible]ニテ、年五十バカリナル、太刀佩キ、[illegible]」

おせじ (名) 御世辭 阿ニ褒ムルコト。追從。諛言

おせち (名) 御節 〔御節供ノ下略、(古クモ、せちト云ヒキ)婦人ノ語〕 正月、五節句等ノ節日ニ、特ニ調ズル食物。但シ多クハ、正月初ナルニ云フ、[illegible]でかちぐり、こぶまき、てりおまめ、及、牛蒡、蓮根、芋、にんじん、くわゐナド、甘ク煮タルモノナリ。[illegible](永[illegible])「おせちトバカリ、スルハ春ナリ」(せちぶるまひノ條ヲ併セ見ヨ)

おせっかい (名) 御節介 〔ちょっかいノ語原ヲ見ヨ〕 要ラヌ口出ヲ云フ俗語。干涉

おせん (名) 御煎 煎餅ノ、小兒、婦人語。

おぜん (名) 御膳 〔御膳ト異ナリ〕 膳、卽チ、食饌ヲ、丁寧ニ云フ語。

おせ・る・ル・レ・ラ・リ・レ (他動、四) 望 フリサケ見ル。望ム。ホセル。[illegible]前紀「天[illegible]」[illegible]四十年十月、日本武尊[illegible]

[illegible]、[illegible]」

おそ (名) 遲 〔遲しノ語根、其條ノ(三)ヲ見ヨ〕 愚鈍ナルコト。萬葉集、二[illegible]「遊士ト、吾レハ聞ケルヲ、宿貸サズ、吾レヲ還セリ、おそノ[illegible]」[illegible]

おそうぶつ (名) 御總物 奴婢ニ與フル、時節ノ仕着。(京阪)

おそかれ-はやかれ (副) 〔遲くあれ、早くあれ(命令形)ノ約ニテ、其成行ニ任ス意〕 何時カ、終ニハ。早晩

おそくづ (名) 〔假息圖ノ約ニテ、(垣下、えが。緣起、えぎ)闇中ノ圖ヲ云ヘルナルベシト云フ、假ノ字、呉音、おんナリ〕 春畫ノ事ナルベシト云フ。著聞集、十一、[illegible]ノ寸法ハ、分ニ過ギテ、大キニ書キテ候」(陽物ヲ云フナト云フ)

おぞけ (名) 怖氣 〔ぞノ濁音ハ、恐氣ノ[illegible]〕 顚倒 恐怖ニ感ズルコト。怖ノ氣ハヒ。オヂケ。「おぞけヲフルフ」ト用ヰル、戰慄くナリ。戰慄

おぞけ-だ・つ・ツ・テ・タ・チ・テ (自動、四) 怖氣立 怖氣起ル。オヂケダツ。ワナナク。毛孔イヨダツ。戰慄

おそざき (名) 遲咲 花ノ、時候ニ後レテ咲クモノ。「早咲ニ對ス」 晩花

おそざくら (名) 遲櫻 遲咲ノ櫻、時候ニ後レテ咲ク櫻。[illegible]「シタサユル、ヒムロノ山ノ、おそ櫻、消エノコリケル、雪カトゾ見ル」

おそ・し・キ・ケレ・ク・ク (形、一) 遲 (一)早し

ノ反。速ナラズ。ノロシ。字鏡七十九「遲、於曾志」倭名抄、十一五「駑馬、於曾岐馬」(二)後ル。晩。後撰集、八、冬「親ノ、外ニマカリテ、おそく歸リケレバ、ツカハシケル歌」(歸ルコトノ遲きナリ) 宇津保物語、嵯峨院九十「年イトおそき年ニテ、三月上ノ十日バカリ、花盛リナリ」(時候ノ至ルコトノ遲きナリ) (三)心クバリ、遲シ。心、利カラズ。鈍シ。【遲鈍】 萬葉集、十二三「山城ノ、石田ノ森ニ、心鈍く、手向シタレヤ、妹ニ逢ヒガタキ」源、十五、蓬生六「サヤウノ事ニモ、心おそくモノシタマフ」同、四十四、橋姫二廿「艶バシク匂フ風ノ吹キツルヲ、思ヒカケヌホドナレバ、驚カザリケル心おそサヨ」

おぞ・し・キ・ケレ・ク・ク(形、二) 【强悍】 おずしヲ見ヨ。

おぞ・し・キ・ケレ・ク・ク(形、二) 【鈍】 〔前前條ノ語ノおそし(遲)ノ轉〕 ノロシ。オゾマシ。前前條ノ(三)ヲ見ヨ。

おそ-なは・る・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) 【遲】 〔なはるハ、延ビユク意ト思ハル、疊なはる、糾なはるナドモアリ〕 遲クナル。後ル。延引ス。宇津保物語、俊蔭三「朝ニ見テ、夕ノおそなはるホドダニ、紅ノ涙ヲ落スニ、云云」曾我物語、八、同じく別當に逢ふ事「謝罪ヲモ申スベキニテ候ヒシヲ、云云、今ニおそなはり候」

おそなへ (名) 【御供】 供餅ノ、婦人ノ語。オスワリ。

おそば (名) 【齵齒】 〔齵齒ノ義、誓言、ちかおと〕 又、おしば。やへば(齒)ノ古言。倭名抄、三十「齵齒、於曾波、齒重生也」名義抄「齵、斷、オソバ」

おそば (名) 【御側】 (一)貴人ノ側ノ敬稱。(二)貴人ノ御側ニ仕フル役目ノ泛稱。近侍。 勝有院殿御實紀、十「明曆元年九月十七日、御側、中根壹岐守正盛、云云」「御側衆」

おそば-ごよう-とりつぎ (名) 【御側御用取次】 徳川幕府ノ職。將軍ト老中トノ間ノ文書ノ取次ヲ掌ル、機密ニ參スルニ因リテ、權勢アリキ。明良帶錄、餘篇「御側御用御取次、君邊第一ノ重任ナリ、云云」

おそば-さらず (名) 【御側不去】 貴人ノ寵愛ノ臣、妾、ヲ稱スル語。御前さらずニ同ジ、其條ヲ見ヨ。文武二道萬石通(天明、朋誠堂喜三二)序「おそばさらずノ重忠ガ、云云」(源頼朝ノ臣、畠山重忠)

お-そば・ふ (動) 【戲狎】 〔いそばふノ轉〕 いそばふ、そばふニ同ジ。そばふノ條ヲ見ヨ。落窪物語、二「おそばへテ、アレ押シコボチテント、腹立チノシレバ」

おそは・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ(自動、下二) 【魘】 〔襲ふノ受身ナレド、一熟語トナリテ、異義ヲ生ズ〕 夢中ニ、鬼ニ襲ハル。オビユ。字鏡五七十「魘、於曾波留」說文「魘、夢驚也」 竹取物語「內外ナル人ノ心ドモ、物ニおそはるるヤウニテ」源、四、夕顏十三「イトアヤシウ、物ニおそはれタル人ノ、ナヤマシゲナルヲ」類篇「魘、眠不祥也」

おそひ (名) 【襲】 (一)〔覆ヒカブスルモノ。オホヒ。枕草子、八、七十二段、いやしげなるもの「筵バリノ車ノおそひ」 (二)〔表衣。宇津保物語、初秋四六十「御おそひハ、イヅレヲカ奉ラム」 (三)屋根ノ板ノ上ノ抑。盛衰記、三十四、法住寺城郭合戰事「七條大路ノ北南ノ家家ノ上ニ、楯突キ、櫓搔キテ、云云、散散ニ射、弓矢ナキ者ハ、襲ノ石木ヲ以テ打チケレバ」 (四)屛風ノ襲木ノ略。次次條ヲ見ヨ。

おそ-ひ (名) 【遲日】 〔遲日ノ訓讀〕 春ノ日。永日。(連歌ニ用キル語)

おそひ-ぎ (名) 【襲木】 屛風ノ緣トスル木。略シテ、おそひ。類聚雜要抄、四「五尺屛風十二帖、云云、襲木廿四筋」 榮花物語、廿七、衣珠「屛風、云云、おそひニハ、皆、蒔繪シタリ」

おそ・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ(他動、四) 【壓】 〔壓すノ延、かへす、かへさふ。(復)います、いまさふ(座)〕 壓すニ同ジ。神武紀七「兄猾(人名)乃自踏レ機而壓死」 靈異記、上、第九緣「罵壓而打」訓釋「壓、於曾比」 土佐日記、正月十七日「棹ハ穿ツ、波ノ上ノ月ヲ、船ハおそふ、海ノ中ノ空ヲ」(賈島ノ詩「棹穿波底月、舡壓水中天」ヲ訓讀シタルナリ) 名義抄「壓、オソフ」

おそ・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ(他動、四) 【襲】 〔押覆ふノ約ナルベシ〕 (一)〔衣ノ上ニ、重ネテ着ル。(衣ニ、襲ト云フアリ) 名義抄「襲、オソフ」玉篇「襲、重レ衣也」 (二)〔不意ニ、敵ニ攻メカカル。襲擊 神功紀、四十九年三月「以二荒田別鹿我別一爲二將軍一云云、將レ襲二新羅一」(漢字ノ襲ノ、訓讀語ニハアラヌカ、左傳、莊公二十九年「凡師有二鐘鼓一曰レ伐、無曰レ侵、輕曰レ襲」) (三)おそはる(魘)ノ條ヲ見ヨ。(四)官祿、家督ナドヲ繼グ。(漢籍ニテ、襲ぐト訓ムベキ、誤ナリ、字典「襲、受也」 左傳、昭公二十八年「故襲二天祿一、子孫賴レ之」)

おそぶら・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ(他動、四) 【押】 〔次條ノ語ノ延、わたる、わたらふ。(渡)かたる、かたらふ(語)〕 押シユルガス。オソブル。古事記、上三十八長歌「少女ノ、鳴スヤ板戶ヲ、淤曾夫良比、我ガ立タセレバ」

おそぶ・る・ル・レ・ラ・リ・レ(他動、四) 【押】 〔押觸るノ轉ニモアルカ、ゆすぶるト云フ語モアリ〕 押シユルガス。オソブラフ。萬葉集、十四廿「誰レゾコノ、屋ノ戶於曾夫流、新嘗ニ、我ガ夫ヲヤリテ、齋フコノ戶ヲ」

おそへ (名) 【御副】 おかず(御數)ニ同ジ。

おそ-まき (名) 【遲蒔】 (一)時候ニ後レテ、種ヲ蒔クコト。ノチマキ。晩種 「遲蒔ノタウガラシ」 (二)轉ジテ、俗ニ、期ニ後レテ、事ヲ爲スコト。「今ニナ、テ悔ンデモ、おそまきダ」

おぞ-ま・し (形) 【强悍】 おずましヲ見ヨ。

おぞ-ま・し・シキ・シケレ・シク・シク(形、二) 【鈍】 おぞし(鈍)ニ同ジ。

オゾン (名) 【阿巽】 〔英語、Ozone.〕 酸素ノ變態、酸素三原子ヨリ成ル、電氣放電ノ際、最モヨク發生ス。一種ノ惡臭アリ、酸化力、通常ノ酸素ヨリ甚シク强シ、普通、空氣中ニ存スルモノハ、無色ノ氣體ナレドモ、純粹ノモノハ青色ニシテ、十分ニ冷却スレバ、濃青色ノ液體おぞんトナル。

おそ-よか-に (副) 【嬋媛】 〔おそハ、徐ノ意カ、よかハ、やかニ同ジ、(森森、いよよか)靜やかナド、同趣〕 タヲヤカニ、ウルハシク。字鏡五八十「嬋媛、美麗貌、宇留和志、又、於曾與加爾」 名義抄「嬋媛、オソヨカニ、タヲヤカナリ」

おそらく-は (句) 【恐】 〔おそらくハ、恐るノ延、いはく(曰)ノ條ヲ見ヨ、推量ノ決定ヲ恐るる意ニテ、疑ふらくナドト同ジク、おほかたノ義トモナルナリ〕 恐レツツ考フルコト、ニ、えノ助辭ヲ添ヘテ云フ語。オホカタハ。大抵ハ。多分ハ。(下ニ、推量ノ語ヲ承ク) 欽明紀、五年三月「新羅、云云、陰構二奸心一乃恐任那由レ玆永滅」(滅ビムコトヲ推シハカリテ恐ルルナリ) 「恐らくた是レナラム」

おそり (名) 【恐】 恐ルルコト。(四段活用)おそれニ同ジ。土佐日記、正月廿三日「此邊、海賊ノおそりアリト云へバ、神佛ヲ祈ル」

おそ・る・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) 【恐畏懼】

次條ノ語ニ同ジ。字鏡五十「畏懼、於曾留、於豆」天治字鏡、十二[illegible]、[illegible]十二年十月[illegible]「[illegible]」[illegible]二年二月[illegible]年二月、[illegible]大[illegible]、云云、受ケタマハリ、[illegible]ス」

〜**おそ・る**・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ（自動、下二）恐 畏懼 前條ノ語ニ同ジ。[illegible]ツベカラズト見テ、心摧ケナヤム。オヅ。カシコム。オム。ヒルム。オビユ。コハガル。大和物語、下「イカニ[illegible]シタルニカアラムト、[illegible]キおそれテ」著聞集、十七、變化「鬼神ニコソト、おそれ思ヒテ」

おそれ（名）恐（一）オソルルコト。恐怖。著聞集、十七、怪異「怪異ノおそれ、古今愼ミトス」「恐れヲナス」「恐れヲ懷ク」（二）ウレヘ。キヅカヒ。心配。虞「火災ノ虞アリ」

おそれ・い・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）恐入（一）甚シク恐ル。畏怖 著聞集、十七、變化「此山伏ヲ見テ、此法師、恐レヲノノキタルケシキニテ、云云、三人ノ山伏、云云、〔庭〕ミテ立テリ、此法師イヨイヨ恐入リタリ」（二）恐レ多ク思フ。勿體ナク感ズ。恐縮ス。「恐れ入リタル御[illegible]」（三）自ラ誤レルヲ知リテ、畏シト詫ブ。恐謝 沙石集、三、上、第一條「之〔湛〕モ申入レ候等、恐れ入タル由、御披露候ヘトテ、我ト問注ニ負ケテ」

おそれ・おほ・し・キ・ケレ・ク・ク（形、二）恐多 イトモ畏シ。甚ダ勿體ナシ。恐惶

おそれ・ながら（副）乍恐 畏シト思ヘド。勿體ナケレド。不顧恐懼 吾妻鏡、十一、建久二年八月七日「乍恐[illegible]」宇治拾遺、六、第一條「おそれながらコレヲ乘リニ、又乘リテ候ナリ」

⁂**おそ・れる**（動）恐 おそる（下二段）ノ口語。

おそろ・し・シキ・シケレ・シク・シク（形、二）恐 [illegible]トシャル語、いと[illegible]る、いきどほろし」（一）恐ルベクアリ。コハシ。オソナイ。可恐 [illegible]、[illegible]オソロシ」（二）[illegible]ニ、甚シ。エラシ。大層ナリ。太「おそろしい人出」

おたあ・さま（名）御母樣 御父樣ノ條ヲ見ヨ。

〜**おだい**（名）御臺〔古ク、御臺ト云ヒシニ同ジ、御臺盤ノ略、飯ヲ、御膳ト云フ、同意ナリ〕飯ノ、女房詞。飯ノ、婦人詞。ゴゼン。ゴハン。源、三十七、夕霧五十「大殿油ナド、急ギマヰラセテ、御だいナド、コナタニテ參ラセタマフ」大上臈御名の事（足利義政時代）女房詞「飯、御だい」合類節用集（元祿）六、服食門「御臺、[illegible]」大和本草（元祿）四、[illegible]、[illegible]「[illegible]俗、飯ヲ御臺ト云フ」

おだい・かひ（名）御臺匙〔おだいハ、飯ノコト、前條ヲ見ヨ〕飯匙ノ、婦人語。メシジャクシ。シャモジ。飯匕 俳諧五節句（貞享）「[illegible]ノ[illegible]、云云、[illegible]ノ內ニ、[illegible]ノ[illegible]、[illegible]モ八ル、[illegible]ト云フモ[illegible]」（[illegible]、上）

おだいくゎん（名）御代官（一）鎌倉、室町時代、將軍ニ代リテ事ヲ執ル人。（二）江戶時代、幕府ノ直轄地（天領ト稱スル地）ヲ支配スル人。

おたいこ・むすび（名）御太鼓結〔圓クシテ、稍、中高トナル、締太鼓ノ皮ノ面ノ如クナレバ云フナルベシ〕身分アル婦人ノ、儀式ノ時ノ、帶ノ結ビ方。幅廣キ帶ヲ、背ニテ結ビ、末ヲ幅ホドノ高サニアラハシ、かけヲ結ビ込ム。

おだいば（名）御臺場（一）臺場ノ敬稱。

[illegible]、[illegible]川[illegible]ノ[illegible]、東京灣ノ品川沖ノ臺場ヲ云フ。（二）一朱銀ノ異名。其條ヲ見ヨ。

おだい・ばん（名）御臺盤 おだい（御臺）ノ語原ヲ見ヨ。

おだい・びつ（名）御臺櫃〔おだいハ、飯ノコト〕飯櫃ノ、婦人語。オハチ。飯桶 大坂[illegible]集（[illegible]）[illegible]ワタセバ、[illegible]、おだい[illegible]（[illegible]、二）

おだいり・さま（名）御內裏樣 內裏雛ノ、女兒ノ語。

おたがしゃくし（名）御多賀杓子 近江國、犬上郡、多賀神社ヨリ、守トシテ出セル杓子。其柄、甚シク曲レリ、（名言通考、寶曆ノ頃マデアリシト云フ、古製ノ杓子ハ、スベテ曲レリ、（杓子定木、蝌蚪ト云フ語モ、此レニ因ル）此神社ノ杓子、其形ヲ存シタルナレバ、特ニ名トセシナルベシ。尤の草紙（寬永）曲れる物「大工ノ曲尺、云云、[illegible]、おたが[illegible]、下[illegible]、[illegible]曆」「ユガミナリニモ、壽命長カレ」手ヅヨサハ、お多賀杓子ノ、荒ケヅリ」

おたから（名）御寶（一）財寶、金錢ヲ、丁寧ニ云フ語。（二）寶船ヲ賣リアルク聲。其條ヲ見ヨ。

〜**おだ・し**・シキ・シケレ・シク・シク（形、二）穩〔おだひしノ約〕オダヤカナリ。オダヒシ。源、十九、薄雲[illegible]「心苦シウオボエワタリハベリシモ、おだしう思ヒナリニテ侍リ」平家物語、[illegible]「二人ノオハシケ、ヤウヤウニ宥メ宥ヒツレバコソ、世ハ今日マデモ、おだしかりツレ」（平重盛ノ、父清盛ノ[illegible]フ[illegible]メシヲ云フ）

おたた・さま（名）御母樣 御父樣ノ條ヲ見ヨ。

おたち（名）御立 [illegible]ツコトノ敬稱。

おたづね・もの（名）御尋者 官ニテ、求メ[illegible]人。[illegible]（[illegible]）[illegible]下ノ尺者人ノ、お尋ねもの」

おだて（名）[illegible] [illegible]コト。ソソノカスコト。[illegible]

おだ・てる・テル・テレ・テ・テ・テヨ（他動、下一）[illegible]〔押し[illegible]てるノ[illegible]ナラム、押し立ふる、おさへる、（抑）靜閑ニテ、煽るヲ、たてるト云フ〕惡意ニテ、人ヲ誘ヒ煽ル。ソソノカス。ソヤス。ケシカケル。シャクル。ヤク。教唆ス。（自動ニテハ、自動、四段活用ニ、おだつト云フ語ヲツカフ）

おたね・にんじん（名）御種人參 人參ノ條ヲ見ヨ。

おたのみ（名）御田實 たのみノ條ヲ見ヨ。

おタバコぼん（名）御烟草盆〔手提ノ烟草盆ノ、提梁ニ似タリ〕少女ノ結髮ノ名。髮ヲ左右ニ分ケテ結ヒ、其[illegible]、頂ニ横ニ、鉉ノ如キモノヲ作ル。（東京）

おたび（名）御旅 御旅所ノ略。

〜**おだひ・かみ**（副）穩〔おだひみニ同ジ、のどみ、のどかみ。さやみ、さやかみ〕オダヤカニ。おだひみ。[illegible]カニ、ミヤビカニ 字[illegible]、[illegible]、オダヒカナリ」

〜**おだひ・し**・シキ・シケレ・シク・シク（形、二）穩〔おだひみノ條ノ、おだひ（穩）ヲ形容詞ニ形作レルナルベシ、哀しき、痴しき〕オダヤカナリ。[illegible]

年二月、詔「仁孝モ兼厚クシテ、韻シク於太比之久アリ」

おたび-しょ (名) [御旅所] オタビドコロ。略シテ、おたび。神社ノ祭禮ノ時、神輿渡御アリテ、暫シ駐マル假宮。御假宮。行廟　謡曲、女郎花「神ノ御幸ナル、御旅どころヲ伏シ拜ミ」　桂川地藏記(弘治)「西七條松尾御旅所」四條祇園ノ御旅」

おたび-どころ (名) [御旅所] 前條ヲ見ヨ。

〜おだひ-に (副) [穩] 〔太平ノ約略ニモアラムカ、下ノ陰陽寮式ノ出典ヲ見ヨ、おほくび、おくび。(枉)あからしま風、あかしま風〕オダヤカニ。オダヒカニ。續紀、廿五、天平寶字八年十月、詔「心モ安ク、於多比仁在」　陰陽寮式「平ケク、於太比爾座サフベシ」

おた-ふく (名) [於多福] 〔おたハ、乙御前ノ、おとノ轉、(水蠟樹、いぼた)ふくハ、頰ノ脹レタルヨリ云フナルベシ〕乙御前。婦人ノ顔ノ、圓クシテ、頰、兩頰、額、脹ラカニ、鼻、低キヲ云フ語。醜ナリトスレド、亦、福相ナリトス。略シテ、おふく。又、オカメ。

おたふく-あめ (名) [於多福飴] 固飴ノ内部ニ、於多福ノ面形ヲ作リコメテ、細長ク製シタルモノ。幾片ニ輪切ニシテモ、同ジ面形アラハル。小兒ノ玩ナリ。

おたふく-かぜ (名) [於多福風] 〔耳下腺、顎下腺、腫レテ、於多福ノ顔ノ如クナル意〕流行感冒ノ一種。耳下腺ニ熱ヲ發シ、喉、耳、齒、痛ミテ、半日カ一日ノ後、耳ノ下、頤ノ邊、腫レ脹ル、熱、一週間モ續ク、甚シキハ、耳下腺ノ腫レタルニ、膿ヲ持ツコトアリ、唾液ニ因リテ傳染ス。古ヘニ、福來病ト云ヒシモノ、是レカ。おふくかぜ。ハサミバコ。流行性耳下腺炎。蝦蟇腫

おたふく-だいこん (名) [於多福大根] 〔圓キヨリ、於多福ト云フ〕大根ノ一種。太ク圓クシテ、蕪ノ如キモノ。

おたふく-まめ (名) [於多福豆] 〔實ノ面ニ凹凸アリテ、於多福ニ似タリ〕そらまめノ實ノ、大キナルモノ。多クハ、砂糖醬油ニテ煮タルモノニ云フ。

⁂お-ダブツ (名) [御陀佛] 〔死者ニナル意〕死ヌルコトノ口語。死

お-たぶん (名) [御多分] 衆議ニ、贊成ノ多キ方ニ贊成スルコト。オザナリ。「御多分ニ漏レズ」ナド云フ。

お-たま (名) [於玉] 鷄卵。婦人語。

おたま-じゃくし (名) [於玉杓子] 〔おたがじゃくしノ轉ト云フ、(なかなか、なまなか)其條ヲ見ヨ、蝌蚪、頭圓ク、體、尾、長ク屈曲シテ、形、似タレバ名トス〕(一)蝌蚪ノ異名。重修本草綱目啓蒙、二十八、下、濕生蟲「蝦蟇、云云、蝌斗、云云、おたまじゃくし、江戸」(二)杓子ノ、小サキモノ。

おたまり-こぼし (名) 〔起上小法師ノ語路ナルベシ〕堪ラヌコト。怺ヘラレヌコト。(東京)

お-だん (名) [御團] 聖天ノ供物トスル、團喜ノ敬稱。

⁂おたんちん (名) 〔牡丹餅面ノ略訛ニテモアルカ〕女ヲ卑シメテ呼ブ口語。筑前ノ博多ニテモ云フ。

お-ため (名) [御爲] (一)利益ノ、敬語。主人ノ爲ニ利ヲ計ルコト。多クハ、重ク租稅ナド取立ツル苛政ヲ云フ。毛利貞齋ノ大全俚言抄ニ、「褒貶之臣ヲ、俗ニ云フ、御爲者ナリ」トアリ。(おためごかしト云フ語モ、此意ナリ)(二)使ノ者ニ與フル手當。(京都) うつりノ(二)ヲ見ヨ。

おため-ごかし (名) [御爲倒] 〔前條ノ(一)ヲ見ヨ、ごかしハ、倒すノ名詞形、親切ごかし、尤ごかしナドトモ云フ、贔屓の引き倒しナドト同意〕人ノ利益ヲ計ル如ク云ヒテ、實ハ排シテ、己ガ利益ヲ計ルコト。傾城買二筋道(寬政、梅暮里谷峨)「二オ野郎ヲ見ル樣ニ、おためごかしノ意見モ云ハレズ」

おため-しゃ (名) [御爲者] 前前條ノ(一)ヲ見ヨ。

〜おだやか-に (副) [穩] 〔おだひやかにノ約〕オダヒニ。オダヒカニ。安ラカニ、事ナク。平ラカニ、鎭マリテ。推古紀、十六年九月「季秋薄冷、尊候何如、想清念頤會「念、晋豫、喜也」

お-たらひ (名) [御盥] 〔輪ノ、盥ノ形ヲ成スヨリ云フ〕女ノ結髪ノ名。髪ニテ頂ニ平ニ輪ヲ作レルモノ、其上ニ横ニ笄ヲ互シテ、其中央ヲ殘髪ニテ卷キ止ム。(東京)

おち (名) [落] (一)落ツルコト。(二)脫ケ漏レタルコト。脫漏「おちガ無イ」(三)落髪ノ略。(四)落チツクトコロ。最後ニ勝利ナルヲ「おちヲ取ル」ト云フ。(五)おとしばなしノ末ヲ結ブ語。其條ヲ見ヨ。

お-ち (名) [御乳] (一)乳ノ、敬語。「御乳ノ人」(二)御乳の人ノ略。メノト。オンバ。丹波與作(寶永、近松作)上「御乳ノ育テノ難ニナレバ、女デコソアレ、乳母ハ腹ヲ切ラネバナラヌ」

〜お-ぢ (名) [祖父] 祖父ノ約。祖母ヲ、うばト云フ例モアリ。字鏡十「阿父、於地」(或ハ、保ヲ脫セルカ、天治字鏡、二二「阿父、於保地」トアリ、阿父ヲ祖父トス、不審ナリ)

おち-あし (名) [落足] (一)戰ニ負ケテ、落チユクコト。平家物語、九、平家ノ將士ノ敗走スル事ノ題ニ、落足の事トアリ。(二)川水ノ、流レユキテ、減ルコト。平家物語、九、宇治川事「淀、一口ヘヤ向フベキ、又、河内路ヘヤ廻ルベキ、水ノ落足ヲヤ待ツベキ」(川、出水シテ、渡リカヌルニ云フ)

おち-あひ (名) [落合] (一)オチアフコト。二條ノ川ノ、流レテ一ツニ合フ處。合流　新六帖、二「深山川、カナタコナタノ、落合ノ、ミナワ隱レニ、廻ル流レ木」(二)ユキアヒ。出會。會合　新六帖、二「狩リクラス、山ノ牡鹿ノ、おちあひニ、共矢タバサミ、駒ハヤムナリ」

おち-あ・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (自動、四) [落合] (一)互ニ、同ジ處ニ落ツ。(川ナド)(二)同ジ處ニ行キ合フ。出會フ。(人ニ)　保元物語、二、白河殿攻落事「首藤九郎落合テ、深巢ガ首ヲバ取テケリ」

おち-あゆ (名) [落鮎] さびあゆニ同ジ。

おち-いたじき (名) [落板敷] 〔落緣、同意〕落窪ナル板敷。一段低ク張リタル、板ノ間ノ落間。石淸水放生會記「大外記師興起レ座、降二西落板敷一、往二南大床一」

おち-い・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) [落入] (一)落チテ入ル。オチコム。ハマル。約メテ、おちる。陷　名義抄「陷、オチイル」　景行紀、十二年十月「自投二洞谷一而死之」　字鏡集「墮、ヲチル」「水ニ陷る」「謀ニ陷る」(二)城、破ラレ

取ラル。落擴ス。(三)死入ル。絶息ス。

おちう・す・スル・スレ・セ・セ・セヨ（自動、下二）〔落失〕〔落つノ條ノ(十五)ヲ見ヨ〕逃レ隱ル。逃亡　保元物語、二、爲義降參事「郎等共モ落失テ」

おちうど（名）〔落人〕〔おちびとノ音便、たびびと、たびうど。あきひと、あきうど〕おちびとノ條ヲ見ヨ。

おちうを（名）〔落魚〕死ニタル魚。死魚

おちえん（名）〔落緣〕座敷ヨリ、一段低キ緣側。辛苦、高價「ソレヘソレヘト働セケレバ、ウケタマハルト中シテ、おちえんヘツットアガリ」

おちおち（副）〔落落〕オチツキテ。安心シテ。(下ニ反語ヲオク)「おちおち眠ラレズ」「騷ガシクテ、おちおち話モ出來ヌ」

おぢおぢ（副）〔怖怖〕怖ヂナガラ。オヅオヅ。戰戰

おちかみ（名）〔落髮〕〔落つノ條ノ(九)ヲ見ヨ、おてハ、おちト通ズ、長路、ながて。父、てて〕拔ケ脫チタル髮。髮ノおて。おちげ。ヌケゲ。略シテ、おち。(おちゃないノ條ヲ見ヨ)　拾遺集、十一、戀、二「朝ナ朝ナ、梳レバ積ル、落髮ノ、亂レテ物ヲ、思フ頃カナ」宇津保物語、藏開、中「御髮ヲ搔キ撫デテ見タマヘバ、おちげモナク、メデタシ」康頼本草、下、卅三「亂髮、加美乃於天、介留利加美」

おぢき（名）〔御直〕貴人ノ、自ラ物スルコト。御直。曾我會稽山(享保、近松作)一「此ノ度ノ御狩リニモ、假屋奉行、夜廻ハリ、おちきノ御用承リ」「おちきノ御言葉」

おちぐさ（名）〔落草〕〔落つノ條ノ(一)ヲ見ヨ〕鳥ノ飛ビオリテ、隱所トスル草叢。續三百首和歌、秋「落草ノ、マダ霜枯レズ、秋ノ野ニ、鳥トル鷹ノ、マタモトラヌカ」風雅集、八、冬「御狩スル、片山カゲノ、おち草ニ、隱レモアヘズ、[illegible]」

おちくぼ（名）〔落窪〕常ノ床ヨリ、一段低ク窪ミタル處。落間。落窪物語、一、上「寢殿ノ放出ノ、又一間ナル、おちくぼナル所ノ、二間ナルニナム、住マセタマウケル」

おちぐり（名）〔落栗〕栗ノ實ノ、善ク熟シテ、木ヨリ落チタルモノ。夫木抄、廿九「風待チテ、拾フトスレド、袖ノ上ニ、カカル木蔭ノ、露ノ落栗」

おちぐり（名）〔落栗〕次條ノ(一)ヲ見ヨ。

おちぐりいろ（名）〔落栗色〕(一)紅色ノ、濃クシテ、黒ミアルモノト云フ。略シテ、おちぐり。源、廿九、行幸、卅三「おちぐりトカヤ、何トカヤ、昔ノ人ノメデタウシケル、袷ノ袴」(二)襲ノ色目。表ハ黒バミタル蘇芳ニシテ、裏ノ香色ナルモノ。(藻鹽草)又、表ハ濃キ紅ニ、裏ノ香色ナルモノトモ云フ。(薄樣色目)

おちげ（名）〔落毛〕落髮ニ同ジ。其條ヲ見ヨ。

おぢけ（名）〔怖氣〕怖ヅル心。おぞけ。オソレ。ヒルミ。恐悸「おぢけガツク」

おぢ・ける・ケル・ケレ・ケ・ケ・ケヨ（自動、下二）〔怖氣〕前條ノ語ノ怖氣ヲ活用ス、霜氣る、濕氣る、嘲ける、ノ類〕怖ヅ。恐レ、ヒルム。臆ス。畏縮

おちこ（名）〔御兒〕〔兒ノ條ヲ見ヨ〕(一)神社ノ祭禮、佛ノ特殊ノ法會ナドニ、兒髷ニ、美裝シテ、數人參列スル童女。(二)兒髷ノ略。

おちこぼれ（名）〔落零〕稻ノ落穗。カキコボレ。[illegible]れ、浩瀚ノモノ」

おちこ・む・ム・メ・マ・ミ・メ（自動、四）〔落込〕オチイル。ハマル。陷沒「[illegible]おちこむ」

おちしほ（名）〔落潮〕ヒキシホ。謡曲、鳥追舟「引連ルル、淺ノ舟ノ落潮ニ」

おちず（句）〔不落〕落つノ否定、其ノ條ノ(二)ノ出典ヲ見ヨ。

おちたぎ・つ・ツ・テ・タ・チ・テ（自動、四）水ノ、高キ處ヨリ落チテ、タギル。[illegible]「久堅大瑞摘、落多藝都、芳津速川」萬葉集、十七、長歌「[illegible]高ミ、谷ヲ深ミト、於知多藝都、清キ河內ニ」

おちたぎ・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）前條ノ語ニ同ジ。續後拾遺集、十五、雜、上「三吉野ノ、瀧ノ白泡、落ちたぎり、吹ケドモ風ノ、聲モキコエズ」

おちつき（名）〔落着〕(一)オチツクコト。落着。(二)物ヘ行キツキテ、先ヅ供スル飲食ノ稱。(次次條ノ(二)ヲ見ヨ)仁治三年內宮假殿記「奉遷使[illegible]主大中臣[illegible]宮、御[illegible]所[illegible]神主之宿館、長官沙汰、進二落付之飯酒一」玉かつま、八「傾城酒呑童子(享保、近松作)二「嫁入リ、云云、三獻ノ肴ガ入リマスル、おちつきハ御雜煮、餅ハ大方一人前、三升當ニ搗イタレバ」

おちつきはら・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ（自動、四）〔落着拂〕靜ニ落チツク。シヅマリカヘル。泰然トシテ居ル。從容自若

おちつ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ（自動、四）〔落着〕(一)居處ヲ得テ、居着ク。住居、定マル。安堵「其地ニ落着く」(二)旅シテ、目指セル所ニ行キツク。到着ス。(前前條ノ(二)ヲ見ヨ)更級日記「辛ウジテノボリテ、西山ナル所ニおちつきタレバ」濱松中納言物語、二「若君具シ奉リテ、[illegible]ニゾ急ギおちつきニケル」(三)鎭マル。安マル。オチヰル。落着ス。鎭定「心、落着く」「騷動、落着く」(四)言語、動止、輕率ナラズ。沈着「落着いタ人」

おちつ・ける・ケル・ケレ・ケ・ケ・ケヨ（他動、下二）〔落着〕鎭ムル。定ム。安ムズ。[illegible]「[illegible]落ちつけテ考ヘル」

おちつの（名）〔落角〕牡鹿ノ角ノ、年年、夏ニ、自然ニ落チタルモノ。[illegible]「おちつのハ、拾ヒ取ル、若角ハ、ユブユブトアルモノニテ、藥ニス」

おちど（名）〔落度〕越度ノ誤。アヤマチ。百合若大臣野守鏡(寶永、近松作)二「君モ討死マシマシ、國モ[illegible]ニ取ラレ、[illegible]」

おぢな・し・キ・ケレ・ク・ク（形、二）〔怯〕〔怖ぢ甚しノ意〕怖ヅルコト甚シ。甚ダ臆病ナリ。[illegible]、五年、[illegible]「[illegible]」竹取物語「[illegible]おぢなきコトスル舟人ニモアルカナ」

おちのひと（名）〔御乳人〕貴人ノ乳母ノ稱。今鏡、上、第三、すべらぎの下、內宴「[illegible]ノ御トテ、御乳の人ト聞エシ」

おちの・ぶ・ブル・ブレ・ビ・ビ・ビヨ（自動、上二）〔落延〕〔落つノ(十五)ヲ見ヨ〕遠ク逃ゲユク。[illegible]「[illegible]ヲ討ツ時トラバ、何トテ落ち延びザリケルゾ、敵ヲ討ツハ父ガ爲メ」

おちば（名）〔落葉〕散リテ、地ニ落チタル葉。落葉。源、三十四、下、若菜、下「[illegible]落葉ノ何ニ、拾ヒケム、名ハ睦シキ、[illegible]ナレドモ」

おちばいろ（名）〔落葉色〕枯レタル落葉ノ色。褐色ニ、黄赤ノ帶ビタル色。

おちびと（名）〔落人〕〔落つノ(十五)ヲ見ヨ〕戰ニ負ケナドシテ、逃ゲユク人。音便ニ、おちうど。保元物語、二、爲義降參事

「落人ニナリヌレバ、何事モ思フニカナハヌモノナレバ、降參セム」 國性爺後日合戰(享保、近松作)二「ゲニ、おちうどハ薄ノ穗ニモ恐ルルトハ、甘輝ガ身ニゾ知ラレテ候」

おちふだ (名) 落札 入札ノ、當リタルコト。落札。當籤。

〜おちぶ・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ (自動、下二) 零落 〔落ち放浪るノ約、源、四十四、橋姫三十〕「おちあぶれテ流離へムコト」〕 富貴ヨリ、貧賤ニクダル。零落ス。 落魄 名義抄、鬼部「落魄、オチブル」 字類抄「零落、潦倒、オチブル」 源、十五、蓬生七「此姫君ノ母北ノ方ノ同胞、世ニおちぶれテ、受領ノ北ノ方ニナリタマヘルアリケリ」 夫木抄、三十六「アマサカル、鄙ノ長路ニ、日數經テ、おちぶれヌベキ、身ヲイカニセム」

⁂おちぶ・れる (動) 零落 前條ノ語ノ口語。

〜おちぼ (名) 落穗 刈リタル穀ノ穗ノ、地ニ棄テラレテアルモノ。カキコボレ。オチコボレ。 遺穗 伊勢物語、五十八段「コノ女ドモ、穗拾ハムト云ヒケレバ「ウチワビテ、おちぼ拾フト、聞カマセバ、我レモ田面(たのも)ニ、行カマシモノヲ」 白居易、觀レ刈レ麥詩「復有二貧婦人一抱レ子在二其傍一右手秉二遺穗一左臂懸二弊筐一」

おちま (名) 落間 家ノ内ノ、床ノ一段低キ所。オチクボ。 東山殿御座置飾次第「小川御所ハ對面所、御五間東ノおち間」

おちむしゃ (名) 落武者 〔落つノ條ノ(十五)ヲ見ヨ〕 落人武者。軍ニ敗北シテ逃グル兵士。 敗兵 天正記、秀吉上洛山崎合戰「おちむしゃニ於テハ、一人モ遁サズ是ヲ討チ」

おちめ (名) 落目 オチブレタル分際。零落ノ境遇。

〜おちもの (名) 落物 オトシモノ。遺失物。 皇極紀、元年正月「路不レ拾レ遺」

おちゃ (名) 御茶 茶ノ敬語。茶ヲ、丁寧ニ云フ語。「御茶壺、御茶アガレ」 おちゃを濁すトハ、ツクロヒゴトヲスル。マヤカス。ゴマカス。 糊塗 抹茶ヲタツル作法ヲ深ク知ラヌ者ノ、程ヨクツクロヒテスル意ニ起レル語ニテモアルカ。おちゃを碾くトハ、(一)茶臼ニテ、抹茶ヲ碾キ作ル。抹茶ハ、靜カニ碾クヲ可シトシタレバ、昔ハ、閑暇ナル時ニスル業トシタリ。 俳諧、埋木(明曆)「又留守ヲシテ、茶臼ひけトヤ」 續山の井(寬文)住吉ニテ「松風ノ、音ヤ茶をひく、神ノ留主」 後撰夷曲集(寬文)「口切ノ、會ヲ催ス、十月ハ、神ノ留主シツ、茶をひいツナリ」 (二)轉ジテ、遊女、客ナクシテ、隙ニテアリ。(藝者、藝人ナドニモ、移リテ云フ) 安永ノ川柳「大臣上ハ、二階ニテ、お茶をひき」 名詞ニ、おちゃひき、略シテ、ちゃひき卜云フ。此語、湯女ノ、客ナキ者、客ニ供スベキ散茶ヲ碾キシニ起ルトオボシク、湯女ノ、新吉原ニ入リテ遊女トナリシヨリ、(散茶ト呼ビキ) 遍ク行ハルルヤウニナレルナルベシ。 文化ノ川柳「茶ひきノアハレ、蔭見世ノ、東山」

おぢゃう (名) 御娘 〔ぢゃうハ、娘ノ音讀〕 身分アル家ノ處女ノ敬稱。

おぢゃうぐち (名) 御錠口 〔杉戶ニ錠アリ〕 武家、貴族ノ第宅ノ內ニテ、表方ト奧方トノ間ノ出入口。

⁂おちゃっぴい (名) 主トシテ、小娘ナドノ、出過ギテおしゃべりスル者ヲ嘲リテ云フ語。 明和ノ川柳「出合ッテ、香附ヲ買フ、おちゃっぴい」 飲食狂歌合(文化、六樹園)ニ「オノレガおちゃっぴいヲサヘクヤミタル、大出來ト云フベシ」

おちゃつぼ (名) 御茶壺 (一)茶壺ノ、敬稱。(二)德川幕府ノ命ニ因リテ、山城ノ宇治ノ御物茶師(茶師ノ條ヲ見ヨ)ノ調製セル、抹茶ヲ納レタル茶壺ノ稱。幕府ヨリ禁裏へ獻上スルモノナレバ、鄭重ニ扱ハレ、運送ノ道中ニテハ、行合フ旅人ニ土下座セシメ、嚴重ナルモノナリキ。

おちゃどころ (名) 御茶所 神社、佛寺ノ境內ナドニアル、參詣人ヲ休息セシメ、煎茶ナド賣ル所。

おちゃない (名) 〔「髮ノおちはないカノ略訛」〕 昔、京都ノ町町ニ出デテ、おちゃないト呼ビアルキ、人家ニツキテ、落髮ヲ買ヒ集ムルヲ業トセシ者。女ノ業ニテ、袋ナドヲ戴ク、落髮ハ髢ヲ作ル料トスルナリ、古へニ云ヘル、かづらひねりナリ。 鷹筑波集(寬永)「竹ノ葛籠ヲ、持テルおちゃない」 職人圖彙(天和)「おちゃないハ、髮ノ落ヲ買ヒ」 籠耳草子(貞享)ニ、男女所業ノカハレルヲ云ヒテ「ヤガテ、女ノ駕籠舁、男ノおちゃないモ出ヅベキニヤ」

おちゃのこ (名) 御茶子 (一)茶子ヲ、丁寧ニ云フ語。オチャグッシ。(二)骨折ラズニ出來ルコト。ちゃのこノ條ヲ見ヨ。

おちゃひき (名) 御茶引 おちゃノ條ノ、おちゃを碾くノ(二)ヲ見ヨ。

⁂おぢゃん (名) 〔江戶町町ノ火見梯子ニ、半鐘ヲ懸ケタリ、火災ノ警報ニ、遠近ニ因リテ、二打、三打、四打、亂打ノ緩急アリ、鎭火ノ報ニハ、極メテ緩ク二打セリ、終了ノ意ヲナス〕 事ノ、終ハルコトヲ云フ口語。 失敗ノ意、伴フ。(東京)

⁂おちゃらか・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) 愚弄 〔おひゃるノ條ヲ見ヨ〕 ナブル。嘲弄ス。

おちゆ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (自動、四) 落行 (一)逃ゲテ行ク。 逃走 保元物語、二、義反人各召捕事「或遠國へ落行、或深山ニ逃隱テ」 (二)ニ〔二〕リツク。成リ行ク。 歸着 「此理ニ落行く」

おちよ (名) 於千代 〔舟饅頭トテ、舟ニテ賣淫セシ女ノ中、お千代ト云ヘルモノ名高カリシタメ、遂ニ其代名詞トナレリト云フ〕 舟饅頭ノ一名。

おちよぶね (名) 於千代舟 おちよ(前條ヲ見ヨ)ヲ載スル舟。 天明ノ川柳「お千代舟、沖マデ漕グハ、馴染ナリ」

おちょぼ (名) 〔ちょぼハ、小サキ意ナルベシ〕 京都ニテ、揚屋ナドノ小下婢。

〜お・ちる (動) 陷 おちいるノ約。其條ノ(一)ヲ見ヨ。

⁂お・ちる (動) 落 落つノ口語。

⁂お・ぢる (動) 怖 怖づノ口語。

おちゐ (名) 落居 (一)オチキルコト。(二)助動詞ノぬ(ぬる、ぬれ、な、に、ね)ヲ、おちゐノぬト云フ。落居スル、完了スル意ニテ、打消ノ助動詞ノず、ぬ、ねノぬト區別スル稱ナリ。

〜おち・ゐる・ヰル・ヰレ・ヰ・ヰ・ヰヨ (自動、上二) 落居 シヅマル。オチツク。落居ス。 安意 竹取物語「日頃思ヒ侘ビハベリツル心ハ、今日ナムおちゐヌル」 源、一、桐壺廿「女御モ、御心おちゐタマヒヌ」

おつ (名) 乙 (一)キノト。(えと、又ハ、甲乙ノ條、見合スベシ) (二)物事ノ順序ニ、第一ノ甲ニ次ギテ、第二ノモノ。 考課令「凡明法試二律令十條一云云、全通爲レ甲、通二八

以上二出ヅ乙」(三)樂器ノ調子ニ、甲ニ對シテ、下キモノ。(甲)かりかれてんノ條ヲ見ヨ。

おつ (名) 〔おつ(乙)ノ約ナラムカ〕(一)通ナルコト。異味、奇妙、奇ニ通ヅ。〔通言ニハ、おつダ〕(二)希有、不思議、變ナコト。異樣「事ガおつニ成ル」おつニ思フ」 おつまヲ、おつうトモ云フ。

お・つ・ツル・ツレ・チ・チ・チヨ (自動、上二) 落 (一)高キヨリ、下ヘ行ク。降ル。サガル。萬葉集、十四「高麗錦、紐解キ放ケテ、寢ルガ上ニ、何トフモ、我ガ思ハナクニ」(二)漏ル。脱クル。殘ル。遺 古事記、上「長歌、ウチ見ル、島ノサキギ、カキ見ル、磯ノサキおちズ、若草ノ、妻持タセラメ」「一字おつ」文字ガおつ」(三)オチイル。ハマル。陷「謀ニおつ」タバカリニおつ」罠ニおつ」(四)隕、死ス、〔常ニ飛ベバナリ、魚ノ、あがるニ對ス〕 鳥死 心中宵庚申(享保、近松作)上「おちタ鳥ヲ、時選ノ後ニ」(五)衰フ。減ル。衰「家おつ」(六)去ル。 (七)極ル。定マル。決ス。傾城反魂香(寶永、近松作)中「人ヲハグノ、欺スノト、おつる所ハ郎ノ難」「入札ガおつ」(八)佛經ノ語ニ、墮落ス。古今集、四、秋、上「名ニメデテ、折レルバカリゾ、女郎花、我レおちニキト、人ニ語ルナ」後拾遺集、二十、神祇「僞クモ、忘ラレニケル、扇哉、落ちタリケリト、人モコソ見レ」「俗ニおつ」精進ヨリおつ」(九)失ス。無クナル。脱 萬葉集、十五、ワガ「……ヘルカ」(十)自ラ罪アリト言フ。白狀ス。首伏 今昔物語、廿四、第十四語「強チニ問ヒケレバ、遂ニ落ちテイハク、隱シ可申キ事ニモ非ズ」「罪ニおつ」(十一)城、陷ル。攻メ取ラル。「敵ノ手ニ落つ」(意カ) 城陷 (十二)賤シクナル。劣ル。殺等 萬葉集、十五「ヤンゴトナキ系ナクモ、カウマデおつベキ宿世ノ有リケレバニヤ」(十三)失「土瓶ノ口おつ」「鼻おつ」首おつ」(十四)見エズナル。入ル。消ユ。沈 (十五)逃グ。遁ル。走リ去ル。逃走 第四條「武士共、京ヘ馳セノボリヌ、トモダチノ二人、おちテ、其ノ邊ニ忍ビテアリケルガ、夜ニ入リテ屍ヲトリ」「戰場ヨリおつ」「城ヨリおつ」(十六)一所ニ着ク。傾キ寄ル。歸着「此ノ理ニおつ」 手におつト云フハ、得。取ル。落手 心におつ、胸におつト云フハ、解ス。ワカル。納得ス。了解 國性爺合戰(享保、近松作)五「心ニ落ち着シ」 精進おちト云フハ、精進ヲヤムルコト。 土佐日記、正月十四日「舟君ノ精進物ナケレバ、午ノ時ヨリ後ニ、楫取ノ、昨日釣リタリシ鯛ニ、錢ナケレバ、米ヲ取リカケテ、おちラレヌ」

お・づ・ヅル・ヅレ・ヂ・ヂ・ヂヨ (自動、上二) 怖 オソル、オビユ、ヒルム。コハガル。傳 ……ノ、光ノ如キ、コレノ身ハ、……二副ヘリ、於豆ベカラズヤ」字鏡五十三「畏懼、於曾留、於豆」天治字鏡、十二「……、於豆、又、於比由」

おつ・いう (名) 乙酉 キノトノトリ。干支ノ條ヲ見ヨ。

お・つう (副) おつ(奇)ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。

おづ・おづ (副) 怖怖 怖ヂツツ。オソルオソル。コハゴハ。戰戰 ……日記、上「文ゾアル、參リ來マホシケレド、愼シウテナム、タシカニ來トアラバ、おづおづモ、トアリ」

おつ・がい (名) 乙亥 キノトノヰ。干支ノ條ヲ見ヨ。

おつかいはれて (副) おけはれてノ條ヲ見ヨ。

おつ・か・く・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ (他動、下二) 追驅 おひかく(追驅)ノ音轉。 ……ウシロヨリ、……ノ……、……ケタリ、……」

おつ・かじ・める・メル・メレ・メ・メ・メヨ (他動、下一) イヂメル。虐待ス。 ……、下イシニア、オメエマアサ、……かじめるコタアネエハナ」

おつかさん (名) 御母樣ノ音便。

おつ・かな・い (形) 〔奥處なしノ音便ト云フ說アレド、餘リニ古シ、おほけなし、おつけなし、おつかなし(あたたけし、あたたかし)ト轉ジ、おそれおほしノ意ノ移リタルナルベシ〕(一)恐シ。コハシ。(東國) 可恐「おつかない人」おつかない顏」(二)危シ。アブナシ。危「一本橋ハ、渡ルニおつかない」

おつかなびつくり (副) 「可恐ない、驚愕ノ略轉」 オソルオソル。コハゴハ。戰戰兢兢

おつ・かぶせ (名) 押被せノ音便、(おしこぼす、おこぼす)買被ラスル意ナラム。 ……物ヲ、騙リテ買ハスルコト。 ……紅(文化、……山人)……、……シハ、……第一ノおつかぶせナリ」

お・つき (名) 御附 貴人ノ御側ニ附キ居テ、用ヲ勤ムルコト。祗候「……ノ小姓」

おつき (名) 起 眠レルヨリ、起クルコト。小兒語。

お・つぎ (名) 御次 貴人ノ御座間ノ次間ノ敬稱。 早雲寺殿廿一箇條「出仕ノ時、御前ヘ參ル……、……」

おつ・く (名) 御藥 〔おくすりノ略〕 藥ノ、小兒語。

おつ・クウ (名) おくこふ(億劫)ノ條ノ二ヲ見ヨ。

お・つくり (名) 御作 (一)魚軒(さしみ)ノ略。丁寧ニ云フ語。(京都)オサシミ。(二)假粧ノ、婦人語。かたちづくりノ略ナリ。オシマヒ。粉粧

お・つけ (名) 御附 〔飯ニ附け副フル意、さい(菜)モ、そへ(副)ノ轉ナルガ如シ、(あはせト云フモ、同意)倭訓栞、後編ニ、おつけ「モト、麵類ナドノつけ汁ヲ云フ詞ナルヲ、今ハ凡テノ汁ヲ云フ詞トス」トアレド、イカガ〕 吸物ノ汁ノ、婦人語。今ハ專ラ、味噌汁ヲ云フ。オシル。オミオツケ。 ……、おつけ、……「汁ハ初メ、飯ニつけテ出スベシ」 ……「……ノ……ニ、……ニクキハ、……おつけ、……」

お・つげ (名) 御告 神ノ託宣ノ敬語。傳ニモ云フ。

おつけはれて (副) 公然 「公晴れて」ノ略轉ナルカ、おかいはれてトモ云ヘバ、押據を晴れてノ音便ナルカ、一說ニ、おかいはれて……ナルベシト、……ニ傳ル所ナク。「人……おけはれて……」

オッコ (名) 樹ノ名。おんこノ條ヲ見ヨ。

おつ・ゐち (名) 戀ニおちなる意 戀人ノ口語。イロ。(江戸) 天保ノ川柳「おつゐちガ、出來テから(?)しり、……ナリ、……ニ云ヘルナリ」

✣**おっ-お・ちる**・チル・チレ・チ・チ・チヨ（自動、上二）【落】〔次條ノ語原ヲ見ヨ〕落ツ。オチル。（東京）

✣**おっ-お-と・す**・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）【落】〔落事ノ、おつおとト轉ジタルヲ、（とらまへる、つらまへる）急呼スルナルベシ、自動ニ、おっおちるト云フハ、おっおとヲ、おっおちト轉ジテ、（父、とと）落ちるノ活用ヲ取リタルナラム〕落ス。（東京）

✣**おっ-さま-み**（副）【追樣】おひさまみ（追樣）ノ口語。平家物語、十、三日平氏事「心少シ落トシ居エテ、追ッ樣ミコソ參リ候ハメ」

おっ-お（名）【乙巳】キノトノミ。干支ノ條ヲ見ヨ。

おっ-おゃ・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）【被仰】〔仰せらるノ約ナル、おおゃるノ急呼、四段活用ニ轉ズ、いらせらるノ、いらっおゃるトナルト、同ジ、あづかる（與）ノ語原ヲ參見セヨ〕言ふノ敬語。オホセラル。狂言記、貰聟「サウおっおゃるハ、合點デゴザル」鹿の卷筆（貞享）二、筆屋のおょり、う「サテサテ旦那ハ、オロカナ事ヲおっおゃる」

おっ-た・つ・ツル・ツレ・テ・テ・テヨ（他動、下二）【追立】おひたつノ音便。追ヒハラフ。謠曲、鞍馬天狗「アレニ、客僧ノワタリ候、コレハ近頃狼藉ナル者ニテ候、おったてウズルニテ候」

おっ-たて（名）【追立】追ッタツルコト。追ヒハラフコト。平治物語、三、賴朝遠流事「おっ立ノ撿使、靑侍季通」平家物語、二、座主流事「ヤガテ都ノ内ヲ追ヒ出ダサルベシトテ、おっ立ノ官人、白河ノ御坊ニ行キ向テ、追ヒ奉ル」

オッチ（名）【袂時計】〔英語、Watch.〕タモトドケイ。懷中時計。

おっ-ちう（名）【乙丑】キノトノウシ。干支ノ條ヲ見ヨ。

✣**おっ-ちょお-ちょい**（名）〔ちょおちょおシテ、深慮ナキ意〕浮薄者ヲ、侮リ呼ブ語。オイソレ者。（東京ノ口語）【輕佻漢】

おっ-つ-かっ-つ（副）【無甲乙】〔追ッつ縋ッつノ略ナルベシ〕（一）追ヒ及キテ。殆ンド、同時ニ。明和ノ川柳「戸隱ト、おっつかっつニ、國ヲ立チ」（信濃ヨリ江戸ヘノ出稼人ヲ云フ、同國、戸隱山ニ、手力雄命ヲ祭ル、天岩戸ノ鷄鳴頃ヲ云ヒシナリ）（二）同ジ程ニ。オトリマサリナク。「二人ノ小供、年ハおっつかっつニ見ユル」（五十歲前後ヲ、五十左右ト云フガ如シ）

おっ-つ・く（動）追ひつくノ音便。

おっ-つけ（副）【押付】〔おしつけノ音便〕オシツケ。閒モナク。ヤガテ。イマニ。程ナク。【刻下】狂言記、墨塗「國許へ、おっつけ下ルデアラウ」

✣**おっ-つ・ける**・ケル・ケレ・ケ・ケ・ケヨ（他動、下二）【押附】〔おしつくノ口語〕着クル。當ツ。

おっ-て（名）【追手】〔追手ノ音便〕罪人ナド、追捕スルニ出向フ役。討手。【捕亡】【追兵】

おっ-て（副）【追而】〔おひてノ音便〕後ヨリ。

おっ-てう（名）【乙鳥】ツバクラメ。ツバメ。本草「釋名、燕、一名、乙鳥」

おって-がき（名）【追而書】袖書ノ條ヲ見ヨ。

おっ-と（名）【酒】〔酒ヲ酌シテ、盃ニ滿タムトスル時、客、おっとあります卜云ヒ、おっとトノミモ云フ〕酒ノ、小兒語。

おっ-と（感）〔おッハ、唯ノ轉〕氣ヅキタル時ニ發スル聲。心中天網島（享保、近松作）中「起サシャンセ、云云、おっとマカセト、ムックト起キ」「おっと待テ」おっと、サウハユカヌ」

おっ-とほし（名）【押通】〔おしとほしノ音便〕續ケテ、休マヌコト。不休　終始一貫「書物三册、お　とほしニ讀ム」晝夜おっとほしニ働ク」

おっとり（副）〔穩當ノ音轉カ、ゆったりノ訛カ〕少年少女ノ、落チツキタル性質ナルニ云フ語。沈著

おっ-とり（副）【押取】直ニ取リテ。ソノママニテ。「おっとり閒ニアフ」

おっとり-がたな（名）【押取刀】火急ノ場合ニ、刀ヲ帶ブル閒アラセズ、手ニ取リテユクコト。堀川波鼓（寶永、近松作）下「喧嘩シテ、大勢ニ取卷レテ御座リマス、御知セ申ス、云云、追取刀、我劣ラジトゾ走リケル」「おっとり刀ニテ立向フ」

おっ-とり-お・む・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ（他動、下二）【追取籠】追ヒ掛ケテ、圍ム。謠曲、橋辨慶「タトヘバ天魔鬼神ナリトモ、大勢ニハ叶フマジ、おっとりおめテ討タザラム」

おっ-とり-ま・く・ク・ケ・カ・キ・ケ（他動、四）【追取卷】追ヒ掛ケテ、取リ卷ク。日本武尊吾妻鑑（享保、近松作）三「兵士多數引キ具シ、輿ヲ中ニおっとりまき」

おっ-と・る・ル・レ・ラ・リ・レ（他動、四）【押取】急ニ手ニ取ル。謠曲、安宅「金剛杖ヲおっ取ッテ、散散ニ打擲ス」「刀、おっとる」

おっ-ぱら・ふ（動）追拂ふノ音便。謠曲、船辨慶「尙、怨靈ハ慕ヒ來ルヲ、追ッぱらひ、祈リノケ」

✣**おっ-ぺおょ・る**（動）押し壓し折るノ音便。文化ノ川柳「カキツバタ、徒モノガ、おっぺおょり」

おっ-ぺす（動）【押壓】押し壓すノ音便。

お-つぼ（名）【御壺】膳部ノ壺ニ入レタル盛リ物。奴俳諧「お、べしテ、取ラム相撲ハ、晴レガマシ」

✣**おっ-ぽり-だ・す**（動）押し放り出すノ音便約。

お-つむ（名）〔つむハ、頭顱ノ略〕天窓ノ、小兒語。「おつむ、テンテン」（てんてんノ條ヲ見ヨ）

お-つもり（名）【御積】〔つもるハ、盃ノ數かさなる義ニテ、つもりつもりテ終ハル意ナルカ、或ハ、つまり（詰）ノ轉カ、埋る、うづまる〕酒ノ勸盃ノ終。（婦人ノ語ナルベシ）修獻

おつ-や（名）【乙夜】古ヘ、夜ノ二更。今ノ午後、十時。漢書、天文志「地節元年正月戊午乙夜、月食」

おつや-の-らん（名）【乙夜之覽】〔いつやの覽トモ云フ、前條ヲ見ヨ〕天子ノ、夜中ノ御書見。海錄碎事（葉廷珪）「太宗曰、若不ニ甲夜視レ事、乙夜觀レ書、何以爲ニ人君一耶」（唐ノ太宗ナリ）「供ニ乙夜之覽一」

お-つゆ（名）【御汁】すまし汁ノ婦人語。

お-つり（名）【御釣】釣錢ヲ、丁寧ニ云フ語。

お-でいり（名）【御出入】出入ヲ、丁寧ニ云フ語。でいりノ條ヲ見ヨ。狂言記、居杭「誰殿卜申テ、御出入致ス御方ガ御座ル」

お-でき（名）【御出來】腫物ノ、婦人語。

お-でお（名）【御出子】〔でハ、でびたひノ略、おハ、張子、刺子ナドノ、おノ如シ〕出額ノ、婦人語。

お-ておょ（名）手鹽皿ノ、婦人語。

お-てだま（名）【御手玉】手玉ヲ、丁寧ニ

云フ、少女ノ語。

おてつけ (名) 御手附 (一)貴人ノ手ヲツケタル、侍女ナド。即チ、寢ニ御セシメタル女。「御手附ノ中臈」 (二)歌骨牌ヲ取ル時、讀ミ出サレタル歌ト違フ牌ニ、手ヲ觸レタルコト。罰アリ。

おでゝこ (名) 〔お出木偶ノ轉ト云フ、おでゝこでんトモ云フ、でんハ、出替ハル機ノ勢ニ云フカ〕 放下師ノスル目眩ノ技。笊ヲ伏セオキテ、開クレバ人形出ヅ、變はるが早いか、おでゝこでんト言ヒツツ、伏セ開ケスル度ニ、玩具ナド、種種ナルモノ變ハリテ出ヅ。京阪ヨリ移リ來テ、江戸、兩國橋、西詰廣場ニ、葭簀張ヲ立テテ行ヘリ、後ニハ、小屋ヲ作リ、下等ナル芝居トナリ、おでゝこ芝居ト云ヘリ。 [illegible](寶曆)大阪天滿宮境内ノおでゝこでんノ出玉、京都ヘモ、[illegible]、出玉ハ、おでゝこてんま、天神ノ内」

おでゝこしばゐ (名) 前條ヲ見ヨ。

おでゝこでん (名) 前前條ヲ見ヨ。

おてなが (名) 御手長 禁中、下級ノ女官、御膳ヲ御次ノ間マデ運ブコトヲ掌ル。

おでまし (名) 御出座 出デマスコト。外出、他行ノ敬語。オイデ。

おてまへ (代) 御手前 對稱ノ代名詞、汝ニ同ジ。同輩ニ用ヰル、武士ノ語ナリ。御邊。ソコモト。狂言記、胸突「ソリャ何デ御座リマスルゾ、イヤ、御手前ノ手形デオヂャル」

おでん (名) 御田 〔田樂ヲ略シテ、丁寧ニ云フ〕 (一)蒟蒻ヲ切リテ、竹串ニサシ、味噌ヲツケテ、豆腐ノ田樂ノ如ク調ジタルモノ。(二)煮込ノおでんト云フハ、蒟蒻ヲ三角ニ、里芋ヲ二ツニ切リ、焼蒲鉾、蓮根ヲ、厚サ二分ホドヅツニ輪切ニシ、何レモ一ツヅツ竹串ニサシ、煮出汁ニ醬油、砂糖、灑味噌、少シ入レタルニ、串ノママ浸シテ、溫火ニテ煮テ成ル。多クハ、行商ス。

おてんき (名) 御天氣 (一)快晴ノ空ノ、ウルハシキヲ云フ語。朗晴。(二)俗ニ、金錢ヲ所持セヌコト。(晴レテからからナル意ナルベシ) (三)詐僞師ノ一種ニ、御天氣師ト云フハ、路上ニテ田舍人ナド捉ヘ、拾物シタリ、分配セム、トテ、種種ナル手段ニテすりかへ、其人ノ金銀ヲまきあげテ隱ルルナリ。晴天ノ日ニスル事ナレバ、云フナルベシ。

おてんきし (名) 御天氣師 前條ノ(三)ヲ見ヨ。

オテンバ (名) 於轉婆 〔蘭語、Ontembaar.〕 女ノ、デスギタルモノ。タシナミナキ女。アバズレモノ。オキャン。輕佻女 不羞女 てんばノ條ヲ見ヨ。

おてもと (名) 御手許 てもとノ敬稱。狂言記、岩せん石「ソノ下サルルお手もとハ、ソノ鑑デゴザリマスル」

おてやはらかに (副) 御手弱 手酷クノ反。テユルク。人ノ仕向ケノ、寛大ナラムコトヲ請フ意ニ云フ語。「御手弱ニ願フ」

おでゐさま (名) 御出居様 〔常ニ出居ニ居レバ云フ〕 父上。おすさまノ條ヲ見ヨ。

(二)おと (名) 弟乙 〔年劣る義、乙ノ字ヲモ用ヰルハ、甲乙ノ義ニテ、次ナル意カ〕 (一)男、又、女ノ、兄姉ニ對シテ、後ニ生レタルモノ。オトト。イロト。イロモ。オトウト。イモウト。 古事記、上「娣、石長比賣、其弟、木花之佐久夜毘賣」 雄略紀、二年三月「皇后弟、弟姫」 萬葉集、九「[illegible]作、長歌「若ムカフ、弟ノ命ヘ」 (二)年ノ若キコト。「弟棚機女」「弟[illegible]」「弟財郎女」乙姫、[illegible]命、若郎女、同ジ」

(三)おと (名) 音 〔當ト通ズルカ、織衣、ありぎぬ。いたはし、いとほし〕 (一)物ノ、動キ當リテ起ル、一種ノ性ノモノ。空氣ニ傳ハリテ、耳ニ聞ユ。ヒビキ。ネ。コエ。萬葉集、十四「新武藏野ニ、鈴ガ於等聞ユ、可牟思太(地名)ノ、殿ノ仲子シ、鳥狩スラシモ」(鷹ニツケタル鈴ナリ) 同、十七「長歌「行クオノ、於等モサヤケク」字鏡、六「響、[illegible]於上」 (二)動物ノ聲。萬葉集、十五「ホトトギス、鳴クナル聲ノ、音ノ遙ケサ」古今集、四、秋、上「秋萩ヲ、シガラミ伏セテ、鳴ク鹿ノ、目ニハ見エズテ、音ノサヤケサ」 蜻蛉日記、下、中「イト奥山ハ、鳥ノ聲モセヌモノナリケレバ、雀ダニおとセズ」 千載集、八、羇旅「小夜深キ、雲居ニ雁モ、おとスナリ」 (三)人言。ウハサ。風聞。萬葉集、二、二十三長歌「音ノミモ、名ノミモ、絶エズ」同、七「音ニ聞キ、目ニハイマダ見ヌ、吉野川、六田ノ淀ヲ、今日見ツルカモ」 (四)オトヅレ。タヨリ。オトサタ。竹取物語「夜晝待チタマフニ、年越ユルマデ、おとモセズ」

おと (名) 於菟 〔下ノ出典ヲ見ヨ〕 (一)支那ニテ、虎ノ異名。箋註倭名抄、七「[illegible]」「按、宣四年、左傳云、楚人謂乳穀、謂虎於菟、方言、虎、江淮南楚之間、或謂之於菟、王念孫曰、今江南山中、呼虎[illegible]」 (二)轉ジテ、猫ノ異名。運歩色葉集(天文)「世俗呼猫曰於菟」

(二)おといらつめ (名) 弟郎女 おほいらつめノ條ヲ見ヨ。

おとう (名) [illegible] 〔[illegible]ハ、東司ノ略ナルベシ〕 厠ノ、女房詞。(倭訓栞)

おとうさま (名) 御父様 [illegible]ノ音便。父上。

(二)おとうと (名) 弟人 〔弟人ノ音便、旅人、たびうど。商人、あきうど〕 (一)弟ナル人。男女ニ通ジテ云フ。オト。イロト。イロモ。古今集、十七、雜、上「妻ノおとうと(妻ノ妹)ヲ持チテ侍リケル人ニ、袍ヲ贈ルトテ」宇津保物語、樓上、下廿「中納言ノ御太郎、とうノ中將、其おとうと、[illegible]ノ少將」 [illegible] 榮花物語、四、[illegible] 一條ノ太政大臣ノ御子ノ中[illegible]、[illegible]シタマヒテ、此北ノ方ノ御おとうとヲ配セタテマツリタマヒテ」 (二)專ラ、男ナル弟。おとと。 倭名抄、二「[illegible]」

おどおど (副) 〔怖づ怖づノ轉、さゞく〕 (副)おなづる、おなさる[illegible] 怖ヂテ、ウロツキツツアル狀ニ云フ語。

おどかし (名) 威嚇 オドカスコト。オビヤカスコト。

おどか・す [illegible] 〔おどすノ一轉、あやす、あやかす。だます、だまかすノ類〕 威ス。オビヤカス。

(二)おとがひ (名) 頤 〔乙牙合ノ約カ、(乙ハ、次ナル意)上牙ノ、あぎと(腭)ニ對ス、呼名〕 「頤、動於下、止於上、上下咀物」 口中ノ下ノ骨。キボネ。下腭。 天治字鏡、[illegible] 倭名抄、[illegible] おとがひを解くトハ、(開くナリ) 大イニ笑フ。アゴヲハヅス。解頤 續古事談、五「[illegible]おとがひを解かズト云フコトナシ」 おとがひをたたくトハ、物言フ。ロヲキク。

おとがひ-の-しづく (名) 〔頤雫〕 我ガ口ニハ入ラヌト云フ謎。我ガ物ニハナラヌ意ニモ云フ。齶のしづくトモ云フ。袂の白しぼり「見ル物食ハウ徒思ヒ、コレ頤の雫ナリ」(諺語大辭典) 娥歌加留多(享保、近松作)二「ハヤ奥様ガアルカラハ、おとがひの雫、カナハヌ憂キ世」

〜**おと-ぎき** (名) 〔音聞〕 世ノキコエ。世間ノ取沙汰。源、四十三、竹川五「世ノ音ぎきモ、アハツケキワザナレバ」

〜**おと-きな・し**・キ・ケレ・ク・ク (形、二) 〔幼〕 〔弟氣甚しノ義ナラム、味氣無し、同趣、氣ノ條ヲ見ヨ〕 年ユカズ。イトキナシ。イトケナシ。ヲサナシ。仁徳卽位前紀「幼而聰明」

おと-ぎ-ばなし (名) 〔御伽噺〕 伽ニ話ス物語ヲ、丁寧ニ云フ語。多クハ、兒童ニ聞カスルニ云フ。童話。

おと-ぎ-ばふこ (名) 〔御伽這兒〕 はふこ(這兒)ノ條ヲ見ヨ。

おと-ぎり-さう (名) 〔弟切草〕 〔花山天皇ノ頃、鷹飼ノ名人、晴賴アリ、此草ヲ、鷹ノ傷ヲ醫スル祕藥トセシニ、其弟、コレヲ洩ラシシカバ、怒リテ斬レルニ起レリト云フ、倭訓栞、後編ニモ云ヘリ〕 枝、椏、對生シ、高サ二三尺、色赤シ、葉ハ青クシテ、狹ク長ク、楡ノ葉ノ如シ、夏秋ノ閒、梢ノ閒ニ黄花ヲ開ク、單瓣、五出ナリ、秋、莢ヲ結ブ、三稜アリ、中ニ細子アリ、金瘡ヲ治スト云フ。小連翹

〜**おど・く** (動) おほどく(性緩)ノ約。其條ヲ見ヨ。

おどけ (名) 〔戲〕 オドケルコト。タハムレ。戲。ダウケ。戲謔 假名文章娘節用(天保、曲山人)「おどけハおどけダガ、足下、太鼓持ヲサラケ止メネエ」

おどけ-ぐち (名) 〔戲口〕 オドケタル、物ノ言ヒザマ。ザレゴト。諧謔

おどけ-ばなし (名) 〔戲話〕 諧謔言ヒテ、笑ノ興トスルコト。諢話

✤**おど・ける**・ケル・ケレ・ケ・ケ・ケヨ (自動、下二) 〔戲〕 〔おほどくる(性緩)ノ約ナル、おどくるノ口語、天正本節用集「放屭」又、だうけるト云フモ、此語ノ略延ナリ〕 サルガフ。ザル。タハムル。フザケル。ダウケル。戲謔

おどけ-ゑ (名) 〔戲繪〕 戲ケタル人物ナド書キタル繪。ヲコヱ。ザレヱ。トバヱ。ポンチヱ。戲畫 漫畫

〜**おと-ご** (名) 〔弟子〕 すゑごニ同ジ。末子。今モ靜岡ニテ、おとっごト云フ。季子 落窪物語、一、下「大殿、おとごニテ、愛シウシ給ヘバ」

おと-ごぜ (名) 〔乙御前〕 〔おとハ、おとがひ(頤)ノ略ナラム、うつぎの花ヲ、うの花、狼狽坊ヲ、あはう、(阿房)御新造樣ヲ、ごしんさんナド、甚シク略シタル語モ多シ、頤ノ脹レタルヲ云フ、おたふくト云フモ、おとふくノ轉ト思ハル、又、おとハ、容色ノ劣レル意カトモ思ヘド、アラズ、御前ハ、其條ヲ見ヨ〕 於多福ニ同ジ。オフク。狂言記、算勘聟「ヤア、コレハおとごぜヂャ、ナウナウ、疎マシヤ、疎マシヤ」 雅筵醉狂集(享保)雜、乙御前の繪「花山ニ、住ム人トテモ、ロトヂテ、コノ乙文字ハ、トドメザラナム」

おとご-の-ついたち (名) 〔弟子朔〕 次條ヲ見ヨ。

おとご-の-つき (名) 〔弟子月〕 〔正月ノ太郎月ニ對ス〕 十二月ノ異名。おとごづき。風俗文選(寶永)許六ノ四季辭「今朝カラハ、師走トカヤ、乙子の朔日トテ、節季候ノ來ソムル日也」 此日ニ餅ヲ食フ、おとごの餅ト云フ。かはびたりもちノ條ヲ見ヨ。 東都歲事記、四、十二月「朔日、乙子朔日トテ、諸人、餅ヲ製シ祝フ、云云、今日製スル餅ヲ、乙子のもちトイフ、又、川浸餅トモイフ」

おとご-の-もち (名) 〔弟子餅〕 前條ヲ見ヨ。

おと-さた (名) 〔音沙汰〕 〔おとづるト、沙汰トヲ見ヨ〕 オトヅレ。タヨリ。通信 博多小女郎波枕(享保、近松作)中「音沙汰ナシノ俄宿替」

おとし (名) 〔落〕 (一)落スコト。(二)機アリテ、獸ナドヲ陷シ入レテ捕フル具ノ名。オシ。「狐ヲおとしニカケル」「鼠おとし」 (三)次次條ノ語ノ略。其條ヲ見ヨ。(四)おとしがけノ略。其條ノ(三)ヲ見ヨ。(五)戶ノ棧ニ作リツケテ、閉ヅルトキ、敷居ナドニ差シコム具。(六)落嘶ニ云フ語。其條ヲ見ヨ。

〜**おどし** (名) 〔威〕 威スコト。恐レシムルコト。威嚇 源、七、紅葉賀十三「タダ、サルベキ折ノ、おどし種ニセムトゾ思ヒケル」 十訓抄、下、第十、五十三條「此事、おどしニコソセサセタリケレ、國司ノ、此程猛ク戰ヒスベシトマデ、思ハザリケレバ」

おとし-あな (名) 〔穽〕 〔落し穴ノ義〕 地ニ穴ヲ作リテ、上ヲ土ナドニテ覆ヒ隱シオク所。人、獸、ヲ欺キ誘ヒテ、落シ入レテ捕フ。略シテ、おとし。平家物語、九、老馬事「城ノ內ニハ、おとし穴ヲモ掘リ、菱ヲモ植ヱテ、待チマヰラセ候フラム」 盛衰記、廿四、南都合戰事「奈良坂、般若路、二ツノ道ヲ伐塞ギ、此彼ニおとしヲ掘リ、菱植ヱ」

おとし-い・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ (他動、下二) 〔陷〕 〔落し入るノ義〕 (一)〔落シテ、入ラシム。ナゲコム。靈異記、下、第四「擲二陷海中一」訓註「陷、於止之意禮天」 源、五十二、手習九「フヨウノ人ナリ、人ニ見セデ、夜、此河ニおとしいれ給ヒテヨ」 (二)誘ヒテ、落ス。「穽ニ陷る」 (三)謀リテ、引キ入ル。「無實ノ罪ニ陷る」 (四)攻メテ、取ル。「城ヲ陷る」

おとし-がけ (名) 〔落懸〕 〔上ヨリ垂ルル意ナルベシ〕 (一)欄閒ノ下ナドニ添フル、雲形ナドノ彫物。(佛龕ナドニ) 仙傳抄「風鈴ハ、云云、ヲシ板ノおとしがけニモ懸クルナリ」 (二)床閒ノ正面上ニ亙ス橫木。(三)木製ノ火鉢ノ、方圓ノ形ニ隨ヒ、內廻、底ヲ、銅ナドノ薄板ニテ、同形ニ入子ノ如ク作リ、上ヨリ落シカクルモノ。其內ニ灰ヲ入ル。略シテ、おとし。「銅ノおとし」

おとし-がみ (名) 〔落紙〕 廁ニテ用キル紙ノ稱。

おとし-ぎんちゃく (名) 〔落巾着〕 巾着ニ紐ヲ付ケ、襟ニカケ、懷ニ落シ入レオクモノ。賤の小手卷(享和)「落し巾着ヲ付テ、內懷ヘ入レテ持チタリ」

おとし-ご (名) 〔落子〕 次次條ヲ見ヨ。

おとし-ざし (名) 〔落刺〕 大小ノ刀ヲ、帶ニ指シヤウノ稱。柄ヲ上ヘ、鐺ヲ下ヘ落シテサス。コジリサガリ。(閂指ニ對ス) 刀劍略說、石著「太刀ハ、後下リニ佩クモノナリ、云云、今世ニ云フ、落し挾しト云フモノニ似タリ」 賤の小手卷(享和)「腰ノ物ハ、落しざしニサシ、懷手ニシテ、駒下駄ハキテ」

〜**おとし-だね** (名) 〔落胤〕 貴人ノ、嫡妻ナラヌ女ニ生マセタル子。オトシゴ。落

亂。 饒鈴日記、上、上廿「孫王ノヒガミタリシ御子ノ、おとしぞむなり、[illegible]」「[illegible]おとしトモ云レズ」

おとし-ばなし (名) [落語] 戯話(ヲドケバナシ)ノ一種。天明ノ頃、江戸ノ立川焉馬(文政五年歿)始ム、軽口話ノ體ナリ、話ノ末ヲ、軽口、洒落、地口、語路ノ如キ語ニ落シテ結ブ、コレヲ、おとし、又、おち、さげト云フ。今ノ藝人ノ噺家(ハナシカ)ト云フ者、皆、此流ヲ汲ム者ナリ。 寛天見聞記(寛政)「噺シ家トテ、落し噺しスル者」

おとし-ばらげ (名) [落鉢毛] 女ノ髪風ノ名。昔ハスベテ鬢差(ビンサシ)、髱差ヲ入レテ、甚シク脹ラメタリシガ、文化ノ初ヨリ、鬢差ヲ落シ、別チ、去(ス)テテ、少シ脹ラメテ結フモノ。又、髱差ヲモ去テタルヲ、ぐるりおとしト云フ。但シ、おとしばらげハ、兩鬢ト髱ト三ツニ分クレド、ぐるりおとしハ、頂ノ正中ニ芥子(ケシ)ヲ取ルノミ、鬢、髱ハ一ツニ作ルナリ。現在ノ女ノ髪風ハ、皆是レナリ。(嬉遊笑覧、女装考)

おとし-ぶた (名) [落蓋] 匣ノ蓋ノ製作ノ名。匣ノ上縁(ウハブチ)ヲ覆ハズシテ、其中ニ陥チ込ムヤウニ作レルモノ。插蓋

おとし-ぶみ (名) [落文] 現ニ言ヒ難キ事ヲ、誰ガ仕業トモ知ラレヌヤウニ、文書(カキモノ)ニシテ、路ナドニ遺(オト)シオクモノ。落書(ラクショ)。 [陰名書] [飛書] 盛衰記、[illegible]おとしぶみナド見シ、ソレハ、我ガシタリシナリ」

〜**おとし・む**・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ (他動、下二) [貶] 落ちしむノ轉カ、一昨日(ヲトヽヒ)、をとどひ」 劣レルモノト見ル。ミサグ。サゲスム。 源、一、桐壺「人モ、エおとしめ[illegible]タマハネバ」 金葉集、八、戀、下「アヤシキモ、ウレシカリケリ、おとしむる、ソノ言ノ葉ニ、カカルト思ヘバ」 字鏡抄「貶、オトシム」

おとし-もの (名) [落物] オチモノ。心付カズ、誤リテ、路ニ落シタル物。 [遺失物]

おとし-や (名) [落矢] 矢ヲ、下ノ方へ射落スコト。オロシヤ。 盛衰記、廿、八牧夜討事「楯ヨリ、落シ矢ニ、散散ニ射ル」

おと・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) [落] 〔落つノ他動、おつ、おとすノ類〕 (一){高キヨリ、下ヘ遣ル。降(クダ)ス。下(サ)グ。 伊勢物語、七十八段「山科宮ニ、瀧おとし、水走ラセナドシテ、オモシロク作ラレタルニ」 (二){洩ラス。遺(ノコ)ス。脱(ヌカ)ス。 [脱漏] 枕草子、五、五十段、口をしき物「ウタハライタキ物ノウチニ入レツベケレド、人ゴトおとしこそ侍レバ、イカガハセン」「語ヲおとす」「字ヲおとす」 (三)心付カズ。誤リテ、路ナドニ失フ。 [遺失] 玉葉集、十、戀、一「扇ヲおとしテ侍リケルヲ、經ヘテ、返シツカハストテ」「物ヲ路ニおとす」 (四)誘ヒ入ルル。オトシイルル。ハム。 [陷] 甲陽軍鑑、五、品第十三「狀ニテ頼ルルトモ、[illegible]落とされテ頼ハルルモ、道理ハ一ツ所ヘ歸リ候」「罪ニおとす」「罠ニおとす」 (五)[illegible]ニ掛ク。「[illegible]ヲおとす」「[illegible]ヲおとす」 (六){減ラス。衰フルヤウニナス。 [損] 名義抄「減、オトス、ヘグ、ヘス」「評判ヲおとす」「名ヲおとす」 (七)癒ヤス。除(ノゾ)ク。 [治] 「熱ヲおとす」「狐(キツネ)憑(ツキ)ヲおとす」 (八)我ガ物トス。手ニ入ルル。「入札ヲおとす」「質ヲおとす」 (九){攻メテ、取ル。 天智紀、上、元年正月「唐人不能略ニ其南堺_、新羅不獲輸ニ其西壘_」「城ヲおとす」 (十)失フ。無クス。 [脫] 「力ヲおとす」「色ヲおとす」「声ヲおとす」 (十一)降(クダ)ス。卑(ヒク)クナス。 [貶] 允恭紀、二年二月「貶ニ其姓_謂ニ稲置_」「位ヲおとす」「品ヲおとす」 (十二)離ス。失ハス。 [隕] 狂言記、二人大名「兩人共ニ、首ヲおといテヤラウ」「命ヲおとす」「路ノ手ヲおとす」 (十三)逃(ニガ)ス。走リ去ラス。 [令遁] 謠曲、仲光「何ト仰セ候トモ、一マヅおとしモサバヤト存ジ候」「妻子ヲおとす」 (十四)驚カシム。着カシム。「道理ニおとす」 [令][illegible]

〜**おど・す**・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) [威] 〔怖づノ他動、怖づ、ひたす。落つ、おとす〕 怖ヂ恐レシム。オビヤカス。 [恐喝] [illegible] 名義抄「威、ヲドス」 源、四、夕顔「[illegible]アレバ、オキワノ物ニハおどさレジ」

おと-たなばた (名) [乙棚機] 年若キ棚機姬。愛ラシキ織女。 古事記、上、長歌「天ナルヤ、淤登多那婆多ノ、ウナガセル、玉ノミスマル」

おと-づき (名) [弟月] 十二月ノ異名。(倭訓栞) おとおのつきノ條ヲ見ヨ。

〜**おと-づ・る**・ル・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ (自動、下二) [訪問] 〔音ハ、おとなふト同ジク、(其條ヲ見ヨ)つるハ、連るナルベシ〕 (一)人ノ許ヲ訪フ。オトナフ。トブラフ。タヅヌ。ミマフ。 伊勢物語、十七段「年頃おとづれザリケル人ノ、櫻ノ盛リニ、見ニ來リケレバ」 續古今集、八、羇旅「おとづるる、音ニナカナカ、山里ノ、淋シサ増サル、夕時雨カナ」 (二)音信ニテ、心ヲ通ズ。 [通信] 名義抄「音、風、オトヅル」

おと-づれ (名) [訪問] (一){オトヅルルコト。タヅネ見マフコト。 伊勢物語、五十八段「荒レニケリ、アハレ幾代ノ、宿ナレヤ、住ミケム人ノ、おとづれモセヌ」 (二)オト。タヨリ。消息。音信。音沙汰。 [通信] [illegible]、十四、雜、五「ソナタヨリ、吹キクル風ノ、ツテニダニ、聞ツカクル、おとづれゾナキ」

おと-と (名) [弟人] 〔おとうとノ約、まらうど、まらと(賓客)〕 (一){男女ノ、兄、姉ヨリ、後ニ生レタルモノ。弟ニ同ジ。其條ヲ見ヨ。 神代紀、下十「[illegible]少(オト)[illegible]木花開耶姫(コノハナサクヤヒメ)」 同、下十「如何[illegible]見[illegible]弟[illegible]」 [illegible]六十六段「兄、おとと、友ダチナド率キテ、難波ノ方ニ行キケリ」 (二)後ニハ、專ラ、男ノ弟。

〜**おとど** (名) [大殿] [illegible] 御物所。つくもどころ。[illegible] (一)貴人ノ居宅ノ尊稱。 源、二十八、野分「[illegible]」 同、三十四、上、若菜、上「[illegible]」 出ニ、御座ヨリ[illegible]」 (二)大臣(おほいとのトモ云フ)公卿ヲ、其住處ヲ以テ呼ブ尊稱。 大鏡、上、冬嗣「コノおとどハ、内麿ノおとどノ[illegible]、只今ハ源氏ニナム侍ルメル」 同、[illegible] (三)貴婦人ノ尊稱。 源、二十二、[illegible] 狹衣、一、上「只今ノ大キおとどト聞コエサスル御腹、一條院ノ后ノ宮ノ[illegible]」

おとと-ぐさ (名) [弟草] はなのおとノ條ヲ見ヨ。 菊ノ異名。

おとと-ご (名) [弟御] 〔(御)ノ條ヲ見ヨ〕 他人ノ弟ノ敬稱。令弟

お-とと-さま (名) [御父様] 父ヲ敬ヒ稱[illegible]

おとと-ひ (名) [兄弟姉妹] 弟[illegible]ノ約、今モ、大隅國ノ語アリ。 おとひノ條ヲ見ヨ。

おとど-や (名) [大殿屋] 〔おとどノ條ノ(三)ヲ見ヨ〕 五月ノ騎射ノ時、左近衛、右近衛ノ馬場ニテ、高級武官ノ着座スル所。 源、九、葵「馬場ノおとど」 花鳥餘情「おとどハ、おとどやト云フモノ也、乙殿屋トテ、左右ノ馬場ニアリ、五月ノ騎射ノ時、中、少將ノ着座スル所」

也」今昔物語、廿四、三十六語「右近ノ馬場ニ、五月六日、弓行ヒケルニ、在原業平ト云フ人、中將ニテアリケレバ、大臣屋ニ着キタリケルニ」

おと-な (名) 〔大人〕〔大人成ノ約略、旅人、たびと。大成、おきな。(翁)大女成、おみな。(嫗)小女成、をみな。(女)項後、うなじ。禮代、ゐやじ〕(一)人ノ、十分ニ成長シタルモノノ稱。天武紀、上二「及壯擬拔」枕草子、六、五十一段、はるかなるもの「生レタル乳兒ノ、おとなニ成ルホド」醫心方、十一、廿五丸「大人服卅丸、小兒百日以還、三丸」(二)往時ハ、男子十五歲前後ニ元服ス。コレヲ、人となる、おとなに成るト云フ、一人前ニ成レリトシテ、責任ヲ負フコト、大人ニ等シカリキ。源、一、桐壺三十「おとなになりタマヒテ後ハ、アリシヤウニ、御簾ノ内ニモ入レタマハズ」(幼者ノ、元服シタルナリ)(三)長。頭。國司ノ類。專(女中頭)ノ類。後世ハ、大小名ノ家老、宿老、年寄ノ類。蝦夷ノ酋長ヲ、おってなト云フ。枕草子、三、廿八段「若キ人ト兒ハ、肥エタル、ヨシ、受領ナド、おとなダチタル人ハ、太キ、イトヨシ」源、五十一、蜻蛉三十五「辨ノ御許トテ、馴レタルおとな」住吉物語「侍從(女ノ名)ハ、おとな女ニテ、ヨロヅニ六事ノ人ニテ」林逸節用集「宿老」(四)長崎ニテ、町役人ノ名、乙名ト記ス。一町ニ一人ヲ置キ、町内百般ノ事ヲ司リ、月行事ヲ立テ勤メ、長崎奉行ニ屬ス。

おとな-おとな・し (形) 〔老成〕 次次條ノ(一)ヲ見ヨ。

おとな-げ (名) 〔大人氣〕 大人ニテアル氣象。老成。沙石集、六、下、十四條「おとなげ無ク、彼レヲ擊タムトシテ、倒レテ侍リツル、云云」

おとな・し・シキ・シケレ・シク・シク (形、二) 〔老成〕〔大人ヲ活用ス、男男し、女女し、稚子しナド、同趣ナリ〕(一)成人ビタリ。ネビタリ。マセタリ。重ネテ、おとなおとなしトモ云ヒテ、意ヲ強クス。(子子しト云フ語モアリ) 源、十四、澪標「十一ニナリタマヘド、程ヨリ大キニ、おとなしう、清ラニテ」平家物語、二、少將請受事「我ガ身ノ、年ノユクヲバ歎カズシテ、偏ニ君ノ、おとなしうナラセタマフ事ヲノミ喜ビ」今鏡、下、第十、敷島のうちぎき「子ノ、ヤウヤウおとなしくナリテ、ホトトギス啼キケレバ」(鶯ノ、時鳥ノ子ヲ育テタルナリ)宇津保物語、嵯峨院三十「イトメヤスク裝束キテ、上リタマヘリ、容モイトおとなおとなしくテ、淸ゲナリ」(二)氣質落チツキテ、穩カナリ。スナホナリ。穩當ナリ。溫順 (三)宿老ラシ。(おとなノ條ノ(三)ヲ見ヨ) 大鏡、上、花山院「サルベクおとなしき人人、何ガシ彼ガシト云フ、イミジキ源氏ノ武者タチヲコソ、御送リニ副ヘラレタリケレ」曾我物語、九、館館の前にて咎めらるる事「其中ニ、おとなしき雜式、歩ミ出テ」

おとな-じ・みる・ミル・ミレ・ミ・ミ・ミヨ (自動、上二) 〔大人染〕 オトナブ。少年ニテ、大人メク。

おとなし-やか-に (副) 〔老成〕〔形容詞ノ終止形ナル、老成しニ、副詞ノ接尾語ヲ添ヘタルナリ、可笑しやかになどモアリ〕(一)大人ラシク。オトナビテ。保元物語、三、義朝幼少弟悉失事、十三歲ノ乙若、死ニ臨ミテ「爲義入道ノ子共ヨト、人人ニ指ヲササレムハ、家ノ爲ニモ恥辱ナリ、云云、トおとなしやかに宣ヘバ」(二)落チツキテ。穩當ニ。平治物語、一、光賴參內事「蒔繪ノ細太刀ヲ、おとなしやかに佩キタマヒ」

おとなひ (名) 〔響〕 オトナフコト。音ノ發ッコト。ヒビキ。源、二、帚木三十五「衣ノおとなひ、ハラハラトシテ」同、十八、松風廿一「水ノおとなひ、カゴトガマシウ聞コユ」

おとなひ (名) 〔訪問〕 オトナフコト。トブラヒ。見舞。新勅撰集、十六、雜、一「梅壺女御、參ノボリ侍リケルおとなひヲ、ヨソニ聞キ侍リテ」

おとな-び・る (動) おとなぶノ口語。

おと-な・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (自動、四) 〔響〕〔なふハ、行ふ意、自動詞トナル、寇なふ、幣なふ(賄)〕音、發ツ。ヒビク。神代紀、下廿一「喧響、此云二淤等娜比一」景行紀、十二年九月「山谷響聚」十訓抄、上、第一、四十三條「遣水、心ボソクおとなひタリ」

おと-な・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (自動、四) 〔訪問〕〔前條ノ響ふト同ジ、人家ノ門ニものまうノ聲ヲ發スル意ナルベシ〕おとづるニ同ジ。人ノ家ヲ訪フ。ミマフ。源、四十八、寄生七十一「コノワタリニおとなふ時アラム、云云、マダ、ココニ、サシハヘテハ、おとなはズ侍ルメリ」兼澄集「戀ヒツツモ、古屋ノ端ノ、忍草、忍ブルホドニ、おとなふヤ誰レ」

おとな・ぶ・ブル・ブレ・ビ・ビ・ビヨ (自動、上二) 〔大人振〕〔おきなぶノ條ヲ見ヨ〕大人ラシクナル。源、十、榊三十一「御年ノ程ヨリハおとなび、ウツクシキ御サマニテ」同、二十一、少女二十一「子ノおとなぶるニ、親ノ立チ代リ、痴レユクコトハ」

おとな-め・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (自動、四) 〔大人風〕 おとなじみる(大人染)ニ同ジ。

おと-ね (名) 〔乙子〕〔季ノ子ノ義、初子ニ對スル語〕正月ノ、下ノ子日。宇津保物語、國讓、下四十二「姬松ハ、おとねノ限リ、數ヘツツ、千歲ノ松ハ、見ズト知ラナム」同、藏開、下五十二「大將殿ニハ、廿七日ニ出デキタルおとねニナム、嵯峨ノ院ニ、御賀參ラムトシタマヒケル」

おと-は-やき (名) 〔音羽燒〕〔音羽ハ、京都、淸水ノ音羽山〕淸水燒ニ同ジ。生玉心中(正德、近松作)上「錦手、乾山、音羽燒ノ、皿ノ、鉢ノ」

おと-ひ (名) 〔弟日〕〔弟相ノ約、(夜モ、夜聞ノ約)今モ、夫婦あひノ語アリ〕兄弟。又、姉妹。後ニハ、おとひト云フ。顯宗卽位前紀「弟日僕是也、云云、拜譽尊御裔僕是也」(兄億計王舞ヒ、弟弘計王歌ヒタマヒテ後ノ、弘計王ノ御言ニテ、御一身ノミ御裔ト宣フベキニアラズ) 萬葉集、一廿六「霰打、安良禮松原、住吉ノ、弟日娘ト、見レド飽カヌカモ」(姉妹ノ少女) 今物語「待賢門院ノ堀川、上西門院ノ兵衞、おとといナリケリ」(姉妹) 十六夜日記「おとうとノ尼、上ニモ、文タテマツルトテ、云云、程經テ、コノおととひ二人ノ返言、イトアハレニテ、見レバ、あね君(歌)」十訓抄、中、第七、十七條「堀川院ノ御時、おとといニテ、家綱、行綱ト云フ陪從アリ」(兄弟)

おと-ひと (名) 〔弟人〕 おとうと。弟ナル人。オトト。弟 雄略紀、廿三年八月「心懷二悖惡一、行闕二友于一」

おと-ひめ (名) 〔弟姬〕〔乙姬〕〔兄姬ニ對ス〕(一)弟ナル姬。妹ノ條ヲモ見ヨ。古事記、中(開化)廿四「弟比賣命」皇極紀、三年正月「長女、少女」(二)年若キ姬。倭姬命世記「其稻大幡主女子乙姬、淸酒ニ作」(三)俗ニ、龍宮ニ住メリト云フ少女ノ稱。萬葉集、九十八、浦島子ノ長歌ニ「海若ノ神ノ女」トアルナド、是レナルベシ。

おとひめ-の-かんざし (名) 〔乙姬簪〕 うみやなぎノ條ノ(二)ヲ見ヨ。

おと-ほね (名) 〔音骨〕〔ほねハ、ほねをりノ略ナラムカ〕聲。菅原傳授手習鑑(延享、竹田出雲)二「おとほね立テナト、宿禰ガ下着、褄先、口ヘ押込ミ」

お-とほり (名) 〔御通〕 (一)通行スルコト、行キ過グルコトノ敬稱。謠曲、蟻通「今少シ先ヘ、お通りアレ」御神輿ノおとほり」(二)目通ノ略、敬語。狂言記、雁かりがね「イツハ下

サレネドモ、又竜ハ勿論ノタトヘナルオトニ、二三蔵ヅツ給ベテ」(溺見ノ歪) 故實拾葉、附錄(享保)「御流レ存候之事、御とほり之事」

おとま・し (形) 疎レノ質、嫌ハシ。狂言記、算勘袋「ヤア、コレハ乙御前ヂャ、ナウナウ、おとましヤおとましヤ」 おあん物語(慶長)「誰レトモナク、男女三十人ホトノ聲ニテ、云云、泣ク聲ガ、夜ナ夜ナシテオジャッタ、おとましヤおとましヤ、オソロシウオジャッタ」

おと・み・づはり (名) 「おとみハ、弟見ノ義」 小兒ノ病ノ名。乳兒アル母ノ、弟兒ヲ再胎シテ、悪阻トナレルヨリ、兒、乳離シテ悲ルモノ。(倭訓栞、後編) 魃

〜おと・みみ (名) 音耳 人ノ音信ト、我ガ耳ト。 大和物語、下「シバシハ、ココ、カシコ求ムレドモ、おとみみニモ聞コエズ」

おと・みや (名) 弟宮 妹ノ姫宮。又、弟ノ男宮。 大鏡、ト、道長、おと宮ノ、産養ヲ、姉宮ノ、シタマフ見ルゾ、ウレシカリケル」

おと・みやみ (名) 「おとみづはりヨリ起レル語ナルベシ」 病ノ名。脾疳ニ同ジ。

おど・む・ム・メ・マ・ミ・メ (自動、四) 淀 「よどむノ轉、致す、よさす。水押、(紬)みよし」 淀む。水中ノ塵芥、底ニ沈ム。沈澱

〜おと・むすめ (名) 弟娘 (一)弟ノ女。季子ノ女。季女 神武即位前紀ニ「母曰三玉依姬ハ海童之小女也」安寧即位前紀「母曰三五十鈴依媛命、事代主神之少女也」 (二)年若キ娘。少女 催馬樂、我門爾「アヤメノ糾ノ、大領ノ、愛女ト云ヘ、於止年須女トコソ云ハメ」

おと・や (名) 乙矢 いちのやノ條ヲ見ヨ。 著聞集、九、弓箭「源三左衞門尉、翔來リ、云云、おとやニテ、又後ノ串ヲ射テケリ」

〜おと・よめ (名) 弟嫁 (一)弟ノ妻。おほよめ(大嫁)ノ條ヲ併セ見ヨ。弟婦 倭名抄、二九「娣婦、於止與女」 (二)年若キ婦。倭名類聚、重種ニ「…ノ於止與女、謂二市…シャラシモー」

おと・ら・ま・ヤ (名) 御無用ノ條ヲ見ヨ。

〜おとり (名) 劣 オトルコト。品格ノ、クダリタルコト。 竹取物語「人ノ心ザシ均シカムナリ、イカデカ中ニ、おとりマサリハ知ラム」 源、四十九、東屋「…狀貌ニ、様ヲカシウ、華輪、鏡鋼ノ細ヤカナル心バヘ優リテ見ユル物ヲバ、此ノ御方ニ取リ容シテ、おとりノヲ、コレナム良キトテ見スレバ」

おとり・こし (名) 御取越 「一箇月前ニ取越しテ行フ意」 俗家ニテ、十月ニ修スル、一向宗ノ報恩講。

⁂おとり・さま (名) 御酉樣 酉祭ヲ、丁寧ニ云フ語。(東京)

〜おとり・ばら (名) 劣腹 妾腹ノ子。メカケバラ。外借腹。庶生 庶子 源、十四、澪標ヒ「中ノおとりばらニ、女ハ出デ來タマウベシ」 同、廿九、行幸廿「聞ケバ、彼レモおとりばらナリー」

〜おと・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 劣 「落つるヨリ移リタル語ナルベシ、落すトモ云ヒ、とづく、とどく(屆)モアリ」 品格、他ヨリ落チテ、及バズ。優ラズ。 佛足石歌「我レニ於止禮留、人ヲ多ミ」 名義抄「劣、オトル」 古今集、二、春、下「散ル花ノ、泣クニシ留マル、モノナラバ、我レ鶯ニ、おとらマシヤハ」

〜おと・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 損 「前條ト同意ナルベシ」 費ユ。減ル。損耗トナル。 皇極紀、三年七月「棄捨珍財、都無所益、損費極甚」 天治字鏡、十二「費、散財也、損耗也、亡失也、減少也、於止禮利」 名義抄「減、オトル」

おどれ (代) 己 「おのれノ轉、のろ、(鈍)とろ。(瀞)のらねさ、どらねさ」 對稱ノ代名詞。罵リ呼ブニ用キル。ウヌ。 狂言記、花子「ヤイおどれサヘ、花子樣トヌカスカ」(姑妻

〜お・どろ (名) 荊棘 「…ニツキニ云ヘル語」 ヨリ、荻ニ、…ノ…おほむ、おどむ。(拜)はだれ、まどろ(斑)」 荊棘ナドノ、亂レ繁リテ、生立チタル地。藪。(丹波ニテ、柴ヲおどろト云ヒ、駿河ニテ、竹枝繁ヲおどろばうきト云フ) 字鏡…、…、於止呂」 名義抄「蒺藜、オドロ」 同、雜部「棘、オドロ」 新古今集、十七、雜、中、後鳥羽院「奧山ノ、おどろガドモ、踏ミワケテ、道アル世ゾト、人ニ知ラセム」 風雅集、十五、雜、上、初草八、下ニ萌ユレド、片岡ノ、おどろガ上ノ、雪ハ消ナクニ」

〜おどろ・おどろ・し・シキ・シケレ・シク・シク (形、二) 驚驚 おどろしノ條ヲ見ヨ。

おどろかし (名) 驚 〔鳥雀ノ來リテ作物ヲ啄ムヲ、引鳴ラシ驚かしテ追フ名ナリ〕 (一)引板。鳴子。 後撰集、十四、戀、六「小山田ノ、おどろかしニモ、來ザリシヲ、イトひたふるニ、逃ケシ君カナ」〔一向ニ、引板振るヲカク〕 (二)鳥威。案山子。 奧義抄、下、上「そほづトハ、田ニ、おどろかしニ立テタル、人形ナリ」 八雲御抄、三、上、地儀、田「そほづ、おどろかしナリ」

〜おどろか・し・シキ・シケレ・シク・シク (形、二) 驚 〔驚くノ未然形ノおどろかヲ、形容詞ニ活用セシム、齊く、いつかし(嚴)ノ例〕 驚クベシ。おどろし。オソロシ。 宇津保物語、俊蔭上「帝、聞ドモ試ミタマフニ、おどろかしき聲出デテ、驚キタマヒテ」 枕草子、九、百十段「空木垣根ト云フモノノ、イト荒荒シウ、おどろかしゲニ差出デタル枝ドモ」

おどろか・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) 驚 〔次次條ノ語ノ、驚くノ他動、うごく、うごかす〕 (一)他ヲ驚クヤウニス。オドス。オドカス。 (二)眠ヨリ起ス。目ヲ覺メサス。 驚醒 新古今集、五、秋、下「小山田

ノ、…、…ノ…ニ、おどろかさレテ、…、…、…ハ、…ナガ…、…テおどろかさムズラムト待チ居タルニ、…ノ、…シ候ハム、おどろかせタマヘト云フヲ、云云」 (三)氣ヅクヤウニス。注意セシム。 警 …、中、…、…ノ山、…、…セタマヒテ入ラセタマヒニケルヲ、急ギテ御…セト侍リツルモノヲト思ヒテ、おどろかし申サレケレバ」

おどろき・い・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 驚入 深ク驚ク。 狂言記、腰祈「サテモサテモ、奇特千萬、おどろきいりマシテゴザル」

〜おどろ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (自動、四) 驚 「おどハ、おぢ(怖)ノ轉ナルベク、(一昨日、をとつひ)ろくハ、動搖スル意、かびろく、そぞろく、同ジ」 (一)俄ニ思ヒノ外ナル事ニ遇ヒテ、心騷グ。ビックリス ル。 字鏡「…、…也、於比由、於止呂久」 古事記、上「…佐之男命、天ニ上リタマフ時、山川悉動、國土皆震、爾天照大御神、聞驚」 神代紀、上八「…而走還」 (二)眠レルヨリ、覺ム。目ヲサマス。 驚醒 …仁…、九年十月「天皇…、皇后…云云、天皇…」 …集、…ノ…ハ、…シカリケリ、…、…ヲ…レドモ、手ニモ觸レネバ」 源、五、若紫…「マダおどろいタマハジナ、イデ御目サマシ聞コエム」

〜おどろ・し・シキ・シケレ・シク・シク (形、二) 驚 おどろくノ語根ヲ、形容詞ニ活用セシム、(くやむ、くやし)或ハ、おそろしノ音通カ、神代紀…「…」 …「…」 …おそろしヲ、おどろしト云フ(倭訓栞)」 驚クベシ。おどろかし。オソロシ。重ネテ、おどろおどろしトモ云ヒテ、意ヲ強ム。 …

十四、寶龜七年四月、宣命「其人等ノ、和ミ安ケミ爲ベク相言ヘ、驚呂之岐事行ナ爲ソ」源、二、帚木、六十「目ニ見エヌ鬼ノ顏ナドノ、おどろおどろしく作リタルモノハ」枕草子、五、五十段「搔キクラシ雨降リテ、雷モおどろおどろしう鳴リタレバ、物モオボエズ」蜻蛉日記、上、下八「幼キ人、云云、おどろおどろしう泣ク、コハ、ナゾナゾト云ヘド、イラヘモセデ」

おどろ・しい (形) [恐怖] おそろしニ同ジ。關西ノ語。(倭訓栞)

おどろのかみ (名) [蓬髮] 〔荊棘ノ如キ意〕打チ亂レタル髮。爲忠集「今日ゾトテ、倭文布織リシ、山賤モ、おどろの髮ニ、葵カケタリ」字類抄「蓬頭、オドロ」

おどろのみち (名) [棘路] 「字ノ文字讀、九棘ノ條ヲ見ヨ」公卿ノ異名。風雅集、十五、雜、上、家隆「タラチネノ、跡ヤ昔ニ、荒レナマシ、おどろの道ノ、春ニ逢ハズバ」新千載集、十六、雜、上「祈ルゾヨ、おどろの道ノ、春雨ニ、フリニシ代代ノ、同ジ惠ヲ」

おどろ・ふ・フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ (自動、下二) [衰] 〔うつろふ(移)ノ轉、うだく、おだく。(動)あつらふ、あとらふ(誂)〕勢減ヘリ行ク。次第ニ弱ル。劣リユク。衰微ス。神代紀、下、十二「落薄鉤」私記「於止呂倍知」(落薄ヘ、落魄ニ同ジ) 名義抄「憔悴、オトロフ」「力衰ふ」「鶯衰ふ」「色衰ふ」

おどろへ-は・つ・ツル・ツレ・テ・テ・テヨ (自動、下二) [衰果] オトロヘ極マル。イタクオトロフ。衰殘 狂言記、塗師平六「都ニテ見シ時ヨリハ、おどろへはてタル無殘サヨ」

おと-をぢ (名) [叔父] 〔えをぢニ對ス〕父ノ弟。仲哀紀、二年正月「叔父」字鏡「阿叔、父弟、乙乎地」

おない-どし (名) [同年] 〔おなじとしノ音便〕年齡ノ、相同ジキコト。同庚

お-なか (名) [御中] (一)食事ノ、女房詞。(倭訓栞) 大上﨟御名之事、女房詞「いひ、云云、おなか」(二)婦人ノ語ニ、腹ノ中。福富草紙(室町時代)「腹ヲおなか、小袖ヲべべ」

お-ながれ (名) [御流] (一)君公ヨリ、群臣ニ酒ヲ賜ハルニ云フ語。自身ノ盃酒ノ餘瀝ヲ銚子ニ移シ、更ニ加ヘノ酒ヲ增シテ、遍ク飲マシム。視聽草(天保)二集、八、慶長年中御獻立留書「正月元旦御祝之次第、云云、諸大夫衆、御ながれ被レ下、云云」(古事類苑) (二)轉ジテ、スベテ、棄物ヲ賜ハルコト。オスベリ。オシタ。(三)事ノ、成立タズシテ、スタリトナルコト。「相談、お流ニナル」

おな・じ・ジキ・ジケレ・ジク・ジク (形、二) [同] 〔おやじ(同)ノ轉、いな、いや。(否)あなにく、あやにく(生憎)〕(一)おやじ。異しノ反。彼レト此レト、異ナラズ。ヒトシ。萬葉集、十八、五十「月見レバ、於奈自國ナリ、山コソハ、君ガアタリヲ、隔テタリケレ」アシビキノ、山ハ無クモガ、月見レバ、於奈自伎里ヲ、心隔テツ」(二)變ハラズ。元ノ狀ニアリ。孝德紀、大化三年四月、詔「惟神我子應レ治故寄、是以與二天地之初一、君臨之國也、自二始治國一皇祖之時、天下大同、都無二彼此者一也」

おなじく (接) [同] 幷ビニ。及ビ。謠曲、經政「コトニ又、彼青山ト云フ琵琶ヲ、亡者ノ爲メニ手向ケツツ、同じく糸竹ノ、聲モ佛事ヲナシ添ヘテ、日日夜夜ノ法ノ門、貴賤ノ道モ普シヤ」

おなじくゑ (接) [同] 同ジ事ナラバ。枕草子、五、五十段「一ツハ何セム、おなじうゑ、數多ヲツカウマツラム」後撰集、三、春、下「アタラ夜ノ、月ト花トヲ、おなじくゑ、心知レラム、人ニ見セバヤ」

お-なで (名) [御撫] はうき(帚)ノ婦人語。

お-なんど (名) [御納戸] (一)納戸ノ敬稱。貴族ノ奧向ナドニテ、衣裝ヲ整フル所。(二)染色ノ名。藍ノ、ねずみいろヲ帶ビタルモノ。御納戸ノ所用ナドヨリノ名ナルカ。神代餘波(齋藤彥麿)「御納戸染トイヘルハ、花色ノ黑ミアル色ナリシヲ、近キ頃ハ、空色ト淺黃トノ間色ニテ、匂ヘルヲイヘリ」

お-なら (名) [屁] 〔ならハ、鳴ノ義〕放屁ノ、婦人語。舊、今昔物語、廿八、第十語「武員、僧正ノ御前ニ蹲リテ、久シク候ヒケル間ニ、錯リテ、イト高ク鳴らシテケリ」福富草紙(室町時代)「腹ヲおなか、放屁ヲおなら」安永ノ川柳「弘法モ、一村おなら、封ジコミ」(讃岐、善通寺ノ弘法大師ノ芋石)

お-なり (名) [御成] 〔成るノ條ヲ見ヨ〕出デ行クコトノ敬語。宮方、攝家、將軍、公方ニ云フ。長祿二年以後申次記「正月二日、管領ヘ年始ノ御成始在レ之、同、上樣モ御成候也」(古事類苑)

おに (名) [鬼] 〔倭名抄、二十三「四聲字苑云、鬼、於爾、或說云、隱字、音於爾訛也、鬼物隱而不レ欲レ顯レ形、故俗呼曰レ隱也、人死魂神也」トアリ、是レ支那ニテ、鬼ト云フモノノ釋ニテ、人ノ幽靈、(倭名抄ニ「鬼火、於邇比」トアル、是レナリ)即チ、古言ニ、みたま、又ハ、ものト云フモノナリ、然ルニ又、易經、下經、睽卦ニ「載二鬼一車一」疏「鬼魅盈レ車、怪異之甚也」史記、五帝紀ニ「螭魅」註「人面、獸身、四足、好惑レ人」論衡、訂鬼編ニ「鬼者、老物之精者」ナドアルヨリ、恐ルベキモノノ意ニ移シタルナラム、おにハ、中古ニ出來シ語トオボシ、神代紀ナドニ、鬼ト訓ジタルハ、追記ナリ〕(一)〔恐ルベキ形ヲナシテ、隱顯常ナラズ、人ヲ害シ、人ヲ食フト云フ怪物ノ名。神代紀、上、十八「用レ桃避レ鬼」私記「於爾乎不世久」景行紀、四十年七月「郊有二姦鬼一、遮レ衢塞レ徑、多令レ苦レ人」欽明紀、五年十二月、佐渡ノ嶋ニ粛愼人來ル「言レ非レ人也、亦言二鬼魅一、不二敢近一之」齊明紀、七年八月「於二朝倉山上一有レ鬼、著二大笠一、臨二視喪儀一」出雲風土記、大原郡、阿用鄕「目一鬼來而、食二佃人之男一」(二)〔物ニ隱レタル女。(隱)妻ヲ云フニヤ〕伊勢物語、五十八段「宮ニ、女ドモノ隱レタルヲ「葎生ヒテ、荒レタル宿ノ、ウレタキハ、カリニモおにノ、集クナリケリ」拾遺集、九、雜、下、黑塚ト云フ所ニ、重之ガいもうと數多アリト聞キテ「陸奧ノ、安達ガ原ノ、黑塚ニ、おにコモレリト、聞クハマコトカ」(三)後ニ、繪ニ書ク鬼ト云フハ、人ノ形ニテ、牛角、虎牙アリ、裸體ニテ、腰ニ虎皮ヲ絡ヒ、相貌獰惡ニシテ、怪力アルモノトス、佛經ニ云フ、夜叉ナリ。(丑寅ノ維ヲ、鬼門ト云フニ因リテ、牛ト虎トニ取合セタル意匠ナリト云フ) 羅刹 夜叉 著聞集、十七、變化「鬼ハ物云フコトナシ、其形、身ハ八九尺バカリニテ、髮ハ夜叉ノ如シ、身ノ色赤黑ク、眼圓クシテ、猿ノ目ノ如シ、皆裸ナリ、身ニ毛生ヒズ」(四)勇猛ナル者ノ稱。「鬼武者」鬼將軍」鬼柴田」(勝家)鬼小島」(彌太郎)(惡源太(義平)、惡七兵衞(景清)ナドモ、此意ナリ)(五)無慈悲ニテ、酷キ者ノ稱。「鬼婆」心、鬼ノ如シ」(六)鬼事、隱遊ビナドニ、人ヲ捕フル役目ノ者。(七)俗ニ、借金取ノ異名。債鬼 川柳「元日ヤ、昨日ノおにガ、禮ニ來ル」(八)草木ナドノ、異形ナルモノヲ稱スル語。「おにワラビ」おにドコロ」おにアザミ」

おに (名) [鬼] 鬼食、鬼飲ノ略。おにくひノ條ヲ見ヨ。

おに-あさ (名) [鬼麻] いらくさニ同ジ。

おに-あざみ (名) [鬼薊] やまあざみニ同ジ。

おに-あは (名) [鬼粟] (一)おほあはノ一種。長大ニシテ、穗、長ク、粒、粗シ、芒ニ、

赤、黒、ノ二種アリ、[illegible]、[illegible]モ食ヒ難シトテ、猶不食ノ名モアリ。(二)又、おほあはノ一名。

おにいた (名) [鬼板] 〔鬼瓦ニ代ハル板ノ意ト云フ〕 屋根ノ上、棟木ノ兩端ヲ覆フ板。凸字形ニ作リ、彫刻ナドス。紙上蜃氣「鴟物、俗ニ云、鬼板、又云、鬼瓦」

おにうちまめ (名) [鬼打豆] おにやらひノ條ヲ見ヨ。

おにうつぎ (名) [鬼空木] どくうつぎ(毒空木)ニ同ジ。

おにおに (名) [鬼鬼] おにごとニ同ジ。

〜おにおに・し (形) [鬼鬼] おにし(鬼)ノ條ヲ見ヨ。

おにがしま (名) [鬼島] 昔、夜叉ノ住ミシト云フ島ノ名。薩摩海ノ島島ヲ云ヒ、或ハ、琉球ヲモ云ヘルガ如ク、鬼界ガ島ト云フモ、是レナラム。今、沖繩、及、大隅ノ大島ニ、鬼退治ノ傳說多シト云フ。先住民ナルベク、吠人種ナルベシ。保元物語、三、爲朝鬼島渡事「南海ノ島ニ渡リ「島ノ名ヲ問ヒタマヘバ、鬼ガ島ト申ス」 盛衰記、七、俊寛成經等移二鬼界島一事「薩摩潟トハ、總名也、鬼界ハ、十二ノ島ナレヤ、五島、七島ト名附ケタリ、端五島ハ、日本ニ從ヘリ」

おにかは (名) [鬼皮] 栗ノ實ノ皮。極メテ堅ク、色、黯黑ニシテ、滑ラカナルモノ。(其內部ノあまかはニ對ス)

おにがはら (名) [鬼瓦] 〔河伯面トテ、水神ナリト云フ(松屋筆記、二)〕 屋根ノ棟ノ兩端ニ置ク、大キナル瓦ノ名。夜叉ノ面ナドニ作ル。瓦獸 鴟吻 紙上蜃氣「鴟物、俗ニ云、鬼板、又云、鬼瓦」

〜おにかみ (名) [鬼神] 〔漢語、鬼神ノ訓讀ナルベシ〕 荒ク恐シキ神。鬼神。古今集、序「目ニ見エヌおにかみヲモ、アハレト思ハセ」 源、二、帚木「イトヤハラカニ宣ヒテ、鬼神モ荒立ツマジキ御ケハヒナレバ」

おにがらやき (名) [鬼殼燒] 〔鬼殼ハ、堅キ意、(栗ノ鬼皮ト、同意)殼グルミニ調ズルニ因リテ、此名アリ〕 料理ノ名。伊勢蝦ヲ、鹽ヲ加ヘタル熱湯ニテ茹デ、殼ノママニテ、竪ニ二ツニ切リオキテ、別ニ味醂七勺ヲ五勺ニ煮詰メ、醬油四勺ヲサシタル汁ヲ作リテ、蝦ノ身ニ小匙ニテ二杯カケテ、金網ノ上ニテ燒キテ、又、汁ヲカケテ成ル。料理早指南大全、初編「海老、鬼から燒、二ツニ割テ、頭ヨリ醬油サシテ燒クナリ」

おにきり (名) [鬼切] 鬼丸ト共ニ、源氏ノ嫡流ニ傳フル寶刀ノ名。新田義貞、討死セル時、足利高經ニ獲ラル。太平記、十六、新田殿湊河合戰事「義貞ハ、云云、鬼切、鬼丸ト云フ、多田滿仲ヨリ傳ハリタル、源氏重代ノ太刀ヲ二振、帶シタリケルヲ」

おにぐこ (名) [鬼枸杞] 灌木。枸杞ノ條ヲ見ヨ。

おにくひ (名) [鬼食] 〔禁中ニテ、元旦ニ、屠蘇ヲ供御ニ奉ルニ、藥子、鬼間ヨリ出デテ先ヅ試ミマヰラスルナリ、鬼食、鬼飲ノ語、コレヨリ起ル、くすりこ、おにのまノ條ヲ見ヨ〕 食物ノ、毒試スルコト。酒、湯ナルヲ、鬼飲ト云フ。共ニ略シテ、鬼トノミモ云フ。(鬼取役ノ條ヲ併セ見ヨ) 四季物語、六月「鬼食ヲサセテ、宮內卿ヲシテ參ラスレバ」 鎌倉年中行事、上「御盃、云云、先ヅ鬼呑ヲイタシテ、云云」 同卷「御湯ヲモ、常來ノ座ノ、御前ヨリ見ユル所ニテ、鬼飲ヲシテ持參、云云」 今川大雙紙、下、[illegible]人ノ[illegible]ニ、[illegible]ルコト、[illegible]ノ[illegible]バ[illegible]、[illegible]ノソバヲ取レベシ」 [illegible]代ノ記[illegible]、[illegible]內[illegible]記「鬼ヲシテ上ゲラレベシト申サレ、云云、政宗ホドノ者ガ、御成ヲシテ、自身御膳ヲ上グル上ハ、おにドコロニテハナシ、云云、日本ノ神カケテ、毒ナドヲ以テ殺シ奉ツルベシトハ、ユメユメ思ハズ」

おにこ (名) [鬼子] (一)胎兒ノ、齒ノ生ヒテ生レタルモノ。[illegible]草(慶安、貞德)ニ「日本ハ、オロカナル風俗アリテ、齒ノ生エタル子ヲ生ミテハ、鬼子ト云ヒテ殺シヌ、云云、アタラコトニテ侍レ」 (二)親に似ぬ子は鬼子ト云フハ、人ノ子ニアラズノ意ナルベシ。然ルニ、枕草子、三、廿七段ニ「蓑蟲、イトアハレナリ、鬼ノ生ミタリケレバ、親ニ似テ、コレモオソロシキ心地ゾアラム」トアリ、藻鹽草、十二ニ「鬼の子、是レ蓑蟲ノ事」ト見ユルハ、卽チ、枕草子ヨリ出デタル語ナリ、是レ等ヲ誤リテ「親に似ぬ子」ト云フニモアラムカ、鬼ト蓑蟲トハ、似テモ似ツカヌモノナレバナリ。虛栗(貞享、其角)「親ハ鬼、子ハ口惜シキ、蓑蟲ヨ」

※おにごっこ (名) 〔かけっくらノ條ヲ見ヨ〕 次條ニ同ジ。(東京)

おにごと (名) [鬼事] 〔ひふくめノ條ヲ見ヨ〕 小兒ノ戲。一人、鬼ト云フ者アリ、群兒ヲ追ヒテ捕フ、捕ヘラレタル者、又、鬼トナル。代ル代ル、此クノ如クス。東京ニテ、オニワタシ。オニゴッコ。京都ニ、ツカマヘボ。大阪ニ、ムカヘボ。仙臺ニ、オニオニ。(物類稱呼、五)

おにころし (名) [鬼殺] (一)田舍酒ノ稱。葛原詩話、四「俗ニ、村店ノ薄酒ヲ、鬼ころしト云フ」(惡醉スルナドヨリ云フカ) (二)烟草ノ、氣ノ、[illegible]。

おにし (名) [illegible] 一[illegible]、[illegible]ヲ呼ブ、[illegible]、[illegible]御東ト云フ。

〜おに・し・シキ・シケレ・シク・シク (形、二) [鬼] 〔大人しきノ類〕 鬼ノ如シ。暴ク、オソロシ。[illegible]ネテ、おにおにしトモ云ヒ、[illegible]ヲ強ム。[illegible]、[illegible]ニヤアラム、云云、[illegible]ノヒタブルナラムヨリモ、[illegible]におにしき人ノ、追ヒ來ルニヤト思フニ、セムカタナシ」 同、三十八、[illegible]「ラウタゲニモ[illegible]ナ、イトおにおにしう侍ルサガナモノヲ」

おにしだ (名) [鬼齒朶] 草ノ名。[illegible]ノ形ニシテ、闊ク大キク、厚ク光ル、葉ハ互ニ莖ニ排生ス、葉ノ闊、上ニ向フ、[illegible]邊ニ小支稜アリ、冬ヲ經テ凋マズ、秋、葉ノ背ニ金星ヲ生ズ、卽チ、花ナリ。

おにしば (名) [鬼芝] しば(結縷草)ノ條ヲ見ヨ。

おにしぼり (名) [鬼絞] 大形ノしぼりぞめ。

おにしやうぐん (名) [鬼將軍] 極メテ強キ將軍ノ稱。

おにたで (名) [鬼蓼] いぬたでノ(二)ニ同ジ。

おにだひ (名) [鬼鯛] たひのむしげんばちニ同ジ。

〜おにどころ (名) [鬼野老] 山野ニ多シ。蔓、葉、共ニ、やまのいもニ似テ、互生ス、夏、葉ノ間ニ穗ヲ出シテ、六瓣ノ細小花ヲ開ク、後、五六分ノ莢ヲ結ブ、根ハ、ところニ似テ小サク、苦クシテ食

フベカラズ、鬚ヲ連ネテ乾シテ、春盤ノ具トシ、所領ノ義ニ取リテ祝ス。一名、きどさろ。山草薢　本草和名、上廿九「萆薢、於爾止古呂」

おに-どりやく（名）【鬼取役】〔鬼食ノ條ヲ見ヨ〕徳川氏ノ初世ニ、將軍ノ膳部ノ毒試ヲスル役目。後ニハ、膳奉行ト云ヘリ。東照宮御實紀、附錄、十四「供御閙コシメスニ、おにどりノ役ヲ立テ置カレ、後後マデモ、三河以來譜代ノ者モテ、其役ニ充テラル、云云、おにどり役トハ、今ノ世ノ御膳奉行ナリ、寛永、寛文ノ頃マデハ、カク唱ヘシナリ」

おに-に-かなぼう（句）【鬼金棒】鬼ニ、金棒ヲ持タスルコト。强キニ、勢ヲ添フルコト。史記抄（文明）十八、三十「勢ヲ得レバ、鬼にかなざい棒ゾ」吾吟我集（慶安）七「軒ニ葺ク、瓦ヲトメテ、刺ス釘ヤ、手ヅヨク見ユル、鬼にかな棒」

おに-の-くび（名）【鬼首】大手柄ヲシタリト云フ意ヲ、「鬼の首ヲ取ッタヤウニ思フ」ト云フ。

おに-の-つぶて（名）【鬼礫】石ノ名。いはつぼノ（二）ニ同ジ。

おに-の-ねんブツ（名）【鬼念佛】非道ナル者ノ、上ベニ慈悲ヲ唱フルコト。大津繪ナドニ、鬼ノ寒念佛ヲ圖スル、是レナリ。

おに-の-ま（名）【鬼閒】〔御臺盤ヲ捧ゲテ此室ノ障子ニ入ルホドニ警蹕シ、おおト云ヒ、おんト云フ、おんの閒ノ轉ト云フハ、附會ナラム〕清涼殿ノ中ニアル室ノ名。壁ニ、夜叉ノ畫アリ。禁祕御抄、上、鬼閒「南壁、白澤王切レ鬼繪」

おに-の-まゆはき（名）【飛廉】〔刺アレバ鬼ト云ヒ、枲アレバ眉拂ト云フカ〕ソソキ。フホホテグサ。草ノ名。夏ノ末ニ子ヨリ生ズ、葉ハあざみニ似テ、黄綠ニシテ、刺、多シ、秋冬ハ地ニ就キテ叢生ス、春、薹ヲ出スコト三五尺、枝、葉、共ニ互生ス、莖ニ、薄キ羽、數條起リテ、にまきぎノ如クニシテ、刺、更ニ多シ、夏、枝ノ末毎ニ白花ヲ開ク、あざみニ似テ、小サシ、後ニ絮トナリテ飛ブ、絮毎ニ一子アリ。

おに-のみ（名）【鬼飲】おにくひノ條ヲ見ヨ。

おに-の-やがら（名）【續斷】〔鬼の矢幹ノ義ニモアルカ、鬼箭ト云フ草モアリ〕草ノ名。をどりおさうノ古名。字鏡九十五「續斷、於爾乃也加良」（本草和名、倭名抄、同ジ）

おに-の-るす（名）【鬼留守】主人、親方ナド、恐ルベキ者ノ居ラヌ閒ニ、奴婢、弟子ナド、寛ギテ自恣スルヲ「鬼の留守に洗濯せう」ト云フ、大江山ノ酒顚童子ノ侍女ノ、衣洗ヒト云フコトヨリ、起レル語ナルベシ。後撰夷曲集（寛文）九「我ガ心、鬼の來ぬ閒に、洗濯せう、欲垢アリテ、隱レゴハ憂シ」

おに-ば（名）【鬼齒】（一）八重齒ノ、外ニ向ヒテ、牙ノ如ク生ヒタルモノ。（二）智齒ノ（二）ニ同ジ。

おにばす（名）【鬼蓮】〔葉ハ荷ニ似テ皺ミテ、莖、葉ニ刺アレバ名トス〕ミヅフブキ。ミヅブキ。池澤中ニ生ズ。葉ハ蓮ニ似テ大ナリ、水面ニ浮ブ、面、深綠ニ、背、深紫ニシテ、莖ト共ニ、刺多シ、莖ニ孔アルコト、蓮ノ如シ、夏ノ末、莖ヲ出シテ花アリ、鳥ノ喙ノ如ク、一寸餘アリテ、尖ル、開ケバ、四瓣、四層、深紫色ナリ、花ノ下ニ毬アリ、熟スレバ、大キサ三寸許、肉アリ、中ニ圓キ子アリ、むくろぢノ如シ、仁ヲ藥用トス。芡

おに-はそと（名）【鬼外】まめまきノ條ヲ見ヨ。

おにばば（名）【鬼婆】（一）鬼女ノ老婆。「安達ガ原ノ鬼婆」（二）老婆ノ、殘酷キ性質ノモノ。倭訓栞、後編、おにばば「俗ニ、奸惡ノ婆子ヲ稱セリ、吳淑ガ諫名錄ニ、鬼婆則天武后ト見エタリ」

おに-は-ばん（名）【御庭番】〔出發ニ、歸來ニ、竊ニ後庭ヨリ入リテ、將軍ニ直謁シテ、命ヲ受ケ、又、復命スルニ因リテ、庭ノ番人ニシテ云フ稱ナリト云フ〕德川將軍專屬ノ高等探偵。旗本ノ内ノ然ルベキ者、三四十人、專務トシテ、全國諸大名ノ領地ノ動靜、政治上ノ機密、城池ノ形勢ナド、探ラスルタメニ、代ル代ル、極メテ祕密ニ、各地方ニ派遣シ、數月、數年、姿ヲ變ヘテ、辛苦シテ、入込ミ聞込ミタリ。

おに-び（名）【鬼火・鬼燐】（一）〔沼澤ナドノ濕地ニ、雨夜、闇夜ナドニ、靑ク光ル燐火。アヲビ。イウレイビ。キツネビ。ジヤケ。倭名抄、十二、五十「燐火、於邇比、鬼火也、人及牛馬兵死者血所レ化也」（二）出棺ノ時ノ門火。

おに-ひげ（名）【鬼髭】髭ノ條ヲ見ヨ。

おに-びし（名）【鬼菱】菱ノ一種。殼ノ刺ノ、殊ニ銳キモノ。

おに-ひとくち（名）【鬼一口】鬼ノ、物ヲ、一呑ニスルコト。伊勢物語、第六段「雷サヘイトイミジウ鳴リ、雨モイタウ降リケレバ、アバラナル倉ニ、女ヲバ奥ニ押入レテ、云云、ハヤ夜モ明ケナムト思ヒツツ居タリケルニ、鬼ハヤ一口ニ食ヒテゲリ」（男ノ、貴女ヲ盜ミテ走リタルヲ、貴女ノ兄ニ取返サレタルヲ云ヘルナリ、本行經ニ「未來死鬼、却奪二人命一入二鬼口一悉皆食盡也」ナドニ據レルナラム）謠曲、山姥「古ヘノ、鬼一口ノ雨ノ夜ニ、雷鳴リ騷ギオソロシキ、其夜ヲ思ヒ、云云」

おに-フクレン（名）【鬼服連】ごろふくれんニ同ジ。

おに-ふすべ（名）【馬勃】〔鬼燻ノ義、擊テバ、粉ノ、烟ノ如ク起ツヨリ云フ〕植物、ほこりだけノ古名。本草和名、上四十六「馬勃、於爾布須倍」

おに-へご（名）〔沖繩ニテ、蕨ヲへごト云フゾ、大蕨ノ意ナラム〕樹ノ名。高サ數丈、直立ス、幹ハ、無數ノ細ソキ幹ヲ捩ヂ聚メテ束ネタル如シ、色黑クシテ、褐色ヲ帶ブ、横枝無クシテ、梢ニ葉ヲ叢生シテ、四方ニ垂ル、形、蕨ノ葉ノ如クニシテ、極メテ大キク、綠ナリ、幹ヲ穿チテ石草類ヲ植ヱ、又、碎キテ盆栽ノ土ニ用キテ、善ク成長ス、琉球、小笠原島等ノ暖地ニ產ズ。略シテ、へご。（へごノ條、見合スベシ）桫欏

おに-ぼし（名）【鬼宿】〔文字讀ノ語〕二十八宿ノ、鬼ト云フ星ノ宿。

おに-まる（名）【鬼丸】（一）名刀ノ名。おにきりノ條ヲ見ヨ。（二）名笛ノ名、ふたつノ異名ナリ。

おに-みかげ（名）【鬼御影】御影石ノ、質ノ粗キモノ。

おに-ミソ（名）【鬼味噌】〔たうがらし味噌、天竺びおほ、同趣〕味噌ニ、芥子ナドノ辛味ヲ加ヘタルモノ。太平記、三十三、八幡託宣ノ條ノ落首「唐橋ヤ、鹽ノ小路ノ、燒ケシコ

ソ、桜井殿ハ、鬼味噌ヲスレ」(桜井直常ノ敗績失敗ヲ云ヘリ)

おにむし (名) 【鬼蟲】 (一)甲蟲ノ一名。(仙臺) (二)金龜子ノ一名。(奥州)

おにむしや (名) 【鬼武者】 極メテ剛キ武夫ノ稱。

⁂**おにんぶくろ** (名) 「ふくろハ、捕ヘラレタル者ヲ云フニテ、ふくろかづきノ意ナルカ、(其條ヲ見ヨ)或ハ、追ひぼくるノ、ぼくるノ轉カ」 鬼事ニ同ジ。(東京)

おにやく (名) 【鬼役】 飲食ノ毒試ノ役目。おにとりやくノ條ヲ見ヨ。

おにやんま (名) 【鬼蜻蛉】 やんまノ條ヲ見ヨ。

おにやらひ (名) 鬼遣 「疫鬼ヲ追ヒ遣ふ意、此事、支那ヨリ傳來セル風俗ナリ」 十二月晦日、疫癘ノ鬼ヲ追ヒ拂ハムトスル儀式。朝廷ニテコレヲ、儺遣、又ハ、追儺ト稱シテ、公事ノ一トセラレキ、大舍人寮ノ舍人、鬼ニ扮装チ、大舍人長、方相氏ヲ勤メ、目四ツアル假面ヲ被リテ鬼ヲ拂フ、殿上人、桃ノ弓、葦ノ矢ニテ鬼ヲ射ル、鬼、逃ゲ去ル。中務省式「凡年終追儺儀、云云、以二桃弓葦矢桃杖一頒二充儺人一」名義抄「儺、オニヤラヒ」民間ニテハ、節分ノ夜ニ、鬼打豆トテ、豆撒ト云フ事ヲ行フハ、轉ジタルナリ。まめまきノ條ヲ見ヨ。

おにゆり (名) 【鬼百合】 宿根草、百合ノ類。路傍ニ多シ、莖圓クシテ、紫黒ナリ、葉ハ、狭ク長ク、深緑ニシテ、多ク互生ス、秋、莖ノ上ニ、枝ヲ分チテ、六瓣ノ花ヲ開ク、鐘様ニシテ、端、反ル、色、赤黄ニシテ、紫ノ點アリテ、美シ、夏ノ末ニ、根葉ノ間ニ子ヲ生ズ、むかごニ似タリ、根ハ、鱗、重ナリテ蓮花ノ如ク、味、苦シ、人家ニ植ウルモノハ苦カラズ、今専ラ、食用トス。イヌユリ。〔卷丹〕

おによけ (名) 【鬼除】 酒ノ異名ナリト云フ。俗謡集「おによけ、三藐一藐ニ、酒ノ事ニ云ヘリ」

おにわたし (名) 【鬼渡】 鬼事ニ同ジ。(東京) 浮世床(文化、三馬)初編、上「鬼渡しや、草履隠シヲスル仲間ダハナ」

おにわらび (名) 【鬼蕨 鳳尾草】 (一)深山ノ陰地ニ生ズ。一根ニ數葉ヲ生ジ、一葉ノ形、數十ノ細長葉、一莖ニ排生シテ、一大葉ヲナス、長サ一二尺、周ニ細カキ鋸齒アリ、夏、別ニ、葉ノ如キモノ、兩三莖ヲ生ズ、そてつノ葉ニ似テ、柔カナリ、即チ、花ナリ、種類、多シ。ヤマソテツ。キジノヲ。貫衆 天治字鏡、七三「母眞、(貫衆ノ誤)鬼和良比」本草和名、上二「貫衆、於爾和良比」 (二)いぬわらびノ一名。

おぬし (代) 【御主】 對稱ノ代名詞、稍、下輩ナルニ用キル。ソナタ。轉ジテ、おのし。狂言記、貢物「おぬしガ所ヘハ、モハヤ、アノ娘ハ、ヤラヌゾ」同、文山だち「おのしトおれト、組合ウタ」

おねば (名) 【御粘】 煮抜ノ液、ノ婦人語。

おねり (名) 【御邌】 邌リ行クコト、徐徐ト歩クコト、ノ敬語。

おの (名) 【己】 おのれ(名詞ノ)ニ同ジ。天智紀、十年正月「橘ハ、於能ガ枝枝、成レレドモ、玉ニ貫ク時、同ジ緒ニ貫ク」續紀、廿六、天平神護元年三月、詔「於乃毛於乃毛、貞ニ能ク淨キ心ヲ以チテ仕へ奉レト宣リタマフ」(各自ノ意トナル)「おのガ身」「おのガ家」

おの (代) 【己】 自稱ノ代名詞、我。オレ。欽明紀、四年十二月「甚稱二寡人之心一」孝徳紀、大化二年三月「入レ己物者、倍而徴之一」

おのおの (代) 【各】 對稱ノ代名詞、多人數ナルニ云ヒ、同輩ナルニ用キル。カタガタ。「各方」

おのおの (副) 【各】 「己ヲ重ネタル語」 ヒトリビトリ。ヒトビト。メイメイ。竹取物語「賜ハセタル物ハ、おのおの分ケツツ取リ」

おのがしし (副) 「ししハ、自恣ノ音ナリト云フ、(其條ヲ見ヨ)奈良朝ノ頃ハ、佛教盛ンナレバ、佛語モ此ノ如ク用キラレタルナルベシ」 (一)己ガ心マカセニ。萬葉集、十二十「各 寺師、人(自身ヲ)死ナスラシ、妹ニ戀ヒ、日ニケニ痩セヌ、人ニ知ラエズ」源、二、帚木「おのがしし恨メシキヲリヲリ、待顔ナラムタ暮ナドノ(文)コソ、見ドコロハアラメト、怨ズレバ」河海抄「各自恣」 (二)オノオノ。心心ニ。メンメンニ。メイメイニ。ソレゾレニ。各自 源、四、夕顔「おのがしし、ノイトナミニ起キ出デテ、ソソメキ騒グモ」蜻蛉日記、上、上「皆、おのがしし行キ別レヌ」拾遺集、七、物名「秋風ノ、四方ノ山ヨリ、おのがしし、吹クニ散リヌル、紅葉カナシナ」源、四十四、橋姫「池ノ水鳥ドモノ、羽打チカハシツツ、おのがしし囀ル聲ナド」

おのし (代) おぬしノ轉。其條ヲ見ヨ。

おのだて (名) 【御野立】 貴人ノ、野中ニ、駕籠、馬ナド駐テラレ、小休ミセラルルコト。「御野立場」「御野立所」

おのづから (副) 【自】 〔己之從ノ義、其物事ノアルママヨリノ意〕 (一)物事ノ、アル狀ノママニテ。ワレト。オノレト。オノヅト。ヒトリデニ。自然ニ。天然ニ。神代紀、上二「自 有化生之神」萬葉集、十三「山ノ邊ノ、石ノ御井ハ、自然、成レル錦ヲ、張レル山カモ」 (二)モシ。自然ト。[illegible]おのづから、アラバ逢フ夜ヲ、待ツニツケテモ」([illegible])ヲ顧バレケル時、娑婆久行向テ、おのづから、歌ナドヤイルト思ヒテ、何ヒケルニ」

おのづと (副) 【自】 「おのづハ、前條ノ、おのづからノ略」 前條ニ同ジ。ヒトリデニ。[illegible]「おのづと子供心ニナッテ」

おのぼりさん (名) 【御上様】 京都ノ六條邊ノ旅籠屋ナドニテ、本願寺参リニ入洛シタル田舍人ヲ稱スル語。今ハ、東京見物ニ來ル田舍人ノ稱。

おのぼれかがみ (名) 【己惚鏡】 びいどろかがみノ異名。

おのぼ・れる・レル・レレ・レ・レ・レヨ (自動、下二) 【己惚】 「己レ自ラ、己レニ心惚レル」 自ラ好シト誇ル。我慢ス。自負ス。自慢ス。他ヨリ憎ミテハ、うぬぼれるト云フ。自負 夜郎自大

おのら (代) 【己等】 自稱ノ代名詞、複數。オノレラ。ワレラ。神武即位前紀「諸皇子對曰、[illegible]」字鏡[illegible]、己等、オノラ」

おのれ (名) 【己】 「れハ、らト通ズ、わ、われ。(我)こ、これ。(其)同ジ」 其人ノ、其身。其人ノ、ミヅカラナルコト。自身。自分。字鏡[illegible]ニモ云フ。源、四、夕顔「自ヲ竊ソ、おのれヒトリ、笑ミノ眉ヒラケタル」詞花集、七、戀、上「風ヲイタミ、岩打ツ波ノ、おのれノミ、碎ケテ物ヲ、思フコロカナ」

おのれ (代) 【己】 (一)自稱ノ代名詞。我ニ同ジ。雄略紀、二年十月「以レ我爲レ初」同、四年

二月、天皇詔曰、朕是幼武尊也」 (二)汝ノおれトモ云フヨリ轉ジテ、對稱ノ代名詞ニモ用キル。 神樂歌、小前張、薦枕「稻春蟹ノヤ、於乃禮サヘ、新嘗ヲ得ズ」 宇津保物語、國讓、上「ナド、おのれハ、ミソカ男シテ、人ト文カヨハシヤハスル」「おのれハ、何奴ナルゾ」

おのれ (副) 〔己〕 オノヅカラ。オノレト。オノヅト。ヒトリデニ。 萬葉集、十六「伊夜彦、於能禮神サビ、青雲ノ、タナビク日スラ、小雨ソボフル」(伊夜彦ハ、越後ノ山ノ名、神社アリ) 源、六、末摘花「松ノ木ノ、おのれ起キカヘリテ」

おのれと (副) 〔己〕 前條ノ語ニ同ジ。 續千載集、三、夏「人トハデ、おのれとナノル、時鳥、暮レ行ク空ヲ、過グル一聲」

おは (名) 〔御葉〕 菜ノ、婦人語。「御葉漬」

おば (名) 〔祖母〕 「祖母ノ約、うばトモ云ヒ、おほぢ(祖父)ヲ、おぢトモ云フ」 (一)祖母ニ同ジ。ババ。 天治字鏡、二「阿婆、於波」 倭名抄、二「祖母、於波」 拾遺集、九、雜、下、おばノ女ノ歌「親ノ親ト、思ハマシカバ、問ヒテマシ、我ガ子ノ子ニハ、アラヌナルベシ」 (二)轉ジテ、老イタル女。伯父ノ、老翁ニ移ルガ如シ。女婆 名義抄「婆、オバ」

おばあさん (名) (一)御祖母樣ノ音便。(二)老婆ノ尊稱。

おはぎ (名) 〔薺蒿〕 〔うはぎノ轉、うおく、おおく(動)〕 草ノ名、ウハギ。よめなノ古名。 本草和名、下「薺蒿菜、於波岐」(倭名抄、同ジ)

おはぎ (名) 〔御萩〕 萩餅ノ、婦人語。

おはぐるま (名) 〔御齒車〕 齒車ノ敬稱。

おはぐろ (名) 〔御齒黑〕 齒黑ノ、女房詞。 大上臈御名之事、女房詞「ツクルカネ、御はぐろ」 鷹筑波(寛永、西武)二「おはぐろヲ、ツケヌモ褄ク、ウナギ鳥」 婦人養草(貞享)四「をはぐろトハ、公家方ヨリ申シナラハシタリ、是レヲ内裏ニテハ、ふしホト申シタリ」

おはぐろつぼ (名) 〔御齒黑壺〕 おはぐろノ汁ヲ容ル器。カネツボ。 博多小女郎波枕(享保、近松作)中「懸硯、齒黑壺」

おはぐろとんぼ (名) 〔御齒黑蜻蛉〕 かねつけとんぼニ同ジ。

おばけ (名) 〔御化〕 (一)化物ノ、婦人語。(二)次條ノ語ノ略。寄居蟲ノ異名。

おばけがひ (名) 〔御化貝〕 「形ノ奇異ナルヨリ、名トスルカ」 寄居蟲ノ異名。其條ヲ見ヨ。

おはこ (名) 「詳ナラズ、關西ニテモ云フ語ナレバ、大阪ノ芝居詞ニテ、俳優ノ技藝ニ就キ、十八番ナド云フ語ト、同趣ノモノナルベシ」 (一)度度スル、得手ナル事。得意ノ技藝。(二)癖。「アノ人ハ、叱言ガおはこダ」

おばこむすび (名) 〔婆子結〕 女ノ結髮ノ名。髮ヲ束ネ、其末ヲ頂後ニ蟠ルヤウニ結ヒ、小サキ笄ヲ横ニ亙シテ、餘髮ニテ其中央ヲ卷キ止ム。下輩ノ老婆、又ハ、怠リガチナル女ノ、結フモノナリ。

おはさうず (ズル・ズレ・ゼ・ジ・ゼヨ)(自動、左變) 〔御座〕 「おはさむとする(おはすニ四段活用アリ)ノ略ナル、おはさむずる(行かむず、可からむずらむ)ノ音便ナリ、(狹衣、四、中「ナドカカウ、物狂ホシウおはさうずラム」)然シテ、未來ナルヲ、現在ニ用キルナルベシ「我ガ身、カクテ候はむ程ハ」ナドモ云フ」 おはすニ同ジ。オハサフ。オハシマス。 源、四十四、橋姫「心モ添ヒテ、恥ヂおはさうず」 同、四十八、寄生「清ケニおはさうずる御子供ノ」 和泉式部日記「空耳聞キおはさうじテ」 更級日記「スシタチ、調度取リおはさうぜヨヤ」

おはさふ (フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ)(自動、四) 〔御座〕 〔おはすノ延、御座ます、おはしまさふ。復す。かへさふ。隱す、かくさふ〕 おはすニ同ジ。オハシマス。 大鏡、序「イザタマヘ、昔物語シテ、此おはさふ人人ニ、云云、聞カセ奉ラム」

おはじき (名) 〔御彈〕 細螺彈ノ女兒語。

おはした (名) 〔御半下〕 半下女ヲ、丁寧ニ云フ語。 狂言記、菊花「アトカラ、おはしたガ急ニ呼ビマシタ」

おはしま (名) 〔檻〕 「次次條ノ、おはしましどころノ略、(脇息モ、押座机ナリ)字鏡「杵、欄也(異本ニ、檻也)於波之万止」(天治本、同ジ)止ハ、處ナリ、元ハ、貴人ノ臨觀ニトテ、設ケタルモノナルベシ」 欄檻ノ古言。 倭名抄、十「檻、於波之万」 源、廿八、野分「マダ御格子モ參ラズ、(あげず)おはします(座處)ニ當レル高欄ニ押シカカリ、見ワタセバ」

おはしまさふ (フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ)(自動、四) 〔御座〕 「まさふ、おはさふノ語原ヲ見ヨ」 次次條ニ同ジ。 榮花物語、十、日蔭蔓「イミジウスキ、ヲカシウおはしまさひテ」 同、三十、鶴林「イミジウ御樂ドモ、マサナキマデおはしまさふ」 大鏡、上、師尹「サバカリ心深クおはしまさふ御心ドモニ、イカバカリオボシメシケム」

おはしましどころ (名) 〔御座所〕 居タマフ所。オマシドコロ。ミマシ。御座所。 榮花物語、十七、音樂「帝、おはしまし所ニオハシマセバ」

おはします (ス・セ・サ・シ・セ)(自動、四) 〔御座〕 (一)御座すニ、座すヲ添ヘテ、一層敬ヒ云フ語。オマシマス。 續紀、元年三月「天皇御ニ大殿ニ(居タマフ)」 天皇紀、下、七年四月「不レ得ニ幸行ニ(出デタマフ、行キタマフ)」 竹取物語「イヅレ、劣リ優リおはしまさネバ」(有リノ敬語) (二)助動詞ノ如ク用キテ、唯、敬語トス。オハス。タマフ。 拾遺集、五、賀「天暦ノ帝、四十ニ成リおはしましケル時」

おはしより (名) 〔御端折〕 女ノ衣服ノ、おひきずりナルヲ、ついたけニ着ル時、腰ノ邊ニテ揚ゲ折リテ、襞ヲ作ルコト。腰帶ニテ止メテ、襞ノ内ニ隱ス。

おはす (ス・セ・サ・シ・セ)(自動、四) 〔御座〕 「大座すノ約、四段活用ナリ、然ルニ又、下二段活用ナルモアリテ、(座す、います。ニモ、四段ト下二段トアリ)意義、全ク同ジ、(もる、もるる。(漏)ひらく、ひらくる。(開)うづむ、うづむる(埋)ノ例ノ如シ)從來、二樣ノ活用アルヲ混ジテ、左行變格活用トシタレド、今、コレヲ別ツ」 (一)居る、居りノ敬語。 宇津保物語、藏開、下「平中納言、大將殿ニマウデタマヒテ、サブラヒニおはす中將ノ君ニ、對面シタマヘリ」 源、廿一、少女「大宮ノ御世ノ、殘リ少ゲナルヲ、おはさズナリナム後モ、云云」 (二)有りノ敬語。 榮花物語、二、花山「其姫君ニテ、世ニヲカシゲナル御覺エおはす、エモ言ハズメデタウおはすナレバ、サリトモオロカナラムヤハ」 盛衰記、三十九(南部異本)賴朝重衡對面事「私ノ敵ニテモおはさバコソ」 吾妻鏡、四、元曆二年正月六日、賴朝書狀「内府ハ極メテ憶病ニおはせる人ナレバ、自害ナドハヨモセラレジ」 (三)來ノ敬語。 宇津保物語、藏開、上「藏アケサスベキ人ナド率キテおはしテ、事ノ由申サセ」 源、四、夕顏「タヅネテおはしタリ」 (四)行くノ敬語。 古今集、十七、雜、上「法皇、西川ヘおはしマシケル日」 宇津保物語、藏開、上「三條ニおはしテ、北ノ方ニ、アリツルヤウ申シタマヒテ」 (五)助動詞ノ如ク用キテ、唯、敬語ト

ス。タマフ。宇津保物語、藏開、上「三條殿ニワタリタマヒテ、取ラセおはしタリ」源、四十五、椎本「入りおはしタレバ」

〔一〕**おは・す**（オワ・ス）スル・スレ・セ・セ・セヨ（自動、下二）［御座］（前條ノ語原ヲ見ヨ）（一）居る、居リノ敬語。源、十五、蓬生「宮、上ナドノ、おはせシ時ノママニ」同、廿五、螢「母君、おはせズナリニケル」（二）有リノ敬語。竹取物語「衣ノ大キサニおはせシヲ、抱キ奉リテマデ養ヒ奉リ」宇津保物語、[illegible]上「後レ、少シ小サクゾおはせシ」源、三十四、下、若菜、下「いト異ナル心地ニモ、おはせネバ」（三）來ノ敬語。源、八、花宴「おはせネバ口惜シウ、物ノ映ナシトオボシテ」（四）行クノ敬語。竹取物語「具シテ率テおはせネ、ト泣キテ伏セレバ」宇津保物語、俊蔭「天狗ノスルニコソアラメ、[illegible]おはせソ」源、五、若紫「時侍メイテ打チソソグ、おはする所ハ、六條京極ワタリニテ」（五）助動詞ノ如ク用キテ、喚、敬語トス。タマフ。宇津保物語、藏開、上「右ノ大臣、イデイデトテ、寄りおはすれバ」

〔一〕**おば・す** ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）［帶］帶ブノ敬語。帶ビタマフ。續紀、七年九月、長歌「我ガ大君ノ、[illegible]」萬葉集、九「三諸ノ(山)ノ、神ノ於婆勢流、泊瀬河」（川ノ、山下ヲ廻リテ流ルルナリ）萬葉集、七「[illegible]山ノ、[illegible]川ノ」

おハチ（名）［御鉢］（一）飯鉢ノ、婦人語。オダイビツ。オヒツ。皇都午睡、三編、上「[illegible]おはちー」（二）富士山ノ頂ノ、御鉢料ノ略。おはちがまはるトハ、順番ガ廻リ來ル[illegible]（茶會ノ席ニ、飯鉢ヲ順ニ送ルコトアリ、コレラニ起レル語カ）浮世床（文化、[illegible]）[illegible]下「[illegible]ヤットノ事デ、お鉢ガ廻ッテ來タ」

おハチ-いれ（名）［御鉢入］飯鉢ヲ入レオク器。藁ニテ、大キク編ミ作リ、藁ノ被蓋ヲス、冬時、飯ノ冷エザラムガタメニ用キル。

おはちはん（名）［御八判］江戸幕府ノ寺社奉行四人、勘定奉行二人、（四人アレド、勝手掛二人ヲ除ク）町奉行二人ノ連判ノ文書ノ稱。箱根ナドノ關所通行ノ手形ナドニモ云フ。

おハチ-まはり（名）［御鉢廻］おはちれう（御鉢料）ヲ見ヨ。

おハチ-めぐり（名）［御鉢廻］次次條ヲ見ヨ。

おハチ-れう（名）［御鉢料］〔托鉢ノ米ノ義ナルベシ〕寺院ニ供フル、供米ノ敬稱。

おハチ-れう（名）［御鉢料］〔下ノ、本朝文粹ニ、山頂ノ凹處ヲ、炊甑ノ如シトアレバ、甑ヲ、飯鉢ニ移シ、又、寺院ノ供米ノ御鉢料ニ寄セテノ名カト云フ、或ハ、八葉ノ峯ト云ヘバ、御八葉ノ訛カ〕富士山ノ絶頂ノ、窪穴ノ名。略シテ、おはち。凹處ノ周圍ニ小山ノ突兀タルヲ、八葉（他ノ死火山ナルニハ、おかま）其周圍ヲワタルヲ、おはちめぐり、おはちまはりト云フ。本朝文粹、十二、富士山記「其頂中央、窪下、[illegible]」

おはつ（名）［御初］初面會ヲ、丁寧ニ云フ語。（物事ノ初ニモ）「おはつニ御目ニカカル」

おは-づけ（名）［御葉漬］葉漬ノ、婦人語。

おはなばたけ（名）［御花畑］高山ノ頂下ニアル平地ニテ、盛夏ニ、雜草同時ニ花咲ク所。

おばば-さま（名）［御祖母樣］祖母ヲ、敬フ語。

おは・ふ フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ（他動、下二）［追］〔おふノ延、あらひ、あらはひ（洗）〕追ふニ同ジ。[illegible]集、五、下、十四條「[illegible]」

おはまり（名）［御嵌］（一）心ヲコムルコト。熱着スルコト。[illegible]（二）ダマサルルコト。[illegible]其是ヲ以テノワル推カ、イヤ是ハ、イカイおはまり」[illegible]五、第四「今世[illegible]ニ、タラサレシ事ヲ、おはまりトイフ」

おはむき（名）［御背向］ヘツラフコト。[illegible]初編、下「此ノ本ヲヤルカラノ、オイラモ役者ニシテクンネエイナト、（合卷ノ[illegible]）ヲ、おはむきニヤル」

おはもじ（名）［御は文字］〔はハ、恥ノノ〕首書ノ、婦人語。[illegible]歌ヘ、おはもじヤ」

おはや（名）［御早］早打ヲ、敬ヒテ云フ語。

おはやう（副）［御早］〔ありがたう、おめでたう、ごきげんようト、同趣ノ語〕おはやくございますノ音便略。朝ニ早ク、人ニ會ヘル時、挨拶スル語。

おはら（名）［御腹］貴人ノ母ノ尊稱。

おはら-ぎ（名）［大原木］山城國、大原村ヨリ賣出スル薪。黑木ノ條ヲ併セ見ヨ。七十一番職人盡歌合（文安）[illegible]「[illegible]おはら木ノ、[illegible]ベラルルモ、嬉シカラマシ」

おはら-ご（名）御子良ニ同ジ。ものいみノ條ヲ見ヨ。

おはらひ（名）［御祓］大祓ノ語ノ略。

おはらひ-ばこ（名）［御祓箱］（一）伊勢ノ神宮ヨリ、御祓、大麻ヲ小箱ニ入レテ、人家ニ配賦セラルルモノ。白紙ニテ包ミ、神宮ノ大麻ナル旨ヲ印ス。（幣ノ條ヲ見ヨ）略シテ、おはらひ。今川大雙紙、[illegible]式法事「伊勢ノ御はらひ箱、[illegible]スル時、云云」（二）俗ニ、傭人ナドノ放逐。（拂ひヲ、祓ひニ洒落テ云フナレド、勿體ナキコトナリ）[illegible]

おはら-め（名）［大原女］山城國、大原村、八瀬村ノ婦女ノ、京都ノ市中ニ出デテ、物賣ルモノノ稱。多クハ黑木ヲ賣ルナリ、頭上ニ頂キテ[illegible]（五）[illegible]七十一番職人盡歌合（文安）九番「小原女」

おはり（名）［御針］針仕事ヲ授ノ下女、賃業ニテハ、針妙ト云フ。[illegible]二編、上「縫物ガ出來ネエカラ、月雇ヒノお針ヲ置クノサ」安永ノ川柳「針妙ヲ、お針トイッテ、叱ラレル」

〔一〕**おひ**（名）［追］〔追ひノ義ニテ、追及キテ[illegible]〕[illegible]ナル物ト、低價ナル物トヲ交易スル時、低價ナル方ヨリ、不足ヲ補ヒ足スコトト云フ。[illegible]ト云ヒ、追錢ト云フ、是レナリ。萬葉集、十三「[illegible]」

おひ（名）［笈］〔負箱ノ略、倭名抄ニ「笈、負書箱也」トアリ、是レヨリ、用ノ移リタル具ナリ〕修驗者、又ハ、行脚僧ナド

ノ、佛具、食物等、行李ノ具ヲ入レテ、旅中ニ背負ヒ行ク器ノ名。匣ノ如クニシテ、脚アリ、扉ニテ開閉ス。宇治拾遺、一、十五條「修行者、云云、負ウチオロシテ、内ニ入テケリ」著聞集、五、和歌「圓位上人、云云、諸國修行ノ時モ、おひニ入テ、身ヲ離タザリケルヲ」

おび　(名)　［帶］　〔帶ぶるものノ義〕(一)〔衣服ヲ着テ、其腰ノ邊ニテ、體ヲ纏ヒ結ブ紐ノ名。布、帛、組、革、等、種種ナリ。(をんなおびヲ併セ見ヨ)　武烈卽位前紀、長歌「大君ノ、御於飛ノ倭文布、結ビ垂リ」　倭名抄、十二廿「白布帶、沼能於比」　(二)着帶。岩田帶。　䑓中舊記、御産所の事「御帶の御祝ニハ、云云、御所様、御チキニ參ラセ候」

おび-あげ　(名)　［帶揚］　女ノ、帶ヲ結ビタルニ、背ノ結目ノ縮ノ中ニ、布帛ヲシゴキテ通シテ、前ヘマハシテ締ムルモノ。帶ノ内ニ收メテ、アラハサズ、帶留ト共ニ、帶ノ、ズリサガラムヲ揚ゲオクナリ。ショヒアゲ。

おひ-うち　(名)　［追擊］　逃ゲル敵ヲ、追ヒツメテ擊取ルコト。　甲陽軍鑑、十、下、品第三十二「穴山殿衆モ謙信ノ内、柴田ヲ四町程追うちニスル」

おひ-う・つ・ツ・テ・タ・チ・テ　(他動、四)　［追棄］〔うつ(棄)ノ條ヲ見ヨ〕　追ヒ棄ツ。追ヒ遣ル。追放ス。　伊勢物語、四十段「親、此女ヲおひうつ」　落窪物語、二「ヤガテおひうたント思ヒシモノヲ、使ヨシトノタマヒテ」

おひ-う・つ・ツ・テ・タ・チ・テ　(他動、四)　［追討］追擊]　追ヒテ攻メ討ツ。ツヰゲキス。

おび-うら　(名)　［帶占］　ひたちおびノ條ヲ見ヨ。

おひ-え　(名)　［御冷］　〔麻布ノ夜着ヲ、北國の物ト云フヨリ起リタル名ナリ、北國ハ冷ゆるト云フ謎ナリ、つめたト云フモ、同意〕　麻布ノ夜着ノ、女房詞。キタノモノ。又、麻布ノ綿入ノ服。布子。又、つめた。今、皇家ノ後宮ニテ、襦袢ヲ御飛代ト云フト承ハル、麻布製ナルガ元ニシテ、おひえノ轉ナルベシ。　慶長見聞集、三「麻布ヲ色色ニ染メ、綿ヲ入レ、おひえト云ヒテ、上ニ着セシ也、云云、綿多ク入レテ、夜ノ物トテ、夜着ニスル、是ヲおひえトモ、北の物トモ名ヅケタリ、云云、此詞、皆公家ヨリ出デタリ」　後撰夷曲集(寛文)四「貧シキガ、寒シト云ヒテ、冬ノ日ニ、幾ツ着ヌレド、おひえナリケリ」　女重寶記(元祿)「御帛衣」　狂言記、比丘貞「鎌倉ノ上臈ハ、楪竹ノつめたニ、織物ノ手覆」

✣✣おび・える　(動)　おびゆノ口語。

おひ-おとし　(名)　［追落］　オヒオトスコト。ヒハギ。オヒハギ。行劫。　尺素往來「勾引、辻斬、追落等」

おひ-おと・す・ス・セ・サ・シ・セ　(他動、四)　［追落］　引剝ヲ行フ。オヒハグ。行劫。　盛衰記、四十二、屋島合戰事「山賊シテ、年貢、正税、追ひおとし」

おひ-おひ　(副)　［追追］　追ヒ及キテ。後ヨリ續ギテ。逐次。　源、十八、松風四「オノヅカラ、おひおひ内ノ事ドモハシテム、マヅ急ギテ、大方ノ事ドモヲ物セヨ」

おひ-か・く・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ　(他動、下二)　［追懸］　後ヨリ追フ。追逐。　保元物語、二、白河殿攻落事「大將軍ノ陣ノ前、敵ノ追懸ムモ惡カリナムト思テ、直下リニ逃タリケルガ」

お-ひがし　(名)　［御東］　御西ノ條ヲ見ヨ。

おひ-かぜ　(名)　［追風］　(一)後ヨリ、追ヒサマニ吹キ來ル風。背風。　新後拾遺集、二、春、下「山人ノ、歸ル爪木ノ、おひ風ニ、積レド輕キ、花ノ白雪」　(二)〔船ノ帆ヲ追ヒテ、吹キ來ル風。追風。順風。　神功攝政前紀「大風順吹、帆舶隨レ波」　土佐日記、正月廿六日「渡海ノ、道觸ノ神ニ、手向ケスル、幣ノおひ風、ヤマズ吹カナム」　(三)〔吹キ入ル風。　伊勢集、上「おひ風ノ、我ガ宿ニダニ、吹キ來ズバ、居ナガラヨソノ、花ヲ見マシヤ」

おび-がね　(名)　［帶金］　刀ノ金具ノ名。環ニシテ、緒ヲ貫キ、腰ニ帶ブ。　三議一統、上、法量門、御腰ノ物ノ役ノ事「御裝束ノ間ハ、刃ヲ下ヘシテ、おびがねヲ内ニシテ、栗形ノ間ヲ持、云云」

おひ-かは　(名)　［追川］　〔水中互ニ尾ヲ追ひテ闘フ、支那ニテ、闘魚ト云フ(嬉遊笑覽、十二)〕　魚ノ名。形、はえニ似テ、大キナルハ六七寸アリ、腹ニ赤キ斑アリ、背、淡黑クシテ、赤ミアリ、急流ノ川ニ產ジ、岩石ノ間ニ棲ム。古ヘ、あさぢト云ヒシ魚、是レナルベシ。闘魚

おび-かは　(名)　［帶革］　(一)〔革帶ノ、鉸具ヲ着ケヌモノ。　倭名抄、十二廿「腰帶之革、未レ着二鉸具一、爲レ鞓也、於比加波」　(二)製造場ノ機械ナドニ、大輪ヨリ小輪ナドニ掛ケワタシテ、車ノ軸ニ運動ヲ傳フル、細長キ革。調帶。

おび-かは　(名)　［帶側］　女帶地ノ、片側帶ノ一片。

おひ-かは・る・ル・レ・ラ・リ・レ　(自動、四)　［生更］　ハエカハル。カハリテ生フ。　萬葉集、十九廿七「少女ラガ、後ノシルシト、黃楊小櫛、生更りオヒテ、靡キケラシモ」

おひ-かへり　(名)　［生反］　〔反りかへりタルニ因ル名〕　刀ノ鞘ノ帶止ノ一名。おびどめノ條ノ(一)ヲ見ヨ。　桂川地震記(弘治)上「刀者、云云、生歸、栗形、鯉口」

おび-がみ　(名)　［帶紙］　文書類ヲ郵送ナドスルニ、中央ヲ卷キ締ムル紙。

お-ひき　(名)　［御引］　婚禮ナドノ引出物ノ、婦人語。　倭訓栞、後編、おひき「今俗、婚禮ナドニ、おひきト云フハ、引出物ノ略ナリ」　高野萬年草(寶永、近松作)中「聟ノ供ノ者共、コレノ内ノ奴等ニモ、何ガナシニ三百ヅツ、お引ヲヤルガ合點ジャ」

お-ひきずり　(名)　［御曳摺］　(一)婦人ノ服ノ裾ヲ、長ク曳キテアルコト。女ノ服ハ、着丈ヨリ、裾ヲ一尺バカリ長ク製スルヲ常トス。貴婦人ハ、室内ニテ常ニ裾ヲ曳ク、中流以下ノ女ハ、常ニ端折リアゲテ、腰帶ニテ止ム。(二)ひきずりものヲ見ヨ。

おひ-くづ・す・ス・セ・サ・シ・セ　(他動、四)　［追崩］　敵陣ヲ、追ヒサマニ破ル。追ヒテ攻メクヅス。追擊　應仁記、二、岩倉合戰之事「兩度ノ敵追崩、勝ニ乘リ」

おひ-くび　(名)　［追首］　追擊ニ打取ル首。　甲陽軍鑑、九、上、品第廿四「鏡合合戰ナドニ、追頸ノ、シカモ青葉者ヲ一人討チテハ、云云、樊噲ヲ働キタルヤウニ申越シ」

おび-くひ　(名)　［帶食］　鬼面ノ、帶ヲ啣ヘテアル圖。舞樂ノ秦王破陣樂ノ裝束ノ圖ニ、裲襠ノ胸ニ畫キテアリ。

おび-ぐるわ　(名)　［帶郭］　城ノ郭ノ外ニ、又、細長ク廻ラシテ設ケタル郭。　玉露叢「元和元年五月七日、云云、山里ノ帶曲輪ノ(二間ニ五間)倉ニ取リ籠モリ」

お-ひげ-の-ちり　(名)　［御髭塵］　〔宋史、寇準傳「初丁謂、出二準門一至二參政一、事レ準甚謹、嘗會二食中書一、羹汚二準鬚一、謂起徐

拂レ之、[illegible]曰、[illegible]、國之大臣、乃[illegible]官長拂[illegible]騷邪、謂其愧レ之」 媚び諂ふヲ、[illegible]ノ[illegible]ト云フ。[illegible]モハ、[illegible]、おひ[illegible]ヲ、[illegible]人モナシ」(日[illegible]吉保ノ男、伊勢守吉里ノ事ヲ云ヘルナリ、[illegible]、五、[illegible])

おひゐ・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) 追越 後ヲ追ヒテ、其先ニ出ノ。オヒヌク。「一人ヲおひゐす」

おひゐみ (名) 追込 芝居ナドニテ、見物人ヲ入込ニスル場。

おひゐ・む・ム・メ・マ・ミ・メ (他動、四) 追込 追ヒテ入ルル。[illegible]集、[illegible]キ、[illegible]ニ牛ヲ、追込ミテ、尋ルレバソコト、尋ネワビヌル」

おひさき (名) 生先 生行クサキ。成長スル末。春秋 後撰集、七、賀「思ヒヤレ、マダ[illegible]ノ子ノ、おひさきヲ、千世モト[illegible]ル、[illegible]ノ[illegible]サヲ」[illegible]、二、[illegible]ナド立チ[illegible]ヒ、モテ[illegible]メテ、おひさきコモレル窓ノ中ナル程ハ」 枕草子、一、第十三段「おひさきナク、マメヤカニ、エセ[illegible]ナド見テヰタラム人ハ、イブセク侮ラハシク思ヒヤラレテ」「おひさき遠キ人」

おひさまゐ (副) 追様 後ヲ追ヒテ。平[illegible]、一、[illegible]イカ物作ノ太刀一腰、云云、其ノ初トテ、引レタリ、云云、馬二匹、鏡鞍置テ引立ナリ、云云、[illegible]タル[illegible]五十領、追様ニ遣サレケリ」「敵ヲ、おひさまゐ撃ツ」

おひさん (名) 御日樣 太陽ノ敬稱。(京[illegible])

おびざん (名) 帶棧 杉戸ナドノ中程ニ取リツクル、幅廣キ横棧。

おひざもと (名) 御膝下 [illegible]ノ居ル都會ノ内。 輦轂之下

おひし (名) 大石 [おほいしノ約] 大キナル石。オホイシ。古事記、中(神武)ル長歌「伊勢ノ海ノ、意斐志ニ、這ヒモトホロフ、[illegible]ノ」

おびゐ (名) [illegible] [おびゐばりノ略、(其[illegible]ヲ見ヨ)あかばどりヲ、あかぼトか略スル、似タリ」 腰ノ、帶ヲ締ムル所。字[illegible]抄「腰、オヒシ、オビシバル」 [illegible]日合戦(正徳、三)[illegible]ツカミ、片手ニ引キケ」

おひゐき (名) 追敷 取引所ニテ、相場ノ賣買ノ證據金ノ、追加トシテ、徴收セラルルモノ。

おひ・ゐ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (自動、四) 生布 [頻くノ條ヲ見ヨ] 頻リニ生ユ。ツギツギニ生ヒ繁ル。萬葉集、十[illegible]、[illegible]ノ、[illegible]ノ繁ケク、夏草ノ、刈リハラヘドモ、生布如シ」

おひ・ゐ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (自動、四) 追及 [及くノ條ヲ見ヨ] 後ヨリ追ヒテ、及ブ。オヒスガフ。追ヒツク。萬葉集、二十「後レ居テ、戀ヒツツアラズハ、(アラムヨリハ)追及ム、道ノ[illegible]ニ、[illegible]ヘ我ガ夫」 名義抄、又[illegible]、追及、オヒシキテ」

おひゐげどう (名) 追重籐 弓ニ云フ語。ゐげどうノ條ヲ見ヨ。

おびゐた (名) 帶下 腰ノ、帶ヲ締ムル處ヨリ、足頸マデノ距離。(袴ノ丈ナド)「帶下幾尺」

おびゐばり (名) [illegible] [帶縛ノ義] 腰腹ノ左右ノ、骨ナクシテ、帶ヲ締ムベキ處。後ニ略シテ、おびゐト云フ。又、ヨワゴシ。倭名抄、三[illegible]、[illegible]比之[illegible]利、腰左右、虛肉處也」

おひすが・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (自動、四) 追次 [すがふ(次)ノ條ヲ見ヨ] 追ヒツツク。オヒシク。オヒツク。ヒキツヅク。[illegible]、廿一、少女「人知レズ、思ヒタマヘ志シタルヲ、カウ云フサイハヒ人ノ腹ノ后おねコソ、又おひすがひ[illegible]」

おひす・つ・ツル・ツレ・テ・テ・テヨ (他動、下二) 追棄 オヒウツ。追ヒ遣ル。放逐ス。[illegible]石[illegible]、二、上、第二[illegible]二十[illegible]、[illegible]ひすてタリケルヲ、日アキテ後、又使ハムトシケルヲ」

おひずて (名) 追棄 追ヒテ及バズ、[illegible]テ[illegible]ルコト。[illegible]、一、[illegible]時、敵ヲ追ハレケルニ、追捨テニシテ、後ヘハヤ[illegible]ラムトセラレシニ」

おひずり (名) 笈摺 [笈ノ摺リアタリテ、服ノ破ルルヲ防グタメノモノ] 巡禮者ノ著ル、單衣ノ無袖羽織。背ニ紅白布ヲ縫ヒツク、其上ニ笈ヲ負フ、山伏ノ笈ニナゾラフルナリ。[illegible]シテ、おひずる。オユズリ。後ニ多クハ、笈ヲ負ハズ。三十二番職人歌合(天文)七番、巡禮「おひずりニ、花ノ香シメテ、中入ノ、都ノ人ノ、袖ニクラベム」合類[illegible]用集(元祿)六[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]記、作二笈[illegible]一

おひずる (名) 笈摺 前條ノ訛。

おひせん (名) 負錢 (一)價ノ負ニ與フル錢。負ニ打ツ錢。(負ひノ條ヲ見ヨ) (二)費ヤシタル上ニ、又費ヤスコト。二重ノ損亡。盗人ニ負錢ト云フ諺、是レナリ。

おひだしぐすり (名) 追出藥 内攻ナドノ疾ヲ、表ニ發セシムル藥。驅逐劑 [illegible]([illegible]永、[illegible]作)上[illegible]、[illegible]ヲモチリタル[illegible]レ、云云、[illegible]中ニ[illegible]ヲ追出し([illegible]ニ云ヒカク)藥」

おひだ・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) 追出 追ヒ遣ル。[illegible]フ。[illegible] [illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]「[illegible]内、可レ被二下知一之状」

おびた・だ・し・シキ・シケレ・シク・シク (形、二) [illegible] [ゆゆるまでにゆゆしノ意ニモアラムカ、(にぎはし、にぎはし)今昔物語、二十四、十八語「家ニ行キテ、門ヲ[illegible]タダシク叩キケレバ」(一)非常ニ[illegible]シナリ。宇津保物語、吹上、上「[illegible]、[illegible]、[illegible]ノ[illegible]、ヒトタビニ打チ、吹キ、彈キ合ハセタリ、おびただしくメデタシ」宇治拾遺、十三、第一條「アマタニ[illegible]リ得テ、おびただしき徳人ニナリヌレバ」(二)イトイト、甚シ。[illegible]集、廿、[illegible]、[illegible]モナク、おびただしき[illegible]ニナリニケリ」[illegible]、一、上、[illegible]寺ノ石[illegible]、云云、人[illegible]ママニ、おびただしく[illegible]スルヲ」(三)甚ダ多シ。「人出、おびただし」

おひたち (名) 生立 (一)オヒタツコト。ソダチユクコト。成立 (二)ウマレツキ。人トナリ。タチ。性質

おひた・つ・ツ・テ・タ・チ・テ (自動、四) 生立 (一)生ヒ行ク。生ヒ延ブ。(草木ニ)生立 萬葉集、十八、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]ニ、[illegible]多[illegible]エ[illegible]、[illegible]、[illegible]おひたたム、アリカモ[illegible]ラメ、[illegible]ノ、オクラエ[illegible]ソ、[illegible]エムソラナキ」 (二)生ヒ成ル。生ヒユク。育チユク。成長ス。(人ニ) 成立 [illegible]集「[illegible]ノ小サキヲ、大人ニナシテト契リタル程ニ、云云「おひたつヲ、待ツト[illegible]メシ、カヒモナク、[illegible]スベシト、聞クハマコトカ」

おひた・つ・ツル・ツレ・テ・テ・テヨ (他動、下二) 追立 追ヒテ去ラス。追ヒ發ツ。追ヒ拂フ。オタテル。オタツ。[illegible] [illegible]、三十四、若枝「カヤウノ、何ナラヌ事サフラヘバ、マヅおひたてサセ給フニ」

おひ‐た・てる (動) 前條ノ口語。

おび‐ぢ (名) [帶地] 帶ニスベキ布帛。

おひ‐ちらか・す (動) [追散] 〔次條ノ語ノ、おひちらすノ一轉、めぐらす、めぐらかす。ひからす、ひからかす〕次條ノ語ニ同ジ。著聞集、十六、興言利口「醍醐法師ニおひちらかさレテ、辛キ目見タリケリ」

おひ‐ちら・す ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) [追散] 追ヒテ、四方ニ走ラシム。オヒチラカス。蜻蛉日記、中、中十「アサマシキ人、我ガ門ヨリ、例ノキラキラシウ、おひちらしテ渡ル日アリ」

おひ‐つ (名) [御櫃] 飯櫃ノ婦人語。オダイビツ。オハチ。

おひ‐つぎ (名) [追次] 後ヲ追ヒテ、繼ギタスコト。アトオヒ。ツケクハヘ。追加

おひ‐つ・く ク・ケ・カ・キ・ケ (自動、四) [追着] 後ヲ追ヒテ、及ブ。オヒシク。オヒスガフ。オッツク。伊勢物語、二十四段「後ニ立チテ追ヒイケド、エおひつかデ」

おひ‐つ・ぐ グ・ゲ・ガ・ギ・ゲ (自動、四) [追次] 後ヲ追ヒテ、次グ。續ケザマニス。伊勢物語、初段「男、云云、歌ヲ書キテヤル、其男、云云（歌）トナム、おひつぎテ言ヒヤリケル」源、四十六、總角四十五「文「陸奥紙ニ、云云、ト、おひつぎ書キタマヒテ」 蘘、今昔物語、十五、第十五語「追ひ次ぎテ國人共、杖ヲ持チテ追ヒ嘷ル」

おひ‐つ・む ム・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ (他動、下二) [追詰] 逃グル處無キマデニ追フ。窮追 宇治拾遺、一、第五條「逃ゲテ西ヘ走ル、逃者ガ家ノ前程ニ追ひつめラレテ」

おひ‐て (名) [追風追手] 〔追風ノ轉、はやち、はやて（疾風）〕 オヒカゼ。船ノ帆ヲ吹キ送ル風。順風 夫木抄、十九、雜「シバシトモ、云フカヒゾナキ、沖カケテ、追手ノ風ニ、出ヅル舟人」

おひ‐て (名) [追人追手] 逃グル人ヲ、追ヒカケユク者。オッテ。

お‐ひと (名) [首] 〔大人ノ約〕（一）長官。部曲ノ長。轉ジテ、おふと。首長 古事記、上十三「速須佐之男命、云云、喚二其足名椎神一告言、汝者任二我宮之首一」 成務紀、四年二月「縣邑置レ首」 清寧紀、二年十一月「縮見屯倉首、忍海部造細目」 景行紀、四十年七月「村之無レ長、邑之勿レ首」（二）人ヲ敬ヒテ呼ブ語。允恭紀、二年二月、忍坂大中姫、鬪鷄國造ニ「首也、余不レ忘矣」（三）諸職ノ奉仕ノ事止ミテ、尸ノ名トナル。神代紀、上八「忌部首、遠祖、太玉命」私記「首、讀二於比止一」 姓氏錄ニ、首ノ尸、多シ。

おび‐とき (名) [帶解] 〔附帶、卽チ、附紐ヲ解きテ、常ノ帶トスル義、紐解ト云フモ同ジ〕 女兒七歲ノ祝ヒ。七五三ノ祝ヒノ一、十一月十五日、吉方ニ向ハセ、附帶ナキ小袖ヲ着セ、縫帶ヲ締メサセ、產土神ニ詣デシム。紐解トモ云フ、男兒ノ袴着ニ對ス。五元集、拾遺、元祿十五年、貞德五十年忌「帶ときモ、花橘ノ、昔カナ」 合類節用集（元祿）二「紐解、女兒七歲之賀」 寶曆ノ川柳「帶解ハ、濃白粉ノ、塗リハジメ」

おび‐どめ (名) [帶止] （一）刀ノ鞘ノ中程ニ作リツケテ、突起セシムルモノ。其先、上ヘ向ヒテ曲ル、生反トモ云フ、右ノ片手ニテ、刀ヲ拔ク時、鞘ヲ帶ニ止メシムル用ノモノナリ。金屬製ナルヲ、折りがねト云ヒ、角製ナルヲ、逆角ト云フ。（二）女ノ、帶シタル上ニ、解クルヲ止メムガタメニ、背ヲマハシテ、前ニテ締ムル紐。其兩端ニ金具ヲツケテ、食合ハス。

お‐ひと‐よし (名) [御人好] 人物ノ溫順シクシテ、物ニサカラハヌ者ヲ云フ語。（婦人ノ語）好人物

おび‐とり (名) [帶取] 次條ノ語ノ略。

おびとり‐がは (名) [帶取革] 太刀ノ足金ニ通シテ、腰ニ帶ブル革緖。（あしがねノ條ヲ見ヨ）略シテ、おびとり。又、タチノヲ。アシノヲ。アシヲ。纉 纉後拾遺集、七、物名「太刀ノ帶とりがは」 箋注倭名抄、五四十六「刀劍具、釋義、佩刀把中皮也、於比度利」 盛衰記、廿、八牧夜討事「障子ヲ細目ニ開キテ、太刀ノ帶取五寸許、引殘セリ」

おひ‐とり‐がり (名) [追鳥狩] 山野ニ、鳥ヲ追立テテ狩ルコト。吾妻鏡、十三、建久四年三月廿五日「於二武藏國入間野一、有二追鳥狩一」

お‐ひな‐さま (名) [御雛樣] 雛人形ノ、女兒語。

おひ‐なほ・る ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) [生直] 身、心、好ク改マル。歌林拾葉集、六「神山ノ、柏ノクボテ、サシナガラ、おひなほる身ノ、榮エヌルカナ」 名詞トシテ、源、五十一、蜻蛉五十一「此宮、云云、コヨナクシヅマリタマヒテ、人目ニハ、少シおひ直りシタマフカナト見ユルヲ」

おひ‐な・る ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) [生成] 生ヒ立ツ。生ヒユク。育チユク。成長ス。宇津保物語、嵯峨院十七「カノ袖君ノ、ヨクおひなりタマヒツルヲ、イカデ内ニ參ラセテシガナ」

お‐ひ‐な・る ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 〔御晝ニ成るノ義〕 朝ニ、眠リヨリ覺ム。睡起クノ敬語。音便ニ、おひんなる。（御夜る、およんなるニ對ス） 早起 睡起 中務內侍日記（弘安）「御所ニ御人ズクナナリツレバ、おひなるヨリ先ニト、イソギ參リタレバ」

おひ‐ぬ・く ク・ケ・カ・キ・ケ (自動、四) [追拔] おひさすニ同ジ。「前ニ行ク人ヲおひぬく」

お‐ひ‐ね (名) [大兄] おほえ（大兄）ノ條ヲ見ヨ。

おひ‐ねがひ (名) [追願] 追次ギテ願フコト。浮世風呂（文化、三馬）二編、上「追願ひヲナスッテ、モウ二三日、オ泊メナサイマシナ」

お‐ひねり (名) [御捻] 錢ヲ紙ニ包ミ、ヒネリテ、神佛ニ供フルモノ。

おひ‐の・く クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ (他動、下二) [追退] 追ヒシリゾクル。追拂フ。枕草子、九、百十三段「車ドモヲ、タダノケニノケサセ、云云、おひのけラレタルエセ車ドモノ、牛カケテ、所アル方ニユルガシモテ行ク」

おひ‐のぼり (名) [追幟] むかひのぼりノ條ヲ見ヨ。

おひ‐はぎ (名) [追剝] オヒハグコト。ヒハギ。オヒオトシ。又、其盜賊。行刧 剽盜 御定書百箇條、盜人御仕置之事「追剝イタシ候モノ、獄門」

おひ‐は・ぐ グ・ゲ・ガ・ギ・ゲ (他動、四) [追剝] 往來ノ人ヲ追ヒ刧ヤカシテ、衣服、金錢ナドヲ剝ギ取ル。引剝ヲ行フ。オヒオトス。

おひ‐ばご (名) [追羽子] 羽子ノ條ヲ見ヨ。

おひ‐ばこ (名) [負箱] おひ（笈）ノ語原ヲ見ヨ。

おび‐ばさみ (名) [帶挾] 根附ニ同ジ。貞德文集「印籠、腰袋、帶挾、珊瑚珠緖止」（嬉遊笑覽、二）

おひ‐ばね (名) [追羽] 羽子ノ條ヲ見ヨ。

おひばら（名）[追腹] 武家ノ世ニ、主君ノ死セル時、近臣ノ、腹ヲ切リテ殉死スルコト。（侍女ハ、喉ヲ刺ス）コレヲ二世供トモ云フ、現世ニテ供シ、來世ニテモお供スル意ナリ、主ノ厚キ寵愛ヲ受ケ、報恩ノ忠ヲ盡サムトスルニ、逝去セラレテ、己レ生殘ルニ忍ビズ、其後ヲ追ヒ慕フ誠意ニ起ルナリ。（殉死、腹切ノ條ヲ併セ見ヨ）屠腹殉死 保元物語、三、義朝幼少の弟悉く誅せらるる事「從者内記平太「主ノ御供仕ラムト言ヒモ果テズ、腰ノ刀ヲ拔クママニ、腹掻切リテ失セニケル」袋綴重記（永祿）二「防矢射ケル人人モ、追腹切リテ、同ジ枕ニ伏シニケル」明良洪範、三「君ノ爲ニノミ、云云、無二ノ奉公ヲ致シ、若シ主人死去アレバ、二世の供ヲ致ス、是レ義腹ナリ、云云、子孫ノ後榮ニモ成リナムトテ、腹切ルモアリ、是レヲ、商腹ト云フ」 江戸時代ノ初ニ、追腹、殉死ノ者多カリシカバ、寛文三年五月ニ嚴禁セラル。

おひはら・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ（他動、四）[追拂] 追ヒ出ス、遠ク追ヒ遣ル。放逐 擯 字津保物語、藤原ノ君「妻ヲモおひはらひテ」源、五十、浮舟「カカル過チシタル者ヲバ、イカデカ使ハムトテ、國ノ内ヲモおひはらはレヌ」

おびひろはだか（名）[帶廣裸]［はだかハ、ほどけノ訛ナラム、ほどろ、はだれ。（斑）あけ、あか（赤）ナドアリ、伊豆ノ玖須美ニテハ、正ニおびろほどけト云フ］マヒログルコト。衣服ニ帶セザルコト。

おびふう（名）[帶封] 發送ノ文書ナドニ、封セズシテ、唯、帶紙ニテ包ムモノ。

おびぶくろ（名）[帶袋] 旅行ニ、糒ナド入レテ、腰ニ帶ブベク作レル袋。腰袋。 三代實錄、十七、貞觀十二年三月「以二調布一爲二造糒袋五千枚一、可下帶二士卒腰底一、以支中急速之備上一侯

おひぼく・る（動）[追擬]［次條ノ語ノおひまくるノ、おひもくるトナリテ、轉音シタルナルベシ、うづまる、うづもる。たまる、つもる］次條ノ語ノ口語。 名義抄、十四「行過」、蝦夷、今昔物語、十、荒不久留」一

おひまく・る・ル・レ・ラ・リ・レ（他動、四）[追捲] 烈シク追ヒ散ラス。急擊 賀茂翁家集記、四方ヲ濟ヒテハ、八面ニ當リ、追靡こり」

おひまさ・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）[生優］髮ノあげまさりナド、同趣ノ語］生長スルニ從ヒテ、ヨクナル。源、廿二、玉鬘二十「昔ノ夕貌ト、劣ラジヤナド宜ヘバ、云云、コヨナウコソ、おひまさりテ見エタマヒシカ二玉かつらノ事ヲ云ヘリ」

おひまはし（名）[追廻] 馬場ノ築造ニ、中央ニモ一條ノ土手ヲ設ケ、其兩端ハ明ケテ、乘馬ノ、馬場中ヲ一巡スベクシタルモノ。

おひまは・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）[追廻]（一）アチラコチラヘ追フ。驅逐（二）烈シク使フ。驅使 室町千疊敷（享保、近松作）一「三好ナドノ下ニ附キ、外樣ナミニ追ひまはさレムモロ惜シ」

おひんな・る（動）おひなるノ條ヲ見ヨ。

おひめ（名）[負目] 金錢ヲ借リテ、償フベキ責ヲ負フコト。借錢。カリ。負債

おひめ（名）[追目] 博奕ノ語。幾度負ケテモ、同割增ヅツニ賭ケテ、勝ツニ到リテ、悉ク取ルコトト云フ。「追目ヲ打ツ」

おひめさま（名）[御姫樣] 姫ヲ、敬ヒテ云フ語。

おびもの（名）[佩物] おんものノ條ヲ見ヨ。

おひものい（名）[追物射] 又、馳射。又、おふものい、音便ニ、おんものい、馬ニ乘リテ、地ヲ走ル獸ヲ追ヒテ、射ルナガリテ射ルコト。馳射 長門本、平家物語、十四（伊藤出羽）「木曾ハコレヲ見テ、又ハ、平家ハ誇ツルハ、一騎モ漏ラスナ、射取レヤ者共トテ、おひものいニコソ射タリケレ」平家物語、六、嗄聲合戰事「平家、ヤガテ川ヲ渡リテ、落行ク源氏ヲ、をふものい二射テ行クニ」倭名抄、四「馳射、於無毛乃以、一名騎抄「馳射、オムモノイ」盛衰記、廿一、小坪合戰事「マヅ、馬ノ太腹ヲ射テ、主ヲ跳落シテ、立チアガラムトスル處ヲ、御物射ニモスル條」

おひや（名）[御冷]［おひやしノ略］おひやし。水ノ、婦人語。 狂言記、御冷「今ニ御酒ノ醉ガ醒メヌ、ソノおひやヲ持テコイ」

おびやか・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）[劫脅]［おびやすノ一轉、うやす、うやかす。（飢）ひやす、ひやかす。同趣］威ヲ示シテ、畏レシム。威ス。オドカス。 名義抄「脅、オビヤカス、オドス 脅、劫、オビヤカス」源、四、夕顏廿八「荒レタル所ハ、狐ナドヤウノモノノ、人おびやかさムトテ、ケオソロシウ思ハスルナラム」同、五十二、手習十一「狐ハサコソハ、人ヲおびやかせド、コトニモアラヌ奴」

おひやくど（名）[御百度] 百度參ノ略、敬語。 小町踊、冬「お百度ヲ、時雨モスルヤ、神路山」

おひやし（名）[御冷] 水ノ、女房詞。おひや。 大上臈御名之事、女房詞、水、おひやし」

おびや・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）[劫脅]［怯ゆノ他動、消ゆ、きやす。榮ゆ、はやす］おびやかすニ同ジ。オドス。 字鏡 六十七「脅、於比也須」

おひゃらか・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）[嘲]

[弄] 次次條ヲ見ヨ。ナブル。

おひや・る・ル・レ・ラ・リ・レ（他動、四）[追遣] 追ヒハラフ。追ヒノクル。 伊勢物語、四十段「サカシラスル親アリテ、思ヒモゾ附クトテ、コノ女ヲ、外へおひやらムトス、サコソ云へ、マダおひやらズ」

おひゃ・る・ル・レ・ラ・リ・レ（他動、四）[嘲弄]［表裏ヲ、動詞ニ活用セシメ、へうるトシタル（料理ヲ、れうるトスルニ同ジ）ニ、おヲ冠ラセテ轉ゼシメタル語、駿河ニテ、現ニなぶるヲ、へうるトノミ云ヒ、可笑記、一「輕薄、表裏ニタラサレテ」同卷「我ヨリ上目ナル人ヲバ、褒ムル體ニテひうりあげ、云云ニへうりあげるハ、云フ」嘲ル、カラカフ。愚弄ス。愚弄スルニテ、是レヨリ移レルナリトおひゃるヲ、おひゃらかすト轉ジ、（うつちゃる、うつちゃらかす）ソレヲ略シテ、ひやかすトモ云ヒ、又、おひゃらかすヲ、おちゃらかすト轉ジ、略シテ、ちゃかすトモ云フ、是レ等ハ、語路、口調ニテ移ルナリ。假名文章娘節用（天保、曲山人）「オレガ口ノ娘ヲ……イイ加減ニおひゃるモノダ」

おび・ゆ・ユル・ユレ・エ・エ・エヨ（自動、下二）[震慴]［大冷ゆノ約カ、肝ヲ冷やす］（一）怖ヂ驚ク。オソレチヂム。オビエル。怯 ……十年九月……「……」（二）夢ノ中ニ驚サレテ、怖ヂ魘ム。（多ク、小兒ニ云フ）魘 源、二、帚木九十三「物ニオソハルル心地シテ、ヤトおびゆれド」

おひら（名）[御平] 平椀ノ、婦人語。

おひらき（名）[御開]（一）退クコト、落チ延ビルコトノ忌詞。 太平記、廿九、……「京都ヲ事故ナク御開き候テ、將軍ノ御勢ト一

ツニナリ、明チ京都ヘ寄セラレ候ハバ、云云」(二)去ルコト、歸ルコトノ忌詞。專ラ、婚禮ノ宴席ニ用キラル。

おひる (名) [御晝] 晝、又ハ、晝飯ノ婦人語。 女殺油地獄(享保、近松作)上「子供ガ、お晝ノ時分」

おびる・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ (自動、下二) [性綏] オホドカナリ。オダヤカナリ。オホヤウナリ。 源、三十四、下、若菜、下「女御ノ、餘リヤハラカニ、おびれタマヘルコソ、カヤウニ心ガケ聞エム人ハ、マシテ心亂レナムカシ」濱松中納言物語、四「イト貴ニオホドカニ、おびれタル状ナガラ、ラウラウシク、匂ヒ多カル方サヘ後レズ」

おびれ (動) 前條ヲ見ヨ。

おひろひ (名) [御拾] 〔ひろふノ條ヲ見ヨ〕 徒歩行ノ敬語。 日本武尊吾妻鑑(享保、近松作)一「モトノヤウニおひろひト云ハレテ、センガタ方投ゲ首ニ、心モ染マヌ歩ミブリ」

おひわけ (名) [追分] 〔馱馬、馱牛ヲ、左右ニ追分くる意カト云フ〕 街道ノ、左右ニ分ルル岐。岐路。 新六帖、二「旅人ノ、野中ノ路ノ、おひわけニ、名殘多クモ、行キ別レヌル」

おひわけぶし (名) [追分節] 〔信濃國、北佐久郡ノ中仙道ト、善光寺路トノ追分驛ニ起ル、往時ハ此驛、妓樓盛ンナリキ〕 小唄ノ一種、聲ヲ極メテ永ク引キテ謠フモノ。今、越後、函館等ニ行ハル。 元唄「淺間(噴火山)サン、ナゼ燒キャサンス、裾ニ十七、持チナガラ、ホツホツ出來ル、潰シ島田」(十七ハ、少女ノコト、其條ヲ見ヨ) 追分節「忍路高島、及ビモナイガ、セメテ歌棄、磯谷マデ」沖ノ鷗ニ、潮時問ヘバ、ワタシャ立ツ鳥、波ニ問ケ」嬉モカイモ、浪ニ取ラレテ、身ハ捨小舟、ドコニ取リツク、島モナイ」

おひわけゑ (名) [追分繪] 〔近江ノ大津ノ、京都路ト伏見路トノ追分ノ地ニテ、賣リテ居タレバ名トス〕 大津繪ノ(一)ノ一名。

おふ (名) 介ノ名。おほ(蜷)ノ條ヲ見ヨ。

おふ (名) [啞] 〔おふしノ略〕 おふしニ同ジ。おふす(啞)ノ條ヲ見ヨ。

おふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (他動、四) [負] (一)背ニ載ス。セオフ。ショフ。オブフ。 萬葉集、五、廿「稚ケレバ、路行キ知ラジ、賂ハセム、下部ノ使、於比テ通ラセ(ヨ)」(小兒ノ死ニ詠メル歌ナリ、下部ハ、黃泉ヲ云フ) (二)身ニ引キ受ク。キル。 古事記、下(雄略)三十 長歌「タコムラニ、蝱カキツキ、ソノ蝱ヲ、蜻蛉ハヤ食ヒ、カクノゴト、名ニ於ハムト、ソラミツ、大和ノ國ヲ、アキツシマトフ」

おふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (他動、四) [追逐] (一)後ヨリ付キ及バムト、走ル。後ニ從ヒテ、急ギ行ク。 萬葉集、五九 長歌「取リツヅキ、意比來ルモノハ」 (二)遣フ。退ケ去ラシム。放逐。 萬葉集、八ノ二 長歌「ウレタキヤ、シコ霍公鳥、曉ノ、ウラ悲シキニ、蹤追蹤追、痛シ來鳴キテ、徒ラニ、地ニ散セバ」 (三)過ス。「歲月ヲ追ひテ」

おふ・フル・フレ・ヒ・ヒ・ヒヨ (自動、上二) [生] 成リ出ヅ。生ユ。延ブ。生ズ。 萬葉集、八十二 長歌「百枝刺シ、於布流橘、玉ニ貫キ」

おぶ・ブル・ブレ・ビ・ビ・ビヨ (他動、上二) [帶佩] (一)腰ニハサミテ下グ。佩ク。 字鏡九「佩、帶也、太知於布」 (二)含ム。有ツ。帶。 枕草子、三、廿一段「梨花一枝、春雨ヲおびタリ」「露ヲ帶ぶ」愛ヲ帶ぶ」色ヲ帶ぶ」 (三)兼ネテ勤ム。(官ニ) 官銜

おふく (名) [御福] (一)おたふくニ同ジ。 傾城反魂香(寶永、近松作)中「姫君ハ猪首、タトヘ餅屋ノお福デモ、山姥ト祝言スルトテモ」 (二)上野國ニテ、ねずみノ異名。(物類稱呼)

おふくかぜ (名) [於福風] おたふくかぜニ同ジ。

おふくろ (名) [御袋] 〔昔ハ、金錢、衣類、器什、スベテ袋ニ入レタリ、外出ニモ、從者ニ持タスル物、皆袋ニ入ル、母ハ家政ヲ取リ、袋ノ出シ入レノ締メククリヲスレバ、時世ノ詞ニテ稱シタルナリ(俗語考)〕 (一)母ヲ敬ヒテ云フ語。 康富記、享德四年正月九日「今晨室町殿嬰君誕生也、御袋、大館兵庫頭妹也」 慶元通鑑、下、大坂冬陣「茶臼山、引キワケニスル、扱ヒハ、京極殿ノ袋ナリケリ」(淀君ノ妹、京極忠高ノ母、常光院) 俗語考(橘守部)ノおふくろノ條ニ、夜の御伽ト云フ書ヲ引キテ、老婆ノ嬰君ニ云フ詞「カヤウニ家ノ御袋トナラム人ハ、物ノ締メククリヲヨクシハベル故ニ、家ノ内ノ人、御袋さまト申シハベル也」貧博奕(書名)「今ハ借リ盡シ貢ヒ盡シテ、お袋ノ袋ノ内モ、空シクナリニケリ」 (二)ふくろかづきノ略。其條ヲ見ヨ。

おぶけやき (名) [御深井燒] 〔おぶけハ、地名、御深井ナリ〕 陶器ノ名。尾張、名古屋ノ德川義直、窯ヲ城中ニ築キ、瀨戸ノ地ノ土ヲ取寄セ、明人陳元贇ヲシテ燒カシメタルモノ。

おぶさる・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) [被負] 〔おぶせらるノ約、あづかるノ語原ヲ見ヨ〕 (一)背ニ負ハル。背ニ乘ル。「赤子、子守ニおぶさる」 (二)依賴ス。アテニス ル。「友達ニおぶさッテ遊ビニ行ク」

おふし (名) [啞瘂喑瘖] 〔次次條、動詞、おふす(啞)ノ名詞形〕 物言フコト能ハザル不具ノ名。約メテ、おし。モノイハズ。仙臺ニテ、オッチ。中國ニテ、イハズ。 字鏡四十「瘖、於不志」 倭名抄、三二「瘖瘂、於布之、不能言也」 源、廿六、常夏三十「おし、コトドモリ」留心方、廿二 三十「瘖瘂」

おふしひさご (名) [全匏] 〔おふしハ、動詞、(次次條)おふす(泳ぐ)ノ名詞形、匏ヲ、水ニ身ヲ浮ブルニ用キタルヨリ、名アルカ〕 全ノママノ匏。(匏ハ、二ツニ割キテ、杓トスルガ常ナレバ、云フナリ) 仁德紀、十一年十月「取二全匏両箇一投二於河一」 「匏、轉二浪上一而不レ沈」(爵文)

おふす・ス・セ・サ・シ・セ (自動、四) [啞] 〔おふ、おう、ううノ聲〕 口內ノ機關缺ケテ、物言フコト能ハズ。又、おふトノミ云フ。 天智紀、七年二月「啞、不レ能レ語」

おふす・ス・セ・サ・シ・セ (自動、四) [游泳] およぐノ(一)ノ古言。 倭名抄、四 八十 雜藝類「拍浮、於布須」 おふしひさごト云フ語アリ、前前條ヲ見ヨ。

おふす (動) おほす(課)ノ(二)ヲ見ヨ。

おぶせる・セル・セレ・セ・セ・セヨ (他動、下一) [令負] 〔負はせるノ約轉〕 背ニ負ハシム。背ニ載ス。「子守ニ、小兒ヲおぶせる」

おふだ (名) [御札] 神佛ノ守札ノ敬稱。オマモリ。御符。

おブツみやう (名) [御佛名] みぶつみやうヲ見ヨ。

おふて (名) [追手] 〔手ハ、隊ノ義、大手トモ書ケド、敵軍ノ前面ヲ擊退シテ追ふ義ナリ、逃グルヲ、後方ニテ搦メ捕ルニテ、搦手ノ語モアリ、捕手ヲ、搦手トモ云フ、(寄手ノよせモ、動詞ナリ)〕 礪並山ノ戰ニ、追手、搦手ト云フ、城ノ戰ニハアラズ〕 (一)敵軍ノ前面ニ攻メカカル軍勢ノ稱。後面ヲ攻ムルヲ、搦手ト云フ。 平家物語、七、倶利迦羅落事(越中國、礪並山)「北南ヨリ廻ハル搦手ノ兵一萬餘騎、云云、平家、後ヲ顧ミ給ヘバ、云云、搦手、ヨモ廻ハラジト思ヒツルニ、

云云、大手ヨリ木津殿一萬餘騎、國ノ兵ヲ合ハセタマフ一[illegible]、三十四、[illegible]「[illegible]萬餘、云云、[illegible]ヘゾ、搦手ニトテ向ヒケル、云云、西ニハ、大手取メカカル、云云、東ニハ、搦手[illegible]チウケタリ」[illegible]、九、[illegible]、[illegible]三年ノ[illegible]、[illegible]二、必ズ[illegible]シタルベシ、からめ手ヲマハスベキ由、下知セラルレバ」(二)轉ジテ、城ノ表門ノ稱。大門、大木戸ノ意ニ寄セテ、大手トモ書キ、大手ロトモ云ヒ、裏門ヲ、搦手、搦手ロト云フ。吾妻鏡、一、治承四年八月廿六日「衣笠城、云云、東木戸口、大手」[illegible]、三十六、源氏勢、[illegible]、一ノ谷城「追手ノ大將軍ニハ、蒲冠者範頼、云云、搦手ノ大將軍ハ、九郎義經」

おふと (名) |首| 〔おひとノ轉ナルベシ、鵠ヲ、こふトモ云フ〕 おひとノ條ヲ見ヨ。

おふないり (名) |御船入| 最貴人ノ御入棺。

おぶひも (名) |負紐| スキ。スケ。小兒ヲ背ニ負フニ用キル、太キ紐。繦

おぶ・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (他動、四) |負| 「おふノ訛」 負ふノ(一)ニ同ジ。(東京)セオフ。シヨフ。「子供ヲおぶふ」

おふみ (名) |御文| (一)消息ノ敬語。(二)特ニ、本願寺、八代、蓮如ノ消息ヲ集メタルヲ、其徒ノ稱スル語。眞宗ノ要義ヲ、通俗平易ニ記シテ、時時、信者等ニ與ヘタルモノナリ。先ニ集メタルヲ、帖内ト云ヒ、八十通アリ、殘餘ヲ集メタルヲ、帖外ト云ヒ、七十四通アリ。おふみト云フハ、東本願寺ニテ稱スル所ニシテ、西本願寺ニテハ、御文章ト云フ。

おふみさま (名) |御文樣| 前條ノ語ノ(二)ヲ敬稱スル語。

おふものい (名) |追物射| おひものいノ條ヲ見ヨ。

オブラアト (名) 〔獨語、Oblate.〕 澱粉製ノ、薄キ膜ノ名。其製法ハ、麥ヲ煮テ、濃厚ナル汁ヲ、一定ノ容器ニ薄ク盛リ、コレヲ乾燥セシメテ作ル。是レニハ、薄クテ軟カナルモノト、硬クテ煎餅様ノモノトノ二ツアリ、前者ヲ柔軟おぶらあとト云ヒ、後者ヲ單ニおぶらあとト云フ。苦味ナドアリテ服用シ難キ散劑ヲ、小兒婦人等ノ、コレニ包ミ、水ニ浮カシテ嚥下スニ用キル。

おふれ (名) |御觸| ふれ(觸)ノ敬稱。他我身の上(明曆)「其國ノ主ノ御ふれトテ、着物ニ牛標サス事ヲ、法度ニシ」

おへいへい (名) 何事ヲ聞カセラレテモ、へいへいト背ケテ居ル者ノ渾名。追從者。浮世風呂(文化、三馬)四編、下「おはいはいノ俳助ト云フ、アダ名ノアル男、云云、コレハ、詞ヅカヒ甚ダ丁寧ヲ盡シ、スベテノ事ニ、おノ字ト樣ノ字ヲツケテ物云フ癖アリ」

おへさま (名) |御家樣| 〔おへハ、御家ノ略、小忌、なみ。砧、きぬた〕 畿内ノ商家ナドニテ、家ノ妻ノ敬稱。東京ニテ、おかみさん。今宮心中(寶永、近松作)上「ドウデかみ樣、おへ樣ノ、御口ヲ借ラネバマキラヌコト」

おべっか (名) |諂諛| 〔顏見世狂言ノ初ニ、役者、囃子方、皆別火ニテ齋戒シテ、式三番ヲ勤メタリ、何時ノ事ニカアリケム、囃子方ノ頭某ニ、常ニ諂フ性ノ者アリ、座元ノ許ニ行キ、例ニ因リテ御引火ニテ勤メマスト、頻リニ云ヒシヨリ、樂屋詞ニ、御別火を云ふトテ、諂フ意トセシニ起ルト、或書ニテ見タルコトアリ、又或ハ、[illegible]ニテハ、[illegible]トモ云ヘバ、語原ハ別ニアルカ〕 諂フコト。追從スルコト。天保ノ[illegible]おべっかニ、[illegible]メル、[illegible](寛ヨリ江戸ヘ出デキル[illegible]職人ノ亡者ニ、閻魔ノ廳ノ淨玻璃ノ鏡ヲカケタリ)

おへやさま (名) |御部屋樣| 貴人ノ妾ナドノ尊稱ニ用キル語。

オペラ (名) |樂劇|歌劇| 〔英語、Opera.〕 西洋ノ演劇。奏樂ヲ主トシテ、且歌ヒ、且演ズルモノ。

お・へる (動) 生ふノ口語。

おほ (名) |蛤| 〔大蛤ノ略カト云フ(東雅)〕 蛤ノ、大イナルモノナルベシ。おふトモ云フハ、音轉ナルカ、おうのかひト云フハ、其音便ナリ。倭注倭名抄、八[illegible]白貝「[illegible]、於富、本朝式、用二白貝二字一」内膳式「白貝」字鏡[illegible]「蛤、於不」康賴本草、下[illegible]「[illegible]蛤、於宇乃加比、裂[illegible]文」東雅、十九、海蛤ノ條「式ニ據ルニ、白貝ハ尾張國ノミ貢上セシ所也、即今モ伊勢、尾張ノ間ノ海ヨリ出ヅル 蛤 ハ、其形モ大キク、其味モ珍也、貝おほひニモ、此海ヨリ出ヅル殼ヲ用ユル事也、おほハ、其大ナルヲ云フナルベシ、云云、白貝ト記サレシハ、云云、其肉ノ、殊ニ白キヲ云ヒシナリ」

おほ (接頭) |大| 〔多しノ語根〕 (一)嵩ノ非常ナル。形體ノ太キ。オホキ。オホキナル。オホイナル。「大山」大川」大男」大樹」(二)イミジキ。甚シキ。「大風」大地震」(三)尊キ。「大神」神ノ大前」大君」大命」大家」大殿」(四)勝レタル。「大日本」大臣」大連」(五)血系ナドノ順番ニ於テ、上ナル。「大后」大父」大母」伯父」大兄」大姉」(六)初メノ。基ノ。「大本」大根」(七)末ノ。終ノ。「大つごもり」大みそか」大切」大詰」(八)アラアラシキ。クハシカラヌ。大簡 「大積」大握」

おほあざ (名) |大字| あざ(字)ノ條ヲ見ヨ。

おほあたま (名) |大頭| (一)頭ノ、尋常ヨリハ大キナルモノ。大顱 (二)俗ニ、頭分。巨魁。大家。富豪。

おほあたり (名) |大當| 事ノ、思フ圖ニ當ルコト。出來映ノ、十分ナルコト。大成功 「三居[illegible]大[illegible]」

おほあに (名) |大兄| 第一ノ兄。伯兄

おほあね (名) |大姉| 第一ノ姉。伯姉。落松中納言物語、三「大あねハ、尼ニナリニキ、今ニ人ハ、云云」

おほあは (名) |大粟| あはノ條ノ(一)ヲ見ヨ。

おほあらき (名) |大荒城| あらき(殯宮)ノ條ヲ見ヨ。

おほあらき (名) |大荒木| 大イナル樹ノ、疎ク立チナラビタルモノ。古今集、十七、雜、上「おほあらきノ、森ノ下草、老イヌレバ、駒モスサメズ、刈ル人モナシ」倉[illegible]「[illegible]木ノ、[illegible]クノ枝モ、ナビクマデ、夜ニサビシキ、冬ノ夜ノ風」

おほあらし (名) |大嵐| 次次條ノ語ニ同ジ。

おほあらめ (名) |大荒目| 鎧ノをどし方ノ名。札モ絲モ、大キク太ク粗ク綴リタルモノ。保元物語、二、[illegible]御所各門門固事「白キ[illegible]ヲ以テ威シタル大荒目鎧」

おほあれ (名) |大荒| 天候ノ、大イニ荒ルルコト。オホアラシ。暴風雨

おほい (連體) |大| おほきノ音便。其條

ヲ見ヨ。

おほい (連體) [正] 位階、又、官ノ稱ニ云フ語。おほき(正)ノ條ヲ見ヨ。

おほい-おほどもひ (名) [大拼] おほどもひノ條ヲ見ヨ。

おほい-いき (名) [大息] 大イニ息スルコト。歎クニ云フ。フトイキ。タメイキ。著聞集、十二、博奕「大息打ツキテ、寢モ入ラズシテ、夜モスガラ、物ヲ思ヒタル氣色也」

おほい-きみ (名) 〔大君ノ義〕 貴人ノ長女ノ尊稱。第一ノ姉君。又、おほいこ。第二女ヲ、中の君ト云ヒ、第三以下ハ、三の君、四の君ナド云フ。榮花物語、八、初花「おほいきみハ、タダ今ハ、十七八バカリニテ、又、中姬君ハ、十五六バカリ」大和物語、中「故御息所ノ御姉、おほいこニアタリタマヒケルナム、云云」

おほい-こ (名) [大子] 前條ヲ見ヨ。

おほい-さうくゎん (名) [大史] 〔おほいハ、其條ヲ見ヨ、さうくゎんハ、佐官ノ音便〕 大史ノ舊稱。倭名抄、五二「左右大史、於保伊佐宇官」

おほい-しるすつかさ (名) 大外記ノ古稱。職員令「大外記、於保伊之流須豆加佐」(倭名抄、同ジ)

おほい-そいし (名) [大磯石] 相摸國、大磯ニ產ズル石。赤キ、青キ、種種アリ、其小サキヲ盆石ナドニス。

おほい-との (名) [大殿] 〔大き殿ノ音便〕 大臣ノ尊稱。オトド。榮花物語、四、不見果夢「おほい殿(雅信)ハ、コレヲ見ハテテト、思シツツゾ亡セサセタマヒケル」同、廿三、駒競「おほい殿(教通)モ、大納言殿(公任)モ、イミジウ泣カセタマフ」

おほい-いなご (名) [大稻子] 蟲ノ名、いなごノ條ヲ見ヨ。

おほい-に (副) [大] 〔おほきにノ音便〕 (一)嵩多ク。「おほいに集ル」(二)甚シク。「おほいに談ズ」

おほい-いぬ (名) [大犬] 犬ノ一種。形、甚ダ大ナルモノ。獒。

おほい-まうちぎみ (名) 〔おほいハ、大きノ音便、まうちぎみハ、まへつぎみノ條ヲ見ヨ〕 大臣ノ古稱。オホマヘツギミ。倭名抄、五二「左右大臣、於保伊萬宇知岐美」拾遺集、十五、戀、五「小野宮ノおほいまうちぎみニツカハシケル」

おほい-まつりごと-の-つかさ (名) 大政官ノ古稱。倭名抄、五二「大政官、於保伊萬豆利古止乃官」

おほい-ものまうすつかさ (名) [大納言] おほきものまうすつかさヲ見ヨ。

おほ-いらつめ (名) [大孃] 〔いらつめノ條ヲ見ヨ〕 第一ノ女。大姉。第二ナルヲ、二孃ト云フ。萬葉集、三四十二「坂上ノ家ノ大孃」同卷三四十「坂上ノ家ノ二孃」

おほ-いり (名) [大入] 芝居、見世物場ナドニテ、見物人ノ入ノ、溢ルルバカリナルコト。看客ノ滿員。入ノ少キヲ、不入ト云フ。

おほ-うた (名) [大歌] 次條ヲ見ヨ。

おほうた-どころ (名) [大歌所] 〔おほうたハ、官歌ノ意ニテ、民間ノ小歌ニ對スル稱ナリト云フ〕 ウタマヒノツカサ。大歌ヲ教習スル官。古ヘ、大內裏ノ上西門ノ內ニアリキ。大歌トハ、神樂歌、催馬樂、風俗歌ナド、皇國固有ノ歌謠ヲ云フ。續紀、三十六、天應元年十一月「行二大嘗之事一云云、奏二雅樂寮樂、及、大歌於レ庭」 文德實錄、二、嘉祥三年十一月、興世朝臣書主「能彈二和琴一、仍爲二大歌所別當一、常供二奉節會一」 古今集、二十ノ大歌所御歌ニ、神樂歌、東歌、其他ヲ載セタリ。建武年中行事、十一月、豐明節會「大歌所ノ別當、大歌モヨホシテ、舞姬ノボル」

おほ-うち (名) [大內] 天皇御常住ノ一區ノ宮殿アル處。大內山。大宮。モモシキ。ココノヘ。內裏。禁中。禁裏。御所。皇居。禁廷。禁闕。雄略紀、廿三年四月「內裏」持統紀、十一年八月「禁中」

おほうち-ぎ (名) [大袿] うちぎノ條ノ(二)ヲ見ヨ。

おほうち-しゅご (名) [大內守護] 大內、卽チ、皇居ヲ守護スル職。初ハ公家ニテ武勇ノ者ヲ擇ビ取ラレシガ、賴朝ノ時ニ及ビテ、其家人ヲ以テコレニ充テタリ。尊卑分脈、淸和源氏「賴光、大內守護、云云」

おほうち-びと (名) [大內人] 伊勢神宮ノ神官、小內人モアリ。うちびとノ條ヲ見ヨ。

おほうち-ぼん (名) [大內本] 周防ノ山口ナル大內義隆ガ、紙ヲ明國ニ渡シ、摺ラセテ取寄セタル書籍ノ稱。希ニ世ニ存ス。山口本。

おほうち-やま (名) [大內山] (一)山城國、葛野郡、御室ノ北嶺ノ稱。宇多天皇ノ離宮ノアリシ地ナリ。新勅撰集、十九、雜、四、亭子院、大內山ニオハシマシケル時、勅使ニテ參リテ侍リケルニ、麓ヨリ雲ノ立上リケルヲ見テ、中納言兼輔「白雲ノ、九重ニ立ツ、峯ナレバ、大內山ト、云フニゾアリケル」(山名ヲ、皇居ノ大內ニカク) (二)皇居ヲ、大內トモ云フ、山ノ名モ同ジケレバ、遂ニ皇居ヲ大內山トモ云フニ至レリ。續拾遺集、七、雜春、後嵯峨院「今ハ又、カスミ隔テテ、思フカナ、大うち山ノ、春ノアケボノ」

おほ-うばら (名) [大茨] さるとりいばらニ同ジ。倭名抄、廿廿「菝葜、和名、佐流止里、一云、於保宇波良」

おほ-うへ (名) [大上] 大北方ニ同ジ。榮花物語、三、樣樣悅「北ノ方、(穆子)大うへ、(雅信母)御心ノ至ル限リノ事ドモ、殘リナウセサセタマフ」

おほ-うみ (名) [大海] (一)大イナル海。ソトウミ。ナダ。(入海ナドニ對ス) 萬葉集、七廿七「大海ニ、嵐ナ吹キソ、シナガ鳥、ヰナノ湊ニ、舟泊ツルマデ」(二)海部ノ模樣。枕草子、十二、百五十一段「裳ハ、おほうみ」

おほ-え (名) [大兄] 皇子ト云フニ同ジ。又、おひね。安寧紀、三年正月「大間宿禰」私記「昔稱二皇子一爲二大兄一、又稱二近臣一爲二少兄一也、宿禰之義、取二於少兄一也」 孝德紀二、古人皇子ヲ古人大兄トアリ、天智天皇ヲ中大兄ト申スモ、中皇子ノ意ナリ。仲哀紀、二年正月「彥人大兄之女、大中姬」

おぼえ (名) [思] 思ユルコト。人ニ思ハルルコト。世ノオモハク。源、二、帚木六「時世ウツロヒテ、おぼえ衰ヘヌレバ」同、二十二、玉鬘九「我レハ、イトおぼえ高キ身ト思ヒテ」同、四十九、東屋四十二「ヨソノおぼえハ、父ナキ人ハ、イト口惜シケレド」

おぼえ (名) [覺] (一)覺ユルコト。申合、箇條ナド、紙ニ書キテ貼リ出スニ、首ニ、覺ノ一字ヲ記スコトアルハ、人人ヲシテ覺エシムル意ナリ。源、五、若紫十五「扇ヲ鳴ラシ給ヘバ、おぼえナキ心地スベカメレド、聞キ知ラヌ樣ニハトテ、ヰザリ出ヅル人アナリ」(二)

心ニ留メテ、忘レヌコト。記憶「おぼえガヨイ」(三)技ヲ學ビ得タリト、自信スルコト。宇治拾遺、二、第十二條「[illegible]ト云ハルル[illegible]ハ、おぼえアル刀、コト人ヨリハスグレ」「おぼえノ[illegible]」

おぼえ-がき (名) [覺書] 後ノ記憶ノ爲ニ、書キツケ置クモノ。備忘 [illegible]「下拙ヲ勧ムベシトテ、云云、覺書ヲ出シ授ク」

おぼえ-ず (副) [不覺] オモホエズ。ワレ知ラズ。新古今集、四、秋、上「暮レカカル、ムナシキ空ノ、秋ヲ見テ、おぼえず溜ル、袖ノ露カナ」

おぼえ-ちやう (名) [覺帳] おぼえがきノ帳面。商家ニ、賣買ノ金高ナド記シオクモノニ云フ。掌記册

⁂**おぼ・える** (動) [覺] 覺ゆノ口語。

おほ-おく (名) [大奥] 江戸城内ノ奥向。御臺所ノ住ミテ、將軍ノ寢息スル所。東武實錄、九「元和九年正月廿五日、大奥方ノ御法度、云云」御老女覺記「大奥女中分限」

おほ-おば (名) [曾祖母] 大祖母ノ義。ヒババ。ヒイババ。倭名抄、二、六「曾祖母、於保於波」

おぼ-おぼ・し・シキ・シケレ・シク・シク (形、二) [朧朧] 朧ノ語ヲ重ネテ、活用セシム。(一)分明トセズ。オボボシ。オボツカナシ。オボロゲナリ。源、廿六、常夏五「タソガレ時ノ、おぼおぼしきニ」同、三十四、上、若菜、上七十三「モウモウニ、耳モおぼおぼしかりケレバ、アアト傾キテ居タリ」(二)ウトウトシ。隔テガマシ。源、五十三、夢浮橋「思シ隔テテ、おぼおぼしくモテナサセタマフニハ、何事ヲカ聞エハベラム」

おほ-おほぢ (名) [曾祖父] [大祖父ノ義] ヒヂヂ。ヒイヂヂ。字鏡「曾祖、於保於保地」

倭名抄、二、廿六「曾祖父、於保於保知」

おぼおぼ-と (副) オボオボシク。源、五十一、[illegible]「[illegible]シキマデ[illegible]ズクナニ、おぼおぼとノミ物シタマヒテ」

おほ-おみ (名) [大臣] 臣ノ尸ノ人ニ、大ヲ加ヘテ賜ヒシ尊稱。連ノ尸ノ人ノ大連モ、同義ナリ。成務天皇ノ時ニ、武内宿禰ヲ大臣トセラル、是レ其初ナリ。雄略天皇ノ時ニ、平群臣眞鳥ヲ大臣ニ、大伴連室屋、物部連目ヲ大連トセラル、執政ノ大官ナリ。後ニ、おほいまうちぎみ、大臣トナル。

おほ-おもと (名) [大萬年青] おもと(萬年青)ヲ見ヨ。

おほ-および (名) [大指] [およびノ條ヲ見ヨ] おほゆびノ古言。オヤユビ。倭名抄、三、七「於保於與比、大指也」

おほ-が (名) [繰車] いとくりぐるまノ古言。箋注倭名抄、六、六十一「繰、絡レ繭取レ絲也、繰車、於保賀」

おほ-が (名) [大鋸] [おほがかりノ略ニモアラムカ] 鋸ノ、大キナルモノ。約メテ、おが。ガガリ。ガンギ。勸進聖判職人歌合、二十番、大がひき「柚板ハ、世ニ出デナガラ、アハレ身ノ、おがひきコモル、山住ミゾ憂キ」

おほ-がかり (名) [大掛] おほじかけ(大仕掛)ニ同ジ。國性爺後日合戰(享保、近松作)三「雀ヲ捕ルニ、雁ノ網デハ羅ラヌ筈、大懸ノ寄手、軍令ガ締マラヌ、モトモ」

おほ-がさ (名) [大笠] 長キ柄ノ、先ノ曲リタルニ、大キナル菅笠ノ頂ヲ釣リテ、人ノ後ヨリカザシユクモノ。御管蓋ノ如シ。[illegible] [illegible]記、二、天長十年九月、[illegible]「[illegible]、右大臣[illegible]、[illegible]」[illegible]式「[illegible]一枝、長八尺」倭名抄、十四「[illegible]」[illegible]「[illegible]」[illegible]、[illegible]「[illegible]之」[illegible]一、上「男、おほがさササセテ」

おほ-かしはでのつかさ (名) [かしはで(膳夫)ノ條ヲ見ヨ] 大膳職ノ古稱。倭名抄、五「大膳職、於保加之波天乃豆加佐」

おほ-がしら (名) [大頭] 竿ノ頭ニ、犛牛ノ尾ノ黒毛ニテ大キク作レル、切禿様ノモノヲツケ、其下ニ、龍ノ文アル幡ヲ垂レタルモノ。御即位、大嘗會、御禊ナドノ時、建テラル。[纛] 字類抄「纛、オホガシラ、御即位、大嘗會之時之大頭也、以二犛牛尾一爲レ纛」軍防令、義解「將軍所レ載曰二纛幡一」

おほ-かた (名) [大方] [大御方ノ約、貴人ノ妻ヲ、御方ト云フ] 貴人ノ母ノ尊稱。大方殿、大方様ナド云フ。太平記、伯耆之卷、名和長年「義高ノ妻女、其長ノ妻ヲ始メトシテ、云云、大方殿ニ集居テ、云云、大方殿ハ、自害シテ火ニ入ラセタマフベキ由仰セ候」(長年妻、義高、其長母トアリ) 松尾筆記、三十八、十六「蜷川親元日記ニモ、將軍ノ御母堂ヲバ、大方殿ト書キタリ」(足利將軍) 武家閑談「權現様御大方様」

おほ-かた (副) [大方] (一)十ニ七八ハ。多分。大約。大抵 萬葉集、十二、九「大方ハ、何カモ戀ヒム、コトアゲセズ、妹ニヨリ寢ム、年ハ近キヲ」(二)オシナベテ。ヒトトホリ。一般 源、二、帚木四「オシナベタル、おほかたノハ、云云」

おほ-がた (名) [大形] [中、小形ニ對ス] (一)凡テ、形ノ大キナルモノ。(二)大キナル模様ノ染物ナド。オホガラ。

おほ-かたびら (名) [大帷子] 布ニテ製シ、

裝束ノ下ニ着ル、廣キ單、古ヘハ汗取トシテ、夏ノミ用ヰシガ、後世ハ、夏冬トモ用ヰル。色ハ夏秋ハ紅、冬春ハ白、老人ハ青淺ヲ用ヰタリ。

おほ-がね (名) [大鐘] つりがねニ同ジ。ツキガネ。洪鐘 [illegible]、下、十一年四月[illegible]「[illegible]、於保[illegible]」

おほ-がね (名) [大金] 多クノ金錢。タイキン。三世相錦繡文章(安政、梅水亭種清)「折リヲ見合ハセ、おほがねマウケヨセニャナラネエ」ニ大金モナ」

おほ-かは (名) [大革] おほつづみ(大鼓)ノ異名。

おほ-がひ (名) [大貝] [貝ヲ、[illegible]ト云フニ別チテ云フ] 漢字ノ傍ニアル、頁ノ字ノ稱。頂、頃、項、須、順ノ如シ。

おほ-かへり (名) [大返] かへりてん(返點)ノ條ヲ見ヨ。

おほ-かみ (名) [狼] [大神ノ義、畏レテ尊稱スルナリ、欽明即位前紀、秦大津父ガ狼ニ向ヒテ祈請シテ曰ク、汝是貴神而樂二麁行一云云] 獸ノ名。深山ニ棲ム、犬ニ似テ、瘦セテ大キク、目、三角ニシテ、夜、光ル、喙、長ク、口、大キク、耳、小サク、頰ニ、白ク小サキ斑アリ、脚ニ蹼アリテ、(蹼ナキトノ說モアリ)能ク水ヲ渉ル、全身、茶褐ニシテ、赤ミアリ、尾、太ク、灰白色ナリ、聲遠ク響ク、兇猛ニシテ、他ノ獸ヲ食ヒ、人ヲモ害ス、轉ジテ、おほかめ。本草和名、下「狼、於保加美」倭名抄、十八、二「狼、於保加美」十二[illegible]獸食[illegible]愛野ノおほかめ、愛宕山ノ古跡」

おほかめ (名) 狼 前條ヲ見ヨ。

おほがもめ (名) 大鷗 かもめノ條ヲ見ヨ。

おほがら (名) 大柄 〔小柄ニ對ス〕(一)身體ノ、常ノ人ヨリ長大ナルコト。大兵。魁偉 (二)模樣ノ、大形ナルモノ。

おほがり (名) 大雁 (一)ひしくひニ同ジ。ウカリ。鴻 倭名抄、十八廿「大曰レ鴻、小曰レ雁、加利」(二)鵞鳥。タウガン。雄略紀、十年九月「呉所レ獻二鵞、到二於筑紫一」釋紀「鵞、於保賀利」

おほき (連體) 大 〔多しノ連體形ナル、多きノ意ヲ轉ジタルモノ、大納言ノ大ヲ、おほきト讀ミ、少納言ノ少ヲ、すなきト讀ム、後世、おほきい、おほきくト云フ形容詞ノ出來タルモ、是レナリ〕(一)嵩ノ非常ナル。「大海」其他「大臣」「大聖」ナド、種種ノ意義アルコト、接頭語ノおほ(大)ニ同ジ、其條ヲ見ヨ。此語多クハ音便ニ、おほいト用キラル。(二)同官ノ、高キ方ノ稱。低キヲ、すなきト云ヒ、亦音便ニ、おほい、すないトモ云フ。天武即位前紀、上「大納言」倭名抄、五二「大納言、於保伊毛乃萬宇須豆加佐」少納言、須奈伊毛乃萬宇之」

おほき (連體) 正 〔大きノ義、天武紀、下、十四年正月、位階數十級ヲ定メラレ、階毎ニ、大ト、廣トニ別チ、(後ノ正、從ノ如シ)おほき、ひろきト讀ミタル、其語ノ遺レルナリ、大織冠ヨリ移リテ、位階ヲかうぶりトモ云フガ如シ〕一位、三位、五位等ノ位階ヲ、階毎ニ又、甲、乙ニ分テル、其甲ノ方ヲ稱スル語。乙ノ方ナルヲ、ひろきト云ヒ、又音便ニ、おほい、ひろいトモ、正、從トモ云フ。(くらゐノ條ヲ併セ見ヨ) 古今集、序「おほき三位柿本人丸ナム、歌ノ聖ナリケル」倭名抄、五三「正四位、於保伊與豆乃久良井」從八位、比呂伊夜豆乃久良井」

おほき・い (形) 大 〔連體詞ノ大きヲ、形容詞ニ活用セサセタルモノ、室町時代ニ出來タル口語トオボシ〕(一)嵩、多シ。廣ク太シ。「おほきい體」(二)甚シ。甲陽軍鑑、十一、下、品第三十七「信州河中島ニオイテ、大きく負」「利益ガおほきい」「おほきく話ス」(三)重シ。輕輕シカラズ。重大 「事柄ガおほきい」

おほき-おとど (名) 〔大大臣ノ義〕 だいじやうだいじん(太政大臣)ニ同ジ。伊勢物語、百一段「おほきおとどノ榮花ノサカリニミマソカリテ」源、十四、澪標廿一「世ノ中ノ事、タダ半ヲワケテ、おほきおとど、(葵ノ父)コノおとど(源氏)ノ御ママナリ」

おほき-おほいとの (名) 〔大大臣ノ義〕 だいじやうだいじん(太政大臣)ニ同ジ。源、三十四、上、若菜、上九十「おほきおほい殿ノ君達、頭辨、兵衛佐、大夫ノ君ナド」

おほき-おほいまうちぎみ (名) 〔おほいまうちぎみハ、大臣ナリ、ソレニ、大ヲ冠ラス〕 だいじやうだいじん(太政大臣)ニ同ジ。古今集、一、春、上「染殿ノ皇后ノ御前ニ、花瓶ニ、櫻ノ花ヲ刺サセタマヘルヲ見テヨメル、前ノおほきおほいまうちぎみ」(藤原良房)

おほき-きさき (名) 大后 きさきノ條ヲ見ヨ。

おほき-すめらみこと (名) 太上天皇 だじやうてんわう(太上天皇)ニ同ジ。

おほき-たのかた (名) 大北方 きたのかたヲ見ヨ。

おほき-たのまんどころ (名) 大北政所 きたのまんどころヲ見ヨ。

おほき-ど (名) 大木戸 大イナル木戸。表門ナル木戸。崇神紀、十年九月、長歌「於朋耆妬ヨリ、窺ヒテ、殺サムト、スラクヲ知ラニ」

おほき-に (副) 大 (一)甚シク。イミジク。音便ニ、おほいに。源、七、紅葉賀五十「程ヨリハ大きに、夙慧ケタマヒテ」同、四十四、橋姫三十四「大きに、思ヒニ違フベキ事ナム侍ルベキ」(二)マコトニ。「おほきにアリガタウ」

おほき-み (名) 大君 スメラミコト。當代ノ天皇ヲ申シ奉ル語。萬葉集、三二十「皇ハ、(持統天皇)神ニシマセバ」續紀、四、慶雲四年七月、元明天皇ノ詔「我王、朕子天皇」(文武天皇ヲ指シタマフ) 萬葉集、十五廿「於保伎美ノ、遠ノ朝廷」

おほき-み (名) 王 (一)親王、王子、王女ノ稱。後ニ、親王ヲみこト稱スルニ別カタムガ爲ニ、專ラ王ノ稱トシテ、諸王等ナド云フ。しんわう(親王)ノ條ヲ併セ見ヨ。崇神紀、七年八月「會二諸王卿、及、八十諸部一」繼體即位前紀「倭彦王」持統紀、四年七月「詔曰、凡朝堂座上、見二親王一者如レ常、大臣與レ王、起二立堂前一、二王以上、下レ座而跪」(二王ハ、二世ノ王ナリ) 萬葉集、三三十長歌「吾ガ於富吉美」(長皇子ヲ申ス) (二)外國ノ主ノ、王ト稱スルモノニ訓ヲ移シテ「百濟王」ト云フ。

おほ-ぎみ (名) 大君 (一)主君ヲ敬フ稱。國府臺戰記「おほぎみ(義明)ヲハジメ奉リ、御舍弟元類、ワカギミ兩三人」(二)他人ヲ崇ビ云フ稱。催馬樂、我家「我家ハ帷帳ヲモ、垂レタルヲ、於保支美來マセ、聟ニセム、下酒物ニ、何ヨケム」

おほきみ-すがた (名) 大君姿 諸王ノ、直衣ヲ、ナヨヤカニ着タル姿。源、八、花宴二十「皆人ハ、袍ナルニ、荒レタルおほきみすがたノ、ナマメキタルニテ」(源氏ノ君ノ姿ヲ云フ) 同、廿九、行幸六十「シドケナキ大君すがた、イヨイヨ、タトヘムモノナシ」

おほきみ-の (枕) 大君之 〔皇輿ノ蓋ヲ、御蓋ト云フ〕大和國ノ三笠山ノ枕詞。萬葉集、七七「大王之、御笠ノ山ノ、帶ニセル、細谷川ノ、音ノサヤケサ」同、八三十八「皇之、御笠ノ山ノ、モミヂ葉ハ、今日ノ時雨ニ、散リカ過ギナム」

おほ-きんだち (名) 諸王等ノ訓讀。其ノ條ヲ見ヨ。

おほきんだち-の-つかさ (名) 正親司 〔おほきんだちハ、諸王等ノ音便、王ヲ、おほきみト云フ、親王、及、王ノ(一)ノ條ヲ見ヨ、崇神紀、七年八月「親王卿」名義抄、竹部「王等、オホキムダチ」〕皇族ノ名籍ヲ掌ル司。宮内省ニ屬ス。倭名抄、五三「正親司、於保岐無太知乃官」朝野群載、六、太政官、諸司訓詞「正親司」

おほ-ぎもいり (名) 大肝煎 きもいりノ(三)ノ條ヲ見ヨ。

おほき-ものまうすつかさ (名) 〔おほきハ、少納言ニ對スル語、ものまうすハ、漢語、納言ノ訓讀、だいなごんノ語原ヲ見ヨ〕大納言ノ古稱。音便ニ、おほいものまうすつかさ。天武即位前紀、上「大納言」倭名抄、五二「大納言、於保伊毛乃萬宇須豆加佐」

おほ-ぎやう (名) 大行 〔大いに行ずる意ナルベシ、文覺ノ荒行ナドノ語モアリ、

満俸禄ニハ、大勢ナドモアリ。事ヲ、盛ンニ大イニスルコト。(分ニ過グル意ヲ含ム)贅大 [illegible]「[illegible]おほきうニナリタルハ、元祿ノ頃ヨリ始マリタリ」

おほぎり (名) 大切 小切ニ對ス。(一)魚菜ナド、刻マズ、大振リニ切リ分クルコト。(二)芝居ノ演技ナド、終ヘ果ツルコト。オホヅメ。シマヒ。終局

おほく (副) 多 嵩、豐ニ。サハニ。タクサンニ。タップリ。タント。ドッサリ。源、一、桐壺「オホヤケヨリモ、おほく(おほくのイ)物賜ハス」

おほぐくり (名) 大括 總體ヲ、一ツニ統ブルコト。總括 概括

おほぐち (名) 大口 (一)大イニ口ヲ開クコト。宇治拾遺、二、第三條「[illegible]ヲ見ルニ、マコトニ、龍ノ大口ヲアキタルニ似タリ」(二)次條ノ語ノ略。

おほぐち (名) 大口 猥リナル物言。穢語「大口ヲキク」

おほくちばかま (名) 大口袴 (裾ノ口、大イニ開キタレバ名トス)(一)束帶ノ時、表袴ノ下ニ穿ク袴、生ノ平絹ナリ。略シテ、おほくち。赤大口、白大口アリ。裾ニ括アルヲ、小口袴ト云フ、指貫ノ如シ。略シテ、おほくち。倭名抄、十二「大口袴、於保久知乃八賀萬」名義抄「大口袴、オホクチハカマ」枕草子、七、六十四段「大口、長サヨリハ、口ノ廣ケレバ、袴、イトアヂキナシ」裝束圖式、下、生、平絹、紅ニ染メテ用ユ之、[illegible]白[illegible]、表袴ノ下ニ著スル也」連阿口傳抄「大口事、表袴ニ同ジ、足つぎナシ、云云、表袴ヨリ、三寸バカリ短シ」西宮記、臨時、八「小口袴、冬時主上著レ之、淡紅入レ綿」大

口袴抄「御鞠アソバス時ハ、おほくちノ御袴ト云フ物ヲ召シテアソバス二候、云云、小葵ノ綾ノ紅ノ御袴ニ、くくりヲササレタルニ候」紫式部日記「上ノ[illegible]、一種、[illegible]ノ[illegible]ニ、くくりヲ[illegible]、おほくちハ[illegible]」(二)又、一種、綿紗織ヲ後ニシ、大紋織ヲ前ニシ、前ノ張ルヤウニセルモノアリ、前張の大口ト云フ。又、コレニ反シテ、後ノ張ルヤウニシタルアリ、後張の大口ト云フ。共ニ、襴ノ口大キク開キ、前後、同幅、精好ニテ作ル、長サ、足ノ甲ニ及ブ。[illegible]記、二[illegible]下[illegible]ノ、[illegible]モナク、大口ニ著ル、美精好」

おほくづれ (名) 大崩 戰ニ、軍勢ノ敗レ亂ルルコト。[illegible]、[illegible]長「[illegible]長ハ都大崩れニテ、藤ノ口ヲ射サセ」

おほくばう (名) 大公方 前ノ公方。大御所。畠山記「大公方尊氏公、天下御草創ノ刻ミ」

おほくび (名) 衽 衽 (大領ノ義、くびハ、襟ナリ、小領ト云フ語モアリ) 袍、狩衣、直衣ナドノ盤領ノ前襟。約メテ、おくび。(今、おくみト云フ、此語ノ遺ナリ) 倭名抄、十二、衣服「[illegible]、於保久比、衣前襟也」宇津保物語、俊蔭「[illegible]ヲ、云云、君ノ[illegible]下[illegible]ノおくびニ、ツブツブト長ク縫ヒツケテ」

おほぐひ (名) 大食 物ヲ、多ク食フコト。大食。健啖

おほくめべ (名) 大來目部 くめべノ條ヲ見ヨ。

おほぐも (名) 大蜘蛛 くもノ一種。ひらたぐもニ似テ、扁ナラズシテ、大ナリ、脚、二寸許、白キ斑アリテ、毛、多シ、夜出デテ、行クニ聲アリテ、蟹ノ行クガ如シ。[illegible]蜘蛛

おほくらしやう (名) 大藏省 [illegible]ノツカサ。古ヘノ八省ノ第七ニ居ルモノ、[illegible]國ヨリ[illegible]ノ物ヲ[illegible]、出納ヲ掌ル。今ハ國家ノ財務行政ヲ司ル中央政府ノ一省ニシテ、大藏大臣統轄ノ下ニ、主計局、主税局、理財局、銀行局ノ四局アリ、政府ノ財務ヲ總轄シ、會計、出納、租税、國債、貨幣、預金、保管金、銀行、信託、無盡、有價證券ニ關スル事務ヲ管理シ、府縣市町村、及、公共組合ノ財務ノ監督等ヲナス。

おほくらだいじん (名) 大藏大臣 國務大臣ノ一、大藏省ノ事務ヲ統轄スルモノ。

おほくらのつかさ (名) 大藏省 前前條ニ同ジ。清寧卽位前紀「大藏之官」倭名抄、五「大藏省、於保久良乃豆加佐」

おほくらりう (名) 大藏流 (一)能ノ狂言ノ一流ノ名、大藏彌右衛門政信(道[illegible])ヲ祖トス。金春ヨリ別ル、永祿頃ノ人ナリ。(二)能ノ大鼓ノ一流ノ名。亦、天正ノ頃、金春ヨリ別レ、大藏源右衛門正重ヲ祖トス。正重、紫ノ調べヲ許サル。

おほけ (名) 大氣 氣ノ、大イナルコト。大氣。大膽。宇治拾遺、十二、十一條「アナおほけナルコト莫言ヒソ、樣ニモ似ズ、イマイマシ」(輩山文集)

おほけいま (名) 大桂馬 けいまノ條ヲ見ヨ。

おほけく (名) 多 (おほくノ延、[illegible]く、さむけく。うれしく、うれしけく)多キコト。古事記、中(神武)長歌「イチサカキ、實ノ

おほけさ (名) [illegible]、コ[illegible]) 大げさ(袈裟、不思議[illegible]ノ[illegible]ニテ、[illegible]ト同[illegible]ノ語ニテモアルカ) 事ノ仕組ヲ、大キク行フコト。オホギヤウニスルコト。[illegible]。おほけさニシカケル [illegible]

おほゲサ (名) 大袈裟 大キク、袈裟がけニ切ルコト。[illegible]「[illegible]手ニ掛ケテ成佛セイ、サア里ミニ、大袈裟ヲ遊バセ、我我ハ一ノ胴、二ノ胴」「背ヨリ、おほけさニ切リサゲタリ」

おほけたで (名) 大毛蓼 古名、イヌタデ。[illegible]作、生ズ、莖ノ高サ六七尺ニ至ル、葉ハ互生シテ、蘭草ノ葉ニ似テ、尖リ、柔ニシテ、毛、長シ、秋ノ半ニ、枝ノ梢ニ、穗ヲ垂レテ、淡紅ノ花ヲ開ク、常ノ蓼ノ穗ヨリ大ナリ。紅草

おほけな・し・キ・ケレ・ク・ク (形、二) 大氣無 [illegible]ノ義、大膽ナリノ意、宇治拾遺、十一、十一條「おほけナルコト、莫言ヒソ」(一)身ノ分際ニ應ゼズ。分、不相應ナリ。過分 宇津保[illegible]、[illegible]、[illegible]カリ[illegible]イ、[illegible]ヲ、思ヒカケタマヒケルゾ、おほけなきヤ」源、四十八、寄生「后腹ニオハセバシモト覺ユル心ノ内ゾ、アマリおほけなかりケル」(二)勿體ナシ。源、四十九、東屋「大將殿ノ宮フラム[illegible]ニ、おほけなくトモ、ナドカハ思ヒ寄タザラマシ」[illegible]侍ツ、草葉ノ露ヲ、おふけなく、蓮ノ上ニ、宿レトゾ思フ」

おほけみ (副) 大 (おほきみノ訛、きつね、けつね。奇體、けったい) おほきみニ同ジ。(京都)

おほげば (名) 大下馬 江戸城、大手門

外ノ下馬所ノ稱。

おぼこ (名) [産稚] 一産子ノ轉、(産立、おぼだて)初初シキ意ナラム、うぶノ娘ナド云フ、同趣、お坊子ノ約ト云フハ、イカガ」 (一)未ダ世馴レズ、初心ナル童男、童女ヲ云フ語。老耄ケテ小兒ノ如クナリシ人ヲ、二度おぼこト云フ。 五十年忌歌念佛(寶永、近松作)上「手入ラズノ、田舍生レノおぼこ」 夕霧阿波鳴渡(寶永、近松作)上「角前髮ノ御小姓ラシイ、其標、致ノ良サ、おぼこサ」 (二)夏ノ初、鯔ノ初生ノ、長サ一寸許ナルモノ。稍長ジテ、すばしりトナル。 安永ノ川柳「十五日、カラハおぼこノ、聲ガハリ」(昔六月十五日ヨリ前髮ハ許サレタリ、聲ガハリハ、すばしりトナリタルヲ、おぼこ娘ニ譬ヘタリ)

おほごしょ (名) [大御所] 一御所ノ條ヲ見ヨ」 (一)親王ノ御隱居所。又、其御方ノ尊稱。 康富記、嘉吉二年十一月廿六日「參二伏見殿一、依二宮御方御召請一、大御所有二御出座一」(貞成親王、後崇光院) (二)前ノ征夷大將軍ノ居所。又、其人ノ尊稱。大公方。 吾妻鏡、十七、建仁三年九月六日、江馬殿、將軍、被レ依二大御所一」 註「幕下將軍御遺跡、當時、尼御臺所御座」 明徳記「大御所尊氏將軍、御代ヲ被レ召テ既ニ六十年、云云」(小御所ヲ併セ見ヨ) 借シテハ、鎌倉管領(公方)ニモ稱セリ。 鎌倉年中行事、下「公方樣、同御姿樣、大御所樣」 徳川御實紀、一、慶長十年四月十六日「今日ヨリ御父君(家康)ヲバ、大御所ト稱シ奉ル」 八代將軍吉宗モ、隱居ノ後、大御所ト稱セラレタリ。

おほごすん (名) [大五寸] 五寸釘ノ條ヲ見ヨ。

おほごと (名) [大事] 非常ナル出來事。ダイジ。

おほごゑ (名) [大聲] 高キ聲。高聲。タイセイ。 土佐日記、正月七日「行ク先ニ、立ツ白浪ノ、聲ヨリモ、後レテ泣カム、我レヤマサラム、ト詠メル、イトおほごゑナルベシ」

おほざう (名) [通常] 一大樣ノ音便轉ナラム、(宣まふ、のたうぶ)後ニ、湯桶讀シテ、大樣ト云フモ、是レナルベシ、あふさわしノ條ヲ併セ見ヨ」 オホカタ。オホヤウ。ナミナミ。 源、二、帚木「ヤンゴトナク切ニ隱シタマフベキナドハ、カヤウニ、おほざうナル御廚子ナドニ、打置キ散ラシタマフベクモアラズ」 岷江入楚「おほざう、大概ノ心ナリ」 同、廿一、少女「此君タチノ、スコシ人數ニ思シヌベカラマシカバ、おほざうノ宮仕ヘヨリハ奉リテマシ」 同、三十五、若菜、下「女三ノ宮ノ御子生ミタマヘル所ニ「致仕ノ大殿ナド、心、殊ニ仕ウマツリタマフベキニ、此頃ハ、何事モオボサレデ、おほざうノ御訪ノミゾアリケル」 湖月抄「大かたノ御見マヒバカリナルベシ」

おほさかかばん (名) [大阪加番] 「大阪定番ニ對ス」 江戸幕府ノ職名ニテ、大阪城ニ交代シテ(八ケ月ヅツ)警衛スル役。

おほさかけん (名) [大阪拳] 拳ノ條ヲ見ヨ。

おほさかじゃうだい (名) [大阪城代] 徳川幕府ノ時、大阪城ニ居テ、大阪、及、關西地方ヲ警備スル職。 東巖記聞、一「大阪城代、一人、住二大阪城中一守二護之一(掌二彼地一切事一之職也)」

おほさかぢゃうばん (名) [大阪定番] 「大阪加番ニ對スル稱」 徳川時代ニ、大阪ニ在リテ、其城ヲ守備スル職。 東巖記聞、一「大坂定番、二人、住二大坂城中一掌レ守二衞京橋玉造兩門一之職也」

おほさかづけ (名) [大阪漬] 大根ノ葉、莖ヲ刻ミテ、鹽漬ニシタルモノ。

おほさかつち (名) [大阪土] 壁ニ塗ル一種ノ土、大阪ニテ行ハレシモノカ、紀伊ニ產ズトカ云フ、色黃ニシテ、赤ミアリ、文政年中ヨリ、江戸ニモ行ハル。 醫囊(延寶)二「上塗ノ、大坂つちヤ、烏紅葉」(梅亭記、上)

おほさかど (名) [大阪戸] 土戸ノ條ヲ見ヨ。

おほさかぼり (名) [大阪堀] ほりぬきゐどノ條ヲ見ヨ。

おほざけ (名) [大酒] 過分ニ、酒ヲ飲ムコト。大酒。豪飲。 狂言記、暇袋「大ざけマデタベテ、醉狂ヲ致シ」

おほざっぱ (名) [大雜把] 「大束ナド同根ノ語ナルカ」 事ヲスルニ、コセツカズ、大略ニスルコト。オホタバ。

おほざつまぶし (名) [大薩摩節] 淨瑠璃節ノ一種。慶安ノ頃、薩摩淨雲直壽、始ム、淨雲節トモ云フ、江戸淨瑠璃ノ最初ノモノナリ。今ハ、大薩摩ト云フモノ、別ニ大夫ト云フハ無クテ、其曲節ヲ長唄ノ方ニ覺エ居テ、歌舞伎ナドニテ用アル時ハ、出デテ演ズ。

おほざと (名) [大邑] 「コレニ對シテ、阜ノ阝ヲ小邑ト云ヒ、形ノ大小ヲ別ツ」 漢字ノ傍ノ阝ノ字、即チ、邑ノ字ナリ。邦、邪、郎、郊ノ如シ。オホザル。ノボリザト。邑附

おほさび (名) [大皺] 「小皺ニ對ス」 烏帽子ノ塗ニ云フ語。さび(皺)ノ條ヲ見ヨ。

おほざる (名) [大邑] 前前條ヲ見ヨ。

おほし (名) [大黃] 「しハ、羊蹄(しのね)ノ義」 だいわう(大黃)ノ古名。(羊蹄菜ヲ見合ハスベシ) 本草和名、上、八三十「大黃、於保之」(倭名抄、同ジ)

おほ・し・キ・ケレ・ク・ク(形、二) [多] 數、度、量ニ、嵩、ユタカナリ。少シノ反。澤山ナリ。 萬葉集、廿、三三「戀シクノ、於保加流我レハ」 同、十五、三五「戀シ夜ハ、於保久アレドモ、物思ハズ、安ク寢ル夜ハ、サネ無キモノヲ」

おほ・し・シキ・シケレ・シク・シク(形、二) [思] 「おもほしノ約、おもほす、おぼす」 思ハルベクアリ。オモハシ。 源、四十五、椎本「物ノ上手トおぼしき限リ、トリドリニ打合ハセタル拍子ナド」 同、四、夕顏「御格子一間上ゲテ、見奉リ送リ給ヘトおぼしく、御几帳引キ遣リタレバ」

おほしか (名) [大鹿] 鹿ニ似テ大キク、毛ニ斑ナク、牡ハ青黑色、牝ハ褐色ナリ。牡ニ角アリ、其枝、末ニテ鋸リ分レ、冬ニ至リテ落ツ、(常ノ鹿ノ、夏至ニ落ツルト異ナリ)生エカハルモノ、年年、一枝ヲ增スナリ。麋 景行紀、四十年十月「麋鹿」 本草和名、下二「麋、於保之加」(倭名抄、同ジ)

おほじかけ (名) [大仕掛] 仕事ヲスルニ、仕組ノ盛大ナルコト。オホガカリ。大計畫 規模弘大

おほした・つ・ツル・ツレ・テ・テ・テヨ(他動、下二) [生立] 「おほす(生)ヲ見ヨ」 生ヒ育タス。成長セシム。成育 宇津保物語、俊蔭「言ヒ敎フルコトモナクテ、おほしたつるニ」

おほしほ (名) [大潮] 潮ノ滿干ニ就キテ云フ語。陰曆ノ月ノ朔日ト十五日ト

ヲ大潮ノ極トス、潮水上グルコト、最モ高シ、十日ト廿五日トヲ、小潮ノ極トス、最モ低シ、十一日ヨリ若潮口(上總邊ニテ、日一日潮)トモ、初潮トモ云ヒ、十二日ヲ一日満、十三日ヲ三日満ト云ヒ、満干、極メテ急ナリ、次第ニ、十五日ノ大潮トナリ、十七八日ト、次第ニ衰ヘ、廿日頃ヨリ小潮トナリ、廿五日ヲ極トス、此ノ如クシテ、晦日ノ大潮ヲ繰リカヘス。(稜威言別、六) 堤河百首、雜、淡路「おほしほヤ、淡路ノ瀬門ノ、吹キワケニ、上リ下リノ、片帆掛クラム」

おほ-しほ (名) 大鹽 しほ(鹽)ノ條ヲ見ヨ。

おほしま-ざたう (名) 大島砂糖 大隅國、大島ヨリ產ズル砂糖ノ名。

おほしま-つむぎ (名) 大島紬 大隅國、大島ヨリ產出スル紬織、土產ノ草根ノ汁ニテ染ム、褐色ナリ、多クハ、絣トス、獨特ノ染料ト技能トニ因リテ、紬ノ精良ナルモノトシテ、聲價、高シ。

おぼしめし (名) 思召 オボシメスコト。

おぼしめ・す ・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) 思召 〔思すト、めすトヲ見ヨ〕 思ふノ敬語。 竹取物語「子安貝取ラムトおぼしめさバ、タバカリ申サム」 枕草子、七、六十八段「御モ、黒シトおぼしめすラムカシ」

おほ-しやうぎ (名) 大將棊 しやうぎ(將棊)ノ條ヲ見ヨ。

おほ-しやうや (名) 大庄屋 しやうや(庄屋)ノ條ヲ見ヨ。

おほ・す ・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) 生 〔生ふノ他動、うるふ、うるほす。ほろぶ、ほろぼす〕 (一)生ヒシム。生シ延バス。 神代紀、上[illegible]二万丈ヲ保之者」 萬葉集、廿[illegible] 同、十九[illegible]此春ヨリおほす[illegible]、アマソギノ[illegible]ニテ」 (二)育ツル。成長セサス。育 [illegible]二、花山「母モオハセヌ姫君ヲ、我ガ御懐ニテ、おほしタテ奉リタレバ」

おほ・す ・スル・スレ・セ・セ・セヨ (他動、下二) 負 〔負はすノ轉、いたはし、いとほし〕 (一)背ニ負ハシム。背ニ載ス。ショハス。オブセル。 萬葉集、十八「片思ヲ、馬ニ太馬ニ、於保世持テ」 同、廿[illegible]「歌取リ於保世」 天治字鏡、五三「駄、馬於保須」 (二)受ケ持タス。被ラス。カブス。 古今集、二、春、下「木傳ヘバ、己ガ羽風ニ、散ル花ヲ、誰レニおほせテ、ココラ鳴クラム」(罪ヲ負スルナリ) 拾遺集、十六、雜春「見エヌ無キ名ヲ、おほすナルカナ」

おほ・す ・スル・スレ・セ・セ・セヨ (他動、下二) 課 〔出スコトヲ負する意〕 (一)物ヲ出スコトヲ命ズ。徵ス。ハタル。カク。(租稅ニ云ヒ、罪科ノ過料ナドニ云フ) 神代紀、上「歸罪過於素戔嗚尊、而科之千座置戶」 字鏡「徵、求、於保須」 (二)勞力ヲ出サシム。 崇神紀、十二年三月「校人民、云云、課役」 字類抄「課、課役、オホス」 東詞ニ、おふす。 萬葉集、二十「濁船(海船)ノ、舳ヘニ白波、(序)俄シクモ、於不世給ホカ、思合ヘナクニ」(防人ノ、徵發ヲ蒙リタルヲ云ヘルナリ) (三)受ケシム。被ラシム。 孝德紀、大化元年八月、以輕重科罪」 字類抄「科、オホス、科、罪」

おほ・す ・スル・スレ・セ・セ・セヨ (他動、下二) 仰 〔命令ヲ負する意ナラム〕 言ふ、言ひつくノ敬語。命 [illegible]紀、一、文武天皇元年八月、詔「天皇命ノ授賜ヒ負賜フ、貴キ大命ヲ承ケタマハリ[illegible]天日嗣[illegible]ノ業ヲ[illegible]仕ヘマツレト[illegible]ヒ」

おほ・す ・スル・スレ・セ・セ・セヨ (他動、下二) 果 事ヲ遂グ。ヲハラス。 [illegible]、二コノサウゾクヲモ、イトヨシ、ヨク言ヒおほせタリト譽レバ」 萬代集、十六、雜、三「山深ミ、賤シキ宿ノ、主トハ、ナリおほせタル、身ニモ有ルカナ」

おぼ・す ・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) 思 〔おもほすノ約、おもほゆ、おぼゆ〕 思ふノ敬語。オボス。オモホス。オボシメス。 齊明紀、四年十月「天皇[illegible]歌」 源、四、夕顏「サレバヨトおぼし合ハセテ、イヨイヨアハレモマサリヌ」

おほ-すけ (名) 大介 千葉大介ハ、前下總介ナリ、千葉新介ハ、大介ノ子ニテ、當任ノ下總介ナリ。其外、三浦大介、新介、大内新介ナド、皆、同ジ。 扶桑略記、二十五、承平六年六月「勅以從四位下紀朝臣淑仁、補伊豫國大介〈介〉、兼行海賊追捕事」

おほせ (名) 仰 オホスルコト。いひつけノ敬語。命 源、五十、浮舟「人皆、おほせニテ、參リツカウマツル」

おほ-ぜい (名) 大勢 數多ノ人。(小勢ニ對ス)多人數。タイゼイ。大衆 史記抄、文明十一「おほぜい寄リヤウテ、大高ヲ責ムヲ、[illegible]スルト云フゾ」

おほせ-がき (名) 仰書 仰言ヲ記シタル文書。 枕草子、八、八十一段「心ニクキ所ヘ遣ハスベキおほせがきナドヲ、云云、ワサト召シテ、云云、書カセ給フ、羨シ」

おほ-ぜき (名) 大關 〔關取ノ條ヲ見ヨ〕 相撲取ノ、力量、技量ノ、階級ニ、第一ナルヲ大關ト云ヒ、(初ハ、此中ニ橫綱アリシガ、[illegible]ニ、代[illegible]、大關、[illegible]) [illegible]ノ一階級ヲ[illegible]、第二ヲ關脇、第三ヲ小結ト云ヒ、以上ヲ、三役ト云ヒ、以下ヲ、[illegible]、前頭ト云フ、相撲節ニハ、三役ニ[illegible]、第一段ニハ、二三段、及、前頭十數人ヲ列セシム、コレヲ幕の內ト云フ、幕府將軍ノ上覽ノ時、幕ノ內ニ列スルヲ得タル名ナリト云ヒ、此ニ入ルヲ規模トス、第二段ノ初ニ立ツ十人ヲ、俗ニ十兩ト云フ、給金ニ因ル名ナリ、是レヨリ以下、序の二段、序の口(本中、開中、前相撲)ナド、俗、種種ノ名稱アリ、各、東西ニ對立シテ、技ヲ鬪ハスルナリ。(相撲ノ條ヲ見ヨ)

おほせ-ごと (名) 仰言 仰セラレタル御言葉。ミコトノリ。勅命 崇峻紀、十年七月「天皇之命」 拾遺集、三、秋、亭子院ノ御前ニ、前栽植エサセタマヒテ、是レ詠メ、トおほせごとアリケレバ」 名義抄「勅、オホセゴト」

おほせ-つか・る ・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 被仰付 〔次條ノ語ノ、おほせつけらるノ約轉、あづかるノ語原ヲ見ヨ〕 言付けヲ受クノ敬語。

おほせ-つけら・る ・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ (他動、下二) 被仰付 言ひつけらるノ敬語。 保元物語、二、爲義降參事「六條判官并子共、尋遇ラスベキ由、播磨守ニ仰附らる」

おほ-ぜり (名) 大芹 たうき(當歸)ノ古名。やまぜりノ條ヲ見ヨ。 倭名抄、廿「當歸、和名、夜末世利、一云、宇末世利」

お-ほそ (名) (一)鰯ノ女房詞。 大上臈御名之事「女房、鰯いわし、むらさき、おほそ」 (二)帶ノ女房詞。(倭訓栞)

おほそで (名) [大袖] (袖口、大キクシテ、小袖ノ上ニ着ル」(一)禮服ノ表衣。らいふくノ條ヲ見ヨ。西宮記、臨時、八「天皇禮服、赤大袖、縫二日月、山龍、虎猿等形一」(二)大鎧ノ袖。

おほぞら (名) [太虛] 空ヲ、其大イナルニ就キテ云フ語。天治字鏡、一四「天、穹隆、於保曾良」

おほだいこ (名) [大太鼓] 太鼓ノ條ヲ見ヨ。

おほだうぐ (名) [大道具] (一)武家ノ槍ニ云フ語。道具ノ條ヲ見ヨ。(二)芝居ニ云フ語。道具方ノ條ヲ見ヨ。

おほたか (名) [大高] 大高檀紙ノ略。檀紙ノ條ヲ見ヨ。

おほたか (名) [大鷹] (雄ヲ比ブルニ、體、大ナリ」鷹ノ雌。倭名抄、十八四上「鷹、云云、大者、皆名二於保太加一云云、雌鷹、謂二之大鷹一也」

おほたかがり (名) [大鷹狩] たかがりノ條ヲ見ヨ。

おほたかだんし (名) [大高檀紙] 檀紙ノ條ヲ見ヨ。

おほだくみ (名) [大工] 大工ノ條ヲ見ヨ。

おほたけ (名) [淡竹] (大竹ノ義ナルカ」淡竹ノ古名。倭名抄、二十廿五「淡竹、於保多介」

おほだたい (名) (大土臺ノ轉ニモアルカ」(一)オホモト。オホネ。基 (二)オホヨソ。オホヅ。大概

おぼだて (名) 產立ノ條ヲ見ヨ。

おほたてあげ (名) [大立擧] 立擧ノ條ヲ見ヨ。

おほだてもの (名) [大立者] (一)芝居ニ云フ語。立者ノ條ヲ見ヨ。(二)社會ニテ推重セラルル人物。泰斗

おほたば (名) [大束] (一)束ノ、大イナルモノ。(小束ニ對ス) (二)オホザッパ。

おほたぶみ (名) [大田文] 田文ノ條ヲ見ヨ。

おほダンナ (名) [大檀那] (一)大檀那。(二)家ノ、親主人ノ敬稱。親檀那。(小檀那、若檀那ニ對ス)

おほたら (名) [食茱萸] (重修本草綱目啓蒙、廿二「食茱萸、木ノ高サ二三丈、云云、木ニ、尖刺多クシテ、楤木ニ似タリ」) 木ノ名、今、からすのさんせうト云フ、其條ヲ見ヨ。本草和名、上五十八「食茱萸、於保多良」(倭名抄、同ジ)

おほぢ (名) [祖父] (大父ノ約」(一)父ノ父。ヂヂ。(祖母、ばばニ對ス) 天治字鏡、二二「阿父、於保知」倭名抄、二廿六「祖父、於保知」(二)母ノ父ヲ、母方ノおほぢト云フ。外祖父 倭名抄、二六十「外祖父、母方乃於保知」(三)老人。老爺。螵蛸ヲ「於保知ガ陰囊」ト云フ、次次條ヲ見ヨ。

おほぢ (名) [大路] オホミチ。都市ノ中ノ、幅廣キ路。(小路ニ對ス)オホドホリ。通街 萬葉集、十五二十「アヲニヨシ、奈良ノ於保知ハ、行キヨケド、コノ山道ハ、行キ惡シカリケリ」

おほぢがふぐり (名) [螵蛸] (老爺ガ陰囊ノ義、形、似タレバ云フ」かまきりノ卵ノ巢。秋深キ時、樹ノ枝ニ作ル。初ハ、唾ヲ吐キカケタルガ如シ、後ニ、堅ク凝リテ、故紙ノ塊ノ如ク、長サ一寸許、黑褐ナリ、內ニ小卵多ク、明年夏、皆化生ス。(かまきりノ條、見合スベシ) 字鏡六十八「螵蛸、於保地不久利」倭名抄、十九九「螵蛸、於保知加不久里」佐渡ニテ、うしがふぐり。

おほつ (名) [大津] (元ハ黃土ヲ燒キタル丹土ヲ用キタルナドニ起レル名カ」壁ノ上塗ニ用キル料ノ物。漆喰ニ種種ノ色ヲ加ヘテ用キル、黃おほつ、泥おほつ、茶おほつ、鼠おほつ、ナドアリ。

おほづ (副) [大都] オホヨソ。タイガイ。概略

おほつかさ (名) 大學寮ノ古稱。天武紀、下、四年正月「大學寮諸學生」持統紀、三年正月「大學寮獻二杖八十枚一」

おぼつかな・し・キ・ケレ・ク・ク (形、一) [無覺束] (おぼハ、朦朧しノおぼナリ、つかハ、あはつか、ふつつかナドノつかニテ、形容ノ接尾語、なしハ、甚しの義、おぼおぼしさ、甚しノ意」(一)分明トセズ。オボオボシ。朦朧 萬葉集、十十「春サレバ、木ノ木暮ノ、夕月夜、欝束無モ、山蔭ニシテ」同卷廿「此夜ノ、於保束無ニ、郭公、鳴クナル聲ノ、音ノ遙ケサ」名義抄「霧、閽、オホツカナシ」(二)取リトメナク、心モトナシ。不安心ナリ。伊勢物語、九十五段「イカデ物ゴシニダニ對面シテ、おぼつかなく思ヒツメタル事、少シ晴カサムト言ヒケレバ」源、二、帚木三「イトド長居サブラヒタマフヲ、大殿ニハ、おぼつかなく恨メシクオボシタレド」(三)モドカシ。待チドホシ。土佐日記、正月廿九日「おぼつかな、今日ハ子ノ日カ、海人ナラバ、海松ヲダニ、引カマシモノヲ」(碇泊船中ナレバ、子ノ日ニ小松ナシ、早ク都ヘ歸リタシ) (四)イブカシ。不審ナリ。源、十、榊二十六「六十卷ト云フ書讀ミタマヒ、おぼつかなき所所、解カセナドシテオハシマス」元長卿記、大永五年二月二日「相國寺有二早鐘一未レ聞二子細一無二覺束一」

おほづかみ (名) [大摑] 粗ク計ルコト。オホヨソ。オホヅ。概要

おほつごもり (名) [大晦] 十二月ノ晦。一年ノ終リノ日。オホミソカ。オホトシ。除日 狂言記、見物左衞門「一日一日ト送ル程ニ、今日ハハヤ、大晦日ニナッテ御座ル」

おほつち (名) [大地] 地ヲ、廣大ナルニ就キテ云フ語。大地。神代紀、上十九「大地、海原之諸神」萬葉集、十一八「大土モ、取レバ盡レド」

おほつち (名) [敗醬] 草ノ名。をみなへし、をとこへしノ古名。オホトチ。ちめぐさノ條ヲ併セ見ヨ。本草和名、上廿九「敗醬、於保都知、一名、知女久佐」醫心方、一五十「敗醬、於保都知」康頼本草、上二十「敗醬、ヲフツチ、知女久佐」袖中抄、七、おのてがしは「おほとちハ、女郞花ニ似テ、花ノ白キナリ、サレバ、男ヘシトモ云フ」

おほづつ (名) [大筒] (一)大イナル竹筒。幸若、高館「種種ノ大瓶、おほづつヲ、御出居ヘ申シ出シ」一本草(寬文)豆州大平寺ノ花見「花見酒、酌メヤ大づつ、たいへい寺」(柳亭筆記、一) (二)てっぽう(鐵砲)ノ條ヲ見ヨ。

おほつづみ (名) [大鼓] つづみノ條ヲ見ヨ。

おほッぺら (名) 大開ノ訛、其條ヲ見ヨ。

おほつぼ (名) [大壺] (御樋壺ノ轉ナルベシ」大便ヲ受クル器。今ノおかはノ類、陶製ナリシナラム。廁 淸器 倭名抄、十四十「虎子、於保都保、淸器、師乃波古」(訓、入 違ヒ

ニナレリ、菅家[illegible]ハ、[illegible]名[illegible]ニ評ナリ」[illegible]、二十六、常夏「大御おほつぼ取リニモ、ツカウマツリナムト[illegible]ニタマヘバ、[illegible]合ジタマヘテ、[illegible]ヒタマヒテ、云云」[illegible]ノナリ」[illegible]、一、八[illegible]休ミ所トテ、云云、一間ニ御簾カケマハシテ、云云、大臣ノ雑者ノ折ハ、おほつぼヲ興キ、大納言ノニハ、坂ニ[illegible]ヲエルナリ」[illegible]五、第八條「夜中、曉、大つぼ、登ラセナドシ候ヒシ」

おほつぼりう (名) 〔大坪流〕 馬術ノ流儀ノ名。鎌倉ノ人、大坪左京亮慶秀入道道禪ヲ祖トス、明德、應永ノ頃、足利義滿ニ仕ヘ、其術ニ妙ヲ得タリト云フ。又、鞍作リ、鐙作リノ名人ナリ。

おほづめ (名) 〔螯〕 〔大爪ノ義〕 螯ノはさみノ古名。倭名抄、十九「螯、於保豆米、蟹大爪也」

おほづめ (名) 〔大詰〕 (一)おほぎりノ(二)ニ同ジ。キリ。大尾。後者昔詞話「一曉、一番目ノおほづめトイフ幕ヘ」 (二)大便。(つめノ條ヲ見ヨ)

おほづもり (名) 〔大積〕 オホヨソノ見ツモリ。オホヅカミノ計算。概算 甲陽軍鑑、六、品第十四「三備國ノ人衆、大つもり如_此」

おほつゑ (名) 〔大津繪〕 (一)走筆ノ、一流ノ畫、浮世又兵衞ニ始マルト云ヘド、詳ナラズ、畫風モ異ナリ、近江ノ大津驛ノ追分ニテ畫キテ賣リキ。一名、追分繪、初ハ專ラ、神佛ノ像ヲ畫ケリト云フ、後ニハ鬼ノ念佛、槍持奴、鷹匠若衆、瓢簞鯰、藤娘ナド、男[illegible]ヲ、丹、胡粉、黄土、綠靑ナドニテ、粗ク彩色シタリ、此繪樣ノ人物ヲ並ベテ詠ミコミタル小唄アリ、大津繪節ト云フ。(俱我[illegible]物語(寛永)「大津與田口ニ寺ル、[illegible]ノ御影」好色一代男(天和、西鶴)三、寺[illegible]ヲ見レバ、[illegible]テ[illegible]ノ人[illegible]、[illegible]シノ[illegible]、云云、コレ[illegible]、[illegible]ノ[illegible]分ニテ畫キシモノゾカシ」 元祿四年ノ芭蕉ノ句「大津繪ノ、筆ノ初メハ、何佛」 (二)次條ノ語ノ略。

おほつゑぶし (名) 〔大津繪節〕 大津繪ノ畫ヲ詠ミ並ベテ、節ヅケタルモノ。おほつゑ。守貞漫稿、二十三、音曲「大津繪節、ゲホウハシゴズリ、カミナリ太鼓デツリヲスル、オ若衆ハ鷹ヲスヘ、塗笠女形ハ、藤ノ花、座頭ノ[illegible]ニ、犬ワンワン、ツケアピ[illegible]クリシ、杖ヲバ振リ上ル、荒氣ノ鬼モ發起シテ、鉦、シュモク、瓢簞鯰ヲオサヘマス、奴ノ行列、釣ガネ辨慶、矢ノ根五郎」

おほて (名) 〔大手〕 城門ニ云フ語。おふて(追手)ノ條ヲ見ヨ。

おほで (名) 〔大手〕 兩ノ手ヲ、左右ヘ廣ク張ルコト。又、勢ヨク手ヲ振ルヲ、大手を振るト云フ(大股にあるくニ對ス) 保元物語、一、白河殿攻落事「弓ヲバ[illegible]ニ挾ミ、大手ヲ廣ゲテ、何處マデモ何處マデモト、追レケルガ」謠曲、鞍坂「手取リニセムトテ、長刀投ゲ捨テ、大手ヲヒロゲテ、云云」

おほてて (名) 〔大父〕 祖父ニ同ジ。ヂヂ。榮花物語、廿七、衣珠「二郎君、三郎君、云云、おほててガオハシタリケルヲ、知ラデ」

おほと (名) 〔大許〕 おほもと(大許)ノ條ヲ見ヨ。

おほどう (名) 〔大胴〕 つづみノ條ヲ見ヨ。

おほどかに (副) 〔緩〕 〔次條ノ語ノ、おほどくノ未然形おほどかヲ、副詞ニシタル語、おほのく、おほのかに。さはやぐ、さはやかに。やはらぐ、やはらかに〕 人ノ性質ノ、寛ニ靜ナル狀ニ云フ語。オホラカニ。オホノカニ。オホヤウニ。

オホマカニ。 源、六、末摘花「[illegible]」 同、五十一、蜻蛉「[illegible]華シタマフヲゾ、ウシロヤスウ」 同、五十一、蜻蛉「言ズクナニ、おほどかなりシ人ハ」 榮花物語、一、月宴「限リナク貴ニ、おほどかにオハスルナメリ」

おほどく (自動、四) 〔性緩〕 〔大解くノ義、自動トナル〕 オホドカニフルマフ。アドケナク、シドケナシ。源、三十四、下、若菜、下「[illegible]宮ノミゾ、同ジサマニ、若ク、おほどきテオハシマス」狹衣、一、下「年ハ二十ニゾ成リタマヒケレド、イタクおほどき過ギテ、アマリ幼ナク、物ハカナキサマニテ」

おほどく (自動、下二) 〔性緩〕 〔大解くる義〕 前條ノ語意ニ同ジ。約メテ、おどく。源、八、花宴「扇ヲ取ラレテ辛キ目ヲミルト、打チおほどけタル聲ニ言ヒナシテ、ヨリ居タマヘリ」同、四十五、椎本「何事ニモ、アルニ從ヒテ、心ヲ立ツル方モナク、おどけタル人コソ、タダ世ノモテナシニ從ヒテ、トアルモ、カカルモ、ナノメニ見ナシ」(戲けるト云フ語、コレヨリ起ル)

おほどこ (名) 〔椰〕 〔大床ノ義〕 棺ヲ納ムル、木造ノ匣。倭名抄、十四、[illegible]「椰、於保土古、[illegible]棺者也」

おほどし (名) 〔大年〕 〔大年越ノ略カ〕 オホツゴモリ。オホミソカ。除日 [illegible]女草子(寛永)「[illegible]久ガ、松山ニ、大年ノ夜、[illegible]、[illegible]ヅツ撒キシコト、誰ウ人モ知レリ」

おほとじ (名) 〔大刀自〕 〔刀自ノ條ヲ見ヨ、大ハ、尊稱ナリ〕 宮女ノ稱號。欽明紀、元年九月「靑海夫人」後ニ、女官中ノ、妃ノ次ナル、夫人ノ稱トナリタルガ如シ。天武紀、下、二年二月「夫人、藤原大臣(鎌足)女、氷上娘」萬葉集、[illegible]「藤原夫人歌[illegible]淨御原宮御宇天皇(天武)之夫人也、字曰_氷上大刀自_也」

おほとしこし (名) 〔大年越〕 〔おほハ、大[illegible]晦日ノ、[illegible]ノ、[illegible]リタルモノカ〕 年越トイフニ同ジ。

おほどち (名) 〔[illegible]〕 草ノ名。けまあざみノ古名、ニガナ。おほつち(眼[illegible])ヲ併セ見ヨ。[illegible]字鏡[illegible]「[illegible]」[illegible]、十七、[illegible]

おほとなぶら (名) 〔大殿油〕 おほとのあぶらノ約、其條ヲ見ヨ。

おほとねり (名) 〔大舍人〕 〔さねりノ條ヲ見ヨ〕 古ヘ、中務省ノ大舍人寮ニ屬セル官。初ハ左右ニ分レテ、各、八百人、後ニ、合シテ四百人トナル、分番、宿直、差使、供奉、容儀等ノ事ヲ掌ル。

おほとねりのつかさ (名) 〔大舍人寮〕 前條ヲ見ヨ。倭名抄、五、[illegible]「大舍人寮、於保止[illegible]利乃[illegible]佐」

おほとの (名) 〔大殿〕 (一)〔ミアラカ。禁中ノ寢殿。正寢 仁德紀、元年正月「寢殿」[illegible]〕 (二)〔大臣ノ尊稱、オトド。源、二、帚木「カクノミ籠リサブラヒタマフモ、おほ殿[illegible]ノ[illegible]心イトホシケレバ、[illegible]出タマヘリ」〕 (三)貴族ノ當主ノ父ノ尊稱。保元物語、[illegible]、[illegible]朝父、[illegible]、[illegible]殿[illegible]ノ[illegible]、[illegible]斬ラレサセタマヒ」[illegible]、三十六、[illegible]月廿一日「大殿并[illegible]、云云」[illegible]リシ後ナリ) (四)又、貴族ノ當主ヲ、世子ニ對シテ呼ブ尊稱。

おほとのあぶら (名) 〔大殿油〕 大殿ニテトボス、油火ノ御燈ノ稱。約メテ、おほとなぶら。大[illegible]枕草子、九、九十[illegible]「[illegible]」[illegible]「おほとなぶらナレバ[illegible]」 源、二、帚木「おほとなぶら近ク[illegible]」

テ、文ドモナド見給フ」同、六、末摘花廿「おほとなぶら消エニケルヲ、點シツクル人モ無シ」

おほとのごもり (名) [大殿隱] オホトノゴモルコト。 落窪物語、一「ナドノおほとのごもりゾ、物云ヒ知ラズナアリソ」

おほとのごもる・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) [大殿籠] 寢ぬノ敬語。御寢ナル。オシヅマル。オヨル。 名義抄「寢、オホトノゴモル、イヌ、フス」宇津保物語、藏開、中廿七「唯おほとのごもりナバ、御髪ニタワ附キナンズ」源、五、若紫四十八「東ノ對ニ、(大殿)御トノヰ物召シニツカハシテ、おほとのごもりヌ」同、三十八、夕霧六十一條ノ宮「塗籠ニ、オマシ一ツ敷カセタマヒテ、内ヨリ鎖シテ、おほとのごもりニケリ」

おほとのほがひ (名) [大殿祭] (ほがひハ、壽ノ延、酒壽モアリ) 大殿ニ、災異無カラムヲ禱ラセラルル祭ノ名。陰暦十二月十一日夜、神今食アリシ翌日ノ平旦ニ、禁中ノ仁壽殿(表ノ御座所)ニテ行ハセラル、神祇官ノ官人奉仕シ、祝詞ヲ讀ム。 宮内省式「大殿祭、此云二於保登能保加比一」

おほどほり (名) [大通] 市中ノ、廣キ路。オホヂ。大道。通街

おほともの (枕) [大伴] (大伴氏ハ、上代ノ武官ノ家ニテ、其武勇シキニ寄セテ云ヒ、(みつみつし久米ノ子トモアリ) 又、其猛キヲ、たかしニモ寄セテ云フナリ(萬葉集古義枕詞解)」みつ、又、たかしト云フ語ノ枕詞。 萬葉集、一六廿「大伴乃、御津ノ濱松」(御津ハ、攝津ノ地名) 同、四六廿「大伴乃、見ツトハ言ハジ、アカネサシ、照レル月夜ニ、直ニ逢ヘリトモ」同、一六廿「大伴乃、高師ノ濱ノ、松ガ根ヲ」(高師ハ、和泉ノ地名)

おほともひ (名) [辨辨官] (大率ひノ略、(殯、もがり) 辨官ハ、八省諸司ノ事務ヲ統べ率キル意ナルベシ、職原抄ニ、官中事、大辨所ニ執行一也、仍爲ニ重職一トアリ」辨官ノ古稱。其條ヲ見ヨ。左大辨、右大辨ヲおほいおほともひト云ヒ、左中辨、右中辨ヲなかのおほともひト云ヒ、左少辨、右少辨ヲすないおほともひト云フ。 倭名抄、五二「左右大辨、於保伊於保止毛比、左右中辨、奈加乃於保止毛比、左右少辨、須奈伊於保止毛比」天武紀、下、七年十月「大辨官」江家次第、四、除目下書、標注「大鞆比之官、謂二辨官一也、辨、率二二省輔以下一、參二入南門一云云」

おほとり (名) [大鳥] 鶴、鸛、鴻ナド、形ノ大イナル鳥ノ稱。 天武紀、下、十一年九月「數百鸛、當二大宮一以高翔レ於レ空」三代實錄、二十、貞觀十三年十一月「大鳥一、集レ于二神泉苑乾臨殿東鴟尾上一」倭名抄、十八七十「鵠、於保止利」播磨國風土記、揖保郡、香山里、大鳥山「鵝栖二此山一、故名二大鳥山一」和玉篇「鵬、オホトリ」

おほとりげ (名) [大鳥毛] 鳥毛ノ條ヲ見ヨ。

おほどる・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ (自動、下二) [蓬蓬] (大斑ノ語根ヲ活用セシメタル語ニモアラムカ、荊棘ト云フ語、コレヨリ出ヅ」(一)シドケナク、亂レヒロガル。オドロニナル。 源、五十二、手習五十「髮ノスソノ、俄ニおほどれタルヤウニ、シドケナクサヘ削ガレタル」枕草子、三、三十六段「芒、云云、冬ノ末マデ、頭イトシロク、おほどれタル」 名義抄「蓬、オホドル、カシラミダル、ミダル」此語、古クハ、四段ニ活用セシモノカ。萬葉集、十六四廿「葛英ニ、延ヒ於保登禮流、クソカヅラ」ト見ユ。(二)オホドク。シドケナシ。 源、四十九、東屋六十一「大路近キ所ニ、おほどれタル聲シテ、イカニトカ、聞キモ知ラヌ名告ヲシテ、打チムレテ行クナドゾ聞ユル」孟津抄「オホドケタル也」

おほどれがみ (名) [蓬髮] 髮ノ、オホドレタルモノ。亂髮。 字類抄「蓬頭、オホドレガミ」名義抄「蓬頭、オホドレガシラ」

おほなかぐろ (名) [大中黑] 中黑ノ條ヲ見ヨ。

おほなほび (名) [大直日] 直日ノ條ヲ見ヨ。

おほなんど (名) [大納戸] (小納戸ニ對ス」納戸役ノ一種。將軍ノ衣服調度ヲ管シ、又、大名諸役人等以下ニ賜フ金銀衣服ノ事ヲモ掌ル 最明寺殿百人上臈(元祿、近松作) 女郞揃「大納戸、小納戸、進物所、御膳番」

おほなめまつり (名) [大嘗祭] だいぢやうさいニ同ジ。

おほに (副) [大] オホヨソニ。オホロカニ。オロソカニ。 萬葉集、二十四「アマカゾフ、大津ノ子ガ、逢ヒシ日ニ、於保爾見シカバ、今ゾ悔シキ」同、七三十二「佐保山ヲ、於凡爾見シカド、今見レバ、山ナツカシモ、風吹クナユメ」

おほには (名) [大庭] (大ハ、敬稱ナリ」宮殿前ノ廣庭。オホバ。 清寧紀、三年十一月「宴ニ臣連於二大庭一」推古紀、三十六年三月「天皇崩之、卽殯レ於二南庭一」

おほにふだう (名) [大入道] 大男ノ、圓顱ナルモノ。又、其姿ノ化物ノ名。

おほにへ (名) [大贄] 御贄ニ同ジ。贄ノ敬稱。貢上ル二就キテ云フ。音便ニ、おほんべ。 仁德卽位前紀「有二海人一、賚二鮮魚之苞苴一、獻レ于二菟道宮一」倭名抄、十四三十「苞苴、裹二魚肉一也、日本紀私記云、於保邇倍、俗云、阿良萬岐」(苞苴ニシタル大贄ナルナリ) 古事記、中(應神)四七十 吉野ノ國栖等「獻二大贄一」仁德紀、三十八年七月「猪名縣佐伯部、獻二苞苴一」

おほにへ (名) [大嘗] (大饗ノ義、饗ノ敬稱ナリ」大嘗祭ニ同ジ。音便ニ、おほんべ。 古事記、上三廿「聞二看大嘗一之殿」天武紀、下、二年十二月「侍二奉大嘗一中臣忌部、及、神官人等、云云」古今集、二十、大歌所「此歌ハ、承知ノおほむべノ、黃備ノ國ノ歌」

おほぬき (名) [大貫] 建築ノ木材ニ云フ語。ぬきノ條ヲ見ヨ。

おほぬさ (名) [大幣] 幣ノ、大キナル串ニ刺シタルモノ。(小サキ切幣ニ對ス) 大祓ノ時ニ用キラル。大麻。 名義抄、广部「御麻、オホヌサ」字類抄「御祓麻、オホヌサ」

おほね (名) [大根] 大キナル根源。大ナル基礎。

おほね (名) [大根] 蘿蔔。 仁德紀、三十年十一月、長歌「小鍬持チ、ウチシ於朋泥」釋紀「於朋泥、大根也」倭名抄、十七十「葍、蘿菔、於保禰、俗用二大根二字一」

おほね (名) [大根] 太キ、矢ノ根。 大磯虎稚物語(元祿、近松作) 一「大根ノ雁股、ロヨリクワット噴キ掛クル」

おほねむし (名) [蝗] (大稻蟲ノ約カト云フ」いなむしノ(一)ニ同ジ。 倭名抄、十九三十「蝗、於保禰無之」

おほのかに (副) [名義抄ニ「訥、オホノク、オソシ、ニブシ」(字類抄ニ「訥、オホメク」)ト云フ動詞アリ、おほのくノ未然形おほのかヲ、副詞ニ用キルコト、おほどくノ、おほどかナト用キラルルニ同ジカルベシ」 おほどかなニ同ジ。 枕草子、五、四十九段、あさましきもの「車ノ打チカヘ

サレタル、サルおほのかなる物ハ、所セクスシクナドナアラムトコソ思ヒシカ」八雲御抄、四、言語部「けたかきおほのかなりト云フ心ナリ」宇治拾遺、一、十六條「[illegible]三寸[illegible]ノ[illegible]レト云フ、云云、アサマシウ、おほのかなるモ言フモノカナ、ト聞キテ」

おほば (名) 祖母 〔大母ノ約〕(一)父ノ母。[illegible]祖父、ぢぢ、ニ對ス」[illegible]。(二)母ノ母ヲ、母方ノおほばト云フ。[illegible]

おほば (名) 大庭 〔おほにはノ約〕大庭ニ同ジ。宮殿前ノ廣場。推古紀、十八年十月「自二南門一入之、立二于庭中一[illegible]、使者ヲ、朝廷ニ導キタルナリ」

おほば-がらし (名) 大葉芥 古名、タカナ。からしなノ條ヲ見ヨ。

おほば-こ (名) 車前草 〔大葉子ノ義、詩經、周南、芣苢箋「車前草、大葉長穗」江東呼、蝦蟆衣〕子ハ、落葉子、[illegible]子ノ如シ」草ノ名。路傍ニ多シ、春ノ初メ苗ヲ生ズ、葉ノ長サ三四寸、橢圓ニシテ綠色ナリ、地ニツキテ叢生ス、中ニ莖ヲ出スコト七八寸、葉ノ頭ニ、穗ヲナシテ細花ヲ開ク、淡紫色ナリ。[illegible]戲ニ、蛙ヲ殺シ、此草ノ葉ヲ覆ヒ、穗ニテ打テバ蘇ルトテ、蛙葉ノ名モアリ。おんばこ。字鏡[illegible]倭名抄、同ジ」蜻蛉日記、中、下「山籠リノ後ハ、あまがへるト云フ名ヲツケラレ、云云、おほばこノ、神ノ助ケヤ、ナカリケム、契リシ事ヲ、思ヒかへるは」(蛙ニ奇效アレバ、神ト云フ)今モ下野、仙臺ニテハ、かへるば、けえるばト云フ。

おほはしりう (名) 大橋流 和樣ノ書風、

大橋長左衛門重保[illegible]、傳內[illegible]、[illegible]文十二年歿)家職ヲ襲フ。

おほばち (名) 大蜂 やまばちニ同ジ。

おほはば (名) 大幅 中幅、小幅ニ對ス」布帛ノ幅ニ云フ語。木綿幅ノ二倍ナルモノ。好色一代女(貞享、西鶴)一「[illegible]ハ、唐織ノ大幅」

おほばん (名) 大判 〔大坂金ノ略、([illegible]んきんノ條ヲ見ヨ)小判ニ對スル稱〕(一)古キ金貨ノ名。判金。黄金。織田氏、豐臣氏、德川氏ノ世ニ涉リテ鑄造セラレタリ、慶長六年、元祿八年、享保十年、天保九年、改造セラル、慶長ノモノ、質最モ良シト稱セラル、金三十四匁六分、銀七匁九分、銅一匁六分ニテ成ル、重サ四十四匁一分ナリ、形、橢圓ナル板ノ如シ、一枚ヲ金七兩二歩ニ當テラル。(二)紙ノ、常ノ物ヨリハ、殊ニ寸法大キク廣キタルモノノ稱。

おほばん (名) 大番 (一)大番役ノ略。(二)大番組ノ略。

おほばん (名) 大鷭 鳥ノ名。鷭ノ條ヲ見ヨ。

おほばんがしら (名) 大番頭 大番組一隊ノ將。

おほばんぐみ (名) 大番組 〔大番役ト同意〕德川幕府ノ常備ノ兵士。旗本ノ先供ナリ、十二組アリテ、交替シテ、江戸城、京ノ二條城、大坂城ニ在番、守備

[illegible]

おほばんしう [illegible] 大番衆 [illegible]

おほばんやく (名) 大番役 〔[illegible]番ノ[illegible]ヲ見ヨ、衛士、防人ナド、年ヲ定メテ交替、守衛スルヲ、[illegible]役ト云ヒシガ、[illegible]ノ警衛最モ重ケレバ、大ノ字ヲ加ヘテ云フカト云フ〕諸國ノ武士ノ、京都ヘ番替シテ警固スル者。常ニ略シテ、大番ト云ヒ、其人ヲ、大番衆ト云フ、禁中ノ瀧口、院ノ武者所、東宮ノ帶刀ナド、皆、大番役ナリシガ如シ。[illegible]大番ハ、三年交替ナリシガ、鎌倉ノ[illegible]ノ時ヨリ、六箇月ニ改メ、洛中四十八箇所ノ篝屋ノ番役ナドトス。[illegible]番アリシ事、[illegible]元年十二月廿一日ノ條ニ見ユ。

おほばらひ (名) 大祓 〔はらふ(祓)ノ四段活用、下二段活用ヲ見ヨ、四段活用[illegible]ク行フニ因リテ、大ト稱ス〕(一)古ヘ、六月、十二月、ノ晦日ニ行ハレシ祓ノ稱。中ノ時ニ、親王、大臣、以下、百官、男女、朱雀門ニ會シテ行ハル、中臣氏、祓ノ詞

[illegible]、卜部、[illegible]、其詞ヲ、中臣ノ祓ノ詞ト云フ。(夏越の祓ノ條、見合スベシ)後ニハ大抵、陰陽師ノスルコトトナレリ、[illegible]。(二)國ノ大[illegible]、諸人、一同ニ祓ヲ行ハシムルコト。古事記、中[illegible]テ「國之大祓」トアリ。天武紀、下、五年八月「詔曰、四方為二大解除一」同卷、十年六月「令二天下一悉大解除」文德實錄、一、嘉祥三年四月「遣二大中臣氏[illegible]」

おほばらへ (名) 大祓 前條ヲ見ヨ。

おほひ (名) 百合 草ノ名。[illegible]

おほひ (名) [illegible]

おほひ (名) 被 被フコト。オホフモノ。カブセモノ。[illegible]、十、梅ニ十「佛ノ御前リ、花ヅクヱノおほひナドマデ、眞ノ[illegible]思ヒヤラル」

おほ-びき (名) 大引 家ノ床ノ下ニ、橫ニ互ス木ノ名。床板ヲ支フ。

おほ-ひげ (名) 大鬚 鬚ノ、多ク生ヒタルコト。多鬚。宇治拾遺、一、第十二條「大ひげヲ捧ゲテ、ノケサマニ臥シテ候レタリ」醒睡笑(元和)一、貴人の行跡「大名ノ、世ニ勝レテ、物見ナル大鬚ヲ持チタマヘルアリ、餘リニひげヲ慢ジ、云云」

おほ-びたひ (名) 大額 男子ノ額付ノ一種。髮ヲ百會ノ穴マデ拔キアゲ、兩ノ鬢尖ノ如ク尖ラス、六方者ノシタルモノナリ。(色道大鑑(延寶)二) 元和元年五月十五日、御法度條條、大びたひノ事、云云」

おほ-ひら (名) 大平 [illegible]條ノ語ノ略

おほ-びら (名) 〔大開ノ義ナラム〕打チ

明ケテスルコト。誰レ憚ラズスルコト。訛シテ、おほッぺら。公公然「多勢ノ中デ、おほびらニ話ス」

おほひらわん（名）［大平椀］椀ノ、大キク扁キモノ。略シテ、おほひら。

〜おほびる（名）［大蒜］にんにくニ同ジ。倭名抄、十七「葫、於保比流」

〜おほひるめのみこと（名）［大日孁尊］［大ハ、尊稱、ひるめハ、晝靈ノ轉、（倭名抄、備後國、神石郡、加米志）月夜靈ニ對ス、孁ハ、（靈女ノ合字）］天照大御神ノ御名。神代紀、上、諸、册二尊「生二日神一號二大日孁貴一」註「於保比屢咩能武智、一書云、天照大神、一書云、天照大日孁尊」

おほひれう（名）［大炊寮］「おほひハ、大飯ノ約」古ヘ、宮内省被管ノ寮。國國ヨリ貢スル米穀ヲ納レテ、精ゲテ、諸司ニ分給スルヲ掌ル。倭名抄、五三「大炊寮、於保爲乃豆加佐」（爲ハ、比ノ誤）同、八十五備中國、哲多郡「大飯、於保比」常陸風土記、行方郡、大生里「古老曰、倭武天皇、云云、此時膳炊屋舍構二立浦濱一云云、取二大炊之義一名二大生之村一」

おほびろま（名）［大廣間］（一）廣間ノ、大ナルモノ。播州佐用軍記、上、城中エ後詰ノ勢入「打連、大廣間へ出ラレケレバ」（二）江戶城中ノ大席ノ名。國主外様ノ大大名ナル、島津、伊達、細川、黑田、淺野、毛利、鍋島、池田、（備前）藤堂、蜂須賀、山内、有馬、佐竹、南部、上杉、立花、丹羽、津輕、宗、其外ノ諸氏、此席ニ詰ム。

おほ・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ（他動、四）［被覆蔽］（一）上ニ掛ケテ、遮ル。被ラス。カブセル。萬葉集、十七三十「天ノ下、スデニ於保比テ、降ル雪ノ」字鏡七十七「掩、覆也、加戶志於保不」宇治拾遺、二、十二條「麓ニ侍ル身ナレバ、山崩レナバ、打チおほはレテ、死ニモゾスル」（二）包ミ隱ス。「罪ヲ蔽ふ」「誤ヲ蔽ふ」

おほふう（名）［大風］驕リ高ブル風。アフヘイ。尊大

おほぶく（名）［大福］福茶ノ條ヲ見ヨ。

おほぶさ（名）［大總］ふさふりがいノ條ヲ見ヨ。

おほふりそで（名）［大振袖］ふりそでノ條ヲ見ヨ。

おほぶろしき（名）［大風呂敷］空ナル大言ヲ吐キ、實ナキ大仕事ヲ始ムルヲ、大風呂敷をひろげるト云フ。誇張

〜おぼぼ・し・シキ・シケレ・シク・シク（形、二）［朦朧］「おぼおぼしノ約」（一）オボオボシ。オボッカナシ。オボロゲナリ。萬葉集、十一九「雲間ヨリ、サワタル月ノ、於保保思久、相見シ子等ヲ、見ム由モガモ」同、十七八「海少女、漁火焚ク火ノ、於煩保之久」（二）心、晴レヤラズ。イブセシ。鬱悒　萬葉集、二十四「玉桙ノ、路ダニ知ラズ、鬱悒久、待チカ戀フラム、愛シキ妻等ハ」同、十四三十五「己妻ヲ、人ノ里ニオキ、於保保思久、見ツツゾ來ヌル、此路ノアヒダ」

〜おぼほ・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）［思］おぼす、おぼしめすニ同ジ。源、一、桐壺ニ「イヨイヨアカズ、アハレナル者ニおぼほしテ」

〜おぼほ・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）［溺］「溺るノ他動、もとほる、もとほす、同例」溺レシム。オボラカス。神武卽位前紀五「何爲起二波瀾一以溺二溺乎」

おほボトケ（名）［大佛］「小佛ニ對ス」木、銅ナドニテ造レル、大キナル佛像。ダイブツ。拾玉集、七「是澄知ハ、東大寺ナル、盧遮那佛、ケニアカガネノ、大佛カナ」

〜おぼほ・る・ル・ル・ル・レ・レ・レヨ（自動、下二）［溺］おぼるニ同ジ。水ニハマル。最勝王經音註「溺、於保保流」神代紀、下十三「潮大溢而、兄自沒溺」古今集、十九、長歌「波ノ聲ニヤ、おぼほれム」狹衣、一、上十三「涙ニノミ、おぼほれタマヘリ」

〜おぼほ・る・ル・ル・レ・レ・レヨ（自動、下二）［惚］「朧惚るノ義ニモアルカ」惚ル。ホク。ウツケタリ。源、三十一、槇柱五十「渦カナル旅ノ、目鼻ニモ入リテ、おぼほれテ、物モオボエズ」同、四十七、早蕨四十「イヨイヨ童ベノ戀ヒテ泣クヤウニ、心ヲサメム方ナク、おぼほれ居タリ」同、五十二、手習二十四「尼君、繁キおぼほれテ、起キニケリ」

おほま（名）［大間］（一）廣キ座敷。鎌倉年中行事、正月朔日「公方樣、大間へ御歸アテ、内之御椀飯始也」（二）きやうま（京間）ニ同ジ。（三）おほまがき（大間書）ノ略、其條ヲ見ヨ。

〜おほまうちぎみ（名）［大臣］「まうちぎみハ、まへつぎみノ音便」おほまへつぎみニ同ジ。まへつぎみノ條ヲ見ヨ。萬葉集、一廿八「丈夫ノ、鞆ノ音スナリ、物部ノ、大臣、楯立ツラシモ」

おほまか（名）［細ニ對シテ成レル語ナルベシ、大摩訶ナラムトノ說ハ、鑿ナラム］おほやう（名詞ノ）ニ同ジ。

おほまがき（名）［大間書］除目ノ時ノ文書ニ、闕官ヲバ、間ヲ明ケテ書キオクモノ。任官アレバ、書入ル。略シテ、大間。江家次第、四、除目「大間書一卷」大臣置レ笏取二大間一八開レ之操二置座右一」

おほまがとき（名）［大禍時］暮昏ノ薄暗キ時ノ稱。大魔が時ナドト云ヒテ、怪アリトス。訛リテ、おまんがとき。薄暮　羅山文集、六十五「國俗謂二黃昏一爲二王莽時一言二漢前漢、夜後漢一也」（附會極マレリ、唯、羅山ノ時、此語アリシヲ證ス）

〜おほましま・す・ス・セ・サ・シ・セ（自動、四）［大座座］［まします二、尊稱ノ大ヲ加フ］おましますニ同ジ。オハシマス。マシマス。續紀、廿七、天平神護二年十月、詔「如來ノ尊キ大御舍利ハ、云云、大御形モ圓滿シテ、別ニ好ク大末之末世バ、云云」高橋氏文「天皇ガ、云云、悲シミ愁ヘタビッツ大坐須」

おほまた（名）［大股］兩股ヲ大キニ開キテ歩ムヲ、大股にあるくト云フ。（小股ニ對ス）闊歩

〜おほまちぎみ（名）［大臣］［まちぎみハ、まうちぎみノ約］おほまへつぎみニ同ジ。まへつぎみノ條ヲ見ヨ。成務紀、三年正月「以二武内宿禰一爲二大臣一也」

〜おほまつりごと・の・おほまつぎみ（名）［太政大臣］［おほまつりごとハ、字ノ訓讀、おほまつぎみハ、おほまへつぎみノ略、まへつぎみノ條ヲ見ヨ］だいじやうだいじん（太政大臣）ノ古稱。倭名抄、五一「太政大臣、於保萬豆利古止乃於保萬豆岐美」

〜おほまつりごとびと（名）［參議］［大政人ノ義］參議ノ古稱。倭名抄、五一「參議、於保萬豆利古止比止」

おほまはり（名）［大廻］遠キ廻リ路。

〜おほまへ（名）［大前］［まへノ條ヲ見ヨ］（一）神ノ前ノ敬稱。御前。ヒロマヘ。伊勢太神宮祈年祭祝詞「皇太神ノ大前ニ申サク」

(二)[illegible]

おほまへつぎみ (名) 大臣 まへつぎみノ條ヲ見ヨ。

おほまんどころ (名) 大政所 北政所ノ條ヲ見ヨ。

おほまめ (名) 大豆 豆ノ條ヲ見ヨ。

おほみ (名) 大忌 (一)おほいみノ約。(一)小忌ニ對スル語、おほいみニ同ジ。江家次第、十五、大嘗會「大忌少納言、召二公卿一」 康富記、永享二年十一月「大忌公卿」 (二)大忌ノ公卿ノ服。[illegible]集、六、冬、[illegible]「山藍ノ、色ヲカサスル、コヨヒダニ、おほみノ袖ヤ、カハラザルラム」

おほみ (接頭) 大御 敬稱ノ御ニ、尊稱ノ大ヲ冠ラセテ、神明、天皇ノ御物事ヲ、極メテ尊ビ申スニ用ヰル語。音便ニ、おほん、又、約メテ、おん、お。[illegible]、二十六、常[illegible]「おほみ大[illegible]、取リニモ住ウマツラム」「おほみ[illegible]」「おほみ位」おほみ身 おほみ手 おほみ歌」おほみ食」おほみ酒」おほみ世」おほん事」おほん寶」

おほみあかし (名) 大御燈 燈明ノ敬稱。倭名抄、十三[illegible]具「燈明、於保美阿加之」

おほみあへ (名) 大饗 天皇ニ饗ヘ奉ル御食。[illegible]行紀、十八年三月「[illegible]泉娘、依レ獻二大御食一[illegible]、其[illegible]會之」

おほみうた (名) 大御歌 天皇ノ詠マセタマヒシ歌。詩、歌、共ニ、御製トモ云フ。皇太后、皇后、皇太子ノナルハ、みうた、又ハ、御歌ト云フ。(萬葉集目錄)

おほみおや (名) 大御祖 (一)天皇ノ御[illegible]征二 (二)天皇ノ御母。(后ノ條ヲ見ヨ)[illegible]御祖」

おほみかど (名) 大御門 (一)皇居ノ御門。萬葉集、二十三「日ノ經ノ大御門、云云、日ノ緯ノ大御門、云云、ソトモノ大御門、云云、カゲトモノ大御門」 (二)備シテ、足利武將ノ邸ナドノ總門、大門ノ稱トス。コレニ並ビテ小サキヲ、小御門ト云フ。[illegible]氏年中行事、管領ハ、大御門ノ並ビ、南ノ小門ヨリ參ラル」

おほみがはり (名) 大身替 禓ノ左方、右方、異ナル布帛ニテ製シタル衣服ナリト云フ。又、片身替。貞孝答書「大身がはりノ袷ハ、晴ノ時ハ著マジキ也」(貞丈雜記、三)

おほみかみ (名) 大御神 神ノ敬稱。萬葉集、五 長歌「天地ノ、大御神タチ、倭ノ大國靈、ヒサカタノ、天ノ御空ユ、天翔リ、見渡シタマヒ」

おほみき (名) 大御酒 き(酒)ノ條ヲ見ヨ 神、至尊ニ奉ル酒ノ敬稱。古事記、中(應神)四十七長歌「横臼ニ、釀ミシ意富美岐」

おほみくらゐ (名) 大御位 天子ノ御位。アマツヒツギ。天位 寶祚

おほみけ (名) 大御食 け(食)ノ條ヲ見ヨ 至尊ノ御饌。萬葉集、一 十九 長歌「大御食ニ、仕ヘマツルト、上ツ瀨ニ、鵜川ヲ立テ」 同、二十 長歌「於保美氣ニ、仕ヘマツルト、遠近ニ、漁リ釣リケリ」

おほみこと (名) 大御言 天皇ノ命。ミコトノリ。萬葉集、五 長歌、勅旨、(原註「反、云二大命一」)戴キモチテ、唐ノ、遠キ境ニ、遣サレ」 續紀、廿六、天平神護元年正月、詔「天皇ガ大御命」

おほみこともちのかみ (名) 太宰帥 太宰帥ノ古稱。孝德紀、五年三月「太宰帥」

おほみこともちのつかさ (名) [illegible] 〔みこともちノ條ヲ見ヨ〕 太宰府ノ古稱。[illegible]」

おほみそ (名) 大御衣 おほんぞニ同ジ。

おほみそか (名) 大晦日 十二月ノ晦日。オホツゴモリ。オホトシ。除日

おほみたから (名) 人民 〔平安朝以後ニ成レル語、大御田子等ノ轉、(可笑じ、をかし。いかやか、いさよか)天皇ノ大御田ノ田子等ノ義、農民ヲ主トシテ、一般衆庶ノ稱トナリシナリ、たみ(民)モ、たべ(田部)ノ轉ナルガ如シ、天皇ノ御寶ト解スルハ、漢意ナリ〕人民ヲ、天皇ノ治メタマフニ就キテ云フ語。公民ノ意ナリ。御民。音便ニ、おほんたから。箋注倭名抄、一 九十五「人民、比止久佐、於保无太加良」 神代紀、上 十四「百姓」 崇神紀、十二年三月「衆庶」 萬葉集、六 二十「御民」 江家次第、廿一、非常赦「公御財」(廿一卷目ハ、現存書中ニ逸セリ、故ニ、日本書紀傳、五十四ニ據ル)

おほみため (名) 大御爲 〔おほみための、おほんためト音便ニナルハ、おほみたからノ、おほむたからトナルト、同趣〕皇帝、及、國王等ニ對シテ敬フ語。[illegible](玄宗)敬造二洪鐘一口一、則其所二自來一還矣」

おほみち (名) 大路 (一)[illegible] (二)小道ニ對シテ、三十六町ノ一里ノ稱。(里ノ條、見合スベシ)

おほみづ (名) 大水 [illegible]

おほみどらし (名) 大御執 おほんたらし(御弓)ニ同ジ。

おほみねいり (名) 大峯入 修驗者ノ、大和ノ吉野郡ノ大峯ニ分ケ入リテ、修行スルコト。[illegible]入ルヲ、順の峯入ト云ヒ、吉野ヨリ入ルヲ、逆の峯入ト云フ。[illegible]月ニ入ルト云フ

おほみのやり (名) 大身槍 素槍ノ刃ノ、長大ナルモノ。[illegible]

おほみま (名) 大御體 [illegible]ラムト云フ、偏僂ヲ、くつまト云フモ、額身ナルベシ、[illegible] 天皇ノ御身[illegible]

おほみや (名) 大宮 (一)皇居、神宮等ノ尊稱。萬葉集、十八[illegible]ル、御吉野ノ、コノ於保美夜ニ、アリ通ヒ」 (二)皇太后ノ[illegible]ノ御膳、例ノ沈ノ折敷、何クレノ樣ナリケムカシ」

おほみやごよみ (名) 大宮暦 小田原、北條氏ノ頃、武藏國大宮神社ヨリ發行セ

シ[illegible]、武藏國風土記稿、百五十三、足立郡[illegible]云云、昔ハ[illegible]ヨリ[illegible]アリテ、云云、一年、[illegible]、三月[illegible]ト、[illegible]月ノ邊ヒアリテ、北條氏[illegible]兵衛ヨリ、[illegible]ニ命ジテ、[illegible]セラレシガ」

おほみやづかさ（名）［大宮司］大宮司ノ條ヲ見ヨ。

おほみやどころ（名）［大宮所］（一）大宮ノアル地。萬葉集、一廿「近江荒都長歌「大宮ハ、ココト聞ケドモ、云云、春草シ、茂ク生ヒタリ、云云、大宮處、見レバ悲シモ」同、六四十「大宮處、ココト標刺セ」（二）直チニ、大宮ヲ云フ。萬葉集、十七ニ「仕ヘマツラム、大宮處」同、六四十「不可易大宮處」

おほみやびと（名）［大宮人］大宮ニ仕ヘ奉ル人タチ。卽チ、王卿、百官ノ人人。男女共ニ云フ。宮人。古事記、下（雄略）三十六「長歌「モモシキノ、淤富美夜比登」（女官ナリ）萬葉集、十二「モモシキノ、大宮人ハ、暇アレヤ、梅ヲカザシテ、ココニツドヘル」

おほみら（名）［薤］〔みらノ條ヲ見ヨ〕らっきょうノ古名。倭名抄、十七八「薤、於保美良」

おほみるくさ（名）［莨菪］〔大海松草ノ義ニテ、葉ノ深綠ナルヨリノ名カ、染色ニ、綠黑ナルヲ、海松ト云フ〕毒草、はしりどころノ古名。本草和名、上十二「莨菪、於保美流久佐」（倭名抄、同ジ）

おほん（接頭）［大御］おほみノ音便。「おほん神」おほん寶「おほん歌」「おほん何」ト云フベキヲ略シテ、名詞ニ用キラルルコトアリ。景行紀、四十年十月「願以三妾之身ヲ贖ニ王之命ヲ[illegible]」[illegible]アリ、美玉ヲ藏ス、捕ヘテ問フニ「實有之、以貢於[illegible]」

おほんうた（名）［御歌］おほみうたニ同ジ。

ジ。」

おほむかし（名）［大昔］甚ダ古キ昔。（中昔ナドニ對ス）太古　上古　狂言記、ぎんじ聟「[illegible]むかし、中ムカシ、當世トイウテ、三段オジャルガ」

おほんがみ（名）大御神ノ音便。伊勢物語、百十七段「おほんかみ、現形シタマヒテ」

おほむぎ（名）［大麥］むぎノ條ヲ見ヨ。

おほんぞ（名）［大御衣］「おほみぞノ音便」天子ノ御服。仁德紀、四年三月「[illegible]」亭子院歌合「帝ノ御裝束、ヒハダ色ノおほんぞニ、ソラ色ノ御袴」

おほんたから（名）［人民］おほみたからノ條ヲ見ヨ。

おほんため（名）［奉爲］大御爲ノ音便。天皇、及、主君等ニ對シテ敬フ語。奉仕ノ意。用明紀、二年四月、鞍部多須奈「臣奉ニ爲天皇ノ、出家修道」崇峻卽位前紀「奉ニ爲護世四天王ノ、起ニ立寺塔ヲ」陸前、志田郡、松山、茂庭氏記錄、萬治三年五月十九日「下下何者タリトモ、奉爲可[illegible]、存寄候ハバ、無ニ遠慮ニ可ニ申達ニ候、云云、於ニ奉爲之志ニ者、不ニ捨之ヲ及ニ相談ニ可ニ沙汰ニ事」

おほんたらし（名）［御弓］「大御執ノ音便」天子ノ大御弓。オンタラシ。ミトラシ。ミタラシ。名義抄「御弓、オホムタラシ」

おほむね（名）［大棟］屋ノ脊ノ、平カナル棟。（下棟ナドニ對スル語）

おほむね（副）［大旨］大凡ノ趣意。推古紀、十二年四月、憲法十七條、二「三寶者、佛法、僧也、則四生之終歸、萬國之極宗、何世何人非貴是法」

おほむね（副）［率、概］「大旨ノ義」オホヨソ。大略。名義抄「率、アラアラ、オホムネ、ホ[illegible]」

ボニ其[illegible]、[illegible]ノ如シ」

おほんべ（名）大饗、又、大嘗ノ條ヲ見ヨ。

おほむらじ（名）［大連］おほおみ（大臣）ノ條ヲ見ヨ。

おほめ（名）［大目］「四十八兩（百九十二匁）ヲ大一斤トスルニ起レル稱カ」（一）二百匁ヲ一斤トスル稱。（二）物事ノ監督ニ、寬恕アラシムルコト。心中刃氷朔日（寶永、近松作）上「是程迄逆ラウテ申スカラハ、身ヌケノナラヌ譯有ト、大目ニ見テクダサレ」

おぼめかし シキ・シケレ・シク・シク（形、二）分明トセズ。サダカナラズ。源、三十四、上、若菜、上十七「女君、サバカリナラムト心得タマヘレド、おぼめかしくモテナシテオハス」同、三十六、橫笛十七「何カハ、ソノホドノ事、顯ハシ宣フベキナラネバ、シバシおぼめかしくテ」

おぼめかす ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）［諷示］「次條ノ語ノ、おぼめくノ他動」ホノメカス。源、四、夕顏廿一「カカル御志ノ、オロカナラヌヲ見知レバ、おぼめかしナガラ、顯ミヲカケキコエタリ」宇津保物語、藏開、中三「コノ御文、人シテ奉レバ、おぼめかせモソシ給フ、シルクテ、御覽ズバカリモ持タセテ參レ」

おぼめく ク・ケ・カ・キ・ケ（自動、四）「朧めくノ意カ」分明トセズ。サダカナラズ。ボンヤリスル。後拾遺集、十五、雜、一「夢ノゴト、おぼめかレユク、世ノ中ニ、何時訪ハムトカ、オトヅレモセヌ」宇津保物語、吹上、上「源氏ニ琴ノ御琴、給ヒテアソバス、ツツムコトナク、おぼめくコトナシ」

おぼめく ク・ケ・カ・キ・ケ（他動、四）疑ヒ思フ。オボツカナガル。源、二、帚木三「違フベクモアラ、心ノシルベヲ、思ハズニモ、おぼめいタマフカナ」後撰集、四、夏「時鳥、ハツカナル音ヲ、聞キソメテ、アラヌモソレト、おぼめかレツツ」枕草子、

ヒ、六十四段「ソレニヤ、カレニヤナド、おぼめきユカシガリタマフ」

おほめつけ（名）［大目附］德川氏ノ制ニ、監察ノ職ノ、專ラ諸大名ニ係ハル事ヲ掌ルモノ。東遷基業、一「大目付四人、從五位下、掌ニ監ニ一切之事[illegible]、宗門、分限帳等、諸侯之事、云云、諸侯、大夫、捧書之時、在[illegible]」云云、寬永九年十二月、[illegible]」

おほもと（名）［大許］「御手許、御側ノ意、略シテ、おほもとト云フ、おもほゆ、おぼゆ」至尊ノ御許。禁裏。おほもと。神功皇后攝政前紀「皇居」仁德卽位前紀「天皇之御所」舒明卽位前紀「數十人、侍ニ於天皇之御所ニ」天智紀、十年十月「天皇疾病彌留、勅喚ニ東宮ニ、引ニ入臥内ニ、詔曰、云云」

おほもと（名）［大本］第一ノ本。オホネ。

おほものいみ（名）［大物忌］伊勢神宮ノ神官。ものいみノ條ヲ見ヨ。

おほもん（名）［大門］屋敷、城、ナドノ、第一ノ表門。（中門、潛門ナドニ對ス）、正門　下學集、上、家屋門「大門」蜷川親元記、寬正六年八月廿六日「大門、扉、壁、御修理」又、遊里ニ於テモ云フ。文化ノ川柳「江戶見物ハ、大門デ、ドナタ樣」（新吉原ノ大門ヲ見テ、大名ノ屋敷カト思ヒ違フ）

おほや（名）［大屋］（一）母屋。本屋。（二）店子ヨリ、家主ヲ稱スル語。（江戶）江戶職人歌合、大屋「六ツ限リノ、路次ノ鍵サヘ、忘ルマデ、空店カケテ、澄メル月カナ」

おほやう（名）［大樣］心、動止ノ、寬ニシテ、物ニ拘ハラズ、迫ラザルコト。從容　平家物語、一、淸水寺炎上事「東宮ノ御ハ、ユユシクおほやうナル者カナトゾ、父ノ御モ宣ヒケル」（山門大衆ノ騷動ニ驚カサリシナリ）

おほやう [illegible] 大様 [illegible]
春ヨリ七十五日、おほやう過ハズ」

おほやけ（名）［大宅］〔やけノ條ヲ見ヨ〕（一）大イナル宮殿。大宮。皇居 [illegible] 介し」 [illegible] 改ニ大宅里」（倭名抄、諸國ノ地名ニ、大宅ト云フ、多シ、是レハ、屯倉ニ因ル名ナリ）（二）天子。帝ノ御住所ヲ以テ稱シ奉ルナリ、大臣ヲ、大 [illegible] 下ト云フガ如シ」 [illegible] おほやけニ御文奉リタマフ」（かぐや姫ヨリ、帝ニ）伊勢物語、百十四段「おほやけノ御氣色惡シカリケリ」 [illegible] 御後見仕ウマツル」（攝政） 吾妻鏡、四、文治元年正月六日 [illegible] 位 [illegible] 云云」

おほやけ（名）［官 公］〔前條ノ語ノ轉〕 [illegible] ヨリ移レル語ナリ 官廳 朝廷 政府 [illegible] 年八月 官 [illegible] 名 [illegible] 官、オホヤケ」伊勢物語、八十五段「おほやけノ宮仕ヘシケレバ、常ニハエマウデズ」源、一、桐壺「おほやけノ固メトナリテ、天ノ下ヲタスクル」

おほやけ（名）［公］〔前條ノ語ノ轉、私ノ意ヨリ移ル〕（一）〔私ナキコト。 天武紀、下、七年十月「公 平 而格 [illegible]」（二）國家全體ニカカハルコト。世間ニ表立チテノコト [illegible] 世間ニ共通ナルコト [illegible] 公共 [illegible] たくし、物サワガシキホド、過シテ」枕草子、二、廿 [illegible] おほやけ、わたくし [illegible]（三）表向キナルコト。

おほやけ おほやけ・し [illegible]

おほやけ ごと（名）［公事］ 富ニ [illegible] 公事ト云フ。 [illegible] 宮中ノ儀式、節會ナド [illegible] ノ稱 [illegible] スヨニテ」

おほやけ ざた（名）［公沙汰］〔内沙汰ニ對ス〕 表立チテ、政府ノ取扱ヒトナルコト。 オモテザタ。 公事 公裁

おほやけ・し・シキ・シケレ・シク・シク [illegible]（二）［公然 公公然］ オモテダチタリ。オモテムキナリ「重ネテ、おほやけおほやけしト云ヒテ、意ヲ強クス」（おほやけおほやけし、同例） [illegible] 中納言物語、四「人 [illegible] ニハ、云云、おほやけしう [illegible] セラレテ、御心ノ内ニハ、云云」 [illegible] 一、上「中宮出デサセタマヒヌレバ、 [illegible] 打具シ [illegible] ラセテ、イトおほやけしく、キラキラシキ御アリサマナリ」源、五十、浮舟 三十 五「帝ノ御賀ニテ、飽カヌコトナシトゾ、世ノ人モコトワリケリ、オナドモ、おほやけおほやけしき方モ、後レズゾオハスベキ」落窪物語、一、下「交野ノ私 物マウケム時ハ、若シおほやけおほやけしくテ取ラレムト笑フ」

おほやけばらだ・つ・ツ・テ・タ・チ・テ（自動、四）［公腹立］ おほやけハ、世間ノ義、傍觀ノ意、法界悋氣ナド云フ、 [illegible] 人ノ非事スルヲ、傍ヨリ見聞キテ、腹立ツ（公憤ナドノ意） [illegible] 居タルヲ、見捨テテ行キナドスルハ、アサマシウ、おほやけばらたちテ [illegible] 樣ノタメシヲト思フゾ、ゲニハおほやけ腹だたしレケル」

おほやけびと（名）［官人］ 宮仕ヘスル人 [illegible]

おほやしま [illegible]［大八島］ [illegible] ノ條ヲ見ヨ。

おほやしまぐに（名）［大八島國］ 大八島國 [illegible] 國 [illegible] 大日本國ノ一稱。古事記、上ニ、 [illegible] 名 [illegible] 嶋、筑紫嶋（九州）、伊伎嶋、津嶋（對馬）、佐渡嶋、大倭豐秋津嶋（本土）ヲ大八島ト云フトアリ。神代紀、上ニハ、大八洲國ト見ユ。八島國 [illegible] 朝廷ノ大事ニ用キル詔ニハ「明 神 御二 宇 大八 [illegible]」古事記、上 [illegible]

おほやしろづくり（名）［大社造］ 神社ヲ建築スル一法、出雲大社ニ摸倣シタルモノ。（やしろづくりノ條ヲ見ヨ）

おほやすうり（名）［大安賣］ 甚シキ安賣。

おほやすみどの（名）［大安殿］〔やすみどのノ條ヲ見ヨ〕大極殿ノ舊稱。（小安殿ニ對ス） [illegible] 四年六月 [illegible] 大安殿 [illegible] 下 [illegible] 元年正月 [illegible] 大安殿 [illegible]

おほやま（名）［大山］（一）〔大イナル山。 萬葉集 [illegible]「ミ雪フル、越ノ大山、行キ過ギテ、何レノ日ニカ [illegible]（二） [illegible] ノ、山師ノ手段。「大山ガアタル」「大山ガハヅレル」

おほやまと（名）［大倭 大日本］ 日本ノ條ヲ見ヨ。

おほやままゐり（名）［大山參］ 相摸國、大山ナル、石尊ニ參詣スルコト。 [illegible] 七月 [illegible] ヨリ十七日ノ朝マデニ登ルヲ、盆山ト云フ、江戸市中 [illegible] 刀トテ、大イナル木刀ヲ肩ゲテ行キシナリ。 [illegible] ノ川 [illegible] 山ハ [illegible] ラシイ、人バカ [illegible]

おぼ・ゆ・ユル・ユレ・エ・エ・エヨ [illegible]［思 [illegible]］ [illegible] ノ約（おもほす、おぼす） [illegible] 思ハル [illegible] 自ラ [illegible] 十四段「京ノ人ハ、メヅラカニヤおぼえケム」 [illegible] ケム」

おぼ ゆ・ユル・ユレ・エ・エ・エヨ [illegible]（一）〔心ニ留メテ、忘レズ。識ス。記憶 [illegible] ガ、失セニシイモウトノ顏ハ、おぼゆヤ、今ハ世ニナキ人ト」（二）學ビテ知ル。習ヒ得。習了 [illegible]

おほゆか（名）［大床］（一）神社ノ簀子縁。（二）武家ノ邸宅ニテ [illegible]

おほゆか（名）〔ゆかなけノ條ヲ見ヨ〕 造酒家ニテ用キル、大イナル桶

おほゆび（名）［大指］ おほおよび。 手ノ指ノ、最モ大ナルモノ [illegible] 拇指 將指 巨指 [illegible]

おほゆみ（名）［弩］〔大弓ノ義〕 弓ノ、甚ダ大イナルモノ、數十人ニシテ發スル [illegible] アリ [illegible] 下、十四年十一月 [illegible]

[illegible]、十三、[illegible]」

おほよそ (副) 大凡 大方ノ意。オホカタ。ナミタイテイ。萬葉集、十二「凡ニ[illegible]」

おほよそ (副) 大凡 前條ノ語ノ轉。オホヨソニ讀リテ、おほよそ。[illegible]三千人」

おほよそびと (名) 大凡人 オホヨソノ人。世間ノ人。世人 源、三十四、下、若菜、下「[illegible]おほよそびとノ思ハム心サヘ、思[illegible]」

おほよめ (名) 大嫁 「弟嫁ニ對ス」 兄ノ妻。[illegible]

おほよもぎ (名) 大艾 伊吹艾ニ同ジ。

おほよろひ (名) 大鎧 胴丸、腹巻等ニ對シテ、武具ノ鎧ノ稱。[illegible]

おほらうか (名) 大廊下 德川氏ノ江戸城中ニアリシ廊ノ名。大名ノ詰所ノ第一トシタリ、其上ノ部屋ト云フハ、三家、三卿ノ詰所ニテ、下ノ部屋ト云フニハ、加賀ノ前田氏、越前ノ松平氏、因幡ノ池田氏、美作ノ松平氏、其他、諸氏列シタリ。

おぼらかす [ス・セ・サ・シ・セ] (他動、四) 溺 大蕪作ノ語ノ、おぼるノ他動、はふらす、はふらかす。おくる、おくらかす」 オボホス。[illegible]

おほらかに (副) 多 〔高らか、厚らか、同趣ナリ〕 多ク。[illegible]

おぼる [ルル・ルレ・レ・レヨ] (自動、下二) 溺 〔おぼほるノ約〕 (一)〔おぼほる。〕 水ニ溺リテ、浮ビ得ズ。水ニ沈ム。溺没 [illegible] (二) [illegible]

おぼれじに (名) 溺死 水ニ陥リテ死ヌルコト。デキシ。

おぼれる (動) 溺るノ口語。

おぼろ (名) 〔おぼほろノ約ナラムカ〕 鰕、鯛ナドノ肉ヲ、醤油、味醂、砂糖ナドニテ煮テ、乾固マリタルヲ叩キテ、ぼろぼろニシタルモノ。食物、飯鮨、ナドニ灑シカケテ食フ。又、ソボロ。

おぼろかに (副) 粗略 〔おぼろかハ、大疎ノ約ナルベシ、おぼおぼし、おぼし〕 オロソカニ。オホヨソニ。ナホザリニ。萬葉集、六[illegible]

おぼろぎん (名) 朧銀 銀細工ノ品物ヲ、表面ニ梨子地ヲ施シテ、光澤ヲツケ[illegible]

おぼろげに (副) 朧氣 (一)不分明ニ。[illegible]「おぼろげたらぬ[illegible]」 (二)おぼろげならずヲ略シテ云フコトアリ。(けしかりヲ、けしからぬト用キル語モアリ) 源、三十四、上、若菜、上「[illegible]」 細流抄「おぼろけならぬ[illegible]」

おぼろづき (名) 朧月 オボロニカスメル月。春夜ノ月ニ云フ。[illegible]

おぼろづきよ (名) 朧月夜 朧月ノ出デタル夜。[illegible]シテ、おぼろよ。新古今集、一、春、上、大江千里「照リモセズ、曇リモハテヌ、春ノ夜ノ、朧月夜ニ、シクモノゾナキ」 六帖、[illegible]「[illegible]ノ、タソガレ時ノ、おぼろよニ、アリコシ君ニ、サヤニ逢ヒ見ツ」

おぼろどうふ (名) 朧豆腐 [illegible] 鯛、鰕ナドノおぼろト、同義ナルベシ 豆腐ノ料理ノ名。豆腐ヲ布巾ニテ包ミテ、水氣ヲ絞リ取リ、裏漉ニカケテ、擂鉢ニ入レ、砂糖、醤油、酒、鹽ナド加ヘ、擂リマゼテ、鍋ニ移シ、強キ火ニカケテ、箸ニテカキマハシ、水氣ノ稍蒸發スルマデ煎リツケ、胡麻、又ハ、からしノ粉ナドヲ塗ス。

おぼろみ (名) [illegible]

おぼろふじ (名) [illegible] 富士山ノ形ノ[illegible]

おぼろまんぢゆう (名) 朧饅頭 [illegible] おぼろノ如ク[illegible]、ソレヲ[illegible]

おぼろよ (名) 朧夜 おぼろづきよノ條ヲ見ヨ。

おほわ (名) 大輪 車ノ輪。輪ノ條ヲ見ヨ。輌

おほわざもの (名) 大業物 名物ノ刀劒ノ稱。

おほわた (名) 大腸 はらわたノ條ヲ見ヨ。

おほわだ (名) 大曲 湖、川ナドノ、大キク曲リ込ミタル處。入江。萬葉集、一「サザナミノ、志賀ノ大和太、淀ムトモ、昔ノ人ニ、マタモ逢ハメヤモ」

おほわらは (名) 大童 〔わらはハ、被髪(其條ヲ見ヨ)ニテ、童子ノ髪風ナリ、大人ノ被髪ナレバ、おほト云フカ〕 散髪、亂髪ヲ、戰場ニテ云フ語。甲ハ髪ヲ散チテ着ルモノナリ、サレバ、甲ヲ脱ギテ[illegible]クヲ、おほわらはになるト云フ。平治物

[illegible]テ、おほわらはニなりぬマフ」[illegible]

おほわらひ（名）[大笑]（一）聲高ク笑フコト。[illegible]（二）[illegible]コト。

おほゐ（名）[大藺]　ふとゐノ古名。[illegible]

おほゐゐみ（名）[大忌]　[illegible]ナル日ニ[illegible]

おほを（名）[大峯]　[illegible]（峯）ノ條ヲ見ヨ」

大イナル峯。[illegible]ノ、[illegible]ノ山ノ、[illegible]二八、[illegible]タテ、[illegible]ニ八、[illegible]リタテ」　山口[illegible]集山ノ、大峡、小峡ニ[illegible]

おほを（名）[尾]　[illegible]ニ[illegible]ノ[illegible]

おほをそどり（名）[大嘘鳥]　[illegible]ろくヲ、末ト聞キ、其人來ネバ、嘘ナリト[illegible]プニ[illegible]ノ、[illegible]ニモ、[illegible]トゾ鳴ク」

おほをち（名）[大伯父]　[illegible]

おほをとこ（名）[大男]　[illegible]リハ大イナル男。[illegible]

[illegible]ジンシ」

おほをば（名）[大伯母]　[illegible]

おほをんな（名）[大女]　[illegible]

おまけ（名）[御負]　[illegible]條分ニ附ケ加ヘテ。アマツサヘ。シカノミナラズ。

おまし（名）[御座]　[illegible]

おましどころ（名）[御座所]　貴人ノ居ラセラル所ニ[illegible]オハシマシドコロ。御座所。略シテ、お[illegible]

おましまーす・ス・セ・サ・シ・セ（[illegible]）[illegible]
[illegible]「[illegible]ノ御殿ノ西ノ[illegible]ニ、おまし[illegible]」[illegible]

おまーす・ス・セ・サ・シ・セ（自動、四）[御座]（一）[illegible]
[illegible]八、[illegible]ニおましましケル時」
[illegible]

おませう（名）[illegible]ノ條ヲ見ヨ。

おまへ（名）[illegible]

おまなはじめ（名）[真魚始]　[illegible]ノ[illegible]

おまはり（名）[御巡]　おめぐり（[illegible]）ノ[illegible]

おまはり（名）[御廻]　[illegible]ニテ、[illegible]ノ[illegible]

おまへ（名）[御前]　神ノ敬語。ミマヘ。
[illegible]

おまへ（代）[御前]　對稱ノ代名詞。元ハ[illegible]ハ、今モ敬稱トス）後ニハ、同輩ヨリ稍[illegible]
[illegible]中納言物語、一、[illegible]ニおまへノ、イトヨウ[illegible]の記（[illegible]）ニコレナ[illegible]ノ人ニテラムト見ユルニ、三三、コレハ何人ゾ、アナル[illegible]、おまへハ、人ノ手ヲ[illegible]テタマフカ」[illegible]「おまへ（主人ヲ指ス）ノ[illegible]、貧サ・シャレマセウ」[illegible]

おまへだち（名）[御前立]　佛堂ノ本尊ノ[illegible]シガ、おまへノ[illegible]リナサレタルヲ見タリ」

おまん（名）[御饅]　饅頭ノ、小兒婦人語。

おまんがあめ（名）[於萬飴]　[illegible]、安政ノ[illegible]一人[illegible]

おまんがとき（名）[illegible]　おほまがとき[illegible]ニテ、コレニ[illegible]シテ、一時流行セシ[illegible]

おまんがべに（名）[illegible]　[illegible]テ、人人、[illegible]ヲ[illegible]ヘテ、[illegible]スルコトヲ[illegible]行セリト云フ。（[illegible]、下）

おまんがべに（名）[illegible]

おまんま（名）[御飯]　[illegible]

おまんまつぶ（名）[御飯粒]　めしつぶノ婦人語。イヒボ。

おまもり（名）[御守]　[illegible]

おまらーす・[illegible]
[illegible]ノ敬語。マヰラス。オマセウ。[illegible]
[illegible]コノ上ニ下、小袖八、[illegible]
[illegible]テモオリ、ラスゾ」[illegible]ニシテおまら[illegible]

おまる（名）[御丸]　[illegible]（[illegible]）ノ條ヲ見ヨ」清器ノ、婦人小兒語。おかはノ條ヲ見ヨ。

おみ（名）[臣]　「大身ノ約、君ニ仕フル人[illegible]
官スル人ノ稱。男女共ニ云フ。[illegible]
ハ、[illegible]ノ、臣ノマニマニ、[illegible]ク[illegible]云フモノゾ」[illegible]

おみ（名）[illegible]
[illegible]

戸ナルガ如シ、上代ノ名族ニシテ、其族長ニ、大臣ノ稱號ヲ賜ハリシ事アリ、(後ノ大臣ニ等シカリキ)天武天皇ノ、八階ノ戸ヲ定メラレシ時、第六階ノモノトナサル。オムノコ。

おみ (名) [使主] (臣ト同義ニシテ、蕃人ノナレバ、異字ヲ用キタルナリト云ヒ、或ハ、百濟、高麗ノ大使ニ、おみト訓ジタルアレバ、韓語ナラムモ知ルベカラズト云フ」) 戸ノ名、歸化人ナルニ多シ。元ト韓國ニ使シ、通辯スル職ノ名ナリシナラムカ。 應神紀、三十七年ニ阿知使主、都加使主アリ、歸化人ナリ。(欽明紀、十一年二月「詔ニ百濟ニ曰、云云、宜下以二馬武一爲二大使一遣上レ朝而已」馬武ハ、百濟ノ臣ナリ、同紀、三十一年五月「遣二膳臣傾子於レ越、饗二高麗使一、大使審知二膳臣、是 皇華使一」) 顯宗卽位前紀「日下部連使主」註「使主、此云二於瀰一」古事記、下(安康)四「坂本臣祖、根臣」安康紀、元年二月「坂本臣祖、根使主」履中紀、二年十月「圓大使主」雄略卽位前紀「圓大臣」(是レ等ハ同音語ナルニ因リテ、混ジタルナルベシ)

おみ (代) [御身] 對稱ノ代名詞。おんみ。ソナタ。オマヘ。 浮世風呂(文化、三馬)初編、下「番頭、コレ、お身ハ、種種ノ事ヲ云フノ」

おみ (接頭) [御御] 御酒、御輿、御鬮、御堂ナド云フ語ノみニ、敬意アルヲ知ラズナリテ、平語ノ如ク思ハレテ、更ニ又、御ヲ冠ラセテ、おみき、おみこし、おみくじ、おみだうナド云フ。此口調ヨリシテ、御附(味噌汁)、御數(飯ノ菜)ヲ、おみおつけ、おみおかずナド、三重ノ語ヲ生ズルニ至ル。

おみ-おつけ (名) [御御御附] (前條ヲ見ヨ」) 味噌汁ノ、婦人語。おつけニ同ジ。

おみき (名) [御神酒] (前前條ヲ見ヨ」) 神酒ノ敬稱。神ニ供フル酒。

おみき-どくり (名) [御神酒德利] 神酒ヲ盛リテ、神前ニ供フルニ用キル德利。同形、一對ニ作リ、白紙ヲ折リタタミテ、口ニ刺ス。物事ノ、二箇同一ナルニモ譬ヘテ云フ。

おみくじ (名) [御御鬮] (御御ノ條ヲ見ヨ」) 御鬮ニ同ジ。

おみこし (名) [御神輿] (御御ノ條ヲ見ヨ」) 神輿ニ同ジ。

おみだう (名) [御御堂] (御御ノ條ヲ見ヨ」) 御堂ト云フニ同ジ。

おみな (名) [嫗] (大女成ノ略轉、(雀、すずみ)女ハ小女成、翁ハ大成、大人ハ大人成」) 年老イタル女。老婆。音便ニ、おうな。又、おむな。 字鏡 六十「媼、於美奈」續紀、十三、天平十一年正月「紀朝臣意美那」(女名) 靈異記、中、第十六緣「嫗、於于那」神代紀、上 二十五「老翁老婆」名義抄「姥、オウナ」神武紀、戊午年九月「老嫗」倭名抄、二 三十一「嫗、於無奈」

おみぬぐひ (名) [御身拭] 木ノ佛像ヲ、白絹ニテ拭フ儀式。山城國、嵯峨ノ清涼寺本尊、三國傳來ト稱スル釋迦像ニ施スモノ、最モ名アリ、陰曆三月十九日ナリ。 後撰夷曲集(寬文)二「欲垢ハ、絕エズ浮世ノ、さがノ釋迦、お身ぬぐひニモ、取レル散錢」

おみのこ (名) [臣子] (子ハ、萬葉集、三 二十五「物部ノ、臣ノ壯士ハ、大君ノ、任ノマニマニ、聞クト云フモノゾ」ノ、をとこト同ジ」) 臣ト云フニ同ジ。音便ニ、おむのこ。臣ノ戸ノ人ナリ。 雄略卽位前紀「飫瀰能古ハ、栲ノ袴ヲ、七重着シ」(圓大臣ヲ指ス) 天智紀、十年十二月、童謠「於瀰能古ノ、八重ノ紐解ク」 天武紀、下、十三年十月、八色ノ姓ヲ制セラレシニ「一曰眞人、二曰朝臣、云云、六曰臣」

おみや (名) 土產ノ、小兒語。 狂言記、素襖落「參宮、云云、追付、下向致シマシテ、メデタウおみやヲ進ゼマセウ」

お・む・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ (自動、下二) [畏怖] 〔鼠婦ヲ、本草和名ニ、於女牟之トアリ、(其條ヲ見ヨ)怖蟲ナレバ、おノ假名遣ナリ」) 怖ヂテ、アトシザリス。所壓レテ臆ス。 沙石集、一、上、第四條「誓狀コソ無下ニおめタレ、ト云ヒケレバ」同、三、下、第五條「子供ハ、ソレ體ニおめヌガヨキゾ」

おん (名) [恩] メグミ。イツクシミ。 禮記、經解篇「喪祭之禮、所三以明二臣子之恩一」 宇津保物語、俊蔭 二十「母ノおむノカナシク、乳房ノ戀シサニナム、率テ參リツル」

おん (名) [音] (一)コヱ。「大音ニ喚ブ」 (二)語學ニテ、人ノ聲ノ、一氣ニ出ヅルモノ。「淸音」濁音」 (三)漢字ノコヱ。卽チ、彼ノ國語ノこゑノママナルモノ。漢字音。字音。日本語ニ當テテ讀ムヲ、訓。又、よみト云フニ對ス。例ヘバ、天、地、日、月ハ音ニテ、天、地、日、月ハ訓ナルガ如シ。コレヲ音讀、訓讀ト云フ、訓讀ハ卽チ、翻譯スルナリ。漢字音ニ、漢音、吳音、宋音、唐音ノ別アリ、漢音ノ條ヲ見ヨ。 職員令、大學寮「音博士二人、掌レ教レ音」

おん (名) [陰] (字ノ吳音」) カクシドコロ。男女ノ陰部。 倭名抄、三 八「陰、玉莖、玉門等之通稱也」字類抄「陰、ヲム」

おん (連體) [御] (大御ノ轉ナル、おほんノ約、字類抄「御、オム、オホム」) 泛ク物事ニ冠ラセテ、敬稱、尊稱スル語。 催馬樂、老鼠「老鼠、若鼠、於无毛(御蜜)貪ンヅ、袈裟貪ンヅ」「おん曹司」誰レ樣おん事」誰レ殿おん中」おん身」おん手許」

おん-あい (名) [恩愛] メグミ。イツクシミ。 漢書、禮樂志「恩愛寖薄」 無量壽經「恩愛思慕、憂念結縛」 とりかへばや、三「おんあいノ思ヒト云フモノ、佛ダニ、タケキ事ニ說キ給ヘルニ」

オン-アビラウンケン (句) [唵阿鼻羅吽欠] 梵語。佛教、大日如來ノ眞言祈ノ詞。あびらうんけんノ條ヲ見ヨ。 謠曲、安達原「唵阿毘羅吽欠娑婆訶」(梵語、Om A-vi ra hūṃ khan Srāhā.)

おん-かい (名) [音階] 音樂ニ云フ語。一定ノ音程ノ間ニ設ケタル、標準音ノ階級。

おん-がく (名) [音樂] (禮記、樂記篇「審レ聲以知レ音、審レ音以知レ樂」) 樂ノ條ノ(一)ヲ見ヨ。 漢書、史丹傳「留二好音樂一」

おむか・し・シキ・シケレ・シク・シク (形、二) [欣感] (面向かしノ約、(おもほゆ、おぼゆ)字鏡ニ「慶、於毛加志」トアリ、又單ニ、むかしトモ云フ、向カハマホシキ意、(背向くノ反)」) 喜シ。嬉シ。感賞スベシ。音轉シテ、うむかし、又、おもかし。むかし。 日本紀竟宴歌、道臣命ヲ詠ズ「功シク、正シキ道ノ、於牟迦斯サ、トテゾ我ガ名モ、君ガ賜ヒシ」(神功紀「相見欣感」) 續紀、十、天平元年八月、宣命「其人ノ宇武何志伎事、欵シキ事ヲ、遂ニエ忘レジ」 名義抄「偉、オムカシ、メヅラシ」 字鏡 八十四「偉慶、悅也、賀也、於毛加志、宇禮志」 萬葉集、十八 上 四「白珠ノ五百箇集ヲ、手ニ掬ビ、オコセム海人ハ、牟賀思久モアルカ」

おむかしみ (名) [欣感] オムカシムコト。 神功紀、四十六年三月「若能教二臣等一令レ通二道路一、則我王必深二徳 君王一」(我王ハ、百濟王) 同、四十九年三月「相見欣 感」

おむかし・む・ム・メ・マ・ミ・メ (他動、四) [欣感]

[illegible]

オンガミ (名) [天人] 朝鮮ニテ、[illegible]ノ稱、人ニ[illegible]ハル。[illegible]ヲ、[illegible]ト呼ビテ、賤シム。

おんがん (名) [恩顔] イツクシミアル顔。 謡曲、小袖曽我「恩顔ヲ拜セネバ、御[illegible]シサモ一ツ」

おんぎ (名) [恩義] 恩ヲ受ケテ、報ユベキ義アルコト。 後漢書、[illegible]「[illegible]公等二於恩義[illegible]」

おんぎ (名) [音義] (一)漢字ノ音ノ意味。[illegible] (二)言語ノ響音ニ、一音毎ニ、固有、一定ノ意義アリトスルコト。コレヲ説クヲ、音義學ナドト云フ。

おんぎ (名) [音義] 古書ニ、其篇ニ本文ヲ書キタル二對シテ、其二書キタル註[illegible] [illegible]不可レ曉記」

おんぎがく (名) [音義學] 前前條ノ(二)ヲ見ヨ。

おんきふ (名) [恩給] (一)恩賞トシテ、給ハリタル領地。 吾妻鏡、七、文治三年八月八日「[illegible]」 (二)一定ノ年限ヲ勤續シテ退官シタル官吏ニ、國家[illegible]ヨリ、一定ノ金額ヲ[illegible]スルコト。 大正十二年四月十三日、法律第四十八號、[illegible]恩給、一時恩給、傷病賜金、扶助料、一時扶助料ヲ恩給ト云フ」

おんきん (名) [恩金] 恩借ノ金錢。

おんきやう (名) [音響] [illegible]

おんぎよく (名) [音曲] [illegible] (一)[illegible]ヲ奏スルコト。又、[illegible]法師ノ、[illegible]ニ合セテ[illegible]語ルコト。 [illegible] (二)[illegible]、三味線ニ合セテ謠フ、[illegible]ノうたひもの、又、かたりものノ稱。

おんくん (名) [音訓] おん(音)ノ條ノ(二)(三)ヲ見ヨ。

おんくわう (名) [恩光] 「恩惠ノ大イナルコト、日光ノ如シト云フヨリ轉ジテ、君主ノ恩ヲ受クルコトヲ云フ」 メグミノヒカリ。 [illegible]「[illegible]ラサレ、恩澤ニ潤ヒ、國モ富ミ、民モ安カリキ」

おんけい (名) [恩惠] メグミ。イツクシミ。アハレミ。オカゲ。恩澤。 [illegible]

おんけいび (名) [恩惠日] あいきやう(愛敬)ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。

おんけん (名) [隱劍] [illegible]ヲ、懐中ニ隱シテ刺シ居ル時ノ稱。フトコロガタナ。懷劍。 [illegible]けんトモ云ヒシナリ、[illegible]ト書ク也、かくすつるぎ[illegible]」

おんけん (名) [恩眷] メグミヲ被ムルコト。目ヲカケタマハルコト。 北史、李彪[illegible]

[illegible]

おんこ (名) [恩顧] [illegible] 「主人ハ、云云、不用ノ輩ニハ、恩顧ヲ施シ[illegible]」

オンコ (名) 〔古キ蝦夷語ナリト云フ、今ノあいぬ語ニテハ、ららまにト云ヒ、弓ノ材トス、[illegible]地方ヨリ東北地方マデ、おんこナリ〕 樹ノ名、いちゐニ同ジ。一名、オツコ。

おんごん (名) [慇懃] いんぎん(慇懃)ノ[illegible]。 [illegible]

オンコロコロセンダリマトウギ (句) [唵呼嚧呼嚧戰馱利摩撜祇] 梵語、藥師如來ノ眞言ノ詞。 [illegible]

おんざうし (名) [御曹司] 「さうしハ、部屋ナリ、其條ヲ見ヨ」 (一)堂上家ノ子息ノ、部屋住ナル人ノ敬稱。(二)專ラ、源家ノ子息ノ稱。(平家ノ公達ニ對ス)永正ノ奥州餘目記錄(國書刊行會本)ニ、源義家、童名ヲ曹司子ト云ヒシニ始マルト云フ。 保元物語、二、白河殿夜討事「八郎[illegible]ノ矢、云云、御曹司([illegible])ノ弓手ノ草摺ヲ、縫ヒザマニゾ射切ッタル」

おんさくのかんむり (名) [御幘冠] 天皇ノ、大嘗祭、神嘗祭、神今食等ノ神事ニ召サルル御冠ノ稱。纓ヲ巾子ノ上ヨリ前ヘ引キコサシメ、末ヲ上ヘ折リカヘシ、其上ヲ、巾子ト共ニ、白絹(幘)ヲ以テ結ヒ奉ルナリ。

おむし (名) 「むしハ、みそノ轉カ」 味[illegible]

[illegible]毛(文化、一九)八編、上「[illegible]ニシテ、[illegible]デおむし[illegible]ラランスナラ、[illegible]テアロウイナ」

おんし (名) [御師] おし(御師)ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。 狂言記、[illegible]「コレハ伊勢ノ[illegible]デゴザル」

おんし (名) [恩師] 恩義アル師匠。

おんし (名) [恩賜] 聖恩ノ賜物。 [illegible]

おんし (名) [蔭子] おんゐ(蔭位)ノ條ヲ見ヨ。

おんじき (名) [飲食] 「字ノ呉音」 のみものト、くひものト。飲食。 宇津保物語、[illegible]

おんしん (名) [音信] [illegible] インシン。 李白[illegible]「不見[illegible]中人、[illegible]」

おんじん (名) [恩人] 恩アル人。我レニ恩ヲカケタル人。

おんしや (名) [恩赦] [illegible]、罪ヲ赦サルルコト。赦ノ條ヲ見ヨ。 [illegible]

おんしや (名) [illegible] [illegible]ニ同ジ。

おんしやう (名) [恩賞] [illegible]ハルコト。 [illegible] 吾妻鏡、十五、建久六年十二月十二日「功[illegible]」

おんじやう (名) [音聲] 人ノ聲。オンセイ。 平治物語、二、待賢門軍事「大音聲ヲ揚ケテ」

おんじやうがく (名) [音聲樂] [illegible]

がく(管絃樂)ヲ見ヨ。

おんしゃうぶぎゃう (名) [恩賞奉行] おんたくぶぎゃうノ條ヲ見ヨ。

おんしゃく (名) [恩借] 金錢、品物ヲ借サレタルヲ、恩アリトシテ云フ語。 庭訓往來、五月「几帳、翠簾、被レ恩借一者、以二人夫一可レ送-賜之」

おんしゅ (名) [隱首] 古ヘ、戸籍帳ニ逸シテアリシ人民ノ、自首スルコト。 考課令、義解「隱首、謂、無名之民、自來而首也」 續紀、三十六、寶龜十一年十月「伊勢國言、當土之民、俘二宕部内一、差科之日、徭夫數少、稍加二撿括一、多獲二隱首一」

おんじゅ (名) [飮酒] 「おんハ、飮ノ呉音ナリ、音、おん」 酒ヲ飮ムコト。佛敎、五戒ノ一ニ云フ。 四分律「飮酒有二十過失一」

オンス (名) [呏] (英語、Ounce.(呏ハ略字、oz.ノ草書) 英國秤目ノ名、磅ノ十六分ノ一。常量ナルハ、我ガ七匁五分、六〇。金量ニハ、八匁二分、九四。

おんせい (名) [音聲] 人ノ聲。オンジャウ。 宋玉、登徒子、好色賦「遵二溱洧一之郊、…」 … 周禮、司徒敎官、鼓人「掌レ敎二六鼓四金之音聲一」

おんぜう (名) [恩詔] (名目抄ニ、おんぜうトアリ、詔ノ字音ヲ濁ルヲ故實トス) メグミアル、ミコトノリ。 太神宮式「凡禰宜、內人、神部、祝部等、恩詔位記者、式部省依レ數送二於神祇官一」

〜おんぞ (名) [御衣] (ぞ(衣)ノ條ヲ見ヨ) 衣ノ敬稱。ミゾ。オメシモノ。 伊勢物語、八十五段「親王、イトイタウアハレガリタマヒテ、御衣脫ギテ賜ヘリケリ」 宇治拾遺、十三、第一條「イミジキ寶ノおんぞノ、綿ノイミジキ、賜ハラム」

おんそん (名) [蔭孫] おんゐ(蔭位)ノ條ヲ見ヨ。

✣おんだい (名) [御大] (御大將ノ略) 頭、親分ナドヲ稱スル俗語。

おんたう (名) [穩當] オダヤカニシテ、其ノ當ヲ得タルコト。 唐庚文錄「此波譯二聖澤一、波字未二穩當一」

おんたく (名) [恩澤] メグミノウルホヒ。恩惠。恩波。 史記、律書「恩澤加二海內一」 吾妻鏡、十五、建久六年十二月十二日「早存日之際、浴二恩澤一、欲レ省二數輩子孫一」

おんたくぶぎゃう (名) [恩澤奉行] 鎌倉幕府ニテ、將士ノ勳功、賞賜ノ事ヲ掌ルテ、恩賞奉行トナル。 吾妻鏡、三十、嘉禎元年九月十日「長尾三郎兵衞尉光景、雖レ致二度度勳功一、未レ預二恩賞一事、云云、匠二恩澤奉行後藤大夫判官基綱、賴執二申之一」 祇園執行日記、康永二年十月十八日「依二恩賞奉行事一、新曲錄顯之間、云云」 奉行。勳功奉行トモ云フ。室町幕府ニ

おんたけけう (名) [御嶽敎] みたけけうヲ見ヨ。

おんたけこう (名) [御嶽講] 木曾ノ御嶽山ノ神ノ信者ノ講中。富士講ノ如シ、山ノ高サ一萬九百十餘尺、近國崇仰ノ中心タリ、毎年夏、白衣ノ講中、陸續トシテ登リ詣ヅ、盛ンナル時ハ、一日千人ニ及ブ。

✣おんだす (動) おひだす(追出)ノ轉。

おんたらし (名) [御執] (おほんたらしノ約、みとらしノ條ヲ見ヨ) 弓ノ敬稱。御弓。 平家物語、十一、弓流事「タトヒ千疋萬疋ニカヘサセタマフベキ、御たらしナリトモ」(源[illegible]ノ御弓ヲ云フ) 江家次第、二、七日節會ニ「兵部省御弓奏」トアルハ、正月七日、白馬節會ノ日ニ、兵部省ヨリ御弓ヲ奉ル奏聞ノ詞アリ、內辨コレヲ受ケテ奏スルコトナリ。

おんち (名) [恩地] 功勞ニヨリテ、臣下ニ賜ハリタル土地。 揮塵後錄「言之而有、賞二恩地一」 吾妻鏡、三十四、仁治二年五月廿三日「以二御恩地一、不レ可二賣買一之由、治定訖」

おんちょう (名) [恩寵] メグミノアル寵愛。 後漢書、郭皇后紀「顯宗卽レ位、郭況與二帝舅一、陰識陰就、並爲特進、數授二賞賜一、恩寵俱遷」

おむつ (名) 濕布ノ、婦人語。シメシ。オシメ。

おんつう (名) [音通] 五十音圖ノ縱ノ行中ニテ、此音ノ、彼音ト通ジテ、變ズルコトト云フ。たわやめ、たをやめ。(手弱女)うばら、いばら。(茨)をれがむ、をろがむ。(拜)ほぞ、へそ(臍)ノ如シ。又、橫ノ段ノ中ニテ通ズルヲ、韻通ト云フ、あたり、わたり。(邊)はしる、わしる。(走)みな、にな。(蜷)ぬかお、むかお。(零餘子)うべ、むべ(宜)ノ如シ。二ツヲ統ベテ、通音トモ云フ。

おんてい (名) [音程] 二音間ニ於ケル高低ノ差。卽チ二ツノ樂音ノ振動數ノ比ヲ云フ。

おんてう (名) [音調] 音ノ調子。音ノ高低。

おんてん (名) [恩典] 恩惠ヲ受クル典。御恩拜領ノ表章。 韓琦、謝二徐使相二判相州一表「被二恩典之特優一、顧二人言一而甚愧」

おんでん (名) [恩田] 福田ノ條ヲ見ヨ。

おんでん (名) [隱田] カクシダ。官ニ知ラシメズ、地租ヲ免レ居ル田。 類聚三代

格、十七、承和十一年三月一日、太政官符「應レ申二隱田一并絕戸田一」 庭訓往來、三月「隱田之族、爲二罪科一、可レ被レ注二進交名一」

おんと (名) [音吐] 人ノコワネ。音聲。 南史、蕭懋林王傳「進退音吐、甚有二令譽一」「音吐朗」

おんど (名) [音頭] 數人ニテ歌フ時、調子ヲ揃ヘムガタメニ、一人、先ヅ聲ヲ發シテ拍子ヲ示スコト。コレヲ示スヲ、音頭を取ルト云フ。 總見記、十六、安土城御普請事「金ノ幣ヲ持テ、音頭ヲアゲ、木遣謡テ」 謡曲、百萬「アラ悪ノ念佛ノ拍子ヤ候、妾、音頭を取り候ベシ」

おんとく (名) [恩德] メグミ。イツクシミ。 漢書、高帝紀「施二恩德一、賜二民爵一」 謡曲、鸚鵡小町「鳥類、畜類モ、王威ノ恩德ノガレヌ身ゾ」

おんどく (名) [音讀] (一)漢字ヲ、音ニテ讀ムコト。(訓讀ニ對スル語、音ノ條ノ(三)ヲ併セ見ヨ) 江談抄、二、雜事「字說、敬行、云云、於二大師御名一、可レ奏二音讀一也、敬行ヲバ禁止志由岐トナム可レ奏、云云」 (二)音ヲ出シテ讀ムコト。(默讀ニ對ス)

おんどとり (名) [音頭取] (一)音頭ヲ取ル人。音頭ノ役ニ立ツ人。號頭 持統天皇歌軍法(享保、近松作)二「コリャおんど取りノヤウニ、コノ扇モ取リオケ」 (二)先ニ立チテ、物事ヲスル人。主唱者。

オンドル (名) [溫突] (字ノ朝鮮音) 朝鮮ニテ、室內ヲ暖ムル裝置ノモノ。 倭訓栞、こたつ「日知錄ニ、北人以二土爲レ牀、而空二其下一、以發レ火、謂二之土坑一、舊唐書、高麗傳、冬月皆作二長坑一、下然二熅火一、以取レ煖、此、卽、今之土坑ナリト見ユ」

おんな (名) [嫗] (おみなノ音便) おみなノ條ヲ見ヨ。

〜おんなかづら (名) [女葛] (一)[illegible]ノ義ニモアルカ、詳ナラズ」 川芎ノ古名。

[illegible]

おんなじ (副) 圓 [illegible] おなじノ音便、おな [illegible]

[おむのき] (名) [illegible] 見ヨ。

おんの字 (名) [御之字] [illegible] ナルおん(御)ヲ、名詞ニ用キタルモノ、[illegible] ハ、[御の字ナリ] [illegible]

おんば (名) [illegible] [おんばう語]

おんば (名) [illegible]

おんば (名) [illegible] 人ノ [illegible] ニ使スルコト。

おんば (名) [illegible] [illegible] ニ用キル [illegible]

おんばう (名) [隱坊] [illegible] 火スル [illegible]、[illegible] ノ [illegible] ニ、[illegible]、おんばう [illegible] テ、[illegible] [illegible]

おんばがさ (名) [illegible]

字ノ音ノコトナリ、[illegible] ノ條ヨ見ヨ。[illegible] 一、支選、[illegible] 二因リテ、[illegible] 二、[illegible]

[illegible]

おんばな (名) [illegible] 見ヨ。

おんばひがらかさ (名) [illegible] [illegible] 一九 [illegible]

おんびん (名) [音便] [illegible] 二就テモアルナリ、[illegible] ヲ、[illegible] 小児ノ天然ノ發聲ニモ、んノ聲ノ多キ [illegible] [illegible]

[illegible] 音ヲ變ヘテ云フ [illegible] 國シ、一語ノ中、[illegible] トナルモノ。[illegible] 略シテ、[illegible] [illegible] ハ、ひさしう。同じうす、おなじうす。[illegible] 略しくす、ひさしうす。[illegible] 一語ニ [illegible] 促音トテ [illegible] 引きて [illegible]、[illegible] 鼻聲ニ、ハ [illegible]

おんぶ (名) おぶさるこト ノ小兒語。

おんぶ (名) [illegible]

おんべ (名) [illegible] おまへ [illegible]

おんべい (名) [illegible]

おんべうもん (名) [illegible] 字、[illegible] 梵文字ノ如キ、是レナリ。[illegible]

おんみ (名) [illegible] 意、[illegible] ニ用キル。おみ。[illegible]

おんみつ (名) [隠密] (一) 隠シテ、密ニ [illegible]

オン・ムン [illegible] んもん(諺文) ノ條ヲ見ヨ。

おんめい (名) [illegible] アリガタキ仰セ。

おんもと (名) [illegible] 二同ジ。

[おんもの] (名) [illegible] つ、[illegible]

[おんものい] (名) [illegible] 條ヲ見ヨ。

おん-もん　(名)　[音問]　オトヅレ。タヨリ。陶潜詩「故人或違、音問其先」

おん-もん　(名)　[恩問]　前條ノ語ノ敬語。庭訓往來、二月「欲ニ自ニ是令ニ申候之處、遮而預ニ恩問二」

オン-モン　(名)　[諺文]〔諺文ゲンブンノ朝鮮音、正シクハ、うんむんナリ、廣韻「諺、俗言也」書經、無逸篇、傳「俚語曰ニ諺」尙書、序、疏「文、文字也」中華ノ漢字ニ對シテ、朝鮮俚語ノ字ト云フ義ナルベシ、服部南郭ノ唐詩選ヲ解釋シタル書ニ、唐詩諺解ト題セリ、四書ヲ、假名交リ文ニテ解キタル書ニ、俚諺解ト云フアリ〕朝鮮ノ文字。其字形、稍、片假名ニ似テ、母音字、子音字アリ、(初ハ、廿八字、今ハ滅ジテ、廿五字)綴合シテ、一音ヲ記スハ、梵字、洋字ノ如シ、我ガ假名交リ文ノ如ク、漢字ト交ヘテ用キルコトアリ、(別ニ、吏道リトト云フモノアルト、異ナリ)李朝ノ第四世ノ王、世宗ノ廿八年ニ、世宗、儒臣數人ト共ニ作レルモノナリト云フ。(今ヨリ、凡ソ、五百餘年前、我ガ後花園天皇、文安三年)

おん-やう　(名)　[陰陽]　(一)いんやう(陰陽)ノ(一)ニ同ジ。(二)次次條、及、おんやうだう(陰陽道)ノ略。文德實錄、五、仁壽三年五月「並諳ニ善陰陽推步之學」徒然草、百六十三段「太衝ノ太字、點ウツ、ウタズトイフ事、陰陽ノトモガラ、相論ノ事アリケリ」

おんやう-け　(名)　[陰陽家]　陰陽道ニ預カル家。漢書、藝文志「陰陽二十一家、三百六十九篇、陰陽家者流、蓋出ニ于羲和之官ニ」諸家家業記「陰陽道ハ、古來、賀茂、安倍、兩家之職掌ニ候、賀茂家ハ幸德井ト稱シ、地下之者ニ候、安倍家ハ、元祖安倍晴明ニ而、當時之土御門家、則、右晴明之末孫ニ候、中古ヨリ堂上ニ被ニ相成ニ候、乍ニ去、陰陽道之事、今以賀安兩家之職掌ニ相成居候、尤堂上地下之差別有ニ之、依而土御門家ハ陰陽頭ニ任ジ、幸德井ハ陰陽助ニ被ニ任候」

おんやう-じ　(名)　[陰陽師]　〔倭訓栞ニ「おんやうじ、假名ハ、和名抄ニ見エタリ、物類稱呼、一、人倫、をんみやうじ「をんやうヨミクセハおみやうじ也」トアリ、然レドモ、をんみやうじトヨム也」ト見ユ、此ノ訓ハおんみやうじト唱フ、萬葉マンエフヲ、まんにようト云フヲ故實トス、同類ナリ〕陰陽寮ニアル職員ニテ、占筮、相地等ノ事ヲナスモノ。令義解、職員「陰陽寮、云云、陰陽師六人、掌ニ占筮相ニ地(謂、占者、極ニ數知ニ來曰ニ占也、筮者、蓍曰ニ筮也、相者、視也)」天武紀、下、朱鳥元年六月「工匠、陰陽師、侍醫、大唐學生、云云、授ニ爵位ニ」宇津保物語、忠社ニ上「おんやうじ、カンナギヲ召シ集メ、セヌワサワザヲシ給ヘドモ、シルシナシ」

おんやう-だう　(名)　[陰陽道]　陰陽道ハ、支那ヨリ三韓ヲ經テ傳來セシモノニシテ、朝廷ニハ、夙ニ陰陽寮ヲ置キテ其法ヲ採用セリ。抑、陰陽ノ道タル、陰陽五行ノ說ニ本ヅキ、日月、支干ノ運ヲ考ヘ、相生、相剋ノ理ヲ推シ、吉凶ヲ定メ、趨避ヲ辨ズルモノニシテ、方位ニ忌アリ、日時ニ忌アリ、一身ニ忌アリ、衆人ニ忌アリ、一事ノ忌アリ、諸事ノ忌アリ、鬼門、金神、歲德、天一ノ如キ、一トシテ拘忌ニアラザルハナク、冠婚、喪祭ノ大ヨリ、洗髮、剪爪ノ末ニ至ルマデ、皆之レニ由ランコトヲ要セシナリ、而シテ之レヲ祈リ、之レヲ禳フニ、祭ヲ行フコトアリ、泰山府君祭、雷公祭、屬星祭ノ如キ、是レナリ、又、符呪アリ、之レヲ門ニ貼シ、又、之レヲ身ニ藏メテ、轉厄ニ備フ、又、禁厭アリ、卽チ、まじなひナリ、呪詛ハ、のろひト云ヒ、うけひト云ヒテ、禁厭ヲ以テ、人ヲ患苦ニ陷ラシムルモノナリ、反閇ヘンバイノ如キモ、禁厭ノ一ニシテ、亦災害ヲ避クル法ナリ、多クハ之レヲ出行ノ際ニ用キタリ、而シテ、身固ミカタメハ其略法ナリト云フ、以上ノ諸件ヲ、此ノ道ニテ執行スルモノトス。(古事類苑、方技部、一)榮花物語、八、初花「イミジウ御オカシコウオハスル餘リニ、陰陽道モ、醫師ノ方モ、ヨロヅニアサマシキマデ、足ラハセ給ヘリ」

おんやう-れう　(名)　[陰陽寮]　天文、曆數等ヲ掌ル所。ウラノツカサ。オンヤウノツカサ。令義解、職員「陰陽寮、助一人、掌ニ天文、曆數、風雲、氣色(謂、天文者、日月、五星、廿八宿也、曆數者、計ニ日月之度數ニ而造ニ曆授ニ時也、氣色者、風雲之氣色也、言、以ニ五雲之色ニ視ニ其吉凶ニ、候ニ十二風氣ニ知ニ其妖祥ニ其天文博士職掌、唯言ニ氣色ニ不ニ言ニ風雲ニ者、舉ニ氣色ニ則有ニ風雲ニ可ニ知也)有ニ異、密封奏聞事ニ」增鏡、第七、北野の雪「陰陽寮ノ守護神ノ社モ、マロビヌ」

おん-よう　(名)　[音容]　おゑト、かたちト。人ニ面會スルヲ、音容に接すナド云フ。元稹詩「定應ニ勞ニ夢寐ニ暫似ニ接ニ音容ニ」

お-むら　(名)　[鰯]　〔むらさきノ條ヲ見ヨ〕いわしノ、婦人語。五元集拾遺(其角)おむらトハイカニ「小いわしヤ、一口茄子、藤ノ門」

おん-らい　(名)　[恩賚]　〔說文「賚、賜也」〕ミタマノフユ。オメグミ。宋史、大食國傳「俟ニ其還ニ優加ニ恩賚ニ」三代實錄、十八、貞觀十二年八月五日「自ニ諸司六位官人ニ迄ニ諸衛府駕輿丁衛士ニ皆預ニ恩賚ニ焉」

おんり　(名)　下オりるヲ、小兒語。

おん-りつ　(名)　[音律]　音樂ノ調子。漢書、武帝紀、贊「協ニ音律ニ作ニ詩樂ニ」

オムレット　(名)　〔英語、Omelet.〕西洋料理ノ玉子燒。玉子ノきみ、しろみニ牛乳ヲ加ヘ、搔キマゼテ液ヲ作リ、別ニ肉類、玉葱ナド、細カニ刻ミテ、砂糖、鹽、胡椒ニテ味ヲツケテ具ヲ作リ、平鍋ヲ火ニカケ、ばたヲヒキ、液ヲ流シコミ、具ヲ載セ、燒ケタルヲ裏返シテ包ミ、又、燒キテ成ル。おむれつトモ異稱ス。

おむろ-がき　(名)　[御室柿]　柿ノ一種。京都ノ御室ノ地ニ多シ、大キサ二寸許ニシテ、稍、竪ニ長シ、熟スレバ、皮、黃ニシテ、白粉アリ。黃柿

おむろ-やき　(名)　[御室燒]　陶器ノ名。京都ノ御室、仁和寺門前ニテ、野野村仁淸セイ、燒キ始メタリ、仁淸燒トモ云フ、樂燒ノ類ナリ。初ハ、狩野探幽ナドノ下繪ニテ燒キタリト云フ。

おん-ゐ　(名)　[恩威]　恩惠ト、威光ト。「恩威兼ネ行ハル」

おん-ゐ　(名)　[蔭位]　〔父祖ノ蔭カゲニ因リテ賜ハル義〕往時、五位以上ノ者ノ子孫、二十一歲ニ至レバ、賜ハリシ位階。其父祖ノ位階ノ上下ニ從ヒテ、子孫、數級下ナル位ニ敍セラル、其子孫ヲ、蔭子オンシ、蔭孫オンソント云フ。續紀、七、靈龜元年九月庚辰「卽ニ位于大極殿ニ詔曰、云云、五位已上子孫、年二十已上者、宜ニ授ニ蔭位ニ」令義解、戶令「無ニ課口ニ者、爲ニ不課戶ニ(注)不課、謂ニ皇親、云云、并、蔭子ニ」令集解、十七、選敍令「延曆十九年四月十日、官奏云、云云、四位蔭孫、一同ニ五位ニ」

おん-ゐん　(名)　[音韻]　漢字ノ音、又ハ、韻。

[illegible]

おめあし (名) [illegible] 進マザル意カト云フ、或ハ云フ、重足ノ[illegible]ルル病。又、おひあし、おひ、おひ、おひずね。[illegible]（字鏡集「[illegible]、コエアシ、コヒ、オメアシ」[illegible]、おひずねト云フ、是也」（すねハ、臑ナリ）

おめいこう (名) [illegible] 御影供ニ、[illegible]日蓮宗ノ十月ノ會式ノ異稱。[illegible]おヲ匿ラセテ、祝リタル語[illegible]「ヤガテ十月十三日ニナルゾ、云云、程ナクおめいこうヂャトテ、寺ヨリ案内アル」

おめおめ (副) 臆面 〔怖め怖めノ義、おめおめ〕スル意 恥ラヒテ、卑怯ニ[illegible]フルマフ意ニ云フ語。[illegible]十八、[illegible]ト這ヒ起キテ」

おめがね (名) [illegible] (一) 眼鏡ノ敬語。(二) 鑑識ノ敬語。「おめがねニカナフ」

おめぐり (名) 御回 〔古ヘノ食盤ニハ、中央ニ大イナル飯椀ヲ置キ、數種ノ菜ヲ小器ニ盛リテ、椀ノ周圍ニ並ベタリ、因リテ、おめぐり、おまはりノ名アリ、菜、數數アレバ、おかずト云フ、何レモ、

あはせノ婦人語ナリ」あはせ(副食物)[illegible]云フ、常ニ、おまはりト云フハ、ワロシ」[illegible]「[illegible]ノ供御ハ、おめぐり七種、御汁二種ナリ」

おめぐり (名) 御繞 禁中ニテ、夏ノ土用中ニ供フル食物ノ名。團子ノ如キモノニテ、[illegible]モノト云フ。[illegible]供御所ヨリ參ル、團子ヤウノモノナリト云ヘリ」年中[illegible]（貞丈雜記、六）

おめし (名) 御召 (一) 召ノ敬語。御呼寄セ。[illegible] (二) 所用ノ敬語。御用。[illegible] (三) 次次條ノ語ノ略。御服。(四) 次條ノ語ノ略。

おめしちりめん (名) 御召縮緬 〔公方御召ノ料ノ義〕 縮緬ノ、上等ノ製ナルモノノ稱。京都ニテ、せば。

おめしもの (名) 御召物 御服 おんぞ（御衣）ニ同ジ。

おめでたう (副) 御目出度 〔ありがたう、おはやう、同趣ナリ〕おめでたくござりますノ音便略。人ノ、祝事ニ出會ヒタル時ニ挨拶スル語。今ハ、名詞トシテ、一種ノ菓子ヲ云フ。祝祝

おめみかかる・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 懸御目 (一) 認メラレマヰラス。オメニトマル。曾我物語、一、同じく相撲の事「股野ハ、[illegible]」(二) ニ會ヒ奉ル。謁 狂言記、磁石「明日、御目みかかうウ」

おめみかける・ケル・ケレ・ケ・ケ・ケヨ (他動、下二) 懸御目 見セ奉ル。狂言記、こんくゎい「[illegible]ヲ、チット見タイノ[illegible]おめみかけマセセウ」

おめみとまる・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 留御目 認メラレマヰラス。前前條ノ(一)ヲ見ヨ。

おめみえ (名) 御目見 (一) めみえノ敬語。[illegible]コト。[illegible] (二) 德川將軍ノ時ニ、特ニ、臣下ノ、將軍ニ謁見スルコトヲ得ルコトノ稱。コレヲ、役目、家格、ノ上ノ階級トナリテ、御目見以上ト云ヒ、[illegible]ト云フザル如ク、御目見以下ト云フハ、判任ノ如シ、略シテ、以上、以下トノミモ云ヒテ、御旗本ト御家人ノ分段トス。又、大名ノ家來ナドニ、特ニ學問、藝術ニ長ケタル者ノ、召サレテ謁見ニ入ルコトアリ、名譽ナルコトトシテ、其道ノ[illegible]トス、御目見醫者ナド云ヘル、是レナリ。[illegible]

おめむし (名) [illegible] 怖蟲ノ義、席ヲ走ル時、席ヲ叩ケバ、怖めテ止マル、故ニ名アリ」わらぢむしノ古名。轉ジテ、えめむし。京都ニテハ今モ、おめむしト云フ。字鏡「[illegible]」[illegible]

おめもじ (名) 御目文字 おめみかかるノ婦人語。[illegible]トハ何ナラン、おめもじサマニトユフ顏ノ」

おめらかす・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) 〔次條ノ語ノ他動、おざる、おざらかす。すべる、すべらかす〕 退ルヤウニス。五衣ナド重ヌルニ、上ニ重ナル衣ドモノ、襟、[illegible]

おめる・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 怯 「怖むるノ名詞形ノ、おめヲ活用セサセタル語ナリ[illegible]（前條ヲ見ヨ）

おも (名) 母 〔おもト云ヒ、あもト云フ、共ニ、形容詞うまし、(旨)あまし(甘)ノ語根ニテ、(乳)おはぎ。襁衣、ありぎぬ。絡る、もとほる)乳ノ味ニ就キテ云フ語ナリ、[illegible]乳ヲ飲マシメ子ヲ[illegible]乳ヲ、[illegible]ト云ヒ、更ニ約メテ、乳母ヲ、[illegible]ト云フ、同ハ、百濟語ニモ、おも、今ノ朝鮮語、おまに、沖繩ニテ、あんまあ、翻譯名義集、二、[illegible]母。(東詞ニ)カカサマ。但シ、おもハ、親母ニモアレ、乳母ニモアレ、乳ヲ飲ムニ就キテ呼ブ語ナリト云フ、[illegible]兒ノ、(三)コソ乳母ハ、求ムト云へ、乳飲メ(バ)ヤ[illegible]

おも (名) 面 〔思ト通ズ、おもふノ條ヲ見ヨ〕(一) [illegible]貌。萬葉集、十八ニ十一 長歌「逢ハシタル、今日ヲ始メテ[illegible]」(二)上。

ウハベ。ウハツラ。オモテ。古今集、十八、雜、下「水ノおもニ、生フル五月ノ、浮草ノ」「庭ノおも」「海ノおも」

おも (名) |主重| 〔重き義カ〕 (一)宗トアルコト。オモダチタルコト。專ラナルコト。「おもナル人人」一年中、讀書ガおもナリ」 (二)能ノ狂言ノ、仕手。

おもいれ (名) |思入| 〔おもひいれノ約〕 思ヒ入ルルコト。考ヘコムコト。(俳優ノ表情ナドニ云フ)

おもいれ (副) |思入| 思フ存分ニ。オモフサマ。東海道中膝栗毛(享和、一九)四編、上「おもいれ見倒シテヤラウヂャアネエカ」「おもいれ叱リツケテヤル」

おもうさま (名) |御父樣| 〔寢殿ニ住ミタマフニ因ル名ナリ、母上ヲ、おたあさまトハ、對屋ニ住ミタマフニ因ル〕 禁中、宮家以上ニテ、父上ノ御尊稱。音便ニ、おもんさま。又、母上ヲおたあさま、おたたさまト仰セラル。(ごゑさまノ條ヲ併セ見ヨ)

おもおも・し・シキ・シケレ・シク・シク (形、二) |重重| (一)〔沈着キテ、威アリ。(輕輕しノ反) 威嚴 源、八、花宴三十「おもおもしうハアラネド、押シナベテノ若人ドモニハアラズ」同 四十九、東屋二十「御心ハタ、イミジウ警策ニ、おもおもしくナムオハシマスメル」 (二)モテナシ、嚴ナリ。鄭重

おもがい (名) |羈| 〔面繫ノ音便〕 馬具ノ名。おしかけノ條ノ(二)ヲ見ヨ。字類抄「羈、オモガイ」

おもがき (名) |面繫| 前條ニ同ジ。字鏡集「羈、オモガキ、ムナガキ」

おもがくし (名) |面隱| (一)〔恥ヂテ、正面ニ向ヒカヌルコト。萬葉集、十二、九「タマカツマ、逢ハムト云フハ、誰レナルカ、逢ヘル時サヘ、面隱スル」 源、二、帚木三十六「サスガニ御文ヲ、おもがくしニヒロゲタリ」 (二)表面ヲ隱スコト。 定頼集「モミヂ葉ノ、散リツム時ゾ、打チハヘテ、拂ハヌ庭ノ、おもがくしナル」(怠リヲ隱スニテ、恥ヅル心アリ)

おもかげ (名) |面影| (一)〔物ノ姿ノ、アリアリト、我ガ目ニ映リテ見ユルコト。萬葉集、四、三十二「タサレバ、物思ヒマサル、見シ人ノ、言問フ容儀、面景ニシテ」同、十一、廿六「燈火ノ、陰ニ燿フ、ウツセミノ、妹ガ笑ヒシ、面影ニ見ユ」 後撰集、三、春、下「イツノマニ、散リハテヌラム、櫻花、おもかげニノミ、色ヲ見セツツ」源、四、夕顔廿九「夢ニ見エツル形シタル女、おもかげニ見エテ、フト消エ失セヌ」 (二)顏ノ容。オモザシ。カホツキ。面容

おもか・し (形) |欣感| おむかしニ同ジ。其條ヲ見ヨ。

おもがた (名) |面形| カホカタチ。カホツキ。オモザシ。顏容 萬葉集、十一、廿「面形ノ、忘ルトナラバ、アヂキナク、男子ジ物ヤ、戀ヒツツ居ラム」

おもかぢ (名) |面舵| (一)船ノ舳ヲ、右ヘ向ケムトスル時ノ、舵ノ取リヤウノ稱。父舵 又、左ヘ向ケムトスル時ナルヲ、取舵ト云フ。母舵 太平記、十六、兵庫海陸寄手事「取梶、面梶ニ、搖楯搖イテ」 (二)轉ジテ、右ノ舷ノ稱。右舷 左ノ舷ヲモ、亦、とりかぢト云フ。左舷

おもがはり (名) |面變| 齡ニテ、面差ノ變ハルコト。變相 後拾遺集、十、哀傷「契リアリテ、此世ニマタモ、生マルトモ、おもがはりシテ、身モヤ忘レム」 おもがはりせずトハ、無事息災ナリトノ意。人ノ會見ノ挨拶ニ、おかはりなくて、新年ニ、あひかはらずナド云フ、此ノ語ノ遺ナリ。孝德紀、元年七月「汝佐平等(百濟ノ使)不易面來」 萬葉集、十二、四十二「早歸リマセ、面變セズ」 續後紀、五、承和三年五月、宣命「今日ノゴト變顏容セズ、早還リ參來」

おもぎらひ (名) |面嫌| 小兒ノ、見知ラヌ人ノ面ヲ見ルヲ嫌フコト。ヒトミシリ。宇津保物語、國譲、上六十一「犬宮ハ、父大殿ノ抱キアリキ、ヲカシキ物取ラセナラハシタマヘレバ、男ヲバ怖ヂズ、おもぎらひヲモセズ」 源、三十四、上、若菜、上四十八「タダ乳兒ノ、おもぎらひセヌ心地シテ、心ヤスク、美シキ狀シタマヘリ」

おもくる・し・シキ・シケレ・シク・シク (形、二) |重苦| 甚シク、重重シ。人ノ辯舌ナドニ云フ。

おもくろ・い (形) |面黑| 〔白しヲ、黑シト、反シテ言フ戲言ナリ〕 面白しニ同ジ。卜養狂歌集(寛文)下「見タヨ見タヨ、アラ見タヨ見タ、鷺鴉、おもしろいソノ、おもくろいソノ」 林元ノ句「雪ノ歌ヤ、見テ面黑き、筆ノ跡」(嬉遊笑覽、附錄)

おもざし (名) |面差| 〔さしハ、狀ノ意、息ざし、芽ざし〕 オモワ。カホバセ。カホツキ。面容 吉野都女楠(正德、近松作)三「見レバおもざし、顏ノカカリ」

おもし (名) |重| 〔終止形ヲ名詞ニ用キルモノ、名詞ノいさをしノ語原ヲ見ヨ〕 (一)物ニ戴セテ、押シ鎭ムルニ用キル物。壓ニスル物。オシ。江家次第、八、仁壽殿東庭相撲「敷二毯代一置二鎭子一」「澀庵漬ノ壓石」 (二)〔秤ノおもり。錘 倭名抄、十四十二稱量具「錘、謂二之權一、波加利乃於毛之」 (三)〔人ヲ制シ鎭ムル威力。威壓 源、三十四、下、若菜、下七「大將モ、サル世ノおもしトナリ給フベキ、シタカタナレバ」

おも・し・キ・ケレ・ク・ク (形、一) |重| 〔秤ノ於毛之トアレバ、於ノ假名遣ナリ、前條ノ(二)ヲ見ヨ〕 (一)〔量、多シ。オモタシ。壓、强シ。(輕しニ對ス) 萬葉集、五三十七「益モ、重き馬荷ニ、表荷打ツト云フ、コトノゴト」 (二)〔肝要ナリ。貴シ。高シ。 宇津保物語、嵯峨院四十七「世ニおもく思ハレ、人ニ許サレタル學士」「事、重し」「位、重し」「身分、重し」 (三)〔甚シ。大イナリ。 雄略紀、廿三年八月「疾彌甚、與二百寮一辭訣、握レ手歔欷」 竹取物語「風イト重き人ニテ」「罪、重し」 (四)浮キ立タズ。沈メリ。悒鬱 「氣分、重し」

おもしろ・し・キ・ケレ・ク・ク (形、二) |可怜| 〔思著しノ轉ニテ、(とほしろしト云フ語モ、遠著しナリ、いちしろし、いちしるし)心ノ、淸カニ、切ニ感ズル意ナラム〕 愛ヅベシ。懷シク、慕シ。 齊明紀、四年十月、紀國行幸ノ大御歌「山越エテ、海渡ルトモ、(珍シキ山海ヲ御覽ズトモ)於母之樓枳、今城ノ内ハ、忘ラユマジニ」(大和ノ今城ナル、八歲薨去皇子ノ御墓所) 萬葉集、一、七長歌「怜怜國ゾ、蜻島、大倭ノ國ハ」 同、四五十三「カク何怜、縫ヘル嚢ハ」 字鏡廿一「怜、於毛志呂志」

おもしろ・し・キ・ケレ・ク・ク (形、二) |面白| 〔前條ノ語意、一轉シテ、心ヲ寄スベキ意トナレルナリ、常ニ、古語拾遺ニ據リテ、面白ノ字ヲ慣用スルナレド、其書中ノ上天初晴、衆倶相見、面皆明白ノ説ハ、附會ナリ〕 (一)〔興味アリテ、心、樂シムベシ。可樂 萬葉集、十四、四十九「於毛思路伎、野ヲバ莫燒キソ、古草ニ、新草マジリ、生ヒハ生フルガニ」 字鏡廿「心樂、於毛志呂志」 源、一、桐壺八「月ノおもしろきニ、夜深クルマデ、管絃ヲゾシタマフナル」 (二)ミヤビタリ。風流ナリ。雅致 宇津保物語、國讓、上二十二「三條殿ハ、イトおもしろく、淸ラニ造リナサレタレバ」 源、一、桐壺二十二「里ノ殿、云云、モトノ木立、山ノタタズマヒ、おもしろき所ナリ」 遊仙窟「風流」 名義抄、水部「風流、オモシロシ」

おもだか (名) [澤瀉] [面高ノ義、葉面ノ紋脈、隆起ス] 草ノ名、又、ナマキ。池[illegible]テ、但、瘦セテ小サシ、夏、莖ヲ出シ、二三枝ヲ分チテ、三瓣ノ白花ヲ開ク、根、狹小ニシテ、食フニ堪ヘズ、植エテ花ヲ賞ス。一名、はなぐわゐ。野慈姑 [illegible] おもだかアリ、其條ヲ見ヨ。

おもだかをどし (名) [澤瀉威] [illegible]かノ葉ノ形ナリ [illegible] 尖リ下廣ク [illegible] 威シタルモノ [illegible] かおもだかト云フ。[illegible]

おもた・し・キ・ケレ・ク・ク (形、二) [重] [重甚] [illegible] ルカモ」 おもし(形、一)ノ(一)ニ同ジ。枕草子、三、廿八段「几帳ニ打チカケタル衫ノ、おもたゲニ鼻シウ、キラキラシカラムモ」

おもだた・し・シキ・シケレ・シク・シク (形、二) [面立] [面立しノ轉(轉、うたた)ニテ、おもておこしナド同意ノ語ナルカ、[illegible]ハ、面立つノ未然形ノ、おもだたヲ活用セサセタル語カ、うらやむ、うらやまし、[illegible] し、おもなし、おもぶせノ反) 光榮 [illegible] しく侍ルベキ」 源、廿二、[illegible]

おもだち (名) [面立] [illegible] 車「サスガ見顯レシ、おもだちヲ」

おもだ・つ・ツ・テ・タ・チ・テ (自動、四) [重立] [illegible] ナシラダツ。主トナル。「おもだつ人」

おもづら [illegible]

おもて (名) [面] [illegible] ノ、うしろでトナルト同ジ」 (一)[illegible]オモ。オホ [illegible] ラ。面體。[illegible] 「於羅提毛知ラズ、家モ知ラズモヤ」 萬葉集、五ノ長 [illegible] ノ上ニ、イザクユカ [illegible] (二)[面目。面皮 [illegible] (三)其物ノ表面ニ書キタル文。文面。「手紙ノおもて」[illegible] おもて」(四)おもてがたノ略。其條ヲ見ヨ。假面。面も振らずトハ、傍視セズ。[illegible] 「面もふらず切テ懸リシカバ」 面を起すトハ、(一)仰グ。アフムク。(二)[面目ヲ施 [illegible] てをもおこすニハアラズヤ」 面を伏すトハ、(一)ウツムク。(二)[面目ヲ失フ。[illegible] ハヅカシムルタグヒ」

おもて (名) [表] [面ノ義] (一)物事ノ、外ニ現ナルトコロ。ソトツラ。ソトガハ。表面。外部。(裏ニ對ス) [illegible] ユルナリケリ」 (二)城、屋敷、家ナドノ、前ノ方 (後ニ對ス) [illegible] (三)德川幕府、又ハ、大名ナドニテ、政廳ノ稱。上ハ老中、家老ヨリ、下級ノ屬吏ニ至ルマデヲ云フ。嚮向、大奧ニ對スル稱ナリ。「[illegible]

八[illegible](四)向ク方。メザス [illegible] ケル」「關表」大阪表」長崎表」 (五)オホヤケ。(私ニ對ス) 「表沙汰」表向キ」 (六)たたみおもてノ略。[illegible] ヲカユル (七)雪駄、駒下駄ナドノ、表面ニ附ク、竹ノ皮、藺ナド、極メテ細ソク割リテ編ミタルモノ。

おもで (名) [重手] 鬪ヒニ、深ク受ケタル創。深手。痛手。[illegible] ヨリ打チケル鐵砲ニテ、村上與右衛門、重手ヲ負ヒ」(天安名目鈔)

おもて-おこし (名) [面起] 面ヲ起スコト。(面ノ條ヲ見ヨ)面目ヲ立ツルコト。(面伏ノ反) 源、三十八、夕霧 [illegible]「アダナル名ヲ取[illegible]」

おもて-おもて (名) [面面] オノレ、オノレ。字ヲ音讀シテ、面面。六帖、二、[illegible] ドモ、露霜ケル、白菊ノ花」(をせわたニ云フナリ)

おもて-がた (名) [面形] 人、又ハ、動物ノ面ノ像ヲ、木ニ離リ作リタルモノ。舞人ノ、被リテ、演戲スルモノナリ。略シテ、おもて。又、メン。假面 今昔物語、廿八、三 [illegible] 知ルト思ケレバ、面形ヲシ作ラ、云云」 狂言記、[illegible] 「コレニ、[illegible]ノおもてヲゴザルホトニ、[illegible]テオキマセウ」

おもて-ぐち (名) [表口] (一)前ノ出入口。(裏口ニ對ス) (二)[間口。[illegible]

おもて-ぐみ (名) [表組] [illegible]ノ條ヲ見ヨ。

おもて-こしやう (名) [表小姓] 小姓ノ、表

方(政治ヲ執ル方)ニ勤務スルモノ、(奧小姓ニ對ス)

おもて-ごてん (名) [表御殿] せいでん [illegible]

おもて-ざし [illegible] シオクナリ。(うらざしノ小柄ニ對ス、[illegible]

おもて-ざた (名) [表沙汰] 表向ノ沙汰。[illegible] 事件。

おもて-だいみやう (名) [表大名] 外樣大名ニ同ジ。 [illegible] 三、所所火之番衆 [illegible]

おもて-だ・つ・ツ・テ・タ・チ・テ (自動、四) [表立] [illegible] ダッテ決着ニナサレ」

おもて-だな (名) [表店] (うらだなニ對ス) 人家ノ、表通ニ建テタルモノ。

おもて-づかひ (名) [表使] 江戶城中、大[illegible]

おもて-にほん (名) [表日本] 我ガ國中、凡ソ中央ノ大山脈ヲ境トシテ、太平洋ニ向ヒタル地方ノ稱。[illegible] 本海ニ向ヒタル地方ヲ、裏日本ト云フ。

おもて-ぶせ (名) [面伏] 面ヲ伏スルコト。[illegible] 「親ノ御おもてぶせニテ、我ガ身ハイトドイミジク

ナラムコトト、歎キハベリシカバ」源、二、帚木、十八「疎キ人ニ見エバ、おもてぶせニヤ思ハレムト、憚リ恥ヂテ」

おもて-まち (名) 表町 〔うらまちニ對ス〕表通ニアル町。

おもて-むき (名) 表向 表ダチタル方。オホヤケナルコト。世間ニアラハナルコト。公然 豹文記(永祿)「小御衣(小癭卷)ニハ、大略、織物ヲ用候、おもてむきヘ出デ候ハヌ故、平人モ此分ニテ候」(嬉遊笑覧、二)

おもて-もん (名) 表門 屋敷ノ、前面ノ門。(裏門ニ對ス) 前門 正門 明良洪範、三「清正、云云、表門ノ屋根上ニ、金ニテ、シャチホコノ如ク、虎ヲ造リテ上置ケル」

おもて-りう (名) 表流 茶道ノ一派、せんげりうノ條ヲ見ヨ。

おもて・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 面照 (一)光、顏ニ映ル。 蜻蛉日記、下、下、三十「サミダレヤ、小暗キ宿ノ、夕サレバ、おもてるマデモ、照ラス螢カ」 (二)赤面ス。 天治字鏡、二、六「赤面、慚也、於毛弖留」

おもと (名) 萬年靑 〔豐前ノ宇佐神宮ノ東五十町、御許山ニ良種ヲ產ス、因リテ名トスト云フ、和漢三才圖會、九十五、毒草類ニ「萬年靑、豐前中津之產、良」トアリ、沖繩ニテ、うむとト云フ〕 草ノ名。陰陽ノ地ノ石間ニ生ズ、葉ハ、根ヨリ叢生シ、たうもろこしノ葉ニ似テ、小サク厚ク勁ク、深綠ニシテ、四時凋マズ、夏、根ノ傍ニ、寸許ノ莖ヲ出シ、花房ヲ生ジ、入梅前ニ開ク、單瓣、黃白色ナリ、子、熟スレバ赤ク、纍纍トシテ集リツク、ゆすらうめノ如シ。此草、天保ノ末年ヨリ、盆玩トシテ行ハレ、其變生ノモノハ、葉、花、實ノ形、色、等、種類甚ダ多クナレリ。おほおもとト云フハ、葉、長サ尺餘ナリ。さおもとト云フニハ、寸許ナルアリ。

おもと (名) 御許 (一)座所ノ敬稱。オホモト。御側。 皇極紀、四年六月「轉三就御座一、叩頭曰」 孝德紀、五年三月「當レ陳三天皇之所二」 (二)おもとびとノ(二)ノ略、其條ヲ見ヨ。

おもと (代) 御許 對稱ノ代名詞。親シミテ云フ。 宇津保物語、俊蔭、四十「何シニ此山ニハアルゾト問ヘバ、魚釣リニ來ツルゾ、おもとニ食ハセ奉ラムトテ、ト云ヘバ」

おも-とじ (名) 母刀自 母上。母ト、刀自トノ條ヲ見ヨ。 宇津保物語、梅花笠、三十「前生ノ罪業オモク、ホロボサン、カノおもとじヲモ、人チカハントテ、マタクヲタチテ」

おもと-びと (名) 御許人 (一)至尊ノ御許ニ仕ヘ奉ル人。サブラヒビト。オソバヅカヘ。男女共ニ云フ。侍者 侍女 三代實錄、十七、貞觀十二年三月三十日「從者」 拾芥抄、中「侍從」 長恨歌、古訓「侍兒」 宇津保物語、藏開、上、四十五「御帳ノ内ニハ、ヤンゴトナキ上﨟ノおもと人ナド、サブラフ」 (二)女官ノ御許人ヲ略シテ、おもとトノミ云フ。 源、四、夕顏、四十「タダ我レドチト知ラセテ、物ナド云フ若キおもとノ侍ルヲ」 又、其名ノ下ニ添ヘテ稱ス。 源、三、空蟬、十「又オハスルハ誰ソト問フ、民部ノおもとナメリ」 同、五十一、蜻蛉、五十二「辨ノおもとト・テ、馴レタル老女」 字類抄「御許、オモト、女名也」

おもとびと-まちぎみ (名) 侍從 〔おもとびとハ、御許人ナリ、まちぎみハ、まへつぎみノ條ヲ見ヨ〕 侍從ノ舊稱。 倭名抄、五、四中務省「侍從、於毛止比止萬知岐美」 天武紀、下、朱鳥元年二月「侍臣」 拾芥抄、中「侍從」

おも-な (名) 面無 次次條ノ語根ヨリ轉來シタル語。 源、七、紅葉賀、廿九「おもなノ狀ヤ」 同、廿二、玉鬘、三十九「おもなノ人ヤ」

おも-なが (名) 面長 顏ノ、稍長キコト。

おも-な・し・キ・ケレ・ク・ク (形、二) 面無 (一)他ニ向フベキ面無シ。オモハユシ。ハヅカシ。面目ナシ。 靦然 中務集「心シテ、アラマシモノヲ、夢ニテモ、イカデおもなく、見エワタラム」 (二)恥ヅルサマ無シ。厚カマシ。 竹取物語「おもなきコトヲバ、恥ヲ棄ツトハ云ヒケル」

おも-な・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ (自動、下二) 面馴 見馴ル。常トナル。 金葉集、四、冬「朝毎ノ、鏡ノ影ニ、おもなれテ、雪見ム年モ、イソガレヌカナ」 新後撰集、十一、戀、一「憂キ身ニハ、絕エヌ歎キニ、おもなれテ、物ヤ思フト、問フ人モナシ」

おも-に (名) 重荷 量ノ重キ荷。擔フニ堪ヘ難キモノ。 重擔 重任 古今集、十九、誹諧「人戀フル、事ヲおもにト、擔ヒモテ、あふごナキコソ、ワビシカリケレ」 後撰集、十六、雜、二「數ナラヌ、身ヲおもにニテ、吉野山、高キナゲキヲ、思ヒコリヌル」

おも-ね (副) 重 專ラ。一方ニカタヨリテ。「一年中ヲ、おもね旅デ暮ラス」

おも-にく・し・キ・ケレ・ク・ク (形、二) 面憎 ツラニクシ。 紫式部日記「ナドカ、必ズシモ、おもにくく引キ入レタラムガ、賢カラム」

おもね・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 佞 阿容 〔おもへり(顏色)ノ轉ニテ、令色、阿容ノ意ナラムカ〕 他ノ意ニ靡キテ媚ブ。ヘツラフ。追從ス。 靈異記、中、第廿五緣「諂、於母禰利弖」 神代紀、下、二「佞媚」

おもの (名) 御飯 〔大御食物ノ略ナルベシ、假名遣ハ、おナリ、仁德紀、四年三月、「三年課役免除ノ詔「溫飯、煖羹、不二酸餒一、不レ易」玄蕃寮式「大食」〕 (一)主上ノ御食物。大御食。供御。專ラ、飯ニ就キテ申ス。(稀ニ、武烈紀ニ鹽、神功紀ニ粟ヲ、おものト見ユ) 神ニ供フルニモ云フ。 神武紀、十「天皇嘗二其嚴瓮之粮一、勒レ兵而出」 源、一、桐壺、九「大床子ノおもの」 内匠寮式「御飯筥」 四時祭式「御膳」 (二)飯ヲ、丁寧ニ云フ語。御飯。 三代實錄、四十五、元慶八年二月「老人爾賜ニ御物二」 祭主輔親卿集「手マサグリニ、おものヲマロガシテ、鷄ノ卵ノ形ヲシテ」 枕草子、十二、百五十六段「あはせもの(飯ノ菜)ヲ皆食ヒツレバ、おものハ不用ナメリト見ルホドニ」 和泉式部續集「赤小豆ノおもの」 宇治拾遺、二、第一條「白米十石ヲ、おものニシテ」

おもの (名) 御物 〔御縫物ノ略カ〕 (一)衣服ナド、裁縫ヲ職トスル者ヲ、御物師ト云フ。 (二)室町將軍ノ裝束ノ事ヲ扱フ者ニ、御物奉行ト云フアリキ。

おもの-け (名) 御飯笥 御飯ヲ盛ル器。 内匠寮式「御飯笥、一合、徑六寸、深一寸七分」

おもの-し (名) 御物師 縫物師。前條ノ(一)ヲ見ヨ。 好色一代女(貞享、西鶴)四「手ノ利キケレバ、おものしノ勤メヲセシニ」 倭訓栞、おものし「御物師ト書ケリ、禁裡ニモ呼ベリ、縫物師ナリ」 天明ノ川柳「御物師ヲ、ヒョットお針ト、妾イヒ」(妾ハ、吉原ノ遊女揚リ)

おもの-だな (名) 御膳棚 〔おもの(御飯)ノ條ヲ見ヨ〕 禁中ニテ、御膳ヲ載セオク棚ノ稱。 枕草子、三、廿八段「御厨子所ノおものだな」 禁祕御抄「御膳棚」

おもの-びつ (名) 御膳櫃 御膳ヲ納ルル櫃。 内匠寮式「御膳櫃」

おもの-ぶぎゃう (名) 御物奉行 おもの(御物)ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。 蜷川親元日記、寬正六年正月二日庚戌「御成始、云云、御物奉行、蜷川彥右衞門尉」

おものやどり (名) [illegible] (おもの[illegible]) 紫宸殿ノ西廂ニアリ、[illegible]

おもはく (名) 思慮 [いはく(曰)ノ語原ヲ見ヨ] 思フコト。思フヤウ。ミコミ。[illegible]、久シク[illegible]モ、各ヲカシウ見ユルヲ」

おもは・し・シキ・シケレ・シク・シク (形、二) 思 [思ふノ未然形ノ、おもはヲ活用セシム、厭ふ、いとはし] 思フベクアリ。好シト思ハル。オモホシ。枕草子、三、廿八段「女ハタダ、ロツキ愛敬ヅキ、云云、實ニクカラザ[illegible]ム人ナム、おもはしかルベキ」

おもは・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) 思 [思ふノ敬語、狂ふ、[illegible]、忘る、わすらはす] 思ヒタマフ。オモホス。思シ召ス。萬葉集、三、長歌[illegible]「[illegible]伊[illegible]ニオタシテ、[illegible]云云」天武天皇ノ御事ナリ)

おもはせぶり (名) 令思振 人ヲシテ、我ガ意中ヲ思ハシムル素振。(おもひぶり)ニ[illegible]

おもは・ゆ・ユル・ユレ・エ・エ・エヨ (他動、下二) [おもはゆ(思)] ノ條ヲ見ヨ」 次次條ニ同ジ。[illegible]

おもは・ゆ・し・キ・ケレ・ク・ク (形、一) 面映 [面映し、同意、おもはゆし、ト云フ語モ、[illegible]映しノ約ナリ] オモナシ。面伏ナリ。恥カハシ。マガワルイ。(おもだたしノ反) 靦然 [illegible]、オモハユシ、オモテホテ

おもは・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ (他動、下二) [illegible] オモホユ。[illegible]

おもひ (名) 思 (一)オモフコト。カンガヘ。思案。[illegible]、イカニセン」「思ひヲ遂ブ」 (二)ネガヒ。ノゾミ。希望。源、四十四、[illegible]「[illegible]カシナマシキ[illegible]リニテ、[illegible]ル思ひニ適ハヌ方モアレド、如何ハセム」「思ひガカナフ」 (三)戀フルコト。戀慕。伊勢物語、四十段「昔、若キ男、ケシウ、アラヌ女ヲ思ヒケリ、云云、サル間ニ、おもひハイヤマサリニマサル」「思ひヲカケル」 (四)憂へ。心配。源、四十三、竹川三十「限リナキ御思ひノミ、日月ニソヘテマサル」「思ひニ沈ム」

おもひ (名) 喪 [ものおもひノ略] 喪ニ籠ルコト。 綏靖即位前紀「諒闇」私記「美毛乃於毛比」古今集、十六、哀傷「父ガおもひニテ[illegible]メル」おもひニ侍リケル年ノ秋、山寺へマカリケル道ニテ」妻ノ親ノおもひニテ、山寺ニ侍リケルヲ」

おもひ (名) 御水 もひ(水)ノ敬語。其條ヲ見ヨ。 赤染衛門集「小舟ニ、ヲノコ二人バカリ乗テ、[illegible]ルフ、何[illegible]ルゾト問ヘバ、ヒヤカナルおもひ汲ミニ、沖へマガルゾト云フ」

おもひ・あか・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) 思明 思ヒツツ、夜ヲ明カス。 源、四十六、總角二十「終夜、おもひあかしタマヒテ」

おもひ・あが・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 思上 思ヒ驕ル。我レダケク思フ。タカブル。自負 [illegible]、中「イトイタウ人ハ[illegible]シケレド、おもひあがりテ、男ナドモセデナムアリケル」

おもひ・あた・る・ル・レ・ラ・リ・レ (他動、四) 思當 思ヒテ得。思ヒ寄ル。考ヘツク。思得 [illegible]、い文字ニ一ツニツ云ウテ[illegible]マセウ、おも

ひあたッタラ、宮ヘサッシャレイ」

おもひ・あは・す・ス・[illegible] (他動、下二) 思合 彼レト此レト比ベテ、思ヒ[illegible]ツク。源、[illegible]リシカト、思ひあはする二」

おもひ・あま・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 思餘 物ヲ思ヒテ、[illegible]キズ。伊勢物語、[illegible]六段「臥シテ思ヒ、起キテ思ヒ、おもひあまりテ」源、二、帚木二十「心一ツニおもひあまる事ナド、多カルヲ」

おもひ・い・づ・ヅル・ヅレ・デ・デ・デヨ (他動、下二) 思出 [illegible]テアリシ事ヲ、マタ思フ。オモヒダス。想起 源、一、[illegible]「上ノ[illegible]アリサマナド、おもひいでて聞ユレバ」

おもひいで (名) 思出 オモヒイヅルコト。オモヒデ。念ノ殘リ。 狭衣、四、上三十「出家ヲシテモ、此世ニコソおもひいでナカラメ、佛ニナラムコト、思ヘバ易ク侍ルカシ」

おもひいでわらひ (名) 思出笑 オモヒダシワラヒ。 源、二、帚木十「何カハ聞カセムト思ヘバ、打チソムカレテ、人知レヌ思ひいでわらひモセラレ、アハレトモ打チ獨語タルルニ」

おもひ・い・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 思入 物ヲ、深ク思フ。オモヒコム。沈思 伊勢物語、五十九段「昔、男、京ヲイカガ思ヒケム、東山ニ住マハムトおもひいりテ」

おもひ・い・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ (自動、下二) 思入 前條ニ同ジ。 源、四、夕顔九十「ツラキモ、憂キモ、傍痛キ事モ、思ひいれタルサマナラデ」

おもひ・お・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (他動、四) 思置 オモヒノコス。[illegible]、空ニゾアリケリ」源、二、帚木三十「ツヒノタノミ所ニハ、おもひおくベカリケル」同、四十六、橋姫三十「イトヲシク、

情ナキモノニ思ひおかレテ」

おもひ・おこ・る・[illegible] (自動、四) 思 [illegible] おもひあがる(思上)ニ同ジ。 源、四十二、[illegible]

おもひ・おもひ (副) 思思 各、思フ所、[illegible]、一[illegible]、云、おもひおもひニ渡リ給ヒニシ中ニ」

おもひ・がけな・し・キ・ケレ・ク・ク (形、二) 無[illegible] [illegible]思ヒ[illegible]。不慮ナリ。意外

おもひ・かへ・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) 思[illegible] [illegible]メテ思フ。回思 [illegible]テおもひかへせド、心ニシモ從ハズ」

おもひきや (句) 豈期乎 思ヒシヤ。[illegible]ハザリキ) 古今集、十八、雜、下「忘レテハ、夢カトゾ思フ、おもひきや、雪踏ミワケテ、君ヲ見ムトハ」

おもひきり (名) 思切 オモヒキルコト。アキラメ。斷念。

おもひ・き・る・ル・レ・ラ・リ・レ (他動、四) 思切 (一)止メテ、思ハズ。アキラム。斷念 [illegible]、おもひきらレヌ、世コソツラケレ」(二)確ク志ス。決心 保元物語、三、爲朝最期事「波ノ上ニ日ヲ送ベキカトテ、思切テ、云云、ヒタヒタト打乘テ、呼テ[illegible]入ドモ」

おもひぐさ (名) 思種 思草 思ヒノ種ヲ、草ニ寄セテ云フ語。 萬葉集、十四、[illegible]「路ノ邊ノ、尾花ガ下ノ、思草、今サラサラニ、何カ思ハム」[illegible]、おもひぐさ、逢フ言ノ葉ノ、ナドナカルラム」

おもひぐさ (名) 思草 [相思草ノ訓讀]

烟草ノ異名。丹波與作（寶永、近松作）下「一ワノ火繩ニ火ヲ付テ、相合烟管思ひ草」

おもひ-く・す（動）【思屈】くッす（屈）ノ條ヲ見ヨ。貫衣、二、下、「ココナウ良シキ樣ニナラセ給ヘリツレバ、日比ヨロヅニ思ひくしタリツル人人モ、打チヤスミテ、心ユルビシタル夕暮ノ程」

おもひ-くた・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）【思腐】〔腐すノ條ヲ見ヨ〕心ニクサス。ケナス。オトス。貶　源、二、帚木五「夫レ然アラジト、諳ニイカガハ推シハカリ、おもひくたさム」

おもひ-ぐま（名）【思隈】思遣リノ深キコト。夫木抄、廿七「おもひぐまノ、人ハナカナカ、無キモノヲ、アハレニ犬ノ、主ヲ知リヌル」

おもひぐま-な・し・キ・ケレ・ク・ク（形、一）【無思隈】思遣リ無シ。心ニカケヌ容子ナリ。後撰集、十一、戀、三「相知リテ侍リケル女ノ、心ナラヌヤウニ見エハベリケレバ「イヅカタニ、立チ隱レツツ、見ヨトテカ、おもひぐまなく、人ノナリユク」　源、三十四、上、若菜、上八四「イト、ウタテ、思ひぐまなき御事カナ」　紫式部集「折リテ見バ、近マサリセヨ、桃ノ花、おもひぐまなき、櫻惜シマジ」

おもひ-ご（名）【思子】愛デ思フ子。イハヒゴ。メヅコ。マナゴ。愛子　宇津保物語、俊蔭廿八「父母ノおもひ子ニテ、片時モ見エタマハネバ、思シ驚ギタマフ子ナリ」

おもひ-こ・む・ム・メ・マ・ミ・メ（自動、四）【思込】おもひいる（自動、四段）ニ同ジ。

おもひ-こ・む・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ（他動、下二）【思込】隱シ思フ。後撰集、十一、戀、三「戀シキモ、おもひこめツツ、アルモノヲ、人ニ知ラルル、涙ナニナリ」

おもひ-ざし（名）【思差】其人ニト思ヒ込メテ、盃ヲサスコト。太平記、十、高時自害事、長崎高重、盃ヲ道準ガ前ニ置キ「思指申スゾ、是ヲ肴ニシタマヘトテ、左ノ小脇ニ刀ヲ突立テ、云云、腸、手繰リ出シテ、云云」　尤の草子（寛永）「さすヤウデさヽヌハ、人待ツ宵ノカラ木戸、さヽヌヤウデさすハ、又思フ中ノ盃」

おもひ-しづ・む・ム・メ・マ・ミ・メ（自動、四）【思沈】深ク思ヒ入ル。オモヒコム。沈思　玉葉集、十一、戀、三「深キ川ノ、底ノミクヅニ、アラネドモ、思ひしづみテ、朽チヤハテナム」

おもひ-じに（名）【思死】心ニカケテ、煩ヒ死ヌルコト。大和物語、下「コレヲ思ひじにニ、傍ニ臥セリテ死ニケリ」

おもひ-し・る・ル・レ・ラ・リ・レ（他動、四）【思知】思ヒ出シテ覺ル。古今集、四、秋、上「大方ノ、秋來ルカラニ、我ガ身コソ、悲シキモノト、思ひしりヌレ」

おもひ-すぐ・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）【思過】次次條ニ同ジ。萬葉集、十七四十長歌「於毛比須具佐ズ」

おもひすごし（名）【思過】オモヒスゴスコト。過慮

おもひ-すご・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）【思過】アラヌ事マデ思フ。過慮

おもひ-すま・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）【思澄】靜ニ思フ。靜思　源、十三、明石四十「行ヒ勤メタルサマ、イミジウおもひすましタルヲ」

おもひだし-わらひ（名）【思出笑】オモヒイデワラヒ。可笑シカリシ事ヲ思ヒダシテ、獨リ自ラ笑フコト。

おもひ-だ・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）【思出】オモヒイヅ。前ニアリシ事ヲ再ビ思フ。

おもひ-た・つ・ツ・テ・タ・チ・テ（自動、四）【思立】更ニ新ニ思フ。發意　古今集、八、離別「朝ナゲニ、見ベキ君トシ、頼マネバ、思ひたちヌル、草枕ナリ」

おもひつき（名）【思附】思ヒツクコト。考ヘ。工夫。着想

おもひ-つ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ（他動、四）【思附】（一）考ヘ起ス。想起（二）思ヒテ中ル。思ヒ寄ル。想得

おもひ-づま（名）【思妻】愛デ思フ妻。萬葉集、十一二十九「奥山ノ、岩本菅ノ、根深クモ、オモホユルカモ、吾ガ念　妻ハ」

おもひ-つ・む・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ（他動、下二）【思詰】思ヒテ、極ニ至ル。伊勢物語、九十五段「イカデ物越ニダニ對面シテ、オボツカナクおもひつめタルコト、スコシ晴サム」

おもひで（名）【思出】〔おもひいでノ約〕（一）前ニアリシ事ヲ思ヒ出シテ、我レト我ガ心ヲ慰ムルコト。回想　追憶　古今集、一、春、上「散リヌトモ、香ヲダニ殘セ、梅ノ花、戀シキ時ノ、おもひでニセム」（二）心ノユクコト。思ヒノトドクコト。（後ノ心ヲ、豫メ云フナリ）遣心　後拾遺集、十三、戀、三「アラザラム、此世ノ外ノ、おもひでニ、今ヒトタビノ、逢フコトモガナ」

おもひ-どほり（名）【思通】可シト、思ヒ設ケタル如クニナルコト。理想。

おもひ-と・る・ル・レ・ラ・リ・レ（他動、四）【思取】心ニ覺リ知ル。源、二、帚木十三「世ノ道理ヲ思ひとりテ、恨ミサリケリ」　同、三十八、夕霧七十六「思ひとるガナキ心アルハ、イト惡シキワザナリ」

おもひ-なが・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）【思流】思ヒヲ馳ス。源、廿、朝顔廿「コノ世ノ外ノコトマデ、おもひながさレ」

おもひなし（名）【思做】オモヒナスコト。ソノ如シト思フコト。堀河百首「朝マダキ、秋ノ初風、立チヌレバ、思ひなしニゾ、涼シカリケル」

おもひ-な・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）【思做】思ヒ量リテ、其レナリト定ム。伊勢物語、第九段「身ヲ、エウナキモノニ思ひなしテ」

おもひ-ね（名）【思寐】人ヲ思ヒツツ、寐ルコト。古今集、十二、戀、二「君ヲノミ、おもひねニ寐シ、夢ナレバ、我ガ心カラ、見ツルナリケリ」

おもひ-のこ・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）【思殘】思ヒテ、十分ニ盡サズ。思ヒオク。遺念　源、五、若紫四「諸ニイトヨクモ似タルカナ、カカル所ニ住ム人、心ニおもひのこす事ハアラジカシ」

おもひ-の-たま（名）【念珠】〔字ノ訓讀〕念珠ニ同ジ。新拾遺集、十二、戀、二「人知レヌ、おもひのたまノ、緒タエナバ、何シテアハヌ、數ヲ取ラマシ」

おもひ-の-ほか-に（副）【思外】思ヒ居タルニ違ヒテ。見込ニ外レテ。オモハズニ。案外ニ。意外　雄略即位前紀「不意、道逢遇軍」

おもひ-の-まま-に（副）【思儘】心ニ思フ如クニ。源、三十四、下、若菜、下六十五「ムクツケクオボユレバ、おもひのままニモ、エ紛レ歩カズ」

おもひば（名）【思羽】鴛鴦ノ、つるぎばニ同ジ。又、孔雀、鴨、雉子、ナドニモ云フト云フ。曾我物語、五、鴛鴦劍羽事「此鴛鴦飛ビ上ガリ、思ひばニテ、王ノ首ヲ掻キ落シ、云云、ソレヨリシテ、思ひばヲつるぎばト申スナリ」

おもひ-びと（名）【思人】おひびと（戀人）ニ同ジ。曇管抄、五（安徳天皇）「新院ノ御思ひ人ノ、烏丸殿トテ、アリシ」

おもひ-ぶり（名）［思振］其人ヲ思フ素振。（おもはせぶりニ對ス）昨日は今日の物語（寛永二）「色色[illegible]ノ、おもひぶりノ御文章」

おもひ-へだ・つ・ツル・ツレ・テ・テ・テヨ（他動、下二）［思隔］隔テ心ヲナス。隔心ス。疎外。源、四、夕顔、五十「右近ハ異人ナリケレバ、おもひへだてテ」

おもひ-まう・く・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ（他動、下二）［思設］豫テ思ヒテアリ。豫期。枕草子、[illegible]「[illegible]おもひまうけヨ」

おもひ-まは・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）［思廻］おもひめぐらすニ同ジ。枕草子、四、四十三段「[illegible]、サト、思ひまはすモ無ク、責メ[illegible]ハセバ」

おもひ-みだ・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ（自動、下二）［思亂］[illegible]ニ思ヒ亂ル。萬葉集、十五、三十四「逢ハム日ノ、形見ニセヨト、タワヤ女ノ、於毛比[illegible]テ、縫ヘル衣ソ」

おもひ-み・る・ミル・ミレ・ミ・ミ・ミヨ（他動、上一）［思試］思ヒメグラシテ試ル。おもんみる。思惟。萬葉集、十二、廿六「梓弓、引キミユルベミ、[illegible]思ヒ見テ、スデニ心ハ、寄リニシモノヲ」

おもひ-めぐら・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）［思廻］種種ニ思フ。オモヒマハス。尋思。[illegible]「[illegible]、夕ダおもひめぐらさテ、云云、フトオボエム事ヲ、ト責メサセ給フニ」

おもひ-もの（名）［思者］（一）戀人。情人。[illegible]ミソウラハ、云云、[illegible]ノおもひもの、[illegible]ト申ス[illegible]ナルガ[illegible]（二）愛妾。[illegible]（寛永、近松作）一「清盛入道、自ニ心ヲカケ、妾ニセントイフ、無念ヤナ、口惜シヤ」[illegible]

おもひやり（名）［思遣］オモヒヤルコト。[illegible]十九、藤裏葉「尼君、おもひやり深キ人ニテ」

おもひ-や・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）［思遣］（一）思ヒヲ遣ル。氣ヲハラス。心ヤル。遣悶。[illegible]ハナシ、逢ハズテアマタ、月ノ經ヌレバ」同、十七、三十長歌「アマサカル、鄙ニシアレド、吾ガ夫子ヲ、見ツツシ居レバ、於毛比夜流、コトモアリシヲ」（二）遠ク思フ。思ヒヲ馳ス。遣懷。[illegible]第九段「其川ノホトリニ群レ居テ おもひやれバ、限リナク遠クモ來ニケルカナト、ワビアヘルニ」後撰集、九、戀、一「おもひやる、心ハ常ニ、通ヘドモ、逢坂ノ關、越エズモアルカナ」

おもひ-や・る・ル・レ・ラ・リ・レ（他動、四）［思遣］（一）オシハカル。推量ス。想像。古今集、十八、雜、下「おもひやる、越ノ白山、知ラネドモ、一夜モ夢ニ、越エヌ夜ゾナキ」名義抄「想像、オモヒヤレ」（二）人ノ身ノ上ヲ、サゾアラムト推量リテ思フ。同情ス。源、一、桐壺二十「幼ナキ人モイカニト、おもひやりツツ」

おもひよらず（副）［不思寄］豫テ思ハヌニ。不意ニ。源、四、夕顔九「内ニハおもひよらず、[illegible]ナル男ノ、シノビヤカニモテナシテ」

おもひ-よ・る・ル・レ・ラ・リ・レ（他動、四）［思寄］オモヒアタル。オモヒツク。源、四、夕顔五十「キテ下リケルニヤト、おもひよりケル」同、二十、帚木「小君ニハ、昔ヨリカクナンおもひよれバト、ノ給ヒ契レリ」

おもひ-わた・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）［思渡］心ニ思ヒテ月日ヲ送ル。源、[illegible]、帚木[illegible]テナム」

おもひ-わづら・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ（自動、四）［思煩］[illegible]

おもひ-わ・ぶ・ブル・ブレ・ビ・ビ・ビヨ（自動、上二）［思侘］[illegible]「おもひわぶる人人」

おも・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ（他動、四）［思想］（一）物事ノ理ヲ分ケムトテ、心ヲハタラカス。考フ。思案ス。[illegible]「[illegible]於謀賦」（二）イツクシム。愛ス。慕フ。愛慕「思ひ子」[illegible]

おもぶ・く（動）［趣］趣く（他動下二段）ニ同ジ。從ハシム。續紀、十七、天平元年八月、詔「致ヘタマヒ、於毛夫氣タマヒ」

おもぶくら（名）［面腫］面頰ノ、フクラカニ肥エタルコト。[illegible]名義抄、[illegible]「[illegible]、オモブクラ」字類抄「[illegible]、オモブクラ、面方也」

おもふ-さま（副）［思樣］（一）欲スルトホリ。思フヤウ。萬代集、二、春、下、好忠「色見ムト、植エシモ著ク、山吹ノ、おもふさまニモ、咲ケル春カナ」（二）心ニ思ヘル限リヲ盡シテ。思フ存分ニ。オモイレ。著聞集、十六、[illegible]口、兒ヒリノ判官代、兒、云云、コレヲ大事ト、おもふさま思ヅミテ、ヒラムヲ聞ニ、ヒラセ給ヘ」

おも-ぶせ（名）［面伏］オモテブセ。面無クテ、俯クコト。恥カハシク思フコト。面目無キコト。[illegible]

おもふ-み（接）［願意詞］思ヒメグラシテ試ルニ

おもふ・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）［從容耐］「[illegible]シキ風ヲ[illegible]スル意ナルベシ」[illegible]

おもぶるみ（副）［從容舒徐］「前條ヲ見ヨ」[illegible]

おもへらく（名）［以爲意謂］「思ふノ完了ノ、おもへりノ未然形、おもへらノ延、いはく（曰）ノ條ヲ見ヨ」思ヘルコト。思ヘルヤウ。名義抄、雜部「以爲、オモヘラク」

おもへり（名）［面色］「思ふノ、完了ノおもへりノ名詞形、（雄略紀、十三年八月「神色不變」）思ひ面ニアラハルル意」顏ノケハヒ。カホイロ。オモモチ。[illegible]

おもほえず（副）［不思］「おもほゆノ條ヲ見ヨ」[illegible]

おもほ・し（形）［思］「おもはしノ轉、いたはし、いとほし」おもはしニ同ジ。[illegible]、故郷ニ、イトハシタナクテアリケレバ、云云」[illegible]

おもほ・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）［思］「おもはすノ轉、おはす、おほす（負）」オモハス。思ヒタマフ。オボス。オボシメス。[illegible]上リタリト聞コシメシ」齊明紀、三年九月「天皇聞

悅、思ニ欲往覲ニ　繼體紀、八年正月「太子感痛」源、一、桐壺廿「若宮ハ、イカニおもほし知ルニカ」

〔おもほてり（名）面熱　オモホテルコト。面ニ、慍ル色ノ顯ハルルコト。慍氣　神代紀、上廿「月夜見尊、忿然作色」同、下三十六「有慍色」武烈卽位前紀「赫然大怒」

〔おもほて・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）面熱〔面映シト同意、面、熱リテ赤クナル〕情、迫リテ、顏赤クナル。オモハユシ。ハヅカシ。靦然　字鏡八十二「㖞然、歎怖也、於毛保天留」名義抄「靦、オモホテル、オモハユシ、ハヅカシ」

〔おもほ・ゆ・ユル・ユレ・エ・エ・エヨ（自動、下二）所思〔思被ノ轉、被ノ條ヲ見ヨ〕思ハル。自ラ、心ニ思ヒ得。略シテ、おぼゆ。履中卽位前紀「非常之事」雄略紀、十三年九月「不レ覺、手誤傷レ刃」萬葉集、十七廿二「白波ノ、寄スル礒間ヲ、漕グ舟ノ、楫取ル（序）間ナク、於母保要シ君」

〔おもむき（名）趣　（一）オモムクコト。源、廿九、行幸三十一「マツリゴトノおもむきヲ、シタタメタランコトハ」（二）ココロ。ワケ。趣意。意趣　躬恒集「コレモ、題ノおもむきニヨル」「書中ノ趣」詞ノ趣」（三）其物事ニ有テル好キ狀。雅致　趣味　源、廿一、少女五十二「水アヂハヒ。ノおもむき、山ノオキテヲ改メテ、サマザマニ、御カタガタノ御願ヒノ心バヘヲ、造ラセ給ヘリ」

おもむ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ（自動、四）趣赴〔面向くノ義、背向くノ反〕（一）〔其方へ向ク。竹取物語、龍首珠「風、云云、ヨキ方ニおもむきテ吹ク風ナリ」（二）向ヒテ行ク。「越路ニおもむく」

〔おもむ・く・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ（他動、下二）趣赴　オモムカシム。オモブクル。シタガハシム。崇神紀、十二年三月「欽化流行」源、四十六、總角七「カノ御方ヲ、サヤウニおもむけテ聞コエタマハバ」隆信集、下「イト心ツヨカリケル人ヲ、言ヒおもむけテ、歸リテ後、タビタビ文ヲヤレド、返シモセザリシカバ」

おもんさま（名）おもうさまノ條ヲ見ヨ。

〔おもん・ず・ズル・ズレ・ゼ・ジ・ゼヨ（他動、左變）重〔重みすノ音便〕重キモノト見ル。貴ブ。價アリトス。繼體紀、元年正月「但重ニ其心ニ」平家物語、二、小松教訓事「功ノ疑ガハシキヲバおもんぜヨ」

おもんぱかり（名）慮　オモンパカルコト。十訓抄、中、第七、序論「ヨロヅニツケテ、ヨク慮りヲメグラスベキナリ」

おもんぱか・る・ル・レ・ラ・リ・レ（他動、四）慮〔思ひ量るノ音便〕ツラツラ考フ。思ヒメグラス。孟子、公孫丑、上篇、疏「先レ事而慮、謂ニ之豫ニ、後レ事而慮、謂ニ之猶ニ」

〔おもん・みる（動）惟以　おもひみるノ音便。名義抄「惟、オモムミレバ」謠曲、百萬「ゲニヤおもん見れバ、何クトテモ、住メバ宿」

おもむろ・に（副）舒徐〔おもぶる、おもむる、おもむろト轉ジタル語、名義抄「舒、オモムル、オモブル」〕オモブルニ。ユルヤカニ。ソロソロト。

〔おももち（名）面持　オモザシ。カホツキ。顏色　源、廿一、少女八「おももち、聲ヅカヒ、宜宜シクモテナシツツ」

おもや（名）母屋（一）〔家ノ中央ナル、棟梁ノ下ノ處。略シテ、もや。（庇、廊下ナドニ對ス）竹取物語「おもやノ内ニハ、嫗ドモ番ニ入レテ守ラス」（二）屋敷ノ内ニテ、專ラ、住居ニ用キル本ツ家ノ稱。（物置、長屋ナドニ對ス）靈異記、中、第廿緣「所レ生子、遊ニ館庭中母屋裏ニ」（三）分家ヨリシテ、本家ノ稱。

おもやく（名）重役　重キ役儀ヲ勤ムル人。ヂュウヤク。重臣

おもゆ（名）重湯〔飯湯ノ略、鑄物師、いもぢ〕コミヅ。コンヅ。飯ノ炊汁。オネバ。保元物語、二、新院御出家事「おも湯ナドヲゾ羞參ケル」海人藻芥、中「强飯時湯、飯湯也、而、近代、姬飯時、をも參ラセヨト召ス」

おもら（名）母良　子良ノ條ヲ見ヨ。

おもらか・に（副）重　重キ狀ニテ。オモリカニ。オモオモシク。増鏡、第一、おどろの下「小サキ唐櫃ノ、金物シタルガ、イトおもらかなるヲ、參ラセラレタリ」十訓抄、上、第一、廿八條「スベテ人ノ振舞ハ、おもらかニ、言葉ズクナニテ」

おもり（名）錘〔重りノ義〕（一）オモシ。秤ノ一方ニ掛ケテ、物ノ重サト懸ケ合スル具、銅鐵ニテ作ル。（秤ノ條、見合スベシ）（二）釣絲ニ付クル、小サキ鉛ノ塊。鉤ヲ沈マスル用トス。

〔おもりか・に（副）重〔誇りかに、早りかに、同趣ノ語〕（一）重ル狀ニテ。オモラカニ。（器ナドニ）源、六、末摘花十三「包ミニ、衣箱ノおもりかニ古代ナル、打チ置キテ、押シ出シタリ」（二）重重シク。輕率ナラズニ。源、四十八、寄生三「母女御ヨリモ、今スコシ靜ヤカニ、おもりかなる所ハ、マサリタマヘルヲ」

おもりづきん（名）錘頭巾　頭巾ノ、風ニ翻ガヘラヌヤウニ、左右ノ埀ニ、鉛ノ錘ヲ入レタルモノ。オモリバウシ。榮花咄（貞享）「おもり頭巾、留針」元祿ノ初、萩野澤之丞ト云フ女形役者、此頭巾ヲ用キテ、大イニ流行リ出シ、澤之丞帽子トモ唱ヘタリ。歌舞妓故實（自笑）「澤之丞帽子、元祿ノ初、澤之丞ト云フ女形、被キ始メタリ、左右ニ鉛ノおもりヲ付ケタル由、因テおもりぼうしト云フ」（嬉遊笑覽、二）

おもりぼうし（名）錘帽子　前條ヲ見ヨ。

〔おも・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）重（一）重クナル。六百番歌合、戀「風ツラキ、本荒ノ小萩、袖ニミテ、深ケユクヨハニ、おもる白露」（二）烈シクナル。危篤ニナル。（病ニ）敏達紀、十四年八月「天皇病彌留、崩レ于ニ大殿ニ」

オモロ（名）神調歌　沖繩ノ古キ歌、今ハ、神事ニノミ歌ハル。鎌倉時代ノ末ヨリ江戸時代ノ半ニ至ル、四百年間ノ歌、千五百五十一首、二十二册ノ書ニ、おもろ草子ト云フアリ、沖繩ノ萬葉集ト見做サル。

〔おもわ（名）面輪　面ト云フニ同ジ。オモテ。カホ。顏面。萬葉集、九三十四長歌「望月ノ、滿テル面輪ニ、花ノゴト、笑ミテ立テレバ」（勝鹿ノ眞間ノ娘子ニ云フ）同、十九六十長歌「白珠ノ、見ガ欲シ御面、直向ヒ、見ム時マデハ」註「御面、謂ニ之美於毛和ニ」（越中ニアル女ノ、京ノ母ヘノ歌ナリ）

〔おもわすれ（名）面忘　他ノ容貌ヲ、見忘ルルコト。萬葉集、十一廿六「面忘、イカナル人ノ、スルモノゾ、我レハシカネツ、ツギテシ思ヘバ」

おや（名）親〔老、大ト通ズ、子、小ニ對ス〕（一）〔我レヲ生ミタル人。男ナルハ父ニテ、女ナルハ母ナリ。推古紀、廿一年十二月、長歌「飯ニ饑テ臥セル、ソノ旅人アハレ、於夜無シニ、汝生リケメヤ」（二）〔祖父母、曾祖父母ヨリ、數代ノ前前ノ兩親ヲモ、スベテおやト云ヒテ、父母ト區別ナシ。後世ニテモ、祖重代ノ刀ナドノ語アリ。父祖　神代紀、上三十「遠祖」同、下二「皇祖」皇極紀、二年九月「皇祖母命」古事記、中（應神）八十「愁ニ白其母ニ之時、御祖答曰、云云」續紀、十五、天平十五年五月、詔「天ノ下ノ人ニ、君臣神子（父子）ノ理敎ヘタマヒ」萬葉集、三五十長歌「タマカヅラ、彌遠長ク、祖ノ名モ、繼ギユクモノト、母父ニ、妻ニ子等ニ、語ラヒテ」（三）〔物ノ、出來タル基。元祖。源、

ナシ、[illegible]ノ
第二、宮殿ノ後藤ヲ合ハセテ爭フ」(四)長。カシラ。頭目。榮花物語、十五、疑「世ノおやトオハシマス、[illegible]ハ、[illegible]シ生ギシムル元。「芋ノ親」(六)小サキ物ニ對シテ、大イナル物ノ稱。「[illegible]ノおや[illegible]」

おや (感) 思ハヌコトヲ見、驚キテ發スル聲。重ネテ、おやおや。

おやいも (名) 親芋 芋頭ヲ、芋子ニ對シテ云フ語。芋魁

おやおもひ (名) 親思 孝行ノ志。[illegible]

おやおや (感) おや(感)ノ條ヲ見ヨ。

おやがかり (名) 親掛 〔懸人(食客)ノ、かかりナリ〕子ノ、未ダ獨立セズシテ、親ニ養ハレテ居ルコト。[illegible]、一寸[illegible]」

おやかた (名) 親方 (一)〔尊長方ノ義〕(父方、母方ナド云フ、同意) [illegible]口三十「例ノ輕ラカナル御心ザマニ、物思ハセムコソ心苦シカルベケレナド、おやかたニナリテ聞コエタマフ」[illegible]ソ侍ラメ、今ハ一向、親方ト憑ムナリ」孟子抄(文明)八「賢父兄ハ、賢ナルおや方ゾ」史記抄(文明)十二「從兄ハイトコドシゾ、兄ト云フハチットおやかたゾ、[illegible]」(二)專ラ、兄ノ稱。(尊長ノ意ナリ)中國、陸前ニテハ、今モ云フ、沖繩ニテ、うえかた。(おやかたノ轉カ、上方カ)(三)職人、人夫ナドノ、我ガ頭ト仰グ者ノ稱。親分。[illegible]

おやかぶ (名) 親株 子株ノ條ヲ見ヨ。

おやが・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 親 親ブル。親メカシテフルマフ。[illegible]

おやこ (名) 親子 おやト、こト。親子。[illegible]カリナリ、ヨキ程ナル親子ト見ルベカリナル中ニ」

おやご (名) 親御 〔接尾語ノご(御)ノ條ヲ見ヨ〕人ノ親ノ敬稱。尊大人 [illegible]

おやこぐさ (名) 親子草 〔ゆづりはノ條ヲ見ヨ〕ゆづりは(交讓木)ノ異名。

おやごころ (名) 親心 (一)親トシテ、子ニ對スル心。源、廿四、胡蝶「イトサカシラナル、御おやごころナリカシ」(二)親ニナリカハリテ思フコト。源、四十六、總角「今ハ父君ユヅル人モナクテ、親心ニカシヅキタテテ、見キコエタマフ」

おやこどんぶり (名) 親子丼 〔鷄ト、鷄卵トニテ、親子ナリ〕丼、飯ノ一製法。鷄肉ヲ細カニ切リ、鍋ニテ煮出汁、味醂、醬油ノ汁ヲ、タップリニ煮テ、煮上ゲ際ニ、鷄卵ヲ溶キテ加ヘ、其半熟ノ時ニ、鍋ヲオロシテ、炊キタテノ飯ヲ、丼ニ盛リタル上ヨリカケテ成ル。

おやこなんばん (名) 親子南蠻 なんばんノ條ヲ見ヨ。

おやざと (名) 親里 人ノ妻、又ハ、奉公人ナドノ、己ガ親ノ家ヲ指シテ云フ語。親許。[illegible]

おや・じ (形) 同 〔おなじト相通ズルカ、

[illegible]〕形容詞ノ活用ノ濁ルハ、多クハ名詞ニツケバ、(時ぢく、家ぢく、我れぢく、忌ぢき)[illegible]

おやしほ (名) 親潮 洋上寒流ノ一、白令海ノ海氷ノ、暖存ニ融ケテ、海中ヲ南ニ流レ、我ガ北海道、千島ヨリ、三陸、磐城ノ東方洋上ニ動キ來ルモノ。極メテ冷ヤカナリ。一名、千島海流。

おやしらず (名) 親不知 (一)乳兒ノ頃ニ父母ニ別レテ、親ヲ見知ラヌ子ノ稱。(二)人ノ齒ノ、最モ奥ナル、左右、上下デ四本ノモノ。十七八歳ヨリ二十四五歳マデニ生ズ、大抵、親ハ死シテ後トナル、因リテ名アリ。又、鬼齒。醫ニ、智齒。毛吹草(正保)二「[illegible]」(三)山海ノ斷崖ナド、通行最モ危キ所ヲ、親知らず子知らずト云フ、一身スラ危ク、骨肉ノ者タリトモ、助クル能ハザル故ニ云フ。越後ノ西部ノ日本海海岸ノ、怒濤ノ烈シク打寄スル所、又、富士山ノ頂ノ鉢料廻リノ路ナドニ、此稱アリ。

おやしろ (名) 親代 親ニ代リテ、養育スル人。盛衰記、廿、石橋合戰事「殿ノ二歳ノ時ヨリ、[illegible]、親代ト成テ、夜ハ胸ニカカヘ奉テ、[illegible]ハリ、晝ハ膝ニ置セ、終日育ミ奉リ」[illegible]

おや・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) 生 〔生ふノ、生ゆト轉ジテ、其他動ナリ、おゆ、おやす。(肥)もゆ、もやす。(萌)同形ノ活用ナリ〕[illegible]

おやすみ (名) 御休 (一)休息、又ハ、休暇ヲ、丁寧ニ云フ語。(二)寢ルコトノ敬語。オヨルコト。ゲシナルコト。

おやだま (名) 親玉 〔親方ノ本人ノ意ナルベシ〕(一)職人ノ親方、芝居役者ノ立者ナドヲ、其配下ノ者ヨリ呼ブ語。(二)頭立ツ者。大ナル人物。巨魁 [illegible]

おやダンナ (名) 親檀那 おほだんなノ(二)ニ同ジ。[illegible]

おやぢ (名) 親仁 〔親父ノ轉〕(一)他人ニ對シテ、我ガ父ヲ稱スル語。オヤヂャヒト。(二)老人ノ稱。ヂヂ。ヂヂイ。爺

おやぢゃひと (名) 親人 〔親である人ノ約〕親ニテアル人。親仁。[illegible]

おやぢゅうだい (名) 親重代 〔祖重代ノ義〕重代ト云フニ同ジ。[illegible]ルハ、正總ナシノ、刀ニテ」親重代ノ、秋ノ夕暮」

おやつ (名) 御八 八茶ノ婦人語。あひだぐひノ條ヲ見ヨ。

おやなし (名) 無親 親ヲ喪ヘル子。孤 [illegible]

おやばしら (名) 親柱 [illegible]

おやびき（名）［親引］入札ノ拂物ニ、賣主ヨリ、其品ヲ撤退ムルコト。

おやぶね（名）［親船］大海ヲ渡ル、大イナル和船ノ稱。

おやぶん（名）［親分］假ニ親ト定メテ、恃トスル人。親方。假父 假ニ子トシテ扱ヒ擁護フヲ、子分、子方、手下、手下ナドト云フ。乾兒 假ニ兄トスルヲ、兄分ト云ヒ、弟トスルヲ、弟分ト云フ。義兄 義弟 姉ナルヲ、姉分、妹ナルヲ、妹分ト云フ。義姉 義妹 毛利家記「中州ハ、長門殿ノ親分ト云ヒ、位階ト云ヒ、云云」

おやぼね（名）［親骨］扇ノ兩端ニアル、稍太キ竹。扇太骨 五十年忌歌念佛（寶永、近松作）上「閨ノ扇ハ、班女ガ親骨ニセカレ」

おやまさり（名）［親優］子ノ人物、技藝ガ、親ニマサリタルコト。「萄ノ親まさり」

おやまのたいしやう（名）［御山大將］兒童ノ遊戲。低キ塚ナドノ上ニ、數人登ルヲ爭ヒ、他ヲ押シノケテ、頂ニ登リ得タルモノ、お山ノ大將おれひとりト云ヒテ誇ル。人ノ、小事ヲ遂ゲテ、得意然タルアレバ、嘲リテ、お山のたいしやうト云フ。

おやもと（名）［親許］おやざとニ同ジ。

おやゆづり（名）［親讓］（一）父ヨリ讓リ受ケタルコト。箕裘「おやゆづりノ身代」おやゆづりノ藝」（二）親ノ性ヲ受ケ傳ヘタルコト。親ニ生ミツケラレタルコト。遺傳 先天 「おやゆづりノ大聲」おやゆづりノ病」

おやゆび（名）［親指］（一）オホオヨビ。オホユビ。手足ノ五指ノ中ノ、最モ太キモノ。拇 小町踊、春、上「エトヲ先ヅ、クル親指ヨ、年ノ春ニ」（二）商工ノ家ナドニテ、されガ、云云ト、竊ニ親指ヲ示シテ語ルハ、家ノ主人ヲ指シテ云フナリ。尚、隱語トシテ倒シマニ、れおナドト云フ。又、家ノ妻ノ事ニハ、小指ヲ示シテ云フ。

おやわん（名）［親椀］〔内ノ入子ニ對スル名〕引入合子ノ、最モ大キナルモノ。即チ、飯椀ナリ。

おゆ・ユル・ユレ・イ・イ・イヨ（自動、上二）［老］〔生ふト通ズルカ〕（一）齡積ル。年長ク。年寄ル。年取ル。孝德紀、白雉五年二月「老、此云於喩」（人名）萬葉集、十九、長歌「意伊ヅク吾ガ身」神代紀、上「素戔嗚尊、年已長矣」（二）衰フ。末ニナル。元輔集「秋深ミ、マダキニおゆる、菊見レバ、花ノ上トモ、オモホエヌカナ」宇津保物語、嵯峨院九十「おゆる春ヲモテアソブト、歌ノ題ニ、云云」（岸本由豆流校訂）

おゆ（動）［生］おふニ同ジ。

おゆずり（名）おひずりノ訛。

おゆどの（名）［御湯殿］禁中ノ清涼殿中、西廂間ノ北ニアル、一室ノ名。御茶ノ湯ヲ沸カシ、陰の御膳ヲ調フル所。（儀式ノ御膳ハ、供御ニナラズ）即チ、實地ニ召シアガルモノナリ。（松屋筆記、三十八）御湯殿ニ續キタル一室ヲ、御湯殿の上ト云フ、御食事ノ調度ナド置カル、武家ニ云フ、御茶の間ナリ。永正八年、家中竹馬記「御前トハ、禁中ニテノ御前ナルベシ、御湯殿のうへト申スハ、キコシメサルル御茶ノ湯セラルル處ヲ申ス」（碩鼠漫筆、十）徒然草、百十八段「雉、松茸ナドハ、御湯殿の上ニカカリタルモ、苦シカラズ」 御湯殿上日記ト云フ書、數十卷アリ、文明年中ヨリ慶長年中マデノ、御湯殿の上ニ勤ムル女房ノ、平假名書キノ御用日記ナリ。

おゆどの（名）［御湯殿］湯殿、即チ、浴場ノ敬稱。

おゆどののうへ（名）［御湯殿上］前前條ヲ見ヨ。

おゆらく（名）［老］〔おゆるノ延、いはく（曰）ノ條ヲ見ヨ〕老ユルコト。老。轉ジテ、おいらく。萬葉集、十三八「天ナルヤ、月日ノ如ク、吾ガ思ヘル、君ガ日ニケニ、老 落惜シモ」古今集、十七、雜、上「おいらくノ、來ムト知リセバ、門刺シテ、無シト答ヘテ、逢ハザラマシヲ」續古今集、十七、雜、上「おいらくノ、我ガ身ノ影ハ、カハレドモ、同ジ昔ノ、秋ノ夜ノ月」

およぎ（名）［泳泅］（一）泳グコト。オフシ。ミナクグリ。カハアミ。今昔物語、廿六、第三語、美濃、因幡河「男ハ、舟ニモ乘リ、游ヲモ搔キナドシテ、行ケドモ」（二）武術ノ一、水ヲオヨギ、水中ニ潛リナドス。水練。水泳。

およ・ぐ・グ・ゲ・ガ・ギ・ゲ（自動、四）［泳游泅］〔語原ハ、及ぶト同ジク、波ヲ凌ギテ、彼岸ニ及バムトスル意カ〕（一）〔古言、オフス。水ニ浮ビ、手足ニテ水ヲ搔キテ、進ミ行ク。字鏡三十九「泝、逆流而上曰泝回也、宇加夫、又、於與支」名義抄「游、オヨグ、ウカブ」泳、オヨグ、クグル、ミナクグリ」（二）相撲ニ、敵ニ叩カレナドシテ、機ニ蹈ミ止メラレズ、前へ歩ミ出ヅ。（此時、必ズ泳ぐヤウナル手ツキヲスルナリ）トドロバシル。（三）仕途ニ巧ミナリ。宦海ト云フ語ニ寄セテ云フナリ。

およそ（副）［凡］〔おほよその約〕（一）おほよそ。オホカタ。大概。「其數、凡、三千五百」（二）文ノ首ニ用キテ、すべて、おしなべてナドノ意トス。著聞集、八、好色「およそ、君ト臣トハ、水ト魚トノ如シ」「およそ、生トシ生ケルモノ」

およ・づ・く・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ（自動、下二）［老就］〔四段活用ノ老就くノ轉、下二段活用トナレド、意義ハ同ジ、假名文ニ多ク、およずけトアレド、皆誤リナリ〕（一）〔兒童、生立ニマシテ智慧ヅク。大人メク。ネビル。マセル。夙慧 源、一、桐壺六「此御子ノ、およづけモテオハスル御貌、心バヘ、アリガタク」同、五十、浮舟七「若君ノ、イトウツクシウおよづけタマフママニ」（二）〔オイヅク。年長ク。年取ル。老成 源、三十五、柏木二「柏木ノ右衛門ノ、三十餘歲ニテ死セシヲ、後ニ云フ詞「サバカリ思ヒアガリ、およづけタリシ身ヲ、心モテ失ヒツル事ヨ」落窪物語、一、下、中納言ノ北ノ方ヲ「ロツキ愛敬ヅキテ、少シ匂ヒタルケ附キタリ、云云、タダ眉ノホドニゾ、およづけ、惡シケサモ、少シ出デ居タリト見ル」（三）質素ナリ。花ヤカナラズ。徒然草、百九十一段「晝ハ事ソギ、およづけタル姿ニテモアリナム、夜ハキララカニ、花ヤカナル裝束、イトヨシ」

およ・づ・け（動）前條ヲ見ヨ。

およづれ（名）［妖言］次條ノ語ノ略。

およづれごと（名）［妖言］〔及連言ノ義ト云フ、口口ニ言ヒ傳フル意〕不祥根無言ヲ、人人ノ聞ニ云ヒ觸ラスコト。多クハ、狂言ト連ネテ云フ。略シテ、およづれ。造言。蜚語。天智紀、九年正月「禁斷誣妄妖僞」天武紀、下、四年十一月「妖言」續紀、三十一、寶龜二年二月、宣命「於與豆禮カモ、多波許止ヲカモ、言フコト、信ニシアラバ、云云」（左大臣藤原永手薨）萬葉集、十七、廿、長逝ノ弟ヲ哀傷スル長歌「玉梓ノ、使ノ來レバ、嬉シミト、我ガ待チ聞フニ、於餘豆禮ノ、多婆許登カモ、云云」（訃音ヲ、眞

賞ニハアラジト、覺キタルナリ」

およなか [illegible] 夜中ニテ、大[illegible]子ノ[illegible]ノオホシマサ、女中ノ夜食ニ食フヲ、夜長ト云ヒシニ起ル(松屋筆記、三十八) 夜食ノ、婦人語。

およばね (名) 追羽 〔おひばねノ轉、とひだけ、とよだけ」やりはおノ東京語。はお(羽子)ノ條ヲ見ヨ。

およばれ (名) [illegible] 御呼ばれノ義、客トシ招カルル意。飲食ノモテナシ。フルマヒ。馳走。饗應。(關西)

およひ (名) 指 〔凡讀ノ約轉、(おほくび、おくみ(衽)ノ例)指ハ、折リテ物數フルニ用ヰル故ノ名〕ゆびノ古言。[illegible]集、八「秋ノ野ニ、咲キタル花ヲ、指折リ、搔キ數フレバ、七種ノ花」 土佐日記、正月二十日「今日幾日、二十日、三十日ト數フレバ、およびモソコナハレヌベシ」 源、三、空蟬「およびヲ屈メテ、十、二十、三十、四十ナド、數フルサマ[illegible]」[illegible]於與比」

およひ (接) 及 〔[illegible]ノ副詞ノ語ニ、何ト、及ソ何」ナルベキナリ」 ナラビニ。又。[illegible]金葉集ニイタルマデ」

およびごし (名) 及腰 追ヒスガフ腰姿。膝ニテ立チ、中腰シ、前ニ屈ミナガラ、手ヲ、遠キ物ニ及ボサムトスル貌ナリ。[illegible]立ツ膝シサハ、女中オシノケ、及び腰」

およびなし ・キ・ケレ・ク・ク [illegible] オヨブコトナシ。トドキガタシ。力オヨバズ。源、七、紅葉賀三十「御輿ノ内モ思ヒヤラレテ、イトドおよびなク[illegible]心苦シキヲ」

およびぬき (名) 指貫 〔[illegible]〕ゆびぬきノ古言。倭名抄、十四「[illegible]具「[illegible]、於與比奴木、指貫、所以貫衣具也」

およぶ ・ブ・ベ・バ・ビ・ベ (自動、四) 及 〔於ノ假名遣ナルコト、接續詞ノおよび、又、次條ヲ見ヨ〕天智紀、四年八月「築ニ大野、及、椽、二城」[illegible]大野ト椽トノ二城ナリ」 (一)進ミ寄リツク。[illegible]「岸ニ及ぶ」時ニ及ぶ」 (二)腰ヲ前ヘカガメテ、ノシカカルヤウニス。及腰ニナル。[illegible]サブラフハ、狀惡シクモ、およびカカラズ」 (三)若ク。肩ヲ比ブ。狹衣、二、上七「大將ノ御アリサマゾ、筆、及ぶべクモアラズトテ」源、二、帚木七「ナニガシカ、およぶべキホドナラネバ」[illegible]

およぼす ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) 及 〔前條ノ語ノおよぶノ他動、ほろぶ、ほろぼす、同例〕 及ブヤウニナス。トドカス。到ラス。[illegible]

およんなる ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 〔御夜になるノ音便、御寢になるノ、おひんなるニ對ス〕寢ぬノ敬語。寢タマフ。オヨル。ゲシナル。

およる (名) 御寢 [illegible] オヤスミ。御寢。[illegible]およるニモナラセオハシマサズ」

およる ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 〔前條ノ御夜(御寢)ノ末音ヲ活用セシム、聖ノ末音ヲ、ひじらむ、ひじりト、[illegible]〕[illegible] 歌「月ヲモ御覽ゼデ、およるナレバ」 中務内侍日記(弘安)「曉近クおよるナレバ」 增鏡、第十三、今日の日[illegible] 閑吟集(大永)「音セイデおよれおよれ、鷄八月ニ鳴クゾ」

おら (代) 己 〔おのれ、おのら、おいら、おらト轉ジタル語〕自稱ノ代名詞。我ノ意、下等ノ者ノ用語。オイラ。ウラ。狂言記、つたふ山伏「おらガ書飯ハ、ヨソヘズイ」

おらぶ ・ブ・ベ・バ・ビ・ベ (自動、四) 哭叫 泣キ叫ブ。[illegible]

オランダ (名) 阿蘭陀 〔Holland.〕歐羅巴洲中ノ一國ノ名。又、紅毛。慶長二年、始メテ我ガ國ニ來リテ、貿易ヲ許サレ、寬永年中、他ノ外國人ノ渡來ハ一切嚴禁セラレ、此國ノミ、其後二百數十年間、常ニ來リテ、長崎ニ在留シテ貿易セリ、故ニ其渡セルモノニ、おらんだアヒル、おらんだナデシコ、おらんだ[illegible]ナドノ名アルモノ多シ。和蘭、又、荷蘭ト云ヒ、更ニ略シテ、蘭人、蘭學、蘭語ナド云フ。[illegible]宗因ノ句、天和二年歿ス)

オランダあひる (名) 阿蘭陀家鴨 [illegible]彩、あひるヨリ大キクシテ、短キ冠毛アリ、身、蒼黑ニシテ、白キ斑アリ、尾モあひる[illegible]。バリケン。

オランダくだり (名) 阿蘭陀下 [illegible]

オランダぐち (名) 阿蘭陀口 [illegible]言葉ナリ」阿蘭陀ノ言葉。くちやはらげノ條ヲ見ヨ。

オランダさう (名) 阿蘭陀草 はこねぐさノ異名。

オランダししがしら (名) [illegible]子頭 金魚ノ條ヲ見ヨ。

オランダせきちく (名) 阿蘭陀石竹 〔初メ阿蘭陀人持渡レリ〕草ノ名、藥用トス。石竹ノ一種ニシテ、其大サ[illegible]モ長シ、花ハ八重ニシテ、紅、白、又ハ、白ニ紅點アルアリ。アンジャベル。

オランダつうじ (名) 阿蘭陀通詞 通詞ノ條ヲ見ヨ。

オランダなでしこ (名) 阿蘭陀撫子 なでしこニ似テ、株、莖、大キク、葉、勁ク、花モ大ナルモノ、[illegible]

オランダびゆ (名) 阿蘭陀莧 [illegible]ニ同ジ。

オランダわたり (名) 阿蘭陀渡 (一) おらんだくだりニ同ジ。(二)阿蘭陀船

ニ積ミ來リシ品物ノ稱。

おり (名) [淀] 〔降りノ義ナルベシ〕 水物ノ底ニ沈ミテ、澱ミタル滓。

おり-あを (名) [織襖] かりあを(狩襖)ノ條ヲ見ヨ。

オリイブ (名) [阿列布] 〔英語、Olive.〕 灌木樣ノ小木ノ名。小亞細亞地方、及、歐洲南部ニ產ズ、葉ハ對生シ、長橢圓形ニシテ、深綠色ナリ、夏秋ノ際、總狀ヲ爲シテ、小白花簇生ス、果實ハ核果ニシテ、脂肪油ニ富ミ、一種子ヲ藏ム、果皮ヲ壓榨シテ、おりいぶ油ト稱スル脂肪油ヲ製出シ、藥用ニ供シ、又、料理ニ用ヰル。おれえぶ。

オリイブ-いろ (名) [阿列布色] おりいぶノ葉ノ如キ色。深綠色。

オリイブ-ゆ (名) [阿列布油] 前前條ヲ見ヨ。

おり-いろ (名) [織色] 絲ヲ染メテ後ニ、織レル織物ノ名。縞物モアレド、多クハ無地物ナリ、海氣、めくらぢまナド、是レナリ。

〜**おり-がも** (名) [織氈] 「毛皮ノ氈ニ對シテ云フ語、ありがもト云フハ、音通ナリ、ありぎぬノ語原ヲ見ヨ」 毛織ノ氈。又、ありがも。 天武紀、下、十年四月「紫錦、繡、綾、及、氈、褥、云云」 欽明紀、十五年十二月、百濟王上表「奉ニ好錦二疋、氍毹一領、斧三百口ニ」 通證「私記曰、察ニ假名本ニ作ニ織氈ニ」 字鏡 七「氈、加毛」

〜**オリク** (名) [夫人] 〔百濟語、古事記傳、三十「私記ニ、夫人ニ、はしかしトモ、おりけトモ、おりくトモ附ケタリ、ソノ中ニ、高麗ノヲ云ルモアリ、北史、百濟傳ニ、王妻號ニ於陸、夏言、妃也ト云ルニ依ラバ、おりけトアルハ、くヲ、けニ誤レルニヤ」ト見エタレバ、くト云フヲ可トスベシ」 王ノ妻ノ敬稱。 欽明紀、七年、注「百濟本記云、高麗以ニ正月丙午、立ニ中夫人子ニ爲レ王、年八歲」(日本書紀通證訓)

おり-こ (名) [織子] 織屋ニ傭ハレテ、機織ルヲ業トスル者。ハタオリ。織工。

オリジナリチイ (名) 〔英語、Originality.〕 獨創。新機軸。

おり-すぢ (名) [織筋] 練貫ノ絹布ニ、總體ニ筋ヲ太ク織リ出シタルモノ。熨斗目ニ、腰ニ當ル所ノミ織筋ニシタルヲ、腰がはりナド云フ。 還歩色葉集「織筋」

おり-ぞこ (名) [織底] いしぞこ(石底)ノ一種ナルベシ。

〜**おり-た・つ**・ツ・テ・タ・チ・テ (自動、四) [下立] (一)下リテユク。 後撰集、十、戀、二「ココロミニ、猶下り立たム、涙川、ウレシキ瀨ニモ、流レ逢フヤト」 伊勢集、上「身ノ浮ブ、事ヲモ知ラデ、川中ニ、おりたちヌベキ、心地コソスレ」 (二)親シク、其事ヲ行フ。 宇津保物語、國讓、中 七十「右大將おりたちテ、マツリゴトシタマフ」 源、四、夕顏 三十七「人ニモ漏サジト思ヒタマフレバ、惟光おりたちテ」

おり-な (名) [下名] 敍位ノ砌、四位以下ニ敍セラルル人ノ姓名ヲ書キテ、中務、兵部ノ二省ノ丞ニ下スコト。 江家次第、一、七日「有ニ追敍人ニ者、內辨令ニ藏人申ニ下下名ニ」

おり-のこし (名) [下貽] 本雙六ノ類。後ノ、下端ナラムカト云フ。 尺素往來「圍碁、將棊、双六、下貽」 撮壤集「双六、下貽、重嗽」

おり-のべ-ぎぬ (名) [織延絹] 〔尋常ノ織物ヨリ、寸尺長キモノカト云フ〕 北國產ノ一種ノ絹織物。 平家物語、四、南都牒狀事「入道相國ノ謀ニ、近江米二萬石、北國ノおりのべ絹三千疋、往來ノタメニ、山門ヘ寄セラル」一人シテ數多取レル大衆モアリ、一ツモ取ラヌ衆徒モアリ、落書「山法師、おりのべ衣、薄クシテ、恥ヲバエコソ、隱サザリケレ」織りのべヲ、一切モ得ヌ、我レ等サヘ、薄恥ヲカク、數ニ入ルカナ」

おり-は (名) [下端] 「古ク云ヒシ、下貽カ、其變ジタルモノカ」 本雙六ノ類。簺二ツ、駒、雙方、十二ヅツニテ、簺ノ目ニ出デタル數ホド、駒ヲ取リ合ヒ、取リ盡シテ、取レル駒ノ多キ方ヲ勝トス。 油糟(寬永)「一二一二ト、文字ゾ見エケル」おりは打ツ、簺ニ將棊ノ、ウマヲシテ」

おり-は (名) [下際] オリギハ。オルル場合。 淀鯉出世瀧德(寶永、近松作)下「アンマリ鯉鯉言ハンスナ、鯉モ瀧ヘ登ツメ、今デハドウモ、おりはガナイ」 南閨雜話(安永、夢中散人)「オナブリハオユルシヨ、ヌシノチョチ、ラニ乘ツタラ、おりはガアルマイ」

おり-ひめ (名) [織姬] 「織女星ノ訓讀」 たなばたニ同ジ。

おりべ-さかづき (名) [織部盃] 〔古田織部ノ考案、創作ノモノナリト云フ、次次條ヲ併セ見ヨ〕 極メテ淺ク、開キタル形ノ盃。 盞 貞德獨吟百韻「當世、おりべ盃トテアリ、近來ノ事ナガラ、天下通用ニシテ、云フヨリ取リ用フ」

〜**おり-べ-づかさ** (名) [織部司] 古ヘ、大藏省ニ屬セル司。綾羅、錦繡、染物、織物ノ事ヲ掌ル。 倭名抄、五 三「織部司、於里倍豆加佐」

おりべ-りう (名) [織部流] 茶道ノ一派、古田織部正重然(印齋ト號ス、元和元年歿)ノ始メシモノ。

〜**おり-みだ・る**・ル・レ・ラ・リ・レ (他動、四) [織亂] 「みだる(他動)ヲ見ヨ」 模樣ヲ散ラシテ織ル。 枕草子、四、四十三段「葡萄染ノイト濃キ指貫ニ、藤ノ折枝、コトゴトシクおりみだりテ」

オリンピック (名) 〔英語、Olympic. 古ヘ、希臘ニ於テ、四年每ニ催サレシおりんぴあ大祭ノ餘興ニ、各國ノ選手、各種ノ大競技ヲ行ヒシニ始マル〕 國際競技。

おり-もの (名) [織物] (一)木綿、絹、麻、等、スベテ、絲ヲ機ニカケテ織リ成セル物ノ稱。布帛。 (二)〔絹布ニ、多ク文アルモノノ稱。綾〕 竹取物語「イフベクモアラヌ綾おり物ニ、繪ヲカキテ」

おり-もの (名) [下物] (一)產後、子宮ヨリ排泄スル粘液。惡露。 (二)子宮ノ諸病ヨリ出ヅル膿汁、粘液。腰氣。

おり-や (名) [織屋] 機織ヲ業トスル家。ハタヤ。織匠。

おり-ゃ・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 〔おいりあるノ約、御座候ノ意ニ、おいり候ト云フ、孟子抄(文明)三 卅「サアレバ、孔子ニモマシタ聖人デ、おいり候歟ト云フ心ゾ」ござらぬヲ、おりないトモ云フ〕 あり(有)ノ敬語。ゴザル。 孟子抄(文明)四 廿「マチットおりゃッテ給ハレト云フゾ」 同、七 七「君ノ上ニ雖ガおりゃある時、ソレハ惡シク候ト責ムルゾ」

✣**お・りる** (動) おる(降)ノ口語。

〜**おりゐ-の-みかど** (名) [上皇] 位ヲ降リ居タマヘル帝。太上皇。仙洞。 源、三十四、上、若菜、上 卅五「おりゐのみかどトヒトシク、定マリタマヘレド」

〜**おり・ゐる**・ヰル・ヰレ・ヰ・ヰ・ヰヨ (自動、上一) [下居] (一)下リテ、居ル。 源、十六、關屋 三

「[illegible]山ニ、皆おりゐテ、ココカシコノ杉ノ下ニ、東ドモカキオロシ」古今集、九、羇旅「川ノ邊ニおりゐテ、酒ナド[illegible]ミケル」（二）位ヲ退ル。伊勢集、上「[illegible]クテ、帝、おりゐサセタマヒテ、三年ト云フニ」續、七、紅葉賀、三十「帝、おりゐサセタマハムノ御心ヅカヒ、近ウナリテ」

おる・る・ル・ルレ・リ・リ・リヨ（自動、上二）〔降下〕（[illegible]）ノ假名ナリ、他動ノおろすヲ、萬葉集、十五、二十「青柳ノ、枝伐リ[illegible]」トアリ」（一）高キヨリ、低キニ移ル。下ヘ行ク。クダル。サガル。土佐日記、二月四日「ヨスル波、ウチモ[illegible]ナン、ワガ[illegible]フル、人ワスレ貝、おりテヒロハン」（二）罷ル。シリゾク。退出ス。後撰集、十五、雜、一「藤原ノさねきガ、藏人ヨリ、位[illegible]賜ハリテ、明日、殿上[illegible]おりナムトシケル夜」源、四十、幻「[illegible]ニシモ、ざうしニおるる女房ナルベシ」（三）降ル。凝リテ形ヲ成ス。（露、霜、霜、ナドニ）

おる・る・ル・ルレ・レ・レ・レヨ（自動、下二）〔愚〕大ヲ活用セシメ、おほどくろナドノ意カ、若シハ、惚ろるト通ズルカ）オロカニ惚ルル。痴ルル。源、廿一、少女廿「賢ガリタマヘド、人ノ親ヨ、オノヅカラおれタル事コソ出デ來ベカメレ」同、三十八、夕霧「更ニカバカリスクスクシウ、おれテ、年高ル人ハ、タグヒアラジカシト宮フ」おれおれし、おれものナド云フ語アリ）

おる・ル・レ・ラ・リ・レ（他動、四）〔織〕機ニテ、緯ヲ經緯ニ組ミツラス。絲ナドヲ編ミテ、布帛、席、ナド造ル。字鏡「[illegible]、支[illegible]於留戶」倭名抄、七三「[illegible]、於利毛」

オルガン（名）〔風琴〕〔英語、Organ.〕次條ノ（一）ニ同ジ。

オルゴル（名）〔風簫〕〔蘭語、Orgel.機關ノ義〕（一）西洋ノ樂器。大小種種ノ管ヲ立テ、下ニ匣アリ、中ニ鞴アリテ、踏板ヲ踏ミ、風ヲ送リテ鳴ラス。

[illegible]

おれ（名）〔己〕〔おのれノ略〕オノレ。メンメン。金槐集、雜、朝ニ、侍ドモ見エサリシカバ「旅ヲ行キシ、跡ノ宿守、おれおれニ、私アレヤ、今朝ハマダ來ヌ」

おれ（代）〔己〕〔おのれノ略〕自稱ノ代名詞。我ノ意、多クハ下輩ニ對シテ用ヰラル。[illegible]侍日記「[illegible]河[illegible]女房[illegible]御前ノオハシマシテ、イザイザ、黑戶ノ道ヲ、おれラ知ラヌニ、教ヘヨ、ト仰セラレテ」片言「[illegible]安、貞德ニ「みづからノコトヲ、をれト云フハ、尊氏公ノ、世ノ中ヲ心ノママニシタマヒツル頃ヨリ、別シテハヤリ出デ侍リ」

おれ（代）〔爾〕〔己ヲ略シテ、對稱ニ用ヰタルナルベシ〕對稱ノ代名詞。汝ノ意、賤シメテ云フニ用ヰラル。音ヲ轉ジテ、うれ。神代紀、下廿「海中潮回、[illegible]、口女（[illegible]）從今以往、不得呑[illegible]私[illegible]」神武紀、[illegible]「[illegible]所造屋、[illegible]自居之[illegible]、此云[illegible]」宇治拾遺、十、第一條「舍人大キニ嗔ダテテ、おれハ何事云フゾ、云云」

お・れ（動）〔愚〕おる（愚）ノ條ヲ見ヨ。

おれい・まゐり（名）〔御禮參〕神佛ヘカケタル願ノ成就シタル謝禮ニ、參詣スルコト。願解。願賽　報賽

おれう（名）〔御寮〕尼ノ敬稱。御庵。狂言記、比丘貞「モノマウ、おれう樣、御宿ニゴザリマスカ」

オレエブ（名）〔阿列布〕おりいぶニ同ジ。

オレエブゆ（名）〔阿列布油〕おりいぶゆニ同ジ。おりいぶノ條ヲモ見ヨ。

おれ・おれ・し・シキ・シケレ・シク・シク（形、二）〔愚愚〕〔おる（愚）ノ條ヲ見ヨ〕オロカシ。痴レ痴レシ。源、廿九、行幸二「アヤシウおれおれしき本性ニ添フ、[illegible]サニナム侍ルベキ」同、廿二、玉鬘「おれおれしく、[illegible]心ノ[illegible]」

オレンジ（名）〔英語、[illegible]〕[illegible]巴ノ蜜柑。

おれ・もの（名）〔愚物〕〔おる（愚）ノ條ヲ見ヨ〕愚レタル者。オロカモノ。シレモノ。痴漢　源、十七、繪合廿「深キ勞ナク見ユルおれものモ、サルヘキニテ、[illegible]キ、[illegible]タケヒモ出來レド」

おろ・おろ（副）〔疎疎〕〔疎かノ語根ヲ重ネテ云フナリ〕（一）スコシ。イササカ。不十分ニ。オボツカナキナガラ。[illegible]一、行賀「おろおろ、唐ノ昔ノ跡ヲ尋ネハベルニ」[illegible]物集、[illegible]「佛ニ綱ヲカケテ[illegible]スヘキ旨、少少申スベシ」宇治拾遺、一、第三條「前ノ翁ヨリハ、天骨モナク、おろおろ舞デタリケレバ」同、十一、十二條「七十アマリバカリナル翁ノ、髮モハゲテ、白キトテモ、おろおろアル頭ニ、袋ノ烏帽子ヲ引キ入レテ」（二）泣聲ノ、ウルミ、シブリテ、聞キ取ラレズニ云フ語。「おろおろ聲」おろおろ泣ク」おろおろ淚」

おろか（名）〔愚〕〔失意けタル意〕智ノ鈍キコト。理解ノ乏シキコト。痴レタルコト。愚レタルコト。ウツケ。アハウ。バカ。天治字鏡、四廿「[illegible]、劣弱也、於呂可奈利」名義抄「愚、[illegible]、オロカナリ」

おろか（副）〔疎〕〔おろかすノ語原ヲ見ヨ〕（一）〔オロソカ。ナミ。竹取物語「御門ノ使ヲバ、イカデカおろかニセン」（二）言フマデモナク。云フニ足ラズ。[illegible]（享保、近松作）千里竹「虎ハおろか、象デモ鬼デモ、一捫ギ」

おろか・おひ（名）〔穉〕〔疎生ノ義、繁ク[illegible]

おろか・し・シキ・シケレ・シク・シク（形、二）〔愚〕[illegible]

[illegible]賢木、住吉物語「主計ノ介トテ、七十餘リナル翁ノ、目ウチタダレ、おろかしきガ侍ルナリ」

おろか・み（副）〔疎〕〔おろかハ、おほろかノ約〕[illegible]萬葉集、十八、廿「於呂可爾ゾ、我レハ思ヒシ、乎不ノ浦ノ、荒礒ノメグリ、見レド飽カズケリ」宇津保物語、[illegible]上、上「[illegible]、アケ[illegible]おろかならズ、思ヒタマヘナガラ」

おろか・もの（名）〔愚者〕オロカナル人。シレモノ。オレモノ。アハウ。愚物。

おろ・く・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ（自動、下二）〔[illegible]〕[illegible]意　ウツケテアリ。[illegible]、四十[illegible]、日本武尊、[illegible]山ニテ大蛇ヲ[illegible]タマヒテ、[illegible]」

おろくし（名）〔於六櫛〕〔信濃國、西筑摩郡、藪原ノ地（木曾街道）ノお六ト云フ女子、地ニ、黃楊ノ材多キニ因リテ、製シ始メタルモノト云フ、或ハ、云フ、頭風ノ病ニテ、（[illegible]）[illegible]、何處、いづく）於六ハ當字ナリト」女ノ髮ノ梳櫛ノ一種。黃楊ニテ作ル、頭垢ヲ梳キ取ルニ用ヰル、全體、方形ニテ、齒極メテ密ニシテ、長シ。

おろ・け（[illegible]）前前條ヲ見ヨ。

おろし（名）〔下〕（一）〔オロスコト。（二）〔おろしものノ略。（三）わさびおろし、又ハ、おろしだいこんノ略。（四）次次條ノ語ノ略

おろし（名）〔颪〕〔吹き下しノ義、字ハ、下

風ノ合字、やまおろしノ條ヲ見ヨ」山ヨリ吹キ下ス風。元良親王御集「根ミツツ、ナゲキノカタキ、山ナラバ、おろしノ風ノ、ハヤク忘レヌ」(山おろしノ風ヲ略シタマヒシナリ)「山おろし」比叡おろし」伊吹おろし」

おろし-うり (名) 〔卸賣〕 問屋ヨリ、貨物ヲ、請賣人ニ賣ルコト。おろし。(小賣ニ對ス)

おろし-がね (名) 〔卸金〕 大根、山葵、生薑、芋ナド、擦リオロス器。製、種種アレド、今、多クハ、わさびおろしヲ用キル。其條ヲ見ヨ。

〔おろし-お・む・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ (他動、下二) 〔下籠〕 御簾、格子、蔀ナド、悉ク下ス。(戸ニ、たておむるト云フニ同ジ) 宇津保物語、國讓、下五十四「廣キ家ニ、云云、人音モセズ、おろしおめテ、草木バカリゾアリツル」源、十四、澪標三十「御精進ニテ、御簾おろしおめテ、修行ハセタマフ」

おろし-おめ (名) 〔下米〕 おろしものナル米。宇治拾遺、一、十八條「大饗ノおろし米トテ、給仕シタル侍勤ノ者ドモノ、食ヒケルナリ」

おろし-だいこん (名) 〔下大根〕 大根ヲ、おろしがねニテオロシタルモノ。ダイコオロシ。

おろし-なみ (名) 〔卸並〕 賣直ノ、卸直ト同ジキコト。

おろし-ね (名) 〔卸直〕 卸賣ノ直段。

〔おろし-もの (名) 〔下物〕 神佛ノ供物、又ハ、貴人ノ膳部ノ殘物、或ハ、使用後ノ品物ナドヲ、賜ハルコト。常ニ略シテ、おろしトノミ云フ。オサガリ。オスベリ。オシタ。内匠寮式「下食 薦十枚、各方一尺七寸」侍中亡要、五、下、物「大饗之時、從二御厨子所一[illegible]名也」枕草子、四、四十四段「七日ノ御節供ノおろし」仲文集「雪降リタル翌日、院ノ御粥ノおろし賜ハセテ」古事談、二、臣節「御料ノ御おろしヲ出サレタリ」狹衣、二、上十六「ヨロシキ紙ヤサブラフ、筆ノおろし賜ハラムト申シタマヘバ」

おろしもの-の-つかさ (名) 監物ノ條ヲ見ヨ。

おろし-や (名) 〔下矢〕 おとしやニ同ジ。

おろ・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) 〔下〕 (一)〔低キニ移ス。下へ遣ル。神代紀、上四「以二天之瓊矛、指下而探レ之」「馬荷ヲ下す」「帆ヲ下す」(二)〔垂レ下グ。垂下 枕草子、五、五十段「雨フリテ、神モオドロオドロシウ鳴リタレバ、物モ覺エズ、タダおろしニおろす二幕ヲ下す」(三)〔投ゲ入レテ沈マシム。投 宇津保物語、祭使七十「御前ノ池ニ網おろし、鵜おろしテ、鯉、鮒トラセ」「碇ヲ下す」(四)貶ス。下グ。クダス。貶「位ヲ下す」(五)〔言ヒ劣ス。誘ル。クサス。ケナス。源、廿一、少女八「オホナオホナ土器トリ給ヘルヲ、アサマシウ、咎メ出ツ下す」(六)吹キ降ス。颪 千載集、五、秋、下「御室山、下す嵐ノ、サビシキニ、妻トフ鹿ノ、聲タグフナリ」(七)〔新シキ品ヲ用キ初ム。新試 宇津保物語、藤原君二十六「ミヅカラノ料ニハ、三合ノヨネおろしテ食ヒツツ」「筆ヲ下す」履物ヲ下す」(八)〔切リ截ツ。截 萬葉集、十五七「青柳ノ、枝切リ於呂之、ユタネ蒔キ、ユユシキ君ニ、戀ヒワタルカモ」宇治拾遺、四、第七條「猪ヲ、生ケナガラ、おろしケルヲ」(九)〔剃リ去ツ。剃去 大和物語、上「御髮ヲ下し給ヒケレバ、ヤガテ御トモニ、頭おろしテケリ」(十)卸金ニテ擦リクヅス。擦「大根ヲ下す」(十一)鑢ニテ磨リヘラス。硯 宇治拾遺、二、第四條「件ノ金ヲ取リテ、云云、おろしテ見ケレバ、キラキラトシテ、マコトノ金ナリ」「鐵ヲ下す」(十二)藥研ニテ研リテ、粉ニス。研 (十三)胎兒ノ産ヲ、强ヒテ促ス。墮胎 元曲集「男ノ、人ノ國ニマカルホドニ、兒ヲおろしテケル女ノ」安永ノ川柳「中條デ、度度おろす、陰陽ノ子」(十四)卸賣ヲナス。頭を下す、飾を下すトハ、髮ヲ剃リテ僧トナル。落飾ス。

おろせ (名) (一)駕籠ヲ舁クモノ。カゴカキ。壽門松(享保、近松作)上「おろせ、揚屋ノ附ケ屆ケ」(二)次條ノ語ノ略。色道大鑑(延寶)二「おろせ、是レモ、駕乘物ノ事ナリ」長町女腹切(正德、近松作)上「顏ノ見タサモヤルセナク、おろせ履フテ草鞋ガケ」

おろせ-かご (名) 〔駕籠〕 京阪地方ノ遊里ノ語。駕籠乘物。略シテ、おろせ。風流曲三味線(寶永、白笑)「おろせかごニモ乘ラズ、足ヲ宙ニシテ、宿へ歸リ」

〔おろそか-ニ (副) 〔疎〕 〔おろハ、疎ノ語根、そかニハ、副詞ノ接尾語、おおそかニ、あはそかニナドモアリ〕 注意セズ。オロカニ。ユルガセニ。ナホザリニ。粗略ニ。字鏡八十二「簡、於呂曾可爾」名義抄「疎、オロソカナリ、ウトシ」麤、オロソカナリ、アラシ」

おろぬ・く (動) 〔疎拔〕 〔疎ニ拔く、卽チ、間隔ニ拔く意〕 轉ジテ、專ラ、うろぬくト云フ。其條ヲ見ヨ。

おろよ・し・キ・ケレ・ク・ク (形、一) 〔疎良〕 (一)少シヨロシ。町人嚢(享保)三「おろよし、少シヨキヲイフ、オロカニヨシトイフコトニヤ」(二)ワルシ。(惡) 東海道中膝栗毛(文化、一九)九編、下「客共ニ向カッテ、アンガイおろよいコトヌカイテ、ヨカバイモノカ」

お-わけ (名) 〔御分〕 おゐた(御下)ニ同ジ。

お-ゐ-ど (名) 〔御居處〕 尻ノ、婦人語。キシキ。

お-ゑ-しき (名) 〔御會式〕 日蓮宗ノ會式ノ敬稱。

お-ゑ-どころ (名) 〔御繪所〕 ゑどころヲ見ヨ。

か　が

か 五十音圖、加行第一ノ假名。此ノ一行ノ假名、か、き、く、け、こノ五音ハ、皆、熟音ニシテ、其發聲ハ、喉ヨリ、奧齒ニ觸ルルガ如クシテ出デ、あ、い、う、え、お、ノ韻ト相熟シテ成ル。かハ、う、又ハ、ふ(うノ如ク呼ブモノ)ニ連ナルトキハ、こノ如ク呼ブコトアリ、かうべ、(首)かふ(甲)ノ如シ。

が ぎ、ぐ、げ、ごト共ニ、五十音圖、加行ノ濁音ノ假名。此五音ハ、同行ノ清音ナル、か、き、く、け、こ、ノ音ヲ、重ク呼ブガ如クシテ出ヅ、而シテ、本濁ト、連濁トノ別アリ。がハ、下ニ、う、又ハ、ふ(うニ呼ブモノ)ヲ受クルトキハ、ごノ如ク呼ブコトアリ、がうな、(寄居蟲)がふ(合)ノ如シ。

〔か (名) 〔甕瓮〕 〔笥ト通ズ〕 器皿ノ古言。熟語ニノミ用キラル。「瓱甕」平瓮」みか」たまらか」

〔か (名) 〔蚊〕 ぼうふりむし、ノ羽化セルモノ。身細ソク、脚甚ダ細ソク長クシテ、色、灰白ナルアリ、綠ナルアリ、雄ニハ毛冠アリ、雌ハ冠無クシテ、稍肥ユ。夏月羽化シ、晝ハ伏シ、暮ヨリ出デテ、群リ飛ビ、翅ニテ鳴ク、喙、利クシテ、人、獸等ノ血ヲ吸フ。倭名抄、十九三十「蚊、加」箋注倭名義「蚊、可」

〔か (名) 〔鹿〕 〔鳴ク聲ヲ名トス、「かひよトゾ鳴ク」ナド云フ〕 鹿ノ本名。牡鹿ナ

[illegible] 二十八年 [illegible]
[illegible] 名抄、十八三[illegible]、九、[illegible]、下「かヲ指シテ、[illegible]トエフ人、アリケレバ」「[illegible]」

か (名) 【氣】〔氣ノ轉(竹、たかむら。酒、さ[illegible]〕[illegible] [illegible]ナ[illegible]

か [illegible] [illegible]ニ通ズ」[illegible]

[illegible]二句ヘ、人ノ知ルベク」「[illegible]かー[illegible]ノか」

か (名) 【加】 (一)算術ノ語。ヨセザン。(二)クハハルコト。益スコト。「若干ノ加トナル」

か (名) 【佳】 美シキコト。好キコト。白 [illegible] 詩亦何佳」

か (名) 【可】 好シト許スコト。ヨロシキコト。[illegible]

か (名) 【瑕】 け(瑕)ノ條ヲ見ヨ。

か (代) 【彼】 遠キ物事ヲ指シテ云フ語。(此、其ニ對ス)多クハ、かれト云フ。アレ。萬葉集、廿[illegible]「彼ハ誰時」古今集、十三、[illegible]、三「思ヘドモ、人目ツツミノ、高ケレバ、かハト見ナガ[illegible]

か [illegible] ヨ) 古事記、下(仁徳)六「山縣ニ、蒔ケル菘菜モ、吉備人(黒日賣)ト、共ニシ摘メバ、樂シクモアルか」[illegible]イトヨリカケテ、白露ヲ、玉ニモヌケル、春ノ柳か」「[illegible]ニモアルか」

か 【[illegible]】 [illegible] 問ヒ掛クル意ヲナス。「我レか人か」「アルか無キか行クか」[illegible]

か (接尾) 【日】 〔來經ノ約ナル、けノ轉、五日の日ナド云フハ、[illegible]〕 [illegible] 夜ニ對シテ[illegible]ヲ數フルニ云フ語。[illegible] 一日一夜ヲ數フルニモ云フ。[illegible] 日讀ノ轉ナリ。

か [illegible] コロ、[illegible]

か (接尾) 【箇】【个】【個】 〔廣韻「箇、个、古賀切」[illegible]「個」字彙「個、與个同」(箇ト云フハ、百姓讀ナリ)「ケ」トモ記スハ、个ノ謬トモ思ヘド、箇ヲ省キテ、竹冠ノ一片ヲ取ルナルベシ〕 物事ヲ數フルニ用キル語。大學「若有二一个臣二」荀子、議兵篇「負矢五十箇」字[illegible]

か (接尾) 【家】 〔家ノ條ヲ併セ見ヨ〕 技藝ノ、其道ノ人ナルヲ云フ語。「書家」「畫家」

か [illegible] 【[illegible]】 [illegible]

か [illegible]

か (發語) 發語。意無シ。「か細シ」「か弱シ」「か黒[illegible]」

が (名) 【賀】 (一)祝フコト。コトプクコト。[illegible]「新年ノ賀」(二)(齡ノ、老ニトドキタル時ニスル祝事。がのいはひ(賀祝)ヲ見ヨ。古今集、七、賀「仁和ノ帝ノ、ミコニオハシケル時、御ヲバノやそぢノ賀ニ」サダトキノ皇子ノヲバノ、よそぢノ賀ヲ、[illegible]

が (名) 【駕】 人ノ乘リテ、馬ノ曳ク車。馬車。ノリモノ。論語、郷黨篇「不レ俟レ駕行矣」「駕ヲ命ズ」「駕ヲ枉グ」

が (名) 【我】 (一)佛教ノ語。我レヲ利シ、我レヲ讃スルコト。[illegible] (二)[illegible] 母「因、母」我」

が (名) 【蛾】 (一)ヒヒル。[illegible]

が (名) 【[illegible]】 [illegible]

が (名) 【雅】 (一)正シク、善キコト。ミヤビナルコト。[illegible] (二)厭ハシキ飾ナド無ク、瀟灑トシテ、愛スベキ趣アルコト。[illegible]

が [illegible]

が [illegible] シテ[illegible]雪ハ坂マラズ」

が [illegible] ス辭。古事記、上[illegible]長歌「青山ニ、日賀隱ラバ」同、中(景行)[illegible]長歌「アラタマノ、年賀來經レバ」

が (助) 【之】 名詞ト名詞ノ關係ヲ示ス辭。[illegible]

が [illegible] 辭。「行キシが、逢ハズ」辞トハナリツルが、[illegible]カリ」

が [illegible] 【[illegible]】 [illegible] モ鶴」古今集、十九、長歌「老イズモナズノ、藥モが」

か-あい・い (形) 【可愛】 かはゆしノ音便[illegible]

かあ-かあ [illegible] [illegible]

カアキイ-いろ (名) 〔かあきいハ、印度[illegible]〕 [illegible]

かあ-さま (名) 【母樣】 かかさまノ小兒語。[illegible]

ガアゼ [illegible] [illegible]

カアタア (名) [illegible] [illegible]

かあちやん（名）「母樣」かあさまニ同ジ。

カアテン（名）［窓帷］「英語、Curtain.」マドカケ。幕。

カアド（名）［紙票］「英語、Card.」厚紙ノ小札。紙牌。

カアドしき（名）［紙票式］各箇ノ事ヲ、各箇ニ紙票ニ記シックルコト。簿記、又ハ、圖書館ノ書籍ノ目錄ナドニ云フ。一綴ニシタル帳面ニ書キ繼グニ對ス。

カアブ（名）「英語、Curve.」（一）曲線。（二）野球、庭球ナドニテ、打チ、又、投ゲタル球ガ、曲線ヲ描キテ進ムコト。

かあを（名）「かは、發語」靑ト云フニ同ジ。萬葉集、二十八「香靑ナル、玉藻沖津藻」

かい（名）［櫂］「搔きノ音便、水ヲ搔きヤル意ナラム」船ノ具。細長キ村ノ端ヲ平タクシタルヲ、舷ノ繩ニカケ、本ヲ握リ、端ニテ水ヲ搔キテ、舟ヲ行ルモノ。古ヘニ云ヘル加伊モ、其製、今ノ物ト異ナラザルベシ。又、檝アリ。字鏡「二櫂、船乃加伊」倭名抄、十一「在旁撥水曰櫂、加伊」萬葉集、二十廿長歌「漢津加伊、濤クナハネソ、邊津加伊、濤クナハネソ」

かい（名）［粥］「かゆノ音便轉、鮎、あい」かゆニ同ジ。倭名抄、筑前國、鞍手郡「粥田、加以多」（高山寺本）

かい（名）［蚖］「蚖ノ古音」古語、あくた。今、蚖蟲ト云フ。其條ヲ見ヨ。字鏡、六十「蚖、加伊」倭名抄、三十「蚖、加以」

かい（名）［戒］イムコト。佛敎ニ、人ヲ戒メテ、惡ヲ防ギ、非ヲ止ムル制。二戒、三戒、五戒、八戒、十戒等ノ名目アリ。靈異記「戒名」制、能制二一切不善法戒」御位前紀「出家之途、以戒爲本」後撰集、十五、詞「一宮姫ノ御息所、尼ニ成リテ、戒受ケムトテ、仁和寺ニ渡リテ侍リケレバ」「戒ヲ保ツ」「戒ヲ授ク」

かい（名）［海］ウミ。ナダ。（陸ニ對ス）論語、公冶長篇「道不行、乘桴浮于海」

かい（名）［楷］楷書ノ條ヲ見ヨ。「楷、行、草」

かい（名）［階］（一）キザハシ。禮記、曲禮、上篇「客若降等、則就主人之階」菅家集、六、菅原家讌「侍從大納言（成通）云云、階隱ノ間ニ立入テ、階ニ足ヲカケテ」（二）等。キダ。クラヰ。段。宇津保物語、國讓、下「女カウブリ一かい進エテ、內侍、三位ノ加階シ給フ」「位、一階ヲ進ム」（三）家ノ層ヲ數フルニ云フ語。「二階家」「三階建」

かい（名）［解］トキアカシ。說明。解釋。

かい（名）［蓋］蓋フ狀ヲ成スモノヲ稱スル語。「三蓋松」「笠、一蓋」

かい（名）［界］畍ニ同ジ。「界紙」「界畫」

かい（接頭）［搔］「搔きノ音便、用法ハ、接頭語ノ、うち（打）ノ語原ヲ見ヨ」動詞ノ意味ヲ强クスル接頭語。「かい伏ス」「かい潛む」「かい敷く」「かい捨ツ」「かい列ヌ」「かい探ル」

かい（接尾）［界］（一）佛敎ニ、世界中ノ區域。「天上界」「人間界」（二）群。ナカマ。「實業界」「經濟界」

がい（名）［害］ソコナヒ。サマタゲ。サハリ。ワザハヒ。（利ノ反）詩經、邶風、泉水篇「還車言邁、遄臻于衛、不瑕有害」禮記、經解篇「除去天地之害、謂之義」宇津保物語、俊蔭二十「コノ獸、がいノ心ナスヤト見給ヘ」「害トナル」

がい（名）［我意］我ガ意ノママニ、事ヲ遂ゲムトスルコト。ワガママ。剛愎。盛衰記、三、會定康島指事「偏ニ太政入道ノ雅意（我意ノ宛字）ノ所行也」「我意ニ任ス」「我意ヲ振舞フ」

がい（連體）［該］ソノ。コノ。「該事件」「該官署」

かいあん（名）［乂安］ヲサマリ、ヤスラカナルコト。乂安。漢書、郊祀志「天下乂安」史記、河渠書「諸夏乂安」增鏡、第十五、村時雨「海內乂安之世、城北之陽之春」

かいい（名）［介意］「心ニ介む意」氣ニカケテ思フコト。列子、黃帝篇「雖傷二破於前一、不二用介意一」

かい・い（形）かゆし（痒）ノ音便口語。

かいう（名）［海宇］かいだい（海內）ニ同ジ。唐傳良詩「海宇正集、蘆、草木亦榮華」

かいうん（名）［海運］船ニテ、海上ヲ運送スルコト。（陸運ニ對ス）元史、食貨志「海運、自二世祖用二伯顏之言一、歲漕二東南粟一、由二海道一以給二京師一」

かいうん（名）［開運］運ヲ開クコト。運命ノ、好クナルコト。（神佛ノ通力ナドニテ）

がいえう（名）［概要］要點ノアラマシ。オホヨソ。大要。

かいえき（名）［改易］「改め易ふる義」（一）其職ヲ停メテ、他人ヲシテ、ソレニ代ラシムルコト。漢書、何武傳「改二易大臣一」平家物語、二、座主流事「天台座主明雲大僧正、公請ヲ停止セラルル上、云云、如意輪ノ御本尊ヲ召シカヘシテ、御持僧ヲ改易セラル」（二）德川氏ノ制ニ、士分ノ閏刑ノ名。蟄居ヨリ重ク、切腹ヨリ輕シ、族籍ヲ除キ、領地、家屋敷ヲ召上グ。戶籍ヲ改易スル遷徙罪ニテ、賊盜律ノ、移鄕ヨリ出デタルカト云フ。御定書百箇條、御仕置仕形之事「一、改易、大小褒、宿江相歸シ、夫ヨリ爲二立退一申候、但、家屋敷取上、家財無構」

かいえん（名）［開演］演說、講義、又ハ、遊藝、演劇、等ヲ始ムルコト。

がいか（名）［凱歌］凱陣ヲ祝フ歌。カチドキ。愷歌。周禮、春官、樂師「凡軍大獻、教二愷歌一遂倡レ之」梁武帝集序「振旅而歌、曰二凱歌一」司馬法「得レ意則愷樂、愷歌示レ喜也」東鑑其意「凱歌ヲ擧グベキ時ニアラズ」

かいかい（感）乳兒ノ泣ク聲。榮花物語、一、月宴「御子、かいかいト泣キタマフ」

がいがいと（副）［皚皚］霜、雪ニテ、一圓ニ白キ狀ヲ云フ語。皓皓ト。杜甫詩「崖沉谷沒白皚皚」劉楨、贈二五官中郞將一詩「霜氣何皚皚」

かいかう（名）［開港］ミナトヲヒラクコト。外國ノ船ヲ、港ニ出入セシメテ、交易ヲ行フコト。

かいかく（名）［改革］不完全ナル所ヲ、改メ革フルコト。「政事ノ改革」

かいかく（名）［海角］岬。ミサキ。白居易詩「海角天涯猶始休」

かいがく（名）［海嶽］恩惠ノ、高ク、且ツ、深キヲ、嶽ト、海トニ譬ヘテ云フ語。羅隱詩「恩如二海嶽一何時報、恨似二煙花一觸處生」

かいがけ（名）［皆掛］貨物ヲ、風袋ト共ニ、秤ニ掛クルコト。上目。

かいがね（名）［胛］「舁きが根ノ音便、肩グル骨ノ意ナラム」人ノ背ニテ、肩ノ下ノ兩旁ニ、高クナレル骨。今、訛リテ、かいがらぼねト云フ。又、カリガネボネ。倭名抄、三十「胛、加伊加禰、肩之下也」

かいかふ（名）［開闔］「職原抄標註ニ、開闔ハ、善ヲ開き、惡ヲ闔づる義ニテ、判斷ノ人ナリト見ユ」記錄所、和歌所、御

[illegible]

かい-がん (名) 【海岸】 ウミノキシ。海邊。[illegible]

かい-がん (名) 【蟹眼】〔湯玉ノ沸キアガル形、蟹ノ眼ニ似タリ〕 茶釜ノ湯ノ、煮エカヘルコト。[illegible]

かい-がん (名) 【開眼】 開眼ノ條ヲ見ヨ。

かい-がん (名) 【開龕】〔龕ハ、神佛ヲ安置スル小サキ箱、世ニ、廚子ト云フモノ〕 かいちやう(開帳)ニ同ジ。

かいがん-せん (名) 【海岸線】 海岸ノ距離。

かいがん-はう (名) 【海岸砲】 海岸ノ要塞ニ備ヘ付ケテ、敵ノ軍艦ヲ撃ツニ用ヰル大砲。

かい-がらぼね (名) [illegible] かいがねニ同ジ。其條ヲ見ヨ。

かい-き (名) 【開基】 モトヰヲヒラクコト。始メテ、寺ヲ建テタルコト。又、其人。[illegible]

かい-き (名) 【皆既】 皆既蝕ノ略。日蝕ノ條ヲ見ヨ。

カイキ (名) 【改機】 [illegible] 製出シタリト云ヘバ、外來語ナラム、甲斐絹ナドニハアラズ」 絹布ノ名。元ハ舶來シタリ、寛文年中、甲斐ノ郡内(都留郡)ノ職工、外邦ノ製ニ倣ヒテ織出ス。(工業材料) 厚ク密ニ、諸染色ヲ織色ニ織[illegible]ルヲ、俗ニがいきト云フ、其端織ニシテ、[illegible]

がい-き (名) 【咳氣】〔咳ノ出ヅルコト〕 [illegible]

かい-ぎ (名) 【解義】 義理ヲ解キアカスコト。[illegible]

かい-ぎう (名) 【海牛】 ウミスズメ。

かいき-しよく (名) 【皆既蝕】 日蝕ノ條ヲ見ヨ。

かい-きふ (名) 【階級】 (一)キザハシ。キダハシ。[illegible] (二)身分ノ高下。シナ。クラヰ。キダ。段。等級。[illegible]

かい-きん (名) 【皆勤】 職ニ當リテ、一年、或ハ、一月ノ間、或ハ、定メラレタル期限中、一日モ缺クルコトナク勤メタルコト。[illegible]日「本番拾ケ年皆勤、同御供番十ケ年皆勤之面面」

かい-きん (名) 【解禁】 サシトメヲトクコト。[illegible]

かい-ぎやう (名) 【戒行】 佛教ニ說ケル諸戒ヲ守リテ、修行スルコト。[illegible]「[illegible]尼、戒行ニ」保元物語、二、[illegible]「十善ノ戒行、重キニ依テ」

がい-きやう (名) 【概況】 大概ノ情況。アラマシノ有樣。

かい-ぎやく (名) 【諧謔】 [illegible]

かい-きよく (名) 【海氣浴】 身ヲ海上ノ空氣ニ當ツルコト。[illegible]

かい-ぐ (名) 【皆具】 (一)裝束ノ類、一式具ハリタルコト。[illegible] (二)馬具ノ、鞍、鐙、障泥ナド、皆具ハリタルニモ云フ。[illegible]道入寺事「鎧、兜、皆具聯ビテケリ」

がい-く (名) 【街衢】 チマタ。町。[illegible]

かい-ぐう (名) 【海隅】 ウミノスミ。海邊ノハテ。[illegible]

かいく-けん (名) 【海狗腎】 膃肭臍ノ一名。本草綱目類纂必讀(清ノ河鎭)「膃肭臍生東海[illegible]」[illegible]かいくト云フ[illegible]

かい-ぐん (名) 【海軍】 陸軍ニ對シテ、一國海上ノ防禦トスル軍備。[illegible]

かいぐん-きやう (名) 【海軍卿】 海軍大臣ノ舊稱。(明治十八年改稱)

かいぐん-く (名) 【海軍區】 海軍守備ノ爲メニ定メタル、海岸、海面ノ區域。我ガ邦ニテハ現ニ、全國ヲ三區ニ大別シ、各區ニ軍港、鎭守府ヲ設ケラル。

かいぐん-しやう (名) 【海軍省】 海軍一切ノ事ヲ總轄スル省。

かいぐん-だいじん (名) 【海軍大臣】 [illegible] 大臣ノ一、[illegible]

かいぐり-かいぐり (名) 幼兒ノ戲事。兩手ニ[illegible]テスルナリ。「かいぐりかいぐり、ト[illegible]」

かい-くる・ル・レ・ラ・リ・レ (他動、四) 【掻繰】〔かきくるノ音便〕 左右ノ手ヲ、互ニ用ヰテ、繰リ寄ス。(絲、綱ナド)「手綱かいくり[illegible]」

かい-くれ (副) 【皆暮】〔皆紅、皆金色ナド同趣ノ語ナリ、くれハ、暗クシテ見エヌ意〕 カイシキ。スベテ。一切。平家女護島(享保、近松作)二「かいくれニ行方ナク、[illegible]」

かい-くわ (名) 【開化】 ヒラケ、カハルコト。世ノ物事、人ノ智識ナドノ、時ト共ニ移リテ、好キニ進ムコト。[illegible]

かい-ぐわ (名) 【界畫】〔界ハ、罫ニテ、定規ニテ罫ヲ引クコト〕 入リクミタル樓閣、臺榭ナドカキタル繪。

かい-くわい (名) 【開會】 會ヲ開クコト。「議會開會」展覽會開會」

かい-ぐわい (名) 【海外】 〔海内ニ對ス〕 ウミノホカ。我ガ國ノ外ノ地。[illegible]長發篇「海外有截」

かい-くわつ (名) 【開豁】 (一)眺望ノ、開ケ廣ゴルコト。[illegible] (二)心ノ、寛ヤカナルコト。[illegible]

がい-くゎつ (名) 【賅括】 オホグクリ。

かい-くゎん (名) 【開卷】 披キタル書物ノ、初ノ部分。カキダシ。カキハジメ。卷頭。「開卷第一」

かい-くゎん-ぜい (名) 【海關稅】 海路ヲ經テ、輸出入スル貨物ニ課スル關稅。

かい-けい-ゐ (名) 【蓋擎子】 靑瓷ノ碗ノ、蓋ト、臺ト。靑瓷ニハ、元旦ノ供御ノ御齒固ノ具ヲ盛ルナリ、食ス時ハ、靑瓷ヲ留メラレ、蓋ト、擎子トハ、女官持チテ退ルナリ。江家次第、一、元旦供御藥「供御齒固具、盛靑瓷、云云、每物有蓋擎子」江次第抄「蓋、靑瓷之蓋也、擎子、靑瓷之尻居也」建武年中行事、元旦供御藥「御齒固、一ノ御盤ニスウルナリ、云云、かはらけバカリヲ取リテ、かいけいゐヲバ、本ノ如ク、盤ニスヱテカヘシタマヘバ、云云」

かい-けつ (名) 【解決】 事ノモツレヲ解キテ、決斷スルコト。

かい-け-つ (動) かきけつ(搔消)ノ音便。大和物語、下「逢ヒテ物モ云ハント思ヒテ、行キケレバ、かいけつヤウニ失セニケリ」

かい-げつ (名) 【海月】 (一)海上ノ月。白居易詩「樓前海月伴潮生」 (二)クラゲ。本草和名、下「海月、狀似月、在海中、久良介」

かい-けふ (名) 【海峽】 海ノ、陸ト陸トノ間ニ、狹ク通ズルトコロ。瀨戶。

かい-げふ (名) 【開業】 業ヲ開クコト。生業ヲ始ムルコト。史記、秦紀「昔我繆公、云云、爲後世開業、甚光美」

かい-げん (名) 【改元】 古ヘ、帝王ノ代替ノ年ニ、改メテ元年ヲ稱スルコト。後ニ、年號ヲ改ムルコト。天子御代始、(御卽位翌年)革命、(辛酉ノ年)革令(甲子ノ年)ニハ、改元スト定メラレ、叉、吉事、(賀事、祥瑞)凶事(天變、地災、疾疫、兵事、怪異)ニ、臨時ノ改元アリキ。明治天皇ノ御代ニ、慶應四年ヲ改メテ明治元年トシ、以後、一世一元トスト、其年ノ九月八日ニ詔アリ。(年號、及、元年ノ條、見合スベシ) 中說「改元立號、非古也」保元物語、一、鳥羽院崩御事「明ル四月二十七日、改元有テ、保元トゾ申ケル」

かい-げん (名) 【戒嚴】 戰爭、若シクハ、事變アル時、兵備ヲ以テ、一地方ヲ嚴重ニ警戒スルコト。戒嚴令ニテ宣告セラル、此區域內ニテハ、常法ヲ停止シ、軍事處分ニ委セラル。正字通「凡强寇將至設備、曰戒嚴」帝國憲法、第十四條「天皇ハ戒嚴ヲ宣告ス」

かい-げん (名) 【開眼】 〔天智紀、十年十月「開百佛眼」トアリ、筆ニテ點眼スル事ナリト云フ〕 佛家ニ、佛像落成ノ時ニ行フ式。寶積「佛法存故、人皆開眼」元亨釋書、廿一、資治表、持統天皇十一年六月「帝不豫、百官剏佛像、祈病、七月像成、於藥師寺設開眼會」東見記「開眼ハ、佛ヲ新ニ作リ、佛殿ヘ入ルル事也」

かい-げん (名) 【開闔】 固關ノ條ヲ見ヨ。

がい-けん (名) 【概見】 ザット、目ヲトホスコト。アラマシノ見ツモリ。史記、伯夷傳「其文辭、不少概見」

かい-げん-つうはう-せん (名) 【開元通寶錢】 支那、唐ノ高祖ノ武德四年ニ鑄出シタル一文錢。面ニ文字アリ、上下右左ニ讀メバ、開元通寶ニシテ、上右下左ニ讀メバ、開通元寶トモ云フベシ、其初鑄ノ全キモノハ、徑、六分八分三厘餘ニシテ、重サハ、唐秤ノ一錢ニ合フ、我ガ邦ニテ、目方ニ一文目、叉、一貫目(千文)ト云フハ、此錢ノ重サニ因ル語ナリ。(海藻、五、棠律要覽) 唐書、食貨志「武德四年、鑄開元通寶、徑八分」杜氏通典「大唐、武德四年、鑄五銖錢、鑄開通元寶錢、每十錢重一兩計、一千重六斤四兩、輕重大小最折衷、遠近便之」

かい-こ (名) 【解雇】 雇ヒタル人ヲ、罷ムルコト。解傭。

かい-こう (名) 【開口】 (一)口ヲヒラキテ、物言フコト。陳與義詩「一笑聊開口」 (二)德川幕府ニテ、能ヲ行フ時、式三番叟終ハリテ後、第一番目ノ能ヲ、脇能ト云フ、其脇能ノ初ニ、脇師ノ、出デテ、祝ヒノ謠ヒヲウタフコト。是レハ、能アル每ニ、林大學頭ヨリ、新詞ヲ上リ、能役者、節ヲツクルナリ。

かい-こう (副) 【邂逅】 タマサカニ。詩經、鄭風、野有蔓草篇「野有蔓草、零露溥兮、有美一人、淸揚婉兮、邂逅相遇、適我願兮」

かい-こく (名) 【海國】 四方、海ニ接シタル國。シマグニ。劉廻詩「海國微茫九萬里」「海國男兒」

かい-こく (名) 【開國】 (一)國ノ基ヲ、闢キ建ツルコト。建國。左思、吳都賦「有吳之開國也、云云」 (二)國ヲヒラクコト。海外ノ國國ト、交際ヲ始ムルコト。(鎖國ニ對ス) (三)始メテ、未開ノ國土ニ、人工ヲ施スコト。開拓、植民スルコト。

かい-こ-す (動) かきこす(搔越)ノ音便。其條ヲ見ヨ。

がい-こつ (名) 【骸骨】 動物ノ屍ノ、肉去リテ、骨組ノミトナリタルモノ。シャリ。コツ。史記、春申君傳「暴骸骨於草澤」骸骨ヲ乞ふトハ、(君ニ捧ゲタル身ヲ、乞ひ受クル意) 仕官ヲ辭ス。長ノ暇ヲ乞フ。史記、項羽紀「天下事大定矣、君王自爲之、願賜骸骨」

かい-こ-づ-む (動) 【搔偪】 〔かいハ、かきノ音便ニテ、接頭語ナリ〕 かこづむ(偪)ト云フニ同ジ。其條ヲ見ヨ。

かい-ごのはな (名) 【解語花】 〔開元天寶遺事ニ「唐太液池、千葉蓮開、明皇(玄宗帝)與妃子(楊貴妃)共賞、指妃子示左右曰、何如此解語花耶」トアルニ起レル語、貴妃ハ、花ノ如クニシテ、言語ヲ解スト云フナリ〕 美人ノ異名。

かい-こ-む (他動、四) 【搔込】 かきこむノ音便。カキハサム。引キ入レテ、抱ク。「打物、小脇ニかいこみテ」

かい-こん (名) 【開墾】 開發ニ同ジ。齊民要術「草乾卽放火、至春而開墾」字類抄、地、畳字「開墾」

かい-こん-じき (名) 【皆金色】 スベテ、キンイロナルコト。一切、金色ナルコト。

かい-さい (名) 【開催】 會ナドヲ、開キモヨホスコト。「博覽會開催」

かい-さい (名) 【改歲】 歲ノ、改マルコト。新シキ年。朱子詩「改歲風日好、出門願得朋」

かい-さい (名) 【皆濟】 皆、濟ムコト。悉ク、濟シ果テタルコト。完濟。「年貢皆濟」

かい-ざい (名) 【介在】 間ニ、ハサマリテアルコト。左傳、襄公三年「以敝邑介在東表、密邇仇讎、寡君將是望」

がい-さい (名) 【睚眥】 睨サゲニ、人ヲ睨ルコト。ニラムコト。史記、范雎傳「睚眥之怨必報」

かい-さう（名）海藻 ウミクサ。海産ノ植物。め（海布）ノ條ヲ見ヨ。[illegible]

かい-さう（名）[illegible] [illegible]メテ[illegible]、[illegible]ニ[illegible]コト。[illegible]年「改二[illegible]公二」[illegible]宮式「凡[illegible]人二太神宮一之[illegible]」

かい-ざう（名）改造 アラタメ、ツクルコト。改作。[illegible]

かい-さく（名）改作 前條ニ同ジ。[illegible]

かい-さく（名）開鑿 キリ、ヒラクコト。掘リ穿ツコト。[illegible]

かい-さぐ・る・ル・レ・ラ・リ・レ（他動、四）掻探 かきさぐるノ音便。

かい-さつ（名）改札 停車場ニテ、乘車ノ切符ヲ檢ベテ、[illegible]ヲ入ルルコト。

かい-さつ（名）開札 入札シタル札ヲ、開キ見ルコト。

かい-さん（名）開山〔寺院ハ多ク山ニアルヲ以テ、山ヲ稱ス、山號、山門ナドモ、同ジ〕（一）始メテ寺ヲ建テタル人。[illegible]ノ開山ノ[illegible]」（二）何業ニテモ、其業ヲ興シ始メタル人。[illegible]「件ノ兩將ハ（信長、秀吉）前代未聞、弓矢ノ中古開山、[illegible]」「[illegible]ノ開山」日ノ下開山」

かい-さん（名）海參 海參ノ條ヲ見ヨ。

かい-さん（名）[illegible] [illegible]ニ同ジ。

かい-さん（名）解散（一）集會セル人人ノ、散リ行クコト。（二）集會ヲ、中途ニテ散ヲ止ラシムルコト。[illegible]（三）[illegible]（四）議員ノ資格ヲ、其任期中ニ消滅セシムルコト。[illegible]

かい-ざん（名）改竄〔字典「竄、改易也」〕文章ノ字句ヲ、改メ易フルコト。ツクリカヘ。[illegible]

がい-さん（名）概算〔精算ニ對ス〕オホツモリ。アラツモリ。「概算、幾千人」[illegible]

がい-ざん-せい（名）礙竄性〔正字通「礙、俗、礙字」集韻「竄、入穴也」〕物理學ニテ、物ノ性質ノ一。一物ノ在ル處ニ、他ノ物ノ入ルヲ阻ムコト。

かいさん-ぶつ（名）海產物〔陸產物ニ對ス〕海ニ產ズルモノ。海產（魚介、海藻）

かい-し（名）介士 甲冑ヲ着タル武士。[illegible]

かい-し（名）海市 蜃氣樓ノ一名。[illegible]

かい-し（名）界紙 罫ヲ引キタル紙。ケイガミ。けいし。[illegible]

かい-し（名）開始 新ニ、事業ヲ起シ創ムルコト。又、ハジマリ。

かい-し（名）戒師 かいのし（戒師）ニ同ジ。[illegible]

かい-じ（名）海事 海上ニ關スル事柄。[illegible]

がい-し（名）碍子 電信柱ノ附屬品。多ク、白色、[illegible]ニテ、[illegible]ヲ[illegible]、[illegible]ニテ[illegible]。

がい-し（名）[illegible] [illegible]

かい-しう（名）[illegible] [illegible]

かい-じう（名）[illegible] 海ニ棲ム獸類。海豹、膃肭ノ類。[illegible]

かい-しき（名）掻敷〔かきしきノ音便、かきニ意ナシ、敷物ノ意ナリ〕飯、菓、魚、菜ヲ器ニ盛ルニ、敷物トスル草葉。古ヘ、葉ニ盛リシ遺風ナリ、又、紙ヲ敷クニモ云フ。[illegible]「[illegible]八枚、[illegible]八枚」[illegible]ヲ包ムコト「下ハ折敷ナリ、包ミタルハ紅梅檀紙、かいしきノ葉ハ、ふんてんちくナリ」庖丁聞書、改敷[illegible]ニヨラズ、[illegible]ヲ敷クベシ」

かい-しき（名）解式 演算ノ順序ヲ、一定ノ記號方法ニヨリテ、記載シタルモノ。數學ノ問題ヲ解釋スル爲ノ式。

かい-しき（副）皆色、皆式〔一皆一色ノ略カト云フ〕ミナ。悉ク。スベテ。カイクレ。カイモク。「[illegible]エズ、[illegible]」

かい-じき（名）樏 かんじきノ條ヲ見ヨ。カンジキ。

かい-しく・く・ク・ケ・カ・キ・ケ（他動、四）掻敷 かきしくノ音便。

かい-しん（名）[illegible] [illegible]ニテコレヲ混トシ、[illegible]ニ依リテ、[illegible]

かい-じん（名）海神 海ノ神。ワタツミノカミ。海若。[illegible]

かい-しん（名）戒心「警戒ノ心」油斷セヌコト。用心スルコト。[illegible]

かい-しん（名）改心 心ヲ、善キニ改ムルコト。

かい-しん（名）改進 [illegible]ヲ改メテ、[illegible]

かい-しん（名）[illegible] [illegible]ノ、[illegible]ムコト。

かい-しん（名）開申 事ヲ、官ニ申シ上グルコト。マウシヒラキ。

かい-じん（名）海參〔五雜組「其能温補、足[illegible]人參、故曰[illegible]」〕[illegible]ニ同ジ。

かい-じん（名）海人 アマ。獵師。漁人[illegible]「海人獵之」[illegible]「浦ニハ海人サマザマノ、[illegible]」

がい-しん（名）害心 人ヲ害フ、惡シキ心。[illegible]

かい-しや（名）解社 結社ヲ、解散スルコト。

かい-しやう（名）海上 ウミノウヘ。ウミナカ。[illegible]

かい-しやう（名）海相 海軍大臣ノ異稱。

かいしゃう (名) 海商 海運ヲ事業トスル商人。王建詩「漳橋見二海商一」

かいじゃう (名) 開城 城ヲ圍ミ攻ムル時、彼我兩軍ノ間ニ協定條件伴ヒテ、城ヲ明渡シトナルコト。(降伏、陷落ト異ナリ) 勢州軍記、信孝自害「信孝籠城、任二秀吉意一、開二岐阜一」「岐阜開城」

がいしゃう (名) 街上 ミチバタ。チマタ。

かいしゃうほけん (名) 海上保險 航海ニ關スル事故ヨリ生ジタル損害ノ辨償ヲ目的トスル、一種ノ保險。

かいしゃく (名) 解釋 トキアカシ。說明。解說。解義。後漢書、陳元傳「解二釋先聖之積結一」

かいしゃく (名) 介妁介錯 〔紹介媒妁ノ意カト云フ〕 (一)カイゾヘ。介抱。後見。太平記、十三、兵部卿宮薨御事「御介妁ノ爲ニ、御前ニ候ハレケル南ノ御方、此有樣ヲ見奉テ」明德記、下「トカク爭ハリ、介錯シマヰラセケレバ」 (二)切腹ノ時、傍ニ附添ヒ居テ、首ヲ斬ル人。阿州將裔記、義詰「腹十文字ニ掻斬リ、臓ヲ掴ミ出シ投ケステ、云云、介錯セヨト有ケレバ」

かいしゃくにん (名) 介錯人 (一)カイゾヘヲスル人。(二)介錯ノ(二)ヲスル人。

かいじゃく (名) 海若 かいにゃ(海若)ヲ見ヨ。

かいしゅ (名) 皆朱 物ノ全部ヲ、朱漆ニテ塗リタルモノ。續武者物語、一「皆朱ノ槍、武功ノ槍ハ、武功重ネタル武士ナラデハ、許サザルコト」

かいしゅう (名) 改宗 嘗テ歸依セル宗旨ヲ改メテ、他ノ宗旨ニ入ルコト。南蠻寺興廢記「改宗セザル者共ヲ召捕、一人ヅツ俵ニ入レ」

かいじゅう (名) 海絨 海綿ノ一名。

かいしゅん (名) 開春 開クル春。初春。楚辭、九章篇「開春發歲兮、白日出之悠悠」梁元帝纂要「孟春曰二上春、訪春、開春一」「開春第一ノ花」

かいしゅん (名) 改春 改マリタル春。新年。「改春ノ御吉慶」

かいしゅん (名) 改悛 前非ヲ、悔イ改ムルコト。

かいしょ (名) 楷書 漢字ノ書體ノ名。形ノ、正シク方ナルモノ、古ノ隷書ナリ。眞書。眞。唐書、百官志「楷書手五人」書斷「八分、本謂二之楷書一、楷、法也、式也、模也」

かいしょう (名) 改稱 改メテ云フ稱。又、名稱ヲ改ムルコト。

かいしょく (名) 解職 職ヲ解カルルコト。免職。任昉文「表求レ解レ職、有レ詔不レ許」

かいしろ (名) 垣代 「かきしろノ音便、垣ノ代ノ義、壁代、網代、同趣ナリ」 (一)帳ヲ、垣ノ用トシテ、隔テニ用キル時ノ稱。孝德紀、二年三月「其葬時、帷、帳、等、用二白布一」 (二)多數ノ樂人ノ、垣ノ如ク庭上ニ立チナラブコト。人垣ト同意ナルベシ。舞樂ノ青海波ヲ舞フ時、列立シテ吹奏スルナリ。源、七、紅葉賀「小高キ紅葉ノ蔭ニ、四十人ノかいしろ、言ヒ知ラズ吹キ立テタル物ノ音ドモニ、合ヒタル松風、云云」(源氏ノ君ノ、青海波ヲ舞フ所ナリ) 平家物語、十、維盛熊野詣事「一門ノ公卿、殿上人、今日ヲ晴レト時メキタマヒテ、垣代ニ立チタマヒシ中ヨリ、此三位ノ中將殿、櫻ノ花ヲカザシテ、青海波ヲ舞ウテ出デラレタリシ」續源抄、十一、本「青海波ニハ、箏、垣代ニ立ツコトナケレバ、樂屋ニテ彈クナリ」

かい・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ(自動、左變) 介 兩者ノ間ニ、ハサマル。媒ニ立ツ。左傳、襄公三十年「介二于大國一」孔叢子、雜訓「士無レ介不レ見」

かい・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ(他動、左變) 解 說明ス。會釋ス。小學、外篇、善行「解レ經」

がい・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ(他動、左變) 害 (一)ソコナフ。イタムル。キズツク。サマタグ。左傳、桓公六年「三時不レ害而民和、年豐也」 (二)殺ス。史記、孔子世家「吾大夫欲レ害二孔子一」竹取物語「龍ヲトラヘタラマシカバ、又コトモナク、我レハがいせラレナマシ」

かいそう (名) 海陬 海邊ニアル片田舍。海隅。楊萬里詩「動地雄風起二海陬一」

かい・す・つ・ツル・ツレ・テ・テ・テヨ(他動、下二) 掻捨 かきすつ(掻捨)ノ音便。

かいすい (名) 海水 ウミノミヅ。ウシホ。韓非子、說林上篇「失レ火而取二水於海一、海水雖レ多、火必不レ滅矣」

かいすいよく (名) 海水浴 潮湯治。海水ニ浸リ、又、浴ムコト。身ヲ健康ニストテ、スルコトナリ。

かいせい (名) 諧聲 六義ノ條ヲ見ヨ。

かいせい (名) 改正 改メ、正スコト。良クスルコト。改良。漢書、谷永傳「無レ所二改正一」

かいせい (名) 改姓 姓ヲ改ムルコト。苗字ヲ易フルコト。扶桑略記、五、文武「五年正月、役君小角、云云、改レ姓成二高賀茂氏一也」

がいせい (名) 蓋世 氣性高クシテ、一世ヲ蓋フコト。韓非子、說林、戰易、勢藏、則諸必蓋レ世」史記、項羽紀「力拔レ山兮、氣蓋レ世」

がいせい (名) 慨世 世ノ中ノ情況ヲ、憂ヘ慨クコト。「憂國慨世ノ士」

かいせう (名) 海嘯 ツナミ。閑窓雜記「近海諸處、常ニ海嘯ハ、其聲ニ大小、年ニ近遠、有レ數、若潰二」(安井息軒ノ睡餘漫筆、卷二二、海嘯トハ、海底ノ鳴ルコトナリトノ說アリ)

かいせき (名) 解析 事物ヲ、細カニトキワクルコト。南史、崔慰祖傳「任昉、讀二其經史一、及レ解二析義理一、其有二精致一」

かいせつ (名) 解說 トキアカシ。說明。荀悅、經籍略「以二十篇之文一、解二說經意一」

かいせつ (名) 開設 新ニ設クルコト。新規ニ建ツルコト。

がいせつ (名) 剴切 極メテ善ク、アテハマルコト。適切。痛切。唐書、魏徵傳「凡二百餘奏、無レ不下剴切當二帝心一者上」

かいせん (名) 疥癬 皮膚病ノ名。ヒゼン。國語、晉語「今王非二越是圖一、而吾以爲レ憂、夫齊魯、譬二諸疾一、疥癬也」

かいせん (名) 開戰 イクサヲハジムルコト。戰爭ヲ開始スルコト。

かいせん (名) 海戰 海上ノタタカヒ。フナイクサ。(陸戰ニ對ス)

かいせん (名) 海扇 ホタテガヒ。其條ヲ見ヨ。

かいせん (名) 改選 議員、又ハ、役員ナドノ滿期ノ時、改メテ、代ハルベキ者ヲ選擧スルコト。

かいぜん (名) 改善 改正、改良ニ同ジ。兩般秋雨盦隨筆、三、種痘「今西洋新出種痘一法、改二善種痘法一」

がいせん (名) 凱旋 凱陣ニ同ジ。宋書、謝靈運傳「願二關中之速清一、遲二華夏之凱歸一」續紀、二十五、天平寶字八年九月甲寅「討賊將軍、云云、凱

[illegible]遠」 [illegible]云云、[illegible]之日、[illegible]、[illegible]之時、[illegible]之[illegible]也」

がい-ぜん-と（副）［慨然］ナゲキ、イキドホル狀ニ云フ語。 後漢書、[illegible]傳「慨然有[illegible]清天下之志」」

カイゼル（名）［獨語、Kaiser. 羅甸語、Caesar.］元ノ獨逸皇帝ノ稱。

かい-そ（名）［開祖］一宗ノ基ヲ開キタル人。一派ノ文學、藝術等ヲ始メタル人。

かい-そ（名）［海鼠］ナマコ。 五雜組「漢人不レ知二伊利古之美一、海瀕漁[illegible]長崎一得レ之、因レ名曰二海參一、海蛆、亦當レ作二海鼠一」

がい-そう（名）［咳嗽］［咳ハ、欬ト通ズ］シハブキ。セキ。 魏志、華佗傳「便苦二欬嗽一、欲レ臥不レ安」

がい-そう（名）［劾奏］［彈劾奏聞ノ義］官吏ノ罪ヲ、天子ニ奏上スルコト。 漢書、韋玄成傳「丞相御史、以二玄成實不一レ病、劾二奏之一」

かい-ぞく（名）［海賊］［山賊ニ對ス］（一）海上ニ舟ヲ泛ベテ、往來ノ船ヲ劫カシテ、物ヲ奪フ盜人。 後漢書、法雄傳「海賊張伯路等、云云、寇二濱海九郡一」 土佐日記、正月廿一日「海賊ムクイセムト云フナル事ヲ思フ上ニ、海ノ、又恐シケレバ」 宇治拾遺、十五、第四條「門部府生、云云、千萬ノ海賊アリトモ、今見ヨトイヒテ、云云」 （二）室町時代ニ、船手、卽チ、水軍、海軍ノ稱。南北朝ノ初ニ、北畠親房卿、伊勢ニアリテ、志摩、熊野邊ノ海賊ヲ使用シ、兵船ヲ發シテ、足利方ノ海邊ノ城邑ヲ窘メラレシ事、物ニ見ユ、是レ等ヨリ、海賊ノ名ノ、船手、卽チ、海軍ニ移リシナルベシ。 甲陽軍鑑、二十、品第五十五、天正八年四月「北條家ヨリ梶原、海賊ヲ出シ候所ニ、武田方ヨリ小濱、間宮、駿河、先方ノ海賊衆、船ヲ出シ、船軍アリ」

北條五代記、九二[illegible]ト云ヒナラハス事ト云フ一條アリ、[illegible]大將、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]ナドモ云フ」

がい-そく（名）［槪則］［細則ニ對ス］大凡ノ規則。アラマシノオキテ。

かい-ぞへ（名）［介添］［搔添ノ音便］（一）添ヘテ、傅トスル人。助ケテ、事ヲ爲ス人。介錯人。介抱人。 太平記、十三、石淸水行幸事「藤房卿、云云、馬副四人、云云、かい副ノ侍二人」 笠懸日記、上「かいぞへノ者ハ、射手裝束ノ結ビ目、又、トヂ目、弓矢等ニ至ルマデ、能改メテ出タタセ申也」 （二）女ヲ嫁ラスルトキ、添フル婢。

がい-だ（名）［咳唾］せきト、つばきト。 莊子、漁父篇「幸聞二咳唾之音一」 咳唾を賜ふトハ、尊長ノ人ト談話スルヲ、謙遜シテ云フ。 漢書、宣元六王傳「大王誠賜二咳唾一」

かい-たい（名）［解體］（一）衆人一致ノ心ヲ失ヒテ、離レ離レニナルコト。 左傳、成公八年「信不レ可レ知、義無レ所レ立、四方諸侯、其誰不二解體一」 （二）かいぼう（解剖）ニ同ジ。「解體新書」

かい-たい（名）［開胎］ウムガツキ。臨月。 神功攝政前紀「開胎」

かい-たい（名）［懈怠］オコタリ。ナマケ。ケタイ。 韓非子、說林、下篇「將軍不レ怒、將二懈怠一」

かい-たい（名）［拐帶］［誘拐ノ條ヲ見ヨ］モチニゲ。

かい-だい（名）［海內］［海外ニ對ス］四海ノ內。一國中。 莊子、天道篇「聖道運而無レ所レ積、故海內服」

かい-だい（名）［改題］書籍ノ題號ヲ、改メ易フルコト。

かい-だい（名）［解題］書籍ノ著者、年月、著作ノ由來、書中ノ大要等ノ說明。

かい-だう（名）［海棠］樹ノ名、高サ丈餘、葉ハ林檎ニ似テ、稍長ク、鋸葉、叢生ス、初出ハ綠ニシテ、後出ハ紫ヲ帶ブルコト、櫻ノ葉ノ如シ、春ノ末ニ、葉ノ間ニ花ヲ開ク、櫻ニ次ギテ艶美ナリ、蕾ハ朱ノ如ク、開ケバ淡シ、蕚、蕋、共ニ、彼岸櫻ニ似テ、實ノ形、山査子ニ似タリ。又、花、粉紅ニシテ、枝、下ニ向フモノヲ、垂絲海棠ト云フ、實無シ。垂絲海棠 [illegible]書、[illegible]貴妃傳「明皇、云云、召二楊妃一、妃被二酒新起一、云云、明皇笑曰、此眞海棠睡未レ足耳」

かい-だう（名）［海道］（一）海邊ノ國國ニ通ズル街道。コレニ對シテ、海ニ遠ク、山間ニ通ズルヲ、山道ト云フ。 續紀、十二、天平九年四月戊午「陸奧多賀柵、云云、開二山海兩道一、云云、遣二海道一、云云、遣二山道一」 （二）誤リテ、街道。 憲法部類、乾「東海道、中山道、日光道中、奧州道中、甲州道中、云云、右五海道之外、云云」

かい-だう（名）［街道］國中ノ往來ヲ通ズ、驛ナドアル大道。ウマヤヂ。驛路。今、國道、縣道ナド云フ、是レナリ。 北魏書、賈思伯傳「雖二街道、傳、車下一レ馬」 謠曲、遊行柳「古道トテ、昔ノ街道ヲ御通リ候ヒシナリ」

がい-たう（名）［該當］［正字通「該、俗借爲二該當之稱一、猶レ言二宜也、凡事應レ如レ此曰レ該」］恰モ好ク、ソレニ當ルコト。シックリト、アテハマルコト。「第何條ニ該當ス」

かいだう-くだり（名）［海道下］（一）京都ヨリ、東海道ヲ歷テ、關東ヘ行クコト。アヅマクダリ。（二）歌舞伎ニテ、旅行スルコト。後ニ、道行ト云フ。承應年中、歌舞伎若衆、右近源左衞門ト云フ者、京都ヨリ江戸ニ來リ、海道下リト云フ事ヲ長歌ニ作リテ舞ヒ、殊ノ外ニハヤル、（昔昔物語）コレニ因ルナルベシ。 [illegible]初心集、下、かいだうくだり「加茂川、白河、打チワタリ、[illegible]、云云、[illegible]」

かいだう-どほり（名）［街道通ノ義カ］蟲ノ名。みちをしへニ同ジ。

かい-たく（名）［開拓］新ニ荒地ヲ開キ、田畑ヲオコシ、住民ナド移スコト。開發。開墾。 [illegible]代、[illegible]拓宅北一、更起二新第一」

かいたく-し（名）［開拓使］北海道ノ開拓等、一切ノ事ヲ統ベ行ヒシ地方官。明治二年建テラレ、同十五年廢セラル。

かい-だ・す ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）［搔出］［かきだすノ音便］汲ミ出ス。カイホス。「水ヲかいだす」

かい-だて（名）［搔楯垣楯］［かいハ、構きノ音便、組ミ構フル意ナラム］楯ヲ組ミツラネテ、楯トセシモノナルベシ。 平治物語、二、[illegible]事「六波羅ニハ、五條ノ橋ノコボチヨセ、搔楯ニ搔キテ待ツ所ニ、[illegible]」 [illegible]上「京方宇治ノ橋ノ[illegible]、橋ノ中三間ヲ引キ、搔楯ノ上ケ[illegible]ヘケリ」 太平記、廿九、光明寺合戰事「[illegible]ノ城ヲ攻メトリテ、かいだてノ[illegible]若キタリケル」

かい-たん（名）［海膽］ウニ。 閩書「海膽、殼如レ盂、外密二[illegible]、內有二膏、黃色、土人以[illegible]」 日本山海名産圖會、四「海膽、一名、霊螺子」

かい-だん（名）［階段］（一）キザハシ。キダハシ。（二）等級。順序。

かい-だん（名）［戒壇］僧徒ニ戒ヲ授クル

ニ、設ケタル壇。奈良朝時代ニ、奈良ノ東大寺、太宰府ノ觀音寺、下野ノ藥師寺ノ三所ニ置キテ、各、其地方ノ人ニ授ケタリ、後ニ、近江ノ延暦寺、一所トナル、弘仁十三年ニ、勅許ニテ、天長四年ニ戒壇院建立ナリ。玄蕃寮式「凡戒壇十師、幷、沙彌等供料」元亨釋書、廿七、度受「初天下置二戒壇三所一、筑之觀世音寺、西州民稟焉、野之藥師寺、東州民稟焉、和之東大寺、中州民稟焉、皆天平之間建焉」

かい-だん（名）【街談】チマタノウハサ。世間ノ噂。世評。曹植、與二楊修一書「街談巷語、必有レ可レ采」

がい-たん（名）【慨歎】ウレヘ、ナゲクコト。王昌齡詩「主人就レ我飲、對レ我還慨歎」

がい-たん（名）【骸炭】石炭瓦斯ノ條ヲ見ヨ。コオクス。

がい-だん（名）【劾彈】人ノ罪ヲ調ベアバクコト。彈劾。

かいだん-せき（名）【戒壇石】禪宗、律宗ノ寺門ノ石標ニ、「不許葷酒入山門」ノ文字ヲ刻シタルモノ。

かい-たをり（名）【掻手折】〔かいハ、掻キノ音便ニテ、意味ナシ〕道ノ、折レ曲リタル處。十訓抄、上、第一、三十七條「牛ノ、遁物ニテ、辻ノかいたをりナドヲ、面白クアリキマハリケレバ」

かい-ちう（名）【介冑】よろひト、かぶと。又、其レヲ被ルコト。禮記、曲禮、上篇「介冑則有二不レ可レ犯之色一」史記、絳侯世家「介冑之士不レ拜」

かい-ちく（名）【改築】改メ、築クコト。

かい-ちん（名）【開陳】申シ述ブルコト。

かい-ちく　ツクリカフルコト。史記、燕世家「昭王爲レ隗改二築宮一、而師二事之一」

ノベ、トクコト。陳述。

かい-ぢん（名）【開陣】兵ヲ引キ上ゲテ、陣營ヲ明クルコト。大内義隆記「天文十三年十一月ニ、悅ビノ旗ヲアケ、屋形ハ、長府ヲ御開陣」

がい-ぢん（名）【凱陣】勝軍シテ、還ルコト。凱旋。天正記、惟任謀反「六月十日、坂本ノ城へがい陣ス」

かい-ちやう（名）【開帳】廚子ノ帳ヲ開キテ、祕佛ナドヲ、親シク信者ニ拜セシムルコト。開龕　信濃ノ善光寺ノ阿彌陀像、山城嵯峨ノ淸涼寺ノ釋迦像、下總成田ノ不動像ナド、遠ク江戸ニ出シテ、諸人ニ拜セシメタルヲ、出開帳ト云ヒキ。舊雜譬喩經「夫人出レ手開レ帳、令二人得一レ見」康富記、文安元年十月二日「栂尾春日大明神御影、云云、有二開帳一、云云、諸人群集」二水記、永正十四年四月十一日「法輪院虚空藏開帳之間、爲二參詣一」

かい-ぢやうゑ（名）【戒定慧】持戒、禪定、智慧ノ略。佛者ノ、專ラ修スベキ事トス。沙石集、六、上、第五條「僧ト云フハ、戒定慧ノ三學ヲ宗トシテ、云云、五戒、八戒ヲモタモチ」

かい-ちゆう（名）【皆中】數發シテ、皆、中ルコト。ツヅ。（弓、鐵砲ナドニ）弓ニハ、諸矢トモ云フ。

がい-ちゆう（名）【害蟲】農產物ヲ害スル蟲。うんか、かひがらむしノ類。（益蟲ニ對ス）

かい-ぢよ（名）【解除】祓ヒ。ハラヘ。易林「憂患解除、喜至慶來」

かい-ぢよ（名）【刈除】刈リ除クコト。除キ去ルコト。

かい-ちよく（名）【戒飭】人ヲ誡メテ、愼マシムルコト。宋史、呂彌遠傳「放二諭府士六国守一封圻一」

かい-づ（名）【海圖】海ノ淺深、暗礁ノ位置、潮流ノ狀態等ヲ記シタル圖。

かい-つう（名）【開通】道路、河渠、隧道等ヲ開キ通スコト。禮記、月令篇「季春之月、云云、命二司空一、云云、開二通道路一、毋レ有二障塞一」通鑑、隋文帝紀「開二通濟渠一、以通二運漕一」

かい-つか・む（動）【掻摑】摑むト云フニ同ジ。捽「髮ノ髻ヲかいつかみ」

かい-つ・く（動）かきつく（掻附）ノ音便。

かいつくろひ（名）【掻繕】（一）カイックロフコト。（二）五節ノ舞姬ノ、裝束ナド、介錯スル女房。枕草子、五、四十六段「帳臺ノ夜、行事ノ藏人、イトキビシウモテナシテ、かいつくろひ二人、童ヨリ外ハイルマジ、云云」（帳臺ノ試ヲ云フ）

かい-つくろ・ふ（動）かきつくろふノ音便。

かい-つばた（名）【杜若】かきつばたノ音便。拾遺集、七、物名、かいつばた「濃キ色か、いつはた薄ク、移ハム、花ニ心モ、ツケザラムカモ」

かい-つぶり（名）【鸊】〔通音ニ、かいつむりトモ云フ、掻きつ潛りつノ音便約略ナラムカ、或ハ、つぶりハ、水ニ沒スル音カ、鸊ハ、入鳥ノ合字〕古クハ、ミホ。又、ニホ。水鳥ノ名。かもニ似テ小サク、たかもヨリ大キク、頭、背、翅、蒼黑ニシテ、斑アリ、胸、黃ニシテ、紫斑アリ、腹白ク、嘴短ク黑ク、尾モ短シ、脚ニみづかきアリ、赤クシテ尾ニ近クアリ。常ニ水ニ出沒シ、藻、木葉ナド集メテ、水上ニ巢ヲ浮ベ作ル。かいつむり。イヨメ。ムグリ。ムクテウ。鸊鷉（[illegible]）用集「鸊、カイツブリ」

かい-つま・む（動）【掻撮】つまむト云フニ同ジ。「其意、かいつまみテ話スベシ」

かい-つむり（名）前條ニ同ジ。

かい-つら・ぬ（動）【掻列】かきつらぬ（掻列）ノ音便。

かい-で（名）【楓】かへでノ轉。

かい-てい（名）【海程】〔海上里程ノ義〕ウミノ上ノミチノリ。

かい-てい（名）【階梯】（一）キザハシ。ハシゴ。何遜、九召「九層譬律以二階梯一」（二）登ルベキ手引。（學術ナドニ）易經、繫辭、上傳「亂之所レ生、則言語以爲レ階」疏「階、梯也、言、亂之所レ生、則由二言語一以爲二亂之階梯一」韓愈詩「將學二汝德一、以爲二己階梯一」

かい-てい（名）【改訂】改メ、正スコト。（文章ナドヲ）

かい-てい（名）【開廷】法廷ヲ組織シテ、裁判ヲ開クコト。

かい-てい（名）【解停】停止ヲ解クコト。差止ヲ許スコト。

がい-てい（名）【孩提】〔孟子、註「孩提、二三歲之閒、在二襁褓一、知二孩笑一、可二提抱一者也」說文「孩、小兒笑也」〕二三歲ノ小兒ノ稱。孟子、盡心、上篇「孩提之童、無レ不レ知レ愛二其親一也」

がい-てい（名）【愷悌】【愷弟】【豈弟】【凱弟】和ギ、樂シムコト。詩經、小雅、白華之什、蓼蕭篇「旣見二君子一、孔燕豈弟、宜レ兄宜レ弟、令德壽豈」漢書、史丹傳「丹爲レ人知レ足、愷弟愛レ人」

かい-てん（名）【開展】（一）ノビ、ヒラクルコト。仲春龍詩「園葵復開展」（二）發達、

[illegible]スルコト。[illegible]

かい-てん (名) 開店 ミセビラキ。ウリゾメ。[illegible]

かい-でん (名) 皆傳 師ヨリ、弟子ニ、藝術ヲ授ケ傳フルニ、初傳ヨリ、初段ト云ヒ、稍進ミタルヲ、目錄ト云ヒ、更ニ進ミテ、奥旨ヲ授クルヲ、ゆるし、免許、傳授ナド云ヒ、其奥義ヲ殘サズ傳ヘテ、人ノ師範トナルヲ許スヲ、奥ゆるし、印可、又ハ、皆傳ト云フ。

かい-と (名) 垣内 かきつ(垣内)ノ條ヲ見ヨ。

かい-と (名) 垣外 〔悲田院垣外ノ徒ノ意ト云フ、非人ト云フモ、非人ナリト云フ説アリ〕乞食、非人ノ異稱。

ガイド (名) 案内者 〔英語、Guide.〕案内者ノ義。外國人ノ、内地見物旅行ナドノ、案内スルヲ業トスル者。

がい-とう (名) 街頭 マチノホトリ。辻。[illegible]

がい-とう (名) 街燈 市街ニトモス燈火。

かい-どうげ (名) [illegible]花 蛸ノ子ヲ、[illegible]漬ニシタルモノ。二三寸ノ長サノ絲ノ如キモノニ、[illegible]ホドノ子、連リ着クコト、藤ノ花ノ如シ、色、黄白ナリ、吸物ノ種ナドトス、[illegible]、[illegible]ノ[illegible]ナリ。[illegible]ヨトモ書ス。

がい-どく (名) 害毒 善良ナルモノヲソコナフ、惡シキモノ。[illegible]

かい-ともし (名) 搔燈 かきともしノ條ヲ見ヨ。

かい-とり (名) 舵取 かぢとり(舵取)ノ音便。

かいどり (名) 搔取 〔次條ノ語ノ名詞[illegible]〕[illegible]

かい-ど・る・ル・レ・ラ・リ・レ (他動、四) 搔取 〔かきとるノ音便〕[illegible]取リテ上グ。褰グ。攬衣 文安田樂能記「此白小袖ヲかいどりテ」

かいな (名) [illegible]草 かきなノ音便。其條ヲ見ヨ。

かい-な・づ (動) 搔撫 かきなづ(搔撫)ノ音便。

かいなで (名) 搔撫 かきなで(搔撫)ノ音便。其條ヲ見ヨ。

かい-あふ (名) [illegible] 恐怖、上[illegible]シタルコト、[illegible]ラズ、コナサメタルコト。

かいなや・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) 搔[illegible] 〔かいハ、かきノ音便〕搔キマゼテ、延ス。[illegible]

かいならし (名) 搔平 [illegible]ニ同ジ。

がい-み (副) [illegible] 〔がいハ、我意ノ義ニテ、强ク張ル意カ〕ハナハダシク。ニラク。非常ニ。(關東、又、備中ノ方言) [illegible](貞享)[illegible]小[illegible]「がいみ[illegible]テ、息ガ切レベイナラバ」[illegible]上「がい[illegible]出度、此方ノ[illegible]命」安房ノ方言ノ歌「ミドオライ、(見ラレヨ)山ニチトベコ、(チットバカリ)雪モアリ、此春がいみ、雪ウアルベイ」

かい-にん (名) 解任 任務ヲ解カルルコト。ゲニン。

かい-にん-さう (名) 海仁草 マクリ。

かい-にゃ (名) 海若 ワタツミ。海ノ神。[illegible]

かい-ねん (名) 改年 改マリタル年。新年。[illegible]

かい-ねん (名) [illegible] [illegible]

がい-ねん (名) 概念 〔英語、[illegible]〕[illegible]語。心理學ノ語、[illegible]ニ[illegible]、[illegible]ノ[illegible]、其[illegible]ノ點ヲ[illegible]、[illegible]ノ點ノミヲ綜合シテ、普通智識ヲ作ル意識ノ作用。

かい-ねり (名) [illegible] 〔かきねりノ音便〕[illegible]リタル絹布。[illegible]

かい-ねり (名) [illegible] 襲ノ色目ノ名。表、裏、共ニ、紅ノ濃ナルモノトイフ。[illegible]物語、三、[illegible]「[illegible]」[illegible]いねり着タリケル」[illegible]「表、裏、紅ノ打チタルモノナリ」[illegible]十四段「冬ハ、ツツジ、かいねりがさね」

かい-の-ふ (名) [illegible] 出家スル人ニ、戒ヲ授クル師トナル僧。又、戒師。[illegible]十四、下、若菜、下「御戒の師、いむことの(戒)ノスグレタル[illegible]」「御戒師ハ、[illegible]寺ノ前大僧正覺忠」

かい-は (名) 改派 或ル宗派中ニ於ケル門派ノ、他ノ門派ニ改ムルコト。[illegible]

かい-ば (名) 海馬 (一)たつのおとしごノ一名。(二)せいうちノ一名。[illegible]

かい-はい (名) 改廢 改ムルト、廢ムルト。[illegible]

かい-はう (名) 介抱 (一)タスケ、イダクコト。カシヅクコト。世話スルコト。(二)病人ヲ見トルコト。看病。

かい-はう (名) [illegible] [illegible]

かい-はう (名) 開放 出入口ヲ開キテ、自由ニ交通セシムルコト。アケハナシ。

かい-はう (名) 解放 捕縛シ、又ハ、監禁[illegible]ヲ得シムルコト。[illegible]「[illegible]」

かい-はう (名) [illegible] [illegible]

かい-ばう (名) 海防 一國家ノ海上ノ防禦。(軍艦、砲臺ナド)

かい-はう-にん (名) 介抱人 (一)世話スル人。(二)看病ヲスル人。

がい-はく (名) 該博 〔廣韻「該、兼也」〕學問、智識ノ博ク[illegible]。[illegible]

かい-はさ・む・ム・メ・マ・ミ・メ (他動、四) 搔挾 〔かきはさむノ音便〕[illegible]

走去」

かいはつ (名) 【開發】 (一)封ジタルモノヲ、切リ開クコト。 漢書、王莽傳「吏民上ニ封事書一、官官左右開發一」 (二)人智ヲ導キテ、自ラ發達セシムル、教授ノ一法。(注入ニ對ス) 北史、崔瞻傳「開ニ發幼蒙一」「開發教授」

かいばつ (名) 【海拔】 陸地、又ハ、山嶽ノ、海水平面ヲヌキンヅル高サ。「富士山ノ海拔一萬二千四百六十七尺」

〜かいばみ (名) かいまみ(垣間見)ニ同ジ。

かいはん (名) 【解帆】 かいらん(解纜)ニ同ジ。

かいはん (名) 【開帆】 フナデ。出帆。

かいはん (名) 【開板】 イタオロシ。出板。 東坡集「開ニ都下已開板一」 空華日工集「永德二年二月廿九日、云云、元亨釋書、云云、今年開板已成」

かいばむ (動) かいまむ(垣間見)ニ同ジ。

かいひざ (名) 【搔膝】 かきひざノ音便。

かいひそむ・ム・メ・マ・ミ・メ(自動、四) 【搔潛】 「かいハ、かきノ音便、意ナシ」 自動ノひそむニ同ジ。 ヒキコモル。 增鏡、第四、三神山「かいひそみテ群リ居ツツ、鼻打チカミ、打チ泣ク人ヨリ、外ハナシ」

〜かいひそむ・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ(他動、下二) 【搔潛】 身ヲ潛メテ、差出デズニ居ル。 源廿二、玉蔓十九「甚ウかいひそめテ、互ニ心遣ヒシタリ」

かいひん (名) 【海濱】 ウミノホトリ。ハマベ。 吳均詩「明月落ニ海濱一」 書經、禹貢傳「厥土白墳、海濱廣斥」

かいひん (名) 【開閉】 「開ハ、陰門、閉ハ、陰莖ナリ」 陰門ノ異名。 奇異雜談(天文)二「裸根、陰囊、トモニヌケオチタリ、云云、其跡、開閉トナリテ、常ノ如シ、後ニ夫マウケテ、子ヲ生ム」

かいびゃく (名) 【開闢】 アメツチノハジメ。世界ノ開ケタリシ始リ。 後漢書、應劭傳「開闢以來、莫レ或ニ茲酷一」 神代紀、上「開闢之初」 古事記、上「天地初發之時」

かいびゃく (名) 【開白】 佛事ヲ修スル初ニ、佛ニ向ヒテ、其趣意ヲ白スコト。 靈異記、下、第三十緣「造ニ彼十一面觀音像、因開白供養已訖」 榮花物語、十六、本雫「高座ニ昇リテ、かいびやく打チシテ、事ノオモムキ申シテ」

かいふ (名) 【開府】 (一)役所ヲ設ケテ、官吏ヲ置クコト。(二)支那ノ漢代、三公ニ許サレタル制。後世將軍モ、之レニ準ゼラレ、開府儀同三司ト云ヘリ。(三)支那ニテ、巡撫、總督ナドノ尊稱。

〜かいふ (名) 【海部】 〔海部ノ字ノ音讀カ、當字ニ、海浦、海賦、貝賦ナドトモ記ス、筵響錄(明和)「海邊ノ風景ヲ、蒔繪、織物ニシタルヲ、總テ海部ト申スト被レ存候」〕 織物、蒔繪ナドノ繪模樣ノ名。大波、海松、貝、洲濱、磯馴松ナド、海邊ノ狀ヲアラハス。 紫式部日記、寬弘五年九月十一日「唐衣ハ、松ノ實ノ文、裳ハ、かいぶヲ織リテ」 榮花物語、八、初花「白銀ノ御衣匣、海賦ヲウチテ」 源、廿二、玉蔓四十「淺縹ノかいぶノ織物」 禁祕御抄、上「清涼殿御厨子「笛筥、蒔ニ海部一」

かいふいて (句) かきふす(搔伏)ノ條ヲ見ヨ。

かいふう (名) 【開封】 封書ノ封目ヲ開クコト。 南史「啓在ニ牀下一未レ開レ封」 張籍詩「行人臨レ發又開レ封」

かいぶし (名) 【蚊燻】 かやりびニ同ジ。訛リテ、かやぶし。京都ニテ、カクスベ。

かいふす (動) 【搔伏】 かきふす(搔伏、自動四段)ノ音便。

かいふん (名) 【海粉】 海藻ノ名、舶來シ、食用トス。ふのりニ似テ、青シ。

がいぶん (名) 【涯分】 己ガ身ノホド。分際。 盧象詩「逍遙飲啄安ニ涯分一、何假扶搖九萬爲」 明月記、嘉祿元年十二月廿三日「不レ顧ニ身涯分一、可ニ申入一之由、許諾退出」「涯分ヲ測ラズ、非望ヲ企ツ」

がいぶん (副) 【涯分】 己ガ涯分ヲ盡シテ。己ガ力ノ限リ。 平治物語、二、待賢門軍事「涯分、武略ヲメグラシテ、禁闕無異ナルヤウニ成敗仕ルベシ」

かいへい (名) 【海兵】 海軍ノ下士卒。

かいへい (名) 【開閉】 ヒラクコトト、トヅルコトト。アケタテ。 陸游詩「蓬戶朝昏手開閉」

かいへい (名) 【開平】 次條ノ語ノ略。

かいへいはう (名) 【開平方】 數ノ自乘ヲ平方トモ云ヒ、平方ニ對シテ、其數ヲ平方根ト云ヒ、平方ヨリ平方根ヲ求ムルヲ、開平方ト云フ。略シテ、開平。開方。

かいへう (名) 【海豹】 アザラシ。 唐書、新羅傳「歲入ニ朝、獻ニ海豹皮一」

かいへう (名) 【開票】 投票函ヲ開キ、其結果ヲ取調ブルコト。

かいへん (名) 【海邊】 ウミベ。ウミノホトリ。海濱。 三國志、魏志、胡質傳「海邊無事」

かいぼう (名) 【解剖】 動物ノ體ヲ解キ剖キテ、骨、筋、臟、腑等ノ位置、組成ヲ明メ知ルコト。腑分。解體。

かいほす・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) 【搔乾】 沒ミ盡シテ、涸ラス。カイダス。「池ノ水ヲかいほす」

かいほつ (名) 【開發】 新ニ地ヲ開キ發シテ、田畑ナドトスルコト。 開墾。開拓。 庭訓往來、三月「有下可ニ開作一之地上者、招ニ居浪人一、令レ開ニ發之一」

かいほふ (名) 【戒法】 佛敎ノ、五戒、十戒ナドノ法。 太平記、八、谷堂炎上事「淨住寺ト申スハ、戒法流布ノ地、律宗作業ノ砌ナリ」

かいぼり (名) 【搔堀】 〔堀水ヲかいほす意カ〕 堀、又ハ、池ノ水ヲ、沒ミ乾スコト。(魚ヲ捕ヘムタメナドニ)

かいまき (名) 【搔卷】 〔次條ノ語ノ名詞形、身ニ搔き卷きテ着ル意〕 夜着ノ、綿薄キモノ。臥被 更ニ綿ヲ薄クシ、小形ニ仕立テタルヲ、小がいまきト云フ。

かいまく・ク・ケ・カ・キ・ケ (他動、四) 【搔卷】 〔かきまくノ音便〕 卷くト云フニ同ジ。 沙石集、七、上、第一條、正信房「濡レタル御小袖ヲ、伏籠ニウチカケテ、云云、焦シテケリ、アサマシト思ヒテ、かひまきテ、濡レタル方ヲ上ニシテ、持チテ參リヌ」

〜かいまみ (名) 【垣間見】 カイマムコト。窺キ見ルコト。かいばみ。 源、三、空蟬六「我レニかいまみセサセヨト宣ヘバ」 枕草子、六、五十段「屛風モ押シアケツレバ、かいまみノ人、隱蓑取ラレタル心地シテ」 同、三、廿八段「或人ノ、局ニ行キテ、かいばみシテ、又若シ見エヤスルトテ、來タリツルナリ」

〜かいまみる・ミル・ミレ・ミ・ミ・ミヨ (他動、上一) 【垣間見】 かきまみるノ音便。 竹取物語「ココカシコヨリ、ノゾキかいまみ、マドヒアヘリ」

〜かいまむ・ム・メ・マ・ミ・メ(他動、四) 【垣間見】 「前條ノ語ノ轉」 窺キ見ル。竊ニ見ル。かいばむ。 更級日記「タチ聞キ、かきまむ人ノケハヒシテ」 大和物語、中「サテかいまみバ、ワレニハヨクテ見エシカド」

かいみやう (名) [戒名] ほふみやう(法名)ノ條ヲ見ヨ。 阿部家夢物語「天文四年乙未極月五日、云云、過去清康様ノ御菩提之儀、御尊有、芳芳へ[illegible]」

かいむ (名) [皆無] 皆、無キコト。全ク有ラヌコト。

かいめい (名) [改名] 名ヲ改ムルコト。改メテ名ヲツクルコト。白居易詩「山逐レ時移レ色、江[illegible]レ地改レ名」保元物語、一「[illegible]反人[illegible]誅[illegible]「同名惡シカリナムトテ、忠貞ト改名セラレテケリ」

かいめい (名) [開明] 人智ノ、開ケ行クコト。「開明ノ世」

かいめん (名) [海綿] ウミワタ。海絨

かいもく (副) [皆目] 全ク。一切。皆式。「皆目、見エヌ」

かいもち (名) [搔餅] 次條ヲ見ヨ。

かいもちひ (名) [搔餅] (搔餅ノ音便、搔練ノ餅ノ意ト云フ、或ハ、粥餅ノ義、ヤハラカキ意ノ名カ、倭名抄、筑前、鞍手郡「粥田、加以多」(高山寺本)) 飯ノ餅。ハギノモチ。約メテ、かいもち、今モ下總邊ニテ、かいもちト云フトゾ。 宇治拾遺、一、十二條「僧タチ、夜ノツレヅレニ、イザかいもちひセムト云ヒケルヲ」 徒然草、二百十六段、北條時頼、足利義氏ノ邸ニ立入レルニ「一獻ニ打鮑、二獻ニ[illegible]、三獻ニかいもちひニテ、止ミヌ」 易林節用集「[illegible]」

かいもん (名) [海門] 海峽ニ同ジ。セト。 [illegible]「[illegible]、[illegible]月生二海門二」

かいもん (名) [開門] (閉門ニ對ス) 門ヲ開クコト。[illegible]

かいやう (名) [海洋] 廣キナダ。大イナルウミ。

(かいやる (動) かきやる(搔遣)ノ音便。其條ヲ見ヨ。

かいよう (名) [海容] 「大海ガ物ヲ受ケ容ルルガ如キ意」度量廣ク、能ク、他ヲ受ケ入ルルコト。容赦。(多クハ、書翰文ニ用キラル) 海涵

かいよう (名) [解傭] かいこ(解雇)ニ同ジ。

かいらう (名) [海老] ウミノオキナ。いせえびノ條ヲ見ヨ。 海道記(源光行)貞應二年四月十二日「海老ハ浪ニ[illegible]ギ、[illegible]老ハ汀ニ漂フ、共ニ、老テ腰カガマル」

かいらう (名) [偕老] (詩經、邶風「執二子之手一、與レ子偕老」) 偕ニ老ユルコト。夫婦相親シミ、老年マデモ連レ添フコト。 太平記、四、呉越軍事「只西施ニ爲レ[illegible]ニ偕老ノ契ニナリキ」「偕老ノ契リ淺カラズ」

かいらう (名) [開朗] 朗カニ晴レタルコト。ヒロク開ケワタルコト。 桃花源記「捨レ船從レ口入、初極狹、行數十歩、豁然開朗」

かいらうどうけつ (名) [偕老同穴] (同穴ハ、同ジ穴ニ葬ラルル意) (一)夫婦相睦ミテ、死ヌルマデ連レ添フコト。詩經、邶風、擊鼓篇「死生契闊、與レ子成レ說、執二子之手一、與レ子偕老」同、王風、大車篇「穀則異レ室、死則同レ穴」保元物語、一、鳥羽院崩御事「美福門院、云云、偕老同穴ノ御契淺カラザリシ法皇」 (二)海綿ノ類。泥海ニアリ、形、へちまノ如ク、外皮ハ羅ノ如シ、內、空ニシテ、多クハ、雌雄一對ノ小蝦、同棲ス、外ヨリ透シテ見ルベシ。

かいらうび (名) [海老尾] (海老尾ノ音[illegible]、三味線ノ名所。其ノ頭ニ轉手アリテ、背ニ反ル、形、海老ノ尾ニ似タレバ云フ。

かいらぎ (名) [梅花皮[illegible]] かいハ、貝ニテ、靑貝ノ義、らぎハ、[illegible]ハ、いらぐ、ナドノ名詞形、螺鈿ノ如ク光彩燦爛タリナド云フニテモアルベキカ、尙、考フベシ、南洋語ナドニテハアラザルベシ、かへらぎ、かいらげナド云フハ、音ノ一轉、花かいらぎトハ、其狀ノ、花ノ如キニ就キテ云フナリ、倭訓栞、かいらぎ「梅花鮫ヲ云フ、太平記ニ、石花貝ヲ訓ミタレバ、貝柊ノ義ニヤ」トアレド、義ヲ成サスガ如シ、重修本草綱目啓蒙、三十、鮫魚ノ條ニ、梅錦、鮹魴、刺魴、ナドアレド、解スベカラズ、(ぱッぱトガフハ、地粒ノ、花ノ散リカカリタル如キヲ云ヒ、背かいらぎト云フハ、背通リニ、大イナル粒ノ、尾マデ連レルヲ云フトゾ) 梅花皮トハ、雍州府志(天和)七、土產門、鮫魚皮「粒間、交二花點狀一者、謂二梅花鮫一」トアレバ、梅花鮫皮ノ意ナルベシ、鰄ノ字ハ、集韻ニ、魚名トアルノミ」 又、かへらぎ。花かいらぎ。鮫魳ニシタル鮫皮ノ、地粒ノ中ニ、梅花ノ形ノ如キ大粒アルモノ。さめかは(鮫皮)ノ條ヲ併セ見ヨ。 下學集(文安)上、氣形門「鰄、刀鞘用レ之、日本俗所レ作也、又云二梅華皮一也」(俗所レ作トハ、鰄ノ字ヲ云ヘルニカ) 撮壤集(享德)中、魚名「梅花皮、刺皮」運歩色葉集(天文)魚名「鰄、梅花皮」 太平記、四十、中殿御會事、佐佐木時秀「[illegible]ノ金作ノ太刀ヲ佩キ」世俗[illegible]、[illegible]條兼良)下「[illegible]、尋常[illegible]也、鮫鞘加倍良木、常事也」 建武式目追加「刀ノかへらぎ二[illegible]」 [illegible]師直夜物語「寶ホニ「花かいらぎノ[illegible]ニ、金[illegible]大小、打チチカヘ」 好色一代男、天和、西鶴、二、[illegible]

かいらく (名) [偕樂] 多クノ人ト共ニ樂シムコト。[illegible]

かいらく (名) [開落] 開くト、落つるト。(花ニ云フ) 陳子良、于[illegible]「山花開落、[illegible]月盈虧」[illegible]

かいらげ (名) かいらぎヲ見ヨ。

かいらん (名) [解纜] 「[illegible]、纜、[illegible]、繫[illegible]」 船ノ、ともづなヲ解キテ、港ヲ出ヅルコト。解帆。出帆。[illegible]

かいり (名) [海狸] 獸ノ名。歐羅巴、北亞米利加等ノ北地ニ產ス、形、[illegible]ニ似テ小サク、尾ハ楕圓ニシテ扁ク、後肢ニみづかきアリ、能ク水中ヲ泳グ、牙大キク强ク、木ノ皮、枝等ヲ食用トシ、海邊ニ巢ヲ作リテ棲ム、毛皮ハ頗ル高價ナリ。

かいり (名) [海里] (英語、Sea mile. ノ譯語) 航海者ノ、海上ノ里程ヲ云フ語、緯度一度ノ六十分ノ一。英國ニテハ六千八十呎、我ガ國ニテハ十六町五十八間餘、卽チ、約、十七町。浬 海里ノ百分ノ一ヲ、鏈トス。

かいりう (名) [海流] 潮路、大海ノ處處ニテ、潮水ガ、川ノ如ク、一定ノ向ニ流ルルモノ。赤道地方ヨリスルモノヲ暖流トシ、兩極地方ヨリスルモノヲ寒流トス。

かいりき (名) [戒力] 佛教ノ戒ヲ守リタル功力。 十訓抄、上、第一、第六條、餘五大夫ノ蜂

「前生ノ戒力少ナクテ、畜生ト生マレタレドモ」

かい-りつ (名) 戒律 佛教ノ戒ト、律ト。李商隱雜纂、不如不解「僧解レ飲則犯ニ戒律ニ」榮花物語、十五、疑「此ノ方ヲ立ツル人人ハ、イトド戒律ヲ守リテ、鉢ノ油ヲ傾ケズ」「戒律ヲ破ル」

かい-りつ (名) 介立 (一)物ト物トノ間ニ、ハサマルコト。中間ニ立ツコト。(二)己レ一人ニテ、事ヲナスコト。ヒトリダチ。後漢書、梁悚傳「悚性廉直介立、行不レ合レ己者、雖レ貴不ニ與交ニ」

かい-りふ (名) 開立 次條ノ語ノ略。

かい-りふはう (名) 開立方 數ノ三乘ヲ立方トモ云ヒ、立方ニ對シテ、其數ヲ立方根ト云ヒ、立方ヨリ立方根ヲ求ムルヲ開立方ト云フ。略シテ、開立。

かい-りやう (名) 改良 改メテ、良クスルコト。直スコト。改正。遷善 改善

がい-りやく (名) 概略 オホヨソ。アラマシ。大概。

かい-りゆう-わう (名) 海龍王 龍神、龍王ニ同ジ。源、五、若紫六「かいりうわうノ后ニナルベキ、齋娘ナメリ」

かい-る (名) 蛙 かへるノ口語。

かい-れき (名) 改暦 (一)暦ノ撰作ヲ改ムルコト。史記、封禪書「漢改レ暦、以ニ正月ニ爲ニ歳首ニ」(二)改年。

かい-ろ (名) 蛙 かへるノ口語。

かい-ろ (名) 海路 ウミノミチ。海路。船路。(陸路ニ對ス)李白詩「歸飛海路遠、獨宿天霜寒」無名祕抄「海路ヲ隔ツル戀ト云フ題」

かい-ろ (名) 海驢 アシカ。本草綱目「海驢出ニ海島中ハ能入レ水不レ濡」

がい-ろん (名) 概論 アラマシノ議論。大要ヲ論ズルコト。

かい-わい (名) 界隈 ホトリ。アタリ。炭俵「此ノかいわいノ、小鳥ミナ寄ル」

かい-わうせい (名) 海王星 太陽ヨリ第八ニ位セル行星ノ名。行星ノ中ニテ、最モ遠キモノナリ、陪星一ツアリ、百六十四年七八八ニシテ、太陽ヲ一周ス。

かい-わぐ・む・ム・メ・マ・ミ・メ (他動、四) 掻縮 〔かいハ、接頭語〕わぐむ(縮)ニ同ジ。

かい-ゐん (名) 海員 航海ニ從事スル、船長以外ノ乘組員。又、海技免狀ヲ有スル者ヲモ云フ。

かう (名) 長官 長官ノ音便。又、カン。「かうノ君」かうノ殿」ナド、各條ニ註ス。

かう (名) 香 (一)香。カヲリ。ニホヒ。孔子家語、六本「與ニ善人ニ居、如レ入ニ芝蘭之室ハ久而不レ聞ニ其香ニ」(二)古ヘハ、煉香ヲ燒キテ嗅ギ、又ハ、衣類ニ香ヲ移シテ匂ヲ賞シ、合薫物ト云フ。後ニ、沈香、伽羅、白檀ナドノ材ヲ薫キテ、香ヲ賞ス。南史、王僧達傳「大集ニ朝士ハ自行レ香」枕草子、二、十八段、心ときめきするもの「カシラ洗ヒ、ケサウジテ、かうニシミタルキヌ着タル」(三)香合ノ技。かうだう(香道)ノ條ヲ見ヨ。(四)〔かうぞめ(香染)ノ略。(五)味噌ノ異名。かうのもの(香物)ノ語原ヲ見ヨ。

かう (名) 孝 〔爾雅、釋訓「善ニ父母ニ爲レ孝」〕オヤオモヒ。善ク父母ノ心ニ順ヒテ、敬ヒ事フルコト。孝。孝行。白虎通「孝、百行之本」神武紀、四年二月「大孝」私記「於也爾志太加布」孝德紀、五年三月「何失ニ孝於レ父」

かう (名) 考 父ヲ、死後ヨリ稱スル語。先考。母ニハ、妣、先妣ト云フ。禮記、曲禮、下篇「生曰レ父曰レ母、死曰レ考曰レ妣」

かう (名) 更 〔更ハ、漏刻ノかはる義、字典「因レ時變ニ易刻漏ニ曰レ更」〕(一)支那ニテ、一夜ヲ、五ツニ分クル稱。初更、又、一更、甲夜ハ、午後八時、九時ナリ、二更、又、乙夜ハ、十時、十一時ナリ、三更、丙夜ハ、十二時、午前一時ナリ、四更、丁夜ハ、二時、三時ナリ、五更、戊夜ハ、四時、五時ナリ、コレヲ統ベテ五夜ト云フ。顏氏家訓、一夜五更「漢魏以來、謂爲ニ甲夜、乙夜、丙夜、丁夜、戊夜ハ云云、亦云ニ一更、二更、三更、四更、五更ハ皆以レ五爲レ節」又、五更、戊夜、ノコトヲモ、五夜ト云フ、其條ヲ見ヨ。(二)夜ノ時。夜中ノ時刻。謠曲、水無瀨「南無幽靈、成等正覺、云云、更闌ケ、夜靜ニ、帳門開カザルニ、影ノ如ク見エタマフハ、此世ニ亡キ古人ノ、姿、顯ハシタマヘルカ」(三)支那ニテ、航海ノ里程、六十里ノ稱。

かう (名) 交 間。カハリメ。際。詩經、小雅、十月之交篇「十月之交、朔日辛卯」「春夏ノ交」

かう (名) 校 (一)學校ノ略。孟子、滕文公、上篇「校者敎也、云云、夏曰レ校」「我ガ校ノ規律」「校歌」(二)校正ノ略。「校ヲ重ヌ」初校」三校」

かう (名) 効效 シルシ。キキメ。効驗。荀子、議兵篇「彊弱存亡之效」「藥ニ効アリ」

かう (名) 行 (一)ユクコト。タビ。旅行。韓愈、送ニ董邵南ニ序「聊以ニ吾子之行ニト之也」(二)漢詩ノ一體。「魏武帝ノ短歌行」白居易ノ琵琶行」

かう (名) 衡 (一)ハカリザヲ。ハカリ。「度、量、衡」(二)輕重、優劣ノ力。庾信、竹杖賦「楚漢爭レ衡、袁曹競逐」

かう (名) 項 (一)或種類ノ事柄ニ屬スル、各箇ノ事柄。箇條。「第五條第三項」(二)數學ノ語。二種ノ量ノ比ニ於ケル其各量。又、級數ノ成ル各數。

かう (名) 稿 シタガキ。草稿。唐書、高士廉傳「士廉有ニ奏議ハ輒焚レ稿」「稿ヲ改ムルコト三回」稿ヲ起ス」

かう (名) 鸛 かうのとりノ條ヲ見ヨ。

かう (名) 鋼 ハガネ。越絶書「拔劍之鋼、中缺者、大如ニ黍米ハ觀ニ其釽ハ爍爍如ニ流水之波ニ」

かう (副) 斯ノ音便。カヤウニ。カクノ如ク。源、五、若紫四十九「スズロナル人ハ、かうハアリナムヤ」「かうナル」かうスル」

かう (副) 皎 白ク見ユル狀ニ云フ語。詩經、陳風、月出篇「月出皎兮、佼人僚兮」

かう (感) 鴉ノ聲。カアカア。啞啞 枕草子、五、四十九段「鴉ノ、イト近ク、かうト啼クニ、打見アゲタレバ、晝ニナリタル、イトアサマシ」

かう (句) かはう(將買)ノ約。かはかうノ條ヲ見ヨ。

かう (接尾) 膏 膏藥ノ名ニツクル語。「水銀膏」萬能膏」天明ノ川柳「生娘ニ、懲リテ白龍、膏ヲ買ヒ」(疵藥)

かう (接尾) 行 〔行ハ、列ナリ、肆ト通ズ、肆モ、列ナリ、類篇「行、列也」〕(名乘ニ、楠木正行ナド云フ)左傳、隱公十一年、註「百人爲レ卒、二十五人爲レ行、行亦卒之行列」漢書、刑法志「開ニ市肆ハ以通レ之」註「肆、列也」古今注「肆、所ニ以陳ニ貨鬻之物ニ也」」支那ニテ、種種ノ語ニ付シ

テ、[illegible]ノ長ス[illegible]行ト云ヒ、[illegible]行ト云フ。[illegible]ヲ[illegible]セドモ、[illegible]ノ[illegible]ニ用ヰテ、[illegible]ト云フ。

がう (名) 郷 〔正シクハ、さとト云フ、(其條ヲ見ヨ)初ハ、里ノ字ナリキ、郷ノ字ニ改メラレテモ、さとナルベキヲ、郷ト音讀スルヤウニナリシナリ〕(一)さと。古ヘ、地方行政區域ノ稱。郡ノ内ニテ、數村ヲ總ベタルモノ。初ハ里ノ字ヲ用ヰラレ、後ニ郷ノ字ニ改メラル、郷長(郷ノ長トモ云フ)アリテ、コレヲ管ム。[illegible] (二)後ニ、莊、保、ナド云フモノ起リテ、郷ト、名稱入リマジリ、甚シキハ、村ノ意ニ用ヰラルルニ至レルモアリ、「武藏國、稻毛莊十一郷」ナド云フ、是レナリ (三)轉ジテ、邑里。在所。[illegible]「郷ニ入リテハ郷ニ從ヘ」「郷村」在[illegible]

がう (名) 號 (一)名。トナヘ。シルシ。[illegible] (二)文雅ニテ、名、字、ノ外ニ設クル稱。詩文ナド、風雅ノ用トス。雅號トモ云フ、多ク、住地、住宅ノ稱ナド用ヰル、[illegible] 學者、文士ナド、皆、多ク、併名、表徳ナド云フモ、是レナリ。(三)物ノ次第ヲ追ヒテ[illegible]

がう (名) 剛 〔柔ニ對ス〕ツヨキコト。

[illegible]「及其壯也、血氣方剛」[illegible]弱能制[illegible]ノ人」[illegible]ノ者」

がう (名) 毫 (一)毛。[illegible] (二)筆。陸機、文賦「或含毫而邈然」[illegible] (三)秤目、度目、物差、斯、貨幣ナドニ、釐ノ十分ノ一。常ニ、毫ヲ略シテ、毛ト書シ、もうト稱フ。此十分ノ一ヲ絲ト云ヒ、絲ノ十分ノ一ヲ忽ト云ヒ、忽ノ十分ノ一ヲ微ト云フ。謝察、微[illegible]

がうあく (名) 強惡 甚シク、惡ナルコト。猛惡。

かうあつ (名) 高壓 〔低壓ニ對ス〕強キ力ニテ壓スコト。強キ壓力。

かうあはせ (名) 香合 (一)薫物合。(二)香道ニテ、嗅覺ヲ鬪ハス遊戯。人人ヲ左右ノ方人ニ別ケ、數種ノ香木ヲ、其名ヲ隱シテ燻キ、衆ニ其香ノ異同ヲ嗅ギ中テシメテ、勝負ヲ決スル技ナリ。嗅グヲ聞クト云フ、コレニ用ヰル香木ハ、羅國、扱蘇羅、眞名蠻、眞中、蘇門答剌、伽羅ノ六種ニ限ル、コレヲ六國香ト云フ。(此中ノ伽羅ヲ、新、古、ニ分チテ、七種トスル)モ、室町時代、南洋ヨリ舶來セルモノヲ用ヰテ、新渡ナルハ用ヰズ、サレバ、佐物ハ盡クレバ、此技ハ廢スベキナリ、[illegible]、此技ヲ聞香トモ云ヒテ、十炷香、[illegible]、競馬香、花月香ナド、種種アリ。

かうあん (名) 考案 カンガヘ。工夫。

「[illegible]ヲ運ラス」某ノ考案ニ出ヅ」

かうい (名) 更衣 コロモガヘ。衣服ヲ著替フルコト。[illegible]

かうい (名) 更衣 〔元ハ、天子御更衣ノ便殿ノ名、ソレヨリ、御更衣ヲ司ル女官ノ名トナレルナリト云フ、漢書、田延年傳ノ更衣ノ註ニ「爲休息易衣之處、亦置宮人」〕後宮ノ女官ノ稱、女御ニ次ギ、天皇ノ寢ニ御ス。此稱、仁明天皇ノ御代ヨリ見ユ、嬪ノ稱失セテ、起レルナリ。(紀ノ條ヲ見ヨ)[illegible] コレヲ、更衣ノ初見トス。

かうい (名) 好意 親ミアルココロ。深切ナル情愛。好誼。[illegible]

かうい (名) 校醫 學校醫ノ略。

がうい (名) 號衣 かんばん(看版)ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。

かういう (名) 孝友 父母ニ孝ニシテ、兄弟ニ友ナルコト。[illegible]

かういう (名) 交友 トモダチ。朋友。[illegible]

かういう (名) 校友 同ジ學校ニテ學ベル友。學友。

かういう (名) 交遊 マジハルコト。トモダチ。交際。[illegible]

がういう (名) 豪遊 盛ンニ奢リテ、遊ブコト。

かういく (名) 港澳 ミナト。イリウミ。[illegible]

がういつ (名) 豪逸 がうはう(豪放)ニ同ジ。[illegible]

かういん (名) [illegible] [illegible]ノ條ヲ見ヨ。[illegible]

がういん (名) 豪飮 オホザケ、大飮。[illegible]

がういん (名) 強淫 がうかん(強姦)ニ同ジ。

がういん (名) 強引 強ヒテ引クコト。[illegible] 無理ヤリニモノスルコト。「強引ニ說キ伏セル」

かうう (名) 膏雨 〔草木ノ膏トナル雨ノ義〕ヨキアメ。ヨキシメリ。[illegible]

がうう (名) 豪雨 オホアメ。大雨。

かううん (名) 耕耘 タガヤシ、クサギルコト。杜甫詩「曉野自耕耘」字類抄[illegible]

かううん (名) 幸運 〔不運、悪運ニ對ス〕ヨキシアハセ。幸福ナル運命。

かううんりうすゐ (名) 行雲流水 行クコト、流ルルコト。人ノ、[illegible]ニ[illegible]云フ。[illegible]

かうえ (名) 香衣 香染ノ衣。[illegible]

得ザレバ服スルコト能ハズ。かうごめ（香粽）ノ條ヲ併セ見ヨ。太平記、二十五、宮方怨靈會六本杉上事「上座ニ先帝ノ外戚、峯ノ僧正春雅、香ノ衣ニ袈裟カケテ」

かうえい（名）【高詠】(一)他人ノ詩歌ノ敬稱。宋史、范鎭傳「省高詠之高誼、覽之言者之謂」(二)聲高ク詠ズルコト。晉書、文苑傳「不ㇾ能ㇾ與言高詠、衡ㇾ杯引ㇾ滿」

かうえき（名）【交易】コモゴモ易フルコト。品ト品トヲ互ニ易ヘテ、商ヒスルコト。貿易。互市。易經、繫辭、下傳「日中爲ㇾ市、致天下之民、聚天下之貨、交易而退」

かうえつ（名）【校閲】シラベ、ケミスルコト。書籍、文書ナドヲ見合セテ、正スコト。晉書、太宗紀「校閲守宰私財、非ニ自家所ㇾ齎、悉皆爲ㇾ罷」

かうえん（名）【講筵】講義スル席。南史、孫謙傳「爲ㇾ孫ㇾ設ニ講筵、時有ニ武帝ㇾ講」集合詩「宗室講筵ニ御座ニ」「講筵ヲ開ク」

かうえん（名）【講演】講義ノ演說。講ジ演ブルコト。宇治拾遺、二、第七條「寺ノ講演、シゲク行ハセケレバ」

がうえん（名）【强緣・剛緣】緣組ヲ强フルコト。强ヒテ娶ルコト。字類抄「强緣、强緣」下學集、下、態藝門「强緣」太平記、三十五、青砥左衞門事「夫レ政道ノタメニ忌ナル者ハ、無禮、不忠、云云、傾城、雙六、博奕、剛緣、內奏、サテハ、不直ノ奉行ナリ」

がうおく（名）【剛臆】剛男ト、臆病ト。太平記、九、六波羅攻事「源平兩陣諸共ニ、互ニ命ヲ惜マネバ、剛臆、何レトハ見エザリケレドモ」

かうおつ（名）【甲乙】かふおつ（甲乙）ニ同ジ。かん（甲）ノ條ヲ見ヨ。

かうおん（名）【高恩】高ク大イナルメグミ。鴻恩。洪恩。藍田、惟信本「一宇名號ニテシナニバ、其コバ高恩ニ謝ラスベシ」

かうか（名）【高價】（安價ニ對ス）價ノ高キコト。高直。タカネ。天中記「自入ニ市、皆以高價買ㇾ之」

かうか（名）【高架】高ク、カケワタスコト。「高架鐵道」

かうか（名）【高歌】聲、高ラカニ歌フコト。舊唐書、裴度傳「高歌放言、以ニ詩酒琴書ㇾ自樂」

かうか（名）【校歌】其學校ノ規律、訓練、又ハ、特長ヲ稱贊ナドシタル歌。衆生ヲシテ合唱セシム。

かうか（名）【降嫁】皇女、又ハ、王女ノ、臣下ニ嫁シタマフコト。文獻通考「有ニ帝女降嫁之儀ニ」

かうか（名）【閣下】閣下ノ音便。榮花物語、廿七、衣珠「かうか（公任）ノ御事コソ、姬宮ノ御ヲリニ、イミジカリシカト」

かうが（名）【高雅】ケダカク、ミヤビヤカナルコト。杜甫、進士策問「二三子、議論引正、詞氣高雅」

かうが（名）【江河】揚子江ト、黃河ト。又、單ニ、河ニモ云フ。爾雅「江河淮濟爲ニ四瀆ニ」後漢書、張衡傳、論「以ニ區區一掌ニ而欲ㇾ獨ㇾ堙ニ江河ㇾ終ㇾ惡ニ疾甚之亂ニ」

がうか（名）がうかのき（合歡木）ヲ見ヨ。

がうか（名）【豪家】財產ニ富ミテ、勢アル家。モノモチ。豪族。史記、呂不韋傳「子楚夫人、趙豪家女也」

がうが（名）【鼇牙】（鼇ハ、言語ノ聞エズ、

牙ハ、齒列ノ正シカラザルヨリ、上下ノ相合ハザルニ云フ）文章ノ字句ノ、難解ナルコト。韓愈、進學解「周誥殷盤、佶屈聱牙」

かうかい（名）【航海】船ニテ、海上ヲ渡ルコト。フナノリ。渡海。宋史、張雲英傳「航ㇾ海歸ㇾ國」

かうかい（副）【耿介】節操ヲ堅ク守リテ、世俗ト容レザル狀ニ云フ語。韓非子、五蠹篇「耿介之士寡、而高價之民多矣」

かうがい（名）【髮搔】正シクハ、かみがき。其條ヲ見ヨ。多クハ、音便ニ、かうがいト云フナリ。形、箸ニ似テ、一本ニテ、銀、又ハ、象牙ナドニテ、本ヲヒラタク、末ヲ細ソク作ル。髮ノ亂レヲ理メ、毛筋立ノ用ヲナシ、又、髮中ノ痒キヲ搔キナドス。古ヘハ、男女共ニ用ヰタリ。剛髮 源、三十一、眞木柱卷「紙、云云、柱ノヒワレタルハザマニ、かうがいノサキシテ、押シ入レタマフ」類聚雜要抄、大治元年、皇后御調度具櫛笥ノ內ニ「平髮搔、細髮搔」男子ハ、刀ノ鞘ノ表差ニ插シオキタリ、後世ハ金屬ニテ精巧ニ作リ、割かうがいトテ、二本トシ、箸ノ用トセシモアリ。(笄ノ字ヲ用キル)十訓抄、下、第一、第一條、行成卿「守刀ヨリ、かうがい拔キ取リテ、實搔キックロヒ」布衣記(永仁)「太刀、刀、云云、かうがい」(小柄ノ條ヲ併セ見ヨ)

かうがい（名）【笄】「延寶ノ頃、女ノかうがい髷(其條ヲ見ヨ)起リテ、前條ノ髮搔ヲ以テ、卷キタル髮ヲ刺シ止ムルコトトナリテ、髮搔ハ變ジテ、古ヘニ云ヒシ笄ノ用トナレリ、因リテ、かうがいノ名ハ遺リテ、字ニハ、笄ト書クナリ」婦人ノ髮ノ笄。卷キタル髮ヲ刺シ止ム

ルニモ用キ、髮ヲ卷キックルニモ用キル、形ハ種種ナリ。一種、儀式ニ用キテ飾トスルモノハ、長サ七八寸、四角ニ作リ、先ヲ尖ラセ、髻ヲ横ニ貫キ、兩端ヲ左右ニアラハス、象牙、(蒔繪)銀、玳瑁(鼈甲)ナドニテ製ス。眞葛原(享保)「洗髮ニハ、ササマかうがい蔓ノヨキ、(懷中ニ叄ス)髮ミニマカス、お湯ノ後ニ(髮ニ女誌考、二)

かうがい（名）【梗概】「揚子方言「梗、略也、梗概、大略也」概ハ、槩ト通ズ」アラマシ。オホムネ。大要。大略。槪略。張衡、東京賦「梗槩、寡言ニ其梗槩ニ如ㇾ此」

かうがい（名）【慷慨】「慷ハ、忼ト通ズ」イキドホリ、ナゲクコト。クチヲシク思フコト。事ノ非ナルヲ見テ、心ヲ奮ヒ起スコト。史記、項羽紀「悲歌慷慨」蜀志、鄧芝傳「慷慨、云云、陳壽」顏宗部位論述「慷慨ㇾ至ㇾ于ニ流涕ニ」天治字鏡、十二「慷慨、大息也、一云、壯士不ㇾ得ㇾ志」

かうがい（名）【沆瀣】海ノ氣。又、露ノ氣。楚辭、遠遊篇「餐ニ六氣ㇾ而飮ニ沆瀣ㇾ兮」

かうがいびる（名）【笄蛭】形、うまびるニ似テ、頭ノ形、丁ノ字ノ如シ、長サ五七寸、常ニ山中ノ樹上ニ棲ミ、夏月、雷雨ノ時、地ニ落ツ。土蟲

かうがいわげ（名）【笄髷】（かうがい(笄)ノ條ヲ見ヨ）女ノ結髮ノ風。髮ヲ頂ニテ前ザマニ卷キヲサメテ、横ニ細ソキ笄ヲ貫キ、其兩端ヲ左右ニアラハス。延寶ノ頃、京都ニ起リテ、諸國ニ行ハル、今ハ形モ異ニナリタレド、京阪ニハ尙、舊形ノ存スルアリ、元祿元年ノ女用訓蒙圖彙ノ三ニ、此髮風ハ下髮セシ女

ノ、勤メヲ終ヘテ、己ガ部屋ニ入リシ時ナド、髮ヲ頭ニ卷キテ、髮搔ニテ止メタルニ起ル由、云ヘリ、御所風ト云フ結髮[illegible]レナリ、[illegible]ト、其頭ヲ同ジクス、[illegible]ニサシタル、[illegible]ノ口[illegible]」君ガ代ハ、笄わけノ、かみ代ヨリ」（梅亭筆記、二）

かうかう（名）[香香]「香物ヲ略シテ重ネタル語、あさづけヲあさあさト云フナド、同例ナリ」かうのものニ同ジ。（婦人ノ語）約メテ、かうこ。オカウコ。

かうかう（名）[孝行] 孝ノオコナヒ。オヤオモヒ。周禮、地官、司徒、師氏「敎二三行一、一曰孝行、以親二父母一」北史、辛少雍傳「少聰穎有二孝行一」[illegible]所レ愛」運歩色葉集、賀「孝行」

かうかう（名）[航行] 船ニ乘リテ、水上ヲ行クコト。フナノリ。

かうかう（名）[抗衡] 横ツキテ、互ニ下ラザルコト。ハリアフコト。史記、陸賈傳「欲下以二區區之越一與二天子一抗衡上爲中敵國上」

かうかう（副）斯斯ノ音便。カヤウカヤウ。伊勢物語、六十三段「かうかうナム思フ」落窪物語、四「かうかうノ事ナム、彼大將殿ノ宮フナルヲ」榮花物語、十二、玉村菊「かうかうノ事ヲコソ仰セラレツレ」

かうがう・し・シキ・シケレ・シク・シク（形、二）[神神]〔神神しノ音便〕神サビテ、尊シ。源、十七、繪合「大極殿ノ御輿寄セタル處ノ、かうがうしきニ」同、十、榊「黑木ノ鳥居ドモハ、サスガニかうがうしく見エワタサレテ」

かうかうと（副）[神神]〔神神とノ音便〕神サビテ。「かうかうとノ生立テル[illegible]ノ樹木」

かうかうと（副）[耿耿]（一）光リカガヤク状ニ云フ語。[illegible]（二）[illegible]ミテ[illegible]ラレヌ状ニ云フ語。[illegible]

かうかうと（副）[illegible] 廣ク漫ヌル状ニ云フ語。[illegible]

かうかうと（副）[皓皓]〔皓ハ、爾雅、釋詁「光也」小爾雅「白也」博雅「明也」集韻「潔白也」〕白ク光リテアル状、又、潔ク白キ状ヲ云フ語。詩經、唐風、揚之水篇「揚之水、白石皓皓」[illegible]

がうがうと（副）[囂囂]（一）喧噪ナル状ヲ云フ語。ガヤガヤト。莊子、駢拇篇「天下何其囂囂」（二）自得、無欲ナル状ヲ云フ語。孟子、盡心、上篇「人知レ之亦囂囂、人不レ知亦囂囂」（三）數多ナル状ヲ云フ語。詩經、小雅、祈父之什、十月之交篇「讒口囂囂」

がうがうと（副）[嗷嗷] カマビスシク。サワガシク。楚辭、九章、[illegible]「[illegible]嗷嗷以[illegible]」盛衰記、十一、靜憲法印嗣使事「入道、[illegible]云云、天下ヲ鎮ムルマデコソナカラメド、事ニフレテ嗷嗷ノ儀、御意ヲ得サル所ニ、剩サヘ、朕ヲ恨ムナド聞召スハイカガ」

かうかうや（名）[好好爺] オ人ヨシノオヤヂ。（支那ノ俗語）

かうかく（名）[高閣]（一）タカドノ。高樓。後漢書、[illegible]傳「其所レ起廬舍、皆有二重堂高閣一」（二）高キ置キ戸棚。晉書、庾翼傳「京兆杜乂、陳郡殷浩、並才冠二世一、而翼弗二之重一也、每語レ人曰、此輩宜下束二之高閣一、俟二天下太平一、然後議中其任上耳」

かうがく（名）[高額]〔低額ニ對ス〕嵩ノ多キコト。多額。

かうがく（名）[講學] 學問ヲ講究スルコト。[illegible]

かうかつ（名）[狡黠]〔狡ハ、玉篇「猾也」、黠ハ、[illegible]〕[illegible]ニ同ジ。[illegible]

かうかつもの（名）[交割物]〔交割ハ、引キワタス意ト云フ、交付ト同ジカルベシ〕（一）寺院ノ住持ノ替ハル時ニ、前住ヨリ後住ヘ受取リ渡シスル什物。[illegible]什物、[illegible]金若干両」[illegible]、かうかつもの「葉隱比事ニ交割常什物ト見エタリ、寺僧ノ什物ヲ云フナリ、明律ニ見エタルハ、引ワタス意也ト云ヘリ」南畝莠言、下「山門ツケワタリノ什物ナドヲ、交割ものト云フ」（二）轉ジテ、俗家ニテ、家傳ノ寶物。今、越前ニテハ、古キ器物ノ上等物ヲモ云フト。[illegible]三、替「大切ノ寶物ヲ、交割ものト云フモ、寺院ナドニテ、前住ヨリ後住ヘウケトリワタスコトヲ、交割スルト云フヨリ、展轉シテ誤レル也」

がうかのき（名）[合歡木]〔がうかハ、字ノ音ナル、がふくゎんノ略轉、ほふゑ、ほうゑ。（法師）せいぐゎゐ、せがゐ（清和井）ノ例〕ネブノキ。がうかトノミモ云フ。六帖、六「晝ハ咲キ、夜ハコヒヌル、がうかの木」吾妹子ガ、形見ノがうか、花ニノミ、咲キテケラシモ、實ニナラメカモ」萬葉集、八「吾妹子ガ、形見ノ合歡木ハ」新六帖、六「山深ミ、イツヨリねぶト、名ヲカヘテ、がうかの木ニハ、人マドフラム」

かうがふ（名）[香合]〔合ハ、盒ノ略字ナリト云フ〕香料ヲ盛ルニ用キル器。漆塗、蒔繪、堆朱、陶器等、種種ナリ。カウバコ。香盒 香匳 朱有燉、[illegible]詩「[illegible]」金

かうがふ（名）[illegible]

かうが・ふ（動）[考] かんがふ（案撿）ノ[illegible]

かうかぶつ（名）[illegible]

かうがへ（名）[考]〔前前條ノ語ノ名詞形〕かんがへニ同ジ。

かうかん（名）[好漢] 善キ人物、[illegible]男、[illegible]

かうかん（名）[illegible] [illegible]ノ[illegible]キコト。[illegible]

かうがん（名）[抗顏] 抗ハ、亢ト通ズ。顏ヲ抗ゲテ、人ニ對フコト。ヘラズガホ。強顏。柳宗元、[illegible]抗顏而爲レ師」

かうがん（名）[向顏] マノアタリニ、相會フコト。對面。[illegible]、向顏ノタメ、タダ今、南都ヘト急ギ候」

がうかん（名）[強姦] 強ヒテ姦スルコト。迫リテ情慾ヲ遂グルコト。強淫。〔和姦ニ對ス〕[illegible]八、[illegible]十八年六月丁丑「[illegible]內竪雀部廣道、決杖一百、以レ強二姦法華寺尼一也」

がうがん（名）[傲岸]〔漢書、江充傳、「爲レ人魁岸」註「岸者、有二廉稜一、如二崖岸形一」〕高ブリテ、屈セザルコト。李白、[illegible]

かうき（名）[高貴] 官位ノ、高ク貴キコ[illegible]

ト。ウヘツガタ。李商隱雜纂、不ㇾ達ニ時宜ニ「語ニ仙高貴一爲ㇾ親」

かうき（名）［香氣］カ。カヲリ。ニホヒ。大智度論「譬如ニ妙高ハ一人賣一人買、旁人在ㇾ邊、亦得ニ香氣ニ」走渇山峯起、二「溫泉所所涌、香氣谷谷草」

かうき（名）［綱紀］「白虎通「大者爲ㇾ綱、小者爲ㇾ紀」」國家ノ大小ノ政治。紀綱。詩經、大雅、文王之什、棫樸篇「勉勉我王、綱ニ紀四方ニ」棫樸、傳「張ㇾ之爲ㇾ綱、理ㇾ之爲ㇾ紀」

かうき（名）［好機］ヨキヲリ。ヨキシホ。「好機ヲ逸ス」

かうき（名）［降旗］降伏ノシルシニ立ツル旗。多ク、白キ旗ヲ用ヰル。皇甫湜、手帖「關堂特高、古風ハ敢樹ニ降旗ニ」陳師道詩「來須堅百戰、當ニ卽建ニ降旗ニ」

かうぎ（名）［交誼］〔誼ハ、義ト通ズ、說文「誼、人所ㇾ宜也」廣韻「善也」〕友ダチノヨシミ。友誼。樓鑰詩「臨ㇾ別提ニ斯語ハ少叙ニ交朋誼ニ」

かうぎ（名）［好誼］親切。ヨシミ。親善。

かうぎ（名）［高誼］〔前前條ノ語原ヲ見ヨ〕（一）賴ミアル交誼。（二）氣高キ操。劉長卿詩「寧ㇾ物推ニ高誼ニ」（三）正シキ條理。漢書、董仲舒傳「竊ニ聞高誼ニ之日久矣」

かうぎ（名）［高義］道義ノ高キコト。氣高キ行爲。莊子、盜跖篇「聞ニ將軍高義ハ敬再ニ拜謁者ニ」史記、信陵君傳「臣所ㇾ以自附爲ニ婚姻ニ者、以ニ公子之高義、爲ㇾ能急ニ人之困ニ」

かうぎ（名）［講義］書ノ義理ヲ講釋スルコト。唐書、禮樂志「召ニ禮官ニ講議」唐會要「按ㇾ文講ㇾ義」

かうぎ（名）［抗議］反對ノ意見ヲ言ヒ張ルコト。異議ヲ稱フルコト。後漢書、何敞傳、論「大臣、方忠、袁任ニ公、正色立ㇾ朝、樂何之徒、抗議在ㇾ下」

がうき（名）［剛毅］心强クシテ、動カザルコト。事ニ屈セザルコト。心猛ク、强キコト。論語、子路篇「剛毅木訥近ㇾ仁」書言字考節用集、八、言辭「剛毅」

がうき（名）［豪氣］氣力ノ大ニシテ、剛ナルコト。魏志、陳登傳「陳元龍、湖海之士、豪氣不ㇾ除」

かうきあつ（名）［高氣壓］氣壓ノ條ヲ見ヨ。

かうきう（名）［考究］考ヘ、究ムルコト。理ヲ推シ、究ムルコト。研究。魏書、高允傳「及ニ更考究ハ果如ニ君語ニ」

かうきう（名）［講究］講ジ、究ムルコト。宋史、食貨志「講ニ究方田利害ハ作ㇾ法而推ニ行之ニ」

かうきう（名）［購求］アガナヒ、モトムルコト。買ヒ入ルルコト。

かうきしん（名）［好奇心］奇シキヲ好ム心。モノズキ。

がうぎに（副）［强氣］勢ヒ强ク。スバラシク。エラク。ガウセイニ。（東京）「雨ガがうぎに降ッテ來タ」

かうぎは（名）［髮際］〔かみぎはノ音便〕髮ノ生際。宇治拾遺、一、第五條「額、眉ノ間ノ程ニ、かうぎはニ寄リテ、二寸バカリ疵アリ」

かうきふ（名）［高級］等級ノ、高キコト。（下級ニ對ス）

かうきふ（名）［高給］給料ノ、多キコト。「高給ノ官吏」

がうきふ（名）［號泣］ナキ、サケブコト。禮記、曲禮、下篇「子之事ㇾ親也、三諫而不ㇾ聽、則號泣而隨ㇾ之」

かうきん（名）［高金］金高ノ多キコト。高直。

かうきやう（名）［好況］「不況ニ對ス」ヨキアリサマ。ヨキケイキ。

かうきよ（名）［抗拒］手ムカヒテ、拒ムコト。抵抗。晉書、張軌傳「立ㇾ義無ニ師法ハ而神解過ㇾ人、高談鮮ニ能抗拒ニ」

かうきよ（名）［考據］考ヘツケタル、ヨリドコロ。

かうぎよ（名）［香魚］魚ノ名。アユ。閩江邊志「香魚、鱗細不ㇾ腥、春初生、月長一寸、至ニ冬月ニ長尺餘、則赴ニ潮際ニ生ㇾ卵、生已輒槁、云云、一名、記月魚」

かうぎよく（名）［鋼玉］鑛物ノ名。硬キコト金剛石ニ次グ、形、六角ヲナシテ、色、紅、黃、綠、紫ナドヲ帶ビテ半透明ナルヲ、寶石トシテ珍重セラル。紅色ナルハ、紅玉、るびい、ト稱スルモノナリ。

かうぎろく（名）［講義錄］講義ヲ書取リタルモノ。

かうぐ（名）［香具］薰物、匂袋ナドニ用ヰル沈香、丁子、白檀、麝香等ノ總名。

かうくうき（名）［航空機］飛行機、飛行船。

かうくうじゅつ（名）［航空術］航空機ヲアヤツル術。

かうぐし（名）［香具師］人ノ集ル場處ノ路傍ニ、香具、假粧品、齒磨ノ類ヲ並ベテ、功能ナド說キテ賣ル口上商人。コレラノ商人、後ニハ野師トナル。

かうぐん（名）［行軍］軍隊ガ、隊ヲ整ヘテ行進スルコト。

かうくわ（名）［効果］（一）デキアガリ。デキバエ。成績。（二）シルシ。キキメ。

かうくわ（名）［考課］〔考課令、義解「考者、考ニ校功過ニ也、課者、課ニ試才藝ニ也」〕內外文武官吏ノ、一年中ノ功過、行能等ヲ考ヘ、錄シテ上申スルコト。考績。杜預、奏「魏氏考課、卽京房之遺意」

かうくわ（名）［考科］かうこ（考試）ニ同ジ。

かうくわ（名）［硬貨］金、銀、銅等ニテ造レル貨幣。紙幣ヲ、軟貨ト稱スルニ對ス。

かうくわ（名）［硬化］〔軟化ニ對ス〕（一）カタキ物質ニ變ズルコト。「動脈硬化」（二）意見ノ、弱カリシガ、變ジテ、强クナルコト。ツヨゴシ。「民論、硬化ス」

かうぐわ（名）［高臥］枕ヲ高クシテ臥スルコト。隱遁シテ、心ヲ高尙ニスルコト。晉書、謝安傳「常往ニ臨安山中ハ放ニ情丘壑ハ云云、屢違ニ朝旨ハ高ニ臥東山ニ」

がうくわ（名）［豪華］ハデナルオゴリ。宋史、文天祥傳「性豪華、平生自奉甚厚」庾信詩「長安有ニ狹斜ハ金穴盛豪華」

がうくわ（名）［號火］相圖ニ上グル煙火。皇明世法錄「墩軍見火、舉放ニ邊墩ハ火把混淆」

かうくわい（名）［狡獪］〔狡ハ、說文、及、

[illegible]「少府也」[illegible]、同ジ」 [illegible]キコト、狡猾、狡黠[illegible]
[illegible]

かうぐわい（名）［郊外］町ハヅレノ野邊。市街ヲ離レタル地。[illegible]

がうぐわい（名）［號外］新聞紙、雜誌ノ、定マレル號數ノ外ニ、發行スルモノ。

かうくわう（名）［膏肓］〔左傳、成公十年、杜注「肓、鬲也、心下爲膏」〕治療シ難キ病。小荷子「膏肓純白、二豎不生、並謂心學」

かうくわじ（名）［香火寺］かうげゐん（香華院）ニ同ジ。

かうくわつ（名）［狡猾］かうくわい（狡獪）ニ同ジ。荀子、非十二子篇「可謂[illegible]之人」矣」

かうくわん（名）［高官］タカキツカサ。上ノ役目。王充、論衡「名生于高官、[illegible]子卑位」「[illegible]高官」

かうくわん（名）［交換］トリカへ。ヒキカへ。

かうくわん（名）［交驩］交歡 互ニ打チトケテ、タノシムコト。史記、陸賈傳「君何不交驩太尉、深相結」

かうぐわん（名）［睪丸］ヘノコ。キンタマ。キン。

かうぐわんえん（名）［睪丸炎］睪丸ノ病。腫レテ、烈シク痛ミ、陰嚢モ、腫レテ赤クナル。

かうぐわんじらふろく（名）［[illegible]］[illegible]ノ頃、江戸、[illegible]、山谷ナド[illegible]ノ間山[illegible]人、[illegible]ヲ[illegible]スルニ、内佛ノ小サキニ供フトテ、創意シタルモノト云フ。近代世事談、八、火[illegible]「[illegible]」[illegible]ノ、[illegible]ク小サク製シタルモノ、佛前ノ用トス。

かうけ（名）［高家］（一）家系ノ高キ族。家柄ノヨキ家。名族。宇治拾物語、祭使[illegible]「親アル人ノ、身ノオモナクテ、かうけヲ恃ミ、云云」源、四十九、[illegible]「かうけノアタリ[illegible]シク、[illegible]ハシキモノニ[illegible]リ[illegible]チ」[illegible]「[illegible]」[illegible]ノ人人、[illegible]ニ任ズ」[illegible]記、三十七、[illegible]平停[illegible]準「高家ニハ秩父、足利、三浦」（二）室町幕府ノ頃ノ名族ノ裔ノ、德川氏ノ旗本トナレル家家ノ稱。祿ハ萬石以下ナレドモ、四位中少將ニ敍任セラレ、朝廷トノ間ノ吉凶ノ儀式、伊勢神宮、日光東照宮ノ代拜等ノ事ヲ掌リキ、大[illegible]、十九「寛永九年三月七日、御[illegible]位ノ御[illegible]使ヲ、高家吉良上野介義彌、命セラレ、[illegible]下サル」

かうけ（名）［高家］〔前條ノ語ノ（一）ヨリ轉ジテ、名族ノ威ヲ借ル意ヨリ移リタル語ナラムト云フ〕物ヲ恃ミテ、高ブルコト。[illegible]ニカカルコト。高慢。山家集、下「通ル船ノ、其綱ニアタリヌルヲバ、カコチカカリテ、かうけガマシク申シテ、ムヅカシク侍ルナリ」舊、今昔物語、廿四、五十五語、大隅ノ郡司ガ、守ノ前ニテ「只老ヲ高家ニシテ、答ヘ居タリ」宇治拾遺、十、第一條、伴善男ノ出納トイサカヒテ、舍人、腹立テテ「我ガ主ノ大納言ヲ、高家ニ思フカ、云云、我ガロアケテバ、己ガ主ハ、人ニテハアリナムヤ」榮花物語、十、[illegible]御物[illegible]かうけニテ、サマザマアルニコソアリケレ、コレ去リヌレバ、[illegible]キサマシ、[illegible]セズ」狂[illegible]、八[illegible] オオ、かうけ[illegible]タル罪人カナ」

かうげ（名）［高下］たかきト、ひくきト。[illegible]

かうげ（名）［香花］［香華］佛、又ハ、死者ニ手向クル、香ト、花ト。[illegible]

かうけち（名）［夾纈］〔かうハ、かふノ音便、（法師、ほふし）臘［夾、乾治切、音甲］纐纈トモ書クハ、糸交頁ノ合字ノ譌ナルベク、[illegible]ト書ク例ナリ、[illegible]（ゆはだ、しぼり）ニ夾ヲ通ラセタル語ナリ〕染模様ノ名。今ノ板締ノ類、[illegible]紀、九、承和七年九月「賜夾纈[illegible]」倭名抄、十二「夾纈、加字介知」太平記、六、關東大勢上洛事「纐纈ノ鎧直垂ニ、精好ノ大口ヲ張ラセ」

かうけつ（名）［高潔］ケダカク、イサギヨキコト。利欲ニ迷ハザルコト。[illegible]、馬宮傳「師丹薦」宮、行能高潔」「志操高潔」

かうけつ（名）［膏血］人ノ、膏ト、血ト。膏汗流シテ得タル收益ナドニ云フ。唐書、陸贄傳「[illegible]子追呼、膏血[illegible]」民の膏血を絞るトハ、苛税ヲ課ス。宋史、[illegible]傳「[illegible]民膏血、以奉無用之土木」

かうげつ（名）［皓月］明カニ光ル月。李白、友人會宿詩「良宵宜[illegible]、皓月未能寢」

かうげつ（名）［皋月］［皐月］〔爾雅、釋天篇「五月爲皋」宋、[illegible]「皋、俗作皐字」〕サツキ。陰暦五月ノ異稱。

がうけつ（名）［豪傑］〔淮南子、泰族訓「智過百人者謂之豪、千人者謂之傑」〕

[illegible]、衆人ニ勝レタル人[illegible]傑「[illegible]」才徳ニ云フ）史[illegible]

がうけふ（名）［豪俠］ヲトコギノアルコト。又、其人。[illegible]

かうけん（名）［効驗］シルシ。キキメ。[illegible]

かうけん（名）［高見］（一）ケダカキ見込ミ。優レタル考へ。（二）他人ノ意見ヲ敬フ語。

かうげん（名）［高原］〔平原ニ對ス〕高野ニアル原。[illegible]

かうけん（名）［高言］［[illegible]］[illegible]ブリテ云フ言。大言。豪語。慢語 太閤記、三、[illegible]「[illegible]」

かうげん（名）［巧言］詞巧ニ言フコト。口マヘノヨキコト。詩經、小雅、小旻之什、巧言「巧言如簧、顏之厚矣」[illegible]「巧言令色」

かうげんれいしよく（名）［巧言令色］ヲ巧ニシ、顏色ヲ和ゲテ、人ヲヘツラフコト。悅バシメ諂フ意ナリ。論語、學而「巧言令色、鮮矣仁」[illegible]令、善也、好其言、善其色、致飾於外、務以悅人、則人欲盡而、本心之德亡矣」

かうげゐん（名）［香華院］菩提所ノ寺。[illegible]寺。香火寺。

かうこ（名）かうかう[illegible]ノ條ノ見ヨ。

かうこ (名) 江湖 (一)支那ニテ揚子江、洞庭湖ヲ合稱スル語ニテ、ソレヲ、四方ノ意ニ用ヰルナリト云フ」(一)世上。世間。ヨノナカ。莊子、大宗師篇「泉涸、魚相與處レ於レ陸、相呴以レ濕、相濡以レ沫、不レ如レ相忘於二江湖一」陶潛詩「良才不レ隱レ世、江湖多二賤貧一」朗詠集、下「昔爲二京洛聲華客一、今作二江湖潦倒翁一」(二)ごうこ(江湖)ノ條ヲ見ヨ。

かうこ (名) 高戶 善ク酒ヲ飮ム人。上戶。西宮記、十、朔旦冬至「外記注二御酒勅使等名一、授二參議一」註「左右各二人、選二高戶者一爲レ之」

かうこ (名) 好古 古ヘヲ好ムコト。昔ヲ偲ビ慕フコト。論語、述而篇「我非二生而知レ之者一、好レ古敏以求レ之者也」書經、序「若好古博雅君子、與レ我同レ志、亦所レ不レ隱也」

かうこ (名) 好個 〔形狀名詞トナルモノ〕適當ナルコト。恰度ヨシト云フコト。「好個ノ人物」

〜かうご (名) 香壺 薰物ヲ入レ置ク壺。雅亮裝束抄、三十四、上、若菜、上二十四「かうご、藥ノ箱」雅亮裝束抄、二「かうごノ箱ニハ、志ろがねニテ、美濃壺ノ大キナル壺ヲ、二合ニ四ツヅツ入レテ、薰物ヲ入ルル料ナリ」

かうご (名) 庚午 カノエウマ。干支ノ條ヲ見ヨ。

かうご (名) 行伍 クミ。隊列。陣列。

かうご (名) 向後 今ヨリ後。コノノチ。きやうご。汪俊詩「向後休レ參文字禪」盛衰記、三十五、高綱渡二宇治河一事「命ヲ助ラレ奉ヌレバ、向後深ク憑奉リ候」

がうご (名) 豪語 意氣盛ンナル言詞。壯語。大言。陸游詩「皺遺二鶴途一作二豪語一」

かうごいし (名) 神籠石 筑前、筑後ノ兩國中ニ、峻嶮ナル山中ニ、方形ノ切石ヲ、不規則ナル形ニ並べ環ラシタル地域ノ名。此築石ハ、谷ヲ渡リ、峯ニ上リ、狹キモ十餘町、廣キハ數十町ニ及ブ、神靈ノ地ナルヲ標セシモノトノ說アリ、或ハ、城址ナリトモ云フ。筑後ノ三井郡、高良山ナルハ、明治以前ヨリかうごいしト稱ヘラレ、此遺跡、最モ先ヅ學者ニ知ラレタルニ因リテ、後ニ處處ニ發見セラレタルモノモ、同名ニ稱ヘラル。周防國、熊毛郡、石城山ニモ、類似ノモノアリ。

かうこう (名) 坑口 鑛物ヲ掘リ出ス穴ノ口。

かうごう (名) 交媾 クナガヒ。房事。

かうこく (名) 抗告 裁判所ノ判決ニ、不服ノ申立ヲスルコト。

かうこつ (名) 硬骨 〔軟骨ニ對ス〕(一)カタキホネ。(二)意見ニ、骨アルコト。言ヒ張リテ、曲ゲザルコト。「硬骨漢」

かうごに (副) 交互 カタミニ。タガヒニ。カハルガハル。後漢書、左雄傳「選代交互、令長月易」「數人、交互ニ演說ス」

かうさ (名) 交叉 二本ノ筋ノ、スミ違ヒニナルコト。ウチチガヒ。ブッチガヒ。隋書、禮儀志「載以二輅車一云云、其車軨解合交叉」

かうさ (名) 考查 カンガヘ、シラブルコト。考案。

かうざ (名) 講座 (一)講師ノ着ク座席。(二)學校ニテ、講義スベキ學科ニ關スル教授事務ノ擔任。「國語學第一講座」

かうざ (名) 高座 講釋、說法、ナドノ席ニ、一段高クシテ、講師ノ坐ル座。世說、文學、下篇「向二高坐一者」李白詩「黃金師子承二高座一、白玉麈尾談二重玄一」玄蕃寮式「正月、最勝王經齋會堂、裝二高座二具一」

かうさい (名) 高材・高才 優レタル人物。史記、淮陰侯傳「秦失二其鹿一、天下共逐レ之、於レ是、高材疾足者先得焉」

かうさい (名) 交際 マジハリ。ツキアヒ。孟子、萬章、下篇「敢問、交際何心也、孟子曰、恭也」

かうざい (名) 絞罪 けうざいト讀ムヲ例トス。死罪ノ條ヲ見ヨ。

かうざい (名) 好在 幸ク在ルコト。無事ニクラシテアルコト。恙災ニテ居ルコト。健在。杜甫、送二蔡希魯一詩「好在阮元愈」

かうさいくゎん (名) 交際官 外國トノ交際ノ事務ニ從フ官人。

かうさいこく (名) 交際國 外國ノ、我レト交際シ、通商スルモノ。

かうさう (名) 高燥 〔卑濕ニ對ス〕土地高ク、濕氣ナキコト。司馬相如、子虛賦「平原廣澤、云云、其高燥、則生二云云一、其埤濕、則生二云云一」

がうさう (名) 豪壯 勢強ク、盛ンナルコト。陸游、醉中作「白浪如レ山寄二豪壯一」

がうさう (名) 豪爽 氣ノ、スグレテ爽カナルコト。晉書、桓溫傳「溫豪爽有二風槩一」

〜かうさく (名) 告朔 〔廣韻「告、古到切、音誥」同「古沃切、音梏、義、同ジ」〕ツキタチマヲシ。又、告朔。古ヘ、每月朔日ニ、百官、前月ノ行事、上日ヲ記シテ、告ゲ奉ルコト。天皇ノ、コレヲ御覽ゼラルルヲ、視告朔ト云フ、告朔ノ文ヲ視ソナハスト云フ心ナリ(後ニハ、正月、四月、七月ノ朔ニ行ハル)然シテ、尙コレヲかうさくト讀ミテ、視ノ字ヲ讀マヌヲ例トス。公事根源、正月「視告朔ト書キテ、只かうさくト、二文字ニ讀ムガ口傳ニテ侍ルナリ、こくさくトハ不レ讀ナリ」名目抄「視告朔、視字、不レ讀之例也、正、四、七三ケ月朔有レ之」(視ノ音ノ、死ニ通ズルヲ忌ミテナルベシ、施藥院ノ施ヲ讀マヌト、同例ナルカ)天武紀、下、五年九月丙寅、朔「雨、不二告朔一」續紀、二、大寶二年九月「諸司告朔文者、主典以上、送二辨官一、惣納二中務省一」類聚國史、七十五、歲時「天長元年四月庚辰、朔、天皇御二大極殿一、視二告朔事一」

かうさく (名) 耕作 田畠ヲ耕シテ、穀菜ヲツクルコト。韓非子、外儲說、右上篇「耕作而食之、掘レ井而飮之」史記、越世家「身自耕作」沙石集、二、上、第六條「時料ノ爲ニ、耕作ナムドセサスル事、云云」

かうさく (名) 交錯 カレ、コレ、入リマジルコト。錯雜。詩經、小雅、北山之什、楚茨篇「爲レ賓爲レ客、獻酬交錯」

〜かうざく (名) 警策 きやうざくノ條ヲ見ヨ。

かうさつ (名) 高札 タテフダ。有德院殿御實紀、附錄、三「享保六年閏七月廿五日、廣ク諮ヲ開キ、下ノ情ヲ通ジサセ玉ハン事ヲ思召シ、農工商賈ハ更ナリ、醫卜巫祝ノ徒ニ至リテモ、上ニ聞エアゲント思フ者ハ、少シモ憚ラズ申出ベシト、日本橋ノ邊ニ札ヲ立ラル」

かうさつ (名) 高札 入札ノ中ニテ、直積ノ、最モ多キモノ。

かうさん（名）降参 [illegible]

かうざん（名）高山 高ク大イナル山。タカヤマ。詩經、小雅、甫田之什、車舝篇「高山仰止、景行行止」[illegible]

がうざんぜ（名）降三世 佛經ニ、明王ノ一。東方ヲ護ル、三面八臂ニテ、貪、瞋、癡ノ三毒ヲ降スト云フ。[illegible]

がうざむらひ（名）郷士 がうし（郷士）ニ同ジ。

かうし（名）格子 隔子 〔字ノ音、かくしノ音便〕（一）一種ノ建具ノ名。細ソク角ナル材ヲ、疎間ク縦横ニ組ミ作リテ、[illegible]ニシタルモノ。古ヘノ[illegible]造リノ、柱ト柱トノ間ニ掛ケテ、内外ノ隔テトス、一間毎ニ、横ニ上下二枚、上ナルハ外方ヘ釣リアゲ、下ナルハ常ニ掛ケオキテ、出入ヲ許サズ。（出入ハ、妻戸ヨリス）倭名抄、十「居宅具「隔子、格子」」源、四、夕顔「[illegible]」（二）[illegible]ソキ竹木ヲ、縦横ニ透間アルヤウニ組ミテ、窓ナドニ取リツケタルモノ。[illegible]子。[illegible]（妾ノ住宅）（三）格子戸ノ略。（四）染物、織物ノ模様ニ、縦横ノ筋ヲ成セルモノ。[illegible]（五）遊女屋ノ稱。（遊女屋ノ表ガ、格子造リナルヨリ）[illegible]（六）[illegible]女ノ稱。格子女郎[illegible]ノ略。

かうし（名）孝子 （一）親ニ善ク仕フル子。詩經、大雅、生民之什、既醉篇「孝子不匱、永錫爾類」十訓抄、中、第六、序「[illegible]」（二）[illegible]時、又ハ、[illegible]ニ[illegible]スル時、[illegible]ナルニハ、哀子、[illegible]ト云フ。又、親ニアル時ニハ、哀子、哀孫トモ云フ。[illegible]「哀子哀孫」儀禮、士喪禮記「哀子某」注「凡、吉祭[illegible]曰孝子」

かうし（名）庚子 カノエネ。干支ノ條ヲ見ヨ。

かうし（名）高士 品性ノ、氣高キ人。德高キ人。史記、[illegible]「[illegible]之高士也」

かうし（名）嚆矢 〔字ノ意、嚆、同、鼓、叫呼也〕矢ノ、鳴ルモノ。鏑矢。支那ニテ、射ル者、先ヅコレヲ用ヰテ、遠近ヲ定ムルヨリシテ、スベテ、事ノ第一ナルコト。莊子、在宥篇「焉知曾（曾參）史（史鰌）之不レ爲二桀（夏桀王）跖（盜跖）嚆矢一也、故曰、絕レ聖棄レ知、而天下大治」

かうし（名）講師 （一）教ヘヲ講ズル師。講義、講釋スル人。（二）詩歌ノ會ニ、詩歌ヲ讀ミアグル人。宇津保物語、祭使「[illegible]」（三）[illegible]（講師）ノ條ヲ見ヨ。

かうし（名）考試 學生ノ學力、或ハ、高等官タランモノノ試驗。考科。[illegible]

かうし（名）行使 ツカフコト。モチヰルコト。[illegible]

かうし（名）[illegible]

かうし（名）[illegible]

かうじ（名）柑子 〔字ノ音、かむじノ音便〕（一）古クハ、蜜柑（[illegible]ノ條ヲ見ヨ）（二）今ハ、かうじみかん。（たちばなノ條ヲ見ヨ）

かうじ（名）勘事 かんじ（勘事）ノ條ヲ見ヨ。

かうじ（名）好事 好キ事。善キ行。[illegible]好事不レ出レ門、惡事行二千里一」

がうし（名）郷士 農ニシテ、武士ノ籍アル者。郷侍。

がうし（名）郷司 [illegible]

かうじいろ（名）柑子色 黄ト赤ト合ヒタル色。橙黄。十訓抄、下、第十、六十條「[illegible]ノ小女「イマダ色ナリケレバ、かうじ色ノ衵着テ、錦色ノキヌドモ着テ」

がうじう（名）剛柔 こはきト、やはらかきト。易經、下、象傳「[illegible]亨、剛柔分、而剛得レ中」

かうしき（名）香數 香道ノ具。火數ノ條ヲ見ヨ。

かうしじま（名）格子縞 織物、染物ノ模様ニ、縦横ノ線ヲナセルモノ。[illegible]

かうしたうにく（名）[illegible]

かうしぢょらう（名）格子女郎 [illegible]遊女ノ[illegible]ニ因リテ名アリトナリ。後ニ部屋持ト[illegible]レタ、見世女郎ノ[illegible]、格子女郎[illegible]

かうしつのまじはり（名）膠漆之交 [illegible]

かうしど（名）格子戸 戸ノ[illegible]格子造リナルモノ。略シテ、かうし。

かうしのらん（名）[illegible]

かうしふ（名）[illegible]

かうじみかん（名）柑子蜜柑 [illegible]

かうしん（名）孝心 [illegible]

其室一也」運歩色葉集、賀「孝心」

かうしん (名) 庚申 (一)〔カノエサル。干支ノ條ヲ見ヨ。宇津保物語、貴宮十「二月中ノ十日、年ノ始ノかうしん出來ルニ」(二)庚申待ノ條ヲ見ヨ。

かうしん (名) 庚辰 カノエタツ。干支ノ條ヲ見ヨ。

かうしん (名) 行進 ユキ、ススムコト。進行。「軍隊ノ行進」

かうじん (名) 行人 (一)路行ク人。史記、李斯傳「有二行人入二上林中一」王昌齡、出塞行「秋天曠野行人絕」(二)タビビト。行客。朗詠集、下、雜、猿「巴猿三叫、曉霑二行人之裳一」(三)ツカヒ。使者。行李。論語、憲問篇「行人子羽修二飾之一」神武紀上「長髓彥乃遣二行人一言二於天皇一曰、云云」私記「行人、津加比」

かうじん (名) 降人 降參スル人。クダル人。後漢書、光武紀「悉將二降人一分二配諸將一」

かうじん (句) 幸甚 幸ナルコト甚シ。シアハセヨシ。カタジケナシ。イトホシ。至幸。史記、淮陰侯傳「何(蕭何)曰、幸甚」李陵、答二蘇武一書「榮問休暢、幸甚幸甚」明衡往來、上、正月「改年之後、富貴萬福、幸甚幸甚」

かうしんづか (名) 庚申塚 靑面金剛ト、三疋猿トヲ、石ニ彫リテ、街道ノ路傍ナドニ建テオクモノ。庚申待、竝ニ、三疋猿ノ條ヲ見ヨ。

かうしんばら (名) 庚申薔薇 〔庚申ノ日アル月每ニ咲ク意、隔月ノ義トナレド、四季ニ咲クナリ〕四季咲ノ薔薇。ちやうしゆん(長春)ノ條ヲ見ヨ。

かうじんぶつ (名) 好人物 心ノ善キ人物。惡氣ナク、穩順シキ人。オヒトヨシ。ケッカウジン。

かうしんまち (名) 庚申待 庚申ノ日、晝ノ申ノ刻七ツ(今ノ午後四時)ヨリ始メテ、夜ノ寅ノ刻七ツ(今ノ午前四時)ニ至ル、七刻ノ間ヲ待チテ、猿田彥大神ヲ祭リ、供物七種ヲ備進ス。或ハ云フ、道家ニ、此ノ夜寢レバ、三尸蟲、人命ヲ短クスルトテ、夜ヲ守ルコトアリ。略シテ、庚申。佛家ニ、靑面金剛ヲ、庚申ニ祭ルト云フ。一話一言、三十八「本朝庚申、元祭二猿田彥神一、相傳之祕訣也」口遊、時節「彭侯子、彭常子、命兒子、悉入二窈冥之中一、去二離我身一(謂二之庚申夜誦一)今案、每二庚申一勿レ寢而呼二其名一、三尸永去、萬福自來」簾中抄、下「庚申夜ノ誦、彭侯子、彭常子、命兒子、離我身、夜モスガラ、イネズシテ、コレヲ唱フレバ、三尸サリ、萬福キタル」

かうしや (名) 校舍 學校ノ建物。後漢書、儒林傳、序「別立二校舍一、搜二選高能一、以授二其業一」

かうしや (名) 巧者 〔正韻「巧、苦絞切」說文「技也」廣韻「能也」〕(一)テビト。技ニ巧ミナル者。巧手。(拙者ト云フ語モアリ)こうしや(功者)ヲ併セ見ヨ。史記、貨殖傳「巧者有レ餘、拙者不レ足、貧富之道、無二奪二與之一」唐書、高崇文傳「擧二蜀帑藏百工之巧者一、皆自隨」(二)事ニ馴レタルコト。上手。熟練。「客扱ヒノ巧者」針仕事ガ巧者ナリ」

がうしや (名) 鄕社 神社ノ格式ノ稱。府縣社ノ下、村社ノ上ニ位ス。

がうしや (名) 豪奢 盛ンニ、奢ルコト。張正見詩「未二具闕豪奢一」

かうしやう (名) 高聲 タカゴエ。コワダカナルコト。カウセイ。宇治拾遺、十二、第七條「上人、高聲ニ云フヤウ」

かうしやう (名) 高尙 〔卑近ニ對ス〕(一)學術ナドノ、義高ク、深クシテ、解シ易カラヌコト。(二)事物ノ、氣高キコト。易經、上經、蠱卦「上九、不レ事二王侯一、高二尙其事一」

かうしやう (名) 好尙 スキ、コノムコト。嗜好。三國志、蜀志、法正傳「好尙不レ同」

かうしやう (名) 行商 (一)アルキテ、アキナフコト。フリウリ。ボテフリ。行商。(二)田舍ワタラヒノアキナヒ。諸處ヲ巡行シテ、商取引スルコト。

かうしやう (名) 行賞 褒美ヲ與フルコト。禮記、月令篇「迎二夏于南郊一、還反行レ賞、封二諸侯一」「論功行賞」

かうしやう (名) 翺翔 〔離騷、注「一上一下曰レ翺、直刺不レ動曰レ翔」〕鳥ノ、飛ビカケルコト。詩經、鄭風、淸人篇「二矛重英、河上乎翺翔」

かうじやう (名) 鏗鏘 音樂ノ聲。禮記、樂記篇「君子之聽レ音、非レ聽二其鏗鏘一而已也、彼亦有レ所レ合之也」

かうじやう (名) 綱常 〔三綱ト、五常ト〕人ノ踐ミ行フベキ道。人倫ノ道。人道。宋史、葉味道傳「正二綱常一」

かうじやう (名) 交情 マジハリノヨシミ。ナカラヒ。ナカ。友情。漢書、鄭當時傳「一死一生、迺知二交情一」

かうじやう (名) 向上 ウヘニムカフコト。善キ方ニ進ムコト。莊子、人間世訓、注「無二以進一者、言更無二向上一者也」「向上ノ精神」

がうしやう (名) 豪商 富ミタル商人。オホアキンド。

がうじやう (名) 强情 意地ノ强キコト。我意ヲ張ルコト。剛愎。

かうじやうぼく (名) 交讓木 ユヅリハ。

かうしやく (名) 講釋 (一)講ジ釋クコト。書物ノ義理ヲ說キ明スコト。南唐書「升レ堂講釋」實隆公記、永正二年三月十七日「蒙求講尺如レ例」(二)軍談。講談。太平記讀ノ條ヲ見ヨ。瀨田問答「太平記、古戰物語ヲノミ講釋致シ候處」

かうしやくし (名) 講釋師 軍談師ニ同ジ。瀨田問答「今ノ講釋師ヲ、昔ハ太平記讀ト申テ」

かうしゆ (名) 行酒 酒ヲ行ルコト。宴席ノ人人ニ、酒ヲ注ギ勸ムルコト。漢書、高五王傳「朱虛侯章、云云、令二章爲二酒吏一、章自請曰、臣將種也、請以二軍法一行レ酒」

かうしゆ (名) 巧手 上手。巧者。妙手。陳師道詩「巧手莫レ爲二無麪餠一、誰能留レ渴須二還井一」

かうしゆ (名) 耕種 田畑ヲ耕シ種ウルコト。漢書、食貨志「善レ田者受二田器一、學二耕種養苗法一」

かうしゆ (名) 絞首 死刑ニ、喉ヲシメテ殺スコト。絞首。絞罪。

かうじゆ (名) 高壽 ナガイキ。長壽。高齡。宋史、孝宗紀「父子怡愉、同享二高壽一」

かうじゆ (名) 香薷 いぬえノ(一)ニ同ジ。

がうしゆ (名) 强酒 オホザケ。酒飲ムニ强キコト。大酒。

かうじゆつ (名) 庚戌 カノエイヌ。干支ノ條ヲ見ヨ。

かうしゆん [illegible] シャザフコト。[illegible] 以殺之」

かうしゆん（名）豪俊 才智ノ、衆ニ優レタルコト。又、其人。[illegible]

かうしよ（名）校書 [illegible]ノ條ヲ見ヨ」(一)書物ヲ校正スルコト。蜀志、向朗傳「年踰八十、猶手自校書、[illegible]」(二)妓、ノ異名。支那、唐ノ元稹ト云フ者、薛濤ト云フ才色アル妓ヲシテ校書セシメシヨリ起ル。(事文類聚)

かうしよ（名）[illegible] 書物ノ文句ヲ註キ明スコト。宇津保物語、田鶴村鳥「此ノ史記ノかうしよモ、今マデ仕ウマツリ侍ラズ」

がうしよ（名）綱所 そうがうしよ（僧綱所）ノ略。其條ヲ見ヨ。

かうしよう（名）考證 一ノ文義ヲ解クニ、博ク諸古書ニヨリテ證據ヲ求メテ、考ヘ定ムルコト。支那、清朝ニ至リテ、古書、經書ノ義ヲ說クニ、專ラ考證ニ據ル學派ヲ生ジタリ、コレヲ、考證學ト云フ、顧炎武ノ如キ、其首唱ナリ、我ガ邦ニテ、考證ヲ以テ書ヲ釋スルハ、先ヅ狩谷棭斎ニ始マス。[illegible]

かうしよう（名）講頌 御歌會ノ時、歌ヲ吟詠スル役。[illegible] 人ヲ召ス」

かうしようがく（名）考證學 前條ヲ見ヨ。

かうしよく（名）耕織 田畑ヲ耕スト、[illegible]ヲ織ルト。[illegible]

かうしよく（名）耕殖 田畑ヲ耕シ、種ヲ殖ルコト。[illegible]

かうしよく（名）好色 イロゴノミ。スキ。論語、子罕篇「吾未レ見ニ好レ徳如レ好レ色者ニ也」

かうしよくぼん（名）好色本 專ラ、淫靡、其外、好色ノ事ヲ書キタル小說本。[illegible] ヨロシカラザルニ付、段段相改、絶板可レ致」

かう・じる ジル・ジレ・ジ・ジ・ジヨ（自動、上一）「左行變格活用ノかうず（高）ノ轉。案じる、煎じる、同例」高ずニ同ジ。其條ヲ見ヨ。「病ガかうじる」「著ガかうじる」逆ヒかうじる」

かう・す スル・スレ・セ・シ・セヨ（自動、左變）抗 ハムカフ。敵タフ。ハリアフ。逆フ。[illegible]

かう・す スル・スレ・セ・シ・セヨ（他動、左變）校 挍「木偏ノ校ノ字ハ、周禮、天官、小宰「比ニ官府之具ニ」註「比 校 次レ之」疏「使レ知ニ善惡足否ニ也」字典「訂レ書爲レ校」手偏ノ挍ノ字ハ、正韻「挍、比也」爾雅、釋詁「挍、度也」正字通「明末避ニ熹宗諱ニ、校、省作レ挍」字典「[illegible]校、挍、互用」義亦相通、正字通說可從」比ベテ、正否ヲ考フ。シラベテ正ス。校合ス。校正ス。[illegible] 加ニ初校十紙ニ」

かうず（名）好事 專ラ一事ニ偏リテ好ムコト。[illegible]

かう・ず ズル・ズレ・ゼ・ジ・ゼヨ（自動、左變）[illegible]（たかぶるニ、高ノ字ヲ充テテ、音讀シタル語）タカブル。增長ス。ツノル。長ズ。上一段ニ活用セサセテ、かうじるト云フ。[illegible] ノボレバ[illegible]セズ、惡サバカリ高ずるハ」

かう・ず ズル・ズレ・ゼ・ジ・ゼヨ（他動、左變）講 (一)文書、學說ノ意味ヲ、解キ述ブ。(二)歌ヲ讀上グ。披講ス。(歌合ナドニ) 源、八、花宴「文ナド講ずるニモ、源氏ノ君ノ御ヲバ、講師モエ讀ミヤラズ、句每ニ誦シノノシル」(三)キハム。研究ス。[illegible] (四)ハカル。討議ス。史記、甘茂傳「樗里子[illegible]」

がう・す スル・スレ・セ・シ・セヨ（他動、左變）號 (一)云フ。稱フ。名付ク。ヨブ。狂言記、禁野「雉子ヲ土中ニ突キ込ミ、神ニイハヒ、雉子ノ宮ト號し」(二)號ト爲ス。(號ノ條ヲ見ヨ)「新井君美、白石ト號す」

かうすい（名）香水 薔薇、菊、[illegible]等ノ花ヨリ取リテ製シタル、匂ヒヨキ水。化粧ニ用ヰ、髮、衣服ニソソグ。[illegible]

かうすい（名）硬水 〔軟水ニ對ス〕かるしうむ、まぐねしうむナドヲ含メル、不純ノ水ノ稱。

かうずい（名）交綏 軍ニ、雙方共ニ、引キ退クコト。アヒビキ。左傳、文公十二年「[illegible]」

かうずい（名）[illegible]（剛偏ノ條ヲ見ヨ）[illegible] 宇津保物語、[illegible]「四十九疊ノ[illegible]法ニ、[illegible]シタルかうずいヲ、銀ノ水ニテ、[illegible]」

かうせい（名）高聲 〔低聲ニ對ス〕かうしやう（高聲）ニ同ジ。[illegible]

かうせい（名）行星 いうせい（遊星）ニ同ジ。

かうせい（名）更正 アラタメ、タダス。コト。ナホシ。

かうせい（名）校正 文字ノ誤ヲ、比ベ正スコト。校合。[illegible]

がうせい（副）強勢 勢ヒ強ク。スバラシク。エラク。(東京)「雲ガがうせい積ッタ」

かうせい（名）後生 [illegible] ルコト。[illegible]

かうせきかう（名）[illegible]石膏 せきかう（石膏）ノ條ヲ見ヨ。

かうせつ（名）高節 ケダカキミサヲ。高潔ナル節操。[illegible]

かうせつ（名）高說 (一)高明ナル論說。又、スグレタル說明。[illegible] (二)他人ノ說ヲ敬ヒ云フ語。

かうせつ（名）巷說 世間ノウハサ。巷ノ風說。[illegible]

レ不一十請我、上、第三、十二條「街談巷説ノ中ニモ、必ズ採ルベキ事アリ」

かうせつ（コウセツ）（名）［巧拙］タクミナルコトト、ツタナキコトト。上手ト、下手ト。莊子、達生篇「晉五日、不二敢懷一非譽巧拙二」韓愈、進學解「登明選公、雜二進巧拙一」魏、曹丕文「至二于引氣不レ齊、巧拙有レ素、雖二父兄一不レ能二以遺一子孫一」

かうせつ（コウセツ）（名）［交接］ばうじ（房事）ニ同ジ。列子、天瑞篇、注「不レ假二交接一而生レ子」

かうせふ（コウシヨウ）（名）［交渉］（一）カカリアヒ。關係。范成大詩「春雖レ與レ病無二交涉一」（二）カケアフコト。ハナシアヒ。照會。續通典「天福十二年、始置二契丹交涉使一」

かうせん（コウセン）（名）［香煎］大唐米ノさがしニ、陳皮、山椒、茴香、薏苡仁等ヲ細末ニシテ、和シタルモノ。白湯ノ上ニ撒キテ飲ム。コガシ。卜養狂歌集「或人ノ許ヨリ、かうせんノ、オコシケル中ニ、匙ヲ入レテオコシ、云云」

かうせん（コウセン）（名）［考選］年毎ニ一度ヅツ、官人ノ、其年中ノ功過、才能ヲ考ヘテ、等ヲ定メ、其可ナルヲ選ミテ、官位ヲ進メラルルコト。天武紀、下、二年四月「考選」選叙令、考課令、義解「考者、考二核功過一也」選叙令、義解「選者、言二選レ才授二官也」

かうせん（コウセン）（名）［交戰］タタカヒヲマジフルコト。互ニ相戰フコト。

かうぜん-と（コウゼントン）（副）［昂然］元氣ノ盛ンナル狀、又、自負心アリテ、傲ル狀ニ云フ語。韓愈詩「大雄昂然來、小雄據而待」

かうぜん-と（コウゼントン）（副）［耿然］明ルキ狀ヲ云フ語。［耿然］（判読困難）

かうぜん-と（コウゼントン）（副）［皓然］白ク、又、明カニ光ル狀ニ云フ語。白居易、白牡丹詩「皓然自潔、無レ人自芳馨」

がうぜん-と（ゴウゼントン）（副）［傲然］［敖然］オゴリ、タカブル狀ニ云フ語。

かうぜん-の-き（コウゼンノキ）（名）［浩然之氣］正大ナル氣象。正氣。孟子、公孫丑、上篇「我善養二吾浩然之氣一云云、其爲レ氣也、至大至剛、以レ直養而無レ害、則塞二天地之間一」

かうそ（コウソ）（名）［高祖］（一）祖父母ノ祖父母。己レヨリ五代前ニアタル祖。字彙「高祖、加二尊於祖一」（二）先祖。書經、盤庚、下篇「肆上帝、將レ復二我高祖之德一、亂越二我家一」（三）一宗門ノ開祖。「高祖、日蓮」

かうぞ（コウゾ）（名）［楮］「紙麻ノ音便、古ヘ、木綿ヲ作リタレバ、麻ノ名アリ、沖繩ニテ、かびき（紙木）ト云フ」（一）灌木。樹ノ高サ五六尺、叢生ス、葉ハ橢圓ニシテ四五寸、末尖ル、暗綠ニシテ、面ニざらつきアリ、細カキ鋸齒アリ、或ハ、缺刻交ハル。木ニ、雌雄アリ、雌ハ、夏、小サキ暗紫花、簇リテ毬ヲナシテ開ク、各、長キ蘂ヲ出シテ毛ノ如シ、小子ヲ結ブ、へびいちごノ如クニシテ、大キサ一寸許、熟スレバ赤シ。雄ハ、一寸許ノ花穗ヲ垂ル、黃白色ナリ。此樹、諸國ニ多ク植エテ、專ラ其皮ヲ取リテ、漉キテ紙トス。一名、かぞ。カミノキ。（同種ニ、かぢアリ、其條ヲ見ヨ）著聞集、廿、魚蟲禽獸「猿、云云、かうぞノ皮ヲ負テ來リテ、僧ノ前ニ並べオキタリ、云云、コレヲ取リテ、料紙ニ漉カセテ、云云」（二）とろろあふひノ名。

がうそ（ゴウソ）（名）［嗷訴］［强訴］衆人、黨ヲナシ、勢ヲ借リテ訴訟ヲナスコト。吾妻鏡、七、文治三年十月七日「衆徒聞二此事一、忽以鋒起、擬レ及二嗷訴一」同、十一、建久二年四月十六日「延暦寺衆徒、可レ申二請定重罪類一之由、及二强訴一之旨、罪科無レ所レ遁者、云云」

かうソウ（コウソウ）（名）［高僧］（一）智識勝レタル僧。高德ノアル僧。陳羽詩「風動自然雲出レ岫、高僧不レ用笑二浮名一」（二）官位高キ僧。

かうそく（コウソク）（名）［高足］（一）沓、草履ニ對シテ、足駄、下駄ノ類ノ稱。無禮ナルモノトシテ、貴人ノ前ニハ許サレザリキ。（二）高足弟子ノ略。

かうそく（コウソク）（名）［梗塞］「梗ハ、哽ト通ズ」固クフサガリテ、通ハレザルコト。壅塞。秦觀、祈レ晴文「道途梗塞、物價翔踊」北史、魏任城王雲傳「此棒會經二先王坐側一、即哽塞、涕泗交流、久而不レ能レ言」

がうぞく（ゴウゾク）（名）［豪族］富ミテ、盛ンナル一族。晉書、劉允傳「世爲二豪族一」

かうそく-ていし（コウソクテイシ）（名）［高足弟子］優等ナル門人。一番弟子。略シテ、高足。又、高弟。世說、文學、上篇「鄭玄在二馬融門下一三年不レ得二相見一、高足弟子傳授而已」箋註「高足、本傳、作二高業一」（後漢書、鄭玄傳）

かうそん（コウソン）（名）［江村］川邊ノ村。謝朓詩「暖暖江村見」

かうそん（コウソン）（名）［孝孫］かうし（孝子）ノ條ノ（二）ヲ見ヨ。

かうぞめ（コウゾメ）（名）［香染］「丁子ニ因リテ、香ト云フカ」染色ノ名。丁子ノ煎汁ニテ染ム、黃ニ赤ミアルモノ。丁子染。略シテ、かう。源、三十七、鈴蟲「かうぞめナル御扇ニ、書キツケタマヘリ」夢花物語、三十六、根合「一品宮ノ女房ナドハ、鈍色、かうぞめナドヲゾ着タリケル」枕草子、二、廿段「かうノ薄物ノ、二藍ノ直衣ニ」香染ノ僧衣ヲ、香衣ト云ヒ、香法服、香袈裟ナド云フモ、（海人藻芥、中）是レナリ。名目抄「香、就二老若一有二淺深一二もくらんぢきヲ見ヨ」

かうぞり（コウゾリ）（名）［剃刀］かみそりノ音便。多武峯少將物語「御髮ヲ、手ヅカラかうぞりシテ、切リタマヒニケレバ」

かうぞり（コウゾリ）（名）［髮剃］「かうハ、かみノ音便」俗人ノ出家スル者ニ、戒師、戒ヲ授ケテ、髮ヲ剃リ去ル式。盛衰記、三、一院御出家事「御戒師ハ園城寺ノ前大僧正覺忠、云云、御剃手ハ法印尊覺、權大僧都公顯也」後世ハ、剃刀ヲ髮ニアテテ剃ル狀ヲスル式ノ稱。歸依セシ證トス、多クハ、一向宗ニテ行フ、歸敬式ト云フ。

かうたい（コウタイ）（名）［交替］互ニ代ルコト。代リ合フコト。（宿直、警衞ナドニ）更迭。交代。漢書、蓋寬饒傳「及二歲盡一交代、自請願復留一」延喜交替式「國司交替、付領過レ限、准レ狀科レ罪事」

かうだい（コウダイ）（名）［高臺］（一）椀、茶碗ノ底ニ作リツケタル、高キ座。輪ヲ成ス。（二）タカキウテナ。土ヲ盛リアゲタル所。李白詩「且須レ飲二美酒一、乘レ月醉二高臺一」

かうたい-よりあひ（コウタイヨリアイ）（名）［交代寄合］さんきんかうたい（參覲交替）ノ條ヲ見ヨ。

かうたう（コウトウ）（名）［高蹈］人生ノ榮華ナドニ意ヲ留メズ、高ク己レヲ持シテ、世俗ノ外ニ居ルコト。張協、七命「嘉二遯龍盤、翫レ世高蹈一」「高蹈勇退」

かうたう（コウトウ）（副）［浩蕩］［浩湯］（一）水ノ、廣大ナル狀ニ云フ語。范仲淹、岳陽樓記「浩浩湯湯、橫無二際涯一」「浩蕩タル大湖」（二）志ノ、ホ

シイマヽナル状ニ云フ語。[illegible]

かうだう (名) [香道] 香木(薫香ニアラズ)ヲ薫クニ就キテノ技。三アリ、其一ヲ供香ト云フ、佛事ニ限ル、佛ニ供フルモノ、コレ、焚香ノ濫觴ナリ、其二ハ空薫ナリ、其三ヲ聞香ト云フ、鼻ニ嗅グナリ(香道大意)供香ノ伽羅ノ眞傳ヲ嗅ギ分クル研究ニ起リ、專ラ翫香ヲ香道ト云フヤウニナリテ、終ニ嗅覺ヲ聞ハス遊戯トナリ、聞香、又、ききかうトモ云フ、文龜ノ頃、三條西實隆、(逍遙院)此技ノ奥義ヲ極メテ、其技、貴人ノ間ニ行ハル、コレヲ御家流ト云フ、足利義政ノ臣、志野三郎右衛門尉宗信、其流ヲ受ケテ民間ニ行ハル、志野流ト云フ。香合、十炷香ノ條ヲ見ヨ。

かうだう (名) [孝道] 親ニ孝行スル道。 漢書、文帝紀「[illegible]孝道」

かうだう (名) [坑道] 地下ニ穿チタル通路。

かうだう (名) [高堂] (一)廣キ住居ノ家。大廈。 文選、[illegible]「吉日良辰、置二酒高堂一以御二[illegible]」 (二)人ノ家ヲ褒メテ云フ語。貴家。 [illegible]

かうだう (名) [講堂] 「佛教ニ關スル物ハ、呉音ニテ、こうナリ」講義、說教ナドノ爲ニ用ヰル建物。寺院ニ云フハ、七堂伽藍ノ一トス、其條ヲ見ヨ。 後漢書、明帝紀「[illegible]孔子宅[illegible]弟子、親御二講堂一」

がうたう (名) [豪宕] 氣性ノ、雄大ナルコト。 陸游詩「時時捉二清此一筆墨助二豪宕一」 金史、

[illegible]作事豪宕、不[illegible]行一」

がうだう (名) [強盗] 人ヲ劫シ迫リテ、盗ミスル者。(竊盗ニ對ス) おしいり。オシイリ。オシコミ。 宋史、[illegible]「[illegible]強盗[illegible]他盗一」 枕草子、八、七十六段、名おそろしきもの「がうだう」 著聞集、十二、偸盗、大殿、小殿ノ條「西國ノ方ニテ[illegible]ヲシ、東國ニテハ白だちヲシ、京都ニテハ強盗ヲシ、邊土ニテハひきはぎヲシテ」

かうたく (名) [膏澤] ウルホヒ。メグミ。 孟子、離婁、下篇「諫行言聽、膏澤下二於民一」 班固、西都賦「[illegible]治二乎黎庶一」

かうたく (名) [行橐] 旅行ニ携フル嚢。 五代史、雜傳「[illegible]其行橐一」

かうたけ (名) [革茸] 「かはたけノ音便」菌ノ名、山ノ麓ナドニ、落葉ヲ戴キテ生ズ。菰ノ面ハ黑クシテ粒皺アリ、乾セバ眞黑ニシテ、染革ノ如シ、背ハ黄赤ニシテ、毛絲アルアリ、莖ニ鱗甲アリ、味苦シ、灰汁ニテ煠デテ食フベシ。

かうだたみ (名) [香疊] 香合ニ、香包、香箸、銀挾、ナド包ム紙。 五月雨日記「香合セノ事アルベシ、香二種、香だたみシテ持テ出デヨ」

かうだち (名) [庤] 「神館ノ音便、庤ハ、儲ヘ具フル義ナリ」伊勢神宮ニ屬スル、諸國ノ神戸ノ御厨。かむだち。伊賀國、伊賀郡ニ伊勢兩宮神戸アリ、御遷幸ノ跡ニ、庤ノ神明宮アリ、社後ニ其跡アリテ、かうだちト云フトゾ。 興福寺官務帳「伊賀郡、神戸郷、神館社」(日本地理志料) 倭名抄、十八「伊勢、三重郡、小古曾御厨、同、庤」 [illegible]五、文治元年十二月四日「安濃[illegible]、御厨庤」

かうだち (名) [麹] 「かうぢ(麹)ノ語原ヲ見ヨ」 かうぢ(麹)ニ同ジ、其條ヲ見ヨ。

がうだつ (名) [強奪] 無理ニ、奪ヒ取ルコト。 [illegible]

かうたん (名) [降誕] 世ニ、生レ出ヅルコト。誕生。降生。(和氏璧ヲ) 神、佛、貴賞ノ人ナドニ云フ。 [illegible]

かうだん (名) [講壇] 講義、又ハ、說教スル人ノ座。講座。

かうだん (名) [講談] かうしやく(講釋)ノ(二)ニ同ジ。

かうだん (名) [高談] 高聲ニ物語ルコト。 後漢書、[illegible]「[illegible]天下一」 杜甫、飲中八仙歌「高談雄辯驚二四筵一」

がうたん (名) [豪膽] 膽太キコト。大膽。

がうだん (名) [強談] 無理强ヒニ談判スルコト。

かうだんし (名) [好男子] 「好閑ノ男子ノ義ナルヲ、誤用スルナリト云フ」ヨキヲトコ。美貌ナル男子。

かうち (名) [耕地] 耕ス地。田チ、田畑ノ稱。(山林、宅地ナドニ對ス)「耕地整理」

かうち (名) [高知] 多分ノ知行。高祿。 假名手本忠臣藏、[illegible]竹田出雲七「[illegible]子身中ノ蟲トハ、汝ガ事、我君ヨリ高知ヲ戴キ、莫大ノ御恩ヲ蒙リナガラ、[illegible]有ル事ナイ事、ヨウ内通ヒロイダナ」

かうち (名) [巧遲] 仕事ノ、成功ハ遲ケレドモ、出來上リノ巧ミナルコト。(拙速ニ對ス) [illegible]拙速不[illegible]巧遲一」

[illegible]巧遲不如二拙速一」

かうち (名) [巧緻] 「[illegible]緻密ノ義」タクミニシテ、コマカキコト。手ノコミタルコト。「[illegible]、巧緻ナル[illegible]」

かうち (名) [狡智] ワルガシコキチエ。奸智。

かうぢ (名) [麹] 「かびたち、かむだち、かうだち、かうぢト約轉シタル語、糀ノ字ヲモ用ヰルハ、米花(黴)ノ合字」古言、かむだち。かうだち。米ニ黴花ヲ生ゼシメタルモノ、糯米ヲ蒸シテ、麹ヲ加ヘテ攪ゼ、室ノ中ニテ、牀ニ敷キ、押シテ暖ヲ覆ヒ、又攪ズルコト二度、黴花ヲ生ズルヲ待チ、再ビ盤ニ盛リ、室中ノ棚ニ列ヌ、コレヲ、ねる、或ハ、ねかすト云フ、一日ニシテ淡綠ノ黴ヲ生ジテ成ル、味甘シ。酒、甘酒、味噌、味醂、醤油、等、醸造ノ物ニ和シテ用ヰル。 倭名抄、十六「麹、[illegible]加無太知」 多識編[illegible]今俗云、加宇之一」 七十一番職人歌合、六十八番、麹うり「西京ヤ、かうぢノ室ヤ、タレコメテ、月ノ使ヲ、ヨソニ見ルカナ」

かうぢき (名) [高直] 「高直ノ字ヲ音讀シタル語」タカネ。直段ノ、低カラヌコト。高價。 [illegible]

かうちせいり (名) [耕地整理] 耕地ヲ改正スルコト。田地ノ高低、方圓ヲ平均シ、畦、堤、道路、用水堀、等ノ屈曲ヲ直シテナラシ、耕スニ便ナラシム。 [illegible]

かうぢむろ (名) [麹窖] 麹ヲネカスニ設

ケタル士庶。儀式、二、踐祚大嘗祭儀「闕室一字」

かうちゃう (名) 校長 學校長ニ同ジ。

かうぢゃう (名) 定考 〔公事根源、下「定考ト文字ニカキテ侍レド、考定ト、サカサマニ讀ミハベルガ口傳ニテ侍ルナリ」名目抄「定考、逆讀之例也、小考定、是ハ逆ニアラズ」上皇ノ音ニ憚ル故カト云フ、(本居宣長說)然ル時ハ、ぢゃう、かう、くゎうノ音、早クヨリ混ジタルモノカ〕平安朝ノ頃、官吏ヲ登用セラルルニ、式部、兵部ノ二省ヨリ、諸司ノ六位以下ノ官人ノ出勤日ヲシラベ、是レ等ノ官人ヲ率キテ太政官ニ參レルヲ、上卿召シテ、其器量、容儀ヲ試ム、コレヲ列見ト云ヒ、毎年二月十一日ニ行ハル、其藝能、行跡、恪勤ヲ以テ、某ヲ某官職階級ニト擬ラヘテ奏上スルヲ、擬階之奏ト云ヒ、四月七日ニ行ハル、然シテ八月十一日ニ至リテ、其人人ノ官職ヲ考ヘ定メラルルヲ、定考ト云フナリ。其登川、史生、官掌、使、等ニ就キテ行ハルルヲ、小考定ト云フ。大藏省式「太政官二月十一日列見、八月十一日定考日、懸レ幔」江家次第、八、八月「小定考事、於二官東廳一行レ之」西宮記、四月「擬階奏(七日擬階奏)云云」名目抄、恒例諸公事「擬階奏」

がうちゃう (名) 鄕長 サトヲサ。里長。鄕司。郡司ニ屬シテ、一鄕ヲ管スル吏。(鄕ノ條ノ(一)ヲ見ヨ)孝德紀、二年正月「凡、五十戶爲レ里、每レ里置二長一人一」萬葉集、五「貧窮問答長歌「楚取ル、五十戶良(長ノ誤ト云フ)ガ聲ハ、寢屋庭マデ、來立テ呼バヒヌ」類聚三代格、五、弘仁十四年二月三日、太政官奏「郡司鄕長、任レ意侵漁、民懷二寃屈一」

かうちゅう (名) 行廚 ベンタウ。ワリゴ。簞食。黃庭堅詩「宣城東箏供二行廚一」

かうちゅう (名) 膠柱 一膠ハ、にかは、柱ハ、琴柱ナリ」おとぢノ條ヲ見ヨ。

かうぢゅう (名) 講中 組合ヲ結ビテ、神佛ニ參詣スル連中。こう(講)ノ條ヲ見ヨ。

かうちょ (名) 較著 イチジルキコト。明カナルコト。史記、伯夷傳「此其尤大彰明較著者也」

かうぢょ (名) 孝女 親ニ孝行ナル女。後漢書、列女傳「孝女曹娥者、會稽上虞人也」

がうちょ (名) 豪猪 動物。ヤマアラシ。揚雄、長楊賦「拕二熊羆一、拖二豪豬一」

がうちょく (名) 剛直 性質ノ、強ク正直ナルコト。史記、朱建傳「爲レ人有二辯口一、刻廉剛直」

かうつう (名) 交通 ユキキ。ユキカヨヒ。史記、灌夫傳「不レ喜二文學一、好二任俠一、已二然諾一、諸所二與交通一、無レ非二豪傑大猾一」「交通運輸」

かうつがふ (名) 好都合 都合ノヨキコト。グアヒノヨキコト。便宜。

がうつくばり (名) 強突張 強情、意地張ヲ、罵リテ云フ俗語。

かうづくゑ (名) 香案 佛前ニ供フル香爐ヲ載スル机。

かうづつみ (名) 香包 香道ニテ、薰クベキ香材ヲ包ム紙。折リヤウニ種種アリ。五月雨日記(文明)「香づつみ、右ノ香だたみへ、二種入ノ形也、三種入ハ壓テ少也」

かうづる (名) 鶴 かうのとりヲ見ヨ。

かうて (副) 斯而 一かくてノ音便一カヤウニテ。此ノ如クニテ。源、三十五、若菜下「イト言フカヒナク覺ユレド、かうてモ平カニオハシマサバ、ト念ジツツ」

かうてい (名) 高低 タカビク。高きト、低きト。楊侃、皇畿賦「屈曲溝畎、高低稻畦」朗詠集、上「瑩レ日瑩レ風、高低千顆萬顆之玉」

かうてい (名) 高弟 かうそくていしノ略。史記、禮書「子夏、聖門之高弟也」索隱「言、子夏、是孔子門人之中高第者、謂二才優而品第高一也」

かうてい (名) 孝悌 〔悌ハ、弟ニ同ジ〕能ク父母ニ事ヘ、能ク兄長ニ事フルコト。論語、學而篇「孝弟而好レ犯レ上者、鮮矣」

かうてい (名) 行程 旅行ノミチノリ。行程。道程。楊萬里詩「峽裏篙撑レ船更不レ行、擢郎相語改二行程一」主計寮式、上「大和國(行程一日)」

かうてい (名) 校定 文ノ字句、意義ナドヲ、シラベ定ムルコト。後漢書、桓譚傳「可レ令下通二義理一明二習法律一者、校定科比、一中其法度上」

かうてい (名) 校訂 書籍ノ字句ヲ、調ベ訂スコト。

かうてい (名) 考訂 考ヘ、タダスコト。シラベ、タダスコト。校定。

かうてい (名) 肯定 ウケガフコト。承諾スルコト。(否定ニ對ス)

かうてう (名) 高潮 (一)タカシホ。アゲシホ。(二)物事ノ度ノ、高マリ進ミタルコト。全盛。「情熱ノ高潮」

かうてき (名) 抗敵 テムカフコト。取ッテカカルコト。ハムカヒ、敵對。晉書、張仲實二、「蓋兵威以抗レ敵、人力可二同矣一」

がうてき (名) 強敵 (一)強クシテ、勝チガタキ敵。強敵。(弱敵ニ對ス)(二)偉裕ニ、勝レタルコト。(東京)

かうてつ (名) 鋼鐵 ハガネ。

かうてつ (名) 更迭 入リカハルコト。カハリアヒ。交替。史記、十二諸侯年表「四國迭興、更爲二伯主一」

かうてん (名) 昊天 (一)日ノ光ノ、盛ンナルコト。詩經、小雅、祈父之什、雨無正篇「浩浩昊天」(二)天。ソラ。周禮、春官、大宗伯「以二禋祀一祀二昊天一」

かうてん (名) 高點 點數ノ、多キコト。

かうでん (名) 香奠 手向クル香ノ代。喪アル家ニ贈リテ、死者ノ靈ニ供フル財物。香資。賻儀。韻學大全「特賜二香奠焚帛外一」高松院殿穴太記「穴太ノ御所(足利義晴喪所)ヘハ、所所ヨリ、香奠ヲ參ラセラル」

かうでんがへし (名) 香奠返 香奠ヲ受ケタル、返禮ノ贈物。

がうてんじゃう (名) 格天井 〔がうハ、格ノ音便轉、格子ノかう、同ジ〕てんじゃう(天井)ノ條ヲ見ヨ。

かうと (名) 狡兔 狡智アル兔。史記、越世家「蜚鳥盡良弓藏、狡兔死走狗烹」

かうど (名) 硬度 鑛物ノ、硬サノ度合。

かうとう (名) 高等 等級ノ、高キコト。(中等、下等ニ對ス)後漢書、蔡茂傳「以二高等一擢二拜議郎一」

かうとう（名）［香頭］「柚ニ香氣アル故ノ名カ」[illegible]、白氏文集ニ「鴨頭新綠水」トアルヲ採リテ、吸口ヲ形容セルカ。柚子ノ皮ヲヘギテ、食物ノ上ニ置キ、薬味トスルモノ。今モ、吸物ノ吸口トスルナリ。[illegible]、十六ニ、[illegible]、山葵、芥ナドト列ネテ「橘皮、一名、甘皮、（柑皮）木加皮（黄皮）」トアル、是レナルベシ。太平記、三十[illegible]、[illegible]ノ[illegible]、人、鴨頭ニナリシ、ゆのかは（湯河、柚皮）ハ、都ニ入リテ、[illegible]ノ[illegible]セズ」[illegible]下、[illegible]ニ[illegible]ク、かうとうノ事、香頭トモ申シ、云云」

かうとう（名）［香橙］クネンボ。

かうとう（名）［[illegible]］物ノ價ノ、高クナルコト。騰貴。

かうとう（名）［行燈］あんどんノ條ヲ見ヨ。

かうどう（名）［行動］オコナヒ。フルマヒ。行爲。行作。[illegible]。「[illegible]ノ行動」

がうとう（名）［鼇頭］（一）支那板ノ四書ナドノ上ニ、[illegible]ノ[illegible]ニ人ノ登レル[illegible]ヲ畫キシモノ。巨鼇ガ、蓬萊、方丈、瀛洲ノ三神山ヲ、首ニ戴キテ居ルト云フコト、列子ノ湯問篇ニ見エ、登瀛洲ノ意ニテ、[illegible]、此書ヲ讀ミテ[illegible]セヨト祝スル事ナリ。（二）[illegible]リテ、書物ノ欄上ノ、書キ入レノ注釋、即チ、かしらがきノ事トス。

かうとうがくかう（名）［高等學校］男子ノ高等普通教育ヲ授クルヲ目的トシ、特ニ、國民道德ノ[illegible]ニ力ムル學校。コレニ、官立、公立、私立等アリ、[illegible]ハ[illegible]、[illegible]、高等科三年、[illegible]ト[illegible]、[illegible]ノミヲ置スルコトヲ得ルモノトス。

かうとく（名）［[illegible]］[illegible]ヲ行フ德。[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、云云、[illegible]、[illegible]。

かうとく（名）［[illegible]］勝レタル德。[illegible]、[illegible]ノ[illegible]ニ[illegible]

がうな（名）［寄居蟲］古名、かみなノ音便、かうなノ濁音トナレル語。寄居蟲ニ同ジ。枕草子、十二、百四十八段「おうなノヤウニ、人ノ家ニ、尻ヲサシ入レテナムサブラフ」

かうないしとど（名）［巫鳥］「かうないハ、巫女ノ音便、古語拾遺ニ、片巫ニ、志止止鳥ト註セリ、枕草子、三、二十五段ニみこどりトアルモ、巫鳥ナルベシ、然レドモ、其義、分明ナラズ」小鳥ノ名、即チ、しとどナリトモ云ヒ、[illegible]ナリトモ云フ。名義抄「神鳥、カウナイシトド」

かうのう（名）［香嚢］合香ヲ入ルル、徑五寸許ノ嚢。帳臺ノ柱ナドニ懸ケオク。（類聚雜要抄、四）懸香。[illegible]

かうのう（名）［行嚢］郵便物ヲ入レテ、遞送スルニ用キル嚢。

かうなぎ（名）［覡］「神和ノ音便、かんなぎノ條ヲ見ヨ」かんなぎニ同ジ。ミカンコ。[illegible]

かうあんのこむ（名）［江南所無］梅ノ[illegible]

かうにん（名）［降人］降參シタル人。[illegible]之輩ニ者、任ニ天永紅葉之例ニ、[illegible]ニ[illegible]可ニ[illegible]ニ指ニ

かうねん（名）［高年］齡ノ、老イタルコト。高齡。高壽。[illegible]、[illegible]、[illegible]

がうのう（名）［豪農］財產ニ富メル農家。

かうのきみ（名）［長官君］かんのきみ、かうのとのニ同ジ。[illegible]、五十、[illegible]ニマコトハ、コノかうのきみノ御文、女房ニタテマツリタマフト云ヘバ」

かうのこし（名）［香輿］葬送ニ、香爐ヲ載セテ行クモノ。倭名抄、十四、[illegible]ニ香輿、俗云、香乃古之」

かうのづ（名）［香圖］げんじかう（源氏香）ノ條ヲ見ヨ。

かうのとの（名）［長官殿］長官殿ノ音便、[illegible]ナリ。左馬、右馬、ノ頭、衞門、兵衞、ノ督ニモ、國ノ守ニモ云フ、又、かんのとの。（小督ナド云フ女名モアリ）[illegible]

かうのとり（名）［鸛］「かうハ、鸛ノ音ナル、くゎぬノ轉、[illegible]冠、さうかう。合歡木、ねぶかノ木。[illegible]名、[illegible]。鶴ノ類、大キサ丹頂ノ鶴ノ如ク、眼ノ邊、黃赤ニシテ、全身白ク、[illegible]ノ下、[illegible]、[illegible]、[illegible]テ聲ヲナスコト、拍子木ノ音ノ如シ、[illegible]、[illegible]ノ[illegible]、[illegible]、[illegible]

かうのもの（名）［香物］[illegible]、[illegible]香トハ味噌ノ[illegible]、[illegible]、女房詞「汁ノシタリノみそヲ、かうノ水ト云ヒ、[illegible]、凡ソ味噌ト云フコトヲ香ト云フ、[illegible]、一切ノ物ニ[illegible]ミテ[illegible]、[illegible]ニ、香トナリ[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]ニ、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]ニ[illegible]、かうのもノ[illegible]、[illegible]トハ、[illegible]。四條流庖丁聞書（長享）「皿ニ、香物以下ノ物ドモヲ盛ルコトハ、二十年許此方ノ事也」[illegible]、[illegible]、かうの瓜」[illegible]

がうのもの（名）［剛者］勝レテ剛キ者。[illegible]、[illegible]「アッパレ己レハ、日本一ノ剛の者ト組ンデウズヨ、ナ」（[illegible]）[illegible]

かうは（名）［硬派］見識ヲ、手強ク[illegible]方。手弱キ方ヲ、軟派ト云フ。

かうば（名）［行馬］（一）コマヨセ。ウマツナギ。（二）釘ヲウチツケタル枕。（敵[illegible]

兵ノ侵入ヲ防グモノ」

かうはい (名) 【高配】 (一)他人ノ、心慮ヲ配リタルヲ敬フ語。「御高配ニ預ルニ」(二)高率ナル配當。

かうはい (名) 【嚮背】 向キ從フト、背クト。「世ノ人ノ嚮背」

かうばい (名) 【向拜】 〔向ひテ拜する所、約メテ、ごはいト云フハ、御拜ノ意ニ誤リテ稱スルナルベシ〕 神社、佛堂ノ正面、上口ノ上ニ、屋根ノ差出デタル所。參詣スル者、ココニテ拜ス。又、ごはい。此屋根ヲ支フル左右ノ柱ヲ、向拜柱ト云フ。

かうばいばしら (名) 【向拜柱】 前條ヲ見ヨ。

かうばう (名) 【茳芒】 草ノ名。イタチササゲ。

がうはう (名) 【豪放】 人ノ氣性ノ、オホマカニシテ、小事ニ拘ラヌコト。豪逸。「唐書、李邕傳「邕資豪放、不レ能レ治ニ細行ニ」」

がうはう (名) 【號砲】 合圖ノ大砲ノ音。「水滸傳「只聽ニ得祝家莊裡一個號砲、直飛ニ起半天裡ニ」云ニ「正午十二時ノ號砲」」

かうばこ (名) 【香匣】 かうがふ(香合)ニ同ジ。「建武以來追加、定ニ德政ニ事「盆、かうばこ、茶碗、云云、廿ケ月々ルベキ事」」

かうばし (名) 【香箸】 香道ニテ、香ヲ薫クトキ、香ヲ挾ムニ用キル箸。「五月雨日記(文明)「香箸、長サ四寸二分、銀ニテ作ル、四角也、サキニ、香ハサム所、少ツクル、オトサヌタメナリ」」

かうばし・シキ・シケレ・シク・ミク (形、二) 【馨】 〔古言、香細しノ音便〕(一)〔かぐはし。カンバシ。美キ香、發ツ。ニホヒヨシ。「最勝王經、音註「芬、加宇波之」」宇津保物語、俊蔭「親、天上シタマヒテ後、云云、花園ニナム下リタマフ、云云、親ノ御アタリノかうばしサニ、云云」(二)世ニ譽レアリ。「保元物語、二、關白殿本官歸復事「下野守義朝ハ左馬權頭ニナル「義朝申シケルハ、此官ハ、先祖多田滿仲、始メテ爲リタリシカバ、其跡芳しく候ヘドモ、云云、莫大ノ勳功ニ、更ニ面目トモオボエズ」」

かうばしがひ (名) 【香箸貝】 うに(雲丹)ノ條ヲ見ヨ。

がうはつ (名) 【毫髪】 〔髪一筋ノ意〕 極メテ、ワヅカナルコト。ゴクスコシ。秋毫。「中庸章句、第二十二章、注「巨細精粗、無ニ毫髪之不ニ盡也」「毫髪ノ違ヒ」」

かうばん (名) 【交番】 (一)互ニ代ハリテ番スルコト。カハリバン。「唐書、儀衛志「宣政左右門仗內仗、皆分ニ三番ニ而立、號曰ニ交番仗ニ」」(二)次次條ノ語ノ略。

がうはん (名) 【强飯】 (一)コハイヒ。(二)コハメシ。

かうばんしょ (名) 【交番所】 市中ノ要處ニ配置セル、巡査ノ派出所。

かうばり (名) 【支柱】 〔支張ノ音便〕 古言、スケ。家ノ、傾カムトスルニ、支ヒオク材。ツッカヒボウ。「夫木 東北院職人歌合、三番、番匠「墨ガネノ、直キヲタダス、身ナレドモ、傾ク月ニ、かうばりゾナキ」」

かうひ (名) 【高庇】 めぐみノ敬語。オカゲ。「高庇ヲ受ク」

かうひ (名) 【考妣】 かう(考)ノ條ヲ見ヨ。

かうひ (名) 【皐皮】 虎ノ毛皮ノ一名。(虎皮ヲ見ヨ) 「左傳、莊公十年「公子偃、云云、蒙ニ皐比ニ而先犯レ之」杜註「皐比、虎皮也」流布本、皮作レ比」

かうび (名) 【交尾】 「書經、堯典篇、傳「交接曰レ尾」」 禽獸、蟲魚ノ、ツルムコト。遊牝。孳尾。

かうひねり (名) 〔紙捻ノ音便〕 もとゆひニ同ジ。「雍州府志、七「髪捻、今、本結、元謂ニ髪捻、中華所レ謂髻也」」

かうびん (名) 【幸便】 時好キ便。「任ニ幸便ニ一筆呈上仕候」

かうひゃう (名) 【高評】 (一)褒メラレタル批評。好キ評判。好評。(二)他人ノ批評ノ敬稱。「乞ニ高評ニ」

かうひゃう (名) 【好評】 〔惡評ニ對ス〕 前條ノ(一)ニ同ジ。「好評ヲ博ス」

かうふ (名) 【孝婦】 舅姑ニ孝行ナル婦。孝婦。「漢書、于定國傳「東海孝婦、養レ姑甚謹」」

かうふ (名) 【交付】 物事ノ、引渡シヲスルコト。ヒキワタシ。

かうぶ (名) 【講武】 武術ヲ、講ジ習フコト。「禮記、月令篇「天子乃命ニ將帥ニ講レ武習ニ射御ニ」」

がうふ (名) 【豪富】 勢有リテ、富ムコト。又、其人。「十八史略、秦史「徙ニ天下豪富於咸陽ニ」」

かうふう (名) 【高風】 (一)ケダカキ風采。「夏侯湛、東方朔畫贊、序「想ニ先生之高風ニ」」(二)高キ空ヲ吹ク風。「曹植、仙人篇「高風吹ニ我軀ニ」」

かうふう (名) 【校風】 其學校ノ、特殊ノ風習。

かうふうざう (名) 【綱封藏】 三綱ノ封印スル藏。大和ノ法隆寺ナドニアリ。「東大寺續要錄、五、開ニ檢勅封倉ニ事「建久四年八月廿五日己未、今日被レ開ニ東大寺勅封藏ニ、令レ移ニ納寶物於綱封藏ニ事」」

かうふく (名) 【幸福】 サイハヒ。運命好キコト。

かうふく (名) 【降伏】 かうさん(降參)ニ同ジ。「金剛經「何應レ住、云何降ニ伏其心ニ」」

かうふく (名) 【降服】 上衣ヲ脱ギテ、罪ヲ謝スルコト。降參。「左傳、僖公二十三年「公懼、降服而囚」」

がうふく (名) 【剛愎】 〔廣韻「愎、蒲逼切、戾也」正音、ひょくナリ〕 强ク戾ルコト。ネヂケテ意地張ルコト。一徹。「左傳、宣公十二年「剛愎不仁、未ニ肯用レ命」「剛愎、自ラ用キル」」

かうぶし (名) 【香附子】 濱菅ノ根、藥用トスル名ナリ。「類聚雜要抄、四「香附子(生ニ諸毛髪ニ者也、凡採得後陰干、於ニ石臼木杵ニ擣レ之、勿レ令ニ羅用ニ也)」」

かうぶつ (名) 【好物】 (一)好ム物。「好物ノ酒」(二)スキ。コノミ。

かうふてう (名) 【巧婦鳥】 たくみどりノ語原ヲ見ヨ」 タクミドリ。サザキ。ミソサザイ。

かうぶん (名) 【高聞】 聞くことノ敬語。「高聞ニ達シテ」

かうぶん (名) 【好聞】 ヨキ風聞。ヨキ評判。好評。

かうぶん (名) 【行文】 文句ノ、ツヅヒコナシ。「行文流暢」

かうぶんぼく（名）[illegible] 楮ノ異名。[illegible] 十訓抄、中、第六、十七條「[illegible]ノ番、文ヲ好ミ給ヒケレバ開キ、學問怠リ給ヘバ散リシホレケル[illegible]ハ有リケル、好文木トゾ云ヒケル」

かうぶり（名）[冠]〔[illegible]ノ音便〕（一）かゞふりニ同ジ、かんむりヲモ見ヨ。[illegible]巾子「頭巾、カウブリ」枕草子、七、六十八段「かうぶり、玄ノ頭ナドツクロヒテ」（二）クラヰ。位階。[illegible]紀、二十十二月、位階ニ大織冠、大織冠等ヲ[illegible]セラレシヨリ、かうぶりノ名ノ、位ニ移レルナリ、大、[illegible]ノ名ノ、正、從ニ移レルナリ[illegible]。十月「賜[illegible]爵」舒明紀、十一年十一月「給[illegible]冠位一級」（三）特ニ、[illegible]位ニ敍セラルルコト。敍爵。源、五、若紫「播磨守ノ子ノ、藏人ヨリ[illegible]門ニ[illegible]ハ、かうぶりヲ得テ、三河守ニナリニケレバ」（四）うひかうぶりノ（一）ニ同ジ。其條ヲ見ヨ。

かうぶりいちご（名）[冠莓]〔實ノ形、古ヘノ冠ニ似タリ〕今、さつくりいちご。[illegible]〔[illegible]、覆盆、カウブリイチゴ〕

かうぶりのを（名）[冠緒] 前前條ノ（一）ヲ見ヨ。[illegible]

かうぶる・レ・ル・ラ・リ・レ〔[illegible]〕[蒙] かうむるニ同ジ。[illegible] 同、[illegible]、カウブル」土佐日記、正月三十日「神佛ノメグミ、かうぶれルニ似タリ」

かうべ（名）[首頭]〔頭上ノ音便約、或ハ頭方ノ音便〕[illegible]

クビ。アタマ。敬稱ニ、ミグシ。倭名抄、三「首、加字倍」

かうべ（名）[神戸] かむべノ音便。

かうへい（名）[衡平]〔衡ハ、はかりざを、釣合ヒノ、[illegible]〕[illegible]

かうべん（名）[抗辯] 張リ合ヒテ、辯論スルコト。

かうべをめぐらすうた（名）[旋頭歌] せどうか（旋頭歌）ノ條ヲ見ヨ。[illegible]テ、見ル時ニコソ、知ラヌオキナニ、逢フ心チスレ」

かうぼく（名）[香木] ヨキ匂ノアル木。[illegible]

かうほね（名）[骨蓬]〔古言、川骨ノ音便〕古名、かはほね。草ノ名。池水ニ生シ、一根ヨリ叢生ス、葉ハ、芋ニ似テ、狹ク長ク厚クシテ、面ハ深緑ニ、背ハ淡シ、夏秋ノ間、莖ヲ出シテ、五瓣ノ花ヲ開ク、梅花ニ似テ、大キサ一寸許、黄ニシテ、光ル、根ハ、粗ク長ク、節多シ、稍、人骨ノ狀ヲ成ス。萍蓬草 [illegible]

かうほん（名）[illegible]〔[illegible]〕似タリ」草ノ名。カサモチ。サハソラシ。[illegible] 高サ三四尺、葉ハ互生シ、[illegible]

ノ葉ニ似テ小サク、毛アリ、秋、枝ノ末毎ニ小白花、叢ヲナシテ簇生ス、實ハ芹ノ[illegible]

かうほん（名）[illegible] [illegible]

がうま（名）[降魔]〔呉音ニテハ、ごうまト云フ〕佛敎ノ語。惡魔（煩惱ノ義）ヲ降伏スルコト。[illegible]ハ、身心ヲ[illegible]シ、善法ヲ障礙シ、勝事ヲ破壞シ、智慧ノ命ヲ奪フモノ、[illegible]ヲ煩惱シテハ、三魔、四魔、十魔等ノ差アレモ、要スルニ、心內ノ煩惱、心外ノ天魔、相應ジテ、修行者ヲ障礙スルモノナリ、故ニ、佛道修行者ハ、必ズ、[illegible]定ニ住シ、智慧力ヲ以テ之ヲ對治、降伏シテ、亦、退レコトナカラシメザルベカラズ、[illegible]ハ、[illegible]之ヲ降伏ス。不動明王等ノ如キハ、降魔ノ相ヲ標シタルモノナリ、而シテ、釋迦佛、成道ニ當リテノ惡魔降伏ノ状ハ、最モ壯烈ヲ極メ、八相成道ノ一相ニ數ヘタリ。[illegible]ツツ、甚深ノ秘密ヲ悟リテ、後、正覺ヲ成キ[illegible]

がうまい（名）[illegible] [illegible]

かうまくら（名）[香枕] 枕ノ中ニ、香ヲ[illegible]

ナリテ、內ニ香爐ヲ入レテ、香ヲタク。

がうまつ（名）[毫末] 毛ノサキ。極メテ僅バカリナルコト。[illegible]

かうまん（名）[高慢]〔一〕[illegible] 自慢スルコト。自ラ誇リテ、他ヲ侮ルコト。[illegible]（二）小兒ノ[illegible]ノ、齡ヨリハ大人ビタルコト。マセタルコト。[illegible]

がうまん（名）[傲慢] [illegible]

かうみ（名）[好味] [illegible]

かうみやう（名）[高名] 名高キコト。ナダタルコト。[illegible]

かうむる・ル・レ・ラ・リ・レ（他動、四）[被・冠・蒙]〔古言、かゞふるノ音便〕（一）カウブル。[illegible]

かうめい（名）[高名] 前前條ニ同ジ。

かうめいせいだい〔[illegible]〕[illegible]

[illegible]

かうめう (名) [巧妙] スグレテ、タクミナルコト。ウマク出來タルコト。(美術ニ[illegible])

かうめん (名) [高免] [illegible]

がうも (名) [毫毛] 細毛ノ末ホドモ。針ホドモ。チヤマモ。ツシモ。(下ハ、打消[illegible])

かうもく (名) [綱目] [illegible]

かうもん (名) [肛門] 直腸ノ下ノ端。即チ、大便ヲ、體ノ外ニ出ス孔。シリノアナ。

かうもん (名) [黄門] [illegible]

がうもん (名) [拷問] [illegible]

かうもり (名) [蝙蝠] 「かはほりノ音便」(一)古名、かはほり。動物。形、はつかねずみニ似テ、前ノ左右ノ肱、甚ダ長クシテ、其ノ肉翅著キテ、尾ニ達シ、兩翅ノ端ニ爪アリ、全身暗黒ナリ。黄昏ヨリ[illegible]、蚊、蛾ヲ食フ、晝ハ屋隙ナドニ隱レテ[illegible]

[illegible]

かうもりがさ (名) [蝙蝠傘] 「骨ニ帛ヲ[illegible]」かうもりがさノ骨ヲ、細ソキ鐵ニテ作リ、布帛ニテ張リタルモノ、西洋ノ製ナリ。沖繩ニテ、蘭傘。略シテ、かうもり。

かうやう (名) [斯樣] 「かくやうノ音便」カヤウ。コノヤウ。如此クノゴトキ。土佐日記、正月元日「芋モ、荒布モ、齒固モナシ、かうやうノ物モナキ國ナリ」(土佐ノ船中) 源、一、桐壺「かうやうノ折ハ、御遊ビナドセサセタマヒシニ」

かうやう (名) [孝養] 孝ノ心ヲ盡シテ、尊長ヲ養フコト。孝養。[illegible]

―かうやがみ (名) [紙屋紙] かみやがみヲ見ヨ。

かうやく (名) [膏藥] 古ク、たうやくトモ云ヒキ。[illegible]ノ藥品ヲ、脂ニ和ゼテ練リタルモノ。膚ノ患處ニ貼ルニ用キル。[illegible]ケルニ「龜山ニ、生ク藥ノミ、アリケレバ、云云」

かうやく-だい (名) [膏藥代] (一)膏藥ヲ賣買スル代金。(二)人ニ傷負ハセタルニ、其治療ノ費トシテ、金ヲ出シテ償フコト。償金。[illegible]死、傷ル人者償ル劑」

がうやど (名) [郷宿] 江戸人ノ定宿。江戸、馬喰町邊ノ旅籠屋ニテ、田舍ノ村役人ナド、公用ニテ出府シタル時、其[illegible]

[illegible]モノ。

かうやごばう (名) [高野牛蒡] [illegible]ノ、紀伊ノ高野山ヨリ製シ出スモノノ稱。[illegible]

かうやばん (名) [高野版] 鎌倉時代以後、紀伊國、高野山ニテ出版シタル佛書ノ稱。

かうやひじり (名) [高野聖] 「ひじりノ條ヲ見ヨ」(一)高野山ノ僧ノ稱。多クハ、諸國ヲ旅行スルニ云ヘリ。[illegible]ニハ、高野聖ハ、高野山下級ノ僧ノ稱トナリ、(學侶、行人、(三)ヲ見ヨ)其僧、又ハ、イヌス乞食僧ナド、其裝ヲ擬シ、諸道ヲ旅行シテ、人家ニ錢物ヲ乞ヒ、又ハ、宿ヲ借リテ、宿スルモノトナレリ。コレヲ、やどをかトモ云ヒキ。

かうやひじり (名) [illegible] 「背ノ文、高野聖ノ笈ヲ負フニ似タリトテ、名アリ」蟲ノ名。池、澤、溝ナドノ中ニ生ズ。長サ二寸許、巾、八九分ニシテ、淺黒ク、背ニ翅アリ、武器ニ似テ扁ク、六足アリテ、かまきりノ如シ、前ノ二足長クシテ、末ニ、各、はさみアリテ、小魚ヲ挾ミ食フ、[illegible]ムシ。タガメ。カッパムシ。(東京)

かうやまき (名) [高野槇] [illegible]

かうゆ (名) [膏腴] 地味ノ、ヨク肥エテアルコト。[illegible]

がうゆう (名) [剛勇] ツヨク、イサマシキコト。

かうよ (名) [行餘] 人道ヲ行ヘル餘力。[illegible]

かうよう (名) [功用] (一)ハタラキ。(二)キキメ。シルシ。效驗。

がうよく (名) [强欲] 欲心ノ、飽クマデ深キコト。貪婪。

かうより (名) [紙撚] 「かみよりノ音便」今、多クハ、約メテ、こよりト云フ。其條ヲ見ヨ。

かうら (名) [甲] 「かふノ、かはト轉ジ、其ノはノ、ら、音便ニナリ、下ニ、らノ添ハリタルモノ」かはら(甲)ノ音便。背ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。[illegible]

かうら (名) [香螺] ヘナタリ。ナガニシ。

カウライ (名) [高麗] 「らいハ、漢音」[illegible](一)こま。昔ノ朝鮮ノ國名。(三韓ノ條ヲ見ヨ)其國、我ガ南北朝時代ノ末ニ(元中九年)亡ビテ、李氏ノ朝

鮮トナリシカド、高麗ハ、尚、朝鮮ノ異名ノ如ク用キラレ、文祿年中ノ豐臣氏ノ朝鮮征伐ヲ、其當時ハ、高麗入、ト云ヒキ。[illegible]、今モ、これあ、[illegible]ト云フ」其外、其國ヨリ渡來セシ物品ニ冠ラセテ用キラル。倭名抄ニ、高麗錦、高麗縁、見エ、枕草子ニ、高麗縁、見ユ、「高麗笛」「高麗鶏」「高麗燒」「高麗芝」ナドモアリ。華夷通商考(寶永)三[illegible]」(二)高麗燒ノ略。

カウライ-いり(名) 高麗入 「いりハ、侵入、攻入ノ意」文祿元年、豐臣太閤ノ朝鮮征伐。太閤記、十三、高麗入事「定之年、今高麗ニ令ニ出勢ニ平均ニ退治シ、ソレヨリ入唐シ、云云」

カウライ-うぐひす(名) 高麗鶯 鶯ノ類。稀ニ、南方ノ山中ニ居ル、形、つぐみヨリ大キク、頭背ハ黄緑ニ、腹ハ淡白クシテ、眉アリテ、黒シ、聲、圓轉シテ、愛スベシ。テウセンウグヒス。[illegible]

カウライ-がらす(名) 高麗鴉 かささぎ(鵲)ノ一名。

カウライ-ごせう(名) 高麗胡椒 「大和本草ニ、豐臣氏、朝鮮征伐ノ時、彼國ヨリ種子ヲ取來レルナリト云フ」たうがらし(蕃椒)ノ一名。

カウライ-しば(名) 高麗芝 芝ノ條ヲ見ヨ。

カウライ-せきしやう(名) 高麗石菖 石菖ノ一種、葉ノ、小サキモノ。錢蒲

カウライ-で(名) 高麗手 「[illegible]ハ、樣ノ義、錦手、南京手ナドモアリ」高麗燒ノ種類。

カウライ-べり(名) 高麗縁 [illegible] 疊ノ縁ニ、白地ノ綾ニ、雲形、菊花ナドノ紋ヲ、黒ク織出セルモノ。紋ノ大ナルハ、親王、大臣ニ用キ、小ナルハ、公卿用キル。今、白キ麻布ニ、黒ク紋ヲ染出セルヲモ云フ、多ク、社、寺、貴族ノ邸ナドニ用キル。枕草子、十、百三十三段「かうらいべりノ疊ノ[illegible]、青ウ、コマヤカニ、厚キガ、緣ノ紋アザヤカニ、黒ウ白ウ見エタル」[illegible]親王、大臣ハ大紋ノ高麗縁、公卿ハ小紋ノ高麗縁」(うんげんノ(二)ヲ併セ見ヨ)

カウライ-やき(名) 高麗燒 「かうらいやきもの」ノ條ヲ見ヨ」古渡ノ朝鮮製ノ陶磁器ノ總名。茶道ニテ、多ク抹茶ノ茶碗ニ用キル、三島手、熊川、斗斗屋、金海、判司、伊羅保、刷毛目、井戸手ナド、種類多シ、香爐、皿ナドモアリ。其中ニ、釉ノ白キモノがうらいト云フヲ、特ニ高麗燒ト云フ、御本手ト云フ、是レナルベシ。

かう-らう(名) 郊勞 郊外マデ出迎シテ、ネギラフコト。左傳、僖公三十三年「齊國莊子來聘、自ニ郊勞ニ至ニ于贈賄ニ禮成而加ニ之以ニ敏」

かう-らく(名) 行樂 外ニ出デテ遊ブコト。楊惲、報ニ孫會宗ニ書「人生行樂耳、須ニ富貴ニ何時」

かう-らん(名) 高欄 勾欄ノ條ヲ見ヨ。

かう-らん(名) 高覽 覽るさと、ノ敬語。御覽 [illegible]訓往來、四月十一日「急有ニ御下向ニ可レ有ニ高覽ニ歟」

かう-り(名) 行李 (一)行吏ニ同ジ、左傳、僖公三十年「行李之往來」註「行李、使人」同、昭公十三年「行理之命」註「行理、使人」理、吏也」(二)使人。使者。欽明紀、廿一年九月「行李者、百姓之所レ懸レ命、而選用之[illegible]」(三)[illegible]旅行ニ携フル荷[illegible] 荷ヲ入ルル具。荷ノ容器。[illegible] 篋、柳ノ枝、竹ナドニテ編ミ作ル。約メテ、こり。(動詞トシテ、荷ヲ括ルヲ、かうる、こるト云フ)[illegible]「行李、[illegible]」和漢三才圖會、三十二、家飾具「行李、加宇里、以ニ貨竹一筒ニ[illegible]云云、今織ニ藤蔓ニ作レ筒、呼名ニ行李ニ[illegible]かうり」竹ごり」

かう-り(名) 高利 (一)不當ニ高キ、貸金ノ利息。[illegible]密密儀ハ可レ取ニ高利并日錢等之質物ニ造意歟」(二)大儲ケスルコト。巨利。[illegible]以射ニ高利ニ」

かうり(接尾) 捆 「かうるノ條ヲ見ヨ」捆リタル物ヲ數フルニ云フ語。こり。「綿荷一かうり」

がう-り(名) 毫釐 「謝察、微算經「十絲曰レ毫、十毫曰レ釐」」物事ノ、極メテ少ク、小サク、細カナルコト。[illegible]差若毫氂、繆以千里」[illegible] 淮南子、主術訓「審ニ毫釐之計ニ者、必遺ニ天下之大數ニ」史記、太史公自序「失ニ之毫釐ニ差以千里」

かうり-かし(名) 高利貸 高利ニテ金ヲ貸スヲ業トスルコト。又、其者。

がう-りき(名) 強力 「剛力トモ書クハ、金剛力ノ略ニモアルカ」(一)強キ力。吾妻鏡、廿七、安貞二年四月廿六日「[illegible]強力之輩ハ云云、令レ射ニ小笠懸ニ召ニ決相撲勝負ニ」(二)修驗者ナドノ伴フ、奴僕ノ稱。[illegible]記、七、判官[illegible]、山伏ノ[illegible]、云云、[illegible]ハ、[illegible]富士山ナドノ下部ヲ、がうりきニナシテ」(三)富士山ナドニテ、登山人ノ荷ヲ負ヒ、案内スル者。

かう-りん(名) [illegible] [illegible]ナドニ[illegible]

かう-りやう(名) [illegible] [illegible]也 [illegible]

かう-りやう(名) [illegible] 物事ノ、主要ナル[illegible]

かう-りよ(名) 行旅 タビスルコト。[illegible]

かう-りよ(名) 考慮 カンガへ。オモンパカリ。[illegible]

かう-りゆう(名) [illegible]

かう-りよく(名) 效力 ハタラキ。キキメ。[illegible]

かう・る・ル・レ・ラ・リ・レ(他動、四) 捆 「かうり(行李)ノりヲ、四段活用ニ作リ做シタル語、料理、れうるノ類、[illegible]ノ語原ヲ見ヨ、こるハ、約メテ云フナリ」[illegible]玉篇「捆、織組也」荷ヲ、縄ニテ括ル。こる。荷作ス。「行李ヲかうる」

かう-れい(名) 高齡 高キ齡。高年。老年。「八十ノ高齡」高齡ニ達ル」

かう-れい(名) 伉儷 [illegible]

がうれい (名) [剛戾] 剛愎ニシテ、暴戾ナルコト。史記、秦紀「始皇爲ㇾ人、天性剛戾自用」

がうれい (名) [號令] (一)上ヨリ下ニ言ヒホスコト。イヒツケ。下知。命令。…(二)將校ノ、兵士ニ指圖スル詞。史記、淮南王傳「…號令嚴、當ㇾ敵勇敢、常爲士卒先」

かうれう (名) [香料] (一)匂ヒノヨキ材料。(二)かうでん(香奠)ニ同ジ。

かうれう (名) [高料] かうぢき(高直)ニ同ジ。

かうれう (名) [校了] 校正ヲ了ヘタルコト。

かうれつ (名) [孝烈] 孝行ノ、極メテ篤キコト。至孝。大孝。後漢書、宋弘傳「以ㇾ孝烈ㇾ著ㇾ名」

かうれん (名) [孝廉] (一)孝行ト、廉直ト。(二)支那ノ漢代ニ、孝廉ノ者、推薦セラルル二因リテ、徵士ノ一名稱。漢書、武帝紀「初令ㇾ郡國擧ㇾ孝廉各一人」

かうれん (名) [香奩] (一)[香匣]。香合。倭名抄、十三「伽藍具「香奩、盛ㇾ香器也」(二)假粧道具ノ匣。

かうれんたい (名) [香奩體] 支那、唐ノ韓偓ノ創メタル詩ノ一體、オモニ、美人ノ事ナドヲ詠ズルモノ。詩人玉屑、二「韓偓之詩、有ㇾ綺麗ㇾ語之ㇾ香奩集」

かうろ (名) [香爐] 灰、火ヲ盛リテ、香ヲ薰クニ用キル器。陶、銅ナドニテ、種種ノ形ニ作ル。西京雜記「丁緩作ㇾ九層博山香爐、…鏤以ㇾ奇禽怪獸、皆自然飛動」

かうろ (名) [航路] 船路。海路。船ノ、通航スル路。

かうろう (名) [高樓] タカドノ。高閣。孝參記「高樓ㇾ三夏涼ニ」

かうろぎ (名) [香爐木] 伽羅ノ(一)ノ異名。猿源氏草子(室町時代)「芙蓉ノ盞ニ、かうろぎノ盃」恨之助草子(慶長)「雪ノ薄樣ニ、かうろぎノ匂ヒ籠リナサシ」

かうろく (名) [高祿] 多キ祿。厚祿。

かうろなん (名) [行路難] 旅行ノ難儀。人ノ世渡リノ困難ナルニ寄セテ云フ。白樂天詩「行路難不ㇾ在ㇾ山兮不ㇾ在ㇾ水、唯在ㇾ人情反覆之間」

かうろん (名) [高論] (一)勝レタル論。漢書、…(二)(敬語)高遠ナル理論。…傳ニ文帝曰、卑ㇾ之、毋ㇾ甚高論ニ

かうろん (名) [抗論] 反對ノ論ヲ立テテ、ハムカフコト。抗議。後漢書、陳蕃傳、論「桓靈之世、若ㇾ陳蕃之徒、…能樹ㇾ立風聲、抗ㇾ論惛俗ニ」

かうわ (名) [講和] 「集韻「講、古項切、音港」說文「和解也」和を講ずト云フニハアラズ」(一)ナカナホリ。和睦。(媾和)(二)今、兩交戰國ガ、互ニ使節ヲ立テ、契約シテ、戰爭ヲ止ムルコト。唐書、張說傳「…講和以休息」…

かうわか (名) [幸若] 次條ノ語ノ略。

かうわかまひ (名) [幸若舞] (さいわかト云フハ、幸若ト讀ミテ、音便ニ云ヘルナラム(幸先、さいさき)) 單ニ、舞。又、舞舞。略シテ。かうわか。或ハ、さいわか。舞曲ノ一種、扇拍子ニテ、謠ヒ且ツ舞フモノ。桃井幸若丸直詮(越中守護、桃井播磨守直常ノ孫)比叡山ニ兒トナリ居テ、始メタルモノト云フ、其詞ハ多ク、義經記、曾我物語、等ヨリ取リ、其外、戰場、盛衰、戀慕ニ關スル等、三十六番、外五番、舞の本ト云フニアリ、大夫、脇、連、アリ、曲節、音聲、一種ノモノニテ、(能樂ハ、コレヲ取レルモノト云フ)樂器ハ大鼓、小鼓ノミナリ。幸若氏ハ、足利將軍義教ヨリ、越前、丹生郡ノ地ヲ與ヘラレ、子孫三家、德川時代マデ、同郡、西田中村ニテ祿地ヲ給セラレテ、其技ヲ傳ヘ居タリ。此一派ニ、大頭ト云フアリ。應仁別記「三條殿ニ、幸若舞ノアリシ、云云」…(寬永)ニ「舞ノ頭ハ大頭、越前ノこうわか」…「さいわか、幸若の舞ヲ云フ」一中節、…元祿二…萬歲ト、…榮エマシマス、云云、ソレソレ才若、ソレソレ才若」

かうわん (名) [港灣] ミナト。イリウミ。港澳。

かうゐ (名) [高位] タカキクラヰ。國語、…漢書、董仲舒傳「身寵而居ㇾ高位ニ」「高位高官」

かうゐ (名) [行爲] シワザ。オコナヒ。フルマヒ。所爲。所行。

かうゐ (名) [綱維] (一)かうき(綱紀)ニ同ジ。莊子、天運篇「孰主ㇾ張是、孰綱ㇾ維是ニ」(二)國家ノ法度。史記、淮陰侯傳「秦之綱絶而維弛」

かうゐ (名) [校尉] 古ヘノ軍團ノ武官。軍團ノ條ヲ見ヨ。職員令、軍團「校尉五人」軍防令「凡軍團、云云、校尉以下、取ㇾ庶人便ㇾ於弓馬ㇾ者上ㇾ爲之」

かうゑん (名) [高遠] (一)氣高ク、…(二)高クテ、遠キコト。…水訓「高遠者明瞭、深遠者細碎」(三)志ノ勝レタルコト。…

かうゑん (名) [宏遠] ヒロク、トホキコト。弘大、悠久。北史、…文宣帝紀「…宏遠」…

かうを (名) [好惡] 好むト、惡むト。好ト、嫌ト。愛憎。中庸「同ㇾ其好惡ニ」

がえい (名) [牙營] 牙旗ヲ建ツル營所。陣中ニテ、大將ノ居ル所。本陣。「將軍ノ牙營ニ」

かえう (名) [歌謠] 詩經、傳「曲合ㇾ樂曰ㇾ歌、徒歌曰ㇾ謠」ウタヲウタフコト。又、其人。史記、…傳「童子不ㇾ歌謠ニ」

かえふ (名) [荷葉] (一)蓮ノ葉。ハチスバ。王勃、夏日登…詩序「…荷葉…」(二)薰法上ニ於ケル、香…ノ術語。…

かえぶし (名) [蚊燻] かいぶしノ轉。

がえん (名) [賀筵] 祝賀ノ席。賀のいはひノ酒宴。

かおう (名) [歌謳] 「急就篇「長言謂ㇾ之歌、齊歌謂ㇾ之謳ニ」ウタフコト。歌謠。…

かおく (名) [家屋] イヘ。住居ノ建物。

かおくぜい (名) [家屋稅] 家屋ノ賃貸價格ニ賦課スル稅。多寡ニ因リテ差アリ。

かおん (名) [加恩] 祿ヲ、加ヘ賜ハルコ

ト。[illegible]、議案之條「有[illegible]」[illegible]十三、品第四十、上、上杉景勝ハ、我下手ノ衆ヘ、三年ニ一度ヅツ知行ワリアリテ、加恩ヲ與ヘ給ヘド、云云」

か-か（名）[母]〔可愛しノ首音ヲ重ネタル小兒語ナリ、はゝ(母)ノ語原ト合セ見ルベシ〕[illegible]ノ中頃ナリ〕母ニ同ジ。[illegible]ヨリシテ、かか[illegible]ト云フ、婦人ノ文ニ、おかもじさまナド書クモ、是レナリ。[illegible]延キかかト云フ所、漁人ノ家ニトマリテ「アハレニモ、イマダ乳ヲ飲ム、海人ノ子ノ、かかノアタリヤ、離レザルラム」

かか（名）[嬶]〔子ガ母ヲかかト呼ブヲ、父ガ、口眞似シテ云ヒシヨリ移レルナリ〕賤民ノ、其妻ヲ呼ブ語。延ベテ、かかあ。妻老ユレバ、濁音ニがかト云フ、[illegible]ナル、ハ、シ、更ニ轉ジテ、他ヨリ賤民ノ妻ノ稱トスルコトモ、一般ナリ。[illegible]「己ガかか」[illegible]好色二代男(貞享、西鶴)五「四十七八ナル嬶ガ、ヨゴレタル露草色ノ布子」(共ニ、他ノ妻) 曾根崎心中(元祿、近松作)「蜆川ノ天滿屋ノ初メトヤラト馴リ合、嬶ガ姪ヲ嫌フヨナ」

かか（名）[哥哥] アニキ。アニイ。(支那小說ノ語) 阿哥

か-か（副）[呵呵]〔集韻「博雅云、呵呵、笑聲也」〕高ク亮ニ笑フ聲ニ云フ語。カラカラ。傳燈錄「百丈海哀哀大哭、溈而呵呵大笑」

か-か（副）[砢砢] 高ク秀デタル狀ニ云フ語。[illegible]

か-が（名）[利]〔借字ノ轉、[illegible]〕[illegible](一)[illegible](二)利根、才覺。[illegible]「[illegible]心かがナル人ニテ渡リ候」(頭書狂言集、十二)

かが（名）[燿]〔影ト通ズ〕かがやく、かがよふ、かがりナドノ語根。出雲國風土記、島根郡、加賀「[illegible]射時、光加加明也、故云二加加一」

が-か（名）[嬶] かか(嬶)ノ條ヲ見ヨ。

かかあ（名）嬶ヲ延ベタル俗語。[illegible]「かゝあそかゝあ夕、夕々夜食カ出來タト云ウテ、ヨコセバイイニ」

かかあざゑもん（名）[嬶左衛門] 妻ノ、勇氣アルモノノ稱。男子ノ名稱ニ擬シテ呼ビシナラム。

かかあたばね（名）[嬶束] 文化年中頃、江戶(今ノ東京)市中ニ流行セシ、賤男ノ結髮ノ一種。毛髮ニ、油ヲ附ケズ、髻ヲ髮ラカニ出ダシ、半髮ノ先ヲばらりト散ラシ、髻ノ一ヲ高ク上ゲテ、結ヒタルモノ。浮世風呂(文化、三馬)初編、上「[illegible]キアケ、[illegible]キリ、かかあたばね、二十二三ノ男」

かかあでんか（名）[嬶天下] 家ノ中ニテ、妻ノ、夫ヨリ權威アルモノノ稱。

か-かい（名）[加階] 位階ヲ加フルコト。位ノ階ルコト。宇津保物語、藏上、上「サウジミニハ、正二位ノ加階ヲモノシテ、メヅラカナルコトヲトドメオカムナム」

か-がい（名）[加害] 害ヲ、他人ニ加フルコト。

かがいうぜん（名）[加賀友禪] [illegible]語原ヲ見ヨ。[illegible]

がが-いも（名）[蘿藦]〔かがみいもノ略〕蔓草、古名、カガミ。山野ニ生ズ、春、舊根ヨリ芽ヲ出ダス、葉ノ形、[illegible]ニシテ、末尖リ、本ニ[illegible]アリ、厚クシテ尖リ、兩兩、對生シ、大ナルハ四五寸アリ、夏、葉ノ間ニ、一二寸ノ穗ヲナシテ、五瓣ノ小花ヲ開ク、形、風鈴ノ如ク、白クシテ、紫點アリ、蕊ハ、葉ノ間ニ、三四寸、徑一寸許ノ莢ヲ結ブ、圓クシテ、末尖リ、皮ニ疣アルコト、胡瓜ノ如シ、嫩葉、嫩莢、油ニ煎テ食フベシ、莢、熟スレバ、紫ニシテ、竪ニ裂ケテ、舟ノ形ノ如シ、內ニ白キ絮アリ、針ノ如クニシテ、斑枝花ニ似タリ、和のばんやト云フ、莖、甚ダ強ク、縄ノ弦トス、根、[illegible]ノ如ク、橫ニ生ズ。乳草。

か-かう（名）[嘉肴佳肴] ウマキ料理。ヨキサカナ。禮記、學記篇「雖有嘉肴、弗食不知其旨也」[illegible]

か-かう（名）[嘉幸] ヨキサイハヒ。ヨロシキコト。メデタキコト。[illegible]「自他嘉幸、千萬千萬」

が-がう（名）[雅號] がう(號)ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。

かが-がさ（名）[加賀笠] かがすげがさノ略。

かが-ぎぬ（名）[加賀絹] 加賀國(小松、大[illegible])[illegible]

か-かく（名）[家格] 家ノ格式。[illegible]

か-かく（名）[價格] アタヒ。ネダン。ネウチ。

かか・ぐ（他動）[illegible]〔掻上グノ約〕(一)高ク上グ。サシアグ。[illegible]「[illegible]ガかかげタル、鏡ナルラム」「旗ヲかかぐ」(二)[illegible]釣リアグ。[illegible](三)掻キ立ツ。挑。[illegible]「燈ヲかかぐ」[illegible](四)取リ出シテ記ス。著ルク載ス。揭。「書ニかかぐ」

か-がく（名）[下學] 卑近ノ所ヨリ學ブコト。人事ヲ覺ルコト。論語、憲問篇「不怨天、不尤人、下學而上達」

か-がく（名）[家學] 其家ニ、代代傳ヘ來レル學問。[illegible]

か-がく（名）[歌學] 和歌ノ學問。歌道。

が-かく（名）[賀客] 賀ヒニ來ル客。年賀ノ客。

が-かく（名）[雅客] (一)風雅ナル人。(二)をゐせん(水仙)ノ異稱。本草綱目啓蒙、八、山草、水仙「雅客(事物紺珠)」

が-がく（名）[雅樂] [illegible](一)正雅ナル音樂。論語、陽貨篇「惡鄭聲之亂雅樂也」(二)上古、我ガ國ノ[illegible]支那、朝鮮、等ノ國ヨリ傳來シタル[illegible]

曲ノ總稱。(左右樂ノ事ハ、左樂ヲ見ヨ)

かかぐ・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) たどる、すがろニ同ジ。枕草子、九、九十七段「碁ヲ打ツニ、云云、異所ニかかぐり歩クニ」今物語「ヤウヤク其國マデ、かかぐり着キニケリ」宇治拾遺、十、第一條「柱ヨリ、かかぐり降ルルモノアリ」字類抄「踚、カカグル、馬カカクル」博雅「踚、行也」

がかく-れう (名) 【雅樂寮】 ウタマヒノツカサ。うたれうニ同ジ。

かかげ-の-はこ (名) 「掻上の匣ノ約」結髪ノ具ヲ入ルル匣。源、六、末摘花「古メキタル鏡臺、唐櫛笥、かかげのはこナド、取リ出デタリ」

かか・げる (動) 【掲】 掲グノ口語。

かか-さま (名) 【母様】 母ノ敬語。カカサン。狂言記、箕かづき「トトサマヤ、かかさまニ云ウテ、取リ返サズバオクマイゾ」女殺油地獄(享保、近松作)上「かかハ何處ニト尋レバ、かか様ハ、妾ノ茶屋ノ内ニ」

かか-さん (名) 【母様】 前條ニ同ジ。傾城買二筋道(寛政、梅暮里谷峨)「ソシテ、ホンノかかさんカエ」

かか-し (名) 【案山子】 次次條ヲ見ヨ。

かが-し (名) 【鹿驚】 〔やきかがせヲ上略シテ、せヲ、しト轉ジタル語ナリ、次條ノ語ノ語原ヲ見ヨ〕 獸肉ヲ燒キテ串ニ貫キ、田畑ニ刺シオクモノ。猪、鹿ニ其臭ヲ嗅ガセテ退散セシメ、因リテ其害ヲ防グ。一名、鹿威。物類稱呼、四、器用、案山子「季吟翁云、そふづハ、水邊ニシカケテ、水ノカヲ添ヘテ音ヲス、鹿をどしナリ」(水鳴戸) 梅園日記、三「下池雜藁、三編ニ、案山子、云云、此文字ヲ鹿驚ニ當ツル事、云云」(二書共ニ當ラサレド、鹿驚ノ字ノ爲ニ引ケリ) 柳亭記(種彥)下「かがしハ、獸ノ肉ヲ燒キ、串ニツラヌキ、田畑ヘ刺シオキ、其匂ヒヲ嗅ガシメテ、獸ヲ避クルナリ、鹿ヲ避クルニハ鹿ノ肉、猪ヲ避クルニハ猪ノ肉ナラデハ、シルシナシト」松屋筆記、六十六「やきかがせ、云云、山田のかがしモ、猪鹿ノ嫌フ物ヲ燻シテ、令レ嗅オドロカシムル故ニ、サハ云ヘリ」

かが-し (名) 【案山子】 〔あんざんしノ條ヲ見ヨ、此語モ、やきかがせノ略轉ナル、前條ノ鹿驚ヲ、立鹿驚ト用キタルヲ、略シタル語ナリ、狂言記、瓜盗人ニ「かがせ」信州川中島合戰(享保、近松作)ニモ「かがせノ蓑笠」トアリ、燒令レ嗅ノ遺ナレバ、かがせナルベキナリ〕 (一)古名、山田のそほづ。おどろかし。又、山田のかがし。鳥威。清音ニ、かかし。藁、竹ニテ人ノ形ヲ作リ、蓑、笠、着セ、弓矢、持タセ、田畑ノ中ニ立テテオクモノ。鳥雀ノ來リテ、作物ヲ啄マムヲ威シテ、寄セツケジトスルナリ。【草人】 狂言記、瓜盗人「畑ヘ獸ガツイテ、瓜ヲ荒ス、人形ヲ作リオカウ、云云(盗人、夜、入リテ瓜ヲ盗ム)今夜ハ某ガかかせニナツテ、捕ラヨウ」似我蜂物語(寛永)「物食フ事ノ常ナラネバ、次第ニ衰ヘ、山田のかがしノ如クニゾナリニケル」都曲(元祿)「寒キトモ、言ハヌハ野邊ノ、立鹿驚」物類稱呼、四、器用「案山子、かがし、藁人形ナリ、云云、關西ヨリ北越邊マデ、かがしト云フ、關東ニテハかかしト、清ミテ云フ」和漢三才圖會、三十五、農具「案山子、加賀之、鳥劫、止利乎止之」(二)俗ニ、才幹モナキニ、首長ナドニスヱオク人ノ稱。案山子ノ、人ノ形シテ活動セヌ意。

かが-しら (名) 【蚊頭】 蚊鉤ノ一名。

かか・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) 【懸】 懸クノ敬語。懸ケタマフ。萬葉集、十七 三十九 立山賦、長歌(越中、新河郡)「アマサカル、鄙ニ名可加須、云云、其立山ニ、常夏ニ、雪降リシキテ」同、二 三十 長歌「御名ニ懸世流、飛鳥川」(明日香皇女ノ御名)

かが-すげがさ (名) 【加賀菅笠】 菅笠ノ一種、加賀國ヨリ産ジタルモノ。略シテ、かがかさ。でんちゅうト云フ、菅笠ニ似テ、頂、尖ル、貞享、元祿ノ頃、女ノ用トシテ行ハレタリ。(我衣、嬉遊笑覽、一) 淀鯉出世瀧德(寶永、近松作)上「加賀菅笠、シメヲアラアラト、召シマセトヨ」增補、松の落葉(寶永)首卷、おせん物狂「紫ノ緒紬、手綱、結ビサゲ、誰しらすげノ加賀笠ヲ、前深深ト着ナシツツ」

かが-すり (名) 【蚊飛白】 〔蚊ノ群飛スル狀ト云フナルベシ〕 飛白ノ織物ノ模様ノ、極メテ細カキモノ。

かが-せ (名) かがし(案山子)ノ條ヲ見ヨ。

かか-づら・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (自動、四) 【關係】 〔かかハ、かかる、かかはるノ語根、づらふハ、其條ヲ見ヨ〕 カカハル。カカリアフ。タヅサハル。カマフ。竹取物語「耳ニモ聞キ入レサリケレバ、言ヒかかづらひテ歸リヌ」源、三、空蟬「強ニかかづらひタドリヨラムモ、人ワロカルベク」同、十八、松風「何某ノ朝臣ノ、小鷹ニかかづらひテ、立チオクレハベリヌル」

かか-と (名) 【踵】 〔足掻處ノ略轉カ、(跡かのま)仙臺ニテ、あくとト云フ、或ハ、脚下處ノ約カ〕 くびす、きびすニ同ジ。(關東)

がが-と (副) 【峨峨】【峩峩】 (一)儀式ノ、盛大ナル狀ニ云フ語。詩經、大雅、棫樸篇「濟濟辟王、左右奉レ璋、奉レ璋峨峨、髦士攸レ宜」(二)女子ノ、美麗ナル狀ニ云フ語。宋玉、神女賦「其狀峨峨」(三)山、巖ナドノ、高ク聳エタル狀ニ云フ語。列子、湯問篇「伯牙鼓レ琴、志在ニ高山一、鍾子期曰、善哉、峨峨兮若ニ泰山一」平家物語、十、海道下事「青山峨峨とシテ、松吹ク風颯颯タリ」

かが-とび (名) 【加賀鳶】 加賀屋敷ノ鳶者。加賀藩主、前田家ノ江戸藩邸ニテ、抱ヘオキシ消防夫。人選シテ、服裝モ美ナレバ、名アリキ。

かか-な・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (自動、四) 【嚇】 〔かかハ、嚇ク聲、次次條ノかかのむモ、呑ム音ナリ〕 鷲ナド、聲ヲ怒ラシテ嚇ク。萬葉集、十四 十八「筑波根ニ、可加奈久鷲ノ、音ノミヲカ、鳴キワタリナム、逢フトハ無シニ」倭名抄、十八 十「鳥啼、嚇、加加奈久」

かが-なべ・て (副) 〔日日並べてノ義ト云フ、日並べて、夜並べて〕 日ヲ重ネテ。古事記、中 五十「倭建命歌曰、新治、筑波ヲ過ギテ、幾夜カ寢ツル」御火燒ノ老人、續ニ御歌一歌曰「迦賀那倍弖、夜ニハ九夜、日ニハ十日ヲ」(二歌ヲ合セテ、旋頭歌トナル)

かか-の・む・ム・メ・マ・ミ・メ (他動、四) 【可可呑】 〔かかハ、がぶがぶト云ハムガ如シ〕 かかト音セサセテ呑ム。大祓詞「速開都比咩ト云フ神、持可可呑テム」(祓物ヲ、潮ト共ニ、海底へ卷キ入ルルヲ云フ)

かか-は (名) かかふ(殘帛)ニ同ジ。其條ヲ見ヨ。

かが-ばんし (名) 【加賀半紙】 加賀ノ能美、石川、河北、三郡ヨリ産ズル半紙ノ稱。白クシテ、精ナリ。

かか-は・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 【係關】 〔かけあふガ、かかふト約マリテ、其未然形ノかかはノ、活用セルナラム、まとふ、まとはる。(纏)まふ、(舞)まはる。(廻)くはふ、くははる。(加)つたふ、つたはる(傳)ノ例〕 (一)事、彼レト此レトニ互ル。互ニ係ル。カカヅラフ。タヅサハル。カカリアフ。アヅカル。「事ガ、數人ニかかはる」 (二)偏ニノミ付ク。泥ム。拘泥ス。【拘】「規則ニノミかかはる」

かかは-わらうづ（名）次次條ヲ見ヨ。

かがひ（名）[嬥歌]〔動詞、かがふノ名詞形、[illegible]〕[illegible] 歌垣ニ同ジ。[illegible]

かかふ（名）[襤褸]〔[illegible]〕絹布ノ、破レテ、廢物トナレルモノ。帛ノ襤褸。又、かかは。[illegible] ワワケサガレル[illegible] 字鏡[illegible]かか[illegible]は「世俗ニ、キリギリスハ、ツヅリサセ、かかは捨ハ[illegible]かかはわらうづト云フ」

かか・ふ・フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ（他動、下二）[抱]〔かくふ、かさふ(圍)ト通ズ〕（一）〔兩腕ニテ[illegible]キテ、支ヘ持ツ。イダク。ダク。[illegible] 竹取物語「人人、云云、寄リテ、かかへタテマツレリ」[illegible] カカフ」（二）[illegible]〔含ミ有ツ。枕草子、三、廿八段「[illegible]物ノ香ノ[illegible]シクかかへタレ」（三）家ニ雇ヒテ使フ。召シ使フ。[illegible] 雇使 [illegible] [illegible]ノウチ、女ノ抱ヘテオイテ」

かが・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ（自動、四）[嬥歌]〔かかふノ約、[illegible]、徒了切、音窕[illegible]〕[illegible] 文「[illegible]、往來[illegible]、[illegible]外傳「[illegible]歌、[illegible]人[illegible]」[illegible] 歌垣ニ、衆人、[illegible]ケアヒテ歌フ[illegible] [illegible]

かが・ふ（動）[考] かんがふノ約。垂仁紀、[illegible]二十六年八月「[illegible]」

かが-ぶし（名）[加賀節]〔日本行脚文集[illegible]、加賀節モ、[illegible]時ニハヤリ出、云云」〕（一）寛文ヨリ、[illegible]頃ノ流行ノ小唄。[illegible]「岸齋、加賀ぶしノ、ハヤリ小歌ヲウタヒ」[illegible]（元祿）三、かがぶし「ヨシヤ、ワザクレ、身ハ馬頭ノ、日影待ツ間ノ、花ノ色、根ミラレシモ、根ミシ人モ、共ニ消エユク、野邊ノ露」（二）かだいふぶし（嘉太夫節）ヲ見ヨ。

かが-ぶり（名）[冠]〔次條ノ語ノ、轉ルノ名詞形〕音便ニ、かうぶり。頭ニ被ルノ具。黒色ノ羅ニテ、上圓、下方ニ、袋ノ如ク縫ヒ作リ、頭上ニ被リテ、[illegible]ノトコロ高クナルニ、[illegible]ヲ取リヨセテ、纓ヲ以テ、其根ヲメグラス、是レ、巾子ナリ、倘、[illegible]ケジガタメニ、[illegible]ニ[illegible]ヲ貫キテ止メ、纓ノ末ヲ前ニテ結プ、コレあげをナリ、後ニ製作變ジテ、かんむりトナル、其條ヲ見ヨ。[illegible] 下總本「加加布利」

か-がふ・る・ル・レ・ラ・リ・レ（他動、四）[被蒙]〔上ノかハ、發語、か被るノ義、（か寄合ふ、か向ふ、（考）同例）濁音ノ顛倒スルハ、いづつしノ語原ヲ見ヨ、音便ニ、かうぶるトナル〕かうぶる、かうむる、かぶる、かむるニ同ジ。萬葉集、五 廿九長歌「[illegible]」[illegible]引キ[illegible]」同、二十[illegible]「[illegible]」[illegible]記[illegible]可何布利」

かかへ（名）[抱]（一）抱フルコト。抱擁（二）[illegible]ニ抱フルホドノ大[illegible]。合抱 加賀千代ノ句「一かかへ、アレド柳ハ、柳カナ」（三）召シカカヘタル者。メシ[illegible]

かかへ-おび（名）[抱帶]〔帶シタル上ヲ抱ヘ[illegible]〕[illegible]ニ同ジ。好色一代女（貞享、西鶴）四、茶屋女ノ風俗「[illegible]地ノ金[illegible]、後帶、ソレガ上ヲ小取リ、ハシニ、紫ノ抱[illegible]、[illegible]二[illegible]」

かかへ-ち（名）[抱地][illegible]レテ、外ニ所有スル[illegible]シキ。

かかへ-て（名）[抱手]〔てハ、人ノ意〕人ヲ召抱フル人。召仕ヒノ主人。[illegible]、[illegible]「コレデハ、ドコへ参ッタトモ、かかへてハゴザルマイ」

かかへ-やしき（名）[抱屋敷] 抱地ノ屋敷[illegible]

かか・へる（動）[抱] 抱ふノ口語。狂言記、[illegible]「ソッチヘイテクレエ、かかへるコトハナラヌゾ」

か-がほり（名）[憤]〔かがふりノ轉、あふひ、あ[illegible]〕かがふり(冠)ニ同ジ。字鏡[illegible]

かがま・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）[屈]〔かがむ(自動)ノ未然形ノかがまヲ、再ビ良行ニ活用セサセテ、同意義ヲ成ス、からむ、からまる。くくむ、くくまる。くぼむ、くぼまる。[illegible]む、[illegible]まる。すぼむ、すぼまるナド、皆、同ジ〕屈ムヤウニナル。カガマル。コゴム。[illegible]「[illegible]」[illegible]

かがみ（名）[鏡][鑑]〔[illegible]〕（一）[illegible]ハ、日神ノ御光ヲ模シテ造レリト傳フ、[illegible]

（一）[illegible]、天照大[illegible]ナリ」（二）[illegible]名ヅクトアリ、天[illegible]ナリ」[illegible]、青銅トまろめトヲ和シ、方圓ノ板作リ[illegible]リヲオコス。古製ナルハ、裏ノ中央ニ鼻紐アリ、今製ナルハ、多クハ柄ヲ備付[illegible]作ル[illegible]加美」硝子ノ裏ニ、水銀ヲ塗リテ用キルモアリ、びいどろかがみト云フ、コレナリ、[illegible]西洋[illegible]子ニ[illegible]二十五長歌「見ル人ノ、語リツギテテ、聞ク人ノ、可[illegible]形ノ[illegible]（享保、近松作）上「四斗入リノアキ樽、云云、ソレ、鏡[illegible]

かがみ（名）[illegible] 草ノ名、[illegible]ノ古名。本草和名、上三「[illegible]子、加加美」（倭名抄、同ジ）

かがみ-いし（名）[illegible] [illegible]ノ所ニ同ジ[illegible]

かがみ-いた（名）[鏡板]（一）棧ナキ、平面ノ板張。杉戸、天井、壁ナドニ云フ。（二）特ニ、能舞臺ノ背景ノ板壁ノ稱。松ヲ畫ク、相生ノ松トテ、[illegible]、竹ヲ[illegible]、其外ハ何モカカズ。

かがみ-いは（名）[鏡巖][illegible]、[illegible]モノノ稱。諸國ニアリ。かがみいし。

かがみ-いを (名) 【鏡魚】 かがみだひニ同ジ。

〔**かがみ-かけ** (名) 【鏡懸】 カガミタテ、鏡臺。但シ、古製ナルハ、臺ハ三脚ニシテ、琴柱ノ脚ノ如キ形シテ、臺ニ横架アリテ、鏡ヲ懸ク。鏡架　倭名抄、十四十「鏡臺、加加美加介」

かがみ-ぐさ (名) 【鏡草】 (一)古ヘ禁中ニテ、正月元日ニ、鏡餅ノ上ニ載スル大根ノ稱。　藏玉抄「加賀御草、大根(正月一日、大内ニテ、餅ノ上ニオク大根ナリ)」(二)あさがほ(木槿)ノ異名。　藏玉抄「鏡草、槿」(三)やまぶき(棣棠花)ノ異名。　藏玉抄「鏡草、山吹」(四)うきくさ(浮草)ノ(一)ノ異名。　藏下抄「鏡草、浮草」

かがみ-ぐつわ (名) 【鏡轡】 轡ノ一種。透彫ナク、小圓鏡ノ如キモノ。　布衣記「馬ノ飾ヘ様之事、云云、轡ハ鏡ぐつは也」

かがみ-ぐら (名) 【鏡鞍】 鞍ノ一種。内ハ黑塗ニテ、外ヲバ一面ニ銀又ハ金銅ニテ包メルモノ。晴レノ時ノ用ナリ。一名、白鞍。(後松日記、十七)　保元物語、二、義朝白河殿夜討事「月毛ナル馬ニ、鏡鞍置テゾ乘タリケル」

かがみ-し (名) 【鏡師】 (一)カガミツクリ。(二)カガミトギ。

かがみ-たて (名) 【鏡立】 鏡ヲ立テカクルニ用キル、木造ノ框。多クハ、たたみ椅子ノ形シタルヲ用キタリ。鏡架　雪女五枚羽子板(寶永、近松作)中「浪人ノ暮キ難義、云云、鏡立ヲ米ニシタリ、硯箱ヲ味噌ニスル」

かがみ-だひ (名) 【鏡鯛】 鯛ノ一種。形、圓クヒラタク、大キナルモノハ一尺五六寸ニ至ル、色青黄ニシテ、金光ヲ帶ビ、腹背ノ正中ニ一圈ノ煙暈アリテ、鏡ノ如ク、的ノ如シ、故ニ的鯛、的魚ノ名モアリ、是レヲ金かがみだひト稱ス。カガミイヲ。壽仙魚一種、銀かがみだひト稱スルモノハ、色、雲母ノ如クニシテ、煙暈ナシ、味、劣ル。

〔**かがみ-つくり** (名) 【鏡作】 鏡ヲ作ルヲ業トスル人。　神代紀、上十三「鏡作部」

かがみ-てんじやう (名) 【鏡天井】 鏡板張リノ天井。棧ナキ板張ナリ。

かがみ-とぎ (名) 【鏡磨】 銅鏡ノ曇リタルヲ磨ギテ、更ニ光ヲ發スヲ業トスル者。水銀ト錫ノ粉末トヲ和シタルモノト、石榴ノ實ノ醋ヲ用キル、後ニハ、梅醋ナリ。磨鏡匠　七十一番職人盡歌合(文安)三十三番、かがみとぎ「みづかねヤ、ざくろノスマス、影ナレヤ、かがみト見ユル、月ノオモテハ」　犬子集(寛永)九「秋ハざくろノ、實ヲ好ム人」月ホドナ、鏡ノ曇リ、磨ギハラヒ」　人倫訓蒙圖彙(元祿)六「鏡磨ニハ、スズカネノシャリト云フニ、水銀ヲ合ハセテ、砥ノ粉ヲマジヘ、梅醋ニテトグ也」

〔**かがみ-なす** (枕) 【鏡成】 〔なすハ、の如クノ義〕(一)見ノ枕詞。　萬葉集、二三十長歌「鏡成、見レドモ飽カニ」同、十五二十長歌「可我美奈須、御津ノ濱邊ニ」(攝津ノ地名)　(二)思ふノ枕詞。鏡ハ、大切ニスルモノナレバ、カケテ云フ。　萬葉集、十三二十長歌「鏡成、我ガ思フ妹モ」

かが-みの (名) 【加賀蓑】 〔加賀國ノ產ナリ〕 蓑ノ、上品ナルモノ。草細ソク、白シ、上ニ、綟絲ニテ編メル網ヲカケテ用キル。

かがみ-の-いへ (名) 【鏡家】 次條ニ同ジ。　女殺油地獄(享保、近松作)下「女ハ、云云、里ノスミカモ親ノ家、かがみの家ノ家ナラデ、家トイフモノ無ケレドモ」

かがみ-の-す (名) 【鏡奩】 〔すハ、栖ノ意〕 鏡ヲ入レオク器。圓クヒラタクシテ、被蓋ニシタルガ多シ。カガミノイヘ。　通言便蒙抄、器財門「鏡奩」

かがみ-の-ま (名) 【鏡間】 能舞臺ノ橋懸ノ揚幕ノ内ニアル室ノ名。姿見ノ鏡ヲ懸ケテアリ、演者、樂屋ヨリ、先ヅ此室ニ入リテ、我ガ裝束ヲ映シ見ル。

かがみ-の-みえい (名) 【鏡御影】 佛面ナド、圓窓ノ内ニ畫キタルモノ。

かがみ-ばこ (名) 【鏡筥】 (一)鏡ヲ入ルル筥。(二)古ヘ寢殿ニ備ヘ置ク、調度ノ一物ニテ、形、八葉ニテ、臺アリ、中ニ鏡、汗手拭、領巾、等ヲ入ルル筥。　字鏡六十「奩、鏡收古」

かがみ-びらき (名) 【鏡開】 〔切る、割るヲ忌ミテ、開くト云フ〕 武家ニテ、正月ノ初ニ、具足ヲ飾リテ、鏡餅ヲ供フ、(婦人ハ、鏡臺ニ供フ)コレヲ、具足餅トモ云フ、廿日(刃柄を祝ふ、婦人ハ、初顏祝ふニ寄スト云フ)ニ至リテ、其餅ヲ割リテ食フ、コレヲかがみびらき、具足びらきト云フ。慶安四年四月廿日、德川將軍家光薨ジタルヨリ、其忌日ヲ避ケテ、翌承應元年ヨリ、改メテ正月十一日ノ式トスト云フ。　日次記事、正月十一日「武具具足鏡餅開(所レ供具足之餅、特以レ刀忌レ截レ之、故以レ手或槌ハ破レ之而賞レ之、是謂ニ鏡開一也、所謂缺餅之名、亦起レ自ニ此餅一)」

かがみ-ブトン (名) 【鏡蒲團】 〔長方形ニシテ額緣アル姿見鏡ニ似タル故ノ名ナラム、額ぶとんト云フモ、額緣ニ因ル名ナリ〕 敷蒲團ノ四方ニ、幅廣キ緣ヲ縫ヒツケタルモノ、身分アル人ノ用トス。額蒲團。

かがみ-まくら (名) 【鏡枕】 鏡臺ニ鏡ヲ懸クル時、其下ニ、枕トシ据ウルモノ。　貞丈雜記(?)要抄、四ニ、赤地ノ錦ニテ包ミ作ル、圓柱ノ如シ、長サ五寸二分、口徑一寸二分、紐ニテ臺ニ懸クルモノナル由、云ヘリ。

かがみ-もち (名) 【鏡餅】 〔元日ノ齒固ノもちひかがみヲ略シテ、かがみト云ヒシニ、再ビ下ニ、もちヲ添ヘタル語ナラム〕古言、モチヒカガミ。餅ヲ、圓ク扁ク、鏡ノ如クニ作リタルモノ。正月ニ神ニ供ヘ、或ハ、吉禮ノ用トス。(もちひかがみ、はがためヲ見ヨ)ソナヘモチ。オソナヘ。スワリモチ。オスワリ。　雅筵醉狂集、春「明ラケキ、君ハ天下ノ、かがみ餅、アリガタシトヤ、ムカフ國民」　天保ノ川柳「光陰ノ、ウツルハ知ラズ、鏡餅」

〔**かが-みる**・ミル・ミレ・ミ・ミ・ミヨ (他動、上一) 【鑑】 〔鏡ヲ活用セシム、(蔭る、曇ろ、眞似る、八重る)映シ見る意〕 事ヲ、事ニ、照ラシ合セテ考フ。音便ニ、かんがみる。　名義抄「鑑、鑒、カガミル、テラス」　撰集抄、一、第八條「三世ノ佛タチ、我ガ二ツナキ心ヲかがみタマヒテ、イササカノ慈悲ノ心ヲモ起ス身ト成サセタマヘ」

か-かん (名) 【河漢】 あまのがは(天河)ニ同ジ。　莊子、逍遙遊篇「大而無レ常、往而不レ反、吾驚ニ怖其言一、猶ニ河漢而無レ極也」　朗詠集、上「先ニ三遍一兮吹ニ其花一、如ニ曉星之轉ニ河漢一」

か-かん (名) 【下瞰】 高キ所ヨリ、見下スコト。　劇談錄「上施ニ板屋樓櫓一、可ニ以下ニ瞰城中一」

かが・む・ム・メ・マ・ミ・メ (自動、四) 【屈】 〔くぐむ、おおむニ通ズ〕 前ヘ折レマガル。カガマル。クグマル。コゴム。　狂言記、

かかみ　かかみ　かかみ

[illegible]ニマス」

かが・む・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ(他動、下二) 屈 (前條ノ語ノ他動、いたむ、いたむる。(痛)なぐさむ、なぐさむる(慰)ノ例) 屈ムヤウニナス。折リ曲グ。クグムル。紫式部日記「腰ヲかがめテ、行キチガヒ」 源、三、空蟬ニ「イテイテト、オヨビヲかがめテ」

かかん (名) [illegible]ノ眼、圓クシテ、中ノ孔、方ナル、[illegible]銭ヲ、鵝眼ト云フトアリ、沈ハ支那、南北朝ノ時ノ人ナリ」一銭ノ異名。鳥目ノ名モ、此レニ同ジ。[illegible]「鵝眼百貫、象牙百石、雖ニ使者ニ可ニ申請ニ候」[illegible]

かがんぼ (名) [かのうばノ音便訛] 蟲ノ名。かのうばニ同ジ。

かかめ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ(自動、四) 啼 [かかハ、啼ク聲] 猿、啼ク。キキメク。字鏡[illegible]カカメク」今昔物語、二十六、第八[illegible]「キサ人バカリノ猿、云云、資角ニ向ヒテかかめけバ」

かが・める (動) 屈 かがむ(他動)ノ口語

かがもん (名) 加賀紋 [友禪染ノ語原] ヲ見ヨ] 羽織ナドノ紋所ニ、丸形ノ内ニ、上繪ニテ、花卉ナド、極彩色ニエガキタルモノ、少男、少女ノ用ナリ。本朝[illegible]賀紋」

かがやか・し・シキ・シケレ・シク・シク(形、二) 赫 [illegible]ナル、かがやかヲ活用ス、いつく、いつかしき。おごろく、おごろかしき」 晴[illegible]

[illegible]やかしきニヤト、イト遙カシゲニテ、[illegible]コニタマフ」

かかやか・す[illegible]く、おごろかす」 赫クヤウニナス。ヒカラス。紫式部日記「少將ノ君、秋ノ紅葉、鳥ナドヲ、シロカネシテ、作りかがやかしタリ」(装束ニ云フ)

かがや・く・ク・ケ・カ・キ・ケ(自動、四) 赫 [かがハ、[illegible]、やくハ、めくニ似テ、[illegible]スル意、あざやく、(鮮)すみやく(速)」 (一)カガヨフ。著ルク光ル。照リキラメク。ピカピカスル。天治字鏡、一廿「煒、加[illegible]」[illegible] (二)ハヅカシガル。羞遊 [illegible]

かがやしき (名) 加賀屋敷 加賀藩主、前田家ノ屋敷。

かか・ゆる (動) [illegible] かかふノ訛。狂言記[illegible]、朝比奈「門ノ戸ビラニ手ヲカケ、エイヤト押セバ、エイヤトかかゆ」

かがよ・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ(自動、四) 赫耀 [かがハ、赫、よふハ、搖ぐ、ただよふ、もさよふ、いさよふ] カガヤク、キラメク。萬葉集、六ニ「目讚セバ、近キモノカラ、岩籠リ、[illegible]ナズハ、ヤマジ」 夫木抄、十九、火「[illegible]火ノ、影ニかがよふ、[illegible]ノ」

かから・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ(自動、四) 關 [かかりあふノ約、たたきあふ、たたかふ] カカリアフ。カカヅラフ。カカハル。[illegible]

かかり (名) 掛 (一)掛カルコト。關係スルコト。[illegible]ニ、ユカリかかりモナシ」(二)勤務ノ受持。「受付ノかかり」(三)攻ムルコト。「車がかり」「總がかり」(四)語學ノ語。むすびノ條ヲ見ヨ。(五)構ヘ。ツクリカタ。[illegible] 狂言記、鐘の音「本門ノかかりナドハ、誠ニ今迄ノ寺寺トハ、格別ナモノデゴサル」「家ノかかり」(六)ツヒエ。入用。費用 十訓抄、上、第一、第六[illegible]

かかり (名) [illegible] 蹴鞠ノ場。[illegible]ノ條ヲ見ヨ。

かか・り・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、良變) 斯有 [斯く有りノ約] 此ノ如クナリ。カヤウナリ。萬葉集、四二十「黑髮ニ、白髮マジリ、老ユルマデ、如此有戀ニハ、イマダ逢ハナクニ」 古今集、十九、誹諧「ソヘニトテ、トスレバかかり、カクスレバ、アナイヒ知ラズ、アフサキルサニ」

かがり (名) 篝 [赫ヲ、かがるト活用セサセタル動詞ナリテ、其名詞形ノ語ナラムト思ハル、かがやきノ意] (一)鐵ノ籠ニ柱アリ、立テテ、上ニ木ヲ焚クモノ、夜中ノ警固、或ハ、漁業ナドノ燈トス。[illegible] (二)鎌倉時代、京都ノ警衞ニ就キテ云フ語。篝屋ノ條ヲ見ヨ。

かがり (名) 縢 カガルコト。カガリタルモノ。「[illegible]ノかがり」

がかり (名) 大[illegible] [illegible]名トスル[illegible]大キナルモノ、木挽ニ用[illegible]

かかりあひ (名) 掛合 (一)カカリアフコト。カカハルコト。關係。(二)マキゾヘ。[illegible]

かかり・あ・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ(自動、四) 掛合 カカラフ。カカハル。マヅサハル。關[illegible]

かかりうど (名) 懸人 [かかりびとノ音便] 他人ニ懸リテ、養ヲ受クル人。ヰサフラフ。食客。六玉川(寛延)「茶荷ニモ、弟ニモ合ハヌ、懸人」

かかりご (名) 懸子 (一)人ニ懸リテ、養ハルル小兒。[illegible] (二)[illegible]テ、養ヲ受ケムトスル子。平家女護島(享保、近松作)三「かかりごニ放レ、路頭ニ立チ、飢死ニスル義モアリ」

かかりことば [illegible] トナル、は、も、ぞ、や、か、なむ、さそ、ノ[illegible]ヲ云フ。

かかりだいこ (名) 懸太鼓 敵ニ攻メカカルトキ合圖ニ打ツ陣太鼓。[illegible]「懸太鼓ヲハヤメツツ、松戸ノ川ヲ過エケレバ」

かかりどころ (名) 懸所 タヨリトスルトコロ。[illegible] 少女六「世衰フル末ニハ、人ニ輕メアナヅラルルニ、かかり所ナキ事ニナム」 同、三十一、眞木柱「ナゴリナキ御心ハ、かかり所アリテモ、モテナイ給ハジ」

かかりのまつ (名) 懸松 (一)能舞臺ニテ、橋懸ノ前ニアル松、[illegible]ノ松。(二)蹴鞠場ノ西北隅ニアル、松ノ樹。

かかりば (名) [illegible]「[illegible]ツキ、裳ノかかりばシモ、美シゲニテ」

〔かがり-び (名) 篝火　篝ニ燒ク火。源、廿一、少女ヨ「中島ノワタリニ、ココカシコ、篝火ドモトモシテ」

かかり-びと (名) 懸人　かかりうど(懸人)ノ條ヲ見ヨ。明和ノ川柳「春見セルゾト、殘サレル掛(懸)人」(顏見世ノ留守番ヲ云ヒツカル)

かがり-ぶね (名) 篝舟　篝ヲ燒キテ、漁スル舟。萬代集、三、夏「かがり舟、サシテゾクダル、夏川ノ、底ノモクヅモ、カクレナキマデ」

かかり-まけ (名) 懸負　入費ノ、利益ニ超ユルコト。

かがり-まつ (名) 篝松　篝火ニ用ヰル松薪。吾妻鏡、三十三、寬仁二年十二月十二日「洛中辻辻篝ニ用途事」

かかり-むすび (名) 係結　文法ノ語。むすびノ條ヲ見ヨ。

かがり-や (名) 篝屋　〔終夜、篝火ヲ燒キテ警備シタレバ、名トス〕(一)鎌倉幕府ノ頃、京都市中警固ノ爲ニ、辻辻ニ設ケタル、兵士ノ番屋、四十八箇所アリキ。吾妻鏡、三十二、嘉禎四年六月十九日「爲ニ洛中警衞ニ、辻辻可レ懸ニ篝之由、被レ定、云云」同、三十五、寬元元年閏七月六日「洛中辻辻篝屋」(二)篝屋ノ兵士ヲ略シテ、篝トノミ云ヒキ、大番ノ士ナリ。太平記、二、南都北嶺行幸事「四十八箇所ノ篝、甲冑ヲ帶シ、辻辻ヲ固ム」鎌倉ニモアリキ。吾妻鏡、三十三、仁治元年十一月廿一日「爲ニ鎌倉中警ニ固辻辻ニ可レ燒レ篝之由被レ定」(三)篝屋ノ奉行ヲモ略シテ、篝トノミ云ヒキ。太平記、四、笠置囚人死罪流刑事「法印(忠良)ヲバ、五條京極ノ篝、加賀前司ニ預ケラレテ、禁錮シ」

かかり-ゆ (名) 掛湯　入浴ノ終リニ、身ニ浴ムル湯。アガリユ。ヲカユ。丹波與作(近松作)中「お傍衆モシャンシャン、かかりゆ取ッテ、加減見テ」

かかり-ゐん (名) 掛員　其事務ノ掛リノ人。受持ノ職員。

かか-る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 掛　〔掛く ノ自動〕(一)物ニ着キテ、下ル。釣ラレテ、垂ル。懸　續古今集、二、春、下「常磐ナル、松ノ名ダテニ、アヤナクモ、かかれる(懸有)藤ノ、咲キテ散ルカナ」(二)〔寄ル。モタル。凭　源、廿九、行幸九「御脇息ニかかりテ、弱ゲナレド」「椅子ニかかる」「杖ニかかる」(三)〔恃ム。タヨル。養ハル。恃頼　宇津保物語、俊蔭二十「荒レタル家ニ、只、獨住ミテ、此君ガ參ラスル物ニかかりタマヘル母ヲ、捧チタテマツリタリ」同、藤原君九「親ドモ十餘人ニ、かかりテアナリ」「醫者ニかかる」(四)〔憑ル。ツク。憑　仲哀紀、八年九月「有レ神、託ニ皇后ニ而誨曰、云云」顯宗紀、三年二月「月神著レ人謂之曰、云云」「狐ガかかる」(五)〔トマル。ツク。留　源、二、桐壺三十「ヲサナキ程ノ、御ヒトヘ心ニかかりテ」狂言記、布施ない「進ゼネバ、氣ニかかりマス」(六)カカハル。カカヅラフ。タヅサハル。係　「身分ニかかる」「文義ニかかる」(七)カウムル。カブサル。オホヒツク。被　「霧ガかかる」「曇リガかかる」「雨ガかかる」「露ガかかる」「忌ガかかる」「疑カかかる」「運上ガかかる」(八)遇フ。デクハス。罹　「病ニかかる」「災ニかかる」「人ノ口ニかかる」「雨ニかかる」「水ニかかる」「網ニかかる」(九)進ミテ襲フ。襲　宇治拾遺、六、第九條「鬼ノ姿ニナリテ、大口ヲアキテ、かかりケレドモ」「敵ニかかる」「言ヒかかる」「猫、鼠ニかかる」(十)湊ニトマル。碇泊ス。泊　夫木抄、廿三「海原ヤ、博多ノ沖ニ、かかりタル、唐土舟ニ、時ツクルナリ」(十一)其時ニナラムトス。始マル。「仕事ニかかる」「對ニかかる」「行キかかる」「讀ミかかる」「切りかかる」(十二)費ユ。イル。費　「金ガかかる」「暇ガかかる」「手ガかかる」

かか-る (連體) 〔かかり(斯有)ノ連體形〕此ノ如キ。カヤウナル。「かかる所ニ」

〔かが-る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 皹　〔皹く ノ受身、天然ニ皹かるるガ、四段活用ノ自動詞トナレルコト、あづけらるノ、あづかるトナレルガ如キカ、萬葉集、十三長歌「所レ皹將レ折、醜ノ醜手ヲ、指シカヘテ、寐ラム君故」(女ノ歌ナリ)〕皹トナル。ヒビ、アカギレガ切レル。萬葉集、十四二十七「稲搗ケバ、可加流吾ガ手ヲ、今夜モカ、殿ノ若子ガ、取リテ歎カム」

〔かが-る・ル・レ・ラ・リ・レ (他動、四) 縢　ツガル。絲ヲ、打交ヘニ絡ヒ、或ハ、縫フ。名義抄「縢、カガル、ツヅル」「刺、カガル」「襞ヲかがる」「手毬ヲかがる」

かかれ-ば (接) 斯則　〔斯く有れば ノ約〕此ノ如クナレバ。カヤウナレバ。

〔かき (名) 垣 牆 籬　〔構くノ名詞形、武烈即位前紀「八重ノ組垣、垣垣メドモ」〕屋敷、庭ナドノ、内外ヲ限ル圍トシテ、建ツルモノ。板牆、土垣、石垣、竹籬、生籬、等アリ。カキホ。カキネ。倭名抄、十五「墻、垣、賀岐」

〔かき (名) 部曲　〔限ノ義ニテ、一區域ノ意ナルベシ、友垣ノかき、同ジ〕私有スル部落。かきべトモ云フ。雄略紀、十七年三月ニ、土師連等ニ詔シテ、御膳器ヲ造ル者ヲ進メシム、土師連祖吾笥、仍テ諸國ノ私民部ヲ進ム、名ヅケテ、贄土師部ト云フトアリ。同紀、二十三年八月、遺詔「大連等民部廣大、充ニ盈於國」顯宗紀、元年四月、來目部小楯「拜ニ山官ニ云云、以ニ山守部ニ爲レ民」同、三年二月「月神著レ人謂之曰、云云、宜下以ニ民地ニ奉上」皇極紀、元年十二月、蘇我蝦夷「發ニ擧國之民、幷百八十部曲ニ預造ニ雙墓於今來ニ」孝德紀、大化二年正月「臣、連、伴造、國造、村首、所有部曲之民」

か-き (名) 柿 柹　〔赤木ノ上略ニテ(殯、もがり)實ノ色ニツキテノ名カ、字ハ、正シクハ柹ナリ、柿ハ俗字ナリ、然レドモ、市ニテ通用ス〕(一)〔樹ノ名。葉、大キク、圓クシテ光ル、夏ノ初、淺黃ナル花ヲ開ク、大キサ二三分許、其尖、四ツニ裂ク、實、秋ノ末ニ熟ス、色、黃赤ニシテ、黑キ核、多シ、形、圓キト、稍方ナルトアリ、味、甘シ、他名ニ對シテ、甘柿トモ云フ、材、堅密ニシテ、諸器ニ作ルベシ。天治字鏡、七十六「柿、加支」又、實、熟スレドモ澁キヲ、澁柿ト云フ。甘柿、澁柿ノ二種ニ、倚、五所柿、圓座柿、筆柿、猿柿、信濃柿、等、種類、甚ダ多シ、各條ニ注ス。(二)かきいろノ略。其條ヲ見ヨ。

〔かき (名) 蠣　〔かき介トモ云フガ正シキカ、(或ハ、かき殼カ)石ヨリ掻き落ス意、介ノ名。海中ノ石ニ着キテ生ズ、多ク重リテ、山ヲナシテ、動クコト能ハズ、形、どぶがひノ一片ノ如クシテ、一片ハ深ク、一片ハ平ナリ、表ハ粗糙ニシテ、内ハ白ク光ル、大小、形狀、齊シカラズ、潮來レバ、房ヲ開キテ小蟲ヲ食ヒ、退ケバ閉ヅ、肉白ク、味美ナリ、種類アリ。牡蠣　古事記、下(允恭)二十「夏草ノ、阿比泥ノ濱ノ、加岐賀比ニ、足踏マスナ、明シテ通レ」字鏡六十七「蠣、相着生レ石、加支」本草和名、下三十「牡蠣、乎加岐乃加比」

か-き (名) 夏季　(一)夏ノ季。(二)夏ノ時節。

か-き (名) 嫁期　女子ノ、娶入リスベキ時期。ヨメイリドキ。

〔かき (接頭) 掻　〔接頭語ノ、うち(打)ノ語原ヲ見ヨ〕動詞ノ意味ヲ強クスル接頭語。古事記、上二十四長歌「加岐見ル、礒ノ埼」萬葉集、八三十五「指折り、可伎數フレバ」「掻き登ル」「掻き暮ラス」「掻き伏ス」

かぎ (名) [鉤] 〔繫きノ轉、繫くノ條ヲ見ヨ〕 (一)尖ノ、屈ミ曲リテ、物ニ懸ケテ引クニ用ヰル、鐵製ノ具ノ稱。名義抄「[illegible]」 (二)[illegible]ニ、[illegible]ノ鉤ニ、具ヘ[illegible]アルモノ。鐵鉤。 (三)承了ノ標トシテ、物ノ題目、又ハ、文字ノ右肩ニ、筆ヲ以テカクル鉤形ヘノ點。鉤頭 [illegible](群書類從)三、永萬元年正月廿一日「功過定、予懸鉤於二表紙一上レ文」

かぎ (名) [鑰鑰] 〔鉤ノ義〕 (一)鎖ヲ開閉スル具。[illegible]ト共ニ、製、種種ナリ。鎖ノ條ヲ見ヨ。 倭名抄、十二「鑰、關具也、[illegible]、門乃[illegible]」 [illegible]一名[illegible]、カギ (二)[illegible]ヲ云フ隱語。物ヲ引キカケテ取ルト云フ意ナルベシ。

かぎ (名) 歌妓 ウタヒメ。藝妓。 [illegible]詩「當二杯已入レ口手、歌妓莫レ停レ聲」

がき (名) 餓鬼 〔鬼ハ、幽靈、亡者ノ義〕 (一)佛經ニ、六界ノ一、亡者ノ、餓ニ苦シム處。亡者、此ニ住リテ、其喉窄リテ、針ノ孔ノ如ク、飲食スルコト能ハズ、食ヲ見レバ、火ニ變ズト云フ。餓鬼道。 法華、功德品「餓鬼[illegible]、求[illegible]」 倭名抄、二十「餓鬼、[illegible]」字書抄「餓鬼、ガクキ」 (二)小兒ヲ罵リ呼ブ卑語。食ヲ貪ルヨリシテ云フ。

がき (名) 牙旗 支那ニテ、大將ノ陣ニ建ツル旗ノ名。 文選、[illegible]

がぎ (名) [賀儀] ヨロコビゴト。イハヒゴト。

かき-あ・ぐ・グル・グレ・ゲ・ゲ・ゲヨ (他動、下二) [搔上] 上ノ方ヘ引キアグ。約メテ、かかぐ。揭 褰 [illegible]異記、中、第十縁「褰、袴見レ腨」 [illegible]「塞、可放阿ゲテ」 宇治拾遺、二、第十三條「[illegible]」

かき-あ・ぐ・グル・グレ・ゲ・ゲ・ゲヨ (他動、下二) [書上] (一)書ニ記ス。書キ立ツ。[illegible] (二)記シ終フル。記了 (三)記シテ、官ニ奉ル。上書

かきあげ (名) [書上] (一)書キ終ハルコト。 (二)事ヲ記シテ、官ニ奉ルコト。申狀

かき-あげ (名) [搔揚] (一)天麩羅ノ、うどんおノおろもニ、鶏卵ノきみ、おろみヲ搔キマゼテ、アゲタルモノ。 (二)次條ノ語ノ略。

かきあげ-おろ (名) [搔揚城] 粗造ノ城。略シテ、かきあげ。土壘 清正記、二「私式モ、似合ノかきあげ城ドモ持チ、手前ニモ普請[illegible]多之由、云云」 武家名目抄、居所、廿一、下「オロソカニ構ヘタル城ヲ、搔揚城ト云フ、又省キテ、搔揚トノミモ云フナリ、堅固ニ築キタルニハアラデ、唯、土ヲかきあげタル城ト云フ意ニヤ、[illegible]ラズ」

かき-あつ・む・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ (他動、下二) [書集] アレヤコレヤト、アツメ書ク。略シテ、かきつむ。 源、廿四、胡蝶十「イラレガマシキワビゴトドモヲ、かき集め給ヘル御文ヲ」

かき-あつ・む・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ (他動、下二) [搔集] 一ツニ合ハス。略シテ、かきつむ。集 源、四十五、椎本廿「昔、今ヲかきあつめ、悲シキ御物語ドモ聞ユル」

かき-あは・す・スル・スレ・セ・セ・セヨ (他動、下二) [搔合] 手ニテ、寄セ合ハス。正ス。ツクラフ。 徒然草、九十段「ソノヤスラ殿ハ、男カ、法師カト、又問ハレテ、袖かきあはせテ、如何候フラム、頭ヲバ見候ハズト答ヘ申シキ」「袖かきあはす」

かき-い・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ (他動、下二) [書入] (一)書キ加フ。書キ込ム。[illegible] (二)[illegible]ニ書キ加フ。[illegible]文中ニ書キ加フ[illegible]ヨリ云フ)

かきいれ (名) [書入] (一)書キ加フルコト。記入 頭字 (二)[illegible] (三)質、利從ノ期待ニ、確定ノ事トシテ、帳簿ニ書入レオク意。[illegible]

かきいろ (名) [柿色] 〔柿ノ實ノ皮ノ色〕 代赭色ノ、濃キモノ。赤黑キ色。略シテ、かき。茶褐色 [illegible]、十七、[illegible]「[illegible]かきノスリたる手ヲ著テ」 昔昔物語、享保[illegible]「[illegible]ノ三尺手拭ニテ、鉢卷シ」

かきう (名) 家畜 「畜ハ、釋文「許久切」、廣韻「許救切」トアルガ如ク、古クハ、きうノ音ナリ」 かちく(家畜)ニ同ジ。 [illegible]、才練藝技」

かき-うちは (名) [柿團扇] 紙團扇ニ、柿澁ヲ敷キタルモノ。澁團扇。 雄長老狂歌(慶長)「大キナル、かき團扇ガナ、二三本、貧乏神ヲ、扇ギ往ナサム」

かきおき (名) [書置] 書キテ、存スコト。遠ク去リ、或ハ、死ヌル人ノ、後ニ留ムル文書。遺書

かき-お・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (他動、四) [書置] 記シテ、後ニ留ム。記錄 竹取物語「文ノかきおきテ罷ラム、戀シカラム時、時、取リ出デテ見給ヘ」

かき-おと・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) [書落] 書キ誤リテ、字ヲ脫ス。書キ漏ラス。脫 源、二十一、少女四十「コレハ御私ザマニ、内内ノ事ナレバ、數多ニモ流レズヤ成リニケム、又、かきおとしテゲルニヤアラム」

かきおろし (名) [書下] 芝居狂言ノ、新作ノ脚本。

かき-かぞ・ふ [illegible] 數 萬葉集、八「秋ノ野ニ、咲キタル花ヲ、[illegible]」

かきがね (名) [繫金] 〔かく(繫)ノ條ヲ見ヨ〕 かけがねノ(一)ニ同ジ。其條ヲ見ヨ。 落窪物語、一、上「かきがねノ穴ヲサヘフタギテ」

かき-がひ (名) [蠣介] かき(蠣)ノ條ヲ見ヨ。

かき-がら (名) [蠣殼] 蠣ノ殼。蠣房 [illegible]

かきがら-ばひ (名) [蠣殼灰] かきばひ。蠣ノ殼ヲ、[illegible]燒キテ[illegible]モノ、石灰ニ代ヘテ用ヰル。又、蛤ノ殼ヲ燒クモアリ。[illegible]

かきがら-ぶき (名) [蠣殼葺] 板葺、[illegible]葺ノ屋根ノ上ニ、蠣殼ヲ[illegible]ベタルモノ。軒先ニ、貝留ノ板ヲ打ツ。又、かきがらやね。[illegible]町屋ナドハ、蠣殼ヲ屋根ヘアゲ、軒ニ貝留ノ、板ニテ打[illegible]ルト、享保十七年ニカク云ヘリ」

かきがら-やね (名) [蠣殼屋根] 前條ヲ見ヨ。 [illegible]談、上「蠣殼屋根、並、月役トイフ材木ノ事」

かき-きら・す [illegible] [搔霧] [illegible] きらす(霧)ニ同ジ。其條ヲ見ヨ。

かき-き・る・ル・レ・ラ・リ・レ (他動、四) [搔切] 切リハナス。キリトル。キル。 平家物語

同、宮御最期事「宮モ数多負ヒ、腹搔き切ッテ死ニニケル」

かぎぐすり (名) [嗅藥] 〔飲藥、塗藥、ナドニ對ス〕 鼻ヨリ嗅ギ込ミテ用キル藥。薫藥

かき-くだ・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) [書下] 順順ニ下ヘ、書キツヅクル。「一筆ニ、サラサラト書きくだす」

かき-くは・ふ・フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ (他動、下二) [書加] 書キ足ス。書キ添フ。

〜かき-くも・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) [搔曇] 〔かきハ、接頭語〕 くもるト云フニ同ジ。曇。古今集、十五、戀、五「月夜ニハ、來ヌ人待タル、かきくもり、雨モ降ラナム、侘ビツツモ寝ム」

かき-くらが・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) [搔暗] 〔かきハ、接頭語〕 くらがるト云フニ同ジ。和泉式部集、一「天ノ原、かきくらがりテ、降ル雪ヲ、夜目ニハ明キ、月カトゾ見ル」

〜かき-くら・す・ス・セ・サ・シ・セ (自動、四) [搔暗] 〔かきハ、接頭語〕 (一)クモル。暗クナル。枕草子、十一、百四十五段「雪ノ、かきくらし降ルニ」 (二)心、クラム。源、九、葵七十「タダ、かきくらす心地シハベレバ」

〜かき-く・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ (自動、下二) [搔暗] 〔かきハ、接頭語〕 (一)暗クナル。クモル。源、十二、須磨四十九「俄ニ風吹出デテ、空モかきくれヌ」 (二)心、クラム。源、三十四、上、若菜、上六十六「來シカタ、行クサキ、かきくれテ、悲シク、トドメガタク思サルレバ」

かき-け・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) [搔消] 〔かきハ、接頭語〕 消すト云フニ同ジ。消 太平記、五、相模入道弄二田樂一事「化者ハ搔消様ニ失セ、相模入道ハ、前後モ不レ知醉伏シタリ」

〜かき-け・つ・ツ・テ・タ・チ・テ (他動、四) [搔消] 〔かきハ、接頭語〕 消つ、消すト云フニ同ジ。音便ニ、かいけつ。源、二、帚木廿「跡モ無クコソ、かきけちテ失セニシカ」 大和物語、下「逢ヒテ物モ言ハムト思ヒテ、行キケレバ、かいけつヤウニ失セニケリ」

かき-ごし (名) [垣越] 垣ヲ越シテ來ルコト。散木集、二「垣越ニ、吹キ來ル風ノ、匂ニテ、花ノアリカヲ、ソラニ知ルカナ」

かき-こ・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) [搔越] 後へ下リタル髪ヲ、前ノ方へ振リ越ス。音便ニ、かいこす。金葉集、七、戀、上、物言ヒケル女ノ、髪ヲかきこしテ、見ケルヲヨメル「朝寝髪、誰ガ手枕ニ、タワツケテ、今朝ハカタミニ、振リコシテ見ル」 狹衣、三、上四十二「尼ニナリナムト思ヒタマヒテ、櫛ノ箱ナル鋏ヲ取出デテ、髪かいこしテ見タマフニ」

かき-こぼれ (名) [搔零] おちこぼれヲ見ヨ。

かき-こみ (名) [書込] 書キコムコト。書キ加ヘタル文。插注

かき-こ・む・ム・メ・マ・ミ・メ (他動、四) [書込] かきいるノ(一)ニ同ジ。

かき-こ・む・ム・メ・マ・ミ・メ (他動、四) [搔込] (一)搔キテ、我ガ方へ寄ス。(二)抱ヘコム。かいこむ。「打物、小脇ニかきこみ」

かぎ-こ・む・ム・メ・マ・ミ・メ (他動、四) [嗅込] 鼻ニ嗅ギ入ル。

かき-こも・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) [搔籠] 〔かきハ、接頭語〕 籠るト云フニ同ジ。ヒキコモル。榮花物語、二、花山「胸痛シトテ、かきこもり居タマヒヌ」

かぎ-ざき (名) [鉤裂] 鉤、叉、釘ナドノ尖ニ、誤チテ衣ヲ引キカケテ、裂クコト。

〜かき-さぐ・る・ル・レ・ラ・リ・レ (他動、四) [搔探] 〔かきハ、接頭語〕 探るト云フニ同ジ。萬葉集、四、廿二「夢ノ逢ハ、苦シカリケリ、目覺キテ、搔探れドモ、手ニモ觸レネバ」

かき-さげ-びん (名) [搔下鬢] 若衆ノ結髪ニ、左右ノ鬢ノ毛ノ一部ヲ、もみあげノ處へ搔キサゲテ、ソレヨリ、圓ク上ヘアゲオクモノ。(賤の小手卷、延享ヨリ、寛政マデノ風俗)

〜かき-さ・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) [書止] 書キテ、中途ニテ止ム。源、四十四、竹河四十一「云云トかきさしタルヤウニ、イト亂リガハシクテ」

かき-し・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (他動、四) [搔敷] 〔かきハ、接頭語〕 敷くト云フニ同ジ。音便ニ、かいしく。新千載集、十八、雜、下「藻シホ草、搔きしく蟹ノ、床ヲ見テ、暮ラサバ宿ト、頼ムハカナサ」

かき-しぶ (名) [柿澁] 未熟ノ澁柿ノ實ヲ搗キテ、搾リ取ル汁。澁クシテ、臭アリ、コレヲ一番澁、又、生澁ナド云フ、其滓ニ水ヲ加ヘテ、再ビ搾リ取ルヲ、二番澁ト云フ、紙、木、麻ナドニ塗リテ、朽ツルヲ防グ、其他、用、多シ。柿漆 柿汁

〜かき-す・う・ウル・ウレ・ヱ・ヱ・ヱヨ (他動、下二) [舁据] 舁キ來リテ、置ク。(輿、駕籠ナド) 枕草子、六、五十三段「淀ノ渡リト云フモノヲセシカバ、舟ニ車ヲかきすゑテ行クニ」

かき-す・つ・ツル・ツレ・テ・テ・テヨ (他動、下二) [搔捨] すつ(捨)ト云フニ同ジ。萬葉集、十三、三十長歌「ヲヤノ醜屋ニ、搔将棄、破薦ヲ敷キテ」

✣✣かき-す・ゑる (動) [舁据] 前前條ノ口語。

〜かき-そ・ふ・フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ (他動、下二) [書添] 書キ足ス。書キ加フ。源、十、榊三十一「我ガ御手ニイト能ク似テ、今少シナマメカシウ、女シキ所、書き添へ給ヘリ」

かき-そ・ふ・フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ (他動、下二) [搔添] (一)添ふ(他動)ニ同ジ。(二)手ヲ添ヘテ、搔キナヅ。爲忠百首、下「ホノ見エシ、尾花ヲミナル、イモガ髪、イツユルカニ、かきそヘテ見ン」

かき-ぞめ (名) [書初] 新年ニ、始メテ文字ヲ書クコト。江戸時代ニハ大抵、正月二日ニ行ヘリ。又、吉書初。新年試筆

かき-ぞめ (名) [柿染] 柿色ニ染メタルコト。又、其物。狂言記、吃「カチンヤ、淺黄ヤ、ハリノ木染ニ、柿染」

かき-だ (名) [蠣田] 蠣ヲ畜ヒテ採ル處。海中ニ、大竹ニテ垣ヲ結ヒ、蠣ヲ着カシメテ採ル、生殖凡ソ三年ニシテ、搔キ落ス、安藝ノ海岸ニアリ。牡蠣田

がき-だいしやう (名) [餓鬼大將] 「餓鬼ノ(二)ヲ見ヨ」 兒童ノ中ノ長。惡戲スルニツケテ云フ。坂東太郎、赤貝ノ、カラヤ乗始、餓鬼大將ニ(俚言集覽)

がき-だう (名) [餓鬼道] 餓鬼ノ條ノ(一)ヲ見ヨ。法華經、授記品「四惡道、地獄、餓鬼、畜生、阿修羅道」 盛衰記、十、有王渡二硫黃島一事「生ナガラ、餓鬼道ニ落給タルヤラム」

〜かき-た・え (動) [搔絶] かきたゆヲ見ヨ。

かき-だし (名) [書出] (一)カキダスコト。(二)買人ニ、商品ノ代價ヲ書キテ出シタル書付。生玉心中(正德、近松作)中「五月ノ節句、云云、際ノ日、云云、書出しヤラ、喧ヤラ」(三)書キハジメ。「手紙ノかきだしハ一筆啓上一、拜啓一」(四)芝居ノ番附ノ役者ノ連名ノ、筆頭ナルモノ。コレ

第二位ニテ、中央ニ記スヲ、中軸(ナカヂク)ト云ヒ、第三位トス。末尾ニ[illegible]ヲ記ス、第一位ナリ、[illegible]ノ[illegible]ヲ、立(タテ)、[illegible]トス。

かきた・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) [書足] 書キテ、不足ヲ補フ。[illegible]「[illegible]かきたす」

かきだ・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) [書出] (一)記シテ出ダス。書キ立ツル。(二)書キ始ム。「手紙ヲかきだす」

かきだ・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) [掻出] 物ヲ掻キテ、前ヘ出ス。

かぎだ・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) [嗅出] 嗅ギテ、探リイダス。カギツク。[illegible]ヲかぎだす

かきた・つ・ツル・ツレ・テ・テ・テヨ (他動、下二) [掻立] (一)挑グ。カキオコス。挑。「[illegible]心ヲかきたつ」 (二)掻キマハス。カキマゼ。攪。[illegible]ニかきたつ

〔かきた・つ・ツル・ツレ・テ・テ・テヨ (他動、下二) [書立] 取リ出シテ記ス。著ク書ク。掲記。枕草子、[illegible]十四段 ワサト、浦ケニかきたてテヤリツル文」

〔かきたて (名) [書立] カキタツルコト。著ク記スコト。掲記。枕草子、十[illegible]、百三十三段「[illegible]人ノツ、かきたてニ從ヒテ、ソレソレト、車ニ[illegible]リ」

かきたて (名) [垣立] 〔此ノ語ノ訓ハ、うまたて、(馬立)えたて、(柄立)ついたて(衝立)ナドト、同趣〕 渡海船ノ欄干。艙垣廻船ノ舷垣。和漢船用集、十、[illegible]名、垣立、舟ノ[illegible]ニ立[illegible]也、[illegible]、[illegible]アリ、[illegible]、[illegible]、丸[illegible]アリ、云云、天工開物ニ、曰、[illegible]、[illegible]別[illegible]、[illegible]、其中[illegible]、[illegible]、大坂[illegible]ノ[illegible]、垣たてノ

かきたてぎ (名) [掻立木] [illegible]、ひ[illegible]ニ[illegible]、[illegible]ヘ二同ジ。[illegible]中[illegible]之事「かきたて木、油坏」

かきたてぼう (名) [掻立棒] 前條ノ語ニ同ジ。トウシンオサヘ。

かぎタバコ (名) [嗅烟草] 烟草ヲ碎キテ、粉トセルモノ。火ニ點ゼズ、烟ヲ喫ハズ、唯、鼻ニ入レ嗅ギテ、香ヲ愛ス。

かきたまご (名) [掻玉子] 玉子ノ料理ノ名。煮出汁一升ニ、六勺ノ醬油、半匙ノ鹽、猪口一盃ノ葛粉ヲ入レ、煮立チタルニ、玉子ヲ片口ニ融キオキタルヲ、口ニ割箸ヲ挿シ、箸ニ傳ヘテ、玉子ヲ流シ入レナガラ、靜ニ掻キマゼテ成ル。箸ヲ用キルハ、玉子ヲ、細ソク長クツヅカシメムガタメナリ。

〔かきた・ゆ・ユル・ユレ・エ・エ・エヨ (自動、下二) [掻絕] 〔かきハ、接頭語〕 絕ゆト云フニ同ジ。ウチタユ。源、十、榊三「其後シモ、かきたえアサマシキ御モテナシヲ見タマフニ」新六帖、五「かきたゆる、心ノ中ノ、アヤシサア、サテモイカニト、[illegible]ハレヌルカナ」

〔かきた・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) [掻垂] 〔掻きハ、接頭語、意味ナシ、(其條ヲ見ヨ)四段活用ノ垂るヲ併セ見ヨ〕 垂ルト云フニ同ジ。萬葉集、五九長歌「ミナノワタ、加黑キ髮ニ、イツノマカ、霜ノ降リケム、紅ノ、面ノ上ニ、イヅクユカ、皺何伎多利シ」新年祭祝詞「手肱ニ水沫畫垂、向股ニ泥畫寄テ、取作ラム奧津御稻ヲ」(畫ハ、當字)

〔かきた・る・ル・ルレ・レ・レ・レヨ (自動、下二) [掻垂] かきハ、前條ニ同ジ、たるハ、自動下二段活用ノ垂るナリ。垂るト云フノ

ニ同ジ。[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]ハシシ女」源、六、末[illegible]、[illegible]ニ[illegible]、[illegible]、掻花二十「雪、かきたれ、イミジク降リケリ」

かきちら・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) [書散] 筆ニ任セテ、ムヤミニ書ク。[illegible]中[illegible](享保、近松作)中「阿房狂ヒスル昔ノ起請誓紙ハ、方[illegible]ニ、[illegible]かきちらす」

〔かきつ (名) [垣内] 垣内ノ約轉、〔内(ウチ)、うつもも〕かいとト云フハ、かきつノ音便轉、大和國モ、山内ナリ。[illegible]所ノ垣ノ内。又、かいと。萬葉集、十四[illegible]「[illegible]シクバ、[illegible]マセ吾ガ夫子(セコ)、可伎都楊(カキツヤナギ)、末摘ミカラシ、吾レ立チ待タム」同、十八、[illegible]「[illegible]可吉都ノ、[illegible]花、イマダ[illegible]リ、[illegible]、[illegible]、丹集、九月、山里ハ、かいとノ[illegible]モ、見エヌマデ、[illegible]木ノ[illegible]ニ、ウヅモレニケリ」古事記傳、三十七、[illegible]圖、[illegible]野[illegible]、七八町許北方ニ、[illegible]所垣内(カイト)ト云フ[illegible]地ノ字モアリテ、土人、[illegible]ヲ入レナドスレバ、[illegible]アリト云傳フ」

〔かきつ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (自動、四) [掻附] 取リツク。スガリツク。音便ニ、かいつく。古事記、下[illegible]「[illegible]、[illegible]ニ、[illegible]」源、十五、蓬生十「イトドかきつかムカナク、悲シゲニ眺メスゴシタマフ」枕草子、八、七十四段「ヲカシゲナル兒ノ、アカラサマニ抱キテ、ウツクシムホドニ、かいつきテ寐入リタルモ、[illegible]ウタシ」

かきつ・く・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ (他動、下二) [書付] 記シテオク。書キ留ム。[illegible] 拾遺集、十八、雜賀「人ノ、草子書カセ侍リケル奧ニ、かきつけ侍リケル「書きつくる、心見エナル、跡ナレド、見テモ忍バム、人ヤアルトテ」

かぎつ・く・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ (他動、下二) [嗅附] (一)嗅ギテ、探リ中ツ。カギダス。「[illegible]ノかぎつく」(二)隱レタル事ヲ、探リ知ル。「犯罪ヲかぎつく」

かきつくろ・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (他動、四) [掻

繕] 〔かきハ、接頭語〕 つくろふト云フニ同ジ。音便ニ、かいつくろふ。[illegible]記「[illegible]ノ羽、かきつくろひシ、ウレシサハ、シカアリ[illegible]、[illegible]ノ[illegible]ニ」[illegible]同、雜[illegible]「[illegible]、カイツクロフ、トトノフ」「衣文ヲかいつくろふ」「羽交ヲかきつくろふ」

かきつけ (名) [書付] 書キツクルコト。記シタル書。文書。[illegible]。「花箋ヤ、折積帋ナド、云云、皆、かきつけヲシツツ、[illegible]リ」

⁂**かぎつ・ける**・ケル・ケレ・ケ・ケ・ケヨ (他動、下一) [嗅附] かぎつく(嗅附)ノ口語。

〔かきつばた (名) [杜若] 「搔付花(カキツケハナ)」[illegible](花源、はたすすき。頂、いなだき)常陸風土記、久慈郡、河内里ニ、[illegible]ヲ畫ニ用キ、[illegible]川[illegible]トイフトアハ、搔付土ナリ、搔付くるハ、つけテ染ムルナリ、(紺染ムル工人ヲ、紺かきト云フ)古ヘハ、此草ノ花汁ヲ染料トシタリ、杜若ハ、やぶめうがノ誤用字」音便ニ、かいつばた。水草ノ名。葉ハはなあやめニ似テ、大キク、色濃シ、花、[illegible]、[illegible]、相似テ、肥大ナリ、花色、[illegible]スレド、淺紅、白、等、種種アリ、夏ノ半ヲ[illegible]リトス、[illegible]子花[illegible]、[illegible]小野ノ、[illegible]、[illegible]リツケ、[illegible]本草和名、下[illegible]、[illegible]康類本草、上六「杜若、加支川波太」

〔かきつばな (名) [由跋] 〔前條ノ、かきつばたト同意ニテ、亦、花ヲ染料トセル故ノ名カ〕 草ノ名、むさしあぶみ。由跋ノ古名。[illegible]、[illegible]、[illegible]名[illegible]

かきつ・む・ム・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ (他動、下二) [書集] 書きあつむノ略。[illegible]

る、おちぶるる」　書きあつむニ同ジ。榮花物語、廿七、衣珠「年頃、書きつめサセタマヒケル濱物語」拾玉集、二「初瀬ノ、聲ニヨソヘテ、見ツルカナ、ケニかきつむる、君ガ玉章」

かき-つ・む・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ（他動、下二）［搔集］〔前條ノ語原ト、同趣〕搔きあつむニ同ジ。夫木抄、十九、煙「散リツモル、森ノ落葉ヲ、かきつめテ」同、三十五「かきつむる、藻屑ヲイカガ、思フラム、浪ニナレタル、和歌ノ浦人」

かき-つ・め（動）前前條、及、前條ヲ見ヨ。

かき-つ・める・メル・メレ・メ・メ・メヨ（他動、下二）［書詰］（一）記シテ、末ニ至ル。（二）紙、一面ニ書ク。スキマナク書ク。（三）絶間ナク書ク。「書夜、書きつめる」

かき-つら・ぬ・ヌル・ヌレ・ネ・ネ・ネヨ（他動、下二）［搔列］〔かきハ、接頭語〕つらぬト云フニ同ジ。トモナフ。ツレダツ。音便ニ、かいつらぬ。源、十二、須磨三十五「かきつらね、昔ノ事ゾ、オモホユル、雁ハ其夜ノ、友ナラネドモ」伊勢物語、六十七段「思フ友かいつらねテ、云云、行キケリ」

かき-て（名）［書手］（一）文字ヲ書ク人。（二）文字ヲ、巧ミニ書ク人。能書ノ人。書家（三）繪畫ヲ、巧妙ニ描ク人。傾城反魂香（寶永、近松作）上「かき手モ書手、目利モメキキ、前代未聞ノ名人ヤ」

かき-とほし（名）［垣通］〔蔓ノ、垣ヲとほす意ナルカ〕（一）古名、ツボクサ。蔓草ノ名、多ク路旁ニ生ズ。莖ハ、方ニシテ、葉ト共ニ毛茸アリ、香氣烈シ、葉ノ形、圓クシテ、粗ナル鋸齒アリ、薄クシテ深綠色、長キ蔕アリテ、對生ス、冬ヲ歷テ凋マズ、春、別ニ苗ヲ出ス、直立五七寸、葉間ニ花ヲ開ク、淡紫ニシテ、紫ノ斑アリ、

花終ハレバ、莖、地ニ伏シテ蔓トナル。積雪草（二）やぶからしノ一名。（河内）

かき-と・む・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ（他動、下二）［書留］後ニ殘サムトテ、記ス。記錄　新古今集、八、哀傷「かきとむる、言ノ葉ノミゾ、水莖ノ、流レテトマル、形見ナリケル」

かき-とめ（名）［書留］（一）書キトムルコト。記シテ、後ニ遺ス文書。記錄（二）次條ノ語ノ略。

かき-とめ-いうびん（名）［書留郵便］郵便物不達ノ時、取調ベムガ爲ニ、郵便局ニテ、其郵便物ノ種類、番號、發信者、受信者ノ氏名、發送ノ年月日、等ヲ書キ留メ置クモノ。

かき-ともし（名）［搔燈］清涼殿ノ夜御殿ノ四隅ノ金燈籠ニトモス、油火ノ御燈。音便ニ、かいともし。今鏡、上、第一、望月「宮ノ内ニ、大殿油モ奉ラズ侍リケレバ、イカニト尋ネタマヒケルニ、女官ドモ、今ノ内ニ參リテ、かきともしスル人モナシナド聞キタマフニ」日中行事「夜ノ御殿ノかいともし、御手水ノ間ヨリ、內侍持チテマヰリテ、四ツノ隅ノ燈籠ニトモス」名目抄「搔燈」

かき-とり（名）［書取］書キ取ルコト。寫シタル文。記取

かぎ-とり（名）［鎰取］典鑰ニ同ジ。持統紀、七年四月「典鑰」

かき-と・る・ル・レ・ラ・リ・レ（他動、四）［書取］他ノ文章、言語、物體等ヲ、移シテ書ク。寫シ取ル。記取　萬葉集、廿七「我ガ妻モ、畫ニ可伎等良ム、暇モガ、旅行ク我ハ、見ツツ忍バム」

かき-な（名）［蓋草］〔搔成草ノ義ナルベシ、染ムルヲ、かく（搔）ト云フ、其條ヲ見ヨ、此草、染料トナル」音便ニ、かいな。

又、アシキ。今、かりやすぐさト云フ。其條ヲ見ヨ。播磨、九州ナドニ、今モ、かいなぐさト云フ所アリトゾ。本草和名、上四十五「蓋草、加伊奈、一名、阿之爲」倭名抄、十四十五染色具「黃草、加伊奈、刈安草」同、二十八十草類「藎草、加木奈」醫心方、一五十六「藎草、加岐奈」

かき-なが・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）［書流］筆ノ滯リナク記ス。サラサラト書ク。源、十七、繪合十七「四季ノ繪、云云、筆滯ラズ、かきながしタルサマ、喩ヘム方ナシ」

かき-な・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）［搔鳴］〔なす（鳴）ノ條ヲ見ヨ〕搔キ鳴ラス。後撰集、六、秋、中「秋ノ夜ハ、人ヲシヅメテ、ツレヅレト、かきなす琴ノ、ネニゾ泣キヌル」

かき-な・づ・ヅル・ヅレ・デ・デ・デヨ（他動、下二）［搔撫］〔かきハ、接頭語〕撫づト云フニ同ジ。音便ニ、かいなづ。撫　萬葉集、二十二十一「父母ガ、頭加岐奈弖、幸クアレト、言ヒシ詞ゾ、忘レカネツル」神代紀、上三十五「有二一老公與二老婆一、中間置二一少女一撫而哭之」名義抄「撫、カイナヅ」

かき-なで（名）［搔撫］カキナヅルコト。物ノ表面ヲ撫デタルバカリニテ、中ノ事ヲバ知ラヌコトナリト云フ。物事、唯ヒトワタリナルコト。ヒトトホリ。音便ニ、かいなで。源、十三、明石廿九「只今世ニ名ヲ取レル人人、かきなでノ心ヤリバカリニノミアルヲ」同、六、末摘花三十一「カウヤウノ、かいなでニダニアラマシカバト、カヘスガヘスクチヲシ」濱松中納言物語、二「ラウタゲナル氣色、かいなでノ人トオボエズ」

かき-なら・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）［搔鳴］搔キテ、鳴ラス。かきなす。彈ク。彈　源、一、桐壺十「御遊、云云、心コトナル物ノ音ヲ、かきならし」

かき-ぬき（名）［書拔］カキヌクコト。カキヌキタル文。ヌキガキ。抄錄　抄書

かき-ぬ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ（他動、四）［書拔］書中ノ文ノ一部ヲ、寫シ取ル。抄錄　抄寫

かき-ね（名）［垣根］〔ねニハ、意ナシ、島ね、羽ね、杵ねナドト、同ジ〕垣ト云フニ同ジ。萬葉集、十二十四「鶯ノ、カヨフ垣根ノ、卯ノ花ノ」

かき-の-ころも（名）［柿衣］柿染ノ衣。增鏡、第十七、春のわかれ「資朝モ、山伏ノマネビシテ、柿の衣ニ、綾藺笠ト云フモノ着テ」

かき-のし（名）［書熨斗］進物ニ、熨斗鮑ヲ附クル代リニ、字ニテ、のしト書クコト。

かき-の・す・スル・スレ・セ・セ・セヨ（他動、下二）［書載］書冊ノ上ニ、書キ記ス。記載　揭載

かき-のぞき（名）［垣覗］カイマミ。垣ノ隙間ヨリ、內ノ容子ヲ覗キ見ルコト。「盲ノ垣覗」

かぎ-の-て（名）［鍵手］〔鍵の路ノ轉、道ノ長手、行手ニ同ジ〕折レテ、角ヲナシタル形。曲尺ノ形。勾

かき-の-はぐさ（名）［柿葉草］〔葉、柿ニ似タリ〕やまひひらぎニ同ジ。

かき-の-もと（名）［柿本］（一）尋常ノ和歌ノ稱。狂歌ヲ、栗の本ト稱スルニ對ス。井蛙抄、六「六條內府語ラレテ云フ、後鳥羽院御時、柿本、栗本ト置カル、柿本ハ世ノ常ノ歌、コレヲ有心ト名ヅク、栗本ハ狂歌、コレヲ無心ト云フ」（二）連歌ニハ、上手ヲバ柿本ト云ヒ、下手ヲバ栗本ト云フ。有心、無心、同ジ。小夜のねざめ（二條良基）「後鳥羽院ノ御代ニハ、連歌ノ上

[illegible]ノ名トゾケラレハベリキ。[illegible]、[illegible]年五百ノ頃、有心無心ノ連歌作リケル[illegible]

かきは（名）[illegible] かきは[illegible]ノ條ヲ見ヨ。

かきは（名）[堅磐]（[illegible]）堅し磐、かたしは。堅し葉、かしは。さきは（常磐）ノ條ヲ見ヨ。

かきはじ・む・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ（他動、下二）[書始] 書クコトヲ始ム。

かきはじめ（名）[書始]（一）書キ始ムルコト。カキダシ。（二）かきぞめ（書初）ニ同ジ。

かきばひ（名）[illegible] かきがひ、ばひ ニ同ジ。

かきはん（名）[書判]「印判ニ對ス」花押ノ條ヲ見ヨ。草名[illegible]トモ[illegible]トモイヘリ[illegible]ヨテ名乗ヲ草名トイヘリ」

かきひざ（名）[搔膝] 膝ヲカクコト。音便ニ、かいひざ。

かきぶき（名）[illegible] [illegible]ノ條ヲ見ヨ。[illegible]けらぶきノ誤。

かきふ・す・ス・セ・サ・シ・セ（自動、四）[搔伏][illegible] 伏すト云フニ同ジ。ウツムク。音便ニ、かいふす。[illegible]三、上四十「アトマクラモ知ラズかきふしテ、イカニセム、イカニセム、ト歎ヒ」字治拾遺、十一、第八條「かいふしテ逃グルヲ、追ヒツキテ來レバ」かきふしてヲ、又音便ニ、かいふいてト云フ。

[illegible]ニカナハジトヤ思ヒケム、かいふいて逃ゲケレバ、[illegible]テ[illegible]ケタリ」

かきふ・す・スル・スレ・セ・セ・セヨ（他動、下二）[搔臥]〔かきハ、接頭語〕抱キテ寢サス。[illegible]十四、[illegible]人ニかきふせラレタマフ」[illegible]

かきぶね（名）[蠣船] 大阪市中ノ川川ニ[illegible]シテ、客ニ供フルモノ。安藝ノ廣島產ノ[illegible]

かきぶり（名）[書振] 其人ノ、文字、[illegible]ヲカク姿。カキヤウ。筆跡。[illegible]

かきべ（名）[民部] かき（部曲）ノ條ヲ見ヨ。

かきべ-の-かみ（名）民部卿ノ古稱。天武紀、下、[illegible]

かきほ（名）[垣保][illegible]ほハ、[illegible]ニテ、[illegible]キヲ云フカ」垣ト云フニ同ジ。萬葉集、九[illegible]「[illegible]」かきほニ生フル、撫子ニ」

かきま・ず・ズル・ズレ・ゼ・ゼ・ゼヨ（他動、下二）[搔雜] 搔キテ、雜ズ。カキマハス。（[illegible]ヲ水ニナド）[illegible]氷魚モ心寄セ奉リテ、色色ノ木ノ葉ニかきまぜモテ[illegible]ヒ、かきまぜタル心地ツカウマツレ」

かきまは・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）[搔廻][illegible]ニ同ジ。[illegible]

かきま・みる・ミル・ミレ・ミ・ミ・ミヨ（他動、上一）[illegible]ルヲ、ウカガフ。ノゾク。音便ニ、かいま[illegible]神代紀、下[illegible]「親ニ其私屏ニ」私記「加支末美太末布」古事記、上[illegible]

かきみだ・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）[搔亂][illegible]リナ、小夜ノ手枕」

かきみだ・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）[搔亂]〔かきハ、接頭語〕亂ろト云フニ同ジ。[illegible]

かきみだ・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ（自動、下二）[搔亂]〔かきハ、接頭語〕前條ノ語ニ同ジ。[illegible]

かきん（名）[家禽] 人家ニ飼フ、鳥類ノ[illegible]

かきん（名）[瑕瑾]〔瑕ハ、玉ノきずナリ、〔瑕モ、きず〕瑾ハ、美玉ナリ〕此語、瑕[illegible]ノ誤トモ思ヘド、古クヨリ普通ニ、瑕[illegible]トシテ、瑕ノ意ニ用ヰタリ、[illegible]ト云ヒテ、與ふるノ意トシ、浮沈ト云ヒテ、沈むノ意トスル、偶說ノ如キ稱ナリ（一）キズ。ワレメ。缺點。[illegible]（二）ハヂ。名折。恥辱。[illegible]

[illegible]

かきめし（名）[illegible]テ成ル。おろしだいこん、きざみねぎ、やきのりナド、振リカク。

かきもち（名）[缺餅]（一）正月、鏡餅ヲ、手ニテ缺キ碎キタルモノ。[illegible]（二）又、海鼠餅ヲ、刃物ニテ、薄ク輪切リニシタルモノ。乾シ貯ヘテ、炙リ食フ。ヘギモチ。

かきもの（名）[書物] 文ヲ書キ記シタルモノ。[illegible]

かきもら・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）[書漏][illegible]「ウルサク何トナキコト、多カルヤウナレバ、例ノかきもらしタルナメリ」

かきやう（名）[書樣] カキザマ。カキブリ。

かきやう（名）[家鄕] フルサト。クニモト。[illegible]

かきやう（名）[佳境] 面白ク感ズル場合。

善キ境域。晉書、顧愷之傳「毎レ食ニ甘蔗一、常自レ尾至レ本、人或怪レ之、愷之曰、漸入ニ佳境一」「談、佳境ニ入ル」

かぎゃう (名) 加行 五十音圖ノ、第二ノ行ノ名。か、き、く、け、こ。

かぎゃうへんかく (名) 加行變格 文法ノ語。動詞ノ活用ノ、變體ナルモノ。く(來)ト云フ一語ナリ、卽チ、加行ノ音ニテ、く、くる、くれ、こ、き、こよ、トナリ、獨リ、他ノ加行ニ活用スル動詞ト、異ナリ。

かきやく (名) 書役 書記ノコトヲ勤トスル人。モノカキ。右筆。筆吏 德川禁令考、四十七、延享二丑年五月、物書共之儀ニ付、町觸「名主、家主共、云云、自分ニ相成儀ヲモ、書役ニ致サセ」

かぎやり (名) 鍵槍 槍ノ一種。柄ノ、刃ニ近キ處ニ、横ニ、細ソキ鐵棒ノ、七八寸ナルヲツケタルモノ。棒ハ、柄ト十字ヲナシ、其一端、屈折シテ前ニ向フコト、數寸ナリ、敵ノ槍ヲ懸ケ落ス用トス。北條五代記、四、關東長柄刀の事、附、かぎ鑓の事「かぎ鑓トテ、クロカネヲ長クノベ、カギヲシテ、鑓ノ柄ニ十文字ニ入、其先ニ小ジルシヲ付、柄ニテ人ヲ突クベキ威風ヲナシ給フ」

かきやる ル・レ・ラ・リ・レ (他動、四) 搔遣 推シテ遣ル。ハラヒノクル。音便ニ、かいやる。宇津保物語、樓上、下十「髮かきやりタマフ手ツキ、イト美シゲナリ」源、五、若紫九「イワケナクかいやりタル額ツキ、髮狀、イミジウウツクシ」

がぎょ (名) 駕御 (一)馬ヲ、乘リコナスコト。駕馭 (二)頭トナリテ、人ヲ程ヨク使フコト。驅使。操縱。吳志、張昭傳「爲ニ人君一者、謂ニ駕ニ御英雄一、驅ニ使羣臣一」

かぎり (名) 限 (一)限ルコト。狹衣、四、中廿「越エモセヌ、關ノコナタニ、マドヒシヤ、逢坂山ノ、かぎりナルラン」(二)界。際。經界 新古今集、十四、戀、四「メグリアハン、かぎりハイツト、知ラネドモ、月ナ隔テソ、ヨソノ浮キ雲」(三)果。極。涯 古今集、四、秋、上「何時トハ、時ハワカネド、秋ノ夜ゾ、物思フ事ノ、かぎりナリケル」「命ノかぎり」(四)アヒダ。ホド。萬葉集、四、三十一「我ガ命ノ、全ケム限、忘レメヤ」

かぎり (接尾) 限 他語ノ下ニ用キテ、副詞トスル接尾語。極マデ。アルタケ。枕草子、五、四十六段「有ルかぎり、羣レタチテ」「命かぎり働ク」アルかぎり取ル」

かぎる ル・レ・ラ・リ・レ (他動、四) 限 〔垣ヲ構キ切ル意カ〕(一)界ヲナス。際ヲタツ。(二)サヘギル。ヘダツ。シキル。期 隔 (三)〔時ヲ定メテ、延ベサセズ。源、五十一、蜻蛉廿二「カカル所ニ、日ヲかぎりテ籠リタレバナム」

かぎろひ (名) 火光 〔燿霧ノ約轉ナラム、(軋合ひ、きしろひ)此語ハ、かぎろふト云フ動詞ノ名詞形ナルカ、かげろふト云フ動詞アリ、此轉ナルベシ〕(一)火災ノ雲燒。古事記、下(履中)四「河内ノ埴生阪ニテ、遙ニ難波ノ火災ヲ望ミタマヘル大御歌「埴生阪、吾ガ立チ見レバ、迦藝漏肥ノ、燃ユル家叢、妻ガ家ノアタリ」(二)燿ク日ノ光。曜光 萬葉集、一、廿二阿騎野ニ旅寐シテ、翌朝ノ歌「東ノ、野ニ炎ノ、立ツ見エテ、顧ミスレバ、月西渡ヌ」(三)轉ジテ、かげろふ。(其條ヲ見ヨ) 陽炎 萬葉集、二、三十八長歌「香切火ノ、燃ユル荒野ニ」同、十七「今更ニ、雪降ラメヤモ、蜻火ノ、燃ユル春方ト、ナリニシモノヲ」

かぎろふ (名) 蜻蛉 〔前條ノ(二)ノ曜光ノ轉、(鵠ヲ、こひトモ、こふトモ云フ)此蟲、常ニ日影ヲ求メテ、陽炎ノ如ク飛ビヒラメケバ、かぎろひ蟲ト云ヒケム、故ニ萬葉集ニ、陽炎ニ、蜻火ノ字ヲ當テタルアリ、(前條ヲ見ヨ) 此語、轉ジテ、かげろふトナレリト思ハル〕蟲ノ名、かげろふニ同ジ。アキツ。トンバウ。本草和名、下廿一「蜻蛉、加岐呂布」醫心方、一三十六「蜻蛉、加支呂布」

かきわたす ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) 搔渡 搔キ鳴ラシユク。源、四十三、竹川廿二「ヲサヲサ心ニイラズ、かきわたしタマヘル氣色、イト響キ多ク聞ユ」(和琴ニ云ヘルナリ)

かきわり (名) 書割 芝居ノ舞臺ノ背ニ立ツル、樹木、景色ノ繪。舞臺ノ背景。

かく (名) 角 〔鐙ノ鉸具頭ノ轉ナル、かくがしらノ略ト云フ〕(一)鐙ノ名所。今川大雙紙「鐙ノ名所ノ事、水尾金ノ下ヲバ、かくトイフナリ」(二)馬術ノ語。馬ヲ進マシメムトテ、雙ノ鐙ヲ蹈ミ張リ、馬ノ兩脇ヲ挾ミ敲クコト。鑓權三重帷子(享保、近松作)上「權三ガ馬ハ逸物ノ、口ヲ切テ角ヲ入レ、ハウット懸タル聲ノ內、一散ニ駈出ス」「角ヲ當ツ」

かく (名) 角 (一)ツノ。易經、下經、大壯篇ニ「羝羊觸レ藩、羸ニ其角一」「鹿角」(二)大角ノ條ヲ見ヨ。春秋繁露「帝命吹レ角、爲ニ龍吟一禦レ之」(三)カド。スミ。稜 古詩、焦仲卿妻「紅羅複斗帳、四角垂ニ香囊一」「三角」五角」(四)四ツ角アル形。四角。方 「角ニ切ル」角盆」角行燈」(五)材木ノ、四角ナルモノ。「三寸角」五寸角」(六)角折敷ノ略。(七)將棊ノ駒ニ、角行ノ略。壽門松(享保、近松作)中「將棊、云云、金持トハ、此角ガ睨ンデ居ル」(八)五音ノ一、十二律ノ條ヲ見ヨ。禮記、樂記篇「角爲レ民」著聞集、六、管絃歌舞「宮、商、角、徵、羽ノ五音アリ」(九)數學ノ語。相會スル二直線ノ爲ス形。(向、角度ノ條ヲ見合スベシ)

かく (名) 角 〔鵠ノ音ノ轉カ、的ノ星ヲ、正鵠ト云フ、或ハ、鳥銃ノ的ニハ、隅立角ノ內ニ輪ヲ畫クヨリ云フカ〕鳥銃ヲ發ツコトヲ習フニ立ツル的。銃的 雍州府志、八、利休松「倭俗、鳥銃謂ニ鐵砲一、正鵠謂レ格」「角打チ」角場」

かく (名) 客 〔主ニ對ス〕(一)マラウド。キャク。詩經、小雅、北山之什、楚茨篇「爲レ賓爲レ客、獻酬交錯」李華、弔ニ古戰場一文「主客相搏、山川震眩」(二)人。者。「論客」刺客」

かく (名) 格 (一)則。制。禮記、緇衣篇「言有レ物、而行有レ格也」「格ヲ外ル」此ノ格ニテ行フ」(二)クラヰ。高下ノ程度。身分。分際。等級 沙石集、十、上、第一條「折ヲ知リ、時ニ隨テ、格ヲコヘ、禮ニカカハラズシテ、物ノ意得テ振舞、是實ノ達人也」「家ノ格」番頭格」(三)律令格式ノ一、其條ヲ見ヨ。

かく (名) 格 〔英語、Case. ノ譯語〕西洋文法ニテ、名詞、代名詞ガ、他ノ語ト關係スル位置ニ就キテ云フ語。我ガ辭ノ、が、の、に、を、と、へ、より、から、ノ如シ。「主格」目的格」

かく (名) 閣 (一)タカドノ。樓。漢書、揚雄傳「雄恐、從レ閣自投幾死」(二)內閣ノ略。「閣臣」閣議」

かく (名) 膈 (一)胸ノ內部。「胸膈」(二)食道癌、胃癌ノ總名。膈噎。浮世風呂(文化、三馬)初編、上「物ヲ食シテ吐スモノヲ、膈トイフハ」「膈ノやまひ」

かく (名) 核 (一)生物學上ノ語。生活セル細胞ノ實質中ニ埋沒シテ存セル、球形ナルモノ。(二)植物學上ノ語。核果ニ於ケル、堅固ナル內果皮。

かく (名) 佳句 ヨキ句。スグレタル文

句。[illegible]」

かく・ク・ケ・カ・キ・ケ（他動、四）構絡 構ヘ作ル。組ミ作ル。[illegible]組ミ成ス。[illegible]ヒカラグ。[illegible]モ、[illegible]マシビ（[illegible]）ニ、[illegible]。萬葉集、五、[illegible]長歌[illegible]ニハ、[illegible]ノ[illegible]」字類抄「[illegible]、カク」「巣子ヲかく」木綿ヲかく」あぐらヲかく」

かく・ク・ケ・カ・キ・ケ（他動、四）懸〔下二段活用ノ懸くる意ノ、四段活用モアルナリ、敬語ニ、かかすト云フ〕懸クル。互シテ繋グ。[illegible]、十二年十月、長歌「伊勢ノ野ノ、[illegible]ノ大神宮ニ禁ヘマツルト、[illegible]二百世經ルマデ懸ケテ）其ガ盡クルマデニ、大君ニ、堅ク仕ヘマツラム」萬葉集、十六、長歌、馬ニコソ、絆可久モノ、牛ニコソ、鼻繩ハグレ」「頸鼻繩ヲかく」又「繋鐡（かけがね）」馬ノ胸繋」尻繋」ナド云フかきを、[illegible]ノ名[illegible]ナリ。

かく・ク・ケ・カ・キ・ケ（他動、四）搔（一）〔爪ヲ立テテ引ク。ヒカク。[illegible]、下、第二[illegible]「抓、可支天」「癢キヲかく」（二）〔彈ク。彈 古今集、十二、[illegible]、秋[illegible]ニ、かき鳴ス琴ノ、聲ニサヘ、ハカナク人ノ、戀ヒシカルラム」（三）手ニテ押シノクル。泳グ。泳「水ヲかく」（四）拭フ。玉葉集、四、秋、上「かきアヘヌモノハ、涙ナリケリ」（五）〔拂ヒ除クル。拂 枕草子、八、七十四段「尼ニ削ギタル兒ノ、目ニ、髮ノオホヒタルヲ、かきハヤラデ」「雪ヲかく」（六）切リ放ス。カキキル。切斷 [illegible]記、廿、石橋合戰事「與一、刀ヲ拔テ股野ガ首ヲかく、搔共搔共切レズ」「吭ヲかく」（七）〔クシケヅル。梳 萬葉集、十八、[illegible]長歌「[illegible]マノ、夜床片去リ、朝寢髮、可伎モケヅラズ」（八）〔カキマズ。カキマハス。攪 古事記、上「[illegible]、以[illegible]者」「[illegible]ヲ」、「[illegible]かく」（九）〔草木ノ汁ニ、搔キツケ摺リツケテ、染ム。染 萬葉集、七、[illegible]「[illegible]ノ榛ヲ、衣ニ[illegible]付、[illegible]キツケ、着セム兒モガモ」同巻[illegible]「垣津幡、衣ニ摺著、着ム日知ラズモ」トアル杜

かく・ク・ケ・カ・キ・ケ（他動、四）[illegible]ヲ[illegible]ヲかき[illegible]、[illegible]ヲ、[illegible]ト云フ。「搔き曇ル」「搔き濁ル」「搔き落ツ」「搔き消ス」
（十）〔接頭語、かき（搔）ヲ見ヨ。

かく・ク・ケ・カ・キ・ケ（他動、四）書 筆尖ニテ紙上ヲ搔ク意ナラム〕（一）〔筆ニテ、文字、畫圖ヲ作ル。記ス。寫ス。竹取物語「文かくニ」源、四、夕顏[illegible]「[illegible]ニかかマホシケナリ」（二）文章ニ述ブ。著ハシ記ス。著作「歷史ヲ書く」小說ヲ書く」

かく・ク・ケ・カ・キ・ケ（他動、四）身ニ受ク。被ル。萬葉集、九[illegible]長歌「[illegible]ケキニ、汗可伎長息キ」東[illegible]道名所記（萬治）六、鳴原「唐[illegible]ヲかきイダシテ」「恥ヲかく」

かく・ク・ケ・カ・キ・ケ（他動、四）舁 二人以上ニテ、物ヲ棒ニサシテ肩グ。カツグ。（輿、駕籠ナド）源、十六、關屋[illegible]「此處彼處ノ杉ノ下ニ、車ドモかきオロシ」

かく・ク・ケ・カ・キ・ケ（他動、四）闕缺欠（一）削ル。減ラス。不足ニナス。「下ノ巻ヲかく」（二）〔毀ス。損フ。（器ナド）毀損 垂仁紀、七年七月「當麻蹶速、云云、強力、以能毀角申鉤」（三）脫ス。洩ラス。オトス。闕 若宮社歌合「同ジクハ、住ムベキ千代ノ、數トナシ、一夜モかかズ、立ツル錦木」「疑ヲ闕く」註釋ヲ闕く」（四）ツヒヤス。徒ニナス。消光「暇ヲ缺く」（五）オコタル。懈怠 榮花物語、四、見果ぬ夢「寵口、帶刀ナド、番かかズサブラフ」「勤ヲ缺く」

かく・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ（自動、下二）闕缺欠（一）〔揃ヒタルモノ、減ル。不足ス。萬葉集、十三[illegible]長歌「千數ニ、闕コト無ク、萬代ニ、有リ通ハムト」（二）〔毀ル。傷ル。（器ナド）毀損 神代紀、上[illegible]「劍刃少缺」（三）脫ク。洩ル。オツ。闕「事、缺く」（四）〔滿月ノ形、次第ニ小サクナル。虧 萬葉集、三[illegible]「世中ハ、空シキモノト、有ラムトゾ、此ノ照ル月ハ、滿[illegible]消「暇かく」（六）怠リトナル。越度トナル。懈怠「勤ガ缺く」

かく・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ（自動、下二）驅馳（一）馳ス。疾ク走ル。カケル。[illegible]、主モナキ、夏野ノ原ノ、放レ駒、心ノママニ、かけツモドリツ」（二）進ム。進撃 保元物語、二、[illegible]白河殿夜討事「[illegible]ハ、大將軍ノ[illegible]ハズ」平家物語、二、石橋山合戰事「宗徒ノ者ドモ七十三騎、我レ劣ラジト、ヲメイテかく」太平記、六、楠出二張天王寺ニ事「懸くるモ引クモ、時ニ因ルトハ、カヤウノ事ヲ申スナリ」[illegible]、一人、拔ケ出デテ、先ヲかけ、高名セムト思フガ、本意也」

かく・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ（他動、下二）掛（一）〔物ニ着ケテ下グ。釣リテ垂ラス。懸 繫 古事記、下（允恭）[illegible]「[illegible]杭ニハ、鏡ヲ加氣、眞杭ニハ、眞珠ヲ加氣」（二）〔亙ス。亙 架 拾遺集、十四、戀、四「ナカナカニ、云ヒハ放タデ、信濃ナル、木曾路ノ橋ノ、かけ（言ヒ切ラザル意ニ云ヒカク）タルヤナゾ」「橋ヲかく」梯子ヲかく」（三）〔兼ヌ。渉ラス。兼 係 伊勢物語、六十九段「國ノ守、齋ノ宮ノカミかけタル」「此事ヲ役事ニかく」官ヲかく」行末ヲかく」春かけテ、かけ持ツ（四）〔注ギ撒ク。撒 天智紀、二年五月「福信郎[illegible]於執得ニ日」「水ヲかく」鹽ヲかく」粉ヲかく」（五）〔釣リテ晒ラス。梟 保元物語、一、義朝弟誅事「獄門ニハ曝ラレズ」（六）〔高ク揭グ。揭 土佐日記、正月廿六日「風ヨケレバ、楫取イタク誇リテ、船ニ帆かけヨナド、喜ブ」「額ヲかく」（七）〔載セテオク。凭「腰ヲかく」（八）〔賭事ニ、物ヲ出ス。賭 宇津保物語、初秋[illegible]「此ノ御許ナルト、兼雅ガ許ナルト比ベムニ、マヅ物かけ給ヘ、云云、何ヲかくベカラム」「命ヲかく」（九）〔掛算ヲナス。乘（十）〔放ツ。付クル。放火 保元物語、二、白河殿夜討事「[illegible]モ[illegible]ク[illegible]テ、破リ[illegible]ク候、今ハ、火ヲ[illegible]サラム外ハ、利有ヘシトモ覺候ハズ」（十一）費ヤス。用ヰル。消費[illegible]ノ家[illegible]」「月日ヲかく」[illegible]ヲかく」（十二）着ス。[illegible]、[illegible]「芥子程モ、御街かけマセヌ」「[illegible]ヲかく」[illegible]ヲかく」賴ミヲかく」（十三）〔思フ。慕フ。[illegible]、七年十一月[illegible]、[illegible]十一、[illegible]、二「一日モ君ヲ、かけヌ日ハナシ」（十四）〔欺ク。タバカル。六帖、五、下「今來ムト、言ヒシバカリ[illegible]、かけ[illegible]、人ノ[illegible]ノ、[illegible]ハ、[illegible]二十[illegible]二十五（十五）〔[illegible]ノ、[illegible]ル[illegible]ル）「言ヒかく」間ヒかく」攻メかく」（十六）言ヒテ、答ヘヲ求ム。「問ヒヲかく」謎ヲかく」（十七）始ム。「讀ミかく」掛かく」（十八）泊ム。泊舟「船ヲかく」（十九）閉ツ。鎖ス。鎖 [illegible]、上、[illegible]、かけツル、[illegible]バ」「鎖ヲかく」かきがねヲかく」（二十）日掛、月掛ノ錢ヲ貯ノ、二日掛ノ條ヲ見ヨ（二十一）立ツル。遣ル。發「電報ヲかく」電話ヲかく」

舁に掛くハ、誇ル。口に掛くハ、言フ。目か掛くハ、助ク。世話ヲ[illegible]。脊顧 手に掛くハ、自ラ爲ス。躬行 秤に掛くハ、量ル。心に掛く、氣に掛くハ、念フ。思案ス。案ジル。消思 願を掛くハ、祈リ願フ。禱 聲を掛く、詞を掛くハ、呼ブ。

かく（副）斯 上ノ語ノ意ヲ受ケテ、下ニ移ス語。此ノ如ク。カヤウニ。音便ニ、かう。如此 神代紀、下、[illegible]、カク」

かぐ（名）家具 家ノ具。家ノ内ノ、日用ノ道具。家財。[illegible]少[illegible]、[illegible]等、[illegible]正月ノ外、十二ケ月タルベキ事」

かぐ（名）下愚 愚ノ、甚シキモノ。極メテ賢キヲ、上智ト云ノニ對ス。[illegible]

貨篇「唯上知與二下愚一不レ移」 徒然草、八十五段「下愚ノ性、移ルベカラズ」

〜か・ぐ・グ・ゲ・ガ・ギ・ゲ (他動、四) 〔嗅〕〔齅〕〔香ヲ活用セシム、肩ぐ、股ぐノ例〕 鼻ニ受ク。嗅覺ニテ知ル。 字鏡五十「嗅、加久」 古今集、三、夏「花橘ノ、香ヲかげバ」 源、三十二、梅枝「薫物ノ香、深サ淺サヲ、かぎアハセタマヘルニ」

がく (名) 〔學〕 (一)學ブコト。敎ヲ受クルコト。モノマナビ。學問。 論語、泰伯篇「學如レ不レ及、猶恐レ失レ之」「學二志ス」 (二)學校。「大學」中學」小學」 (三)學術、科學ノ名ノ下ニ添ヘテ呼ブ語。「天文學」地理學」物理學」博物學」

がく (名) 〔樂〕 (一)ウタマヒ。アソビ。樂器ヲ用キテ、調ニ合セテ、音ヲ發シ、人ノ心ヲ樂シマシムルモノ。歌、舞、コレニ伴フ。音樂。神樂、雅樂、猿樂、俗曲、等、古今、雅俗、種種ナリ、西洋傳來ノ樂モアリ、各條ニ注ス。 書經、舜典篇「夔、命レ汝典レ樂、敎二冑子一」 天武紀、下、二年九月「奏二種種樂一」 (二)〔專ラ、雅樂。 宇津保物語、菊宴「がく始マリテ、公達、舞、仕ウマツリナドス」

がく (名) 〔額〕 (一)板、帛、紙ナドニ、標目ノ文字ヲ記シテ、門、檐、鴨柄ナドニ、高ク揭グルモノ。額面。畫ナルニモ云フ。扁額 著聞集、七、能書「大内十二門ノ額、南面三門ハ弘法大師、云云、垂露ノ點ヲ下シケリ」 (二)額銀、額判ノ略。 (三)額裏、額蒲團ノ略。

がく (名) 〔額〕 數ノ制。高。 元史、順帝紀「增二其額數一」「其額、幾何」定額」金額」

がく (名) 〔額〕 草ノ名。次次條ノ語ノ略。

がく (名) 〔蕚〕〔萼〕 ウテナ。ハナブサ。 晉書、皇甫謐傳「春華發レ蕚、夏繁其實」

がく-あぢさゐ (名) 〔八仙花〕 〔花面ノ白花ノ、額縁ヲナス意カ〕 あぢさゐノ屬。花傘ノ圍小サクシテ、中心ノ花ハ靑ク、外邊ニ白花ヲ列ヌ。略シテ、がく。

かく-アンドン (名) 〔角行燈〕 あんどんノ條ノ(二)ヲ見ヨ。

かく-い (名) 〔隔意〕 ヘダツルココロ。心ノ、打解ケヌコト。隔心

かく-いう (名) 〔客遊〕 他國ニ客トナリテ、遊ブコト。出遊。 孟浩然詩「惜闕懷二其寶一、迷レ邦倦二客遊一」

がく-いう (名) 〔學友〕 同學ノ友。

がく-いちぶ (名) 〔額一分〕 古ヘノ貨幣ノ、緣アリテ、其ノ形、額ニ似タル一分金。略シテ、がく。 永松堂金譜「慶長(片兩)本字壹分判金、云云、別ニ一種、重廓ノ物アリ、是ヲ俗ニ額壹分トイフ」

かく-いつ (名) 〔膈噎〕 病ノ名。膈ノ(二)ヲ見ヨ。 醫學天正記、坤「膈噎、一、三十餘歲之男子患レ膈、食則心中如レ刺、呑酸嘈雜子時吐、大便祕、脈遲、右關緊」

か-くう (名) 〔架空〕 (一)空中ニ、架ケワタスコト。高架。 唐太宗詩「飛簷迴架レ空」「架空電線」 (二)空ナルコトヲ、事實ラシク云ヒナスコト。「架空ノ談」

か-ぐう (名) 〔嘉耦〕 ヨキ配合者。好配。 左傳、桓公二年「嘉耦曰レ妃、怨耦曰レ仇、古之命也」

かく-うち (名) 〔角打〕 小銃ノ射的。角。

がく-うら (名) 〔額裏〕 〔額緣ノ如キ意〕 衣服ノ裏ノ緣ヲ、異ナル布帛ニテ附ケタルモノ。略シテ、額。

かく-えり (名) 〔角襟〕 圓襟ニ對スル語。ばんりやう(盤領)ノ條ヲ見ヨ。

がく-おう (名) 〔嶽翁〕 がくふ(嶽父)ヲ見ヨ。

かく-おび (名) 〔角帶〕 男子常用ノ博多織、小倉織ナドノ帶ヲ、三尺帶、へこ帶ナドニ對シテ云フ。

かく-か (名) 〔閣下〕 〔閣ハ、たかどのナリ、其居處ヲ指シテ云フ、殿下、座下、足下、ナド、同趣〕 文章ノ上ニテ、高位高官ノ名宛ノ下ニ用キル尊稱。或ハ、對話ノ上ニテ、對稱ノ代名詞ニモ用キル。(軍人ノ間ニハ、少將以上ニ)音便ニ、かうか。

かく-が (名) 〔鶴駕〕 〔列仙傳「王子喬、周靈王太子晉也、吹レ笙作二鳳鳴一、後於二緱氏山一、乘二白鶴一而去、故、太子之駕、曰二鶴駕一」〕 皇太子ノ御乘物。

がく-かい (名) 〔學海〕 (一)川ノ水、日夜流レテ止マズ、終ニ海ニ至ル。人ノ、勉學スベキヲ警ムル語。 揚子法言「百川學レ海至レ海、丘陵學レ山不レ至レ山」 (二)學問ノ、廣大ニシテ窮リナキヲ、大海ニ比ベテ云フ語。 張蠙詩「從レ今學海誰準導レ學海迷茫未レ有レ涯」

がく-かい (名) 〔學界〕 學問上ノ社界。學者ノ仲間。

かく-かう (名) 〔角行〕 將棊ノ駒ニ、四隅ノ向ヘ、遠近、自在ニ進退スルコトヲ得ルモノ。又、角將。略シテ、角。

かく-かう (名) 〔各項〕 各ノ項目。

がく-かう (名) 〔學校〕 文屋。フンヤ。フヤ。マナビヤ。學問、藝術ヲ敎ヘ學バシムル處。學問所。(大學校、中學校、小學校、專門學校、等) 孟子、滕文公、上篇「設二爲庠序學校一以敎レ之、云云、校者敎也、云云、夏曰レ校、云云、學則三代共レ之、皆所三以明二人倫一也」

がく-かう-ちやう (名) 〔學校長〕 學校ノ長。其學校ヲ統轄スル人。略シテ、校長。

かく-かく (副) 〔斯斯〕 かく(斯)ヲ重ネタル語。音便ニ、かうかう。又、カヤウカヤウ。如此如此「かくかくノ次第ナレバ」

がく-がく (名) 〔諤諤〕 權威ニ怖レズ、直言スルコト。 史記、商君傳「千人之諾諾、不レ如二一士之諤諤一」「諤諤ノ臣」

がく-がく (副) がくりがくりノ略。

かく-かく-と (副) 〔赫赫〕 (一)カガヤク狀ニ云フ語。キラメキテ。殊ニ著ルク。 詩經、小雅、鹿鳴之什、出車篇「赫赫南仲、玁狁于襄」 荀子、勸學篇「無二惛惛之事一者、無二赫赫之功一」「光明赫赫トシテ」 (二)燃ユルガ如ク暑キ狀ニ云フ語。 詩雅、大雅、蕩之什、雲漢篇「赫赫炎炎、云我無レ所」「烈日、赫赫タリ」

かく-がしら (名) 〔鉸具頭〕 〔かこがしらノ轉〕 かこ(鉸具)ノ條ヲ見ヨ。

〜かくか-の-とり (名) 〔覺賀鳥〕 〔鶚ノ聲ハ、鳶ノ聲ノ如シ、怒レバかっかっト聞ユト云フ〕 みさごノコトナリト云フ。 景行紀、五十三年十月「渡二淡(安房)水門一、是時聞二覺賀鳥之聲一」 高橋氏文「此浦聞二異鳥之音一、其鳴二駕我久久一」(ちちかぶりノ條ヲ見ヨ) 塵袋、三「常陸國風土記、河内郡、浮島村ニ鳥アリ、賀久賀鳥ト云フ、其吟嘯ノ音聲、アイシツベシ」 寛平熱田緣起「海中有レ鳥、鳴聲可レ怜、毛羽奇麗、問二之土俗一、稱二覺賀鳥一」 箋注倭名抄、七九「鵙鳩、美佐古、日本紀私記云、覺賀鳥」註「覉久加乃止利、公望案、高橋氏文云、水佐古」

かく-がん (名) 〔擱岸〕 〔擱ハ、置クノ意〕 船舶ノ、誤リテ、岸ニ乘リ上グルコト。

かく-き (名) 〔客氣〕 血氣ニハヤルコト。

[illegible]、元公八年[illegible]之、[illegible]

かくぎ (名) [閣議] 内閣ノ諸大臣ノ會議。

がくき (名) [樂器] 音樂ニ用キル器。神樂ニハ、和琴、横笛、拍子、等ナリ。又、和琴、琵琶、箏ヲ三絃ト云ヒ、皆、絃ヲ彈キ鳴ラス、大鼓、羯鼓、鉦鼓ヲ三鼓ト云ヒ、皆、革ヲ擊チ鳴ラス、横笛、笙、篳篥ヲ三管ト云ヒ、皆、竹ヲ吹キ鳴ラス、コレラヲ雅樂ノ樂器トス。其外、腰鼓、フリツヅミ、銅拍子、ビンザサラ、琴、太鼓、胡弓、三味線、尺八、木琴、月琴、箏、角、種種アリ。又、西洋傳來ナルハ、喇叭、風琴、ぴあの、ばいおりんナド、尙、多シ。左傳、襄公廿五年「宗器樂器」宇津保物語、吹上、下八「萬ノ樂器ドモ、金銀、瑠璃ヲ嵌キ集ヘテ」

がくき (名) 學規 學課ノ規則。又、學校ノ規則。

がくき (名) [學期] 學校ニテ、一學年ノ修業期間ノ三分ノ一ノ稱。

がくきふ (名) [學級] 同一ノ教授ヲ受クル生徒ノ一組。

かくきん (名) [恪勤] かくごんノ(一)ニ同ジ。[illegible]

がくぎん (名) [額銀] (稍長方形ニシテ、四周ニ線アリ、額縁ノ如シ) 金一歩ニアタル、古キ銀貨ノ名。又、額判。略シテ、額。

がくきう (名) [學窮] 學問ノミ研究シテ、世ノ用ヲナサヌ學者。[illegible]

かくぎょ (名) [鰐魚] (一)ワニ。(二)サメ。[illegible]

がくきょく (名) [樂曲] (一)音樂ノ曲節。(二)音樂ノ一章。[illegible]

かくぐう (名) [客寓] 旅ノヤドリ。旅寓。

かくぐう (名) [客遇] 賓客ノ禮ヲ以テ、待遇スルコト。[illegible]

かくくわ 名 [核果] 植物學ノ語、果實ノ果皮ハ、外、中、內、ノ三層ニ分レ、其中果皮ハ多肉多漿、內果皮ハ堅牢ニシテ、核ヲナシ、種子ヲ保有ス、卽チ、梅桃ノ如キ類ノモノ。

がくくわ (名) [學科] 學術ノ科目。唐書、儒學傳、序[illegible]

かくぐわい (名) [格外] 格ノ外。常ノ則ニ外ルルコト。格別。格段。[illegible]人以爲ニ格外三公ニ ひとりごと、上、俳諧ニ、地、自句、ヤリ句、格外トイフ事、侍リ、云云、格外トイフハ、打キコユル所、更ニ前句ニ付ヨルベキ句トモ見エネド、底ニテヨク付侍リテ、シカモ感深キヲイフナルベシ」

がくくわい (名) [學會] 學術、文藝ノ會。

かくくわさうやう (句) [隔靴搔痒] 靴ヲ隔テテ、痒キヲ搔ク。痒キトコロニ、手ガトドカズ。事ヲ行ヒテ、本意ヲ遂シ得ズ。[illegible]

かくくわん (名) [客館] [illegible]ノ條ヲ見ヨ。

がくくわんゐん (名) [學館院] 平安朝ノ頃、橘氏ノ人人ノ學問所ノ稱。橘氏ノ長者、其別當タリ、嵯峨皇太后嘉智子、其弟、右大臣橘氏公ト謀リタマヒテ建テラレタルナリ、後ニ、大學寮ノ別曹トセラル。後ニ、藤原氏ノ人、橘氏是定トナリテ、コレヲ總督シタリキ。(弘文院、勸學院、淳和院、奬學院ヲ併セ見ヨ)[illegible]

かくけ (名) [脚氣] 古言、アシノケ。脚病。脚ニ痲痺ヲ感ジ、水腫ヲオコス病。重キハ衝心ス。水腫ナキヲ、空虛(乾)脚氣ト云フ。撮壤集、下、痼疾「脚氣、アシ」

がくげい (名) [學藝] 學問ト、技藝ト。[illegible]

がくげき (名) [樂劇] おぺらニ同ジ。

かくけつ (名) [喀血] [集韻「喀、嘔也」] 肺、又ハ氣管支粘膜ヨリノ出血ヲ、咳ト共ニ吐クコト。[illegible]

かくげつ (名) [隔月] 一箇月ヅツ、隔ツルコト。一月置。[illegible]

がくげふ (名) [學業] マナビノワザ。學問。[illegible]

かくげん (名) [格言] [格ハ、字典ニ、至也、窮究也トアリテ、道德ノ至極ニ達スルヲ云フ] 法トスベキ言。[illegible]

かくご (名) [恪勤] かくごんノ約、其條ノ(二)ヲ見ヨ。

かくご (名) [覺悟] (一)サトルコト。[illegible] (二)思ヒサダメテ[illegible]コト。[illegible]ノ仰ヂャ、覺悟セイ」(三)預メ心ニ思ヒカマヘテ居ルコト。ココロガマヘ。用心。期待。[illegible]ヨリ覺悟の前ニテ侍レバ、強チ驚クベキニテ候ハネドモ」

かくご (名) [客語] 文法ノ語。主語ノ條ヲ見ヨ。

がくこう (名) [樂工] 音樂ヲ奏スルヲ業トスル人。樂人。

かくこく (名) [各國] オノオノノ國。クニグニ。

かくこと (副) [確乎] タシカニ、カタク。[illegible]「確乎とシテ動カスベカラズ」「確乎たる志」

かくごん (名) [恪勤] (一)[ツツシミテ、ツトムルコト] 精勤。[illegible]リテコソハ、かくごんヲモ、トテ立チタマフ」(二)公家ニテハ、親王、大臣ニ仕フル侍、藏人、院ノ北面ノ武士ナドノ稱。約メテ、かくご。[illegible]「恪勤ノ二人アリケルモ、云云」太平記、二、持明院[illegible]

云、[illegible]シキ下部十三、四ニ、惠兒ガ、若シクハ稚兒若ナドニテ、云云、召仕ハレケルガ」(末ノ平家ニ云ヘルハ、寺ノ下部ナドノ爲カト云フ) (三)幕府ノ職名、さむらひ、並ニ、宿衆ノ條ヲ見ヨ。

かく-ざ (名) 擱坐 〔擱岸參照〕 軍艦ナド、淺瀬ニ乘リアゲテ動カズナルコト。

かく-さい (名) 客歳 コゾ。前ノトシ。 劉世教、合刻李杜全集序「客歳南遷、從子[illegible]進而請曰、先生必李[illegible]而後行乎」

かく-さい (名) 隔歳 一箇年ヅツ、隔タルコト。一年置。

がく-さい (名) 學才 學術上ノ才能。學問シテ得タル才力。(世才ニ對ス)

がく-さう (名) 學窓・學窻 マナビノマド。學問スル室。書齋。 保元物語、一、新院御謀反事「信西ヲ師トシテ、學窻ニ籠リテ」

がく-さう (名) 學生 がくしやう(學生)ニ同ジ。 宇津保物語、藏開、上「十一ムマゾヒ四人、セイアリテ、がくさうドモ御前四人、秀才フタリ、進士フタリ、御トモノ人、ミナ大學衆ノ下ラウナリ」

がく-さう (名) 樂箏 「樂太鼓ト、同趣ノ語」 雅樂ノ箏ヲ、筑紫箏ニ別チテ云フ語。

かく-さく (名) 客作 次次條ヲ見ヨ。 漢書、匡衡傳「邑大姓多、書、衡乃與客作、而不レ求レ償」

かく-ざたう (名) 角砂糖 白砂糖ヲ、四五分ノ塞目ニ固メタルモノ。珈琲、又ハ、紅茶ナド煎ジタル湯ノ中ニ溶カシテ飮ム。

⁂**かく-さに** (名) 客作兒 「支那ノ俗語ナリ、作ノ字、仕事ノ意ナル時ハ、音ハ佐ナリ、所作、動作」 傭工人。 字類抄「客作兒、カクサニ、俗云、修理雇丁也」、[illegible]、傭工之人、[illegible]之、諸國受領雇工也」 背驚錄「今人指二傭工之人一爲二客作一」(蔭凉日記、二)

かくさ・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (他動、四) 隱 一かくすノ延、復す、かへさふ。照す、てらさふノ例」 隱スト云フニ同ジ。 萬葉集、一、長歌「奈良ノ山、云云、心ナク雲ノ、隱サフベシヤ」 同、廿三、長歌「如久佐波ス、赤キ心ヲ、皇方ニ、キハメツクシテ」

かくし (名) 隱 (一)隱スコト。(二)衣ニ縫ヒツケテ作レル、小サキ袋、行クニ攜フル物ヲ入ル。ポケト。衣嚢 又、腹掛ニ作レルヲ、どんぶりト云フ。衣ノ裏ニ作レルヲ、裏がくし、又、内がくしト云フ。

かく-し (名) 客死 他國ニアリテ、死スルコト。 史記、屈原傳「身客二死於秦一」

かく-じ (名) 角字 〔草書、假名、等ニ對シテ、方形ナレバ云フ〕 楷書ノ漢字ノ稱。楷字。

かく-じ (名) 各自 オノオノ。メイメイ。「各自ノ好ムニ任ス」

がく-し (名) 學士 (一)學問ニ從事スル人。學者。 史記、儒林傳「天下之學士、靡然鄕レ風矣」 南史、張貴妃傳「以下宮人有二文學一者、袁大捨等上爲二女學士一」 (二)大學令ニヨル大學卒業者ノ稱。

がく-し (名) 學資 修業料。稽古料。學費。

がく-し (名) 樂師 (一)雅樂寮ノ職員。 職員令、雅樂寮「唐樂師、十二人、註「掌レ教二樂生一」 高麗、百濟、新羅樂師、准レ此」 (二)今、宮内省ノ雅樂ノ職員。

がく-じ (名) 學事 學問ノ上ノコト。

がく-しう (名) 學修 マナブコト。ナラフコト。稽古スルコト。

かく-しき (名) 格式 身分、儀式ナドノ制。制例。 宋書、蔡興宗傳「一器格式、皆歸二舊主一」 沙石集、十、上、第一條「言語ナク、定相ナク、分限ナク、格量ナキ所ニ、言說ヲモチヰ、格式ヲタツルヨリ、眞實ノ旨ハ失スル事也」

がく-しき (名) 學識 (一)學問ト、見識ト。 南史、韋叡傳「文章雖二小減一、學識當レ過レ之」 (二)學問上ノ智識、又ハ、見識。

かくし-きしやう (名) 隱起請 入札。投票。

かくし-げい (名) 隱藝 人知レズ、覺エ居ル遊藝。 小町踊、夏、郭公「ホトトギス、鳴カヌヤ是モ、かくし藝」

かくし-ことば (名) 隱詞 他人ニ知レヌヤウ、仲間ノ者ノミニ用キル合詞。符牒。僧ノ、蛸ヲ天蓋ト云ヒ、酒ヲ般若湯ト云ヒ、質に入るるヲ、七ノ字形ニ寄セテまげるト云フナドナリ。隱語

かくし-だ (名) 隱田 官ニ隱シテ、年貢ヲ逃レ居ル田地。隱田。

かくし-だい (名) 隱題 和歌ノ體ニ云フ語。もののなノ條ヲ見ヨ。 千載集、十八、物名「百首ノ歌奉リケル時ノ、かくし題ノ歌、キリギリス「秋ハきり、暮すギヌレバ、雪降リテ、晴ルル間モ無キ、深山邊ノ里」

かくし-だて (名) 隱立 强ヒテ、事ヲツツミカクスコト。

かく-しつ (名) 鶴膝 (一)書法ノ語。竪ノ棒ノ下ノハネタル所ノ、尖リタル稱。即チ、亅ノ如キモノ。(二)足ノ肉ノ落チテ、鶴ノ脛ノ如キ狀ノ病。 神皇正統記、後醍醐天皇「親王、鶴膝ノ御病アリテ、アヤウクヲハシマシケル」

かく-しつ (名) 確執 (一)確ト己レガ說ヲ執リテ、動カヌコト。固執。 魏書、[illegible]「確執不レ道二事狀一」 (二)イサカヒ。アラソヒ。爭論。 太平記、二十、天下怪異事「[illegible]ト、六方ノ大衆ト、確執ノ事有テ、合戰ニ及フ」

かく-じつ (名) 確實 タシカナルコト。相違ナキコト。

かく-じつ (名) 隔日 一日ヅツ、隔ツルコト。一日置。間日。 劉克莊詩「[illegible]」 漢書、[illegible]「隔日二爲二見客一[illegible]」

かくし-づま (名) 隱妻 人ニ知ラセズ、隱ビテ會フ女。シノビヅマ。 萬葉集、十一、旋頭歌「長谷ノ、弓槻ガ下ニ、吾ガ隱セル妻、アカネサシ、照レル月夜ニ、人見テムカモ」(古事類苑、宮仕[illegible])

かくし-どころ (名) 隱所 〔隱すべきところ〕 陰部。 今物語「裸ナル法師ノ、かくし所モ露出シテ」

かくし-な (名) 隱名 本名ヲ表サズ、別ニ、人ニ知ラレヌヤウニツケタル名。

かくし-ぬひ (名) 隱縫 縫目ヲ、外面ニアラハサヌヤウニ縫フコト。クケヌヒ。

かくし-ばいぢよ (名) 隱賣女 公許ノ娼家ナラヌ家ニテ、竊ニ抱ヘ置ク賣女。カクシヨネ。 御觸書天寶、九「享保六年九月、深川久右衞門町、隱賣女之者有レ之」

がく-しふ (名) 學習 マナビ、ナラフコト。 禮記、月令篇「溫風始至、蟋蟀居レ壁、鷹乃學習」 史記、秦始皇本紀「士則學二習法令一辟レ禁」

かくし-まど (名) 隱窓 密ナル櫺子ナドニテ、外ヨリハ、内ノ見エズ、内ヨリハ外

ノ見ユルヤウニ造リタル窓。「好色一代女(貞享、西鶴)二「明取ノかくしまど、細ソク」

かく-しん (名) [確信] (一)タシカニ信ズルコト。[illegible]。(二)確實ナル信念。

かく-しん (名) [隔心] きゃくしんニ同ジ。隔意。

かく-しん (名) [革進] 舊態ヲ革メテ、進歩スルコト。改進。

かく-しん (名) [閣臣] 國務大臣ノ稱。

かくし-めつけ (名) [隱目附] 隱ニ使フ目附。忍目附。隱密。探偵。「會我會稽山(享保、[illegible]作)五「[illegible]二[illegible]、佐佐木[illegible]二[illegible]ズ、隱目付ノ者共[illegible]二[illegible]ヘ[illegible]シタリ」

かく-しゃ (名) [客舍] ハタゴヤ。ヤドヤ。旅人宿。「史記[illegible]」

がく-しゃ (名) [學者] (一)モノシリ。學問ニ長ケタル人。「荀子、[illegible]、學者之[illegible]好也」(二)學問ヲスル人。孟子、滕文公、上「北方學者、未能或之先也」

かく-しゃう (名) [角將] 將棋ノ駒ノ名。かくかう(角行)ニ同ジ。

かく-しゃう (名) [鶴氅] 鶴ノ白キ柔毛ヲ、布帛ニ織リマゼタルモノ。コレニテ縫ヘル裘ヲ鶴氅衣トイヒ、隱者ナド着ル、[illegible]。[illegible]

かく-じゃう (名) [客情] 旅行中ノ感情。旅情。[illegible]

がく-しゃう (名) [學生] フンヤワラハ。古ヘノ大學寮ノ生徒。[illegible]

[illegible]

がく-しう (名) [學習] [illegible]。[illegible]

「山ニ、二人ノ學生アリケリ、同法ニテ、云云、學問モ、[illegible]ノドニ[illegible]シケレバ、[illegible]ニ[illegible]モ同ジ」

かく-しゅ (名) [各種] サマザマ。イロイロ。種種。

かく-しゅ (名) [鶴首] 首ヲ延ベテ待チ望ム意ニ云フ語。鶴首

がく-じゅつ (名) [學術] 學問ト、技術ト。學藝。「[illegible]「[illegible]人、少[illegible]二」

かく-しょ (名) [角黍] チマキ。[illegible]

がく-しょ (名) [樂所] (一)古ヘ、禁中ニ在リテ、雅樂寮ノ外ニ、音樂ヲ教習セシムル所。約メテ、がくそ。其長ヲ樂所ノ預トイヒキ。[illegible]モ吹キタテタル、エモイハズ、オモシロシ」(二)後ニハ、奈良ノ春日神社、大阪ノ天王寺、京都ノ賀茂神社、等ニ屬セシ樂人ノ稱。

かく-しょう (名) [確證] 確トシタル證據。動カス可カラザル證。「[illegible]ヲ[illegible]ル」

かく-しょく (名) [革職] 免職スルコト。

がく-しょく (名) [學殖] 身ニ、學問ノ積リテアルコト。深キ學力アルコト。左傳、[illegible]十八年[illegible]

かくし-よね (名) [よねノ條ヲ見ヨ] 隱賣女ニ同ジ。[illegible]可ノかくしよね、百テ、酒肴モテナシ、サマザマナルモオカシ」

がく-しゐん (名) [學士院] 帝國學士院ノ略。

かくし-ゑ (名) [隱繪] 正面ニ現レタル畫ノ中ニ、氣ノツカヌヤウニ、他ノ形ヲ畫キコミテアルモノ。[illegible]女(貞享、西鶴)五「當流ノ仕出シ模樣、かくしゑノヒト[illegible]シケル」

かくし-をとこ (名) [隱男] 密男ニ同ジ。マヲトコ。宇治拾遺、二、十一條「家主人ノ男、夜深ケテ立聞クニ、男女ノ、臥ビテ物語フケシキシケリ、サレバヨ、かくしをとこ来ニケリト思ヒテ」

かく・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) [隱] [匿] (一)隱ルヤウニス。顯ニセズ。陰ニナク。[illegible]。(二)[葬ル。ハフル。ヲサム。[illegible]七十六年三月[illegible]大[illegible]二十年三月[illegible]カクスー(三)祕ム。人ニ知ラセズ。匿。字鏡集「祕、カクス、ヒソカ、ナビヤカ、ナミ」

かく-すべ (名) [[illegible]] カヤリビ。カイブシ。(京都)

かく-せい (名) [隔世] 世ヲ隔ツルコト。時代ヲ異ニスルコト。「隔世ノ感アリ」

かく-せい (名) [覺醒] 目ヲサマスコト。本氣ニナルコト。「一世ヲ覺醒ス」

かく-せい (名) [革政] 革命ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。

がく-せい (名) [學制] 教育ノ制度。

がく-せい (名) [學生] 學藝ヲ學ブ人。生徒。書生。[illegible]

がくせい-かん (名) [學生監] 大學ニテ、學生[illegible]

がく-せき (名) [學籍] 其學校ニ入學シテ居ル學生ノ、戶籍ニ等シキモノ。

かく-せつ (名) [illegible]

かく-ぜつ (名) [隔絕] 隔リテ、中絕ユルコト。カケハナレタルコト。史記、[illegible]

がく-せつ (名) [學說] 學理上ヨリ云フ說。

かく-せん (名) [客戰] [客ハ、旅ノ意] 深ク敵國中ニ攻入リテ戰フコト。

かく-せん (名) [illegible] [illegible]でがくせんトモ云フ、而ニ仙臺通寶ノ字アリ、[illegible]ノ一文ニ當ツ。仙臺領內限ノ通用トシテ、[illegible]天明四年ヨリ[illegible]六十萬貫ヲ鑄タリ。

かく-せん-せき (名) [[illegible]] [illegible]六角、又ハ、八角ノ[illegible]色、[illegible]

がく-ぜん-と (副) [愕然] 驚ク狀ニ云フ語。[illegible]

がく-そ (名) [樂所] [illegible]ニ同ジ。[illegible]ヲ見ヨ。

がく-ソウ (名) [illegible] [illegible]

がく-そく (名) [學則] 學校ノ規則。[illegible]學問ヲスル法則。管子、弟子職篇「先生施教、弟子[illegible]、[illegible]、一[illegible]」

かく-そで (名) 角袖 〔袖ノ形、方形ナリ、洋服ノ、筒袖ナルニ對ス〕 洋服ニ對シテ、日本服ノ稱。巡査ノ、其職分ノ制服ヲ着ズシテ、日本服ヲ着テアルヲ、角袖巡査ナド云フ。探偵ノ時ナドニスルコトナリ。

かく-そんえい (名) 斯尊詠 清水觀音ノ御詠歌ノ稱。新古今集、廿、釋教「ナホ頼メ、シメヂガ原ノ、サシモ草、ワレ世ノ中ニ、アラム限リハ」此歌ハ、清水觀音ノ御歌トナム云ヒ傳ヘタル」謠曲、船辨慶「月ノ都ヲフリステテ、西海ノ波濤ニオモムキ、御身ノ科ノナキ由ヲ歎キ給ハバ、頼朝モ終ニハ靡ク、青柳ノ枝ヲ連ヌル御チギリ、ナドカハ朽チシハツベキ、唯タノメ、唯タノメ、シメヂガ原ノ、サシモグサ、我世ノ中ニ、アラン限リハ、かく尊詠ノ僞リナクバ、僞リナクバ、ヤガテ御代ニ出舟ノ、船子ドモ、ハヤ纜ヲ、疾ク疾クト、勸メ申セバ」

〜かく-だい (名) 革帶 束帶ノ用ノ帶。一名、腰帶。一重マハリニテ、胴締ノ如シ、牛革ニテ作リテ、黑漆塗ナリ、左端ニ鉸具アリ、右端ニ數孔アリ、人ノ肥瘠ニ因リテ伸縮シ、其餘ヲ、腰後ニ挾ミオク。前面ハ、袍ニ隱ルレバ、後ニハ、背部ノミ存シテ、紐ニテ結ビ、一端ニ、別ニ帶ヲ作リ添ヘテ、背ニ挾ム。背部ニハ、位階ニ因リテ、方形、或ハ、圓形ノ白玉、或ハ白石ヲ、十箇ナラベテ、白絲ニテ綴ヂツケテ飾トス、玉ナルヲ玉の帶、又、玉帶ト云ヒ、石ナルヲ石の帶、石帶ト云フ。玉、石、ノ形ニ、巡方、丸鞆ノ別アリ。(各條ヲ見ヨ) 倭名抄、十二廿「唐衣服令云、革帶下鉤、按、革帶、以ニ其所ニ附金玉石角等ー爲ニ名、故有ニ白玉帶、紀伊石帶、出雲石帶等(舊文)之名ニ云云、革帶、是其總名也」 扶桑略記、五、慶雲四年三月「天下始用ニ革帶ニ」

がく-たい (名) 樂隊 軍隊附屬ノ、音樂ヲ奏スル一隊。

がく-だいこ (名) 樂太鼓 〔樂箏ト、同趣ノ語〕 雅樂ノ釣太鼓ヲ、俗間ノ太鼓ニ別チテ云フ語。

がく-だう (名) 學堂 學校ニ同ジ。(支那) 北史、辛昴傳「便與ニ諸生ー祭ニ文翁學堂ニ」

がく-だう (名) 樂堂 西洋音樂ヲ奏スルニ設ケタル建物。音樂堂。

がく-だう (名) 額堂 神社、佛寺ノ傍ニ、祈念ノ爲ニ、信者ノ奉納スル額ヲ掲ゲ置クニ用キル建物。

かく-たふ (名) 確答 確トシタル返答。「確答ヲ俟ツ」「確答ヲ得タリ」

かく-たん (名) 喀痰 痰ヲ吐クコト。

かく-だん (副) 格段 格別ニ同ジ。

かく-ちく (名) 角逐 〔廣韻「角、競也」〕 他ト競ヒテ、馳スルコト。競合フコト。競爭。戰國策、趙策「蜀ニ居ニ首ニ(官名、魏ノ相、公孫衍)而驂ニ馬服ー(趙ノ將、趙奢ノ號)以與ニ秦角逐、秦當時適ニ其鋒ニ」

がく-ちやう (名) 學長 (一)學校長。(二)學校中ノ、一學科ノ長。(三)學生ノ長。能改齋漫錄「眞宗乃命ニ張耆ー爲ニ學長ー張宗爲ニ副學長ー安守中而下爲ニ學生ニ」

かく-ちう (名) 客中 旅中ニ同ジ。

かく-つう (名) 各通 書狀ナド、面面ヘ、一通ヅツ宛テ送ルコト。(連名ナルニ對シテ云フ)

かく-つう (名) 角通 〔角力ノ通人〕 相撲道ヲ、善ク心得居ル人。

かく-づけ (名) 格附 物ノ品質、優劣ニ就キテ、ソレゾレ等級ヲ定ムルコト。

〜かぐ-つち (名) 火神 〔赫之靈ノ義ト云フ〕 火ノ神。神代紀、上十一「火神、軻遇突智」火産靈」(古事記、迦具土神)

かく-つば (名) 角鍔 刀ノ鍔ノ形ノ、四角、又ハ、八角ナルモノ。(圓鍔、粢鍔ナドニ對ス) 幸若舞曲、鎌田「四尺三寸ノ、かくつばノ打物」

〜かくて (接) 斯而 斯クアリテ。サテ。ソレヨリ。音便ニ、かうて。而 竹取物語「竹ヲ取ルニ、節ヲ隔テテ、節毎ニ、黄金アル竹ヲ見ツクルコト重ナリヌ、かくて翁、ヤウヤウ豐ニナリユク」

かく-てい (名) 角觝 〔字典ニ、角ハ、校也、競也、觝ハ、抵ニ作リ、當也、擲也トアリ、韻會「角抵、戲名、六國時所ニ造、使ニ兩兩相當、角ニ力相抵觸ニ」トアレバ、今ノ相撲ノコトナリ〕 相撲ニ同ジ。スマヒ。角力。漢書、刑法志「稍增ニ講武之禮ー以爲ニ戲樂ー用相夸視、而秦更名ニ角抵ニ」

かく-てい (名) 確定 確ト定ムルコト。確ト定マルコト。「期日確定」

かく-でう (名) 各條 例記セル、ソレゾレノ箇條。

がく-でん (名) 學田 學校ノ經費ニ充テンガタメニ所有スル田地。學田御判物寫(文政、津藩)「右爲ニ學田ー永世學校江附置畢、年年無ニ相違ー可ニ宛行ー者也」 學田記(文政、齋藤謙)「總教搢齋大夫、恐ニ其後或不ニ繼、欲ニ爲置ニ學田ー云云」(古事類苑)

かく-ど (名) 角度 數學ノ語、角ノ度數。圓ノ中心ヨリ、圓周ヲ三百六十ニ等分シタル各點ニ線ヲ引キテ得タル、各ノ角ヲ一度トス、九十度ナルヲ直角ト云ヒ、直角ノ二倍ナルヲ平角ト云ヒ、直角ヨリ狹キヲ鋭角ト云ヒ、廣キヲ鈍角ト云フ。

かく-ど (名) 客土 (一)旅行シテ居ル土地。他鄉。閻寬、秋懷詩「秋風已振ニ衣、客土何時歸ニ」(二)オキッチ。漢書、成帝紀「客土疏惡、終不ニ可ニ成」服虔、注「取ニ他土ー以增ニ高、爲ニ客土ー也」

かく-ど (名) 赫怒 ハゲシク怒ルコト。カットイカルコト。詩經、大雅、文王之什、皇矣篇「王赫斯怒」 張衡、西京賦「迴卒淸候、武士赫怒」

がく-と (名) 學徒 學生、又、學匠ニ同ジ。晉書、袁環傳「請得下給ニ其宅地ー備中其學徒上」 東大寺要錄、五、諸宗事「建ニ立伽藍ー集ニ其學徒ー云云」

かく-とう (名) 角燈 ぶりっき造リノ方形ノ小匣ニ、板がらすヲハメ、中ニらんぷヲ入レテ、燈火トスルモノ。挑燈ノ用トス。

かく-とう (名) 客冬 昨冬ニ同ジ。

かく-とう (名) 格鬪 打チ合ヒテ、鬪フコト。唐書、常袞傳「與ニ盜人ー格鬪」 北齊書、杜弼傳「弼率ニ所ー領親兵ー格鬪」

がく-とう (名) 學頭 (一)勸學院ノ職員。西宮記、臨時、五、勸學院「別當行ニ院事ー有ニ學頭ニ」(二)學校長。(三)社僧中ノ職員。菅家御傳記「安樂寺學頭」(太宰府、神宮寺) 當社學頭職次第(鶴岡八幡宮)「良喜、建仁元年、尊曉別當、始置ニ學頭ー被ニ補ニ之、治、三十一年也」

がく-どう (名) 學童 小學校ノ生徒。學問スル兒童。漢書、藝文志「漢興、太史試ニ學童ニ」

がく-とく (名) 學德 學問ト、德行ト。「學德兼ネ備ハル」

かく-どる・ル・レ・ラ・リ・レ (他動、四) 角取 削リテ方形ニス。「丸太ヲ角取ッテ柱ニスル」

かぐなは (名) 結果加久繩 〔かぐのあわ

ノ約ナル、かぐなわノ轉」（一）かぐのあわニ同ジ。江家次第、二、七日節會、裝束「其菓子、[illegible]」（二）[乾菓子]ノ形ノ、緒ヲ結ビタルガ如キヨリシテ、結ホレタル、又、縺リメグルコトニ譬ヘテ云フ語。古今集、十九、長歌「行ク水ノ、絶ユル時ナク、かぐなはニ、思ヒ亂レテ」風雅集、十二、戀、三「人心、思ヒ亂ルル、かぐなはノ、トニモカクニモ、結ボホレツツ」平家物語、四、[illegible]「太刀ノ[illegible]、敵ハ大勢ナリ、[illegible]、かぐ縄、十文字、八方不透切タリケリ」（節文）

かくのうこ（名）[格納庫] 飛行機、及、飛行船ヲ納メオク建物。

カグナミ（名）[漢南]〔字ノ朝鮮音、豐臣太閤征韓ノ役ニ、明ノ李如松ノ兵ヲ、漢南勢ト云ヘリ、其時ノ分捕ノモノニヤ〕一種ノ鍔ノ稱。

かくにん（名）[確認] シカト、ミトムルコト。タシカニ、可シト決ムルコト。

がくにん（名）[樂人] 樂ヲ奏スル人。アソビヲ。（專ラ、雅樂ニ云フ）伶人 史記、樂書、[illegible]「[illegible]、故樂之樂人也」宇津保物語、[illegible]「舞ノ師二人、がく人十人バカリ」

かくねん（名）[客年] 去年ニ同ジ。コゾ。客歳

かくねん（名）[隔年] 一年ヅツ隔ツルコト。一年置。

がくねん（名）[學年] 學校ニテ、修業ノ一箇年分。大抵、毎年四月一日ヨリ、翌年ノ三月三十一日マデトス。

かぐのあわ（名）[結果]〔馨しの沫緒ノ略。かぐのみノ語原ヲ見ヨ〕其形、沫緒ヲ結ビタルガ如キ意ト云フ、結果ノ字ハ、結ビタル菓子ノ義[illegible]食物、其形、緒ヲ結ブガ如シト云ヒ、からくだものノ類ニテ、油ニテアゲタル物ナリト云フ、こごんさう類ノモノナルベシ、約轉シテ、かくなはトモ云フ。倭名抄、十六、飯餅類「結果、形如結緒、加久乃阿和」

かくのごと（副）[如此]〔次條ノ語ノ語根〕コノヤウニ。カヤウニ。コンナニ。古事記、下（雄略記）長歌「加久能其登、名ニ負ハムト」萬葉集、十六「如是、若ケム子等ニ」

かくのごとし・キ・ケレ・ク・ク（形、二）[如此] 如斯 斯クアルコトノゴトシ。コノヤウナリ。カヤウナリ。

かぐのこのみ（名）[香菓] 次次條ヲ見ヨ。

がくのま（名）[額間] 宮殿ノ前面ノ、中央ノ間ノ稱。（柱ト柱トノ間）大極殿、紫宸殿、清涼殿等、此間ノ欄ニ、殿名ノ竪額ヲ揭ゲラル、額ハ、中ハ白ク、緣ハ雲形ニテ、彩色ナリ。平治物語、一、源氏勢汰事「紫宸殿ノ額の間ニ、尻ヲカケテゾ居タマヒケル」

かぐのみ（名）[香菓]〔馨しの實ノ略、（應神紀、十三年三月「伽愚破志、花橘」）うつきのはなヲうのはな、ますみのかがみヲますかがみト略スル例ノ如シ、かぐのあわ（結果）モ、馨しの沫緒ナリ〕橘ノ實ノ古名。又、かぐのこのみトモ云フ。此ノ果ハ、夏ニ成リテ、秋ヲ經テ、冬ノ霜雪ニモ堪ヘ、採リテ久シク腐ラズ、故ニ非時香菓ト云フ、盛時ノ永キ菓ノ意ナリ。（ときじくノ條ヲ見ヨ）垂仁紀、九十年二月「命田道間守、遣常世國、令求非時香菓、香菓、此云箇倶能未、今謂橘是也」古事記、中、垂仁朝「登岐士玖能迦玖能木實」萬葉集、十八、長歌「[illegible]トキジクノカクノコノミヲ[illegible]」

かくのり（名）[角乘] 水ノ上ニ、角ノ材ヲ浮ベテ、コレニ乘リテ、種種ノ伎ヲナスコト。

かくば（名）[角場] 鳥銃ノ的打ヲ行フ處。

がくは（名）[學派] 學問上ノ研究法ニテ分カレタル流派。「古學派」「[illegible]學派」

かくほう（名）[確報] タシカナル報知。

かくぼう（名）[角帽] 頂ノ、平カニ、方形ナル帽子。大學、及、專門學校等ニテ、學生ノ制帽トス。[illegible]

かぐはし・シキ・シケレ・シク・シク（形、二）[馨]〔香細しノ義〕（一）香、美シ。カウバシ。應神紀、十三年九月、長歌「伽愚破志、花橘」萬葉集、十八「香細寸、花橘ノ、玉ニヌキ」（二）愛ヅベシ。ナツカシ。萬葉集、十八「香具波之[illegible]相見ツルカモ」同、十九、長歌「香細[illegible]親ノ御言」

かくはつ（名）[鶴髮]〔鶴ノ羽毛ノ白キニ喩ヘテ云フ〕白髮。庾信、竹杖賦「鶴髮雞皮、蓬頭歷齒」

がくばつ（名）[學閥]〔家柄（門閥）ニ寄セテ、學校柄ノ意ノ造語〕其出身ノ學校ノ名ヲ恃ミテ、世ニ衒フコト。

かくはん（名）[各般] サマザマ。イロイロ。諸般。

かくはん（名）[攪拌]〔かうはんナルベキナリ、正韻「攪、古巧切、音絞」說文「攪、亂也」廣韻「手動也」字典「拌、與判通、分也、割也」〕カキマハスコト。カキマ[illegible]マハスコト。

かくばん（名）[隔番] 一度ヅツ隔テテ、代ル代ルニ勤ムルコト。カハリバン。交番。

がくばん（名）[額判] 額面ニ同ジ。

かくばる（自）[角張] かどばるニ同ジ。

がくひ（名）[學費]（一）學資ニ同ジ。修業料。（二）學校ノ入用。學校ノ費用。[illegible]

かくひつ（名）[角筆] 字指、字突ニ同ジ。江家次第、十七、御讀書始「[illegible]角筆」[illegible]

かくひつ（名）[擱筆] 筆ヲサシオクコト。文ヲ書キ止ムルコト。[illegible]

かくひどり（名）[蚊食鳥] かうもりノ（一）ノ一名。（畿內）

かくびやう（名）[脚病] 脚氣ニ同ジ、アシノケ。宇津保物語、[illegible]

かくふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ（他動、四）[隔] かさふニ同ジ。[illegible]名義抄「隔、カクフ、[illegible]カキ」

がくふ（名）[岳父]「支那ノ泰山ニハ、丈人峯アリ、故ニ、妻ノ父ヲ岳父、岳翁、丈人ト稱スト云フ」妻ノ父ヲ稱スル語。

がくふ（名）[學府] [illegible]ノ條ヲ見ヨ。

がくふ（名）[樂譜] 音樂ノ譜。[illegible]

「執二樂譜一侍立」

かく-ぷく（名）［膈幅］體ノ姿勢。（多ク肥滿ナルニ云フ）［體軀］

がく-ぶち（名）［額緣］（一）額面ノ四緣ニツケタル木。（二）西洋造リノ家ノ、窓、又ハ、出入口ノ四周ニ、飾リトシテ添フル木。

かくぶつ（名）魚ノ名、鰍ノ類ノ、大ナルモノ。（越前）續猿簑集「かくぶつヤ、腹ヲナラベテ、降ル霰」

かく-ぶつ（名）［格物］〔鄭玄云フ、格ハ、來ナリ、物ハ、猶、事ノ如キナリ、其善ニ知ルコト深ケレバ、則チ善物ヲ來タシ、其惡ニ知ルコト深ケレバ、則チ惡物ヲ來タス、事ハ、人ノ好ム所ニ緣リテ來ルト、又、朱子云フ、格ハ、至ナリ、物ハ、猶、事ノ如キナリ、物ノ理ヲ窮至シテ、其極處ニ到ラザル無カランコトヲ欲スルナリ、トノ二說アリ、ココニハ、朱子ノ說ニ據ル〕事物ノ道理ヲ窮ムルコト。格致 大學「致レ知在レ格レ物」

がく-ブトン（名）［額蒲團］かがみぶとんニ同ジ。

かく-ぶん（名）［確聞］タシカニキクコト。聞キコミタルコトガ、信ゼラルルコト。

かく-べ-ジぇ（名）［角兵衛獅子］〔越後ヨリ江戶ニ出デシハ、寶曆ノ頃ナリト云フ、始メテ率キ來リシ人名ナドニテ云フ語カ〕越後獅子ノ異名。其條ヲ見ヨ。

かく-べつ（副）［格別］［各別］常ノ則ニ外レテ。取リ分ケテ。別段。格段。特 庭訓往來、三月三日「御館造作之事、不レ可レ有二各別作事一」

がく-ぼく（名）［學僕］學生ニシテ、奴僕ノ役ヲ執ル者。貧生ノ、師家ニ就キテスルコトナリ。

かく-ぼん（名）［角盆］〔丸盆ニ對ス〕四角ナル盆。

かく-まく（名）［膈膜］わうかくまく（橫膈膜）ニ同ジ。

かく-まく（名）［角膜］眼球ノ最外部ニアリテ、眼球中ノ最モ堅キ部分。

かくま-ぐさ（名）［黃蓮］わうれん（黃蓮）ノ古名。轉ジテ、カクモグサ。倭名抄、二十六「黃蓮、加久末久佐」六帖、五「我ガ宿ニ、かくもヲ植エテ、かくもぐさ、カクノミ戀ヒバ、我レ瘦セヌベシ」

かくま・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ（他動、四）〔次次條ノ語ノ、圍むノ延〕竊ニ隱シ置ク。隱匿 「罪人ヲかくまふ」

かくみ（名）［圍］カクムコト。カコミ。皇極紀、二年十一月「下死、解レ圍退出」

かく・む・ム・メ・マ・ミ・メ（他動、四）［圍］かこむニ同ジ。カクフ。カコフ。皇極紀、三年六月「圍二於膽駒山一」同、三年十一月「繞レ身」萬葉集、二十 三十七 長歌「ワカクサノ、妻モ子ドモモ、ヲチコチニ、多ニ加久美居」

か-くん（名）［家君］己ガ父ノ尊稱。チチウヘ。家大人。家嚴。墨子、尙同篇「家君、發レ憲布レ令」

か-くん（名）［家訓］イヘノヲシヘ。家庭ノ敎訓。子弟ノイマシメ。庭訓。後漢書、邊讓傳「蓄二夙孤、不レ盡二家訓一」

がく-む（名）［學務］學事ノ事務。

かく-めい（名）［革命］（一）天命ノ、革マルコト。世ニ變アリテ、政府ノ改マリナドスルコト。易經、革卦、彖傳「天地革、而四時成、湯武革レ命、順二乎天一而應二乎人一、革之時、大矣哉」（二）辛酉ノ年ノ稱。甲子ノ年ヲ革令、又、革政ト云フ。此歲ハ、運、變革ニ當ル、（易ノ革卦ニ起ル）凶ナリ、君臣剋賊ノ運ナリナド云ヒテ、御祈アリ、改元ナドアリキ。易緯「辛酉爲二革命一甲子爲二革令一」革命、六、記傳「革命與二革卦一相配、同異容易難二決申一也、古來以二戊午革運、辛酉革命、甲子革政之說一勘二申巡年之當否一歟」

がく-めい（名）［學名］動植物ニ、羅甸語、又ハ、羅甸化シタル他ノ國語ニテ附ケタル名。其學界ノ學者ハ、各國共通トシ、動物ハ國際動物名稱規則、植物ハ國際植物名稱規則ニ從フモノトス。

がく-めん（名）［額面］額ト云フニ同ジ。扁額

がく-めん（名）［額面］證券面、又ハ、證書面ノ金額。「國債證書ノ額面金參千圓」

かく-も（名）［覺母］〔正覺ヲ得シムル母ノ義ト云フ〕佛菩薩ノ稱。謠曲、久世戶「三世覺母ノ大聖文殊ヲ」

かくも-ぐさ（名）［黃蓮］かくまぐさノ轉。其條ヲ見ヨ。

かく-もの（名）［角物］材木ノ、角取リタルモノ。（丸太ナドニ對ス）

がく-もん（名）［學問］〔學ハ、增韻「效也」說文「覺悟也」問ハ、說文「訊也」トアレバ、事ヲ效ヒテ、其ノ理ヲ覺リ、道ヲ訊ネテ、疑ヲ解ク義〕モノマナビ。學ビテ、問フコト。敎ヲ受ケテ、學ブコト。學藝ヲ習フコト。易經、文言傳「君子學以聚レ之、問以辨レ之」孟子、滕文公、上篇「吾他日未二嘗學問一、好馳レ馬試レ劍」宇津保物語、藤原君「二がくもんニ心入レテ、遊ビノ道ニモ入リタチタマヘル」崇峻紀、元年三月「學問」

がくもん-じよ（名）［學問所］（一）學問スル室。書室 吾妻鏡、二十一、建曆三年二月二日「昵近祗候人中、撰二芸能之輩一、被レ結番一、（號二之學問所番一）各當番日者、不レ去二御學問所一、令二候一、面面隨二祗御要一、又、和漢古事、可レ語申一之由、云云」（二）多數ノ生徒ヲ集メテ、學問セシムル建物。學校。御書付留拔書、十七「昌平坂學問所之儀、古來者、聖堂ト相唱候得共、云云、寬政以後、學問所ト計、相唱候等之處、云云」

かく-や（名）［覺彌］〔東照公ノ料理人、岩下覺彌、調ジテ供セシニ、賞美アリシヨリ名トスト、岩下氏ノ家傳ナル由ナリ、（松屋筆記、二）半平ナドト、同趣ノ語〕香物ノ一種。種種ノ漬物ヲ集メ洗ヒテ、鹽出シヲシ、細カニ切リマゼ、酒、薄醬油ニ暫シ漬ケタルモノ。靜岡ニテ、かくわ。寬天見聞記「八百善トイフ料理茶屋、云云、かくやノ香ノ物、云云、彼ノ香ノ物ハ、春ノ頃ヨリ、イト珍ラシキ瓜、茄子ノ粕漬ヲ、切交ゼニシタル也」

かく-や（名）［隔夜］ヨマゼ。一夜ヅツ隔ツルコト。一夜オキ。ヒトバンオキ。吾妻鏡、七、文治三年八月十二日「强盜亂入、云云、太略隔夜有二此事一」

がく-や（名）［樂屋］（一）雅樂ヲ奏スル所。宇津保物語、初秋 七十五「樂人ドモ、がくやノ管絃ノ人モ、アソビヤミテ」源、廿四、胡蝶「蝶鳥ノ舞「御前ニワタレル廊ヲ、がくやノサマニシテ、假ニ胡床ドモヲ召シタリ」北山殿行幸記「樂屋綠纈ノ幔ナドゾ、キラキラシク見エワタサル」（二）能、歌舞伎芝居等ニ、舞臺ノ蔭ニアル席、卽チ、裝束、音取、假粧、休息ノ處。雅樂ノ樂屋ハ、舞臺ノ直チニ後方ニアルヨリ移レル語ナリ、寄席ナドニモ云フ。（三）奧マリテ、人前ナラスコト。內曲。ナイ

シ[illegible]ニ[illegible]

がくやおち [illegible]楽屋落[illegible]楽屋話ノ[illegible]

かくやく-と (副) 赫奕 ヒカリ、カガヤク[illegible]日月之照天也」平治物語、一、叡山物語事「大菩薩、[illegible]

がくや-すずめ (名) 楽屋雀 江戸言葉ト、同趣ノ語」 素人ノ、芝居ノ楽屋ニ出入シテ、芝居道ニ通ナル者ノ渾名。ガクヤトンビ。

がくや-どんび (名) 楽屋鳶 〔阿波座烏ト、同趣〕 素人ノ、芝居ノ楽屋ニ出入シテ、[illegible]ル者ノ渾名。

がくや-ばなし (名) 楽屋話 〔楽屋限リニテ、舞臺ニアラハサヌ意〕 内曲同志ノ話。

かく-ゆ (名) [illegible] [illegible]ノ語[illegible]ノ一名。

かく-よく (名) 鶴翼 (一)鶴ノツバサ。(二)ぎょりん(魚鱗)ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。

か-ぐら (名) 神楽 〔かみくら、かんぐら、かぐらト轉ジタル語、(筆ふんで、ふで。丸、ふんだ、ふだ)神座遊ノ略ニテ、神座ノ音楽ノ意ナルベシ、神遊ノ條ヲ併セ見ヨ、伴信友ノ神楽歌考ノ初ニ「古本神楽歌ニ、神楽ト書キ、又、神楽遊仕候時、云云、トモアリ」〕 カミアソビ。歌舞ノ、太古ヨリ傳ハレルモノ、日神ノ、天ノ岩戸隠ニ、六合ノ内、常闇トナリシ時、八百萬神ノ奏シタル神遊ニ始マルト云フ、コレヲ傳ヘテ、後ニ、内侍所、清暑堂ノ御神楽、其他ノ神祭ニ、夜、庭燎ヲ焚キテ行フヲ例トセリ。歌アリ、舞アリ、[illegible]

かく-らう (名) 閣老 〔老中ヲ、内閣ノ老臣トシタル、漢學者ノ漢語ナルベシ〕 江戸幕府ノらうぢゅう(老中)ノ異稱。

かぐら-うた (名) 神楽歌 前前條、並ニ、かみあそびノ條ヲ見ヨ。 枕草子、十一、百三十五段「歌は、神楽歌モ、ヲカシ」

かくらく (名) 隠 〔いはく(曰)ノ條ヲ見ヨ〕 隠ルルコト。カクルルヤウ。 萬葉集、[illegible]

かぐら-さん (名) 神楽算 車地ノ條ヲ見ヨ。

かぐら-すず (名) 神楽鈴 (一)數箇ノ小サキ鈴ヲ、太キ鋼針ニ綴リテ、柄ヲ付ケタルモノ。巫女ノ、神楽ノ舞ニ用キ、又、翁舞ノ三番叟モ用キル。(二)草ノ名。花ノ形、神楽鈴ニ似タリ。

かぐら-だいこ (名) 神楽太鼓 里神楽ナドニ用キル締太鼓。細ソク長キ桴ニテ叩ク、又、大太鼓ヲモ加フ。 [illegible]

かぐら-だう (名) 神楽堂 神社ノ傍ニ設ケテ、里神楽ヲ演ズル建物。 [illegible] 又、神楽ヲ舞フ巫女ノコトニモ[illegible]

かぐら-づき (名) 神楽月 陰暦十一月ノ異稱。

かく-らふ (名) 客臘 「客年ノ臘月」 舊臘ニ同ジ。去年ノ十二月。

かぐら-ぶえ (名) 神楽笛 やまとぶえノ一名。

かく-り (名) 隔離 ヘダタルコト。ヘダツルコト。 [illegible]

がく-り (名) 學理 學問上ニテ、是認セラレタル理論。

がくり-がくり (副) 〔おくりおくりト通ズ、其條ノ語原ヲ見ヨ〕 首ノ、垂レ傾ク状ニ云フ語。ガクガク。ガックリガックリ。

かく-りき (名) 角力 かくてい(角觝)ノ條ヲ見ヨ。

かく-りき (名) 脚力 運送人夫。物ヲ搬ブ人夫。 下學集、下、態藝門「脚力、カクリキ」

かく-りつ (名) 確立 シカト、タツルコト。シカリシテ、動カヌコト。

かくり-よ (名) 隠世 〔顯世ノ反〕 目ニ見エヌ國。黄泉。幽界。

がく-りょ (名) 學侶 (一)マナビノトモ。學友。 [illegible] (二)學問スル僧侶。 [illegible] (三)高野山ノ大衆ニ、學侶、行人、聖方ノ三階級アリキ、學侶ハ公家ノ如ク、行人ハ武家ノ如ク、聖方ハ町人ノ如シト云フ。 [illegible]

がく-りょく (名) 學力 學問ノチカラ。 [illegible]

かく・る ・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) 隠 次條ノ語ニ同ジ。 [illegible] 二年九月「深山我假利テ、見エズカモアラム」 [illegible] 紀、二十年正月、長歌「我ガ大君ノ、阿句理マス、天ノ八十蔭」 萬葉集、十七、四十長歌「隠、云云、山林ヒコエテ[illegible]リ加久良バ」

かく・る ・ル・ル・ルル・ルレ・レヨ(自動、下二) 〔四段、下二段、同意ノ語、隠る、忘る、わする、忘るる〕 (一)顯ニナクナル。 [illegible] (二)潜ミ失ス。 [illegible] (三)死ヌノ敬語[illegible]ノ略ナルベシ。今モ、おかくれニナルト云フ。 長逝 [illegible]

かくれ (名) 隠 (一)カクルルコト。 [illegible] 世ニかくれナシ」 (二)陰。モノカゲ。 [illegible] (三)[illegible]

かくれ-あそび (名) 隠遊 兒童ノ戯、今云フ、かくれんばうナルベシ。 榮花物語、十一、落花、長和三年「男君、云云、御かくれあそびノホドモ、童ゲタル心チシテ」 名義抄、[illegible]「[illegible]戯、カクレアソビ」

かくれい (名) 閣令 内閣ヨリ發スル行政命令。

かくれい (名) 革令 革命ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。

かくれい (名) 鶴唳 鶴ノ、鳴クコト。朗詠集、上「霜妨ニ鶴唳ニ寒無レ露、水結ニ狐疑ニ薄有レ氷」同、下「瑤臺霜滿、一聲之玄鶴唳レ天、巴峽秋深、五夜之哀猿叫レ月」「風聲鶴唳」

がくれい (名) 學齡 兒童ノ、小學校ニ就學スベキ年齡。現今ノ制ハ、滿六歲ヨリ、滿十四歲マデナリ。

かくれいは (名) 隱岩 海中ノ岩ノ、波ノ下ニ隱レテアルモノ。暗礁。

かくれう (名) 閣僚 內閣ノ各大臣。

がくれう (名) 學寮 學校ノ內ニテ、生徒ノ寄留スル處。寄宿舍。

かくれおに (名) 隱鬼 かくれんばうヲ見ヨ。

かくれが (名) 隱家 〔隱處ノ義〕(一)〔世事ヲ避ケテ、隱レ住ム家。隱居 古今集、十八、雜、下「ミ吉野ノ、山ノアナタニ、宿モガナ、世ノ憂キ時ノ、かくれがニセム」(二)盜人ナドノ、身ヲ潛メテ匿レ居ル處。

かくれが (名) 隱處 小サキ五德。三好亭御成記(永祿)「御茶湯有レ之、御道具之事、云云、一、ヒバシ、一、かくれが、一、ダイス也」

かくれかご (名) 隱駕籠 まちかご(町駕籠)ニ同ジ。大嘗嘗會餘「かくれかごハ、元ヨリ戶ナキ者ヘナリ、元祿ノ末ニ、擬立テノ早船、禁制ニヨリテ、辻駕籠トイフ物、專ラ世ニハヤリシカバ、當時備用レ之、本名、町駕籠、古名、かくれかご、今俗ニ、ほい駕籠トイフ」

かくれがさ (名) 隱笠 (一)かくれみのノ條ノ(一)ヲ見ヨ。(二)えぞすみれノ異名。

がくれき (名) 學歷 學問、教育ニ就キテノ履歷。

かくれご (名) 隱子 かくれんばうヲ見ヨ。

かくれごと (名) 隱事 かくれんばうヲ見ヨ。

かくれぬ (名) 隱沼 草叢ナドノ陰ニナリタル沼。拾遺集、九、雜、下、長歌「かくれぬノ、下ヨリ根ザス、アヤメグサ」

〜かくれみち (名) 閒道 〔隱路ノ義〕クケヂ。ヌケミチ。閒道。欽明紀、十五年十二月「餘昌及諸將等、得下從ニ閒道ニ逃歸上」私記「閒道、賀久禮美知」(倭名抄、十七)

かくれみの (名) 隱蓑 (一)着レバ、身ヲ隱スコトヲ得ト云フ蓑ナリト云フ。隱笠ト云フモ、同ジ。共ニ、隱形ノ法ナドニ云フモノカ、此蓑笠ハ、寶盡シト云フモノノ中ニ、其形ヲ畫キテ飾リアリ。拾遺集、十八、雜賀、隱ビテ來タル人ノ許ニツカハシケル「かくれ蓑、かくれ笠ヲモ、得テシガナ、來タリト人ニ、知ラレザルベク」新六帖、五「かくれみの、ウキ名ヲカクス、方モナシ、心ニ鬼ヲ、ツクル身ナレド」寶物集、一、寶の事「昔ヨリ、隱蓑、打出ノ小槌ヲ持タルト云フ人モ、實ハナシ、隱蓑少將ト申ス物語モ、アルマジキ事ヲ作リテ侍ル」保元物語、三、爲朝鬼が島に渡る事「鬼ガ島、云云、昔、マサシク鬼神ナリシ時ハ、かくれ蓑、かくれ笠、うきぐつ、劒ナンド云フ寶アリケリ」百喩經「雜譬喩經曰、向ニ東海ニ見ニ二人共諍ニ隱形帽、履水靴、殺活杖ニ」(二)樹ノ名。常綠木、葉、桐ニ似テ、小サシ。

かくれんばう (名) 隱坊 〔かくればうノ音便、隱るるさヲ擬人シタル語、藥坊、悔ん坊ノ類〕カクレアソビ。カクレオニ。カクレゴト。カクレゴ。兒童ノ遊戲。數人、物蔭ニ隱レ、一人、コレヲ探リ出ス、第一ニ探リ中テラレタル者、又、他ヲ探ル。捉迷藏 吾吟我集(慶安)九、雜「山居セバ、奧ヨリ奧ニ、かくれんばう、跡ヲモ人ノ、タヅネコヌホド」續山の井(寬文)「かくれごと、スルカ葉蔭ノ、兒櫻」古今夷曲集(寬文)九、雜、下「小姬子ノ、かくれごニサヘ、マジラヌハ、モハヤ桂ノ、ハモジナルベシ」

⁂かく・れる (動) 隱 隱る(下二段)ノ口語。

かくろく (名) 角角 物事ノ、似寄リタルコト。諺草、二、正謬「角角、此二字、タダ一點ノチガヒニテ、甚ダ相似タリ、故ニ、物ノ似タルヲ、角トイヒ、相似ヌヲ、角角セヌトイフ、俗ニかけろくトイフハ、誤リナリ」

〜かぐろ・し・キ・ケレ・ク・ク(形、二) 黑 〔かハ、接頭語ナリ〕くろしト云フニ同ジ。萬葉集、五九長歌「ミナノワタ、迦具漏伎髮ニ、イツノマカ、霜ノ降リケム」

〜かくろ・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ(自動、四) 隱 〔かくるノ延、つくる、つくろふ。うつる、うつろふ〕隱るト云フニ同ジ。萬葉集、三廿七富士山長歌「渡ル日ノ、影モ隱比、照ル月ノ、光モ見エズ」拾玉集、一「外面ナル、楢ノ木蔭ニ、かくろひテ、マダキ秋メク、夕月夜カナ」四季物語「螢火ノ、カガヤク影ニ、かくろふト」

〜かくろ・ふ・フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ(自動、下二) 隱 〔前條ノ語ノ轉、あぢはふ、あぢはふる。たぐふ、たぐふる〕隱るト云フニ同ジ。源、十二、須磨四「女ノヤウニテ、かくろヘ入リタマフ」紫式部日記「例ノ醉ハセタマヘリ、ワヅラハシト思ヒテ、かくろへ居タルニ」夫木抄、十五、秋「軒ツタフ、蔦ノ末葉ニ、かくろヘテ、アマリケヂカキ、茅蜩ノ聲」

かくろん (名) 各論 〔概論、汎論、總論等ニ對ス〕條箇ニ別ケテ、說明スルコト。細目ニ渉リテ、論ズルコト。

かくろん (名) 確論 正確ナル議論。確說。唐書、王珪傳「母言ニ玄齡等材ハ帝相ノ善、而王爵等亦以爲、續ニ己所レ長、謂ニ之確論ニ」

かくわ (名) 嘉禾 穗ノ、數多ツケル穀。ヨキホ。白虎通「德至レ地、則嘉禾生」天武紀、下、八年八月「倭(一本、遐)造忍勝、獻ニ嘉禾ニ異レ畝同レ穎」

かくわい (名) 嘉會 佳會 メデタキ集會。ヨロコバシキ會合。唐書、韓愈傳「所謂千載一時、不レ可レ逢之嘉會」庭訓往來、二月「預ニ恩問ニ、御同心之至、多生之嘉會也」

かくわん (名) 加冠 (一)位ヲ進ムルコト。「加冠、進祿」(二)元服ニ、冠ヲ着クル儀式。續後紀、十三、承和十年七月「延曆七年春、喚ニ緒嗣於ニ殿上ニ、令ニ加冠ニ焉」(左大臣藤原緒嗣)(三)天皇、皇太子、親王ニ加冠シ奉ル人ノ稱。此人ヲ引入トモ云フハ、髻ヲ冠ノ巾子ノ內ヘ引入るレバナリ、(武家ニテハ烏帽子ナレバ、えぼし親ト云フ)高位、宿德ノ人ヲ擇ブ。冠賓 冠者ノ御髮ヲ、櫛ヲ以テ理ムル人ヲ、御髮揚、又、理髮ト云フ。西宮記、臨時、九、親王元服「大臣、納言、二人加冠、云云、親王著レ座、引入著ニ孫庇南二間ニ、理髮著ニ親王座東ニ、引入進執レ冠入了、理髮進攬レ髮出了」

がくわんせき (名) 鵝管石 (一)いしぎくノ漢名。舶來シテ、藥用トスル、石ノ如キモノ。細ソクシテ、長サ一二寸、三、五、叢生スルモアリ、末尖リテ、形、木賊ノ如クニテ輕ク、內、空シクシテ、菊花ノ文アリ。(二)又、鐘乳石ノ、中、虛ナルモノノ漢名。

かくゐ (名) 各位 カタガタ。オノオノガタ。諸君。

がくゐ (名) 學位 官立、私立大學ノ研究科、又ハ、大學院ヲ卒業シ、又ハ、論文ヲ提出シテ、右卒業者ト同等以上ノ學力アリト認メラレタル者ニ、文部大臣ノ認可ヲ得テ、授ケラルルモノ。卽チ、博士ノ稱號ナリ。法學博士、政治學博士、經濟學博士、文學博士、醫學博士、藥學博士、工學博士、理學博士、農學博士、林學博士、獸醫學博士、商學博士等アリ。

がくゐん (名) 學院 學校ニ同ジ。

かくをしき (名) 角折敷 折敷ノ、隅切角ナルモノ。略シテ、角トノミモ云フ。大角、中角、小角アリ。貞丈雜記、七、膳部「角の折敷トモ、又、角トバカリモ云フハ、四すみノ角ヲ切リタル折敷ノ事ナリ、小角ト云フハ、右ノ角の折敷ヲ、三寸四方ニシタルナリ、中角ハ、五寸四方ニシタルナリ、大角ト云フハ、八寸四方也、是ヲ八寸トモ云フ」

かけ (名) 鷄 一鷄聲ヲ名トス、かけろノ條ヲ見ヨ、家鷄ノ音ト、暗合 にはとりノ古名。古事記、上「庭ツ鳥、鷄ハ鳴ク」萬葉集、七ㅁ十「庭ツ鳥、可鷄ノ垂尾ノ」同、十二ㅁ十「曉ト、鷄ハ鳴クナリ、ヨシエヤシ、獨リ寢ル夜ハ、明ケバ明ケヌモノ」

かけ (名) 掛 懸 (一)掛クルコト。(二)懸緒ノ略。オイカケ。(三)婦人ノ服。うちかけノ(三)ノ略。其條ヲ見ヨ。浮世風呂、二、下「[illegible]ヤ、[illegible]ヤ、時時ノオ福ヲ召シテ」(四)帶ヲ絡メ始ムル方ノ端。(五)掛賣ノ略。好色一代女(貞享、西鶴)四「晦日ニ、かけハ悉クセズ事ナレドモ、云云、合トハ云ヒ兼ネテ、代銀ノ貸借ナシニ、遣ハシケル」「かけニナル」(六)賣掛金ノ略。牛王心中(近松作)上「此方ノ出店ノ仕舞ハ、少シ取ルかけモアル」「かけヲ取ル」(七)かけ蕎麥ノ略。

かけ (名) 賭 賭事ノ略。其條ヲ見ヨ。[illegible]ヲ禁ゼラレタリ」

かけ (名) 駈 (一)敵陣ニ駈ケ入ルコト。[illegible]第二ノ懸ヲ爭ヒシコトアリ。(二)馬術ノ語。一けあしノ(二)ヲ見ヨ。「駈ヲ逐フ」

かけ (名) 闕 缺 欠 (一)缺クルコト。(二)毀レタル端。(器ナドノ) 缺片

かげ (名) 景 〔燎ノ轉、すがなし、すげなし〕 日、月、火ナドノ光。源、三十八、夕霧「[illegible]かげ弱リタル夕日」夫木抄、十六、冬「早クモ暮ルル、冬ノかげ哉」「火ノかげ」「月ノかげ」

かげ (名) 影 〔景ニテ、映シ出スモノノ意〕(一)物ガ、光ヲ遮リテ、己ガ形ノ、黒ク、物ニ現ルルモノ。萬葉集、十八「[illegible]公、此處ヨ鳴キ渡レ、燈火ヲ、月夜ニ準ヘ、其ノ可氣モ見ム」「障子ノ人影」(二)物ノ形ノ、ソノママニ、鏡、水ナドニ映リテ見ユルモノ。萬葉集、廿二「池水ニ、可氣サヘ見エテ、咲キ匂フ、馬醉木ノ花ノ、袖ニ扱入ナ」古今集、十五、戀、五「[illegible]見テモ、[illegible]、鏡ニ見ユル、かけナラズシテ」(三)姿。人ノ身。續古今集、十九、雜、下「草ノ庵ヲ、月ト共ニハ、出デヌレド、影隱スベキ、山ノ端ゾナキ」(四)オモカゲ。オモザシ。カホツキ。容貌 源、一、桐壺「母御息所ハ、かげダニ憶エタマハヌヲ」

かげ (名) 陰 蔭 〔影ニ當ル處ノ意〕(一)日面ニ、物ノ立チテ、其裏ノ、暗キ處。ヒカゲ。(ひなたニ對ス) 續古今集、六、冬「嵐、山ノかけナル、河ノ瀬ニ、波寄ル霜ノ、晋ノ寒ケサ」「家ノ陰」「樹ノ陰」(二)人目ニ顯ナラヌ處。ヒソカナルコト。「陰ニテ譏ル」「陰ナガラ憂フ」「陰言」

かげ (名) 蔭 〔他ノ陰ニタヨル意、或ハ、景、卽チ、光ノ義、其恩光ヲ受クル意〕 他ノ助ケ。助力。[illegible]「カノモコノモニ、[illegible]ナシ」[illegible]「蔭ニ依ル」「御蔭」

かげ (名) 鹿毛 馬ノ毛色ノ名。鹿ノ毛ニ似テ、茶褐ナルモノ。[illegible]

がけ (名) 崖 〔削懸ノ略カ〕 岨。山、岡ノ岸ノ、直ニ峙チタル處。キリギシ。盛衰記、三十七、義經落二鵯越一事「流石イブセキ碊ナレバ、手綱ヲ引ヘテ躊躇バ」

かけあし (名) 駈足 (一)走ルコト。(二)馬術ニ、馬ヲ、最モ迅ク走ラスコト。かけ。

かけあはす ・スル・スレ・セ・セ・セヨ (他動、下二) 駈合 互ニ騎ヲ馳セ近ヅケテ、鬪フ。

かけあはす ・スル・スレ・セ・セ・セヨ (他動、下二) 掛合 彼レニ掛ケテ、此レニ合ハス。テラシアハス。照應

かけあひ (名) 掛合 (一)カケアフコト。(二)ハナシアヒ。談合。詢議 (三)互ニ行フコト。代リ代リニ爲スコト。交互 「掛合ニ謳ム」「掛合ニ歌フ」「掛合ニ叩ク」(四)俳優ノ、數人、代リ代リニ、詞ヲ述ブルコト。マハリセリフ。賓

かけあひ (名) 懸合 兩軍ノ兵力ノ、對等ニシテ、優劣ナキ意ナルベシ。平家物語、七、木曾願書事「平家ハ大勢ニテアンナレバ、軍ハ定メテ、懸合ノ軍ニテゾアラムズラム」

かけあふ ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (自動、四) 掛合 (一)彼ニ係リテ、此ニ合フ。照應 (二)

かけい (名) 家系 イヘスヂ。[illegible]

かけい (名) 家兄 他人ニ對シテ、己ガ兄ヲ稱スル語。舍兄。[illegible]

かけい (名) 家計 一家ノクラシムキ。[illegible]「[illegible]家計常清貧」

かけい (名) 嘉慶 喜ビ、祝フコト。[illegible]志、文帝紀「兆民欣戴、咸榮二嘉慶一」

がけい (副) 俄頃 ニハカニ。[illegible]

かけいり (名) 駈入 (一)イママヰリ。新参者。(二)芝居ニテ、狂女ノ、花道ノ出端ノ囃子ノ名。[illegible]「一、かけ入、狂女ノ出ナド」

かけいり (名) 掛入 相撲ノ一手。[illegible]

かけうり (名) 掛賣 價ノ錢ヲ、後ニ償フ約束ニテ、物ヲ賣ルコト。カシウリ。[illegible] 掛賣、現金賣ニ對ス。[illegible]

かけえぼし (名) 懸烏帽子 烏帽子ノ一種。烏帽子ニ、小結モ頂頭掛モ附ケズシテ、頭ニオシ入レテ、後ノ針ノミニテ、留メオクモノ。曾我會稽山(享保、近松作)四「腰ニ附ケタル懸烏帽子ニ、降リクル雨ヲ、ウケトメテ」

かけおち (名) 缺落 〔事缺けテ落ちユク義カ、或ハ、かけハ、駈けカ〕(一)戰ニ負ケテ、他所ヘ迯ゲ走ルコト。[illegible]門院日記略、二、永正三年七月廿一日「今朝大和國、一[illegible]

十一、下、品第三十七「甲州下山ヨリ、雪ヲ踏ミワケ、山通リ、三河へかけ落」 (二)惡事ナドシテ、跡ヲ晦シ逃ゲ去ルコト。逐電。出奔。‖失踪 亡命 御定書百箇條「科人欠落尋之事、云云、喧嘩口論ニテ人ヲ殺、致ニ欠落ニ候者、尋之儀」

かけ-おび (名) 【掛帶】 貴婦人ノ禮裝ニテ、裳ノ腰ニ附ケタル紐。頸ニ掛ケテ、前ニテ結ブ。古ヘノ、ひきおびナリトゾ。(呀花抄) 新六帖、五「折シモアレ、エヤハ心ヲ、かけおびノ、オモヒハ胸ノ、隔テナルベシ」

かけ-がう (名) 【懸香】 煉香ヲ、絹袋ニ包ミ、室内ニ懸ケ、又、懷中スルモノ。藥玉ナドモ、此類ノモノナリ、後世、匂の玉、匂袋ナド云フモ、是レナリ。‖香囊 倭名抄、十二、十「香囊」 雍州府志、六「囊(絹囊)左右、著レ緒繫レ項、懷ニ其袋ニ故、元稱ニ掛香ニ」

かけ-かけ・し・シキ・シケレ・シク・シク (形、二) 【懸懸】 心ニ懸クル狀ナリ。(多クハ、男女ノ事ニ) 源、三十四、下、若菜、下卅「今ハ、北方モ、オトナビハテテ、カノ昔ノ、かけかけしきスヂ、思ヒハナレタマフニヤ」

かけ-がね (名) 【繫金】 (一)〔又、かきがね。カスガヒ。サスガネ。戸、障子ニツケオキテ、鎖シタル時、外ノかなものノ穴ニ繫ケテ、締トスル鐶、又ハ、鉤。箱ナドニモ附ク。 源、四十五、椎本四十二「障子ノ端ノ方ニ、かけがねシタル處ニ、云云」 新六帖、二「世ヲソムク、柴ノ編戸ノ、かけがねノ、思ヒハヅセバ、人ゾ待タルル」 濱松中納言物語、一、上「かきがねノ穴ヲ、支ヘ塞ギテ」 源、三十八、夕霧十「コナタヨリコソ、さすがねナドモアレ、云云」 (二)下顎ノ骨ノ、おとがみノ骨ニ繫カリタルトコロ。 風俗文選(寶永、許六)嘲ニ宵惑ニ說「大欠ニ、繫金ヲハヅシ」

かけ-がひ (名) 【掛買】 オギノリ。價ノ錢ヲ借リテ、物ヲ買フコト。(掛賣、現金買ニ對ス)

かけ-がへ (名) 【懸替】 物ノ用キニナラヌコトアラムガ爲ニ、ソレト同ジ品ヲ、豫メ備ヘ置クコト。ヒカヘ。カハリ。‖副 平戸記、延應二年二月「殿下北政所、令レ參ニ春日社一給、予依レ召引ニ獻懸替牛一頭ニ」(俗語考、かけかへ)

かけ-かまひ (名) 【懸構】 〔かけハ、接頭語ノ如キモノ〕 カカハリアヒ。サシツカヘ。 聖德太子繪傳記(享保、近松作)三「涙ニ咽ブ哀サニ、かけかまひ無キ伺候ノ武士モ、感涙催スバカリナリ」

かけ-がみ (名) 【懸紙】 文書ノ包紙。禮紙ノ條ヲ併セ見ヨ。 江家次第、九、不堪田奏「上卿先見ニ目錄ニ次開ニ懸紙ニ展ニ開諸國國申文ニ」 今物語「ソレヲ押卷キテ、懸紙シテ、立文ニシテ」

か-げき (名) 【歌劇】 オペラ。

かけ-きん (名) 【掛金】 (一)掛錢ニ同ジ。(二)掛買ノ代金。カケダイキン。ウリカケキン。略シテ、かけ。

かげ-ぐち (名) 【陰口】 かげごとニ同ジ。 持統天皇歌軍法(正德、近松作)五「思ヒ思ヒノ陰口ヤ、良ウテモ謗ル姑婆」

かけ-くら・ぶ・ブル・ブレ・ベ・ベ・ベヨ (他動、下二) 【懸比】 〔かけハ、接頭語ノ如キモノ〕 くらぶト云フニ同ジ。‖比較

かけくらべ (名) 【懸比】 カケクラブルコト。比較スルコト。

かけ-くらべ (名) 【驅競】 かけっくらノ條ヲ見ヨ。

かけ-ご (名) 【懸籠】【懸子】 〔入子ニ對スル語ナラム〕 他ノ匣ノ緣ニ懸ケテ、其中ニ塡マルヤウニ作レル、扁キ匣。‖替匣 源、廿九、行幸二十「フタカタニ、イヒモテユケバ、玉クシゲ、ワガ身ハナレヌ、かけごナリケリ」 拾遺集、十一、戀、一「君ヲノミ、思ヒかけごノ、玉クシゲ、アケタツゴトニ、コヒヌ日ハナシ」

かけ-ご (名) 【賭碁】 金錢、物品ナドヲ、勝負ノ賭物トシテ、碁ヲ打ツコト。 吾吟我集(慶安)二「調牛ト、名ノリかけ碁ノ、勝負ニハ、流ミヲスルハ、道理千萬」

かげ-ご (名) 【蔭子】 かげまノ條ノ(一)ヲ見ヨ。

かけ-ごくら (名) かけっくらヲ見ヨ。

かけ-ごと (名) 【賭事】 〔勝ト負トノ二ツニ懸けテスル事ノ意〕 ノリモノ。勝負事ニ、互ニ、金錢、物品ヲ出シテ、勝チタル方、コレヲ取ルコト。略シテ、かけ。

かげ-ごと (名) 【陰言】 シリウゴト。人ノ居ラヌ陰ニテ、其人ヲ誹リナドスルコト。カゲグチ。‖後言 狂言記、禰宜山伏「高腰ヲカケテ、影事ヲ云ヒヲル」

かけ-ことば (名) 【懸詞】 〔いひかけことばノ略カ〕 いひかけ(言懸)ノ(二)ヲ見ヨ。

かけ-ごひ (名) 【掛請】 かけとり(掛取)ニ同ジ。 生玉心中(正德、近松作)中「書出シヤラ、かけごひヤラ」 德和歌後萬載集(天明、四方赤良)四「掛乞ノ、タユミモアラヌ、武士ハ、勇氣ヲハルニ、ノブル返金」

かけごみ-ねがひ (名) 【駈込願】 德川時代ニ、江戸町人ナド、急ヲ要スル場合ニ、町役人ナドノ手續ヲ經ズ、直チニ、町奉行所ナドニ願ヒ出ヅルコト。カッコミネガヒ。罪ノ自首ナドニモ云ヒキ。 機務覽要、二「駈込願、道中奉行宛ニ而差出候節、取計」

かけ-ご・む・ム・メ・マ・ミ・メ (自動、四) 【駈込】 駈ケテ入ル。 好色一代女(貞享、西鶴)四「煮賣屋ニ、恥ヲ捨テ駈込み」

かけ-ごゑ (名) 【掛聲】 (一)時機ニ臨ミタルヲ示スニ發スル聲。(擊劍、相撲ナドニ) (二)歌ヲウタフ時、曲節ノ間ヲ示スニ發スル聲。 堀川波鼓(寶永、近松作)上「鼓ノ稽古、云云、曲モ終リノ懸聲」 (三)車ヲ推シ、綱ヲ曳クナド、數人、力ヲ、一時ニ出スベキ時ニ發スル聲。‖許邪

かけ-さか・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 【懸離】 「かけハ、接頭語」 離るト云フニ同ジ。ハナル。かけはなる。 堀河百首、雜「かけさかり、由良ノ門渡ル、柴船ノ、漕ギオクレタル、歎キヲゾスル」

かけ-ざん (名) 【掛算】 算術ノ語。若干ノ數ノ上ニ、若干ノ數ヲ倍ニスルコト。‖乘算

かけ-ざを (名) 【掛竿】 (一)横ニ亙シテ、衣服、手拭ナド、掛クルニ用キル竿。 浮世風呂(文化、三馬)初編、上「己レガ手拭ハ絞リテ、犢鼻褌ヲ乾スかけざほへ置ゲ置キ」 (二)カケモノノカケ。カケジカケ。

かけ-じ (名) 【掛字】 掛物ノ條ヲ見ヨ。

かけじ-かけ (名) 【掛字掛】 掛物ノ紐ヲ、高ク打チタル鉤ニ掛クルニ用キル具、竿ノ端ニ、叉ヲ作ル。カケモノノカケ。カケザヲ。ヤハズ。‖畫叉

かげ-しばゐ (名) 【蔭芝居】 物蔭ニテ、芝居ノ眞似ヲスルコト。科白、聲色、囃子ナドニテ聞カス。

かけ-す (名) 【懸巢】 〔巢ヲ樹ノ枝ニ懸ケテ垂ルト云フ〕 鳥ノ名。山林ニ棲ミ、秋ノ末、群リ來ル、形、鳩ヨリ小サク、頭、背、腹、灰赤ニシテ、眼ノ邊、白シ、翅ハ、

灰黒ニシテ小羽ニ、青黄ノ斑アリ、嘴、黒ク、[illegible]アリ、脚モ黒シ、性、喋騒ニシテ、小鳥ヲ捕リ食フ。畜ヒテ、諸鳥ノ聲、又ハ、人語ヲナサシム。カシドリ。[illegible]

かけすあう (名) 〔掛素襖〕 〔かけハ、打掛ノ略ナルベシ、打掛よろひ、打掛かたぎぬナドアリ〕 侍ノ略服。素襖ノ上衣ノミ着テ、附腰ニテ、帶シテ、袴、烏帽子ヲ着ケズ。室町時代ノ末マデ行ハレタリト云フ。十德ト云フモノ、是レナリナド云フ。

かけすずり (名) 〔懸硯〕 懸子ノアル硯箱。[illegible]入道、[illegible]ニテ、武家ノ右筆ノ入道、[illegible]セテ、[illegible]スルヨリテ」

かけずまひ (名) 〔懸爭〕 車ニ牛ヲ繋ケムトスルニ、牛ノ、爭ヒテ從ハヌコト。ツケズマヒ。馬ノ、のりずまひノ如シ。夫木抄、三十三「[illegible]レノ君、[illegible]ハス[illegible]トヤ、カラ車、和牡牛ノ、かけずまひスル」

かけせん (名) 〔掛錢〕 日掛、月掛ナドニ貯フル錢。掛金。(日掛ノ條ヲ見ヨ) 高野萬年草(寶永、近松作)中「頼母ノ懸錢(七十四文」

かげぜん (名) 〔陰膳〕 旅中ノ人ナドノ、食ニ飢ウルコト無カラムコトヲ祈リテ、留守ノ者ノ、假ニ供フル膳部。

かけそば (名) 〔掛蕎麥〕 〔汁かけそばノ略〕 そばきりニ、味ヲツケタル熱汁ヲ注ギカケタルモノ。略シテ、かけ。

かけだいきん (名) 掛代金 掛賣ノ代金 掛金。

かけだし (名) 〔驅出〕 (一)カケダスコト。(二)世俗ニ、新前、初心。未熟。[illegible]宜山伏「[illegible]ジテ、此かけ出ノ山伏ニハ、貴人、高人モ[illegible]」

かけだす ス・セ・サ・シ・セ (自動、四) 〔驅出〕 走リ出ヅ。 狂言記、富士松「[illegible]ハかけだして[illegible]レナラバ、イツニ[illegible]キクツシマセウ物ヲ」

かけだひ (名) 〔懸鯛〕 干鯛二匹ヲ揃ヘ、白紙ニテ尾ヲ包ミ、頭ヨリ尾ニ吊絲ヲカケタルモノ、正月ノ飾物トス。又、夷講ニ供フルニハ、伊勢蝦ノ[illegible]鯛ヲ用キ、祝賀ニハ、生鯛ヲ用キル。 日次紀事、正月元日、人家「掛鯛、今日小鯛魚[illegible]、以二藁索一結二兩[illegible]、[illegible]掛鯛、[illegible]六月[illegible]日、和[illegible]而食レ之」 文化ノ川柳「掛鯛ハ、頭巾ヲ尻ヘ、カブルナリ」(紙ニテ尾ヲ包ム)

かけだふれ (名) 〔掛倒〕 カケタル費用ノ、損失トナレルコト。 傾城酒呑童子(享保、近松作)四「算用足ラズノ懸倒れ」

かけぢ (名) 〔懸路〕 木村ニテ、崖ニ、棚ノ如ク造リカケタル路。カケミチ。カケハシ。棧道 倭名抄、十八「棧道、[illegible]末乃[illegible]介知」 千載集、十八、誹諧「オソロシヤ、木曾ノかけぢノ、丸木橋、フミ見ルタビニ、落チヌベキカナ」 夫木抄、十九「片山ノ、岨ノかけぢノ、横雨ニ」

かけぢ (名) 〔竹架〕 かけぢから(懸稅)ノ條ヲ見ヨ。

かけちがひ (名) 〔懸違〕 カケチガフコト。ユキチガヒ。齟齬

かけちがふ フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (自動、四) 〔懸違〕 〔かけハ、接頭語〕 ちがふト云フニ同ジ。ユキチガフ。齟齬 「かけちがひテ、未ダ面會セズ」

かけぢから (名) 〔懸稅〕 〔ちから(稅)ノ義ヲ見ヨ〕 田租ノ稻ノ穗ヲ、[illegible]、[illegible]ヨリ刈リテ、束稻トシテ、[illegible]ニ懸ケテ乾スモノ。[illegible]上ニテ、稻ヲカケテ乾ス竹架ヲ、かけぢト云フハ、此語ヲ略シタルニカト云フ。[illegible]

かけぢく (名) 〔掛軸〕 掛物ノ條ヲ見ヨ。 書言字考節用集、七、器財「掛軸、カケモノ」 思陵書畫記「六幅名畫[illegible]」

かけぢゃや (名) 〔掛茶屋〕 〔かけハ、差掛作リノ意〕 路端ニ、葦簀ナドヲ立テテ、行人ニ煎茶ヲ賣ル所。

かけつ (名) 〔可決〕 可シト決ムルコト。(否決ニ對ス)

かけづ (名) 〔掛圖〕 地圖ナドヲ、掛物ニ仕立テタルモノ。

かげつ (名) 〔嘉月〕 陰暦、三月ノ異名。 [illegible](宗碩)二、三月「季春(漢)、嘉月(同)」

かけづかさ (名) 〔懸官〕 〔かけハ、かけもちノ意、兼ぬるナリ〕 けんくゎん(兼官)ニ同ジ。兼役。兼帶。 宇津保物語、田鶴村[illegible]「右大將、かけづかさヲ右近少將、云云」 平家ノ[illegible]ニ、下野守源義朝ノ首、獄門ノ[illegible]ノ木ニ掛ケラル「下[illegible]もつけハ、きノ木、紀伊ノ上(守ニカク)ニコソ、ナリニケレ、よしとも見エヌ、かけづかさカナ」(盛衰抄)(下野守ト、紀伊守ト、兼官ノ意ニテ、木ニかけラレタルニモ寄ス)

かけっくら (名) 〔驅競〕 〔かけくらべノ略轉、約メテ、かけっこトモ云フ。[illegible]、くら、やり、[illegible]皆、同ジ、相競ヒテ走ルコトナリ、轉ジテ、

互ニするさざノ意トナリ、相手、出し[illegible]、(だしあひ)代りだつさ、[illegible]

かけつくり (名) 〔懸造〕 〔次次條ノ語ノかけつくるノ名詞形〕 山ノ崖ナドニ、家ヲ作リカケタルコト。又、其家。今ハ濁リテ、かけづくりト云フ。[illegible]安)「かけつくりナルニ、柴垣、遣水、ナド、ハカナキモノカラ」

がけづくり (名) 〔崖造〕 前條ヲ見ヨ。

かけつくる ル・レ・ラ・リ・レ (他動、四) 〔懸造〕 〔懸路(棧橋)ナド、同意〕 山ノ崖、水ノ上ナドニ、造リカク。[illegible]つくる、谷ノ庵ノ、軒端ヨリ、巣モ長シ、五月雨ノ頃」

かけつける ケル・ケレ・ケ・ケ・ケヨ (自動、下二) 〔驅付〕 驅ケテ、ユキツク。走リテ至ル。 甲陽軍鑑、十、下、品第三十二、[illegible]ノ先衆かけつけザル以前ニ、武田勢ヲ切クヅシ」

かけっこ (名) かけっくら(驅競)ノ條ヲ見ヨ。

かけづの (名) 〔懸角〕 櫃臺ノ隅ニ、犀角ニ彫刻ヲ施シ、金物ヲ附ケテ、緒ニテ懸クルモノ。 類聚雜要抄、四「犀角之懸角二枚」

かげっぽふし (名) かげぼふし(影法師)ノ條ヲ見ヨ。

かけづめ (名) 〔懸爪〕 爭ノ[illegible]爪、[illegible]

かけづる ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) [illegible] 源氏物語、一「今朝ヨリ、此部屋ノアタリヲかけづり侍レド、エナム、サブラハザリツル」

かげ-どうろう (名) 〔影燈籠〕 まはりどうろうヲ見ヨ。

かけ-どくり (名) 〔缺德利〕 (一)德利ノ口ノ、缺ケ損ジタルモノ。(二)口がわるいト云フ謎詞。

かけ-どけい (名) 〔掛時計〕 はしらどけい(柱時計)ニ同ジ。

かけ-どこみせ (名) 〔掛床見世〕 床見世ノ一種。家屋ノ傍ニ設ケ、釣リ下ゲ屋根ニ、上緣ヲ取リ附ケタルモノ。寛天見聞記「御藏前ノ掛床見世、一日中ニ取リ拂フベシ」

かけ-どひ (名) 〔懸樋〕 筧ニ同ジ。

かげ-とも (名) 〔影面〕 〔影之面ノ約、背面ハ、背之面ノ約〕 日景、卽チ、南ニ向フトコロ。北ニ向フトコロヲ、背面ト云フ。山ノ南面、北面ヲ云ヘル語ニテ、多クハ山陽道、山陰道ノ事ヲ云ヘリ。成務紀、五年九月「隨ニ山河ニ而分ニ國縣ニ云云、山陽曰ニ影面ニ山陰曰ニ背面ニ」 萬葉集、一、廿三藤原宮御井長歌「耳無ノ、青菅山ハ、背友(背面)ノ、大御門ニ、宜シナベ、神サビ立テリ、ナグハシ、吉野ノ山ハ、影友(景面)ノ、大御門ユ、雲居ニゾ、遠クアリケル」 北山抄、三「山陽道、加介止毛乃道、山陰道、曾止毛乃道」

かけ-とり (名) 〔掛取〕 掛賣ノ代金ヲ取立ツルコト。又、其人。カケコヒ。生玉心中(正德、近松作)上「晦日、節季ハ前垂掛デ、裏家、背戸屋、慳貪屋三界、懸取ニ歩ク樣ナ勤スルノモ」 明和ノ川柳「掛取ノ、歸ッタアトデ、太イ奴」

かけ-ながし (名) 〔掛流〕 物ヲ、一度用キシノミニテ、直ニ捨ツルコト。ツカヒズテ。折敷、白木ノ膳具ナドノ稱トモス。

かけ-なは (名) 〔掛繩〕 馬ノ口ニツクル繩。倭名抄、十五ニ鞍馬具「罥索、加介奈波、取ニ馬羈ニ也」 名義抄「繯、カケナハ」

かげ-なびく-ほし (名) 〔影靡星〕 〔三公ヲ三台星ニ比シ、內大臣、之ニ次ゲバ云フ、三公ニ靡ク大臣ノ意ナリトゾ〕 內大臣ノ異稱。阿佛尼、海道記「官ハ、かげなびく星ニ近ヅキ」 夫木抄、三十五、建保二年內大臣家百首、祝「世ヲ照ラス、かげなびく星ノ、位山、ナホサカユカム、末モハルカニ」

かげ-にんぎゃう (名) 〔影人形〕 燈ノ光ニテ、偶人ノ影ヲ、紙ニ映シテ見スル戲。カゲヱ。弄影戲 洛陽集(延寶)「春ノ夜ヤ、影人形ノ、初芝居」

かけ-ぬ・ける・ケル・ケレ・ケ・ケ・ケヨ (自動、下一) 〔驅拔〕 走セテ、人ノ前ニ出ヅ。

かけ-ね (名) 〔掛直〕 僞リテ、實ノ價ヨリ昂ク云フ價。貳價

かけ-ねんブツ (名) 〔懸念佛〕 富士講ナド、講中ノ多人數、天ヲ仰ギ、高ク聲ヲ出シ、節ヲッケテ、念佛ノ六字名號ヲ唱フルコト。鉦ヲ入ルルアリ、木魚講ニテハ、木魚ヲ叩ク。

かけ-はし (名) 〔梯〕 〔架階ノ義〕 梯子ノ古言。ハシ。ハシダテ。倭名抄、十八「梯、加介波之、木階所ニ以登ニ高也」

かけ-はし (名) 〔懸橋〕 カケヂ。カケミチ。嶮岨ノ崖ナドニ、板木ヲ構ヘテ亙セル路。棧道 閣道 倭名抄、十八「棧、加介波之、板木構ニ險阻ニ道也」 景行紀、四十年十月「巖嶮 磴紆」「木曾ノかけはし」

かけ-ばないけ (名) 〔掛花瓶〕 花瓶ノ、壁、柱ナドニ懸ケテ用キルモノ。(床ニ置クニ對ス) 懸壁瓶 茶道全書、義「懸花生ノ事」

かけ-はな・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ (自動、下二) 〔懸離〕 遙ニ離ル。遠ク隔ツ。カケヘダタル。(地ニ、時ニ) 懸隔 新勅撰集、十五、戀五「かけはなれテモ、往ヌル君哉」 源、十五、蓬生「斷ク、かけはなれテ、久シウナリタマヒヌル人ニ」

かけ-ばん (名) 〔懸盤〕 〔折敷ヲ載セかけオク臺盤ノ意ナルベシ、衝重ト、同ジ造リノモノナリ〕 晴ノ儀式ナドニ用キル膳。昔ハ、四脚ノ臺ノ上ニ、折敷ヲ載セテ用キキ。後世ナルハ、上下作リツケニシ、銀杏脚ニテ、脚ノ下ニ方形ノ框ヲッケ、面、朱漆ニテ、他ハ、總黑漆ナリ。枕草子、五、五十段「唐繪ニアルヤウナル、かけばんナドシテ、物食ハセタルヲ」

かけ-ひ (名) 〔筧〕 〔懸樋ノ義〕 地上ニ高ク架ケテ、遣水ヲ通ハスル樋。カケドヒ。(埋樋ニ對ス) 千載集、六、冬「イツノマニ、筧ノ水ノ、氷ルラム、サコソ嵐ノ、音ノカハラメ」

かけ-ひき (名) 〔驅引〕 〔進むヲかくト云ヒ、退くヲひくト云フ〕 (一)戰場ニテ、機ヲ見テ進ミ、機ヲ見テ退クコト。軍機 太平記、十九、義貞攻ニ落越前府城ニ事「馬ノ懸引タヤスキ在所ナレバ、云云、追ッ返ッ入亂、半時計ゾ戰フタル」 (二)轉ジテ、商賣ニ、談判ニ、機ヲ見ハカラフコト。機變 心中重井筒(元祿、近松作)中「廓ヤ此處ノ奉公ハ、樂ミ無ウテハ勤マラズ、云云、ソレニサヘ猶、掛引アリ」

かげ-ひなた (名) 〔陰日向〕 (一)日陰ト、日向ト。陰陽 (二)陰ニテスルト、顯ハニスルト、所行ノ、違フコト。表裏 反覆 「かげひなたナク勤ムル」

か-げふ (名) 〔家業〕 (一)家ノ本分ノ生業。職業。列子、天瑞篇「離ニ六親ニ廢ニ家業ニ」 (二)轉ジテ、稼業ナド書キテ、生計ヲカセグコト。渡世。手限御故例書、七「人宿家業取放、所拂ニ」(古事類苑、法律部)

かげ-ふじ (名) 〔影富士〕 富士山ノ影ノ、湖水ノ面ニ映リ出デタルモノ。箱根ノ蘆湖ニ現ルルモノ、名アリ。

かげ-ぶち (名) 〔鹿毛斑〕 馬ノ毛色ニ、鹿毛ニ、斑アルモノ。堀河百首、秋「逢坂ノ、關ノ杉間ニ、曳クナルハ、コヤ望月ノ、かげぶちノ駒」

かけ-ブトン (名) 〔掛蒲團〕 〔敷蒲團ニ對ス〕 フスマ。(ふとんノ條ヲ見ヨ)

かけ-へだた・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 〔懸隔〕 遠クヘダタル。カケハナルル。

✤かげ-べんけい (名) 〔陰辨慶〕 俗ニ、人前ニテハ畏縮ミ、人陰ニテハ强ガルコト。ウチベンケイ。浮世風呂(文化、三馬)二編、下「ナンノ、內ヒロガリノ、外スハリヨ、オイネヘ、蔭辨慶ダッチャァネヘ」

かけ-べり (名) 〔掛減〕 秤ニ掛クルニ就キテ、量ノ減ルコト。

かげ-ぼし (名) 〔陰乾〕 日ニ當テズシテ、物陰ニテ乾スコト。風乾

かけ-ボトケ (名) 〔懸佛〕 銅、鐵ノ板ニ、佛像ヲ鑄出シタルモノ。木板ニ雕レルモアリ、多クハ、圓形ナリ、壁、柱ナドニ懸ク。

かげ-ぼふし (名) 〔影法師〕 〔影ヲ、擬人シタル語、涙法師、鐵法師、照照坊主、世智辯坊ナド、同趣ノ語ナリ〕 燈火、月光ナドニテ、人ナドノ影ノ、障子ナドニ映リ現レタルモノ。カゲッポシ。七十一番職人盡歌合(文安)六十三番、相撲取「かけ法師、見苦シケレバ、辻相撲、月ヲウシロニ、ナシテ寐ル哉」

かげ-ま (名) 〔蔭間〕 〔舞臺ニ出デズ、蔭ニ居ル間ノ意ト云フ、(人倫訓蒙圖彙)〕 蔭

子ト云フモ、同ジ」 (一)少男ヲ抱ヘオキ、若衆歌舞伎ニ仕立テムトテ、髪ヲ仕込ミ居ル者ヲ、[illegible]子ト云フ、芝居ニ出デテ[illegible]ヲ、[illegible]子ト云フニ對ス、(女ノ頭子ヲ、かげま女ナドトモ云ヘリト云フ)蔭子ヲシテ、男色ヲ賣ラシムルヲ、色子ト云フ。 洛陽集(延寶)「頭見世ヤ、十有五ニシテ、樂屋入」頭ミセヤ、ウヒカウブリシ、影間ドモ」 西鶴置土産(元祿)五「陰子、云云、花山藤之助、云云、松風琴之丞」(二)かげまハ、後ニ年ク、男色ヲ賣ルヲ專業トスル者ノ稱トナリ、常ニ女装シテ客ヲ迎フ。かげま茶屋トテ、娼家ノ如キモノアリキ。やらう、(夜郎)わかしゅ、(若衆)ヲ併セ見ヨ。[illegible] 龍陽 [illegible]「[illegible]坂界町媚」

かけまくも (副) 懸卷 〔いはまく(言)ノ語原ヲ見ヨ〕 言葉ニ懸ケムモ。 萬葉集、二、三十 長歌「挂文、忌之伎鴨、言久母、綾ニ畏キ」 同、三十四 越中勞能山ノ時歌「タクヒレノ、懸マクモ(ほノ)[illegible]シキ、[illegible]ノ名ヲ、[illegible]山ニ、懸ケバ、イカニアラム」 [illegible]、廿二、天平寶字三年六月、詔「掛[illegible] 畏[illegible]朝[illegible]天皇[illegible]、云云」

かげまちゃや (名) 蔭間茶屋 前前條ノ(二)ヲ見ヨ。 天保ノ川柳「八宗ヘ、ロヲ合セル、蔭間茶屋」

かげまつり (名) 蔭祭 神社ノ、隔年ノ例祭ナドニ對シテ、其間年ニ行フ、質素ナル祭禮

かけまもり (名) 懸守 筒守ノ紐ヲ頸ニ懸ケテ、胸ニ垂ルルモノ、貴婦人ノセシコトナリ。俗間ニ、婚禮ノ時、新婦ノ襟ニ、愛敬の守トテ懸ケタルハ、此遺風ナリト云フ。 [illegible]中[illegible]「[illegible]御中[illegible]、オリ物ニ、小袖、袴、胸ノまもり御かけ候テ、衣袴ヲ

かげみ (名) 影身 「[illegible]身ナレバ影アリ、影ハ身ニ[illegible]、[illegible]」「影身トナリテ守ル」 金葉集、九、雜、上「世ノ中ハ、憂キ身ニ添ヘル、影ナレヤ、思ヒ棄ツレド、離レザリケリ」

かけみち (名) 懸路 懸道ニ同ジ。棧道。 [illegible]拾遺集、九、[illegible]「[illegible]エヤラデ、今日ハ暮ラシツ、足柄ノ、山[illegible]吉野ノ、岩ノかけ道、踏ミナラシテム」 玉葉集、十四、雜、一「跡還キ、山ノかけみち」 [illegible]ノかけみち、タエダエニ、霞ヲツタフ、春ノ山人」

かけみづ (名) 懸水 懸樋ノ水。 夫木抄、二十六「源ハ、山ノ白雪、トヂテケリ、凍リテツヅク、宿ノかけ水」

かけん (名) 家憲 一家ヲ治メユク憲法。家法。

かげん (名) 家嚴 〔家ノ嚴父〕 家君ニ同ジ。我ガ父ヲ稱スル語。 易[illegible]、下[illegible]「家人有二嚴君一焉、父母之謂也」 [illegible]「自稱」父曰二家父、家君、家大人、家尊、家嚴、老父一」

かげん (名) 下元 ぢゃうげん(上元)ノ條ヲ見ヨ。 清[illegible]錄、一、三官[illegible]、上元、中元、下元日、[illegible]三官[illegible]辰一」 日次紀事、十「十月十五日、今日謂二下元節一」

かげん (名) 下弦 ゆみはりづきノ條ヲ見ヨ。 名義抄、弓「上弦、カムツユミハリ、下弦」 [illegible]集、上、天像「弦月(和名類聚、上弦、下弦)」 和爾雅、一、天文「弦(七八日爲二上弦一、廿二三爲二下弦一)」

かげん (名) 嘉言 誡トスベキ、ヨキコトバ。善言。 書經、伊訓篇「[illegible]洋洋、嘉言孔彰」「嘉言善行」

かげん (名) 加減 (一)加はるト、減るト。又、加ふるト、減らすト。 東[illegible]集「加[illegible]減[illegible]馬、曲盡其用一」 (二)ホドアヒ。グアヒ。アンバイ。[illegible]子、[illegible]、云云、良イかげんニシテ進ゼラレ」「味ヲ加減スル」 (三)病氣ノ容子。アンバイ。「かげんガヨイ」かげんガワルイ」

かけん (名) 雅健 文章ノ、ミヤビヤカニシテ、勢アルコト。 唐書、[illegible]宗元傳「[illegible]雅[illegible]、[illegible]長一」

がげん (名) 雅言 (一)平常ノコトバ。正シキコトバ。 [illegible]、子所[illegible]、[illegible]也」(二)[illegible]

がげん (名) 雅言 ミヤビコトバ。正シクシテ、善キ言。(俗言、俚言ニ對ス)此語、專ラ、平安朝以前ノ言語、即チ、文章語ノ稱トス。

かけむかひ (名) 掛向 他人ヲ交ヘズシテ、二人、相向ヒ居ルコト。サシムカヒ。 耦座 當面 「夫婦かけむかひ」

かけむく (名) 懸無垢 葬送ノ時、棺ノ上ニカクル、白無垢ノ服。

かけむしゃ (名) 懸武者 敵ヲ的トシ、突進シ懸カル武者。 太平記、九、六波羅攻事「元來タマラヌ懸武者ナレバ、ナジカハ少シモタメラフベキ」

かげむしゃ (名) 影武者 〔影ハ、同ジ姿ノ意〕 戰場ニテ、主將ノ傍ニ、數人ノ武者ヲシテ、主將ト同ジ扮裝ヲナサシメオクモノ。敵ヲシテ、孰レガ主將ナルカ迷ハシメムガタメナリ。

かけめ (名) 妾 〔懸女ノ義、心ヲかくる意ナルベシ、てかけ、めかけ(妾)ノかけモ、是レナリ〕 ヲムナメ。オモヒモノ。めかけ。 狹衣、一、下「何某ノ少將ノかけめニテ、道ユキ人ゴトニハ、心ヲツクシ、胸ヲコガシタマ

かけめ (名) 掛目 秤ニ掛ケタル目方。 [illegible]

かけめ (名) 欠目 (一)不足シタル目方。 [illegible] (二)[illegible]碁ノ語ニ、一目ノ、地ニ成リ立タヌモノ。

かげめ (名) [illegible] [illegible] 狹衣、三、上[illegible]

かけもたれ (名) 掛靠 相撲ノ手ノ名 そさがけノ條ヲ見ヨ。

かけもち (名) 懸持 カケモツコト。カケヅカサ、兼帶 [illegible] 卜夏ヲ、かけもちニセリ、[illegible]ノ圖」 松原自休手錄「山中ニ[illegible]

かけもつ (他動、四) 懸持 一事ヲ、兼ネテ受持ツ。兼帶ス。兼掌 兼攝

かけもの (名) 賭物 賭事ニ賭クル品物。賭祿。 宇津保物語、菊宴二「事モナキ娘、誰レ多ク[illegible]ラム、かけ物ニシテ、[illegible]ヤ」

かけもの (名) 懸物 〔懸賞ノ意ニテ、ヤガテ、賭物ノ意トナルカ〕 和歌、連歌ノ、秀逸ナルモノノ賞與品。[illegible] [illegible]五十一、弘長三年二月八日「有二和歌會一、一日千首、[illegible]懸物一云云」 同、二月十日「以二合點員數一[illegible]」 [illegible]八十九段「小川ヘコロビ入リテ、云云、連歌ノかけもの取リテ、扇、小箱ナド、懷ニ持タリケルモ、水ニ入リヌ」

かけ-もの (名) [掛物] 書畫ヲ、軸ニ卷クベク裱具シテ、床間、壁ナドニ掛ケテ見ルモノ。掛軸。軸。挂幅 竪ニ長キヲ、たてもの、たつものト云フ。直幅 横ニ長キヲ、よこものト云フ。橫幅 橫披 二幅對、三幅對ナドアリ。書ナルヲ、掛字ト云フ。書幅 畫ナルヲ、掛畫、畫軸ナド云フ。畫幅 喫茶往來(鎌倉時代、末)「北壁下、云云、構ニ色色懸物ニ」 桂川地藏記(弘治)上「懸字者、仁宗皇帝、牧溪和尚、云云」 蜷川親元日記、文明十三年七月十一日「大内殿ヨリ、御目ニカケラル掛繪、被ニ返下ニ候」

かけ-もの (名) [掛物] ひぐわし(乾菓子)ノ製造ニ云フ語。金平糖ノ條ヲ見ヨ。

かけもの-かけ (名) [掛物掛] かけじかけニ同ジ。

かけ-や (名) [懸矢] (懸合ノ約、古言ニあひト云フ、二人、相槌ニ打ツヨリ起レル名) 古言、アヒ。木槌ノ、大ナルモノ。阿野。椓杙ヲ打チ込ムナドニ用ヰル。椓 撃 大槌 和漢三才圖會、二十四、百工具「椓撃、和名、阿比、俗云、加計夜」

〜かけ-や (名) [掛屋] (産物ヲ掛買ニスルヨリ起レル語ニモアルカ) 大名ノ金錢用達商。大阪ノ大名藏屋敷ナドニテ稱ス。

かけ-やり (名) [懸破] (やる(破)ノ條ヲ見ヨ) 衣ヲ、物ニ引キカケテ、破ルコト。カギザキ。 枕草子、七、六十八段「ホソヤカナル童ノ、狩衣ハ、かけやりナドシテ、云云」

か-げゆ-し (名) [勘解由使] 官名、解由狀ノ事實ヲ勘フルコトヲ掌ル。(解由狀ノ條、見合ハスベシ) 類聚國史、百七「天長元年九月乙卯、定ニ勘解由使員ニ長官一員、次官二員、判官三員、主典三員、史生八員」

かけ-よろひ (名) [挂甲] (打チ掛けテ着ル甲ノ義) 古ヘ、武官ノ用ヰシ鎧。絹布ヲ以テ甲形ニ裁チ、墨ニテ畫キ、又ハ、漆ニテ塗リテ造リタルモノ。 衣服令、義解「武官朝服、兵衞、會集等日、加ニ挂甲ニ帶ニ槍、云云、主帥、會集等日、加ニ挂甲ニ帶ニ弓箭ニ云云」 服飾管見、三、挂甲「マサスケガ抄ニ、中少將ノ甲キル事ヲ記セシ中ニ、クビカミナドヲサイシキテ、袖モナクテ、ウチカケノヤウナルクサズリハアリト見エ、永治別記ノ圖ニモ、此サマニ見ユメリ、但シ後ノ世ハ、絹ニテ作リテ、札トヂメナドヱガキテ用ヰキ」

かけ-ら (名) [缺片] (らハ、添ヘタル辭、らノ條ヲ見ヨ) 缺ケタル一片。

かげ-りう (名) [影流] 劍術ノ一流。室町時代、愛洲日向惟孝ノ創メタルモノ。

〜かけ・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) [翔] (驅る、(四段)駈く(下二段)ト同意) 空ヲ飛ビ行ク。(鳥ニ) 古事記、下(仁德)十長歌「雲雀ハ、天ニ迎氣流」 竹取物語「ツユモ、物、空ニかけらバ、フト射殺シタマヘ」

〜かけ・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) [驅][駈] 疾ク走ル。駈ク。馳ス。 源、十三、明石十三「秋ノ夜ノ、月毛ノ駒ヨ、我ガ戀フル、雲居ニかけれ、時ノ間モ見ム」 同、二十六、常夏五「イトかけり來マホシゲニ思ヘルヲ」

✣か・ける・ケル・ケレ・ケ・ケ・ケヨ (自動、下一) [駈] (駈く(下二段)ノ口語) 前條ニ同ジ。 吾吟我集(慶安、石田未得)七、世話「强キ方ニ、助言イヒヌル、將棊コソ、かける馬ニモ、鞭ト知ラルレ」

✣か・ける (動) 掛くノ口語。

✣か・ける (動) 缺く(下二段)ノ口語。

かげ・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) [蔭] (蔭ヲ活用ス、雲る、畝る、庵るナドノ例) (一) 日、月ナド、雲ノ蔭トナリテ、光、薄ラグ。クモル。曇 (二)(日景、傾ク。昃 古事記、下(雄略)三十七「朝日ノ日照宮、夕日ノ日賀氣流宮」

〜かけ-ろ (感) (鷄ノコトヲ、かけト云フハ、此語ニ起ル) 鷄ノ鳴ク聲ニ云フ語。コッケコウ。 神樂歌、酒殿「庭ツ鳥ハ、加介呂ト、鳴キヌナリ、起キヨ起キヨ」

かけ-ろく (名) [懸祿] (祿ノ條ヲ見ヨ) カケモノ。賞與品。 狂言記、鶯「かけろくニハ何ヲスルゾ、此太刀ヲエ刺サズバ、吾御料ニ遣ラウゾ」

〜かげろ-ふ (名) [陽炎] (かぎろひノ轉) かぎろひ。春ノ長閑ナル日ニ、空中ニ、チラチラト立上リテ見ユル氣。イトユフ。アソブイト。遊絲。野馬。 六帖、一「世ノ中ト、思ヒシモノヲ、かげろふノ、アルカナキカノ、世ニコソアリケレ」 相摸集「稻妻ハ、照ラサヌ夜モ、ナカリケリ、イヅラホノカニ、見エシかげろふ」 新後拾遺集、十二、戀、二「ツレヅレノ、春日ニマヨフ、かげろふノ、影見シヨリゾ、人ハ戀シキ」

〜かげろ-ふ (名) [蜻蛉] (かぎろふノ轉、其條ノ語原ヲ見ヨ) かぎろふ。蟲ノ名。とんぼうノ古言。アキツ。カタチ。 倭名抄、十九九「蜻蛉、加介呂布」 康頼本草、下四十一「蜻蛉、止ム波宇、加計呂宇、加太千」 源、五十一、蜻蛉十六「ツクヅクト思ヒツヅケ、ナガメタマフ夕暮、かげろふノ、モノハカナゲニ飛ビチガフヲ」

かげろ-ふ (名) [蜉蝣][白露蟲] (命ノハカナキヲ、陽炎ノ忽チ消ユルガ如キニ譬ヘテ云ヘル名ナルベシ) アサガホ。ヒヲムシ。蟲ノ名、いさおむしノ羽化セルモノ。秋ノ半ニ、水邊ニ多ク飛ブ、長サ六七分、首ハとんぼうノ如クニシテ、甚ダ小サク、翅薄クシテ、四翅一處ニ重ナル、身狹ク細ソクシテ、淡黃ナリ、尾甚ダ長ク細ソクシテ、絲ノ如シ。此蟲、朝ニ羽化シテ、夕ニ死スト云フ。 新古今集、十三、戀、三「夕暮ニ、命カケタル、かげろふノ、アリヤアラズヤ、問フモハカナシ」

かげろ・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (自動、四) [蔭] (蔭るノ延、かくる、かくろふ。(隱)うつる、うつろふ(移)ノ例) 蔭ニナル。カゲル。翳 風雅集、五、秋、上「秋寒キ、夕日ハ峰ニ、かげろひテ、岡ノ尾花ニ、風スサブナリ」 同、十五、雜、上「夕ヅク日、雲ノ一叢ニ、かげろひテ、時雨ニカスム、岡ノ松原」

かげろ・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (自動、四) [赫赫] (かぎろひノ語原ヲ見ヨ) 光、キラメク。ヒラメク。 金葉集、十、雜、下「イツヲイツト、思ヒタユミテ、陽炎ノ、かげろふホドノ、世ヲスグスラム」 山家集、下、雜「松ノ絶間ヨリ、ワヅカニ月ノ(影ノ)かげろひテ見エケルヲ見テ」

かけ-ゑ (名) [掛繪] 掛物(書畫ノ)ノ條ヲ見ヨ。

かげ-ゑ (名) [影繪] 硝子(今ハ、がらす)ニ、人物等ヲ畫キ、燈ノ光ニテ、畫ヲ、障子紙、白布ナドニ映シ見スル戲。ウツシエ。(和蘭人ノ伎ヲ傳フ)。影戲 皇都午睡、初篇、上「座敷影畫、昔ヨリ廢ラヌ物ハ、座敷遊ビニ用ユル影畫ナリ」

かけ-を (名) [懸緒] カウブリノヲ。略シテ、かけ。冠ノ具。紐ヲ以テ、巾子ノ笄ニ掛ケテ、兩端ヲ、頤ノ下ニテ結ブモノ。(おいかけノ條ヲ見ヨ) 緌 神事束帶ノ時ニハ紙縒ヲ用ヰ、衣冠、直衣、烏帽子ノ時ニハ組懸ヲ用ヰルト云フ。 台記、保延二年十一月廿五日、大臣宣旨「直衣、冠用ニ紙捻基結ハ昨日爲ニ大原野祭上卿ニ之間、爲ニ精進ニ用タルヲ不レ改」

[illegible]

かけ-をどり（名）［懸踊］〔かけあひニ歌ヒツツ踊る意ナルベシ、小町踊トハ、小[illegible]〕昔、陰暦七月七日ニ、市中ノ小女打揃ヒ、着飾リテ、町町ヲ踊リアルキタルコト。コレヲ、小町踊トモ云ヒキ。[illegible]かけをどりト云フ」

かを（名）［水手水夫］［楫子ノ略］萬葉集、十一[illegible]［illegible］

かを（名）［鞍具］〔字ノ音カ、或ハ云フ、[illegible]ノ轉ナリト」（一）〔革帶ノ端ニアリテ、引キ[illegible]ニ用ヰル、[illegible]〕[illegible]及鞍具、以鍮爲革也」（二）鐙ノ頭ナル鐵環ノ中ノ、[illegible]

かを（名）［鹿子］［鹿、及、接尾語ノ子ノ係ヲ見ヨ」（一）鹿ノ子。カノコ。[illegible]

かを（名）［[illegible]］[illegible]

[illegible]ナルベシ」コ。カタマ。カツマ。竹ヲ[illegible]

かを（名）［駕籠］〔[illegible]〕竹籠作リノあんだニ、[illegible]タルモノヨリ、[illegible]トニ云フ」（一）人ヲ載セテ、人ノ舁キ行ク具。竹作リナルモノニ載セ、上ニ棒ヲツケワタシテ、二人、前後ニテ棒ヲ舁ク。[illegible]竹輿（二）後ニハ、乘ル所ヲ、輿ノ屋形ノ如ク作リ、棒ノ長キヲツケテ、貴人ニテ舁ク、コレヲ、長棒駕籠ト云ヒ、乘物ト云フ、貴人ノ用トシテ、家格、身分ニ因リテ、其製、種種アリキ。[illegible]輿棒ノ短キヲ、切棒駕籠ト云ヒ、又、引戸駕籠、[illegible]駕籠ナド、種種アリ。[illegible]

かご（名）［加護］神佛ノ、通力ヲ加ヘテ、護リタマフコト。[illegible]云、三寶ノ加護ヲ願ミ奉レバ、諸ノ怖畏ナシ」

がご（名）［雅語］がげん（雅言）ニ同ジ。

かとう（名）［加工］天然物ニ、人工ヲ加フルコト。

かとう（名）［家公］（一）イヘアルジ。家主。主人。（二）己レノ父祖。後漢書、侯霸[illegible]

がとう-こう（名）［鵝口瘡］口中ノ病、小兒ニ多シ。口中ノ粘膜ニ、牛乳ノ粕ノ如キ黄白ノモノ、點點ツキテ痛ミ、乳ヲ[illegible]

[illegible]

がとう-そう（名）［[illegible]］[illegible]

かを-うつし（名）［籠寫］書畫ナドヲ、中ヲ空白ニシ、輪線ノミニテ寫シ取ルコト。フタヘガキ。カゴヌキ。［雙鉤］カヤウニ寫シタル文字ヲ、籠字、又、ふたへもじト云フ。［雙鉤字］

かを-かき（名）［駕籠舁］駕籠ヲ舁ク者。[illegible]駕籠ヤリマセウト、歩ミ來ル」

かを-がしら（名）［鞍具頭］鞍具ノ條ノ（二）ヲ見ヨ。

かを-かを（副）〔かをハ、圍ふノ語根、かをハ、副詞トスル接尾語、やかをモ同ジ、ひそかを、ひそやかを、[illegible]〕打圍マレテアル狀ニ云フ語。打籠リテ。又、かをやかを。源、四、夕顏[illegible]「遊ハ、人繁キヤウニ侍レド、イトかをかを侍ルト聞エテ」同、十八、松風「知リ侍ヘタマフ人モ無ケレバ、かをかたるナラヒニテ、年頃、[illegible]ヘハヘリツルナリ」宇津保物語、國讓、下五十二「二條院ノかをやかたる家ニ、籠シトスエタマヘレバ」

か-とく（名）［苛酷苛刻］ムゴク、カラキコト。更ニ、慈悲ノ念無キコト。[illegible]合苛酷、積失三百姓之心二」

かを-じ（名）［籠字］籠寫ノ條ヲ見ヨ。

がご-じ（名）［元興寺］[illegible]ノ鬼ヲ退治セシ事アリ、トイフ[illegible]云フ語ト云フ、本朝文粹、十二ノ都良香ノ道場法師傳ニモ見ユ」小兒ノ泣キヲ止メムト、顏ヲシカメテ威スニ云フ語。ガゴウジ。グヮゴジ。グヮゴゼ。ガゴゼ。

[illegible]古今著聞集（寬文）序「土佐ノ[illegible]

がご-ぜ（名）［元興寺］［同條ヲ見ヨ。

かを-ぬけ（名）［[illegible]］[illegible]ニ就キテ、越訴スルコト。下ノ情ノ、上ニ通ゼザル時ナド、法ヲ犯シテスルコトナリ。[illegible]

か-つ・ツ・テ・タ・チ・テ（他動、四）［託］〔假言ノ末音ヲ活用セシメタル語、[illegible]〕ひとりごつ、ものごつ、[illegible]同例」（一）[illegible]「サノミナド、涙ノ鈴ト、かをつラム、[illegible]

か-つ-く・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ（他動、下二）［託］〔假言付くノ略カ〕事寄ス。ソノ所爲トス。イヒタテニス。カヅケル。[illegible]ザニテ、コトヨセツ、又、かをつけツ、互ノ心ヲ語ラルル」

かをつけ（名）［託］カコツクルコト。コトヨスルコト。イヒグサ。口實。

かをつけ-ごと（名）［託言］カコツケテ云フ言。イヒグサ。イヒマヘ。

かをつ-ける（動）［託］かをつくノ口語。

かを-つるべ（名）［籠釣瓶］〔水モタマラズト云フ謎詞〕拔物ノ刀ヲ云フ語。

〔かおと (名) 託言 〔假言ノ略、誓言、ちかひごと、同例〕(一)託クル言。 後撰集、十一、戀、三「下紐ノ、シルシトスルモ、解ケナクニ、語ルかおとハ、アラズモアラナム」 源、四、夕顔三十七「ウカビタル心ノスサビニ、人ヲ徒ニナシツルかおと負ヒヌベキガ、イトカラキナリ」 (二)轉ジテ、言ヒワケマデニ、少シナルコト。 六帖、五、下「かおとバカリモ逢ヒ見テシガナ」 榮花物語、八、初花「女房四五人バカリ、薄色ノ褶ドモ、かおとバカリ、引キ結ヒツケタリ」(裳ヲ略シテ、褶ノミ引キカケタルナリ)

〔かおと-がま・し・シキ・シケレ・シク・シク (形、二) 託言イフ狀ナリ。言ヒタテニスルヤウナリ。 源、四十、幻十九「ツレヅレト、我ガ泣キ暮ラス、夏ノ日ヲ、かおとがましき、蟲ノ聲カナ」

かお-ながもち (名) 籠長持 籠造リノ長持。

かお-ぬき (名) 籠拔 かおうつしニ同ジ。

かお-ぬけ (名) 籠拔 (一)輕業ニ、長キ竹籠ノ底ナキヲ横ニシ、身ヲ側メ躍ラシテ、其中ヲ潛リ拔クルコト。 秋苑日渉、五「今伎人、編レ竹爲レ圈、長可二五六尺許一、插二蠟燭于其中一、躍レ身過レ之、云云、謂二之籠脱一」 (二)轉ジテ、惡人等ノ、建築物ナドノ表ヨリ裏ヘ拔ケテ、姿ヲクラマスコト。

かお-の-とり (名) 籠鳥 (一)鳥籠ノ中ニ飼ハルル鳥。(二)一處ニ押籠メラルルコト。身ノ、自由ナラヌコト。 鴉鷺合戰物語(文明)四「鷺ノ一門ヲバ、籠の中の鳥ノ如クニシテ、皆腹ヲ切ラスベシ」 (三)遊女ノ異稱。塒、及、くらがヘノ條ヲ參見セヨ。 文政ノ川柳「鉈豆デ、先ヅ餌ニツケル、籠の鳥」(癲癇ナドノ持病ノ有無ヲ試ス)

かおひ (名) 圍 (一)カコフコト。 玄玉集「標ハヘテ、賤ノ荒蒔ク、小山田ノ、春ノかおひハ、霞ナリケリ」 (二)カコヒオクモノ。貯ヘオクモノ。「かおひ米」 (三)垣。屏。墻。 堀河百首、雜「かおひ無キ、柴ノ庵ハ、假初ノ、稻葉ゾ秋ノ、籬ナリケル」

かおひ (名) 圍 〔茶人、千利休、和泉ノ堺ノ淨土寺ノ緣側ヲ、三疊ホド、屏風ニテ圍ひテ、茶室ニ用ヒタルニ起ル、サレバ、片庇ニ造ルナリト云フ〕 茶家ニ、茶室ノ一種。屋根裏ヲ、庇裏ノ如ク造ルモノ。(數寄屋ノ、別棟ナルト別ツ)

かおひ (名) 圍 (一)大夫、天神ニ次グ遊女ノ稱。(京都、島原) 人倫訓蒙圖彙、七「かおひハ十六匁、四四ノ十六トイフ九九ヨリ、かおひトイヒ始メシトカヤ、萬ヅ、天神樣ヨリ、一際麁相ニヲガマレ給フ」 (二)次次條ノ語ノ略。外妾。 浮世風呂(文化、三馬)三編、上「スベテ女中湯ノ朝ノ間ハ、町藝者カ、料理家ノ娘、或ハ、かおひナドノ、多ク入湯スル」

かおひ-まい (名) 圍米 カコヒオクコメ。貯ヘオクヨネ。略シテ、かおひ。

かおひ-もの (名) 圍者 カクシヅマ。人ニ知ラセズ、別宅ナドニ圍ヒオク妾。外妾。

かお・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (他動、四) 圍 〔かくふノ轉〕(一)〔かくふ。カクム。カコム。四方ヲ、繞ラシ限ル。周ヲ塞グ。トリマク。 新六帖、六「夏深ク、茂ル垣穗ノ、草高ミ、かおふ眞柴ノ、末ゾ隱ルル」 散木集、上「梅ノ花、色ヲバ闇ニ、かおへドモ、香ハモレテクル、物ニゾアリケル」 伊勢集「梅ノ花、カタミ殘サズ、散リニケリ、かおひテダニヤ、殘サザリケン」 (二)匿シオク。カクマフ。 匿「科人ヲかおふ」妾ヲかおふ」 (三)收メ貯フ。 貯「氷ヲかおふ」

かおみ (名) 圍 (一)カコムコト。(二)四方ヲ繞ル距離。メグリ。太サ。(徑ニ對ス) 周圍「圍み三尺」 (三)圍ミテ攻ムルコト。 敵圍「城ノ圍みヲ解ク」

かお-みみ (名) 籠耳 聞キテモ、耳ヲトホリヌケテ忘ルルコト。(地獄耳ナド云フ語ノ反) 吾吟我集(慶安)七「見ル事ノ、目ニハトマラズ、聞ク事モ、籠耳ニシテ、ミナ忘レ水」

かお・む・ム・メ・マ・ミ・メ (他動、四) 圍 〔かくむノ轉〕(一)〔かくむ。カコフ。トリマク。 落窪物語、三「越前守、云云、逃ゲムトスルニ、イト若ウ淸ゲナル人ノ、ヲカシウ云ヒテ、かおみテ、逃グベクモアラズ」 (二)打ツ。行フ。「碁ヲ圍む」

かお-め (名) 籠目 カゴノ編目。縱横ノ線ニ、交叉ノ線ヲ加ヘタルモノ。模樣ナドニ云フ。

〔かお-や (名) 鹿兒矢 〔鹿兒ト云ヒテ、鹿ナリ、まハ、稱辭〕 鹿ヲ射ルニ用キル矢。マカゴヤ。其弓ヲ、鹿兒弓ト云フ。マカゴユミ。猶、天眞鹿兒弓ヲ見ヨ。 古事記、上六十「天之眞鹿兒矢」 同卷四十九「天之麻迦古弓」 神代紀、下三「天鹿兒弓」

かお-や (名) 駕籠屋 駕籠ヲ舁クコトヲ業トスル者。カゴカキ。輿丁

〔かお-やか-ゐ (副) かおかゐニ同ジ。

〔かお-ゆみ (名) 鹿兒弓 かおや(鹿兒矢)ノ條ヲ見ヨ。

かお-わき (名) 駕籠脇 大名ノ行列ナドニ、主ノ駕籠ノ左右ヲ守リテ、附添ヒ行ク侍。

かお-わたし (名) 籠渡 山中、斷崖ナドノ兩岸ニ、繩ヲ亙シテ籠ヲ吊リ、人ナドヲ入レテ、綱ニテ引寄セ渡スモノ。又、笊渡。 俚言集覽、籠のわたし、飛驒國、荒城郡ノ籠渡し」かおの渡しハ、越中國、神通川、川幅、廿五間、高サ、十間餘」同、ざる渡「飛驒ヨリ、加賀ヘ越ユル山谷ニアリトゾ」

〔かさ (名) 笠 〔かざす(翳)ノ語根ナラムカ、周書、高句麗傳「其冠曰二骨蘇一」〕 (一)〔雨ヲ防ギ、又ハ、日光ヲ遮ラムガ爲ニ、頭上ニ被ルモノノ總名。さしがさニ對シテ、かぶりがさナド云フ。 倭名抄、十四八十行旅具「笠、加佐、所三以禦二雨也」 菅笠、藺笠、綾藺笠、編笠、市女笠、陣笠ナド、各條ニ注ス。 (二)〔又、さしがさ、からかさヲ略シテモ云フ、各條ヲ見ヨ。 枕草子、五、五十段「かさヲ持テ來ルヲ、ササセテ」 (三)又、さしがさ、又ハ、かぶりがさノ狀ヲナスモノヲモ云フ。「らんぷノかさ」松蕈ノかさ」 (四)〔椀ノ蓋。 弇 大營祭式「葉椀、覆以二笠形葉盤一」 (五)筆ノサヤ。 筆帽 遊學往來「筆持樣、夏者不レ指レ笠、冬者可レ入レ笠、常以二鹽湯一洗レ之、爲レ成二毛和一也」 笠ニ被るトハ、權勢アル者ヲ、後楯ニ恃ミテ、威ヲ張ル。 甲陽軍鑑、三、品第十一「親ヤ、兄ヤ、舅ヤ、叔父ヤ、從弟ナドノ、出頭ヲ笠ニきテ、如何モ慮外ヲ面ヘ立テ、驕リ」

〔かさ (名) 梂 〔形、笠ニ似タリ〕 樹ノ實ナドノ殼。 倭名抄、十七六「橡梂、伊知比乃加佐、橡之自裹者也」「松かさ」

〔かさ (名) 暈 〔其狀、笠ヲ負フガ如クナレバ云フカ〕 空氣ノ中ニ、水蒸氣多キ時、日月ノ周ニ見ユル、輪ノ如キ影。 天治字鏡、一八「日見レ暉、比乃加佐」 倭名抄、一二「暈、氣繞二日月一也、日月賀佐」

かさ (名) 瘡 〔痂ノ、笠ヲ伏セタル如キニ云ヘルガ元ナルベシ、梵語ニテモ、瘡ヲ、Khasa. ト云フ〕 (一)〔皮膚ニ生ズル病ノ總名。ハレモノ。デキモノ。腫物。

[illegible]ニ（二）[illegible]ノ稱。唐衛ノ路ナリ。コレヲ[illegible]トモ云フ。

かさ（名）[illegible]（一）[illegible]ナリタル物ノ高サ、[illegible]ニ[illegible]。[illegible]サルラシ」（二）數、度、量ノ多サ。量かさ[illegible]ハ、[illegible]上ニ[illegible]ナル。[illegible]ニテハ不レ可叶」

（かざ）（名）風（早稻、わさだ。（早稻田））[illegible]、ふたたたナドノ例）風ノ[illegible]。熟語ニノミ用キラル。萬葉集、三[illegible]「加[illegible]（座ノ誤）リ）ハヤノ、ミホノ浦ワノ、シラツツジ、見レドモサブシ、ナキ人思ヘバ」

かざ（名）氣（香ざすノ語根、めざす、[illegible]香。ニホヒ。カヲリ。（香、臭、共ニ云フ）狂言記、きんくゎい「鼠ノ油揚デゴザル、コノかざヲ嗅ギマスルト、狐殿ガ、食ヒニカカラレマスル」

かさあて（名）笠當 被笠ノ内部ノ中央、頂ニ當ル所ニツケオク物。輪形ヲナセルヲ、笠輪ト云フ、又、小サキ括枕ノ如キヲ左右ニツクルアリ、[illegible]ヲイトフナリ。[illegible]（文化、[illegible]）ニ元文ヨリ、[illegible]町、越後屋ニテ、色色ノ笠あてヲ賣ル」

かざあな（名）風穴（一）風拔ノ孔。（壁、屏、ナドニ）（二）風ノ、吹キ出ヅル穴。（山腹ナドノ）

か-ざい（名）家財 家ノ中ニテ用キル器ノ[illegible]。家具。家什。[illegible]、永享十二年[illegible]

かさい-ねんブツ（名）葛西念佛 武藏國、葛西ノ土人、鉦、太鼓ニ笛ヲマジヘ、念佛ヲ[illegible]、江戸市中ヲ[illegible]シモノ。はうさいねんぶつ（泡齋念佛）ニ傚ヒシモノト云フ。

かさい-のり（名）葛西海苔 武藏國、東葛西、舟場、二江、今井邊ノ海ニ産ズル、一種ノ海苔。色、薄紅ナリ。[illegible]（用捨箱、上）

かざ-いれ（名）風入 むしぼしノ條ヲ見ヨ。

か-さう（名）假裝 假ニ、或ルモノノ姿ヲ裝フコト。「假裝[illegible]」

か-さう（名）家相［さう（相）ノ條ヲ見ヨ］家ノ構造、地位、方向ナドヲ相テ、其吉凶、禍福ヲ云フ術。[illegible]、序「[illegible]先生、[illegible]ヲ[illegible]ルノ暇、カタハラ、家相ノ術ニ通ジ、其書、許多卷アリ」

か-ざう（名）家藏 家ニ藏メテ、持チ傳フルコト。[illegible]、予作[illegible]傳「[illegible]、以ニ其家藏[illegible]史百三十篇（上[illegible]）」「家藏ノ書籍、數萬卷」

かざ-がくれ（名）風隱 風ニ當ラヌヤウ、物蔭ニ隱ルルコト。玉葉集、二、春、下「木立ヲバ、ツクロハズシテ、櫻花、かざがくれニゾ、植ウベカリケル」宇治拾遺、四、第四條「來テ見ルニ、舟無シ、シバシハ、かざがくれニサシ隱シタルカト見ルホドニ」

かさ-がけ（名）笠懸［元ハ笠ヲかけテ的トシタルヨリ、名トス、[illegible]後守高[illegible]書「[illegible]笠ヲ懸ケテ射タルニ因リテ、笠かけト云フナリ」（俗語考、かさかけ）］騎射ノ式。的ノ遠近ニ因リテ、遠笠懸ト、小笠懸ト二別ツ、單ニ、笠懸ト云ヘバ、遠笠懸ニテ、的トノ距離十條[illegible]ナリ、

的ハ、板ニ革ヲ張リテ、内ニ藁ヲ入ルル、[illegible]小笠懸ハ、[illegible]ノ板的ニテ、的間近ク、[illegible]モ小サシ。[illegible]二日、同所ニテ遠笠懸アリ。

かさ-かさ（副）乾キテ強バリタルモノノ、相觸ルル音ニ云フ語。濁音ニ、がさがさトモ云フ。[illegible]テイデ往テ詰メ伏セテコムトテ、かさかさトシテ行キヌ」

がさ-がさ（副）前條ヲ見ヨ。

かざ-かみ（名）風上 風ノ、吹キ起ル方。（風下ニ對ス）上風 [illegible]「只今押寄テ、風上ニ火ヲ懸タラムニハ、戰フトモ、爭カ利有ムヤ」かざかみにも置けぬトハ、臭氣ニ堪ヘズ、鼻持ガナラヌノ義ニテ、人ヲ擯ケテ、齒スベカラズノ意。

かさ-ぎ（名）笠木 鳥居、冠木門ノ上ニ、横ニ亙ス木。衡木 [illegible]（元祿、[illegible]作）二「[illegible]居ノかさ木」

かざ-きり（名）風切（一）鳥ノ翼ノ、羽莖ノ短キ羽ノ名。因リテ、風ヲ切リテ飛ブト云フ。翮 [illegible]、十八「[illegible]也、加佐木里」（二）船ニ立テテ、風向ヲ候フ旗。カザミ。定風旗

か-さく（名）家作 ヤヅクリ。作リタル家。[illegible]「[illegible]、家作等事」

（かさ-ぐさ）（名）王不留行［[illegible]ヲ治スレバ、名アリト云フ］草ノ名。だうくゎんさうノ古名。[illegible]「王不留行、[illegible]佐久佐」（本草和名、倭名抄、同ジ）

（かざ-ぐすり）（名）風藥 [illegible]、[illegible]ラヒ給ヘ、云云、[illegible]リ物、云云、異物ハかざぐすりニセム」

かざ-ぐるま（名）風車（一）大イナル輪ノ周ニ、[illegible]、風ノ力ヲ用キテ、吹キ[illegible]、[illegible]ヲ精ゲ、水ヲ汲ムナドノ器械トス。（二）玩具ニ、紙ニテ、小サキ車輪ノ形ヲ作リ、竹ナドニ挿ミ、風ニ回ラシムルモノ。（三）草ノ名、てっせんノ類。花、稍、大キクシテ、紫ノ心ナシ、碧、白、單瓣、[illegible]ノ數品アリ、葉、大キク[illegible]ニシテ、三葉、一枝ナリ、人家ニ植エテ、花ヲ賞ス。[illegible]

紙風車 [illegible]ナタヨリ吹ク、風車、メグリアフベキ、シルシトゾ見ル[illegible]へんニアリ」

かざ-け（名）風氣（一）風、吹キ起ラムトスル容子。（二）風邪ニ感ジタル心地。[illegible]年代記（元祿、[illegible]作）[illegible]ト云フ風氣」

かさ-ご（名）笠子 魚ノ名。形、もいをニ似テ、頭、[illegible]大キク、背、高ク、腹、平ニシテ、尾ニ叉ナク、[illegible]、尖リテ、[illegible]シ、赤クシテ、頭大ナルモノ、味美ナリ。黑キ物ニハ、星アルト、無キトアリ、味、劣ル。俗ニ、アンポンタン。

かざ-ごゑ（名）風聲 風邪ノ爲ニ、嗄レタル聲。

（かさ-さぎ）（名）[illegible]［[illegible]、笠ト云フニカ］鵲ノ一種、今ノ、あをさぎナラムト云フ。源、五十、浮舟二十「寒キ洲崎ニ立テル、かささぎノ姿モ、所ガラハ、イトヲカシク見ユル

ニ、宇治橋ノ、ハルバルト見ワタサルルニ、云云」大鏡集（他阿上人）「雨降レバ、簑毛ノ上ニ、露落チテ、淺キ川瀬ニ、立テル鷺」（比古婆衣、十一）

〜カサ-さぎ（名）【鵲】〔朝鮮ヨリ渡リ來ル山烏ナリ、かさハ、朝鮮ノ古名、かち、又ハ、かしノ轉ト云フ、（今ハ、かあち）さぎハ、鵲ノ字ノ音、韓、漢、雙擧ノ語ナリ、同地ニテ、火ヲ、ふるはあト云フ、ふるハ、其國語ニテ、はあハ、火ノ字音ト合シテ云フ、此例ノ語、多シ〕鳥ノ名。大キサ鴉ノ如ク、頭、背、黒クシテ、褐色ヲ帶ビ、肩ニ白キ羽アリ、翅ハ黒クシテ、碧ニ光ル、尾ハ、身ヨリ長ク、黒ク綠ニシテ、光リ、其端ハ紫ニ光ル、胸、腹ハ白クシテ、褐ヲ帶ブ、聲、鴉ニ似テ、低シ。別名、高麗鴉。朝鮮鴉。唐鴉。筑後ニ多ケレバ、筑後鴉ノ名モアリ。烏鵲トモ云フ。推古紀、六年四月「難波吉士磐金、至レ自ニ新羅一、而獻レ鵲一」播磨國風土記、讃谷郡、中川里、船引山「此山住レ鵲。一云、韓國烏、栖ニ枯木之穴一、春時見、夏不レ見」鷄林類事（宋孫穆）「鵲曰ニ喝則寄一」

カサさぎ-の-はし（名）【鵲橋】〔白孔六帖「烏鵲塡レ河成レ橋、而以度ニ織女一」〕（一）想像ノ說ニ、七夕ニ、牽牛星ト、織女星ト、天河ニ會スルトキ、鵲、其翼ヲモテ亙スト云フ橋。詞花集、三、秋「如何ナレバ、途絕初メケム、天ノ川、逢フ瀨ニワタス、かささぎのはし」（二）禁中ヲ、天上ト見テ、其御階ノ稱。大和物語、中「かささぎノ、ワタセル橋ノ、霜ノ上ヲ、夜ニ躍ミワケ、コトサラニコソ」

〜かざし（名）【插頭】カザスモノ。古へ、草木ノ花、枝ヲ、髮ニ刺スモノ。後ニハ、官位ニ因リテ、菊花、紅梅、藤花、櫻花、山吹ナドノ造花ヲ用キル、神事、式事、等ニ、冠ノ巾子ノ懸緒ノ前、又ハ、後、左、又ハ、右ニサス。鬘、髻華ト同ジヤウナルモノニテ、後世ノ花簪モ、是レナリ。【插頭花】萬葉集、五廿「梅ノ花、今盛リナリ、思フドチ、加射之ニシテナ、今盛リナリ」倭名抄、四十雜藝具「插頭花、賀佐之」

かざし-ぐさ（名）【插頭草】かもあふひノ異名。

かざし-ことば（名）【翳詞】〔他ノ語ヲ、其語ニ翳シテ、隱ス意ナリ、かざし文句ト云フ語モ、同意ナリ〕俳諧ナドニテ、物事ノ名ノ忌ムベキヲ、言ヒカヘテ云フ語。新年ニ雨ノ事ヲ、おさがりト云ヒ、鼠ノ事ヲ、よめがきみト云フ類ナリ。

かざ-した（名）【風下】次次條ニ同ジ。出觀集、夏「かざしたノ、宿ハイヅクト、知リ難シ、花橘ノ、立テルコノモト」

かざし-の-は（名）【翳羽】〔插頭の羽ノ義〕さしは（翳）ニ同ジ。

かざ-しも（名）【風下】（風上ニ對ス）かざした。風ノ、吹キ向フ方。下風。夫木抄、十九、風「眞東風吹ク、花ノアタリノ、かざしもハ、時ゾトモナキ、雪ゾ積ミケル」

かざし-もんく（名）【翳文句】〔かざしことばノ語原ヲ見ヨ〕謠ノ中ニ、指合ニナル語アル時、他ノ文句ニ變ヘテウタフコト。謠曲ノ鉢木ニ、鉢植ノ松、梅、櫻ヲ燒キタルニ、舊文ニハ「松ハモトヨリ煙ニテ、薪トナルモ、コトワリヤ」トアルヲ、德川氏ノ別稱ナル、松平ニ憚リテ「松ハモトヨリ常磐ニテ、薪トナルハ梅櫻」トウタフ類ナリ。

かさ-じるし（名）【笠標】軍陣ニ、隊ヲ辨別セムガ爲ニ、兜ニ着クル標。旗ノ極メテ小サキガ如キニ、家ノ紋ヲ染メ出スナド、種種ノ製アリ。笠幟。袖ニ着クルヲ、袖標ト云フ。平家物語、九、河原合戰事、義經入洛「成忠重ネテ奏聞シケルハ、今日始メテ都ヘ入ル、東國ノ武士ト覺エ候、イカサマニモ、皆、笠印ガ替リテ候フ」

かざ-じるし（名）【風標】風見ニ同ジ。

か-ざ-す・ス・セ・サ・シ・セ（自動、四）【香】〔香刺すノ義〕香ノ、メグム。香ノ、キザス。カヲル。「丁子ノ、かざし初ム」

〜か-ざ-す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）【插頭】〔髮刺すノ略、鬘モ、髮蔓ノ略〕髮ニ插ム。（花ノ枝ナド）萬葉集、十九長歌「春方ハ、花插頭シモチ、秋立テバ、黄葉加射之」同、五十六「人每ニ、折リ加射之ツツ、遊ベドモ、イヤメヅラシキ、梅ノ花カモ」同、十七廿四「春ノ花、今ハ盛リニ、匂フラム、折リテ加射佐武、タヂカラモガモ」

〜か-ざ-す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）【翳】〔上差すノ略、（上總、かづさ）上ニ差シ被フ意ナルベシ〕上ニ被フ。被ヒ隱ス。後撰集、十七、雜、三「かざすトモ、立チト立チナム、無キ名ヲバ、コトナシグサノ、カヒヤナカラム」「手ヲ額ニかざす」「扇ヲ顏ニかざす」

かさ-だか（名）【嵩高】〔次條ノ語ノ語根ヲ、名詞トス〕嵩ノ、高クナルコト。カサムコト。

〜かさ-だか・し・キ・ケレ・ク・ク（形、一）【嵩高】積ミタル嵩、多シ。ウヅダカシ。堆。宇津保物語、藏開、上二十七「紫檀ノ櫃五ツニタテワキテ、かさだかくイレタル」

かざ-だち（名）【飾太刀】かざりだちニ同ジ。助無智祕抄、小朝拜「かざだちノ裝束、赤ナメシニハ緂ノ平緒、紺地ノ平緒、キラハズ可レ用レ之」

⁂がさつ（名）〔次條ノ語ノ名詞形ナル、がさつきノ略カ、ひひなき、ひひな。はちぶき、はちぶ」起居、擧動ノ、アラケナキコト。（しとやかノ反）粗暴。丹波與作（寶永、近松作）上「馬次、舟渡シ等ニテ、ガウギおさつヲ仕タラバ、曲事デオジャンベイ」

がさ-つ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ（自動、四）（一）ガサガサト、音ヲ立ツ。（二）騷ガシクシテ、オチツカズ。輕躁。

かさ-づけ（名）【笠附】まへくづけ（前句附）ノ條ヲ見ヨ。豐臣軍記、十、秀吉公御仁政井紹宅宗方連歌之事「北野笠著連歌ノ席ニテ、心苦シキ、月ヲ待ツマデ」ト云句、付アグミタリシニ、紹宅「人知レズ、肌ニ結ブ、イハタ帶」ト付タレバ、云云」

かさ-とがめ（名）【笠咎】二人行キ合ヒテ、他ノ笠ノ、我ガ笠ニ觸レタル無禮ヲ咎ムルコト。馬咎め、鐺咎めト、同趣ナリ。古事談、四、勇士「義家ノ郎等、美濃國ニアリシガ、國房ガ爲ニ、笠咎ノ間、弓ヲ被レ切」

かざ-とほし（名）【風通】風ノ、吹キ通スコト。通風。

かざ-ながれ（名）【風流】鷹飼ノ語。鷹ノ、風ニ吹カレテ、逸レ行クコト。夫木抄、廿七、鷹「高山ニ、放レシ鷹ノ、かざながれ、行方モ知ラヌ、戀モスル哉」

かざ-なぎ（名）【風凪】海上ニ、風、凪ギテ、波ノ鎭マルコト。夫木抄、廿五「出雲ナル、ちくみノ浦ノ、かざなぎニ、漕ギ出デ行ケバ、沖ノ島見ユ」

かざ-なみ（名）【風波】風ニ、高ク起ツ波。

かざ-なみ（名）【風並】（一）風ノ吹ク方向。風候。「風並ヲ伺フ」（二）形勢。ナリユキ。傾向。

かさ-な・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）【重】〔嵩ト、語根ヲ同ジウス〕（一）物、物ノ上ニ乘ル。積ル。タタマル。（物ニ）續政集、

秋「山吹ヤ、菊モかさたる、[illegible]ハアレド、マサリテ見ユル、[illegible]」(二)[illegible]ニ[illegible]、[illegible]

かさ・ぬ・ヌル・ヌレ・ネ・ネ・ネヨ(他動、下二) [重疊] [illegible]ノ語ノ、かさなるノ他動、つゝなる、つらぬ。(一)物ヲ、物ノ上ニ載ス。積ム。タタミアグ。伊勢物語、五十段「鳥ノ卵ヲ、十ヅツ十ハ、かさぬトモ、思ハヌ人ヲ、思フモノカハ」(二)更ニ、其上ニ加フ。クリカヘス。(事ニ、年月ニ) 萬葉集、十八廿長歌「スメロギノ、神ノ命ノ、御世可佐禰、天ノ日嗣ト、知ラシクル」

かざぬき (名) [風拔] [illegible]ナドニ、[illegible]ヲ拔キ[illegible]カスル二設クル孔。カゼヌキ。[illegible]

かさ-ぬひ (名) [笠縫] 菅笠ナド、絲ニテ縫ヒ作ルヲ業トスル者。神代紀、下廿「作笠者」[illegible]、十一[illegible]「[illegible]ノ、[illegible]ニ[illegible]ヘル、有間菅[illegible]」[illegible]式「[illegible]、笠縫氏」七十一番職人盡歌合(文安)四十四番、笠縫「名ニシオハバ、我レコソハ見メ、かさぬひノ、ウラ[illegible]シカル、[illegible]ノ夜ノ月」

かさね (名) [重] (一)カサヌルコト。カサナリタルモノ。[illegible]、九、百十三段「かさねナラズハ、二ツ懸子ノ硯」(二)袍ノ下ニ重ネテ著ル服ノ名。[illegible] [illegible]、十二[illegible]「[illegible]」(三)衣服ナド、疊ミタルモノヲ數フル語。[illegible]

かさね-あ・ぐ・グル・グレ・ゲ・ゲ・ゲヨ(他動、下二) [重上] 其上ニ[illegible]、更ニ積ム。[illegible]勢物語、第九段「ソノ山ハ、比叡ニ[illegible]ヘバ、比叡ノ山ヲ二十バカリ、かさねあげタラム程シテ」

かさね-うちぎ (名) [重袿] うちぎ、ノ條ヲ見ヨ。

かさね-がさね (副) [重重] シバシバ。タビタビ。[illegible]

かさね-ぎ (名) [重著] 衣ノ上ニ、衣ヲ重ネ著ルコト。[illegible]ゴロ、一ツ著ノ比モ、他出ニハ、寒氣ニシテ、重ね著、[illegible]ラハヤレリ」

かさね-しゃうぞく (名) [襲裝束] 舞樂ノ裝束ノ一種。鳥甲、袍、半臂、表袴、石帶、[illegible]ナドヲ著スルモノ。カラサウゾク。

かさね-すずり (名) [重硯] 「重硯箱ノ略」[illegible]ヲ數箇、同ジ大キサニテ、重ヌベク作レルモノ。歌會ノ席ナドニ、人人ノ前ニ、一ツヅツ出シテ用キシム。チ、ウスズリ。[illegible]、九、百十三段「人の家につきづきしきもの、[illegible]ナラズハ、二ツかけごノ硯、云云」[illegible]

かさね-だんす (名) [重簞笥] 二箇[illegible]引出ノ小簞笥ヲ、二ツカサネテ、一棹ニスベク作リタルモノ。卯月潤色(寶永、近松作)下、[illegible]「重ね簞笥ノ引出ノ、一重足ラヌ如クニテ」

かさね-ぢゅう (名) [重重] 重箱ヲ數箇、同ジ大キサニテ、重ヌベク作レルモノ。

かさね-て (副) [重而] フタタビ。マタ。復。名義抄「復、カサネテ、フタタビ」後拾遺集、十九、雜、五「神代ヨリ、スレル衣ト、イヒナガラ、又かさねてモ、めシキカナ」

かさね-どき (名) [重[illegible]] 貧僧のかさねどきト云フハ、美食ニアリツカヌ貧シキ僧ガ、同時ニ、處處ヨリ、齋ニ呼バルルコト。[illegible]ヨウゴマルニ、丁寧、[illegible]かさねどきト申スガ、之デゴザル」

かさね-の-いろめ (名) [襲色目] 直衣、狩[illegible]

衣、下襲、又ハ、女房ノ五衣、單ナド、表、裏、[illegible]、[illegible]、表、白、[illegible]、[illegible]、表、薄紫、裏、青ヲ襲がさねト云フナド、名目[illegible]、[illegible]モノ一定セリ。

かさね-もち (名) [重餅] 供餅ノ上ニ、稍小サキ餅ヲカサネタルモノ。

かさ・ぬる (動) [重] かさぬノ口語。

かさ-の-ゆき (名) [笠雪] 重キ物トシテ云フ語。[illegible]、云云、[illegible]「[illegible]」(其角)

かさ-バチ (名) [瘡鉢ノ義ナラム] 小兒ノ頭瘡ノ名。

かざ-ばな (名) [風花] 初冬ノ頃、風立チテ、[illegible]スルコト。[illegible]、[illegible]ノ、二ツ三ツ[illegible]ニ[illegible]チクルヲ、云云、かざはなトテ、[illegible]ニアルコトゾ」

かさ-ば・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) [嵩張] 嵩むニ同ジ。「携帶品ガかさばる」

かさ-びる (名) [草蛭] くさびるノ條ヲ見ヨ。

かさ-ぶた (名) [瘡蓋] [illegible]シ[illegible]ノ、[illegible]ニ隨ヒテ、上ニ生ズル皮。[illegible]、三、[illegible]、[illegible]上[illegible]」

か-ざふ-なます (名) [和雜膾] 種種ノ魚ヲ作リ雜ゼ、酢[illegible]ヲ加ヘ和ヘタルモノ。洛陽集「かざうなます、[illegible]ノ酢タタヘテ、藍ノ如シ」

かさ-ぼこ (名) [傘鉾] 祭禮ニ用[illegible]。大キナル傘ノ上ニ、鋒、長刀ナド付ケ

[illegible]

かざ-ほろし (名) [風[illegible]] [風ニ犯サレテ[illegible]] [illegible]、細カキ瘡、身ノ無ノ出デ[illegible]後ナドニ[illegible]

かざ-ま (名) [風間] [illegible]モ、櫻花、アヤシカリケリ、谷ノかざまニハ」

かざ-まち (名) [風待] [illegible]ヲ待チ受ケテ[illegible]

かさ-まつ (名) [笠松] 松ノ幹枝ノ、四方ヘ廣ガリ垂レテ、笠ノ狀ヲナセルモノ[illegible]ル迷ノ、村雨ニ、サシテ宿カル、ワタノかさ松」

かざ-まつり (名) [風祭] 風吹カザラムコト[illegible]ノ[illegible]ハ、瀧ノ瀬ヨ、タギチ流ル、云云、山風ノ、風ナ吹キソト、[illegible]ノ神ノ龍田神社ノ社ナリ、後ニハ龍田風神祭ハ、四[illegible]

かざ-まど (名) [風窓] カザスキノマド。

かざ-み (名) [風見] [illegible]テ置ク具。旗、又、板ナド、製、種種アリ。[illegible]

かざみ (名) [[illegible]] [illegible]

かざ-み (名) [汗衫] [illegible]ニ[illegible]コ[illegible]。[illegible]後ニハ、童女ノ上衣。製、水干ニ似タ

リ。本朝文粹、二、善相公意見「親王公卿、皆以二生絹紫綿一爲二夏汗衫一」儀式、大嘗祭、風俗歌人「裝束、汗衫、小褌子、云云」後撰集、四、夏、桂ノ皇子ノ、螢ヲ捕ヘテト言ヒハベリケレバ、童ノかざみノ袖ニツツミテ「包メドモ、隱レヌモノハ、夏蟲ノ、身ヨリ餘レル、おもひナリケリ」

かざみ-ぐさ（名）(一)うめ(梅)ノ(一)ノ異名。藏玉抄、香散見草、梅「山里ノ、軒端ニ咲ケル、かざみぐさ、色ヲモ香ヲモ、誰レ見ハヤサン」(二)やなぎ(柳)ノ異名。藏玉抄、風見草、柳「梓弓、ハルノ梢ニ、風見草、ノドケキ色ノ、ウチ靡クラン」

かさ・む・ム・メ・マ・ミ・メ（自動、四）〔嵩〕〔嵩ヲ活用ス、段む、否む、同例〕嵩、多クナル。カサバル。增シ加ハル。增加　盛衰記、四十六、賴朝義經中違事「禁中花色ノ振舞、以テノ外ニ過分也、賴朝ニかさみテ見ユ」

か-さん（名）〔家產〕家ニ付キタル財產。身代。身上。史記、李廣傳「家無二餘財一終不レ言二家產事一」

か-さん（名）〔家山〕フルサト。故鄕。故山。錢起、送二李棲桐一詩「柳岸向二家山一」

か-さん（名）〔加算〕(一)算術ノ語。ヨセザン。(二)年齡ヲ加フルコト。「新年、無事加算仕候」

か-さん（名）〔加餐〕〔食事ヲ加ふる義〕身體ヲ養生スルコト。攝生ヲナスコト。加養。後漢書、桓榮傳「君愼レ疾加レ餐、重二愛玉體一」

か-ざん（名）〔假山〕庭ノ築山。皮日休詩「兒童不レ許三攀二園竹一、鄰草須レ教上二假山一」

かざ-むき（名）〔風向〕風ノ、吹キ行ク方角。

か-さんすゐ（名）〔假山水〕庭ノ、築山ト、泉水ト。尺素往來「假山水者、立様、池様、泉様、云云、山形、野形、洲濱形、蘆手形等」

か-さん-やく（名）〔家山藥〕ナガイモ。

かざめ（名）〔蝤蛑〕蟹ノ一種、海ニ生ズ。甲、菱形ヲナシ、横ニ廣キコト七八寸、左右ニ各一刺アリ、色、赤黑クシテ、白キ點アリ、兩螯、大キク、小脚、左右四對、最後ノ一對ハ、其末、杓子ノ如シ、肉ノ味、美ナリ。かざみ。東京ニテ、ウミガニ。オホガニ。天治字鏡、八廿「蝤蛑、加左女」本草和名、下十九「擁劍、加佐女」(倭名抄、同ジ、但シ、擁劍ハ、かたつめがにナリ)

かさ-もち（名）白芷ノ古名。よろひぐさノ條ヲ併セ見ヨ。本草和名、上十七「白芷、云云、和名、加佐毛知、云云、一名、與呂比久佐」

かさ-もち（名）藁本ノ古名。さはそらしノ條ヲ併セ見ヨ。本草和名、上廿六「藁本、云云、和名、加佐毛知、一名、佐波曾良之」

かさ-やどり（名）〔笠宿〕檐下、樹蔭、ナドニ、暫シ雨宿スルコト。催馬樂、妹之門「妹ガ門、セナガ門、行キ過ギカネテヤ、我ガ行カバ、肘笠ノ、肘笠ノ、雨モヤ降ラナム、シデタヲサ、雨宿リ、可左也止利、宿リテマカラム、シデタヲサ」

かざ-よけ（名）〔風除〕スベテ、風ヲ避クルニ立ツル物。風ヲ遮ルモノ。

かざら・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ（他動、四）〔飾〕〔かざるノ延、わたる、わたらふ。さはる、さはらふ〕飾ルト云フニ同ジ。萬葉集、十六八長歌「蜾蠃ノ如キ、腰細ニ、取リテ餝氷」(少女ガ絹ノ帶ニ云フ)

かざり（名）〔飾〕(一)〔飾ルコト。ヨソホヒ。裝飾。源、二、帚木五十「マコトニ、ウルハシキ人ノ調度ノかざりトスル」(二)飾リタル物。(三)松かざり、標かざりノ略。狂言記、米市「合力米、云云、藏ヲ早閉メテ、かざりヲシタニ由テ、出タガ無イト云フ」かざりをおろすトハ、髮ヲ剃リテ、僧尼トナル。落飾。續古今集、十九、雜、下「上東門院、かざりおろさせタマヒケル時、ヨメル」保元物語、一、後白河院御卽位事「鳥羽院、御飾りおろさせタマフ」

かざり（名）〔綜〕「機ノ略訛ナルベシ、或ハ云フ、綜ノ、屁ト聞ユルヨリ、飾ト、變ヘテ云フナリト」機ノ具、綜ノ一名。其條ヲ見ヨ。

かざり-うま（名）〔飾馬〕(一)美麗ナル馬具ヲツケタル馬。欽明紀、元年九月「以二鞍馬一贈レ使」推古紀、十八年十月「命二額田部連比羅夫一爲下迎二新羅客一莊馬之長上」(二)唐鞍ヲ裝ヒシ馬。山城ノ賀茂祭ナドニ出スモノヲ云フ。江家次第、六、加茂祭使「先飾馬、次馬副、云云」宇津保物語、祭使十一「兵部丞、かざりうまニ乘リテ、埒ニ向キテ、馬ノ毛申シタマヘリ」

かざり-ぐし（名）〔飾串〕古代ノ冠ノ飾物。形、蟬ノ羽ノ如ク、漆羅ニテ作リ、冠ノ背ニツク。後ノ、燕尾ナルガ如シ。冠蟬　孝德紀、三年十二月「有二鐙冠一云云、其冠之背、張二漆羅一云云、形似レ蟬」靈異記、上、第廿五緣「蟬冠」

かざり-ぐるま（名）〔飾車〕牛車ノ、美麗ニ飾リ立テラレタルモノ。山城ノ賀茂祭ナドニ乘用スルモノヲ云フ。夫木抄、七「葵草、かざりぐるまノ、ケシキマデ、今日ハコトナル、物見トゾ聞ク」

かざり-し（名）〔餝師〕次條ニ同ジ。元祿五年板、萬買物調方記「京ニテ飾師、云云」

かざり-しょく（名）〔餝職〕金類ニテ、簪、金具ナド、裝飾トナル物ヲ造ル工人。餝師。餝屋。金銀工

かざり-だち（名）〔飾太刀〕〔飾劍〕儀式ノ時、束帶ニ佩ク、儀仗ノ太刀ノ名。又、かざだち。金銀等ニテ裝飾アリ。儀刀。名目抄「飾太刀、節會、及、御禊、行幸供奉公卿、臨時祭使等、著レ之」

かざりた・つ・ツル・ツレ・テ・テ・テヨ（他動、下二）〔飾立〕盛ンニ飾ル。盛飾

かざりつ・く・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ（他動、下二）〔飾付〕飾リ並ブル。裝陳

かざりつけ（名）〔飾付〕カザリツクルコト。並ベテ、飾リ立テタルコト。裝陳

かざり-ばな（名）〔飾花〕彩絲ニテ花ヲ作リ、白紙ニ貼リテ、女兒ノ背ニカクルモノ。端午ニスルモノナリ、藥玉ノ變ナリト云フ。(嬉遊笑覽、六)

かざり-や（名）〔飾屋〕〔餝屋〕餝職ニ同ジ。用明天皇職人鑑(寶永、近松作)職人盡「詞ノ花ヤ飾り屋ノ、飾ラデ思フ仲ナラバ」

かざ・る・ル・レ・ラ・リ・レ（他動、四）〔飾〕〔餝〕物ヲ添ヘテ、華美ニス。外見ヲ美シクナス。ヨソホフ。天治字鏡、十二卅「飾、莊嚴也、加佐留」

かさ-わ（名）〔笠輪〕かさあてヲ見ヨ。我衣(文化、曳尾庵)「笠輪、藁ニテ、手前ゴシラヘナリ」

かざ-わき（名）〔風脇〕風ノ吹キ向フ方ヲ避ケテ、傍ナルコト。(火災ノ風ナドニ)

かざをり-えぼし（名）〔風折烏帽子〕〔風ニ吹キ折ラレタル形ノ意カ〕本名、平禮烏帽子。立烏帽子ノ頂ヲ、筋違ニ折リ伏セタルモノ。略儀ノモノニテ、狩衣ニ用キル、左折、右折、ノ別アリ。(烏帽子ノ條、見合スベシ)裝束抄、元「武官裝束之事、云云、烏帽子(風折、右眉、組懸有、云云)」

かざ-をれ（名）〔風折〕樹、竹、ノ枝ナドノ、風ニ吹カレテ、折レタルコト。夫木抄、廿

九、松「片山端ノ、松ノ嵐折」曾丹集「深山ニハ、山ノ[illegible]ノ、[illegible]、[illegible]カカレリ」

かし (名) 【橿】〔字ハ、堅木ノ合〕喬木ノ名。枝葉茂ル、材堅キガ故ニ、堅木ノ名モアリ、赤樫、白樫ノ二種アリ、[illegible] 倭名[illegible]三十[illegible]。赤樫ハ、又、[illegible]樫トモ云フ、高サ數丈、葉ノ形、橢ニシテ厚ク、粗キ鋸齒アリテ、互生シ、冬、枯レズ、春、二寸許ノ穗ヲ生ジテ、黄白花ヲ開ク、栗花ノ痩セタルガ如シ、實ノ形、小サク圓ク尖リテ、熟スレバ黄褐色ナリ、苦クシテ食フベカラズ、材ノ色、赤黒シ。[illegible] 白樫ハ、葉、狹ク小サクシテ、椎ノ如ク、鋸齒アリ、實ハ、あかがしヨリ稍小サクシテ、苦ミ少ク、食フベシ、材ノ色、稍白ク、最モ堅クシテ、舟車ヲ造ル等、種種ノ用ヲナス。[illegible]

かし (名) 【枷】〔樫ノ材ニテ造ルニ起レル名カ、刑具ノ名モ、是ヨリ起レリ〕刑罰ノ具、今、かせトモ云フ。木、又ハ、鐵ニテ作リ、人ノ體ニ加ヘテ、自由ナラシメザルモノ。頸ニハムルヲ、頸かし(盤枷)トイヒ、手ナルヲ手かし(梏、杻)トイヒ、足ナルヲ足かし(桎、械)ト云フ。倭名抄、十三、刑罰具「[illegible]、久比加之」[illegible]、梏、天加之、械、桎、[illegible]之[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]作者、皆著[illegible]二太平記、[illegible]、地獄ノ罪人「頸械、手枷ヲ入レラレ」

かし (名) 【牂牁】〔玉篇「牂牁、繫レ船大杙也」〕船ヲ繫ギ止ムベキタメニ、立ツル杙。モヤヒグヒ。今モ、舟人ノ、棹ヲ水中ニ植テテ、舟ヲ繫グヲ、かしをふる、又、かしをつくト云フ。[illegible]、[illegible]二、[illegible]フリタテテ一[illegible]、[illegible]舟ノ、[illegible]フルホドニ」倭名抄、十一二舟具「[illegible]、[illegible]以[illegible]舟、[illegible]之」

かし (名) 【河岸】〔前條ノ牂牁ヲ立ツル處ノ義〕(一)水邊ノ、船ヲ寄セテ、人、又ハ、物ヲ上ゲ下ス、ベキ處。(二)河岸ニ立ツ市場。[illegible]「[illegible]」河岸をかへるトハ、酒處ヲ轉ズル意ヨリ、場處ヲ移ス。

かし (名) 【貸】(一)貸スコト。(二)貸シタル金錢、品物。

か-し (名) 【家資】家ノ資産。家産。シンダイ。元稹詩「何曾變二官序一、不レ省レ計二家資一」〔家資分散〕

か-し (名) 【下士】陸海軍ノ下士官。

か-し (名) 【下賜】下ダシ、賜ハルコト。〔御下賜金〕

かし (感) 念ヲ推シテ云フ意ノ感動詞。古語ノ末ニ入ル。竹取物語「ハヤ殺シ給ヒテヨかし」「行クかし」「見ヨかし」「長シかし」「是レゾかし」

か-し (名) 【家事】家内ノ用事。禮記、喪大記「既葬與レ人立、云云、大夫士言二公事一、不レ言二家事一」〔家事ヲ打捨テ〕

か-し (名) 【遐邇】遠キト、近キト。遠近。晉書、[illegible]記「今皇化日隆、遐邇[illegible]、[illegible]」

が-し (名) 【餓死】ウエジニ。戰國策、秦策「[illegible]、百日而餓死」百錬抄、九、寬和元年六月廿八日「天下飢饉、餓死者、不レ知二其數一」

かし-あげ (名) 【河岸揚】船荷ヲ、河岸ヘアグルコト。ミヅアゲ。

か-しゅう (名) 【何首烏】蔓草。かしゅう、又、かしゅういもノ條ヲ見ヨ。

かし-うしな・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (他動、四) 【貸失】かしなくす(貸亡)ニ同ジ。

かし-うり (名) 【貸賣】價ノ代ヲ貸シテ、物ヲ賣ルコト。カケウリ。(現金賣ニ對ス) 賒賣

か-しか (名) 【河鹿】「かはしかノ略、河原ト[illegible]、かはよもぎ、河童、かは[illegible]」淡江(岡本保孝)[illegible]、下「丸山、木妙寺上人云、河鹿ノ鳴ク聲、しゅうしゅうしゅうト聞ユ、鹿ノ鳴クモしゅうしゅうト聞キナサルルモノナレバ、川ニ棲ム鹿ト云フ意ニテ、河鹿トハ、俗ニ名ヲ負ヒケム」一古名、かはづ。かへるノ一種、山川ノ清流中ニ棲ムモノ。形、小サク、體、痩セテ、扁アリ、色、黒シ、又、褐色ニ黒キ斑アルモアリ、足、細長シ、秋ニ至リ、更ニトニ、石上ニ出デテ鳴ク、一ツ鳴ケバ、皆、鳴ク、聲小サクシテ、清ク、抑揚多シ、好事ノ人、飼ヒテ聲ヲ賞ス。丈、極メテ小サク、八九分ナルハ雄ニテ、聲、最モ佳シ、一二寸ナルハ雌ナリ。錦襖子 九九記「堰キ入ルル、庭ノ山水、コロコロト、石伏かじか、雨スサムナリ」

かし-かた (名) 【貸方】〔借方ニ對ス〕貸人ニ同ジ。

かし-かま・し・シキ・シケレ・シク・シク (形、二) 【囂】〔囂しノ語原ヲ見ヨ〕かまびすしニ同ジ。カシマシ。ヤカマシ。宇津保物語、藤原君「かしかまし、[illegible]ニカカル、[illegible]ノ言コ、我レダニ物ハ、言ハデコソ思ヘ」源、三十八、夕霧「耳、かしかましう聞キ寄ク」

かじか・む・ム・メ・マ・ミ・メ (自動、四) 【悴】〔かじく(悴)ト通ズ、やさかむ(瘦)ト云フ語モアリ〕(一)痩レ、痩ス。カジク。字鏡三十六「悴、容貌瘦、豆加留、又、可志加无」(二)凍エテ、働カズ。(手ナドニ) 龜手

かしぎ (名) 【炊】飯ヲ炊グ人。メシタキ。[illegible]、十八、[illegible]、[illegible]ガ、御飯ヲ米ノ飯ニシタリケレバ「人ハ皆、米ヲゾ飯ニ、炊グメル、コノ御かしぎハ、飯ヲ米ニス」

かしき (名) 【標】〔又、かいしきトモ云フ、搔敷ノ音便略ニモアラムカ〕又、かいしき、[illegible]ノ[illegible]物、今、かいしきト云フ、其條ヲ見ヨ。[illegible]、[illegible]、十八、[illegible]、[illegible]ノ[illegible]、[illegible]山家集、上、冬「アラチ山、サカシクドル、[illegible]、かしきノ[illegible]、ツクル自[illegible]」

かしぎかて (名) 【餉飯】〔炊糧ノ義ナラムト云フ〕米ニ、粟、稗、[illegible]ナド加ヘテ、炊ギタルモノ。カテメシ。倭名抄、十六、[illegible]、[illegible]也、[illegible]之[illegible]」

かし-きん (名) 【貸金】貸シタル金錢。

かしぎ-め (名) 【炊女】神饌ヲ炊グ女。[illegible]時祭式「炊女四人」

かしぎ-や (名) 【炊屋】飯ヲ炊ギ出ス所。大炊殿。竈殿。[illegible]

かしきり (名) 【貸切】カシキルコト。浮世[illegible]、[illegible]、[illegible]ノ[illegible]ハ、[illegible]ノ衣裳棚ユエ、戸ニ紙ヲ貼リテ、家家ノ印ヲ書付アリ」

かし-き・る・ル・レ・ラ・リ・レ (他動、四) 【貸切】全部、一人ニ貸シテ、他人ノ使用ヲ許サズ。

かしく (句) 【可祝】あなかしこノ略轉。婦人ノ書状文ノ末ニ、めでたくかしくト用ヰル。[illegible]ドニ、ソコニ、ビビシウモテナシタマフトカ、世ニ云フメル、ソレハシモ、ウメキモキコエテム、かしく」一休咄(寬文)一休、正月ニ、されかうべヲ抱キアリク、人、其故ヲ問ヘバ「ニクゲナキ、コノされかうべ、アナかしこ、めで度かしこ、コレヨリハナシ」

かし・ぐ・グ・ゲ・ガ・ギ・ゲ（自動、四）［傾］かたむく（自動、四段）ニ同ジ。「舟ガかしぐ」

かし・ぐ・グ・ゲ・ガ・ギ・ゲ（他動、四）［炊爨］（一）〔米ヲ甑ニテ蒸シテ、強飯ヲ作ル。ウムス。萬葉集、五[五十三]長歌「飯ニハ、蜘蛛ノ巣カキテ、飯炊グ事モ忘レテ」字鏡[七]「炊、可志久、宇牟須」（二）釜ニ湯ヲ沸カシ、米、麥、粟ナド入レテ煮テ、又、其湯氣ニテ蒸ス。飯ヲツクル。タク。

かじ・く・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ（自動、下二）［悴］（一）〔痩セ衰フ。カジカム。シボム。垂仁紀、廿五年三月「身體悴痩、以不レ能レ登」天智紀、八年十月「憂悴極甚」似勢物語（寛永）「ヲカシ男アリケリ、イトかじけ衰ヘテ、米錢モナカリケリ」（二）凍エ、チヂム。爲忠集「行ク年ノ、積レル松ノ、霜見レバ、下葉かじけテ、見ル空モナシ」

かし-くゎん（名）［下士官］陸海軍ノ下級ノ士官。即チ、陸軍ニテハ曹長、軍曹、伍長ヲ云ヒ、海軍ニテハ一等兵曹、二等兵曹、三等兵曹ヲ云フ。下士。

かし・げる・ゲル・ゲレ・ゲ・ゲ・ゲヨ（他動、下二）［傾］カタムクル。「首ヲかしげる」

✣かじ。ける（動）［悴］かじくノ口語。

〔かしこ（代）［彼處］地位ノ代名詞。身ヨリ最モ遠キ處ニ云フ。彼ノ所。アソコ。アシコ。アスコ。（ここ、そこニ對ス）竹取物語、此處、かしこヨリ、覗キ垣間見、惑ヒアヘリ」

かしこ（形）［恐］次條ニ同ジ。宗長手記「女文、かしこかしこト、書キ捨テテ」「アナかしこ」

〔かしこ・し・キ・ケレ・ク・ク（形、一）［恐畏］（一）恐レ多シ。勿體ナシ。恐惶 萬葉集、十八[二十]長歌「掛ケマクモ、アヤニ加之古思、スメロギノ、神ノ大御代ニ」源、五、若紫[二十]「歸シ奉ラムハかしこしトテ、云云、入レ奉ル」（二）恐シ。萬葉集、六[二十]「かしこき海ニ、舟出セリ見ユ」（三）カタジケナシ。忝 辱 源、一、桐壺[廿]「目モ見エハベラヌニ、カクかしこき仰言ヲ光リニナムトテ」

〔かしこ・し・キ・ケレ・ク・ク（形、二）［賢］〔智者ハ畏き意〕（一）才能勝ル。サカシ。利巧ナリ。發明ナリ。源、一、桐壺[廿]「敏ウ、かしこくオハスレバ」同、二、帚木[九]「かしこしトテモ、一人二人、世ノ中ヲ政チ知ルベキナラネバ」（二）勝レタリ。駿 大和物語、下「御鷹、世ニ無クかしこかりケレバ」宇治拾遺、一、十八條「乘リタル馬、イトかしこしトモ見エザリツレド」（三）好シ。伊勢物語、二十一段「男、女、イトかしこく思ヒカハシテ、異心ナカリケリ」源、三十四、上、若菜、上[九十九]「風吹カズ、かしこき日ナリ」宇津保物語、俊蔭[三十八]「かしこき夢ナリ」（四）甚ジ。土佐日記、正月廿七日「かしこく歎ク」竹取物語「かしこき玉ノ枝、作ラセタマヒテ」宇津保物語、吹上、下[十四]「かしこく罷ク」同、藏開、中[十四]「かしこく打タレ侍リツルカナ」

かし-こ・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）［貸越］定限ヲ越シテ貸ス。

かしこ-だて（名）［賢立］サカシラ。サクジリ。利巧ブルコト。衒氣

〔かしこ-どころ（名）［賢所］〔畏み奉ツル所ノ義〕（一）内裏ノ溫明殿ノ内ニテ、天照大神ノ御靈代ナル神鏡ヲ奉安スル所。女官ノ内侍、コレヲ守護スルガ故ニ、内侍所トモ申ス、明治ノ御代ニ、東京ノ宮城内ニ溫明殿御造營アリテ、神殿、皇靈殿ト共ニ、三神殿ト申ス。音讀シテ、賢所。榮花物語、二、花山「中納言ハ、云云、賢所ノ御前ニ伏シマロビタマヒテ、云云」釋紀、天德御記、天德四年九月廿四日「内裏燒亡之時、内侍所神鏡不ニ燒損一」（二）轉ジテ、直チニ神鏡ヲ、賢所、内侍所ト申ス。紀略、後篇、四、天德四年九月廿三日「内裏燒亡、廿四日、昨夜鏡三（註、和名、加之古止古呂）幷大刀契、不レ能ニ取出一」江家次第、十一、内侍所御神樂事「内侍所者、神鏡也」

かしこまり（名）［畏］（一）〔カシコマルコト。畏敬 源、二、帚木[二]「イヅクニモマツハレ聞エ給フホドニ、オノヅカラかしこまりモオカズ」（二）謝辭ヲ申スコト。拜謝 盛衰記、十一、靜憲入道問答事「御中陰、終リタマヒナバ、急ギ御院參有テ、かしこまりヲコソ申サセタマハザラメ」（三）〔懈怠ノイヒワケ。恐謝 宇津保物語、吹上、下[七]「久シウ對面給ハラズナリニケレバ、ソノかしこまりモ聞エムトテナム」同、藤原君[三十]「かしこまりモ、喜ビモ、ヒトタビニ聞エムトテ」（四）〔勘氣。勘當。トガメ。源、十二、須磨[四十]「源氏ノ光ル君コソ、オホヤケノ御かしこまりニテ、須磨ノ浦ニモノシタマフナレ」顯輔集「白川ノ院ノ、御かしこまりナル頃」

〔かしこま・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）［畏］〔次條ノ語ノかしこむノ未然形ナル、かしこまヲ活用ス、かがむ、かがまる。ちぢむ、ちぢまる〕（一）畏ミ思フ。畏レ敬ム。畏敬 宇津保物語、祭使[四十]「博士タチ、かしこまりテ候フ」（二）敬ヒテ、ヒザマヅク。敬跪 宇津保物語、忠杜[二十]「君ノオリタマフ所ニ、五位六位、ヒザマヅキかしこまる」（三）敬ミテ、心得。ウケタマハル。敬承 竹取物語「翁、かしこまりテ、御返言申スヤウ」「仰セヲかしこまる」（四）恐レ入ル。恐悚 恐謝 源、三十五、柏木[廿四]「六條院ニ、イササカナル事ノ違ヒメアリテ、月頃、心ノ内ニ、かしこまり申ス事ナム侍リシヲ」

〔かしこ・む・ム・メ・マ・ミ・メ（自動、四）［畏］〔畏しノ語根ヲ活用ス、赤し、あかむ〕（一）畏シト思フ。恐レハバカル。カシコマル。推古紀、廿年正月、長歌「訶之胡彌テ、仕ヘマツラム」字鏡[七十六]「悸、惶也、加志古牟」（二）謹ミ、ウケタマハル。敬承 續紀、一、元年八月、詔「大命ヲ受ケタマハリ、恐坐シテ」萬葉集、二十[五十二]「大君ノ、命加之古美、意宇ノ浦（出雲）ヲ、背面ニ見ツツ、都ヘノボル」（召命ニ接シタルナリ）

かし-ざしき（名）［貸座敷］（一）席料ニテ貸ス座敷。貸席。（二）遊女屋。ヂョロヤ。青樓

かし-せき（名）［貸席］料ヲ取リテ、一時貸ス座敷。

かし-そつ（名）［下士卒］下士ト、兵卒ト。

かし-だな（名）［貸店］屋賃ヲ取リテ貸ス見世。

かし-だふれ（名）［貸倒］貸金、又、貸物ノ、損失トナレルコト。

かし-ち（名）［貸地］地代ヲ取リテ貸ス地面。代官觸留、四「拜領屋敷、貸地之儀ニ付、云云」

か-しち（名）［家質］家宅ヲ、質ニ入ルルコト。典房 今宮心中（寶永、近松作）中「七貫五百目、上本町ノ家質ノ手形」

か-しつ（名）［家室］（一）イヘ。家內。史記、淮南厲王長傳「治ニ家室一、賜ニ其財物、爵祿、田宅一」（二）ツマ。閨室。十訓抄、中、第五、十八條「安康天皇ハ、御弟ノ大草香皇子ノ家室、容姿スグレ給ヘル由ヲ聞キ給ヒテ、使ヲツカハシテ」

〔かしづき（名）［寵］（一）カシヅクコト。養ヒ護ルコト。愛護 源、三十四、下、若菜、下[六]「アケタテハ、猫ノかしづきヲシテ、撫デ養ヒタマフ」（二）ウシロミ。ダキモリ。傅 枕草子、五、四十六段「宮ノ、五節出ダサセタマフニ、かしづき十二人」

〔かしづき-ぐさ（名）［傅種］カシヅク種。養フモノ。源、五、若紫[五十三]「コレハイト、狀カハリタル、かしづきぐさナリト思イタメリ」（紫上ヲ云フ）同、十九、薄雲[十]「明ケ暮レノかしづきぐさヲサヘ、離レキコエテ」（子ヲ云フ）

かし-づ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ（他動、四）［寵］〔恐みつくノ略カト云フ、（窺ひ狙ひヲうか

ねらひナド、略シタル語モアリ)いつく、同意」(一)〔附添ヒテ、大切ニ護ル。イツク。大事ニスル。[illegible] (二)[illegible] 名義抄「傅、カシヅク」(三)トツグ。ヨメイル。(夫ニ給仕く意)〔嫁〕

かしつけ (名) 〔貸附〕 金錢ヲ貸シツケルコト。[illegible]「[illegible]貸附取扱候御代官口ハ、利金歩合被ニ下候ニ付」

かしつ・ける・ケル・ケレ・ケ・ケ・ケヨ(他動、下二) 〔貸附〕 貸シ與フ。貸ス。[illegible]、二十一、寬政十二年申年十一月廿六日「元備付候月ヨリ、十八ケ月内ニ願出、云云」

かして (名) 〔貸人〕 金錢、品物ナドヲ貸ス人。カシヌシ。カシカタ。(借人ニ對ス)〔債主〕

かしどり (名) 〔樫鳥〕 「好ミテ樫ノ實ヲ啄メバ名トスト云フ」かけすニ同ジ。夫木抄、二十、山「夏麻引ク、ウナガミ山ノ、椎柴ノ、かしどり鳴キツ、夕[illegible]シテ」

かしなく・す・ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) 〔貸亡〕 物ヲ貸シテ、亡ス。貸シ失フ。

かしぬし (名) 〔貸主〕 貸人ニ同ジ。

かしのみの (枕) 〔樫實〕 〔椎子ナドハ、集リ結ブニ、樫子ハ、一毬ノ内ニ一ツナレバ云フ〕 一箇、一人ナド云フ語ノ枕詞。萬葉集、九「[illegible]ノ、獨リ[illegible]」

かしは (名) 〔堅磐〕 〔堅し磐ノ約略、堅磐〕かきは(一)[illegible]、又、石トモ云フニ同ジ。萬葉集、七ニ「吉野川、石迹柏(石ト常磐)トナ、常磐、語レハ通ハム、萬世マデニ」(いつもかはらずノ意)

千載集、十一、戀、一「難波江ノ、藻ニ埋ルル、玉かしは、顯ハレテダニ、人ヲ戀ハバヤ」(玉ハ、美稱)

かしは (名) 〔[illegible]〕 [illegible]ノ約、[illegible]紀、七年八月「堅磐、此云ニ柯陀之波ニ」葉ノ[illegible]、[illegible]ノ名トシテ用キル、木ノ葉ノ稱。くぼて、(葉椀)ひらて(葉盤)ナド、是レナリ。古事記、中(應神)ニ「[illegible]大御酒ノ柏」仁德紀、三十年九月「葉、此云ニ箇始婆ニ」(酒盃ナリ)[illegible]シテ「俗無ニ盤組ハ藉以ニ柏葉ニ」

かしは (名) 〔柏〕 「かしは木ノ略、(本草和名、下ニ「槲、加之波岐」)かしはハ、前條ノ語ナリ、此樹葉、シナヤカニシテ、食ヲ盛ルニ最モ好ケレバ、其名ヲ專ラニセシナラム、天治字鏡、七ニ「[illegible]、万加志波ニ」」雜木ノ名。幹ニ凹凸多シ、葉ハくぬぎヨリ長大ニシテ、長サ六七寸、幅三四寸、末廣クシテ、尖リ、厚クシテ、粗キ鋸齒アリテ、互生ス、春夏ノ交、枝ノ間ニ花穗ヲ垂ル、栗ノ花ニ似テ、小サシ、實ハあかがしニ似テ大キク、蔕モ似タリ。大木ナレド、材、用ニ堪ヘズ、薪トシテ佳ナリ。一名、ははそ。轉ジテ、はうそ。[illegible]倭名抄、二十「[illegible]、柏、加之波」大はうそハ、葉ノ長サ一尺餘アリ。小ばうそハ、葉、二三寸許、即チ、槲ナリ。

かしは (名) 〔黄鶏〕 〔色、柏ノ枯葉ニ似タル意カト云フ、或ハ云フ、蕃語ナリト〕 鶏ノ一種、羽ノ褐色ナルモノ。肉ヲ食フニ就キテノ名ナリ。かしはめんどり

トテ、[illegible]

かしはき (名) 〔[illegible]〕 [illegible]一ニハ「施し佩き」ノ約ニテ、箭ヲ負ヘルヲ[illegible]セシ語カト云ヘリ」[illegible]門ノ異稱。[illegible]ヲカシ、衛守ノ神ノマスラムモ、イトカシコシ、兵衛[illegible]ム、世ニフリニケリ」

かしはで (名) 〔膳夫〕 「かしはハ、[illegible]ナリ、(其條ヲ見ヨ)葉椀、葉盤ノ類ヲ云フ、てハ、人ナリ」(一)食膳ヲ調ズル事ヲ掌ル人。[illegible]、十八年八月[illegible]天治字鏡、十一[illegible] 膳部。[illegible]

かしはで (名) 〔拍手〕 〔饗膳ヨリ、酒宴ニ手ヲ拍ツ拍上ニ移リテ成レル語ナルベシ、貞觀儀式、鎭魂祭儀「大臣[illegible]、[illegible]云、御飯賜畢、共拍ニ手三度、[illegible]三行、亦拍ニ手一度」續紀、二十八、神護景雲元年八月「於ニ西宮寢殿ニ設ニ齋、[illegible]拍ニ手歡喜ニ」(節文)三代實錄、三十六、元慶三年十月「大極殿成、設ニ宴、飛騨工等、起ニ座拍ニ手歡舞ニ」(節文)[illegible]會ニ、群臣、拍手シテ、白酒、黒酒ヲ賜ハル、(江家次第)然レドモ、かしはでトハ、古ヘニ聞コエズ語ナリト云ヘバ、イカガアルベキ、拍ヲ柏ト誤讀セシニ起ルト云フハ、拙シ」兩ノ掌ヲ打合セテ、音ヲ立テサスルコト。感動ノ切ナル餘リニスルワザナルヲ、禮儀ニ移シテモスルナリ。[illegible]

[illegible]不ニ拍手、以ニ有ニ諒闇ニ也」後ニハ專ラ、神拜ニ行フコトトナル、四度拍ツヲ一段トス、四段ナルアリ、八開手アリ、短クニツ拍ツヲ短手ト云フ、[illegible]「[illegible]柱手響ク山ノ[illegible]」

かしはどの (名) 〔膳殿〕 〔膳、又、[illegible]〕 大膳官ナドニアリ。[illegible] 神饌ヲ調ズル所、神宮、又ハ、[illegible]

かしはばさみ (名) 〔柏夾〕 〔葉椀、葉盤[illegible]ニ、葉ヲ竹針ニテ刺シ作ルニ[illegible]名カ、[illegible]ニ白木ヲ[illegible]書キシヨリ、かしは夾みト云ヒナセリ」トアル、「イカガ」〕 冠ノ垂纓ヲ、二重ニ折リテ、白木ノ挾木ニテ挾ミ止ムルモノ。非常ノ時、急用ノ使ナドニスルコトナリ。[illegible]小夾、夾何也、非常事、公卿以下兼ニ武官ニ人、柏夾也」[illegible]常惟方、新大納言經宗、直衣ニ柏夾みシテ、供奉シ」

かしはめんどり (名) 〔黄鶏雌鳥〕 かしは(黄鶏)ノ條ヲ見ヨ。

かしはもち (名) 〔柏餅〕 (一)あんさノ餅ニ餡ヲ包ミテ、又、枯ラシタル柏ノ葉ヲ二ツ折リニシテ、包ミテ蒸シタルモノ。端午ノ節物トス。[illegible]兵衛嶋、かしはもちクレル」(二)五幅蒲團ヲ、二ツ折リニシテ、其間ニ[illegible]コト。

か-しふ (名) [歌集] 諸人ノ和歌ヲ集メ記シタル書物。一人ノ歌ヲ集メタルヲ家集ト云フ。「敕撰歌集」

〜か-しふ (名) [家集] イヘノシフ。前條ヲ見ヨ。古今集、序「詔大内記紀友則等、各獻家集幷古來舊歌」 東野州聞書「俊成卿ノ家集ヲ、長秋詠草トイフ」 拾遺集、十七、雜秋「天曆御時、伊勢ガ家の集召シタリケレバ」

か-じふ (名) [家什] 家具。家財。

が-しふ (名) [我執] 我意ニ偏執ナルコト。盛衰記、九、堂衆軍事「堂衆イヨイヨ、我執ヲ起シテ」

かし-ほん (名) [貸本] 見料ヲ取リテ貸ス書籍。

かし-ま (名) [貸間] 席料ヲ取リテ貸ス座敷。下宿ノ室。

かしま・し・シキ・シケレ・シク・シク (形、二) [囂] 〔かまし(囂)ノ語原ヲ見ヨ〕 喧シ。カシカマシ。ヤカマシ。榮花物語、二十七、衣珠「板屋ハ、雨ノ音ノかしましサコソ、スヂナク侍リケレ」 金葉集、八、戀、下「かしましや、山ノ下行ク、サザレ水、アナカマ我レモ、思フ心アリ」

かしま-だち (名) [鹿島發] 〔鹿島ノ神、卽チ、武甕槌神ノ、神代ニ、天孫降臨ニ先ダチ、國土ヲ平定シタマヒシ吉例ヲ、遠ク傳ヘシ語カト云フ〕 首途。旅立。萬葉集、二十「アラレフリ、可志麻ノ神ヲ、祈リツツ、皇軍ニ、我レハ來ニシヲ」(防人ノ、筑紫へ旅立ノ詠ナリ) 竜玖波集(文和)羇旅「コレゾコノ、旅ノ初ヤ、かしま立」

かしま-の-ことぶれ (名) [鹿島事觸] 常陸ノ鹿島ノ神ノ、年ノ豐凶ナドヲ神託アルヲ、神人、春毎ニ、諸國ニ觸レ知ラセタルコト。略シテ、ことぶれ。洛陽集(延寶)「ことぶれヤ、獨言云フ、神無月」 人倫訓蒙圖彙(元祿)四「事觸、毎年、鹿島ノ神前ニシテ、行ヒノ事アリ、云云、吉凶ヲ示シタマフトカヤ、其告ゲヲ知ラセタルコト、此神官ノ役也、末世ハ是ヲ以テ、宮雀ノスギハヒトナシ、云云」 倭訓栞、ことぶれ「鹿島の事ぶれトテ出ヅル事ハ、鹿島ニ占トノ一流アリシヨリノ事ナルベシ」

カジマル (名) [榕] 〔沖繩語、ガジマル〕 又、カズマル。あこう(榕)ニ同ジ。

かしま-をどり (名) [鹿島踊] 一種ノ踊。寬永中、諸國ニ疫病行ハル、常陸ノ鹿島ノ神輿ヲ出シ、諸所ニ渡シテ、其患ヲ祓ヒ、因リテ勇メテ躍ラシメシニ起ルト云フ。(近代世事談、四) 月ノ大小、種蒔ノ時節ヲ云フ踊ナリ。(嬉遊笑覽、五)

カシミヤ (名) 〔英語、Cashmere.〕 舶來ノ毛織物。地質強クシテ、光澤アリ、多ク、女學生ノ袴地ニ用キル。

か-しん (名) [嘉辰][佳辰] ヨキ日ガラ。メデタキ日。吉日。吉辰。下筠詩「長絲表良節、命縷應嘉辰」 梁元帝纂要「春日靑陽、辰曰良辰、曰嘉辰、曰芳辰」

か-しん (名) [家臣] 家ニ屬キタル臣。家人。史記、孔子世家「孔子適齊、爲高昭子家臣、欲以通景公」

か-じん (名) [家人] 家ノ内ノ人。妻子眷屬。詩經、周南、桃夭篇「之子于歸、宜其家人」

か-じん (名) [佳人] 美人。淮南子、說林訓「佳人不同體、美人不同面、而皆說於目」「佳人才子」

か-じん (名) [歌人] ウタビト。和歌ヲ詠ム人。ウタヨミ。運歩色葉集、賀「歌仙、歌人」 拾遺集、十七、雜秋「三條太政大臣家ニテ、歌人メシアツメテ、アマタノ題ヨマセ侍リケル」

かし-もの (名) [貸物] 貸ス物品。

かし-や (名) [貸屋] 屋賃ニテ貸ス家。賃房。

か-しゃ (名) [假借] (一)カルコト。カスコト。南史、袁峻傳「家貧無書、每從人假借、必皆抄寫」 (二)六義ノ一。其條ヲ見ヨ。說文、序「假借者、本無其字、依聲託事、令長是也」 (三)ユルスコト。戰國策、燕策「北蠻夷之鄙人、未嘗見天子、故振慴、願大王少假借之、使得畢使於前」「苟クモ假借セズ」

か-しゃう (名) [嘉獎] ホメ、ススムルコト。宋史、薛映傳「以映有治狀、賜御書嘉獎」

か-しゃう (名) [嘉賞] ヨミシ、ホムルコト。陳書、文學傳、徐伯陽「甚見嘉賞」

か-じゃう (名) [嘉祥] (一)室町時代ノ末頃ヨリ、六月十六日、疫病ヲ除クタメニトテ、菓子ヲ食フコト。(二)德川時代ニハ、此ノ日、將軍、大廣間ニ出デ給ヒ、御目見以上ノ士ニ、菓子一種ヅツヲ賜フ式。天保ノ川柳「片袖ハ、重キ嘉祥ノ、御退出」

か-じゃう (名) [下情] シモジモノヤウス。民間ノ狀態。管子、明法篇「下情求不上通、謂之塞」「善ク下情ニ通ズ」

が-じゃう (名) [牙城] 〔牙旗ノ建テル城〕 城ノ本丸。唐書、李愬傳「愬以左右登牙城」

か-じゃう-ちゃ-はん (名) [家常茶飯] (一)家庭ニ於ケル、イツモノ食事。(二)アタリマヘノコト。五燈會元「佛祖言句、如家常茶飯」

か-しゃく (名) [呵責] 呵リ、責ムルコト。責メ、サイナムコト。三國志、魏廢帝髦紀「吾數呵責」 平家物語、二、小松教訓事「阿防羅刹ガ呵責スラムモ、コレニハ過ギジトゾ見エシ」

か-しゃく (名) [假借] 假借ノ(三)ヲ見ヨ。

か-じゃく (名) [下若] じゃうりん(上林)ノ條ヲ見ヨ。太平御覽、六十五「輿地志曰、南岸曰上若、北岸曰下若、乃村名也、村人取下若水以釀酒、極美騎于雲陽」

か-しゅ (名) [嫁娶] 〔白虎通「嫁者家也、娶者取也」〕 (一)よめいりト、よめとりト。史記、帝王世紀「太皞始制嫁娶、以儷皮爲禮」 (二)結婚スルコト。

が-しゅ (名) [雅趣] ミヤビナル趣味。雅致。江淹、修心賦「保自然之雅趣、鄙人間之荒雜」

か-しゅ-う (名) [何首烏] 蔓草ノ名。元ハ支那種ナリ、今ハ處處ニ植ウ。春、宿根ヨリ芽ヲ生ズ、葉ハ、互生シテ、圓ク尖ルコト、まんだらげノ如シ、秋ノ末、蔓ノ梢ニ、一尺許ノ穗ヲ成シテ、細小ノ白花ヲ綴リ開ク、いたどりノ花ニ似タリ、實ハ蓼ニ似テ小サシ、根塊、小サキハさつまいもノ如ク、大イナルハしろうりノ如シ、藥用トス。

か-じゅう (名) [家從] 家令ノ條ヲ見ヨ。

かしゅう-いも (名) [黃獨] 〔根ノ形、何首烏ニ似タレバ云フ〕 薯ノ類。蔓生ス、葉ハ、やまのいもヨリ圓クシテ、大キサ五寸許、花ハ、やまのいもニ同ジ、むかごノ形、大キクシテ圓ク扁ク、一寸許、周ニ疣アリテ、褐色ナリ、根塊ハ、年ヲ歷テ大キクナリ、圓ク扁ク、三四寸、かしゅうだまト云フ、粗キ鬚多ク、味、苦シ、灰汁ニテ煠デテ、再ビ煮テ食フ、黃ニシテ、栗ノ如シ。一名、毛薯。

かしゅう-だま (名) 前條ヲ見ヨ。

か-しゆく (名) 家塾 學者ノ家ノ内ニ設ケタル塾。 [illegible]

が-しゆん (名) [illegible] 詞ノカヒ正シクシテ、能ク事ノ[illegible]レテ居ルコト。文章ナドノ、上品ニシテ、[illegible]ナラザルコト。 [illegible]

か-しよ (名) 個所 其物事ノアル所。指ストコロ。

か-しよ (名) 歌書 和歌ヲ記シタル書物。歌道ノ書籍。 [illegible]ヨリモ、(宋書ニ悲シ、吉野山」

か-しよ (名) 加署 公文ニ、名ヲ署スルコト。 江家次第、二、七日節會「[illegible]内侍[illegible]之」

か-しよう (名) 家乘 其家ノコトヲ記セル記錄。 [illegible]

か-しよく (名) 稼穡 〔周禮、遂師、疏「春種曰稼、秋斂曰穡」〕 穀物ヲ植付ケ、耕作シ、收納スルコト。 [illegible]

かし-よね (名) 粿米 〔淅米(カシヨネ)ノ義〕 精米ヲ、水ニテ清ク洗ヒタルモノ。多ク、神ニ供フルニ云フ。アラヒヨネ。洗米(センマイ)。 倭名抄、十六[illegible]「粿米、淨米也、[illegible]」

か-しら (名) 頭 〔上代(カミヨ)ノ略轉カ、(かみさし、かざし。(插頭)すめらき、すめろき(皇)〕 (一)首(カウベ)ニ同ジ。頭(カブ)。ツムリ。アタマ。クビ。頭。 倭名抄、二「頭、[illegible]之良」 (二)髮 字鏡[illegible]「[illegible]、加之良介[illegible]」 土佐日記、正月廿一日「かしらモ、皆白ケヌ」 源、五、若紫五「かしらモオロシハベリニケルヲ」(落飾) (三)物事

ノ[illegible]モ上、或ハ、前、或ハ、先ナル部、[illegible] (四)[illegible]上[illegible]先ニ居ル人。長。頭目[illegible] コノ秀武ハ、三陣ノ頭ニ定メタリシ人ナリ」 (五)月ノ[illegible]。「[illegible]」 (六)佛像、又ハ、大名ナドノ數フルニ云フ語。 宇治拾遺、九、第五條「佛、云云、幾かしら造り奉リタルゾト問ヘバ、五頭造り奉レリト云フ」大名フタかしら」

かしら-あか (名) 頭垢 「かしらハ、髮ナリ、前條ノ(二)ヲ見ヨ」 イロコ。今、フケ。 康頼本草、下[illegible]「頭垢、[illegible]」 [illegible]心方、一六十「頭垢、加之良乃安加」

かしら-がき (名) 頭書 書物ノ本文ノ欄(スヂ)ノ上ニ、注釋、批評ナド、書キ加フルコト。鼇頭。標注。 雅亮裝束抄、奥書、かしらがきハ、故殿ノ御手ナリ」

かしら-がさ (名) 頭瘡 今、音讀シテ、づさうト云フ。其條ヲ見ヨ。 倭名抄、三十「[illegible]頭瘡也、加之良加佐」

かしら-かた・し・キ・ケレ・ク・ク (形、二) 頭堅 「かしらハ、腦力ノ意カ、かみかたしトモ云フハ、頭堅シノ義、かしらヲ、かみトモ云フ、其條ヲ見ヨ、コレニ反スルヲ、首(クビ)細し、心弱し、心細しト云フ」 心、堅固ナリ。壯健(スコヤカ)ナリ。又、かみかたし。 榮花物語、五、浦浦別「かしらダニかたくオハシマサバ、天下ノ君ニコソハオハシマスメレ」 長門本、平家物語、三、師高被討事「かしらかたく生ヒタチタラバ、法師ニナリテ、我ガ後生ヲ弔ヘヨ」 千載集、十八、物名、からかみのかたき「夜ト共ニ、心ノカケテ、[illegible]メドモ、我レカラかみノ、かたきシルシカ」 東海道名所記(萬治)三、宇都の山「團子一千ヲツクリテ、持チテ[illegible]レバ、子供ノ首かたしトカヤ申シ傳ヘシ」

かしら-じ (名) 頭字 (一)語句ノ首(ハジメ)ノ字。 好色一代女(貞享、西鶴)五「御名ハ、此方(コナタ)樣ノかしら

字[illegible] (二)[illegible]文章ノ首、又ハ、固有名詞ナドノ首ニ用ヰル、形ノ大キナル字。キャピタル。

かしら-だ・つ・ツ・テ・タ・チ・テ (自動、四) 頭立 [illegible]ニ立ツ。首位[illegible]

かしら-つき (名) 頭付 [illegible]ノ魚肴ノ、切肉ナラズ、頭、尾、全身ノモノ。

かしら-の-かはら (名) 顱 〔骨ノ條ヲ見ヨ〕 頭蓋骨(ヅガイコツ)。腦蓋(ナウガイ)。アタマノサラ。アタマノハチ。 倭名抄、三「顱、[illegible]、加之良乃加波良」

かしら-びな (名) 首雛 がてんくびヲ見ヨ。

かしら-ぼね (名) 頭骨 魚ノ頭ノ中ニアル、丁ノ字ノ形ヲナセル骨。魚丁 魚枕

かじり (名) 呪詛 カジルコト。呪(ノロ)フコト。次次條ヲ見ヨ。

かじり-つ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (自動、四) 齧付 (一)カミツク。カブリツク。クヒツク。 (二)取リ付キテ、離レジトス。スガリツク。 安永ノ川柳「タノモシイ奴、猪牙舟ヘ、かじりつき」

かじ・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 呪詛 思ヒツメテ、呪(ノロ)フ。トコフ。 神武紀[illegible]「自祈而寢、夢有天神、訓之曰、云云、[illegible]呪[illegible]」(註「此云[illegible]」) 如此則虜自平伏、云云、有所呪著(ノリツクル)[illegible] 欽明紀、二十三年六月「[illegible]子守石[illegible]中瀾氷、將投火中、呪曰、[illegible]投火[illegible]呪訖、欲投火、云云」

かじ・る・ル・レ・ラ・リ・レ (他動、四) 嚙 堅キモノヲ、端ヨリカム。「[illegible]、餅ヲかじる」

かす (名) 滓 (一)[illegible](オリ)。 倭名抄、十一[illegible]「[illegible]、美豆加[illegible]乃加須」 宇津保物語、藤原君廿九「胡麻(ウゴマ)ハ、

[illegible] (二)[illegible]物。多クノ中ニテ、最モ劣レルモノ。屑。

かす (名) 糟 [illegible] 倭名抄[illegible]「糟、酒滓也、加須」

かす (名) 叱 [illegible] 叱言(コゴト)ノ俗語。「かすガ出タ」かすヲ食フ」

か・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) 淅 說文「淅、汰米也」 (一)米ヲ、水ニテ洗ヒトグ。 天治字鏡、十二[illegible]「粿米」「米淅桶(カシヲケ)」 (二)漬(ツ)ク。浸(ヒタ)ス。 堀河百首、春、秋刈リシ、室ノをしねヲ、思ヒ出デテ、春ゾ種井ニ、種ゾかしケル」

か・す・セ・サ・シ・ス・セ (他動、四) 貸 借るノ反、のる、(乘)のす、(載)たる、たす、(足)同趣。 イラス。返スベキ約束ニテ、他ニ物ヲ與フ。假(カリ)ニ與フ。用達ツル。 萬葉集、十八[illegible]出テテ、波立チ來ヤト、見テ歸リコム」 後撰集、十七、雜、三「岩ノ上ニ、旅寢ヲスレバ、イト寒シ、苔ノ衣ヲ、我レニかさナム」 耳ヲ貸すトハ、聽ク。手ヲ貸すトハ、助ク。

か・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ (自動、左變) 加 クハハル。增ス。「數ガ加す」

か・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ (自動、左變) 嫁 トツグ。ヨメイル。 禮記、内則篇「二十而嫁」

かず (名) 數 〔嵩(カサ)ト通ズルカ〕 (一)數(カゾ)フベキモノ。計リテ、多キ、少キ、アルモノ。數。 天治字鏡、十[illegible] (二)數ノ多キコト。クサグサ。イロイロ。多數。「數ノ物」數ノ品」數アリ」數ヲ盡クス」 (三)取出シ、[illegible]數ノ[illegible]サズ[illegible]ルコト。[illegible]

ヌ、我レユヱニ、思ヒワブラム、妹ガ可愛シサ」古今集、十五、戀、五「ハナカタミ、目ナラブ人ノ、アマタアレバ、忘ラレヌラム、數ナラヌ身ハ」源、十二、須磨四十「貴キ人ハ、我レヲ何ノ數ニモ思サジ」

ガス（名）［瓦斯］〔英語、Gas.〕（一）氣體ノ物質。流動シ易クシテ、一定ノ形狀、及、一定ノ體積ヲ有セザル物體。（二）石炭瓦斯ノ略。石炭ヨリ取レル瓦斯。專ラ、燈ヲ點ズルニ用キルニ就キテ云フ。（三）瓦斯燈ノ略。「がすヲ點ス」（四）瓦斯絲、又ハ、瓦斯絲織ノ略。「がすノ袷」

が・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ（自動、左變）［駕］〔說文「駕、馬在二軛中一、又、馭也」正字通「唐制、天子行曰レ駕、又、車乘也」〕馬、車ナドニ乘ル。詩經、鄘風、定之方中篇「星言夙駕、說二于桑田一」

が・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ（他動、左變）［賀］コトホグ。コトブク。祝フ。詩經、大雅、文王之什、下武篇「四方來賀」

カズアル（名）〔葡語、Casuar. 西語、Casoar. 英語、Cassowary.〕ひくひどり（火食鳥）ヲ見ヨ。カゾアル。

ガス-いと（名）［瓦斯絲］〔がすやきいとノ略〕石炭瓦斯ノ焔ニテ、散毛ヲ燒キテ、光澤ヲ生ゼシメタル綿絲。

ガスいと-おり（名）［瓦斯絲織］瓦斯絲ニテ織リタル織物。略シテ、がすおり。

かず-うちもの（名）［數打物］粗製ノ刀劒。（かずやりノ條ヲ見ヨ）新刀銘盡、一「數打之道具品品之事」

ガス-おり（名）［瓦斯織］前前條ノ略。

かすが（名）［春日］はるびノ條ヲ見ヨ。

かすが-がた（名）［春日形］奈良ノ春日神社ノ境内ノ、祓堂ノ社頭ニアル石燈籠ノ形。火袋、六角ニシテ、其二方ニ、牝牡ノ鹿ヲ刻リ、二方ニ、雲形ニ日月ヲ刻リ、餘ノ二方ハ空ナリ。世ニ摸造シタルモノ多シ。カスガドウロウ。

かず-か・く・ク・ケ・カ・キ・ケ（自動、四）［數書］〔數むノ意ニテ、文字書くヲ、數書くト云フナリト云フ〕水ノ上ニ、文字ヲ書ク。痕ヲ止メズ、ハカナキ意ナリ。佛經ヨリ出デタル語。涅槃經「是身無常、云云、亦如レ畫レ水、隨畫隨合」萬葉集、十一八「水ノ上ニ、數書如キ、吾ガ命ヲ、妹ニ會ハムト、祈誓ヒツルカモ」古今集、十一、戀、一「行ク水ニ、數かくヨリモ、ハカナキハ、思ハヌ人ヲ、思フナリケリ」

かず-かず（名）［數數］かずのこ（數子）ヲ云フ、婦人語。玉函叢說、四「數の子ヲかずかずトイフ、マコトニ鰊テフ魚ノ子ナレバ、かどの子トイフベキヲ、言ホギテ、ワザト、數の子トイヒカヘタルナラン」

かす-がす-に（副）〔摩摩にノ意ナルベシ〕辛ク及ビテ。エイヤット。「かすがすに間ニ合フ」

かずかず-に（副）［數數］シバシバ。頻數萬葉集、十三十二「數數丹、思ハヌ人ハ、アリトイヘド、シバシモ我レハ、忘ラエヌカモ」古今集、十四、戀、四「かずかずニ、思ヒ思ハズ、訪ヒ難ミ、身ヲ知ル雨ハ、降リゾマサレル」萬代集、二、春、下「かずかずに、訪ハム事コソ、難カラメ、花ノ盛リハ、過ギガテニセヨ」

かすが-づかひ（名）［春日使］奈良ノ春日神社ノ祭日ニ立向フ勅使。

かすが-づくり（名）［春日造］神社ノ作リ方ノ一。奈良ノ春日神社ナルヲ元トス、前面、後面、破風造ニテ、千木アリ、棟ハ前後ニ通ジ、上ニ、鰹木アリ。（ながれづくりヲ見ヨ）

かすが-づくゑ（名）［春日机］八脚ノ机ニシテ、上面ハ朱漆、他ハスベテ黑漆ニ、處處、靑貝ヲ塗リ込メルモノ。奈良ノ春日神社ノ神饌ノ用具、二十年每ニ改造セラルルモノト云フ。春日塗、コレニ起ル。

かすが-どうろう（名）［春日燈籠］かすががたヲ見ヨ。

かす-か-に（副）［幽］〔かすハ、かすむ（霧）ノ語根ト通ズ、かにハ、副詞ノ接尾語、淸かに、靜かに〕（一）確ト認メ難ク。纔ニ、見分ケ、聞キ分クベク。カソケク。ホノカニ。髣髴「かすかに見ユ」かすかに聞ユ」（二）勢ヒナク。淋シク。源、十二、須磨四「七八人バカリ御伴ニテ、イトかすかにテ出デ立チタマフ」同、十四、澪標九「母ナドモ失セテ、かすかなる世ニ經ケルガ」

かすが-ぬり（名）［春日塗］〔春日机塗ナリ、春日机ノ條ヲ見ヨ〕盆ナド、表ヲ朱漆ニ、裏ヲ黑漆ニ、靑貝ナド塗リコメタルモノ、奈良ニテ製出ス。

かすが-の-しんぼく（名）［春日神木］南都ノ春日神社ノ榊ノ稱。神人、及、興福寺ノ僧徒、社事ニ就キテ强訴セムトスル時ハ、必ズ春日ノ神輿ト、神木トヲ奉ジテ入洛ス、神木ノ在京中ハ、朝廷、公事ヲ停メラレ、多クハ、其訴訟ヲ聽許セラレタリ。此社寺ハ、藤原氏ノ氏神、氏寺ナリシガ故ナルベシ。百練抄、五、寬治七年八月廿六日「興福寺大衆、率二春日神民一、集二會勸學院一、捧二鉾神木一、愁二身鏡鉾一云云、是依レ訴ト中近江守爲家朝臣陵二礫神民一事上」同、七、久安六年八月五日「興福寺衆徒蜂起數千人、春日神民二百餘人、捧二榊神木一入洛、吹二法螺一、其聲充二滿洛中一」詩「件神木、付二鏡數枚一、稱二春日大明神御正體一」勘仲記、弘安五年二月一日「神木御歸座被二仰遣一、其狀云、賢木、久忘二本社一、徙坐二中都一、神慮甚有レ恐、叡襟更無レ聊」

かすが-ばん（名）［春日版］奈良版ノ條ヲ見ヨ。

か-すがひ（名）［鎹］〔金次ノ略カト云フ、門モ、金門ノ略ト云フ〕戸ヲ鎖スニ用キル金具。アゲカスガヒ。カキガネ。カケガネ。字鏡、十四「鎌、加須加比」催馬樂、東屋「加須可比モ、扃モ、アラバコソ、ソノトンノ戸、我レ鎖サメ」木工寮式「擧鎹、徑三寸、鐶六寸、鎹舌長八寸、廣九寸」倭名抄、十七、門戶具「擧鎹、阿介賀須加比」

か-すがひ（名）［鉸］〔前條ノ語ノ轉〕兩頭ノ曲リテ、尖レル大釘。合セタル木石等ニ打込ミテ、繫ギ止ムル用トス。釘絆 螞蝗絆 下學集、下、器財門「鉸」

かすがひ-やま（名）［鎹山］〔山ノ字ノ中央ノ縱畫ノ上端ヲ尖ラセ、左右ノ縱畫モ、上下ニ出デテ、上下端ヲ尖ラセテ畫ケリ、形、鎹ノ如シ〕江戶、上野山ノ輪王寺宮ノ御用ノ印。山ノ字ナリ、山同心ノ法被ニハ、茶地ニ山ヲ白ぬきニ染メ、仲間ナルニハ、黑地ニ白ぬきナリ。其他、立札、小旗、提燈ナドニモ、山御用ト記セリ。

かすが-まうで（名）［春日詣］奈良ノ春日神社ヘ參詣スルコト。宇津保物語、梅花笠一「春日ニ神樂奉リ給ハム、云云、殿ノかすがまうでニ」枕草子、五、四十五段、めでたきもの「春日まうで」

カスカラ（名）〔英語、Cascara.〕緩和ノ下劑。北亞米利加洲、太平洋沿岸ニ產ズル、鼠李科植物ノ幹皮ヨリ製出ス、丸

[illegible]

かすがゑ (名) 春日繪 大和繪ノ一派。[illegible]ヲ祖トス。[illegible]、土佐繪ノ祖トナル。

かすげ (名) 糟毛 馬ノ毛色ノ名。灰色ニシテ、白色ノ毛ノ[illegible]レルモノ。[illegible] 倭名抄、十一「[illegible]糟毛馬也」

かすご (名) [illegible] 鯛ノ一種、形、眞鯛ニ似テ、小ナシ、故ニ、眞鯛ノ小サキ者ト混ジ易シ、但シ鱗ノ色、[illegible]クシテ、赤ミナリ、背ハ小[illegible]ヨリ尾ニ至ル、[illegible]ナリ、大ナルモノモ尺ニ過ギズ、[illegible]

かすざけ (名) [illegible] 「[illegible]ノ義」酒ノ、糟ヲ併セテ飲ムモノ。ニゴリザケ。濁酒 [illegible]ろみナリ」

かずさし (名) 數刺 賭射、競馬、相撲、歌合、小弓、鬪雞、貝合等ノ、勝負ヲ行フ時、勝チタル度數ヲ計ルタメニ、數取ノ串、或ハ、枝ヲ、數立ニ插シ入ルルコト。又、其人。カズトリ。[illegible]名、左右各二人、次、立合者各二人」[illegible] 度左多時、[illegible] 二日、東山仙洞ニテ、鶏合ノ事アリケリ、云云、勝負イカヤウニ見ユルヤウノヨシ、定能朝臣ヲモテ、タヅネ仰ラレケレバ、右ノトリ終頭理アリトイヘ共、中[illegible]ニ又[illegible]、[illegible]タリ、カツ又、一番右[illegible]レアリトテ、[illegible]右、[illegible]ニ定メラレニケリ、ヨテ、[illegible]かずヲさす、[illegible]ノかずさし[illegible]、十六、[illegible]永享六年五月五日、内[illegible]ニ[illegible]合アリケリ、云云、方ノ人、西ノスノコニ候ス、次ニ[illegible]刻ノ洲濱ヲタツ、[illegible]人一人、コレヲカキテ、文臺ノ西ノカタニオク、洲濱ニ竹臺ノテイヲツクリテ、竹ヲウヘテ、かずさしノ物トス」

かすじる (名) 糟汁 味噌汁ニ、酒糟ヲマゼタルモノ。味噌ト糟トヲ等分ニマゼテ擂リ、煎出汁ニ入レテ煮立テ、實ニハ、葱ヲ細カク刻ミタルモノ、或ハ鹽鮭、又ハ、[illegible]ノ切身ヲ水出シテ入ル。寒時ノ食ナリ。

かずたて (名) 數立 數刺ノ時、串、又ハ、枝ヲ插入センタメニ供スルモノ。[illegible] ロノ色[illegible]マレタリ」

かずちゃ (名) 數茶 〔數種ノ茶ヲ試別スル意、種茶ト書クモ、其意ナリ〕(一)十服茶ニ同ジ。(其條ヲ見ヨ) 栂ノ尾ノ本ノ茶、宇治等ノ茶ノ[illegible]ヲ飲ミ試ミテ、當テナスルコト。後ニ云フ、ちやかぶきナリ。[illegible] 何」(二)後ノ茶家ニテハ、十服茶ノ合札ニテ、順ニ、茶ヲ飲マスルコト。

かすづけ (名) 糟漬 肉類、菜類ナドヲ、酒ノ糟ニ漬クルコト。又、其漬ケタルモノ。[illegible]

カスティラ (名) 加須底羅 〔葡語、[illegible](西班牙國)ノ略、[illegible]〕西班牙人ハ、西班牙人ヲかすてらト云フトゾ(村上直次郎說)〕[illegible]、雞卵、砂糖ヲ和シ、煉リテ平銅鍋ニ入レ、鍋蓋ヲシテ、上下四面ヨリ、蒸燒ニシタルモノ、菓子トス。[illegible]ノ軟ノ如クニシテ、黃ナリ。カステラ。[illegible] 記、或問「かすていら、ぼうる、かるめいる、あるへいたう[illegible]」

カステラ (名) 前條ノ語ニ同ジ。

ガスとう (名) 瓦斯燈 石炭瓦斯ニテ點ス燈火。

かずとり (名) 數取 (一)物ヲ數フルニ、若干ノ數ヲ送ヘタルトキ、標トスルモノ。記數籌 [illegible] (二)かずさしニ同ジ。

かずな・し・キ・ケレ・ク・ク (形、二) 無數 數、多カラズ。久シカラズ。[illegible]「世ノ中ハ、[illegible]ベキ思ヘバ」後撰集、十、戀、二「世ヲウミノ、泡ト消エヌル、身ニシアレバ、恨ムル事ゾ、數なかりケル」

かずのこ (名) 鯑子 〔鯡ノ子ノ轉ナリト云フ〕鯡ノ子ヲ、胞ノママニテ、鹽ニ漬ケ、或ハ乾ニシタルモノ。數の子ノ[illegible]ヲ、[illegible]ニ取リテ、[illegible]、其他ノ[illegible]ニ用ヰル[illegible] カトノコ」

かずばらひ (名) 數祓 〔下二段活用ノ誤[illegible]〕[illegible]コト一遍ノモノナルニ、後ニ、僧侶ノ千[illegible] 五日「今日百座數也」吾妻鏡、一、治承四年八月十六日「[illegible]」

かすひどり (名) [illegible] [illegible]、大サ[illegible]ニテ、[illegible]、白キ[illegible]、[illegible]ハ黃赤黑色ナリ、眼大キク、觜長ダ小サク、口大キシ、[illegible]

かす・ふ・フ・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ (他動、下二) 掠 〔掠むト語根ヲ同ジウス、(閹む、かくふ)〕掠ふトモ云フ」捉フ。かすふ。掠ム。[illegible] フ、カスム」此語、皇極紀、二年十一月「遠可向」山[illegible]二捉役王二」トアルハ、かすふノ誤リナルベク、齊明紀、六年十月、註「百濟王、云云、爲二[illegible]二(齊明ノ[illegible]定方)所レ捉 而送二去於唐國一」天武紀、下、十一年十一月「[illegible]捉」トアルハ、捉ノ義ナルベシ、[illegible] キヤウナリ。(急居ハ、急居るナリ)

かず・ふ・フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ (他動、下二) 數 [illegible]

四、中三十七「人ナミナミニ、かずへ知ラルル際ノ法師モ、俗モ」「主計寮」

かずへ-れう（名）【主計寮】〔かずへハ、數ヘノ義〕カゾフルツカサ。古ヘ、民部省ニ屬セル寮。調、庸、貢獻ノ物ヲ計リテ、一年ノ國用ヲ支フルヲ掌ル。

かずま・ふ・フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ（他動、下二）【數】〔かずふノ延、あがむ、あがまふ〕（一）數フ。カズフ。（二）〔人並ニ數ヘ入ル。源、十二、須磨二十二「カクかずまヘタマヒテ、立寄ラセタマヘルコトト、ヨロコビ聞エタマフ」同、四十三、竹川三「昔ニカハラズ、かずまへ聞エタマヒテ」

ガス-マントル（名）〔英語、Gas mantle.〕瓦斯燈ノ點火口ニ冠スル、網狀ノ筒。

カズマル（名）【榕】樹ノ名、かじまる、及、あさう（榕）ノ條ヲ見ヨ。

かすみ（名）【靄霞】〔かすむノ名詞形、霧ノ類ナリ、萬葉集、十九十「旦霞、八重山越エテ、呼子鳥」同卷、同丁、長歌「日霧ノ、八重山越エテ、霍公鳥」同、四三十「朝霧ノ、髣髴ニ相見シ、人故ニ」同、十二廿「朝霞、髣髴ニダニモ」霞ノ字ハ、あさやけ、ゆふやけナリ（あさやけノ條ヲ見ヨ）然レドモ、古來相通ジテ用キラル、明皇十七事「玄宗入ニ斜谷ニ也早、烟霞甚晦」（朝がすみナリ）說文「靄、雲貌」韻會「雲集貌」集韻「雺、或作レ霧」〕（一）〔虛空ノ、薄暗ク透明ラズ、糢糊トナル現象。微細ナル水滴ノ、空氣中ニ浮游スルニ因リテ生ズ、霧、雺ノ類ナリ。霞の遠、霞の籬、霞の網ナドハ、糢糊タルヲ云ヒ、霞の衣、霞の袖ナドハ、かすみニ見立テテ云フナリ。かすみハ、春ニモ秋ニモ立ツ、朝タニ立ツヲ朝がすみ、夕がすみト云フ。萬葉集、一八長歌「霞立ツ、長キ春日ノ、暮レニケル」同、二八「秋ノ田ノ、穗上ニ霧フ、朝霞、何方ノ方ニ、我ガ戀ヒ息マム」同、八三十七夕歌「霞立ツ、天河原ニ、君待ツト、イカヨフホドニ、裳ノ裾濡レツ」謝靈運、從ニ宋公戲馬臺集ニ送ニ孔令ニ詩「遲レ潜有ニ來鴻ハ輕霞冠ニ秋日ハ迅商薄ニ淸穹ニ」壬二集、中「雁ノ、消エユク峯ノ、ゆふがすみ、カタミモ知ラズ、吹ク嵐カナ」新勅撰集、一、春、上「松島ヤ、雄島ガ崎ノ、夕霞、タナビキワタル、海人ノタクナハ」（二）〔霞ハ、春ニ立ツコト、殊ニ多シ、春霞ト云フ。和歌ナドニテハ、專ラ霞ヲ、春ノモノトシテ詠ゼリ。【春日謁氣】萬葉集、十五「子等ガ手ヲ、(序)卷向山ニ、春去レバ、木葉凌ギテ、霞タナビク」同卷八「昨日コソ、年ハ果テシカ、春霞、春日ノ山ニ、ハヤ立チニケリ」古今集、一、春、上「誰レシカモ、認メテ折リツル、春がすみ、立チカクスラム、山ノ櫻ヲ」同、二、春、下「花ノ色ハ、霞ニ籠メテ、見エズトモ、香ヲダニ盜メ、春ノ山風」倭訓栞、かすみ「霞ま(き)くト云フ辭ハ、喜撰式ニ、春ヲ云フト見エヌ」（三）色紙、短册ナドニ、橫長ク暈抹シタル象。金銀泥ニテ塗リ、又、繪具ニテ染ム。（四）かすみわりヲ見ヨ。

〔**かすみ**（名）【靄】〔前條ノ語原ニ同ジ、朝朱ノかすみナリ〕時トシテ、日邊ニ生ズル、色ノ赤キ雺。赤根さす日ト云フハ、此義ナリト云フ。あさあけ、あさやけトモ云フ。あさやけノ條ヲ見ヨ。倭名抄、一二「霞、唐韻云、赤氣雲也、加須美」廣韻「霞、赤氣朧爲レ雲」增韻ニ「日旁彤雲」トアル、是レナリ。

かすみ-あみ（名）【霞網】〔分明ニ見エヌ意〕小鳥ヲ捕ルニ用キル網。二本ノ杙ヲ適當ノ距離ニ立テ、コレニ網ヲ二重ニワタシテ張ル。網ハ、目ニ見エヌホドノ、極メテ細ソキ絹絲ニテスキ作ル。

〔**かすみ-の-ほら**（名）【霞洞】〔神仙ノ居所ナリ〕仙洞御所。增鏡、第一、おどろがきた「苔深キ深山木ニ、枝サシカハシタル庭ノ小松モ、ゲニゲニ、千代ヲコメタル霞の洞」

かすみ-わり（名）【霞割】往時、奧州ニテハ、修驗ノ先達職ノ、末院支配地方ノ區分ノ稱。又、撿挍ノ、地方ノ盲人ヲ支配スルニ、三箇村ヲ一組トシタルニモ云ヒ、伊達、信夫郡、邊ニテ、神社ノ氏子ヲ、村村ニテ別ツニモ云ヘリ。又、茸狩ニ、松茸ノ多クアル地、川狩ニ、鮎ノ多ク集ル所ヲ知リ居ルヲ、何某ノかすみナド稱シキ、總ベテ、繩張ノ地ト云フ意ニ用キタリ。略シテ、かすみ。

かす・む・ム・メ・マ・ミ・メ（自動、四）【翳】〔かすハ、かすか、（幽）かそけき（微）ノ語根ニ同ジト云フ、かすがすト云フモ、是レナリ〕（一）〔氣ブリテ、幽微ニテ、明カナラズ。萬葉集、二十五十七「打チナビク、春ヲ近ミカ、ヌバタマノ、今夜ノ月、可須美タルラム」讃岐典侍日記、十二月朔日「ホノボノト明ケハナルル程ニ、瓦屋ドモノ棟モ、かすみワタリテアルヲ見ルニ」（二）目ニ障リアリテ、明カニ見エズ。眊【眊】「眼ガかすむ」（三）字ヲ書キテ、墨汁涸ル。【渴筆】「字ガかすむ」（四）〔霞、立ツ。【靄霞】古今集、四、秋、上「春霞、かすみテ往ニシ、雁ガネハ、今ゾ鳴クナル、秋霧ノ上ニ」

〔**かす・む**・ム・メ・マ・ミ・メ（他動、四）【掠】次條ノ語ノ（一）ニ同ジ。繼體紀、七年六月「百濟、云云、奏曰、伴跛國、略ニ奪臣國己汶之地ニ」同、九年四月「刧ニ掠所ロ資」欽明紀、五年十二月「被ニ其抄掠ニ」

かす・む・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ（他動、下二）【掠】（一）〔一部ヲ奪ヒ去ル。少シ盜ム。カソフ。かすふ。景行紀、四十年七月「盜略」天智紀、元年三月「唐人不レ得レ略ニ其南堺ニ」（二）少シ觸ル。「水ヲ掠めテ飛ブ」（三）〔ホノメカス。【諷】源、十九、薄雲三十「カラウジテ、一言バカリ、かすめタマヘルケハヒ」同、四十九、東屋二十九「アラハニハ言ヒナサデ、かすめウレヘタマフ」

〔**かす・める**（動）【掠】前條ノ語ノ口語。

〔**かす-も**（名）【飼面】〔滓面ノ義〕今云フ、そばかす。倭名抄、三十四「飼面、加須毛、面皮上有レ滓是也」醫心方、四廿「飼面、以呂古於毛天」

〔**かす-もみ**（名）【膄】〔糟揉ノ義〕糟漬ノ肉。倭名抄、十六七廿「膄、糟藏肉也、加須毛美」

かず-や（名）【數矢】次條ヲ見ヨ。

かず-やり（名）【數鎗】員數ノ鎗。數多ク作リ備ヘ置ク、粗末ナル鎗。步卒ナドノ用トス。數矢、數打物ナド、意、同ジ。翁物語、四「御番所ニ有、金ノタイマイノ御數鎗五拾本、取テ來レ」北條五代記、五、昔矢軍事「七夕ノ矢、云云、十筋ノ内、五ツハすやき、五ツハ木鋒、イヅレモ是ヲ、數矢ト名付タリ」

かすり（名）【摩】（一）カスルコト。輕ク觸ルルコト。【微觸】「かすり疵」（二）俗ニ、物ノ一部ヲ、掠メ奪フコト。【掠】

かすり（名）【絣】〔擦るノ名詞形、韻會「絣、音崩」說文「絣、殊縷布也」縞織ナルベカ〕織物ニ、處處、擦リタル如キ模樣ヲ織リ出シタルモノ。又、染模樣ニモ云フ。【飛白】守貞漫稿、十九「かすりハ、織ル前ニ、糸ノ所所ヲシバリ、染メ除キ、堅がすりニ用レ之、或ハ、橫ニ用レ之、十字、井字ノかすりハ、篦ヲ以テ會セシメ、又、種種、花鳥等ノ模樣ニかするハ、彌、算ニ係リ、今ハ、何ホド煩ハシキ紋モ、織レ之」

かすり-がき（名）【渴書】筆跡ノ、所所ニ、墨ノ附カヌ部分ノアルモノ。渴筆。

かすり-きず（名）【摩疵】刃物ニテ、少シ

切ラレタル兵。徴傭

かすりふて (名) [illegible] [illegible]ノ[illegible]ニ同ジ。

かす・る ル・ルレ・レ・レ・レヨ (自動、下二) 摩 [illegible]、かする、かすり合ふ」(一)僅ニ摩レ觸ル。輕クサハル。微觸 (二)筆ノ墨ノ跡、渴キ消ユ。[illegible] (三)[illegible]レテ出ヅ。

かす・る ル・レ・ラ・リ・レ (他動、四) 摩擦 (一)[illegible]掠メ奪フ。ウハマヘヲトル。掠 (二)かすりがきニス。

かすれ (名) [illegible] カスルルコト。[illegible]ノ、渴キ消ユルコト。

⁂**かす・れる** レル・レレ・レ・レ・レヨ (自動、下二) 摩 かする(自動、下二)ノ口語。

カズワル (名) 鳥ノ名、かすあるヲ見ヨ。

か-すゐ (名) 歌吹 歌ヲウタヒ、笛ナドヲ吹クコト。[illegible]」

かす・ゐ (動) 捉 かすふ(捉)ノ條ヲ見ヨ。

か-ずゐ (名) 嘉瑞佳瑞 メデタキシルシ。エンギヨキコト。吉兆。[illegible]
「[illegible]」

かすを (名) 糟尾 (一)黑髮ニ、白髮ノ雜リタルモノ。ゴマシホアタマ。平家物語、七、實盛最期事「若仲ガ上野ヘ越エタリシ時、稚目ニ見シカバ、白髮ノ糟尾ナリシゾカシ」(二)矢羽ニ、糟白ノ模樣アルモノ。[illegible]

かせ (名) 枷 (一)枷ノ轉。其條ヲ見ヨ。(二)係累。吉野都女[illegible]「首かせ」手かせ」足かせ」[illegible]

[illegible](三)三味線ノ上調子ノ高音ヲ發セシムルニ用キル[illegible]、[illegible]リ作リ、[illegible]ニ尺、[illegible]ヲ[illegible]トホシテ[illegible]ノ上ニ當テ[illegible]、[illegible]二尺五分ノ四分ノ一ノ所ニ施ス。(上駒ノ下ニテ) [illegible] (同)[illegible]ノ響ヲククル具。又ハ、吊。

か-せ (名) 桛 [illegible]ナドノ意ナラムカ、桛ハ、木上下ノ合字ナルベシ」(一)[illegible]ミタル絲ヲ[illegible]フ具。工字形ヲ成ス。ヲガセ。カセヒ。カセギ。[illegible] (二)手拭掛ケ。[illegible]「[illegible]」

かせ (名) 甲蠃 海栗ノ介。がぜ。カブトガヒ。(うにノ條ヲ見ヨ) [illegible]

かせ (名) 收靨 [かせる(收靨)ノ名詞形] 疱瘡ノ、乾キテ[illegible]トナレルコト。「疱瘡ノかせ」

か-ぜ (名) 風 [氣風ノ轉カ、(氣ト、風トノ條ヲ見ヨ)西北風ヲあなぜトモ云ヒ、沖繩ニテハ、風ヲ、かぢト云フ」(一)空氣ノ、流動スルモノ。靜穩ノ日ニ、流動ノ速度、一時間ニ一哩ニ滿タズ、煙ノ天ニ向ヒテ直上スル時ヲ、無風ト云フ。一時間ニ六哩トナレバ、木ノ葉ソヨソヨトナル、コレヲそよかぜ、微風ト云フ。二十哩トナレバ、疾風ト云ヒ、水ニ小波ヲオコス。四十五哩トナレバ、強風ト[illegible]シ、[illegible]ニ[illegible]ナレバ、[illegible]トナル、[illegible]ニセラル。[illegible]シ、イハユル大嵐ニテ、天災トナル。[illegible] (二)便風トモナク、傳ヘ來ルコト。「風ノ傳言」風ノ便リ」(三)氣。サマ。ケブリ。ソブリ。「臆病風ガ吹ク」地頭風ヲ吹カス」(四)[かぜ]くも(風雲)ノ條ヲ見ヨ。

か-ぜ (名) 風邪 [風ノ義] 病ノ名。寒風ニ觸レテ、身ヲ冒サレ、皮膚ノ蒸發ヲ妨ゲ、身[illegible]クシテ、[illegible]ミ痛ク、[illegible]ヲ起シ、熱、又ハ、頭痛ナドヲ發スルモノ。コレニ感ズルヲ、風ヲ引クト云フ。カゼヒキ。ヒキカゼ。風病。風邪。感冒。[illegible]トテ、朴ナドキコシメセドモ、オコタラセタマハズ」

がぜ (名) 甲蠃ニ同ジ。(奥州、佐渡)

か-せい (名) 下性 ミマカルコト。[illegible]ルコト。[illegible]」

か-せい (名) 加勢 勢ヒヲ加フルコト。助クルコト。助力。援 [illegible]ベシトテ」

か-せい (名) 歌聖 ウタノヒジリ。和歌ヲ詠ムニ、特レテ妙ナル人ノ稱。歌仙ノ上ナリ、專ラ、柿本人麿、山部赤人ヲ云ヒ、此二人、三十六歌仙ノ中ニ列スレド、ナホ特出ノモノナリ。

か-せい (名) 家聲 家ノ名。家ノ評判。[illegible]

か-せい (名) 家政 家ノヲサメカタ。家[illegible]

か-せい (名) 苛政 カラキマツリゴト。[illegible]

か-せい (名) [illegible] [illegible]取リ立テル[illegible]

カセイタ (名) [illegible]ト、[illegible]ニテ作リタル菓子。

かせいど (名) [illegible] [illegible]

が-せい-ふ (副) 我精 精イッパイニ。骨[illegible]「[illegible]ナタノ御女中衆ハ、おせいふ能ク働キマスネ」

か-せき (名) 家跡 かめい(家名)ノ條ノ(三)ニ同ジ。

かせ-ぎ (名) 桛木 桛ノ(一)ニ同ジ。

かせ-ぎ (名) [illegible] [illegible]トス、[illegible]ハ工字形ヲ成ス[illegible]。[illegible]

かせぎ (名) 稼 かせぐコト。[illegible]
かせぎニ爲ラウト存ズル」

かせぎ-の-その (名) 鹿園 [鹿ノ條ヲ見ヨ] [illegible]、鹿野苑ノ文字ヲ[illegible]

會記(平安)「鶴ノ髪、カシヅクコトハ、古ヘノ、かせぎのそのノ、古言ゾコレ」

かせ・ぐ・グ・ゲ・ガ・ギ・ゲ (自動、四) 稼 挊 〔挊ヲ活用セシメシ語ニテ、(綸ぐ、綱ぐ)挊ノ如ク廻ル意ナラム、挊ハ、弄ノ俗字トアレド、手上下ノ合字ナルベシ、眞名伊勢物語「挊返」〕 (一)生業ヲ勵ム。精出シテ働ク。ホネヲリテ務ム。拮据經營 唐物語、二十七則「父母、世ニアラムコトヲ、かせぎイトナム」 (二)戰フ。駿臺雜話、三、靑木新兵衞、賤ガ嶽ノ戰「今朝ヨリかせぎ候ヘドモ、好キ敵ニ逢ヒ申サズ候」

かぜ-くさ (名) 風草 かぜしりぐさノ略。

かぜ-くも (名) 風雲 〔風ニ吹カレテ動キ行ク雲ヲ、使ト見立テテ云フ語カ〕 使ト云フ意ノ語。萬葉集、十八 三十五「今勒ニ風雲ニ發ニ遣徵使ニ」 同、十九 二十 長歌「足引ノ、山川隔リ、風雲ニ、言ハ通ヘド、直ニ逢ハヌ、日ノカサナレバ」 同、二十 三十三「家加是ハ、日ニ日ニ吹ケド、吾妹子ガ、家言モチテ、來ル人モナシ」 同卷 八 三十「三空行ク、久母モ使ト、人ハ云ヘド、家苞ヤラム、手著知ラズモ」 夫木抄、三十五「夕行ク、雲ノつかひニ、言傳テム、上ノ空ナル、たよりナリトモ」

かせ-さば (名) 鰆 〔挊鯖ノ義ニテ、頭、挊ニ似タル故ノ名ナラム〕 今ノ、かせぶか。撞木鮫ノ類ナルベシト云フ。倭名抄、十九 三「鰆魚、有ニ横骨ニ在ニ鼻前ニ如ニ斤斧ニ者也、加世佐波」

かぜ-しりぐさ (名) 風知草 〔漢名、知風ノ文字讀〕 小知風草ニ似テ、大キナルモノ。かぜくさ。大知風草

かぜ-そばえ (名) 風戲 風ニ吹カレテ、ユラユラト動クコト。爲忠百首、下「木ノ間ヨリ、露吹キマゼテ、散ル花ハ、風そばヘスル、ミゾレナリケル」

か-せつ (名) 嘉節 佳節 ヨキ時節。佳辰。祝日。曹植、獻ニ冬至襪履ニ表「千載昌期、一陽嘉節」

かせ-づゑ (名) 鹿杖 〔挊杖ノ義、かせぎ(鹿)ノ語原ヲ併セ見ヨ〕 (一)杖ノ末端ノ、杈椏ヲ成セルモノ。倭名抄、十三 三 僧坊具「鹿杖、加勢都惠」 (二)杖ノ頭ノ、丁字形ヲ成セルモノ。撞木杖。横首杖 倭名抄、十四 九 行旅具「横首杖、加世都惠」

かぜ-の-かみ (名) 風神 (一)風ヲ吹カスル神。神代紀、上 十二「風神」 神功攝政前紀、十月「飛廉起風」 (二)風邪ヲハヤラスト云フ神。

かぜ-の-こ (名) 風子 子供ハ、風ノ寒キヲモ意トセズ、遊ビ居ルヲ云フ語。醒睡笑(元和)二、謂被レ謂物之由來「童部ハ風の子ト、知ル知ラズ、世ニ云フハ、何事ゾ、ふうふノアヒダノ子ナレバナリ」

かぜ-の-ながれ (名) 風流 風流ノ文字讀。著聞集、五、和歌「少將隆房、賀茂祭ノ使、勤メケルニ、車ノ風流、ヨク見エケレバ、云云「色深キ、君ガ心ノ、花散リテ、身ニシム風の、ながれトゾ見シ」

かぜ-の-はふり (名) 風祝 風ノ神ヲ祭ル祝。風ヲ靜ムルコトヲ祈ル神官。風のはふりこ。十訓抄、中、第七、十六條「信濃國ハ、キハメテ風ハヤキ所ナリ、コレニヨリテ、諏訪明神ノ社ニ、風の祝トイフモノヲ置キテ、深クコメスヱテ、イハヒ置キテ、百日ノ間尊重スル事ナリ」

かぜ-の-はふりこ (名) 風祝子 前條ニ同ジ。夫木抄、四、花「信濃路ヤ、風のはふりこ、心セヨ、白木綿ハナノ、ニホフ神垣」

かぜ-の-みや (名) 風宮 伊勢皇大神宮ノ域内ニアル宮ノ名。神名秘書「風神社、謂ニ志那都比古神ニ」 太神宮儀式解、廿四「當宮(皇大神宮)ナル風神社、後ニ宮號宣下アリテ、風の宮トイフ、宮中五十鈴ノ川ノ南岸ニアリ」 頭工引付「ザウナイクウ、ベツグウ、センシャ、マッシャ、御くらノ注文ノ事、一、かぜの宮、百八拾貫文」 倭訓栞「修驗家ニ、伊勢ノ事ニ、雨の宮、風の宮、トナラベイヘリ、サレド、雨ノ宮ナシ、熱田ニ雨宮アリ、祭神高龗トイヘリ、又、信濃埴科郡ニ、矢代東北ニアタリテ、雨宮トテ、大社アリトゾ」

かせひ (名) 桛 〔次次條ノ語ノ名詞形〕 桛ニ同ジ。太神宮式「金銅加世比二枚、長、各、九寸六分、手長、五寸八分」 字鏡 四十九「桛、加世比」

かぜ-ひき (名) 風引 風邪ニ感ズルコト。風病。風邪。感冒 宇津保物語、藏開、上 十六「風ひきタマヒテムト、サワギフセタテマツリ」

かせ・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (他動、四) 桛 〔桛ヲ活用セシム、歌ふ、色ふノ例、名詞形ニ、かせひト云フ〕 桛ニテ拂フ。古語拾遺「宜下以ニ麻柄ニ作レ桛挊上レ之」(稻葉ノ蝗ヲ拂フナリ)

かぜ-まち-づき (名) 風待月 陰曆六月ノ異稱。藻玉抄、六、風待月「松風ニ、床居ヲシツツ、今日ハハヤ、風待月ノ、夏ノウトサヨ」

か-せん (名) 合戰 合戰ニ同ジ。保元物語、一、軍評定事「大小ノ合戰、數ヲ知ラズ、中ニモ折角ノかせん、二十餘箇度也」

か-せん (名) 歌仙 〔支那、唐ノ李白ヲ、詩仙ト稱セルニ傚ヘルカ〕 和歌ヲ詠ムニ堪能ナル人ノ稱。歌聖ノ次ナリ。古事談、六、亭宅諸道「四條大納言、參ニ六條宮ニ、被レ論中ニ云、貫之、歌仙也」「六歌仙」「三十六歌仙」

か-せん (名) 嘉饌 佳饌 ヨキ食物。立派ナル調理。ヨロシキ馳走。

か-ぜん (名) 可染 しろがねノ異名。它山石「生色ト云フハ、スナハチ、金ヲ云フナリ、可染トハ、スナハチ、銀ノ事ナリト云フ事、一切經ノ音義ニ見ユ」

が-せん (名) 牙籤 〔正韻「籤、標也」一切經音義、十四、引ニ通俗文ニ「記識曰レ籤」〕 (一)象牙ニテ作リタル小札。棚ニ積ミタル書籍ナドニ、書名ヲ記シテ附ケオクモノ、認ムルニ便ニス。舊唐書、經籍志「經庫紅ニ牙籤ニ、史庫緑ニ牙籤ニ」 (二)轉ジテ、書物ノ帙ノこはぜヲモ云フ。其條ヲ見ヨ。

が-せん (名) 牙錢 口錢。手數料。蘇轍、論ニ蜀茶五害ニ狀「賣茶本法、止許レ收ニ息二分ニ、今多作ニ名目ニ、如ニ牙錢打角錢之類ニ、至レ收ニ五分以上ニ」

が-ぜん-と (副) 俄然 ニハカニ。ダシヌケニ。莊子、齊物論篇「俄然覺、則蘧蘧然周也」「俄然とシテ起ツ」

が-ぜめ (名) 我攻 ムヤミニ攻ムルコト。甲陽軍鑑、一、品第三「城ノ内ニ、三千程人數候ヨシ申候ヘバ、がぜめニイカガニテ候」

か・せる・セル・セレ・セ・セ・セヨ (自動、下一) 收斂 瘡ノ面、乾ル。痂、乾ク。

かぞ (名) 父 〔小兒ニ起レル語ナルベシ、畏ノ略轉カ、小兒語ニハ、下略シテ訛レル多シ、(後ノコトナレド、懷ヲぼぼナド云フ、かしこみつく、かしづく。あしこ、あそこナドモアリ)嚴父ノ意、母ノ、いろは(親愛)ニ對ス〕 父ニ同ジ。神代紀、上 九「父母二神」 景行紀、十二年十二月「設ニ醇酒ニ、令レ飲ニ己父ニ」 仁賢紀、六年九月、註「俗呼レ父、爲ニ柯曾ニ」 倭名抄、二 廿六「父、加曾」

かぞ (名) 楮 かうぞノ(一)ニ同ジ。

カゾアル (名) 鳥ノ名、かずあるノ條ヲ見ヨ。

かぞ-いろ (名) 父母 〔父母ノ略〕 父ト、母ト。神代紀、上 廿二「父母既任ニ諸子ニ」 四季物語、第一「君ト臣トノオキテ正シク、かぞいろノ功著クシテ」

〜かぞう (名) [加增] 加ヘ増スコト。(多ク、[illegible]) [illegible]「[illegible]」二十二、貞觀十四年十月、今之加增、亦是[illegible]」

かぞく (名) [家族] 一家ノ族。一戸ノ戸籍中ニアル者。[illegible]「[illegible]」

かぞく (名) [雅俗] 雅ト、俗ト。ミヤビタルト、サトビタルト。後漢書、郭泰傳「雅俗無所失」

かぞく-せいど (名) [家族制度] 一家族ヲ、國家社會ノ單位トスル制度。

〜かそけ・し・ニ・ケン・ク・ク (形、二) [幽] かそけハ、かすかト通ズ、かすふ、かそふ。[illegible] カスカナリ。[illegible]、十九「我ガ宿ノ、イササ群竹、吹ク風ノ、音ノ可蘇氣伎、コノユフベカモ」

〜かそ・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (他動、四) [掠] かすむ(掠)ニ同ジ。かすふ。[illegible]二十四年九月「[illegible]」續紀、二十、天平寶字元年七月、詔「天日嗣高御座ノ[illegible]」

かぞ・ふ・フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ (他動、下二) [數] (數ふノ轉)(一)〔かすふ。數ヲ計ル。〕多ニシテ分ケ知ル。ヨム。勘定ス。[illegible] 計算ス。[illegible] (二)[illegible]手事、白拍子ヲ、マコトニ面白ウかぞへタリケレバ」

かぞふるつかさ (名) [主計寮] かずへれうニ同ジ。[illegible]「主計寮」

かぞへ-あ・ぐ・グル・グレ・ゲ・ゲ・ゲヨ (他動、下二) [數上] (一)一ツ一ツニ數ヘ立ツ。(二)數ヘテ終ハル。カゾヘキル。算結

かぞへ-き・る・ル・レ・ラ・リ・レ (他動、四) [數切] 數ヘテ終ル。カゾヘアグ。算結

〜かぞへ-た・つ・ツル・ツレ・テ・テ・テヨ (他動、下二) [數立] 一一、數フ。カゾヘアグ。源、四十八、寄生「ゲニカク靈ハシウ花ヤカナル事ハ、見ルカヒアレバ、物語ナドニモ、先イヒタテタルニヤアラム、サレド詳シウハ、エゾかぞへたてザリケルトヤ」

かぞへ-どし (名) [數年] 人ノ年齡ヲ、生レ年モ、今年モ、一年トシテ數フルコト。(滿幾歲ト云フニ對ス)

かぞへ-の-すけ (名) [筭師] 〔正韻「筭、同算」〕租、庸、調、及、用度ノ勘算ヲ掌ル官。主計寮、主稅寮、其他ニアリキ。

かぞへ-び (名) [數日] 其年内ノ殘ル日數ノ、僅ニ幾日ト數フルホドニ、殘リズクナクナレルコト。「今年モ、ハヤ數ヘ日トナッタ」

⁂かぞ・へる (動) [數] かぞふ(數)ノ口語。

ガソリン (名) 〔英語、Gasoline.〕石油ノ揮發成分ニシテ、無色ノ液體。發動機、汚染拔ナドニ用キラル。

かた (名) [肩] 〔角ト通ズルカ〕(一)腕ノ體ニ付ク關節ノ、上ノ處。鳥ニハ、翼ノ上、獸ニハ、前脚ノ上ナリ。[illegible]「肩書」肩ニ記ス」肩ニ貼ル」肩を並ぶトハ、同ジ等級ニテアリ。比肩 [illegible] ある人モナシ」肩を入る、肩を持つトハ、助ク。[illegible]。[illegible] 肩を脱ぐトハ、衣ノ肩ヲ脫グ。祖裼 肩を拔くトハ、擔ゲタルヨリ、退ク。[illegible]

かた (名) [方] (一)〔向フトコロ。ムキ。側。アタリ。方。伊勢物語、第八段「信濃ナル、淺間ノ嶽ニ、タツ煙、ヲチかた人ノ、見ヤハ咎メヌ」「東ノ方」左ノ方」(二)其方ノ人。クミ。ナカマ。[illegible] 院(後堀河院)藻壁門院、方ヲ分チテ、繪ツクノ貝覆アリケリ[illegible] (三)[illegible] テダテ。タヨリ。方法 (形ノ一轉セル、法ノ意ナラムカ) 竹取物語「アル時ニハ、言ハムかたナクムクツケゲナルモノ來テ、食ヒカカラントシキ」[illegible]

かた (名) [形] (一)物ノ體ノ、顯レテアル狀。カタチ。ナリ。(二)形ヲ書キタルモノ。繪。肖像。「[illegible]」(三)模樣。文。文象「形ヲ染ム」「[illegible]」(四)錢ノ面ノ、文字ノ形アル處。(五)則。法。例。シキタリ。タメシ。手本。法例「法ノ如ク 形トス 形ノ通リ」(六)抵當ノシルシ。[illegible]「[illegible]カラ、[illegible]ノかたニ[illegible]、タカラ、安イトサ」「[illegible]ノかた」

かた (名) [型模] 〔形ヲ取ルベキモノノ義〕鑄物ニ用キル具。内ヲ、諸物ノ形象ニ空ニシテ、コレニ金類ヲ鎔シテ注ギ入レ、開ケバ其形ヲ得。土偶工、紙偶工ナド、亦、皆、用キル。

かた (名) [潟] 〔洲ノ形、現ルル意カ〕(一)海岸ノ、遠淺ニシテ、潮來レバ隱レ、去レバ現ルル地。シホヒガタ。ヒガタ。潟 斥鹵 天治字鏡、六「潟、潟也、加太」倭名抄、一「潟、加太、海濱廣潟」萬葉集、六「[illegible]ノ潟ニ、鶴鳴キワタル」(二)西國ニテハ、浦。入江。[illegible]「[illegible]」(三)北國ニテハ、湖。沼。潟 (潟ノ埋レテ成レルヨリ云フカ)「[illegible]」

かた (接頭) [片] (一)〔一方ノ意カ〕(一)對ノモノノ、一ツナル。隻 (諸ノ反)「片手」「片足」「片腕」(二)半ナル。[illegible] 片「[illegible]」(三)一方ニ[illegible] リ遠キ。僻ナル。偏「片田舍」片山里」

かた (接尾) [方] 人ヲ指シテ呼ブニ添ヘテ敬語。[illegible]

かた-あげ (名) [肩揚] 童子ノ衣ニ、肩ヲ長目ニ作リテ、肩ノ處ニテ、程好ク縫ヒアゲテ、[illegible]ナシオクコト。[illegible]ニ供フ)

かた-あし (名) [片足] 左カ、右カ、一方ノ足。偏足

かた-あて (名) [肩當] (一)[illegible]ノ[illegible]ヲ見ヨ。(二)衣ノ裏ノ、肩ノ所ニ、別ニ[illegible]當ツル布帛。(三)冬ノ夜ナド、枕ト肩トノ間ニ插ム布帛。

かた-あぶら (名) [固油] びんつけあぶらニ同ジ。

かた-あめ (名) [固飴] 飴ノ條ヲ見ヨ。

かた-あらし (名) [片荒] 〔年マゼニ荒シオク意〕[illegible]地ニテ、隔年ニ、耕作セズテオク田地。[illegible]リノ、かたあらし、去年ノ刈田ハ、寂シカリケリ」

かた-い (名) [下腿] 膝ヨリ、踝マデノ稱。アシノスネ。

かた-い (名) [過代] 遠キ年代。[illegible] 盛衰記、五、[illegible]「弘通ヲ過代ニ及ボシ、[illegible]」

かた-いき (名) [片息] 甚シク苦シキ呼吸。タエダエナルイキ。著聞集、廿、魚蟲禽獸「[illegible]數千集リテ、ガキリテ喰ヒアヒケリ、云云、或ハ喰ヒ

殺シ、或ハかたいきシテ、膄白ニ成テアリケリ」

か-たい-げん (名) 假體言 語學ノ語。動詞、形容詞ノ名詞形。

か-たい-ぢん (名) 家大人 己ガ父ヲ稱スル語。チチウヘ。家君。家嚴。 類書纂要「自稱父曰二家父、家君、家大人、家尊、家嚴、老父一」

かた-いぢ (名) 片意地 ネヂケテ、意地張ルコト。エコヂ。執拗 偏性 浦島年代記(元祿、近松作)二「日頃理窟張ル、片意地ノ病」

かた-いっぱう (名) 片一方 片方。カタッポ。大雅堂「年間ハレ、片一カノ手ヲ、アケノ春」

〔かた-いと (名) 片絲 縒リ合セヌ絲。ヒトコ絲。古今集、十一、戀、一「かたいとヲ、コナタカナタニ、ヨリカケテ、アハズバ何ヲ、玉ノ緒ニセム」

かだい-ふ-ぶし (名) 嘉太夫節 淨瑠璃節ノ一派。寛文ノ頃、京都ノ宇治嘉太夫ノ始メシモノ。延寶五年ニ加賀掾ト改稱ス、因リテ、加賀節トモ云ヒ、又、好流トモ云フ。 好色一代女(貞享、西鶴)二「嘉太夫節ノナヅム所ヲ、語リ消シテ」

かた-いろ (名) 片色 織物ニ、經緯ノ色ノ、同ジカラヌモノト云フ。(松屋筆記、三) 甲陽軍鑑、十一、下、品第三十八「島五十端、片色五十端」

か-だう (名) 歌道 和歌ヲ詠ミツクル道。敷島ノ道。歌學。 沙石集、十、下、七、述懷事「本ヨリ、田舍ノ山里ニ生長シテ、文章ニモ暗ク、歌道ニモ疎ク」

か-だう (名) 家道 一家ノクラシカタ。家政。家計。 南史、徐孝克傳「陳亡、隨例入二長安一、家道壁立」

〔かた-うた (名) 片歌 一首ノ歌ノ、上ノ句カ、下ノ句カノ、片方ニテ成リ立テル

歌。古事記、中(景行)三「倭建命、新治、筑波ヲ過ギテ、幾夜カ寢ツル、ト云フ御歌ニ、火燒ノ老人、カガナベテ、夜ニハ九夜、日ニハ十日ヲ、ト續ケリ、同卷五十倭建命、伊勢ニテ、大倭國ヲ思ビタマヒテ「ハシケヤシ、我家ノ方ヨ、雲居起チ來モ」ト云フ御歌ヲ「此者片歌也」トアリ、後ニ云フ、旋頭歌ノ半ナリ。

かた-うで (名) 片腕 (一)片方ノウデ。隻手 (二)手助ケトナル人。一臂之力 關八州繫馬(正德、近松作)三「和藤内ガ片腕ノ、味方ニ頼ム八甘顆殿」

かた-うど (名) 方人 方人ノ音便。(歌合ナドニ)其條ヲ見ヨ。

かた-うど (名) 荷擔人 〔前條ノ語原ト同ジ〕助クル人。荷擔ヲスル人。比黨 史記抄(文明)十四、十六「秦ヲかたうどニセウトスルホドニ、秦ヲバ欺クマイゾ」

〔かた-え (名) 片枝 一方ノ枝。土佐日記、二月十六日「邊ニ松モアリキ、云云、かたえハ無クナリニケリ」源、三十五、柏木三十八「時シアレバ、カハラヌ色ニ、匂ヒケリ、かたえ枯レニシ、宿ノ櫻モ」

かた-おち (名) 片落 (一)一方重クナリテ、雙方ノ釣合ヲ失フコト。偏重 (二)一方ヲ贔屓スルコト。カタテオチ。依怙。偏頗。偏私 枪狩劒本地(寶永、近松作)五「片落ノ御沙汰ト思ヘド、上ヘ恨ミモ申サレズ」(三)魚肉ナド、片身ヲ切リ落シタルモノ。片身

〔かた-おひ (名) 片生 童ノ、未ダ十分ニ成長セヌコト。カタナリ。萬葉集、九三十五長歌「八歲兒ノ、片生ノ時ユ、小放ニ、髮タクマデニ」源、廿一、少女十六「マダかたおひナル手ノ、生先ウツクシキニテ、書キカハシタマヘル文ドモ」

〔かた-おもひ (名) 片思 我レヨリ他ヲ戀ヒ思フノミニテ、他ハ我レヲ思ハヌコ

ト。カタモヒ。カタコヒ。單想思 萬葉集、十二、吾住、立チニシ日ヨリ、今日マデニ、吾ガ戀ヒヤマズ、片念ニシテ」

かた-おり (名) 固織 うきおりノ條ヲ見ヨ。

かた-おろし (名) 片下 あげうたノ條ヲ見ヨ。

かた-かうなぎ (名) 片巫 〔鵐ノ偏ナル、巫ノ意カ、巫鳥ノ名モアリ〕小鳥ノ名。しとどノ異稱。古語拾遺「片巫」註「志止止鳥」

かた-かぎ (名) 片鉤 〔もろかぎ(諸鉤)ニ對ス〕物ノ結目ニ、輪一ツヲ、一方ニ作ルコト。雅亮裝束抄、二「手ヲ後ニ向ケテ、かたかぎニ結ブ」

かた-がき (名) 肩書 姓名ノ右ノ上ニ記ス、官位、職業、住所ナド。

〔かた-かけ (名) 片掛 船ニ、片帆ヲ掛ケタルコト。躬恒集、下「かたかけノ、舟ニヤ乘レル、白波ノ、騷グ時ノミ、思ヒ出ヅル君」六帖、三「鹽瀨船、かたかけ小舟、流ルトモ、イタクナワビソ、楫取リユカム」

かた-かけ (名) 肩掛 婦人外出ノ時、肩ニ掛ケオホフモノ。布帛、毛織物ナド、種種ノ物ヲ用キル。歐米ノ裝ヒノ移リタルナリ。ショオル。

かた-かげ (名) 片蔭 偏リタル物蔭。陰僻 好色一代女(貞享、西鶴)三「御屋敷ノ片陰ニテ、煙拂ヒ」

〔かた-かご (名) 堅香子 草ノ名。かたくりニ同ジ。萬葉集、十九九「堅香子ノ花」

〔かた-かしぎ-の-いひ (名) 饋 「片炊の飯ノ義、玉篇「饋、半蒸飯也」詩經、大雅、生

民之什、泂酌篇、正義「蒸米謂二之饋一、饋、必餾而熟レ之」強飯ノ、半熟ナルモノ。倭名抄、十六11「饋、半熟飯也、加太加之木乃以比」

かた-かた (名) 片方 (一)對ノ物ノ、一ツ。カタツカタ。カタイ。パウ。カタッポ。カタシ。一片 宇治拾遺、一、第三條「左ノ顏ニ、大キナル瘤アリケルガ、云云、今かたかたノ顏ニ發ケツケタリケレバ、裏表ニ瘤ツキタル翁ニコソ成リニタリケレ」(二)カタハラ。カタワキ。傍處 宇治拾遺、五、第九條「かたかたへ行キテ、裝束キテ」

かた-かた (副) 堅キ物ノ、相當ル響ニ云フ語。狂言記、富士松「空木ノ、本末叩ク、啄木鳥、上モかたかた、下モかたかた」

〔かた-がた (名) 方方 人人。(身分アル人ニ云フ) 源、一、桐壺三「世ノオボエ花ヤカナル、御かたがたニモ劣ラズ」

かた-がた (代) 方方 對稱ノ代名詞。敬フニ用ヰ、多人數ナルニ云フ。君タチ。太平記、廿二、義塚勇力事「某ガ鎧ニハ、旁ノヘロヘロ矢ハ、ヨモ立候ハジ」「かたがた、如何ニオボス」

〔かた-がた (副) 方方 彼方此方。カレコレ。サマザマ。源、七、紅葉賀六十「恐ロシウモ、辱ケナクモ、嬉シクモ、哀レニモ、かたがた移ロフ心地シテ、涙落チヌベシ」

〔かた-がた (接) 旁 〔前條ノ語ノ轉カ、或ハ、かてらがてらノ約カ〕其ノ傍ニ。且。序デニ。相兼ネテ。(書狀ノ文ニ) 名義抄「傍、カタガタ」「報書旁伺候」

がた-がた (副) (一)箱ナドノ、相當ル音ニ云フ語。餘韻アルヤウニハ、がたんがたんトモ云フ。(二)戰慄ク狀ニ云フ語。戰戰 用明天皇職人鑑(寶永、近松作)二「おたがた顫ヒナガラ」

〔かた-かな (名) 片假名 かたかんなノ條

ヲ見ヨ。

かた-かは（名）［片側］（一）左カ、右カ、一方ノ側。（町ノ家並ナド）（二）兩面ノモノノ、一面。半面。（女ノ帶ナド）

〜かた-がひ（名）［片側］〔半側ノ意、片成ナド、同趣ノ語〕未ダ善ク飼ヒ馴レザルコト。カタナヅケ。蜻蛉日記、上、上世、長歌「かたがひノ、駒ヤ試ヒツツ、嘶カムト、思フバカリゾ、アハレナルベキ」尺素往來「片飼之駒、雖レ難レ立ニ御用ニ條、云云」

かた-かひな（名）［肩肱］かひなト云フニ同ジ。ニノウデ。

〜かた-かへり（名）［片回］〔かへる（鴘）ノ條ヲ見ヨ〕鷹ノ、二歲ナルモノ。（鷹ノ條ヲ見ヨ）撫鷹　倭名抄、十八、十二「鷹、二歲、名ニ之撫鷹、［illegible］加太加閉利」夫木抄、廿七、鷹「トヤ見レバ、我ガ夏カヒノ、かたかへり、秋來ニケリナ、老イゾシナエル」

かた-かま（名）［片鎌］鎌槍ノ條ヲ見ヨ。

かた-がみ（名）［型紙］厚紙ニ、種種ノ模樣ヲ切拔キタルモノ。染物ノ型附ナドニ用ヰル。

〜かた-かんな（名）［片假名］「かんな（假名）ノ語原ヲ見ヨ、此假名ハ、眞名（漢字）ヲ手短ク書キ取ルタメニ出來タルモノナリ、かたトハ、眞名ノ伊ノ字ノ偏ノミ取リテ「イ」ニ作リ、呂ノ字ノ上部ノミ取リテ「ロ」ニ作レルナドニテ、其眞名ノ偏方ナル意ナリ、其初ハ、村ヲ寸、岐ヲ支、牛［illegible］ヲ牛廿、侍續記、八年五月ニ「正月上弦ヲ上玄、天治字鏡、六三十ニ「蟻落ヲ金洛ナド、省キ記セルニ起リ、遂ニ菩薩ヲ「ササ」緣覺ヲ「ヨヨ」ト、其一片ヲ取リテ連記ノ用トシタル、抄物書ニ成レルナリ、サレバ古キ片假名ニハ「ロ」（ホ）「ヽ」（キ）「卩」（「ミ」ナリ、見ノ草體ノ初二畫）ナド、種種ナリキ〕又、かたかな。假名ノ一種、かんな（假名、ひらがな）ニ對シテ云フ語。「イ、ロ、ハ、ニ、ホ、ヘ、ト」ノ如キモノ。我ガ國ニテ作リ出デタル文字ナレバ、大和假名ノ名モアリ。宇津保物語、藏開、中、二「色紙ヲ、云云、大ノ冊子ニツヅリ、云云、一ツニハかたかんな、一ツニハ葦手、云云」同、國讓、中、四十「男手（漢字）放チガキニ書キテ、同ジ文字ヲ、サマザマニ變ヘテ書ケリ、云云、次ニ、かたかな、云云」宇治拾遺、三、十七條、嵯峨天皇ノ御時「かたかなノ子文字ヲ十二、書カセタマヒテ、讀メト仰セラレケレバ、（小野篁ニ）猫ノ子ノ小猫、獅子ノ子ノ小獅子ト讀ミタリ」狹衣、四、上、四十「御扇ノアルヲ、云云、歌、云云、トかたかなニ書キツケテ」狹衣、下紐「コレヲ、大和假名ト云へり」

かた-かゆ（名）［固粥］粥ノ條ヲ見ヨ。

かた-ガラス（名）［片硝子］懷中時計ノ外蓋ノ片面ニ、硝子ヲハメタルモノ。（兩蓋ニ對ス）

かた-き（名）［敵］〔方分ノ約、早蕨、さわらび。騷立つ、さだつ。細分、こまけ、ト同趣〕（一）相手トナル友。對手　枕草子、八、八十一段、うらやましきもの「雙六打ツニ、かたきノ賽利キタル」新續古今集、十九、誹諧「比叡ノ山ニ方ワキテ、闘花シケル事侍ルニ、かたきノ方ニ、女郎花ヲ作リタリケルヲ、云云」ニ「アソビがたき」コトバがたき」碁ノかたき」（二）戰ノ相手。寇。敵。　神武紀「今我是日神子孫、而向レ日征虜、逆ニ天道一也」保元物語、一、［illegible］件ノ男、（爲朝）敵ヲ攻ル謀、敵ヲ打術、人ニ勝レテ、三年ガ内ニ、九國ヲ皆攻落シテ」（三）怨ミアル相手。仇。讎　大鏡、中、伊尹「大方コノ御族ノ頭爭ヒニ、かたきノツギ給ヘル」（爭ヒノ相手）、父ノかたき」

かた-ぎ（名）［堅木］（一）堅キ木材ノ總名。（二）櫟ノ一名。　易林節用集「櫟木、カタギ」

かた-ぎ（名）［模］〔形木ノ義〕（一）物ノ象ヲ彫リツケタル板。其象ヲ、布帛、又ハ、紙ニ摺リテ、染メ付クルニ用ヰルモノ。　字鏡四十七「模、法也、形也、取レ象也、加太木」倭名抄、十四、裁縫具「模、加太岐」散木集、十、物名「唐紙ノかたぎ」（二）文字ヲ彫リタル版木。　吾妻鏡、三十五、寛元二年六月三日「被レ供ニ養百部摺寫法華經一、［illegible］此是所、被レ加ニ後鳥羽院御追福一也、形木則以ニ彼御筆一被レ彫レ之」

かた-ぎ（名）［氣質］其身分相應ノ氣風。氣立。　好色一代女（貞享、西鶴）三、二「昔ハ律氣千萬ナルヲ、人ノ女房かた氣ト申侍リキ」「學者かたぎ」「武士かたぎ」頑かたぎ」

かた-ぎ（名）［堅氣］身、心、ノ堅固ニシテ、浮薄ナラスコト。リチギ。質儀　鑓權三重帷子（享保、近松作）上「生得、堅氣」

かた-ぎ（名）片食ノ轉。其條ヲ見ヨ。

かたき-うち（名）［敵討］君父等ヲ殺シタル仇ヲ、臣子等ノ、討果スコト。又、仇討。復讎　敵討ハ、臣子、忠孝ノ義務ナリトシテ、德川氏ノ世ニハ、法律ノ制裁ヲ加ヘザルノミナラズ、却ッテ、賞揚スル風アリキ、明治六年二月、布告アリテ、復讎ヲ嚴禁セラレス。　塵芥集（天文五年、伊達稙宗法規文）「親子兄弟ノかたきタリトモ、妄リニうつベカラズ」　常山紀談、廿四、大久保長門守教寛ニ奉公セシ女中、老女ノ、年寄ニ打擲セラレテ自害ス、其下女、主ノ仇トテ、年寄ヲ刺殺ス「始終ヲ、詳ニ言ヒ述ベテ、主ノ仇ヲバ討チ留メツ、思ヒオク事モ無ク候トテ、謹ク色モナシ、云云」（是ハ、松平周防守ノ家ノ事トス、享保九年三月廿七日ナリ、［illegible］ニ、鏡山ト題シ、岩藤、尾上、お初ノ事ヲ演ズル、是レナリ）　合類節用集（元祿）八、上、言辭門「仇討」同、

かた-ぎぬ（名）［肩衣］〔かみしも（裃）ノ條ヲ見合スベシ〕（一）武家ニ用ヰル禮服、小袖ノ上ニ着ル、肩ヨリ背ノミ覆ヒ、前ハ、襟ノミニシテ、袖ナシ、背ノ中央ト、兩ノ襟トニ、家ノ紋ヲ染出ス、素襖ノ袖ヲ去レルモノナリト云フ。下ニ袴ヲ着ケ、其上下、染色、同ジ、合セテ上下ト云フ。　［illegible］二人記、大永七年正月七日、［illegible］仕「道永以下、悉以片衣小袴也」（二）一向宗信徒ノ拜佛ノ時、袴ナク、肩衣ノミ着ルヲ、うちかけ肩衣ト云フ、古キハ幅狹ク、襞ナク、襟ヲ擴キ合セテ着、多クハ、紋所ノ下ニ横筋ヲ染メタリ。

かたぎぬ-ばかま（名）［肩衣袴］かみしも（裃）ノ條ヲ見ヨ。

かたき-やく（名）［敵役］俳優ノ、惡人ニ扮ツモノ。惡人形。惡形。　淨　實惡、色惡、公家惡ナドアリ。コレラニ對シテハ、敵役ヲ平　敵トモ云フ。又、道化ノ惡人ヲ、端敵ト云フ。　人倫訓蒙圖彙、七「敵役」

かた-く（名）［家宅］イヘ、ヤシキ。スマヒ。　易林、加以之呂［illegible］「家宅」

〜かた-ぐ（ケ・ケ・ガ・ギ・ケ（自動、四））［傾］［illegible］片ヲ活用セシム、頭く、（傾）項ぐ、ト、同趣］傾ク。ヨロボフ。コロメク。　字鏡［illegible］、［illegible］伊勢物語行親、頭也、加太久」「馬ノ荷ガかたぐ」

かた-ぐ（ゲル・グレ・ゲ・ゲ・ゲヨ（他動、下二））［擔］［illegible］肩ヲ活用セシム、［illegible］、同趣］肩ニ載ス。肩ニ負フ。［illegible］ニナフ。カツグ。　［illegible］著聞集、十［illegible］、［illegible］かたげテ、［illegible］ハ［illegible］テ行キケリ」

かたく-ゑんにふ (名) 家宅侵入 故ナクシテ、他人ノ家宅ニ侵シ入ルコト。

かた-くち (名) 片口 (一)長柄ノ銚子ノ、一方ニノミ注口アルモノ。吾妻鏡、三十一、嘉禎二年八月四日「酒坏(注、入二片口銚子二)」(二)鉢ノ、一方ニ注口アルモノ、酒ナドヲロ狹キ器ニ移スニ用キル。

かた-くち (名) 肩口 肩ノ、胴ニ接スル所。カタサキ。肩頭 鬼貫塔本地(寛永、近松作)三「右ノ腕ヲ、肩口ヨリ、バラリズント切落ス」

かたくな・し・シキ・シケレ・シク・シク(形、二) 頑 〔次條ノ、かたくなヲ活用セシム〕(一)〔カタクナナリ。偏意地強シ。源、十三、明石二十「イトド鳥許ニかたくなしき、入道ノ心バヘ」名義抄「頑、カタクナシ」同「愚、カタクナシ、ヒスカシ」(二)痴レジレシ。オロカナリ。痴愚 榮花物語、五、日蔭蔓「此宮タチ、五六人オハスルニ、スベテ痴レかたくなしきガ無キナリ」(三)〔ミニクシ。ツタナシ。陋劣 名義抄「拙、カタクナシ、ツタナシ」同「醜、カタクナシ」源、二十一、少女「裝束ドモノ、ウチアハズ、かたくなしき姿ナドヲモ、恥ナク」紫式部日記「アイニク、カタハライタキゾ、かたくなしきや」

〔かた-くな-ゐ (副) 頑 〔かたハ、偏、くなハ、拗るノ轉、(船、ふなばた。稻、いなぼ)くなたぶれノ、くなナリ〕(一)心、カタヨリネヂケテ。カタイヂニ。偏窟ニ。續紀、二十、天平寶字元年七月、詔「狂レ迷ヘル、頑奈留奴ノ心」同、三十、神護景雲三年十月、詔「頑無禮心ヲ念ヒテ、横ノ謀ヲ構ヘ」字鏡五十「很、佷、戾也、違也、拏也、加太久奈」源、一、帚木四「イトド人惡ク、かたくなゐナリハツルモ」(二)痴レテ、愚ニ。痴愚 皇極紀、二年十一月「入鹿極甚愚癡、專行二暴惡二」字鏡二十「譴、癡也、(愚ノ誤)加太久奈」

かた-くび (名) 肩頸 かたぐるまノ古言。義經記、七、平泉寺ニ御物事「名譽ノ兒アリ、云云、大衆ノかたくびニ乘リテゾ來リケル」

かた-ぐま (名) 肩車ノ略。私可多咄(萬治)五「ア…ヨリ先ハ、かた…、まニテ來タルニ」

かた-くり (名) 片栗 一かたかゆりノ約」カタカゴ。カタコユリ。宿根草、二葉相對シテ生ズ、厚ク、粉緑色ニシテ、面ニ紫ナル斑アリ、仲春、葉ノ間ヨリ一莖ヲ出シテ、梢ニ一花ヲ倒ニ垂レテ開ク、形、ひめゆりノ花ニ似テ、小サク、三瓣、紫色ニシテ美シ、根塊小サク、葱ニ似テ、白シ。車前葉山慈姑 根ヲ碎キテ磨リ潰シ、袋ニテ漉シ、水飛シテ乾スヲ、片栗粉ト云フ、潔白ナリ、コレヲ麪トスルヲ片栗麪ト云ヒ、餠トスルヲ片栗餠ト云ヒ、又、乾菓子、落雁ナドノ種トモス。

かたくり-こ (名) 片栗粉 前條ヲ見ヨ。

かたくり-めん (名) 片栗麪 前前條ヲ見ヨ。

かたくり-もち (名) 片栗餠 かたくりノ條ヲ見ヨ。

かたくる・し・シキ・シケレ・シク・シク(形、二) 固苦 身持、嚴カナルニ過ギタリ。偏窟ナリ。嚴格「かたくるしい切口上」

かた-ぐるま (名) 肩車 〔乘ル故ニ、車ト云フ〕小兒ナドヲ、項ヨリ兩肩ニ跨ガラセテ擔ゲ行クコト。カタクビ。カタグマ。靜岡ニテ、肩馬。坐肩 私可多咄(萬治)五「クラベコシ、振分髮ノ、肩ぐるま、君ナラズシテ、誰レカアグベキ」

かた-げ (名) 片食 〔け(食)ノ條ヲ見ヨ〕朝食、又ハ、晩食ノミナルコト。一度食フホドノ食事。訛リテ、かたぎ。食「ヒトかたげ」ラタかたげ」

かた-けい (名) 片敬 もろけいノ條ヲ見ヨ。

かた-けん (名) 片拳 拳ノ條ヲ見ヨ。

⁂かた・げる (動) かたぐ(擔)ノ口語。

かた-こと (名) 片言 (一)成リ調ハヌ言葉。訛レルコトバ。訛語 (二)小兒ノ、言語ノ、未ダ調ハヌモノ。ちのびね物語、上「若君ハ日ニソヘテ、ウツクシクナリタマヒテ、かたことチマカセテ、物ノタマフ」

〔かた-こひ (名) 片戀 かたおもひニ同ジ。萬葉集、十一ノ四十二「淺貝ノ、獨戀ノミニ、年ハ經ニツツ」古今集、十一、戀、一「心ガヘ、スルモノニモガ、かたこひハ、苦シキモノト、人ニ知ラセム」夫木抄、廿七、貝「淺カカル、岩根ニツケル、アハビ貝、コヤかた戀ノ、タグヒナルラム」

かた-こびん (名) 片小鬢 片方ノ鬢。昨日は今日の物語(寛永)「片小鬢、スラスラト剃リオトス」

かた-こゆり (名) 〔古言、かたかごノ略ニ、百合ヲ添ヘタル語〕かたくりニ同ジ。

かた-さき (名) 肩先 肩ノ上。カタクチ。肩頭 古事記、四、勇士「源齊頼、云云、鬪、云云、肩さきノ程、採廻テ」

〔かた-ざけ (名) 醇酒 〔固酒ノ義ナラム〕煉酒ノ類カト云フ。(東雅) 倭名抄、十六ノ十三「醇酒、加太佐介、厚酒也」

〔かた-さま (名) 方樣 〔方方ノ義〕其方ノ方向。源、廿一、少女九「斯ル方さまヲ思シ好ミテ」枕草子、十、百廿七段「北ノ陣ノかたさまニ、歩ミ行ク」

かた-さま (名) 片樣 きみさまノ條ヲ見ヨ。

〔かた-さ・る・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) 片去 〔偏離るノ義、さる(離)ノ條ヲ見ヨ〕傍ニ避ク。片寄リ居ル。萬葉集、十八ノ十二「夫ハ、シキヨシ、妻ノ命ノ、衣手ノ、別レシ時ヨ、ヌバタマノ、夜床片去(さ)里、朝寢髮、搔キモ梳ラズ」(夫ノ不在ニハ、床ノ正中ヲ避ケタリ) 同、四ノ十二「イカバカリ、思ヒケメカモ、敷栲ノ、枕片去、夢ニ見エ來シ」源、三十四、上、若菜、上四十「イヅカタモ、皆コナタノ御ケハヒニハ、かたさり憚ルサマニテ、過ゴシタマヘバ」

〔かたし (名) 鍛 カタスコト。鍛フルコト。垂仁紀、三十二年七月「賜二鍛地一、卽任二土師職二」

〔かた-し (名) 鍛人 〔鍛師ノ意ナラム〕鍛物師ナルベシ。古事記、上四十「取二天金山之鐵一、而求二鍛人天津麻羅二而、云云、令レ作レ鏡一」

〔かた-し (名) 片 〔片足ノ約、(膚足、はだし)移リテ、タダ一片ノ意トナレルナリ〕對ナルモノノ、一片。カタカタ。隻 宇津保物語、あて宮三十「表ノ袴ヲカヘサマニ着、かたしニ足二ツヲサシ入レテ」枕草子、九、百十三段「黑匣ノ蓋モ、かたし落チタル兒」夫木抄、廿七、伊勢島ヤ、二見ノ浦ノ、かたし貝」東海道名所記(萬治)六「尻切草履かたしかたしハキテ、人ノ家ノ門ニ立チ」

〔かた・し・キ・ケレ・ク・ク(形、二) 堅固 〔かたハ、金石ナドノ音ナルベシ〕(一)柔シノ反。容易ク碎ケズ。堅固ナリ。チャウブナリ。(物ニ) 源、廿九、行幸廿八「かたき嚴モ、淡雪ニナシ給フベキ、御氣色ナレバ」(二)確ト定マリテアリ。タシカナリ。漫ナラズ。(事ニ) 確 顯宗卽位前紀「取二結縄葛一者、此家長御壽之堅也」「心堅し」身持堅し」約束堅し」堅く守ル」(三)嚴シ。強シ。緊 枕草子、五、四十六段「ウラヤミアリ、イカデカナド、かたく云フニ」「かたき仰言」固く誡ル」(四)動カシニクシ。落窪物語、一「中隔テノ障子ヲ、明ケタマフニ、かたけれバ、コレ明ケヨト宣フニ」

かた・し・キ・ケレ・ク・ク (形、二) [難] 一前條ノ語ノ轉] 易しノ反ッ。爲ルニ容易カラズ。[illegible]カ易キ、此レヲオキテ、又ハアリ(或多之)「行クコト難し(及ビ難し)」

かたし-がひ (名) [片貝] 〔かたし(片)ノ條ヲ見ヨ〕 介ノ殼ノ、離レテ、一片トナレルモノ。カタツガヒ。夫木抄、廿七、貝「伊勢島ヤ、二見ノ浦ノ、かたし貝、アハデ月日ヲ、待ツゾツレナキ」

かたし-きり (名) [跛] 片足切ノ義カ、[illegible]一足[illegible]也] 片足ニテ、[illegible]行クコト。アシコギ。ケンケン。チンチンモガモガ。名義抄「跛足、跛、カタシキリ」字津保物語、藤原君「御子ノ君、かたしきりシテ、車ニ走リ乗リタマヘリ」

かた-志・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (他動、四) [片敷] 己ガ衣ノ片身ヲ、下ニ敷ク。(偶無クテ、獨寢スルニ云フ) [illegible]萬葉集、九[illegible]ガ[illegible]ハ[illegible]、衣片敷き、[illegible]古今集、十四、[illegible]源氏[illegible]「異竹ノ、夜寒ニ今ハ、ナリヌトヤ、カリソメ[illegible]、衣かたしく[illegible]

かた-志ぐれ (名) [片時雨] 一方晴レテ、一方ニノミ降ル時雨。

かた-じ-けな・し・キ・ケレ・ク・ク (形、二) [辱] 〔勝たじ氣甚しノ義、(負けじ心ノ反、なしハ、おほけなし、あらけなしノ、なし)忝ろる意多しノ意、字ハ「辱、[illegible]也」禮記、曲禮、[illegible]君言之辱[illegible]者、[illegible]者之命、來[illegible]也[illegible]〕 (一)恐レ多シ。カシコシ。モ　タイナシ。[illegible]

[illegible] (二)[illegible] (三)恐キ事忝ミヲ受ケテ、ウレシ。アリガタシ。[illegible]一、桐壺[illegible]「身ニ餘ルマデノ御志ノ、ヨロヅニかたじけなきニ」[illegible]くアハレニ[illegible]シタリシモ[illegible]

かた-じけな・む・ム・メ・マ・ミ・メ (自動、四) [辱] 〔前條ノかたじけなしノ語根ヲ活用セシム、いとなし、いとなむ。はかなし、はかなむ〕 辱シト思フ。[illegible]正月、詔「天地ノ心ヲ勞シミ、重シミ、辱[illegible]、恐ミ[illegible]」同、三十一、[illegible]二年二月、[illegible]「詔「世ヲ累ネテ、仕ヘ奉リマサヘル事ヲナモ、[illegible]シミ思シマス」

かたし-た・つ・ツ・テ・タ・チ・テ (自動、四) [跂] 片足立ツノ義 片足ニテ立ツ。名義抄「跂、カタシタツ」字類抄「跂、カタシタツ」

かたし-は (名) [堅磐] 〔堅し磐ノ略〕 堅キ岩石。約メテ、かしは。古事記、上[illegible]「天安河之河上之天堅石」倭名抄、九[illegible]

かた-志ほ (名) [堅鹽] [illegible]ノ古言。[illegible]イタメジホ。萬葉集、五[illegible]長歌「堅鹽ヲ、取リツヅシロヒ」[illegible]二、[illegible]ニシテ、酒ヲ飲マセテ」

かた-志ん (名) [堅人] [illegible]ナラヌ人。堅氣ノ人。

かた-志ろ (名) [形代] (一)神ヲ祭ルトキ、其神體ノ代トシテ、据エオクモノ。尸。[illegible]たしろナドヲ爲ヒタラムヤウニテ」(二)[陰陽師ノ[illegible]川[illegible]人ノ[illegible]作リタルニテ、身ヲ撫デテ、[illegible]シ、身ノ代トシテ、水ニ流シヤル、故ニ、撫物ノ名モアリ。一名、人形。[illegible]「人形、カタシロニ[illegible]ニセムト」(三)石塔。(連歌ニ)

かた-志ろ (名) [肩白] 鎧ノ袖ノ上部ヲ白絲ニテ織シ、其外ハ、色アル[illegible]ニテ織シタルモノ。[illegible]田ハ、鹿毛ナル馬ニ乘ッタリツルガ、肩白ノ鎧ニ、[illegible]金物打ッテ、云云」

かた-志ろ (名) [片白] 次條ノ語ノ略。

かた-志ろ-ぐさ (名) [片白草] [illegible]、澗、澤、川流ノ傍ニ、當[illegible]ヨリ生ズ。[illegible]クシテ、高サ三四尺、葉ハ楕ニシテ長ク、[illegible]ノ葉ニ似テ尖ラズ、厚クシテ、[illegible]色、[illegible]多シ、夏ノ半夏生ノ頃ニ、梢ノ三葉ノミ、表面、白ク變ジテ、背ハ然ラズ、故ニ片白、三白、又、半夏生草ノ名アリ、其白葉ノ間ニ、三寸許ノ穗ヲ成シテ、小花密ニツブリ開ク、白クシテ、[illegible]ナリ、後ニ[illegible]子ヲ生ズ。三白草 [illegible]

かた-す (名) [片[illegible]] すはまノ條ヲ見ヨ。

かた・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) [鍛] きたふノ(一)ニ同ジ。神代紀、下[illegible]「以二其横刀、鍛ニ作[illegible]」字[illegible]、[illegible]、カタス、[illegible]

かた・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) [移] ウツス。處ヲ易フ。三代實錄、十八、[illegible]十二年十

一月[illegible]「[illegible]之[illegible]山城國葛野郡、[illegible]」[illegible]ヲ[illegible]タルナリ」

かた-すかし (名) [肩透] 相撲ノ手ノ一。[illegible]

かた-すそ (名) [肩裾] [illegible]ノ衣服ノ、[illegible]はりノモノ。肩ト裾トヲ黑染ナドトシ、[illegible]ノ所ヲ白クアケ[illegible]、[illegible]川小袖ノ、[illegible]ノ如シ[illegible]

かた-す-の-くに (名) [堅洲國] 〔かたすハ、片隅ノ略、日ニ觸レヌ意ト云フ〕 ねのくにノ條ヲ見ヨ。黄泉。

かた-すみ (名) [片隅] 一方ノ隅。カタワキ。傍隅 源、十三、明石[illegible]「かたすみニ寄り居タリ」

かた-ずみ (名) [[illegible]炭] [illegible]ナドニテ[illegible]キ成セル炭、[illegible]炭ナドニ對ス。硬炭 剛炭

かた-そ (名) [片岨] 山ノ一方ノ岨。斷崖 夫木抄、廿、山「足引ノ、山ノかたそノ、岩清水、下ユク森ノ、[illegible]ゾ涼シキ」[illegible]、今昔物語、廿七、十五語「山ノ片岨ニ、山庄ノヤウニ造リタル所アリ」

かた-そぎ (名) [片[illegible]] [illegible]ニ云フ[illegible]。其條ヲ見ヨ。

かた-そで (名) [片袖] 片方ノ袖。(兩袖ニ對ス) 萬代集、十四、雜、二「フリマサル、我ガ片袖ノ、雨モウシ、身ヲ思ヒ知ル、春ノタグレ」

かた-ぞなへ (名) [片膳] 〔片供ノ義、片食

ト云ハムガ如シ、持齋者ハ一日一食ノ制ナレバ、常人ノ、朝夕二食ナルニ對シテ云フ」齋宮ノ忌詞ニテ、齋ノコト。（いみふそばノ(一)ヲ見ヨ）

〔かたそば（名）|片側| かたはしニ同ジ。カタツマ。傍 源、十三、明石四十三「岩ノかたそばニ」同、二十五、螢廿七「神代ヨリ世ニアル事ヲ、記シ置キケルナナリ、日本紀ナドハ、タダかたそばゾカシ」同、四十六、總角六十八「御髮、云云、コボレ出デタルかたそばバカリ」

〔かたたがひ（名）|片違| 物ノ、順次、高低ノ揃ハヌコト。參差 欽明紀、二年三月「前後失次、兄弟參差」

〔かたたが・ふ・フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ（自動、下二）|方違| かたたがへヲナス。源、二、帚木三十三「イヅクニカかたたがへム」伊勢集「かたたがふトテ、京極ナル人ノ家ニイキテ」

〔かたたがへ（名）|方違| 外出セムトシテ、其方角ノ方塞ナル時、前夜ニ、他ニ宿シ、方向ヲ違ヘテ趣クコト。古今集、十七、雜、上「かたたがへニ、人ノ家ニマカレリケル時ニ」

かたたぶな（名）|堅田鮒| 近江ノ湖上、堅田ノ邊ニテ捕ル鮒ノ稱。梅雨ノ候ヲ節トシ、尺以上ノモノアリ、多ク、鮨トス。一名、源五郎鮒。新六帖、三「古ハ、イトモ畏シ、かたたぶな、包燒ナル、中ノ玉章」

かたたより（名）|片便| 此方ヨリノ音信ノミニテ、彼方ヨリ返事ノ無キコト。新六帖、三「沖中ニ、潮風バカリ、音信レテ、かただよりナキ、蜑ノ宿カナ」

〔かたち（名）|形| 〔形様ノ轉ナルベシ、ながち、ながて(長路)ノ例〕(一)形ノ、現レテアルトコロ。物ノ、外ノ見。アリカタ。形。神代紀、上「天地之中生二一物一狀

如二葦牙一、便化二爲神一」(二)人ノスガタ。ナリフリ。容貌 神代紀、下八「味耜高彥根神、登レ天弔レ喪、大臨焉、時此神形貌、自與二天稚彥一恰然相似」(三)眉目美キコト。キリヤウヨシ。美貌 源、廿二、玉蔓八「好キタル心ノマジリテ、かたちアル女ヲ集メテ見ムト思ヒケル」「かたち人」(四)アリサマ。容子。消息 天武紀、下、十四年九月「國司郡司、及、百姓之消息」催馬樂、淺水「媒立テテ、御許ノ加太知、消息シ、訪ヒニ來ルヤ」

かたち（名）|蜻蛉| かげろふ(蜻蛉)ニ同ジ。

かたぢ（名）|堅地| (一)下地ヲ、堅固ニ塗ルコト。(漆塗ナドニ) 卯月潤色(寶永、近松作)下、助給書置「かたぢノ長持、嫁ニ傳ハリ、出來合飯櫃、風呂ノ下ノ霞トナル」(二)堅氣。排縮緬卯月紅葉(寶永、近松作)上「かたぢノ父ノ親」

かたちぐ（名）ちぐはぐノ條ヲ見ヨ。五十年忌歌念佛(寶永、近松作)中「右、左、振リト、詰メトノ片ちぐ」

かたちづくり（名）|容作| (一)カタチヅクルコト。カホカタチ。容貌 孔子家語「澹臺子羽、有二君子之容一、而行不レ勝二其貌一」(二)カホヅクリ。假粧。粉飾

かたちづく・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）|容作| (一)形ヲ成ス。成形 (二)容貌ヲカザル。假粧ス。粉飾 史記、豫讓傳「士爲二知レ己者一死、女爲二悅レ己者一容」

〔かたちはひ（名）|阿黨| カタチハフコト。カタビイキ。偏頗。依怙。靈異記、上、第五縁「貴レ佛信レ法、澄レ情効レ忠」訓釋「僚、加太知波比」(僚、一本、作レ儻)

〔かたちは・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ（自動、四）|阿黨| (ちはふ(幸)ノ條ヲ見ヨ) カタヒク。カタビイキス。依怙ス。偏頗ス。孝德紀、

大化元年八月「或懷レ意不レ理、或阿レ黨有レ曲」天治字鏡、十二「廿五「護短、可太知波不」名義抄「朋、儻、カタチハフ」

〔かたちびと（名）|容人| 〔容花ノ類語ナリ、かたち(形)ノ(三)ヲ見ヨ〕容貌ノ美ハシキ人。ミメヨキ人。美貌 宇津保物語、初秋二五十「仲忠「コノ頃ハ、イトメデタキかたちノ盛リナリ、父大臣、サルかたち人ニテ、連ネテ參リタマフ」源、一、桐壺廿四「后ノ宮ノ姬君コソ、云云、アリガタキかたち人ニナムト」

かたちんば（名）|片跛| 〔ちんばノ條ヲ見ヨ〕一對、同物ナルベキ履物ナドニ、不同ノモノヲ、對セシメタルモノ。カタチグ。

〔かたつ・ツ・テ・タ・チ・テ（他動、四）|崇| アガム。尊ブ。崇神即位前紀「崇二重神祇一」孝德紀、大化元年八月「朕更復思下崇二正敎一、光中啓大猷上」

〔かたつ・ツル・ツレ・テ・テ・テヨ（他動、下二）|崇| 前條ノ語意ニ同ジ。神代紀、下二「特鍾二憐愛一、以崇養焉」欽明紀、二年七月「追崇二先世和親之好一」

かたづ（名）|固唾| 唾ヲ、口ニ溜メテアルコト。氣ヲ凝シテ、物言ハズシテアル時ナドニスルコトナリ。盛衰記、四十二、玉蟲立レ扇與一射レ扇事「此扇誰カ射ヨト仰セラレムト、肝膾ヲ作リ、難唾ヲ飲ル者モアリ」

かたつかた（名）〔片之方ノ義〕片方ト云フニ同ジ。更級日記「淸見ガ關ハ、かたつかたハ海ナルニ」

かたつがひ（名）|片貝| 〔片之貝ノ義〕介殼ノ一片。カタシガヒ。海道記「タノメツル、人ハナギサノ、かたつがひ、アハヌニツケテ、身ヲウラミツツ」

かたつき（名）|肩衝| 〔肩ヲ突張リタル

如キ形ニ見ユル故ノ名カ〕茶道ニ用キル、一種ノ茶入ノ稱。圓筒ヲ頭切ニシタル形ニシテ、上ノ中央ニ孔アルモノ。茶道筌蹄、四、茶入之部、唐物「茄子ヲ上品トス、肩衝、文林、是ニ次グ」

かたづき（名）|片附| カタヅクコト。ヲサマリ。オチツキ。安堵 「身ノかたづき」

〔かたつ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ（自動、四）|偏附| 一方ヘ着ク。片寄リテ附ク。萬葉集、十八「足引ノ、山片就きテ、家居セル君」

かたづ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ（自動、四）|片附| (一)亂レタルガ、定マル。調フ。治マル。オチツク。整頓 (二)嫁グ。ヨメイル。嫁 浮世風呂(文化、三馬)二編、上「御總領ノ御姉樣ハ、タシカ片づきナサイマシタッケネ」

かたづ・く・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ（他動、下二）|片附| (一)亂レタルヲ、定ム。治ム。整理 「座敷ヲかたづく」(二)次次條ヲ見ヨ。

かたつけ（名）|型附| 型紙ヲ布帛ノ上ニ當テテ、其上ヨリ染料ヲ塗リテ、模樣ヲ染メ附クルコト。諸問屋再興調、十一、紺屋共舊記之寫「紺屋、小紋形付渡世仕候者」

✣かたづ・ける・ケル・ケレ・ケ・ケ・ケヨ（他動、下二）|片附| (一)前前條ノ口語。(二)嫁ガス。ヨメイラス。凱陣八島(元祿、近松作)二「源氏ヘ緣ヲ求メ、姬君達ヲ御かたづけナサレテハ」

かたづつう（名）|偏頭痛| 頭ノ左部カ、右部カ、片方ノミ、頭痛ノスルコト。ヘンヅツウ。

かたつづみ（名）|肩鼓| 〔右ノ肩ニ載セテ打ツ〕二百年前、能ニテ小鼓ノ稱。

大鼓ヲ[illegible]鼓ト云ヒ、小鼓ヲ[illegible]鼓ト云ヒキ。

かたつぱし（名）片端ノ音便。[illegible]法（正徳、近松作）一「一寸デモ翼ヲ延紙ト、膝ニ刻イ[illegible]片[illegible]」

かたつぶり（名）［蝸牛］ニかたつぶりハ、潮螺ノ轉、出典ヲ見ヨ、りハ、添ヘタル辭、らノ條ヲ見ヨ。[illegible]モアリ」蟲ノ名。夏時、雨濕ニ乘ジテ草樹ニ上リ、新葉ヲ食フ、晴ルレバ葉ノ下ニ隱ル、身、殼ノ中ニアリ、殼ハ、[illegible]ノ如クニシテ、薄ク脆シ、色、淡黃ナルヲ常トスレド、尙、種種ナリ、蓋無シ、行クトキハ殼ヲ出デ、殼ヲ負フ、身ハなめくぢニ似テ、頭ニ兩角ノ如キモノヲ出シテ、各端ニ眼アリテ行ク、即チ眼ニシテ、四方ヲ見ルナリ、其下ニ、又、短キ兩角アリ、身ニ粘液多シ。一名、かたつむり。デデムシ。デンデンムシ。マヒマヒツブリ。字鏡「[illegible]字ニ「加太豆夫利」天治字鏡、八卅「同字ニ「加太川比」本草和名、下「[illegible]牛、[illegible]（倭名抄、[illegible]）

かたつぺら（名）［傍片］かたへらニ同ジ。

かたつぽ（名）片方ノ音便。カタカタ。

かたつま（名）［片端］かたはしニ同ジ。

かたづ・む・ム・メ・マ・ミ・メ（自動、四）［片詰］カタソバ。玉葉集、八、旅「[illegible]ツカハシケル中ニ、[illegible]ノかたつまニ、[illegible]ツケ侍リケル」

かたつむり（名）かたよるニ同ジ。カタヅル。偏

かたつむり（名）［蝸牛］かたつぶりニ同ジ。[illegible]ノ子ニ、[illegible]ノ、かたつむり、角ノアルトテ、身ヲナ賴ミソ」

かたつめがに（名）［偏爪蟹］蟹ノ一種。海ニ產ジテ、色、赤ク、其[illegible]、一ハ大キク、一ハ小サキモノ。テンポウガニ。擁劍

かたつら（名）［片面］[illegible]ノ片方。カタカタ。[illegible]

かたづ・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）［片釣］かたよるニ同ジ。カタヅム。[illegible]名[illegible]形ニ、[illegible]五[illegible]ノ[illegible]ノ、ナケキト入ノ、[illegible]シサト、かたづりナラヌ、[illegible]ノ[illegible]ヒカナ」

かたて（名）［片手］「片之方ノ約」片方ニ同ジ。[illegible]、七「[illegible]ニ[illegible]兵ノ中將ハ、[illegible]ヲゾ[illegible]ヒタマヒケル、かたてニハ、大殿ノ頭中將」「かたて落」

かたて（名）［片手］（一）〔左カ、右カ、一方ノ手。偏手（諸手ニ對ス）[illegible]、四十四、[illegible]姬「[illegible]ヲかたてニ[illegible]ヒテ、[illegible]ミツツ、[illegible]ヲシ[illegible]フ」（二）五指ニテ、五ノ數ヲ代表セシムル語。五本、五兩、五十兩ナドヲ、片手ト云フ。文政ノ川柳「片手デヲガム、[illegible]ノ、[illegible]ヒ」（有夫姦ノ價、五兩ナリキ）（三）片手桶ノ略。

かたてうち（名）［片手打］片手ニテ、刀ヲ振リ、切リカクルコト。[illegible]三、[illegible]永三年二月二日、[illegible]次[illegible]、[illegible]首、云云、[illegible]谷次[illegible]重[illegible]之、[illegible]日[illegible]之時、[illegible]、[illegible]手[illegible]二

かたておち（名）［片手落］〔かたてノ條ヲ見ヨ〕片方ニカタヨルコト。カタオチ。偏頗。

かたでま（名）［片手間］本分ノ業ノ隙ニスル業。餘業

かたてまき（名）［片手卷］刀ノ柄絲ナド、片手ニテ卷キタル如ク卷クコト。偏紮

かたてむすび（名）［片手結］片[illegible]ニ結ブコト。カタムスビ。カタヒザムスビ。（[illegible]ノ條ヲ見ヨ）[illegible]（[illegible]永）[illegible]ノ[illegible]ノ[illegible]、五六寸アルベキヲ、[illegible]ニテ片手[illegible]ビニナサレ、云云」（[illegible]、二）

かたでり（名）［[illegible]］[illegible]、雨ナク、晴天ノミ續クコト、コレニ反シテ、雨ノミ降ルヲ、かたぶりト云フ。

かたてをけ（名）［片手桶］徑五寸許ノ小桶ノ一方ニ、取手ノ、附ケテアルモノ。片手ニテ水ヲ汲ムニ用ヰル。略シテ、かたて。又、汲出。一種、さるぼぼト云フアリ。

かたど（名）［片戶］開戶ノ、一片ナルモノ。片扉　夫木抄、三十一「山里ノ、柴ノかた戶ノ、片[illegible]」

かたどき（名）［片時］一時ノ牛。半時。暫時ノ間。片時。暫時。[illegible]時　[illegible]、[illegible]、夕[illegible]「かたときモ、[illegible]ニ[illegible]チ[illegible]レ[illegible]ラズ」[illegible]集、十、[illegible]、二「かたときモ、見ネバ戀シキ、君ヲ置キテ、アヤシヤ[illegible]、[illegible]ニ[illegible]ヌラム」

かたどまり（名）［片泊］かたはたごニ同ジ。

かたど・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）［象］〔形取ろノ義〕物ノ形ヲ、摸シ取ル。眞似ル。似ス。[illegible]集、六、[illegible]、[illegible]、云云、[illegible]、天ニかたどり、[illegible]、地ニかたどる」

かたど・る・ル・レ・ラ・リ・レ（他動、四）［方取］其方ニ控ヘオク。[illegible]「山ヲ後ニかたどる」

かたな（名）［刀］〔片之刃ノ約カ、（水泡、みなわ。吳藍、くれなゐ）沖繩ニテ、かたふァト云フ、片刃ナリ、西班牙語ニモ、刀ヲかたなト云フトゾ〕（一）〔刃物ノ、片刃ナルモノ。（諸刃ナルニ對ス）大ナルニモ、小ナルニモ云フ　倭名抄、十三、[illegible]具「[illegible]刀、大刀、大刀、小刀、[illegible]、[illegible]、[illegible]、三年三月「小刀一口」同、四年九月「匕首」欽明紀、廿三年八月「高麗 金 飾 刀二口」（二）〔專ラ、甚ダ小サキ刀。コガタナ。刀子　倭名抄、[illegible]二[illegible]刀、[illegible]刀、[illegible]、[illegible]打刀ノ（二）ヲ、長クシタルモノ。（三）[illegible]、打刀ノ（二）ヲ、長クシタルモノ。刃ノ長サ二尺乃至三尺ニ至ルアリテ、（[illegible]ヨリ[illegible]）[illegible]刀ニ[illegible]シ、[illegible]、[illegible]ニ[illegible]ス。佩刀　脇差ト揃ヘテ刺シテ、大小ト云フ。[illegible]二、[illegible]ノ刀、[illegible]、大小[illegible]」

かたな（名）［片名］（一）二字ノ名ノ、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]二、[illegible]十八、[illegible]、云云、[illegible]タマフ、片名ヲ賜ビテ、重陽トヨバレケリ」後ニ、[illegible]一字拜領ナド云フ、是レナリ。（二）物ノ名ノ、頭ノ音ヲ一ツヅツ摘ミ取リテ略稱スルコト。[illegible]、花山[illegible]ノ頭ノ[illegible]丹後、（好忠）ヲ曾丹後、又、曾丹（歌集ニ曾丹集アリ）ト呼ブナド、是レナリ。[illegible]の糸卷（弘化、京山）十八大通「元祿ノ比、紀伊國文左[illegible]門、云云、片名ニ呼ビテ、紀文ト云フ「かたなを[illegible]ヲ見ヨ）[illegible]（[illegible]永）[illegible]の刀ト云フ、[illegible]、[illegible]ト解ク、心ハ、阿波、讚岐、伊豫、土佐ノ片名ナリ」

かたなかけ（名）［刀掛］左右ニ[illegible]テ[illegible]ヲ立テテ、橫ニ刀ヲ掛ケオク具。刀架

かたなかぢ（名）［刀鍛冶］鍛冶ノ、[illegible]、刀ヲ鍛ヘ作ルヲ業トスルモノ。刀工　[illegible]

かたながれ（名）［片流］雨水ノ、一方ニ流レ落ツルヤウニ造レル屋根。（兩下ニ對ス）

かたなきず（名）［刀疵］（一）刀ニテ切ラ

レタル、膚ノ疵。刀傷 (二)ソノ刀疵ノ、癒ニタル痕。刀瘢

かた-なし (名) [結政] 〔結ね成しノ義、萬葉集、十八 十三 長歌「仕フル國ノ、年ノ内ノ、事可多禰持チ、參シ我ガ兄ヲ、云云」(越中ノ朝集使ナリ)〕 太政官ニテ、參議、外記、辨官ナド、參集シテ、庶事ヲ受付ケ、八省以下ノ申文等、先ヅ披閲シ、結束スルコト。名義抄「結成、カタナシ」其局ヲ、結政所、結政の座ト云ヒ、外記ノ正廳ノ南ニアリ。江家次第、十八、結政請印「結政所、左右大辨座中間程、敷二參議座半帖一」 太政官式「參議、於二辨官結政所一捺了」 江家次第、十八、官結政「若無二申文一時、又、稱二結政一罷起レ座」 續後拾遺集、十六、雜、中、外記ノ廳ノ結政の座ニ、古宮ノ柱ノ、今ニ殘レルヲ、政ノツイデニ見テ詠メル「古ヘノ、奈良ノ都ノ、宮柱、コノかたなしニ、ナホ殘ルカナ」

かた-なし (名) [無形] (一)錢ノ、文字ノ、潰レテ、見エズナリタルモノ。 敎令類纂、初集、六十六、錢「惡錢、濫ニ撰ブベカラズ、但、鉛錢、大ワレ錢、かたなし、新錢、ヘイラ錢、此外ハ、無二異義一取引ベキ事」 (二)跡形ノ、ナクナルコト。滅亡 續詞花集、十九、物名「大内ノオホガキノ、破レタルヲ見テ、云云「大垣(柿ニ言ヒカク)ハ、核バカリコソ、殘リケレ、方なし(結政ニ云ヒカク)トテモ、家ハアラジナ」

かた-な・し・キ・ケレ・ク・ク (形、一) [穢陋醜] 〔法無しノ義カ、きたなしト通ズ、其語原ヲ見ヨ〕 醜シ。穢シ。 景行紀、四年二月「形姿穢陋」私記「加太奈之」 字鏡二「醜、加太奈志」 同十「醜、恥也、加太奈志」 名義抄「醜、カタナシ、ミニクシ」

かたなし-どころ (名) [結政所] かたなし(結政)ノ條ヲ見ヨ。

かたなし-の-ざ (名) [結政座] かたなし(結政)ノ條ヲ見ヨ。

かたな-だま (名) [刀玉] 刀ノ手玉。田樂ナドニテ、數人シテ、拔刀ノ刀ヲ、互ニ投ゲヤリ、受ケ取ル伎。 續後紀、六、承和四年七月「奏二舞樂一令レ弄二玉及刀子一」 發心集、八、第七條「田樂、猿樂ナドノ中ニ、刀玉ト云ヒテ、危キ技スル者アリ、コレヲ見レバ、刀六ツヲ、三人シテ取ル、云云」 太平記、二十七、田樂事「田樂、刀玉」

かた-なづけ (名) [片馴附] 未ダ善ク飼ヒ馴レザルコト。カタガヒ。 平治物語、二、待賢門軍事「惡源太ノ乘レル馬「かたなづけノ駒ニテ、付木ニヤ驚キケム、右手ノ方ヘケシ飛ビテ、小膝ヲ折リテ、ドウト伏ス」

かたな-とぎ (名) [刀磨] 刀ヲ磨グヲ業トスル者。 東北院職人歌合(建保)四番「刀磨」

かたな-ばん (名) [刀番] 主人ノ刀ヲ守ル役。外出ノ時、刀持トナル。 武家學要二「登城之節、刀番御玄關へ上ル分」

かたな-びき (名) [刀引] 酒宴ノ時、刀ヲ、引出物トスルコト。 貞丈雜記、十二「刀引ト云フ事、舊記ニアリ、云云、刀ヲヌキテ、盃ヲ飲ム人ニツカハシケルナリ、云云」

かたな-もち (名) [刀持] 貴人ノ刀ヲ捧ゲテ從フ從者。弩刀 德川禁令考、三十八、大名家格、享保三戊年四月「登城之節、刀持之儀ニ付、達」

かたな-や (名) [刀屋] 刀劍ヲ賣ル商人。刀商 武邊雜談、乾「大坂陣ノ時、正則(福島)刀屋善太郎ヲ町ヘ出シ、大坂合戰ノ樣子ヲ、日日被レ聞」

かた-なり (名) [片成] (一)十分ニ成長セヌコト。カタオヒ。 源、二十二、玉鬘 六十「姫君ハ、淸ラニオハシマセド、マダかたなりニテ、生先ゾ推シ量ラレタマフ」 (二)技ノ、未熟ナルコト。 源、四十三、竹川 三十四「御息所ノ御琴ノ音、マダかたなりナル所アリシヲ」

かた-に (副) [難] かつ(難)ノ語原ヲ見ヨ。

かた・ぬ・ヌル・ヌレ・ネ・ネ・ネヨ (他動、下二) [結]

〔固ク決定スル意、總ぬ、束ぬ、同趣〕 裁決ス。(官ノ文書ニ云フ) 萬葉集、十八 十三 長歌「仕フル國ノ、年ノ内ノ、事可多禰モチ、タマボコノ、道ニ出デタチ、云云、參シ我ガ兄ノ、云云」(越中ノ朝集使ノ事ナリ) 江家次第、一、元日節會「返給之時、故以結政於二宮中一被レ結」 同、三、御齋會「申二大臣一、有二結 詞一」 同、四、除目「結二今夜成文等一」(結 政ノ條ヲ併セ見ヨ)

かた-ぬ・ぐ・グ・ゲ・ガ・ギ・ゲ (自動、四) [肩脫] (一)上衣ノ半ヲ脫ギテ、下衣ノ肩ヲ現ス。袒裼 續古事談、一、王道后宮「人人、皆、肩ぬぐ、色色ノ衣ヲ著タリ、用意アルナルベシ」 (二)ハダヌグ。肉袒 著聞集、十一、畫圖「男ノ、かたぬぎテ、鋒振リカタゲテ、大木ヲ切リタルアリ」

かた-ね (名) [癰] 〔堅根ノ義カ、おひね、よおねアリ〕 瘡ノ名。ねぶとノ古名。 天治字鏡、三 二六「癧、加太禰」 倭名抄、三 三十「癰癧、加太禰」 長秋記、元永二年六月廿四日「近日依二堅根一、有二蛭飼一」

かた-ねぶり (名) [片眠] 〔半眠ノ義、片成、同趣〕 ウトウト、眠ルコト。キネムリ。 夫木抄、十九、夜「コノ夜ハ、マダ深ケナクニ、老ラクノ、かたねぶりスル、燈火ノモト」

かた-の-ごとく (副) [如法] 法ノトホリ。例ノ如ク。如法。 源、三十四、下、若菜、下 二十「かたのごとくナム、齋ヒノ御鉢參ルベキヲ」 保元物語、一、官軍方方手分事「身不肖ニ候ヘドモ、形の如く系圖ナキニシモ候ハズ」「葬式、かたのごとく執リ行ヒ」

かた-は (名) [片刃] 刀劍ノ、一片ニノミ、刃ヲツケタルモノ。(諸刃ニ對ス) 東大寺獻物帳「銀鋼作大刀一口(鋒者、偏刃)」

かた-は (名) [片羽] 鳥ノ、片方ノ翼。隻翼 宇津保物語、初秋 三十七「大鳥ノ、羽根ヤかたはニ、ナリヌラム、今ハオトヤニ、霜ノ降ルラム」(次次條ノ語ノ、不具ニカケタリ)

かた-は (名) [片端] 〔片端ナル意カト云フ〕 世ノ常ナラヌコト。ハシタ。 伊勢物語、六十五段「カクかたはニシツツ、アリワタルニ、身モ徒ニナリヌベケレバ」 源、四、夕顏 四十「容ナド、ヨカラネド、かたはニ、見苦シカラヌ少人ナリ」 同、二十一、少女 三十二「カノ人ノ御爲ニモ、イトかたはナルコトナリ」 同、三十四、上、若菜、上 三十一「カノ御爲コソ心苦シカラメ、ソレモかたはナラズモテナシテム」

かた-は (名) [不具] 〔前條ノ語ノ轉〕 身體ニ、具ハヌ所アルコト。又、其人。(盲、聾、啞、跛ナド)片輪トスルハ、非ナリ。 戶令「殘疾篤」 名義抄「殘、癈、カタハ」 源、二十二、玉鬘 七「故少貳ノ孫ハ、かたはナムアナル、アタラモノヲト云フ、聞クモユユシク」 狹衣、二、下 五十七「片目アシキ僧ノ、云云、幼クテ、かたはモノニナリハベリニケレバ」

かた-はう (名) [片方] カタカタ。約メテ、かたっぽ。隻

かた-ばかり (名) [形計] 跡形アリト云フノミナルコト。印ダケナルコト。 新六帖、二「朝夕ニ、身コソツラケレ、荒レハテテ、かたばかりナル、宿ノアルジハ」

かた-はく (名) [片白] もろはくノ條ヲ見ヨ。

かた-はし (名) [片端] 偏ノ端。カタソバ。カタツマ。かたっぱし。一端 宇津保物語、祭使 十七「中島ニ、かたはしハ水ニノゾキ、かたはしハ島ニカケテ、イカメシキ釣殿造ラレテ」 源、九、葵 四十七「イトヲカシクテ、年頃アハレト思ヒ聞エツルハ、かたはしニモアラザリケリ」

かた-は・し・シキ・シケレ・シク・シク (形、二) [不具] 〔不具ヲ活用セシム〕 不具ニテアリ。 沙石集、七、下、第十五條「生キテオハセム時モ、目ノかたはしくオハセシガ」 同、二、上、第六條「古キ佛像、云云、形見ニクク、かたわしきヲバ、律ノ中ニハ、

戸板ヲカケヨト云ヘリ」

かたはだ (名) [片肌] はだぬぎノ條ヲ見ヨ。博多小女郎浪枕(上、中)[illegible]見セント、片肌脱ゲバ」

かたはたご (名) [片旅籠] 旅店ニ泊リ、[illegible]カ、夕カ、一度ノミ食事スルコト。カタドマリ。ハンハタゴ。

かたは-づ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (自動、四) [不具就] 不具ニナル。方丈記「身ヲソコナヒテ、かたはづけル者、[illegible]ヲ[illegible]ラズ」

かたはづし (名) [片外] 武家ノ御殿女中ナドノ結髮ノ一種。下髮ノ、一時ノ結髮ナリ、髮ヲ頂ニ輪ニシテ、笄ヲ横ニ貫キテ、一方ヲ外シオク、笄ヲ拔ケバ、再ビ下髮トナル。(腰女ノスル笄髷モ、是レナリ)後ニハ、つけ下地ト云フモノアリテ、結ヒヤウ、異ニナレリ。奥女中袖鏡「小形ノかたはづし」

かたは-の-あし (名) [片葉蘆] 蘆ノ葉ノ、一方ニノミ葉ノ生ジテ、互生セヌモノ、各地ニ、往往アリ。攝津名所圖會、四、下、大坂「片葉蘆、云云、難波ニ寄ズ、八幡、淀、伏見、宇治、等ニモ、片葉の[illegible]アシ」

かたはば (名) [肩幅] (一)人ノ、兩肩ノ幅。(二)[illegible]縫ノ語。脊縫ヨリ袖附マデノ幅。

かたばみ (名) [酢漿草酸漿] 一かたばみ[illegible]ノ[illegible]、傍食ノ義ニテ、葉ノ缺ニ云フカ、酢漿ハ、味酸キ義、故ニ、すいものぐさ、すぐさノ名モアリ」小草ノ名。庭閒ニ多シ、地ニ延ヒ生ズ、葉ハ互生シテ、大キサ三五分、三葉ニシテ、[illegible]毎ニ、中央ニ葉入アリ、(三葉ノ木ヲ合セタル形ヲ、故ニ[illegible])[illegible]ニモ花アリ、[illegible]閒ク、大キサ三分許、[illegible]ニ角ヲ結プ、子、小サク白シ。スイモノグサ。[illegible]

かたばみ-ぐさ (名) 前條ヲ見ヨ。

かたばみ-も (名) [酢漿草藻] うきくさ(蘋)ノ條ヲ見ヨ。

かたはら (名) [脇] [傍腹ノ義] ワキ。ワキバラ。神代紀、上「[illegible]八岐大蛇[illegible]頭各有二石松一、兩脇有レ山、甚可レ畏矣」

かたはら (名) [傍側] 〔片邊ノ轉カ、(かたへら)ト云フ語モアリ〕海邊、うみばた。わたりせ、わたらせ」一方ニカタヨリタル處。ワキ。ソバ。ソノアタリ。景行紀、四十年十月「[illegible]在ニ左右ニ」[illegible]左右、[illegible]良」名義抄「傍、カタハラ」

かたはら-いた・し・キ・ケレ・ク・ク (形、二) [傍痛] 〔振舞ヲ傍ニ居テ見テ、痛ク思フ意ナルベシ〕傍觀ニ見テ、笑止ナリ。カタハラグルシ。氣ノ毒ナリ。可惻笑。源、[illegible]、帚木「[illegible]ガジシ、心ヲヤリテ、人ヲバ[illegible]シメナド、かたはらいたき事多カリ」榮花物語、二十六、根合「物憎ミヲセサセタマヒケレバ、かたはらいたがりテ」

かたはら-ぐる・し・シキ・シケレ・シク・シク (形、二) [傍苦] 前條ニ同ジ。榮花物語、三十八、松下枝「殘ル人ナク参リコミ、オロカナラズ[illegible]キテ[illegible]リタマフフ、春宮ト[illegible]、夫ノ御女、イカニ聞キタマフラム、かたはらぐるしゲナリ」

かたはらぼね (名) [肋骨] 〔脇の骨ノ義〕あばらぼねノ古名。ワキボネ。肋骨。[illegible]仁紀、七年七月「[illegible]骨」倭名抄、三「[illegible]、加太波良保禰」

かたはらめ (名) [傍目] そばめニ同ジ。[illegible]マヘルかたはらめ、言ヒ知ラズ、ナマメカシウ見ユ」[illegible]、二十三、[illegible]かたはらめナド」

かたは・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ (自動、下二) [片晴] 月ノ半面、明カニナル。[illegible]大僧正集、カキクラス、[illegible]ノ雲ニ、ウツモレテ、かたはれヤラヌ、月ノ影カナ」[illegible]クラス、[illegible]ノ空ノ、雲間ヨリ、かたはれ出ヅル、月トコソ見レ」

かたはれ-づき (名) [片晴月] 〔前條ヲ見ヨ〕カタハレタル月。半面ノ、雲ニ覆ハレタル月。拾遺集、十三、戀、三「逢フ事ハ、かたわれ月ノ、雲隱レ、オボロゲニヤハ、人ノ戀ヒシキ」金葉集、九、雜、上「木ノ間漏ル、かたわれ月ノ、ホノカニモ、誰レカ我ガ身ヲ、思ヒ出ヅベキ」夫木抄、十三「[illegible]ギカハル、[illegible]ノ、片われヲ、一ツニスメル、月ノ影カナ」

かたびいき (名) [片贔屓] カタチハヒ。エコヒイキ。毛吹草(正保)「[illegible]キ、花ニヤ[illegible]ノ、かたびいき」

かたひ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (他動、四) [方引] 〔方人トナリテ援ク意〕カタチハフ。カタビイキヲナス。エコヒイキス。偏愛。依怙。枕草子、七、六十四段「ケヂカキ[illegible]ヲ、かたひき思フ人ノ、イササカ惡シキコトヲ云ヘバ、腹ダチナドスル」落窪物語、一、上「女ヲ思ヘバ、イタクかたひく、ト笑ヒタマフ」

かたひざ (名) [片膝] 片方ノ膝。〔諸膝ニ對ス〕蜻蛉日記、下、上「[illegible]子ニ、かたひざツキテ居タリ」

かたびさし (名) [片庇] 一方ヘノミ出デタル[illegible]。夫木抄、三十一、戸「山里ノ、柴ノ片戸ノ、かたびさし、アダゲニ見ユル、假リノ宿カナ」

かたひざむすび (名) [片膝結] かたてむすびニ同ジ。[illegible]

かたびし (名) [illegible] [illegible]亂レテ音ヲ發スルニ云フ語。[illegible]かたびし、ガタガタト、[illegible]作ルモ騒シシ」

かたびと (名) [方人] [illegible]ナドニ、[illegible]ケタル、一方ノ人。音便ニ、かたうど。[illegible]草子、七、六十八段、なぞなぞあはせ「ソノ日ニナリテ、[illegible]かたうどノ男、女、[illegible]」

かたびら (名) [帷] 〔片枚ノ義ト云フ、裏ヲツケヌ、かたへらノ帛ノ意〕几帳ナドニ[illegible]ケテ、[illegible]トスル、一重ノ布帛。夏ハ生絹、冬ハ練絹ヲ用ヰル。倭名抄、十四「[illegible]帷、[illegible]也、以自障隔也、加太比良」源、三、空蟬「几帳ノかたびら、引キアゲテ」

かたびら (名) [帷子] 〔前條ノ語ノ移リテ、帷ノ字モ、ソノママニ用ヰルナリ〕(一)〔裏ヲツケヌ衣。一重ノ服。ヒトヘモノ。禪 衫 名義抄「禪、カタビラ、ヒトヘ」宇治拾遺、十四、第三條「かたびらバカリ着テ、中結ヒテ」浴場ニ用ヰルヲ、湯かたびらト云ヒ、略シテ、ゆかたト云フ。(二)今ハ專ラ、夏ニ用ヰル、麻布ノ單ナル衣。麻かたびらノ略ナリ。涼衫 絺綌

かだ・ふ (動) [勾引] かどふニ同ジ。カドハカス。萬葉集、十八「[illegible]、片思ヲ、[illegible]ニフツマニ、[illegible]セモテ、[illegible]ニヤラバ、人[illegible]」

かたぶ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (自動、四) [傾] (一)かたむく(四段)ニ同ジ。萬葉集、十五「山ノ[illegible]ニ、月[illegible]夫[illegible]バ」[illegible]、不[illegible]、[illegible]」[illegible]、十一、[illegible]ハテ、[illegible]ナマシモノヲ、小夜フケテ、かたぶくマデノ、月ヲ見シ

カナ」(二)頭、傾キテ、物思フ狀ニテアリ。小町集、十六「物ヲコソ、いはねノ松モ、思フラメ、千代歷ル末モ、かたぶきニケリ」枕草子、八、八十三段「怪シナド、打傾きタマハム」(三)疑ヒ思フ。竹取物語「何事ゾト、かたぶき居リ」源、一、桐壺、廿「相人、驚キテ、アマタタビかたぶき、怪シム」

かた-ぶ・く・クル・クレ・ケ・ケヨ (他動、下二) 傾 〔前條ノ語ノ他動、附く、つくる〕(一)かたむく(下二段)ニ同ジ。倒サムトス。榮花物語、一、月宴「御門ヲかたぶけ奉ラムト、カマフル罪ニ因リテ」(二)貶ス。難ジ言フ。貶 著聞集、四、文學「白樂天ノ作ヲバ、東坡先生ハ、かたぶけケルトカヤ」

かた-ふたがり (名) 方塞 〔ふたがるノ條ヲ見ヨ〕陰陽家ニテ、方角ニ、天一神ノアル方ヲ、ふさがりト云ヒテ、其方ヘ向キテ行クヲ忌ムコト。方忌 後撰集、十二、戀、四、かたふたがりトテ、男ノ來ザリケレバ「逢フ事ノ、方ふたがりテ、君來ズバ、思フ心ノ、タガフバカリゾ」

かた-ぶち (名) 片淵 川ノ、片寄リタル深キ淵。十六夜日記「此川、堤ノ方ハイト深クテ、片方ハ淺ケレバ「片淵ノ、深キ心ハ、アリナガラ、人目ヅツミニ、サゾ塞カルラム」

かた-ぶり (名) 偏降 かたでりノ條ヲ見ヨ。

かた-へ (名) 片方 (一)片方。一方。古今集、三、夏「夏ト秋ト、行キ交フ空ノ、通ヒ路ハ、かたヘ涼シキ、風ヤ吹クラム」(二)カタハラ。カタワキ。カタソバ。傍 伊勢物語、八十七段「かたへノ人、笑フコトニヤアリケム」著聞集、六、管絃歌舞「舞モ、かたヘニ勝リテ見エケル」

かた-へら (名) 傍片 〔片邊、かたはら(傍)ト通ズルカ、帷ト云フ語モ、同意ナルベシ〕對ノモノノ、一片。カタシ。

カタッポ。かたっぺら。隻

かた-へり (名) 片邊 一方ニヨリタル邊。ワキ。カタハラ。

かた-ほ (名) 片帆 帆ヲ、一方ニ偏ラセテ、風ヲ受ケシメ、舟ヲマギリ遣ルコト。(眞帆ニ對ス) 堀河百首、雜「大潮ヤ、淡路ノ瀬戸ノ、吹キワケニ、ノボリクダリノ、かたほ懸クラム」

かた-ほ (名) 偏 〔まほ(眞面)ノ條ヲ見ヨ、字類抄「頑、カタホナリ、カタクナシ」〕物事、未ダ全ク調ハヌコト。カタナリ。(まほニ對ス) 源、四、夕顏五「かたほナルヲダニ、乳母ナドヤウノ、思フベキ人ハ、アサマシウ、まほニ見ナスモノヲ」同、三十八、夕霧六十四「物思ヒ知ラヌ少人ノ程ニ、ハタ、オハセズ、かたほナル所無ウ」

かた-ぼう (名) 片棒 あひぼうノ(一)ヲ見ヨ。

かた-ほとり (名) 片邊 カタヘ。近邊。附近 徒然草、七十七段「かたほとりナル聖、法師ナドゾ、世ノ人ノ上ハ、我ガ如ク、云云」「伏見ノ里ノかたほとり」

かた-ま (名) 堅間 〔編ミテ、目ノ密ナル意、大目麤籠ニ對ス〕又、かつま。籠。竹籠。神代紀、下二十六「以無目堅間爲浮木云云、是今竹籠也」古事記、上六十六「作無間勝間之小船」

かた-ま・く・クル・クレ・ケ・ケヨ (自動、下二) 片設 〔片附設くノ意ト云フ(萬葉集古義)〕片寄リ、待チツク。偏ニ待ツ。カタマツ。萬葉集、十九「鶯ノ、木傳フ梅ノ、ウツロヘバ、櫻ノ花ノ、時片設けヌ」同、十一四「イツハシモ、戀ヒヌ時トハ、アラネドモ、夕方枉、戀ヒハスベナシ」

かた-ま・け (動) 前條ヲ見ヨ。

かたま・し・シキ・シケレ・シク・シク (形、二) 奸 〔奸むノ未然形ノ、かたまヲ活用セシム、いたむ、いたまし。そねむ、そねまし〕奸ム狀ナリ。心ネヂケタリ。景行紀、四十年七月「山有邪神、郊有姦鬼」推古紀、十二年四月、憲法、七「奸者有官、禍亂則繁」平家物語、六、紅葉事「かたましき者朝ニアリテ、罪ヲ犯ス」

かた-ま・つ・ツ・テ・タ・チ・テ (他動、四) 片待 片寄リ、待ツ。偏ニ待ツ。カタマク。萬葉集、九二十「雲隱レ、雁鳴ク時ニ、秋山ノ、黃葉片待つ、時ハ過グレド」冬ゴモリ、春方ヲ戀ヒテ、植エシ木ノ、實ニナル時ヲ、片待つ吾レゾ」

かた-まひ (名) 片舞 もろまひノ條ヲ見ヨ。續教訓抄、十一、上、吹物「求子、駿河舞ヲバ、諸舞トイフ、求子バカリヲバ、片舞トイフ、歌モ則、諸舞ノ時ハ、初ヨリ歌之、片舞ノ時ハ、第三句ヨリ歌之」

かたまり (名) 固 (一)カタマルコト。堅クナルコト。凝固「鹽ノかたまり」(二)一ツニ寄ルコト。アツマリ。聚合「ならず者ノかたまり」(三)深ク信ズルコト。固信「法華宗ノかたまり」

かたま・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 固 〔かたむノ自動、きはむ、きはまる。ひろむ、ひろまる〕(一)〔堅クナル。乾テ、凝ル。凝固 古今集、十九、雜體「霰亂レテ、霜氷リ、イヤかたまれル、庭ノ面ニ」「鹽ガかたまる」(二)慥ニナル。サダマル。成就「相談ガ固まる」(三)集ル。寄リ合フ。聚合 榮花物語、廿六、楚王夢「東宮トかたまりテ、皆オハシマシツレバコソ、云云」(四)深ク信ズ。一心コメテ、凝ル。固守「學問ニかたまる」「信心ニかたまる」

かた-み (名) 筐 〔古名、堅間ノ轉、或ハ、堅編ノ約〕カタマ。籠。倭名抄、十六二十一「答篭、賀太美、小籠也」「花かたみ」

かた-み (名) 肩身 人交リノ中ニ、立並ブコト。交際ノ面目。面目 甲陽軍鑑、十、上、品第三十、山本勘介申上條條事「新參衆ノ十分一所帶ヲ取ル人成ル故、心武クテモ、肩身スバリテ」「肩身ガヒロイ」「肩身ガセマイ」

かた-み (名) 片身 (一)身體ノ半。半身「魚ノ片身」(二)〔衣服ノみごろノ、片方。枕草子、五、四十七段「御衣、かたみヅツ、誰レカ疾ク縫ヒ出ヅルト、挑ミツツ」「かたみガハリノ服」

かた-み (名) 形見 (一)亡キ人、又ハ、遠ク別レタル人ノ、形トシテ見ルモノ。思出ノ種トナルベキモノ。記念 萬葉集、一廿二「眞草刈ル、荒野ニハアレド、モミヂ葉ノ、過ギニシ君ガ、形見トゾ來シ」(日並皇子御獵地) 同、四十三「我ガ形見、見ツツ思バセ」同、十六二十一「有所幸娘子也、寵薄之後、還賜寄物」註「俗云可多美」天治字鏡、十二二十六「追念、加太彌」遊仙窟「記念」長恨歌「信」吾妻鏡、二十四、承久元年正月廿七日、將軍實朝鶴岡社參「公氏候御鬢之處、自拔御鬢一筋、稱記念賜之」(二)形見ノ品物。遺物。

かたみ-がはり (名) 片身替 〔かたみハ、かたみごろノ略〕衣服ノ片みごろ、又ハ、片袖ヲ、異ナル布帛ニテ縫ヒ作ルコト。(腰がはりニ對ス) オホミガハリ。太平記、四十、中殿御會事「本間左衞門太郎義景、地白紫ノ片身替りノ直垂ニ、云云」英一蝶ノ小唄「土手ノ合傘、片身がはりノ夕時雨」

かたみ-がはり (名) 互代 互ニ代ハリ合フコト。カハルガハルスルコト。交互

かた-みごろ (名) 片裑 みごろ(裑)ノ條ヲ見ヨ。

かた-み・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ (他動、左變) 難 難キコトトス。多クハ音便ニ、かたんずト云フ。萬葉集、十二四十「白妙ノ、袖ノ別レヲ、難見爲テ、アラツノ濱ニ、宿リスルカモ」名義抄、雜部「艱、カタムズ、ナヤム」「成功ヲかたんず」

かたみ-せん (名) 互先 圍碁ノ語。今、たがひせんト云フニ同ジ。今鏡、下、第七、有栖川「トリドリニヲカシカリケレバ、云云、コノ歌ハ、[illegible]ナラズバ、かたみせんニテゾヨク侍ラム」

かた-みち (名) 片路 往ク路ト、歸ル路ト、何レカノ一ツ。(往復ニ對ス) 孕常盤(貞享、近松作)三「鞍馬詣ニ、片道、此馬ニ召シ」

かたみ-に (副) 互 〔かたみハ、片身ノ義カ〕カハルガハル。タガヒニ。(今モ肥前ニテハ、かたみがはりト云フ) 宇治拾遺、[illegible]、下「我レト君トハ、イト親シク契リタル中ゾ、かたみニ[illegible]ナムトゾ言ヒタル」

かたみ-の-いろ (名) 形見色 〔かたみのころもの色ノ略〕喪服ノ色。ニビイロ。源、四十、幻「女房ナドモ、カノ御かたみの色、變ヘヌモアリ」狹衣、二、下「皇太后ノ御かたみの色ニ、ヤツレサセタマヘル頃ニテ」

かたみ-の-ころも (名) 形見衣 (一)亡キ人ノ遺シ置キタル衣。[illegible]ガマシ」(二)喪服。玉葉集、十七、雜、四「今ハトテ、形見の衣、ヌギステテ、色カハルベキ、心チコソセネ」

かた-みみ (名) 傍耳 傍ニテ聞キコメルコト。源、四十五、椎本「イトメデタカルベキ事カナト、かたみみニ聞キテ」

かたみ-わけ (名) 形見分 人ノ死後ニ、其所持シテアリシ物ヲ、形見トシテ、子弟ヨリ、親類、知人マデニ分ケテ贈ルコト。坂井家日策、天保七年三月十一日「石川ヨリ遺物分トシテ、香爐皿來ル」安永ノ川柳「泣キナガラ、眼ヲクバル、かたみわけ」

かた-む・ム・メ・マ・ミ・メ (自動、四) 𣑥 〔偏ヲ活用セシム、(盲む、漏む)正シカラザル意〕 タクラミ、イツハル。アザムク。[illegible]カスト」小世繼、二十八ニ、[illegible]ノ[illegible]サヲ、一尺切レト仰セアリシニ、工人、五寸切リオキタルヲ「五寸かたみテ、切リ給ヘズト申ス」トアリ。

かた-む・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ (他動、下二) 固 (一)堅ク爲ス。(物ニ) 枕草子、二、十七段、にくきもの「烏帽子ノ緒ツヨク結ヒタル、サシモかためズトモアリヌベシ」(二)確トナス。タシカニス。(事ニ) 誠 確守 [illegible]記、上、第二十[illegible]「心ヲかたむ」[illegible]ヲかたむ」

かた-む・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ (他動、下二) 固 〔門戸ニ錠ヲ刺シかたむるヨリ起レル語ナリ、三關ノ固關ナドモ、是レナリ〕 備ヘ守ル。警メ守ル。警固ス。防守 警衛 [illegible]、二十三年八月[illegible]相摸集「逢坂モ、ユルサジトコソ、思ヒ畏ノ、關ハかたむる、モノト知リニキ」玉葉集、十七、雜、四「平行貞、[illegible]ノ道ヲかたむトテ、[illegible]ト申ス所ニ侍リケルニ」

か-たん (名) 荷擔 「法華經、法師品」[illegible] 力ヲ添ヘテ助クルコト。方人トナルコト。助力。加勢。[illegible]

カタン-いと (名) 〔英語、Machine cotton.〕 木綿製ノ絲。絲數本ヲ撚リ合ハセ、之レニ適當ノ仕上ヲ施シ、糊類ヲ固着セシメタル縫絲ノ稱。

がたん-がたん (副) がたがたニ同ジ。

かた-むき (名) 傾 (一)傾クコト。カタヨリ。(二)其方ニ移ラムトスル勢。傾向 「人心、鑑定ノ傾きアリ」

かた-む・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (自動、四) 傾 〔偏向くノ義〕(一)斜ニ一方ヘ向キ寄ル。偏[illegible]ニ倒レムトス。カタブク。カブク。カタグ。カシグ。「花傾く」「屋傾く」(二)日、月、西ニ入ラムトス。「日、西山ニ傾く」(三)意キ入ル。カタヨル。「善ニ傾く」(四)[illegible]ブ。亡ブ。覆滅 「國傾く、家傾く」

かた-む・く・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ (他動、下二) 傾 (一)傾クヤウニナス。[illegible]方ニ向サムトス。カタブクル。(二)其方ヘ向クル。「耳ヲ傾く」「心ヲ傾く」(三)クツガヘス。ホロボス。覆滅 「國ヲ傾く」「家ヲ傾く」

かた-む・ける (動) 傾 前條ノ語ノ口語。

かたん・ず (動) 難 かたみすノ音便。其條ヲ見ヨ。

かた-むすび (名) 堅結 紐ヲ、堅ク結ブコト。後拾遺集、十六、雜、二「モロトモニ、イツカ解クベキ、逢フコトノ、かたむすびナル、夜ノ下紐」

かた-むすび (名) 片結 片手結ニ同ジ。新古今集、十三、戀、三「アシノヤノ、倭文機帶ノ、かたむすび、心ヤスクモ、打解クルカナ」

かた-むすび (名) 片搦 片手ニテ、水ヲ搦ブコト。夫木抄、九「山蔭ノ、清キ[illegible]ニテ、岩漏ル清水、かたむすびセム」

かため (名) 固 (一)カタムルコト。堅クスルコト。確トスルコト。確守 [illegible]上「云フマイトアル、固めノ盃、取換シテ」「夫婦ノかため」(二)守ルコト。備ヘヲナスコト。警固。警衛 [illegible]「オホヤケノかためトナリテ、天下ヲ助クル方ニテ見レバ、云云」

かた-め (名) 片目 (一)片方ノ目。偏眼 (兩眼ニ對ス) 夫木抄、三十四、[illegible]「(偏見ヲカク)スル、かためニ妹ガ、見ラレツツ、イヅラハ心、清水ノ[illegible]」(二)片目ノ、盲ナルコト。[illegible]デ、かためニテ」

かた-めうじ (名) 片苗氏 徳川幕府ノ頃、人ニ苗氏ヲ[illegible]人ナラバ、[illegible]其名ノミニ[illegible]二字ノ苗氏ノ下ノ字ヲ省キテ書ク、松平陸奧守ヲ松陸奧守、[illegible]ト記スガ如シ、[illegible]片苗氏ニテ、[illegible]方ヲ尊ビテスルコトナリ。(一字ノ苗氏ナラバ、[illegible]苗氏ニ記スハ、身分卑キ者ニ對スルニテ、己レヲ、先方ヨリ尊シトスルナリ。又、片苗氏片名ト云フハ、[illegible]ト稱シ、[illegible]ト云フ類ナリ。かたな(片名)ノ條(二)ヲ見ヨ。

かた-めん (名) 片面 かたつら(片面)ニ同ジ。

かた・める (動) 固 固むノ口語。

かた-もひ (名) 片思 かたおもひノ約。萬葉集、四[illegible]片思ヲセム」

かた-もひ (名) 片椀 〔もひ(椀)ノ條ヲ見ヨ〕 合子ナドニ對シテ、蓋ナキ椀ノコトナラムト云フ。[illegible]儀式、松尾神祭、雜給料「片垸九十三口」

かた-もん (名) 固文 織物ノ文ニ云フ語。浮文ニ對シテ、締メテ、固ク織レルモノト云フ。[illegible]ノかたもん、[illegible]キモンノ御衣ドモ」

かた-や (名) 方屋 〔方分ケタル屋ノ意ナルベシ〕 (一)相撲、競馬、物合ナド

ニ、左右、東西ニ方分ケタル人人ノ、各集リ居ル處。今、行司ガ、相撲人ヲ指シテ土俵ヘ呼ビアグル時、かたや某、かたや某ト云フハ、東西ノ方屋ナリ。今昔物語、二十八、三十五語、右近馬場殿上人種合「關白殿、忍ビテ女車ノヤウニテ、埒ヨリ東ノ、左ノ方屋ノ面ノ髙ニ立テ、御覽ジケリ」居龍工隨筆(安永)「角力、西ノ方、東ノ方ト名乘ルベキヲ、西ノ方屋、東ノ方屋ト名乘ルハ、方屋ト云フモノヲ、東西ニ分ケテ作リテ、彼等ヲ、別チ置クト思ハル」(二)又、相撲ノ土俵場。前項ヨリ移レル語ナルベシ。土俵入ヲ、方屋入トモ云フ。大友興廢記、原大隅相撲「かた屋トヤランヲ作リ候ハムトテ、大竹ヲヒシギ、云云、大キナル輪ヲ作リテ、此輪ヨリ外ヘ足ヲ蹈出シタラム者ハ、相撲ノ負ケナリト定ムレバ、云云」

かたや-いり (名) [方屋入] 前條ノ(二)ヲ見ヨ。土俵入リ。相撲隱雲解、最手役之始「一人之土俵入、古ハ、片屋入ト云テ、云云」

〜**かた-やき** (名) [肩灼] 太占ニ、鹿ノ肩骨ヲ灼クコト。(ふとまにノ條ヲ見ヨ)

かた-やまざと (名) [片山里] 偏鄙ナル山里。拾玉集、一「心アラム、都ノ人ニ、語ラバヤ、片山里ノ、秋ノアハレヲ」新六帖、二「嵐吹ク、片山里ノ、秋ノ末、スズロニ物ヲ、思フナリケリ」

かた-ゆき (名) [片裄] (一)左カ、右カ、一方ノ裄。(二)衣ヲ着テ、裄ノ、左カ、右カニ、偏リテアルコト。

かた-よ・す・スル・スレ・セ・セ・セヨ (他動、下二) [片寄] 一方ヘヨス。カタヨラシム。爲忠集「五月雨ハ、朽木ヲ流ス、深山川、マヅ下リアヒテ、かたよせニケリ」

✿**かた-よ・せる** (動) [片寄] 前條ノ語ノ口語。

かた-よ・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) [片寄] (一)中ヲ外レテ、一方ヘ寄ル。カタヅム。偏 右衛門督家歌合「浪ウテバ、礒ニかたよる、ナビキ藻ノ、ナビクヲ人ノ、心トモガナ」(二)中ヲ避ケテ、傍ニ添ヒテ居ル。避 拾遺集、三、秋「招クトテ、立チモトマラヌ、秋ユヱニ、アハレかたよる、花スキカナ」

〜**かた-らか-に** (副) [固] 〔柔らか、厚らか〕堅固ニ。タシカニ。續後紀、五、承和三年五月、神社授位ノ詔、遣唐使藤原常嗣等ヲ「路ノ間、波風ノ難ナク、慈ミタマヒ、矜ミタマヒテ、平ケク、可太良可爾歸シタマヘ」江家次第、五、園並韓神祭、大膳職羞ㇾ膳「辨宣、御飯早速給(舊原芳野校本)次、大膳屬出、申ニ御飯加多良加爾給畢ニ」

〜**かたらく** (副) [語] 〔かたるノ延、いはく(曰)ノ條ヲ見ヨ〕語ルニハ。語ルヤウ。萬葉集、二、四十六 長歌「道來ル人ノ、云云、吾レニ語久、云云、天皇ノ、神ノ御子ノ、御駕ノ、手火ノ光ゾ、幾許照リタル」(志貴親王ノ御葬送) 同、五十九「梅ノ花、夢ニ加多良久、雅タル、花ト我レ思フ、酒ニ浮ベコソ」

かたらひ (名) [語] (一)カタラフコト。互ニ話スコト。談合。謀議 續古今集、三、夏「橘ノ、花散ル里ノ、郭公、かたらひシツツ、鳴カヌ日モナシ」(二)語リ合ヒテ、契ルコト。契語 狂言記、蛭子大黑「伊弉諾、伊弉冊ノ尊、天ノ岩戸ニテ、男女ノ御かたらひヲナサレ」

〜**かたらひ-ぐさ** (名) [語種] かたりぐさニ同ジ。話シノ種。談柄 萬葉集、十七、四十長歌「萬世ノ、可多良比具佐ト、未ダ見ヌ、人ニモ告ゲム」

かたらひ-べ (名) [語部] かたりべニ同ジ。其條ヲ見ヨ。

〜**かたら・ふ**・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (他動、四) [語] 〔語リ合ふノ約〕(一)互ニ語ル。談合ス。謀議 伊勢物語、七十五段「大淀ノ、濱ニ生フテフ、ミルカラニ、心ハナギヌ、かたらはネドモ」(二)ナカヨク交ハル。友善 伊勢物語、第十六段「ネンゴロニ相かたらひケル、友ダチノ許ニ」(三)男女、互ニ言ヒ契ル。契語 萬葉集、十六、六「有ニ二壯士ハ共、誂ニ此娘ハ而捐ㇾ生挌競」 枕草子、十二、百四十八段「アル女房ノ、遠江守ノ子ナル人ヲかたらひテアルガ」(四)方人ニナス。他ヲ說キテ、我ガ黨ニ引キ入ル。朋黨 孝德紀、五年三月「大臣仍陳ニ說於山田寺衆僧、及、長子輿志與ニ數十人ハ曰」「徒黨ニかたらふ」

かたり (名) [語] (一)カタルコト。ハナシ。字鏡、四十「喃、女乃加太利須留己惠」(二)謠物ナドノ間ニ、平語ニテ物語スルコト。

かたり (名) [騙] 騙ルコト。又、其人。御定書百箇條「巧事、かたり事、重キネダリ事致候モノ、御仕置之事」 科條類典、下、五、寬保元酉年十二月「重キ御役人之家來ト僞、かたり致シ候者、死罪」

かたり-ぐさ (名) [語種] 語ルベキ事柄。カタラヒグサ。話シノ種。話柄

〜**かたり-ごと** (名) [談辭] 〔古語拾遺、開卷「蓋聞、上古之世、未ㇾ有ニ文字ハ貴賤老少、口口相傳、前言往行、存而不ㇾ忘」〕上代ノ史事ヲ、世世、語リ傳ヘタルモノ。語部ノ傳ヘタルナド、是レナリ、古事記ノ八千矛神ノ妻訪ノ事ヲ、かたりごとトアリ。然シテ、文字ナキ世ニハ、舊事ヲ語リテ、人ニ記憶セシムルニ、兒童ノ幼時ヨリ敎ヘタルベク、其中ニハ、興味アルヤウニ附會ヲ加ヘタルモアルベシ。神武紀ニ、蜻蜓ヲ秋津島ニ寄セテ、日本ノ號トシ、景行紀ニ、東國ヲ吾嬬ノ語ニ因ルトシ、應神紀ニ、水手ヲ鹿子水門ニ起ルト傳ヘタルナドモ、是レナリ。(何レモ、記者ノ筆ナリ) 古事記、上三十九「八千矛神ノ御長歌ノ末ニ「事ノ、加多理基登モ、コヲバ」 同、序「朕聞、諸家之所ㇾ賷帝紀及本辭、既違ニ正實ハ多加ニ虛僞ニ」 天武紀、下、十年三月、川島皇子等數人ニ詔シテ「令ㇾ記ニ定帝紀及上古諸事ニ」

〜**かたり-つ・ぐ**・グ・ゲ・ガ・ギ・ゲ (他動、四) [語繼] 人人、次次ニ語ル。言ヒ傳フ。萬葉集、三、三十四「丈夫ノ、弓末振リ起シ、射ツル矢ヲ、後見ム人ハ、語繼ガネ」(弓勢ノ强キヲ云フ)

〜**かたり-べ** (名) [語部] 〔上代ニ文字ナカリシカバ、此職、必用ナリシナリ〕上古、我ガ邦、文字ナキ頃、神代以來ノ史事ヲ記憶シテ、語リ傳フルコトヲ職トセシ者。又、かたらひ部トモ云フ。記載アリテ後ハ、大嘗會ナドニ、古詞ヲ奏スルヲ職トス。大嘗會式ニ語部見エテ、諸國ニ數十人アリ。江家次第、十五、踐祚大嘗會「伴佐伯率ニ語部十五人ハ入ㇾ自ニ東西掖門ハ各就ㇾ位、云云、語部、奏ニ古詞ニ」註「其音似ㇾ祝、又涉ニ歌聲ハ出雲、美濃、但馬、語部、各奏ㇾ之」

かたり-もの (名) [語物] うたひものノ條ヲ見ヨ。

カタル (名) [加答兒] 〔獨語、Katarrh. 英語、Catarrh. 羅甸語、Catarrhus.〕粘膜ニ起ル炎症。「胃加答兒」腸加答兒」咽喉加答兒」氣管支加答兒」

かた・る・ル・レ・ラ・リ・レ (他動、四) [語] 〔形ヲ活用セシメ、(宿る、頭る(被)ノ例) 事象ヲ言フ意ナルベシ〕(一)意ヲ、口ニ述ブ。言フ。話ス。古今集、十一、戀、一「忍ブレバ、苦シキモノヲ、人知レズ、思フテフコト、誰レニかたらム」(二)文ニ、節ヲツケテ、讀ム。(謠ふト異ナリ、かたり物、うたひ物ノ別アリ) 徒然草、二百二十六段「平家物語ヲ作リテ、生佛ト云ヒケル盲目ニ敎ヘテ、かたらセケリ」 中御門宣胤卿記、文龜二年二月廿九日「瞽一撿校語ニ平家ニ」「淨瑠璃ヲかたる」 然レドモ、謠ふト混ジテモ云ヘリ。宗長日記(享祿)「小座頭アルニ、淨瑠璃ヲうたはセ」 古鄕歸江戶咄(貞享)六、淨瑠璃「梵天國ヲうたふ」(三)當歲ホドノ赤

子、[illegible]ニ、[illegible]ノ、アギトフ。

かた・る・ル・レ・ラ・リ・レ（他動、四）〔騙〕「[illegible]ヲ[illegible]」[illegible]シク[illegible]ゲテ、欺ク。[illegible] 仕置事「巧成儀ヲ中拵、度度、金子等かたり取候モノ、獄門」「名ヲかたる」

かたわ（名）〔片輪〕 車ノ、片方ノ輪。隻輪。 [illegible]邊ニ、車ノ輪ノ一ツアルヲ見テ、云云、片輪ノアリト云フ」

かたわき（名）〔片脇〕 かたはら（傍）ニ同ジ。 宇津保物語、俊蔭三十「ツヤヤカニ、ナメラカナルクケ針ニ、縹ノ絲ヲゾ、左絲右絲ニ縒リテ、一尋、かたわきバカリスゲタルヲ」 東海道名所記（萬治）一「[illegible]ノ内ナラバ、かたわきニ立ヨリ、[illegible]ニ消ウテ[illegible]スベシ」[illegible]リ、小[illegible]シテ、丸盆ノ片[illegible]ニ[illegible]テ」

かたわ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ（他動、四）〔方分〕 此方彼方ニ分ク。相手方ト、自分ト、雙方ニ分カツ。競馬、相撲、歌合ナドニ云フ。 宇津保物語、[illegible]「[illegible]左右ノ[illegible]、[illegible]、左右大將、[illegible]ニテオハシマス、上達部、[illegible]子タチ、かたわきテ、[illegible]ベタマフ」[illegible]四、秋、上「[illegible]大政大臣、[illegible]かたわき[illegible]、[illegible]エハベリテ、歌ニ心得タル者、十六人ヲ選ビテ、歌詠ミハベリケルニ」

かたわ・く・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ（他動、下二）〔方分〕 前條ニ同ジ。 [illegible]作[illegible]合戰（正德、近松作）一「梅ト櫻ノ造リ枝、百人ヅツ方分けテ振リカタゲ」

かたわれ（名）〔片[illegible]〕 （一）[illegible]ナドノ、破レタル一片。[illegible]片。 （二）黨ノ中ノ、一人。黨與。「[illegible]ノかたわれ」

かたわれづき（名）〔片割月〕 かたはれづきノ訛。

かたゐ（名）〔乞兒〕〔乞丐〕〔[illegible]居ノ義、路傍ニ居ル者ノ意トモ云ヒ、市村ノ人ト交ハラズ、片隅ニ居ル者ノ意トモ云ヒ、或ハ、偏居ノ義、蹶、蹇ナド、[illegible]疾ノ者、多ク正坐スルコト能ハザル意トモ云フ〕 （一）ホガヒビト。乞兒。モノモラヒ。 [illegible]上、[illegible]乞丐、カタヰ」[illegible]六、六十[illegible]、年老イタルかたゐ、[illegible]イト[illegible]キヲリニモ、[illegible]キニモ」 大和物語、中「[illegible]タル男ノ、かたゐノヤウナル姿」 （二）人ヲ罵リ呼ブ語。 伊勢物語、八十一段「かたゐ翁、板敷ノ下ニ這ヒアリキテ、人ニ皆詠マセハテテ、詠メル」（歌ニ勝レタルヲ嫉ミテ云ヘルナリ） 土佐日記、二月四日「此[illegible]取ハ、日モエハカラハヌ、かたゐナリケリ」（船ヲ出シテ、天氣惡シトテ、モドリシヲ云ヘリ） （三）癩病ノ異名。音便ニ、かつたゐ。又、かつたゐばうト云フ。（かたゐ病ノ訛カ） かたゐ病ナドノ意ニテ、忌ミ嫌ハレテ、多ク乞食トナルヨリ云フ語ナルベシ。

かたゐさり（名）〔片居去〕 [illegible]兒ノ、片膝ニテ、キサリユクコト。 [illegible]三[illegible]、七、人[illegible]「[illegible]井ニ[illegible]」 拾遺集、十一、戀、一「逢フコトハ、かたゐさりスル、緑兒ノ、立タム月ニモ、逢ハジトヤスル」

かたゐなか（名）〔片田舍〕 都ヨリ程遠キ田舍。偏鄙。僻郷。邊陬。 夫木抄、七、更衣「夏來レバ、賤ノ麻衣、解キワクル、かたゐなかコソ、心ヤスケレ」

かたゑ・む・ム・メ・マ・ミ・メ（自動、四）〔片笑〕 片頰ニ、笑ミヲ含ム。微笑。 [illegible]、二、帚木「君スコシかたゑみテ、サルコトトハ思スベカメリ」

かたをりど（名）〔片折戸〕 折戸ノ、一片ナルモノ。（諸折戸ニ對ス） 平家物語、六、小督事「片折戸トカヤンタル内ニ、琴ヲ彈キ澄マサレタル」

かち（名）〔勝〕 勝ツコト。勝利。（負ニ對ス） [illegible]、三十二、[illegible]枝「匂ノ深サ淺サモ、勝負ノ定メアルベシ」[illegible]、エヤハイブキノ、下草ノ、節ナキ霜ニ、思サシモ[illegible]、エナン、右、下ムセブ、思ヒノケブリ、立イデバ、思ヒ消エナン、右ノ歌モ、[illegible]ニハキコユレド、左ノ、アトナキ霜ニ思ヒ消エナンナドイヘル、[illegible]ヨロコシ、[illegible]」

かち（名）〔陸〕〔陸地ノ略ナラムト云フ、出雲、いづも〕クガ。クヌガ。陸地。 字鏡「陸、カチ」

かち（名）〔徒歩〕〔陸ノ義、陸より行く（かちより）ノ條ヲ見ヨ〕ト云フベキヲ、略シテ云フナリ〕 車、馬、乘物ナドニ乘ラズ、足ニテ歩ムコト。步行。 [illegible]行[illegible]、四十年十月「徒行」 萬葉集、十一「[illegible]山科ノ、木幡ノ山ヲ、馬ハアレド、歩ユ吾ガ來シ、汝ヲ思ヒカネ」 同、十三、長歌「ツギネフ、山背道ヲ、人夫ノ、馬從行ニ、己夫ノ、步從行ケバ」 天武紀、上、元年六月「步者」 名義抄「步、カチ」

かち（名）〔徒士〕〔徒歩侍ノ略〕 武家ニ、徒歩ニテ、主人出行ノ先驅ヲスル侍。 有司勤仕録「御徒頭、云云、御徒ハ、御玄關[illegible]子之間ニ[illegible]番、其外、[illegible]番所有之」

かち（名）〔褐〕 色ノ名、かちいろノ條ヲ見ヨ。

かち（名）〔價値〕 （一）アタヒ。ネ。ネウチ。ネダン。 （二）金錢。財貨。 北史、[illegible]昌[illegible]傳「所[illegible]乘馬、[illegible]人[illegible]價[illegible]」[illegible]「[illegible]價値」

かぢ（名）〔檝〕〔櫂〕〔音ヲ、名トスルカ〕 古へ、船ヲ漕グニ用ヰタル具。製、詳ナラザレド、漕グニ、音ヲ立ツル由ナレバ、櫂ノ如クニテ、大キク、中程ニ穴アリテ、舟[illegible]ニアル[illegible]出ニハメ、柄ヲ提ミ、[illegible]ニテ水ヲ搔キテ、舟ヲ進マシムルモノニテ、尖出ニ軋リテ、音ノ立ツナラム、後ノ艪ニ似タルモノカ、雨鋏ニ、[illegible]立テ[illegible]、[illegible]、櫂、檝、艪ヲ併セ見ヨ。[illegible] 漕グナル、可治ノ於等ハ、大宮人ノ、皆聞クマデニ」「楫加治ノ、音高シモナ」 字鏡「[illegible]加地」 倭名抄、十二[illegible]」

かぢ（名）〔舵〕〔[illegible]ノ檝ノ、[illegible]ル後、其名ノ、舵ニ移リタルニモアルカ、梶ノ字ヲモ用ヰルハ、梶尾木ノ合字ナリ、「梶、木杪也」ノ義ニアラズ、此字、構ニモ、借字トシテ用ヰラル〕 （一）船ノ艫ニ着ケテ、水ニ入レ、柄ヲ取リテ左右ニ動カシ、面舵、取舵シテ、舳ノ方向ヲ定ムル具。大船ナルハ、柱ノ如キ材（舵柱ト云フ）ニ、袖垣ノ如ク板ヲ着ケテ、[illegible]ニ長シ、柱ニ[illegible]アリテ、柄トス、[illegible]舵柄、舵ノ取木、又、舵柄ト云フ。小船ナルハ、小サクシテ、板、横ニ長シ。古名、たぎし。又、たいし。 [illegible]、八年二月「[illegible]任那王、[illegible]」[illegible] 舵ヲ取ルトハ、衆人ヲ導[illegible]キテ、方向ヲ誤ラシメ[illegible]家中、舵をゾ取り兼ネケル」 （二）かぢぼうノ（一）ノ略。

かぢ（名）〔楫〕 （一）樹ノ名、かぢのきノ條ヲ見ヨ。 （二）前條ノ語原ヲ見ヨ。

かぢ（名）〔鍛冶〕〔古言、金打ノ略、くぬが、くが、（陸）同例〕 カヌチ。カタシ。カナダクミ。カイヤ。金類ヲ打鍛ヘテ、

種種ノ器ヲ造ルコト。又、其事ヲ業トスル者。垂仁紀、三十九年十月「鍛ニ(かぬちノ誤訓カ)」宇津保物語、吹上、下、三十三「白銀、黃金ノかぢ、二十人バカリ」

〜**かぢ** (名) [加持] 〔加ハ、力ヲ與フルコト、持ハ、守リテ失ハザルコト、眞言要記「加、諸佛大悲、來加ニ行者ニ、持、行者信心、以感ニ佛因ニ」〕 眞言密教ニテ、印相ヲ結ビ、獨鈷、三鈷、五鈷ヲ用ヰ、陀羅尼ヲ唱ヘナガラ、觀想ヲ以テ、佛力ノ加護ヲ祈ル呪法。宇津保物語、菊宴、二十五「阿闍梨モ大願ヲ立テテ、聖天ノ法ヲ不斷ニ行ヒ、加持シタル水ヲ硯水ニシテ、タテマツリ給フ」

がち (名) [雅致] 風雅ナル趣味。俗ナラヌ風情。竇泉、述書賦「或有レ懸ニ于稽古ニ、諒無レ乏ニ于雅致ニ」

〜**がち** (接尾) [勝] 偏リテ、多キ意ヲ示ス接尾語。倭名抄、廿、三十木類「周易、說卦曰、其於レ木也、爲ニ堅多ニ心、師說、多心、讀ニ奈賀古可遲ニ」 枕草子、五、五十段「朔日ヨリ、雨がちニ曇リクラス」「寐覺がち」「伏目がち」「黑目がち」

かちあひ (名) [搗合] カチアフコト。衝突

かちあ・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (自動、四) [搗合] (一)杵ニテ搗チテ、當リ合フ。(二)物、相當ル。一處ニ突キアフ。ブッカル。衝突

カチアン (名) [交薑][莢薑] 〔字ノ音ナリ、迦知安ナドトモ記セリ、德川時代初期ノ文書ニ、交趾國邊ノ地名ニ見ユ〕 華夷通商考(元祿)ニ、交趾國ノ土產、椰子油木。棕櫚ニ似テ、長大ニシテ、其葉甚ダ廣ク、屋ヲ覆フニ足ル、其ノ樹皮ト子ノ殼皮トハ、船ノ綱トシテ、極メテ堅

固ナリトス。

かちあを (名) [褐襖] かちえニ同ジ。

〜**かちいくさ** (名) [步兵] 〔いくさノ條ヲ見ヨ〕 徒立ノ兵卒。(馬卒ニ對ス) カチムシャ。雄略紀、八年二月「悉レ軍來追、乃縱ニ奇兵ヲ、步騎夾攻大破レ之」

かちいくさ (名) [勝軍] 〔負軍ニ對ス〕 軍ニ打勝チタルコト。戰勝 盛衰記、廿、八牧夜討事「御方、勝軍ナラバ城ニ火ヲ放ベシ、負軍ニ成テ人人討ルルナラバ、急使者ヲ可レ進、靜ニ御自害」

かちいろ (名) [褐色] 〔詩經、註「褐、毛布也」古ヘ、外國ヨリ、黑色ノ褐布ヲ渡シタルコトアリシニ因リテ、黑色ノ名トスト云フ(羽倉考、貞丈雜記)〕 藍ヲ、極メテ濃ク染メテ、黑ク見ユルモノ。單ニ、かちトモ云フ。深藍色 播磨國、飾磨郡、印南ノ地ニテ染ムルヲ、しかまのかちト云フ。後ニ、勝色ノ意トシ、音便ニ、かちんト云ヒ、又、勝色トモ云ヒ、全ク黑色トナリ、武具ニ專ラ、此色ヲ用ヰキ。新勅撰集、二十、物名「狩衣、しかまのかちニ、染メテ着ム」 夫木抄、三十一、市「秋來レバ、しかまノ市ニ、乾スかちノ、深キ色ナル、風ノ音カナ」 易林節用集「紺地、カンヂ」 高館草子「かちんノ直垂ニ、水ニ鴛ノ膝甲シ」 大諸禮「大將出陣ノ時ハ、黑キ色ノ手綱ヲ用テ、勝色トスト云フ」

がちう (名) [牙籌] 〔象牙作リノかずとり〕 十呂盤ノ一名。錢勘定スル、商ヒスルヲ、牙籌を執るト云フ。晉書、王戎傳「性好ニ興利ニ、每日執ニ牙籌ニ、晝夜算計、常若レ不レ足」

かちえ (名) [褐衣] 〔元ハ專ラ、褐色ナリシナルベケレド、服ノ名トナリテ、色、定マラズ〕 服ノ名。製、狩衣ノ如クニシテ、裏ナク、腋ヲ縫ヒツケタルモノ。

隨身ナド着ル。又、褐襖。

かぢか (名) [鰍] 〔ちかちかかぶりヲ上下略シタル語ナルベシ、(討手の使、うてのつかひ。日本、にほん)ちちかぶりノ條ヲ見ヨ〕 古名、チチカブリ。魚ノ名。淡水ニ產ズ、常ニ水底ノ沙上ニ居テ、浮バズ、長サ五六寸、形、はぜニ似テ、肥大ニシテ、頭大キク、口廣ク、身扁ク、鱗細カシ、背ハ、淡青黑ニ黃ヲ帶ビテ、黑キ斑アリ、腹ハ黃白ナリ。杜父魚

かちがしら (名) [徒士頭] 徒士組ノ長。步隊長 家忠日記、追加、十三「慶長四年、此年、阿部左馬助正吉ヲ步行頭トナサレ、采地五千石ヲ賜ル」

〜**かちかた** (名) [大麥] 〔搗ち難き義ト云フ(箋注倭名抄)〕 フトムギ。オホムギ。倭名抄、十七二「大麥、加知加太」

かちかち (副) (一)堅キ物ノ、相當ル響ニ云フ語。戞戞 曾根崎心中(元祿、近松作)「火打、云云、かちかち打テバ、ソロソロ開ケ」(二)拍子木ヲ打ツ音ニモ云フ。カチンカチン。チョンチョン。

かちかちやま (名) 兒童ノ昔噺。狸アリ、嫗ヲ嚙ミ殺シテ逃グ、爺、歎ク、兎アリ、仇ヲ報イムトテ、狸ヲ欺キ、柴ヲ負ハセ、先立テテ、山ニ登ラシメ、背ニテ、燧鎌ニテ燧石ヲかちかちト打ツ、狸、何音ナルカト問フ、かちかち山ナリト答フ、柴、ぼうぼうト燃エ出ス、何音ナルカト問ヘバ、ぼうぼう山ナリト答フ、狸、背ヲ燒カレテ逃グ、後、又、兎、土船ヲ作リテ、狸ヲ載セ、己レハ木船ニ乘リ、共ニ沖ニ出ヅ、土船崩レテ、狸、溺レ死セリト云フ。寶曆再版ノ俳諧種おろしニ「土舟ノ、崩レヌ內

ニ、子ハ寐入リ」兎ノ大手柄」トアリ、(燕石雜志、四) 古事記ノ、神代ニ、兎、和邇ヲ欺キ、其背ニ乘リテ、海ヲ渡リ、和邇、後ニ、兎ヲ懲ラストアル談、辭ノ謂ナルベシト云フ。

〜**かぢから** (名) [楫柄] 楫ノ柄。萬葉集、八 廿「タマキハル、命ニ向ヒ、戀ヒムユハ、君ガ御船ノ、梶柄ニモガ」(甚シク戀ヒテ居ラムヨリハ、楫ニダニ添ヒテ行カマシモノヲ)

かちき (名) [勝氣] マケジダマシヒ。人ニ勝タムト競フ氣質。銳氣 「勝氣ノ女」

かぢき (名) [舵木] (一)舵ト云フニ同ジ。(二)魚ノ名。次條ノ語ノ略。

かぢきとほし (名) [舵木通] 〔上脣、能ク舵木ヲモ通す意ト云フ〕 魚ノ名。まぐろノ類、長サ三四尺ヨリ丈餘ニ及ブ、形、しいらニ似テ、尾ニ岐アリ、上下ノ鰭、長シ、上脣、狹ク長ク堅クシテ、角ノ如シ。風波ノ時、海面ニ浮ビテ、橫ニ飛行スルコト、矢ノ如シ、舟、其鼻ニ觸レテ破ルルコトアリ。近キ頃ヨリ食用トス。カヂトホシ。カヂキマグロ。カヂキ。旗魚

かぢきまぐろ (名) [舵木鮪] 前條ニ同ジ。

かちく (名) [家畜] 〔音ハ、かきうナルベキナリ、六畜ノ語原ヲ見ヨ〕 人家ニ飼フ、禽獸ノ總稱。卽チ、鷄、鶩、馬、牛、犬、貓、ノ類。大學「伐冰之家、不レ畜ニ牛羊ニ」

かちぐみ (名) [徒士組] 徒士ノ隊。步隊 大猷院殿御實紀、六、正保二年五月廿一日「步行組二十人ヲ、大納言殿(家光)御方ニ附ラルベキ旨、仰出サル」

かちぐり (名) [搗栗] ホシグリ。栗ノ實ヲ、殼ノママニテ乾シテ、肉ノ皺ミタルトキ、杵ニテ搗チテ、殼ト澁皮トヲ去レ

ルモノ。味更ニ甘美トナル、勝栗ノ義トシテ、出陣ノ[illegible]ニ、[illegible]ト、三種ヲ用[illegible]、打チ[illegible]ヲ[illegible]名[illegible]トス、[illegible]、カチグリ」

かちふ・す [illegible] 多ク[illegible]

かちさび（名）［勝佐備］［さぶ（荒）ノ條ヲ見ヨ］勝ニ乘ジテ、[illegible]ノ進ムコト。古事記、上[illegible]

かちざむらひ（名）［徒歩侍］かち（徒士）ニ同ジ。[illegible]乘リ物、徒士侍」

かぢし（名）［加地子］年貢以外ニ、追加シテ納ムル地子錢。[illegible]

かちしね（名）［搗稻］ちみよねニ同ジ。其條ヲ見ヨ

かちしゅう（名）［歩衆］走衆ニ同ジ。一[illegible]、秀吉公御先ニ、騎馬八人、歩行衆[illegible]人、御馬印持[illegible]人之御中[illegible]之外、無之」

かぢずみ（名）［鍛冶炭］柔炭。鍛冶ノ用ヰル炭。松ヲ燒キテ製ス、ヤハラカニシテ、消炭ノ如シ。倭名抄、十五「和炭、[illegible]、[illegible]須美、一云、加知須美」

かちだち（名）［徒立］徒歩ニテ、出立ツコト。徒歩[illegible]、[illegible]ヨリ歩行立ちニテ、[illegible]ヨリ[illegible]（武家名目抄）

かちぢ（名）［徒路］徒歩ニテ行ク路。（船路ナドニ對ス）[illegible]、十二、[illegible]十八段、うちとくまじきもの「舟ノミチ、云云、かち路モ、又イト恐シ、サレドソレハ、如何モ如何モ、地ニツキタレバ、イト頼モシ」

かぢづか（名）［[illegible]］[illegible]一「[illegible]、又、[illegible]トモ云フ、取木トモ云フ」

かちどき（名）［勝鬨］[illegible]ニ勝チタル時ニ上グル、鬨ノ聲。凱歌 太平記、三、赤坂城軍事「スハヤ城ハ落ケルゾトテ、勝鬨ヲ作テ、餘スナ漏スナト、騒動ス」

かぢとほし（名）［舵通］魚ノ名。かぢきとほしニ同ジ。

かぢとり（名）［檝取］舟ノ檝ヲ執リテ、漕グ者。略シテ、かとり。音便ニ、かんどり。檝師 萬葉集、七[illegible]、[illegible]、イカニ[illegible]、[illegible]水[illegible]ノ、[illegible]ヤスベキ、[illegible]グベキ」倭名抄、[illegible]「[illegible]、[illegible]」[illegible]、八、七十九段、えせ者の所得る時の事「除目リスル時ノかんどり」

かぢとり（名）［舵取］船ノ舵ヲアツカヒテ、面舵ニ、取舵ニ、船ノ方向ヲ定ムル者。音便ニ、かいどり。かんどり。舵手 [illegible]行紀、十八年五月「挾杪者」[illegible]、十二年十月、百濟國梢師、水夫」倭名抄、十一三「梅、正レ船木也、舟人呼三挾杪[illegible]」[illegible]、六年五月「挾杪」主段式、挾杪、水手」

かちなのり（名）［勝名乘］相撲ニ勝チタル時、行司ガ、其者ノ名ヲ呼ビアグルコト。義殘後覺（文祿）[illegible]、或日、立石（相撲ノ名）[illegible]（全勝ノコト）ニテ出ヅル時、行事、云云、名乘リ申候、ト呼バハリケレバ」

かちぬの（名）［褐布］褐色ニ染メタル布。かちいろノ條ヲ見ヨ。夫木抄、三十三、布「[illegible]ナル、市女ガ持テル、かちぬのノ、色濃クノミ、人ノ[illegible]ヒツツ」布衣記、[illegible]「褐布直垂ニ、赤革ノヒボナリ」

かちのき（名）［勝木］白膠木ノ一名。勝軍木ノ條ヲ見ヨ。今モ相摸國ニテ、ぬるでヲ、かつのきト云フトゾ。

かぢのき（名）［梶］［梶ハ、借字ナリ、かぢ[illegible]］[illegible]、[illegible]ト同種ニ[illegible]、[illegible]、[illegible]葉、二尺許、五ツニ分レテ、[illegible]クニシテ、[illegible]毛アリ、[illegible]對生ス、花モ、實モ、楮ニ同ジクシテ、大ナリ。古ヘ、此樹ノ皮ニテ、木綿、紙ヲ作リ、又、[illegible]、[illegible]ヲ作ル、栲綱、栲繩ト云フ、又、七夕ニ、此葉ニ歌ヲ書キテ、織女星ヲ祭ルコトアリ。[illegible] [illegible]、十一[illegible]、[illegible]、[illegible]乃木[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、上天ノ河、トワタル舟ノ、かぢノ葉ニ、思フ事ヲモ、書キツクルカナ」（舵ニ寄セタリ）

かちのやまひ（名）［渴病］せうかち（痟渴）ニ同ジ。倭名抄、三十三「痟瘍、渴而不二小便一也、[illegible]乃也萬比」

かぢばしら（名）［舵柱］舵ノ材ノ名。舵ノ條ノ（一）ヲ見ヨ。堀河百首、戀十首、恨「海松布刈ル、海人ノ苫屋ノ、かち柱（序）、シバシうらみ（根、浦見）ヌ、時ノ間ゾナキ」

かちはだし（名）［徒跣］徒歩ニテ、跣ナルコト。平家物語、十二、六代事「馬ニ乘レト云ヘドモ乘ラズ、云云、かちはだしニテゾ參リタル」

かぢはらむし（名）［梶原蟲］梶原景時、將軍頼朝ノ寵ヲ恃ミ、讒ヲ耳ニ入レテ、何事ニモ、右幕下ノ下知ナリト云ヒテ、威ヲ張リシカバ、人、げぢげぢト渾名シテ忌メリ、蚰蜒モ忌ムベキ蟲ナレバ、其名、移レルナリト云フ説アレド、附會ナリ、げぢげぢ（蚰蜒）ノ條ヲ見ヨ、然レドモ、此蟲ヲかぢはらト云フコト、正德ノ頃既ニ見ユレバ、此説モ、時代ハアリ」蚰蜒ノ異名。今モ、福島縣、宮城縣ニテ[illegible]

[illegible]

かちびと（名）［徒人］徒歩ニテ行ク人。音便ニ、かちんど。[illegible]ひとノ、渡レド濡レヌ、エニ（江、縁ヲカク）シアレバ」名義抄、止部「歩人、カチムド」

かぢぼう（名）［[illegible]］（一）舵ノ[illegible]ノ條ノ（一）ヲ見ヨ）（二）荷車、人力車ナドノ、前ノ轅。略シテ、かぢ。（舵ノ、[illegible]ヲ左右スル[illegible]ヨリ移シテ云フナラム）

かちぼし（名）［[illegible]］相撲ニ勝チタル[illegible]、其人ノ名ノ上ニ、白圏ヲ印トスルモノ。負ケタルニハ黒圏ヲツク、負星ト云フ。

かぢま（名）［檝間］檝ヲ漕グ絶間。萬葉集、[illegible]、[illegible]、トワタル舟ノ、[illegible]ニモ、[illegible]ハ忘レズ、家ノシゾ思フ」

かぢまくら（名）［檝枕］ナミマクラ。船中ニ寢ルコト。[illegible]、[illegible]、[illegible]八、[illegible]かぢまくら、一夜ナラブル、[illegible]モ、[illegible]リヤ、己ガ浦浦」

かちまもり（名）［勝守］勝利ヲ得ト云フ守札。神社、佛寺ヨリ出ス。

かちん（名）［褐］［字ノ音、かちノ音便、（我家、わいへん）或ハ、かちいろノ音便（搗破、かちん）］色ノ名。かちいろノ條ヲ見ヨ。

かちん（名）［[illegible]］搗飯ノ音便、[illegible]ノ同[illegible]ノ、女房詞（[illegible]人[illegible]、下）

かちん-かちん（副）かちかちノ（二）ニ同ジ。

かちむしや　(名)　【徒武者】　カチイクサ。軍陣ニ、徒歩ニテ進ム兵士。　歩手　甲陽軍鑑、末書「鐵砲、弓、指物、長柄、鎗持迄、革具足ヲキル、是レヲかち武者ト云フ」(武家名目抄)

かちんど　(名)　【歩人】　かちびとノ音便。

かちめ　(名)　【搗布】　「め、(海布)幷ニ、昆布、搗つ、ノ條ヲ見ヨ」海藻ノ名。若布ニ似テ、細ソク狹クシテ、皺多シ、乾シテ粉末トシ、吸物ニ加フレバ、甚ダ滑ラカナリ。今、相良布トモ云フ。　倭名抄、十七「末滑海藻、加知女、俗用二搗布、搗者、搗末之義也」

かちめつけ　(名)　【徒目付】　武家ニ、目付役ノ屬。巡回シテ、非違ヲ戒ム。巡警吏　大猷院殿御實記、二十一、寛永九年十一月六日「徒目付朝倉八右衞門、云云、駿河ノ御使ニ指サル」

かぢや　(名)　【鍛冶屋】　(一)〔鍛冶ヲスル處〕宇津保物語、吹上、下三十「ココハかぢや、シロカネ、コガネノかち、二十人バカリ居テ」　(二)鍛冶ヲ業トスル者。鐵工　心中刃氷朔日(寶永、近松作)上「鍛冶屋ノ挺ノ衆」

かちやう　(名)　【蚊帳】　蚊屋ニ同ジ。　年中恒例記(室町時代)「今月中(四月)吉日ニ、御蚊帳、釣リ始メラルルナリ」

かちやう　(名)　【家長】　一家ノ主長タル人。アルジ。戸主。　墨子、天志篇「若處ニ家得ニ罪於家長ハ、猶有ニ鄰家所ニ避逃ニ之」　戸令、義解「凡戸主、皆以ニ家長ニ(謂、嫡子也、云云、以ニ嫡子ニ爲ニ戸主ニ也)」

かぢやう　(名)　【嘉定】　〔嘉定通寶錢ノ名ニ因ル、嘉祥ト書キテ、四季物語ニ、仁明天皇ノ嘉祥元年ノ事トスルハ、更ニ據處ナシ、恆例行事略ニ、後嵯峨天皇ノ時、嘉定通寶錢ニテ餅ヲ調ヘタルニ起ルトアルモ、確據ナシ、應永ノ頃、始メテ物ニ見ユ、出典ヲ見ヨ〕　陰暦六月十六日ニ、餅、菓ヲ、數、十六、供ヘテ食フコト。コレヲ嘉定食ト云ヒ、疫ヲ拂フトス。初ハ嘉定通寶錢(支那、宋ノ寧宗ノ嘉定年中、鑄)ニテ調ジタリ、禁中ニテハ嘉通トモ云ヘリトゾ。俗間ニテハ、錢十六文ニテ、餅、又、菓子ヲ買ヒキ。　世諺問答(天文)「嘉定ト申事、云云、錢ノ銘ニ嘉定通寶ト侍レバ、勝ト云フ名(嘉)ヲ賞翫スル由ヲゾ、承リ及ビ侍リシ」　鈴鹿家記(吉田社家)應永六年六月十六日「嘉定」(俗語考、吸物)　二水記、大永七年六月十六日「嘉定事、於ニ姉小路ニ各持寄、人人好物、其色種種也、終日遊興、恩ニ褒懷ニ了」　蔭凉軒日錄會年中行事大歳、四、六月「十六日、嘉定噉、云云」　御湯殿上日記、天文二十年六月十六日「長橋ヨリ、年年ノゴトク、かづうマイル」

かぢやうぐひ　(名)　【嘉定食】　前條ヲ見ヨ。

がちやがちや　(名)　〔鳴ク聲ヲ名トス〕　轡蟲ノ異名。

かちやく　(名)　【家嫡】　一家ノ嫡子。　平治物語、一、信賴信西不快事「一ノ人ノ家嫡ナドコソ、加樣ノ昇進ハシ給フニ、凡人ニ於テハ、イマダ如レ此ノ例ヲ聞ズ」

かちゆう　(名)　【家中】　(一)イヘノウチ。家内。(二)大小名ノ家人ヲ、總ベテ云フ語。一家中ノ侍ノ意ナルベシ。家隸

かちゆみ　(名)　【歩射】　徒歩ニテ、弓射ルコト。歩射。(騎射ニ對ス)　倭名抄、四廿六「歩射、加知由美」　源、三十四、下、若菜、下二「かちゆみノスグレタル上手ドモ、アリケレバ」

かちよ　(名)　【家猪】　〔野猪ニ對ス〕　豚。

かぢよ　(名)　【歌女】　〔蚯蚓、鳴クト云フヲ以テ、うたふト云フナリ〕　支那ニテ、蚯蚓ノ異名。　本草和名、下卅「蚯蚓、一名、歌女」　倭名抄、十九ニ「蚯蚓、美美須、崔豹古今注云、江東謂爲ニ歌女ニ」

かぢよ　(名)　【加除】　加ふるト、除くト。ヌキサシ。

かちよう　(名)　【加重】　加ハルコト。重ナルコト。

かちより　(副)　【歩行】　徒歩ニテ。　萬葉集、十三二十五長歌「他夫ノ、馬ヨリ行クニ、己夫ノ、歩從行ケバ、見ル毎ニ、哭ノミシ泣カユ」

かちわたり　(名)　【徒渡】　徒歩ニテ、川ヲ渡ルコト。徒渉　東三條院鬮変合「かちわたり、今日ゾシツベキ、天ノ河、常ヨリ異ニ、水際劣レル」

かぢを　(名)　【檝緒】　檝ノ早緒。　夫木抄、三十三、楫緒「チギリコソ、行方モ知ラネ、由良ノ門ヤ、渡ルかぢをノ、マタモ結バデ」　續古今集、十八、雜、中「須磨ノ海人、浦漕グ舟ノ、かぢを絶エ、寄邊ナキ身ゾ、悲シカリケル」

かつ　(名)　【渴】　喉ノ、カワククコト。　世說、假譎篇「前在ニ大梅林ハ饒ニ子甘酸、可ニ以解ニ渴」「渴ニ臨ム」「渴ニ迫ル」

か・つ・ツ・テ・タ・チ・テ　(自動、四)　【勝】　(一)〔鬪ヒテ、他ヲ敗ル。競ベテ、超ユ。勝ル。(負くニ對ス)　枕草子、八、八十五段、たのもしげなきもの「一番ニかつ雙六」　(二)抑ヘ得。克「己レニ克つ」

か・つ・ツル・ツレ・テ・テ・テヨ　(自動、下二)　【難】　〔かぬ(難)ト通ズ、難くありノ意、(本居宣長)古クハ、かてまヲ、かたまト云ヘリ、難ニナリ、古事記、中二五十長歌「君待チ賀多爾、吾ガ着セル、襲ノ裾ニ、月經立タナムヨ」スベテ、何かてト云フ時モ、清音ナリ、出典ヲ見ヨ〕　かぬ(難)ニ同ジ。爲シ易カラズ。他ノ動詞ニ附ケテノミ用キラル。　萬葉集、十四「アラタマノ、伎倍(地名)ノ林ニ、汝ヲ立テテ、行キ可都マジモ、妹先立タネ」(妻、先立テカシ、サラバ我レモ行キ遂ヌマジト、義遂ノ夫ノ云フナリ)(奈良朝文法史)　崇神紀、十年九月「大坂ニ、踵ギ登レル、石群ヲ、手遞傳ニ運ババ、運シサバ、遞シ介旦ムカモ」(石ヲ手遞傳ニ運ババ、運シ難ネム)　萬葉集、十一三十三「戀ノ增レバ、在勝マシモ」(世ニ在リ難ネマシモノヲ)勝ハ、借字)　同、十四四十「行キ過ギ可提ヌ、妹ガ家ノアタリ」(難了)　同、二十三「藺ノ御門ヲ、入リ不勝ヌカモ」　同、四四十「妹ニ戀ヒツツ、寐ネ不勝ニケム」(不勝ニテ、かてナリ、萬葉集、三九十「別レ不勝ツル」　同、四五十二「戀ヒニ不勝テ」)　同、廿廿「道ノ長道ハ、行キ加豆ヌカモ」(二首共ニ、難了)　同、二十五三十「越エテ伎怒カモ」　此語ノ名詞形ナルハ、萬葉集、二十二「皆人ノ、得難ニスト云フ、安見兒(女名)得タリ」　同、廿二十七「別レ加豆ニト、引キトドメ」　古今集、十一、戀、一「泡雪ノ、溜レバかてニ、碎ケツツ、我ガ物思ヒノ、繁キ頃カナ」　同、十八、雜、下「ウキ世ニハ、門サセリトモ、見エナクニ、ナドカ我ガ身ノ、出デかてニスル」　新拾遺集、十七、釋教「メグリ來テ、ナホ古郷ノ、出デかてヲ、誘フモウレシ、三ツノ小車」

か・つ・ツ・テ・タ・チ・テ　(他動、四)　【搗】　搗ク。ウスツク。　倭名抄、十七八「末滑海藻、加知女、俗用ニ搗布ハ搗者、搗末之義也」　名義抄「搗、カツ、ツク」「麥ヲ搗つ」米ヲ搗つ」搗ち合フ」搗栗」

か・つ・ツル・ツレ・テ・テ・テヨ　(他動、下二)　【糅】　雜ズ。交フ。　推古紀、三年四月、沈香木「交ハ薪、燒ニ於ニ竈」　名義抄「雜、カツ」「糅てテ加ヘテ」糅飯」

かつ　(副)　【且】　〔片ト通ズ、(籠、かつみ。熱海、あたみ)對ヒタルモノノ片方ノ意(鐘の響、中)〕　片一方ヨリ。　神代紀、下三「且喜、且慟」　古今集、序「かつハ人ノ耳ニ恐リ、かつハ歌ノ心ニ恥ヂ思ヘド」(此用法、かつうハトモナル、其條ヲ見ヨ)　同、二、春、下「ウツセミノ、世ニモ似タルカ、花櫻、咲クト見シ間ニ、かつ散リニケリ」　同、五、秋、下「霜ノ經、露ノ緯コソ、弱カラシ、山ノ錦ノ、織レバかつ散ル」　千載集、六、冬「駒ノ痕ハ、かつ

降ル雪ニ、ウヅモレテ、オクルル人ヤ、許[illegible]フラム」[illegible]ト[illegible]時ハ、[illegible]ノ[illegible]トナリ、イヨイヨチヂマリテ、わづかまノ[illegible]ト[illegible]ハ[illegible]、[illegible]フレバ、かつがつ今日ゾ、七日ナリケル」源、十三、明石[illegible]「思フコト、かつがつカナヒヌル心地シテ」「かつがつ開ニ合フ」

かつ (接) [且] 〔前條ノ語ヨリ移ル、字典「且、又也」〕又。ソノウヘニ。(漢籍讀ノ[illegible]語ナルベシ)[illegible]、小[illegible]、[illegible]「君子有レ酒、多且旨」「[illegible]書且記レ字」

かつ (名) [喝] 〔禪語ヲ遣ベタルモニ、發スル聲〕勢ヲ強ムルニ發シ、叱ルニ發ス。[illegible]、[illegible]ノ、化身ノコゾリ、[illegible]シト、[illegible]ヲ云フベキ、[illegible]ツキヨ喝」

かつあい (名) [割愛] 〔正韻「愛、吝惜也」〕愛ヲ割クコト。惜シキモノヲ、思切リテ棄ツルコト。[illegible]

かついろ (名) [褐色] 褐色ノ條ヲ見ヨ。

かづう (名) [[illegible]] かぢう(家定)ノ條ヲ見ヨ。

かつうえ (副) [且者] 〔かつうハ、且ノ延、八日、やうか。[illegible]、めうがノ例ニ且ヘト云フニ同ジ〕且(副詞)ノ條ヲ見ヨ。義經記、八、繼信兄弟御弔事「入道モ、かつうえ御志ノ[illegible]、かつうえ[illegible]カ事ヲ、今一シホ不便ニ思ヒ」曾我物語、十二、井出の館の跡見し事「かつうえ嬉シク、かつうえ悲シク」

かつえぶに (名) [[illegible]] 次條ヲ見ヨ。

かつ・える エル・エレ・エ・エ・エヨ (自動、下二) [饑] 此語ノ語原、假名遣、活用、究メガタシ、サレド暫ク此ノ如シ、列擧セル出典ヲ見ヨ、[illegible]ニ云ハバ、かつハ、饑渇ノ

渇カ、(食ヲ食ルニ、がつがつト云フ語アリ)[illegible]ハ、[illegible]ノ上略、[illegible]ニ[illegible]ニテ、[illegible]ニて[illegible]レド、渇桶讀ノ語モイカガ、或ハ「糧うゑ」ノ轉カ、[illegible]ヲ、たつトモ云フナリ[illegible]ヘル。カツレル。史記抄(文明)七、五十八「王者タルホドノ者ガ、かつへ死ヌルゾ」[illegible]ヲ直テ、故[illegible]人ニシテ、かつはえ殺ス、ソ」[illegible]子抄(文明)一[illegible]見弟[illegible]モ[illegible]シテ、[illegible]かつゆるゾ」[illegible](元祿)七「かつゑ死なウカト思ヒ、フビンサウニ泣イタヨ」

かつかう (名) [恰好] 〔字ノ音ノ、かふかうノ音便〕(一)恰モ好キコト。甚ダ似合ハシキコト。下學集、下、[illegible]「恰好」「物ニ恰好スル」(二)形、恰モ好シト云フ意ヨリ轉ジテ、直ニ、カタチ。形。スガタ。[illegible]生玉心中(正德、近松作)上「弟、云云、恰好ガ、能ウ似ヤシタ」「恰好ガヨイ、恰好ガワルイ」(三)又、價、恰モ適ヘリナド云フ意ヨリ轉ジテ、直チニ、價ノ低キコト。下直。[廉價] 浮世風呂(文化、三馬)二編、下「シミッタレナ[illegible]屋ダカラ、直ハ恰好ダガ」

かつがう (名) [渇仰] 〔渇者ノ水ヲ望ムガ如ク、卑者ノ山ヲ仰ぐガ如キ意〕思ヒヲ込メテ、信仰スルコト。深ク歸依スルコト。法華經、[illegible]品「心懷[illegible]、[illegible]渇[illegible]仰」[illegible]佛」字類抄「渇仰、カッガウ、歸依分也」

かつかじ・る ル・レ・ラ・リ・レ (他動、四) 〔かっハ、接頭語、掻きノ音便、意ナシ〕嚙るト云フニ同ジ。奴詞ナリ。[illegible]、[illegible]清ノ頃ノ[illegible]本奴、山中源左衛門ノ辭世歌、ワンサクレ、[illegible]ンバルベイカ、今日バカリ、明日ハ鴉ガ、かっかじるベイ」

かつがつ (副) [且且] 且(副詞)ノ條ヲ見ヨ。

:がつがつ (副) 〔かつえるノ條ヲ見ヨ〕甚シク食物ヲ欲シガル狀ニ云フ口語。

かつかはは (名) [勝川派] 浮世繪ノ一[illegible]、[illegible]川[illegible]ヲ[illegible]トシ、[illegible]章、又、[illegible]川、[illegible]年[illegible]レバ、名ヲ成ス[illegible](三)

がつかり (副) 〔がっくりト通ズルナルベシ〕(一)甚シク疲レタル狀ニ云フ語。[萎頓] (二)[illegible]ミヲ失ヒ、[illegible]ヲ落ス狀ニ云フ語。[喪膽] [落膽]

かづか・る ル・レ・ラ・リ・レ (他動、四) [被] 〔被けらるノ約マリテ、四段活用ノ他動詞トナレルモノ、あづかる(預)ノ語原ヲ見ヨ〕被ケラル。[illegible]頭ニセラル。[illegible]、上、第二、紅葉のみかり「源氏ノ若君ナム、舞ヒタマヒシ、云云、御衣、かづかりタマヘルヲ」

かつき (名) [下器] 〔下器ノ音便、下ノ字ハ、下物ノ意〕節會ナドニ、群臣ニ賜ハル下物ヲ入ルル器。江家次第、六、二孟旬「御臺盤一脚」註「內膳下器、立二第一間一」其西立入[illegible]下物一器上」註「其體如二舟一」

かつぎ (名) [被衣] かづきノ訛。きぬかづきノ條ヲ見ヨ。

かつぎ (名) [擔] カツグ人。物ヲ、荷ヒハコブ者。擔夫「蕎麥屋ノかつぎ」

かつぎ (名) [勝木] かちのき(勝木)ノ條ヲ見ヨ。

かづき (名) [潛] 潛クコト。水ヲ潛ルコト。古事記、中(仲哀)[illegible]長歌「鳰鳥ノ、近江ノ海ニ、迦豆岐セナワ」萬葉集、七廿「海神ノ、モタル白玉、見マクホリ、チカヘリ告ゲツ、潛スル海子」[illegible]子、十二、百四十八段「海人ノ、かづきシタルハ、憂キ事ナリ、[illegible]ニ[illegible]キタル[illegible]エナハ、イカナラム」

かづき (名) [被衣] (一)被クコト。玄玄集(盲[illegible])「かづきセン、袖ハ雨ニ、イカガセシ、[illegible]ルル

ハサテモ、思ヒ知レカシ」(二)きぬかづきノ[illegible]、其[illegible]ヲいフ。

がつき (名) [餓鬼] 〔がきノ音便、餓死ヲがつゑトモ云フ、富貴、ふっき。龜甲、きかふ〕餓鬼ト云フニ同ジ。人ヲ罵リ呼ブ語。[illegible]、[illegible]

かつきう (名) [葛裘] (一)葛衣ト、裘衣ト。夏衣ト、冬衣ト。(二)一年。一箇年。一葛裘ハ、二箇年、三葛裘ハ、三箇年ナリ。

かづきぞめ (名) [被衣初] 女子五歲ノ時、始メテ被衣ヲ着ル式。[illegible]父母[illegible]レバ、ソレヨリ被衣ヲ[illegible]ル、氏神、[illegible]ニ[illegible]テ、[illegible]シキ[illegible]ヲ請フ。昔ハ正月[illegible]ガ、後ニ十一月十五日トナレリ。京攝ニテ、常上方、町[illegible]ニテモ行ヒキ。[illegible](元祿)三「[illegible]者、かづき初、五歲ノ正月タルベシ」

がつきん (名) [合巹] 唐[illegible]「巹、以[illegible]酒器一也」一瓢ヲ分チテ兩瓢トナスヲ巹ト云フ、婚禮ノ盃ニ用キル[illegible]、[illegible]盃ヲ取リカハスコト。ウキキヒ。サカヅキゴト。合巹。[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]以人、[illegible]、[illegible]合[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]

かづきめ (名) [潛女] 〔水中ニ潛ク女ノ義〕女ノ海人。[illegible]、[illegible]女、[illegible]

かつきよ (名) [割據] 一方ノ地ヲ占領シテ、其處ニ居住スルコト。[illegible]、[illegible]

かつきり (副) 隈ノ色[illegible]、一[illegible]リナド云フモ、此轉ナリ〕區別ノ、際ダチタル狀ニ云フ語。キッカリ。[劃然]

かづきわた (名) [被綿] わたぼうしノ條

ヲ見ヨ。

かつ・ぐ ゲ・ガ・ギ・ゲ（他動、四）〔擔〕〔肩〕（一）ノ轉、籠、かつみ。熱海、あたみ」（一）昇ク。荷フ。烏帽子折草子（室町時代）上「吉ハガ太刀ヲかついデ、奥ヘ下ラセタマヒケリ」（二）御幣をかつぐノ略。モノイマヒヲス。御幣ノ條ヲ見ヨ。（三）名義ニ押立テル。マツリアゲル。（御輿ヲかつぐヨリ移ル）「華族ヲかついデ會社ヲ興ス」（四）ノセル。欺ク。ダマス。「ウマウマト一杯かつぐ」

かづ・く ク・ケ・カ・キ・ケ（自動、四）〔潛〕〔頭突〕くノ約カ、頷突く、頂突くノ例」（一）水中ニ潛リ入ル。モグル。古事記、上二十「於二中瀬一墮迦豆伎而、滌」神代紀、上十「潛二濯於中瀬一」神功紀、元年三月「瀬田ノ濟ニ、伊豆爾島」後撰集、十、戀、二「海ノ、底ノアリカハ、知リナガラ、かづきテ入ラム、浪ノ間ゾナキ」（二）潛キテ採ル。萬葉集、十一、四十二「伊勢ノ海人ノ、朝ナタナニ、潛くチフ、鰒ノ介ノ、片思ニシテ」

かづ・く クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ（他動、下二）〔潛〕「前條ノ語ノ他動」潛カシム。モグラシム。萬葉集、十九、二十年「毎ニ、鮎シ走ラバ、辟田川、鵜八可頭氣テ、川瀬タヅネム」同卷廿長歌「早瀬ニハ、鵜ヲ潛けツツ」

かづ・く ク・ケ・カ・キ・ケ（他動、四）〔被〕〔前前條ノ潛く（自動）ト同義、自他同活用ノ語ナルベシ、ひらく（開）ナドノ例〕頭ニ掩フ。冠ル。被ル。蒙ス。為忠集「思ハズモ、あきつノ浦ニ、時雨シテ、織ル稻莚、かづく旅人」狹衣、一、上廿「御衣引キかづきテゾ、臥シタマヘル」宇治拾遺、一、十六條「衣ヲバ、頭ニかづきナガラ」

かづ・く クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ（他動、下二）〔被〕〔前條ノかづく（被）ノ擧動ヲ、他ニ施スナリ、あむ、あむす（浴）ト、同意〕（一）被カシム。蒙ラス。[illegible]「[illegible]被、[illegible]、[illegible]九月九日、菊ニ綿かづけテ（きせわたナリ）名義ハ〔菊、ミヂ葉ハ、室ノかづくる、錦ナリケリ」忠見集「九月[illegible]」（二）禄ニ賜フトテ、衣類ヲ、其人ノ左肩ニ打チ被ラス。（かづけわたノ條ヲ見ヨ）被物ニ與フ。授祿〔纏頭〕源、十二、須磨四十「御衣ドモ、かづけサセタマフ」伊勢物語、四十四段「盃サセテ、女ノ装束かづけムトス」

かづ・く クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ（他動、下二）〔假託〕「前條ノ語ノ轉」（一）カコツケ。コトヨス。「用事ニかづけテ來ヌ」（二）負ハス。歸セシム。負「罪ヲ他人ニかづくる」

かっ-くひ （名）〔蚊食〕〔かくひノ音便、イマイマシク思ヒテ、急呼スルナリ、にくい、にっくいナドノ例〕 膚ノ、蚊ニ刺サレタル痕。天明ノ川柳、蚊食ヲ、カキカキ五六、ウケニ來ル」（五六八、歳暮ノ醫歟）

かっ-くひ （名）〔刈杙〕〔かりくひノ音便、倭名抄、七二十三「陸奥、刈田郡、葛多」〕 若木ノ切株。

かっくひ-ずみ （名）〔刈杙炭〕〔前條ヲ見ヨ〕 木ノ切株ヲ燒キテ作リタル炭。ホタズミ。

がっくり （副） 一時ニ折レ挫クル貌ニ云フ語。叢生歌（元祿、近松作）下「此樣ニ、無事ナ顔見マイカト思フタニ、私ャがっくりトナリマシタ」

かっ-け （名）〔脚氣〕 かくけノ條ヲ見ヨ。

かづけ-もの （名）〔被物〕〔被く（下二段活用）ノ條ノ（二）ヲ見ヨ〕（一）功ヲ賞シ、勞ヲ、ネギラフニ賜フ物。祿。天智紀、元年五月「褒賜二爵祿二」拾遺集、六、離別「臺盤所ニテ、餞セサセタマフニ、かづけもの賜フトテ」（二）引出物。遊藝ノ者ノ演技ニ感ユルニ、與フル纏頭。祝物。纏頭〔[illegible]〕

❖かづ・ける （動） 被く（下二段）ノ口語。

かづけ-わた （名）〔被綿〕 綿ノ被物。御佛名ヲ修シタル僧ニ賜フニ云フ。建武年中行事、十二月、御佛名「かづけわたノ事アリ、玄宮ノ蓋ニ綿ヲ入レテ、簀子ノ北ノ方ニ、内侍ノ廉下ト云ヒテ、簾ヲカケテ出ス、藏人、御導師ノ肩ニかづくるナリ」

かっ-ゐ （名）「かったゐノ略」 駒下駄ノ、小兒語。

かっ-こ （名）〔羯鼓〕〔戎羯ノ鼓ノ義〕 雅樂ノ樂器。天竺部ノ用、腰鼓ニ似テ、臺ニ据エテ、兩ノ桴ニテ、兩面ヲ擊ツ。カンコ。李商隱詩「羯鼓聲高衆樂停」倭名抄、四廿「羯鼓」

かっ-こ （名）〔餲餬〕 八種ノ唐菓子ノ一。麵粉ニテ製シ、油ニテ揚ゲタルモノ。倭名抄、十六十三飯餅類「餲、餅名、煎レ麵作二蝎蟲形一也、俗云二錫餬一」厨事類記「餲餬、カンコ」

かっこう-どり （名）〔郭公〕〔鳴鳩〕〔布穀〕〔鳴ク聲ヲ名トス、多武峯少將物語、郭公「山路知ル、鳥ヲ我ガ身ニ、ナシテシガ、君かくさふ（斯戀ニカケタリ）ト、鳴キテ告グベク」漢名ノ郭公モ鳴聲ニテ、暗合ナリ、荊楚歲時記「有レ鳥曰二穫穀一、其名自呼」爾雅、釋鳥、鳲鳩、註「穫穀」埤雅、釋鳥「鳲鳩、云云、今之布穀也、江東呼爲二郭公一」〕 古名、ふふどり。ほほどり。渡鳥ナリ。形、甚ダ杜鵑ニ似テ、大ナルモノ、夏時、山林ニ多シ。カッコドリ。カンコドリ。カッポウドリ。ホウホウドリ。ツツドリ。（何レモ、鳴聲ナリ） 和漢三才[illegible]

[illegible]

かっ-こどり （名）〔郭公鳥〕 前條ニ同ジ。

かつこみ-ねがひ （名）〔駈込願〕 かけこみねがひヲ見ヨ。

かっ-こ・む （動） 駈込むノ音便。

かっ-こ・む （動） 掻込むノ音便。

かっ-こん （名）〔葛根〕 葛ノ根ヲ、藥用トスルトキノ稱。

かっこん-たう （名）〔葛根湯〕 煎藥ノ名、葛根ヲ用キル、風邪、發汗ナドノ藥トス。

かっ-さい （名）〔黠才〕 狡猾ナル才能。ワルガシコキ智慧。奸才

かっ-さい （名）〔喝采〕 やんやト褒メハヤスコト。馬臻詩「新聲得レ意圖畫、喜入二王二公喝采聲一」「喝采ヲ博ス」

かっ-さい （感）〔喝采〕 ドヨメキ、褒ムル聲。ヤンヤヤンヤ。ヒヤヒヤ。〔百廟記、注「喝采、北人方語、稱義之意」〕

がっ-さい （副）〔合切〕〔合式一切ノ略カ〕 副詞ノ、一切ニ同ジ。殘ラズ。「一切合切、持ッテ行ク」

がっさい-ぶくろ （名）〔合切袋〕 身ニ携フル物ヲ、合切、入ルル袋。

がっ-さう （名）〔合葬〕 一處ニ合セテ葬ルコト。禮記、檀弓、上篇「合葬非レ古也、自二周公一以來、未二之有レ改」晉明紀、四年五月、皇孫建王、八歲ニテ薨ズ、天皇哀傷シタマヒ「萬歲千秋之後、要合二葬於朕陵一」

がっ-さく （名）〔合作〕（一）詩文ナド、數

人ノ作ニテ成ルモノ。[illegible]（二）作ノ詩ヲ、[illegible]

かづさ-しりがい (名) [上總鞦] 鞦ノ一種、上總國ヨリ製出セシモノ。[illegible]

かっ-し (名) [甲子] かふしノ音便。支干ノ六甲ノ第一。キノエネ。[illegible]三十干十二支ノ、[illegible]甲子ニ始マリ、癸亥ニ終レル際、左ニ視セル如キヲ、今ハ六十花甲ト稱スレド、古クハ六甲ト云ヘリ、其ハ、甲子、甲戌、甲申、甲午、甲辰、甲寅、各各九干支ヲ率ア、其首タレバナリ」

がっ-し (名) [餓死] 「がしノ急呼音」がし〔餓死〕ニ同ジ。[illegible]「[illegible]淨土ヘ、ゾロリゾロリト、ゾロメクニヨッテ、地獄ノがっし以テノ外ナ」

かっ-しき (名) [喝食] 次次條ノ略。其條ヲ見ヨ。

がっ-しき (名) [合式] 一式。一切。ノコラズ。

かっ-しき-アンジャ (名) [喝食行者] 〔禪宗ノ宋音〕（一）俗人ニテ、禪寺ニ入リ、佛道ヲ修行シ、齋、非時ニ、食事ヲ呼ビツギナドスル者。略シテ、喝食トノミ云ヒ、後ニハ、專ラ兒ノ稱トナレリ。庭[illegible]（二）喝食ハ、武家ノ子息、童體ノ、髮ノ結ヒ方ノ稱トモス。ちごわげノ條ヲ見ヨ。

かっ-しん (名) [合心] [illegible] 同志ノ人人ノ集會。

がっ-しゃう (名) [合掌] （一）佛ヲ拜スルニ、一心不亂ヲ表スル、至極ノ敬禮。向ヒテ、兩ノ指掌ヲ密ニ合ハス、天竺ノ風ナリ。合十。[illegible]（二）建築ノ語、二本ノ長材ヲ、左右ヨリ倒シカケ、頭ト頭トヲ、合掌シタル如ク組合スルコト。兩脚ハ開ク。

かつ-しゃうてい-ちゃう (名) [葛上亭長] マメハンメウ。

がっ-しゃう-なげ (名) [合掌投] 相撲ノ投ノ手ノ一。右上手ハ敵ノ肩ヲ越シ、左下手ハ敵ノ腋ノ下ヲ通シ、上手、下手、敵ノ背中ニテ指先ヲ組合セ、下手ノ方ノ腰ヲ入レ、敵ヲ上手ノ方ヘ投ゲックルコト。

がっ-しゅく (名) [合宿] アヒヤド。[illegible]手ノ合宿所」

がっ-しょう (名) [合從] 〔從ハ縦ナリ、六國ノ地形ヨリ云フ〕（一）支那ノ戰國時代ニ、蘇秦ガ計畫セシ、秦ニ對スル、韓、魏、趙、燕、齊、楚、六國ノ同盟。（張儀ガ、連衡ノ策ニ對ス）戰國策、秦策「天下之士、合從相聚於趙、而欲攻秦」（二）轉ジテ、スベテ、同盟シテ敵ニ當ルコト。

かっ-しょく (名) [褐色] チャイロ。

かっ・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ（自動、左變）[渴] 喉、乾ク。[illegible]

がっ・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ（自動、左變）[合]

合フ。一ツニナル。[illegible]二、合しテ、一トナル」

がっ・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ（他動、左變）[合] 合ハス。一ツニス。[illegible]

かっ-すゐ (名) [渴水] 旱ナドニテ、井水、用水ナドノ、全ク涸ルルコト。旱涸。

かっ-せん (名) [合戰] 敵ト身方ト出合ヒテ、戰フコト。かせん。タタカヒ。戰爭。戰鬪。[illegible]

がっ-そう (名) 「合總髮ノ略カ」總髮ニ同ジ。俗語ニ、こもそう「ぼろぼろの冊子ニ、ぼろぼろノ僧[illegible]坊ト云フ者、活僧ノ風ヲマネビテ、髮ヲ半切テ、云云」（活僧トハ、在俗有髮ノ僧ヲ云ヘルカ、薦僧ハ、ざんぎりナリ）正章千句（慶安）「流石浮世ヲ捨テヌ牢人」がっそうモ、油ヲツケツ、撫デツケツ」

がっ-そう (名) [合奏] 種種ノ樂器ヲ用ヰ、調ヲ合セテ音樂ヲ奏スルコト。[illegible]「金石合奏」三代實錄、四十一、元慶六年三月廿七日「[illegible]云云、絲竹合奏、樂飲極歡」

がっ-たい (名) [合體] 體ト體ト、相合フコト。互ニ、心ヲ一ツニスルコト。禮記、昏義篇「婦至、壻揖婦以入、共牢而食、合巹而酳、所以合體同尊卑以親之也」

かつ-だう (名) [喝道] 〔道ニ喝はるナリ〕貴人ノ通行ノ際、先拂ノ聲ヲ揚ゲテ、行人ヲ制スルコト。シタニヲラウ。李商隱[illegible]「[illegible]喝道」[illegible]

かっ-たん (名) [褐炭] 針葉樹、闊葉樹ノ、土中ニ埋マリテ、炭化セルモノ。年代ハ、石炭ヨリ新シク、炭化不十分ニシテ、倘、木理ヲ存シテ、黑褐色ナリ、燃セバ、

[illegible]、火力、弱シ。

❖❖かった-る・い (形) 〔かひだるしノ音便、靜岡ニテ、かいだるい」（一）カヒダユシ。カヒダルシ。草臥レタリ。轉ジテ、ケッタルイ。（東國）疲倦[illegible]（二）ナマヌルシ。マハリドホシ。

かったゐ (名) [癩] 〔かたゐノ音便、其條ノ（三）ヲ見ヨ〕らいびゃう（癩病）ノ異名。

かったゐ-ばう (名) [癩坊] 〔かったゐ、かたゐノ條ヲ見ヨ〕癩病ノ者ヲ卑シメ呼ブ語。ナリンバウ。

かっ-ち (名) [黠智] ワルガシコキコト。ワルヂエ。王惲、苦熱歎「[illegible]黠智」

かっ-ちう (名) [甲冑] 〔禮記、曲禮、上篇「獻甲者執冑」注「甲、鎧也、冑、兜鍪也」〕鎧ト、兜ト。具足。[illegible]

かっ-つぁらひ (名) [攫浚] 〔かきさらひノ音便〕人目ノ隙ヲ窺ヒテ、物ヲ奪ヒ去ルコト。カッパラヒ。

（一）かつて (副) [都] スベテ。フツニ。サラサラ。一向ニ。[illegible]

（二）かつて (副) [嘗] [曾] 過去ニ、事アリシコトヲ云フ語。イニシサキ。カネテ。マヘ

カタニ。名義抄「嘗、カツテ、ムカシヨリ」「嘗テ見タリ」嘗て知レリ」

かッて（名）［糧］「乾飯代ノ約ナル、糧ノ音便、（更ニ略シテ、糧）祝詞、のッと」糧ニ同ジ。名古屋眞福寺藏、永祚元年ノ愁狀（正中二年鈔本）「儲ニ逃亡之粮ニ（碩鼠漫筆、十二）

かッて（名）［勝手］〔前條ノ語、糧所ナドノ略、竈ノ名ニ移リ、更ニ、廚ニ移レル語、字類抄「竈、カマ、カマド、カッテ」〕（一）廚。臺所。廚　狂言記、鱸庖丁「かッてヨリモ、煎物コソ出來タレトテ、云云、持ッテ出ヨウ」「勝手元」勝手口」（二）糧ハ生活ノ第一ナルヨリ轉ジテ、家ノ生計。家計　狂言記、文相撲「五人程置カウ、ソレデモ、勝手ノ堪忍ガ續キマスマイ」「勝手向」勝手不如意」（三）家ノ生計ヲ扱フコト。國ノ會計ヲ掌ルコト。若年寄、勘定奉行ナドノ中ニ、會計專務ノモノヲ勝手方、勝手掛リナド云フ。「勝手方役人」

かッて（名）［勝手］（一）便利ナル方法。都合ヨキコト。便次　太平記、二十六、吉野炎上事「主上（後村上天皇）勝手ノ宮ノ御前ヲ過ギサセタマヒケル時、云云「賴ムカヒ、ナキニツケテモ、誓ヒテシ、勝手ノ神ノ、名コソ惜シケレ」「右カ左カ、勝手ガワカラヌ」商ヒノ勝手モヨクナル」（二）己レニ便利ナルコト。隨意「コノ方ガ、私ノ勝手デゴザル」（三）己ガ都合ヨキヤウニノミ行フコト。我ガママニスルコト。任意「自分勝手」勝手キママ」勝手ニヤメル」

かッて-かた（名）［勝手方］（一）德川時代、會計ノコトヲ掌ル職。勘定方。（前前條ノ（三）ヲ參照セヨ）（二）食物ヲ調理スル所。又、其人。賄方。（三）臺所ニ寄リタル方面。カッテムキ。

かッて-ぐち（名）［勝手口］臺所ノデイリグチ。

がッ-てん（名）［合點］（一）官府ニテ、文書ニ、一人、可シトスレバ點ヲカケ、同僚、同心ナレバ、又、點ヲカク、其點ノ合ヒタルニテ、裁可スルコト。江家次第、四、除目直物「可レ注ニ付今夜拜任官於ニ申文神ハ其上合レ點」歌合ナドニ、判者二人ナレバ、歌ノ左右ノ肩ニヘヲ懸ケテ、相合フモノヲ優レリトス。コレヲ、鉤を懸くト云フ。十六夜日記「五十首ニ十八首、點あひヌルモアヤシク、云云、又、三十首ノ歌ヲ送リテ、コレニ點あひテ」定家假名遣、序、河内前司親行、假名遣ノ事ヲ記シテ、定家ニ注進セシニ「中ス所、悉ク其理相叶ヘリトテ、則チ、合點セラレ畢ンヌ」吾妻鏡、五十一、弘長三年二月十日「有ニ和歌會ハ云云、以ニ合點員數ハ被レ定ニ座次第ニ（二）轉ジテ、廻文ナドニ、一見シ了リテ鉤ヲ懸ケ、承諾ノ旨ヲ示スコト。加點　海人藻芥、上「廻文ノ事、立紙ノ時ハ加奉、折紙ノ時ハ合點ナリ」（三）又轉ジテ、ウケガフコト。同心。得心。納得。承知。約メテ、がてん。承諾了解　狂言記、貰聟「サウオッシャルハ、合點デゴザル」同、成上物「がてんノマヰラヌ、不思議ナ事デゴザル」「話シテミテモ、ナカナカがッてんセヌ」（四）又轉ジテ、承諾ノ意ヲ示スニ、うなづくコト。首ヲ前ヘ伏セ曲グルコト。首肯「首ヲがてんがてんスル」

かッて-むき（名）［勝手向］（一）臺所ノ方向。カッテモト。（二）家ノ生計。家計上。

かッて-もと（名）［勝手元］臺所ノ方面。カッテムキ。

かッ-とう（名）［葛藤］〔出曜經「其有ニ衆生墮ニ愛網ニ者、必敗ニ正道ニ、猶下如ニ葛藤纏レ樹樹枯上」〕葛、藤ノ、樹ニ纏ヒモツルル意ナリ」モツレゴト。アラソヒゴト。モメゴト。ゴタゴタ。蘇軾雜纂、强陪奉「對ニ上官ニ說ニ葛藤話ニ」「談論、遂ニ葛藤ヲ起セリ」

ガッ-トリング（名）〔英語、Gatling gun.〕數箇ノ銃砲ヲ束ネ、連發シ射擊スルモノ。米人がッとりんぐノ發明。

かつ-え（副）［且者］且（副詞）ノ條ヲ見ヨ。

かッ-ぱ（名）［河童］〔河童ノ約ナル、かはわッぱヲ、再ビ約メタル語〕（一）水陸兩棲ナリト云フ、想像ノ動物。繪ニ書ケルハ、形、三四歲ノ童ノ如ク、吻尖リテ、身ニ鱗甲アリ、頭ニ髮ヲ被リテ、中剃ノ如キモノアリ、手足ニみづかきアリテ、爪銳シ、九州ノ山中ノ溪流ニ棲ムトモ云フ、詳ナラズ。カハタラウ。カハッパ。水虎（二）繪ニ畫ケル、河童ノ頭髮ニ似ヨリタルヨリ、小兒ノ、髮ヲ結ハズニ、耳ノ邊マデ垂ラシ、切リ落シタルモノ。おかッぱ。

かッ-ぱ（名）［喝破］〔破ハ、了ナリ〕大聲ヲ出シテ、他ノ言說ヲ破ルコト。

カッパ（名）［哈叭］合羽］〔葡語、Capa.（英語、Cover.）羽ノ字ハ、羽織ヨリ採リタルカ〕雨衣ノ一種。初メ葡萄牙人ノ外套ノ製ヲ移セルモノ、衣ノ上ニ廣ク被フヤウニ製ス。又、綿布、羅紗ナド用キ、袖ヲ付クルモ出デ來リテ、其名ヲ專ラニシ、故ノ製ナルヲ、雨合羽、丸合羽、坊主合羽、綿布ナルヲ、引廻はし合羽ナド稱ス。雨衣　東海道名所記（萬治）三「雨合羽、塗笠着テ、打過ル」寛文八年三月、町觸「毛織ノ羽織、勝羽、彌無用之事」（嬉遊笑覽、二）

かつ-ぱう（名）［渴望］〔渴きタル者ノ、水ヲ望むガ如キナリ〕頻リニ待チ受ケテ、望ミ欲スルコト。范成大、洪景盧內翰使還入レ境詩「國人渴ニ望公顏色ハ爲報儀レ帷入ニ帝畿ニ」

かッ-ぱう（名）［割烹］〔肉ヲ割き、又、烹るナリ〕食物ノ調理。料理。周禮、天官、內饔「掌ニ王及后世子膳羞之割烹ニ」孟子、萬章、上篇「伊尹以ニ割烹ニ要レ湯」「割烹店」

カッパ-かご（名）［合羽籠］往時、貴族ノ外出ノ時ニ、從者ノ合羽、笠ナドヲ納レテ、奴隸ニ擔ゲ行カシムル具。兩箇ノ籠ニ、蓋アリ、棒ニテ荷フ。カッパザル。抱一ノ屠龍句藻（文化）「夕立ヤ、右往左往ノ、合羽籠」

カッパ-ざる（名）［合羽笊］前條ノ語ニ同ジ。

かッぱ-す・スル・スレ・セ・シ・セヨ（他動、左變）［喝破］叱リック。

かッぱ-と（副）かばとノ條ヲ見ヨ。

かッぱ-むし（名）［河童蟲］かうやひぢり（水爬蟲）ニ同ジ。（東京）

かッ-ぱらひ（名）［搔拂］〔かきはらひノ音便〕かッつァらひニ同ジ。

かッ-ぴつ（名）［渴筆］カスリフデ。丹鉛錄「唐徐浩書ニ張九齡司徒告身ハ多ニ渴筆ハ渴筆、枯無レ墨也」「渴筆山水」

カッフェイ（名）［咖啡珈琲］〔佛語、Café.〕（一）こおひいノ條ヲ見ヨ。（二）珈琲店。西洋料理店。

かッ-ぷく（名）［割腹］切腹ニ同ジ。ハラキリ。

かつ-ぶし（名）［鰹節］かつをぶしノ略。

かつぶし-あがたな（名）［鰹節小刀］鰹節ヲ削ルニ用キル小刀。

かつぶしばこ (名) 鰹節箱 鰹節ヲ、かつぶし小刀ナドニテ削リ溜ムルニ用キル小箱、上ニ鉋ヲ仕掛ケタルモノナリ。

かつぶしミソ (名) 鰹節味噌 [illegible]ヲ削リテ粉ニシタルニ、[illegible]ヲ加ヘ、味噌ニ混ゼテ[illegible]タルモノ。

カップリ (名) 〔蘭語、Kappen.(切ル)ノ訛ニモアラムカ〕 和蘭ヨリ渡セル小刀ノ名。本朝若風俗(貞享、西鶴)「色座敷ヘハ、かっぷりモ出ヌガ良シ」

かっぺい (名) 合併 一ツニアハスルコト。[illegible]

かっぺき (名) 合壁 カベドナリ。[illegible]

カッペル (名) 〔蘭語、Kachel.〕 煖爐。ストウブ。長崎ニテ、カアヘル。

かっぽうどり (名) [illegible] かっこうどりニ同ジ。[illegible]

かっぽじ・る・ル・レ・ラ・リ・レ (他動、四) 〔かっハ、接頭語、掻きノ音便〕 掻穿るト云フニ同ジ。奴詞ナリ。「耳ノ穴ヲかっぽじッテ、ヨク聞ケ」

かっぽん (名) 合本 数冊ノ書物ヲ、一冊ニ綴ヂアハセタルモノ。

かっぽれ (名) 活惚 すみよしをどりノ異名。

かつま (名) 勝間 堅間ニ同ジ。其條ヲ見ヨ。

かつみ (名) 勝見 〔糧賓ノ轉、(竪、たつ)賓ノ、食料ニ充ツベキ意カト云フ〕 眞菰ノ異名。其條ヲ見ヨ。花ノ咲キタルヲ、[illegible] たかつみトハ、花咲キタルまこも(菰)ヲ云フ、後撰(奥)ノ風俗ニテ、かつみトハ、まこもヲ云フ[illegible] 歌枕「かつみトハ、まこもヲ云フ、まこもはなヲ、はなかつみト云フ」萬葉集、四[illegible]「ヲミナヘシ、咲沢ニ生フル、花かつみ[illegible]」[illegible]集、十四、戀、四「陸奥ノ、淺香ノ沼ノ、はなかつみ、かつみる人ニ、戀ヤワタラム」[illegible]リナク宿ル、夜ノ月カナ」

かつみ (名) [illegible] かたばみ藻ノ略轉、かつま、[illegible]、わつべ、かたばみ藻、[illegible]字藻ニ同ジ。下總ノ布施沼邊ニテハ、かつもト云フ。古今集、十四、[illegible]「[illegible]ノ、かたみトテコソ、トドメケメ、浪ニ浮ブ、もくづナリケレ」

かつむし (名) 勝蟲 〔雄略天皇ノ御腕ニ、虻ノ食ヒツキタルヲ、蜻蛉ノ來テ食ヒシ事アリ、(雄略紀)コレニ起ル名カト云フ〕 とんばう(蜻蛉)ノ異名。勝ツヲ祝シテ、武具ナドニ、多ク、其象ヲツク。

かつめい (名) 渇命 饑渇ニ迫レル命。[illegible]十四、[illegible]四十、下「言ハレヌ主君ノ[illegible]、己レガ命ヲ繋ク料ニ、如[illegible]」

かつやま (名) 勝山 〔承應ノ頃、江戸、吉原ノ遊女、勝山ト云フ者ノ結ヒ始メタルモノ〕 (一)女ノ結髮ノ名。全髮ヲ頂後ニ束ネテ、末ヲ細ソクシテ、前ヘ向ケ曲ゲテ、大輪ヲ作ル、兵庫髷ノ突出ヲ、前ヘ倒シタルナリ。白キ平元結ヲ、髻ニ巻ク。[illegible](享保)[illegible]ノ頃、云云、勝山ト云フ大夫アリシ、云云、髮ハ白キ元結ニテ、片曲ノダテムスビ、勝山風トテ、今ニスタラズ、云云」 (二)後ニハ、丸髷ノ、大キナルモノ。

かつら (名) 桂 〔かつハ、香出ナラム、(終止形ヲ名詞トスルハ、滿づ、即チ、案山子ナドアリ)樹皮ニ香氣アリ、つハ、濁ルベキガ如シ、下ナル出典ヲ見ヨ、らハ、[illegible]〕 (一)[illegible]木ノ名。メカツラ。今、やぶにくけいト云フ、其條ヲ見ヨ。[illegible]花ト云フハ、木犀ナリ) 神代紀、下三杜木、此云可豆[illegible] [illegible] (二)つきのかつらノ略、其條ヲ見ヨ。桂を折るトハ、文章生、試驗、對策ニ應ジテ、及第ス。[illegible] ケル夜、母ノ詠ハベリケル「ヒサカタノ、月ノかつらモ、折るバカリ、[illegible]」[illegible] コトヲ希フト云フナリ、つきのかつら、いへのかぜノ條ヲ見ヨ) 太平記、十二、聖廟御事「貞觀十二年三月二十三日、對策及第シテ、自ラ[illegible]桂[illegible]」(道眞ノコトナリ) 拾遺集、八、雜、上「昔シ我ガ、折リシ[illegible]ノ、カヒモナシ、月ノ桂ノ[illegible]ノ、顧ニ入ラネバ」 (三)かつらめノ略。其ノ條ノ(一)ヲ見ヨ。

かつら (名) 楓 樹ノ名。ヲカツラ。大[illegible]、十二、[illegible]、[illegible]名ニ、[illegible]ヲかつらト[illegible] ズ、莢莢、白膠ニ似テ、[illegible]ノ祭ニ用ル[illegible]

かつら (名) 鬘 次次條ノ(三)ヲ見ヨ。

かづら (名) 葛鬘 〔神代紀、上二十二伊弉諾神ノ、黒キ御鬘ノ化シテ、蒲萄トナリシニ因レル名カ〕 [illegible]

かづら (名) 鬘 〔鬘ノ字ハ、髮變ナリ、[illegible]〕 髮變ノ略、[illegible]ノ條ヲ見ヨ [illegible] (一)上代[illegible]、頭トナルガ如シ。[illegible] 我ガ髮ノ少キニ添ヘ加フルモノ。一名、添髮。[illegible] (三)薄キ銅ヲ以テ頭ノ形ヲ造リ、ソレニ他ノ髮ヲウヱテ、男女、種種ノ結髮ノ[illegible]

形ヲ摸シテ作リツケタルモノ。頭ノ全部ニ被ヒテ、其狀ニ扮ツ、歌舞伎ノ役者ナド用キル、今、淸音ニ、かつらト云フ。假髮　劇場新語、上「三階稽古場座、丼、鬘師ノ事、附、鬘名目ノ事」

かつら-あゆ　(名)　［桂鮎］　山城國、桂川產ノ鮎。古ヘ、桂ノ里ヨリ禁裏ヘ奉リシト云フ。桂女ノ條ヲ併セ見ヨ。　夫木抄、廿七、鮎「朝ナ朝ナ、日次供フル、かつらあゆ、歩ミヲ運ブ、道モカシコシ」辨内侍日記（建長）「かつらト云フ者ノ、アヤシノ姿シタルガ五六人、かたみト云フモノ、肘ニカケテ參ル、アレモ、おぼやけノモノゾカシ、云云「かつらヨリ、鮎釣ル少女、引キツレテ、今ゾ雲居ノ、日次知ルラム」

かづら-おび　(名)　［髮帶］　かづらまきノ條ヲ見ヨ。

かづら-かけ　(名)　［葛懸］　かづらゆひニ同ジ。

かづら・く・ク・ケ・カ・キ・ケ　(他動、四)　［鬘］「鬘ヲ活用ス、枕く、頭くナドノ例」鬘ニス。萬葉集、十八27長歌「菖蒲草、蓬可豆良枳」同、十九21梅柳、誰レト共ニカ、吾ガ鬘可ム」同、十九45新嘗祭宴「足引ノ、山下日蔭、可豆良家流、上ニヤ更ニ、梅ヲシヌバム」

かつら-し　(名)　［鬘師］　歌舞伎ニ用キル假髮ヲ造ルヲ業トスル者。かづら（鬘）ノ條ノ(三)ノ出典ヲ見ヨ。

かつら-した　(名)　［鬘下］　［かつら下地ノ略、えぼし下、同趣］　歌舞伎ノ女形ノ髮ニ、額ノ上ヨリ左右ニ分ケ、髻ヲ頂後ニ平タク輪ノ如ク結フモノ。其上ニ假髮ヲカブル。

かづら-づつみ　(名)　［桂包］　［髮巻ヨリ移レル語、其條ヲ見ヨ］　白布ノ手拭ヲ以テ、頭ヲ包ムコト。甲陽軍鑑、十、下、品三十二、永祿三年三月「景虎（上杉謙信）云云、甲ヲヌギ、白布ノ手巾ヲ以テ、桂包ト云フモノニ、頭ヲ包ミ」

かづら-はちまき　(名)　［髮鉢巻］　かづらまきノ條ヲ見ヨ。

かづら-ひげ　(名)　［髮髭］　頰髭ノ、髮ヲカケタル如ク、多ク生ヒタルモノ。多髯　源、四十五、椎本三十八「宿直人ゾ、かづらひげトカ云フ頰ツキ、心ヅキナクテアル」河海抄「かづらひげ、おもづらひげナリ、かづらヲカケタルヤウニ生ヒタルナリ」宇治拾遺、十一、第八條「年四十餘リバカリナル男ノ、かづらひげナルガ」

かづら-ひねり　(名)　［髮捻］　落髮ヲヒネリツナギテ、髮（そへがみ）ヲ作ルヲ業トスル者。（おちゃないノ條ヲ併セ見ヨ）　勸進聖判職人歌合（天文）五番、かづらひねり「花かづら、落髮ナラバ、拾ヒオキ、ひねりツギテモ、賣ラマシモノヲ」

かつら-ひめ　(名)　［桂姬］　桂女ノ(一)ニ同ジ。其條ヲ見ヨ。　一話一言、十二「桂姬一人、毎年始、八朔、所司代ヘ御禮トシテ來ル、云云」

かづら-ひも　(名)　［髮紐］　次條ヲ見ヨ。

かづら-まき　(名)　［髮卷］　［事ヲ執ル時、髮（そへがみ）ヲ頭ニ卷きオクヨリノ語ナリ、下髮ヲ、笄髻トスルガ如シ］　昔シ賤女ノ風ニ、事ヲ執ル時、白布ヲ鉢卷セシコト、兩端ヲ左右ニ垂ル。かづらひも、かづらおび、かづらはちまきトモ云フ、後ニハ、式正ノモノノ如クナリテ、主ノ婦人ノ乘輿ニ從フ下女ナド、此裝ナリ、貴婦人ノ婚姻ノ時ニ供スルかつらめト云フ者ノ裝モ、然リ、能狂言ノ女ヲ、かづらト云フ」　桶ノ箍ヲカクルヲ業トスル者。又、かづらかけ。タガヤ。

かつら-め　(名)　［桂女］　山城ノ桂ノ里ノ女ノ、京都市中ニ出デテ、鮎ヲ賣ルモノ。桂鮎ヲ併セ見ヨ。　類政集、上「かつらめヤ、新枕スル、夜ナ夜ナハ、トラレシ鮎ノ、今夜トラレヌ」建保職人歌合、十一番、桂女「戀ヒワビテ、瀨ニ臥ス鮎ノ、打チサビレ、骨ト皮トニ、瘦セナリニケリ」勸進聖判職人歌合、五番、桂の女「春風ニ、若鮎ノ桶ヲ、戴キテ、袂モ辻ガ、花ヲ折ルカナ」春湊浪話（安永）「桂ノ黑枝川ニテ取リタル鮎ヲ、都ヘ持チ出デ賣ル女ナルベシ」

かつら-め　(名)　［桂女］　(一)山城國、桂村、上村ノ名主、累世相續シテ、桂女ト稱スルモノ。每年、年始、又、八朔ニ、京都所司代ニ、御禮トシテ、三四人ヅツ參ル、年始ニ飴、八朔ニ果物ヲ上ル、着服ハ、途中ハ被衣ヲシ、例席ハ搔取ヲシテ、頭ニ髮卷ヲ頂クト云フ。桂姬トモ云ヒシトゾ。略シテ、かつら。此家ハ、代代、女子相續シテ、男ハ他家ヨリ迎フ、神功皇后、三韓退治ノ時ヨリ、故アル者ト云フ、江戶ヘモ召サルルコトアリテ、岩田帶ヲ仕ウマツリシ由ナリ。室町時代ニハ、諸家ノ祝事ナドアレバ、參リテ、祝言ヲ述べ、賜物受ケテ歸レリト云フ。（一話一言、十三、嬉遊笑覽、十一）　三議一統（應永）三、上、猿樂ヘ禮の事「白拍子、かつらナド、何レモ猿樂ト同前ナリ」三好義長亭御成記「桂兩人、御緣ニ祗候、拜種申事在レ之、千疋被レ遣レ之、庭上ニ祗候ノ田樂、猿樂ヘ、御能過テ、三百疋ヅツ被レ遣レ之」　(二)前前條ヲ見ヨ。

かづら-ゆひ　(名)　［葛結］　［京都ニテ、箍ヲ、かづらト云フ」　桶ノ箍ヲカクルヲ業トスル者。又、かづらかけ。タガヤ。　鷹筑波（寬永）「樽桶ノ、漏リヲトドムル、かづらゆひ」

かつら-を　(名)　［桂男］　つきのかつらノ條ヲ見ヨ。

かづら-をけ　(名)　［鬘桶］　［箍ヲカケタル桶ノ義カ］　能舞臺ニテ、演者ノ用キル腰掛。圓筒形ニテ、黑漆塗ナドニス。一名、腰桶。

かつら-をとこ　(名)　［桂男］　つきのかつらノ條ヲ見ヨ。

カツレツ　(名)　［英語、Cutlet.］　西洋料理ノ名。牛肉ニ鷄卵、ぱんこ、鹽、胡椒ノ粉ナド塗シテ、牛ノ脂ニテ揚ゲタルモノ。豚肉ナルヲ、とんかつト云フ。

⁂**かつ・れる**　(動)　［餓］　かつえるノ訛、かつれこにナドモ云フ。

かつ-を　(名)　［鰹松魚］　［頑魚ノ略轉、高橋氏文「以二角弭之弓一、當二遊魚之中一、卽着レ弭而出、忽獲二數隻一、仍名曰二頑魚一、此今諺曰二堅魚一」今モ、牛角ノ鉤ニテ釣ルナリ、鰹ハ、借字ノ堅魚ノ合字ナリ、鰹節ニ因リテ、堅キ魚ノ義トスル說アレド、海中ニ腊ナルハナシ」　(一)魚ノ名。東南海ニ多シ、夏ノ初、鎌倉ノ海上ヨリ、始メテ漁シタルヲ、初鰹ト稱シテ、東京ニテ最モ賞味ス、形、鯖ニ似テ大キク、大ナルハ數尺ニ至ル、體圓ク肥エテ、頭、稍尖リ、鱗無ク、靑黑クシテ、腹ハ白ク光ル、肉、深紅ナリ。　鯝鱸魚　萬葉集、九、十六長歌「堅魚釣リ、鯛釣リホコリ」倭名抄、十九、龍魚類「鰹、堅魚、加豆乎」　(二)（此魚ヲ腊ト

シタルモノ、カツヲブシ。[illegible]〔二〕かつを木ノ略。其條ヲ見ヨ。

かつをいろり (名) 【鰹煎汁】 いろりノ條ヲ見ヨ。

かつをぎ (名) 【堅魚木・鰹木】 神社、又ハ、宮殿ノ棟ノ上ニ、間ヲ隔テテ、横ニナラベテアル、圓ク長クシテ、鰹節ノ如キ形シタルモノ。略シテ、かつを。[illegible]

かつをくぢら (名) 【鰹鯨】 〔海中、鰹ヲ逐ヒテ食フ意カ〕 いわしくぢらノ一名。

かつをぶし (名) 【鰹節】 〔四ツニ割キタル一ツヲ、節ト云フ、或ハ、燻乾ノ轉カ、(鳥、つぶれ、倒る、たほめかす)ほしがつをトモ云フナリ〕 鰹ノ肉ヲ製シテ、四條ニ割ク、コレヲ生節ト云フ、コレヲ湯ニテ煮テ、火ニ炙リテ、水氣ヲ去リタルヲ、なまり節ト云フ、更ニ、燻シ、炙リ乾シ、枯ラシテ黴ブルヲ、鰹節トス、削リテ煮物ニ加ヘテ、味ヲ添フルモノノ第一トス、土佐、薩摩、伊豆ノ産、最モ名アリ。略シテ、かつをし。又、かつを。又、ふし。婦人語ニ、おかか。コレヲ削ルヲ、かくト云フ。木魚 [illegible]

かつをむし (名) [illegible] 〔[illegible]集ルナドノ義ナルベキカ〕 又、まくなぎ。其條ヲ併セ見ヨ。糠蚊ノ古名。土佐ニテハ今モ、かつをむしト云フトゾ。[illegible]

かつをむし (名) みづすまし(水黽)ニ同ジ。

かて (名) 【糧】 〔糧ノ略、ぬりで、ぬで。(白膠木)つくりだ、つくだ(佃)ー行クニ糧ス乾飯〕 糧。貯ヘテ置ク米。[illegible]

かて (名) 【糅】 糅ツル物。足前ニ加フル食物。[illegible] 「麥ヲ米ノかてトス」

かて (助) [illegible] 〔此語、多行下一段活用ノ動詞ナリ、サルニ、未然形ニ、かてぬ、(不)かてむ、かてまし、(將)連用形ニ、かてぬ「寐ねかてにケム」(完了ノ了)名詞形ニ「別れかてニト引キ止メ」トノミ現レ、又、他ノ動詞ノ連用形ニ附着シテノミ見ユ、語原ハ行きかねて、行きかぬると同意ノ語ナレバ、てト、ねト通ズルカ、(眞實、まさで。脊直、直打。泥、涅)難しノかたト通ズト云フハ、動詞トシテハ、落チツカズ、又、崇神紀、萬葉集ノ出典ニ據レバ、かハ、清音ナリ、又、勝、又ハ、不勝ノ字ヲ記スハ、不レ勝、將レ勝(不レ堪、將レ堪)ノ意ニ云フ場合多キニ因ルナルベシ〕 然アランコトノ、勝得ズシテ、[illegible]

がて (副) [illegible] (難)ノ條ヲ見ヨ。

かてい (名) 【家庭】 家族ノ居ル處。一家ノ内。[illegible]

かてい (名) 【家弟】 己レノ弟ヲ、他ニ對シテ云フ語。(家父、家兄、同意)舍弟 唐書、隠大瀧傳「若家弟永康、我當ニ合レ笑入ロ地」

かてい (名) 【假定】 假リニ定ムルコト。「假定ノ説」

かでう (名) 【箇條】 〔若干箇條ト云フベキノ略〕 事ノ、擧ゲテ述ブベキ廉廉。條目。條項。條款。

がてう (名) 【鵞鳥】 古名、オホカリ。オホトリ。外來ノ家禽、今ハ人家ニ多ク畜フ。形、鴈ニ似テ大キク、全身白ク、尾、脚、共ニ短ク、頸、長シ、歩ム状、あひるニ同ジ、觜、大キク黄ニシテ、上ニ瘤アリ、頭ハ、深黑ナリ、又、色ノ蒼キモアリ。一名、唐雁。後紀、二十八、弘仁十一年五月「新羅人李長行等、進[illegible]」

カテエテル (名) 〔蘭語、Katheter. 英語、Catheter.〕 醫療ノ器械、尿ノ滯リタルヲ、排泄セシムルモノ。極メテ細ソク曲レル管ヲ、尿道ニ刺シ込ミテ用キル。

かてくさ (名) 【糧草】 〔漢名ニ、奇糧ノ稱アリ〕 山歸來ノ異名。其條ヲ見ヨ。[illegible]

がてゐ 〔接尾〕 〔かてハ、接つる意〕 [illegible]

ニ。後撰集、八、冬「神無月、時雨バカリハ、降ラズ[illegible]」 初春「雪がてに[illegible]、吹ク春風ハ、早ケレド、高山ナレバ、雪カラナクニ」

かてん (名) 【加點】 問ヒノ文ニ、可シト答ヘ、又ハ、[illegible]時ニ、其上ニ、[illegible] かくト云フ。

かてん (名) 【嘉點】 〔山崎嘉右衛門ノ、嘉ノ字ヲ取ル〕 [illegible]山崎嘉右衛門)ノ訓點シタルモノ。くんてんノ條ヲ見ヨ。[illegible]ナリトテ、世ニ、嘉點ト稱スル本アリ」

かでん (名) 【家傳】 其家ニ、代代傳ヘ來レルコト。家ニ傳來スルコト。傳家。[illegible]

がてん (名) 【合點】 がてんノ(二)ヲ見ヨ。

がでんいんすゐ (名) 【我田引水】 〔我田ニ引ク水〕ヲ[illegible]ノ語〕 己ガ利益トナルヤウニスルコト。

がてんくび (名) 【合點首】 〔何レノ胴ニ取リツケテモ、合點スル(合フ)意ト云フ〕 一名、首雛。雛人形ノ、首ノミ作レルモノ。首ヲ損ジタル人形ニ、着ケ換フルナリ。[illegible] 「[illegible]ミナ、がてんくび」(コレハ、五月人形ナリ)

かてめし (名) [illegible] 古言、[illegible] 米ニ、麥又ハ大根、蕪、[illegible] [illegible]上ニ居テ、かて飯ヲ食ッテ、冷エ[illegible]テ居ルダラウガ」

〔がてら (接尾) 【旁】 〔又、がてりトモ云フ、かてハ、かつ、かてて(加、糅)ノかてト云フ、或ハ、且ノ轉トモ云フ、(其條ヲ見ヨ)事ノ相雜ハル意ナリ、ら、りハ、らノ條ヲ見ヨ〕又、がてり。動詞ニ添ヒテ、副詞句トスル語。事ノ相兼ヌル、一事ニ一事ノ添ハル意ヲ云フ。ナガラ。カタガタ。萬葉集、十八、七「梅ノ花、咲キタル園ニ、我レ行カム、君ガ使ヲ、偏待チ我底良」古今集、十九、諧「厭ハルル、我ガ身ハ春ノ、駒ナレヤ、野飼ヒがてら、放チ捨テツル」源、十、榊廿九「秋ノ野モ見タマヒがてら、雲林院ニ詣デタマヘリ」蜻蛉日記、中、上「イカデ涼シキ方モヤアルト、心モ延べがてら、濱面ノ方ヘ、詣ヘセムト思ヒテ」左傳「寡人學斷ニ」武藏ニ 萬葉集、一、三「山ノ邊ノ、御井ヲ見我氐利、神風ノ、伊勢處女ドモ、相見ツルカモ」同、十二、三十六「能登ノ海ノ、釣スル海人ノ、漁火ノ、光ニイマセ、月待チ香光」名詞ニ添ヒテ、一事兩用ノ意ヲナス。萬葉集、十九、二十二長歌「吾妹子ガ、形見我底良ト、紅ノ、八入ニ染メテ、オコセタル、衣ノ裾モ、トホリテ濡レヌ」宇津保物語、藏開、下、二十三「御子日がてら、參リタマヘカシ」

〔がてり (接尾) 前條ヲ見ヨ。

✤✤か・てる (動) 糅つノ口語。

〔かど (名) 【門】 〔かハ、構きノ語根カ、どハ、門ナルベシ〕 (一)門。家屋敷ナドノ外構ニ、柱、扉アリテ、出入スベク設ケタルモノ。門。古事記、下(雄略)三十七長歌「檜ノ御加度」倭名抄、十六「門、所以通出入也、加度」(二)門ノ外。門ノ前。門前 門邊 萬葉集、二十、四十九「ホトトギス、マヅ鳴ク朝ケ、イカニセバ、我ガ加度過ギジ、語リツグマデ」(三)家。古事記、下(淸寧)「朝廷人等、云云、書集於志毘門、亦、今者、志毘亦寢、亦、其門無人」(平群志毘、人名ナリ) (四)家系。門族 續紀、二十、天平寶字元年七月、詔「國ノ法、已ムコト得ズナリナム、己ガ家家、己ガ門門、祖ノ名失ハズ、勤シク仕ヘ奉レ」同、三十、神護景雲三年十月、詔「永キ世ニ、門絶エズ仕ヘ奉リ」竹取物語「此世ノ人ハ、男ハ女ニ逢フ事ヲス、女ハ男ニ逢フ事ヲス、其後ナム、かど廣クモナリハベル」紫式部日記「藤原ナガラ、かど別レタルハ、列ニモ立チタマハザリケリ」

かど (名) 【角】 「かハ、交ノ語根カ、どハ、處ナリ、二面行キ交フトコロ」 (一)〔物ノ體、又、形ノ、尖リテ、差出デタル、外ノ部。稜 (内ノ隅ニ對ス) 名義抄「稜、カド」宇津保物語、祭使「ナダラカナル石、かどアル岩」(二)誤リテ、隅。狂言記、宗論「アソコノ隅ヘイテハ、クドクド、ココノ角ヘ行テハ、クドクド」(三)〔意思ニ、角立ツコト。心ニ一癖アルコト。圭角 枕草子、十、百三十二段「大カタ心ヨキ人ノ、マコトニかどナカラヌハ、男モ女モ、アリガタキコトナメリ」

〔かど (名) 【才】 〔角ノ義カ〕 (一)才氣。才能。學藝。仁德即位前紀「豈有能才乎」天武紀、下、二年四月「欲諳才藝者」持統即位前紀「才學」(二)心利キタルコト。ハタラキ。才覺。仁賢即位前紀「才敏而多識」宇津保物語、祭使「アルガ中ニ、かどアル童シテ、カク聞エ奉ル」源、三十五、柏木三十九「今メカシウ、かどアリトハ言ハレタマヒシ、更衣ナリケリ」

〔かど (名) 【廉】 〔角ノ義、玉篇「廉、稜也」〕 事ノ、數ヘタツベキ理。フシ。箇條。條理 名義抄「廉、カド」「廉ヲ立ツ」「述ブベキ廉廉」

カド (名) 【鰊】 〔蝦夷語ナラムカ、鰊ハ、東海魚ノ合字ナルベシ〕 魚ノ名。東北ノ海ニ多シ、秋ヨリ春ニ亙リテ漁ス、大イナルハ一二尺、形、ぼらニ似テ、平タク、又、さばニ似テ、眼、大キク赤ク、夜、光ル、色、蒼碧ニシテ、鱗、落チ易ク、肉、脆ク、赤ク、細刺多キコト、鰯ニ似テ、味、更ニ美ナリ。青魚 四季物語、十二月「かどノ魚」撮壤集、中、魚「鯡」割キテ乾シタルヲ鯡ト云ヒ、其鯑ヲ、かずのこトス。

かど (名) 【下土】 天上ニ對シテ、此國土。詩經、國風、日月篇「日居月諸、照臨下土」

か-とう (名) 【下等】 〔上等、中等ニ對ス〕 等級ノ、下レルコト。最モ劣レルコト。下等。周禮、秋官、司儀「及其擯之、各以其禮、公於上等、侯伯於中等、子男於下等」

〔か-とう (名) 【歌頭】 踏歌ノ音頭。源、四十三、竹川三十一「男踏歌セラレケリ、云云、此四位ノ侍從、右ノ歌頭ナリ」

かとう-ぶし (名) 【河東節】 江戸淨瑠璃ノ一派、半太夫節(又、江戸節)ヨリ分レタルモノ、江戸半太夫弟子、十寸見河東ト云フ者ヲ祖トス。(河部藤十郎、享保十年、歿)享保ヨリ、安永、天明年間、盛ンニ行ハレ、高尚ナリトテ、通人ニ喜バル。寛政ノ川柳「河東ぶし、内デハ、後生願ヒナリ」

かど-おくり (名) 【門送】 人ノ門出ヲ見送ルコト。出立ノ見オクリ。曾我物語、十二、母二宮行別事「虎、少將ハ門送リシテ、後ノ隱ルルホド見送リ」

かど-かど (名) 【廉廉】 廉ノ條ヲ見ヨ。フシブシ。箇條箇條。

かど-かど・し・シキ・シケレ・シク・シク (形、二) 【角角】 (一)角多ク立チテアリ。尖リタリ。稜稜 稜起 行宗集「山椒ノ、メニモツキタル、心カナ、かどかどしくテ、コレヲオコスナ」夫木抄、廿二、巖「岩ノ上ノ、かどかどしきモ、アルモノヲ」(二)〔心、カドダチタリ。心、カドバリタリ。有圭角 源、一、桐壺十八「イト押シタチ、かどかどしき所、物シタマフ御方ニテ」

〔かど-かど・し・シキ・シケレ・シク・シク (形、二) 【才才】 〔才ノ條ヲ見ヨ〕 賢シ。カシコシ。心、利キタリ。源、十、榊二「心バヘモかどかどしう、容モヲカシケテ」同、三十四、下、若菜、下「手ノ限リヲ盡シテキコエケレニ、深キかどかどしサヲ加ヘテ、メヅラカニ彈キタマフ」

かど-がまへ (名) 【門構】 (一)門ノツクリカタ。門ヲ設ケタル狀。(二)漢字ノ上ニアル門ノ字。間、閑、閒、閣ナドノ如シ。モンガマヘ。

か-とく (名) 【家督】 〔督ハ、取締ル意〕 (一)一家ノ長子。史記、越世家「家有長子、曰家督」下學集、下、態藝門「家督、一家之總領也」吾妻鏡、十三、建久四年五月十六日「將軍家督若君」(二)轉ジテ、父ノ跡目ヲ相續シテアルコト。戸主。吾妻鏡、一、治承四年八月廿六日「於義父雖爲次男相繼家督」(次條ヲ見ヨ)

かとく-さうぞく (名) 【家督相續】 鎌倉幕府以後ノ相續法モ、家名ヲ相續スルノ謂ニシテ、財產、之ニ隨フモノナリ、通常、之レヲ家督相續ト稱ス、然レドモ其間ニハ、單ニ家名ノミヲ相續シテ、財產ノ、之レニ隨ハザルモノアリ、或ハ、財產ノミヲ相續シテ、家名ヲ相續セザルモノアリ、而シテ當時、相續ハ親生ノ男子ヲ以テシ、男子ノ中ニ於テ、嫡子ヲ以テスルヲ法トセシナリ、又、若シ子ナキカ、又ハ、嫡子ニ異常アル時ハ、種種ノ相續法ヲ行フモノトス。德川幕府時代ニ至リテハ、士人以上ノ家督相續ハ、一定ノ成規アリテ、之レニ相當スル資格ノ者ニシテ、尙、相續者ヲ指示セル願書ヲ上ルニアラザレバ、相續スルコトヲ聽サズト。(古事類苑、相續篇、序)現行法(民法)ニヨレバ、前戸主ノ身分ニ伴フ、總ベテノ權利、義務ヲ繼承スルモノ、卽

チ、戸主ノ身分ノ[illegible]

かど-ぐち (名) [門口] 門ノ出入口。假名手本忠臣藏(寛延、竹田出雲等)十一「扇先鋼ンデ、門口ヨリ外へ踊出シテ」

かど-すずみ (名) [門涼] 門前ニ出デテ、納涼スルコト。夫木抄、九、[illegible]涼ケユク闇ノ、門涼ミ」

かど-せっきゃう (名) [門說經] 人家ノ門ニ立チ、說經節ヲ語リ、物乞ヒスルモノ。三味線、胡弓ニ合セ、ささらヲスリツツ語ル。[illegible]、ささらハ何ト、摺リスラム」門說經ニ、賢ゾ頭レタル」

かど-た (名) [門田] 門ノ外ニアル田。カナトダ。萬葉集、八[illegible]門田ノ[illegible]「門田ノ早苗」「門田ノ稻葉」

かど-たがへ (名) [門違] 人家ヲタヅネテ、マチガヘタルコト。平家物語、六、小督[illegible]小督ノ住家ニテモナシ、門たがへニテゾ候フラム」

かど-だ-つ ツ・テ・タ・チ・テ (自動、四) [角立] (一)角、起ル。カドバル。稜起。(二)逆フ氣、起ル。生圭角。「話ガかどだつ」「議論カかどだつ」

かど-だ-つ ツレ・ツレ・テ・テ・テヨ (自動、下二) [角立] (一)角ヲ起ス。稜起「眼ニ角立つ」(二)逆フ氣ヲ起ス。抗氣「言葉ニかどだつ」

✣✣**かど-だ-てる** (動) 前條ノ語ノ口語。

かど-ちがひ (名) [門違] 訪フベキ家ノ、違ヒタルコト。カドタガヘ。[illegible]「妾ガ方デハゴザルマイ、門違ひデゴザラウ」

かど-づけ (名) [門附] 人家ノ門ニ立チ、音曲ヲ奏シナドシテ、錢ヲ乞ヒアルクコト。[illegible] 文化ノ川柳「門附ヘ、出ル萬歲ハ、スガレ[illegible]」

かど-で (名) [門出] 門ヲ出ヅルコト。[illegible]出立[illegible] 字類抄「道途、カドデ」

かど-なみ (名) [門並] 軒ビタル家家。イヘナミ。軒行。[illegible] 上[illegible]門なみ、百瀬ハ[illegible]ニセフリ[illegible]」

かど-の-わらは (名) [葛野童] 山城國、葛野郡、秦氏ノ女子ノ、禁裏ノ掃部、主殿ニ仕ヘテ、點燈ノ事ヲ掌リシモノ。侍中[illegible]

かど-の-をさ (名) [看督長] 〔本職ハ、獄ノ監守ナリシカバ、看督ト云フ〕 檢非違使ノ下官、追捕ノ事ヲ掌ル。續後紀、七、承和五年二月「分遣左右衞門府生看督等、於畿內諸國[illegible]」[illegible]かどのをさナド率テ來テ、コノ門アケサセム」

かど-はかし (名) [勾引] カドハカスコト。人ヲ掠メ盜ムコト。又、コレヲ賣ル者。ヒトアキビト。字類抄「勾引、カドハカシ」

かど-はか-す ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) [勾引] 〔次條ノかどはすノ轉、あらはす、あらはかす(現)あそばす、あそばかす(遊)ノ類〕 小兒、女子ナドヲ欺キ誘ヒテ、盜ミ行ク。カドフ。カダフ。カドハス。誘拐ス。四季物語、二月「人ノ子ヲ盜ヒ、或ハ、人ノ妻ヲかどはかしテ[illegible]」[illegible]かどはかしマヰラセ、御供シテ、秀衡ノ見參ニ入レ」

かど-は-す ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) [勾引] 〔かどふノ活用。かどはヲ、再ビ活用セシム、てらふ、てらはす[illegible]〕

かど-ば-る ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) [角張] カドダツ。カクバル。四角バル。

かど-び (名) [門火] 門前ニテ、焚火ヲ焚クコト。門燎。葬送ノ時ニスルコトアリ。又、婚禮ニ、輿ノ出デタル時、スルコトアリ。(室町時代)「門火焚クコト、御輿ヲ昇出ダシ立テテ、門ノ右ノ方ニ焚ク」 聖靈祭ノ迎火、送火モ、[illegible]ノ門火ナリ。

かど-びらき (名) [門開] 始メテ、女子ノ生ルルコト(俗耳鼓吹)

かど-ふ フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (他動、四) [誘] 〔姦むト通ズルカ〕 (一)誘ヒ取ル。誘ヒ俘フ。名義抄「[illegible]、カドフ、サソフ、アザムク」[illegible]作、中「山風ノ、花ノ香かどふ、麓ニハ、春ノ霞ゾ、ホダシナリケル」(古今集、二、春、下「花ノ色ハ、霞ニコメテ、見エズトモ、香ヲダニぬすめ、春ノ山風」) (二)人ヲ誘ヒ盜ム。カダフ。カドハス。勾引。天治字鏡、十二「勾引、加度不」[illegible]

かど-ぶし (名) [門臥] 〔山伏、野伏、同趣〕 乞食ノ異名。古事談、三「僧行[illegible]門臥ト申ス乞食也、不定住所、只行至之所ノ人ノ屋門ノ前ニノミ臥シテ」

かど-ふだ (名) [門札] 札ニ、主人其他ノ姓名ナド記シテ、其家ノ門ニ打チツケ、目標トスルモノ。門札。標札。門牌

かど-べ (名) [門邊] 門ノアタリ。門ノホトリ。

かど-べ (名) [門部] トモノミヤツコ。衞士ヲ率キテ、禁裏ノ諸門ヲ守ル職。衞門府ノ屬ナリ。職員令、衞門府「門部二百人」

かど-まつ (名) [門松] [illegible]、家家ノ門前ニ立ツル松。[illegible]竹ヲ添ヘテ立ツ。[illegible] 本朝無題詩集、惟宗孝言(後三條天皇ノ頃)[illegible]門松[illegible]テ並ベテ、祝フコトグサ、イヤメヅラナル」

か-とん (名) [河豚] フグ。(其條ヲ見ヨ)

か-とんぼ (名) [蚊蜻蜓] (一)蚊ニ似テ、大キクシテ、脚、殊ニ細ク長キモノ、[illegible]常ニ[illegible] (二)丈高ク、瘦セタル人ノ渾名。

かど-め-く ク・ケ・カ・キ・ケ (自動、四) 〔稜めくノ意〕 カドカドシクアリ。源、三十四、上、若菜、上「物ノミヤビ深ク、かどめきタマヘル人ニテ」

かど-や (名) [角屋] 辻ナドノ角ニアル家。

かど-や (名) [門屋] 門ノ傍ニ建テ添ヘタル家。倭名抄、十[illegible]」

かど-やなぎ (名) [門柳] [illegible]「別ケ入ル人ノ、跡シナク、露打拂フ、かど柳カナ」

か-と-らく-しょ (名) [河圖洛書] 〔易經、繫辭、上傳「河出圖、洛出書、聖人則之」〕 [illegible]ト、洪範九疇トノ、根元トナリ圖書ニテ、數理ノ基トナルモノ。(九星術ノ條ヲ見ヨ) [illegible]

文ヲ以畫八卦、洛書者、禹治水時、神龜負文而列於背、有數至九、禹遂因而第之、以成九類」劉歆云、河圖洛書、相爲經緯、八卦九章、相爲表裏」(九類、九章ト云フハ、共ニ洪範九疇ヲ指シタルナリ) 萬葉集、一ノ廿長歌「巨勢道ヨリ、我ガ國ハ、常世ニ成ラム、圖負ヘる、神ジキ龜モ、新代ト、泉ノ河ニ、持チ越セル、眞木ノツマデヲ、モモタラズ、桴筏ニ作リ、泝スラム」(古義、一、下ニ、常世に成らむ、ココノ常世ハ、字ノ如ク、常シヘニシテ、不變コトヲ云ヘリ、圖負へる神龜ハ、イミジキ瑞祥ニシテ、異國ノ禹王ト云ヒシガ時ニ、龜負圖出於洛水トイフ事有ナドヲ、思ヒヨセタルナルベシ、云云、今ヨリハ、我御國ハ常トハニシテ、不變メデタキ常世國ト成ナム、ソノ瑞祥ニ、負圖神龜モ、新代トテ出ヅトイフ意ニイヒカケタリ)

かとり (名) 〔縑〕 〔固織ノ約ト云フ、絲細ケレバ、其數多ク、織レバ固クナル〕 緻密ニ織レル絹布ノ名。今ノ二子絹ノ類ナルベシト云フ。 倭名抄、十二ノ六「縑、緻也、其絲細緻、數兼於絹也、加止利」 神功攝政前紀「縑」

か-とり (名) 〔檝取〕 〔かぢとりノ略、檝子ヲ、かこトモ云フ〕 檝取ニ同ジ。 神代紀、下廿「檝取」

か-とり (名) 〔蚊取〕 かうもりノ(一)ノ一名。

カトリック-けう (名) 〔加特力教〕 〔英語、Catholicism.〕 天主教ニ同ジ。

カトリング-はう (名) 〔米人、Gatling.ノ創作〕 砲ノ、回轉シツツ、塡裝シ、發射シ得ベク造レルモノ。一分時間ニ數百彈ヲ發ス。

かと・る・ル・レ・ラ・リ・レ (他動、四) 〔專制〕 〔かどふ(誘、勾引)ニ通ズル語ナラム〕 我ガ物トシテアツカフ。專斷シテ行フ。 履中紀、五年十月「車持君行於筑紫國、而悉校車持部、兼取充神者」(神部等ノ民)爾遣車持君、縱掠天子之百姓、罪一也」 雄略紀、廿一年八月「天皇親操斧鉞、授大連曰、長門以東、朕制之、筑紫以西、汝制之、專行賞罰、勿煩頻奏」(物部大連麁鹿火ガ、筑紫國造磐井ヲ征討スル時ナリ)

かど-れい (名) 〔門禮〕 (一)新年ニ、人ノ家ニ來リ、門口ニテ祝詞ヲ述ベテ去ルコト。 明和ノ川柳「門禮ニ、シタノガ伯父ノ、不足ナリ」 (二)次條ノ語ノ略。 安永ノ川柳「門禮ニ、追手ノカカル、仲ノヨサ」 同「門禮ヲ、トラマヘ暮ノ、ツラヲムキ」

かどれい-しゃ (名) 〔門禮者〕 かどれいヲスル人。略シテ、かどれい。(前條ヲ見ヨ)

かな (名) 〔金〕 〔船、ふなばた。棟、むな木ナド、同趣ナリ〕 金ノ轉。熟語ニノミ云フ。 字鏡四十「鋺、加奈萬利」「金鎚」「金山」「金壺」

か-な (名) 〔鐽鏩〕 〔搔く、薙ぐノ語根、弓削、ゆげト同趣〕 (一)〔工匠ノ、材ヲ削リテ、平カニスル具。音便ニ、かんなト云フ。古ヘノかなハ、今ノやりがんなナリ。 萬葉集、七 三十八「眞鉋持チ、(枕詞)弓削ノ河原ノ、埋木ノ」 天治字鏡、六 廿六「鐽、平木器也、加奈」 倭名抄、十五 六「鐽、平木器也、賀奈」 (二)今、專ラかんなト云フハ、だいがんなナリ。鉋

かな (名) 〔絲〕 (一)イト。イトスヂ。 七十一番職人盡歌合(文安)五十九番、苧賣「機庸ノ、思ヒ思ハズ、イカニシテ、人ノ心ヲ、かなヒキテ見ム」 東雅、七、器用、絲ノ條「かなハ獨繭絲ナリ、片絲ノ意、かたヲかなト云フハ、轉語ナリ」トアリ。(へだたり、へなたり。かきつばた、かきつばな) (二)機織ノ語。經絲ノ、四筋、一ツナルモノ。

か-な (名) 〔假名假字〕 かんな(假名)ノ條ヲ見ヨ。

か-な (感) 〔哉〕 感動詞ノかト、なトヲ連ネテ云フ語。カ。カモ。カヤ。 竹取物語「ウレシクモ宣フモノかな」 古今集、十二、戀、二「秋ノ野ニ、亂レテ咲ケル、花ノ色ノ、チグサニ物ヲ、思フ頃かな」

が-な (辭) (一)だにノ意ニ似タル辭。ソレナリトモ。 宇治拾遺、九、第三條「何がな取ラセムト思ヘドモ、取ラスベキ物ナシ」 孟子抄(文明)一「何トシテがな、百姓ヲ助ケウト思フ心ガ、アッタゾ」 (二)オホカタ。デモ。 狂言記、文相撲「相撲ノ書ノ事デがなゴザラウ」

が-な (感) 〔欲得〕 〔希フ意ノがニ、更ニ、感動詞ノなヲ添ヘタルナリ〕 希フ意ノ感動詞。常ニ、言語ノ下ニツク。が。 「見ル由モがな」無クモがな」人モがな」得テシがな」

かな-あみ (名) 〔金網〕 (一)銅、鐵、等ノはりがねニテ、編ミ作レル網。(二)アブリコ。モチアミ。

か-ない (名) 〔家内〕 (一)家ノ內。家中。 宋書、殷琰傳「休祐歩入朝、家內循分停壽陽」「家內安全」 (二)妻。ツマ。家妻

かない-ど (名) かなへどノ條ヲ見ヨ。

かない-どの (名) かなへどのノ條ヲ見ヨ。

かな-がき (名) 〔鉏〕 〔鐵搔ノ義、鉏ハ、鐵爪ノ合字〕 農具、頭、鐵製ニテ、柄アリ、草ヲ搔キ取ルニ用ヰル。熊手ノ類。鐵搭 倭名抄、十五 五 農耕具「鉏、加奈加岐」

かな-がき (名) 〔假名書〕 文ヲ、假名ニテ記スコト。(漢文ニ對ス) 南山巡狩錄、追加、五、通法穀寺古文書「右大將家(賴朝)假名書御敎書」

かな-がしら (名) 〔金頭方頭魚〕 〔頭骨ノ、かねノ如ク堅キ義〕 魚ノ名。頭骨、方ニ扁平ク、甚ダ堅クシテ、銅色ナリ、身圓ク、鱗、細カニシテ、見エ難シ、鰭長ク、尾ニ岐アリテ堅ク、脊鰭、尾ニ至リテ、刺ノ如クニシテ赤ク、全身、淡黑青色ニ黑斑文アリ、腹、白クシテ、黃ヲ帶ブ、瞼、淺黃ナリ、冬、春ヲ時トス、大ナルハ六七寸ニ至ル。火魚 運歩色葉集「金首」

かな-がしら (名) 〔假名頭〕 以呂波歌ノいノ字ノ稱。苗氏ニ、京ノ字ヲ書キテ、かなぢり(假名尻)ト讀ムアリ。(かなでほんノ條ヲ見ヨ)

かな-がな (副) 〔からがらノ轉、あな、あら。つらぬく、つなぬく〕 辛ウジテ。からがら。「命かながな逃グル」かながなアル」

かな-かな-ぜみ (名) 〔茅蜩〕 〔鳴ク聲ヲ名トス、蟋蟀ヲ、がちゃがちゃト云フ類〕 ひぐらしノ異名。

かな-がひ (名) 〔金貝〕 〔金ニテ作レル螺鈿ノ意カ〕 蒔繪ニ、金銀ノ薄片ヲ嵌メコミ、膠ニテ貼リツケタルモノ。金かながひ、銀かながひト云フ。 太平記、六、關東大勢上洛事「長崎惡四郎左衞門尉、云云、鹽干潟ノ捨小舟ヲ、金貝ニテ摺タル鞍」

かな-がへし (名) 〔假名返〕 〔字音ノ反切ナラデ、假名ノ反切ノ義〕 二音ノ首ノ發聲ト、尾ノ母韻トヲ接合セシムルコト。つ、し、ガちトナリ(移橋、うちはし)、き、す、ガくトナリ(坏居、つくゑ)、か、り、ガきトナル(逆虎落、さかもぎ)類ニテ、語學ニ云フ、約言ノコトナリ。

かな-ぎ (名) 〔梏〕 〔肱木ノ略、(肱出づ、舞づ)手ニテ振リ得ル木ノ意、つかなぎト云フモ、握梏ノ約ナリ、(あかかがり、あかがり。わたかがまる、わたかまる)〕 類篇「棒同梏、亦作梏」 細ツキ木ノ枝ノ、棒ノ如キモノ。又、つかなぎ。 孝德

紀、白雉四年七月「[illegible]紀ガ飼フ駒ハ、引出セズ」(馬ノ鋼ノ許トシタルナリ) 大殿祭「天津金木[illegible]」[illegible]

〔かなぎ (名) [illegible] 曹達ノ槍ヲ[illegible]トシタル名ノ違レナリ) 刑具、鐵製ノ頸枷。[illegible] 倭名抄、十三[illegible]「[illegible]」[illegible]名義抄「[illegible]、カナギ」

カナキン (名) 〔金巾〕 葡語、(Canequim.) ナリト云フ) 綿布ノ名、舶來品ナリキ。地ヲ薄ク織成サレタリ、今ハ、本邦ニテ製ス。かねきん。西洋布 [illegible]字[illegible]用集、六、服食「西洋布」

かなきりごゑ (名) 〔金切聲〕 〔金類ヲ切ル聲ノ如キ意カ〕 細ソク高ク、鋭キ音聲。 [illegible]花名六百句[illegible]、下川[illegible]、[illegible](六八)

かなぐ (名) 〔金具〕 種種ノ器ニ打付クル金類ノ環、引手、錠ナドノ總名。カナモノ。

かなくぎ (名) 〔鐵釘〕 (一)鐵ニテ造レル釘(木釘、竹釘ニ對ス) 心中重井筒(元禄、近松作)中「足モ冷エテ、鐵釘ヲ胸ニ打ルル幾瀬ノ思ヒニ」(二)悟書ノ、痩セテ、曲折シタルヲ、鐵釘ヲ並ベタルガ如シト、嘲リ云フ語。

かなぐし (名) 〔鐵串〕 鐵製ノ串、專ラ、魚肉ナドニ刺シテ燒クニ用ヰル。

〔かなくそ (名) 〔鐵屎〕 (一)クロガネノハダ。鐵ヲ燒キテ、鐵床ノ上ニテ打鍛フル時、鐵ヨリ飛落ツル屑。[illegible] 天治字鏡、六「[illegible]」本草和名、上「[illegible]、一名、鐵液、久呂[illegible]乃[illegible]太」倭名抄、十一「[illegible]、[illegible]乃[illegible]末、一云、加奈久曾、[illegible]」

〔[illegible]〕二[illegible]、[illegible]者[illegible]

かなくづ (名) 〔金屑〕 金屬ノ細工スルニ、削リ出シタル屑。

かなくづ (名) 〔鉋屑〕 鉋ニテ削リ出デタル、木、竹等ノ屑、今、音便ニ、かんなくづト云フ。 [illegible]のつと(寶暦二[illegible])[illegible]「[illegible]長柄ノ橋ノかなくづ、井手ノかはづノ乾干ヲダニコソ、持チハベレ」

かなぐつ (名) 〔鐵沓〕 馬ノ蹄ノ裏ニ打付クル、鐵ノ、半輪ノ形シタルモノ、沓ノ用トス。 蹄鐵

〔かなぐ・る・ル・レ・ラ・リ・レ (他動、四) 〔拋棄〕 〔掻き殴るノ略、(引きさぐ、提ぐ)字鏡集「殴、カナグル」〕 荒カニ引キ除ケ棄ツ。 竹取物語「サガ[illegible]ヲ取リテ、かなぐり[illegible]サム」落窪物語、一「腹ダチかなぐりテ起クレバ、帯刀笑フ」四季物語、四月「[illegible]ノ、御[illegible]ニアリシヲ取出テ、かなぐり棄テタリシ」 徒然草、六十六段「雨オホヒノ毛ヲ、スコシかなぐり散ラシ」

かなけ (名) 〔鐵氣〕 新鑄ノ鐵瓶、鐵釜ナドニテ水ヲ煮レバ、鐵ノ臭氣アリテ、褐色ニ浮ビ出ヅルモノ。

かなさき (名) 〔鐵扱〕 いなさきニ同ジ。

かなごよみ (名) 〔假名暦〕 暦ノ、假名ニテ書キタルモノ。 宇治拾遺、五、第七條「若キ僧ニ、かなごよみ書キテタベト云ヒケレバ、僧、ヤスキ事ト云ヒテ、書キタリケリ」

かなさいぼう (名) 〔鐵尖棒〕 〔さいぼうノ條ヲ見ヨ〕 尖棒ニ、鐵ノ刺ヲ附ケタルモノ、打振リテ人ヲ倒ス。棒ト云フ武術ニテハ、長サ八尺、八角ニ作リ、筋金ヲ入レテ、末四尺ノ間ニ、鐵ノ疣ヲ打チタルヲ用ヰル。 太平記、八、[illegible]三[illegible]事「八尺餘リノかなさい棒ノ、八角ナルヲ、手許二尺バカリ

マロメテ、[illegible]ニ[illegible]ケタリ」

かなさび (名) [illegible] [illegible]ニ生ズル[illegible]

カナシ (名) 〔加那志〕 〔殿下ノ意ナリト云フ〕 琉球國王ノ稱。

〔かな・し・シキ・シケレ・シク・シク (形、二) 〔[illegible]〕 〔痛感〕 〔沖繩ニテハ今モ、可愛しヲ、かなしト云フ〕 身ニ染ミテ、切ニ思フ意ヲ云フ語。イトホシ。イトシ。 [illegible]、四十年正月「少子[illegible]之[illegible]」萬葉集、十九「[illegible]」[illegible]プラム、[illegible]カ可奈思サ」 [illegible]二十、[illegible] 伊勢物語、八十四段「獨子ニサヘアリケレバ、イトかなしうシタマヒケリ」 古今集、二十、東歌「陸奥ハ、イヅクハアレド、鹽釜ノ、浦漕グ舟ノ、綱手かなしモ」 [illegible]、四、夕顏「[illegible]かかなしト思フ[illegible]」

〔かな・し・シキ・シケレ・シク・シク (形、二) 〔悲哀〕 前條ノ語ノ感情ヲ、專ラ、悲哀ノ意ニ用ヰルナリ〕 嬉しノ反。歎カハシ。愁ハシ。 萬葉集、五「世ノ中ハ、空シキモノト、知ル時シ、イヨヨマスマス、加奈之カリケリ」 源、一、桐壺「限リトテ、別ルル道ノ、かなしきニ、生カマホシキハ、命ナリケリ」

〔かなしき (名) 〔鐵敷〕 鍛冶ノ具、今ノ、鐵床。鐵碪。古ヘハ、石ヲモ用ヰタリ。 天治字鏡、十二「碪、加奈志支之石」 [illegible]二「[illegible]、加奈志支」(倭名抄、同ジ) 字鏡

〔かなしけく (副) 〔悲〕 〔かなしくノ延、寒く、さむけく〕 悲しくト云フニ同ジ。 古事記、中(綏靖)「[illegible]長歌「イラナケク、ソコニ思ヒ出、加那志[illegible]久、ココニ思出」

かなしばり (名) 〔金縛〕 かなハ、堅ク[illegible]キビシキ意ナルベシ 嚴シク縛リ付ケテ、動キ得ヌヤウニスルコト。「不動ノかなしばり」

〔かなしび (名) 〔悲〕 カナシブコト。かなしみ。 源、四十八、寄生「[illegible]「同ジゴト、世ノ常ナキかなしびナレド、[illegible]キガハ、[illegible]ザリケル[illegible]ニヤ」

かなしぶ [illegible] [illegible]ノ[illegible]ノ[illegible]ニ[illegible]ジルモノ。

〔かな・し・ぶ・ブ・ベ・バ・ビ・ベ (他動、四) 〔痛感〕 かなしむ(痛感)ニ同ジ。 萬葉集、二十[illegible]、長歌「相見ズバ、戀シクアルベシ、今日ダニモ、言問ヒセムト、惜シミツツ、可奈之備イマセ」 古今集、序「露ヲアハレビ、露ヲかなしぶ心、詞、多ク」 今昔物語、三十、第三語「一人ノ娘アリケリ、云云、父[illegible]コレヲ[illegible]ぶ[illegible]、[illegible]ル事[illegible]二[illegible]」

〔かな・し・ぶ・ブ・ベ・バ・ビ・ベ (他動、四) 〔悲哀〕 かなしむ(悲)ニ同ジ。 神代紀、下「三泣哀」 仁[illegible]、[illegible]十五年[illegible]、[illegible]名[illegible]、[illegible]、[illegible]ナ[illegible]、[illegible]「[illegible]、[illegible]、カナシブ」

かなしみ (名) 〔悲哀〕 カナシムコト。かなしび。ナゲキ。 古今集、序「時移リ、事去リ、[illegible]シミ、かなしみ、行キカフトモ」

〔かな・し・む・ム・メ・マ・ミ・メ (他動、四) 〔痛感〕 痛感シト思フ。イトホシム。 萬葉集、[illegible]「[illegible]ノ、[illegible]ハ、[illegible]トモ、[illegible]ハ[illegible]、[illegible]加奈之[illegible]」「人ノ親ノ、一切ノ子ヲかなしむニ」

〔かな・し・む・ム・メ・マ・ミ・メ (他動、四) 〔悲哀〕 愁ヘ歎ク。心ニ、傷ミ思フ。かなしぶ。 [illegible]代[illegible]、[illegible]

かなじやくし (名) 〔金杓子〕 鋼、又ハ、眞鍮ナドニテ作レル杓子。(木杓子、貝杓子ニ對ス) 鋼匙 [illegible]「かなじやくし片手ニ、目黒ノ鍋場煮ヲ盛ル時」

〔かなしら・ま (副) 〔悲哀〕 〔さかしらまノ語原ヲ見ヨ〕 悲シ氣ニ。カナシサウニ。 萬葉集、[illegible]「[illegible]、[illegible]ガ[illegible]ニ[illegible]」[illegible]門ニ、物悲良爾、思ヘリシ、吾ガ兒ノ刀自ヲ、云云」

かなずり (名) 〔假名尻〕 かながしら(假名頭)ノ條ヲ見ヨ。

〔かなた〕（代）【彼方】〔彼のあたりノ約略〕身ヨリ最モ遠キ方位ニ用キル代名詞。アナタ。アチ。（こなた、そなたニ對ス）竹取物語「こなた、かなたノ日ニハ、李ヲ二ツ附ケタルヤウナリ」新古今集、十八、雜、下「足曳ノ、彼方コナタニ、道ハアレド、都ヘイザト、イフ人ゾナキ」

かなたが（名）【金箍】銅、鐵、眞鍮ナドノ箍。（竹箍ニ對ス）

〔かなだくみ〕（名）【金工】鍛冶スル者。鍛冶。神代紀、下、十四「天目一箇神、爲ニ作金者ニ」

かなだらひ（名）【金盥】〔金屬ノ角盥ノ略〕銅、眞鍮ナドニテ造レル手水盥。銅盤

〔かな・づ〕・ヅル・ヅレ・デ・デ・デヨ（自動、下二）【乙】〔肱出づノ略、（棓モ、掘肱木ノ略、大祓詞ノ天津金木モ、肱木ノ略ト云フ）盛衰記、三、澄憲祈レ雨事「澄憲更ニソソカズシテ、一かひな三かひな、舞ヒ翔リテ」乙ノ字ヲ用キルハ、舞フ手ノ肘、腕、腕首、屈折シテ、乙字形ヲ成スニ象ルナリ、體源抄ニ多ク、乙ノ字ヲ用キテアリ」舞フ。舞ヒテ、手ヲ動カス。奏舞 古事記、下（允恭）卅「擧レ手打レ膝、儛訶那傳、歌參來」古事記傳ノ此解釋ニ、大神景通家日記「乙肘モ、踏足モ、方角モ、スゴスコトヲセヌナリ」舞人拍子ニ應ジテ乙づるニ、大鼓延ビヌレバ不レ被レ舞也」榮花物語、二十、御賀「少將ハ御賀ニ、舞ヒかなでムトスラム」狹衣、三、上、三十「ソノ次ニハ、かなでヲかなでヲト、肱シテ突クメレバ」名義抄「儛、マフ、カナヅ」文選、西京賦「祕舞更奏、妙材騁レ伎」

かな・づ・ヅル・ヅレ・デ・デ・デヨ（他動、下二）【奏】〔前條ノ語ノ、音樂ニ轉ジテ、他動トナレルナリ、奏舞ノ奏ニ、かなづト訓ズルヲ常トシ、漢語ノ奏ハ、奏舞、奏樂、兩用

ナレバ、訓ニ因リテ誤リ移セルナリ、詩詞ノ訓ノ、詩命ニ移レルガ如シ、神武紀「樂府奏此歌」持統紀、七年正月「漢人等、奏ニ蹈歌ニ」文選、東都賦「太師奏レ樂、陳ニ金石ニ、布ニ絲竹ニ」〕音樂ヲ爲ス。奏樂 郭祥正詩「空江雲盡月涵レ璧、絕寥風生松奏レ琴」

かなづかひ（名）【假名遣】（一）言語ヲ正シク用キテ、國文ヲ記ス法。卽チ、日本語學ノ法。（二）專ラ、い、ゐ、ひ。え、ゑ、へ。お、を、ほ。じ、ぢ。ず、づ、等ノ、紛ヒ易キ假名ノ、用キ分ケノ稱。勢州軍記、上「此卿（北畠敎具）亦達ニ文字ニ、定家卿之補ニ假名遣ニ、加ニ奧書ニ」

〔かなつがり〕（名）【鐵鎖】鐵造ノ鎖。つがりノ條ヲ見ヨ。倭名抄、十三、九「鐵鏁、加奈都賀利」仁德紀、四十一年三月「以ニ鐵鎖ニ縛ニ酒君ニ」

かなつき（名）【假名附】漢字ニ、振假名ノツキテアルコト。

〔かなづち〕（名）【鐵鎚】〔木槌ニ對ス〕槌ノ頭ヲ、鐵ニテ作レルモノ。鍛冶ノ、鐵ヲ打チ、工匠ノ、釘ヲ打ツニ用キル。字鏡、四十二「鎚、鍛具、加奈豆知」倭名抄、十五、六「工匠具「鐵槌、加奈都知」箋註倭名抄、五、九十五「鍛冶具「鐵槌、打レ鐵器也、加奈都知」

〔かなつなゐ〕（名）【鐵綱井】井ノ釣瓶繩ニ、鐵ノ綱ヲ用キタルモノ。天武紀、上、五十「金綱井」倭名抄、一、八「桔槹、鐵索井也、加奈豆奈爲」（桔槹ハ、はねつるべナリ）

かなつぼ（名）【金壺】金類ニテ作レル壺。

かなつぼいし（名）【金壺石】はったいいしニ同ジ。

かなつぼまなこ（名）【金壺眼】圓ク、怒

レルガ如キ眼。

かなつんばう（名）【鐵聾】〔つんばうノ條ヲ見ヨ、かなハ、堅キ義、甚シキ意ナルベシ〕聾ノ、甚シキモノ。東海道名所記（萬治）六「かなつんばうニナリッツ、長キ憂ヘヲ招クモアリ」

かなで（名）【舞】奏ヅルコト。舞。宇治拾遺、一、第三條「惡シク舞フモアリ、善ク舞フモアリ、云云、サモメヅラシカラム、かなでヲ見バヤ」

か-なで（名）【搔撫】かいなでノ略。其條ヲ見ヨ。

かなてこ（名）【鐵梃】鐵ニテ造レル梃。

かなてこぼう（名）【鐵梃棒】前條ニ同ジ。かなてこぼう。

かなでほん（名）【假名手本】（一）平假名ノ手習ニ、いろは歌ヲ書キテ、手本トスルモノ。源、三十二、梅が枝「河海抄、十二「江談抄云、天仁三年八月、云云、假名手本者、何時始起乎、云云」千載集ニ「假名ハ、よそぢあまりななもぢ」トアルニ、高野日記（頓阿）ニ、いろはヲ冠ニ置キテ、四十八首ノ歌ヲ詠ゼシコトヲ載セタルハ、以呂波ハ今樣歌ナレバ、七字、五字ノ四句ナルニ因リテ云ヘルカ、後世、寺子屋ノ假名手本ニ、いろは歌ノ末ニ、京ヲ加ヘテ、四十八字トス、是レハ古寫ノ節用集ニ、言語ヲいろは別ケニシテ、すノ末ニ、京都ノ一條ヨリ九條マデノ町小路ノ名ヲ擧ゲタルニ因ル。（二）手本ニ書クコト、普通ノ事トナリシヨリ、直チニ、以呂波歌ノ稱。寬延元年、竹田出雲ノ作ナル院本「假名手本忠臣藏」ハ、赤穗ノ義士ノ四十七人ナルニ寄セタル題號ナリ。

かな・でる（動）【奏】奏づノ口語。

〔かなと〕（名）【鐵門】〔門ニ、鐵次（鎹）ノ扃アルヲ云フ語ナリ〕門ト云フニ同

ジ。門田ヲ、かなと田ト云ヒ、門出ヲ、かなと出ト云フ。安康卽位前紀「訶那杜蔭、斯ク立チ寄ラネ」萬葉集、九、十八「金門ニシ、人ノ來立テバ、夜中ニモ、身ハタナ知ラズ、出デテゾ逢ヒケル」同、十四、三十三「可奈刀田」同卷、三十四「防人ニ、立チシ朝ノ、可奈刀出ニ」

かなとこ（名）【鐵床】かなしき。鍛冶ノ、鐵ヲ燒キテ、鐵鎚ニテ打チ鍛フルニ、載スル盤。鐵ニテ作リ、短キ柱ノ如ク、地上ニ立テテ、上面、平カナリ。鐵碪 心中刃氷朔日（寶永、近松作）上「三尺許ノ樟鐵ノ、夕日ノ如ク燒ケタルヲ、鐵挾ニテ引出シ、鐵床ニドウト直シ」

かなとこおろし（名）【鐵床卸】鐵ヲ、鐵床ニテ鍛ヘタルママニテ、未ダ仕上ゲヌモノ。物ノ、ツクロヒナキコトニ云フ。唐船噺今國性爺（享保、近松作）上「ツクロヒナク、諂ヒナキ、己ガ氣ナリノ鐵床おろし」

〔かなとだ〕（名）門田ニ同ジ。鐵門ノ條ヲ見ヨ。

〔かなとで〕（名）門出ニ同ジ。鐵門ノ條ヲ見ヨ。

かなとほし（名）【鐵通】篩ノ底ニ、針金ノ網ヲ張リタルモノ。

〔かななべ〕（名）【鐵鍋】鐵製ノ鍋。土鍋ニ對ス。倭名抄、十六、九「鐵鍋、加奈奈倍」

かなばさみ（名）【鐵鋏】（一）銅鐵ヲ剪ミテ切ル鋏。（二）次條ノ語ニ同ジ。心中刃氷朔日（寶永、近松作）上「三尺バカリノ樟鐵ノ、夕ノ如ク燒ケタルヲ、鐵挾ニテ引出シ」

〔かなばし〕（名）【鐵箸】〔古ヘ箸ハ、一條ヲ折リ撓メテ、兩端ニテ挾メリ〕鍛冶ノ、燒鐵ヲ挾ムニ用キル、大イナル鋏ノ如キモノ。今、やっとこト云フ。鐵鉗 天治

[illegible]十二[illegible]、[illegible]ニ、[illegible]
かなばしニテ引出ストアリ。

かな-ひばし (名) [鐵火箸] 全體、金屬製ナル火箸。[illegible]「[illegible]テモ燒イテモ離レヌハ、鐵箸、アブリコ、鐵火箸」

か-あふ (名) [嘉納] 申言ヲ、嘉シテ、聽キ入ルルコト。[illegible]

かな・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (自動、四) [叶] [兼合ノ約カ、玉篇「叶、古文協字」] (一)善ク合フ。フサフ。アテハマル。相當ス。相應ス。適合 [illegible] (二)望ミニ合フ。思フヤウニナル。成就 古今集、八、離別「命ダニ、心ニかなふ、モノナラバ、何カ別レノ、悲シカラマシ」 源、七、紅葉賀「思ヒシコト、かなふト思ス」 かなはずトハ、(一)力、及バズ。成シ得ズ。能ハズ。[illegible] 不能 [illegible] ソハニ 七十一番職人盡歌合(文安)三十九番、巫士「[illegible]」 (二)[illegible]

かな・ふ・フレ・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ (他動、下二) [叶] [前條ノ語ノ他動] たゞふ、たゞふる (類) (一)叶フヤウニナス。善ク合ハス。適當 (二)望ミニ合ハス。成就セシム。竹取物語「願ハムコトかなへムト宣フ」

かな-ふぐし (名) [鐵串] 鐵製ノ掘串。[illegible]

[illegible]

かな-ブツ (名) [金佛] かなぼとけニ同ジ。感情ノ極メテ冷淡ナル人ヲ、木佛金佛トモ云フ。

かな-ぶみ (名) [假名文] 假名ニテ記セル文章。又、書状。(漢文ニ對ス) [illegible]

かな-へ (名) [鼎] [金瓮ノ義、瓮ノ條ヲ見ヨ] 飲食物ヲ煮ルニ用ヰル、金屬ノ器ノ名。底ノ圓キヲ、まろがなへト云フ、今云フ、[illegible]釜ナルベシ。[illegible]脚アルヲ、あしがなへト云フ、今、香爐ナドニ其形ヲ存シ、專ラコレヲ、かなへト云フ。[illegible]へト云フ、酒ヲ暖ムル用トシテ、鑵子ト云フ、今云フ、[illegible]鍋ナラム。鑊 [illegible] 天智紀、十年十二月「鼎」

かなへ-どの (名) [釜殿] [かなへハ、まろがなへ(釜)ニテ、後ニ云フ、釜ナリ] (一)御浴場。又、かないどの、かないどトモ云フ。[illegible] (二)釜殿奉仕ノ官人。[illegible]

かな-べら (名) [金篦] (一)鐵、眞鍮、等ノ篦。(二)鏝。

かな。へる (動) 叶ふノ(下二段)ノ口語。

かな-ぼう (名) [鐵棒] (一)鐵ニテ、作レル棒。鐵梃 太平記、二十二、義助勢力事「八尺餘リノ金材棒、云云、件ノ金棒ヲ打振ケレバ」 (二)鐵棒ノ頭ニ、[illegible]ヲ付ケタルモノ。[illegible] (三)[illegible]

かなぼう-ひき (名) [鐵棒曳] [前條ノ(二)ヲ見ヨ] 市井ノ賤女ノ、聞入レタル事アレバ、人人ニ[illegible] [illegible]エヤシネエ、人樣ノ噂ナゾハ、是ン許シモ仕タ事ノ無エノダ」

かな-ほだし (名) [鐵枷] [illegible]

かな-ボトケ (名) [金佛] 銅、鐵、等ニテ造レル佛像。かなぶつ。[illegible]

かな-ぼふし (名) [鐵法師] [ほふし(法師)ハ、男兒ヲ呼ブ語、其條ヲ見ヨ、かなハ、鐵火箸ノ如ク、瘦セタル意ナリト云フ、[illegible]] 男兒ヲ、賤シテ稱スル語。小倅。狂言記、[illegible]

かな-ぼん (名) [假名本] [眞字本ニ對ス] [illegible]

かな-まじり (名) [假名交] 假名ト、漢字トヲ交ヘテ記セル文章。[illegible]

[illegible]名交リニ此ク書タリ」

かな-まり (名) [鋺] [金椀ノ義、まり(椀)ノ條ヲ見ヨ] 金屬ニテ作レル椀。[illegible] ネノかなまりヲモチテ、ホヲ汲ミアリク」

かな-むぐら (名) [葎草] 「かなハ、鐵ニテ、[illegible]」 [illegible] ごまノ葉ニ似テ小サク、三四寸許、淡緑ニシテ、[illegible] 秋、葉ノ間ニ五六寸ノ穗ヲ生ジテ、枝多ク、小花[illegible] 葉間ニ一二寸ノ穗ヲ出シテ、實ヲ結ブ、[illegible]

か-なめ (名) [要] [蟹目釘(其條ヲ見ヨ)ノ略ノ、かのめ、かなめト轉ジタル語ナリ] [illegible] (一)[illegible] 鯨鬚ニテ作ルコト始マリ、千歳要ト稱セリト云フ。[illegible] 宗集、大夫ノスケノ、扇ノかのめ留メテトテ、[illegible] ガ心ノ、ウシロメタサヨ」[illegible] 事「扇ヨリ上、一寸置テ、フット射切リタリケレバ」 著聞集、八、好色「扇ノかなめヲ鳴ラシテ使ヒケレバ」 (二)[illegible] (三)肝要ナルコト。[illegible]

かなめ-いし（名）［要石］〔石頭ノ形、要ニ似タル故ノ名、鹿島志「要ノ語源ハ、蟹眼ナリ、延喜式ニ蟹眼釘アリ、物ノ丸キ様ニ名ヅク」（浮漚釘ナリ）或ハ云フ、神嘗石ノ約、昔ハ此地方ノ農民、年年、十月、新米ヲ此石ニ載セテ、鹿島ノ神ニ供ヘタリト、（高内眞足ノ十二月和名考、十月）神嘗祭ハ大神宮ニ限レリ、附會ナラムカ」〕（一）常陸國ノ鹿島神社ノ地ニアル神石ノ名。（いしのみましトモ稱ス）神社ノ東、四町許ノ林中ニアリ、地上ニ出デタルコト二尺餘、石頭ノ徑一尺五寸許、頂圓クシテ、少シ凹メリ、地質學者ノ說ニ、黑雲母花崗石ニテ、人工ニ成レルモノナリト云フ。但シ傳ヘテ、其根ノ深キコト、幾丈ナルヲ知ラズト云ヒ、地震ノ鎭ナリナド云フ。かなめヲ、肝要ノ意ニ寄セテ、常ニ、物ノ動キナキ事ニ譬ヘテ云フ。光俊家集（承久年間ノ人）「鹿島ノ社ニ詣デ、云云、平ナル石ノ、圓ナルガ、二尺バカリナル、云云、此明神ノ天降リタマヒテ、此石ノ上ニテ座禪セサセタマフ石ナリ」詞林采葉抄（應安、貞治）「我ガ國ハ、藤根ノ國ト中ストカヤ、是レ鹿島明神、金輪際ヨリ生ヒ出デタル、御座ノ石ヲ柱トシテ、藤ノ根ニテ、日本ノ國ヲ繫ギタマフト中ス故也」（二）穹窿ノ、せりもち石ノ一名。

かなめ-のき（名）［要木］次次條ニ同ジ。

かな-めん（名）［鐵面］鐵製ニテ、兜ノ下ニテ、顏ヲ被フモノ。顏一面ニ當ツルヲ、面頰ト云ヒ、目ノ上ノナキヲ、半頰ト云ヒ、其鼻ナキヲ、猿頰ト云フ。（貞丈雜記、十二）

かなめ-もち（名）［要冬青］〔樹、冬青ニ似テ、材堅ク强クシテ、扇ノ要トスベシ〕樹ノ名。高サ丈餘、葉ハ、つばきニ似テ、狹ク小サクシテ、面、滑ラカナリ、夏ノ初ニ、五瓣ノ小白花ヲ開キ、細圓子、簇リ結ブ、秋ノ半ニ紅熟ス。此樹多ク、人家ニ植ヱテ、生垣トセラル。カナメノキ。略シテ、かなめ。扇骨木

かな-もの（名）［金物］（一）金類ニテ造レル器ノ總稱。（二）金具。長門本、平家物語、十七、本三位中將關東下向事「かなもの打チタル盥ニ、櫛ニ入テ來リ」

かなもの-や（名）［金物屋］金物ヲ賣ル店。

かなもり-りう（名）［金森流］茶道ノ一派。金森飛驒守重近入道宗和、創ム。（明曆二年歿）

かな-やき（名）［鐵燒］鐵ヲ火ニシテ、印スルコト。平家物語、四、競事「尾髮ヲ切リ、金燒ヲシテ、其夜、六波羅ヘ遣ハサル」（馬ナリ）

かな-やま（名）［金山］金、銀、銅、鐵、等、スベテ金類ヲ掘リ出ス山。鑛山　慶長見聞集、七、諸國に金山有事「當君（德川家康）ノ御時代ニハ、諸國ニ金山出來、金銀ノ御運上、云云、每日怠ラズ」

かなやま-し（名）［金山師］鑛山ヲ所有シ、金屬ヲ掘リ取ルヲ業トスル者。略シテ、山師。

か-ならず（副）［必］〔假ならず、かんならず、かならずト變ジタル語ナラム、かりな、かんな、かな（假名）〕（一）疑ヒナク。タシカニ。相違ナク。必定。キット。皇極紀、二年十一月「興レ師還戰、其勝必矣」齊明紀、四年五月「萬歲千秋之後、要合二葬於朕陵一」萬葉集、十二、二十五上「後モ必、會ハムトゾ思フ」（二）次條ノ語ノ略。新古今集、四、秋、上「秋來ヌト、松吹ク風モ、知ラセケリ、かならず萩ノ、上葉ナラネド」

かならず-しも（副）［必］〔しハ、强ク指ス辭、もハ、感動詞〕前條ノ語ノ、かならずノ意ヲ强ク云フ語。下ニ、反語、又ハ、打消ノ語ヲ用ヰル。アナガチ。源、三十四、上、若菜、上六十八「かならずしも、今際ノトヂメヲ御覽ゼラルベキ身ニモ侍ラネバ」沙石集、二、下、第九條「何ゾかならずしも、心アラム」

か-なり（名）［可成］〔可也ノ義、許可ノ意、次次條ヲ見ヨ〕大抵、可キコト。「かなりノ出來」副詞ノ如クニモ用ヰラル。「かなり好イ」

カナリア（名）［福島鳥］〔大西洋中、Fortunate. 諸島（福島ト譯ス）中ノ Canaria 島ノ原產ナリ〕小鳥ノ名。天明年間、西洋ヨリ輸入セラルト云フ。多ク、人家ニ畜フ、形、雀ヨリ小サク、稍、ひわニ似タリ、尾、羽、脚、共ニ長ク、指ハ、前指三ツ、後指一ツナリ、色ノ白黃ナルモノハ、眼、脚、黑クシテ、嘴ノミ淡紅ヲ帶ビ、黑キモノハ、眼、脚、嘴、共ニ黑シ。聲、細ソク高クシテ、愛スベシ。金絲雀

かなり-はちがふ（句）［可也八合］大抵可シ。他山石、初篇、乾「誰ニかなり八合、經史ノ中ニ、許可ノ文ニ、可也、儒師ノ講釋ニ、許ス詞ナレド、十分ニアラズ、ワヅカニ八合バカリノ義ナリ」御所櫻堀川夜討（寶曆、三好松洛）三「物事ノ執成シト云フハ、かなり八合ナ事ヲ、十分ニ云フガ、執成シ」

が-な・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）［喧號］〔囂鳴ル義ガ、憎ミテ濁ル、次條ヲ見ヨ〕ののしるノ口語。カシマシク物言フ。ドナル。

か-なる-ま-しづみ（句）〔萬葉集古義、十四「囂鳴閑靜ノ義ナルベシ、東國ノ語ナリ」東京ノ俗ニ、喧號シク物言フヲ、がなるト云フ、緣アル語カ〕鳴ヲシヅメテ。副詞句ナリ。萬葉集、十四、二十九相摸國歌「足柄（山）ノ、ヲテモコノモニ、刺ス羂ノ、（靜ニ張るノ序）可奈流麻之豆美、兒等吾紐解ク」（女ト共寢ス）同、二十、二十四「荒男ノ、伊小箭手挾ミ、向ヒ立チ、可奈流麻之都美、出デテト吾ガ來ル」（東國防人ノ歌）

かな-わ（名）［鐵輪］（一）鐵ニテ造レル輪。紋所ニ、三ツかなわ、五ツかなわナドアリ。（二）鐵輪ニ、三脚ヲ附ケタルモノ。因リテ、三つかなわトモ云フ、脚ヲ爐ナドノ灰ノ中ニ立テテ、鍋ナド載セ、物ヲ煮ル用トス。（後ニハ逆サニシテ用ヰテ、ごとくト云フ、其條ヲ見ヨ）三脚馬　長秋記、保延元年四月十七日「居二高火爐一、令レ中居レ鉢、其上立二金輪一居レ鉢」散木集、九、雜、上「前ノ炭櫃ニ、スルコトモナクテ、かなわト云フ物ノ立テルヲ見テ詠メル（歌）」三議一統（應永）上「金輪ノ足ハ、二足ヲ賞翫ノ方ヘ向クベシ、貴人ノ方ヘ足ヲ向クルコト、見苦シケレバ也」下學集、下、器財門「鐵輪、カナワ」

かに（名）［蟹］（一）水產ノ動物。淡水產ト、鹹水產トノ二種アリ、腹、背ニ殼アリテ、形、横ニ廣ク、兩手ニ鉗アリ、左右ニ、各、四足アリテ、皆、尖レル爪アリ、性、前ヘ行クコト能ハズシテ、横ニ走ルコト速ナリ、眼ハ、外ニ出ヅルコト、蝦ノ眼ノ如シ、腹ノ殼ニ横紋アリ、腹ノ下ニ、卷反シタル厚キ殼アリ、蟹ノふんどしト云フ、其狹ク長キヲ雄トシ、闊ク圓キヲ雌トス。づがに、しまがに、てんぼうがに、山がに、石がに、赤がに、平家がに、ざりがに、蝦がに、兜がに、等、尙、多シ、各條ニ說ク。古事記、中（應神）十七長歌「迦邇」本草和名、下十九「蟹、加爾」（二）產兒ノ小瘡ノ稱。（三）かにくそノ略。其條ヲ見ヨ。

⁺⁺かに (名) 堪忍ノ約。「かにシテオクレ」

〜がに (接尾) [illegible]之訛ノ轉、[illegible]ニ[illegible]ノ[illegible]、(萬葉集、古今集、[illegible]、[illegible])[illegible]モ、終止形ニ屬クガ、不審ナリ」(一)動詞、助動詞ノ終止形ニ附キテ、副詞トスル語。バカリニ。ホドニ。クラヰニ。萬葉集、八[illegible]フル雪、[illegible]ニ[illegible]ク、[illegible]ミ、[illegible]ニ[illegible]ニケ[illegible]レルバカリ[illegible]、[illegible]、[illegible]セヌガ、[illegible]スバ、[illegible]ニ[illegible]、[illegible]シ、[illegible]ヲ[illegible]「[illegible]キテ、[illegible]、[illegible]ハ、[illegible]ノ[illegible]、[illegible]マメニ[illegible]ルクラヰニ」古今集、七、[illegible]、[illegible]ラクノ、[illegible]トナル、[illegible]フがにニ[illegible]ホドニ」同、二十、[illegible]一[illegible]トモ[illegible]がに、山カゲラセヨ」(二)がねト混ジテ、が、[illegible]ニノ意ニ用キラル。かノ音ゾ、にト轉ジタルナルベシ。[illegible]、[illegible]キ、[illegible]ハ[illegible]ニソ、[illegible]、[illegible]ト[illegible]ニ、[illegible]ル[illegible](東歌ナリ) 古今集、十六、哀傷「泣ク涙、雨ト降ラナム、渡リ川、水増サリナバ、歸リ來ルがに」拾遺集、二十、[illegible]ニ、[illegible]人モガナ、[illegible]、[illegible]ト[illegible]カバ、[illegible]ニ[illegible]がに[illegible]、[illegible]カリシ、人ノ[illegible]クがに、[illegible]、[illegible]にヲ、がねノ意ニ用キルハ、平安朝以後ノ歌ニ多シ。(附)がねノ條ヲ見ヨ。

かに-いし (名) 蟹石 (一)蟹ノ化石。石蟹 (二)又、一種ノ介ノ化石。形、蟹ニ似タリ。

〜か-に-かく-に (副) 左右 〔斯ニ斯ニノ略〕(かくばかり、かばかり。かくほど、かほど)同語ヲ重ネテ、カヤウニ云フハ、とちこち、そこここノ例ナリ。左右ト書クハ、左ざまにも右ざまにもノ意、東西モ、同意ナリ。此ノ如ク、又、此ノ如ク。カニモカクニモ　カモカクモ　カモカ

モ。トモカウモ。トモカクモ。トヤカ[illegible]、[illegible]ニ[illegible]、[illegible]、[illegible]、同、十一[illegible]云「[illegible]云、[illegible]ハ思ハズ」(うんうんノ條ヲ見ヨ) [illegible]、[illegible]、[illegible]、三[illegible]「[illegible]ノ[illegible]、[illegible]ニシ[illegible]ナバ、左右[illegible]ニ」同、七「[illegible]クバ、左右セムヲ」

かに-ぐさ (名) 蟹草 〔上葉ノ裏ニ、蟹ノみその如キモノ、附ケリ〕蔓草。葉ハ對生シテ、鋸歯アリ。スナグサ。カニノツル。カンゾル。海金砂

かに-くそ (名) 蟹屎 [illegible]かにとりおそで[illegible]ノ新[illegible]ヲ見ヨ[illegible]蟹[illegible]ノ、始メテ[illegible]スル[illegible]黄[illegible]色ニテ、分子、極メテ[illegible]カシ、往時ハ、海人草ヲ甘草ニ合ハセ、湯ニ浸シテ飲マシメ、排泄セシメテ後ニ、乳ヲ飲マセタリ。略シテ、かに。又、カニババ。胎屎 宇津保物語、藏開、上「[illegible]ニツツミテ、[illegible]乳マ[illegible]マフ、云云、[illegible]ヨリ、[illegible]チニ[illegible]ウマツリツルニ、程多キニ、かにト云フモノ、ユメバカリ[illegible]キタマハヌコソナケレ」

〜かに-さむ (名) 汗衫 〔汗衫ノ轉、蘭、らに。錢、ぜに。約轉シテ、かざみト云フハ、衫ノ轉、燈心、とうしみ〕かざみ(汗衫)ノ(一)ニ同ジ。天治字鏡、十二[illegible]「汗衫、加[illegible]佐[illegible]」

かに-づる (名) 蟹蔓 かにぐさニ同ジ。カンゾル。

かに-とり (名) 蟹取 次次條ノ略。其條ヲ見ヨ。

かにとり-ぐさ (名) 蟹取草 [illegible]此草ニテ、蟹取小袖ヲ薄[illegible]ニ染ムル故ノ名ト云フ、母子餅ニ加フル草ヲ、母子草ト云フガ如シ」かきとほし(飛雪草)ノ(一)ノ異名。音便ニ、かんとりばさ。

かにとり-おそで (名) 蟹取小袖 [illegible](其條ヲ見ヨ)ノ古事ニ因リテ、スベテ、[illegible]、[illegible]ノ[illegible]ニ[illegible]、かにト云フナリ、蟹屎ナド云フモ、是レナリ」貴人ノ生兒ノ産衣ノ名。音便ニ、かんとりおそで。略シテ、かにとり。生絹ヲ練リテ、薄藍ニ染メテ、蟹、鶴、[illegible]ナドノ小紋ヲツク、裏アリ、(雜方之帖)コレヲかにとり小紋、かにとり染ト云フ。[illegible]ノ[illegible]ニ、かにとり小[illegible]ヲツク、[illegible]シノコトナリ」

かにとり-こもん (名) 蟹取小紋 前條ヲ見ヨ。

かにとり-ぞめ (名) 蟹取染 前前條ヲ見ヨ。

かに-の-め (名) 蟹目 かなめ(要)ノ條ノ(一)ヲ見ヨ。

〜かにのめ-くぎ (名) 蟹目釘 〔圓キ形、蟹の目ニ似タレバ名トス、扇[illegible]ヲかのめ、かなめト云フハ、此語ノ轉ジタルナリ」浮漚釘ニ同ジカルベシ。今、鋲ト云フ、是レナリ。[illegible]

〜かには (名) 樺 次條、及、かばノ條ヲ見ヨ。

〜かには-ざくら (名) 樺 〔かにはハ、皮粘ノ略ニモアルカ、(略シテ、かばト云フ、はたばり、はば)皮ニテ物ヲ卷クニ、强シ」樹ノ名。多クハ、略シテ、かにはトノミ云ヒ、更ニ略シテ、かばト云フ、其條ヲ見ヨ。皮ハ、物ヲ卷クニ用キラル[illegible]

[illegible]、[illegible]ノたかには、さくら[illegible]、[illegible]、[illegible]ニ[illegible]、[illegible]

かに-ばば (名) 蟹屎 かにくそニ同ジ。

かに-はらひ (名) 蟹掃 [illegible]、[illegible]、[illegible]ヲ[illegible]、ソレニ因ル名ナラムト云フ」(一)大内ノ煤掃ナルベシ。(天保ノ老牛餘喘、初編、上)[illegible]山の井「かに掃、煤掃」(二)年ノ[illegible]ニ、[illegible]、山伏ノ[illegible]ニ、[illegible]、米錢ヲ施行スルコト。(正德ノ滑稽雜談、二十四)煤掃ニ因ミアルワザナルベシ。

〜かに-ひ (名) 雁皮 [illegible]云フ、(雁、にん、[illegible]、にら。[illegible]、さ[illegible]み)[illegible]色目(貞順[illegible])[illegible]、今之雁皮紙、古所[illegible]紙也、[illegible]、不便、[illegible]呼、[illegible]、[illegible]、[illegible](文[illegible]集、七、文具)かにひ(雁)モ、[illegible]ノ[illegible]ナリ」灌木ノ名。芫花、蕘花ノ總名。皮ニテ紙ヲ造ルヲ、斐紙ト云フ、今云フ、雁皮紙ナリ。がんぴノ條ヲ見ヨ。[illegible]花「かにひノ花、色ハ濃カラネド、藤ノ花ニイトヨク似テ、春ト秋ト咲ク、ヲカシゲナリ」(ふぢもどきノ名ニ合フ)

かに-ふ (名) 加入 加ヘ入ルルコト。仲間ニ組合フコト。唐書、才子傳「[illegible]入[illegible]」

かに-ぼたん (名) 蟹牡丹 紋所ノ名。牡丹ノ花[illegible]、[illegible]、上ヨリ見タル[illegible]ヲ圓ス[illegible]、[illegible]ノ[illegible]トシ、[illegible]、[illegible]ナ、上ニ、兩ノ[illegible]ノ、[illegible]ヲ[illegible]カタドル。近衞家ノ紋トスルモノ、最

モ密ナリ、このゑぼたんト云フ。

かに-め-くぎ (名) 蟹目釘 かにのめくぎ(蟹目釘)ノ條ヲ見ヨ。

〔**か-ま-も-かく-ま-も**〕 (副) 左右 かまかくまノ條ヲ見ヨ。

〔**かに-もり**〕 (名) 蟹守 掃守 〔神代紀、下ニ、豐玉姫命ノ、鸕鷀草葺不合尊ヲ生ミタマハムトスル時、海濱ニ產屋ヲ建テタマフ、古語拾遺「于時、掃守連遠祖、天忍人命、供奉陪侍、作箒掃蟹、仍掌鋪設、遂以爲職、號曰蟹守」註「今俗、謂之掃守者、彼詞之轉也」產兒ノ小瘡ヲ、かに、其糞ヲ、かにくそ、產衣ヲ、かにとりト云フ、皆、此古事ニ因ルナリ」上代ノ職名。後ニ轉ジテ、かもりづかさ、かむもりのつかさ、約メテ、かもりづかさ、又轉ジテ、かもんト云フ。かもんれう(掃部寮)ノ條ヲ見ヨ。倭名抄、六七和泉國、和泉郡「掃守鄉、加爾毛利」同、五三「掃部寮、加牟毛理乃豆加佐」枕草子、七、六十八段「清涼殿ノ御前ノ庭ニ、かもりづかさノ、疊ドモヲ敷キテ」

かにもり-の-つかさ (名) 掃部寮 かもんれうノ條ヲ見ヨ。

〔**か-ぬ**〕 ・ヌル・ヌレ・ネ・ネ・ネヨ (自動、下二) 難 常ニ、他ノ動詞ト、熟語トシテ用ヰ、遂げ得ぬ意ヲ云フ語。能ハズ。萬葉集、九六「思ビツツ、來レド來不勝テ、水尾ガ崎、眞長ノ浦ヲ、又顧ミツ」「靄ミかぬ」成りかぬ」去りかねテ」

か-ぬ ・ヌル・ヌレ・ネ・ネ・ネヨ (他動、下二) 兼 (一)〔彼レニカク。合セテ、一ツニナス。兼帶ス。字鏡卅「該、兼也、加禰太利」(二)〔此職ニ居テ、彼職ヲ務ム。兼攝 「藏人頭ニテ、左近衞中將ヲ兼ぬ」(三)〔カケアハス。ワタス。萬葉集、六二十長歌「八百萬、千年ヲ兼而、定

メケム、奈良ノ都ハ、云云」催馬樂、席田「伊津貫川ニ、棲ム鶴ノ、千歲ヲ加禰テゾ、遊ビアヘル」(四)兼ネテ、憚リ思フ。遠慮ス。「人目ヲかねテ」氣ヲかねテ」

〔**かぬち**〕 (名) 鍛冶 〔金打ノ約〕鍛冶ノ古言。カナダクミ。綏靖卽位前紀「倭鍛部」續紀、九、養老六年三月「韓鍛冶」字鏡四十金偏ニ段師ノ合字ニ「加奴知」

かね (名) 金 〔金、銅、鐵ヲ叩ク音ヲ、名トスルカ、かぬかぬ、かんかん。(金、銀、銅)沖縄ニテハ、かに」(一)〔金、銀、銅、鐵、鉛、錫、等ノ鑛物ノ總名。(土、石ト別ツ)鑛物 古事記、上四廿「取天金山之鐵」云云、令作鏡」神代紀、上三十九「天香山之金」古語拾遺「天香山銅」(二)〔金、銀、等ニテ、大小、方圓ニ鑄造リテ、分量ヲ定メ、價位ヲ付シ、政府ヨリ國內ニ發行シテ、品物賣買ノ媒ニ通用セシムルモノ。(古クハ、沙金ニテ、分量ニテ通用セリ)幕府時代ニハ、大判、小判、兩、分、朱、等ノ形ニ別テリ、今ハ、圓、錢、等ニ別ツ、其銅製ナルヲ、錢トス。金子。銀子。金銀。金錢。錢金。貨幣 宇津保物語、國讓、下三十三「彼ノ包ミシかねハ、百兩ニ足ラデゾアリケル」宇治拾遺、一、第八條「ソノ人ハ、我金ヲ千兩債ヒタル人ナリ」「金ヲツカフ」金ヲ貸ス」金ノ利息」(三)火印ノ略。其條ヲ見ヨ。尺素往來「馬自奧州閉伊郡到來、其印鹿笛者北方、飛雀者南方」(四)曲尺、まがりがねノ略。尤雙紙、曲れる物の品品「大工ノかね」人倫訓蒙圖彙、四、御錦屋「大和錦、云云、金一尺、代貳匁五分」(五)轉ジテ、眞直。盛衰記、三十五、高綱宇治川渡事「宇治川速シトイヘドモ、淵瀨ヲイハズ、サザメカシテ、かねニ渡シ、向ヒノ岸近ク成テ」

かね (名) 鉦 〔金ノ義〕(一)〔タタキガネ。フセガネ。枕草子、六、五十八段「誦經ノ

かねノ音」(二)ウチナラシ。磬。御八講ナドノ論義ノ時、證義師、かねト言ヘバ、威儀師、磬ヲ打鳴ラス。(三)鉦鼓。勸進聖判職人歌合、二十四番、かねたたき「息ノ緒ノ、苦シキ時ハ、鉦鼓コソ、南無阿彌陀佛ノ、聲助ケナレ」

かね (名) 鐘 〔金ノ義、或ハ、銅音ノ約カ」(一)〔オホガネ。ツリガネ。ツキガネ。倭名抄、十三三伽藍具「洪鐘、俗云、於保加禰」(二)鐘ノ聲。鐘聲 千載集、五、秋、下「サラヌダニ、心細キヲ、山里ノ、かねサヘ秋ノ、暮ヲ告グナリ」新古今集、二、春、下「山寺ノ、春ノ夕暮、來テ見レバ、入相ノ鐘ニ、花ゾ散リケル」芭蕉ノ句「花ノ雲、鐘ハ上野カ、淺草カ」「鐘ヲ聞ク」天明ノ鐘」

かね (名) 鐵漿 〔鐵ニテ作ル〕はぐろめヲ見ヨ。オハグロ。とりかへばや、三「眉拔キ、かねツケナド、女ビサセタレバ」盛衰記、廿二、入道申官符事ニ、賴朝ノ事ヲ「其時、十三ト承リキ、かねツケタル小男ノ、生絹ノ直垂ニ、小袴着テ侍リシヲ」

〔**が-ね**〕 (接尾) 〔之根ノ義、云云セム、其が根本ト云フ意ヨリ轉ジテ、其が爲まノ意トナル、(萬葉集古義、三、中)萬葉集、十四十「梅ノ花、吾レハ散ラサジ、アヲニヨシ、平城ナル人ノ、來ツツ見ム之根」連體形ガ名詞トナレルニ附キテ、何之爲トナル、梅が香ナドノがナリ」(一)動詞、助動詞ノ連體形ニツキテ、副詞トナル語。(がにノ條ノ(二)ヲ併セ見ヨ)何何ガ爲ニ。何何ガ料ニ。萬葉集、三二十四「丈夫ノ、弓末振り起シ、射ツル矢ヲ、(ナルモノヲ)後見ム人ハ、語繼グ金」同、十七四十「未ダ見ヌ、人ニモ告ゲム、音ノミモ、名ノミモ聞キテ、登母之夫流我禰」(羨シガル料ニ)同、五三十長歌「萬世ニ、言ヒ繼グ可禰ト、云云、御手ヅカラ、置カシタマヒテ」(神功皇后ノ鎮懷石ニ云ヘルナリ)(二)轉ジテ、名

詞ニ用キラレ、其ガ根差ノ義ニテ、其料、又、設けの人、候補者、ノ意トナル。仁德紀、四十年二月、織女ノ歌「隼別(皇子)ノ、御襲餓泥」(襲ノ料)伊勢物語、第十段「此聟がねニ、詠ミテオコセタリケル」宇津保物語、藏開、上十六「東宮ノ若宮タチコソ、云云、行先ノ君がねニヤハアラヌ」榮花物語、一、月宴「四ノ宮、帝がねト申シ思ヒシカド」同、十六、本雫「今日明日ノ大臣がねニテオハス」大鏡、六、道隆「后がねト、カシヅキ奉リタマヒ」

かね-あきうど (名) 金商人 金賣ニ同ジ。其條ヲ見ヨ。

かね-あぢ (名) 鐵味 鐵ノ性質。「刀ノかねあぢ」

かね-あひ (名) 兼合 輕重、均シクシテ、偏ラヌコト。程ニ適フコト。鈞重 薩摩歌(元祿、近松作)下「お萬ヲ、避ケン、避ケントシケレドモ、云云、見込ノ兼合外レケン、お萬ガ左ノ肩先ヨリ、云云、サット切下ラレ」

かね-いれ (名) 金入 金錢ヲ納レテ、携フル袋。財布。巾着。明良洪範、十二「兼松、云云、懷中ヨリ、金入袋ヲ取出シ、云云」

かね-うけ (名) 金請 借金ノ請人。

かね-う・つ ・ツ・テ・タ・チ・テ (自動、四) 金打 佛神ノ前ニテ、鉦鼓、鐘、鰐口ナドヲ打チテ、誓ヲ立ツ。舊、今昔物語、十六、第三十七語、靑侍、雙六ニ負ケテ、渡ス物ナク、淸水ノ觀音ニ二千度詣シタル事ヲ渡サムトテ「觀音ノ御前ニシテ、師ノ僧ヲ呼デ、金打テ、事ノ由ヲ申サセテ、某ガ二千度參タル事ヲ、雙六ニ某ニ、雙六ニ打入レツト書テ與ヘタリケレバ、云云」義經記、七、平泉寺見物事「誓言ヲナシタベトテ、權現ノ御前ニテ、かねヲうたセ奉リテ候ヘバ、云云」譬喩波集(寬永)「イト固ウ、約束シテモ、來モセイデ」打たルかねノ、罰ニヤアタラム」音讀シ、名詞トシテ、金打ト云フ。其條ヲ見ヨ。倭訓栞、かねうつ「誓テ再ビセザル事ニ云ヘリ、壒囊抄ニ、三井寺ノ事ニ鳴起請鐘ト見

エ、[illegible]ケル、ト見ユ」

かねうり (名) 【金賣】 古ヘ、沙金ナド、賣買スルヲ業トスル者。又、かねあきうど。平治物語ニ、金賣吉次ガ事ヲ記セリ、奥州ヘ下リテ、沙金ヲ買入レ、京都ニテ賣リシナリ。平治物語、三、[illegible]」

かねおや (名) 【鐵漿親】 女子ノ元服スルハ、眉ヲ剃リ、鐵漿ヲツクルナリ、其鐵漿ヲツケシムル婦人ノ稱。福徳ノ婦人ヲ擇ブ。オハグロオヤ。男子元服ノ、烏帽子親ニ對ス。

かねかし (名) 【金貸】 金錢ヲ貸シテ、利息ヲ收ムルヲ業トスル人。子錢家

かねがね (副) 【豫】 かねてニ同ジ。アラカジメ。マヘカタ。

カネキン (名) 【金巾】 かなきんニ同ジ。救荒日抄、十一、棉布「西洋布」

かねきんざんじ (名) 【金山寺】 [徑ノ宋音、きんハ支那ニ、金山寺ト、徑山寺トアリ、コレヲ言ヒ別ケムガタメニ、一ヲかね金山ト云ヒ、一ヲ徑きん山ト云フ。[illegible]秦、音符、ナド云フト、同趣ナリ。[illegible]ニ、からふうト申ス民ニテ候」

かねぐつわ (名) 【金轡】 人ニ金錢ヲ與ヘテ、口ヲ噤マシメ、言ハムトスル事ヲ言ハセスコト。

かねくばり (名) 【金賦】 豐臣秀吉ノ、大名、及、諸臣ニ、大判、小判金ヲ頒チ與ヘタルコト。太閤記ノ七ニ、金賦ノ事ヲ記セリ。

かねくひ (名) 【金食】 仕事ナドニ、金錢ヲ多ク費サセラルルコト。

かねぐら (名) 【金藏】 金錢ヲ納メ置ク庫。金庫。[illegible]四方ニ、御金ぐら御建ナサル」

かねぐろ (名) 【鐵漿黒】 鐵漿ニテ、歯ヲ染メタルコト。平家物語、九、[illegible]甲ヨリ見入レタレバ、[illegible]ナリ」[illegible]三井寺[illegible]大刀作リテ、かね黒ナル者モアリ」

かねごと (名) 【豫言】 豫テ言ヒ置ケル言、豫約ノ詞。後撰集、十一、戀、三「昔セシ、我ガかねごとノ、悲シキハ、イカニ契リシ、ナゴリナルラム」風雅集、十二、戀、三「如何ニセム、世ニイツハリノ、アルママニ、我ガかねごとヲ、人ノタノマヌ」

かねざし (名) 【鐵差】 まがりがねヲ見ヨ。カネジャク。鐵尺 算法地方大成、五、測量用法「甲所ヨリ、目的迄ノ遠サヲ量ルニハ、云云、目的ノ點ヨリ、甲所ノ點マデ、曲尺ニテ長ヲ量リ、云云」

かねしやう (名) 【金性】 しやう(性)ノ條ヲ見ヨ。

かねじやく (名) 【鐵尺】 まがりがねト、ものさしトノ條ヲ見合スベシ。

かねせんじ (名) 【兼宣旨】 [豫宣旨ノ義] 豫テ賜ハル宣旨。平家物語、一、鹿谷事「十一月九日ノ日、兼宣旨ヲカウムラセタマヒテ、同十四日、太政大臣ニアガラセタマフ」(藤原基房ナリ)

かねだか (名) 【金高】 金錢ノ、積リタル高。金高。金額。

かねたたき (名) 【鉦叩】 (一)鉦鼓ヲ叩キテ、佛ヲ念ズルコト。[illegible]人歌合 天文二十四番、かねたたき「息[illegible]ノ、苦シキ時ハ、鉦鼓コソ、[illegible]ケナレ」 (二)誤義僧。(北國) (三)撞木。(四)蟲ノ名。くさひばりノ條ヲ見ヨ。

かねづかひ (名) 【金遣】 金錢ヲ費スコト。

[illegible]」

かねつき (名) 【鐘撞】 鐘撞ヲ守リテ、時ニ撞キ鳴ラス者。

かねつきだう (名) 【鐘撞堂】 釣鐘ヲ釣リオキテ、撞キ鳴ラス建物。鐘樓。[illegible]

かねづく (名) 【金盡】 [づく(盡)ノ條ヲ見ヨ] 金錢ノ限リヲ出スコト。

かねつけいし (名) 【金附石】 金銀ノ純否ヲ、擦リツケテ驗シ知ルニ用キル石。那智黒石ヲ良シトス。略シテ、つけいし。又、アテイシ。試金石 珪板石

かねつけとんぼ (名) 【鐵漿附蜻蛉】 くろやんまニ同ジ。紺蟌

かねつけふで (名) 【鐵漿附筆】 鐵漿ヲ齒ニツケテ染ムルニ用キル筆。先ヲ、鳥ノ羽ニテ作ル。カネフデ。

かねつぼ (名) 【鐵漿壺】 鐵漿ヲ盛リオク、眞鍮製ノ小器。オハグロツボ。

かねて (副) 【豫】 [後ヲ兼ねてノ義、其時、行末かけてノ意] アラカジメ。カネガネ。嘗テ。前ニ。前廉ヨリ。前ビロニ。前以テ。萬葉集、二十「カカラムト、[illegible]知リセバ」同、六、長歌「豫、兼而知リセバ」同、十五「[illegible]カクバカリ、[illegible]知ラマセバ、[illegible]見ズゾ、アルベカリケル」

かねのて (名) 【曲尺手】 [てハ、様ノ義] 曲尺ノ如ク、曲リタルコト。直角。カギノテ。「かねのてニ曲ル」

かねのなるき (名) 【金成木】 金錢ノ、實ルト云フ、想像ノ木。金錢ヲ、何程費シ[illegible]トヲ云フ外題アリ。

かねばこ (名) 【金函】 (一)金銀、貨幣ヲ納メオク函。(二)俗ニ、利ノ生ズル基トナルモノノ稱。金穴 [illegible]

かねばなれ (名) 【金放】 金錢ノ、手ヨリハナルルコト。即チ、遣ヒ拂フコト。カネヅカヒ。

かねぶ (名) 【紫葛】 えびかづらノ條ノ(二)ヲ見ヨ。

かねふき (名) 【金吹】 金銀ノ鑛ヲ、貨幣ニ鑄キ造ルコト。又、其人。[illegible]

かねぶぎやう (名) 【金奉行】 武家ノ職、金藏ヲ管理シテ、出納ヲ掌ル。[illegible]奉行ニナリ」

かねふで (名) 【鐵漿筆】 かねつけふでニ同ジ。[illegible]かね筆ヲ入ル」

かねへん (名) 【金偏】 漢字ノ左方ニアル、金ノ字。釘、針、釣、鈴、銀、銅ナドノ如シ。金邊 [illegible]

かねほり (名) 【金掘】 鑛山ニテ、あらがねヲ掘リ取ル者。ゲザイ。坑夫 [illegible]

かねまうけ (名) 【金儲】 金錢ヲマウクルコト。利益ヲ得ルコト。利得

かね-まはり (名) 【金廻】 金錢ノ、人手ヨリ人手ニ渡ルコト。金融。

かね-み (名) 【金見】 金銀ノ貨幣ノ性ノ、純否ヲ見分クルコト。又、其人。驗銀匠

か-ねん (名) 【加年】 年ヲ加フルコト。齡ヲ重ヌルコト。加齡。

かね-め (名) 【金目】 〔金ノ量ノ義〕 金錢ノ價。ネ。ネウチ。ネダン。多ク、高値ナルコトニ云フ。「金目ナ物ニ目ヲツケル」

かね-もち (名) 【金持】 金錢ヲ、多ク所有スル人。富メル人。モノモチ。金滿家。金穴 素封 狂言記、餠酒「銀金、所領ノ上ニ、タダかねもちコソ、メデタケレ」

かね-もと (名) 【金元】 商業、工業、等ニ、資本ノ金錢ヲ出ス人。金主。銀主。資本主 好色一代女(貞享、西鶴)二「狂言芝居ノかねもと」

⁂か-ねる (動) 難ぬ、又ハ、兼ぬノ口語。

〰か-の (連體) 【彼】 〔あの(此)ノ語原ヲ見ヨ〕 我ガ身ヨリ、最モ遠キ物事ヲ指シテ云フ語。あの。(あの、そのニ對ス) 萬葉集、十四「可能子ト、寐ズヤナリナム」 竹取物語「かの都ノ人」「かの事」かの時」

が-の-いはひ (名) 【賀祝】 人ノ、若干ノ高齡ニ達シタル時、尙、其長壽ナラムコトヲ祝ヒテ、子弟ナドノ、賀宴ヲ設クルコト。又、年賀。(算賀ノ條ヲ見ヨ) 算賀 四十歲(初老)ヲ初トシテ、五十の賀、六十の賀、七十の賀、(古稀)八十の賀、九十の賀、百歲ナドナリ、足利時代ノ末ヨリ、六十一歲、(本卦回、還曆)、七十七(喜の字、喜壽)八十八、(米祝、米壽)ナドモ起レリ。仁明天皇、嘉祥二年、寶算四十ノ御賀、延喜十六年、宇多法皇ノ五十御賀、貞觀五年、藤原良房ノ六十、仁和元年、僧正遍昭ノ七十、建仁三年、藤原俊成ノ九十ノ賀ナドアリ。又、德川時代ニ、人ノ誕生日ヲ祝ヘル、賀アリ。 年賀之式「賀ヲ祝フ月ノ事、寅、卯、辰ノ年ハ、正、二、三月ノ內、我ガ生レノ年日ヲ祝フ也、是ヲ花の賀ト云フ、巳、午、未ノ年ハ、四、五、六ノ內ノ年日ヲ祝フ、是ヲ扇の賀ト云フ、申、酉、戌ノ年ハ、七、八、九月ノ內、年日ヲ祝フ也、是ヲ紅葉の賀ト云フ、亥、子、丑ノ年ハ、十、十一、十二月ノ內、年日ヲ祝フ、是ヲ雪の賀ト云フ」

か-のう (名) 【可能】 〔不能ニ對ス〕 出來得ルコト。成シ得ルコト。

カノウ (名) 【獨木舟】 〔英語、Canoe.〕 南洋島人ノ用キル丸木舟。大抵、長サ三間、幅一尺五寸。

か-の-うば (名) 【蚊姥】 かとんぼノ(一)ノ異名。

か-の-え (名) 【庚】 〔金の兄ノ義〕 えとノ條ヲ見ヨ。 曾丹集、かのえ「幾代シモ、アラジト思フ、世ノナかの、えシモ心ニ、適ハヌゾ憂キ」

かのえ-さる (名) 【庚申】 干支ノ條、及、かうしん(庚申)ノ條ノ(一)ヲ見ヨ。 拾遺集、七、物名、かのえさる「かの江さる、舟ニテ暫シ、言問ハム、沖ノ白波、マダタタヌマニ」

か-の-おば (名) かのうばニ同ジ。かとんぼノ條ノ(一)ヲ見ヨ。

か-の-こ (名) 【鹿子】 (一)鹿ノ子。鹿兒。麑 庭訓往來、六月「虎皮、鹿子切附」 (二)次條ノ語ノ略。 東海道名所記(萬治)六「芥子、鹿子、摺縫ノ手ヲ盡シ」「總がのこ」絣がのこ」

かのこ-しぼり (名) 【鹿子絞】 〔次條ノ語原ヲ見ヨ〕 絞染ノ模樣ニ、白星、斑ニアルモノ。カノコメユヒ。カノコユヒ。又、總地ニアルヲ、總がのこト云ヒ、處處ニアルヲ、むらがのこナド云フ。纈文

〰かのこ-マダラ (名) 【鹿子斑】 〔かのこハ、鹿の毛ノ轉カ、心ヲけけれトモ云フ、けふ(今日)モ、此日ノ轉ナリ〕 鹿ノ毛色ニアル斑。茶褐色ニ、疎ニ白キ點アリ。 伊勢物語、第九段「時シラヌ、山ハ富士ノ根、イツトテカ、かのこまだらニ、雪ノ降ルラム」

かのこ-めゆひ (名) 【鹿子目結】 前前條ノ語ニ同ジ。

かのこ-もち (名) 【鹿子餠】 〔鹿子絞ノ斑點ニ擬シタル名カ〕 餠ヲ、小豆餡ニテ包ミ、ソノマハリニ、砂糖ニテ煮タル小豆ヲ、粒ノ儘ニテ附ケタルモノ。紅餡ニテ包ミ、砂糖煎ノ隱元豆ヲツケタルヲ、京がのこト云フ。 寬天見聞記(天保)「寬政ノ末マデ、此所(人形町)ニ、嵐音八ト云役者ノ家ニテ、鹿子餠ヲ賣ケル」(後、此店ヲ、囃子頭ノ太田市左衞門ト云ヘルモノ、讓受ケタリト云フ) 文政ノ川柳「鹿子餠、釋迦ノ天窓ノ、後向キ」(餠ノ形容)

かのこ-ゆひ (名) 【鹿子結】 かのこしぼりニ同ジ。

か-の-さま (名) 【彼樣】 きみさまノ條ヲ見ヨ。

〰か-の-しし (名) 【鹿】 〔鹿の獸ノ義〕 鹿ト云フニ同ジ。 仁德紀、六十七年十月「鹿 忽起ニ野中ニ」 康賴本草、下廿八「麋、加乃志志」 名義抄「牡鹿、カノシシ」

か-の-しし (名) 【鹿肉】 〔しし(肉)ノ條ヲ見ヨ〕 鹿ノ肉。 江家次第、一、供ニ御藥ニ「麑完一坏」

〰か-の-した (名) 【紫苑】 〔鹿の舌ノ義ニモアルカ、然レドモ、其故ヲ知ラズ〕 草ノ名。紫苑ノ古名。 字鏡八十「紫苑、加乃志太」 天治字鏡、七三十六「紫苑、加乃舌」

か-の-たま (名) 【鹿玉】 菌ノ名。冬、山中ノ朽木ニ生ズ、大キクシテ、塊ヲナス。

か-の-と (名) 【辛】 〔金の弟ノ約〕 えとノ條ヲ見ヨ。 曾丹集、かのと「人ノ妻ト、我がのとニツ、思フニハ、馴レコシ袖ハ、哀レマサレリ」

〰か-の-にけくさ (名) 【人參】 〔鹿の齡む草ノ義、(にけがむノ條ヲ見ヨ)鹿、好ミテ、此草ヲ食フト云フ〕 藥用ノ人參ノ古名。又、ニコタ。クマノイ。 字鏡三五十「葠、生ヒ山、其味甚苦、人能食、爾古多、加乃爾介」 同五十八「人參、久蕅乃伊、加乃爾介久佐」 本草和名、上五十「人參、加乃爾介久佐、爾己太、久末乃以」(倭名抄、同ジ)

かの-は (名) 【狩野派】 畫ノ一派。足利義政ノ近臣、狩野大炊助正信(法眼、祐勢)創ム。支那ノ北宗畫ニ出デ、筆致剛健ニシテ、專ラ唐土ノ人物、山水ヲ畫ケリ。其子、元信(法眼、子、直信モ法眼タルニ因リテ、古法眼ト稱ス)最モ名アリ、(永祿二年歿ス)後孫、守信、(探幽)中興ト稱セラル。狩野氏ハ、代代其業ヲ繼ギテ、德川幕府ニ仕ヘ、繪所トナリ、家の繪ト稱セリ。

が-のみ (名) 【我飮】 〔我攻ナドト、同趣〕 酒ヲ、味ハズシテ、がぶがぶ飮ムコト。 吉野都女楠(寶永、近松作)四「初手一盃ハツイツイ飮ミ、二盃目ハハヤがのみニテ、三盃カラガ義理一遍」

カノン-はう (名) 【加農砲】 〔蘭語、Kanon. 英語、Cannon.〕 火砲ノ一種。砲身長シ、强キ裝藥ヲ用キテ平射ヲ行ヒ、彈丸ヲ、極メテ遠キニ達セシムルモノ。

かのめ (名) [要] かなめノ條ヲ見ヨ。

かは (名) [川][河] [水ノ流ルル音カ、がは[illegible]] [illegible]ヒテ、水ノ、流ルルモノ。古事記、下(允恭)[illegible] 倭名抄、一八「川、河、[illegible]」

かは (名) [皮] (一)[動物、植物ノ體ノ、表面ヲ包メル物。[illegible]] (二)[特ニ、獸類ノ皮ヲ剝ギ取リタルモノ。あら皮、毛皮、つくりがは、なしかは、なめしがは、もみかは、等、各條ニ注ス。(三)大皮、小皮(大鼓、小鼓)ノ略。[illegible]ヘヌヲ、如何セン」(四)スベテ、物ノ上ヲ包メル物。「竹ノ皮」「[illegible]ノかは」「[illegible]ノ皮」(五)へちまのかはノ條ヲ見ヨ。

かは (名) [側] [かたはらノ略カ、すゑそぎ、すそ。(裾)はたばり、はば(幅)] (一)輪ヲ成シテ、圍メル物。「[illegible]ノかは」井戸ノかは」 (二)物ノ、一方ノ面。ツラ。熟語トナリテ、多ク ハ濁音トナル。方面 [illegible] 十七、正治三年三月十日「若宮大路、西頰、燒亡」 (三)[illegible] (四)[illegible]五がは(五老翁)」本町がは(大屋[illegible]住)」 [illegible]ニ[illegible]シテ、カタハラ。ソバ。「がはノ者ガ褒メル」

かは (動) [illegible]ノ意ヲ表ス[illegible]。否定ノ語ヲ[illegible]ニ、[illegible]ニナスモノ。竹取物語 天竺ニアル物モ、持テコヌモノかはト、思ヒメグラシテ」

かば (名) [illegible]、古名、かにはノ轉ナル、かんばノ約、なにさ、なんど、など」古名、かにはざくら、[illegible]、かには、又、かばざくら。喬木ノ名、東北地方ニ多シ。[illegible]ニ似テ、[illegible]二寸許、[illegible]ノ外皮、粉白色ニシテ、褐色ノ[illegible]アリ、[illegible]ノ皮ニ似タリ。一名、カンバ。シラカンバ。外皮ヲ去レバ、白クシテ、淺褐紅ノ橫斑アリ、曲物ヲ綴ヅルニ用キ、物ヲ卷キ、屋ヲ葺キ、又、[illegible]トスルナド、用、多シ。倭名抄、二十[illegible]、又云、[illegible]」

かば (名) [蒲] [かまノ音轉、かまし、かばし。(暫)くまる、くばる(配)」 (一)蒲ニ同ジ。今、濁音ニ、がまト云フ。其條ヲ見ヨ。「蒲燒」 (二)樺色ノ略。

かば (名) [河馬] 哺乳獸ノ名。亞弗利加洲ノ南部ニ産ズ、體ハ肥大ニシテ、長サ一丈餘ニ達ス、胴太ク、毛ハ甚ダ粗ニシテ、背部ハ茶褐色、腹ニハ毛殊ニ薄シ、其鳴ク聲ハ、馬ニ似タリ、晝ハ水中ニ潛ミ、夜ハ陸ニ上リ、木根、果實ナドヲ食フ。

がは (名) [側] 清音ノかは(側)ノ(四)ヲ見ヨ。

カバア (名) [英語、Cover.(被フモノ)] 合羽ト、同語原ニ、書下ノ上ニ、更ニ被ヒテ着クモノ、足袋ノ如クニシテ、筒ナク、指ノ股ナシ、毛織物ナドニテ作ル、近年、外來ノモノナリ。常ノ足袋、及、鞾ノ上ニモ用キル。

かはあひ (名) [川合] 川ト川トノ、流レ合フ所。約メテ、かはひ。[illegible]ノ川合ニ(大和ノ初瀨川ト、佐保川ト、流レ合ヒテ、大和川トナル處)倭名抄、七八越前、大野郡「川合郷」[illegible]

かはあみ (名) [川浴] カハアムコト。川ニテ水浴スルコト。古事記、中(景行)[illegible]肥河ニ」

かはあ・む・ムル・ムレ・ミ・ミ・ミヨ (自動、上二) [川浴] (一)川ニ入リテ、水ヲ浴ム。身ヲ洗フナリ。水浴。[illegible]六十年七月「[illegible]」[illegible]ノ、河あみタル所「水ノ綾ヲ、オリタチテ着ム、ヌキチラシ、タナバタツメニ、衣貸ス夜ハ」忠見集「七月七日、川あむ「浪ノ立ツ、水ノアヤヲモ、今日見レバ、七タノトモ、オモホユルカナ」 (二)湯かはあむノ略。湯浴ム。ユアミス。[illegible]上、[illegible]抄「沐浴、カハアム、ミアラフ」

かはあをのり (名) [川青海苔] かはもづくノ一名。

かはい・い (形) [愍然] [愍然しノ音便轉、其條ヲ見ヨ] (一)カハユシ。イタハシ。カハイサウナリ。愍然ナリ。史記抄(文明)八七「罪モナイ、父母ヤ、妻子ヤ、同産ノ兄弟マデ、罪ニセラルルハ、かはいノ事ゾ」孟子抄(文明)一「致ヲセウ者ハ、人ヲ刑罰セイデハカナハネドモ、殺ストモ、カナシフテ、かわいいト思フ者ガ、是レ[illegible]フ一ニセウゾ[illegible]八[illegible]ニ[illegible]ガ乘タ車ヨリ下リテ、かわいいト云テ、人ヲ渡イタゾ」[illegible]作[illegible]ノ日中ニ[illegible]アレルケナ、かはいい事ヲシマスル」 (二)轉ジテ、愛シ。カハユラシ。愛スベシ。可愛「かはいい子ニハ[illegible]」

かはいが・る (動) かはゆがるノ轉。

かはいさうみ (名) かはゆさうみノ轉。其條ヲ見ヨ。三世相錦繍文章(寶曆、[illegible])ニ「かはいさうみ、生ヒ先ノアルお松マデ」

かはいらし (形) かはゆらしノ轉。

かはいり (名) [川入] 川ニ溺レテ死ニタル[illegible]火燒ノ死ヲ、[illegible]ト定メタマヒテ」

かはいり (名) [皮煎] 料理ニ、[illegible]ノ皮ヲ、味ツケテ煎リタルモノ。[illegible]「皮いりト云フ事[illegible]ナドニモ不[illegible]」料理物語(寬永)「かはいりハ、[illegible]」

かはいろ (名) [革色] 染色ノ名。[illegible]ニ、紺ヲ加ヘタルガ如キモノ。[illegible]ハヤル」

かばいろ (名) [樺色] [蒲色ナリ、蒲ノ穗ノ色] 黃ニ、赤ミアルモノ。略シテ、かば。老虎黃

かはう (名) [家寶] 家ニ傳ハル寶物。

かはう (名) [荷包] [賤荷ノ包、ふくろかづきノ意] オビブクロ。キンチャク。

がはう (名) [牙保] かほ(牙保)ニ同ジ。

かはうそ (名) [川獺] [かはをそノ轉、(兎、をさき。朮、をけら)古名、をそ、海をそニ對シテ、川ト云フ」 ヲソ。かはをそ[illegible]、[illegible]ニ棲ミ、魚ヲ[illegible]ス、狐ニ似テ小サク、喙、尖ル、頭、身、皆、扁[illegible]、尾モ[illegible]ク長ク、[illegible]ト合セテ三

尺餘アリ、四足短ク、蹼(ミヅカキ)アリテ、水ヲ游ルコト甚ダ速ナリ、毛色、灰褐ニシテ、濃淡一ナラズ、毛密ニシテ軟(ヤハラカ)ナレバ、裘トス。水獺 林逸節用集(文明)「獺、カハウソ」康頼本草、下廿七「獺肝、加波乎會」

かはうそのまつり (カワウソノマツリ) (名) 川獺祭 獺祭魚(ダッサイギョ)ノ條ヲ見ヨ。

かはうぼたん (カホウボタン) (名) 荷苞牡丹 ケマンサウ。

かはうを (カワウヲ) (名) 河魚 川水ニ產ズル魚類。(海魚(ウミウヲ)ニ對ス)

かはえび (カワエビ) (名) 川蝦 えびノ條ヲ見ヨ。

かはおと (カワオト) (名) 川音 川瀨ノ音。水聲 萬葉集、十九廿「天ノ川、川聲(カハオト)清シ、彥星ノ、秋漕グ船ノ、波ノサワギカ」 夫木抄、十七、千鳥「小夜中ト、夜ハ深ケヌラシ、玉島ノ、川音澄ミテ、千鳥鳴クナリ」

かはおろし (カワオロシ) (名) 川颪 次次條ニ同ジ。 夫木抄、十九、風「今朝見レバ、立田川原ノ、かはおろし、サソフ紅葉ヲ、波ゾ織リケル」

かはかう (カワコウ) (名) かはかはうノ約。其條ヲ見ヨ。

かはかぜ (カワカゼ) (名) 川風 川ノ上ヲ吹ク風。水風 古今集、四、秋、上「川風ノ、涼シクモアルカ、打寄スル、浪ト共ニヤ、秋ハ立ツラム」

かはかじか (カワカジカ) (名) 川鰍 川魚ノ名。形、はぜニ似テ、三四寸許、肥大ナリ、頭大キク、口濶クシテ扁ク、鱗細カシ、色、淡黃黑ニシテ黑斑アリ。清流ノ石間ニ居ル、腹ニ圓キ鰭アリテ、石ニ吸ヒツキテ、水上ニ浮バズ。一名、ゴリ。イシブシ。杜父魚

かはかはう (カワカウ・ウ) (名) 皮買 皮ヲ買ヒアルク人。約シテ、かはかう 七十一番職人盡歌合、十番「かはかはうニ驚ル、道行キブリノ、かはかはう、我ガ逢ヒツルト、人ニ語ルナ」

かばかばと (副) かばとノ條ヲ見ヨ。

かはかみ (カワカミ) (名) 川上 〔川中、川下ニ對ス〕(一)川ノ、源ノ方。ミナカミ。上流 萬葉集、十一 四十二「河上ニ、洗フ若菜ノ、流レ來テ、妹ガアタリノ、瀨ニコソ寄ラメ」(二)川ノホトリ。河邊 萬葉集、五 廿「玉島ノ、此河波加美ニ、家ハアレド、君ヲ恥シミ、アラハサズアリキ」

かはがめ (カワガメ) (名) 川龜 すっぽんノ(一)ノ古名。垂仁紀、三十四年三月「大龜(カハガメ)出二河中一」字鏡 七十「鼈、河加女」倭名抄、十九 五「鼈、加波可米」

かはがらす (カワガラス) (名) 川烏 〔山川ニ棲メバ、名アリ〕おほばん(大鷭)ニ同ジ。鷭ノ條ヲ見ヨ。 雅筵醉狂集(正親町公望)雜「鵜ノ事ハ、素キヲ後ト、聞キツルモ、アアアア嘘ノ、かはがらすカナ」

かはがり (カワガリ) (名) 川狩 川ニテ、漁(スナド)リスルコト。カハセウエウ。川漁 盛衰記、六、西光父子亡事「師高ヲリフシ、川狩シテ遊ビケリ」

かばかり (副) 斯許 〔かくばかりノ略、かくほど、かほど。かくやう、かやう〕カクバカリ。コレホド。 竹取物語「かばかり、心ザシオロカナラヌ人人ニコソアメレ」「かばかりノ大事」かばかり思フニ」かばかりノ痛ミ」

かはぎす (カワギス) (名) 川鱚 古名、カマツカ。小魚ノ名。流水ノ中ニ多シ、常ニ沈ミテ水底ニアリ、口ヲ張リテ沙ヲ吹ク、形、きすニ似テ、頭、方(カク)ニシテ細ソク尖リ、長サ六七寸、鱗細カク、淺黃黑色ニシテ、黑キ斑アリ。スナフキ。スナホリ。鯊 沙魚 吹沙

かはぎぬ (カワギヌ) (名) 皮衣 かはごろもノ條ヲ見ヨ。

かはきり (カワキリ) (名) 皮切 「きりハ、口切ナドト同意」(一)灸治ノ、初ノ三壯ノ稱。最モ熱キヲ感ズ。 傾城反魂香(寶永、近松作)中「やいとモスヱタシ、云云、皮切コラヘテ出ル心」(二)物事ヲ、始メテスルコト。テハジメ。劈頭 莊嚴出世景清(寶永、近松作)上「勤ノ皮切耐(コラ)ヘタ故、憂キ沙汰ンダハ身ノ灸(ヤイト)」

かはぎり (カワギリ) (名) 川霧 川ノ上ニ立ツ霧。 拾遺集、三、秋「河霧ノ、麓ヲ籠メテ、立チヌレバ、空ニゾ秋ノ、山ハ見エケル」

かはく (名) 河伯 川ノ神。 莊子、秋水篇「河伯欣然自喜」 漢書、王尊傳「沈二白馬一、祀二水神河伯一」 倭名抄、二十神靈類「河伯、水伯、河之神也、加波乃加美」

かばく (名) 遐邈 〔はるかま、はるかなり〕遠ク離レタルコト。轉ジテ、物事ノ差ノ、甚シキコト。 諺草、二「俗ニ、物ノ大ニチガヒタル事ヲ、かはくナ事ト云フ」

かはぐすり (カワグスリ) (名) 河藥 〔皮藥ノ義、膚ノ垢ヲ除ク意ト云フ(松屋筆記、一二)〕澡豆(あらひこ)ノ事ナルベシ。 侍中群要、四、御浴殿「御厨子所參上、供二御河藥一」 禁祕御抄、上、恒例毎日次第「早旦供二御湯一、云云、候二御垢一典侍、或上臈女房、進二御湯帷一、奉二河藥一」

かはぐち (カワグチ) (名) 川口 川水ノ、海、湖、又ハ、他ノ川ニ流レ入ル處。河口

かはぐつ (カワグツ) (名) 革沓 革ニテ作レル沓。鞾 (木履ニ對ス、くつノ條ヲ見ヨ) 天治字鏡、十二 八廿「皮履、加波沓」

かはくま (カワクマ) (名) 川隈 川岸ノ隅(クマ)。くまノ條ヲ見ヨ。水隈 仁德紀、六十二年五月「遠江國司表上言、有二大樹一、自二大井河一流之停二于河曲一」 萬葉集、一 九廿長歌「船浮ケテ、我ガ行ク河ノ、川隈ノ」

かはご (カワゴ) (名) 皮籠 革ニテ包ミ造レル匣。皮匣 轉ジテハ、行李類ヲモ云ヘルナルベシ。 狹衣、一、下 三十二「かはごヤウノ物アケサセテ、云云、扇、畫物ナドヤウノ物、取リ出デテ」 體源抄 二「御樂ノ名物、皮子丸ト云フハ、延喜ノ帝ノ御時、唐ヨリ重寳ニ入レテ奉レル、皮子ノ足ノ竹管ヲ取リテ、彫リタルナリ」ナドアリ。 京都ニテハ、行李ヲ、かあごト云フ。

かはごえひら (カワゴエヒラ) (名) 川越平 袴地ノ名。武藏、入間郡、川越ノ地ノ產、經(タテ)ハ生絲、緯(ヌキ)ハ練絲ナル縞織ナリ。

かはごし (カワゴシ) (名) 川越 (一)〔川ヲ越シテ、彼方(アナタ)。カハムカヒ。彼岸 對岸 貫之集、一「人ノ、木ノ本ニヤスミテ、川ごしニ櫻花ヲ見タル所」 保元物語、二、白河殿夜討事「川越シニ、矢二ツ放ツ」(二)カチワタリ。川ヲ、徒步(カチ)ニテ渡リ越スコト。徒涉 「大井川ノ川越」

かはごり (カワゴリ) (名) 川垢離 川ニテ、垢離ヲトルコト。こり(垢離)ノ條ヲ見ヨ。 明和ノ川柳「川垢離ニ、行クノヲ輿屋、ジロジロ見」(輿屋ハ、葬儀屋) 天明ノ川柳「屋根船ノ唄、川垢離ニ、ツブサレル」

かはごろも (カワゴロモ) (名) 皮衣 獸ノ毛皮(ケガハ)ニテ作レル衣。カハギヌ。裘 萬葉集、九 九「トコシヘニ、夏冬行ケヤ、裘(カハゴロモ)、扇放タヌ、山ニ住ム人」 倭名抄、十二 廿九「裘、皮衣也、加波古路毛、俗云、加波岐沼」 枕草子、八、七十八段「むつかしげなるもの「裏マダ附カヌ、かはぎぬノ縫目」

かはざいく (カワザイク) (名) 革細工 革ニテ、種種ノ器具ヲ作ルコト。皮工 長曾我部元親百箇條「大工、大鋸引、云云、革細工、瓦師、云云、右諸職

入貢、云云」

かは-ざうり　(名)　[皮草履]　(一)たけのかはニテ作レル草履。[illegible] 作」四「[?]山草履、皮草履」(二)革作リノ草履。

かはさき-おんど　(名)　[川崎音頭]　いせおんどノ條ヲ見ヨ。

かば-ざくら　(名)　[樺櫻]　〔かにはざくらノ略、樺ノ條ヲ見ヨ〕(一)「カニハ、ザクラ、カニハ、カバ」宇津保物語、藏開、上、上「櫻ノ花、かばざくらノ花、イトオモシロシ」源、二十八、野分「春ノ曙ノ霞ノ間ヨリ、オモシロキかばざくらノ咲キ亂レタルヲ見ル心チス」(二)今、山櫻ノ一種。花毬々疎ニシテ、單瓣ニシテ、白キモノ。皮ヲ採リテ、捲物ヲ綴ヂ、又、筒ナド卷ク。(三)黄櫻ノ一名。

かは-ざらへ　(名)　[川浚]　川底ニ埋マリタル塵土ヲ、浚ヘ取ルコト。撈浚　享保集成絲綸錄、二十四、寛保三亥年七月、本所[?]等、云云、川浚カ、堤之カサ[?]、不申候ニシテハ不レ叶樣ニ可ニ相聞ニ候」

かは-しき　(名)　[川敷]　〔川敷地ノ略、ももしきノ條ヲ見ヨ〕川水ノ流ルル程ノ敷地。川床。

かは-しま　(名)　[川島]　川ノ中ニアル島。川中島。　伊勢物語、廿二段「相見テノ、心ヒトツヲ、かはしまノ、水ノ流レテ、絶エジトゾ思フ」夫木抄、二十七、鵆「川島ノ、眞砂ニ立テル、白鷺ノ、霜ノツバサニ、年フリヌラム」

かは-しも　(名)　[川下]　〔川中、川上ニ對ス〕川水ノ、流レ行ク方。下流　謠曲、鵜飼「此ノ川下、岩落ト申ス所ヲ通リ候ヒシニ」

か-ばしら　(名)　[蚊柱]　夏ノ夕暮ニ、蚊ノ、軒端ナドニ、柱ト見ユル如ク、竪ニ連リテ、群リ飛ブモノ。[illegible]　サガリ如來」(たてりハ、さけずみナリ、其條ヲ見ヨ)

かは-じり　(名)　[川尻]　(一)カハシモ。下流　仁德紀、十一年四月「河水橫逆、以流末不レ駃」(二)カハグチ。河口　古事記、中(神武)「到ニ吉野河之河尻ニ」

かは・す・ス・セ・サ・シ・セ　(他動、四)　[交]　〔交ふ(自動、四)ノ他動、惑ふ、まどはす。通ふ、かよはす〕(一)互ニ、モノス。相交フ。ヤリトリス。　萬葉集、十七ロ十「[illegible]、霍公鳥吹クラシ、奈呉ノ江ニ、配偶呼ビ可波之、鶴多ニ鳴ク」同、十八ニ十「[illegible]ノ川、中ニ隔テテ、向ヒ立チ、袖振リ可波之」「心ヲかはす」「手ヲかはす」「羽ヲ交す」(二)避ケテ翻ヘス。躲身「身ヲかはす」

かは-すずみ　(名)　[川納涼]　川ノホトリニテ納涼ムコト。　日次紀事、六、六月十九日、下鴨社「社司於ニ川合社前住吉社東河邊ニ修ニ六月祓ニ、自ニ今日ニ諸人參詣、或ニ河原納涼之遊ニ」狂歌若竹集、享和、[?]上、川納涼「芦川、ユフベ涼シク、ナリヒラヤ、女ナラネド、セナニ追風」

かは-すぢ　(名)　[川筋]　川水ノ、流レ行ク路筋。河脈　享保集成絲綸錄、二十四、寛保三亥年七月「總而、川筋ニ不レ限、云云」

かは-せ　(名)　[川瀬]　川ノ中ノ瀬。　萬葉集、十四ニ三十「刀禰川ノ、可波世モ知ラズ、タダワタリ」

かはせ　(名)　[爲替]　〔交ふノ使役ノ、交はするノ名詞形、かはせニテ、交替セシムル意ナリ、金ニ云フハ、爲替金ナド云フベキ略ナルベシ〕(一)此レヲ遣リテ、彼レヲ取ルコト。取替ヘニスルコト。交換　(二)他處ヘ現金ヲ送ル手數ヲ省カムガ爲ニ、此地ノ銀行、郵便局ナド[illegible]コト。[illegible]和、寛永ノ頃ヨリ始マレリト云フ、[illegible]時代ニハ、爲替座アリキ。[illegible]「替錢」

かは-せうえう　(名)　[川逍遙]　〔せうえう(逍遙)ノ條ヲ見ヨ〕(一)河邊ニテ逍遙ブコト。川狩。　古今集、四、秋、上「秋立ツ日、殿上人ドモ、加茂ノ川原ニ、川せうえうシケル供ニマカリテ、ヨメル」十五夜百首「[illegible]ニモ、ナロス網ノ手ハヘテ、ナゲサミタマフ、かはせうえう」(二)川舟ニ乘リテ遊ブコト。　謠曲、江口「江口ノ君ノ川逍遙ノ、月ノ夜舟ヲ御覽ゼヨ」

かは-せがき　(名)　[川施餓鬼]　川ニテ行フ施餓鬼。せがき(施餓鬼)ノ條ヲ見ヨ。　明和ノ川柳「川施餓鬼、屋形ハ初ノ、顔バカリ」

かはせ-ぎんかう　(名)　[爲替銀行]　爲替ヲ主トシ、殊ニ、外國爲替ノ業務ヲ取リ扱フ銀行。

かはせ-ざ　(名)　[爲替座]　江戸時代、爲替ヲ業トシタル商店。某某商人ニ、幕府ヨリ許可シタルモノナリキ、其業ハ、今ノ爲替銀行ノ如シ。

かは-せび　(名)　次條ニ同ジ。

かは-せみ　(名)　[魚狗]　〔古言、そにどりガ、せび、又、せみト轉ジ、更ニ、深山せみ、やませみニ對シテ、川せみト云フナリ〕古名、そび。鳥ノ名。大キサ雀ノ如シ、頭、頬ハ、綠ニシテ青斑雜リ、背ハ青翠ニシテ、翅ハ青白ナリ、尾ハ短クシテ灰色ナリ、[illegible]　みやまそび、山せみト云フ。翡翠

かは-ぞひ　(名)　[川沿]　川ニ沿ヒタル處。川ノホトリ。カハベ。カハバタ。河畔　萬葉集、九[illegible]「[illegible]そひノ、浪ノカケチヤ、ソメツラン、イハモト柱、モミヂシニケリ」顯宗即位前紀「イナムシロ、河濟蘇比楊、水行ケバ、ナビキ起キ立チ、ソノ根ハ失セズ」

かは-たけ　(名)　[革茸]　(一)[illegible]　(二)[illegible]たけノ一名。

かは-たけ　(名)　[河竹]　〔溝竹ノ義、御溝水ニ因ル稱ナラム、歌ニ多ク、河竹ノ流レト詠ムモ、此縁ナルベシ〕(一)清涼殿ノ東庭ノ、御溝水ノ傍ニ植エサセラレテアル竹ノ稱。中殿の竹トモ云ヒ、頭ヲメグラシテアリ、河竹ト云フ。(仁壽殿ノ吳竹臺ニ對ス)[illegible]ソク、かは竹ハ、[illegible]ノ方ニ寄リテ植エラレタルハ吳竹ナリ」[illegible]御抄、上「御溝、近日東庭淸涼殿任、移流」散木集、五、竹「[illegible]年ニ「ウレシヤナ、御代長臨ノ、かはたけモ、ソヨトコタヘテ、[illegible]ナリ」[illegible]今集、十九、[illegible]竹、カハラネバ、代代ノアトアル、シルベトゾ思フ」(二)[?]たけ(苦竹)ノ古名。御溝ノ竹、即チ、苦竹ナリシヨリノ名ナラム。苦竹　倭名抄、二十[illegible]「苦竹、[illegible]

二字ニ 全葉集、五、實、竹不レ啟レ色「よよ雖レド、面ザハリセズ、かはたけハ、流レテノ世ノ、タメシナリケリ」後撰集、十九、廿九「かはたけト云ヒテハ、流レテノ末ノ世、久シカルベキコトヲツヅクベキナリ」堂本集、七、三、上、女ノ許ヘ「君ト我レ、ムスボホレナバ、かはたけノ、流レテモミヨ、浮キフシヤアルト」

(二)次條ヲ見ヨ。

かはたけ-の-ながれ-のみ (名) 河竹流身 「遊女ノ生涯ヲ、ながれト云フ、昔、淀河ニ沿ヒテノ江口、神崎ノ船着ノ遊女、名高ク、小舟ニ乘リテ、客船ニ至レルヨリノ名ナリ、和歌ニ、河竹の流れト讀ミ馴レタルニ因リテ、(前條ヲ見ヨ)河、流れ、ニ寄セ、舟ノ浮きニ憂きヲカケテ、うき河竹の流れの身ナドト云フナリ」遊女ノ生涯ヲ云フ語。 遊女ノ身ノ上ヲ、ながれト云フガ、元ナリ、ソレヲ生業トスルヲ、流れを立つト云フ。 朝野群載、三、遊女記(大江匡房)河内國江口、攝津國神崎「倡女成レ群、棹ニ扁舟ニ着ニ旅舶ニ以薦ニ枕席ニ」 撰集抄、九、第八條「旅人ノ、往來ノ舟ヲ思フ、遊女ノアリサマ、イトアハレニ」 古淨瑠璃、小栗判官(萬治)ニ、照手姫、人買ニ、美濃ノ青墓ノ長ガ許ニ賣讓サレ「流れを立てザルヲ、長、憤リ、云云」謠曲、江口「殊ニタメシ少ナキ、かはたけのながれノ女トナル、前ノ世ノムクイマデ、思ヒヤルコソ悲シケレ」同、班女「うきふし繁キ、かはたけの流れの身コソ悲シケレ」運歩色葉集「河竹、傾城之異名」 天保ノ川柳「川竹ノ、殺シ文句ハ、拜ミンス」

かは-だち (名) 川立 「川邊ニ生ヒ立チタル者ノ意、山立ナドニ對ス」 水練ニ達シタルコト。泳グコト。又、ソノ者ノ稱。(舟子、漁夫ナド) 宗祇ノ記セル諺「木ノボリ、川立、馬乘ガスル」(乃毛ガ醉醒記) 堀河百首題狂歌(寛文)「川だちハ、川デハツルト、シラナミヤ」

かは-たび (名) 革足袋 「木綿足袋ナドニ對ス」皮ニテ作レル足袋。元ハ、革皮ナリシガ、後ニハ、揉革ニテ作ル、もみたびト云フ。無紋ノ革ナルアリ、燻革ナルアリ、紫ニ染メタルヲむらさきたびト云フ、(其條ヲ見ヨ)足袋ト云フモノ、元來、かはたびナリシナリ、(たびノ條ヲ見ヨ)江戸時代ニ、もめんたびトナル。今モ、能ノ狂言師ハ、革足袋ヲ用キル、其遺ナリ。 宇治拾遺、十一、第八條、田舍武士「猿ノ皮ノたびニ、沓キリハキナシ」 幸若、高館物語(室町時代)上「熊ノ皮ノもみたび」

かは-たらう (名) 河太郎 「惡太郎、鈍太郎ナド、同趣」 河童ノ異名。 風俗文選(寶永、許六)二、瀬水賦「川太郎ハ、相撲ヲ好ク」

か-は-たれ-どき (名) 昧爽 「かはたれハ、彼は誰ノ義、彼レハ誰レノ意、倘、仄暗クシテ、人ノ顔ノ見分ケカヌルヲ云フ、黄昏ヲ、誰そ彼ト云フト、同意ナリ、」 本朝文粹、一、源順、狂歌「夜行翁、夜夜警ニ火ヲ府中ニ呼曰ニ火危彼誰何ニ」一夜ノ明ケガタノ、ホノグラキ時。アカツキヤミ。 萬葉集、二十、三十三「曉ノ、加波多例等枳ニ、島蔭ヲ、漕ギニシ船ノ、(如ク)タヅキ知ラズモ」(防人ノ歌ナリ、身ノ行末オボツカナキヲ云フ)

か-は-たれ-ぼし (名) 昧爽ニ出ヅル星ノ名。曉明星ノコトナラムト云フ。 廻國雜記(文明)「曉ノかはたれぼしトアルハ、かはたれ時ヨリ出ヅル、太白ノコトナルベシ」

かはち (名) 顴額骨 「顔縁ノ約ナル、かふちノ、かはちト轉ジタルモノカ、破帛、かかは」 (一)かまち、つらがまちニ同ジ。字鏡、二「顴、頰也、可波知」倭名抄、三、「顴、[illegible]知、顴車也」 (二)車ノかまち。字鏡、四十「輔、車乃加波知」

かは-ぢさ (名) 川萵苣 草ノ名。流水ニ生ズ、莖圓ク、葉、對生シ、かはやなぎニ似テ薄ク、尖ラズシテ細鋸齒アリ、寒天ニハ紫色ヲ帶ブ、ちさニ代ヘテ食フベシ。春ノ末、苗、高サ一二尺、枝頭、葉間ニ、三寸許ノ穗ヲ生ジテ、淡紅花ヲ綴リ開ク、大キサ一分許、實、圓シ。水萵苣

かは-ちさ-の-き (名) 賣子木 ちさのきノ古名。 倭名抄、二十廿木類「賣子木、賀波知佐乃木」字鏡、五十「賣子木、河知左」

かはち-もめん (名) 河内木綿 河内國ノ諸郡ニ産スル、白キ綿布。地ノ強キヲ賞ス。

かば-ちや (名) 樺茶 「かばハ、蒲ニテ、其穗ノ色ナリ」 かばいろニ、茶色ノ多キモノ。茶褐色

か-はつ (名) 假髮 ソヘガミ。髢。

かは-づ (名) 河津 川ノ、渡ルベキ處。 萬葉集、十三十「彦星ノ、川瀬ヲ渡ル、左小舟ノ、行キ得テ泊テム、河津シオモホユ」

かは-づ (名) 河蝦 〔河之蝦ノ下略、(下ニ引ケル萬葉集ニ、河蝦ト書ケリ)秋之蟲(蜻蜓)ヲあきつト云ヒ、家之子(奴)ヲ竹取物語ニ、大盜人ノやつガ、云云、ト云ヘルガ如シ、づヲ濁ルハ、倭名抄ニ「豹、奈賀豆可美」トアル、中之神ナリ、河の蝦トハ、田ニ棲ム蛙ト別チテ云フ語ナリ、萬葉集、八、五十「我ガ宿ニ、黄葉ヅ蝦手、見ル毎ニ」(後ニ云フ楓ナリ、葉ノ形、蝦ノ手ニ似タリ)集韻「蝦、蝦蟇也」〕 (一)蛙ノ類ニテ、山河ニ棲ミ、秋、鳴クモノ。今、河鹿ト云フ。其條ヲ見ヨ。錦襴子

萬葉集、七、三「河蝦鳴ク、清キ河原ヲ、今日見レバ」同、九、五十「河蝦鳴ク、六田ノ川ノ、川楊ノ」同、十四、十「タサラズ、河蝦鳴クナル、三和川ノ、清キ瀬ノ音ヲ、聞カクシヨシモ」同卷、四十「神名火ノ、山下動ミ、行ク水ニ、川津鳴クナリ、秋ト云ハムトヤ」 (二)平安朝ニ至リテ、かはづハ、田溝ノ濁水中ニ棲ム蛙ト混ジテ、清流ニ棲ム河蝦ト云フモノハ、忘レラレタリトオボシ。(新撰字鏡、本草和名、倭名抄、等ニ見エズ) 萬葉集、八、廿「河津鳴ク、甘南備川ニ、影見エテ、今ヤ咲クラム、山吹ノ花」コノかはづなくハ、枕詞ノ如ク用キシモノナルヲ、山吹ト詠ミ合セタルニ因リテ、春ノモノトシテ、歌ナドニ混ジタルナルベシト云フ。 古今集、二、春、下「かはづ鳴ク、井手ノ山吹、散リニケリ、花ノサカリニ、逢ハマシモノヲ」伊勢物語、百八段ニ「夜毎ニ、かはづノアマタ、鳴ク田ニハ、水コソマサレ、雨ハ降ラネド」 中務集、かへるノ乾カレタルヲ、人ノオコセテ「カレニケル、かはづノ聲ヲ、春立チテ、ナドカ鳴カヌト、思ヒケルカナ」「井ノ中ノ蛙」蛙合戰」

かはづ-いくさ (名) 蛙軍 次次條ノ語ニ同ジ。 雪女五枚羽子板(寶永、近松作)源義教公道行ニ「蓮リ凄ス長池ヤ、水言遙分鳴ク蛙、蛙軍ノ勝負ニ、御身ノ上ノ占問ヘバ」 吾妙我集(慶安、石田未得)一、蛙「クチナハノ、大手カラメテ、取マケバ、かはず軍ノ、ニゲ道モナシ」

かはづ-がけ (名) 河津掛 「河津三郎ガ、俣野五郎ト相撲ヒシ時ノ手ナリナド云ヘリ」 相撲ノ手ノかけノ一種。今、ちよひなげト云フ。其條ヲ見ヨ。 狂言記、見物左衞門、相撲「アフリガケ、かはづがけ、コノヤウナ手ヲ知ッテ居ル」

かはづ-がっせん (名) 蛙合戰 蛙ノ、アマタ群リテ、鬪フ事アルコト。カハヅイクサ。 續紀、二十九、神護景雲二年七月「肥後國、

云云、蝦蟆陳列、[illegible]七丈こ」 著聞集、二十、魚蟲禽獸[illegible]蝦蟆千集リテ、カギリテ、食ヒアヒケリ」狂言[illegible]ゲテ、水ギハ立シ、蛙がっせん」

かはづかへ (名) [川支] かはどめニ同ジ。東海道中膝栗毛(文化、一九)三編、上「大井川ノ川支ニテ、[illegible]セシガ」

かはづたひ (名) [川傳] 川邊ニ沿ヒテ行クコト。

かはっぱ (名) [illegible]河童ノ約」 河童ニ同ジ。(西國)

かはづら (名) [川面] 川ニ向ヒタル處。源、十八、松風「川づらニ、エモイハヌ松蔭ニ、何ノイタハリモナク、[illegible]云云」

かはつるみ (名) 皮交[illegible]ノ義、[illegible]みト云フ語モアリ」手淫。太秦牛祭祭文[illegible]手[illegible]ト云フ」[illegible]ニ「或抄物ニ、傳事ヲ行ハルルニツキテ、一生不犯ノ僧ヲ選バレシニ、一老僧、皮つるみハイカニト問ヒシ人アリ、皮つるみハ、後ノ書ニきせはぎトモ云ヘリ、[illegible]ノコトナリ」(或抄物トハ、宇治拾遺ニテ、其卷一ニ見ユ)

かはと (名) [河門] 「水門、瀬門、洞越、と(門)ノ條ヲ見ヨ」川ノ落合。川合。川口。[illegible]「千鳥鳴ク、佐保ノ河門ノ、清キ瀬ヲ、馬打チワタシ、イツカ通ハム」同、五廿「春サレバ、[illegible]ノ、[illegible]ニハ、鮎子サバシル、君待チガテニ」同、十二「天ノ河、河門八十アリ」

かばと (副) 烈シキ物音ニ云フ語。[illegible]シテ、かぱかぱと。保元物語、二、白河殿攻落事「馬ハ屏風ヲ倒スガ如ク、かばと倒ル」太平記、二十、結城入道地獄道事「崇波と[illegible]、[illegible]ばかば、ソヨソコト[illegible]テワタシ」[illegible]

かはとこ (名) [河床] 川ノ、流ルル地。川敷。[illegible]「何レノ川モ、[illegible]云云、少少充モ、川床ハ埋リ申事ニ候」

かはとぢ (名) [革綴] 洋書ノ表紙ノ、革製ナルモノ。

かはどほり (名) [川通] 川沿ノ地。

かはどめ (名) [川止] 川ニ、大イニ出水シテ、通行人ノ渡船、川越ヲ止ムルコト。カハヅカヘ。[illegible]「道中奉行江、道中川筋出水ニ而、川留有レ之候節、云云」

かはな (名) [水苔] 〔川菜ノ義ナラム〕今云フ、かはあをのり、かはもづくナルベシト云フ。[illegible]「水雲、[illegible]、川菜、云云」倭名抄、十七九水菜類「水苔、一名、河苔、加波奈」古今傳授、三草ノ一トス。古今集、十、物名、かはなぐさ「ヌバタマノ、夢ニ何かは、なぐさマム、ウツツニダニモ、アカヌ心ヲ」

かはなか (名) [川中] 〔川上、川下ニ對ス〕川ノ中央。中流。[illegible]「[illegible]カニ流レ行キテ、川中ノ洲サキニ押シ上ゲラレヌ」

かはなかじま (名) [川中島] 川ノ中ニアル島。「川中島ノ合戰」

かはながれ (名) [川流] (一)川水ニ流ルルコト。甲陽軍鑑、一、品第一、甲州法度之次第「一、河流之木、井、[illegible]之事」瓢簞ノかはながれトハ、浮キテ、落チツカズ、浮氣アルコトヲ云ヒ、纖槌ノかはながれトハ、柄ハ上ヲ向キ、頭ハ沈ム、人ノ、他ニ對シテ、頭ノアガラヌコトヲ云フ。(二)カハイリ。川水ニ流サレテ、溺レ死ヌルコト。溺死

かはなみ (名) [川波] 川ノ上ニ立ツ波。萬葉集、七「[illegible](大和)、[illegible]ノ、[illegible]ツラシ」

かばね (名) [骨] 幹骨ノ略轉カト云フ、(こらまらぬ、ほまらぬ。ほつえ、はつえ(末枝)」(一)骨。[illegible]「[illegible]」[illegible]別ニ四支諸骨ニ」(二)死ニカバネ。シカバネ。死シタル[illegible]。[illegible] 神代紀、下「[illegible]天、便遣[illegible]」[illegible]」[illegible]ニカバネ」

かばね (名) [可婆[illegible]姓戸] 〔此語、漢字ノ、當ツベキナシ、姓、又、戸、又、骨名トモ、皆、借字ナリ、(戸、骨名ハ、骨ノ訓ヲ借レル字)かばねハ、天武紀、下、十三年ニ、族姓トアリ、續紀、二十九ニ、根可婆[illegible]トアリ、頭根、又、株名ノ轉ニテ、(隼ハ、はやつばさノ略轉)部族統一ノ稱ナラム、新羅ニ骨品ト云フコトアリ、(一家族ノ戸口ノ多少ニ因リテ、氏族ヲ級別シタルモノ)ソレニ基ヅク語ト云フ說ハ、借字ノ骨ニツキテノ考ナリ、かばねノ、[illegible]セラルベキモノナルニ當ラズ」上代ノ職名。(其部族ヲ統理スル職ナルベシ)世襲シテ、其家筋ノ稱トナレルモノ、稍、爵ニ似タリ、事アレバ[illegible]セラル、(氏ノ、系統ニ不變ナルト、[illegible])臣、連、伴造、國造、[illegible]、村主、[illegible]ナド、臣、連ノ上ナレド、地方官ナレバ、國造ノ中ナリ、臣ノ族ノ長ヲ大臣ト云ヒ、連ノ長ヲ大連ト云フ、順位ハ、臣、連、伴造、國造トス、(雄略紀、皇極紀)其他ノ次第ハ知ラレズ、天武天皇ノ御代ニ至リテ、改メテ八級ニ立テラレ、[illegible]ニ賜ヒテ、[illegible]ヘテ稱シテ、家筋ノ[illegible]トナレリ、[illegible]眞人三[illegible]、藤原朝臣仲麻呂、大伴宿禰家持、山上臣憶良、吉田連宜、ナド稱スル、是レナリ、[illegible]トアリテ、[illegible]ト改セラレス。[illegible]部一人二人ニ、其負ヒテ仕ヘマツルベキ姓名賜フ」同、十八、天平勝寶三年[illegible]名之[illegible]氏二[illegible]同、二十九、[illegible]ヘテ、遠ク流ス罪ニ治メタマフ」拾芥抄、中、[illegible]

かばねぐさ (名) [女青] 屍草ノ義[illegible]甚シキヨリ云フカ」へくそかづらノ古名。倭名抄、二十「女青、[illegible]久佐」

かはねずみ (名) [川鼠] 鼠ノ一種[illegible]溝、ナドノ石岸ノ間ニ穴居シ、水ヲ[illegible]リ、小魚ヲ捕ヘ食フ、大キサ三四寸、身[illegible]ク、尾短ク、[illegible]アリテ、色黑シ、又、[illegible]色、或ハ、灰色ノ斑アルモノモアリ。水鼠

かはのかみ (名) [河神] 川ヲ守ル神。河伯 倭名抄、二「河伯、河之神也、[illegible]」

かはのぞみのはらへ (名) 河臨祓 小兒ノ生レタル時、陰陽師ノ、川邊ニテ祓スルコト。又、かはのぞみのまつり。(貞丈雜記、一) 明月記、建永元年八月四日「今日河臨祓、長清爲使」 百練抄、十五、寛元元年八月十五日「春宮御河臨御祓、云云」 蜷川親元日記「河臨祭、多田河原被執行」

かはのぞみのまつり (名) 河臨祭 前條ノ語ヲ見ヨ。

かはのぼり (名) 川上 川ノ流レニ沿ヒテ、源ノ方ヘ行クコト。川ヨノボルコト。サカノボルコト。遡 溯 泝 古事記、下(仁德)五長歌「ツギネフヤ、ヤマシロ川ヲ、迦波能煩理、ワガノボレバ、川ノベニ、オヒタテル」

かはのり (名) 川海苔 カハナ。カハアヲノリ。カハモヅク。

かはバオリ (名) 革羽織 もみかはニテ作レル羽織。褐色、綠色ナドニ染ム、防火ニ用ヰ、又、寒ヲ防グニ用ヰル。一柳家記「金銀斗付之猩差、羊之革羽織、爲褒美四郎右衛門ニ給之」 江戸時代ヨリ、明治時代ニカケテ、大工ノ棟梁、鳶ノ頭ナドノ、歳の市ニ着粧ヒタルモノアリキ。 明和の川柳「革羽織、ハグレマイゾト、ツカマラセ」 天明の川柳「鳶口ヲ、持タヌデ市ヘ、行クト見エ」

かはばかま (名) 革袴 もみかはニテ作レル袴。 江家次第、二、大臣家大饗「犬飼(猶子、細布衣、狩革袴)」 翁草、三十一「其頃、朝鮮人ノ方ハ大半治リ、武三十里ノ間ハ、敵モ無レバ、眞鍋神谷モ、革羽織、革袴ヲ着テ、出向居ニ」

かははじかみ (名) 秦椒 〔皮椒ノ義ニテ、皮ヲ食用トスル、からかはニ因ル名ナラム〕 はじかみ(椒)ノ條ヲ見ヨ。 本草和名、上、十三「秦椒、加波波之加美」倭名抄ニ「呉茱萸、加波波之加美」トアル、加波ハ、加良ノ誤)

かはばしら (名) 川柱 川中ニ殘リテ立テル橋柱。 西鶴日記「朽チモセヌ、此川ばしら、殘ラズバ、昔ノ跡ヲ、イカデ知ラマシ」(長柄ノ橋)

かはばた (名) 川端 川ノ邊。岸。河畔 宇治拾遺、十一、第九條「桂川、云云、河ばたヘ、車ヤリ寄セテ立テレバ」 夫木抄、二十九「川ばたノ、岸ノ額ノ木ノ、葉ヲ繁ミ、道行ク人ノ、宿ラヌハナシ」

かはばり (名) 革張 革ニテ造リタルコト。(布張ナドニ對ス)「革張ノ匣」

かはひ (名) 川合 かはあひノ約。其條ヲ見ヨ。

かはび (名) 川傍 〔畝傍山アリ〕 かはべ(河邊)ニ同ジ。 萬葉集、十四「秋風ニ、靡ク可波備ノ、ニコ草ノ」

かはびたりもち (名) 川浸餅 「海錄(山崎美成)十八、第九十九「十二月朔日、川びたり餅トテ祝フハ、石川家(伊勢、龜山侯)ノ先祖、大坂落城ノヲリ、主從四五人、堀ニ漬リテ助カリショリ、其日(十二月朔日)川びたりトテ、餅ヲ搗キ祝フガ、普キ風俗トハナレルト也」 伊豆ノ田方郡、原保村ニテ、十一月一日、牡丹餅ヲ川ヘ投ゲ入レテ、水神ヲ祭ル、川びたりト云フ」 陰暦十二月朔日ニ、餅ヲ搗キテ祝フコト。おとごのもちトモ云ヒ、水難ヲ避クト云フ、中國、九州ニテハ、川わたりもちト云フトゾ。 俳諧歳時記(享和)「おとごの餅「江戸ノ俗、コレヲかはびたり餅ト云フ、俗傳、コレヲ食ヘバ水難ナシト」

かはびらき (名) 川開 夏時、川納涼ヲ始ムル祝ヒ。江戸、兩國川ニテハ、陰暦五月二十八日トシタリ、此夜、川中ニテ盛ンニ花火ヲアグ、萬治年間ニ始マリ、享保十二年、大花火、仕掛花火、起リ、遊船、川ニ滿テリ、兩國、吉川町ノ玉屋、同、横山町ノ鍵屋、花火ノ製造ヲ請負ヒキ、玉屋ハ兩國橋ノ上流ニテアゲ、鍵屋ハ下流ナリ、見ル者、花火ヲ喝采スルニ、たまや、かぎやト叫ブ、今モ、適宜ノ日ヲ定メテ行フ。

かはびらこ (名) 〔川邊ニひらひら飛ブ意カ、つばびらこ(燕)モアリ、こハ、大葉子、巣守子、殼子ナドノこニ同ジ〕 てふ(蝶)ノ古名。 字鏡六「蝶、加波比良古」

かはふ (名) 家法 (一)家ノ内ノオキテ。家憲。 後漢書、質帝紀「各令隨家法」 (二)家傳ノ法。(藥法、藝術ノ道ナドニ)

かはふ (名) 苛法 (一)苛酷ナル法律。 史記、高祖紀「父老、苦秦苛法久矣」 (二)ムゴキコト。キビシキコト。 太平記、廿四、依山門嗷訴公卿僉議事「臨其家家、可致苛法之由」

かばふ (他動、四) 庇 〔あばふト通ズルカ、あひ、かひ。(間)あの、かの(彼)〕 害ハヌヤウニ守ル。アバフ。イタハル。回護 庇護 擁護 義經記、七、如意渡事「君ヲかばひマヰラセムトテ、現在ノ主ヲ打チタテマツルゾ」「身ヲかばふ」「子ヲかばふ」

かはぶえ (名) 皮笛 〔脣ノ皮ニテ、吹ク義ト云フ〕 嘯ヲ吹クコト。口笛。 源中最祕抄、下(紅梅條)天慶五年正月七日「引青馬、酒盃十一巡、王卿有酒氣、吹皮笛、今日李部王記、吹嘯之由有之」

かはふね (名) 川船 (一)船ニテ、川ヲ行クコト。 仁德紀、三十年十一月「泝江于山背」 (二)川ニ用ヰル船。高瀬船、傳馬船ノ類。(渡海船ニ對ス) 枕草子、二、二十段、心ゆくもの「川舟ノ下リザマ」

かはふばこ (名) 革文箱 革造リノ文箱。 抱一ガ句「さざん花ヤ、根岸ハ同ジ、垣ツヅキ」さざん花ヤ、根岸タヅヌル、革ふばこ」

かはべ (名) 膚 〔皮上ノ約、(尾上、をのへ)肉上トモ云フ〕 はだへニ同ジ。ハダ。 字鏡三「肌膚、加波戸」 名義抄「肌、カハベ、ハダヘ、シシベ」

かはべ (名) 河邊 川ノホトリ。カハバタ。 拾遺集、八、雜、上「大井川、かはべノ松ニ、コトトハム、カカル御幸ヤ、アリシ昔ヲ」

かはほね (名) 骨蓬 〔川骨ノ義、根、腐骨ノ如シトアリ〕 水草ノ名。今、音便ニ、かうほねト云フ。其條ヲ見ヨ。 本草和名、下、十七「骨蓬、加波保禰」 倭名抄、十七、水草類「骨蓬、加波保禰、根如腐骨」

かはほり (名) 蝙蝠 〔川守ノ轉、(守る、まもる、壒嚢抄、一、五十「扇ヲかはもりこ)井守、(蠑螈)屋守(守宮)ノ例ナリ、河岸ノ石間、橋下ナドニ棲メバ、名トス、靜岡ニテ、かうぶりト云フ〕 (一)今、音便ニ、かうもりト云フ。其條ヲ見ヨ。 字鏡、十「蝙蝠、加波保利」 本草和名、下、十六「伏翼、一名、蝙蝠、加波保利」(倭名抄、同ジ) (二)次條ノ、蝙蝠あふぎノ下略。但シ後ニ云フ、末廣、卽チ、七本骨ノ中啓。(開キタルハ、蝙蝠ノ翼ヲ伸ベタルガ如シ) 九條右大臣集「かはほりノ扇、奉リタマフトテ」 源、三十四、下、若菜、下「昨夜ノかはほりヲ落シテ、コレハ風ヌルクコソアリケレトテ、御扇ヲ置キタマヒテ」 榮花物語、十七、

[illegible]

かはほり-あふぎ（名）【蝙蝠扇】〔あふぎハ、蝙蝠（かはほり）ノ翼ヲ開張スルニ擬ヒテ作リ出デシモノナリト云フ〕あふぎ（扇）ト云フニ同ジ。下略シテ、かはほりトノミモ云フ。[illegible]云、蝙蝠扇[illegible]装束抄、檜扇「蝙蝠トハ、今ノ末廣也、云云、蝙蝠ハ、かはほり[illegible]」[illegible]榮花物語、十七、音樂「宮ニ聞エタマヒケル頃、かはほりのあふぎ奉りタマフトテ」

かはほり-バオリ（名）【蝙蝠羽織】羽織ノ、短クシテ、腰ノアタリマデナルモノ、寛永ノ頃、行ハル。尤草子（寛永）短きものゝ「かはほりばおり」

かは-また（名）【川股】川ノ、枝川ヲナセル處。河派。[illegible]紀、十三年九月、[illegible]江ノ、菱殿ノ」仁徳紀、六十七年十月「於吉備中國川嶋河派（かはまた）、有大虬」

かは-みづ（名）【川水】川ノ、流ルル水。蜻蛉日記、上、上「[illegible]、かはみづハ、岸ニモマサル、モノニゾアリケル」

かは-みどり（名）【蘇合】そがふかう（蘇合香）ノ條ヲ見ヨ。本草和名、上五十「蘇合、加波美止利」[illegible]「蘇合香、カハミドリ」字類抄「師子矢、カハミドリ」香要抄「蘇合之、和名、加[illegible]利、唐[illegible]和名ニ乎」

か-はん（名）【加判】公文ニ署名シ、花押ノ判ヲ捺スニ參加スルコト。（連署）連判。豐臣氏、徳川氏ニテハ、大老、老中ノ職ニ列スルヲ稱スル語トナル。コレ[illegible]

か-ばん（名）【加番】徳川幕府ノ職名。定番ナドノ本職ニ加ハリテ、勤ムル職。[illegible]

カバン（名）【鞄】〔蘭語、Kabas.ノ訛ニテモアルカ、字ハ、革包ノ合字〕革、布ナドニテ、包ミ作レル手提袋。近年、西洋ヨリ入リ、專ラ、旅行ノ用トス。大ナルヲ、とらんくト云フ。

かは-むかひ（名）【川向】川ヲ隔テテ向ヒ合ヒタル、彼方（カナタ）ノ岸。カハヲチ。カハゴシ。カハムカフ。對岸 保元物語、二、白河殿夜討事「[illegible]氏カ、平氏カ、名乘レ、聞カム、云云、河向ひ二控ヘテ曰ク、下野守殿ノ郎等、云云、[illegible]ヲ承リテ候」

かは-むかふ（名）【川向】前條ニ同ジ。「かはむかふノ火事」

かは-むし（名）【毛虫】〔毛生蟲（ケハエムシ）ノ轉ニモアルカ、氈モ、毛裳ナルベシ〕毛蟲（ケムシ）ノ古名。倭名抄、十九「毛蟲、一名、烏毛蟲、[illegible]」[illegible]「かはむしノ、[illegible]ハナルナリ」[illegible]「[illegible]かはむしノ、毛深キサマヲ、[illegible]モチテノミ、守ルベキカナ」

かは-め-だけ（名）【皮目竹】竹細工ナドニ、竹ノ膚皮ヲ、ソノママ用キルモノ。

かは-もづく（名）【川水雲】形、色、あをのりニ似テ、[illegible]ニ生ズ、食フベシ、常ニ、あをのりニ僞ル。カハアヲノリ。陟釐

かは-もり（名）【川守】渡守（ワタシモリ）ニ同ジ。夫木抄、十「タナバタノ、天ノ川もり、心アラバ、[illegible]渡スナ、[illegible]」

かは-や（名）【厠】〔川屋ノ義、家ノ側ニ設クル意、後架ノ、屋後ノ架設ナルト、同意ナリ、[illegible]トモ云フ、川ニ架シ作レバ云フトノ説アレド、川ナキ地ニハ、イカガスベキ〕大小便ノ用所。雪隠（セッチン）。後架。便所。閑所。隱所（インジョ）。西淨（セイヂャウ）。ウラテウヅバ。ハバカリ。古事記、中（景行）四十「厠（カハヤ）」倭名抄、十三十四「厠、圊、加波夜」古事談、三、僧行「叡山ノ平燈大徳、云云、或日、朝ニ、河屋ニ居タリケルガ、[illegible]バカリヲ[illegible]シテ、[illegible]了」[illegible]一、大嘗「[illegible]者ノ休所トテ、外記史ノ座ノソバナド、便宜ノ所、一間ニ御簾カケマハシテ、云云、[illegible]香ノ折ハ、清器ヲ置キ、大納言ノニハ、板ニ穴ヲエルナリ」

かは-や（名）【川屋】川邊ノ家。夫木抄、三十、屋「春ノ日ハ、行キモヤラレズ、[illegible]鳴ク、井手ノかはやニ、駒止メツツ」

かは-や（名）【皮屋】獸ノ皮ヲ、種種ニ製スル者。皮工

かは-やぎ（名）【川楊】かはやなぎニ同ジ。萬葉集、九「[illegible]、六田ノ川ノ、川楊ノ、[illegible]」十八「山ノ間ニ、雪ハ降リツツ、シカスガニ、此河楊ハ、萌エニケルカモ」

かば-やき（名）【蒲燒】〔蒲鉾燒（カマボコヤキ）ノ略、形モ、[illegible]色ナルモ、似タリ〕鰻ノ料理ノ名。鰻ノ頭、尾ヲ去テ、全身ヲ竪ニ串ニ

貫キテ燒キテ、適宜ニ切リタルモノ。[illegible]やきヲ賣ル」[illegible]小咄「松原通リノかばやきハ、名スマイカ」後ニ、江戸ノ[illegible]背ヲ[illegible]去リ、二三段ニ切リ、細ソキ竹串ヲ横ニ刺シテ燒ク、コレヲ、白燒（シラヤキ）ト云フ、ソレヲ蒸シテ、割下（ワリシタ）ヲツケ、再三、燒ク。[illegible]

かは-やく（名）【川役】川ノ運上。川ノ稅。

かは-やしろ（名）【河社】六月ノ大祓ニ、川邊ニ、棚ヲ設ケ、榊、篠竹ヲ立テ、神饌ヲ供ヘ、神樂ヲ奏スルコトト云フ、コレ、夏神樂トモ云フ。貫之集、四、夏神樂「行ク水ノ、上ニ齋ヘル、河社、川浪高ク、アソブナルカナ」夫木抄、九、[illegible]「かはやしろ、[illegible]日ハ[illegible]トモ、[illegible]思ヘ[illegible]」

かは-やなぎ（名）【川楊】やなぎノ條ヲ見ヨ。

かはゆ-が・る・ル・レ・ラ・リ・レ（他動、四）【愛】カハユク思フ。イツクシム。愛ス。かはいがる。[illegible]「[illegible]花登デ御座ル」

かはゆ-さう-ま（副）【愍然】〔次條ノ（一）ヲ見ヨ〕人ノ、愍然（フビン）ナルヲ、思ヒヤル意ニ云フ語。かはいさうな。イタハシク。[illegible]ノ[illegible]ニ「かはゆさう[illegible]思フ」

かはゆ・し・キ・ケレ・ク・ク（形、二）【愍然】〔顔映（カホハ）ゆしノ略、（おほます、おます）面（オモ）はゆし、眼（マ）ばゆし、同例、見ルニ堪ヘヌ意〕（一）イタハシ。カハイサウナリ。フビ

ンナリ。氣ノ毒ナリ。舊、今昔物語、二十六、第五語「光宅ニ、刀ヲ突立テ、箭ヲ射立テ、殺サムハ、ナホかはゆし」撰集抄、一、增賀上人「宰相ノ公ノ、物ニ狂フトテ、見ル同朋モアリ、又、かはゆしトテ、見ヌ人モ侍リケル」同、二、佛西上人「法勝寺ノ邊ニ、殊ニ寒ク、かはゆゲナル乞食ニ、着物ヲ脱ギクレテ」(二)イタハシキ意ヨリ轉ジテ、愛シ。カハユラシ。愛ラシ。カハイイ。可愛 (三)小サクシテ、美シ。北條時分譲留「かはゆい子ニハ旅サセヨ」

かはゆ-らし・シキ・シケレ・シク・シク（形、二）可愛 〔前條ノ語ノ、かはゆしノ語根ニ、形容接尾語ノらしノ附キタルモノ、憎らしナド、同趣〕 カハユク見ユ。イツクシ。愛ラシ。カハイイ。かはいらし。

かは-よど（名）川淀 川水ノ、淀ミタル處。川水ノ、湛ヘトドマル處。萬葉集、三 三十六「ヨシヌナル、ナツミノ河ノ、川余杼ニ、鴨ノ鳴クナル、山カゲニシテ」

かはら（名）河原 〔かははらノ約〕（一）川沿ノ平地。川ノホトリ。神代紀、上 十二「河邊」 古事記、中(景行)五十六 長歌「大河波良ノ、植草」 雄略紀、五年三月「甘檮丘東之川上」川上、此云三簡播羅二 （二）專ラ、川ノホトリノ、水涸レテ、沙石アル處。磧 字鏡 三十九「磧、砂聚也、加波良」 神樂歌、採物、篠「篠分ケバ、袖コソ破レメ、利根川ノ、石ハ踏ムトモ、イザ河波良ヨリ」 盛衰記、二十二、衣笠合戰事「京童部ノ向礫、河原印地ノヤウナリ」(いんぢハ、小石ヲ打チ合フナリ)

カハラ（名）瓦 〔梵語、迦波羅(Kapāla.) 朝鮮語ニきわあト云フモ、同語原ナルカ、崇峻紀、元年ニ、百濟國、寺工、瓦博士ヲ獻ズトアリテ、瓦ハ、寺ニ用キ始メタリ、齋宮ノ忌詞ニ、寺ヲ瓦葺ト云フ〕 泥土ニテ造リ、瓦竈ニ入レテ、燻ベ燒キタルモノ。屋ノ上ヲ葺キテ、雨露ヲ凌ギ、或ハ、地ニモ敷ク、形、種種ナリ。字鏡 二十「瓵、甓、加波良」 倭名抄、十三 十「瓦、加波良」 牡瓦、牝瓦、圓瓦、平瓦、鐙瓦、唐草瓦、熨斗瓦、巴瓦、鬼瓦、立瓦、筒瓦、敷瓦、海鼠瓦、等、各條ニ注ス。

カハラ（名）骨 〔屋ノ瓦ヲ伏セタルガ如シ、覆ハレテ堅固ナル意、甲ト云フモ、同ジ〕（一）骨。但シ、髑髏ト、膝骨トヲ云フ。倭名抄、三 二「顱、腦蓋也、加之良乃加波良」 同卷 七「膝蓋、膝骨也、比佐乃加波良」 （二）龜ノ甲。龜ノかはら。音便ニ、かうらト云フ。

カハラ（名）龍骨 〔骨ノ義ニテ、船ノ脊骨ノ如キ意カ、或ハ、龍骨ノ文字讀ノ語カ、英語、Keel.〕 海船ノ底ノ外部中央ニ、舳ヨリ艫ニワタリテ、全體ヲ支フル長キ材。コレニテ、能ク海波ヲまぎる、因リテ、まぎりかはらトモ云フ。又、敷。(日本ノ川船ニハ無シ)寛永年中、外洋出航ヲ禁ジタル時、船ノ龍骨ヲモ、共ニ禁ジタリキ。神功攝政前紀、十月「綾羅縑絹ヲ載セテ八十艘船」 平家物語、二、新大納言被流事「二ツかはら三 棟ニ造リタル舟ニ乘リ」 和漢船用集、十「季仲ガ句ニ「船底參沙」鼠璞曰、登萊一帶、惟平底可用、過洋用尖底」綱 航、船底也、綱ハ、胴也、支體ニ法ル、鋪トモ云フ、云云、下ニ志くノ心カ、云云、平家物語ニ、ふたつかはら三ツ棟ニ作リタル舟ニ乘ルトアルハ、胴かはら、舳かはらノ、二ツノかはらナルベシ」 薩都剌詩「漢水揚波洗龍骨」

かはら-いんぢ（名）川原印地 いんぢノ條ヲ見ヨ。

かはら-う（名）河童 〔河童ノ約轉〕 河童ノ異名。

かはら-うつぎ（名）河原空木 毒空木ニ同ジ。

かはら-おはぎ（名）菊 〔河原薺蒿ノ義ナルベシ〕 又、かはらよもぎ。野菊ノ古名。盛ンニ花ヲ賞スル菊ハ、外國種ナレバ、きくト音讀ス。本草和名、上 十四「菊花、加波良於波岐」 倭名抄、二十 十七「菊、加波良與毛木、一云、可波良於波岐」 字鏡 八十五「菊花、辛與毛支」

カハラ-がき（名）瓦垣 練屏ノ類。三長記、建永元年五月廿七日「諸寺瓦垣門等、修造」

かはら-か-ニ（副）清爽 「かはらかハ、乾らかノ假名遣ナルベキカ、乾キタルハ、ヤガテ爽やかナリ、爽らかト云フ語モアリ」 さはやかニ。サッパリトシテノ意ナリト云フ。サハラカニ。源、二、帚木「モトノネザシ賤シカラヌガ、安ラカニ身ヲモテナシフルマヒタル、イトかはらかなり」 同、三十四、上、若菜、上「尼姿、イトかはらかニ、貴ナルサマシテ」 紫式部日記「物清クかはらかニ、人ノ娘トオボユルサマシタリ」 とりかへばや、一「色白ク、頭イト青ヤカニ、アテニ、かはらかニテ」

カハラ-がま（名）瓦竈 瓦ヲ燒キ作ル竈。土ニテ高ク室ヲ作リ、前ニ孔アリ、又、窓アリテ、開閉スベシ、瓦ヲ其中ニ積ミテ、薪ニテ燻ベ燒ク。カハラヤ。又、陶器ヲ燒クニモ云フ。スエガマ。窯 倭名抄、十三 十四「窯、燒瓦竈也、加波良加萬」 字鏡 十「窯、燒瓦陶、瓦竈加萬」

カハラ-け（名）土器 〔瓦笥ノ義〕（一）土燒ノ、釉ヲ用キヌ陶器ノ總稱。素燒ノヤキモノ。陶坏。枕草子、七、六十四段「釋奠、云云、聰明トテ、上ニモ、宮ニモ、アヤシキ物ナド、かはらけニ盛リテ參ラスル」 （二）又、其製ノ杯ノ稱。瓦盃 源、五、若紫「岩ガクレノ苔ノ上ニ並ミ居テ、かはらけ參ル」 撰忠集、盃浮ニ水流ニ「水波ニ、流レテクダル、かはらけハ、花ノ蔭ニモ、暫ラサリケリ」(うちくもりニカケテ云ヘルカ)

かはら-げ（名）川原毛 馬ノ毛色ノ名。白馬ノ、たてがみノ黑キモノ。騧 倭名抄、十一 六「騧、白馬黑鬣之馬也、騧馬、川原毛也」 吾妻鏡、二、壽永元年正月廿八日「一疋、河原毛」

カハラけ-な（名）鷄腸草 〔土器菜ノ義ニテ、其葉ノ狀ニツキテ云フ語ト云フ〕 草ノ名。地ニ就キテ叢生ス、葉ハ圓クシテ、五六分、長キ蔕アリ、春ノ末、三五尺ノ莖ヲ出ス、葉、長クシテ互生シ、蔕、無シ、穗ヲ出シ、五瓣ノ小花ヲ開ク、青白色ナリ。此菜ヲ、春ノ七種ニ用キル時ハ、佛座、或ハ、田平子ト稱ス。

カハラけ-なげ（名）土器投 京都ノ愛宕山、江戸ノ飛鳥山ナドニテ、花見ノ時ナド、土器ヲ、力ヲ極メテ、遠ク、山下ニ投ゲテ興ジタルコト。文化ノ川柳「土器ヲ、投ゲル手附デ、醫者飲ミ」 同「かはらけガ、逸レテ櫻ノ、花ガ散リ」

かはら-こじき（名）河原乞食 かはらものヲ見ヨ。

かはら-さいこ（名）河原柴胡 （一）原野ニ多シ。宿根ヨリ生ズ、葉ハ胡蘿蔔ニ似テ厚ク、背ニ白毛アリ、面、深緑ニシテ、地ニ布キテ生ズ、夏、莖ヲ出スコト五六寸、枝ヲ分チテ、五瓣ノ黄花ヲ開ク、へびいちごノ花ニ似テ小サシ。一名、ウラジロ。ウラカゼグサ。委陵菜。

(二)又、草くり[illegible]ノ一名。

〜かはら-ささげ (名) [illegible] 草ノ名。[illegible] んづるノ異名。やはらぐさノ條ヲモ見ヨ。

カハラ-志 (名) 瓦師 (一)瓦ヲ燒キ作ルヲ業トスル者。瓦工 正德六年武鑑「御瓦師、[illegible]、寺[illegible]」(二)瓦ニテ屋ヲ葺クヲ業トスル者。長曾我部元親百箇條「大工、云云、瓦師、檜皮師、カベヌリ、云云、右職人質」

カハラ-づくり (名) 瓦作 (瓦燒)ノ(一)ニ同ジ。かはら志。かはらやき 榮花物語、十五、疑「[illegible]、瓦作りナドモ、數ヲ盡シタリ」

かはら-なでしこ (名) 河原撫子 なでしこノ條ヲ見ヨ。

カハラ-はん (名) 瓦版 土ヲ固メテ文字ヲ刻リ、ソレヲ燒キテ版トシテ印行スルモノ。目前ノ出來事ヲ、急ニ摺出シテ、讀賣ナドニシタリ。俳[illegible](元祿)「閑シヤ、心中オコス、土坂木」(笠附ノ木、閑水ノ點)

カハラ-ひ (名) 瓦樋 瓦製ノ樋。土管。新六帖、三「踏ミコユル、道ニ伏セタル、かはらひノ、朽ツトモ知ラジ、埋モルル身ハ」

かはら-ひは (名) 河原鶸 常ニ山中ノ水邊ニ居レバ名トスト云フ」形、常ノひはヨリ稍大キク、頭背ハ灰白ニシテ、背ニ黑キ斑アリ、眼ノ後ニ黑ミアリ、翅ハ蒼黑ニシテ、黃ヲ交ヘ、腹、白シ。

〜かはら・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (自動、四) 變 (かはるノ延、さはる、さはらふ(障)わたる、わたらふ(渡)」) 變ルト云フニ同ジ。萬葉集、十九「長歌「[illegible]ノ笑、夕[illegible]加波良比」同卷[illegible]長

[illegible]、[illegible]クリノ、[illegible]、[illegible]、[illegible]ニ」

〜**カハラ-ぶき** (名) 瓦葺 (一)屋ヲ、瓦ニテ葺キタルモノ。[illegible]、[illegible]、[illegible]ナドニ對ス) 瓦屋 齊明紀、元年十月「造ニ起宮闕、[illegible]、[illegible]二」[illegible]、[illegible]十一年「[illegible]、始以ㇾ瓦葺ㇾ之」(二)齋宮ノ忌詞ニ、寺ノ稱。(かはら(瓦)ノ條ノ語原ヲ見ヨ) 齋宮式「凡忌詞、内七言、云云、寺稱ニ瓦葺ニ」

〜**かはら-ふぢ** (名) 雲實樹 水邊ニ生ジテ、花形、藤ニ似タリ。蛇結ノ古名。其條ヲ見ヨ。倭名抄、二十[illegible]「本草云、雲實、加波良布知、[illegible]俗云、蛇結」

〜**かはら-ふぢ-の-き** (名) 皂莢 雲實ノ木ノ義、莢、葉、頗ル相似タリ」さいかちノ古名。本草和名、下「皂莢、加波良布知乃岐」康頼本草、上四十八「皂角、佐伊加知」

〜**カハラ-まつ** (名) 瓦松 (漢名ノ瓦松ノ文字讀、昨葉何草トモ云フ) 草ノ名。つめれんげノ古名。舊キ屋根ノ上ニ生ズ。崔融、瓦松賦、序「瓦松[illegible]下」[illegible]詩「[illegible]、池[illegible]、[illegible]瓦松[illegible]」[illegible] 康頼本草、上四十「昨葉何草、加波良末川、生ニ年久瓦屋上ニ瓦松」白氏文集、四、讀[illegible]「[illegible]不ㇾ來歲月久、[illegible]有ㇾ瓦有ㇾ松」[illegible]衣ハ、垣衣ナルベク、屋上ノ苔ニテ、末句ハ、瓦[illegible]ナリ」本草和名、上二十「垣衣、屋遊、古介」同卷四十「屋遊、瓦屋上青苔衣也、也乃宇倍乃古介」(屋上苔) 枕草子、四、四十三段「垣ナドモ皆破レテ、苔生ヒテナド[illegible]リツレバ、宰相ノ君ノ、かはらノまつハアリツヤ、ト應ヘタリツルヲ」(白氏文集ニ因リテ云ヘルナリ) 續古今集、十四、戀、四「荒リニケル、瓦ノ上ノ、松ノ根ノ、深クハイカガ、人ヲ頼マム」平家物語、七、[illegible]「瓦ニ松生ヒ、垣ニ蔦茂レリ」

かはら-まつば (名) 河原松葉 草ノ名。河邊、原野ニ生ズ、形、やへむぐらニ似

テ、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]十葉、[illegible]秋、枝ノ梢ニ、小枝ヲ分チ、七八寸ノ穗ヲ成シテ、細白花、聚リ開ク。蓬子菜

かはら-もの (名) 河原者 (賀茂河原ナドニ住ミ居ル故ノ名」(一)賤シキ人夫、雜役ノ者。伊勢守記、寬正六年、今出川夫人[illegible]「[illegible]、河原者」(二)ゑた。下學集(文安)上、人倫門「ゑた、屠兒也、河原者」運歩色葉集(天文)五「河原者、ゑた、たト云フ」 庭訓記「足納三砲衣ニ「川原者四五輩、先行預[illegible]ㇾ土」

かはら-もの (名) 河原者 (京都ノ四條河原ニテ興行シタレバ、呼ベルナリ) 歌舞伎役者ノ渾名。人ノ歡心ヲ買ヒ、玩弄物トナルヲ擯ケテ、河原乞食ナドトモ云ヒキ。江戶時代ニハ、賤民トシテ扱ハレタリ。似我蜂物語(寬永)「今ノ都ノハヤリモノ、かはら[illegible]、イラボノ[illegible]」古今[illegible]集(寬文)九、[illegible]、下、四條河原「[illegible]、日ハテレックト、打出ツル、波ノ音マデ、河原者カナ」

カハラ-もん (名) 瓦門 (上土門ニ對ス) 瓦屋根ノ門。

カハラ-や (名) 瓦屋 (一)瓦葺ノ家。[illegible]紀、九、[illegible]元年十一月「[illegible]立瓦舍[illegible]」(二)瓦竈。[illegible]後名抄、[illegible]「[illegible]、[illegible]加波良夜」本[illegible]「瓦竈」後拾遺集、十二、戀、二「忘レズヨ、又カハラズヨ、かはらやノ、下焚ク煙、下ムセビツツ」(三)瓦師。

カハラ-やき (名) 瓦燒 (一)瓦ヲ燒クコト。又、其職工。カハラヅクリ。カハラシ。七十一番職人盡歌合、四十四番、瓦やき「南禪寺ヨリ、イソガレ申シ候」 (二)土器ノ(一)ニ同ジ。

カハラ-やね (名) 瓦屋根 瓦葺ノ屋根。

(二)[illegible]、[illegible]ナドニ對ス) [illegible]

〜**かはら-よもぎ** (名) [illegible] (河原ノ艾ノ義ナルベシ) [illegible]、かはらよもぎノ條ヲ見ヨ。

かはら-よもぎ (名) [illegible] (河原艾ノ義、花、艾ニ似タリ、因陳トハ、冬春、陳葉ニ因リテ生ズル由ノ字ナリト云フ) 草ノ名。春、地ニ近キテ叢生ス、葉ハ、[illegible]蒿ニ似テ、白毛多シ、春ノ後、[illegible]ヲ出スコト二三尺、葉、互生シテ、[illegible]、[illegible]ニ細ソク、梢ニ至リ、愈、細リキコト[illegible]ノ如ク、毛無シ、夏秋ノ間ニ、枝ノ梢、葉ノ間毎ニ、白花ヲ生ズ、[illegible]ニシテ、後ニハ穗ノ如クナル、艾ノ花ニ似テ、甚ダ小サシ。茵陳蒿。

かはり (名) 變 變ハルコト。異ナルコト。異變。

かはり (名) 代 (一)代ハルコト。交替スルコト。又、其者。[illegible]、六、五十八回「[illegible]前守亡セニシ、かはりニナリニシ、云云」(二)身代ノ者。名代。代人。代理。[illegible] 宇治拾遺、四、第五條「カク宿サセタマヘルかはりニ、子ガ出ヅル」(三)ツクノヒ。償。償ニ代フル錢。延慶本、平家物語、五「直ヒ代リハナケレドモ、[illegible]ノ[illegible]ハ、[illegible]二[illegible]、[illegible]ハナシ、[illegible]、[illegible]、[illegible]ル[illegible]、[illegible]ヲ[illegible]ケルヲ、只今かはりナカリケレバ、[illegible]シオケ、かはりハ後ニ[illegible]レト[illegible]ケルノ」(四)代。價。[illegible]、[illegible]、[illegible]ナド、一杯[illegible]メテ、再ビ、同[illegible]ノヲ出スコト。(初切ニ對ス) 再進

かばり (名) 蚊鉤 川ニテ、鮎ナド釣ルニ用ヰル鉤。羽ニテ作ル、數アリト見ア、

魚ノカカルナリ。羽泛子。カガシラ。

かはり-あ・ふ（カワリ-オ・ウ） ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ（自動、四）［代合］互ニ代ハル。交代ス。「代りあノテ勤ム」

かはり-うら（カワリ-ウラ）（名）［變裏］裾まはしニ、異ナル染色ノ布帛ヲ用キルモノ。

かはり-がはり（カワリ-ガワリ）（副）［代代］（一）〔互ニ、代リテ。カタミガハリニ。カハルガハル。カハリバンニ。［輪番］源、五十、浮舟十六「田舍人ドモノ、宿直人ニテ、かはりがはり候ラヘバ」（二）タガヒニ。ヒキカヘ、ヒキカヘ。［交互］榮花物語、三十七、煙後「サルベキ折折ナム、かはりがはりニ、物御覽ジナドニ」

かはり-ぼっこ（カワリ-ゴツコ）（名）〔かけっくらノ條ヲ見ヨ〕互ニ、代ハリ合フコト。［輪番］天明ノ川柳「信濃マデ、かはりぼっこニ、負ッサリ」（善光寺佛ト、本田善光）

かはり-せん（カワリ-セン）（名）［替錢］〔寛永錢ト、文字ノ、變リ異ナル意〕江戸時代ニ、普通ニ通用セシ寛永錢ト異ナル錢ノ稱。古錢ノ條ヲ見ヨ。

かはり-は・つ（カワリ-ハ・ツ） ・ツル・ツレ・テ・テ・テヨ（自動、下二）［變果］全ク、變ハル。一變ス。續拾遺集、十七、雜、中「イカニ我ガ、結ビオキケル、元結ノ、霜ヨリサキニ、かはりはつラム」

かはり-ばん（カワリ-バン）（名）［代番］互ニ代ハリテ、番スルコト。代ハリ合フコト。［輪番］萬載狂歌集（天明、四方赤良）雜、上「殿居ノ代り番ニ、人ヲ起シテモ、起キカネ侍リケレバ」

かはり-め（カワリ-メ）（名）［變目］變ハリタルトコロ。ケヂメ。チガヒメ。差別。十訓抄、上、第三、十三條「延喜ノ先帝ト、當世ノ、イカナルかはりめガアルト、問ハセタマヒケレバ」

かはり-め（カワリ-メ）（名）［代目］物事ノ、相代ル時。「時候ノかはりめ」芝居ノかはりめ」

かはり-もの（カワリ-モノ）（名）［變者］常ノ人ト、一風變ハリタル氣性ノ人。イップウリウ。偏人。［畸人］

かはり-ゑ（カワリ-エ）（名）［變繪］玩具ノ名。繪ニ繪ヲ糊附ケシテ、折リカヘセバ、繪姿ノ變ハルヤウニ作リタルモノ。浮世風呂（文化、三馬）二編、上「替り繪トヤラ申シテネ、アッチヘコッチヘヒックリカヘッテ、役者ノ早ガハリノ繪ガ御座リマス」

かは・る（カワ・ル） ・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）［變］〔他動ノ變ふるニ對スル、自動ナリ、添ふる、そはる。加ふる、くはる〕異ナル狀ニナル。改マル。移ル。變ズ。萬葉集、二十四十五「吾ガ夫子ガ、宿ノ撫子、日ナラベテ、雨ハ降レドモ、色モ可波良ズ」日本紀竟宴歌「日月ノ行ク、星ノ宿ハ、可者留トモ、新羅ノ國ハ、舵ハ乾カジ」「形かはる」色かはる」心かはる」味かはる」

かは・る（カワ・ル） ・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）［代］〔變はる義〕（一）〔他ノ地位ニ立ツ。代理ス。古今集、四、秋、下「人ニかはりテ詠メル」「君ニ代はる」父ニ代はる」（二）此レ去リテ、彼レ入ル。交替ス。「番兵、代はる」

かは・る（カワ・ル） ・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）［轉換］〔交すノ自動ナリ、あらはす、あらはる〕細ソキ路ニ、兩車行キ合ヒ、互ニ避ケテ行キ過グ。船、岬ノ沖ヲ過ギテ、方向ヲ轉ズ。（人、其他、動物ニモ云フ）

かはる-がはる（カワル-ガワル）（副）［代］互ニ代リ合ヒテ。カハリガハリ。コモゴモ。孝德紀、白雉元年二月「四人代執二雉輿一」名義抄「代、迭、カハルガハル」

かは-わ（カワ-ワ）（名）［川曲］〔わ（曲）ノ條ヲ見ヨ〕カハクマ。カハワタ。川ノ流ノ、岸ニ入リ込ミタル處。［水隈］天武紀、下、四年四月「廣瀨河曲」倭名抄、五六伊勢國「河曲、加波和」

かは-わた（カワ-ワタ）（名）［川曲］〔わた（曲）ノ條ヲ見ヨ〕前條ノ語ニ同ジ。山家集、上「川わたノ、淀ミニトマル、流レ木ノ、浮橋渡ス、五月雨ノ頃」

かは-わたり-もち（カワ-ワタリ-モチ）（名）［川渡餅］かはびたりもちノ條ヲ見ヨ。

かは-わっぱ（カワ-ワツパ）（名）［河童］〔河童ノ約〕河童ニ同ジ。

かは-をさ（カワ-オサ）（名）［川長］船頭。舟人。源、四十四、橋姫十三「サシカヘル、宇治ノ川をさ、朝夕ノ、雫ヤ袖ヲ、腐シハツラム」

かは-をそ（カワ-オソ）（名）［川獺］かはうそノ條ヲ見ヨ。

かは-をち（カワ-オチ）（名）［川遠］川ノ遠方。川ヲ隔テタル彼方。川向ヒノ岸。［對岸］夫木抄、三十、屋「かはをちノ、埴生ノ小屋ノ、假枕、夢ニナシテモ、人ニ語ルナ」

かひ（カイ）（名）［代］〔交ふノ名詞形ノかひナラム〕代ルベキモノ。カハリ。アタヒ。萬葉集、十六三十「味飯ヲ、水（酒）ニ釀ミ成シ、吾ガ待チシ、代ハ曾テ無シ、直ニシアラネバ」（待酒ナリ、末句ハ、待チシ人ノ、直接ニ自身ニ來ラネバノ意ナリ、次ノ傳注ニ「正身不レ來」トアリ）

かひ（カイ）（名）［閒］〔閒ト通ズ、あれ、かれ。（彼）あばふ、かばふ。（庇護）或ハ、之閒ノ約トモ云フ、交ノ義トモ云ヘド、意、少シ通ゼズ〕閒。アヒダ。アハヒ。萬葉集、五八思二子等一長歌「瓜食メバ、子ドモ思ユ、栗食メバ、マシテ偲バユ、云云、麻奈迦比（眼ノ閒）ニ、モトナ懸カリテ、安眠シ寐サヌ」催馬樂、伊勢の海「伊勢ノ海ノ、淸キ渚ニ、之保加比（潮ノ閒）ニ、神馬藻ヤ摘マム、貝ヤ拾ハム、珠ヤ拾ハム」

かひ（カイ）（名）［峽］〔前條ノ語ニ同ジ〕山ト山トノ閒。甲斐國ノ名モ、是レナリ。古事記、下（雄略）三十一長歌「平群ノ山ノ、コチゴチノ、山ノ賀比ニ、立チ榮ユル、葉廣隈樫」雄略紀、四年二月、葛城山「長人來望二丹谷一」（丹モ、谷ナリ）萬葉集、十七廿五「山可比ニ、咲ケル櫻ヲ」倭名抄、一三「峽、山閒陝處也、山乃加比」

かひ（カイ）（名）［殼］殼。貝、卵ナド、スベテ云フ。かひがら。米ノもみがらヲモ云フ。本草和名、下十四「宇牟岐乃加比」（白蛤ノ殼ヲ、藥用トスルナリ）倭名抄、十九八「貝、加比、殼、與レ貝同、虫之皮甲也」箋注倭名抄、九十八稻穀類「稃、以爾乃加比、米甲也」

かひ（カイ）（名）［貝］〔殼アルモノノ義、貝ノ字ハ、おやすがひナリ〕（一）〔水產ノ動物。身ハ、堅キ殼ノ中ニアリ。即チ、はまぐり、どぶがひ、にし、たからがひ、かき、あはびがひノ類ノ總名。形狀、種類、甚ダ多シ、各條ニ注ス。［介］倭名抄、十九八「貝、加比、水物也」（二）〔貝殼。［介殼］古事記、下（允恭）廿三長歌「蠣賀比ニ、足蹈マスナ」「貝合セ」貝石灰」（三）〔ほらがひノ殼。枕草子、六、五十八段「かひヲ、イト高ク、俄ニ吹キ出シタル」夫木抄、廿七、貝「かひノ音ニ、深ケ行ク空ハ」（四）ほらがひヲ吹キテ、時ヲ告グルコト。赤染衞門集「今日モマタ、午ノ貝コソ、吹キツナレ」夫木抄、三十四、寺「雲居寺、吹クかひ聞ケバ、カヘルナル、雁ガネニコソ、夜ハナリニケレ」（五）靑貝。螺鈿。七十一番職人盡歌合（文安）廿七番、貝磨「此太刀ノ鞘ハ、莫大ノ貝ガ要ルベキ」

かひ（カイ）（名）［卵］〔殼アルモノノ義〕トリノコ。カヒコ。玉子。雄略紀、八年二月「國之

危殆、爲ㇾ於ㇾ累ㇾ卵」拾遺集、七、物名、いぬかひのみ[illegible]、巣守ナリケリ」頭、三十一、樣柱、十「同ジ巣ニ、カヘリシかひノ、見エヌ哉」金葉集、九、雜、上、甲斐ノ國ヨリノボリテ、云云「鳥ノ子ノ、マダかひナガラ、アラマセバ」

かひ（カイ） (名) 匙 〔殼ヲ用キタルニ起レルカ、形ノ似タルヨリ云フカ、[illegible]ニテ、匙ヲかひトモ云フ〕 匙。杓子。字鏡「[illegible]、匙、[illegible]」[illegible]「[illegible]」[illegible]

かひ（カイ） (名) 飼 〔飼ノ字ヲ書クハ、餌ナリ、省キテ、廿トモ書ク、牛廿、猪廿〕 飼フコト。動物ニ食ハスル食。餌。[illegible]十二「漁夫、鰹ナド釣ルニ、鰺ヲ用レバあぢ餌ト云ヒ、鰯ヲ用レバいわし飼ト云フ」「馬ニかひヲツケル」

かひ（カイ） (名) 詮甲斐 物事ノキキメ。シルシ。詮。效驗。竹取物語「[illegible]夜ノ事ニ行キテ、タダズミアリキケレドモ、かひアルベクモアラズ」宇津保物語、忠社、三十「カクオモホサン人ハ、ヨロヅノ事思フトモ、かひモアラジトテ」

かひ（カイ） (名) 買 買フコト。(賣リノ反)「賣買ひニ行ク」

か・ひ (名) 可否 可キト、否ラザルト。ヨシアシ。可否。史記、[illegible]傳「不ㇾ聞ニ可否ニ、不ㇾ論ニ曲直ニ」

か・ひ (名) 下婢 メヤツコ。ハシタメ。ミヅシメ。下女。

かび (名) 穎 [illegible] 多ク、稻ノ穗ニ云フ。古事記、[illegible]「[illegible]」倭名抄[illegible]「[illegible]」[illegible]千歲八百穗ニ[illegible]キテ」

かび (名) 黴 [illegible] 黴ブルモノ。飲食物、衣服、書籍ナドノ、久シク暖氣、濕氣ノ中ニ

アリナドシテ、其上ニ白、綠、黑、等ニ、[illegible]生ズルモノ、極メテ微小ナル菌ナリト云フ。

か・び (名) 蚊火 かやりびニ同ジ。カイブシ。萬葉集、十一「[illegible]引ノ、[illegible]、[illegible]ク蚊火ノ、下焦レノミ、吾ハ戀ヒ居ラク」倭名抄、十二「蚊遣火、一云、蚊火」堀河百首、夏「柴ノ屋ノ、ハヒリノ[illegible]ニ、[illegible]クかびノ、[illegible]ウルセキ、夏ノ夕暮」

か・び (名) 假寐 ウタタネ。假睡。[illegible]、小寐、小寢之什、小雅[illegible]「心之憂矣、不ㇾ遑ニ假寐ニ」

が・び (名) 蛾眉 [illegible]漢書、揚雄傳「蛾眉[illegible]」詩經、衞風、碩人篇「螓首蛾眉、巧笑倩兮、美目盻兮」(二)轉ジテ、美シキ女。美人。白居易、李夫人[illegible]「[illegible]不ㇾ[illegible]」

かひ・あ・ぐ（カイ・ア・グ） ・グル・グレ・ゲ・ゲ・ゲヨ(他動、下二) 買上 官ニテ、買入ル。「米ヲ買上グ」

かひ・あはせ（カイ・アワセ） (名) 貝合 (一)古ク云ヘルハ、物合ノ一、左右ニ方別ケテ、種種ナル貝ヲ出シ合セテ、優劣ヲ競ヒタル事ニテ、扇合、花合ノ如キモノナリ。堤中納言物語、かひあはせ「[illegible]ト、上下ノ御方ノ姫君ト、貝合セサセタマハムトテ、云云」(蛤、虛貝、小サキ貝ナドトアリ) (二)後ニハ、かひおほひヲ、かひあはせト云ヘリ。遊戲ノ名。三百六十ノ蛤殼ヲ、左貝、右貝ト二分シ、貝ノ裏ニ金箔シ、左右ニ、同一ノ彩色繪ヲ爲ス、右貝ヲ地貝ト稱シ、仰ケテ場ニ竝ベテ、中央ニ空處ヲ置キ、左貝ヲ出貝ト稱シ、一箇ヅツ出シテ、亦、仰ケテ空處ニ置キ、衆、圍ミ坐シテ、出貝ト地貝ト、相合フベキモノヲ認メテ、コレヲ選ヒ合ハス、合ハセタルモノ多キヲ勝トス。又、左右ノ貝ニ、歌ノ上ノ句ト下ノ句ヲ

分記シテ合ハスルヲ、歌貝ト云フ、後ノ歌がるたハ、コレニ倣ヘルナリ。山家集、下、[illegible]「[illegible]」かひ合ニ、京ヨリ、人ノ申サセタマヒタレバ、探リツツ探ルナリト申シケレバ「今ゾ知ル、二見ノ浦ノ、蛤ヲ、かひあはせトテ、オホフナリケリ」

かひ・あふ・る（カイ・アオ・ル） ・ル・レ・ラ・リ・レ(他動、四) 買煽 盛ニ買ヒ立ツ。(相場ヲ引上ゲムタメナドニ)

かひ・いし（カイ・イシ） (名) 貝石 種種ノ介殼ノ、化石トナリタルモノ。

かひ・いしばひ（カイ・イシバイ） (名) 貝石灰 かきがらばひノ條ヲ見ヨ。

かひ・いぬ (名) 飼犬 家ニ飼ヒオク犬。(野ら犬ニ對ス) [illegible]「飼犬ニ手ヲ喰レ[illegible]フ、[illegible]ノ[illegible]」

かひ・い・る（カイ・イ・ル） ・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ(他動、下二) 買入 買ふト云フニ同ジ。買ヒ受ク。カヒコム。

かひ・う・く（カイ・ウ・ク） ・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ(他動、下二) 買受 買入ル。買フ。

かひ・うぐひす（カイ・ウグイス） (名) 飼鶯 鶯ノ、人家ニ飼ヒオクモノ。コレヲ飼フ者ヲうぐひすかひト云フ、其條ヲ見ヨ。其囀聲ヲ愛シテ聞クナリ。東京ニテハ、毎年四月中旬頃ヨリ、相模ノ箱根、山北、駿河ノ御殿場、武藏ノ靑梅、八王子、邊ノ山ニテ、雛ヲ捕リ來テ、飼ヒ馴ラシ、名鳥ノ鶯ノ側ニ置キテ、其囀聲ヲ聞キ習ハス、コレヲ、附子ト云フ。(なきあはせくわいノ條ヲ見ヨ)

かひ・うさぎ（カイ・ウサギ） (名) 飼兎 野兎ヲ、家ニ飼ヒ[illegible]、耳、[illegible]、前脚、稍短シ、肉ヲ食用トス。家兎。

かひ・うた（カイ・ウタ） (名) 甲斐歌 甲斐國ノ風俗歌。古今集[illegible]、[illegible]「[illegible]けれ[illegible]、[illegible]」[illegible]れハ、心ノ説)

かひ・お・く ・ク・ケ・カ・キ・ケ(他動、四) 買置 買ヒテオク。[illegible]、[illegible]馬買置き、貸入テ賣タラバ、金持ニナル筈」

かひ・おほひ（カイ・オオイ） (名) 貝覆 かひあはせノ(二)ニ同ジ、其條ヲ見ヨ。とりかへばや、一「[illegible]、[illegible]、かひおほひナドシ玉フ」[illegible]記、元仁二年三月十四日「十二日夕、[illegible]下殿ㇾ參、安嘉門院[illegible]」[illegible]然草、百七十一段「貝おほふ人ノ、我ガ前ナルヲバ措キテ、[illegible]、人ノ袖ノ[illegible]、[illegible]ノ下[illegible]、目ヲクバル間ニ、前ナルヲバ、人ニおほはれ、云云」

かひ・かう (名) 貝香 かふかう(甲香)ノ條ヲ見ヨ。

かひ・がかり（カイ・ガカリ） (名) 買掛 オギノリ。買フコトヲ約シテ、未ダ、價ノ代ヲ拂ハズシテアルコト。カケガヒ。[illegible]松作)中「四十兩、口外締メタ帳面、買懸リノ借錢」

かひ・がね（カイ・ガネ） (名) 貝鐘 陣貝ト、陣鐘ト。[illegible]、十三、[illegible]「[illegible]、貝鐘ノ響ヲ[illegible]シ」

かひ・がひ・し（カイ・ガイ・シ） ・シキ・シケレ・シク・シク(形、二) 甲斐甲斐 (一)[illegible]アルラン。從ヒ立ツ。[illegible]セ給フモコトワリナリ、ヨロヅニかひがひしき御アリサマナリ」[illegible]カラマシカバ、我レイカニセマシトゾ、かひがひしく感ゼサセタマヒケル」増鏡、十二、老の波「イトか

ひがひしう、若宮生レサセタマヘレバ、限リナクオボサル」(二)勇ミ勵ム狀ニテアリ。イサマシ。精悍　著聞集、十六、興言利口「童モ、堪能ノ者ニテアリケルニヤ、かひがひしく、言フガ如クニ飲ミテ、寐ニケリ」同「宮仕フニ、かひがひしく、忠ニシテ」

かひ-かぶ・る・ル・レ・ラ・リ・レ（他動、四）【買被】商損ス。實ノ直打チヨリ、高ク買フ。

かひ-がら（名）【貝殼】ウツセガヒ。介類ノ、殼ノミナルモノ。介殼　心中天網島（享保、近松作）名殘橋盡「彼ノイタイケナ貝殼ニ、一杯モ無キ蜆橋」

かひがら-ぼね（名）【貝殼骨】かいがねノ訛。

かひ-き・る・ル・レ・ラ・リ・レ（他動、四）【買切】全ク買フ。殘ラズ買フ。

かび-くさ・し・キ・ケレ・ク・ク（形、二）【黴臭】黴ノ臭アリ。源、四十四、橋姫四十「ササヤカニ押卷キアハセタル反古ドモノ、かびくさきヲ、袋ニ縫ヒ入レタル、取リ出デ」同卷四十二「ゐみト云フ蟲ノスミカニナリテ、古メキタルかびくささサナガラ、痕ハ消エズ」

かひ-ぐすり（名）【買藥】醫者ノ調劑ニ依ラズ、藥種屋ニテ製造シテアル風藥ナドヲ買ヒテ用キルコト。賣藥。

かひ-くち（名）【飼口】馬ノ口取。庭訓往來、六月「鹿毛、雪踏等、皆相ニ副舍人、飼口」

かひ-ぐひ（名）【買食】商家ノ丁稚ナドノ、竊ニ自ラ、菓、餅ナド、買ヒテ食フコト。

かひ-ぐら（名）【貝鞍】青貝ニテ、花ノ形ナド作リ、漆ニ塗リ込メタル鞍。保元物語、一、官軍方方手分事「黃土器毛ナル馬ニ、貝鞍置イテ乘ノタリケルガ」

かひ-け（名）【匙笥】〔匙ト、笥トヲ見ヨ〕杓。ヒシャク。東雅、七、器用「杓、亦呼ビテ、かひけト云フ」

かひ-こ（名）【卵子】〔子ハ、巢守子（殼）、稻子、（蝗）いささ子、（鯊）玉子ナドノ、子ニ同ジ〕卵ニ同ジ。トリノコ。玉子。卵　景行紀、五十一年八月「武卵王」萬葉集、九廿二長歌「鶯ノ、生卵ノ中ノ、ホトトギス」倭名抄、十八三十「卵、加比古、鳥胎也」

かひ-こ（名）【蠶】〔養蠶ノ義、蠶ヲ、養ふニツキテ云フ語、養蠶トモ云フ、こ（蠶）ノ條ヲ見ヨ〕蟲ノ名。本名、こナリ。クハコ。クレノミミズ。常ニ人家ニ養ヒテ、繭ヨリ絹絲ヲ取ル。清明ノ後、種紙ノ卵、孵ル、極メテ細小ニシテ、黑シ、是レヨリ、桑ノ葉ニテ養ヒ、日ニ成長ス、其間ニ、眠ルガ如キ時アリ、よどむト云フ、舊皮ヲ蛻グナリ、又、起キテ葉ヲ食フ、斯ク、眠リ起キスルコト四度、凡ソ三十日ニシテ、全ク成長ス、ひきるト云フ、長サ二寸餘、幅三分許、全身白クシテ、身ニ十三環節アリ、左右ニ各、極メテ短キ八足アリ、尾ノ上ニ刺肉アリ、コレヲ移シテ蠶簿ニ入ルレバ、（上簇）絲ヲ吐キテ繭ヲ作リ、身、其中ニ入リテ、蛹トナリ、後ニ羽化シテ蛾トナリ、繭ヲ破リテ出デ、卵ヲ生ミテ死ス。春蠶、夏蠶、秋蠶、等ノ別アリ。神代紀、上十「蠶」皇極紀、三年七月「蟲、云云、其貌、全似養蠶」天治字鏡、八廿「蠶、加比古」倭名抄、十九十一「蠶、蟲吐絲也、俗爲蠶、賀比古」

かひこ-かご（名）【蠶籠】古名、エビラ。（其條ヲ併セ見ヨ）今、又、蠶飼簀。蠶ヲ飼フ具。疊一枚ホドノ大キサニ、扁平ク作レル籠。棚ニアゲテ、藁ヲ敷キ、上ニいさだてヲ敷キ、桑ノ葉ヲ撒キ、蠶ヲ載セテ、葉ヲ食ハシメ、繭ヲツクラシム。蠶簿

かひ-こ・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）【買越】程ヲ過シテ買フ。

かひ-ことば（名）【買言葉】うりことばノ條ヲ見ヨ。

かひこ-の-てふ（名）【蠶蝶】蠶蛾ノ條ヲ見ヨ。

かひ-こ・む・ム・メ・マ・ミ・メ（他動、四）【買込】買入るニ同ジ。

かひ-ごろし（名）【飼殺】役ハズシテ、死ヌルマデ養ヒオクコト。（老奴婢、老牛馬ナドニ云フ語）

かひ-ざいく（名）【貝細工】種種ノ色彩ノ貝殼ヲ、糊ニテ紙ニ貼リツケテ、花鳥、草木ナドノ形ヲ作レルモノ、玩物トス。

かひ-ざかな（名）【貝肴】〔切リテ用キルヲ忌ミテ、云ヒカフルナルベシ〕熨鮑ニ同ジ。婚儀ノ席ナドニテ云フ。

かひ-し・む・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ（他動、下二）【買占】一手ニ買ヒ集メテ、賣出サズ。享保集成絲綸錄、四十九、元祿十二卯年九月「米穀買メ、一切仕マジキ事」

かひ-しやう-な・し・キ・ケレ・ク・ク（形、二）【無甲斐性】カヒガヒシキ氣性ナシ。物ニ慄ヘ堪フル勇氣ナシ。無氣力

かひ-しやくし（名）【貝杓子】板屋貝ヲ頭トシ、竹ヲ柄トセル杓子。運歩色葉集「貝杓子」

かひ-ず（名）【買窩】盜品ヲ買入ルル者。訛シテ、けえずト云ヒ、重言ニ、けえずかひト云ヒ、けえず屋ト云ヒ、略シテ、ずやト云フ。此語、又、盜人宿ノ意ニモ用キル。窩主

かひ-すり（名）【貝磨】青貝ノ漆細工。又、ソレヲ職業トスル者。榮花物語、三十二、歌合「沈、紫檀ノかひずり」七十一番職人盡歌合（文安）廿七番、貝磨「コノ太刀ノ鞘ハ、莫大ノ貝ガイルベキ」

かひ-ぞめ（名）【買初】正月ニナリテ、始メテ物ヲ買フコト。壽門松（享保、近松作）上「相場ノ高イ、總嫁ノ買初め仕リ」

かひ-だこ（名）【貝蛸】飯蛸ノコトカト云フ。（蛸舟ハ毒アリ、食フベカラズ）倭名抄、十九七「貝蛸、加比太古」主計寮式「貝蛸腊」侍中群要、日次御贄、攝津國貢物「貝蛸」

かひ-だし（名）【買出】製造人、問屋、市場ナドヨリ、請賣物ヲ買ヒ取ルコト。

かひ-た・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）【買足】更ニ買ヒコミテ、不足ヲ滿タス。カヒフヤス。

かひ-だ・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）【買出】買出ヲナス。卸ヲ受ク。

カピタン（名）【甲必丹】【加比丹】〔葡語、Capitão. 蘭語、Capitein.〕（一）德川時代、年年、交替シテ、長崎ニ來リシ、阿蘭陀國商船ノ奉行。同地、出島ニ居テ、今ノ領事ノ如シ。年ヲ定メテ、春時ニ、江

戸ニ來リ、將軍ニ謁セリ。一話集(貞享)芭蕉「かひたんモ、ツクバハセケリ、君が春」將軍ノ謁見ニハ、拜伏セシメタリ」(二)和蘭舶來ノ、一種ノ綃織物ノ名。

カピタン-せった (名) [甲必丹雪蹈] 〔蘭人、甲必丹ノ皮沓ニ擬シタルモノカ〕 [illegible]革ノ、一枚革ネノ雪蹈。[illegible]云、[illegible]永[illegible]マデハ、[illegible]ノ雪蹈、云云、[illegible]、[illegible]ヲ[illegible]シ、是ヲかひたんせったト云フ、所化、武士、醫者ナドノはきものナリ、スベリテ、ハキニクシ」

かひ-だゆ・し キ・ケレ・ク・ク (形、二) [腕[illegible]] 〔腕たゆしノ略、(腕出づガ、かなづ(舞)トナル、同例)かひだるしモ、同ジ〕 かひなだゆしニ同ジ。カヒダルシ。清愼公[illegible]シクモ、カヘリニケルカ、カラ衣、かひだゆきマデ、カヘスカヒナシ」[illegible]子ガ、今[illegible]ノ[illegible]ニ、引カサレテ、夫サヘアマリ、かひだゆきカナ」

かひ-だる・し キ・ケレ・ク・ク (形、二) [腕弛] 〔前條、及、たるしノ語原ヲ見ヨ〕 (一)かひなだゆし、かひだゆしニ同ジ。夫木抄、三十二、戎、伊勢[illegible]夜モスガラ、物思フ時ノ、手枕ハ、かひだるサコソ、知ラレザリケレ」(二)身體、弛シ。疲レ、クタビレタリ。訛シテ、カッタルイ。ケッタルイ。

か-ひつ (名) [加筆] 筆ヲ加フルコト。文書ニ、批ヲ入ルルコト。

かひ-づ (名) [海頭] 〔物類稱呼、二、くろだひ「小ナルモノヲかいづト稱ス、泉州、貝津邊ニテ是ヲ捕ル、因リテ名トス」〕 魚ノ名。くろだひノ、小サキモノ。頭、尾、鋭ク、鱗、淺黑ニシテ、或ハ、淺黑ノ横文アリ、[illegible]ハ深黑ニシテ、[illegible]ヲ[illegible]レルガ如シ。[illegible]

かひ-づか (名) [貝塚] 古塚ナドニ、貝殼ノ、層ヲナセルモノ。太古ノ原住民族ノ、[illegible]ナリト云フ。石器、土器、骨、角、牙ナド、[illegible]

かひ-つ・く クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ (他動、下二) [飼付] 飼ヒテ、馴ラス。徒然草、百六十二段「遍照寺ノ承仕法師、池ノ鳥ヲ、日頃かひつけテ、堂ノ内マデ餌ヲ蒔キテ、云云」

かひ-つ・く クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ (他動、下二) [買附] 買ヒコム。買ヒ入ル。

かひ-づくし (名) [貝盡] 繪模樣ナドニ、種種ノ貝ヲ集メテ、書キタルモノ。

かひ-つく・る ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) [貝作] 〔蛤ノ兩殼合ヒタルガ如クスル意ト云フ(安齋漫筆)〕 脣ヲ、への字ノヤウニス。泣顏ニ云フ。べそヲカク。源、十三、明石四「今日ノ御送リニツカフマツラヌ事ナド申シテ、かひつくるモイトホシナガラ」榮花物語、十四、淺緑、[illegible]ノ北ノ方、見奉リニ出デタマヒテ、何トモナク、タダかひヲつくりタマヘバ」

かひ-づけ (名) [買附] 常ニ馴染ミテ、買入ルルコト。「買附ノ店」

かひ-つ-もの (名) [貝津物] 〔貝之物ノ義〕 貝ト云フニ同ジ。太神宮延暦儀式帳「貝物」源、十二、須磨四十六「海人ドモ、アサリシテ、かひつものモテ參レルヲ」

かひ-て (名) [買手] 〔買人ノ轉〕 買フ方ノ人。カヒヌシ。(賣手ニ對ス) 買主

かひ-どり (名) [飼鳥] 鶯、鶉、ほほじろナド、家ニ飼ヒテ、聲ヲ愛シ聞クモノ。

かひ-ど・る ル・レ・ラ・リ・レ (他動、四) [買取] 貝ヒテ、[illegible]

かひ-な (名) [腕] 〔抱への根(骨)ノ約轉[illegible]〕 [illegible]ト云フ、[illegible]ノ[illegible]、上也」(一)[illegible]、[illegible]ノ[illegible]手。今、二の腕。肩腕。古事記、中(景行)五十二「[illegible]」萬葉集、三[illegible]ヲ枕ニセムトナリ」萬葉集[illegible]比奈ニ懸ケテ」字鏡「[illegible]」(二)〔混ジテ、臂、腕。〕[illegible]記、下、第十七條「[illegible]、可比那」源、五十、浮舟「君ハ、かひなヲ枕ニテ[illegible]マヘルニ」狹衣、一、上十三「御手ヲサヘ捉ヘテ、云云、捉ヘタマヘル御かひなニ、云云」千載集、十六、雜、上「枕ニトテ、かひなヲ、御簾ノ下ヨリ差入レテ」(三)腕ヲ出シテ舞フコト。カナヅルコト(かなづハ、腕出づノ略ナリ) カヒナサシ。盛衰記、三、[illegible]雨事「[illegible]、更ニソソカズシテ、三かひな、三かひた、舞ヒカケリテ」

かひな-さし (名) [腕差] 腕ノ差手、引手。舞ヲカナヅルコト。[illegible]記、六、[illegible]八[illegible]諧事「寅ノ時ノ參詣、辰ノ時ニ御かひなさし」

かひ-な・し キ・ケレ・ク・ク (形、二) [無甲斐] (一)詮ナシ。詮ナシ。[illegible]ナシ。[illegible]土佐日記、正月七日「同ジ事ニアリ、今日ハ白馬ヲ思ヘド、かひなし、タダ、波ノ白キゾ見ユル」(土佐ノ海岸ニ碇泊中ノ事ナリ) 千載集、十六、雜、上、かひなく立タム、名コソ惜シケレ」 (二)カヒガカヒシカラズ。ヒハヅナリ。弱弱シ。[illegible]

かひな-だゆ・し キ・ケレ・ク・ク (形、二) [腕弛] 腕、疲レテ、弛ユシ。腕、クタビレタリ。カヒダユシ。カヒダルシ。伊勢[illegible]、上、夜モスガラ、物思フ時ノ、頰杖ハ、かひなたゆサノ、[illegible]ラレザリケリ」宇治拾遺、十、第十條「經ヲバ、暫シガ程モ、讀ラシ奉ラジト思ヒテ、捧ケ奉リシニ、かひなだゆくモアラズ」

かひ-ぬし (名) [買主] かひてニ同ジ。(賣手ニ對ス)

かひ-ぬし (名) [飼主] 犬、馬ナド、飼ヒ置ク主。

かひ-ね (名) [買直] 買ヒ[illegible]ノ直段。(賣直ニ對ス)

かひ-の-くち (名) [貝口] 〔蛤、ばかがひナドノ口ヨリ、舌ヲ出シタル狀ノ名カ〕 男ノ角帶ノ結ビ方ノ名。少女モ、結ブコトアリ。浮世風呂(文化、三馬)初編、上「[illegible]ヲ[illegible]リムイテ、貝の口ヲ見ナガラ來ル」

かひ-の-はしら (名) [貝柱] (一)蛤、[illegible]かひナド、一枚貝ノ[illegible]ノ内部ニアリテ[illegible]柱、[illegible]ト云フ。[illegible]、內ニ齣リテ縮ムル作用ヲナス。硬クシテ、筋ノ如シ。[illegible]シテ、[illegible]。[illegible]下「海蛤、波末久利之波之良」(二)ばかがひノはしら。味、最モ美ナレバ、其名ヲ[illegible]ス。バカノハシラ。

かひ-ば (名) [飼葉] 馬、牛ニ飼ハスル[illegible]草。ウマクサ。マグサ。[illegible]

かひば-きり (名) [飼葉切] 飼葉ヲ切ルニ用ヰル、刃アル具。押切。

かひ-ばと (名) [飼鳩] はとノ條ヲ見ヨ。イヘバト。

かひ-ばなし (名) [飼放] はなしがひニ同ジ。

かひば-をけ (名) [飼葉桶] 馬槽。マブネ。飼葉ヲ入レテ、牛、馬ニ食ハスル桶。カ

ヒヲケ。|櫪| 馬槽

かひ-びやうぶ (名) |貝屛風| 貝細工ノ、極メテ小サキ屛風、玩具ナリ。相摸、江ノ島ノ產、最モ名アリ。

かひ-ふき (名) |貝吹| 戰陣ナドニ、陣貝ヲ吹ク役ノ者。吹手

かひ-ふや-す・す・セ・サ・シ・セ (他動、四) |買殖| かひたす(買足)ニ同ジ。

かひ-へん (名) |貝偏| 漢字ノ偏ニアル貝ノ字ノ稱。財、販、貯、賑、等ノ如シ。貝旁

かひ-もど-す・す・セ・サ・シ・セ (他動、四) |買戾| 賣リタル物ヲ買フ。

かひ-もの (名) |買物| (一)買ヒタル物。(賣リ物ニ對ス) (二)物ヲ買フコト。狂言記、長光「此見セデ、かひ物ヲ仕ル所ヘ」

かひ-もの (名) |支物| 支フ物。ツッカフ物。支フル物。

〔かび-や (名) |蚊火屋| 蚊火ヲ焚ク家。萬葉集、十二[五十]「朝ガスミ、(枕詞)鹿火屋ガ下ニ、鳴ク河蝦、聲ダニ聞カバ、吾レ戀ヒメカモ」(河蝦ハ、初秋ニ鳴クモノナレバ、鹿火ハ、蚊火ノ借字ナリ) 土御門院御集「秋田ナル、かびやガ烟、下燃ニ、思フトハ知レ、アトハナクトモ」五社百首「蛙鳴ク、かびやニ立テル、夕烟、賤ガシワザモ、心スミケリ」(蚊火ノ條ヲ見ヨ)

か-ひやう (名) |下平| 上平ノ條ヲ見ヨ。

かひ-やぐら (名) |蜃樓| 「蜃樓ノ文字讀、蜃ヲ、蛤ト見テナリ」 蜃氣樓ニ同ジ、其條ヲ見ヨ。 合類節用集(元祿)乾坤門「蜃樓」

〔か-ひよ (感) 〔鹿ノひよト鳴ク意カ、鹿ノ鳴クヲ、ひしるト云フ」 鹿ノ鳴ク聲。|呦呦| 古今集、十九、誹諧「秋ノ野ニ、妻ナキ鹿ノ、年ヲ歷テ、ナゾ我ガ戀ノ、かひよトゾ鳴ク」(詮ニカケタリ) 夫木抄、廿五、鹿「妻戀ヒム、秋ノ尾上ノ、鹿ヨリモ、千種ノ蟲ノ、かひよトゾ思フ」(貝ニカケタリ)

かひ-よね (名) |買米| うりよねノ條ヲ見ヨ。

⁘か・びる (動) 黴ぶノ口語。

〔かひる-で (名) |楓| かへるでノ條ヲ見ヨ。

かひ-れう (名) |飼料| 馬ナドニ養フベキ食料。 吉野都女楠(正德、近松作)二「御馬ノ飼料ヲ殘セシ靑麥」

〔かびろ-く・く・ケ・カ・キ・ケ (自動、四) |搖蕩| 〔かびハ、頭ノ轉、(粒、つぶ)ろくハ、動搖スル意、(おどろく、すずろく)傾くモ頭ノ活用ナリ、俗ニ、頭ノ動クヲやッさをふるト云フ意ナリ、かびろくヲ他動ニハ、かぶらかすト云フ」 搖レ動ク。倭名抄、十一二「舣、船不レ安也、加比路久」 名義抄「轉、カビロク」 枕草子、三、三十六段「芒、云云、冬ノ末マデ、頭、イト白ク、オホドレタルヲモ知ラデ、昔シ思出顏ニ靡キテ、かびろき立テル人ニコソ、イミジウ似タンメレ」

かひ-わり (名) 〔殼割ノ義ナラム」 蔬菜ノ種ヲ蒔キタルガ、割レテ、萌エ出デタル芽。かひわれ。

かひ-われ (名) 前條ニ同ジ。

かひ-をけ (名) |貝桶| 〔かひあはせノ條ヲ見ヨ」 貝合ノ貝殼ヲ納ルル桶。地貝ノト、出貝ノト、一對ナリ、八角ニテ、印籠蓋ナルヲ、正式ナルモノトスト云フ、黑漆塗、外面ニ蒔繪ナドシテ、紅ノ紐ニテ上ニ結フ。往時、貴婦人ノ嫁入ニハ、調度トシテ、必ズ携フルモノトシタリ、蛤殼ハ、他ノ蛤殼トハ、決シテ合ハヌモノナレバ、女ノ、外ノ男ニ逢ハヌ鑑トスト云フ。 嫁入記「御物行ヤウノ次第、一番、御貝桶」

かひ-をけ (名) |飼桶| 飼葉桶ニ同ジ。

かふ (名) |甲| 〔漢音ナリ、甲子ヲ甲子ト音讀ス」 (一)十干ノ首。キノエ。(干支ノ條ヲ見ヨ)。「甲、乙、丙、丁」 (二)第一。一番。頭。長。 文選、西京賦「北闕甲第」註「第、館也、甲、言二第一一也」字典「凡、物首二出群類一曰レ甲、戰國策、臣ニ 萬乘之魏、而甲ニ秦楚ニ」釋文「居二三國之上一也」 (三)かふおつ(甲乙)ノ條ヲ見ヨ。 (四)かん(甲)ノ條ヲ見ヨ。

かふ (名) |甲| 〔龜ノ甲ト、意通ズ、漢音ニテハ、かふナリ、甲 冑ヲ甲冑ト音讀ス、甲ノ字ヲ、兜ノ義ニ用キルハ、非ナリ」 鎧。 易經、說卦「離爲二甲冑一」 周禮、冬官、考工記「函人、爲レ甲」 戰國策、趙策「繕レ甲厲レ兵」(鎧ヲ繕ヒ、兵器ヲ厲グナリ)

かふ (名) |甲| 琴、琵琶ノ上面。

かふ (名) |甲| (一)臺灣ノ地方ノ團體、十戶ヲ以テ一組トシ、事アレバ、連帶ノ責ヲ負ハシム。(五人組ノ如キモノカ) (二)臺灣ニテ云フ、地積ノ單位、凡ソ、百二十二坪。

か-ふ (名) |假父| オヤブン。 說苑「毒瞋レ目大叱曰、吾乃皇帝假父也」

か-ふ (名) |家父| 他ニ對シテ、己レノ父ノ稱。家大人。 顏氏家訓「陳思王稱二其父一曰二家父一、母曰二家母一」

か-ふ (名) |家譜| 家譜ヲ見ヨ。 羅山文集、五十五「寬永十八年八月廿八日、依二鈞命一、撰二鎌倉將軍家譜一、進二覽之一了」

か-ふ (名) |家扶| 家令ノ條ヲ見ヨ。 家令職員令「家令、云云、扶一人、掌、同二家令一」 官位令「從六位、云云、一品家扶」

か-ふ (名) |下附| サゲワタスコト。(政府ヨリ人民ヘナド)

か-ふ (名) |可否| 可否ニ同ジ。

〔か・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (自動、四) |交| 常ニ、他ノ動詞ト熟語トナリテ、コレ行キ、カレ來ル、入リ違フ、ノ意ヲ云フ語。「行キかふ」飛ビかふ」散りかふ」(萬葉集、十四[廿三]「裾ノ打チ加比」)

か・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (他動、四) |買| 〔交ふノ他動ノ意ノモノカ」 (一)〔其價ノ錢ヲ與ヘテ、我レニ受ク。錢ヲ以テ、易ヘ取ル。アガナフ。|購買| 天治字鏡、六[廿四]「沽、買也、加布」 (二)可シトシテ、採ル。信用ス。 駿河土產「神祖、或時、本多正信ヲ召シテ、秀忠ハ、アマリ律儀過ギタリ、人ハ、律儀ノミニテハナラヌモノナリト仰セラレケルヲ、正信承リ、此由聞エアゲ、殿ニモ折折ハ、虛誕モ仰セラルルガヨシト申シケレバ、公、笑ハセラレ、父君ノ御空言ハ、イクラモ買ふ人ガアリ、我等ハ、何事モ仕出セシコトナケレバ、噓ツキテモ、買ふ者アルマジ、ト仰セラレシトゾ」(良將達德抄、六)「心意氣ヲ買ふ」 (三)招キ求ム。 徒然草、三十八段「財多ケレバ、云云、害ヲかひ、煩ヒヲ招ク媒ナリ」「歡心ヲ買ふ」禍ヲ買ふ」 (四)招キテ遊ブ。「女郞ヲ買ふ」藝者ヲ買ふ」

か・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (他動、四) |支| アナナフ。支ヘムト當ツ。支柱ヲナス。ツッカフ。 「木ヲかふ」せんばりヲかふ」宛テがふ」

〔か・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (他動、四) |養飼| 〔支ふト通ズルカ、口ニ支ふ意、宛テがふ、土かふ、同ジ」 (一)動物ニ飲食セシム。萬

葉集、十二廿「駒ニ衣合欣」催馬樂、其駒「其駒ゾ、云云、[illegible]」[illegible]、[illegible]、[illegible]。（二）動物ニ食ヲ與ヘテ、養ヒ置ク。飼養 [illegible]、[illegible]年七月「吾ガ柯聰駒ハ」萬葉集、二廿「鳥埼立テ、飼ひシかりつ[illegible]、[illegible]、[illegible]ニ、[illegible]ヒカヘリ來ネ」

かふ・フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ（他動、下二）交 〔交ふ（四段活用）ノ他動、かなふ、かなふる。たぐふ、たぐふる〕交ス。入リチガハシム。萬葉集、三二長歌「[illegible]可惜ァ、[illegible]」同、五二長歌「[illegible]、サネシ夜ノ」同、十四「[illegible]ノ[illegible]チ可惜[illegible]」

かふ・フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ（他動、下二）易代換替 〔交ふるノ義〕此物ヲ遣リテ、彼物ヲ用キル。取リカフ。交換 萬葉集、三廿「妹ガ名ヲ、此背山ニ可惜ハ、イカニアラム」「物ト物ト易ふ」紙幣ヲ金貨ニ易ふ」

かふ・フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ（他動、下二）變換 變ハラス。異ニス。變化セシム。竹取物語「[illegible]ノ黄金賜ヒテ、身ヲかへタルガ如クナリニケリ」「色ヲ變ふ」形ヲ變ふ」心ヲ變ふ」

かふ・フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ（他動、下二）渫 〔易ふノ義〕陳キ水ヲ汲ミ去リテ、新シキ水ヲ取ル。サラフ。浚渫 [illegible]如來誕生會[illegible]、[illegible]ニ「[illegible]ヲかへ、[illegible]心ニテ須彌山ヲ引寄セントスル如ク」「井水ヲかふ」かヘホス」

かぶ（名）頭 〔かうべト云フモ、頭上ノ轉ナリ、膝頭ニ、ひざかぶノ名、存セリ〕カウベ。カシラ。神代紀、下「[illegible]」云、[illegible]古事記、中「[illegible]」長歌「中ツ上ヲ、[illegible]」[illegible]、眞日ニハ[illegible]ズ」[illegible]くナド同ジ、俯くナリ、眞日ノ目映キ由ノツヅケナリ」「膝頭」かぶろ、[illegible]かぶく、（俗）音、頭ノ[illegible]用セシムルナリ。

かぶ（名）株 〔根莖ノ略、蕪、かぶ〕（一）伐リ倒シタル樹ノ根ノ、土上ニ存スル部。クヒゼ。キリカブ。（二）職業、商業ナドニ、官ノ免許、仲間ノ申合セナドニテ、若干ノ家ニ限リテ、専ラ、其職ヲ營ミ、其業ヲ營ムヲ得ルコト。「同心ノ株」名主ノ株、問屋ノ株」（三）銀行、諸會社ノ類ニ、數人組合ヒテ資本ヲ出シ、各、其所有主ノ分際タルコト、其人ヲ、株主ト云ヒ、其所有權ヲ、株式ト云ヒ、其所有ヲ證スル證書ヲ、株券ト云フ。（四）草木ヲ、根ニテ數フルニ云フ語。株券、株式ニモ云フ。（五）持前トナリ居ルコト。おかぶ。常習癖 浮世風呂（文化、二篇）二編、下「此[illegible]サマハ、泣言バカリ云フガ、かぶナリ」「オかぶノシャレガ出タ」

かぶ（名）蕪 〔かぶらなノ略ナル、かぶらノ略〕かぶらなノ條ヲ見ヨ。

かぶ（名）歌舞 歌ひ、又、舞ふコト。歌ト、舞ト。史記、樂書「合ニ[illegible]得以ニ四時ニ歌ニ舞宗[illegible]也」左傳、昭公、二十五年「哀有ニ哭泣ニ樂有ニ歌舞ニ」著聞集、十八、飲食「萬壽二年正月三日、云云、皆舞ヒテ、歌舞ニ及ビニケリ」「歌舞ノ莚」歌舞音曲」

かぶ・ブル・ブレ・ビ・ビ・ビヨ（自動、上二）黴 〔臭、氣ノ活用カ、（氣ノ條ヲ見ヨ）ぶるハ、帶ぶるノ約、かぶる（感染）ノ語原、參考スベシ〕黴ヲ生ズ。倭名抄、十六[illegible]「黴、賀布、食上生白也」

がふ（名）合 （一）枡目ノ名、一升ノ十分ノ一。勺ノ十倍。雜令、義解「凡、云云、量十合爲升」（二）地坪ニ、一坪ノ十分ノ一。（三）富士山ノ登山路ヲ度ルニ云フ語。麓ヨリ頂マデヲ十分シタル、其一。卽チ、下ヨリ一合目、五合目、八合目ナド云フ、（今ハ、他ノ高山ニモ云フ）石高ニ、山ノ高サヲ寄セテ云ヘル語ナリト云フ、或ハ、頂ノ凹處ヲ、御鉢料ト云フヨリ、飯米ニ寄セテ云フトノ説アレド、いりほがナルベシ。（四）川ノ出水ノ高サヲ計ル代ニモ、升、合、ヲ刻ム。「荒川ノ水、七合目ニ及ベリ」

がふ（名）合 （一）都合、合計ノ略。「其高、合、二千五百」（二）〔身ト蓋ト合フ物ヲ數フル語。（合子ト云フ、是レナリ）〕四時祭式、上「[illegible]一合、[illegible]四合」「[illegible]、一合[illegible]、二合」

がふ（名）樂府 〔がくふノ轉例、國府、こふ。國忌、こきノ例、漢書、禮樂志ニ、武帝、郊祀ノ禮ヲ定メ、樂府ヲ立テ、李延年ヲ協律都尉トシテ制定セシニ起ル、ト〕（一）漢詩ノ古體ノ一ニテ、長句、短句、一定セザルモノ。文選、白氏文集、等ニ、樂府ノ詩アリ。大鏡、中、伊尹「扇、云云、表ノ方ニハ、樂府ヲ、ウルハシウ眞ニ書キ」（二）ウタマヒノツカサ。

がふい（名）合意 意ノ、合フコト。同意。同心。漢書、匡衡傳「朕嘉與ニ君同ニ心合ニ意、庶幾有ニ成ニ」（心ヲ合ス）

かふいた（名）甲板 〔「琵琶」ノ甲ト、同意〕机ナドノ上面ノ板。

かふいん（名）甲寅 キノエトラ。干支ノ條ヲ見ヨ。

かふう（名）家風 家ノ風儀。家ノナラハシ。家内ノオキテ。文字讀ニ、いへのかぜト云フ。其條ヲ見ヨ。庾信、[illegible]序「[illegible]之文[illegible]、始[illegible]家風ニ」

かふう（名）下風 〔上風、下風ノ語ヨリ移ル〕他人ヨリ、下手ナル位地。左傳、[illegible]、[illegible]下風ニ「人ノ下風ニ[illegible]」

かふう（名）歌風 ウタノヨミブリ。詠歌ノオモムキ。

かふえんと（副）溘焉 〔説文「溘、[illegible]也」〕タチマチニ。ニハカニ。「溘焉長逝」

かふおつ（名）甲乙 （一）第一ト、第二ト。勝レタルト、次ナルト。（二）オトリ、マサリ。優劣。「甲乙無シ」甲乙ヲ付ク」（三）[illegible]「[illegible]、[illegible]甲、[illegible]乙」「甲[illegible]、甲、論ジ、乙、駁ス」（四）かん（甲）ノ條ヲ見ヨ。（五）きのえト、きのとト。

かふおつにん（名）甲乙人 〔甲某、乙某ノ義、前條ノ（三）ヲ見ヨ〕誰彼ノ人人。但シ、武家ノ家人、武士ナラヌ[illegible]人ノ稱ナリシガ如シ。下學集、下、態藝門「甲乙人、カフオツニン」吾妻鏡、三十四、仁治二年五月廿九日「[illegible]甲乙人、[illegible]」[illegible]四月、[illegible]、南中乙人[illegible]」[illegible]明十五年三月七日「兩陣足輕、於ニ路次ニ奪ニ取甲乙人之衣裳ニ」[illegible]、[illegible]中、人人之[illegible]、[illegible]甲乙人[illegible]」[illegible]四日、[illegible]丁[illegible]ノ[illegible]」[illegible]丁ノ由ヲ止メテ、[illegible]、甲乙人ニ[illegible]候、云云、甲乙人ニ成候テハ、然ルベカラズ、云云」天正十八年四月、伊豆大仁村ノ制札「軍勢甲乙人還住之百姓家、不レ可ニ陣取ニ事」（前後略、松屋筆記、八十八ニ「甲ハ武士、乙ハ雜人也」下アリ）

がふか（名）合歡 がふかのきノ條ヲ見ヨ。

かふかう（名）甲香 〔甲螺ノ蓋ヲ、合薫物ニ用キル時ノ名。故ニ、貝香トモ云フ〕くヘナタリ、酒ニ浸シ、一宿ヲ經テ、甘葛煎ヲ塗リ、火ニ炙リテ用キルト云フ、

其製法、類聚雜要抄ノ四ニ委シ。本草和名、下卌「甲香、阿岐乃布多」倭名抄、十二廿香藥部、香名類「南州異物志云、甲香(俗云、合講二音)蠡屬也、可下合二衆香一燒上之、皆使レ益レ芳、獨燒則臭」康頼本草、下四十「甲香、安支乃不太、仁之乃不太」後伏見院宸翰薫物方「かひかう、一兩一分」

がふ-かく（名）|合格| 必要ナル資格ニ合フコト。試驗、撿査ナドニ云フ。宋史、選擧志「合格及第者、列レ名放二榜於尙書省一」

かふ-かけ（名）|甲掛| 足袋ノ、底ナクシテ、足ノ甲ニノミカクルモノ。草鞋バキニ用キル。

がふかん-の-き（名）|合歡木|〔がふかんハ、がふくゎんノ略轉、承和菊、そがぎく。冠者、くゎざ〕又、がふか。がふくゎんぼくニ同ジ。ネブノキ。大同類聚方、五三十「加布加乃支」萬葉集、八二十「晝ハ咲キ、夜ハ戀ヒヌル、合歡木ノ花、君ノミ見メヤ、和氣サヘニ見ヨ」六帖、六「晝ハ咲キ、夜ハ戀ヒヌル、がふかのき、君ノミ見ムヤ、和氣サヘニ見ヨ」藤原光俊「山深ミ、イツヨリねぶト、名ヲカヘテ、がうかの木ニハ、人マドフラム」現存六帖、五「吾妹子ニ、カクトバカリハ、告ゲヤラム、形見ノがふか、花咲キニケリ」

かぶ-かぶ（名）|掉頭| かぶりかぶりノ略。其條ヲ見ヨ。

がぶ-がぶ（副）〔音ノがばがばノ轉、祝詞ノかかのむノ遺カ〕アワタダシク、水ヲ飮ム音ニ云フ語。少シユルメテ、がぶりがぶりトモ云フ。

かぶ-き（名）|冠木|〔被り木ノ義、祝園、はふその。煙出、けむだし〕笠木ニ同ジ。衡木 庭訓往來、三月「門冠木、扉裝束」「鳥居ノ冠木」冠木門」

かぶき（名）|歌舞妓|歌舞伎|〔傾者ノ義、

(其條ヲ見ヨ、能ナドノ眞面目ナルニ對ス)女ニシテ男裝ナドスルヨリ、名トセシナリ、男舞(白拍子)ト同意ナリ、歌舞妓ノ字ハ、京ノ六條町ノ遊女ナドノ、出デテ演ジタルニ由ル當字ナリ、(妓ハ、濁音)又、古キ書ニハ、妓トノミアリ、(現代ハ、ト書クハ、斯道家ノ改作ナリ、(現代ハ多ク、伎ノ字ヲ使用ス)後紀、八、延暦十八年七月、神宮ノ事ノ條ニ、歌舞伎トアルハ、うたまひのわざニテ、更ニ關セズ〕出雲ノ大社ノ巫女ノ、國ト云フ者、京都ニ出デテ始メタル舞踊ノ名。慶長ノ初年、京ノ五條橋ノ東ニ、始メテ芝居ヲ建テテ興行セリ、初ハ遊女ナドヲ加ヘテ、頸ニ數珠ヲカケ、鉦鼓ヲ叩キ、念佛踊ヲシ、又、男裝シテ踊リ、物眞似ナドシタルモノナリ、寛永中ニ、三味線ヲ加ヘ、古今ノ事蹟ニ據リ、其人物ニ扮チテ演ズルコトトナリテ、歌舞伎芝居ト稱シテ、芝居ノ名ヲ專ラニシ、演ズル者ヲ、能役者ニ倣ヒ、歌舞伎役者ト呼ビ、歷代、名人出デテ、盛ンニ行ハレ、今モ世ニモテハヤサル。シバヰ。戲曲 演劇 物眞似狂言記「永祿中、室町殿ニ、物眞似狂言ノ催シアリ、歌舞妓女五人アリシ中ニ、お國ト云ヘルハ、殊ニオ藝スグレタルモノ故ニ、度度舞ハセラル」(類聚名物考)武邊咄聞書(延寶)五、伏見ニテ秀康卿ノ邸「お國ト云フ歌舞妓女ヲ被ニ召寄一歌舞妓ヲ踊ラセテ御見物アリ、水晶ノ數珠ヲ頸ニカケテ舞ヒタルヲ、云云」慶長ノそぞろ物語ニ、出雲ノくにト云フモノ、男裝シテ、男舞かぶきト名ヅケ、今樣ヲウタヒ舞フ、諸國ノ遊女、其姿ヲ學ビ、笛、鼓、太鼓、打鳴ラシ興行ス、云云、トアリ。野槌(林羅山)「近年、出雲ノ巫、京ニ來テ、云云、男ノ裝束シ、刀ヲ横タヘ歌舞ス、俗ニかぶきト名ヅク」羅山文集、五十六「歌舞妓」東海道名所記(萬治)六「六條ノ傾城町ヨリ、云云、四條河原ニ舞臺ヲ立テ、傾城アマタ出シテ、舞ヒ踊ラス」

かぶ・き（動）傾くヲ見ヨ。

がふ-ぎ（名）|合議| 寄リ合ヒテ、評議スルコト。

かぶき-こ（名）|歌舞伎子| 若衆歌舞伎ニ同ジ。寛永ニ、女歌舞伎禁ゼラレテ出來タル、少年ノ歌舞伎役者。野郎。戲子 野郎の蟲(明曆)「四條河原ノかぶき子、云云、カノ容貌ノ、トロトロ眼ニタラサレテ、芝居終ハレバ、東山ニトモナヒ、云云」(柳亭記、上)

かぶき-しばゐ（名）|歌舞伎芝居| 歌舞伎、幷ニ、芝居ノ條ヲ見ヨ。

かぶき-じふはちばん（名）|歌舞伎十八番| 江戶俳優、市川團十郎、代代、家ノ持藝トシテ演ズル、狂言、十八種ノ稱、他人ノ演ズルヲ許サズ。延寶九年、初代團十郎ガ演ゼシ不破(伴左衞門)ヨリ、鳴神、不動、助六、暫、外郎賣、矢根五郎、其外、寶曆十三年、四代目團十郎ガ演ゼシ蛇柳ニ至ル、其後、新十八番ト云フモ出來タリ、勸進帳ト云フニ、新、舊、二種アリ、今モテハヤサルルモノハ、七代目團十郎ノ演ジ始メシモノナリ。略シテ、十八番トノミモ云ヒ、持藝ト云フヨリシテ、俗ニ、常人ニ就キテモ、特有ノ藝能、常習癖ノ仕業ナドヲ、十八番ト云フ。

がふぎ-せいたい（名）|合議政體| 數人ノ合議ニテ、一國ヲ統ベ治ムル政體。

かふ-きん（名）|甲金| かふしうきん(甲州金)ニ同ジ。

かぶ-きん（名）|株金| 銀行、會社ナドノ、株式ニ對シテ出ス資金。株ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。

がふ-きん（名）|合金| 二種以上ノ金屬ヲ、化學ノ作用ニテ混合シ、別ニ、一種ノ金屬ヲ作リタルモノ。紫銅、黃銅ナド、是レナリ。

がふ-きん（名）|合巹|〔巹ハ瓢ナリ、さかづきをあはせるノ義〕夫婦ノ緣ヲ結ブコト。婚姻スルコト。禮記、昏義篇「婦至、壻揖レ婦以入、共レ牢而食、合レ巹而酳、所下以合レ體同二尊卑一以親上レ之也」(婚禮ノ杯ハ、一ツノ瓢ヲ二ツニ分ケタルモノニテ、壻ト婦ト、各一片ヲ取リテ酒ヲ飮ム)

かぶき-もの（名）|傾者|〔かぶきハ、傾くノ名詞形、傾きノ義、圖ニハヅレタル者ノ意〕長刀ヲ刺シ、伊達姿ヲ盡シナド、異樣ナル振舞ヲスル者。アバレ者。惡徒。俠者ノ類ノ者。當代記(永祿ヨリ慶長)「かぶき衆」原註「當世、異相ヲ此云」可笑記(寛永)三「慳貪邪心ノドウヨク人カ、又ハ、かぶきものニテ」正保四年五月十三日、老中達書「下下、衣類、刀脇差、御定之外着用仕候者、惣テ、かぶきものノ事、彌堅御法度之事ニ候」(柳亭筆記、一)日發句(慶安)「腰ヲ振ル、門ノ柳ヤ、かぶき者」(同上)

かぶき-もん（名）|冠木門| 二本ノ柱ノ上部ニ、一本ノ冠木ヲ貫ニ亙シテ、「サ」ノ字ニ似タル門。(屋ナドアルニ對シテ云フ)衡門 三好筑前守義長朝臣亭江御成之記「冠木門竝主殿之破風、新被レ申ニ付之二」

かぶき-やくしや（名）|歌舞伎役者| 歌舞伎芝居ニ出デテ、歌舞伎ヲ演ズル役者。歌舞伎ノ條ヲ見ヨ。俳優 戲子 天保度御改正諸事留、五「歌舞妓役者、振付師ハ、一同、猿若町エ一纏、住居可レ致義ニ有レ之處」

かぶ-きり（名）|株切|〔禿切ノ略〕きり

[illegible]ス二同ジ。[illegible]八十章[illegible]ノ[illegible]シテ、お三[illegible]ト云ヘリ」

かぶ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ（自動、四）[illegible]〔頭ヲ活用セシム、（頭す、（傾）頭ろ、（被）同ジ）まくらく、（枕）かづらく（鬘）ノ例ナリ、頭、傾ク、[illegible]ニナル意ヨリ[illegible]く義トナル〕（一）カタブク。カタムク。カシグ。行宗集「雨降レバ、門田ノ稲ゾ、シドロナル、心ノママニ、かぶきワタリテ」「馬ノ荷ガかぶく」（二）圖ニハヅルル意ヨリ移リテ、テンガウスル。フサゲル。イタヅラヲスル。[illegible]ヲスル。（かぶきもの）ノ條ヲ見ヨ）[illegible]、かぶきマハリツツ、[illegible]ハレヌ」

かふ-く（コウ・カ）(名) 甲科 「乙科ナドニ對ス」試驗ナドノ成績ニ、第一ノ及第。漢書、儒林傳「[illegible]甲科四十人[illegible]中、乙科二十人[illegible]太子舍人、丙科四十人[illegible]」

かふ-くゎん（コウ・カン）(名) 蓋棺 〔かいくゎんナルベシ、[illegible]、古太切、字其ニ掩也、[illegible]也、[illegible]、苦蓋切、苦蓋、苦蓋也〕人ノ死シテ、其棺ニ、蓋ヲ掩フコト。人ノ行爲ノ善惡ハ、死シテ後ニ、始メテ定マルニ云フ。晉書、劉毅傳「[illegible]曰、丈夫蓋棺事方定」

がふ-くゎん（ガフクヮン）(名) 合歡 男女、同棲スルコト。[illegible] 又、同衾。[illegible]「文[illegible]、[illegible]」

がふくゎん-ぼく（ゴウカンボク）(名) 合歡木 [illegible]ハ、合昏（[illegible]）ニ通ヘトモ云フ、[illegible]りの木ノ意」ネブリノキ。ネブノキ。ネムノキ。がふかんのき（合歡の木）ノ條ヲ見ヨ。

がふくゎん-ほん（ゴウカンボン）(名) 合卷本 くさざうし（草雙紙）ノ條ヲ見ヨ。

かふ-け（コウ・ケ）(名) 甲家 「乙家ナドニ對ス」[illegible]ノ人。[illegible]ノ家柄。[illegible]、七、[illegible]ニセニ、[illegible]ニテ、[illegible]ノ[illegible]ニセヨ」

がふ-けい（ゴウ・ケイ）(名) 合計 數ヲ、合セテ計ルコト。數ヲ集メタル高。シメダカ。周禮、[illegible]、合[illegible]其[illegible]」

かぶ-けん (名) 株券 株ノ條ノ（三）ヲ見ヨ。

かふ-こ（カウ・コ）(名) 甕 「[illegible]ノ義」か（甕）ノ條ヲ見ヨ。

かふ-ご（コウ・ゴ）(名) 甲午 キノエウマ。干支ノ條ヲ見ヨ。

がふ-ご（ゴウ・ゴ）(名) 合期 〔期ノ呉音、ご〕（一）期ニ合フコト。期限ニ合フコト。[illegible]御[illegible]、上[illegible]内侍[illegible]、云云、長久（年號）[illegible]亡、少[illegible]、[illegible]不[illegible]合[illegible]太平記、七「ココカシコニ分[illegible]シテ居タリケル[illegible]、[illegible]ニ、[illegible]合[illegible]シ難カリケル」（二）思フトホリニ合フコト。心ニカナフコト。[illegible]行[illegible]、[illegible]下、[illegible]「年タケテ後、[illegible]シ、[illegible]ノ[illegible]ニ[illegible]シテ、身ハ合期セズナガラ、命ハナガラヘテ、年月ヲフルママニ」保元物語、三、[illegible]「[illegible]日[illegible]リテ、合期ナラヌ時分ナリケル間」盛衰記、十五、宇治合戰事「行程[illegible]二[illegible]バカリナリ、六[illegible]マテ御[illegible]アリ、御馬ニ合期セサセ給ハヌ故ニヤ」（高倉宮御事）

かふ-こく（コウ・コク）(名) 闔國 〔正韻「闔、總合也」〕國中[illegible]ルコト。國中。[illegible]國。「[illegible]國、一致シテ」

かぶさ・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）被 〔かぶせらるノ約轉、あづけらるノ、あづかるトナルガ如シ、あづかるノ條ヲ見ヨ〕[illegible]被ハル。上ニカカル。頭ニ加ハル。「[illegible]ガかぶさる」

かふ-し（コウ・シ）(名) 甲子 キノエネ。[illegible]甲子）ノ條ヲ見ヨ。

かぶ・し (動) 傾すヲ見ヨ。

がふ-し（ゴウ・シ）(名) 合祀 一社以上ノ神ヲ、一社ニ合セテ祀ルコト。相殿。

がふ-し（ゴウ・シ）(名) 合子 〔正韻「合子、[illegible]物器」子ハ、助字也〕椀ノ、蓋ト身ト合フモノ。合器。[illegible]白木合子、引入合子ナドアリ。倭名抄、十六、漆器類「合子、朱合」朱合、朱漆合子也」枕草子、十、百三十段、いみじくきたなきもの「エセ板敷ノ帚、殿上ノがふし」盛衰記、三十三、[illegible]「[illegible]合子ノ、大ニ、[illegible]深ク、[illegible]ナルガ、所所、[illegible]ケタルニ」

かふしう-きん（コウシュウ・キン）(名) 甲州金 又、甲金。德川時代、甲斐ノ一國限リ、通用ヲ許サレテアリシ金貨。武田氏ノ遺製ナリ、新、古、種類多ケレド、專ラ通用セシハ、一分判、二朱判、一朱判ナリ、一分判ハ正圓ニシテ、徑五分、厚サ五厘、ねおのめト云フ、甲重ノ極印アルモノ、享保中ノ鑄造ニテ、金質佳シ、甲定ハ、後鑄ナリ。[illegible]金銀[illegible]、甲[illegible]ハ、甲金ト[illegible]シ、今以、[illegible]金アリ、一國通用ニテ、他國ヘ不出、金ノ位ハ至テ宜、云云、甲州金、文金[illegible]ニ付、[illegible]六[illegible]位也」

かぶし-かたち (名) 傾容 〔かぶす（傾）ノ條ヲ見ヨ〕項垂レタル姿。四季物語（鴨長明）十一月「目、マミ、[illegible]ンテ、[illegible]子打チカタブキタルかぶしかたち、ワカシキモノナルベシ」

かぶ-しき (名) 株式 〔株數ナリ、數ハ、占むる（占領）意、しく（敷）ノ條ヲ見ヨ〕[illegible]銀行、會社ナドノ株ノ所有權。かぶ（株）ノ條ノ（三）ヲ見ヨ。[illegible]

かぶしき-がふし-くゎいしゃ（カブシキ・ゴウシ・カイシャ）(名) 株式合資會社 [illegible]

かぶしき-ぎんかう（カブシキ・ギンコウ）(名) 株式銀行 株式會社組織ノ銀行。

かぶしき-くゎいしゃ（カブシキ・カイシャ）(名) 株式會社 會社ノ資本金ヲ株式ニ分チ、社員ノ責任ハ出資額ニ止マリ、會社ノ責任モ資本額ヲ限度トスルモノ。又、有限責任社員ト、無限責任社員トニテ組織スルヲ、合資會社ト云ヒ、無限責任社員ト、株主トニテ組織スルヲ、株式合資會社ト云フ、又、社員、總ベテ、無限責任ヲ負フヲ、合名會社ト云フ。

かぶしき-とりひきじょ (名) 株式取引所 株券、公社債ノ取引ヲ目的トシ、其ノ公定相場ヲ作ル所。

がふし-くゎいしゃ（ゴウシ・カイシャ）(名) 合資會社 [illegible]ノ條ヲ見ヨ。

がふ-じふ（ゴウ・ジュウ）(名) 合十 〔十指ヲ合はする義〕がっしやう（合掌）ノ（一）ニ同ジ。

かふ-しん（コウ・シン）(名) 甲辰 キノエタツ。干支ノ條ヲ見ヨ。

かふ-しん（コウ・シン）(名) 甲申 キノエサル。干支ノ條ヲ見ヨ。

かふ-じゅつ（コウ・ジュツ）(名) 甲戌 キノエイヌ。干支ノ條ヲ見ヨ。

カフス (名) 〔英語、Cuffs〕わいしゃつナドノ袖口。固キ仕上ニシテ、かふそ

ぼたんニテ止ム、柔キ仕上ノ物モアリ。

かぶす（名）【臭橙】「蚊燻ノ義、皮ヲ乾シテ蚊遣火ニ用キル、東雅、十四、橙ノ條ニハ、かぶすハ附子ニテ、蚊ノ毒物ノ義ナリトモ云ヘリ」橙ノ類。實ノ形、相似テ、但、蒂、一重ニシテ、重ナラズ、皮、苦クシテ食用ニ堪ヘズ、今、多クハ、コレヲだいだいト稱シ、又、其未熟ニシテ小サキヲ乾シテ、枳殻ニ僞ル。

かぶ・す・ス・セ・サ・シ・セ（自動、四）【傾】「頭ヲ活用セシム、宿す、横す（譏）ノ類、かぶく（傾）ノ語原ヲ見ヨ」カブク。カタブク。カタムク。カシグ。古事記、上四十長歌「項加夫斯、汝ガ泣カサマク」（うなだれナリ）神代紀、下「不須也、頰傾」頰傾、此云歌予志己（否ト頭ヲ振ル）天智紀、三年十二月「稻、云云、垂穎而熟」散木集、三、稻ノ傾クヲ見テ「オボツカナ、誰ガ袖ノ子（稻ノ名）ニ、引キカサネ、ホフシゴノ稻、かぶし初メケム」四季物語（鴨長明）十一月「烏帽子打チ傾キタルかぶし姿」

かぶ・す・スル・スレ・セ・セ・セヨ（他動、下二）【被】カブラス。キセル。カク。「帽子ヲかぶす」

かふすべ（名）【蚊燻】カヤリビ。カイブシ。（京都）蚊烟　來山句「蚊ふすべノ、中ニ聲アリ、念佛講」

カフス-ボタン（名）「英語、Cuffs. ト葡語、Botão. トノ合語」かふそニ着クル、裝飾用ノぼたん。

かぶせ（名）【被】（一）カブセルコト。カブセル物。オッカブセ。（二）博打ノ隱語。かぶせるノ（三）ヲ見ヨ。

がふせい（名）【合成】數事物ノ、合ヒテ、一ツニナルコト。

かぶせぶた（名）【被蓋】蓋ノ製造ニ、緣アリテ、器ヲ被フヤウニ作レルモノ。子口蓋

かぶせもの（名）【被物】ダマシモノ。ニセモノ。（次條ノ（二）ヲ見ヨ）贋物

かぶ・せる・セル・セレ・セ・セ・セヨ（他動、下二）【被】「被らするノ略轉、ならべ、なべ（並）」（一）カブラス。被ヒカク。上ニ加フ。「頭ニ、手拭ヲかぶせる」（二）タバカル。アザムク。ダマス。（人目ヲ被ヒクラマス意）欺罔（三）博奕ヲ打ツ。（隱語ナリ、壺皿ヲ籠ニかぶせるナリ）

かふぞく（名）【甲族】貴族ノ家柄。門閥家。南史、庾於陵傳「官以人清、豈論甲族」

かふだい（名）【甲第】（一）上級ノ邸宅。漢書、霍光傳「孝宣帝詔、賜甲第一區」（二）進士及第ニ、第一等ヲ得タルコト。

かぶだいこん（名）【蕪大根】かぶらな（蕪菜）ヲ見ヨ。

かふだか（名）【甲高】足袋ノ製造ニ、足ノ甲ニ當ル部ヲ、特ニ高ク作ルモノ。足ノ大ナル人ノ用ナリ。「甲高ノ足袋」

かふち（名）【河内】「かはうちノ約」川ノ流レメグル内ノ地。萬葉集、一九長歌「芳野川、タギツ河内ニ、高殿ヲ、高知リマシテ」同、十四七「足柄ノ、土肥（地名）ノ可布知ニ、出ヅル溫泉ノ」

かふち（名）【枸櫞】「香櫞ノ文字讀、東雅、十四、果蓏、橙ノ條「倭名抄ニ、枸櫞ハかふちト註セシ、云云、一ニ香櫞ト記シヌレバ、古俗、其字ノ訓ヲモテ呼ビシナリ」南方草木狀「枸櫞、亦名香櫞」」まるぶしゅかんノ古名。本草和名、下三十「枸櫞、加布知」（倭名抄、同ジ）江家次第、九、十月射場始「賭物、枸櫞、廣外記、似橘實如柚、大而稍長、味辛酢、皮以蜜、煮爲粽、今世以此使酢者也」

かふちゅう（名）【甲蟲】昆蟲中ノ一種、甲アルモノ、兜蟲、玉蟲、髮切蟲、黃金蟲ナドノ總稱。地蟲、木食蟲、其他ノ幼蟲ノ羽化セシモノナリ、前翅ハ厚キ革質ニシテ、後翅ハ薄ク、飛ブニ適ス、脚ハ其生活ノ狀態ニ因リテ、步行、又ハ、游泳ニカナフ、洞、又ハ、水中ニ棲ミテ、晝ハ蟄伏シ、黃昏ヨリ飛ブ、物ニ恐ルル時ハ、靜止シ倒レテ、死狀ヲナス。

かぶつ（名）【下物】「酒ヲ嚥ミくださシムル物ノ意」酒ノ肴ノ異名。飮儲　世說、豪爽篇「有如此下物、一斗不足多」註「下、酒物」「好下物」

がぶつ（名）【雅物】風雅ヲ好ム人。

かぶつ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ（自動、四）【頭衝】かぶ（頭）ノ條ヲ見ヨ。

かぶつち（名）【頭槌】「頭之鍛ノ約、石槌ト云フハ、石之鍛ノ約、（橘守部）くぶつつハ音轉ナリ、かがまる、くぐまる。くちわ、くつわ」太ク嚴ク鍛ヒ作レル刀ヲ稱スル語。堅固ニ鍛ヒタルヲ、石槌ト稱ス。音ヲ轉ジテ、かぶつつ、くぶつつ、いしつつトモ云フ。神代紀、下十七「天忍日命、云云、帶頭槌劍、而立天孫之前、遊行降來」同卷九十「頭槌、此云箇歩豆智」神武卽位前紀十一長歌「來目ノ子等ガ、勾鷲都都伊、異志都都伊持チ、云云、倶拔其頭椎劍、一時殺虜」古事記、中（神武）八長歌「來目ノ子ガ、久夫都都伊、伊斯都都伊持チ」（伊ハ「紀ノ關守伊、留メテムカモ」ナドノ伊ナリ、助辭ノ伊ノ條ヲ見ヨ）神功紀、攝政元年三月、長歌「內ノ阿曾ガ、勾夫菟智ノ、傷手負ハズバ」

かぶつう（名）前條ヲ見ヨ。

かふてつかん（名）【甲鐵艦】堅キ鐵板ニテ、船體ヲ包ミタル軍艦。

かぶと（名）【兜冑】「頭蓋ノ約轉。（みさらし、みたらし。いたはし、いとほし）朝鮮語ニモかぶおとト云フ、甲ノ字ヲかぶとニ用キルハ、誤ナリ」武具ノ名、頭ニ被ル、鐵製ノモノ。頂ニ當ル所ヲ鉢ト云フ、形、鉢ヲ伏セタルガ如シ、項ニ錏ヲツク、コレハ、尋常ノモノナリ、其製、尙、種種アリ。天武紀、上、元年五月「甲冑」字鏡四十「金笠ノ合字ニ「加夫止」倭名抄、十三七「冑、首鎧也、賀布度」　かぶとを脫ぐトハ、降參ス。降服ス。富樫記「急ギ甲を脫ぎ、荊ヲ負ヒ、面縛シテ降參可申」

がふどう（名）【合同】數事物ノ、一ツニ合フコト。禮記、樂記篇「流而不息、合同而化、而樂興焉」

かぶとかけ（名）【兜懸】鎧ヲスヱオクニ用キル具。胴中ニ、十字ノ棒ヲ立テテ雨ノわたがみヲ支ヘ、棒ノ末端ニ、木造ノ小サキ笠ノ如キモノヲツケテ兜ノ頂ヲ承ケ、其下部ニ尖出ノ木アリ、鼻ノ裏ヲ承ク。三好義長亭御成記（群書類從）「御腹卷、冑かけニ懸ケテ、冑ヲモ綿がみニカラム」

かぶとがに（名）【兜蟹】蟹ノ一種。多ク西海ニ產ズ、長サ二三尺、殼、圓ク扁クシテ、兜ノ如シ、色、靑黑クシテ、眼ハ背ノ上ニアリ、口ハ腹ノ下ニアリ、脚短クシテ、十一對アリ、尾長シ。殼ヲ杓トシ、舟中ノ水ヲ去ルナドニ用キル。ウミドウガメ。鱟魚

かぶとがね（名）【兜金】太刀ノ柄頭ノ金

物。富樫記「太刀ノ甲金ヲ追取リノベ」

かぶとがひ (名) 兜貝 海栗ノ條ヲ見ヨ。

かぶとぎ (名) 兜鼓 かぶとやくヲ見ヨ。

かぶとぎく (名) 兜菊 とりかぶとニ同ジ。

かぶとくび (名) 兜首 かぶとつきのくびヲ見ヨ。

かぶとづか (名) 兜塚 古塚、諸地方ニアリ、土ニテ圓ク高ク築ケルコト、兜ノ鉢ノ如ク、周リニ鍔ノ如キアリ。古代ノ貴人ノ墓ナリト云フ。

かぶとつき (名) 兜附 次條ヲ見ヨ。

かぶとつきのくび (名) 兜附首 討取リタル敵ノ將士ノ首級、兜ヲ添ヘテ主將ニ呈スルモノ。(雜兵ノ陣笠ナラヌヲ證ス)略シテ、兜附ト云ヒ、兜首トモ云フ。武功實錄「蒲生方ヨリ、背付の首五ツ取ッタル程ナラバ」大友興廢記、浪野十二口合戰「討チ取ル首、合ハセテ六十三、内、甲附二十七」[illegible]、三、長久手合戰、[illegible]年人二十七歳ナリシガ、[illegible]ニ乘込ミ、甲首ヲ取テ、源君ノ御目ニカクル」

かぶとにんぎやう (名) 冑人形 陰暦、五月五日、端午ノ節ニ、紙ニテ冑ヲ作リ、其上ニ、人形、其外、種種ノ花ヲカタドリテ作リ飾ルモノ。五月人形。[illegible]式「凡[illegible]記、不[illegible]、[illegible]用[illegible]、但五月五日[illegible]甲冑之[illegible]、不[illegible]」[illegible]、五、内野の雪「五月五日、[illegible]ヨリ、御かぶとノ花、[illegible]ナド、色色ニ、多ク登レリ」(建長三年) 日本歲時記(貞享)四、端午ノ[illegible]「[illegible]事、昔ハ、[illegible]ニ、人形ノ[illegible]リツケ、[illegible]板ヲ胄ノ形ニコシラヘ、云云、戸外ニ立テ侍リシ」

かぶとのを (名) 兜緒 兜ニ着キタル緒、頤ニテ締ム。志のびのをト云フ。[illegible]、[illegible]ルト云フハ、得意ナル時ニ油斷スナトノ[illegible]。

かぶとバチ (名) 兜鉢 (伏スレバ、形兜ニ似タリ) 陶器ノ鉢ノ、闊ク大ナルモノノ稱。[illegible] カラリト[illegible]タ[illegible]チフ、甲[illegible]ニ、レテアザレバ」

かぶとばな (名) 兜花 とりかぶとニ同ジ。

かぶとむし (名) 兜蟲 (兜ノ角ノ立物アル兜ニ似タル意カ) 一種ノ蟲。長サ二寸五分許、幅八分許、全身、栗ノ殼ノ色ニテ、腹ニ六足アリ、背ニ甲アリ、甲ノ下ニ翅アリ、雄ニハ角アリ、雌ニハ無シ、角ハ、頭ノ上ニアリテ、長サ八分許、末、二ツニ分レ、其末、又、二ツニ分ル、角ノ下ニ口アリ、角ノ兩旁ニ眼骨アリ、角ノ後ニ、又、一角アリ、長サ二三分許、亦、其末、兩ニ分ル、晝伏シテ、夜飛ブ。東京ニ、サイカチムシ。飛生蟲 一種、長サ一寸許、幅五分許、深黑ニシテ、背ニ、角、一ツアリテ、太クシテ、前ヘ曲レルモノ。獨角仙

かぶともち (名) 兜持 次條ヲ見ヨ。相國寺供養記「東下總守平師氏、云云、張替甲持、中間男」

かぶとやく (名) 兜役 主將ノ兜ヲ持チ居ル雜兵。自ラ、己ガ頭ニ被リ居ル、人ニシテ、兜懸ナルガ如シ、古圖ニ見ユ。又、かぶともち。かぶとぎ。[illegible]年中行事「御甲ノ役人、梶原名字被ㇾ勤ㇾ之」相國寺供養記「武田五郎源滿信、云云、[illegible]甲持、中間男」

かぶな (名) 蕪菜 かぶらなノ條ヲ見ヨ。

かぶぬし (名) 株主 株ノ條ノ(三)ヲ見ヨ。[illegible]

がふはう (名) 合抱 [illegible]

かふはん (名) 甲板 かんぱんヲ見ヨ。

がふひやく (名) 合百 米穀取引所外ニテ、商目ノ相場ノ高下ヲ中テ合ヒテ、[illegible]ニ行フ博奕。

かふへい (名) 甲兵 (一)鎧ヲ著タル兵。ヨロヒムシャ。史記、[illegible]「[illegible]」(二)武器。武具。左傳、[illegible]公元年「[illegible]甲兵、具[illegible]」「甲兵ヲ[illegible]」

かぶん (名) 下問 目下ノ者ニ、物事ヲ問ヒ諮ルコト。カモン。論語、公冶長篇「敏而好學、不恥下問」

がふめいくわいしや (名) 合名會社 株式會社ノ條ヲ見ヨ。

かふや (名) 甲夜 かう(更)ノ條ノ(一)ヲ見ヨ。

がふやく (名) 合藥 アハセグスリ。くわやく(火藥)ノ條ヲ見ヨ。

(一)かぶら (名) 根莖 「かぶハ、頭ノ義、植物ハ根ヲ頭トス、らハ意ナキ辭、らノ條ヲ見ヨ」株ノ古言。植物ノ根ノ、服レタル處ノ稱。倭名抄、十七「[illegible]根、[illegible]、毛詩云(詩經、邶風、谷風)采ㇾ葑采ㇾ菲、無ㇾ以ㇾ下體、下體、根莖也、加布良」

(二)かぶら (名) 蕪 かぶらなノ略。其條ヲ見ヨ。

(三)かぶら (名) 鏑鳴鏑 (蕪ノ義、形、似タリ、[illegible]かぶらト云フ[illegible]、[illegible]ナリ」(一)矢ノ實ニ附クル具。木ニテ作リ、形圓ク長ク、腹メリ、其中ヲ空ニシテ數穴ヲ穿ツ、目ト云フ、射レバ、穴、[illegible]ニ[illegible]ル。かぶらトモ云フ、神代ニ、八穴ノモノアリ、後世ナルハ三穴[illegible]、又、角ニテ作ルモアリ、此具ヲ附ケタル矢ヲ鏑矢ト云フ。[illegible]「八目[illegible]」「夜豆女加布良」天智即位前紀、十二月「[illegible]、火[illegible]」[illegible]良」[illegible]十、[illegible]八日[illegible]、[illegible]鏑、八寸」(二)鏑矢ノ略。其條ヲ見ヨ。

かぶらか・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) 搖蕩 「かびろくノ他動、ひらめく、ひらめかす」搖リ動カス。コスプル。[illegible]「[illegible]かぶらかいナ」

(一)かぶらな (名) 蕪菁 [illegible]義、かぶら(根莖)ノ條ヲ見ヨ」常ニ略シテ、かぶら、又、かぶト云フ。菜ノ名。葉ハ、[illegible]ぶらなニ似テ大キク、根ハだいこんニ似テ太ク短シ、[illegible]、形、圓キアリ、長キアリテ、皆、大小アリ、近江蕪、最モ大ナリ、煮、又ハ、鹽漬ニシテ食フ。カブナ。カブダイコン。蕪菁 [illegible]七「[illegible]、[illegible]良」[illegible]、[illegible]クタルかぶら、[illegible]リ」和玉篇「蕪、カブ、カブナ」

かぶらぼね (名) 蕪骨 (骨ノ形、蕪ニ似タル故ノ名ニモアルカ) 鯨ノ頭ノ軟骨、即チ、氷頭。[illegible]ニテ[illegible]かぶらかノ如ク刻リテ、酢、醬油ナドニ漬シテ食フ。

かぶら-や（名）【鏑矢・鳴鏑・箭】〔かぶら（鏑）ノ條ヲ見ヨ〕矢ノ尖ニ鏑ヲ着ケタルモノ、後世ナルハ、其尖ニ、又、雁股ヲツック、篦、長ク太クシテ、四羽ヲ矧グ。多クハ略シテ、かぶらトノミ云フ、射レバ空氣、鏑ノ穴ニ觸レテ鳴ル、故ニ、鳴矢ノ名モアリ。字鏡集「鏑、カブラヤ、カブラ」保元物語、二、白河殿攻落事「征矢ヲバ、タビタビ射タリシガ、鏑矢ニテ射バヤ」古事記、中（神武）六「兄宇迦斯以二鳴鏑一待射二返其使一、故其鳴鏑所レ落之地、謂二訶夫羅前一」平家物語、七、木曾願書事「十三騎ガ上矢ノかぶらヲ拔キ」萬葉集、九 九「響矢持チ、鹿取リ靡ケシ」

〜かぶら-ゑり（名）【鏑】〔鏑ノ中ヲ彫るニ用キルヨリシテ云フト云フ〕頭ノ曲リタル鑿。倭名抄、十五 七「鏑、加布良惠利、曲刀鑿也」

かぶり（名）【冠】〔被るノ名詞形〕（一）〔一〕かがふり。カウブリ。カンムリ。天智紀、八年十月「大織冠」貞觀儀式、踐祚大嘗會「河夫理緌」夫木抄、二十九「誰レモ見ヨ、李ノ下ノ、路狹ミ、かぶり傾ケ、手ヤハ觸レツル」（二）〔一〕官位。舒明紀、十一年十一月「給二冠位一級二」同、十二年十月「賜二爵一級二」孝德紀、三年十二月「初位」（三）芝居ノ打出。かぶる（被）ノ條ノ（三）ヲ見ヨ。（四）寫眞現像ナドノ不適合ノタメ、乾板ノ薄闇クナルコト。

かぶり（名）【掉頭】〔頭振、又、首振ノ約、（紙縒、かより。杏葉、ぎゃうえふ）かぶりを振るハ、重言ナレド、熟語トナレバ、語原ハ忘レラル、博打を打つノ如シ〕首ヲ、左右ニ振リ動カスコト。否ト云フ意ヲ示ス振舞ナリ。狂言記、花子「何カト云フトモ、物ヲバオシャレイデ、かぶりバカリ振らッシャルワイヤイ」

カブリ（名）【加拂里】〔南印度ノ西南、加拂里ノ地ノ產〕舶來綿布ノ一種。さらさノ如ク、茶がへしナド、染色種種ナリ。（寫本、嬉遊笑覽、二）

ごふ-り（名）【合理】道理ニ合フコト。唐書、百官志「與奪合レ理」「產業合理化」

かぶり-がさ（名）【被笠】笠ノ條ヲ見ヨ。

かぶり-かぶり（名）【掉頭】〔又、かぶかぶ、小兒ノ語ハ、重ネテ言フ習慣ナリ、てて、（手）てうちてうち（手打）〕小兒ノ、掉頭ヲ振ルコト。いやいやト同意ナレド、てうちてうちナドト同ジク、藝事ニ云フ。約メテ、かぶかぶ。狂言記、鬼瓦子「頭ヲ振ルガ、アレハ何トシタコトヂャ、ソレハ、かぶりかぶりト申ス藝デゴザル」古今夷曲集、序「幼兒ヲ、云云、棹頭棹頭、土佐ノ手手甲」佐夜中山集（寬文）「撫子ハ、風ニ吹カレテ、かぶりかぶり」長唄、面かぶり「テウチテウチ、アワワ、かぶりかぶり、シホノメ」

がぶり-がぶり（副）がぶがぶノ條ヲ見ヨ。

かぶり-つ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ（他動、四）【齧附】〔かぶる（齧）ヲ見ヨ〕（一）クヒック。カミック。（二）取リック。ヒッツク。カジリック。狂言記、宗論「此廣イ海道ヲ、人ニかぶりつくヤウニセネバ、步ケヌカ」

がふりつ-ひれい（名）【合率比例】複比例ニ同ジ。

かぶり-もの（名）【被物】頭ニ被ル笠、帽子ナドノ總名。東海道中膝栗毛（享和、一九）初編、中「下アニ、下ニ、かぶりものヲ取リマセウゾ」

かふ-りょく（名）【合力】（一）力ヲ合セテ助クルコト。助力。助勢。協力。戮力。將門記「玄明試聞二此由於二將門一、乃有レ可レ被二合力一之樣上」（二）扶持。扶助料。賑救。「合力米」

（三）金錢、物品ヲ與ヘテ、貧窮ヲ救フコト。施與。狂言記、米市「イツモコレカラ定ッテ、年取物ヲ御合力ナサルルガ」

か-ぶ・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）【腸】腸ニ、甚シキ痛ミヲ起ス。「義ガかぶる」

〜か-ぶ・る・ル・レ・ラ・リ・レ（他動、四）【齧】〔嚙觸るノ義ニモアルカ、（蹈本、ふもと。（麓）編筵、あむしろ、（蓬篠）後ノかじるト云フ語、緣アルカ、かぶりつくハ、かじりつくナリ〕ツム。少シヅツ、嚙ム。カジル。靈異記、下、第十八緣「犬齧二枯骨一」訓釋「齧、加不留」盛衰記、四十五、重衡向二南都一事「沓ノ鼻ヲカカヘテ、かぶり居タル犬アリ」男女色競馬（寶永）二「鼠ノかぶるヤウニ、琴搔キ鳴ラセバ」名詞ニ、崑山集（慶安）「ヨメガキミ、（鼠）餅ヲゾ今日ハ、初かぶり」（初春ノ句）

かぶ・る・ル・レ・ラ・リ・レ（他動、四）【被】〔頭ヲ活用セシム、かぶく（傾）ノ語原ヲ見ヨ〕（一）〔一〕頭ニ戴キ覆フ。カガフル。カウブル。カウムル。かむる。爲忠集「五月雨ニ、苫引キかぶる、海小舟、棹サシワクル、葦ノ葉末ヲ」名義抄「冑、蒙、カブル」盛衰記、四十四、癩人法師口說言事「扇ノ名カクニ爪禿ズ、勘當かぶるニ齒缺ケズ」（被るニ、齧るヲカケタリ）塵袋、八「常陸國記云、神ノ禍ヲかぶるベシ」（二）負フ。受ク。蒙ル。「人ノ罪ヲかぶる」（三）自動詞ニ用キテ、芝居、打チ出ス。ハネル。（見物人、總立チトナリ、塵芥立テバ、皆皆、手拭ヲ被るニ因リテ云フナリ）放場　名詞ニシテ、かぶりト云フ。

か-ぶ・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ（自動、下二）【氣觸】〔氣觸るノ轉、か（氣）ノ條ヲ見ヨ〕（一）漆、膏藥ノ氣ナドニ觸レテ、肌ニ細カキ瘡ヲ生ズ。感染　（二）カマク。アヤカル。感ジテ移ル。感化「友ニかぶる」

かぶれ（名）【氣觸】（一）カブルルコト。カブレタル瘡。平戶記、仁治三年十月六日「佐渡院、云云、燒二燒石一、偸令レ宛二御蚊觸之上一給、云云、小物御增、次第御身體違例令レ成給、云云」吾妻鏡、五十二、文永三年四月五日「將軍家有二御小瘡一、云云、七日、御蚊觸之間、可レ有二蛭喰一」「漆かぶれ」（二）アヤカルコト。感ジ移ルコト。感化

⁂か-ぶ・れる（動）前前條ノ氣觸るノ口語。

かぶろ（名）【童丱】〔被ノ轉、ひりふ、ひろふ、（拾）ちりぼふ、ちろぼふ、（散）多ク、次條ノ禿ト混ジテ、當字ニ、禿ノ字ヲ記ス、次條、並ニ、かぶろなりヲ見ヨ〕（一）〔一〕童ノ、髮ヲ結バズシテ、頂ニ被リ、末ヲ切リテ垂ラシオクモノ。又、其髮風シタル童。古ヘノうなゐばなり、あまそぎ、今云フ、きりかぶろナリ。轉ジテ、かむろ。允恭即位前紀、瑞齒別天皇「自二岐嶷一至レ於二總角一、仁惠儉下」榮花物語、二十五、峯月「かぶろニオハシマシシ折ハ、尼そぎ、居丈ニトコソ見奉リシカ」夫木抄、三十五、雜「イトホシヤ、マダかぶろナル、うなゐドモ、燒野ニアマタ、茅花ヌクナリ」四季物語（鴨長明）四月「花摘ミノかぶろ、花籠ノ童、色色、綺羅ヲツクシテ」平家物語、一、禿童事「十四五六ノ童部ヲ三百人スグリテ、髮ヲ禿ニ切リマハシ」（二）かぶろなりノ略。其條ヲ見ヨ。

〜かぶろ（名）【禿】〔童丱形（禿山）ノ略、頭ニ髮ナキハ、山ニ草木ナキガ如シ〕（一）頭髮ノ、禿ゲタルコト。ハゲアタマ。倭名抄、三 三十「禿、無レ髮也、加不路」宇治拾遺、十五、第十條「僧、云云、頭ノ髮、かぶろナリ」（二）頭瘡。シラクモ。瘡ニ因リテ、頭ノ髮脫ケテ、禿トナルヨリノ名ナリ。倭名抄、三 三十「頭瘡、加不路」萬安方「白禿瘡」

〜かぶ-ろぎ（名）【神祖】かみろぎノ條ヲ見ヨ。

かぶろ-なり（形動）禿山 童山 童形ノ義、童山ト書クモ、卽チ是レナリ、童卵ノ、髪ナク、頂圓キニ似タル故ニ云フナリ」樹木無キ山。禿山。略シテ、かぶろトノミモ云フ。天治字鏡、十一「禿、加夫呂奈利」(山ニ云フ) 字類抄「禿、カブロナリ、童山禿ニ[illegible]」[illegible]

かぶゐ（名）[illegible] 四方ヨリ、取リ圍ムコト。[illegible]

かへ（名）代 代フルコト。代フル物。カハリ。[illegible]ん、貸シマセウ」「代地」「代紋」

かへ（名）栢 檜ノ類ナリト云フ。神代紀、上「[illegible]」

かへ（名）榧 今、かやト云フ。其條ヲ見ヨ。[illegible]

かべ（名）壁 牆ノ意ナリト云フ。[illegible] 家ノ周圍、又ハ、室内ノ隔テナドニ、土ヲ塗リテ作ルモノ。柱ト柱トノ間ニ、かべまたちヲ互シ、こまひヲカキ、泥土ニテ塗リ上ゲテ、上ニ漆喰ナド塗ル。又、板、紙、ニテ張ルモアリ、石ニテ積ミ造ルモアリ、今ハ、こんくりいとナドモアリ。倭名抄、十「壁、室之障蔽也、加閉」

かべ（名）夢 〔寐ルヲ、塗ルニカケタル謎詞ナリ」夢ノ異名。（歌詞）歌林良材「夢ヲバ、寐ル時見ルニヨリテ、夢ヲかべト云ヘリ、かべモ、塗ルモノナルニヨテナリ」後撰集、廿、哀傷「妻ノミマカリテ後、住ミ侍リケル所ノ壁ニ、彼ノ侍リ

[illegible]ニ、昔ノかべヲ、見テショリ、ウツツニ物ゾ、悲シカリケル」同、九、戀、一「マドロマス、かべニモ人ヲ、[illegible]」[illegible]かべト、言ヒ始メケム」

かべ（名）[illegible] 自己ニ寄セテ云フナリ」[illegible] おかべ。[illegible]かべ」

かべい（副）かるべしノ略轉。[illegible] べいモノナメレ」

か-へい-げつ（名）嘉平月 支那ニテ、陰暦十二月ノ異稱。史記、始皇紀「三十一年十二月、[illegible]」

かへい-ぢ-ひら（名）嘉平次平〔武藏國、入間ノ人、[illegible]嘉平次ノ創メシモノト云フ」銘仙織ノ袴地。メイセンヒラ。

かべ-いぢゅう（名）加陪從 陪從ノ條ヲ見ヨ。

が-へう（名）賀表 慶賀ノ意ヲ記シテ奉ル表。[illegible]

が-へう（名）餓莩 餓死シタル人。餓死人。孟子、梁惠王、上「民有飢色、野有餓莩」[illegible]

かへ-うた（名）替唄 もどきうたノ條ヲ見ヨ。

カヘエ（名）珈琲 [illegible]

おおひい ニ同ジ。

かへ-おどり（名）替踊 悪シキモノニ替

ヘタルコト。（替優ニ對ス）[illegible]

かべ-がき（名）壁書 〔壁ニ貼リ出シ置クベシ」吏員ノ執務上、守ルベキ箇條ヲ記シテ、掲示スルモノ。[illegible] 吾妻鏡、九、文治五年九月十七日「[illegible]下ニ一紙[illegible]可ㇾ押ㇾ于二毘盧寺南大門一」（奥州、平泉ノ寺ナリ）

かへ-かた（名）替肩 駕籠昇ナドノ、手替リノ者。

かべ-がみ（名）壁紙 壁ノ上ニ貼リツクル、装飾用ニ製セル、一種ノ紙。白キアリ、模様ヲ染メタルアリ。

かべ-げんざん（名）壁見参 親シク出デ會ハズシテ、[illegible]ナ、アタラ者カナト、面面ニササヤキテ、かべげんざんニ借シミ合ヘリ」

かべ-ごし（名）壁越 壁ヲ隔テテ、物スルコト。[illegible]

かへ-ごと（名）替事 取替ヘゴト。トリカヘゴト。

かへ-ことば（名）代詞 代名詞ニ同ジ。

かへ-さ（名）歸方 〔かへるさノ略、かへるで、かへで」かへるさニ同ジ。其條ヲ見ヨ。

かへさひ-まう・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）返申 次條ヲ見ヨ。返すノ敬語。[illegible] 皆、かへさひ申シタマフ」

かへさ・ふ [illegible] 反 〔かへす（反）ノ延、かくす、かくさふ。おはす、おはさふ」（一）カヘス。ウチカヘス。[illegible]

かへ-さま（名）反樣 〔かへりさまノ略、かへるさ、かへさ」ウラウヘ。ウラハラ。[illegible]

かへ-ざや（名）替鞘 懸替ノ鞘。[illegible]

かへし（名）返 （一）カヘスコト。モドスコト。（二）返言 答。答ヘ。返事。返答。[illegible] 物ニテ、同ジ文句ヲ、再ビツタフコト。（五）クリカヘシ。（六）反切。（其條ヲ見ヨ）（七）返事。カヘシモノ。ムクイ。返禮。「[illegible]かへし」（八）返幕ノ略[illegible]

かへし-うた（名）反歌 （一）〔神樂歌ニ、聲ノ調子ノ、律ヨリ呂ニ反シ、呂ヨリ律ニ反シテ歌フコト[illegible]

下(仁德)」「志都歌之返歌」江家次第、六、石清水臨時祭、試樂「舞人出畢、陪從反歌、退出」かへしものト云フモ同ジカルベク、返聲ト云フモ、律呂ノ轉換ナルベシ。古今集、二十、大歌所「かへしものノ歌」袖中抄、六「古今ノかへしものノ歌ト云フハ、多クハ催馬樂、呂律ノ歌ナリ」古今祕抄「初ハ律ニテ呂ニウツリ、又、本ノ律ニカヘルヲ、かへしものト云フナリ」袖中抄、六「アヅマ琴、春ノ調ベヲ、借リシカバ、かへしものトハ、思ハサリケリ」源、三十四、下、若菜、下四十「琴、云云、かへりごゑニ、皆調べ變ハリテ、律ノ掻キアハセドモ、ナツカシク、今メキタルニ」(二)反歌ノ條ヲ見ヨ。

かへしうた (名) 返歌 贈ラレタル和歌ノ意ニ合セテ、詠ミ送ル歌。コタヘウタ。略シテ、かへし。カヘリ。返歌。唱酬 神代紀、下四三十「報歌」土佐日記、正月七日「此歌ヲ、コレカレ、アハレガレドモ、一人モかへしセズ」

かへしがき (名) 返書 袖書ノ條ヲ見ヨ。

かへしがたな (名) 返刀 竹木ノ端ヲ、大キクはすぎりニ切リ、其尖ヲ、裏ヨリ少シ殺グコト。徒然草、六十六段「枝ノ長サ七尺、或ハ六尺、返し刀、五分ニ切ル」

かべしたぢ (名) 壁下地 〔屋根下地ヲ併セ見ヨ〕又、壁代。竹木ノ細ソキ材ヲ組ミテ、壁土ヲ附クル骨トスルモノ。壁骨 其竹木ノ稍太キヲ、縱横ニ、間ヲ隔テテ互シテ釘スルヲ、間渡ト云ヒ、(壁棧)コレニ、女竹ヲ、密ニ細ニテ編ミツクルヲ、木舞ト云フ、古言ニ、助枝ト云フ、是レナリ。コレヲ編ムヲ、木舞ヲかくト云フ。狂言記、緡縄「普請、云云、かべしたちヲ掻サイテ御座ルガ」

かへしどめ (名) 返留 次次條ノ語ニ同ジ。

かへしな (名) 反名 (一)二字ノ人名ノ、上下ノ訓ノ一音ヅツ摘ミ取リテ、綴名ヲ作ルコト。神鏡抄「取上字和訓之初、與下字和訓之初、若終、而連讀爲名稱曰返名、如匡房反名萬藏、通憲反名民輪」(類聚名物考、人物、三、碩鼠漫筆、二)江談抄、二「藤原明衡、安蘭」古今著聞集作者「橘成季、南喜」(二)此遺事ナルカ、後世、五行吉凶ヲ説キテ、二字ノ音ヲ反切ニカケテ、名乗ノ字ヲ定ムルコトアリキ。

かへしぬひ (名) 返縫 裁縫ノ語。縫ヒ行キテ、縫ヒ終ヘタル處ヨリ、又、元ヘ二針、三針、縫ヒ返シテ、絲ノ端ヲ止ムルコト。返針。カヘシドメ。薩摩歌(元祿、近松作)中「縫物ニ事寄セテ、問ヘバ答ヘノ返し縫ひ」

かへしばり (名) 返針 前條ニ同ジ。

かへしまく (名) 返幕 芝居ニ云フ語。ひきかへしまくノ條ヲ見ヨ。

かへしもの (名) 返物 (一)〔反歌ノ條ノ(一)ヲ見ヨ。(二)借リテ、返却スル物。(三)カヘリゴト。贈物ヲ受ケテ、返禮ニスル物。略シテ、かへし。

かべしろ (名) 壁代 〔壁ニ代用スル意、壁代ノ帷ト云フガ正シキナリ、絹垣ト同趣ノ語〕(一)〔宮殿中ノ、母屋ト廂トノ間ノ隔テトシテ、御簾ノ内ニ、上長押ヨリ下長押マデ垂レ懸クルモノ。綾、絹ナドニテ作ル、製、大抵、几帳ノ帷ノ如シ。江家次第、一、元日宴會「身屋、九間、内四面ニ壁代帷、褰之」源、三十四、上、若菜、上三十「屏風、かべしろヨリハジメ、新シクハラヒ、シツラハレタリ」(二)カベシタヂ。

かへ・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) 返 〔かへるノ他動、へる、へす。(減)もどる、もどす〕(一)〔元ノヤウニス。元ノ姿ニス。モドス。ナホス。復 名義抄「復、カヘス」(二)〔再ビ、元ノ處ヘ到ラス。歸ラシム。還 萬葉集、十五三十長歌「可敝之遣ル、使ナケレバ」名義抄、雜部「歸、カヘス」(三)報ユ。報 「恩ヲかへす」仇ヲかへす」

かへ・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) 反 〔前條ノ語ノ、返すヨリ轉ズ〕(一)〔クリカヘス。再ビス。反復 靈異記、中、第三十三縁「覆思之、猶是過去怨」訓釋「覆、カヘ爪」(二)〔ヒルガヘス。翻 萬葉集、十七三十七長歌「袖振リ可邊之」字鏡、六十「翻、加戸須」(三)〔クツガヘス。ヒックリカヘス。ウラガヘス。覆 名義抄、又部「反、カヘス」「敷物ヲかへす」着物ヲ、表ニかへし、裏ニかへす」(四)〔掘リカヘス。タガヤス。耕 字鏡、六十「耕、加戸須」古今集、十五、戀、五「アラヲ田ヲ、アラスキかへし、かへしテモ、人ノ心ヲ、見テコソヤマメ」拾遺愚草、員外、五「かへしシ小田ニ、早苗植ウナリ」(五)反切ヲナス。

かへ・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) 反吐 〔前條ノ語ノ、返すニ同ジ〕反吐ヲツク。吐ク。モドス。嘔吐 榮花物語、廿五、峯月「湯飲マセナドスレド、かへしツツ惑フ」

かへ・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) 孵 〔孵るノ他動〕孵ルヤウニス。孵ラシム。宇津保物語、藤原君七「卵ノ内ニ、命コメタル、かりノ子ハ、君ガ宿ニテ、かへさザルラム」

かへ・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ (他動、左變) 背 〔易すノ義、易ますトモ云ヒ、打消ニかへずトモ云フ、彼方ノ請フ意ヲ、此方ノ意トとりかへまする義〕背フ。ウベナフ。ウケヒク。カヘニス。カヘンズ。

ガヘンズ。承諾ス。神武即位前紀、三十「不肯」承伏ニ」顯宗紀、元年正月「不肯欲」拾遺集、十九、雜戀「鵲ノ、トカヘル山ノ、椎柴ノ、羽ガヘハストモ、君ハかへセジ」齊明紀、六年三月「遣使喚而不肯來」名義抄「不肯、カヘズ」

かべす (名) 〔菓子、辨當、鮨ノ首音ヲ摘ミ取リタル語、普通ノ食物ナリ〕東京ノ芝居ニテ云フ口語。見物人ノ、冗費セヌコト。「かべすノ見物」

かへすがき (名) 返書 袖書ノ條ヲ見ヨ。

かへすがへす (副) 返返 (一)カヘルガヘル。シバシバ。幾度モ。再三再四 續紀、二十、天平寶字元年七月、詔「加遍須加遍須思セドモ」古今集、十、物名「花ノ色ハ、タダ一サカリ、濃ケレドモ、かへすがへすゾ、露ハ染メケル」名義抄、又部「反、カヘスガヘス」(二)カサネガサネ。クレグレ。古今集、十一、戀、一「唐衣、ヒモユフグレニ、ナル時ハ、かへすがへすゾ、人ハ戀シキ」

かへせん (名) 替錢 錢ノ兩替ナルベシ。庭訓往來、四月「泊泊借上、湊湊替錢」

かべそしよう (名) 壁訴訟 〔壁トハ、相手ニ感ゼヌコト〕獨リ呟クコト。蔭ニテ、苦情ヲ言フコト。武林往昔日記「兩人述懷シテ、壁訴訟有リ」

かへだま (名) 替玉 〔玉トハ、本人ノ事、たまノ(六)ヲ見ヨ〕本人トスリカヘテ、代人ヲ出スコト。僞物ヲ、眞物ト思ハセテ示スコト。「受驗者ノ替玉」

かへち (名) 代地 舊地ニ代ヘタル新地。代地。建武以來追加「充給替地事、云云、雖給替地、依不知行、立歸、望申以前在所之條、自由之至也」

かべチョロ (名) 壁著羅 〔元ハ舶來ノ

モノ、壁色の鏡。[illegible]明析ノ、[illegible]文[illegible]

かべ-つち（名）［壁土］ 壁ニ塗ルニ用キル泥土。 宇治拾遺、十二、第六條「古キ壁ヲ給ヒテ、[illegible]」

かへつ-て（副）［却反還］ かへりてノ音便。[illegible]

かへ-づる（名）［膂背］ [illegible]

かへ-て（副）［却］ かへりてノ略。其條ヲ見ヨ。

かへ-で（名）［膂手］ [illegible]

かへで（名）［楓］（一）次條ヲ見ヨ。（二）[illegible]

かへで-の-き（名）［楓鷄冠木］〔かへでハ、かへるでノ略、（かへるさ、かへさ）其條ヲ見ヨ、鷄冠木トハ、葉ノ形、鷄冠ニモ似タレバナルベシ」かへるでの木。略シテ、かへで。轉ジテ、かいで。喬木。高サ數丈ニ至ル、葉ニ尖アリテ、七八岐ヨリ十餘岐ニ至ル、[illegible]紅ナリ、夏、青色ニ[illegible]スルコト、[illegible]ノ名ヲ專ラニスルニ至ル、夏ノ半ニ、小黄花ヲ開ク、形、[illegible]ノ如ク、實ノ中ノ

[illegible]定木、賀佐天乃木」 字鏡二十「[illegible]」[illegible]二十、京傳「かへでノモミヂ」

かべ-となり（名）［壁隣］ [illegible]

かへ-との（名）［柏殿］ [illegible]御所ノ稱、朱雀院ニアリ。[illegible]「御シツラヒハ、かへとのノ西面ニ」 江家次第、六、石清水臨時祭「使宿二朱雀院柏殿母屋一」

かへ-な（名）［代名］（一）アル名ニ代フル名。 變稱（二）アル名ノ外ニアル名。 [illegible]

かへ-なし（名）［柏梨］〔柏ハ、地名ナリ〕御佛名ノ時、夜中ニ、宮中ニテ、[illegible]トシテ賜ハル甘糟。 江家次第、十一、御佛名「今夜[illegible]」[illegible]六位、二アサマシヤ、[illegible]かへなしノ、[illegible]ル人ノ、君ヲ勸ムル、かへなしノ、ヨソヒノ程ニ、夜[illegible]ゾ[illegible]ニケル」

かへ-ま-す・スル・スレ・セ・シ・セヨ（他動、左變）［背］〔易ます（ ）ノ義、かへす（背）ノ語原ヲ見ヨ〕 背すニ同ジ。ウケガフ。 音便ニ、かへんず。がへんず。 [illegible]「不[illegible]」[illegible]人」「下劣衆生、不レ肯ニ禮拜」

かべ-ぬり（名）［壁塗］ 壁ヲ塗リ造ルヲ業トスルモノ。サクワン。シャカン。 墁工 [illegible]

かへ-ぶた（名）［替蓋］ 懸替ヘノ蓋。

かへ-ほ-す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）［漱］〔漱

かへ-まさり（名）［替優］ [illegible]ヤ、「[illegible]ノヨルノ衣ナラマシカバ、ゲニかへまさりニモヤオボエマシ」

かへん-ず（動）［背］〔かへまずノ音便、其條、及、かへす（背）ノ條ヲ見ヨ〕[illegible]すニ同ジ。がへんず。[illegible] 廿三年四月[illegible]名義抄[illegible]安二年、[illegible]

がへん-ず（動）［背］〔うけがへヲ上略シタルニ同リテ、[illegible]〕[illegible]義抄、肉部「不肯、ウケガヘニセズ」」 前條ノ語ニ同ジ。ウケガフ。ウケヒク。承諾ス。

かへんなむ-いざ（句）［歸去來］〔訓點ノ語、歸りなむ、いざノ音便、（假名、かんなむハ、完了ノ助動詞、ぬノ字ニ、いざヲ先ツ、來ハ、助語ニテ、助語[illegible]ニ「[illegible]」[illegible]たれノ義ヨリ、いざノ意トナル）歸去來ト云フ熟語ノ訓點ナレバ、いざガ、語ノ下ニアルナリ、史記、[illegible]歸去來辭ナド、[illegible]クヨリ教科書ナレバ、此訓語、普遍ナリシト見エテ、古クヨリ上略シテ、去來ノ二字ヲ、いざニ充テ用キラレタリ、いざノ條ヲ見ヨ」 いざ歸りなむト、倒ニ解スベキ句、いざハ、[illegible]歸[illegible]まはう[illegible]ノ意ナリ。[illegible]

かへ-もん（名）［替紋］ 家ノ定紋ニ代ヘ、[illegible]

かへ-ら（名）［蛙］ かへるノ條ヲ見ヨ。

かへ-らぎ（名） かいらぎヲ見ヨ。

かへらぬ-たび（名）［不歸旅］ 死シテ、冥[illegible]

かへらぬ-ひと（名）［不歸人］ 死シタル人。 土佐日記、十二月廿七日「都ヘト、思フモ物ノ、悲シキハ、かへらぬ人ノ、アレバナリケリ」（土佐[illegible]

かへら-ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ（自動、四）［歸還］〔かへるノ延、かはる、かはらふ。（變）まもる、まもらふ（守）〕（一）かへる（返）ノ（二）ニ同ジ。 萬葉集、九[illegible]「アシビキノ、荒山[illegible]」（二）反ル。ヒルガヘル。[illegible] 萬葉集、一八[illegible]「山橘シノ、[illegible]居ル、吾ガ衣手ニ、朝夜ニ還比ヌレバ、[illegible]

かへら-まに（副）［却］〔かへらハ、反るノ轉、（弦、つる）ままハ、任まノ意、逢はずまま、戀りすままノままニ同ジ（契沖）〕[illegible]

かへり (名) 返 (一)〔カヘルコト。モドルコト。〕大和物語、中「栞リシテ、行ク旅ナレド、カリソメノ、命知ラネバ、かへりシモセジ」 (二)歸ル路。歸途「君ノ家ヘハ、かへりニ寄ラウ」 (三)〔チョット行キテ、スグニ歸ルコト。〕タチカヘリ。萬葉集、六「四十四 還ナクバ、還爾ダニモ、打行キテ、妹ガ手枕、卷キテ寢マシヲ」 同、十七「二十二 長歌「近クアラバ、加幣利ニダニモ、打行キテ、妹ガ手枕、サシカヘテ、寐テモ來マシヲ」 (四)〔カヘリゴト。コタヘ。返答。〕源、五、若紫「廿六 僧都ノ御かへりモ、同ジサマナレバ」 (五)〔返歌。〕宇津保物語、俊蔭「廿 御文賜ヘド、云云、女ニモ、御かへりモセサセズ」 (六)〔タビ。返。度。〕回(常ニ、數詞ノ下ニ附ク)「一かへり」「三かへり」「十かへり」「幾かへり」 (七)返點ノ略。

かへり (名) 反 反リカヘルコト。「翻筋斗」「宙がへり」「デングリかへり」

かへり-あし (名) 歸足 歩キテ、我ガ家ニ歸ラムトスルコト。カヘリミチ。歸路 七十一番職人盡歌合、十七番、土器造「赤カハラケ召スマジキカ、かへりあしニテ、安ク候ゾ」

かへり-あそび (名) 還遊〔あそびハ、管絃ノ義ナリ〕賀茂祭ナドノ、還立ノ賜宴。榮花物語、三、樣樣悦「祭ノ日ノかへりあそび、御前ニテアルニ」

かへり-あるじ (名) 還饗 かへりだちのあるじヲ見ヨ。

かへり-うち (名) 返討 仇ヲ撃タムトシテ、却ッテ仇ニ撃タルルコト。曾我虎磨(寶永、近松作)下「爲損ジテ、反討ノ便リヲヤ聞クベキ」

かへり-うち (名) 反打〔打つトハ、此技ヲ行フヲ云フ〕カヘリウツコト。身ヲ打チカヘシテ、翻ルコト。翻筋斗 天治字鏡、十二「廿六 擲倒、加戸利打」 箋注倭名抄、二「五十 雜藝類「擲倒、賀倍利宇都、下總本、都、作知」 進ミ行キテ、急ニ身ヲヒルガヘシテ、元ノ處ニ歸ルヲ、蜻蛉がへりト云フ。又、さかとんぼ。著聞集、十一、蹴鞠「成通卿、云云、鞠、格子ト簾トノ中ニ入リケルニ、續キテ飛入ラレケル、云云、鞠ヲ足ニ載セテ、其板敷ヲ踏マズシテ、山雀ノもどり打つヤウニ飛ビカヘラレタリケル、云云、我ガ一期ニ、コノとんぼうがへり一度ナリトゾ、自稱セラレケル」 兩手ヲ地ニ突キ、俯シテかへりうつヲ、てんぐりがへり(手繰りかへりノ意ナラム)ト云フ。手ヲ地ニ突カズシテかへるヲ、宙がへりト云フ。俳諧溫故集(正徳)「ツバクラヤ、何ヲ忘レテ、中がへり」 仰ギテ宙がへり打つヲ、戻りうち、もんどりうちト云フ。松の葉(元祿)「駒鳥ガ、籠ノ中デノ、ヒトリゴト、籠ガ狹ウテ、もんどりうたレヌ」 兩手ヲ地ニ突キテ、身ヲ横ニ、續ケザマニかへすコト、車輪ノメグルヤウニスルヲ、車がへりト云フ、斯クシテ、前後左右ニかへるヲ、猿がへりト云フ。寛永發句帳「さる返り、見テヤ立チ來ル、酉ノ年」

かへり-う・つ・ツ・テ・タ・チ・テ (自動、四) 反打〔轉びうつ、寐がへりうつト云フ語モアリ〕(一)翻筋斗ヲナス。倭名抄、四「四十八 雜藝類「擲倒、賀倍利宇都」 (二)鳥、眠ル。(首ヲ後ヘメグラシ垂ルル意カ) 散木集、二、夏「時鳥、己ガ根山ノ、椎柴ニ、かへりうてバヤ、オトヅレモセヌ」

かへり-うま (名) 歸馬 宿繼ノ駄馬ナド、荷ヲ送リ了ヘテ、單身ニテ曳カレテ、家ニ歸ルモノ。

かへり-がけ (名) かへりしなニ同ジ。

かへり-かんじやう (名) 返感狀 我レニ敵シタル者ニ與ヘタル感狀。武田氏ノ士、向井與左衛門、鎗ニテ上杉謙信ヲ突ク、謙信覆ミテ一刀斬ッタリ「ヨモ助カラジト思ヒツルニ、存命ヘタルヨナ」トテ萌黄ノ胴肩衣ニ、鎗ノ痕アルヲ取出シ、書簡ヲ添ヘテ、向井ニ贈ラレケリ、コレヲ世ニ、返り感狀ト云フ」(常山紀談、二)

かへり-き・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (他動、四) 還聞〔覆り聞く意ナラムカ〕聞クベカラザルニ、聞キ込ム。漏レ聞ク。平家物語、六、小督事「仲國、入道相國ノ還り聞きタマハム所ハ恐シケレドモ、云云」 著聞集、十六、興言利口「慈惠僧正ヲ、濫行肉食ノ人タル由、不實利口ヲ申シタリケルヲ、僧正、かへり聞きタマヒテ、憤リテ」

かへり-ごと (名) 返言 (一)先方ノ答ヘヲ受ケテ、使者ノ、歸リテ申ス詞。復命 神代紀、上「廿 復命」 萬葉集、十九「四十二 長歌「平ケク、早渡リ來テ、還事、奏サム日ニ、相飲マム酒ゾ、此豐御酒ハ」(遣唐使ニ賜ハリシ大御歌ナリ) 遷却祟神祭詞「天穂日命ヲ遣ハシテ平ケムト申シキ、是以、天降シ遣ハス時ニ、此神ハ返言申サズ」 (二)答ヘ。返辭。返答。答辭 竹取物語「翁、カシコマリテ、御かへりごと申スヤウ」 伊勢集「文オコスレド、かへりごとモセザリケレバ」

かへり-ごと (名) 返事 贈物ノ報。返禮。報酬 土佐日記、二月八日「或人、鮮カナル物持テ來タリ、米シテ、かへりごとス」

かへり-ごゑ (名) 返聲 かへしうた(反歌)ノ條ノ(一)ヲ見ヨ。

かへり-ざき (名) 返咲 (一)草木ノ花ノ、時ナラズ咲クコト。小春ノ候ナドニアリ。カヘリバナ。クルヒザキ。二度咲。狂花 (二)人事ニ、再ビ榮ユルコト。小町踊(寛文)春、上「花ニ云ハバ、又來ル春ヤ、かへり咲き」

かへり-さま (名) 歸方 かへるさまヲ見ヨ。

かへり-じ (名) 返字 かへりてんノ條ヲ見ヨ。

かへり-しな (名) 歸ル路ノツイデ。カヘリガケ。

かへり-しんざん (名) 歸新參 主家ニ暇ヲ取リタル者ノ、復タ歸參スルコト。デカヘリ。デモドリ。三河物語(大久保彦左衛門)上「內前者、兄ナレ供、度度ノ別心ナレバ、歸リ新參成リ、我レハ弟ナレ供、一度モ別心ヲセザレバ、上座ニ可レ有」

かへり-しようもん (名) 返證文 物ヲ質リタル證文ニ、質渡金ヲ出ス時ハ、取戻シ得ル旨ヲ約シタルモノ。

かへり-しよにち (名) 返初日 芝居ナド、興行ヲ中止シテ、復タ開キタル初日。

かへり-だち (名) 還立 カヘリダツコト。退散。專ラ、神事、儀式ノ終ハリテ、禁中ニ還リ、賜宴アルナドニ云フ。江家次第、六「石清水臨時祭、還立事」 枕草子、七、六十八段「賀茂ノ臨時ノ祭ハ、かへりだちノ御神樂ナドニコソ、ナグサメラルレ」「賭弓ノ還立ノ饗」

かへり-だち-の-あるじ (名) 還立饗〔「あるじノ條ヲ見ヨ」〕 正月ノ賭弓ノ還立ニ、勝方ノ近衛大將ノ、射手ヲ召シテ饗應スルコト。多クハ略シテ、かへりあるじト云フ。七月ノ相撲、果テテ後ニモアリ。後撰集、十五、雜、一「兼輔朝臣、宰相中將ヨリ、中納言ニナリテ、又ノ年、賭弓ノかへりだちのあるじニマカリテ」 源、四十一、匂宮「九 賭弓ノかへりあるじノ設ケ、六條院ニテ、イト心異ニシタマヒテ」 北山抄、八、相撲召仰「還饗、大將先着」 宇津保物語、藏開、下「廿六 かへりあるじノ祿、すまひうどノ祿ニ、皆

[illegible]ビテキ」

かへりだ・つ・ツ・テ・タ・チ・テ（自動、四） 還立 〔後途、退出ヲ、たつト云フ意〕 還ルト云フニ同ジ。（出立つノ反） 萬葉集、十六 [illegible]「[illegible]ヲコソ待テ」 [illegible]百首、下「かへりだつ、庭燎ノ前ノ、[illegible]コソ、アナオモシロト、云フベカリケレ」（還立ノ御神楽ニ云フ）

かへりぢ（名） 歸路 家ニ歸ル路。カヘリミチ。歸路。 [illegible]時后宮歌合、[illegible]シテ、今[illegible]ノかへりぢ、[illegible]テ 來シカバ」

かへりちゅう（名） [illegible] （一）一日[illegible]ル、[illegible]ノ、[illegible]コト。[illegible]ニ、[illegible]人ノ[illegible]レス[illegible]ニ、[illegible]思シテ、命生カウト思フ心ゾツキニケル」（大納言[illegible]ノ[illegible]）（二）身方ニ[illegible]、敵ニ力ヲ盡スコト。ウラギリ。反應 太平記、三十八、[illegible]コレハ、イ[illegible]、[illegible]テ、[illegible]敵、夜討ニ[illegible]セタリケリト心得テ」

かへりて（副） 却 〔反りてノ義〕 ナカナカニ。反對ニ。略シテ、かへて。急呼シテ、かへって。 源、二、帚木「濁リニシメル程ヨリモ、生浮ニテハ、かへりて惡シキ道ニモタダヨヒヌベクゾ思ユル」（尼ノ、濁世ニアリシ時ヨリモ、[illegible]ノ[illegible]云フ）[illegible]上二[illegible]」

かへりてん（名） 返點 〔點ノコトハ、をことてんノ條ヲ見ヨ〕 漢文ヲ、國語ニ譯シテ讀ム時ハ、其語、顚倒シテ居レバ、上ニ反リテ讀ム、其字ヲ返字ト云ヒ、其文字ニツクル標ガ、かへりてんナリ。[illegible]字ノ左ニ「見ㇾ之」「不ㇾ得ㇾ已」ナドツクル

「レ」ナド、是レナリ、コレヲかりがねて[illegible]ト云ヒ、[illegible]二[illegible]、下[illegible]以爲ニ、言當ニ」ナド、一、二、三ナドヲツク[illegible]、[illegible]ヘ[illegible]ト云ヒ、[illegible]ヘ[illegible]ノ中ニおほがへりアルヲ別タムガ爲ニハ、上、中、下、又ハ、[illegible]、人、又ハ、甲、乙、丙、丁、ナドノ字ヲ用[illegible]、[illegible]、言當[illegible]ナドナリ（[illegible]ノ條ヲ併セ見ヨ）[illegible]かへり點ナキ、シントクノ[illegible]

かへりてんじゃう（名） 還殿上 還昇ノ條ヲ見ヨ。

かへりばな（名） 返花 還[illegible]ノ花。狂花[illegible]かへり花ノ枝ニサシテ」

かへりまうし（名） 還申 （一）使命ヲ奏聞スルコト。（[illegible]）（[illegible]）ヲ見ヨ） 復奏 江家次第、十五、[illegible]大嘗會[illegible]主水、夕[illegible]ノ御[illegible]、平カニ供[illegible]ツト申[illegible]レ[illegible]ノ[illegible]ト云フ）[illegible]（二）神ニ祈願シテ、[illegible]スルコト。[illegible]レイマヰリ。[illegible]、カヘリマウシ」[illegible]「ヨ[illegible]ニ、かへりまうしノ[illegible] 帛奉ラムトテ、河原ニ出テタマヒテ」 年[illegible]ノ、かへりまうしノ、[illegible]ノ[illegible]帛」

かへりまう・づ・ヅル・ヅレ・デ・デ・デヨ （自動、下二） 還詣 [illegible]ル。[illegible]、[illegible]、下[illegible]、かへりまうでて[illegible]」

かへりまうで（名） 歸參 カヘリマウヅルコト。[illegible]。歸參。

かへりみ（名） 顧 （一）カヘリミルコト。[illegible]出給ヒ、[illegible]セズテ、[illegible]ミタル」[illegible]、上、[illegible]（二）[illegible]コト。[illegible]ニ長歌「心ヲイタミ、思ヒツツ、顧みスレド」（三）常ニ見守[illegible]、[illegible]ササカダニモ仕ウマツラデ」源、廿一、少女「身ニ餘ルマデ、御かへりみヲタマハリテ」

かへりみち（名） 歸路 カヘリヂ。家ニ[illegible]ル路。[illegible]。

かへり・みる・ミル・ミレ・ミ・ミ・ミヨ（他動、上一） 顧 〔返り見るノ義〕 （一）振リカヘリテ、背ヲ見[illegible]。[illegible]ヲ、行[illegible]ト、[illegible]マデニ、かへりみ[illegible]（二）[illegible]ヒカヘス。[illegible]「アハレナル、花ノ盛リノ、心カナ、身モかへりみズ、人待タレケリ」（三）見守リテ、イツクシム。ウシロミル。[illegible]七人アレド、善クコマカニ心シラヒ、かへりみるヤハアル」

かへりやみ（名） 返病 やみかへしニ同ジ。[illegible]カヘシ。[illegible]

かへる（名） [illegible] 〔[illegible]文ニ、かへらトアリ、俗ニかいろト云フ、かへハ、鳴ク聲、る、ろ、ハ添ヘテ意ナキ[illegible]〕 [illegible]ノ條ヲ見ヨ〕又、かへら。かいる。動物。[illegible]、[illegible]ノ邊ニ、水陸兩棲ス、冬ハ土中ニ蟄伏シ、春ニ至リテ出デ、[illegible]ノ頃ニうたなくス（[illegible]）トテ、[illegible]ナル[illegible]テ、[illegible]ヨリ鳴キ始ム、四足ニシテ、尾ナ

[illegible]ヲ見[illegible]、[illegible]、[illegible]ルコトヲ得ル類アリ、雨がへるノ如シ。蛙 殊ナキ類ハ、雨がへる、このさまがへる等ナリ。蛙 其他、種類多シ、蝦がへる、[illegible]がへる、赤がへる、かはづ、かじか、[illegible]、[illegible]、[illegible]兵衛「谷蟆ノ、[illegible]極ミ、[illegible]ノ、[illegible]ハミ」

かへ・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四） 返 〔變ル、代ルト通ズルカ〕 （一）[illegible]リテ、[illegible]ニナル。[illegible]二十[illegible]ニアラ[illegible]」 （二）[illegible]ニ到ル。タチモドル。歸還ス。（行くノ反） [illegible] 萬葉集、[illegible]、[illegible]「[illegible]」 （三）[illegible]ドル。褪 千載集、十六、[illegible]、上「八年マデ、手[illegible]シタリシ、梓弓、かへるヲ見ルニ、哭ゾ泣カレケル」（四）染色、變ハル。色サム。褪ス。新古今集、十、[illegible]「思ヒオク、人ノ心ニ、[illegible]ハレテ、[illegible]クル袖ノ、かへりヌルカナ」（五）甚ニアヒテ、[illegible]。

かへ・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四） 反 〔前條ノ[illegible]ノ、[illegible]〕 （一）[illegible]ヒ[illegible]ウラガヘル。[illegible]ノボル、タナバタノ、雲ノ衣ノ、[illegible]ル袖カモ」[illegible]今集、[illegible]、[illegible]ヘるヲ見テヤ、秋モ行クラム」名義抄「反、カヘル」同「飜、カヘル、ヒルガヘル」（二）クツガヘル。[illegible]ヒ[illegible]ヘ[illegible]（三）反切ノ[illegible]、[illegible]ヲ見ヨ」

(四)沸きかへるノ略。著聞集、二十、魚蟲「かへりタル湯ヲ、穴ノ口ニ汲ミ入レタリケルホドニ、蛇ニタガハズ、蛇出デテ」(五)〔他ノ動詞ト熟語ニナリテ、甚シクナル意ヲ云フ。〕くつがへるノ略ナラムカ、愛でくつがへるナド云フ語アリ。「沍エかへる」煮エかへる」見エかへる」消エかへる」死ニかへる」靜マリかへる」呆レかへる」アヤマリかへる」(各條ヲ見ヨ)

かへ・る・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) 孵 〔反ル義〕 卵、化リテ、鳥、魚、蟲トナル。 倭名抄、十八、廿「孵、卵化也、加倍流」 源順集「神ノ座ス、山田ノ原ノ、鶴ノ子ハ、かへるヨリコソ、千代ハ數ヘメ」 夫木抄、廿七、魚「魚ノ子ノ、かへる頼ミモ、アルモノヲ、サラヌ別レノ、ホドゾ悲シキ」

かへ・る・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) 鴘 〔前條ノ語ノ、孵ルト同義ナルベシ、韻會「鴘、披免切」集韻「鷹、隼、二歲、色赤」〕 鷹ノ胸ノ羽ノ斑、變ル。 二歲ノ鷹ヲかたがへりト云ヒ、斑、横サマニナル。三歲ナルヲもろがへりト云ヒ、斑、細マカニナル。鳥屋ニテかへるヲ、とやがへりト云ヒ、山ニテかへるヲ、やまがへりト云フ。鷹ノ條ヲ見ヨ。 倭名抄、十八、廿三「鴘、鷹、鶻、二年色也、加閉流」 袖中抄、九「鷹ニ、かへるト云フ事ヲ詠ムハ、毛ノカハル也、とやがへりト云フハ、鳥屋ニテ毛ノカハル也」 名詞ニ、かへるはみト云フハ、かへる羽見ノ義ニモアルカ。 箋注倭名抄、七、羽族部「鴘、賀閉流波美」 字類抄「鴘、カヘルハミ」

か・へる (動) 代ふ、又ハ、變ふ、等ノ口語。

がへ・る (名) 蛙 かへるノ訛。(陸前、出雲、備後)

かへる・がへる (副) 返返 かへすがへすニ同ジ。 古今集、十七、雜、上「白雪ノ、八重降リシケル、歸山(序、詞前)かへるがへるモ、老イニケルカナ」 後撰集、十二、戀、四「かへるがへるモ、恨ミツルカナ」 名義抄「俊、カヘルカヘル」

かへる・ご (名) 蛙子 蛙類ノ卵ノ、始メテ孵リタルモノ。頭、圓ク大キク、身、狹ク長クシテ、尾アリ、色黑ク、泳グコト魚ノ如シ、其形ニ因リテ、おたまぢゃくしノ名アリ。 蝌蚪 長ズレバ、尾ヲ脱シ、足ヲ生ジテ、形ヲ成ス。 字類抄「蝌蚪、カヘルゴ」

かへる・さ (名) 歸方 〔かへさト云フハ、かへるさノ略、かへさま(倒)ト云フハ、蹶るさまノ略ナルガ如シ〕 歸ル時。略シテ、かへさ。カヘリシナ。 萬葉集、三、三十五「妹ト來シ、敏馬(地名)ノ崎ヲ、還ルサニ、獨シ見レバ、涙グマシモ」 同、十五、三十九「可敝流散ニ、妹ニ見セムト、海ノ、沖ツ白珠、拾ヒテ行カナ」 千載集、一、春、上「かへるさヲ、イソガヌ程ノ、路ナラバ、ノドカニ峯ノ、花ハ見テマシ」 源、廿一、少女、四十「かへさニワタラセタマフ」 後拾遺集、一、春、上「山櫻、心ノママニ、尋ネ來テ、かへさゾ路ノ、程ヲ知ラルル」

かへる・さま (名) 歸方 歸リガタ。カヘリシナ。又、かへりさま。 古今集、八、離別「慕ハレテ、來ニシ心ノ、身ニシアレバ、かへるさまニハ、路モ知ラレズ」 源、十五、蓬生、十「かへりさまニ立寄リタマヒテ」

かへる・で (名) 楓 次條ヲ見ヨ。

かへるで・の・き (名) 蝦手木 〔葉ノ形、蝦ノ手ニ似タレバ、名トス〕 略シテ、かへるで。 楓(かへるでノ略)ニ同ジ。 倭名抄、二十、廿六「雞頭樹、加比留提乃木」(比ハ、閉ノ音ニ用キタルナリ、うれふ(憂)ノ條ノ(二)ヲ見ヨ) 萬葉集、八、廿五「吾ガ宿ニ、黄葉ツ蝦手、見ル毎ニ、妹ヲカケツツ、戀ヒヌ日ハナシ」 同、十四、廿五「子持山、若可敝流氏ノ、黄葉ヅマデ」

かへる・の・つら・かき (名) 〔蛙の面搔ノ義、刺ニ因リテ云フ〕 水草ノ名。溝ナドニ生ズ、刺アリ、いしみかはノ類ナリ。

かへる・ば (名) 蛙葉 〔おほばこノ條ヲ見ヨ〕 草ノ名。おほばこノ異名。訛シテ、けえろっぱ。

かへる・は・み (名) 鴘 かへる(鴘)ノ條ヲ見ヨ。

かへる・また (名) 蛙股 〔矢ノ根ノかりまたト同意ノ語〕 屋ノ棟ノ端ヲ承ケテ、破風ノ上ニ飾リツクルモノ、蛙ノ、股ヲ開ケル狀ヲナス。水ニ棲ム縁ヲ取リテ、防火ノ祝トスト云フ。 庭訓往來、三月「懸魚、蟇股木」 古キ前句附「開キタリケリ、開キタリケリ」かいるまた、四十女ノ、破風額」(嬉遊笑覽、二)

かへる・ゑんざ (名) 蛙圓座 〔葉ノ形、圓シ〕 水草ノ名。さちかがみノ異名。

か・へろ (名) 蛙 かへるノ訛。

か・ほ (名) 姿形 〔氣表ノ轉、人ノ氣ノ、表ニ出デテ見ユル意ト云フ、(鈴木重胤)氣ノ條ヲ見ヨ、又、あめのかほ(天垢)ノ條ヲモ見ヨ〕 身體ノ姿形。ナリスガタ。カタチ。 景行紀、四年二月「有二佳人一曰二弟媛一容姿端正」 萬葉集、九、十七長歌「胸別(胸間)ノ、廣キ吾妹、腰細ノ、須輕少女ノ、其姿ノ、端正シキニ」 身體ニ就キテ云ヘリ、上代ハ、少女ノ胸ノ廣キヲ賞シタリ、出雲國風土記、意宇郡ノ條ニ「童女ノ胸鉏」トアルモ、胸廣キ鉏ナリ。

か・ほ (名) 顏 〔前條ノ容ノ轉、身體ノ表示ニハ、顏ガ第一ナレバ、移レルナリ、(朝鮮語ニ、鼻ヲかほト云フトゾ)人ヲ表示スルニ、顏ぞろひト云フ、是レナリ〕 (一)〔頭ノ前面ノ、眉、目、鼻、口、ノアル處。〕オモ。オモテ。ツラ。 字鏡、六、十二「美須、加保與支女」 倭名抄、三、二「顏、眉目間也、加保」 (二)〔物ノ面。〕表面 竹取物語「月ノかほ見ルハ忌ムコトト、制シケレドモ」 (三)人ヲ表示スルニ云フ語。「顏ガ揃フ」顏觸」顏寄」 (四)ミエ。ホマレ。面目 「顏ガ立ツ」顏ガツブルル」顏役」 (五)〔其風ノ顏色ヲスルコト。〕オモモチ。(熟語ニノミ用キラル)「ソ知ラヌ顏」シタリ顏」物識リ顏」主顏」心得顏」 顏な赤むトハ、恥ヅ。怒ル。 沙石集、五、下、第二十一條「菖蒲、(女ノ名)かほをあかめテ、袖ヲ引キ結ヒケル」 太平記、三十一、新田義宗以下擧二義兵一事「顏を赤め、眼ヲ立て」 顏が賣れるトハ、世ニ知ラルル意。 顏赤め合ふトハ、互ニ爭フ意。

か・ぼ (名) 家母 他ニ對シテ、我ガ母ヲ稱スル語。(家父、家兄、同趣) 顏氏家訓「陳思王稱二其父一曰二家父一、母曰二家母一」

が・ほ (名) 牙保 (一)スアヒ。ナカガヒ。 (二)贓物ノ引渡シヲ取持ツ者。

かほ・あはせ (名) 顏合 相會フコト。カホムケ。面會。對面。

かほ・いろ (名) 顏色 (一)顏ノ色。「顏色ガ良イ」 (二)カホバセ。カホツキ。「顏色ヲ見テトル」

か・ほう (名) 加俸 本俸ノ外ニ、特別ニ給與セラルル俸給。「年功加俸」在勤加俸」

かほ・かたち (名) 顏貌 かほばせニ同ジ。カホツキ。 竹取物語「かほかたちヨシト聞コシメシテ、御使ヲタビシカド」

かほ・が・はな (名) 容花 かほばなノ條ヲ見ヨ。

かぼく (名) 家僕 家ニ使フシモベ。下男。禮記、禮運篇「仕ニ於公一曰レ臣、仕ニ於家一曰レ僕」、[illegible]

かぼそ・し・キ・ケレ・ク・ク (形、二) [illegible] 發語、かよわし、かやすし、かぐろし」かハ、細ソシ。甚ダ細ソシ。纖弱 四季物語(長明)三月「姥ゆふニサヘ繋ガルベキ、老ノかぼそき[illegible]ニモ」

かほぞろひ (名) 顔揃 人人ノ、打揃フコト。面面ノ、列座スルコト。

かほだし (名) 顔出 人中ニ、出會フコト。「一度、顔だしヲシテオクト」

かほだち (名) 顔立 顔ノ生立。カホツキ。面貌 雙生隅田川(享保、近松作)三「此ノ顔[illegible]、小黒カ、[illegible]、[illegible]ヘモ[illegible]ラルレバ、[illegible]ナレドモ」

かほちがひ (名) 顔違 オモガハリ。顔貌ノ、變ハリタルコト。

カボチャ (名) 南瓜 〔初メ、Cambodia.(東埔寨)ヨリ來ル、葡萄牙人ノ寄航地ナリキ、此瓜、內地ニテハ、永祿ノ頃植ヱ始メ、天正ノ頃ヨリ食ヒ始メタリト云フ〕(一)ぼうぶらノ一種。其瓜、形、長ク、[illegible]アリテ、[illegible]ノ形ノ如キモノ。(東京ノ稱) 一名、タウナスビ。長崎ニテ、ボウブラ。(二)人ヲ罵リ呼ブ語。頭ヲ、かぼちゃノ形ト、見下ゲテ云フナルベシ。(かぼちゃ野郎)

かほつき (名) 顔附 目つき、腰つき、同ジ。カホバセ。顔ノスガタ。オモザシ。カホダチ。面貌 倭名抄、三「[illegible]、面子、加保[illegible]」

かほづくり (名) 顔作 (一)[illegible]顔ニ、[illegible]スルコト。[illegible] (二)カホカタチ。カホダチ。

かほづけ (名) 顔附 人名ノ配附ケ。人數配。

かほつなぎ (名) 顔繫 知合ヒトナリオクコト。「一[illegible]後ノかほつなぎ」

かほづゑ (名) 顔杖 つらづゑ、又、ほほづゑニ同ジ。[illegible]抄、六、[illegible]四[illegible]「かほづゑツキテ」[illegible]「[illegible]かほづゑツキテ」

かほど (副) 斯程 〔かくほどノ略〕斯クアル程ニ。カバカリ。コレホド。[illegible]、安宅「かほどノ[illegible]ノ、[illegible]エナン事ヲ悲シミテ、[illegible]坊[illegible]、[illegible]ヲ[illegible]ス」

かほどり (名) 貌鳥 容鳥 「容花ト同意、其條ヲ見ヨ」美シキ鳥ノ稱。容好鳥。萬葉集、三 長歌「容鳥ノ、間ナク數鳴ク」 同、十六「朝戶出ニ、來鳴ク杲鳥、汝ダニモ、君ニ戀フレヤ、時終ヘズ鳴ク」 同、十七 長歌「山傍ニハ、櫻花散リ、可保登利ノ、マナクシバナク、春ノ野ニ、菫ヲ摘ムト、云云」夫木抄、廿、山「[illegible]山、木ノ下蔭ニ、かほどりノ、見エ隱レセシ、昔ノカナシサ」同、廿七、鳥「武藏野ニ、跡モトドメヌ、かほよ鳥、鳴ク日モ見エヌ、五月雨ノ頃」

かほのきぬ (名) 「顔の衣ノ義ナラム」顔ノ皮膚。枕草子、一、第三段「[illegible]人ガかほのきぬモアラハレ、白粉ノユキツカヌ處ハ、マコトニ黒キ庭ニ、雪ノムラギエタル心地シテ、イト見苦シ」

かほばせ (名) 顔 「[illegible]ばせノ語原ヲ見ヨ」顔ノ狀。顔色。かんばせ。カホカタチ。カホイロ。カホツキ。倭名抄、三「顔面、面子、加保波世、加保都岐」

かほばな (名) 容花 貌花 「かほトハ、容ノ美シキ花ノ義、其條ヲ見ヨ、[illegible]花トモ云フ」(一)美麗ナル人ヲ、容人ト云フガ如シ、容鳥、かほよどりト云フモ、同ジ。美シキ花。容ガ花。カホヨバナ。萬葉集、八、二十 長歌「高圓ノ、山ニモ野ニモ、打行キテ、遊ビアルケド、花ノミシ、匂ヒテアレバ、云云」反歌「高圓ノ、野邊ノ容花、面影ニ、見エツツ妹ハ、忘レカネツモ」同、十四「[illegible]石[illegible]ノ、[illegible]ニ生ヒタル、[illegible]」同、十四「ミヤシロノ、[illegible]ニ立テル、[illegible]」[illegible]「[illegible]ノ、カホヤガ沼ノ、かほよばな、咲ゾトモナク、実ゾ[illegible]シキ」

かほぶれ (名) 顔觸 (一)或ル事件ニ、關係ノ人人ハ、誰レ誰レナルヲ、[illegible]コト。(芝居ニテ、役者ノ面面ヲ披露スル顔みせヲ、かほぶれトモ云フ、是レナリ) (二)轉ジテ、其關係ノ人人。連中。

かほみせ (名) 顔見世 (一)始メテ人人ニ、我ガ顔ヲ見セテ、己レヲ披露スルコト。伊豆ノ俗ニテハ、今モ結婚後、聟、嫁、共ニ、村內各家ヲメグリテ披露スルヲ、かほみせト云フ。[illegible]「今日[illegible]、[illegible]」、[illegible]ヲ[illegible]見セト、[illegible]ノ二道中」(二)芝居ニテセシ儀式ノ名。江戶時代ニ、江戶三座(中村座、市村座、河原崎座)ノ大芝居ニテハ、每年十月、三座、互ニ役者ノ入替リアリ、大阪ナドヨリノ新入モアリ、向フ一箇年間、其座附ト定ム、十一月朔日、初興行ノ初日ニ、見物人ニ目見シ、披露トシテ、種種ノ式ヲ行ヘリ。又、ツラミセ。カホブレ。コレヲ、顔見世狂言[illegible]ト云ヒ、次ニ、二番、三番ニ移ル。[illegible]五)[illegible]ノ川[illegible]、顔見世ハ、日ノ[illegible]イガ、ロニツキ」

かほむけ (名) 顔向 人ニ、顔ヲ向クルコト。カホアハセ。面會。「面目ナクテ、顔むけガ出來ヌ」

かほやく (名) 顔役 [illegible]ノ仲間ニテ、[illegible]分ト立テラルル者。

かほよごし (名) 顔汚 面目ヲ汚スコト。[illegible]

かほよせ (名) 顔寄 人人ノヨリアヒ。會合

かほよどり (名) 容好鳥 かほどり(容鳥)ノ條ヲ見ヨ。

かほよばな (名) 容好花 かほばな(容花)ノ條ヲ見ヨ。

かま (名) 鎌 〔刈刃ノ略轉ト云フ、(信濃漫錄)かりおさ、かおさ。(假言)みつまよつま、みつばよつば(三間四間)〕(一)[illegible]刈ルニ用ヰル具、[illegible]ニテ、新月ノ形ヲナシテ、內ニ向ヒテ刃アリ、柄アリ、內ヘ引ク如クシテ刈ル。カママロ。[illegible] (二)刃ニ、枝アルモノ。横刃 [illegible] (三)蟷螂ノ前ノ二足。其條ヲ見ヨ。かまをかけるトハ、人ノ言ヲ誘キ出ス。(かまきりノかまヨリ云フ語ナルベシ)

かま (名) 竈 〔氣間ノ轉ニテ、烟氣ノ意カ、か(氣)ノ條ヲ見ヨ〕(一)〔かまど〕トモ云フ、其條ノ(一)ヲ見ヨ。[illegible] 倭名抄、十二「竈、[illegible]」

萬」字鏡集「竈、カマ、カマド」(二)又、瓦竈、陶竈、炭竈、鹽竈アリ、各條ヲ見ヨ。

かま (名) 釜 〔竈ニ載スルヨリ移レル語カ、或ハ、竈がなへナド云ヒシ略カ、朝鮮語ニモ、釜ヲかまト云フ〕(一)〔古名、マロガナヘ。湯ヲ沸カシ、飯ヲ炊グ器。鐵ニテ、圓ク深ク鑄テ作ル。 允恭紀、四年九月「盟神探湯、埿納レ釜煮沸」(まろがなへナリ) 著聞集、十六、興言利口「コレノ御かまヲ見レバ、片かまバカリアリテ、わきがまナシ、云云、カク候フ者ハ、鑄物師ニテ候フゾ、云云」(二)茶家ニ云フハ、專ラ、湯ヲ沸カスニ用キル、形、種種ナリ。仙臺、安房ニテハ、鐵瓶ヲかまト云フ。 下學集、下、器財門「罐子」和漢三才圖會、三十一、庖廚具「罐子、鳴泉、按、炊二米及雜穀一名レ釜、煮二茶湯一名二罐子一、今通レ釜焉」(三)蒸氣ノ機械ニ、湯ヲ沸カシテ、蒸氣ヲ發スモノ。大キナル匣ノ如ク、鐵板ニテ作ル。蒸氣罐。鑊

かま (名) 蒲 〔組ノ轉ニテ、(頭槌、くぶつち。屈る、かがまる。大御身、おほみま。籠、かたみ)組みテ筵トスベキモノノ意ト思ハル、菰モ、組ノ轉ニテ、同語根ナラム、かまぼこ、(蒲鉾)かばやき、(蒲燒)ま、は、相通ズ〕濁音ニ、がまトモ云フ。水草ノ名。一根ヨリ叢生ス、葉ノ長サ四五尺、巾七八分、厚クシテ脊アリ、夏、圓キ莖ヲ出スコト四五尺、上ニ穗ヲ生ズ、長サ七八寸、巾一寸、形、蠟燭ノ如ク、短キ毛、集リテ形ヲナシテ、褐色ナリ、コレヲかまぼ、又、かまぼこ(蒲槌)ト云フ。其上ニ、小サキ葉ヲ生ジテ、中ニ黄粉ヲ含ム、蒲黄ト云ヒテ、藥トス、又、莖葉ヲ、蒲席ニ作ル。 倭名抄、二十「蒲、加末」本草和名、上二十「蒲黄、加末乃波奈」(倭名抄、同ジ) 字鏡五十二「莞、似二蒲員一非、加万」

がま (名) 蒲 〔菰ヲ、まこもトモ云フガ如ク、蒲モ、まがまナド云ヒシヲ、上略セシ語カ、或ハ、蟹ヲがに、蛙ヲがへるト訛ル類カ、清音ノ蝦蟇ヲ、がまト云フ、同趣〕前條ヲ見ヨ。

がま (名) 蝦蟇 (一)イボガヘル。(二)汎ク、蛙ノ類ノ、大キナルモノノ稱。 草庵集(頓阿)「小山田ノ、引板垂レハヘテ、夜モスガラ、聞ケバがま鳴ク、音ゾ聞ユル」

かま-あげ-うどん (名) 釜揚饂飩 〔先ヅ釜ニテ茹デタルヲ、あげテ用キル〕饂飩ヲ、熱湯ノ器ニ入レタルママニテ、客ニ供スルモノ。

かま-あし (名) 鎌足 わにあしノ條ヲ見ヨ。

かま-あふぎ (名) 蒲扇 蒲ノ葉ニテ作レル扇。同ジ葉ニテ作レル團扇ヲ、かまうちはト云フ。 倭名抄、十四服玩具「蒲葵扇、蒲葵、者、或木別名也、今稱二蒲扇一者、以レ蒲作レ之」字類抄「蒲葵扇、カマアフギ」長門本、平家物語、二、多田藏人返忠事「右ノ手ニテ、蒲あふぎツカハル」盛衰記、三、澄憲祈レ雨事「入道ハ、右ノ手ニ蒲團扇ヲツカヒタマヒテ」

かま-いたち (名) 鎌鼬 〔人體ニ、利鎌ヲ持チテ斬リタル痕ノ如キモノノ生ズル、鼬ノ所爲トシテ名ヅク〕氣候ノ變動ヨリシテ、空氣中ニ眞空ヲ生ジ、人體コレニ觸ルレバ、體內ノ氣、平均ヲ保ツタメ、皮膚ヲ裂キテ被ル負傷。鎌風。

かま-いり (名) 釜煎 甲斐ノ武田氏、京ノ豐臣氏ナドニテ行ヒシ、極刑ノ名。釜ニ熱湯ヲ沸カシテ、人ヲ其中ニ投ジテ、煮殺スモノ。カマユデ。カマウデ。 甲陽軍鑑、十八、品第四十八、功力、小宮山、兩人云「己等礫ニアガラム、サテハ釜ニテいらるるト心得候へ」武德編年集成、四十二、文祿二年十二月「秀吉ノ命ニ因テ、洛陽盜賊ノ張本、石川五右衛門、并其子伴類共、廿一人、七條河ニ於テ、釜煎ノ極刑ニ處セラル」

かま-いれ (名) 鎌入 熟シタル稻ノ刈取。

が-まう (名) 鵞毛 鵞鳥ノ羽。 元稹詩「對二秉鵞毛筆一、倶含鷄舌香」 朗詠集、上「雪似二鵞毛一飛散亂、人被二鶴氅一立徘徊」

かま-うちは (名) 蒲團扇 かまあふぎ(蒲扇)ノ條ヲ見ヨ。

⁂**かま-うで** (名) 釜茹 かまゆでノ訛、かまいりニ同ジ。

かま-かぜ (名) 鎌風 かまいたちニ同ジ。

かま-かま・し・シキ・シケレ・シク・シク (形、二) 囂囂 〔かまし(囂)ノ語原ヲ見ヨ〕かまびすしニ同ジ。カシマシ。ヤカマシ。 字鏡八十二「言ノ字ヲ三字合セタル字ニ「疾言也、加萬加萬志」名義抄「囂、カマカマシ、カマビスシ」

かま-ぎ (名) 竈木 タキギ。マキ。(みかまぎノ條ヲ見ヨ)

かまぎっ-ちゃう (名) 螳螂 〔次次條ノ語原ヲ見ヨ〕(一)蟲ノ名。次條ニ同ジ。(二)蜥蜴ノ異名。(陸前)靜岡ニテ、とかげヲかがみっちょト云フ。

かま-きり (名) 螳螂・蟷螂 〔鎌切ノ義、かまきりむしト云フガ、正シキナルベシ、前肢ノ鎌ニテ、蟲、蠅ヲ切る意ナリ〕古名、イボムシリ。蟲ノ名。身、細長ク、頭、小サク三角ニテ、上ニ二鬚アリ、六肢アリテ、上ノ二肢ハ長大ニシテ、末、曲ル、形ニ因リテ、鎌ト云フ、內面ニ刺多シ、中ノ二肢ハ短ク、下ノ二肢ハ長大ナリ、背ニ翅アリテ飛ブ。夏秋ノ交ニ、樹葉ノ下ニ潛ミテ、虻、蠅ナド、鎌ニカケテ食フ、蟷螂の斧ト云フ、色ハ、綠ト褐トノ二種アリ。イボジリ。イボムシ。イボクヒ。カマキリムシ。タウラウ。カマキリチャウライ。カマギッチャウ。ハヘトリムシ。其巢ヲ、おほぢがふぐりト云フ。(其條ヲ見ヨ)

かまきり-ちゃうらい (名) 螳螂 「かまきり蟷螂ノ訛、(もみくた、もみくちゃ、盆祭ノ精靈ヲ、おしゃうらい)かまぎっちゃうト云フハ、其急呼略ナリ」蟲ノ名。前條ニ同ジ。カマギッチャウ。

かまきり-むし (名) 螳螂 前前條ヲ見ヨ。

か-ま・く・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ (自動、下二) 感 〔氣負くノ轉ナルベシ、か(氣)ノ條ヲ見ヨ〕(一)心ヲ、ソレニ取ラル。 皇極紀、三年正月「輕皇子、云云、敬重特異、中臣鎌子連、便感レ所レ遇、而語二舍人一曰、云云」萬葉集、十六、竹取翁ノ歌ニ、娘子ノ和歌「ハシキヤシ、翁ノ歌ニ、オボホシキ、九ノ兒等ヤ、蚊間毛テ居ラム」(二)感ジ、ヒビク。 續紀、二十八、神護景雲元年八月、詔「聖皇ガ御世ニ、至德ニ感テ、天地ノ示現シタマフモノ」(景雲ヲ云フ)

がま-ぐち (名) 蝦蟇口 〔開キタル形、蝦蟇ノ、口ヲ開キタルニ似タリ〕口金ノツキタル巾着。革、又ハ、布ニテ製ス。近年、舶來ノ製ヲ摸シタルモノ。

かま-くび (名) 鎌首 〔乙字形ヲナスコト、鎌ヲアグルニ似タリ〕蛇ノ、首ヲ擡ゲタルコト。鑲首 著聞集、二十、魚蟲「蛇アリ、長サ二丈餘リバカリ也、かまくびヲ立テテ、此二人ノ輩ニカカリテ、大口ヲアキテ呑マムトシケリ」

かまくらえび（名）［鎌倉蝦］〔多ク、相模ノ鎌倉沖ニテ漁スレバ、名トス〕伊勢えびニテ、いせえびノ稱。

カマクラ・カイドウ
かまくらかいだう（名）［鎌倉海道］相模國、鎌倉ノ、盛ンナリシ頃、ソコヘ往還スル道路ノ稱。［illegible］

ヨウトスルガ」

カマクラ・カンレイ
かまくらくわんれい（名）［鎌倉管領］くわんとうくわんれい（關東管領）ヲ見ヨ。

かまくらじだい（名）［鎌倉時代］次條ヲ見ヨ。

かまくらばくふ（名）［鎌倉幕府］源頼朝ノ、相模國、鎌倉ノ地ニ建テタル幕府。後鳥羽天皇ノ建久元年十一月、頼朝、上洛シテ右近衛大將ニ任ゼラレ、東歸シテ、明年正月、近衛大將ノ例ニ因リテ、公文所ヲ改メ、政所ヲ置キテ、政令ヲ發セリ、次ギテ、征夷大將軍ニ任ジ、後、將軍九代、執權北條氏九代ヲ經テ、後醍醐天皇ノ元弘三年ニ至リテ滅サル、此間、凡ソ百五十年間ナリ、コレヲ鎌倉時代ト云フ。

カマクラ・ビヤウシ
かまくらびやうし（名）［鎌倉拍子］〔相模國、鎌倉ノ鶴岡八幡宮ノ神樂太鼓ノ拍子ニ出ヅルト云フ、品川拍子ト云フハ、武藏國、品川ノ天王社ニ起ルトゾ〕東京ノ里神樂ニ、太鼓ヲ叩ク一種ノ拍子ノ名、馬鹿囃子ノ締太鼓ニモ云フ。品川拍子ト云フナド、働、數種アリ。

かまくらぼり（名）［鎌倉彫］〔相模ノ鎌倉ノ全盛時代ニ彫刻セシ名ナルベシ〕［illegible］ニ、鎌倉ノ［illegible］ヲ彫リテ、多クハ［illegible］ヲ塗ルニ、ソレニ朱、緑、等ノ［illegible］色取レルモノ。［illegible］物ニ似タレドモ、内ノクリ、日本物ト見ユル也」

かまけ（名）［蒲筍］かます（叺）ノ一名。［illegible］

かまける・ケル・ケレ・ケ・ケ・ケヨ（自動、下二）［illegible］古言、感くヨリ移ル、其事ニノミ心ヲ取ラルル意。其事ニノミ係ハリテ居ル。專ラニカマフ。「世帶ニバカリかまけテ、子供ニかまける遑ヒニかまける」

かまし（名）［釜師］釜ヲ鑄造ルヲ業トスル者。殊ニ、茶家ニ用キル釜ニ云フコトナリ。釜師由緒并釜之圖「一且與次郎ハ、太閤秀吉公ノ釜師、三人之隨一也」

〔かま・し・シキ・シケレ・シク・シク（形、二）［囂］〔かまハ、騷ガシキ音ナルベシ、かやかや（がやがや）ト通ズ、（名義抄「［illegible］、カマカマナリ（字書ニ、［illegible］ハ石聲、雷聲、鐘聲ナリトアリ）かましかまし卜重ネテ、かまかましトナリ、略シテ、かしかましナリ、（わたかまる、わたまる）又略シテ、かしましトナル、かまびすしトモ云フハ、かまびすかしノ略、（名義抄「囂、ヒスカシ」）やかましト云フハ、彌かましノ約ナリ」騷ガシ。カマカマシ。カシカマシ。カシマシ。カマビスシ。ヤカマシ。蜻蛉日記、下、上「聞コエテムト云ヘバ、マシテ出メテル、アナかまし、而密シト云フ」

〔がま・し・シキ・シケレ・シク・シク（形、二）他語ニツキテ、形容詞ヲ形作ル接尾語、らし、ニ似たり、の様ひあり、ナドノ意ヲナス。「ヘダテがまし」「恩がまし」「奢りがまし」ヲコがまし」カゴトがまし」散樂がまし」無禮がまし」指圖がまし」

かまじき（名）［釜敷］［illegible］床上ニ置クトキ、其下ニ敷ク具。藁作リノ編ナドヲ用キル。

〔かましし（名）［羚羊］〔［illegible］ノ轉、［illegible］、かまめ、或ハ、［illegible］ノ［illegible］、［illegible］ニ似タル［illegible］ノ名カト云フ、イカガ〕かもしかノ古名。カモシシ。皇極紀、二年十月「［illegible］歌［illegible］之」同、十一月「山羊」［illegible］名抄、十八「［illegible］」

かます（名）［魳］魚ノ名。背、尖リテ鋒ノ如ク、首、尾、狹クシテ尖リ、身、圓ク肥エテ、長シ、大ナルハ五六寸、鱗細カクシテ光リ、背、青黑クシテ、腹、灰白ナリ、多ク乾魚トス。倭魚 字類抄「［illegible］、カマス」本朝食鑑（元祿）「魳、カマス」

かます（名）［蒲簀叺］〔蒲筍ノ名モアリ、古ヘ、蒲ノ葉ニテ編ミ作レリ、叺ハ、入口ノ合字〕（一）〔クグツ。カマケ。藁席ニテ、方形ニ作レル袋、穀、炭ナド納ル。席囊 孝德紀、大化五年三月「［illegible］」［illegible］記（萬治）六、京都「二人、枌ト云フ物ニ繩ヲツケ、蒲簀トカヤ云フ物」（二）次條ノ語ノ略。

かますがた（名）［叺形］横ニ、長方形ニ作レル紙烟草入。常ノ油紙ナルアリ、羊囊ト云フ油紙ニテ作レルアリ。略シテ、かます。

カマス
かますご（名）［叺子］〔攝津、兵庫ヨリ、叺ニ包ミテ四方ヘ送リ、賣リシヨリ名トスト云フ〕魚ノ名。形、ひしこニ似テ、長サ三四寸、淡褐色ナリ、春夏ノ際ヲ旬トス、脂多シ、煮テ燈油ヲ取ル、畿内ニテ、其煮からヲ誤リ認メテ、かますノ子トシ、かますごト云フ。イカナゴ。

［illegible］

がませんにん（名）［蝦蟇仙人］［illegible］ヒテ、妖術ヲ行フト云フ仙人、［illegible］ニハ、［illegible］ト云［illegible］チ、其靈ヲ表シタルモノナルベシ。［illegible］［illegible］ノ鳥、天ニノボルト云フコトモアルゾカシ」

〔かまち（名）［illegible］〔かはちノ轉、［illegible］〕座す、おはす。のたまはく、のたうまく（一）古言、かはち。上下其［illegible］見ヨ」［illegible］ノ言ヒゴトカナトテ、かまちヲ蹴リテケリ」（二）車ノ兩旁ヲ夾ム木。

かまち（名）［框］〔落掛ト、上下相對スルコト、頷骨ノ如シ〕（一）床間ノ下部ノ前端ノ緣トスル材。上部ノ落掛ト對ス。トコガマチ。（二）［illegible］、［illegible］、又ハ、戸障子ナドノ建具ノ、四邊ノ框。

〔かまつか（名）［鎌柄］鎌ノ柄。天治字鏡、七「［illegible］、［illegible］」

かまつか（名）［沙魚］［illegible］、鎌柄ニ似テ、彎曲ス〕魚ノ名。川鯊ノ條ヲ見ヨ。スナフキ。倭名抄、［illegible］（鰷、氷魚卜列ネタリ）

かまつか（名）［莢蒾］〔材堅クシテ、鎌柄ニ用キラル〕樹ノ名、山野ニ多シ。高サ一丈許、葉ハ、略、圓クシテ、鋸齒アリ、大キサ二寸許、［illegible］、對生ス、初夏ニ、枝ノ頂ニ、五瓣ノ小白花、簇リ開クコト、傘ノ如シ、實ノ大キサ、あづきノ如ク、秋、熟シテ赤ク、美シ。ガマヅミ。ウシノハナギ。ウシコロシ。

かま-づか　(名)　(一)〔草ノ名、雁來紅ノ古名ナルベシ。　枕草子、三、三十四段「草ノ花、云云、かまづかノ花、ラウタケナリ、名ゾ、ウタテゲナル、雁の來る花トゾ、文字ニハ書キタル」　(二)鴨跖草ノ異名。(輶軒小錄)　物類稱呼ニ、讃岐、土佐ニテモ、然ル由、見ユ。

〔**かま-つち**　(名)　|竈土|　鍛冶ノ竈ノ内ノ、燒ケタル土。藥用トシタリ。　本草和名、上十「伏龍肝、加末都知」康頼本草、下十九「鍛竈灰、加知須留所乃都知」伏龍肝、加末乃字知乃川知、也計太留川知、加末都知」

がま-づみ　(名)　|莢蒾|　〔赫之實ノ轉ナラム、(なかなか、なまなか)其實、熟スレバ、赤クウツクシ、あかかがち(酸漿)ト同意ノ語ナルベシ〕　樹ノ名、かまつか(莢蒾)ノ一名。

かま-ど　(名)　|竈|　〔竈處ノ義、井ヲゐどト云フナドト、同趣〕　(一)〔本名、かま。土石ニテ築キ、內ヲ空ニシ、上ニ鍋、釜ヲ載セテ、火ヲ燒キ、物ヲ煮ル處。ヘッヒ。ヘッヒ。クド。　推古紀、三年四月「竈」萬葉集、五、廿三長歌「可麻度ニハ、煙吹キ立テズ」　水鏡、一、仁德天皇「高キ屋ニ、ノボリテ見レバ、煙立ツ、民ノかまどハ、ニギハヒニケリ」(此歌意ナドヨリシテ、次ノ義ニ移ル)　(二)〔人家ニハ、炊爨ヲ重シトスルヨリ轉ジテ、一戶ノ家。　宇津保物語、藤原君卅一「家、かまど、ナクシテ、賴ナカラム人」源、二十二、玉鬘卅六「家、かまどヲモ捨テ、男女ノ賴ムベキ子ドモニモ引キワカレ」　(三)民戶ヲ數フルニ云フ語。人烟　「人家百竈」竈數千軒」

かま-どの　(名)　|竈殿|　神社ノ傍ニテ、神饌ヲ調ズル建物。カシギヤ。　神樂歌、竈殿ニ「竈神遊スラシ」トアルハ、竈神ヲ祭ルナリ。

かま-どめ　(名)　|鎌止|　山野ニ、柴草ナドヲ刈取ルヲ禁ズルコト。

〔**かま-な**　(名)　|苦芺|　ひめあざみノ古名。　本草和名、上四十「苦芺、加末奈、一名、加美於古之奈」(倭名抄、同ジ)

〔**かま-なり**　(名)　|竈鳴|　竈ニテ釜ニ湯ヲ沸カスニ、時トシテ、高ク鳴ル音ヲ發スルコトアルコト。其日ノ干支ニ因リテ、吉トシ、凶トス。　天智紀、十年十二月乙丑「天皇崩レ于近江宮ニ云云、是歲、云云、大炊省有二八鼎一鳴、或一鼎鳴、或二、或三、俱鳴、或八、俱鳴」臨時祭式「鎭竈鳴ヲ祭」　吾妻鏡、二十七、安貞二年六月六日「御所竈鳴」　百練抄、十五、寬元四年二月七日「大原野祭也、辰時、同社釜吠、其聲遙聞」　拾芥抄、上、本、釜鳴怪部「子日愁事、丑日喪事、巳日中吉来、午日鬼神事、亥日小吉」(十二支皆アリテ、他ハ皆凶事ナリ)

〔**がま-の-さう**　(名)　|降魔相|　不動尊ノ如キ顏貌。(がうま(降魔)ノ條ヲ見ヨ)　源、四十九、東屋一「人ギキモカタハライタキ事ト思ウ給ヘテ、がまのさうヲ出シテ、ツト見奉リツレバ」

がま-はばき　(名)　|蒲脛巾|　蒲ノ葉ニテ編ミ作レル脛巾。

かま-ばら　(名)　|鎌腹|　鎌ヲ以テ、腹ヲ切ルコト。　狂言記、鎌腹(鷺流)「鎌腹ヲ切ルニハ、諸肌ヲヌイデ、鎌ヲカウ持ッテ、左ヘ突立テ、右ヘキリリト引キマハイタラバ、腹ガ切ルルデゴザラウ」

かま-ばらひ　(名)　|竈祓|　〔竈神ノ祭ノ遺風ナリ、其條ヲ見ヨ、巫ノスルモ、陰陽師ノ祭ルヨリ移レルナリ、竈神ヲ、荒神ト云フ〕　縣巫ノ、人家ニ來リ、竈ノ前ニテ祓スルコト。　薄絹ノ千早ヲ着、神樂鈴ト扇子トヲ持チテ舞フ、每月晦日ノコトナリキ。(此者、淫ヲ賣レリ)　又、荒神祓。　諸艷大鑑(貞享、西鶴)「竈ばらひノ神子、男バカリノ内ヲ心ガクル」　好色一代男(天和、西鶴)「アラ面白ノ竈神ヤ、お竈ノ前ニ松植ヱテ、トすずしめノ鈴ヲ鳴ラシテ、縣巫來レリ」

かまひ　(名)　|構|　(一)カマフコト。カカハリ。干涉　丹波與作(寶永、近松作)上「母デモ子デモ無イナラバ、病マウト死ナウト、イラヌ御かまひ」「サラニかまひ無シ」　(二)追放ノ條ヲ見ヨ。

かま-び　(名)　|釜日|　〔釜ニ湯ヲ沸ス日〕　茶道ノ宗匠ノ、弟子ノ稽古日。

かま-ひげ　(名)　|鎌髭|　鼻下ノ八字髭ヲ、左右兩耳ヘ向ケテ、鎌ヲ倒サマニセシ形ニ、揉ミ上ゲ作ルモノ。江戶時代ニ、武家奴ナドノシタルコトナリ、墨ニテ書クモアリキ。(もみあげノ條ヲ併セ見ヨ)　平家女護島(享保、近松作)三「此ノかまひげデ頰摩ハ、痛カロモノ」　薩摩歌(寶永、近松作)上「是是、前ナ絲鬢ノ、鬢カリツケタ鎌髭奴」

かま-びす・し・キ・ケレ・ク・ク　(形、二)　|喧|　次條ノ語ニ同ジ。　爲忠集「長キ日ノ、繁木ノ枝ニ、かまびすく、鳴クひよどりノ、寐ブタゲモナシ」

〔**かま-びす・し**・シキ・シケレ・シク・シク　(形、二)　|喧囂譟|　〔かまし(囂)ノ語原ヲ見ヨ〕　カマカマシ。カシカマシ。カシマシ。ヤカマシ。サワガシ。　名義抄「囂、カマビスシ、カマカマシ、ヒスカシ」字鏡集「囂、カマビスシ、ヒスカシ、サワガシ」

かまひ-て　(名)　|構手|　〔かまひ人ノ轉〕　カマフ人。相手ニナル人。介抱スル人。

か-ま・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ　(自動、四)　|構|　〔次次條ノかまふノ、心ニかまヘテスル意ヨリ、四段自動ノ生ジタルモノカ、下二段他動ノいろふ(彩色)ニ對シテ、四段自動ノいろふ(艷)いろふ(綺)アルガ如キカ〕　(一)イロフ。カカヅラフ。タヅサハル。干涉　狂言記、居杭「世間ハ何トイフトモかまはズ、再再見舞ウテクレイ」「人ノ事ニかまふナ」子供ニかまッテハ居ラレヌ」かまはぬトハ、咎メヌ。カマヒナシ。不介意　(二)アヘシラフ。モテナス。遇對　「何モおかまひマウシマセヌデ」おかまひクダサイマスナ」

か-ま・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ　(他動、四)　|構|　〔次條ノ語ノ轉、タヅサハリテ禁ズル意ナルベシ〕　(一)禁ム。禁制ス。　「武家奉公ヲ構ふ」　(二)住居ヲ禁メテ、追ヒ拂フ。追放ス。「所構」江戶御構」ナド云フ、是レナリ。つゐはう(追放)ノ條ヲ併セ見ヨ。

か-ま・ふ・フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ　(他動、下二)　|構|　〔かハ、構くノ語根、まふハ、設け成す意、(見まふ、爲まふ、立チまふ)構ヲ、手偏ニ構ト書ク者アレド、集韻ニ「搆、牽也」トアリ、誤用ナリ〕　(一)構ク。組立テテ作ル。結構　萬葉集、九、三十三長歌「タマボコノ、道ノ邊近ク、磐構ヘ、造レル冢ヲ」拾遺集、七、物名「鷂鷹ノ、招餌ニセムト、かまヘタル、押機動ガスナ、鼠捕ルベク」　字鏡四十八「材、用也、加万夫」「家ヲかまふ」柵ヲかまふ」　(二)身ガマヘス。身支度ヲス。結束　夫木抄、十八、冬「樏ハク、越ノ山路ノ、旅スラモ、雪ニシヅマヌ、身ヲかまふトカ」「槍ヲ小脇ニかまヘテ待ツ」　(三)〔心ガマヘス。用意ス。意構　宇津保物語、藏開、下廿三「よりあきら、かまヘテナム、牽ヒトリハベル」　明月記、正治二年十月十一日「自レ院給ニ五首題ヲ有レ召、云云、騎レ馬馳參、構出二腰折歌一」　(四)起シ成ス。構成　詩經、小雅、谷風之什、四月篇「我日構レ禍」「兵ヲ構ふ」　(五)〔イツハリ、ツクル。タクラム。虛構　名義抄「誣構、イツハリカマフ」字典「附會以成レ之、亦曰レ構」　左傳、桓公十六年「宣姜與ニ公子朔一構ニ急子一」「虛言ヲかまふ」

かま-ぶろ　(名)　|竈風呂|　山城國、八瀨ノ里ニテ、竈ニテ生木ヲ燻べ、黑木ヲ作ル、

人ノ、其跡ニ入リテ、身體ヲ蒸スモノ。蒸風呂ナリ、竈湯トモ云ヘリ。[illegible]「八瀬ノ釜風呂、云云、[illegible]ト云フ物ヲフスベケル[illegible]ニ、[illegible]ル、道ニ人身ノ藥ナルベシ」東海道名所記(萬治)六「くろ木ト云フ薪ヲフスブルツイデニ、かまゆト云フ[illegible]ヲシカケテ、京ノ人ハ、養生ノタメニ、此湯ニ入リ侍リ」

かまへ (名) [構] (一)カマフルコト。組立テ、造ルコト。結構。[illegible]下、[illegible]ノ[illegible]ノ、[illegible]ン、かまへヲモ、エミ出デケン、飛驒工」「家ノかまへ」城ノかまへ」(二)家屋敷ヲ構ヘタル一區域。「屋敷ノ構内[カマヘウチ]」(三)支度。用意。準備。[illegible]心集、七、十二條「簔笠用意スルホドノかまへダニナケレバ、雨降レバ、サナガラ濡レ」

かまへて (副) [構而] (一)必ズ。キット。[illegible]かまへて[illegible]十二(一)、此語ニ、接續語ノあひノ添ハリテ、[illegible]、副詞ヲ作リテ、あひかまへてトナルナリ。用意シテ。注意シテ。支度シテ。[illegible]、十二、第七條「参ルマジク候ヒツルヲ、ワザト召シ候ヒツレバ、[illegible]ヘ[illegible]ヒツル」

❖かま・へる (動) [構] 構ふ(下二段)ノ口語。

(一)かまぼ (名) [蒲穗] 蒲ノ穗。蒲ノ條ヲ見ヨ。

がまぼ (名) [蒲帆] 蒲席[ガマムシロ]ヲ、帆トシタルモノ。ムシロボ。

かまぼこ (名) [蒲鉾] [蒲穗子ノ義、甲陽軍鑑、十六、品第四十四「御二ノ膳、蒲穗子、云云」トアリ、稻穗子[イナゴ]ト云フ語モアリ、[illegible]トハ、大[illegible]、[illegible]、ちひさ、(落葉)いささ(鯵)ナド、意味ナク、物ニツクル語ナリ」(一)蒲[カマ]ノ穗。多クハ[illegible]ニ、[illegible]ヲ[illegible]、竹串ヲ心トシ、圓ク長ク塗リツケテ、炙リタルモノ、形、色、蒲穗ノ如クナレバ、名トシタリ。後ニハ、多ク、細長キ小板ニ、凸[ナカダカ]ニ塗リ着ケテ、蒸シ、又、炙ル、コレヲ板付かまぼこト云ヒ、因リテ、舊[モト]ノ製ナルヲ、竹輪かまぼこ、又ハ、竹輪ト呼ブ、串ヲ去リテ輪切ニスレバ、中ニ穴アレバナリ。魚糕[illegible]」[illegible]ハ、たまご、[illegible]ヲ[illegible]セタル物也」[illegible](享保)「かまぼこ、竹ニ巻ク形ヲ名トセリ、近代、杉板ヨシ、[illegible]」

がまぼこ (名) [蒲鉾] 前條ノ(一)ヲ見ヨ。

かまぼこ-ごや (名) [蒲鉾小屋] [板付かまぼこノ形ニ似タレバ、名ツク] 竹ヲ骨トシ、蓆[ムシロ]ナドニテ、屋根ヲ圓ク低ク作レル小屋。乞食ナドノ居ニ云フ。穹廬

かまぼこ-なり (名) [蒲鉾形] [板付蒲鉾ノ形ヨリシテ云フ] 凸[ナカダカ]ニシテ、左右次第ニ圓ク低クナレル形。弧「蒲鉾形ノ道路」

かまぼこ-みち (名) [蒲鉾路] かまぼこなりニ、凸ニ作レル路。

かまぼこ-ゆみ (名) [蒲鉾弓] 藤原秀衡ガ用ヰタリト云フ弓ノ稱、今モ陸中、陸前ノ地方ニハ、往往、持チ傳フ、平泉、高館ノ下ニ弓工ヲ置キテ、十萬挺製セシメタリトテ、十萬弓[ジフマンキュウ]ノ名モアリ、其地ヲ十萬坂ト云フ、([illegible])白弓ニシテ、[illegible]ノ村ニ、外竹ノミ打合セテ、内竹ナシ、一面ハ平カニシテ、一面ハかまぼこなりナリ。

(二)かま-まろ (名) [鎌麻呂] 「[illegible]人シテ云フナリ、麻呂ノ條ヲ見ヨ」かま(鎌)ト云フニ同ジ。[illegible]ノ木ト、[illegible]ガ木ト、[illegible]キ[illegible]カムタメ」(帶[illegible]ヲたまはきトテ、[illegible])」

がまん (名) [我慢] (一)佛經ノ語。己レ、タカブリテ、人ヲ凌グコト。高慢。法華經、[illegible]「是人、云云、不[illegible]、[illegible]慢所[illegible]、是人少[illegible]欲知[illegible]足」(二)我意ヲ張ルニ堪ヘガタキヲ、[illegible]ジテ、堪ヘ忍ブコト。[illegible]ヲ我慢ス」

がまむしろ (名) [蒲席] 蒲ノ莖、葉ヲ乾シテ、編ミ作レル席。敷物トス。又、ふとゐニテ編メルニモ云フ。

(一)かま-め (名) [鷗] かもめニ同ジ。[illegible]「海原ハ、加萬目立チ立ツ」

かま-もと (名) [竈元] クリヤ。臺所。浮世風呂(文化)[illegible]モ、ナケナシ錢デ、ヤッパリ、御洒落[ナンキャク]ヲシタガリマスカラ」

かま-や (名) [竈屋] 竈ノ小屋。[illegible]「[illegible]木積ム、海人ノかまやニ、[illegible]リテ、立ツ[illegible]ヘ、[illegible]ラヒニケリ」

かまやま-あやめ (名) [釜山菖蒲] [釜山ハ、備前ノ地名ニ[illegible]レルカト云フ] はなあやめノ、葉ノ、細ク長キモノ。

かまやま-かうじ (名) [釜山柑子] [illegible]ノ一名。

かま-やり (名) [鎌槍] 槍ノ穗先ニ、枝アリテ、鎌ノ如クナル[illegible]モノ、[illegible]ナドニテ用ヰル、兩傍ニアルヲ、兩鎌[リャウガマ]ト云ヒ、一方ナルヲ、片鎌ト云フ。橫刃槍 [illegible]「[illegible]ノ[illegible]ヲ切ルホドク」[illegible]、一、木山[illegible]正[illegible]。[illegible]正ヲ[illegible]代ナリ」後、久留米ノ城主、有馬氏ノ槍ニノミ云フコトトナレリ。[illegible]

かま-ゆ (名) [竈湯] 竈風呂[カマブロ]ノ條ヲ見ヨ。

かま-ゆで (名) [釜茹] 釜煎[カマイリ]ニ同ジ。

かま-わぬ (名) [鎌輪奴] 「構はぬ(人言ヲ顧ミズ)ノ判物[ハンジモノ]ナリ、奴詞ニ「よしやわざくれ」ト云フ意ナリ、わざくれノ條ヲ見ヨ」[illegible]ノ模様ニ、鎌ト輪トぬノ字トヲ連ネタルモノ。町奴[マチヤッコ]ナド用ヰタリ、俠氣アル遊女ナドモ、ちかけニ[illegible]ぬノ字[illegible]

かみ (名) [神] [隱身[カクレミ]ノ義ナリト云フ、[illegible]「くにかり、かにかり、[illegible]」[illegible]] (一)[illegible]形ハ、目ニ見エズシテ、[illegible]、幽事[カンゴト]ヲ知シテ、奇靈[クシビ]ニマシマスモノノ稱。後ニハ、無上自在ノ威德アリテ、[illegible]人ノ[illegible]ヲ支配スト云フモノ。[illegible]古今集、七、[illegible]「仕フベキ、我レヲモ恋ツナ、スベラギノ、百代ヲ守ル、神トコソ聞ケ」(二)[御歴代ノ天皇ノ尊稱。

現人神ニマシマセバナリ。萬葉集、十八 長歌「皇祖ノ、可見ノ大御代ニ、田道間守、常世ニ渡リ、云云」(垂仁天皇) 同、巻二十芳野離宮長歌「皇祖ノ、可未ノミコトノ、恐クモ、始メタマヒテ、云云、此大宮ニ、云云」(應神天皇) (三)スベテ、人智ニテハ測リ知ラレザルコト。「神ノ如シ」「神事」 (四)神代ニ、スベテ、功德アリシ方方ノ稱。何ノ命、某ノ命ト申ス、是レナリ。(五)聖賢、英雄ナドノ、逝去ノ後ニ、其靈魂ヲ祀ルコトノ稱。大鏡、上、時平「今日、神(菅原道眞)トナリ給フトモ、コノ世ニハ、我レニ所オキ給フベシ」 (六)〔スベテ、荒ブル者、恐シキ龍蛇、豺狼、虎豹ナドノ稱。景行紀、四十年七月「東國不レ安、暴神多起、亦蝦夷悉叛」 神代紀、上 七「八岐大蛇、云云、素戔嗚尊勅レ蛇曰、汝是可畏之神」 常陸國風土記、行方郡「謂レ蛇爲ニ夜刀神ニ」(谷ノ神) 豐後國風土記、直入郡、球覃郷「蛇龗、謂ニ於箇美ニ」 欽明紀、六年十一月、膳臣巴提便、虎ニ向ヒ「汝威神」 倭名抄、十八 十一「豹、奈賀豆可美」(中之神) 欽明即位前紀、秦大津父、狼ニ逢ヒ「汝是貴神、而樂ニ麁行ニ」「オホかみ」 (七)〔鳴雷ノ略。イカヅチ。カミナリ。萬葉集、十二 十九「神ノゴト、聞ユル瀧ノ、白浪ノ」 拾遺集、十九、雜戀「かみイタク鳴リハベリケル朝ニ」

かみ (名) 上 (一)〔高キ處。ウヘ。(中、下ニ對ス) 宇津保物語、樓上、上 六十五「かみハ空ヲ響カシ、しもハ地ノ底ヲ搖ガス」 (二)〔高ク貴キコト。長。カシラ。 源、二、帚木 九「かみハ下ニ助ケラレ、下ハかみニ靡キテ」「上ノ好ム所、下コレニ傚フ」 (三)〔初。 宇津保物語、俊蔭 八「木、云云、三分ニワカチテ、かみノ品ハ、云云、中ノ品ハ、云云、しもノ品ハ、云云」「上ノ巻」 (四)〔天子ノ尊稱。ウヘ。 古事記、中(神武) 十四「汝命爲レ上、治ニ天下ニ」(綏靖天皇) (五)官、主人、尊長、夫人ナドノ尊稱。吾妻鏡、二十一、建曆三年四月廿七日「和田義盛、日來有ニ謀叛之疑一、云云、義盛申云、於レ上(將軍)全不レ存レ恨、相州(北條義時)所爲、傍若無人之間、云云」 (六)皇居ニ近キ方。上方。「上京、下京」 (七)〔年上。年長 源、三十四、下、若菜、下 廿四「七ツヨリかみノハ、皆、殿上セサセタマフ」「子ノかみ」(長子) (八)〔ミナモト。ミナカミ。源 伊勢物語、八十七段「瀧ノかみニ、圓座ノ大キサシテ、サシ出デタル石アリ」「川ノ上」 (九)往ニシ時。イニシヘ。往時 千載集、序「かみ正曆ノ頃ホヒヨリ、しも文治ノ今ニ至ルマデ」「上ツ世」 (十)上方ノ略。上國 浮世風呂(文化、三馬) 二編、上「かみデ云フ、コロ煎リ」「かみヘノボル」

かみ (名) 長官 〔上ノ義、左大臣ヲ一ノ上ト云ヒ、氏長者ヲ氏ノ上、長子ヲ子の上ト云フ、是レナリ〕 官ノ等級ノ稱。長官ヲ一官ノ長トシテ、次官コレヲ助ケ、其下ニ判官、主典アリテ、各、其務ニ從フ、コレヲ長官、次官、判官、主典トモ稱ス、諸官、率ネ此ノ如シ、コレヲ四等官ト云フ。諸官ニテ、其字ヲ異ニス、太政官ハ、大臣、(長官)納言、(次官)少納言、辨、(判官)史、外記(主典)ナリ、神祇官ニテハ、伯、副、祐、史、ト云ヒ、省ニ、卿、輔、丞、錄、ト云ヒ、彈正臺ニ、尹、弼、忠、疏、ト云ヒ、使ニ、長官、次官、判官、主典、ト云ヒ、職ニ、大夫、亮、進、屬、ト云ヒ、寮ニ、頭、助、允、屬、ト云ヒ、司ニ、正、(次官闕ク)佑、令史、ト云ヒ、近衛府ニ、大將、中將、少將(次官二等アリ)將監、將曹、ト云ヒ、兵衛府、衛門府ニ、督、佐、尉、志、ト云ヒ、內侍司ニ、尙侍、典侍、掌侍、(主典闕ク)ト云ヒ、太宰府ニ、帥、貳、監、典、ト云ヒ、鎭守府ニ、將軍、副將軍、軍監、軍曹、ト云ヒ、國ニ、守、介、掾、目、ト云フ等、其他、尙多シ、而シテ、四等ノ官ニ、正官、權官、大、中、少、ニ分ルルアリ。倭名抄、五「長官、加美」同ニ「次官、須介」

かみ (名) 頭 〔頭ト通ズ、候ふ、さぶらふ、さむらふ。田部、民〕 カシラ。カウベ。髮の毛ハ、頭の毛ナリ。かしらあか(頭垢)ヲ、かみあかト云ヒ、かしらかたしヲ、かみかたしト云フ。各條ヲ見ヨ。

かみ (名) 髮 〔頭ノ義、(前條ヲ見ヨ)頭の毛ト云フガ、全キ語ナルベシ、玉篇、「髮、首上毛也」〕 首ノ上ニ生ズル毛。カミノケ。敬語ニ、ミグシ。オグシ。萬葉集、五 九長歌「カ黑キ可美ニ、イツノマカ、霜ノ降リケム」 倭名抄、三 三「髮、首上長毛也、加美」

かみ (名) 紙 〔簡ノ字音ノ、かぬ、かに、かみト轉ジタルナリ、爾雅、釋器、疏「簡、竹簡也、古未レ有レ紙、載ニ文于レ簡、謂ニ之簡札ニ」推古天皇ノ御世ニ、高麗僧、來朝シテ、始メテ紙ヲ造レリ、貞丈雜記、九ノ書札ノ條ニ、手紙ハ、手簡ヲてかんト讀ミ、又、てがみト讀ミタガヘタルナルベシト云ヘリ(手段、てだん)〕 書畫ヲカキ、又ハ、物ヲ包ムナド、種種ノ用ヲナスモノ。楮ノ皮ヲ剝ギ、粗皮ヲ去リ、煮テ細カニ打碎キ、黃蜀葵ノ根ノ粘液ト、水トヲ加ヘテ、簀ノ上ニ、甚ダ薄ク敷キテ、乾シテ成ル。色白キヲ常トスレド、又、種種ノ色ニモ染ム。構、がんび、みつまた、桑、ふよう等モ、皆、白紙ヲ作ルベシ、製法、粗、同ジ。紙ノ類ニ、鳥子紙、檀紙、薄樣、杉原、奉書、小菊、程村、西ノ內、美濃紙、半紙、駿河半紙、天具帖、吉野紙、糊入、仙花、雁皮、藥袋紙、等、種類、極メテ多シ、各條ニ注ス。西洋紙ハ、木材、襤褸、藁ナドニテ作ル、亦、其製、種種ナリ。倭名抄、十三 五「紙、賀美」 推古紀、十八年三月「高麗王貢ニ上僧曇徵法定一、曇徵能作ニ彩色及紙墨一」

か-み (名) 加味 味ヲ加フルコト。他ノ物ヲ交フルコト。(藥ナドニ云フ) 運歩色葉集「加味」

かみ-あか (名) 頭垢 〔かみハ、かしらナリ〕 頭ニ生ズル垢。カシラアカ。イロコ。今、ふけト云フ。康賴本草、下 廿三「頭垢、加美阿加、加之良阿加」

かみ-あがり (名) 神上 (一)カミアガルコト。(二)かみおろし(神降)ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。

かみ-あが・る ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) 神上 (一)神、天ニアガル。かむあがる。又、かむのぼるトモ云フ。(かむくだるニ對ス) 昇天 神代紀、上 廿「伊弉諾尊、神功既畢、靈運當レ遷」 萬葉集、二 廿七長歌「天原、岩戸ヲ開キ、神上リ、アガリイマシヌ」同歌、一本「天原、岩戸ヲ開キ、神登リ、座シニシカバ」 (二)身退リタマフ。(御靈ノ、天ニノボリタマフコトス)カクリマス。神去ル。カンサル。崩薨 神代紀、下 六「天津彥火瓊瓊杵尊崩」 神武紀 廿「天皇崩ニ于橿原宮ニ」

かみ-あけ (名) 神今氣 かんいまけヲ見ヨ。

かみ-あげ (名) 神上 かみおろし(神降)ノ條ノ(一)ヲ見ヨ。

かみ-あげ (名) 髮上 〔髮ヲ結フヲ、あぐト云フ〕 (一)髮ヲ集メテ、頂ニテ結フコト。結髮 神功紀、攝政元年三月「令ニ三軍一悉令ニ推結一」 (二)古ヘ、女子、年頃トナレバ、髮ヲ放ナリシヲ改メテ、頂ニテ結ヒテ、垂髮トスルコト。即チ、成人トナル義ニテ、男子ノ元服ニ同ジ。始メテアグル時ハ、裳着ト共ニ行ヒテ、祝儀ア

[illegible]

かみあそび (名) |神遊| 〔遊ぶハ、慰む意〕 神楽ヲ奏シテ、神ノ御心ヲ和メ奉ルコト。天照大神ノ [illegible] (わざをぎノ條ヲ見ヨ)後ニ、歌ヲ作リ、神前ニ、琴、笛、歌舞シテ奏フコトトナリテ、コレヲ神楽トモ云ヒ、採物トテ、榊、[illegible] ノ、三十七曲アリ。[illegible] 古今集、二十、大歌所「かみあそびノ歌」

かみあひ (名) |噛合| 噛ミ合フコト。クヒアヒ。「犬ノかみあひ」

かみあ・ふ [illegible] |噛合| 互ニ噛ミテ、闘フ。(犬ナド)クヒアフ。[illegible]

かみありづき (名) |神在月| 〔十月ニ [illegible]〕 [illegible] 陰暦、十月ノ異名。(出雲) [illegible]

かみいさめ (名) |神楽| 〔琴、笛ニテ、神ノ心ヲ慰むる意。いさむ(慰)ノ條ヲ見ヨ〕 [illegible]

かみいちだんくわつよう (名) |上一段活用| 語学ノ語、動詞ノ活用ノ一種、五十音図ノいノ段ノ一段ノミニテ、活用スルモノ、(下一段活用ニ対ス) 即チ、い、いる。(射)き、きる(着)に、にる。(煮)ひ、ひる(乾)ノ類ナリ。古クハ、コレヲ単ニ、一段活用ト云ヒキ。

かみいれ (名) |紙入| [illegible]

かみうた (名) |神歌| 一種ノ曲節アル謡物ノ名、神事ニ関スル歌ヲウタヒシニ [illegible]

かみおき (名) |髪置| 〔おくハ、[illegible]〕 [illegible]

[illegible] 一月十五日ト定メ、七五三ノ祝ノ一トス。[illegible] ノ祝リテハ、麻苧ヲ、白髪、又、たすきガケトシテ、[illegible]

かみおほぢ (名) 高祖ノ(一)ノ古称。[illegible]

かみおろし (名) |神降| (一)神祭ノ初ニ、神ノ御霊ヲ申シオロシ奉ルコト。[illegible]

かみおろし (名) |上颪| [illegible]

[illegible] ス意ナルベシ〕 和歌ノ初句、又ハ、[illegible]

かみかうぶり (名) |神位| 神位ノ義、位 [illegible]

かみかうぶり (名) |紙冠| [illegible]

かみがかり (名) |神憑| [illegible] 神ノ、人ニ憑キテ、託宣アルコト。[illegible]

かみがかり (名) |上掛| [illegible]

かみがき (名) |神垣| [illegible]

齋垣。瑞垣。玉垣。 源、十、榊ニ「神がきハ、シルシノ杉モ、無キモノヲ、イカニ紛ヘテ、折レル榊ゾ」

かみ-がき (名) 髪掻 「髪ヲ掻キ平ス物ノ義」 鬢髪ヲ理ムル具。多クハ音便ニ、かうがいト云フ、其條ヲ見ヨ。 刷髪 倭名抄、十二ノ廿八「掻鬢敢、所以理鬢、謂之敢也、加美賀岐」

かみ-がくし (名) 神隱 兒童ナド、俄ニ、身失セテ居ラズナルコト。俗ニ、天狗ノ所爲ナリナド云フ。 浮世床(文化、三馬)二編、上「杉ノ葉ノ蔭ダト云フカラ、神がくしニ疑ナシ」

かみ-かけ-て (副) 神懸 神ニ誓ひをかけての意、かけまくも畏キノ、かけナリ。誓ヒテ。神以テ。 貞山公治家記錄、附尾(伊達政宗代ノ記錄)「日本ノ神かけて、毒ナドヲ以テ、殺シ奉ツルベシトハ、ユメユメ思ハズ」

かみ-かざり (名) 髪飾 髪ヲ結ヒ上ゲ、櫛、簪ナドニテ飾ルコト。頭飾 夕霧阿波鳴渡(寶永、近松作)下「髪飾ハ、假ノ戯レ」

かみ-かぜ (名) 神風 〔神ノ威力ノ風ナリト云フコト、定說ナレド、或ハ、神の御坂、神の門ナドノ神ニテ、畏クモ恐シキ意カトモ思ハル〕 神ノ威力ニ因リテ、神ノ吹カシメタマフト云フ、嚴キ風。枕詞ナドニハ、かんかぜト云フ。 萬葉集、二ノ二十五長歌「渡會ノ、齋宮(大神宮)ヨ、神風ニ、伊吹キマドハシ、天雲ヲ、日ノ目モ見セズ、常闇ニ、覆ヒタマヒテ」 伊勢ノ内宮ノ別宮ニ、風宮アリ、太平記、三十九ニ、弘安四年、蒙古ノ來寇ノ時ニ、風社ヨリ大風吹キ出デ、賊船ヲ全滅セシメシ事ヲ記セリ、又、風宮ハ、昔ハ社號ナリシニ、異族ノ降伏ニ因リテ、正應六年ニ、宮號宣下アリシト云フ。(稜威道別、四)

かみ-がた (名) 上方 明治以前、邊鄙ノ地方ヨリ、京都、畿内、邊ヲ、汎ク呼ビシ語。上國 上方ヘ行クヲ、のぼるト云ヒ、地方ヘ赴クヲ、くだるト云ヒシガ、此語、今ハ、東京ヲ中心トシテ云フ。 狂言記、秀句大名「上方ヲ見物致サヌ程ニ、此度都ヘ上らうト存ズル」 武家嚴制錄、二十一「上方關東御代官條目」

かみがた-うた (名) 上方唄 法師唄、長唄ノ條ヲ見ヨ。 三養雜記、二、女藝者「京大坂ニテモ、藝子ノ唄ニ、大鼓ナドノ囃子ヲ入ルルコトアレド、ソノ地モトヨリ座唄ヲウタフ者ナク、イハユル上方唄ノミナリ、サレバ江戸ノ如ク、下座ノ鳴物ニ、定リタル手ナシ、カノ上方唄ニハ、謠曲ノ詞ヲトリタルガ多カレバ、猿樂ノ大鼓ノ手ヲナラヒオボエテ、ソノ間ヲ合スルトイヘリ」

かみ-かた-し (形) 頭堅 かしらかたしニ同ジ。其條ヲ見ヨ。

かみがた-せん (名) 上方錢 永樂錢ヲ、上方(大阪)ニテ、專ラ用キルヨリノ稱。

かみ-ガッパ (名) 紙合羽 合羽ノ、桐油紙ニテ造レルモノ。トウユガッパ。 曾我會稽山(享保、近松作)四「紙合羽、締メタル笠ノ怯レジト」

かみが-と (名) 神門 かみのとヲ見ヨ。

かみ-かは (名) 紙革 紙ニテ、革ノ如ク造レルモノ。

かみ-かぶり (名) 紙冠 かみかうぶりノ條ヲ見ヨ。

かみ-き (名) 神木 神木。 萬葉集、四ノ四十八「神樹ニモ、手ハ觸ルチフヲ、ウツタヘニ、人妻ト云ヘバ、觸レヌモノカモ」

かみ-ぎぬ (名) 紙衣 紙ニテ作レル衣。カミコ。 狹衣、二、下ノ五十六「かみぎぬノ、イト薄キニ、墨染衣ト云フモノヲ着テ、打チサラボヒタル」 今物語「法師ノ、云云、かみぎぬノ、ホロホロトアル、打着タルガ、云云」

かみ-ぎは (名) 髪際 額ナドノ、髪ノ生際。音便ニ、かうぎは。 倭名抄、三ノ二「髪際、加美岐波」 宇治拾遺、一、第五條「額、眉ノ間ノ程ニ、かうぎはニ寄リテ、二寸バカリノ疵アリ」

かみ-きり (名) 髪切 結ヒタル髪ノ、偶然ニ、切リタル如ク、離レ落ツルコト。俗間ニハ、妖アリテ、然リトス、サレド、一種ノ病ニ起ルナリト云フ。婦人ニ限リテアルコトナルモ、奇ナリ。 增訂武江年表「元祿中、江戸並諸國、髪切ハヤル」 嬉遊笑覽、八「明和八年、江戸中、かみきりハヤル、ソノ切ラレタル跡、ネバリテ、イト臭キヨシ云ヘリ」

かみきり-むし (名) 髪切蟲 きくひむしノ、羽化シタルモノ。長サ一寸許、巾四分許、背ニ堅キ甲アリ、腹ニ六足アリ、色黑クシテ、白點アリ、翅ハ甲ノ下ニ隱ル、首ニ太キ鬚二條アリ、黑白雜リテ、身ヨリ長シ、口ノ左右ニ利キ齒アリテ、むかでノ如シ、髪ヲ嚙ミ切リ、竹木ノ類ヲモ切ル。一名、角蟲 天牛 天治字鏡、八ノ四廿四「蛚、加彌支利虫」 倭名抄、十九ノ十「齧髪蟲、加美木里無之」

かみ-き・る・ル・レ・ラ・リ・レ (他動、四) 齧切 嚙切 カミテ、キル。クヒキル。 保元物語、二、左府御最後事「御舌ノ先ヲ嚙み切りテ、吐キ出ダサセマシマシケリ」

かみ-きれ (名) 紙切 紙ノキレハシ。斷紙 紙片 著聞集、四、文學「仁平三年五月廿一日、皆紙切ニ書ワケテ、頭辨朝隆朝臣ヲ召シテ、鬮ニ取ラセラレケリ」

かみ-くじ (名) 紙鬮 數枚ノ紙ニ、思フ事ヲ記シ、丸メテ御鬮トシ、神ニ祈リテ、其中ノ一ツヲ取リテ、吉凶ヲ定ムルコト。 船長日記、上「紙鬮ト云フハ、一升枡ニ米八合入レテ、紙ヲ一寸四方ニ切リテ、思フ事ヲ書キツケテ、丸メテ、米ノ上ニ置キ、大神宮ヲ念ジテ、一萬度ノ御祓箱ヲ其上ニカザセバ、丸メタル紙ノ中一ツ、跳ビアガリテ御祓ヘツク、ソレヲ見テ吉凶ヲ知ル」(松屋筆記、六十九)

かみ-くづ (名) 紙屑 紙ノ、用キ敗レテ、捨ツベキモノ。敗紙 立身大福帳(元祿、唯樂軒)七「紙屑、鼻分、手マメニ拾ヒ、籠ヘ入ルベシ」

かみくづ-かひ (名) 紙屑買 人家ヲメグリテ、紙屑、其外、廢物ヲ買ヒ集ムルヲ業トスル者。カミクヅヤ。クヅヤ。 夕霧阿波鳴渡(寶永、近松作)上「傾城買ヨリ、紙屑買ガ増ヂャ」

かみくづ-や (名) 紙屑屋 前條ニ同ジ。

かみ-ぐに (名) 神國 (一)神ノ知シメス國。神聖ナル國。又、かみのくに。神國。大日本。 神皇正統記、開卷「大日本ハ神國ナリ」 夫木抄、三十六「神國ト、豐葦原ヲ、定メオキテ、君ノ守リノ、限ナノ世ヤ」 續拾遺集、二十、神祇「榊採リ、眞澄ノ鏡、懸ケシヨリ、神の國ナル、我ガ國ゾカシ」 (二)かみおほりノ條ヲ見ヨ。

かみ-ぐら (名) 上座 「くら(座)」ノ條ヲ見ヨ。 席ノ中ニテ、最モ上ナル座。カミザ。上席。

かみ-こ (名) 紙子 〔紙衣ノ略カ、紙小袖ノ略カ、布子、綿子ナドモアリ〕 カミギヌ。紙ニテ製シタル衣。かみこ紙ト云フ、一種ノ白キ紙ヲ續ギテ、柿澁ナドヲ延キテ、手ニテ揉ミテ柔カニシテ用キル。澁ヲ用キズシテ白キヲ、白紙子ト云フ。紙衣 破レヤスキ部ニハ、別ニ、三角形ノ紙ヲ貼ル、火打ト云フ。 續武家閑談、十「秀吉公、白紙子ノ御羽折、紅梅ノ裏御襟」 夕霧阿波鳴渡(寶永、近松作)上「冬編笠モ垢張リテ、紙衣ノ火打、膝ノ皿」

かみこ-うり (名) 紙子賣 初冬ノ頃、市中ヲ、紙子ヲ賣リテアルクヲ業トセシ者。(てんとくぶノ條ヲ見ヨ) 誘心集(寛

[illegible]

かみお-かみ (名) [illegible]ヲ見ヨ。

〔かみ-おと (名) 神語 (一)神ノ告ゲタマフ語。かんおと。[illegible] (二)[illegible]二流シ来レル、神語ニ傳ヘ来レル」(三)神事ニ[illegible]アブル[illegible]八[illegible]手」

かみ-おと (名) 神事 (一)〔神ノシタマフ所爲。かんおと。かんわざ。神代紀、上「[illegible]」[illegible]凶モ、何ノ故ニ起ルカ知ラレザルコト。神ノ所爲ト云フナリ。(三)かんおと。神ヲ祭ル事。神事。祭事。祭典。

〔かみ-おほり (名) [illegible] 伊勢ノ度會、多氣、飯野、三郡ノ稱。大神宮ノ領ナリ。又、神郡。かんごほり。[illegible]、廿八、[illegible]五)神宮雜例集、一「陽ニ伊勢國内、稲部河以東ハ神國定奈、飯野、多氣、度會坪也」(坪ハ、評ニテ、郡ナリ)

かみ-おま (名) 上駒 三味線ニ云フ語。おま(駒)(名詞ノ第三)ヲ見ヨ。[illegible]キナセリ」

かみ-ざ (名) 上座 カミグラ。上席。

かみ-ざいく (名) 紙細工 紙ニテ、種種ノ器具ヲ作リタルモノ。[illegible]西鶴)「北野ナル紙ざいく、幾人カ呼ビ寄セ」

かみ-さ[illegible] (名) [illegible] ニ同ジ。[illegible]ヲ見ヨ。

かみ-さかやき (名) 髮月代 月代ヲ剃リ、髮ヲ結フコト。[illegible]作)上「御小姓方ノ奉公ハ、髮月代ニ御好ミアル」

かみ-さげむし (名) 紙下蟲 廁ノ糞中ノ蛆。[illegible] 俗間ニ、四月八日ニ、チハヤブル、卯月八日ハ、吉日ヨ、かみさげむしヲ、成敗ゾスル」ト云フ俗歌ヲ、紙片ニ書シテ、廁ニ、逆ニ貼リテ、蛆ノ、廁ニ上ルヲ防グ呪トスルコトアリ、か[illegible]ヲ、神[?]ニ寄スル[illegible]ナリトゾ。

〔かみ-さし (名) 簪 〔髮刺ノ義〕 (一)髮ノ中ニ插シハサミテ、飾リトスル具。多クハ、音便ニ、かんざしト云フ、其條ヲ見ヨ。大和國ノ法隆寺藏、同作太子筆、聖德太子十六歳御肖像ノ髮ノかみさし、是レナリ。同寺藏ノ孝謙天皇ノ御[illegible]ニテ、兩端長ク、上ニ雲鳳ノ飾リアリ、粗、今ノ女ノ插スかんざしノ如シ。[illegible] (二)冠ノ具。髻ヲ巾子ニ入レテ、外ヨリ、横ニ刺シ止ムルモノ。是レモ音便ニ、かんざしト云フ、其條ヲ見ヨ。[illegible]

〔かみ-ざね (名) [illegible] 「神ノ身體ノ義」 神ノ本體。又、かんざね。景行紀、四十年十月「膽吹山神、化ニ大蛇ニ云云、日本武尊、不レ知ニ主神[illegible]」

〔かみさび (名) 神然 カミ[illegible]コト[illegible]ト」

〔かみ-さ・び (動) 次條ヲ見ヨ。

〔かみ-さ・ぶ・ぶる・ぶれ・び・び・べ・べよ(自動、上二) 神然 〔さぶ(然)ノ條ヲ見ヨ〕 (一)神[illegible]ガウシクアリ。又、かんさぶ。萬葉集、二[illegible]五十「可牟佐夫流、荒津ノ崎(筑前)ニ、寄スル浪」同、[illegible]ヲ經。源、二十、朝顔「かみさびニケル年月ノ勞、數ヘラレ侍ルニ」[illegible]ハマゲレテ上手メキ[illegible]テテ、[illegible]ユ」[illegible]ハ明朗、光榮ナド、イト神さびタリシ者ドモニテ」(三)老ユ。[illegible]見ユレバ、女一ノ御子ノ面[illegible]ナリ」

かみ-さま (名) 上樣 (一)内室。奧方。[illegible]、八、[illegible]山ト申ス道ヲ越エサセタマヒテ」古キ羽子板ニ、祖[illegible]於乳之人」(古事類苑、羽子板) (二)武士ノ妻。[illegible]ノ頃マデハ、徳川氏ノ家人、禄二三十俵高ノモノナドノ妻ヲ、他ヨリ尊シタリト云フ。(三)商人ノ妻、俗ニ、おかみさんト云フ。下流ノ商工ナドノ妻ヲかみさんト云フ。[illegible]ラヌコト」

〔かみ-ざま (名) 上方 下方ニ對ス 上ノ方。[illegible]

かみ-さん (名) 上樣 前前條ノ(三)ヲ[illegible]

見ヨ。

〔かみ-さ・る・る・れ・ら・り・れ(自動、四) 神避 [illegible]身退リタマフ。又、かんさる。[illegible]「伊弉冉尊、生ニ火[illegible]、亦云ニ神避ニ矣」[illegible]「加美佐里坐奴」[illegible]

かみ-して (名) [illegible]ル垂。木綿垂ニ對ス。してノ條ヲ見ヨ。

かみ-し・む・むる・むれ・め・め・めよ(他動、下二) 嚙締 (一)強ク嚙ム。クヒシバル。[illegible]

かみ-しも (名) 上下 (一)上ノ方ト、下ノ方ト。[illegible]貴賤ト、人民ト。[illegible] (四)川上ト、川下ト。[illegible] (五)身體ノ、腰ヨリ上ト、下ト。[illegible]衣、袴ノかみしもト云フ、是レナリ。「[illegible]かみしも」 (六)和歌ノ、初ノ三句ト、末ノ二句ト。句ノ條ヲ見ヨ。(七)一箇月ノ、十五日前ト、十六日後ト。

〔かみ-しも (名) 上下 [illegible] (一)[illegible]上衣ト、袴ト。[illegible]時代ニ至リテ、狩衣、水干、直垂、素襖ナ

ドト、袴トノ稱。布帛ノ染色ノ、上、下、同ジキモノヲ云フ、鎌倉時代ナルニハ、多クハ直垂ニ云ヒ、室町時代ニハ、素襖ナルヲ云ヘリ。大和物語、下「我ガ裝束、かみしも、帶、太刀マデ、皆誦經ニシケリ」(袍ナリ、誦經ノ布施物) 舊、今昔物語、二十七、第三十一語「淺黃上下、着タル翁」吾妻鏡、一、治承四年十一月八日「著二紺直垂上下一之男」(佐竹家人、岩瀨與一太郞) 吉部祕訓抄(建久)「着二白兩面上下一」「着二赤色上下一」 宇治拾遺、八、第二條「武正、赤香ノかみしもニ、蓑笠ヲ着テ」 布衣記(永仁)「馬ノ時、侍僕者事、云云、介添ノ若黨、中間、蹄ニ上下着、召具」 貞順故實集(室町時代)元服「上ノ方ノ結目ヲ解テ、裾ノ髮バカリニテ烏帽子ヲ着候、其後、上下ヲ着候テ祝フ也」(素襖ナリ)

かみ-しも (名) [裃] 〔前條ノ語ノ移レルナリ、字ハ上下衣ノ合字、近代世事談(享保)一ニ、足利義滿ノ時ノ內野合戰ハ、正月元日ニ起ル、殿中賀會ノ襲、素襖ノ袖ト裳トヲ取リテ、事ニ從ヒシニ始マル、ナド云ヘリ、かたぎぬノ條ノ(一)ヲ見ヨ〕 室町時代ニ、かたぎぬばかま。(後松日記、四) 江戶時代ノ禮服ノ名。同ジ染色ノ肩衣ト袴トヲ、紋服小袖ノ上ニ着ルナリ、麻上下ヲ最禮ノモノトス、上下トハ、同ジ染色ノ意ナル語原ハ忘レラレテ、麻對ノ上下トモ云ヘリ、又、肩衣ト袴ト、色異ナルヲ用キルヲ、繼上下ト云ヒ、平服トシタリ。(吉宗將軍ノ世、節儉ニ始マルト云フ) 寬文中ノ年頭ノ禮ノ觸書「月代ヲ致シ、麻對ノ上下ヲ着シ」(嬉遊笑覽、二)

かみ-しやうじ (名) [紙障子] 紙ニテ張リタル障子。アカリシャウジ。かみさうじ。 狹衣、三、上「かみしやうじニ、ヨベノ御衣ヲナンカケサフラヒツル」 同、二十「少シ違レタル所ノ、紙さうじナドバカリニテ、アラアラシキ、カリソメノ、キドコロト見エタリ」

かみ-すき (名) [紙漉] (一)紙ヲ漉ク業。(二)紙漉ヲ業トスル者。紙匠 庭訓往來、四月「唐紙師、紙漉、傘張」

〔**かみ-すぎ** (名) [神杉] 神木ノ杉。大和國、石上布留神社ニアルモノ、最モ名アリ。 顯宗卽位前紀「石上振ノ神椙」 萬葉集、十一「石上、振之神杉、神サビテ」 同、二十「三諸ノ、神ノ神須疑」(大和ノ三輪山)

かみすき-ぶね (名) [紙漉槽] 紙ヲ漉ク料ノ液ヲ湛フル槽。抄紙槽

かみ-すさ (名) [紙寸莎] すさノ條ヲ見ヨ。

かみ-すぢ (名) [髮筋] (一)梳リタル髮ノ理。ケスヂ。髮理 新古今集、十五、戀、五「掻キヤリシ、其ノ黑髮ノ、すぢ每ニ、打チ臥ス程ハ、面影ゾ立ツ」 (二)髮。髮條 徒然草、第九段「女ノかみすぢヲヨレル綱ニハ、大象モ、ヨク繫ガル」

かみ-すり (名) [剃刀] 〔かみそりノ轉、あそぶ、あすぶ。あそぶ、あすぶ〕 かみそりニ同ジ。其條ヲ見ヨ。

かみすり-がひ (名) [紙磨貝] 〔背面ニテ、紙ノ面ヲ磨リテ、光澤ヲ出サシムルニ用キレバ、名トス〕 たからがひノ異名。

かみ-ぜに (名) [紙錢] (一)祭祀ノ具。ぜにがたニ同ジ。其條ヲ見ヨ。(二)錢札。紙幣 細細要記「建武二年二月三日、紙錢通用ノ儀、仰出サル」

かみ-そぎ (名) [髮削] 〔切るヲ忌ミテ、そぐト云フ、深そぎ、鬢そぎナド云フ、同ジ〕 童男女、髮置ノ後、成長スル髮ノ末ヲ、肩ノ邊ニテ、切リ整フルコト。始メテ切ル時、祝儀アリ、其後、一年ニ數度切ル。 源、九、葵十「姬君ノ、云云、御髮ノ、云云、久シウそぎタマハザメルヲ、今日ハ吉キ日ナラムカシトテ、曆ノ博士召シテ、トキ問ハセナドシタマフホドニ、云云、髮ドモノ末、ハナヤカニそぎワタシテ」 簾中抄(鎌倉時代)下、日次「かみそぎ、二月、四月、六月、十一月、十二月、吉シ、丑、寅、午ノ日、ヨシ」

〔**かみ-そり** (名) [剃刀] 〔髮剃ノ義〕 髮ヲ剃ルニ用キル刃物。後世ナルハ、長サ五六寸、鋼ニテ作ル、鋒尖ナク、平面ニシテ、一折ス。かみすり。音便ニ、かうぞり。古ヘハ、男、女、共ニ、髮ハ、鋏ミ、又ハ、拔キタルニテ、剃刀ハ、專ラ、僧ノ用ナリキ。織田信長、月代ニ、剃刀ヲ用キ始メタリト云フ。(和事始) 玄蕃寮式「剃髮刀」 倭名抄、十三、僧坊具「剃刀、加美曾利」 榮花物語、三十、鶴林、關白道長ノ入道「昨日、御髮ナドそらセタマヒテ、御袈裟、衣ナド奉ラセ、云云」 法然上人ノ母、剃刀ヲ呑ムト夢ミテ、孕ミテ生メリト。(圓光大師傳)

かみそり-がひ (名) [剃刀貝] 〔形、剃刀ニ似タリ〕 まて(蟶)ノ異名。

かみそり-ど (名) [剃刀砥] 專ラ、剃刀ヲ研グニ用キル砥石ノ名。山城ノ鳴瀧砥、上野ノ戶澤砥ナド、名アリ。越砥

かみ-だすけ (名) [神助] 不思議ニ、危難ヲ免レタルコト。神ノ加護ニ因ルトシテ云フ。

かみ-だな (名) [神棚] 人家ニ、神祇ノ符ナド祀ルニ設ケタル棚。 世間母親容氣(寶曆、南圭梅嶺)二「神棚ヘ納メ、燈明トボシケル」

かみ-だのみ (名) [神賴] 神ニ祈リテ、加護ヲ願フコト。「苦シキ時ノかみだのみ」

かみ-タバコいれ (名) [紙烟草入] 桐油紙ヲ方形ニ折リテ、貼リ作レル烟草入。桐油合羽ニ因リテ、合羽たばこいれトモ云フ、たけやナド云フモ、是レナリ。刻みたばこヲ入ルルニ用キル。

かみ-たれ (名) [髮垂] 〔剃り切るト云フヲ忌ミテ、反語ニ、垂れト云フナリトゾ〕 小兒生レテ六日ニ、胎髮ヲ剃ルコト。ウブゾリ。(倭訓栞)

かみぢ-やま (名) [神路山] 伊勢ノ內宮ノ神路山ノ、古キ杉ノ心ヲ、香木トスル稱。簪ナドニ作ル。

〔**かみ-づかさ** (名) [神司] (一)かんぎくわん(神祇官)ニ同ジ。又、かんづかさ。太宰府ニモ、主神アリ、掌ル事、略、同ジ。 倭名抄、五、三「神祇官、加美豆加佐」 職員令、太宰府「主神一人、掌二諸祭祠事一」 (二)神ニ事フル人。神主。神官 垂仁紀、廿七年八月「令二祠官一トニ兵器爲二神幣一吉之」 源、十、榊四「かむづかさノ者ドモ、ココカシコニ打チ咳キテ」

かみ-つ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (自動、四) [齧付] 噛付 カジリツク。カブリツク。クヒツク。 狂言記、鏡男「腹ヲ立テテ、妾ニ、噛み附くヤウニ致ス」

かみつけ-あひ (名) [紙附合] 兒童ノ遊戲。數人ニテ、紙片ヲ、唾ニテ、額ニ附ケ垂ラシ、互ニ、氣息ニテ吹キ落スコト。 積山の井(寬文)「短冊ハ、紙つけあひカ、ハナノサキ」

かみ-づつみ (名) [紙包] 紙ニテ、物ヲ包ムコト。又、其包ミタル物。

〔**かみ-つ-ひげ** 名) [上髭] 〔上之髭ノ義〕 ひげノ條ヲ見ヨ。

かみ-つ-よ (名) [上世] 〔上之世ノ義〕 アガリタル世。オホムカシ。上古。

カミツレ (名) かみるれヲ見ヨ。

かみ-て (名) [上手] 〔上之方ノ約〕 (一)

上ノ方(下手ニ對ス) 上方 [illegible] 又、(二)芝居ノ舞臺ノ、向ヒテ、右ノ方ノ稱。左ノ方ヲ、下手。又、下座ト云フニ對ス。

かみでっぱう (名) [illegible] 玩具ノ名。[illegible]リキ竹筒ニ、濡紙ノ二ツ繩ヲ籠メテ、[illegible]ニテ強ク押シ出セバ、音ヲ發シテ飛ビ出ス。[illegible] (嬉遊笑覽、六)

かみどき (名) [霹靂] 次條ヲ見ヨ。

かみどけ (名) [霹靂] 雷解ノ義。雷ノ落ツルコト。かんとけ。かみとき。かんどき。[illegible] 月「霹靂」於藤原内大臣家」

かみな (名) [寄居蟲] 蟹蜷ノ略。[illegible] 抄、八、[illegible]中、[illegible] 山寺本)土師、はにし。國栖、くず)蟹ノ如ク、[illegible]ノ如シ。寄居蟲ノ古名。音便ニ、かうな。かんな。今、濁音ニ、がうなトモ云フ。[illegible]

かみなが (名) [髮長] 制頂ヲ、反對ニ云フナリ。[illegible]ノ忌詞ニ、僧ノ稱。[illegible]

かみながら (副) [隨神惟神] 〔昔シながらノ山櫻、枝ながら見ヨ、瓜ヲ皮ながら食フ、ナドノ、ながらナリ〕(一)神ニテマシマスカラニ。[illegible] 皇ニ申スハ、現人神ニマシマセバナリ。[illegible] (天照大神ノ詔)是以與天地之初、君臨之國也。[illegible] 平元年八月、詔「天皇ノ大キナル[illegible]ナモ、隨神思シメサク、ト宣リタマフ」(聖武天皇)[illegible] 市皇子ノ御神等ヲ云ヘルナリ) (二)神代ヨリノママニテ。萬葉集、一二藤原宮之役民作、長歌[illegible]

かみなぎ (名) [巫] 〔神の祈ノ轉、(偏拗、かたくな)禰宜ト同意カ、或ハ、神の子、御神の子(御巫)ノ轉カ(水の本、みなもと。鉤、鈹具)〕女子ノ、神ニ奉仕シ、神樂ニ舞ヒナドスル者。多クハ少女ナリ、又、かみおろしナドスルモアリ、專ラ音便ニ、かんなぎト云フ。又、かうなぎ。ミコ。官ニ仕フル者ヲ、御神の子ト云フ。又、男ナルモアリ、男 巫ト云フ。覡 [illegible] 天治字鏡、三十八同字ニ「加美[illegible]

かみなづき (名) [神無月] 神無ハ、當字ナリ、[illegible]成月ノ義、萬葉集、八[illegible]「十月」ノ條ニ、古義ノ記セル大神景井ノ說ニ萬葉集、十六[illegible]味飯ヲ、水(酒)ニ釀成、云云「十月ハ、翌月ノ新嘗ノ設ケニ、新酒ヲ醸ス月ノ義ナリ、(睦月ノ語原ヲ見ヨ) 借字ニ就キテ言ヒシハ、[illegible]十月「何事モ、行キテ祈ラムト、思ヒシヲ、社ハアリテ、神無月カナ」是レ等、古カルベキカ、花山天皇ノ頃ノ人ナリ、[illegible]輔(治承元年卒)ノ奧儀抄、上、末ニ「十月、天下ノモロモロノ神、出雲國ニ行キテ、異國ニ神無キガ故ニ、かみなし月ト云フヲアヤマレリ」トアリ、是レ等ニ因リテカ、從來、紛紛ノ說アレド、神神ノ、出雲ニ集リタマフコト、古典ニ、絕エテ據リドコロナキガ如シ、一切、妄說ナルベシ」陰暦、十月ノ稱。音便ニ、かんなづき。[illegible]

かみなり (名) [雷] 〔雷鳴ノ義、かみトノミモ云フナリ、いかづちノ語原ヲ見ヨ〕空氣中ニ、電氣ヲ生ジテ發ル、烈シキ響キ。夏時ニ多シ、強キ日光ニテ、地上ノ水蒸氣昇リテ、上空ノ冷空氣ト會ヘバ、收縮、凝結シテ電光ヲ發シ、雷鳴ヲ發ス、上下ノ電氣相合スレバ、霹靂、[illegible]落雷トナル。カミ。ナルカミ。ハタタガミ。イカヅチ。[illegible] 鳴(驚流)ニ神鳴ガ鳴ルハ、云云、オソロシヤ、オソロ[illegible]

かみなりおとし (名) [雷] [illegible] 說、虎屋)ノ開業セシモノト云フ」粗ナ[illegible]ク、正圓ナラヌモノ。文政ノ川柳「雷おこし、[illegible]

かみなりのぢん (名) [雷鳴陣] [illegible] ノ儀式。夏、雷鳴盛ニナル時、近衞ノ大將、次將、等、弓箭ヲ帶シテ、清涼殿ニ候シ、鳴弦シテ、守護シマヰラスルコト。[illegible] 音便ニ、かんなりのぢん。[illegible] の「かんなりのぢんノ舍人」

かみなりのつぼ (名) [雷鳴壺] 〔壺ハ、中庭ナリ、其條ヲ見ヨ、庭ニ、霹靂ノ木(避雷針ノ如キモノ)アルヲ以テ名トストヅト云フ、梅壺、桐壺ト同趣ナルベシ〕內裏ノ襲芳舍ノ別名。音便ニ、かんなりのつぼ。[illegible] 樓上、下六十「カノ龍[illegible](琴ノ名)ヨリシテ、なんふ、はしふ(曲ノ名)ナド云フナム、かんなり(のつぼ)ニテ、大將、中納言ノ彈キシ琴ノ心ナム、アマタアル心地セシ」

かみなりのまさかり (名) [雷鉞] 雷斧ノ條ヲ見ヨ。

かみなりぼし (名) [雷乾] 〔かみなりハ、形、電光ノ如キ意ナルベシ、[illegible]ノ意ト

スルハ、イカガ」　白瓜、又ハ、丸漬瓜ノ瓤ヲ去リテ、淺ク鹽ニ漬ケ、長ク薄クヤウニ輪切ニシテ引張リ、湯卷金ヲ延ベタル如クシテ、物ニ掛ケテ、夏ノ土用中、一日、照ル日ニ乾シタルモノ。切リテ、味醂ナドニ浸シテ食フ、甘シ。

かみなり-よけ　(名)　［雷除］　(一)ライヨケ。雷ノ落ツルヲ、除クルコト。避雷　神佛ノ、雷除ノ符アリ。避雷符　(二)落雷ノ害ヲ避ケムガ爲ニ、屋上ナドニ、柱ヲ立テテ、上端ニ銅製ノ棒ヲ立テ、夫レヨリ銅線ヲ、地中ニ埋メタル銅板ニ亙シテ、電氣ヲ、外ニ傳ヘ去ラシムルモノ。避雷針。

かみ-にだん-くわつよう　(名)　［上二段活用］　語學ノ語。動詞ノ活用ノ一種、五十音圖ノいノ横列ト、うノ横列トノ音ノミニテ活用スルモノ。(下二段活用ニ對ス)　卽チ、おち、おつ。(落)　ゐひ、ゐふ。(强)　おり、おる(下)ノ類ナリ。

かみ-の-おて　(名)　［髮落］　落髮ノ條ヲ見ヨ。

かみ-の-き　(名)　［紙木］　「皮ニテ紙ヲ作レバ、名トス」　かうぞ(楮)ノ(一)ノ異名。

かみ-の-く　(名)　［上句］　和歌ニ云フ語。く(句)ノ條ヲ見ヨ。

かみ-の-くに　(名)　［神國］　かみぐにノ條ノ(一)ヲ見ヨ。

かみ-の-け　(名)　［神氣］　「物のけ、時のけ、同ジ、け(氣)ノ條ヲ見ヨ」　神靈ノ祟リテ、時疫ナド起スコト。　古事記、中(崇神)六「大物主神ノ夢ノ告ゲニ「令祭我御前者、神氣不起、國安平」　榮花物語、十一、玉村菊「君ノ氣ヤ、マタカシコキかみのけヲ、人ノ□□ナド、ナマナマニ」

かみ-の-け　(名)　［髮毛］　「髮ノ語原ヲ見ヨ」　髮ト云フニ同ジ。

かみ-の-すゞも　(名)　［神箕薦］　神供ニ用キシ箕薦。　江家次第、十五、大嘗會「神食薦」　新千載集、十、神祇「チハヤブル、神のすゞもニ、霜冱エシ、其曉ハ、今モ忘レズ」

かみ-の-その　(名)　［神園］　「祇園ノ文字讀」　京都、東山、祇園ノ八坂神社。　後拾遺集、二十、神祇、祇園ニ行幸侍リケルニ、云云「チハヤブル、神のそのナル、姬小松、萬代經ベキ、初ナリケリ」

かみ-の-つかはしめ　(名)　［神使］　［神の遣はしめタマフモノ］　次條ヲ見ヨ。

かみ-の-つかひ　(名)　［神使］　［神ノ遣ひタマフモノ、遣ハシメタマフモノ、遣者ト云フガ正シキナルベシ］　神のつかひもの。神のつかはしめ。某神、何神ニ屬キテ、其神ノ命令ヲ承リテ、遣ハルト言傳フルモノ。イヅレモ、禽獸蟲魚ノ類ナリ。　古事記、中(景行)二十「山神、云云、是化白猪者、其神之使者」　景行紀、四十年十月「山神化大蛇、云云、是大蛇、必、荒神之使也」　皇極紀、四年正月「遙見有物、而聽猿吟、云云、時人曰、此是伊勢大神之使也」　八幡大神ノ鳩、春日神ノ鹿、熊野神ノ鴉、稻荷神ノ狐、日吉神ノ猿、三島神ノ鰻、尙、多シ。佛ニモ、大黑天ノ鼠、辨才天ノ蛇、毘沙門天ノ蜈蚣ナドアリ。

かみ-の-つかひ　(名)　［神使］　神社ニ、奉幣ナドノ爲ニ、差遣サルル勅使。　夫木抄、二十七「誰レモ皆、其戶ニ、馬ハアレド、神の使ニ、徒歩ヨリゾ行ク」

かみ-の-と　(名)　［神門］　［恐レテ、神ト云フ、神の御坂ト云フモ、嶮坂ナリ］　恐シキ荒海ノ瀨門。又、かみのさか。　萬葉集、十六「二神ツ國、朝テセル君ガ、樂屋形、黃染ノ屋形、神之門渡ル」(壹岐、對馬ナドノ國司ノ、塗レル舟屋形ナリト云フ)　同、七廿「潮滿タバ、イカニセムトカ、海神ノ、神我手(戶ノ渡)渡レ、海人少女ドモ」

かみ-の-と　(名)　［上戶］　淸涼殿ノ、殿上ノ東ノ戶口ノ稱。　名目抄「上戶、カミノト」

かみ-の-みさか　(名)　［神御坂］　「嶮シキヲ畏ミ恐レテ、神ト云フ、神の門ナドモアリ」　嶮シキ坂。峻坂　萬葉集、九三十長歌「トリガ鳴ク、東ノ國ノ、恐キヤ、神之三坂ニ、云云」(相摸ノ足柄山ノ坂)　同、二十三十五「チハヤブル、賀美乃美佐賀ニ、幣奉リ」(信濃ノ御坂)

かみ-の-みち　(名)　［神道］　皇祖ノ始メタマヒ、有チタマヘルヲ承ケ奉リテ、日本臣民ノ履ムベキ道。神代紀ノ上ニ、天照大神ノ「葦原千五百秋之瑞穗國、是吾子孫可王之地也、宜爾皇孫就治焉、行矣、寶祚之隆、當與天壤無窮者矣」トアル神勅ヲ、神ノ道ノ根本トスベシ。國民上下、神明ノ遺勅、威德、功業ヲ尊崇シ、祭祀、禊祓ノ類、スベテ、心身ヲ淸潔ニシ、誠實ヲ以テ上下ニ務ム、是レ、神ノ道ニテ、大和魂ヲ發揮スル、寧ロ、皇國ノ道ト云フベシ。　用明紀ノ初ニ「天皇信佛法、尊神道」　後ニ、佛法ニ對シテ、神道ト云フ事、起レリ。しんたう(神道)ノ條ヲ見ヨ。

かみ-の-みむろ　(名)　［神御室］　［みもろ、みむろノ條ヲ見ヨ］　神殿。神社。　續後撰集、四、夏「立チカハル、今日ハ卯月ノ、初トヤ、神のみむろニ、榊取ルラム」

かみ-の-みやつこ　(名)　［神御奴］　かみのやつこノ條ヲ見ヨ。

かみ-の-や　(名)　［赤箭］　漢名、一名、鬼督郵ノ文字讀カ、おにのやがらト云フ草モアリ」　又、かみのやがら。ヲトヲトシ。草ノ名。莖赤クシテ、箭幹ノ如ク、葉ハ芍藥ニ似テ小サク、夏ノ初ニ、莖ノ端ニ花ヲ開キ、實ヲ結ブ、續隨子ノ實ノ如ク、熟スレバ黃ナリ、根ハ芋魁ノ如ク、十二子アリテ、根ヲメグル。　本草和名、上十「赤箭、一名、鬼督郵、一名、鬼箭、乎止乎止之、加美乃夜」　倭名抄、二十六「赤箭、加美乃夜加良」

かみ-の-やがら　(名)　［赤箭］　前條ヲ見ヨ。

かみ-の-やつこ　(名)　［神奴］　［やつこノ條ヲ見ヨ］　神社ニ奉仕シテ、雜役、洒掃、等ニ從事スル者。かみやつことモ云ヒ、敬語ニ、神の御奴トモ云フ。　續紀、十八、天平勝寶二年八月「神奴意支奈」　同、二十一、天平寶字二年九月「鹿島神奴」　夫木抄、三十四、神祇「世世カケテ、齋フ三室ノ、神やつこ、イヤトコシヘニ、祈リマツラム」　新勅撰集、九、神祇「霜枯レヤ、楢ノ廣葉ヲ、八葉盤ニ、刺ストゾイソグ、神のみやつこ」

かみ-の-よ　(名)　［神代］　かみよノ條ヲ見ヨ。

かみ-ばさみ　(名)　［髮鋏］　髮ヲ鋏ミ切ルニ用キル剪刀。　字鏡、三十「鋏、馬乃加彌波左美」

かみ-ばな　(名)　［紙花］　紙ノ造花。　圖書寮式、國忌齋會「冬月用紙花、餘月採時花供之」

かみ-ばな　(名)　［紙纏頭］　其席ニテ、人ニ、纏頭トシテ、包紙ノミヲ與フルモノ。目錄ノ心ナリ、後ニ、現金ニ引替フ、席上ニテ金錢ヲ扱フヲ卑シトスル意ニテスルモアルナリ。　心中二枚繪草紙(寶永、近松作)中「ヤア、イツヤラノ紙花モ、思ヒノ外ニ遲ナハリ、面目ナイ」　一日千軒(京都ノ島原)「遊所ニテ、花

[illegible]

アルコトナリ」實方ノ川柳二「紙花モ、シバシノ内ノ、[illegible]リ、吉野紙、はた二[illegible]ノ、アリト思ヘバ」寛政ノ川柳「山吹ハ、頭金小菊、(紙)掛ニナリ」文政ノ川柳「小菊ノ花モ、山[illegible]カハリ」

かみ-ばり (名) [紙張] [illegible]ナドニ對ス」[illegible]ニテ、紙ヲ[illegible]リツクルコト。

かみ-び (名) [神備] 神サビテアルコト。萬葉集、十七「[illegible]トブサタテ、船木キルトイフ、能登ノ島山、今日見レバ、木立シゲシモ、幾代神備ゾ」

かみ-びと (名) [神人] 神ニ事フル人。神主、神官。[illegible]、下、[illegible]、下、かみびとノ、[illegible]ニ取リモタル、[illegible]ノ[illegible]人ナリ [illegible]「下ニ笠山、サシマガヘユク、榊葉ニ、木綿取リ垂デテ、祈ル神人」

かみ-びな (名) [紙雛] 〔ひなノ條ヲ見ヨ〕又、かみびひな。女兒ノ、平日ノ玩具、後ニハ、三月節句ニモ用ヰタリ。[illegible]彩ノ紙ニテ、人ノ形ヲ折リ作レルモノ、立姿ナリ。寶暦ノ川柳「紙雛ニ、角カトラセル、男ノ子」

かみ-ひねり (名) [紙捻] 紙ヲ細ソク裁チ切リテ、一端ヨリ末マデ、堅ク卷キヒネリア、線トシタルモノ、カウヨリ、コヨリ。カンジンコヨリ。紙撚 紙纓 [illegible]抄、二、補ノ笠「かみひねりニスヂ、入レタリ」

かみ-びひな (名) 前前條ヲ見ヨ。

かみ-ぶくろ (名) [紙袋] 紙ヲ折リテ、糊貼ニシテ作レル袋、今、專ラ、音便ニ、かんぶくろト云フ。紙嚢 宇治拾遺、十一、第九條「うちまき「かみぶくろナドニ入レテ」

かみ-ぶすま (名) [紙衾] 紙ニテ作レル衾、紙子ノ夜具蒲團。テンドクジ 古著[illegible]、三、僧行「尾上、紙衾[illegible]ケリ」[illegible]集、十六、

[illegible]

かみ-まきタバコ (名) [紙卷烟草] 卷烟草ノ一種。刻ミタバコヲ、細ソク長ク、薄キ西洋紙ニテ、卷キ作レルモノ、葉卷ニ對ス。[illegible]ヲ切リテ、別ノ吸口ニ插シテ用ヰルヤウニシタルヲ、兩切ト云ヒ、稍厚キ紙ニテ、吸口ヲ作リツケタルヲ、口附ト云フ、西洋ノ製ヲ摸シタルモノナリ。シガレット。

かみ-む (名) [上無] 十二律ノ一、其條ヲ見ヨ。

かみ-みん (名) [假眠] ウタタネ。カリネ。

かみ-むき (名) [上向] オホヤケザマ。官ニ係ハルコト。官邊

かみ-や (名) [神矢] [illegible]不思議ナル矢。神箭 保元物語、二、新院ノ大臣流罪事「運サマニ矢ノ立チケルコソ不思議ナレ、神矢ナルカトゾオボエシ」

かみ-や (名) [紙屋] (一)古へ、官用ノ紙ヲ漉キ造レル所。即チ、山城國ノ紙屋川(北野ト平野トノ間ノかひ川)ノホトリニ、圖書寮ノ別院アリテ、紙屋院ト云ヒシ、是レナリ。音便ニ、かんやトモ云ヒ、其紙ヲ、紙屋紙ト云ヒキ。源、三十七、鈴蟲「唐ノ紙ハ、云云、かんやノ人ヲ召シテ、云云、漉ラニ漉カセタマヘルニ」(二)紙ヲ賣ル商家。

かみやがみ (名) [紙屋紙] 古へ、紙屋、前條ヲ見ヨ、ニテ、漉キ出セル紙。音便ニ、かうやがみ、かんやがみ。略シテ、かんや。かやがみ。官用ノ紙、スベテ、コレヲ用ヰラル、宣旨、綸旨モ、コレナレバ、宣旨紙、綸旨紙ノ名モアリ。(うすずみ

[illegible]ノかうや紙、引キカサネテ」源、十五、蓬生「ウルハシキかんやがみ、陸奥紙ナドノ、フクダメルニ」同、十七、繪合「かんやがみニ、唐ノ綺ヲ背シテ、[illegible]」[illegible]

かみ-やしき (名) [上屋敷] 江戸時代ニ、大名ハ、江戸ニ、數箇所ノ屋敷アリ、其中ノ、主人常住ノ屋敷ノ稱。[illegible]ヘナドナルヲ、中屋敷ト云ヒテ、一處ナリ。其外ハ、幾箇所アリテモ、皆、下屋敷ト云ヒ、藏屋敷、別莊ナドノ用ニ充テタリ。幕朝故事談「大名、御城近所ノ屋敷ヲ、上屋[illegible]下屋トハ云ヘリ」

かみ-やつこ (名) [神奴] かみのやつこノ條ヲ見ヨ。

かみ-やどり (名) [神宿] かんやどりノ條ヲ見ヨ。

かみ-やま (名) [神山] 神ノマシマス山。萬葉集、十二、九「神山ノ、山下響ミ、行ク水ノ」

かみ-ゆひ (名) [髮結] 〔かみあげ、參照〕市中ノ男子ノ、[illegible]ノ月代ヲ剃リ、髮ヲ結フヲ業トセシ者。[illegible]

かみゆひ-どこ (名) [髮結床] 〔此業ノ[illegible]リシ初ハ、[illegible]ニ床ヲ置キテ結ヒタリ〕市中ニ、男子ノ髮ヲ結フヲ業トスル家。床屋。略シテ、トコ。剃頭局 今

[illegible]

かみ-よ (名) [神代] (一)天地開闢ヨリ、人皇神武天皇ノ御代以前ノ時代ノ稱。[illegible] (二)人皇以後、御歴代ノ天皇ノ御代ヲモ、特ニ、神ノ御代ト申ス、天皇ハ、現人神ニマシマセバナリ。[illegible]キマセル、國ニシアレバ」(神武天皇) 同、十八、長歌「皇祖ノ、可見能大御世ニ、田道間守、常世ニ渡リ」(垂仁天皇)

かみ-よしび (名) [神吉日] [illegible]

かみより-いた (名) [神依板] 神ニ、天詔言ヲ請フ時、琴頭ニ立テオク板。神、影向ノ、コレニ憑リタマフト云フ、[illegible]ろし、是レナリ。あめののりおごノ條ヲ見ヨ。熊野ノ神ナドノ[illegible]ニ、[illegible]スルニ因リテ、板トノミ云ヘリ。萬葉[illegible] ノハ、夕[illegible]の板トテ、山上[illegible]ノ御子、一生不犯ノ女[illegible]トハ、アラジカシ、[illegible]いたノ、ハコブアユミハ」(むしたれぎぬヲ着タル御子ナリ)

かみら (名) 韮 〔小韮ノ轉、(とどろかし、とどろかし。いかやか、いかよか)〕 大韮ノ對。韮、又ハ、韮ノ古言。古事記、中(神武)長歌「粟生ニハ、賀美良一本」神武卽位前紀、四、長歌「介彌邏」

かみるぎ (名) 神漏岐 かみろぎヲ見ヨ。

かみるみ (名) 神漏美 次次條ヲ見ヨ。

カミルレ (名) 加密兒列 〔蘭語、Kamille.〕 菊類ノ草ノ名。蔭干ニシテ、發汗劑トス。カミツレ。

かみろぎ (名) 神漏岐 〔ろハ、いろノ約、(母、兄)親シミ云フ語、ぎハ、男神ノ稱、かみろみト云フみハ、女神ノ稱ナルベシ、いざなぎノ尊、(男神)いざなみノ尊(女神)ノ如シ〕 高皇産靈神、神皇産靈神ヲ初トシテ、伊弉諾尊、伊弉冊尊、天照大神、其外、諸神ヲ稱シ奉ル語。又、女神ニハ、神漏美トモ申シ、皇祖ニハ、睦ヲ冠ラセテ、殊ニ親シミ稱シタマフ。音ヲ轉ジテ、かむろぎ、かぶろぎ、かみるぎ、かむろみ、かみるみ。 常陸國風土記、香島郡「諸祖天神、俗曰、賀味留彌、賀味留岐こ」 續後紀、十九、嘉祥二年三月、長歌「賀美侶伎ノ、少彦名」 大祓祝詞「高天原ニ神 留リマス、皇 親神漏岐、神漏美ノ命」 祈年祭祝詞「伊勢ニマス天照大御神、云云、皇吾睦神漏伎、神漏彌命」 孝德紀、白雉元年二月「我 親 神 祖」 出雲國造神賀詞「加夫呂岐熊野大神」(素盞烏尊) 古語拾遺「高皇産靈尊、是皇 親神留伎命、神皇産靈尊、是皇親神留彌命」

かみろみ (名) 神漏美 前條ヲ見ヨ。

かみわく クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ (他動、下二) 噛分 (一)噛ミテ、味ノ可否ヲ知ル。 氣味 (二)考ヘテ、理ノ當否ヲ辨別ス。 咀嚼 「言葉ノ意味ヲかみわく」

かみわざ (名) 神爲 〔わざうた、(童謠)わざはひ(禍)ナドノ、わざナリ〕 神ノシタマフ事。カミゴト。

かみわざ (名) 神事 かんわざ。カミゴト。神ノ祭。神事。神樂。 源、三十一、槇柱四「霜月ニナリヌ、かみわざナド繁ク、內侍所ニモ事多カル頃ニテ」 堀河百首、冬、神樂「庭燎燒ク、天ノ岩戶ノ、かみわざハ」 源、二十、朝顏十「冬ツカタ、かんわざナドモトマリテ、寂寂シキニ」

かみゑ (名) 紙繪 紙ニ畫キタル畫。但シ、障子、屛風ノ繪ナドニ對シテハ、若干ノ大キサニ、一枚ヅツ切リハナシタル紙ナルニ云フ、繪合ニ用キタルモノナルベシ。 源、十七、繪合十四「此頃ノ世ニハ、タダ、カク面白キかみ繪ヲトトノフルコトヲ、天ノ下、イトナミタリ」 同卷廿七「かみ繪ハ限リアリテ、山水ノユタカナル心バヘヲ、エ見セツクサヌモノナレバ、タダ筆ノカギリ、人ノ心ニツクリタテラレ、云云」

かむ・ム・メ・マ・ミ・メ (他動、四) 噛 (一)〔上下ノ齒ヲ、强ク合ハス。 切齒 「齒ヲ噛む」 (二)〔上下ノ齒ニテ、押シクダク。(食物ヲ) 咀嚼 古事記、上廿「十拳劍、云云、佐賀美爾迦美而」 (三)齒ニテ傷ク。カブル。カジル。 齧 咬 (獸ナドニ云フ) 「犬、人ヲかむ」 (四)善ク碾キテ、粉ニス。(碾臼ニ云フ)

かむ・ム・メ・マ・ミ・メ (他動、四) 釀 釀すノ古言。 神代紀、上三十五「釀二八醞酒こ」 崇神紀、八年十二月、長歌「此御酒ハ、云云、大物主ノ、介彌シ御酒」 萬葉集、十六三十三「味 飯ヲ、水(酒)ニ釀成シ」 字鏡二十一「醸、造、酒也、佐計加无」 名義抄「醸、カム、サケカム、サケツクル、カモス」

かむ・ム・メ・マ・ミ・メ (他動、四) 洟 放リ棄ツ。(鼻洟ニ云フ) 倭名抄、三三「擤、以二手去一鼻洟一也、波奈加無」 宇津保物語、樓上、上六十七「御はなヲモ、かまセタマヒテ」 江談抄、五「橘光親ハ、云云、反古ナドニテモ、敢ヘテ鼻かまヌ人ナリ」

かん (名) 神 〔神ノ、熟語トナル時ハ、古書ニ加牟、加武ナド、記セリ、是レ音便ノかんナリ、音便ノ條ヲ見ヨ、神ノミナラズ、上達部、かんだちべ。督殿、かんのとの。髮刺、かんざし。紙屋紙、かんやがみナド、同ジ、此書中ニハ、皆、かんトシタリ、但シ、神漏伎、神漏彌命ノ如キ、除外ハアリ〕 神ノ音便。他語ノ上ニ、熟語トナル時、變ズ。「神嘗」神寶」神留」神籬」神主」

かん (名) 長官ノ音便。かうトモ云フ。かんノ君、かんノ殿、かんノ主ナド、各條ヲ見ヨ。

かん (名) 甲 〔甲ノ音便ナリ、夾纈、法師ガ、倭名抄ニ、加宇介知、保宇之トアレバ、甲モ、夙クヨリ、かうト發音セシコト知ルベシ、ソノかうノ、かんトナレルナリ、庚申ヲ、かんまんト云ヒ、强盜ヲ、がんだうト云フ例ニテ、甲乙ヲモ、かんおつト云ヒシナリ(甲ノ、今ノ支那音ハ、ちやいナリ)〕 音ノ、あがるコト。さがるヲ、乙ト云フ。甲乙トモ云ヒ、めり、(乙)かり(甲)トモ云フ。 義經記、三、義經辨慶君臣契約の事、法華經ヲ讀合フ「辨慶ガかうノ聲、御曹司ノ乙ノ聲、入違ヘテ、二ノ卷、半卷バカリゾ讀マレタリ」 太平記、廿一、鹽冶判官讒死事「眞都ト、覺一撿挍ト、二人ツレ、平家ヲウタヒケルニ、云云、眞都、三重ノ甲ヲ上グレバ、覺一、初重ノ乙ニ收メテ、謠ヒスマシタリケレバ、云云」(三 重ノ條ヲ見ヨ) 竹豐故事(寶曆、新群書類從)中「甲ハ、聲ノ始メ也、云云、一調子高キヲ、甲ノ音トス、乙ハ、聲ノ終リ也、云云、三調子下ルヲ、乙ノ音トス」「甲 處」甲走。夕聲」

かん (名) 漢 〔古ヘノ支那ノ歷朝代號ノ一、前漢、後漢、相續ギテ四百餘年、(我ガ孝元天皇ヨリ神功皇后ノ御代マデ)統治久シクシテ、文物モ開ケタレバ、長ク支那國ノ稱ニ存ス、支那ニテモ梵語、漢語ト竝ベテ、梵漢ト云ヒ、今モ滿洲人ニ對シテ、滿漢ト云フ〕 カラ。卽チ、支那國ノ稱。漢土。隨ッテ、其國ニ就キタル物事ニ、冠ラセテ云フ語。「漢字」漢語」漢文」漢書」漢學」漢詩」

かん (名) 漢 〔明ノ輟耕錄「今人、謂ニ賤丈夫一爲二漢子一」〕 男子。卑メテ云フ意アリ。熟語ニ用キラル。「惡漢」無賴漢」醉漢」擔 板漢」門外漢」

かん (名) 韓 〔から(韓)ヲ見ヨ〕 三韓ノ條ヲ見ヨ。

かん (名) 寒 (一)サムキコト。サムサ。寒氣。 易經、繫辭、下傳「寒往則暑來」 (二)冬ノ小寒、大寒ノ二候、三十日ノ閒ノ稱。(暑ニ對ス)小寒ノ日ヲ、寒入る、かんのいり、ト云ヒ、立春ノ日ヲ、寒明く、かんあけト云フ。 大經師昔曆(正德、近松作)おさん茂兵衞磨歌「縛ラレシ手ノ冷サハ、我身一ツノ寒の入」 安永ノ川柳「寒の入カラ、賑ニ夜ガアケル」(寒聲ヲ云フ) 心中重井筒(元祿、近松作)中「氣色モ次第ニ快シ、寒明タラ本服セウ」 浮世風呂(文化、三馬)三編、上「イツモ寒明けニハ、チョットヅツ、病ヒ勝チデ御座イマス」

かん (名) 肝 キモ。肝臟。 史記、鄒陽傳「剖レ心析レ肝相信」「肝ノ臟」

かん (名) 感 感ズルコト。情ヲ動カスコト。 宇津保物語、俊蔭七十六「仲頼、かむニ堪ヘズ、下リ走リ、萬歲樂ヲ、ヲレカヘリ舞フニ」 夫木抄、二十、山「感アリテ、人ノ詣ヅル、鞍馬山、オコナフノリゾ、ハカナカリケル」「感、極マル」

かん (名) 閑 (一)イトマ。ヒマ。閑暇。

[illegible]、[illegible]日ノ隙ヲ得タリ」(二)シヅカニ、クツログコト。「心、[illegible]」

かん（名）閒　(一)アヒダ。「一週間」「天地間」(二)スキマ。ヲリ。シホ。[illegible]「[illegible]」閒、[illegible]ト八、少シノスキマモナシ。枚乘、[illegible]呉王[illegible]「[illegible]天ハ不可復結、墜入深淵ハ難以復出、其出不出、間不容髮」

かん（名）簡　ツヅマヤカナルコト。[illegible]ナラヌコト。簡易。[illegible]子曰、可也簡」「論文、簡ニ過グ」

かん（名）癇　(一)病ノ名、小兒ノ驚風。(二)[illegible]癪、癇癪ノ略。其條ヲ見ヨ。[illegible]

かん（名）燗　「字ハ、火閒ノ合字、温熱ノ中閒ノ意ト云フ、[illegible]二、[illegible]ノ熱キ[illegible]ヲかんト云フハ、何ノ字ゾ、閒ノ字ヲ用、[illegible]ノ閒ヲ能[illegible]ニスルナルベシ」酒、水、茶ヲ沸カスニ、温熱ノ程度ヲ云フ語。今ハ、專ラ、酒ニ云ヒ、[illegible]、[illegible]ナドニ[illegible]リテ、湯ノ中ニ差入レテスルナリ、熱クスルヲ、あつかんナド云フ。又、[illegible]ナドニ注ギ入レテ、火上ニカケテスルヲ、火[illegible]、直[illegible]ト云フ。[illegible]「イザ酒ノ、かんセウゼウト、云フママニ、[illegible]ヲゾカクル、[illegible]サニ、友松蟲ノ、ね酒コソ、ちんちろりニテ、[illegible]ヲスルナレ」

かん（名）勘　カンガヘ。サトリ。察シ。[illegible]「勘ガヨイ」「勘ノワルイ盲人」「かんチガヒ」「かんヅク」「かんグル」

かん（名）[illegible]　[illegible]云フ。計耗　[illegible]「三ツ欠、物ヲ算用スル時、本數ニ缺クルコトアルヲ、欠ト云フ」「かんガたつ」

かん（名）看　看病ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。

かん（名）艦　軍艦。イクサブネ。[illegible]

カン（名）羹　「やうかん(羊羹)ノ條ヲ見ヨ」(一)餅菓子、料理物、ノ名ニ云フ語。[illegible]「かんノ名ノ[illegible]、云云、コチャウカン、ベッカン、ウンセンカン、竹ヤウカン、云云」「羊羹」「[illegible]」(二)かんのもちノ略。其條ヲ見ヨ。

カン（名）罐　「英語、Can」ぶりき製ノ容器（イレモノ）。

がん（名）雁　「鴈トモ書シ、略シテ、厂トモ書ス」[illegible]其條ヲ見ヨ。[illegible]

がん（名）眼　(一)メ。メダマ。史記、孔子世家「[illegible]」(二)端溪ノ硯石ニアル、白星ノ如キ斑。石ノ病ナリト云フ。

がん（名）龕　「字典、龕、浮圖塔、一曰、塔下室」(一)佛像ノ廚子。開帳ヲ、開龕ト云フ。[illegible](二)[illegible]モコシ。[illegible]ニテ、棺ヲ云フ。[illegible]龕、[illegible]龕、[illegible]龕、龕前堂ナドノ語アリ、各條ヲ見ヨ。

がん（名）癌　癌腫ノ條ヲ見ヨ。

〜かん-あが・る（動）神上　かみあがるノ(一)ニ同ジ、[illegible]

かん-あく（名）[illegible]　[illegible]定律令ハ以防ニ姦惡ニ」[illegible]川[illegible]之記「奸惡ノ人アッテ、幼君ノ耳目ヲ迷ハシ、[illegible]ノ中ヲモ、言妨ゲムコトヲ[illegible]レテ」

かん-あけ（名）寒明　かん(寒)ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。

かん-あふひ（名）寒葵　「葉、冬ヲ經テ枯レズ、冬葵、[illegible]」草ノ名、古名、フタマカミ。ツブネグサ。山中陰地ニ生ズ、葉ハ一株ニ叢生シ、形、[illegible]テ尖リ、莖ニツキトコロ缺ケテ、馬蹄ノ如ク、葉ノ莖ニ似テ、質厚クシテ、冬枯レズ、大キサ二三寸、白[illegible]アリ、[illegible]ハ、紫黑色ナリ、春夏ノ閒ニ、紫黑ノ花ヲ開ク、形、[illegible]ノ如クニシテ、上ニ三[illegible]アリ。フユアフヒ。杜[illegible]

カムイ（名）神　蝦夷語。神。カモイ。

かん-い（名）簡易　テガルキコト。手數ノカカラヌコト。[illegible]

かん-い（名）漢醫　漢方ノ醫者。[illegible]

かん-いっぱつ（名）間一髪　「透間ハ、髪ノ毛ヒトスヂ」間ノ、極メテ[illegible]カスナルコト。極極、切迫セルコト。

かん-いまけ（名）神今食　「神嘗食ノ轉、(齋はるノ語根)ゆま、いま、通ズ、(湯卷、今木、[illegible]行く、いく)名義抄ニ、かみ[illegible]トアルハ、かみゆまけノ、かみやけト約リテ、又轉ジタルナリ、[illegible]祭事ハ十一日ノ事ナルニ、其月ノ一日ヨリ[illegible]事ヲマリテ、[illegible]モ、[illegible]ヲ重ンゼラレシカバ、名アルナルベシ」又、かみあけ。六月、十二月ノ[illegible]、十一日ノ、[illegible]。其條ヲ見ヨ。[illegible]（神今食、カミアケ）」公事根源、六月「神今食、十一日、[illegible]八一日ヨリ始マル」

かん-う（名）甘雨　草木ノウルホヒトナル雨。膏雨。詩經、小雅、北山之什、甫田篇「[illegible]」

かん-えう（名）肝要　物事ノ、必ズ無クテナラヌコト。カナメ。肝腎。必用。[illegible]

かん-えつ-てんこ（名）簡閲點呼　[illegible]一補充兵、等ヲ、調ベ檢セムガ爲ニ、召集シ、[illegible]スルコト。

かん-おう（名）感應　[illegible]信心ノ、神佛ニ通ズルコト。連聲ニ、かんのうト云フ。[illegible]ノ月日モナク」「神モ感應マシマシテ」

かん-おつ（名）甲乙　かん(甲)ノ條ヲ見ヨ。甲乙。

かん-おん（名）漢音　「支那ノ唐朝ノ頃、其都ナル長安(今ノ陝西省ノ西安)地方ノ音ナリ、長安ハ、古ヘノ[illegible]、[illegible]閒ノ地ナリキ、[illegible]、支那ハ、南北[illegible]ト二分シ、北部ハ、北方ノ胡人ニ侵略セラレ、(五胡、十六國作亂)語音大イニ變ジ、在來ノ支那上流ノ人人ハ、揚子江ノ南ナル呉ノ地(今ノ南京)ニ移リテ、此處ニ、純支那語ヲ傳フ、コレヲ

呉音ト云フ、呉ノ朝廷、六變シ、（六朝）隋ニ至リテ、南北ヲ合一シテ、唐トナル、此時、我ガ國人、盛ンニ支那ニ行キ、漢音ト呉音トヲ傳フ、然レドモ、支那ノ字音ハ、夙ク、應神天皇ノ頃以來、別ニ、韓國ノ學士ノ來リ傳ヘタルアリ、對馬貢銀記ニ、欽明天皇ノ御代ニ、對馬ニ、韓國ノ比丘尼アリテ、呉音ヲ傳フトアルハ、追記ナリ、然レドモ、コレニ因リテ、五胡以前ノ純支那字音ノ、呉音ト同ジキヲ知リ得ルナリ」（一）支那ノ唐朝ノ都ナル、長安地邊ノ語音ノ稱。然シテ、其平、上、去、入ノ四聲ヲ言ヒ分ケテ、通辯ヲモ爲得ベキ音ヲ云ヒシナリ、當時、我ガ遣唐使ノ、長安ニ至リ、又、同地ニ留學スル學士、僧侶ナドノ必要ナルヨリ學ビタリ、コレヲ正音トモ云ヒキ、持統、光仁ノ御代ニ、唐ノ人、續守言、袁晉卿、等ヲ、大學寮ノ音博士ニ任ゼラレタルモ、此語音ヲ敎ヘシメムガ爲ナリ。然ルニ、支那ノ字音ハ、別ニ、應神天皇ノ時以來、三韓ノ學士ノ來リ傳ヘタルアリ、後又、支那南部ナル呉ノ地（今ノ南京地方）ヨリ傳ヘタルアリ、是レ等ヲ呉音ト云フ。朝野群載、三、對馬貢銀記「云、欽明天皇之代、佛法始渡二吾土一、於二是島一有二一比丘尼一、以二呉音一傳レ之、因レ茲日域經論、皆用二此音一」南史、（夷貊傳）「晉世江東貴達者、云云、及レ梁、呉音不レ變」明ノ字彙ニ「讀、最宜二漢音一、若任二呉語一、便致二差錯一」日本教育史資料、十二、僧桂菴玄樹和尚云「梁武帝時、吉備公入唐、既歸二本朝一、奉レ授二孝謙帝十三經一、漢音始レ于レ此、而至二桓武帝延曆十七年二月十四日一、始設二此讀法一」紀略、前篇、十三、延曆十一年閏十一月、詔「明經之徒、不レ可レ習二呉音一、發聲誦讀、既致二訛謬一、熟二習漢音一」（呉音、闕田耕筆、二二精ル）元亨釋書、二十三、資治表、四、延曆二十一年、僧最澄、入唐セントスル時ノ上表「最澄未レ學二唐言一、亦闇二譯語一、忽入二異域一、未レ達二言語一、竊見二沙彌義眞一、云云、早習二漢音一、相通二唐語一、天恩、差二義眞一、爲二求法譯語一、不二曾是行一、請レ之、兼令三使學二加唐語一」（譯語ハ、をさナリ、通辯語ニテ、卽チ、漢音ナリ）後記、榮、後編、かんをんノ「慈覺大師傳來ノ引聲、阿彌陀經ヲ唐音讀ト云フハ、全ク漢音也」（慈覺ハ、承和五年、入唐セリ）續後紀、十五、承和十二年二月、明經博士善道眞貞「不レ學二漢音一、不レ辨二字之四聲一、至レ於二敎授一、惣用二世俗誦說之音一耳」同、二十、嘉祥三年三月、仁明天皇「能練二漢音一、辨二其清濁一」發揮錄、五、「承和之末、正法師來、初習二洛陽一、終學二長安一云云、元慶之初、聰法師來、久住二長安一、亦遊二南北一云云、此兩法師共、說二呉音漢音一」（二）宇多天皇ノ御代ヨリ、唐國トノ交通絕ユルニ及ビ、四聲ヲ言ヒ分クル漢音ノ必用ナクナリテ、別ニ、我ガ國ノ發音ニ適セシムル、一種ノ音、成レリ、尙、其名ヲ存シテ、漢音ト呼ビ、又、唐聲トモ云ヒ、又、呉音モ、日本用ノ一種ノ音成リテ、漢音ニ對シテ、舊來ノ字音ナレバ、倭音トモ稱シ、（對馬音トモ云フ）並ビ行ハレテ、ココニ、二樣ノ日本ノ漢字音トナリヌ、（からおゑノ條ヲ見ヨ）然シテ、佛書ハ多ク、呉音ニテ讀ミシカバ、國語ニモ、呉音ノモノ多シ、佛敎ノ盛ンナリシ故ナリ。江家次第、十七、御讀書始事「尙復讀レ文」註「可レ用二呉音一」次博士開レ書讀曰、御注孝經序」註「漢音」自娛集（貝原益軒）二「中古以來、用二中華之文字一、然其發音、不レ合二于國俗之口舌一、不レ可レ用也、於レ是以二華音一、轉爲二倭音一」鎌倉時代トナリテ、支那ノ南宋朝ノ頃、彼此ノ禪僧、相往來シテ、彼國ノ語音ヲ傳ヘシハ宋音ナリ。其後、元朝、明朝、清朝ノ語音傳ハリ、（支那ノ語音ハ、時代ヲ追ヒテ變ズ）コレヲ總ベテ唐音ト云フ、在來ノ日本字音ト異ナル、唐土（支那）ノ音ト云フ意ナリ、明、清、ノ音ヲ、儒者ハ華音（中華ノ音）ナドトモ云ヒキ。

呉音	京都	行狀	起請	上下
漢音	京師	孝行	請願	天下
唐音	南京	行燈	普請	下火

下學集（文安）下、態藝門「下火、アコ、二音共、唐音也」塵添壒囊抄（文安）十、三十九「孔方兄、云云、兄ハ唐」（共ニ、宋音ナリ）

かん-おや（名）【神祖】〔おや（祖）ノ條ヲ見ヨ〕崇ムベキ先祖。萬葉集、十八、二十七長歌「大伴ノ、遠ツ神祖ノ」同、二十「大伴ノ、遠ツ可牟於夜ノ、墓ハ、著ク標立テ、（ヨ）人ノ知ルベク」（大伴氏ノ祖先ヲ云フ）

かん-か（名）【漢家】（一）支那ノ漢朝。又、支那。史記、太史公自序「天子始建二漢家封一」保元物語、二、左府薨逝事「蘇武ガ胡國ニ赴シモ、二タビ漢家萬里ノ月ニ歸ル」平治物語、一、信賴信西不快事「其例、漢家、本朝ニ繁多ナリ」（二）漢方ノ醫者。漢醫。

かん-か（名）【感荷】感佩ニ同ジ。韓愈、謝二張籍一詩「感二荷君子德一」

かん-か（名）【轗軻・坎軻・坎坷・輡軻】唐韻「車行不レ利曰二轗軻一」車ノ滑ラカニ進マザルヨリ、移リタル語ナリ」人ノ、時ニ遇ハズシテ、不仕合ナルコト。文選、古詩「何不下策二高足一、先據中要路津上、無レ爲下守二窮賤一、轗軻長苦辛上」韓愈詩「窮餓雖二轗軻一」韓愈、論二韓侍喜一狀「沈淪坎軻、又參二一年一」揚雄、河東賦「濊二南巣之坎坷一、易二豳岐之夷平一」馮衍賦「非レ惜二身之輡軻一兮、憐二衆美之憔悴一」「沈淪轗軻、坷坎不遇」

かん-か（名）【閑暇・閒暇】ヒマ。イトマ。孟子、公孫丑、上篇「賢者在レ位、能者在レ職、國家閒暇」

かん-が（名）【閑雅・閒雅】シトヤカニ、ミヤビナルコト。落チツキテ、趣キアルコト。史記、司馬相如傳「相如之二臨卭一、從二車騎一、雍容閒雅、甚都」一國流閒雅」

がん-か（名）【眼下】メノシタ。「眼下ニ見オロス」

かん-かい（名）【寬戒・寬誡】イマシメトナル、テカガミ。後漢書、皇后紀「皆常以二列女圖畫一、置二於左右一、以自監戒」

かん-がい（名）【感慨】物事ニ感奮シテ、氣慨ノ立ツコト。史記、季布傳、贊「婢妾賤人、感慨而自殺者、非二能勇一也」

がん-かい（名）【眼界】メヂ。メドホリ。ミワタシ。視界。白居易、遊二悟眞寺一詩「眼界呑二秦原一」

かん-かう（名）【勘考】カンガフルコト。カンガヘ。思案。

かん-かう（名）【刊行】〔字典「刊、刻也」〕文書ヲ、出版シ、發行スルコト。版行。

かん-かう（名）【間行】間道ヲ、隱ビテ行クコト。漢書、高帝紀「張良自レ韓間行歸レ漢」

がん-かう（名）【雁行】（一）雁ノ、行ヲナシテ、空ヲ飛ビ行クコト。其狀ハ、後ナル雁ハ、先ナル雁ニ、斜ニ從ヒ行クナリ、長幼ノ齡、順序ニ因リテ、然リト思ハル。人ト同行スルニ、長者ニ伴フ時ハ、雁行ノ如ク從ヒ行クヲ禮トス。詩經、鄭風、大叔于田篇「兩服上襄、兩驂雁行」禮記、王制篇「父之齒、隨行、兄之齒雁行」（雁齒ノ條ヲ見ヨ）（二）雁行ノ狀ナル、兵ノ陣立。雁陣。川中島五度合戰次第「人數ヲ押出シ、東向ニ雁行陣取也」

かん-がかり（名）【神懸】かみがかりニ同ジ。其條ヲ見ヨ。

かん-かく（名）【感覺】〔英語、Sensation.ノ譯語〕神經ノ刺戟ニ感ズル意識。其

[illegible](Perception.)トス。

かんかく (名) 間隔 ヘダテ。ヘダタリ。[illegible]

かんかく (名) 看客 見テ居ル人。[illegible] 人。看官。

かんかく (名) 扞格 拒ミ合フコト。衝突。カチアヒ。[illegible]

かんがく (名) 漢學 支那ノ文學。

かんがく (名) 侃諤 〔侃侃諤諤ノ略〕 嚴正ニシテ、前義ヲ枉ゲザルコト。[illegible] 直。[illegible]

かんがさ (名) 雁瘡 〔雁ノ來ル頃ニ發シ、去ル頃ニ癒ユレバ名トストイフ〕 皮膚病、濕疹ノ一種。多ク[illegible]ニ發ス、初メ、皮膚ノ表面、甚ダ赤クナリ、次ギテ腫レ、水疱トナリ、甚ダ痒ク、掻ケバ濕ヒヲ帶ビ、皮膚終ニ厚クナリ、色素殘リテ痒シ。ガンサウ。痒疹。[illegible]

かんかぜの (枕) 神風 〔神風の伊吹ト云フ、(息吹く、及、神、神風ノ條ヲ見ヨ)ソノいノ一音ヲ、伊勢ノいニカケテ云フナリト云フ(冠辭考、三ヲ見ヨ、其餘、數説アレド、何レモイカガ)〕 伊勢國ノ枕詞。[illegible] 枕詞ヲ言ヒ馴レテハ、下略シテ、直チニ伊勢ノコトトシテ、かんかぜやトモ用キル。百敷の大宮ナルヲ略シテ、百敷や、(大宮ノ)古キ軒端」ナド云フト、同ジ。後拾遺集、七、[illegible]かむかぜや、(伊勢ノ)御裳濯川ノ、流マムカギリハ」 新古今集、十六、[illegible] ズ、澄ムベキ御代ニ、マタカヘリコム」

かんかぜや (枕) 神風 前條ヲ見ヨ。

かんかちだんご (名) 〔かんかちハ、杵ノ音、かんから太鼓ノ類〕 子供ヲ相手ニ、市中ヲ行商スル團子。小サキ臼ヲ携ヘ、團子ヲ入レ、黄粉ヲ塗シ、杵ニテ舂クマネヲシテ、臼ノ縁ニ當テテ音ヲ立テ、興トス。

かんかつ (名) 奸黠姦黠 ワルガシコキコト。ワルゴスキコト。狡猾。又、其人。[illegible]

かむかひ (名) 食向 〔大祓詞後釋附錄ニ、氣向ノ轉ト云ヘリ、け(食)ノ條ヲ見ヨ〕 神ノ、御食ニ着キタマフコト。[illegible]

かんがふ・ふ・フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ (他動、下二) 推鞫・案検 〔かむかふヲ音便ニ云フナリ、かハ發語、か對ふる義、(か寄る、同例)事件ヲ、相對ヘテ推シ定ムル意、(本居宣長ノ説)かんがふト云フヨリ、下ノかヲ濁ル、音便ニ、又、かうがふ(かうがへ)トナル、綺、か被るノかがふる、かうぶる、かうむる(かんむり)トナルガ如シ〕 (一)糺シアキラム。問ヒ窮ム。糺明ス。吟味ス。音便ニ、かうがふ。[illegible]紀、五年十月、車持君、罪アリ「嘆ニ車持君ヲ以、推問之、事既實矣」 孝德紀、大化二年正月「四坊置ニ令一人、掌[illegible]戸口[illegible]」 名義抄「[illegible]、カムカフ、タダス、アナグル」 仁德紀、四十年二月、佐伯[illegible] 責メ[illegible] 叱リテ、かんがへテ、蔵ロニサヘ笑ハル」 宇治拾遺、八、第四條「かんがへラレツルコトドモ、アリツルアリサマ、聲ヲオコシテ、其ガニテ許サレツルコトナド」 宇津保物語、俊蔭二「大臣ニハ、昨夜、カク、若子君、オハシマサズトテ、御供ニサブラヒケル人人、[illegible]ケレバ」 (二)思ヒハカル。思案ス。次條ヲ見ヨ。[illegible] 物語、嵯峨院巻「カヤウノ事ハ、何トハセデナム物スナルヲ、かうがへサセタマフラムニ、サル例アラバ、何カハ」

かんがふ・ふ・フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ (他動、下二) 考 〔前條ノ(二)ナリ〕 思ヒハカル。かうがふ。勘考ス。案ズ。[illegible]、一、桐壺巻「宿曜ノカシコキ道ノ人ニ、かんがへサセタマフニモ」[illegible]「考、カムガフ」

かんがふし (名) 勘合紙 次條ヲ見ヨ。

かんがふのいん (名) 勘合印 [illegible]勘合ハ、勘へ合はする義、[illegible]臺帳アリテ、一一引合セテ、眞僞ヲ鑒別セシトゾ。室町幕府ヨリ、使ヲ明國ノ朝廷ニ遣シテ修交シ、其通商、貿易ニ用ヰルタメニ、彼ノ國ヨリ受ケタル合印ノ名。若干枚ノ紙、コレニ添ヘリ、此印ヲ紙ニ押シタルヲ、勘合紙ト云ヒ、貿易船ハ、コレヲ持チ行キテ證トシテ、彼ノ地ノ寧波ニ至リテ、貿易シタルナリ、後ニ、周防ノ大内氏、代代、貿國往來ノ事ヲ掌リシニ因リテ、此印ヲ預リ居タリシガ、天文二十年、大内氏滅亡ノ時、[illegible]

かんがへ (名) 考 [illegible] 思案。

かんがへぶみ (名) 勘文 かんもん(勘文)ノ條ヲ見ヨ。

かんがへもの (名) 考物 (一)善ク考ヘテ後ニ、決スベキコト。(二)考ヘアツルモノ。[illegible]

かんがへる (動) 考 考ふノ口語。

かんがみ (名) [illegible]

かんがみる・ミル・ミレ・ミ・ミ・ミヨ (他動、上一) 鑑 〔かがみるノ音便〕 かがみる。[illegible]ヲかんがみテ、其淵底ヲアナグラセタマフニ」

かんかん (名) 髮 〔音言ヲ重ネテ、[illegible]便ニ云フ〕 (一)髮ノ、小兒語。(二)[illegible]ノ、小兒語。

かんかん (名) 看貫 かんかんばかり(看貫秤)ノ略。

かんかん (副) 鏗鏘 〔響ク音、かねト云ヒ、金ト云フ[illegible]〕 [illegible]云フ語。「鉦ヲかんかん叩ク」

かんかん (副) 赫赫 〔爀爀ノ音便〕 (一)日光ノ、烈シク照ル[illegible]「日ガかんかん照ル」 (二)火ノ、盛ンニ燃ユ

ル狀ニ云フ語。「炭火ガかんかん熾ル」

かん-がん (名) 【汗顏】 〔恥ヂ極マレバ、顏ニ汗出ヅ〕 深ク恥ヅルコト。赤面。韓愈、祭二柳子厚一文「不二善爲一レ斲、血レ指汗レ顏、巧匠旁觀、縮二手袖閒一」

がん-がん (副) からからと(鏗鏗)ノ條ヲ見ヨ。

かん-かん-と (副) 【閑閑】 シヅカニ。ノンキニ。「悠悠閑閑とカマヘル」

かん-かん-と (副) 【侃侃】 剛直ナル狀ニ云フ語。論語、鄉黨篇「朝與二下大夫一言、侃侃如也」

かんかん-ばかり (名) 【看貫秤】 〔看貫トハ、貫目ヲ看ル意ナルベシト云フ〕 西洋製ノ秤。臺アリテ、物ヲ載セ、傍ニ機アリテ、輕重ヲ測ル。横濱ナドノ開港場ノ商館ニテ、生絲ナドヲ、此秤ニカクルヲ略シテ、かんかんト云ヒ、其手數料ヲ、かんかん料ト云フ。

かんかん-れう (名) 【看貫料】 前條ヲ見ヨ。

かんかん-をどり (名) 【看看踊】 淸國ノ舞踊ヲ、長崎ニ傳ヘタルモノ、文化年中、三都諸方ニ流行セリ。月琴、提琴、(胡弓)其他、諸樂器ニテ奏シ、歌ヒ踊ル。其歌詞「看看兮賜奴的九連環、云云」 雲錦隨筆、三「文政三年、云云、看看踊ト號シ、淸朝ノ出扮ニテ、異樣成踊ヲ興行セリ」

かんから-だいこ (名) 〔音ヲ名トス、かんかち團子、同例〕 小兒ノ玩具。太鼓ノ、極メテ小サキモノ。細ソキ竹ニテ叩キ、甲高キ音ヲ發ス。

カンガルウ (名) 【袋鼠】 「英語、Kangaroo.」 フクロネズミ。

かん-き (名) 【勘氣】 〔勘當ノ氣色〕 かんだう(勘當)ノ(一)ヲ見ヨ。

かん-き (名) 【寒氣】 寒キ程。サムサ。禮記、月令篇「季春行二冬令一、則寒氣時發、草木皆肅、國有二大恐一」 太平記、十二、神泉苑事「寒氣膚ヲ侵シ、五體ニ水ヲ灑ガ如シ」

カンキ (名) 【干岐】 百濟國ノ王。こにきしノ條ヲ見ヨ。

がん-き (名) 【眼氣】 がんびやう(眼病)ニ同ジ。

がん-ぎ (名) 【雁木】 〔雁齒ノ木ノ意ナルベシ、雁齒ヲ見ヨ〕 (一)鋸先ヲ並ベタル如キ模樣ヲ、がんぎ頭ト云フ。山形。犬牙 (二)橋ノ上ノ段。雁齒 (三)船着ノ、階段アル棧橋。鎗權三重帷子(享保、近松作)下「船、云云、雁木ニ頭キ」 (四)町屋ノ軒ヨリ、庇ヲ長ク張出シテ、雪ノ時ナド、其下ヲ通路トスベク作リ設ケタルヲ、雁木造リト云フ。(五)木挽ノ用キル、大キクシテ、齒ノ粗キ鋸。オホガ。ガガリ。(六)目ノ粗キ鑢ヲ、がんぎやすりト云フ。又、物事ノ引キカカリ違戾スルコトヲモ、がんぎやすりト云フ。牴牾

がん-きう (名) 【眼球】 メノタマ。メダマ。

かん-ぎう-じゆう-とう (句) 【汗牛充棟】 〔柳文(柳宗元)陸文通墓表「其爲レ書、處則充二棟宇一、出則汗二牛馬一」〕 藏書ノ、多キヲ云フ語。

がんぎ-がしら (名) 【雁木頭】 雁木ノ條ノ(一)ヲ見ヨ。

かん-ぎく (名) 【寒菊】 菊ノ一種、冬開クモノ、花ノ形小サシ。コガネメヌキ。冬菊 鹽尻、三十九「春ノ季ヨリ夏ニ至リ開ク夏菊、數品アリ、冬ハ寒ぎくアリテ、寒中ニモ見ルベシ、サレド、秋菊ノメデタキニハ似侍ラズ」

がんぎ-だな (名) 【雁木棚】 〔雁木ノ條ヲ見ヨ〕 床間ノ脇棚ノ、數段並ベテ、段毎ニ、次第ニ低ク作リタルモノ。

がんぎ-づくり (名) 【雁木造】 がんぎノ條ノ(四)ヲ見ヨ。

かん-きふ (名) 【感泣】 感、極マリテ、泣クコト。アリガタナミダ。ウレシナミダ。宋史、蘇軾傳「左右皆感泣」

かん-きん (名) 【監禁】 人ヲ、一處ニ押シ籠メ置クコト。「密室監禁」

かん-キン (名) 【看經】 〔經ハ、字ノ宋音、禪語ナリ〕 (一)經文ヲ看テ、聲立テズ、心ノ中ニテ讀ムコト。(聲明アル、諷經ニ對ス) 釋貫休詩「看經竹窗邊」 庭訓往來、十月「且爲二看經一」 註「無レ聲心中讀爲二看經一」 (二)誤リテ、讀經。太平記、十七、隆資卿自二八幡一被レ寄事「將軍ハ些共不レ騷給ハ、鎭守ノ御寶前ニ、看經シテオハシケル」

かん-ぎん (名) 【感吟】 詩歌ノ、名作ナルニ感ジテ、吟詠グルコト。

がん-きん (名) 【贋金】 ニセガネ。

かん-きやう (名) 【乾薑】 ホシハジカミ。カンシヤウガ。藥用トス。南史、孔琇之傳「獻二乾薑二千斤一」

かん-きやう (名) 【寒鄕】 マヅシキ鄕里。自己ノ鄕里ヲ呼ブ謙稱。鮑照詩「僕本寒鄕士、出身蒙二漢恩一」

がん-きやう (名) 【眼鏡】 メガネ。雜纂新續、過不得「短視人失二眼鏡一」

かん-きやく-す スル・スレ・セ・シ・セヨ (他動、左變) 【閑却】 等閑ニシテ、却ツ。打棄テオキテ、顧ミズ。

がんぎ-やすり (名) 【雁木鑢】 雁木ノ條ノ(六)ヲ見ヨ。

かん-きよ (名) 【閑居】 閑ナル地ノ住居。幽居。幽棲。後漢書、梁竦傳「大丈夫居レ世、云云、如其不レ然、閑居可二以養一レ志」 方丈記「閑居ノ氣味モ、亦カクノ如シ、住マズシテ誰レカ覺ラン」

かん-きよ (名) 【閒居】 閒暇ニテ居ルコト。大學「小人閒居爲二不善一」 孝經「孔子閒居、曾子侍坐」

かん-ぎよ (名) 【扞禦】 フセグコト。防禦。左傳、僖公廿四年「扞二禦侮一者、莫レ如レ親レ親」

かん-きよう (名) 【感興】 感ジテ、興ニ入ルコト。劉基、雨中寄二季山甫一詩「感興詩成聊自孏、忘レ憂花好爲レ誰開」 太平記、二十四、大佛供養事「水紅錦ヲ洗テ、感興ノ心ヲゾ添タリケル」

かん-きよく (名) 【奸曲】【姦曲】 カタマシキコト。心ニ、ワルダクミアルコト。太平記、三十五、北野通夜物語事「泰時、天下ノ政ヲ司リテ、人ノ心ニ奸曲ナキ事ヲ存ス」

かん-く (名) 【甘苦】 〔あまきト、にがきト〕 苦樂ニ同ジ。甘酸。墨子、非攻篇「有レ人二于此一、少嘗レ苦曰レ苦、多嘗レ苦曰レ甘、則必以二此人一爲レ不レ知二甘苦之辨一矣」 戰國策、燕策「與二百姓一同二甘苦一」

かん-く (名) 【艱苦】 ナヤミ、クルシムコト。艱難、苦勞。辛苦。困苦。太平記、五、大塔宮熊野落事「此艱苦ノ中ニ附隨奉リタル人ハ」

かん-ぐ (名) 【寒具】 〔寒食ノ具ノ義〕 環餅ノ類。唐菓子、乾菓子ノ總名。齊民要術「環餅、一名、寒具」 重修本草綱目啓蒙、十七、造釀「寒具、乾菓子類ノ總名ナリ、寒食ハ、冬至ヨリ百五日ヲ云フ、此日、舊例ニテ、終日煙ヲアゲズ、故ニ、前日ヨ

リ食物ヲ調ヘオキ、數品ノ菓子類ヲ製ス、云云、是レヲ總ンテ[illegible]ト云フ、[illegible]ノ[illegible]ニ[illegible]ノ[illegible]ノ[illegible]

かん-くだ・る ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）［神降］〔かんのぼる、かんあがるニ對ス〕アマクダル。天降ル。[illegible]、[illegible]、[illegible]ノ、[illegible]キテ、[illegible]リ、[illegible]シ、[illegible]ス、[illegible]子ヘ」

がん-くつ（名）［巖窟］イハヤ。巖穴。白居易、[illegible]「只合ニ居ニ巖窟一、何因入ニ寺門一」

かん-く-てう（名）［寒苦鳥］佛書ニ云フ、想像ノ鳥。天竺ノ雪山ニ棲ミ、雌ハ寒苦必死ト鳴キ、雄ハ夜明造巣ト鳴ク、サレド、夜明クレバ、今日ヲモ知ラヌ無常ノ身ヲ、何ガ爲ニ勞セムトテ、巣ヲモ造ラズ、夜ニナレバ、又鳴クト云フ。平家物語、九、小朝拜事「平家ノ人人ハ、イツモ氷ニ閉チコメラレタル心地シテ、かんくてうニ異ナラズ」

かん-く-の-あめ（名）［寒九雨］寒ニ入リテ九日目ニ降ル雨。農家ニテハ、豐年ノ兆トシテ、喜ブ。

がん-くび（名）［雁首］（一）烟管ノ頭。（きせるノ條ヲ見ヨ）古製ナルハ、長クウネリテ、雁ノ頸ニ似タレバ、名トセリ。犬子集（寛永）五「筆ニナリテ、ワタルがん首、きせるカナ」後撰夷曲集（寛文）八「たばこ吸フ、きせるノらうハ、すぐな文字、ゆがみ文字トゾ、見ユル雁首」うしのつのもじノ條ヲ見ヨ。安永ノ川柳「[illegible]ノ、動イタ方ヘ、乞立テ[illegible]」（二）戲レテ、人ノ頭。浮世風呂（文化）三ノ初編、上「雁首ノウチ傾ケテ、マジイリマジイリ、見テ居ッケエ」

がん-くひ-まめ（名）［雁喰豆］〔くぼみヲ、雁ノ嚙ひタル齒ノ痕ナリト云フ〕大豆ノ一種、ふぢまめニ似テ、黑キモノ。粒ニ一ツノ凹ミアリ、又、常ノ豆ハ三葉ナレドモ、コレハ五葉ヲナシテ、うさぎノ如シ、故ニ、五葉豆ノ名モアリ。［零烏豆］一種[illegible]（[illegible]）」

かん-ぐり（名）［甲刻］[illegible]曲ノ節ニ、甲ノ聲ニテ、エグリマハスヤウニ謠フモノ。觀世流ノ特有トシタリ。

かん-ぐ・る ル・レ・ラ・リ・レ（他動、四）［勘繰］〔かんハ、かんノヨイ旨人、かんツクナドノ、かんナリ〕氣ヲマハシテ、考フ。推察。「聽クかんぐッテ居ル」

かん-くゎ（名）［干戈］（一）干ト、戈ト。詩經、周頌、清廟之什、時邁篇「載戢ニ干戈一、載櫜ニ弓矢一」（二）戰ヒ。イクサ。軍事。史記、平準書「兵連而不ゝ解、天下苦ニ其勞一、而干戈日滋」太平記、十一、正成參ニ向兵庫一事「十八里ガ間、干戈戟相接、左輪右觸ヲ引キ」文天祥、過ニ零丁洋一詩「干戈寥落四周星」「干戈ヲ動カス」

かん-くゎ（名）［感化］感ゼシメテ、善ニ化ラシムルコト。或ル事ニ感ジテ、心ノ、ソレニ移ルコト。嵇康、琴賦、序「美ニ其感化一、則以ニ垂涕一爲ゝ貴」

かん-くゎ（名）［鰥寡］〔鰥ハ正音、くゎんナリ、今、直音ノかんヲ用ヰタリ〕孟子、梁惠王、下篇「老而無ゝ妻曰ゝ鰥、老而無ゝ夫曰ゝ寡、幼而無ゝ父曰ゝ孤、老而無ゝ子曰ゝ獨」ヤモヲ、ヤモメ。ヲトコヤモメ、ヲンナヤモメ。淮南子、天文訓「戊子受ゝ制、則養ニ老鰥寡一、行ニ粥饘一、施ニ恩澤一」文選、上林賦「發ニ倉廩一以救ニ貧窮一、補ニ不足一、恤ニ鰥寡一、存ニ孤獨一」漢書、黄霸傳「鰥寡孤獨、有ニ死無ニ以葬一者、鄕部書言、霸具爲ニ區處一」

かん-くゎ（名）［坩堝］ルツボ。訓蒙字會「坩堝、燒ニ煉金銀一器」

がん-くゎ（名）［眼科］醫術ニ、眼ニ關スル病ヲ治スルモノ。眼醫者。[illegible]

がん-くゎう（名）［眼光］（一）眼ノヒカリ。[illegible]（二）見ル力。眼力。觀察力。「眼光徹ニ紙背一」

かん-くゎん（名）［看官］〔支那ノ小說ノ語ナリ〕看客ニ同ジ。見物人。水滸傳、楔子「看官不ゝ要ニ心慌一、此只是[illegible]」

かん-くゎん（名）［閒關］（一）サグクムコト。行路歩行ニ、艱難スルコト。[illegible]（二）鶯ノ囀ル聲ノ、高低、屈折シテ聞コユル狀ニ云フ語。白氏文集、琵琶行「閒關鶯語花底滑」太平記、四、笠置囚人死罪流刑事「[illegible]」

かん-けい（名）［奸計］ワルダクミ。奸謀。

かん-げいこ（名）［寒稽古］極寒中ニ、朝、未明ニ起キ出デテ、稽古スルコト。劍槍術、柔道ノ武術、又ハ、謠物ナドニスルコトニテ、堪ヘ難キ事ニ堪フルヲ鍛錬スルナリ。（寒、參、寒聲、寒彈ナド、同意）夏ノ極暑中ノ日中ニスル、土用稽古ト云フモ、意同ジ。

かん-けう（名）［艦橋］〔英語、Bridge.ノ譯語〕軍艦ノ甲板ノ上ニ、高ク設ケタル所。將校、ココニ居テ、指揮ス。

かん-げき（名）［閒隙］（一）スキマ。アヒ[illegible]。漢書、劉向傳「群小窺ニ見閒隙一、緣ニ飾文字一」（二）閒暇。ヒマ。（三）ナカタガヒ。不和。「兩人、閒隙ヲ生ズ」

かん-げき（名）［感激］感ジ入リテ、心ヲ動カスコト。[illegible]

かん-けつ（名）［簡潔］ツヅマヤカナルコト。[illegible]

かん-けつ（名）［閒歇］時間ヲ隔テテ起リ、又ハ、歇ムコト。「閒歇熱」「閒歇泉」

かん-げつ（名）［寒月］光ノ寒ケキ月。冬ノ夜ノ月。[illegible]「[illegible]」

がん-けつ（名）［巖穴］イハヤ。巖窟。莊子、山木篇「夫豐狐文豹、棲ニ於山林一、伏ニ於巖穴一、靜也」

かんけつ-せん（名）［閒歇泉］閒歇スル噴泉。上ノ溫泉。

かんけつ-ねつ（名）［閒歇熱］[illegible]ノ熱ノ、閒歇スルモノ。多クハ、瘧病ニ云フ。

かん-けん（名）［寒暄］集韻「暄、溫也」さむさト、あたたかさト。寒暖ニ同ジ。ケレド、多クハ、時候見舞ノ語ニ用ヰラル。寒暄ヲ敍ストイフハ、時候ノ挨拶ヲ述ブト云フコトナリ。五代史、[illegible]「人口吃、遇ゝ人不ゝ能ゝ道ニ寒暄一」

かん-げん（名）［甘言］アマクチ。他ノ心ヲ喜バシムル詞。巧ミニ言ヒクロムル話方。[illegible]「甘言以テ欺ク」

かん-げん（名）［諫言］目上ヲ諫ムル言。[illegible]、[illegible]「[illegible]」五、[illegible]、[illegible]人、[illegible]、其罪ナキ事ヲ許サンヤ」

がん-けん（名）［眼瞼］マブタ。

かん-こ（名）［巫子］カムナギ。ミコ。かんこノ條ヲ見ヨ。

かん-こ（名）［諫鼓］訓讀シテ、いさめの

つづみ。支那ノ三代ノ唐ノ堯王ガ、施政ニ就キテ、遍ク人民ノ諫言ヲ求ムトテ、朝廷ニ立テタル太鼓。諫メムト欲スル者アル時ハ、コレヲ撃チテ通ゼシム、サレド、諫メムトスル者ナカリケレバ、鼓ニ苔ヲ生ジ、音スルコトモナカリケレバ、鶏、鼓ノ上ニ止マリテ、悠悠タリ、コレヲ諫鼓の鶏ト云ヒ、政事治マリテ、世ノ太平ナル象トス。 淮南子、主術訓「堯置二敢諫之鼓一、舜立二誹謗之木一」 孫楚、反金人銘「堯懸二諫鼓一、舜立二謗木一、聽二采風謠一、惟日不レ足」 盛衰記、五、山門奏狀事、座主明雲、遠流セラルベシト風聞アリケレバ、衆徒「此事ニ於テハ、尤可レ被レ鳴二諫鼓一」 朗詠集、下「諫鼓苔深鳥不レ驚」 土御門院御集「音絶エシ、いさめのつづみ、鳥馴レテ、苔逕スホドニ、年ゾ經ニケル」 夫木抄、三十二、鼓「君ガ世ハ、諫めのつづみ、鳥馴レテ、風サヘ枝ヲ、鳴ラサザリケリ」

かん-こ (名) 羯鼓ノ條ヲ見ヨ。

かん-こ (名) 鞨鞨ノ條ヲ見ヨ。

かん-こ (名) 鹹湖 鹹水湖ノ條ヲ見ヨ。

かん-ご (名) 漢語 〔かん(漢)ノ條ヲ見ヨ〕 支那ノ言語。

かん-ご (名) 韓語 〔韓ノ條ヲ見ヨ〕 朝鮮ノ言語。

かん-ご (名) 閑語 かんだん(閑談)ノ(一)ニ同ジ。

かん-ご (名) 感悟 感ジテ、悟ルコト。 史記、晏嬰傳「夫子既以感悟而贖レ我、是知レ己」

かん-ご (名) 看護 病ヲ看護ルコト。看病。看病。

かん-ご (名) 監護 監督シ、保護スルコト。介抱シ、セワスルコト。 漢書、陳平傳「何楚之亡卒、未レ知二高下一、而即與共載、使レ監二護長者一」

がん-こ (名) 含糊 〔口ニ糊ヲ含みテ、言語ノ分明ナラヌニ出デタル語ナルカ〕 明カナラヌコト。決定セヌコト。 唐書、顏杲卿傳「祿山斷二其舌一曰、復能罵否、杲卿含胡而絶」 舊唐書、陸贄傳「既相、執レ證理合辨明、朝廷每爲二含糊一、未三嘗窮二究曲直一」

かん-こう (名) 甘汞 水銀ノ、鹽素ト化合シタル劇藥ノ名。白色、半透明ノ晶狀物、又ハ、粉末ニシテ、主トシテ、下劑ニ用キル。カロメル。輕粉。

かん-こう (名) 緘口 口ヲ閉ヂテ、物言ハヌコト。 孔子家語、觀周篇「有二金人一焉、三二緘其口一、而銘二其背一曰、古之愼レ言人也」

かん-こう (名) 箝口 拑口 鉗口 〔正韻「箝、鎖レ項也」〕 (一)口ヲオサヘテ、物ヲ言ハセヌコト。 漢書、袁盎傳「君自閉二箝天下之口一、而日益愚」 (二)口ヲオサフルコト。 漢書、鼂錯傳「天下之士拑レ口、不三復敢言二矣」 淮南子、本經訓「人生二亂世之中一、含レ德懷レ道、抱二無窮之智一、鉗レ口寢レ說、遂不レ言而死者衆矣」

がん-こう (名) 眼孔 眼球ノアル孔。眼孔ヲ、大ナリ、小ナリト云フ時ハ、眼力、眼光、みとほし、識見、ノ意ニ云フナリ。 唐書、安祿山傳「戒曰、善爲二部署一、祿山眼孔大、令レ毋レ笑レ我」「眼孔、豆ノ如シ」

かん-こうばい (名) 寒紅梅 紅梅ノ一種。冬至ノ頃ニ咲クモ、花ハ八重ナリ。

かん-ごえ (名) 寒肥 寒中ニ、植物ニ、肥料ヲヤルコト。又、其肥料。

かん-こく (名) 寒國 氣候ノ寒キ國。(暖國ナドニ對ス) 薩摩歌(元祿、近松作)上「信州木曾ノ山家者、デ、カク冷ル寒國ノ、寢ノ氷柱ノ朝嵐」

かん-こく (名) 監國 〔國政ヲ監督スル意〕 皇太子ノ、一時、君上ニ代リテ、政ヲ執リタマフコト。 左傳、閔公二年「君行則守、有レ守則從、從曰二撫軍一、守曰二監國一、古之制也」 公式令、義解「皇太子監國、亦準二此式一、以レ令二代詔勅一、代二詔令一」註「天子巡行、太子留守、是爲二監國一」

かん-ごく (名) 監獄 犯罪人、又、刑事被告人ヲ監禁シオク所。ヒトヤ。今ハ、刑務所ト云フ。

かんこ-くさ・し・キ・ケレ・ク・ク (形、二) 紙子臭 〔紙衣くさしノ音便、紙衣ノ焦ゲタルヨリ言ヒ始メタル語カ、きなくさしノ語原ヲ併セ見ヨ〕 きなくさしニ同ジ。コゲクサシ。焦臭。 碁盤太平記(寶永、近松作)「火ノマハリ、氣ヲツケヨ、かんこくさい」

かんごく-しよ (名) 監獄署 監獄ニ關スル事ヲ掌ル所。

かん-ごと (名) 神語 かみごとニ同ジ。

かん-ごと (名) 神事 かみごとニ同ジ。

かんこ-どり (名) 閑子鳥 かっこうどりノ轉。其鳴ク聲ヲ、寂シキモノトス。 蟬丸(元祿、近松作)三「谷ノ梟、閑古鳥」

かんご-ふ (名) 看護婦 病人ヲ看護スル女。醫科ニ屬シ、看護ノ術ヲ學ビテ、一種ノ職業タリ。

かん-ごほり (名) 神郡 かみごほりノ條ヲ見ヨ。

かん-ごり (名) 寒垢離 極寒中ニ、水垢離ヲ取ルコト。(垢離ノ條ヲ見ヨ) 堪ヘガタキヲ忍ビテ、信心ヲ固ムルナリ。寒參、寒稽古ト、同意ナリ。 洛陽集(延寶)「寒垢離ニ、浴ビケル水ニ、月モナシ」 狂歌醉竹集(享和、小島橘洲)下「寒垢離ノカタニ」

かん-ごゑ (名) 寒聲 寒稽古ニ發スル聲。謠物、語物ナドニスルコトニテ、早朝、又ハ、夜中ニ、寒風ニ、聲ヲ出シテ鍛錬ス、聲、好ク出ヅルヤウニナル、僧ノ、諷誦ノタメナドニモ行フ。 俳諧懷子集(萬治)「寒ケル月ニ、聲ツカフ人」 諸艶大鑑(貞享、西鶴)五「厚鬢ノ、苦キ男、松ばやしノタメニトテ、寒聲ヲツカフ」 文政ノ川柳「寒聲ノ、千秋樂ハ、福ハ内」

かん-さ (名) 監査 監督シ、調査スルコト。

かん-さい (名) 奸才 ワルヂエ。奸智。

かん-ざい (名) 漢才 からざえ(漢才)ニ同ジ。 著聞集、十三、哀傷「成佐、漢才ニ長ジテ、ヨク仁義禮智信ヲ知リタリケレドモ、後生ノ事ヲサトラズ」

かん-さう (名) 乾燥 (一)カワキタルコト。濕氣無キコト。 易經、下經「革、水火相息」疏「火本乾燥、澤本潤濕」 (二)面白ミナキコト。オモムキナキコト。「無味乾燥ノ文」

かん-さう (名) 感想 物事ニ感ジテ起レル思想。 晉書、賈充傳「大感想發二于寤寐一」

かん-さう (名) 監倉 ヒトヤ。アガリヤ。牢屋。監獄。

かん-さう (名) 疳瘡 黴毒ニヨリテ、陰莖ニ發スル瘡。

かん-ざう (名) 甘草 古名、アマキ。アマクサ。荳科ノ草。春、宿根ヨリ生ズ、高サ二三尺、葉、互生ス、形、藤ノ葉ニ似テ、莖葉ニ毛茸アリ、花ハ初夏ニ開ク、豆ノ花ニ似テ、淡紫色ナリ、莢ヲ結ブ、根、黃ニシテ、味、至ッテ甘シ、藥用トス。 下學集、下、草木門「甘艸」

かん-ざう (名) 肝臟 肝ニ同ジ。きもノ條ヲ見ヨ。 南史、張興世傳「鼓二擽人肝臟裏一云何」

[illegible]

がんさう (名) 【雁瘡】 がんがさニ同ジ。

がんざう (名) 【贋造】 ニセヅクリ。實物ニ貫セテ造ルコト。贋作。僞造。

かんさが (名) 【神性】 (一さが(性))ノ條ヲ見ヨ。神タル性質。〔神代紀、上「素戔嗚尊神性」〕

かんさく (名) 【間作】 麥畠ニ、麥ヲ刈取リテ、次ノ種蒔マデノ間ニ、外ノ野菜ヲ植エ作ルコト。田ニモ行フコトアリ。

がんさく (名) 【贋作】 がんざう(贋造)ニ同ジ。

かんさけ (名) 【燗酒】 燗ヲシタル酒。カンシユ。(冷酒ニ對ス) 溫酒

かんざし (名) 【簪】 〔かみさしノ音便、其條ヲ見ヨ〕 (一)古クハ、かみさし。髮ノ飾トシテ插スモノ。足アリテ、頭ニ、玉、花弁ナドヲ附ク、今ノ少女ノ插ス花かんざしニ似テ、イヅレモ金屬製ナリシガ如シ。(かみさしノ條ヲ見ヨ) 天治字鏡、十二「簪子、加美佐志」 古今集、十七、雜、上「五節ノ朝ニ、かんざしノ玉ノ落チタリケルヲ見テ、誰ガナラムト、トブラヒテ詠メル」(五節ノ舞姫ノナリ) 宇治拾遺、十三、第七話「[illegible]、云云、髮ニ下ノかんざしヒトヨロヒヲサシテ」 元祿ノ頃ヨリ作リハジメタル女ノかんざしハ、竹、角、象牙、銀、鼈甲ナドニテ、細ソク作ル。足、一本ナルアリ、釵鈿二本ナルヲ、松葉かんざしト云フ。岐笄 上端ニ、種種ノ飾リヲツクルアリ、耳搔ヲツクルアリ。好色一代女、貞享、兩卷、三[illegible]、云云、[illegible]ノ御[illegible]二[illegible]キツキ、かんざしニ小[illegible]落セバ、云云」 [illegible]云[illegible]頃ヨリ、かんざしト名ツクルモノ、上、耳かき、下、[illegible]ニ作ル」又、花かんざし、ひらひらかんざしモアリ、各條ニ註ス。(二)冠ノ具。古クハ、かみさし。巾子ニ髻ヲ入レタルヲ、外ヨリ横ニ貫キテ刺シトムル用ノ物、一本箸ノ如シ。後ニハ、巾子ニ作リツケニシテ、上緒ニ繫クル用ノモノトナル。かみさしノ(二)ヲ見ヨ。倭名抄、十二、[illegible]具「簪、[illegible]、[illegible]、[illegible]訂也、加無佐之」 文選、張衡、[illegible]、[illegible]「[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]」

かんざし (名) 【髮狀】 〔髮ノ差生ヒタルサマナリ、前ざし、眼ざし、同趣〕 (一)〔婦人ノ、額上ノ髮ノ生狀。ハエザマハ。〕 源、十、[illegible]「かんざし、頭ツキ、御髮ノカカリタル狀(両頰ニ額髮ノ垂レタル)限リナキ匂ハシサ」 落窪、[illegible]、松中納言物語「額髮ノタエマタエマ、かんざしナド、ココニソ懸ケレト、目ダツ所ナク、ヲカシ」 (二)髮。[illegible]記、四十四、女院出家事「高倉ノ院ニモ、云云、御ナケキウチ續キハベル御事ナレバ、[illegible]ノかんざし[illegible]ニ付テモ、云云、御サマモカヘサセ給ヘリ」 [illegible]本[illegible](文[illegible]ノ御[illegible]子)父、[illegible]ノ[illegible]「御丈ニ餘リタルかんざしヲ、手ニカラミ、邪[illegible]ノ床ニ引キ伏セテ」([illegible]世女[illegible]、二)

かんざし (名) 【櫛】 髮刺ノ音便。櫛ノ一名。源、十七、繪合[illegible]「昔ノ御かんざしノ端ヲ、イササカ折リテ」(齋宮ノ別ノ御櫛ナリ) 同、三十四、上、若菜、上[illegible]「朱雀院、御贈ジツケテ、云云、ケニオモダタシキかんざしナレバ、御返シモ、云云「サシツギニ、見ルモノニモガ、萬代ヲ、黃楊ノ小櫛ノ、神サブルマデ」(中宮ヨリ櫛ノ宮ヲ奉ラセタマヒシナリ)

かんさつ (名) 【簡札】 〔簡ハ、竹ノ札ナリ、急就篇「簡札、檢署槧牘家」注「竹簡以爲書牒也、札者、木牒亦所以書之也」紙ノ語原ヲ見ヨ〕 (一)札。又、紙。文字ヲ記スベキモノ。後漢書、范滂傳「臣之所[illegible]、云云、豈以[illegible]札[illegible]」 (二)フミ。手紙。書狀。書簡。

かんさつ (名) 【[illegible]札】 [illegible]、又ハ、[illegible]ニ、免許ノ證ヲ記シタルモノ。德川[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]

かんさつ (名) 【監察】 (一)他ノ爲ス業ヲ、守リ視ルコト。王[illegible]、[illegible]、[illegible]下、[illegible] 諸侯ニ (二)目附。

がんさつ (名) 【贋札】 贋札。贋造ノ紙幣。

かんざね (名) 【神實】 かみざねニ同ジ。

かんさ・び (動) 【神佐備】 かみさびニ同ジ。かみさぶ(神然)ノ條ヲ見ヨ。

かんさ・ぶ (動) 【神然】 かみさぶノ條ヲ見ヨ。

かんざふなます (名) かざふなます(和雜膾)ノ音便。其條ヲ見ヨ。

かんざまし (名) 【燗冷】 一旦、燗ヲシタルガ、冷エタル酒。

かんさん (名) 【甘酸】 〔あまきト、すきト〕 苦樂ニ同ジ。甘苦。[illegible]、[illegible]「[illegible]世味、如[illegible]、[illegible]甘酸」 太平記、三十六、公家武家榮枯易地事「甘酸、苦辛ノ[illegible]子共」

かんさん (名) 【閑散】 閑暇ナルコト。[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、乃[illegible]之官、[illegible]官、[illegible]閑散」 大鏡、下、道長「小松ノ帝ノ、親王ニテオハシマシシ時、云云、イトかんさんニテコソ、オハシマシシカ」

かんさん (名) 【汗衫】 汗衫ノ條ヲ見ヨ。[illegible]、[illegible]有[illegible]中單、[illegible]、[illegible]、[illegible]、中單、改名二汗衫二」

かんさん (名) 【漢讃】 和讃ノ條ヲ見ヨ。

かんざんぢっとく (名) 【寒山拾得】 支那ノ唐朝ノ貞觀年中、天台縣ノ天台山、國清寺ニ居タル、二人ノ散聖ノ名。相交ハルコト[illegible]、[illegible]、[illegible]、寺ニ[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]ナリ、唐ノ代、[illegible]行者、拾得、同ニ寒山子ト倶ニ狂ゼルニ似タル人也、マコトニハ、[illegible]賢、文[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]」

かんざらし (名) 【寒晒】 (一)寒中ノ天ニ晒ラスコト。[illegible]、[illegible]。[illegible] 隣疝氣(元祿、近松作)上「[illegible]、身ヲ寒晒し」 文化ノ川柳「[illegible]干テ、黃色ナ[illegible]ノ、寒ざらし」(寒[illegible]ナリ) (二)特ニ、糯米ヲ炊ギテ、かんざらしニシテ碾キタル粉。白玉ナドニ作ル。

かんざらひ (名) 【寒復習】 三味線ナドノ寒稽古。

かんさ・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 【神避】 かみさるノ音便。

かんしん (名) かんしん(庚申)ノ略。其條ヲ見ヨ。

かんし (名) 【干支】 又、支干。えとノ條ヲ見ヨ。

かんし (名) 【柑子】 〔外來種ナレバ、字ノ音ニテ呼ブ、味、甘ケレバ、甘子ト云フナリ〕 蜜柑ノ類。樹ノ形狀、花、葉、橘ニ異ナラズ、[illegible]、[illegible]少ナク、寒地ニ生ヒタシ、實モ、かうじニ似テ、圓ク大キク、[illegible]ノ後、熟スレバ、[illegible]ヨリ[illegible]ニシテ、皮厚ク、[illegible]、[illegible]ヤスシ。[illegible]補任、下、和銅三年三月「入唐學問僧道[illegible]、[illegible]子[illegible]之」 [illegible] 和名、下二十「柑子、加牟之」(倭名抄、同ジ)

かんし (名) 【漢詩】 [illegible]、支那ノ詩

かんし (名) 【[illegible]】 [illegible]、[illegible]

取締ルコト。又、其人。北史、齊宣帝紀「有司監視、必令二豐備一」

かん-し (名) 【瞰視】 上ヨリ、下ヲ見オロスコト。下瞰。俯瞰。

かんじ (名) 【感】 (一)心ニ感ズルコト。「イヤナ感じ」 (二)キキメ。シルシ。效「忠告ノ感じ」藥ノ感じ」

かんじ (名) 【寒】 寒ズルコト。寒サノ、身ニ染ムコト。「寒じガ强イ」

かん-じ (名) 【漢字】 支那ノ文字。卽チ、假名ノ外ニ、日常ニ用キル文字。マナ。マンナ。ヲトコデ。ヲトコモジ、カラモジ。徒然草、百十五段「近キ世ニ、梵論字、梵字、漢字ナド云ヒケルモノ」

かん-じ (名) 【幹事】 一事ノ業務ヲ、專ラニ執ル役。易經、乾卦、文言「君子體レ仁、足二以長一レ人、貞固足二以幹一レ事」 魏書、李訢傳「觀二此人擧動一、云云、必爲二朕家幹事之臣一」

かん-じ (名) 【勘事】 かんだう(勘當)ノ(二)ヲ見ヨ。音便ニ、かうじ。

がん-し (名) 【雁齒】 「雁行ノ、齒牙ノ形ヲ成セル意、遊仙窟「參二差於雁齒一」注「刻レ木亦刻レ石爲レ之、其形、一前一卻、如二鴈之行列、人鳥牙齒之形一」」 橋ノ上ノ横板ノ、板毎ニ、段段ヲ成セルモノ。ガンギ。白氏文集、新春江次詩「鴨頭新綠水、雁齒小紅橋」 盛衰記、三十五、範賴義經京入事「虹ノ橋桁危ウシテ、雁齒ノ構ヘ奇シケレバ、渡得ムコト難ケレドモ、云云」(宇治橋ヲ云フ)

がん-じ (名) 【雁字】 (一)雁行ノ狀ヲ、文字ト見做シテ云フ語。黃庭堅詩「雁字一行書二絳霄一」 (二)雁書。

かんじ-い・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 【感入】 深ク感ズ。感佩。

かん-しう (名) 【監修】 著作、編輯ヲ監督スルコト。又、其人。合璧事類「唐太宗以二宰相一監二修國史一」

かんじ-おん (名) 【漢字音】 漢字ノ音。音ノ條ノ(三)ヲ見ヨ。

かん-しき (名) 【鑒識鑑識】 メキキ。物ノ良否ヲ識ル眼力。鑑定ノ見識。晉書、王戎傳「王戎有二人倫鑒識一、常目二山濤一、如二璞玉渾金一、人皆欽二其寶一、莫三能知二其器一」

かん-じき (名) 【樏檋梮】 〔古言、かいじき、又、かじきノ音便、其條ヲ見ヨ」 かいじき。かじき。北國ニテ、雪深キ時ニ、草鞋ノ下ニ履ク物。板がんじき、輪がんじきアリ、上略シテ、がんじきトモ云フ、形、種種ナリ。裏ニ釘ヲツケテ、滑リ蹉クヲ防グ、又、皮ニテ作レルモアリ。ガンゼキ。史記抄(文明)二十四「檋ハ、越後ノ方ニ、大雪ノ上デ乘ル、かんじきナンドト云フヤウナモノゾ」 易林節用集(慶長)器財門「檋、カンジキ」(檋ハ、そりナリ) 和漢三才圖會、三十「欙」

がん-じき (名) 前條ヲ見ヨ。

かん-じげふ (名) 【閑事業】 日用ニ遠キ仕事。不急ノ事業。

かん-しつ (名) 【乾漆】 (一)漆ヲ桶ニ入レオキ、久シクシテ、其側ニ着キ乾キタルモノ。漢方醫、採リテ、藥用トシ、又、印材ナドトス。(二)佛像ニ、乾漆ト云フハ、砥粉ヲマゼタル漆ノ液ヲ、型ニ塗リ、麻布ニテ包ミ、幾重ニモ又塗リ、又包ミ、塗リ固メテ作リアグルナリ。奈良時代ノ佛像ニ、此製作ナルモノ、多シ。

かん-じつ (名) 【閑日】 閒暇ナル日。仕事ノナキ日。

かん-じつげつ (名) 【閑日月】 閑暇ナル月日。心ニ餘裕アルニ云フ語。「胸中、自ラ閑日月アリ」

かん-しん (名) 【庚申】 〔かうしんノ音便、かうのとの、かんのとの。(督殿)ふうず、ふんず。(封)略シテ、かんしトモ云フ、さうじん、さうじ(精進)〕 かうしん(庚申)ニ同ジ。略シテ、かんし。兼澄集「齋宮ノ、かんしんシタマヒシ曉ニ」 公任集「九月盡クル日、かんしナルニ」

かん-しん (名) 【甘心】 〔韻會「甘心、快意也」〕 心ニ甘ンズルコト。快ク思フコト。滿足。南史、梁范雲傳「今日就レ戮、甘心如レ薺」 盛衰記、四十一、屋島九月二日事「國ニハ正税、官物ヲ貢シ、所ニハ人民、百姓ヲ煩ハシケリ、上下、是ヲ甘心セズ」

かん-しん (名) 【感心】 心ニ感ズルコト。深ク感ジ入ルコト。感服

かん-しん (名) 【寒心】 膽ヲ冷スコト。ゾットスルコト。史記、刺客傳「以二秦王之暴一、而積二怒於燕一、足レ爲二寒心一」 漢書、鼂錯傳「天下寒心、莫レ安二其處一」

かん-しん (名) 【奸臣姦臣】 奸曲ナル臣。ワルダクミスル家來。韓非子、存韓篇「所二以然一者、聽二姦臣之浮說一、不レ權二事實一」

かん-じん (名) 【奸人】 カタマシキ人。奸曲ナル人。ワルダクミスル人。韓非子、主道篇「赦レ罰、則奸人易レ爲レ非」

かん-じん (名) 【肝心肝腎】 〔肝心ノ音讀カ、臟腑ハ、人體ノ至要ノモノナレバ、擧ゲテ云フニカ、肝膽、肺肝ナド云フモ、同ジ〕 カナメ。カンジンカナメ。肝要。緊要 三代實錄、二、貞觀元年四月十八日「眞言教門、諸法之肝心、如來之祕要」

かん-じん (名) 【閑人】 閑散ナル人。ヒマジン。韓致元、雷詩「閑人倚レ杖笑二雷公一」

かん-じん (名) 【乞食】 〔勸進ノ轉、勸進ヲ名トシテ、錢ヲ乞ヒショリ、名トセルナリ〕 こじきノ異名。伊豆、其他、處處ニテ云フ。

がん-しん (名) 【雁信】 雁書ニ同ジ。溫庭筠詩「若向二三湘一逢二雁信一、莫レ辭千里寄二漁翁一」

かんじん-より (名) 【觀世縒】 くゎんぜよりヲ見ヨ。

かん-しゃ (名) 【感謝】 深ク感ジテ、禮意ヲ述ブルコト。韓愈詩「感謝情至レ骨」

かん-しゃ (名) 【檻車】 囚人ヲ載セテ運ブ車。史記、陳餘傳「貫高與二趙王一、檻車詣二京師一」

かん-じゃ (名) 【間者】 ウカミ。シノビ。マハシモノ。隱密。探偵。間諜 豐薩軍記、三、薩州勢肥後出張、幷、相良連歌法師事「件ノ法師、島津ガ閒者ニテ、行ヲ密ニ通ジケルトハ、後ニゾ思ヒ知ラレケル」

かん-じゃ (名) 【奸邪姦邪】 奸曲ニ同ジ。管子、八觀篇「姦邪之所レ生、生二於匱不足一」 漢書、宣帝紀「孝宣皇帝、武帝曾孫、喜二游俠一、鬪レ雞走レ馬、具知二閭里姦邪吏、治二得失一」 平治物語、一、信賴信西不快事「讒佞ノ徒、云云、姦邪ノ志ヲ抱テ」「奸邪ノ小人」

がむしゃ (名) 【我武者】 〔我ヲ張ル武者ノ義、我攻め、我呑み、同ジ〕 荒武者ニ同ジ。キノシシムシャ。猛士 最明寺百人上臈(寶永、近松作)義經衙狀「ハヤリニハヤル我武者ドモ」 薩摩歌(寶永、近松作)「母ハ名ニ負フ、我武者モノ」

かん-しゃう (名) 【癇症】 癇癪ノヤマヒ。

かん-しゃう (名) 【奸商】 奸曲ナル商人。

かん-しゃう (名) 【感賞】 感心シテ、褒ムルコト。「孝行ヲ感賞ス」

かんじょう (名) [illegible] 感ジテ起ル情。[illegible]

かんじょう (名) [illegible] 軍功ヲ[illegible]

かんじょう (名) [干城] 干(楯)ト城ト。國ノ守護ニ任ズル人ニ譬ヘテ云フ語。[illegible]

がんじょう (名) [強盛] がんでう(五調)ノ條ヲ見ヨ。

かんじょうか (名) [乾性果] [illegible] 未ニシタルモノ。乾菓

かんじょうばくや (名) [干將鏌鋣] 支那[illegible]ニ云フ名劒ノ名。古ヘ、[illegible]代ノ[illegible]ノ人、干將、其妻、鏌鋣ト、二劒ヲ作ル、陽ハ、干將ニテ、[illegible] 陰ヲ、鏌鋣ト稱ス、みだれやきナリト云フ。轉ジテ、汎ク名劒ノ稱トス。荀子、性[illegible]

かんしゃく (名) [癇癪] [癇ノ病ノ積るナリト云フ] 神經過敏ニシテ、ヤヤモスレバ怒ルコト。[illegible] アル人ヲかんしゃく持、又、癇癖ト云フ。

かんじゃく (名) [閑寂] モノシヅカナルコト。閑靜。方丈記「今、草ノ庵ヲ愛スルモ、科トス、閑寂ニ著スルモ、障ナルベシ」

かんしゃくだま (名) [癇癪玉] (一)前前條ヲ見ヨ。(二)火藥ヲツツノモノヲ、紙ニテ[illegible]包ミタルモノ、地ニ打チ付ケテ[illegible]ノ玩ナリ。

かんしゃくもち (名) [癇癪持] かんしゃくノ條ヲ見ヨ。

がむしゃら (名) [我武者] [illegible]ノ條ヲ見ヨ。がむしゃニ同ジ。アラアラシキコト。ムカフミズ。ムテッパウ。兇暴

かんしゅ (名) [燗酒] かんざけニ同ジ。

かんしゅ (名) [看守] (一)看マモルコト。水滸傳、第一回「看守寨ミハリ」。又、其人。(二)[illegible]吏員、[illegible]ノ取締ヲ掌ル。

かんしゅ (名) [監守] 取リシマリ、守ルコト。監督、守護スルコト。又、其人。

かんじゅ (名) [干珠] しほみつたまノ條ヲ見ヨ。

かんじゅ (名) [甘受] 甘ンジテ、受クルコト。得心シテ、受取ルコト。

かんじゅ (名) [感受] 感ジ、受クルコト。感ズルコト[illegible]

がんしゅ (名) [癌腫] 腫物ノ一種。[illegible] 多クハ、上流ノ人ニ多シ。胃癌、食道癌、喉頭癌、舌癌、子宮癌、乳癌ナドアリ。

かんしゅじとう (名) [監守自盜] 官吏ノ、其監守スル物品ヲ、自ラ盜ムコト。[illegible]

かんしょ (名) [寒暑] (一)冬ノ寒サト、夏ノ暑サト。寒熱。[illegible] (二)寒中ト、暑中ト。

かんしょ (名) [漢書] カラブミ。漢文ノ[illegible]

かんしょ (名) [甘藷] サツマイモ。[illegible] シメ玉ハムトテ、厚ク[illegible]シ玉ヘリ」

かんしょ (名) [甘蔗] [illegible]ノ古名、[illegible] タウキビ。[illegible]

かんしょ (名) [閑所] 人ナク、物シヅカナル所。[illegible]

かんじょ (名) [閑所] 前條ノ語ノ轉カ、或ハ、灌所ノ音轉(谷鐵木がかんじょノ條)[illegible]ニ、閑所ヲ用字セシニテ、手ニ水ヲ灌グ所ノ義ナラム、厠ト云フヲ避ケテ云ヒシト思ハル、今モ厠ヲ憚リテ、手水場ト云フ。[illegible]

がんしょ (名) [雁書] [支那ノ前漢ノ蘇武ガ、胡國ニ囚ハレ、雁ノ足ニ書信ヲ繋ギテ、故國ニ通信セシニ起ルト云フ、夏山雜談、四、蘇武ノ故事ニテアラズ、雁行ノ列ノ正シキヲ、文書ニタトヘタルナリ、漢籍、古詩ニ多シ] 雁字ノ書。雁信。かりのたより。[illegible] 手紙。[illegible]

かんしょく (名) [閑職] [劇職ニ對ス]

[illegible]

かんしょく (名) [間色] [illegible]色ノ[illegible] 外ノ色ノ稱。(いろノ條ノ(一)ヲ見ヨ)[illegible]

かんしょく (名) [間食] [illegible] あひだぐひノ條ヲ見ヨ。

かんしょく (名) [illegible]

かんしょく (名) [寒食] [冷食、即チ、冷ナル食ノ意、火食ニ對ス] 支那ニテ、冬至ヨリ百五日目ニ當ル日[illegible] 火ヲ焚クコトヲセズ、前日ニ調ヘオキタル物ヲ食フ、食物ニ、寒具ト云フモノアルモ、コレヨリ起レルナリト云フ。我ガ國ニテハ、[illegible]

かんしょく (名) [感觸] 事物ニ觸レテ、心ニ感ズルコト。[illegible]

がん-しょく (名) 【顏色】 カホイロ。カホツキ。論語、泰伯篇「正二顏色一」 韓愈、唐故相權公墓碑「孝公卒、來弔哭者、見二其顏色聲容一」

かん-しょ-しん (名) 【寒暑針】 寒暖計ニ同ジ。

かん-しょ-よみ (名) 【漢書讀】 漢籍讀ノ條ヲ見ヨ。

かん-しろう (名) 【寒四郎】 八專太郎ノ條ヲ見ヨ。

⁂**かん・じる** (動) 【感】 次次條ノ口語。

⁂**かん・じる** (動) 【寒】 次次條ノ口語。

かん・ずる・ズル・ズレ・ゼ・ジ・ゼヨ(自動、左變) 【感】 (一)カマク。喜、怒、哀、樂、等ニツキテ、情ヲ動カス。深ク心ニ徹ル。魏徵詩「人生感二意氣一」 宇津保物語、俊蔭「御門大キニ驚カセ給ヒテ、かむせシメ聞シメスコト、限リナシ」 徒然草、四十一段「人、木石ニアラネバ、時ニトリテ、物ニ感ずる事ナキニアラズ」 (二)カブレル。ソマル。カマク。觸ル。感染 易經、下經「天地感、而萬物化生」「病ニ感ず 風邪ニ感ず」電氣ニ感ず」

かん・ずる・ズル・ズレ・ゼ・ジ・ゼヨ(自動、左變) 【寒】 寒サ、身ニ染ム。薩摩歌(元祿、近松作)中「寒ずる夜半ノ霜」

かん・ずる・ル・レ・ラ・リ・レ (他動、四) 【勘搘】 かんぐるニ同ジ。「何ヲかんずッタカ」

かん-すい (名) 【鹹水】 〔淡水ニ對ス〕 シホミヅ。ウシホ。

かん-すい-こ (名) 【鹹水湖】 湖ノ一種。淡水湖ニ對ス。其水ニ、多量ノ鹽分ヲ含ムモノ、流出ノ口ナキ湖ナリ。又、鹹湖。中央亞細亞ノ裏海ノ如キ、是レナリ。

かん-すい-せき (名) 【寒水石】 (一)山鹽ノ、凝固シタルモノ。倭名抄、一「凝水石、一名、寒水石、此石末、置二水中一夏月能爲レ氷」 (二)大理石ノ類。堅クシテ、光澤多ク、色、種種ニシテ美シケレバ、彫刻、裝飾ノ用トス。常陸國、久慈郡、眞弓山ノモノ、白クシテ、名アリ。

かん-せい (名) 【閑靜】 土地ノ、モノシヅカナルコト。幽靜。「閑靜ナル住居」

かん-せい (名) 【寒生】 貧シキ書生。貧生。湘山野錄「江南一寒生」

かん-せい (名) 【鼾聲】 イビキ。「鼾聲、雷ノ如シ」

かん-せい (名) 【喊聲】 トキノコヱ。鬨聲。吶喊。

かん-せい (名) 【陷穽坎穽陷阱】 オトシアナ。詩經、疏「不レ入二陷穽一不レ罹二羅網一」 鹽鐵論「若下陷二坎穽一食中于懸門之下上」 中庸、第七章「人皆曰二予知一驅而納二諸 古擭陷阱之中一而莫二之知一レ辟也」

かん-せい (名) 【檻穽】 をりト、おとしあなト。後漢書、宋均傳「其務退二姦貪一思レ進二忠善一可下一去二檻穽一除中削課制上」 平家物語、十一、大臣殿誅伐事「猛虎深山ニアル時ハ、百獸フルヒオヅ、かんせいノ中ニアル時ハ、尾ヲ振ッテ食ヲ求ム」

かん-せき (名) 【漢籍】 カラブミ。支那ノ書物。漢書。

かん-せき (名) 【艦籍】 軍艦ノ、某某鎭守府ニ屬スト云フ語。

がん-せき (名) かんぜきヲ見ヨ。

がん-せき (名) 【巖石岩石】 イハ。イハホ。史記、高祖紀「亡匿二隱於芒碭山澤巖石之間一」 太平記、三、笠置軍「屛風ヲ立タル如クナル岩石、重リテ」

がんせき-たまご (名) 【岩石卵】 鷄卵ヲ茹デテ、コハシ、砂糖、鹽ヲマゼテ、美濃紙ニ包ミ、其上ヲ布巾ニテ包ミ、鬼すだれニ卷キテ、蒸シタルモノ。

がんせき-どうふ (名) 【岩石豆腐】 豆腐ヲ燒キ固メテ、昆布ニ包ミテ、煮タルモノ。

かんせき-よみ (名) 【漢籍讀】 漢籍ノ文ノ訓點ニ、返點、送假名ナド付ケテ讀ム法。常ノ和文ノ法ト、頗ル異ナル所アレバ、相分チテ云フ。「須二研究一」「我猶レ人」ノ「須」「猶」ノ字ヲ、先ヅ「スベカラク」「ナホシ」ト讀ミテ、再ビ返リテ「ベシ」ゴトシ」ト讀ム例ナド、是レナリ。カラブミヨミ。漢書讀。

がんせき-らん (名) 【岩石蘭】 〔根、見ハレテ、岩石ノ如シ〕 蘭ノ一種。葉ニ星アリ、花、黃ナリ。石蘭。

かん-せつ (名) 【間接】 間ニ物ヲ隔テテ、目的ニ接スルコト。トホマハシ。(直接ニ對ス)

かん-しょう (名) 【干涉】 〔干し涉るナリ、說文「干、犯也」左傳、文公四年「敢干二大禮一以自取レ戾」 字典「涉、經也」 枚乘、七發「背レ秋涉レ冬」此語、關涉ト記スコトアルハ誤ナリ、其條ヲ見ヨ〕 イロフコト。カカヅラフコト。カマフコト。他ノ行爲ニ、手出シスルコト。金史、撒离喝傳「梁王以二陝西事一屬レ公、以二河南事一屬二不野一、今未レ嘗別奉二詔命一陝西之事、撻不野、固不二敢干涉一」

かん-せみ (名) 【寒蟬】 〔漢名、寒蟬ヲ、湯桶讀ニシタル語カ〕 蟬ノ一種。つくつくぼふしノ類。箋注倭名抄、八七十九「寒蟬、寒蜩、似レ蟬而小、青者、月令、寒蟬、是、加牟世美」 曹植詩「秋風發二微涼一寒蟬鳴二我側一」

かん-せん (名) 【感染】 病氣ノ、ウツルコト。惡習ノ、シミコムコト。

かん-せん (名) 【幹線】 電線、又ハ、鐵道線路ナドノ、主ナル線。(支線ニ對ス)

かん-せん (名) 【酣戰】 戰ヒノ、タケナハナルコト。戰爭ノ最中。韓非子、十過篇「楚晉酣戰之時、司馬子反、渴而求レ飲」

がん-ぜん (名) 【眼前】 メノマヘ。目前。岑參詩「都僻人事少、雲山遶二眼前一」 保元物語、一、義朝白河殿夜討事「云云、卜中傳ヘテ、聞バカリ也、眼前ニ、カカル弓勢モ侍ニヤ」

かん-ぜん・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ(自動、左變) 【間然】 批難ヲ加フ。論語、泰伯篇「子曰、禹吾無二間然一矣」註「間、罅隙也、謂下指二其罅隙一而非中議之上也」

がん-せん-どう (名) 【龕前堂龕薦堂】 〔龕ノ條ヲ見ヨ〕 殯ノ建物。幸充日次記、寬延三年四月廿三日「仙洞御所崩御(櫻町院)泉涌寺、云云、火屋、俗云二龕前堂一云云、假堂二、白木之透垣、四方丸白木之華表」(古事類苑、葬禮、四)

かんせん-ぬひ (名) 【閑清縫】 〔かんせんハ、かんせいノ轉、(魚餻ノ反平ヲ、はんぺん)近代世事談(享保)ニモ、閑清ハ創意者ノ名トアリ〕 袋物ナドノ緣ノ縫ニ、絲ヲ現シテ打違ヘテ、えびすがけニ絡ゲ縫フモノ。諸艷大鑑(貞享)「天川ノ玉(珊瑚珠)云云、助清縫ノ前巾着ニツケテ」 和漢三才圖會(正德)二十六、服玩具「賸 之方者、多以レ革作レ之、橫與レ底有二狹縫一謂二閑清縫一閑清者人名、始縫出人乎」

かん-そ (名) 【寒素】 〔詩經、魏風、傳「素、空也」〕 貧シキ生涯。晉書、武帝紀「擧二清能一拔二寒素一」 同書、范喬傳「擧二寒素一無レ所レ就」「身ヲ寒素ヨリ起シテ、青雲ニノボル」

がん-そう (名) 【含嗽】 〔嗽ハ、漱ニ通ズ〕 クチソソグコト。ウガヒ。「含嗽劑」

かん-ぞく (名) 【奸賊】 奸曲ナル者ヲ惡ミ

[illegible]ニ守ブ[illegible]」

かん-そん (名) [寒村] モノサビシキ村。サビレタル村。「寒村僻邑」

かん-そん (名) [旱損] 〔水損ニ對ス〕 旱魃ノ害ヲ受ケタル、田畑ノ損害。[illegible]

がん-た (名) [眼目] 〔[illegible]〕 もみくた、もみくちゃ」がんち。カタメ。[illegible]

かん-たい (名) [寒帶] 〔溫帶、熱帶ニ對ス〕 地球ノ上ニ、北極、又ハ、南極ニ偏セル、最モ寒キ、一帶ノ地方ノ稱。赤道ヨリ南北ヘ、各、六十六度三十分以外ナル地ヲ云フ。

かん-たい (名) [艦隊] 軍艦二隻以上ニテ編制セラレタル、海軍ノ作戰ノ一隊。[illegible]以上ノ艦隊ニテ編制セラレタルヲ、聯合艦隊ト云フ。

がん-だい (名) [眼代] 〔公家國司ノ目代ニ別タムガ爲ニ、武家ニテ、眼代ト稱シタルナリト云フ〕 鎌倉幕府ノ職名、其職掌、目代ニ同ジ。守護代、地頭代、是レナリ。室町幕府ノ頃ニハ、眼代ノ稱絶エテ、目代ト稱スルニ至レリ。[illegible]

かん-たう (名) [撼蕩] フルヒ、ウゴカスコト。「一世ヲ撼蕩ス」

かん-だう (名) [勘當] 〔かんがふ(案撿)ノ條ヲ見ヨ、律ニ勘ヘテ、何罪ニ當ツベキカト定ムルナリ、勘事ト云フハ、其事ノ狀ヲ勘ふる由ニテ、同ジ事ヲ、輕ク云フナリ〕 [illegible] (一)律ニ勘ヘテ、罪ニ當ツベキコト。[illegible] (二)[illegible]父ノ、[illegible]子ヲ責メテ、[illegible]コト。[illegible]ト云フモ、是レナリ。[illegible]ト云フ。又、勘事。音便ニ、勘事。勘氣。カシコマリ。[illegible] 宇治拾遺、一、十八條「遠ク登ラバ、我ハかんだうセラレナム」[illegible]時、按察使ノ御息所、久シクかんだうニテ、御乳母ニツケテ參ラセケル」 宇津保物語、藏開、中「此人、故院ニ侍ルトテ、御氣色惡シケレバ、かうだう數サルルマデナム」[illegible]云云、亡父(木曾義仲ノ事ナリ)已蒙勅勘、[illegible]聞、云云」同、四、元暦二年五月廿四日「義經無犯而蒙勘、云云」[illegible] (三)江戸時代ニハ、父兄ガ、子弟ヲ放逐スル法。[illegible]父、種種不法ナルコトヲスル子弟ヲ、父兄ガ、其人別帳[illegible]ヨリ除キテ、永久ニ離縁スルナリ、久離勘當ト云ヒ、久離切るトモ云フ。子弟、外ニアリテ、如[illegible]係ナキモノトス。官ニ屆ケテ、其旨ヲ人別帳ニ記入セシム[illegible]

かん-たう-の-えい (名) [甘棠詠] [illegible]テ、慕フコト。 詩經、召南、甘棠[illegible]

かん-だう (名) [間道] クケヂ。クケミチ。[illegible]ヌケミチ。[illegible] 〔本道ニ對ス〕 史記、淮陰侯傳「從二閒道一萆レ山、而[illegible]」

がん-だう (名) [强盜] 〔「がうだう」ノ轉〕 [illegible]見ヨ) 庚申、かんおん。甲乙、かんおつ」

がん-だう (名) [强盜] [illegible]ニ同ジ。[illegible]

がんだう-がへし (名) [龕燈返] 〔龕燈提燈[illegible]〕 [illegible]ノ名。[illegible]ノ大道具ナドノ、後ヘヒクリカヘリテ、[illegible]ノ道具ニ變ハルモノ。

がんだう-ちゃうちん (名) [龕燈提灯] 〔[illegible]ハ、强盜ノ當字ナルベシ、闇夜ニ、强盜ノ用ヰタルカ、强盜ヲ捕ヘムトスルニ用ヰタルカ〕 [illegible]ノ異名。[illegible]

[illegible]かん-だう-づきん (名) [illegible] [illegible]ノ、頭ヲ隱スニ用ヰタルヨリノ名ナリ」 宗匠頭巾ノ異名。[illegible]

かん-だか (名) [甲高] 聲ノ、カンバシリタルモノ。[illegible]

かん-だから (名) [神寶] 神ノ御寶。神ノ[illegible] 出雲國造神賀詞[illegible]

かん-だち (名) [神館] (一)神社ノ傍ニ設ケテ、神事ニアヅカル者ノ宿所[illegible] イミドノ。イミダチ。モノイミノタチ。[illegible] 千載集、十六、雜、上、祭ノ使ニテ、[illegible]ノ宿所ヨリ、[illegible]ノ女房ニツカハシケル」(二)[illegible]

かん-だち (名) [颯] 〔霹靂ノ音便、(靈物、おんもの)ノ[illegible]〕 かうぢ(颯)ノ古言。 倭名抄、[illegible]

かん-だち (名) [雷] 〔雷發ノ音便カ〕 イカツチ。カミナリ。(安房)

〔〜かんだちべ〕（名）［上達部］〔上等部ノ義、公卿ヲ、かみト云フ〕くぎゃう（公卿）ニ同ジ。轉ジテ、かんだちめ。竹取物語「帝、云云、大臣、上達部ヲ召シテ、云云、ト問ハセタマフ」源、一、桐壺「かんだちめ、上人ナドモ」同、二、帚木「人ノ、かんだちめナドマヂ、成リノボリタル」

〔〜かんだちめ〕（名）［上達部］〔前條ノ語、かんだちべノ轉、すべらぎ、すめろぎ〕前條ノ語ニ同ジ。其條ヲ見ヨ。

かん-だひ（名）［乾打碑］らふずみ（蠟墨）ヲ見ヨ。

かん-たん（名）［肝膽］〔かんざん（肝腎）ノ語原ヲ見ヨ〕きもト、いト。誠ノ心。莊子、德充符篇「自二其異者一眡レ之、肝膽楚越也、自二其同者一視レ之、萬物皆一也」肝膽を摧くトハ、眞心ヲ盡ス。保元物語、一、鳥羽院熊野御參詣事「五體ヲ地ニ投、肝膽を碎けレバ」肝膽を披くトハ、心ヲ、包マズ打チ明ク。漢書、路溫舒傳「披二肝膽一決二大計一」韓愈、柳子厚墓誌銘「握レ手出二肝膽一相示」

かん-たん（名）［感歎］感ジテ、褒ムルコト。歎賞。張九齡詩「閒情多二感歎一清景暫登臨」

かん-たん（名）［簡單］〔複雜ニ對ス〕テガルナルコト。テミジカナルコト。簡易。

かん-だん（名）［寒暖］さむきト、あたたかナルト。寒暄。禮記、王制篇「因二天地寒暖燥濕一」

かん-だん（名）［閑談］（一）モノシヅカニ話スコト。閑話。韋莊詩「絕例閑談坐到レ明」（二）世ノ俗塵ヲ離レタル談話。閑語。「閑談數刻」

かん-だん（名）［間斷］トギレ。タエマ。韓愈、遊二青龍寺一詩「赤氣冲融無二間斷一」「間斷無ク運ル」

かんたん-きりぎりす（名）〔かんたんハ、鳴ク聲カ、其聲、さんおろおろト聞ユ〕蟲ノ名。ばったニ似テ小サク、薄綠色ナリ。捕ヘ飼ヒテ、其聲ヲ愛シ聞ク。

かんだん-けい（名）［寒暖計］寒暑針。氣候ノ寒暖ヲ測リ知ル器。硝子ノ管ニ、水銀（酒精モ）ヲ籠ム、水銀、寒ケレバ下リ、暖ナレバ上ル、管ニ尺度ヲ添フ。普魯西人「ファアレンハイト」（華氏）ノ製ナルハ、管ヲ二百十二度ニ割リ、其最上ヲ沸騰點トシ、九十六度ヲ血溫トシ、七十五度ヲ夏熱點トシ、五十五度ヲ中和點トシ、三十二度ヲ氷點トス。瑞典人「セルシュウス」（攝氏）ノ製ナルハ、沸騰點ヲ百度トシ、最下ヲ氷點トス。佛蘭西人「レオミュル」（列氏）ノ製ナルハ、八十度ヲ沸騰點トシ、最下ヲ氷點トス。

かんたん-し（名）［邯鄲師］〔かんたんゆめのまくらニ寄セテ云フ語、其條ヲ見ヨ〕旅籠屋ニテ、旅人ノ眠レル間ニ、まくらさがしスル盜人ノ隱語。

かんたん-し（名）［感歎詞］感動詞ニ同ジ。

かんたん-の-ことば（名）［感歎詞］感動詞ニ同ジ。

かんたん-ゆめ-の-まくら（名）［邯鄲夢枕］人ノ一生ノ榮枯、盛衰モ、夢ノ如ク短クシテ、ハカナシト云フ意ノ語。支那ノ唐ノ開元年中ニ、邯鄲ト云フ地ニ、呂翁ト云フ仙人アリ、黃粱（黍）ヲ炊グ間ニ、盧生ト云フ少年、呂翁ノ枕ヲ借リテ眠ル、夢ニ、仕官シテ、貶セラレ、又、徵サレテ、終ニ、官、中書令ニ陞リ、燕國公ニ封ゼラレ、子アリ、孫アリ、八十餘年ニシテ終ハルト見テ、夢覺ムレバ、黃粱、未ダ熟スルニ至ラザリキト云フ。（李泌、枕中記）コレヲ、黃粱一炊の夢トモ、盧生が夢トモ云フ。

カンタリス（名）［芫青］〔英語、Cantharis.〕蟲ノ名。アヲハンメウ。

がん-だれ（名）［雁垂］〔常ニ、雁ヲ略シテ、厂ト記セバ云フ〕漢字ノ上ニアル厂ノ字。原、厚、厠、厩、ナドノ如シ。

かん-ち（名）［閑地］（一）閑靜ナル土地。モノシヅカナル土地。「閑地ニ隱居ス」（二）閑ニシテ、務メナキ地位。閑職。晉書、郗愔傳「乞二閑地一自養」

かん-ち（名）［寒地］〔暖地ナドニ對ス〕寒冷ナル土地。サムキトコロ。

かん-ち（名）［奸智］ワルヂエ。奸才。管子、八觀篇「姦智生、則邪巧作」太平記、三十五、北野通夜物語事「奸智ノ者、一人國ニアレバ、萬人ノ禍ト成ル」「奸智ニ長ク」

がん-ち（名）［瞎目］〔眼一ノ略〕カタメ。メッカチ。がんた。

かん-ちがひ（名）［勘違］〔盲人ノかんノよい、わるいノ、かんナリ〕カンガヘチガヒ。推察ノ、マチガヒタルコト。誤解

かん-ちく（名）［漢竹］漢竹ノ條ヲ見ヨ。

かん-ちく（名）［寒竹］〔冬、筍アル故ノ名ト云フ〕竹ノ一種、小サキモノ。高サ五六尺、甚ダ繁茂ス、多ク、人家ニ植エテ、生籬トス。幹ノ成熟シタルモノハ、黑キ斑ヲナス。紫竹

かん-ちく（名）［涵蓄］物ヲ、納メ蓄フルコト。含ミ、モツコト。包藏。含蓄。王炎詩「士欲レ齊二得喪一胸次要二涵蓄一」

がん-ちく（名）［含蓄］深キ意味ヲ、含ミ蓄フルコト。奧深キ學問、修養ナドノアルコト。包藏。蘊蓄。韓琦詩「毫端古意多二含蓄一」

がん-ぢん（名）［雁陣］がんかう（雁行）ノ條ノ（二）ヲ見ヨ。王勃、滕王閣序「雁陣驚レ寒、聲斷二衡陽之浦一」

かん-ちゃう（名）［翰長］〔漢書、揚雄傳、註「翰、筆也」正韻「凡稱二書翰一者、謂下以二羽翰一爲レ筆以書上」〕書記官長ノ異稱。

かん-ちゃう（名）［酣暢］快ク醉ヒテ、氣ノノビヤカニナルコト。晉書、阮修傳「常以二百錢一挂二杖頭一至二酒店一便獨酣暢」朗詠集、上、落花「春花面面闕二入酣暢之筵一晚霽聲聲殘二講誦之座一」

かん-ぢゃう（名）［函丈］〔禮記、曲禮、上篇「凡爲二長者一云云、若非二飲食之客一則布レ席、席間函レ丈」註「謂二講問之客一」說文「函、容也」席ト席トノ間ニ、一丈ノ餘地ヲ存スル意〕師ノ席ヲ云フ語。師ニ呈スル書簡ノ名宛ノ脇附ナドニ記シテ、尊敬スル意ヲ表ス。

かん-ぢゃう（名）［勘定］（一）カンガヘ、サダムルコト。唐書、王彥威傳「爲二勘定兩稅使一」（二）金穀、等ノ數ヲ、數ヘ上グルコト。算用。算當。會計。計算。吾妻鏡、八、文治四年六月十四日、乃貢未進「可レ遂二勘定一」（三）勘定シテ拂フベキ代金。賒債「勘定ヲ遣ル」「勘定ヲ取ル」

かんぢゃう-がき（名）［勘定書］（一）勘定計算ノ事ヲ記シタル文書。計算書。（二）カキダシ。賣掛金ノ請求書。

かんぢやうがしら（名）【勘定頭】徳川幕府ノ勘定奉行ノ舊稱。三代將軍ノ頃マデ、稱シタリ。大猷院殿御實紀、二十、寛永九年七月廿六日「[illegible]」

かんぢやうかた（名）【勘定方】金錢出納ヲ司ル役。勘手方。[illegible]

かんぢやうだか・し・キ・ケレ・ク・ク（形、二）【勘定高】金錢ノ取引キ勘定、餘リニ細カシ。セチベンナリ。ミミッチイ。

かんぢやうぶぎやう（名）【勘定奉行】（一）武家ニ、金錢出納ヲ總管スル役。[illegible]十三、建久四年十月廿一日「諸御領之貢結解勘定事、奉行人[illegible]」（二）徳川幕府ニテハ、諸國ノ直領、地方ノ遠國奉行、郡代、代官ヲ支配シテ、其租税、訴訟、裁判ヲ統ブル職。舊稱、勘定頭。[illegible]記、一「勘定奉行四人、從五位下、統領諸州代官、事[illegible]」

かんちゆう（名）【勘注】勘定シテ、帳ニ記シ入ルルコト。庭訓往來、十二月「損亡勘注、[illegible]用散失」

かんちゆう（名）【寒中】カンノウチ。小寒、大寒、二候ノ間。（暑中ニ對ス、寒ノ條ヲ併セ見ヨ）

がんちゆう（名）【眼中】（一）メノウチ。五代[illegible]行、與三郎司直「蕭張高歌留ニ吾子ハ眼中之人吾老[illegible]」（二）[illegible]ルコト。「眼中、人無シ」

かんつう（名）【感通】思フ心ノ、彼レニ

感ジ通ズルコト。感應。[illegible]

かんつう（名）【姦通】（一）ミソカゴト。男女、不義ノマジハリ。（二）マヲトコ。

かんづかさ（名）【神司】かみづかさニ同ジ。其條ヲ見ヨ。

かんづ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ（自動、四）【勘附】〔かんハ、盲人ニ、かんノヨシアシト云ヒ、かんちがひナドノかんナリ〕考ヘツク。ソレト、察シサトル。ココロヅク。察知。

かんづくり（名）【寒造】酒、濁酒ナド、寒中ノ水ニテ釀セルモノノ稱。味、殊ニ美ナリトス。[illegible]

かんつど・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ（自動、四）【神集】神神、集フ。諸神、アツマル。古事記、上[illegible]「八百萬神、於天安之河原、神集集而」云云。萬葉集、二[illegible]「天ノ河原ニ、八百萬、千萬神ノ、神集、集座シテ」

かんつど・ふ・フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ（他動、下二）【神集】前條ノ語ノ他動、かなふ、かなふる。神神ヲ集フ。諸神ヲ集ム。大祓詞「[illegible]、神漏美ノ命モチテ、八百萬ノ神等ヲ、神集ヘ集ヘ賜ヒ」

がんつぶて（名）【雁礫】雁ニ、礫ヲ打チツケテ、捕ルコト。狂言記、雁争、一名、雁礫「コレニ雁ガアル、コレハ捕リタイモノヂヤ、云云、つぶてヲ打タウ、ヤア、エイ、サレバコソ中タ、[illegible]ハ、シテヤッタ」

かんづま・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）【神留】〔神留ルノ轉、とまる、（留）つまる、（詰）相通ズ、とづく、とどく（屆）〕神、一處ニ

留マル。[illegible]「高天原ニ神留リ坐シテ、事始メタマヒシ、神漏岐、神漏美命ニ[illegible]、天降リタマヒシ後ニ、留リタマヒシヲ云ヘリ」[illegible]

かんづる（名）【蟹守】〔かにづるノ音便、蟹守、かんもりノ例〕かにぐさニ同ジ。

かんてい（名）【閑庭】モノ靜カナル庭。太平記、四、備後三郎高徳事「[illegible]松柏之枝ハ[illegible]叢菊之蕊ハ無三挿人一閑庭ニ落葉滿チテ、薔薇タリ」

かんてい（名）【鑑定】メキキ。ミキハメ。キハメ。鑑識。

かんてい（名）【戡定】〔戡ハ、爾雅、釋詁「殺也」廣韻「勝也、克也」〕軍ニ勝チテ、兵ヲ殺戮シ、平定スルコト。敵ニ勝チ、亂ヲ鎭ムルコト。鎭定。克平。[illegible]下之[illegible]定戡功、用資[illegible]人体ニ」

かんていりう（名）【勘亭流】芝居ノ番附、看板ナド書ク、一種ノ書風。書ヲ圓ク太ク、透間ナキヤウニ書ク。安永、或ハ云フ、文化ノ頃、江戸、中村座ノ手代、岡崎勘六、俳名、勘亭ト云フ者、客ヲ入ルル心ニテ、書ヲ、内ヘ内ヘト、筆ヲメグラシタルニ起ルト云フ。

かんてう（名）【干潮】〔滿潮ニ對ス〕潮ノソコリ。ヒキシホ。

かんてう（名）【漢朝】漢土、唐土ニ同ジ。[illegible]

がんでう（名）【五調】〔字ノ音、ごてうノ音便轉、妙[illegible]、（十聲）いりがら、我張る、

がんばる、牛蒡、ごんぼ[illegible]いこん（大根）ト、ハ、[illegible]、ハネモセデ、イラヌごんばう、チャンプクロ[illegible]ノ條件。大坪流馬書、五調[illegible]

がんでう（名）【頑丈】〔[illegible]タル馬ヨリ移ル〕人體ノ、極メテ強ク健ナルコト。物體ノ、極メテ堅固ナルコト。ダイヂャウブ。太閤記、十八「がん調ナル者ヲ雇ヒ」甲陽軍鑑、九、下、品第廿五「足手強[illegible]ナル者トモ[illegible]」合類節用集、八、言辭門「岩疊、又作二岩乘一、本朝俗語、[illegible]」

かんてき（名）〔閒鐵器ノ當字ヲ用キル〕[illegible]ノ一名。〔京阪〕

かんてふ（名）【間諜】〔說文「諜、軍中反間也」[illegible]〕間者ニ同ジ。[illegible]

かんてん（名）【寒天】サムゾラ。寒キ天。寒中ノ天。東海道名所記（萬治）五「カカル寒天ノ折リカラ、野洲ノ川、渡リ兼ネ侍ランニ、川ムカヒマテ、ソノ馬ニ乘セテ渡シテタマヘカシ」

かんてん（名）【寒天】〔寒晒心太ノ中略〕心太ヲ、寒夜ニ晒シテ、凍リ乾キテ、甚ダ輕クナリタルモノ。略シテ、てんトノミモ云フ。色白シ、煮テ再ビ凝レバ、透明トナル、コレニ、[illegible]ニテ、赤キ色ヲ加ヘタルヲ、色かんてんト云

フ、さしみ、なますナドノ點綴トシテ、美シ。洋菜(上海)

かんてん (名) 旱天 ヒデリノソラ。暑中ノ天。運歩色葉集「旱天」

かん-でん (名) 閒田 (一)古ヘ、年貢諸役ヲ上納セザル田。吾妻鏡、九、文治五年十月廿四日「當國檢注之間、可レ被レ劉二所所地頭閒田一之由事、尤驚聞食」(二)植附ヲナサザル田。

かんてん-ばん (名) 寒天版 寒天ニ、水、ぐりそりん、晒膠ヲ混ジテ煮テ、平面ノ盤ニ入レ、凝リ固マラセテ用キル、一種ノ印刷版、其狀、褐腐ノ如シ、故ニ、又、莨蒻版トモ云フ。文字、又ハ、圖畫ヲ、特製ノ紫いんきニテ書キタル紙ヲ、其面ニ載セテ、コレヲ印シ、其上ニ白紙ヲ置キテ刷ル。

カンテラ (名) 〔葡語、Candela.(燭臺)ノ訛、蘭語、Kandelaar.〕 油火ヲ燈ス器。眞鍮、銅ナドニテ作リ、綿絲ヲ心トス。手ニ携フルニ用キル。

かん-と (名) 奸徒 ワルモノドモ。

かん-ど (名) 漢土 モロコシ。カラ。支那。著聞集、二、釋教「吏部王記曰、眞崇禪師述二金峰山神通一云、古老相二傳之一、昔漢土有二金峰山一、金剛藏王菩住レ之」

かん-どう (名) 感動 甚シク感ズルコト。禮記、樂記篇「使下其曲直繁瘠、廉肉節奏、足二以感二動人之善心一而已矣」

かん-とう-ことば (名) 閒投詞 〔英語、Interjection.(中閒ニ投ゲ入ルルコト、感動ヲ表ハスタメニ、中閒ニ插入スル詞)ノ直譯、投閒ナルベキナリ〕 次條ニ同ジ。

かんどう-ことば (名) 感動詞 語學ノ語。喜、怒、哀、樂、等、汎ク、情ニ感ズルニツケテ發スル聲ニ云フ語。「あら哀シ」イトも畏シ」樂シキかな」等ノあら、も、かな、ノ如シ。ナゲキコトバ。感歎詞。歎息詞。閒投詞。

かん-とき (名) 霹靂 かみとけノ條ヲ見ヨ。

かん-とく (名) 監督 トリシマルコト。又、其人。後漢書、荀彧傳「古之遣レ將、上設二監督之重一、下建二副貳之任一」

かん-とく (名) 感得 信心ノ、神佛ニ感通シタルニ因リテ、物事ヲ得ルコト。

かん-どく (名) 簡牘 〔簡ハ、爾雅、釋器、疏「竹簡也、古未レ有レ紙、裁二文于簡一、謂二之簡札一」牘ハ、說文「書版也」トアリ、然レバ、竹ニ書キタル文ヲ簡ト云ヒ、版ニ書キタル文ヲ牘ト云フナリ〕(一)文書。書札。北史、李元護傳「頗覽二文史一、習二於簡牘一」(二)手紙。書簡。莊子、列禦寇篇「小夫之知、不レ離二苞苴簡牘一」

かん-どくり (名) 燗德利 德利ノ、酒ノ燗スルニ用キルモノ。

かん-とけ (名) 霹靂 かみとけノ條ヲ見ヨ。

かん-どころ (名) 甲處 〔アガル音ノ甲ヨリ出デタル語〕 三味線ナドニ、左指ニテ絃ヲ棹ニ抑ヘツケテ發スル音調ノ節ヲナサシムル點。明和ノ川柳「踊子ノ、留守居ヲ笑フ、かんどころ」(留守居ハ、留守居役ナリ)

かん-どの (名) 神殿 神社。神殿。狹衣、四、上「かむどのニ入ラセタマヒテ」

かん-とも (名) 神部 〔次條ノ語ノ、かんとものをノ略〕 神祇官ノ下司。カンベ。持統紀、五年十一月、大嘗、饗二神祇官長上以下、至二神部等一」職員令、神祇官「神部三十人」「凡四時諸祭、不レ云二祝詞一者、神部、皆依二常例一宣レ之」

かん-とものを (名) 神部 〔神伴緒ノ義、かんとものヲ條ヲ見ヨ〕 神事ニ事ヘマツル官人。かんとも。四時祭式、上「神部引二神部等一入立二於西舍之南庭一」

かん-どり (名) 楫取 かぢとりノ音便。其條ヲ見ヨ。

かん-どり (名) 舵取 かぢとり(舵取)ノ音便。

かん-どり-ぐさ (名) 蟹取草 かにとりぐさノ音便。

かん-どり-おそで (名) 蟹取小袖 かにとりおそでノ音便。其條ヲ見ヨ。

かん-な (名) 鉋 〔古言、かなノ音便、かがみる、かんがみる〕 古名、かな。材ノ面ノ凹凸ヲ削リテ、平ニスル刃物。形、種種ナリ。名義抄「鉋、カムナ」 鎗がんな、又、竿がんなハ、鎗ノ鋒ノ如クニシテ曲ル。鑿突がんな、又、桶がんなハ、刃廣シ、兩端ニ柄アリ、推シテツカフ、桶工ナド用キル。鉋 今、工匠ノ専ラ用キルハ、臺がんなナリ、堅キ材ヲ、硯ノ如クニ作リテ、横ニ細ソキ溝アリ、廣ク短キ刃ヲ塡メ、裏面ニ出シテ用キル、精粗ニ因リテ、粗がんな、中がんな、上がんな、等アリ。又、臺がんなノ一種ニ、溝がんなアリ、刃ノ巾、甚ダ狹ク、敷居ノ溝ナド、掘リ削ルニ用キル。起線鉋

かん-な (名) 假名 假字 〔假名ノ音便、(殘りの雪、のこんのゆき。畢りぬ、をはんぬ)更ニ約メテ、かなトモ云フ、(案內、あない。本尊、ほぞん)なハ、字ノ義、(字ノ條ヲ見ヨ)眞名(漢字)ニ對スル語ニテ、眞名ノ音、又ハ、訓ヲ取リテ、國語ノ音ヲ寫スニ、假リ用キル字ノ義ナリ〕 人ヲ比比ト書キ、瓶ヲ加女ナド書クガ如キヲ云フ、(くらぶ、とどむ、くはふ、をみなノ意ハ無シ)卽チ、假借字ニテ、コレヲ眞名書ト云フ、是レ假名ナリ、奈良朝ノ頃マデハ、スベテ眞名書(萬葉假名)ナリシニ、其字ノ畫ノ、多クシテ、書クニ難澁ナルニ因リテ、平安朝ノ初期ニ至リ、婦人ノ用ニ、比比、加女ナドノ草書ノ體ヲ、甚シククヅシテ、ひと、かめナド書キ取ルコトトナリテ、草假名ト云ヒ、女手トモ云ヒ、遂ニ、此草假名ヲ、專ラ、單ニ、かんな、かな、ト云フヤウニナリ、(後ニ、ひらがなノ稱、起ル)又、別ニ、一種ノ體ノモノモ出來テ、ソレヲバかたかんな(片假名)ト云フヤウニナレリ、此二樣ノ假名ノ字體ハ、其初ハ、人人、心ニ任セテ書キ倣シタレバ、古クハ、其體、種種ナリキ、今ノ如ク、其形ノ一定シタルハ、遙ナル後ノ世ノ事ナリ」 又、かなトモ云フ。日本ノ字、卽チ、以呂波歌四十七字ノ稱。「い、ろ、は、に、ほ、へ、と」ナドノ體ナルガ、かんなニテ、又、草假名、平假名ト云ヒ、「イ、ロ、ハ、ニ、ホ、ヘ、ト」ナドノ體ナルヲ、かたかんな、又、片假名ト云フ。今ハ、かんなニ、んヲ加ヘ、片假名ニ「ン」ヲ加ヘテ、四十八トス、共ニ、漢字ニ交ヘテ用キラル。かたかんな、ひらがなノ條ヲ併セ見ヨ。日本字母 源、二、帚木「消息文ニモ、かんなト云フモノヲ書キマゼズ、宜宜シク言ヒマハ

シ[illegible]ナレド、かんなノミナム、今ノ世ハ、イト、キハナクナリタル」宇津保物語、國讓、中「[illegible]春ノ詩、若キ色紙ニ書キテ、松ニツケタルハ、草(草書)ニテ、夏ノ詩、[illegible]かた[illegible]本字ニ對スル假名ノ[illegible]云フ意ニ用[illegible]子ニナンボ私カイヤダトナ、ソリ、アンマリテ[illegible]ンシウ、[illegible]ナフイヤト、假名デ云ヒナンシ、云云[illegible]テ[illegible]シキス

かん-な (名) [寄居蟲] かみなノ音便。其條ヲ見ヨ。

かん-なう (名) [肝腦] 肝臟ト、腦髓ト。[illegible]「肝腦、地ニ塗ル」

かん-ながら (副) [隨神] かみながらノ條ヲ見ヨ。

かんながら-の-みち (名) [隨神道] 神代ヨリ來タリシママニテ、人意ヲ挾マヌ道。神慮ノママナル道。

かん-なぎ (名) [巫覡] 〔神和ノ義〕かみなぎノ音便、其ノ條ヲ見ヨ」カウナギ。

かんな-くづ (名) [鉋屑] 〔かなくづノ音便、〔かなかみる、かんなかみる、其條ヲ見ヨ」〕鉋ニテ削リテ出ヅタル、木、竹ノ屑。狂言記、[illegible]かんなくづ、[illegible]

かん-な-づき (名) [神無月] 〔かみなづきノ音便、神戸、かんべ〕かみなづきノ條ヲ見ヨ。

かんなび (名) [神名備] 〔神の杜ノ約ナル、かんなみノ轉ト云フ〕神社ノ杜。ミモロ。大和國、飛鳥ノかんなび、同國、龍田ノ[illegible]和州龍田」

かん-なべ (名) [燗鍋] 酒ノ燗ヲスルニ用キル鍋。多クハ、銅製ニテ、蓋アリ、注口アル物ヲ云フ。[illegible]常ニ「かん鍋一ツ、手爐一本」

かん-なん (名) [艱難] 苦シミ、ナヤムコト。艱苦ト、難儀ト。辛苦。[illegible]

かんなめ (名) [神嘗] 次條ノ語ノ略。其條ヲ見ヨ。[illegible]

かんなめ-の-まつり (名) [神嘗祭] かんなめハ、神の饗ノ約轉、嘗ノ字ノ義ハ、新嘗ノ語原ヲ見ヨ」其年ノ新穀ヲ、第一ニ、伊勢ノ神宮ニ奉ラセタマフ御祭事。陰曆、九月十一日ニ、御使ニ授ケラレ、御使、伊勢ニ至リ、十七日ニ、大神宮ニ供ヘラル。毎年ノ事ナレバ、コレヲ例幣使トモ云フ、今ハ、十月十七日ト定メラル。神嘗。ジンジャウサイ。

かんなり-の-ぢん (名) [雷鳴陣] かみなりのぢんヲ見ヨ。

かんなり-の-つぼ (名) [雷鳴壺] かみなりのつぼヲ見ヨ。

かん-にく (名) [乾肉] ホジシ。乾シタル肉。乾脯。[illegible]

かん-にち (名) [坎日] 曆ノ上ニ、外出ヲ[illegible]ちニモアリケルヲ、モシタマサカニ、思ヒユルシタマハバ、急シカラム」

かん-にへ (名) [神贄] かんなめのまつりニ同ジ。[illegible]

かん-にん (名) [堪忍] (一)タヘ、シノブコト。堪フルコト。忍耐。[illegible] (二)怒ヲ堪ヘテ、他ノ罪ヲ免スコト。[illegible]テクレウ」

カンニング (名) [狡猾] 〔英語、Cunning.〕狡猾キコト。人目ヲ盜ミテ、良カラヌ行ヒヲスルコト。

かんにん-ぶくろ (名) [堪忍袋] 又、おらへぶくろ。腹ヲ、袋ニ譬ヘテ、怺ヘ堪忍シテ、腹ニスヱテ居ル意ヲ云フ語。怺ヘテ居ルヲ、堪忍袋の緒を締めるト云ヒ、怺ヘラレズ、腹ニスヱカネルヲ、緒が切れるト云フ。生玉心中(正徳、近松作)上「嘉平次ハ、モウコレマデ、堪忍袋モ、破レカブレ、飛ンデ出デムトスル處」毛吹草(正保)冬、俳「おらえ袋、切レテヤ[illegible]」

かんにん-ぶん (名) [堪忍分] 次條ヲ見ヨ。

かんにん-れう (名) [堪忍料] 〔不足ノ宛行ナガラ、當分、是レニテ堪忍セヨ、トノ意ナリト云フ「松屋筆記、三、第十三」〕扶助料、扶持米ト、同意ノ語。堪忍分。[illegible]アリ」(領ハ、料ノ當字ナラム) 甲陽軍鑑、十一、下、

かん-ぬし (名) [神主] 〔神の大人、いはひぬし〕(一)〔臨時ノ神祭ニ、第一ニ主タル人、上古ニハ、西務トセリ〕[illegible]神主」(二)〔神社ニ奉仕スル、神官ノ長。其下ニ、禰宜、祝部、等アリ、神事一切ノ事ニ從事ス。[illegible] (三)泛ク、神社ニ仕フル人。神官。祠官。

かん-ねい (名) [奸佞姦佞] 心ノ、ネヂケタルコト。又、其人。佞奸。[illegible]「[illegible]奸佞於州國」

かん-ねつ (名) [寒熱] [illegible]ト、熱ト。[illegible]

かん-ねブツ (名) [寒念佛] 信者ノ、寒夜ノ修行トシテ、叩鉦ヲ打鳴ラシ、念佛ヲ唱ヘツツ、佛寺ニ詣ヅルコト。[illegible]ノ、寒ノ初ヤ、寒念佛」

かん-の-いり (名) [寒入] かん(寒)ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。

かん-のう (名) 〔かんおうノ連聲〕感應ニ同ジ。

かん-のう (名) [堪能] 事ノ為スニ、堪ヘテ能クスルコト。技ニ、妙ニ巧ミナル[illegible]

コト。上手。練磨。宋書、明帝紀「其文武堪能、隨レ才銓用」 徒然草、百八十七段「ヨロヅノ道ノ人、タトヒ不堪タリト云ヘドモ、堪能ノ非家ノ人ニナラブ時、必マサルコトハ、撓ミナク愼ミテ、輕輕シクセヌト、偏ニ自由ナルトノ、ヒトシカラヌナリ」「絲竹ニ堪能ナリ」文武ノ道ニ堪能ノ者」

かん-の-おんぞ　(名)　［廿御衣］　くつろぎのおんぞヲ見ヨ。

かん-の-きみ　(名)　［長官君］　次次條ヲ見ヨ。

かん-の-くだり　(名)　［上件］　〔かんハ、かみノ音便〕　上ノ件。前ノ條條。大和物語、下「アリツル由ヲ、かんのくだり啓セサセケリ」

かん-の-との　(名)　［長官殿］　長官殿ノ音便、敬稱ナリ。頭ニモ、督ニモ云フ。（かうのとの（長官殿）ノ條ヲ併セ見ヨ）　かんの君。（かうのきみ）　かんのぬしト云フモ同ジ。　源、四十九、東屋九「かんのとのノ御娘ニハオハセズ」　同、四十三、竹川三「かんの君ノ御近キ緣」　同、四十九、東屋八「かんのぬしノ人ガラモ、物物シク、オトナシキ人ナレバ」

かん-の-ぬし　(名)　［長官主］　前條ヲ見ヨ。

かん-の-ぼ・る・ル・レ・ラ・リ・レ　(自動、四)　［神上］　〔かんくだるニ對ス〕　かみあがるニ同ジ。　其條ノ(一)ヲ見ヨ。

がん-の-ま　(名)　［雁間］　〔襖障子ニ、刈田ニ雁ノ圖ヲヱガケリ〕　江戸城中ノ席ノ名、等級、柳間ニ次グ、城主ノ譜代大名、此席ニ詰ム。又、詰衆トモ云フ。

カン-の-もち　(名)　［羹餅］　〔かんハ、羹ノ唐音、（其條ヲ見ヨ）　羹の餅ノ意〕　元日ノざふにもち（雜煮餅）ノ異稱。略シテ、かんトモ云ヒ、元日ニ食フヲ、かんを祝ふト云フ。　醒睡笑（元和）三「不文字ニ元日ニ、かんをいはふトコロヘ、數ナラヌ者、禮ニ來ル」　和漢三才圖會（正德）四、時候「羹餅、一名、雜煮」　物類稱呼（安永）四、飳「畿内ニテ雜煮ト云ヒ、又、かんトモ云フ、江戸ニテハ、新吉原ニテかんト云フ、おかんをいはふ、又、おかん箸ナド云フ」

かん-のり　(名)　［寒海苔］　海苔ノ條ヲ見ヨ。

かんば　(名)　［樺］　〔古名、かにはノ音便、綺、かんはた〕　樺ニ同ジ。

かん-ば　(名)　［汗馬］　〔馬、烈シク馳スレバ、汗出ヅ〕　騎士ノ、烈シク馬ヲ馳セテ、戰フコト。　太平記、二十六、四條繩手合戰事「旌旗、東西ニ入リ雜リ、汗馬、西北ニ馳セ違ヒ」　汗馬の勞トハ、戰場ノ手柄。戰功。　韓非子、五蠹篇「棄二私家之事一、而必二汗馬之勞一」　史記、蕭相國世家「今蕭何未三嘗有二汗馬之勞一、徒持二文墨一議論不レ戰」

かん-ば　(名)　［駻馬］　アガリウマ。猛クシテ、制シ難キ馬。アラウマ。ハネウマ。ジャジャウマ。　韓非子、五蠹篇「如欲下以二寬緩之政一、治中急世之民上、猶下無二轡策一、而御中駻馬上」

かん-ぱ　(名)　［看破］　〔破ハ、了ナリ、見おほする意ナルヲ、誤用スルナリ〕　見ヤブルコト。ミヌクコト。ミスカスコト。

かん-ばい　(名)　［寒梅］　梅ノ一種。花、最モ早クシテ、寒中ヨリ開クモノ。早梅　王維詩「已見二寒梅發一」

かん-ぱい　(名)　［感佩］　辱シト、深ク心ニ感ジテアルコト。感荷。　曾鞏狀「其爲二感佩一、曷罄二敷陳一」

かん-ぱい　(名)　［乾杯］　(一)杯ノ酒ヲ、飲ミ乾スコト。　新儀式、四、奉レ賀二天皇御算一「欲レ獻二御酒一之時、親王進跪唱平、卽乾杯、御揖訖稱」　(二)今、宴會ノ祝杯ノ稱。人ノ健康ヲ祝スルニテ、壽ヲ爲ス意ナリ、しゃんぱん酒ノ盃ヲ右手ニ捧ゲ、椅子ヨリ立チテ、祝詞シテ、飲ミ乾ス。西洋ノ禮ノ移レルニテ、英語、Toast. ノ譯語ナリ。

かん-ばう　(名)　［感冒］　カゼヒキ。風邪。　水滸傳、第八回「小人於レ路感冒、風寒未二曾痊可一」　醫學天正記、乾、上「感冒發熱、熱退度咳痰、久不レ食」

かん-ばう　(名)　［看坊］　禪寺ノ、留守居ノ僧。　塵添壒嚢抄、四、二十條「常ニ禪院留守僧ヲ、かんばうト云ハ、文字如何、看坊ト書也、强、留主ニ不レ限、只尋常ノ後見也、寮ノ時、看寮ト云、世諦ヲミサバクル也」

かん-ばう　(名)　［監房］　監獄ニテ、監禁ノ人ヲ入レオク房。　仕學大乘「照レ簿點入二監房一」

かん-ばう　(名)　［漢方］　醫術ノ、支那ヨリ傳ヘタルモノ。（洋方ニ對ス）

かん-はか・る・ル・レ・ラ・リ・レ　(他動、四)　［神議］　神神、事ヲ相議ル。　萬葉集、二廿七長歌「天ノ河原ニ、八百萬、千萬神ノ、云云、神分、分リシ時ニ」　大祓詞「八百萬ノ神等ヲ、神集集ヘタマヒ、神議議リタマヒテ」

かんば・し　(形)　［馨］　かうばしノ音便。其條ヲ見ヨ。

かんばし・る・ル・レ・ラ・リ・レ　(自動、四)　［甲走］　〔甲ノ條ヲ見ヨ〕　聲、强ク細ク、高シ。　浮世風呂（文化、三馬）二、編、上「かんばしッタル聲ヲアゲ」

カンバス　(名)　［畫布］　〔英語、Canvas.〕　框ニ、布ヲ張リタルモノ。油畫ヲ書クニ用キル。

かん-ばせ　(名)　［顏］　かほばせノ音便。　運歩色葉集「顏、カンバセ」　長町女腹切（正德、近松作）下「肩先ガハト突キ込ンダリ、左手ヘ外レ、右手ヘ外レ、苦シムかんばせ、夫ハ悲シム」

かん-はた　(名)　［綺］　〔かにはたノ音便、（蟹守、かんもり）綺ハ、斜文ノ織物トオボシケレバ、蟹行ノ意ニテ、蟹緒ナドナルベキカ、イカガ、（後世、龜甲形ヲ織リ成セルニ、龜綾ト云フアリ）〕　綺ハ、應神ノ朝ニ、支那ヨリ織女ノ來リテヨリ出來シモノナラム、平安朝ノ頃ニハ、字音ニ、綺ト云ヘリ、垂仁紀、三十四年三月ニ、山背ノ國ノ地名ヲ負ヘル婦人ノ名ニ、苅幡戸邊、又、綺戸邊アリ、コレハ、刈畠ナドナルヲ、後ニ、かんはたト云ヒシニ、（假名、かんな）綺ヲ借字シテ書ケルナラム、倭名抄、六五十山城國、相樂郡「蟹幡郷、加無波多」トアルハ、同地名ナリ、（舊、今昔物語、十六、第十六條ニ、山城ノ蟹滿多寺、見ユ）かり、かにモ、相通ズ（稻荷、いなり）〕　斜文ヲ織出シタル白絹布ナルベシ。字音ニ、綺トモ云フ。（其條ヲ見ヨ）　華嚴經私記音義（平安朝初期）「綺、加尼波多」　倭名抄、十二六十「綺、似レ錦而薄者也、俗云レ岐、一訓、加無波太」　釋名、釋采帛「綺、欹也、其文欹邪、不レ順二經緯之從橫一也、云云、有二棊文一、方文如レ棊也」　六書故「織采曰レ錦、織素爲レ文曰レ綺」

かん-ばつ　(名)　［旱魃］　〔詩經、大雅、蕩之什、雲漢篇「旱魃爲レ虐」傳「魃、旱神也」〕　ヒデリ。　著聞集、六、管絃歌舞「篳篥吹遠理ガ父、阿波守ニテ下向ノ時、云云、其年、旱魃ノ愁アリケレバ、トカク祈雨ヲハゲメドモ、カナハズ」

かん-はとり　(名)　［神服部］　〔はとりノ條ヲ見ヨ〕　伊勢ノ大神ノ、神衣ヲ織リ奉ルヲ職トスル人。かんみぞまつりノ條ヲ見ヨ。

かん-はふ・る・ル・レ・ラ・リ・レ　(他動、四)　［神葬］　〔神ハ、御靈ヲ云フ〕　葬るノ敬語。ハウムリタテマツル。　萬葉集、二三十五高市皇子殯宮之時作長歌「百濟ノ原（大和、廣瀨郡）ユ、神葬り、葬リイマシテ」　同、十三三十八同上「神葬、葬リ奉レバ、行ク路ノ、タヅキヲ知ラニ」

かん-ばん (名) [看版 看板] (一)商家ナドニテ、家名、職業、商品ナドヲ、板、紙、等ニ、字ニ記シ、或ハ畫ニカキナドシテ、簷、又ハ、門ナドニ揭ゲ、往來ノ人ニ示シ看スルモノ。芝居、興行物ナドニ、狂言ノ題目、役者ノ名ナドヲ、記シテ揭グルモノニモ云フ。招牌 [illegible]「[illegible]貌シ、看板ニ行燈ヲカケ、端ニ番曲ヲ入レ」 (二)主人ノ家紋、紋所ナドヲ染出シテ、下部、雇人ナドニ着スル法被。紋所ヲツケタル提灯ナドヲモ云フ。號衣 [illegible]「[illegible]殿、對ノかんばんヲ着テ、シャチバリカヘッテ居ル」

かん-ばん (名) [甲板] [甲ノ條ヲ見ヨ] 大船ノ上ノ床ノ、一面ニ、板ヲ張リツメタル處。カフハン。カメノカフ。[illegible]

かん-ばん (名) [乾板] 寫眞ノ撮影ニ用キル具。硝子板ニ[illegible]ヲ[illegible]テ、乾シタルモノ。

✤✤がん-ば・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) [頑張] 我張るノ音便、[illegible]、がんばき 我意ヲ張ルノ口語。

がん-ぴ (名) [雁皮] [古言、かにひノ轉] (一)古名、かにひ。落葉ノ灌木、瑞香樹ノ屬ナリ、高サ三四尺、或ハ、丈ニ至ル、叢、互生シ、ふんてんノ一葉ニ似テ、背ニ柔キ毛アリ、芒種ノ後、枝ノ端、葉ノ間ニ花ヲ出ス、四出ノ淡黄白色ニシテ、丁子ニ似テ、小サシ、皮ヲ紙トシ、雁皮紙ト云フ。[illegible]花一種、同種ニ、小雁皮、黄小雁皮アリ。(二)次次條ノ語ノ略。

がん-ぴ (名) [岩菲] せんおうげ(仙翁花)ノ一名。剪夏羅 新撰類聚往來「仙翁花、岩菲」

がんぴ-し (名) [雁皮紙] 古名、斐紙。紙ノ一種、雁皮ノ木ノ皮ニテ製スルモノ。但シ、今ノ製ハ、三椏、[illegible]ニ同ジ。但シ、鳥子紙トのりのきノ皮トヲ用ヰルヲ、眞ナリトス、薄キ、板ニ張リ、表裏ノ面ヲ山[illegible]ノ[illegible]ニテ磨ル、質、緻密ニシテ、上品ナリ。略シテ、がんぴ。斐紙 [illegible]下「[illegible]約束之雁皮之紙、彼、[illegible]」

かん-びゃう (名) [看病] (一)人ノ病ヲ看取ルコト。病人ヲ介抱スルコト。看護。[illegible] (二)僧ノ、說法、呪法ナドシテ、病者ヲ[illegible]スコト。瞻病トモ云ヒ、看トノミモ云フ。[illegible]

がん-びゃう (名) [眼病] メヤミ。眼氣。目疾 [illegible]「[illegible]」レシ時、云云、我等眼病、大方愈タリ」

かん-ぶ (名) [幹部] 集會、團體ノうはまはりノ役人。「[illegible]」

かん-ぷ (名) [姦夫] ミソカヲ。マヲトコ。

かん-ぷ (名) [姦婦] 妻ノ、マヲトコスルモノ。

かん-ぷう (名) [寒風] 寒キ風。[illegible]「[illegible]」

かん-ぷく (名) [感服] 感ジテ、從フコト。善シトシテ、深ク歎ズルコト。[illegible]

かん-ぶくろ (名) [紙袋] かみぶくろノ音便。[illegible]「[illegible]以[illegible]天下[illegible]、[illegible]」

かん-ぶつ (名) [乾物] [illegible]用ノ[illegible]ノ、乾シ貯フルモノノ總稱。(昆布、乾[illegible]、[illegible]ノ類)

かん-ぶつ (名) [奸物 姦物] 奸曲ナル人。

がん-ぶつ (名) [贋物] ニセモノ。僞物。

かん-ぶな (名) [寒鮒] 寒中ニ捕ル鮒。味、美シ。

かん-ぶん (名) [漢文] 漢字ノミノ文章。(假名文ニ對ス)[illegible]

かん-ぶん (名) [感憤] 感ジ入リテ、精神ヲ奮ヒオコスコト。[illegible]

かんぶん-がく (名) [漢文學] 支那ノ文學。漢書ヲ究ムル學問

カンフル (名) [illegible]、Kamfer. 獨語、Kampfer. 英語、(Camphor.) 樟腦。[illegible]、一切經音義「龍腦、羯布羅」

カンフル-チンキ (名) [英語、(Camphor tincture.)] 樟腦ヲ、酒精ニ浸シタルモノ。藥用トス。

がん-ぶろ (名) [雁風呂] [雁ノ、秋渡リ來ル時、海上ニ浮キテ休ム用ニ、木ノ枝ヲ含ミ來リ、春去ル時、再ビ含ミ歸ル、多ク殘ルハ、捕ハレ死セルアレバナリト云フ、其供養ニスルコトナリトゾ] 山[illegible]ノ[illegible]、陸奥國、津輕ノ外ガ濱ニテ、海岸ニ、雁ノ殘シタル木ノ枝ヲ焚キテ、諸人ニ施行セシ風呂ノ稱ナリト云フ。

かむ-べ (名) [神戶] 神社ニ屬ケタル民戶。音便ニ、かうべ。又、神田。[illegible]七年十一月「[illegible]八十萬神、云云、[illegible]」[illegible]及供[illegible]」

かん-べ (名) [神部] (一)神部。(二)今、[illegible]ノ、[illegible]ノ職員。

かん-べう (名) [illegible] [illegible]

かん-べき (名) [illegible] [illegible]

かん-べ-し (名) [神部署] 今、[illegible]宮ニ屬スル官署。[illegible]、神部、等ノ職員アリテ、[illegible]ノ[illegible]、[illegible]ノ出納、等ノ事ヲ掌ル。

かん-べつ (名) [鑑別] 鑑定シテ、見別クルコト。[illegible]

かん-べに (名) [寒紅] 寒中ニ製シタル紅、色、[illegible]ニ[illegible]トス。[illegible]「色見エテ、ウツロフモノヤ、寒のべに」[illegible]ノ長サ)

かん-べん (名) [勘辨] (一)勘へ、辨フルコト。思ヒ分クルコト。[illegible]品第三十二「所務ノ勘辨、上手ノ人ナレバ」 (二)他ノ非ヲ、許シヤルコト。[illegible]

かん-べん (名) [簡便] 手輕ニテ、便利ナルコト。[illegible]

かんへんたう (名) あめんどう(巴旦杏)ノ異名。其條ヲ見ヨ。
かんぽ (名) 乾脯 ホシタル肉。ホジシ。乾肉。
かんぽ (名) 閑歩閒歩 シヅカニ、アユムコト。散歩。漫歩。史記、范雎傳「爲ニ微行一敝衣閒歩」漢書、朱博傳「博去レ吏、閒歩至ニ廷尉中一」
かんぼう (名) 奸謀姦謀 ワルダクミ。奸計。後漢書、張綱傳「姦謀自消、和氣感應」太平記、三十五、北野通夜物語事「奸謀ノ人ニ於イテハ、忽チ罪科ニ申シ行フベシ」
かんぽう (名) 看棚 サジキ。
〔かんほぎ (名) 神壽神賀 カンホグコト。神語ノ壽詞。出雲國造神賀詞「神賀吉詞申シタマハクト奏ス」
〔かんほ・ぐ・グ・ゲ・ガ・ギ・ゲ (他動、四) 神壽 〔神集ふ、神謀る、同趣〕壽ギ祝フ。神功紀、十三年二月「皇太后擧レ觴、以壽ニ于太子一、因以歌曰「此御酒ハ、云云、少彦名ノ、豐壽ギ、壽ギモトホシ、神壽ギ、壽ギクルホシ、獻リ來シ、御酒ゾ」
かんぼく (名) 翰墨 (一)翰ト、墨ト。(二)文章ヲ草シ、又、書畫ヲ書クコト。宋史、米芾傳「特妙ニ于翰墨一、沈著飛翥、得ニ王獻之筆意一」(三)文筆ニ關スルコト。唐書、李賀傳「辭尙ニ奇詭一、所レ得皆驚邁、絶ニ去翰墨畦逕一」
かんぼく (名) 肝木 灌木ノ名、あぢさゐノ屬。高サ五六尺、葉ハ葡萄ニ似テ、尖リテ、皺無ク、三叉ヲナシテ、鋸齒アリ、對生ス、夏ノ初、五瓣ノ小白花、簇リ開ク、莖毎ニ七朶ニシテ、あぢさゐニ似タリ、秋、子ヲ結ブ。材、堅クシテ、香氣アリ、やうぢトス、かんぼくやうぢト云フ。

かんぼくやうぢ (名) 肝木楊枝 前條ヲ見ヨ。
〔かんほさ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (他動、四) 神祝 〔ほさくハ、壽ぎさくナルベシ、(ひきさぐ、ひさぐ。ひきはぎ、ひはぎ)波ノ立ツヲ、咲くト云フ〕盛ンニ、神壽ギ禱ル。神代紀、上「天照大神、天石窟ニ隱リタマフ、八百萬神、禱ルベキ方ヲ計リ、鏡、幣、玉、等、集ル時「天兒屋根命、則以神祝祝之」此云ニ加武保佐枳保佐枳一」(丁寧反復シテ禱ルナリ)
かんぼつ (名) 陷沒 落チ込ムコト。オチイルコト。陷落。莊子、外物篇「大魚食レ之、牽ニ巨鉤一陷沒而下」晉書、山簡傳「及ニ洛陽陷沒一、簡又爲ニ賊嚴嶷所レ逼」
かんぽん (名) 刊本 刊行シタル書籍。板本。(寫本ニ對ス)
かんまん (名) 干滿 潮ノミチヒ。干潮ト、滿潮ト。
かんまゐり (名) 寒參 寒中、夜中ニ、裸體ニ褌シテ、素足ニテ、神社、佛閣ニ馳セ參リテ、祈願スルコト。堪ヘガタキヲ堪ヘテ、願立ノ信心ナルコトヲ表スルナリ、多クハ、工匠ノ徒弟ナドノ、技藝ノ上達セムコトヲ祈ルニス。今ハ、裸體ヲ禁ゼラレテ、單衣ヲ着ル。
かんみ (名) 甘味 アマミ。ウマミ。史記、蘇秦傳「寡人坐不レ安レ席、食不レ甘レ味」
かんみ (名) 鹹味 シホケ。カラミ。
〔かんみぞ (名) 神衣 〔みぞ(御衣)ノ條ヲ見ヨ〕神ノ着タマフ御衣。神代紀、上廿七「天照大神、方織ニ神衣一」
〔かんみぞまつり (名) 神衣祭 〔かんみぞハ、神御衣ノ轉〕伊勢内宮ノ、初夏ノ

御祭事。神衣ヲ織リ作リテ、大御神ニ奉リタマフナリ、季秋ニモアリ。神祇令「孟夏、神衣祭」義解「謂ニ伊勢神宮祭一也、此神服部等、齋戒潔淸、以ニ參河赤引神調絲一、織ニ作神衣一、又、麻績連等績レ麻、以織ニ敷和衣一、以供ニ神明一、故曰ニ神衣一」同「季秋神衣祭、謂、與ニ孟夏祭一同」(あからひきのいとノ條ヲ併セ見ヨ)
かんみやう (名) 漢名 カラナ。支那ニテ稱スル名。漢名。「卯花、漢名、水晶花」
かんむり (名) 冠 〔かがふりノ音便〕(一)頭ニ被ルモノノ總稱。カウブリ。カウムリ。カムリ。冠帽革制考「上古ノ冠ハ、イカニトモ考フベキ據ナシ、推古ノ御宇ヨリ、如レ囊冠ヲ用ヒタマヒシヲ、天武天皇ノ十一年ヨリ、改メテ、漆紗冠ヲ用ヒ給フ、是卽、今ニイフ頭巾ニテ、幞頭トイフモ、同物ナリ」(二)古ヘ、衣冠束帶ノ時ニ用キシ、カブリモノ。其ノ形狀、種類、多シ、各條ヲ見ヨ。(三)漢字ノ頭ニック、種種ノ字ノ稱。(ウ冠、艹冠、竹冠ノ類)
かんめい (名) 漢名 前前條ニ同ジ。
かんめい (名) 感銘 心ニ感ジ、肝ニ銘ジテ、忘レザルコト。銘感。陳師道、答ニ陳先輩一書「書問見レ貽、感銘斯切」
かんめい (名) 簡明 簡單ニシテ、明瞭ナルコト。「簡明ナル事實」
がんめん (名) 顏面 カホ。オモテ。蘇軾詩「塵土汙ニ顏面一、年華侵ニ鬢霜一」「顏面神經」
かんもく (名) 緘默 口ヲツグミテ、物言ハヌコト。宋史、張洎傳「儻君父焦ニ勞於上一、臣子緘ニ默於下一、不レ能下引ニ大體一以爭上、則忠良之心、有レ所レ不レ至矣」
がんもく (名) 眼目 (一)メ。マナコ。北史、周太祖紀「此小兒、眼目異」蟬丸(元祿、近松作)五「天台ノ釋文ニモ、法華、彌陀、眼目ノ異名トテ、釋

迦ト阿彌陀ハ、譬ヘバ、月トイヒ、まなこト云フガ如クニテ」(二)物事ノメボシ。主眼。要點。ゲンモク。傳燈錄「參學眼目、臨レ機直須ニ大用一」
かんもち (名) 寒餠 (一)寒中ノ水ヲ用キテ、搗キタル餠。貯ヘテ、夏ニ至リテ變ゼズトテ、賞ス。(二)又、寒餠ヲ切餠トシテ、寒中ノ水ニ浸シタルママニテ、貯フルモノ。久シクシテ、黴ヲ生ゼズ。
がんもどき (名) 雁擬 〔雁ノ肉ニ擬キタル意、雁養ナドトモ記ス〕蒟蒻ヲ小口切ニシ、鹽ニテ洗ヒ、揉ミサラシ、葛粉ニクルミテ、油ニテアゲテ、味ヲツケタルモノ。(料理通、三) 今ハ、牛蒡、にんぢん、あさのみナド刻ミテ、豆腐ニマゼテ、油ニテアゲタルモノヲモ云フ。ヒリュウヅ。皇都午睡、三編、上(上方ト江戸トノ言ヲ比較セルニ)「飛龍白ヲ、雁もどき」
かんもん (名) 勘文 〔勘文ト訓ムヲ、讀例トスト云フ、(名目抄、註)垣下、えが。厭舞、えぶ〕かんがへぶみ。又、かもん。事實ヲ勘ヘテ、奉ル文書。博士、儒家ナドノ、古例、故實ニ就キテ考ヘ、陰陽寮ヨリ天變、地異、日、時、方角ノ吉凶ニ就キテ考ヘ申スナドナリ。源、十九、薄雲廿日、月、星、雲ノ異「道道ノかんがへ文(諸道ノ勘文)ドモ奉レルニモ、怪シウ、世ノナベテナラヌ事ドモ、マジリタリ」吾妻鏡、四十九、正元二年三月廿五日、地震「陰陽道之輩、付ニ勘文於ニ和泉前司方一」
かんもん (名) 勘問 カンガヘトフコト。叱責シテ、問フコト。著聞集、三、公事「高キ木ニノボリテ、宮闕ヲ窺フ、一身ヲモッテ師ノ犯シヲナセル、然ルベシヤ、イカン、ト勘問シタリケル」
かんもも (名) 寒桃 ふゆももニ同ジ。
かんもり (名) 蟹守 かにもりノ音便。其條ヲ見ヨ。

かんもりのつかさ (名) 掃部寮 かにもりのつかさ、及、かもんれうノ條ヲ見ヨ。

かんや (名) 紙屋 (一)かみやノ音便。其條ヲ見ヨ。(二)かんやがみノ略。かみやがみノ條ヲ見ヨ。

かんや (名) 寒夜 冬ノ、寒キ夜。「[illegible]、寒夜、[illegible]九、武勇「頼光朝臣、寒夜ニ、物ヘアリキテ歸リケルニ、頼信ノ家近クヨリタレバ、公時ヲ使ニテ、只今コソ罷過侍レ、此寒サコソ、ハシタナケレ、美酒侍ルヤ」

かんやう (名) 涵養 〔涵しやしなふコト〕染ミコマスル意。智徳ヲ、次第ニ蓄ヘシムルコト。「[illegible]、述[illegible]傳「王者之德、[illegible]及無レ方、[illegible]涵養ニ」

かんやがみ (名) 紙屋紙 紙屋紙ノ音便。其條ヲ見ヨ。

かんやく (名) 漢藥 漢方ノ醫術ニ用キル藥。漢方藥。(洋藥ニ對ス)

かんやく (名) 簡約 ツヅマヤカナルコト。テミジカナルコト。「後漢書、馬援傳「[illegible]」

かんやどり (名) 神室 軍神ナル八幡ノ神ノ、宿りタマフ所トス一兜ノ天邊ノ穴ノ稱。八幡座。かみやどり。「軍器考(新井白石)九、弘安[illegible]ニ、神宿ト書キテ、加牟也登利ト云フ、頭上ヲ云フ也、ト註シタルハ、今ハ世ニ、八幡座ナド云フ所也」

かんやらひ (名) 神遣 カンヤラフコト。「神代紀、上「[illegible]以神遣之遣[illegible]かんやらひの[illegible]」

かんやらふ (他動、四) 神遣 〔やらふ(遣)ノ條ヲ見ヨ〕遂ヒ遣ル。「古事記、上「[illegible]」

かんゆ (名) 肝油 鱈ノ肝臟ヨリ取レル脂肪油。黄色、透明ナリ、虚弱ナル者ノ、滋養强壯劑ニ用キラル。

かんゆう (名) 奸雄 姦雄 奸智アル英雄。「孔子家語、始誅「[illegible]此乃、人之姦雄者也」魏志、[illegible]治世之能臣、亂世之奸雄」

かんよ (名) 干與 事ニアヅカルコト。タヅサハルコト。「內政ニ干與ス」

かんよ (名) 堪輿 〔後漢書、王景傳、註「堪、天道也、輿、地道也」〕(一)アメツチ。天地。乾坤。「[illegible]、心[illegible]「[illegible]堪輿、[illegible]」(二)風水堪輿ノ條ヲ見ヨ。

がんらいこう (名) 雁來紅 〔雁ノ渡リ來ル頃ニ赤クナル義、雁來黄ト云フモ、同ジ〕はげいとうノ條ヲ見ヨ。「花[illegible]秋色[illegible]、花者、名ニ雁來紅ニ[illegible]雁來紅」

がんらいわう (名) 雁來黄 はげいとう、及、前條ヲ見ヨ。

かんらから (副) 呵呵とノ條ヲ見ヨ。

かんらく (名) 乾酪 牛乳ニ、犢ノ胃ノ粘膜ヲマゼ、酸ヲ加ヘテ、凝固セシメタルモノ。チイズ。「唐書、地理志「[illegible]州通化郡、貢、乾酪ニ」(羅甸文)

かんらく (名) 陷落 オチイルコト。陷沒。「[illegible]陷落」

かんらん (名) 奸濫 姦濫 奸佞ニシテ、ミダリガハシキコト。「[illegible]、十六、承和十三年[illegible]月「[illegible]寡、[illegible]入ニ宗枝ニ」

かんらん (名) 橄欖 [illegible]

かんらん (名) [illegible] 熱地ノ喬木、葉ハ、澤ニ似テ、細ソシト云フ、其實ヲ橄欖ト云フ、長キ一寸、橘ノ如クニシテ、肥エテ圓シ、長サ一寸餘、常ニ綠ナリ、核ハ六角ニシテ、厚ク、堅シ、彫刻スベシ、內ニ三孔アリ、各、細長キ仁アリ、鹽漬ニ漬シテ食フ、鹽漬ナルヲ藥用トス、又、砂糖漬モアリ。此樹ノ野生ノモノヲ、鴉欖ト云フ。「三[illegible]圖「[illegible]本ニ」

かんらん (名) 甘藍 ハボタン。

かむり (名) 冠 (一)冠ルコト。冠板、冠附ナド云フ語アリ。(二)冠ニ其條ヲ見ヨ)(三)漢字ノ頭ニ付ク、種種ノ字形。かんむりノ條ノ(三)ヲ見ヨ。

かんり (名) 奸吏 姦吏 奸曲ナル役人。「史記、張湯傳「蘇官所レ興、未レ獲ニ其利ニ姦吏並侵漁」

かんり (名) 監吏 監督ニ任ズル吏員。

かんり (名) 監理 トリシマリ。

かむりいた (名) 冠板 鎧ノ袖ノ上部ノ、横長キ板。[illegible]手ナルニモ云フ。

かんりう (名) 寒流 (一)淸ク、冷ヤカナル水流。「[illegible]、寒流石上一[illegible]」(二)かいりう(海流)ノ條ヲ見ヨ。(暖流ニ對ス)

かむりおとし (名) 冠落 片刃ノ刀ノ、鋒ノ處ノ、諸刃トナレルモノ。

がんりき (名) 眼力 目ノ、物ヲ見ルチカラ。善ク、物事ノ理ヲミヌクコト。「[illegible]眼力[illegible]已[illegible]一[illegible]、[illegible]力ハ、[illegible]レ事賓ニ心王ニ」「關八州繫馬(享保、近松作)一「チャウト[illegible]ミシ眼力ハ、尺餘ノ[illegible]モ見拔クベシ」

かむりづけ (名) 冠附 まへくづけ(前何附)ノ條ヲ見ヨ。

かむりどり (名) 冠鳥 鳥ノ名。大キサ[illegible]ニ似テ、大キク、[illegible]色ノ冠毛アリ、[illegible]ノ如ク[illegible]ヲ[illegible]見ヨ。

かんりん (名) 翰林 次次條ヲ見ヨ。

かんりんがくし (名) 翰林學士 次條ヲ見ヨ。

かんりんゐん (名) 翰林院 〔翰ハ、筆ナリ、林ハ、多キコト林ノ如キ意、學者ノ、此ニ入ルヲ[illegible]〕[illegible]國史、圖冊、文章、等ノ事ヲ掌ル、[illegible]官廳、此職ニ居ル學者ヲ、翰林院學士、略シテ、翰林學士ト云ヒ、又、學者[illegible]翰林ナド云ヘリ、我ガ國、大學寮ノ文章博士ノ唐名ヲモ、翰林學士ト云フ。「[illegible]、[illegible]門[illegible]二十六、[illegible]學士」

かんりんゐんがくし (名) 翰林院學士 前條ヲ見ヨ。

かんりやく (名) [illegible] [illegible] ハブキ、ヤツスコト。手數ノ略カルルコト。「[illegible]」

がんりょく (名) 眼力 がんりきニ同ジ。「[illegible]眼力」

かむる (動) 冠被 〔かぶるノ轉、はうぶる[illegible]〕かぶるニ同ジ。冠板、冠附ナドノ語アリ。

かんるゐ (名) 感涙 アリガタナミダ。忝シト感ズルニツキテ出ヅル涙。感泣ノナミダ。太平記、五、宣房卿ニ君奉公事「資明卿、感涙ヲ押ヘ兼ネテ、暫シ言ヲモ宣ハズ」「感涙ニ咽ブ」

かんれい (名) 艦齡 軍艦ノ年齡。新造ヨリ、使用ニ堪ヘザルニ至ル年間。

かんれい (名) 寒冷 寒ク、冷ユルコト。唐太宗詩「寒冷湯飛疾」「寒冷ノ時節」

かんれいしや (名) 寒冷紗 極メテ薄地ナル綿布。

がんれう (名) 顏料 (一)假粧ニ用キル品。紅、白粉ノ類。(二)繪具。塗料。無寃錄、註「凡物之色、皆稱ニ顏料ニ」

がんれん (名) 頷聯 詩ニ云フ語。律ノ條ヲ見ヨ。

かむろ (名) 禿 〔かぶろノ轉、(かぶる、かむる)其條ヲ見ヨ〕(一)かぶろ(童丱)ノ(一)ニ同ジ。丫頭 (二)遊郭ノ妓樓ニテ、使ハルル女兒。髮ヲ禿ニシタリ、長ズレバ遊女トナル、コレヲかむろだちト云フ。繪合後集(延寶)遊女「涼ミノ床几、夕待ツラム」亂髮、禿ニ匂ヒ、トメサセテ」傾城佛の原(元祿、近松作)ニ「禿共、踊ノ稽古ヲスル所ヘ」傾城反魂香(寶永、近松作)下「トント坐リシ居ズマキハ、禿立見ル如クナリ」 男兒モアリ、是レヲ男禿ト云フ。安永ノ川柳「ニツトハ、男禿ノ、タタカレズ」(逃足早シ) 又、紋日、物日ナドニ、近所ヨリ臨時ニ雇ヒシコトアリ、コレヲ傭禿ト云フ。文政ノ川柳「アノ是レサ、傭禿ノ、名ヲ忘レ」 又、髮ヲ剃リテ坊主トナリタルヲ、坊主禿ト云フ。明和ノ川柳「ヨイ晋ノ折檻、坊主禿ナリ」

かんろ (名) 甘露 (一)露ノ、甘味アル

モノトテ、古ヨリ、仁政ノ、天地ニ感ジテ、降ル瑞物トス。然レドモコレハ、夏、梅、杏、等ノ、葉ノ繁茂スル所ニ、蚜蟲ヲ生ジ、其蟲、味甘キガ故ニ、其下ノ葉ニ、甘キ液ノ滴ルモノナリ。雀餳 呂氏春秋、雜俗覽編「膏雨甘露、降矣」文德實錄、二、嘉祥三年七月「石見國獻ニ甘露ニ味如ニ飴蜜ニ」 (二)上等ナル製茶ノ銘。(三)沖繩ニテ、芭蕉ノ實。(森島中良ノ琉球談)

かんろ (名) 寒露 二十四氣ノ一。其條ヲ見ヨ。

かむろぎ (名) 神漏岐 かみろぎノ條ヲ見ヨ。

かんろずゐ (名) 甘露水 砂糖ノ煮汁ヲマゼタル水。夏、氷水ナドニ加ヘテ、飲料トス。

かむろだち (名) 禿立 かむろノ(二)ヲ見ヨ。

かんろのひより (名) 〔海路の日和ノ訛ナリト云フ〕待テバかんろのひよりト云フハ、不遇ナルヲ怺ヘテ待チ居タレバ、圖ラザルニ、幸福ニ會ヘリ、ト云フ意ニ云フ語。

かんろばい (名) 甘露梅 青梅ノ實ヲ、紫蘇ノ葉ニ包ミテ、砂糖漬ニシタルモノ。新吉原ノ引手茶屋ニテ、夏ノ中ニ製シ、年始ノ贈物トシタルモノ、名アリキ。文化ノ川柳「甘露梅、女藝者ノ、加役ナリ」(手透ノ女藝者、手傳ヒテ製セシナリ)

かむろみ (名) 神漏美 かみろぎノ條ヲ見ヨ。

かんわ (名) 漢和 漢土ト、大和ト。和漢。

かんわ (名) 閑話閒話 (一)シヅカナル

物語。閑談。(二)ムダバナシ。唐詩紀事、韋準詩「莫レ言閑話是閑話、往往事從ニ閑話ニ來ル」水滸傳、第九回「且把ニ閒話ニ休題、只說ニ正話ニ」

かんわざ (名) 神事 かみわざニ同ジ。其條ヲ見ヨ。

かんわれんく (名) 漢和聯句 和漢聯句ノ條ヲ見ヨ。

かんゐ (名) 寒威 寒サノイキホヒ。王起文「響發ニ于寒威ニ氣感ニ于春輝ニ」「寒威日ニ募ル」

かんゐ (名) 敢爲 物事ヲ、オシキリテ、爲通スコト。韓愈、進學解「勇ニ於敢爲ニ」「敢爲ノ氣象」

かんをん (名) 寒溫 かんけん(寒暄)ニ同ジ。晉書、王獻之傳「獻之寒溫而已」「寒暖ノ挨拶スルバカリ」

かめ (名) 龜 「殼體ノ略轉カ、(稲モ、飯根ノ略ナルベシ)天武紀、下、二年ニ、備後國、龜石郡トアルヲ、桓武紀ニ、神石ニ作リ、倭名抄ニ、神石郡、加米志トアリ」常ニ、かめのおト云フ。淡水ニ產ズル動物、水、陸、共ニ活ク。身、扁ク橢圓ニシテ、大ナルハ長サ七八寸、腹、背、皆、甲ニシテ、甲ノ邊ヨリ、頭、尾、四足ヲ出ス、色黑クシテ、背ノ甲、稍高ク、六角ノ紋、十三アリ、腹ノ甲ハ、平ニシテ、橫ニ紋アリ、牝ノ背甲ハ、牡ヨリ高シ。他名ニ對シテ、石がめ、山がめ、水がめ等ノ名アリ、水龜(鶴龜ノ條ヲ併セ見ヨ)又、川がめ、蓑がめ、泥がめ、すっぽん等アリ、海ニ、玳瑁、海がめ、あをうがくばうナドアリ、各條ニ注ス。神代紀、下、三十「豐玉姫、自駕ニ大龜ニ云云、光レ海來到」倭名抄、十九、五「龜、加米」

かめ (名) 瓶甕 「甕ト、瓮ト合シタル語

ナラム、各條ヲ見ヨ」(一)水、酒ナド盛ル、大小陶器ノ總名。字鏡、十三「甕、加女」同、三十二「瓶、水加女」(二)酒ヲ盃ニ注グ瓶。瓶子。德利。酒瓶 倭名抄、十六、十五、瓦器「瓶子、加米」後拾遺集、十九、雜、五「かめニ酒入レテ、盃ニ添ヘテ」 (三)はないけニスル瓶。花瓶。伊勢物語、百一段「かめニ、花ヲサセリ」

カメ (名) 洋犬 「英語、Come.(來イ)ノ誤解」西洋渡來ノ犬。

かめあや (名) 龜綾 綾織ノ絹布、龜甲ノ如キ文ヲ、極メテ細カク織リナセルモノ。絹布重寶記「龜綾(龜綾羽二重トモ云フ)練糸ノ極最上ニテ織也、云云、拔羣ノ絹性ナリ」

かめい (名) 家名 (一)家ノ名。家ノ名譽。家名。吾妻鏡、廿二、建保四年九月二十日「飽帶ニ官職ニ欲レ畢ニ家名ニ」「家名ヲ落サズ」 (二)家ノ跡目。明良洪範、十八「出雲寺少將京極若狹守、病死セラレシニ、云云、名家數代ノ祀ヲ絕ン事ヲ惜マセ下ヒ、云云、刑部大輔高和ニ、家名相續ノ爲メ、大津ノ本領、六萬石ヲ下シ置ルベキ旨、云云」 (三)家ノ名跡。家跡。「家名再興」

かめい (名) 嘉名佳名 ヨロシキ名。令名。屈原、離騷「皇覽ニ揆余于初度ニ兮、肇賜ニ余以ニ嘉名ニ」

かめい (名) 下名 下ニ記シタル名前。「下名ノ者、御呼出シ成サルベク」

かめい (名) 下命 命令ヲクダスコト。オホセツケ。「御下命ヲ拜シ」

かめい (名) 加盟 盟約ノ中ニ加ハルコト。仲間入リスルコト。

かめざうおもん (名) 龜藏小紋 小紋ノ條ヲ見ヨ。賤苧環(享和)「ウヅマキハ、市村龜藏ガ着タリトテ、かめざうおもんトイフ」

かめのうへのやま (名) 龜上山 かめ

やまノ條ヲ見ヨ。

かめのうら（名）［龜卜］かめのますら。かめのうらへ。龜卜。古ノ一法、太占ノ後ニ起リ、[illegible]ニ、[illegible]書紀ニ傳セテ、卜部ヲ[illegible]トアリ、コレヨリ龜卜[illegible]、卜部其古法ヲ学ル。海龜ノ甲ヲ、表裏ヨリ磨ニテ薄ク、長サ八寸、幅五寸、厚サ一分ノ板トシ、裏ニ[illegible]ノ[illegible]ヲ刻ミ、コレヲ町形ト云フ（こほかみ［illegible］ノ[illegible]ヲ見ヨ）波波迦ノ木ヲ、箸ノ如ク削リテ、鑽火ヲツケ、[illegible]ヲ其表上ニ[illegible]ケバ、甲ノ裏ヘヒビキ[illegible]ル、其[illegible]コトヲ兆、卜兆、占形ト云フ、其[illegible]ニ因テ、吉凶ヲ判ズ[illegible]占トノ、淺深ヲ論ジ」崇神紀、七年二月「致有災害、[illegible]」[illegible]也、兆者、灼龜[illegible]之文也、凡灼龜占吉凶者、卜[illegible]萬葉集、十六[illegible]三長歌「チハヤブル、神ニモ莫負、卜部座セ、[illegible]

かめのうらへ（名）［龜卜］［うらへハ、うらない］［illegible］ノ[illegible]ニ同ジ。[illegible]、[illegible]かめのうらへニ、[illegible]ヘバ、言ハヌモ著キ、身ノ行方カナ」

かめのかがみ（名）［龜鑑］［龜鑑ノ文字讀］龜鑑ニ同ジ。十六夜日記[illegible]ニモ、「東ノ龜のかがみニウツサバ、曇ラヌ影モヤ、アラハルルト」

かめのかふ（名）［龜甲］（一）龜ノ背ノ甲。龜甲。[illegible]、[illegible]ノ、[illegible]ニ云ヒカクニ、アト[illegible]ク、かめのかふ[illegible]ニカケタリトモ、[illegible]ラセニ シナサ」（二）[illegible]ノ甲板、

[illegible]ニ[illegible]ヨリ[illegible]龜の[illegible]より年の劫トハ、（こふハ、甲ノ呉音、劫ヲ甲ニカケテ云フ、こふハ劫ノ[illegible]見ヨ）[illegible]、萬年ノヲ[illegible]、[illegible]ヲ[illegible]ミタルモノハ、萬年ノ龜コソモ[illegible]ト云フ[illegible]ヲ云フ[illegible]のかまど「龜の甲より年のこふ」

かめのこ（名）［龜子］［こハ、物ノ意、猶子、帽子、冊子ノ類］龜ト云フニ同ジ。

かめのこざる（名）［龜子笊］［伏セタル形、龜ニ似タリ］笊ノ、大キクシテ、底、圓ク、口、開キタルモノ。（東京）ドンガメイカキ。（畿内）

かめのぞき（名）［瓶覗］［[illegible]ニ、チート浸シタル意］染色ノ名。[illegible]ノ、極メテ淺キモノ。

かめのて（名）［石蜐］［形、龜の[illegible]ニ似タリ］古名、セ。セエ。セイ。海岸ノ石ニツキテ生ズル動物ノ名。[illegible]ノ[illegible]ヲ[illegible]ニ[illegible]テ[illegible]ルガ如シ、莖ニ[illegible]アリテ、[illegible]ナリ、上ニ五[illegible]ノ爪アリテ、白シ、大ナルハ一寸許、潮來レバ、開キテ鬚ヲ出シ、潮去レバ、入ル、肉、食フベシト云フ。

かめのますら（名）［龜正占］［ますらハ、正占ノ約、誤ラヌ占ノ意、萬葉集、十一「[illegible]コトダマノ、八十ノ衢ニ、夕占問フ、占正ニ告レ、[illegible]」］かめのうらニ同ジ。丹後守[illegible]忠集「逢フ事ハ、何トモ知ラズ、海ノ、龜のますらニ、ヤクト（焼くと、役と）問フトモ」堀河百首、[illegible]「カナフヤト、龜のますらニ、問ハバヤナ、[illegible]シキ人ヲ、夢ニ見ツルヲ」

かめのみやま（名）［龜御山］かめやまノ條ヲ見ヨ。

かめのを（名）［尾骶骨］［形、龜の尾ニ[illegible]、[illegible]ニ云フ、[illegible]］[illegible]フ語ト、同趣］人ノ脊骨ノ下ノ端ノ、肛門ノ上ニ[illegible]ルモノ。かめのをのほね。

かめのをのほね（名）［尾骶骨］前條ニ同ジ。

かめばら（名）［龜腹］［腹中ニ塊ヲ成スコト、龜ノ状ナル意ト云フ］腹中ニ塊ヲ生ズル病ノ名。[illegible]

かめぶし（名）［龜節］［一片ノ形、中脹ニ、稍、反リテ、龜ノ甲ニ似タレバ云フ］鰹節ノ一種、小鰹ヲ、二ツ割ニシテ製シタルモノ、[illegible]ヲ、二ツ割ニシ、[illegible]ニ背ト腹ト、四ツ割ニス）ト[illegible]、本節ヨリハ安シ。

かめん（名）［假面］オモテガタ。メンガタ。[illegible]シテ、めん。[illegible]

かめやま（名）［龜山］［列子、湯問篇ニ、[illegible]、方丈、[illegible]ノ三神山ヲ、皆ニ戴クト云フコトアルヨリ、云フナリ］蓬萊山ノ異名。又、かめのみやま。[illegible]、[illegible]、[illegible]ノミ、アリケレバ、止ムル方モ、ナキ別レカナ」[illegible]、セヌ名ヲバ、ココニ殘サム」夫木抄、三十六、賀「[illegible]ゾ[illegible]スラム」

カメラ（名）［暗匣］［英語、Camera-obscura.］寫眞術ノあんばこ。

カメレオン（名）［英語、Chameleon.］蜥蜴類ノ一種、形、やもりニ似タリ。眼、大キク、[illegible]レタル長キ舌アリ、昆蟲ヲ粘着セシメテ[illegible]、[illegible]メテ[illegible]、[illegible]ニ[illegible]、[illegible]

かめゐ（名）［龜居］「龜ノ後脚ハ、左右ニ開キテ居ル」人ノ着坐ノ一法。左右ノ足ノ[illegible]ヲ、外ヘ折リ開キ、[illegible]ヲ、其中ニシテ坐ルコト。本式ノ着坐トス、[illegible]、[illegible]

かも（名）［鴨］［萬葉集ニ、かもどりト云ヘルヲ、[illegible]、浮ぶ鳥、浮む鳥ノ[illegible]］[illegible]乳[illegible]、萬葉集、十六[illegible]ニ、[illegible]ヲ「時賞毛」同、十四[illegible]ニ棲むヲ「沖ニ須毛」小[illegible]同、十五[illegible]「鴨ジモノ、浮寢ヲスレバ」同、水鳥ノ名、候鳥ナリ。雁ニ後レテ來リ、雁ニ後レテ歸ル、雄ヲあをくびト云フ、頭、頸、[illegible]ニシテ、[illegible]、[illegible]ニシテ、黑キ小點アリ、[illegible]ビテ、[illegible]黑キ[illegible]ヲ[illegible]、[illegible]赤ニシテ、[illegible]頸、多ケレバ、分チテ、眞鴨トモ云フ、[illegible]多ク、味、最モ美ナリ。[illegible]家ニ飼フ

ハ、あひるナリ。家鴨 萬葉集、四四十八「鴨鳥ノ、遊ブ此池ニ」古事記、上七十一長歌「沖ツ鳥、加毛」字鏡六十四「鴨、加毛」(倭名抄、同ジ)

かも (名) 【軖】〔かりもノ略、かりて、かて。(糧)とりくら、とぐら(塒)〕かりもニ同ジ。其條ヲ見ヨ。

かも (名) 【氈】〔毛裳ノ轉ト云フ、毛蟲、かはむし。酒、さかづき。裳ノ條ヲ見ヨ〕毛織ノ敷物。又、オリカモ。アリカモ。(後ノ毛氈ハ、毛織ナラズ) 字鏡二十二「氈、可毛」倭名抄、十四十八「氈、毛席、撚レ毛爲レ席也、賀毛」天武紀、下、十年四月「氈、褥」拾遺集、九、雜、下「能宣ニ、車ノかもヲ請ヒニツカハシテハベリケルニ、侍ラズト云ヒテハベリケレバ「鹿ヲサシテ、馬ト云フ人、アリケレバ、かも(氈、鴨)ヲモをし(惜、鴛鴦)ト、思フナルベシ」」

かも (感) 疑問ノ辭ノかト、感動詞ノもトヲ連ネテ云フ語。古事記、下(雄略)三十九長歌「今日モ加母、酒水漬クラシ」同、下(顯宗)四十五「意岐米(老婆ノ名)モヤ、近江ノ意岐米、明日ヨリハ、深山隱リテ、見エズ加母アラム」孝德紀、大化五年三月「本毎ニ、花ハ咲ケドモ、何ト柯母、愛シ妹ガ、又咲キ出來ヌ」萬葉集、十一四十三「アシビキノ、山鳥ノ尾ノ、シダリ尾ノ、長長シ夜ヲ、獨リ鴨寐ム」

かも (感) 【哉】〔此語、奈良朝以前ニ多ク、平安朝ニ至リテハ、專ラ、かなヲ用ヰラル、次條ノ、希望ノ感動詞ノがもト、がなトノ變、相似タリ〕感動詞ノかト、もトヲ連ネテ云フ語。カ。カヤ。カナ。齊明紀、四年五月「開モナクモ、思ユル柯母」萬葉集、一十八長歌「纏ノ宮所ハ、見レド飽カヌ可聞」古今集、九、羈旅「三笠ノ山ニ、出デシ月かも」

がも (感) 【欲得欲成】〔字ハ、得むを欲す、成らむを欲すノ意解ナリ、此語モ、奈良朝以前ニ用ヰラレ、平安朝ニハ、多クハがなトナレリ、前條ノかも、かなノ變ト同ジ〕希望ノ意ノがニ、感動詞ノもノ添ヒタル語。更ニ、感動詞ノな、又ハ、よ、や、ヲ添ヘテ、がもな、がもよ、がもやトモ云フ。仁德紀、二十二年正月、歌「並ベテモ我望」萬葉集、三四十「石戸破ル、手力モ欲得、手弱キ、女ニシアレバ、爲便ノ知ラナク」同、四廿一長歌「ミ空ユク、雲ニモ欲成、高飛ブ、鳥ニモ欲成」同、十四廿七「三空行ク、雲ニモ我母奈、今日行キテ、妹ニ言問ヒ、明日歸リ來ム」同卷二三十「妹ガ寐ル、床ノアタリニ、岩潛ル、水ニモ我毛與、入リテ寐マクモ」古今集、二十、東歌「甲斐ガ嶺ヲ、嶺越シ山越シ、吹ク風ヲ、人ニモがもや、言傳テヤラム」

かも-あふひ (名) 【賀茂葵】宿根草、山中ニ多シ。莖、高サ、一寸餘ニシテ、二岐ヲナシ、各、一葉ヲツク、圓クシテ、端、尖ル、雙葉相對スレバ、二葉葵、二葉草、等ノ名モアリ、春ノ末、岐ノ處ニ一花ヲツク、鐘ノ形シテ、下ニ向ヒ、三瓣ニシテ、紅紫ナリ。山城ノ賀茂神社ノ葵祭ニ用ヰルニ因リテ、名アリ。單ニ、あふひトモ云フ。雙葉細辛

カモイ (名) 【神】〔蝦夷語〕かむいニ同ジ。

かも-うり (名) 【冬瓜】〔毛アルコト、氈ノ如シ〕又、かもふり。とうぐゎ(冬瓜)ノ古名。本草和名、下三十四「冬瓜、加毛宇利」(倭名抄、同ジ) 大同類聚方、四十一廿九「加母布利」易林節用集「冬瓜、カモフリ」(瓜ノ條ヲ見ヨ)

かも-え (名) 【鴨柄】〔上枝ノ轉ニテ、(褶、うはも。すくみむし、すくもむし)下ノ閾ニ對スル語ニモアラムカ〕今云フ、鴨居ナルベキカ。倭名抄、十四居宅具「功程式云、鴨柄、賀毛江、今案、本文未レ詳」

かも-かくも (副) 【左右】かまかくまノ條ヲ見ヨ。

かも-かつら (名) 【賀茂楓】〔賀茂祭ニ用ヰレバ、名アリ〕かつら(楓)ノ異名。其條ヲ見ヨ。

かもがは-いし (名) 【賀茂川石】〔京都ノ賀茂川ヨリ出ヅ〕盆石ナドニ用ヰル小石ノ名。形色、種種ナリ。筱埃隨筆、八「鴨川石ハ、唐土ニテ沙汰セル名產ナリ、硯トシ、盆山トス」

かもがは-ぞめ (名) 【鴨川染】友禪染ノ一種。模樣ノ、大ナルモノノ稱。

かもがは-にんぎゃう (名) 【賀茂川人形】〔創作人ガ、柳ノ木ニテ柳筥ヲ作リ、其餘材ト、裝束切レノ裁落シトニテ作レルモノ、賀茂川堤ノ柳ヲ用ヰタルニ因リテ、名トス〕木彫ノ人形ニ、錦、綾、縮緬ナドニテ、衣服ヲ糊ニテ、彫刻ノ木目ノ凸凹ニ、密ニ貼リ込ミ作レルモノ。一名、着附、又ハ、木目込人形ト云ヒ、雛人形ニハ、木目込雛、賀茂川雛トモ云フ。元文四年、京都賀茂神社ノ雜掌、高橋忠重、作リ始メテ、其孫、大八郎ノ作レルヲ、大八人形トモ云フ。祖、孫ノ作、共ニ名アリ。

かもがは-びな (名) 【賀茂川雛】前條ヲ見ヨ。

かも-かも (副) 【左右】かまかくまノ條ヲ見ヨ。

かも-じ (名) 【髮文字】〔髮、又ハ、髢ノ首音ニ、文字ト云フ語ヲ添ヘテ云フナリ、母ヲはもじ、鮨ヲすもじナド云フ、同例ナリ〕(一)髮ノ女房詞。麗中舊記(明應)ニ、將軍ノ侍女「路ヲ行ク時、かもじ長クテワロキ時ハ」トテ、髮ヲ綰ヌベキコトヲ云ヘリ、垂髮ニ就キテ云フナリ。大上臈御名之事(室町時代)「かもじ結フコト、先、髮ノ上ノ際ヲ、鬢ノ髮ヲ除ケテ、結ヒテ、下ヲ揃ヘテ梳ルナリ」(二)髢。垂髻。女中心得之書(文明)「かもじヲサゲテ寐タマフ時ハ、枕ノ許ヘ打亂(匣)ヲ置キ、ソレニかもじヲ置クベシ」(歷世女裝考、三) (三)江戸時代ヨリ、婦人ノ添髮ニ云フかもじハ、落髮ヲ集メテ、其根ヲ堅ク一束シタルモノ。髻ノ中ニ加ヘテ用ヰル、太サ、細サ、長サ、種種ナリ。(四)親船ノ水押ニ垂レ飾ルモノ。蕨繩ニテ作ル、形、前項ノかもじノ如シ。サガリ。

かも-じ (名) 【母】〔母樣ノ首音ニ、文字ト云フ語ヲ添ヘタルモノ〕母ニ同ジ。婦人ノ語。浦島年代記(元祿、近松作)三「ナウ、サウ云フハ、鶴國ノかもじ、韋カ」「父もじ、かもじ」

かも-しか (名) 【羚羊】〔氈鹿ノ義、古名、氈鹿トモ云フ、狸モ、皮ヲ手貫ニスベキ名ナリ〕古名、かましし。かもしし。獸ノ名、深山ニ棲ム。高サ二尺許、形、頗ル羊ニ似テ、山羊ニ比ブレバ、肥エタリ、雙角アリ、枝ナシ、色黑ク、中空ニシテ、五寸許、後ヘ曲ガル、脚ノ爪、兩ニ分ル、毛長クシテ、黑褐、或ハ、灰褐ナリ、柔軟、深密ナレバ、氈トシ、褥トスベシ、故ニ、にく(褥ノ音)トモ云フ、鞍褥トスレバ、くらししノ名モアリ。又、アヲジシ。

かもじ-ぐさ (名) 【髢草】〔女兒、莖、葉ヲ揉ミテ柔カニシテ、髢ニ用ヰテ戲ル、故ニ名アリ〕高サ二三尺、莖、葉、かやつりぐさニ似テ、柔ク細ソシ、春夏ノ交、穗ヲ成シテ、花ヲ開ク、ちゃひきぐさノ穗ニ似テ、細小ナリ。鵝觀草

かも-しし (名) [羚羊] 前前條ノ語ニ同ジ。拾玉集、二「松ガ枝ニ、此ニムル、かもしゝノ、ヨソメアヲナシ、[illegible]」

かも-しもの [illegible]

かも-す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) [醸] 〔醸むノ[illegible](コトトヲ、[illegible]セシメシナラム、[illegible]熟ス、[illegible])(紡錘)。さもらふ、さむらふ(候)」〕 (一)[illegible]醸ム。米ヲ煮テ、麹、水ニ和シテ、醗酵セシメ、酒ニ熟シ成ス。(酒ノ條ヲ見ヨ) 醤油、味噌ナドニハ、豆、麥ヲモ用ヰル。[illegible] (二)熟シ成ス。出來ス。オコス。[illegible]

かも-づく-しま (名) [鴨着島] 〔かもどく(鴨着)トモ云フハ、[illegible]〕 鴨ノ、寄リツク島。又、かもどく島。[illegible]

かも-どく-しま (名) [鴨着島] 前條ヲ見ヨ。

かも-どり (名) [鴨鳥] かも(鴨)ノ條ヲ見ヨ。

がも-な (感) [illegible]ノ條ヲ見ヨ。

かも-なんばん (名) [鴨南蠻] なんばんにノ條ヲ見ヨ。

かも-の-いれ-くび (名) [鴨入首] 相撲ノ手ノ名。[illegible]左右[illegible]ノ押手ヲ、シテ、互ニ其首ヲイダキ、其頭ノ下ニ首ヲ入ルルコト。此手トナル時ハ、互ニ進マズ、多クハ、引分トナル。山家集(西行)下、相撲ノ歌「武夫ノ、習ススサビハ、オヒタダシ、アケトノシサリ、鴨のいれくび」

かも-の-は-いろ (名) [鴨羽色] 鴨ノ羽ノ色ニシテ、光リアル色。鴨頂綠。萬葉集、二十「水鳥ノ、[illegible]」(正月七日ノ白馬節會ノ歌)

かも-の-はし (名) [鴨觜] 〔口、鴨の觜ニ似タリ〕 獸ノ名。[Duck-billed platypus.] 濠洲、及、南米地方ニ產スル獸。水邊ニ棲ム、大キサ、猫ノ如ク、全身ニ短キ毛アリ、口吻、扁ク堅クシテ、水鳥ノ觜ノ如シ、四肢、短ク、趾間ニ蹼アリ、卵ヲ產ジ、腹部ニアル囊中ニテ孵化セシム、獸ニシテ、鳥ノ如シ。

かも-ふり (名) [冬瓜] かもうりノ條ヲ見ヨ。

かも-まつり (名) [賀茂祭] 又、みあれ。山城國、賀茂神社ノ例祭。陰曆、四月ノ中ノ申ノ日ニ行ハレ、例幣使ヲ立テラル、社前ヨリ、衣服、車、桟敷ノ簾、等、皆、かもあふひヲ以テ飾ル、故ニ、あふひまつりトモ云フ。京都ノ鎭守ノ神ニシテ、皇室ノ御產土神ナレバ、平安朝時代、此祭事、行列ナド、華美ヲ極メ、最モ壯觀ニシテ、單ニ、祭トノミモ云ヘリ。又、南方、男山八幡宮ノ祭ヲ、南祭ト稱スルニ對シテ、北祭トモ云ヒキ。賀茂祭、今ハ五月十五日ニ行ハル。[illegible]

かもん (名) [掃守] かにもり(掃守)ノ條ヲ見ヨ。

かもん (名) [勘文] かんもんノ條ヲ見ヨ。

かもん (名) [家門] (一)一家一門ノ族。[illegible] (二)德川時代、[illegible]

かもん (名) [家紋] 其家ニテ用ヰル紋所。もんどころノ條ヲ見ヨ。寛永諸家系圖傳、[illegible]

かもん (名) [下問] かぶんニ同ジ。

がもん (名) [牙門] 牙ハ、大將ノ旗。大將ノ旗ヲタテタル門。本陣。[illegible]

がもん (名) [衙門] 〔廣韻「衙府」類篇「古者、軍行有衙、尊者所在、後人因、以所治爲衙」〕 ヤクシ。官省。官衙。[illegible]

かもん-づかさ (名) [掃部寮] 次次條ヲ見ヨ。

かもん-の-かみ (名) [掃部頭] 掃部寮ノ長官

かもん-れう (名) [掃部寮] 〔蟹守ノ語原ヲ見ヨ、かにもり、かんもり、かもり、かもんト轉ジタル語、(綺、かんはた。勘文、かもん。件、くだん)〕 カニモリノツカサ。カンモリノツカサ。カモンノツカサ。宮內省被管ノ寮、禁中ノ灑掃、鋪設、及、[illegible]等ノ事ヲ掌ル。[illegible]

[illegible]月、更衣、今日ハ衣ガヘナレバ、宮中所所ノ御シャウゾク、[illegible]アラタム、[illegible]ノカヘビラ、[illegible]タタミナドモ、新シキヲ敷キカフ」

かもめ (名) [鷗] 〔鴨群ノ約ニテ、(おほむら、すずめ、つばくらめ)小サキ鴨ノ意ニテモアルカ〕 又、かまめ。鳥ノ名。常ニ江海ノ水ニ浮ビテ、魚ヲ食トス。[illegible]鳩ヨリ大キクシテ、[illegible]背、灰色ニシテ、腹、白シ、尻ノ羽、上ヘ反ル。江鷗。萬葉集、三「[illegible]ヒテ、通ツカニ、味村騒ギ」(大和ノ埴安池ナリ) [illegible] おほがもめ、うみがもめハ、海中ニ棲ム、形、大キクシテ、[illegible]

かもめ-じり (名) [鷗尻] 〔鷗ノ尻ノ羽ノ、上ヘ反リタルニ似タリ〕 (一)太刀ノ鐺ヲ、上ヘ反ラセテ佩クコト。(鬥刺、蒂し[illegible]) 〔黄金造リノ太刀、かもめじりニ佩キナシテ〕 (二)鷗ノ尻ノ、上方ニ撥ネタル如ク、桙竿ノ尻ノ、上方ニ[illegible]ルコト。[illegible]モ、かもめじりニ取リヲル」 (三)次條ニ同ジ。

かもめ-づと (名) [鷗髱] 〔鷗尻ノ髱ノ意〕 又、かもめじり。享保ノ頃流行セシ、若衆、又ハ、[illegible]髱ノ結ヒ方、[illegible]ク後ヘ出シテ、末ヲ、上ヘ反ラセタルモノ、[illegible]ノハ、カハリメノ、

かもめづとコソ、カハユラシ」享保ノ前句附「匂ヒアリケリ、匂ヒアリケリ」鴎島、若衆ノ髱ノ、かもめ兒」(嬉遊笑覧、一) 元文ノ前句附「ウツブイテ、楯デ[illegible]ヨノス、[illegible]二(…事記、一)

がも-や (感) がもノ條ヲ見ヨ。

がも-よ (感) がもノ條ヲ見ヨ。

か-もり (名) |掃部| かにもり(蟹守)ノ條ヲ見ヨ。

かもり-づかさ (名) |掃部寮| かもんれうニ同ジ。かにもりノ條ヲ見ヨ。

かも-ゐ (名) |鴨居| しきゐ(敷居)ノ條ヲ見ヨ。 雅亮装束抄、一「四ツノスミズミニ、土居ヲスヱテ、柱ヲ立テマハシテ、かもゐヲオキテ」

か-や (名) |草葺草| 〔刈屋ノ義ニテ、(鎌モ刈刃ナルベシ、狩野、かの。糧、かて。白膠木、ぬで)刈リテ、屋ヲ葺ク物ノ意ニモアルカ、屋作リヲ、屋ト云フ、苫屋、伏屋ノ如シ、萬葉集、一九「秋ノ野ノ、美草刈リ葺キ、宿レリシ」〕 草ノ、屋ヲ葺ク料トスベキモノノ總稱。後ニ云フ萱、又ハ、薄、茅、菅、葦、荻ナド、皆是レナリ。 古事記、上七「鵜ノ羽ヲ以テ葺草ト爲シテ、産殿ヲ造ル」 神代紀、上八「草葺草(加夜)ヲ刈リテ、屋ヲ葺キ…」 顯宗即位前紀七「取葺草葉」 萬葉集、一十「吾ガ夫ハ、假廬作ラス、草無クバ、小松ガ下ノ、草ヲ刈ラサネ」 倭名抄、六 廿 「武藏國、埼玉郡、草原郷(加也波良)」

か-や (名) |萱茅| 〔前條ノ語ノ轉、屋ヲ葺クニ最良ナレバ、かやノ名ヲ專ラニス、薄ノ、芒トナレルガ如シ〕 草ノ名。形狀、スベテ薦ニ似テ、高シ。但シ、心ノ實ルヲ異ナリトス。莖葉ヲ取リテ、多ク、屋ヲ葺ク、花、秋ニ咲ク、赤、薦ノ如クニシテ、穗ニ枝少ナシ。 菅 倭名抄、廿 廿 「萱、加夜」 萬葉集、十四 廿 「岡ニ寄セ、我ガ刈ル加夜ノ、サネ加夜ノ、マコトナゴヤハ、ネロトヘナカモ」

かや (名) |榧| 〔古言、かへノ轉〕 古名、かへ。喬木ノ名、深山ニ多シ。葉ハ、もみニ似テ厚ク、端、尖リテ、刺アリ、深緑ニシテ、冬ヲ歷テ凋マズ、雄ハ、枝立チテ、初夏ニ花アリ、實ナシ。雌ハ、横ニ茂リ、下ニ垂レテ、花無ク、實アリ、實ノ長サ、一寸許、棗ノ如シ、皮、緑ニシテ、肉ニ油多シ、內ニ核アリ、淡褐色ニシテ、厚ク長ク、兩頭尖ル、中ニ白キ仁アリ、食用トス、油ヲモ取ル、かやのあぶらト云フ。材堅ク、碁盤ナドニ作ル。 康頼本草、上 廿五 十「榧實、加也乃實」

か-や (名) |蚊屋| 夏ノ夜、寐タル時、釣リテ寢床ヲ被ヒテ、蚊ヲ防グ帳。今ハ粗キ麻布、又、羅ナドニテ、方形ニ、天ト四面トヲ作ル。蚊帳。蚊幮。 播磨國風土記、(賀古郡)「賀野里「造レ殿時、夏、仍張二蚊屋一故號二加野一」

か-や (感) |哉| 感動詞ノかト、やトヲ連ネテ云フ語。カ。カモ。カナ。 神武即位前紀 四 「哉、此云二于黎多棄頓夜一」

かや-あし (名) |茅足| 〔茅葺ノ遺語ナリ〕 桃葺ノ桃板ノ重ネノおめりノ寸ニ云フ語。略シテ、あし。「かやあし、一寸」あし、一寸五分」

か-やう (名) |斯様| 〔かうやうノ約〕 かうやう。カクノゴトキ。コノヤウ。如此 竹取物語「かやうニテ、御心ヲ互ニ慰メタマフホドニ」 源、二、帚木 二「かやうノツイデアラムコトモ、イト難シ」

か-やう (名) |加養| やうじやう(養生)ニ同ジ。

かや-がみ (名) |紙屋紙| 〔かみやがみノ音便ナル、かうやがみノ略、紙漉、さよりノ〕 かみやがみ(紙屋紙)ノ條ヲ見ヨ。

かや-かや (副) |[illegible]| 〔かさかさしき意〕 衆人、聲立テテ、騷ガシキ狀ニ云フ語。今、濁音ニ、がやがやト云フ。 源、四十八、寄生 三十「御隨身ドモ、かやかやト云フヲ、制シタマヒテ」

がや-がや (副) |[illegible]| 前條ノ語ニ同ジ。

か-やく (名) |加薬| 〔醫藥ノ方劑ニ、補助ニ加味スル藥ノ意、本草ニテ、山椒、胡椒、芥子、生姜、皆、藥品ナリ、漢方醫ノ煎藥ニ「生姜、一片入レ、白湯ニテ煎ズル」ナド云フ、是レナリ、藥味トモ云フ〕 (一)食物ニ振リカケテ、加味スル辛味ノ稱。山椒、胡椒、唐辛、芥子、乾生姜、陳皮ノ粉ナド、是レナリ。辛料 又、大根、山葵、生姜ノオロシタル、葱ノ刻ミタル、乾海苔ノ燒キタルモノヲモ云フ、スベテ、コレヲ藥味トモ云フ。古ヘ云ヘル、齏、橘、香頭ナドモ、是レナリ。 運歩色葉集(天文)「加藥、加味」 狂言記、人馬「陳皮、乾薑、色色ノ加藥一同、煎宿覆(一)陳皮、乾薑、甘草、加ヘテ煎ジタル藥、冷物、召セ」 (二)京都ニテハ、五月飯、汁掛蕎麥切、ナドニ加フル肉、菜ノ稱。具。タネ。

か-やく (名) |加役| (一)本分ノ職ヲ、補助スル職ノ稱。徳川時代ニ、專ラ、火附盜賊改ノ役ニ云ヘリ。 青標紙、三 御先手之內ヨリ壹人出役シテ、火附盜賊改ヲ勤ムル事ナリ、コレヲ俗ニ加役ト云、然レドモコレハ唱違ニ而、兩人アル時ハ、其壹人ヲサシテ加役ト云フ事也」 文化ノ川柳、甘露梅、女藝者ノ、加役ナリ」(甘露梅ノ條ヲ見ヨ) (二)芝居ニテ、立役ノ、女形ニナリ、女形ノ、立役ニナルコト。(文化ノ劇場新話) 天保ノ川柳「加役デアテル、食留…ト、

日本紀 二 (首書ハ永禄二年ノ某、後者八日本武尊、共ニ、女装ヲシテ功ヲナス)

かや-くき (名) |[illegible]| 〔かやハ、草ナリ、其條ヲ見ヨ、くきハ、くく(漏)ノ名詞形、かやくぐりト同意、名義抄、草偏ニ鳥ノ字ニ「草クキ」鵐ノくさくきト同意ノ語ナリ〕 小鳥ノ名、かやくぐり。やまさぎノ古名。 字鏡 十一 「鵐、加也久支」(倭名抄、同ジ) 本草和名、下 五十 二「鸛雀、加也久岐」 風俗歌、大鳥「千鳥ゾ然云フ、加也久支ゾサイフ、加也久支ノ、シヅヤノ軒ニ、群立チテ、拾フ落穗ニ、蕎ヤ食ユル」 爲忠集「色色ノ、花ニマギルル、かやくきヲ、狩ルトテ野邊ニ、暮ラシツルカナ」

かや-くぐり (名) |鵐| 〔草潜ノ義、前條ノ語原ヲ見ヨ〕 小鳥ノ名、古名、かやくき。今、やまさぎト云フ。其條ヲ見ヨ。 和下倭 鵐、カヤクグリ、カヤムグリ」

かや-ぢり (名) |茅茨| 〔草尾ノ義、かや(草)ノ條ヲ見ヨ、說文「茨、以レ茅蓋レ屋也」 莊子、讓王篇「環堵之室、茨以二生草一」〕 草葺屋ノ軒端。 仁德紀、四年三月「茅茨壞以不レ葺」

かや・す (動) |返| 〔かへすト通ズ、たがへす、たがやす。(耕)かへ、かや(榧)〕 かへすニ同ジ。覆 婚入記(東山時代)「縫ヒヤウ、ふせ縫也、裾ヲかやしテ縫フベカラズ」

か-やす・し・キ・ケレ・ク・ク(形、一) |容易| 〔かハ、發語、か弱し、か細し、同趣〕 (一)易しト云フニ同ジ。タヤスシ。 萬葉集、十七 四十 長歌「鷹、云云、手放レモ、復モ可得復、稀、コレヲ措キテ、又ハ有リガタシ」 (二)カロガロシ。テガルナリ。 源、三十七、鈴蟲 六「昨夜ハ、打忍ビテ、かやすかりシ御歩、今朝ハ、アラハレタマヒテ」 同、三十四、上、若菜、上 十七「かやすき身ナラバ、忍ビテ、イト逢ハマホシクコソト宣フ」

かやぢ（名）[illegible]　[illegible]。地質ナリ」蚊屋ヲ作ルベキ料ノ、麻布ナド。

かやつ（代）[彼奴]　[illegible] 他稱ノ代名詞。彼ノ奴。賤メテ呼ブニ云フ。[illegible] 百廿九段、田植女ノ歌「ホトトギスヨ、オレヨかやつヨ、オレ鳴キテゾ、我レハ田ニ立ツ」大鏡、中、道兼「かやつガ方ノ者ドモ、イト多ク死ニケルニ、サハイヘド、家高クオハシマス」宇治拾遺、三、十四條「人[illegible] 同、十、第六條「人ノ命ヲ斷チ殺スモノナレバ、きやつニ、物ノワビシサ知ラセムト思フナリ」（顯、人ノ穢[illegible]）

かやつりぐさ（名）[莎草]（小兒、莖ヲ裂キヒロゲテ、蚊屋ヲ釣るニ比シテ玩トス）（一）莖、高サ一二尺、三稜形ヲナス、はますげニ似テ、春生ジ、冬枯ル、根ニ塊ナシ、花ハ夏ニ開ク、[illegible] 粗ナリ。（二）めひじはノ一名。（京都）

かやのあぶら（名）[榧油]　かや（榧）ノ條ヲ見ヨ。

かやぶき（名）[草葺]　茅モテ、屋ヲ葺キ作[illegible]

かやぶきや（名）[草葺屋]　茅ヲ以テ葺キ[illegible] ぶきノ、コヤノネザメニ、ヲ京鳴クナリ」

かやぶし（名）[蚊燻]（かいぶしノ訛）かやりびニ同ジ。

かやむぐり（名）[鷦]　かやくぐりノ條ヲ見ヨ。

かやや（名）[茅屋]　茅葺ノ屋根。かややね。又、其家。草屋。宇津保物語、藤原君[illegible]

かややね（名）[illegible]　[illegible]

かやり（名）[蚊遣]　[illegible]

かやりび（名）[蚊遣火]　蚊火。夏、蚊ヲ遣ヒ [illegible] 夫木抄、十九、雜、和泉式部「かやりびノ、燻ケブタ[illegible]」

かゆ（名）[粥]　[illegible] 見ヨ）[illegible]。古ヘ、堅かい。米ヲ、水ニテ煮タルモノ。古ヘ、堅粥ト云ヒシハ、米ヲ炊ギタルモノ、即チ、姫飯ニテ、今ノ尋常ノ飯ナリ。（蒸シタル、強飯ニ對ス）饘　汁粥ト云ヒシハ、水ヲ多クシテ煮テ、[illegible] シメタルモノ、今、常ニかゆトノミ云フハ、是レナリ。粥 [illegible]

かゆきかくゆき（句）[彼往此往]「かハ、斯ノ語根、かまかくまノ語原ヲ見ヨ」斯ク行キ、又、[illegible] 行キ。カナタヘ行キ、コナタヘ行キ。[illegible] 思ヒ苦エテ、夕星ノ、（枕）彼往此往、大船ノ、（枕）猶豫フ見レバ、思ヒ遣ル、心モアラズ」

かゆし・キ・ケレ・ク・ク（形、二）[痒]（搔カマ欲シキ意ノ語ナルベシ）膚ニ、搔カム

コトヲ欲スル感ジアリ。（痛しニ對ス）[illegible]（[illegible]カユシ」

かゆづけ（名）[illegible]　[illegible]

かゆづゑ（名）[粥杖]　古ヘ、正月十五日、粥ヲ煮キシ木ヲ削リテ作レル杖ノ名。[illegible] 打ツ、男ヲ生マムヲ祝スル事ナリトゾ。[illegible] 正「十五日、粥ノ杖ニテ打ツ古事、可レ然、禁中、今モ、[illegible] の木ヲ引キ隱シテ、家ノ御タチ、女房ナドノ窺フヲ、打タレジト用意シテ、常ニ、後ヲ心ヅカヒシタルケシキモ、ヲカシキニ」

かゆのき（名）[粥木]（一）[illegible] ニ同ジ。其條ヲ見ヨ。（二）後世ハ、正月十五日、[illegible] ヲ、長キ箸ホドニ、二本切リ、頭ノ方ヲ削リカケタルモノ。[illegible] チシ時、其頭ヲ刺シコミ、スグニ引上ゲ、打チ違ヘニシテ、門ノ[illegible] 一本ノ[illegible] 刺ス。けづりかけモ、是レナリ　（延寶）「かゆの木ヤ、夫婦ノ箸ノ、二柱」（用捨箱、上）

か・ゆる（動）[illegible]、代フ、[illegible]

かよう（名）[加用][荷用]（通ふノ音便、給仕ニ往復スル意ナリ、[illegible]）用キルハ、閏ヲうるふ、病ヲやまふト云フ類、加用、荷用ハ、當字ナリ、設備ヲ[illegible] ト。かよひノ條ヲ見ヨ。沙石集、三、下、第三條、醍醐房「修行者多ク、給仕奉事シテ、云云、[illegible]

[illegible] 時、サバクリ、かようスルニ、湯ノアツキモ、ヌルキモ、[illegible]

かよく（名）[illegible]　[illegible]

かよちやう（名）[illegible]　[illegible] 丁巳上、陽、[illegible]」[illegible] 四、下、「川渡ラセタマフ [illegible]

かよは・す・ス・セ・サ・シ・セ（自動、四）[通]（通ふノ[illegible]）[illegible] ほひニ、ア、[illegible]

かよは・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）[illegible]　かよふノ他動、にきはふ、にぎはす。かふ、（交）かはす」通フヤウニナス。通ズ。[illegible] モ[illegible] かよはすニ」[illegible]「京ニ異ナルコトナラデ、人モかよはし寄ラサリツ」

かよひ（名）[通]（一）通フコト。往來。[illegible] 給仕スルコト。宗吾大雙紙「公私御かよひノ[illegible]「アリツル宿ニ、かよひシツル郎等ナリ」（五）音ノ通フコト。通音。「わしる（走）ハはしる、てて（父）ハちちノかよひナリ」（六）通、[illegible] ノ略。狂言記、對馬祭「イツモノヤウニ、通ひデトッテコイ」（酒ヲ）

かよひげいこ（名）[通稽古]　己ガ家ヨリ、[illegible]、又ハ、[illegible]、往來シテ、[illegible]

プコト。通學。(一)塾、寄宿ナドニ對シテ云フ)天保集成綸錄、八十、寛政十二甲年四月「學問所、云云、通ひ稽古、並、寄宿願、云云」

かよひぢ (名) 〔通路〕 通フ路。往來スル路。通路。萬葉集、七「妹許ト、我ガ通路ノ、篠ススキ、我レシ通ハバ、靡ケ篠原」

かよひちやう (名) 〔通帳〕 買主ト商家トノ間ニ、物ヲ買フ毎ニ、往復シテ、其價ヲ記シ置ク帳。略シテ、かよひ。(掛買ナルニ云フ) 商品ノ取引、銀行、郵便局ノ預金ナドナルニモ云フ。

かよひづとめ (名) 〔通勤〕 商家ノ番頭、手代ナド、自宅ニ居テ、主家ヘ、日毎ニ、往來シテ勤メスルコト。通勤。(主家ニ寢食スルニ對シテ云フ)

かよ・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (自動、四) 〔通〕 〔かハ、交ひノ意カ、(ちかひぢと、ちかぢと。そひなるる、そなるる)よふハ、動ク意、もぢよふ、いさよふ、ただよふ。拾遺集、十八、雜賀「松ガ枝ノ、かよへる枝ヲ、鳥栖ニテ、巢ダテラルベキ、鶴ノ雛カナ」(連理交叉ノ枝ナリ)〕 (一)〔行キ、又、來ル。往來ス。出デ、又、入ル。出入ス。通ズ。履中紀、五年九月「鳥往來羽田之汝妹者、羽狹丹葬立往」萬葉集、十四「足ノ音セズ、行カム駒モガ、葛飾ノ、ママノツギ橋、ヤマズ可欲渡ム」同、八 三十「風雲ハ、二ツノ岸ニ、可欲倍ドモ、我ガトホ妻ノ、コトゾ通ハヌ」「人かよふ」息かよふ」心かよふ」 (二)〔トホル。ユキワタル。景行紀、四年二月「夫婦之道、古今達則也」源、三十九、御法「女ノ御掟ニハ至リ深ク、佛ノ道ニサヘかよひタマヒケル、御心ノホド」 (三)〔相似ル。拾遺集、八、雜、上「琴ノ音ニ、峯ノ松風、かよふラシ、何レノ緒ヨリ、調ベソメケム」中務集「梅ノ花、色ハ雪ニモ、かよふナリ」源、一、桐壺「面ツキ、マミナドハ、イトヨウ似タリシユヱ、かよひテ見エタマフモ、似氣ナカラズ」 (四)音ト音ト、變リ合フ。「わななく(戰慄)ハをののくトかよひ、くびす(踵)ハきびすトかよふ」

かよりあ・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (自動、四) 〔寄合〕 次條ヲ見ヨ。

かよ・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 〔寄〕 〔かハ、發語、案撿ふ、蒙るナドモ、か向ふ、か被るナリ〕寄ルト云フニ同ジ。寄リ添フ。萬葉集、四 七十「秋ノ田ノ、穗田ノ刈リバカ、香緣相バ」催馬樂、總角「總角(少年)ヤ、尋バカリ離リテ、寐タレドモ、轉ビ合ヒケリ、加與利合ヒケリ」源、廿三、初音 廿「竹川(催馬樂歌曲ノ名)謠ヒテかよれル姿、ナツカシキ聲聲ノ」

かよわ・し・キ・ケレ・ク・ク (形、二) 〔纖弱〕 〔かハ、發語、か易し、か細し、か黑し〕弱弱シ。ヒハヅナリ。(多ク、婦人、小兒ナドニ云フ) 源、一、桐壺 四「我ガ身ハかよわく、物ハカナキアリサマニテ」

から (名) 〔幹莖〕 (一)草木ノ本立。ミキ。クキ。倭名抄、二十 三十「大枝曰レ幹、加良、細枝曰レ條、衣太」古事記、中(景行) 六 五十 長歌「那豆岐ノ、田ノ稻賀良ニ」神代紀、上 四十 一「粟莖」字鏡 六十「稈、粟加良」 (二)矢ノ篦。倭名抄、十三 七 征戰具「箭、釋名云、笑、其體曰レ幹、夜加良」笠懸射手體配記「からノ事、サワラ篦、本也」

から (名) 〔軀體〕 〔人身ノ幹ノ義〕 (一)ムクロ。カラダ。體。身體。「大がらナル人」 (二)〔亡〕きがらノ略。シカバネ。死骸。古今集、二十、墨消「翔リテモ、何ヲカ魂ノ、來テモ見ム、からハ炎ト、ナリニシモノヲ」

から (名) 〔柄柯〕 〔莖ノ義〕 (一)〔柄〕。手。トッテ。倭名抄、十六 九 器皿部「柄、器物莖、柯也、衣、一云、賀良」字鏡 四十 五「榁、保己乃加良」(梓ノ柄)「斧ノ柯」 (二)同ジク、柄アルモノノ、機發アルモノ。「から傘」から棹」から拜」から鋤」から臼」(各條ヲ見ヨ)

から (名) 〔空虛〕 〔から(涸)ノ語原ヲ見ヨ〕 (一)ウツロナルコト。空シキコト。內ニ物ナク、明キテアルコト。カラッポ。「から車」から船」から匣」から手」 (二)實ノ無キコト。眞ナラヌコト。「から鐵砲」からカミ」 (三)全クナルコト。マルマル。ヅブ。〔全然〕「から下戶」から下手」から馬鹿」

から (名) 〔殼〕 〔から(涸)ノ語原ヲ見ヨ〕 (一)〔殼〕。物ヲ包ムモノノ、內、空ニナリテ、殘レルモノ。古事記、中(應神) 三 七十 長歌「依網ノ池ノ、菱賀良ノ」「籾ノ殼」粟ノ實ノ殼」貝ノ殼」 (二)〔蟬〕、蛇ナドノ、もぬけ。ヌケガラ。蛻 古今集、十六、哀傷「空蟬ハ、からヲ見ツツモ、慰メツ、深草ノ山、烟ダニ立テ」 (三)豆腐殼ノ略。キラズ。〔雪花菜〕

から (名) 〔間〕 アヒダ。ウチ。神代紀、下 六「雖二復天神一、何能一夜之間、令二人有一レ娠乎」雄略紀、元年三月「與二童女一一宵以レ喚、膣レ體、卽便懷娠」萬葉集、六 四十「故鄕ハ、遠クモアラズ、一重山、越ユルガ可良ニ、思ヒゾ吾ガセシ」同、九 廿 一 長歌「一夜ノミ、寐タリシ柄ニ、尾上ノ、櫻ノ花ハ、瀧ノ瀨ヨ、タギチテ流ル」同、十八 三十 三「明日ヨリハ、續ギテ聞コエム、ホトトギス、一夜ノ可良ニ、戀ヒワタルカモ」

から (名) 〔故〕 〔斯く有りノ約轉カ、(斯く程、かほど。在處、あらか)〕 ユヱ。ソレガタメ。齊明紀、七年十月「君ガ目ノ、戀シキ舸羅ニ、泊テテ居テ、斯クヤ戀ヒムモ、君ガ目ヲ欲リ」萬葉集、二十 三 廿「我ガ母ノ、袖持チ撫デテ、我ガ可良ニ、泣キシ心ヲ、忘ラエヌカモ」古今集、五、秋、下「吹クからニ、秋ノ草木ノ、萎ルレバ、宜山風ヲ、嵐ト云フラム」

カラ (名) 〔韓〕 〔崇神天皇ノ御代ニ、今ノ朝鮮ノ西南端ナル伽羅國王子、(今ノ慶尙南道、金海府ヲ都トス) 來朝セリ、是レ外國人歸化ノ初ニテ、伽羅ノ名、始メテ外國ノ意ヲ表ス、(崇神以前、からノ語ナシ) コレヨリ移リテ、其國ノ三韓(其條ヲ見ヨ)ヲからト呼ビ、遂ニ其半島全部ノ名トナル〕 古ヘノ三韓、卽チ、今ノ朝鮮ノ稱。韓。隨ッテ、其國ヨリ渡來セル物事ニ冠ラセテ云フ語 萬葉集、五 十五 長歌「可良國ヲ、征ケ平ゲテ」(神功皇后ノ征韓) 應神紀、七年九月「領二諸韓人等一作レ池、因以名レ池、號二韓人池一」繼體紀、二十四年九月、註「大日本人娶二蕃女一所レ生、爲二韓子一也」敏達紀、十二年十月「韓婦、韓語」「韓衣」

カラ (名) 〔漢唐〕 〔韓國ノ稱ヲ、同ジク外國ナレバ、支那ニ移シテ云ヒシ語ナリ、萬葉集、十九 三十 五「此吾子ヲ、韓國ヘ遣ル、齋ヘ神タチ」同、卷 十 一 五「韓國ニ、行キ足ラハシテ、歸リ來ム」是レ等ハ共ニ、遣唐使ノ歌ナレバ、韓ハ、唐ノ借字ナレド、尙、韓ノ、唐ニ移リタルヲ知ルベシ〕 (一)〔モロコシ。漢。漢土。唐。唐土。卽チ、支那ノ稱。隨ッテ、其國ヨリ渡來セル物事ニ云フ語。萬葉集、十九 一「漢人モ、船ヲ浮ベテ、遊ブチフ、今日ゾ吾ガ夫、花鬘セヨ」(三月三日、曲水ノ宴)「漢書」唐歌」唐琴」唐錦」唐樣」 (二)轉ジテ、汎ク、外國ノ稱。多クハ、南洋、前印度邊ヲ云フ。三百年前、明國ニ寄航セズシテ、直チニ南洋ニ航スルヲ、唐渡ト云ヒキ、(其條ヲ見ヨ)唐物、唐革、唐木ナド云フモ、多クハ是レナリ。〔外國〕 新六帖、五「敷島ノ、大和ニハアラヌ、唐人ノ、植ヱテシ綿ノ、種ハ絶エニキ」延曆十八年、崑崙人、參河ニ漂着シ、木綿ノ種ヲ植ヱテ、播殖セサリシヲ云ヘルナリ。(類聚國史、百九十九) (三)〔唐織ノ略。源、八、花宴 三 十「櫻ノ唐ノ綺ノ御直衣」同、三十六、横笛 九 五「白キ羅ニ、からノ小紋ノ紅梅ノ御衣」 (四)〔唐紙ノ略。宇津保物語、藏開、中 七 廿「から

ノ色紙ヲ、中ヨリ押折リテ」

から (副) [自從] 〔間ノ轉用カ〕 二ツノ間ニ移ル意ヲ示ス語。[illegible]ニ同ジ。[illegible]代紀、下五「自ニ(親)丘(良)(闕行去)」 萬葉集、十九長歌「ホトトギス、[illegible]」 [illegible]、十七、[illegible]物名「浪ノ音ノ、今朝から殊ニ、聞ユルハ」 貫之集、三「ホトトギス、マタ鳴カヌから、待タレケルカナ」 [illegible]ノ中[illegible]、名ノ殘リ榮ヌヘ、今ノ世ノタメ、今日ノ日ノタメ」

から (接頭) [凋 枯 乾] 〔凋ノ轉、群、むら雲、末、うら葉、稀人、まらうど二賓客ノ例ナリ、(竹、たかむら、船、ふなばたノ類)枯、乾ノ、からトナルモ同ジ、空、殼、モ、乾ヨリ移レルナリ〕 (一)水ナキ。凋レタル。[illegible] (二)生氣ナキ。枯レタル。[illegible] (三)乾キタル。干タル。「からからト乾ル」「乾(カラクサ)」「乾物(カラモノ)」「干魚」から[illegible]「から[illegible]」「から[illegible]」から聲氣」

〜から (接尾) [故] 〔名詞ノから(故)ノ轉用〕 ユエニ。ソレガタメニ。ニ、因リテ。仁徳紀[illegible]、[illegible]人[illegible]、[illegible](…) 古今集、八、離別「惜シムから、戀ヒシキモノヲ、白雲ノ、立チナム後ハ、何ゴコチセム」

から (接尾) [族] 〔子等ノ轉、(大御田子等、おほみたから)子族ノ意〕 (一)〔血系ノ人〕ミヨリ。子弟。[illegible] (二)轉ジテ、繋ガル緣ノ人。「友から」「[illegible]から」

から (接尾) からめ(接尾ノ)ヲ見ヨ。

がら (名) 魚ノ名、かさごノ類 (嬉遊笑覧、十二)

がら (接尾) [柄] 〔[illegible]、體、御チ、體、容子ノ義、大がら、人がらナド、連聲ニ因リテ濁ル〕 (一)カラダ。身體。「大がらナル人」[illegible]らガ小サイ」 (二)〔物事ノ容子ヲ云フ語〕[illegible] 長歌「タマモヨシ、讃岐國ハ、國柄カ、見レドモ飽カズ、[illegible]清ケカルラシ」(吉野山)「人から」「身から」「家から」「[illegible]から」 (三)其容子ニ連レテ、相應シタルヲ云フ語。「所から」「時から」「[illegible]から」 (四)布帛、織模様、染模様ナドノ、品質、大小、醜美ヲ云フ語。[illegible]、七「小袖[illegible]ヨクハナケレドモ、[illegible]面白ケレバトテ、秋ノ野ニ草ヅクシ縫ウタル、練絹ノ小袖一ツ、取出シテ賜ビテケリ」「端物ノ地から」「縞から」「柄から」「[illegible]から」「中から」「新から」「[illegible]から」 名詞トシテ、「此模様ノがらガヨイ」

カラア (名) 英語、Collar. 洋服ノえりくびニ附ケテ、頸ニ纏ヒテ飾リトスルモノ。白布ニテ、固ク作ル。

からあふひ (名) [蜀葵] 〔莖(カラ)葵ノ義、常ノ葵ヨリハ、丈高シ〕 はなあふひノ古名。約メテ、からふひ。枕草子、三、三十四段「からあふひハ、云云、日ノ影ニシタガヒテ傾クラムゾ、ナベテノ草木ノ心トモオボエデ、ヲカシキ」 本草和名、下ロ「蜀葵、加良阿布比」 字鏡[illegible]「蜀葵、加良保比」[illegible]、秋葵、[illegible]子、加良保比」

カラ-あぶみ (名) [唐鐙] 唐鞍ニ用ヰル鐙。[illegible]鐙ナリ。[illegible]抄、下「鐙(金剛)古唐鐙等、多[illegible]、只[illegible]也」

〜カラ-あや (名) [唐綾] 〔唐織物ノ條ヲ見ヨ〕 唐織ノ綾。枕草子、八、九十一段「宮ハ白キ御衣共ニ、紅ノからあや二ツ、白からあやト奉リ」

カラあや-をどし (名) [唐綾縅] 鎧ヲ、唐綾ヲ細ソク裁チ疊ミタルニテ、縅シタルモノ。[illegible]物語、二、白河[illegible]事「唐綾縅ノ鎧、龍頭ノ兜」

〜から-ある (名) [illegible] 〔[illegible]〕 [illegible]ニ似テ、花、[illegible]花ノ[illegible]。約メテ、からゐ。[illegible]「[illegible]ノ花ノ、色ニ出デニケリ」同、十一ロ「[illegible]御園生ノ、鶏冠草ノ花ノ、色ニ出メヤモ」

カラ-いしき (名) [唐居敷] 〔いしきハ、いしきノ約〕 門ノ地輻ノ内外ノ礎。[illegible]ノからいしき二居タリケリ」

カラ-いと (名) [唐絲] 唐土ヨリ渡リタル絹絲。[illegible]云、[illegible]ニナシテ、云云、日本ノ地ニ渡リ、云云、江戸マデ下リシモノナレバ」

から-いばり (名) [空威張] 表面ノミ、強キヲヨソホフコト。カラリキミ。虚威

カラ-いも (名) [唐薯] さつまいもノ條ヲ見ヨ。

から-いり (名) [殼煮] 豆腐ノカラヲ煮リテ、味ヲ附ケタルモノ。字鏡集[illegible]、カライリ、アヘモノ」

カラ-いり (名) [唐入] 〔韓入ニハアラズ、外國入ノ意〕 文祿年中、豐臣太閤ノ朝鮮征伐ヲ云フ語。[illegible]高麗入。征韓

か-らう (名) [家老] 大名、小名ノ家人第一ノ重役。年寄。國老。老臣。家宰。大夫。[illegible]云云、[illegible]老也」[illegible]ノ子孫、結城代代ノ家老トナル」

〜からう-じて (副) [辛] からくしてノ音便、其條ヲ見ヨ。

〜から-うす (名) [碓] 〔柄臼ノ義ニテ、柄ニ[illegible]〕[illegible]ヲ轉ジテ、かるうす。一名、フミウス。ヂガラウス。略シテ、ヂガラ。碓[illegible]其也、加良宇須」 萬葉集[illegible]「可流羽須」 字鏡[illegible]「碓、[illegible]」 字[illegible]

〜から-うす (名) [磨] 〔もみがらヲ磨ル臼ノ義〕 すりうすノ古名。字鏡「[illegible]、加良宇須」

〜カラ-うた (名) [唐歌] 唐土ノ詩ヲ、和歌ニ對シテ云フ語。漢詩。詩。[illegible] 土佐日記、十二月二十六日「からうた、聲アゲテ云ヒケリ」同、十二月二十七日「からうたドモ、時ニ似ツカハシキヲ云フ」 古今集、序「からのうた」 [illegible]、一、[illegible]「もろこしのうた」

カラ-うづ (名) [唐櫃] 〔からびつノ音便、からうどトモ云フ、[illegible]、くらうづ、同例〕 からびつ(唐櫃)ニ同ジ。其條ヲ見ヨ。

カラ-うど (名) [唐櫃] 〔からうづノ轉、前條ノ語原ヲ見ヨ〕 (一)[illegible]ニ同ジ。其條ヲ見ヨ。(二)ヒツギ。棺。約メテ、からど。狂言記、ぶせん石「姥ノ[illegible]二壜ノ築キ、石ノからうどキッテスエ」

カラ-うめ (名) [唐梅] 〔後水尾天皇ノ御代ニ、朝鮮ヨリ獻ジタル種ナリト云フ〕 らふばい(蠟梅)ニ同ジ。又、南京梅。蘭梅。

〜カラ-うり (名) [唐瓜] 〔外來ノモノ〕 胡瓜ノ古名。ソバウリ。本草和名、下「[illegible]、加良宇利」

〜カラ-え (名) [唐荏] たうごまノ古名。

倭名抄、二十七、草部、加良衣」

からえひ（名）【鰈】「槁鱏ノ義、瘦セカレタル意ナラム、から（涸）ノ條ヲ見ヨ、鱏ニ似テ、甚ダ小サシ」常ニ約メテ、かれひ、ト云フ。其條ヲ見ヨ。倭名抄、十九二「王餘魚、加良衣比、俗云、加禮比」

カラおり（名）【唐織】（一）次條ヲ見ヨ。（二）博多織ノ別名。

カラおりもの（名）【唐織物】略シテ、からおり。金襴、緞子、綾、錦、ナド、スベテ唐土ヨリ渡リタル織物ノ稱。我ガ國ニテ、唐メカシテ織レルヲ、唐織ト云フ、地ハ生絲ニテ、紋ガラハ五色ノ練絲、金絲ナド交ヘテ、浮織ニシタルモノ。（貞丈雜記、三）海人藻芥、中「仙院御服ハ、云云、綾、唐織等、努努不レ及ニ調進一、宮大臣ノ息等、十五歳ヨリ内ハ、色色ノ綾、唐織物用レ之」

カラかう（名）【唐紙】からかみノ音便。

カラかぎ（名）【鉤匙】〔唐鉤ノ義カ〕今ノ、たれかぎナルベシ。倭名抄、十七「鉤匙、戸乃加岐、一云、加良加岐」

カラかぎ（名）【黃顙魚】〔顋ノ下ニ、鉤匙ノ如キモノアリ、からかぎト云フハ、音通ナリ、鉤、鉸具〕河魚ノ名、又、からかぎ。今、ぎぎト云フ。其條ヲ見ヨ。（今モ丹波ニテハ、からかぎト云フトゾ）字鏡七十「鱯、加良加支」倭名抄、十九四「䱒、似ニ鮔魚一、而頰著レ鉤者也、加良加古」

からがき（名）【唐垣】〔幹垣ノ義〕草木ノ莖幹、又ハ、竹ニテ、編ミ作レル垣。武烈即位前紀、歌「八重ノ習雅習枳」盛衰記、十、丹波少將上洛事「唐垣破レテ、落石、道へり」秋の夜長物語（玄恵）「深夜ニ、韓垣ノ戸ヲ、人ノ、明クル音スルニ」

庭訓往來、三月「唐墻、透垣、柴垣」

からかくけ（名）【乾脚氣】〔から（乾）ノ條ヲ見ヨ〕かくけ（脚氣）ノ條ヲ見ヨ。

カラかぢ（名）魚ノ名。からかぎ（黃顙魚）ヲ見ヨ。

からかさ（名）【傘】「柄笠ノ義、笠ニ柄アリテ、轆轤ノ機發アリ」さしがさノ雨傘。略シテ、かさ。各條ヲ見ヨ。枕草子、十、百二十七段「からかささシタルニ、風ノイタク吹キテ、橫サマニ雪ヲ吹キカクレバ、少シ傾ケテ步ミ來ル」吾妻鏡、三十六、寬元三年十月十日、「屬星祭」「甚雨之間、於ニ唐笠下一勤ニ行之一」著聞集、十六、興言利口「讚岐圓座ノ、からかさバカリノ大キサ」

からかす（名）【辛糟】〔からハ、酒氣強キ義、からし（辛）ノ條ノ（三）ヲ見ヨ〕濃キ酒ノ糟。天治字鏡、四廿三「䤈、醲醅也、加良加須」

からかぜ（名）【空風】〔雨雪ニ伴ハヌ意ナルカ〕大風ニアラズ、只、物ニ觸レテ、強ク、ひうひうト音立タセテ吹ク風。小町踊、春、上「から風ヤ、カラワニワクル、柳髮」

からかぢ（名）【柄楫】〔からハ、柄ナリ、かぢ（楫）ノ條ヲ見ヨ〕柄ノアル楫。萬葉集、十四三十「古河ノ渡リノ、可良加治ノ、音高シモナ」夫木抄、三十三、楫「粟島ヤ、門渡ル舟ノ、からかぢノ」

カラかね（名）【唐金】〔支那法ヲ傳ヘタルナリト云フ〕現今ハ、百分中、銅九五、亞鉛一、錫四ノ合金。銅ニ似テ、稍黑シ。靑銅　紫銅　信長記「山崎離宮八幡宮ノ木鑓、朽チタル由申上ゲケレバ、からかねヲ以テ鑄マヰラセヨ、ト、云云、被ニ仰付一ケリ」

からかは（名）【辛皮】〔秦椒ノかは、是レナルベシ〕山椒ノ皮。加藥ナドトス。味、辛シ。ヤマカハ。

カラかは（名）【唐皮】虎ノ毛皮。建武年間記、武者所輩、可ニ存知一條條、云云、唐皮尻鞘、切付等、同斷」（同斷トハ、用ヰルベカラズト云フコト）「唐皮ノ切付」

カラかは（名）【唐革】阿蘭陀舶來ノ、紋形アル革。（きんからかはノ條ヲ見ヨ）寬天見聞記「はなを、云云、天鵞絨、紋革、からかはナド、用フルヤウニナリシ」

からかふ・ふ・へ・は・ひ・へ（自動、四）【爭】〔からハ、絡むノ語根、かふハ、する意、あらがふ、あてがふ、うけがふ〕（一）爭フ。爭ガフ。アラソフ。推シツ、返シツス。盛衰記、三十九、維盛參ニ詣高野一事「千度心ハ進ミケレドモ、心ニ心ヲからかひテ、泣ク泣ク、高野山へ參リタマフ」著聞集、十七、變化「池へ引入レムトシケレド、松ノ根ヲ強ク蹈ミハリテ、引入レラレズ、シバシからかひテ、腰刀ヲ拔キテ、サシアテケレバ」（狸ノ變化ナリ）現存六帖「片山ノ、ソガヒニ立テル、ホホガシハ、風ニからかふ、音ノサヤケサ」（二）戲レ諍フ。嘲弄リ戲ル。調戲　家長日記「トカクからかはセ給へド、更ニタマルベシトモオボエズ」

カラかみ（名）【唐紙】〔唐土ヨリ渡來ノ紙ヲ、源氏物語、須磨ニ「白キからノ紙四五枚」ト見エ、又、枕草子、十一ニ「からノ紙ノ赤ミタル」トアリ、是レラノ彩紙ヲ、摸造セルヨリノ名ナルカ、或ハ唯、常ノ紙ニ異ナルヨリ、唐ト云ヘルモノカ〕（一）紙ニ、摸木ニテ、五彩ノ種種ノ模樣ヲ摺リ出セルモノ。唐紙師アリテ、コレヲ造ル。音便ニ、からかう。散木集、十、物名「からかみノ摸木」字類抄「唐紙、カラカウ」（二）次次條ノ語ノ略。其ノ條ヲ見ヨ。

カラかみし（名）【唐紙師】〔前條ノ（一）ヲ見ヨ〕からかみヲ作ルヲ業トスル者。庭訓往來、四月「蒔繪師、紙漉、唐紙師」

カラかみしやうじ（名）【唐紙障子】（一）衾障子ノ、唐紙ニテ貼リタルモノ。絹貼ナルニ對シテ云フ。略シテ、からかみ。（ふすましやうじヲ略シテ、ふすまト云フニ同ジ）紙門　台記、別記、久安六年正月七日「上達部座障子可レ張レ絹、今日猶爲ニ唐紙一、不レ可レ然」長門本、平家物語、十、伊豆目代兼隆被レ討事「から紙ノ障子ヲタテタリケルヲ、細目ニアケテ」海人藻芥、下「唐紙障子ノ紋等、云云、皆、家ノ紋ヲツクル也」到來集「幾秋古キ韓紙障子」（嬉遊笑覽、一）新六帖、五「今宵サへ、事繁シトテ、逢フ事ヲ、チガヘヤリドノ、タテルからかみ」常山紀談、四、仁科信盛「腹切テ、腸ヲツカンデ、から紙ニ抛チ、倒レ死ス、其血ノ痕、後マデアリ」（二）今、からかみトノミ云ヒテ、室ト室トノ隔テノ敷居、鴨居ニ閉ヅル建具ハ、細ソキ材ニテ縱橫ノ骨ヲ作リ、幾層モ紙ヲ貼リテ、上貼ニ、紙ヲモ、絹ヲモ用キ、紙モ、種種ナルヲ用キ、白紙ニ書畫ヲカキタルヲモ貼ル。ふすまトモ云フ。（ほね、ほねしばりノ條ヲ見ヨ）

カラかんむり（名）【唐冠】兜ノ一種、唐土ノ冠ヲ摸造シタルモノ。三山冠ノ中山ヲ高クシ、背ニ纓ヲ、左右二條ヅツ、橫ニ突出セシメ、全體ヲ金箔ニシタルモノ。武邊咄聞書、二、天正十八年小田原陣「秀吉公ハ排威ノ御鎧、唐冠ノ御胄、作戾ナサレ、云云」

からがら（副）【辛辛】〔辛くしてノからヲ重ネタル語〕カラウジテ。エイヤットカナガナ。纔　史記抄（文明）四三十「燕王、からがらノ命タスカリテ、東ノ方ヘノガレ」「命からがら逃ゲ走ル」

がらがら（名）次次條ノ語ノ略。

がらがら（副）多クノ物ノ、相觸ルル音

ニ云フ[illegible]ノニハ、[illegible]車ノメグル音、大キナルニハ、車ノメグル、積ミタル荒ノ物ノ[illegible]ニ云フ。[illegible]とヲ參照セヨ。女殺油地獄(享保、近松作)一「鈴、錫杖ヲ、チリリン、がらがら」

がらがら-せんべい (名) [illegible]形ナドノ[illegible]ニテ、小サキ玩具二三ヲ包ミタルモノ、小兒ノ玩ナリ、振レバ、内ノモノ相觸レテ、がらがらト音ス、初ハ、木製ノ大黒天ノ小像一ツヲ加ヘテ、大黒せんべいト云ヒシト云フ。又、包煎餅。

からから-と (副) [乾乾] 〔から(乾)ノ條ヲ見ヨ〕物ノ、乾アガリタル狀ニ云フ語。「鰯ガ、からからとカワク」

からから-と (副) [鏗鏗] 金屬ノ器、又ハ、堅キ物ノ、相觸ルル音ニ云フ語。かんかん。餘韻アルニハ、からんからん。其複雜ナル音ニハ、がらがら。がんがん。がらんがらん。源、十、[illegible]バラノ、[illegible]奉ルトテ、からからと鳴ラシツツ」

からから-と (感) [呵呵] 〔から、からハ、ゑろゑろト通ズ〕高笑ノ聲ニ云フ語。音便ニ、かんらから。又、きゃらきゃら。きらきら。ケラケラ。太平記、二、唐崎濱合戰事「からからと打笑フ」 宇治拾遺、五、十一條「仲胤僧都、きやらきやらと笑ヒテ」 著聞集、十六、興言利口「きらきらと笑ヒテ、サザアヒケリ」[illegible]

からが・る ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 辛シト思フ。ツラシト思フ。源、十八、松風「イトカルガルシキ隈（クレ）、笑、見アラハサレヌルコソ嫉（ネタ）ウ、トイタウからがりタマフ」 同、三十二、梅枝「イト[illegible]シタリサト[illegible]ヒタマフ、[illegible]ラムトアレバ、イトイタウからがりタマフ」

からき (名) [枯木] 〔から(枯)ノ條ヲ見ヨ〕枯木ニ同ジ。[illegible]下「アシヒキノ、山ノマニマニ、倒レタル、からきハヒトリ、臥セルナリケリ」

カラ-き (名) [唐木] 舶來ノ木材ノ、紫檀、黒檀、鐵刀木ナドノ稱。[illegible]享、西鶴)二「欅ノ八角、又ハ、唐木ヲ使ヒ」「からき細工」「からき作リ」[illegible]

カラき-ざいく (名) [唐木細工] 唐木ニテ細工スルコト。又、其器物。

から-ざけ (名) [厚酒] 濃厚ナル酒。醇酒。字鏡「醲、厚酒也、加良[illegible]酒也」

から-きし (副) 少シモ。極メテ、少シバカリモ。東海道中膝栗毛(文化、一九)七編、下、ワッチ等ハ、からきしモ、何モ知リヤセン」

カラき-づくり (名) [唐木作] 唐木ニテ作ルコト。又、其物。室町千疊敷(享保、近松作)四「唐木作リノ千疊敷」

カラ-きっつけ (名) [唐切付] 唐皮(虎皮)ノ切付。明月記、建保元年七月廿五日「唐切付如レ常」

から-ぎぬ (名) [背子][唐衣] 〔からハ、韓(襠)ニテ、胴着ノ意ト云フ〕貴婦人ノ大禮服ニ、裳ト共ニ着ルヲ、男ノ束帶ニ准ズ、錦、綾ニテ作リ、袷ニテ、五衣ノ上ニ着ル、袖幅、短ク、前ノ丈ハ、衣ノ袖丈ト同ジク、背ノ丈ハ、ソレヨリモ短シ。倭名抄、十二、[illegible]背子、[illegible]婦人表衣、以[illegible]為之、[illegible]」 枕草子、七、六十四段「男、童ノ着ルヤウニ、ナゾ、からぎぬハ、短キ衣トコソ言ハメ」 榮花物語、三十七、煙後「浮線綾ノ裳、からぎぬ」 松屋筆記、八十七「女官裝束ハ、裳唐衣ハ、束帶ニ准ズ」

カラ-ぎぬ (名) [唐絹] 唐織ノ絹。[illegible]

カラきの-かまち (名) [唐木框] 唐木ニテ作リタル框。

から・ぐ グ・グル・グレ・ゲ・ゲ・ゲヨ (他動、下二) [絡] 〔[illegible]上グ、ノ約〕(一)結ヒテ、束ヌ。カラメ、ククル、シバル。[illegible]「褰、カラグ、ツツム」字類抄「褰、カラグ」宇治拾遺、十四、第十條「黄ナル紙絵ニテ、十文字ニからげタリ」(二)揭グ。カキアグ。マクシアグ。褰。「裾ヲからげテ」(アヅマからげ、尻からげ)

から-くさ (名) [唐草] 〔唐草ノ義ト云フ〕繪、織物、彫物、等ノ模様ニ、蔓草ノ、卷キナガラ、延フ形ヲ圖スルモノ。藻 字[illegible]、からくさ、[illegible]カシ」

から-くさ (名) [枯草] 〔枯草(芒莠)ノ轉〕から(枯)ノ條ヲ見ヨ〕かひば、まぐさノ古言。倭名抄、十五、[illegible]

から-くし (名) [唐櫛] 〔明櫛ノ上略ナラム、(もあがり、もがり。(殯)かきあつむ、(攪集))玉櫛ナドモアリ〕美シク作レル櫛。[illegible]抄、一「からくし、エリ櫛」

から-くじ (名) [空圖] 鬮引ニ、當ラヌ鬮。

から-くしげ (名) [唐櫛笥] 〔前條ノ語原ヲ見ヨ〕櫛ヲ入レオク、美シキ小箱。倭名抄、十四、[illegible]具、[illegible]、俗用二唐櫛匣二字、賈良久之介」

から-くして (副) [辛] 音便ニ、からうじて。エイヤット。ヤウヤウ。カラガラ。總 大和物語、中「からくして、思ヒ寐ルル[illegible]シサヲ、ウタテ鳴キツル、夏ノ蟲ニ」 竹取物語「大人、御口ニ水ヲ抄（スク）ヒイレ奉ル、からうじて生キイデタマヘル」

がら-くた (名) [骨董] 〔がらハ、がらがら、トノ相觸ルル音、くたハ、朽ナリ、其條ヲ見ヨ〕雜多ナル古道具。價ナキ物ノ意ニ云フ。ガラクタモノ。ガラクタ道具。

がらくた-だうぐ (名) 前條ヲ見ヨ。

カラ-くだもの (名) [唐菓子] 〔唐土ノ製造ヲ傳來セシモノナルベシ、(或ハ、乾菓物ニテ、木菓子ニ對スルカ)菓子トハ、果ノ形ニ似タル由ノ名ナルカ、結果ナド云フモノモ、コレト同ジ製ノモノナリ、後ノ、果ナラヌ食物ノ、菓子ト云フハ、此語ヲ唐菓子ト言譯シ、上略シタルナリ〕粳米ノ粉、小麥粉ナドニ、あまづらナド加ヘテ、[illegible]、種種ナル形ニ作リテ、多クハ、胡麻ノ油ニテ揚ゲタル食物。唐菓子（カラクワシ）。倭名抄、十六、[illegible]

がらくた-もの (名) がらくた(骨董)ノ條ヲ見ヨ。

カラ-くは (名) [唐桑] 支那ヨリ舶來スル桑ノ材、木理、美シク、書畫ニ作ル。[illegible](正德、近松作)一「唐桑ノ構ヨリ、堆朱ノ香箱、御前ニ差シ出ダセバ」

から-くみ (名) [唐組] 〔赤組ノ上略ナルベシ〕五彩ノ絲ヲ組ミテ作レル、平キ紐。[illegible]

から・む ム・メ・マ・ミ・メ (他動、四) [絡組] 〔絡み組む義〕絡ゲ組ム、組ミ織ル。[illegible]

カラクン-てう (名) [唐國鳥] [illegible]

Kalkoen.」舶來ノ鳥。形、鷄ノ如ク、首ハ雉子ニ似テ、白ク、頬赤ク、頸、黃ニシテ、黑キ斑アリ、天晴ルルトキ、首ニ兩角ヲ出ス、翠色ナリ、漸ク喉ノ下ヨリ胸ノ邊マデ、肉綏、左右ニ開キ出ヅ、綠ニシテ碧朱ノ斑アリ、時ヲ歷テ斂ム、嘴、黑ク、胸、綠ニシテ、朱點アリ、腹、黃ニシテ、淡黑キ波ノ文アリ、背ハ綠ニシテ黑キ斑アリ、端ニ金色ノ圈アリ、尾ハ淡黑クシテ、黑キ點アリテ、孔雀ノ如ク開ク、脚ハ青黑シ、吐綬鷄　百千鳥、下「からくん、餌ガイ(玄米、栗)」

からくもがひ (名) 殼雲貝　形、あかにしニ似テ、七八分、尾、平ニシテ尖ラズ、殼ニ疣アリテ、雲ノ狀ノ如シ、灰白ニシテ光ル、海濱ニ多シ。一名、コマノツメ。蓋ヲすがひト云フ、其條ヲ見ヨ。

〜**カラぐら** (名) 唐鞍　唐國ノ製ニ倣ヒタル馬具。銀面、菖蒲形、輪鐙、雲珠、杏葉、等ノ飾アリテ、製、和鞍ト異ナリ、御禊、行幸、供奉ノ公卿以下、賀茂祭ノ官人、等、用キラル、今モ、神祠、等ニアリ。馬寮式「蕃客乘騎、唐鞍」倭名抄、十五、鞍馬具「唐鞍」

からくり (名) 絡繰　(一)カラクルコト。アヤツルコト。(二)絲ヲカラクリテ動カス、種種ノ機關。機巧　狂言記、瓜盜人「此ノ畑主ハ細工利キヂャ、殊ノ外ヨイからくりヂャ」(三)次條ノ語ノ略。(四)のぞきからくりノ略。我衣、堺町、勘三郎芝居ノ向ウニテ、からくり、並ニ、子供狂言令レ見レ之」

からくりにんぎゃう (名) 絡繰人形　からくりヲ仕掛ケテ舞ハス人形芝居。アヤツリニンギャウ。略シテ、からくり。傀儡　歌舞伎事始(寬保)「からくり、物眞似、云云、竹田近江、萬治元年、竹田出雲樣」洛陽集(延寶)「玉兎ノ步ミ、竹田近江モ、ナカリケリ」御羅女(寬永)「竹田ガ座敷からくり等モ、御慰ミニテ、云云」

からくりまと (名) 絡繰的　又、吹矢的。人形ニからくりヲ仕掛ケオキテ、吹矢ニテ吹キ中テシムルモノ。中レバ、種種ナル人形ニ變ズ、祭禮ノ場ナドニ、野師ナドノ出シ設クルモノナリ。好色產毛(元祿)「大的、小的、楊弓ノ射場、からくり的ニ、鬼ノ出ルトコロ」(足薪翁記、一)松の落葉(元祿)四條河原凉八景「からくり的、おやまガ鬼ニウラガヘリ、鬼ガ佛ニナムアミダブツ」吹矢的、ツマルトコロガ、息マカセ」

からくる・ル・レ・ラ・リ・レ (他動、四) 絡繰　〔絡み繰る義〕絲ヲ、縱横ニ引張リ絡ヒテ、釣リ動カス。アヤツル。嘯筑波集(寬永)「あやつりヲ、からくる智惠ヤ、天下一」(昔ノ操芝居、皆、天下一ヲ稱シタリ)

からくるま (名) 空車　モノヲ乘セザル車。

カラぐるま (名) 唐車　牛車ノ一種。屋根ハ唐破風形ニテ、檳榔ノ葉ヲ以テ葺キ、庇、及、腰ニモ、葉ヲ總ニ垂レ、簾、等マデ、麗ハシク飾レル車。太上天皇、皇后、東宮、准后、親王、又ハ、攝關、等ノ、晴ノ時ニ用キルモノ。からびさしのくるま。榮花物語、三十九、布引瀧「北ノ陣ニ大殿、御から車寄セサセ給ヒテ、若宮イダカレサセ給フ」

〜**からくれなゐ** (名) 韓紅　〔韓ハ借字、からハ、赤ノ略ニテ、呉藍ノ鮮明ナルヲ云フナラム〕くれなゐノ、色ノ濃キモノ。縫殿寮式「韓紅花綾一疋、紅花大十斤」裝束色彙、くれなゐ「韓紅、中紅、退紅ノ三色ヲ通ジテノ名ナリ」古今集、五、秋、下「チハヤブル、神代モ聞カズ、龍田川、からくれなゐニ、水括ルトハ」(紅葉ノ、水ニ落チ重ナレルヲ云フ)

カラくゎし (名) 唐菓子　からくだものノ音讀、

からげこ (名) 空下戸　「空ノ條ヲ見ヨ」全クノ下戸。少シモ酒ヲ飲ミ得ヌコト。

からげんき (名) 空元氣　「空ノ條ヲ見ヨ」表面ヲヨソホフ元氣。ツケゲンキ。

⁂**から・げる** (動) 絡　からぐノ口語。

カラこ (名) 唐子　(一)繪ニ、唐風ノ衣裳ヲ着タル童兒ノ像。布袋和尚ノ傍ニ、群童ノ戯レ居ルトコロナド圖ス、コレヲ唐子あそびト云フ。(二)からこわげノ略。

からこ (名) 煎海鼠ノ條ヲ見ヨ。

カラこあそび (名) 唐子遊　前前條ノ(一)ヲ見ヨ。

カラごころ (名) 漢心 漢意　漢籍ノミ學ビ、其心、一圖ニ、漢國ノ理ニ傾キ、其國ヲ尊ビ、其風ヲ慕ヒテ、萬事ニ就キテ、是非善惡ヲ論ズルコト。國學者ノ云フ語ナリ。(大和心ニ對ス)

〜**カラこと** (名) 唐琴　唐土ヨリ傳來ノ、琴ノこと、箏ノことヲ、和琴(ワゴン)ニ對シテ云フ語。古今集、十七、雜、上「都マデ、響キカヨヘル、から琴ハ、浪ノ緒スゲテ、風ゾ彈キケル」夫木抄、廿七、鶴「小夜フケテ、鳴ク音モ悲シ、からことノ、調ベニカヨフ、籠ノ内ノ鶴」

カラこまげ (名) 唐子髷　からこわげニ同ジ。からこわげノ條ヲ見ヨ。浮世風呂(文化、三馬)二編、下「四歲バカリノからこまげノ子ヲ、留桶ノ中ヘ入レ」

からころ (副) 木履ニテ歩ム音、又ハ、槌ノ音ナドニ云フ語。餘韻アルニハ、からんころん。小兒語ニハ、約メテ、木履ヲ、かっこト云フ。嬉山莊(正德、近松作)四「砧ニ擣ノシッテイ、シッテイ、シテイ、からころ、槌ノ音」

〜**カラころも** (名) 韓衣　「韓國ノ制ニ倣ヒテ製セシ衣ナラムカ、應神紀、十四年二月「百濟王、貢ニ縫衣工女ニ」トアルニ始マレルカ」袖、大キク、裾ハ踝ニ至リ、上前、下前、深ク打チ交ヘテ、着ル、今ノ常ノ衣ノ製ナルベシ。我ガ邦、上古ノ衣ハ、筒袖ニテ、裾ハ、膝マデニ至ラザリキ。萬葉集、十一、三十一「辛衣、君ニ打チ着セ、見マク欲リ」同、十四、廿三「可良許呂毛、裾ノ打合、合ハネドモ」同、二十、三十五「可良古呂茂、裾ニ取リツキ、泣ク子等ヲ」後撰集、十、戀、二「唐ころも、逢(合)坂山ニ」(枕詞ナルモアリ)

〜**カラころも** (枕) 韓衣　着る、裁つ、反す、紐、裾、ナドノ枕詞。萬葉集、六、廿「韓衣、服楢ノ里ノ」源、六、末摘花、三「からころも、きみガ心ノ、ツラケレバ」萬葉集、十四、五十「韓衣、たつたノ山ハ」後撰集、十九、離別「からころも、たつ日ヲヨソニ、聞ク人ハ」宇津保物語、祭使、四十「から衣、かへすがへすモ、恨ミラルルハ」古今集、十一、戀、一「からころも、日モ(紐)夕暮ニ、ナル時ハ」萬葉集、十一、四廿「辛衣、襴ノ合ハズテ、久シクナレバ」

カラこわげ (名) 唐子髷　〔唐子ノ髮、皆、からわナレバ、名トス〕からわニ同ジ。からこまげ。國性爺合戰(享保、近松作)梅檀女道行「唐子髷ニハ薩摩櫛、島田髷ニハ唐櫛ト、大和、唐土、打チ交ゼテ」

カラごゑ (名) 漢音　漢音ニ同ジ。コレニ對シテ、呉音ヲやまとごゑト云フ。かんおん(漢音)ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。弘仁私記、序「第一、第二、兩卷、義慾ニ神代ノ語多ニ古質ハ授受之人、動易ニ訛謬ハ故以ニ倭音ハ辨ニ詞語ニ」(神代ノ語ヲ記スニ、呉音ヲ用キルナリ)名義抄、首「朱音

貫、[illegible]、[illegible]三[illegible]ハ、[illegible]
[illegible]ハ三十日[illegible]、[illegible]ハ、[illegible]ハ
[illegible]
廿一日[illegible]、云云、其[illegible]、唐[illegible]」後京極[illegible]記、正
[illegible]
[illegible]
[illegible]云フハ、[illegible]
ク是、[illegible]」

カラ-さうぞく（名）[唐装束]（一）唐綾、唐絹、唐織物ニテ、作リタル裝束ニシテ、一日ノ晴衣。からさうぞく。西三條[illegible]、文色ナド、[illegible]チ定[illegible]ナシ、[illegible]、[illegible]ナドフ[illegible]ルナリ、凡ソ唐裝束ハ、一日晴レト稱シテ、尋常ニ着リ侍ルナリ」（二）かさねさうぞく（襲裝束）ニ同ジ。

カラ-ざえ（名）[漢才] 漢書ニ通ジ、詩文ヲ作ル才。漢才。[illegible]、人ガラ、ヤマト心バヘハ、ワロカリケル人ナリ、からざえハヨクテ、[illegible]ナド、イミジク作ラレ」

からざけ（名）[苦酒] からハ、酸キ義、からし(辛)ノ條ノ(二)ヲ見ヨ」酢ノ別名。倭名抄、十六「[illegible]」

からざけ（名）[乾鮭] 鮭ノ腸ヲ去リテ、素乾ニシタルモノ。徒然草、百八十二段「からざけト云フモノヲ、供御ニ參ラセラレタリケルヲ、カクアヤシキ物、參ルヤウアラジ、云云、鮭ノ、らぼし、何條事カアラム」

カラ-さへづり（名）[韓語] さへづり(囀)ノ條ヲ見ヨ。

カラ-ざま（名）[唐樣] カラヤウ。唐土ノ風。

からざを（名）[連枷]〔梻棹ノ義、梻アリ、機發アリ〕稻ノ穗ヲいねこきニカケテ籾ヲ取レルニ、ナホ、みだノ附キテアルヲ、打チテ離ス具。五尺許ノ棒ノ先ニ、[illegible]ニテ、一尺許ノ棒ヲ[illegible]、[illegible]ヲ[illegible]ラ[illegible]打[illegible]、[illegible]ヒテ來ル、[illegible]カナ」

からし（名）[芥子]〔辛しノ義、形容詞ノ終止形ヲ名詞トス、あかし(燈明)ノ語原ヲ見ヨ〕野菜ノ名、今、からしなト云フ、其條ヲ見ヨ。本草和名、下「[illegible]」倭名抄、十七「[illegible]」

からし（名）[芥子] 前條ノ語原ヲ見ヨ。からしの粉。芥菜ノ子ヲ搗キテ、粉トセルモノ。色、黄ニシテ、味、辛シ、[illegible]ナドニシテ、食ノ味ヲ助ク。[illegible]四、[illegible]「芥、[illegible]」[illegible]、食[illegible]ヲ添フルモノ）[illegible]合（文化、六書[illegible]）からし キスギメノ、[illegible]、からしの[illegible]、キケバ[illegible]ノ、出ルワカレ[illegible]

から・し・キ・ケレ・ク・ク（形、二）[辛]〔氣苛しノ略、[illegible]ノ條ヲ見ヨ、來到る、きたる。（來）衣板、きぬた(砧)〕（一）烈シク舌ヲ[illegible]キ刺スガ如キ味アリ。芥子、生薑、山葵ナド、味フ感ジアリ。（甘しニ對ス）（二）酸シ。醶 字鏡[illegible]「[illegible]、酸也、加良之、又、[illegible]」倭名抄、十六「酢、加良佐介」（三）酒氣、强シ。芳烈 字鏡[illegible]「[illegible]、酒味也、加良志」同上「[illegible]、厚酒也、加良支酒」（四）鹽氣、强シ。鹽ハユシ。シホカラシ。鹹 萬葉集、五[illegible]「[illegible]」[illegible]ニハ、鹹鹽ヲ、注ゲチフ如ク」字鏡[illegible]「鹹、加良志」

から・し・キ・ケレ・ク・ク（形、二）[辛][酷] 前條ノ語意ノ轉、痛ク身ニ感ズルナリ」（一）[慘シ] イタシ。キビシ。ヒドシ。武烈紀[illegible]「[illegible]」欽明紀、[illegible]十三年六月[illegible]「[illegible]、不[illegible]其[illegible]」字鏡[illegible]「[illegible]、急也、[illegible]也、加良

志」名義抄「醶、カラシ、アラアラシ、イタシ」（二）[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
らく急ギテ、和泉ノ[illegible]ト云フ所ニ到リヌ」（三）[illegible]
ラ[illegible]
萬葉集、十五廿「可良佐伎戀ヲモ、我レハスルカモ」同
卷廿六「可良久モココニ、別レスルカモ」「辛き目ニ逢フ」（四）危シ。アブナシ。[illegible]
五十三[illegible]ハ、[illegible]ケ[illegible]ナガラ、[illegible]ニケリ、からき命マウケテ、久シク[illegible]ミ[illegible]リケリ」[illegible]くシテ[illegible]ル」

からし-あへ（名）[芥子和] 甘味噌ヲ、煮出汁ニテ擂リ溶カシタルニ、芥子ノ粉ヲマゼテ、魚肉、貝ノむきみナドニ和ヘタルモノ。若布、[illegible]ナド、刻ミテ加フルアリ、又、酢味噌ニテ作ルアリ。

カラ-しし（名）[唐獅子]〔猪のしし、鹿のししト區別シテ、外國ノ獅子ト云フナリ〕獅子ト云フニ同ジ。常ニ、牡丹ニ取合ハス。ぼたんノ條ヲ見ヨ。

からし-ず（名）[芥醋] 酢ニ、芥ヲ雜ゼタルモノ。小町踊、春「からし酢ニ、フルハ涙カ、櫻鯛」

からし-づけ（名）[芥子漬] 茄子のからしづけト云フハ、先ヅ、秋茄子ノ小サキモノ五十箇ヲ、鹽漬トシ、壓石ヲ置クコト一晝夜半ノ後、一日ホド日光ニ乾シテオク、次ニ、芥子ノ粉ヲ、水ニテ固ク揑ネテ、布巾ニ包ミ、桶ニ入レテ、微溫湯ヲ注ギカケ、辛味ノ出デタル頃、麹三合ニ、酒ト醬油トヲマゼテ、芥子ノ柔カクナルマデ揑ネアハス、此中ニ、前ノ茄子ヲ漬ケ込ミ、數日ニシテ成ル。

からし-な（名）[芥菜]〔からし芥子ノ條ヲ見ヨ〕古名、からし。葉ハ、あぶらな[illegible]小[illegible]、[illegible]、[illegible]シ、花、實ハ、あぶらなヨリ小サクシテ、[illegible]、[illegible]、鹽漬トシテ食フ。又、大葉芥アリ、葉大キクシテ、子ニ辛味少シ。大芥 [illegible]合(文化、六樹園)からし菜「ムセカヘル、涙モ苦シ、からし菜ノ、カラキ心ノ、人ヲ戀フトテ」

からし-の-こ（名）[芥子粉] からし(芥子)ノ條ヲ見ヨ。

カラ-しやうぞく（名）[唐装束] からさうぞくノ(一)ニ同ジ。發心集、四、第一條「十四五バカリナル美シキ童子ノ、麗シクからしやうぞくシタルナリ」

から-しり（名）[輕尻]（一）昔、宿場ニテ、駄送ノ荷物三十六貫目ヲ、本馬ノ荷ト定メタル、其ノ半數ノ稱。（二）駄送スベキ荷物ノ、空ナルコト。[illegible]小[illegible]「[illegible]ガニ匹アイテ、から尻ニナッタ」

から-しり-うま（名）[輕尻馬]〔からしりハ、荷輕尻ノ略、からハ、かろ、かるノ轉、白、しら雲〕往時、驛驛ノ駄送ノ馬ニ、本馬ノ荷ノ半ノ量ヲ、一駄トスルモノ、卽チ、十八貫目ヲ負ハスルモノ。[illegible]山[illegible]、[illegible]三、から尻馬モ、[illegible]シタル[illegible]ニ、[illegible]ノ名ビ」

から-じる（名）[雪花菜汁] 擂リタル豆腐殼ヲ入レタル味噌汁。あさりノむきみ、葱ノ五分切ナド、加フ。ウノハナジル。

から-す（名）[鴉]〔からハ、鳴ク聲、すハ、添ヘタル語、らノ條ヲ見ヨ。枕草子、五、四十九段「鵯ノ、イト近ク、からト鳴クニ」ナハ、鳥ニ添フル[illegible]ノ語、[illegible]、ひすノ語原ヲ見ヨ〕（一）鳥ノ名、人ノ當ク

知ル所ナリ、羽毛ハ、全身、純黒ニシテ、鳴ク聲、かあかあト聞ユ、市村ニ棲ムヲ里がらすト云フ、觜、細ケレバ、又、觜細がらすノ名モアリ。慈烏 山ニ棲ムハ、觜、體、共ニ大ナリ、山がらす、觜太がらすト云フ。鴉烏 又、深山がらすアリ、其條ニ注ス。神武紀位前紀「頭八咫烏」萬葉集、十四、廿八「可良須トフ、大虚鳥ノ、マサデニモ、來マサヌ君ヲ、許呂久トゾ鳴ク」吉野拾遺「くゎんかう(還幸)ト、鳴クヤ吉野ノ、山がらす、頭モ白シ、おもしろノ夜ヤ」(二)黒キ義トシテ、物ノ名ニ被ラシムル語。「からす石」からす猫」からす蛇」(三)其業、其道ニ馴レタル者ノ稱。「旅がらす」河岸がらす」(京阪、江戸、樂屋雀ノ類)

から・す・ス・セ・サ・シ・セ(他動、四)|涸| 〔涸るノ他動、晴る、はらす。濡る、ぬらす〕涸ルルヤウニス。乾シテ、濕ヲ去ル。「池ヲ涸らす」髮ヲ涸らす」

〜**から・す**・ス・セ・サ・シ・セ(他動、四)|枯| 〔枯るノ他動、前條ノ語原ヲ見ヨ〕(一)枯ルルヤウニス。古事記、上、廿「青山如二枯山一泣枯」「草ヲからす」木ヲからす」(二)花、葉ヲ無クナス。古事記、中(應神)二十七長歌「花橘ハ、上枝ハ、鳥居賀良斯、下枝ハ、人取リ賀良斯」萬葉集、十四、四十九「垣內楢、末摘ミ可良思」

〜**から・す**・ス・セ・サ・シ・セ(他動、四)|嗄| 〔嗄るノ他動、前前條ノ語原ヲ見ヨ〕聲、嗄ルルヤウニス。源、十、榊、七「松蟲ノ鳴キからしタル聲モ、折リ知リガホナルヲ」

から・す (動)|將離| 〔かる(離、放)ノ延〕離ル。放ル。拾玉集、一、夏「住ミワブル、山里からす、郭公、同ジ鳴ク音モ、アハレ添ヒケリ」

ガラス (名)|硝子| 〔英語、Glass.〕又、ぐらす。堅ク、脆クシテ、透明ナル物質。あるかり金屬ト、かるしうむト、珪酸トヲ熔融シテ造ル。又、種種ノ色ヲツケタルヲ、色がらすト云フ、酸化銅、酸化まんがん、又ハ、こばると等ヲ混入シテ製ス、種種ノ器具ヲ作リ、用途、廣シ。古クハ、びいどろ、又、ぎやまんト云ヒキ。

からす-あふぎ (名)|烏扇| 〔漢名、烏扇ノ文字讀〕草ノ名。今、ひあふぎ(檜扇)ト云フ。其條ヲ見ヨ。倭名抄、二十、廿「本草云、射干、一名烏扇、加良須安布木」古語拾遺「以二烏扇一扇レ之」山家集、下「蓬生ハ、サルコトナレヤ、庭ノ面ニ、からす扇ノ、ナゾ茂ルラン」

からす-いし (名)|烏石| 石炭ノ一名。(倭訓栞、長門、船木村)

〜**からす-うり** (名)|烏瓜| 〔瓜、熟スレバ、鴉、好ミテ食ヘバ、名トスト云フ〕瓜ノ一種。春、舊根ヨリ生ズ、蔓、長ジテ線稜アリ、葉ト共ニ、深綠ニシテ、黒ミアリ、葉ハ互生シ、圓クシテ厚ク、三五尖ヲナシ、鋸齒アリテ、毛刺アリ、葉毎ニ鬚アリテ、他物ニ絡フ、夏ノ半ニ、葉ノ間ニ白花ヲ開ク、本ハ筒ニシテ、末ハ五出ニシテ、端、裂ケテ、亂絲ノ如シ、後ニ瓜ヲ結ブ、矮鷄ノ卵ノ大キサニシテ、熟スレバ朱紅色ナリ、核ヲたまづさト云フ、根ニ、長キ塊、多ク着ク。|王瓜| 又、黄からすうりアリ、其條ヲ見ヨ。|栝樓| 本草和名、上、廿七「栝樓、加良須宇利」(倭名抄、同ジ)

からす-おどし (名)|烏威| 烏ノトマルヲ防グ爲ニ、屋根ノ棟ニカケワタス繩。

からす-かご (名)|烏籠| 〔柳亭高屋云フ、烏ヲ籠ニカコヒテハ、聲モカシマシク、打見ルモ黒キバカリニテ、オカシカラズ、何ニモアレ、興ナキ事ニ喩ヘテ云フトゾ〕興味ノナキコト。烏籠物語(正保)跋、「サル人、此草(子)ヲ見テ、言葉イヤシク、心ちつつニ似タリ、オモシロキ事ハサテオキヌ、オカシクモナシト申サレシ、因リテ、此ノ物語ノ名トス」

からす-がしは (名)|烏柏| 硯ノ名。後嵯峨院年中行事抄、七夕篇「烏柏硯二筆七本」

からす-がへら (名)|烏頭| 〔漢名、烏頭ノ文字讀〕くはゆぎ、馬ノ左右ノ後脚ノ中程ノ節ノ、後方ヘ曲リ出デタルトコロ。倭名抄、十一、七牛馬體「烏頭、曲肘、久波由岐」齊民要術「烏頭欲レ高」註「烏頭、後足外節」平家物語、十一、屋島軍、大坂越事「潮干潟ノ、ヲリフシ、潮干タルサカリナリケレバ、馬ノ烏頭、胸繫ツクシ、太腹ニ立ツ所モアリ」

からす-がね (名)|烏金| 〔當世武野俗談(寶曆)ノ記ニ據レバ、幕府ノ徒士ハ、黒縮緬ノ羽織ヲ着テ、毎曉、御番ノ往來ス、因リテ烏ト渾名ス、天明ノ頃、徒士某ノ後家アリテ、高利ノ金ヲ貸シタルニ起ルト、或ハ云フ、朝來テ、夜、ねぐらニ歸ルヨリ、烏ト云フト〕一日限リ返濟ノ約束ノ、高利ナル貸金。芝居者、茶屋者、見世物興行師ナドニ貸スナリ。守武獨吟、追加「カヘリテハ、クルカリがねヲ、ハラフ世ニ、サダメ有ルコソ、からすナリケレ」

からす-がひ (名)|烏貝| (一)蛤ノ殼ノ、色黒キモノナルベシ。山家集、下「波寄スル、白良ノ濱ノ、からすがひ、拾ヒヤスクモ、オモホユルカナ」(白ト黒ト云ヘルナラム) (二)どぶがひノ異名。

からす-かんざゑもん (名)〔鴉ノかノ音ノ口調ニテ、勘左衛門ト擬人ス、(勸三郎トモ云フ)平氣ノ平左衛門、嗅左衛門、同ジ〕鴉ト云フニ同ジ。兒童ノ語ナリ。

〜**から-すき** (名)|犂| 〔柄鋤ノ義ニテ、柄ニ機發アリ〕鋤ノ一種。柄、曲ガリテ、刃、廣キモノ。牛馬ノ背ニ牽カケテ、田畑ヲ耕スニ用キル。倭名抄、十四、農耕具「犂、犂、田器也、加良須岐」

からすき-ぼし (名)|犂星| 〔三星列シテ、犂ノ如クナレバ云フ〕二十八宿ノ、參ト云フ星宿ノ名。參

ガラス-きり (名)|硝子切| 硝子ヲ切ル具。鐵杆ノ頭ニ、小サキ金剛石ヲ嵌メテ造ル。

からす-ぐち (名)|烏口| 〔形、烏ノ觜ニ似タリ〕圖ノ罫引ニ用キル具。筆ノ如シ、頭ニ墨汁ヲ含マセテ、線ヲ引ク。鋼筆

カラ-すずみ (名)|唐雀| 〔すずみ(雀)ノ條ヲ見ヨ〕連雀ノ異名。其條ヲ見ヨ。

からす-だこ (名)|烏凧| すがだこノ條ヲ見ヨ。

からす-てんぐ (名)|烏天狗| 〔口、烏ノ觜ノ如シ〕小サキ天狗。コテング。てんぐノ條ヲ見ヨ。

からす-とび (名)|烏飛| 横ニ、飛ビ跳ヌルコト。千載狂歌「アマノ戸ヲ、オシアケガタノ、舞臺ヨリ、からすとびスル、黒イ尉ドノ」

からす-とんび (名)|鴉鳶| 烏賊ノ口ニアル、半透明ニシテ、極メテ薄キ、骨ノ如キモノ。大小二ツアリ、其形、一ハ鴉ノ飛ベルガ如ク、一ハ鳶ノ飛ベルガ如シ、上下顎ナリト云フ。

からす-なき (名)|烏鳴| 烏ノ鳴ク聲。其鳴クヤウニ因リテ、吉凶ノ兆アリト云フ、よろこび烏ナド云フ、是レナリ。百

合若大臣野守鏡(寶永、近松作)四「夢ヲ羽ジ、夢合セ、[illegible]、諸説探儀「鶴喙來レ鵲レ吉、鴉鳴覺是凶、人間凶與レ吉、不[illegible]中[illegible]、からす

からすなへり (名) [轉筋] 〔からすハ、華(?)筋ノ略、[illegible]、かすが、なんたち)なへハ、蹇、りハ、添ヘタル語、(らノ條ヲ見ヨ)からすなめりトモ云ヒ、へ、め、音通ナリ〕 おむらがへりニ同ジ。今、博多ニテ、からすなへ。信濃ニテ、からすがへり。長崎ニテ、からすまがり。 倭名抄、三「轉筋、[illegible]、古[illegible]、一云、[illegible]」 名義抄「轉筋、カラスナメリ」

からすなめり (名) 轉筋 前條ヲ見ヨ。

からすねこ (名) [烏猫] 〔烏ハ、黑キ義〕 毛ノ、眞黑キ猫。

からすのきう (名) [烏灸] 〔俗ニ、烏ニ灸ヲスエラレタルナリト云フ、小兒ヲ戒メムトテ云フ語ナルベシ〕 クチヒビ。口角ニ、瘡ノデキテ、爛ルルモノ。胗

からすのぎゃうずゐ (名) [烏行水] 〔大鏡、[illegible]小正[illegible]、鳥也、浴[illegible]作上作下也」〕 烏ノ、水浴シテ、直ニ飛去ルコト。俗ニ、人ノ入浴ノ、倉卒ナルニモ譬ヘテ云ヒ、仕事ヲ始メテ、忽チ止メ去ルニモ云フ。 浮世[illegible](文化、[illegible])[illegible]、上「[illegible]の行水、早湯ヘ」

からすのさんせう (名) [鴉山椒] 〔本草一家言、三「食茱萸、和名、鴉山椒、云云、子比山椒甚大、鳥好集食」〕 木ノ名。古名、オホタラ。山谷、或ハ、深林中ニアリ、木ノ高サ二三丈、枝、葉、繁茂ス、木ニ刺多シ、[illegible]ヲ生ズ、くるみノ葉ニ似テ、[illegible]アリ、一葉ニ、三十餘ノ小葉、[illegible]生ス、夏、枝梢ニ、數百簇リテ、花ヲ開キ、實ヲ結ブ、内ニ黑子アリ、山椒ノ子ノ如シ。食茱萸 [illegible]「[illegible]、オホタラ、カラスノサンシヤウ」

からすのゑんどう (名) [烏豌豆] のゑんどうノ條ヲ見ヨ。

からすば (名) [烏羽] 烏ノ、色黑キ羽。 [illegible]、知ル人モナシ」 新[illegible]、からすばニ、[illegible]、ココチシテ、[illegible]鳴キワタル、夕闇ノ空ニ」

からすびしゃく (名) [烏柄杓] 〔花ノ形、匙ノ如シ〕 草ノ名、半夏ノ一名。(又、倭名抄ニハ、ほそくみトアリ)

からすへび (名) [烏蛇] 〔烏ハ、黑キ義〕 からすへみ。クロクチナハ。蛇ノ一種、色、黑キモノ。山野ニ居ル、頭圓ク、尾尖リ、背ニ三稜アリ、黑クシテ、漆ノ如ク光ル、腹ハ淡黑シ、大ナルモノハ、人ヲ逐フ。風梢蛇 倭名抄、十九「[illegible]蛇、加良須倍三」

からすへみ (名) [烏蛇] 前條ヲ見ヨ。

カラすみ (名) [唐墨] 〔韓カ、唐カ、外國ヨリ製法ヲ傳ヘタルモノ〕 松煙ノ炭ニテ製セル墨。(後ニハ、油煙ヲ用キル) 推古紀、十八年三月ニ、高麗ノ僧、曇徴、歸化シテ、紙墨ヲ作ルトアリ。 康賴本草、上[illegible]「墨、マツヲモスケムリノスミ、又、カラスミ」 又、支那製ノ渡來ノ墨ヲモ云フ。唐墨。何レモ、古キモノハ、[illegible]

カラすみ (名) [鱲子] [illegible] テ、古製ノ[illegible]ニ似タリ、[illegible] めなだ、さはらナドノ鯔ヲ、胞ノママニ[illegible]ヲ施シ、[illegible]シテ、干シタルモノ。今、肥前ノ長崎ノ野母ノ製、最モ名アリ、是レハ、延寶年中、長崎ノ高野勇助ノ工夫シタルモノニテ、鰡ノ[illegible]ニテ製ス、黃褐色、濁透明ニテ、脂多ク、初春ニ食ヘバ、味、最モ美ナリ。 鯔脯

からぜき (名) [乾咳] 〔から(乾)ノ條ヲ見ヨ〕 咽喉ニ粘氣ナクシテ、痰ノ切レザル咳。

からせんすゐ (名) [乾泉水] (一)庭園ノ、水ナキ池。(二)箱庭ノ、水ナキ池。 [illegible]記、廿五、紅葉山[illegible]、仁和寺ノ守[illegible]王ヨリ、[illegible]ト鷄冠ノ紅葉ノ、色ウツクシキヲ二本、進覽アリ、新院、何トカ思サレケン、コレヲバ[illegible]ノ山ニハ植エラレズ、[illegible]、夫[illegible]ヲ召シテ、コノ[illegible]、[illegible]ニ植クルナリ、朗ケテハ持參セヨ、叡覽アラントゾ仰セケルニ、[illegible]リテ宿所ニ歸リ、乾泉水ヲ造リテ、紅葉ヲ植エ、朗ケテハ御所ヘ持參シ[illegible]ルレバ宿所ニ持チ歸ル、[illegible]セジ、[illegible]ラジト、心皆シウシ給ヒケルハ、ユユシキ大事ニゾアリケル」

からだ (名) [體] 〔軀立ノ略、枝モ、枝立ノ略、討手、うて、持ちて、もて〕 (一)身。カラ。ムクロ。動物ノ五體 頭チ、首、胴、手、足、等ヲスベテ云フ語。體。身體 長崎ニテ、五體 [illegible] (二)[illegible]、(首、手、足ヲ除キテ)から[illegible] トハ、骨折ヲ厭フ、怠ル。ナマケル。

からたけ (名) [幹竹] 〔[illegible]竹ノ、[illegible]アルニ對シテ云フ語カ〕 苦竹、雄竹ニ同ジ。

カラたけ (名) [漢竹] 〔支那ヨリノ渡來ナルニ就キテ云フ語ナルベシ〕 名物ノ笛ナドニ云フ語。[illegible]、漢竹トモ云フ。 夫木抄、廿八、竹「からたけノ、笛ニ卷クテ、[illegible]」 [illegible] かんちくノ横笛ヲ持チ」

からたけわり (名) [幹竹割] 幹竹ヲ割ルガ如ク、直ニ快ク割ルコト。[illegible] 記、[illegible]からたけわりニシテヤラウ」

カラダ・セン (名) [伽羅陀山] 〔梵語、騾林山ト譯ス、慧琳音義、十八「十寶山ノ一山ナリ、マタ是レ、七金山ノ一數ニシテ、[illegible]、光味仙人、此山ニ居住シ、[illegible]〕 傳ノ[illegible]、[illegible]ニ、小歌「バケモノト思ヒケル故ニ、石ナレドモ、クビ打チ[illegible]、神通ヲウシナヒ、クビヲキラレテ、からだせんバカリ殘リ給フゾイタハシキ、樂阿彌カクゾ申ケル「クビナシノ、地藏ノハテハ、からだせん、迷ヒヤスラン、六道ノツジ」[illegible](貞德)「只マイレ、夢ヒヤ汁ノ、からだせん、[illegible]ノシャウガテ、アソブ夏ノ日」 古今夷曲集、七、[illegible]「ウツクシキ、地藏ノ如キ、若衆ニ、死スルからだハ、千バカリナリ」(伽羅陀山ニ、體、千ヲカク)

カラ-たち（名）枳殼〔唐橘ノ略、常ニ枳殼ノ字ヲ當ツレド、誤レリ、きこくノ條ヲ見ヨ〕灌木ノ名。樹ニ、刺、甚ダ多ケレバ、常ニ生籬ナドトス。高サ丈餘、葉ハ萩ニ似テ、小サク厚ク、光ル、春ノ末、枝ノ梢ニ、枝ヲ分チテ、五瓣ノ白花ヲ開ク、大キサ寸ニ近シ、實ハ秋、熟ス、黃ニシテ、肌、細カナリ、臭酸、食フベカラズ。枳殼ニ僞ル。枸橘　臭橘　字鏡四十「枳、加良立花」天治字鏡、七十五「枳實、辛橘」萬葉集、十六十八「枳ノ、棘原刈リ除ケ、倉建テム」本草和名、上五十六「枳殼、加良多知」倭名抄、二十十三「枳椇、加良太知」

から-たちばな（名）百兩金〔赤たちばなノ上略ニテ、實ニツキテ云フナラム、あかたちばなノ名モアリ〕常綠ノ灌木。高サ、尺バカリ、葉ハ竹ノ葉ニ似テ、厚ク長ク、深綠色ナリ、夏、白色ノ小花ヲ開キ、圓キ子ヲ結ビテ、葉ノ間ニ垂ル、大豆ノ大キサニテ、一枝ニ數顆ナリ、熟スレバ赤シ、多ク、庭ニ植ウ。アカタチバナ。

から-たま（名）唐玉〔明玉ノ上略、（あとたゆ、とだゆ）あからたちばな、あからがしは、同趣〕美シキ玉。萬葉集、五九長歌「少女等ガ、少女サビスト、可羅多麻ヲ、袂ニ纏シ、白栲ノ、袖振リカハシ」

から-ちち（名）乾乳〔から（乾）ノ條ヲ見ヨ〕乳汁ノ出デヌ乳房。又、其女。

カラ-つ（名）唐津　からつやきノ條ヲ見ヨ。

カラット（名）〔英語、Carat.〕合金中ニ含ム金ノ分量ニ云フ語。純金ヲ二十四からっとト定メ、其二十四分中ノ十八分ノ金ノアルヲ十八からっとトシ、又、十八金トモ云フ。十四金ナド云フモ、准ジテ知ルベシ。

から-っ-ぱう（名）空〔空ヲ擬人シテ、空坊ノ急呼音轉ナルベシ、竹筒ぽう、筒ッぽう、（筒袖）伸っぽう（身長人）ナドモアリ〕空ト云フ口語。

カラ-つばき（名）唐椿　椿ノ一種、花、大輪、一重ニシテ、紅色ナルモノ。葉ハ木犀ニ似テ、大ナリ。（增補、地錦抄）

から-っ-ぱら（名）空腹〔すきっぱら、同趣〕からはらノ口語。曾我五人兄弟（元祿、近松作）二「からっ腹ニテ、ガイニ目ガ廻ヒサウダ」

カラつ-もの（名）唐津物　次次條ヲ見ヨ。

カラつ-や（名）唐津屋　次條ヲ見ヨ。

カラつ-やき（名）唐津燒　肥前國、松浦郡、唐津、及、其近傍ヨリ製出スル磁器。製作、形狀、時代ニ因リテ種種ナリ、細カナルくゎんにゅうアリテ、色ハ、多ク、薄綠ニ鼠氣アリ、又、薄柿色ニ朱筋アルアリ。往時ハ、甚ダ盛ンニシテ、九州ニテハ、からつもの、又單ニ、からつト云ヒテ、陶磁器ト云フ語ニ用ヰ、燒物商ヲ、からつやト云フ。（東國ニテ、瀨戶燒ヲ、せともの、せと、せとものやト云フガ如シ）

から-つゆ（名）空梅雨〔から（乾）ノ條ヲ見ヨ〕梅雨ノ條ヲ見ヨ。心中刃氷朔日（正德、近松作）下「イカニ今年ノからつゆニ、アハレ袂ノサミダレニ」

から-て（名）空手〔空身ナド、同趣〕手ニ、物持タヌコト。素手。テブラ。

カラ-て（名）唐手〔支那ヨリ傳ヘタルモノ〕沖繩ノ武術。相撲、拳法ノ類。

から-でっ-ぱう（名）空鐵砲（一）銃砲ニ、彈丸ヲ込メズ、火藥ノミニテ放ツコト。空砲　吾吟我集（寬政、猢元見行）世話「支證ナキ、手ガラヲハナス、音ヲコソ、から鐵砲ト、人ノ聞クラメ」（二）略シテ、てっぽうトノミ云ヒテ、虛言ノ意トス。空言

カラ-と（名）唐櫃〔からうどノ約、賓客、まらと〕（一）からびつ（唐櫃）ニ同ジ。（二）米櫃。（京都）

カラ-ど（名）唐戶　唐門、又ハ、廚子ノ觀音開キノ扉ノ面ニ、縱橫ノ格ヲ入レ、上部ニ、猪目ノ彫刻ナドシタルモノ。寢殿ノ出入口ニモ用キラル。（妻戶ニ對ス）運步色葉集「唐戶」

から-とり（名）莖取　芋莖。（仙臺）

カラ-とり（名）唐鳥　鳳凰ノ和名。桑家漢語抄（文明）九「鳳、於加良登里、凰、彌加良登利」故實拾要、三「御帳臺、云云、其ノ一幅ゴトニ、唐鳥、唐花、等ノ縫ヒアリ」

から-な（名）辛菜　甘菜ノ條ノ（一）ヲ見ヨ。

カラ-な（名）唐名〔たうみゃうトハ云フマジキ由、云ヘリ〕唐土ノ官稱ヲ、我ガ朝ノ官ニ當テテ云フモノ。職原抄、上、太政官「太政大臣、唐名、相國」大納言、唐名、亞相」中納言、唐名、黃門」

カラ-なし（名）唐梨　又、ない。べにりんごノ古名。柰　字鏡四十七「椋、加良奈志」倭名抄、十七四「椋子、字亦作ㇾ柰、柰以、一云、加良奈之」

から-なづな（名）辛薺〔薺ニ似テ、其實、辛き故ノ名ナリト云フ〕いぬなづな（犬薺）ノ一名ナリト云フ。催馬樂、庭生「庭ニ生フル、加良名川名ハ、美キ菜ナリ、宮人ノ、下グル袋ヲ、オノレ懸ケタリ」（實ノ形、三角ニテ、袋ノ如クナレバ云フト云フ）

カラ-なでしこ（名）唐撫子（一）石竹ニ同ジ。なでしこノ條ヲ見ヨ。（二）襲ノ色目ノ名、表ハ紫、裏ハ紅ナルモノト云フ、夏服ノ用トス。宇津保物語、樓上、上五十六「からなでしこノ唐綾ノ袿」

から-にし（名）辛螺〔味、辛し〕いはにし（岩螺）ニ同ジ。

カラ-にしき（名）唐錦　唐織ノ錦。枕草子、五、四十五段、めでたきもの「からにしき、飾太刀」

カラ-にしき（枕）唐錦　裁つ、立つ、ナドノ枕詞。古今集、十七、雜、上「思フドチ、圓居セル夜ハ、唐錦、たたまく惜シキ、モノニゾアリケル」

から-ぬり（名）殼塗　津輕塗ノ條ヲ見ヨ。

カラ-ねこ（名）唐猫〔外來ノモノナレバ云フ〕猫ト云フニ同ジ。源、三十四、上、若菜、上一「から猫ノ、イト小サク、ヲカシゲナル」

から-の（名）枯野　かれのノ條ノ（一）ヲ見ヨ。

カラ-の-おんぞ（名）唐御衣　唐衣ノ敬語。宇津保物語、菊宴「大宮、女一宮、云云、赤色ニえびぞめノ襲ノ織物、からの御ぞ、綾ノ裳」

カラ-の-かしら（名）唐頭　兜ノ上ニ、赤熊ヲ飾トシテ立テタルモノ。はぐまノ條ヲ見ヨ。武邊雜談「美濃ノ陣ニ、唐の頭ヲ懸ケタル武者ノ、逃グルヲ、云云、只今ノ唐の頭ハ、神子田長門ナルベシ、云云」（織田信長ノ言ナリ）東照宮御實紀、附錄、二ニ「遠江ノ見付ノ、德川氏ト武田氏トノ戰ニ、德川方ノ本多平八郎忠勝、殿シテ敵ヲ敗リシカバ、武田方ニテ、見付ノ臺ニ「家康ニ、過ギ

[illegible]ト云フ在句ヲ立テタリトアリ。

カラ-の-しやうぐわつ (名) 唐正月 〔支那ニテハ、冬至ヲ正月トシタリ〕 [illegible]冬至ノ日ノ異名。漢方醫ナド、特ニ此日ヲ祝シタリ。

カラ-の-ふね (名) 唐船 唐様ニ造レル船。龍頭鷁首ノ船。(…二十四、[illegible]「からめいたる船、造ラセタマヒケル」[illegible]十三、「今日の日影(何ノコトゴトシキ、からの御船浮ベラレテ」)

〔**カラ-の-ほん** (名) 唐本 唐土ノ本。唐本。支那ノ書籍。漢籍。([illegible]上、[illegible]「[illegible]ノ匣一具ニ、からの本ドモ、日本ノ冊子ナド、入レテ」)

から-バカ (名) 空馬鹿 此ノ上モナキ馬鹿。甚シキ馬鹿。又、其人。

〔**から-ばかり** (名) [illegible] [illegible]錘ニテ、機發アリ)竹尺ニ對シテ云フ語ナラム、名義抄「權、銓、オコツリ」或ハ、姓氏錄ニ、崇峻天皇ノ御代ニ、多奇[illegible]若(竹葉瀬)久比ヲ呉國ニ遣ナレ、呉[illegible]ヲ得テ歸ルコトヲ記ス、後ニ、唐秤ト稱セシカ」秤ト云フニ同ジ。(倭名抄、十四「[illegible]」)

から-ばこ (名) 空匣 内ニ、何モナキ匣。アキバコ。

〔**カラ-はし** (名) 唐橋 〔唐船ナドト、同意ノ語カ〕 橋ニ、欄干ヲ設ケタルモノ。(三代實錄、三十六、元慶三年九月廿五日「是夜、鴨河[illegible]」[illegible]「[illegible]シキからはしドモヲ渡リ」瀬田ノ唐橋)

〔**カラ-はじかみ** (名) [illegible] [illegible]ハ、くれニテ、「呉のはじかみ」[illegible](蓮)ナド、同趣ノ語、漢土ヨリ移植セルナリ、「[illegible]ノ條ヲ見ヨ」はじかみハ、山椒ノ古名、實ノ形、山椒ニ似タリ、本草一家[illegible]、一名、[illegible]云、本出於吳地、故名」トアリ〕 吳茱萸ノ古名。其條ヲ見ヨ。([illegible])

カラ-はな (名) 唐花 模様ニ用キル花ノ形。五瓣ノ桔梗ノ花ノ、各、瓣頭ノ左右ニ、えふいり(葉入)アルモノヲ畫ク。([illegible]花、等ノ縫ヒアリ」雙生隅田川(享保、近松作)三「から花、[illegible]」)

カラ-はなさう (名) 唐花草 〔花ノ形、唐花ニ似タルカ〕 蔓草ノ名、寒地ニ産ズ、春、宿根ヨリ生ズ、葉ハ、粗、いらくさニ似タリ、刻缺ヲナシテ、三尖、或ハ、五尖、對生シ、又、互生ス、葉ノ間ヨリ、堅キ又ヲ出シ、淡緑黄ノ細花ヲ綴ル、雄花ハ[illegible]ク、[illegible]ハ五片ニシテ、間ヨリ[illegible]ヲ生ズ、雌花ハ鱗ノ狀ヲナシ、鱗每ニ、[illegible]ニ、二花ヲツク、後ニ、長サ一寸許ノまつかさノ如キ毬ヲナス、子ハ、小サクシテ堅シ、[illegible]ノ性アリ、藥トシ、又、麥酒醸造ノ忽布トシテ用キラル。[illegible]

ガラハニ (名) がるばにノ條ヲ見ヨ。

カラ-はふ (名) 唐破風 破風ノ條ヲ見ヨ。

から-はら (名) 空腹 腹中ノ、空ナルコト。クウフク。スキハラ。

カラ-びさし (名) 唐庇 (一)唐破風造リニナシタル軒[illegible]。又、其家。([illegible]子、六、五十段、口をしき物「からびさしノコナタノ車ニゾ、女房六人バカリサブラフ」) (二)次條ノ語ノ略。([illegible])

カラびさし-の-くるま (名) 唐庇車 からぐるま(唐車)ニ同ジ。(海人藻芥、上、「車之事[illegible]」)

から-ひつ (名) 辛櫃 屍櫃 カラウド。棺。([illegible]「[illegible]ノ辛櫃アリ、アケテ見レバ、尼ノ、年二十五六バカリナル、色ウツクシクテ、[illegible]」)

〔**カラ-びつ** (名) 唐櫃 櫃ニ、脚アルモノ。被蓋アリテ、脚ハ、前後ニ一本ヅツ、左右ニ二本ヅツアリ、脚ヲツケタルハ、[illegible]ノ用トシテ、行器、足附長持ノ如ク、[illegible]地上ニ置クノ設ケナルカ。[illegible]からうど、からうつ、約メテ、からと、長唐櫃ハ、長持ノ如ク、二人ニテ[illegible]フ。[illegible]唐櫃ハ小サクシテ、一人ニテ二箇ヲ、竹ニテ擔グコト、[illegible]ノ如シ。([illegible]番打立(こ)」宇津保物語、[illegible]下ロ二十六[illegible]シタルからびつ二具、[illegible]シテ、鎰ヒツケタリ」[illegible]八、[illegible]からうづナ[illegible]久保彦左衞門)中「大からうどヲ背負ハセ、中へ色色ノ物ヲ入レ[illegible]」)

カラ-ふう (名) 唐風 カラザマ。唐土ノ風。

から-ふえ (名) ノドブエ。(沙石集、二、上、第四條「からふえノ病故ニ、聲ハシハガレタリケリ」)

カラふとだま (名) 唐太玉 〔唐太ハ、今ノ樺太島ノ舊名、からふとハ、唐人ニテ、ひヲ[illegible]ト發音スル、東北地方[illegible]ノ人ノ呼ビシニ起ル、山靼人ノ、此島ニ[illegible]〕 [illegible]

から-ふね (名) 空船 [illegible]

カラ-ふね (名) 唐船 (一)唐土ノ船。[illegible] (二)唐[illegible]

カラふね-ぶぎやう (名) 唐船奉行 室町幕府ノ頃、明國トノ交易ナドヲ掌リシ職。

カラ-ぶみ (名) 唐書 セラノホン。支那ノ書籍。漢文ノ書籍。漢書。漢籍。([illegible]ノ、[illegible]ヲ學バヌ[illegible]身トナリニケム」)

カラぶみ-よみ (名) 唐書讀 [illegible]ノ條ヲ見ヨ。

カラ-へうぐ (名) 唐表具 [illegible]ノ、風帶ナキモノ。(嬉遊笑覽、二)

から-へた (名) 空下手 此ノ上モナキ下手。至テ拙キモノ。

〔**から-ほひ** (名) 劉蔡 からあふひ(劉蔡)ノ約。其條ヲ見ヨ。

から-ほり (名) 空濠 [illegible]濠ノ、水ナキモノ。隍。(濶)ノ條ヲ見ヨ」[illegible]チ殘マデ、から堀ヲ二丈斬リニ、掘リ通シテ」)

からまき (名) 【絡卷】 カラマクコト。舊、今昔物語、廿九、三十三語「蛇ノ、尾ヲ以テ、蛇ノ頭ヨリ始メテ、身ヲ、五ツ六ツ許からまきテ、散殘タル尾ヲ以テ」

から-ま・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (他動、四) 【絡卷】 カラミマク。マキツクル。盛衰記、四十三、二位禪尼入海事「袴手ヲ下シテ、御髮ヲからまきテ、御舟ヘ引キ入レ奉ル」

カラ-まつ (名) 【唐松】「外來種ナルカ」 (一)松ノ一種。黑松ノ性ニシテ、葉ハ五針ニテ、燈心草ノ太サニテ、背、白シ、松子、長サ六七寸、鱗甲ノ間每ニ、仁、二粒ヅツアリ、米粒ノ如クニシテ、白黑斑アリ、生食スベシ。テウセンマツ。海松 新羅松 (二)落葉松ノ異稱。葉、前項ノ松ニ似タリ。

カラまつ-いし (名) 【唐松石】 菊目石ノ紋ノ、大ナルモノ。其條ヲ見ヨ。

カラまつ-せんべい (名) 【唐松煎餅】 唐松ノ葉ノ五針ノ一朶ヲ開キテ、正面ニ見タル形ニ燒キ做シタル煎餅、車輪ノ如シ。多ク、肉桂ナド加フ。

カラ-まなび (名) 【唐學】 支那ノ學問ヲスルコト。漢文學。漢才。

から・ま・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 【絡】「かからむ(自動)ノ轉、かがまるノ語原ヲ見ヨ」 からむニ同ジ。マトヒツク。萬葉集、二十 卅三「道ノ邊ノ、荊ノ末ニ、這豆ノ、可良麻流君ヲ、別レカユカム」「朝顏ノ根ガ、垣根ニからまる」

から-み (名) 【空身】「空手ナド、同趣」 身ニ、物ヲ携ヘヌコト。狂言記、ぶたふ方覺「コナタハ、から身デサヘ、藥手サセラルルモノヲ」

から-み (名) 【辛味】 芥子、山椒、生姜、山葵、大根ナド、食物ニ加ヘテ、味ヲ助クル、辛キモノノ總名。加藥。藥味。辛料 散木集、九、雜、上「好シト思フ、心ノ顏フ、螺ナレバ、からみナリトモ、辛ラザラメヤ」 風俗文選(寶永)菜切頌「伊吹蕎麥、天下ニ隱レナケレバ、からみ大根、又此山ヲ極上ト定ム」 江戶名物鑑(明和)「大名ケンドン、新蕎麥ヤ、二本道具ノ汁辛味」(嬉遊笑覽、十)

から-みみ (名) 【乾耳】「から(涸)ノ條ヲ見ヨ、膿ナキ意ノ語ナルベシ」 耳ノ病。內部ニ熱ヲ起シテ、痛ム。

からみ-もち (名) 【辛味餅】「大根ハ、辛シ」 搗キタテノ餅ヲチギリテ、おろし大根、醬油ニ浸シタルモノ。 飮食狂歌合(文化、六樹園)からみ餅「イヒヤレド、妹ガコトバノ、からみ餅、おろしツケタル、返事ウタテキ」

から・む・ム・メ・マ・ミ・メ (自動、四) 【絡】 卷キツク。マトハル。カラマル。落窪物語、一「典藥ノスケナルガ、六十バカリナル、サスガニイタハシキニ、からみマハサセテ、オキタラン」「藤ガ、松ノ木ニからみツク」

から・む・ム・メ・マ・ミ・メ (他動、四) 【絡】 マトヒツクル。卷キツクル。十訓抄、上、第三、第十條「袴ノ裾ヲ、高クからみアゲテ」

から・む・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ (他動、下二) 【搦】「前前條ノ語ノ他動、(たわむ、たわむる。いたむ、いたむる) 體ニ繩ヲからむる意」 (一)捕ヘテ、縛ル。捕縛。名義抄「搦、カラム、トラフ」 (二)圍圍ニ、禁固メオク。神功紀、四十七年四月「禁二固新羅使者一而拒問」 允恭紀、四十二年十一月「禁二固新羅使者一而拒問」 天武紀、上十「禁二穗積臣五百枝、物部首日向一」

ガラム (名) 【瓦】 量ノ名、ぐらむノ條ヲ見ヨ。

ガラン (名) 【伽藍】「梵語、僧伽藍摩(Sangharama.)ノ略、僧園、又、精舍ト譯ス」 僧ノ、集リ住ミテ、佛道ヲ修スル處。寺。翻譯名義集「僧伽藍、譯云二衆園一、僧史略云、園者生植之所、佛弟子則生二植道芽聖果一」 欽明紀、十三年、四月「縱二火於伽藍一」 孝德紀、五年三月「伽藍」

からん-からん (副) からからと(鏗鏗)ノ條ヲ見ヨ。

がらん-がらん (副) からからと(鏗鏗)ノ條ヲ見ヨ。

からん-ころん (副) からころノ條ヲ見ヨ。

から-むし (名) 【苧】【枲】「莖蒸ノ義、からをト云フモ、莖麻ニテ、けむしト云フハ、からむしノ約轉(高市、たけち。長押、なげし)」 草ノ名、麻ノ別種ナリ。春、宿根ヨリ叢生ス、高サ四五尺、葉ハ、楮ニ似テ、互生ス、岐ナクシテ、背白シ、夏、葉ノ間ニ、長キ穗ヲ立テテ、碎小花ヲ生ズ、色、青シ、圃ニ植エ作リテ、其莖ヲ水ニ浸シ、席ニテ覆ヒテ蒸シ、皮ヲ製シテ、越後縮、越後上布、薩摩上布、奈良晒、等ノ布ヲ織ル。一名、からを。けむし。眞麻。シラソ。天治字鏡、七八「枲、加良牟志」同、四十八「枲、加良乎」 倭名抄、十四 五十「苧、麻 白而細者也、加良无之」枲、介牟之」 又、野眞麻アリ、野生ノモノナリ、亦、布トス。野苧麻

からむし-づきん (名) 【枲頭巾】 枲ノ莖ニテ作レル頭巾。形、兩下ノ屋根ノ如ク、紐ハ內ニツク、鷹匠、獵師ナド用ヰタリ。ヲクソヅキン。ホクソヅキン。ガンダウヅキン。布帛製ノ山岡頭巾トモ云フモ、此形ナリ。

ガラン-てう (名) 【伽藍鳥】「袋ノ廣キニツキテ名トスルカ、倭訓栞、後編ニ、梵書ノ迦蘭蛇鳥ニ因レル名ナルベシトアレド、詳ナラズ」 水鳥、冬來ル。形、鷲ニ似テ、大キク白シ、背ノ長サ一尺許、末曲ル、喉ニ一尺許ノ袋アリ、數升ノ水ヲ貯フ。ペリカン。鵜鶘

がらん-と (副) 「がらんハ、空ノ音便轉」 廣キ處ニ、人モ居ラズ、何物モナキ狀ニ云フ語。空虛 空闊

がらん-ざう (名) 「前條ノ語ヲ、伽藍堂ト移シテ、寺堂ノ廣キニ寄セテ云フ語ニモアラムカ」 がらんと廣キコト。

カラ-むね (名) 【唐棟】 屋棟ノ、唐破風造リナルモノ。明月記、寬喜二年四月十二日「小寢、云云、號二立二杜遣戶一(唐棟)」

カラ-め (名) 【唐目】 百六十匁一斤。

から-め (接尾) 「輕群ノ約轉ニテ、群レヒルガヘル意ナルベシ」 群リ飛ブ小鳥ニ云フ接尾語。略シテ、からトノミモ云フ。四十からめ、五十からめ、山がら、ひがら、小がらナドアリ。つばくらめナドノくらめモ、此轉ナラムカ。

から-めか・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) からからト鳴ラスヤウニス。次次條ノからめくノ條ヲ見ヨ。

がらめき-の-ひ (名) 【柄目木火】 越後國、今、中蒲原郡、柄目木ノ地ノ地中ヨリ發スル、天然ノ石炭瓦斯ノ稱、火ヲ點ジテ、燈トシ、又、物ヲ煮ル。又、南蒲原郡、如法寺ノ地、其他、處處ヨリモ出ヅ、越後七不思議ノ一トシタリ。天智紀、七年七月「越國、獻二燃土與二燃水一」トアル、燃土ナルベキカト云フ。(燃水ハ、臭水、油チ、石油)

から・め・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (自動、四) 「からハ、

[illegible]ト鳴ル[illegible]
[illegible]山[illegible]
[illegible]
シテ[illegible]ケル」

カラ-め・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (自動、四) [唐] (一)唐風(カラフウ)ニ見ユ。 源、廿四、胡蝶「からめいタル船、造ラセタマヒケル」 (二)尋常(ヨノツネ)ニ異ナリ。 源、十二、須磨「土佐ヒタマヘル状、言ハムカタナクからめきタ[illegible]ノサマ、[illegible]ニ[illegible]ラムヤウナレニ[illegible]シフタシテ[illegible]ノ[illegible]云云、メヅラカニ[illegible]十三[illegible]ノ[illegible]リカヘテ[illegible]、ケニ、イト[illegible]シテ[illegible]キタリ、今ノ世ニ聞エヌスヂ深キツケテ、手ヅカヒ、イトイタウからめき、澄ノ音、深ウ澄マシタリ」[入道ノ[illegible]キタルナリ] 枕草子、三、廿八段「にげなきものノ[illegible]人ト[illegible]ハ[illegible]エタレヨシ[illegible]、大人ダチタル人ハ、太キ、イトヨシ、アマリ痩セからめきタルハ、心焦(イ)ラレタラムトオシハカラル」

からめ-て (名) [搦手] (一)人ヲ、搦メ捕ル勢(セイ)。トリテ。捕手 [illegible]からめ手、向ヒ戦フコト、其[illegible]ヲ知ラズ[illegible] (二)追手ノ條ヲ見ヨ。

からめ-ど・る・ル・レ・ラ・リ・レ (他動、四) [搦取] 人ヲ捕ラヘテ、搦メ縛ル。ククシアグ。 [illegible]

✤✤**から・める** (動) [搦] からむ(下二段)ノ口語。

カラ-もじ (名) [唐文字] 支那ノ文字。漢字。(大和文字ニ對ス)

から-もの (名) [乾物][干物] [から(乾)ノ條ヲ見ヨ] 干魚(ヒウヲ)。ヒモノ。[illegible](干鯛、干鱈、干鰯、[illegible]ヲ入ル) [illegible]、あて宮ニ[illegible]物、からもの、[illegible]物、[illegible]物、高ク、ウルハシク盛リテ」 源、三十四、上、若菜、上「[illegible]からものバカリシテ、[illegible]

カラ-もの (名) [唐物] (一)唐土(モロコシ)ヨリ渡來セル貨物ノ總稱。 [illegible]ノ人ノ來ル毎ニ、からものノ交易シタマヒテ」(二)唐織物ノ略。 [illegible]、からものへ、打チマカセテハ唐ヌモノナリ」 (三)後世ハ、支那、朝鮮ヨリ渡來セシ陶器、其他ノ器具ノ稱。前印度、南洋地方ノ産ナル、島物ニ對シテ云フ [illegible](四)スベテ、古道具ノ稱。唐物ナド、多キニ因リテ云フ。古道具屋ヲ唐物店、唐物屋ト云フナリ。 [illegible]物店ニテ、かねノ[illegible]ヲ求メントスルニ、代[illegible]、少シ[illegible]」 六玉川(記)[illegible]五「とろばうメ、茶ニ行クヨ、から物屋ノ、古道具屋ノ、茶舗ニ行クナリ」

カラもの-だな (名) [唐物店] 前條ノ(四)ヲ見ヨ。

カラもの-の-つかひ (名) [唐物使] 平安朝時代、唐、渤海國、等ノ商船、筑紫ニ着キタルヲ、京ヘ申セバ、乃チ遣サルル使。其貨物ヲ改メテ、京ヘ上ル。 [illegible]、三、仁壽元年九月[illegible]藤原[illegible]、承和五年[illegible]ニ太宰少貳[illegible]」 古今集、八、離別「藤原ノ千蔭ガ、からもののつかひニ、長月ノツゴモリガニ、[illegible]ル使ナリ」 [illegible]、唐物の使ニテ行クニ」

カラもの-ぶぎゃう (名) [唐物奉行] 室町幕府ノ職、明國ヨリ渡セル貨物ヲ[illegible]定ス。 宗吾大雙紙(伊勢貞仍)「から物奉行、から物見[illegible]」

カラもの-や (名) [唐物屋] からもの(唐物)ノ條ノ(四)ヲ見ヨ。

カラ-もん (名) [唐門] 唐様(カラヤウ)ノ構造ノ門。[illegible]

カラ-もも (名) [唐桃] [此樹、蒙古地方ノ原産ナリト云フ] (一)杏(アンズ)ノ古名。 杏 天治字鏡、七八「杏、辛桃」 本草和名、下三十「杏子、[illegible]」 (二)又、[illegible]ノ一種、小木ニシテ、大ナルハ高サ三四尺、小ナルハ五寸許、一尺許ナルニモ、花、實アリ、花多ク簇リ生ジテ、一重、八重、紅、白、又、紅白、[illegible]ハルモアリ、葉ノ形、[illegible]クシテ、多ク[illegible]ル。[illegible]、アメンドウ。西王母。壽星桃

カラ-やう (名) [唐様] (一)カラザマ。唐土(モロコシ)ノ風。唐風。 (二)漢字ノ書法ニ、支那人ノ書ク體ニ書クモノ。熊本ノ人、北島雪山(元禄十年歿ス)長崎在留ノ清國人、愈立德ヨリ筆法ヲ受ケタルニ始マリ、其門人、細井廣澤、コレニ次ギ、次第ニ行ハルルニ至レリ、晉ノ王羲之ヲ初トシテ、唐、宋、元、明ノ名家ノ書體ヲ學ブモノナリ。我ガ國、中世ヨリ、御家流、定家流ナド、一種ノ日本風ノ書法起リテ、僧侶ナドノ外ハ、全國遍ク行ハレ居タリシニ、唐様起リテヨリ、コレヲ和様、和流ナド云ヒテ、別ツ。[illegible]

から-やま (名) [枯山] [から(枯)ノ條ヲ見ヨ] 草木ノ、枯レ盡キタル山。 古事記、上「[illegible]」

から-よもぎ (名) [illegible] かはらよもぎノ約、

[illegible]ヲ見ヨ。

がら-ら (副) ガラリト。殘ラズ。全ク。 [illegible]

から-りきみ (名) [空力味] からいばり(空威張)ニ同ジ。

から-り-と (副) [からハ、からから(轣轆)ノからナリ、りハ、添フル音(オン)、らノ條ヲ見ヨ] 堅キ物ノ、相觸ルル音。濁音ニ、がらりと。 大鏡、中、道兼「[illegible]、からりとコソ[illegible]ハレ[illegible]」「戸ヲがらりと開ケル」

がら-り-と (副) (一)物事ノ趣キノ、變ハル狀ニ云フ語。ぐるりとノ條ヲ見ヨ。 [illegible]、らりとカハル、抜擢ニ、ムセルホド出ル、[illegible]クルシキ」 (二)前條ヲ見ヨ。

カラ-ろ (名) [唐櫓] 艪ノ條ヲ見ヨ。 夫木抄、十二、秋、サ夜フケテ、浦ニからろノ、音スナリ、天ノト渡ル、雁ニヤアルラン」

から-わ (名) [唐輪] [絡(カラ)げ綰(ワ)げノ義] アゲマキ。アゲビンブラ。[illegible]童形(ドウギヤウ)ノ髪ノ結ヒヤウノ名。全髪ヲ頂上ニ束ネ、其末ニテ二ツノ[illegible]ヲ作リ、[illegible]ノ上ニ結フモノ。[illegible]カバ、ちおわ、又、ちおわげトモ云フ、江戸時代ノ初ニハ、女モ結ヒタリ、今モ、少女ハ結フナリ、からさまげト云ヒ、おちごト云フ。[illegible]皇后ノ、[illegible]シテ男装シタマヒシナリ) [illegible]

カラ-わたり (名) 唐渡 「唐ノ條ノ(二)ヲ見ヨ」 三百年前、我ガ國人ノ、南洋、前印度邊ヘ航行セシコト。(朱印船ノ條ヲ見ヨ) 長崎夜話草(享保)「唐船造ノ大船ヲ作リテ、皆、長崎ヨリ出帆ス、此時、大明ヘハ行クコトナシ、云云、外國ヘ往來セシヲ、世俗、唐渡リト號セリ」

〜**から-ゐ** (名) 鷄冠草 からあゐノ約。其條ヲ見ヨ。

から-ゐ (名) 空井 〔から(涸)ノ條ヲ見ヨ〕 次條ニ同ジ。

から-ゐど (名) 空井戸 〔から(涸)ノ條ヲ見ヨ〕 水ノ涸レタル井戸。涸井

カラ-ゑ (名) 唐繪 (一)唐土ノ風物ヲ畫キタル繪。(平安朝時代ノ繪ハ、巨勢金岡流ノモノナルベシ) 枕草子、五、五十段「から繪ニアルヤウナル懸盤ナドシテ、物食ハセタル」 (二)鎌倉時代ニ、土佐派ノ繪起リテ、大和繪ト稱スルニ對シテ、支那ノ北宗畫ノ稱。唐畫。又、我ガ國人ノ、其風ニ畫ク繪。雪舟、又ハ、狩野派ノ祖ノ正信ナド、(共ニ室町時代)畫キ始メタルハ、宋畫ナリ、後ノ狩野派ノ筆ハ、明畫ナリ。 十八大通百手枕(安永、田水金魚)「唐繪ハ周嶽、和繪ハ秋興」

から-ゑづき (名) 乾嘔 ゑづきノ條ヲ見ヨ。

〜**から-を** (名) 枲 からむしノ條ヲ見ヨ。

〜**から-をぎ** (名) 枯荻 〔から(枯)ノ條ヲ見ヨ〕 御神樂ニ、舞人ガ、枯レタル荻ヲ採リテ舞フコトアルニ就キテ云フ語。 神樂歌、韓神「三島木綿、肩ニ取リカケ、我レ韓神ノ、加良乎支セムヤ」(をぎヲ、招ぎニカケタルカ)

から-をんな (名) 空女 (一)女ノ、月經ナキモノ。(二)子ヲ産マヌ女。ウマズメ。イシムスメ。

〜**か-り** (名) 雁 〔かハ、鳴ク聲、りハ、添ヘタル辭、(から、(鴉)けり、(鳧)らノ條ヲ見ヨ、字音ノ雁モ、聲ナラム、朝鮮語ニ、きろおぎト云フ、萬葉集、十八三十「ヌバタマノ、夜渡ル雁ハ、オボホシク、幾夜ヲ歷テカ、己ガ名ヲ告ル」風俗歌、彼乃行「彼ノ行クハ、加利カ鵠カ、加利ナラバ、名告ゾセマシ」後撰集、七、秋、下、雁「來ル秋ゴトニ、かりかりト鳴ク」〕 (一)又、かりがね。今、多クハ、字音ニテ、雁ト云フ。鳥ノ名。同種ニ對シテ、眞雁ト云フハ、形、ひしくひヨリ小サクシテ、頭、胸、背、皆、淡紫褐色ナリ、腹、白クシテ、黑ト褐トノ斑アリ、翅、尾、共ニ黑ク、觜ノ根、額ニ連リテ起リ、脚ト共ニ、黃赤色ナリ、秋分ニ、寒地ヨリ來リ、春分ニ歸ル。一種、全身蒼黑ニシテ、腹白ク、斑ナキモノアリ、はらぶろト云フ。 仁德紀、五十年三月「秋津島、日本國ニ、箇利子産ト、汝ハ聞カズヤ」(武内宿禰ニ問ヒタマヒシナリ) 倭名抄、十八七十「大曰レ鴻、小曰レ雁、加利」(鴻ハ、おほかりナリ) (二)支那ノ前漢ノ蘇武ガ、匈奴國ニ囚ハレ、雁ノ脚ニ書翰ヲ繫ギテ放チテ、故國ニ達シタリト云フ故事ニ因リテ、雁書ト云フ語アリ、隨ッテ、手紙ノ音便ト云フ意ニ用キラル。(神代紀ニ、雉、神武紀ニ、八咫烏、萬葉集、十一二十二ニ鴛鴦ヲ使ニストテ云フコトアレド、雁の使トハ、蘇武ノ故事ナルベシ) 萬葉集、八四十九「九月ノ、ソノ初雁ノ、使ニモ、思フ心ハ、聞エ來ヌカモ」同、十五廿「天飛ブヤ、可里ヲ都可比ニ、得テシガモ、奈良ノ都ニ、言告ゲヤラム」古今集、四、秋、上「秋風ニ、初雁がねゾ、聞ユナル、誰ガ玉づさヲ、繫ケテ來ツラム」「雁の使」雁の玉章」雁のたより」

かり (名) 借 〔貸ニ對ス〕 (一)借ルコト。借リタルモノ。 狂言記、ぶたふ方覺「伯父ヂャ人ノ方ヘ、借リニ遣ハサウト存ズル」 (二)オヒメ。借リタル金錢。借錢。借金。債 「かりヲ還ス」かりヲ拂フ」

〜**かり** (名) 假 〔借ノ義、仮ノ字ヲ用キルハ、假ノ草體ノ誤字〕 暫シソレト定ムルコト。永久ナラヌコト。 萬葉集、十一三十八「月草ノ、借ナル命、アル人ヲ、イカニ知リテカ、後モアハムテフ」

かり (名) 狩獵 (一)狩ルコト。弓矢、鳥銃ナドニテ、鳥獸ヲ探リ、打捕ルコト。 高忠聞書、上「かりト云フハ、鹿がりノ事也、其外、或ハ、鷹狩ナド、其名ヲアラハス也」(松屋筆記、三) (二)〔轉ジテ、魚ナド漁リ、又、藥草、茸ナド、探リテ採ルコト。「川狩」藥狩」茸狩」 (三)〔又轉ジテ、野山ニ入リテ、花ナド、探リテ觀ルコト。 伊勢物語、八十二段「今、かりスル交野ノ渚ノ家、ソノ院ノ櫻、コトニオモシロシ」 夫木抄、十五、紅葉「時雨ユク、交野ノ原ノ、もみぢがり、賴ム蔭ナク、吹ク嵐カナ」「櫻狩」

かり (名) 刈 (一)〔稻、茅、薦ナド、刈取ルコト。 萬葉集、十一三十九「三島江ノ、入江ノ薦ヲ、苅ニコソ、吾レヲバ君ハ、思ヒタリケレ」 (二)陸前、陸中ニテ、田稻ノ收穫ニ云フ語。一段五畝ヲ百刈ト云フ。下田ハ二段。 撈海一得(明和)ニ「越後ノ北部ニテハ、田四百坪ヲ百刈トシテ、男一人ニ五百刈充テテ作ラシム、百刈ヨリ穀、二三石ヲ得、上田、下田ニテ、不同アリ」トアリ、萬葉集ニ、かりばかト云ヘルハ、其日、一人ニテ刈取ル量ヲ云ヘルナラム。

〜**かり** (名) 樗蒲子 〔かかりノ約、(あかかがり、あかがり)懸るものノ義、賭ノ自動ナルベシ〕 古ヘ、支那ヨリ傳來セシ博奕ノ、樗蒲ノ用具。木造ノ、橢圓、扁平ナルモノ、四箇ヲ用キル、各箇、一面ハ黑クシテ、其中ノ二箇ニ犢ヲ畫キ、他ノ一面ハ、各、白クシテ、其二箇ニ雉ヲ畫ク、此四箇ノかりヲ、盤上ニ投ゲウツガ、かりうちニテ、(博打、同義)其黑、白、犢、雉ノ面ノ、種種ニ表ルルコトヲ、采ト云フ、其色采ノ象ニ因リテ、勝負アルナリ。此技、夙ク廢レテ、雙六、盛ンニナリキ。 演繁露、樗蒲經、齊書四木、四木者、博子四箇也」五雜組、六、樗蒲「其用、有三五子、四子、三子之異ニ 倭名抄、四四十八雜藝類「樗蒲、一名、九采、加利宇知」同卷九十雜藝具「樗蒲采、加利」萬葉集、六九十「折木四哭」同、十三十八「切木四之泣」トアルハ、雁が音ノ借字、折、切ノ字ハ、木ヲ切リテ作ル意カト云フ、木四ハ、樗蒲子ノ四木ナルヲ云フナリ、又、同、十二十一「三伏一向」同、十二十六「一伏三起」同、十三十八「一伏三向」ナドアル、つく、ため、ころナド、四箇ノ樗蒲子ヲ投ゲ、起伏シテアラハレタル象、卽チ、采ノ名稱ナリ、突出、回、自ニモアルベキカ、然レドモ、詳ナルコトハ知ラレズ。(樗蒲ノ事ハ、喜多村信節ノ萬葉集折木四考、箋注倭名抄、二、北愼言ノ梅園日記、三ニ委シ)

〜**か-り** (名) 許 〔處在ノ約、在處ト、同意〕 其人ノ居ル處。許。他語ニックトキハ、連聲ニテ、がりト濁ル。 古事記、中(神武)二十「辛ニ行其伊須氣余理比賣之許」 枕草子、三、三十七段「ヤムゴトナキ物持タセテ、人ノかり遣リタルニ」 蜻蛉日記、上、上三兼家「イヅレトモ、ワカヌ心ハ、ソヘタレド、コタビハサキニ、見ヌ人ノかり」 宇治拾遺、三、十四條「國司ノかり、向ヒヌ」 萬葉集、十四四十三「心ノミ、妹我理遣リテ」 同卷二三十「愛シキ夫ガ、吾許通ハム」

かり (名) 甲 音ノ調子ニ、乙甲ト云フ。其條、幷ニ、甲ノ條ヲ見ヨ。

〜**が-り** (名) 許 前前條ヲ見ヨ。

かり-あ・ぐ グル・グレ・ゲ・ゲ・ゲヨ (他動、下二)

〔借上〕卑下ヨリ、借リ入ル。

かりあ・ぐ グル・グレ・ゲ・ゲ・ゲヨ（他動、下二）〔刈上〕稲ナド、刈リ終フル。刈リ果ス。夫木抄、三十、田家「かりあぐる、門田ノオモハ、霜ガレテ、填ホニ殘ル、竹ノ一ムラ」

かりあげ（名）〔刈上〕刈リアグルコト。刈リ終ヘタルコト。[illegible]草、三、田、かりあげ「稲田ノかりあげ」

かりあつ・む ムル・ムレ・メ・メ・メヨ（他動、下二）〔駆集〕諸方ヨリ駆リ立テテ、集ム。「[illegible]勢ヲかりあつむ」

かりあを（名）〔狩襖〕一六書故「今、以＿夾衣＿爲＿襖」あを（襖）ノ語原ヲ見ヨ）狩衣ニ、裏ヲツケタルモノ、旅行ナドニモ用キタリ、綿ヲ入レタルモアリ、冬ノ用ナリ、夏ハ裏ヲ取リテ用キル、織物ニテ製シタルヲ、織襖ト云フ、共ニ略シテ、襖トノミモ云フ、襖子ヲ參見セヨ。江家次第、五、春日祭使途中作法「諸大夫、各、着＿色色狩襖＿」[illegible]かげあきらガ装束ヘ行クニ、山吹色ノあをを着ルトテ[illegible]見引ノ、山吹色ノ、かりあをヲ、着シトヤ[illegible]ハムトスラム」榮花物語、八、初花「[illegible]キ、騎タル狩襖」[illegible]十六、駒競[illegible]公卿旅行「旅裝ドモノ、色色ノあをノ、ツキヅキシキ[illegible]物」[illegible]狩襖ナリ、[illegible]ニテ、[illegible]ナリ、云云、[illegible]、そあを（素襖）トテ著スルハ、コノあをノ、裏ヲ除ケタルモノナリ」[illegible]

かりいぬ（名）〔獵犬〕犬ノ一種、専ラ獵ニ用キテ、鳥獸ヲ駆リ出ダサシムルモノ。レフケン。

かりいほ（名）〔假廬〕いほ（廬）ト云フニ同ジ。[illegible]リ火ノ、煙バカリヤ、知ラルラム、端山ガ茶ノ、柴ノかりいほ」[illegible]ガ居レバ、衣手寒ク、露ゾオキニケル」

かりい・る ルル・ルレ・レ・レ・レヨ（他動、下二）〔借入〕他ヨリ、我ガ方ヘ借リ取ル。借リコム。

かりう（名）〔下流〕〔上流、中流ニ對ス〕（一）カハシモ。[illegible]集、上、谷水洗＿花、汲＿下流＿而得＿上壽＿者三十餘家」（二）下等ノ身分。論語、陽貨篇「惡＿居＿下流＿而訕＿上者＿」「下流社會」

かりう（名）〔苛留〕關所ナドニテ、通行人ヲ止メテ、糺問スルコト。[illegible]

がりう（名）〔我流〕自己流ニ同ジ。[illegible]後篇、四、惡態「我レモ、我流ノ筆偽ラシソメテ」

かりうち（名）〔樗蒲〕（一）かり（樗蒲）ノ條ヲ見ヨ。（二）後世ニ、樗蒲ト音讀スル博奕アリ。

かりうど（名）〔獵人〕〔獵人ノ音便、旅人、たびうど。商人、あきうど〕サツヲ。かりびと。山ニ獵スルヲ業トスル者。獵師。ヤマダチ。庭訓往來、四月「獵師、狩人」

かりおや（名）〔假親〕假リニ、親ト定メタルモノ。[illegible]ヤプン。義父。夕霧阿波鳴渡（正徳、近松作）中「誠ノ親ト、假親ノ心ハ、サシモ選ブカヤ」

かりかた（名）〔借方〕物ヲ借ル方。借人。（貸方ニ對ス）

かりがね（名）〔雁音〕〔雁之音ノ義、音ハ、聲ナリ〕（一）雁ノ聲。萬葉集、九、[illegible]

夜中ト、夜ハ深ケヌラシ、雁音ノ、聞ユル空ニ、月渡ル見ユ」（二）轉ジテ、[illegible]ヲモ云ヒ、又、[illegible]トモ云フ、同意ナリ。[illegible]ニ、山飛ビ越ユル、雁音ノ、雲遠ザカル、雲隠ルラシ」（三）[illegible]婦人ノ額ノ上、髮ノ生際ノ眞中ニ、丫ノ形ヲナシタルモノ、飛雁ニ似タリ。かりがねびたひナド云フ。

かりがねてん（名）〔雁點〕〔古クハ丫ト記セリ、飛雁ノ形ニ似タリ〕漢文ノ返點ノ「讀レ書」「觀レ花」ナドノ「レ」ノ稱。（かへりてんノ條ヲ見ヨ）乙點。鉤挑。

かりがねびたひ（名）〔雁音額〕前前條ノ（三）ヲ見ヨ。

かりがねぼね（名）〔雁骨〕かいがねノ訛。倭訓栞、かいがね「倭名抄ニ、髆ヲヨメリ、云云、俗ニ、かりがねぼねト云ヘリ」

かりかぶ（名）〔刈株〕カリクヒ。カクヒ。草木ヲ刈リ取レル後ニ殘レル株。

かりかぶけん（名）〔假株券〕銀行、會社ナドニテ、假リニ渡ス株券。後ニ、本株券ト引換フ。

かりかへ（名）〔借換〕カリカヘルコト。借換公債。

かりかへ・る ヘル・ヘレ・ヘ・ヘ・ヘヨ（他動、下二）〔借換〕舊借財ヲ、新借財ニ改ム。今ハ、借換ト云フ。

かりかり（名）近江ノ琵琶湖ニ用キル、一種ノ網。[illegible]ラヌ海士ノイトナミモ、ヲカシケレ、大網、卷網、四手、云云、かりかり、竹簀、アサリ、イサリノアハレモ、深カルベシ」

かりかり（副）〔かハ、音、りハ、添ヘタ

ル辭、らノ條ヲ見ヨ〕（一）堅キ物ヲ噛ム音ナドニ云フ語。「[illegible]かりかり噛ム」音ノ複雜ナルニハ、濁音ニ、がりがりト云フ。（二）[illegible]ト云フ。（三）[illegible]不盡ニ振舞フ者ヲ罵リテ、がりがり亡者ト云フモ、是レナルベシ。

がりがり（副）[illegible]（享保、近松作）ニ「ワレ[illegible]ムヤウニ、がりがりト嚼ンデ呑マンズ」

がりがりまうじや（名）前前條ノ（三）ヲ見ヨ。

かりぎ（名）〔刈葱〕〔刈り採レバ、蕪、復タ生ズルモノト云フ〕葱ノ類。葉、小サシ、夏、刈リテ食用トス、花、實、韮ニ同ジ、[illegible]シテ、カレヤ。夏葱。小葱。

かりぎ（名）〔借着〕人ノ衣服ヲ借リテ着ルコト。

かりぎぬ（名）〔狩衣〕〔元ハ、狩獵ニ用キタル服ナリ、制、襖ニ似タレバ、狩襖トモ云ヒ、袴ヲ、狩袴（指貫）ト云ヒ、古クハ、上下共ニ、布ニテ製セシカバ、布衣、布袴トモ云ヘリ、衣ニ袖括アルハ、放鷹、射獵ノ時、引キ括ルベキタメナルニ、輕便ナル服ナレバ、平時ニモ用キルヤウニナリシナリ〕（一）[illegible]五位以上ノ服トナル、六位以下[illegible]ヲ用キ[illegible]ト云フ、[illegible]ヲ簡略ニセシモノニテ、盤領ニテ、袖括アリ[illegible]ル[illegible]

下ニ、狩袴、卽チ、指貫ヲ用キ、上衣ノ背ノ裾ヲ、袴ノ外ニ出シテ、宛帶ニテ腰ニ約ス。冠ハ、烏帽子ナリ。伊勢物語、初段、男ノ著タリケル、かりぎぬノ裾ヲ切リテ、歌ヲ書キテヤル」倭名抄、十二[十九]「布衣、獵衣、加利岐沼」(獵ハ、獵ノ俗字)(二)德川時代ニ及ビ、有文ノ狩衣ヲ、公家ニテハ、大納言以下ノ服トシ、武家ニテハ、諸大夫ノ官服トス。(直垂ヲ併セ見ヨ)

〜かりぎぬ-さうぞく (名) ［狩衣裝束］ 狩衣ニ烏帽子、指貫ナドヲ着ケタル裝束。宇津保物語、吹上、下九「皆出デ立チテ、かりぎぬさうぞくヲシテ、直衣裝束ハ持タセテ」

かりぎぬ-なほし (名) ［狩衣直衣］ おなほし(小直衣)ノ條ヲ見ヨ。

〜かりぎぬ-ばかま (名) ［狩衣袴］ (肩衣ト、袴ト、上下、同色、揃ヒタルヲ、肩衣袴ト云フト、同趣) 狩衣ト、狩袴(指貫)ト、上下、揃ヒタルモノ。彈正臺式「凡裁二絹絁一爲二獵衣袴一、縫二白絹縑一著二從女衣裳一云云、悉皆禁斷」宇治拾遺、十五、第一條「春宮、云云、イソギ、下種ノ狩衣袴ヲ着タマヒテ、藁沓ヲハキテ、云云、タドルタドル、オハシツキニケル」

かり-きん (名) ［借金］ 借入レタル金錢。カリ。借金。

〜かり-くひ (名) ［刈杭］ (くひ(杭)ノ條ヲ見ヨ) 小竹ナド、刈取リタル株。カックヒ。カリカブ。古事記、中(景行)六五十「小竹之苅杙」

かり-くび (名) ［雁首］ (一)雁ノ首。(二)器ナドノ形ノ、相似タルモノニ云フ)(二)陰莖ノ頭。龜頭

かり-くら (名) ［狩倉］ 次條ニ同ジ。

かり-くらべ (名) ［狩競］［狩倉］ (走りくらべ、はしりくら」 數人ニテ、猪鹿狩ヲシテ、獲物ヲ競フコト。又、かりくら。准后親房記 伊豆風土記曰、夏野獵者、伊藤與野、(伊東與野ナラム)毎レ年撰二鹿柵射手一行」鎌倉實記、(三)吾妻鏡、一、治承四年八月廿四日「日來持經之間、於二狩倉邊一、相摸國之輩、多以奉レ見之御念珠也二(頼朝ガ遺失セル數珠ヲ、從者ガ拾ヒテ呈セシナリ)同、十三、建久四年三月廿一日「將軍家爲レ覽二下野國那須野、信濃國三原等狩倉一、今日進發給」大友興廢記、御曹司御鷹狩「御近習衆ヲ、二手ニ分ケラレ、御狩くらべナサレムトノ御儀」

〜かり-こ (名) ［狩子］ 〔子ハ、人、又、者ノ義、舟子、田子、馬子ノ如シ」 獵ノ時ニ、鳥獸ヲ驅リ出スニ役フ夫卒。列卒。獵手倭名抄、二十四獵師ノ條「列卒、加利古」

かり-こみ (名) ［刈込］ (一)カリコムコト。樹木ノ枝ヲ、伐リスカスコト。(二)頭髮ヲ剪ミ刈ルコト。

かり-こ・む・ム・メ・マ・ミ・メ (他動、四) ［刈込］ (一)樹木ノ枝ノ繁ク生ヒタルヲ、伐リスカス。(二)頭髮ヲ、剪ミ刈ル。

かり-こ・む (動) ［借込］ かりいる(借入)ニ同ジ。

〜かり-こも (名) ［刈菰］ 刈取リテ作レル菰筵。萬葉集、十一[十五]「苅薦ノ、一重ヲ敷キテ、サ寐レドモ、君トシ寐レバ、寒ケクモナシ」

〜かりこも-の (枕) ［刈菰］ 〔刈菰の如く亂るニテ、現實ヲ云フ語ニテ、枕詞ニテハアラヌカト思ハル」 亂るト云フ語ノ枕詞。古事記、下(允恭)廿長歌「加理許母能、亂レバ亂レ(ヨ)」萬葉集、四[四十六]「刈薦の、亂レテ思フ」同、十一[三十九]「苅薦之、思ヒ亂レテ」

〜かり-ごろも (名) ［狩衣］ 獵ニ出ヅル時ニ着ル衣。後撰集、十五、雜、一、鷹飼ニテ、狩衣ノ袂ニ、鶴ノ形ヲ縫ヒテ、書キツケタリケル「翁サビ、人ナ咎メソ、かりごろも、今日バカリトゾ、鶴モ鳴クナル」

かり-さう (名) ［假葬］ 假リニ、葬式ヲ行ヒオクコト。(本葬ニ對ス)

かり-さうぞく (名) ［狩裝束］ (一)狩ニ着ル裝束。挾衣、四、上五「例ナラヌかりさうぞくニヤツレタマヒテ、イカニゾヤ思ヒ亂レタマヘルサマノ」(二)武家時代ニ、狩ニ出デ立ツ時、直垂、又ハ、狩衣ヲ着シ、行縢ヲ穿キ、綾藺笠、或ハ、竹笠ヲ被リテ、重籐ノ弓、野矢ナド携フル容姿。

かり-じ (名) ［借字］ 字義ニ基カズ、音、又ハ、訓ヲ借リテ、塡テタル文字。空蟬ヲ、鬱蟬、麓ヲ布本ト書ク類ナリ。

かり-しほ (名) ［刈時］ 刈リ取ルベキ時期。カリドキ。(稻、麥ナド) 清輔集、夏「かりしほノ、背面ノ麥モ、朽チヌベシ、乾スベキヒマモ、見エヌ五月雨」新六帖、二「浦風ニ、濱田ノ小稻、打チナビキ、ハヤかりしほニ、ナリゾシニケル」

かり-しやうぞく (名) ［狩裝束］ かりさうぞくニ同ジ。

かり-す・つ・ツル・ツレ・テ・テ・テヨ (他動、下二) ［刈棄］ 刈リテ、棄ツ。刈リ除ク。新勅撰集、二十、長歌「ナニハノコトモ、津ノ國ノ、葦ノシヲレノ、刈りすてテ、スサビニノミゾ、ナリニシヲ」

かり-ずまひ (名) ［假住］ 唯、一時、其地ニ住居スルコト。寓居

〜かり-そ・く・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ (他動、下二) ［刈除］ 〔除くノ條ヲ見ヨ」 刈リテ、除ク。刈リ棄ツ。六帖、六「此頃ノ、戀ノ繁ケク、夏草ノ、かりそくれドモ、生ヒシクガゴト」

〜かり-そめ (名) ［假初］ 〔假りさまノ轉、(ひさめく、ひそめく。天、あま)靈異記、下、序「泛爾命執常恃レ之」訓釋「泛爾、加利佐萬奈留」 假ナルコト。シバシナルコト。ソノ時カギリナルコト。苟且。古今集、十六、哀傷「かりそめノ、行キカヒヂトゾ、思ヒ來シ、今ハ限リノ、首途ナリケリ」名義抄、日部「暫、カリソメ、シバラク」

かり-た (名) ［刈田］ 稻ヲ刈リ取リタル後ノ田。後拾遺集、十一、戀、一「鴫ノ伏ス、かり田ニ立テル、稻莖ノ」堀河百首「曉ニ、ナリニケラシナ、我ガ門ノ、かりたノ鴫モ、鳴キテ立ツナリ」

カリタ (名) ［骨牌］ かるたニ同ジ。

かり-たく (名) ［假宅］ (一)假住ノ家。寓居(二)江戶、新吉原遊郭、火災ニ燒失セシ時、許可ヲ得テ、郭外ノ地ニ、假宅シテ營業セシ事。異本、洞房語園「元吉原燒失ノ後、淺草、三谷ノ邊ニ引キ移リ、假り宅中、夜見世致シ」

かり-た・つ・ツル・ツレ・テ・テ・テヨ (他動、下二) ［驅立］ 驅リテ、追立ツ。驅逐 新六帖、二「草ニ入ル、疲レノ鳥ヲ、かりたてヨ、カタ野ノミ野ハ、今日暮レヌトモ」「列卒ヲかりたつ」

かり-たばたらき (名) ［刈田働］ 戰時ニ、敵地ノ田ノ稻ヲ、刈リ奪フコト。

かり-たふ・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) ［借倒］ 借リテ、還サズ。

かり-ち (名) ［借地］ 他ヨリ、借リタル地面。借地。本朝若風俗(貞享、西鶴)「淺草ノ片陰ニ、かり地ヲシテ」

〜かり-つ・む・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ (他動、下二) ［刈集］ 〔刈り集むノ略、搔き集む、かきつむ」 刈リ集ム。萬葉集、三[三十三]「潮干ナバ、玉藻苅藏、家ノ妹ガ、濱苞乞ハバ、何ヲ示サム」

かり-て (名) ［糧］ 〔餉代ノ約ト云フ」 餉ノ料。略シテ、かてト云フ、其條ヲ見ヨ。萬葉集、五[八]廿「常知ラヌ、道ノ長手ヲ、クレグレト、イ

カニカ行カム、可利豆ハ無シニ」靈異記、下、第一縁「穫、可里豆」

かりて (名) [借人] 物ヲ借ル人。カリカタ。(貸人ニ對ス)

カリテイも (名) [訶梨帝母] [訶梨帝ハ、梵語、Hariti.] 鬼子母神。

かりどき (名) [刈時] かりしほ(刈時)ニ同ジ。

かりとぢ (名) [假綴] 書物ナド、假リニ綴ヂ置クコト。(本綴ニ對ス) [illegible]「貞享、西鶴「かりとぢニシテ、手日記」

かりどの (名) [假殿權殿] 神社ノ、改造、又ハ、修復ノ時ニ、神體ヲ、假リニ鎭座スル所。權殿。 百錬抄、五、延久二年三月十二日、八幡宮御殿修理、可[illegible]移[illegible]假殿[illegible] 吾妻鏡、二、治承五年七月八日「被[illegible]始[illegible]若宮營作、先奉[illegible]遷[illegible]御體於[illegible]假殿[illegible]」 [illegible]名目[illegible]抄、權殿、カリドノ、コンデン

かりと・る・ル・レ・ラ・リ・レ (他動、四) [刈取] キリテトル。 平治物語、三、常葉[illegible]「[illegible]刈り取りシ、鎌田ガ首ノ、報イニヤ、カカルウキ目ヲ、今ハ見ルラン」

かりと・る・ル・レ・ラ・リ・レ (他動、四) [借取] かりいる(借入)ニ同ジ。

かりに (副) [假] 確ト定メズシテ、暫シノコトトシテ。

かりには (名) [獵庭] 「には(庭)ノ條ヲ見ヨ」 獵スル地。約メテ、獵場ト云フ。 古事記、下(安康)「[illegible]夜[illegible]、可[illegible]」

かりぬし (名) [借主] 借方ノ人。カリテ。(貸主ニ對ス) 建武以來追加「諸人借物輪人事、云云、云[illegible]借主、云云、[illegible]人、[illegible]其[illegible]」

かりね (名) [假寐] (一) 假初ニ寐ルコト。カリブシ。カリマクラ。 [illegible]、三十八、夕[illegible]ニ、秋ノ野ノ、[illegible]ノ[illegible]ハ、[illegible]、かりねノ[illegible]、[illegible]ハセシ」 (二) [illegible]リノ宿リ。旅寝。 [illegible]、八、[illegible]ナク、[illegible]ハレ、草枕、かりねハ同ジ、[illegible]

かりのいけ (名) [雁池] 「梁孝王ノ苑内ノ名所」 親王ノ御異稱。 [illegible]、十五「親下、かりの池」

かりのこ (名) [卵] 「かりハ、殻入ノ、かひり、かりト約マレル語ナラム、(這入、はひり。參入、まゐり。言逆ふ、いさかふ。(靜)閑籠、あさめ。(相)子ハ、巣守子、玉子ノ子ト、同意」 卵。カヒコ。鳥ノ子。玉子。 萬葉集、二十九「鳥座立テ、飼ヒシ雁乃兒、巣立チナバ、檀ノ岡ニ、飛ビカヘリ來ネ」(雁ハ、借字) 伊勢物語、五十段「鳥の子ヲ、十ヅツ十ヲバ、重ヌトモ、思ハヌ人ヲ、思フモノカハ」 蜻蛉日記、上、下「かりの子ノ見ユルヲ、コレ、十ヅツ重ヌルワザヲ、イカデセム」 宇津保物語、藤原君「宰相、云云、かりのこ、二番キック、殻ノ内ニ、命コメタル、かりのこハ、君ガ宿ニテ、かへさ(孵)ザルラム、云云、[illegible]ニナリハジムルかりのこ、御覽ゼヨトテ、奉レバ」

かりのたまづさ (名) [雁玉章] 雁ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。

かりのたより (名) [雁使] 雁ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。

かりのつかひ (名) [雁使] 雁ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。

かりのつかひ (名) [狩使] 諸國ニ遣サレ、野禽ヲ捕ラシメラルル官人。 三代實錄、四十六、元慶八年十二月二日「勅、左衞門佐藤原高經、六位六人、近衞[illegible]人、[illegible]、犬九牙、於[illegible]播磨國、中務少輔在原弘景、云云、於[illegible]美作國[illegible]、並[illegible]取[illegible]野禽」 伊勢物語、六十九段「昔、男アリケリ、其男、伊勢ノ國ニ、かりのつかひニ行キケルニ、云云」

かりのなみだ (名) [雁涙] 「雁ノ聲ノ哀レナルヨリ、涙ヲ流スモノトシテ云フ」 [illegible]ニモ[illegible]、露、[illegible]ニ用キル。 古今集、[illegible]、秋上「[illegible]」

かりのやど (名) [假宿] (一) 旅ノ宿。旅宿。 [illegible]百首、[illegible]「イカナレバ、草ノ枕ニ、行キカヘル、かりの宿ニモ、トマル心ゾ」 (二) 人ノ一生ヲ、ハカナキモノトシテ云フ語。かりのやどり。 五社百首「イヅコヲモ、旅ナラズヤハ、思フベキ、浮世ハかりの、やどトコソ聞ケ」 詞花集、十、雜、下「長キ世ノ、苦シキコトヲ、思ヘカシ、十二[illegible]クラム、かりのやどりヲ」 李白、春夜宴[illegible]桃李園[illegible]序「天地者萬物之逆旅、光陰者百代之過客」

かりのやどり (名) [假宿] 前條ヲ見ヨ。

かりば (名) [狩場] 「狩庭ノ、音便轉、場ノ條ヲ見ヨ」 かりには。狩スル地。獵場。 夫木抄、十八、[illegible]、芹川ノ、昔ノかりば、[illegible]リテ、名ノミ殘レル、野邊ノ白雪」

かりばか (名) [刈婆加] 「稻刈ニ、田ニ區域ヲ分割シテ刈取ルコトナリト云フ、(萬葉集玉小琴、四)刈量ノ義ナラム、刈ト云フ語ノ條ヲ見ヨ、功程ノユク、ユカヌト云フ語、是レナルベシ、然シテ、ソレガヤガテ、稻、茅ノ刈取ト云フ意トナリシトオボシ」 稻、又ハ、茅ノ刈取。 萬葉集、四「秋ノ田ノ、穗田ノ刈婆加、カ寄リアハバ、ソコモカ人ノ、吾ヲ言成サム」 同、十三十八「秋ノ田ノ、吾ガ刈婆可ノ、過ギヌレバ、雁ガ音聞ユ、冬片設ケテ」 同、十六三十「天ナルヤ、神樂良ノ小野ニ、茅草刈リ、草刈婆可ニ、鶉ヲ立ツモ」

かりばかま (名) [狩袴] 「かりぎぬノ語原ヲ見ヨ」 狩衣ノ下ニ着ル袴。古クハ、布製ニシテ、布袴ト云ヒキ、後ニ、絹綾ノ織物ヲ用キテ、指貫ト云フ。其條ヲ見ヨ。 [illegible]名抄、十二「[illegible]狩袴、[illegible]乃加利八加[illegible]」布衣袴、布衣、此間、云[illegible]衣[illegible]加利岐沼、[illegible]衣 則袴可[illegible]知[illegible]之」(加利八加萬ト云フコト知ルベシノ意)

かりばし (名) [假橋] 假リニ造レル橋。 [illegible]

かりはな (名) [雁鼻] かりはなのくつ(雁鼻沓)ノ略。次條ヲ見ヨ。

かりはなのくつ (名) [雁鼻沓] 鼻高ノ、[illegible]

かりばね (名) [刈治根] 刈治根ノ義ニモアラムカ、あらきりばり、あらきばり。つくりだ、つくだ「[illegible]ノ道路ニ[illegible]レル、竹、草、ノ刈株。草、竹、ノ根株。カリクヒ。 萬葉集、十四「信濃路ハ、今ノ墾道、可里婆禰ニ、足踏マシムナ、沓ハケ我ガ夫」 太神宮[illegible]、[illegible]代[illegible]、刈[illegible]ノ[illegible]、かりばね多キ治道ナリ」

かりびと (名) [獵人] 獵スル人。サツヲ。今ハ、音便ニ、かりうどト云フ。レフシ。 欽明卽位前紀「獵士」 萬葉集、六十「アシビキノ、山ニモ野ニモ、御獵人、獵矢手挾ミ、亂レタル見ユ」 [illegible]名抄、二[illegible]

かりふ (名) [刈生] 草ヲ刈リタル後ヨリ、再ビ、芽ノ生ヒタルト。 [illegible]「[illegible]ノ、かりふノ原ヲ、今日見レバ、外山カタカケ、秋風ゾ吹ク」

かりぶし (名) [假臥] かりね(一)ニ同ジ。 夫木抄、三十四、神祇「神垣ノ、巖ノ上ノ、かりぶしニ、マロネノあしヲ、洗フミヤツコ」

かりブシン (名) [假普請] 「本普請ニ對ス」 家ヲ、假リニ作ルコト。

かりほ (名) [假廬] かりいほ(假廬)ノ條ヲ見ヨ。

かりほ (名) 刈穗 刈リタル、稻ノ穗。長秋詠藻、中「數知ラズ、秋ノかりほヲ、積ミテコソ、大倉山ノ、名ニハ負ヒケレ」

かりぼふし(カリボウシ) (名) 刈法師 一擬人シタル語、影法師ノ類一馬ノ、鬣ヲ鋏ミテ、禿ニシタルモノ。盛衰記、十四、三位入道入寺事「競(人名)ガ引出物ニ得タル小糟毛ヲ取寄セテ、髮ヲ刈法師ニキリテ、平宗盛入道ト金燒シテ」

かりまくら (名) 假枕 假寐、旅寐、ニ同ジ。新古今集、十、羈旅「臥シワビヌ、笹ノ小笹ノ、かり枕、ハカナノ露ヤ、一夜バカリニ」

かりまた (名) 雁股 〔蛙股ノ略轉ト云フ、(あへぎらふ、あぎらふ。あるく、ありく)形、開キタル蛙ノ股ノ如シ〕鏃ノ一種。叉ヲナシテ、大指ト食指トヲ開キタルガ如キモノ。燕尾箭 字類抄「鴈胯」

かりみや (名) 假宮 (一)天皇ノ、假リニ座シマス宮居。行宮。頓宮。箋注倭名抄、三「行宮、賀利美夜、今案、俗云二頓宮一」(二)神輿ノ御旅所。オカリミヤ。

かりむしや (名) 驅武者 諸方ヨリ驅リアツメタル武者。平家物語、五、富士川事「國國ヨリノかり武者、馬モ人モ、皆疲レハテ」

かりも (名) 釭、𨊠、轄 〔轉物ノ略轉カ、ゆかりなし、ゆくりなし。つくもの所、つくも所。いもの師、いもじ〕車ノ轂ノ中央ノ穴ニ塡ムル鐵管。軸ヲ貫キテ轉ゼシム。略シテ、かも。華嚴經私記音義「轄、可利毛」倭名抄、十一「車具「釭、轂口鐵也、車乃加利毛」名義抄「江、釭、クルマノカリモ、カモ」

かりもがり (名) 假殯 殯ト云フニ同ジ。

かりもり (名) 刈守 〔巢守、木守ト、同趣ノ語ナルベシ〕瓜ノ末成ヲ、刈取ラズ、ソノママニオクコトナルベシ。馬内侍集「年每ニ、知ラズ顏ナル、瓜作リ、かりもりシツル、秋ニモアルカナ」和歌二言集「大原ヤ、田中ノ村ノ、瓜作リ、秋ハ果ツトモ、かりもりナセソ」(倭訓栞)

かりや (名) 假屋 假リニ作レル家。假舍 大嘗祭式「所二卜定一齋場院之外、預作二假屋一、盛二收雜物一」

がりやう (名) 雅量 〔爾雅、說「雅、正也」玉篇「儀也、爾雅也」〕度量、寬クシテ、人ノ仕向ケノ堪ヘガタキヲモ、大目ニ見テ容スコト。コレニ反シテ、少シノ短所ヲモ容レズシテ憎ムヲ、狹量ト云フ。晉書、謝安傳「衆咸服二其雅量一」朗詠集、下「東平蒼之雅量、爭共二漢皇愛貴之弟一哉」

かりやく (名) 假役 假リニ任ジ置ク役目。權職 試補

かりやすぐさ (名) 刈安草 〔刈り易キ草ノ義、刈リ採ルニ、力ヲ用キルコト少ナキ意ト云フ〕又、カキナ。カイナ。草ノ名、山中ニアリ。高サ四五尺、莖、葉、すすきニ似テ細小ナリ、初秋ニ穗ヲ出シテ、三四條ヲ分ツ、亦、すすきニ似テ小サシ、莖葉ヲ煮テ、黃色ノ染料トス、黃八丈縞ナド、コレヲ用キル。靑茅 縫殿寮式「刈安草」倭名抄、十四 五十七 染色具「黃草、刈安草」

カリョウビン (名) 迦陵頻 次條ノ語ノ略。

カリョウビンガ (名) 迦陵頻伽 〔梵語、Kalavinka. 妙音鳥ナド、譯ス〕(一)佛教ニ、極樂淨土ニ居ル鳥ノ名。面、美女ノ如ク、其聲、最モ美ナリト云フ。略シテ、伽陵頻。又、頻伽鳥トモ云フ。源、七、紅葉賀ニ「詠ナドシタマヘルハ、コレヤ佛ノ、御迦陵頻伽ノ聲ナラムト聞ユ」保元物語、三、新院御經沈事「迦陵頻ハ、卵ノ中ニ、妙ナル音アルガ如ク、云云」盛衰記、三、資盛乘會狼藉事「迦陵頻鳥ハ、卵ノ中ニテアレドモ、其聲、諸鳥ニ勝レタリ」(二)舞樂ノ曲ノ名。童舞、四人、天冠、羽衣ニシテ、雙手ニ銅拍子ヲ拍ツ。倭名抄、四「舞曲類、迦陵頻、沙陀調曲、迦陵頻、極樂淨土鳥也、妙音天奏南天竺國傳二此舞一」

かりる・リル・リレ・リ・リ・リヨ(他動、上一) 借 〔四段活用ヲ、上一段トスルモノ、足る、たりる。飽く、あきる。同ジ〕借るノ口語。運歩色葉集(天文)「借、カリル」醒睡笑(元和)「春ハ、蛙ガ目ヲかりるト申傳ヘテ候」

カリロク (名) 訶梨勒 訶梨勒 〔梵語、Haritaki.〕印度地方ノ喬木ノ名。葉ハ橢圓ニシテ、花ハ白ク、果ハ梔子ニ似テ、甚ダ大キク、六稜ヲナス、藥用トシテ、水毒ヲ解スト云フ。又、象牙、銅、ナドニテ、此果ノ形ヲ作リ、帛絲ニテ飾リテ、柱ニ懸ク、靈絲絲トモ云フ。本草綱目、喬木「訶黎勒、釋名、訶之、時珍云、訶黎勒、梵言、樹似二木槵一、花白、形似二巵子橄欖一」康頼本草、上、四十五「訶梨勒、一名、訶子、加之」東山殿御社飾「訶梨勒」

かりわらは(カリワラワ) (名) 假童 〔假りハ、旅ノ意ナルカ、假衣、假枕、假寐、假の宿、皆、旅ニ云フ〕修驗者、山伏、ノ異名。野宿、難行スルニ就キテ云フ語ナルベシ。歌林樸樕(松永貞德)「夕暮ニ、葛城山ノ、高嶺ヨリ、かりわらは來ル、法螺ノ音スナリ」(此歌、祕藏抄ニモ載セタリ、同書ハ躬恒作ト云ヘド、僞書ナリ)

かる・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ(自動、下二) 涸 (一)水、ナクナル。乾ル。(池、井ナド)萬葉集、十六 七「ミミナシノ、池シウラメシ、ワギモコガ、來ツツカクレバ、水ハ涸ナム」(二)濕氣、盡ク。カワク。(墨、膠、漆ナド)乾燥 字鏡「焜、可和久、加留」(三)蟲、死シテ、ヒカラブ。中務集「蛙ノかれタルヲ、人ノオコセテ「かれニケレ、かはづノ聲ヲ、春ニ十テテ、十ヤカ鳴カメト、思ヒケルカナ」(四)讓、ヒカラブ。榮花物語、廿五、峯月「舞ヲ、かれサセタマヒソレト」(五)かれるノ條ヲ見ヨ

かる・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ(自動、下二) 枯槁 〔涸るノ義、前條ヲ併セ見ヨ〕(一)草木、生氣ヲ失ヒテ、死ス。萬葉集、十八 二十三 長歌「ナリハヒヲ「雨フラズ、日ノ重ナレバ、植ヱシ田モ、蒔キシハタケモ、朝每ニ、シボミ可禮ユク」(二)氣力、衰ヘ盡ク。虛耗 百日會義(元祿、池松作)五「茶、云云、三杯ニ、枯れタル胸ヲサグリ」「精氣枯る」(三)光澤失セテ、赤クナル。(髮ニ云フ)色道大鏡(延寶、箕山)「髮付油ハ、松脂煉ハ、髮かれテ惡シシ」(枕草子、八、八十四段「七尺ノ鬘ノ赤クナリタル」榮花物語、十一、莟花「織物ニ髮亂ルト云フコトハ、髮ノかるびれ少ナキ時ノコトナリケリ」)

かる・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ(自動、下二) 嗄 〔涸るノ義〕聲ノ力、盡ク。シハガル。シャガレル。萬葉集、十 十三「ウレタキヤ、醜霍公鳥、今コソハ、聲ノ干ガニ、來鳴キトヨマメ」

かる・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ(自動、下二) 離 〔切るると通ズ〕ハナル。離ル。トホザカル。疎クナル。萬葉集、十一 三十九「妹ガ袂ヲ、加流類コノゴロ」同、十四 六「目コソ可流ラメ、心ハ思ヘド」同、二十 十八 長歌「タラチネノ、母ガ目可禮テ」後撰集、五、秋、上「秋萩ヲ、イロドル風ハ、吹キヌトモ、心ハかれジ、草葉ナラネバ」

かる・ル・レ・ラ・リ・レ(他動、四) 借 (一)イラフ。還スベキヲ約シテ、他ノ物ヲ受ク。カリル。借用ス。(貸すニ對ス)萬葉集、十四 廿「人妻ト、アゼカ其ヲ云ハム、然ラバカ、隣ノ衣ヲ、可里テ着ナハモ」(二)他ヨリ受ク。「カヲ借る」「勢ヲ借る」

かる・ル・レ・ラ・リ・レ(他動、四) 驅 〔驅くニ通ズ〕(一)逐ヒ立ツ。崇神紀、四十八

[illegible]ヲ騎る」(二)走ラス。驅ス。「車ヲ驅る、馬[illegible]

か・る ル・レ・ラ・リ・レ (他動、四) 〔狩獵〕「獵り」[illegible] 打獵ル。[illegible] エ、三島野ニ、可良又日マネク、月ゾ經ニケル」(二)[illegible] ヲ追レ[illegible] らおり、雨ハ降リ來ヌ、云云、さくらがりトハ、櫻ヲ[illegible]

か・る ル・レ・ラ・レ・レ (他動、四) 〔刈〕 切る、伐る二通ズ[illegible]

が・る ル・レ・ラ・リ・レ (接尾) [illegible]ムル。竹取物語、例モ、月ヲアハレがりタマヘドモ」土佐日記、正月廿六日「追風ノ、吹キヌル時ハ、行ク船ノ、帆手打チテコソ、嬉シがりケレ」[illegible]

が・る ル・レ・ラ・リ・レ (接尾) 〔氣あるノ約〕 [illegible] タマフヨリハ、殺生好ミタマフコソハトテ」源、廿三[illegible] チナドニモ、オおらズ、メヤスク書キスサビタリ」「才子がる」上品がる」通人がる」得意がる」

かるいし (名) 〔輕石〕 火山ノ噴火ニ成レル[illegible]ノ如キモノ、[illegible]シ、海邊ニアルモノハ、體ニ微細ノ孔多キコト、海綿ノ如シ、色灰白、或ハ、黄色ナリ、[illegible]ス、ウキイハ。[illegible]

かるうす (名) 〔碓〕 からうす(碓)ノ轉[illegible]

カルカ (名) [illegible]

かるがも (名) 〔輕鴨〕 なつがもニ同ジ。

かるかや (名) 〔刈草〕 〔かるも(刈藻)ト同意〕 [illegible]ノ語、かや(草)ノ條ヲ見ヨ。[illegible]シゾ多キ」六帖、六「秋風ニ、亂レソメニシ、かるかやノ、亂レゾ勝ルテ、[illegible]」

かるかや (名) 〔刈萱〕 〔前條ノ語ノ、一草ノ名トナレルナラム〕 草ノ名、山野ニ多シ、秋ノ頃花トシテ賞セラル。[illegible] 側テ小サク、高サ三四尺、葉、莖長クシテ、白キ[illegible] 秋、小サク芒アキ穗ヲナシテ、花ヲ開ク、[illegible]

かるがゆゑに (接) 〔故〕 斯くあるが故ニ。[illegible]

かるがる・し (形) 〔輕輕〕 かろがろしニ同ジ。其條ヲ見ヨ。

かるがると (副) 〔輕輕〕 イト輕キ状ニ。[illegible]

かるくち (名) 〔輕口〕 發音ノ混ジヤスキ[illegible]テ、明ラカニ、[illegible]

かるくちばなし (名) 〔輕口噺〕 一段ノ落[illegible] カウ冷ユル、ト聞コエタ、ナゼニ、死スルホドノ君ガ、[illegible]トブラヒテたびたまへ」(足袋屋へ、[illegible]) [illegible]衛門[illegible]十二年[illegible]トテ、[illegible] 多ク工夫シ、中橋ノ[illegible]小屋ヲ設ケテ、興行セリ、[illegible]ノ書ニ、其噺ヲ集メテアリ、[illegible] ハ、此一轉セシナリ。

かるげに (副) 〔輕氣〕 カルサウニ。カル[illegible]

かるこ (名) 〔輕籠〕 繩ニテ、蜘蛛ノ巣ノ如ク、方、一二尺ニ編ミテ、四隅ニ繩ヲ付ケタルモノ、土、[illegible]ヲ載セ、擔ヒテ運ブニ用キル。簣。モッコ。和漢三才圖會、三十五、農具「輕籠(俗字、加留古)」

かるこ (名) 〔輕子〕 〔輕籠者ノ意、輕籠ニテ運送シタルヨリ云フ〕 (一) 問屋ノ荷ヲ運ブコトナド、業トスル者。[illegible] (二) 明和、安永ノ頃、江戸、深川ノ岡場所ノ[illegible] [illegible]「かるこトテ、[illegible]ノ女、[illegible]トテ行ク」

カルコ (名) [illegible] かるかニ同ジ。[illegible]ノ條ヲ見ヨ。

カルサイ (名) 〔加留佐以〕 〔蘭語、Carri-[illegible] 一種ノ[illegible] さい、ランケン、[illegible]」

カルサン (名) 〔輕衫〕 〔葡語、Calção〕 [illegible]ノ袴ノ如ク仕立テテ、[illegible]ヲ[illegible]ニすぼく作リ、大工、[illegible]、下部ナド、立働ク者、衣服ノ裾ノ開クヲ防ガムガタメニ、[illegible] ノゆかた、緞子ノかるさん」[illegible] [illegible]ニキテミレバ、風モかるさむゾ、[illegible]」

かる・し (形) 〔輕〕 かろしヲ見ヨ。

カルシウム (名) 〔英語、Calcium〕 [illegible] ス、天然ニ遊離シテ產ズルコトナク、[illegible]

かる[illegible]り (名) [illegible] から[illegible]りノ條ヲ見ヨ。

カルタ (名) 〔骨牌〕 〔葡語、Carta〕 又、かりた。西洋傳來ノ遊戯、博打ノ具。小サキ長方形ナル[illegible] ノ、[illegible]種類、數十枚、數人ニ分チテ、象ニ合セテ取ル、種類、方法、多ク、うんすんがるたト云フモノ、形象、枚數、最モ多シ。[illegible] たモ、多シ、花がるたト云フモノ、専ラ

博打ニ用キラル、其外、歌がるた、以呂波がるた、どらんぶ、ナドモアリ、各條ヲ見ヨ。長曾我部元親式目「博奕、かるた、諸勝負令停止」

ガルダ (名) 迦嘍荼 〔梵語、Garuda. 法華經ニ迦樓羅トモ見ユ、金翅鳥ト譯ス〕佛敎ニ云フ鳥ノ名、龍蛇ノ敵ト云ヒ傳ヘラル。（高楠順次郎ノ說）

カルタ-むすび (名) 骨牌結 〔骨牌ノ、長方形ナルニ似タル意〕女ノ帶ノ結ビヤウノ名、男ノ如ク、方形ニ結ブモノ。延寶、天和ノ頃行ハル。（近代世事談）天和笑委集、八「腰ニ餘レル丹前帶、後ヘキリリト引キマハシ、吉彌ヤウニ結ブモアリ、前ヘマハシテ、かるたむすびニシケルモアリ」歌舞妓事始（寶曆）「男ノ如ク四角ニスルヲ、かるた結ト云フ」

かるに (名) 輕荷 〔輕荷石ノ略ナルベシ、荷少ナク、船輕き時ニ積ムナリ〕大船ノ底ニ積ミ込ム、沙石ノ稱。

かるはずみ (名) 輕佻 輕輕シク、勢ニ乘リテ事ヲ行フコト。卒爾ニモノスルコト。輕率「かるはづみナ事」

ガルバニ (名) 〔伊太利人、Galvani. 氏ノ發明ニカカル〕一種ノ電氣用法。今、專ラ、其法ニテ鍍金スルニ云フ。ガラハニ。

〰**かる・む** (動) 輕 かろむ（四段）ニ同ジ。其條ヲ見ヨ。

〰**かる・む** (動) 輕 かろむ（下二段）ニ同ジ。其條ヲ見ヨ。

かるめ (名) 輕目 （一）目方ノ、輕キコト。（小判、一分判ナドノ、耗リテ、目方ノ缺ケタルヲ、輕目金ト云フ、輕目羽二重ナド云フモ、量ノ少ナキナリ）國性爺合戰（享保、近松作）五「何レモ敵ニ輕目ナシ、天下ノ敵ハ三人一所、サアコイト」（二）はいずみノ一名。其條ヲ見ヨ。

カルメイラ (名) 次條ニ同ジ。

カルメイル (名) 浮石糖 〔葡語、Caramelo.〕氷砂糖ト玉子ノきろみトヲ、水ニテ煮テ煉リ、重曹ヲ加ヘ、氣泡ヲ發シテ、脹レタルヲ凝ラシメタル菓子ノ名。狀、浮石ノ如シ。カルメイラ。カルメラ。太閤記、一、或問「カステイラ、ボウル、かるめいる、アルヘイル」和漢三才圖會、百五、造釀類「浮石糖、加留女以良、蠻語也」

かるめ-きん (名) 輕目金 かるめノ條ノ（一）ヲ見ヨ。享保集成絲綸錄、三十三、享保十一年年九月「疵金、輕目金、通用之儀、云云」

カルメラ (名) 前前條ニ同ジ。

かる-も (名) 刈藻 〔かるかや（刈草）ト同趣ノ語〕刈リタル藻。夫木抄、廿八、藻「かるも搔キ、燒ク鹽竈ニ、アラネドモ、戀ノ烟ヤ、身ヨリ立ツラム」

かる-も (名) 枯草 〔枯物ノ略カト云フ、（あせもの、あせも。いものき、いもぎ）下二段活用ノ終止形ヲ、連體形ニ用キルコト、萬葉集、十九二十「落チタギチ、流辟田ノ、河ノ瀨ニ」ナドアリ〕枯レタル草。猪ノ、搔集メテ臥スニ云フ。夫木抄、廿七、猪「秋ノ野ノ、かるもガ下ニ、月漏リテ、並ビ臥ス猪ノ、影モ隱レズ」土御門院御集「谷深ミ、臥ス猪ノかるも、（序）カキタエテ、馴レシ都ゾ、疎クナリユク」（阿波ニオハシテノ御製ナラムカ、アナカシコ）

かるも-か・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (自動、四) 枯草搔 枯草ヲ搔キ集メテ臥ス。猪ノ眠ル時、スルコトナリ。かるもの床、臥猪の床ナド云ヒテ、心安ク寐ヌモノナレバ、和歌ニ、多ク其意ニ寄セテ云フ。後拾遺集、十四、戀、四「かるもかき、臥猪ノ床ノ、寢ヲ安ミ、サコソ寐ザラメ、カカラズモガナ」續古今集、十、羇旅「かるもかく、猪名野ノ原ノ、假枕、サテモ寐ラレヌ、月ヲ見ルカナ」夫木抄、廿七、冴エワビテ、臥猪ノ夢ヤ、覺メヌラム、かるものとこニ、霰降ルナリ」

かる-もの (名) 輕物 〔麻布ヨリハ輕き故ニ云フカ〕絹布ノ稱。狂言記、三人片輪「某ガ預カッタ酒藏ヲアケテ、又、一勝負シテ、其後、かる物藏ヲアケテ、引肩ゲテ、退クマイカ」

かるも-の-とこ (名) 枯草床 前前條ヲ見ヨ。

かる-やき-せんべい (名) 輕燒煎餅 糯米ノ粉ニ、砂糖ヲ加ヘテ餅トシ、乾シテ、燒キ成シタル煎餅。脹レテ、甚ダ輕シ。

カルラ (名) 迦樓羅 〔梵語、又、揭路茶〕がるだ（迦嘍荼）ニ同ジ。こんきてう（金翅鳥）ノ條ヲ見ヨ。

〰**かるらか-み** (副) 輕 かろらかまノ條ヲ見ヨ。

ガルロン (名) 呏 がろんノ條ヲ見ヨ。

かる-わざ (名) 輕業 （一）身ヲ、輕輕ト活躍カセテ、高キヲ跳ネ越エナドスルコト。會津四家合考、氏鄕被ㇾ攻二落名生城一（奧州、玉造郡）「志賀與三右衞門尉ト云フ者ハ、輕業ノ男ナレバ、塀ヲ乘越エムトシテ」（二）興行ノ見世物ニ、綱渡、籠拔、梯子乘ナド、種種ノ技ヲ演ズルモノ。

かるゐ (名) 家累 （一）家ノ係累。家族。晉書、戴洋傳「孫混欲ㇾ迎二其家累一」（二）家事上ノワヅラヒ。

かれ (名) 涸乾 涸ルルコト。シメリケノ乾クコト。涸渇。乾燥。

かれ (名) 枯 草木ノ、枯ルルコト。續後拾遺集、十三、戀、三「忘レジト、結ビシ野ベノ、花薄、仄カニ見テモ、かれ（枯れニ、離れヲカク）ゾシヌベキ」

〰**か-れ** (代) 彼 〔され、（是）われ（我）ノ語原ヲ見ヨ〕（一）身ヨリ遠キ物事ニ用キル代名詞。あれ。（され、それニ對ス）萬葉集、十八「沖邊ヨリ、滿チクル潮ノ、（序）イヤマシニ、吾ガ思フ君ガ、御船カモ加禮」（二）他稱ノ代名詞。二人、相對シテ話シ出ス時、他ノ人ノ名ニ代ヘテ用キルモノ。あれ。萬葉集、十十五「誰ソ彼ト、我レヲナ問ヒソ、長月ノ、露ニ濡レツツ、君待ツ我レヲ」

〰**かれ** (動) 離 離るノ條ヲ見ヨ。

〰**か-れ** (接) 故 〔斯あればノ約ナル、かかればノ約略、此ノ如キばノナキコト、古語ニ多シ、萬葉集、五三十一長歌「唐ノ、遠キ境ニ、遣ハサレ、退リ伊麻勢（バ）、云云、諸ノ、大御神タチ、船舳ニ、導キ申シ」同、五十四長歌「タマキハル、命絕エヌレ（バ）、立チ躍リ、足摺リ叫ビ」同、十七二十六「アリサリテ、後モ逢ハムト、於母倍（バ）コソ、露ノ命モ、ツギツツ渡レ」〕斯レバ。此ノ故ニ。カルガユエニ。神代紀、上廿三「天照大神、云云、入ㇾ于二天石窟一閉二磐戶一而幽居焉、故、六合之內常闇而、不ㇾ知二晝夜之相代一」欽明紀、十六年二月「請ㇾ神往救、所以社稷安寧」齊明紀、六年九月「兵（兵器）盡二前役一故以ㇾ棓戰」

か-れい (名) 家例 一家ニ、年久シク、先例ニ據リテ行フ、儀式ナド。

か-れい (名) 家令 （一）平安朝時代、親王、內親王、三位以上ノ公卿、等ノ、家事ヲ總理スル職名。朝家ヨリ、一人ヅツ賜ヒキ、後ニ、家司ヲ置カレテ、廢止トナレリ。明治以後、皇族附屬ノ職員トシ

ヲ置カル、斯[illegible]ノ[illegible]家ノ事務ヲ總管ス、其次ニ家扶、其次ニ家従アリ。[illegible] (二)華族ノ家ニモ、家令、家扶、家従アリ、其家ノ事務ヲ掌ル。

かれい (名) [家禮] 家禮ト讀ム、其條ヲ見ヨ。

かれい (名) [嘉例佳例] メデタキ例。吉例。[illegible]

かれい (名) [佳麗] キラビヤカナルコト。ウルハシキコト。[illegible]

かれい (名) [回齢] かねん(周年)ニ同ジ。

かれい (名) [遐齢] 高キ齢。高齢。長壽。[illegible]

かれいひ (名) [乾飯] (一)約メテ、かれひトモ云フ。飯ノ、乾シタルモノ。ホシイヒ。ホシヒ。旅行、行軍ナドニ携ヘテ、糧トス。カリテ。カテ。[illegible] (二)後ニハ、必シモ乾飯ナラズトモ、スベテ、旅行中ノ食事ニ云フ語。(糧ノ餉袋ノ、噴ノ容器ノ名トナリシガ如シ) [illegible] (三)人ニ贈ル食物。餉。[illegible]

[illegible]

かれいろ (名) [枯色] 襲ノ色目ノ名。表ハ白、裏ハ薄紫ナルモノ、冬季ニ用キラレキ。

かれう (名) [下僚] シモヅカサ。下役。[illegible]

カレエ (名) 英語、Curry powder. ノ略。薑、茴香、鬱香、さんか椰子、蕃椒等ノ粉末ヲ混ジタルモノ。らいすかれえヲ作ルニ用キル。

かれえだ (名) [枯枝] 枯レタル、木ノ枝。[illegible]

かれがし (代) [彼某] それがしノ條ヲ見ヨ。

かれがた (名) [離方] 離レムトスル時。多クハ、男女ノ情交ノわかれぎはニ云フ。[illegible]

かれがれ (副) [枯枯] (一)草木ノ、枯レムトスル状ニ云フ語。[illegible] (二)聲ノ、嗄レ盡キムトスル状ニ云フ語。[illegible] (三)水ノ、乾カムトスル状ニ云フ語。[illegible]

かれがれ (副) [離離] 〔離るノ條ヲ見ヨ〕ハナレバナレニ。ワカレワカレニ。(多ク、男女ノ情交ニ云フ。) [illegible]

[illegible]

かれき (名) [枯木] かいき。枯木。[illegible]

かれぎ (名) 刈葱ノ訛。

かれされ (代) [彼此] (一)彼ト、此ト。されかれ。[illegible] (二)彼人、此人。タレカレ。人人。[illegible] (三)彼事、此事。[illegible]

かれされ (副) [彼此] ホトホト。ホトンド。[illegible]

かれちぼ (名) 枯落穂ノ約ナル、かろちぼノ轉、されがむ、をろがむ。枯レ落ツル稻穗。[illegible]

かれの (名) [枯野] (一)からの。干草、木モ枯レハテタル野。[illegible] (二)襲ノ色目ノ名。表ハ香色、裏ハ青ナルモノ、冬季ノ用トシタリ。[illegible]

かれはつ ツル・ツレ・テ・テ・テヨ (自動、下二) [枯果] カレヲハル。儘ラニ枯ル。[illegible]

かれひ (名) [比目魚鰈] 古言、からえひノ約、其條ヲ見ヨ。古名、からえひ。魚

ノ名。[illegible] 一二尺ニ過ギズ、[illegible]

かれひ (名) [餉] かれいひ(乾飯)ノ約。其條ヲ見ヨ。

かれひけ (名) [餉笥] 餉ヲ入ルル笥ノ義。破子ニ同ジ。[illegible]

かれひつけ (名) [餉附] 餉ヲ着クベキ[illegible]。鞍ノ後橋ノ緒。[illegible]

かれふ (名) [枯生] 切生、刈生、芝生、淺茅生ノ類。草ノ、枯レタル地。枯レタル草原。[illegible]

かれん (名) [可憐] カハユキコト。[illegible]

かれんちうきう (名) [苛斂誅求] 苛酷ク収斂テ、嚴シク責メ徴ル。[illegible]

⁺⁺か・れる・レル・レレ・レ・レ・レヨ（自動、下二）［涸］（一）涸るノ口語。（二）末無ノ氣、失ス。……ヲ積ミテ、……ニナル。老衰、……ニ……かれる」

⁺⁺か・れる（動）枯る、嗄る、等ノ口語。

かろう（名）［河漏］〔河漏麪ノ略ナリ、支那ノ河漏ト云フ〕…着ノ地ノ茶店ニテ、多ク賣レリ。…トス〕蕎麥切ノ異名。…、農書…多ク…麪…、…ニ…河漏…二

かろ・がろ・し・シキ・シケレ・シク・シク（形、二）［輕輕］〔かろしヲ重ネテ、意ヲ强クス〕又、かるがるし。最ナラズ。沈着カズ。慎ミ無シ。（おもおもしニ對ス）輕率。枕草子、二、二十段「懸葛毛（車）ハ、長閑ニ遣リタル、急ギタルハ、かろがろしく見ユ」…、…二年二月「…ニ…、不三…、…二…、…二十ヤウニアナヘタルコトハ、カヘリテかろがろしき」名義抄「…輕、カロカロシ、カルカルシ」

かろ・がろ・と（副）［輕輕］かるがるとニ同ジ。釋迦如來誕生會（元祿、近松作）「十丈餘リノ大石、一刄ヨリ宿、かろがろと引ッ抱ヘテ」

か・ろく（名）［家祿］（一）家ニ世襲スル俸祿。江戸幕府時代、幕府ニ於テハ、旗本、御家人、大名ニ於テハ、士家ニ附キタル祿。後漢書、劉般傳「賢…居巢好…、…家祿…」（二）明治時代、華族、士族ノ家格ニ對スル俸祿。（明治十年廢セラル）「家祿奉還」

か・ろく（名）［加祿］家祿ノ高ヲ、加ヘ賜ハルコト。加增。

かろ・げ・ㇴ（副）［輕氣］輕キ狀ヲ云フ語。カルゲニ。狂言記、文藏「金竈殿ノ家置カセ、我ガ身かろげに、ユラリト乘リ」

⁻かろ・し・キ・ケレ・ク・ク（形、二）［輕］（一）又、かるし。目方、少ナシ。（重しニ對ス）名義抄「輕、カロシ、カルシ」夫木抄、十、立秋「イツシカト、今朝ハ、……ニ、……ニ……ケル」（二）烈シカラズ。强カラズ。易シ。少ナシ。字鏡「言偏ニ少ノ字ニ、口加留之」「宿直輕し」「罰輕し」かろく叩ク」（三）卑シ。ヒクシ。卑　源、一、桐壺「オノヅカラ、かろき方ニモ見エジヲ」「役目輕し」「身分輕し」

かろし・む・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ（他動、下二）［輕］〔前條ノ語ヲ、他動ニ活用セシム、あやし、あやしむるノ類〕カロズ。ロシク見ル。カロムル。カロンズ。ミサゲル。輕侮。沙石集、一、下、第十條「…善ヲモ、かろしめケル人ナリ」

⁻かろ・ぶ・ブル・ブレ・ビ・ビ・ビヨ（自動、上二）［輕］〔前條ノ語ヲ、他動ニ活用セシム、あやし、あやしむるノ類〕カロズ。ロシク見ル。カロムル。カロンズ。ミサゲル。輕侮。

［鄙ぶ、みやぶ、同趣］（一）輕氣ナリ。枕草子、二、二十段「サバカリかろび涼シゲナル中ニ、暑カハシゲナルベケレド」（二）カロガロシクアリ。輕率。源、二、帚木「末ノ世ニモ聞エヘテ、かろびタル名ヲヤ流サム」

⁻かろ・む・ム・メ・マ・ミ・メ（自動、四）［輕］又、かるむ。輕クナル。源、三十四、下、若菜、下「卄二「此昇かろむバカリノ事ヲ、セサセタマヘ」同、廿二、玉鬘「…トモカクモ、…キ聞ケテセタマハムコトコソハ、昇かるまセタマハメ」

⁻かろ・む・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ（他動、下二）［輕］〔前條ノ語ノ他動、いたむ、いたむる。やすむ、やすむる〕又、かるむる。輕クナス。カロシム。カロンズ。輕侮　源、九、葵「…ニ信号オトドノ上ノ、…ウかろめタマヒソト、イサメタマフ」名義抄「侮、カロム、アナヅル」源、廿一、少女「…人ニかるめ侮ラルルニ」

ガロン（名）［…］〔英語、Gallon.〕英國ノ容量ノ名、我ガ二升五合一勺八七〇ニ當ル。ガッロン。

かろん・ず・ズル・ズレ・ゼ・ジ・ゼヨ（他動、左變）［輕］〔輕ニすノ音便〕（一）輕クス。（おもんずニ對ス）平家物語、二、小敎訓事「刑ノ疑ハシキヲバ、かろんぜヨ」（二）侮ッテ、一ヲかろんじ、…ヲ重ンズ」（三）ヤロザニシク見ル。カロムル。カロシム。ミサグル。アナドル。「人ヲ輕んず」

⁻かろ・め（動）［輕］輕む（下二段）ノ條ヲ見ヨ。

カロメル（名）〔蘭語、Calomel.〕甘汞。

⁻かろ・ら・か・ㇴ（副）［輕］〔薄らか、嗅らか〕（一）又、かるらか。甚ダ輕キ狀ニ。輕氣ニ。カルガルト。源、四、夕顏「…かろらかに乘セタマヘンバ、右近ゾ乘リケル」同、五、若紫「…言言ヲバ、イトかるらかニ抱キテ」（二）カロガロシク。かるらかに。源、十三、明石「田舍人コソ、云云、サヤウニかろらかに語フワザヲモスナレ」同、六、末摘花「かるらかならヌ人ノ御程ヲ、心苦シトゾオボシケル」

かわか・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）［乾］〔かわくノ他動、（次條ヲ見ヨ）わく、わかす。すく、すかす。うおく、うおかす〕乾クヤウニナス。乾ス。（濕すニ對ス）沙石集、二、下、第九條「只、黑障ノ火ヲかわかして、悲願ノ火ヲ待ツベシ」

かわき（名）［乾］（一）乾クコト。干ルコト。「洗濯物ノかわき」（二）喉ニ、潤ヒ無クナリテ、水ヲ欲スルコト。渴　醫家千字文「渴、カハキノヤマヒ」（三）病後ノ食慾。

か・わ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ（自動、四）［乾］〔氣、溥くノ轉、（氣ノ條ヲ見ヨ）潤ルル意ト云フ〕（一）日、火、ノ熱ニ遇ヒテ、物ノ濕氣、無クナル。潤ル。乾ル。ヒカラブ。字鏡「…、乾也、可知久、又、……」（二）喉ニ、…ノ潤ヒ、無クナル。渴　宇治拾遺、十五、第一條「道ニ迷ヒタル人ナリ、喉かわきニ……セヨト仰セラレケレバ」

か・わ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ（他動、四）［渴望］〔渴きニ欲スル意ヨリ移レルカ〕欲望ス。望ム。…（寶永、…）「…ミかわくへ、何奴ヂャイ」「欲ヲかわく」

⁻かわら（副）［…］〔骨（音便ニ甲）ニテ、甲ナリト云フ說アレド、わ、は、違ヘリ〕甲ノ、物ニ觸ルル音ニ云フ語。吳竹集、十年九月、…「…」云云、…云云、…云云、…「…」中…、…一…、…中…、……

か・ゐ（名）［下位］ぢゃうゐ（上位）ノ條ヲ見ヨ。

か・ゐん（名）［下院］衆議院ノ異稱。ぢゃうゐん（上院）ノ條ヲ見ヨ。

⁻か・を・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）［薰］〔かをるノ他動、なほる、なほす。のおる、のおす〕薰ラシム。催馬樂、…「…」山ノ、山ノ…、手ナ觸レソ、香ヲ可乎須ガニ、香ヲマサスガニ」

⁻か・を・り（名）［馨］馨ルコト。字鏡「…、…、……」天治字鏡、一「…」賀加利ノ假借ナリ。

か・を・り（名）［薰］（一）カヲルコト。香。ニホヒ。源、十一、花散里「…ノかをり、ナツカシク」（二）ニホヒ。光澤。榮花物語、八、…「…ノかをり、メデタク、ケダカク、アイキャウヅキテ」

⁻か・を・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）［薰］〔氣折るノ轉、（氣ノ條ヲ見ヨ）折ル（四段活用）ハ自動ニテ、疊はるノ意〕烟、霧、火、香ナドノ氣、髣髴ニ立チタナビク。

[illegible]。

かたる(自動、四) [illegible] ノ猶ヲ、筆テ、物ニ云フナリ。[illegible] ニ似レルガ如シ。[illegible] ナ [illegible] ニ [illegible] ア [illegible] クア [illegible]。[illegible]

かたる ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) [illegible] ヲ折ル [illegible] 影ニテハ、[illegible] 今モ、[illegible]、山 [illegible] 竹田出雲)三「サテサテ、御早イ御登被、イヤハヤ、我折リマシタ、我等、閉口閉口」

き ぎ

き 五十音圖、[illegible] 行第二ノ假名。[illegible] 見ヨ) きノ音ハ、他ノ音ノ間ニアルトキ、促音ノッノ如ク呼ブコトアリ、せきこむ、(急込)サキ [illegible](石橋)ナドヨ、せ。[illegible] 如シ。又、きノ音ハ、他ノ音ノ下ニアルトキ、其發聲ヲ失ヒテ、韻ノいトナルコトアリ、つきはむ、(突食)[illegible]、(先頃)おきて、(於)あかき(赤)ナドノ、ついばむ、かいやる、さいつころ、おいて、あかい、トナルガ如シ。

ぎ きノ濁音。[illegible] 他ノ音ノ下ニアルトキ、其發聲ヲ失ヒテ、韻ノいトナルコトアリ、[illegible] て、

(接頭)やなぎばた(柳端)ナドノ、[illegible] ノ、[illegible]

き (名) [木] [illegible] 義 (一)又、[illegible] ヨ)植物ノ中ニ、幹、枝、甚ダ長大トナリ、[illegible] 本草、十二巻、カシノキ」古事記、下(仁徳)六「長歌「川ノ邊ニ、生ヒ立テル、佐斯夫ヲ、佐斯夫ノ紀、シガ [illegible] (二)木ヲ [illegible] 材木。[illegible] (四)芝居ニテ、幕ノ開閉ナドニ打ツ、拍子木ノ略。[illegible]

き (名) [黄] 色ノ名、七色ノ一。黄金、又ハ、[illegible] 黄ノ色ノ如キ、コレナリ。[illegible] パ、[illegible] ノ色ノ中ニテ、[illegible]

き [寸] (切るノ語根、(萬葉集、一八)[illegible] 指ノ中程ノ二節ノ間ニテ度リタル語ナルベシ、[illegible] (一)上代ノ度ノ名、凡ソ、後ニ云フ、寸ホドナルベシ。[illegible] 五寸」皇極紀、二年八月「溝瀆之廣、赤復稱 [illegible] ノ、中ノ節ト上ノ節トノ間ヲ、一寸トスルナリ、指ヲカガメテアツルナリ、[illegible] 灸ヲスル時、灸スル人 [illegible] ト云フモ、同ジ義ナリ、但シ、中指ヲ以テ寸ヲ定ムル [illegible] (二)[illegible]

[illegible] 是レハ、[illegible] ノ名トナル)馬ハ、四尺ヲ馬長ト云ヒ、以上ヲ一寸、二寸、七寸、八寸ナド云ヒ、[illegible] 云フ [illegible] 下 [illegible] 引出物ハ、[illegible] サマサマノ [illegible] 馬ノ、たけ八 [illegible] 馬ニ」[illegible] 三、馬尺事「馬ヲ、一寸、二寸ト云フ、云云、馬尺ト云フハ、四尺ヲ定メテ、其上ヲ一寸、二寸、云云、七寸、八寸ト云フ、八寸ニ餘ルヲバ、長ニ [illegible]

き (名) [牙] [illegible] 切りノ語根、[illegible] 噛ミ切ル [illegible] 絲切齒トモ云フ」きばニ同ジ。[illegible] 二十三年正月「[illegible] 牙、鴻 爪」「象 牙」「犀牙」(各 [illegible]

き (名) [柵城] (限りノ語根、朝鮮ノ古語ニモ、[illegible] ノナリ、コレガ發達シタルガ、城ナリ。[illegible] 「筑紫ノ國ハ、遠守ル、符ノ城ゾト、聞コシメス」

き (名) [匱] [illegible] 是レナリ」人ノ屍ヲ納ルル、木造ノ匣。[illegible] ヒトギ。ヒツギ。棺。更ニ大キニシテ、[illegible]

き [illegible] からはぎ ウツセミノ、[illegible] ハきゴトニ、トドムレド、[illegible]」

き [illegible]

き [illegible] 山酒ゾ、[illegible]」「白酒」「黒酒」

き [illegible]

き (名) [氣] (一)天地ノ間ニテ、寒暑、陰晴、[illegible] メル大氣。空氣。[illegible] (三)香、烟、湯ナドヨリ立 [illegible] ニモユル、春ノきハ、[illegible] ヲコメテ、晴レズゾアリケル」[illegible] 「氣差ス」(芽萌す)(五)動物ノ、生キテアルカ [illegible] 「氣ヲタシカニ持タセラレイ」[illegible] ル」きヲ吹キカヘス」(七)心ノ趣ク所、ココロバセ。好ミ。「人ノ氣」氣ニ入ル、氣ニアハズ」氣ガアル」(八)ココロ。カンガヘ。[illegible] ケル」(十)根氣。機根。[illegible] 作)二「待チ兼ケテ、氣ガツキタ」(十一)有様。[illegible] 「[illegible] 氣ナシ」(十二)野菜ノ、臭氣アルモノ

ノ稱、ねぎ(根葱)わけぎ(分葱)かりき(刈葱)」(十二)十五日、一期ノ稱(氣候、並ニ、二十四氣ノ條ヲ見ヨ)內經「五日謂二之候一、三候謂二之氣一」氣になるトハ、思ヒノ種トナル。氣ニカカル。苦慮　氣にするトハ、思ヒ煩フ。介意

き (名) 葱 「氣ノ義、(前條ヲ見ヨ)氣ニ通ズ、其氣、薰烈ナリ」ねぎノ本名。其條ヲ見ヨ。又、刈き、分ぎ、アララぎ、アサツキ、等モ、其各條ヲ見ヨ。字鏡八十「葱、支」本草和名、下卅三「葱實、岐」倭名抄、十七八「葱、紀」「淺葱色、萠葱色」

き (名) 芽 「氣ノ轉、其ノ條ヲ見ヨ」芽ヲ出スコト。「芽萠ス楓」

き (名) 季 (一)〔四時ノ季ノ月。卽チ、陰曆ニテ三月、六月、九月、十二月ナリ、季春、季夏、季秋、季冬ト云ヒ、合シテ四季ト云フ。正、四、七、十月ヲ四孟ト云ヒ、二、五、八、十一月ヲ四仲ト云フニ對ス。韻會「季、末也、凡四時之末月、曰二季月一」獄令「季末」義解「季末、四季之末月」東征傳(寶龜、鑒眞)四「四季給二時服一」源、二十二、玉蔓「此月ハ、きノハテナリナド、田舍ビタルコトヲ言ヒ通ル」(二)轉ジテ、春、夏、秋、冬ノ四時ノ一ノ稱。コレヲ合シテ四季ト云フ、其條ヲ見ヨ。群芳譜、一「四季桔、四時開レ花、秋結レ實」夫木抄、六「武隈ノ、松ノ梢ニ、春ト秋ト、二季ヲカケテ、藤咲キニケリ」(三)又轉ジテ、年月ヲ分ツニ云フ語。一年ヲ一季ト云ヒ、半年ヲ半季ト云ヒ、或ハ、一年ヲ二分シテ、盆、暮、二季ナドト云ヒ、或ハ、四分シ、六分シテ、四季、六季ナドト云フ。博多小女郞波枕(享保、近松作)中「女子共、男共、云云、暇ヲ遣ル、云云、水臭キ半季、一季」薩摩歌(元祿、近松作)上「常歸(當季ニ云ヒカク)マデ、半夏半夏(半季半季ヲモジル)ト、季ヲ重ネ」(四)時。時候。「夏季」季候「季節」

き (五)連歌、俳諧、發句ニ、四時ノ景物ヲ詠ミ入ルルコト。「春ノ季」秋ノ季」ナド云ヒ、季ヲ言ハヌヲ、無季ノ發句ナド云フ。

き (名) 奇 珍ラシク、不思議ナルコト。戰國策、秦策「奇二其計一」揚雄、解嘲「司馬遷好レ奇」論衡、超奇篇「奇而又奇矣」「奇ナリ、妙ナリ」奇トスベシ」

き (名) 奇 〔字典「奇、隻也」又、易經、繫辭、下傳「陽卦奇、陰卦耦」注「亦零數也」〕(一)半ノ數。てう(調)ノ數ノ偶ニ對ス。「奇數、偶數」(二)ハシタ。アマリ。「三十有奇」

き (名) 綺 かんはたニ同ジ。其條ヲ見ヨ。倭名抄、十二六「綺、俗、云レ岐、一訓、加無波太」源、十七、繪合二「紙屋紙ニ、唐(唐織)ノきヲ　シテ」同卷廿六「打敷ハ、えびそめノ唐ノきナリ」同、三十二、梅枝廿「色ノ濃キ、紋ノ唐ノきノ表紙」「綺殿」

き (名) 鬼 (一)ミタマ。死者ノ精靈。幽靈。論語、爲政篇「非二其鬼一而祭レ之、諂也」列子、說符篇「疑心生二暗鬼一」(二)鬼宿ノ條ヲ見ヨ。

き (名) 忌 (一)いみ。其條、並ニ、喪ノ條ヲ見ヨ。(二)忌日ノ略。三回忌、七年忌ナド云フ。くゎいき(回忌)ノ條ヲ見ヨ。櫻井基佐集、哀傷「亡父ノ三回忌ニ當リテ、追善トテ」

き (名) 記 (一)アリシ事ヲ記シタル文。敍事體ノ文。文體明辯「金石例云、記者、紀レ事之文也、禹貢、顧命、乃記之祖、而記之名、則昉二於戴記、學記諸篇一」「道ノ記」旅ノ記」富士山ニ登ル記」觀梅ノ記」(二)引用書ナドニ、書名ノ、古事記ノ略符。「記、紀、萬葉」

き (名) 紀 〔史記、本紀、注「索隱曰、紀者、記也、本二其事一而記レ之」〕(一)紀傳體ノ歷史ニ、帝王ノ一世ノ事ヲ、旨ト記シタル所。コレヲ史ノ本トシテ、本紀トモ云フ。(傳、志ナドニ對ス)持統卽位前紀「天命開別天皇紀」(二)十二年ヲ、一期トスル稱。(歲星一周天ノ義ニ據ルトゾ)書經、畢命篇「旣歷二三紀一」傳「十二年曰レ紀」韻會「十二年曰レ紀」運步色葉集「紀、十二年也」(三)今、西洋ノ稱ニ因リテ、百年ヲ世紀ト云フ、其條ヲ見ヨ。「二十世紀」(四)地質學ノ語。地層ノ條ヲ見ヨ。(五)引用書ナドニ、日本書紀ノ略符。「記、紀、萬葉」

き (名) 紀 法。道。極。條理。禮記、月令篇「毋レ亂二人之紀一」孔子家語、本姓解「先王典籍、錯亂無レ紀」

き (名) 期 期。トキ。限リトスル時。詩經、小雅、白華之什、南山有臺篇「樂只君子、萬壽無レ期」易經、下經、歸妹篇「九四、歸妹愆レ期、遲レ歸有レ時」「盡クル期ナシ」百日ヲ期トス」

き (名) 機 (一)裝置。カラクリ。機械。機巧。「廻轉ノ機ヲ設ク」(二)事ノ起リ、又、變ハル機會。ヲリ。トタン。ヒャウシ。易經、繫辭、下篇「君子見レ機而作、不レ俟二時日一」太平記、十六、正成下二向兵庫一事「御方ノ疲レタル小勢ヲ以テ、敵ノ機ニ乘タル大勢ニ懸合テ、尋常ノ如クニ合戰ヲ致候ハバ、味方決定、打負候ヒヌ」「機ニ臨ミ、變ニ應ズ」機ヲ失ハズ」

き (名) 驥 千里ヲ走ルト云フ名馬。駿馬。騏驥。賈誼、弔二屈原一賦「驥垂二兩耳一兮服二鹽車一兮」徒然草、八十五段「驥ヲ學ブハ驥ノタグヒ、舜ヲ學ブハ舜ノ徒ナリ」「驥尾ニ附ス」

き (名) 軌 (一)ワダチ。車轍。軌道。戰國策、齊策「車不レ得レ方レ軌、馬不レ得二並行一」(二)キソク。テホン。ノリ。「文章軌範」

き (名) 規 (一)ブンマハシ。禮記、玉藻篇「周還中レ規、折還中レ矩」「規、矩、準、繩」(二)オキテ。法度。規則。

き (動) 來 來ノ條ヲ見ヨ。

き・シ・シカ (助動) 過去ノ意ヲ云フ助動詞、動詞ノ連用形ニ接ス。「行キき」受ケし思」落チしかバ」アリき」

き (接頭) 生 〔生ノ略ニテ、(いきほふ、きほふ)生レノママニテ、手ヲ入レヌ意ナルベシ〕(一)產ノママナル。原ノ體ナル。人工ヲ加ヘヌ。「生絹」生絲」生澁」(二)他ノ物ノ雜ラヌ。純粹ナル。純。「生酒」生蕎麥」

き (接尾) 草 〔芽萠すノきニテ、宿根ヨリ芽ヲ生ズル義ナラム、萩ニ芽子ノ字ヲ用キルモ、是レナルベシ〕草ノ名ニ用キル語。はぎ、(萩)をぎ、(荻)すすき、(薄)いをすき、(商陸)よもぎ、(艾)うはぎ、(薺蒿)ふふき、(蕗)あまき、(甘草)めどぎ、(蓍)きさのき、(黃芩)くららのき、(苦參)ちょろぎ、(草石蠶)ナド、尙多シ。

き (接尾) 匹疋 〔切るノ語根、(寸ノ語原ヲ見ヨ)裁ノ意ナリ、布ニ、一常ト云フ語アリ、匹(布帛ノ)ノ條ヲ併セ見ヨ〕布帛ノ長サニ云フ語。匹ニ同ジカルベシ。後撰集、七、秋、下「幾きトモ、エコソ見ワカネ、秋山ノ、モミヂノ錦、ヨソニタテレバ」(裁ればニカク)忠見集、霧立チテ、紅葉ノ木ドモ隱セルニ「色色ノ、モミヂノ錦、きりたちテ、殘レルはてハ、幾きトカ見ム」(霧立、切裁)

き (接尾) 匹疋 〔一きハ、一牽ノ約、幾きハ、幾牽ノ約ナルベシ、(旅人、たびと。築土、ついぢ)匹(馬ノ)ノ條ヲ併セ見ヨ〕馬ヲ數フル語。匹。雄略紀、十三年三月「齒田根命、以二馬八匹、大刀八口一祓二除罪過一、旣而歌曰、云云、馬ノ耶都擬ハ、惜シケクモナシ」(八匹バカリノ意ナリト云フ、八尾、八代ト云フ語モアリ、擬ハ、漢音ぎ、吳音げナリ)詞花集、三、秋「逢坂ノ、杉間ノ月ノ、ナカリセバ、幾きノ駒ト、イカデ知ラマシ」夫木抄、十八、雪「行キヤラデ、雪ノ尾花ト、見ツルカナ、

一きニきノ、駒ニマカセテ」神代紀、上「至レ於二火[illegible]」[illegible]

き（接尾）［騎］馬ニ乘リタル人ヲ數フル語。保元物語、一、「官軍ナホ手分ケ[illegible]」「武者三騎」「千騎」

き（接尾）［基］据エテ立テタル物ヲ數フル語。[illegible]「[illegible]一基」[illegible]

ぎ（名）［義］（一）五常ノ一。行爲ノ、宜シキニ合フコト。正道ニ依ルコト。誼。[illegible]太平記、十、安東入道自害事「義貞、義勇ノ義ヲ知給ハザル事ヤアルベキ」「仁與レ義」「義擧」「義師」「義戰」（二）確ク正シキ理ヲ守リテ行ヒ、一身ノ利害ナド顧ミヌコト。[illegible]「義夫」「義婦」[illegible]（三）ワケ。ココロ。意味。[illegible]「義ハ[illegible]」「文字ノ義ヲ知ル」

ぎ（名）［義］「字典「容齋隨筆、自レ外入而非二正一曰レ義」外ノ物ヲ以テ、眞物トスルコト。熟語ニ用キラル。「義父」「義母」「義兄」「義齒」「義足」「義子」「義手」「義弟」

ぎ（名）［義］（正字通「與レ衆共レ之曰レ義」）人人ト共共ナル意ヲ云フ語。熟語ニ用キラル。「義倉」「義捐金」「義金」「義擧」

ぎ（名）［儀］ノリ。儀式。[illegible]「人而無レ儀、不レ死何爲」[illegible]

ぎ（名）［儀］義ノ字ノ誤。ワケ。コト。コトガラ。由。太平記、四、笠置囚人死罪流刑事「此國ノ儀ヲバ、後ノ世マデモ、忘レ難クコソ候ヘ」[illegible]

ぎ（名）［議］ハカラフコト。カタラフコト。「詮議」「其議ニ從フ」[illegible]

ぎ（名）［技］ワザ。タクミ。ウデマヘ。[illegible]

ぎ（名）［妓］ウタヒメ。アソビメ。遊女。[illegible]

ぎ（名）［誼］（一）義ノ條ノ（一）ニ同ジ。漢書、董仲舒傳「[illegible]民以レ誼」（二）ヨシミ。シタシミ。交情。「友誼」「好誼」

ぎ（名）［僞］イツハリ。ニセ。虚僞。荀子、性惡篇「人之性惡也、其善者僞也」

き-あけ（名）［忌明］いみあけ（忌明）ニ同ジ。聖徳太子繪傳記（享保、近松作）二「四十九日ノ數ヲ合ハシ、今日則チ、五十日ノ忌明け」

き-あつ（名）［氣壓］空氣ノ壓力。空氣ハ濃薄ニ因リテ、壓ス力ニ差アリ、通常ハ、平地ニテ、七百六十みりめえとるノ水銀柱ト同ジ力アリ、コレヲ一氣壓ト云フ、コレヨリ高クシテ密度ノ甚ダ濃厚ナルヲ、高氣壓ト云ヒ、コレニ反シテ、低クシテ稀薄ナルヲ、低氣壓ト云フ。

き-あひ（名）［氣合］（一）劍術、柔術、相撲ナドニ、雙方互ニ打懸カラムトスル氣勢。「氣合ヲ窺フ」「氣合ヲ入ルル」（二）ココロモチ。キモチ。キゼン。五十年忌歌念佛（寶永、近松作）中「此氣合デ、今ヤナド、嫁入リスル氣ハ、微塵モ無イ」「氣合ヲ損ズ」

き-あん（名）［几案］ツクエ。南史、劉[illegible]傳「[illegible]文心雕龍、沉約取讀、大重レ之、云云、常陳二之几案一」

ぎ-あん（名）［議案］[illegible]

き-い（名）［奇異］メヅラシク、アヤシキコト。アヤシク、不思議ナルコト。[illegible]キイ、奇妙。[illegible]

き-い（名）［貴意］他ノ意ヲ尊ビテ云フ敬語。オボシメシ。御意。[illegible]「貴意ノ如ク」「貴意ニ任セテ」

き-いう（名）［杞憂］杞人之憂ノ略。

き-いう（名）［己酉］ツチノトノトリ。干支ノ條ヲ見ヨ。

き-いう（名）［癸酉］ミヅノトノトリ。干支ノ條ヲ見ヨ。

きい-た-ふう（名）［聞きたる風］物識ブルコト。ナマギキ。半可通。東海道中膝栗毛（文化、十返舍一九）七編、下「一體、御所方ノ女中ハ、人ヲ何トモ思ハズ、チトきいたふうノ男ヲ見ルト、[illegible]冷カス[illegible]故、云云」

き-いちご（名）［木苺］亞灌木ノ名、山ニ多シ。高サ三四尺、叢生ス、莖ニ刺多シ、葉ハ互生シテ、細長ク、末ニ兩尖アリテ、邊ニ鋸齒アリ、刺、多シ、夏ノ初、葉ノ間ニ、五瓣ノ白花ヲ開ク、梅ノ花ニ似テ、小サシ、實ハ、黄ニシテ、大キサ五分許、食フベシ。懸鉤子。

き-いっぽん（名）［生一本］本ノママニ純粹ニシテ、マジリモノノナキコト、酒ニ云フ語ナリ。轉ジテ、人ノ性質、氣性ナドニモ云フ。「生一本ノ灘酒」

き-いと（名）［生絲］[illegible]ヲ一梱トシテ取引ス。[illegible]

き-いん（名）［起因］オコリ。ハジマリ。

キイル（名）［[illegible]］[illegible]、[illegible]Keel.］マギリカハラ。

き-いろ（名）［黄色］黄ナル色。黄。[illegible]色。宇津保物語、吹上、下「きいろノ小袿」

きいろ-い（形）［黄］[illegible]黄色ヲ[illegible]用セシム、非道い、熱い、ナド、同趣。黄ノ色ニテアリ。黄ナリ。「きいろい顔色」

きう（名）［灸］ヤイト。醫ノ一法、艾ヲ膚ニ着ケ、火ヲ點ジテ灼クコト。灸治。コレヲ灼くヲ、居うト云フ。灼ク處ニ定リアリテ、灸穴ト名ヅク、灸點[illegible]兒童ノ惡戲ナドヲ押ヘテ、灸ヲスヱテ懲ラスコトアルハ、且ハ、體ヲ健全ニセムガタメナリ。此語ヲ、大人ニモ移シテ、嘲、叱リ懲ラス[illegible]、灸をするト云フ。

きう（名）［舊］（新ニ對ス）（一）フルキコト。昔ノアト。馴レテ、久シキコト。[illegible]僖公二十八年「[illegible]其舊、而新是謀」宋書、武帝紀「惡復レ舊」「舊ヲ語ル」（二）舊暦（太陰暦）ノ略。「舊ノ三月三日」

きう（數）［九］ココノツ。く。數ノ名、[illegible]アグル時ニ、く（九）ノ聲ハ、ご（五）ト聞キ紛フニ因リテ、十九ハ、きう十きう[illegible]ナドト云フ。又、[illegible]ノ語ニ

モ云フ、其條ヲ見ヨ。易經、上經、蠱卦「上九、不レ事二王侯一、高二尚其事一」史記、騶衍傳「中國之外、有二赤縣神州者九一」

きう（名）［氣宇］［器宇］〔詩經、豳風篇、註「宇、簷下也」人ノ氣ノ盞フ所〕（一）キグラキ。キアヒ。（二）度量。見識。三國志、蜀志、龐統云、要レ論二家聲一、先看二器宇高卑一」陶弘景、尋山誌「心容曠朗、氣宇調暢」

きう（名）［祈雨］雨ノ降ラムコトヲ祈ルコト。アマゴヒ。詩經、小雅、北山之什、甫田篇「以祈二甘雨一」新儀式、四、祈雨、祈雨事」茶闇集、六、管絃歌舞「旱魃ノ愁有ケレバ、トカク祈雨ヲハゲメ共、カナハズ」「祈雨ノ奉幣」

ギウ **ぎう**（名）［牛］（一）ウシ。易經、下經、說卦傳「乾爲レ馬、坤爲レ牛」禮記、曲禮、下篇「凡祭二宗廟一之禮、牛曰二一元大武一」（二）牛肉ノ略。（三）二十八宿ノ中ノ、星宿ノ名。蘇軾、赤壁賦「徘二徊於斗牛之間一」

キウア **きうあ**（名）［舊痾］前ヨリ罹リタル病。久シク癒エザル病。宿痾。痼疾。潘岳、閑居賦「常膳載加、舊痾有レ痊」

キウアク **きうあく**（名）［舊惡］前ニ行ヒシ惡事。論語、公冶長篇「伯夷叔齊、不レ念二舊惡一、怨是用希」御定書百箇條「總テ吟味事之内ヨリ、外ニモ惡事有レ之趣相聞候トモ、舊惡ヲ不レ被レ免」

キウイ **きうい**（名）［九夷］支那ニテ、東方ニアリテ、野蠻ナリト云フ九箇國ノ稱。書經、旅獒篇「通二道於九夷八蠻一」論語、子罕篇「子（孔子）欲レ居二九夷一」太平記、二十五、黃粱夢事「蠻夷率服シ、諸侯ノ來朝スル事、云云、漢ノ文景ノ、九夷ヲ服ヘシニ異ナラズ」

キウイ **きうい**（名）［休意］ココロヲヤスムルコト。安心。休心。

キウイ **きうい**（名）［及已］ツキネグサ。フタリシヅカ。

ギウイ **ぎうい**（名）［牛醫］ウシクスシ。牛ノ病ヲ療治スル人。後漢書、黃憲傳「父爲二牛醫一」

キウイウ **きういう**（名）［舊友］フルナジミ。久シク交ハル友。舊交。故舊。許渾詩「全家南渡遠、舊友北來頻」

キウイン **きういん**（名）［蚯蚓］ミミズ。禮記、月令篇「孟夏之月、云云、蚯蚓出、云云、仲冬之月、云云、蚯蚓結」

ギウインバショク **ぎういんばしょく**（句）［牛飲馬食］牛ノ水ヲ飲ム如ク酒ヲ飲ミ、馬ノ食フ如ク物ヲ食フ。史記、殷本紀、注「紂爲二酒池一、迴二船糟丘一、而牛飲者三千餘人爲レ輩」同、范雎傳「食飲甚設、而坐二須賈於堂下一、置二莝豆其前一、令三兩黥徒夾而馬食之一」

ギウエキ **ぎうえき**（名）［牛疫］牛ノ疫病。後漢書、劉般傳「牛疫水旱、墾田多減」

キウオン **きうおん**（名）［舊恩］昔テ受ケタリシ恩。漢書、劉向傳「忠臣雖レ在二畎畝一、猶不レ忘レ君、云云、況重以二骨肉之親一、又加以二舊恩未一レ報乎」盛衰記、十四、佐殿大場勢汰事「忽報二舊恩一、遂立二新功一」

キウカ **きうか**（名）［休暇］［休假］勤務ヲ休ムコト。ヤスミ。南史、張敬兒傳「每二休暇一、輒傭賃自給」假寧令「凡在京諸司、每二六日一、並給二休暇一日一」

キウカ **きうか**（名）［九夏］夏ノ、九十日間ノ稱。齋統、六月啓「三伏漸終、九夏將レ謝」朗詠集、下「九夏三伏之暑月」

キウカ **きうか**（名）［舊家］（一）年久シク續キ來リシ家柄。故家。「村中デノ舊家」（二）舊キ家。モト住ミシ家。孫覿詩「蝸廬抱レ柳開二新圃一、燕語猿レ簷憶二舊家一」

キウコウ **きうかう**（名）［舊交］フルキマジハリ。フルナジミ。舊友。史記、吳世家「季札使二於鄭一、見二子產一、如二舊交一」運歩色葉集「舊交」

キウコウ **きうかう**（名）［舊好］フルキヨシミ。昔ノシタシミ。史記、楚世家「結二舊好於諸侯一」太平記、十六、正成首送二故鄉一事「朝家私日、久相馴ミ、舊好ノ程モ不便ナリ」

キウコウ **きうかう**（名）［舊稿］舊ク製作シタル詩文、和歌。

キウカク **きうかく**（名）［嗅覺］鼻ニテ、物ノ香臭ヲ嗅ギ知ル感覺。

キウガク **きうがく**（名）［丘壑］（一）をかト、たにト。山谷。洛陽伽藍記「暢元愼父詔、自得二丘壑一、不レ事二王侯一」（二）山水ノ景色。黃庭堅詩「胸中原自有二丘壑一」

キウカツ **きうかつ**（名）［裘葛］（一）かはごろもト、かたびらト。冬物ト、夏物ト。韓愈、原道「夏葛而冬裘」韓非子、五蠹篇「冬日麑裘、夏日葛衣」（二）一年ノ義ニ用キル語。「三易二裘葛一」

キウカツ **きうかつ**（名）［裘褐］（一）カハゴロモト、粗キ毛布ノ短キ衣ト。晉書、祖逖傳「三軍裘褐者少」（二）儉素ナル衣服。後漢書、梁鴻傳「吾欲二裘褐之人、可三與俱隱二深山一者一爾」

キウゴウ **きうがふ**（名）［糾合］〔史記、賈誼傳、註「合、糾曰レ糾」糾ハ、九ニモ、鳩ニモ通ズ〕多クノ人ヲ、寄セ集ムルコト。左傳、僖公二十六年「桓公是以、糾二合諸侯一」史記、酈生傳「起二糾合之衆一、收二散亂之兵一」論語、憲問篇「桓公九二合諸侯、不レ以二兵車一、管仲之力也」陸機、五等諸侯論「鳩二合同志一、以謀二王室一」

キウカン **きうかん**（名）［休刊］新聞、雜誌ナドノ、刊行ヲ休ムコト。

キウカン **きうかん**（名）［球竿］體操器具ノ一、長サ五尺許ノ棒ノ兩端ニ、木ノ球ヲツケタルモノ。

キウキ **きうき**（名）［舊記］舊事ヲ記シタル文書。古記。魏書、崔鴻傳「因二其舊記一」鄭谷詩「豎看二舊記一宜レ多レ遺、勝二掛明文一更無レ違」太平記、十一、怨靈事「是皆上古ノ不思議、舊記ニ載スル所ナリ」

キウキ **きうき**（名）［舊規］フルキオキテ。フルキノリ。古例。古格。太平記、二、三人僧徒關東下向事「高祖大師ノ舊規ニ歸セン」

キウキウト **きうきうと**（副）［吃吃］苦シキ笑聲ニ云フ語。狹衣、一、下「きうきうと、コトサラメキ笑入リツツ、咳ニシイルモアリ」

ギウギウト **ぎうぎうと**（副）ぎくぎくとノ條ヲ見ヨ。

キウギウノイチモウ **きうぎうのいちまう**（句）［九牛一毛］極メテ多數ナル中ノ、極メテ小部分ナルニ譬ヘ云フ語。漢書、司馬遷傳「假令僕伏レ法受レ誅、若二九牛亡二一毛一」太平記、十五、正月十六日京合戰事「敵ノ勢ニ御方ヲ合スレバ、大海ノ一滴、九牛ガ一毛ナリ」

キウキウ **きうきふ**（名）［救急］急難ヲ救フコト。新序「救レ急除レ害、非レ爲レ名也」主稅寮式、諸國出擧正稅公廨雜稻「山城國、云云、救急料、六萬束」

キウキヤウ **きうきやう**（名）［究竟］くきやう、（究竟）くつきやうノ條ヲ見ヨ。漢書、淮陰憲王傳「進問、五帝三王、究竟要道、卓爾非二世俗之所一レ知」

キウキヨク **きうきよく**（名）［九棘］〔棘ハ、木ノ名、うばら、おどろ、支那ノ外朝ニアル九株ノ棘ナリ、（出典ヲ見ヨ）三槐ノ條、見合スベシ〕くぎやう（公卿）ノ異稱。三公ヲ三槐ト云フニ對ス。又、棘路トモ云ヒ、文字讀ニシテ、おどろのみちトモ云フ。

字典、九拜、稽首也」[illegible]后ノ宮ヲ蹴ル、群弟庶子、皆膝路ヲ歩ミ」云云」（清盛ノ子女ヲ云フ）

きうきょく (名) 究極 キハマルコト。トドノツマリ。「究極ノ目的」

きうくん (名) 舊君 前ニ仕ヘタリシ主君。舊主。〔禮記、檀弓、下篇〕古之君子、進人以禮、退人以禮、故有舊君反服之禮也」

きうくゎいちやう (名) 九廻腸 〔マハリクネリテ多キ腸ノ義〕(一)煩悶シテ、心ノ轉倒スル形容ノ語。(二)物ノ、アチコチト、屈曲シテ居ルヲ形容スル語。〔宋元詩「江流曲似九廻腸」〕

きうくゎいのおもひ (句) 九廻思 〔前條ノ語ヨリ起ル〕 大イニ悲シムコト。〔太平記、十七〕[illegible]

きうくゎう (名) 救荒 〔說文「荒、蕪也、一曰、草掩地也」〕 飢饉ニ陷リタルヲ救助スルコト。[illegible]

きうくゎざん (名) 休火山 〔活火山ニ對ス〕 火山ノ、噴火ノ休ミタルモノ。息火山。

きうくゎつ (名) 久闊 久シク、音信ノ絕エタルコト。不沙汰。久シブリ。[illegible]

きうくゎん (名) 舊慣 〔慣ハ、貫ニ通ズ〕 古キ習慣。舊習。[illegible]

きうくゎん (名) 嗅官 嗅覺ヲツカサドルモノ。卽チ、動物ノ鼻。

きうくゎんてう (名) 九官鳥 〔支那人、某九官ト云フ者、始メテ齎シ來レルヨリ名トストテフ、九官トハ、支那ニテ、第九男ノコトナリトゾ、三官鳥ノ類ナリ、此鳥、阿蘭陀人モ、持チ渡レリ〕 一名、サルカ。鸚鵡ノ類。恰倒ニシテ、赤、茶ク人語ヲナス、全身紺黑色ニシテ、稍赤ク、頭ノ左右後ニ黃肉冠アリ、眼ハ人ノ目ニ似タリ、嘴、黃ニシテ、翼ノ裏、白シ。[illegible]

きうけ (名) 受愛 他人ノ氣ノ、我レヲ受ケ入ルルコト。己レニ對スル、他人ノ感情。「きうけガヨイ」きうけガワルイ」

きうけい (名) 九卿 (一)三公九卿ノ條ヲ見ヨ。(二)くぎやう(公卿)ノ異稱。[illegible]

きうけい (名) 休憩 休息ニ同ジ。ヤスミ。[illegible]

きうけう (名) 舊教 新教ノ條ヲ見ヨ。

きうけう (名) 九竅 〔說文「竅、穴也」〕 九穴ニ同ジ。[illegible]

きうけつ (名) 九穴 動物ノ體中ノ、兩眼、兩耳、兩鼻孔、口、二便孔ノ稱。九竅。

きうけつ (名) 灸穴 體中ニ、灸スベキ處、身柱、三里ナド、種種ノ定メアリ。

きうげふ (名) 休業 事業ヲヤスムコト。

きうげん (名) 九原 〔支那ノ墓地ノ名、轉ジテ、黃泉ノ義トナル〕 黃泉。[illegible]

きうこ (名) 舅姑 しうとと、しうとめ。[illegible]

きうこ (名) 舊故 フルキトモ。フルナジミ。舊交。舊友。[illegible]

きうご (名) 九五 易經ノ語、天子ノ位。九五の位ト云フ。[illegible]

きうご (名) 救護 救ヒ護ルコト。病者ヲイタハルコト。[illegible]

ぎうご (名) 牛後 雞口ノ條ヲ見ヨ。

きうさい (名) 救濟 救ヒ助クルコト。[illegible]

きうさがり (名) [illegible] [illegible]ストテ、股ヲ陽ハリテ、滑下スルコト。昔、男子ニ、[illegible]リ。〔山槐記、仁平二年九月六日〕[illegible]

きうさく (名) 舊作 新作ニ對シ、舊ク作リ置ケルモノ。（詩、文、和歌ナドニ云フ）

きうざんはっかい (名) 九山八海 九山八海ノ條ヲ見ヨ。

きうし (名) 休止 事業ヲ止ムルコト。

きうし (名) 臼齒 (一)うすば(臼齒)ニ同ジ。(二)オクバ。

きうし (名) 仇視 仇ノ如ク、見做スコト。敵視。

きうし (名) 舊址 古キ跡。遺跡。[illegible]

きうし (名) 舊師 モト、己レガ學ビシ師匠。

ぎうじ (名) 牛耳 〔昔、支那ニテ、諸侯ノ盟ニ、盟主、牛ノ耳ヲ割キテ、衆、皆其血ヲ啜リキ〕 牛耳を執ると云フハ、同盟ノ者ノ主長トナルコト。〔左傳、哀公十七年〕[illegible]

きうしいっしゃう (句) 九死一生 死ヌベキコト九分ニシテ、生クベキコト一分ナリ。[illegible]

きうしう（キユウシユウ）(名)【九秋】秋ノ、九十日間ノ稱。梁元帝纂要「秋曰三秋、亦曰九秋」王勃詩「九秋良會少、千里故人稀」

きうしう（キユウシユウ）(名)【九州】〔州(シウ)ノ條ヲ見ヨ〕(一)西海道ノ筑前、筑後、豐前、豐後、肥前、肥後、日向、大隅、薩摩ノ九箇國ノ合稱。卽チ、筑紫ノ島。和爾雅、一、地理「西海道九箇國、損軒曰、此稱鎭西、又稱九州、或稱筑紫」吾妻鏡、四、元曆二年三月九日「熊野別當湛增、依廷尉(義經)引級、承追討使、去比渡讚岐國、今又可入九州之由、有其聞」(二)支那ニテ、禹域九州ト云フハ、冀、兗、靑、徐、揚、荊、豫、梁、雍ノ九ツノ州。禮記、王制篇「凡九州、千七百七十三國、天子之元士、諸侯之附庸不與」

きうしうたんだい（キユウシウタンダイ）(名)【九州探題】〔たんだいノ條ヲ見ヨ〕鎌倉時代、室町時代ニ、九州、二島ヲ總管セシ職。其管內ノ民政、訴訟、土貢、邊防ヲ沙汰シ、外國使臣ノ接伴ヲ掌ル。平安朝ノ太宰府ナリ。帝王編年記、二十六、後宇多「九州探題」太平記、三十八「九州探題下向事」

きうしき（キユウシキ）(名)【舊識】舊(フル)キ相識(サウシキ)。フルナジミ。舊知。舊友。左傳、襄公二十九年「吳公子札、聘、鄭見子產、如舊相識」錢起詩「舊識相逢情更親」

きうしき（キユウシキ）(名)【舊式】〔新式ニ對ス〕(一)フルキシカタ。フルキシキタリ。舊慣。舊俗。(二)フルキカタ。故式。「舊式ノ機械」

きうじつ（キユウジツ）(名)【休日】ヤスミビ。唐書、裴寬傳「會休日登樓」洞院家部類、十一「結政初參、云云、式日、云云、休日、云云」

きうしふ（キユウシユウ）(名)【舊習】久シキ、ナラハシ。舊慣。

きうしん（キユウシン）(名)【舊臣】モトノ臣下。昔ノ家來。後漢書、伏湛傳「名儒舊臣」保元物語、一、將軍塚鳴動事「故院ノ舊臣」

きうしん（キユウシン）(名)【休心休神】安心(アンシン)ニ同ジ。休意。

ぎうしんり（ギユウシンリ）(名)【牛心李】あめんどう(巴旦杏)ノ漢名。

きうしんりよく（キユウシンリヨク）(名)【求心力】物體ガ、圓ク運(メグ)ル時ニ起ル、一種ノ作用。卽チ、圓ノ中心ニ寄リ集ラムトスル力ヲ生ズルコトナリ。又、一方ニハ、中心ヨリ外ヘ遠ザカラムトスル作用トモナル、コレヲ遠心力ト云フ。

ぎうしや（ギユウシヤ）(名)【牛車】(一)うしぐるまノ(二)ニ同ジ。史記、平準書「將相或乘牛車」(二)ぎつしや(牛車)ノ條ヲ見ヨ。

ぎうしや（ギユウシヤ）(名)【牛舍】ウシゴヤ。宅經「倉庫、牛舍」

きうしやう（キユウシヤウ）(名)【休祥】〔休ハ、集韻「美善也、慶也」祥ハ、書經、泰誓、中篇「襲于休祥」注「吉凶之兆」〕メデタキコト。善キ前兆。漢書、郊祀志「德星昭衍、厥惟休祥」

きうしやう（キユウシヤウ）(名)【舊章】〔字典「成事成文曰章」〕古キオキテ。舊制。詩經、大雅、生民之什、假樂篇「不愆不忘、率由舊章」

きうしゆ（キユウシユ）(名)【舊主】(一)モト主君タリシ人。平家物語、一、祇園精舍事「舊主、先皇ノ政ニモ不從」「舊主、新主」(二)前ニ事ヘタリシ主君。舊君。後漢書、隗囂傳「人思舊主」

きうしゆ（キユウシユ）(名)【鳩首】〔爾雅、釋詁「鳩、聚也」〕數人、首(カウベ)ヲ集メテ談ズルコト。相談。「鳩首合議」

きうじゆつ（キユウジユツ）(名)【救恤】スクヒ、メグムコト。救助。唐書、蘇世長傳「陛下、救恤之言、未出口、云云」

きうしゆん（キユウシユン）(名)【九春】春ノ、九十日間ノ稱。梁元帝纂要「春日、芳春、靑春、陽春、九春」曹植詩「自期三年歸、今已歷九春」

きうじよ（キユウジヨ）(名)【救助】スクヒ、タスクルコト。救恤。救濟。戰國策、燕策「同舟而凌波、至其相救助、如一也」

きうしよく（キユウシヨク）(名)【休職】官ニ在リテ、職務ノナキコト。

ぎうじる・る・レ・ラ・リ・レ（ギユウジル）(自動、四)【牛耳】〔牛耳を執るノ略、牛耳ノ條ヲ見ヨ〕牛耳ヲ執ル。首長(カシラ)トナル。

きうせい（キユウセイ）(名)【舊制】〔新制ニ對ス〕古キ制度。アリキタリノ定メ。舊章。後漢書、張純傳「舊制禁民夜作、以防火災」

きうせい（キユウセイ）(名)【救世】世ヲスクフコト。濟世。唐書、儒學傳「武爲救世砭劑」

きうせい（キユウセイ）(名)【九星】きうせいじゆつ(九星術)ノ條ヲ見ヨ。素問「九星懸朗、七曜周旋」

きうせいか（キユウセイカ）(名)【九星家】きうせいじゆつ(九星術)ノ條ヲ見ヨ。

きうせいぐん（キユウセイグン）(名)【救世軍】耶蘇救世主ノ敎ヲ、軍隊組織ニ因リテ弘メテ、貧者ヲ救フ團體。

きうせいしゆ（キユウセイシユ）(名)【救世主】〔世人ヲ艱苦ヨリ救ひ出サムノ大願ヲ立テテ、出現セル人ノ意〕耶蘇基督ノ異稱。

きうせいじゆつ（キユウセイジユツ）(名)【九星術】支那ニ、古ク、河圖、洛書(カトラクシヨ)ト云フ二圖アリ、各、中央、周圍ニ、星點ヲ列記ス、一點ナルアリ、二列點、三列點ヨリ、九列點ニ至ル、此圖ヲ數理ノ祖トス、コレヲ一白、二黑、三碧、四綠、五黃、六白、七赤、八白、九紫ノ九星トシテ、コレヲ方位、五行、干支ニ配當シ、其相生、相尅ノ理ヲ推シテ、其年齡ノ人ノ、其年ノ其月ニ當テテ、運命、造作、移轉、旅行、開業、等ノ吉凶ヲ判斷ス、是レ九星術ナリ。コレヲ行フ人ヲ九星家ト云フ。

きうせう（キユウシヨウ）(名)【九霄】〔玉篇「霄、雲氣也」〕九天(キウテン)ニ同ジ。顏氏家訓「神厲九霄、志凌千載」孫綽、原憲贊「志逸九霄、身安陋術」太平記、三十七、畠山道誓逆心事「大鵬ノ、九霄ノ雲ニ搏ツガ如ク」

きうせかい（キユウセカイ）(名)【舊世界】地球ノ東半球ノ、亞細亞、歐羅巴、阿弗利加ノ三大洲ノ稱。コレニ對シテ、西半球ノ、南北亞米利加ノ二大洲ヲ、新世界ト云フ。

きうせき（キユウセキ）(名)【舊跡】フルキアト。昔シ、物事ノアリシ地。舊址。故墟。史記、河渠書「北行二渠、復禹舊迹」(迹ハ、跡ニ通ズ)朗詠集、上、九日「尋舊跡於魏文、亦黃花助彭祖之術」「名所舊跡」

きうせき（キユウセキ）(名)【休戚】〔字典「休、美善也、慶也」「戚、哀也、憂也」〕善キコトト、惡シキコト。國語、晉語「爲晉休戚、不背本也」

きうせつ（キユウセツ）(名)【九折】ウネリ、マガリタルコト。ツヅラヲリ。羊腸。漢書、王尊傳「尊遷益州刺史、先是王陽爲刺史、行部、至邛郲九折阪」

きうせん (名) [九泉] [illegible] 九重、故曰九泉。九泉ノ地ノ底。[illegible] 泉。太平記、四、備後三郎事「父祖ノ屍ヲ、九泉ノ苔ノ下ニ恥カシムル恨アリ」

きうせん (名) [illegible] [illegible] 僅ミコミタルコト。[illegible]

きうせん (名) [休戰] 敵、身方、同意シテ、一時、戰ヲヤスムコト。

きうそく (名) [休息] 休ミ、息フコト。イキソギ。休憩。[illegible] 不レ可ニ休息ニ [illegible] レ有ニ朝旦ニ更無ニ御休息ニ」

きうぞく (名) [九族] 上ハ、高祖父ヨリ、下ハ、玄孫ニ至ル、九代ノ族。[illegible] ノ條ヲ合見セヨ。[illegible]

きうた (名) [杵歌] キネウタ。コメツキウタ。(多ク、連歌ニ云フ)

きうたい (名) [裘代] 〔裘ハ、隱者ノ服ナリ、ソレニ代ふる衣ノ意ト云フ、借字ニ、裘衣、裘帶ナドモ記ス、貞丈雜記、五、下「裘袋ヲ、宮禮トモ書ク也、云云、非也、裘代ノ字、本也、云云、裘ハ、毛皮ニテ縫ヒタル服ナリ、隱者ナドノ著ル物ナリ」〕 僧服ノ名、法皇、攝、諸門跡、[illegible] 法體ノ人、禁内ニ着用セラル、在俗人ノ直衣ニ當ル、綾、又、平絹ヲ用ヰテ、縫ヒヤウハ、常ノ僧衣ノ如シ、下ニ、指貫ヲ用ヰ、袈裟ヲ着ル。[illegible] ノ御樣ナリ、文、法皇、竹園ハ、菊八葉、其外ハ、家家文不レ同、白裏アリ、縫ヒヤウ、付衣ニ同ジ」裏書、應永 [illegible] ノ直衣ナリ、下ニ指貫ヲ着用ストアリ。平家物語 [illegible] たいノ袖ヲ顏ニ押當テ、泣泣、御前ヘゾ參ラレケル」[illegible]

きうたう (名) [舊套] 〔集韻「物重沓者」〕 古ビタル樣式。アリキタリノ形狀。「不レ脱ニ舊套ニ」

きうだう (名) [舊道] 古キミチ。モトノミチ。(新道ニ對ス)

ぎうたう (名) [牛刀] 牛ヲ割キテ肉ヲ取ルニ使フ刀。鷄を割くに焉ぞ牛刀を用ゐむト云フハ、小事ヲ處スルニ、大手段ヲ要セズ、ノ意。論語、陽貨篇「割レ鷄焉用ニ牛刀ニ」

きうたく (名) [舊宅] 〔新宅ニ對ス〕 嘗テ住ミタリシ家。舊居。[illegible] ノ舊宅ヲ [illegible]

きうだん (名) [糾彈] 罪ヲ糾問シ、彈劾スルコト。唐書、元稹傳「許ニ方幅糾彈ニ」 天武紀、下、十一年十一月「凡糺ニ彈犯レ法者ハ云云」 彈正臺式「凡 [illegible] 不レ當 [illegible] 云云」

きうち (名) [九地] 〔九天ニ對ス〕 極メテ低キ處。孫子、形篇「善守者、藏ニ於九地之下ニ善攻者、動ニ於九天之上ニ」

きうち (名) [舊知] 〔新知ニ對ス〕 舊キ知人。フルナジミ。舊識。舊交。[illegible]

きうぢ (名) [灸治] [illegible]

きうぢやう (名) [休場] 興行場、工場ナドヲ休ムコト。

きうぢゆう (名) [供頭] 供頭ノ異稱、[illegible] 塔頭ナドモアリ」[illegible] 二供スル [illegible]

ぎうぢよ (名) [牛女] 牽牛星ト、織女星ト。[illegible]

きうちよう (名) [九重] 〔九門ノ條ヲ見ヨ〕 ココノヘ。宮城。皇居。楚辭、九辯 [illegible]

きうちやう (名) [休徵] ヨキシルシ。メデタキ徵。[illegible]

きうつ (名) [氣鬱] 氣分ノ、ヒラケヌコト。氣ノフサグコト。憂鬱。鬱悒。[illegible]

きうつびやう (名) [氣鬱病] キヤミ。ヒステリイ。[illegible] 「主君ヨリ念入レラルル」「氣鬱ノ病」

きうつり (名) [氣移] 氣ノ、移リカハルコト。好ミノ、移ルコト。ムラキ。

きうていたいりよ (名) [九鼎大呂] 〔九鼎ハ、支那三代ノ夏ノ禹王ノ時、九州ヨリ鐵ヲ貢セシメテ造リタル、九ツノ鼎ニ、其州ノ山川、物產、貢獻ヲ [illegible] ク、大呂ハ、周廟ノ大鐘ニテ、其音、大呂ニ合スト云フ、共ニ、歷代ノ寶器トシタ [illegible]〕 [illegible] 重ク、重重シキ地位、名望ナドニ喩ヘテ云フ。[illegible] 九鼎大呂ニ」(毛先生ハ、毛遂ナリ) [illegible]

きうてき (名) [仇敵] アタカタキ。讐敵。[illegible]

きうてつ (名) [九哲] 孔子門下十哲ノ中、顏回ヲ除キタル、九人ノ稱。閔子騫、冉伯牛、仲弓、宰我、子貢、冉有、季路、子游、子夏。[illegible] 日、大學寮ニテ釋奠アリ、孔子幷ニ九哲ノ影カケテ」

きうてつ (名) [丘垤] (一)アリヅカ。アリノタフ。(二)小高キ地。丘阜。孟子、公孫丑、上「泰山之於ニ丘垤ニ、河海之於ニ行潦ニ」[illegible]

きうてん (名) [九天] 〔淮南子、天文訓「天有ニ九野ニ」トテ、中央、四方、四隅ニ分チテ、八ツ [illegible] 九野ハ、中央曰鈞天、東方曰蒼天、東北方曰變天、北方曰玄天、西北方曰幽天、西方曰顥天、西南方曰朱天、南方曰炎天、東南方曰陽天」云云〕 天ノ高キ所。九霄。九野。天上。(九地ニ對ス) 孫子 [illegible]

きうてん (名) [灸點] 灸穴ノ上ニ、墨ニテ點スルコト。コレヲ行フヲ、おろすト云フ。[illegible]

黜一了」

キユウテン
きうてん (名) [舊典] 昔ノ書物。フルキ典籍。 書經、君牙篇「乃惟由二先王ノ舊典一時式、民之治亂在レ茲」

キユウト
きうと (名) [舊都] 〔新都ニ對ス〕 舊ノ都。フルキミヤコ。古都。 魏志、董昭傳「挾二萬乘之艱難一、反二之舊都一」 平家物語、五、新都事「舊都ハ既ニ浮レヌ、新都ハイマダ事行カズ」

キユウトウ
きうとう (名) [九冬] 冬ノ、九十日間ノ稱。 梁元帝纂要「冬日二九冬一」 劉峻文「九冬有レ隙、三餘暇時」

キユウトウ
きうとう (名) [舊冬] 去年ノ冬。去冬。客冬。 夕霧阿波鳴渡(寶永、近松作)中「舊冬ヨリ、上本町ノ玄關構、借座敷」

ギユウトウ
ぎうとう (名) [牛痘] うゑばうさうノ條ヲ見ヨ。

キユウナン
きうなん (名) [救難] 危難ヲ救フコト。 史記、陳丞相世家「常出二奇計一、救二紛糾之難一」

ギユウニク
ぎうにく (名) [牛肉] 牛ノ肉。略シテ、ぎう。長崎ニテ、田獸。 禮記、內則篇「濆二取牛肉一、必新殺者、薄切レ之、必絕二其理一」

キユウニユウ
きうにゆう (名) [九乳] 鐘ニ鑄ツケタル、九ツノイボ。百乳ト云フモアリ。 太平記、十五、三井寺合戰事「九乳ノ鳧鐘」

ギユウニユウ
ぎうにゆう (名) [牛乳] 牛ノ乳汁。ウシノチチ。滋養トシテ、人ノ飲料ニ供ス。ミルク。 魏書、王琚傳「常飲二牛乳一、色如二處子一」 新撰姓氏錄、左京諸蕃、上、和藥使主「孝德天皇御世、依レ獻二牛乳一、賜二姓和藥使主一」

キユウネン
きうねん (名) [舊年] 〔新年ニ對ス〕 コゾ。去年。客年

キユウハ
きうは (名) [舊派] 古キ流派。フルキ流儀。〔新派ニ對ス〕 「舊派ノ俳優」

キユウハイ
きうはい (名) [九拜] 〔三拜ノ條ヲ併セ見ヨ〕 朝廷ノ拜賀、奏慶ナドノ時、諸臣ノ、天皇ヲ拜シ奉ルニ、九度、拜スルコト。立チテ左右左、居テ左右左、地拜二度、立チテ一度、拜スルナリ、極メテ重キニスル拜禮ナリ。(盥尻、三)又、高僧相見ノ節ニモ行ハル。ぶたう(舞蹈)ノ條ヲ併セ見ヨ。 周禮、春官「太祝辨二九拜一」 元亨釋書、七、淨禪「弘安三年十月十六日曰、還二掃房宇一、晚間客來、黃昏果達後之無傳至、爾(圓爾)之徒住レ院者也、寵二爾病一馳省、爾披二安陀會一而坐、傳燒レ香作レ禮、爾曰、最後相見致二九拜一、傳還レ位」

キユウホウ
きうはう (名) [臼砲] 〔蘭語、Mortier.ノ譯語〕 大砲ノ一種、砲身短クシテ、挽臼ノ形シタルモノ。彈道著シク高ク彎曲シテ、彈丸、敵地ニ、眞逆サマニ落ツ。曲射砲。モルチイル。

キユウハク
きうはく (名) [九陌] 數多ノ巷。 楊巨源詩「九陌華軒爭二道路一」 朗詠集、上、花「花明二上苑一、輕軒馳二九陌之塵一」

キユウハク
きうはく (名) [休泊] 休息シ、又ハ、宿泊スルコト。

キユウバク
きうばく (名) [舊幕] 舊幕府ノ略。明治維新以後ニ、德川幕府ヲ云フ語。「舊幕時代」

キユウハン
きうはん (名) [舊藩] 〔藩ノ條ヲ見ヨ〕 德川幕府時代ニ在リシ藩。明治維新以後ニ稱スル語。「舊藩主」舊藩士」

キユウビ
きうび (名) [鳩尾] (一)胸ト腹トノ間ノ、クボミタル所。ミヅオチ。心窩子 狂言記、胸突「借狀程ノ物ガ、鳩尾ヘサシコムワ」 (二)きうびのいた(鳩尾板)ノ略。

ギユウヒ
ぎうひ (名) [牛皮] (一)牛ノ皮。(二)次條ノ語ノ略。 秋苑日涉、九「今人糯粉糖滷、煮劑成レ餅者曰二牛皮一、當二是屈大均所一レ謂牛皮糖一」 本朝世事談綺、一、飮食「寬永ノ頃、云云、中島淨雲トイフ者、江戶ヘ來テ製シ上ル、ヨッテ其頃ハ、扶持方四季施等ヲ拜領ス、今、神田鍛冶町丸屋播磨、其裔ナリ、是、江戶ニテ求肥ヲ造ルハジメ也」

ギユウヒアメ
ぎうひあめ (名) [牛皮飴 求肥飴] 〔色、質、牛ノ韋ノ如シ、支那傳來ノ製ナリト云フ〕 糯粉、葛粉、蕨粉ナドヲ、砂糖ト水トニ和シテ、濕飴ヲ加ヘテ、煮テ煉リタルモノ。形色、黃濁、柔靭ナリ。牛皮糖明糖 書言字考節用集、六「牛脾糖(俗作二求肥一、蓋牛脾、支那祭祀所レ用者、今制据レ焉)」 ちのぶ草「求肥飴、初メテ唐ヨリ渡リシ時ニハ、牛皮ト、銘有リシヲ、院ノ聞コシ召シアゲラレシ時、字ヲ書キカフベシト命有リテ、改メ給フ」

キユウビイタ
きうびいた (名) [鳩尾板] せんだんのいたノ條ヲ見ヨ。

キユウビコツ
きうびこつ (名) [鳩尾骨] 〔形、又ヲシテ、鳩ノ尾ニ似タリ〕 ミヅオチノホネ。

キユウビノイタ
きうびのいた (名) [鳩尾板] 栴檀板ノ條ヲ見ヨ。

キユウビノキツネ
きうびのきつね (名) [九尾狐] (一)尾ノ、九ツアル狐。支那、本朝、共ニ、瑞物トシタリ。 山海經、大荒東經「有二靑丘之國一、有二狐而九尾一」 郭璞曰「太平則出而爲レ瑞也」 白虎通、三「德至二鳥獸一、則九尾狐見、九者、子孫繁息也、於レ尾者後當レ盛也」 文選、魏都賦「德連二木理一、仁挺二芝草一、云云、莫二赤匪一レ狐、九尾而自擾、云云、顯二禎祥一以曲成」 治部省式、祥瑞、上瑞「九尾狐、神獸也、其形、赤色、或白色、音如二嬰兒一」 (二)俗傳ニ、金毛九尾狐ナド云フハ、妖狐ナリトシ、近衞天皇ノ宮女玉藻前、狐ト化ストシ、(謠曲、殺生石)三國傳來ナド云ヒ、下野ノ那須野ニテ、殺生石トナルナド云フ。 扶桑略記、廿二ニ、仁和四年、六條皇后御惱ノ事アリ、靈狐アリテ、形ヲ現シテ、戶帳ノ乾角ヨリ出ヅ、云云、迷狐僅ニ出デテ、御惱平復ストアルナドヨリ、附會セルカ。 侯鯖錄、八「錢唐一官妓、性善媚惑レ人、號曰二九尾野狐一」 下學集、上、氣形門「狐、多疑之獸也、古之婬婦也、其名紫紫、化爲レ狐也」(支那ノ小說ニ、九尾狐、化シテ妲妃トナリ、殷ノ紂王ヲ蠱惑セシコトヲ云ヘリ)

キユウフ
きうふ (名) [丘阜] ヲカ。小高キ地。丘垤。 淮南子「夫大生レ小、多生レ少、天之道也、故、丘阜不レ能レ生二雲雨一、滎水不レ能レ生二魚鼈一者、小也」

キユウブン
きうぶん (名) [舊聞] フルク聞キタルコトガラ。(新聞ニ對ス) 史記、太史公自序「悉論二先人所レ次舊聞一、弗二敢闕一」

キユウヘイ
きうへい (名) [舊弊] 年歷タル、惡シキ習慣。陳弊

きうん (名) [氣運] メグリアハセ。時運。 曹植文「感二氣運之和順一、樂二時澤之有一レ成」

きうん (名) [機運 幾運] 時機ノ、メグリアハセ。ヲリ。シホ。時機。 後漢書、劉玄傳、論「亦幾運之會也」 魏書、申纂傳「機運可レ乘、實在二茲日一」

キユウメイ
きうめい (名) [糺明 糾明] カムガフルコト。罪ヲタダシ、アキラムルコト。仔細ニ、事情ヲ問ヒ糺ブルコト。糺問。吟味。 侍所沙汰篇「一、刈田狼藉事、爲二檢斷方一、可レ有レ糺二明之一」

キユウメイ
きうめい (名) [休明] 寬大ニシテ、叡明ナルコト。大イニ明カナルコト。 左傳、

宜会一 [illegible] 十二、公家一統政道事「四海一時ニ定マテ、萬民 [illegible]」

きうめい (名) [教令] 人ノ命ヲ教フコト。人命教訓。

きうもん (名) [糾問] 罪状ヲ糺シ問フコト。糺問。吟味。 [illegible]

きうもん (名) [九門] 九重ノ門。宮城ノ門。 [illegible]

きうや (名) [九野] (一)きうてん(九天)ノ條ヲ見ヨ。(二)九州ノ(二)ノ野。 [illegible]

きうやう (名) [休養] 身體ヲ休メ、氣力ヲ養フコト。 [illegible]

きうやく (名) [舊約] 古キ約定。

きうやく (名) [九譯] 重譯ノ條ヲ見ヨ。

きうよ (名) [救興] 救ヒ、アタフルコト。 [illegible]

きうらい (名) [舊來] モトヨリナルコト。舊クヨリ、コノカタ。

きうらく (名) [牛酪] らく(酪)ノ條ヲ見ヨ。

きうらふ (名) [舊臘] 去年ノ十二月。客臘。 [illegible]

きうり (名) [木實] 實ヲ喰ル者。

きうり (名) [胡瓜] 〔黄瓜ノ義、熟スレバ、黄ナリ、黄瓜、同意〕古名、カラウリ、ソバウリ。瓜ノ一種。春、苗ヲ生ジテ、蔓延ス、葉、絲瓜ノ如クニシテ、小ニ刺アリ、初夏ニ五瓣ノ黄花ヲ開ク、瓜ノ類ノ、最モ早ク熟スルモノニテ、瓜ノ形、圓ク長ク緑ニシテ、刺アルコトなまこノ肌ノ如シ、熟スレバ黄ナリ、生ニテモ食フベク、又、鹽漬ニス。 [illegible]

きうり (名) [久離舊離] 父兄ヨリ、子弟ヲ、永久ニ離縁スルコト。かんだう(勘當)ノ(二)ヲ見ヨ。 [illegible] 不届者トテ、親子之きうりヲ切退出、御帳ニ付申候」 [illegible] 天保ノ川柳「勘子迄、泣イテ久離ノ、宮渡シ」

きうり (名) [舊里] フルサト。故郷。故園。 [illegible]

きうりもみ (名) [胡瓜揉] 胡瓜ヲ薄ク刻ミテ、鹽ツケテ揉ミ、酢、味醂ナドニ浸シタルモノ。

きうりやう (名) [舊領] 前ニ領シタル土地。 [illegible]

きうりよう (名) [丘陵] ヲカ。小山。 [illegible]

きうりよう (名) [illegible]

[illegible] 之有、角書色也」

きうるし (名) [生漆] 漆ノ液ヲ、木ヨリ取リタルママノモノ。

きうるし (名) [黄漆] 漆ニ、黄色ノ染料ヲ加ヘタルモノ。

きうれい (名) [舊例] 昔ヨリノ例。舊クヨリ行ヒ來リシ例式。 [illegible]

きうれう (名) [舊僚] 〔正字ハ僚、同也、官僚也〕古キ同役。昔ノ同僚。 [illegible]

きうれき (名) [舊暦] 〔新暦ニ對ス〕(一)舊ク用キタル暦。即チ、太陰暦ノ稱。明治五年、新ニ太陽暦ヲ用キラレシヨリシテ、稱ス) こよみノ條ヲ見ヨ。(二)古キコヨミ。宋史、律暦志 [illegible]

きうれんくわん (名) [九連環] かんかんさどりノ戯。其條ヲ見ヨ。

きうろ (名) [舊路] 舊宅ニ同ジ。 [illegible]

きうゐん (名) [舊恩] [illegible]

きうゑん (名) [舊怨] フルキウラミ。昔ノアタ。 [illegible]

きうゑん (名) [救援] スクヒ、タスクルコト。救助。

きえ (名) [歸依] [illegible]

[illegible]

きえあふ フ・フ・フル・フレ・ヘ・ヘヨ(自動、下二) [消敢] [illegible]「[illegible]、春、上ノ谷川ノ、氷モイマダ、きえあへヌニ、峯ノ霞ハ、タナビキニケリ」

きえいる ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) [消入] (一)深ク悲シミニ沈ム。タエイル。消魂。 [illegible] エ(消)ヒヤラズ、闇ク心地モ惑ヒツツ」(二)死ニ入ル。 [illegible] テ、ゆで(湯)サセタマヒテ、ノボラセタマフママニ、御口鼻ヨリ血アエテ、ヤガテきえいりタマヒヌ」

きえうす ス・ス・スル・スレ・セ・セヨ(自動、下二) [消失] 消エテ、ナクナル。 [illegible] ソハ、春日消ユラメ、心サヘ、消失セタレヤ、言モ通ハヌ」

きえかへる ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) [消反] [illegible](一)消ユ、甚シク消ユ。 [illegible] マヨフ、水ノ泡ノ、シバシ宿當ル、清水カナ」(二)〔消エ入ルヤウニ、思ヒセマル。ホトホト死ナムトス。 [illegible] ノ、菊ノ垣根ニ、オク霜ノ、(序)きえかへりテゾ、戀シ [illegible] ニ、きえかへり、涙ノ川ニ、ウキネシテ」

きえせぬ [illegible] せぬモノハ、身ナリケリ、羨シキハ、水ノ泡カナ」

きえソウ (名) [歸依僧] 三寶ノ條ヲ見ヨ。

き-えつ (名) 喜悅 ヨロコブコト。ヨロコビ、悅喜。漢書、張禹傳「皆喜悅」 吾妻鏡、一、治承四年十月十八日「早可ㇾ令ㇾ停ニ彼山狼藉等ㇵ、令ㇾ喜ニ悅御祈禱ㇾ次第事」 太平記、二十七、師直驕ニ韓氏居所ニ事「師直、喜悅ノ眉ヲ開キ」

きえのこ・る ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 消殘 (一)消エハテズ。消エツキズ。「雪、きえのこる」 (二)死ニハテズ。生キノコル。存命フ。榮花物語、七、鳥邊野「誰レモ皆、きえのこるベキ、身ナラネド、行キ隱レヌル、君ゾ悲シキ」

〜きえは・つ ツル・ツレ・テ・テ・テヨ (自動、下二) 消果 (一)消エ盡ク。全ク消ユ。古今集、九、羇旅「きえはつる、時シナケレバ、越路ナル、白山ノ名ハ、雪ニゾアリケル」 (二)死ニ入ル。死ヌ。源、三十九、御法三十「明ケハツル程ニ、消えはて給ヒヌ」同、四十六、總角八十六「見ルママニ、物ノ枯レユクヤウニテ、きえはて給ヒヌ」

〜きえは・て (動) 消果 前條ノ語ヲ見ヨ。

きえ-ブツ (名) 歸依佛 三歸ノ條ヲ見ヨ。

きえ-ほふ (名) 歸依法 三歸ノ條ヲ見ヨ。

〜きえまど・ふ フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (自動、四) 消惑 消エ入ル如クニ、思ヒ惑フ。源、二、帚木十四「きえまどへるケシキ、イト心グルシク」

き-えん (名) 奇緣 思ヒ寄ラヌ緣。不思議ノ緣。謠曲、望月「實ニ、奇緣アル我レ等カナ」

き-えん (名) 起緣 緣起ノ倒語。生玉心中(正德、近松作)中「家内ニ何ノ怪我モナイ、きえんノヨイ脇差」

き-えん (名) 機緣 佛教ノ語。佛法ヲ聽キ入ルル機根ト、緣ト。榮花物語、三十、鶴林「十方世界ノ諸佛ノ、世ニ出デサセタマヒテ、機緣既ニ盡キヌレバ、必ズ滅度ニ入リタマヒ」

き-えん (名) 氣焰 氣燄 意氣ノ、炎ノ如ク、勢ヒアガルコト。唐書、劉殷許等傳、賛「其威靈氣燄、有ニ以動ㇾ物悟ㇾ人者ニ」 左傳、莊公十四年「人之所ㇾ忌、其氣燄以取ㇾ之、妖、由ㇾ人興也」「氣燄萬丈」新語ニ、氣焰を吐くト云フハ、熱を吹くト云フナリ。豪語

き-えん (名) 棄捐 (韻會「捐、余專切、音沿」說文「捐、弃也」) (一)棄ツルコト。戰國策、秦策「少、棄捐在ㇾ外、嘗無ニ師傅所ニ教學ニ」 庭訓往來、五月「萬事棄ㇾ成ニ父母之恩ニ罪、敢以不ㇾ可ㇾ被ニ棄捐ニ」(飱飯ノ條ヲ併セ見ヨ) (二)物ヲ棄テテ、他ニ惠ミ與フルコト。ホドコシ。(三)江戸時代ニ、幕府ヨリ、大小名、旗下、家人、平民、等ニ對シテ、スベテ、貸シタル金穀等ヲ棄テテ、一切償ハズシテ可ナリト免シタルコト、下ヨリ、コレヲ德政ト稱ス。此令出ヅレバ、隨ッテ貴賤、共ニ、亦、スベテ、互ニ債ヲ責メザルヲ習慣トシ、其弊、猶、足利氏ノ德政ノ如カリキ。(德政ノ條ヲ見ヨ) 牧民金鑑、十二、天保十四卯年六月朔日「諸大名御旗本之面面、近來別而及ニ困窮ニ候處、達ニ御聽ニ、此度以ニ思召ニ、馬喰町御用屋敷取扱御貸附金、去寅年ヲ限、半高棄捐、殘半高無利足、年割上納タルベキ旨被ニ仰出ニ候事」

ぎ-えん (名) 義捐 不幸ノ者ヲ恤ミテ、金錢、物品ヲ施シ與フルコト。ホドコシ。

ぎえん-きん (名) 義捐金 義捐ノタメノ金錢。

き-えんさん (名) 稀鹽酸 鹽酸ニ、蒸溜水ニ倍ヲ混合シテ、稀薄クシタルモノ。

✣き・える (動) 消 消ゆノ口語。

き-おく (名) 記憶 (正韻「憶、念也、思也、記也」) (一)心ニ、シルシ、オボユルコト。物事ヲ忘レズシテ、心ニ留メオクコト 南史、沈攸之傳「史漢事、多ㇾ所ニ記憶ニ」 書言字考節用集、九「記憶」 (二)モノオボエ。記性「記憶ガヨイ」

き-おくれ (名) 氣後 精神ノ、臆スルコト。畏レテ、タユタフコト。キオヂ。キオチ。沮喪

き-おち (名) 氣落 望ヲ失ヒナドシテ、精神ノ弱ルコト。チカラオトシ。落膽 沮喪 淀鯉出世瀧德(寶永、近松作)上「氣ニカカレド、氣落サセジト」

き-おぢ (名) 氣怖 前前條ニ同ジ。

き-おほつ (名) 黃大津 壁土ニ云フ語。おほつノ條ヲ見ヨ。

き-おも (名) 氣重 次條ノ語根。氣力ノ、引立タヌコト。精神ノ、進ミナキコト。

き-おも・し キ・ケレ・ク・ク (形、一) 氣重 氣力、引立タズ。精神、進マズ。氣、沈ミテ居リ。

き-か (名) 季夏 夏ノスヱ。陰曆六月。晚夏。禮記、月令篇「季夏之月」同、明堂位篇「季夏六月」

き-か (名) 机下 机ノ下ニマキラスト云フ敬意ニテ、人ニ贈ル文書ノ宛名ノ脇附ニ書キ添フル語。案下。梧下。遲步色葉集「机下」

き-か (名) 旗下 ハタモト。後漢書、耿弇傳「旗下衆尙十餘萬」

き-か (名) 麾下 (玉篇「麾、旌旗之屬、所ニ以指麾ニ也」) 指揮者ノ下ニ屬スル者。戲下 史記、李廣傳「廣廉、得ニ賞賜ハ、輒分ニ其麾下ニ、飮食與ㇾ士共ㇾ之」

き-か (名) 幾何 幾何學ヲ見ヨ。四庫全書總目、天文算法篇、幾何原本、六卷」

き-か (名) 貴家 尊宅ニ同ジ。貴宅。高堂 貴殿。

き-か (代) 貴下 對稱ノ代名詞。文書ノ上ニテ、同輩ニ、敬語トシテ、用キル。

き-が (名) 木臭 酒ニウツリタル、樽ノ材ノ臭。

き-が (名) 飢餓 饑餓 ウウルコト。ウヱ。孟子、告子、下篇「朝不ㇾ食夕不ㇾ食、饑餓不ㇾ能ㇾ出ニ門戶ニ」

き-かい (名) 器械 (後漢書、公孫述傳、註「內盛曰ㇾ器、外盛曰ㇾ械」) ウツハ。道具。禮記、王制篇「器械異ㇾ制」

き-かい (名) 機械 種種ノ機關ニテ、種種ノ仕事ニ用キル道具ノ稱。

き-かい (名) 氣海 (漢方醫ニテ、呼吸ノ根ザス處トス) (一)人體ノ臍ノ下、一寸ノ處。書言字考節用集、五「氣海(臍下)」 (二)地球ノ四圍ノ大氣ヲ、海ニ譬ヘテ云フ語。

き-かい (名) 貴价 使者ノ敬語。オツカヒ。

き-がい (名) 氣慨 氣槩 (一)意氣ノスグレテ、節操ノ高キコト。宋史、蕭貫傳「俊邁能文、尙ニ氣槩ニ」 (二)イキハリ。イキヂ。氣骨。

き-がい (名) 己亥 ツチノトノヰ。干支ノ條ヲ見ヨ。

き-がい (名) 癸亥 ミヅノトノヰ。干支ノ條ヲ見ヨ。

き-がい (名) 危害 殺傷、又ハ、負傷ナドノ、アヤフキコト。韓非子、說難篇「欲ㇾ陳ニ危害之事ハ、則顯ニ其毀誹ハ、而微見ニ其合ニ於私患ニ也」

きかい-が-しま (名) 鬼界島 おにがしまノ條ヲ見ヨ。

きかいのさう (名) [illegible] 一定ナル道ヲ見ル。

きかう (名) [枳椇] 〔からたちハ、椇ノ音便〕 枳殻ニ似テ、實ノ味、[illegible]ノ如キモノ。

きかう (名) [紀綱] 〔紀ハ、綱ノ小ナルモノ〕 政治ノオホブナ、制度、法度、綱紀。[illegible]

きかう (名) [紀行] 旅行ヲ記シタルモノ。ミチノキ。道中記。[illegible]

きかう (名) [奇行] メヅランキオコナヒ。普通ニ異ナルフルマヒ。[illegible]

きかう (名) [奇效] 藥ノ、スグレタルキキメ。

きかう (名) [機巧] 巧ナルシカケ。カラクリ。[illegible]

きかう (名) [起稿] 草稿ヲ書キ起スコト。

きかう (名) [寄稿] 草稿ヲ寄贈スルコト。

きかう (名) [寄港] 船ノ、或ル港ニ立寄ルコト。

きかう (名) [寄航] 航海中ニ、或ル港ニ寄ルコト。

きかう (名) [歸航] 航海シテ、[illegible]ルコト。[illegible]

きがう (名) [記號] シルシ。メジルシ。

きがう (名) [旗號] ハタジルシ。旗章。

きがう (名) [揮毫] 〔毫ハ、筆ノ毛ナリ〕 筆ヲ揮フコト。書畫ヲ書クコト。揮筆。[illegible]

ぎかう (名) [技巧] [伎巧] ワザノタクミ。藝ノ、上手ナルコト。老子「人多二伎巧一」[illegible]

きかうでん (名) [乞巧奠] 〔女子ノ、織女星ニ、織縫ノ巧みナラムコトヲ乞ひ祈ル奠ノ義、願ひの絲ト云フモ、是レナリ〕 たなばたまつりニ同ジ。ホシマツリ。禁中ニ行ハルルハ、清涼殿ノ庭ニ、机、四脚ヲスヱ、周圍ニ、燈臺、九本ヲ立テ、机上ニ果子ナド、種種ノ物ヲ供ヘ、箏ニ琴柱ヲ立テ置キ、火取ニハ、香、夜、空薫物アリ。字類抄「乞巧、乞巧奠、タナバタマツリ」名目抄、[illegible]今、世俗、云二キッカウデン一ハ、不レ足レ言」[illegible]女祭」

きかがく (名) [幾何學] 數學ノ一部、物ノ線、面、體、等ヲ測リ知ル術。

きがかり (名) [氣掛] 事ノ、氣ニカカルコト。思ヒワヅラフコト。掛念。關心。[illegible]

きかく (名) [聞] 〔いはく(曰)ノ語原ヲ見ヨ〕 聞クコト。聞クヤウ。萬葉集、[illegible]「[illegible]」 大和物語、上「亡キ人ヲ、君ガきかくニ、カケジトテ、泣ク泣クシノブ、程ナ[illegible]ミソ」 萬代集、三、夏「ホトトギス、去年ノ初聲、聞カザリシ、人ノきかくニ、マヅモ鳴カナム」

きかく (名) [揮霍] 字典「[illegible]散也、揮霍也」[illegible]易經、乾卦、文言傳「六爻發揮」疏「[illegible]發揮」

揮散 文選、西京賦「[illegible]揮霍、[illegible]」 振リマハスコト。撒キ散ラスコト。

ぎがく (名) [伎樂] [illegible]

ぎがく (名) [妓樂] 妓女ノ奏スル音曲。

きがけ (名) [牛掛] らふそく(蠟燭)ノ條ヲ見ヨ。

きがけ (名) [來掛] キシナ。クルツイデ。來ル途中。「きがけニ[illegible]」

きがさ (名) [氣嵩] カチキ。マケジダマシヒ。負ケヌ氣。「[illegible]」

きかざる・ル・レ・ラ・リ・レ (他動、四) [着飾] 美シキ衣服ヲ着ル。[illegible] 近松作)上「母ハ衣裳ヲ着飾ッテ、才乳ノ人ヨ、才局ヨト、玉ノ輿ニ乘ッタトテ」

きかす・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) [聞] 〔聞くノ敬語、歎く、なげかす。搖ぐ、ゆらがす〕 聞キ知リタマフ。キコス。古事記、上[三十八]長歌「越ノ國ニ、賢シ女ヲ、アリト聞加志テ」 仁徳紀、五十年三月「日本ノ國ニ、雁子生ムト、[illegible]聞ヤ」

きかず (名) [聾] 〔聞かずノ義〕 ミミシヒ。ツンボ。[illegible]

きかずがほ (名) [不聞顏] 聞キ知ラヌオモモチ。シラズフリ。[illegible]ニ、鳴ク鳴ク雛ハ、トドムルヲ、きかずがほニテ、秋ノ暮レユク」

きかつ (名) [飢渴] 食ニ飢ヱ、水ニ渇クコト。[illegible] 史記、[illegible] 平記、十六、[illegible]ノ疑覺蓄蓄タリ」「飢渴ニ迫ル」

きがね (名) [illegible] [illegible]ニ同ジ。クガ[illegible]

きがね (名) [氣兼] 人ニ對シテ、氣ヲ[illegible]コト。[illegible] 子(享保、近松作)四「親ガト思ヒ、氣兼ハ無用」

きかは (名) [橘皮] 〔黄皮ノ義、色、黄ナリ〕 橘ノ皮。キチヒ。[illegible]添フル加藥トスルナリ。倭名抄、十七、[illegible]「橘皮、[illegible]一云、岐加波」〔甘皮ハ、柑皮ナリ〕 字類抄「橘皮、キチヒ、キカハ」

きがはらげ (名) [黄土器毛] 馬ノ毛色ノ、[illegible]かはらげノ、黄ヲ帶ビタルモノ。[illegible] 太平記、九、久我縄手合戰「[illegible]」

きかひ (名) [illegible] [illegible]ノ條ヲ見ヨ。

きかふ (名) [龜甲] きっかふ(龜甲)ノ條ヲ見ヨ。

きかふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (自動、四) [illegible] 〔行交ふノ上略ト云フ、いきほふ、きほふ〕 軋ル。スレアフ。大殿祭祝詞「[illegible]柱、桁、梁、戶、牖ノ、錯比動キ鳴ルコトナク」 錯、古語、云二伎加比一」 名義抄「錯、キカフ、スル、コスリ」同「[illegible]、キカフ」

きかふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (他動、四) [柵養] 柵ノ内ニ養ヒオク。此語、終止形ヲ名詞ニ用ヰタルモノ[illegible]ノ、柵内ニ住マシメラルル者ヲ、柵養ノ[illegible]ト云フ。柵戶ノ條ヲ併セ見ヨ」

明紀、元年七月「北蝦夷、云云、播磨國夷九人二(筑後、伊豫、讃岐、安藝、阿波)」(二年正月)陸奥國、伊達郡、鬱陵嶋ナラム」持統紀、二年正月「陸奥國、優嗜曇郡、城養蝦夷、脂利古男麻呂」(後ノ出羽國、置賜郡)

きかふ・フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ(他動、下二) [着替] 替ヘテ着ル。更衣 源、五、若紫「ヨロシキ衣きかへテ乗リヌ」

きがへ (名) [着替] 替ヘテ着ルニ備フル服。副衣 落窪中納言物語、四「きがへノ御衣ドモ、聖ト尼君トニ、分ケタマハラセナドシテ」 宇治拾遺、十一、第八條「きがへ取寄セテ、きかへテ」

きがへしのよろひ (名) [黄返鎧] (藍がへしト同意ノ語)鎧ノ緘毛ニ、藍染ヲ、更ニ、黄ニ染メ返シタル革ニテ緘シタルモノ。藍地ニ、白ク小櫻ナド染メ出シタルヲ、再ビ黄ニ染ムレバ、地ハ、もえぎトナリ、小櫻ハ、黄トナルナリ。平家物語、一、御輿振事「小櫻ヲきニかへしタル鎧着テ」

きかへる (動) [着替] きかふ(着替)ノ口語。

きがみ (名) [生紙] 糊ヲ加ヘズシテ漉キタル紙。(糊入紙ナドニ對ス) 兵範記、仁平三年五月三日「法花經第四五兩巻、云云(生紙繪)」

きがみ (名) [黄紙] (一)黄色ニ染メタル紙。(二)德川幕府ニテ、奉行所ノ吟味方ヨリ、老中ノ指圖ヲ仰グ文書ノ稱。貼紙ニ黄紙ヲ用キシカバ、名トス。寶曆集成総論録、三十、寶曆二申年五月「黄紙認方」

きかむ・ム・メ・マ・ミ・メ(自動、四) [牙嚙] (牙ヲ嚙む)歯ヲクヒシバル。ハギシリス。切歯 萬葉集、九 三十六長歌「天仰ギ、叫ビオラビ、地ニ伏シ、牙嚙みタケビテ」字鏡 八十五「咆勃、勇猛貌、去和奈志、又、支可牟」

きかん (名) [龜鑑] (祖庭事苑、七「龜鑑、

龜所三以決二猶豫、鑑所三以辨二妍蚩一」(龜ハ、龜卜、妍蚩ハ、美醜))又、龜鏡トモ云フ。かめのかがみ。倣フベキ善キ例。カガミ。テホン。模範。 唐書、劉蕡傳「惟此子「聚二古今之精英、實治亂之龜鑑」 蘇軾、乞下校二正陸贄奏議一進御上龜鑑、擢二乎中庸一」 北史、長孫紹遠傳「此數事者、照二觸興章、揚攉而言足、爲二龜鏡一」 後紀、廿四、弘仁六年九月「專門之脂粉、人倫之龜鏡」 十六夜日記「サテモナホ、アヅマノ龜の鏡ニウツサバ、曇ラヌ影モヤ顯ハルルト」「萬世ノ龜鑑タリ」

きかん (名) [饑寒・飢寒] 食ニ饑エ、寒サニコゴユルコト。 戰國策、齊策「布令、求二百姓之饑寒者、收二穀之一」 後漢書、馮異傳「昨日得三公孫豆粥、飢寒俱解」 李商隱雜纂、相似「鴉似三措大、饑寒則吟」 運歩色葉集「飢寒」

きかん (名) [祁寒] 〔康熙字典「祁、盛也、大也」〕甚シキ寒サ。嚴寒。 書經、君牙篇「冬祁寒、小民亦惟曰怨咨」

きかん (名) [期間] 期リタル、一定ノ時間。「書籍借用ノ期間」

きかん (名) [旗艦] 〔檣ニ、司令官、又ハ、司令長官ノ旗ヲ揭グ〕艦隊ノ中ニテ、司令官、又ハ、司令長官ノ乘リ組メル軍艦。

きかん (名) [貴翰] 他ノ書翰ヲ云フ敬語。貴書。御書。 運歩色葉集「貴翰」

きがん (名) [歸雁] 春、北へ歸リ行ク雁。かへるかり。 史記、楚世家「有下好以二弱弓微繳一加二歸雁之上一者上」 風雅集、二、春、中「歸る雁、秋來シ數ハ、知ラネドモ、寐ザメノ空ニ、聲ゾスクナキ」

きがん (名) [起龕] 〔龕ハ、棺ナリ〕禪家ノ語。遺骸ヲ棺ニ移シテ、佛事ヲ修スル式ヲ、移龕ト云ヒ、棺ヲ蓋ヒテ修スルヲ、鎖龕ト云ヒ、ソレヲ起シテ修スルヲ、起龕ト云フ。 勅修百丈清規「請二移龕佛事一罷、

移レ龕下三法堂一、請二鎖龕佛事一、請二起龕佛事一、掌罷、行者鳴レ鈸、維那出二山門一首二」 太平記、三十三、將軍逝去事(足利尊氏)「衣笠山ノ麓、等持院ニ葬シ奉ル、鎖龕ハ天龍寺ノ龍山和尚、起龕ハ南禪寺ノ平田和尚、云云、ニテゾオハシケル」

ぎがん (名) [義眼] 〔義ノ條ヲ見ヨ〕イレメ。

きかんき (名) [不聞氣] 〔聞入レぬ氣ノ意〕マケジダマシヒ。キカサナル氣性。カチキ。

きがんらい (名) [黄雁來] はげいとう(葉鶏頭)ノ條ヲ見ヨ。

きからすうり (名) [栝樓] 〔實、烏瓜ニ似テ、黄ナリ〕瓜ノ一種。春、舊根ヨリ生ズ、蔓、甚ダ長ク、葉ハ互生シテ、圓ク、五七尖ニシテ、胡瓜ニ似テ毛ナク、光アリ、葉毎ニ鬚アリテ、物ニ絡フ、夏ノ半ニ、葉ノ間ニ、白キ花ヲ開ク、形、からすうりノ花ニ同ジ、瓜ヲ結ブ、からすうりヨリ大キクシテ、稍、短ク、熟スレバ黄ナリ、食フベシ、子ヲ薬用トス、根ハ葛根ノ如ク、或ハ、連珠シテ、瓜ノ如シ、天瓜粉ヲ製ス。

きがらちゃ (名) [黄枯茶] (一)染色ノ名、黄ニ、淡キ藍氣アルモノ。 好色一代女(貞享、西鶴)三「黄唐茶ニ、刻ミ稻妻ノ中形帶」 (二)次條ノ語ノ略。

きがらちゃめし (名) [黄枯茶飯] 〔色、きがらちゃナリ〕淡ク、醬油、或ハ、酒ナド加ヘテ、炊ギタル飯。略シテ、きがらちゃト云ヒ、又、略シテ、茶飯トノミモ云フ。

きがる (名) [氣輕] 人ノ氣性ニ、人ト交ハリテ、嚴ナラズ、心打解ケタル狀ナル

モノ。キサク。洒落 艶容女舞衣(寶永、近松作)三「氣軽ナ男ノ、氣モ淺淺ニ連來へバ」

きき (名) [利] 利クコト。效アルコト。キキメ。效 「ききガヨイ」「藥ノきき」

きき (名) [聞] (一)〔耳ニ聞クコト。 萬葉集、二十四 三十長歌「嵐カモ、今來渡ルト、思フマデ、聞ノカシコク」 (二)人ニ聞ユルコト。キコエ。風聞。 徒然草、三十八段「譽レヲ愛スル人ハ、人ノききヲヨロコブ」

きき (名) [記紀] 記ノ(二)、及、紀ノ(五)ヲ見ヨ。古事記ト、日本書紀ト。「記紀、萬葉」

きき (名) [危機] アヤフキ機會。 晉書、諸葛長民傳「貧賤常思二富貴一、富貴必踐二危機一」 太平記、一、武家繁昌事「天地命ヲ革ムベキ危機、此ニ顯レタリ」 毛一筋ホドニ迫リタルヲ、危機一髪ナド云フ。

きき (名) [忌諱] イミ、憚ルベキコト。 史記、馮唐傳「鄙人不レ知二忌諱一」「忌諱ニ觸ル」

きき (名) [歸期] カヘルベキ時。 李白詩「長安如二夢裏一何日是歸期」 李商隱詩「君問二歸期一未レ有レ期」「歸期近シ」「歸期遲ル」

きき (副) [嘻嘻] 戲レ笑フ狀ニ云フ語。 易經、下經、家人卦「婦子嘻嘻、終吝」

きき (副) [熙熙・凞凞] (一)和ギ樂シム狀ニ云フ語。 老子、絶學無憂章「衆人熙熙、如レ享二太牢一」 (二)衆人ノ、繁ク往來スル狀ニ云フ語。 史記、貨殖傳「天下熙熙、皆爲レ利來」

きき (句) [奇奇] 奇怪奇怪ヲ奇奇怪怪ト云ヒ、奇妙奇妙ヲ奇奇妙妙、敬服敬服ヲ敬敬服服ト記ス。 覺賀鳥ヲ高橋氏文ニ「鶴我久久」出雲風土記、意宇郡ニ毛曾呂毛曾呂ヲ「毛毛曾曾呂呂」ト書キタル如キ、一種ノ書法ナリ。 韓愈、送レ窮「不レ專二

「一能、怪怪奇奇」

きぎ (名) [木木] 樹ノ、種類。[illegible] ノ木ノ葉ノ、散リト紛フニ」「木木ノ褐」

きぎ (名) [杵木] 〔き(杵)ノ條ヲ見ヨ〕 手杵(テギネ)。

きぎ (名) [便宜] 時宜ノ、宜シキヲ得ルコト。 文選、嵇康、絶交書「不識人情、闇於機宜」

ぎき (名) [義気] 義ヲ守リ行フ意気。 [illegible]

ぎき (名) [義旗] 義兵ノ旗印。 [illegible] 太平記、廿七 [illegible]

ぎぎ (名) [黄顙魚] 捕ヘラルレバ、ギギト聲ヲ發シテ鳴ク。古名、カラカキ、カラカコ。魚ノ名、溪水ノ底ノ石間ナドニ棲ム。形、鯰ニ似テ小サク、黄褐ニシテ、背ニ斑アリ、黒キ斑アリ、口、廣ク、鬚、上下ニ、長短、六條アリ、尾ニ小岐アリ、背、及、腮ノ下ノ鰭ニ鋸刺アリ、人ニ捕ヘラルレバ鳴ク、大ナルハ一尺餘リ。一名、ギギュウ。 [illegible] 「ギギフ」

ぎぎ (名) [疑義] 疑ハシキ意義。疑シ難キ意味。 [illegible]

ぎぎ (名) [擬議] 準擬ヘ、揣度ルコト。熟考スルコト。 [illegible] 太平記、三十二、[illegible]

ききあは・す ...(他動、下二) [聞合] 聞キテ、問ヒテ、合セ考フ。[illegible] 紅梅「大納言ノ御心バヘハ、我ガカタザマニ思フベカメレド、[illegible] 此返リ言、ケザヤカニモ宣ヒヤラズ」

ききあはせ (名) [聞合] 聞キ合スコト。トヒアハセ。照會

ききあやまり (名) [聞誤] キキアヤマルコト。キキチガヘ。誤聞

ききあやま・る ...(他動、四) [聞誤] キキタガフル。キキチガフル。誤聞 狂言記、八句連歌「ききあやまりテオヂャッタ、出来タ句デオリャル」

ききいだ・す ...(他動、四) [聞出] 隱レタル事ヲ、探リテ聞キ知ル。探聞

ききい・づ ...(他動、下二) [聞出] 〔いづ(出)ノ條ヲ見ヨ〕 キキイダス。 [illegible]「[illegible]ききいでタテマツラバ、告ゲヨ」

ききいみ (名) [聞忌] 遠地ニテ、親族ノ喪ヲ、音信ニテ聞キ知リテ受クル忌。父母ノ忌ハ、其日ヨリ數ヘテ、定例ノ日數間、忌ニ服ス。其他ハ、定例ノ日數ノ殘レル間、服シ、過ギタラバ、一日遠慮ス。 御當家令條、三十六、服忌令「一、聞忌ノ事」

ききい・る ...(他動、下二) [聞入] (一)聞キテ、心ニ知ル。キキオヨブ。キキコム。 [illegible] 「鳥、蟲ナドノ上ハ、見イレ、聞きいれナドスル人、世ニ無シカシ」 (二)他ノ言フコトヲ肯フ。承引ス。キキワク。承諾 源、十三、明石

「[illegible]ノ、トカク思ヒワヅラフヲ、ききいれズ」[illegible]

ききう (名) [illegible]

ききう (名) [illegible] 家ニ歸リテ、休ムコト。[illegible]

ききう (名) [illegible]

ぎぎう (名) 魚ノ名。ぎぎニ同ジ。

ききうか・ぶ ...(他動、下二) [聞浮] 聞キ覺エテ、諳誦ス。[illegible]「[illegible]千字文ナラハシ奉リタマヒシカバ、ヤガテ、一日ニ、ききうかべタマフ」

ききうで (名) [利腕] 右ノ腕。利手。右腕 [illegible]

ききう-の-げふ (名) [箕裘之業] 下ノ出典ヲ見ヨ。父ノ生業ヲ、子ノ、承繼ギテ營ムコト。[illegible]

ききお・く ...(他動、四) [聞置] 聞キテ、覺エ居ル。枕草子 [illegible]

ききおち (名) [聞落] 〔おつ(落)ノ條ヲ見ヨ〕 聞キタルバカリニテ、[illegible]

[illegible]

ききおぢ (名) [聞怖] 聞キタルバカリニテ、[illegible]

ききおと・す ...(他動、四) [illegible]

ききお・ふ ...(他動、四) [illegible]

ききおぼえ (名) [聞覺] (一)聞キテ、心ニ覺エテアルコト。[illegible] (二)[illegible] 耳學問。

ききおぼ・ゆ ...(他動、下二) [聞覺] 他人ノ話ヲ聞キテ、覺エ知ル。 狂言記 [illegible]

ききおよ・ぶ ...(他動、四) [聞及] [illegible]

ききかう (名) [聞香] [illegible]

ききがき (名) [聞書] 話ヲ聞キテ、書キ取ルコト。紀聞 [illegible]

ききかじり (名) [聞噛] キキカヂルコト。

ナマギキ。半可通。

ききかじ・る・ル・レ・ラ・リ・レ（他動、四）［聞嚙］少シバカリ聞ク。理ノ皮相ヲ聞キ知ル。

ききか・ぬ・ヌル・ヌレ・ネ・ネ・ネヨ（自動、下二）［聞兼］ききにくし（聞惡）ノ條ノ（二）ニ同ジ。

キキ・カエ・ス
ききかへ・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）［聞返］（一）彼レヨリ聞キ來レルニ、我レヨリ聞ク。反問（二）繰リカヘシテ聞ク。再問「二三度、聞きかへす」

キキ・カヨ・ウ
〰**ききかよ・ふ**・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ（他動、四）［聞通］聞キ傳フ。キキオヨブ。源、五十、浮舟二三「京ニ、サバカリノ人ノ、オハシ、オハセズ、オノヅカラききかよひテ、隱レナキ事モコソアレ」

きぎく（名）［黃菊］「白菊ナドニ對ス」（一）菊ノ花ノ、色、黃ナルモノ。榮花物語、三十七、殿上後「菊ノ花ヲ籬ニ結ヒタリ、黃金、白銀、きぎく、白菊ニテ」嵐雪句「黃菊、白菊、其外ノ名ハ、無クモガナ」（二）襲ノ色目ノ名。表ハ黃、裏ハもえぎナルモノト云フ。秋季ヨリ十一月（陰曆）五節マデノ着用トセリ。

キキ・クワ・ウ
ききくは・ふ・フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ（他動、下二）［聞加］ききそふ（聞添）ニ同ジ。

〰**ききぐる・し**・シキ・シケレ・シク・シク（形、二）［聞苦］聞クニ心苦シ。キキニクシ。不堪聞 源、三十一、槇柱六「イトワリナウ、ききぐるしト思イタレバ」

ききごま（名）［聞小閒］小閒ノ條ヲ見ヨ。

ききこ・む・ム・メ・マ・ミ・メ（他動、四）［聞込］聞キ入ル。聞キ知ル。聞知

ききざけ（名）［聞酒］「きく（聞）ノ條ノ（二）ヲ見ヨ」酒ノ佳否ヲ、味ヒ試ミルコト。酒味ノ鑑定。唎酒。試酒 飮食狂歌合（文化、六樹園）「夕ヘカネシ、ワガ聞酒ニ、ワキムイテ、舌打ヲスル、妹ハ恨メシ」

〰**ききさ・す**・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）［聞止］〔さす（止）ノ條ヲ見ヨ〕聞キテ、中止ス。源、二、帚木三十六「異ナルコトナケレバ、きききしタマヒツ」

〰**きぎす**（名）［雉］〔ききハ鳴ク聲、ききん、今、けんけんト云フ、すハ、すト通ズ、鳥ニ添フル一種ノ音、うぐひすノ語原ヲ見ヨ、きぎすノ、きぎすト轉ジ、（夷、えびす）今ハ約メテ、きぎすトナル〕雉ノ古名。又、きぎす。古事記、上二十七「長歌「讃野ノ鳥、鼓鼓斯八響ム」皇極紀、三年六月「蘇野ノ枳銀始」拾遺集、一、春「春ノ野ニ、求食ルきぎすノ、妻戀ニ、己ガアリカヲ、人ニ知レツツ」倭名抄、十八「雉、木木須、一云、木之」

〰**ききし・る**・ル・レ・ラ・リ・レ（他動、四）［聞知］聞キテ、ソレト知ル。キキイル。キキコム。源、五、若紫六「大夫、妻戶ヲ鳴ラシテシハブケバ、少納言ききしりテ、出デキタリ」

〰**きぎす**（名）［雉］前前條ニ同ジ、其條ヲ見ヨ。

〰**ききすぐ・す**・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）［聞過］次條ノ語ニ同ジ。源、二、帚木十三「高ヤカニ云フヲ、ききすぐさムモ、イトホシ」

ききすご・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）［聞過］聞キテ、心ニ止メズ。キキスグス。キキスツ。キキナガス。

ききす・つ・ツル・ツレ・テ・テ・テヨ（他動、下二）［聞捨］聞キテ、打チ捨ツ。キキスゴス。後拾遺集、三、夏「聞き捨てテ、君ガ來ニケム、郭公、尋ネニ我レハ、山路ヲ試ム」

ききすて（名）［聞捨］キキスツルコト。

ききずみ（名）［聞濟］キキズムコト。承諾

ききず・む・ム・メ・マ・ミ・メ（他動、四）［聞濟］他ノ言フコトヲ肯ケ入ル。承諾

キキ・ソコノ・ウ
ききそこな・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ（他動、四）［聞損］キキアヤマル。キキチガフル。誤聞

キキ・ソナワ・ス
ききそなは・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）［聞］〔みそなはすノ語原ヲ見ヨ〕聞クノ敬語。聞キタマフ。撰集抄、二、第五條「哀レト聞きそなはし、一念ノ隨喜ヲモシ、念佛ヲモシハベル人アラバ、ソレヲナム、他ヲ利スル心トセム」

キキ・ソ・ウ
〰**ききそ・ふ**・フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ（他動、下二）［聞添］聞キ加フ。更ニ聞ク。源、十六、關屋六「ハテハテハ、メヅラシキコトドモヲききそふるカナト、人知レズ思ヒシリテ」

キキ・タゴ・ウ
ききたが・ふ・フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ（他動、下二）［聞違］キキチガフル。キキソコナフ。新六帖、五「我ガ宿ヲ、ききたがへテゾ、來タルラム、アルベキモノカ、今朝ノ玉章」

キキ・チゴ・ウ
ききちが・ふ・フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ（他動、下二）［聞違］キキタガフル。キキアヤマル。キキソコナフ。

キキ・チガエ
ききちがへ（名）［聞違］キキチガフルコト。キキアヤマリ。

〰**ききつ・く**・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ（他動、下二）［聞附］聞キ入ル。聞キ込ム。聞キテ知ル。聞知 伊勢物語、四十五段「カクコソ思ヒシカト云ヒケルヲ、親、聞きつけテ」源、五、若紫十四「門打チ叩カセ給ヘド、ききつくる人無シ」

〰**ききつ・ぐ**・グ・ゲ・ガ・ギ・ゲ（他動、四）［聞繼］人ヨリ人ヘ、次第ニ傳ヘ聞ク。傳聞 源、四十六、總角三十一「カク籠リ居給ヘレバ、ききつぎツツ、御訪ヒニ、振リハヘ物シ給フ人モアリ」

キキ・ツト・ウ
〰**ききつた・ふ**・フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ（他動、下二）［聞傳］人傳ニ聞キテ知ル。傳聞 源、二、帚木二「カカル好事ドモヲ、末ノ世ニモききつたへテ、輕ビタル名ヲヤ流サム」

キキ・ヅタエ
ききづたへ（名）［聞傳］キキツタヘタルコト。話ニ聞キテ、傳ヘ知ルコト。キキヅテ。（實聞、又ハ、書記ノ傳ナラヌニ云フ）傳聞

キキ・ツズ・ク
ききつづ・く・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ（他動、下二）［聞續］ききわたる（聞渡）ニ同ジ。

キキ・ズテ
ききづて（名）［聞傳］〔ききづたへノ約、人傳、ひとづて〕キキヅタヘ。著聞集、二十、跋「ききづてニ聞ク事ヲモ記セバ」

ききで（名）［利手］利腕ニ同ジ。

ぎぎと（副）［巍巍巍巍］高大、廣遠ナル狀ニ云フ語。論語、泰伯篇「巍巍乎、舜禹之有天下也」莊子、知北遊篇「魏魏乎、其終則復始也」榮花物語、廿二、鳥舞「佛、云云、御相、神德、巍巍たり」

ききとど・く・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ（他動、下二）［聞屆］申立テヲ肯フ。狂言記、俄道心「抱ヘサセラレタラバ、忝ウゴサリマセウ、成程聞屆タ、イカニモ抱ヘテヤラウ」

ききとる・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ（自動、下二）［聞蕩］聞キ惚ル。餘念ナク、聞キ耽ル。心醉 太平記、廿一、鹽冶判官讒死事「武藏守、イトド嬉シゲニ聞きとれテ」（老女ノ、鹽冶ガ妻ノ美麗ナル談ニ云フ）

〰**ききと・る**・ル・レ・ラ・リ・レ（他動、四）［聞取］聞キテ、心ニ留ム。聽取 枕草子、七、六十四段「はしたなきもの「オノヅカラ、人ノ上ナドうち云ヒ、譏リナドモシタルヲ、幼キ人ノ聞きとりテ、其人ノ在ル前ニ云ヒ出デタル」

ききなが・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）［聞去］ 聞キテ、心ニ止メズ。キキスゴス。

ききなし（名）［聞做］ キキナスコト。聞キテ、共レト思フコト。[illegible]ききなしニヤ、イトゞニ[illegible]サルレバ」

ききな・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）［聞做］ 聞キテ、共レト思フ。[illegible]ノ、[illegible]ききなさレケル」

ききなほ・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）［聞直］ 改メテ聞ク。更聴。

ききなら・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ（他動、四）［聞習］ 聞キ馴ル。[illegible]イトききならはヌ事カナ」

ききな・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ（他動、下二）［聞馴］ 常常聞キテ、馴ル。キキナラフ。源、五十二、手習三十「山風ヲノミ、ききなれハベリニケル耳カラニヤ」

ききにく・し・キ・ケレ・ク・ク（形、一）［聞惡］（一）〔キキグルシ。[illegible]〕源、九、葵十「若キ人人ハ、ききにくきマデメデアヘリ」（二）問ハムトシテ、問ヒ得ズ。キキカヌル。

ききぬ（名）［生絹］ 絹布ノ、生絲ニテ織リテ、練ラヌモノ。

ききぬ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ（他動、四）［聞貫］ 悉皆、聞キ取ル。[illegible]

ききはな・つ・ツ・テ・タ・チ・テ（他動、四）［聞放］ 聞キ捨ツ。キキナガス。源、三十四、上、若菜、上[illegible]ルベキニモアラネド」

ききばん（名）［聞番］〔御用聞番ノ意〕江戸時代、大名ノ家ニテ、公儀ノ用向ヲ聞キ受ケ、取次グ役。後ニハ、留守居ト云ヒキ。九州ノ諸大名ノ家來ノ、長崎ニ居テ、長崎奉行ノ指合ヲ受クル者ヲ、聞役ト云ヒキ。[illegible]ノ留守居ノ内ニ、罪アリテ、刑セラレシ者アリテ、常ニ集會シタリシ聞番[illegible]セラルトアリ。[illegible]ニテ、[illegible]名付テ、御城役トモ申シ、[illegible]メ、小身ナル大名方ニテハ、其者共ヲ、留守居[illegible]ト中ト也」

ききばら（名）［聞腹］ 人言ヲ聞キテ、腹立ツコト。「聞ケバききばら」

ききふ（名）［危急］ 危キニ逼リタルコト。[illegible]、出師表「今天下三分、益州疲弊、此誠危急存亡之秋也」[illegible]、三十七、寛元四年三月廿一日「武州有二御病惱事一、頗危急之間、及二所獲逆修等之儀一」

ききふ（名）［企及］ クハダテ、オヨブコト。匹敵セムトスルコト。唐書、杜甫傳「揚雄枚皐、可二企及一也」

ききふ・ける・ル・レ・ラ・リ・レ（他動、四）［聞耽］ 心ヲ傾ケテ聞ク。キキホル。キキトル。土佐日記、正月十八日「此歌ドモヲ、人ノ、何カト云フヲ、[illegible]人、聞きふけりテ」

ききほ・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ（自動、下二）［聞惚］ 聞キテ、ウットリトス。餘念ナク聞キ入ル。キキトル。

ききみみ（名）［聞耳］（一）耳ニ聞キ知ルコト。大鏡、序「ソレハ、イトききみみ遠ケレバ、近キ程ヨリ申サム」（二）〔世ノ人ノ耳ニ聞ユルコト〕ヒトギキ。外聞。源、三十四、上、若菜、上「[illegible]世ノききみみモ、イト苦シク、ツツマシク」同、四十三、竹河「世ノききみみモ侍ラムナド」

ききん（名）[illegible]「[illegible]」旱魃、洪水、霖雨、風災、等ニテ、穀物、野菜、[illegible]テ、不熟トナリ、國中ノ民、食物ニ乏シキコト。[illegible]タマタマ吹田庄ヨリ、絡物ヲ以テ來リケリ」

ききん（名）［基金］ 基本金。[illegible]

ぎきん（名）［義金］ 義捐シタル金錢。

ききんぞく（名）［貴金屬］ 金屬ノ、價ノ貴キモノ。白金、黄金、白銀ナドヲ云フ。（卑金屬ニ對ス）

ききめ（名）［利目］ 利ク力。物事ノ行ハレテ、效アルコト。效力

ききもの（名）［聞物］ 聞クダケノ價値アルモノ。好色一代女（貞享、西鶴）五「今宮ノ松ノ鳥、長ケレド、只ナラ聞物」

ききもら・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）［聞洩］ ききおとすノ條ノ（一）ニ同ジ。脫聞

ききやう（名）［桔梗］（一）古名、ヲカトトキ。アリノヒフキ。アサガホ。きちかう。草ノ名。莖、圓ク、高サ三五尺、葉ノ形、楕ニシテ、細カキ鋸齒アリ、互生、或ハ、對生ス、秋ノ初、莖ノ頭ニ、藍紫色ノ花ヲ開ク、筒瓣、五尖ノ單瓣ニシテ、美シク、秋ノ七草ノ一トス、根ハ牛蒡ノ如シ。中務集「低キききやうヲ、根ゴメニ引キテ」（二）色ノ名。卽チ、桔梗ノ花ノ藍紫ノ色。（三）紋所ノ名。五瓣ノ桔梗ノ花ヲ、上ヨリ見タル圖ニシテ、土岐氏ノ家ノ紋トス。

ききやう（名）[illegible] [illegible]ニ同ジ、[illegible]ヲ見ヨ。

ききやう（名）［歸京］ 京ヘ歸ルコト。歸洛。

ききやう（名）［歸鄉］ 故郷ヘ歸ルコト。[illegible]

ききやう（名）［歸仰］ 佛教ノ語、佛ニ歸依シ、崇敬スルコト。[illegible]

ぎきやう（名）［議卿］ 議卿ニ同ジ。議奏ノ條ノ（一）ヲ見ヨ。

ききやうがさ（名）［桔梗笠］ [illegible]笠ノ、[illegible]、桔梗ノ花ヲ伏セタルガ如キモノ、[illegible]シテ、五瓣ノ形ヲナス。[illegible]神祭「牛ニ乘リ、云云、女ニ、紅ノ[illegible]子、先ノトガリタルききやう笠ヲ[illegible]セテ、[illegible]」（正保）「咲ク花ノ、露ヲヤ結バヘ、桔梗笠」

ききやうしき（名）［歸敬式］ 一向宗ニテ、其宗旨ニ歸敬シタル者ニスル儀式、かうぞりヲ行フ。

ぎきやうだい（名）［義兄弟］ 兄弟分。ケイテイ。兄分、弟分、又、相[illegible]同志[illegible]

ききやく（名）［聞役］ 聞番ノ條ヲ見ヨ。

ききやく（名）［棄却］ 棄ツルコト。[illegible]

ぎぎやく（名）[illegible] [illegible]ハムレ。[illegible]

ききよ（名）［起居］（一）タチキ。フルマヒ。[illegible]

送ニ李愿ニ序「起居無レ時、惟適之安」(二)動靜。安否。漢武内傳「比來起居何如」司馬光、書儀「伏惟、某位尊體、起居萬福」「起居ヲ問フ」

き-きょ (名) [箕踞] 「兩脚ヲ開クコト、箕ノ形ノ如シ」 兩足ヲ前ヘ投ゲ出シテ、尻ヲ地ニツケテ坐ルコト。莊子、至樂篇「莊子則方箕踞、鼓レ盆而歌」史記、刺客傳「倚レ柱而笑、箕踞以罵」

き-ぎょ (名) [綺語] 巧ミテ飾レル言語。佛經ニ、十惡ノ一トス。綺語。 大藏法數「綺語者、謂下乖二背眞實一、巧飾二言辭一、令中人好樂上也」無量壽經「兩舌惡口、妄言綺語」 韓愈詩「綺語逃二晴雪一」「狂言綺語」

き-ぎょ (名) [歸御] 歸リタマフコト。 盛衰記、三十二、法皇自二天台山一還御事「國母、定有二歸御之志一歟」(天台山ハ比叡山)

ぎ-きょ (名) [義擧] 義ノ爲ニ、事ヲ起スコト。義ノ爲ニスルオコナヒ。 温子昇、赦詔「適逢際會、願參二義擧一」

き-きょく (名) [棊局] 棊盤。又、將棋盤。 晉書、天文志「天員如二張蓋一、地方如二棊局一」

ぎ-きょく (名) [戲曲] 芝居ノ筋書。 輟耕錄、廿五、院本名目「唐有二傳奇一、宋有二戲曲一、唱諢詞說、金有二院本雜劇一、諸公調院本雜劇、其實一也」

き-きょらい (句) [歸去來] かへんなむいざノ條ヲ見ヨ。

き-ぎれ (名) [木切] 材木ノキレハシ。キノハシ。木片

〜**ききわ・く**・ク・ケ・カ・キ・ケ (他動、四) [聞分] 次條ノ語ノ(一)ニ同ジ。 古今集、一、春、上「春ヤ疾キ、花ヤ遲キト、ききわかむ」

ききわ・く・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ (他動、下二) [聞分] (一)區別シテ、聞キ取ル。 狂言記、長光「目代殿ナラバ、云云、此ノ盜人メガ、云云、私ヲ盜人ヂャト申シマスル程ニ、聞わけテ下サレマセイ」「理非ヲききわく」(二)聞キテ、解ス。語ルル事ヲ肯フ。納得ス。聽從。 新千載集、九、釋教「聞き分くる、心ノ内ノ、誠コソ、敎ニヨラヌ、悟リナリケレ」「意見ヲききわけテ」

ききわけ (名) [聞分] 聞キワクルコト。得心スルコト。 狂言記、老武者「是非トモ盃サシテタモレ、ハテ、聞わけノ無イ、ドウデモ、今ハナラヌ」丹波與作(寶永、近松作)上「子ハ、生レツキ賢クテ、聞分有ル程、猶泣入」

〜**ききわた・る**・ル・レ・ラ・リ・レ (他動、四) [聞渡] 聞キツヅクル。聞キテノミ居ル。 萬葉集、十一、廿八「天雲ノ、八重雲隱リ、鳴雷ノ、(序)音ニノミヤモ、聞度リナム」古今集、十二、戀、二「越エヌ間ハ、吉野ノ山ノ、櫻花、人傳ニノミ、ききわたるカナ」

きく (名) [菊] 〔我ガ固有ノ種ハ、古名、かはらよもぎ、今云フ、野菊ニテ、盛ンニ賞翫スルモノハ、支那種ナリ、サレバ、字音ニ菊ト云フ、渡來ハ、奈良朝ノ末ナルベク、延暦ノ大御歌ナルヲ、初見トス〕(一)草ノ名、人ノ知ル所ナリ。多ク、庭際ニ植エテ、花ヲ賞ス、春、宿根ヨリ生ズ、嫩葉ハ煠デテ食フベシ、夏ニ至リテ、根ヲ分チ植エテ、秋深ケテ開クモノヲ最トス、花ノ色、黃、白ヲ本色トスレド、雜色ノモノ種種ニシテ、單瓣、重瓣、及、莖、葉ノ異種、等、種類極メテ多シ。異名、オキナグサ、ヨハヒグサ、コガネグサ、アキシベノハナ、ナド、尙多シ。 禮記、月令篇「季秋之月、云云、鞠(菊ノ音通)有二黃華一」 懷風藻、境部王(天武皇子)秋夜宴二山池一詩「對レ峯傾二菊酒一」(コレハ、漢詩ノ襲用ナリ) 類聚國史、七十五、曲宴、延暦十六年十月、御製「コノ頃ノ、時雨ノ雨ニ、菊ノ花、散リゾシヌベキ、アタラ其香ヲ」 倭名抄、二十「菊、俗如二本音一呼」 六帖、六「古里(平城)ヲ、別レテ咲ケル、菊ノ花、たひらか(平安城)ニコソ、匂ベラナレ」後水尾天皇御製「たらの葉(萬葉集ノ、えらび)ニ漏レシ、菊ノ花、殘レル梅ノ、恨ミヤハアル」(萬葉集ニ菊ナク、楚辭ニ梅ナシ) (二)菊ノ花ヲ、模樣、織紋ニアラハシタルモノ。此織紋ノモノ、皇室ノ御紋章トナル。きくきりノ條ヲ見ヨ。 宇津保物語、俊蔭、七十「きくノ摺裳」 (三)菊襲ノ條ヲ見ヨ。

き-く (名) [起句] 絕句ノ四句ノ詩ノ、第一句ノ稱。其第二ノ句ヲ承句ト云ヒ、最モ末ナルヲ結句ト云ヒ、皆、句ノ末ニ、同ジ韻ノ字ヲ履ム。第三句ヲ轉句ト云ヒ、常ニハ、其末ニ韻字ヲ履マズ。 滄浪詩話「起句好尤難レ得」 范德機詩法「作詩有二四法一、起要二平直一、承要二舂容一、轉要二變化一、合要二淵水一」

き-く (名) [規矩] 〔孟子、離婁、上篇、疏「規所二以圓一也、矩、所二以方一也」〕(一)ぶんまはしト、まがりがねト。 淮南子、說林訓「非二規矩一、不レ能レ定二方圓一」 孟子、離婁、上篇「以二規矩準繩一、以爲二方員平直一」 運步色葉集「規矩」 (二)ノリ。オキテ。サダメ。

〜**き・く**・ク・ケ・カ・キ・ケ (自動、四) [利] 用キニ叶フ。働キヲナス。效アリ。行ハル。 效 枕草子、八、羨しきもの「雙六打ツニ、敵ノ賽ききタル」「藥ガきく」釘ガきく」氣ガきく」異見ガきく」手ガきく」目ガきく」酢ガきく」 他動ニ用キテ、口ヲきくト云フハ、言語ヲハタラカス、卽チ、物言フ意ナリ。 榮花物語、七、鳥邊野「口モきかネバ、エ書キモツヅケズ」

き・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (自動、四) [聞] 〔次條ノ語ヨリ移ル〕 準フ。倣ハシム。 準 「廣サヲ柱ニきいテ、戸ヲ作ル」

き・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (他動、四) [聞聽] (一)〔聲ヲ耳ニ承ケテ、知ル。 萬葉集、十一「今往キテ、聞クモノニモガ、明日香川、春雨フリテ、瀧津瀨ノ音ヲ」 (二)〔問フ。タヅヌ。質ス。 質 源、二、帚木「心トドメテモ聞ききけウシ」 (三)〔肯フ。承引ク。聽ス。納得ス。承知ス。 聽可 古事記、上「吾言不レ聞二汝等之言一」 枕草子、四、四十四段「ソレヲ制シテ、きかザラム者ハ、事ノ由ヲ申セ」「願ヲ聽く」異見ヲ聽く」仲裁ヲ聽く」 (四)アツカヒ、サバク。處理ス。 狂言記、內沙汰「公事、云云、誰ヲ頼ウデ、きいテモラハウノ」「訟ヲ聽く」政ヲ聽く」

き・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (他動、四) [聞] 〔聞香ヲ、香ヲかぐト讀ムベキヲ、きくト、文字讀ニ誤リ讀ミタル語ナリト云フ、然ルニ、聽覺ト嗅覺ト通ズルニヤ、今昔物語、十四ニ、自動ニ「丁子ノ香、ハヤウきこえ」トアリ、參考トス〕 (一)齅ギ試ミル。(香ニ云フ) 聞香 文選、思玄賦「播二余香一而莫レ聞」 無量壽經、上「見レ色聞レ香」 舊、今昔物語、三十、第一語「鼻ニアテテ聞ケバ、云云、黑方(薰物)ノ香ニテアリ」 槐記、享保九年十一月廿四日「古キ朗詠集ナドニ、聞香ノ字ハ、昔ヨリ古キ點付ノ好本ニハ聞レ香ト付ケタリ」「香ヲきく」 (二)轉ジテ、味ヒ試ミル。 狂言記、伯母酒「ヨイ酒カ、惡シイ酒カ、私ガきいテミネバナリマスマイ」「醬油ヲきく」きき酒」

き-ぐ (名) [木具] (一)木ニテ製スル、種種ノ什具ノ稱。(さしものヨリハ、粗ナルヲ云フ) (二)膳ノ名、さんばう(三方)ノ條ヲ見ヨ。 寬文三年九月、町觸「杉折、杉重、杉木具、杉臺、檜重、右五種ノ分、諸大名衆ヨリ、誂ヘ申サレ候トモ、仕間敷事」(嬉遊笑覽、二)

き-ぐ (名) [器具] ウツハモノ。道具。 宋史、李宗諤傳「修二完器具一」

ぎ-く (名) [疑懼] 疑ヒ、オソルルコト。危ムコト。狐疑。 温庭筠詩「激揚銜レ箭虎、疑懼レ冰狐」「疑懼ノ念ヲ抱ク」

きく-あはせ (名) [菊合] 物合ノ一。菊花ト歌トヲ以テスルモノ。 新拾遺集、五、秋、

下 [illegible]

きく-いく (名) 鞠育 〔揚子方言「鞠、養也、陳楚韓之間、曰鞠」〕 ヤシナヒ、ソダツルコト。養育。[illegible]

きく-いただき (名) 菊戴 鳥ノ名。形、めじろニ似テ、背、翅、青緑ナリ。頂ニ、黄毛ノ菊花ノ形シタルヲ戴ク、眉ノ邊ニ黒キ筋アリ。翅ノ端ト尾トハ黒ク、腰、黄ニ、喉、白ク、嘴、灰白ニ、脚、灰黒ナリ。秋渡リ来リ、好ミテ、杉ノ實ヲ食フ。戴野鳥 [illegible]「ヤクイタダキ」

きく-いちもんじ (名) 菊一文字 (一)きくづくりのたちノ條ヲ見ヨ。(二)菊花ノ培養法ニ、花瓣ヲ大キクシ、十六瓣ニ作ルモノ。

き-ぐう (名) 寄寓 ヤドルコト。カリズマヒ。僑居 [illegible]

き-ぐう (名) 奇偶 奇數ト、偶數ト。調ト、不調ト。[illegible]

き-ぐう (名) 奇遇 圖ラザルニ、出會スコト。奇遇 [illegible]

きく-がさね (名) 菊襲 襲ノ色目ノ名。表ハ白ニ、裏ハ蘇芳ナルモノ。秋冬ノ交ノ用トス。略シテ、きく。又、黄菊、白菊アリ、各條ヲ見ヨ。[illegible]

きく-がさね (名) 菊重 兜ノ菊座。八幡座。

きく-ガラくさ (名) 菊唐草 (一)織物ノ模様ニ、菊花ヲ、唐草模様ニシタルモノ。[illegible] (二)草ノ名。[illegible] ノ異名。

き-くぎ (名) 木釘 木ニテ作レル釘。[illegible] 釘、竹釘ナドニ對ス) [illegible] 也、岐久岐」

きく-きく-と (副) 迫マラレテ、苦シム狀ニ云フ語。[illegible]

きく-きゅう (副) 鞠躬 愼ミテ、身ヲ屈メアルク狀ニ云フ語。[illegible]

きく-きり (名) 菊桐 皇室ノ御紋章。十六瓣ノ菊花ヲ、正面ニ見タル象ト、五七ノ桐トナリ。[illegible] 御袍ノ織紋ニ起ルト云フ、源平時代ヨリ、御幕ニ、此二ツヲ附ケラレタリトゾ。[illegible]

きく-くゎ (名) 菊花 (一)キクノハナ。[illegible] (二)薫物ノ名。菊花ノ香ニ擬シタルモノ。菊ノ露。[illegible]

きくくゎ-しゃう (名) 菊花章 くんしゃう(勳章)ノ條ヲ見ヨ。

きく-げつ (名) 菊月 キクヅキ。陰暦、九月。[illegible]

きく-[illegible] (名) [illegible]

きく-ざ (名) 菊座 [illegible]

きく-さく (名) 菊作 きくづくりのたちノ條ヲ見ヨ。

きく-ざけ (名) 菊酒 加賀ノ白山ノ菊谷ヨリ流レ出ヅル、手取川ノ水ニテ釀ス、此澤ノ兩岸、一面ニ、黄菊アリト云フ。加賀國、金澤ノ南、[illegible] ノ米屋ト云フ酒屋ヨリ賣リ出セル、銘酒ノ名。[illegible]

きく-じどう (名) 菊慈童 支那、三代ノ周ノ穆王ノ寵童ノ名。小過アリテ、南陽酈縣ニ謫セラレ、其地ノ菊水ヲ飲ミテ、不老不死ナリト云フ。常ニ繪ニ、其像ヲ圖セラル。(菊水ノ條ノ(一)ヲ見ヨ)

きく・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ (他動)(左變) 掬 ムスブ。スクヒトル。[illegible]

きく-すい (名) 菊吸 蟲ノ名。大キサ二分許、色黒ク、頸ノ邊ハ、稍、黄ニシテ、美ナリ。常ニハ、多ク、菊ノ根ノ土中ニ蟄ミ、清明ノ後ヨリ出デテ、好ミテ、菊ノ葉ヲ食フ。菊虎 菊牛 大和本草、十五、小鳥 菊吸「ウグヒスニ似タル小鳥ナリ」

き-ぐすり (名) 生藥 藥品ノ、未ダ製セズ、刻マザルモノノ稱。

きぐすり-や (名) 生藥屋 [illegible]

きく-すゐ (名) 菊水 (一)支那ノ南陽酈縣、甘谷ノ水。谷上ニ菊アリ、花、水ニ落チテ、[illegible] 飲ミテ長壽ヲ保ツト云フ。菊慈童ノ事、又、菊ニ、延年ノ名アルコト、[illegible] ト云ヒ、菊ノきせわたニテ顔ヲ拭ヘバ、老イズナド云フモ、コレニ起ル。抱朴子、内篇 [illegible] (二)紋所ノ名。半輪ノ菊花ノ下ニ、流水ノ象ヲ圖ス。楠木氏ノ紋章ナリ。[illegible]「菊水ノ旗」

きく-たずり (名) 菊多摺 [illegible] 模様ノ小紋ノ一種。[illegible]

き-ぐち (名) 木口 大工ノ語。木品ニ同ジ。

きく-ぢん (名) 麴塵 〔和漢朗詠集、註(寛文、季吟)〕「麴塵トハ、黄ナル色ナリ、云云、麴ノちりハ、黄ナルモノナレバ、黄色ヲ、麴塵ト云フ也 [illegible] はふにノ例ナリ〕 (二)色ノ名。もえぎノ、黄バミタルモノ。[illegible]

麿ニ」白氏文集、十三、代書詩一百首「答攢ニ石緑點、柳宛ノ麹塵絲ニ」若葉ノ色　天治字鏡、十二、廿九「麹塵、黄緑」字類抄「麹塵、キクヂン」西宮記、臨時、九、爲明源氏加冠「服ニ麹塵袍ニ」同、二、殿上賭弓「前方、麹塵袍」平家物語、一、御輿振事、渡邊長七唱　其日ノ装束ニハ、きちんノ直垂ニ、小櫻ヲ黄ニカヘシタル鎧着テ」吾妻鏡、十、建久元年十二月三日、御調度懸前右馬允時經「麹塵水干袴、立烏帽」太平記、二、唐崎濱合戰事「年十五六バカリナル小兒ノ、髪、唐輪ニアゲタルガ、麹塵ノ胴丸ニ、大口ノ稜高ク取リ」後松日記(松岡行義)十八、裝束抄、永享九年九月「大帷、麹塵色ノ袴、麹塵ハ、經、青、緯、黄絲ニテ織リタルヲ中シ候、云云、青朽葉ノさしぬきハ、則、麹塵ノさしぬきニ御座候」(二)至尊ノ麹塵ノ御袍ト云フハ、山鳩色、青色トモ云ヒテ、竹、桐、鳳凰ナドノ文アリテ、臣下、服スルコトヲ得ズ。但シ、近侍ノ臣ニテ、賜ハレルハ着ルナリ。(青色袍ノ條ヲ參見セヨ)　禁祕御抄、上、御裝束「文、竹、桐」西三條裝束抄「桐、竹、鳳凰」江家次第、六、石清水臨時祭「出御、麹塵袍」同、八、相撲召合「御ニ南殿ニ云云、麹塵」侍中群要、八「藏人奏ニ事由ニ之後、著ニ麹塵袍ニ向ニ其人參入之陣ニ」

〜**きぐつ** (名) 木履 木造ノ履。(革履ナドニ對ス) 字鏡 卌四「屐、木久豆」倭名抄、十二、卅二「木屐、紀具都」

きくづき (名) 菊月 陰暦、九月ノ異名。運歩色葉集「菊月」孕常盤(寶永、近松作)三「菊月ノ今日ヲ嘉例ト」

きくづくり (名) 菊作 (一)菊ヲ培養スル者。蕪村句「菊作リ、汝ハ菊ノ、奴カナ」(二)次條ヲ見ヨ。

きくづくりのたち (名) 菊作太刀 刀ノ中心ニ、菊花ノ章ヲ、銘ニ切リタルモノ。後鳥羽天皇、刀工、備前福岡ノ則宗等數人ヲ召シテ、院内ニ、月番ヲ定メテ、鍛ヒサセタマヒ、親シク燒刃ヲアソバ

シタリ、菊の御作、菊作、御所鍛ナドトモ云フ。則宗ノ子、助宗、銘ニ一ノ字ヲ加ヘテ切リ、菊一文字トモ云フトゾ。尺素往來「後鳥羽院番鍛冶、御製作者、以ニ菊爲ニ名」別所長治記、神吉城攻「重代ノ打物、備前菊一文字則宗、二尺九寸アリケルヲ」

きくと (副) 崎嶇 (一)山路ナドノ、高ク低ク、折レ曲リタル狀ニ云フ語。サククミテ。潘岳、西征賦「軌崎嶇以低仰」「坂路崎嶇トシテ」(二)世事ニ、艱難多キニモ譬ヘテ云フ。史記、燕世家「崎ニ嶇強國之閒ニ」「世路崎嶇たり」

きくとうだい (名) 菊燈臺 燈臺ノ臺座ヲ、菊形ニ彫リタルモノ、多クハ、黒漆ニテ塗ル。茶道筌蹄、四、燈燭器「菊燈臺、云云、黄グスリ、菊ノ形ナリ」

きくとぢ (名) 菊綴 〔縫目ノ綻ブヲ防ガムガタメニ、綴ぢツケタルモノナルガ、後ニハ、裝飾ノモノトナレリ〕水干、長絹、直垂、素襖ナドノ縫目ニ、組緒ヲ綴ヂ付ケ、縮ネテ、推シヒラメテ、菊花ノ如クシタルモノ。素襖ニハ、紋ノ上ニ、細ソキ革ヲ結ビテ附ク。盛衰記、十一、靜憲與ニ入道ニ問答事「滋目結ノ直垂ニ、菊綴シテ」

きくな (名) 菊菜 しゅんぎくニ同ジ。

きくならく (名) 聞說 〔聞くなるノ延、いはく(曰)ノ條ヲ見ヨ〕聞キ及ビタルヤウ。唐詩選、孟浩然、洛陽訪ニ袁拾遺ニ不レ遇詩「洛陽訪ニ才子ニ江嶺作ニ流人ニ聞說梅花早、何ニ如此地春ニ」(大庾嶺ノ梅ヲ云フ、五嶺ノ條ヲ見ヨ)

きくのえ (名) 菊宴 次條ヲ見ヨ。

〜**きくのえん** (名) 菊宴 〔きくのえト云フハ、約メテ云フナリ、花のえト云フ語モアリ(垣下、えが。厭舞、えぶ)〕陰暦

九月九日、重陽節ニ行ハルル觀菊ノ御酒宴、酒盃ニ、菊花ヲ浮ベテ飲ム。きくのえトモ云フ。故障アル時ハ、翌月ニ行ハル、コレヲ、殘菊の宴ト云フ。公事根源、十月、殘菊宴「昔、菊花えんハ、九月九日ニテ、又、殘菊のえんトテ、十月五日ニ行ハレシ也、コレモ、群臣、詩ヲ賦シ、酒ヲ賜フコト、重陽ニ同ジ」年中行事故實考、十一、十月、殘菊宴「菊花ハ、九月九日ヲ節トスル故、重陽過ギヌレバ、殘菊ト云フナリ」宇津保物語、菊宴ニ「霜月ノ朔日頃、のこれるきくのえむ、聞シ召シケルニ」躬恒集「延喜十八年十月九日、更衣タチ、菊の宴シタマフ」清正集「十月十四日、壺ノ前栽ノ菊のえニ」(歌)

きくのが (名) 菊賀 菊花ノ頃ノ算賀。兼輔集「藤壺ニテ、菊の賀、帝ノセサセタマヒケルニ」同「神無月ニツアル年、御前ノ菊の賀ニ」

きくのきせわた (名) 菊被綿 きせわたノ條ヲ見ヨ。

きくのごさく (名) 菊御作 きくづくりのたちヲ見ヨ。

きくのせっく (名) 菊節句 九月九日ノ節句。重陽。俳諧歳時記、九月「菊の節句、栗の節句、本邦ノ俗、九月九日、親戚朋友、迭ニ相贈ルニ、栗ヲ以シ、菊花酒ヲ飲ム故ニ、菊の節句トモ、マタ、栗の節句トモ云ヒ習ハセリ」

きくのま (名) 菊間 〔襖ニ、籬ノ菊ヲヱガキテアリ〕德川幕府、江戸城中ノ大名ノ詰所ノ名。等級ハ、雁の間ノ次ニテ、最末席ナリ、無城ノ譜代大名、詰ム。

きくのわた (名) 菊綿 きせわたノ條ヲ見ヨ。

きくばん (名) 菊版 〔小菊ト云フ紙ノ大キサニ寄ル名ナリト云ヒ、或ハ、十六瓣ノ菊ニ寄セテ稱スルナリトモ云フ〕西洋綴ノ書籍ノ製本ニ云フ語、竪二尺

一寸、横三尺一寸ノ西洋紙ヲ、十六ニ折ル大キサナリ、製シテ、凡ソ、七寸五分、五寸二分トナル。(四六版ヲ併セ見ヨ)

きくばり (名) 氣配 遍ク、心ヲツクルコト。氣配。

きくびし (名) 菊菱 紋所ノ名。二輪ノ半輪ノ菊花ノ瓣端ヲ、上下向ヒ合セテ、菱形ニシタルモノ。

きくひむし (名) 木食蟲 古名、ノムシ。諸樹ノ幹ノ中ニ生ジ、内ヨリ木ヲ食フ、種類多シ、形、いもむしノ如シ、樹ニ因リテ異ナリ、後ニ、皆、羽化シテ、かみきりむし、かぶとむしナドトナル。木蠹蟲

きくみ (名) 菊見 培養セル菊ノ花ヲ見テ、其形色ヲ賞スルコト。觀菊　蟬丸(元祿、近松作)一「菊見ノ御遊」

きくみ (名) 菊味 料理菊ノ生花ヲユデテ、三盃醋ナドニ浸シタルモノ。

きぐみ (名) 木組 大工ノ語、材木ヲ切リ削リテ、建ツベキ下組ヲスルコト。

きぐみ (名) 氣組 ココロガマヘ。イキグミ。キゴミ。氣勢

きくん (代) 貴君 對稱ノ代名詞、同輩以上ニ用キル。アナタ。

ぎくんし (名) 僞君子 僞リテ、君子ラシキ擧動ヲスル人。丹鉛總錄「蓋眞小人、其名不レ美、其肆レ惡有レ限、僞君子則、既竊ニ美名ニ而其流レ惡無レ窮矣」

ぎぐんじ (名) 擬郡司 郡司ノ候補者。國司、人物ヲ選ミテ、郡司ニ任ゼムトスル時、式部省ニ上申スルナリ。

きくめいし (名) 菊目石 (一)珊瑚ノ類、

海中ニ在ル[illegible]ノ如クニシテ、色、淡黑ク、大小、一ナラズ、[illegible]ニ小ナル菊花ノ紋、並ビツケリ。キクメイセキ。紋ノ大ナルヲ[illegible]トイフ。[illegible]「横山の井(寛文)二菊目石ノ、花ト植エテヤ、雪ノ下」(二)[illegible]

きくめい-せき (名) [菊銘石] 前條ノ(一)ニ同ジ。

きぐ-や (名) [木具屋] 木具ヲ造ルヲ業トスル工匠。

きぐ-らう (名) [氣苦勞] キノカヒ。キガネ。[illegible]「[illegible]苦勞ノアル顏色ヂヤ」

きくらげ (名) [木耳] 〔食味、乾シタル水母ニ似テ、樹ニ生ズ〕古名、キノミミ。今、又、ミミタケ。菌ノ類。山中ノ諸樹ニ生ズ、形、人ノ耳ノ如クニシテ、薄クシテ、反リ、多ク重リテ生ズ、生ナルハ柔カニシテ、色、淡[illegible]ナリ、乾セバ[illegible]黑ク、背、[illegible]ナリ、煮テ食フベシ、味、淡[illegible]ニシテ、嚼メバ聲アリ、サレド[illegible]ニ因リテ、[illegible]テナリ、桑、槐、楮、榆、[illegible]にはさむナドニ生ズルモノ、佳シ。

きぐらゐ (名) [氣位] ココロモチ。ココロイキ。キモチ。氣字 氣品 「貧乏シテモ、きぐらゐハ高イ」

〔きぐるま (名) [轜車] 〔棺車ノ義〕 葬送ニ、棺ヲ載スル車。又、ヒトキクルマ。親王四品以上、一位、及、大臣ニ用ヰシメラレタリ。[illegible]

きくゎ (名) [鬼火] 〔淮南子、注「兵死之血爲鬼火」〕 オニビ。[illegible]キツネビ。燐火。[illegible]

きくゎ (名) [奇禍] 〔奇福ニ對ス〕思ヒモヨラヌワザハヒ。[illegible]ナル不幸。災厄。[illegible]

きくゎ (名) [歸化] マウ、オモムクコト。外國人ノ、歸順シテ、此國ノ民籍ニ入ルコト。[illegible]

きくゎ (名) [氣化] 液體ガ、化シテ、氣體ニ變ズルコト。

きぐゎ (名) [歸臥] 官職ヲ辭シ、故郷ニ歸リテ、生ヲ送ルコト。李山甫詩「歸二臥東林一[illegible]」

きくゎい (名) [奇怪] (一)圖リガタク、怪シムベキコト。フシギ。[illegible]色ハナクテ、マコトニきくゎいナリトゾ仰セラレケル」(二)法ニ外レタルコト。不埒。音便ニ、きっくゎい。違法 平家物語、五、文覺被流事[illegible]入道入寺事「門前ヲ、下馬モセデ通リハベル、きくゎいニ覺ユレバ、追掛テ討チ留メナム」著聞集、十七、變化「きっくゎいノ奴カナ」

きくゎい (名) [機會] ヲリ。シホ。マアヒ。ハノミ。キカケ。[illegible]ニ乘ズ」[illegible]ヲ失フ」

ぎくゎい (名) [議會] (一)政務上ノ議案ヲ議決セムガ爲ノ、議員ノ集會。帝國議會、府縣會、市町村會ナド、是レナリ。(二)帝國議會ノ略稱。

きくゎい-きん-とう (名) [機會均等] [illegible] 一國ノ權利上ニ、一國ノ[illegible]、權利ヲ、他ノ列國ニモ、一樣ナラシムルコト。

きくゎ-おく-べし (名) [奇貨可居] 奇貨ナル物ハ、買ヒテ、藏メ置クベシ。後ノ利[illegible]ヲ待ツベキナリ。[illegible]財貨ニ方ベテ云ヒシナリ」

きぐゎし (名) [木菓子] 〔唐菓子ト別タムタメノ名〕果物。コノミ。江家次第、十七、[illegible]

きくわた (名) [菊綿] きせわたノ條ヲ見ヨ。

きくわた (名) [菊綿] [illegible]ノ、菊花ニ似タルモノ。食フベシ。

きくゎん (名) [奇觀] 奇シキ觀。楊萬里詩[illegible]

きくゎん (名) [機關] (一)活動ノ機軸ヲ施シタル器械。カラクリ。[illegible](二)[illegible]行動ノ目的ヲ達セムガ爲ニ設ケタルモノ。[illegible]

きくゎん (名) [氣管] 動物ノ、氣ヲ通ズル管。鼻口ヨリ、喉ノ中ヲ下リ、胸ノ内ニテ、二ツノ支ニ分レ、左右ノ肺ニ入ル。其支ヲ、氣管支ト云フ。

きくゎん (名) [器官] 生物ノ、生活作用ヲナスモノ。[illegible]

きくゎん (名) [貴官] 官吏ニ對スル敬稱。[illegible]

〔きぐゎん (名) [祈願] 願ヲ懸クルコト。[illegible]「[illegible]ノ害ナキ事ヲ、きぐゎんせさせ給ヘ」

きくゎん-ざつし (名) [機關雜誌] 機關ノ[illegible]

きくゎん-し (名) [機關士] 汽車、汽船ノ蒸氣機關ヲアツカフ職員。

きくゎん-し (名) [氣管支] きくゎん(氣管)ノ條ヲ見ヨ。

きくゎんし-カタル (名) [氣管支加答兒] 病ノ名、氣管支ニ加答兒ヲ發セシモノ。[illegible]

きくゎん-しんぶん (名) [機關新聞] 機關ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。

きくゎん-しゃ (名) [機關車] 蒸氣ノ機關ヲ[illegible]シ、ケタル車。鐵道ノ上ニ、客車、貨車ヲ牽キテ走ルモノ。

きくゎん-しゅ (名) [機關手] 蒸氣ノ機關ヲ運轉スル事ヲ掌ル人。

きくゎん-じゅう (名) [機關銃] [illegible]條ヲ見ヨ。

きぐゎん-しょ (名) [祈願所] 特ニ、祈願ノ事ヲ託スル社寺。[illegible]

きくゎん-はう (名) [機關砲] 大砲ノ尾ニ、裝置アリテ、自動ニ、彈丸ヲ連續發射セシムルモノ。一分間ニ、六百、乃至、七百發ス。口徑ノ小ナルヲ、機關銃ト云フ。

ぎ-げ (名) [義解] 文字、言語ノ意義ヲ解クコト。意味ヲ說キアカスコト。多ク、書名ナドニ用キル語ナリ。宋史、王雱傳「作二老子訓傳、及、佛書義解一」「令義解」

き-けい (名) [氣形] 〔文子、守弱篇「形者、生之舍也、氣者、生之元也」〕イキモノ。動物。下學集、上「氣形門」

き-けい (名) [畸形] 〔集韻「畸、異也」〕カタハ。不具。

き-けい (名) [詭計] イツハリノ計策。晉書、羊祜傳「吳石城守、去二襄陽一七百餘里、每爲二邊害一祜患レ之、竟以二詭計一令二吳罷一レ守」

き-けい (名) [奇計] 妙ニシテ、測リ知ラレヌ計策。史記、陳丞相世家「凡六出二奇計一」「奇計ヲ運ラス」

き-けい (名) [奇警] 奇拔ニ同ジ。宋史、王珪傳「弱歲奇警、出レ語驚レ人」

き-けい (名) [機警] 機智アリテ、警拔ナルコト。氣轉ノキキタルコト。頓智アルコト。三國志、魏志、武帝紀「太祖少機警、有二權數一」

き-けい (代) [貴兄] 對稱ノ代名詞、文書ノ上ニテ、同輩ニ、敬語トシテ用キル。貴君。アナタ。

ぎ-けい (名) [義兄] 〔義ノ條ノ(熟語、第一)ヲ見ヨ〕(一)兄分。(二)姉ノ夫。又、妻ノ兄。

ぎ-けい (名) [儀刑][儀形] 則トスルコト。手本。模範。詩經、大雅、文王之什、文王篇「儀二刑文王一萬邦孚レ作」晉書、禮志「淑愼二儀形一永居二眉壽一」平家物語、一、鱸事「太政大臣ハ、一ジン二師範トシテ、四海ニ儀刑セリ」太平記、廿七、大嘗會事「諸家モ禮ヲ學ビ、和漢ノ驗ト仰ギテ、四海ノ儀形、人ニ恥ヂズ」

ぎ-けい (名) [議卿] ぎそう(議奏)ノ條ノ(一)ニ同ジ。吾妻鏡、六、文治二年六月九日「政道之事、殊可レ致二興行一之趣、附二議卿一令二奏聞一給了」

ぎ-げい (名) [技藝] ワザ。藝術。藝能。戰國策、趙策「異敏技藝之所レ試也」

ぎ-けいてい (名) [義兄弟] ぎきやうだいニ同ジ。

き-けう (名) [奇矯] 奇ヲ好ミテ、强ヒテ尋常ニ異ナルフルマヒヲスルコト。敖陶孫、詩評「鮑明遠如二饑鷹獨出一奇矯無レ前」

き-げき (名) [喜劇] 〔佛語、Comédie. 英語、Comedy. ノ譯語、悲劇ハ、佛語、Tragédie. 英語、Tragedy.〕演劇ニ、人ヲ笑ハシムル脚色ノモノ。道化芝居。泣カシムルヲ悲劇ト云フ。

き-げき (名) [詭激] 言行ノ、中庸ヲ失ヒテ、激シキコト。後漢書、周澤傳「當世疑二其詭激一」

き-けつ (名) [詭譎] 詐リテ、正シカラヌコト。アヤシキコト。不思議。班固、東都賦「瑰異詭譎、粲爛炳煥」邵雍文「凶也者、語言詭譎、動止陰險」

き-けつ (名) [剞劂] 〔楚辭、哀時命、註「剞、曲刀、劂、曲鑿」〕版木ヲ刻ルコト。版刻。楚辭、哀詩命「握二剞劂一而不レ用兮、操二規一而無レ所レ施」揚雄、甘泉賦「般倕棄二其剞劂一兮、王爾投二其鉤繩一」

き-けつ (名) [起結] (一)はじめト、をはりト。終始。(二)詩ノ、起句ト、結句ト。

き-けつ (名) [歸結] オチツキ。ヲサマリ。シマヒ。結着。

き-けつ (名) [既決] 事ノ、既ニ決定シタルコト。(未決ニ對ス)

き-げつ (名) [忌月] 忌日ノアル月。南史、張融傳「有二孝義一忌月三旬、不レ聽二樂事一」源、二十八、野分三「八月ハ、故前坊ノ御忌月ナレバ」

き-げつ (名) [期月] 豫メ、限リ定メタル月。又、滿一箇月。中庸、第八章「擇二乎中庸一而不レ能二期月守一也」

ぎ-けつ (名) [議決] 合議シテ、決定スルコト。決定シタルコト。漢書、酷吏傳「按レ劾廷二叱羣臣一卽日議決」

き-げふ (名) [機業] ハタオリノ事業。

き-げふ (名) [企業] 事業ヲ企ツルコト。仕事ヲ始ムルコト。「企業熱」

ぎ-けふ (名) [義俠] ヲトコギ。ヲトコダテ。容齋隨筆「行過レ人曰レ義、義士、義俠、義姑、義夫、義婦之類、是也」

き-けん (名) [貴顯] 身分貴ク、名高キコト。又、其人。南史、臧燾傳「雖二外戚貴顯一而彌自沖約、茅屋蔬餐、不レ改二其舊一」

き-けん (名) [危險] アヤフキコト。アブナキコト。韓非子、有度篇「外使二諸侯一內耗二其國一伺二其危險之陂一以恐二其主一」

き-けん (名) [奇驗] 不思議ニ、妙ナル驗。(神佛ノ靈驗、藥ノ功能ナド)劇談錄「吉凶屢有二奇驗一」

き-けん (名) [棄權] 自己ノ權利ヲ、棄テテ用キヌコト。

き-げん (名) [機嫌] 〔普通ニ、機嫌ト書ケド、譏嫌ナリ、人ノ氣受ノ意ニ轉ジテヨリ、機ヲ見ル意ニ移シテ、音通ノ字ヲ用キルナルベシ〕(一)人人、譏リ嫌フコト。譏嫌 後漢書、馬嚴傳「明德皇后旣立、嚴乃閉レ門自守、猶復慮レ致二譏嫌一遂徙二北地一斷二絕賓客一」佛敎ノ戒律ニ、譏嫌戒ト云フアリ、世ノ誹謗ヲ受クルガ如キ事ヲセザラシムルナリ。大乘起信論「當下護二譏嫌一不上レ令二衆生妄起二過罪一」楞嚴經「誹二謗比丘一罵二詈徒衆一訐二露人事一不レ避二譏嫌一」(二)人ノ譏嫌ヲ窺ヒ測ル意ニ轉ジテ、人ノ、內心ノ思ハク。人ノ、氣受ケ。意向 長門本、平家物語、十四「今一度、君ヲ見マヰラセムト存候テ、きげんヲ顧ミ候ハズ、推參仕テ候」十訓抄、中、第六、序「腹立チタル時、强ク制スレバ、イヨイヨ怒ル、云云、然レバ、譏嫌ヲ憚リテ、ヤハラカニ諫ムベシ」

き-げん (名) [紀元] 一國ノ年立ノ、第一ト數ヘ始ムル年。「神武天皇紀元」「耶蘇降生紀元」

き-げん (名) [起原] 事ノ、起レル原。オコリ。ハジマリ。

き-げん (名) [期限] 豫メ、限リ定メタル時。劉孝威詩「乘レ障無二期限一思レ歸安可レ論」

きげん-かい (名) [譏嫌戒] きげん(機嫌)ノ條ノ(一)ヲ見ヨ。

き-けん-じやう (名) [喜見城] 〔諸天人、遊戲シテ、喜び見る意ト云フ〕(一)佛經ニ、忉利天ノ主、帝釋天ノ居城。善見城。三界義「忉利天者、云云、住二蘇迷盧山頂一山頂有レ宮、名二善見城一亦名二喜見城一云云、是天帝釋所レ住也」太平記、二十五、自二伊勢一上二寶劒一事「大梵高臺ノ月、喜見城宮ノ花モ、見ルニ足ラズ」(二)蜃氣樓ノ異名。(越中、魚津)

きげん-せつ (名) [紀元節] 神武天皇ノ卽位セサセタマヒシ日ノ稱。賀節ト立テ

ラル、卽チ、年ノ二月十一日ナリ。

きけ-もの（名）[利者]〔利キ者ノ義〕キリモノ。權力、威勢アル人。キレモノ。パリパリモノ。ハバキキ。

き・ける・ケル・ケレ・ケ・ケヨ（自動、下二）〔利〕き得る意、"[illegible]"を得る、かける、讀み得る、よめる]ノ例）權威行ハル、ハバカキク。「中間デきける人」

き-ご（名）[綺語]　きぎ（綺語）ノ條ヲ見ヨ。

き-ご（名）[寄語]　コトヅテ。傳言。鮑照[illegible]

き-こう（名）[氣候]（一）氣ハ、十五日一期ノ稱、候ハ、五日一期ノ稱、一氣ニ、三候ニシテ、一年ニ、二十四氣、七十二候アリ。（二十四氣ノ條、見合スベシ）（二）空氣ノ變動、山海ノ形勢、等ヨリ生ジテ、其一地方ニ行ハルル寒熱、燥濕、晴雨、等ノ象。（三）時候。季候。[illegible]「氣候ハ山水合ニ清游ニ」

き-こう（名）[季候]〔季ノ條ヲ見ヨ〕時候ニ同ジ。

き-こう（名）[奇遘]　意外ノメグリアヒ。圖ラデ、出會フコト。奇遇。[illegible]不[illegible]同ニ奇遘ニ往ㇾ」

き-こう（代）[貴公]　對稱ノ代名詞。元來、尊長ニ稱セシニ、今ハ、稍、下輩ナルニ用ヰル。ソコモト。

き-こう-し（名）[貴公子]　貴族ノ子弟、子息。[illegible]

き-こう-ふう（名）[季候風]　季節風ニ同ジ。

きおえ（名）[聞]（一）キコユルコト。（二）〔聞傳フルコト。ウハサ。トリサタ。傳說〕伊勢物語、第五段「忍ビテ參リケルヲ、世ノきこえアリケレバ、兄タチノ、守ラセ給ヒケルトゾ」[illegible]、一、[illegible]先帝ノ四ノ宮ノ、御容貌レ給ヘルきこえ、高クオハシマス」

〔きおえ-お・つ・ツ・テ・タ・チ・テ（他動、四）[聞言]〔敬語ノきこゆノ條ヲ見ヨ、此語ハ、名詞ノ聞言ノ、末音ヲ活用セサセタルモノ、ひとりおつノ語原ヲ見ヨ〕言ふノ敬語。申ス。枕草子、五、五十段「[illegible]シカメリ、後メタキワザトきこえおつ人人モ、イトヲカシ」

きおえ-おと（名）[聞言]　申上グル口上。言上。（言ふノ敬語）

∴きお・える（動）[聞]　聞ゆノ口語。

き-おがんぴ（名）[黄小雁皮]　古名、ハマニレ。カニヒ。おがんぴノ一種。高サ三四尺、枝、葉、對生シ、秋、枝ノ頭每ニ、小サキ花ヲ對生シテ、四瓣ノ黄花ヲ開ク、其皮、雁皮紙、薄葉、等ヲ製スルニ、最モ佳シトス。[illegible]花

き-とく（名）[枳殼]　常ニ、からたちニ當ツルハ、誤レリ」灌木ノ名。韓種ニシテ、移シ植ウ、樹、葉、共ニ、柑ニ似テ、木ニ刺多シ、夏、白キ花ヲ開ク、赤、柑ノ花ニ似タリ、實ハ、柑ヨリ、肌、細カク、皮、厚シ、乾シテ藥用トス。オニモドリ。[illegible]

き-とく（名）[貴國]　他ノ國ヲ呼ブ敬語。[illegible]

き-とく（名）[歸國]　已ガ郷國へ歸ルコト。[illegible]

き-とく（名）[鬼哭]　鬼ノ條ヲ見ヨ。[illegible]

ぎ-ごく（名）[疑獄]　疑ハシクシテ、判決シ難キ裁判事件。[illegible]

き-おおち（名）[着心地]　着物ヲ着タル心モチ。キゴコロ。

き-おおろ（名）[着心]　前條ニ同ジ。[illegible]「小女[illegible]、近松作、下、小袖、云云、時ニ[illegible]テ合ウテコソ、云云、着心モヨク」

き-おおろ（名）[氣心]　氣性ト、心底ト。ココロイキ。「氣心ノ知レヌ人」

き-おし（名）[不興]　いたこしニ同ジ。

〔きおし-め・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）[聞召]〔きおす（他動）ト、めすトノ條ヲ見ヨ〕（一）聞くノ敬語。キコス。キコシヲス。聞キタマフ。[illegible]「[illegible]タマハムコト、きおしめせ」[illegible]ノ宮、きおしめしツケテ」（二）聞キ入レタマフ。聽シタマフ。[illegible]「[illegible]きおしめすトアレバ」（三）治む、食ふ、飲む、ナドノ敬語。キコシヲス。（食すノ條ヲ見ヨ）萬葉集、二十[illegible]長歌「伎己之米須、四方ノ國ヨリ、奉ル、貢ノ船ハ、云云」榮花物語、二十四、若枝[illegible]モきおしめさズ、今朝ダニ、ナホ、[illegible]テモ、スコシきおしめせ」

〔きおし-を・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）[聞食]〔聞すト、食すトノ條ヲ見ヨ〕前條ノ（三）ニ同ジ。[illegible]同、十八[illegible]長歌「スメロギノ、神ノミコトノ、伎己之乎

須、國ノマホラニ」

〔きお・す・ス・セ・サ・シ・セ（自動、四）[聞]〔聞かするノ轉ニテ、自動トナレルナルベシ〕物言ふノ敬語。[illegible]長歌「大君シ、[illegible]許佐バ」萬葉集、十二[illegible]

〔きお・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）[聞]〔敬語、きかすノ轉、さゞろかし、さゞろさし〕聞くノ敬語。キカス。[illegible]聞キタマフ。古事記、上[illegible]長歌「[illegible]アリト

ぎ-ごち-な・し[illegible]〔次次條ノ、きこつなしノ、濁音トナリシ語、[illegible]〕[illegible]

き-こつ（名）[氣骨]　[illegible]人ニ屈セザルコト。イキハリ。氣慨。[illegible]

きこつ-な・し・キ・ケレ・ク・ク（形、二）[不強]〔氣骨無しナルベシ、こちなしトモ云フ〕コチナシ。キゴハシ。キスグナリ。ブコツナリ。今、濁音ニ、きごちなし。[illegible]きこつなき狀ノ風情ニテ、[illegible]ヒタマヘ、トコソ申シツラメ」

き-おな・す[illegible]（他動、四）[着]　着テ、[illegible]

き-と-にち（名）[歸忌日]〔歸る物忌の日〕[illegible]コト[illegible]日ノ稱[illegible]拾抄、下、末、歸忌日「不ㇾ可ㇾ遠行歸家及移徙ㇾ」

き-こ-の-いきほひ[illegible]虎[illegible]

騎リテ走レバ、勢急ニシテ止メラレズ」事ヲ行フ眞盛ニ、中止スベカラザルコト。ユキガカリ。隋書、獨孤皇后傳「當二周宣帝崩一、高祖入居禁中一、總二百揆一、后使三人謂二高祖一曰、大事已然、騎虎之勢不レ可レ下、勉レ之」五代史、郭崇韜傳「騎レ虎者、勢不レ得レ下」

きごは (名) 木强 キゴハキコト。キスグナルコト。ジャウズヲツカハヌコト。ブコツ。今、濁音ニ、ぎごは。孟子抄(文明)三七三十「子路ガ性ハ、豪强ナ、正直ナ、きごはナ者ゾ」

ぎごは (名) 木强 〔前條ノ、きごはノ濁、きごつなし、ぎごちなし〕 前條ノ語ニ同ジ。

きごは・し・キ・ケレ・ク・ク(形、二) 木强 〔木强ノ文字讀カ、或ハ、氣强しカ〕 キコハツナシ。ブコツナリ。ギゴチナシ。キゴハナリ。字類抄「木强、キゴハシ」

ぎこぶん (名) 擬古文 古代ノ文體ニ擬ヘテ作レル文章。

きごみ (名) 氣込 氣ヲ籠ムルコト。精神ヲ入ルルコト。イキグミ。キグミ。氣勢

きごみ (名) 着籠 きごめ(着籠)ニ同ジ。其條ヲ見ヨ。

きこ・む・ム・メ・マ・ミ・メ(他動、四) 着籠 (一)衣ノ下ニ着ル。裹衣「鏈帷子ヲ着籠む」(二)衣ヲ多ク、重ネテ着ル。襲衣

きこ・む・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ(他動、下二) 着籠 衣ノ下ニ、籠メテ着ル。源、二十二、玉葛廿二「卯月ノ單メクモノ、きこめタマヘル髮ノ透影」

きこん (名) 氣根 機根 根ノ條ヲ見ヨ。

きごめ (名) 着籠 又、きごみ。衣ノ下ニ籠メテ着ル、腹卷、鏈帷子ナドノ稱。裹甲 義經記、一、遮那王殿馬出事「唐綾物ノ直垂召シ、敷妙ト云フ腹卷、きごめニシテ」甲陽軍鑑、一、品第三「打立タムト支度ヲシ、足袋、脛巾、物具ヲモ、其儘きごみニシ」

きごや (名) 木小屋 木屋。材木ヲ積ミオク小屋。ザイモクゴヤ。木廠

きこ・ゆ・ユル・ユレ・エ・エ・エヨ(自動、下二) 聞 〔聞くノ自動〕 (一)〔聲、耳ニ知ラル。萬葉集、十四、七十「ツムガ野ニ、鈴ガ音聞ユ、上志太ノ、殿ノ仲子シ、鳥狩スラシモ」(二)理、明カナリ。義通 徒然草、百七十五段「酒、云云、きこえヌ事ドモ云ヒツツ」「意味聞ゆ」「文義聞えズ」(三)〔遍ク、人ニ知ラル。傳播 雄略紀、二十三年八月、征新羅將軍吉備臣尾代ガ率キタル蝦夷ガ叛ケルヲ、討滅スル時ノ長歌「天ニコソ、枳擧曳ズアラメ、國ニハ、枳擧曳テナ」(其功烈、國ノ限リ聞キ知ラレナム)「世ニ聞えタル伎倆」

きこ・ゆ・ユル・ユレ・エ・エ・エヨ(他動、下二) 聞 〔きこゆるヤウニ申すノ意ヲ含ミタル語ナラム〕 (一)言ふノ敬語。申ス。源、二、帚木十四「思フ事、少シきこゆべキゾ」同、四十七、早蕨十九「何クレト、御物語きこえ交シタマヒテ」(二)待ち申す、迎へ申すナド云フト同意ニテ、自動ニ、助動詞ノ如ク用キ、敬意ヲ云フ語トナリテ、たてまつる、まゐらすノ意ヲナス。源、一、桐壺十一「疑ヒナキ儲君ト、世ニ、モテカシヅキきこゆれド」(カシヅキ申セド) 枕草子、五、五十段「イカヤウナルニカアルト、問ヒきこえサセタマヘバ」

きこり (名) 樵 キコルコト。山林ニ入リテ、薪、柴ヲ採ルコト。又、其事ヲ業トスル者。樵夫 名義抄、木部「樵、キコリ」

きこ・る・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) 樵 〔木伐ルノ義、きる(伐)ノ條ヲ見ヨ〕 木ヲ伐ル。樵ノ業ヲナス。天武紀、下、五年五月「莫レ樵二芻薪一」字類抄「樵、キコル」

きさ (名) 標 〔刻ノ義〕 木目ノ文。其板ヲ、きさの木ト云フ。倭名抄、廿、廿六「標、木文也、木佐」吏部王記、天曆四年七月七日「兒衣、襁、各五重、納二支佐木宮一合一」宇津保物語、吹上、下廿三「きさの木ニ、鐵ノ足ツケタル舟」

きさ (名) 象 〔標ノ義、初メ、象牙、渡來シ、牙ニ標アレバ、名トス、象牙ヲ、きさのきト云フ、卽チ、標の牙ナリ、牙ノ名ノ、獸名ニ移リタルハ、藥用ニ渡來セシうめぼしノ烏梅ノ、梅樹ノ名ニ移リタルト同趣ナルベシ、又、梵語ニ、象ヲ迦邪(Gaya.)ト云フトゾ〕 獸ノ名、今、字ノ音ニテ、象ト云フ、其條ヲ見ヨ。天智紀、十年十月「象牙」倭名抄、十八、廿三「象、岐佐」

きさ (名) 蚶 きさがひ、あかがひノ條ヲ見ヨ。

きざ (名) 段級 〔きだト通ズ、核、たね。塞ぐ、ふたぐ〕 きだニ同ジ。シナ。「段階」

❖**きざ** (名) 〔氣障ノ略、帶縛ヲおびしめ、場都合ヲばつ、ト云フ類ノ語〕 キザハリ。イヤニ思フコト。嫌惡 浮世風呂(文化、三馬)三編、上「オヤ、きざダナウ」假名文章娘節用(天保、曲山人)一、中「きざナ御客ダカラ、氣ニ入ラネエノカ」「きざナ奴」(東京)

きざ (名) 起坐 起座 起キ上リテ、坐ルコト。王褒、僮約「鼓四起坐、夜半益レ芻」盛衰記、三、澄憲祈レ雨事「威儀師覺俊、起座シテ、南ノ弘庇ニ出テ」

きざ (名) 危坐 正シク、座スルコト。正坐。史記、日者傳「獵レ纓正レ襟危坐」

きざ (名) 跪坐 跪キ、坐ルコト。韓愈詩「振レ衣造二雲闕一、跪坐陳二清獻一」

きざ (名) 箕坐 〔坐スルコトノ、箕ノ形ニ似タレバ云フ〕 兩足ヲ投ゲ出シテ坐スルコト。箕踞。王充、論衡「蹠佗箕倨、箕坐」

きざ (名) 歸座 元ノ座所ニ歸ルコト。太平記、二十一、佐佐木道譽流刑事「三社ノ神輿ヲ、御歸座成奉リテ」

きさい (名) 后 きさきノ音便、其條ヲ見ヨ。「きさいノ宮」「きさい腹」

きさい (名) 奇才 世ニ稀ナル才氣。スグレタル智慧。史記、周昌傳「年雖レ少、然奇才也」韓愈、贈二唐衢一詩「奈何君獨抱二奇才一、手把二鋤犂一餓二空谷一」

きさい (名) 鬼才 詩文ヲ作ルニ、措辭ノ奇怪ニシテ、氣韻ノ悽愴ナルニ云フ語。

きさい (名) 記載 シルシ、ノスルコト。書物ニ書キ上グルコト。

きさい (名) 起債 (一)金錢ヲカリルコト。漢書、谷永傳「爲レ人起レ債、分レ利受レ謝」(二)國家、又ハ、自治團體ニ於テ、公債ヲ募集スルコト。

きざい (名) 木材 材木ニ同ジ。

きざい (名) 器財 ウツハ。道具。器具

きさいち (名) 私市 次次條ヲ見ヨ。

きさいばら (名) 后腹 きさきばらノ音便。

きさいべ (名) 私部 〔后部ノ音便、漢書、張放傳「大官、私官」註「私官、皇后之官」後漢書、百官志「中宮、私官、令一人」ナドアルニ因リテ、后ニ、私ノ字ヲ用キタルカト云フ〕 皇后ノ奉爲ニ定メ置カレタル部ナラムト云フ。敏達紀、六年二月「置二私部一」釋紀「キサイベ」倭名抄、八十丹波國、何

閭巷「私[illegible]」私部ノ人人ノ地ニテ、其地ノ市場ヲ、きさい市ト云フヲ、きさいちト約メテ、私市部ナルヲ、地名ヲ二字ト スル制ニ因リテ、修シテ記スナラムト云フ、武藏國ノ七黨ノ中ニ、私市黨アリテ、其黨ヲ私黨ト云ヒキ。(今、[illegible]國ノ北埼玉郡ニ、騎西町アリ)

きさい-まち　(名)　[后町]　きさきまちノ音便、

き-さう　(名)　[奇想]　[illegible]

き-さう　(名)　[箕帚]　〔帚ハ、正シクハさうナリ、集韻「帚、止酉切」〕畚取ト、帚ト。[illegible]

き-さう　(名)　[起草]　草稿ヲ書キ始ムルコト。案文ヲ作ルコト。[illegible]

き-さう　(名)　[illegible]　[illegible]

き-さう　(名)　[illegible]　[illegible]

き-さう　(名)　[氣相]　きつさう(氣相)ノ條ヲ見ヨ。

ぎ-さう　(名)　[擬生]　もんざうきやう(文章生)ノ條ヲ見ヨ。

ぎ-さう　(名)　[義倉]　〔共同ノ米倉ノ意、義ノ倉ノ(義舍、第二)ヲ見ヨ〕民戸ノ稲ヲ貯ヘ置カシムル倉。[illegible]

ぎ-さう　(名)　[艤裝]　フナヨソホヒ。

ぎ-ざう　(名)　[僞造]　ぎさう(僞作)ニ同ジ。[illegible]

きさ-がき　(名)　[illegible]　きさはしのみ、かぐのみ。蓄息子、[illegible]ナドノ例[illegible] き(木猴柿)ニ同ジ。

きさ-がひ　(名)　[蚶貝]　〔刻介ノ義、殼ノ面ニ[illegible]ミアリ〕あかがひノ古名。[illegible]テ、きさトノミモ云フ。出雲國風土記、島根[illegible]

き-さき　(名)　[后]　[illegible]ノ略ナルベシ、(吾君、あぎ。稲置モ、稲君ナラム)君ノ名スハ、[illegible]天皇ノ御妻。スベテ御[illegible]ニ御スル方方ヲ申ス。古ヘハ、御妻ノ、數柱オハスル中ニ、特ニ最上ナルヲおほきさき(大后)ト申シキ、御チ、後ニ申ス、皇后ニオハシマス。音便ニ、きさい。[illegible]后ト申スヤウニナリテ後ハ、大御母ヲおほきさきト申ス、御チ、皇太后ニオハシマス。[illegible]

き-さき　(名)　[氣先]　人ノ氣ノ發スルトコロ。[illegible]

きさき-がね　(名)　[后候]　后ノ候ケ。[illegible]ノ條ヲ見ヨ。

きさ-きさ　(名)　[刻刻]　鋸目ノ刻ミ、又ハ、鋸ノ齒ノ如ク、犬牙ニ曲折シタルヲ云フ。[illegible]

きざ-きざ　(名)　[illegible]　前條ヲ見ヨ。

きさき-だち　(名)　[后立]　[illegible]ニ立チ[illegible]フコト。皇后ノ[illegible]。[illegible]マフ、云云、ヤガテ、后だちアリ」

きさき-の-みや　(名)　[后宮]　(一)后妃ノ御住所。後宮。[illegible]　(二)皇后。キサイノミヤ。

きさき-ばら　(名)　[后腹]　皇后ノ御腹ニ生レタマヘル皇子、皇女。音便ニ、きさいばら。[illegible]

きさき-べ　(名)　[私部]　きさいべ(私部)ノ條ヲ見ヨ。

きさき-まち　(名)　[后町]　〔元ト、皇后ノ[illegible]〕[illegible]

き-さく　(名)　[木杓]　[illegible]木造リノ柄杓。[illegible]

き-さく　(名)　[illegible]　[illegible]

き-さく　(名)　[氣賾]　〔氣ノさくいコトノ[illegible]〕[illegible]

きさ-ぐ・グル・グレ・ゲ・ゲ・ゲヨ(他動、下二)　[刮]　〔刻ヲ活用セシメタル語、(眉ぐる、[illegible]ぐる)[illegible]此轉ナリ〕カキケヅル。キソグ。コソゲ。[illegible]

ぎ-さく　(名)　[僞作]　似セテ作ルコト。[illegible]ヒノサリ。僞造。

き-ざくら　(名)　[黄櫻]　櫻ノ一種。花、[illegible]ルモノ、稀ニよぢれアリ。一名、カバザクラ。

き-ざけ　(名)　[生酒]　他ノ酒ヲ調ジ雜ゼヌ[illegible]

きさ-ご　(名)　[illegible]　[illegible]ノ子ニ同ジ」

古名、シタダミ。螺ノ類。海產ニシテ、形、蝸牛ニ似テ、厚ク堅ク、小サキハ、殼ニ、種種ナル美シキ彩文アリ、大ナルハ、灰色ニテ、彩文ナシ、殼ノ中ニ蟲アリ、やどかりノ如シ。キシャゴ。チシャゴ。ゼゼガヒ。ゼニガヒ。扁螺 易林節用集「扁螺、キサゴ」

きさご-はじき (名) 細螺彈 細螺ノ介殼ヲ、指先ニテ彈ク、小兒ノ遊戲。ハジキ。嬉遊笑覽、六、下「西鶴ガ二代男ニ、蓮房ノ下ノ、サザレ貝ノ、浦メヅラカニ、手ヅカラ玉拾フ業シテ、ママゴトノムカシヲ今ニ、はぢきトイフナドシテ遊ビヌ、貝ヲモ其所ニヨリ、有ニ任セテ用ヒシナルベシ、今江戸ニテハ、きさごはじきトイフモ、昔ヨリノ名ニテアルベシ、海近キ處ハ、貝類多クアレバナリ」

きさ-きさ (名) 蟣虱 〔背ニ刻刻アル意ニモアルカ、きはきは、きはは。たわたわ、たわわ〕 しらみノ一名。天治字鏡、八、二「蟣、志良彌、又、支佐(佐)」倭名抄、十九、十一「蟣、虱子也、木佐佐、虱、蠶、人蟲也、之良美」

きさ-さぎ (名) 楸 〔次條ノ、きささげノ轉、芒、のげ〕 次條ニ同ジ。

きさ-さげ (名) 楸 〔莢ノ垂ルルコト、十六大角豆ノ如シ〕 古名、ヒサギ。樹、直ニ聳エ、上ニ枝ヲ分ツ、枝、葉、共ニ、對生シ、新出ノ莖葉ハ、共ニ黑クシテ、長ズレバ綠トナル、葉ハ、桐ニ似テ、五尖ニシテ、鋸齒ナシ、大キサ、六七寸ヨリ尺ニ至ル、夏、尺許ノ穗ヲ出シテ、花ヲ開ク、胡麻ノ花ノ如クニシテ、淺黃ニ紫點アリ、莢ヲ結ブ、長サ尺餘ニシテ、垂ル、莢後ニ、自ラ裂ケテ、子、風ニ飛ブ。きささぎ。

きざし (名) 萌 (一)〔キザスコト。〕 芽ヲ出スコト。メザシ。メダシ。神代紀、上「古、天地未レ剖、陰陽不レ分、渾沌如二鷄子一、溟涬而含レ牙一」 (二)事ノ、起ラムトスルシルシ。兆。 徒然草、百四十六段「明雲座主、相者ニ逢ヒ給ヒテ、己レ若シ、兵仗ノ難ヤアル、云云、傷害ノ恐レオハシマスマジキ御身ニテ、假ニモカク思シヨリテ尋ネ給フ、コレ既ニ、ソノ危ミノ兆ナリ」

き-ざ-す・ス・セ・サ・シ・セ (自動、四) 萌 〔氣莖すノ義、け(氣)ノ條ヲ見ヨ〕 (一)芽、生フベクナル。萌エ出ヅ。萌ム。メザス。夫木抄、二、春、二「アカネサス、朝日ニ消ユル、雪間ヨリ、きざしヤスラム、野邊ノ若草」 新古今集、十一、戀、一「片岡ノ、雪間ニきざす、若草ノ」 (二)起ラムトス。始マラムトス。兆。源、三十二、梅枝「此殿ノ思シきざす狀ノ、イト異ナレバ」

き-さつ (名) 貴札 他ノ書狀ヲ云フ敬稱。尊翰。尊書。運步色葉集「貴札」

きさ-の-き (名) 樻木 樻ノ條ヲ見ヨ。

きさ-の-き (名) 象牙 〔きさ、(象)又、き(牙)ノ條ヲ見ヨ〕 ざうげ(象牙)ノ古名。天智紀、十年十月「象牙、沈水香、栴檀香」 拾遺集、七、物名、きさの木(黄芩)「怒猪ノ、石ヲククミテ、嚙來シハ、きさのきニコソ、劣ラザリケレ」

きさ-の-き (名) 黄芩 〔き(草)ノ條ヲ見ヨ〕 やまひひらぎノ條ヲ見ヨ。天治字鏡、七、十三「黄芩、伎佐乃木、彩似二久良良乃木一」

きざ-はし (名) 階 〔刻階ノ意、きざみばしトモ云フ〕 きだはしニ同ジ。きざみばし。階段。宇津保物語、樓上、上「きざはしハ、御手ヲ取リテ上セタテマツリ」 盛衰記、十六、三位入道芸等事「階上ノきざみばしニ、ますらを一人立チタリ」

き-ざはし-がき (名) 木醂柿 〔澁柿ニ對シテ、樹ニ置キナガラ醂ス意〕 柿ノ實ノ、枝ニアリナガラ熟シテ、食フベキモノ。コネリガキ。キザラシ。キザガキ。樽柿 庭訓往來、三月「醂柿」 下學集、下、草木門「木醂、木淡」

き-ざはり (名) 氣障 意ニ障リテ、嫌ハシキコト。略シテ、きざ。

き-さま (代) 貴樣 對稱ノ代名詞。元來、敬稱ナルガ、今ハ、多ク、下輩ニ用キル。新佐手翰、一、新井白石ヨリ仙臺ノ佐久間ヘ「珍重ノ物ニモ、右某所藏、十ノ內、貴樣ヨリ被レ下候ホド、シホラシキハ無レ之候」

きざみ (名) 刻 (一)キザムコト。キザミメ。齊明紀、六年五月「漏剋」 (二)段。等。級 源、一、桐壺「今一きざみノ位ヲダニト、贈ラセタマフナリケリ」 同、二、帚木「下ノきざみト云フ際ニナレバ」 (三)トキ。ヲリ。ミギリ。漏剋ヨリ移レル語。源、三十四、上、若菜、上「今際ノきざみニ、アマタ御遺言アリシ中ニ」 同、三十九、御法「今ハト、行キハナレムきざみニハ、捨テガタク」 岩淵夜話、別集、三「先年、長久手一戰ノ刻、我等、小勢ヲ以テ、秀次大軍ノ跡ヲ追テ」

きざみ-あし (名) 刻足 「きざむノ(五)ヲ見ヨ」 小股ニ、急ギ行クコト。

きざみ-ごばう (名) 刻牛蒡 牛蒡ヲ、細ソク刻ミタルモノ。胡麻ノ油ニテイタメナドシテ食フ。

きざみ-こぶ (名) 刻昆布 乾シタル昆布ヲ、細ソク刻ミタルモノ。吸物ナドニ、魚肉ト共ニ用キル。

きざみ-ざや (名) 刻鞘 刀ノ鞘ノ製ニ、全部、横輪ヲ連ネタル如ク、數十ノ紋ヲ彫リツケタルモノ。多クハ、黑漆ノろぬりナリ、海老鞘卷ナドニハ、朱漆ナルモアリ。常山紀談、五、森蘭丸「或時、刀ヲ持タセオカレシニ、刻鞘ノ數ヲカゾヘ居タリ」

きざみ-するめ (名) 刻鯣 鯣ヲ、極メテ細ソク刻ミタルモノ。多クノ[illegible]ス。

きざみ-タバコ (名) 刻煙草 〔卷煙草ナドニ對ス〕 烟草ノ葉ヲ、極メテ細ソク刻ミタルモノ。烟管ニ詰メテ飲ム、即チ、今、人人、常ニ用キルモノ、コレナリ。金絲烟 嬉山舞(正德、近松作)三「煙草行李ヲ、今ハ身過ギト引擔ゲ、刻煙草、油引ズト賣リ步ク」

きざみ-ども (名) 刻供 大名ノ路行ク行列ニ、主人ノ乘物ヲ始メ、供勢スベテ、刻足ニテ、足並ミヲ揃ヘテ行クコト。途中、不淨、穢物ナドニ遇ヒタル時ニシタリ。德川幕府ノ老中、若年寄ノ供勢ハ、股立取リ、福草履ハキ、登城、下城、共ニ、常ニ刻供ナリキ。急事アル時、急行スレバ、人ノ驚カムヲ慮リ、無事ノ時モ、カク慣レシメタルナリ。

きざみ-ばし (名) 階 「刻階ノ義」 きざはしニ同ジ。其條ヲ見ヨ。

きざみ-め (名) 刻目 雕リキザミタル痕。款紋

き-さん (名) 歸參 〔歸參ノ音讀〕 (一)カヘリマヰルコト。カヘルコト。保元物語、一、內府實能異見事「左京大夫教長卿、云云、兒、德大寺內大臣實能公ノ許ニ行、云云、教長歸參シテ、此旨披露アリケレバ」 (二)再ビ、舊ノ主君ニ仕フルコト。甲陽軍鑑、五、品第十三「本間江州、井又左近、云云、彼兩人、上杉家ヘ歸參申度トテ」

き-さん (名) 歸山 〔山トハ、寺ハ多ク山ニアルモノナレバ、寺ノコトトナル、平地ノ寺ニモ、寺號ノ上ニ、何何山ト云フ、山門ハ、寺門ナリ〕 他出ノ僧侶ノ、其住メル寺ニ歸ルコト。運步色葉集「歸山」

きさん (名) [起算] 計算ヲ始ムルコト。カゾヘハジメ。

きざ・む・ム・メ・マ・ミ・メ (他動、四) [刻] (段段ヲ活用セシム、[illegible]ヲきざむト活用セシムルト、同ジ) (一)細カニ切ル。キリコマザク。剉。鏤切 伊勢物語、七十八段「馬ノ頭ナリケル人ナン、青キ苔ヲきざみテ、蒔絵ノカタニ、歌ヲツケテ」「大根ヲきざむ」「薬ヲきざむ」 (二)[illegible]テ、物ノ形ヲ作ル。ホル。[彫] 物、木[illegible] 彫 [illegible] (三)[illegible] (四)少シヅツニ分ク。分割「給料ヲ[illegible]」

きさんご (名) [illegible] [illegible]ノ條ヲ見ヨ。

きさんじ (名) [氣散] (一)きばらしニ同ジ。(二)氣散 [illegible]じ」

きさら (名) [木皿] 木ノ挽物ニテ作レル小サキ皿。[illegible] 木皿四ツ、箸添シ)」

きさらぎ (名) [二月] [如月] [illegible]略ナラム、萬葉集、十[illegible] [illegible]ナリ、駿河ハ、揺動河ノ上略、腹ガいるハ、いゆるナリ、揺動、いするニ草木ノ萌シ出ヅル月ノ意、むつき(正月)ノ條ヲ見ヨ、[illegible]「二月如月」[illegible]「二月ノ[illegible]

[illegible]二年五月[illegible]きさらぎノ十日頃ニ、[illegible]ヨリ舟ニ乗リテ」

きさらぎのわかれ (名) [二月別] 二月十五日ノ涅槃會。[illegible]

きざらし (名) [木晒] [illegible] きざはしがきニ同ジ。

きし (名) [岸] 〔断石ノ、きりし、きしトカ〕 (一)[illegible] (二)山腹ノ、巌石ナドノ、断リタチタル處。ソバ。キリギシ。がけ。崖 萬葉集、十三「胡妻(大和國)ソノ、片山木之ニ、[illegible]」

きし (名) [吉士][吉師] 新羅ノ官名ナリ、[illegible]第十七等、第十四、吉士」 三國史記、職官「吉士」 (二)歸化セシ韓人ノ稱號。讀書、文筆ノ事、韓人トノ[illegible] [illegible]第十巻、千字文一巻、付是人ハ即貢進」(是レ等ノ子孫[illegible]トナル) [illegible]

きし (名) [奇士] メヅラシキ才アル人。[illegible] 人、雖有奇士不能用」

きし (名) [騎士] 馬ニ騎ル兵士。[illegible]

きし (名) [己巳] ツチノトノミ。干支ノ條ヲ見ヨ。

きし (名) [癸巳] ミヅノトノミ。干支ノ條ヲ見ヨ。

きし (名) [喜子] アシダカグモ。其條ヲ見ヨ。[illegible]

きし (名) [起死] 死人ヲ、生キ回ヘスコト。[illegible]

きし (名) [旗幟] (一)ハタ。ハタジルシ。[illegible] (二)[illegible]

きし (名) [棄市] 罪人ヲ、市中ニ[illegible]

きし (名) [illegible] [illegible]

[illegible]九史記事」

きし (名) [illegible]

きし (名) [illegible]

きし (名) [illegible]

きし (名) [義子] (ぎ(義)ノ條ノ(熟語、第一)ヲ見ヨ」 養子。子分。(實子ニ對ス)

きし (名) [義歯] (ぎ(義)ノ條ノ(熟語、第一)ヲ見ヨ」 イレバ。

きし (名) [義師] 義ヲ守リテ行フ軍。正義ノ[illegible]

きし (名) [技師] 諸官廳、又ハ、諸會社ナドニテ、[illegible]技術ヲ掌ル職員。其下ナル[illegible]ヲ技手ト云フ。官吏ニテハ、技師ハ奏任官、技手ハ判任官ナリ。

きし (名) [illegible] (二)[illegible]ヲ議スルコト。[illegible]

きし (名) [illegible] 事柄。

きしう (名) [illegible]

きしう (名) [貴酬] きたふ(貴答)ニ同ジ。

きしう [illegible] 人人ノ、群リアツマルコト。ヒト[illegible]

詩箴定」

きしう-みかん（キシユウミカン） (名) 【紀州蜜柑】 紀伊ノ海草、有田ノ二郡ヨリ產ズル蜜柑。味、美ニシテ、產出、極メテ多ク、世ニ名高シ、其、有田郡ナルヲ、最トス。

きし-かた (名) 【來方】 きしかたノ條ヲ見ヨ。

ぎ-しき (名) 【儀式】 公事、祭事、祝儀ナド行フ手續ノ作法。詩經、周頌、我將篇「儀式刑ニ文王之典ニ」晉書、律曆志「儀式乃備」落窪物語、四「裝束（サウゾク）ドモ、シツラヒタルぎしき、イトメデタシ」

きし-きし (副) 【軋軋】 軋（キシ）ル音ニ云フ語。枕草子、二、十七段、にくきもの「墨ノ中ニ石コモリテ、きしきしト、軋（キシ）ミテ鳴リタル」

ぎし-ぎし (名) 【羊蹄】 〔此草ノ本名、しノ一音ナリ〕 草ノ名、羊蹄（シノネ）ノ異名。（京都）

ぎし-ぎし (副) 〔前前條ノきしきし（軋軋）ヲ、更ニ强ク云フ語〕 嚴シク軋（キシ）リ合フニ云フ語。ギッチ。ギチギチ。淀鯉出世瀧德（寶永、近松作）下「箱階子、ぎしぎし、ぎしぎし鳴ル音モ、耳ニコタヘ、胸ニシミ」

きじ-ざけ (名) 【雉酒】 〔きじやきノ條ヲ併セ見ヨ〕 雉ノ肉ノ鹽燒ニ、熱燗ノ酒ヲ注ギタルモノ。元旦ノ供御ニ奉ル。

ぎ-じじゅう (名) 【擬侍從】 〔侍從ニ擬（ナゾラ）ふる意〕 御卽位、又ハ、朝賀ナドノ時、親王、公卿ノ中ヨリ選ビテ、當日限リニ、侍從ノ代トシテ任ゼラルルモノ。侍從代。（代始和抄、御卽位事） 紀略、後篇、八、永觀二年九月十七日「定三來月十日御卽位擬侍從等ニ」江家次第、十一、十二月「定三元日擬侍從、幷、荷前（ノサキ）使一事」

き-しつ (名) 【氣質】 きしやう（氣性）ニ同ジ。隋書、文學傳、序「河朔詞義、貞剛重ニ乎氣質ニ」朱子語類「學至ニ說變化氣質一」

き-しつ (名) 【記室】 〔書記ノ室ニ居ル人ノ義〕 文章、記錄ヲ掌ル官。後漢書、百官志「記室令史、主ニ上章表、報ニ書記一」續事始「晉有ニ記室ノ掌ニ章表書記文檄一」

き-じつ (名) 【期日】 期日（キニチ）ニ同ジ。周禮、地官、司徒「令ニ萬民時節、社、有ニ期日一」禮記、曾子問篇「如ニ將ν冠ν子、而未ν及ニ期日一」

き-じつ (名) 【忌日】 忌日（キニチ）ニ同ジ。禮記、檀弓、上篇「君子有ニ終身之憂一、而無ニ一朝之患一、故忌日不ν樂」

き-しな (名) 【木品】 材木ノ種類、性質。キグチ。木質。

き-しな (名) 【來時】 〔時（シナ）ノ條ノ語原ヲ見ヨ〕 來ル時。來ルヲリ。（行時（ユキシナ）ヲ見ヨ）

きし-の-つかさ (名) 【岸高處】 つかさ（高處）ノ條ヲ見ヨ。

きじ-の-を（キジノオ） (名) 【雉尾】 草ノ名。貫衆（ヌニワラビ）ノ一種。

きじ-ばと (名) 【雉鳩】 〔羽色、雉ニ似タルヨリ云フ名カ〕 はとノ條ヲ見ヨ。

き-じぶ (名) 【生澁】 かきじぶノ條ヲ見ヨ。

ぎ-しふ（ギシユウ） (名) 【蟻集】 ぎしう（蟻聚）ニ同ジ。周禮詩「人屋叢集一鬨市一」

き-し-ぼ-じん (名) 【鬼子母神】 きしもじんノ條ヲ見ヨ。

き-じ-ほんまつ (名) 【紀事本末】 歷史編輯ノ一體。年代ニ拘ハラズ、スベテ、一事件每ニ、其本末ヲマトメテ記シユクモノ。（編年體、紀傳體ナドニ對シテ云フ）

きし-まひ（キシマイ） (名) 【吉師舞】 〔安倍氏ノ祖、新羅ヲ征シ、大嘗會ノ日ニ歸朝シテ、始メテ奏セシニ起ル、新羅ノ吉士ニ擬アルコトカ、吉士ノ條ヲ見ヨ〕 大嘗會ニ奏スル一種ノ舞、安倍氏ノ人、コレヲ掌ル。北山抄、五、大嘗會「安倍氏、奏ニ吉志舞ニ云云、舞人廿人、樂人廿人、云云、舞人在ニ前、樂人作ニ高麗亂聲ニ而進、舞畢、前退」云云「吉志舞ヲ云云、皆執ニ楯戟ニ、舞者、…、故今因奏ニ大嘗會之舞ニ」

きし・む・ム・メ・マ・ミ・メ (自動、四) 【軋】 〔きしるノ語原ヲ見ヨ〕 (一)〔軋（キシ）リテ、滑ラカナラズ。動カスニ澁ル。枕草子、二、十七段、にくきもの「墨ノ中ニ、石コモリテ、キシキシトきしみ」 (二)スレアフ。爭フ。吳竹翠（正德、近松作）中「競マクリシテ、きしみ合フ」

き-じん (名) 【鬼神】 〔王充、論衡「鬼、歸也、神、伸也」〕 (一)オニガミ。神。神ノ靈。神靈（ミタマ）。濁音ニ、きじんトモ云フ。中庸、第二十九章「質ニ諸鬼神ニ而無ν疑」古今集、序「力ヲモ入レズシテ、天地（アメツチ）ヲ動カシ、目ニ見エヌおにがみヲモ、アハレト思ハセ」同、漢文、序「動ニ天地ニ、感ニ鬼神ニ」「鬼神（キジン）ニ横道（ワウダウ）ナシ」 (二)濁音ナルきじんハ、猛ク恐シキ鬼ヲ云フコトアリ。オニガミ。謠曲、羅生門「丹州、大江山ノ鬼神（キジン）ヲ從ヘ」「鬼ノ女房ニハきじんガナル」（女鬼）

き-じん (名) 【貴紳】 貴顯ナル紳士。

き-しん (名) 【忌辰】 〔字典「辰、日也」〕 忌日（キニチ）ニ同ジ。白氏文集、三十九「八月十一日忌辰所ν造也」「名人ノ忌辰」忌辰錄

き-しん (名) 【歸心】 歸ラムト欲スル心。カヘリタキ心。韓愈詩「過ν江秋色在、詩興與ニ歸心ニ」「歸心、矢ノ如シ」

き-しん (名) 【寄進】 寄セ進（マキ）ラスルコト。（勸進ニ對ス）神社、佛閣ノ作事ナドニ、金錢、品物ヲ奉ルコト。寄附（キフ）。喜捨。吾妻鏡、一、治承四年十月十六日「件於ニ鶴岡ニ者、前兵衞佐殿ニ所ν被ニ寄進ニ也」

き-じん (名) 【鬼神】 清音ナル、きじん（鬼神）ノ條ヲ見ヨ。

き-じん (名) 【奇人】 氣質、擧動ノ、常人ヲ拔ケ出デタル人。

き-じん (名) 【畸人】 〔集韻「畸、異也」獨異ノ人ノ義〕 奇人ニ同ジ。莊子、大宗師篇「畸人者、畸（コトナリ）ニ於人一」

ぎ-しん (名) 【疑心】 ウタガフココロ。ウタグリ。列子、說符篇、注「諺曰、疑心生ニ暗鬼ニ」「疑心ヲ懷ク」

ぎ-しん (名) 【義心】 正シキ道ノ心。忠義ナル心。太平記、十九、義貞朝臣ニ事ヘテ心バカリハ、如何ナル僻事、身ヲ亡ニモ、降ラジト思ヘル、義心、金鐵ノ兵共」

ぎ-しん (名) 【義人】 ぎし（義士）ニ同ジ。史記、伯夷傳「太公曰、此義人也、扶而去ν之」

ぎ-じん (名) 【擬人】 ヒトメカスコト。非情ノモノヲ、人ニ擬（ナゾラ）ヘテ見ルコト。物ノ影ヲ、影法師ト云ヒ、團體ヲ法律ニ因リテ、法人トスルガ如シ。

き-じん-の-うれへ（キジンノウレエ） (名) 【杞人之憂】 〔列子、天瑞篇「杞國有ニ人憂ニ天地崩墜、身亡ニ無ν所ν寄、廢ニ寢食ニ者上」杞ハ、支那ノ春秋時代ノ國ノ名〕 有ルマジキ事ヲ思ヒスゴシテ、憂フルコト。無益ノ心配。トリコシグラウ。略シテ、杞憂（キイウ）。

きし-めか・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) 【軋】 軋クヤウニナス。義經記、四、住吉大物二所合戰事「船端ヲ蹈マヘテ、きしめかしテ着ギタリケル」

きし-め・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (自動、四) 【軋】 軋軋（キシキシ）ト音ス。軋（キシ）ル。キシロフ。枕草子、二、十七段「きしめく車ニ乘リテアリク者、耳モ聞カヌニヤ」

アラムト、イト強シ一名義抄「[illegible]、キシメク」

きしめぢ（キ・シメジ） (名) 黄蕈 きめぢ(占治)ノ條ヲ見ヨ。

きしめん (名) 棊子麪 點心ノ菓子ノ名。小麥粉ヲ、水ニテ固クネリテ、板ノ上ニテ薄ク伸シタルヲ、細ソキ竹筒ノ切口ニテ押シテ切レバ、棊石ノ如ク切ルルヲ、煮テ、黄粉ヲ衣ニカケタルモノ。（松屋筆記、六十四、廿六條）[illegible] 云云、棊子麪」

きしもじん (名) 鬼子母神 又、きしぼじん。[illegible]。佛教ニ、女神ノ名。[illegible]ニハ、天女、寶冠ヲ戴キ、足ノ兩側ニ孩兒立チ、兩膝上ニモ孩兒アリ、左手ニ一兒ヲ抱キ、右手ニ吉祥果ヲ持ツ、多子ナレバ、祈レバ子ヲ得、又、子ノ病、[illegible]ト云フ。此神、初ハ、人ノ子女ヲ食ヒシト云フ。[illegible] 山和尚)下「此ニ惡賊ト云フハ、鬼子母ノ、釋尊ヨリ受戒前ノ惡名ナリ、受戒後ハ、歡喜母ト稱スベシ」

きしゃ (名) 騎射 〔歩射ニ對シテ云フ語〕(一)[illegible]ゆみ。馬上ニテ、弓射ルコト。(二)朝廷ニテハ、五月五日ノ騎射ナド、武家ニテハ、流鏑馬、笠懸、犬追物ナドノ總稱。[illegible] 太政官式 五月五日、天皇[illegible] (三)後ニハ、一種ノ式目ヨリ、[illegible]ヲ握リ、拔[illegible]ヲ三歳ニ立テ、[illegible]ノ[illegible]代官、[illegible]手、行[illegible]ニテ、馬ヲ[illegible]ニテ、[illegible]テ射ル、流鏑馬ノ如シ。(徳川八代將軍ノ定メシナリト云フ)

きしゃ (名) [illegible] 施與、寄進。

きしゃ (名) 揮灑揮洒 〔灑、洒、ノ音ハ、さい、又ハ、さ、ナレド、暫ク慣用音ニ從フ〕 筆ヲ揮ヒ、墨汁ヲ灑グコト。書畫ヲカクコト。揮毫。染筆。[illegible] 後書、布議詩其詳、揮灑手不レ歇」 宣和畫譜、[illegible] 貝、云云、得酒輒酣、長嘯揮灑、以爲二戲樂一

きしゃ (名) 記者 (一)書物スル人。カキテ。(二)特ニ、新聞紙、雜誌ナドヲ記ス者。

きしゃ (名) 汽車汽車 「字典「汽、丘既切、音氣、水气也」汽ハ、水氣ノ合字、集韻「汽、許竭切、音歇、字林「汽、[illegible]池也、一曰、以汁水[illegible]水[illegible]、曰汽」ノ義ニアラズ」 軌道ノ上ヲ、蒸氣機關車ニテ、客車、貨車ヲ牽キテ走ルモノ。蒸氣車。陸蒸氣。火輪車。

きしゃう（キ・シヤウ） (名) 木性 きしゃう(性)ノ條ヲ見ヨ。

きしゃう（キ・シヤウ） (名) 氣性 其人ニ生レツキタル意。キダテ。カタギ。ハダ。氣質。[illegible]、[illegible] 司ニ[illegible]カヌ氣性ナレバ」

きしゃう（キ・シヤウ） (名) 起請 後漢書、[illegible]子傳「其餘不レ知書者、起請レ之」」(一)事ヲ後世シテ、上ニ請ヒ願フコト。[illegible] 後紀、十二、承和九年八月丙子、太宰大貳[illegible]、[illegible]四條起請ニ一曰、云云」(四條共ニ、改メテ請フ事ナリ)三代實錄、十七、貞觀十二年二月廿三日「太宰大貳[illegible] 四事、其一曰、云云」(同上) (二)轉ジテ、神佛ニ誓ヲ立テテ、此誓ニ背カバ、罰ヲ蒙ラムト書ヒ奉ルコト。其誓ノ旨ヲ記シタルヲ起請文、又ハ、誓文、誓紙ナド云ヒ、極メテ堅ク誓フニハ、幾枚モ書ケリ、土佐房昌俊ノ七枚起請ナド云フアリ。後世ハ、其文書ノ末ニ、牛王ノ紙ヲ繼ギテ、末紙ニハ、起請文前書之事トシテ、趣意ヲ記シ、牛王ノ紙ノ裏ニ「右之意於二相背一者、梵天、帝釋、四大天王、日本國中大小神祇、別而、伊豆、箱根、兩所權現、三島大明神、八幡大菩薩、神罰冥罰、可二罷蒙一者也、仍起請文如レ件」ナド記シテ、署名、血判スルヲ例トセリ、コレヲ、神文ト云フ。十訓抄、上、第四、第七條[illegible]ノ人タル由[illegible]テ[illegible]ス、[illegible]ニ任ゼシムト云ハバ、恐ラクハ、[illegible]ヲ後筆ニ書サムモノカ、コレニ依リテ、[illegible]ニ[illegible]ヒ[illegible]リテ、[illegible]、[illegible]ニ年五月廿四日、[illegible]、[illegible]全不[illegible]、日本國中大小神祇 [illegible]

きしゃう（キ・シヤウ） (名) 祈請 きせい(祈請)ニ同ジ。

きしゃう（キ・シヤウ） (名) 起床 寢床ヨリ、起キ出ヅルコト。多クハ、朝ナルニ云フ。(夜ノ、就寢ニ對ス)

きしゃう（キ・シヤウ） (名) 旗章 ハタジルシ。[illegible]、月令[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、之

きしゃう（キ・シヤウ） (名) 徽章 〔字典「徽、[illegible]、[illegible]、[illegible]通、幟也」〕(一)ハタジルシ。旗章。[illegible] (二)身分ヲ表ハシ示ス爲ニ、帽子、又ハ、衣服ナドニ附ケテ飾ル標。金屬ナドニテ、種種ノ形ニ造ル。

きしゃう（キ・ショウ） (名) 毀傷 コボチ、イタムルコト。キズツケ、ソコナフコト。孝經、開宗[illegible]

きしゃう（キ・シヤウ） (名) 氣象 [illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、大氣中ノ寒、暑、雨、温、晴、曇、風、雨、雪、[illegible]、大氣中ニ起ル、各種ノ物理上ノ現象。コレヲ研究スルヲ、氣象學ト云ヒ、コレヲ觀測スル所ヲ、氣象臺ト云フ。范仲淹、岳陽樓記[illegible]

きしゃうがく（キ・シヤウ・ガク） (名) 氣象學 前條ヲ見ヨ。

きしゃうだい（キ・シヤウ・ダイ） (名) 氣象臺 前前條ヲ見ヨ。氣象臺ハ、[illegible]等ノ測候所ヲ設ケ、諸測候所ノ觀測ノ結果ヲ綜合シテ、氣象事業ノ發達ニ努力ス。

きじゃうたい（キ・ジヤウ・タイ） (名) 氣狀體 固形體ノ條ヲ見ヨ。

きしゃうつぎ（キシヤウ・ツギ） (名) 起請繼 〔「起請文ヲ書クニ、白紙ニ前書ヲシ、牛王ノ紙ニ罰詞ヲ書キ、コレヲ繼グニ、牛王ヲ裏ニシテ、白紙ノ上ニ重ヌ。(貞丈雜記、五)牛王ニハ、神明ノ名アレバ、恐ミテ斯スルナリ」〕 紙ヲ糊ニテ繼ギ合ハスルニ、次ノ紙ヲ、前ノ紙ノ上ニ重ネテ繼グコト。切紙朝樂製造法則(曲直瀨道三)「きしゃうつぎニナラヌヤウニト云フ心ナリ」(松屋筆記、六十四、五十一條)

きじゃうのろん（キ・ジヤウ・ノ・ロン） (名) 机上論 實地ニ適セザル空論。

きしゃうもん（キ・シヤウ・モン） (名) 起請文 きしゃう(起請)ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。

きしゃうゆ（キ・シヤウ・ユ） 名 生醬油 生ノ、[illegible]。醬油ノ、煎出汁ナド、加ヘヌモノ。[illegible] [illegible]心中(元祿[illegible]作) 手代ト[illegible]レオノ、生醬油ノ[illegible]

シタタルキ」

きじ-やき（名）【雉焼】〔元ハ、雉ノ肉ヲ鹽ニシタルヲ用ヰキ、(きじざけノ條ヲ見ヨ) 其料理法ノ、魚肉、豆腐ニ移リタルナリ、鳴焼、狸汁、皆、同ジ〕（一）豆腐ヲ、一寸四方、厚サ五六分ニ切リテ焼キ、薄醤油ニテ味ヲツケ、酒ヲ沸シテ注カケタルモノ。酒ノミ飲ミテ、豆腐ハ食ハヌモノト云フ。正月ノ佳例ニ供シタリ。(松屋筆記、九十二、十七條)(きじざけ、參見) 易林節用集(慶長)「雉焼」料理物語(寛永)「きじやきハ、豆腐ヲ小サク切リ、鹽ヲツケ、打チクベ焼クナリ」（二）まぐろ、かつをノ切身ヲ、生姜ノしぼり汁ヲ少シ入レタル醤油ニ浸シ、兩面ヲ焼キテ、醤油ヲカケ、又、少シ炙リタルモノ。

きじゃく（名）【着尺】布帛ニ云フ語。大人ノ着ル、一枚ノ衣服トナルホドノモノ、即チ、普通ノ一反ナリ。「一反、着尺、二丈八尺」又ハ「二丈九尺」

ぎじゃく（名）【磁石】〔じしゃくノ訛、關西ニテ、地黄煎ヲ、ぎょうせんト訛ルト、同趣〕磁石ノ訛。(東京)【羅針盤】

きしゃご（名）【細螺】介ノ名、きさごニ同ジ。

きしゃご-はじき（名）【細螺彈】〔又ハ、きさごはじきト云フ〕女兒ノ語ニ、おはじき。小兒ノ遊戯。數十ノ細螺ノ殼ヲ、席上ニ撒キテ、いしはじきスルナリ。つまづくヲつまト云ヒ、やつあたりシタルヲやつト云フ。きさごヲ二粒ヅツ數フル詞ニ「重二、重二、章魚(八足)ノ加ヘガ十」ト唱フ。東京ニテハ、重シテ「ちうちうたこかいな」ト云フ。

ぎしゃ-ばる・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）【義者張】〔軋張るノ轉、(いしばる、いさばる)軋ミ張リ合フ意ナラム〕威張ル。力ム。東海道中膝栗毛(享和、一九)初編、上「義者ばッテ、ムゲチナク、追ヒ出シタガ」

きしゅ（名）【旗手】陸軍ニテ、聯隊旗ヲ持ツベキ人。聯隊附ノ少尉、コレニ當ル。

きしゅ（名）【騎手】競馬ナドニテ、馬ノ乘手。

きじゅ（名）【喜壽】〔喜ノ字ノ草書、即チ、㐂ハ、七十七ノ如ク讀マルレバ云フ〕七十七歳ノ賀のいはひノ稱。喜字。喜ノ字ノ賀。がのいはひノ條ヲ見ヨ。

ぎしゅ（名）【義手】〔ぎ(義)ノ條ノ(熟語、第一)ヲ見ヨ〕切斷ナドセラレタル手ヲ補フベク、手ノ形ヲ造リタルモノ、木製ナルアリ、護謨製ナルアリ。

ぎしゅ（名）【技手】技師ノ條ヲ見ヨ。

きじゅう（名）【歸從】ツキ、シタガフコト。「歸從スル所ヲ知ラズ」

きしゅく（名）【鬼宿】（一）二十八宿ノ内ノ、鬼ト云フ星ノ宿。（二）舊暦ニ、此星ノ守護スト云フ日ノ稱。二十八宿中ノ最吉ノ宿ナリトテ、大吉祥日トス。但シ、嫁娶ニ忌ムトス。運歩色葉集「鬼宿日」

きしゅく（名）【耆宿】〔説文「耆、老也」廣韻「宿、素也」〕老人ノ、名望アル者。宿老。後漢書、樊准傳「耆宿大賢、多見二廢棄一」

きしゅく（名）【寄宿】（一）他ノ家ニ、身ヲ寄セテ居ルコト。寄寓。後漢書、郭躬傳「寄二宿鄉亭一」吾妻鏡、一、治承四年八月十九日「御臺所渡二御于走湯山文陽房覺淵之坊一云云、世上落居之程、可レ令レ寄二宿此所一給上」（二）學校、塾ナドニ、生徒ノ、宿リ居ルコト。又、其建物。寄宿舍。【學寮】【塾舍】日本教育資料、十九、學規「寄宿、飲、往來稽古仕度段、申出候者」

ぎじゅく（名）【義塾】〔義ノ條ノ(熟語、第二)ヲ見ヨ〕義捐金ニテ設ケタル塾。職官錄「補二議郎一以敦二勸進一」「慶應義塾」

きしゅく-しゃ（名）【寄宿舍】前前條ノ(二)ヲ見ヨ。

きじゅつ（名）【奇術】不思議ナル術。妖術。韓愈詩「悲哉無二奇術一安得レ生二兩翅一」

ぎじゅつ（名）【技術】ワザ。學ビテ得タルワザ。史記、貨殖傳「醫方諸食二技術一之人」漢書、藝文志「漢興、有二倉公一今其技術晻昧」

きしゅん（名）【季春】春ノスヱ。陰暦、三月。禮記、月令篇「季春之月、云云」

きじゅん（名）【歸順】マツロフコト。夷人、亂臣ナドノ、歸服シテ、朝命ニ順フコト。杜甫詩「寇盜方歸順、乾坤欲二晏如一」

きしょ（名）【寄書】（一）人ニ送ル手紙。（二）新聞紙、雜誌ナドニ掲載セシメムガ爲ニ、寄贈スル文書。寄稿。

きしょ（名）【貴書】貴翰。尊書。御手紙。運歩色葉集「貴書」

きしょ（代）【貴所】〔ところノ條ヲ見ヨ〕貴下、貴君ナドニ同ジ。(書狀ノ文ニ) 醒睡笑、八、かすり「ソナタハ、源氏ノ晩鐘ヲ聞カレタ事ハナイカ、イヤ、貴所ハ、平家ノ落雁ヲ見ラレタカ」

ぎしょ（名）【僞書】（一）僞作ノ文書。史記、封禪書「識二其手書一問二其人一果是僞書」（二）僞筆。

きしょう（名）【奇勝】〔奇勝景ノ略〕メヅラシク、スグレタル景色。唐書、文藝傳「王維別墅、在二輞川一地奇勝」「天然ノ奇勝」

きしょう（名）【記誦】文ヲ記憶シ、暗誦スルコト。宋史、選擧志「今諸科專二記誦一非二取レ士之意一」「全文ヲ記誦ス」

ぎしょう（名）【僞證】（一）信實ナラヌ證據。（二）證人ガ、裁判所ニ對シテ、故意ニ、僞言ヲ述ブルコト。

きしょう-てん-けつ（句）【起承轉結】起句ノ條ヲ見ヨ。

きしょく（名）【氣色】（一）ケハヒ。オモモチ。意向ノ、面色ニ現ルルコト。氣色。顏色。太平記、二、長崎新左衛門意見事「以ノ外ニ氣色ヲ損ジテ」「氣色ヲ伺フ」（二）轉ジテ、ココチ。ココロモチ。狂言記、料理聟「氣色ガワルイト云ウテ、唯、梅漬バカリ食ハレマス」

きしょく（名）【寄食】食客トナルコト。キサフラフ。史記、淮陰侯傳「常數從二其下郷南昌亭長一寄食」

きし・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）【軋】〔軋軋ト云フ音ヲ活用セシム、きしむト云フモ同ジ、蜿蜒ヲうねる、段段ヲきざむト活用セシムルト、同ジ〕（一）強ク摩レ合ヒテ、鳴ル。キシメク。キシロフ。(石地ノ車輪、碾臼ナド) 倭名抄、十六、茶研具「碾、岐之流」（二）相惡ミテ、競リ爭フ。キシム。(人ノ交リニ)【軋轢】

きじるし（名）【狂人】氣違ノ隱語。

きじろ（名）【生白】マッシロ。純白。

ぎじろく（名）【議事錄】會ノ議事ノ記錄。

きしろ・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ（自動、四）【軋轢】〔軋り合ふ、きしらふ、きしろふト約轉シタル語ナラム、ひこじらふ、ひこじろふ、はららぐ、ほろろぐ〕競リ、爭フ。神武

[illegible]信記「[illegible]」宇治拾遺物語、[illegible]「[illegible]ノ、[illegible]リニきしろひテ[illegible]、四十一[illegible]きしろふ人[illegible]キサマニテ」[illegible]集、[illegible]「[illegible]レバ、庭ニきしろふ水ヲ、イヅレカマヅハ、消ユルトゾ見ル」[illegible]

〔きす (名)〔昨日〕 きのふ(昨日)ノ古言。きその條ヲ見ヨ。

きす (名)〔鱚〕 魚ノ名、[illegible]ノ二種アリ、[illegible]又、[illegible]ヲモ云フ、[illegible]ニテ[illegible]ニ、色白ク、大キサ[illegible]寸ニ[illegible]、四時[illegible]ナリ。[illegible]鱚魚 青きすハ、川ニ産ジ、川きすトモ云フ、[illegible]ニ子ヲ生ム、[illegible]又、[illegible]尺ノきす」

きす・スル・スレ・セ・セ・セヨ(他動、下二)〔着〕〔着るノ[illegible]動ヲ、他ニセサスルナリ、みる、みするノ例〕 (一)着ルヤウニナス。被ラス。古事記、中(景行)[illegible]「一ツ松、人ニアリセバ、太刀佩ケマシヲ、衣著セマシヲ」 (二)被ヒ包ム。カブセル。([illegible]ノ[illegible]上ナドニ)[illegible] (三)[illegible]

きす・スル・[illegible]〔[illegible]〕[illegible]「[illegible]」「[illegible]」

きす・スル・スレ・セ・[illegible]〔[illegible]〕 (一)[illegible]ス。[illegible]「[illegible]之」 (二)心ニオボエテ、忘レズ。記憶

きす・スル・スレ・セ・シ・セヨ(他動、[illegible])〔期〕 (一)[illegible] (二)[illegible] (三)[illegible]ト定ム。[illegible]

きず (名)〔疵〕〔[illegible]〕[illegible](斧)横切、よき。(斧)竪切、たつき。(鐇)[illegible] (一)斬リ、裂キ、又ハ、[illegible]ナドシテ、[illegible]處。傷[illegible] (二)瑕[illegible] (三)[illegible]ノ、毀レ、裂ケナドシタル處。ワレメ。[illegible] (四)[illegible] (五)きずうちノ略。[illegible]二、きずヲ求ムル甚二」

きす (名)〔蟋蟀〕〔きりぎりす、ぎいす、ぎいすト略約セル語ナラム、(備國ニテ、ぎいすト云フ)おほどけ、おどけ、どうけ([illegible])ノ類〕 きりぎりすノ異名。(京都)

ぎす・スル・スレ・セ・シ・セヨ(他動、左變)〔[illegible]〕[illegible]

ぎす・スル・スレ・セ・シ・セヨ([illegible])〔[illegible]〕[illegible]

ぎす・スル・スレ・セ・シ・セヨ(他動、左變)〔擬〕 (一)誤リ定ム。アテハム。易經、繫辭、上傳[illegible]「[illegible]一内内ハ、[illegible]ノ方ヘ[illegible]セムトコソ、[illegible]ツレ」「官ニ任ゼント擬ス」 (二)似ス。ナゾラフル。比ス。[illegible]

きぞう (名)〔[illegible]〕[illegible]

きぞう (名)〔[illegible]〕[illegible]

きずうち (名)〔疵打〕[illegible]タルヲ取ル博打。面子、ふくつん玉ヲ用キルコトアリ、[illegible]

キ・スウ・ホウ
きすうほふ (名)〔奇數法〕[illegible]リ、順次、其ノ右ニ、次位ノ數ヲ記シ、若シ或ル位ノ數ナキトキハ、零ヲ記ス、例ヘバ、三千六十三、八十二萬[illegible]ス類ナリ。

きずき (名)〔生漉〕 生紙ニ同ジ。「生漉ノ[illegible]」

きずきず (名)〔[illegible]〕[illegible]人ノ性質ノ、キゴハキ状ニ云フ語。キスグニ、カドカドシク、[illegible]

きすぐ ([illegible])〔[illegible]〕[illegible]ともどなるもの「例ノ人ノヤウニ、カクナ云ヒ笑ヒ[illegible]ソ、イトきすぐナルモノヲ」

きすご (名)〔[illegible]〕[illegible]四五寸ヨリ八寸ニ過ギズ、尾ニ岐ナク、肉厚ク白シ。

キ・ズナ・ノ・ヨロヒ
きずなのよろひ (名)〔着背長鎧〕 (一)着[illegible]

きずり (名)〔木摺〕[illegible]入レタルヲ、釘ニテ打チツケ、其上ニ直チニ、漆喰ヲ塗リツクルモノ。

キ・スイ
きすゐ (名)〔癸水〕 月經ノ異名。ツキノサハリ。天癸。[illegible]

きすゐ (名)〔[illegible]〕[illegible]

キ・ズイ
きずゐ (名)〔奇瑞〕 不思議ニ、メデタキ[illegible]

きずゐ (名)〔[illegible]〕[illegible]タル語〕きままニ同ジ。[illegible]

きせい (名)〔[illegible]〕[illegible]

きせい (名)〔[illegible]〕[illegible]

き-せい (名) [希世・稀世] きたい(希代)ノ(一)ニ同ジ。歐陽修詩「家藏有二此希世珍一」

き-せい (名) [棄世] 世ヲ、棄テ去ルコト。即チ、死ヌルコト。莊子、達生篇「夫欲レ免レ爲レ形者、莫レ如レ棄レ世、棄レ世則無レ累」李白詩「王公希代寶、棄世一何早」

き-せい (名) [寄生] (一)ヤドリギ。(二)生ヲ寄スルコト。他ノ物ヲ賴ミテ、生活スルコト。漢書、東方朔傳「著レ樹爲二寄生一」「寄生蟲」

き-せい (名) [記性] 記憶ノ、好キコト。避暑錄「人之學術、皆可二勉強一、惟記性各有二分量一」朱子語類「陳烈先生、苦レ無二記性一」

き-せい (名) [祈誓] 事ヲ神佛ニ祈リテ、心ニ然然ト誓フコト。保元物語、一、將軍塚鳴動事「聖武天皇ハ東大寺ヲ建テテ、太神宮ノ御本地ヲ顯シテ、帝運ヲ祈誓シ給フ」

き-せい (名) [祈請] 神佛ニ、心事ヲ祈リ願フコト。祈請。祈願。立願。列子、周穆王篇「非二祈請之所一レ禱」保元物語、一、鳥羽院熊野御參詣事「古老ノ山伏八十餘人、般若妙典ヲ讀誦シテ祈請良久シ」平治物語、一、六波羅より早馬の事「熊野參詣モ、現當安穩ノ御祈請ニテコソ候フラメ」

き-せい (名) [歸省] 〔歸家シ、定省スル義〕(一)故郷ノ家ニ歸リテ、父母ノ起居ニカシヅクコト。朱慶餘送下張景宣歸二揚州一覲省上詩「歸省及二花時一、行吟落第詩」(二)歸郷。

き-せい (名) [期成] 事ノ、成ラムコトヲ期スルコト。必ズ、成シ遂ゲムトスルコト。「期成同盟」

き-せい (名) [既成] 既ニ成レルコト。物事ノ、出來上リテアルコト。(未成ニ對ス)「既成ノ事業」

ぎ-せい (名) [義勢] 勇氣。イキゴミ。氣力。太平記、八、三月十二日合戰事「西國ノ勢、已ニ三方ヨリ寄セタリトテ、京中、上ヲ下ヘカヘシテ騷動ス、云云、皆、只アキルル計ニテ、差シタル義勢モナカリケリ」同、十一、金剛山寄手等被レ誅事「今一度、手痛キ合戰アラム、ト覺ユルニ、日頃ノ儀勢、譴キハテテ、云云、徒ラニ日ヲ送リケル」

ぎ-せい (名) [犧牲] 〔說文「犧、宗廟之牲也」牲、牛完全也」〕(一)イケニヘ。周禮、地官、牧人「凡祭祀、共二其犧牲一、以授二充人一繫レ之」(二)我ガ身命ヲ、國家、社會ニ捧ゲテ、其利益ヲ謀ルヲ、身を犧牲に供すト云フ。國利、民福ノ爲メニ、人生ノ遵守スベキ條件トス。(三)必用ナル場合ニハ、利アルモノヲモ棄ツルコト。「多少ノ不便ヲ犧牲ニ供ス」

ぎ-せい (名) [擬製] 摸擬ノ製造。似セテ造レルコト。模造。

ぎ-せい-ご (名) [擬聲語] 言語ノ、物ノ聲音ニ擬ヒテ成リタルモノ。おと、(琴)ふえ、(笛)つづみ、(太鼓)はた、(旗)ほとときす、(杜鵑)ほほき鳥、(鶯)かけ、(鷄)からす、(鴉)せび(蟬)ナド。

き-せい-ちゅう (名) [寄生蟲] 他ノ動物ノ體中ニ寄生スル蟲。條蟲、蛔蟲、十二指腸蟲ナド、是レナリ。

ぎ-せい-どうふ (名) [義性豆腐] 〔江戸ノ山王神社ノ別當、觀理院ノ義性僧正ノ製リ出シタルモノト云フ(俚言集覽)〕豆腐ノ料理ノ名。生豆腐ヲ煮拔キテ、絞リテクヅシタルヲ、煎出汁ニ砂糖、味醂、醬油ヲ加ヘタルニテ煮テ、にんぢんヲさいのめニ切リタルヲ加ヘ、葛粉、又ハ、片栗粉ノ水ヲ入レ、へとへとニ煮エタルヲ、玉子燒ノ鍋ニ、胡麻ノ油ヲ敷キ、上ニ綴木一枚ヲ敷キタルニ盛リ、蓋ヲシテ、鍋ノ上下ニ火ヲ當テテ、薄ク焦ガシテ成ル。

ぎ-せう (名) [戲笑] (一)タハムレ、笑フコト。(二)オドケ。滑稽。諧謔。

き-せき (名) [貴戚] 貴族ニ同ジ。孟子、萬章、下篇「有二貴戚之卿一」

き-せき (名) [奇蹟] 不思議ナルコトノ有リシ蹟。神ノ力ニテスル、不思議ナルワザ。「天下ノ奇蹟」

き-せき (名) [鬼籍] 〔死者ノ名簿〕過去帳ニ同ジ。又、鬼錄。死ぬるヲ、鬼籍ニ入るナド云フ。

ぎ-せき (名) [議席] 議場ニテ、議員ノ着スル席。「下院ニ議席ヲ有ス」

き-せきれい (名) [黃鶺鴒] イナオホセドリ。せきれいノ條ヲ見ヨ。

き-せつ (名) [既設] 既ニ、設ケラレテアルコト。(未設ニ對ス)「既設鐵道」

き-せつ (名) [季節] 〔季ノ條ヲ見ヨ〕時節ニ同ジ。夏侯湛、雷賦「伊朱明之季節兮、皐隆赫以盛興」

き-せつ (名) [氣節] 〔氣慨、節操ノ略〕理義ヲ守リテ、人ニ屈セザルコト。氣骨。史記、汲黯傳「好レ學游俠、任二氣節一」

き-ぜつ (名) [氣絕] 神氣ノ、絕エ入リタルコト。暫シ死ヌルコト。目ヲマハスコト。卒倒。假死。晉書、荀菘傳「被二四創一氣絕」古事談、三、僧行「蓮仁聖人、云云、如レ眠令二氣絕一」

き-ぜつ (名) [奇絕] スグレテ、奇ナルコト。奇妙。絕妙。浮世風呂(文化、三馬)四編、下「各、ハタク内ガ奇絕ダノ」「奇絕妙絕」

ぎ-ぜつ (名) [義絕] 緣組ノ義理ヲ絕ツコト。夫婦ノ離緣ニ云フ語。轉ジテ、主從ノ間ニモ云ヒ、誤リテ、父子、兄弟、朋友ノ間ニモ云フヤウニナレリ。吾妻鏡、三十四、仁治二年十二月廿七日「武田伊豆入道光蓮、令レ義二絕次男信忠一」

きせ-つけ (名) [着附] 賀茂川人形ノ條ヲ見ヨ。

きせつ-ふう (名) [季節風] 大陸ト、大洋ト、氣溫ノ差違ニ因リテ起ル風。夏ハ、海ヨリ陸ニ吹キ、雨氣ヲ起シ、雷雨、豪雨ヲ伴ヒ、冬ハ、陸ヨリ海ニ吹キ、乾燥ノ天氣ヲ伴フ。又、季候風。

き-せと (名) [黃瀨戸] 瀨戸燒ノ陶器ニ、黃ナル釉ヲカケタルモノ。

きせ-なが (名) [着長] 〔きせハ、爲レ着ニテ、侍者ノ、着せ奉ル意ト云フ〕平家物語、十二、土佐坊被レ切事「判官(義經)サレバコソトテ、太刀取テ出デタマヘバ、靜、着長取テ、投ゲカケ奉ル」長ハ、草摺ノ長キ義ト云フ〕鎧、又ハ具足ノ敬稱、大將ノ着ルニツキテ云フ語。(軍器考)弓ヲ御執、太刀ヲ御佩ト云フ類ナリ。盛衰記、六、入道院參企事「入道(淸盛)ハ、小具足取テツケ、腹卷着テ、云云、主馬判官盛國、此形勢ヲ見テ、云云、入道殿、御きせながヲ被レ召タリ」平家物語、九、木曾最後事「木曾殿、云云、日頃ハ、何トモオボエヌ鎧ガ、今日ハ、重ウナリタルゾヤ、ト宣ヘバ、今井四郎、云云、何ニ依リテ、一領ノ御着長ヲ、俄ニ重ウハ思召サレ候フベキ」字類抄「着背長、キセナガ、甲冑」

き-ぜは・し・シキ・シケレ・シク・シク (形、二) [氣忙] 心、忙シ。心急カレテ、イソガハシ。

∴きぜはし-な・い (形) 〔氣忙し甚しノ意〕

甚シク、キゼハシ。セカレニセカル。

きせん (名) 〔木賤〕 木賃ニ同ジ。

きせん (名) 〔貴賤〕 身分ノ、貴キト、賤シキト。[illegible]

きせん (名) 〔機先〕 キサキ。ヤサキ。時機ノ、起ラムトスル、キッカケ。ソレヲ早ク見ヅクルニ云フ語。[illegible]

きせん (名) 〔帰泉〕 黄泉ニ帰ル意。死ヌルコト。[illegible]

きせん (名) 〔汽船〕 汽機ノ、蒸気ノ力ヲ以テ[illegible]ル船。[illegible]

きせん (名) 〔喜撰〕 喜撰ノ字ノ音読。[illegible]きせんノいい人」

ぎせん (名) 〔義戦〕 正義ノ為ニ、戦フコト。[illegible]ベキニテ候」

ぎぜん (名) 〔偽善〕 虚飾ノ善行。善事ヲ行フヤウニ見セカクルコト。中論「人徒[illegible]」

きぜん-げん (名) 〔已然言〕 いぜんげんノ[illegible]

きぜん-と (副) 〔喟然〕 〔説文「喟、太息也」〕 歎息スル状ニ云フ語。論語、先進篇「夫子、喟然歎曰」[illegible]大息曰、[illegible]

きぜん-と (副) 〔[illegible]然〕 [illegible]」ニ

意志ノ、強ク堅キ状ニ云フ語。[illegible]然不動」

ぎぜん-と (副) 〔巍然〕 〔[illegible]〕 高ク大イナル状ニ云フ語。[illegible]

きせん-やど (名) 〔木賤宿〕 木賃宿ニ同ジ。[illegible]

きせん-やど (名) 〔汽船宿〕 汽船ニ乗ル旅客ノ、又ハ、荷物ヲ取扱フ所。

キセリ (名) 衣裳ニ同ジ。其條ヲ見ヨ。

キセル (名) 〔煙管〕 〔西班牙語、きいせる、(琉球ノ語)琉球ニテ作レヨリ起レル名ナリト云フ〕 烟草ヲ呑ムニ用キル具。長サ、大抵五六寸、頭ヲ雁首ト云フ、其端、曲リテ、孔ヲ上ニ向ク、火皿(火壺)ト云フ、刻煙草ヲ盛リテ、火ヲ點ズ、其末ヲ吸口ト云フ、之レヲ口ニシテ、煙ヲ吸フ。共ニ、眞鍮、銀、銅ナドニテ作ル。コレヲ作ルヲ、張るト云フ、其中間ヲ、羅宇竹ニテ繼グ。又、のべ、ち、つきうこアリ、其古製ナル、頭長クシテ曲レリ、故ニ、雁首ノ名アルナリ、らう竹モ、長クシテ、コレヲきせるづつトモ云ヒキ、[illegible]條ヲ見ヨ。きせろ。(京都)きせり。(伊勢)[illegible]せるノらうハ、眞ナ文字、ゆおみ文字トゾ、見ユル雁首」(うゑのつのも[illegible]ノ條ヲ見ヨ) [illegible]一日千句(延[illegible])

⁂き-せる (名) 〔着〕 着すノ口語。

キセル-づつ (名) 〔煙管筒〕 (一)きせるトニフニ同ジ。古製ナルハ、がんくび、らう竹、共ニ、長クシテ、[illegible]

キモアリキ、火皿モ、大キクテ、五匁つぎノ名モアリ、少者ニ肩ゲサセテ、路行ク状、古書ニ見ユ。(煙管條ヲ見ヨ) [illegible]一代[illegible](天[illegible])[illegible]ノきせる[illegible] (二)煙管ヲ[illegible]タルヨリ、ソレヲ入ルル具。煙草入ト共ニ[illegible]、又ハ[illegible]、竹[illegible]テ、[illegible]大キナニ合セテ、[illegible]作レルアリ。

⁂キセロ (名) 煙管ニ同ジ。其條ヲ見ヨ。

きせ-わた (名) 〔着綿〕 キクノ[illegible]ヲ[illegible]。菊ノ花ニ、綿ヲ被セタルモノ。[illegible]陽ニ[illegible]コトニテ、[illegible]老ヲ棄ツトテ、延年ノ祝事トスルナリ、菊ハ、長壽セシムト云フ傳説ニ據レル(菊ノ條ヲ見ヨ) [illegible]献ニ若花一事「早旦、[illegible]宮司女官、云云、房ニ大花各一口[illegible]ニ[illegible]ケタル」[illegible]代モ、人ノ若ユル、菊ノ上ニ、ま[illegible]秋、下「九月八日、伊勢ガ家ノ菊ニ、綿ヲ着セニツカハシタリケレバ、又ノ朝、折リテカヘストテ」[illegible]集、七、賀、九月九日、從一位倫子、菊の綿ヲ賜ヒテ、[illegible]カリニ、袖濡レテ、花ノ主ニ、千代ハ讓ラム」[illegible]盛リノ、花咲キニケリ」[illegible]九日、夜ニ入リテ、[illegible]

きせわた-さう (名) 〔着綿草〕 〔花ノ形、着綿ニ似タレバ名トスト云フ〕 [illegible]ニシテ、高サ三五尺、[illegible]かざりさう二似タリ、皆、節ニ對シテ生ズ、[illegible]又、白花アリ、[illegible]プ、やくもさうノ子ヨリ大キク、四角ニシテ長シ。[illegible]

きそ (名) 〔昨日〕 〔きすト云ニ、[illegible]〕 年)ノ語原ヲ見ヨ〕 (一)又、きす。昨日[illegible]

き-そ (名) 〔基礎〕 モトキ。イシズエ。ドダイ。[illegible]

き-そ (名) 〔[illegible]〕 [illegible]

き-そ (名) 〔[illegible]〕 [illegible]

き-そう (名) 〔[illegible]〕 [illegible]

き-ぞう (名) 〔寄贈〕 人ニ、物ヲ贈ルコト。

ぎ-そう (名) 〔[illegible]〕 [illegible]

ぎ-そう (名) 〔議奏〕 (一)古代、朝廷ノ職名。文治元年、源頼朝ノ奏請ニ因リテ置カレ、内覧以下ノ公卿十人補セラル、公[illegible]

ム、可被[illegible]行」云云」（二）貞享三年、更ニ置カレタルハ、清華、大臣家ヨリ、四人、或ハ、五人、補セラレ、至尊ニ近侍シ、奏シ、口勅ヲ受ケ、公卿以下ニ傳フルヲ掌ル、傳奏ノ奏モ、議奏ニ由リテ奏聞ス。

きそ-かいだう キソカイドウ （名）［木曾海道］〔海道ノ條ヲ見ヨ〕 木曾路ノ條ヲ見ヨ。

き-そく （名）［龜足］「紙ノ端ヲ捻リオクガ、龜の足ニ似タル故ノ名ナリ」（一）膳部ノ食物ニ、鳥肉ノ足、又、魚肉ニ刺シタル串ノ本ヲ、紙ニテ包キテ、其座ヲ捻リオクモノ。取ル指ヲ汚サジノ爲ニス。 武家調味故實（天文）「さめト云フハ、魚ナリ、云云、きそくアルベシ」庖丁聞書「鶴ヲ、毛ナシ腿ノ方ヨリ、刀目ヲ入レテ引キサケバ、好キ頃ニサケル也、炙リテ、龜足ヲサシテ、添肴ナドニ出ス也」（二）折敷、折櫃ナドノ、敷紙ノ端ヲアラハシテ、四隅ニテ疊ミオクモノ。 林逸節用集、財寶「龜足飾」四條流庖丁書（長享）「世ノ常ノ紙ニ、箔ニテモ、又ハ、紅ニテモ引キテ、龜足ニ用ルコトハ、常ノ儀ナルベシ、禁中ナドヘ可レ參御折ハ、角モ多ク、又、少シ足モ高クアルベシ、然ル間、龜足ノ紙ハ、薄樣ナルベシ」吾海集（天文）「大名、或ハ、御家門ナドノ御茶湯ニ、もてなしモ結構ニ、木具、土器、金銀ノ龜足、縁高ナド、然ルベキナリ」（柳亭筆記、二）（三）又、蓋ナキ重箱ヤウノ物ニ紙ヲ被ヒテ、其紙ノ取レヌヤウニ、四隅ニテ、其端ヲ捻リオクヲモ、きそくト云フ。

き-そく （名）［驥足］〔説文「驥、千里馬」〕駿馬ノ足力。偉人ノ才力ヲ擇フヲ、驥足ヲ展ブト云フ。 三國志、[illegible]、龐統傳「龐士元非二百里才一也、使レ處二治中別駕之任一、始當レ展二其驥足一耳」

き-そく （名）［規則］（一）ノリ。オキテ。サダメ。 晉書、武帝紀「動遵二規則一」（二）正シク法則トナルベキ行爲。 [illegible]「[illegible]冰壺[illegible]規則一」

き-そく （名）［羈束］〔羈ハ、絆〕縛リ括リテ、自由ナラシメヌコト。 後漢書、張升傳「任レ情不レ羈」注「不羈、謂下超二絶等倫一、不上レ可二羈束一也」

き-そく （名）［氣色］きしょく（氣色）ニ同ジ。 續古今集、七、神祇「白河院ノ御時、アラザル外ノ事ニヨリテ、御きそく心ヨカラズ侍リケル時」

き-そく （名）［氣息］イキ。イキザシ。呼吸。 莊子、人間世篇「獸死不レ擇レ音、氣息茀然」「氣息奄奄」

き-そく （名）［貴息］他人ノ子息ノ敬稱。オムスコ。御子息。令息。

き-ぞく （名）［貴族］タフトキヤカラ。身分、家柄、貴キ人。貴戚。 晉書、列女傳「昔漢二姻貴族、將來庶有二大益一」 太平記、一、武家繁昌ノ事「儲王、攝家ノ間ニ、理世、安民ノ器ニ相當リ給ヘル貴族ヲ一人」

きそ・ぐ・グル・グレ・ゲ・ゲ・ケヨ（他動、下二）［刮］きさぐ（刮）ノ條ヲ見ヨ。

ぎ-そく （名）［義足］「義ノ條ノ（熟語、第一）ヲ見ヨ」 切斷ナドセラレタル足ヲ補フベク、着クルモノ。木、又ハ、護謨ナドニテ、足ノ形ヲ作ル。

きぞく-ゐん キゾクイン （名）［貴族院］帝國議會ノ條ヲ見ヨ。

きそ-ぢ キソジ （名）［岐蘇路｜木曾路］〔木曾ハ、此地方ノ地名〕東山道ノ中ノ、美濃國、惠那郡ヨリ、信濃國、筑摩郡ニ通ズル道。元明天皇ノ和銅年中ニ開カレタリ、後ニ、京都ヨリ江戸マデノ東山道ヲ、木曾海道（中仙道トモ云フ）ト云フハ、此道ヲ經ルニ因リテナリ。 續紀、六、和銅六年七月戊辰「美濃、信濃、二國之堺、徑道險阻、往還艱難、仍通二吉蘇路一」[illegible]（[illegible]、近松作）中「[illegible]道（[illegible]道）ハ云フニ及バズ、木曾海道、中山道」

きそ-の-よ （名）［昨日夜］キノフノヨル。昨夜。 萬葉集、二十、長歌「我ガ戀ヒム、君ゾ昨夜乃夜、イメニ見エツル」

き-そば （名）［生蕎麥］うどんこナド雜ゼズ、純粹ナル蕎麥粉ニテ打チタルそばきり。

き-そ-はじめ （名）［着衣始］〔衣ノ條ヲ見ヨ〕正月三ケ日ノ中ノ吉日ヲ擇ビテ、儀式アリ、新衣ノ着初スルコト。 昔暦ニ、コレヲ行フニ吉ナリト云フ日ヲ記セリ。 貞享四丙辰山田暦、御暦、注「きそはじめトハ、新シキ衣、裝束、衣裳ヲ着スルモノナリ」（俳諧集覽） 續猿蓑（芭蕉）下「母方ノ、紋メヅラシキ、きそはじめ」

きそひ キソイ （名）［競］キソフコト。キホヒ。競爭。

きそひ-うま キソイウマ （名）［競馬］くらべうまニ同ジ。キホヒウマ。ケイバ。 東海道名所記（萬治）六「葵祭、きそひうまナンドハ、名ニフレテ、大ナル神事也」

きそひ-がり キソイガリ （名）［服會比獵］〔きそひハ、着裝ノ略ト云フ、（本居宣長）後世ノ語ナレド、よまよひ言、よまひ言〕藥獵ノ異稱。 萬葉集、十七、二十「カキツバタ、衣ニ摺リツケ、丈夫ノ、服會比獵スル、月ハ來ニケリ」（花ノ汁ニテ染メタル狩衣ヲ裝フナリ）

きそ・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ（自動、四）［競］〔息添ノ略カ、いきほふ、きほふ〕きほふニ同ジ。競リ合フ。張リ合フ。 字鏡、三「競[illegible]言、支曾比云」

きそ・ふ キソウ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ（[illegible]、四）［[illegible]］〔きそふノ略ト云フ〕[illegible]。 萬葉集、五、長歌[illegible]リノコトコト、[illegible]モ、寅千夜マラヲ、云云、[illegible]カラムニきそひ[illegible]」

き-そん （名）［毀損］（一）毀レ、損ズルコト。缺ケ、損ズルコト。 南史、齊宗室傳「昨見二[illegible]毀損一、[illegible]」（二）毀レ、ソコナフコト。缺キ、ヤブルコト。「名[illegible]」

きそん-じふ-しち キソンジュウシチ （名）［木强十七］〔きそんハ、木强、きすん、きそんト音便ニ轉シタル語ナラム、あそぶ、あすぶ。あそぶ、あすぶ。かぐはし、かんばし〕少男、少女ノ、マダ世馴レズ、木强ニテ、初ナルコト。昔ノ少女ナドハ、十七八歳マデ、此ノ如クナリキ。「鬼モ十七、蛇モ二十」ナド云フ諺ト、同調ナル語ナリ。 一休咄（寛文）下「きそん十七、寅ノ年、角ノ無イコソ、誘ヒヨケレ」（寅ハ虎ニテ、少年ノ血氣ヲ云フ） 後撰夷曲集（寛文）三「踊モテ、きそん十七、八人モ、マジル役者ハ、笛太鼓鉦」

きそん-ぼ （名）［木强坊］〔木强ヲ擬人シテ、きそん坊ナルベシ、與太坊、よたんぼノ例、前條ノ語原ヲ見ヨ〕年若クシテ、木强ナルコト。青二歳ト云ハムガ如シ。 伊呂芝居（正德）「近イ頃マデハ、きそんぼノヤウニ、瘦肉デ、其無[illegible]サ、無器用サ」

き-そめ （名）［黄染］黄色ニ染ムルコト。 萬葉集、十六、二十一「奥ツ國、シラス君ガ、染メヤカタ、黄染ノヤカタ、カミノト渡ル」

き-ぞめ （名）［着初］（一）新衣ヲ、始メテ着ルコト。正月ナルハ、きそはじめト云フ。（二）武士ノ子、成童ニナレバ、始メテ鎧ヲ着ル、着初ノ式アリ、次第アリテ、鎧ヲ着裝フ。武功アリシ人ヲ、鎧親、

胃現ニ報ミテ行マナヲ[illegible]、[illegible]。[illegible]豪雄話、三秀康卿、越前ニ封ゼラレタマヒシ後、関ヶ原合戦トテ、武功ノ譽レアリシ者ヲ、厚祿ニテ召抱ヘラレ[illegible]リシガ、嫡子ニ鎧ノ着初サセケルニ、カノ[illegible]ヲ招待シツツ、子ニ鎧着スル事ヲ頼ミケリ」

きた (名) [illegible] [illegible]ノ一方[illegible]

きだ (名) [illegible] [illegible]え。腐、くた」 (一)きざ。ワカチ。ワカチ[illegible] (火葬)[illegible]三段ニ[illegible]豊後國風土記、大分郡「碩田、[illegible] [illegible] (二)[illegible] [illegible]一常」(古んまやう(尋常)ノ條ヲ見ヨ) (三)段別ノ[illegible]

きたい (名) [希代] (一)世ニ、稀ナルコト。[illegible] 源[illegible]散位、從一位、藤原朝臣某ト書カセタマヒタリケル、[illegible] 一、[illegible]上[illegible]希代、未ダ聞カザル[illegible]ナリ」 (二)轉ジテ、希有。不思議。京都ニテ、ケッタイ。[illegible] 古[illegible]二番[illegible](延寶)「小太刀ヲ拔テ、希代ナ早[illegible]

きたい (名) [氣體] 固形體ノ條ヲ見ヨ。

きたい (名) [危殆] 〔說文「殆、危也」〕アヤフキコト。アブナキコト。 朱熹、中庸章句、序「危殆而不安」 [illegible]馬周述、唯[illegible]

きたい (名) [illegible] [illegible]

ト[illegible]、アチニ[illegible] イニ期待スル所アリ」「期待ニ行ク」

きたい (名) [illegible] [illegible]

きたいす (名) 牛[illegible] きたきすノ音便[illegible]

きだいふし (名) [illegible] [illegible]瑠璃ハ、芝居ノ道行、所作ノ相方、舞子ノ[illegible]門左衛門、[illegible]作リテ、[illegible]夫、コレヲ語リテ、專ラ、人形ニカケテヨリ、一[illegible]

ヲ迎セリ。

ぎだゆうぼん (名) [義太夫本] [illegible]書キタル[illegible]ル。小半紙半枚ニ、五行ヅツニ、大字ニ書キタル版本ヲ、大阪版ノ正式ナルモノトシテ、五行本ト云フ。

きたう (名) [祈禱] イノリ。僧ノ、法ヲ修シテ、佛ニ心願ヲ祈ルコト。人ノ依頼ニテ行フコト、[illegible]ニ[illegible]ヒテ、[illegible]

きだう (名) [軌道] 〔軌ハ、轍ナリ」〕(一)

[illegible] (三)[illegible]

ぎたう (名) [儀刀] 〔儀式ニ用キル太刀」〕かざりたちニ同ジ。

きたうけ (名) [北受] キタオモテ。キタ[illegible]

きたうりう (名) [祈禱流] [illegible]ニ仕ヘ、後ニ、松江藩ニ仕フ。

きたおもて (名) [illegible] (一)北ニ[illegible] 二、十六段、人にあたづらゐるもの「家ノ北おもて」 (二)北面武士ノ條ヲ見ヨ。宇治拾遺、十二、二十三條「西オモテ、北おもてノ者ドモ、メンメンニ是レヲ見アラハシテ、高名セムト」

きたかぜ (名) [北風] きたげ(北氣)ニ同ジ。

きたがはは (名) [illegible] [illegible]派、江戸ノ喜多川歌麿ヲ[illegible]トス、文化二年[illegible]

きたきす (名) 牛[illegible] [illegible]ノ古名。[illegible]ニ、きたいす、ウマフブキ。[illegible] 一名、牛蒡、岐多伊須」 倭名抄、十七[illegible]「牛蒡、岐太岐須、一云、宇末不不岐」

きたきた (名) [illegible] [illegible]

蛇」[illegible]記「岐陀岐陀爾支流」 名義抄「寸、キダキダ」

きたく (名) [illegible] [illegible] 六月[illegible]

きたく (名) [貴宅] 人ノ家ノ敬稱。御宅。

きたく (名) [寄託] アヅケ、タノムコト。[illegible]

きだけ (名) [illegible] [illegible]人ノ[illegible]

きたけ (名) [北氣] 北ノ[illegible] 北風 堀河百首、雑「モトメ塚、オマヘニカカル、[illegible]舟ノ、きたけニナレヤ、寄ルカタヲナミ」

きたおろ (名) [illegible] [illegible]リテ吹クモノ。(眞東風ニ對ス) [illegible]フナリケリ」

きたざま (名) [北方] [illegible]

きたそ (名) [illegible] [illegible]集、五[illegible]」カタシホ。ヤキシホ。[illegible] 父大臣ノ、物語ニ[illegible]ニ傳ラレタルヲ聞キタマヒ「忠」[illegible] 倭名抄、十六[illegible]

きたす・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) [來] 〔きたるノ他動、たる、たす。(足)いたる、(至)いたす(致)〕 來ルヤウニナス。マネク。 名義抄[illegible]「[illegible]きたす」

きだち (名) [木[illegible]] (一)[illegible]形ヲ作リ、鐵ノ身ナキモノ。劍術ナド[illegible]

闘討事「上ハ黑韋ノ鞘卷、中ハ木刀ニ銀箔ヲ押シタリ」(二)白木ノ、塗ラヌ鞘ノ刀。太平記、三十五、青砥左衛門事「出仕ノ時ハ、木鞘卷ノ刀ヲ差シ、木太刀ヲ持タセケルガ、敍爵後ハ、此太刀ニ弦袋ヲゾ附ケタリケル」

きだち（名）【木本】〔たちハ、性質ナリ〕木草學ノ語。灌木ナドノ、其性、樹ニ似タルモノノ稱。（草本、蔓本ニ對ス）

きたづ（名）樹ノ名。たづのきノ條ヲ見ヨ。

きだて（名）【氣立】氣性ノ狀。ココロダテ。カタギ。キマヘ。意氣。甲陽軍鑑、十、下、品第三十二「其ノ方、相聟ト聞ク、小幡圖書頭ハ、如何樣ナル氣立ノ者ゾ、ト」

きだなか（名）【段半】〔段ノ條ヲ見ヨ、時半、寸半ト云フ語モアリ、なかハ、なかばナリ〕段別、一段ノ半。半段。運歩色葉集（天文）「段半、キダナカ、田」

きたな・し・キ・ケレ・ク・ク（形、二）【穢】〔きよしニ對す、かたなし（穢陋）ト通ズ、其條ヲ見ヨ、倭名抄、五五「山城國、相樂郡、佐加良加」ハ、懸木ノ轉ナリ、堅鹽、きたしほ。〕(一)【カタナシ。ミニクシ。ケガラハシ。潔カラズ。神代紀、上三「醜メキ、汚穢之國」（黃泉國）同卷四十「將レ濯二身之所一レ汚」枕草子、十二、百四十八段「物ヘマカリタリシ間ニ、きたなくハベル處ノ、燒ケハベリニシカバ」(二)【腹ギタナシ。腹黑シ。ウシログラシ。不忠ナリ。貳心】神代紀、上廿「黑心」赤心」濁心」淸心」續紀、廿六、天平神護元年八月、詔「逆心ヲ以テ、朝庭ヲ動カシ傾ケムトシテ」同上、詔「逆穢心ヲ發シテ」後撰集、十三、戀、五「人欺ル、心ノ隈ハ、きたなくテ、淸キ渚ヲ、イカデ過ギケム」(三)卑シ。ミグルシ。卑怯ナリ。ツタナシ。十訓抄、中、第七、廿四條「學問、行ヒヲバセデ、何トナク過グルホドニ、きたなき聞エサヘ出デ來ニケリ」武將感狀記、三、長湫ノ戰、成瀨隼人「君、間近ク、進退、剛怯ヲ御覽ゼラルル處ニ、黑く逃走リテハ、何ノ面目アリテ、後、人ニ見エムヤ」

きたな・び・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ（自動、下二）【卑怯】〔きたなハ、前條ノきたなしノ語根、（いとなし、いとなむ。はかなし、はかなむ）びるハ、其狀する意、ぶるノ轉カ、うらぶる、うらびれ、（あをびるる、くたびるる、さびるる、わるびるる）前條ノ(三)ヲ見ヨ〕卑怯ナルフルマヒヲス。太平記、五、大塔宮熊野落事「相構ヘテ、人人、きたなびれテ、敵ニ笑ハルナ」

きたな・む・ム・メ・マ・ミ・メ（他動、四）【穢】〔前前條ノきたなしノ語根ヲ活用セシム、暇無し、いとなむ。はしたなし、はしたなむ〕穢シトス。發心集、四、第三條「此病者ニ至リテハ、厭ヒきたなむ人ノミアリテ、近ヅキアツカフ人ハ、アルベカラズ」（路頭ノ乞食病者ヲ云フ）

きたな・ら・し・シキ・シケレ・シク・シク（形、二）【穢】〔きたなしノ語根ニ、らしヲ添ヘタル語、いとなし、はかなしヲ、いとなむ、はかなむ、トスルト、同例ナリ〕穢キ狀シタリ。「きたならしい乞食」

きたのおきな（名）【北翁】【北叟】〔海老ヲ、うみのおきなト讀ム類〕塞翁ノ文字讀。さいおうがうまノ條ヲ見ヨ。夫木抄、三十五「古ヘノ、北のおきなモ、アルモノヲ、ナドアヤニクニ、世ヲ歎クラン」土御門院集「心ヲバ、きたの翁ニ、ナラヘドモ、又タチカヘル、駒ダニモナシ」

きたのかた（名）【北方】〔寢殿ノ北ニアル、北の對屋ヲ居所トスレバ、稱ス、北ニ住マルル御人ノ意ナリ、北の政所ト云フモ、同意〕公卿ノ妻室ノ尊稱。父大臣ノ妻室ヲ、大北の方ト云フ。後拾遺集、一、春、上「右大臣（六條顯房）北方」山槐記、久壽三年正月九日「頭辨（葉室光頼）北方」盛衰記、一、兼家季仲等拍子事「左中將兼家ト云フ人アリ、北方ヲ三人持タレバ、云云」小右記、寬弘九年六月廿九日「左大臣殿大北方」

きたのたい（名）【北對】(一)寢殿ノ北ノ對屋。正妻、卽チ、北の方ノ居所タリ。たいのやノ條ヲ見ヨ。吾妻鏡、二十八、寬喜三年四月廿八日「御所北對邊、怪鳥集、少少雖レ有レ見知之人、其名不二分明一」(二)轉ジテ、正妻ノ稱。北の方。太平記、十、安東入道自害事「安東左衛門入道聖秀ト申セシハ、新田義貞ノ北の臺ノ伯父ナリシカバ」

きたのぢん（名）【北陣】內裏ノ北門ナル、朔平門ノ異稱、此所ニ、兵衛府ノ陣アレバ名トス。對門ニ、縫殿寮アレバ、ぬひどののぢんトモ云フ。江次第抄「兵衛、謂二之北陣一」平治物語、一、主上六波羅行幸事「主上ハ、北陣ニ御車ヲ立テ」

きたのふぢなみ（名）【北藤波】藤原氏ノ榮ユルヲ云フ語。詞花集、九、雜、上「春日山、北のふぢなみ、咲キシヨリ、榮ユベシトハ、カネテ知リニキ」袖中抄、十九「藤氏ノ四家ノ中ニ、北家ハ、一ノ人ノ流レ也、ソレヲ、北の藤波トハヨム也」（いちのひとノ條ヲ見ヨ）藤原氏ニ、四家アリ、南家、北家、京家、式家ナリ、北家、獨リ榮ユ、後ニ云フ五攝家、卽チ、此流ナリ。

〜**きたのまんどころ**（名）【北政所】〔きたのかたト、まんどころトノ條ヲ見ヨ〕攝政、關白ノ妻室ノ尊稱。後ニハ、大中納言ノ妻室ニモ云ヘリ、元ハ私稱ナリシガ、後世ハ宣旨ヲ蒙リテ稱セリ。父攝政ノ妻室ヲ大北政所、略シテ、大政所ト云フ。源、三十四、上、若菜、上五六十「北の政所ノ別當」玉海、治承三年十二月十日「大臣之後、雖レ攝籙以前ハ、以二室家一稱二北政所一、延久天永例也」平家物語、十一、八島軍大坂越事「御所ノ御船ニハ、女院、北政所（六條基實妻室）二位殿、以下ノ女房達、召サレタリ」增鏡、第十五、村時雨「近衛おほきたのまんどころ」康富記、應永八年六月七日「今日祇園祭也、大政所參詣、拜二神輿一」豐臣秀吉ノ母モ、大政所ト稱シタリ。

きたのみち（名）【北道】くにがのみちヲ見ヨ。

きたのみや（名）【北宮】〔后町ハ、內裏中ノ北ノ方ニアリ〕皇后ノ御異稱。公忠集「北の宮ノ御髮揚ノ屛風ニ、歌」

きたのもの（名）【北物】〔北國、越後ノ產ノ、國裏ト云フ麻布ヲ、裏ニツケタルニ因ル名ナリ（庭訓往來、四月、猪熊紺ノ庭訓抄）〕麻布ノ夜着ノ女房詞。おひえトモ云フ、其條ヲ併セ見ヨ。

きだはし（名）【階】〔段梯ノ義〕昇降ニ便利ノタメニ設クル段梯子。階段。榮花物語、十八、玉臺「七寶ノきだはしニ跪キテ、萬德ノ尊容ヲマモリ」

きたひ（名）【鍛】鍛フコト。鍛ヒテ成リタル狀。キタヘ。「刀ノきたひ」

〜**きたひ**（名）【腊】〔鍛ノ義、乾シ固メタル意ト云フ、周禮「腊人」疏「加二薑桂一而鍛者、謂二之脩一」〕魚鳥ノ肉ヲ、全身ニテ、乾シ固メタルモノ。字鏡四「腊、支太比」倭名抄、十六八十魚鳥類「腊、乾肉也、木多比」賦役令、義解「腊、謂二全干物一也」（肉ヲ薄切ニシタル脯ト、別ツ）周禮「腊人」注「腊、小物全乾者」

〜**きたひがね**（名）【鍛鐵】鐵ノ條ヲ見ヨ。熟鐵　字鏡四十金偏ニ䥫ノ字ニ「支太比加禰」

きたふ（名）【貴答】自他ノ、返辭ノ敬稱。

……ナヘンジ。貴[illegible]

きた・ふ（キタ・ウ）・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ（他動、四）［鍛］　段ヲ活用セサセタル語カ、（鍛ノ字モ、段ニ从ヘリ、說文「段、椎物也」[illegible]「鍛、打鐵也」）折リカヘシ打ツ意、刻むモ、段むナリ、或ハ、堅ヲ活用セサセタルニテ、（穢し、かたなし、堅むる意カ、[illegible]ふ、[illegible]ふ、）[illegible]　（一）鐵ヲ火ニ燒キテ[illegible]ラカニシテ、打チテ堅クス。ネヤス。ナヤス。[illegible]鍊ス。鍛冶。[illegible]（[illegible]）[illegible]　タフ、ネヤス、ナヤス」史記抄（文明）十一「焠トハ、鍛ヲきたう時、燒キテハ水ヘ入レ、マタシテハ、燒キテ[illegible]ニ入レ入レスルヲ云フゾ」　（二）[illegible]、習ヒテ、[illegible]レシム。[illegible]、[illegible]、[illegible]十六、[illegible]利口「方方ニゲノガレニケレド、ヨクきたはレタレニ[illegible]ヲ[illegible]ふ[illegible]」

きた・ふ（キタ・ウ）・フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ（他動、下二）［鍛］　前條ノ語ニ同ジ。

きだ-ふれ（キ・ダスレ）（名）［着[illegible]］　[illegible]ルハ、片寄り傾ク義、[illegible]ノ意、位ノミ高キヲ、位だふれト云フ、[illegible]全力ヲ[illegible]シテ、美服ノミ着飾ルコト、片寄ニ[illegible]ひたふれト云ヒ、[illegible]ニ飲だふれト云フ。京ノきだふれ、江戸ノくひだふれ」

きた-へ（キタエ）（名）［鍛］　きたひ（鍛）ニ同ジ。

きたへ-あ・ぐ（キタエ・ア・グ）・グル・グレ・ゲ・ゲ・ゲヨ（他動、下二）［鍛上］　（一）鍛ヘテ、仕上グ。きたヘテ、デカス。鍛成　（二）技藝ニ上達セシム。修熟「[illegible]ヲきたへあげテ」

きた・へる（キタ・エル）（動）［鍛］　鍛ふ（下二段）ノ口語。

きた-まくら（名）［北枕］　頭ヲ、北ノ方ニシテ臥スコト。[illegible]ノ涅槃（入滅）ノ時、頭ヲ北ニシ、面ヲ西ヘ向ケ、右脇ヲ下ニシテ臥セリ、コレヲ涅槃ノ儀式（儀相）ト云ヒ、頭北面西右脇臥ト云ヒ、[illegible]ノ臥法トス。[illegible]家ノ者モ、多クハ、死者ヲ[illegible]ニハ、斯ク[illegible]スルヲ習トシタリ。[illegible]二十、[illegible]、[illegible]一[illegible]きたまくら二[illegible]ナセテ[illegible]ヘリ」[illegible]、[illegible]三十三[illegible]、[illegible]河院ハ、北枕ニ御寢ナリケリ」

きたま・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）［懲罰］　懲むノ敬語。[illegible]

きた-まつり（名）［北祭］　（男山八幡宮ノ臨時祭ヲ、南祭ト云フニ對ス）[illegible]月ノ、京都ノ賀茂神社ノ臨時祭ノ異稱。單ニ、まつりトノミモ云フ。賀茂皇大神宮記「年每ノ四月ノ祭ハ、云云、中ノ酉ノ日、御祭禮、云云、北祭ト云フ、是也」

きた-まど（名）［北窓］　（一）北向キニ設ケタル窓。（二）蔽[illegible]ノ異名。月（[illegible]）入ラずノ[illegible]ナリト云フ。

きた・む・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ（他動、下二）［懲罰］　（鍛ふノ語根ヲ、別ニ活用セサセタルニテ、[illegible]むるナドト、同趣ノ語カ、いためつくる意ナルベシ、此語、敬語ニ、きたますトナル）罪ナフ。罪科ニ處ス。[illegible]、[illegible]、延[illegible]八年九月[illegible]ノママニ、[illegible]、[illegible]支多米タマフベクアレドモ、云云、[illegible]ヘタマハズ、[illegible]シ[illegible]フ[illegible]ノ[illegible]ニツキテナリ）

き-たん（名）［忌憚］　イミ、ハバカルコト。中庸、第二章「小人之中庸也、小人而無忌憚也」[illegible]「忌憚ナク[illegible]ズ」

き-たん（名）［奇談］　珍シク、面白キ話。珍說。

き-たん（名）［[illegible]］　堅ク正義ヲ守ル心。[illegible]文「[illegible]、上心亦同」「忠肝義膽」

ぎ-だん（名）［[illegible]］　[illegible]ハ、[illegible]ナル[illegible]タブヒノ、[illegible]ニ[illegible]レタルコト。[illegible]心、[illegible]、[illegible]

きた-むき（名）［北向］　（一）北ノ方ヘ向キタルコト。キタオモテ。キタウケ。古事[illegible]（二）女[illegible]　[illegible]むきノ[illegible]ヲ見ヨ。

きた-らし（名）［[illegible]］　[illegible]ヲ、[illegible]垂ラスコト。キナガシ。

きた・り・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、良變）［來］　來て[illegible]ノ約。[illegible]

吉多利ド、梅ノ花、君ニシアラネバ、折ル人モナシ」

きた-りう（キタ・リユウ）（名）［喜多流］　能樂ノ一派、五流ノ一。喜多七太夫長能ト云フ者ヲ祖トス、金剛流ヨリ[illegible]、[illegible]代[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]ノ外ニ、別ニ能役者ノ一流トシテ、立タシメラル。

ギタ-りん（名）［祇陀林］　中印度、舍衞城ノ南ニアリシ、祇陀太子ノ園林。[illegible]ヲ取リテ、祇園ト云ヒ、須達長者、此地ニ[illegible]大ナル寺ヲ建テタルヲ、祇陀林寺、又、祇園精舍ト云フ、須達ノ異[illegible]ヲ、給孤獨トモ云フ、ニ因リテ、給孤獨園、略シテ、給孤獨園トモ云フ。コレヲ釋迦ニ獻ジタレバ、釋迦、多ク、此園ニテ說教セリト云フ。[illegible]ムモ、カクヤアリケムト見エルゾ」平家物語、一、[illegible]精舍ノ[illegible]ノ聲、諸行無常ノ響アリ」[illegible]明、[illegible]、[illegible]精舍、給孤獨園モ、此頃ハ、狐狼野干ノ栖處ト成リテ、礎ノミヤ殘ルラム」榮花物語、十五、[illegible]、[illegible]、[illegible]

ギタりん-ゑ（名）［祇陀林[illegible]］　前條ヲ見ヨ。

きた・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）［來］　（來到ル約、這ひ入る、はひる）（一）來ニ同ジ。[illegible]　チ、春ノ吉多良バ、斯クシコソ、梅ヲ折リツツ、[illegible]レリ、ク」（二）弱ル。衰ル。イタム。（[illegible]）期來ル[illegible]ヲ「[illegible]」

きた・る（連體）［來］　〔來たらむナルベキナリ〕來ム。來ラム。（[illegible]ノ[illegible]）「來る幾日、會合致スベク候」

きた-は（キタ・ハ）（名）［[illegible]］　[illegible]ノ[illegible]（文政二年[illegible]）

き-ち（名）［吉］　[illegible]ノ[illegible]、[illegible]ノ[illegible]キツ。（凶ニ對ス）

き-ち（名）［貴[illegible]］　[illegible]人ノ住メル[illegible]ノ[illegible]

き-ち（名）［危地］　アヤフキ場所。危險ナル地位。「危地ニ入ル」

き-ち（名）［[illegible]］　メノ[illegible]。[illegible]

き-ち（名）［機智］　[illegible]ナル智。[illegible]ノ[illegible]キタル智慧。頓才。機略。[illegible]

きぢ (名) ［木地］ (一)材ノ質。材木ヲ、ソノママ用キテ、漆ナド塗ラヌコト。(二)きぢぬり(木地塗)ノ略。薦門松(享保、近松作)下「千兩包ミノ木地ノ臺、前ヘズッシリ飾ラセタリ」

きぢ (名) ［生地］ 自然ノママノ質。假粧セザル素顏。鎗権三重帷子(享保、近松作)上「私ガ、鏡デ顏ヲ見テ、き地ハ隨分好ケレドモ、人ガ惚レヌ」

きちう (名) ［己丑］ ツチノトノウシ。干支ノ條ヲ見ヨ。

きちう (名) ［癸丑］ ミヅノトノウシ。干支ノ條ヲ見ヨ。

きちかう (名) ［桔梗］ ききやうノ(一)ニ同ジ。古今集、十、物名、きちかう「アきちかう、野ハナリニケリ、白露ノ、オケル草葉モ、色カハリユク」拾遺集、七、物名、きちかう「アダ人ノ、マガきちかうナ、花桔ニソ、匂ヒモアヘズ、折リツクシケリ」續後拾遺集、七、物名、きちかうヲヨメル「月草ノ、色ナル花ゾ、珍ラシき、ちかうテ見レバ、コロモウツリヌ」

きちがひ (名) ［狂］ 〔氣違ノ義〕(一)モノグルヒ。氣ノ、チガヒタルコト。精神ノ狂ヒテ、人事ヲ辨ヘズナルコト。亂心。狂氣。瘋癲 (二)又、其病ノ人。狂人

きちがひなすび (名) ［狂茄］ 〔此草ノ花、葉ヲ食ヘバ、狂亂ス〕 草ノ名、まんだらげ(曼陀羅華)ニ同ジ。

きちがひみづ (名) ［狂水］ 酒ノ異名。狂藥 文化ノ川柳「墨田川、氣ちがひ水ノ、名ニハヨシ」(墨田川ハ、銘酒ノ名)

きちきち (副) 物ノ、ツマリテ、軋ム音ニ云フ語。ギチギチ。ギシギシ。キッシリ。

ギッチリ。ギッシリ。沙石集、八、下、十五條「八旬ニ餘レル老病ノ、云云、コレヲ食フホドニ、嚙セテ、きちきちトスルヲ」(餅ヲ食ヘルナリ)

ぎちぎち (副) 〔前條ノ濁レルモノ〕 鯖ヲ漕グ音ニ云フ語。軋軋

きちきちばった (名) 〔きちきちハ、翅ノ音ノ名ナルベシ、はたはたト云フモアリ〕 蟲ノ名、ばったノ條ヲ見ヨ。

きちく (名) ［鬼畜］ 〔ちくしやう(畜生)ノ條ヲ見ヨ〕 鬼ト、畜生ト。牛頭馬頭ノ鬼ト、猛獸ト。殘虐、非道ナル人ヲ譬ヘテモ云フ。謠曲、善界「三惡道ヲ出デナガラ、猶モ鬼畜ノ身ヲ借リテ」同、一角仙人「ゲニ志ヲ知ラザランハ、鬼畜ニハ猶劣ルベシ」

きぢく (名) ［機軸］ 〔樞機ノ軸、運轉ノ據ル中心〕 (一)物事ノ、緊要トシテ立ツ所。世說、讒險篇「袁悅有二口才一云云、大見二親待一、幾亂二機軸一、俄而見レ誅」(二)シクミ。テダテ。方法。「新機軸ヲ出ス」

きちじ (名) ［吉事］ 吉ナルコト。エンギノヨキコト。メデタキコト。キツジ。年中行事秘抄、三月「御燈日被レ行二他事一例、神事、吉事、遊宴、共不レ憚」

きちじやう (名) ［吉上］ 〔雅言集覽ニ、或云、衞士ノ中ニテ、上日上夜ヲ吉ク勤メシ者ヲ頭トシテ云フナリ、又、平家物語、六、小督事ニ「馬部きちじやう」トアリ、貞丈雜記、四ニ、黃仕丁ナルベシ、黃色ハ、無位ノ服色ナリ、黃色ノ狩衣着ル下部ノ事ナラムトアリ、類聚名物考、稱號、八ニ「給丁」ノ訛ナリト云フ、然レドモ、吉祥ト借字シタルモアレバ、イカガナリ〕 近衞府、衞門府、兵衞府、左右馬寮ノ下僚。衞士、仕丁ノ上ニ居テ、

警衞、逮捕ノ事ヲ掌ル。本朝文粹、三「散樂得業生、正六位、上、行、兼、腹陣吉上、養宿禰氏安」北山抄、九、陣中事「吉上近衞、候二閤門掖一」榮花物語、六、輝藤壺「陣ノ吉上、衞士、仕丁」禁祕御抄、下「所衆瀧口等、有レ召下レ簾、於二殿上口一給レ之、云云、結二吉上一」大鏡、下、道長「吉祥、返リ來テ、其女ヲ搦メテ可二將參一」盛衰記、廿五、小督事「彈正忠仲國「召具シタル馬部、吉祥ヲ二三人、留メオキ、從家ヲ守護セサセ」續古事談、二、臣節「左衞門ノ陣ノ吉上」著聞集、十七、變化「近衞、左兵衞ノ陣ノ吉上」舊、今昔物語、二十九、十四語「馬司ノ御馬ヲメシテ、藏人ソレニ乘リテ、吉祥ニ火ヲトボサセ、先ニ立テ」

きちじやう (名) ［吉上］ 上ナク、吉ナルコト。大吉。

きちじやう (名) ［吉祥］ 祥、吉キコト。メデタキコト。エンギノヨキコト。キッシヤウ。因果經「我破二不吉一以成二吉祥一」

きちじやうさう (名) ［吉祥草］ 陰地ノ竹林中ニ生ズ。葉ハ麥門冬ニ似テ、短ク、先闊ク、冬枯レズ、小雪ノ後、莖ヲ出スコト二三寸、穗ヲナシテ花ヲ開ク、六瓣ニテ、外ハ紅紫ニ、內ハ白ク、實、熟スレバ紅ニシテ、枯ルレバ黑シ。吉祥蘭。觀音草。

きちじやうてんによ (名) ［吉祥天女］ 佛敎ニ、女神ノ名、福ヲ授クト云フ、鬼子母神ノ女ニシテ、毘沙門天ノ妹ナリトス。圖スル所ハ、寶冠ヲ戴キ、左手ニ如意寶珠ヲ捧グ。宇津保物語、初秋「きちじやうてん女ニモ、イカガセマシ、ト思ハセツベキ大將ナリ」

きちじやうらん (名) ［吉祥蘭］ 前前條ニ同ジ。

きちずゐ (名) ［吉瑞］ メデタキ象。キッズヰ。嘉瑞。謠曲、國栖「吉瑞ヲ現ス魚ノ、オノヅカラ生キカヘル、此ノ占方」

きちぜつ (名) ［吉舌］ ヒナサキ。

きちと (副) 物事ノ、精密ニ相合フ狀ナドニ云フ語。キチント。キッチリ。精確 「兩說、きちと合フ」箱ト蓋ト、きちんとハマル」

きちにち (名) ［吉日］ 事ヲ行フニ吉キ日。メデタキ日。吉旦。吉辰。良辰。神功攝政前紀「皇后、撰二吉日一入二齋宮一」

きぢぬり (名) ［木地塗］ 木材ノ理ヲ現スヤウニ、漆ヲ薄ク塗リタルコト。又、其器。略シテ、きぢ。

きちひ (名) ［橘皮］ きかはノ條ヲ見ヨ。字類抄「橘皮、キチヒ」

きぢびき (名) ［木地挽］ (一)木地ノ挽物細工。(盆、椀、碁笥ナド)(二)其細工ヲスル工匠。旋工

きちん (名) ［木賃］ 薪ノ料。卽チ、旅泊ニ、旅人自ラ米ヲ携ヘテ、炊グベキ薪ノ代ノミ拂ヒテ、宿ルコト。又、木錢。此ノ如クシテ宿ス旅店ヲ、木賃宿、木錢宿ト云フ。姥櫻(元祿)「アトノ路銀ノ殘リズクナキヲ、俄ニオドロキ、コレデハナラヌト、トチメンバウ、旅籠屋泊リヲ、木賃トコロビ」(用捨箱、中)

きぢん (名) ［麴塵］ 〔きくぢんノ中略、國府、こふ。樂府、がふ。國忌、こき〕 きくぢんニ同ジ。

きぢん (名) ［歸陣］ 軍ヨリ歸ルコト。歸軍 信玄家法、下「御歸陣之砌、片時不レ可二御先一歸一事、語曰、愼レ終猶レ始」

きちんと (副) 〔きちんハ、きちきちノ音便。褐、かちん〕 物事ノ、善ク合ヒタル

狀ニ云フ語。キッチリ。吻合「きちんと合フ」

きちん-やど（名）木賃宿　木賃ノ條ヲ見ヨ。木錢宿。五十年忌歌念佛（寶永、近松作）上「三人連レノ木賃宿」

きぢ-もの（名）木地物　木地ノ器。木地ノ挽物。

きちやう（名）几帳〔几ニ懸ケタル帳ノ義〕室内ニ立テテ、隔テトスル具、貴婦人ノ座側ニハ、必ズ立テタリ。土居ノ臺ニ、高サ、二三尺乃至四尺ノ二柱ヲ植テ立テ、上ニ横木ヲツケテ、丁字形ヲナスニ、帷子ヲ懸ク、帷子ハ、五幅ニテ、四尺ハ、多クハ、朽木形ナリ、幅毎ニ、紺ノ平緒ノ細紐ヲ垂ル。上ノ横木ヲ、手ト云フ。[illegible]カタビラヲカケ[illegible]名義抄「几帳、キチャウ」

きぢやう（名）氣丈〔氣丈夫ノ略、根內證、ごくふい〕精神ノ、雄雄シキコト。膽氣ノ剛キコト。膽氣「きぢやうなる」

ぎちやう（名）議長　會議ノ席ニ、長トナリテ、衆議ノ採決、整頓ヲナス人。

ぎぢやう（名）儀仗　儀式ニ用ヰル兵仗。後ニハ、木ニテ、形ノミ造ル。（兵仗ノ條、見合スベシ）今、行幸、行啓、其他ニ、警衞スル軍隊ヲ、儀仗兵、儀仗隊ト云フ。[illegible]之征伐、曰兵器、用之儀容、曰儀仗也」

ぎぢやう（名）戲場　シバヰ。劇場。

ぎぢやう（名）議場　會議ノ場所。

ぎぢやう（名）議定（一）議ヒテ、定ムルコト。議定。平治物語、二、官軍除目を行ふる事「此ノ後、大内ニ、[illegible]、殿舎ニ宿シ、[illegible]ナリ、[illegible]メラレズシテ、[illegible]ナラン事、[illegible]ベカラザルヨシ、[illegible]ナリトゾ聞エケル」[illegible]（議）定ナドイフ事ニモ參リ給フベシト聞エツルニ」（二）轉ジテ、議定シタル掟。「議定ヲ破ル」

ぎぢやう-しよ（名）議定所　後[illegible]ノ元亨年中ニ置カレテ、朝廷ノ政治ヲ議定セシメラレシ所。[illegible]山院ノ文殿、議定所ニ移サレ、評定衆ナド、少少代ハルモアリ」

きぢやうぶ（名）氣丈夫〔きぢやうぶ（丈夫）ノ條ヲ見ヨ〕心ニ危ミナク、安全ニ思フコト。略シテ、氣丈。

きちやう-めん（名）几帳面〔几帳ノ柱ノ製ニ起レル名カ〕（一）器具ノ細工ニ、稜角ニ、面ヲ取リテ、段ノ條ヲ入レタルモノ。（二）行儀ノ、折目正シキコト。方正「几帳面ナ人物」

きちやく（名）歸着（一）歸リテ、其處ニ到リツクコト。カヘリツクコト。[illegible]記、三、[illegible]「左府、[illegible]ヲ座ノ前ニ召テ、云云[illegible]ントシケレバ」（二）一所ニ、落チ着クコト。[illegible]

きちや-むすび（名）吉彌結　[illegible]ノ頃ノ女形ノ若衆役者上村吉彌ノ[illegible]九年[illegible]ヨリ、名トス、其[illegible]ハ、玉章結ビト云ヘリト云フ」女ノ帶ノ結ビヤウノ名。背ニテ、二ツ[illegible]

テ、其兩端ヲ、唐犬ノ耳ヲ垂レタル如クニ垂ラシオクモノ。當時ノ女帶[illegible]カリキ。[illegible]ニ、くけめノ[illegible]八「腰ニ餘レル丹前帶、後ヘキリリト引キマハシ、吉彌ヤウニ結ブモアリ」

きちや-やう（名）吉彌樣　前條ヲ見ヨ。

きちゆう（名）忌中　忌ニ籠リ居ル間。忌、及、喪ノ條ヲ見ヨ。[illegible]

きちゆう（名）奇中　メヅラシク、アタルコト。不思議ニ、的中スルコト。史記、[illegible]

きぢゆう-き（名）起重機　重キ物ヲ上ゲ下ゲスル裝置アル機械。

きちよ（名）貴著　他人ノ著述ヲ稱スル敬語。高著。

きぢよ（名）鬼女　女相ノ鬼。[illegible]謠曲、山姥「山姥トハ、山ニ住ム鬼女トコソ、曲舞ニモ見エテ候へ」

ぎぢよ（名）伎女　舞伎ヲナス女。謠曲、谷行「使者ノ鬼神ノ伎樂、伎女ヲ遣ハシ、助ケオハシマセ」

ぎぢよ（名）妓女　アソビメ。[illegible]ヂョウ。ヲヤマ。百[illegible]抄、七、平治元年正月廿一日、内宴、妓女[illegible]

きちよう（名）貴重　貴ビ、重ンズルコト。儲メテ、大切ナルコト。[illegible]古、引[illegible]武臣相州、[illegible]今[illegible]不[illegible]後[illegible]」

きぢよ-らん（名）[illegible]

きちれい（名）吉例　[illegible]

きちれい（名）[illegible]　きつれい（[illegible]）ニ同ジ。

きつ（名）狐〔又、くつト云フ、（きつね[illegible]ラム、其聲、きつきつト云ヒ、狂言記[illegible]ヒ、今、きんきん、靜岡ニテ、きんき〕きつねノ（一）ノ古名。其條ヲ見ヨ。萬葉集、十六「[illegible]ニ、湯沸カセ子ドモ、櫟津ノ、[illegible]リツル」（ニツキテハ）散木集、[illegible]ニ、きつねノ鳴クヲ聞キテヨメル「聞ク人ノ、察ユト云ヘバ、夜ノ寢ミ、鳴クナルきつヲ、アハレトゾ聞ク」

きつ（名）[illegible]

きつ（名）吃　ママナキ。ドモリ。史記、[illegible]

きつ・い（形）（一）甚シ。烈シ。エライ。ヒドイ。狂言記、末廣がり「カウ致シマスルト、きつう廣ガリマスル」（末廣ノ扇ニ云フ）大内[illegible]話ニナッタ」「酒ノ味ガきつい」（二）强シ。剛シ。勇シ。「坊ヤハきつい」

きつ-えん（名）吃煙喫煙〔きっす（喫）ノ語原ヲ見ヨ〕烟草ヲ吸フコト。

きッ-かい (名) 〔乞丐〕 「康熙字典「丐、乞也」」 モノモラヒ。カタヰ。コジキ。乞兒。 陳淵書、青州父老、乞丐、養、困、貢假、位」

きッ-かう (名) 〔桔槹〕 「廣韻「桔、古屑切」」ハネツけつトアレド、慣用音ニ從フ」 ハネツルべ。 莊子、天運篇「子獨不見夫桔槹者乎、引之則俯、舍之則仰」

きッ-かう (名) 〔頡頏〕 〔唐韻「頡、胡結切」ニテ、けつナレド、今、慣用音ニ從フ〕 (一)飛ビアガリ、飛ビクダルコト。 詩經、邶風、燕燕篇「燕燕于飛、頡之頏之」註「飛而上曰頡、飛而下曰頏」 (二)雙方ノ力ノ、相上下スルコト。 負ケズ劣ラヌコト。「學力、相頡頏ス」

きッ-かう-でん (名) 〔乞巧奠〕 きかうでんヲ見ヨ。 字類抄「乞巧、キッコウ」

きッ-かけ (名) 〔切掛〕 〔きりかけノ音便、きりさき、きッさき。そりくりかへる、そッくりかへる」 (一)テハジメ。ハジマリ。初發。 (二)シホ。ヲリ。ハヅミ。トタン。 機會 甲陽軍鑑、七、品第十六「法ヲ重ンジ奉リ、何事モ無事ニトバカリナラバ、諸侍、男道ノきッかけヲハヅシ、ミナ不足ヲ堪忍仕ル臆病者ニナリ候ハン」

きづかは・し シキ・シケレ・シク・シク (形、二) 〔氣遣〕 〔きづかふノ未然形、きづかはヲ活用セシム、いとふ、いとはし。おもふ、おもはし〕 氣遣ヒニテアリ。ココロモトナシ。キガカリナリ。 孕常盤(正德、近松作)三「アトノ御用ハ、手代共承ル筈ナルニ、オ氣遣レト申シケル」

きづかひ (名) 〔氣遣〕 キヅカフコト。ココロヅカヒ。キガカリ。 掛念。 焦慮

狂言記、土產鏡「氣シウ便リモ無カ タニヨッテ、殊ノ外、氣遣ひヲシタ」

きッ-かふ (名) 〔龜甲〕 〔きかふノ急呼、奇怪、きッくヮい。生粹、きッすゐ〕 (一)龜ノ甲。 (二)次次條ノ語ノ略。 (三)六角、龜甲形ノ折櫃ナルベシ。 四條流庖丁聞書(長享)「向ノ菜ハ、五種ノ削物、燒鳥、云云、龜甲、又ハ、土器ニ、高立シテ、盛ルナリ」

きづか・ふ フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (自動、四) 〔氣遣〕 氣ヲツカフ。心モトナク思フ。掛念ス。案ジル。 焦慮 狂言記、老武者「我レ我レガ加勢致シマスルホドニ、必ズ氣遣はセラルルナ」

きッかふ-がた (名) 〔龜甲形〕 〔龜ノ甲ニアル文、かめ(龜)ノ條ヲ見ヨ〕 模樣ノ名。六角形ノ、上下、左右ニ相並ビタル象。タダ一ツナルニモ云フ。幸菱。

きッ-かへし (名) 〔切反〕 相撲ノ手。敵ノ攻手ヲ利用シテ、反擊スルコト。

きッ-かり (副) 〔かッきり(限)ノ倒語ナラム、きッちりヲちョッきり、てッきりト云ヒ、まんみり(染染)ヲみッまりト云フモ、同ジカルベシ、りハ、らノ條ヲ見ヨ〕 かッきりニ同ジ、區分ノ判然タルニ云フ語。 劃然

きづかれ (名) 〔氣疲〕 氣ノ、疲レタルコト。氣力ノ疲勞。 疲倦 國性爺後日合戰(正德、近松作)四「稚心ノ氣疲れヤ、机引キ寄セ、肱ヲ曲ゲ、トロリトロリト寢入リケル」

きづき (名) 〔氣附〕 キヅクコト。ココロヅキ。

きッきッ-と (副) 〔吃吃〕 笑フ狀ニ云フ語。キウキウト。 文同詩「吃吃笑、勞、生」

きッ-きやう (名) 〔吃驚〕〔喫驚〕 〔きッす(喫)〕 ノ語原ヲ見ヨ」 オドロクコト。ビックリスルコト。

きつ-ぎやく (名) 〔吃逆〕 サクリ。シャックリ。

きッ-きよ (名) 〔拮据〕 「集韻「拮、激質切、音吉、吉屑切、音結、義、同」」 忙シク働クコト。仕事ニ骨折ルコト。 詩經、豳風、鴟鴞篇「予手拮据」箋「鄭詩云、口、足、爲、事曰拮据」 「拮据經營ス」

きッ-きよう (名) 〔吉凶〕 吉ト、凶ト。 易經、文言「與鬼神、合其吉凶」 書經、咸有一德篇「惟吉凶不、僭在、人」 程頤、言箴「吉凶榮辱、惟其所召」 平治物語、一、信西出家「吉凶ハ糾ル繩ノ如シ」「吉凶禍福」 由來矣 人書 、時

きづ・く ク・ケ・カ・キ・ケ (自動、四) 〔氣附〕 氣ガツク。ココロヅク。知リック。 覺知

きづ・く ク・ケ・カ・キ・ケ (他動、四) 〔築〕 「出雲國風土記ニ云ヘル、杵築くト云フ語ニ起レルカ、(杵ノ條ヲ見ヨ)或ハ、城築くノ義カ」 土石ニテ、築キ固メ、積ミ作ル。築ク。「城ヲ築く」臺場ヲ築く」石垣ヲ築く」土手ヲ築く」

きづくし (名) 〔氣盡〕 ココロヅクシ。氣ヲモムコト。 薩摩歌(寶永、近松作)源五兵衞段「心盡シヤ、氣盡しニ、暮レヌ先ヨリ我ガ心」

きッ-くつ (名) 〔佶屈〕〔詰屈〕 (一)つまると、かがまると。 易林「其指佶屈、不能解脫」 (二)文字ノ、ムヅカシク、解シガタキコト。 韓愈、進學解「周誥殷盤、佶屈聱牙」

きづくり (名) 〔木造〕 (一)木材ヲ以テ造リタルコト。(石造ナドニ對ス) (二)杣人、工匠、等ノ、材木ヲ、所用ノ形ニ削ル

コト。 出世景清(貞享、近松作)一「大和大工ニ番匠、杣人木づくり、手斧ハリ」

ぎッくり (副) 〔ぎッくハ、きくきくノ音便急呼、りハ、らノ條ヲ見ヨ〕 礙ト支ヘタル狀ニ云フ語。

きッ-くわい (名) 〔奇怪〕 〔奇怪ノ急呼、龜甲、きッかふ。生粹、きッすゐ〕 きくゎい(奇怪)ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。

きつけ (名) 〔着附〕 (一)着馴レタルコト。又、其衣服。「着附ノ羽織」 (二)演劇、踊リ、ノ衣裳、鬘、ノ作リヤウ。演戲ノ服裝。

きつけ (名) 〔氣附〕 (一)氣絕シタルヲ、蘇生ラスルコト。「氣附ノ藥」 (二)疲レタルニ、元氣ヲ引立ツルコト。イキツギ。 會我五人兄弟(元祿、近松作)二「早ク歸ッテ、二合半ノきつけヲバ、ウン飲ムベイ」

きづけ (名) 〔氣附〕 (一)氣ヲツケルコト。ココロヅクルコト。注意 (二)手紙ノ表ニ記シテ、某人、某所ノ注意ヲ請フ義ニ用キル語。猶、某氏方ト云ハムガ如シ。

きッ-けい (名) 〔吉慶〕 メデタキコト。イハヒ。コトブキ。 魏書、彭城王勰傳「毀辭三年、弗、參吉慶」 庭訓往來、正月「改年吉慶、被、任御意候之條」「新年ノ吉慶、目出度申納候」

きッ-さ (名) 〔喫茶〕 〔喫すノ條ノ語原ヲ見ヨ〕 茶ヲ飲ムコト。キッチャ。 水滸傳、第三回「且請員外方丈喫、茶」

きッ-さう (名) 〔吉左右〕 〔さう(左右)ノ條ヲ見ヨ〕 吉キ音信。吉報。 吉語 鑓權三重帷子(享保、近松作)下「追ッツケ吉左右待チ申スト、言ヒ捨テテ驅ケ出ヅル」

きッ-さう (名) 〔吉相〕 (一)吉兆。吉瑞。 大

議、下、道長「永ク御末榮エタマフハ、吉相ニコソハアリケレ」ト[illegible]（二）吉キ人相（[illegible]相ニ對ス）[illegible]一[illegible]二ハ[illegible]アリ、[illegible]ツケ[illegible]シ、[illegible]兵ノ御代トナルベキゾ」

きっさう（名）[illegible]〔[illegible]、奇怪、きっくゎい。奇態、けったい〕心氣ノ、面相ニアラハルルコト。顏ノ氣色。オモモチ。カホイロ。ケンサウ。「きさう」[illegible]

きっさき（名）切先〔きりさきノ急呼、きりかけ、き[illegible]かけ、のりとる、[illegible]とる〕刃物ノ[illegible]ノ尖。[illegible]カル」「出刃庖丁ノ切先」

き・さき（名）[illegible]〔[illegible]〕切リ裂キ[illegible]コト。又、[illegible]

きっ・し・キ・ケレ・ク・ク（形、二）口語ニ、きついトノミ云フ。其條ヲ見ヨ。

きっ・じ（名）吉事〔凶事ニ對ス〕きちじ（吉事）ニ同ジ。[illegible]番ノ時、一日ニ千里ヲ行ク馬ヲ獻ズル者アリ、云云」

きっ・じ（名）乞兒 乞食。コジキ。モノモラヒ。乞丐。[illegible]

きつ・じつ（名）吉日〔凶日ニ對ス〕きちにち（吉日）ニ同ジ。[illegible]日」

きつ・しん（名）吉辰 吉日ニ同ジ。[illegible]

きつ・じん（名）吉人 善キ人。善人。[illegible]

ぎっしゃ（名）牛車 うしぐるま（牛車）ニ同ジ。俗ニ、御所車トモ稱セリ。中古、貴人ノ乘用セシ車ニテ、其人ノ資格ニヨリテ、製ヲ異ニセリ、其種類ハ、構造ニヨリテ、唐庇車、雨眉車、檳榔毛車、檳榔庇車、青絲車、赤絲車、紫絲毛車、半蔀車、網代庇車、八葉車、金作車、等アリ。又、其ノ用ヨリ云ヘバ、物見車、副車、等ノ名アリ。其ノ構造ハ、屋形ノ長サ八尺、高サ三尺四寸、廣サ三尺二寸ナリ、（[illegible]）通常、四人乘ニテ、或ハ二人、或ハ六人、乘ルコトモアリ。コレハ平安遷都後、流行シ、風俗[illegible]ニ流ルルニ隨ヒ、金銀ノ裝飾ヲ施シ、華美ヲ競ヒシガ、鎌倉時代ノ頃ヨリ、次第ニ衰ヘ、徳川時代、儀禮ノ行ハルルニ至リテ、[illegible]セリ。[illegible]入ラセ給ヘバ、ソレヨリウチハ、何バカリノ程ナラネド、ヒモトキテ入ラセ給トゾ」

きっしゃう（名）吉祥 きちじゃう（吉祥）ニ同ジ。[illegible]」

きっしょ（名）吉書〔吉日ヲ[illegible]ル文書ノ義〕（一）歳首、改元、御讓位、代替リナド、スベテ、事ノ改マリタル時ノ政務ノ文書、其文書ヲ始メテ[illegible]ニツキテハ、吉書始ト云フ。又、年始ニ、政治上ノメデタキ文書ヲ奏聞スルヲ、吉書ノ奏ト云フ。[illegible]書奏ストテ「ウレシクゾ、和歌ノ浦[illegible]、ノドカニテ、[illegible]」（二）近古、年頭ノ書初ヲ吉書始ト云ヒキ。[illegible]ニハ、其吉日ヲ記シタリ。

きっしょ-のそう（名）吉書奏 前條ノ（一）ヲ見ヨ。

きっしょ-はじめ（名）吉書始 前前條ヲ見ヨ。

✢**きっしり**（副）〔きっしハ、きしきしノ急呼、[illegible]〕[illegible]

✢**ぎっしり**（副）[illegible]ニ同ジ。[illegible]三馬）二編、上「ヨイ程ヅツニ切ッテナ、平ニ入レテ、ぎっしりト[illegible]シテ出スサカヒニ」

キッス（名）[illegible]〔[illegible]〕口吸フコト。（くちすふノ條ヲ見ヨ）歐米ノ風習ニテハ、親交ノ意ヲ表スルナリト云フ。

きっ・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ（他動、左變）喫〔唐韻「喫、苦擊切」トアレバ、音、けきナレド、習慣ノ音ニ從フ、吃ト混ジタルナラム〕[illegible]食フ。飲ム。喫フ。[illegible]太平記、三十七、[illegible]「一椀之酒ニ與」兵飲」「飯ヲ喫す」「茶ヲ喫す」又、一瘤を喫す、一棒を喫すナド云フハ、狼狽を食ふ、小言を食ふナド云フト同ジク、受くノ意ニテ、ソレ、ヤガテ、出會ふノ意トナル。

ぎっす（名）[illegible]〔[illegible]すノ急呼。キリギリス。ギッチョ。〕

きっすゐ（名）生粹 [illegible]くゎいト云フガ如シ」物ノ、一切ノ雜糅ナキコト。純ノ純ナルモノ。[illegible]與作（寶永、近松作）下「[illegible]ノ主君ニ忠[illegible]ヲハゲムコソ、恥ヂヲ知ッタル侍、大丈夫ノきっすゐト云[illegible]」

き・すゐ（名）喫水 [illegible]

きつ-ずゐ（名）吉瑞 きちずゐ（吉瑞）ニ同ジ。[illegible]

きっすゐ-せん（名）喫水線 [illegible]前前條ヲ見ヨ。

きっ・せき（名）詰責 [illegible]叱リテ、問ヒツムルコト。[illegible]

きつ-ぜん-と（副）[illegible]尖リテ、[illegible]

き・づた（名）木蔦 [illegible]ノハ、莖、長大トナリテ、木ノ如ク、或ハ、直立ス、故ニ名アリ、[illegible]白花、[illegible]グサ。常春藤。

きっ・たて（名）切立〔きりたてノ急呼〕（一）直下ニ削レルコト。「きったてノ切岸」（二）[illegible]

前ニハ、きッ立ノ松四本ニ、藤ノツクリ花ヲカク、鶴モ二ムカヒテ立、ケニ千歳ノ春ノ光モ、サシソフ玉ノ砌ト見エタリ」

きッ-たん (名) 吉旦 吉日ニ同ジ。

きッ-たん (名) 詰旦 きッてう(詰朝)ニ同ジ。金史、鄭家傳「詰旦、舟人望ニ見敵舟ヿ、請レ爲レ備」

きッ-ちゃ (名) 喫茶 きッさ(喫茶)ニ同ジ。

ぎッ-ちゃう (名) 毬杖 槌形ノ杖ニ、彩絲ヲ絡ヒタルモノ。コレ、古ヘ遊戲ナドニ用ヒテ、木製ノ毬ヲ打ツトゾ。平家物語、五、奈良炎上事「大キナルぎッちゃうノ玉ヲ造リテ、是レコソ入道相國ノ頭ト名ヅケテ、打テ、踏メ、ナドゾ申シケル」

ぎッ-ちょ (名) 螽斯 きりぎりすノ異名。ギス。ギッス。

きッ-ち-り (副) 〔きッちハ、きちきちノ急呼、りハ、らノ條ヲ見ヨ〕 きッしりニ同ジ。キチント。

ぎッ-ち-り (副) 前條ニ同ジ。キチキチ。

き-つつき (名) 啄木鳥 〔木突ノ義〕 鳥ノ名、古名、テラツツキ。今、又、ケラツツキ、或ハ、ケラ。赤げら、靑げら、白げら、黑げら、縞げらナド、羽ノ色、種種ニシテ、皆、文采アリ。又、大げら、小げら、山きつつきナドノ類アリ。山ニ棲ム、大キナルハ鳩ノ如ク、小サキハめぢろノ如シ、嘴、細長クシテ、錐ノ如ク、舌ハ、嘴ヨリ長クシテ、端ニ針アリ、針ノ頭、鋸ノ齒ノ如シ、樹ヲ突キ穿チ、舌ニテ、中ノきくひむしヲ鉤ケ出シテ食トス。

きッ-つけ (名) 切附 〔毛皮ヲ切りつくる意ニモアルカ〕 下鞍ノ條ヲ見ヨ。物具裝束抄、和鞍具事「尺退レ時、切付ニ時用レ之、大滑之時不レ用レ之」 飾抄、下、和鞍「切付、四位已上豹皮、五位已下虎皮」

きッ-つけ-もん (名) 切附紋 無地染ナドノ服ニ、別ニ紋形ヲ切作リテ、糊ニテ貼附ケタルモノ。

きッ-て (名) 切手 〔切符手形ノ略、約束手形ヲ約手ト云フガ如キカ〕 (一)手形ニ同ジ。券 「關所通行ノ切手」 (二)商品ヲ預ケテ、代價ノミヲ拂ヒオク、其預リ證券。此券ノ所持人ハ、コレト引換ニ、其商品ヲ請取ルコトヲ得ルモノ。コレハ、切換手形ノ略ナルカ。「切手米」「呉服切手」 (三)郵便切手ノ略。

きッ-てう (名) 吉兆 〔凶兆ニ對ス〕 サイサキメデタキ、シルシ。吉相。吉瑞。左傳、哀公二年、杜注「始納ニ衞太子ハト得ニ吉兆ニ」 運歩色葉集「吉兆、キッテウ」

きッ-てう (名) 詰朝 〔說文長箋「本作ニ喆朝ニ、喆古哲字、借レ明也、故、明朝爲ニ喆朝ニ、今俗、以レ詰爲レ詰、因ニ詰喆形溷ニ誤ニ」〕 よくてう(翌朝)ニ同ジ。詰旦。左傳、襄公十四年「詰朝之事、爾無レ與焉」

きッて-まい (名) 切手米 〔切手ノ條ノ(二)ヲ見ヨ〕 米ノ藏預證券。江戸時代、大名ノ藏屋敷ナドヨリ發行シ、轉轉、賣買シタルモノ。

きッ-と (副) 急度 〔きとノ急呼〕 きと。チャット。盛衰記、十、丹波少將上洛事「皆喜ビノ涙ニムセビテ、きッと物言フ人モ無カリケリ」 平家物語、七、經正都落事「斯ル騷劇ノ中ニモ、君ノ御名殘、きッと思出デマヰラセ、侍五六騎召シ具シテ、仁和寺殿ヘ馳セ參リ」

きッ-と (副) 急度 屹度 〔前條ノ語ノ轉〕 必ズ。相違ナク。必。平家物語、二、西光被レ斬事「院ノ御所ヘ參リ、大膳ノ大夫ヲヨビ出テ、きッと申サンズルコトハヨナ」 著聞集、十六、興言利口「走リムカヒテ云フヤウ、タダ今內裏ヘ、急度參ラセ給ヘ」

きッ-とん (名) 橘飩 きんとんノ語原ヲ見ヨ。

き-づな (名) 紲 絏 〔頸綱ノ約、倭名抄、十五ニ「犬枷、久比都奈」踵、きびひす、きびす〕 (一)犬ナドノ頸ニカケテ、繫ギトムル綱。倭名抄、十五ニ「攣、所ニ以綴ニ攣狗ー也、岐豆奈」 箋注倭名抄、五六十五「紲、攣也、岐都奈」 (二)離レガタキ心。情ノ、絕チガタキコト。ホダシ。ワヅラヒ。係累 絆 沙石集、三、上、第一條「恩愛ノきづなヲ斷チ、無爲ノ家ニ住マム」 平家物語、十、維盛入水事「妻子ハ、無始曠劫ヨリコノ方、生死ニ臨會スルきづな(羈絆)ナルガ故ニ、佛ハ重ク戒メ給フナリ」

きつ-ね (名) 狐 〔本名、きつ、又、くつニテ、(きつノ條ヲ見ヨ)ねハ、意ナク添ヘタル語、(羽ね、杵ね、眉ね)又、或ハ、稻荷ノ神ノ使トシテ、尊稱ノねヲ添ヘタルカ〕 (一)〔古名、きつ。又、くつね。〕獸ノ名。形、犬ヨリ小サク、毛、赭黃ニシテ、腹ノ下、白シ、嘴、尖リ、尾、大キク、輕捷ニシテ、疾ク走ル、人家ニ近キ山ナドニ穴居ス、性、甚ダ狡猾ニシテ、夜、人家ニ入リテ、鷄ヲ捕リ、食物ヲ竊ム、又、黑狐、白狐モアリ。狐ハ、稻荷ノ神ノ使ト稱シ、又、變化自在、不思議ナルモノトシ、善ク人ヲ誑ストス。イガタウメ。タウメ。野干。タウカ。けつね。靈異記、上、第二緣「野干、岐都禰」 本草和名、下十「狐、岐都禰」(倭名抄、同ジ) 大同類聚方、五四「久都禰」 名義抄「狐、キツネ、クツネ」 下學集、上、氣形門「狐」 (二)遊女、女郎ノ異名。人ヲ誑ス意ヨリ云フ。そぞろ物語(元和、寬永)吉原傾城町「狐、人ヲトラカスニハ、必ズ美人ト成テ、云云、誠ニ江戸吉原ノ晝狐ニハ、天地モ動キ、目ニ見エヌ鬼神モ來現アリツベシ、云云、吉原ノ若狐ニ迷ハヌ人アルベカラズ」 文化ノ川柳「黑助ガ、氏子ヤッパリ、狐ナリ」(黑助ハ、黑助稻荷、氏子ハ、遊女ドモナリ)

きつね-あざみ (名) 狐薊 一年草、秋、生ズ。初メ、地ニ就キテ叢生シテ、たんぽぽノ如シ、葉ハ、のあざみニ似テ、面、深綠ニ、背ニ白毛多ク、柔ニシテ刺ナシ、春、薹ヲ抽ク、高サ三五尺、枝葉、互生ス、初夏ニ、枝ノ頂每ニ淡紫花ヲ開ク、やまあざみニ似テ小サシ、後ニ絮トナリテ飛ブ。キツネノマユハケ。藁蒿

きつね-いろ (名) 狐色 〔狐ノ背ノ毛色ニ似タレバ、名トス〕 黃ニ、黑ミアル色。赭黃

きつね-がうし (名) 狐格子 〔格子ノ內ヨリ外ハ透シ見ラレテ、外ヨリ內ハ見エズ、不思議ナル意ナリト云フ、江市屋格子ヲ參見セヨ〕 格子戸ノ格子ヲ、密ニ組ミタルモノト云フ。殿中ニ用ヰラルルヲ、工匠ハ、木連格子ト云フトゾ。纈山井(寬文、季吟)「火トモスヤ、狐がうしモ、家櫻」

きつね-がうし-ど (名) 狐格子戸 前條、及、きつねど(狐戸)ノ條ヲ見ヨ。

きつね-けん (名) 狐拳 〔指先ニテスル蟲拳、石拳ヨリ轉ジテ、兩手ニテスルコトトナレルナリ〕 又、庄屋拳。二人、相對坐シ、兩手ヲ用キテ行フ遊戲ノ競技。兩手ヲ兩鬢ノアタリヘ上ゲテ、兩耳ニ擬フルヲ狐ノ態トシ、正坐ノ狀ヲシテ、兩肩ヲ張リ、兩手ヲ兩膝ノ上ニ支フル

ヲ庄屋殿トシ、左手ヲ前ヘ伸べ、右肘ヲ張リ、火繩銃ヲ構ヘテ狙ヒ撃チスル狀ヲスルヲ獵人トス、狐ハ庄屋ヲタブラカストシ、庄屋ハ獵人ヲ制ストシ、獵人ハ狐ヲ撃ツトシテ、互ニ其態ヲナシテ勝負ヲ決ス。打出シハ、先ノ三打トテ、きつんきつんきつんト拍子シナガラ、三度手打ヲシテ、直チニ打チ始ムルナリ、昔ハ二三度勝負ナリ。又、藤八拳トモ云フハ、同ジ事ニテ、全ク東國ニ行フモノナリ。其條ヲ見ヨ。[illegible] リ、云云、虫拳、狐拳、本ノ拳杯スルモオカシ」

きつね-つかひ (名) 狐遣 狐ノ靈ヲ使ヒテ行フト云フ術。[illegible]

きつね-つき (名) 狐付 狐ノ靈ニ憑カレテ、狂ノ如クナルモノ。[illegible] 江匡房ノ狐媚記ニ、康和三年、洛陽ニ狐媚ノ妖アリ、朱雀門ニテ祭ル狐大饗ト云フニト云ヘルコトアリ。

きつね-つり (名) 狐釣 狐ヲ、係蹄ニテ釣リ捕ルコト。又、其人。打狐人 [illegible] 實ニアルコト讀レナク」

きつね-ど (名) 狐戸 [狐格子ノ戸ノ略ナルベシ] [illegible] ルヲ、狐戸ト云フ。(二)入母屋造ノ屋根ノ下ニ、窓ノ如ク設ケタル入口。狐格子ノ遣戸アリ、入レバ、天井ノ上ナリ、夏ハ開キテ風ヲ入ル、家ノ朽チザルタメニ設クルモノト云フ。キツネマド。[illegible] 入テ、顯光ノ孫タル上ノ天井ニアリ」[illegible] ものアル由聞エケレバ、云云、若狹前司通慶、云云、發狹ノ狐戸ニ入テ待テケリ」

きつね-の-かみそり (名) 草ノ名、まんじゆしやげノ一種ニシテ、葉細ク、黄色ヲ帶ビ、花ハ[illegible]

きつね-の-ちやぶくろ (名) 狐ノ茶袋ノ義。菌ノ名、ほこりたけニ同ジ。

きつね-の-びんざさら (名) 一年草、原野ニアリ、高サ一二尺、葉ハ、なんめのきニ似タリ、秋、葉ノ間ニ小黄花ヲ開ク、實、長サ一寸許、褐色ニシテ、内ニ小子アリ、莖、葉ヲ、利水ノ藥トス。山萵苣

きつね-の-まゆはけ (名) 草ノ状、眉刷毛ニ似タル草ノ名。[illegible] ノ條ヲ見ヨ。

きつね-の-よめいり (名) 狐嫁入 (一)夜、原野ニ、狐火ノ、數多ツラナルヲ、狐ノ嫁入スル行列ノ提燈ナリト見テ、謂ニカキナドスルモノ。(二)一方ニ日ハ照リ、一方ニ雨ノ降ルヲ、戲レニ稱シ、化有任ノ狐ノスル所爲トシテ云フナルカ。[illegible]「タッタ今マデ、クヮンクヮントシタ空デアッタニ、エエ聞エタ、狐の嫁入りノソバエ雨」

きつね-び (名) 狐火 [狐ノ、口氣ヲ吐クモノトシテ、[illegible]] (一)[illegible] (二)芝居ニテ、きつねふうび(樟腦)[illegible] 火ヲ云フ。其條ヲ見ヨ。

きつね-まど (名) 狐窓 きつねどニ同ジ。

きつね-や (名) 狐矢 [目ヒカケス、不目[illegible]] 巻ナル意ニテ、狐ト云フカ」狐矢、事ナルベシ。盛衰記、四十二、屋島合戰事 [illegible] タダソノママニ、マタ善ゾセヌ」

きっ-ぱい (名) 吉貝 綿布。[illegible]

きっ-ぱう (名) 吉報 [因果ニ對ス、エン] ギノヨキ通知。吉左右。

きっ-ぱん (名) 吃飯 喫飯 [きっす(喫)ノ] 飯ヲ食フコト。食事。[illegible]

きっ-ぱり (副) [きっぱハ、きはやかノきはノ急呼、[illegible]] [illegible]「きっぱり言切ル」

キ-ヒン (名) 稀品 [illegible] 九年[illegible] (甲子夜話、五十七)

キ-ヒャン (名) [illegible]

き-ぶ (名) 切符 切手ノ類。[illegible]

き-ぶく (名) 吉服 凶服、喪服ヲ脱ギテ、常ノ服トナルコト。[illegible]

き-づま (名) 氣褄 [氣褄ノ意[illegible]] 人ノ心ノオモフヨリ、取ルト云フカ」[illegible] ハク。キゲン。「機嫌、きづまヲ取ル」

きつ-む (名) 吉夢 [illegible] ギノヨキ夢。[illegible]

きづ-む [illegible] 詰むノ上略カト云フ、いきほふ、きほふ、いきまふ、きそふ[illegible]

きつ-もん (名) 詰問 ナジリ、トフコト。[illegible]

き-づもり (名) 木積 材木ノ、大小、多少ノ見積リ。

き-づよ-し キ・ケレ・ク・ク(形、二) 氣強 (一) 心ヅヨシ。氣丈夫ナリ。(二)意向、[illegible]

きつ-りつ (名) 屹立 [illegible]

きつ-れい (名) 吉例 [illegible]

きつ-れい (名) 吉禮 [illegible]

きつれ-がうし (名) [illegible]

きて [illegible]

き-てい（名）【規定】ノリ。オキテ。サダメ。規則。「規定ニ遵フ」

き-てい（名）【規程】「規則ノ程度」規則ノテツヅキ。徐幹賦「豈侯入二關域一方能知二彼規程一」

き-てい（名）【起程】〔旅ノ道程ノ初〕（一）カドデ。發程。發足。（二）案文ノ書キハジメ。

き-てい（名）【旗亭】〔酒帘ヲ門外ニ揭ゲテ、標識トスル家ノ義〕酒家。料理茶屋。史記、三代世表「會二旗亭下一」集異記「開元中、詩人、王昌齡、高適、云云、共詣二旗亭一貰レ酒」

き-てい（名）【旣定】旣ニ、定マリタルコト。（未定ニ對ス）「旣定ノ事實」

ぎ-てい（名）【義弟】〔ぎ（義）ノ條（熟語、第一）ヲ見ヨ〕（一）弟分。（二）妻ノ弟。

ぎ-てい（名）【議定】ぎぢやう（議定）ニ同ジ。漢書、呂后紀「議定奏レ之」

き-てう（名）【歸朝】（一）朝命ヲ奉ジテ、外國ヘ行ケル人ノ、歸ルコト。舊唐書、張茂昭傳「張茂昭、立二功河朔一擧レ族歸朝」（二）轉ジテ、スベテ、外國ヘ行キタル人ノ、自國ヘ歸ルコト。「友人ノ歸朝ヲ迎フ」

き-でう（名）【軌條】車輪ノ軌道ニ敷キタル鐵條。レエル。

き-てき（名）【汽笛】汽車、工場ナドノ蒸氣機關ノ機發ニ因リテ、蒸氣ノ力ニテ吹鳴ラサシムル聲。「汽笛一聲」

ぎ-てつ（名）【蟻垤】〔詩經、豳風、東山篇「鸛鳴ニ于垤一」陸佃曰「蟻場謂二之垤一、以レ至、以二蟻之徵一而爲レ垤、用二其至一也」〕アリヅカ。韓非子、姦劫篇「愚學之人、比二有衛之士一也、猶二蟻垤之比二大陵一也」（蟻八、螘ト同字）蘇軾詩「勿レ笑一畝園、蟻垤齊二衡嵩一」

き-てん（名）【木貂】獸ノ名。深山ニ棲ム。形、黃貂ニ似テ、體大キク、頭、稍、犬ニ似テ、喙、尖ル、脚、長クシテ、各、五指アリ、爪長クシテ曲リ、樹ニ登リ又走ルコト、甚ダ疾シ、色、黑褐ニシテ、胸、腹ハ黃赤ナリ、毛、最モ密ナリ。雷鳴スレバ、驚キテ村里ニ出ヅ、故ニ、雷獸ノ名モアリ。貂鼠

き-てん（名）【機轉】〔常ニ、氣轉ト記ス〕心ノハタラキ。メサキノチエ。頓智。頓才。當意卽妙。機智　碧巖集、七、六十五則「機輪曾未レ轉」下案集、下、態藝門「機轉」謠曲、安宅「只今ノ機轉、更ニ、凡慮ヨリナスワザニアラズ」（辨慶ガ義經ヲ打チテ、安宅ノ關守ヲ欺キタルコト）「きてんガキク」きてんガキカヌ」

き-てん（名）【起點】〔終點ニ對ス〕事ノオコリ。物事ノハジマリ。「電車ノ起點」

き-てん（名）【畿甸】〔甸ハ、王城附近ノ地〕畿內ニ同ジ。鄘經、開平新宮詩「畿甸臨二中國一山河擁二奧區一」

き-でん（代）【貴殿】きか（貴下）ニ同ジ。舊、今昔物語、二十四、第十三語「其ハ、貴殿ト川人トコソ、此罪ヲバ負ツラメ」

ぎ-てん（名）【疑點】ウタガハシキトコロ。

き-でん-たい（名）【紀傳體】歷史編輯ノ一體。本紀、列傳、志、表ト、別ヲ立テテ記スモノ。（編年體、紀事本末ナドニ對シテ云フ）

き-でん-だう（名）【紀傳道】次條ヲ見ヨ。

き-でん-はかせ（名）【紀傳博士】だいがくれう（大學寮）ノ敎官。其條ヲ見ヨ。紀傳道、卽チ、紀傳ノ學科ハ、支那ノ史記、漢書、後漢書ヲ初トシテ、其國ノ歷史ヲ修メ、又、文章ニ達スル要アリテ、文選ヲ修メシガ、文章、終ニ主トナリテ、專ラ文章博士トセラル。類聚國史、百七「承和元年四月、勅、宜下停二紀傳博士一加中置文章博士一員上、其紀傳得業及徒、亦停レ之」

き-と（名）【企圖】クハダテ。計畫。

き-と（名）【歸途】カヘリミチ。カヘリシナ。孔德紹詩「今日桃源客、相顧失二歸途一」

き-と（副）〔きハ、際ノき、きはやかナル方ヨリ、俄ナル意ニモ、慥ナル意ニモ用キラル〕（一）〔チキニ。チャット。チョット。竹取物語「帝、云云、率テオハシマサムトテ、御輿ヲ寄セタマフニ、此かぐや姬、きと影ニナリヌ」（消エ失ス）取りかへばや物語、一「內ニ、箏ノ音ホノカニ聞エタルニ、きと耳トマリテ」（二）タシカニ。キト。撰集抄、八、第一條「御前ノ野邊ノ景色ヲ、きと詩ニ作リテ奉レト、仰アリケルニ」宇治拾遺、十四、第十條「晴明ニ、きと參レト、召シニツカハシタリケレバ」

き-ど（名）【木戶】〔柵門ノ義〕（一）〔柵ニ設ケタル門。崇神紀、十年九月、長歌「大香姑ヨリ、窺ヒテ、殺サムト、爲ラクヲ知ラニ」（皇居ノ御門）（二）城ノ門。吾妻鏡、一、治承四年八月廿六日、衣笠城、張レ陣「西木戶、和田太郞義盛」（三）轉ジテ、通路ニ設ケタル門。江戶町町ノ、隣町トノ隔テニモ設ケラレテアリキ。町方舊記、天保十四卯年正月二十三日「夜四ツ時限、木戶メ切、潛通路致シ」（四）又、芝居、觀場ナドニ、見物人ノ出入口。

き-ど（名）【喜怒】よろこびト、はらだちト。莊子、齊物論篇「名實未レ虧、而喜怒爲レ用」中庸、第一章「喜怒哀樂之未レ發、謂二之中一」「喜怒、色ニ見ハレズ」

き-とう（名）【季冬】冬ノヲハリ。陰曆、十二月。禮記、月令篇「季冬之月、云云」

き-どう（名）【奇童】珍ラシク才智アル兒童。唐書、李百藥傳「百藥七歲能屬レ文、父之友陸乂等、共讀二徐陵文一、有下刈二瑯邪之宴一語上、歎不レ得二其事一、百藥進曰、春秋稱子藉レ稻、杜預謂在二瑯邪一、客大驚號二奇童一」

き-どう-えんしふ（名）【機動演習】入營ノ兵卒ニアリテ、敎育試驗ノ演習。

ぎ-どう-さんし（名）【儀同三司】〔儀ハ三司（三公）ニ同じノ義、大臣ノ下（納言ノ上）ニアレバナリ〕准大臣ノ異稱。一條天皇ノ時、藤原伊周、准大臣トナリテ、自稱セシ語ナリ。職原抄、太政官、帥內大臣伊周「寬弘二年、列二朝參大臣下、大納言上一、准二大臣一、云云、自稱二儀同三司一」伊周ノ母、高階貴子ヲ、儀同三司ノ母ト云フ。

き-とく（名）【危篤】病ノ、危キニ迫レルコト。病革。「父、危篤ノ電報」

き-とく（名）【旣得】旣ニ得テアルコト。「旣得ノ權」

き-どく（名）【奇特】（一）尋常ニ勝レタルコト。不思議ニシテ、匹ナキコト。宋書、武帝紀「身長七尺六寸、風骨奇特」盛衰記、四、殿下御母立願事「人、奇特ノ思ヒヲナストコロニ」（二）行爲ノ、尋常ニ勝レテ、褒ムベキコト。殊勝。神妙。偉行　謠曲、現在七面「實ニ奇特ナル信心カナ」「奇特ノ志」

き-とく-いう（名）【鬼督郵】草ノ名。カミノヤ。

きど-ぐち（名）【木戶口】木戶ノ出入口。平家物語、九、樋口被レ斬事「生田ノ森ヲ、大手ノ木戶口トゾ定メケル」吾妻鏡、三、壽永三年二月七日「引二廿三騎一、懸二木戶口一相二戰之一」劇場新話、上、表方總體事「端番トイフモノ有テ、木戶出入口ニ居ル也」

きどく-づきん (名) [奇特頭巾] ふくめんづきんヲ見ヨ。

きど-ごめん (名) [木戸御免] 「弘化年中、深川ノむきみ賣德五郎ト云フ者ニ、相撲年寄、玉垣ノ行ヒシニ始マルト云フ」江戶、相撲ノ木場所、相撲場ニ云フ語、見物人ノ中ニ、木戸錢ヲ取ラズ見スル者ノ俗稱。晴天十日間、興行ノ間ニ、十日間、一日モ缺カサズ、熱心ニ來リ見ル者ニ免シ、終身無代ノ見物ヲ與フト云フ。

きど-ころ (名) [木草蔬] おにどころニ同ジ。

きど-ころね (名) [着所寢] 「着所寢ノ意ニモアルカ」常ノ着形ノママニテ、假寐スルコト。[illegible]

きど-さ (名) [黃土佐] 紙ノ名、こんどきノ條ヲ見ヨ。

きど-せん (名) [木戸錢] 興行場ノ木戸口ニテ徴スル見料。入場料。[illegible] 西鶴[illegible]「每日きどせん出シ、此ノ狂言ニ、[illegible]井山三郎ガ出マスル」

きど-の (名) [城殿] 「城殿ナド記ス、殿ハ、[illegible]」[illegible]ノ如キ[illegible]、打紋、扇殿ノ圖」京都ニテ、[illegible]ヲ製ス所、[illegible]ノ[illegible]、後ニ、城殿和泉[illegible]キ[illegible]物ヲ作リ出ス、後ニ、[illegible](高井氏)ト稱シ、[illegible]ノ[illegible]、扇ナドヲモ賣レリ、小團扇ノ如シ、其扇ヲ城殿扇、城殿折ト云フ。[illegible]五十二番、[illegible]忘レメヤ、き殿ニ染ムル、たたうがみ、シナヤカナリシ、人ノ手サハリ」庭訓往來(南北朝)四月「城殿扇」人倫訓蒙圖彙(元祿)五「城殿折」

きどの-あふぎ (名) [城殿扇] 前條ヲ見ヨ。

きどの-をり (名) [城殿折] 前前條ヲ見ヨ。

きど-ばん (名) [木戸番] (一)木戸番所ノ略。即チ、江戶ノ町町ノ木戸ニ設ケタル自身番屋ナリ。町役人ココニ詰メ居タリ、町ノ中程ニ設ケタルヲ、中番ト云ヒシガ、後ニハ廣ク番所ヲ、中番ト云ヒキ。木戸番ニ使ハルル小使アリテ、木戸ノ開閉、時間毎ニ、火の用心ヲ呼ハリテ、拍子木ヲ打チ、出火アル毎ニ、番所ノ傍ニアル梯子ニ上リテ、半鐘ヲ打鳴ラス、番所ニ住込ミテ、傍ラニ、荒物ナド賣レリ、此番人ヲ、俗ニ番太郎、又、番太ト呼ビキ。[illegible]中番、[illegible]番ノ者、夜中臥セラズ、火之用心申付クベシ」(嬉遊笑覽、四) (二)相撲場、芝居、見世物小屋ナドノ木戸ノ番人。人倫訓蒙圖彙、七「木戸番、聲高クワメクヲ第一トス、[illegible]サマザマノ口ヲタタク」明和ノ川柳「木戸番ハ、天窓ヲ[illegible]」

きど-ふだ (名) [木戸札] 木戸錢拂濟ノ證トスル木札。入場券。

きどんぼ (名) [黃蜻蛉] きやんまニ同ジ。

きどり (名) [木取] 杣、又ハ、工匠ノ語、コツクリ、キツクリ、材木ヲ挽キ、割リ、削リナドシテ、梁、楹、柱、板ナドノ用ニアテハムルコト。木割。

きど・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) [氣取] (一)其氣色ヲ眞似テフルマフ。「學者ヲきどる」「通ヲきどる」(二)容止ヲ作ル。外見ヲカザル。「いやにきどる」

きど・る・ル・レ・ラ・リ・レ (他動、四) [木取] 木取ヲス。木作ヲナス。唐錦斷今國性爺(享保)[illegible]下「[illegible]」

キナ (名) [幾那][規那] 〔英語、Quina.〕南亞米利加州、秘魯ノ常綠喬木、葉ハ對生シ、綠色ニシテ、光澤アリ、花ハ小サクシテ、白色、又ハ、帶紅色ナリ。皮ヨリ藥品ヲ製シ、幾尼涅、幾那鹽トスルニ用キラル。

き-ない (名) [畿內] 〔說文「王者所居地、方千里、謂之王畿、居天下之中」ニ〕ヒウチックニ。京都ノ周ノ地ノ稱。即チ、山城、大和、河內、和泉、攝津ノ五國ナリ、因リテ、五畿內ナドトモ云フ。[illegible]大化二年正月ニ、大倭、山背、河內、攝津ヲ畿內國ト定メラレ、(持統紀、六年四月「四畿內」)元正天皇ノ靈龜二年ニ、河內ヲ割キテ、和泉監ヲ置カレテ、五畿內、五畿ノ稱アリ。

キナ-えん (名) [幾那鹽] 前前條ヲ見ヨ。

き-なか (名) [半錢] 〔寸半ノ義、(寸ノ條ヲ見ヨ、時半、段半ノ語アリ)寸ノ半、五分ノ意、算數ノ詞ニ、一文半ヲ一文五分ト云フトゾ」〕錢、一文ノ半分。半文。五十年忌歌念佛(寶永、近松作)上「十文デハ事ガ濟ム、云云、イカナ、九文きなかデモ、[illegible]マケサルナ」「一文きなか」

き-ながし (名) [着流] 着服ノ着流シノ意ニテ、[illegible]ト同意ノ語、衣服ヲ着タルノミニテ、袴ヲハカズシテアルコト、略儀ナルニ云フナリ。

き-なが-さ (副) [氣長] 心急カズニ、ユルユルト、悠長ニ、[illegible]

きな-きな (副) [惑惑] 思ヒワヅラフ狀ニ云フ語。くよくよノ條ヲ見ヨ。油糟(寬永、貞德)「認セドモ、きたきたスルヤ、[illegible]心」

きな-くさ・し・キ・ケレ・ク・ク (形、二) [焦臭] 「衣くさしノ轉カ、[illegible]紙衣くさしト云フモ同意」綿、紙ナドノ焦ゲル時ナドニ、[illegible]クサシ。仙臺ニテ、ひなくさし。浮世風呂(文化)二編、下「[illegible]臭いトイフ、云云」

きな-こ (名) [黃粉] 〔黃なる粉ノ略(黃なる物、[illegible])〕[illegible]大豆ヲ炒リテ、碾キテ粉トセルモノ。色、黃ナリ、砂糖ヲマゼテ、餅、團子ナドニ塗シ食フ。[illegible]浮世風呂(文化)三編、[illegible]

きなこ-もち (名) [黃粉餅] 餅ヲ、程ヨク丸メ、きなこニ砂糖ヲマゼタルニ轉バシタルモノ。[illegible]

きな・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) [着做] [illegible]

き-なふ (名) [歸納] (一)人ニ名義ナドヲ[illegible]、文字ノ反切ニ、五行ヲ配シ、吉凶ヲ判ジテ決定スルコト。(二)演繹ノ條ヲ見ヨ。

キナボウ (名) [illegible] 蝦夷海產ノ動物ノ名。「なぼト云フアリ」其肉ヲ賞味ス。

き-なん (名) [illegible] [illegible]

き-なんかう (名) [illegible] [illegible] ノ(一)ニ同ジ。

きなら・す・ス・セ・サ・シ・セ [illegible]

古今集、十九、雑体「きならけむト、吾ニシモノヲ、衣長、タツ時ヲ知ラズ、ナリニケル哉」 衣衣ニ、心、吾ノ色ヲ、きならし衣、今日ハマタ、我ギカヘナデテラ、形見ニソ着ク」

き-なり (名) 着形 衣裳ヲ着ケタル形。

き-なり (名) 氣成 心ノママ。氣隨。 唐詩崩令選(享保、近松作)上「ツクロヒナク、装ヒナキ、オノガ氣成リノ鐵砧オロシ」

きな・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ(自動、下二) 着馴 常ニ、身ニ着テアリ。 新六帖、五「イカニセム、身ニハきなれヌ、濡衣ノ、乾スベキ方モ、知ラヌ袖カナ」

き-なる-いづみ (名) 黃泉 「文字讀ノ語」黃泉。ヨミヂ。 萬葉集、二十市皇女薨時、高市皇子御歌「山吹ノ、立チヨソヒタル、山清水、汲ミニ行カメド、路ノ知ラナク」ニ上ノ句ハ黃なる泉、下ノ句ハよみちノ知ラレガタキヲ詠ミタマヘリ) 宇津保物語、あて宮セ長歌「きなる泉ニ、消エカヘリ、涙ノ川ニ、浮沈シテ」同、藤原君「岩二千代經ル、命ヲバ、きなるいづみノ、水ゾ知ルラム」

き-に (名) 雄黃 「黃土ノ義カ」けいくヮんせき(雞冠石)ノ古名。 本草和名、上「雄黃、岐爾、出伊勢國」

キニイネ (名) 幾尼涅 (獨語、Quinine.) 幾那ノ條ヲ見ヨ。

き-に-いり (名) 氣入 好ニ適ヘルコト。所愛 甲陽軍鑑、十、下、品第三十三「三浦右衛門ト云、右衛門ガ氣に入トテ、ナゴヤノ與七郎ト云者」

き-にち (名) 忌日 〔忌日、齋ミ愼ム日〕人ノ死シタル日ト、年毎ニ、同ジキ日ヲ、同ジ向ナドスルニ付キテ云フ語。略シテ、忌。命日。忌辰。其月モ同ジキヲ、祥月ト云フ。忌月 源、三十三、藤裏葉「三月廿日、大イ殿ノ大宮の御忌日ニテ、極樂寺ニ詣デ給ヘリ」

き-にち (名) 期日 豫メ限リ定メタル日。期日。

き-にん (名) 貴人 身分貴キ人。官位高キ人。 易林本節用集、貴人(奇妙也)「真ノ貴人上」狂言記、禰宜山伏「此ノ驅出シノ山伏ニハ、貴人、高人モ下馬ヲナサルル」

き-にん (名) 寄人 ヨリウド。

き-にん (名) 歸任 地方官ノ上京シタルガ、其任地ニ歸ルコト。

き-ぬ (名) 衣 〔着布ノ略カ、(ぬのノ條ヲ見ヨ)さろもモ、着物ノ略轉〕(一)ころもニ同ジ。着物。キモノ。衣服。 古事記、中(景行)二 倭建命御長歌「一ツ松、人ニアリセバ、太刀佩ケマシヲ、衣着セマシヲ」古今集、十七、雜、上「我チ謹ハヌ、きぬ着シ人モ、ナキモノヲ、ナニ山姫ノ、布晒ラスラム」(二)へびのきぬ。其條ヲ見ヨ。(三)きぬかづき(被衣)ノ略。其條ヲ見ヨ。

き-ぬ (名)・絹 〔衣ニ作ルベキモノノ意ナルベシ、古板本、竹取物語ノ、龍ノ玉取リニ行クトコロニ「殿ノ内ノけぬ、綿、錢ナド、アルカギリ取出シテ、ツカハス」トアリ、衣モ、服布ニ通ズルカ、(服すノ條ヲ見ヨ)絹ノ字音ナリトノ說モアレド、養蠶ハ神代ヨリアリ、朝鮮語ニきっぷト云フ、宋ノ孫穆ノ鷄林類事ニ「絹曰レ及し」〕(一)蠶ノ繭ヨリ繰リ取レルモノ、絲トシ、又、織物トス。(きぬいとノ條ヲ見ヨ)(二)又、其絲ニテ織レル織物。帛。絹 神功攝政前紀「絹」倭名抄、十二「絹、岐沼、帛也、岐沼」源、二、帚木三「ナヘタルきぬドモノ厚肥エタル、大ナル籠ニ打チカケテ」

き-ぬ-あらひ (名) 衣洗 衣服ノ洗濯。一

中節ノ御遊ニ、きぬあらひト云フアリ、七江ニノ湯殿童子ノ侍女ノ、川ニテ洗濯スルコトヲ記セリ。「鬼の留守にせんたく」ナド云フ諺モコレカ。

き-ぬ-いた (名) 衣板 〔衣ヲ擣ツニ用キル板〕約メテ、きぬたト云フ、其條ヲ見ヨ。砧 倭名抄、十四三「碪、砧、擣レ衣石也、岐沼伊太」

き-ぬ-いと (名) 絹絲 絹ノ絲。蠶ノ繭ヲ日ニ乾シテ、中ノ蛹ヲ殺シ、煮テ、絲ヲ延キ出シテ採ル。絹線 繭絲

き-ぬ-うちは (名) 絹團扇 團扇ノ、絹布ニテ貼レルモノ。

き-ぬ-え (名) 〔衣、卽チ、衣ノ字ノ草假名〕平假名ノえノ字ノ稱。江ト區別シテ云フ語。モトエ。

き-ぬ-おり (名) 絹織 絹絲ニテ織レル織物。帛

き-ぬ-がき (名) 絹垣 〔文垣ノ類〕(一)〔絹布ノ帳ヲ、垣ノ如ク張リメグラスモノ。 古事記、中(垂仁)六十「其山之上、張二絹垣一立二帷幕一」(二)伊勢ノ大神ノ遷宮ノ時、御神體ノ上面、側面ヲ覆ヒ行ク絹布。音便ニ、きんがいト云ヒ、錦蓋ナドト記ス。 太神宮儀式帳、遷宮ノ儀式「人垣立テテ、衣垣曳キテ、衣笠、翳ドモ捧ゲテ、幸行シム」秋齋閑語(延享)一「伊勢ニテ遷宮ノ時、神體ヲバ、一ノ禰宜捧ゲテ行ク、助ノ輩、絹ニテコレヲ覆フヲ、きんがいト云フ、きんがいハ、絹垣ナルベシ」

き-ぬ-がさ (名) 衣笠 〔絹傘ノ義、すがさ、卽チ、御菅蓋ト別チ云フ語、支那風傳來ノモノト云フ〕(一)絹張ノ長柄ノ傘。天皇、親王、公卿、等ノ行列ニ、執蓋ノ者、後方ヨリサシカザシ、執綱ノ者、左右ノ綱ヲ曳キ支フ、威儀ノ用ノモノナリ。華蓋 儀制令、義解ニ、皇太子ハ紫、親王ハ紫大纈、一位ハ深緑、三位以上ハ紺、四位ハ縹ニテ、階級ニ因リテ、四角ニ錦ヲ覆ヒ、總ヲ垂ルトアリ。字鏡三「傘、蓋也、支奴加佐」天治字鏡、四三「傘、支奴加佐」倭名抄、十四十服玩具「華蓋、岐沼加散」太神宮儀式帳二「衣笠」萬葉集、三三「久方ノ、天行ク月ヲ、綱ニ刺シ、吾ガ大君ハ、蓋ニセリ」(二)天蓋。其條ヲ見ヨ。 倭名抄、十三三僧坊具「蓋、寶蓋、岐沼加散」欽明紀、十三年十月「釋迦佛金銅像一軀、幡蓋若干」

き-ぬ-かつぎ (名) 芋子 〔次條ノ語意ナリ、俳諧師ナドノツケタル名ナルベシ、皮ヲ衣ト見ル、かつぎハ、被ナルヲ、東國ニテハ、擔ト誤リ唱フ〕キヌカヅキ。芋子ヲ、皮ナガラ煮デタルモノ、皮ヲムキ、鹽ヲツケテ食フ、多クハ、八月十五夜ノ芋明月ニ供フルニ云フ。 犬子集(寛永)「雲霧ヤ、芋明月ノ、衣かづき」 俳諧歲時記、きぬかづき「九月十三夜、月ヲ賞スルニ、芋兒ノ薄皮ヲ着ルモノヲモ、衣被ト稱シ、節物トス」成形圖說(文化)廿二、芋「衣被芋、皮カブリタル名ナリ、又皮ナガラニ煮ル、黑煮ト云フ」川柳ニ「きぬかつぎ、延喜ノ御代ニ、クヒハジメ」(寬平法皇、始メテ十三夜ノ月ヲ賞シ給ヒシ故ナリ)

き-ぬ-かづき (名) 被衣 蒙衣 〔かづく(被)ノ條ヲ見ヨ、此服、上古ノ襲ノ遺ナルベシ〕古ヘ、貴婦人ノ外行ノ時、單ノ小袖ヲ、頭、背ニ被リ、兩手ヲアゲテ、支ヘ行キシモノ、顏ヲ、人ニ見ラルマジトテ、覆ヒ行クナリ。下略シテ、きぬトノミモ云ヒ、上略シテ、かづきトノミモ云ヒキ。又、きぬかぶり。帽衣 又、ソレヲ被リタル婦人ノ稱。 字鏡集ニ、帽冠ニ襪ノ字ニ「キヌカヅキ」 長門本、平家物語、七、高倉宮御謀反露顯事「御髮ヲ亂ダシマキラセテ、薄衣ヲ打チかづかセマヰラセ、云云、マギレ出デサセタマ

ヒニケリ」[illegible]、カハラケ色」ノ、[illegible]ヲ召シ候」 江戸時代ニナリテハ、一種ノ[illegible]トシテ[illegible]、[illegible]ヘ三寸許下ゲテ[illegible]ト混ジタルナルベシ） 江戸ニテハ夙ク[illegible]ノ頃マテハ、針妙、[illegible]、かつぎヲ戴キテ歩キシニ、云云、酉ノ年、大火事以後ヨリ、此事断絶ニ及ビシ也」（明暦三年ノ江戸大火ヲ云フ） 風流後日男草子（正[illegible]（天明）「御所ノ被ハだんだら筋、町ハ横條ナリ」

きぬかづき（名）［衣被］前前條ヲ見ヨ。

きぬかぶり（名）［衣被］前前條ニ同ジ。[illegible]

きぬぎぬ（名）［衣衣］一二衣ト、衣ト。各自ニ[illegible]ぬモ、冷ヤカニナリタル心地シテ、御馬ニ乗リタマフ[illegible]古今集、十三、戀、三「シノノメノ、ホガラホガラト、[illegible]シテ、後朝ナド記シテ、きぬぎぬトス。[illegible]千首「シバシトテ、袖引キトムル、きぬぎぬノ、アハレモ知ラヌ、鶏ノ聲カナ」 暁ヲ「きぬぎぬノ空」ナド云ヘリ。

きぬくばり（名）［衣配］歳暮ニ、衣服ヲ配分、給與スルコト。[illegible]家中ニテハ、正月[illegible]アリシト云フ。[illegible]モ、昔ハコトサラビケル事ニテ侍ルニコソ」 倭訓栞「きぬくばり[illegible]ニモ見ユ、正月ノ衣裳ヲ賜ハル事也ト云ヘリ、初子日也トゾ」

きぬけ（名）［氣拔］精神、拔ケテ、身ニ添ハヌコト。喪心

きぬこし（名）［絹漉］粉ナド、絹篩ニカケテ漉スコト。[illegible]ハ、布袋ニ入レテ絞リ出スニモ云フ。

きぬこしどうふ（名）［絹漉豆腐］[illegible] 豆腐ノ一種、[illegible]メテ柔カニ製シタルモノ、[illegible]ニシタルガ如シト云フ意」 [illegible]ゆきどうふ、ささのゆきノ各條ヲ見ヨ。

きぬずれ（名）［衣摩］絹布ノ衣服ノ、摩レ合フコト、音スルニ云フ。[illegible]「衣ノオトナヒ、はらはらトシテ」 同、廿三、初音ニ「黒キ搔練ノ、さゐさゐシク張リタル、ヒトカサネ」

きぬた（名）［砧］衣板ノ約、きぬいた。布帛ヲ擣ツニ用ヰル、木石ノ臺。ウチバン。丸木ニ布帛ヲ纏ヒテ、其上ニ載セテ、槌ニテ擣ツ、槌ハ、短キ丸木ニ、細ソキ棒ヲツケタル、藁ノ槌ノ如キヲ用ヰル。[illegible]たノ音ヲ、聞クナベニ、霧立ツ空ニ、雁ゾ鳴クナル」

きぬたで（名）［砧手］足利義政ノ藏品中ニ、砧ノ槌ノ形シタル、此種ノ青磁ノ花瓶アリシヨリ云ヘル語ナリト云フ、手ハ、様ノ義、錦手、金襴手ナドノ、手ナリ」 一種ノ青磁ノ稱。淡藍青ニシテ、綠ヲ帶ビ、裂文ナキモノ。此種ノ絕品トス。[illegible]

きぬたび（名）［絹足袋］足袋ノ表ヲ、絹布ニテ製シタルモノ。（[illegible]足袋、[illegible]足袋ニ對ス）[illegible]

きぬたまき（名）［砧卷］一形、砧ノ丸木ニ布帛ヲ卷キタル如シ」 餅菓子ノ名。けんぴやきノ類。

きぬぢ（名）［絹地］織地ノ、絹ナルモノ。

きぬちぢみ（名）［絹縮］絹織ノ縮布（ちぢみノ條ヲ見ヨ）[illegible]ちぢみノ襦袢」

きぬぬひ（名）［衣縫］衣服ヲ裁チ縫ヒスルヲ業トスル者。[illegible]

きぬのくび（名）［襟］ころものくびノ條ヲ見ヨ。

きぬのしり（名）［裾］下襲ノ裾、[illegible]其條ヲ見ヨ。

きぬばり（名）［絹張］（一）絹布ヲ張リテ、緻ナカラシムルニ用ヰル具。字類抄「[illegible]」[illegible] 松屋筆記、九十二、四十三條「絹布ノ類ニ、皺、襞ナカラシムル具、[illegible]張ル具也」（二）絹布ヲ、糊ニテ張ルニ用ヰル具、[illegible]張リテ、糊スル木ナレバ也」

きぬばり（名）［絹張］［絹貼ノ義］屏風、襖（蝙蝠傘ニモ）ナドノ面ヲ、絹布ニテ張ルコト。[illegible]

きぬばり（名）［絹針］[illegible]

きぬびつ（名）［衣櫃］衣服ヲ納レオク櫃。宇津保物語、藏上、下「蒔ラナルきぬびつ一ツニ、きぬ納レツツ、奉リタマフ」

きぬぶるひ（名）［絹篩］篩ノ底ヲ、絹布ニテ張レルモノ、[illegible]取ルニ用ヰル。羅斗

きぬまき（名）［絹卷］[illegible]ノ具。まへがら[illegible]

きぬや（名）［絹屋］一二下第、[illegible]緑、御前ニ絹屋ヲ作リテ、黄牛、イタハリ飼ハセタマフ」（二）絹布ヲ作リテ賣ル家。

きぬわた（名）［絹綿］[illegible]「木綿[illegible]ドニモ、其名殘リテ、イト名ダカク聞エタリシコトアレド、コレラハイニシヘ、草棉ノ綿種、渡ラザル世ヨリ聞エタレバ、繭綿ナルコト、明ラケシ」

きね（名）［木根］（ねハ、意ナク添フル語、草ね、茅ね、杵ね、羽ね、岩ね、島ね、垣ね、[illegible]）[illegible]木ト云、[illegible]同[illegible]

きね（名）［巫覡］（前條ニ擧ゲタル神樂歌ニ、神のきねトアルヲ、誤解シタル語ナリト云フ、（木居宣長）禰宜部ノ略轉ト云フモ、イカガ、又、祈念ノ音ト云ヒ、（倭訓栞）禰宜ノ倒語ナリナド云フ、非ナリ」

巫女。男、祝。社人。拾遺集、十、屏風ニ神樂スル所ノ歌、貫之「アシビキノ、山ノ榊葉、常葉ナル、蔭ニ榮ユク、神ノきねカナ」貫之集、四「榊葉ノ、常葉ニアレバ、長ケクニ、命保テル、神ノきねカナ」能宣集、神樂シ侍リテ「宮人ノ、燒ケル庭火ノ、オキアカシ、囂ヂアソブ、神ノきねカモ」新六帖、一「庭火タク、煙モ共ニ、立チゾ舞フ、カナヅルきねガ、袖ノ羽風ニ」夫木抄、三十二、雜「小夜深キ、貴船(神社)ノ奥ノ、松風ニ、きねガ大鼓ノ、かたおろしナル」拾玉集、四「イカバカリ、ウレシカリナム、きねガ鈴ノ、フリステテユク、踏ヲセカズバ」

〔きね (名) 【杵】 〔木言、きナリ、(其條ヲ見ヨ)ねハ、意ナク添フル語、前前條ノ語原ヲ見ヨ〕本名、き。穀ヲ臼ニ盛リテ、擣キ精ゲ、又ハ、粉ニシ、或ハ、餅ヲ擣キ作ルニ用キル具。擣杵ト、手杵トアリ、擣杵ハ木造ニテ、柄ニ横頭アリ、槌ニ似テ、大ナリ。又、からうすニ用キルハ、頭、柄、長大ニシテ、物ニ架シテ、柄ヲ蹈ミテ擣ク。手杵ハ、棒ニシテ、中、括ル、中部ヲ握リテ、直ニ擣ク、其臼モ高クシテ、腹、括ルルヲ用キル。字鏡四十八「杵、舂也、支𣏓」倭名抄、十六「杵、舂槌也、岐𣏓」

きねい (名) 【歸寧】 〔寧ハ、安ナリ、歸リテ父母ノ安否ヲ問フ義、歸省ト同意〕サトガヘリ。字典「女嫁歸ニ省父母一曰レ寧」詩經、周南、葛覃篇「歸二寧父母一」

きねうた (名) 【杵歌】 米穀ナドヲ擣クトキニウタフ歌。キウタ。

きねずみ (名) 【木鼠】 形、略、鼠ニ似テ大キク、尾、闊大ニシテ、粗ク長キ毛アリ、常ニ、尾ヲ背ニ負ヒテ頂ニ戴クコト、甌鼠ノ如シ、深山ノ樹ニ棲ミ、果ヲ食トシ、果林ノ害ヲナス。毛ハ、淺黑ト白トノ細斑アリ、齒、最モ強シ。枝上ヲ走ルコト、飛ブガ如シ、畜ヘバ、能ク小車ヲ廻スナドノ戲レヲナス。栗鼠。

きねづか (名) 【杵柄】 杵ノ柄。「昔、取ッタきねづか」

きねん (名) 【朞年・期年】 滿一年。一箇年。史記、燕世家「不レ能ニ朞年一千里馬至者三」左傳、僖公八年「期年狄必至矣、示二之弱一矣」

きねん (名) 【記念】 〔記憶ノ記ニテ、書記ノ記ニアラザレバ、記、紀、相通ズトモ、紀念ト記スハ、非ナリ〕かたみ(形見)ノ條ノ(一)ヲ見ヨ。

きねん (名) 【祈念】 念ジ、祈ルコト。祈願。冥祥記「晝夜祈念」保元物語、一、鳥羽院熊野御參詣事「本宮證誠殿ノ御前ニテ、現當二世ノ御祈念アリシニ」

ぎねん (名) 【疑念】 ウタガフココロ。曾鞏、寄二王介甫一詩「迨二茲尺書到一疑念始冰析」「疑念ヲ晴ラス」

きねんこくほうへい (名) 【祈年穀奉幣】 年穀ノ豐作ナラムコトヲ諸社ニ祈リ、奉幣アル式。毎年、二月、七月ニ、吉日ヲ擇ビ、奉幣使ヲ遣シテ行ハル。伊勢大神宮、石淸水、賀茂、稻荷、春日、吉田、北野、祇園、日吉、等、近畿ノ二十二社ナリ。紀略、一、延喜二年四月十三日「祈年穀奉幣」思儘日記(關白良基)「二月ニモナリヌ、云云、きねんこくの奉幣ナド、式ノママニ行ハル、皆、大臣、上卿ニテゾアリシ」年中行事大槪、祈年穀奉幣「神祇官ニシテ、二十二社ヘ官幣ヲ奉リテ、是レモ、豐年ヲ求ムル由ナリ」

きねんさい (名) 【祈年祭】 トシゴヒノマツリ。

きのう (名) 【歸農】 田舍ノ農民ノ籍ニ入ルコト。廢藩ノ士族ナドニ就キテ云ヒシ語ナリ。漢書、食貨志「敺二民歸一之農、皆著二於本、則畜積足而民樂」後漢書、李固傳「悉罷遣歸レ農、以二恩信一招二誘之、旬浹」市中取締類集、九、百八「在方ヨリ出稼之者、歸農之儀」

きのう (名) 【機能】 物ノハタラキ。作用。

ぎのう (名) 【技能・伎能】 ワザマヘ。ウデマヘ。史記、趙世家「異敵技能之所レ試也」同、孟嘗君傳「無二他伎能一」

〔きのうつほのみづ (名) 【牛天河】 〔木の洞の水ノ義〕籬ノ竹ノ、切口ニ溜リタル天水。古クハ、藥用トシタリ。タケノキリヨノタマリミヅ。本草和名、上四十七「牛天河、竹籬頭水也、岐乃宇都保乃美都」(倭名抄、同ジ)

きのえ (名) 【甲】 えとノ條ヲ見ヨ。

きのえねまち (名) 【甲子待】 〔まちハ、祭ノ約〕ねまつり(子祭)ノ條ヲ見ヨ。

きのこ (名) 【菌】 〔木の子ノ義ニテ、子ハ、寄生ノ意ナルカ、竹の子、芋の子モアリ〕古名、木茸。クサビラ。今、又、茸。朽木ナドニ寄生スル植物。種類、多シ、其狀、多クハ、極メテ小サキ傘ノ如クニシテ、莖アリ、頭アリ、頭ヲ蓋ト云フ、椎茸、榎茸、きくらげナド、枚擧スベカラズ、食フベキモノモ多シト云ヘドモ、大毒アルモアリ。又、樹下、土中ニ生ズルアリ。古名、ツチタケ。松茸、初茸、しめぢノ類ナリ。饅頭屋本節用集「菌」

きのこがり (名) 【菌狩】 たけがり(茸狩)ニ同ジ。

きのじのが (名) 【喜字賀】 〔喜ノ字ノ草書、㐂、七十七ト讀マル〕七十七歳ノ賀。喜壽。(がのいはひノ條ヲ見ヨ)

ぎのそう (名) 【議奏】 議奏ノ條ヲ見ヨ。

きのたけ (名) 【木茸】 〔きくらげノ異名〕茸ノ條ヲ見ヨ。キノコ。

きのと (名) 【乙】 えと(干支)ノ條ヲ見ヨ。

きのどく (名) 【氣之毒】 〔心の害毒、心の煩悶ノ義、己ガ心ニモ云ヒ、他人ノ身ノ上ニモ云フハ、いたつく、いたはる、いとほしニ、内外ノ二義アルガ如シ、紫一本(天和)「立木ニ水カネ、きのどくナ事」〕(一)心苦シキコト。心ニ安ンゼヌコト。氣ニカカルコト。心配。(今モ仙臺ニテハ、此義ニ用キラル)傷心 關心 狂言記、い文字、大名ニ、女ノ歌「戀シクバ、尋ネテ來マセ」ノ下ノ句ヲ聞キ落シテ「コレハ歌サウナ、何トシタモノデアラウゾ、きのどくナ事ギャ」(關心ノ事)同、柑子俵、柑子ノ俵ヲアケテ盜ミ食フ「一ツニツト思ウテ、皆給ベタ、何トセウゾ、親ガ聞イタラ、可イトハ云フマイ、ハテ、きのどくナ事ヲシタ」(心配)寛文十一年三月、伊達安藝書狀「御老中御前ニテ、云云、何ト、甲斐(原田)被レ申候哉、志摩(古内氏、在仙臺ノ家老)呼ビニ被レ遣候故、延延ニ罷成候、氣の毒千萬ニ候」(裁決ノ延引スルニ、氣遣ふナリ)伽羅先代萩(天明、松貫四等)賴兼、高尾ヲ伴ヒテ歸レル時、高尾ノ詞「殿樣、ココガ、モウ御屋敷、現ナイ御姿デ、御家中ノ見ル目モ氣の毒、心ヲオツケアソバセ」(心苦し) (二)他人ノ身ノ上ヲ、不便ニ思フコト。(友達ノ病氣ガ氣の毒ト云ヘバ、心苦しノ意ハ、自他ニワタル、御ノ上ニ移ル)愍然 狂言記、梟山伏「私ノ弟ノ太郎、云云、殊ノ外、ほうけマシテ、タダうっかりトナリマシテ、云云、御祈禱ナサレクダサレ、云云」先達「ソレハ氣の毒ナ、不便ナ事ギャ」

〔きのはし (名) 【木端】 樹ヲ伐リ倒シテ、殘レル伐株。人ノ、棄テテ顧ミヌ意ニ云フ、佛經ノ語ナル、木頭ノ訓讀語ナ

リ。萬葉集、[illegible]

イト苦シキワザヲ、タダ、木のはしナドノヤウニ思ヒタラムコソ、イトイトホシケレ」 徒然草、三、法師ハ、人ニきのはしノヤウニ思ハルトアルハ、此文ノ誤解ナリ。

きのばし（名）氣線　きばらし二同ジ。大[illegible]

きのふ（名）昨日　「昨日の日ノ略轉、[illegible]去年ノ昨日ヲ見ヨ。[illegible]こふ。粒、つぶ）ふハ、けふ（今日）ノふ二同ジ」（一）キス。キソ。今日ヨリ、一日前ノ日。昨日。前日。[illegible]云フハ、きのふハけふノむかしノ意ナリ。萬葉集、十八、[illegible]

きのふけふ（名）昨日今日　時ノ、近マリ[illegible]

きのへ（名）甲　[illegible]後ニ設ケタル柵ノ内ニ、土着セシメラレシ民戸、即チ、柵戸[illegible]

ルヲ、柵養蝦夷ト云フ）陸奥ノ多賀城、伊治城、[illegible]等ニモ、皆、柵戸アリキ、三[illegible]柵ノ遺址、[illegible]七八町モアリ、柵内ニ居住セシメシナリ。キベ。[illegible]

きのぼり（名）木登　樹木ニ、攀ヂ登ルコト。[illegible]

きのまた（名）木股　樹ノ枝ノ、叉ヲナセルモノ。[illegible]

きのまま（名）着儘　不斷着ヲ着タルママナルコト。着換ヘセヌニ云フ。[illegible]

きのまるどの（名）木丸殿　次條ヲ見ヨ。

きのまろどの（名）木丸殿　丸木ニテ造レル宮屋。又、きのまるどの。筑前國、朝倉ノ、天智天皇ノ御住居ニ申ス。[illegible]

[illegible]

きのみ（名）木實　きのみニ同ジ。[illegible]

きのみち（名）木道　工匠ノ技。又、木匠、大工。[illegible]

きのみどきやう（名）季御讀經　[illegible]式、毎年、春秋ノ二季ニ、衆僧ヲ召サレ、大般若經ヲ轉讀セシメラルルコトナリ。[illegible]

きのみみ（名）木耳　〔漢名、木耳ト譯〕きくらげノ古名。[illegible]

きのめ（名）木芽　（一）樹ニ、新ニ出ヅル芽。きのめノ條ヲ見ヨ。（二）專ラ、山椒ノ芽ノ稱。[illegible]

きのめあへ（名）木芽和　きのめあへモノ[illegible]

きのめづけ（名）木芽漬　通草ノ芽ヲ[illegible]

[illegible]

きのめでんがく（名）木芽田樂　次條ヲ見ヨ。

きのめミソ（名）木芽味噌　[illegible]砂糖ヲ加ヘテ、火ノ上ニテ煉リ、オロス前ニ、木ノ芽ヲ細カク切リタルモノヲ加ヘテ、[illegible]肉、蔬菜ナドニ塗シタルヲ、きのめ田樂ト云ヒ、コレヲ、豆腐ニ塗リテ燒キタルヲ、きのめ田樂ト云フ。

きのり（名）氣乘　氣ノ、乘ルコト。面白味[illegible]

きは（名）際　〔限端カ、限間カ、刈刃カ、[illegible]〕（一）サカヒメ。カギリ。[illegible]（二）ホトリ。アタリ。カタハラ。ソバ。[illegible]（三）ヲリ。トキ。[illegible]（四）身ノホド。身分。分際。[illegible]

〜きば（名）【牙】〔刃歯ノ義ニテ、人ノ、前歯ノ、犬歯トノ間ニアリテ、尖レル歯〕左右、上下ニ、各、一ツヅツアリ。音讀ヘニ、きば。又、イトキリバ。〔倭名抄、三〕〔牙…〕象ナドニテハ、特ニ長クシテ、鋭シ。

きば（名）【木場】材木ヲ貯ヘ置ク處。木料廠。

き-ば（名）【騎馬】（一）馬ニ騎ルコト。ウマノリ。騎〔…〕（二）馬ニ乗レル人。騎士〔…〕

ぎば（名）【…】芝居ノ立廻ニ云フ語。宙返ニ同ジ。〔…〕

き-はい（名）【氣配】きくばり二同ジ。

き-はい（名）【氣配】〔氣色ノ勢力〕アリサマ。容子。景氣。〔…〕

き-はう（名）【氣泡】空氣ヲ含ミタル泡。

き-はう（名）【貴報】報書、返書ノ敬稱。大臣常與書札抄「一、尊報、尊答ナドハ、貴報ヨリ上ナリ」

き-はう（代）【貴方】アナタ。アナタガタ。〔太平記、十一、北野天神事〕貴方ト、某當ト、…ノ儀、送カラズトイヘドモ」

き-ばう（名）【希望・冀望】ネガヒ、ノゾムコト。〔…〕

き-ばう（名）【既望】〔…〕八、望月ナリ」陰暦十六日ノ異稱。〔…〕

き-ばう（名）【己卯】ツチノトノウ。干支ノ條ヲ見ヨ。

き-ばう（名）【癸卯】ミヅノトノウ。干支ノ條ヲ見ヨ。

〜きは-ぎは（名）【際際】各自ノ分際。其身分ノホドホド。〔…〕「人ノきはぎは、思シワキマヘツ」

〜きはぎは-し・シキ・シケレ・シク・シク（形、二）【際際】際ヤカナリ。キハダチタリ。キハダケシ。顯然〔…〕

き-はく（名）【稀薄】〔濃厚ニ對ス〕ウスキコト。酒、漿、水、空氣ナドノ、成分ノ少ナキコト。

き-はく（名）【氣魄】〔氣ハ、精神、魄ハ、形體〕氣力ニ同ジ。〔…〕

きは-ずみ（名）【際墨】まゆずみノ條ヲ見ヨ。

き-はだ（名）【黄肌】きはだまぐろノ略。

〜き-はだ（名）【黄蘗】〔黄皮ノ義〕樹ノ名、實國ノ深山ニ生ズ。高キ數丈、葉ハ漆ニ似テ、斷レバ臭氣アリ、對生ス、夏、枝ノ上ニ黄花ヲ開ク、雌樹ニノミ實アリ、五味子ノ如クニシテ、穂ニ五積アリ、熟スレバ、色黒ク、味苦シ、藥用トス。樹ノ肉皮、黄ナリ、藥用、染料トス、黄蘗ト云フ。蘗木〔…〕

き-はだか・し・キ・ケレ・ク・ク（形、一）【際高】キハダカナリ。キハギハシ。オシガツヨイ。〔…〕「心ノ、きはだかくサイマクレタル」

きはだか-み（副）【際高】キハダケク。オシツヨク。〔…〕

きは-だけ・し・キ・ケレ・ク・ク（形、一）【際剛】キハダチテ、嚴シ。キハダカシ。〔…〕

きは-だ・つ・ツ・テ・タ・チ・テ（自動、四）【際立】際、明カニ分カル。著ルシ。殊ニ、メダツ。顯著　特異〔きはだちテ大キイ〕

きはだ-まぐろ（名）【黄肌鮪】まぐろノ類。鮪ノ屬、黄ヲ帯ビテ、肉、淡赤シ、秋ノ初ヲ時トス。其鰭ノ短キモノヲ、めばちト云フ。

き-ばたらき（名）【氣働】心ノ、事ニ臨ミテ、敏ク働クコト。氣轉。機智　活機

〜き-バチ（名）【木鉢】木地細工ノ鉢。〔…〕「一、木鉢、一」

〜き-ばちす（名）【木蓮】〔花、葉、共ニ、木芙蓉ニ似タリ〕樹ノ名。むくげノ古名。

き-はちぢゃう（名）【黄八丈】八丈縞ノ條ヲ見ヨ。

き-はつ（名）【揮發】〔揮當ノ義ノ語原ヲ見ヨ〕石炭油ナドノ、空氣トナリテ、發ツコト。

き-ばつ（名）【奇拔】思ヒノ外ニ、モヌケタルコト。奇警。〔…〕

※き-はづか・しい（形）【氣恥】氣ガナシテ、ハヅカシ。キマリガワルイ。

きはつ-ゆ（名）【揮發油】揮發スル、石炭油ナド。油染ナド、ヌキトルニ用キル。

きは-ど・し・キ・ケレ・ク・ク（形、一）【際疾】事ノ眞際ニ、近シ。分目ニ逼リテ、危シ。〔きはどい處デ、クヒトメル〕

〜きは-な・し・キ・ケレ・ク・ク（形、一）【無際】カギリナシ。際限ナシ。無際涯〔…〕

〜きは-はみ（副）【際際】〔きははハ、きはきはノ中略〕たわたわ、たわわ。うらうら、うらうら〕キハギハシク。キハヤカニ。顯然〔…〕

きはまり（名）【極】（一）キハマルコト。至極〔…〕

[illegible]シツト[illegible]ニテ、(二)[illegible]キハ、ミハテ。極端 字鏡[illegible]「垠、八方乃支波万利」

〔きはまりて〕（副）[illegible] キハメテ。至極ニ。[illegible]集、[illegible]、セムスベシラズ、[illegible]キ物ハ、道ニシアルラシ」宇治拾遺、六、第八條「きはまりてハカナキ人ニコソ」

きはま・る・レ・レ・ラ・リ・レ（自動、四）[illegible] 次條ノ語ノ自動、あらたむる、あらたまる、つづむる、つづまる、[illegible]、前[illegible]條ヲ見ヨ。（二）[illegible]至[illegible]上ナシ。[illegible]、キハマル」字[illegible]「極、キハマル」（二）行キツマリテ、困シム。[illegible]也」（或ハ云フ、谷、極、音通ズト）吾妻鏡、一、治承四年[illegible]（三）[illegible]キマ[illegible]

きはみ（名）[illegible] 極ノ、[illegible]、[illegible]語ノきはむニ、四段活用ハ無キガ如シ」極マル處。キハマリ。ハテ。ツマリ。至極。究竟。萬葉集、五七長歌「天雲ノ、向伏ス[illegible]ク、アルベキモノヲ、何カ思ハム」（御代長久ノ祝歌）

きは・む・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ（他動、下二）[極] [illegible]、[illegible]セシム。[illegible]（二）[illegible]モノス。[illegible]ニテ、位ヲきはむベシト、[illegible]ヘ申シタリシニ（宿曜師[illegible]ノ[illegible]ニ[illegible]テ、定ム。[illegible]シ[illegible]

きはん（名）[歸帆] 歸ル舟ノ帆。舟ノ、[illegible]ニ[illegible]ト[illegible]歸帆」近江八景ノ一「矢橋ノ歸帆」

きはん（名）[illegible] ノリテホン。模[illegible]孔[illegible]、序[illegible]以[illegible]ニ人主[illegible]也」

きはん（名）[illegible]「[illegible]ハ、羈ノ俗字」キノナ。ホダシ。[illegible]

きば・む・ム・メ・マ・ミ・メ（自動、四）[黄] [illegible] 語ノきむノ[illegible]ヲ見ヨ」色、黄ヲ帶ブ。[illegible]

ぎはん（名）[僞版] ニセハン。

〔きばむやまひ〕（名）[黄疸] わうだん（黄疸）ノ[illegible]

きはめ（名）[極] （一）キハムルコト。[illegible]ラス、[illegible]刀劍、蒔繪、製造物ナドノ、作者ノ眞僞ヲ見キハメテ定ムルコト。目利。鑑定「極札、極、附ノ端」

きはめ（名）[際目] （一）ワカレメ。境界。（二）[illegible]ニ「ヤウヤウ身ノ憂サヲモ、慰メツベキきはめニ、アサマシウモテソコナヒタレバ、慰ヒモテユケバ」

きはめた・る（連體）[極] キハマリタル。至極ノ。[illegible]ナリケルガ」

きはめつき（名）[極附] 次次條ヲ見ヨ。

〔きはめて〕（副）[極] キハマリテ。至極ニ。コノ[illegible]ナカリケル身ナリ」宇治拾遺、十五、第十條「ソノスガタ、極めて怪シ」

きはめふだ（名）[極札] 〔眞僞ノ別ヲ極ムル意〕[illegible]、鑑定書。[illegible]札ノ添ヒタル[illegible]、[illegible]ト云フ。刀劍鑑定ノ家、本阿彌氏ヨリ出スモノハ、折紙ニ、鍛工ノ名ヲ記シ、價格、代金幾枚ト記シ、裏ニ、本ノ字ノ印ヲ押ス、（[illegible]太閤ヨリ拜領ト云フ）、古筆家ニテ、琴山一字ノ印ヲ押ス、[illegible]ト云フ、こひつみノ條ヲ見ヨ。[illegible]下等ハ「名印之通」ト記ス。

※きは・める（動）[極] 極むノ口語。

きはもの（名）[際物] 其用キルベキ節節ノ、眞際ニ賣出ス商物。[illegible]

きはものし（名）[際物師] 際物ノミ賣ルヲ業トスル商人。

きばや（名）[氣早] 氣ノ、ハヤリカナルコト。鋭ク進ミ、ハヤルコト。血氣 太平記[illegible]氣早ノ若武者ナレバ」

〔きはやかに〕（副）〔きはハ、際立つノきは[illegible]〕[illegible]、花やかに、[illegible]キハヤシク。メボシク。[illegible]

十一段「花ノ中ヨリ、實ノ、黄金ノ玉カト見エテ、イミジクきはやかニ見エタル」源、二十七、[illegible]陀佛、云云、[illegible]ノ具ハ、[illegible]ノきはやかニ小サクテ」

きはらし（名）[illegible] ココロヤリ。[illegible]

きは・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）[極] 〔際ノ[illegible]活用、[illegible]字類抄「劫、キハル」（物ノ果端、劫[illegible]）

きば・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）[氣張] （一）勇ミ立ツ。奮發（二）威ヲ張ル。イバル。（[illegible]）二財ヲ出ス。ハヅム。（東京）[illegible]

きひ（名）[illegible]

きび（名）[黍] 〔黄實ノ轉〕又、[illegible]穀ノ名。立夏ノ前ニ種ヲ下シ、初秋ニ至リテ收ム、粟ニ似テ低小ニシテ、毛アリ、子ハ[illegible]、淡黄ヲ帶ブ、粒、粟ヨリハ光ル。うるきびハ、賤民、飯ニ炊ギテ食フ、もちきびハ、[illegible]黍、黒黍、久呂岐比

きび（名）[illegible] [illegible]ガヨイ」

きび（名）[己未] ツチノトノヒツジ。干支ノ條ヲ見ヨ。

きび（名）[癸未] ミヅノトノヒツジ。干支ノ條ヲ見ヨ。

きび (名) 〔機微・幾微〕 隱微ナル兆候。カスカナルキザシ。易經、繫辭、下傳「幾者動之微、吉之先見也」韓愈、送二殷員外郎一序「無二幾微出一於言面二」

きび (名) 〔驥尾〕 〔說文「驥、千里馬」〕 駿馬ノ尾。後進ノ者ガ、先進ノ人ニ因リテ、其德、其名ヲ成スヲ、驥尾に附くト云フ。史記、伯夷傳「顏淵雖二篤學一附二驥尾一而行益顯」後漢書、隗囂傳「蒼蠅之飛、不レ過二數步一、卽託二驥尾一得三以絕二群」太平記、十四、尊氏義貞確執奏狀事「尊氏附二驥尾一超二險雲一、控二彈丸一殺二籠鳥一」

きび (名) 〔羈縻〕 〔史記、司馬相如傳、注「羈、馬絡頭也、縻、牛紖也」〕 ツナギ、トムルコト。羈絆。史記、大宛傳「未レ可二詘以レ禮、羈縻而使一」

きびき (名) 〔木曳〕 材木ヲ、曳キ送ルコト。「木曳ノきやり唄」

きびき (名) 〔忌引〕 服忌ニカカリテ、引籠ルコト。

きび-きびし-た (連體) 〔嚴嚴〕 烈シク、ココチヨキ。「きびきびした氣性」きびきびした捌キブリ」

きび・し・シキ・シケレ・シク・シク (形、二) 〔嚴〕 (一)〔甚ダ嚴カナリ。ユルヤカナラズ。嚴重ナリ。源、二十一、少女「憚ル所ナク、例アラムニ任セテ、慾ムル事ナク、きびしう行へ」枕草子、五、四十六段「行事ノ藏人、イトきびしうモテナシテ、カイツクロヒ二人、童ヨリ外ハ入ルマジト、オサヘテ、面憎キマデ云へバ」「掟きびし」 (二)〔ユルミナシ。極メテ固シ。緊 字鏡「緊、堅也、固也、支比志」「きびしく縛ル」 (三)〔苛シ。ムゴシ。酷 枕草子、八、九十一段「イカニ、イトドきびしう言ヒ咎メン」「政治きびし」 (四)イミジ。ハナハダシ。甚 新撰古今集、八、釋敎「荒キ海、きびしき山ノ、中ナレド」 詞花集、二、上、第三條「きびしく、ハシタナク、物ヲ忌ミ、イハヒ事、ケシカラヌ程ナリ」「寒サきびし」

キビ-ショ (名) 〔急焼ノ支那福建音ナリト云フ〕 きふを(急須)ニ同ジ。

きびす (名) 〔踵〕 くびすノ條ヲ見ヨ。

きびそ (名) 〔生皮苧〕 繭ノ中ノ蛹ノ、身ニ近ク絡ヘル絲。

きび-だんご (名) 〔黍團子〕 もちきびノ粉ニ、米ノ粉ヲマゼ、水ニテコネ、マロメテ蒸シタルモノ。黍餻 井筒業平河内通(享保、近松作)二「きび團子ト饅頭ハ、アナタノ換ヘ德」

ぎ-ひつ (名) 〔僞筆〕 〔眞筆ニ對ス〕 ニセフデ。ニセガキ。

きび-は-に (副) 〔纖弱〕 〔きハ、生、ひはハ、ひはづ、ひはやかノ、ひはナリ、其條ヲ見ヨ〕 年若ク、カヨワクシテ。ヒハヅニ。ヒハヤカニ。宇津保物語、藏開、上三十二「イト貴ニきびはニテ、何心モナキ顏シタマヒテ、御年十七」源、三十四、下、若菜、下廿七、女三ノ宮「イト、イミジク片成ニ、きびはなる心地シテ、細ソクアエカニ、美シクノミ見エタマフ」同、四十三、竹川五「其頃、十四五バカリニテ、イトきびはニ、幼カルベキホドヨリハ、榮花物語、十二、玉村菊「左大將ノ御若サ、イトきびはヲカシキニ、小野宮ノ、ネビタマヘレバ」

きびび-す (名) 〔踵〕 くびすノ條ヲ見ヨ。

き-ひん (名) 〔氣品〕 キグラヰ。ヒトガラ。品格。江淹、拜二中書郎一謝表「皇帝大融、氣品呈觀」「氣品高シ」氣品低シ」

き-ひん (名) 〔氣稟〕 〔稟ハ、天賦ナリ〕 ウマレツキ。氣性。中庸章句「性道雖レ同、而氣稟或異」奧細道(芭蕉)「剛毅、木訥ノ、仁ニ近キタグヒ、氣稟ノ淸質、最モ尊ブベシ」

き-ひん (名) 〔貴賓〕 貴キ賓客。身分アル客人。魏書、崔道固傳「我賤、不レ足三以報二貴客一」

き-びん (名) 〔機敏〕 〔機警敏捷ノ略〕 ハシコキコト。スバヤキコト。魏書、程駿傳「性機敏好レ學、晝夜無レ倦」

き-びやう (名) 〔氣病〕 キヤミ。ヒポコンデリイ。

き-びら (名) 〔生平〕 〔きハ、晒サヌ意、ひらハ、かたびらノ略カ〕 晒布ノ、晒サヌモノ。近江國、犬上郡、高宮ノ產、苺麻ニテ製ス、高宮布トモ云フ、きさろニテ精細ナリ、夏着ノかたびらナドトス。寢のすさみ「皆人、夏ハ生平ノカタビラニ漆紋ナド附ケ」

き-ひろひ (名) 〔木拾〕 道路ニ棄テテアル木片ヲ、拾ヒアツムルコト。錢湯ノ奴ナドノスルコトニテ、薪トスルナリ。

きふ (名) 〔急〕 俄ナルコト。急グコト。キハドキコト。史記、周本紀「告二急于晉一」大學章句「在二初學一尤爲レ當レ務之急二」源、三十九、御法六「陵王ノ舞手、きふニナル程ノ」同、五十一、手習四十七「きふナル事ニテ罷出タレバ」「急ヲ告グ」急ノ間」

きふ (名) 〔級〕 (一)段。階。等級。禮記、曲禮、上篇「主人先登、客從レ之、拾レ級聚レ足」 (二)金鷄勳章ノ等級。「功一級」功三級」

きふ (名) 〔給〕 (一)給料、給金ニ同ジ。(二)給與。史記、平準書「衣食、仰二給於縣官一」

き-ふ (名) 〔寄附〕 ヨセ、ツクルコト。格段ナル事柄ヲ助ケムト、金錢、品物ヲ贈ルコト。喜捐。白居易詩「貧友遠勞君寄付」太平記、十一、書寫山行幸事「當國安室鄕ヲ御寄附有テ、不斷如法經ノ料所ニゾ擬セラレケル」

き・ふ・フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ (自動、下二) 〔來經〕 年、月、經來ル。歲月經過 古事記、中(景行)三十五長歌「アラタマノ、年ガ岐布禮バ、アラタマノ、月ハ岐閇行ク」萬葉集、五十六「萬世ニ、年ハ岐布トモ、梅ノ花、絕ユルコトナク、咲キワタルベシ」播磨風土記「託賀郡、黑田里、支閇丘、云二我可レ等之月一盡ハ故日二支閇丘一」

きふ (接尾) 〔級〕 〔後漢書、光武紀、注「秦法、斬首一、賜二爵一級一、故因、謂二斬首一爲レ級二」〕 戰ニテ斬リタル首ヲ數フルニ云フ語。史記、平準書「獲二首虜萬五千級二」「首ヲ獲ルコト百級」

ぎ-ふ (名) 〔義父〕 〔義(熱語、第二)ノ條ヲ見ヨ〕 カリオヤ。オヤブン。養父。洛陽伽藍記「隱士趙逸、云云、拜爲二義父一」

きふ-う (名) 〔急雨〕 ニハカアメ。杜甫詩「急雨捎二溪足一、斜暉轉二樹腰一」盛衰記、四十二、義經解レ纜四國渡事「空カキ曇、急雨シテ」

き-ふう (名) 〔氣風〕 ココロバヘ。ココロダテ。キダテ。カタギ。氣性。氣質

きふ-かう (名) 〔急行〕 イソギテユクコト。王充、論衡「急行無二善步一」「急行列車」急行軍」

きふ-がく (名) 〔給額〕 給與スル金額。支給額。

きふ-きふ (副) 〔急急〕 イソギニイソギテ。至急。平治物語、一、惡源太上洛事「急急ナル除目哉」「其旨、急急、申出ヅベシ」

きふ-きふ-と (副) 〔汲汲〕 〔汲ハ、急ト通ズ〕 務メテ息マヌ狀、目的ニアセル狀ニ云フ語。禮記、問喪篇「望望然、汲汲然、如レ有レ追而弗レ及也」漢書、揚雄傳「少二嗜欲一、不レ汲二汲於富貴一」北史、劉芳傳「不レ急二急於榮利一」「孜孜、汲汲トシテ務ム」

きふきふ-にょ-りつりやう (句) 〔急急如律令〕 支那ノ漢代ノ公文ニ、趣意ヲ書キタル末ニ、此旨ヲ心得テ、急急ニ、律令ニ示シタル如クセヨト云フ意ニテ、此ノ

[illegible]

きふきん（名）［基金］[illegible]

きふきん（名）［寄附金］寄附ノ金錢。

きふぎ（名）［寄附］[illegible]

きふく（名）［帰服］[illegible]

きふく（名）［起伏］オコリフシタルコト。[illegible]

きふく（名）［忌服］[illegible]

きふく（名）[illegible]

きふくりん（名）［金覆輪］きんぷくりんノ條ヲ見ヨ。

きふく（名）［急火］[illegible]

きふけつ（名）[illegible]

きふし（名）[illegible]

きふさい [illegible]

きぶ・し [illegible]

きふちん（名）[illegible]

きふちゃう（名）[illegible]

きふ・す [illegible]

きふせい（名）[illegible]

きふぞく（名）[illegible]

きふだ（名）［木札］（一）木製ノ札。（二）[illegible]

きふだい（名）[illegible]

以來、進士諸科、逐行ニ及第之目ニ」試驗ニ合格スルコト。合格セザルヲ、落第ト云フ。漢書、蕭望之傳「以ニ及第甲科一爲レ郎」十訓抄、上、第四、第十條「後江相公（大江朝綱）登省ノ時、云云、時ノ博士達、落第ニ處シケレバ、云云、朝綱、菅公ノ詩ヲ證ス」延喜聖主聞召シテ、諸儒ノ才智イカナリトモ、菅丞相ニ及ブベカラズ、早ク及第スベキ由、勅諚ヲ下サレシカバ、云云」宇津保物語、藤原君「ぎふだいシ、學問料賜ハリ」

きふ-ち（名）［給知］〔アテガハルル知行地〕りやうぶん（領分）ノ條ヲ見ヨ。

ぎふ-ぢやうちん（名）［岐阜提燈］美濃國、岐阜市ヨリ製出スル提燈。骨細ソク、薄美濃紙ニテ貼ル、形、種種ナリ、草木、花鳥ナドノ彩色繪ヲ描ク。多クハ、夏夜ニ、軒端ナドニ吊シテ、飾トス。

きぶつ（名）［器物］ウツハモノ。ダウグ。器具。周禮、秋官、司寇、大行人篇「邦畿方千里、云云、甸服、云云、其外五百里、謂ニ之男服一、三歳壹見、其貢器物一」太平記、三十、持明院兩院主上還ニ幸吉野一事「誠ノ三種神器ニテハ無ケレ共、云云、飾ニ恐ナク、凡俗ノ器物ニ成サレヌル事、如何アルベカラン」

きぶつ（名）［奇物］メヅラシキ品物。珍物。史記、殷本紀「益收ニ狗馬奇物一、充ニ牣宮室一」盛衰記、二十八、路次節會事「白雉、云云、聖代ノ奇物、何事カ是ニ如カンヤ」

き-ブツ（名）［木佛］木造ノ佛像。（金佛、石佛ニ對ス）

ぎ-ぶつ（名）［僞物］ニセモノ。贋物。漢書、韓延壽傳「僞物當ニ之市道一」

＊き-ぶつさ・い（形）きぶさいノ急呼。

きふ-てい（名）［泣涕］「玉篇「目汁出曰レ涕」」涙ヲ流シテ泣クコト。詩經、邶風、燕燕篇「瞻望弗レ及、泣涕如レ雨」

きふ-あん（名）［急難］急ニ起レルワザハヒ。詩經、小雅、鹿鳴之什、常棣篇「脊令在レ原、兄弟急難」

きふ-にふ（名）［吸入］スヒイルルコト。「吸入器」酸素ノ吸入」

きふ-にん（名）［給人］武家ニテ、平士ノ、扶持米ヲ給セラルルモノノ稱。經濟錄、五、食貨「凡士以上ハ田祿有者也、云云、今世ニハ、小祿ノ者ハ、廩米ヲ取テ、土地ナキ者モアレドモ、土地有者ニ準ジテ、之ヲモ知行ト云、之ヲ給人ト云」

きふね-ぎく（名）［貴船菊］〔山城國、貴船山ニ多シ〕草ノ名、山溪ニ生ズ。春、宿根ヨリ葉ヲ叢生ス、形、三枝、九葉ニシテ、牡丹ノ葉ニ似テ、尖リテ、毛茸アリ、夏、莖ヲ出スコト三四尺、秋ノ末ニ、枝梢毎ニ、寸餘ノ紫紅花ヲ開ク、菊ニ似テ、二三重ナリ。秋牡丹

きふ-ば（名）［急場］｜臨急｜事、差迫リタル時。

きふ-はう（名）［急報］イソギノシラセ。急使。急信。戴表元詩「急報傳來又不レ眞、門前翁稚笑聲頻」

きふ-はく（名）［急迫］事ノ、差迫マルコト。切迫。

きふ-ひ（名）［給費］（一）費用ヲアテガフコト。史記、平準書「募レ民、自給レ費、因ニ官器一作ニ煮鹽一」（二）費用ニアツルコト。唐書、姦臣傳「柳璨、云云、少孤貧好レ學、晝採レ薪給レ費」

きふ-びん（名）［急便］急ギノ音信。急信。運歩色葉集「急便」

きふ-びやう（名）［急病］俄ニ起リタル病。頓病。急疾

きふ-ふく（名）［給復］復ノ條ヲ見ヨ。

きふ-ぶん（名）［給分］給與ノ高。給料。吾妻鏡、三十、嘉禎元年五月十三日「關東御家人給分」蜷川親元記、寛正六年六月十二日「朝原給分御扶持（註、松井跡）事、被ニ仰出一畢」大内家壁書「寺社本所領幷諸給分本領等」

きふ-へん（名）［急變］俄ニ起リタル變事。漢書、宣帝紀「以ニ急變一聞」

〔き-ぶみ（名）［黃文］紙ニ、黃蘗ヲ漉キ入レタルモノ、苦味ヲ加ヘテ、蠹魚ニ喰ハセジガ爲ナリ、佛教ノ經卷ノ紙ナド、多クコレヲ用キル。聖德太子傳曆、上、推古天皇十二年十二月「爲レ繪ニ諸寺佛像莊嚴一、定ニ黃文畫師一」中務省式、內記「詔書料、黃紙」圖書寮式、紙染料「黃蘗、大五斤」著聞集、十八、飲食、季經、泰覺、般若經ノ料紙「管メミツル、五ツノ色ノ、味モ、きはだノ紙ニ、苦クナリヌル」

きふ-む（名）［急務］急ギ行フベキ業。漢書、司馬相如傳「反ニ衰世之陵夷一、繼ニ周氏之絕業一、天下之急務也」

きぶん（名）［氣分］ココチ。ココロモチ。心氣。孔子家語「氣分不レ同、而凡人莫レ知ニ其情一」盛衰記、四十二、玉蟲立レ扇事「地體、脚氣ノ者ナル上ニ、此間、馬ニ振ラレテ、氣分ヲサシ、手アバラニ覺ユ」「氣分ヨシ」氣分アシ」

きぶん（名）［奇聞］メヅラシキウハサ。奇談。異聞。蘇轍、上ニ韓太尉一書「求ニ天下奇聞壯觀一、以知ニ天地之廣大一」

ぎ-ふん（名）［義憤］大義、名分ノタメニ、憤ルコト。後漢書、逸民傳、序「漢室中微、王莽篡位、士之蘊ニ藉義憤一甚矣、相攜持而去之者、蓋不レ可ニ勝數一」

きふ-やう（名）［給養］物ヲアテガヒ、ヤシナフコト。易經、下彖傳「井養而不レ窮也」註「給ニ養於人一、無ニ有ニ窮已一也」「民力給養」

きふ-よ（名）［給與］物ヲアテガフコト。唐書、杜元穎傳「給與不レ時、戍人窘餒」

きふ-よう（名）［急用］急ギノ用事。狂言記、雁盗「急用アッテ、サル方ヘ參ル」

き-ぶり（名）［木振］立木ノ形。樹勢

きふ-りう（名）［急流］瀨ノ速キ流レ。高適詩「灘上急流聲若レ雨」

きふりう-ゆう-たい（句）［急流勇退］〔急流ノ渡リ難キヲ、勇みテ渡リ退ク意〕官位ナドヲ、斷然トシテ辭シ去ル。名臣言行錄「一個錢若水曰、公、急流中勇退人也」戴復古詩「日暮倒行非ニ我事一、急流勇退有ニ何難一」

きふるし（名）［着舊］キフルシタルコト。古着。故衣

き-ふる・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）［着舊］久シク着テ、古クス。狂言記、秀句大名「此ノ上下小袖ハ、着ふるしタレドモ、是ヲソチニ與ルゾ」

きふ-れう（名）［給料］宛行ノ扶持米、給金ナド。俸金。唐書、食貨志「至德初、以ニ用物不レ足、內外官不レ給ニ料錢一」

〔き-へ（名）［柵戶］きのへヲ見ヨ。

〔き-へ（動）［來經］きふ（來經）ノ條ヲ見ヨ。

き-へい（名）［奇兵］不意ニ打出ヅル軍隊。史記、趙奢傳「縱ニ奇兵一、佯敗走」漢書、藝文志「權謀者、以レ正守レ國、以レ奇用レ兵」

き-へい（名）［騎兵］騎馬ノ兵隊。ウマイクサ。騎卒。（步兵、砲兵、工兵ナドニ對ス）史記、灌嬰傳「推ニ故秦騎士、重泉人李必駱甲一、習ニ騎兵一」續紀、三、慶雲二年十一月「徵ニ發諸國騎兵一」

ぎ-へい（名）［義兵］義擧ノ軍。義師。史記、秦始皇紀「興ニ義兵一」吾妻鏡、一、治承四年八月

十三年「令[illegible]兵之[illegible]」

ぎ-へう（ギ・ヒヨウ）（名）［儀表］衆人ノ儀トシテ立ツコト。模範。[illegible]

き-べうし（キ・ビヨウシ）（名）［黄表紙］くさざうし（草[illegible]ノ條ヲ見ヨ。

き-べは（名）［木邊派］眞宗ノ一派。近江國、野洲郡、木邊ニアル錦織寺ニ屬スルモノ。錦織寺派。

き-へん（名）［木偏］漢字ノ偏ニテ、木ノ字ノ稱。[illegible]等ノ如シ。[illegible]

き-へん（名）［[illegible]］[illegible]「[illegible]」[illegible]「義務ヲ存ス」

き-べり（名）［黄縁］疊ノ縁ノ、黄染ノ布ナルモノ。繧繝縁（ウンゲンベリ）、高麗縁（カウライベリ）ニ對ス。[illegible]用ニ黄縁ニ」

き-ほ（名）［規模］（一）[illegible]ぶんまはし、[illegible]（二）法度。法式。模範。據ルベキ例。[illegible]メテタク作リ改メラルベキ由、仰セラレケルニ、云云、累代ノ公物、古弊ヲ以テ規模トス、タヤスク改メラレ[illegible]トナルベキ意。[illegible]

「中國ハ、格子ノ織物、打チマカセテハ、得召シ候ハス[illegible]候、[illegible]二候」

き-ぼ（名）［[illegible]］[illegible]ニ同ジ。

き-ぼ（名）［義母］[illegible]ノ條ヲ見ヨ」義理アル母。ママハハ。養母。又、[illegible]

き-ぼうし（名）［擬寶珠］[illegible]ノ[illegible]、寶珠ニ擬ヘ[illegible]、擬侍從、擬文章生ナド、[illegible]、又（一）[illegible]ノ欄干ノ、[illegible]ノ頭ニ[illegible]、又、寶珠ノ如シ。[illegible]タリ。[illegible]、きぼうし「[illegible]ノ花ヲ云フハ、[illegible]子ノ義ナリ、[illegible]ノ行幸ニハ、[illegible]花ノ[illegible]ヲ用ル」

（二）[illegible]ノ條ヲ見ヨ。

き-ほうれき（名）[illegible]人、[illegible]作リ、[illegible]中、[illegible]キラレ、七十一年間行ハレテ、天平寶字[illegible]年ニ、大衍[illegible]ニ改メラル。[illegible]

き-ぼく（名）［龜卜］カメノウラ。[illegible]

き-ぼし（名）［[illegible]］[illegible]ノ（一）ヲ見ヨ。

き-ぼし（名）［[illegible]］一草ノ初生ノ形、[illegible]寶珠ノ如クナレバ[illegible]師ノ語ナリ」草ノ名。一根ニ數十葉、叢生ス、葉、[illegible]六七寸、[illegible]道、多シ、夏、[illegible]上ニ、白キ花、[illegible]、一花ノ長サ一寸五分許、六瓣ナリ、[illegible]カズシテ、[illegible]名、ウルイサウ。又、むらさききぼうしアリ、葉、細長タシテ短ク、ちまきざさノ如シ、一根ニ、[illegible]、花ヲ開ク、[illegible]テ、[illegible]

き-ほね（名）［[illegible]］[illegible]

（食[illegible]、字末乃坡保禰」（馬ノ頭骨）

き-ほね（名）［氣骨］[illegible]フハ、力ノ骨折ナラズシテ、心ニテ骨折ル[illegible]、ささろづかひす、心勞すノ意ナリ。[illegible]取リニカ、[illegible]デモイカヌ死病、イハレヌ氣骨折らるる」

き-ほひ（名）［[illegible]］キホフコト。キソヒ。[illegible]

き-ほひ-うま（キオイ・ウマ）（名）［競馬］くらべうまニ同ジ。[illegible]、きほひ馬ノ、走リゲナラヌ、世ニハアラズヤ」

き-ほひ-はだ（キオイ・ハダ）（名）［競肌］いさみはだ（勇[illegible]ニ同ジ。

き-ほ・ふ・フ・へ・ハ・ヒ・へ（キ・オ・ウ）（自動、四）［競］（いきほふ（勢）ノ上略カ、きそふ（競）モ、息添[illegible]ノ上略ナル

べシ」負ケジト勇ム。キソフ。張合フ。[illegible]セリアフ。萬葉集、八[illegible]「今日降リシ、雪ニ[illegible]テ、我ガ宿ノ、冬木ノ梅ハ、花咲キニケリ」[illegible]タモ逢ハムタメ」[illegible]、三十三[illegible]「心アワタダシキ雨風ニ、皆散リヂリニ、きほひ散リタマヒヌ」

き-ほん（名）［基本］モトヰ。ドダイ。基礎。左傳、[illegible]公十三年、杜注「乃、國家之基本」「基本[illegible]」

き-ほん-きん（名）［基本金］[illegible]

き-まい（名）［[illegible]］[illegible]

ぎ-まい（名）［義妹］［義ノ條ヲ見ヨ］イ[illegible]、又、妻ノ妹、夫ノ妹。

き-まう（キ・モウ）（名）［欺罔］アザムクコト。ダマスコト。[illegible]

き-まくら（名）［木枕］さまくら。木ニテ造レル枕、布帛ノ括リナキモノ。[illegible]枕物狂「安カラザリシ身ノ狂氣ハ、木枕ナリケリ」

き-まぐれ（名）［[illegible]］[illegible]

き-まづ・い（キ・マズ・イ）（形）［氣拙］ココロヨカラズ。不快。[illegible]二、氣まづく思ヒテクレメイヨ」

き-まへ（名）［[illegible]］[illegible]

き-まま（名）［氣儘］（一）意（ココロ）ノママニスルコト。任意。浮世風呂（文化、[illegible]）初編、下「オレ[illegible]

下「小ナ時カラ、氣儘八百ニ育テタ物ダカラ、大クナッテモ、盲蛇、物ニ怖ヂズダ」

きまま-づきん (名) 氣儘頭巾　ふくめんづきんノ條ヲ見ヨ。

き-まん (名) 期滿　定メタル期間ノ、滿チタルコト。期日ノ、過ギタルコト。滿期。「期滿免除」

き-まん (名) 欺瞞 欺謾　アザムクコト。ダマスコト。漢書、宣帝紀「務爲二欺謾一以避二其課一」

き-まんぢゅう (名) 木饅頭　木蓮子ノ條ヲ見ヨ。

き-まもり (名) 木守　〔巣守、刈守ト同趣ノ語〕果ノ、枝ニ落チ殘リテアルモノ。殘果　倭訓栞、きまもり「菓ノ落チザルモノヲ云フ、木守ノ義也」

きまり (名) 極　(一)キマルコト。サダマリ。ヲサマリ。決　「何時マデモ、きまりガツカヌ」(二)定例。「きまり文句」きまりがわるいトハ、氣ハヅカシイ。晴ガマシイ。

きまり-もんく (名) 極文句　定例ノイヒグサ。常套語

きま・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 極　〔決むるノ自動、きはむる、きはまる。さだむる、さだまる〕(一)定マル。治マル。オチツク。決　「相談ガきまる」(二)イツモ變ラズ。定マッテ居ル。定例ナリ。尋常ナリ。狂言記、痩座頭「身共ガ平家ヲ語ル座敷ガ、きまッテヰテ、此ノ樣ナ辻山道デ語ル平家デハオリナイ」「きまりキッタ事」イツモきまッタ挨拶」(三)相撲ノ語。勝負ノ手、定マル。きまらムトシテ、きまらザリシヲ、殘ルト云フ。

〜きみ (名) 君　〔上ト通ズルカ、(堅鹽、きたま。あからか、あきらか)倭名抄、二十「在レ上之稱也」或ハ、城持ノ約ト云フ、イカガ〕(一)國民ニ長タル人ノ稱。國家ノ元首。帝王。箋注倭名抄、一九十四「君、在レ上之稱也、岐美」喪葬令、義解「君、謂二天子一也」神代紀、下十「瑞穗國、是吾子孫可レ王之地也」敏達紀、十四年三月「自二孝天皇一及二於陛下一」(二)吾ガ仕フル人。主。主君。竹取物語「君ノ使ト云ハム者ハ、命ヲ捨テテモ、己ガ君ノ仰事ヲカナヘムトコソ思フベケレ」(大納言大伴御行ノ、從者ニ云ヘル語ナリ)(三)人ヲ敬ヒテ呼ブ語。古事記、上七十一「岐美ガ裝ヒシ、タフトクアリケリ」(豐玉姫ヨリ、彦火火出見尊ヲ中ス)　雄略紀、九年三月「吾主、大伴公」　古今集、十六、哀傷「君マサデ、煙絶エニシ、鹽竈ノ、浦サビシクモ、見エワタルカナ」(河原左大臣ヲ云フ)　土佐日記、正月八日「業平ノきみ」　枕草子、五、五十段「公任ノ君」　安法法師集「前和泉守、源ノ君」「吾ガ夫ノ君」源氏ノ君」父君」兄君」

〜きみ (名) 君公　〔元ハ、諸國ノ其地ニ、君トシテ治メシ、地方官ノ如キモノナリシガ如シ、くにのみやつこヲ見ヨ〕可婆爾ノ名。初ハ君ト記シ、後ニ公ノ字ニ改メシメラル。神代紀、上廿三「筑紫胸肩君」　古事記、中(應神)七十一「日向諸縣君」　姓氏錄、左京神別「石邊公」　續紀、二十二、天平寶字三年十月「天下諸姓、著二君字一者、換以二公字一」

きみ (名) 君　〔遊君ト云ヒシニ起レル語ナリ、きみトハ、代名詞ヨリ轉ジタルカ、後ニ、相方、又ハ、敵ナド云フ語ト、同意ナルベシ〕遊女ノ異名。客ノ相手、相方トナル意ノ語ナリ。吾妻鏡、十、建久元年十月十八日「於二橋本驛一遊女等群參、有二贈物一云云、先レ之有二御連歌一「橋本ノ君ニハ、何カワタスベキ」平景時「タダ杣川ノ、くれデ過ギバヤ」(榑にてト、與れずてトヲカケタリ)　著聞集、十六、興言利口「家ノ主ハ、遊女ニテゾ侍リケル、云云「烏帽子ヲバ、君ガ枕ニ、トドメオキテ」　曾我物語、八、祐經が屋形へ行きし事「手越ノ少將ハ、左衞門尉ガ君ト見エタリ、黃瀨川ノ龜鶴ハ、備前國吉備津宮ノ往藤內ガ君ト見エテ」　異本洞房語園(享保)吉原ノ開基、庄司甚右衞門ノ事「大御所樣(家康)ノ御意ニ、其庄司ト云フハ、カノ甚內ト云ヒシ、きみがてて(君が爺、遊女ノ長)歟ト御尋、云云」(元和元年)立ちぎみ、辻ぎみナド云フハ、此語ノナリサガレルモノナリ。

〜きみ (名) 黍　〔黃實ノ義〕きびニ同ジ。其條ヲ見ヨ。

き-み (名) 黃身　〔白身ニ對ス〕たまごノ條ヲ見ヨ。蛋黃

き-み (名) 氣味　〔書經、洪範篇、疏「臭之曰レ氣、在レ口曰レ味」〕(一)香ト、味ト。朗詠集、上、春「和二葯蘂一而嗅レ口、期二氣味之克調一」(二)ケハヒ。オモムキ。白樂天詩「林下幽閑氣味深」　明月記、嘉祿二年四月廿二日「自愛無レ極候之處、被二仰下一候之間、彌添二氣味一候了」(三)ココロ、又、體ニ感ズルコト。ココチ。ココロモチ。きび。狂言記、ゑんくゎい「皮ヲヒッタクリマスルガ、イカウ氣味ノ善イモノデゴザル」「氣味ワロシ」

き-み (名) 鬼魅　オニ。妖怪。水鏡、序「鬼魅ナドノ姿ニモアラザリシカバ、仙人トイフモノゾヤト思ヒテ」

〜きみ (代) 君　對稱ノ代名詞、敬フニ用キル。古今集、一、春、上、仁和ノ帝、皇子ニオハシマシケル時、人ニ若菜賜ヒケル御歌「君ガタメ、春ノ野ニ出デテ、若菜摘ム、我ガ衣手ニ、雪ハ降リツツ」　字鏡九「儞、伊萬志、又、支三」　字類抄「卿、キミ」

きみ-あひ (名) 氣味合　ココロモチ。オモムキ。傾城買二筋道(寛政、梅暮里谷峨)「聲バカリ響メズト、氣味あひモ響メテクリャ」

きみ-がてて (名) 君爺　遊女ノ異名ノきみ(君)ノ條ヲ見ヨ。

〜きみ-がね (名) 君主ノ候補。がねノ條ノ(二)ヲ見ヨ。

きみ-がよ (名) 君代　(一)大君ノ、國ヲ治メタマフ御代。聖代　和漢朗詠集、下、祝「君が代ハ、千代ニ八千代ニ、細石ノ、巖トナリテ、苔ノ産スマデ」此歌ノ本歌ハ、古今集、七、賀ニアリテ、初句ハ「我ガ君ハ」ト見エ、六帖、四、祝ニハ、初句、二句ヲ「我ガ君ハ、千代ニマシマセ」トアリ。(二)大日本帝國の國歌ノ稱。こくか(國歌)ノ條ヲ見ヨ。

きみさは-がた (名) 君澤形　〔きみさはハ、君澤郡ノ訓讀、此郡、今、田方郡ニ入ル〕安政二年、伊豆國、君澤郡、戸田港ニテ始メテ造リシ、兩桅船ニ名付ケシ語。其頃、伊豆ニテ難破セシ露西亞船中ノ船工ノ、示導ニ因レルモノ。當時、蘭學者ノ宴會ニ、一人「夜モ深ケマシタ、御一同、スクウねるト、シテハイカガ」ニ一人「きみさはがた(君樣方)ノ、思召次第」ト、語路ヲ言ヒシコトアリキ。

きみ-さま (名) 君樣　貴人ヲ敬ヒテ稱スル語。又、彼のさまトモ云フ。義經記、八、判官御自害事「若君さま、御館ノ御子ト生マレサセタマフモ、カクアルベキノ契リカヤ」(義經ノ子殺害)　狂言記、ぬけがら、殿、太郎冠者ニ「汝ヲ呼ビ出スハ別儀デナイ、かのさまへ參リテ、此中ハ、云云、何事モゴザラヌカ、冠者ヲ御見舞ニ進ズルト申シテ、急イデ、往テ來イ」

きみ-さま (名) 君樣　〔情人ニ云フハ、遊女ヨリ起レル語ナラム、客ノ相方トナル遊女ヲ、君ト云フ、相方ノ男女、雙方通ジテ云フナリ、俚言集覽、樣「君ト云フ事ヲ、樣ト云フ、君樣ト云フ俗語アリ、ソレヲ略シテ、樣トバカリ云フナリ」〕戀人ノ敬稱、男、女、互ニ云フ。上略シテ、さまト云ヒ、彼のさまナドトモ云フ。隴筑波集(寛永)「戀ノオコリモ、皆法ノ道、君樣ノ、熱氣醒ムレバ、如來肌」　諸國盆踊唱歌(寛文)紀伊「月ニ

ナリタヤ、さまガ住ム、閨ノ臥床ヲ、照ラシタヤ」同、[illegible]ハ、游ゴザル」松の葉(元禄)一、葉手「我等モ、さまニ[illegible]アレ、[illegible]ワズモノ [illegible]ナ、[illegible]二[illegible]、[illegible]ヘ、[illegible]ニヤ[illegible]二[illegible]ベシ[illegible]、[illegible]ニ[illegible]タマヘト、[illegible]ニ申シケレド、イヤマサリニ害セザリツツ」又、かたさまトテ、片假名ニテ「サマ」ト書クコトアリ。[illegible]いく草子「袖ヒ立テテ、[illegible]分髮モ、かたサマノ、君ナラズシテ、誰レカキルベキ」注「かたサマ、カヤウニ、[illegible]

きみじかさ (名) [氣短] 心ノ[illegible]性[illegible]

きみずし (名) [黄身鮨] [illegible]ノ[illegible]リテ、飯ニ光テテ作レル魚鮨。

きみつ (名) [機密] 政事、軍事ノ[illegible]

きみどうふ (名) [黄身豆腐] [illegible]ノ名[illegible]ヲ加ヘテ、攪キマゼ、箱ニ盛リ、蒸シテ、五分角ホドニ切リテ成ル。

きみな (名) [公名] [illegible]ノ、大臣[illegible]所、中「藤[illegible]名、古多分[illegible]名、近代一向公名許也」

きみん (名) [義民] 正義ノタメニ、誠ヲナス民。[illegible]

きみやうちやうらい (句) [歸命頂禮] (歸命ハ、梵語、南無ノ譯語、佛ノ命令ニ歸順スル意、頂禮ハ、己ガ頭ヲ以テ、佛ノ足ニ禮スル義[illegible]コト。天竺古來ノ最敬禮ニテ、[illegible]依ノ[illegible]樣ヲ表スルナリ。因リテ、[illegible]頂禮ヲ、佛ヲ拜スル時、先ノ唱フル語トス、[illegible]往生禮讃(善導)「南無至心歸命禮」[illegible]記、四十二、[illegible]頂禮八幡大菩薩」十訓抄、上、第一、第七條「[illegible]ノ[illegible]

きみやく (名) [氣脈] (氣血ノ脈絡)(一)血液ノ通ズル[illegible](二)ツブキアヒ。[illegible]ルコト。聯絡。「[illegible]中、互ニ氣脈ヲ通ズ」

きみゐデラ (名) [紀三井寺] 〔紀三井寺ハ、頂禮ノ札所ノ二番ナリト云フ[illegible]ナリ[illegible]〕「ツネヅネ、阿呆ヲバ、紀三井寺チヤ、二番チヤト云フ」

きむ (名) [禁務] 禁宮ノ事務。[illegible]ノ政[illegible]

き・む・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ (他動、下二) [極] 〔きとノきヲ、活用セサセタル語カ、きはむト、同ジ活用ナリ〕キハム。キツト定ム。決定[illegible]「此ノ呂蒲ガヨイ名デゴザル、是レニきめマセウ」

きん (名) [睾丸] きんたまノ略。一休諸國[illegible]「[illegible]きんニテゾ有リケル[illegible]切牛」

きん (名) [金] (一)こがね。黄金。史記、[illegible]

(二)かね。金銭。[illegible](三)大判金ノ一二ノ略。金一枚ハ、金十兩、商人ノ賣買ノ價ニ、金一枚ト云フハ、七兩二歩。(四)通用ノ貨幣。金銭。[illegible]ガ[illegible]ノ力(五)金錢ノ高ヲ記ストキ、近ラスル語。[illegible](六)[illegible]ノ駒ニ、金將ノ略。[illegible]「淨閑ガ手ニハ、金三枚、銀三枚、歩モ御座ル」(七)貴重ナルコト。[illegible]

きん (名) [斤] [illegible]目ノ名、古ハ十六兩ナリ。四十八兩ナルヲ大一斤ト云フ、今ハ、常ニ、百六十匁ヲ云フ、コレヲ[illegible]目ト云フ、其他[illegible]ニ因リテ、[illegible]シ、少ナキハ百匁ヨリ、多キハ二百五十匁ニ至ル。大和目、百八十匁、大目、二百匁。[illegible]目、二百十匁。白目、二百三十匁。山目、二百五十匁。其他、尚、種種ナリ。今、又、英國ノぽんどニ因リテ、[illegible]ハ、大抵、百二十匁トス。[illegible]云云、十六兩爲レ斤」又、酒一升ヲ、一斤ト云フ。[illegible]「きんハイラヌ、三合バカリ頼ミマス」

きん (名) [琴] きさノ、七絃ナルモノ。キンノコト。[illegible]語、佐藤[illegible]こしかけ、モトノ隔ナリシ時モ、心ニイレシ物ハ、琴ナリシヲ、コノ三人ノ、タダきんヲノミ[illegible]ク」

きん (名) [禁] トドメテアルコト。禁制。法度。[illegible]五[illegible]「[illegible]依以、[illegible]禁」太平記、三十五、北野通夜物語事「上、破テ、法ヲ破ラザレバ、下、又、禁ヲ犯サズ」「禁ヲ解ク」

きん (名) [菌] (一)キノコ。タケ。クサビラ。[illegible](二)

きん [illegible](一)[illegible]

きん (名) [illegible]

きん (名) [illegible]星[illegible]「[illegible]、[illegible]、[illegible]命不[illegible]一[illegible]」

きん (名) [illegible]紹公八年「[illegible]有レ[illegible]、不レ可レ失也」「兄弟、[illegible]ヲ生ズ」

キン (名) [磬] 〔磬ノ宋音、元ハ、石ノ磬ヲ用ヰタルカ〕[illegible]ウチナラシ。[illegible]

ぎん (名) [銀] (一)しろがね。[illegible]ノ略。[illegible](三)[illegible]ハ、四十三匁。[illegible]ハ、四十三匁。(四)銀目ノ高ヲ記ストキ、近ラスル語。[illegible](五)將棋ノ駒ニ、銀將ノ略。[illegible]モ御座ル」

ぎん (名) [吟] (一)[illegible](二)詩歌ノ稱。(三)三味線ノかんどころノ名。[illegible]ミタル餘韻ヲ發スルモノ。(謠ノ發聲ニつよぎん、よわぎんト云フコトアルヨリ移シタル語カ、吟ノ義ナルベシ)

ぎむ (名) [義務] 〔論語、雍也篇「務ニ民之義ニ、敬ニ鬼神ニ而遠レ之」〕權利ノ條ヲ見ヨ。

きんあつ (名) [禁遏] 抑制ケテ、遏ムルコト。[illegible]

數加二書救一、所下以禁二過其偏一 太平記、廿四、依二山門嗷訴一公卿僉議事、延暦寺牒二興福寺一衙二「公家武家之偏信、迷雲遂不レ開レ晴、若不レ加二禁過一者、諸宗滅亡無レ疑」

きん-あつ (名) 【禁壓】 壓制シテ、禁止スルコト。

きん-あん (名) 【金鞍】 黃金ニテ裝飾シタル鞍。後漢書、輿服志「象鑣金鞍、以相夸上」

ギン-アン (名) 【銀杏】 〔銀杏ノ宋音、ぎんあんナリ、連聲ニテ、ぎんなんト云フ、銀ハ、白キ義、本草綱目、三十「銀杏、因下其形似二小杏一、而核色白上也」〕 いちやう(鴨脚樹)ノ實。其條ヲ見ヨ。

きん-い (名) 【錦衣】 にしきノきもの。美服。詩經、秦風、終南篇「君子至止、錦衣狐裘」「錦衣シテ故鄉ニ歸ル」(にしきノ條ヲ見ヨ)

きんい-ぎよく-しよく (名) 【錦衣玉食】 美服、美食。宋史、李蕃傳「蕃雖レ在二山林一、其文有二錦衣玉食氣一」

きん-い-こうし (名) 【金衣公子】 うぐひす(鶯)ノ(一)ノ異名。開元天寶遺事「明皇每於二禁苑中一見二黃鶯一、常呼レ之爲二金衣公子一」(唐ノ玄宗皇帝)

きん-いつ (名) 【均一】 平均ニ同ジ。ナラシ。唐書、薛平傳「兵鎧完礪、徭賦均一」「一圓均一」

きん-いり (名) 【金入】 帛ニ、金絲ヲ織リ入レタルモノ。嚴有院殿御實紀、十九、萬治三年五月九日、公卿引見「金入金織十卷」

きん-いろ (名) 【金色】 こがねいろ(金色)ニ同ジ。キンシヨク。

ぎん-いろ (名) 【銀色】 しろがねいろ(銀色)ニ同ジ。ギンシヨク。

きん-う-ぎよく-と (名) 【金烏玉兎】 〔閑田次筆、一「百人錄ト云フ書ニ、月ハ東方、卯ノ影ウツリ、日ハ西方、西ノ影ウツル、故ニ、兎ト烏ヲ畫クト云ヘリト、龍艸廬ノ筆記ニ見ユ」金ト、玉トハ、美稱ナルベシ、玉輪ト云フ語モアリ〕 金烏ハ、日ノ異名、玉兎ハ、月ノ異名。合シテ、烏兎トモ云ヒテ、歲月ノ意トス。韓琮詩「金烏長飛玉兎走」 楊萬里詩「鎮二御心猿意馬一、縛二住金烏玉兎一」

ぎん-えい (名) 【吟詠】 〔詩經、關雎、疏「動聲曰レ吟、長言曰レ咏」〕 (一)詩歌ヲウタフコト。詩經、譜「人民和樂、謳歌吟詠而作レ頌」 (二)詩歌ヲ作ルコト。(三)詩歌。

きん-えう (名) 【金曜】 きちえう(七曜)ノ條ヲ見ヨ。

きん-えう (名) 【緊要】 最モ肝要ナルコト。カナメ。肝腎。政刑大觀「置二緊要公文一扃一、拆二文書一、係二緊要事件一、卽登レ簿」

きん-えき (名) 【禁掖】 〔掖ハ、宮闕ノ左右ノ小門、此ノ門、無用者ハ出入ヲ禁ズルヨリ云フ〕 禁裏。禁中。御所。李嘉祐詩「趨陪二禁掖一雁行隨、遷向二江南一鶴髮垂」 下學集、上、家屋門「禁掖、指二禁裏一」

ぎん-えふ (名) 【銀葉】 〔薰物ノ下ニ敷クハ、銀ノ薄片ナリト云フ〕 香道ノ具、火敷ニ同ジ。又、銀盤。

きん-えん (名) 【禁烟】 烟草ヲ喫ムヲ禁ズルコト。

きん-おう (名) 【金甌】 黃金ニテ造リタル瓶。一國ガ、外國ノ侵略ヲ受ケタルコトナク、堅固ニシテ完全ナルヲ、金甌無缺ト云フ。南史、朱异傳「武帝獨言、我國家、猶若二金甌無二一傷缺一」

きん-おく (名) 【金屋】 美麗ニ造レル家。美人ヲ養フヲ、金屋之寵ト云フ。漢武故事「若得二阿嬌一作レ婦、當下作二金屋一貯上レ之」 太平記、二十、勾當内侍事「金屋ノ内ニ粧ヲ閉、雞障ノ下ニ媚ヲ深クシテ」

きん-か (名) 【禁河】 トメカハ。西宮記、十七「禁河、埴河、葛野河、以上、夏供レ鮎」

ぎん-が (名) 【銀河】 アマノガハ。銀漢。白帖「天河謂二之銀漢一、亦曰二銀河一」 李白、望二廬山瀑布水一詩「飛流直下三千尺、疑是銀河落二九天一」 江總詩「織女今夕渡二銀河一」 運步色葉集「銀河」

ぎん-が (名) 【吟哦】 詩歌ヲウタフコト。白居易詩「醉臥獨吟哦」

きん-か-あたま (名) 【禿頭】 〔きんかハ、金皮ノ略ナリト云フ〕 はげあたまニ同ジ。又、きんかつぶり。ヤククヮンアタマ。其禿ゲ殘リタル髮ニ用キル元結ヲ、きんか元結ト云ヒキ。室町日記、十三ニ、織田信長ガ、明智光秀ヲ打擲スル時、きんかあたまト罵レルコトアリ。見聞集(慶長)四「頭ニ毛ノナキヲバ、年寄ノきんかつぶり、蠅すべり、ナドト、あだ名ヲ云ヒテ、若キ人タチ笑フ」 近世事物考(弘化、溫知叢書、十二)「元結、云云、其中ニ、別キテ細キヲ、きんか元結ト云ヘリ、是レハ、はげあたまノ老人ノ、つくもナル髮ヲ束ヌル元結ナリ、きんかハ、金皮ノ略語ニテ、老人頭上、はげ光リカガヤケルヲ、金色ノ如シト譬ヘシナリ、延寶四年ノ類船集ト云フ本ニ、ウルハシキ黑髮ニ油ヒキタル、憎カラズ、きんかあたまノ剃リタテ、夜光ノ玉カトモ疑ヘリ、ナドトアリ」

〔きん-かい〕 (名) 【錦鞋】 錦、綾ニテ造レル履。內藏寮式「皇后錦鞋」 倭名抄、十二廿「錦鞋、此間音今開、以レ綵爲レ之、形如二皮履一、綵ハ綵綾綵也」

きん-かい (名) 【禁戒】 禁ジ、戒ムルコト。イマシメ。方丈記「必ズ禁戒ヲ守ルトシモ無ケレドモ、境界無ケレバ、何ニツケテカ破ラム」

きん-かい (名) 【金海】 陶器ノ名。きんばいノ條ヲ見ヨ。

きん-がい (名) 【絹垣錦蓋】 〔きぬがきノ音便、犬の子、いんのこ。透垣、すいがい〕 絹垣ノ(二)ニ同ジ。其條ヲ見ヨ。

きん-かう (名) 【均衡】 〔詩經、小雅、祈父之什、節南山篇「尹氏太師、維周之氐、秉二國之均一」 書經、太甲、上篇「惟嗣王、不レ惠二于阿衡一」衡ハ、秤ナリ〕 彼レト此レト、相均シキコト。ツリアヒ。

きん-かう (名) 【金坑】 黃金ヲ掘リ出ス坑。マブ。金山。舊唐書、德宗紀「金坑任二人折斷一、官不レ得レ禁」

きん-かう (名) 【近郊】 都邑ニ近キ田舍。マチハヅレ。漢書、賈耽傳「優詔許レ職二近郊一」

きん-がう (名) 【近鄉】 近在ニ同ジ。運步色葉集「近鄉」「近鄉近在」

ぎん-かう (名) 【銀行】 〔銀ハ、貨幣ノ意、接尾語ノかう(行)ノ條ヲ併セ見ヨ〕 專ラ、金錢ノ爲替、證券ノ割引、預金、貸附ナド、金融ノ機關トナリテ、營業スル商家。名物六帖、人品箋「金銀行一(揚升庵集、明ノ嘉靖年間ノ人、楊愼、升庵)」 慶應三年、香港刊、英華字典、Bank.「銀行、銀舖、錢舖、錢庄」

きん-かく (名) 【金閣】 黃金、又ハ、金箔ニテ裝飾シタル樓閣。美シキタカドノ。鮑照、舞鶴賦「舞二飛容于金閣一」 雍州府志、五、寺院、鹿苑寺「凡閣之內外、悉貼二金箔一、故世稱二金閣一」

きん-かく (名) 【金革】 〔金ハ、劍戟、革ハ、甲冑〕 (一)武器。武具。中庸、第十章「衽二金革一死而不レ厭、北方之强也、而强者居レ之」 漢官解詁「執金吾、與下執二金革一以禦中非常上也」 (二)轉ジテ、タタカヒ。戰爭。文選、長楊賦「使下海

内裏門、永保[illegible]之二、[illegible]

きん-がく（名）【勤學】學問ヲ勤ムルコト。〔[illegible]〕

きん-がく（名）【金額】金高ト云フニ同ジ。

きん-かくし（名）【金隱】廁ノ樋箱ノ前ニ立テタル板。

きん-が-せき（名）【金ガ石】鑛物ノ名。蛇含石。

きん-かた（名）【金方】資金ヲ出ス人。カネモト。金主。

きん-か-つぶり（名）【禿頭】きんかあたまヲ見ヨ。

きん-がは-どけい（名）【金側時計】懷中時計ノ側ノ、黄金製ナルモノ。金時計。銀製ナルヲ、銀側時計ト云フ、銀時計。

ぎん-がは-どけい（名）【銀側時計】前條ヲ見ヨ。

きん-がみ（名）【金紙】金彩シタル紙。銀彩シタルヲ、銀紙ト云フ。好色一代女〔[illegible]〕

ぎん-がみ（名）【銀紙】前條ヲ見ヨ。

きん-かん（名）【金簪】〔金かんざしノ略〕花かんざしニ、金紙ノ小片ヲ、多ク附ケタルモノ。

きん-かん（名）【金柑】ヒメタチバナ。小木ニシテ、多クノ實ヲ結ブ、蜜柑ニ似テ小サク、夏ノ末ニ白花ヲ開ク、實、冬、熟シテ、春ニ至ル、大キサ五分許ニシテ、正圓、黄色ナリ、皮ト共ニ、生ニテ食ヒ、又、煮テモ食フ。金橘 一種、實ノ形、長クシテ、棗ノ如キモノアリ、長金柑ト云フ。金棗〔[illegible]〕

きん-がん（名）【近眼】〔遠眼ニ對ス〕近眼ノ音讀。近視眼。

ぎん-かん（名）【銀漢】アマノガハ。銀河。〔[illegible]〕

ぎん-かん（名）【銀簪】〔銀かんざしノ略〕花かんざしノ、銀製ノモノ。

きん-がん-きゃう（名）【近眼鏡】近視眼ノ者ノ用ヰル眼鏡。玉ヲ凹ニ磨リ造ル。〔和漢三才圖會、二十六「近眼鏡、表微凹、裏微凸」〕

きん-かんばん（名）【金看板】（一）商家ナドノ看板ノ文字ヲ、金彩ニシタルモノ。廣ク、人人ノ目ニツクヤウニト、スルナリ。金牌（二）世ニ著ク標榜スル藝術ナドニ云フ語。

きんか-もとゆひ（名）きんかあたまノ條ヲ見ヨ。

きん-カラ-かは（名）【金唐革】薄キ革ニ、種種ノ文ヲ押シ出シ、金泥ニテ、印シタルモノ、往時、和蘭ヨリ渡レリ。今ハ、和製多シ。

きん-き（名）【近畿】畿内ニ近キ國國。〔[illegible]〕

きん-き（名）【錦旗】ニシキノミハタ。〔[illegible]〕

きん-き（名）【欣喜】ヨロコビ。〔[illegible]「欣喜ノ至リ」欣喜雀躍〕

きん-き（名）【禁忌】忌ミテ、禁ズルコト。[illegible]醫家ニ、病人ノ食物ナドニ云フ。禁物。

漢書、藝文志[illegible]

きん-ぎう-きゅう（名）【金牛宮】[illegible]（十二宮ノ條ヲ見ヨ。）

きん-き-し（名）【金龜子】コガネムシ。

きん-きせ（名）【金着】錺ノ細工ノ名。銅器ナドノ外面ニ、薄キ黄金ヲ着セ包ミタルモノ。銀ナルヲ、ぎんきせト云フ。〔金無垢、銀無垢ニ對ス〕

ぎん-きせ（名）【銀着】前條ヲ見ヨ。

きん-きふ（名）【緊急】（一）[illegible]コト。〔[illegible]〕（二）最モ急グコト。〔[illegible]〕

きん-きん（副）【近近】チカヂカニ。ホドナク。〔未來ニ云フ〕〔[illegible]〕

きん-きん（副）【僅僅】ワヅカニ。スコシバカリ。〔[illegible]〕

きん-ぎん（名）【金銀】（一）金ト、銀ト。〔[illegible]〕（二）通用ノ貨幣。〔[illegible]ヲ出シ、金銀ヲ大分儲ケ、仕合ヲ致サウト存ズル」〕

きん-ぎん-くゎ（名）【金銀花】忍冬ノ條ヲ見ヨ。

きん-きん-と（副）欣欣 喜ブ狀ニ云フ語。〔詩經、大雅、生民之什、鳧鷖篇「旨酒欣欣」孟子、[illegible]〕

きん-きゃう（名）【近況】近頃ノ樣子。〔[illegible]〕

きん-きゃう（名）【[illegible]】[illegible]

ぎん-きゃう（名）【[illegible]】[illegible]ヲ見ヨ。

きん-ぎょ（名）【金魚】[illegible]ク美シキ斑アル小魚ノ名。人家ニ畜ヒ[illegible]テ、尾小サシ、是レ、原種ノモノナリ、今、[illegible]ルヲ、琉金ト云フ、[illegible]、口小サク、尾長大ナリ、[illegible]トノ子ヲ、阿蘭陀獅子頭ト云フ、形色、優麗ニシテ、三尾、四尾アリ、七八年ノモノハ、長サ一尺五寸ニモ至ル、明治三十七八年頃、[illegible]ト云フ、[illegible]色アリ。以上四種ノモノヨリ變化セルモノ[illegible]

きん-きょく（名）【琴曲】箏ノ調ベノ一段。〔[illegible]〕

きん-ぎょく（名）【金玉】（一）金ト、玉ト。[illegible]「儒不貴金玉而忠信以爲寶」（二）稱美スベキ[illegible]

「傳侍郎、淸直一節、終始不ㇾ變、金玉君子也」榮花物語、十七、音樂「風ノ、植木ヲ吹ケバ、池ノ波、金玉ノ岸ヲ洗フ」

きんぎょく-たう（名）［金玉糖］菓子ノ名、砂糖トかんてんトヲ煉リ合セタルモノ。色、黃ニシテ光ル。

きん-ぎょたい（名）［金魚袋］魚袋ノ條ヲ見ヨ。

ぎん-ぎょたい（名）［銀魚袋］魚袋ノ條ヲ見ヨ。

きんぎょ-も（名）［金魚藻］〔金魚ノ卵ハ、スベテ此藻ニ生ミツケシム〕馬藻ノ一種。流水、或ハ、溝中ニ生ズ、葉ハ互生シテ房ノ如シ、又、細小ナル松ノ葉ノ如キモアリ。一名、フサモ。マツモ。聚藻

きん-きり（名）［睾切］きょせい（去勢）ニ同ジ。

きんきり-うし（名）［睾切牛］睾丸ヲ切リ取リタル牡牛、壯健トナル。犍　馬ナルヲきんきりうまト云フ、三歲ノ春ヨリ夏ニカケテ切取ル。荒馬モ、牝馬ノ如クニナル。去勢馬。騸　多識篇（林羅山）「犍、ヘノコナシウシ」騸、ヘノコナシウマ」海錄、十一「牆宕茶話、上ニ、騸馬ヲきんときうまトヨメリ」

きんきり-うま（名）［睾切馬］前條ヲ見ヨ。

きん-ぎれ（名）［錦切］錦ノキレハシ。

き-むく（名）［生無垢］生粹。純粹。生娘ナドノ、少シモ、世馴レヌニ云フ。

きん-く（名）［禁句］（一）連歌ナドニ、忌ミテ用キヌ語句。運步色葉集「禁句」（二）他ノ、忌ミ嫌フ語。人ノ心ニサハル言葉。寬政ノ川柳「禁句ダニ、禿、雪、コンコント云フ」（客ノ來ぬ來ぬニ云ヒカクヽ）（三）轉ジテ、快カラズ思フコト。「きんくニサハル」

キング（名）［王］〔英語、King.〕王。國王。

きん-くう（名）［謹空］人ニ贈ル書札ノ末尾ニ記ス語。又、敬空トモ記シ、左白、左素ナドトモ云ヒ、奧ヲ明ケオキテ、餘白トスルナリ、尊者ニ、紙尾ニ批セムヲ請フ心ナルガ、後ニハ、唯敬意ヲ表スル語トナル。通雅、十八、書札「唐人書末、言ニ謹空ニ」沈存中、補筆談「卑劾致ニ書尊者ニ云云、紙尾作ニ敬空字ハ、謂ト空ニ紙尾ハ以候ㇾ批反ㇳ耳一」萬葉集、五十二「天平元年十月七日、附ㇾ使進上」謹通ニ中衞高明閣下ハ謹空」乘燭談（寬政）五「傳敎ヨリ弘法ヘノ返書ニ、高野範閣梨、ワキニ謹空ト云フ字アリ、此本書、東寺ニアリ」

きん-くわ（名）［近火］近キ邊ヨリ發リタル火災。急火。韓非子、說林篇「遠水不ㇾ救ニ近火一也」

きん-くわ（名）［槿花］木槿ノ花。朝ニ開キテ、暮ニ落ツレバ、榮華ノハカナキ譬ヘトス。白樂天、放言詩「松樹千年終是朽、槿花一日自爲ㇾ榮」

きん-くわ（名）［金貨］黃金ニテ造レル貨幣。新貨ハ、形、圓ク、大小アリ、二十圓、十圓、五圓ノ三種トス、初ハ二圓、一圓ナルモアリキ。梁簡文帝、謝ㇾ勅ニ賜解講錢一啓「無ㇾ勞ニ磁石之火ハ金貨讖鐷」

ぎん-くわ（名）［銀貨］銀ニテ造レル貨幣。新貨ニ、五拾錢、二十錢、十錢、五錢ナドアリ、次第ニ大小アリ、初ハ一圓ナルモアリキ。漢書、食貨志「銀貨二品」

きん-くわい（名）［金塊］黃金ノカタマリ。

ぎん-くわい（名）［銀塊］銀ノカタマリ。

きん-くわう（名）［金鑛］鑛石ノ、金ヲ含メルモノ。孔武仲、舍ニ轎馬ニ而步詩「金礦鍛方熟」

ぎん-くわう（名）［銀鑛］鑛石ノ、銀ヲ含メルモノ。魏書、食貨志「長安驪山有ニ銀礦ハ二石得ㇾ銀七兩」（礦ハ、鑛ニ通ズ）

きんくわ-ぎょくでう（名）［金科玉條］〔金玉の科條ノ心ニテ、貴重ナル法律ノ意〕準據スベキ、貴重ナル記錄。揚雄、劇秦美新「懿律嘉量、金科玉條」

きん-くわく（名）［巾幗］〔說文「幗、婦人首飾」玉篇「覆ニ髮上一也」〕婦人ノ異稱。蓬窓日錄、六「諸葛孔明、以ニ巾幗ハ遺ニ司馬懿ハ巾幗、乃女子未ㇾ笄之冠、云云、蓋笑ㇳ其堅ㇾ壁不ㇾ出、如ㇳ閨女之藏匿ㇳ也、幗、音憒、古對切、今音國、非也」（松屋筆記、八十一、七十六條）

きんくわく-しゃりう（名）［巾幗者流］婦人ノ流儀。女流。

きんくわ-さん（名）［金華山］（一）一種ノ瀨戶燒陶器ノ名。美濃國、金華山ノ土ニテ造レルヨリ、名トス。（二）又、陸前國、本吉郡、志津川、入谷地方ノ產ノ生絲ノ稱。京都ノ機業家ニ用キラル。

きんくわ-ほんゐ（名）［金貨本位］金貨ヲ以テ、本位貨幣トスルコト。銀貨ヲ以テスルヲ、銀貨本位ト云フ。

ぎんくわ-ほんゐ（名）［銀貨本位］前條ヲ見ヨ。

きん-くわん（名）［金冠］黃金製ノカンムリ。金泥ニテ塗リ作レルカンムリ。宋史、天竺國傳「戴ニ金冠一」

きん-くわん（名）［金環］（一）銅製ノ環ニ、金ヲ着セタルモノ。古代ノ人、身ノ飾トシタリ。又、銀ヲ着セタルヲ、銀環ト云フ。各、大小、種種ナリ。詩經、邶風、靜女篇、傳「以ニ金環ニ退ㇾ之」（二）金ニテ作リタル指環。晉書、羊祜傳「年五歲、令ㇾ乳母取ㇾ所ㇾ弄金環ㇾ」

ぎん-くわん（名）［銀環］前條ノ（一）ヲ見ヨ。張憲、白鷴雀詩「十四銀環挂ニ氷索一」

きんくわん-しょく（名）［金環蝕］日蝕ノ條ヲ見ヨ。

きん-けい（名）［金鷄］〔天上ニ棲ム鷄ナリト云フ、淮南子、桃都山大樹「曰ニ桃都ハ有ニ天鷄ハ日出朗鳴、天下鷄皆鳴」祖庭事苑「天上金鷄鳴、則人間亦鳴」〕曉ニ鳴ク鷄。アケノトリ。太平記、十七、十六騎勢入ニ金崎ニ事「金鷄三タビ唱ヘテ、雪ヨリ白ム山ノ端ニ、橫雲漸ク引キワタリ」

きん-けい（名）［錦鷄］舶來ノ鳥、今、蕃殖ス。形、雉子ニ似テ、冠毛、及、頂頸ノ長毛、黃金色ニシテ、黑キ斑アリ、腹ハ朱色ニシテ、尾長シ、身、翅、尾、共ニ、紅、綠、黑、褐、等ノ色、相雜リテ、甚ダ文彩アリ。一名、アカキジ。ニシキドリ。禽經「腹有ニ采文一曰ニ錦雞一」注「狀如ニ鴙鴿ハ腐則五色如ニ孔雀羽一」桂海虞衡志「錦雞、又名ニ金雞ハ形如ニ小雉一」和爾雅、六「錦雞」

きんけい-のま-しこう（名）［錦鷄間祗候］〔錦鷄間ハ、禁中ノ室ノ名〕華族、又ハ、退職官吏ノ功勞アリシ者ナドニ賜ハル資格。勅任官待遇ナリ。

ぎむ-けういく（名）［義務敎育］〔父兄等ガ、義務トシテ、敎育ヲ受ケシムベキ意〕學齡兒童ノ受クベキ、普通敎育。

きん-げき（名）［釁隙］（一）スキマ。ヒ

マ。(二)人ト人トノ不和。ナカタガヒ。[illegible]

きん-けつ (名) [禁闕] 二字名、禁宮室ノ闕、在ニ門[illegible]道也」(二)禁門ニ同ジ。(三)轉ジテ、[illegible] [illegible]二[illegible]」

きん-けつ (名) [金穴] カネモチ。金滿家。[illegible]金穴ニ」

きん-けん (名) [勤儉] 事業ヲ勤メ勵ミ、費用ヲ倹約スルコト。[illegible]

きん-けん (名) [金券] (一)金貨ト引キ換ヘラルル紙幣。金札。(二)黄金ノ札ニ書キツケタルモノ。[illegible]大唐又[illegible]

きん-けん (名) [金權] 金力ノ、萬能ナルコト。

きん-けん (名) [金言] 金ノ如キ言葉。[illegible]

きん-げん (名) [謹嚴] 謹ミ深クシテ、嚴カナルコト。[illegible]

きん-げん (句) [謹言] 謹ミテ言フ。畏ミ申ス。[illegible]

きん-こ (名) [緊鼓ノ音便ニテモアルカ] 鼓ノ繭ノ、小サクシテ、中ノ、括レタルモノ。

きん-こ (名) [金庫] [illegible]

[illegible]ニ似テ、外ニ刺ナクシテ、三條ノ線アリテ連ル、腸ハ、線ノ如ク、腹中ニ滿チ、黄金色ナリ、腸ト共ニ煮テ食フ、味、美ナリ、多クハ、煎デテ乾シ固メテ、四方ニ出ス。光参

きん-こ (名) [金庫] (一)カネグラ。金藏。(二)鐵ニテ作レル匣。一種ノ裝置アル錠ヲ施ス、盗難ニカカラズ、火ノ中ニテ焼カズ、金銀、財寶、大切ナル記録ナド、納レオク、大小、種種ナリ。(三)大藏大臣ノ管理ニ屬シ、國庫ニテ保管シ、出納スベキ現金ヲ取扱フ所。現時ノ制度ニテハ、日本銀行ニ取扱ハシメラル。

きん-こ (名) [金鼓] (一)鉦ト、陣太鼓ト。[illegible](二)金鼓ノ條ヲ見ヨ。

きん-こ (名) [近古] チカムカシ。(上古、中古ニ對ス)[illegible]

きん-こ (名) [禁錮] (一)刑ノ名。期限ヲ定メテ、一室ノ中ニ押シ籠メオキテ、他出セシメザルモノ。[illegible]太平記、十一、金剛山[illegible](二)今、刑ノ、輕重、年限アリテ、刑務所内ニ拘置シオクモノ。

きん-ご (名) [金吾] [支那ノ官名、執金吾ノ上略] [illegible] 衛門督ノ唐名。[illegible]

きん-こう (名) [金工] カナダクミ。金屬

ノ器ヲ作リ、彫刻スルナドヲ業トスル者。[illegible]子之六工、云云、土工、金工、石工、云云」

きん-こう (名) [勤功] 勤ノ功。[illegible]日ノ上ノ骨折。

きん-こう (名) [謹厚] [illegible]ニシテ、溫厚ナルコト。コクメイ。[illegible]

きん-こく (名) [金穀] 金錢ト、穀物ト。[illegible]

きん-ごく (名) [近國] 近國ニ對ス」近キ邊ノ州郡。[illegible]

きん-ごく (名) [禁獄] 獄中ニ、拘禁メ置クコト。[illegible]

きん-こざね (名) [金小札] 鎧ノ小札ヲ、金彩ニシタルモノ。又、鎧ノ小札ヲ、金ニテ造リタルモノ。[illegible]ノ小實ノ鎧、星胄ニ鍬形打タルヲ、猪首ニ着ナシ」

きん-こじ-の-かんむり (名) 金巾子冠ノ條ヲ見ヨ。

きん-こつ (名) [筋骨] [illegible]

きん-こん (名) [禁闥] [闥ハ、こきみナリ] 禁中ノ内。御所ノ奥御殿。

きん-こん (名) [illegible]

きん-こん-しき (名) 金婚式 [illegible]

ヨ。

きん-こん-しき (名) [金婚式] [illegible] (golden wedding) ノ直譯、金婚式ハ、(golden wedding) [illegible]ニ揃ヒテ、二十五年ニナリタル時ニ行フ祝賀ノ式。五十年ニナリタル時行フヲ、金婚式ト云フ。共ニ、西洋[illegible]

きん-さ (名) [欽差] [欽命差遣ノ義、欽命ノ[illegible]] [illegible]

きん-さ (名) [金砂] [illegible] 金製ノかんざし。白居易、長恨歌「[illegible]」[illegible]

きん-ざ (名) [金座] [illegible] 徳川時代、政府ニテ、金ノ貨幣ヲ造ルノ役所。銀貨ヲ作ル役所ヲ、銀座ト云フ。慶長ノ初年、後藤庄三郎光次ニ命ゼラレテ金座ヲ設ケ、大判、小判、其他ノ金貨ヲ作リ、光次ノ二字ノ極印ヲ打ツ、同時ニ、大黒常是ニ命ジテ、銀座ヲ建テ、初ハ挺銀、銀玉ヲ作リ、常是ノ極印ヲ打ツ、以後、時代變遷ノ[illegible]ニ[illegible]金貨ハ光次、銀貨ハ常是ノ極印アリ。[illegible]云、銀座之事、云云」

きん-ざ (名) [銀座] [illegible]ヨ」銀製ノかんざし。[illegible]

きん-ざ (名) [illegible]

きん-ざい (名) [近在] 近キ邊ノ在所。[illegible]

きん-さう (名) 【金創、金瘡】 「金ハ、刃ナリ」 キリキズ。カタナキズ。 宋書、武帝紀「時寄北征、以虎魄治金創、上大悦、命擣碎、分付諸將」 六韜、龍韜、王翼篇「方士三人、主百藥、以治金瘡」 下學集、上、支體門「金瘡」

きん-ざう (名) 【金藏】 かねぐら(金藏)ニ同ジ。

きん-さう-ぼん (名) 【巾箱本】 〔巾箱ハ、絹貼ノ箱、南史、齊衡陽王鈞傳「鈞、常手自細書寫五經、部爲一卷、置于巾箱中、以備遺忘」〕 書籍ノ、小形ナルモノ。袖珍本。

きん-さく (名) 【近作】 近頃作リタル詩文、著書。 宋史、周必大傳「其以近作進上」

きん-さく (名) 【金策】 金子調達ノ才覺。

きん-さつ (名) 【金札】 政府ヨリ發行シテ、貨幣ニ代ヘテ通用セシムル、紙ノ券。札。紙幣。 諸藩ニテ通用セシメシ銀札ト云フモ、同ジ。又、錢札モアリキ。 享保集成絲綸錄、二十五、寳永二酉年八月「領内ニ而、金銀札遣仕候分、云云」

きん-さつ (名) 【禁札】 禁制ノ制札。

ぎん-さつ (名) 【銀札】 前前條ヲ見ヨ。

きん-ざん (名) 【金山】 黄金ヲ掘出ス鑛山。銀ナルヲ、銀山ト云フ。 南史、林邑國傳「其國有金山、石皆赤色、其中生金」

ぎん-ざん (名) 【銀山】 前條ヲ見ヨ。 神異經「西南有銀山焉」 當代記、慶長十二年五月二日「大久保石見守、佐渡エ下、銀山仕置可仕之由、依仰」

きんざんじ-ミソ (名) 【金山寺味噌】 〔支那、姑蘇ノ金山寺ノ製ヲ傳フ〕 ひしほノ一種。大豆ヲ炒リテ、碾キテ、大麥ヲ

精ゲテ水ニ浸シタルニ雜ゼ、蒸シテ麴トシテ、茄子、白瓜ナド剉ミテ入レ、鹽ヲ加ヘ、漬ケテ成ル。紀伊國、和歌山ノ金山寺ヨリ製出スルヲ、紀州金山寺ト云ヒテ、上品ナリトス。 【金山寺醬豉】 寄園寄所寄「天下第一者、金山寺醬豉」 長崎歲時記、正月四日「古ヘヨリ、延命寺ノ僧徒、金山寺味噌ト云フヲ曲物ニツメテ、檀家ヘ配ル、其製、唐土ノ金山寺ヨリ傳ヘタル由、家家、コレヲ得テ珍味トス」

きん-ザラサ (名) 【金更紗】 さらさノ條ヲ見ヨ。

きん-し (名) 【金絲】 薄紙ニ金箔ヲオキテ、細ソク切リタルモノ。金襴ニ織リ込ミ、或ハ紙捻トシテ、飾リトス。金もうる。其銀ナルヲ銀絲ト云フ。銀もうる。 張祜詩「金絲蹙霧紅衫薄」

きん-し (名) 【金鵄】 金色ノ鵄。神武天皇ノ弓ノ御弭ニ止マリシモノ。 神武卽位前紀「金色靈鵄飛來、止于皇弓弭、其鵄光曄煜、狀如流電、由是長髓彦軍卒、皆迷眩、不復力戰」 金鵄勳章、コレヨリ起ル、其條ヲ見ヨ。

きん-し (名) 【禁止】 差止ムルコト。禁制。 禮記、月令篇「禁止伐木」 史記、始皇本紀「諸侯更相誅伐、周天子不能禁止」

きん-し (名) 【勤仕】 役ヲ勤ムルコト。仕ニアルコト。 庭訓往來、三月「被仰下之條條、無怠慢被勤仕者、可被忠賞之旨、云云」

きん-じ (名) 【近似】 ヨク似タルコト。ニヨリ。 金史、徒單鎰傳「凡天下之事、叢來者非一端、形似者非一體、法制不能盡、隱于近似、乃生異論」

きん-じ (名) 【近侍】 主君ノ側近ク、侍リ仕フルコト。又、其人。オソバ。近習。近臣。 漢書、王嘉傳「近侍帷幄」 金史、完顔仲德傳「近侍左右、久困睢陽」 太平記、四、笠置囚人死

罪流刑事「先帝、帥宮ト申奉リシ比ヨリ、近侍シテ」

ぎん-し (名) 【銀絲】 きんし(金絲)ノ條ヲ見ヨ。

きん-しう (名) 【錦繡】 〔急就篇「錦繡」注、「錦、織綵爲文也、繡、刺綵爲文也」〕 にしきト、ぬひものト。(事物ノ佳麗ナルニ譬フ) 戰國策、趙策「錦繡千純」 李白、送從弟令問序「兄心肝五藏、皆錦繡耶、不然、何開口成文、揮翰霧散」 蘇軾詩「平生錦繡腸、早歲藜莧腰」

きん-じう (名) 【禽獸】 〔爾雅、釋鳥篇「二足而羽謂之禽、四足而毛謂之獸」〕 トリ、ケダモノ。 書經、旅獒篇「珍禽奇獸、不育于國」 禮記、曲禮、上篇「猩猩能言、不離禽獸」 菅家集、二十、魚蟲禽獸「禽獸魚蟲、其彙且千」

きんし-えん (名) 【金絲烟】 キザミタバコ。

きんし-がん (名) 【近視眼】 チカメ。(遠視眼ニ對ス)

きん-しき (名) 【禁色】 衣服ノ染色ノ、禁制セラレタルモノ。袍ノ色ハ、位階ニ因リテ當色アリ、當色以外ノ色ヲ着スルヲ禁ゼラル。(大寳令)又、青色、(天皇ノ御袍色)赤色、(太上天皇ノ御袍)黄丹色、支子色、(皇太子以下、無品王ノ御袍)深紫色、(親王四品以上、一位ノ袍)深緋色、深蘇芳色ノ七種ヲ、一般ニ着スルコトヲ禁ゼラル、又、有文ノ織物ノ着用ヲ禁ゼラル。禁色ヲ着スルヲ聽サルルニハ、宣下アルナリ、聽サレタル人ヲ、禁色の人ト云フ。婦人ノ、有文ノ織物ヲ聽サルルヲ、色ゆるさるト云フ。 續紀、三十七、延曆二年正月戊寅「服色有限、不得僭差、云云、恣著禁色、既無貴賤之殊、亦虧等差之序」 西宮記、臨時、二「禁色雜袍事」

きんし-ぎよくえふ (名) 【金枝玉葉】 〔美麗ナル雲ヲ、美麗ナル草木ノ枝葉ニ譬ヘテ云フ語、皇族ニ申スハ、雲ノ上ニ榮エサセタマフノ意ナルベシ〕 皇族ノ御異稱。 古今注「黄帝與蚩尤戰於涿鹿野、常有五色雲氣、如金枝玉葉、止於帝上」 六帖「金枝玉葉、帝王之子孫也」

きんし-くんしやう (名) 【金鵄勳章】 陸海軍人ノ、武功拔群ナル者ニ賜ハル勳章。功一級ヨリ功七級マデアリ、面ニ、金鵄ノ象ヲ附セラル、明治二十三年二月ノ詔勅ニ、神武天皇ノ寇賊戡定ノ故事ヲ取リテ創設セラレタル旨、載セタマヘリ。金鵄ノ條ヲ見ヨ。

きんし-くわ (名) 【金絲花】 漆器ノ屈輪。つゐしゆ(堆朱)ノ條ヲ見ヨ。

きんし-さい (名) 【金絲菜】 フカノヒレ。

きんし-じやく (名) 【金絲雀】 カナリア。

きん-しつ (名) 【金漆】 (一)漆細工ノ名。金箔ヲ粉ニシテ、漆ニマゼテ塗リタルモノ。金蒔繪、梨子地ナドニ云フ。(二)金漆ノ條ヲ見ヨ。

きん-しつ (名) 【琴瑟】 琴ト、瑟ト。各條ヲ見ヨ。夫婦和合スルヲ、琴瑟相和スト云フハ、琴ト瑟トヲ彈キ合セテ、其聲、相應ズルガ如キ意ナリ。 詩經、小雅、鹿鳴之什、常棣篇「妻子好合、如鼓瑟琴、云云、宜爾室家、樂爾妻帑」 同、周南、關雎篇「窈窕淑女、琴瑟友之」 倭名抄、四十「琴瑟類」

きん-じつ (副) 【近日】 幾日モアラヌ内ニ。チカキコロニ。(未來ニ云フ) 運步色葉集「近日」 狂言記、鸚鵡女「近日、國ヘ下ル程ニ」

きんしふ（名）[近習] 人君ニ側近、希仕スルコト。又其人。[illegible]

きんしん（名）[illegible] 君側ノ近キ[illegible] 近キミ[illegible]

きんしん（名）[illegible] 近臣ノ側近ク侍ル者。[illegible]

きんしん（名）[謹愼]（一）畏ミ、謹ムコト。[illegible]

きんしんしうこう（名）[illegible] 詩文ノオニ富ミ、吐露スル文字ノ、錦繡ノ如キ[illegible]

きんしんしうちやう（名）[illegible] 思想富ニシテ、詩文ニ巧ミナルヲ、錦繡ノ[illegible]

きんしや（名）[金砂] 黄金ノ粉末。[illegible]

きんしや（名）[金紗]（一）紗ニ、金糸ヲ織リコミタルモノ。[illegible] 紗ニテ、故ハ金紗也」（二）[illegible]

[illegible]

きんしやう（名）[金將] 將棋ノ駒ノ名。其進[illegible]得ルコト、王將ニ同ジクシテ、唯、後ノ二隅ヘ退ク能ハザルモノ。略シテ、きん。

きんじやう（名）[今上] イマノウヘ。當今。現在、當代ノ天子ヲ稱シ奉ル[illegible] [illegible]「今上天皇」「今上皇帝」

きんじやう（名）[謹[illegible]] 謹ミテ、奉ルコト。[illegible] 祈ラレ、カッパト尊ブ」同、班女「此詩神ニ祈請セバ、ナドカ驗ノナカルベキ、謹上再拜ニ[illegible]ノ當字）

きんじやう（名）[謹上] 謹ミテ上ル。（書狀ノ名宛ニ添フル敬語）平家物語、十、[illegible]

ぎんしやう（名）[銀將] 將棋ノ駒。四隅ト前トヘ、一格ノ進ムコトヲ得ルモノ。なりテハ、金將ト同一ニ進退ス。略シテ、ぎん。

きんしやうたうち（名）[illegible] 貴光氏記[illegible] 極メテ[illegible]堅固ナル城ト、湯ト[illegible]

きんしやうてつぺき（名）[金城鐵壁] 金城ニテ作リタル如キ、堅固ナル城。[illegible]

きんしやうにはなをそふ（句）[錦上添花] 麗ハシキ上ニモ、美ハシキヲ加フ。[illegible]「[illegible]錦上花」

きんしよ（名）[illegible] [illegible]

きんしゆ（名）[金主]（一）商業、工業、等ニ、元手ノ金錢ヲ出ス人。[illegible]（二）金ノ[illegible]

きんしゆ（名）[近習] 近侍ノ意ニ、習ノ字ヲ轉ジタルコト。[illegible] 用ナ[illegible] ノ有ル不ノ禁」注「近習、天子嬖幸者」（狎レ親シム者）[illegible] 侍スソバ[illegible] [illegible] 日六日（永祿七年八月）二參ルベシト、仰ケレバ」

きんしゆ（名）[illegible] [illegible]ノ（一）ニ同ジ。專ラ、大名ニ金ヲ貸ス者ニ云ヒキ。

きんしゆ（名）[illegible] 水銀ヲ燒キテ製セル料。色赤シ、[illegible] 故ニ名トス、又、[illegible]

きんしゆく（名）[緊縮] 膨脹シタルモノヲ、締メ縮ムルコト。「財政ヲ緊縮ス」

きんしゆばん（名）[近習番] [illegible]

きんしよ（名）[禁書] 德川時代、長崎、[illegible] ナリシヨリ、其宗門ノ事ヲ記シタル書、[illegible] ナリ。渡シ來レバ、長崎ニテ燒キ棄テ[illegible]

きんしよ（名）[illegible] [illegible]

きんしよう（名）[illegible] [illegible] 四十五、[illegible] [illegible]

きんじようぜ（名）[金鐘兒] すずむしノ[illegible]

ぎんしよく（名）[銀色] ぎんいろ（銀色）ニ同ジ。

きんしよく（名）[金色] きんいろ（金色）ニ同ジ。

きんしよくくわは（名）[illegible] 一向宗ノ一派。木邊派ニ同ジ。

きんす（名）[金子] 金ノ貨幣。[illegible] 銀ノ泛稱。[illegible] 代女（西鶴）一「金子二步二、身ヲ切賣リ」

きんず・ズル・ズレ・ゼ・ジ・ゼヨ（他動、下二）[禁]

トドム。イマシム。制ス。禁止ス。易經、繫辭、下傳「聚人曰財、理財正辭、禁民爲非、曰義」

ぎん-そ (名) 【銀子】 白銀ノ條ヲ見ヨ。

ぎん・ず・ズル・ズレ・ゼ・ジ・ゼヨ（他動、左變）【吟】 詩歌ヲウタフ。詠ズ。屈原、漁父辭「行吟澤畔」 保元物語、三、新院御經沈事「或金谷ニ花ヲ翫ビ、或南樓ノ月ニ吟じ」

きん-すなご (名) 【金沙子】 すなごノ條ヲ見ヨ。

ぎん-すなご (名) 【銀沙子】 すなごノ條ヲ見ヨ。

きむすめ (名) 【生娘】 少女。未ダ婚セザル女。處女 嫗山姥（正德、近松作）二「生娘、遊女、妾者」

きん-せい (名) 【近世】 チカキヨ。近頃ノ時代。近代。 荀子、非相篇「遠擧則病ν邇、近世則病ν傭」 史記、平原君傳「上採春秋、下觀近世」

きん-せい (名) 【金星】 太陽ヨリ第二ニ位スル行星ノ名。地球ヨリ小サシ、二百二十五日ニシテ、太陽ヲ一周ス。一名、太白。此星、日ノ出ノ前ニモ、日ノ入ノ後ニモ見エテ、他ノ星ヨリモ赤ク耀ク、故ニ、明星ノ名モアリ、其曉ナルヲ、明の明星ト云フ。古名、アカボシ。【啓明】 夕ナルヲ、宵の明星ト云フ。古名、ユフヅツ。【長庚】 詩經、小雅、小旻之什、大東篇「東有啓明」朱注「啓明、長庚、皆金星也」

きん-せい (名) 【均勢】 雙方ノ勢力ノ、相均シキコト。同一ナル勢力。

きん-せい (名) 【禁制】 行フベカラズト禁ムルコト。禁止ノ法度。禁斷。 莊子、說劍「一子之劍、何能禁制」 後漢書、朱祐傳「禁制士卒、不得虜掠」 類聚三代格、十九、延曆十七年十月四日、太政官符「禁制兩京畿內、夜祭歌儛事」

ぎん-せい (名) 【吟聲】 詩歌ヲ吟ズル聲。 溫庭筠詩「書邊臨溪暇、吟聲接鳥鎚」 白居易詩「謝玄暉沒吟聲罷」

きん-せい-ぎょく-しん (句) 【金聲玉振】 〔下ノ出典ヲ見ヨ〕 衆知ヲ收メテ、大成ス。全德ヲ成ス。多クノ小成ヲ集メテ、大成ス。 孟子、萬章、下篇「伯夷聖之清者也、伊尹聖之任者也、柳下惠聖之和者也、孔子聖之時者也、孔子之謂集大成、金聲而玉振之也」集註「金、鐘屬、聲、宣也、玉、磬也、振、收也」（八音合奏ノ時、初メニ鐘ヲ打チ聲シ、終リニ磬ヲ打チテ、其韻ヲ收メテ、樂ヲ終フル意ニテ、孔子ノ、三聖ノ事ヲ集メテ、一大聖ノ事ヲ爲セルヲ云フ） 碧巖集、第七十三則ニ、馬大師ガ難法問ヲ裁決シタル語ニ、出格ノ響アルヲ讚歎シテ、金聲玉振トアリ。

きん-せう (名) 【僅少】 ワヅカバカリナルコト。スコシ。「僅少ノ時間」僅少ノ資本」

ぎん-せう (名) 【吟嘯】 （一）詩歌ヲウタフコト。吟詠。 宋之問詩「吟嘯自安閒」 （二）世ヲ悲シミ慨キテ云フ聲。 後漢書、隗囂傳「前計抑絕、後策不從、所以吟嘯扼腕、垂涕登車」

ぎん-せかい (名) 【銀世界】 雪ノ降リタル野山ノ景色、又ハ、白梅ノ林ノ滿開シタル景色、等ヲ、譬ヘテ云フ語。 陳羽、開元寺凌虛閣對雪詩「眼觀銀色三千界、身到瑤臺十二層」

きん-せき (名) 【金石】 かねト、いしト。鑛物。 史記、始皇紀「羣臣相與、誦皇帝功德、刻于金石、以爲表經」 古詩、西門行「人壽非金石、年命安可期」

きんせき-がく (名) 【金石學】 （一）次次條ヲ見ヨ。（二）くゎうぶつがく（鑛物學）ニ同ジ。

きんせき-の-まじはり (句) 【金石交】 堅固ニシテ、易ハラザル交情。 漢書、韓信傳「自以爲、與漢王爲金石交」

きんせき-ぶん (名) 【金石文】 古キ鐘鼎、銅像、或ハ、古碑ナドニ、鑄附ケ、刻リツケテアル古字、古文。コレヲ研究シテ知ル學ヲ、金石學ト云フ。

きん-せん (名) 【金扇】 地紙一面ニ、金箔ヲオキタルアフギ。「金扇ノ馬印」

きん-せん (名) 【金錢】 （一）黃金ニテ鑄タル錢。銀ニテ鑄タルヲ、銀錢ト云ヒ、銅ナルヲ、銅錢ト云フ。 續紀、廿二、天平寶字四年三月「金錢、文曰開基勝寶、以一當銀錢之十」 宇津保物語、藏開、上「黃バミタル一カサネ（紙）ニ、こがねノぜに、一包ミ、ツツミ、白キ色紙ニ、白がねノぜに、一包ミ、ツツミ」 漢書、西域傳「銀錢十當金錢一」 顯宗紀、二年十月「稻、斛銀錢一文」 天武紀、下、十二年四月「必用銅錢、莫用銀錢」 （二）貨幣。ゼニ。カネ。 史記、吳王濞傳「節衣食之用、積金錢」 漢書、西域傳「諺云、雖有珠玉、不如金錢」

ぎん-せん (名) 【銀錢】 前條ノ（一）ヲ見ヨ。

きんせん-くゎ (名) 【金錢花】 〔花ノ形、色、金錢ノ如クナレバ云フカ〕 又、こんせんくゎ。菊科ノ草ノ名。家園ニ植ウ、葉ハ、細長クシテ尖ラズ、ははこぐさノ葉ニ似テ、大キクシテ、白ミアリ、初メ、地ニ就キテ叢生シ、春ノ初ニ莖ヲ出ス、高サ六七寸、枝ノ頭每ニ花ヲ開ク、單瓣ノ菊花ニ似テ、小サクシテ、正シク開カズ、常ニ盞子樣ヲナス、色ハ、紅黃、又ハ、淡黃ナリ。 倭名抄、二十、二十五「金錢花、金錢、古無歟」 名義抄、艸部「金錢花、コンセン」 白氏文集、四、牡丹芳「石竹金錢何細碎、芙蓉芍藥苦尋常」

きん-ぜん-と (副) 【欣然】 喜ブ狀ニ云フ語。欣欣然。 史記、周紀、姜嫄「見巨人跡、心欣然說、欲踐之」「欣然トシテ樂シム」

きん-そく (名) 【禁足】 アシドメ。外出ヲ禁ムルコト。（罰ニ云フ） 釋苑、宗規「當法王禁足之辰」 大江俊矩公私雜日記、文化九年十二月二日「公用之外、禁足被仰下候事」

きん-ぞく (名) 【金屬】 カネ。金、銀、銅、鐵、錫、等ノ總名。

きん-ぞく (名) 【勤續】 ツトメツヅキ。

きん-そん (名) 【近村】 近キ邊ノ村。（遠村ニ對ス） 岑參詩「黃鸝飛近村」

きん-だ (名) 【勤惰】 つとむるト、おこたるト。 宋史、太宗紀「察官吏勤惰以聞」

きん-たい (名) 【襟帶】 （一）えりト、おびト。 後漢書、蔡邕傳「母滯病三年、云云、未嘗解襟帶」 （二）襟ノ如ク圍ミ、帶ノ如ク繞ルコト。（山河ナドノ） 唐書、唐休璟傳「豐州、控河遏寇、號爲襟帶」 王勃、滕王閣序「襟三江而帶五湖」「山河襟帶ノ地」

きん-たい (名) 【近體】 現在ノ詩作ノ體裁ヲ、古詩、古體ニ對シテ云フ語。 滄浪詩話「有古詩、有近體、云云、近體則律詩也」 金史、趙秉文傳「小詩精絕、多以近體爲之」

きん-だい (名) 【近代】 過ギテ、程歷ヌ代。チカゴロ。近世。 戰國策、楚策「上比前世、云云、下比近代、云云」 晉書、何劭傳「陳說近代事、若指諸掌」 沙石集、三、下、第五條「近代、聖教モ知ラズ、云云、德行モ辨ヘヌ、愚俗、愚僧ノ中ニ」

きん-だい (名) 【禁內】 きんちゅう（禁中）ニ同ジ。 後漢書、趙典傳「徵拜議郞、侍講禁內」

ぎん-だい (名) 【銀臺】 錺細工ニ、銀ヲ心トスルコト。「銀臺金メッキ」

きん-たう (名) 【金當】 借リタル金錢、買ヒタル物ノ價、貸シ與ヘラレタル品ナ

ド、即時ニ返シ、又、濁フコト。[illegible]、後編、きんたう「堅當ト書クナルベシ、物ノ價ナドヲ、即時ニ返スコトニ云ヘリ」花暦八笑人(文政、瀧亭鯉丈)[illegible]、上[illegible]、云云、私ヘ御返事カネ、云云、コレハ御きんたうデゴザリマス」

きんたう (名) [金湯] きんぎやうたうち(金城湯池)ノ略、其條ヲ見ヨ。[illegible]

きんだか (名) [金高] カネダカ。金錢ヲ合セ計リタル高。金額。

ぎんだし (名) [五味出ノ、ごんだし、ぎんだしト轉ジタル語ナラム、顎、あお。] 五味子ノ蔓ノ皮ヲ浸シテ、粘ヲ出シタル水。婦人ノ髮ヲ[illegible]ニ用ヰル。[illegible]女ノ髮ニ「ぎんだし」

きんだち (名) [公達] [君等ノ音便] (一) 諸王。オホキミ。[illegible] (二) 攝家、淸華等、貴族ノ子息ノ稱。平家物語、[illegible]帝御即位事「小松殿ノ公達ハ、去年、大臣失セタマヒシ[illegible]」[illegible]

きんだちけ (名) [公達家] 淸華ノ家ノ異名。(前條、攻、淸華ノ條、併セ見ルベシ)

きんたま (名) [金玉] [生の玉ノ上略音便ナラム、(いきほふ、きほふ。田面、たんぼ)] 睾丸ヲ、外腎ト云フ、精液ヲ分泌スルモノナリ」ヘノコ。陰囊ノ中ノ、二箇ノ肉核。[illegible](天七)ニ「[illegible]、シラタマイタミ」トアルたまハ、睾丸ナルカ。[illegible]

ニ攙ミ合フテ、へのこヲ絡メラレテ、[illegible]スルヲ見テ[illegible]、其[illegible]ヲ、知ラネドモ、きんヲシムルハ、いちメイワク」俳諧觿(寛永、貞德)三、玉ノ字、銀玉、[illegible]ノ玉、似物下也[illegible]、きん、俗ニ、陰囊ヲきんト云フ」同「きんたま、睾丸也」

ぎんだま (名) [銀玉] 小玉銀ニ同ジ。

きんだみ (名) [金彩] [たむ(彩)ノ條ヲ見ヨ] 金泥ニテ彩ミタルモノ。銀泥ナルヲ、ぎんだみト云フ。

ぎんだみ (名) [銀彩] 前條ヲ見ヨ。

きんたん (名) [釁端] スキマノイトグチ。爭ヒノハジメ。春秋胡傳「楚子不假道于宋、以啓[illegible]之」

きんたん (名) [金丹] 藥ノ異名。道家ノ語。抱朴子[illegible]「[illegible]、黄金入火、百鍊不銷、埋之、畢天不朽、[illegible]」

きんだん (名) [金談] 金錢ニツキテノ談合。

きんだん (名) [禁斷] 禁制ニ同ジ。三國志、魏志、太祖紀[illegible] 平中[illegible]年正月十四日[illegible]

きんたらう (名) [金太郎] きんときノ條ヲ見ヨ。

きんぢ (名) [金地] 帛、紙ナドノ下地ノ、金色ナルモノ、上ニ、繪ヲカキナドスルヨリ云フ。[illegible]

きんぢ (代) [君] [君貴ノ略轉、(吾君、あぎ、かみさす、かざす) 汝貴、なんぢ)] 對稱ノ代名詞、敬ヒ云フ。キミ。キミタチ。[illegible]「[illegible]」

[illegible]ヨシヨシ、我レハ出デナム、きんぢニ任ストテ、立出デヌレバ」大鏡、序「きんぢガ姓ハ何ゾ、ト仰セラレシカバ」

きんぢさん (名) [禁治產] [財產ヲ治むるコトヲ禁ず] 心神喪失ノ常況ニアル者ヲ、親族ノ請求ニ因リテ、裁判所ニテ、財產管理ノ能力ナキ者トシテ、後見ヲ付スルコト。民法、第七條「心神喪失ノ常況ニ在ル者ニ付テハ裁判所ハ、云云、禁治產ノ宣告ヲ為スコトヲ得」

きんちゃ (名) [金茶] [巾着ノ下略、(金錢ヲ入レ置ク、隱語ナリ)] 遊里ニテ、客ノ異名。[illegible]人仲間ナドニテモ云フ) 多ク金ヲ費スヨリ轉ジテ、痴呆ものノ意トス。[illegible]

きんちゃう (名) [金打] [金打ヲ音讀シタル語、かねうちノ條ヲ見ヨ] カネウチ。武士ノ、誓ヲ渝ヘヌ證ニ行フ事。大小ノ刀ノ刃ヲ打チ合セテ、音ヲ立ツ、後ニハ、小柄ノ刃ニテ、刀ノ刃ヲ叩キタリ。女子ハ、鏡ヲ打合セテシタリ。[illegible]

きんちゃう (名) [謹聽] 謹ミテ、聽クコト。近年、演說ヲ聞ク時ナドニ云フ語ニテ、贊意ヲ表スル聲ナリ。敬聽。[illegible]

きんちゃう (名) [緊張] ハゲシク、張ルコト。勢フコト。「精神緊張ス、緊張シテ聞ク」

きんちゃく (名) [巾着] [illegible]ニ、荷包ヲ、巾着ト書ケリ、手巾ニ着くるヨリ云ヘルニヤ、燧袋ノ遺製ナリト云ヘリ」] 布、帛、革ナドニテ、口ヲ緒ニテ括ルヤウニ製セル、小サキ袋、金錢、藥ナド納レテ、行クニ帶ビ攜フ。[illegible]

きんちゃく (名) [近着] 最近ニ、到着シタルコト。

きんちゃくあみ (名) [巾着網] [illegible] 巾着ノ如クナレバ名ヅク。[illegible]、魚群ヲ圍ミ、[illegible] 裝置ニテ締メククリ、漁船ニ繰リコミテ捕ル。[illegible] 年前、米國ニテ考案シタルモノナリ。

きんちゃくきり (名) [巾着切] 往來ノ人ノ巾着、懷中物ナドヲ切リ取ル小盜人。ヌキ。スリ。チボ。攫徒。新長者教(寛文)[illegible]「巾着切モ集マレバ、今時ノ人、[illegible]」

きんちゃくなすび (名) [巾着茄子] なすび(茄子)ノ條ヲ見ヨ。

きんちゅう (名) [禁中] [禁門ノ語原ヲ見ヨ] 禁門ノ中。禁內。禁裏。宮居。[illegible]

きんちゅう (名) [金蟲] 甲蟲、大キサ三

分許、圓ク扁クシテ、六足短ク、金色ニシテ、中央ニ方ナル黑斑アリ。紅娘

きん-ちょ (名) 近著 近頃ノ著述。

きん-ちょく (名) 謹敕 〔說文「敕、誡也」〕身ヲ謹ミテ振舞フコト。後漢書、王符傳「謹敕之人、身不レ蹈レ非」

きむづかし キ・シキ・シケレ・シク・シク(形、二) 氣難 氣ニ入リ難シ。傾城買二筋道(寬政、梅暮里谷峨)「きむづかしいブラブラ病」

きん-つば (名) 金鍔 (一)鍍金シタル鍔。盛衰記、三十三、康定關東下向事「金鐔太刀ニ、目九ツ指シタル征矢一腰、取副ヘテ」 浮世物語(承應)「たたき鞘ノ中わきざし、金鍔ヲキラメカシ」 (二)次條ノ略。

きんつば-やき (名) 金鍔燒 〔圓扁ニシテ黃ナルコト、金鍔ノ如シ〕 うどんこヲ、固ク水ニ捏ネテ、中ニ餡ヲ包ミ、圓ク扁クシテ、鐵板ノ上ニテ、油ヲ延キテ燒キタルモノ。浮世風呂(文化、三馬)三編、下「白玉ト金鍔燒ヲ、一ツ竹ノ皮ニ包ンダ」

ぎん-つぶし (名) 銀潰 〔路銀ニ盡キタレバトテ、路行ク旅人ニ、脇差ノ銀めっきノ金具ヲハヅシ、銀無垢ナリ、潰直ニテ買ヒタマハレトテ、賣リツケタルヨリノ稱ト云フ(海錄、十二)〕 街道中ノ詐欺ノ賊。ごまのはひノ類。

きん-づまり (名) 金詰 金融ノ、逼迫シタルコト。

きん-てい (名) 禁廷 禁庭 〔禁門ノ語原ヲ見ヨ〕 おほうち(大內)ニ同ジ。禁裏。皇居。帝ヲ、きんてい樣ト云フ。キンリサマ。孔帖、韋漂父霧在二禁庭一 著聞集、四、文學、治承二年六月十七日「作文、云云、題、云云、禁庭催二詩遊一

きん-てい (名) 欽定 欽命ノ撰定。勅撰。「欽定憲法」 欽定古今圖書集成」

きん-でい (名) 金泥 泥ノ條ヲ見ヨ。

ぎん-でい (名) 銀泥 泥ノ條ヲ見ヨ。

きんてい-さま (名) 禁廷樣 禁廷ノ條ヲ見ヨ。キンリサマ。

きん-てき (名) 金的 的ノ、極メテ小サキモノ。元ト射場的トテ、草鹿、丸ナド射タル後ニ、射タルモノナリトゾ、後ニハ、唯、的ニ金紙ヲ貼リテ、射中テタル者、額ニ附ケテ、神社ナドニ奉ルモノトス。(後松日記、一)

きん-てん (名) 金天 〔陰陽家ノ說ニ、金ハ秋ナリト〕 秋ノソラ。杜甫詩「爽氣金天豁、淸談玉露繁」

きん-てん (名) 金鈿 金ニテ造リタルカンザシ。金釵。金簪。劉孝儀文「元妻長髮、無レ藉二于金鈿一」

きん-てん (名) 均霑 〔英語、Participation.ノ譯語〕 他ト同一ノ利益ヲ受クルコト。列國條約ノ國際間ノ利益ナドニ云フ。

きん-でん (名) 金殿 金ニテ裝飾シタル、美シキ御殿。江總詩「羽觴蕩二漾石一、流泉濯二金殿一」

きんでん-ぎょくろう (名) 金殿玉樓 金玉ニテ裝飾シタル、美麗ナル宮殿。李白詩「玉樓巢二翡翠一、金殿鎖二鴛鴦一」 太平記、四、備後三郎高德事「昔ノ玉樓、金殿ニ引キカヘテ、蔓キ節茂キ竹椽」

きん-ど (名) 襟度 胸襟ノ度量。ムネノヒロサ。宋史、錢若水傳「推レ誠待レ物、襟度豁如也」

きん-とう (名) 近東 極東ノ條ヲ見ヨ。

きん-とう (名) 均等 ヒトシキコト、釣合ヒノ、平等ナルコト。北史、周宣帝元后紀「帝置二四后一、禮數均二等」「機會均等」

きん-とうぐゎ (名) 金冬瓜 かぼちゃノ類。實ノ形、長クシテ、底廣ク、色甚ダ丹赤ナリ、味、たうなすニ似テ、劣ル。

きん-とき (名) 金時 〔源賴光ノ四天王ノ一、坂田金時、幼時ニモ勇力アリ、相摸國、足柄山ニテ、山姥ニ養ハレ、熊ト遊ビシト云フ童話アリ、金太郎ト云フハ、幼名トシテ云フナルベシ〕 玩具ノ人形。其象、裸體ニシテ、肥大ナル小童ノ、肌色紅ナルモノ。鉞ヲ肩ゲテ、熊ニ伴フ、怪力アル者トス。又、金太郎。俳諧溫故集(正德)遊女歲旦「盃ヤ、金時ラシキ、初笑」 (醉ヒテ、顏ノ紅ニナレルヲ云フ)

きんとき-あづき (名) 金時赤豆 〔赤ク肥大ナルコト、金時ノ如シト云フ意〕 あづきノ一種。粒ノ、大ナルモノ。

きんとき-まめ (名) 金時豆 きんときあづきヲ、砂糖ニテ煮タルモノ。

きん-どけい (名) 金時計 きんがはどけいニ同ジ。

ぎん-どけい (名) 銀時計 ぎんがはどけいヲ見ヨ。

きん-とん (名) 金團 〔きっとん(橘飩)ノ轉、古ヘ粟ノ粉ニテ作リ、其ノ色黃ナル故ニ、金團ト記スト〕 (一)粟ノ粉ニテ、小サク團子ノ樣ニ作リ、其中ニ砂糖ヲ入レタルモノ。(貞丈雜記、六、飮食) (二)料理ノ一種。ながいも、或ハ、さつまいもヲ擂リテ、ごろごろニシ、砂糖ヲ加ヘタルヲ餡トナシ、煮タル栗、豆、又ハ、慈姑ヲ混ジタルモノ。(さつまいもヲ用キタルヲ、いもきんとんトモ云フ)

きん-ない (名) 禁內 禁中、禁裏、ニ同ジ。後漢書、趙典傳「徵拜二議郞一、侍二講禁內一」

きん-なう (名) 錦囊 (一)錦ニテ造リタル袋。南史、徐湛之傳「以二錦囊一、盛二武帝納衣一」 (二)詩ヲ入ルル囊。唐書、李賀傳「賀小奚奴、背二古錦囊一、遇レ所レ得レ詩、投二囊中一」

ぎん-ながし (名) 銀流 水銀ニとのこヲ雜ゼテ、銅、眞鍮ナドニ摺リツケテ、銀色ヲ出スコト。

ぎん-なすび (名) 銀茄子 なすび(茄子)ノ條ヲ見ヨ。

きん-なふ (名) 金納 租稅ヲ、金錢ニテ納ムルコト。(米納ニ對ス) 租金

ギン-ナン (名) 銀杏 銀杏ノ條ヲ見ヨ。

きん-なり (名) 睾鳴 古名、フグリツキ。馬ノ病ノ名。陰囊ノ兩股ノアタリノ鳴ルモノ。說文「䮍、馬腹下鳴」

きん-にく (名) 筋肉 すぢト、にくト。身體。「筋肉逞シキ人」筋肉ヲ勞ス」

きん-ねこ (名) 金猫 明和、安永、天明ノ頃、江戶、向兩國、囘向院前、大德院境內ニ居タル隱賣女。揚代、金一歩ナリ、銀二朱ナルヲ、銀猫ト云ヒキ。(奴師勞之、蜀山人) 明和ノ川柳「囘向院、バカリ涅槃ニ、猫ガ見エ」 文化ノ川柳「金猫ハ、鼠トラズノ、行クトコロ」 同「一ツ目デ、ハヤルハ金ト、銀ノ猫」

ぎん-ねこ (名) 銀猫 前條ヲ見ヨ。天保

ノ雨ヲ今西ニハ[illegible]ト云フ。[illegible]二作ル」

ぎんねずみ (名) [銀鼠] 銀色ノ、白ミガチナルモノ。

きんねん (名) [近年] 近ゴロ、過ギテ程遠カラヌ年。チカゴロ。[illegible]ト年、コトシノ前方良ウナッタ」

ぎむねんげん (名) [義務年限] 義務トシテ[illegible]年限。

きんのう (名) [勤王] 勤王ノ條ヲ見ヨ。

きんのうるし (名) [金漆] こんきつ(金漆)[illegible]

きんのあと (名) [琴ノ跡] きん(琴)ノ條ヲ見ヨ。

きんば (名) [牙] 牙ノ古語。

きんば (名) [金馬] 黄金ノ人馬[illegible]

きんば (名) [金波] 金殿門ノ[illegible]、黄[illegible]ヲ見ヨ。

きんぱ (名) [金波] 波ニ月光ノ映リテ、金色ニカガヤクモノ。[illegible]

ぎんぱ (名) [銀波] 波ニ、月ノ映リテ、白ク光ルモノ。[illegible]

きんぱい (名) [金杯・金盃] 黄金ニテ造リタル杯。銀ナルヲ、銀杯ト云フ。[illegible]

きんぱい (名) [金牌] (一)金看版。(二)黄金ニテ造リタル賞牌。銀ナルヲ、銀牌ト云フ。

キンパイ (名) [金海] [朝鮮ノ慶尚南道ニ[illegible]] [illegible]ノ一種ノ茶碗ノ名。

ぎんぱい (名) [銀杯] きんぱい(金杯)ノ條ヲ見ヨ。

ぎんぱい (名) [銀牌] きんぱい(金牌)ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。

きんぱう (名) [近傍] チカキアタリ。近邊。[illegible]

きんぱう (名) [禁方] 秘密ニシテ、人ニ傳ヘザル方劑。秘傳ノ藥劑ノ處方。[illegible]集「禁方、キンパウ、藥」

きんぱく (名) [金箔] 箔ノ條ヲ見ヨ。[illegible]

ぎんぱく (名) [銀箔] 箔ノ條ヲ見ヨ。

きんぱつ (名) [禁伐] 山林ナドノ木ヲ伐リ取ルヲ、禁ズルコト。

きんぱへ (名) [金鯥] 鯥ノ一種、[illegible]、背、共ニ、黄金色ヲナセルモノ、ヨク不潔物ニ群ル。

ぎんぱへ (名) [銀鯥] くそばへニ同ジ。はへ(鯥)ノ條ヲ見ヨ。

きんばん (名) [勤番] 代ル代ル、勤ニ趣クコト。(多ク、遠地ナルニ云フ)明月記、[illegible]院ニ云云、十二人六番結レ之」

ぎんばん (名) [銀盤] (一)銀製ノ皿。白居易、對ニ酒歌[illegible]銀盤[illegible](二)香道ノ具。[illegible]ノ、銀盤ナレヤ、庭ノ雪」

きんぱもん (名) [金明門] [illegible]

きんぱりつけ (名) [金張付] 壁、襖、屏風ナドニ、金箔ヲオキタル紙ヲ貼リツケ作レルモノ。[illegible]「王侯ノ室、金ブスマ、金はりつけトイウテ、唐紙、襖ヲ飾ル」

ぎんぴさん (名) [銀皮飯] 玄米、粟、金時[illegible]ナドノ[illegible]。[illegible]求スル、特異ナル榮養分トナルト云フ。

きんぴうぶ (名) [金肥] [illegible]

きんぴら (名) [金平] [金平節ノ語原ヲ見ヨ] (一)極メテ美麗ニシテ、強キ物[illegible]テ、大ニ行ハル、是ヨリ、世ニ強キ事ヲ、金平トイフ、手足一枚摺、繪雙紙ナドニ出タリ、今モ、男メケル女子ヲ、金平トイフ。[illegible]金平ト名付、マタ、牛蒡ノ煮ヤウニ、金平アリ」(二)金平娘ノ略。

きんぴらごばう (名) [金平牛蒡] [illegible]ヲ、[illegible]ニ云フカ、[illegible]ノ條ヲ見ヨ。

ヲ、纎ニ切リ、唐辛ト共ニ、味ヲツケテ、ごまの[illegible]

きんぴらじやうるり (名) [金平淨瑠璃] [illegible]

きんぴらたび (名) [金平足袋] 極メテ強キ[illegible]

きんぴらにんぎやう (名) [金平人形] [illegible]象レル人形。

きんぴらのり (名) [金平糊] [illegible]

きんぴらぶし (名) [金平節] [金平ハ、假設ノ人名、坂田金時ノ子ナリトス] 淨瑠璃ノ一派。明暦、寛文ノ頃、土佐節ノ[illegible]ニ、金平ト云フ[illegible]ニ丹波少椽正信ト云フ者、二尺ノ鐵棒[illegible]ヲ[illegible]フ外題ノモノ、數篇アリ、岡清兵衞ノ作、多ク[illegible]大イニ行ハレタリ。コレヨリ、強きさヲきんぴらト云ヒ、きんぴら娘、きんぴら[illegible]ンベイ」

きんぴらぼね (名) [金平骨] [illegible]

[illegible]ヲ一疋書カセテ」

きんぴら-ぼん (名) [金平本] (一)金平節ノ語本。(二)轉ジテ、武勇ナル人ヲ主人公トセル小說。

きんぴら-むすめ (名) [金平娘] 略シテ、きんぴら。荒荒シキ振舞スル少女。デンボフハダ。オテンバ。松の葉(元祿)二、長歌、春駒「コチノ叩ノよねタチハ、意氣モ張リモ强イハ、きんぴらダンベイ」六玉川(寶曆)十「金平ハ、女ニアリテ、オモシロキ」松屋筆記、七十、第七條「金平娘、云云、江戶ニテ、元氣娘ヲきんぴらト云フ」

きん-ぷ (名) [斤斧] をのト、てをのト。莊子、逍遙遊篇「不レ夭ニ斤斧一、物無ニ害者一」

きん-ぷう (名) [金風] (左傳、閔公二年、傳、疏「金、是、秋之寒氣」文選、張景陽、雜詩、注「西方爲レ秋而主レ金、故、秋風曰ニ金風一也」) アキカゼ。秋風。叢華紀麗「玉帝規レ時、金風届レ序」

きん-ぷくりん (名) [金覆輪] (一)器ニ、金ニテ、覆輪ヲカケタルモノ。銀ナルヲ、銀覆輪ト云フ。(二)鞍ニ云フハ、金、銅ニテ、山形ヨリ爪先マデ、覆輪ヲカケタルモノ。(後松日記、十七)又、黃覆輪トモ云フ。銀覆輪ナルヲ、白覆輪トモ云フ。盛衰記、二十七、墨俣川合戰事、行家「鹿毛ナル馬ニ、黃覆輪ノ鞍置キテ乘タリケル」相國寺堂供養記「眞下新左衞門尉源詮廣、云云、鞍、白覆輪」(後松日記、十八)

ぎん-ぷくりん (名) [銀覆輪] 前條ノ(一)ヲ見ヨ。

きん-ぶすま (名) [金襖] 金張附ノふすま きんやうぶ。

ぎん-ぶすま (名) [銀襖] 銀張附ノふすま ぎんやうぶ。

きん-ぷん (名) [均分] 平均ニ、分配スルコト。等分。管子、霸言篇「聖王卑レ禮、以下ニ天下之賢一而王レ之、均分以鈞ニ天下之衆一而臣レ之」

きん-ぷん (名) [金粉] 金ヲ、細末ニシタルモノ、沙子ナドニ用キル。銀ナルヲ、銀粉ト云フ。(粉ノ條ヲ見ヨ) 李白詩「輕如ニ松花落ニ金粉一」好色一代女(貞享、西鶴)一「金粉ヲ以テ、云云、笹ノ丸ノ定紋、書カセケル」陸暢、雲安公主出降雜詠、催レ妝詩「少妝ニ銀粉一飾ニ金鈿一」

ぎん-ぷん (名) [銀粉] 前條ヲ見ヨ。

きん-プラ (名) [金麩羅] てんぷらノ條ヲ見ヨ。

きん-ぺき-さん-すゐ (名) [金碧山水] 金泥、群靑ナドニテ彩色シタル、密畫ノ山水。多ク、北宗ノ畫ニアリ。

きん-べん (名) [勤勉] 能クツトムルコト。ホネヲルコト。國語、楚語「勤勉以勸レ之」

きん-ぺん (名) [近邊] チカキアタリ。近處。旁近。智度論「叢草生處、近邊必有ニ良藥一」運步色葉集「近邊」

ぎん-ぽう (名) 東海產ノ魚ノ名、一名、ウミドヂョウ。形、泥鰌ニ似テ扁ク、全身黃ニシテ、背ニ黑キ斑アリ、長サ六七寸、體、粘滑ナリ。下民ノ食トス、てんぷらトシテ美ナリ。

きん-ぽうげ (名) [金鳳花] 草ノ名。水邊ニ生ズ、莖、葉ニ毛多シ、春夏ノ交、一、二尺ノ花莖ヲ抽キ、黃花ヲ開ク、五瓣ナリ、實ハ集リ結ブ、金米糖ノ如シ。毛茛

キンマ (名) [蒟醬] (蠻語ナリト云フ、わたたび(蒟醬)ノ條ヲ見合スベシ) 安南地方ノ常綠木ノ名。蔓莖ニテ他物ニ攀ヅ、葉ハ圓クシテ尖リ、春末、白花ヲ開キ、秋初、實ヲ結ブ。倭訓栞、後編、きんま「蒟醬ノ蠻語也ト云ヘリ、交趾、東京ノ風俗ニ、きんまノ葉ニ、檳榔子ヲ刻ミタルヲ包ミテ食ス、客人來レバ、必ズ器ニ入レテ出ス」(きんまでノ條ヲ併セ見ヨ)

きん-まう-きう-び-の-きつね (名) [金毛九尾狐] きうびのきつねノ(二)ヲ見ヨ。

きん-まきゑ (名) [金蒔繪] きんまきつ(金漆)ノ類。まきゑ(蒔繪)ノ條ヲ見ヨ。本朝文粹、十四、諷誦文「金銀蒔繪匣一合」

ぎん-まきゑ (名) [銀蒔繪] まきゑ(蒔繪)ノ條ヲ見ヨ。

ぎん-まくは (名) [銀甜瓜] マダラウリ。まくはうりノ一種。形、大キク、皮ニ、銀色ノ斑アルモノ。和漢三才圖會(正德)九十、蓏果類「參州銀甜瓜、白色而有ニ銀筋一」

キンマ-で (名) [金馬手] (きんまハ蒟醬ニテ、手ハ樣ナリ、錦手、金襴手、同ジ、犀皮ノ條ヲ併セ見ヨ) 漆器ノ一種。安南地方ノ製、蒟醬ヲ盛ル用ノモノト云フ、金漆ニテ、精細ナル文樣アリ。本草綱目啓蒙、九、芳草「蒟醬、きんま、蠻名ナルベシ、嶺南ニテハ、此葉ニ、生ノ檳榔子ト蚌灰トヲ包ミテ、果ニ充テ食フ、コレヲ入ルル器ヲ、桂海虞衡志ニ、檳榔合ト云フ、茶家者流ニテ、きんまでノ香合トテ弄ブモノ是レナリ、一器、三室ノモノアリ、云云、外ニ細カナル描花アリ」

きん-まんか (名) [金滿家] カネモチ。モノモチ。金穴。

キン-マ-モン (名) [君眞物] 神。(沖繩)

ぎん-み (名) [吟味] (一)吟ジテ、アヂハフコト。(詩歌ナドヲ) 唐才子傳「賈島得レ句云、鳥宿池中樹、僧敲月下門、又、欲レ作ニ僧推一、煉レ之未レ定、吟味引レ手、作ニ推敲之勢一」李群玉龍山人惠レ茶詩「持レ甌默吟味、搖レ膝空咨嗟」(二)精シク擇ムコト。善ク調ブルコト。(物事ヲ) 精査。鑓權三重帷子(享保、近松作)上「大振ノ男ヲ、可愛娘ニ添ハセウカ、我身ガ連添フ心ニテ、吟味ニ吟味」

ぎん-み (名) [吟味] (前條ノ(二)ノ意ヨリ移レルカ、或ハ云フ、撿ノ字音ヲ訛レルナリト、(松屋筆記、百十七、第二條)撿、けみ、けんみ、ぎんみト轉ジタルカ、(毛見、けんみ。芒、のげ)閱すモ、撿すナリ) 罪狀ヲ糺スコト。糺問。詮議。推問。審問。御定書百箇條「公事吟味、銘銘宅ニテ仕候事」「町奉行所ノ吟味役」

ぎんみ-かた (名) [吟味方] 訴訟ヲ吟味スル役。

きん-みつ (名) [緊密] 隙閒ナク附クコト。夢溪筆談「赫連城、緊密如レ石、劚レ之皆火出」

きん-ミツダ (名) [金密陀] みつだそうヲ見ヨ。

ぎん-ミツダ (名) [銀密陀] みつだそうヲ見ヨ。

きん-みづひき (名) [金水引] みづひきノ條ヲ見ヨ。

きん-みづひき (名) [金水引] (花穗ノ形、金水引ニ似タリ) 草ノ名。春、宿根ヨリ叢生シ、枝ヲ分チ、葉、對生ス、夏、一、三尺ノ莖ヲ出シ、其末、一尺餘ハ穗ニシテ、大キサ三分許ノ五瓣ノ黃花ヲ綴リ開ク、子ハ山椒ノ粒ノ如クニシテ、毛アリ。龍芽草

ぎん-みづひき (名) [銀水引] みづひきノ條ヲ見ヨ。

ぎんみ-もの (名) [吟味物] 訴訟ニ、吟味スベキ事件。聞訟秘鑑「公事出入ト、吟味物ト

[illegible]可レ致事ニ候」

きん-みゃく (名) [金脈] 鑛山ノ、黄金ノ鑛脈。

きん-む (名) [勤務] ツトメ。勤仕。[illegible]子、主術[illegible]「群臣勤務而不レ怠」

きん-むく (名) [金無垢] 無垢ノ條ヲ見ヨ。

ぎん-むく (名) [銀無垢] 無垢ノ條ヲ見ヨ。

きん-め (名) [斤目] 斤ノ量ニテ、物ヲ量ル稱。拾芥抄、下、末「物充(斤目有二大小一)」

きん-め (名) [金目] 古キ金貨ノ、兩、歩、朱、等ノ量ノ名目。

ぎん-め (名) [銀目] 古キ銀貨ノ、貫、匁、分、厘、等ノ量ノ名目。六十匁ヲ、金一兩ニ當ツ。

きん-めい (名) [欽命] [説文「欽、敬也」正字通「御、書日欽、御旨日欽命」俗曰欽差、欽取、欽意」] 天子ノ命令。[illegible]

きん-めっき (名) [鍍金] めっき(滅金)ノ條ヲ見ヨ。

ぎん-めっき (名) [鍍銀] めっき(滅金)ノ條ヲ見ヨ。

きん-もう (名) [訓蒙] 童蒙ニ訓フルコト。多クハ、書名ニ冠スル語ニ用ヰラル。[illegible]

きん-モウル (名) [金毛織] 毛織ノ條ヲ見ヨ。

ぎん-モウル (名) [銀毛織] 毛織ノ條ヲ見ヨ。

きん-もつ (名) [禁物] (一)忌ミ、禁ムル物。(病人ノ食物ナド) 禁忌 盛衰記、十五、宇治合戰事「禁物、好物、自在ニシテ」 (二)禁ジタル物品。禁制ノ品物 [illegible]

きん-もん (名) [禁門] [近臣ノ外ハ入ルヲ禁ずる門ノ義、史記、秦始皇紀「常居禁中」[illegible]侍御者、不レ得レ入焉、故曰二禁中一」禁闕モ同ジ、禁門ノ内ヲ禁内、禁中、禁裏、禁廷ト云フ」 ミカド。皇居ノ御門。禁闕。[illegible]門以内ヲ、禁内、禁中、禁裏ト云フ。

きん-もん (名) [金紋] 金漆ニテ畫キタル紋所。徳川時代、大名、其家術ノ蓋ニ記シテ、行列ノ先ニ擔ゲシム、家格ニ因リテ許サレ、妄リニ用ヰルコトヲ得ザリキ。[illegible]

きん-もんてうびん (名) [金門鳥敏] 金門鳥敏ト云フ、匿審作字ノ語ナリ、十干中ノ辛モ、十二支中ノ酉モ、共ニ、金ニ屬シ、金剋レ木トテ、辛酉ノ年ハ、一切ノ草木成ラズトテ、法ヲ修スルナリト云ノ(蘭嵐漫筆、十五)一 眞言宗ニテ、辛酉ノ年ニ、五大尊ヲ壇ニ、五段ノ壇熾ヲ祈ル修法ノ名。[illegible]

きん-や (名) [禁野] 標野。天子ノ御獵場トシテ、人ノ、獵スルヲ禁ズル處。[illegible]野ニ

きん-やく (名) [勤役] 役目ヲ勤ムルコト。

[illegible]

きん-やく (名) [欣躍] ヲドリアガルホド、大イニヨロコブコト。欣喜雀躍 [illegible]「無レ任二欣躍之至一」

きん-ゆう (名) [金融] 金錢ノ融通。カネマハリ。

きん-よう (名) [緊用] 緊要ナル用事。必用。

きん-らい (副) [近來] チカゴロ。(近上一二) [illegible]「近來[illegible]、我我心知」同、二十、早[illegible]

きん-らう (名) [勤勞] 勤役ノホネヲリ。[illegible]

きむら-ごう (名) [木村縮] [illegible] 相模國、三浦氏ノ紋所。三所[illegible]ノ、上面ヲ黄ニ、中ヲ紫ニ、下ヲ紺色ニ色取リタルモノ。[illegible] 近松作) 小袖紋盡「此ノきむらごうト申スハ、三浦ノ平六兵衛[illegible]ナリ」

きん-らん (名) [金蘭] [易經、繋辭、上傳「二人同レ心、其利斷レ金、同心之言、其臭如レ蘭」] 朋友間ノ交情ノ、親密ナルニ云フ語。[illegible]

きん-らん (名) [金蘭] 草ノ名。高サ一二尺、葉ハ、長ク[illegible]ニシテ、[illegible]、莖ヲ包ム、春ノ末ニ、莖ノ頂ニ、黄花ヲ開ク。

きん-らん (名) [金襴] 錦ノ類ニテ、緯ニ、平金[illegible]ヲ加ヘテ、模樣ヲ織出セルモノ、其銀[illegible]ナルヲ、銀襴ト云フ、古ヘ、支那ヨリ舶來セシ[illegible] 京都ノ西陣ニテ織出シテヨリ、更ニ精ナリ。[illegible]

[illegible]襴トハ、地ヲ金ニテ織テ、紋ヲ絹ニテ織出也」

ぎん-らん (名) [銀襴] 前條ヲ見ヨ。

きん-らんで (名) [金襴手] [illegible]ノ條ヲ見ヨ。

きんらん-の-ちぎり (名) [金蘭契] 金蘭ノ語原ヲ見ヨ。朋友相交ルノ堅キヲ云フ。[illegible]

きんらん-の-とも (名) [金蘭友] [金蘭ノ語原ヲ見ヨ] 最モ親シキ友人。

きんらん-の-まじはり (名) [金蘭交] [金蘭ノ語原ヲ見ヨ] 極メテ親シキ友間ノ交情。

きんらん-ぼ (名) [金蘭簿] 金蘭ノ語原ヲ見ヨ。友人ノ宿所、氏名、等ヲ記ス帳。[illegible]

きん-り (名) [禁裏] 禁門ノ語原ヲ見ヨ。禁中。ミカド。[illegible] おほうち(大内)ニ同ジ。[illegible]禁裏様ト申ス、[illegible]禁廷様[illegible]

きん-り (名) [金利] 金錢貸借ノ利息。

きんり-さま (名) [禁裏様] 帝ニ、天皇、帝ノ尊稱。禁廷様。

きん-りつ (名) [金律] 金銀ノ割合。

きんり-づき (名) [禁裏附] 徳川幕府ノ職名。京都ノ禁裏ヲ守護シ、御用ヲ承リ、内外一切ノ事ヲ管理ス。[illegible]

きん-りん (名) [近隣] チカドナリ。[illegible]子、亡[illegible]

事「鏡瀧口、云云、彼家ハ、平家ノ近隣也」

きんりん-ざ (名) [金輪寺] 〔後醍醐天皇、吉野山ノ金輪寺(後、實城寺)ニテ、一字金輪ノ法ヲ修セラレシ時、山中ノ蔦ニテ茶入ヲ造ラシメ、衆僧ニ茶ヲ賜ヒシニ起ルト云ヒ傳フ〕又、こんりんざ。茶家ニ用キル茶入ノ一種。蔦ノ材ヲ、木地挽ニテ筒形ニ作レルモノ。外ハ溜塗、内ハ黒漆塗ニテ、濃茶、薄茶、共ニ用キル。

きんりょく (名) [金力] カネノチカラ。金錢ノ權力。金權。

きんりょく (名) [筋力] 筋肉ノ力。體力。禮記、曲禮、上篇「老者不下以二筋力一爲上禮」令狐楚詩「如今老大無二筋力一」 著聞集、二、釋教「筋力絶エ盡キテ、前途遂シガタク」

きんる (名) [近流] 〔遠流、中流ナドニ對ス〕流罪ノ條ヲ見ヨ。こんる。

きんるゐ (名) [金類] カネ。金屬ニ同ジ。

きんれい (名) [禁令] 禁制ノ法令。周禮、地官、司徒「鄉大夫、各掌二其鄉之政教禁令一」

きんれふ (名) [禁獵] 鳥獸ヲ獵リ取ルヲ禁ズルコト。

きんれんげ (名) [金蓮花] 莕菜ノ一種。葉、大キクシテ、葉ノ間ニ、數十花簇生シ、瓣ノ本、黄ニシテ、端、白シ。

きんろく-こうさい (名) [金祿公債] 明治九年、華士族ノ家祿、賞典祿ニ代ヘテ、下ゲ渡サレタル公債。

きんわう (名) [勤王] 連聲ニテ、きんのうト云フ。王ノ事ニ勤ムルコト。朝家ノ爲ニ力ヲ盡シ、忠節スルコト。左傳、僖公廿五年「秦伯師レ于二河上一將レ納レ王、狐偃言レ於二

晉侯一曰、求二諸侯一莫レ如レ勤レ王」

きんゐ (名) [金位] (一)黄金ノ品質。(二)金貨ノ合金ノ品位。金座永野家記、天明七未年十月「金位ノ最上ヲ、四拾四匁位ト相唱申候、夫ヨリ、位劣リ候ニ隨、唱之目方ハ、却テ昇申候」

きんゐん (名) [金員] 金錢ノ員數。カネダカ。キンダカ。

きんゑい (名) [禁衞] 皇居ノ守衞。禁廷ノ衞兵。魏志、高堂隆傳「王公設レ險、以固二其國一、都城禁衞、用戒二不虞一」

きんゑん (名) [禁苑] [禁園] 禁庭ニ同ジ。漢書、食貨志「省二禁苑一以予二貧民一」上官儀詩「禁園凝二朔氣一瑞雲掩二晨曦一」保元物語、一、將軍塚鳴動、附、彗星出現事「日ニ夜ニ結番シ、禁園ヲ守リ給フ」

きんゑん (名) [金圓] 〔明治以後ノ語ナリ、一圓、二圓ノ圓ヲ取リテ、二字ノ熟語ニ妄作セシモノナラム〕金子。ゼニカネ。金錢。

きめ (名) [極] キムルコト。キハメ。サダメ。決定

きめ (名) [膚理] [肌理] 〔刻目ノ意カ、牙モ、切齒ナリ〕(一)シシワキ。皮膚ノ面ノ、極メテ細カキ文。(二)物ノ面、地、ノ細カキ文。文理「漆器ノきめ」

きめい (名) [忌明] イミアケ。

きめい (名) [貴命] いひつけノ敬語。オホセ。運歩色葉集「貴命」

きめい (名) [記名] (一)氏名ヲ、書キ記スコト。署名 (二)公債證書、株券ナドニ、其所有者ノ氏名ヲ書キ込ミテアルモノヲ稱スル語。(無記名ニ對ス)

ぎめい (名) [僞名] 僞リテ云フ名。徐氏

筆精「公福、本姓運、名文鳳、云云、僞二名羅公福一」

きめう (名) [奇妙] 奇シク、妙ナルコト。珍シク、勝レタルコト。常ニ異ナリテ、面白キコト。晉書、律歷志「奇妙之式、不レ傳二來世一」

きめおみ (名) [木目込] 俳優ノ假粧法ニ云フ語。鼻ノ低キモノヲ、高ク見セムガタメニ、白粉ヲ、鼻筋ニ濃ク塗リテ、左右ヲ拭ヒ取リテ薄クス。

きめおみにんぎゃう (名) [木目込人形] かもがはにんぎゃう(賀茂川人形)ヲ見ヨ。

きめおみびな (名) [木日込雛] 前條ニ同ジ。

きめおむ・ム・メ・マ・ミ・メ (他動、四) [決込] 行ふノ俗語。ナス。スル。「知ラヌ顏ノ半兵衞ヲきめおむ」

きめだし (名) [決出] 相撲ノ手ノ名。くゎんぬきノ條ヲ見ヨ。

きめつける・ケル・ケレ・ケ・ケ・ケヨ (他動、下二) [決附] 呵ル。咎ム。叱責 冥途飛脚(正德、近松作)上「言フ事アラバ、サア聞カウト、苦苦シクきめ付けラレ」

き・める・メル・メレ・メ・メ・メヨ (他動、下二) [極] [決] (一)きむノ口語。(二)呵ル。キメツケル。叱責 倭訓栞、きめる「人ヲ呵責スルニモ、物ヲ緊縮スルニモ云ヘリ」 (三)行ふノ俗語。ナス。スル。キメコム。浮世風呂(文化、三馬)初編、下「踏ヘラレテ居ナガラ、ノ、ギックリトきめネエ」「大束ヲきめる」

きも (名) [肝膽] 「凝物ノ約略ト云フ、(熾火、おきび。着物、きろも) 群ぎもトモ云フ、(心モ凝凝ろナリ、其條ヲ見ヨ)今モ

鳥ノ臟腑ヲきもト云ヒ、俗ニ雜物ト云フ」(一)臟腑ノ總名。欽明紀、二十三年六月「剖二肝(腹)」斮レ趾」萬葉集、十六三十長歌「吾ガ肉ハ、御膾ハヤシ、吾ガ伎毛(臟腑)モ、御膾ハヤシ」(鹿ガ云フナリ)(二)心。キモダマシヒ。精神。氣力。推古紀、三十六年三月「汝肝(心)稚之、若雖二心望一而勿二諠言一」(沖繩ノ「おもろ」三「晝ナレバきも通ヒ、夜ナレバ夢通ヒ」きもハ、心ナリ)名義抄「膽、キモ」「膽太シ」肝ニ染ム」肝潰る、肝を潰すトハ、驚ク。ビックリス。喫驚 肝消ゆ、肝を消す、肝を冷すトハ、驚キ怖ユ。喪膽 肝を摧く、肝を煎るトハ、心遣ヒス。氣ヲモム。骨折ル。(きもいるノ條ヲ見ヨ) 焦慮 肝に彫りつく、肝に銘すトハ、深ク記憶シテ、忘レズ。銘肝

きも (名) [肝] 〔支那ノ五臟六腑ノ說、入リテ後、前條ノきも(臟腑)ヲ、一臟ノ名トセシナリ〕カンノザウ。カンザウ。臟ノ名。腹ノ右ノ上ノ方、肺ノ下ニアリ、形、大キク、色、赤シ、一種ノ液ヲ出シテ、胃ニ入リ、膽汁ヲ成シ、食物消化ノ效ヲ奏ス。倭名抄、三六藏府類ニ、心、肺、腎、膽、等ノ中ニ列擧シテ「肝、岐毛」

きもいり (名) [肝煎] 〔次條ヲ見ヨ〕(一)肝煎ルコト。骨折ルコト。取持ツコト。周旋スルコト。又、其人。牙保 牙人 御湯殿上日記、慶長三年二月廿三日「白銀百枚參ラセル、得善院きもいりニテ、傳奏取出シテ御渡シアリ」易林節用集(慶長)言語部「媒介、肝煎也」(二)一職ノ中ニ、首席ニ立チテ、上下ノ事ヲ取持ツ者。柳營祕鑑、四「高家衆九人、内三人、肝煎」職掌錄、高家「京都年頭御使ハ、肝煎三人ニテ、代ル代ル勤ムルコトナリ」吏徵別錄、上、高家、寬保元年五月「肝煎、不レ拘二位階一可レ爲二上席一旨、被レ定」(古事類苑、官位部、三)「肝煎名主」(三)村長。庄屋。名主。村長。(官民ノ間ヲ取持ツ

意ナルベシ）里正 數村ノ村長ヲ、大肝煎ト云フ。大庄屋。

きも・い・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）[肝煎]（一）ココロイラレス。心ヲ焦ス。周旋。[illegible]（二）[illegible]取持ツ。[illegible]ハ大名ヂャ、コレヘきもいッテ出シテヤロ」昨日は今日の物語（寛永）「好キ嫁ヲ持ツ、好キ所へきもヲ[illegible]

〔きも・おほろ（名）[肝心]〔きもト、おほろトヲ見ヨ〕心ト云フニ同ジ。ココロギ[illegible]シキバミテ[illegible]メバ、[illegible]きもおほろヲ惑ハシテ」

きも・せい（名）[肝精] 骨折リ。丹精。盡力。[illegible]

きも・だま（名）[肝魂]〔次條ノ語ノ下略〕次條ヲ見ヨ。

きも・だましひ（名）[肝魂] 心ノ、居スワリテアルコト。氣力。膽力。膽略。著聞集、十二、偸盗「カカル中ニ、イヅクニ肝魂アリテ、[illegible]

きも・ち（名）[illegible] ココロモチ。心地。[illegible]

⁂きもッ・たま（名）[肝魂]〔きもたまノ急呼、強ク云ハムトテ、急呼ス、うでふし、うでっぷし、[illegible]〕[illegible]ノ、きもだましひノ略。「きもったまガ太イ」

きも・なます（名）[肝膾] [illegible]ナラム」甚シク氣遣フコトヲ、肝膾を作ルト云フ。[illegible]

[illegible]薹ヲ香メルモノモアリ」

〔きもの（名）[着物] 衣。コロモ。布帛ニテ、身ニ適フヤウニ縫ヒツクリテ着ルモノ。きるもの。衣裳。衣服。[illegible]「[illegible]、凡長、きるものバカリ、サハ云ヘドモ、[illegible]カリシ所ノナゴリニ、云云」

きもん（名）[鬼門]〔下ノ出典ヲ見ヨ〕陰陽道ニテ、東北ノ隅ノ稱。萬事ニ、忌ミ[illegible]路誌「きもん、鬼門、凡ソ、方位ノ四隅ニ四門アリ、云云、艮ヲ鬼門トス、鬼門トハ、陰惡ノ氣ノ聚ル所ニシテ、百鬼出入スル門戸ナリ、故ニ、此方ヲ犯ス時ハ、百[illegible]之丑寅ハ鬼門之凶宮ニ當レリ、大猷自闘ニ[illegible]ノ地ヲ賜ハリテ、伽藍ヲ創建セシメラル、云云、忍岡ハ、江城ノ鬼門タリ、云云、爰ニ、七堂伽藍ヲ經營シ、國家安全、武運繁榮ヲ祈ラムトゾ聞エケル」

きもん（名）[illegible] [illegible]ヒ、トフコト。[illegible]

〔きも・むかふ（枕）[肝向]〔[illegible]對ふ義ト云フ〕[illegible]きもト、こころトノ[illegible]ヲ見ヨ[illegible]

ぎもん・ぎゃうしゃう（名）[擬文章生] もんじゃう[illegible]ノ條ヲ見ヨ。

き・や（名）[木屋] [illegible]

木小屋。ザイモクゴヤ。[illegible]（二）[illegible]家。ザイモクヤ。

きゃう（名）[京]（一）ミサト。ミヤコ。[illegible]（二）假名手本ノ（一）ノ末ニアル字。其條ヲ見ヨ。

きゃう（名）[卿]（一）省ノ長官。（二）くぎゃう（公卿）ノ條ヲ見ヨ。[illegible]位以上ノ人ニハ、其名ノ下ニ、[illegible]合[illegible]卿（萬葉集、三廿）北畠親房卿ナド記シテ、一種ノ尊稱ノ語トス。大臣ノ名ノ下ニハ、公ヲ添ヘ、四位ノ人ノ名ノ下ニハ、朝臣ヲ添ヘテ稱スルニ對ス。

きゃう（名）[鄕] サト。フルサト。故鄕。[illegible]

きゃう（名）[饗]（一）アルジマウケ。モテナシ。[illegible]ラヲ盡シテ、ツカウマツレリ」落窪物語、四「御供ノ人人ニ、物カヅケサセタマヒ、饗ナドセサセタマフ」（二）[illegible]ベキ程ノ終リヌレバ、饗ヲ庭ニ投ゲ捨ツレバ」

きゃう（名）[經]（一）尊ムベキ書。佛ノ敎ヲ記シタル書ノ總稱。[illegible]讀ミ給フ」（二）經書。（其條ヲ見ヨ）「詩經」「書經」

きゃう（名）[香] 將棋ノ駒ノ名。香車ノ略。

きゃう（名）[强][illegible]

き・やう（名）[羈羊] 犧牲ノヒツジ。論語、八佾篇「子貢、欲ㇾ去三告朔之餼羊一」

きゃう（接尾）[强] 接尾語ノあまりヲ見ヨ。[illegible]失、[illegible]一萬千之强」「三尺五寸强」

ぎゃう（名）[行]（一）[illegible]ク條、二行ナラバ五七五（一行）七七（一行）」「文、三[illegible]

ぎゃう（名）[行] 行書ノ條ヲ見ヨ。[illegible]「眞ノ筆ハ、立ツベキ也、行ノ筆ハ、臥ムベキ也」「眞、行、草」

ぎゃう（名）[行] 佛道ノオコナヒ。佛徒、修驗者ナド、其道ノ業ヲ修スルコト。修行。平家物語、十、戒門事「乞食、頭陀ノ行ヲモシテ、ヒトヘニ佛道修行シタク候ヘドモ」

ぎゃう（名）[行] 位ト、官トノ間ニ置キテ、位高ク、官卑キヲ示スニ用ヰル語。官高ク位卑キニハ、守ノ字ヲ加フ。選敍令「凡[illegible]爲ㇾ守」「正二位、行、大納言」正三位、守、右大臣」

ぎ・やう[illegible] 他人ノ[illegible]

きゃう・いう（名）[享有] 享ケテ、所有スルコト。[illegible]

きょう・いで[illegible]

平氏清見關下事「馬ト云ハ、博勞馬ノ、兎角ツクロヒ飼タレバ、京出バカリコソ、首ヲモ少持擧侍リシガ、ハヤ乘損ジテ、物ノ用ニ叶ヒガタシ」

きやう-いり (名) 〔京入〕 〔前條ノ、京出ニ對ス〕 京都ニ入ルコト。入洛。 盛衰記、三十二「義仲、行家京入事」

きやう-えう (名) 〔强要〕 「强ハ、彊ニ通ズ、韻會「彊、渠良切、音强」」 ムリジヒ。シヒテ、求ムルコト。 史記、留侯世家「呂澤彊要曰、爲我畫計」

きやう-えき (名) 〔狂易〕 心ノ、クルヒ易クテ、常態ニアラザルコト。 柳宗元文「豈狂易病惑邪」

きやう-えき (名) 〔彊場〕 クニザカヒ。國彊。 左傳、昭公廿四年「彊埸無備、邑能無亡乎」

ぎやう-えふ (名) 〔杏葉〕 〔形、杏ノ葉ニ似タリ〕 (一)唐鞍ノ飾ノ具。又、ひら。馬ノむながいニ七ツ、しりがいニ十、並ベテック、金屬、又ハ、革ニテ造ル、形、木葉ノ如ク、卵形、鋭頭ニシテ、緣ニ緩キ鋸齒アルモノヲ、倒サニシタルガ如シ、俗ニ、めうがト云フ、形、めうがのはノ、倒サマナルガ如クニモ見ユレバナリ。 箋注倭名抄、五、五十四鞍馬具「杏葉、俾良、俗云、行衣布」 名義抄「杏葉、ヒラ」 (二)胴丸ノ鎧ノ金具ノ名。肩上ニツケテ、杏葉ノ形シテ、肩ヲ禦グモノ。後ニ、袖ヲツクルニ及ビテ、紐ヲユルメテ、前ヘ垂レテ、高紐ヲ覆フモノトス。 (三)紋所ノ名。約メテ、ぎやうえふトモ云フ、鎧ノ金具ヨリ移シタルモノ。杏葉ヲ竪ニシテ、左右ニ二ツ相抱カシムル象ヲ圖ス、だきめうがトモ云フ。 貞丈雜記抄、三、幕紋事「杏葉」一ぎょえ

ふ牡丹」

きやう-えん (名) 〔竟宴〕 一事業ヲ竟ヘタル時、開カルル祝宴。書物ノ御前講義完結、和歌ノ撰集完成ナドニセラルルナリ。 西宮記、臨時、二、始講日本紀事、竟宴事「預件講人人、兼皆得其詠詩之文了、盃酒三獻、云云、爲講師人人、讀件倭歌云云、祿物爲饗饌等之物、從公卿家家、依廻文所給也」 釋紀、一、日本紀講例、承平六年十二月八日、博士、矢田部公望「宜陽殿東廂講之、竟宴」 承和十四年五月ノ莊子ノ竟宴ヲ初トシテ、貞觀二年十二月、孝經、同十七年四月、群書治要、同十八年七月、顏氏家訓ノ竟宴アリキ、元慶六年、延喜六年、天慶六年ノ日本紀竟宴ノ歌ドモアリ。 增鏡、上、第一、おどろの下「此度撰ラバレタルヲバ、新古今ト云フナリ、元久二年三月廿六日、竟宴ト云フコト、春日殿ニテ行ハセタマフ」

きやう-えん (名) 〔饗宴〕 モテナシノサカモリ。酒會。 晉書、明帝紀「停饗宴之禮」

きやう-えん (名) 〔驚燕〕 「燕ノ、集リテ、塵ヲ落サムヲ思ヒ、紙ヲ垂レテ驚かし去ラシムル意ノ語ナリト云フ(燕居雜話、三)」 掛物ノ風帶ノ一名。拂燕

きやう-おう (名) 〔饗應〕 アルジマウケ。酒食ヲ備ヘテ、モテナスコト。フルマヒ。馳走。きやうよう。 徒然草、百十三段「貧シキ所ニ酒宴好ミ、客人ニ饗應セントキラメキタル」

きやう-おう (名) 〔響應〕 聲立チテ、響キ應フルコト。直チニ、ヒビキワタルコト。 管子、任法篇「下之事上也、如響之應聲也、臣之事主也、如影之從形也」 史記、淮陰侯傳「天下風走而響應矣」

きやう-おしろい (名) 〔京白粉〕 (一)京都ニテ製出スル白粉。 犬子集(寛永)「降ル雪ハ、京おしろいト、ミヤコカナ」 (二)たうのつち

ノ、上品ナルモノ。(東國)

きやう-か (名) 〔狂歌〕 (一)狂歌。ザレゴトウタ。戲言ニテ詠ム歌。俳諧歌ト云フモノ、是レナリ、漢詩ニモ、狂歌アリ、後ノ狂詩ニ似タリ。 本朝文粹、一、夜行舍人、鳥養有三之絶句、云云、戲以狂歌、「夜行翁、夜夜火、舊府中呼、日火危彼誰何云云、鳥養鳥養是汝姓、好以鳥養羽林云云、有三有三時乃名、宜改三有三爲無貳云云」(白氏文集、二十九ノ龍門醉中狂歌ナドニ倣ヘルモノカ) (二)一變シテ、落首トナリ、亦、狂歌ト云ヒキ。 平治物語、三、長田忠致尾州に逃れ下る事、忠致ガ宿ニ狂歌ヲ詠ミテ捨テケリ「落チユケバ、命バカリハ、いきノ守、ソノをはりコソ、聞カマホシケレ」(忠致、壹岐守ニナサレタルヲ、不足トシテ嫌ヒ、誅セラルベカリシヲ、尾張ニ逃レタルナリ) (三)鎌倉時代ニ、俳諧ノ連歌ヲ、狂歌ト云ヒキ。 井蛙抄、六「後鳥羽院御時、柿本、栗本ヲ置カル、柿本ハ世ノ常ノ歌、栗本ハ狂歌」(かきのもとノ條ヲ見ヨ) (四)室町時代ニ至リテ、狂歌ト云フモノ、全ク成立テリ。 永正五年正月ノ狂歌合「今朝照ラス、日なたぼこりニ、貧乏ノ、神代ノ春ヤ、立チカヘルラム」 (五)江戸時代ニ至リテ、慶長、元和ノ頃、建仁寺ノ雄長老ノ新撰狂歌集、江戸ノ半井卜養ノ卜養狂歌集アリ、安永、天明ニ至リテ、蜀山人起リテ、風格、豪放トナリテ、盛ンナルヲ極ム、コレヲ天明風ト云フ。 安房ノ小湊ニテ、七字ノ題目ト云フ題ヲ出サレテ「ドノヤウナ、難題目ヲ、出サレテモ、詠ムガ妙法、蓮華狂歌師」「世ノ中ニ、か(蚊)ホドウルサキ、物ハナシ、ぶんぶ(文武)ト云ッテ、夜モ寐ラレズ」(樂翁公ノ政治) 同時ニ、狂歌師ト稱シテ、專門ノ宗匠、多ク出デ來タリ、今モ行ハルレド、秀句、緣語ノミニ專ラナル、纖巧ノモノトナレリ。

きやう-かい (名) 〔境界〕 土地ノサカヒ。

境域。 列子、周穆王篇「不知境界之所接」

きやう-がい (名) 〔境涯〕 身ノ、此世ヲ暮シユク程。境遇。 「安樂ナル境涯」

きやう-かう (名) 〔强硬〕〔强梗〕〔强鯁〕 手强クシテ、屈セザルコト。 淮南子、原道訓「欲其强梗」 唐書、白居易傳「居易執論强鯁」

きやう-かう (名) 〔强行〕 事情ノ如何ニカカハラズ、强ヒテ行フコト。 「强行偵察」

ぎやう-かう (名) 〔行幸〕 〔玉篇「幸、天子所至也」蔡邕獨斷ニ、車駕ノ至ル所、賜物アリ、田租ヲ免ゼラレナドスレバ、幸ト云フトアリ〕 ミユキ。イデマシ。天子ノ御他行。みゆきノ條ヲ見ヨ。 漢武帝、秋風辭「上行幸河東祠后土」 源、七、紅葉賀「朱雀院ノ行幸ハ、神無月ノ十日餘リナリ」

ぎやう-がう (名) 〔行香〕 〔香ヲ行る義〕 佛事修行ノ時、衆僧ニ、香ヲ配リワタスコト。 賢愚經「使人行香、僧手中」 源、二十四、胡蝶「童部ドモ、御階ノ下ニヨリテ、花ドモ奉ル、ぎやうがうノ人人、取次ギテ、閼伽ニ加ヘサセタマフ」

きやう-がうし (名) 〔京格子〕 竪ニ、子ヲ、麁ク竝ベツケタル格子戸。 西鶴織留(貞享)伏見ノ里ノ質商「瓦葺ニ白壁、京格子ヲツケタレバ、云云」 嬉遊笑覽、一「西鶴ナドガ草子ニ、京格子ト云ヘルハ、竪ニ子ヲアラク並ベタルナリ」

きやう-がかり (名) 〔京掛〕 かみがかり(上掛)ヲ見ヨ。

きやう-がく (名) 〔驚愕〕 オドロクコト。ギヤウテンスルコト。 史記、項羽紀「見使者、佯驚愕曰、云云」

きやう-かし (名) 〔狂歌師〕 きやうか(狂歌)ノ條ノ(五)ヲ見ヨ。

きゃうがた (名) 京方 (一)公家、京家ニ同ジ。(二)北朝。南朝ヲ、南方ト云フニ對スル語。

きゃうかたびら (名) 經帷子 死者ヲ葬ル時、著スル麻衣。經ノ文ヲ書キ、又ハ、六字ノ名號ナドヲ書ス。[illegible]

きゃうがのこ (名) 京鹿子 (一)京染ノかのこしぼり。(二)鹿子餅ノ一種。其條ヲ見ヨ。

きゃうがハラ (名) 經瓦 瓦ニ、佛經ノ文ヲ彫リツケタルモノ。多クハ、塚中ニ埋ム。

きゃうがふ (名) 校合 〔校ハ、[illegible]〕[illegible]。寫本ト、原本ト、[illegible]セテ、文字ノ誤リヲ正スコト。校正。活字ニ組ミタル文字ヲ、原稿ニ合ハスルニモ云フ。[illegible]テ、小御所ニテ御けうがうアリ」

きゃうかん (名) 行潅 〔灌ノ條ヲ見ヨ〕[illegible]、狂言ジミタル男

きゃうかん (名) 狂簡 志ノ、ケダカクシテ、細カキ事ヲカヘリミザルコト。「論語、公冶長篇、吾黨之小子、狂簡、斐然成章」

きゃうかん (名) 經函 佛經ヲ納ルル箱。[illegible]

きゃうがん (名) 強顏 强顏 アツカマシキコト。鐵面皮。厚顏。[illegible]、左右顧レ之、云云、日、此天下強顏女子也[illegible]

きゃうがらす (名) 京烏 〔京鳥、同義〕京都ニ住ミ馴レテ、ヨク、京ノ事情ヲ知レル者ノ渾名。京雀。[illegible]

きゃうき (名) 狂氣 (一)精神ノ、狂フコト。キチガヒ。發狂。[illegible] (二)キチガヒジミタルコト。[illegible]

きゃうき (名) 强記 記憶ノ、强キコト。モノオボエノヨキコト。[illegible]ノ強記ニ感ジケル」

きゃうき (名) 驚喜 事ノ、意外ナルニ、驚キ且ツ、喜ブコト。[illegible]

きゃうぎ (名) 經木 〔經ニ充テテ、經文ヲ記シシコトアリシト云フ〕杉、檜ノ材ヲ、長ク方ニ、紙ノ如ク、薄ク削リ作リタルモノ。物包ムナド、種種ノ用ヲナス。運歩色葉集「經木」

きゃうぎ (名) 競技 技ノ優劣ヲ競フコト。

ぎゃうぎ (名) 行儀 行跡ノ威儀。起居、動作ノ作法。[illegible]亦有烈士風」 庭訓往來、十一月「行儀散動、云云、所作辛苦、云云、皆以、怠忘之事候」

きゃうきう (名) 匡救 匡シ、救フコト。匡濟。[illegible]

きゃうぎさなだ (名) 經木眞田 經木ヲ細ソク切リテ、眞田紐ノヤウニ編ミ作レルモノ。夏帽子ナドニ作ル。

きゃうきゃう (名) 輕輕 〔輕輕ノ字ノ音ヲ、[illegible]〕カロガロシキコト。輕率。源、三十六、横笛「イカデカ、御腕ノ前ヲバ、渡リハヘラム、[illegible]」宇多天皇「イタクきゃうきゃうナルフルマヒ、ナ爲サセタマヒソ」[illegible]

ぎゃうぎゃう (名) 行行 ぎゃうだうニ同ジ。[illegible]テ、遂ニ罷テ、行方ヲ知ズ」

きゃうきゃう・し (形、二) 輕輕 前前條ノ語ヲ活用セシム。輕卒シ。意忘シ。同意。カロガロシ。カロハズミナリ。輕率。大鏡、下、道長[illegible]文(裝束)ニアケサセタマヘリシハ、きゃうきゃうしか[illegible]

ぎゃうぎゃうし (名) 仰仰子 〔次條ノ語ノ終止形ヲ、名詞トシタルモノ、[illegible]〕(葦雀)ノ異名[illegible]

ぎゃうぎゃう・し [illegible]

[illegible]リトサゲスム意ヨリ、移レルナルベシ、ロギタナク云フヨリ、濁音トナル」[illegible]、コトゴトシ。[illegible] ぎゃうぎゃうしいト云フ」

ぎゃうぎやき (名) 行基燒 〔行基法師ノ教ヘテ、燒キ始メタリト傳フ〕土燒ノ陶器。古ヘ、和泉國、大鳥郡、陶荘ニ[illegible]リト云フ。其製、土中ヨリ掘出ス、[illegible]ノ圓クシテ、居ラズガ多シ。[illegible]

きゃうく (名) 狂句 狂歌、狂詩、川柳ナドノ稱。

きゃうく (名) 驚懼 オドロキ、オソルルコト。「史記、司馬相如傳[illegible]」

きゃうぐう (名) 境遇 (一)メグリアハセ。シアハセ。(二)場合。境界。

きゃうくゎ (名) 狂花 花ノ、クルヒザキ。カヘリバナ。カヘリザキ。[illegible]

きゃうぐゎ (名) 狂畫 ザレヱ。オドケヱ。

きゃうくゎ・すゐ・げつ (名) 鏡花水月 鏡ニ映レル花、水ニ浮ベル月。[illegible]捉ヘラレヌ事ニ譬ヘ、詩歌、小說ナドノ、[illegible]

其迹一可也」　謡道歌「鏡裏看レ形見不レ難、水中捉レ月爭拈得」

きゃう-くゎん（名）【郷貫】　ほんくゎん（本貫）ヲ見ヨ。唐書、選擧志「以二郷貫三代名諱一送二中書門下一」

きゃう-くゎん（名）【經卷】　經文ヲ記シタル書。經典。法華經、法師品「受二持讀二誦解二説書二寫妙法華經乃至一偈一於二此經卷一敬視如レ佛」　太平記、廿七、直義隠遁事「時遷リ、事去リテ、人物、古ニアラサル事ヲ感ジ、蕭怨、草屋ノ底ニ座來シテ、經卷ヲ抛ツヒマモナカリケリ」

きゃう-け（名）【京家】　公家ニ同ジ。京方。太平記、二、天下怪異事「諸卿、云云、折烏帽子ニ直垂ヲ着シ、七大寺詣デスル京家ノ靑侍ナンドノ、女性ヲ具足シタル體ニ見セテ、御輿ノ前後ヲゾ供奉シタリケル」（後醍醐天皇、南都ヘ御潜行）

ぎゃう-けい（名）【行啓】　〔啓行ノ意、其條ヲ見ヨ〕　みゆきノ條ヲ見ヨ。榮花物語、十七、音樂「シバシアリテ、春宮ノ行啓アリ」

きゃう-けん（名）【狂狷】　〔狂ハ、常規ニ外レテ、大志ヲ抱クコト、狷ハ、普通ニ外レテ、義理堅キコト〕　中庸ノ道ニ適合セヌ行爲。論語、子路篇「子曰、不レ得二中行一而與レ之、必也狂狷乎」

きゃう-けん（名）【狂犬】　ヤマイヌ。狂ヒタル犬。阮籍、鳩賦「値二狂犬之暴怒一加二楚害於微軀一」　雜令、義解「凡畜産觝レ人者、云云、有二狂犬一所レ在聽レ殺之」

きゃう-げん（名）【狂言】　（一）狂ヒタル言。道理ニカナハヌ言。妄語。白氏文集、七十一、香山寺白氏洛中集記「世俗文字之業、狂言綺語之誤一」（佛教ノ十惡ノ内ニ、妄語、綺語アリ）　江談抄、三、雜事「公忠辨、俄頓滅、歴二兩三日一蘇生、告二家中一云、我參内一、家人不レ信、以爲二狂言一、依二事甚懇切一、被二相扶一參内」　（二）戯言。タハムレゴト。盛衰記、三十四、佐佐木賜二生唼一（馬ノ名）事「正直ニテハ、良キ馬ハマウカルマジカリケリ、ト狂言シテ」（高綱ガ馬ヲ盗ミ出シタリト云フナリ）　古本、義經記、五、吉野落事、辨慶、川ニ陷ル「アヤマチハ常ノ事、くずのたふれト申スコト候ハズヤト、狂言ヲゾ申シケル」

きゃう-げん（名）【狂言】　〔前條ノ（二）ノ、戯言ヨリ移レル語ナリ〕　猿樂ノ餘流、狂言ニテ、滑稽ノ事ヲ演ズル伎。仕手ヲおもト云ヒ、脇ヲあど、連ヲまたあどト云フ語ナドヲ考フレバ、能ヨリハ古シ、狂言中ニ、玄惠法師ノ作ト云フモノ多シ。（玄惠ハ、正平五年ニ寂ス）應永十八年三月、天竺右衞門、唐右衞門ノ、祇園山ニテ興行ノ番附アリテ、將軍義滿ノ時、斯波家ニテ狂言興行ノ時、此二人、魁タリキ。然レドモ室町時代、中絶シテ、豐臣太閤ノ頃ニ再興シタルモノカ、狂言記ニ據ルニ、其言語、天正年代ノモノナリ。爾來、能ニ附屬シタル演技トナリテ、凡ソ、失敗、諂諛、詐僞、嫉妬、盗賊ノ事ナドヲ、諧謔ニ、口語ニテ演ズ、其詞章、卽チ、狂言ナリ。貴人、大名ナドヲシテ、下情ニ通ゼシムルヲ旨トシタルモノナルベシ。初メ、大藏流、鷺流ノミナリシガ、後ニ和泉流モ出來テ、三派トナレリ。此演技ヲ業トスル者ヲ、狂言師ト云フ。花傳書（應永、觀世世阿彌作ト傳フ）八「狂言、敎ヘル事、マヅ、ハジメ、初心ナル時ハ、イカニモ、オカシク、人ノ笑ヒ候ヤウニヲシヘ候物也、云云」　御湯殿の上の日記、慶長三年六月三日「奈良ヨリ、上手ノきゃうげんし十人バカリ參リテ、黑戸ノ御庭ニテ、きゃうげんアリ」

きゃう-げん（名）【狂言】　〔寛永中、中村勘三郎、猿樂ノ狂言ノ太郎冠者ニ扮チテ、歌舞伎ニ演ゼシニ起レル語ナリ、さるわかノ條ヲ見ヨ〕　（一）歌舞伎芝居ノ脚色。古史ノ事實ヲ種トシテ、虚實ヲマジヘシ時代狂言、目前ノ世ノ出來事ヲ採リテ增減セシ世話狂言ナド、皆オモシロヲカシク作リナス。【演劇脚色】　コレヲ作リ書クヲ業トスル者ヲ、狂言作者ト云ヒ、其書ヲ、脚本ト云フ。（二）虚事ヲ計畫ミテ、人ヲ謀ルコト。コレヲ行フヲ、狂言を書くト云フ。「一狂言かいテ、仲間ノ者ヲ驚カス」

きゃう-げん-かた（名）【狂言方】　次條ヲ見ヨ。

きゃう-げん-さくしゃ（名）【狂言作者】　芝居狂言ノ脚色ヲ作ルヲ業トスル者。早クヨリアリシカド、專業トセシ者ハ、アラズ、嬉遊笑覽、五ニ、延寶八年暮ノ顏見世ノ役者附ニ、狂言作者富永平兵衞トアルヲ初トストアリ、後ニハ芝居ニ附屬シテ、其者共ヲ狂言方ト云ヒ、其作レル脚本ヲ役者ニ供シ、演技中ノ臺詞ヲ敎ヘ、舞臺ノ道具立ヲ調べ、幕ノ開閉ナドニ拍子木ヲ拍チテ指揮スルヲ事トス。

きゃう-げん-し（名）【狂言師】　猿樂ノ狂言ヲ演ズルヲ業トスル者。

きゃう-げん-ばかま（名）【狂言袴】　猿樂ノ狂言ニ、太郎冠者ナドノ着ル袴。多クハ、丸盡シナドニ染ム。

きゃう-こ（名）【狂瞽】　狂氣ジミテ、向フミズナルコト。漢書、蓋諸葛劉鄭宗傳、論「諸葛劉鄭、雖レ云二狂瞽一有二異志一焉」

きゃう-こう（副）【向後】　〔向ノ字ノ漢音ニ、かう、きゃう、ノ二音アリ〕　今ヨリ後。コノノチ。以後。【後來】　汪倹詩「向後休」參文字禪」　曾我物語、十、五郎被レ斬事「祐經ガ親類多ケレバ、其意趣逃レガタシ、然レバ、きゃうかうノタメニ、汝ヲ誅スベシ」

きゃう-こく（名）【享國】【饗國】　君主ノ、國ヲ享ケモチタマフ年間。御在位、御治世ト云フニ同ジ。左傳、桓公元年「盟曰、渝レ盟無レ享レ國」　故實拾要（元文、篠崎維章）一「在位、治世、饗國、享國、御宇、朝、是レ皆、天子ノ、御位ヲ持チタマフ間ヲ云フ」

きゃう-ごく（名）【京極】　キヤウハテ。京ノ市街ノ東西ノ極ニテ、北ヨリ南ニ通ズル通街ノ稱。平城ノ京ニモ、山城ノ京ニモアリ、今、奈良市ノ木辻ノ南ニ、京終ノ地名、存ス。尙、さきゃう（左京）ノ條ヲ併セ見ヨ。

きゃう-こつ（名）【輕骨】【輕忽】　輕率ニシテ、粗忽ナルコト。カロガロシキコト。輕忽。吾妻鏡、四、元曆二年六月七日「君者鎭二海內濫刑一、其品已敍二三品一給、彼者過爲二朝敵一、無位囚人也、御對面之條、還可レ招二輕骨之謗一」（平宗盛ガ、鎌倉ヨリ歸洛セムトスル時、賴朝ノ對面ノ事ニ就キテ、大江廣元ノ言ナリ）　太平記、二十一、佐渡判官入道流刑事「事ノ體、尋常ノ流人ニハカハリ、美美シクゾ見エタリケル、是レモ只、公家ノ成敗ヲ輕忽シ、山門ノ鬱陶ヲ嘲弄シタル振舞ナリ」

ぎゃう-さ（名）【行作】　〔ざうさ（造作）ノ條ヲ見ヨ〕　オコナヒ。フルマヒ。【行爲】　周禮、秋官、司虣、野廬氏「禁二行作不レ時者一」

きゃう-さい（名）【匡濟】　きゃうきう（匡救）ニ同ジ。晉樹詩「大平匡濟術」

きゃう-さう（名）【強壯】【彊壯】　スグレテ健

ナルコト、ギウブツタツシテ壯健ニ。〔[illegible]〕

きやう-さう（名）競爭　セリアヒ。〔[illegible]〕

きやう-さう（名）競漕　フナギホヒ。フナクラベ。フナカケ。競舟

きやう-ざう（名）經藏　寺院ニ、經ヲ收メオク藏。多クハ、輪藏ヲ設ケ、傅大士ノ像ヲ安ンズ。〔[illegible]〕

ぎやう-さう（名）行裝　行粧　外へ出デ行ク裝飾。〔[illegible]〕

きやう-さう-ざい（名）强壯劑　身ヲ强壯ニスル藥。ヤシナヒグスリ。

きやう-ざく（名）警策　〔警策ノ意ノ轉ジタルモノ、其條ヲ見ヨ。きやうざく、又、かうざくトモ云フ。（警ノ字ノ吳音ニ、きやうト、かうトノ二音アルナリ）〕（一）詩文ノ秀逸。〔[illegible]〕きやうざくニ、筆、笙、物ノ音ドモ、トトノホリテ」（二）轉ジテ、物事ノ、優レテ佳キコト。又、[illegible]警拔〔[illegible]〕かうざくニ讀出ダサレタリ」源、三十二、梅枝「ソコラノきやうざくノ歌君タチ」同、四十九、東屋「御心バヘ、イミジウかうざくニ、重重シクナム」

きやう-ざく（名）景迹　還迹　きやうぢやく

（景迹、還迹）ノ條ヲ見ヨ。〔[illegible]〕

きやう-さん（名）殭蠶　死シタルカヒコ。アガリカヒコ。

ぎやう-さん-に（副）仰山　〔希有キコトノ轉ナラム、（不便ナ、不思議ナ）驚キ云フニ因リテ、濁音トナル〕（一）物ノ、多キニ驚クニ云フ語。タイソウニ。（畿內）太莊〔淀鯉出世瀧德（寶永、近松作）上「仰山な酒飲[illegible]」〕（二）甚ダ稀ナル事ヲ、大キクシナスニ云フ語。ギヤウギヤウシク。〔心中天網島（享保、近松作）中「ナフ仰山ナ、夫デ濟バ、イト安シ」〕

きやう-ざむらひ（名）京侍　京ノサムラヒ。〔[illegible]子ユガメツツ、氣色メキタル京侍」〕

きやう-し（名）狂詩　諧謔ヲ主トシテ作レル詩。〔[illegible]〕

きやう-し（名）狂死　クルヒテ、死スルコト。クルヒジニ。〔[illegible]〕

きやう-し（名）强仕　〔禮記、曲禮、上篇「人生四十曰强而仕」〕人ノ、四十歲ノ稱。不惑。〔[illegible]ニシテ、御姿ヲオロシタマヒケル、未ダ强仕ノ齡[illegible]〕

きやう-じ（名）經師　佛經ヲ、[illegible]、書物ナドニ貼リ作リテ業トスル者。其長ナルヲ、大經師ト云フ。今ハ常ノ裱具師ヲモ、通ジテ云フ。〔[illegible]〕

ぎやう-じ（名）行事　（一）執リ行フベキ仕事。〔[illegible]〕（二）朝廷ノ儀式ナド、執行ノ時、事務トナル職。行事ノ官。〔[illegible]〕（三）商人ノ組合ナドニ、專ラ、事務ヲ扱フ者。〔[illegible]〕

ぎやう-じ（名）行司　行事　（朝廷ノ相撲ノ節ノ行事官ノ名ヨリ移レル語）古ヘ、朝廷ノ相撲ニ云ヒシ、たちあはせ。今、民間ノ相撲ニ、雙方ノ間ニ立ツテ、勝負ヲ判決スルヲ職業トスル者ノ稱。上級ナル者ハ、侍烏帽子ニ、素襖ノ禮服ヲシボリテ着シ、軍配團扇ヲ以テ、雙方ニ揮ル。相撲人ノ名ヲアゲ、下級ナル者ハ、小袖ニ上下ナリ。〔[illegible]〕

きやう-しき（名）京職　ミサトノツカサ。古ヘ、平安京、卽チ、京都ヲ治ムル職。京中ノ宅地、戶口、租調、雜徭ノ事ヲ掌ル。京ヲ、[illegible]左京（其條ヲ見ヨ）ヲ掌ルヲ、左京職ト云ヒ、東市司、コレニ屬シ、西部ノ右京ナルヲ、右京職ト云ヒ、西市司、コレニ屬ス。左京職ノ長官ヲ、左京大夫、又、京兆尹ト云ヒ、次官ヲ、左京亮ト云フ。右京職ノ右京大夫、右京亮、同ジ。〔[illegible]比多利乃美佐止豆加佐、右京職、美拔乃美佐止豆加佐[illegible]〕

ぎやう-じつ（名）行實　[illegible]

きやう-しん（名）[illegible]

きやう-しん（名）[illegible]

きやう-しん（名）[illegible]

きやう-じん（名）狂人　[illegible]ツレバ、ウルハシキ人モ、忽チニ狂人トナリテ、ヲコ[illegible]

きやう-しや（名）香車　[illegible]う、きやうノ二音アリ）將棋ノ駒ノ名。唯、前ノ一方ヘノミ、遠、近、意ノママニ進ムコトヲ得ルモノ。なりテハ、金將ト同ジ[illegible]王ニ上ラルルガ、ソレデモ、金銀出スマイカ」

きやう-じや（名）[illegible]

ぎやう-じや（名）行者　[illegible]ニテ、行ヲ修スル人。行人。修行人。〔[illegible]〕

ぎやう-ぢやう（名）行狀　（一）人ノ身ノオ

コナヒ。フルマヒ。身持。行跡。品行。晉書、王渾傳「渾有著述之志、毎私論晉事及功臣行狀」、運歩色葉集「行狀」（二）其人ノ一生ノ行狀ヲ記シタル文。傳ノ類。行實。文體明辨「朝幹始、作楊元伯行狀」

きやう-ぢやうらふ（キヨウ-ジヨウロウ）（名）［京上臈］京都ノ上臈。都ノ貴婦人。太平記、七、先帝船上臨幸事「京上臈カト覺ボシクテ、冠トヤラン著タル人ト、立烏帽子著タル人ト」津國夫婦池（享保、近松作）三「ミメノヨイ京上臈ヲ、ヒケラカシニ來タカ」

きやう-じやく（キヨウ-ジヤク）（名）［强弱］つよきト、よわきト。漢書、蕭何傳「具知天下阸塞、戶口多少强弱」

きやう-じやく（キヨウ-ジヤク）（名）［警策］きやうざく（警策）ヲ見ヨ。運歩色葉集「警釋、警束、キヤウシヤク」

きやう-じやく（キヨウ-ジヤク）（名）［景迹］〔考課令、義解「景迹者、景、像也、猶言狀迹也」〕コヽロバセ。心底。心得方。官府ノ語ニテ、ソレヲ審理スベキ意ヲ含ム。天武紀、下、十一年八月「凡諸應考選者、能檢其族姓及景迹」續紀、九、神龜元年十月「息長眞人臣足、任出雲按察使時、贓貨狼藉、惡其景迹、奪位祿」惡」後紀、十四、大同元年五月「諸國牧宰之輩、云云、經過宮闕、留滯閭里、量其景迹、不可不誡」萬葉集、十二十九「高麗錦、（枕）己之景迹カラ、外ニノミ、見ツヽヤ君ヲ、戀ヒワタリナム」

きやう-じやく（キヨウ-ジヤク）（名）［瀆迹］〔前條ノ語ヨリ、景ノ字ニ進繞ヲカクルハ、連字ニハ偏旁ヲ改ムルコトアリ、可怜（神代紀）ヲ𪫧怜（仁賢紀）、搢紳ヲ縉紳ト記ス類ナリ〕（一）心底ノ審理ノ意ニ移レルナリ、心意ノ内ヲ、不審シク測リ思フコト。長門本、平家物語、十、漢左衞門妻女「カヤウニ申セバ、御きやうじやくモアリヌベケレドモ、云云、渡、云云、

相思ヒナサケモ更ニナシ、云云、渡ヲ生ケテオキテハ、イカデカ打チトケ、殿ニモ逢ヒタテマツルベキ」（渡邊渡ノ妻ノ袈裟ノ、遠藤盛遠ニ答フル詞）義經記、二、鬼一法眼事「カク申セバ、女ノ心ノ、打チカヘリテ、きやうじやくセサセタマフベキナレドモ、賢臣、二君ニ仕ヘズ、貞女、兩夫ニマミエズト申ス事ノ候ヘバ、知ラセタテマツルナリ」（鬼一ガ女ノ、父ノ陰謀ヲ、義經ニ告グル詞ナリ）（二）轉ジテ、推量。推察。案内を知るヲ案内トノミ云フガ如シ。忖度。盛衰記、三十六、鷲尾一谷案內者事「サテ其下ニハ鉾、堀、菱ナド立テタリヤト問ヘバ、サル事承ハラズ、御退迹モ候ヘカシ、馬モ人モ通ルベキ所ナラネバ、イカデ其用意侍ルベキト答フ」吾妻鏡、廿五、承久三年六月十七日「佐佐木趣、河事、偏依兼義引導也、退迹者不知案内、爭進先登乎」（島津本ニ據ル、是レハ、芝田兼義、佐佐木信綱ノ、宇治川先進ノ爭ニテ、川ノ深淺ノ推測ナリ）

ぎやうじや-にんにく（ギヨウジヤ-ニンニク）（名）［茖葱野葱］〔大蒜ヲ、にんにくト云フハ、忍辱ノ音、臭氣甚シケレドモ、僧ノ、忍辱シテ食フ意ノ名、茖葱ハ臭氣ナシ、行者モ心ヲ安ンジテ食フト云フ意〕古名、アララギ。草ノ名。深山ニ生ズ、早春、舊根ヨリ生ジ、葉ハむらさきぎばうしゆノ如クニシテ、縱道ナシ、莖、高サ八九寸、三葉、下ニ互生シテ、頂ニ花ヲ開ク、韮ノ花ニ似テ大キク、六瓣、淡紫ナリ、又、白キモアリ、實モ、韮ノ如ク、根ハ、水仙ノ如クニテ、絲ニテ包ム、臭氣ナシ。一名、エイザンニンニク。エイザンビル。

きやう-じゆ（キヨウ-ジユ）（名）［享受］ウケ、ヲサムルコト。受領。後漢書、樊英傳「及其享受爵祿」

ぎやう-しよ（ギヨウ-シヨ）（名）［行書］〔書史會要「漢劉德升、云云、始作行書、即正書（楷書）變、

務從簡易、相間流行、故曰行」〕漢字ノ書體ノ名。楷書ヲ、稍、ヤハラカニクヅシタルモノ。略シテ、ぎやう。晉書、衞恆傳「鍾胡二家、爲行書法」

きやう-す（キヨウ-ス）（名）［香子］〔香ニ、子ヲ添フ、金子、扇子ノ類〕將棋ノ駒ノ名。きやうしや（香車）ニ同ジ。きやう。

ぎやう・ず（ギヨウ・ズ）・ズル・ズレ・ゼ・ジ・ゼヨ（他動、左變）［行］オコナフ。實物集、六、第七條「施ヲ行ずる人ハ、云云」沙石集、二、上、六、第一條「是ノ如ク行ずる者、生死ヲ離ルベシ」

きやう-すずめ（キヨウ-スズメ）（名）［京雀］〔江戸雀ト云フ語モ、同意〕京都市中ノ事ヲ、能ク知リ居ル者ノ渾名。京烏。藤花蔓（元祿）「訪ヒ寄ル寺ハ、五山十刹」世渡リニ、辻罵蘢カキノ、京雀」（柳亭筆記、一）

ぎやう-ずゐ（ギヨウ-ズイ）（名）［行水］〔修行人ノ行ヲスルニ、身ヲ淸ムルヨリ起レル語、水ハ、湯水ナリ、水風呂モ、湯水風呂ナリ〕（一）潔齋スルニ、湯浴スルコト。梁書、高僧傳「執使行水」明月記、建久九年二月二十日「御八講始也、云云、先是、行水、裝束了」太平記、四、一宮並妙法院二品親王事「先帝ヲバ、法皇ニナシ奉ルベシトテ、云云、毎朝ノ御行水ヲメシテ」（二）轉ジテ、唯、湯ヲ盥ニ盛リテ、身ノ汗ナドヲ洗ヒ拭フコト。湯ナラズシテ、水ナルヲ、みづぎやうずゐト云フ。嫗山姥（正德、近松作）一「焦熱地獄ノ水風呂モ、沸イテ御座ンス、ザット行水阿鼻地獄」

きやう-せい（キヨウ-セイ）（名）［匡正］タダシ、ナホスコト。史記、吳王濞傳「匡正天子、以安高廟」太平記、五、宣房卿二君奉公事「三諫不納、奉身以退、有匡正之忠、無阿順之從、是良臣之節也」

きやう-せい（キヨウ-セイ）（名）［强制］强ヒテ、オシトホスコト。强行。强制執行

きやう-せい（キヨウ-セイ）（名）［强請彊請］强ヒテ、請フコト。無理ニ、セガミ求ムルコト。漢書、高帝紀「漢王病臥、張良强請漢王、起行勞軍、以安士卒」

ぎやう-せい（ギヨウ-セイ）（名）［行政］政事ヲオコナフコト。官ノ政務ヲ執行スルコト。（立法、司法ニ對ス）

ぎやうぜい-がみ（ギヨウゼイ-ガミ）（名）［行成紙］〔大納言藤原行成卿（萬壽四年薨）ノ歌書ノ用紙ヲ摸シタルモノト云フ〕鳥子紙ニ、雲母ニテ模樣ヲ刑置ニシタルモノ。嬉遊笑覽、三、享保頃ヨリ、上方ノ錦雙紙ハ、行成紙ノ表紙ニテ二册モノ、毎春發行シテ、子供ノ翫トス」

ぎやうせい-くわんちやう（ギヨウセイ-カンチヨウ）（名）［行政官廳］行政事務ヲ取リ扱フ官廳。

ぎやうせい-さいばんしよ（ギヨウセイ-サイバンシヨ）（名）［行政裁判所］行政訴訟ノ裁判所。

きやうせい-しつかう（キヨウセイ-シツコウ）（名）［强制執行］裁判ノ決定シタル事件ヲ實行セシメムタメニ、權利者ノ申立ニ因リ、裁判所ヨリ、義務者ヲ强制シテ遂ゲシムルコト。

ぎやうせい-そしよう（ギヨウセイ-ソシヨウ）（名）［行政訴訟］行政官廳ノ處分ニ就キテ、取消、又ハ、變更ヲ請フ訴訟。

ぎやう-せき（ギヨウ-セキ）（名）［行跡行迹］行爲ノ痕迹。ミモチ。品行。行狀。漢書、歐陽傳「長岩行迹」保元物語、二、左府薨逝事「禪定院ニ參テ、有ツル御行跡ドモ、委シク語申ケレバ」

きやう-せん（キヨウ-セン）（名）［京錢］〔永樂錢ノ條ヲ見ヨ〕錢ノ、磨滅シ、缺損シタルモノノ

帶ッ[illegible]後ノ[illegible]、ウチヒラメヲ除ク」

きやうせん(キヨウセン) (名) [饗膳] 饗應ノ膳[illegible]ノ義。[illegible]

きやうぜん(キヨウゼン) (名) [饗饌] 饗應ノ[illegible]。[illegible]走ノ[illegible]

きやうせんせい(キヨウセンセイ) (名) [郷先生] (一)郷ニ學校アリ、退職シタルモノノ在郷ノ中、大夫ヲ取リテ太師トシ、士ヲ取リテ少師トス、而シテ教[illegible]ヲ[illegible]シム、故ニ校中ニアリテ、名ノケテ[illegible]先生ト云フ。(二)[illegible]ニテ、先生ト[illegible]人。又、村夫子

きやうそう(キヨウソウ) (名) [競走] 走リクラベ、カケクラベ。カケ[illegible]。[illegible]

きやうぞめ(キヨウゾメ) (名) [京染] 京都ニテ染出ス、ソノ染物ノ稱、賀茂川ノ水、殊ニ染色ヲ鮮ニストテ、京都ノ名物トス。[illegible]

きやうたい(キヨウタイ) (名) [狂態] 物狂ハシキ狀態。[illegible]

きやうだい(キヨウダイ) (名) [兄弟] あにト、おとうと。ケイテイ。兄弟。男ノ同胞。通ジテ、姉妹ノ同胞ニモ云フ。[illegible]

きやうだい(キヨウダイ) (名) [強大] ツヨク、大ナルコト。呂氏春秋、愼行篇「強大行之危、小弱行之滅」

きやうだい(キヨウダイ) (名) [鏡臺] カガミカケ。カガミタテ。今、專ラ箱造リニテ、上ニ鏡立アリ、中ニ櫛道具ヲ納ムベク作レルモノヲ云フ。[illegible]

ぎやうたい(ギヨウタイ) (名) [行體] (一)文字ノ、行書ノ體。(二)イデタチ。ナリフリ。[illegible]

ぎやうだい(ギヨウダイ) (名) [行第] 兄弟ノ次第。太郎、二郎、三郎、四郎ナドヲ云フ。[illegible]

きやうだいきん (名) [兄弟衾] [illegible]

きやうたう (名) [郷黨] [illegible] 其郷土ノ人人。論語、子路篇「宗族稱レ孝焉、鄕黨稱レ弟焉」

きやうだう (名) [嚮導] 導スルコト。先ニ立チテ、案内スル人。[illegible]

ぎやうだう (名) [行道] 佛法ニ、衆僧、列ヲナシテ、佛像、佛堂ノ周圍ヲ廻リアルクコト。天竺ノ俗ニ、崇ムル所ハ、右後ニ旋繞ス、歸敬ノ至ナリ。[illegible]三十七、鈴鹿ニ「堂、飾リハテテ、講師登ウノボリ、ぎやうだうノ[illegible]右ノ方ハ、阿彌陀堂ノ東ノ庇ニツキヌ」[illegible]明紀、四年十一月「馬、自、行ニ道於寺金堂ニ」

きやうたん(キヨウタン) (名) [驚歎] 驚キテ、感服スルコト。[illegible]太平記、二十四、[illegible]行、云云、吾山殊驚嘆也」

きやうだん(キヨウダン) (名) [郷談] 一京談モアリ一其鄕土ニ限リテ用キラルル言葉。クニコトバ。方言。[illegible] お庭物語(慶長)「他國ノ者ニハ通ゼズ、お國郷談ナリ」

きやうだん(キヨウダン) (名) [京談] ミヤコノコトバ。京都ノ言葉。實盛ノ川柳「京談ト、とざあ(奥州[illegible]、イサミアヒ[illegible]」

きやうだん (名) [杏壇] 「あんずノ木ニテ作リタル壇ノ義、下ノ出典ヲ見ヨ」學問所。講堂。[illegible]

ぎやうぢゆうざぐわ (名) [行住坐臥] 行くト、住まるト、坐るト、臥すト。佛道ニテ、コレヲ四ツノ威儀トシ、此四法ヲシテ、能ク規律ニ合セシメ、其道ヲ成就スルヲ旨トス。畢竟、日常ノ起居動作ヲ云フナリ。[illegible]

きやうぢよ(キヨウヂヨ) (名) [狂女] 狂氣シタル女。キチガヒヲンナ。[illegible]

きやうちよく(キヨウチヨク) (名) [强直] 身體ノ、固マリテ、手足ノ曲ゲラレヌヤウニナルコト。

きやうぢよらう(キヨウヂヨロウ) (名) [京女郎] 京都ソダチノ女。美人ノ意ニ云ヒ、東男ニ對セシメテ云フ。

きやうちりめん(キヨウチリメン) (名) [京縮緬] 縮緬ノ、京都ニテ織リ出セルモノ。[illegible]

きやうづか(キヨウヅカ) (名) [經塚] [illegible]

きやうづくゑ(キヨウヅクヱ) (名) [經机] 佛經ヲ載セ置ク小机。佛前ニテ、坐シテ讀ム用トス。[illegible]ノ、四脚ナルアリ、八脚ナルアリ。

きやうづつ (名) [經筒] 祈願ノタメニ手寫シタル經卷ヲ納ムル筒。多クハ、青銅製ナリ、稀ニ、鐵製、土製ノモノモアリ、圓筒形ニテ、蓋アリ、大抵、高サ一尺[illegible]内外、外面ニ、銘文ヲ鑄出シ、[illegible]書ス、コレヲ土中ニ埋メ、[illegible]塚ト云フ。

ぎやうてい(ギヨウテイ) (名) [行程] ミチノリ。行程。[illegible]勝寺領、大原庄ニ入、平家ハ伊賀、壬生野、平田ニアリ、[illegible]

きやうてう (名) [京兆] 〔京兆ヲ治ムル官ノ意ナル[illegible]〕[illegible]兆尹ト云フト、同趣」京職ノ唐名。左京大夫、右京大夫[illegible]。兆尹、又、左京兆、右京兆[illegible]

きやうてき (名) [强敵] [illegible]、大敵。[illegible]レ威、士卒用レ命、戰無二强敵一、攻無二堅陣一矣」[illegible]十五、品第四十二「强敵トハ、云云、度度勝利ヲ得タル名大將ヲ、强敵ト其ノ名ヲ呼ブル」

きゃう-てん (名) 【經典】 佛敎ノ經文。佛經。經。 無量義經「…典、究ニ暢要妙ニ」 法華經、序品「又見ニ菩薩而作ニ比丘ニ、獨處ニ閑靜ニ、樂ニ誦經典ニ」

きゃう-てん (名) 【驚顚】 〔驚愕顚倒ノ義〕 オドロキテ、サカシマニナルコト。オドロキ倒ルルコト。

きゃう-でん (名) 【敬田】 福田ノ條ヲ見ヨ。

ぎゃう-てん (名) 【仰天】 〔天ヲ仰ぎ向キテ笑フノ義〕 大笑スル形容ニ云フ語。 史記、滑稽傳「淳于髡仰ㇾ天大笑、冠纓索絕」

ぎゃう-てん (名) 【仰天】 〔驚顚ヲ、甚シク驚クニ因リテ濁ルナルベシ、(輕輕し、ぎゃうぎゃうし)驚クコトニ、動顚ト云フ語モアリ〕 甚シク驚クコト。タマゲルコト。驚愕。 保元物語、二、新院左府御沒落事「上皇ハ、東西ヲ失ウテ、御仰天アレバ」 宇治拾遺、十二、第四條「上人、聲ヲアゲテ、大ニ泣キテ、陰陽師ニ取リカカレバ、陰陽師心得ズ仰天シテ、祓ヲ中止シテ、コレハイカニト云フ」

きゃう-てん-どう-ち (句) 【驚天動地】 〔天地ヲ驚動セシム、古今集、序「力ヲモ入レズシテ、天地ヲ動カシ」〕 非常ニ、世間ヲ驚カス。 朱子語類「聖人做ㇾ事時、須ㇾ要ニ驚天動地ニ」「驚天動地ノ絕大事業」

きゃう-と (名) 【京都】 〔學山錄「稱ニ京師ニ爲ニ京都ニ、始ニ于司馬晉時ニ、蓋、景王、諱、師、故、晉人避ㇾ之也、故、陳壽三國志中、皆謂ニ洛陽、魏都ニ、爲ニ京都ニ」〕 天子ノ都。京師。 三國志、魏志、文帝紀「任城王薨ニ於京都ニ」

きゃう-ど (名) 【鄕土】 (一)其土地。 晉書、樂志、碣石篇「鄕土不ㇾ同」「鄕土ノ方言」「鄕土史」「鄕土地理」 (二)生レ故鄕。フルサト。「鄕土ニ還ル」

きゃう-ど (名) 【疆土】 國ノ統治權ノ及ブベキ區域。領地。 史記、五帝本紀「皆有ニ疆土ニ、以奉ニ先祀ニ」

きゃう-ど (名) 【彊弩】 〔說文「彊、弓有ㇾ力也」〕 力ノ强キ石弓。 史記、始皇本紀「長戟不ㇾ剌、彊弩不ㇾ射」 戰國策、燕策「彊弩在ㇾ前、銛戟在ㇾ後」 彊弩の末勢、魯縞を穿つこと能はずト云フハ、至リテ强キモノモ、其勢衰ヘテハ、何事モ爲スコト能ハズト云フ意。魯縞ハ、魯國產ノ細ソキ絹ナリ。 史記、韓長孺傳「彊弩之極矢、不ㇾ能ㇾ穿ニ魯縞ニ」云云、「非ニ初不ㇾ勁、末力衰也」

きゃう-ど (名) 【競渡】 フナクラベ。フナカケ。競漕。長崎ニテ、ぱいろんト云フ。其條ヲ見ヨ。 舊唐書、敬宗紀、寶曆二年三月「幸ニ魚藻宮ニ、觀ニ競渡ニ」 西宮記、臨時、八、宴遊「於ニ冷泉院ニ競渡負態、公卿候ㇾ物」

ぎゃう-とく (名) 【行德】 佛法修行ノ德。 古事談、六、亭宅諸道「先生八無ㇾ止行者ニテオハシケリ、云云、仍ニ先生之行德ニ、難ㇾ生ニ天子之身ニ」

ぎゃう-とく (名) 【行德】 〔下總國、行德ノ地、鹽ヲ製出ス〕 鹽ノ異名。 劇場新話(文化)上、方言の事「行德、鹽ノ事」

きゃう-ど-し (名) 【鄕土史】 鄕土ニ關スル歷史。

きゃう-と-しょしだい (名) 【京都所司代】 所司代ノ條ヲ見ヨ。

きゃう-ど-ちり (名) 【鄕土地理】 其地方ノ地理。

きゃう-な (名) 【京菜】 みづなニ同ジ。(東京)

きゃう-にん (名) 【杏仁】 杏ノ仁。藥用トスルニ云フ。 本草發明「杏仁、氣薄、味厚」

ぎゃう-にん (名) 【行人】 (一)僧ノ修行人。行者。 古事談、六、亭宅諸道「晴明者午、俗、那智千日之行人也」 (二)高野山ノ僧衆ノ稱。學侶ノ(三)ノ條ヲ見ヨ。 (三)乞食僧。 寬文二年九月、町觸「出家、山伏、行人、願人、町屋ニ宿借リ候ハバ、本寺ヨリ、弟子ニ無ニ紛段、證文ヲ取リ、其上、請人ヲ立テ、裏店ニ差置可ニ申候ニ(嬉遊笑覽、十二)「千日詣ノ行人」

ぎゃう-にん-べん (名) 【行人偏】 〔行ノ字ノ人偏ノ意〕 漢字ノ偏ニアルイ(小步也)ノ字ノ稱。卽チ、行、往、待、從、後、御ナドノ如シ。雙人旁 運步色葉集「イ」

きゃう-ねん (名) 【享年】 年ヲ享クルコト。存命ヘ得タル齡。トシバヘ。ヨハヒ。年齡。 蔡邕、郭有道碑「稟ㇾ命不ㇾ融、享年四十有二」

ぎゃう-ねん (名) 【行年】 〔字書「行、歷也、經也」〕 存命ノ齡。トシバヘ。年齡。 莊子、達生篇「有ニ張毅者ニ云云、行年四十、而有ニ內熱之病ニ以死」 同、天道篇「行年七十、老ニ斲輪ニ」 同、則陽篇「蘧伯玉、行年六十、而六十化」

きゃう-はい (名) 【狂悖】 心クルヒテ、人道ニモトル行ヒアルコト。 國語、周語「於ㇾ是乎、有ニ狂悖之言ニ、有ニ眩惑之明ニ、有ニ轉易之名ニ、有ニ過慝之度ニ」

きゃう-はい (名) 【向背】【嚮背】 (一)シタガヒツクコトト、ソムクコトト。嚮背。「嚮背ツネ無シ」 (二)おもてト、うらト。ひなたト、かげト。 朗詠集、下、山水「山成ニ向背ニ斜陽裏、水倒ニ廻流ニ迅瀨間」

きゃう-ばい (名) 【競賣】 或ル期日ヲ定メ、其日ニ於テ、多數ノ買手ヨリ、各自ノ定價票ヲ入レシメ、其最高、或ハ、最低價

ノモノニ賣ルコト。セリウリ。

きゃう-はう (名) 【襁褓】【繦緥】 ムツキ。 列子、天瑞篇「人生有ㇾ不ㇾ見ニ日月ニ、不ㇾ免ニ襁褓ニ者ニ」 淮南子、要略訓「武王崩、成王在ニ襁褓之中ニ、未ㇾ能ㇾ用ㇾ事」 史記、魯世家「成王少、在ニ強葆之中ニ」 吾妻鏡、一、治承四年十月廿一日「於ニ襁褓之內ニ、逢ニ父(義朝)喪ニ之後」云云

きゃう-ばう (名) 【强暴】【彊暴】 ツヨク、アラアラシキコト。又、其人。 史記、始皇本紀「禁ニ誅彊暴ニ、振ニ救黔首ニ、周定ニ四極ニ」

ぎゃう-ばう (名) 【仰望】 アフギ、ノゾムコト。心ヲ寄セテ、慕フコト。欽仰。 史記、封禪書「百姓仰望」

きゃう-はう-きん (名) 【享保金】 享保年間ニ鑄造セラレタル大判金、小判金、等ノ金銀貨ノ稱。 吹塵錄、十八、安政六未年六月廿九日、太田備後守殿御渡、享保金、百兩ニ付、代リ金貳百六拾六兩」

きゃう-はく (名) 【强迫】 强ヒテ、セマルコト。ムリジヒ。「弱者ヲ强迫ス」

きゃう-はて (名) 【京極】 きゃうごく(京極)ノ條ヲ見ヨ。

きゃう-はん (名) 【强半】 〔弱半ニ對ス〕 くゎはん(過半)ニ同ジ。 歐陽修詩「無窮興味閑中得、强半光陰醉裡消」 蘇軾詩「一年强半在ニ城中ニ」

きゃう-び-じゃ (名) 【響尾蛇】 一種ノ毒蛇。北亞米利加洲ニ產ズ、長サ數尺、敵ニ迫ラルレバ、尾ノ端ニアル角質ノ空胞ヲ震動セシメテ、枯葉ノ秋風ニスサブガ如キ音響ヲ發セシム。

きゃう-ひつ (名) 【匡弼】 タダシ、タスクルコト。匡輔。 後漢書、宋倫傳「數犯ニ嚴顏ニ、匡ニ弼

得失ニ 平治物語、一、信賴信西不快事「帝王ノ國ヲ治ムルコト、必ズ匡弼ノ助ケニ由ル」

きゃうふ (名) 狂夫 キチガヒ。狂人。

きゃうふ (名) 驚怖 オドロキ、オヅルコト。

ぎゃうぶ (名) 行歩 アユムコト。アルクコト。歩行。大筋力(行歩平正、其疾如風」平家物語、四、大……タク候ヘバ」

きゃうふう (名) 强風 ツヨク吹ク風。

きゃうふう (名) 京風 京都ノ風俗。ミヤコノテブリ。

きゃうふう (名) 狂風 クルヘルカゼ。

きゃうふう (名) 驚風 小兒ノ病……ニ熱ヲ生ジ、體ニ痙攣ヲ起スモノ。

きゃうぶく (名) 輕服 近親ナラヌ喪ニ服スル喪服。……宮ノ御きゃうぶくノホドハ、ナホカ……

ぎゃうぶきゃう (名) 刑部卿 ウタヘノツカサ。ウタヘタダスツカサ。古ヘノ八省ノ一、訴ヲ正シ、罪ヲ行フ官。……部省(當ニ唐刑部ニ)」

きゃうぶん (名) 狂文 滑稽ノ文。戲文。

きゃうへい (名) 强兵 兵力ノ充實シテ、强キコト。……攻取ニ「富國强兵」

きゃうべん (名) 强辯 强ヒテ、言ヒハルコト。……

きゃうほ (名) 匡輔 タダシ、タスクルコト。……任ニ、其人ヲ得ル時ハ、天下自ラ治ルト」

ぎゃうほふ (名) 刑法 けいはふ(刑法)ニ同ジ。……度大路ヲ渡サルルノ條、刑法罪トゾ、人、傾申ケル」

きゃうま (名) 京間 間ノ條ヲ見ヨ。

きゃうまん (名) 驕慢 驕リテ、他人ヲ侮ルコト。……

きゃうみゃう (名) 卿名 一公卿ノ名稱、其父ノ官位ヲ採リテ稱セシナルベシ」……三位ノ條ヲ併セ見ヨ。……

きゃうむ (名) 鄕夢 他鄕ニアリテ、故鄕ノ事ヲ夢ミルコト。白氏文集、二十、早發……

きゃうもん (名) 經文 佛經ノ文章。

……ヲ銘フニ、云云」

きゃうもん (名) 狂文 ひゃうもん(平文)ノ條ヲ見ヨ。

きゃうやき (名) 京燒 京都ヨリ產出スル、スベテノ陶器ノ稱。粟田燒、淸水燒、……各條ニ注ス。

きゃうやく (名) 狂藥 酒ノ異名。キチガヒミヅ。……

きゃうよう (名) 饗應 饗ノ字ノ漢音ニ……饗應ニ同ジ。枕草子、五、四十五段「六位ノ藏人、……云云、大饗ノヲリノ甘栗ノ使ナドニ參リタルヲ、モテナシ、……「知リタリケル人ノアリケル家ニ行キタレバ、見ツケテ、イミジクきゃうようシテ」

きゃうらい (名) 敬禮 けいれい(敬禮)ニ同ジ。……物語、一、早馬……ノ合戰、事故ナク討勝セ給ヘ」

きゃうらく (名) 京洛 ミヤコ。京都。……リヌトイヘドモ、金剛山ヨリ引キ返シタル平氏」

きゃうらく (名) 競落 競爭入札ニテ、落札スルコト。セリオトスコト。

きゃうらく (名) 享樂 タノシミヲウクルコト。

きゃうらん (名) 狂亂 精神ノ狂ヒ亂ルルコト。氣ノチガフコト。……

きゃうらん (名) 狂瀾 狂ヒタル大波。……既倒ニ……

きゃうり (名) 鄕里 生レ故鄕。フルサト。……

きゃうり (名) …… 夫不離妻也」夫ガ、妻ヲ呼ブ稱。……

ぎゃうりき (名) 行力 佛行ノ功力。……

きゃうりつろん (名) …… (三藏)ノ條ヲ見ヨ。

きゃうりん (名) 杏林 [下ノ出典ニ見ユ] ……

きゃうりゃう (名) 强梁 ……キヲ貪フ」力强キコト。威ニ任セテ、……小人强梁以力」

きゃうれい (名) …… ……ノ儀式。……

ルジマウケ。フルマヒ。馳走。

ぎやう-れつ (名) 〔行列〕 (一)人人ノ、立チナラブコト。列ヲナシテ行クコト。禮記、檗記篇「行列得₂正焉、進退得₂齊焉₁」 (二)特ニ、行幸、供奉ナドノ行列。鹵簿 儀衞 通鑑、隋文帝紀「諸王侯將相等、以₂次行列₁」 太平記、十一、還幸事「路次ノ行裝、行列ノ儀式、前前ノ臨幸ニ事變ハリテ、百司ノ守衞、嚴重也」

きやう-れん (名) 〔鏡奩〕 カガミノス。カガミバコ。後漢書、陰皇后紀「視₂太后鏡奩中物₁、感動悲涕」

きやう-わく (名) 〔誑惑〕 タブラカシ、マドハスコト。ダマシ、アザムクコト。後漢書、皇甫嵩傳「轉相誑惑」 盛衰記、十八、龍神守三種心事「文覺全ク、妻子ヲ養ハン爲ニ非ズ、誑惑不善ノ勸メニ非ズ」

きやう-わらは (名) 〔京童〕 次條ヲ見ヨ。

きやう-わらはべ (名) 〔京童部〕 〔わらはべハ、童子ニ限ラズ、若者ノ意、わらは(童)ノ條ヲ見ヨ〕 京都市中、無賴ノ若者ドモ。キヤウワラハ。キヤウワランベ。宇津保物語、藤原君廿四「博打、京わらは、數知ラズ集リテ、一ノ車ヲ奪ヒ取ル」京わらはべ、車、奪ヒタリ」 今昔物語、十九、四十話、撿非違使忠明「京童部ト諍ヲシケリ、京童部、刀ヲ拔キテ、忠明ヲ立籠メテ、殺サムトシケレバ」 盛衰記、二十二、衣笠合戰事「若者共ガ軍ノ樣コソヲカシケレ、云云、京童部ノ向礫、河原印地ノヤウナリ」 謠曲、丹後物狂「撥ナド申ス事ハ、鋒ノ本ニテ囃ス、京わらんべノワザニテコソ候へ」

きやう-わらんべ (名) 〔京童部〕 前條ヲ見ヨ。

きやう-ゐき (名) 〔境域 疆域〕 土地ノサカヒ。境界。晉書、地理志「表₂提類₁而分₂區宇₁、判₂山河₁而考₂疆域₁」

きやう-ゑん (名) 〔鄉園〕 故鄉ノ田園。フルサト。韋莊詩「鄉園不₂可₁問、禾黍正離離」

きや-きや (副) 〔くよくよノ條ヲ見ヨ〕 危ミテ、心ヲ痛ムル狀ニ云フ語。筑波集(寬永)「胸ハきやきや、比叡ノ山影」旅人ヤ、波ノ難儀ニ、あふみ舟」(逢ふ、近江)

きやく (名) 〔客〕 (一)マラウド。訪問レ來レル人。客人。客。狂言記、子盜人「宵ニ、客ガア、タト見エタ」 (二)商家ニ、工業ニ、スベテ、物買ハレ、又ハ、注文セラルル人ノ稱。顧客 (三)芝居、寄席、見世物、ナドヨリ、見料ヲ拂ヒテ入ル見物人ヲ云フ語。觀客 (四)汽車、電車、馬車、船、ナドニ、賃錢ヲ出シテ乘ル人ノ稱。乘客 (五)旅。旅行。「客僧」客舍」

きやく (名) 〔格〕 りつりやうきやくしき(律令格式)ノ條ヲ見ヨ。

きやく (接尾) 〔脚〕 脚アル器ヲ數フル語。內匠寮式「榻一脚」「机一脚」椅子三脚」

き-やく (名) 〔規約〕 規則ニ定メタル約定。

ぎやく (名) 〔逆〕 (一)正シキニ反スルコト。理ニ戾ルコト。サカフコト。(順ニ對ス) 書經、大禹謨篇「從₂逆凶₁」 易經、上象傳「舍₂逆取₁順」 女殺油地獄(享保、近松作)中「ぎやくナ弟ニ似ヌ心、順慶町ノ兄、河內屋太兵衞」 (二)君父ニ叛クコト。「逆臣」逆賊」 (三)サカシマナルコト。ウラハラ。倒 賈誼、弔₂屈原₁賦「賢聖逆曳兮、方正倒植」

ぎやく (名) 〔瘧〕 ワラハヤミ。オコリ。瘧疾。世說、言語篇「主人問₂病、曰、患₂瘧也₁」

ぎ-やく (名) 〔義譯〕 いやく(意譯)ニ同ジ。

ぎやく-あく (名) 〔逆惡〕 道理ニモトリテ、ワルキコト。惡逆。周禮、地官、司徒、下「三曰、孝德以知₂逆惡₁」 太平記、十二、公家一統政道事「高時法師、逆惡ヲ取テ、高氏ガ威勢ノ上ニ加フル者ナルベシ」

きやく-あし (名) 〔客足〕 〔足ハ、步ミ來ル意〕 商店ニ、客ノ、物買ヒニ來ルコト。芝居、寄席ニ、見物人ノ入ルコト。略シテ、あし。來客

ぎやく-い (名) 〔逆意〕 (一)逆心ニ同ジ。(二)人ノ意ニ逆フコト。反抗スルコト。荀悅、昌邑王論「犯₂顏逆₁意」

きやく-うけ (名) 〔客受〕 客人ノ氣受。

ぎやく-えん (名) 〔逆緣〕 〔順緣ニ對ス〕 (一)佛經ノ語。順當ニアラズシテ、佛ニ緣ヲ結ブコト。太平記、廿四、壬生地藏事「彼レハ依₂順緣₁今生ニ助₁命、是レハ依₂逆緣₁來生ノ得₂値遇₁」 (二)他ノ事ノチナミニヨリテナスコト。謠曲、隅田川「都ノ人モゴザアリゲニ候、逆緣ナガラ、念佛ヲ御申シ候」

きやく-か (名) 〔却下〕 願書ナドヲ、受付ケズ、下ゲモドスコト。

きやく-か (名) 〔脚下〕 アシモト。足下。

ぎやく-かう (名) 〔逆行〕 (一)順序ニ逆ヒテ行フコト。(二)倒ニ行クコト。戾ルコト。孟子、滕文公、下篇「水逆行、氾₂濫於中國₁」

ぎやく-きやう (名) 〔逆境〕 順境ナラヌコト。フシアハセ。宋史、羅點傳「夫闔閭匹夫、處₂閭門逆境₁、容₂有₂縱₁酒自放者₁」

きやく-くわん (名) 〔客觀〕 かくくわん(客觀)ニ同ジ。主觀ノ條ヲ見ヨ。

きやく-ざ (名) 〔客座〕 來客ノ爲ニ設ケタル座席。

ぎやく-ざい (名) 〔逆罪〕 惡逆ヲ犯シタル罪。盛衰記、廿四、佛法破滅事「誰レカ佛法ヲ蔑如ニシテ、逆罪ヲ相招ク」

きやく-ざしき (名) 〔客座敷〕 家ノ內ニ、特ニ、來客ニ應接スルニ設ケタル座敷。客間。客室

ぎやく-さつ (名) 〔虐殺〕 人、獸ナドヲ、ムゴタラシク殺スコト。史記、秦始皇紀「貪戾無₂厭、虐殺不₁已」

きやく-さん (名) 〔客棧〕 〔廣韻「棧、閣也」〕 ハタゴヤ。旅店。客舍。

ぎやく-さん (名) 〔逆產〕 サカゴ。胎兒ノ生ルルトキ、頭ヨリ順ニ出デズシテ、臂、手、足、肩、背ナドヨリ出ヅルコト。倒產

ぎやく-し (名) 〔虐使〕 シヘタゲ、ツカフコト。コキツカフコト。「奴婢ヲ虐使ス」

ぎやく-しう (名) 〔逆修〕 ぎやくしゆノ條ヲ見ヨ。

きやく-しつ (名) 〔客室〕 キヤクザシキ。客間。

ぎやく-しつ (名) 〔瘧疾〕 ワラハヤミ。オコリ。瘧。禮記、月令篇「孟夏之月、寒熱不₂節、民多₂瘧疾₁」

ぎやく-しふ (名) 〔逆襲〕 サカヨセ。ムカヘ、ウツコト。

きやく-しん (名) 〔隔心〕 ヘダツルココロ。打解ケヌ心。交ハリノ中ニ、障ノアルコト。隔意。庭訓往來、十二月「御上洛之處、不₂預₂音信₁候條、密契無₂其甲斐₁、隔心之至」

きやく-じん (名) 〔客人〕 マラウド。客トナリテ來レル人。校量功德經「奴婢客人」 曾我物語、十一、母虎を具して箱根へのぼる事「アレハ、

イツクヨリノきゃく人ニヤ、ト問ヒケレバ」

きゃく-じん (名) [客人] 〔客神ナルベキカ〕 神社ノ別殿ニ祀レル神。相殿ニ對ス。末社ノ類。日吉山王神社ノ二十一社ノ中ニ、客人[illegible]アリ、[illegible]ナドニテ祭ル、然レドモ、女神ナリト云フ。白峯寺縁起「天王ノ社、云云、正面門客人ニハ、爲義、爲朝父子ノ[illegible]ノ作リタリ」[illegible]十六、[illegible]十六」

ぎゃく-しん (名) [逆臣] 君ニ叛キ、或ハ、弑シナドシタル者。逆臣。逆賊。[illegible]相換入道」

ぎゃく-しん (名) [逆心] 反クココロ。謀反ノ心。逆意。[illegible]心ニ

きゃく-しゅ (名) [客舎] [illegible]客ノ宿ル家。旅宿。

きゃく-しゃ (名) [客車] 汽車ノ、乘客ノミヲ載スルモノ。(貨車ニ對ス)

ぎゃく-じゃう (名) [逆上] 病ノ名、[illegible]

ぎゃく-しゅ (名) [逆修] 〔説文「逆、迎也」〕 (一)生前ニ、逆メ、死後ノ佛事ヲ修スルコト。又、[illegible]トモ云フ。[illegible]下[illegible]逆、度也、[illegible]先[illegible]度之也[illegible]アリ、百練抄、正暦五年十月二日「關白(道隆)於東三[illegible]

きゃく-しょく (名) [脚色] (一)芝居ノ役者ノ打扮[illegible](女形)丑、(敵役)淨、(滑化形)末、(荒事師)貼具、[illegible]死ンデ、若者、其後[illegible]事ニ云フ[illegible]小[illegible]、[illegible]日月[illegible]

[illegible]、天狗[illegible]、一大戰場、[illegible]、湯武末、[illegible]古今來[illegible]色[illegible]、以分[illegible]君子小人[illegible](二)[illegible]シテ、芝居狂言ノ仕組、[illegible]色ハ、狂言ノ[illegible]ナリ、[illegible]みナリ」[illegible]ヲ云フ[illegible]脚色ヲ書キタルモノヲ、脚本トモ云フ。

きゃく-すぢ (名) [客筋] (一)客ノ方。「きゃくすぢノ注文」(二)客種。

ぎゃく-すゐ (名) [逆水] 逆流スル水。

ぎゃく-せい (名) [虐政] 虐グルマツリゴト。暴虐ナル政治。苛政。[illegible]

きゃく-せん (名) [脚船] ハシケブネ。

きゃく-ソウ (名) [客僧] 〔客ハ、旅ノ意〕旅僧ニ同ジ。[illegible]「南都東大寺建立ノタメニ、國國へ客僧ヲ遣ハサレ[illegible]」

ぎゃく-ぞく (名) [逆賊] 君父ニ叛キ、又ハ、君父ヲ弑シナドシタル惡人。逆臣。

きゃく-たい (名) [客對] 客人ニ對面スルコト。

ぎゃく-たい (名) [虐待] 〔優待ニ對ス〕 虐ゲ仕向クルコト。ムゴキトリアツカヒ。

きゃく-たう (名) [脚湯] 脚湯。[illegible]衛ニ、兩脚ヲ熱湯ニ浸スコト。血ノ上昇ヲ引下ゲ、又ハ、發汗セシムルナドニスルナリ。

きゃく-だね (名) [客種] 客人ノ品質。[illegible]客ノ種類。[illegible]キャクスヂ。[illegible]客種ガ良イ

ぎゃく-てう (名) [逆潮] (一)サカラフウシホ。上[illegible]ニ向ヒテ[illegible]ニ云フ。(二)ウシホニ、サカラフコト。[illegible]

ぎゃく-てがた (名) [逆手形] さいてがた(再手形)ノ條ヲ見ヨ。

きゃく-でん (名) [客殿] 貴族ノ邸、寺院ナドノ、客對ノ間。對面所。客座敷。小右記、長和[illegible]年四月九日[illegible]、大[illegible]二年正月十日、大夫史[illegible]中[illegible]客殿[illegible]

ぎゃく-と (名) [逆徒] 惡逆ノ族。謀反ノトモガラ。逆徒。[illegible]二、[illegible]五年[illegible]二月廿[illegible]日[illegible]也」

ぎゃく-と (名) [逆睹] 逆メ、見取ルコト。物事ノ行末ヲ、前以テ推量スルコト。[illegible]也」

きゃく-どめ (名) [客留] [illegible]行場ナドニテ、來客ノ入ルヲ止ムルコト。滿員ノタメニ、客ヲ謝絶スルコト。「大入リ客留」

きゃく-ひき (名) [客引] 客引(やどひき)ニ同ジ。

きゃく-ぶ (名) [脚部] アシ。膝ヨリ下ノ部。

ぎゃく-ふう (名) [逆風] ムカヒカゼ。[illegible]風ニ對ス)[illegible]

きゃく-ぶん (名) [客分] 客ノ身分トシテ取扱フコト。又、其人。全クノ臣下ナラヌ、又、家族ナラヌ意ナドニ云フ。

きゃく-ほん (名) [脚本] 脚色ノ條ヲ見ヨ」 芝居狂言ノ、スヂガキ。

きゃく-ま (名) [客間] 客座敷ニ同ジ。客室。

ぎゃく-もどり (名) [逆戻] 行クベキモノ、行キ得ズシテ、戻ルコト。

ぎゃく-ゆにふ (名) [逆輸入] 〔輸出ノ語原ヲ見ヨ〕 輸出シタル貨物ノ、逆戻リトナルコト。

きゃく-らい (名) [客來] 客ノ、訪ヒ來レルコト。來客。[illegible]

ぎゃく-らう (名) [逆浪] サカマクナミ。ゲキラウ。[illegible]太平記、十七、山門[illegible]

ぎゃく-らん (名) [逆亂] 反逆ノイクサ。逆亂。

ぎゃく-りう (名) [逆流] 水ノ、サカサマニ流ルルコト。[illegible]

きゃく-りき (名) [脚力] きゃくりょく(脚力)ニ同ジ。

きゃく-りき (名) [脚力] 飛脚。[illegible]くノ條ヲ見ヨ) 盛衰記、廿六、宇佐公通脚力事「宇佐大宮司[illegible]脚力ト[illegible]」

ぎゃく-りん (名) [逆鱗] げきりんヲ見ヨ。

ぎゃく-りょ (名) [逆旅] げきりょヲ見ヨ。

きゃく-りょく (名) [脚力] アシノチカラ。歩行ノ力。[illegible]

きゃく-りょく (名) [脚力] 〔脚ヲ役丁、人足ト云フガ如シ〕 早使。飛脚。[illegible]六、[illegible]日[illegible]下候」

きやふん (名) [illegible]ニ同ジ。[illegible]笛(安永、小栗百龍)「奥州、岩城ニテ、所ノ祭ニ鳴ル笛アリ、指ニテウテバ、きやふんト鳴ル故、其ノ名ヲきやふんトイフナリ、此ノ笛ヲ、江戸ノ子供、モテ遊ビタリ、鳴ラス音ノ、ぴやぼんトモ聞コユルカラ、ぴやぼんト稱ヘタリ」

きゃしゃ (名) 花車 華奢ノ轉カトモ云フ。(一)奢ノ、美キコト。(二)形狀ノ纖細ニテ、雅ナルコト。笠櫓三重帷子(享保、近松作)上「三人ノ子ノ親デモ、きゃしゃ、骨細ノ生レツキ」

きや・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) 消 〔消ゆノ他動、冷ゆ、ひやす。燃ゆ、もやす〕 消ユルヤウニス。消ス。 康資王母集「時シマレ、今日シモ雪ノ、降リ積ムハ、罪ヲきやさム、カゴトナリケリ」

キャスチング-ボオト (名) 〔英語、Casting vote.〕 兩黨ノ間ニ立チテ、向背ノ樞機ヲ握ルコト。斷事之權

き-やすめ (名) 氣休 姑ク、他ノ心ヲ慰メ安ンズルコト。慰安。 假字文章娘節用(天保、曲山人補綴)一、上「ソレハ本ノ、氣やすめデ御座リマセウ」

キャタツ (名) 脚榻 〔脚榻子ノ宋音、火榻子モアリ、禪家ノ語、楪子ヲちゃつトモ云フ、唐韻「榻、土盍切」說文「牀也」〕 (一)フミダイ。アシツギ。 庭訓往來、十月「脚榻」林逸節用集、財寶「脚榻」史記抄(文明二十九)「客殿ノ天井ニ、フラフラトサガリテアルヲ、云云、脚踏ハトドカズ、梯子ハ取出スニモ及バズ、云云」 (二)今、專ラ、木製ニテ、高キ四脚ヲツケ、淺キ海ニ立テテ、乘リテ、漁スル具ノ名トス。

きゃつ (代) 彼奴 かやつ(彼奴)ノ急呼、其條ヲ見ヨ。 保元物語、二、義朝白河殿夜討事「一定彼奴ハ、引キ設ケテゾ云フラン」

きゃっ-きゃ (感) (一)小兒ナド、戲レ狂ヒテ、騷グニ發スル聲。(二)猿ノ、叫ブ聲。小兒語ニ、名詞トシテ、猿ノコトヲ云フ。

きゃ-はん (名) 脚絆 脚巾 脛ニ絡フ衣。ハバキ。脛衣 盛衰記、十九、佐佐木取馬下向事「脛巾、下帶、下、脚半」合類節用集、服食門「脚絆」

キャピタル (名) 〔英語、Capital letter.〕 (一)橫文字ノ頭字。標頭字 (二)一國ノ都。(Capital city.) 首府 (三)本手。(Capital stock.) 資本

キャビネ (名) 〔英語、Cabinet-photograph. ノ略〕 寫眞ノ乾板ノ、縱六吋ト二分ノ一、橫四吋ト四分ノ三ノモノ。

キャビン (名) 船室 〔英語、Cabin.〕 軍艦、汽船ノ內ノ部屋。

きゃ-ふ (名) 脚布 婦人ノおしまき。フタノ。ユグ。 庭訓往來、十月「脚布」全浙兵制、附錄、日本風土記「婦人下身亦衣二裙福一名曰二加福一」

キャプテン (名) 〔英語、Captain.〕 船長。艦長。

⁂ぎゃふん (副) 論破ナドセラレ、壓シ潰サレタル狀ニ云フ俗語。「ぎゃふんトマキッタ」

キャベエジ (名) 玉菜 〔英語、Cabbage.〕 玉菜。訛リテ、キャベツ。

キャベツ (名) 玉菜 前條ノ語ノ訛。

キャベツ-まき (名) 玉菜卷 〔前前條ヲ見ヨ〕 西洋料理ノ名。肉ヲ叩キテ、味ヲツケ、玉菜ノ葉ニ卷キテ、蒸シテ煮タルモノ。

ギヤマン (名) 金剛石 (一)であまんてノ訛。其條ヲ見ヨ。(二)硝子ノ異名。(現今ノがらす)

き-やみ (名) 氣病 絕エズ氣遣ヒスルヨリ成レル病。心氣病。鬱憂病。 夕霧阿波鳴渡(寶永、近松作)上「身ガ事ヲ氣病ニシテ、命アブナシト聞及ビシガ」

きゃん (名) 俠 「きゃんぴら娘ノ略轉シタル語カ、倭訓栞、きゃん「俠ノ唐音ナルベシ」」 キンピラムスメ。ハスハムスメ。オキャン。オテンバ。

きゃん-きゃん (感) 犬ノ、擊タレナドシテ啼クニ發スル聲。

キャン-チン (名) 香椿 香椿ノ條ヲ見ヨ。

き-やんま (名) 黃蜻蛉 古名、キエンバ。今、又、キトンボ。とんばうノ一種。やんまヨリ小サクシテ、紅黃ナリ、初秋ニ多ク飛ブ、聖靈祭ノ頃ナレバ、しゃうりゃうとんぼノ名モアリ。胡黎

キャラ (名) 伽羅 〔梵語、伽羅惡揭魯(Kāla-aguru.)ノ略、きゃらハ、黑ノ義、あぐるハ、沈香木ナリト云フ、黑沈香木ノ義〕 (一)熱地ニ產ズル木材。其心ノ枯レタルヲ舶來セルヲ、香トス、沈香ノ一種ナリ、黑ク堅キヲ上品トス。奇南香 香道ニ、六國香ノ一トシ、新伽羅、古伽羅トテ、分チテ用キル。 陀羅尼集經「伽羅樹、華嚴經云、黑沈香」 文政ノ川柳「世ニパット、薰ルハ焚イタ、伽羅ノ下馱」 (二)伽羅ノ香ヲ賞スル事、盛ンナリシ世ニ、伽羅ハ、賞美ト云フ意ニ用キラレタリ。 鳥籠物語(正保)「是レモ、メデタキ御代故ト云フニ、ぶん(仁、沈)ノ道トヤ申スベキ、伽羅ノ道トヤ褒メ申サム」 隱囊(延寶)「立姿、世界ノ伽羅ヨ、今日ノ春」袖鏡レシ、ドコノ伽羅樣、梅ノ花」(女ノ句ナリ) 嬉遊笑覽、九「昔ハ何ニヨラズ、よきものヲ賞メテ、伽羅ト云ヘリ、云云、近キ頃マデモ、俗語ニ、つやを言ふト云フコトヲ、伽羅を言ふナド云ヘリ、通りもののよき男ト云フコトヲ、金看板伽羅の男ト云フ、又、昔ノ浮世草紙ニ、伽羅女ト云フ題號ナドモアリ、同意ナリ、然ラバ、伽羅の下馱ト云フモ、唯、よき下駄ヲ稱ヘタルナリ」 用捨箱、中「予ガ幼キ頃ノ老人ニハ、今ノ俗、世事をいふト云フ事ヲ、伽羅をいふ、世事ヲ、伽羅香ト云フ事アリシ」 (三)遊里ニテ、金錢ノ隱語。 吉原雀嘯記(寬文)「富メル人ヲ指シテ、伽羅多キ人ト云ヘリ、コレハ、金銀ヲ云ヘリ、金銀トハ、卑シケレバ、隱語ニ、伽羅ト云ヒシナリ」 天明五年ノ繰人形ノ淨瑠璃ニ「伽羅千代萩」ト云フアリ。

きゃら-きゃら (感) 呵呵 笑フ聲。からからと(呵呵)ヲ見ヨ。

キャラコ (名) 〔英語、Calico. 元、印度ノCalicut. 港ヨリ輸出セルヲ、葡萄牙人、Colico. ト稱シタルナリト云フ〕 舶來ノ布ノ名。金巾ニ似テ、地、薄ク、織目細カニシテ、光澤多シ。

キャラ-の-あぶら (名) 伽羅油 〔伽羅ハ、佳キト云フ意、きゃらノ條ノ(二)ヲ見ヨ〕 髮ニツクル油。正保、慶安ノ頃、匂油ニ次ギテ始マル、胡麻ノ油ニ、生蠟ト丁子トヲ加ヘテ、煎ジ煉リテ作ル、糊ノ如クニテ、黃ナリ。 玉海集(明曆)「薰レルハ、伽羅の油カ、花ノ露」(江戶、常盤橋側兩替町ノ下村山城ニテ商ヒタリ)

キャラ-の-まくら (名) 伽羅枕 木枕ノ、上ニ透アリ、引出シアリテ、其內ニ、香爐ヲ入レ、伽羅ヲタクヤウニ作レルモノ。眠リナガラ聞グナリ。

キャラ-ぶき (名) 伽羅蕗 〔色、黑ケレバ云フカ〕 蕗ノ莖ヲ、醬油八分、味醂二分ノ割合ニテ、蕃椒ト共ニ煮染メタルモノ。

キャラ-ぼく (名) 伽羅木 水松ノ、矮キモノ。庭ニ植ウルニ云フ。七蘇木 香王代一覽、享保十四年、筑後國主、有馬玄蕃頭領地、ク

當日山中ニ在リシ、[illegible]ノ役ノ者ズ」

キャラメル（名）〔英語、Caramel.〕砂糖ヲ極熱セシムレバ生ズル、褐色ノモノ。西洋菓子ノ製造ナドニ用キル。

きやり（名）〔木遣〕（一）重キ材木、大石ナドヲ、多人數ニテ送リ遣ルコト。（二）次[illegible]ノ略。[illegible]三「此ノ節ヲ、山路ガ木やりデ引キ上ケヨ」

きやりうた（名）木遣歌。木遣ニ、多人數ノ力ヲ勵ムル二歌フ歌。大石、家屋、山車ナドヲ曳キ、又ハ、作事、[illegible]ナド、皆[illegible]ノ唱シテ、きやり[illegible]。[illegible]セテ、此大石ヲ、即時ニ、御所ヘ引付ケサセケリ」[illegible]「[illegible]重動力之歌也」

きゆ（名）〔[illegible]〕他人ノ[illegible]ノ[illegible]。オサトシ。貴命。

きゆ（名）〔[illegible]〕[illegible]ヲ、ウカガヒ、ネラフコト。[illegible]神代紀、上「[illegible]有[illegible]之志」歟、云云、敢[illegible]」

きゆ（名）〔覬覦〕〔正韻「覬覦、欲レ得也」〕[illegible]、希望也。得ベカラザル事ヲ、得ムト欲スルコト。多クハ上ニ向ヒテ非望ヲ企ツル意ニ云フ。[illegible]

き・ゆ・ユル・ユレ・エ・エ・エヨ（自動、下二）〔消〕（一）融ケテ、無クナル。（雪、霜ナド）古今集、十一、戀、一「春タテバ、きゆる氷ノ、殘リナク、君ガ心ハ、我レニ融ケナム」（二）火、盡キ絶ユ。〔[illegible]火ニ、燈火ニ〕滅[illegible]火モきえニケリ」（三）失ス。無クナル。亡ブ。消失。古今集、十、物名[illegible]

[illegible]〔同〕死ヌ。消エ入ル。死。[illegible]積ル、雪トダニ、きえニシ人ヲ、思ハマシカバ」

きゅう（名）〔宮〕（一）ミヤ。宮殿。（二）五音ノ一。じふにりつ（十二律）ノ條ヲ見ヨ。（三）じふにきう（十二宮）ノ條ヲ見ヨ。

きゅう（名）〔弓〕（一）ユミ。[illegible]（二）ユンダケ。射候ノ距離ニテ、六尺、又、地ノ測量ニテ、八尺。[illegible]

キュウ（名）〔英語、[illegible]〕玉突ニ用キル棒。木製ニテ、尖端ヲ、革ニテ包ミタルモノ。

ぎゆう（名）〔義勇〕（一）義ニ勇ムコト。[illegible]（二）本務ナラヌニ、自ラ進ミ出デテ、公共ノタメニ力ヲ盡スコト。[illegible]勇兵」

きゅうえき（名）〔宮掖〕〔掖ハ、宮門ノ左右ノ小門ナリ〕皇居。宮禁。宮闕。[illegible]

きゅうかう（名）〔躬行〕身ニ、ミヅカラ行フコト。我ガ身ニ實行スルコト。論語、[illegible]

きゅうき（名）〔[illegible]〕[illegible]（一）ビンバフガミ。[illegible]之、各在二掖二」（二）イキスダマ。

きゅうきん（名）〔宮禁〕皇居。宮闕。宮掖。宮殿。[illegible]使ニ外舍久在二内省二 宋書、殷景仁傳「密二通宮禁二」

きゅうきゃう（名）〔窮境〕困窮シタル場合。フシアハセ。窮地。「窮境二陷ル」

きゅうきゅう（名）〔芎藭〕川芎ニ同ジ。其條ヲ見ヨ。

きゅうきょく（名）〔窮極〕キハマリ。ハテ。ドンヅマリ。曹植詩「天地無二窮極二」

きゅうく（名）〔窮苦〕[illegible]

きゅうくつ（名）〔窮屈〕身心ノ、思ヒノママニ動キ得ヌコト。身ノ、安樂ナラヌコト。[illegible]宮[illegible]野落葉「終夜ノ禮拜ニ、御窮屈アリケレバ、御肱ヲ曲ケテ枕トシテ、暫ク御マドロミアリケル」

きゅうけい（名）〔弓形〕ユミナリ。彎曲。

きゅうけい（名）〔宮刑〕〔書經、呂刑篇「宮辟」注「宮、淫刑也、次死之刑也」〕[illegible]支那ニテ、古キ刑罰。又、宮[illegible]男子ハ去勢シ、女子ハ幽閉ト云ヒテ、一室ニ禁錮ス。五刑ノ條ヲ併セ見ヨ。[illegible]

きゅうけつ（名）〔宮闕〕[illegible]宮門ニ同ジ。宮掖。宮禁。宮城。[illegible]

きゅうこう（名）〔窮[illegible]〕窮シタルアダ。

[illegible]

きゅうこん（名）〔[illegible]〕[illegible]

きゅうさう（名）〔穹蒼〕〔穹ハ、其形、中央隆クシテ、四方ニ垂下セルコト、恰モ、弓ヲ張リタル如シ」天。オホゾラ。[illegible]

きゅうさく（名）〔窮策〕[illegible]「[illegible]有[illegible]力、以[illegible]」

きゅうし（名）〔弓矢〕（一）ユミト、ヤト。弓箭。詩經、大雅、生民之什、公劉篇「弓矢斯張、干[illegible]」（二）武門。武家。[illegible]

きゅうし（名）〔宮仕〕ミヤヅカヘ。[illegible]テ世ニ立退候ハバ、朝懇ニモ申請テ御宮仕申ベシ、[illegible]ノ所存ニアラズト申サレタリ」

きゅうしつ（名）〔宮室〕（一）帝王ノ宮殿。（二）[illegible]

きゅうじん（名）〔宮人〕ミヤビト。[illegible]ニ同ジ。[illegible]

きゅうしゃう（名）〔宮相〕宮内大臣ノ異稱。

きゅうしゃう（名）〔[illegible]〕[illegible]ニ同ジ。[illegible]「時[illegible]宮城二」

きゅうしゃう（名）〔窮[illegible]〕窮シキ狀。[illegible]

ノ態。「窮狀ニ迫ル 窮狀、見ルニ忍ビズ」

きゅう-しゅく (名) 窮蹙 クルシミ、シジマルコト。晉書、文帝紀「及レ至ニ窮蹙一、轉相疑貳」

きゅう-じゅつ (名) 弓術 武藝。弓ニテ、矢ヲ射遣ル技。

きゅう・す スル・スレ・セ・シ・セヨ(自動、左變) 窮 (一)キハマル。ツマル。セマル。ユキツマル。史記、主父偃傳「日暮、途窮」孟子、公孫丑、上篇「遁辭、知ニ其所一レ窮」 (二)困ル。苦シム。韓詩外傳「人窮則詐」 (三)貧シクテアリ。貧乏ナリ。「困窮ス。」孟子、盡心、上篇「窮不レ失レ義」論語、衛靈公篇「君子固窮」

きゅう-せん (名) 弓箭 (一)弓ト、矢ト。弓矢。後漢書、五行志「以ニ弓箭一射ニ北闕一」杜甫、兵車行「行人弓箭各在レ腰」 (二)武士ノ稱。弓矢ヲ取リテ戰フハ、武士ノ事ナリ、故ニ、武士ヲ、弓矢取トモ云フ。盛衰記、二十八、經正竹生島詣事「弓箭ノ棟梁トシテハ、威ヲ東國ニ振ヒタマヘリ」「弓箭ノ家」「弓箭ノ道」 (三)タタカヒ。戰爭。謠曲、忠度「弓箭ニタヅサハリテ、西海ノ波ノ上」 (四)戰爭ノ勝利。常山紀談、七「信長、弓箭盛ンニシテ、畿内ヲ打從ヘラレシ比」

きゅう-そ (名) 窮鼠 〔窮鳥、同趣〕逐ヒツメラレタル鼠。鹽鐵論、刑法篇「死不ニ再生一、窮鼠齧レ猫」太平記、四、備後三郎事「志ヲ一ニシテ、シカモ遁レヌ所ヲ知レリ、窮鼠却齧レ猫、鬪雀不レ恐レ人トイヘリ」

きゅう-そだい (名) 窮措大 措大ノ條ヲ見ヨ。冷齋夜話「東坡作ニ窮措大詩一」

きゅう-たつ (名) 窮達 困窮ト、榮達ト。零落ト、出世ト。又、窮通トモ云フ。文選、班彪、王命論「窮達有レ命、吉凶由レ人」太平記、三、光嚴院踐祚事「窮達時ヲ替、榮辱道ヲ分ツ」莊子、讓王篇「古之得レ道者、窮亦樂、通亦樂」白居易、詠レ友詩「窮通各有レ命、不レ繫ニ才不才一」

きゅう-ち (名) 窮地 きゅうきょう(窮境)ニ同ジ。

きゅう-ちゅう (名) 宮中 ミヤノウチ。禁中。禁裏。史記、孫子傳「以ニ兵法一見ニ吳王闔廬一、闔廬曰、子之十三篇、吾盡觀レ之、云云、可、云云、以ニ婦人一乎、曰可、於レ是許レ之、出ニ宮中美女一、云云、孫子分爲ニ二隊一」蜀志、諸葛亮傳「宮中府中、俱爲ニ一體一」運歩色葉集「宮中」

きゅうちゅう-こもんくゎん (名) 宮中顧問官 宮內省中ノ、勅任名譽官。

きゅう-ぢょ (名) 宮女 ヒメトネ。ミヤビト。ミヤヅカヘノ女。禁中ニ仕フル女官。宮人。宮嬪。漢書、貢禹傳「古者宮室有レ制、宮女不レ過ニ九人一」杜甫詩「宮女開レ函近ニ御筵一」運歩色葉集「宮女」

きゅう-つう (名) 窮通 窮達ノ條ヲ見ヨ。

きゅう-てい (名) 宮庭 宮廷 禁庭ニ同ジ。史記、秦始皇紀「咸陽人多、先王之宮廷小」宋史、邢昺傳「詔ニ其妻一至ニ宮庭一、賜以ニ冠帔一」

きゅう-てう (名) 窮鳥 〔窮鼠、同趣〕逐ヒツメラレタル鳥。顏氏家訓「窮鳥入レ懷、仁人所レ憫」太平記、二十一、天下時勢粧事「猛虎ノ檻ニ籠リ、窮鳥ノ翅ヲ鎩レタルガ如クニ成ヌレバ」

きゅう-でん (名) 宮殿 宮、又、殿。帝王ノ居タマフ所。後漢書、百官志「光祿勳卿一人、掌ニ宿衛宮殿門戶一」方丈記「牛馬、七珍モ由ナク、宮殿、樓閣モ望ナシ」

きゅう-ど (名) 弓弩 〔弩ハ、機ヲ設ケ、足ニテ蹈ミ張リテ射ルモノ〕ゆみト、いしゆみト。周禮、夏官、司弓矢篇「中春獻ニ弓弩一、中秋獻ニ矢箙一」

きゅう-とう (名) 窮冬 冬ノヲハリ。季冬。陰曆、十二月ノ異稱。杜甫詩「窮冬急ニ風水一、江山雲霧昏」本朝無題詩、五、歲暮言レ志詩「窮

冬欲レ盡感難レ堪」吾妻鏡、二、治承五年正月十一日「梶原平三景時、依レ仰初參ニ御前一、去年窮冬之比、實平相具所レ參也」

きゅう-ば (名) 弓馬 (一)弓術ト、馬術ト。後漢書、陳龜傳「家世邊將、便習ニ弓馬一」吾妻鏡、一、治承四年十二月十日「弓馬之兩藝、人之所レ聽也」(義經ニ云フ) (二)武士ノ稱。弓術、馬術ハ、武士ノ業ナレバナリ。弓箭ト云フモ同ジ。吾妻鏡、六、文治二年三月二十六日、多田滿仲八代ノ孫、延朗上人「此上人者、云云、出ニ累葉弓馬之家一、入ニ一實圓乘之門一」太平記、十四、箱根竹下合戰事「弓馬ノ家ニ生レタル者ハ、名ヲコソ惜メ」

きゅう-はく (名) 窮迫 キハマリ、セマルコト。セッパ詰マルコト。困窮。窮苦。

きゅう-はつ (名) 窮髮 〔髮ハ、土毛ナリ、不毛ノ地ノ意〕北ノ極ノ地。窮北。極北。莊子、逍遙遊篇「窮髮之北、有ニ溟海一者、天池也」

きゅう-ばふ (名) 窮乏 困窮。貧乏。孟子、告子、上篇「爲ニ宮室之美、妻妾之奉、所レ識窮乏者得レ我與」漢書、食貨志「轉レ穀、振ニ貧窮乏一」

きゅう-ひん (名) 宮嬪 宮女ニ同ジ。李羣玉、王內人琵琶引「三千宮嬪推ニ第一一」

ぎゆう-へい (名) 義勇兵 義勇ノ志ヲ立テ、人民自ラ進ミ出デテ編成セル軍隊。

きゅう-べう (名) 宮廟 オタマヤ。ヤシロ。漢書、郊祀志「大臣子孫、刻ニ銘其先功一、藏ニ之於宮廟一」吾妻鏡、一、治承四年十月十二日「爲レ崇ニ祖宗一、點ニ小林鄉之北山一、構ニ宮廟一、被レ奉レ遷ニ鶴岳宮於此所一」

きゅう-へき (名) 宮辟 きゅうけい(宮刑)ニ同ジ。書經、呂刑篇「宮辟疑赦」

きゅう-ほく (名) 窮北 至極ノ北。極北。北ノ極ノ地。窮髮。趙嘏詩「雖レ言ニ窮北海雲中一、屬國當時事不レ同」

きゅう-みん (名) 窮民 難儀ニ陷リタル民。貧窮ノ民。貧民。孟子、梁惠王、下篇「鰥、云云、寡、云云、孤、云云、獨、此四者、天下之窮民、而無レ告者」太平記、一、武家繁昌事「德、窮民ヲ撫スルニ足レリ、威、萬人ノ上ニ被ルトイヘドモ」

きゅう-めい (名) 窮命 (一)窮リタル運命。甚シキ不仕合。(二)苦シキ目ニ陷ルコト。窮迫。

きゅう-もん (名) 宮門 ミカド。皇居ノ御門。宮闕。禁門。史記、陳涉世家「己爲レ王、云云、扣ニ宮門一曰、云云」

きゅう-やく (名) 窮厄 キハマリタル厄難。甚シキ災難。亢倉子「窮厄則以レ命自寬」

きゅう-よ (名) 窮餘 窮シタルアマリ。苦シマギレ。「窮餘ノ一策」

きゅう-り (名) 窮理 事ノ理ヲ、窮メ知ルコト。易經、說卦傳「窮レ理盡レ性、以至ニ于命一」

きゅうり-がく (名) 窮理學 物理學ノ舊譯語。

きゅう-りゅう (名) 穹窿 〔爾雅、釋天「穹蒼、蒼天也」註「天形、穹窿、其色蒼蒼」〕(一)天。ソラ。大空。穹蒼。張衡、西京賦「閣道穹窿、屬ニ長樂與ニ明光一」 (二)中央高クシテ、四垂セル天井。又、アアチ。

きゅう-ゐ (名) 宮闈 〔闈ハ、宮中ノ小門〕禁裏ニテ、后妃ノ在所。後漢書、皇后紀「后正ニ位宮闈一、同ニ體天王一」保元物語、三、新院遷ニ幸讚岐一事「后ト中スハ、位ヲ宮闈ニ正シクシテ、體ヲ君王ニ等シクス」

キュルク (名) 栓 こるく(栓)ノ條ヲ見ヨ。

ギュルデン (名) 〔蘭語、Gulden.〕和蘭

ノ貨幣ノ量。我ガ八十一錢弱ニ當ル。

きょ (名) [illegible] スマヒ。スミカ。居所。書經、胤征篇「從二先王居一」孟子、盡心、上篇「居移レ氣、[illegible]」

きょ (名) 裾 キヌノシリ。東帶ノ下襲ノ裾。後世ハ、別ニ製シテ、縫ニテ附ケ、長ク後ニ曳ク、官位ニ因リテ長短アリ、[illegible]ハ、頭ヨリ一丈二尺、大臣大將ハ一丈、四位、七尺、五位、六尺ニ至ル。[illegible]

きょ (名) 去 きょ志ゃう(去聲)ノ略。ゐん(韻)ノ條ヲ見ヨ。「平、上、去、入」

きょ (名) 虛 「實ニ對ス」(一)ムナシキコト。ソラ。カラ。[illegible]

きょ (名) 墟 フルキアト。舊蹟。史記、[illegible]

きょ (名) 擧 (一)推擧スルコト。論語、子[illegible]ニ御スレバ、名、殿上ニ出デテ、擧ヲ書キテ、封ジテ執事ニツク」(二)フルマヒ。シワザ。擧動。[illegible]

きよ (名) 寄與 寄セ、與フルコト。贈ルコト。貢獻。「[illegible]」

きよ (名) 毀譽 毀ルト、譽むルト。褒貶。[illegible]

〔きよ [illegible] 清[illegible] 生行ノ[illegible]ニエアルカ」キヨキ。ケガレス。キタナカラス。イサギヨキ。清。淸ナル。[illegible]

ぎょ (名) 馭 「說文「御、使レ馬也」」馬ニ乘ルコト。馬術。[illegible]

ぎょ (接頭) 御 〔韻會「凡天子所レ止曰レ御前、着曰レ御幸、服曰レ御服、[illegible]」「御者、進也、凡、衣服加レ於レ身、飲食適レ於レ口、妃妾接レ於レ寢、皆曰レ御」〕(一)天子ノ御物事ニ被ラセテ、尊ビ申ス語。オホミ。オホン。オン。オミ。「御衣」「御製」(二)常ノ人事ニモ、敬ヒテ云ヒ、丁寧ニ云フニ用キル。コレハ、おほ、おん、ニ、御ノ字ヲ充テテ音讀スルノミ、天子ノ御ニ關係ナシ。「御恩、御禮」

ぎょい (名) 御衣 ミケシ。天子ノ御衣服。李乂詩「[illegible]南迎二仙歩一、低[illegible]拂二御衣一」菅家後[illegible]

ぎょい (名) 御意 他ノ意ヲ云フ敬語。オボシメシ。御意中。[illegible]

ぎょいう (名) 御遊 天子ノ御管絃。平家[illegible]フマジキトノ御意ニテ候ハバ、カナク、一矢仕ンズルニテ候」[illegible]ぎょいうアル時ハ、[illegible]シテ、云云」

きょう (名) 凶 易ノ語。物事ノ、祥惡シキコト。運ノ不利ナルコト。エンギノワルキコト。「吉ニ對ス」[illegible]「小貞吉、大貞凶」

〔きょう (名) 興 〔古キ假名文ニ、多クハ、けうト記セリ〕遊ビノ面白ミ。遊戲ノ興シサ。[illegible]ヤ差デマシ、ソレハ、內內ハマサリテ、けうハ多カラム[illegible]

きょう (名) 拱 (一)手ヲコマヌクコト。ウデグミスルコト。拱手。(二)手ニテカカフルコト。[illegible]於朝一、一暮大拱」

きよう (名) 器用 (一)器ノ、モチキラレテ、人ノ用ヲナスコト。左傳、定公九年、[illegible] (二)人ノ才能ノ、世ノ用ヲナスコト。[illegible]用也」徒然草、下「天性惡シカルベキ人ナリトモ、能キ人ニ添ヒ、能ク習ハサバ、必能クナルベシ、如何ニ器用ノ人ナリトモ、惡シクテナサバ、惡カルベシ」(三)轉ジテ、手技ニ、敏ク巧ミナルコト。手利。手巧。拙キヲ、不器用ト云フ。[illegible]ヲスル者ハ、無器用ノ眞只中」心中刃氷朔日(寶永、[illegible]

きょう (名) 御宇 [illegible]のたまろしめすノ條ヲ見ヨ」天ノ下知シ召スコト。轉ジテ、御世ヲ治メタマフ間。大御代。御治世。[illegible]御レ宇、敎レ化導レ民」白居易、長恨歌「漢王重レ色[illegible]天皇御宇」

ぎよう (名) 儀容 「人物志、儀者、形之表、容者、動之符」[illegible]儀、風采。[illegible]

きょうあく (名) 兇惡 說文「兇、擾恐[illegible]也」增韻「凶、通作レ兇」〕恐ルベキ惡事。極惡。[illegible]

きょういう (名) 共有 (一)共同ノ所有。一箇ノ物ヲ、二人以上ニテ所有スルコト。アヒモチ。モチアヒ。(二)離レモ[illegible]行ツコト。[illegible]共有二」

きょうえき (名) 共益 共同ノ利[illegible]。人ノ利益。

きょうえつ (名) 恐悅 [illegible]ブコト。人ノ事ヲ悅ブニ云フ敬語。[illegible]

きょうおく (名) [illegible] ムネ。[illegible]

きょうおん (名) [illegible] [illegible]

きょうおん (名) 凶音 凶事ノ音信。[illegible]夫ノシラセ。凶報。

きょうかう (名) 兇行 兇惡ノ[illegible]行。

きょうかう (名) [illegible] [illegible]

きょうかく (名) [illegible] [illegible]「胸膈開ク」

きょうかく (名) 恐嚇 オビヤカスコト。オドカスコト。[illegible]恐嚇二」

きょう-かつ (名) 恐喝・恐猲　オドシックルコト。他ヲオドシツケテ、財物ヲ取レルヲ、恐喝取財ト云フ。史記、蘇秦傳「日夜務以二秦權一恐二喝諸侯一以求レ割レ地一」律疏、賊盗「凡恐喝取二人財物一者、准レ盗論加二一等一」

きょう-かん (名) 兇漢　〔兇惡ト、漢トノ語原ヲ見ヨ〕兇惡ナル男。ワルモノ。

きょう-が・り・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、良變) 興　〔興がありノ約レル語ナルベシ、やうがりト云フ語モアリ、假名本ニ多ク、けうがりト書ケリ、きょう(興)ノ條ヲ見ヨ〕興アリ。一節アリ。逸興。發心集、三、第三條「佛供養スト聞キテ「イデヤけうがり、イマダ見ヌ事ゾトテ、云云、導師ノ法說ク傍ニ近ク居テ、云云」(殺生ノミシテ、佛教ヲ知ラヌ男ナリ) 義經記、六、判官南都へ忍び御出ある事「けうがる風情ニテ道ラムトスル者アリ」謠曲、鉢木「自然、鎌倉ニ御上リアラバ、御尋ネアレ、けうがる法師ナリ、カヒガヒシクハナケレドモ、公方ノ緣ニナリ申サム」(最明寺時賴ノ、佐野源左衛門ニ云フ詞)

きょう-き (名) 兇器・凶器　刃物。人ニ傷ツクベキ時ニ云フ。史記、主父偃傳「兵者、凶器也」筥根山縁起「信心仁惠相全、而接二凶器一如三秋風敗二芭蕉一」

ぎょう-ぎ (名) 凝議　評議ヲ凝ラスコト。種種ニ、相談ヲ重ヌルコト。

きょう-きふ (名) 供給　(一)供へ、給グコト。所用ニアテガフコト。魏志、鍾繇傳「供二給資費一使レ得レ專レ學」禮記、曲禮、上篇「禱祠祭祀、供二給鬼神一非レ禮不レ誠不レ莊」左傳、僖公四年「貢之不レ入、寡君之罪也、敢不二共給一」 (二)じゅえう(需要)ノ條ヲ見ヨ。

きょう-きん (名) 胸襟　(一)むねト、えりト。何承天詩「冰炭結二六府一、憂虞纏二胸襟一」 (二)心ニ思フトコロ。胸中。劉伶詩「開レ此消二胸襟一」「胸襟ヲ披キテ語ル」

きょう-きょう (名) 恐恐　恐レ、カシコムコト。恐惶。庭訓往來、正月「委不レ能二審察一、恐恐謹言」「恐恐ノ至リ」

きょう-きょう (副) 兢兢　〔玉篇「兢兢、戒愼也」〕懼レ、愼ム狀ニ云フ語。オヅオヅ。詩經、小雅、小旻之什、小旻篇「戰戰兢兢、如レ臨二深淵一、如レ履二薄氷一」

きょう-きょう-と (副) 恟恟　怖ヂ恐レ、ビクビクスル狀ニ云フ語。「人心恟恟」

きょう-きょう-と (副) 蛩蛩　ウレへ、オモフ狀ニ云フ語。劉向、九歎「志蛩蛩而懷顧兮」

ぎょう-ぎょう-と (副) 喁喁　(一)魚ノ、ロヲ水上ニ向ケテ、空氣ヲ呑吐スル狀ニ云フ語。アギトフサマ。(二)轉ジテ、何等ノナス所モナク、唯、長上ノ命ニ從フ狀ニ云フ語。史記、日者傳、謂二宋忠、賈誼一曰「公等喁喁者也、何知二長者之道一乎」

きょう-く (名) 恐懼　オソレ二、オソルルコト。オソレイルコト。易經、下經、下象傳、震卦「洊雷震、君子以恐懼脩省」大學「有レ所二恐懼一、則不レ得二其正一」臣語「恐懼戰兢」史記、樂書「戰戰恐懼、善守善終哉」

ぎょう-くわい-がん (名) 凝灰岩　噴火山ヨリ噴キ出シタル沙灰ノ、凝リ固マリテ成レル、岩ノ如キモノ、きめ麤クシテ、脆シ。

きょう-くわう (名) 凶荒　穀菜ノ、全ク實ラヌコト。饑饉。周禮、地官、司徒、遺人「掌二縣都之委積、以待二凶荒一」

きょう-くわう (名) 恐惶　カシコムコト。恐恐。書狀ノ文ナドノ末ニ記ス敬語。吳書春秋、諸侯怖息皆恐惶」庭訓往來、五月「期二參會之時一候、不具、恐惶謹言」

きょう-くわう (名) 恐慌　〔英語、Panic.ノ譯語〕金錢ノ融通、物貨ノ相場ナドニ、非常ナル變動起リテ、人人、恐レアワテ惑フコト。

きょう-くわく (名) 胸廓　胸腔ニ同ジ。胸ノヒロサ。

ぎょう-くわ-しゃ (名) 凝華舍　禁中殿舍ノ名。ウメツボ。倭名抄、十「凝華舍(在二飛香舍北一、俗倍豆保)」

きょう-けい (名) 恭敬　〔恭ハ、容貌ノツツシミ、敬ハ、精神ノツツシミ〕ウヤウヤシク、ツツシムコト。禮記、曲禮、上篇「君子恭敬、撙節退讓、以明レ禮」孟子、告子、上篇「恭敬之心、禮也」

ぎょう-けつ (名) 凝結　凝リ、固マルコト。凝固。淮南子、原道訓「底滯而不レ發、凝結而不レ流」唐孟郊詩「自然凝結非二雕鐫一」

きょう-けん (名) 恭謙　ツツシミテ、人ニヘリクダルコト。後漢書、光武帝紀「陛下、恭謙克讓」

きょう-けん (名) 恭儉　恭敬ノ心ヲ有シテ、自身ヲ儉束スルコト。論語、學而篇「夫子、溫良恭儉讓」「恭儉己レヲ持シ」

きょう-こ (名) 鞏固　〔爾雅、釋詁「鞏、固也」〕カタキコト。ヂャウブナルコト。堅固。

ぎょう-こ (名) 凝固　コリ、カタマルコト。凝結。

きょう-こつ (名) 胸骨　胸ノ前ノ中央ニ位スル骨。

きょう-さい (名) 凶歲　凶年ニ同ジ。孟子、告子、上篇「富歲子弟多レ賴、凶歲子弟多レ暴」

きょう-さい (名) 共濟　共同シテ、濟ヒ合フコト。「共濟組合」

きょう-ざう (名) 胸像　人ノ、銅、石、木造ノ像ノ、胸以上、半身ノモノ。

きょう-さく (名) 凶作　稻作ノ實、甚ダ惡シキコト。不作。(豐作、平作ナドニ對ス)

きょう-さつ (名) 恐察　人ノ事ヲ推察スルニ云フ敬語。

きょう-さん (名) 共產　資產ヲ、共有トスルコト。國內ノ財產ノ私有權ヲ排シ、一切ヲ、國民ノ共產トスベシト唱フルヲ、共產主義ト云フ。「共產黨」

きょう-さん (名) 胸算　ムナザンヨウ。ムナカンヂャウ。心算。胸中成竹。

きょう-じ (名) 凶事　不吉ナルコト。エンギノワルキコト。(吉事ニ對ス) 老子、第三十一章「吉事尚レ左、凶事尚レ右」名目抄「凶事」

ぎょう-し (名) 凝視　目ヲツケテ、見ツムルコト。霏雪錄「瞋目凝視久之」

ぎょう-し (名) 凝脂　膚理ノコマカナル膚ヲ、凝リタル脂ノ如シト形容シテ云フ語。詩經、衞風、碩人篇「手如二柔荑一、膚如二凝脂一」白居易、長恨歌「春寒賜レ浴華清池、溫泉水滑洗二凝脂一」(楊貴妃)

ぎょう-しふ (名) 凝集　コリ、アツマルコト。「雨露凝集」

きょう-しん-くわい (名) 共進會　廣ク、產物、製造物ヲ集メテ、公衆ノ覽ニ供スル會。其優劣ヲ比べ定メテ、共共ニ、改良、

進歩ヲ計ル。

きようざうもち (名) [兇状持] 嘗テ兇罪セシコトアル者。前科ノ者。

きようしゆ (名) [兇手] 兇漢ノ手。兇行ヲ為シタル人。下手人。[illegible]

きようしゆ (名) [拱手] 手ヲ拱クコト。何事モセズニ傍ニ在ルコト。[illegible]

きようしゆく (名) [恐縮] 恐れ入ること。[illegible]

きようしゆつ (名) [供出] [illegible]

きようしゆん (名) [illegible]

きようしゆく (名) [illegible] 切ニ[illegible]數ヒ[illegible] [illegible]

きよう・す [illegible] 供 ソナフ。用ヰニ當ツ。南史、顔延之傳「凡所ニ資供ハ一無レ所レ受」建武年中行事、正月「八幡供しヌレバ、皆ノ御膳ヲ供す」二人ノ用ニ供す」

きよう・す [illegible] す」

きよう・ずる [illegible]「若キ女ドモハ、歌ウタヒけうじアヘり」枕草子、[illegible] 三、十九條「女ヲモ多ク御覧ジ、けうぜサセタマヒケル」

きようすゐびやう (名) [恐水病] 「水ヲ見レバ、甚シク恐るるガ故ニ、名トス」人ガ、狂犬ニ噛マレテ起ル病。其唾液ノ毒ヲ受ケ、數十日ノ潜伏期ヲ經テ、猛烈ニ起リ、發熱、頭痛シ、精神迷ミテ渇シ、水ヲ飲メバ、喉ニ劇シキ痙攣ヲ起シテ飲マレズ、[illegible]死スルニ至ル。[illegible]ニ、[illegible]防注射ノ療法アリ。狂犬病。

※ぎようせん (名) [地黄煎] (ぢわうせんノ訛) [illegible] ぢわうせん(地黄煎)ノ條(圖西)

きようぜんと (副) [跫然] 人ノ足音ノ[illegible]ニ云フ語。[跫音ヲ見ヨ]

ぎようたい (名) [凝滯] [illegible]

ぎようだう (名) [凝當] ぎよだう(魚道)ノ條ヲ見ヨ。

きようたく (名) [供託] 金品ヲ提供シテ、其保管ヲ依託スルコト。[illegible]

きようちゆう (名) [胸中] ムネノウチ。ココロ。オモヒ。荘子、天地篇「機心存ニ乎胸中一」[illegible] 香ヲ、存命ノ中ニ知シメ給へ」

きようつう (名) [胸痛] ムネノイタミ。

きようつう (名) [共通] 共同ニ通ズルコト。[illegible]

きようてう (名) [凶兆] 凶事ノキザシ。(吉兆ニ對ス)

きようと (名) [凶徒] [illegible]

謀反人。[illegible]

きようどう (名) [共同] 衆人、共共ナルコト。[illegible]

きようとく (名) [凶徳] アシキ、ウマレツキ。[illegible]

きようねん (名) [凶年] 穀實ノ實ラヌ年。凶作ノ年。凶歳。[illegible] ス) 老子、第三十章「大軍之後、必有二凶年一」[illegible]

ぎようねん (名) [凝念] 一念ヲ凝ラスコト。一心不亂。[illegible]

きようはう (名) [凶報] 凶事ノ報告。凶音。(吉報ニ對ス)

きようばう (名) [兇暴] [illegible] 非道ニ、アバレルコト。

きようはん (名) [共犯] 二人以上ノ者ガ、共同シテ罪ヲ犯スコト。

きようふ (名) [恐怖] オヂ、オソルルコト。[illegible] 十七、品第四十七、荒川村井事「御用ニ立ツ衆ヲバ、[illegible]

きようふく (名) [凶服] [illegible]

きようへき (名) [拱璧] [illegible]

きようへき (名) [illegible] 意」[illegible]

きようへん (名) [illegible]

きようぼう (名) [共謀] 二人以上ノ者ガ、[illegible]

きようぼく (名) [illegible]

きようみ (名) [興味] [illegible]

きようむ (名) [凶夢] 不吉ナル夢。アシキユメ。(吉夢ニ對ス)

きようめい (名) [共鳴] (一)[illegible] (二)同感シテ、賛成スルコト。

きようやう (名) [供養] (一)くやう(供養)ニ同ジ。謡曲、刈萱「今夜空シウナラレテ候、ソト供養アッテ給ハリ候へ」(二)滋味ヲ供へ[illegible]

きようよう (名) [共用] 共同ニ使用スルコト。人人、共共ニ用ヰルコト。

きようよう (名) [illegible]

きようりつ (名) [共立] 共同シテ[illegible] ルコト。共共ニ、取立ツルコト。

きようわ (名) [共和] 二人以上和合シテ、事ヲナスコト。又、二人以上共同シテ、[illegible]

きょうわ-せいぢ (名) 【共和政治】「弘化二年、箕作省吾、蘭書ヲ譯シテ、坤輿圖識ヲ作ル、其四卷ノ上ニ、北米合衆國ヲ、共和政治州トシタリ、是レハ、大槻磐溪ガ、支那周ノ厲王ノ世ニ、王、外ニアリテ、公卿數人、相共ニ和協シテ、天下ノ事ヲ攝行スルコト十六年、コレヲ共和ト云フ、ト云フヲ取リテ、充テシメタルナリ」帝王無ク、數人ノ集合體ニテ、一國ヲ統治スル政治。

きょ-えい (名) 【虛榮】 (一)浮キタル榮耀。柳宗元詩「爲レ農信可レ樂、居レ寵眞虛榮」 (二)外見ヲ飾ルコトニノミ、アコガルルコト。ウハカブキ。ミエ。ミエバウ。「虛榮ニアコガルル女」

ぎょ-えふ (名) 【杏葉】 ぎやうえふノ條ノ(三)ヲ見ヨ。

ぎょえふ-ぼたん (名) 【杏葉牡丹】 紋所ノ名。牡丹ノ花ノ上ニ、其葉ヲ、左右ニ、だきめうが(抱茗荷)ノ如ク圖シタルモノ。(ぎやうえふ(杏葉)ノ條ノ(三)ヲ見ヨ)

ぎょ-おう (名) 【漁翁】 (一)ムラギミ。漁父。(二)翁ナル漁夫。柳宗元、漁翁詩「漁翁夜傍二西巖一宿」 謠曲、白樂天「其身ハ賤シキ漁翁ナルガ、カク心アル詠歌ヲ連ヌル」

きょ-か (名) 【擧家】 家族コゾリテナルコト。ウチヂュウ。全家。

きょ-か (名) 【許可】 ユルシ。キキトドケ。世說、言語篇「范寗、云云、世尊歎然、則爲二許可一」 保元物語、二、左府薨逝事「才智、既蒙二彼許可一」

きょ-か (名) 【許嫁】 イヒナヅケ。禮記、曲禮、上篇「女子許嫁、笄而字」

ぎょ-か (名) 【御歌】 ミウタ。おほみうたノ條ヲ見ヨ。

ぎょ-か (名) 【漁家】 漁人ノ家。漁戶。

ぎょ-か (名) 【漁歌】 漁人ノ歌フ謠。韓偓詩「牧笛自由歸二草逕一、漁歌得意扣レ舷歸」 太平記、四、妙法院宮遠流御事「漁歌牧笛ノユフベノ聲、嶺雲海月ノ秋ノ色」

ぎょ-かい (名) 【魚介】 魚類ト、介類ト。

ぎょ-かい (名) 【魚蟹】 うをト、かにト。北史、魏宗室傳「秋冬獵二雉兎一、春夏捕二魚蟹一」

きょかい-きゅう (名) 【巨蟹宮】 じふにきゅう(十二宮)ノ條ヲ見ヨ。

きょ-かう (名) 【擧行】 公ニオコナフコト。披露シテ行フコト。漢書、食貨志「擧二行天下鑄錢一」「歡迎式ヲ擧行ス」

きょ-かう (名) 【虛耗】 「正韻「耗、虛到切」」 空シクナルコト。減ルコト。衰フルコト。消耗。漢書、昭帝紀、贊「海內虛耗、戶口減レ半」「身體虛耗」

きょ-がう (名) 【倨傲】 オゴリ、タカブルコト。傲慢。莊子、漁父篇「夫子、猶有二倨傲之容一」 魏志、陳羣傳「高才倨傲」

ぎょ-かう (名) 【御幸】 ごかう(御幸)ト、みゆきトヲ見ヨ。漢書、元帝紀「令下諸宮館希二御幸一者、勿中繕治上」

ぎょ-かう (名) 【御溝】 ミカハミヅ。謝玄暉、鼓吹曲「垂楊蔭二御溝一」 司馬禮、宮怨「年年花落無二人見一、空逐二春泉一出二御溝一」

きよ-がき (名) 【清書】 書キ亂シタル草稿ナドヲ、正シク寫シ改ムルコト。キヨメガキ。清書。淨書。新古今集、十八、雜、下「マダ清書きモセヌ本ヲ、ツカハシ侍リケルヲ見テ」 十六夜日記「五十首ノ和歌ヲ詠ミタリケルトテ、きよがきモシアヘズ、下サレタリ」

きょ-がく (名) 【巨額】 嵩ノ多キコト。カサダカ。多額。

きょ-かつ (名) 【虛喝】 空息張リシテ、嚇スコト。史記、蘇秦傳「秦雖レ欲二深入一、則狼顧、恐二韓魏之議二其後一也、是故恫疑虛喝、驕矜而不二敢進一、則秦之不レ能レ害レ齊、亦明矣」

きょ-かん (名) 【巨艦】 大ナル軍艦。宋史、曹翰傳「調二巨艦百艘一、載レ所レ得以歸」

きょ-かん (名) 【巨漢】 「漢ノ條ヲ見ヨ」 大男。

ぎょ-かん (名) 【御感】 天子ノ御感賞。叡感。保元物語、一、親治等被二生捕一事「主上、御感ノ餘リニ、其夜、除目行ハレテ」 盛衰記、十八、文覺勸進事「文覺、院ノ御所ニ推參セルヲ、武者所、安藤右宗、門外ヘ引出ス」「右宗ハ御感ニ預テ、右馬大夫ニ成サレケリ」

きょ-きょ (名) 【歔欷】 サクリ。ススリナキ。屈原、離騷「曾歔二欷余鬱邑一兮」 史記、留侯世家「戚夫人、歔欷流涕」 字鏡「歔欷、涕泣貌、泣貌也」 名義抄「歔欷、ハナススリシテ、カナシムデ」

きょ-き (名) 【虛器】 (一)イツハリノ器物。用ニ立タヌモノ。左傳、文公二年「作二虛器一」 (二)實權ナクシテ、名義ノミノモノ。後漢書、和熹鄧后紀、論「至下使二嗣主一側レ目、斂中衽於虛器上」(虛位ノ意)

きょ-ぎ (名) 【虛僞】 イツハリ。ウソ。莊子、盜跖篇「子之道、狂狂汲汲、詐巧虛僞事也」「虛僞ノ申立」

ぎょ-き (名) 【御記】 天子ノ、書カセタマヒシ御日記、御記錄。「寬平御記」(宇多天皇)「看聞御記」(後崇光院)

ぎょ-き (名) 【御忌】 (一)忌日ノ敬稱。(二)特ニ、京都ノ知恩院ニテ、淨土宗ノ祖、圓光大師(法然上人)ノ陰曆正月二十五日(今、推步シテ三月七日)ノ忌日ニ修スル法事ノ稱。俳諧歲、後編、ぎょき(御忌)「智恩院ニノミ稱スルハ、後柏原院ノ時、宜下修二法然上人之御忌一トノ勅命ニ因リシ也」 蕪村句集、春「難波女ヤ、京ヲ寒ガル、御忌詣デ」

きよ-ぎぬ (名) 【潔衣】 あかばとり(明衣)ノ條ヲ見ヨ。

きょ-きん (名) 【醵金】 〔廣韻「醵、會レ錢飲レ酒也」〕 衆人ヲシテ、金錢ヲ出シ合ハシムルコト。輟耕錄、十一、燒尾「今之入レ宅與二遷レ居者一、鄉里遠、金治レ具、過二主人一飲、謂二之曰二燒屋一」

きょきょ-げつ (名) 【去去月】 一月隔テテ前ノ月。先先月。前前月。

きょきょ-じつ (名) 【去去日】 ヲトトヒ。前前日。一昨日。

きょきょ-じつ-じつ (句) 【虛虛實實】 「虛虛實實、奇妙奇妙、奇奇妙妙」 虛ヲ擊チ、實ヲ避ク、ヲ重ネテ云フ。伎倆ヲ盡シテ、相鬪フナドニ云フ語。「一上一下、虛虛實實」

きょきょ-ねん (名) 【去去年】 ヲトトシ。前前年。一昨年。禁秘御抄、上、禁中事「賢所、去去年(建保四年)內大臣(信清)積二及禁中一時、供レ之」

きょく (名) 【曲】 〔直ニ對ス〕 (一)マガレルコト。直ナラヌコト。書經、傳「木可二以揉一曲直一」 (二)正シカラヌコト。邪ナルコト。(三)音樂、歌謠ノ調子、節。曲節。宋玉、對二楚王問一「其曲彌高、其和彌寡」 (四)樂、歌ノ切。段。闋。史記、司馬相如傳、贊「靡麗之賦、勸レ百風レ一、猶下馳二騁鄭衛之聲一、曲終而奏上レ雅、不二已虧一乎」「樂一曲」「歌二曲」 (五)輕業、手品、曲馬、獨樂廻ナドノ技ノ、種種ニ變化スルコト。技曲。卜養狂歌集「曲マリ、云云、色色、

きょくヲ盡シ侍リケレバ」（六）轉ジテ、オモシロミ。興味。興　[illegible]謠曲、鉢木（[illegible]）「御宿ハマヰラセ難ウ候、アラ曲モナヤ、由ナキ人ヲ待チマウシテ候フモノカナ」[illegible]「[illegible]ナレタ事ニ、[illegible]ノ[illegible]モ、曲モナイ、[illegible]ラレタ者デナウテハ、ト云テ、埋ミ殺スゾ」

きょく（名）[局]（一）ツボネ。（二）[官衙]ノ内ニテ、職務ヲ分チ持ノ小別ノ稱。部局[illegible]所、侍從所也」（三）局務ノ條ヲ見ヨ。（四）[illegible]碁盤。[illegible]（[illegible]）二人、[illegible]局ト云ヒ、[illegible]局ト云ヒ、[illegible]局見シテアルヲ、[illegible]局ト云フ。[illegible]

きょく（名）[極]　キハマリ。ハテ。ドンヅマリ。[illegible]極點。[illegible]

ぎょく（名）[玉]　寶石ノ名。[illegible]ナシ、支那ノ崑山、藍田ノ地ヨリ出ヅルヲ上品トス、堅緻ニシテ、透キトホラズ、凝脂ノ如クニシテ、潤澤アリテ美シ、色ハ、白、[illegible]、[illegible]等アリ、[illegible]ノ[illegible]ニ作リテ、貴ビ[illegible]。[illegible]

[illegible]切」玉如」切」說」倭名抄、十一「玉、寶石也」

ぎょく（名）[玉]　[illegible]ニ、丸星ノ玉ヲックル故ノ名ト云フ」（一）東京ニテ、遊女、藝者ナドノ動代。畿内ニテ、花。（二）鷄卵ノ異名。飲食店ノ語。玉子ヲ奇讀シ、下略スルナリ。（三）賣買取引所ニテ、賣買シ、取引スル其物。本人、當人ヲ玉ト云フヲ、音讀スルナリ。

ぎょく（接頭）[玉]（一）賞メテ云フ語。美シキ。旨キ。[illegible]（二）天子ノ御物事ニ冠ラセテ、尊ビ申ス語。御。「玉體」玉座」

ぎょく（名）[illegible]　海面、水面上ヲ限リテ立ツル、漁獵ノ區域。某某ノ專有スル所。

ぎょぐ（名）[漁具]　漁獵ニ用キル器具。網、釣竿ノ類。[illegible]具ニ

ぎょくあん（名）[玉案]　玉ニテ裝飾シタル案、又、机。[illegible]玉机。[illegible]

ぎょくい（名）[玉扆]　〔扆ハ、屛風ナリ〕[illegible]

ぎょくえい（名）[玉詠]　他人ノ詩歌ヲ云フ敬語。玉什。高作。

ぎょくおん（名）[玉音]　音聲ノ敬稱。[illegible]「玉音朗朗」

きょくかい（名）[曲解]　事實ヲ曲ゲテ、解釋スルコト。コジツケテ說クコト。「人ノ言ヲ曲解ス」

きょくがくあせい（句）[曲學阿世]　邪曲ノ學問ヲ唱ヘテ、世俗ニ阿ル。[illegible]

きょくかん（名）[極諫]　心ノタケヲ盡シテ、諫ムルコト。[illegible]

ぎょくがん（名）[玉顏]（一）麗シキ顏色。[illegible]（二）[illegible]上ノ御顏。龍顏。[illegible]シク、玉顏ニ近ヅカセ給ハズ」

きょくき（名）[旭旗]　日ノ丸ノ旗。朝日ノ御旗。日章旗。

ぎょくき（名）[玉机][玉几]　ぎょくあん（玉案）ニ同ジ。[illegible]

ぎょくき（名）[玉肌]　ウルハシキ肌。[illegible]ノ膚。[illegible]

ぎょくき（名）[玉器]　玉ニテ作リタル器物。

きょくぐわい（名）[局外]　〔局ハ、碁盤ナリ〕（一）圍碁ヲ傍觀スル位地ニ在ルコト。「局ノ條ノ（[illegible]）ヲ見ヨ」[illegible]（二）スベテ、物事ニ關係ナキ位地。國際上ニテ、交戰國ノ何方ニモ關係セズシテアルヲ、局外中立ト云フ。

きょくぐわいちゅうりつ（名）[局外中立]　〔英語、Neutrality. ノ譯語〕前條ノ（二）ヲ見ヨ。

きょくくゎう（名）[極光]　極地ニテ、空中ニ發スル、虹ノ如キモノ。

きょくくゎん（名）[極官]　官ノ、高キ極ミノモノ。「極官ニ至ル」

ぎょくくゎん（名）[玉冠]　〔五色ノ玉ヲ[illegible]リテ、數十[illegible]ルレバ、名アリ〕タマノ[illegible]

[illegible]

きょくけい（名）[極刑]　極メテ重キ刑罰。[illegible]

きょくげい（名）[曲藝]　輕業、手品、曲馬、[illegible]ナドノ、[illegible]ニ變化スル技術。

ぎょくけい（名）[玉[illegible]]　[illegible]

ぎょくけい（名）[玉莖]　男子ノ陰部。陰[illegible]

きょくげん（名）[極言]　言語ヲ盡シテ述ブルコト。[illegible]

きょくげん（名）[極限]　キハミ。カギリ。ハテ。

ぎょくこつ（名）[玉骨]　[illegible]

ぎょくこつ（名）[玉骨]　貴キ人ノ骨。又、美シキ人ノ骨。[illegible]ハ、[illegible]

ぎょくざ（名）[玉座]　天子ノ、御座。[illegible]

ニ近附キ」

ぎょく-さい (名) 玉砕 玉ノ如キモノトナリテ、砕クルコト。功德ヲ立テテ、死スルコト。コレニ對シテ、瓦ノ如クツマラヌモノトナリ、何事モデカサズ、無事ニ生キテ居ルヲ、瓦全ト云フ。北齊書、元景安傳「景皓曰、大丈夫、寧可二玉砕一、不レ能二瓦全一」

ぎょく-ざん (名) 玉山 人品ノ、高潔、美麗ナルニ譬ヘテ云フ語。世說、容止篇「嵇叔夜之爲レ人也、巖巖若二孤松之獨立一、其醉也、傀俄若二玉山之將一レ崩」

きょく-し (名) 局紙 〔大藏省ノ抄紙局ニテ漉キ出シタルヨリノ名ナリト云フ〕紙ノ一種。鳥子紙ニ似テ、緻密ナルモノ。

きょく-じ (名) 曲事 〔曲事ノ字ノ音讀〕クセゴト。法ニ違フコト。中古ノ武家ノ法律ノ語ニ、多クハ、死罪ノ事トス。武家要覽、廿九、家康公遺書「御代官役ヨリ、火ノ本無沙汰ニ致シ、火ヲ出シ候事、曲事ト仰セラレテ、三年ノ間、所ヲ御構ヒ被レ成候」(老人ノ後言) 兵會殺害元親百箇條、陣中付候者、在所庄屋可レ爲二曲事一事」

ぎょく-し (名) 玉巵 タマノサカヅキ。玉杯。韓非子、外儲說、右上篇「爲二人主一而漏二泄其群臣之語一、譬猶二玉巵之無一レ當」

ぎょく-じ (名) 玉璽 (一)天子ノ御璽ノ、玉ヲ以テ造ラレタルモノ。漢書、霍光傳「璽、皆玉螭、虎紐、云云、外有二大藍田玉璽一」(二)神璽。三種神器ノ條ヲ見ヨ。神皇正統記、後花園、「神璽ハ海底ニ沈ミテカクシ、神璽ハ水中ニ浮ミアラハス、玉璽ノミゾ、神代ヨリ、スベテ障リモナク、儼然ト傳ハリ侍ル」

きょく-じつ (名) 旭日 アサヒ。旭曦。詩經、邶風、匏有苦葉篇「雝雝鳴鴈、旭日始旦」

きょくじつ-しょう (名) 旭日章 くんしょう(勲章)ノ條ヲ見ヨ。

ぎょく-じゅう (名) 玉什 「しじふ(詩什)ノ條ヲ見ヨ」玉詠ト云フニ同ジ。

ぎょく-しょう (名) 玉章 (一)タマヅサ。他人ノ手紙ノ敬稱トモス。庭訓往來、十一月「披二玉章一覺二蒙昏一」(二)立派ナル文章。雲笈七籤「雲文篆訣、大布二人間一、金書玉章、廣弘二天上一」

ぎょく-しょう (名) 玉將 〔雙方ニ王將アルヨリ、一方ニハ點ヲ加ヘテ別ツナリ〕將棋ノ駒。わうしゃう(王將)ニ同ジ。

ぎょく-しょう (名) 玉觴 玉杯ニ同ジ。魏文帝、於譙作「旨酒盈二玉觴一」

きょく-しゃく (名) 曲尺 マガリガネ。カネジャク。カネザシ。圖書大全、十、大學、序「句股之術、如二今木匠曲尺一」

ぎょく-しゃく (名) 玉尺 鋼尺ノ條ヲ見ヨ。

ぎょく-しゅ (名) 玉手 (一)美人ノ、ウツクシキ手。晉書、樂志「攜二玉手一喜同レ車」(二)人ノ手紙ノ敬稱。

きょく-しょ (名) 極所 オシツマリタル所。ハテ。ドンヅマリ。

きょく-しょ (名) 局所 局部ニ同ジ。

ぎょく-しょく (名) 玉食 美食ニ同ジ。書經、洪範篇「惟辟玉食」漢書、匡衡傳「奢侈玉食」「錦衣玉食」

ぎょく-ずい (名) 玉髓 石英ノ類。結晶、緻密ナルモノ。白、赤、黃、綠ナドアリ。

きょく-すいの-えん (名) 曲水宴 〔元來、屈曲セル流水ノ邊ニ居テ、上流ヨリ盃ヲ流シ、詩ヲ作リテ、其盃ヲ取リ上ゲテ酒ヲ飲ミシナリ、蘭亭集、序「此地有二崇山峻嶺、茂林脩竹一、又有二清流激湍一、映二帶左右一、引以爲二流觴曲水一」トアルニ起因ス〕メグリミヅノトヨノアカリ。ごくすゐトヨムヲ讀例トス、陰曆三月上巳ノ日ニ、禁中ニテ行ハルル公事。御前ニテ詩ヲ作リ、宴ヲ賜フ、支那ノ風ヲ移サレタル行事ナリ。晉書、束皙傳「武帝、問二三日曲水之義一、皙曰、昔周公成二洛邑一、因二流水一以泛レ酒、故逸詩云、羽觴隨レ波、其後巳ハ、蘭亭之會、曲而作、此、非二嘉事一也」顯宗紀、二年三月、上巳、幸二後苑一曲水宴。是時、喜集二公卿大夫臣連國造伴造一爲レ宴」(此前年三月、翌年三月ニモ曲水宴アリ) 名目抄「曲水宴、ゴクスイノエン」流曲、讀二曲水ノ盃一」公事根源、三月、曲水宴「是レハ昔、王卿ナド集リテ、御前ニテ詩ヲ作テ、講ゼラレケルニヤ、御溝水ニ盃ヲ浮ベテ、文人以下、コレヲ飲ム由、康保ノ御記ニ載セラレタリ、云云、曲水宴ハ、周ノ世ヨリ始マリケルニヤ、文人ドモ、水ノ岸ニ並ミ居テ、水上ヨリ盃ヲ流シテ、我ガ前ヲ過ギザルサキニ、詩ヲ作テ、其盃ヲ取リテ飲ミケル也」

ぎょく-せい (名) 玉成 玉ノ如ク、立派ナル人物ニ仕上グルコト。張載、西銘「貧賤憂戚、庸玉二女於成一也」

きょく-せき (名) 跼蹐 跼天蹐地ノ略。

ぎょく-せき (名) 玉石 (一)玉ト、石ト。楚辭、九章「同糅二玉石一兮、一槩而相量」(二)精ト、粗ト。善ト、惡ト。君子ト、小人ト。書經、胤征篇「火炎二崑岡一、玉石俱焚、天吏逸レ德、烈二于猛火一」(崑岡ハ、玉ヲ產スル山) 抱朴子、外篇、百家篇「眞僞顚倒、玉石混淆」

きょく-せつ (名) 曲折 (一)折レ、曲ルコト。(二)錯綜ミタル事情。委曲。委細。史記、魏其武安侯傳「吾益知二吳壁曲折一」漢書、辛慶忌傳「責以二上書一爲二天子失一、盡曲折一」(責ハ、備責ナリ)

きょく-せつ (名) 曲節 音樂ノふし。歌謠ノ調子。曲調。(曲ノ條ノ(三)ヲ見ヨ)

きょく-せん (名) 曲線 〔直線ニ對ス〕マガリタルスヂ。屈曲ナルニモ、彎曲ナルニモ云フ。

きょく-そく (名) 局促 〔促ハ、趣ニ同ジ、漢書、灌夫傳、注「局趣、蹙小之貌」〕カガマリ居ルコト。史記、魏其武安侯傳「今日廷論、局趣效二轅下駒一」

ぎょく-たい (名) 玉體 天子ノ御身。聖體。漢書、王吉傳「大王、云云、數以二耎脆之玉體一、犯二勤勞之煩毒一」保元物語、一、後白河院御卽位事「鳥羽院、云云、御齡モイマダ盛ニ、玉體モ恙ナクオハシマセドモ」

ぎょく-たい (名) 玉帶 玉ノ帶。いしのおびニ同ジ。唐書、車服志「衣二黃衫一、文二玉帶一」

きょく-たん (名) 極端 (一)ハシノハシ。トッパシ。(二)中正ヲ脫ケテ、外レタルコト。常理ヨリ、トッパヅレタルコト。「極端ノ說」極端ニ走ル」

きょく-ち (名) 極致 至極ノ趣致。公羊傳、註疏、序「聖人之極致、治世之要務」「藝術ノ極致」

きょく-ち (名) 極地 北極、南極邊ノ地。

きょく-ち (名) 局地 局部ノ土地。「局地雨量圖」

きょく-ちょう (名) 局長 官衙中ノ、一局ノ長。

ぎょく-じょ (名) 玉女 (一)女ヲ、美メテ云フ語。禮記、祭統篇「國君取二夫人一之辭曰、請二君之玉女、與二寡人一共有二敝邑一」注「玉女者、美言之、君子於レ玉比レ德焉」史記、司馬相如傳「譬二玉女一、而瘞レ之歸」(二)陰陽家ニ祀ル神ノ名。大諸禮、歳ノ事「何時ナリトモ、其時ヨリ三ツ目ヲ圖

[illegible]、神上ノ大ニ設クル祭壇ニ、玉女壇、玉女房ト云フアリ。[illegible]故ニ金色光テ云フトアルモ、是レナルカ。

きょく-ちょく (名) [illegible] (一)[illegible]コトト、[illegible]コト。[illegible]「[illegible]之於正[illegible]也、[illegible]之於[illegible]曲[illegible]」(二)[illegible]事ト、[illegible]事ト。[illegible]

ぎょく-じょ-だん (名) 玉女壇 玉女ノ座スル所。[illegible]正面ニ、玉女壇トテ、八尺四方ノ壇ヲ取立ツ」

ぎょく-じょ-ばう (名) 玉女房 玉女ノ(二)ノ控フル房。

きょく-てう (名) 曲調 曲節ニ同ジ。白居[illegible]

きょく-てん (名) 極點 極マルトコロ。極度。

きょく-てん-せききち (名) 跼天蹐地 天ニセグクマリ、地ニ抜足ス。恐ルルコト甚シク、身ヲ容ルル地ナシ。跼蹐ス。[illegible]「[illegible]不敢不蹐」

きょく-ど (名) 極度 ノボリツメタルトコロ。極點。

ぎょく-と (名) 玉兎 月ノ異名。[illegible]ノ[illegible]ヲ見ル。玉[illegible]走、[illegible]「[illegible]ヲ[illegible]シテ、夜[illegible]」

きょく-とう (名) 極東 [英語、Far East.] 東ノハテ。特ニ、歐米諸國ヨリ、亞細亞ノ東端、我ガ國、及、支那等ヲ指シテ云フ語。コレニ對シテ、歐羅巴洲ノ東[illegible]

きょく-のり (名) 曲乗 馬ニ乗リナガラ、[illegible]ノ[illegible]ナスコト。[illegible]四、[illegible]四十、下「[illegible]ト申ス、[illegible]ノ上手ニテ、曲乗ハ、[illegible]ノ[illegible]ニテナシト申セ共、云云」

きょく-ば (名) 曲馬 馬ニ乗リ、馬ヲ使ヒテ、種種ノ技ヲナスコト。曲乗ノ類。(曲藝ナドニ) 馬戲 寛永小說「[illegible]曲馬ヲ、[illegible]」

ぎょく-はい (名) 玉杯玉盃 タマノサカヅキ。玉ヲ彫リ作リタル酒杯。玉觴。[illegible]

ぎょく-はい (名) 玉佩 おんものノ條ヲ見ヨ。名目抄「[illegible]玉佩、[illegible]」

きょく-はう (名) [illegible] [illegible]ノ、相互ニ[illegible]

ぎょく-はく (名) 玉帛 玉帛ト、帛ト。古ヘ、支那ニテ、諸侯會見スル時、互ニ贈トシタルモノ。[illegible]ルモノト云フ) 論語、陽貨篇「禮云禮云、玉帛云乎哉」[illegible]「玉帛相見」ト云ヒテ、諸侯ノ、禮ヲ以テ、會見スルコトニ云ヒ、兩國ノ使者ノ會見ノ禮ニモ云フ。[illegible]「[illegible]相見而以戦」

きょく-ひ (名) 曲庇 事實ヲ曲ゲテ、[illegible]フコト。[illegible]

きょく-ひき (名) 曲彈 三味線ヲ彈キナガラ、[illegible]ノ曲藝ヲスルコト。[illegible]

きょく-ひつ (名) 曲筆 事實ヲ曲ゲテ、[illegible]コレヲ分チテ、[illegible]

きょく-ふ (名) 曲譜 [illegible]

きょく-ふ (名) 局部 [illegible]「[illegible]」場所ヲ限リタル部分。局所。

きょく-ほ (名) [illegible]

ぎょく-ほ (名) 玉歩 あゆみヲ云フ敬語。[illegible]

きょく-まち-でんぱう (名) 局待電報 電報ノ發信人ヲ、發信局ニテ、其返電ヲ待チ居ルコト。受信人ニ、必ズ返電セヨト知ラシム。

きょく-まり (名) 曲鞠 蹴鞠ニ、曲藝ヲスルコト。[illegible]藝ヲ得タル人ナリ、云云「[illegible]ノ、[illegible]マリ、ケルモノカ、ソヨヤ[illegible]、うぬらうノ曲」

きょく-む (名) 局務 太政官ノ外記ノ上首ノ、少納言局ヲ實ヌル者ノ稱。中古以後、中原、清原、兩氏ノ世襲トナレリ。[illegible]「外記上首、此云局務」

きょく-めん (名) 局面 碁局ノ面ノ、黒白ノ石ノ勝敗、變化。轉ジテ、人事ノなりゆきニモ、轉ヘテ云フ。[illegible]

きょく-もく (名) 極目 見ワタスカギリ。

[illegible]

きょく-もち (名) 曲持 種種ノ物ヲ、手ニ[illegible]ナガラ、[illegible]ナスコト。(曲藝ナドニ) 云云[illegible]

ぎょく-もん (名) 玉門 ツビ。女ノ陰部。陰門。倭名抄、三「玉門、女陰名也、[illegible]」

きょく-ろう (名) 極樓 ごくらふ(極樓)ヲ見ヨ。

ぎょく-らん (名) 玉蘭 [illegible]ノ[illegible]名。

ぎょく-りん (名) 玉輪 月ノ異名。玉[illegible]。[illegible]

きょく-りやう (名) [illegible]

きょく-りょく (副) 極力 アルカギリノ力ヲ出シテ。「極力、排斥ス」

きょく・る・る・れ・ら・り・れ (他動、四) 曲 [illegible] ヲ活用セシム、(約る)曲ハ、曲輪、曲、乗ナドノ曲ナルベシ」ナブル。チャカス。[illegible]

きょく-りょう-ぎょ (名) 麴糵魚 たひ(鯛)ノ[illegible]

ぎょく-ろ (名) 棘路 くぎゃう(公卿)ノ異[illegible]

ぎょく-ろ (名) 玉露 (一)露ノ[illegible]。[illegible]「[illegible]」(二)煎茶ノ銘、上品ナル煎茶用ノモノ。文化年中

ヨリ、山城ノ宇治ニテ製シ始ム、其葉ヲ蒸ス時、上ニ、新藁ヲ覆ヒトシ、ソレヨリ滴ル露ヲ受ケテ、甘味ヲ生ズト云フ。

ぎょ-くろう (名) 【玉樓】 玉ニテ飾リタルタカドノ。美シキタカドノ。金殿玉樓ノ條ヲ見ヨ。十洲記「城上安二金臺五所、玉樓十二所一」盛衰記、四十三、二位禪尼入海事「玉樓、金殿ノ昔ノ榮花、船中ノ浪ノ底、今ノ有樣思並テ、哀ナリ」

きょ-くろく (名) 【曲彔】 〔集韻「彔、盧谷切、音錄」說文「彔、刻レ木彔彔也」彔ハ、彔木ノ合字〕 僧ノ用キル椅子、圓ク曲レル寄掛リアルモノ。脚ハ、多クハ、打違ヘニ作リテ、牀机ノ如シ。圓椅 交椅 太平記、十、鹽飽入道自害事「中門ニ曲彔ヲ飾ラセテ、其上ニ結跏趺坐シ」下學集、下、器財門「曲 彔」

きょ-くわ (名) 【炬火】 タイマツ。松明。史記、田單傳「牛尾炬火」

ぎょ-くわ (名) 【漁火】 イサリビ。漁船ノ篝火。張繼詩「江楓漁火對二愁眠一」謠曲、三井寺「江村ノ漁火モ、ホノカニ」

きょ-くわい (名) 【巨魁渠魁】 オホダテモノ。多クハ、賊徒、又ハ、一揆ナドノ首領ヲ云フ。書經、胤征篇「殲二厥渠魁一、脅從罔レ治」

ぎょ-くわく (名) 【漁獲】 漁業ノ獲物。劉向、新序「今且漁獲、食レ之不レ盡、賣レ之不レ售」

きょ-くわん (名) 【居館】 住居ノ館。

ぎょ-くわん (名) 【魚貫】 〔數魚ヲ串ニ貫きタルガ如キ意〕 多人數、縱列ヲ成シテ、連リ行クコト。蟻ノトワタリ。三國志、魏志、鄧艾傳「將士皆攀レ木緣レ崖、魚貫而進」

ぎょ-けい (名) 【御慶】 祝ノ敬語。オイハヒ。日次紀事、一、正月「元日、御慶」「新年ノ御慶」

ぎょ-けい (名) 【御禊】 みそぎノ條ヲ見ヨ。

ぎょ-けい-すゐらい (名) 【魚形水雷】 すゐらいノ條ヲ見ヨ。魚雷。

きょ-げつ (名) 【去月】 前ノ月。先月。後月。前月 法書要錄「比者倚懸悒、得二其去月書一、省レ之悲慨也」

ぎょ-げふ (名) 【漁業】 スナドリノワザ。林逋詩「舊鄕漁業久凋殘」

きょ-げん (名) 【虛言】 虛言ニ同ジ。老子、第二十二章「古之所謂、曲則全者、豈虛言哉」

ぎょ-こ (名) 【漁戶】 漁家ニ同ジ。吳萊詩「蘆葦成レ林出二漁戶一」雲合奇蹤「小婦人周氏、是楊子江邊漁戶」

ぎょ-こ (名) 【魚鼓】 支那渡來ノ樂器、心越禪師、持チ來レリト云フ。竹筒、徑二寸、長サ二尺許、節ヲ貫キテ、上口ニ魚ノ皮ヲ貼リタルヲ、兩指ニテ擊ツ、或ハ、簡子(誤リテ、簡板ト云フ)ニテ擊ツ、竹製ニテ、長サ一尺、幅四五分、中部ノ節ヨリ上ヲ割キテ、末ヲ左右ニ反ラシム。(昆陽漫錄) 晁沖之詩「山空牛斗寒、寺靜魚鼓肅」蘇過、送二蠡秀一詩「來時野寺無二魚鼓一」 教訓抄、九「柷敔、謂二之魚鼓一、樂器也」

きょ-こう (名) 【虛構】 噓ヲ仕組ムコト。ウソ、イツハリ。

きょ-こう (名) 【巨熕】 たいはう(大砲)ニ同ジ。オホヅツ。

きょ-こう-さい-りん (名) 【巨口細鱗】 (一)口ノ大キク、鱗ノ細カキ魚。蘇軾、後赤壁賦「巨口細鱗、狀如二松江之鱸一」(二)轉ジテ、鱸ノ異名。

きょ-こく (名) 【擧國】 國人、コゾリテナルコト。クニヂュウ。一國中。史記、刺客傳「韓擧レ國與二仲子一爲レ讎」「擧國一致」

きょ-ごん (名) 【虛言】 ソラゴト。ウソ。虛言。十訓抄、中、第六、二十九條「惣ジテ、物ニ諂ヒ、欲ニ進ミ、虛言ヲ構フル者ハ、盜ヲスル類」

ぎょ-ざ (名) 【御座】 ミマシ。オマシ。高貴ナル方ノ座席。ござ。後漢書、隱逸傳「明日太史奏、客星犯二御座一甚亟」太平記、三、後醍醐天皇御二沒落笠置一事「寒草ノ疎ナルヲ、御座ノ茵トシ」

きょ-さい (名) 【去歲】 去年ニ同ジ。コゾ。昨年。張說、幽州新歲作「去歲荊南梅似レ雪、今年薊北雪如レ梅」

きょ-さい (名) 【巨細】 巨細ニ同ジ。史記、田儋傳「政無二巨細一、皆斷二於相一」

きょ-さつ (名) 【巨刹】 〔刹ノ條ヲ見ヨ〕 大寺ト云フニ同ジ。オホキナル寺。

きょ-し (名) 【巨資】 巨額ノ資財。莫大ナル資本。

きょ-し (名) 【擧止】 タチヰ。フルマヒ。擧動。後漢書、馮異傳「觀二其言語擧止一、非二庸人一也」

きょ-し (名) 【鋸齒】 (一)のこぎりノは。天工開物「鋸二開鋸齒一、用二茅葉鋭一」(二)草木ノ葉ノ緣ノキザキザ。キレコミ。欽刻

〔きよ・し〕キ・ケレ・ク・ク (形、一) 【清淨】 〔きよ(淸)ノ條ヲ見ヨ〕 (一)穢レナシ。淸淨ナリ。(きたなしノ反) 萬葉集、十五 三八廿「玉敷ケル、伎欲吉ナギサヲ、潮滿テバ、アカズ我レユク、歸ルサニ見ム」 (二)汚ナシ。濁ラズ。澄 「水、きよし」 (三)イサギヨシ。潔白ナリ。(心ニ、行ニ) 潔 續紀、一、文武元年八月、詔「明キ淨き直キ、誠ノ心モチテ」 (四)殘リナシ。跡方ナシ。全然 宇津保物語、嵯峨院 九八十「或ルハきよく書キタルモアリ、或ルハなから書キタルモアリ」 枕草子、十、百三十三段「常ニハ覺ユル事モ、又、人ノ問フニハ、きよく忘レテ、ヤミヌル時ゾ多カル」

きょ-し (名) 凶事ノ約。倭訓栞、きよし「口語ニ云フハ、凶事ノ音訛也ト云ヘリ」

きょ-じ (名) 【虛字】 實字ノ條ヲ見ヨ。

ぎょ-し (名) 【魚肆】 魚ノ店。莊子、外物篇「君乃言レ此、不レ如三早索二我於枯魚之肆一」

ぎょ-し (名) 【御史】 支那ノ官名、百官ヲ糺彈スルコトヲ掌ル。我ガ邦ニテ、彈正臺ノ唐名ヲ、御史臺ト云フ。唐書、百官志「御史大夫、一人、正二品、掌下以二刑法典章一、糺中正百官罪惡上」

ぎょ-じ (名) 【御璽】 〔說文「璽、王者之印也」〕 天子ノ御印。又、內印。方三寸、文ハ「天皇御璽」ノ四字ナリ。史記、秦始皇紀「矯二王御璽、及、太后璽一」 公式令「詔書、親署後、鈐二御璽一」同、義解「內印、方三寸」 明治ノ御代ニモ、國璽ト共ニ制定セラレ、御親書ニ捺サセタマフ。

きょ-しう (名) 【去就】 去るト、止まるト。背くト、從ふト。嚮背。史記、賈誼傳、賦「同二生死一、輕二去就一」「去就ヲ決ス」去就ヲ共ニス」

ぎょ-しう (名) 【漁舟】 イサリブネ。漁獵船。杜荀鶴、秋宿二臨江驛一詩「漁舟火影寒歸レ浦、驛路鈴聲夜過レ山」

ぎょ-し-だい (名) 【御史臺】 御史ノ條ヲ見ヨ。職原抄、下、彈正臺「唐名、御史臺、又云二霜臺一」

ぎょ-し-たいふ (名) 【御史大夫】 官名、後ノ大納言。天智紀、十年正月「以二蘇我果安、云云一爲二御史大夫一」註「御史、蓋、今之大納言乎」天平寶字二年ニ、大納言ヲ御史大夫ト改稱セラレ、同八年ニ、舊稱ニ復セラル。

きょ-しつ (名) 【居室】 住居スル部屋。キマ。禮記、曲禮、下篇「君子將レ營二宮室一、宗廟爲レ先、廐庫爲レ次、居室爲レ後」

きょ-じつ (名) 虚日 閑暇ナル日。

きょ-じつ (名) 虚實 (一)虚シキト、實チタルト。[illegible] (二)うそト、まことト。

きょ-しん (名) 虚心 心匠ナキコト。心ヲムナシウスルコト。[illegible]

きょ-じん (名) 巨人 (一)身體ノ、巨大ナル人。オホヲトコ。史記、周紀「見二巨人跡一」(二)學德、才能ノ、傑出シタル人。大人物。偉人。

きょ-じん (名) 擧人 (一)古へ、大學寮ヨリ、式部省ノ官吏登用ノ受驗者ニ推擧セラレタル者。[illegible] (二)きょ-し(擧子)ノ條ヲ見ヨ。

ぎょ-しんな・る [illegible] 馭成 [illegible] 納メテ、げしなる。[illegible]

「打チトケテ御寢モならズ、御歎キニ沈ミタマヘバ」

きょ-しん (名) [illegible] [illegible]

[illegible] 不行也」

きょ-しゃう (名) 去聲 ゐん(韻)ノ條ヲ見ヨ。

きょ-しゃう (名) 擧狀 (一)官途ナドニ [illegible] (二)[illegible] 下ノ言ヲ、上ニ傳達スル書。[illegible]

[illegible]

きょ-しゃう (名) [illegible] [illegible]

[illegible] 見カシテ、元氣ヲ退阻アルベキ」

きょ-じゃう (副) 居常 平常ニ同ジ。ヘイゼイ。フダン。日常。[illegible]

きょ-じゃく (名) 虚弱 (一)精力ノ弱キコト。[illegible] (二)防禦力ノ弱キコト。[illegible]

きょ-しゅ (名) 擧手 (一)手ヲ擧グルコト。[illegible] (二)[illegible]

きょ-しゅつ (名) [illegible] [illegible]ノ條ヲ見ヨ」 數人シテ、物ヲ出シ合フコト。

きょ-しょ (名) 居所 キドコロ。スミカ。[illegible] 居所ヲ知ラズ」

きょ-しょ (名) 擧書 名主、庄官、以下ノ役人ノ、訴狀ニ添フル、地頭ノ副書。(庭訓往來)

きょ-しょ (名) 車枝 オコシゴメ。[illegible]

きょ-しょく (名) [illegible] ウハベノカザリ。外見ヲノクロフコト。[illegible]

きょ-しょく (名) 遽色 アワテタル顏色。[illegible]

ぎょ-しょく (名) 漁色 女色ニ耽ルコト。

[illegible]

ぎょ-す [illegible] [illegible]

ぎょ・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ (他動、左變) 御 (一)馬ヲ乘リマハス。[illegible] (二)國民ノ上ニ立チテ、統べ治メタマフ。統御ス。[illegible] (三)用ヰル。[illegible] 天子ノ衣服、飲食、妃妾、皆、云フ)

きょ-せい (名) 去聲 きょしゃう(去聲)ニ同ジ。ゐん(韻)ノ條ヲ見ヨ。

きょ-せい (名) 去勢 [「韻會」外腎傷」勢」] 折竹付[illegible] [illegible] キンキリ。きんきりうしノ條ヲ見ヨ。

きょ-せい (名) 虚勢 [illegible]

きょ-せい (名) 擧世 世間コゾリテナルコト。[illegible]

ぎょ-せい (名) 御製 [illegible]

きょ-せつ (名) 虚說 ソラゴトノウハサ。ウソバナシ。[illegible] [illegible] 船旅ヲ、舟ニテ東近江ヘ落ケタリトテ、シテケレドモ、[illegible]

きょ-ぜつ (名) 拒絕 拒ミ、[illegible]

きょ-ぜん (名) [illegible]

ぎょ-せん (名) 御撰 [撰すノ條ヲ見ヨ] 天子ノ御作、撰集ノ書、又ハ、勅撰ナド。[illegible]

きょ-そ (名) 擧措 [illegible] フルマヒ。[illegible] 八、猶二同ジ)

ぎょ-ぞく (名) 魚族 魚類ニ同ジ。

きょ-そん (名) [illegible]村 キムラ。[illegible]村。

ぎょ-そん (名) 漁村 漁戶ノ集リテアル村。[illegible] 宮ナレバ、漁村ニ焚ス漁火マデモ、[illegible]ノ漁火カト見エテ」

きょ-た (名) 許多 アマタナルコト。多キコト。ココダ。[illegible]

きょ-だ (名) 怯懦 [illegible] 「怯、[illegible]」 [illegible] キコト。イクヂナキコト。臆病。史記、[illegible]

きょ-だい (名) 巨大 [illegible] 大ナルコト。

ぎょ-たい (名) 魚袋 束帶ノ時ニ、束帶ノ右ニ[illegible]、長サ三寸、巾一寸、厚サ五分許ノ匣ヲ、白鮫ノ皮ニテ[illegible]

面ヲ張リ、魚ノ形ヲ、表ニ六ツ、背ニ一ツ着ケ、紐ニテ帶ブ。三位參議以上ハ、其魚、鍍金ナリ、金魚袋ト云フ、四位、五位ハ、銀ニテ、銀魚袋ト云フ。唐書、輿服志「咸亨三年五月、五品已上賜ニ新魚袋ー、並飾以レ銀」彈正臺式「凡魚袋者、參議已上、及著レ紫、諸王五位已上、金裝、自餘、四位五位、銀裝」

ぎょ-だい (名) 〔御題〕 天子ヨリ出シタマフ、詩歌ノ題。康熙字典「進入ニ殿試御題ー」

ぎょ-だう (名) 〔魚道〕〔凝當ノ借字、唐韻「凝、止水也」字典「當、底也」韓非子、外儲說、右上篇「猶ニ玉巵之無ニ當一」〕 酒杯ノきたみ。杯ノ底ノ、飲ミ殘リヲコボスコト。下學集、下、器財門「魚道者、建ニ殘盃ー器也」徒然草、百五十八段「盃ノ底ヲ捨ツル事、云云、凝當ト申シハベレバ、底ニ殘リタルヲ捨ツルニヤ候フラム」貞德獨吟、自注(寬永)「盃ノ、魚道ニ櫻ガ、散リカカリ」豐ノ綠ヘ、通フ春風」自注「盃ヲバ、豐ノヘリヘ捨ツル故ナリ」(杯ノ殘滴ヲ、疊ノすきまニ捨ツルコト、今川大雙紙ニ見ユ) 嗚呼矣草(文化)「大和國、平群谷、往馬谷ノ民俗ノ常談ニ、茶ノ飲ミノコリヲ、今モ凝當ト云ヘリ」

きよ-たき (名) 〔清瀧〕 水キヨキタキ。

きよたき-ゑ (名) 〔清瀧會〕 さくらゑ(櫻會)ノ條ヲ見ヨ。

きょ-たく (名) 〔居宅〕 スマヒ。スミカ。居所。世說「貧無ニ居宅ー」大内家壁書「御家人中、雖レ有ニ所望地ー、不レ可レ立ニ神人居宅ー事」

きょ-だく (名) 〔許諾〕 聞キ入ルルコト。承諾。承知。禮記、曾子問篇「女子許諾、而弗ニ敢嫁ー禮也」

きょ-だつ (名) 〔虛脫〕 漢方醫ノ語。精力ノ、脫ケ失スルコト。死ナムトスル狀態ニ云フ。

きょ-たん (名) 〔虛誕〕 「說文「誕、徐曰、妄爲ニ大言ー也」」 妄リニナス大言。オホウソ。左雄、上ニ順帝ー疏「虛誕者獲レ譽、拘檢者離レ毀」盛衰記、四、涌泉寺喧嘩事「自ガ虛誕也」

きょ-ぢゅう (名) 〔居住〕 スマフコト。スマヒ。十二運經「不レ得ニ居住ー」北史、楊椿傳「居住舍宅」保元物語、一、新院御所各門門固事「爲朝久シク、鎭西ニ居住仕ノテ」

きょ-ちゅう-てうてい (句) 〔居中調停〕 爭フ者ノ中ニ立チテ、アツカフ。爭議ノ、ナカナホリヲセサス。

きょッ-と (副) 心ヲ衝ク如クニ、怖ヂ驚ク狀ニ云フ語。ハット。ビックリ。後世ハ濁音ニ、ぎょッとト云フ。毘管抄、六「大嘗會ノ御禊ノ行幸ノ日ニテ、朱雀門ノ頭レハ、世ノ人モ、きョッと思ヘリ」心中重井筒(寶永、近松作)中「德兵衞ぎョッとシテ」

ぎょッ-と (副) 前條ヲ見ヨ。

ぎょ-てい (名) 〔魚梯〕 川ノ、瀧ヲナス所ナドニ設クル梯子。魚ヲシテ、川上ニ溯ラシム。

ぎょ-てう (名) 〔魚鳥〕 うをト、とりト。鳥魚。嵇康、絕交書「游ニ山澤ー、觀ニ魚鳥ー、心甚樂レ之」吾妻鏡、七、文治三年八月二十日「魚鳥干物」

ぎょてう-どめ (名) 〔魚鳥留〕 喪ニアル家ニテ、魚鳥類ヲ、門內ニ入レシメヌコト。精進スルタメナリ。

きょ-でん (名) 〔虛傳〕 聞傳ノ、虛事ナルコト。虛聞。蘇軾、巫山詩「楚賦亦虛傳、神仙安有レ是」

ぎょ-でん (名) 〔魚田〕 〔魚ノ田樂豆腐ノ意〕 料理ノ名。鯖ノ切身、又ハ、鮎ナドヲ、醬油ニ漬ケオキテ、金串ニ刺シテ、焦ガサヌヤウニ燒キテ、味噌ヲ塗リ、再ビ炙リテ成ル。味噌ニハ煎出汁、砂糖、味醂ヲ加ヘテ、擂リユルメ、とろ火ニカケテ、掻キマゼテ煉ル。

きょ-とう (名) 〔去冬〕 去年ノ冬。昨冬。舊冬。

きょ-どう (名) 〔擧動〕 タチヰ、フルマヒ。擧措。擧止。動作。古詩、焦仲卿妻「此婦無ニ禮節ー、擧動自專由」韓非子、解老篇「妄ニ擧動ー、則禍害至」

ぎょ-とう (名) 〔魚燈〕 次條ノ語ノ略。

ぎょとう-ゆ (名) 〔魚燈油〕 常ニ略シテ、ぎょとう。鰯ノ脂ヲ煮テ取レルモノ、燈油トス、臭氣アリ。鯨ヨリ取レルモアリ。

きょ-と-きょ-と (副) 狼狽ヘテ、落チツカズ居ル狀ニ云フ語。奧州安達原(寶曆、近松半二等)三「何ヲきョときョとト言ハッシャル、犬デモハイリマシタカ」

きよ-どころ (名) 〔清所〕 おきよどころヲ見ヨ。

ぎょ-なう-の-ちゃうちん (名) 〔魚腦提燈〕 魚ノ腦骨ヲ叩キヒラメテ、火覆トシタル提燈。支那舶來ノモノ、半透明ニシテ、厚キ油紙ニテ貼リタルガ如ク、屈伸セラレズ。魚魫燈 西湖志餘、二十「燈市出ニ售各色華燈ー云云、豪家富室、則有ニ料絲魚魫、鏤花、燈彩」云云、枕如ニ琥珀ー、可ニ以爲レ燈」河南通志、十三「靑魚出ニ濟源ー、形似レ鯉而背靑色、又、頭中骨、煮拍レ之、可ニ以製ニ器ー(骨董集、上編、下、後) 秋の夜の長物語(玄惠法印作ト云フ)「ぎよふうのち、うちんニ、螢ヲ入レテ燈シタリ、其光、カスカナルニ」後花園院、永享九年行幸記「御會所ノ西ノ馬道ノ軒ニ、ぎよふうの挑燈アマタ懸ケラル」桂川地藏記(永治)上「寺、綾羅挑、云云、瑠璃壺」

ぎょ-にく (名) 〔魚肉〕 (一)ウヲノニク。左傳、昭公二十年「水火、醯醢、鹽梅、以烹ニ魚肉ー」(二)魚ノ肉ヲ切ル如ク、斬リ殺サルルコト。史記、張儀傳「毋レ爲ニ秦所レ魚肉ー」

きょ-ねん (名) 〔去年〕 コゾ。マヘノトシ。昨年。去歲。俗語藪「去年十二月二十一日、梁書ー營家後集「去年今夜侍ニ淸涼ー」

きょ-はう (名) 〔巨砲〕 オホヅツ。大砲。

きょ-はく (名) 〔巨舶〕 オホフネ。大船。巨艘。吳萊詩「富貴巨舶窺ニ天星ー」

きょ-はく (名) 〔巨擘〕 (一)大指。オヤユビ。(二)群衆ヨリ、傑出シタルモノ。頭目。孟子、滕文公、下篇「於ニ齊國之士ー、吾必以ニ仲子ー爲ニ巨擘ー焉」註「巨擘、大指也」蘇洵、史論、下「范曄、陳壽、實巨擘焉」

ぎょ-ばん (名) 〔魚板〕 「木魚ト、緣アル語カ」 板木ノ、魚ノ形ニ彫リ造レルモノ。寺院ニテ、時刻ノ相圖ナドニ叩キ用キル。

きよ-ばらひ (名) 〔清祓〕 不淨ヲ清ムルタメニスル祓。事前ニモ、事後ニモ行フ、普通ノ祓ト異ナラザルモノナリシガ、後世ハ、一ノ儀式トナリテ、朝廷ノ清祓ハ、吉田家ノ職トナレリ。春日權神主師淳記、明應六年八月十四日「當山之里ヘ出ル路、死人穢、三十箇日過之間、任ニ先例ー可レ有ニ清祓ー候」忠利宿禰記、承應三年十一月十六日「昨日內裏觸穢限也、今日未刻、於ニ內侍所ー被レ行ニ清祓ー、自ニ吉田ー被レ奉ニ仕之ー」倭訓栞、きよはらひ「十二月晦日ニ、禁裡ニテ清祓ヲ、吉田ノ勤メラルル事アリ、內侍所ノ前庭ニテ行ハル」

ぎょひ [illegible]

きょひつ (名) 巨筆 (一)大ナル筆。(二) [illegible] 大ナル [illegible]

きょびゃう (名) [illegible] 二同ジ。[illegible]

ぎょふ (名) 漁夫 イヲトリ。漁リヲ業トスル者。[illegible]

ぎょふ (名) 漁父 (一)ムラギミ。漁夫ノ長。(二)[illegible]

ぎょふ [illegible]

ぎょぶつ (名) 御物 御物ニ同ジ。史記、[illegible]

きょぶん [illegible]

きょまう (名) [illegible]

きよまはる・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 清 [illegible] (一)齋戒 [illegible] うまはる)齋まはるモアリ」(二) [illegible] ヲモ食ヒ、女ニモ馴レテ、きよまはる事モナクテ」同、九、第一條「七日、水ヲ浴ミ、精進ヲシテ、習フコトナリト云フ、ソノママニきよまはりテ」(二)キヨマル。[illegible] まはらセタマフベキニモアラズ」

きょまん [illegible]

きよまる・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 清 (清むノ自動) [illegible] ル。清淨ニナル。徒然草、十七段「山寺ニカキコモリテ、佛ニ仕ウマツルコソ、云云、心ノ濁リモきよまる心地スレ」

ぎょみ (名) [illegible] (一)魚ノアヂハヒ。(二)男、女、小兒、三歳ノ時、魚ノ味 [illegible] 式アリ、多クハ、[illegible] ト同時ニ行フ。マナハジメ。[illegible]

きよみづ (名) 清水 キヨキミヅ。シミヅ。[illegible]

きよみづやき (名) 清水燒 京都ノ五條坂、清水ノ邊ヨリ燒キ出ス磁器ノ名。いしやきニシテ、多クハ染付ナリ。一名、音羽燒。[illegible]

きょみん (名) [illegible] 其土地ニ住居スル人民。住民。土民。[illegible]

きょむ (名) 虛無 何モナキコト。一切、空虛ナルコト。[illegible]

きよ・む・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ (他動、下二) 清 [清ヲ活用セシム、淸むる、廣むる] (一)淸クナス。淸淨ニナス。穢レヲ去ル。[illegible] きよめテ」[illegible] 淨む」不淨ヲ淨む」 (二)スス グ。ハラス。[illegible]

きょむたう (名) [illegible] 二年八月「志」[illegible] ノ [illegible] 人生ヲ [illegible] 存在ヲ否定シテ、人類ノ [illegible] トヲ最終ノ理想トス。

きよめ (名) 淨淸 (一)キヨムルコト。淸淨ニナスコト。源、廿九、行幸「ヨロヅノ事ニツケテ、きよめト云フコト侍レバ」(二)[illegible] 御きよめニ参リタルナドモ、皆寄リテ」一御きよめ」(三)賤民ノ一種。犬馬ノ屍ナド、死穢ノ物ヲ取リ [illegible] ノゑたノ類。今物語「美シゲナル女房ノ、云云、きよめガ家ノアリケルニ、入リニケリ」

きょめい (名) 虛名 實力ナクシテ、實力以上ニ、世間ニ傳ヘラレタル名。[illegible] 實用ニ」運歩色葉集「虛名」[illegible]

ぎょめい (名) 御名 オホミナ。主上ノ御名。[illegible]

きよめがき (名) 淸書 きよがき(淸書)ニ同ジ。

∴きよ・める (動) 淸 淸むノ口語。

きよもとぶし (名) [illegible] 一派、[illegible] 富本 [illegible] ノ弟子、淸水 [illegible] 初代、[illegible] ノ弟子、淸水吉 [illegible]

きよもり [illegible] きよもりナド云フナリ、其故ヲ問フニ、[illegible] シテ水ヲ好ムニヨリテ、淸盛ト云フナリト云フ」

きょよう (名) [illegible] 二同ジ。[illegible]

きょよう (名) 許容 [illegible] ノ計略ニハ非ズ、併シナガラ、[illegible] ニ依リテ也」

〔きよら (名) 淸 〔きよら、きよらか。〕 薄ら、うすらか。うらら、うららか。 清ラカナルコト。ケウラナルコト。[illegible] キコト。美麗 宇津保物語、初秋「夕影ニ、アヤシク、物ノきよらマサルホドニ」同、蔵開「八ノ宮モ、宰相ノ御女ヲ得タマヒテ、迎ヘテ侍ヒタマフ、我レモ我レモト、きよらヲシツツ」同、國譲、上「三條殿、イトオモシロク、きよらニ造リナサレタレバ」

きょらい (感) 去來 いざト云フ語ニ充ツル字。[illegible]

ぎょらい [illegible] ゐらいノ條ヲ見ヨ。

ぎょらいこん [illegible] 來ト、个生ト [illegible]

きょらう (名) 虛勞 病ニ因リテ、精力ノ [illegible] 「心氣、疲勞、虛勞」

きよらかみ (副) 淸 〔きよらノ條ヲ見 [illegible]

ぎょらんのくゎんおん (名) 【魚籃觀音】 觀世音ノ像ノ、魚ヲ入レタル籃ヲ提ゲタルモノ。

きょり (名) 【巨利】 大ナル利益。大利。南史、徐勉傳「更招二巨利一」「一擧ニシテ、巨利ヲ得」

きょり (名) 【距離】 ヘダタリ。アヒダ。「山ト海岸トノ距離、三十町」

きょりう (名) 【居留】 假リニ、其地ニ留マリ住ムコト。寄留。元治甲子夷匪入港錄、一「兼テ居留之者ハ勿論、一時渡來之船船乘組之者エモ通達シ」

きょりうち (名) 【居留地】 條約ニ因リテ、或ル國ガ、其領土ノ一部ヲ限リテ、他國人ノ、永久居留スルヲ許シタル地。我ガ國ニテ、開港場、開市場ナドニアリシガ、明治三十二年、外國人ノ内地雜居ヲ許サレテ、此名稱ハ消滅セリ。元治甲子夷匪入港錄、一「横濱外國人居留地、警衞ノ儀ハ」

ぎょりん (名) 【魚鱗】 (一)ウヲノウロコ。又、ウヲ。呂氏春秋「山雲草莽、水雲魚鱗」史記、淮陰侯傳「天下之士、雲合霧集、魚鱗雜遝」盛衰記、十二、師長熱田社琵琶事「瓠巴琴ヲ彈ゼシカバ、魚鱗踊リ躍リキ」 (二)兵法ノ語。陣立ノ名ニ、人字形ニ、中央進ミ、左、右、後ニ開キテ、雁行ニ隊ヲ配付スルモノ、其相接スルコト、魚ノ鱗ノ如シ、コレヲ魚鱗の陣ト云フ。コレヲ倒サマニ、鍬形樣ニシテ、鳥ノ翼ヲ前ニ開キタル如キヲ、鶴翼の陣ト云フ。武英殿本、帝範、序「躬擐二甲冑一親當二矢石一夕對二魚鱗之陣一朝臨二鶴翼之圍一」保元物語、二、白河殿攻落事「敵、魚鱗ニ懸破ントスレバ、御方、鶴翼ニ連リテ射シラマカス」

ぎょりょう (名) 【御綾】【魚綾】 〔御トハ、上品ナル意カ、(天子御料ノ綾ノ意ニモア

ルカ)字類抄ニ、ぎょりんト、唐音ニモ云ヘレバ、支那舶來ノモノナルベシ、魚ハ、借字ト知ラル〕 唐綾ノ、上品ナルモノ。字類抄「御綾、ギョリン、ギョリャウ、上品唐綾名也」増鏡、第八、北野の雪、文永四年「からあや、ぎよれうナドニテ、二階造ラレテ」長門本、平家物語、十四「武藏三郎左衞門有國ハ、練色ノぎよりようノ直垂ニ」

ぎょるゐ (名) 【魚類】 ウヲノタグヒ。ウヲ。魚族。

きょれい (名) 【虚禮】 表面ノミニテ、實意ニ出デヌ禮式。「虚禮廢止」

ぎょれふ (名) 【漁獵】 (一)漁リスルト、獵スルト。後漢書、劉般傳「般上言、郡國以二官禁二二業一至レ有二田者不レ得二漁捕一夫漁獵之利、爲レ田除レ害有レ助、穀食無レ關二二業一也」 (二)單ニ、スナドリ。水中ニテ、魚ヲ捕ルコト。(獵トハ、川獵ナドノ意カ) 漁 史記、張耳陳餘傳「之二河上澤中一漁獵」

⁂きょろきょろ (副) 〔きろきろノ轉、其條ヲ見ヨ〕 訝リテ、眼ヲ動シ、邊ヲ見マハス狀ニ云フ語。生玉心中(正德、近松作)上「惡ロイヘバ、邊カラハ、きょろきょろ見ル」

きょゐ (名) 【虛位】 實際ノ權力ナキ地位。南史、茹法亮傳「呂文度專制二兵權一、領將軍守二虛位一而已」韓愈、進學解「道與レ德爲二虛位一」「虛位ニ居ル」

きょゐ (名) 【虛威】 カライバリ。虛勢。「虛威ヲ示ス」「虛威ヲ張ル」

ぎょゑん (名) 【御苑】 天子ノ御園生。沈佺期、歌レ雪應制詩「灑レ瑞天庭裏、驚レ春御苑中」「新宿ノ御苑」

きら (名) 【華麗】 〔煌煌シキ意〕 (一)ハナヤカナルコト。美麗。神皇正統記、鳥羽院「御容儀メデタクマシマシケレバ、きらヲモ好マセ

タマヒケルニヤ」平家物語、一、殿上闇討事「播磨米ハ、木賊カ、椋葉カ、人ノきらヲ磨クハ」「きらヲ飾ル」「きらヲ張ル」 (二)榮華。榮耀。承久軍物語、一「時ノきら、後ノオボエ、ユユシカリケルアリサマ也」(藤原親經ガ、鎌倉下着ノ出迎ノ盛儀ヲ云ヘルナリ) (三)轉ジテ、威光。權勢。十訓抄、上、第一、二十七條「其頃ノ内府(内大臣重盛)ノきらニテハ、如何ナル車ナリトモ、爭ヒガタクコソアリケメドモ」「きらニ附ク」

きら (名) 【雲母】 きららニ同ジ。

きら (名) 【浮垢】 水ニ、油ナドノ浮ビテ、キラメクモノ。「きらガ浮ク」

きら (名) 【綺羅】 (一)綺ト、羅ト。古詩、相逢行「大婦織二綺羅一中婦織二流黃一」顏氏家訓「車乘塡二街衢一綺羅盈二府寺一」 (二)衣服ノ、美シキモノ。美衣。舊唐書、裴漼傳「後庭有二綺羅之賞一由レ是爲二時論所一レ譏」「綺羅錦繡」「綺羅ヲ裝フ」

きらう (名) 【耆老】 〔禮記、曲禮、上篇「六十曰レ耆、指使、七十曰レ老、而傳」〕 年老イタル人。トシヨリ。禮記、王制篇「養二耆老一以致レ孝」東大寺正倉院文書、二十六、陸奥國戸籍「本戸主、古呂禰、年六十七、耆老」

きらきら (副) 【煌煌】 物ノ、煌メク狀ニ云フ語。枕草子、六、五十八段「御燈云云、オソロシキマデ燃エタルニ、佛ノ、きらきらト見エタマヘル、イミジウ尊ゲニ」

きらきら (感) 【呵呵】 笑フ聲。からから(呵呵)ノ條ヲ見ヨ。著聞集、十六、興言利口、北院御室「只、きらきらトノミ笑ヒケリ」

きらきら・し・シキ・シケレ・シク・シク (形、二) 【端麗】【端正】 〔きらきらハ、淸らきよらノ約ナルベシ〕 容姿、嚴ニテ、ウルハシ。威儀、正シ。神代紀、下、三十四「聞二其兒端正一」允恭紀、二十三年三月「容姿佳麗」雄略紀、二年十月「面貌端麗」欽明紀、十三年十月、佛「相貌端嚴」字鏡、五十「美女ノ合字ニ「支良支良志」名

義抄「鮮、キラキラシ」

きらきら・し・シキ・シケレ・シク・シク (形、二) 【煌煌】 煌メク狀ナリ。キララカナリ。枕草子、三、廿四段「ゆづりはノ、イミジウ總ヤカニ艶メキタルハ、云云、莖ノ、赤ウきらきらしう見エタルコソ、賤シケレドモ、ヲカシケレ」今昔物語、廿八、第二語、貞道、季武、金時、紫野見物「皆、見ル目モきらきらしく、手利キ、魂太ク、思量アリテ、イカメシク」

きらく (名) 【歸洛】 〔らくやう(洛陽)ノ條ヲ見ヨ〕 洛ヘ歸ルコト。歸京。(京都ニ云フ) 平治物語、一、從二六波羅一被レ立二早馬於紀州一事「敵ニ向テ歸洛センズカ」

きらく (名) 【氣樂】 心ニ、苦勞ナキコト。氣分ノ、樂ナルコト。安樂

きら・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) 【霧】 〔霧るノ他動、(照る、てらす。鳴る、ならす)きる(霧)ノ條ヲ見ヨ〕 曇ラス。萬葉集、八、八十「打霧之、雪ハ降リツツ」同、九、三十三「搔霧之、雨ノ降ル夜ヲ」源、二十九、行幸、七「アカネサス、光ハ空ニ、曇ラヌヲ、ナドテみゆきニ、目ヲきらしケム」(きりふたがらす)

きら・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) 【切】 〔切るる、ノ他動、濡るる、ぬらす。馴るる、ならす〕 貯ヘヲ絶ス。狂言記、止動方覺「手前ニ、茶ヲきらしマシタ」「商品ヲきらす」

きらず (名) 【雪花菜】 〔切らずノ義、屠龍工隨筆(安永)「きらずハ、豆腐ノ糟ニテ、切らずニ調菜スベケレバ、サ、呼ビナラヒ」豆腐殼ノ、空ト通ズルヲ嫌ヒテ、言ヒカフル語ト云フ〕 豆腐がらノ異名。カラ。ウノハナ。堀川波鼓(寶永、近松作)下「豆腐商フ商人ノ、きらずきらずト、聲高ニ賣ル」

きらは・し・シキ・シケレ・シク・シク (形、二) 【嫌】 〔嫌ふノ未然形ノきらはヲ、形容詞ニ活

用セシム、厭ふ、いとはし。思ふ、おもはし」嫌フベシ。好マシカラズ。太平記、二十五、[illegible]「[illegible]しく思召ナガラ、辭スルニ詞ヤ無リケン」

きらひ キライ (名) 嫌 (一)キラフコト。好カヌモノ。狂言記、六地藏「身共ハ幼少ヨリ、マムシハきらひデゴザル」(二)ウタガヒ。ウタグリ。嫌疑「世ノきらひヲ避ク」多邪ノきらひアル人」

きらびき (名) 雲母引 紙ナドニ、雲母ヲ塗リタルモノ。雲母紙

きらびやか・み (副) 華麗 煌メキテ、美シク。キラフカニ。[illegible]「[illegible]、きらびやかふ、ウチツレ、ウチツレ上ル中ニ」

きら・ふ キロ・ウ ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ(自動、四) 霧 〔霧り合ふノ約、其條、及、霧るノ條ノ(二)ヲ見ヨ〕霧ル。ケモル。[illegible]「[illegible]天ノ川、八十瀬霧[illegible]ノ、[illegible]、今シ[illegible]」同、二十、[illegible]ノ川ノ瀬ノ上ニ[illegible]、同、十一、[illegible]「[illegible]ハ霧リツツ」

きら・ふ キロ・ウ ・ハ・ヒ・フ・ヘ(他動、四) 嫌 〔切るノ延ナルベシ(取る、とらふ。(捕)遣る、やらふ)〕(一)〔棄テ退クル。神代紀、上「[illegible]」[illegible]比タマヒ、拒タマフ」同、三十、神護景雲三年十月、詔「退ケタマヒ、捨テタマヒ、岐良比タマハム」(二)〔心ニ適ハズトス。好マズ。[illegible]ふ」

きらぼし (名) 綺羅星 〔[illegible]〕晴夜ノ空ニ輝メク、無數ノ星。[illegible]「[illegible]ミ居タリ」

きらん (名) [illegible] 御蘭ニ同ジ。「[illegible]」

きらむし (名) 五魚 〔きらきら光ル義〕五魚ニ同ジ。

きらめか・す ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) 煌 〔次條ノ語ノ、きらめくノ他動、ひらめく、ひらめかす。ほのめく、ほのめかす〕煌ク如クニナス。宇津保物語、藏開、上「太刀ヲ拔キきらめかしテ、片端ヨリ追ヒハラヒテ」

きらめきえぼうし (名) 煌烏帽子 烏帽子ノ、[illegible]ナクシテ、一面ニ、黒漆ニテ塗リテ、きらきら光ルモノ。今鏡、下、第八、[illegible]「[illegible]コソ、サビエボウシ、きらめきえぼうしナド、ヲリヲリカハリテ侍ルメレ」

きら・めく ・ク・ケ・カ・キ・ケ(自動、四) 煌 (一)〔キラキラ光リカガヤク。宇津保物語、[illegible]「[illegible]レバ、金[illegible]ノ如クきらめきテ[illegible]、夕[illegible]、サレタル[illegible]、[illegible]ノ[illegible]、云云、きらめきタリ」(二)着飾リテ、イデタツ。盛裝 [illegible]長門本、平家物語、十八、宗盛父子被[illegible]「[illegible]上人モ、今日ヲ晴レト、きらめきテゾ見エシ」盛衰記、二十八、[illegible]「[illegible]マヒシカバ、メデタキ見物[illegible]」[illegible]、十六、[illegible]口「御供ノ侍共、面面ニきらめきテ侍リシニ」(三)饗應ニ接待ス。盛饗 [illegible]、二、上、[illegible]「[illegible]カヒガヒシクもてなしケリ、[illegible]モ足ラヒテ、[illegible]シカリケレバ、ユユシクきらめきタリ」

きらら (名) 雲母 〔煌煌ノ約、うらうら、うらら。きはきは、きはニ〕礦物ノ名。山澗ノ石ニ着キテ迸ズ、色白ク煌メク、火ニ燒ケズ、細末ノ上品ナルハ、透明ニテ水晶ノ如ク、[illegible]ケズ、薄[illegible]ノ如シ、鎧[illegible]ナドニ作ル、下品ナルハ、細末ニシテ、畫料ナドニ用ヰル。約メテ、きら。雲母 [illegible]

きららか・み (副) 煌煌 〔[illegible]〕[illegible]語、三、[illegible]「御前ノ人、皆皆ヤンゴトナク、きららかなる限リヲ選ラセタマヘリ」同、二十四、若枝「見目ノ、オドロオドロシウ、きららかなる事ハ、又世ニメデタカニ、[illegible]」[illegible]、第十段「今メカシク、きららかならネド、木立、物古リテ」

きららがみ (名) 雲母紙 雲母ニテ、種種ノ文ヲ摺リ出シタル紙。キラビキガミ。

きり (名) 霧 〔霧るノ名詞形〕(一)空氣中ノ水蒸氣ノ、寒ニ逢リテ、水陸ノ面ニ近ク漂フモノ。モヤ。霧ノ起るヲ、立つト云ヒ、和歌ニハ多ク、秋ニ詠ム。[illegible] (二)人ノ息噴。人ノ、歎キテ吐キ出ス、強キ氣息ノ、霧トナリテ立チワタルトシテ云フ語。神代紀、上「[illegible]」「吹棄氣噴之狹霧」萬葉集、十五「君ガ行ク、海邊ノ宿ニ、霧立タバ、吾ガ立チ歎ク、息ト知リマセ」[illegible]ノ浦ニ、朝霧ノ、立ツヤト人ヲ、思ヒヤルカナ」(三)心ニ、イブセク思フコト。[illegible]、四十四、[illegible]「[illegible]ノマヨヒモ、晴ケハベラム」

きり (名) 切 (一)切ルコト。斷ツコト。(二)キザ。際。限切。終リ。斷落 [illegible]「[illegible]カラ切マデ、語リ終カセニヤ堪忍セヌ」「文ノ切」(三)限リ。果。際限。終結。[illegible]「[illegible]一イツマデ待ッテモ切リガ無イ」

きり (名) 錐 〔鑽るノ名詞形〕(一)工匠ノ具、小サキ穴ヲ穿ツモノ。[illegible]

[illegible]

きり (名) 桐 〔伐るノ名詞形、きりのきト云フガ成語ナリ、[illegible]、きり桐ハ、シバシバ伐リテ、却テ榮ユルモノナレバ名トス。伐リコマバ、初ヨリ一倍モ榮ユトテ、桐一倍ト云フ諺モアリ」(一)樹ノ名。直ニ聳ユルコト二三丈、[illegible]ニ、長キ穂ヲナシテ、花ヲ開ク、胡麻ノ花ニ似テ、長サ一寸餘、色ニ、紫アリ、白アリ、花衰ヘテ、葉ヲ生ズ、大ナルハ一尺餘、五尖ヲナシテ對生ス、實ハ[illegible]ノ實ノ如ク、圓クシテ尖リ、長サ一寸餘、内ニ小サキ子アリ、蒔キテ生ジ易シ、材、ヤハラカニシテ白ク、琴、箱、机ナドヲ作ル良材トス。白桐 [illegible]青桐、[illegible]桐、針桐、[illegible]シ、各條ニ注ス。(二)琴ノ異名。桐ノ材ニテ造レバナリ。新拾遺集、二十、長歌「心ヲ澄ス、我レナレヤ、桐ノ絲ニモ、タヅサハル」[illegible]琴ニ造リ、サマザマナル音ノ出來ルナド、ヲカシ」(三)紋所ノ名。[illegible]桐ノ葉ヲ見ヨ。五三ノ桐、五七ノ桐ナドアリ、各條ニ注ス。(四)小判ノ異名(桐ノ葉ノ形ヲ刻ミアレバ云フ)[illegible]川柳「桐ノ光デ、職風モ、[illegible]ヲ出ルニ[illegible]サレル」

キリ (名) [illegible]「かるたニきりト云フハ、[illegible]、スベテ十四切ト呼」

ブハ、蠻人ノ形ニテ、羅迦ノ十ト稱スルモノ、彼土ノ神形ナリト云ヘリ」「一カラきりマデ」

きーり (名)|奇利| 意外ノ利益。モ・ケノサイ・ハヒ。管子、禁藏篇「布帛羅淫、商人奇利、未ν在二其中一也」「奇利ヲ博ス」

きーり (名)|肌理| シシワキ。膚ノキメ。杜甫詩「肌理細膩骨肉勻」

〔きり (動)|霧| きる(霧)ノ條ヲ見ヨ。

きり (接尾)|切| カギリ。タケ。三河物語(大久保彦左衛門)下「大井河きりト仰セ候儀、云云」「コレきり」「ソレきり」「アリきり」

ぎーり (名)|義理| (一)義ノ理。人ノ履ミ行クベキ、正シキスヂミチ。史記、始皇本紀「明以二義理一」「義理ヲ違ヘズ」(二)ワケ。コヽロ。意味。北史、崔浩傳「研二精義理一」「義理通ゼズ」(三)人ノ交際ニ、務ムベキ道。交誼。中陽草叢、九、下、品第廿八「景虎ヲ御頼有事、イヤト申セバ、一國ヲ拵チ、弓矢ヲ取ラント心ガクル中美ハナキ様成事ナレバ、先當座ノ義理ヲ專ニシテ、主君ヘノ御奉公、父ヘノ孝行、何モ指置、云云、ト、ウケオヒ給フ」「義理ヲ立ツル」義理ガワルイ」(四)養母、繼母、養子、先妻ノ子ナドヲ、義理アル母、義理アル子ナド云フ。義母、義子ノ義ヲ、義理ト解シテ言フ語カ。(義(熟語、第一)ノ條ヲ見ヨ)

きり-あげ (名)|切揚| さつまいもヲ細ソク刻ミテ、胡麻ノ油ニテ揚ゲタルモノ。

✣きり-あ・げる・ゲル・ゲレ・ゲ・ゲ・ゲヨ(他動、下一)|切上| (一)古刀ノ刃ヲ切リテ、短クス。常ニ略シテ、あげるト云フ。あげみノ條ヲ見ヨ。(二)斷チ了フ。止ムル。シマフ。終結。「談判ヲきりあげる」

きり-あさ (名)|桐麻| 蔺麻ニ同ジ。

きり-あな (名)|錐穴| 木造ノ的ノ中央ニ

穿チテアル、小サキ穴。ホシ。略シテ、きり。「此穴ニ矢ヲ射中ツルヲ、きりヲ射ルト云ヒ、前ニ射タル矢、目ニ、後ノ矢ヲ射中ツルヲモ云フ。常州寄志(天和)七、楊弓「楕中央有二小穴一、是謂二奇利穴一、中二其穴一者、稱美之二好色一代男(天和、西鶴)三、楊弓、四本外レズ、一筋ハきり穴ニ通レバ、座中、目ヲサマシ」

きり-あな (名)|切穴| 芝居ノ舞臺ノ床ニ、切リ明ケテ、裝置アル穴。幽靈ナドヲせりあげ、せりおとしナドシ、又、盜人ノ影ヲ隱シナドスルモノ。花道ノ七三ニアル、すっぽんナド云フモ、是レナリ。

きりあひ (名)|切合| キリアフコト。タタカヒ。交刃。接戰。甲陽軍鑑、十五、品第四十二「陣ナキ時、武士カケムカヒノ勝負ヲバ、きりあひ、或ハ、「志あひト申」

きり-あ・ふ (動)|霧合| 霧、タチオホフ。霧るノ條ヲ見ヨ。

きり-あ・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ(自動、四)|切合| 刀ニテ、互ニ切ル。タタカフ。交刃。接戰。平家物語、一、鵜川合戰事「互ニ弓箭、兵仗ヲ帶シテ、射アヒ、切あひ、數刻戰フ」

きり-あめ (名)|霧雨| 霧ノヤウニ、細カク降ル雨。キリサメ。ヌカアメ。烟雨。

きり-いし (名)|切石| (一)種種ノ用キニセムトテ、其形ニ切リタル石。太平記、三十八、湖水涸事「琢磨ノ如クナル切石ヲ、廣二丈許ニ、平ニ疊連ネテ」(二)切石ノ敷石。イシダタミ。砌石。甃。嫗山姥(正德、近松作)二「緣ヨリ下ヘコロコロ、云云、切石ノ上ヘ、マッウツムケ」

きり-い・る・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四)|切入| 刀ヲ揮ヒテ、襲ヒカカル。切リ込ム。「敵陣ニ切入る」

きーりう (名)|寄留| 本籍地ヲ出デテ、他鄕ニ、假リニ籍ヲ移シテ、住ミ居ルコト。本籍地ニテハ出寄留ト云ヒ、寄留地ニテハ入寄留ト云フ。

きーりう (名)|氣流| 大氣ノ流動。

きーりう (名)|杞柳| コブヤナギ。孟子、告子、上篇「性、猶二杞柳一也、義、猶二桮棬一也、以二人性一爲二仁義一、猶下以二杞柳一爲中桮棬上」

きーりうさん (名)|稀硫酸| 水ヲ加ヘテ、稀薄ニシタル硫酸。

きり-うり (名)|切賣| 物ヲ、要アル程、斷チ切リテ賣ルコト。タチウリ。截賣。國性爺後日合戰(享保、近松作)二「切賣スル羊」

きりおとし (名)|切落| 江戸ノ芝居ニ云ヒシ語。昔ノ芝居小屋ハ、舞臺、棧敷ニ屋根アルノミニテ、中央ノ平場ノ見物場ニハ、屋根ナク、床ナク、一面ニ切落シテ、落間、卽チ、土間ナリシカバ、平場ヲ、土間トモ、切落シトモ云ヒキ、天明ノ頃ヨリ、平土間、高土間ナドノ枡、出來テヨリ、(土間ノ條ヲ見ヨ)東西ノ花道ニ通ズルおほあゆび(步板ノ、幅、稍廣キモノ)以外ニ、切落ノ名ヲ存シ、追込ノ席トシテ、見巧者、無遠慮ノ者ノ入ル所トナリ、舞臺ニ遠ケレバ、役者ノ藝ノ巧拙ヲ、聲擧ゲテ贊否ナドシタリ。此ノ切落ト云フモノ、今ハ無クナレリ。寶曆ノ川柳「觸杭ノ、ヤウニユリ込ム、切落」浮世風呂(文化、三馬)四編、中、切り落しカラ、罰ガ當ルト云フハナ」

きり-おと・す・ス・セ・サ・シ・セ(他動、四)|切落| (一)伐リテ、地ニ落ス。キリオロス。「枝ヲきりおとす」(二)堤ヲ切リ崩シテ、水ヲ落シヤル。決潰。「洪水ニ、堤ヲきりおとす」

〔きり-おろ・す・ス・セ・サ・シ・セ(他動、四)|伐下| 前條ノ(一)ニ同ジ。萬葉集、十五[十]「青柳ノ、枝伐り下之、齋種蒔キ」

きり-かか・る・ル・レ・ラ・リ・レ(他動、四)|切掛| (一)切リハジム。(二)刀ヲ擧ゲテ、襲フ。運步色葉集「諫鬪」

きり-か・く・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ(他動、下二)|切缺| 材ヲ、横ニ、若干、切リテ、缺カス。

きり-か・く・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ(他動、下二)|切懸| 切リハジム。切リックル。博多小女郎波枕(享保、近松作)上「居ヤイ脹、否ト云ハバ、切かけンズ氣色」

〔きり-が・く・る (動)|霧隱| 霧ニ隱ル。霧るノ條ヲ見ヨ。

きりかけ (名)|切懸| (一)切リカクルコト。切リッケテ、一部ヲ缺クコト。(二)〔板屏ノ衝立ノ如キモノ。其製、柱ニ横板ヲ羽重ニツケ、竪ノ押木ニ、板ノ重目每ニ切懸ヲ作リテ、篏メテ打チッケタルモノ、今、ささらさトト云フ、是レナリ。此屏ハ、中庭ノ坪、又ハ、門內ト入口トノ間ニ立テテ、目隱シトシタルモノナリト云フ。源、四、夕顏三「きりかけダツモノ(きりかけヤウノモノ)ニ、イト靑ヤカナル葛ノ、心地ヨゲニ這ヒカカレル」大和物語、上「此大德、坊ニシケル所ノ前ニ、きりかけヲナムセサセケル、其削屑ニ書キツケケル「籬スル、飛驒ノ木匠ノ、鍇音ノ、アナ 囂シ、ナゾヤ世ノ中」兵範記、仁安三年十一月二日、大嘗會「東第一間切懸下、敷二六男座一」(三)幣束ニツクル紙垂。細長キ紙ニ、横ニ間ヲ置キテ、左右ヨリ、幅ノ半マデ切りかけテ、きりかけ每ニ折リカヘス。

きり-がね (名)|切金| 彫刻ノ細工ニ、金

甫ヲ[illegible]ク切リテ、模樣ノ線ヲ追ヒテ、チリバムルモノ。

きりか・ふ・フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ（他動、下二）切替 彼レヲ此レニ替フ。取リ替フ。交換。詞花集、十、雜、下「常陸介ニ侍リケル時、大隅ノ使ドモ、嚴シクセメケレバ、云云、近江ニきりかヘテ侍リケレバ」「紙幣ヲ、銀貨ニきりかふ」

きりかぶ（名）切株 キリクヒ。樹ヲ伐リ倒シタル後ノ根株。[illegible]

きりかぶろ（名）切禿 [illegible]女ノ[illegible]ノ髮ヲ、肩ノアタリニテ切リ揃ヘタルモノ。[illegible]

きりかへ（名）切替 キリカヘルコト。交換。

きりか・へる・ヘル・ヘレ・ヘ・ヘ・ヘヨ（他動、下一）切替 兩替ス。交換

きりかみ（名）切紙 （一）折紙ヲ、折目ドホリニ切リタルモノ。文書ニ、奉書[illegible]、鳥子紙、[illegible]ナドノ、全紙ヲ用ヰタルヲ竪文ト云ヒ、横ニ半ニ折リテ用ヰタルヲ、折紙ト云ヒ、折紙ヲ半ニ切レルヲ、切紙、又ハ、手紙ナリ。（二）切紙ノ書狀ノ[illegible]。切紙ニ文ヲ書キタルヲ[illegible]卷キ收メ、[illegible]ノ[illegible]ヲ、[illegible]ソノ折[illegible]シテ、下ヨリ切リテ、上ノ方ヲ少シ切リ殘シテ、切リタル分ヲ狀ニ卷キテ、其末ヲ[illegible]。[illegible]年正月廿七日「上米五斗、以二切紙一於二釜境一可レ取之[illegible]」

きりかみ（名）切髪 きりさげがみニ同ジ。[illegible]「[illegible]ラヘハテス世ノ中ニ、樣變ヘテ給ヒ給ヘ」

きりがやつ（名）[illegible] 櫻ノ一種、[illegible]ガ谷ヨリ出デタルモノ」[illegible]一ノ品トス。八重ニシテ、一重モ雜リ、[illegible]

きりきざ・む・ム・メ・マ・ミ・メ（他動、四）切刻 [illegible]ヲ強ム」細カニキザム。キリクダク。[illegible]

きりぎし（名）切岸 山腹ノ、切リタテタル如ク、直ニ聳エタル處。[illegible]

きりきず（名）切疵 刃物ニテ切リタル、[illegible]ノ疵。打疵、[illegible]ナドニ對ス。太平記、廿五、住吉合戰事「切傷、射傷、七所迄負ハレタレバ」

きりきやうげん（名）切狂言 劇場ノ大切ニ演ズル狂言。切幕。

きりきり（名）[illegible] [illegible]旋毛ノ異名。[illegible]

きりきり（副）旋回 （回轉ノ語原ヲ見ヨ）（一）卷キメグル狀ニ云フ語。宇治拾遺、[illegible]「[illegible]、きりきりトシテ居タレバ」（旋毛ヲ、きりきりト云フ）（二）立チメグリテ動ケト命令スル語。トクトク。ハヤハヤ。冥途飛脚（正德、近松作）上「きりきり渡シヤト、急リ立テラレ」「きりきり起テ、きりきり働ケ」（三）[illegible]卷キメグルヤウニ痛ム狀ニ云フ語。

きりぎり（名）[illegible] 限ノ略。至極。[illegible]リツメタルトコロ。極度。[illegible]

[illegible]三馬）四編、中「[illegible]レテ、ぎりぎりガ二十八文ダ、夫デ[illegible]」

きりぎりす（名）[illegible]（きりきりハ、[illegible]）[illegible]名、古歌ニ云ヘリ、即チ、今ノこほろぎ[illegible]木里木里須」

きりぎりす（名）[illegible] （一）蟲ノ名、古名、こほろぎ[illegible]ヲ見ヨ。原野ニ多シ、形、いなごニ似タリ、夏ノ末[illegible]鳴ク。其聲、ぎいすちよト聞エテ、機織ノ聲ノ如シ、故ニ、きちちよ、又、はたおりむしノ名アリ、雌ハ鳴カズ、綠色ナルモノハ、竹林ニ居テ、聲低ク、褐色ノモノハ、岡ニ居テ、聲高シ。京都ニ、きす。（二）江戸ノ山谷通ヒノ小舟ノ名。小サキ屋根ヲ設ケテ、[illegible]二挺立ナルモノ、狹キコト、きりぎりす籠ノ如クナレバ、名トストス云フ。（柳亭記、下）

きりぎりすかご（名）[illegible] キリギリスヲ飼養スル、目ノ荒キ籠。

きりきりと（副）[illegible] 「きりきりハ音ナリ」（一）[管、獨樂ナドノ、卷キ廻ル音ニ云フ語。[illegible]（二）[illegible]記、三十二、落行人人歌事「扇ヲゾツカヒタマヒケル、[illegible]ノ、きりきりと[illegible]」[illegible]一八「切齒、オクバヲきりきりと、ハギシリヲスルゾ」（三）弓[illegible]、[illegible]引ク、[illegible]音ニ云フ語。約メ[illegible]きりりと。[illegible]

[illegible]二人數二、十二束、二ツ伏、きりきりと引キ[illegible]

きりきりまひ（名）旋回舞 「身ヲきりきりト旋回ラス」テンテコマヒ。[illegible]

きりくぎ（名）[illegible] [illegible]ト云フ意カ」又、クレクギ。[illegible]釘。[illegible]

きりくだ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ（他動、四）切碎 切リ刻ム。ズタズタニ切ル。寸斷。[illegible]二、云云、身一ツヲノミ、きりくだく心地ス」[illegible]、六、別「別ルルヲ、惜シトゾ思フ、ツルギバノ、身ヲきり碎く、心地ノミシテ」

きりくだしぶみ（名）切下文 古ヘ、大[illegible]、[illegible]ノ官人ヲ遣シテ、催促ニ發スル公文書ノ後ニ云フ、切符ノ類ナリト云フ。兵範記、[illegible]日來催促」後調集、きりくだしぶみ「寬弘元年[illegible]エタリ、朝野群載二、官ノ切下文ト見ユ、一紙ノ中ニ、數條ヲ載スル故ニ、一切、一切ニ分チ書クヲモテ、切下文ト云フカ」

きりくち（名）切口 （一）物ヲ切リタル端。切取リタル小口。宇治拾遺、一、第六條「切口三寸、長サ五尺ノ[illegible]」（二）切疵ノ口。

きりくづ（名）切屑 物ヲ切リ斷チタル端ノ、不用ナルモノ。タチクヅ。

きりくづ・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）切崩 （一）[illegible]

切入リテ、追ヒ散ラス。 淺井三代記、十五、姉川合戰事「淺井ガ手ハ、信長卿ノ御勢ヲ、十一段マデ切崩し」 別所長治記、大村合戰「爰ゾ勝負ヲ決スル所ヲ、切崩せ」

きり-くひ (名) 切杌 〔くひ(杌)ノ條ヲ見ヨ〕 樹ノ切株。餘枿 字鏡 四十五「杌、支利久比」 徒然草、四十五段「カノ木ヲ切ラレニケリ、其根ノアリケレバ、きりくひノ僧正ト云ヒケリ」

きり-くび (名) 斬首 斬リオトシタル首。首級 唐船噺今國性爺(享保、近松作)下「斬首、生首、數珠繫ギ」

きりくひ-の-まうしぶみ (名) 切杌申文 女敍位ニ、己ガ勞ト、母ノ勞トノ年數ヲ合ハセテ、五位ノ爵ヲ申シ請フ書。 江家次第、三、女敍位「切杌、譽音、生年十歲女官、以二四十年勞一申二敍爵一、是其母、三十年之間、奉二仕公一、仍、母勞三十、與二我十一相合、以二此勞一申二敍爵一、是名二切杌一也」 同、抄、三「切杌、如二樹杌生二若立一也」

きり-く・む・ム・メ・マ・ミ・メ (他動、四) 切組 材木ヲ切リ、削リシテ、物ヲ作ルベク組立ツ。 出世景淸(貞享、近松作)四「上三尺ノ詰牢ニ、シコノ木ヲ以テ、蜘蛛手格子ニ切り組んデ」

きり-く・も・る (動) 霧曇 霧、カカリテ、曇ル。 霧るノ條ヲ見ヨ。

きり-こ (名) 切子 切籠 〔きりハ、切角ノ意、子ハ、物ノ意、張子、刺子ノ如シ〕 (一)四角ナル物ノ、角角ヲ切取リテ、切隅、即チ、隅切角ニシタル形。燈籠、硝子器、棒ナドニ云フ。(二)次次條ノ略。

きり-こうじやう (名) 切口上 〔一語ヅツ、切ヲツケテ云フ意〕 物言ヒノ狀ノ、嚴カニ、分明ト聞ユルモノ。 浮世風呂(文化、三馬)初編、上「口サキニテ、切り口上」

きりこ-どうろう (名) 切子燈籠 燈籠ノ格ヲ、切子ノ形ニ作レルモノニ、白紙ヲ貼リ、又、紙、帛ナド、細ソク切リテ、飾リ垂ラシタルモノ、盂蘭盆會ナドニ用ヰル、盆燈籠ナリ。 鑓權三重帷子(享保、近松作)下「軒端、軒端ニ灯ス火ハ、切子燈籠、色色ノ花ノ繪盡シ、判ジ物」

きりこ-の-ぼう (名) 切子棒 棒ノ頭ニ、木製ノ切子ノ形ヲ着ケタルモノ。 倭訓栞、きりこ「きりこの棒ヲ、吾杖トモ云フハ、古今注ニ金吾、金韜棒也、漢ノ執金吾、亦、棒也ト云フ」

きり-こまざ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (他動、四) 切細裂 細カニ刻ム。細カニ剪ミ切ル。 浮世風呂(文化、三馬)三編、上「金紙ダノ、行成紙ダノト、役ニモ立タヌ事ニ切りこまざいテ、使ヒ捨テマスシ」

きりこみ (名) 切込 (一)キリコムコト。(二)次條ノ語ノ略。(三)沙利ニ、沙ヲマゼタルモノ。

きりこみ-うるか (名) 切込鱁鮧 うるかノ條ヲ見ヨ。

きり-こ・む・ム・メ・マ・ミ・メ (自動、四) 切込 (一)きりいるニ同ジ。(二)人ノ說ヲ難ジテ、詰問ス。

きり-こ・む (動) 霧籠 霧、タチコム。 霧るノ條ヲ見ヨ。

きり-こめ-やき (名) 切込燒 陸前、加美郡、宮崎村、切込ノ地ニテ燒キタル磁器。伊達綱宗、始メテ、肥前ノ有田ノ陶工ヲ招キテ、燒キ造ラシム、コレヲ禁裏ニ獻ゼシカバ、供御ニ用ヰタマヒ、ソレヨリ、土器ヲ停メテ、磁器ヲ用ヰタマフヤウニナリシト傳フ。

きり-ころ・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) 斬殺 斬リテ殺ス。斬殺ス。 狂言記、雙六僧「口論ノ致サレ、相手ヲきりころし」

きり-さいな・む・ム・メ・マ・ミ・メ (他動、四) 寸斬 〔さいなむノ條ヲ見ヨ〕 ムゴタラシク斬ル。ナブリギリニス。 唐船噺今國性爺(享保、近松作)上「科モナイ者ヲ、滅多無性ニ斬りさいなみ」

きりさげ-がみ (名) 切下髮 寡婦ナドノ、髮ヲ短ク切捨テテ、括リテ、末ヲ後ヘ下ゲオクモノ。キリカミ。

きり-さ・げる・ゲル・ゲレ・ゲ・ゲ・ゲヨ (他動、下一) 切下 (一)崩シテ、低クス。「土手ヲきりさげる」 (二)價値ヲ安クス。「定價ヲきりさげる」

きり-ざんせう (名) 切山椒 菓子の一。しんこニ、山椒ノ子、砂糖ナド加ヘ、搗キ雜ゼテ、細ソク刻ミタルモノ。

きり-さめ (名) 霧雨 〔さめ(雨)ノ條ヲ見ヨ〕 霧雨ニ同ジ。ヌカアメ。

ギリシア-けう (名) 希臘教 〔英語、Greek Catholic. 希臘人ハ自國ヲ Hellas. ト云フ、希臘ハ、其音譯字ナリ〕 又、ぐりいきけう。耶蘇教ノ一派、西曆第九世紀ノ頃、天主教ヨリ分レタルモノ。歐羅巴ノ希臘國邊ヨリ、露西亞國ニ行ハル。

キリシタン-しゅうもん (名) 切支丹宗門 〔きりしたんハ、葡語、Christão.(基督教)ノ轉、初ハ、吉利死丹ト書キシガ、將軍綱吉ノ、吉ノ字ニ憚リテ、切ニ改メタリト云フ、(海錄、一)或ハ、契利斯旦ト記セルモアリ〕 室町時代ノ末世、西洋ヨリ日本ニ傳播セル天主教ノ稱。其教中ノぢぇずうぃっと派ナリ。天文年中、葡萄牙人、我ガ九州ニ來リ、伴天連、以留滿ナド云フ宣教使ヲ以テ、其教ヲ弘メ、九州ノ大小名、士庶ノ、其教ニ歸依スルモノ多ク、永祿中、京都ニ入リ、天正九年、西班牙人モ來リ加ハリテ、愈盛ンニ行ハレ、後、江戶ニマデ及ベリ、全國諸所ニ、教會堂ヲ建テ、貧民ニ施金シ、施療シ、全國ニ、信者三十餘萬人ニ至レリト云フ。國ヲ奪ハム陰謀アリト認メラレテ、德川幕府、此宗門ヲ嚴禁シ、其宣教使、及、內國ノ信者ヲ、海外ニ放逐シ、宗旨ヲ改メザル者ハ磔殺シ、寬永十六年、全ク滅絕セリ。 天正十五年六月十九日、切支丹宣教師追放令「日本國ハ、神國タル處、切支丹ヨリ邪法ヲ授ケ候義、太以不レ可レ然事」(比屋根安定、日本宗教史) 大友記「宗麟ハ、切支丹ニ歸依セラレ、云云、一番ニ、住吉大明神ノ社ヲ、山森紹應ニ仰セ、燒拂ハセテ、打崩ス」 大友興廢記、十八、府內萬壽寺炎上之事「きりしたん宗ハ、西洋宗トモ、又ハ、耶蘇宗トモ云ヘリ」

きり-しに (名) 切死 斬リツ、斬ラレツシテ、討死スルコト。 太平記、廿六、正行討死事「只一騎馳歸、大勢ノ中ヘ懸入テ、切死ニコソ死ニケレ」

きり-しば (名) 切芝 〔しば(結縷草)ノ條ヲ見ヨ〕 庭ノ通路ヲ作ルニ、芝生ヲ切リ取リタル所ナルベシト云フ。 夫木抄、廿八「百敷ノ、庭ノきり芝、降ル雪ニ、コレヲカギリト、濡レシ袖カナ」

きりしま (名) 霧島 次條ノ語ノ略。

きりしま-つつじ (名) 霧島躑躅 〔日向ノ霧島山ノ產、正保ノ頃、大阪ニ出デ、明曆二年、江戶、染井ノ花戶、伊兵衛方ヘ來リテヨリ弘マルト云フ〕 つつじノ屬。花ハさつきニ似テ小サク、深赤ニ

シテ[illegible]ナリ、つつじニ次ギテ、夏ノ初ニ開ク。略シテ、きりしま。[illegible] 山紅。[illegible]

きりすて（名）［切捨］（一）切リ捨テルコト。[illegible] 捨テハ、[illegible]モナク候。（二）人ヲ斬殺シテ、ソノママニナシオクコト。江戸時代、武士ニ無禮ノ振舞シタル町人、百姓ニ對シテ爲セル事ニテ、咎メ無シトセリ、コレヲ、切捨御免ナドモ云ヒキ。

きり-す・てる・テル・テレ・テ・テ・テヨ（他動、下二）［切捨］（一）切リテ、其場ニ捨ツ。（二）切捨ニナス。前條ノ（二）ヲ見ヨ。[illegible]（三）計算ニ、數ノ半端ヲ捨テテ、加ヘズ。[illegible]

こに[illegible]同捨五入」ノ條ヲ見ヨ。

キリスト-けう（名）［基督教］[illegible]（Christianity.）又、クリストケウ。やそけう（耶蘇教）ノ條ヲ見ヨ。

きり-ずみ（名）［切炭］さくらずみナド、斷ニテ、用キルホドニ切リタルモノ。[illegible]

きり-ずみ（名）［切角］すみきりがくニ同ジ。[illegible] ラ、きりずみノ義ナリ」

きり-ぜに（名）［切錢］鎌倉時代、民間ニテ、銅ヲ、所要ニ應ジテ切リテ、錢ノ如ク用キタルモノトイフ。[illegible]

きり-せん（名）［切錢］「切替ノ口錢ノ略」

切質ニ同ジ。

きり-だいばん（名）［切臺盤］[illegible]ノ條ヲ見ヨ。

きり-だし（名）［切出］（一）切リ出スコト。（二）小刀ノ、刃大ナルモノ。剪刀

きり-だ・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）［切出］（一）切リテ、出ス。「[illegible]」（二）話シカクル。言ヒ始ムル。「[illegible]」

きり-た・つ・ツル・ツレ・テ・テ・テヨ（他動、下二）［切立］（一）直下ニ側ル。キ、タテニス ル。直截[illegible]（二）切リカカル。キリチラス。キリマクル。[illegible]

きり-たて（名）［切立］直ニ切リタル如ク、峙ツコト。勾配ノ、極メテ急ナルコト。

乾立

きり-たて（名）［切立］「切立ノ義ニテ、眞直ニテ、下枝ナキ立木ノ意ニモアルカ」（一）木ノ植込ナルベシ。[illegible]（二）蹴鞠ノ鞠場ノ、四本懸リノ樹木ノ稱。（けまりノ條ヲ見ヨ）[illegible]

きり-だて（名）［義理立］[illegible]

きり-たふ・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）［伐倒］［切倒］立チ木ヲ伐リテ、倒ス。[illegible]

きり-だめ（名）［切溜］厨ニテ、野菜ナド、切リテ溜ムルニ用キル器。重箱ノ如クニシテ、深ク、粗ナル漆塗ナドニス。

きり-ちん（名）［切賃］「切替賃ノ略」金銀貨ヲ、錢ニ切替フルニ申受クル錢。兩替ノ手數料。切錢。[illegible]

きり-ちら・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）［切散］刀ヲ揮ヒ、切入リテ、追ヒ散ラス。キリマクル。

き-りつ（名）［規律紀律］ノリ。オキテ。サダメ。規則。[illegible]

き-りつ（名）［起立］「起立ナルベキナリ」起立ツ。タチアガルコト。

きり-つ・く・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ（他動、下二）［切付］（一）彫リツク。彫刻。[illegible]（二）切リテ、中ツ。下刀。「[illegible]きりつく」

きり-づけ（名）［切漬］胡瓜、白瓜ナド、切リテ、鹽漬トシタルモノ。（丸漬ニ對ス）

きりつけ-もん（名）［切付紋］縫紋ナドニ對ス）衣服ノ紋ニ、他ノ帛ニ畫キテ、切リ取リテ、縫附ケニシタルモノ。

きりつけ-もやう（名）［切付模様］[illegible]

きり-つぼ（名）［切壺］[illegible]ノ條ヲ見ヨ。

きり-つぼ（名）［桐壺］[illegible]エラレテアレバ名トス、つぼ[illegible]ヨ」禁中ノ殿舍ノ、淑景舍ノ別名。[illegible]

きり-つま（名）［切妻］[illegible]

きり-づま（名）［切妻］[illegible]屋根作リニ云フ語。切棟ニ同ジ。

きり-つまど（名）［切妻戸］［切通ノ妻戸ノ意］禁中ノ切通ヨリ、寢殿ヘ入ル妻戸。（家屋雜考）（二）略シテ、切妻。[illegible]

きり-つ・める・メル・メレ・メ・メ・メヨ（他動、下二）［切詰］極度ニオシツム。ギリギリニ、ツメル。[illegible]

きり-て（名）［切手］（一）人ノ、[illegible]切ル人。介錯人。[illegible]

きり-ど（名）［切戸］[illegible]戸ニ同ジ。[illegible]

きり-どうだい（名）［切燈臺］結燈臺ノ、丈低キモノ。[illegible]

江家次第、二、叙位「苦入、夜者、執筆座右、立二切燈臺一」

きり-とほし（名）［切通］事ヲ、滞ラズ取リサバキユクコト。裁決如流　拾集抄、六、第六條「信長公ハ、全ク無ヲ宗トシ、世法ヲきりとほしニテ、人ノ善惡ヲハカリタマヘルコト、掌ヲ指スガ如シ」

きり-どほし（名）［切通］山、岡、廊、等ヲ切リトホシテ、開キタル路。阪阪　東海道名所記（萬治）一「小磯ノ町外ニ小路アリ、ソノ先ニ切通アリ」

きり-とほ・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）［切通］山、岡ナド、穿チ崩シテ、行路、水路ナドヲ開ク。疏通　古今集、十一、戀、一「吉野川、岩きりとほし、行ク水ノ、音ニハ立テジ、戀ヒハ死ヌトモ」

きり-どり（名）［切取］人ヲ斬殺シテ、物取スルコト。殺掠　傾城反魂香（寶永、近松作）中「盜人ナラバ盜人、切取ナラバ切取一、切取強盜」

きり-と・る・ル・レ・ラ・リ・レ（他動、四）［切取］（一）一部ヲ切リテ取ル。（二）攻メテ、奪フ。セメトル。攻取　甲陽軍鑑、九、下、品第廿七「弓矢ヲヨク取テ、國ヲ深山ニ伐取一一敵地ヲ切取る」

きりぬき（名）［切拔］キリヌクコト。又、キリヌキタルモノ。

きりぬき-つうしん（名）［切拔通信］新聞紙ナド、注文ニ必要ナル部ノミ、切拔キテ送附スル職業。

きりぬき-ゑ（名）［切拔繪］錦繪ニ、種種ノ繪ヲ畫キマゼタルモノ。小兒、コレヲ切拔キテ、玩トス。

きり-ぬ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ（他動、四）［切拔］物ノ中ヨリ切リテ、拔キ取ル。「繪ヲきりぬく」

きり-ぬ・く・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ（他動、下二）［切拔］圍ミタル敵陣ナドヲ、切リ破リテ出ヅ。潰圍「一角ヲきりぬく」

きり-ぬさ（名）［切幣切麻］〔ぬさノ條ヲ見ヨ〕幣ノ、小サク切リタルモノ。貞觀儀式、大嘗、百官列立之後「神祇官、頒二切麻一云云、祓畢、行二大麻一」旅行ニ携フルモノハ、五色ノ麻ヲ、長サ四寸許、幅八分許ニ切リタルヲ、重ネ結ビテ、白キ紗ナドノ袋ニ入ル、後ニハ、紙ヲ用キタリ、路スガラ、諸所ノ神社ニ、少シヅツ手向ケユクナリ、其袋ヲ、幣袋ト云フ。拾遺集、八、雜、上「物ヘマカリケル人ノ許ニ、ぬさヲ結ビ、袋ニ入レテツカハストテ」源、三十四、上、若菜、上「色色、コボレ出デタル御麻ノツマヅマ、透影ナド、春ノ手向ノぬさぶくろニヤトオボユ」（衣ノ褄ヲ云フ）

きり-の-うみ（名）［霧海］廣ク霧ノ立チワタリタルヲ、海ト見ナシテ云フ語。桂林集（永正ノ頃）「空晴レテ、明クル濤ノ、霧の海ニ、浮ビ出デタル、沖津島山」

きり-の-とばり（名）［霧帳］霧ノ、帷帳ヲカケタル如ク、一面ニ、立チコメタルヲ云フ語。夫木抄、十、霧「七夕ノ、ヨトデノ姿、タチカクス、きりのとばりニ、秋風ゾ吹ク」

きり-の-ひとは（名）［桐一葉］桐ノ葉、一枚、落チ始ムルコト。秋ノ來レルヲ知リ、衰ヘノ兆トシ、又、小事ヲ見テ、大事ノ至ルベキヲ察スル意トス。文錄ニ載セタル「一葉落知二天下秋一」ト云フ唐人ノ詩ニ因ル語ナリ。いちえふ（一葉）ノ條ヲ見ヨ。爲尹百首、戀「アヂキナヤ、桐の一葉ノ、落チソメテ、人ノ秋コソ、ヤガテ見エケレ」

きり-の-まがき（名）［霧籬］霧ノ立チコメテ、見ル目ヲ遮ルヲ、籬ニ譬ヘテ云フ語。霧の八重垣、霧の帳ナド云フモ、同意ナリ。曾丹集「山里ノ、きりのまがきノ、隔テズバ、遠方人ノ、袖モ見テマシ」源、三十八、夕霧「家路ハ見エズ、きりのまがきハ、立チトマルベウモアラズ」

きりのま-ばん（名）［桐間番］江戸城中ニテ、猿樂ノ者ノ居ル所、天和年中ニ置カル。泰平年表、常憲公「天和元年七月、初テ桐間番ヲ置ル」常憲院殿御實紀、四、天和元年七月二十二日「西城小姓組ヨリ、桐間番ニウツルモノ、二人」

きり-の-やへがき（名）［霧八重垣］霧ノ、幾重トモナク、立チコメタル狀ヲ云フ語。禪林七百首「ソコトナキ、霧の八重垣、ツクル野ヤ、ウキ妻ゴメノ、小鹿鳴クラン」

きり-はく（名）［切箔］金銀箔ヲ、四角、又ハ、三角ニ、細カニ切リタルモノ。繪ナドニ押ス。七十一番職人盡歌合（文安）五十二番、「疊紙賣」タタウ紙、磨キ打チタル、切りはくノ、光異ナル、秋ノ夜ノ月」

きり-はし（名）［切端］切リ斷チタル、物ノ端。キレハシ。斷片　山家集、雜「崑ノ立ツ、野邊ノ篁ノ、きりはしハ、殘リ多カル、心地コソスレ」

きり-ばし（名）［切箸］〔鐵鉗ト同意〕金物師ノ用キル、唐鋏ノ如キモノ。（嬉遊笑覽、二）

きり-はじ・む・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ（他動、下二）［切始］きりかかる（切掛）ニ同ジ。

きり-はた（名）［切畑］（一）〔崖ナドヲ、横ニ切リ拓キテ作レル畑。倭名抄、一六「横截レ山作レ畠、謂二之截輪一」（二）切替畑ノ略。畑ノ、一年置キニ、異種ノ畑作ヲスルモノ。

きり-ばな（名）［切花］瓶花ニ云フ語。草木ノ花ヲ、枝ナガラニ切取リタルモノ。（盆栽ノ花ナドニ對ス）發心集、六、十一條「河ヨリ、切花ノカラノ、流レ出タルアリ」

きりはなし（名）［切放］江戸時代、獄屋ノ、火災ニ罹ル時ナド、囚人ヲ放チテ逃レシムルコト。三日ノ内ニ歸リ來ルヲ命ジ、歸レバ、罪一等ヲ減ジ、歸ラズシテ、捕ヘラルレバ、一等ヲ重クシタリ。

きり-はな・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）［切放］牛馬ナドノ、絆ヲ解キテ放ス。

きり-はふ・る（動）［切屠］はふる（屠）ノ條ヲ見ヨ。

きり-ばん（名）［切盤］俎ノ一名。（伊豆、仙臺）嫗山姥（正德、近松作）一「夕飯ノ、調理ヘ急グ薄刃、云云、チョッキリ切盤、百人前ヲ夢ノ間ニ、仕立テ法シテ一」

きり-はら・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ（他動、四）［切拂］（一）草ヲ切倒ス。又、樹木ノ枝ヲ、伐リオロス。（二）切リ立テテ、敵ヲ追ヒ除クル。「大敵ヲ切りはらふ」

きり-ばり（名）［切張］紙ノ破レタル所ノミヲ切去リテ、糊ニテ貼リ替フルコト。添糊　多ク、紙障子ニ云フ。徒然草、百八十四段「煤ケタル明障子ノ破レバカリヲ、禪尼手ヅカラ、小刀シテ、切リマハシツツ貼ラレケレバ」（後世ノ切張ナリ）楊萬里詩「添糊憲障無二風氣一」

ぎり-ば・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）［義理張］義理ヲ、過度ニ立テトホス。吉野都女楠（正德、近松作）二「義理ばッタル男ヤ」

きり-び（名）［鑽火］（一）火鑽ニテ鑽リ出セル火。ひきりノ條ヲ見ヨ。藻鹽草、十七「切火」（二）火打ノ打火ヲモ、切火ト云ヒ、物ニ火ヲ打チカケテ清ムル意トス。燧火

きりびと (名) 切人 〔切ル二、[illegible]〕[illegible]義ニテ、切者、[illegible]花ル人、又、[illegible]。[illegible] 平家物語、一、清水炎上事「院中ノ切者ニ、西光法師ト云フ者アリ」同、[illegible]、鵜川合戦事「是レハ左[illegible]加賀守ニゾナサレケル」(西光法師ガ子、師高)

きりびなは (名) 切火繩 〔きりびハ、切火〕[illegible]ニ、火ヲ點シツケテ、構ヘ居ルモノ。

きりひら・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (他動、四) 切開 山、岡、荒地ナド、[illegible]、田、畑、宅地、道路ナドトス。開發ス。開拓。

きりびたけ (名) 切火笥 白川ノ[illegible]ヲ輪切ニシ、其中ニ[illegible]火種。[illegible]「佐渡ハ、イツモ、燃ケタル浄衣ノ、上バカリ打チカケテ、切火桶ニ打チカカリテ、寒ジタマヒシナリ」

きりふ (二) 切斑切生 鷹ノ尾ノ白羽ニ、横切ニ[illegible]ノ大小ニ因リテ、大切斑、小切斑アリ、色ノ濃キヲ、薄切斑ト云フ。[illegible]「切生ノ矢ニ、二所籐ノ弓ヲ持チ」平家物語[illegible]ハセテ矧ギタリケル、ぬための鏑矢」

きりふ (名) 切生 〔枯生、芝生ノ生〕草ヲ、刈リ切リタル地。[illegible]「きりふノ岡ノ、竹ノ葉ヲ、尾房ノ鈴ト、ミガク月影」[illegible]

[illegible]きりふノ露、秋風ゾ吹ク」(共ニ、前條ノ語ニカケタリ)[illegible]

きりふ (名) [illegible] (一)[illegible]ハジマ[illegible]技癸ニ[illegible]弘仁十年六月庚辰、以二[illegible]一代二[illegible]

きりふたが・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 霧塞 霧、立チフサガル。心、晴レヤカナラズ。[illegible]

きりぼうかお (名) 切棒駕籠 ながえぼうかおノ條ヲ見ヨ。

きりぼし (名) 切乾 大根ヲ[illegible]ニ切リテ、日ニ乾シタルモノ。煮、又、漬物トシテ食フ。

きりまい (名) 切米 年貢米、扶持米ナド、一年、數度ニ割リテ授受スルコト。江戸幕府ノ頃ニハ、旗本以下、扶持米ヲ受クル者、[illegible]、春ト、夏トニ、[illegible]分ノ一ヅツ、冬ニ、殘リノ半高ヲ受クル、三季ノ切米ト云ヒキ。[illegible]

きりまく (名) 切幕 (一)芝居ニ云フ語。揚幕ノ(二)ノ一名。(二)芝居ノ切狂言。

きりまく・る・ル・レ・ラ・リ・レ (他動、四) 切捲 [illegible]切リ拂ケテ、追ヒ立ツル。キリチラス。

きりまは・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) 切廻 (一)切リ[illegible]百八十四段「明障子ノ破レバカリヲ、禪尼(松下禪尼)

手ヅカラ、小刀シテ、切りまはしツツ、張ラレケレバ」(二)[illegible]

きりみ (名) 切身 魚肉ナドヲ[illegible]ルニ供フル程ニ、薄ク扁ク切レルモノ。スキミ。「鯛ノきりみ」

きりみせ (名) 切見世 新吉原ニテ、下等ノ遊女屋[illegible]テ、客ニ接スルモノ[illegible]ノ川柳[illegible]ノ末、切見世ヘ、霧下リ」

きりみみ (名) 切耳 敵ノ耳ヲ切取リタルモノ。首級ヲ[illegible]耳ノミ[illegible]ヲ併セ見ヨ。馘 字類抄「馘、キリミミ」國性爺後日合戦(近松作)一「切取リタル首ノ耳ヲソギ[illegible]」

きりん (名) 麒麟 [illegible]牝曰レ麟」(一)支那ニテ云フ、想像ノ獸、仁獸ト稱シ、[illegible]世ニ出ヅル瑞ナリトス、身ハ麏ノ如ク、[illegible]ニシテ大キク、尾ハ牛ノ如ク、蹄ハ馬ノ如クニシテ、一角アリ、毛ハ五彩ニシテ、腹ハ黄ナリト云フ。[illegible]抄、十八[illegible]「麒麟、仁獸也、牡曰レ麒、牝曰レ麟」(二)今、ぢらふ(Giraffe.)ト云フ獸ヲ、麒麟ニ充ツルハ、誤ナリ、其條ヲ見ヨ。

きりんかく (名) 麒麟角 植物ノ名、形、さぼてんニ似テ、刺多ク、頂ニ數小葉ヲ生ズ、花ハ、黄綠ニ[illegible]

きりむぎ (名) 切麥 [illegible]素麪、冷麥ナド、同ジ」大麥ノ粉ヲ、[illegible]

[illegible]ス。水引[illegible]「[illegible]キリムギ」

きりんけつ (名) 麒麟竭 熱帶地方ノ樹[illegible]

きりんさう (名) 麒麟草 [illegible]いさうニ似テ、狹クシテ、鋸齒アリ、[illegible]

きりんさい (名) [illegible]

きりむす・ぶ・ブ・ベ・バ・ビ・ベ (他動、四) 切結 [illegible]リテ交ヘ、打チ合フ。[illegible]

きりむね (名) 切棟 [illegible]

きりめ (名) 切目 [illegible]切立ニ作レルモノ。(方術造ニ對ス)[illegible]タテ、右ノ[illegible]切目長ク[illegible]リ」

きりめいし (名) 切目石 自然銅ノ一稱。

きりめぐら・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) 切廻 きりまはす(切廻)ノ(一)ニ同ジ。

きりめだう (名) 切馬道 めだう(馬道)

ノ條ヲ見ヨ。

きり-もぐさ (名) |切艾| 艾ヲ、徑一分許ノ絲ノ如ク製シ、二分許ヅツニ切リタルモノ。灸スルニ便ニス。文政ノ川柳「手ニ餘ル、團十郎へ、切リ艾」(團十郎ハ、豎白ナル小供ヲ云フ、市川團十郎ノ荒事ヨリ起リシト)

きり-もち (名) |切餅| (一)熨斗餅ヲ乾シテ、長方形ニ切リタルモノ。飲食狂歌合(文化、六樹園)「今サラニ、思ヒキレトカ、きり餅ノ、カドアル君ガ、挨拶ゾ憂キ」(二)壹分銀百箇、卽チ、二十五兩ヲ、方形ニ、紙ニ包ミタルモノノ稱。形、前項ノ切餅ニ似タリ、此四十箇ヲ入ルベク作レルガ、千兩箱ナリ。

きり-もの (名) |切者| きりびとニ同ジ。其條ヲ見ヨ。

きり-もの (名) |着物| 〔西國ニテハ、上一段活用ノ着るヲ、四段活用ニモ云フナリ〕 きもの、きるもの(着物)ニ同ジ。音便ニ、きりもんトモ云フ。衣服 狂言記、花子「上ヲ脫ガッシャレイトテ、おきりものヲ着セテクダサレテ、云云」東海道中膝栗毛(文化、一九)四編、下「大事ノきりもんヲ、燃ヤラカイタ」

きり-もん (名) |着物| 前條ヲ見ヨ。

きり-もり (名) |切盛| (一)料理ニ、程好ク、食物ヲ、切リツ、盛リツスルコト。調菜。調理 割烹 (二)轉ジテ、事務ヲ執リテ、程好ク取捌クコト。區處 處裁「所帶ノきりもり」

ギリヤァク (名) (Giliaks.) 樺太島ニ住ム一人種ノ名。

きりやう (名) |器量| (一)物ノ用ニ堪フベキ才能。有爲ノ才器。文選、蔡邕、郭有道碑文「其器量弘深、姿度廣大」保元物語、一、新院御謀叛思召立事「朝家ノ重臣、攝籙ノ器量ナリ」(二)器ノ意ヨリ轉ジテ、カホバセ。ミメ。姿色 狂言記、猿座頭「ソナタノ樣ナ好イきりゃうデ、アノ樣ナ座頭ヲ男ニ持ツモノカ」(三)又轉ジテ、面皮。面目。

ぎりやう (名) |伎倆| 〔山堂肆考「多知校計之貌」〕 ワザマヘ。ウデマヘ。テナミ。唐書、司空圖傳「耐辱居士歌、云云、伎兩雖レ多、性靈惡」運歩色葉集「伎倆」

きりやう-にん (名) |器量人| リコウ(利口)モノ。智者。才子

きりやく (名) |機略| 機智ニ同ジ。「機略縱橫」

きりよ (名) |切節| たけのきりよのたまりみづノ條ヲ見ヨ。

きりよ (名) |羇旅| 〔玉篇「羇、寄也」韻會「旅寓也」〕 タビ。旅中。旅行。歌集中ノ類別ニ、羇旅ト云フハ、旅ノ歌ナリ。左傳、莊公二十二年「羇旅之臣」運歩色葉集「羇旅」

きりよく (名) |氣力| 氣根、根氣ニ同ジ。精力。史記、呂后紀「朱虛侯劉章、有二氣力一」列子、湯問篇「取レ道致レ遠、而氣力有レ餘」和漢朗詠集、上「窓梅北面雪封寒、柳無二氣力一條先動」

きりよけ (名) |霧除| 窓ノ上ナドノ、短キ庇。霧雨ナド、除ク。

きりりと (副) |軋軋| 〔きりりハ、きりきりノ約、きらきら、きらら〕 軋ル音ニ云フ語。キリキリト。「戸ガきりりと開ク」「弓ヲきりりと引キシボル」

きりりと (副) 〔きりりハ、轉轉ノ轉ナル、旋回ノ約、くるくる、くるる(樞)〕 卷キテ引キシボルニ云フ語。キリキリト。緊縮 天和笑委集、八「雲ニ餘レル丹前帶、ウシロヘきりりと引キマハシ、古樣ヤウニ結ブモアリ」

〔きり-わた・る (動) |霧渡| 霧、一面ニカカル。次條ヲ見ヨ。

〔き・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) |霧| 〔かをる、(靄)かる、きるト轉ジタル語ナルベシ、(萬葉集古義、一、中)かをり、(薰)かり、(香)かる、きる、(伐)名詞形ニテ、霧トナル〕 (一)霧、立チナビク。キラフ。景行紀、四十年十月「峯霧、谷曀、無レ復可レ行之路一」躬恆集「きり霧ル、道ハ見エズモ、惑フカナ、イヅレカ佐保ノ、山路ナルラム」枕草子、四、三十九段「有明ノ、イミジウきりワタリタル庭ニオリテアリクヲ聞召シテ、御前ニモ起キサセタマヘリ」源順集「チハヤブル、加茂ノ川霧、きる中ニ」夫木抄、二「晴レヤラヌ、雪ゲノ雲ニ、きり合ヒテ、曙寒キ、二月ノ空」同、十二「伊駒ノ山ハ、きり隱レツツ」新勅撰集、四、秋、上「イトドシク、物思フ宿ヲ、きりコメテ、眺ムル空モ、見エヌ今朝カナ」(二)翳ム。曇ル。クラガル。萬葉集、一、十七長歌「霞立ツ、春日カ霧流、夏草カ、茂ク成リヌル」催馬樂、紀伊國「水底岐利テ、其珠見エズ」(三)眼、眊ム。源、二、帚木四十六「御文、云云、目モ及バヌ御書キザマモ、目モきりテ、云云、臥シタマヘリ」同、三十九、御法十八「臥シテモ、起キテモ、涙ノ干ル夜ナク、きり塞リテ、明カシクラシタマフ」

き・る・ル・レ・ラ・リ・レ (他動、四) |鑽| 〔軋るト通ズ、錐ハ、此語ノ名詞形ナリ、檜ヲ火ノ木ト云フモ、火ヲ發スル故ノ名ナリ〕 (一)〔檜ヨリ、火ヲ出サシム。枯レタル檜ノ板ニ、凹所ヲ作リ、檜ノ棒ノ頭ニテ、凹所ヲ強ク揉ミ軋ラスレバ、火出ヅルナリ、コレヲ火鑽ト云フ。其條ヲ見ヨ。古事記、上五十七「鑽二出火一」高橋氏文「擧日連ヲ合ニ火鑽ニテ、此ヲ忌火トシテ、齋ヒユママヘテ、供ニ御食一」天治字鏡、六十三「鑽、比支支留」(二)轉ジテ、火打鎌ト火打石トヲ打チ當テテ、火ヲ出サシムルヲモ、切ルト云フ、是レ、打火ナルヲ、切火トモ云フナリ。

き・る・ル・レ・ラ・リ・レ (他動、四) |切斷| 〔刈る、伐るニ通ズ、段、刻、岸、際ナドト、語根ヲ同ジウス〕 (一)放チ分ク。斷ツ。「繩ヲきる」「緣ヲきる」(二)〔刃物ヲ當テテ、裂ク。截 斫 斬 萬葉集、十四廿四「柳コソ、伐レバ生エスレ」(三)〔鋏ム。剪 土佐日記、正月廿九日「爪ノ、イト長クナリニタル、云云、子ノ日ナリケレバ、きらズ」(四)塞ギ隔ツ。サヘギル。遮斷「鼬、路ヲきる」(五)橫ニ過グ。ヨコギル。橫斷「行列ヲきる」(六)カギル。限「日ヲきる」「年限ヲきる」(七)〔終フ。果ス。決了 終了 枕草子、四、四十三段「善シトモ、惡シトモ、定メきりテ止ミナム」十訓抄、下、第九、第二條「訴申、東國ノ庄ノ事、云云、是ヲ思テ、今マデ事きらヌハ、口惜シトヤ思フ」「思ヒきる」「言ヒきる」「讀ミきる」(八)シタム。濟「水ヲきる」(九)兩替ス。キリカヘル。トリカヘル。正寶事錄「小判、小粒、切り候者有レ之節、當分無レ之由ヲ申シ、賣買不レ仕兩替屋、錢屋、有レ之バ」(十)骨牌ナド、混ゼ改ム。キリカヘル。「とらんぷヲきる」(十一)俗ニ、キメコム。スル。「正面ヲきる」「不知ヲきる」「ミエヲきる」「啖呵ヲきる」

き・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ (自動、下二) |切| 〔前條ノ語ノ自動、くびる、くびるる〕 (一)離ル。分ル。斷 絕 秋篠月詣集、戀、下「今更ニ、イヒナ出シソ、勝間田ノ、池ノ堤ハ、昔きれニキ」(二)斷ユ。盡ク。果ツ。(猶、切れるノ條ヲ見ヨ) 盡 狂言記、止動方覺「ヲリフシ茶ガきれテ、御座リマセヌ」「息、切るる」「日限、きるる」「水、きるる」「種、きるる」(三)禿ブ。摩レテ、滅ル。禿「筆ノ毛、きるる」

き・る・キル・キレ・キ・キ・キヨ (他動、上一) |着| (一)〔體ニ付ケ絡フ。着ス。(衣ヲ) 萬葉集、五

三十「賓人ノ、家ノ子共ノ、伎留身無ミ、貶シ捨ツラム、妾澤ラハモ」(二)被ル。被 [illegible] 八、下、十 [illegible] 是モ身モ [illegible] (三)[illegible] 穿 [illegible] (四)受ク。被ムル。受「思ヲきる」「罪ヲきる」

きる-もの(名)〔着物〕きものニ同ジ。「後宮撰集ノきるもの」[illegible]「一ツ前ニ、きるもの着ルナ」

き-るゐ(名)〔衣類〕身ニ着ル物。コロモ。[illegible]

きれ(名)〔切〕(一)切ルルコト。絶ユルコト。[illegible] (二)切リテ、[illegible] (三)布帛ノタチハヅシ。カカハ。サイデ。殘帛(四)截ラルルモノノ意ヨリ、[illegible] (五)截切ノ[illegible] (六)石材ノ[illegible]ニ云フ語。さい(切)ノ條ヲ見ヨ。(七)金一歩ヲ數フル語、壹兩ノ四分ノ一。仙臺ニテハ、常ニ云ヘリ。玉露叢(延寶)十四「[illegible]」

きれ-あぢ(名)〔切味〕[illegible] 刃ノ、物ヲ切リ得ル程。(利キ、鈍キニ云フ)「刀ノ切味」

き-れい(名)〔綺麗〕〔奇麗〕(一)綺麗ヲ装ヒテ、麗シキコト。[illegible] (二)轉ジテ、スベテ、美シキコト。[illegible] (三)清キコト。潔キコト。淨「奇麗ニ思ヒ切ル」

き-れい(名)〔奇零〕單位以下。ハシタ。[illegible]

きれい-ずき(名)〔奇麗好〕人ノ性ニ、特ニ、淨キヲ好ムコト、少シノ汚穢ヲモ嫌フコト。潔癖 [illegible]「人ノ耳聞ハ、諸奉公人ノ内ニテ、奇麗ずきカ、人アヒ[illegible]」

ぎ-れう(名)〔議了〕議シ終ヘタルコト。議決ノ、濟ミタルコト。

きれ-かがみ(名)〔切鏡〕手鑑ノ條ヲ見ヨ。

きれ-ぎれ(名)〔切切〕細カク切レタルコト。ハナレバナレニテアルコト。片片 [illegible]

きれ-こみ(名)〔切込〕(一)切レ込ミタル痕。(二)[illegible]ニ缺ケ、刻ミタルガ如キ形。[illegible]

きれ-こ・む・ム・メ・マ・ミ・メ(自動、四)〔切込〕切レタル痕、深ク入ル。

きれ-じ(名)〔切字〕俳諧、發句ニ云フ語、一句中ノ段落ヲツクルニ用ヰルコトバ。「枯枝ニ、烏ノ止りけり、秋ノ暮」古池や、蛙飛ビコム、水ノ音、ナドノ、けり、や、ノ如シ、其外、動詞、形容詞、助動詞ノ終止形、命令形、及、[illegible] か、よ、ぞ、いかに、[illegible] ヲ、一字切、又、二字切、又、三段切ト云フ。[illegible]「[illegible]」(日本百科大辭典)

きれ-ぢ(名)〔切地〕布帛、絹ネ、織物ノ地質、敷屋地、標地、裏地ノ類。

きれ-ぢ(名)〔切痔〕痔ノ條ヲ見ヨ。

き-れつ(名)〔龜裂〕[illegible]甲ノ[illegible]ノ如ク裂ケタルニ云フ」ヒビワレ。エミワレ。

ぎ-れつ(名)〔義烈〕義氣ノ、極メテ烈シキコト。後漢書、陸康傳「以二義烈一稱」「忠勇義烈」

きれ-て(名)〔切手〕〔きれハ、きれはなれノ意、てハ、人ノ義〕惜シマズニ、金錢ヲ出ス人ヲ稱スル語。(東京)

きれ-はし(名)〔切端〕切レタル、餘リノ端ノ紙、布、材ナドノ一片。截斷 斷片 [illegible]

きれ-ばなれ(名)〔切離〕[illegible] るる [illegible]「ヲ集メテ縫フ氣ハ、ゴザイマセン」「れはなれノキレイナ人」

きれ-ま(名)〔切間〕たえまニ同ジ。

き-れん-き-く(名)〔[illegible]〕れんきくノ條ヲ見ヨ。

きれ-め(名)〔切目〕(一)切レタル[illegible] [illegible]

きれ-もの(名)〔切物〕(一)[illegible] 刃物。[illegible] (二)[illegible]

きれ-もの(名)〔切者〕〔きりびこノ條ヲ見ヨ〕キリモノ。キケモノ。ハバキキ。

き・れる・レル・レレ・レ・レ・レヨ(自動、下二)〔切〕(一)切る(下二段)ノ口語。(二)切ラル。[illegible] (三)[illegible] トミニ寺きれザリケレバ[illegible] ト思ハレケルニ、[illegible] なれヲヨクス。

き-ろ(名)〔[illegible]〕[illegible]

キ-ロ(名)〔[illegible]〕[illegible] ニテ云フ

き-ろ(名)〔岐路〕[illegible]「岐路ニ迷フ」

き-ろう(名)〔妓樓〕[illegible] ガナクナ、テ、妓樓デ喰付ケル」(火繩ナリ)

きろ-きろ(副)〔[illegible]〕〔きらきらノ轉、[illegible]

はらぐ、ほろろぐ」眼ノ動キ光ル狀ニ云フ語。轉ジテ、ぎろぎろ。キョロキョロ。堤中納言物語、はいずみ「掃墨、云云、斑ニ、指カタニツケテ、目ノきろきろシテ、瞬キ居タリ」

ぎろ-ぎろ (副) 前條ノ語ニ同ジ。「ぎろぎろ光ル眼」

きろく (名) 【季祿】 春秋ノ二季ニ一位以下ノ官人ニ賜ハル祿。絁、綿、布ナドニテ等差アリ。續紀、三、慶雲三年二月辛巳「知太政官事二品穗積親王、季祿、准右大臣給之」

き-ろく (名) 【鬼錄】 鬼籍ニ同ジ。過去帳。魏文帝、與吳質書「選其遺文、都爲一集、觀其姓名、已爲鬼錄」

き-ろく (名) 【記錄】 後ニ遺サムガ爲ニ、記シ付ケテオク文書。後漢書、班彪傳「漢興定天下、大中大夫陸賈、記錄時功、作楚漢春秋九篇」保元物語、一、新院御謀反事、左大臣賴長「和漢トモニ、人ニ勝レ、禮義ヲ調ヘ、自他ノ記錄ニ暗カラズ」

きろく-がき (名) 【記錄書】 せうもつがき(抄物書)ノ條ヲ見ヨ。

きろく-ぢよ (名) 【記錄所】 後三條天皇、始メテ置キタマヒテ、莊園ノ劵ヲ記錄セラレシ官。新立ノ莊園ヲ停メ、舊莊園モ、劵ノ分明ナラズ、叉、妨ゲアルハ停メラル、後ニハ、論地、等ノ訴訟ノ裁判ヲモ兼ヌ、上卿、辨、開闔、寄人、等ノ職アリ。其後、後鳥羽、後白河、後醍醐天皇ノ時ニモ、亦、置カレタル事アリキ。百練抄、五、延久元年閏二月十一日「始置記錄所、庄園劵契所、定寄人等」

キロ-グラム (名) 【吉瓦瓩】 〔佛語、Kilo-gramme.〕重量ノ名。瓦ノ千倍。

ぎ-ろん (名) 【議論】 己ガ說ヲ述ベテ、理ヲ言ヒ張ルコト。史記、貨殖傳「其俗寬緩闊達、而足智好議論」運歩色葉集「議論」

キロ-メエトル (名) 【吉米粁】 〔佛語、Kilo-metre.〕尺度ノ名。一米ノ千倍。

きわ (數) 【九】 〔十ノ際ナルベキカ、がけトモ云フ、崖ナルカ〕九百文。(九錢)八百屋、魚賣、人力車夫ナドノ符帳詞。

き-わう (名) 【石黃】 〔生雌黃ノ略カ、或ハ、黃黃ニテ、黃黃疸ノ類ノ語カ〕眞ノ鑛物ノ雌黃。きわう(雌黃)ノ條ヲ見ヨ。

き-わう (名) 【既往】 既ニ往ニシ時。時過ギタルコト。過去。論語、八佾篇「既往不咎」

き-わうだん (名) 【黃黃疸】 〔わうハ、黃ナルヲ知ラズ、重言スルコト、湯湯婆、豌豆豆ナド云フ類ノ語〕わうだん(黃疸)ニ同ジ。

ぎ-わく (名) 【疑惑】 ウタガヒ、マドフコト。ウタグリ。墨子、公孟篇「若大人行淫暴於國家、進而諫之、則謂之不遜、因左右而獻諫、則謂之言議、此君子之所疑惑也」元稹、賀裴相公破淮西啓「內排疑惑之詞、外斷異同之旅」

き-わた (名) 【木綿】 〔繭ノ綿ニ對シテ、植物ノ綿ノ義〕草ノ名。延曆年中渡リシガ、絕エタリ、(わたノ條ヲ見ヨ)室町時代ノ末世ニ至リテ、再ビ舶來ス。夏ノ初、種ヲ下シ、秋、綿ヲ取ル、諸國ニ多ク栽ウ、苗ノ高サ三四尺、枝、葉、互生ス、葉ニ三五ノきれおみアリテ、つたもみぢノ葉ノ如ク、秋、葉ノ閒ニ、五出ノ淺黃花ヲ開ク、蜀葵ノ心每ニ深紫色ナリ、黃蜀葵ノ花ノ如シ。實ノ形、桃ノ實ニ似タレバ、ももト呼ブ、晴天ニ自ラ開キテ、絮ヲ吐ク、潔白ナリ、コレヲもめんわたトス、內ニ子アリ、わたたねト云フ、圓クシテ黑ク、綿ニ粘リテ、離レ難シ、故ニ、わたくりニ掛ケテ取リテ、油ヲ絞リ、燈油ニ混ジ用キル。又、實ニ綿ナキアリ、花ノ赤キアリ、晚種モアリ、常ノモノハ、早種ナリ。草綿　棉花　慶長見聞集、三「大永元年ノ春、武藏、熊谷ノ市ニ立チシニ、西國ノ者、木綿種ヲ持來リテ、賣買ス、云云、夫レヨリ此方、關東ニテ、諸人、木綿ヲ着ル」

き-わた (名) 【生綿】 もめんわたノ、未ダ使用セザルモノ。

き-わり (名) 【木割】 (一)薪トスベキ木ヲ割ルコト。又、其人。日本武尊吾妻鑑(享保、近松作)三「木割ガ小鬢タツ烟、焚カヌ先ヨリ焦ガルラン」(二)材木ノ大小ヲ見テ、柱、梁、等ノ用ニ割リ合ハスルコト。木取。

き-ゐ (名) 【奇偉】 スグレテ大イニ、立派ナルコト。史記、留侯世家傳、贊「其人計魁梧奇偉、至見其圖、狀貌如婦人好女」三國志、吳志、吳主傳「形貌奇偉」

き-ゐん (名) 【氣韻】 氣質ノ風韻。氣高キ趣味。捫蝨新話「文章以氣爲主、氣韻不足、雖

ぎ-ゐん (名) 【議院】 國會ノ議場ナドニ用ヰル建物ノ稱。又、貴族院、衆議院ノ總稱。

ぎ-ゐん (名) 【議員】 會議ニ、列席ノ員ニ入ル人。

ぎ-ゑい (名) 【儀衞】 〔宋史、儀衞志「文謂之儀、武謂之衞」〕儀仗ノ守衞。

き-ゑんば (名) 【胡黎】 〔ゑんば(蜻蛉)ノ條ヲ見ヨ〕きやんまノ古名。倭名抄、十九「胡黎、蜻蛉之小而黃也、木惠無波」

き-をん (名) 【氣溫】 大氣ノ溫度。

ギ-をん (名) 【祇園】 祇陀林ノ條ヲ見ヨ。

ギをん-ごりやうゑ (名) 【祇園御靈會】 ぎをんまつり、(祇園祭)又、ごりやうゑ(御靈會)ノ條ヲ見ヨ。

ギをん-しやうじや (名) 【祇園精舍】 祇陀林ノ條ヲ見ヨ。

ギをん-どうふ (名) 【祇園豆腐】 京都ノ祇園神社ノ南ノ樓門前、東西ノ二軒茶屋ニテ調理スル田樂豆腐ノ名。豆腐ヲ薄ク切リ、竹串ニ刺シ、少シ燒キテ、味噌ノたれ汁ニテ煮テ、さがしノ粉ヲカケタルモノ。(近代世事談、一)又、燒キテ、くずあんヲカケタルモアリ。

ギをん-のかみ (名) 【祇園神】 〔祇園感神院ト云フ寺ニ、神社ヲ建テタレバ、名トナル、今ノ社地ハ、其寺址ナリ、一代要記、朱雀、承平四年「修行者初建祇園感神院社壇」〕京都、東山ニ勸請セラル神ノ稱。今、八坂神社ト云フ、牛頭天王、(素戔嗚尊)八王子ノ宮、(天照大神ノ五男三女)少將井ノ宮(稻田姬)ヲ合ハセ祀ルト云フ。

ギをん-ばう (名) 【祇園坊】 一種ノ柿ノ名。安藝ノ廣島ノさろがき、名アリ。傾城酒呑童子(享保、近松作)四「能ノ祝儀ノ贈物、云云、金絲ノ綱ヲスキカケテ、寵籠ニ籠メシ祇園坊」

ギをん-ばやし (名) 【祇園囃子】 京都ノ祇園祭ノ山鋒ノワタル時用キル、一種ノ囃子ノ名。犬子集(寬永)三「山鋒ニ、ぎをんばやしノ、鞨鼓カナ」

ギをん-まつり (名) 【祇園祭】 又、祇園御

御靈會。祇園會。京都、東山ノ祇園神社、即チ、八坂神社ノ祭禮。六月七日（今ハ、七月十七日）神輿出デテ、四條ノ御旅所ニ移リテ、十四日ニ歸社ス、此前後、神輿ニ先ダチテ、京都市中、町町ヨリ、山鉾ト云フ飾物ヲ出シテ、街路ヲ巡行ス、裝飾、善美ヲ盡シテ、壯觀ナリトス。やまぼこノ條ヲ見ヨ。百錬抄、八、高倉、承安二年六月十四日「祇園御靈會、上皇（後白河）有ニ御見物一」康富記、享徳三年六月七日「祇園祭禮也」又、嘉吉三年六月十四日「祇園御靈會也」

ギをん-まもり（名）【祇園守】（一）昔時ニ、京都、祇園神社ヨリ出ス守札。細長キ紙ノ、上ノ幅、稍廣ク、下ノ方窄リタルヲ、二枚合セテ、蘇民將來子孫ト云フ字ヲ印シ、紙ノ中ヨリ下ナルヲ、細ソク捲リカケテ、中ノ所ヲ、細ソキ紙捻ニテ結ヒ、其端ヲ開キテ、打チ違ヘタルモノ。（二）（一）ノ形ヲ織工畫等ニ（二）紋所ノ名。祇園守ヲ縮メテ、圓クシタルモノ。

ギをん-ゑ（名）【祇園會】前前條ヲ見ヨ。

きをり（名）【木強】〔木折ノ義ニテ、竹ヲ割リタル氣性ナドト、同趣ノ語ナルカ〕木強キヨト、キスグナルコト。萬六、五、家刀自ヲ思フ「物ニ馴レズ、家ニアル妹ガ、焚ク柴ノ、（序）きをりニ人ヲ、待チヤ懸フラム」（柴ノ木ヲ折ルニカケタリ）盛衰記、三、小松殿教訓ノ事「何今侍ノ、氣折リニ、強強シカリケルガ、上臈モ下臈モワキマヘズ、主ヨリ外ニハ、恐シキコトナシト思ヒテ」

きをれ（名）【氣折】精神ノ、挫折クルコト。

昭和七年十月廿五日印刷
昭和七年十月廿八日發行
昭和七年十一月一日二十版發行
昭和七年十一月十五日四十版發行
昭和七年十一月二十日六十版發行
昭和十年十一月十日八十八版發行
昭和十一年二月十一日九十二版發行
昭和十一年五月二十八日九十四版發行
昭和十三年十月三日九十八版發行

「大言海」第一巻奥附

定價金七圓五拾錢

著者　故　大槻文彦

右相續者　東京市荒川區日暮里町三丁目一六番地　大槻茂雄

發行者　東京市神田區神保町一丁目三番地　合資會社　冨山房

右代表者　合資會社冨山房社長　坂本嘉治馬

印刷者　東京市牛込區榎町七番地　平野喜代松

印刷所　東京市牛込區榎町七番地　大日本印刷株式會社榎町工場

發行所　東京市神田區神保町一丁目三番地　合資會社　冨山房
電話神田(25)一一三六・一七一・二千二八・一七八番　電信略號(トミ)　振替貯金東京九一二番